

2023年度 成績優秀者の他学部科目履修制度対象科目 講義概要 (シラバス)



法政大学

科目一覧

【発行日：2023/5/1】最新版のシラバスは、法政大学 Web シラバス (<https://syllabus.hosei.ac.jp/>) で確認してください。

凡例 その他属性

〈他〉：他学部公開科目

〈優〉：成績優秀者の他学部科目履修制度対象科目

〈S〉：サーティフィケートプログラム_SDGs

〈ダ〉：サーティフィケートプログラム_ダイバーシティ

〈グ〉：グローバル・オープン科目

〈実〉：実務経験のある教員による授業科目

〈ア〉：サーティフィケートプログラム_アーバンデザイン

〈未〉：サーティフィケートプログラム_未来教室

【A0001】 憲法Ⅰ [建石 真公子] 春学期授業/Spring	1
【A0002】 憲法Ⅱ [建石 真公子] 秋学期授業/Fall	2
【A0003】 憲法Ⅰ [建石 真公子] 春学期授業/Spring	4
【A0004】 憲法Ⅱ [建石 真公子] 秋学期授業/Fall	5
【A0005】 憲法Ⅲ [茂木 洋平] 春学期授業/Spring.....	7
【A0006】 憲法Ⅳ [茂木 洋平] 秋学期授業/Fall	8
【A0007】 現代情報法Ⅰ [鈴木 秀美] 春学期授業/Spring	9
【A0008】 現代情報法Ⅱ [鈴木 秀美] 秋学期授業/Fall	10
【A0009】 国際社会と憲法Ⅰ [大津 浩] 春学期授業/Spring	11
【A0011】 ジェンダーと法Ⅰ [谷田川 知恵] 春学期授業/Spring	13
【A0012】 ジェンダーと法Ⅱ [谷田川 知恵] 秋学期授業/Fall	15
【A0015】 憲法訴訟論 [大津 浩] 秋学期授業/Fall	17
【A0019】 生命倫理と人権Ⅰ [鶴澤 和彦] 春学期授業/Spring.....	19
【A0020】 生命倫理と人権Ⅱ [洪 賢秀] 秋学期授業/Fall	21
【A0021】 行政法入門Ⅰ [西田 幸介] 春学期授業/Spring	22
【A0022】 行政法入門Ⅱ [西田 幸介] 秋学期授業/Fall	24
【A0023】 行政作用法Ⅰ [氏家 裕順] 春学期授業/Spring	26
【A0024】 行政作用法Ⅱ [氏家 裕順] 秋学期授業/Fall	28
【A0025】 行政救済法Ⅰ [高橋 滋] 春学期授業/Spring.....	30
【A0026】 行政救済法Ⅱ [高橋 滋] 秋学期授業/Fall	32
【A0027】 租税手続法 [阿部 雪子] 秋学期授業/Fall	34
【A0028】 租税実体法 [阿部 雪子] 春学期授業/Spring	35
【A0029】 地方自治法 [氏家 裕順] 秋学期授業/Fall	36
【A0030】 環境法 [高橋 滋] 春学期授業/Spring.....	37
【A0031】 民法法総論 [大澤 彩] 秋学期授業/Fall	39
【A0032】 契約法Ⅰ [大澤 彩] 春学期授業/Spring.....	41
【A0033】 民法法総論 [新堂 明子] 秋学期授業/Fall	43
【A0034】 契約法Ⅰ [新堂 明子] 春学期授業/Spring	44
【A0037】 契約法Ⅱ [滝沢 昌彦] 春学期授業/Spring	45
【A0038】 債権回収法Ⅰ [滝沢 昌彦] 秋学期授業/Fall	46
【A0039】 契約法Ⅱ [滝沢 昌彦] 春学期授業/Spring	47
【A0040】 債権回収法Ⅱ [滝沢 昌彦] 秋学期授業/Fall	48
【A0041】 不法行為法 [川村 洋子] 秋学期授業/Fall	49
【A0042】 契約法Ⅲ [川村 洋子] 春学期授業/Spring	50
【A0043】 契約法Ⅳ [大澤 彩] 秋学期授業/Fall	51
【A0044】 不法行為法 [川村 洋子] 秋学期授業/Fall	52
【A0045】 契約法Ⅲ [川村 洋子] 春学期授業/Spring	53
【A0048】 消費者法Ⅰ [大澤 彩] 春学期授業/Spring	54
【A0049】 消費者法Ⅱ [大澤 彩] 秋学期授業/Fall	56
【A0050】 商法総則・商行為法Ⅰ [椋川 泰史] 秋学期授業/Fall	58
【A0054】 会社法 [荒谷 裕子] 年間授業/Yearly	60
【A0055】 会社法 [伊藤 雄司] 年間授業/Yearly	62
【A0069】 民事訴訟法Ⅰ [杉本 和士] 春学期授業/Spring	63
【A0070】 民事訴訟法Ⅱ [杉本 和士] 秋学期授業/Fall	64
【A0074】 破産法Ⅰ [倉部 真由美] 春学期授業/Spring.....	65

【A0075】 破産法Ⅱ [倉部 真由美] 秋学期授業/Fall	66
【A0076】 民事再生法 [倉部 真由美] 秋学期授業/Fall	67
【A0077】 刑法総論Ⅰ [佐藤 輝幸、佐野 文彦] 秋学期授業/Fall	68
【A0078】 刑法総論Ⅱ [佐藤 輝幸] 春学期授業/Spring	69
【A0079】 刑法総論Ⅰ [佐藤 輝幸、佐野 文彦] 秋学期授業/Fall	70
【A0080】 刑法総論Ⅰ [佐藤 輝幸、佐野 文彦] 秋学期授業/Fall	71
【A0085】 犯罪学 [佐野 文彦] 春学期授業/Spring	72
【A0086】 刑事政策 [朝村 太一] 秋学期授業/Fall	73
【A0090】 労働法総論・労働契約法 [藤木 貴史] 春学期授業/Spring	74
【A0091】 労働基準法 [藤木 貴史] 秋学期授業/Fall	76
【A0092】 労働法総論・労働契約法 [沼田 雅之] 春学期授業/Spring	78
【A0093】 労働基準法 [沼田 雅之] 秋学期授業/Fall	80
【A0094】 労働組合法 [藤木 貴史] 秋学期授業/Fall	82
【A0095】 労働法特論 [沼田 雅之] 春学期授業/Spring	84
【A0096】 社会保障法Ⅰ [沼田 雅之] 春学期授業/Spring	85
【A0097】 社会保障法Ⅱ [沼田 雅之] 秋学期授業/Fall	86
【A0098】 社会政策 [藤木 貴史] 春学期授業/Spring	87
【A0099】 雇用・福祉政策 [藤木 貴史] 秋学期授業/Fall	88
【A0103】 国際法基礎理論 [森田 章夫] 秋学期授業/Fall	89
【A0104】 国際空間法 [田中 佐代子] 秋学期授業/Fall	90
【A0105】 国際安全保障法 [田中 佐代子] 春学期授業/Spring	91
【A0109】 国際人権法 [佐々木 亮、建石 真公子] 年間授業/Yearly	92
【A0113】 国際経済法 [猪瀬 貴道] 秋学期授業/Fall	94
【A0116】 日本法制史Ⅰ [川口 由彦] 春学期授業/Spring	96
【A0117】 日本法制史Ⅱ [川口 由彦] 秋学期授業/Fall	97
【A0118】 日本法制史Ⅲ [川口 由彦] 春学期授業/Spring	98
【A0119】 日本法制史Ⅳ [川口 由彦] 秋学期授業/Fall	99
【A0120】 ドイツ法制史Ⅰ [高 友希子] 春学期授業/Spring	100
【A0121】 ドイツ法制史Ⅱ [高 友希子] 秋学期授業/Fall	101
【A0122】 イギリス法制史Ⅰ [高 友希子] 春学期授業/Spring	102
【A0123】 イギリス法制史Ⅱ [高 友希子] 秋学期授業/Fall	103
【A0124】 法社会学 [北村 隆憲] 秋学期授業/Fall	104
【A0127】 アジア法Ⅰ [陳 志明] 春学期授業/Spring	106
【A0128】 アジア法Ⅱ [陳 志明] 秋学期授業/Fall	107
【A0129】 社会安全政策論Ⅰ [篠崎 ほし江] 春学期授業/Spring	108
【A0131】 法思想史 [大野 達司] 秋学期授業/Fall	109
【A0134】 法律学特講 (情報社会と犯罪捜査) [朝村 太一] 秋学期授業/Fall	110
【A0203】 行政法入門Ⅰ [高橋 滋] 春学期授業/Spring	111
【A0204】 行政法入門Ⅱ [高橋 滋] 秋学期授業/Fall	113
【A0211】 外国書講読 (独語)Ⅰ [大野 達司] 春学期授業/Spring	115
【A0212】 外国書講読 (独語)Ⅱ [大野 達司] 秋学期授業/Fall	116
【A0213】 外国書講読 (英語)Ⅰ [田中 佐代子] 春学期授業/Spring	117
【A0214】 外国書講読 (英語)Ⅱ [田中 佐代子] 秋学期授業/Fall	118
【A0217】 国際法基礎理論 [森田 章夫] 秋学期授業/Fall	119
【A0223】 会社法入門 [荒谷 裕子] 春学期授業/Spring	120
【A0224】 会社法 [伊藤 雄司] 年間授業/Yearly	121
【A0235】 政治体制論Ⅰ [細井 保] 春学期授業/Spring	122
【A0236】 政治体制論Ⅱ [細井 保] 秋学期授業/Fall	123
【A0237】 比較政治論Ⅰ [新川 敏光] 春学期授業/Spring	124
【A0238】 比較政治論Ⅱ [新川 敏光] 秋学期授業/Fall	125
【A0241】 保険法Ⅰ [潘 阿憲] 春学期授業/Spring	126
【A0242】 保険法Ⅱ [潘 阿憲] 秋学期授業/Fall	127
【A0249】 ジェンダー論Ⅰ [中野 洋恵] 春学期授業/Spring	128
【A0250】 ジェンダー論Ⅱ [梅垣 千尋] 秋学期授業/Fall	130
【A0251】 知的財産法Ⅰ [武生 昌士] 春学期授業/Spring	131
【A0252】 知的財産法Ⅱ [武生 昌士] 秋学期授業/Fall	132
【A0257】 日本政治論Ⅰ [中嶋 一成] 秋学期授業/Fall	133

【A0258】	日本政治論Ⅱ [藤田 直央] 春学期授業/Spring	135
【A0259】	日本政治思想史Ⅰ [河野 有理] 春学期授業/Spring.....	136
【A0260】	日本政治思想史Ⅱ [河野 有理] 秋学期授業/Fall	137
【A0261】	日米関係論Ⅰ [井上 史] 春学期授業/Spring.....	138
【A0262】	日米関係論Ⅱ [井上 史] 秋学期授業/Fall	139
【A0265】	法律学特講 (知的財産法の今日的課題) [武生 昌士] 春学期授業/Spring	140
【A0271】	ヨーロッパ政治思想史Ⅰ [犬塚 元] 春学期授業/Spring.....	141
【A0272】	ヨーロッパ政治思想史Ⅱ [犬塚 元] 秋学期授業/Fall	142
【A0275】	福祉政策Ⅰ [淵元 初姫] 春学期授業/Spring.....	143
【A0276】	福祉政策Ⅱ [荒木 千晴] 春学期授業/Spring.....	144
【A0277】	比較福祉国家Ⅰ [山本 卓] 春学期授業/Spring	145
【A0278】	比較福祉国家Ⅱ [山本 卓] 秋学期授業/Fall.....	146
【A0281】	経済政策Ⅰ [濱秋 純哉] 春学期授業/Spring.....	147
【A0282】	経済政策Ⅱ [濱秋 純哉] 秋学期授業/Fall	148
【A0308】	行政学Ⅰ [林 嶺那] 春学期授業/Spring.....	149
【A0309】	行政学Ⅱ [林 嶺那] 秋学期授業/Fall	150
【A0311】	政治文化論Ⅰ [新川 敏光] 春学期授業/Spring	151
【A0314】	マス・コミュニケーション論Ⅰ [郭 善英] 春学期授業/Spring.....	152
【A0315】	マス・コミュニケーション論Ⅱ [郭 善英] 秋学期授業/Fall	153
【A0316】	日本政治史Ⅰ [明田川 融] 春学期授業/Spring	154
【A0317】	日本政治史Ⅱ [明田川 融] 秋学期授業/Fall	155
【A0354】	外国書講読 (独語)Ⅰ [上田 知夫] 春学期授業/Spring.....	156
【A0355】	外国書講読 (独語)Ⅱ [上田 知夫] 秋学期授業/Fall	157
【A0393】	日本外交史Ⅰ [高橋 和宏] 春学期授業/Spring	158
【A0394】	日本外交史Ⅱ [高橋 和宏] 秋学期授業/Fall.....	159
【A0428】	法律学特講 (子ども行政と法) [村元 宏行] 秋学期授業/Fall	160
【A0429】	法律学特講 (政策と法) [村元 宏行] 秋学期授業/Fall.....	161
【A0430】	外国書講読 (英語)Ⅰ [石井 宏司] 春学期授業/Spring.....	162
【A0431】	外国書講読 (英語)Ⅱ [石井 宏司] 秋学期授業/Fall	163
【A0434】	ロシア政治史Ⅰ [油本 真理] 春学期授業/Spring	164
【A0435】	ロシア政治史Ⅱ [油本 真理] 秋学期授業/Fall	165
【A0436】	政治過程論Ⅰ [田中 信一郎] 春学期授業/Spring	166
【A0437】	政治過程論Ⅱ [田中 信一郎] 秋学期授業/Fall	167
【A0440】	民事手続法入門 [倉部 真由美] 秋学期授業/Fall.....	168
【A0442】	法律学特講 (英米法思想史) [金井 光生] 春学期授業/Spring	169
【A0443】	行政組織法 [氏家 裕順] 春学期授業/Spring	170
【A0444】	都市法 [西田 幸介] 秋学期授業/Fall.....	171
【A0447】	アメリカ政治外交史 [石川 敬史] 春学期授業/Spring.....	173
【A0452】	法律学特講 (社会保障法の現代的課題Ⅰ) [大原 利夫] 春学期授業/Spring	174
【A0453】	法律学特講 (社会保障法の現代的課題Ⅱ) [大原 利夫] 秋学期授業/Fall	175
【A0457】	外国書講読 (仏語)Ⅰ [大津 浩] 春学期授業/Spring	176
【A0458】	外国書講読 (仏語)Ⅱ [大津 浩] 秋学期授業/Fall	177
【A0475】	会社法入門 [椽川 泰史] 春学期授業/Spring	178
【A0477】	金融商品取引法Ⅰ [荒谷 裕子] 春学期授業/Spring.....	180
【A0479】	金融商品取引法Ⅱ [荒谷 裕子] 秋学期授業/Fall	181
【A0480】	経済法Ⅲ [青柳 由香] 秋学期授業/Fall	182
【A0481】	法律学特講 ((法学部同窓会寄付講座) 企業法務への案内) [武生 昌士] 春学期授業/Spring	184
【A0485】	政治学特殊講義Ⅰ (安全保障政策) [半田 滋] 春学期授業/Spring.....	186
【A0503】	外国書講読 (英語)Ⅰ [和田 幹彦] 春学期授業/Spring.....	188
【A0504】	外国書講読 (英語)Ⅱ [和田 幹彦] 秋学期授業/Fall	190
【A0520】	都市政策 [杉崎 和久] 春学期授業/Spring.....	192
【A0521】	まちづくり論 [杉崎 和久] 秋学期授業/Fall	193
【A0530】	環境政策 [西谷内 博美] 秋学期授業/Fall.....	195
【A0531】	都市の環境問題 [松村 正治] 秋学期授業/Fall	196
【A0534】	市民公益活動論 [熊谷 紀良] 秋学期授業/Fall	198
【A0535】	外国書講読 (中国語)Ⅰ [黄 偉修] 春学期授業/Spring.....	199
【A0536】	外国書講読 (中国語)Ⅱ [黄 偉修] 秋学期授業/Fall	200

【A0552】 知的財産法Ⅲ [武生 昌士] 秋学期授業/Fall.....	201
【A0553】 法律学特講 (憲法哲学) [金井 光生] 秋学期授業/Fall.....	202
【A0554】 政治学特殊講義Ⅰ (現代の政治理論) [面 一也] 春学期授業/Spring.....	203
【A0555】 政治学特殊講義Ⅱ (現代の政治理論) [面 一也] 秋学期授業/Fall.....	204
【A0573】 憲法Ⅳ [小川 亮] 秋学期授業/Fall.....	205
【A0574】 憲法Ⅲ [小川 亮] 春学期授業/Spring.....	206
【A0575】 法律学特講 (コンテンツビジネスの実相と知的財産権) [安田 和史] 秋学期授業/Fall.....	207
【A0606】 財政と金融Ⅰ [島澤 諭] 春学期授業/Spring.....	210
【A0607】 財政と金融Ⅱ [島澤 諭] 秋学期授業/Fall.....	211
【A0610】 自治体論 [土山 希美枝] 春学期授業/Spring.....	212
【A0625】 Global Governance [弓削 昭子] 春学期授業/Spring.....	213
【A0627】 International Politics [Emily Szu-hua Chen] 秋学期授業/Fall.....	214
【A0644】 外交総合講座 [本多 美樹] 秋学期授業/Fall.....	216
【A0649】 国際NGO論Ⅰ [渡部 カンコロンゴ 清花] 春学期授業/Spring.....	218
【A0650】 国際NGO論Ⅱ [堀場 明子] 秋学期授業/Fall.....	220
【A0652】 国際文化交流Ⅰ [牧田 東一] 春学期授業/Spring.....	221
【A0653】 国際文化交流Ⅱ [牧田 東一] 春学期授業/Spring.....	222
【A0662】 アジア国際政治概論 [水野 孝昭] 秋学期授業/Fall.....	223
【A0667】 中東の政治と社会Ⅰ [木村 正俊] 春学期授業/Spring.....	225
【A0668】 中東の政治と社会Ⅱ [木村 正俊] 秋学期授業/Fall.....	226
【A0715】 旧ソ連諸国の政治と社会Ⅰ [溝口 修平] 春学期授業/Spring.....	227
【A0716】 旧ソ連諸国の政治と社会Ⅱ [溝口 修平] 秋学期授業/Fall.....	228
【A0717】 国際協力論Ⅰ [志賀 裕朗] 春学期授業/Spring.....	229
【A0718】 国際協力論Ⅱ [志賀 裕朗] 秋学期授業/Fall.....	231
【A0719】 国際公共政策Ⅰ [坂根 徹] 秋学期授業/Fall.....	233
【A0736】 オセアニアの政治と社会Ⅰ [今泉 裕美子] 春学期授業/Spring.....	234
【A0737】 オセアニアの政治と社会Ⅱ [今泉 裕美子] 秋学期授業/Fall.....	236
【A0750】 国際機構論Ⅱ [弓削 昭子] 秋学期授業/Fall.....	238
【A0755】 ラテンアメリカの政治と社会Ⅰ [真嶋 麻子] 春学期授業/Spring.....	239
【A0756】 ラテンアメリカの政治と社会Ⅱ [真嶋 麻子] 秋学期授業/Fall.....	240
【A0759】 国際経済論Ⅰ [田村 晶子] 春学期授業/Spring.....	241
【A0760】 国際経済論Ⅱ [田村 晶子] 秋学期授業/Fall.....	242
【A0777】 平和・軍事研究Ⅰ [権 鎬淵] 春学期授業/Spring.....	243
【A0813】 商法入門Ⅰ [潘 阿憲] 春学期授業/Spring.....	244
【A0814】 商法入門Ⅱ [潘 阿憲] 秋学期授業/Fall.....	245
【A0820】 法律実務入門Ⅰ [沼田 雅之] 春学期授業/Spring.....	246
【A0821】 法律実務入門Ⅱ [沼田 雅之] 秋学期授業/Fall.....	248
【A0838】 外国書講読 (仏語)Ⅰ [近江屋 志穂] 春学期授業/Spring.....	250
【A0839】 外国書講読 (仏語)Ⅱ [近江屋 志穂] 秋学期授業/Fall.....	251
【A0840】 ヨーロッパ政治史Ⅰ [網谷 龍介] 春学期授業/Spring.....	252
【A0841】 ヨーロッパ政治史Ⅱ [網谷 龍介] 秋学期授業/Fall.....	253
【A0868】 人権と企業社会Ⅰ [土屋 仁美] オータムセッション/Autumn Session.....	254
【A0898】 アメリカ政治史Ⅰ [中野 勝郎] 春学期授業/Spring.....	255
【A0899】 アメリカ政治史Ⅱ [中野 勝郎] 秋学期授業/Fall.....	256
【A0900】 協同組合論 [杉崎 和久] 秋学期授業/Fall.....	257
【A0901】 企業規制の法律学Ⅰ [青柳 由香] 春学期授業/Spring.....	259
【A0909】 政治学特殊講義Ⅰ (政治学の原典を読む) [細井 保] 春学期授業/Spring.....	260
【A0910】 政治学特殊講義Ⅱ (政治学の原典を読む) [細井 保] 秋学期授業/Fall.....	261
【A0917】 政治学特殊講義Ⅰ (日韓比較政治思想) [崔 先鎬] 春学期授業/Spring.....	262
【A0918】 政治学特殊講義Ⅱ (日韓比較政治思想) [崔 先鎬] 秋学期授業/Fall.....	263
【A0919】 政治学特殊講義Ⅰ (近代日本における〈道徳〉と〈政治〉) [金子 元] 春学期授業/Spring.....	264
【A0920】 政治学特殊講義Ⅱ (近代日本における〈道徳〉と〈政治〉) [金子 元] 秋学期授業/Fall.....	266
【A0921】 現代政策学特講Ⅰ (立法学) [正木 寛也] 春学期授業/Spring.....	267
【A0922】 現代政策学特講Ⅱ (立法学) [正木 寛也] 秋学期授業/Fall.....	268
【A0925】 外国書講読 (朝鮮語)Ⅰ [崔 先鎬] 春学期授業/Spring.....	269
【A0926】 外国書講読 (朝鮮語)Ⅱ [崔 先鎬] 秋学期授業/Fall.....	270
【A2212】 哲学特講 (1) - 1 [奥田 和夫] 春学期授業/Spring.....	271

[A2213]	哲学特講 (1) - 2 [山下 真] 秋学期授業/Fall.....	272
[A2216]	哲学特講 (3) - 1 [佐藤 真人] 春学期授業/Spring.....	273
[A2217]	哲学特講 (3) - 2 [古屋 俊彦] 秋学期授業/Fall.....	274
[A2218]	哲学特講 (4) - 1 [菅沢 龍文] 春学期授業/Spring.....	275
[A2219]	哲学特講 (4) - 2 [近堂 秀] 秋学期授業/Fall.....	276
[A2220]	哲学特講 (5) - 1 [西塚 俊太] 春学期授業/Spring.....	277
[A2221]	哲学特講 (5) - 2 [相原 博] 秋学期授業/Fall.....	278
[A2222]	哲学特講 (6) - 1 [大橋 基] 春学期授業/Spring.....	279
[A2223]	哲学特講 (6) - 2 [内藤 淳] 秋学期授業/Fall.....	280
[A2224]	哲学特講 (7) - 1 [酒井 健] 春学期授業/Spring.....	281
[A2225]	哲学特講 (7) - 2 [鶴澤 和彦] 秋学期授業/Fall.....	282
[A2226, A3672]	哲学特講 (8) - 1 / 科学哲学 I [木島 泰三] 春学期授業/Spring.....	284
[A2227, A3673]	哲学特講 (8) - 2 / 科学哲学 II [中釜 浩一] 秋学期授業/Fall.....	285
[A2553]	日本文芸批評史 A [伊東 祐吏] 春学期授業/Spring.....	286
[A2555]	日本文芸批評史 B [伊東 祐吏] 秋学期授業/Fall.....	287
[A2558]	日本語学特殊研究 A [間宮 厚司] 春学期授業/Spring.....	288
[A2560]	日本語学特殊研究 B [間宮 厚司] 秋学期授業/Fall.....	289
[A2561]	中国文芸史 A [遠藤 星希] 春学期授業/Spring.....	290
[A2563]	中国文芸史 B [遠藤 星希] 秋学期授業/Fall.....	291
[A2566]	書誌学 [山口 恭子] 春学期授業/Spring.....	292
[A2568]	メディアと社会 [中沢 けい] 秋学期授業/Fall.....	293
[A2569]	音楽芸能史特殊研究 A [野川 美穂子] 春学期授業/Spring.....	294
[A2571]	音楽芸能史特殊研究 B [野川 美穂子] 秋学期授業/Fall.....	295
[A2584]	表現と著作権 A [内藤 裕之] 春学期授業/Spring.....	296
[A2586]	表現と著作権 B [内藤 裕之] 秋学期授業/Fall.....	297
[A2604]	古文・漢文の基礎 [栗山 元子] 秋学期授業/Fall.....	298
[A2657]	日本文芸研究特講 (1) 上代 A [坂本 勝] 春学期授業/Spring.....	299
[A2658]	日本文芸研究特講 (1) 上代 B [坂本 勝] 秋学期授業/Fall.....	300
[A2661]	日本文芸研究特講 (2) 中古 A [栗山 元子] 春学期授業/Spring.....	301
[A2662]	日本文芸研究特講 (2) 中古 B [加藤 昌嘉] 秋学期授業/Fall.....	303
[A2665]	日本文芸研究特講 (3) 中世 A [阿部 真弓] 春学期授業/Spring.....	304
[A2666]	日本文芸研究特講 (3) 中世 B [阿部 真弓] 秋学期授業/Fall.....	305
[A2667]	日本文芸研究特講 (3) 中世 C [阿部 亮太] 春学期授業/Spring.....	306
[A2669]	日本文芸研究特講 (4) 近世 A [小林 ふみ子] 春学期授業/Spring.....	307
[A2670]	日本文芸研究特講 (4) 近世 B [齊藤 千恵] 秋学期授業/Fall.....	308
[A2673]	日本文芸研究特講 (5) 近代 A [佐藤 未央子] 春学期授業/Spring.....	309
[A2674]	日本文芸研究特講 (5) 近代 B [佐藤 未央子] 秋学期授業/Fall.....	310
[A2677]	日本文芸研究特講 (6) 現代 A [藤木 直実] 春学期授業/Spring.....	311
[A2678]	日本文芸研究特講 (6) 現代 B [藤木 直実] 秋学期授業/Fall.....	312
[A2679]	日本文芸研究特講 (6) 現代 C [高口 智史] 春学期授業/Spring.....	313
[A2680]	日本文芸研究特講 (6) 現代 D [梅澤 亜由美] 秋学期授業/Fall.....	314
[A2681]	日本文芸研究特講 (7) 漢文 A [遠藤 星希] 春学期授業/Spring.....	315
[A2682]	日本文芸研究特講 (7) 漢文 B [遠藤 星希] 秋学期授業/Fall.....	316
[A2685]	日本文芸研究特講 (8) 言語 A [王 安] 春学期授業/Spring.....	317
[A2686]	日本文芸研究特講 (8) 言語 B [間宮 厚司] 秋学期授業/Fall.....	318
[A2687]	日本文芸研究特講 (9) 表現 A [藤谷 治] 春学期授業/Spring.....	319
[A2688]	日本文芸研究特講 (9) 表現 B [藤谷 治] 秋学期授業/Fall.....	320
[A2689]	日本文芸研究特講 (10) 演劇 A [伊海 孝充] 春学期授業/Spring.....	321
[A2690]	日本文芸研究特講 (10) 演劇 B [伊海 孝充] 秋学期授業/Fall.....	322
[A2693]	日本文芸研究特講 (11) 音楽芸能史 A [本塚 亘] 春学期授業/Spring.....	323
[A2694]	日本文芸研究特講 (11) 音楽芸能史 B [本塚 亘] 秋学期授業/Fall.....	324
[A2695]	日本文芸研究特講 (12) 詩歌 A [四元 康祐] 春学期授業/Spring.....	325
[A2696]	日本文芸研究特講 (12) 詩歌 B [四元 康祐] 秋学期授業/Fall.....	326
[A2697]	日本文芸研究特講 (13) 児童文芸 A [三井 喜美子] 春学期授業/Spring.....	327
[A2698]	日本文芸研究特講 (13) 児童文芸 B [三井 喜美子] 秋学期授業/Fall.....	328
[A2699]	日本文芸研究特講 (14) 沖縄文芸 A [福 寛美] 春学期授業/Spring.....	329
[A2700]	日本文芸研究特講 (14) 沖縄文芸 B [福 寛美] 秋学期授業/Fall.....	330

【A2703】	日本文芸研究特講（15）国際日本学A [スティーヴン ネルソン] 春学期授業/Spring	331
【A2704】	日本文芸研究特講（15）国際日本学B [スティーヴン ネルソン] 秋学期授業/Fall	332
【A2707】	日本文芸研究特講（16）特域C [安原 眞琴] 春学期授業/Spring	333
【A2708】	日本文芸研究特講（16）特域D [山口 恭子] 秋学期授業/Fall	334
【A2804】	英語学概論A [椎名 美智] 春学期授業/Spring	335
【A2805】	英語学概論B [福元 広二] 秋学期授業/Fall	336
【A2806】	言語学概論A [石川 潔] 春学期授業/Spring	337
【A2807】	言語学概論B [石井 創] 秋学期授業/Fall	338
【A2808】	英語・言語学講義A [椎名 美智] 秋学期授業/Fall	340
【A2809】	英語・言語学講義B [石川 潔] 秋学期授業/Fall	341
【A2810】	社会言語学 [椎名 美智] 春学期授業/Spring	342
【A2811】	応用言語学 [川崎 貴子] 秋学期授業/Fall	343
【A2824】	比較文学A [日中 鎮朗] 春学期授業/Spring	344
【A2825】	比較文学B [日中 鎮朗] 秋学期授業/Fall	345
【A2901】	英語史A [福元 広二] 春学期授業/Spring	346
【A2902】	英語史B [福元 広二] 秋学期授業/Fall	347
【A2903】	英文学史A [田中 裕希] 春学期授業/Spring	348
【A2904】	英文学史B [小澤 央] 秋学期授業/Fall	349
【A2905】	米文学史A [宮川 雅] 春学期授業/Spring	350
【A2906】	米文学史B [宮川 雅] 秋学期授業/Fall	351
【A2907】	英米文学講義ⅠA [宮川 雅] 春学期授業/Spring	352
【A2908】	英米文学講義ⅠB [宮川 雅] 秋学期授業/Fall	353
【A2909】	英米文学講義ⅡA [小澤 央] 春学期授業/Spring	354
【A2910】	英米文学講義ⅡB [田中 裕希] 秋学期授業/Fall	355
【A2911】	英語学講義A [福元 広二] 春学期授業/Spring	356
【A2912】	英語学講義B [福元 広二] 秋学期授業/Fall	357
【A2913, A2326】	言語学講義ⅠA/言語と論理1（言語学講義Ⅰ）A [石川 潔] 春学期授業/Spring	358
【A2914, A2327】	言語学講義ⅠB/言語と論理1（言語学講義Ⅰ）B [石川 潔] 秋学期授業/Fall	359
【A2915】	言語学講義ⅡA [伊藤 達也] 春学期授業/Spring	360
【A2916】	言語学講義ⅡB [伊藤 達也] 秋学期授業/Fall	361
【A2917】	英語音声学A [田中 邦佳] 春学期授業/Spring	362
【A2918】	英語音声学B [田中 邦佳] 秋学期授業/Fall	363
【A2919】	英語音声学A [川崎 貴子] 春学期授業/Spring	364
【A2920】	英語音声学B [川崎 貴子] 秋学期授業/Fall	365
【A2923】	英語・言語学特殊講義A [岸山 健] 春学期授業/Spring	366
【A2924】	英語・言語学特殊講義B [岸山 健] 秋学期授業/Fall	367
【A2965】	英米文学特殊講義Ⅰ [宮川 雅] 春学期授業/Spring	368
【A2966】	英米文学特殊講義Ⅱ [宮川 雅] 秋学期授業/Fall	369
【A2967】	英米文学特殊講義Ⅲ [吉田 裕] 春学期授業/Spring	370
【A2968】	英米文学特殊講義Ⅳ [吉田 裕] 秋学期授業/Fall	372
【A2969】	文学研究方法論A [小島 尚人] 春学期授業/Spring	374
【A2970】	文学研究方法論B [小島 尚人] 秋学期授業/Fall	375
【A2977】	英語の文法力Ⅰ [椎名 美智] 春学期授業/Spring	376
【A2978】	英語の文法力Ⅱ [椎名 美智] 秋学期授業/Fall	377
【A2979】	メディア・リテラシーⅠ [田中 邦佳] 秋学期授業/Fall	378
【A2980】	メディア・リテラシーⅡ [吉川 純子] 秋学期授業/Fall	379
【A2981】	比較文化論（1） [小島 尚人] 秋学期授業/Fall	380
【A2982】	英米文化概論A [田中 裕希] 春学期授業/Spring	381
【A2983】	英米文化概論B [田中 裕希] 秋学期授業/Fall	382
【A2984】	Academic Writing A [中谷 安男] 春学期授業/Spring	383
【A2985】	Academic Writing B [中谷 安男] 秋学期授業/Fall	384
【A2986】	Seminar in Cross-cultural Studies A [田中 裕希] 春学期授業/Spring	385
【A2987】	Seminar in Cross-cultural Studies B [田中 裕希] 秋学期授業/Fall	386
【A2988】	Comparative Culture(2) [小島 尚人] 春学期授業/Spring	387
【A3113, A3856】	日本考古学/日本考古学（資格） [古庄 浩明] 秋学期授業/Fall	388
【A3114】	日本古代史 [春名 宏昭] 春学期授業/Spring	389
【A3115】	日本中世史 [及川 亘] 秋学期授業/Fall	390

【A3116】	日本近世史 [松本 剣志郎] 秋学期授業/Fall	391
【A3117】	日本近代史 [内藤 一成] 春学期授業/Spring	392
【A3118】	日本現代史 [劉 傑] 春学期授業/Spring	393
【A3121】	日本古代史科学 I [春名 宏昭] 秋学期授業/Fall	394
【A3124】	日本近世史科学 I [松本 剣志郎] 春学期授業/Spring	395
【A3125】	日本近世史科学 II [松本 剣志郎] 秋学期授業/Fall	396
【A3126】	日本近代史科学 [内藤 一成] 秋学期授業/Fall	397
【A3127】	日本現代史科学 [劉 傑] 秋学期授業/Fall	398
【A3135】	東洋古代史 [飯尾 秀幸] 春学期授業/Spring	399
【A3136】	東洋中世史 [宇都宮 美生] 秋学期授業/Fall	400
【A3143】	西洋古代史 [内田 康太] 春学期授業/Spring	401
【A3144】	西洋中世史 [大貫 俊夫] 春学期授業/Spring	402
【A3145】	西洋近代史 [島田 顕] 春学期授業/Spring	403
【A3146】	西洋現代史 [古川 高子] 秋学期授業/Fall	404
【A3152, A3855】	考古学概論/考古学概論 (資格) [古庄 浩明] 春学期授業/Spring	405
【A3153, A2274】	史学概論/歴史思想 (史学概論) [高澤 紀恵] 春学期授業/Spring	406
【A3154】	日本史特講 I [中山 学] 春学期授業/Spring	407
【A3155】	日本史特講 II [大塚 紀弘] 春学期授業/Spring	408
【A3156】	日本史特講 III [稲田 奈津子] 秋学期授業/Fall	409
【A3157】	日本史特講 IV [中山 学] 秋学期授業/Fall	410
【A3158】	日本史特講 V [宮間 純一] 秋学期授業/Fall	411
【A3159】	日本史特講 VI [米崎 清実] 春学期授業/Spring	412
【A3160】	日本史特講 VII [山田 康弘] 春学期授業/Spring	413
【A3162】	東洋史特講 I [飯尾 秀幸] 秋学期授業/Fall	415
【A3163】	東洋史特講 II [澁谷 由紀] 春学期授業/Spring	416
【A3164】	東洋史特講 III [芦沢 知絵] 秋学期授業/Fall	417
【A3165】	東洋史特講 IV [塩沢 裕仁] 秋学期授業/Fall	418
【A3168】	西洋史特講 I [内田 康太] 秋学期授業/Fall	419
【A3169】	西洋史特講 II [大貫 俊夫] 秋学期授業/Fall	420
【A3170】	西洋史特講 III [吉岡 潤] 秋学期授業/Fall	421
【A3171】	西洋史特講 IV [高澤 紀恵] 春学期授業/Spring	422
【A3172】	西洋史特講 V [高澤 紀恵] 秋学期授業/Fall	423
【A3173】	西洋史特講 VI [大鳥 由香子] 春学期授業/Spring	424
【A3174】	西洋史特講 VII [遠藤 泰生] 秋学期授業/Fall	425
【A3201】	日本史特講 IX [内藤 一成] 春学期授業/Spring	426
【A3202】	日本史特講 X [森田 貴子] 秋学期授業/Fall	427
【A3204】	日本古代史科学 II a [山口 英男] 春学期授業/Spring	428
【A3208】	東洋近現代史 [芦沢 知絵] 春学期授業/Spring	429
【A3209】	東洋考古・美術史 [塩沢 裕仁] 春学期授業/Spring	430
【A3216】	日本史特講 XI [遠藤 慶太] 秋学期授業/Fall	431
【A3217】	東洋史特講 VII [徳留 大輔] 春学期授業/Spring	432
【A3218】	東洋史特講 VIII [松本 隆志] 春学期授業/Spring	434
【A3219】	西洋史特講 IX [大澤 広晃] 春学期授業/Spring	435
【A3408】	地誌学概論 (1) [小寺 浩二] 春学期授業/Spring	436
【A3412】	地球科学概論 I [宍倉 正展] 春学期授業/Spring	437
【A3413】	地球科学概論 II [宍倉 正展] 秋学期授業/Fall	438
【A3417】	自然環境論 [宇津川 喬子] 春学期授業/Spring	439
【A3426】	社会経済地理学 (1) [小原 丈明] 秋学期授業/Fall	440
【A3427】	社会経済地理学 (2) [伊藤 達也] 春学期授業/Spring	441
【A3428】	社会経済地理学 (3) [佐々木 達] 秋学期授業/Fall	442
【A3443】	世界地誌 (1) [堤 純] 秋学期授業/Fall	443
【A3444】	世界地誌 (2) [小原 丈明] 春学期授業/Spring	445
【A3445】	世界地誌 (3) [小寺 浩二] 秋学期授業/Fall	446
【A3453】	自然地理学特講 (3) [丸本 美紀] 春学期授業/Spring	447
【A3455】	人文地理学特講 (1) [小田 宏信] 秋学期授業/Fall	448
【A3457】	人文地理学特講 (3) [松井 圭介] 秋学期授業/Fall	449
【A3482】	文化地理学 (1) [村田 陽平] 春学期授業/Spring	451

【A3483】文化地理学(2) [村田 陽平] 秋学期授業/Fall.....	452
【A3500】自然地理学特講(1) [藁谷 哲也] 春学期授業/Spring.....	453
【A3601, A2254】心理学概論/心理学1(心理学概論)1 [伊藤 尚枝] 春学期授業/Spring.....	455
【A3602, A2255】心理学史/心理学1(心理学史)2 [矢口 幸康] 秋学期授業/Fall.....	456
【A3619】脳の科学 [高橋 敏治] 秋学期授業/Fall.....	457
【A3620】認知心理学 [竹島 康博] 秋学期授業/Fall.....	458
【A3621】認知科学入門 [田嶋 圭一] 春学期授業/Spring.....	459
【A3622】発達心理学 [渡辺 弥生] 春学期授業/Spring.....	460
【A3623】教育心理学 [梶井 直親] 秋学期授業/Fall.....	461
【A3624】学習心理学 [藤田 哲也] 春学期授業/Spring.....	462
【A3667】言語心理学 [菊池 理紗] 秋学期授業/Fall.....	463
【A3687】社会心理学特講 [島宗 理] 秋学期授業/Fall.....	464
【A3721】産業組織心理学 [島宗 理] 秋学期授業/Fall.....	465
【A3819】歴史地理学(1) [米家 志乃布] 春学期授業/Spring.....	467
【A3820】歴史地理学(2) [米家 志乃布] 秋学期授業/Fall.....	468
【A3901】地誌学概論 [南 春英] 春学期授業/Spring.....	469
経営学科専門科目 200 番台 【A4361】キャリア・マネジメントⅠ(2019年度以降入学者) [小川 憲彦] 春学期授業/Spring.....	470
経営学科専門科目 200 番台 【A4362】キャリア・マネジメントⅡ(2019年度以降入学者) [小川 憲彦] 秋学期授業/Fall.....	472
経営学科専門科目 300 番台 【A4363】経営組織論Ⅰ [長岡 健] 春学期授業/Spring.....	473
経営学科専門科目 300 番台 【A4364】経営組織論Ⅱ [長岡 健] 秋学期授業/Fall.....	475
経営学科専門科目 300 番台 【A4369】人的資源管理Ⅰ [佐野 嘉秀] 春学期授業/Spring.....	477
経営学科専門科目 300 番台 【A4370】人的資源管理Ⅱ [佐野 嘉秀] 秋学期授業/Fall.....	479
経営学科専門科目 300 番台 【A4379】税務会計論Ⅰ [大下 勇二] 春学期授業/Spring.....	481
経営学科専門科目 300 番台 【A4380】税務会計論Ⅱ [大下 勇二] 秋学期授業/Fall.....	482
経営学科専門科目 300 番台 【A4393】組織経済学 [奥西 好夫] 春学期授業/Spring.....	483
【A4394】組織経済学Ⅰ(2018年度以前入学者) [奥西 好夫] 春学期授業/Spring.....	484
経営戦略学科専門科目 300 番台 【A4423】日本経営史Ⅰ [二階堂 行宣] 春学期授業/Spring.....	485
経営戦略学科専門科目 300 番台 【A4424】日本経営史Ⅱ [二階堂 行宣] 秋学期授業/Fall.....	487
経営戦略学科専門科目 300 番台 【A4425】企業評価論Ⅰ [高橋 美穂子] 春学期授業/Spring.....	489
経営戦略学科専門科目 300 番台 【A4426】企業評価論Ⅱ [高橋 美穂子] 秋学期授業/Fall.....	490
経営戦略学科専門科目 300 番台 【A4427】経営分析論Ⅰ [福多 裕志] 春学期授業/Spring.....	491
経営戦略学科専門科目 300 番台 【A4428】経営分析論Ⅱ [福多 裕志] 秋学期授業/Fall.....	492
【A4437】経営分析Ⅰ [高橋 美穂子] 春学期授業/Spring.....	493
【A4438】経営分析Ⅱ [高橋 美穂子] 秋学期授業/Fall.....	494
【A4439】経営分析Ⅲ [福多 裕志] 春学期授業/Spring.....	495
【A4440】経営分析Ⅳ [福多 裕志] 秋学期授業/Fall.....	496
市場経営学科専門科目 200 番台 【A4465】日本経営論Ⅰ [金 容度] 春学期授業/Spring.....	497
市場経営学科専門科目 200 番台 【A4466】日本経営論Ⅱ [金 容度] 秋学期授業/Fall.....	498
市場経営学科専門科目 200 番台 【A4471】デリバティブ入門Ⅰ(2019年度以降入学者) [山崎 輝] 春学期授業/Spring.....	499
市場経営学科専門科目 200 番台 【A4472】デリバティブ入門Ⅱ(2019年度以降入学者) [山崎 輝] 秋学期授業/Fall.....	500
市場経営学科専門科目 300 番台 【A4475】産業組織論Ⅰ [大木 良子] 春学期授業/Spring.....	501
市場経営学科専門科目 300 番台 【A4476】産業組織論Ⅱ [大木 良子] 秋学期授業/Fall.....	502
市場経営学科専門科目 300 番台 【A4477】情報技術論Ⅰ [入戸野 健] 春学期授業/Spring.....	503
市場経営学科専門科目 300 番台 【A4478】情報技術論Ⅱ [入戸野 健] 秋学期授業/Fall.....	504
市場経営学科専門科目 300 番台 【A4481】経営のための経済学 [大橋 賢裕] サマーセッション/Summer Session.....	505
【A4487】ファイナンス論Ⅰ(2018年度以前入学者) [山崎 輝] 春学期授業/Spring.....	507
【A4488】ファイナンス論Ⅱ(2018年度以前入学者) [山崎 輝] 秋学期授業/Fall.....	508
【A6035】Presentation and Public Speaking (Advanced) [Mark Birtles] 春学期授業/Spring.....	509
【A6036】Presentation and Public Speaking (Advanced) [Mark Birtles] 秋学期授業/Fall.....	510
【A6037】Presentation and Public Speaking (Standard) [Alan Meadows] 春学期授業/Spring.....	511
【A6038】Presentation and Public Speaking (Standard) [Alan Meadows] 秋学期授業/Fall.....	512
【A6039】English Test Preparation for IELTS [Marcus Lovitt] 春学期授業/Spring.....	513
【A6041】Professional Communication [Mark Birtles] 秋学期授業/Fall.....	514
【A6042】Statistics [Yuji Ogihara] 秋学期授業/Fall.....	515
【A6043】Translation [Sarah Allen] 秋学期授業/Fall.....	516

[A6048] Introduction to Programming [Youyung Hyun] 春学期授業/Spring	517
[A6109] Religious Studies [Robert Sinclair] 秋学期授業/Fall	518
[A6110] History of Modern Europe [Markus Winter] 秋学期授業/Fall	519
[A6111] History of Modern East Asia [Chris H Park] 秋学期授業/Fall	520
[A6113] Music Appreciation [Cathy Cox] 春学期授業/Spring	521
[A6121] Manga Studies [Stevie Suan] 春学期授業/Spring	522
[A6123] Visual Arts [Aquiles Hadjis] 春学期授業/Spring	523
[A6124] Topics in Arts: Fine Arts [Suzanne Mooney] 秋学期授業/Fall	525
[A6125] Topics in Arts: Visual Communication Design [Gary McLeod] 秋学期授業/Fall	527
[A6128] Contrastive Linguistics [Geraldo Faria] 春学期授業/Spring	528
[A6131] Language Education in the Digital Era [Robert Paterson] 秋学期授業/Fall	529
[A6132] Second Language Acquisition [Tomoko Shigyo] 秋学期授業/Fall	530
[A6133] Comparative Education [Machiko Kobori] 秋学期授業/Fall	531
[A6134] History of Philosophy [Joel Van Fossen] 秋学期授業/Fall	532
[A6136] Introduction to Ethics [Joel Van Fossen] 秋学期授業/Fall	533
[A6140] French A I [Masamichi Suzuki] 春学期授業/Spring	534
[A6141] French A II [Masamichi Suzuki] 秋学期授業/Fall	535
[A6142] French B I [Tamio Okamura] 春学期授業/Spring	536
[A6143] French B II [Tamio Okamura] 秋学期授業/Fall	537
[A6144] Spanish A I [Taiga Wakabayashi] 春学期授業/Spring	538
[A6145] Spanish A II [Taiga Wakabayashi] 秋学期授業/Fall	539
[A6146] Spanish B I [Yoshifumi Onuki] 春学期授業/Spring	540
[A6147] Spanish B II [Yoshifumi Onuki] 秋学期授業/Fall	541
[A6148] Chinese A I [Yuko Takada] 春学期授業/Spring	542
[A6149] Chinese A II [Yuko Takada] 秋学期授業/Fall	543
[A6150] Chinese B I [Shota Watanabe] 春学期授業/Spring	544
[A6151] Chinese B II [Shota Watanabe] 秋学期授業/Fall	545
[A6163] Cultural and Ethnic Diversity in Japan [Keiko Nishimura] 春学期授業/Spring	546
[A6167] Developmental Psychology [Sayaka Aoki] 秋学期授業/Fall	547
[A6168] Media Studies [Muge Igarashi] 秋学期授業/Fall	548
[A6174] Introduction to Development Studies [Norio Usui] 春学期授業/Spring	549
[A6188] Introduction to Tourism Studies [John Melvin] 春学期授業/Spring	550
[A6189] Introduction to Tourism Studies [John Melvin] 秋学期授業/Fall	551
[A6190] Information Studies [Alfons Josef Schuster] 秋学期授業/Fall	552
[A6192] Information and Society [May Kristine Jonson Carlon] 春学期授業/Spring	553
[A6204] Topics in Japanese Literature: History of Japanese Literature in Translation [Gregory Khezhnejat] 秋学期授業/Fall	554
[A6205] American History and Society [Robert Sinclair] 春学期授業/Spring	555
[A6210] Philosophy and Political Thought [Joel Van Fossen] 春学期授業/Spring	556
[A6211] Topics in Philosophy [Joel Van Fossen] 秋学期授業/Fall	557
[A6212] Sociology of Work and Employment [Allen Kim] 秋学期授業/Fall	558
[A6213] Sociology of Law [Kelesha Nevers] 春学期授業/Spring	559
[A6217] Gender, Sexuality and Society [Daiki Hiramori] 春学期授業/Spring	560
[A6219] Media Effects [Muge Igarashi] 春学期授業/Spring	561
[A6220] Gender, Sexuality and Society [Daiki Hiramori] 秋学期授業/Fall	562
[A6223] Asian Popular Culture [Kukhee Choo] 春学期授業/Spring	563
[A6224] Japanese Popular Culture [Jason Cody Douglass] 秋学期授業/Fall	564
[A6225] Music and Culture [Cathy Cox] 秋学期授業/Fall	565
[A6226] Performance Studies [Stevie Suan] 春学期授業/Spring	566
[A6229] Digital Writing and Publication [Mark Birtles] 春学期授業/Spring	567
[A6230] Digital Writing and Publication [Mark Birtles] 秋学期授業/Fall	568
[A6232] Science and Technology Studies [Youyung Hyun] 春学期授業/Spring	569
[A6233] Art and Design [Suzanne Mooney] 春学期授業/Spring	570
[A6239] Applied Psychology [Sayaka Aoki] 春学期授業/Spring	571
[A6240] Quantitative Research Methods [Yu Niiya] 春学期授業/Spring	572
[A6243] Macroeconomics II [Alberto Iniguez] 春学期授業/Spring	573
[A6244] Macroeconomics II [AugustoRicardoDelgadoNarro] 秋学期授業/Fall	575

【A6247】 Data Visualization [Youyung Hyun] 春学期授業/Spring	576
【A6248】 Data Visualization [Youyung Hyun] 秋学期授業/Fall	577
【A6250】 Teaching Pronunciation [Katsuya Yokomoto] 春学期授業/Spring.....	578
【A6251】 Semantics and Pragmatics [Nobumi Nakai] 春学期授業/Spring	579
【A6254】 Psycholinguistics [Mako Ishida] 秋学期授業/Fall.....	580
【A6259】 Topics in Applied Linguistics A: Linguistic Landscapes [Chie Saito] 秋学期授業/Fall	581
【A6262】 Business Negotiation [Takamasa Fukuoka] 秋学期授業/Fall.....	582
【A6263】 General Topics II: Business Ethics [Maurizio Raffone] 秋学期授業/Fall	583
【A6264】 Organizational Behavior [Junko Shimazoe] 春学期授業/Spring	584
【A6266】 Brand Management [Takamasa Fukuoka] 春学期授業/Spring.....	585
【A6269】 Marketing Research [Kayhan Tajeddini] 秋学期授業/Fall	586
【A6274】 Tourism Development in Japan [John Melvin] 春学期授業/Spring	587
【A6275】 General Topics II: Japanese Taxation [Toshiki Onozuka] 春学期授業/Spring	588
【A6279】 English Teaching in Primary School [Machiko Kobori] 秋学期授業/Fall	590
【A6284】 Japanese Politics [Heiko Lang] 秋学期授業/Fall.....	591
【A6290】 Religion and Politics [Christopher Michael Kavanagh] 秋学期授業/Fall	592
【A6297】 Development Economies [Augusto Ricardo Delgado Narro] 春学期授業/Spring.....	593
【A6298】 Environment and Development [Gregory Toth] 春学期授業/Spring	594
【A6301】 Advanced Topics in American Literature: US Southern Literature [Gregory Kheznejat] 秋学期授 業/Fall	595
【A6302】 Modern Japanese Fiction in Translation [Gregory Kheznejat] 春学期授業/Spring	596
【A6306】 Readings in Philosophy [Robert Sinclair] 春学期授業/Spring	597
【A6307】 Advanced Topics in Philosophy I [Joel Van Fossen] 春学期授業/Spring	598
【A6308】 Advanced Topics in Philosophy II [Joel Van Fossen] 秋学期授業/Fall	599
【A6309】 Advanced Topics in Contemporary Art [Utako Shindo] 秋学期授業/Fall	600
【A6310】 Art in the Real World [Suzanne Mooney] 春学期授業/Spring	601
【A6311】 Film Studies [CatherineMarie Munroe Hotes] 春学期授業/Spring	602
【A6312】 Existentialism [Joel Van Fossen] 春学期授業/Spring	603
【A6319】 Race, Class and Gender II: Global Inequalities [Daiki Hiramori] 春学期授業/Spring	604
【A6320】 Migration and Diaspora [Chris H Park] 秋学期授業/Fall	605
【A6321】 Feminist Theory [Daiki Hiramori] 秋学期授業/Fall	606
【A6322】 Advanced Topics in Critical Theory [Daiki Hiramori] 春学期授業/Spring	607
【A6323】 Special Topics I: Photography and Culture [Gary McLeod] 春学期授業/Spring	608
【A6324】 Fact and Fiction in the Movies [CatherineMarie Munroe Hotes] 秋学期授業/Fall	609
【A6325】 Comparative Media [Kukhee Choo] 秋学期授業/Fall.....	610
【A6326】 Media and Globalization [Stevie Suan] 秋学期授業/Fall.....	611
【A6327】 Media and the Nation [Stevie Suan] 春学期授業/Spring.....	612
【A6328】 Media Research [Kukhee Choo] 春学期授業/Spring.....	613
【A6332】 Cultural Psychology [Takafumi Sawaumi] 春学期授業/Spring	614
【A6333】 Community Psychology [Toshiaki Sasao] 春学期授業/Spring	615
【A6334】 Clinical Psychology [Keiko Ito] 秋学期授業/Fall	616
【A6335】 Psychology of Morality [Christopher Michael Kavanagh] 秋学期授業/Fall	617
【A6336】 Qualitative Research Methods [Allen Kim] 秋学期授業/Fall	618
【A6337】 Advanced Topics in Social Psychology [Yu Niiya] 秋学期授業/Fall.....	619
【A6338】 Database Utilization [Youyung Hyun] 秋学期授業/Fall	620
【A6343】 Language Policy [Geraldo Faria] 秋学期授業/Fall	621
【A6346】 International Business [Shiaw Jia Eyo] 春学期授業/Spring	622
【A6348】 International Finance [Keiichiro Omae] 秋学期授業/Fall.....	623
【A6349】 Digital Transformation [Youyung Hyun] 春学期授業/Spring.....	624
【A6350】 Digital Transformation [Youyung Hyun] 秋学期授業/Fall	625
【A6351】 Digital Marketing [Youyung Hyun] 春学期授業/Spring.....	626
【A6352】 Supply Chain Management [Kayhan Tajeddini] 秋学期授業/Fall.....	627
【A6353】 Services Marketing [John Melvin] 春学期授業/Spring.....	628
【A6355】 Corporate Social Responsibility [Sairan Hayama] 秋学期授業/Fall.....	629
【A6356】 Cultural Tourism [John Melvin] 秋学期授業/Fall.....	630
【A6357】 Digital Marketing [Youyung Hyun] 秋学期授業/Fall	631
【A6359】 English Teaching in Primary School: Advanced [Tomoko Shigyo] 春学期授業/Spring.....	632

[A6363]	International Relations of the Asia-Pacific [Takeshi Yuzawa]	秋学期授業/Fall	633
[A6364]	Advanced Comparative Politics [Kana Inata]	秋学期授業/Fall	634
[A6365]	Globalization and Political Change [Jenny Balboa]	秋学期授業/Fall	635
[A6366]	Peace Building [Aigul Kulnazarova]	春学期授業/Spring	637
[A6369]	International Development Policy [Ippeita Nishida]	春学期授業/Spring	639
[A6370]	International Environmental Policy [Gregory Toth]	秋学期授業/Fall	641
[A6371]	Global Political Economy [Nathalie Cavašin]	春学期授業/Spring	642
[A6374]	International Law [Kiyoshi Adachi]	春学期授業/Spring	644
[A6375]	Law in a Globalizing World [Kelesha Nevers]	春学期授業/Spring	645
[A6379]	Advanced Accounting [Noriaki Okamoto]	春学期授業/Spring	646
[A6405]	Seminar: Diversity of English I [Yutai Watanabe]	春学期授業/Spring	647
[A6406]	Seminar: Diversity of English I [Yutai Watanabe]	春学期授業/Spring	648
[A6407]	Seminar: Diversity of English II [Yutai Watanabe]	秋学期授業/Fall	649
[A6408]	Seminar: Diversity of English II [Yutai Watanabe]	秋学期授業/Fall	650
[A6409]	Seminar: Language Teaching and Learning I [Machiko Kobori]	春学期授業/Spring	651
[A6410]	Seminar: Language Teaching and Learning I [Machiko Kobori]	春学期授業/Spring	652
[A6411]	Seminar: Language Teaching and Learning II [Machiko Kobori]	秋学期授業/Fall	653
[A6412]	Seminar: Language Teaching and Learning II [Machiko Kobori]	秋学期授業/Fall	654
[A6413]	Seminar: Intersectionality: Multiple Inequalities I [Diana Khor]	春学期授業/Spring	655
[A6414]	Seminar: Intersectionality: Multiple Inequalities I [Diana Khor]	春学期授業/Spring	656
[A6415]	Seminar: Intersectionality: Multiple Inequalities II [Diana Khor]	秋学期授業/Fall	657
[A6416]	Seminar: Intersectionality: Multiple Inequalities II [Diana Khor]	秋学期授業/Fall	658
[A6417]	Seminar: Self and Culture I [Yu Niiya]	春学期授業/Spring	659
[A6418]	Seminar: Self and Culture I [Yu Niiya]	春学期授業/Spring	660
[A6419]	Seminar: Self and Culture II [Yu Niiya]	秋学期授業/Fall	661
[A6420]	Seminar: Self and Culture II [Yu Niiya]	秋学期授業/Fall	662
[A6421]	Seminar: International Relations I [Takeshi Yuzawa]	春学期授業/Spring	663
[A6422]	Seminar: International Relations I [Takeshi Yuzawa]	春学期授業/Spring	664
[A6423]	Seminar: International Relations II [Takeshi Yuzawa]	秋学期授業/Fall	665
[A6424]	Seminar: International Relations II [Takeshi Yuzawa]	秋学期授業/Fall	666
[A6425]	Seminar: Tourism Management I [John Melvin]	春学期授業/Spring	667
[A6426]	Seminar: Tourism Management I [John Melvin]	春学期授業/Spring	668
[A6427]	Seminar: Tourism Management II [John Melvin]	秋学期授業/Fall	669
[A6428]	Seminar: Tourism Management II [John Melvin]	秋学期授業/Fall	670
[A6429]	Seminar: Entrepreneurship & Innovation I [Shiaw Jia Eyo]	春学期授業/Spring	671
[A6430]	Seminar: Entrepreneurship & Innovation I [Shiaw Jia Eyo]	春学期授業/Spring	672
[A6431]	Seminar: Entrepreneurship & Innovation II [May May Ho]	秋学期授業/Fall	673
[A6432]	Seminar: Entrepreneurship & Innovation II [May May Ho]	秋学期授業/Fall	674
[A6433]	Seminar: Global Strategic Management I [Takamasa Fukuoka]	春学期授業/Spring	675
[A6434]	Seminar: Global Strategic Management I [Takamasa Fukuoka]	春学期授業/Spring	676
[A6435]	Seminar: Global Strategic Management II [Takamasa Fukuoka]	秋学期授業/Fall	677
[A6436]	Seminar: Global Strategic Management II [Takamasa Fukuoka]	秋学期授業/Fall	678
[A6437]	Seminar: Literature in Theory and Practice I [Gregory Khezhnejat]	春学期授業/Spring	679
[A6438]	Seminar: Literature in Theory and Practice I [Gregory Khezhnejat]	春学期授業/Spring	680
[A6439]	Seminar: Literature in Theory and Practice II [Gregory Khezhnejat]	秋学期授業/Fall	681
[A6440]	Seminar: Literature in Theory and Practice II [Gregory Khezhnejat]	秋学期授業/Fall	682
[A6441]	Seminar: Media Across Borders I [Stevie Suan]	春学期授業/Spring	683
[A6442]	Seminar: Media Across Borders I [Stevie Suan]	春学期授業/Spring	684
[A6443]	Seminar: Media Across Borders II [Stevie Suan]	秋学期授業/Fall	685
[A6444]	Seminar: Media Across Borders II [Stevie Suan]	秋学期授業/Fall	686
[A9816]	キャリアデザイン応用 [大八木 智一]	秋学期授業/Fall	687
[A9817]	キャリアデザイン応用 [大八木 智一]	秋学期授業/Fall	689
[A9818]	キャリアデザイン応用 [大八木 智一]	秋学期授業/Fall	691
[A9819]	キャリアデザイン応用 [大八木 智一]	秋学期授業/Fall	693
都市環境デザイン工学科_基盤科目_人文社会系_社会科学分野 [B1010]	開発と国際協力 [浅川 英理子、小野澤 雅人]	秋学期授業/Fall	695

システムデザイン学科_基盤科目_人文社会系_社会科学分野【B1010】開発と国際協力〔浅川 英理子、小野澤 雅人〕秋学期授業/Fall	696
建築学科_基盤科目_人文社会系_社会科学分野【B1010】開発と国際協力〔浅川 英理子、小野澤 雅人〕秋学期授業/Fall	697
建築学科_基盤科目_人文社会系_人文分野【B1012】文化と文明〔小林 信也〕秋学期授業/Fall	698
都市環境デザイン工学科_基盤科目_人文社会系_人文分野【B1012】文化と文明〔小林 信也〕秋学期授業/Fall	699
システムデザイン学科_基盤科目_人文社会系_人文分野【B1012】文化と文明〔小林 信也〕秋学期授業/Fall	700
システムデザイン学科_基盤科目_総合系_環境分野【B1018】環境とエネルギー〔下田 昭郎〕春学期授業/Spring	701
建築学科_基盤科目_総合系_環境分野【B1018】環境とエネルギー〔下田 昭郎〕春学期授業/Spring	702
都市環境デザイン工学科_基盤科目_総合系_環境分野【B1019】環境とエネルギー〔下田 昭郎〕春学期授業/Spring	703
都市環境デザイン工学科_基盤科目_理工系_自然科学分野【B1268】ジオロジカルエンジニアリング〔中谷 匡志〕秋学期授業/Fall	704
システムデザイン学科_基盤科目_総合系_デザイン分野【B2005】デザイン文化論〔辻村 亮子〕春学期授業/Spring	706
都市環境デザイン工学科_基盤科目_総合系_デザイン分野【B2005】デザイン文化論〔辻村 亮子〕春学期授業/Spring	707
建築学科_基盤科目_総合系_デザイン分野【B2005】デザイン文化論〔辻村 亮子〕春学期授業/Spring	708
システムデザイン学科_専門科目_基礎科目【B2007】色彩論〔大高 知子〕秋学期授業/Fall	709
システムデザイン学科_外国語科目_英語以外【B2050】英語表現技術〔ベイカー ダンカン〕秋学期前半/Fall(1st half)	710
建築学科_外国語科目_英語以外【B2050】英語表現技術〔ベイカー ダンカン〕秋学期前半/Fall(1st half)	711
都市環境デザイン工学科_外国語科目_英語以外【B2050】英語表現技術〔ベイカー ダンカン〕秋学期前半/Fall(1st half)	712
システムデザイン学科_専門科目_基礎科目【B2051】都市デザイン〔高見 公雄〕春学期前半/Spring(1st half)	713
建築学科_専門科目_基礎科目【B2051】都市デザイン〔高見 公雄〕春学期前半/Spring(1st half)	714
都市環境デザイン工学科_専門科目_基礎科目【B2051】都市デザイン〔高見 公雄〕春学期前半/Spring(1st half)	715
建築学科_専門科目_基礎科目【B2054】地図とGIS〔丸山 智康、石田 恵一、今井 龍一〕春学期後半/Spring(2nd half)	716
システムデザイン学科_専門科目_基礎科目【B2054】地図とGIS〔丸山 智康、石田 恵一、今井 龍一〕春学期後半/Spring(2nd half)	717
都市環境デザイン工学科_専門科目_基礎科目【B2054】地図とGIS〔丸山 智康、石田 恵一、今井 龍一〕春学期後半/Spring(2nd half)	718
建築学科_専門科目_基礎科目【B2055】都市・地域政策〔土屋 愛自〕春学期前半/Spring(1st half)	719
都市環境デザイン工学科_専門科目_基礎科目【B2055】都市・地域政策〔土屋 愛自〕春学期前半/Spring(1st half)	720
システムデザイン学科_専門科目_基礎科目【B2055】都市・地域政策〔土屋 愛自〕春学期前半/Spring(1st half)	721
建築学科_専門科目_展開科目【B2056】公共空間デザイン及演習〔竹内 豪、下吹越 武人、高見 公雄、杉浦 榮、伊藤 登〕秋学期授業/Fall	722
システムデザイン学科_専門科目_展開科目【B2056】公共空間デザイン及演習〔竹内 豪、下吹越 武人、高見 公雄、杉浦 榮、伊藤 登〕秋学期授業/Fall	723
都市環境デザイン工学科_専門科目_展開科目【B2056】公共空間デザイン及演習〔竹内 豪、下吹越 武人、高見 公雄、杉浦 榮、伊藤 登〕秋学期授業/Fall	724
建築学科_基盤科目_総合系_デザイン分野【B2057】デザイン思想史概論（2019年度以降入学生）〔高橋 美礼〕秋学期授業/Fall	725
都市環境デザイン工学科_基盤科目_総合系_デザイン分野【B2057】デザイン思想史概論（2019年度以降入学生）〔高橋 美礼〕秋学期授業/Fall	726
システムデザイン学科_基盤科目_総合系_デザイン分野【B2057】デザイン思想史概論（2019年度以降入学生）〔高橋 美礼〕秋学期授業/Fall	727
建築学科_専門科目_導入科目【B2151】建築のしくみ〔安藤 直見〕秋学期授業/Fall	728
システムデザイン学科_専門科目_基礎科目【B2345】デザイン理論（SD）〔秋元 淳〕秋学期授業/Fall	730
建築学科_専門科目_基礎科目【B2401】建築生理心理1〔川久保 俊〕春学期授業/Spring	732
都市環境デザイン工学科_専門科目_特別科目【B2414】Design Basics in English〔デイン ボリバン〕秋学期授業/Fall	733
システムデザイン学科_専門科目_特別科目【B2414】Design Basics in English〔デイン ボリバン〕秋学期授業/Fall	734
建築学科_専門科目_特別科目【B2414】Design Basics in English〔デイン ボリバン〕秋学期授業/Fall	735
都市環境デザイン工学科_基盤科目_理工系_自然科学分野【B2505】数値計算法〔酒井 久和〕春学期授業/Spring	736
システムデザイン学科_専門科目_基礎科目【B2633】インタフェースデザイン〔土屋 雅人〕秋学期前半/Fall(1st half)	737
システムデザイン学科_専門科目_展開科目【B2639】熱と流れのデザイン〔田中 豊〕春学期前半/Spring(1st half)	738
システムデザイン学科_専門科目_基礎科目【B2640】オペレーションズリサーチ〔野々部 宏司〕秋学期前半/Fall(1st half)	740

システムデザイン学科_専門科目_展開科目 【B2668】 デザインケーススタディ [土屋 雅人、大西 景太、SEONG YOUNG AH] 秋学期授業/Fall	741
システムデザイン学科_専門科目_展開科目 【B2671】 情報システムデザイン [田岡 賢輔] 秋学期授業/Fall	742
システムデザイン学科_専門科目_展開科目 【B2708】 プロダクトデザイン理論 [安積 伸] 春学期授業/Spring	743
システムデザイン学科_専門科目_基礎科目 【B2726】 メカニカルデザイン (2019年度以降入学生) [山田 泰之] 春学期後半/Spring(2nd half)	744
システムデザイン学科_専門科目_展開科目 【B2734】 スマートマシンデザイン (2019年度以降入学生) [梅舘 拓也] 秋学期前半/Fall(1st half)	745
システムデザイン学科_専門科目_展開科目 【B2735】 ゲームプログラミング (2019年度以降入学生) (2021年度開講) [岩月 正見] 春学期前半/Spring(1st half)	746
システムデザイン学科_専門科目_展開科目 【B2737】 AR プログラミング (2019年度以降入学生) (2021年度開講) [岩月 正見] 春学期後半/Spring(2nd half)	747
建築学科_専門科目_展開科目 【B3007】 福祉工学 (デザイン工) [川瀬 利弘] 秋学期授業/Fall	748
システムデザイン学科_専門科目_展開科目 【B3007】 福祉工学 (デザイン工) [川瀬 利弘] 秋学期授業/Fall	749
都市環境デザイン工学科_専門科目_展開科目 【B3007】 福祉工学 (デザイン工) [川瀬 利弘] 秋学期授業/Fall	750
建築学科_専門科目_基礎科目 【B3010】 ランドスケープデザイン [小木曾 裕] 春学期授業/Spring	751
都市環境デザイン工学科_専門科目_基礎科目 【B3010】 ランドスケープデザイン [小木曾 裕] 春学期授業/Spring	753
システムデザイン学科_専門科目_基礎科目 【B3010】 ランドスケープデザイン [小木曾 裕] 春学期授業/Spring	755
建築学科_専門科目_展開科目 【B3011】 建築フォーラム [下吹越 武人、赤松 佳珠子、小堀 哲夫、安積 伸、渡邊 竜一、山道 拓人] 秋学期授業/Fall	757
システムデザイン学科_専門科目_基礎科目 【B3013】 環境工学 [中野 淳太] 春学期授業/Spring	759
建築学科_専門科目_基礎科目 【B3013】 環境工学 [中野 淳太] 春学期授業/Spring	760
都市環境デザイン工学科_専門科目_基礎科目 【B3013】 環境工学 [中野 淳太] 春学期授業/Spring	761
システムデザイン学科_基盤科目_総合系_情報分野 【B3016】 数理統計学 [牧野 倫子] 春学期授業/Spring	762
都市環境デザイン工学科_基盤科目_総合系_情報分野 【B3016】 数理統計学 [牧野 倫子] 春学期授業/Spring	763
建築学科_基盤科目_総合系_情報分野 【B3016】 数理統計学 [牧野 倫子] 春学期授業/Spring	764
建築学科_専門科目_展開科目 【B3017】 タウンマネジメント [藤澤 浩子、土屋 愛自] 秋学期前半/Fall(1st half)	765
システムデザイン学科_専門科目_展開科目 【B3017】 タウンマネジメント [藤澤 浩子、土屋 愛自] 秋学期前半/Fall(1st half)	766
都市環境デザイン工学科_専門科目_展開科目 【B3017】 タウンマネジメント [藤澤 浩子、土屋 愛自] 秋学期前半/Fall(1st half)	767
建築学科_専門科目_基礎科目 【B3018】 マテリアルサイエンス [伊崎 健晴] 秋学期前半/Fall(1st half)	768
システムデザイン学科_専門科目_基礎科目 【B3018】 マテリアルサイエンス [伊崎 健晴] 秋学期前半/Fall(1st half)	769
都市環境デザイン工学科_専門科目_基礎科目 【B3018】 マテリアルサイエンス [伊崎 健晴] 秋学期前半/Fall(1st half)	770
建築学科_専門科目_基礎科目 【B3406】 西洋建築史 [稲益 祐太] 春学期授業/Spring	771
建築学科_専門科目_基礎科目 【B3409】 日本建築史 [高村 雅彦] 秋学期授業/Fall	772
建築学科_専門科目_基礎科目 【B3410】 建築計画1 [岩佐 明彦] 春学期授業/Spring	773
建築学科_専門科目_基礎科目 【B3411】 建築計画2 [岩佐 明彦] 秋学期授業/Fall	774
建築学科_専門科目_展開科目 【B3417】 木造建築の構法 [網野 禎昭] 秋学期後半/Fall(2nd half)	775
建築学科_専門科目_展開科目 【B3427】 空間の構造デザイン [浜田 英明] 春学期授業/Spring	776
建築学科_専門科目_基礎科目 【B3436】 建築生理心理2 [川久保 俊] 秋学期授業/Fall	777
建築学科_専門科目_展開科目 【B3438】 光・視環境 [中野 淳太] 春学期授業/Spring	778
建築学科_専門科目_展開科目 【B3439】 音・振動環境 [川久保 俊] 秋学期授業/Fall	779
建築学科_専門科目_展開科目 【B3540】 都市建築史 (2019年度以降入学生) [高村 雅彦] 春学期授業/Spring	780
システムデザイン学科_基盤科目_理工系_自然科学分野 【B3588】 生態学概論 (2023年度以降入学生) SD [山田 由美] 秋学期授業/Fall	781
建築学科_基盤科目_理工系_自然科学分野 【B3588】 生態学概論 (2023年度以降入学生) 建築 [山田 由美] 秋学期授業/Fall	782
建築学科_基盤科目_理工系_自然科学分野 【B3698】 バイオ・ケミカルエンジニアリング (2019年度以降入学生) [山田 由美] 秋学期授業/Fall	783
システムデザイン学科_基盤科目_理工系_自然科学分野 【B3698】 バイオ・ケミカルエンジニアリング (2019年度以降入学生) [山田 由美] 秋学期授業/Fall	784
都市環境デザイン工学科_専門科目_導入科目 【B3699】 生態学概論 (2019年度以降入学生) [山田 由美] 秋学期授業/Fall	785
システムデザイン学科_専門科目_基礎科目 【B3809】 メカトロニクス [木村 文信] 秋学期後半/Fall(2nd half)	786
システムデザイン学科_専門科目_展開科目 【B3812】 システム工学 [森 健一郎] 春学期後半/Spring(2nd half)	787
システムデザイン学科_専門科目_展開科目 【B3816】 素材と機能 [堀井 辰衛] 春学期後半/Spring(2nd half)	789

システムデザイン学科_専門科目_基礎科目【B3825】コストマネジメント [北山 一真] 秋学期授業/Fall	791
システムデザイン学科_専門科目_展開科目【B3830】品質マネジメント [池庄司 雅臣] 秋学期授業/Fall	793
建築学科_専門科目_展開科目【B3830】品質マネジメント [池庄司 雅臣] 秋学期授業/Fall	794
都市環境デザイン工学科_専門科目_展開科目【B3830】品質マネジメント [池庄司 雅臣] 秋学期授業/Fall	795
システムデザイン学科_専門科目_展開科目【B3831】プロジェクトマネジメント (SD) [村上 季史、永田 義昭] 春学期授業/Spring	796
【C0200】国際文化情報学の展開 [和泉 順子] 春学期授業/Spring	798
【C0210】統計処理法 [吉田 一星] 春学期授業/Spring	800
【C0211】システム論 [甲 洋介] 春学期授業/Spring	801
【C0212】デジタル情報学概論 [重定 如彦] 秋学期授業/Fall	802
【C0213】文化情報学概論 [森村 修] 春学期授業/Spring	803
【C0214】情報産業論 [今和泉 仁] 春学期授業/Spring	805
【C0215】ネット文化論 [神戸 雅一] 秋学期授業/Fall	807
【C0220】表象文化概論 [稲垣 立男、大嶋 良明、島田 雅彦、林 志津江] 春学期授業/Spring	809
【C0221】メディアと情報 [君塚 洋一] 春学期授業/Spring	811
【C0222】社会と美術 [稲垣 立男] 春学期授業/Spring	813
【C0224】身体表象論 [深谷 公宣] 秋学期授業/Fall	816
【C0230】比較文化 [岩下 弘史] 春学期授業/Spring	817
【C0231】言語文化概論 [中和 彩子] 秋学期授業/Fall	818
【C0232】現代思想 [森村 修] 秋学期授業/Fall	819
【C0233】ジェンダー論 [高内 悠貴] 春学期授業/Spring	820
【C0234】異文化間コミュニケーション [副島 健作] 秋学期授業/Fall	821
【C0235】国際関係学概論Ⅰ [今泉 裕美子] 春学期授業/Spring	823
【C0236】国際関係学概論Ⅱ [今泉 裕美子] 秋学期授業/Fall	825
【C0241】国家と民族 [石森 大知] 春学期授業/Spring	827
【C0242】国際文化協力 [松本 悟] 春学期授業/Spring	828
【C0244】宗教と社会 [田中 浩喜] 春学期授業/Spring	829
【C0245】Religion and Society [立田 由紀恵] 春学期授業/Spring	830
【C0300】世界の言語Ⅰ [輿石 哲哉] 春学期授業/Spring	831
【C0302】世界の英語 [小中原 麻友] 春学期授業/Spring	833
【C0432】メディア表現法 [大嶋 良明] 秋学期授業/Fall	835
【C0433】プログラミング言語基礎 [和泉 順子] 春学期授業/Spring	837
【C0434】仮想世界研究 [甲 洋介] 春学期授業/Spring	838
【C0437】社会とデータサイエンス [和泉 順子] 秋学期授業/Fall	839
【C0438】道具による感覚・体験のデザイン [甲 洋介] 春学期授業/Spring	840
【C0439】メディアアートの世界 [大嶋 良明] 春学期授業/Spring	841
【C0535】英語アプリケーションⅥ [ラスカイル L. ハウザー] 春学期授業/Spring	843
【C0598】ドイツ語アプリケーション [熊田 泰章] 秋学期授業/Fall	844
【C0715】スペイン語アプリケーション [OSNO I DE SASAKUBO H] 春学期授業/Spring	845
【C0716】スペイン語アプリケーション [OSNO I DE SASAKUBO H] 春学期授業/Spring	846
【C0720】スペイン語アプリケーション [OSNO I DE SASAKUBO H] 秋学期授業/Fall	847
【C0721】スペイン語アプリケーション [OSNO I DE SASAKUBO H] 秋学期授業/Fall	848
【C0770】文化情報のデザインワークショップ [甲 洋介] 春学期授業/Spring	849
【C0771】文化情報のためのネットワーク技法 [和泉 順子] 春学期授業/Spring	850
【C0773】情報アプリケーションⅠ [重定 如彦] 秋学期授業/Fall	852
【C0774】情報アプリケーションⅡ [大嶋 良明] 秋学期授業/Fall	853
【C0800】こころの科学 [甲 洋介] 春学期授業/Spring	854
【C0801】ゲーム構築論 [重定 如彦] 春学期授業/Spring	855
【C0802】こころとからだの現象学 [森村 修] 秋学期授業/Fall	856
【C0810】道具のデザイン学 [甲 洋介] 春学期授業/Spring	858
【C0813】情報セキュリティとプライバシー [和泉 順子] 春学期授業/Spring	859
【C0814】文化と生物 [島野 智之、川上 裕司、黒沼 真由美、松崎 素道、鈴木 忠、富川 光] 秋学期授業/Fall	860
【C0815】文化と環境情報 [島野 智之、佐々木 美貴、中西 由季子、忽那 賢志、塚田 訓久、島田 瑞穂] 秋学期授業/Fall	861
【C0820】文化情報空間論 [甲 洋介] 秋学期授業/Fall	863
【C0821】コンピュータ音楽と音声情報処理 [大嶋 良明] 春学期授業/Spring	864
【C0830】コネクション・デザイン [川村 たつる] 秋学期授業/Fall	866

【C0831】	情報の編集論 [川村 たつる] 春学期授業/Spring	867
【C0832】	文化情報の哲学 [森村 修] 春学期授業/Spring	868
【C0850】	パフォーマンスの美学 [森村 修] 秋学期授業/Fall	869
【C0852】	サブカルチャー論 [島田 雅彦] 春学期授業/Spring	871
【C0854】	現代美術論 [稲垣 立男] 秋学期授業/Fall	872
【C0860】	マルチメディア表現法 [大嶋 良明] 春学期授業/Spring	874
【C0862】	クリエイティブ・ライティング [島田 雅彦] 秋学期授業/Fall	876
【C0864】	五感共生論 [川村 たつる] 秋学期授業/Fall	877
【C0870】	映像文化論 [岡村 民夫] 秋学期授業/Fall	878
【C0871】	写真論 [丹羽 晴美] 秋学期授業/Fall	879
【C0880】	演劇論 [竹内 晶子] 春学期授業/Spring	880
【C0883】	空間デザイン論 [前田 尚武] 秋学期授業/Fall	881
【C0884】	Gender and Japanese Culture [LETIZIA GUARINI] 秋学期授業/Fall	883
【C0900】	世界の中の日本文学 [LETIZIA GUARINI] 春学期授業/Spring	884
【C0902】	世界とつながる地域の歴史と文化 [高柳 俊男] 春学期授業/Spring	885
【C0942】	フランス語圏の文化Ⅰ (思想) [大中 一彌] 秋学期授業/Fall	887
【C0945】	スペイン語圏の文化Ⅰ [久木 正雄] 春学期授業/Spring	889
【C0963】	英語圏の文化Ⅳ (文学と社会 A) [須藤 祐二] 秋学期授業/Fall	891
【C0964】	英語圏の文化Ⅴ (文学と社会 B) [北 文美子] 秋学期授業/Fall	892
【C0965】	英語圏の文化Ⅵ (文学と社会 C) [中和 彩子] 春学期授業/Spring	893
【C1001】	異文化適応論 [浅川 希洋志] 秋学期授業/Fall	894
【C1011】	異文化と身体表現 [深谷 公宣] 春学期授業/Spring	895
【C1031】	宗教社会論Ⅱ [田中 浩喜] 秋学期授業/Fall	896
【C1040】	国際関係研究Ⅰ [松本 悟] 春学期授業/Spring	897
【C1041】	国際関係研究Ⅱ [松本 悟] 秋学期授業/Fall	898
【C1045】	人の移動と国際関係Ⅲ [水谷 明子] 秋学期授業/Fall	899
【C1046】	地域協力・統合 [大中 一彌] 秋学期授業/Fall	900
【C1048】	実践国際協力 [松本 悟] 秋学期授業/Fall	902
【C1052】	実践社会調査法 [松本 悟] 春学期授業/Spring	903
【C1053】	Approaches to Transnational History [北田 依利] 秋学期授業/Fall	904
【C1060】	インターンシップ事前学習 [岩下 弘史] 春学期授業/Spring	905
【C1501】	デジタル情報学概論 [重定 如彦] 秋学期授業/Fall	907
【C1502】	仮想世界研究 [甲 洋介] 春学期授業/Spring	908
【C1503】	文化情報学概論 [森村 修] 春学期授業/Spring	909
【C2002】	民法Ⅰ [中川 義宏] 春学期授業/Spring	911
【C2003】	民法Ⅱ [中川 義宏] 秋学期授業/Fall	912
【C2012】	刑法の基礎 [渡辺 靖明] 春学期授業/Spring	913
【C2016】	環境法Ⅳ [今井 康介] 秋学期授業/Fall	915
【C2019】	労働環境法 [藤木 貴史] 秋学期授業/Fall	917
【C2020】	自治体環境政策論Ⅰ [小島 聡] 秋学期授業/Fall	919
【C2021】	自治体環境政策論Ⅱ [小島 聡] 秋学期授業/Fall	921
【C2025】	地球環境政治論 [横田 匡紀] 春学期授業/Spring	923
【C2106】	経営学入門 [金藤 正直] 春学期授業/Spring	925
【C2107】	環境経営と会計 [金藤 正直] 秋学期授業/Fall	926
【C2126】	環境ビジネス論 [竹ヶ原 啓介] 秋学期授業/Fall	927
【C2203】	NPO・ボランティア論 [新田 英理子] 秋学期授業/Fall	929
【C2212】	地域福祉論 [宮脇 文恵] 春学期授業/Spring	931
【C2213】	地域コモンズ論 [船戸 修一] 秋学期授業/Fall	933
【C2223】	NGO活動論 [小野 行雄] 秋学期授業/Fall	934
【C2229】	社会開発論 [新村 恵美] 秋学期授業/Fall	935
【C2302】	日本詩歌の伝統 [日原 傳] 春学期授業/Spring	937
【C2316】	環境人類学Ⅰ [高橋 五月] 春学期授業/Spring	938
【C2317】	環境人類学Ⅱ [高橋 五月] 秋学期授業/Fall	939
【C2322】	環境表象論Ⅰ [梶 裕史] 春学期授業/Spring	940
【C2323】	環境表象論Ⅱ [梶 裕史] 秋学期授業/Fall	942
【C2400】	サイエンスカフェⅠ [石井 利典] 春学期授業/Spring	944
【C2401】	サイエンスカフェⅡ [宮川 路子] 秋学期授業/Fall	945

【C2402】サイエンスカフェⅢ [高田 雅之] 春学期授業/Spring	946
【C2411】気候変動論Ⅰ [松本 倫明] 春学期授業/Spring	947
【C2412】気候変動論Ⅱ [松本 倫明] 秋学期授業/Fall	948
【C2413】自然環境政策論Ⅰ [高田 雅之] 春学期授業/Spring	949
【C2414】自然環境政策論Ⅱ [高田 雅之] 秋学期授業/Fall	950
【C2419】衛生・公衆衛生学Ⅰ [宮川 路子] 春学期授業/Spring	951
【C2420】衛生・公衆衛生学Ⅱ [宮川 路子] 秋学期授業/Fall	952
【C2421】衛生・公衆衛生学Ⅲ [宮川 路子] 春学期授業/Spring	953
【C2432】自然災害論 [杉戸 信彦] 秋学期授業/Fall	954
【C2433】自然環境論Ⅳ [高田 雅之] 秋学期授業/Fall	955
【C2505】食と農の環境学Ⅰ [西川 邦夫] 春学期授業/Spring	956
【C2506】食と農の環境学Ⅱ [湯澤 規子] 春学期授業/Spring	958
【C2507】食と農の環境学Ⅲ [湯澤 規子] 秋学期授業/Fall	959
基幹科目_選択 【C7080】労働法 [砂押 以久子] 秋学期授業/Fall	960
基幹科目_選択 【C7081】ファシリテーション論 [鈴木 まり子] 春学期授業/Spring	961
基幹科目_選択 【C7082】若者の自立支援 [大山 宏] 秋学期授業/Fall	963
基幹科目_選択 【C7083】職業選択論Ⅰ [上西 充子] 春学期授業/Spring	964
基幹科目_選択 【C7084】ライフコース論 [武石 恵美子] 秋学期授業/Fall	965
基幹科目_選択 【C7085】生活設計論Ⅰ (社会保障) [上田 将史] 春学期授業/Spring	966
基幹科目_選択 【C7086】生活設計論Ⅱ (生活設計) [林 奈生子] 秋学期授業/Fall	967
基幹科目_選択 【C7088】キャリアモデル・ケーススタディ [梅崎 修] 春学期授業/Spring	969
展開科目_選択必修 (領域別) _発達・教育 【C7152】外書講読A (発達・教育) [福田 紀子] 春学期授業/Spring ..	970
展開科目_選択必修 (領域別) _発達・教育 【C7153】外書講読B (発達・教育) [長岡 智寿子] 春学期授業/Spring	972
展開科目_選択必修 (領域別) _発達・教育 【C7154】生涯発達心理学Ⅰ [松浦 千春] 春学期授業/Spring	973
展開科目_選択必修 (領域別) _発達・教育 【C7155】生涯発達心理学Ⅱ [廣川 進] 秋学期授業/Fall	974
展開科目_選択必修 (領域別) _発達・教育 【C7156】臨床教育相談論Ⅰ [土屋 弥生] 春学期授業/Spring	975
展開科目_選択必修 (領域別) _発達・教育 【C7157】臨床教育相談論Ⅱ [土屋 弥生] 秋学期授業/Fall	976
展開科目_選択必修 (領域別) _発達・教育 【C7158】キャリアカウンセリングⅠ [廣川 進] 春学期授業/Spring ..	977
展開科目_選択必修 (領域別) _発達・教育 【C7159】キャリアカウンセリングⅡ [高橋 浩] 秋学期授業/Fall	978
展開科目_選択必修 (領域別) _発達・教育 【C7160】キャリアカウンセリングⅢ (ケーススタディ) [宮脇 優子] 秋	
学期授業/Fall	979
展開科目_選択必修 (領域別) _発達・教育 【C7173】学校論Ⅰ (キャリア形成) [松尾 知明] 春学期授業/Spring ..	980
展開科目_選択必修 (領域別) _発達・教育 【C7174】学校論Ⅱ (キャリア形成) [遠藤 野ゆり] 秋学期授業/Fall ..	981
展開科目_選択必修 (領域別) _発達・教育 【C7175】学校論Ⅲ (キャリア教育) [児美川 孝一郎] 春学期授業/Spring	982
展開科目_選択必修 (領域別) _発達・教育 【C7176】学校論Ⅳ (キャリア教育) [池田 佳代] 秋学期授業/Fall	983
展開科目_選択必修 (領域別) _発達・教育 【C7187】メディア教育論Ⅰ [村上 郷子] 春学期授業/Spring	984
展開科目_選択必修 (領域別) _発達・教育 【C7188】メディア教育論Ⅱ [村上 郷子] 秋学期授業/Fall	985
展開科目_選択必修 (領域別) _発達・教育 【C7189】教育マネジメントⅠ [仲田 康一] 春学期授業/Spring	986
展開科目_選択必修 (領域別) _発達・教育 【C7190】教育マネジメントⅡ [櫻井 直輝] 秋学期授業/Fall	988
展開科目_選択必修 (領域別) _発達・教育 【C7191】教育政策 [村上 純一] 秋学期授業/Fall	990
展開科目_選択必修 (領域別) _発達・教育 【C7192】現代教育思想 [岩本 俊一] 秋学期授業/Fall	991
展開科目_選択必修 (領域別) _発達・教育 【C7193】生涯学習論Ⅲ (成人教育論Ⅰ) [森本 扶] 春学期授業/Spring	992
展開科目_選択必修 (領域別) _発達・教育 【C7194】生涯学習論Ⅳ (成人教育論Ⅱ) [朝岡 幸彦] 秋学期授業/Fall	993
展開科目_選択必修 (領域別) _発達・教育 【C7195】学習の社会史A [山口 真里] 秋学期授業/Fall	994
展開科目_選択必修 (領域別) _発達・教育 【C7196】学習の社会史B [原 葉子] 春学期授業/Spring	995
展開科目_選択必修 (領域別) _発達・教育 【C7197】教育社会学Ⅰ [筒井 美紀] 春学期授業/Spring	996
展開科目_選択必修 (領域別) _発達・教育 【C7198】教育社会学Ⅱ [筒井 美紀] 秋学期授業/Fall	997
展開科目_選択必修 (領域別) _発達・教育 【C7199】教育経済学 [荒木 宏子] 秋学期授業/Fall	998
展開科目_選択必修 (領域別) _ビジネス 【C7252】外書講読A (ビジネス) [相澤 鈴之助] 秋学期授業/Fall	999
展開科目_選択必修 (領域別) _ビジネス 【C7253】外書講読B (ビジネス) [杉原 弘恭] 春学期授業/Spring	1000
展開科目_選択必修 (領域別) _ビジネス 【C7254】職業選択論Ⅱ [上西 充子] 秋学期授業/Fall	1001
展開科目_選択必修 (領域別) _ビジネス 【C7255】人材育成論Ⅰ [佐藤 厚] 春学期授業/Spring	1002
展開科目_選択必修 (領域別) _ビジネス 【C7256】人材育成論Ⅱ [佐藤 厚] 秋学期授業/Fall	1004
展開科目_選択必修 (領域別) _ビジネス 【C7257】産業・組織心理学Ⅰ [坂爪 洋美] 春学期授業/Spring	1006
展開科目_選択必修 (領域別) _ビジネス 【C7258】産業・組織心理学Ⅱ [坂爪 洋美] 秋学期授業/Fall	1007
展開科目_選択必修 (領域別) _ビジネス 【C7259】キャリア開発論 [武石 恵美子] 春学期授業/Spring	1008
展開科目_選択必修 (領域別) _ビジネス 【C7260】リーダーシップ論 [佐野 達] 秋学期授業/Fall	1009

展開科目_選択必修 (領域別) _ビジネス	[C7261]	経営統計論 A (心理データ) [片岡 亜紀子] 春学期授業/Spring	1010
展開科目_選択必修 (領域別) _ビジネス	[C7262]	企業会計論 [松本 徹] 春学期授業/Spring	1011
展開科目_選択必修 (領域別) _ビジネス	[C7263]	経営統計論 B (企業データ) [長瀬 毅] 秋学期授業/Fall	1012
展開科目_選択必修 (領域別) _ビジネス	[C7264]	経営組織論 I [梅木 眞] 春学期授業/Spring	1013
展開科目_選択必修 (領域別) _ビジネス	[C7265]	経営組織論 II [梅木 眞] 秋学期授業/Fall	1014
展開科目_選択必修 (領域別) _ビジネス	[C7266]	戦略経営論 I [木村 琢磨] 春学期授業/Spring	1015
展開科目_選択必修 (領域別) _ビジネス	[C7267]	戦略経営論 II [木村 琢磨] 秋学期授業/Fall	1016
展開科目_選択必修 (領域別) _ビジネス	[C7268]	経営分析論 I [平井 裕久] 春学期授業/Spring	1017
展開科目_選択必修 (領域別) _ビジネス	[C7269]	経営分析論 II [平井 裕久] 秋学期授業/Fall	1018
展開科目_選択必修 (領域別) _ビジネス	[C7270]	アントレプレナーシップ論 I [松本 真尚] 春学期授業/Spring	1019
展開科目_選択必修 (領域別) _ビジネス	[C7271]	アントレプレナーシップ論 II [松本 真尚] 秋学期授業/Fall	1021
展開科目_選択必修 (領域別) _ビジネス	[C7272]	職業キャリア論 [松浦 民恵] 春学期授業/Spring	1023
展開科目_選択必修 (領域別) _ビジネス	[C7273]	労働経済学 [梅崎 修] 春学期授業/Spring	1024
展開科目_選択必修 (領域別) _ビジネス	[C7274]	シティズンシップ論 [榎並 利博] 春学期授業/Spring	1025
展開科目_選択必修 (領域別) _ビジネス	[C7275]	生産システム論 [北原 成憲] 秋学期授業/Fall	1027
展開科目_選択必修 (領域別) _ビジネス	[C7276]	国際経営論 [森 直子] 春学期授業/Spring	1029
展開科目_選択必修 (領域別) _ビジネス	[C7277]	日本経済論 [長谷部 弘道] 秋学期授業/Fall	1030
展開科目_選択必修 (領域別) _ビジネス	[C7278]	産業論 [青木 成樹] 春学期授業/Spring	1032
展開科目_選択必修 (領域別) _ビジネス	[C7280]	マーケティング論 [小川 浩孝] 春学期授業/Spring	1034
展開科目_選択必修 (領域別) _ビジネス	[C7281]	流通・マーケティング戦略論 [小川 浩孝] 秋学期授業/Fall	1036
展開科目_選択必修 (領域別) _ビジネス	[C7282]	流通・サービスビジネス論 [村田 茂] 春学期授業/Spring	1038
展開科目_選択必修 (領域別) _ビジネス	[C7283]	就業機会発見実務 [今井 道子] 春学期授業/Spring	1040
展開科目_選択必修 (領域別) _ライフ	[C7302]	外書講読 A (ライフ) [門脇 仁] 春学期授業/Spring	1042
展開科目_選択必修 (領域別) _ライフ	[C7303]	外書講読 B (ライフ) [門脇 仁] 秋学期授業/Fall	1043
展開科目_選択必修 (領域別) _ライフ	[C7304]	コミュニティ社会論 I [佐藤 恵] 春学期授業/Spring	1044
展開科目_選択必修 (領域別) _ライフ	[C7305]	コミュニティ社会論 II [佐藤 恵] 秋学期授業/Fall	1045
展開科目_選択必修 (領域別) _ライフ	[C7306]	家族論 [齋藤 嘉孝] 春学期授業/Spring	1046
展開科目_選択必修 (領域別) _ライフ	[C7307]	若者文化論 [玉川 博章] 春学期授業/Spring	1047
展開科目_選択必修 (領域別) _ライフ	[C7308]	世代間交流論 [安田 節之] 秋学期授業/Fall	1048
展開科目_選択必修 (領域別) _ライフ	[C7309]	身体表現論 [叶 雄大] 春学期授業/Spring	1049
展開科目_選択必修 (領域別) _ライフ	[C7310]	地域文化論 [古屋 星斗] 秋学期授業/Fall	1050
展開科目_選択必修 (領域別) _ライフ	[C7311]	アイデンティティ論 [熊谷 智博] 春学期授業/Spring	1052
展開科目_選択必修 (領域別) _ライフ	[C7312]	余暇集団論 [熊谷 智博] 秋学期授業/Fall	1053
展開科目_選択必修 (領域別) _ライフ	[C7313]	NPO論 [山口 佳子] 秋学期授業/Fall	1054
展開科目_選択必修 (領域別) _ライフ	[C7314]	公共サービス論 [前浦 穂高] 秋学期授業/Fall	1055
展開科目_選択必修 (領域別) _ライフ	[C7315]	アート・マネジメント論 [山口 佳子] 春学期授業/Spring	1056
展開科目_選択必修 (領域別) _ライフ	[C7316]	文化経営論 [武田 知也] 春学期授業/Spring	1057
展開科目_選択必修 (領域別) _ライフ	[C7317]	メディア文化論 [堤 信子] 秋学期授業/Fall	1058
展開科目_選択必修 (領域別) _ライフ	[C7318]	文化マーケティング論 [横石 崇] 春学期授業/Spring	1060
展開科目_選択必修 (領域別) _ライフ	[C7319]	ブランド創造論 [石原 篤] 春学期授業/Spring	1061
展開科目_選択必修 (領域別) _ライフ	[C7320]	産業文化論 [上原 義子] 秋学期授業/Fall	1063
展開科目_選択必修 (領域別) _ライフ	[C7324]	多文化社会論 I [小田 昌教] 春学期授業/Spring	1064
展開科目_選択必修 (領域別) _ライフ	[C7325]	多文化社会論 II [金 泰植] 春学期授業/Spring	1067
展開科目_選択必修 (領域別) _ライフ	[C7326]	多文化社会論 III [挽地 康彦] 春学期授業/Spring	1068
展開科目_選択必修 (領域別) _ライフ	[C7327]	アジア社会論 I [日下部 尚徳] 春学期授業/Spring	1069
展開科目_選択必修 (領域別) _ライフ	[C7328]	アジア社会論 II [日下部 尚徳] 秋学期授業/Fall	1070
展開科目_選択必修 (領域別) _ライフ	[C7329]	国際関係論 I [熊谷 智博] 秋学期授業/Fall	1071
展開科目_選択必修 (領域別) _ライフ	[C7330]	国際関係論 II [塩田 潤] 秋学期授業/Fall	1072
展開科目_選択必修 (領域別) _ライフ	[C7331]	国際地域研究 I [福井 令恵] 春学期授業/Spring	1073
展開科目_選択必修 (領域別) _ライフ	[C7332]	国際地域研究 II [福井 令恵] 秋学期授業/Fall	1074
関連科目	[C7700]	国際コミュニケーション語学 (英語 I) [Robert Durham] 春学期授業/Spring	1075
関連科目	[C7701]	国際コミュニケーション語学 (英語 II) [Robert Durham] 秋学期授業/Fall	1076
関連科目	[C7702]	国際コミュニケーション語学 (英語 III) [Kregg Johnston] 春学期授業/Spring	1078
関連科目	[C7703]	国際コミュニケーション語学 (英語 IV) [Kregg Johnston] 秋学期授業/Fall	1079
関連科目	[C7704]	国際コミュニケーション語学 (英語 V) [Kregg Johnston] 春学期授業/Spring	1080
関連科目	[C7710]	就業機会とキャリア特講 E-働くことと労働組合- [佐藤 厚、武石 恵美子] 秋学期授業/Fall	1081
関連科目	[C7711]	就業応用力養成 I [鈴木 美伸] 春学期授業/Spring	1083

関連科目【C7712】就業応用力養成Ⅱ〔鈴木 美伸〕秋学期授業/Fall	1085
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台外国語科目_4群〔選択必修〕外国語(諸外国語)【F7228】朝鮮語4C-I〔富所 明秀〕春学期授業/Spring.....	1087
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台外国語科目_4群〔選択必修〕外国語(諸外国語)【F7229】朝鮮語4C-II〔富所 明秀〕秋学期授業/Fall.....	1088
応用情報工学科_学科専門科目【H4036】数論〔安田 幹〕春学期授業/Spring	1089
応用情報工学科_学科専門科目【H4043】プログラミング言語J A V A〔藤浦 豊徳〕春学期授業/Spring	1090
応用情報工学科_学科専門科目【H4044】プログラミング言語J A V A〔藤浦 豊徳〕春学期授業/Spring	1092
創生科学科_学科専門科目【H4065】複素関数論〔西村 滋人〕春学期授業/Spring	1094
機械工学科機械工学専修_学科専門科目【H5149】応用数学(機械)〔平野 利幸〕春学期授業/Spring	1095
機械工学科機械工学専修_学科専門科目【H5150】応用解析(機械)〔未定〕秋学期授業/Fall.....	1096
電気電子工学科_学科専門科目【H5616】複素関数論(電気)〔塚田 和美〕春学期授業/Spring	1097
電気電子工学科_学科専門科目【H5650】応用数学(電気)〔鳥飼 弘幸〕春学期授業/Spring.....	1098
電気電子工学科_学科専門科目【H5652】確率統計(電気)〔斉藤 利通〕秋学期授業/Fall	1099
応用情報工学科_学科専門科目【H6154】応用数学(情報)〔陸名 雄一〕春学期授業/Spring.....	1100
応用情報工学科_学科専門科目【H6155】応用解析(情報)〔陸名 雄一〕秋学期授業/Fall	1101
経営システム工学科_学科専門科目【H6780】複素関数論(経営)〔中園 信孝〕秋学期授業/Fall.....	1102
経営システム工学科_学科専門科目【H6781】数値解析(経営)〔土屋 卓也〕秋学期授業/Fall	1104
経営システム工学科_学科専門科目【H6813】応用数学(経営)〔磯島 伸〕春学期授業/Spring	1105
学部共通科目【H7001】グリーンケミストリ〔渡邊 雄二郎〕春学期授業/Spring.....	1106
学部共通科目【H7006】環境と人間〔越智 英輔、街 勝憲〕秋学期授業/Fall	1107
学部共通科目【H7007】植物薬理学〔鈴木 聡〕秋学期授業/Fall	1108
学部共通科目【H7009】物理学概論 I I〔金沢 育三〕秋学期授業/Fall	1109
学部共通科目【H7010】グリーンケミストリ〔利谷 翔平〕春学期授業/Spring	1110
学部共通科目【H7011】環境と人間〔平塚 二郎、長谷川 敬洋〕春学期授業/Spring.....	1111
学部共通科目【H7017】高分子化学〔渡辺 敏行〕秋学期授業/Fall	1113
学部共通科目【H7018】環境安全化学〔大波 英幸、福島 由美子〕春学期授業/Spring	1114
学部共通科目【H7019】環境安全化学〔吉原 利一〕春学期授業/Spring	1115
学部共通科目【H7020】分析化学〔渡邊 雄二郎〕春学期授業/Spring	1117
学部共通科目【H7021】バイオエンジニアリング〔稲本 進〕秋学期授業/Fall	1118
学部共通科目【H7023】物質構造化学〔緒方 啓典〕秋学期授業/Fall.....	1119
学部共通科目【H7024】機器分析学〔高橋 純一〕秋学期授業/Fall	1120
学部共通科目【H7025】機器分析学〔猿渡 茂、野口 恵一、加藤 敏代〕秋学期授業/Fall.....	1122
学部共通科目【H7031】バイオエンジニアリング〔萩原 知明〕秋学期授業/Fall.....	1123
学部共通科目【H7032】分析化学〔宮村 一夫〕秋学期授業/Fall	1124
学部共通科目【H7033】物質機能化学〔緒方 啓典〕春学期授業/Spring	1125
学部共通科目【H7034】物質変換化学〔奥村 和〕春学期授業/Spring	1126
学部共通科目【H7035】物質循環化学〔明石 孝也〕秋学期授業/Fall.....	1127
学部共通科目【H7036】バイオマテリアル〔湯田坂 雅子〕秋学期授業/Fall	1128
学部共通科目【H7038】分子エレクトロニクス〔照井 通文〕春学期集中/Intensive(Spring)	1129
学部共通科目【H7040】蛋白工学〔常重 アントニオ〕秋学期授業/Fall	1130
学部共通科目【H7041】生物有機化学〔芝 清隆〕春学期授業/Spring	1131
学部共通科目【H7042】食品科学〔三浦 豊〕春学期授業/Spring.....	1132
学部共通科目【H7043】遺伝子工学〔佐藤 勉〕秋学期授業/Fall	1133
生命機能学科_学科専門科目【H7045】生体超分子〔曾和 義幸〕春学期授業/Spring	1134
学部共通科目【H7071】基礎有機化学 I〔河内 敦〕春学期授業/Spring	1135
学部共通科目【H7072】基礎有機化学 I I〔河内 敦〕秋学期授業/Fall.....	1136
学部共通科目【H7073】応用環境化学〔渡邊 雄二郎〕秋学期授業/Fall	1137
学部共通科目【H7081】分子生物学 I〔佐藤 勉〕春学期授業/Spring.....	1138
学部共通科目【H7082】分子生物学 I〔片山 映、山中 幸〕春学期授業/Spring.....	1139
学部共通科目【H7083】分子生物学 I I〔木口 悠也〕秋学期授業/Fall.....	1140
学部共通科目【H7084】分子生物学 I I〔小見 美央〕秋学期授業/Fall.....	1141
学部共通科目【H7085】生物化学 I〔金丸 周司〕春学期授業/Spring.....	1142
学部共通科目【H7086】生物化学 I〔田島 寛隆〕春学期授業/Spring.....	1143
学部共通科目【H7087】蛋白質構造機能学 I〔廣野 雅文〕春学期授業/Spring	1144
学部共通科目【H7088】蛋白質構造機能学 I I〔曾和 義幸〕秋学期授業/Fall.....	1145
学部共通科目【H7089】分子薬理学〔小藤 智史〕春学期授業/Spring.....	1146

生命機能学科_学科専門科目	【H7090】	構造生物学 [金丸 周司]	春学期授業/Spring	1147
学部共通科目	【H7303】	植物医科学概論 [鍵和田 聡、津田 新哉、廣岡 裕史、池田 健太郎、舟木 康郎]	春学期授業/Spring	1148
学部共通科目	【H7304】	植物病学概論 [濱本 宏]	秋学期授業/Fall	1149
学部共通科目	【H7305】	植物分子細胞生物学 [鍵和田 聡]	秋学期授業/Fall	1150
学部共通科目	【H7306】	生物学概論 I [清水 隆]	春学期授業/Spring	1151
学部共通科目	【H7307】	生物学概論 I I [清水 隆]	秋学期授業/Fall	1152
生命機能学科_学科専門科目	【H7502】	計算機科学概論 I [豊田 太郎]	春学期授業/Spring	1153
生命機能学科_学科専門科目	【H7503】	計算機科学概論 I I [豊田 太郎]	秋学期授業/Fall	1154
生命機能学科_学科専門科目	【H7509】	発生生物学 [小林 麻己人、川岸 万紀子]	秋学期集中/Intensive(Fall)	1155
生命機能学科_学科専門科目	【H7512】	物理化学概論 I [見附 孝一郎]	春学期授業/Spring	1156
生命機能学科_学科専門科目	【H7513】	物理化学概論 I I [見附 孝一郎]	秋学期授業/Fall	1158
生命機能学科_学科専門科目	【H7515】	生理病理学 [丸井 朱里]	秋学期授業/Fall	1160
生命機能学科_学科専門科目	【H7534】	細胞情報学 [川岸 郁郎]	春学期	1161
生命機能学科_学科専門科目	【H7536】	神経科学 [高田 耕司]	秋学期授業/Fall	1162
生命機能学科_学科専門科目	【H7537】	分子免疫学 [金山 剛士]	秋学期授業/Fall	1163
生命機能学科_学科専門科目	【H7538】	バイオイメージング [荒田 幸信、梅木 伸久、岡本 憲二、山本 明弘]	春学期授業/Spring	1164
生命機能学科_学科専門科目	【H7551】	生物化学 I I [西川正俊]	秋学期授業/Fall	1165
生命機能学科_学科専門科目	【H7552】	生物物理学 I [西川正俊]	春学期授業/Spring	1166
生命機能学科_学科専門科目	【H7553】	生物物理学 I I [曾和義幸]	秋学期授業/Fall	1167
学部共通科目	【H7554】	細胞生物学 I [金子 智行]	春学期授業/Spring	1168
学部共通科目	【H7555】	細胞生物学 I [小見 美央]	春学期授業/Spring	1169
生命機能学科_学科専門科目	【H7556】	細胞生物学 I I [川岸 郁郎]	秋学期授業/Fall	1170
学部共通科目	【H7558】	生物統計学 [谷合 弘行]	秋学期授業/Fall	1171
生命機能学科_学科専門科目	【H7560】	ゲノム構造機能学 I [佐藤 勉]	春学期授業/Spring	1172
生命機能学科_学科専門科目	【H7561】	ゲノム構造機能学 I I [皆川 周]	秋学期授業/Fall	1173
学部共通科目	【H7562】	細胞構造機能学 I [川岸 郁郎]	春学期授業/Spring	1174
学部共通科目	【H7563】	細胞構造機能学 I I [金子 智行]	秋学期授業/Fall	1176
生命機能学科_学科専門科目	【H7564】	生体分子分析学 I [今村 大輔]	春学期授業/Spring	1177
生命機能学科_学科専門科目	【H7565】	生体分子分析学 I I [林 勇樹]	秋学期授業/Fall	1178
学部共通科目	【H7566】	分子微生物学 [皆川 周]	春学期授業/Spring	1179
学部共通科目	【H7569】	バイオインフォマティクス [今村 大輔]	秋学期授業/Fall	1180
学部共通科目	【H7570】	ケミカルバイオロジー [影近 弘之]	秋学期授業/Fall	1181
生命機能学科_学科専門科目	【H7571】	バイオエナジェティクス [常重 アントニオ]	春学期授業/Spring	1182
生命機能学科_学科専門科目	【H7572】	医用生体工学 [金子 智行]	秋学期授業/Fall	1183
応用植物科学科_学科専門科目	【H8003】	栽培植物学 [佐野 俊夫]	春学期授業/Spring	1184
応用植物科学科_学科専門科目	【H8004】	植物病原菌類学 [廣岡 裕史]	春学期授業/Spring	1185
応用植物科学科_学科専門科目	【H8005】	植物病防除学 [池田 健太郎]	秋学期授業/Fall	1186
応用植物科学科_学科専門科目	【H8006】	土壌科学 [亀和田 國彦]	秋学期授業/Fall	1187
応用植物科学科_学科専門科目	【H8009】	診断技術論 [大井田 寛、濱本 宏、廣岡 裕史、平田 賢司]	春学期授業/Spring	1189
応用植物科学科_学科専門科目	【H8013】	植物生理生態学 [佐野 俊夫]	秋学期授業/Fall	1190
応用植物科学科_学科専門科目	【H8014】	雑草学 [佐野 俊夫、横山 昌雄]	秋学期授業/Fall	1191
応用植物科学科_学科専門科目	【H8015】	植物医科ビジネス論 [宮内 陽介、川名 祥史、小倉 里江子]	秋学期授業/Fall	1192
応用植物科学科_学科専門科目	【H8017】	フードセーフティ論 [川本 伸一、八戸 真弓]	秋学期授業/Fall	1193
学部共通科目	【H8021】	植物バイオテクノロジー概論 [川合 伸也]	春学期授業/Spring	1194
学部共通科目	【H8022】	植物メディカルゲノム学 [大島研郎、濱本宏]	秋学期授業/Fall	1196
学部共通科目	【H8023】	植物細菌学 [大島 研郎]	春学期授業/Spring	1197
学部共通科目	【H8024】	植物ウイルス学 [津田 新哉]	秋学期授業/Fall	1198
学部共通科目	【H8025】	微生物生態学 [堀 知行]	春学期授業/Spring	1200
応用植物科学科_学科専門科目	【H8026】	環境昆虫学 [安田 耕司]	春学期授業/Spring	1201
応用植物科学科_学科専門科目	【H8027】	媒介システム学 [津田 新哉]	春学期授業/Spring	1202
応用植物科学科_学科専門科目	【H8028】	植物メディカルシステム学 [濱本 宏]	春学期授業/Spring	1203
応用植物科学科_学科専門科目	【H8030】	植物感染生理学 [鍵和田 聡]	春学期授業/Spring	1204
応用植物科学科_学科専門科目	【H8031】	植物臨床医科学 [池田 健太郎]	春学期授業/Spring	1205

応用植物科学科_学科専門科目	【H8032】	生物制御化学 [中牟田 潔] 秋学期授業/Fall	1206
応用植物科学科_学科専門科目	【H8033】	植物医科学法論 [福盛田 共義] 春学期授業/Spring	1208
応用植物科学科_学科専門科目	【H8034】	ポストハーベスト論 [廣岡 裕吏、宮ノ下 明大] 秋学期授業/Fall	1209
応用植物科学科_学科専門科目	【H8035】	植物生理病学 [佐野 俊夫、亀和田 國彦] 春学期授業/Spring	1210
応用植物科学科_学科専門科目	【H8103】	国際食料需給論 [鶴岡 康夫] 春学期授業/Spring	1211
応用植物科学科_学科専門科目	【H8104】	植物管理技術論 [松崎 守夫、山口 弘道] 春学期授業/Spring	1212
応用植物科学科_学科専門科目	【H8106】	基礎植物害虫学 [大井田 寛] 秋学期授業/Fall	1213
応用植物科学科_学科専門科目	【H8107】	グリーン経済学 [鶴岡 康夫] 秋学期授業/Fall	1214
応用植物科学科_学科専門科目	【H8108】	植物栄養学 [亀和田 國彦] 春学期授業/Spring	1215
応用植物科学科_学科専門科目	【H8113】	応用植物害虫学 [大井田 寛] 春学期授業/Spring	1217
応用植物科学科_学科専門科目	【H8114】	食料・地域政策論 [鶴岡 康夫] 秋学期授業/Fall	1218
応用植物科学科_学科専門科目	【H8115】	自然再生学概論 [大井田 寛、安田 耕司、橋本 智美、鶴岡 康夫] 秋学期授業/Fall	1219
応用植物科学科_学科専門科目	【H8117】	ホーティカルチャー論 [津田 新哉、紺野 祥平、鈴木 栄、彦坂 晶子] 春学期授業/Spring	1220
応用植物科学科_学科専門科目	【H8118】	教職生物学 [齋藤 理佳] 秋学期授業/Fall	1221
応用植物科学科_学科専門科目	【H8120】	実践植物遺伝学 [柳澤 貴司、黒羽 剛] 春学期授業/Spring	1222
環境応用化学科_学科専門科目	【H8501】	化学熱力学 I [森 隆昌] 秋学期授業/Fall	1223
環境応用化学科_学科専門科目	【H8502】	化学熱力学 I I [山下 明泰] 春学期授業/Spring	1224
環境応用化学科_学科専門科目	【H8503】	応用化学基礎 [明石 孝也] 春学期授業/Spring	1226
環境応用化学科_学科専門科目	【H8503】	応用化学基礎 [渡邊 雄二郎] 春学期授業/Spring	1227
環境応用化学科_学科専門科目	【H8503】	応用化学基礎 [石垣 隆正] 春学期授業/Spring	1228
環境応用化学科_学科専門科目	【H8503】	応用化学基礎 [森 隆昌] 春学期授業/Spring	1229
環境応用化学科_学科専門科目	【H8503】	応用化学基礎 [高井 和之] 春学期授業/Spring	1230
環境応用化学科_学科専門科目	【H8503】	応用化学基礎 [河内 敦] 春学期授業/Spring	1231
環境応用化学科_学科専門科目	【H8503】	応用化学基礎 [杉山 賢次] 春学期授業/Spring	1232
環境応用化学科_学科専門科目	【H8503】	応用化学基礎 [山下 明泰] 春学期授業/Spring	1233
環境応用化学科_学科専門科目	【H8503】	応用化学基礎 [緒方 啓典] 春学期授業/Spring	1235
環境応用化学科_学科専門科目	【H8512】	無機化学概論 [明石 孝也] 秋学期授業/Fall	1236
環境応用化学科_学科専門科目	【H8523】	応用化学入門 [高井 和之] 春学期授業/Spring	1237
環境応用化学科_学科専門科目	【H8525】	物理化学 I [緒方 啓典] 春学期授業/Spring	1238
環境応用化学科_学科専門科目	【H8526】	物理化学 I I [高井 和之] 秋学期授業/Fall	1239
環境応用化学科_学科専門科目	【H8527】	無機化学 I [石垣 隆正] 春学期授業/Spring	1240
環境応用化学科_学科専門科目	【H8528】	無機化学 I I [石垣 隆正] 秋学期授業/Fall	1241
環境応用化学科_学科専門科目	【H8529】	有機化学 I [杉山 賢次] 春学期授業/Spring	1242
環境応用化学科_学科専門科目	【H8530】	有機化学 I I [杉山 賢次] 秋学期授業/Fall	1243
環境応用化学科_学科専門科目	【H8533】	コンピュータ利用化学 [小鍋 哲] 春学期授業/Spring	1244
環境応用化学科_学科専門科目	【H8541】	電気化学 [片山 英樹] 春学期授業/Spring	1245
環境応用化学科_学科専門科目	【H8545】	反応工学 [小堀 深] 春学期授業/Spring	1246
環境応用化学科_学科専門科目	【H8548】	量子化学 [野口 真理子] 春学期授業/Spring	1247
環境応用化学科_学科専門科目	【H8549】	錯体化学 [田所 誠] 春学期授業/Spring	1248
環境応用化学科_学科専門科目	【H8553】	化学統計力学 [藤森 裕基] 秋学期授業/Fall	1249
環境応用化学科_学科専門科目	【H8554】	物質設計化学 [高井 和之] 秋学期授業/Fall	1250
環境応用化学科_学科専門科目	【H8555】	エネルギー環境化学 [打越 哲郎] 秋学期授業/Fall	1251
環境応用化学科_学科専門科目	【H8556】	触媒化学 [石垣 隆正] 春学期授業/Spring	1252
環境応用化学科_学科専門科目	【H8580】	環境化学工学概論 [森 隆昌] 秋学期授業/Fall	1253
環境応用化学科_学科専門科目	【H8581】	環境化学工学応用 [山下 明泰] 春学期授業/Spring	1254
環境応用化学科_学科専門科目	【H8584】	無機素材反応化学 [明石 孝也] 春学期授業/Spring	1256
創生科学科_学科専門科目	【H9270】	フーリエ変換 [西村 滋人] 秋学期授業/Fall	1257
創生科学科_学科専門科目	【H9271】	空間の幾何 [中村 真帆] 春学期授業/Spring	1258
創生科学科_学科専門科目	【H9272】	対称性と構造 [長谷 正司] 春学期授業/Spring	1259
専門教育科目_専門科目	【J0401】	情報科学入門 [日高 宗一郎] 春学期授業/Spring	1260
専門教育科目_専門科目	【J0402】	情報科学入門 [坂本 寛] 春学期授業/Spring	1261
専門教育科目_専門科目	【J0403】	コンピュータシステム入門 1 [首藤 裕一] 春学期授業/Spring	1262
専門教育科目_専門科目	【J0404】	コンピュータシステム入門 1 [坂本 寛] 春学期授業/Spring	1263
専門教育科目_専門科目	【J0405】	コンピュータシステム入門 2 [村上 健一郎] 秋学期授業/Fall	1264
専門教育科目_専門科目	【J0406】	コンピュータシステム入門 2 [小池 崇文] 秋学期授業/Fall	1265

専門教育科目_専門科目	[J0409]	離散構造 1 [尾花 賢] 春学期授業/Spring	1266
専門教育科目_専門科目	[J0410]	離散構造 1 [佐藤 裕二] 春学期授業/Spring	1267
専門教育科目_専門科目	[J0411]	離散構造 2 [佐々木 晃] 秋学期授業/Fall	1268
専門教育科目_専門科目	[J0412]	離散構造 2 [首藤 裕一] 秋学期授業/Fall	1269
専門教育科目_専門科目	[J0419]	論理回路入門 [李 亜民] 秋学期授業/Fall	1270
専門教育科目_専門科目	[J0420]	プログラミング入門 1 [赤石 美奈] 春学期授業/Spring	1271
専門教育科目_専門科目	[J0421]	プログラミング入門 1 [久東 義典] 春学期授業/Spring	1272
専門教育科目_専門科目	[J0422]	プログラミング入門 1 [波多野 大督] 春学期授業/Spring	1273
専門教育科目_専門科目	[J0423]	プログラミング入門 1 [佐藤 周平] 春学期授業/Spring	1274
専門教育科目_専門科目	[J0424]	プログラミング入門 2 [赤石 美奈] 春学期授業/Spring	1275
専門教育科目_専門科目	[J0425]	プログラミング入門 2 [久東 義典] 春学期授業/Spring	1276
専門教育科目_専門科目	[J0426]	プログラミング入門 2 [波多野 大督] 春学期授業/Spring	1277
専門教育科目_専門科目	[J0427]	プログラミング入門 2 [佐藤 周平] 春学期授業/Spring	1278
専門教育科目_専門科目	[J0429]	プログラミング入門 3 [佐々木 晃] 秋学期授業/Fall	1279
専門教育科目_専門科目	[J0430]	プログラミング入門 3 [小林 郁夫] 秋学期授業/Fall	1280
専門教育科目_専門科目	[J0431]	プログラミング入門 3 [馬 建華] 秋学期授業/Fall	1281
専門教育科目_専門科目	[J0432]	プログラミング入門 3 [高村 誠之] 秋学期授業/Fall	1282
専門教育科目_専門科目	[J0433]	データ構造とアルゴリズム 1 [首藤 裕一] 春学期授業/Spring	1283
専門教育科目_専門科目	[J0434]	データ構造とアルゴリズム 1 [坂本 寛] 春学期授業/Spring	1284
専門教育科目_専門科目	[J0439]	最適化 [佐藤 裕二] 秋学期授業/Fall	1285
専門教育科目_専門科目	[J0440]	最適化 [佐川 浩彦] 秋学期授業/Fall	1286
専門教育科目_専門科目	[J0441]	アルゴリズムの設計と解析 [黄 潤和] 春学期授業/Spring	1287
専門教育科目_専門科目	[J0501]	プログラミング 1(C/C++) [廣津 登志夫、佐藤 周平] 春学期授業/Spring	1288
専門教育科目_専門科目	[J0505]	プログラミング 2(C/C++) [相島 健助、廣津 登志夫] 秋学期授業/Fall	1290
専門教育科目_専門科目	[J0509]	プログラミング演習 1(C/C++) [廣津 登志夫] 秋学期授業/Fall	1292
専門教育科目_専門科目	[J0511]	形式言語とオートマトン [藤田 悟] 春学期授業/Spring	1293
専門教育科目_専門科目	[J0512]	形式言語とオートマトン [日高 宗一郎] 春学期授業/Spring	1295
専門教育科目_専門科目	[J0513]	コンピュータ構成と設計入門 [八巻 隼人] 春学期授業/Spring	1297
専門教育科目_専門科目	[J0514]	コンパイラ [佐々木 晃] 春学期授業/Spring	1298
専門教育科目_専門科目	[J0515]	プログラミング演習 2(C/C++) [小池 崇文] 春学期授業/Spring	1299
専門教育科目_専門科目	[J0516]	データ構造とアルゴリズム 2 [首藤 裕一] 秋学期授業/Fall	1300
専門教育科目_専門科目	[J0519]	統計学 2 [高村 誠之] 秋学期授業/Fall	1301
専門教育科目_専門科目	[J0520]	統計学 2 [小西 克巳] 秋学期授業/Fall	1302
専門教育科目_専門科目	[J0521]	情報基礎学 A [尾花 賢] 秋学期授業/Fall	1303
専門教育科目_専門科目	[J0522]	情報基礎学 B [雪田 修一] 春学期授業/Spring	1304
専門教育科目_専門科目	[J0523]	コンピュータ構成と設計 [李 亜民] 秋学期授業/Fall	1305
専門教育科目_専門科目	[J0524]	情報理論 [尾花 賢] 秋学期授業/Fall	1307
専門教育科目_専門科目	[J0526]	オペレーティングシステム [山田 浩史] 春学期授業/Spring	1308
専門教育科目_専門科目	[J0527]	型システムと関数型言語 [雪田 修一] 秋学期授業/Fall	1309
専門教育科目_専門科目	[J0528]	ソフトウェア工学 [栗田 太郎] 秋学期授業/Fall	1310
専門教育科目_専門科目	[J0529]	並列分散処理 [八巻 隼人] 秋学期授業/Fall	1312
専門教育科目_専門科目	[J0530]	新ネットワーク理論 [廣津 登志夫] 春学期授業/Spring	1314
専門教育科目_専門科目	[J0531]	情報・ネットワークセキュリティ入門 [上田 浩] 春学期授業/Spring	1316
専門教育科目_専門科目	[J0534]	プログラミング 2(Java) [細部 博史] 秋学期授業/Fall	1318
専門教育科目_専門科目	[J0536]	ヒューマンコンピュータインタラクション [細部 博史] 春学期授業/Spring	1319
専門教育科目_専門科目	[J0537]	データベース [日高 宗一郎] 秋学期授業/Fall	1320
専門教育科目_専門科目	[J0538]	データベース [坂本 寛] 秋学期授業/Fall	1321
専門教育科目_専門科目	[J0539]	人工知能 [赤石 美奈] 秋学期授業/Fall	1322
専門教育科目_専門科目	[J0540]	人工知能 [藤田 悟] 秋学期授業/Fall	1324
専門教育科目_専門科目	[J0541]	プログラミング 4(Java) [馬 建華] 春学期授業/Spring	1326
専門教育科目_専門科目	[J0542]	コンピュータネットワーク [廣津 登志夫] 春学期授業/Spring	1327
専門教育科目_専門科目	[J0543]	サービスコンピューティング [佐治 信之] 秋学期授業/Fall	1328
専門教育科目_専門科目	[J0544]	オペレーションズリサーチ [小西 克巳] 春学期授業/Spring	1330
専門教育科目_専門科目	[J0545]	オブジェクト指向プログラミング [雪田 修一] 秋学期授業/Fall	1331
専門教育科目_専門科目	[J0546]	情報検索 [相島 健助] 秋学期授業/Fall	1332
専門教育科目_専門科目	[J0547]	ユビキタスコンピューティング [馬 建華] 春学期授業/Spring	1333
専門教育科目_専門科目	[J0549]	コンピュータグラフィックス [佐藤 周平] 秋学期授業/Fall	1335

専門教育科目_専門科目	【J0550】	パターン認識と機械学習 [伊藤 克亘、佐藤 裕二] 秋学期授業/Fall	1336
専門教育科目_専門科目	【J0551】	プログラミング (MATLAB) [伊藤 克亘] 秋学期授業/Fall	1337
専門教育科目_専門科目	【J0552】	プログラミング演習 1(python) [伊藤 克亘] 春学期授業/Spring	1339
専門教育科目_専門科目	【J0553】	フーリエ級数と変換 [秋野 喜彦] 春学期授業/Spring	1341
専門教育科目_専門科目	【J0555】	デジタル信号処理 [高村 誠之] 春学期授業/Spring	1342
専門教育科目_専門科目	【J0556】	画像処理 [花泉 弘] 秋学期授業/Fall	1343
専門教育科目_専門科目	【J0557】	音声情報処理 [大石 康智] 秋学期授業/Fall	1344
専門教育科目_専門科目	【J0558】	プログラミング演習 3(MATLAB) [花泉 弘] 春学期授業/Spring	1346
専門教育科目_専門科目	【J0560】	科学技術計算 [岩沢 美佐子] 秋学期授業/Fall	1347
専門教育科目_専門科目	【J0561】	微積分法の応用 2 [秋野 喜彦] 秋学期授業/Fall	1348
【K6004】		日本国憲法 [村元 宏行] 年間授業/Yearly	1349
【K6005】		民法一部 [上杉 めぐみ] 年間授業/Yearly	1350
【K6006】		民法二部 [上杉 めぐみ] 年間授業/Yearly	1351
【K6007】		商法一部 [笹久保 徹] 年間授業/Yearly	1352
【K6008】		商法二部 [笹久保 徹] 年間授業/Yearly	1353
【K6009】		経済法 [杉崎 弘] 年間授業/Yearly	1354
【K6010】		労働法 [小林 大祐] 年間授業/Yearly	1355
【K6012】		経営学 [砂田 充] 年間授業/Yearly	1357
【K6046】		社会経済学応用 A [大友 敏明] 春学期授業/Spring	1358
【K6047】		社会経済学応用 A [大友 敏明] 春学期授業/Spring	1359
【K6048】		社会経済学応用 B [大友 敏明] 秋学期授業/Fall	1360
【K6049】		社会経済学応用 B [大友 敏明] 秋学期授業/Fall	1361
【K6054】		日本経済論 A [小黒 一正] 春学期授業/Spring	1362
【K6055】		日本経済論 A [小崎 敏男] 春学期授業/Spring	1363
【K6056】		日本経済論 B [小黒 一正] 秋学期授業/Fall	1364
【K6057】		日本経済論 B [小崎 敏男] 秋学期授業/Fall	1365
【K6058】		国際経済論 A [武智 一貴] 春学期授業/Spring	1366
【K6059】		国際経済論 A [田村 晶子] 春学期授業/Spring	1367
【K6060】		国際経済論 B [武智 一貴] 秋学期授業/Fall	1368
【K6061】		国際経済論 B [田村 晶子] 秋学期授業/Fall	1369
【K6062】		財政学 A [小林 克也] 春学期授業/Spring	1370
【K6063】		財政学 A [廣川 みどり] 春学期授業/Spring	1371
【K6064】		財政学 B [小林 克也] 秋学期授業/Fall	1372
【K6065】		財政学 B [廣川 みどり] 秋学期授業/Fall	1373
【K6066】		金融論 A [武田 浩一] 春学期授業/Spring	1374
【K6067】		金融論 A [高橋 秀朋] 春学期授業/Spring	1375
【K6068】		金融論 B [武田 浩一] 秋学期授業/Fall	1376
【K6069】		金融論 B [高橋 秀朋] 秋学期授業/Fall	1377
【K6070】		経済の数理 A [佐柄 信純] 春学期授業/Spring	1378
【K6071】		経済の数理 B [佐柄 信純] 秋学期授業/Fall	1379
【K6094】		計量経済学 A [宮崎 憲治] 春学期授業/Spring	1380
【K6095】		計量経済学 B [宮崎 憲治] 秋学期授業/Fall	1381
【K6098】		西洋経済史 A [杉浦 未樹] 春学期授業/Spring	1382
【K6099】		西洋経済史 B [杉浦 未樹] 秋学期授業/Fall	1383
【K6102】		企業と経済・応用 A [鈴木 豊] 春学期授業/Spring	1384
【K6103】		企業と経済・応用 B [河村 真] 秋学期授業/Fall	1385
【K6108】		現代ファイナンス入門 A [湯前 祥二] 春学期授業/Spring	1386
【K6109】		現代ファイナンス入門 B [湯前 祥二] 秋学期授業/Fall	1387
【K6114】		会計学応用 I (財務会計) A [竹口 圭輔] 春学期授業/Spring	1388
【K6115】		会計学応用 I (財務会計) B [竹口 圭輔] 秋学期授業/Fall	1389
【K6116】		会計学応用 II (管理会計) A [梅津 亮子] 春学期授業/Spring	1390
【K6117】		会計学応用 II (管理会計) B [梅津 亮子] 秋学期授業/Fall	1391
【K6122】		経済データ分析 A [明城 聡] 春学期授業/Spring	1392
【K6123】		経済データ分析 B [明城 聡] 秋学期授業/Fall	1393
【K6124】		経済地理 [近藤 章夫] 春学期授業/Spring	1394
【K6125】		産業集積論 [近藤 章夫] 秋学期授業/Fall	1395
【K6128】		コーポレートガバナンス論 A [胥 鵬] 春学期授業/Spring	1396

【K6129】	コーポレートガバナンス論B [胥 鵬] 秋学期授業/Fall	1397
【K6130】	リスク・マネジメントA [湯前 祥二] 春学期授業/Spring	1398
【K6131】	リスク・マネジメントB [湯前 祥二] 秋学期授業/Fall	1399
【K6132】	企業経営史A [飯塚 陽介] 春学期授業/Spring	1400
【K6133】	企業経営史B [飯塚 陽介] 秋学期授業/Fall	1401
【K6136】	企業経営論A [井上 祐樹] 春学期授業/Spring	1402
【K6137】	企業経営論B [井上 祐樹] 秋学期授業/Fall	1404
【K6140】	企業実務研究A [井上 祐樹] 春学期授業/Spring	1406
【K6141】	企業実務研究B [井上 祐樹] 秋学期授業/Fall	1407
【K6142】	国際会計制度A [倉井 潔] 春学期授業/Spring	1409
【K6143】	国際会計制度B [倉井 潔] 秋学期授業/Fall	1410
【K6144】	金融ビジネス論A [武田 浩一] 春学期授業/Spring	1411
【K6146】	金融ビジネス論B [武田 浩一] 秋学期授業/Fall	1412
【K6148】	開発経済論A [池上 宗信] 春学期授業/Spring	1413
【K6149】	開発経済論B [池上 宗信] 秋学期授業/Fall	1414
【K6150】	国際関係論A [藤田 吾郎] 春学期授業/Spring	1415
【K6151】	国際関係論B [藤田 吾郎] 秋学期授業/Fall	1416
【K6152】	経済人類学A [河野 正治] 春学期授業/Spring	1417
【K6153】	経済人類学B [河野 正治] 秋学期授業/Fall	1418
【K6154】	環境経済論A [松波 淳也] 春学期授業/Spring	1419
【K6155】	環境経済論A [松波 淳也] 春学期授業/Spring	1420
【K6156】	環境経済論B [松波 淳也] 秋学期授業/Fall	1421
【K6157】	環境経済論B [松波 淳也] 秋学期授業/Fall	1422
【K6160】	経済地理A [近藤 章夫] 春学期授業/Spring	1423
【K6161】	経済地理B [近藤 章夫] 秋学期授業/Fall	1424
【K6162】	アメリカ経済論A [増田 正人] 春学期授業/Spring	1425
【K6163】	アメリカ経済論B [増田 正人] 秋学期授業/Fall	1426
【K6164】	ヨーロッパ経済論A [進藤 理香子] 春学期授業/Spring	1427
【K6165】	ヨーロッパ経済論B [進藤 理香子] 秋学期授業/Fall	1428
【K6166】	現代アジア経済論A [馬場 敏幸] 春学期授業/Spring	1429
【K6167】	現代アジア経済論B [馬場 敏幸] 秋学期授業/Fall	1430
【K6168】	中国経済論A [馬 欣欣] 春学期授業/Spring	1431
【K6169】	中国経済論B [馬 欣欣] 秋学期授業/Fall	1433
【K6180】	ドイツ語セミナーA [新田 誠吾] 春学期授業/Spring	1435
【K6181】	ドイツ語セミナーB [新田 誠吾] 秋学期授業/Fall	1436
【K6182】	フランス語セミナーB [橋本 到] 秋学期授業/Fall	1437
【K6183】	フランス語セミナーA [橋本 到] 春学期授業/Spring	1438
【K6184】	ロシア語セミナーA [小俣 智史] 春学期授業/Spring	1439
【K6185】	ロシア語セミナーB [小俣 智史] 秋学期授業/Fall	1440
【K6186】	中国語セミナーA [石 碩] 春学期授業/Spring	1441
【K6187】	中国語セミナーB [石 碩] 秋学期授業/Fall	1442
【K6190】	現代社会と情報A [坂本 憲昭] 春学期授業/Spring	1443
【K6191】	現代社会と情報B [菅 幹雄] 秋学期授業/Fall	1444
【K6194】	経済統計論A [菅 幹雄] 春学期授業/Spring	1445
【K6195】	経済統計論B [菅 幹雄] 秋学期授業/Fall	1446
【K6196】	日本文化論 [黒田 俊太郎] 秋学期授業/Fall	1447
【K6200】	政治過程論 [岡崎 加奈子] 秋学期授業/Fall	1448
【K6201】	国際政治論 [曹 海石] 秋学期授業/Fall	1449
【K6202】	日本思想史 [古澤 直人] 春学期授業/Spring	1450
【K6203】	開発経済入門A [池上 宗信] 春学期授業/Spring	1451
【K6204】	開発経済入門B [池上 宗信] 秋学期授業/Fall	1452
【K6209】	環境科学A [岡部 雅史] 春学期授業/Spring	1453
【K6210】	環境科学B [岡部 雅史] 秋学期授業/Fall	1454
【K6212】	時事英語セミナーA [中谷 安男] 春学期授業/Spring	1455
【K6213】	時事英語セミナーB [中谷 安男] 秋学期授業/Fall	1456
【K6214】	日本文化史 [古澤 直人] 秋学期授業/Fall	1457
【K6219】	経済学史A [平瀬 友樹] 春学期授業/Spring	1458

【K6220】	経済学史B [平瀬 友樹] 秋学期授業/Fall	1459
【K6221】	公共経済論A [小原 拓也] 春学期授業/Spring	1460
【K6222】	公共経済論B [小原 拓也] 秋学期授業/Fall	1461
【K6223】	環境政策論A [西澤 栄一郎] 春学期授業/Spring	1462
【K6224】	環境政策論B [西澤 栄一郎] 秋学期授業/Fall	1463
【K6225】	日本経済史A [宝利 ひとみ] 春学期授業/Spring	1464
【K6226】	日本経済史B [宝利 ひとみ] 秋学期授業/Fall	1465
【K6227】	社会経済思想史A [後藤 浩子] 春学期授業/Spring	1466
【K6228】	社会経済思想史B [後藤 浩子] 秋学期授業/Fall	1467
【K6229】	経済政策論A [濱秋 純哉] 春学期授業/Spring	1468
【K6230】	経済政策論B [濱秋 純哉] 秋学期授業/Fall	1469
【K6231】	農業経済論A [西澤 栄一郎] 春学期授業/Spring	1470
【K6232】	農業経済論B [西澤 栄一郎] 秋学期授業/Fall	1471
【K6233】	社会政策論A [和久津 尚彦] 春学期授業/Spring	1472
【K6234】	社会政策論B [和久津 尚彦] 秋学期授業/Fall	1473
【K6235】	労働経済論A [酒井 正] 春学期授業/Spring	1474
【K6236】	労働経済論B [酒井 正] 秋学期授業/Fall	1475
【K6237】	金融各論I A [高橋 秀朋] 春学期授業/Spring	1476
【K6238】	金融各論I B [高橋 秀朋] 秋学期授業/Fall	1477
【K6239】	情報経済論A [鈴木 豊] 春学期授業/Spring	1478
【K6240】	情報経済論B [鈴木 豊] 秋学期授業/Fall	1479
【K6241】	地方財政論A [小林 克也] 春学期授業/Spring	1480
【K6242】	地方財政論B [小林 克也] 秋学期授業/Fall	1481
【K6243】	社会保障論A [小黒 一正] 春学期授業/Spring	1482
【K6244】	社会保障論B [小黒 一正] 秋学期授業/Fall	1483
【K6245】	産業組織論A [河村 真] 春学期授業/Spring	1484
【K6246】	産業組織論B [河村 真] 秋学期授業/Fall	1485
【K6247】	金融各論II A [武田 浩一] 春学期授業/Spring	1486
【K6249】	金融各論II B [武田 浩一] 秋学期授業/Fall	1487
【K6251】	企業金融論A [胥 鵬] 春学期授業/Spring	1488
【K6252】	企業金融論B [胥 鵬] 秋学期授業/Fall	1489
【K6253】	数理統計学A [宮脇 典彦] 春学期授業/Spring	1490
【K6254】	数理統計学B [宮脇 典彦] 秋学期授業/Fall	1491
【K6268】	国際金融論A [ブー トウン カイ] 春学期授業/Spring	1492
【K6269】	国際金融論B [ブー トウン カイ] 秋学期授業/Fall	1493
【K6270】	企業経済論A [砂田 充] 春学期授業/Spring	1494
【K6271】	企業経済論B [砂田 充] 秋学期授業/Fall	1495
【K6306】	ビジネス英語初級A [JOHN THOMAS LACEY] 春学期授業/Spring	1496
【K6307】	ビジネス英語初級B [JOHN THOMAS LACEY] 秋学期授業/Fall	1497
【K6312】	世界の文化と思想A [石 碩] 春学期授業/Spring	1498
【K6313】	世界の文化と思想B [石 碩] 秋学期授業/Fall	1499
【K6314】	地球環境論A [吉田 圭一郎] 春学期授業/Spring	1500
【K6315】	地球環境論B [吉田 圭一郎] 秋学期授業/Fall	1501
【K6316】	ビジネス英語初級A [GLENN FERN] 春学期授業/Spring	1502
【K6317】	ビジネス英語初級B [GLENN FERN] 秋学期授業/Fall	1504
【K6318】	ビジネス英語初級A [GLENN FERN] 春学期授業/Spring	1506
【K6319】	ビジネス英語初級B [GLENN FERN] 秋学期授業/Fall	1508
【K6320】	会計学入門II (原価計算) A [梅津 亮子] 春学期授業/Spring	1510
【K6321】	会計学入門II (原価計算) B [梅津 亮子] 秋学期授業/Fall	1511
【K6326】	国際貿易論A [武智 一貴] 春学期授業/Spring	1512
【K6327】	国際貿易論B [武智 一貴] 秋学期授業/Fall	1513
【K6328】	ビジネス英語中級A [YONGUE JULIA SALLE] 春学期授業/Spring	1514
【K6329】	ビジネス英語中級B [YONGUE JULIA SALLE] 秋学期授業/Fall	1515
【K6330】	ビジネス英語中級A [JAY M TANAKA] 春学期授業/Spring	1516
【K6331】	ビジネス英語中級B [JAY M TANAKA] 秋学期授業/Fall	1518
【K6332】	監査論A [岸 牧人] 春学期授業/Spring	1520
【K6333】	監査論B [岸 牧人] 秋学期授業/Fall	1521

[K6334]	会計学入門Ⅰ（財務会計）A [堀江 優希] 春学期授業/Spring	1522
[K6335]	会計学入門Ⅰ（財務会計）B [堀江 優希] 秋学期授業/Fall	1523
[K6337]	マクロ経済学A [宮崎 憲治] 春学期授業/Spring	1524
[K6338]	マクロ経済学B [宮崎 憲治] 秋学期授業/Fall	1525
[K6339]	ミクロ経済学A [平井 俊行] 春学期授業/Spring	1526
[K6340]	ミクロ経済学B [平井 俊行] 秋学期授業/Fall	1527
[K6341]	現代経済学応用A [八木橋 毅司] 春学期授業/Spring	1528
[K6342]	現代経済学応用B [八木橋 毅司] 秋学期授業/Fall	1529
[K6343]	マクロ経済学A [松尾 朋紀] 春学期授業/Spring	1530
[K6344]	マクロ経済学B [松尾 朋紀] 秋学期授業/Fall	1531
[K6345]	ミクロ経済学A [平井 俊行] 春学期授業/Spring	1532
[K6346]	ミクロ経済学B [平井 俊行] 秋学期授業/Fall	1533
[K6347]	財政学A（市ヶ谷開講） [島澤 諭] 春学期授業/Spring	1534
[K6348]	財政学B（市ヶ谷開講） [島澤 諭] 秋学期授業/Fall	1535
[K6349]	経済政策論A（市ヶ谷開講） [濱秋 純哉] 春学期授業/Spring	1536
[K6350]	経済政策論B（市ヶ谷開講） [濱秋 純哉] 秋学期授業/Fall	1537
[K6351]	国際経済論A（市ヶ谷開講） [田村 晶子] 春学期授業/Spring	1538
[K6352]	国際経済論B（市ヶ谷開講） [田村 晶子] 秋学期授業/Fall	1539
[K6501]	特別講義（寄付講座 証券市場論） [大和証券（株）] 春学期授業/Spring	1540
[K6575]	特別講義（ビジネス日本語A） [大石 有香] 春学期授業/Spring	1541
[K6576]	特別講義（ビジネス日本語B） [大石 有香] 秋学期授業/Fall	1542
[K6695]	Business CommunicationⅠA [GLENN FERN] 春学期授業/Spring	1543
[K6696]	Business CommunicationⅠB [GLENN FERN] 秋学期授業/Fall	1545
[K6697]	Business CommunicationⅠA [GLENN FERN] 春学期授業/Spring	1547
[K6698]	Business CommunicationⅠB [GLENN FERN] 秋学期授業/Fall	1549
Advanced Courses / 専門科目_Disciplinary Courses / IGESS 科目_IV. Global Issues [K6699] Business		
	CommunicationⅡA [YONGUE JULIA SALLE] 春学期授業/Spring	1551
[K6699]	Business CommunicationⅡA [YONGUE JULIA SALLE] 春学期授業/Spring	1552
[K6700]	Business CommunicationⅡB [YONGUE JULIA SALLE] 秋学期授業/Fall	1553
Advanced Courses / 専門科目_Disciplinary Courses / IGESS 科目_IV. Global Issues [K6700] Business		
	CommunicationⅡB [YONGUE JULIA SALLE] 秋学期授業/Fall	1554
[K6701]	Business CommunicationⅡA [JAY M TANAKA] 春学期授業/Spring	1555
[K6702]	Business CommunicationⅡB [JAY M TANAKA] 秋学期授業/Fall	1557
[K6705]	日本国憲法A [村元 宏行] 春学期授業/Spring	1559
[K6706]	日本国憲法B [村元 宏行] 秋学期授業/Fall	1560
[K6707]	民法一部A [上杉 めぐみ] 春学期授業/Spring	1561
[K6708]	民法一部B [上杉 めぐみ] 秋学期授業/Fall	1562
[K6709]	民法二部A [上杉 めぐみ] 春学期授業/Spring	1563
[K6710]	民法二部B [上杉 めぐみ] 秋学期授業/Fall	1564
[K6711]	商法一部A [笹久保 徹] 春学期授業/Spring	1565
[K6712]	商法一部B [笹久保 徹] 秋学期授業/Fall	1566
[K6713]	商法二部A [笹久保 徹] 春学期授業/Spring	1567
[K6714]	商法二部B [笹久保 徹] 秋学期授業/Fall	1568
[K6715]	経済法A [杉崎 弘] 春学期授業/Spring	1569
[K6716]	経済法B [杉崎 弘] 秋学期授業/Fall	1570
[K6717]	労働法A [小林 大祐] 春学期授業/Spring	1571
[K6718]	労働法B [小林 大祐] 秋学期授業/Fall	1572
[K6719]	経営学A [砂田 充] 春学期授業/Spring	1573
[K6720]	経営学B [砂田 充] 秋学期授業/Fall	1574
[K6721]	Principles of Economics A [REYNALDO SENRA] 春学期授業/Spring	1575
Advanced Courses / 専門科目_Disciplinary Courses / IGESS 科目_IV. Global Issues [K6721] Principles of		
	Economics A [REYNALDO SENRA] 春学期授業/Spring	1576
[K6722]	Principles of Economics B [REYNALDO SENRA] 秋学期授業/Fall	1577
Advanced Courses / 専門科目_Disciplinary Courses / IGESS 科目_IV. Global Issues [K6722] Principles of		
	Economics B [REYNALDO SENRA] 秋学期授業/Fall	1578
[K6723]	International Economics A [倪 彬] 春学期授業/Spring	1579

Advanced Courses / 専門科目_Disciplinary Courses / IGESS 科目_IV. Global Issues 【K6723】 International Economics A [倪 彬] 春学期授業/Spring	1580
【K6724】 International Economics B [倪 彬] 秋学期授業/Fall	1581
Advanced Courses / 専門科目_Disciplinary Courses / IGESS 科目_IV. Global Issues 【K6724】 International Economics B [倪 彬] 秋学期授業/Fall	1582
【K6725】 Area Studies A [馬 欣欣] 春学期授業/Spring	1583
Advanced Courses / 専門科目_Disciplinary Courses / IGESS 科目_IV. Global Issues 【K6725】 Area Studies A [馬 欣欣] 春学期授業/Spring	1585
【K6726】 Area Studies B [馬 欣欣] 秋学期授業/Fall	1587
Advanced Courses / 専門科目_Disciplinary Courses / IGESS 科目_IV. Global Issues 【K6726】 Area Studies B [馬 欣欣] 秋学期授業/Fall	1589
【K6727】 Business Research Seminar A [中谷 安男] 春学期授業/Spring	1591
Advanced Courses / 専門科目_Disciplinary Courses / IGESS 科目_IV. Global Issues 【K6727】 Business Research Seminar A [中谷 安男] 春学期授業/Spring	1592
【K6728】 Business Research Seminar B [中谷 安男] 秋学期授業/Fall	1593
Advanced Courses / 専門科目_Disciplinary Courses / IGESS 科目_IV. Global Issues 【K6728】 Business Research Seminar B [中谷 安男] 秋学期授業/Fall	1594
【K6729】 簿記Ⅱ A [岸 牧人] 春学期授業/Spring	1595
【K6730】 簿記Ⅱ B [岸 牧人] 秋学期授業/Fall	1596
【K6731】 地域経済論 A [川邊 安彦] 春学期授業/Spring	1597
【K6732】 地域経済論 B [川邊 安彦] 秋学期授業/Fall	1598
【K6733】 Academic Research Seminar A [飯野 厚] 春学期授業/Spring	1600
【K6734】 Academic Research Seminar B [飯野 厚] 秋学期授業/Fall	1601
【K6735】 Academic Research Seminar A [伊藤 健彦] 春学期授業/Spring	1602
【K6736】 Academic Research Seminar B [伊藤 健彦] 秋学期授業/Fall	1603
【K6741】 世界経済史 A [杉浦 未樹] 春学期授業/Spring	1604
【K6742】 世界経済史 B [杉浦 未樹] 秋学期授業/Fall	1605
【K6745】 財務諸表論 A [竹口 圭輔] 春学期授業/Spring	1606
【K6746】 財務諸表論 B [竹口 圭輔] 秋学期授業/Fall	1607
【K6747】 DemographyA [菅 幹雄] 春学期授業/Spring	1608
Advanced Courses / 専門科目_Disciplinary Courses / IGESS 科目_IV. Global Issues 【K6747】 Demography A [菅 幹雄] 春学期授業/Spring	1609
【K6748】 DemographyB [菅 幹雄] 秋学期授業/Fall	1610
Advanced Courses / 専門科目_Disciplinary Courses / IGESS 科目_IV. Global Issues 【K6748】 Demography B [菅 幹雄] 秋学期授業/Fall	1611
【K6749】 原価計算A [梅津 亮子] 春学期授業/Spring	1612
【K6750】 原価計算B [梅津 亮子] 秋学期授業/Fall	1613
【K6751】 会計学入門A [堀江 優希] 春学期授業/Spring	1614
【K6752】 会計学入門B [堀江 優希] 秋学期授業/Fall	1615
【K6755】 管理会計A [梅津 亮子] 春学期授業/Spring	1616
【K6756】 管理会計B [梅津 亮子] 秋学期授業/Fall	1617
Advanced Courses / 専門科目_Disciplinary Courses / IGESS 科目_IV. Global Issues 【K6764】 Business Communication I A [JOHN THOMAS LACEY] 春学期授業/Spring	1618
【K6764】 Business Communication IA [JOHN THOMAS LACEY] 春学期授業/Spring	1619
【K6765】 Business Communication IB [JOHN THOMAS LACEY] 秋学期授業/Fall	1620
Advanced Courses / 専門科目_Disciplinary Courses / IGESS 科目_IV. Global Issues 【K6765】 Business Communication I B [JOHN THOMAS LACEY] 秋学期授業/Fall	1621
【K6770】 Japan and ASEAN Economy A [MANISH SHARMA] 春学期授業/Spring	1622
Advanced Courses / 専門科目_Disciplinary Courses / IGESS 科目_IV. Global Issues 【K6770】 Japan and ASEAN Economy A [MANISH SHARMA] 春学期授業/Spring	1623
Advanced Courses / 専門科目_Disciplinary Courses / IGESS 科目_IV. Global Issues 【K6771】 Japan and ASEAN Economy B [MANISH SHARMA] 秋学期授業/Fall	1624
【K6771】 Japan and ASEAN Economy B [MANISH SHARMA] 秋学期授業/Fall	1625
【K6772】 Japanese Business and Economy A [MANISH SHARMA] 春学期授業/Spring	1626
Advanced Courses / 専門科目_Disciplinary Courses / IGESS 科目_IV. Global Issues 【K6772】 Japanese Business and Economy A [MANISH SHARMA] 春学期授業/Spring	1628

Advanced Courses / 専門科目_Disciplinary Courses / IGESS 科目_IV. Global Issues [K6773] Japanese

Business and Economy B [MANISH SHARMA] 秋学期授業/Fall	1630
[K6773] Japanese Business and Economy B [MANISH SHARMA] 秋学期授業/Fall	1632
[K7001] 演習 [岸 牧人] 年間授業/Yearly	1634
[K7002] 演習 [小黒 一正] 年間授業/Yearly	1636
[K7003] 演習 [平井 俊行] 年間授業/Yearly	1638
[K7004] 演習 [岡部 雅史] 年間授業/Yearly	1639
[K7005] 演習 [奥山 利幸] 年間授業/Yearly	1640
[K7007] 演習 [杉浦 未樹] 年間授業/Yearly	1641
[K7008] 演習 [小沢 和浩] 年間授業/Yearly	1643
[K7011] 演習 [黒田 俊太郎] 年間授業/Yearly	1644
[K7012] 演習 [河村 真] 年間授業/Yearly	1645
[K7013] 演習 [阿部 俊弘] 年間授業/Yearly	1647
[K7016] 演習 [REYNALDO SENRA] 年間授業/Yearly	1649
[K7018] 演習 [武田 浩一] 年間授業/Yearly	1650
[K7019] 演習 [後藤 浩子] 年間授業/Yearly	1652
[K7020] 演習 [小林 克也] 年間授業/Yearly	1654
[K7021] 演習 [近藤 章夫] 年間授業/Yearly	1656
[K7022] 演習 [KALENGA N JOHN] 年間授業/Yearly	1657
[K7023] 演習 [坂本 憲昭] 年間授業/Yearly	1659
[K7024] 演習 [佐柄 信純] 年間授業/Yearly	1660
[K7025] 演習 [馬 欣欣] 年間授業/Yearly	1661
[K7026] 演習 [酒井 正] 年間授業/Yearly	1663
[K7027] 演習 [胥 鵬] 年間授業/Yearly	1664
[K7028] 演習 [上北 正人] 年間授業/Yearly	1666
[K7029] 演習 [鈴木 豊] 年間授業/Yearly	1668
[K7030] 演習 [砂田 充] 年間授業/Yearly	1670
[K7031] 演習 [竹口 圭輔] 年間授業/Yearly	1672
[K7032] 演習 [八木橋 毅司] 年間授業/Yearly	1673
[K7033] 演習 [武智 一貴] 年間授業/Yearly	1675
[K7034] 演習 [田村 晶子] 年間授業/Yearly	1677
[K7035] 演習 [海野 正] 年間授業/Yearly	1678
[K7036] 演習 [島田 昭仁] 年間授業/Yearly	1679
[K7037] 演習 [芝田 幸一郎] 年間授業/Yearly	1680
[K7038] 演習 [ブー トウン カイ] 年間授業/Yearly	1681
[K7041] 演習 [池上 宗信] 年間授業/Yearly	1682
[K7042] 演習 [ROBERT D STROUD] 年間授業/Yearly	1684
[K7043] 演習 [西澤 栄一郎] 年間授業/Yearly	1686
[K7044] 演習 [新田 誠吾] 年間授業/Yearly	1687
[K7045] 演習 [明城 聡] 年間授業/Yearly	1689
[K7046] 演習 [朴 宗玄] 年間授業/Yearly	1691
[K7047] 演習 [橋本 到] 年間授業/Yearly	1693
[K7048] 演習 [馬場 敏幸] 年間授業/Yearly	1695
[K7050] 演習 [井上 祐樹] 年間授業/Yearly	1696
[K7051] 演習 [平瀬 友樹] 年間授業/Yearly	1697
[K7052] 演習 [廣川 みどり] 年間授業/Yearly	1698
[K7053] 演習 [濱秋 純哉] 年間授業/Yearly	1699
[K7054] 演習 [伊藤 健彦] 年間授業/Yearly	1701
[K7055] 演習 [古澤 直人] 年間授業/Yearly	1702
[K7056] 演習 [JAY M TANAKA] 年間授業/Yearly	1703
[K7058] 演習 [松波 淳也] 年間授業/Yearly	1704
[K7059] 演習 [宮崎 憲治] 年間授業/Yearly	1705
[K7060] 演習 [石 碩] 年間授業/Yearly	1706
[K7061] 演習 [宮脇 典彦] 年間授業/Yearly	1707
[K7064] 演習 [富永 靖敬] 年間授業/Yearly	1708
[K7066] 演習 [湯前 祥二] 年間授業/Yearly	1709
[K7067] 演習 [YONGUE JULIA SALLE] 年間授業/Yearly	1710

【K7068】	演習 [山田 快] 年間授業/Yearly	1712
【K7070】	演習 [梅津 亮子] 年間授業/Yearly	1713
【K7071】	演習 [山田 稔] 年間授業/Yearly	1714
【K7072】	演習 [池田 雅美] 年間授業/Yearly	1716
【K7073】	演習 [飯野 厚] 年間授業/Yearly	1718
【K7074】	演習 [進藤 理香子] 年間授業/Yearly	1720
【K7075】	演習 [菅 幹雄] 年間授業/Yearly	1721
【K7076】	演習 [高橋 秀朋] 年間授業/Yearly	1722
【K7077】	演習 [藤田 貢崇] 年間授業/Yearly	1724
【K7078】	演習 [竹本 亨] 年間授業/Yearly	1726
【K7079】	演習 [和久津 尚彦] 年間授業/Yearly	1727
【K7080】	演習 [松野 響] 年間授業/Yearly	1728
【K7082】	演習 [高尾 直知、田村 理香] 年間授業/Yearly	1730
【K7083】	演習 [劉 紅] 年間授業/Yearly	1732
【K7084】	演習 [中谷 安男] 年間授業/Yearly	1733
【K7085】	演習 [倪 彬] 年間授業/Yearly	1734
【LA004】	政治学理論Ⅰ [白鳥 浩] 春学期授業/Spring	1735
【LA005】	政治学理論Ⅱ [白鳥 浩] 秋学期授業/Fall	1736
【LA006】	日本経済論 [澁谷 朋樹] 秋学期授業/Fall	1737
【LA007】	憲法 [天本 哲史] 春学期授業/Spring	1738
【LA008】	民法 (総則) [松田 佳久] 春学期授業/Spring	1739
【LA009】	民法 (財産法) [松田 佳久] 秋学期授業/Fall	1741
【LA012】	組織論 [多田 和美] 春学期授業/Spring	1743
【LA014】	財政学Ⅰ [古市 将人] 春学期授業/Spring	1744
【LA015】	財政学Ⅱ [古市 将人] 秋学期授業/Fall	1745
【LA016】	行政学 [谷本 有美子] 春学期授業/Spring	1746
【LA017】	行政法Ⅰ [天本 哲史] 春学期授業/Spring	1748
【LA018】	行政法Ⅱ [天本 哲史] 秋学期授業/Fall	1749
【LA019】	政策と制度 [長沼 建一郎] 春学期授業/Spring	1750
【LA020】	人的資源論 [惠羅 さとみ] 春学期授業/Spring	1751
【LA102】	社会・イノベーション論Ⅰ [糸久 正人] 春学期授業/Spring	1752
【LA103】	社会・イノベーション論Ⅱ [糸久 正人] 秋学期授業/Fall	1753
【LA104】	中小企業論 [糸久 正人] 春学期授業/Spring	1754
【LA105】	地域産業論Ⅰ [加藤 寛之] 春学期授業/Spring	1755
【LA106】	地域産業論Ⅱ [加藤 寛之] 秋学期授業/Fall	1756
【LA107】	産業社会学Ⅰ [惠羅 さとみ] 春学期授業/Spring	1757
【LA108】	産業社会学Ⅱ [惠羅 さとみ] 秋学期授業/Fall	1758
【LA109】	国際経営論Ⅰ [多田 和美] 春学期授業/Spring	1759
【LA110】	国際経営論Ⅱ [多田 和美] 秋学期授業/Fall	1760
【LA111】	経済政策論 [北浦 康嗣] 秋学期授業/Fall	1761
【LA112】	金融システム論 [山村 延郎] 春学期授業/Spring	1762
【LA202】	環境経済学Ⅰ [島本 美保子] 春学期授業/Spring	1763
【LA203】	環境経済学Ⅱ [島本 美保子] 秋学期授業/Fall	1764
【LA206】	エネルギー論 [鞠子 茂] 秋学期授業/Fall	1765
【LA207】	気候変動論 [澤柿 教伸] 春学期授業/Spring	1766
【LA210】	社会保障法Ⅰ [長沼 建一郎] 春学期授業/Spring	1767
【LA211】	社会保障法Ⅱ [長沼 建一郎] 秋学期授業/Fall	1768
【LA303】	市民運動論 [中筋 直哉] 春学期授業/Spring	1769
【LA304】	地方財政論 [早崎 成都] 秋学期授業/Fall	1770
【LA305】	地方自治論Ⅰ [谷本 有美子] 春学期授業/Spring	1771
【LA306】	地方自治論Ⅱ [谷本 有美子] 秋学期授業/Fall	1773
【LA308】	国際協力論 [岡野内 正] 秋学期授業/Fall	1775
【LA309】	イスラム社会論 [岡野内 正] 秋学期授業/Fall	1776
【LA310】	国際経済論Ⅰ [増田 正人] 春学期授業/Spring	1777
【LA311】	国際経済論Ⅱ [増田 正人] 秋学期授業/Fall	1778
【LB004】	社会学理論AⅠ [鈴木 智之] 春学期授業/Spring	1780
【LB005】	社会学理論AⅡ [鈴木 智之] 秋学期授業/Fall	1781

【LB006】	社会学理論B I [佐藤 成基] 春学期授業/Spring	1782
【LB007】	社会学理論B II [佐藤 成基] 秋学期授業/Fall	1783
【LB010】	理論社会学 [鈴木 智之] 秋学期授業/Fall	1784
【LB011】	社会学史 I [徳安 彰] 春学期授業/Spring	1785
【LB012】	社会学史 II [徳安 彰] 秋学期授業/Fall	1786
【LB013】	歴史社会学 I [鈴木 智道] 春学期授業/Spring	1787
【LB014】	歴史社会学 II [鈴木 智道] 秋学期授業/Fall	1788
【LB015】	数理社会学 I [斎藤 友里子] 春学期授業/Spring	1789
【LB016】	数理社会学 II [斎藤 友里子] 秋学期授業/Fall	1790
【LB017】	原典講読 [樋口 明彦] 春学期授業/Spring	1791
【LB018】	社会学総合特講A [徳安 彰] 春学期授業/Spring	1792
【LB019】	社会学総合特講B [鈴木 智道] 秋学期授業/Fall	1793
【LB026】	統計調査法 [斎藤 友里子] 春学期授業/Spring	1794
【LB102】	発達・教育の理論 I [山下 大厚] 春学期授業/Spring	1795
【LB103】	発達・教育の理論 II [山下 大厚] 秋学期授業/Fall	1796
【LB104】	家族社会学 I [宮下 阿子] 春学期授業/Spring	1797
【LB105】	家族社会学 II [宮下 阿子] 秋学期授業/Fall	1798
【LB106】	臨床社会学 I [三井 さよ] 春学期授業/Spring	1799
【LB107】	臨床社会学 II [三井 さよ] 秋学期授業/Fall	1800
【LB108】	社会心理学 I [土倉 英志] 春学期授業/Spring	1801
【LB109】	社会心理学 II [土倉 英志] 秋学期授業/Fall	1802
【LB110】	エイジングの社会学 [姫野 宏輔] 秋学期授業/Fall	1803
【LB202】	環境社会学 I [堀川 三郎] 春学期授業/Spring	1804
【LB203】	環境社会学 II [堀川 三郎] 秋学期授業/Fall	1805
【LB204】	現代農業・農村の社会学 [大倉 季久] 春学期授業/Spring	1806
【LB205】	地域環境論 [大倉 季久] 秋学期授業/Fall	1807
【LB301】	文化社会学B [武田 俊輔] 秋学期授業/Fall	1808
【LB304】	文化人類学 [謝 荔] 春学期授業/Spring	1809
【LB305】	宗教社会学 [永井 美紀子] 春学期授業/Spring	1810
【LB306】	スポーツ文化論 [越部 清美] 秋学期授業/Fall	1811
【LB402】	国際社会学 I [田嶋 淳子] 春学期授業/Spring	1812
【LB403】	国際社会学 II [田嶋 淳子] 秋学期授業/Fall	1813
【LB404】	国際関係論 I [二村 まどか] 春学期授業/Spring	1814
【LB405】	国際関係論 II [二村 まどか] 秋学期授業/Fall	1815
【LB406】	国際社会と民族 [愼 蒼宇] 秋学期授業/Fall	1816
【LB407】	開発とジェンダー [吉村 真子] 秋学期授業/Fall	1817
【LB408】	地域研究 (ヨーロッパ) [高橋 愛] 秋学期授業/Fall	1818
【LB409】	地域研究 (アジア) [吉村 真子] 春学期授業/Spring	1819
【LB410】	地域研究 (中国) [大崎 雄二] 秋学期授業/Fall	1820
【LB905】	特講 (障害の社会学) [三井 さよ] 春学期授業/Spring	1821
【LD009】	メディアの思想 [小林 直毅] 秋学期授業/Fall	1822
【LD012】	認知科学 [中井 彩香] 春学期授業/Spring	1823
【LD013】	知的財産権法 [白田 秀彰] 秋学期授業/Fall	1824
【LD014】	メディア法 [白田 秀彰] 秋学期授業/Fall	1825
【LD015】	公共性と民主主義 I [鈴木 宗徳] 春学期授業/Spring	1826
【LD016】	公共性と民主主義 II [鈴木 宗徳] 秋学期授業/Fall	1827
【LD023】	特講 (コミュニケーション・デザイン論) [石寺 修三、青木 貞茂] 春学期授業/Spring	1828
【LD100】	メディア文化論 [近藤 和都] 秋学期授業/Fall	1830
【LD103】	広告・消費文化論 [青木 貞茂] 春学期授業/Spring	1831
【LD104】	広告・PR論 [青木 貞茂] 秋学期授業/Fall	1832
【LD106】	情報科学とコミュニケーション [金井 明人] 春学期授業/Spring	1833
【LD107】	認知映像論 [金井 明人] 秋学期授業/Fall	1834
【LD109】	ジャーナリズムの歴史と思想 I [別府 三奈子] 春学期授業/Spring	1835
【LD110】	ジャーナリズムの歴史と思想 II [別府 三奈子] 秋学期授業/Fall	1836
【LD200】	消費者行動論 [諸上 茂光] 春学期授業/Spring	1837
【LD206】	メディアの歴史 [小林 直毅] 春学期授業/Spring	1838
【LD210】	メディアコンテンツ論 [藤田 真文] 春学期授業/Spring	1839

【LD213】 空間メディア論Ⅰ [森 幹彦] 春学期授業/Spring.....	1840
【LD214】 空間メディア論Ⅱ [森 幹彦] 秋学期授業/Fall.....	1841
【LD300】 メディアテクノロジーと社会 [橋爪 絢子] 春学期授業/Spring.....	1842
【LD301】 メディアテクノロジーと社会分析 [橋爪 絢子] 秋学期授業/Fall.....	1843
【LD303】 社会ネットワーク論Ⅰ [境 新一] 春学期授業/Spring.....	1844
【LD304】 社会ネットワーク論Ⅱ [境 新一] 秋学期授業/Fall.....	1845
【LD306】 デジタル情報環境論 [土橋 臣吾] 春学期授業/Spring.....	1847
【LD307】 デジタル情報環境分析 [土橋 臣吾] 秋学期授業/Fall.....	1848
【LD309】 ソーシャルメディア論 [藤代 裕之] 春学期授業/Spring.....	1849
【LD310】 ソーシャルメディア分析 [藤代 裕之] 秋学期授業/Fall.....	1850
専門教育科目_専門基幹科目【M1620】 スポーツトレーニング論Ⅰ [平野 裕一] 春学期授業/Spring.....	1851
専門教育科目_ヘルスデザインコース専門科目【M1730】 スポーツリスクマネジメント [木下 訓光] 春学期授業/Spring.....	1852
専門教育科目_専門基礎科目(講義科目)【M1750】 スポーツビジネス論Ⅰ [井上 尊寛] 秋学期授業/Fall.....	1854
専門教育科目_専門基礎科目(講義科目)【M1790】 スポーツコーチング論A [平野 裕一] 秋学期授業/Fall.....	1855
専門教育科目_スポーツビジネスコース専門科目【M3080】 スポーツメディア論 [山本 浩] 秋学期授業/Fall.....	1856
専門教育科目_専門基幹科目【M3170】 スポーツビジネス論Ⅱ [望月 拓実] 春学期授業/Spring.....	1858
専門教育科目_スポーツビジネスコース専門科目【M3230】 マーケティングリサーチ実習 [伊藤 真紀] 春学期授 業/Spring.....	1859
専門教育科目_スポーツビジネスコース専門科目【M3240】 マーケティングリサーチ演習 [伊藤 真紀] 秋学期授業/Fall.....	1860
【N1001】 地域問題入門 [野田 岳仁] 春学期授業/Spring.....	1861
【N1002】 コミュニティマネジメント入門 [水野 雅男、関司 直也、土肥 将敦、佐野 竜平、野田 岳仁] 春学 期授業/Spring.....	1862
【N1003】 社会問題論 [高良 麻子] 春学期授業/Spring.....	1863
【N1050】 福祉国家論 [布川 日佐史] 秋学期授業/Fall.....	1864
【N1052】 社会的包摂論 [水野 雅男] 秋学期授業/Fall.....	1865
【N1053】 地域計画論 [今井 裕久] 秋学期授業/Fall.....	1866
【N1054】 コミュニティビジネス論 [土肥 将敦] 秋学期授業/Fall.....	1867
【N1055】 ローカルイノベーション論 [野田 岳仁、水野 雅男、関司 直也、土肥 将敦] 秋学期授業/Fall.....	1868
【N1101】 社会福祉原理 [渡辺 寛人] 秋学期授業/Fall.....	1869
【N1102】 医療政策論 [小磯 明] 春学期授業/Spring.....	1870
【N1107】 都市住宅政策論 [水野 雅男] 春学期授業/Spring.....	1871
【N1108】 地域文化政策論 [須田 英一] 春学期授業/Spring.....	1872
【N1109】 環境政策論 [藤澤 浩子] 春学期授業/Spring.....	1873
【N1110】 地方自治論 [中嶋 学] 秋学期授業/Fall.....	1874
【N1113】 地域経済論 [関司 直也] 秋学期授業/Fall.....	1875
【N1115】 福祉の思想と歴史 [白川 耕一] 春学期授業/Spring.....	1876
【N1116】 国際協力論 [佐野 竜平] 秋学期授業/Fall.....	1877
【N1151・N6151】 地域経営論 [松本 昭] 春学期授業/Spring.....	1878
【N1152】 ソーシャルイノベーション論 [土肥 将敦] 春学期授業/Spring.....	1879
【N1153】 ソーシャルマネジメント論 [樋口 邦史] 春学期授業/Spring.....	1880
【N1154】 ソーシャルファイナンス論 [徳永 洋子] 春学期授業/Spring.....	1881
【N1155・N6155】 NPO論 [渡真利 絃一] 春学期授業/Spring.....	1882
【N1156】 協同組合論 [西井 賢悟] 秋学期授業/Fall.....	1883
【N1158】 居住福祉論 [大原 一興] 春学期授業/Spring.....	1884
【N1160】 人権活動論 [寺中 誠] 春学期授業/Spring.....	1885
【N1161】 農山村とコミュニティ [関司 直也] 春学期授業/Spring.....	1886
【N1162・N6162】 コミュニティアート [吉野 裕之] 秋学期授業/Fall.....	1887
【N1164】 地域遺産マネジメント論 [須田 英一] 春学期授業/Spring.....	1888
【N1165・N6165】 地域ツーリズム [野田 岳仁] 秋学期授業/Fall.....	1889
【N1166】 住民参加の手法 [杉崎 和久] 春学期授業/Spring.....	1890
【N1206】 老いの文化と福祉 [金 慧英] 秋学期授業/Fall.....	1891
【N1208】 セルフヘルプグループ [横川 剛毅] 春学期授業/Spring.....	1892
【N1211】 多文化ソーシャルワーク [中條 桂子] 春学期授業/Spring.....	1893
【N1212】 死生観とソーシャルワーク [佐藤 蘭美] 春学期授業/Spring.....	1894
【N1219】 家族心理学 [松本 聡子] 秋学期授業/Fall.....	1895
【N1223】 異文化心理学 [奥山 今日子] 春学期授業/Spring.....	1896
【N1225】 教育心理学特講 [大瀧 玲子] サマーセッション/Summer Session.....	1897

【N1453】 心理療法 [久保田 幹子] 春学期授業/Spring	1898
【N1505】 臨床心理学特講 [末武 康弘] 秋学期授業/Fall	1899
【N1506】 精神分析学 [中 康] 秋学期授業/Fall	1900
【N1507】 児童精神医学 [関谷 秀子] 春学期授業/Spring	1901
【N1508】 認知行動療法 [金築 優] 秋学期授業/Fall	1902
【N1512】 グループアプローチ [大竹 直子] 秋学期授業/Fall	1903
【N1608】 精神生理学特講 [望月 聡] 春学期授業/Spring	1904
【N1609】 認知心理学特講 [望月 聡] 秋学期授業/Fall	1905
【N6155】 NPO論 [渡真利 紘一] 春学期授業/Spring	1906
【N8001】 ケアマネジメント論 [柴崎 祐美] 春学期授業/Spring	1907
【N8004】 文化環境創造論 [須田 英一] 秋学期授業/Fall	1908
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 選択基盤科目_0群 (自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等) 【Q0101】 情報処理演習Ⅰ [吉岡 卓] 春学期授業/Spring	1909
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_0群 (自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等) 【Q0102】 情報処理演習Ⅱ [吉岡 卓] 秋学期授業/Fall	1910
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 選択基盤科目_0群 (自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等) 【Q0103】 情報処理演習Ⅰ [吉岡 卓] 春学期授業/Spring	1911
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_0群 (自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等) 【Q0104】 情報処理演習Ⅱ [吉岡 卓] 秋学期授業/Fall	1912
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 選択基盤科目_0群 (自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等) 【Q0105】 情報処理演習Ⅰ [吉岡 卓] 春学期授業/Spring	1913
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_0群 (自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等) 【Q0106】 情報処理演習Ⅱ [吉岡 卓] 秋学期授業/Fall	1914
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 選択基盤科目_0群 (自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等) 【Q0107】 情報処理演習Ⅰ [吉岡 卓] 春学期授業/Spring	1915
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_0群 (自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等) 【Q0108】 情報処理演習Ⅱ [吉岡 卓] 秋学期授業/Fall	1916
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 選択基盤科目_0群 (自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等) 【Q0109】 情報処理演習Ⅰ [中村 文隆] 春学期授業/Spring	1917
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_0群 (自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等) 【Q0110】 情報処理演習Ⅱ [中村 文隆] 秋学期授業/Fall	1918
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 選択基盤科目_0群 (自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等) 【Q0111】 情報処理演習Ⅰ [中村 文隆] 春学期授業/Spring	1919
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_0群 (自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等) 【Q0112】 情報処理演習Ⅱ [中村 文隆] 秋学期授業/Fall	1920
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 選択基盤科目_0群 (自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等) 【Q0113】 情報処理演習Ⅰ [河内谷 幸子] 春学期授業/Spring	1921
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_0群 (自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等) 【Q0114】 情報処理演習Ⅱ [河内谷 幸子] 秋学期授業/Fall	1923
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 選択基盤科目_0群 (自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等) 【Q0115】 情報処理演習Ⅰ [岡嶋 裕史] 春学期授業/Spring	1925
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_0群 (自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等) 【Q0116】 情報処理演習Ⅱ [岡嶋 裕史] 秋学期授業/Fall	1926
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 選択基盤科目_0群 (自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等) 【Q0117】 情報処理演習Ⅰ [岡嶋 裕史] 春学期授業/Spring	1927
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_0群 (自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等) 【Q0118】 情報処理演習Ⅱ [岡嶋 裕史] 秋学期授業/Fall	1928
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 選択基盤科目_0群 (自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等) 【Q0119】 情報処理演習Ⅰ [重定 如彦] 春学期授業/Spring	1929
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_0群 (自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等) 【Q0120】 情報処理演習Ⅱ [重定 如彦] 秋学期授業/Fall	1931
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 選択基盤科目_0群 (自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等) 【Q0121】 情報処理演習Ⅰ [重定 如彦] 春学期授業/Spring	1933
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_0群 (自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等) 【Q0122】 情報処理演習Ⅱ [重定 如彦] 秋学期授業/Fall	1935
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 選択基盤科目_0群 (自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等) 【Q0127】 情報処理演習Ⅰ [河内谷 幸子] 春学期授業/Spring	1937

2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台リベラルアーツ科目_0群(自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等)【Q0128】情報処理演習Ⅱ〔河内谷 幸子〕秋学期授業/Fall.....	1939
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台選択基盤科目_0群(自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等)【Q0129】情報処理演習Ⅰ〔河内谷 幸子〕春学期授業/Spring.....	1941
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台リベラルアーツ科目_0群(自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等)【Q0130】情報処理演習Ⅱ〔河内谷 幸子〕秋学期授業/Fall.....	1943
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台選択基盤科目_0群(自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等)【Q0135】情報処理演習Ⅰ〔名見耶 厚〕春学期授業/Spring.....	1945
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台リベラルアーツ科目_0群(自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等)【Q0136】情報処理演習Ⅱ〔名見耶 厚〕秋学期授業/Fall.....	1946
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台選択基盤科目_0群(自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等)【Q0137】情報処理演習Ⅰ〔名見耶 厚〕春学期授業/Spring.....	1947
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台リベラルアーツ科目_0群(自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等)【Q0138】情報処理演習Ⅱ〔名見耶 厚〕秋学期授業/Fall.....	1948
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台選択基盤科目_0群(自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等)【Q0139】情報処理演習Ⅰ〔名見耶 厚〕春学期授業/Spring.....	1949
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台リベラルアーツ科目_0群(自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等)【Q0140】情報処理演習Ⅱ〔名見耶 厚〕秋学期授業/Fall.....	1950
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台選択基盤科目_0群(自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等)【Q0141】情報処理演習Ⅰ〔名見耶 厚〕春学期授業/Spring.....	1951
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台リベラルアーツ科目_0群(自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等)【Q0142】情報処理演習Ⅱ〔名見耶 厚〕秋学期授業/Fall.....	1952
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台選択基盤科目_0群(自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等)【Q0143】情報処理演習Ⅰ〔星 善光〕春学期授業/Spring.....	1953
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台リベラルアーツ科目_0群(自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等)【Q0144】情報処理演習Ⅱ〔星 善光〕秋学期授業/Fall.....	1954
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台選択基盤科目_0群(自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等)【Q0145】情報処理演習Ⅰ〔星 善光〕春学期授業/Spring.....	1955
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台リベラルアーツ科目_0群(自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等)【Q0146】情報処理演習Ⅱ〔星 善光〕秋学期授業/Fall.....	1956
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台選択基盤科目_0群(自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等)【Q0301】情報処理演習〔大間 哲〕春学期授業/Spring.....	1957
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台選択基盤科目_0群(自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等)【Q0303】情報処理演習〔寺澤 信雄〕春学期授業/Spring.....	1959
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台選択基盤科目_0群(自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等)【Q0305】情報処理演習〔寺澤 信雄〕春学期授業/Spring.....	1961
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台選択基盤科目_0群(自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等)【Q0307】情報処理演習〔御園生 純〕春学期授業/Spring.....	1963
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台選択基盤科目_0群(自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等)【Q0501】大学を知ろう <法政学>への招待〔小林 ふみ子、金子 匡良〕春学期授業/Spring.....	1965
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台リベラルアーツ科目_0群(自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等)【Q0504】法政学の探究L A〔高柳 俊男、北口 由望〕秋学期授業/Fall.....	1967
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台選択基盤科目_0群(自校教育、基礎ゼミ、情報、キャリア教育関連科目等)【Q0621】リベラルアーツ特別講座〔コーディネータ：渡辺昭太、講師(ゲストスピーカー)：イオンフィナンシャルサービスグループ〕春学期授業/Spring.....	1969
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台基盤科目_1群(人文分野)【Q1001】日本古典文学A〔表 きよし〕春学期授業/Spring.....	1970
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台基盤科目_1群(人文分野)【Q1002】日本古典文学B〔表 きよし〕秋学期授業/Fall.....	1972
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台基盤科目_1群(人文分野)【Q1003】日本古典文学A〔園 明美〕春学期授業/Spring.....	1974
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台基盤科目_1群(人文分野)【Q1004】日本古典文学B〔園 明美〕秋学期授業/Fall.....	1975
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台基盤科目_1群(人文分野)【Q1005】日本古典文学A〔成島 知子〕春学期授業/Spring.....	1976
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台基盤科目_1群(人文分野)【Q1006】日本古典文学B〔成島 知子〕秋学期授業/Fall.....	1978

2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_1群(人文分野)【Q1007】日本古典文学A〔成島 知子〕春学期授業/Spring	1980
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_1群(人文分野)【Q1008】日本古典文学B〔成島 知子〕秋学期授業/Fall	1982
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_1群(人文分野)【Q1009】日本近・現代文学A〔細沼 祐介〕春学期授業/Spring	1984
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_1群(人文分野)【Q1010】日本近・現代文学B〔細沼 祐介〕秋学期授業/Fall	1985
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_1群(人文分野)【Q1013】日本文学A〔島田 雅彦〕春学期授業/Spring	1986
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_1群(人文分野)【Q1014】日本文学B〔島田 雅彦〕秋学期授業/Fall	1987
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_1群(人文分野)【Q1015】日本文学A〔佐藤 未央子〕春学期授業/Spring	1988
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_1群(人文分野)【Q1016】日本文学B〔佐藤 未央子〕秋学期授業/Fall	1989
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_1群(人文分野)【Q1017】外国文学A〔D. ハイデンライヒ〕春学期授業/Spring	1990
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_1群(人文分野)【Q1018】外国文学B〔D. ハイデンライヒ〕秋学期授業/Fall	1991
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_1群(人文分野)【Q1019】外国文学A〔近江屋 志穂〕春学期授業/Spring	1992
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_1群(人文分野)【Q1020】外国文学B〔近江屋 志穂〕秋学期授業/Fall	1993
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_1群(人文分野)【Q1021】外国文学A〔吉井 涼子〕春学期授業/Spring	1994
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_1群(人文分野)【Q1022】外国文学B〔吉井 涼子〕秋学期授業/Fall	1996
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_1群(人文分野)【Q1023】外国文学A〔吉井 涼子〕春学期授業/Spring	1998
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_1群(人文分野)【Q1024】外国文学B〔吉井 涼子〕秋学期授業/Fall	2000
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_1群(人文分野)【Q1025】外国文学A〔梁 禮先〕春学期授業/Spring	2002
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_1群(人文分野)【Q1026】外国文学B〔梁 禮先〕秋学期授業/Fall	2003
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_1群(人文分野)【Q1027】日本近・現代文学A〔細沼 祐介〕春学期授業/Spring	2004
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_1群(人文分野)【Q1028】日本近・現代文学B〔細沼 祐介〕秋学期授業/Fall	2005
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_1群(人文分野)【Q1061】文章論〔安藤 優一〕春学期授業/Spring	2006
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_1群(人文分野)【Q1062】文章論〔関口 雄士〕春学期授業/Spring	2007
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_1群(人文分野)【Q1063】文章論〔関口 雄士〕春学期授業/Spring	2008
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_1群(人文分野)【Q1064】文章論〔関口 雄士〕秋学期授業/Fall	2009
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_1群(人文分野)【Q1065】文章論〔細沼 祐介〕春学期授業/Spring	2010
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_1群(人文分野)【Q1069】文章論〔細沼 祐介〕秋学期授業/Fall	2011
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_1群(人文分野)【Q1081】言語学A〔板井 美佐〕春学期授業/Spring	2012
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_1群(人文分野)【Q1082】言語学B〔板井 美佐〕秋学期授業/Fall	2013
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_1群(人文分野)【Q1083】言語学A〔副島 健作〕春学期授業/Spring	2014

2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_1群(人文分野)【Q1084】言語学B [副島 健作] 秋学期授業/Fall	2016
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_1群(人文分野)【Q1085】言語学A [齊藤 雄介] 春学期授業/Spring	2018
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_1群(人文分野)【Q1086】言語学B [齊藤 雄介] 秋学期授業/Fall	2019
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_1群(人文分野)【Q1091】哲学I [佐藤 真人] 春学期授業/Spring	2020
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_1群(人文分野)【Q1092】哲学II [佐藤 真人] 秋学期授業/Fall	2021
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_1群(人文分野)【Q1093】哲学I [計良 隆世] 春学期授業/Spring	2022
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_1群(人文分野)【Q1094】哲学II [計良 隆世] 秋学期授業/Fall	2023
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_1群(人文分野)【Q1095】哲学I [計良 隆世] 春学期授業/Spring	2024
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_1群(人文分野)【Q1096】哲学II [計良 隆世] 秋学期授業/Fall	2025
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_1群(人文分野)【Q1097】哲学I [近堂 秀] 春学期授業/Spring	2026
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_1群(人文分野)【Q1098】哲学II [近堂 秀] 秋学期授業/Fall	2027
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_1群(人文分野)【Q1099】哲学I [伊藤 功] 春学期授業/Spring	2028
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_1群(人文分野)【Q1100】哲学II [伊藤 功] 秋学期授業/Fall	2029
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_1群(人文分野)【Q1101】哲学I [谷口 力] 春学期授業/Spring	2030
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_1群(人文分野)【Q1102】哲学II [谷口 力] 秋学期授業/Fall	2031
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_1群(人文分野)【Q1103】哲学I [大西 正人] 春学期授業/Spring	2032
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_1群(人文分野)【Q1104】哲学II [大西 正人] 秋学期授業/Fall	2033
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_1群(人文分野)【Q1105】哲学I [近堂 秀] 春学期授業/Spring	2034
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_1群(人文分野)【Q1106】哲学II [近堂 秀] 秋学期授業/Fall	2035
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_1群(人文分野)【Q1107】哲学I [越部 良一] 春学期授業/Spring	2036
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_1群(人文分野)【Q1108】哲学II [越部 良一] 秋学期授業/Fall	2037
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_1群(人文分野)【Q1109】哲学I [伊藤 功] 春学期授業/Spring	2038
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_1群(人文分野)【Q1110】哲学II [伊藤 功] 秋学期授業/Fall	2039
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_1群(人文分野)【Q1121】倫理学I [越部 良一] 春学期授業/Spring	2040
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_1群(人文分野)【Q1122】倫理学II [越部 良一] 秋学期授業/Fall	2041
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_1群(人文分野)【Q1123】倫理学I [杉本 隆久] 春学期授業/Spring	2042
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_1群(人文分野)【Q1124】倫理学II [杉本 隆久] 秋学期授業/Fall	2043
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_1群(人文分野)【Q1125】倫理学I [伊藤 直樹] 春学期授業/Spring	2044
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_1群(人文分野)【Q1126】倫理学II [伊藤 直樹] 秋学期授業/Fall	2045
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_1群(人文分野)【Q1127】倫理学I [田島 樹里奈] 春学期授業/Spring	2046
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_1群(人文分野)【Q1128】倫理学II [田島 樹里奈] 秋学期授業/Fall	2048
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_1群(人文分野)【Q1129】倫理学I [森村 修] 春学期授業/Spring	2050
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_1群(人文分野)【Q1130】倫理学II [森村 修] 秋学期授業/Fall	2051
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_1群(人文分野)【Q1131】倫理学I [佐藤 英明] 春学期授業/Spring	2052
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_1群(人文分野)【Q1132】倫理学II [佐藤 英明] 秋学期授業/Fall	2053
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_1群(人文分野)【Q1133】倫理学I [越部 良一] 春学期授業/Spring	2054

2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_1群(人文分野)【Q1134】倫理学Ⅱ [越部 良一] 秋学期授業/Fall	2055
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_1群(人文分野)【Q1141】論理学Ⅰ [大西 正人] 春学期授業/Spring	2056
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_1群(人文分野)【Q1142】論理学Ⅱ [大西 正人] 秋学期授業/Fall	2057
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_1群(人文分野)【Q1143】論理学Ⅰ [白根 裕里枝] 春学期授業/Spring	2058
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_1群(人文分野)【Q1144】論理学Ⅱ [白根 裕里枝] 秋学期授業/Fall	2059
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_1群(人文分野)【Q1145】論理学Ⅰ [計良 隆世] 春学期授業/Spring	2060
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_1群(人文分野)【Q1146】論理学Ⅱ [計良 隆世] 秋学期授業/Fall	2062
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_1群(人文分野)【Q1147】論理学Ⅰ [鶴澤 和彦] 春学期授業/Spring	2064
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_1群(人文分野)【Q1148】論理学Ⅱ [鶴澤 和彦] 秋学期授業/Fall	2066
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_1群(人文分野)【Q1149】論理学Ⅰ [大貫 義久] 春学期授業/Spring	2067
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_1群(人文分野)【Q1150】論理学Ⅱ [大貫 義久] 秋学期授業/Fall	2068
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_1群(人文分野)【Q1151】論理学Ⅰ [計良 隆世] 春学期授業/Spring	2069
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_1群(人文分野)【Q1152】論理学Ⅱ [計良 隆世] 秋学期授業/Fall	2071
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_1群(人文分野)【Q1153】論理学Ⅰ [菅沢 龍文] 春学期授業/Spring	2073
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_1群(人文分野)【Q1154】論理学Ⅱ [菅沢 龍文] 秋学期授業/Fall	2075
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_1群(人文分野)【Q1155】論理学Ⅰ [計良 隆世] 春学期授業/Spring	2077
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_1群(人文分野)【Q1156】論理学Ⅱ [計良 隆世] 秋学期授業/Fall	2079
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_1群(人文分野)【Q1161】東洋史Ⅰ [齋藤 勝] 春学期授業/Spring	2081
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_1群(人文分野)【Q1162】東洋史Ⅱ [齋藤 勝] 秋学期授業/Fall	2082
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_1群(人文分野)【Q1163】東洋史Ⅰ [齋藤 勝] 春学期授業/Spring	2083
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_1群(人文分野)【Q1164】東洋史Ⅱ [齋藤 勝] 秋学期授業/Fall	2084
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_1群(人文分野)【Q1165】東洋史Ⅰ [板橋 暁子] 春学期授業/Spring	2085
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_1群(人文分野)【Q1166】東洋史Ⅱ [板橋 暁子] 秋学期授業/Fall	2086
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_1群(人文分野)【Q1167】東洋史Ⅰ [齋藤 勝] 春学期授業/Spring	2087
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_1群(人文分野)【Q1168】東洋史Ⅱ [齋藤 勝] 秋学期授業/Fall	2088
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_1群(人文分野)【Q1169】東洋史Ⅰ [板橋 暁子] 春学期授業/Spring	2089
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_1群(人文分野)【Q1170】東洋史Ⅱ [板橋 暁子] 秋学期授業/Fall	2090
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_1群(人文分野)【Q1181】西洋史Ⅰ [大澤 広晃] 春学期授業/Spring	2091
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_1群(人文分野)【Q1182】西洋史Ⅱ [大澤 広晃] 秋学期授業/Fall	2092
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_1群(人文分野)【Q1183】西洋史Ⅰ [大澤 広晃] 春学期授業/Spring	2093

2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_1群 (人文分野) 【Q1184】西洋史Ⅱ [大澤 広晃] 秋学期授業/Fall	2094
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_1群 (人文分野) 【Q1185】西洋史Ⅰ [内川 勇海] 春学期授業/Spring	2095
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_1群 (人文分野) 【Q1186】西洋史Ⅱ [渡辺 知] 秋学期授業/Fall	2096
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_1群 (人文分野) 【Q1187】西洋史Ⅰ [内川 勇海] 春学期授業/Spring	2097
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_1群 (人文分野) 【Q1188】西洋史Ⅱ [渡辺 知] 秋学期授業/Fall	2098
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_1群 (人文分野) 【Q1201】日本史Ⅰ [根崎 光男] 春学期授業/Spring	2099
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_1群 (人文分野) 【Q1202】日本史Ⅱ [根崎 光男] 秋学期授業/Fall	2100
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_1群 (人文分野) 【Q1203】日本史Ⅰ [小口 雅史] 春学期授業/Spring	2101
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_1群 (人文分野) 【Q1204】日本史Ⅱ [小口 雅史] 秋学期授業/Fall	2103
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_1群 (人文分野) 【Q1205】日本史Ⅰ [小口 雅史] 春学期授業/Spring	2105
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_1群 (人文分野) 【Q1206】日本史Ⅱ [小口 雅史] 秋学期授業/Fall	2107
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_1群 (人文分野) 【Q1207】日本史Ⅰ [真辺 美佐] 春学期授業/Spring	2109
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_1群 (人文分野) 【Q1208】日本史Ⅱ [真辺 美佐] 秋学期授業/Fall	2110
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_1群 (人文分野) 【Q1209】日本史Ⅰ [小口 雅史] 春学期授業/Spring	2111
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_1群 (人文分野) 【Q1210】日本史Ⅱ [小口 雅史] 秋学期授業/Fall	2113
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_1群 (人文分野) 【Q1211】日本史Ⅰ [根崎 光男] 春学期授業/Spring	2115
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_1群 (人文分野) 【Q1212】日本史Ⅱ [根崎 光男] 秋学期授業/Fall	2116
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_1群 (人文分野) 【Q1221】宗教論Ⅰ [榎本 香織] 春学期授業/Spring	2117
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_1群 (人文分野) 【Q1222】宗教論Ⅱ [榎本 香織] 秋学期授業/Fall	2118
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_1群 (人文分野) 【Q1223】宗教論Ⅰ [古澤 有峰] 春学期授業/Spring	2119
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_1群 (人文分野) 【Q1224】宗教論Ⅱ [古澤 有峰] 秋学期授業/Fall	2120
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_1群 (人文分野) 【Q1231】芸術A [嘉藤 笑子] 春学期授業/Spring	2121
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_1群 (人文分野) 【Q1232】芸術B [嘉藤 笑子] 秋学期授業/Fall	2123
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_1群 (人文分野) 【Q1233】芸術A [小澤 慶介] 春学期授業/Spring	2125
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_1群 (人文分野) 【Q1234】芸術B [小澤 慶介] 秋学期授業/Fall	2126
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_1群 (人文分野) 【Q1235】芸術A [中川 三千代] 春学期授業/Spring	2127
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_1群 (人文分野) 【Q1236】芸術B [中川 三千代] 秋学期授業/Fall	2129
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_1群 (人文分野) 【Q1301】日本文学と文化L A [阿部 真弓] 春学期授業/Spring	2131
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_1群 (人文分野) 【Q1302】日本文学と文化L B [阿部 真弓] 秋学期授業/Fall	2132
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_1群 (人文分野) 【Q1303】日本文学と文化L C [今泉 隆裕] 春学期授業/Spring	2133

2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台リベラルアーツ科目_1群(人文分野)【Q1304】日本文学と文化LD [今泉 隆裕] 秋学期授業/Fall	2135
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台リベラルアーツ科目_1群(人文分野)【Q1305】日本文学と文化LE [伊海 孝充] 春学期授業/Spring	2137
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台リベラルアーツ科目_1群(人文分野)【Q1306】日本文学と文化LF [伊海 孝充] 秋学期授業/Fall	2138
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台リベラルアーツ科目_1群(人文分野)【Q1307】日本文学と文化LG [榎本 正樹] 春学期授業/Spring	2139
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台リベラルアーツ科目_1群(人文分野)【Q1308】日本文学と文化LH [榎本 正樹] 秋学期授業/Fall	2141
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台リベラルアーツ科目_1群(人文分野)【Q1309】外国文学と文化LA [鈴木 正道] 春学期授業/Spring	2143
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台リベラルアーツ科目_1群(人文分野)【Q1310】外国文学と文化LB [鈴木 正道] 秋学期授業/Fall	2145
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台リベラルアーツ科目_1群(人文分野)【Q1311】外国文学と文化LC [日原 傳] 春学期授業/Spring	2147
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台リベラルアーツ科目_1群(人文分野)【Q1312】外国文学と文化LD [日原 傳] 秋学期授業/Fall	2148
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台リベラルアーツ科目_1群(人文分野)【Q1313】外国文学と文化LE [大崎 さやの] 春学期授業/Spring	2149
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台リベラルアーツ科目_1群(人文分野)【Q1314】外国文学と文化LF [大崎 さやの] 秋学期授業/Fall	2150
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台リベラルアーツ科目_1群(人文分野)【Q1315】文学と社会LA [梶裕史] 春学期授業/Spring	2151
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台リベラルアーツ科目_1群(人文分野)【Q1316】文学と社会LB [梶裕史] 秋学期授業/Fall	2153
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台リベラルアーツ科目_1群(人文分野)【Q1319】文学と社会LC [白戸満喜子] 春学期授業/Spring	2154
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台リベラルアーツ科目_1群(人文分野)【Q1320】文学と社会LD [白戸満喜子] 秋学期授業/Fall	2155
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台リベラルアーツ科目_1群(人文分野)【Q1321】文学と社会LE [中澤忠之] 春学期授業/Spring	2157
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台リベラルアーツ科目_1群(人文分野)【Q1322】文学と社会LF [中澤忠之] 秋学期授業/Fall	2158
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台リベラルアーツ科目_1群(人文分野)【Q1323】日本文学と文化LG [榎本 正樹] 春学期授業/Spring	2159
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台リベラルアーツ科目_1群(人文分野)【Q1324】日本文学と文化LH [榎本 正樹] 秋学期授業/Fall	2161
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台リベラルアーツ科目_1群(人文分野)【Q1362】音声学L [副島 健作] 秋学期授業/Fall	2163
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台リベラルアーツ科目_1群(人文分野)【Q1381】哲学LI [大西 正人] 春学期授業/Spring	2164
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台リベラルアーツ科目_1群(人文分野)【Q1382】哲学LII [大西 正人] 秋学期授業/Fall	2165
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台リベラルアーツ科目_1群(人文分野)【Q1383】哲学LI [白根 裕里枝] 春学期授業/Spring	2166
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台リベラルアーツ科目_1群(人文分野)【Q1384】哲学LII [白根 裕里枝] 秋学期授業/Fall	2167
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台リベラルアーツ科目_1群(人文分野)【Q1391】倫理学LI [森村 修] 春学期授業/Spring	2168
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台リベラルアーツ科目_1群(人文分野)【Q1392】倫理学LII [森村 修] 秋学期授業/Fall	2170
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台リベラルアーツ科目_1群(人文分野)【Q1393】倫理学LI [佐藤 英明] 春学期授業/Spring	2172
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台リベラルアーツ科目_1群(人文分野)【Q1394】倫理学LII [佐藤 英明] 秋学期授業/Fall	2173

2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台リベラルアーツ科目_1群(人文分野)【Q1395】倫理学L I [杉本 隆久] 春学期授業/Spring.....	2174
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台リベラルアーツ科目_1群(人文分野)【Q1396】倫理学L II [杉本 隆久] 秋学期授業/Fall.....	2176
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台リベラルアーツ科目_1群(人文分野)【Q1397】倫理学L I [伊藤 直樹] 春学期授業/Spring.....	2178
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台リベラルアーツ科目_1群(人文分野)【Q1398】倫理学L II [伊藤 直樹] 秋学期授業/Fall.....	2179
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台リベラルアーツ科目_1群(人文分野)【Q1399】倫理学L I [田島 樹里奈] 春学期授業/Spring.....	2180
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台リベラルアーツ科目_1群(人文分野)【Q1400】倫理学L II [田島 樹里奈] 秋学期授業/Fall.....	2182
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台リベラルアーツ科目_1群(人文分野)【Q1401】倫理学L I [吉永 明弘] 春学期授業/Spring.....	2184
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台リベラルアーツ科目_1群(人文分野)【Q1402】倫理学L II [吉永 明弘] 秋学期授業/Fall.....	2185
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台リベラルアーツ科目_1群(人文分野)【Q1411】論理学L I [佐々木 護] 春学期授業/Spring.....	2186
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台リベラルアーツ科目_1群(人文分野)【Q1412】論理学L II [佐々木 護] 秋学期授業/Fall.....	2187
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台リベラルアーツ科目_1群(人文分野)【Q1421】東洋史L I [齋藤 勝] 春学期授業/Spring.....	2188
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台リベラルアーツ科目_1群(人文分野)【Q1422】東洋史L II [齋藤 勝] 秋学期授業/Fall.....	2189
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台リベラルアーツ科目_1群(人文分野)【Q1423】東洋史L I [長谷部 圭彦] 春学期授業/Spring.....	2190
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台リベラルアーツ科目_1群(人文分野)【Q1424】東洋史L II [長谷部 圭彦] 秋学期授業/Fall.....	2191
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台リベラルアーツ科目_1群(人文分野)【Q1431】西洋史L A [内田 康太] 春学期授業/Spring.....	2192
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台リベラルアーツ科目_1群(人文分野)【Q1432】西洋史L B [高澤 紀恵] 秋学期授業/Fall.....	2193
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台リベラルアーツ科目_1群(人文分野)【Q1433】西洋史L A [新井 隆] 春学期授業/Spring.....	2194
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台リベラルアーツ科目_1群(人文分野)【Q1434】西洋史L B [新井 隆] 秋学期授業/Fall.....	2196
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台リベラルアーツ科目_1群(人文分野)【Q1435】西洋史L A [渡辺 知] 春学期授業/Spring.....	2199
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台リベラルアーツ科目_1群(人文分野)【Q1436】西洋史L B [内川 勇海] 秋学期授業/Fall.....	2200
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台リベラルアーツ科目_1群(人文分野)【Q1437】西洋史L A [渡辺 知] 春学期授業/Spring.....	2201
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台リベラルアーツ科目_1群(人文分野)【Q1438】西洋史L B [内川 勇海] 秋学期授業/Fall.....	2202
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台リベラルアーツ科目_1群(人文分野)【Q1441】日本史L I [森 朋久] 春学期授業/Spring.....	2203
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台リベラルアーツ科目_1群(人文分野)【Q1442】日本史L II [森 朋久] 秋学期授業/Fall.....	2204
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台リベラルアーツ科目_1群(人文分野)【Q1443】日本史L I [仁平 義孝] 春学期授業/Spring.....	2205
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台リベラルアーツ科目_1群(人文分野)【Q1444】日本史L II [仁平 義孝] 秋学期授業/Fall.....	2206
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台リベラルアーツ科目_1群(人文分野)【Q1445】日本史L I [貫井 裕恵] 春学期授業/Spring.....	2207
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台リベラルアーツ科目_1群(人文分野)【Q1446】日本史L II [貫井 裕恵] 秋学期授業/Fall.....	2208

2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台リベラルアーツ科目_1群(人文分野)【Q1447】日本史LⅠ [鈴木 多聞] 春学期授業/Spring	2209
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台リベラルアーツ科目_1群(人文分野)【Q1448】日本史LⅡ [鈴木 多聞] 秋学期授業/Fall	2210
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台リベラルアーツ科目_1群(人文分野)【Q1451】宗教論LⅠ [古澤 有峰] 春学期授業/Spring	2211
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台リベラルアーツ科目_1群(人文分野)【Q1452】宗教論LⅡ [古澤 有峰] 秋学期授業/Fall	2212
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台基盤科目_2群(社会分野)【Q2001】法学Ⅰ [山本 圭子] 春学期授業/Spring	2213
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台基盤科目_2群(社会分野)【Q2002】法学Ⅱ [山本 圭子] 秋学期授業/Fall	2214
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台基盤科目_2群(社会分野)【Q2003】法学Ⅰ [山口 哲史] 春学期授業/Spring	2215
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台基盤科目_2群(社会分野)【Q2004】法学Ⅱ [山口 哲史] 秋学期授業/Fall	2216
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台基盤科目_2群(社会分野)【Q2005】法学Ⅰ [内藤 淳] 春学期授業/Spring	2217
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台基盤科目_2群(社会分野)【Q2006】法学Ⅱ [内藤 淳] 秋学期授業/Fall	2218
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台基盤科目_2群(社会分野)【Q2007】法学Ⅰ [内藤 淳] 春学期授業/Spring	2219
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台基盤科目_2群(社会分野)【Q2008】法学Ⅱ [内藤 淳] 秋学期授業/Fall	2220
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台基盤科目_2群(社会分野)【Q2009】法学Ⅰ [陳 志明] 春学期授業/Spring	2221
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台基盤科目_2群(社会分野)【Q2010】法学Ⅱ [陳 志明] 秋学期授業/Fall	2222
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台基盤科目_2群(社会分野)【Q2011】法学Ⅰ [水野 圭子] 春学期授業/Spring	2223
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台基盤科目_2群(社会分野)【Q2012】法学Ⅱ [水野 圭子] 秋学期授業/Fall	2225
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台基盤科目_2群(社会分野)【Q2013】法学Ⅰ [金子 匡良] 春学期授業/Spring	2227
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台基盤科目_2群(社会分野)【Q2014】法学Ⅱ [金子 匡良] 秋学期授業/Fall	2228
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台基盤科目_2群(社会分野)【Q2017】法学Ⅰ [菅谷 麻衣] 春学期授業/Spring	2229
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台基盤科目_2群(社会分野)【Q2018】法学Ⅱ [菅谷 麻衣] 秋学期授業/Fall	2230
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台基盤科目_2群(社会分野)【Q2031】法学(日本国憲法) [金子 匡良] 春学期授業/Spring	2231
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台基盤科目_2群(社会分野)【Q2032】法学(日本国憲法) [金子 匡良] 秋学期授業/Fall	2232
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台基盤科目_2群(社会分野)【Q2033】法学(日本国憲法) [茂木 洋平] 春学期授業/Spring	2233
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台基盤科目_2群(社会分野)【Q2034】法学(日本国憲法) [茂木 洋平] 秋学期授業/Fall	2234
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台基盤科目_2群(社会分野)【Q2041】経済学Ⅰ [玉之内 直] 春学期授業/Spring	2235
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台基盤科目_2群(社会分野)【Q2042】経済学Ⅱ [玉之内 直] 秋学期授業/Fall	2236
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台基盤科目_2群(社会分野)【Q2043】経済学Ⅰ [千葉 千尋] 春学期授業/Spring	2237
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台基盤科目_2群(社会分野)【Q2044】経済学Ⅱ [千葉 千尋] 秋学期授業/Fall	2238
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台基盤科目_2群(社会分野)【Q2045】経済学Ⅰ [関口 駿輔] 春学期授業/Spring	2239
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台基盤科目_2群(社会分野)【Q2046】経済学Ⅱ [梅溪 健児] 秋学期授業/Fall	2240
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台基盤科目_2群(社会分野)【Q2049】経済学Ⅰ [玉之内 直] 春学期授業/Spring	2241
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台基盤科目_2群(社会分野)【Q2050】経済学Ⅱ [玉之内 直] 秋学期授業/Fall	2242
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台基盤科目_2群(社会分野)【Q2061】マクロ経済学Ⅰ [平田 英明] 春学期授業/Spring	2243
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台基盤科目_2群(社会分野)【Q2062】マクロ経済学Ⅱ [平田 英明] 秋学期授業/Fall	2245

2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_2群(社会分野)【Q2063】マクロ経済学Ⅰ [平田 英明] 春学期授業/Spring	2247
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_2群(社会分野)【Q2064】マクロ経済学Ⅱ [平田 英明] 秋学期授業/Fall	2249
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_2群(社会分野)【Q2071】心理学Ⅰ [宇野 カオリ] 春学期授業/Spring	2251
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_2群(社会分野)【Q2072】心理学Ⅱ [宇野 カオリ] 秋学期授業/Fall	2253
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_2群(社会分野)【Q2073】心理学Ⅰ [櫻井 登世子] 春学期授業/Spring	2255
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_2群(社会分野)【Q2074】心理学Ⅱ [櫻井 登世子] 秋学期授業/Fall	2256
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_2群(社会分野)【Q2075】心理学Ⅰ [宇野 カオリ] 春学期授業/Spring	2257
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_2群(社会分野)【Q2076】心理学Ⅱ [宇野 カオリ] 秋学期授業/Fall	2259
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_2群(社会分野)【Q2077】心理学Ⅰ [浅川 希洋志] 春学期授業/Spring	2261
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_2群(社会分野)【Q2078】心理学Ⅱ [浅川 希洋志] 秋学期授業/Fall	2262
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_2群(社会分野)【Q2079】心理学Ⅰ [浅川 希洋志] 春学期授業/Spring	2264
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_2群(社会分野)【Q2080】心理学Ⅱ [浅川 希洋志] 秋学期授業/Fall	2265
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_2群(社会分野)【Q2081】心理学Ⅰ [宇野 カオリ] 春学期授業/Spring	2267
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_2群(社会分野)【Q2082】心理学Ⅱ [宇野 カオリ] 秋学期授業/Fall	2269
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_2群(社会分野)【Q2083】心理学Ⅰ [宇野 カオリ] 春学期授業/Spring	2271
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_2群(社会分野)【Q2084】心理学Ⅱ [宇野 カオリ] 秋学期授業/Fall	2273
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_2群(社会分野)【Q2085】心理学Ⅰ [櫻井 登世子] 春学期授業/Spring	2275
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_2群(社会分野)【Q2086】心理学Ⅱ [櫻井 登世子] 秋学期授業/Fall	2276
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_2群(社会分野)【Q2111】地理学Ⅰ [前畑 明美] 春学期授業/Spring	2277
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_2群(社会分野)【Q2112】地理学Ⅱ [前畑 明美] 秋学期授業/Fall	2278
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_2群(社会分野)【Q2113】地理学Ⅰ [前川 明彦] 春学期授業/Spring	2279
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_2群(社会分野)【Q2114】地理学Ⅱ [前川 明彦] 秋学期授業/Fall	2280
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_2群(社会分野)【Q2115】地理学Ⅰ [米家 志乃布] 春学期授業/Spring	2281
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_2群(社会分野)【Q2116】地理学Ⅱ [米家 志乃布] 秋学期授業/Fall	2282
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_2群(社会分野)【Q2117】地理学Ⅰ [前畑 明美] 春学期授業/Spring	2283
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_2群(社会分野)【Q2118】地理学Ⅱ [前畑 明美] 秋学期授業/Fall	2284
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_2群(社会分野)【Q2119】地理学Ⅰ [前畑 明美] 春学期授業/Spring	2285
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_2群(社会分野)【Q2120】地理学Ⅱ [前畑 明美] 秋学期授業/Fall	2286

2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_2群(社会分野)【Q2131】社会学Ⅰ [服部 あさこ] 春学期 授業/Spring	2287
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_2群(社会分野)【Q2132】社会学Ⅱ [服部 あさこ] 秋学期 授業/Fall	2288
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_2群(社会分野)【Q2133】社会学Ⅰ [山本 卓] 春学期授 業/Spring	2289
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_2群(社会分野)【Q2134】社会学Ⅱ [山本 卓] 秋学期授業/Fall	2290
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_2群(社会分野)【Q2135】社会学Ⅰ [高橋 徹] 春学期授 業/Spring	2292
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_2群(社会分野)【Q2136】社会学Ⅱ [高橋 徹] 秋学期授業/Fall	2293
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_2群(社会分野)【Q2137】社会学Ⅰ [山本 卓] 春学期授 業/Spring	2294
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_2群(社会分野)【Q2138】社会学Ⅱ [山本 卓] 秋学期授業/Fall	2295
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_2群(社会分野)【Q2139】社会学Ⅰ [高橋 徹] 春学期授 業/Spring	2297
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_2群(社会分野)【Q2140】社会学Ⅱ [高橋 徹] 秋学期授業/Fall	2298
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_2群(社会分野)【Q2141】社会学Ⅰ [橋本 みゆき] 春学期 授業/Spring	2299
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_2群(社会分野)【Q2142】社会学Ⅱ [橋本 みゆき] 秋学期 授業/Fall	2300
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_2群(社会分野)【Q2143】社会学Ⅰ [徐 玄九] 春学期授 業/Spring	2301
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_2群(社会分野)【Q2144】社会学Ⅱ [徐 玄九] 秋学期授業/Fall	2302
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_2群(社会分野)【Q2145】社会学Ⅰ [徐 玄九] 春学期授 業/Spring	2303
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_2群(社会分野)【Q2146】社会学Ⅱ [徐 玄九] 秋学期授業/Fall	2304
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_2群(社会分野)【Q2161】政治学Ⅰ [及川 智洋] 春学期授 業/Spring	2305
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_2群(社会分野)【Q2162】政治学Ⅱ [及川 智洋] 秋学期授 業/Fall	2306
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_2群(社会分野)【Q2163】政治学Ⅰ [崔 先鎬] 春学期授 業/Spring	2307
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_2群(社会分野)【Q2164】政治学Ⅱ [崔 先鎬] 秋学期授業/Fall	2308
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_2群(社会分野)【Q2165】政治学Ⅰ [崔 先鎬] 春学期授 業/Spring	2309
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_2群(社会分野)【Q2166】政治学Ⅱ [崔 先鎬] 秋学期授業/Fall	2310
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_2群(社会分野)【Q2167】政治学Ⅰ [高橋 和則] 春学期授 業/Spring	2311
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_2群(社会分野)【Q2168】政治学Ⅱ [高橋 和則] 秋学期授 業/Fall	2312
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_2群(社会分野)【Q2169】政治学Ⅰ [及川 智洋] 春学期授 業/Spring	2313
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_2群(社会分野)【Q2170】政治学Ⅱ [及川 智洋] 秋学期授 業/Fall	2314
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_2群(社会分野)【Q2171】政治学Ⅰ [面 一也] 春学期授 業/Spring	2315
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_2群(社会分野)【Q2172】政治学Ⅱ [面 一也] 秋学期授業/Fall	2316
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_2群(社会分野)【Q2173】政治学Ⅰ [岡崎 加奈子] 春学期 授業/Spring	2317
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_2群(社会分野)【Q2174】政治学Ⅱ [岡崎 加奈子] 秋学期 授業/Fall	2318
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_2群(社会分野)【Q2175】政治学Ⅰ [高橋 和則] 春学期授 業/Spring	2319
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_2群(社会分野)【Q2176】政治学Ⅱ [高橋 和則] 秋学期授 業/Fall	2320
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_2群(社会分野)【Q2191】文化人類学 [ベル 裕紀] 春学期授 業/Spring	2321

2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_2群 (社会分野) 【Q2193】文化人類学 [渡辺 浩平] 春学期授業/Spring	2322
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_2群 (社会分野) 【Q2195】文化人類学 [北原 卓也] 春学期授業/Spring	2323
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_2群 (社会分野) 【Q2197】文化人類学 [長沢 利明] 春学期授業/Spring	2324
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_2群 (社会分野) 【Q2199】文化人類学 [ベル 裕紀] 春学期授業/Spring	2325
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_2群 (社会分野) 【Q2201】文化人類学 [橋爪 太作] 春学期授業/Spring	2326
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_2群 (社会分野) 【Q2203】文化人類学 [橋爪 太作] 春学期授業/Spring	2327
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_2群 (社会分野) 【Q2205】文化人類学 [廣田 龍平] 春学期授業/Spring	2328
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_2群 (社会分野) 【Q2207】文化人類学 [渡辺 浩平] 春学期授業/Spring	2329
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_2群 (社会分野) 【Q2209】文化人類学 [石森 大知] 春学期授業/Spring	2330
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_2群 (社会分野) 【Q2211】社会思想Ⅰ [阿部 崇史] 春学期授業/Spring	2331
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_2群 (社会分野) 【Q2212】社会思想Ⅱ [阿部 崇史] 秋学期授業/Fall	2332
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_2群 (社会分野) 【Q2213】社会思想Ⅰ [村田 玲] 春学期授業/Spring	2333
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_2群 (社会分野) 【Q2214】社会思想Ⅱ [村田 玲] 秋学期授業/Fall	2334
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_2群 (社会分野) 【Q2215】社会思想Ⅰ [阿部 崇史] 春学期授業/Spring	2335
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_2群 (社会分野) 【Q2216】社会思想Ⅱ [阿部 崇史] 秋学期授業/Fall	2336
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_2群 (社会分野) 【Q2217】社会思想Ⅰ [阿部 崇史] 春学期授業/Spring	2337
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_2群 (社会分野) 【Q2218】社会思想Ⅱ [洪 貴義] 秋学期授業/Fall	2338
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_2群 (社会分野) 【Q2219】社会思想Ⅰ [熊沢 敏之] 春学期授業/Spring	2339
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_2群 (社会分野) 【Q2220】社会思想Ⅱ [熊沢 敏之] 秋学期授業/Fall	2341
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_2群 (社会分野) 【Q2221】社会思想Ⅰ [村田 玲] 春学期授業/Spring	2343
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_2群 (社会分野) 【Q2222】社会思想Ⅱ [村田 玲] 秋学期授業/Fall	2344
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_2群 (社会分野) 【Q2321】経済学L A [中平 千彦] 春学期授業/Spring	2345
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_2群 (社会分野) 【Q2322】経済学L B [中平 千彦] 秋学期授業/Fall	2347
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_2群 (社会分野) 【Q2323】経済学L A [鈴木 誠] 春学期授業/Spring	2348
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_2群 (社会分野) 【Q2324】経済学L B [鈴木 誠] 秋学期授業/Fall	2350
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_2群 (社会分野) 【Q2325】経済学L A [陳 文挙] 春学期授業/Spring	2352
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_2群 (社会分野) 【Q2326】経済学L B [陳 文挙] 秋学期授業/Fall	2354
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_2群 (社会分野) 【Q2327】経済学L A [水野 和夫] 春学期授業/Spring	2355

2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台リベラルアーツ科目_2群(社会分野)【Q2328】	経済学L B [水野 和夫] 秋学期授業/Fall	2357
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台リベラルアーツ科目_2群(社会分野)【Q2341】	心理学L A [宇野 カオリ] 春学期授業/Spring	2359
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台リベラルアーツ科目_2群(社会分野)【Q2342】	心理学L B [宇野 カオリ] 秋学期授業/Fall	2361
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台リベラルアーツ科目_2群(社会分野)【Q2343】	心理学L A [宇野 カオリ] 春学期授業/Spring	2363
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台リベラルアーツ科目_2群(社会分野)【Q2344】	心理学L B [宇野 カオリ] 秋学期授業/Fall	2365
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台リベラルアーツ科目_2群(社会分野)【Q2351】	地理学L A [長沢 利明] 春学期授業/Spring	2367
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台リベラルアーツ科目_2群(社会分野)【Q2352】	地理学L B [長沢 利明] 秋学期授業/Fall	2368
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台リベラルアーツ科目_2群(社会分野)【Q2353】	地理学L C [片岡 義晴] 春学期授業/Spring	2369
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台リベラルアーツ科目_2群(社会分野)【Q2354】	地理学L D [片岡 義晴] 秋学期授業/Fall	2370
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台リベラルアーツ科目_2群(社会分野)【Q2357】	地理学L A [長沢 利明] 春学期授業/Spring	2371
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台リベラルアーツ科目_2群(社会分野)【Q2358】	地理学L B [長沢 利明] 秋学期授業/Fall	2372
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台リベラルアーツ科目_2群(社会分野)【Q2359】	地理学L C [前川 明彦] 春学期授業/Spring	2373
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台リベラルアーツ科目_2群(社会分野)【Q2360】	地理学L D [前川 明彦] 秋学期授業/Fall	2374
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台リベラルアーツ科目_2群(社会分野)【Q2361】	社会学L A [松下 優一] 春学期授業/Spring	2375
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台リベラルアーツ科目_2群(社会分野)【Q2362】	社会学L B [松下 優一] 秋学期授業/Fall	2376
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台リベラルアーツ科目_2群(社会分野)【Q2363】	社会学L C [徐 玄九] 春学期授業/Spring	2377
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台リベラルアーツ科目_2群(社会分野)【Q2364】	社会学L D [徐 玄九] 秋学期授業/Fall	2379
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台リベラルアーツ科目_2群(社会分野)【Q2371】	政治学L A [木村 正俊] 春学期授業/Spring	2381
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台リベラルアーツ科目_2群(社会分野)【Q2372】	政治学L B [木村 正俊] 秋学期授業/Fall	2382
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台リベラルアーツ科目_2群(社会分野)【Q2382】	文化人類学L [ベル裕紀] 秋学期授業/Fall	2383
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台リベラルアーツ科目_2群(社会分野)【Q2384】	文化人類学L [渡辺浩平] 秋学期授業/Fall	2385
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台リベラルアーツ科目_2群(社会分野)【Q2386】	文化人類学L [北原卓也] 秋学期授業/Fall	2386
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台リベラルアーツ科目_2群(社会分野)【Q2388】	文化人類学L [長沢利明] 秋学期授業/Fall	2387
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台リベラルアーツ科目_2群(社会分野)【Q2390】	文化人類学L [ベル裕紀] 秋学期授業/Fall	2388
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台リベラルアーツ科目_2群(社会分野)【Q2392】	文化人類学L [橋爪太作] 秋学期授業/Fall	2390
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台リベラルアーツ科目_2群(社会分野)【Q2394】	文化人類学L [渡辺浩平] 秋学期授業/Fall	2391
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台リベラルアーツ科目_2群(社会分野)【Q2396】	文化人類学L [廣田龍平] 秋学期授業/Fall	2392
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台リベラルアーツ科目_2群(社会分野)【Q2398】	文化人類学L [橋爪太作] 秋学期授業/Fall	2393

2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台リベラルアーツ科目_2群(社会分野)【Q2400】文化人類学L〔石森大知〕秋学期授業/Fall.....	2395
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台リベラルアーツ科目_2群(社会分野)【Q2401】社会思想LA〔阿部崇史〕春学期授業/Spring.....	2396
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台リベラルアーツ科目_2群(社会分野)【Q2402】社会思想LB〔洪貴義〕秋学期授業/Fall.....	2397
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台リベラルアーツ科目_2群(社会分野)【Q2403】社会思想LA〔阿部崇史〕秋学期授業/Fall.....	2398
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台リベラルアーツ科目_2群(社会分野)【Q2404】社会思想LB〔洪貴義〕秋学期授業/Fall.....	2399
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台リベラルアーツ科目_2群(社会分野)【Q2411】地理学LE〔呉羽正昭〕春学期授業/Spring.....	2400
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台リベラルアーツ科目_2群(社会分野)【Q2412】地理学LF〔加賀美雅弘〕春学期授業/Spring.....	2401
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台基盤科目_3群(自然分野)【Q3001】教養数学A〔平田康史〕春学期授業/Spring.....	2402
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台基盤科目_3群(自然分野)【Q3002】教養数学B〔平田康史〕秋学期授業/Fall.....	2403
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台基盤科目_3群(自然分野)【Q3003】教養数学A〔平田康史〕春学期授業/Spring.....	2404
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台基盤科目_3群(自然分野)【Q3004】教養数学B〔平田康史〕秋学期授業/Fall.....	2405
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台基盤科目_3群(自然分野)【Q3005】教養数学A〔小木曾岳義〕春学期授業/Spring.....	2406
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台基盤科目_3群(自然分野)【Q3006】教養数学B〔小木曾岳義〕秋学期授業/Fall.....	2407
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台基盤科目_3群(自然分野)【Q3007】教養数学A〔小木曾岳義〕春学期授業/Spring.....	2408
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台基盤科目_3群(自然分野)【Q3008】教養数学B〔小木曾岳義〕秋学期授業/Fall.....	2409
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台基盤科目_3群(自然分野)【Q3011】教養数学A〔池田宏一郎〕春学期授業/Spring.....	2410
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台基盤科目_3群(自然分野)【Q3012】教養数学B〔池田宏一郎〕秋学期授業/Fall.....	2411
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台基盤科目_3群(自然分野)【Q3013】教養数学A〔倉田俊彦〕春学期授業/Spring.....	2412
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台基盤科目_3群(自然分野)【Q3014】教養数学B〔倉田俊彦〕秋学期授業/Fall.....	2413
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台基盤科目_3群(自然分野)【Q3015】教養数学A〔佐藤洋祐〕春学期授業/Spring.....	2414
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台基盤科目_3群(自然分野)【Q3016】教養数学B〔佐藤洋祐〕秋学期授業/Fall.....	2415
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台基盤科目_3群(自然分野)【Q3017】教養数学A〔佐藤洋祐〕春学期授業/Spring.....	2416
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台基盤科目_3群(自然分野)【Q3018】教養数学B〔佐藤洋祐〕秋学期授業/Fall.....	2417
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台基盤科目_3群(自然分野)【Q3031】基礎数学I〔若井健太郎〕春学期授業/Spring.....	2418
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台基盤科目_3群(自然分野)【Q3032】基礎数学II〔若井健太郎〕秋学期授業/Fall.....	2419
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台基盤科目_3群(自然分野)【Q3033】基礎数学I〔板井昌典〕春学期授業/Spring.....	2420
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台基盤科目_3群(自然分野)【Q3034】基礎数学II〔板井昌典〕秋学期授業/Fall.....	2421
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台基盤科目_3群(自然分野)【Q3035】基礎数学I〔池田宏一郎〕春学期授業/Spring.....	2422

2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_3群(自然分野)【Q3036】基礎数学Ⅱ [池田 宏一郎] 秋学期授業/Fall	2423
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_3群(自然分野)【Q3037】基礎数学Ⅰ [若井 健太郎] 春学期授業/Spring	2424
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_3群(自然分野)【Q3038】基礎数学Ⅱ [若井 健太郎] 秋学期授業/Fall	2425
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_3群(自然分野)【Q3039】基礎数学Ⅰ [板井 昌典] 春学期授業/Spring	2426
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_3群(自然分野)【Q3040】基礎数学Ⅱ [板井 昌典] 秋学期授業/Fall	2427
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_3群(自然分野)【Q3041】基礎数学Ⅰ [倉田 俊彦] 春学期授業/Spring	2428
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_3群(自然分野)【Q3042】基礎数学Ⅱ [倉田 俊彦] 秋学期授業/Fall	2429
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_3群(自然分野)【Q3043】基礎数学Ⅰ [江口 直日] 春学期授業/Spring	2430
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_3群(自然分野)【Q3044】基礎数学Ⅱ [江口 直日] 秋学期授業/Fall	2431
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_3群(自然分野)【Q3047】基礎数学Ⅰ [江口 直日] 春学期授業/Spring	2432
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_3群(自然分野)【Q3048】基礎数学Ⅱ [江口 直日] 秋学期授業/Fall	2433
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_3群(自然分野)【Q3051】入門物理学A [吉田 智] 春学期授業/Spring	2434
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_3群(自然分野)【Q3052】入門物理学B [吉田 智] 秋学期授業/Fall	2435
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_3群(自然分野)【Q3053】入門物理学A [井坂 政裕] 春学期授業/Spring	2436
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_3群(自然分野)【Q3054】入門物理学B [井坂 政裕] 秋学期授業/Fall	2437
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_3群(自然分野)【Q3055】入門物理学A [石川 壮一] 春学期授業/Spring	2438
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_3群(自然分野)【Q3056】入門物理学B [石川 壮一] 秋学期授業/Fall	2439
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_3群(自然分野)【Q3057】入門物理学A [鈴木 裕武] 春学期授業/Spring	2440
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_3群(自然分野)【Q3058】入門物理学B [鈴木 裕武] 秋学期授業/Fall	2442
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_3群(自然分野)【Q3059】入門物理学A [井坂 政裕] 春学期授業/Spring	2444
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_3群(自然分野)【Q3060】入門物理学B [井坂 政裕] 秋学期授業/Fall	2445
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_3群(自然分野)【Q3061】入門物理学A [吉田 智] 春学期授業/Spring	2446
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_3群(自然分野)【Q3062】入門物理学B [吉田 智] 秋学期授業/Fall	2447
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_3群(自然分野)【Q3065】入門物理学A [鈴木 裕武] 春学期授業/Spring	2448
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_3群(自然分野)【Q3066】入門物理学B [鈴木 裕武] 秋学期授業/Fall	2450
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_3群(自然分野)【Q3081】入門生物学A [木原 章] 春学期授業/Spring	2452
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_3群(自然分野)【Q3082】入門生物学B [木原 章] 秋学期授業/Fall	2453
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_3群(自然分野)【Q3083】入門生物学A [木原 章] 春学期授業/Spring	2455

2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_3群(自然分野)【Q3084】入門生物学B [木原 章] 秋学期授業/Fall	2456
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_3群(自然分野)【Q3085】入門生物学A [大槻 涼] 春学期授業/Spring	2458
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_3群(自然分野)【Q3086】入門生物学B [大槻 涼] 秋学期授業/Fall	2459
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_3群(自然分野)【Q3087】入門生物学A [宇野 真介] 春学期授業/Spring	2461
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_3群(自然分野)【Q3088】入門生物学B [宇野 真介] 秋学期授業/Fall	2463
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_3群(自然分野)【Q3089】入門生物学A [宇野 真介] 春学期授業/Spring	2465
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_3群(自然分野)【Q3090】入門生物学B [宇野 真介] 秋学期授業/Fall	2467
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_3群(自然分野)【Q3091】入門生物学A [大槻 涼] 春学期授業/Spring	2469
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_3群(自然分野)【Q3092】入門生物学B [大槻 涼] 秋学期授業/Fall	2470
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_3群(自然分野)【Q3093】入門生物学A [宇野 真介] 春学期授業/Spring	2472
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_3群(自然分野)【Q3094】入門生物学B [宇野 真介] 秋学期授業/Fall	2474
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_3群(自然分野)【Q3111】入門化学A [向井 知大] 春学期授業/Spring	2476
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_3群(自然分野)【Q3112】入門化学B [向井 知大] 秋学期授業/Fall	2477
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_3群(自然分野)【Q3113】入門化学A [小林 令子] 春学期授業/Spring	2478
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_3群(自然分野)【Q3114】入門化学B [小林 令子] 秋学期授業/Fall	2479
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_3群(自然分野)【Q3117】入門化学A [中田 和秀] 春学期授業/Spring	2480
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_3群(自然分野)【Q3118】入門化学B [中田 和秀] 秋学期授業/Fall	2481
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_3群(自然分野)【Q3119】入門化学A [石塚 芽具美] 春学期授業/Spring	2482
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_3群(自然分野)【Q3120】入門化学B [石塚 芽具美] 秋学期授業/Fall	2483
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_3群(自然分野)【Q3121】入門化学A [小林 令子] 春学期授業/Spring	2484
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_3群(自然分野)【Q3122】入門化学B [小林 令子] 秋学期授業/Fall	2485
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_3群(自然分野)【Q3125】入門化学A [中田 和秀] 春学期授業/Spring	2486
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_3群(自然分野)【Q3126】入門化学B [中田 和秀] 秋学期授業/Fall	2487
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_3群(自然分野)【Q3171】天文学A [福島 登志夫] 春学期授業/Spring	2488
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_3群(自然分野)【Q3172】天文学B [福島 登志夫] 秋学期授業/Fall	2489
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_3群(自然分野)【Q3173】天文学A [梅本 智文] 春学期授業/Spring	2490
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_3群(自然分野)【Q3174】天文学B [梅本 智文] 秋学期授業/Fall	2491
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_3群(自然分野)【Q3175】天文学A [福島 登志夫] 春学期授業/Spring	2492

2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_3群 (自然分野) 【Q3176】 天文学B [福島 登志夫] 秋学期授業/Fall	2493
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_3群 (自然分野) 【Q3181】 科学史A [木島 泰三] 春学期授業/Spring	2494
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_3群 (自然分野) 【Q3182】 科学史B [木島 泰三] 秋学期授業/Fall	2496
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_3群 (自然分野) 【Q3183】 科学史A [金光 秀和] 春学期授業/Spring	2498
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_3群 (自然分野) 【Q3184】 科学史B [金光 秀和] 秋学期授業/Fall	2499
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_3群 (自然分野) 【Q3185】 科学史A [木島 泰三] 春学期授業/Spring	2500
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_3群 (自然分野) 【Q3186】 科学史B [木島 泰三] 秋学期授業/Fall	2502
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_3群 (自然分野) 【Q3187】 科学史A [木島 泰三] 春学期授業/Spring	2504
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_3群 (自然分野) 【Q3188】 科学史B [木島 泰三] 秋学期授業/Fall	2506
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_3群 (自然分野) 【Q3201】 数学特講L A [安東 祐希] 春学期授業/Spring	2508
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_3群 (自然分野) 【Q3202】 数学特講L B [安東 祐希] 秋学期授業/Fall	2509
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_3群 (自然分野) 【Q3211】 発展数学L I [池田 宏一郎] 春学期授業/Spring	2510
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_3群 (自然分野) 【Q3212】 発展数学L II [池田 宏一郎] 秋学期授業/Fall	2511
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_3群 (自然分野) 【Q3213】 発展数学L I [倉田 俊彦] 春学期授業/Spring	2512
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_3群 (自然分野) 【Q3214】 発展数学L II [倉田 俊彦] 秋学期授業/Fall	2513
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_3群 (自然分野) 【Q3221】 教養物理学L A [石川 壮一] 春学期授業/Spring	2514
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_3群 (自然分野) 【Q3222】 教養物理学L A [石川 壮一] 秋学期授業/Fall	2515
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_3群 (自然分野) 【Q3223】 教養物理学L B [吉田 智] 春学期授業/Spring	2516
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_3群 (自然分野) 【Q3224】 教養物理学L B [吉田 智] 秋学期授業/Fall	2517
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_3群 (自然分野) 【Q3225】 教養物理学L A [石川 壮一] 秋学期授業/Fall	2518
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_3群 (自然分野) 【Q3226】 教養物理学L C [井坂 政裕] 春学期授業/Spring	2519
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_3群 (自然分野) 【Q3231】 教養生物学L A [野崎 久義] 春学期授業/Spring	2520
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_3群 (自然分野) 【Q3232】 教養生物学L B [野崎 久義] 秋学期授業/Fall	2522
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_3群 (自然分野) 【Q3233】 教養生物学L A [野崎 久義] 春学期授業/Spring	2524
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_3群 (自然分野) 【Q3234】 教養生物学L B [野崎 久義] 秋学期授業/Fall	2526
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_3群 (自然分野) 【Q3241】 教養生物学L C [町田 郁子] 春学期授業/Spring	2528
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_3群 (自然分野) 【Q3242】 教養生物学L D [町田 郁子] 秋学期授業/Fall	2530
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_3群 (自然分野) 【Q3243】 教養生物学L C [町田 郁子] 春学期授業/Spring	2532

2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台リベラルアーツ科目_3群(自然分野)【Q3244】教養生物学LD [町田郁子] 秋学期授業/Fall	2534
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台リベラルアーツ科目_3群(自然分野)【Q3261】教養化学LA [向井知大] 春学期授業/Spring	2536
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台リベラルアーツ科目_3群(自然分野)【Q3262】教養化学LA [中島弘一] 秋学期授業/Fall.....	2537
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台リベラルアーツ科目_3群(自然分野)【Q3263】教養化学LB [中島弘一] 春学期授業/Spring	2538
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台リベラルアーツ科目_3群(自然分野)【Q3264】教養化学LB [西村直美] 秋学期授業/Fall.....	2539
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台リベラルアーツ科目_3群(自然分野)【Q3266】教養化学LA [中田和秀] 春学期授業/Spring	2540
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台リベラルアーツ科目_3群(自然分野)【Q3267】教養化学LC [中田和秀] 春学期授業/Spring	2541
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台リベラルアーツ科目_3群(自然分野)【Q3268】教養化学LD [中田和秀] 秋学期授業/Fall.....	2542
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台リベラルアーツ科目_3群(自然分野)【Q3269】教養化学LE [向井知大] 秋学期授業/Fall.....	2543
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台基盤科目_3群(自然分野)【Q3301】サイエンス・ラボA [西村直美、長谷川真紀子、井坂政裕] 春学期授業/Spring.....	2544
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台基盤科目_3群(自然分野)【Q3302】サイエンス・ラボB [西村直美、長谷川真紀子、井坂政裕] 秋学期授業/Fall	2545
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台基盤科目_3群(自然分野)【Q3303】サイエンス・ラボA [西村直美、長谷川真紀子、井坂政裕] 春学期授業/Spring.....	2546
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台基盤科目_3群(自然分野)【Q3304】サイエンス・ラボB [西村直美、長谷川真紀子、井坂政裕] 秋学期授業/Fall	2547
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台基盤科目_3群(自然分野)【Q3305】サイエンス・ラボA [石塚芽具美、田中浩輔、吉田智] 春学期授業/Spring	2548
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台基盤科目_3群(自然分野)【Q3306】サイエンス・ラボB [石塚芽具美、田中浩輔、鈴木裕武] 秋学期授業/Fall	2549
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台基盤科目_3群(自然分野)【Q3307】サイエンス・ラボA [石塚芽具美、田中浩輔、石川壮一] 春学期授業/Spring.....	2550
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台基盤科目_3群(自然分野)【Q3308】サイエンス・ラボB [石塚芽具美、田中浩輔、鈴木裕武] 秋学期授業/Fall	2551
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台基盤科目_3群(自然分野)【Q3309】サイエンス・ラボA [向井知大、川上裕司、鈴木裕武] 春学期授業/Spring.....	2552
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台基盤科目_3群(自然分野)【Q3310】サイエンス・ラボB [向井知大、川上裕司、鈴木裕武] 秋学期授業/Fall	2553
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台基盤科目_3群(自然分野)【Q3311】サイエンス・ラボA [向井知大、川上裕司、鈴木裕武] 春学期授業/Spring.....	2554
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台基盤科目_3群(自然分野)【Q3312】サイエンス・ラボB [向井知大、川上裕司、鈴木裕武] 秋学期授業/Fall	2555
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台基盤科目_3群(自然分野)【Q3313】サイエンス・ラボA [黒木菜保子、島野智之、柳瀬宏太] 春学期授業/Spring.....	2556
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台基盤科目_3群(自然分野)【Q3314】サイエンス・ラボB [黒木菜保子、島野智之、柳瀬宏太] 秋学期授業/Fall	2557
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台基盤科目_3群(自然分野)【Q3315】サイエンス・ラボA [黒木菜保子、島野智之、柳瀬宏太] 春学期授業/Spring.....	2558
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台基盤科目_3群(自然分野)【Q3316】サイエンス・ラボB [黒木菜保子、島野智之、柳瀬宏太] 秋学期授業/Fall	2559
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台基盤科目_3群(自然分野)【Q3317】サイエンス・ラボA [中島弘一、鈴木忠、土手昭伸] 春学期授業/Spring	2560
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台基盤科目_3群(自然分野)【Q3318】サイエンス・ラボB [中島弘一、鈴木忠、土手昭伸] 秋学期授業/Fall	2561
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台基盤科目_3群(自然分野)【Q3319】サイエンス・ラボA [中島弘一、鈴木忠、土手昭伸] 春学期授業/Spring	2562

2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_3群(自然分野)【Q3320】サイエンス・ラボB [中島 弘一、鈴木 忠、土手 昭伸] 秋学期授業/Fall	2563
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_3群(自然分野)【Q3321】サイエンス・ラボA [西村 直美、長谷川 真紀子、井坂 政裕] 春学期授業/Spring	2564
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_3群(自然分野)【Q3322】サイエンス・ラボB [西村 直美、長谷川 真紀子、井坂 政裕] 秋学期授業/Fall	2565
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_3群(自然分野)【Q3323】サイエンス・ラボA [西村 直美、長谷川 真紀子、井坂 政裕] 春学期授業/Spring	2566
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_3群(自然分野)【Q3324】サイエンス・ラボB [西村 直美、長谷川 真紀子、井坂 政裕] 秋学期授業/Fall	2567
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_3群(自然分野)【Q3325】サイエンス・ラボA [石塚 芽具美、田中 浩輔、吉田 智] 春学期授業/Spring	2568
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_3群(自然分野)【Q3326】サイエンス・ラボB [石塚 芽具美、田中 浩輔、鈴木 裕武] 秋学期授業/Fall	2569
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_3群(自然分野)【Q3327】サイエンス・ラボA [石塚 芽具美、田中 浩輔、石川 壮一] 春学期授業/Spring	2570
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_3群(自然分野)【Q3328】サイエンス・ラボB [石塚 芽具美、田中 浩輔、鈴木 裕武] 秋学期授業/Fall	2571
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_3群(自然分野)【Q3329】サイエンス・ラボA [向井 知大、川上 裕司、鈴木 裕武] 春学期授業/Spring	2572
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_3群(自然分野)【Q3330】サイエンス・ラボB [向井 知大、川上 裕司、鈴木 裕武] 秋学期授業/Fall	2573
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_3群(自然分野)【Q3331】サイエンス・ラボA [向井 知大、川上 裕司、鈴木 裕武] 春学期授業/Spring	2574
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_3群(自然分野)【Q3332】サイエンス・ラボB [向井 知大、川上 裕司、鈴木 裕武] 秋学期授業/Fall	2575
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_3群(自然分野)【Q3333】サイエンス・ラボA [黒木 菜保子、島野 智之、柳瀬 宏太] 春学期授業/Spring	2576
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_3群(自然分野)【Q3334】サイエンス・ラボB [黒木 菜保子、島野 智之、柳瀬 宏太] 秋学期授業/Fall	2577
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_3群(自然分野)【Q3335】サイエンス・ラボA [黒木 菜保子、島野 智之、柳瀬 宏太] 春学期授業/Spring	2578
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_3群(自然分野)【Q3336】サイエンス・ラボB [黒木 菜保子、島野 智之、柳瀬 宏太] 秋学期授業/Fall	2579
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_3群(自然分野)【Q3337】サイエンス・ラボA [中島 弘一、鈴木 忠、土手 昭伸] 春学期授業/Spring	2580
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_3群(自然分野)【Q3338】サイエンス・ラボB [中島 弘一、鈴木 忠、土手 昭伸] 秋学期授業/Fall	2581
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_3群(自然分野)【Q3339】サイエンス・ラボA [中島 弘一、鈴木 忠、土手 昭伸] 春学期授業/Spring	2582
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_3群(自然分野)【Q3340】サイエンス・ラボB [中島 弘一、鈴木 忠、土手 昭伸] 秋学期授業/Fall	2583
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_3群(自然分野)【Q3341】サイエンス・ラボA [西村 直美、長谷川 真紀子、井坂 政裕] 春学期授業/Spring	2584
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_3群(自然分野)【Q3342】サイエンス・ラボB [西村 直美、長谷川 真紀子、井坂 政裕] 秋学期授業/Fall	2585
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_3群(自然分野)【Q3343】サイエンス・ラボA [西村 直美、長谷川 真紀子、井坂 政裕] 春学期授業/Spring	2586
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_3群(自然分野)【Q3344】サイエンス・ラボB [西村 直美、長谷川 真紀子、井坂 政裕] 秋学期授業/Fall	2587
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_3群(自然分野)【Q3345】サイエンス・ラボA [石塚 芽具美、田中 浩輔、吉田 智] 春学期授業/Spring	2588
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_3群(自然分野)【Q3346】サイエンス・ラボB [石塚 芽具美、田中 浩輔、鈴木 裕武] 秋学期授業/Fall	2589
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台_基盤科目_3群(自然分野)【Q3347】サイエンス・ラボA [石塚 芽具美、田中 浩輔、石川 壮一] 春学期授業/Spring	2590

2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_3群 (自然分野) 【Q3348】サイエンス・ラボB [石塚 芽具、田中 浩輔、鈴木 裕武] 秋学期授業/Fall	2591
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_3群 (自然分野) 【Q3349】サイエンス・ラボA [向井 知大、川上 裕司、鈴木 裕武] 春学期授業/Spring	2592
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_3群 (自然分野) 【Q3350】サイエンス・ラボB [向井 知大、川上 裕司、鈴木 裕武] 秋学期授業/Fall	2593
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_3群 (自然分野) 【Q3351】サイエンス・ラボA [向井 知大、川上 裕司、鈴木 裕武] 春学期授業/Spring	2594
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_3群 (自然分野) 【Q3352】サイエンス・ラボB [向井 知大、川上 裕司、鈴木 裕武] 秋学期授業/Fall	2595
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_3群 (自然分野) 【Q3353】サイエンス・ラボA [黒木 菜保子、島野 智之、柳瀬 宏太] 春学期授業/Spring	2596
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_3群 (自然分野) 【Q3354】サイエンス・ラボB [黒木 菜保子、島野 智之、柳瀬 宏太] 秋学期授業/Fall	2597
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_3群 (自然分野) 【Q3355】サイエンス・ラボA [黒木 菜保子、島野 智之、柳瀬 宏太] 春学期授業/Spring	2598
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_3群 (自然分野) 【Q3356】サイエンス・ラボB [黒木 菜保子、島野 智之、柳瀬 宏太] 秋学期授業/Fall	2599
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_3群 (自然分野) 【Q3357】サイエンス・ラボA [中島 弘一、鈴木 忠、土手 昭伸] 春学期授業/Spring	2600
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_3群 (自然分野) 【Q3358】サイエンス・ラボB [中島 弘一、鈴木 忠、土手 昭伸] 秋学期授業/Fall	2601
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_3群 (自然分野) 【Q3359】サイエンス・ラボA [中島 弘一、鈴木 忠、土手 昭伸] 春学期授業/Spring	2602
2017年度以降入学者_ILAC科目_100番台 基盤科目_3群 (自然分野) 【Q3360】サイエンス・ラボB [中島 弘一、鈴木 忠、土手 昭伸] 秋学期授業/Fall	2603
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_5群 (保健体育分野) 【Q5451】健康の科学L A [阿部 巧] 春学期授業/Spring	2604
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_5群 (保健体育分野) 【Q5452】健康の科学L B [藤平 杏子] 秋学期授業/Fall	2605
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_5群 (保健体育分野) 【Q5453】健康の科学L A [谷本 都栄] 春学期授業/Spring	2606
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_5群 (保健体育分野) 【Q5454】健康の科学L B [谷本 都栄] 秋学期授業/Fall	2607
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6001】第三外国語としての朝鮮語A [神谷 丹路] 春学期授業/Spring	2608
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6002】第三外国語としての朝鮮語B [神谷 丹路] 秋学期授業/Fall	2609
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6003】第三外国語としての朝鮮語中級 [梁 禮先] 春学期授業/Spring	2610
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6005】第三外国語としての朝鮮語A [神谷 丹路] 春学期授業/Spring	2611
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6006】第三外国語としての朝鮮語B [神谷 丹路] 秋学期授業/Fall	2612
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6051】日本語コミュニケーションA [副島 健作] 春学期授業/Spring	2613
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6052】日本語コミュニケーションB [副島 健作] 秋学期授業/Fall	2615
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6101】漢字・漢文学A [加納 留美子] 春学期授業/Spring	2617
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6102】漢字・漢文学B [加納 留美子] 秋学期授業/Fall	2618
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_教養ゼミ 【Q6103】教養ゼミ I [藤村 耕治] 春学期授業/Spring	2619
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_教養ゼミ 【Q6104】教養ゼミ II [藤村 耕治] 秋学期授業/Fall	2620
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6105】文芸創作講座 A [LETIZIA GUARINI] 春学期授業/Spring	2621

2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台_総合科目_総合科目【Q6106】文芸創作講座B [LETIZIA GUARINI] 秋学期授業/Fall	2622
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台_総合科目_総合科目【Q6107】日本芸能論A [阿部 真弓] 春学期授業/Spring	2623
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台_総合科目_総合科目【Q6108】日本芸能論B [阿部 真弓] 秋学期授業/Fall	2624
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台_総合科目_総合科目【Q6109】身体表現論A [深谷 公宣] 春学期授業/Spring	2625
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台_総合科目_総合科目【Q6110】身体表現論B [深谷 公宣] 秋学期授業/Fall	2626
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台_総合科目_総合科目【Q6111】美術論A [稲垣 立男] 春学期授業/Spring	2627
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台_総合科目_総合科目【Q6112】美術論B [稲垣 立男] 秋学期授業/Fall	2629
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台_総合科目_総合科目【Q6113】芸術と人間A [岡村 民夫] 春学期授業/Spring	2631
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台_総合科目_総合科目【Q6114】芸術と人間B [岡村 民夫] 秋学期授業/Fall	2632
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台_総合科目_総合科目【Q6115】仏教思想論A [計良 隆世] 春学期授業/Spring	2633
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台_総合科目_総合科目【Q6116】仏教思想論B [計良 隆世] 秋学期授業/Fall	2635
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台_総合科目_教養ゼミ【Q6119】教養ゼミⅠ [森村 修] 春学期授業/Spring	2637
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台_総合科目_教養ゼミ【Q6120】教養ゼミⅡ [森村 修] 秋学期授業/Fall	2638
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台_総合科目_総合科目【Q6121】中国の民族と文化A [齋藤 勝] 春学期授 業/Spring	2639
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台_総合科目_総合科目【Q6122】中国の民族と文化B [齋藤 勝] 秋学期授 業/Fall	2640
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台_総合科目_総合科目【Q6125】古代日本・中国の法と社会A [岡野 浩二] 春学期授業/Spring	2641
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台_総合科目_総合科目【Q6126】古代日本・中国の法と社会B [岡野 浩二] 秋学期授業/Fall	2642
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台_総合科目_総合科目【Q6127】アジア・太平洋島嶼国際関係史A [新崎 盛吾] 春学期授業/Spring	2643
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台_総合科目_総合科目【Q6128】アジア・太平洋島嶼国際関係史B [水谷 明子] 秋学期授業/Fall	2645
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台_総合科目_教養ゼミ【Q6129】教養ゼミⅠ [神谷 丹路] 春学期授業/Spring	2647
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台_総合科目_教養ゼミ【Q6130】教養ゼミⅡ [神谷 丹路] 秋学期授業/Fall	2648
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台_総合科目_総合科目【Q6131】クィア・スタディーズA [LETIZIA GUARINI] 春学期授業/Spring	2649
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台_総合科目_総合科目【Q6132】クィア・スタディーズB [LETIZIA GUARINI] 秋学期授業/Fall	2651
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台_総合科目_総合科目【Q6133】キリスト教思想史A [鶴澤 和彦] 春学期 授業/Spring	2653
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台_総合科目_総合科目【Q6134】キリスト教思想史B [鶴澤 和彦] 秋学期 授業/Fall	2655
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台_総合科目_総合科目【Q6137】異文化コミュニケーション論A [山本 そ のこ] 春学期授業/Spring	2657
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台_総合科目_総合科目【Q6138】異文化コミュニケーション論B [山本 そ のこ] 秋学期授業/Fall	2659
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台_総合科目_教養ゼミ【Q6141】教養ゼミⅠ [矢澤 美佐紀] 春学期授 業/Spring	2661
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台_総合科目_教養ゼミ【Q6142】教養ゼミⅡ [矢澤 美佐紀] 秋学期授業/Fall	2662
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台_総合科目_総合科目【Q6143】イギリスと帝国A [大澤 広晃] 春学期授 業/Spring	2663
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台_総合科目_総合科目【Q6144】イギリスと帝国B [大澤 広晃] 秋学期授 業/Fall	2664
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台_総合科目_教養ゼミ【Q6145】教養ゼミⅠ [副島 健作] 春学期授業/Spring	2665
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台_総合科目_教養ゼミ【Q6146】教養ゼミⅡ [副島 健作] 秋学期授業/Fall	2667
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台_総合科目_総合科目【Q6201】法哲学A [内藤 淳] 春学期授業/Spring	2669
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台_総合科目_総合科目【Q6202】法哲学B [内藤 淳] 秋学期授業/Fall ..	2670
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台_総合科目_教養ゼミ【Q6203】教養ゼミⅠ [坂根 徹] 春学期授業/Spring	2672
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台_総合科目_総合科目【Q6209】人文地理学セミナーA [米家 志乃布] 春 学期授業/Spring	2673
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台_総合科目_総合科目【Q6210】人文地理学セミナーB [米家 志乃布] 秋 学期授業/Fall	2674

2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台_総合科目_総合科目【Q6211】文化人類学方法論A [石森 大知] 春学期授業/Spring	2675
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台_総合科目_総合科目【Q6212】文化人類学方法論B [石森 大知] 秋学期授業/Fall	2676
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台_総合科目_教養ゼミ【Q6213】教養ゼミⅠ [犬塚 元] 春学期授業/Spring	2677
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台_総合科目_教養ゼミ【Q6214】教養ゼミⅡ [犬塚 元] 秋学期授業/Fall	2678
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台_総合科目_総合科目【Q6215】人間行動学A [久木田 敦志] 春学期授業/Spring	2679
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台_総合科目_総合科目【Q6216】人間行動学B [久木田 敦志] 秋学期授業/Fall	2680
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台_総合科目_教養ゼミ【Q6219】沖縄を考えるA [明田川 融、大里 知子] 春学期授業/Spring	2681
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台_総合科目_教養ゼミ【Q6220】沖縄を考えるB [明田川 融、大里 知子] 秋学期授業/Fall	2682
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台_総合科目_総合科目【Q6225】ヨーロッパ政治経済論A [千葉 千尋] 春学期授業/Spring	2683
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台_総合科目_総合科目【Q6226】ヨーロッパ政治経済論B [千葉 千尋] 秋学期授業/Fall	2684
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台_総合科目_総合科目【Q6227】法の間人学A [内藤 淳] 春学期授業/Spring	2686
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台_総合科目_総合科目【Q6228】法の間人学B [内藤 淳] 秋学期授業/Fall	2688
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台_総合科目_総合科目【Q6301】自然環境のしくみとその変貌A [加藤 美雄] 春学期授業/Spring	2690
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台_総合科目_総合科目【Q6302】自然環境のしくみとその変貌B [加藤 美雄] 秋学期授業/Fall	2692
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台_総合科目_総合科目【Q6303】数理論理学A [安東 祐希] 春学期授業/Spring	2694
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台_総合科目_総合科目【Q6304】数理論理学B [安東 祐希] 秋学期授業/Fall	2695
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台_総合科目_総合科目【Q6305】計算と言語のしくみ [倉田 俊彦] 春学期授業/Spring	2696
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台_総合科目_総合科目【Q6306】コンピュータと数理の活用 [倉田 俊彦] 秋学期授業/Fall	2697
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台_総合科目_総合科目【Q6307】確率の世界A [池田 宏一郎] 春学期授業/Spring	2698
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台_総合科目_総合科目【Q6308】確率の世界B [池田 宏一郎] 秋学期授業/Fall	2699
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台_総合科目_総合科目【Q6311】相対性理論と宇宙A [石川 壮一] 春学期授業/Spring	2700
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台_総合科目_総合科目【Q6312】相対性理論と宇宙B [石川 壮一] 秋学期授業/Fall	2701
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台_総合科目_総合科目【Q6313】現代の錬金術A [井坂 政裕] 春学期授業/Spring	2702
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台_総合科目_総合科目【Q6314】現代の錬金術B [井坂 政裕] 秋学期授業/Fall	2703
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台_総合科目_総合科目【Q6315】原子核と素粒子A [吉田 智] 春学期授業/Spring	2704
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台_総合科目_総合科目【Q6316】原子核と素粒子B [吉田 智] 秋学期授業/Fall	2705
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台_総合科目_教養ゼミ【Q6317】教養ゼミⅠ [島野 智之] 春学期授業/Spring	2706
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台_総合科目_教養ゼミ【Q6318】教養ゼミⅡ [島野 智之] オータムセッション/Autumn Session	2708
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台_総合科目_総合科目【Q6323】イオンの科学A [向井 知大] 春学期授業/Spring	2710
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台_総合科目_総合科目【Q6324】イオンの科学B [向井 知大] 秋学期授業/Fall	2711
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台_総合科目_総合科目【Q6325】光と色の科学A [中島 弘一] 春学期授業/Spring	2712
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台_総合科目_総合科目【Q6326】光と色の科学B [中島 弘一] 秋学期授業/Fall	2713

2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6329】 ITリテラシー [児玉 靖司] 春学期授業/Spring	2714
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6330】 コンピュータ科学 [児玉 靖司] 秋学期授業/Fall	2715
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6335】 人間と地球環境 [宇野 真介] 春学期授業/Spring	2716
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6336】 Human Impact on the Global Environment [宇野 真介] 秋学期授業/Fall	2718
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6341】 バイオイメージングの世界A [木原 章] 春学期授業/Spring	2720
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6342】 バイオイメージングの世界B [木原 章] 秋学期授業/Fall	2721
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_教養ゼミ 【Q6401】 教養ゼミ I [LASSEGARD JAMES] 春学期授業/Spring	2722
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_教養ゼミ 【Q6402】 教養ゼミ II [LASSEGARD JAMES] 秋学期授業/Fall	2723
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6421】 第三外国語としてのドイツ語A [日中 鎮朗] 春学期授業/Spring	2725
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6422】 第三外国語としてのドイツ語B [日中 鎮朗] 秋学期授業/Fall	2726
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6423】 ドイツ語コミュニケーション中級A [Annette Gruber] 春学期授業/Spring	2727
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6424】 ドイツ語コミュニケーション中級B [Annette Gruber] 秋学期授業/Fall	2728
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_教養ゼミ 【Q6425】 教養ゼミ I [日中 鎮朗] 春学期授業/Spring	2729
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_教養ゼミ 【Q6426】 教養ゼミ II [日中 鎮朗] 秋学期授業/Fall	2731
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6427】 ドイツの思想A [吉田 敬介] 春学期授業/Spring	2733
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6428】 ドイツの思想B [吉田 敬介] 秋学期授業/Fall	2734
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6429】 カルチュラル・スタディーズで見るドイツ語圏A [柳橋 大輔] 春学期授業/Spring	2735
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6430】 カルチュラル・スタディーズで見るドイツ語圏B [柳橋 大輔] 秋学期授業/Fall	2737
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6431】 比較文化A [D. ハイデンライヒ] 春学期授業/Spring	2739
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6432】 比較文化B [D. ハイデンライヒ] 秋学期授業/Fall	2740
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6433】 ドイツ語圏の芸術A [辻 英史] 春学期授業/Spring	2741
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6434】 ドイツ語圏の芸術B [辻 英史] 秋学期授業/Fall	2742
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6435】 留学ドイツ語A [林 志津江] 春学期授業/Spring	2743
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6436】 留学ドイツ語B [林 志津江] 秋学期授業/Fall	2745
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6501】 スポーツ科学 A [西村 一帆] 春学期授業/Spring	2747
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6502】 スポーツ科学 B [西村 一帆] 秋学期授業/Fall	2748
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6505】 スポーツ科学 A [佐藤 優希] 春学期授業/Spring	2750
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6506】 スポーツ科学 B [佐藤 優希] 秋学期授業/Fall	2752
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6507】 スポーツ科学 A [白井 隆長] 春学期授業/Spring	2754

2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6508】 スポーツ科学 B [白井 隆長] 秋学期授業/Fall	2756
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6509】 スポーツ科学 A [朝比奈 茂] 春学期授業/Spring	2758
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6510】 スポーツ科学 B [朝比奈 茂] 秋学期授業/Fall	2760
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6511】 スポーツ科学 A [佐藤 優希] 春学期授業/Spring	2762
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6512】 スポーツ科学 B [佐藤 優希] 秋学期授業/Fall	2764
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6513】 スポーツ科学 A [吉田 康伸] 春学期授業/Spring	2766
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6514】 スポーツ科学 B [吉田 康伸] 秋学期授業/Fall	2767
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6517】 スポーツ科学 A [中澤 史] 春学期授業/Spring	2768
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6518】 スポーツ科学 B [中澤 史] 秋学期授業/Fall	2770
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6519】 スポーツ科学 A [笠井 淳] 春学期授業/Spring	2772
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6520】 スポーツ科学 B [笠井 淳] 秋学期授業/Fall	2773
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_教養ゼミ 【Q6523】 教養ゼミ I [藤岡 成美] 春学期授業/Spring	2774
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_教養ゼミ 【Q6524】 教養ゼミ II [藤岡 成美] 秋学期授業/Fall	2776
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6529】 スポーツ科学 A [西村 一帆] 春学期授業/Spring	2778
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6530】 スポーツ科学 B [西村 一帆] 秋学期授業/Fall	2780
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_教養ゼミ 【Q6531】 教養ゼミ I [林 容市] 春学期授業/Spring	2782
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_教養ゼミ 【Q6532】 教養ゼミ II [林 容市] 秋学期授業/Fall	2784
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_教養ゼミ 【Q6533】 教養ゼミ I [朝比奈 茂] 春学期授業/Spring	2786
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6601】 第三外国語としてのフランス語 A [廣松 勲] 春学期授業/Spring	2788
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6602】 第三外国語としてのフランス語 B [廣松 勲] 秋学期授業/Fall	2789
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_教養ゼミ 【Q6605】 教養ゼミ I [大中 一彌] 春学期授業/Spring	2790
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_教養ゼミ 【Q6606】 教養ゼミ II [大中 一彌] 秋学期授業/Fall	2792
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_教養ゼミ 【Q6607】 教養ゼミ I [ル・ルー清野 プレンダン] 春学期授業/Spring	2794
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_教養ゼミ 【Q6608】 教養ゼミ II [ル・ルー清野 プレンダン] 秋学期授業/Fall	2795
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6609】 フランス語コミュニケーション(中・上級) A [ル・ルー清野 プレンダン] 春学期授業/Spring	2797
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6610】 フランス語コミュニケーション(中・上級) B [ル・ルー清野 プレンダン] 秋学期授業/Fall	2798
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6701】 第三外国語としてのロシア語 A [木部 敬] 春学期授業/Spring	2799
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6702】 第三外国語としてのロシア語 B [木部 敬] 秋学期授業/Fall	2800
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6703】 第三外国語としてのロシア語中級 A [エレナ 三神] 春学期授業/Spring	2801
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6704】 第三外国語としてのロシア語中級 B [エレナ 三神] 秋学期授業/Fall	2802
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6705】 実用ロシア語 A [エレナ 三神] 春学期授業/Spring	2803
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6706】 実用ロシア語 B [エレナ 三神] 秋学期授業/Fall	2804
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6707】 ロシア語講読 A [木部 敬] 春学期授業/Spring	2805
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目 【Q6708】 ロシア語講読 B [木部 敬] 秋学期授業/Fall	2806

2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6709】時事ロシア語A [油本 真理] 春学期授業/Spring	2807
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6710】時事ロシア語B [油本 真理] 秋学期授業/Fall	2808
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6801】第三外国語としての中国語A [岩田 和子] 春学期授業/Spring	2809
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6802】第三外国語としての中国語B [岩田 和子] 秋学期授業/Fall	2810
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6809】中国語コミュニケーション中級A [周 重雷] 春学期授業/Spring	2811
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6810】中国語コミュニケーション中級B [周 重雷] 秋学期授業/Fall	2812
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6811】中国語翻訳・通訳A [高田 裕子] 春学期授業/Spring	2813
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6812】中国語翻訳・通訳B [高田 裕子] 秋学期授業/Fall	2814
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6813】中国語翻訳・通訳C [王 安] 春学期授業/Spring	2815
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6814】中国語翻訳・通訳D [王 安] 秋学期授業/Fall	2816
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6815】中国語講読A [岩田 和子] 春学期授業/Spring	2817
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6816】中国語講読B [岩田 和子] 秋学期授業/Fall	2818
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6819】資格中国語中級A [渡辺 昭太] 春学期授業/Spring	2819
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6820】資格中国語中級B [渡辺 昭太] 秋学期授業/Fall	2821
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6821】資格中国語上級A [康 鴻音] 春学期授業/Spring	2823
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6822】資格中国語上級B [康 鴻音] 秋学期授業/Fall	2824
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_教養ゼミ【Q6823】教養ゼミⅠ [岩田 和子] 春学期授業/Spring	2825
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_教養ゼミ【Q6824】教養ゼミⅡ [岩田 和子] 秋学期授業/Fall	2826
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6901】第三外国語としてのスペイン語A [杉下 由紀子] 春学期授業/Spring	2827
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6902】第三外国語としてのスペイン語B [杉下 由紀子] 秋学期授業/Fall	2828
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6905】スペイン語上級A [大西 亮] 春学期授業/Spring	2829
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6906】スペイン語上級B [大西 亮] 秋学期授業/Fall	2830
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6907】スペイン語コミュニケーション中級A [瓜 谷 アウロラ] 春学期授業/Spring	2831
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6908】スペイン語コミュニケーション中級B [瓜 谷 アウロラ] 秋学期授業/Fall	2832
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_教養ゼミ【Q6909】教養ゼミⅠ [久木 正雄] 春学期授業/Spring	2833
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_教養ゼミ【Q6910】教養ゼミⅡ [久木 正雄] 秋学期授業/Fall	2834
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6911】スペイン語講読A [若林 大我] 春学期授業/Spring	2835
2017年度以降入学者_ILAC科目_300番台 総合科目_総合科目【Q6912】スペイン語講読B [若林 大我] 秋学期授業/Fall	2836
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択] 外国語(英語・諸外国語)【R2301】英語オーラル・コミュニケーションⅠ [ALAN M NICHOLLS] 春学期授業/Spring	2837
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択] 外国語(英語・諸外国語)【R2302】英語オーラル・コミュニケーションⅡ [ALAN M NICHOLLS] 秋学期授業/Fall	2839
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択] 外国語(英語・諸外国語)【R2303】英語オーラル・コミュニケーションⅠ [ELIKO M KOSAKA] 春学期授業/Spring	2841
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択] 外国語(英語・諸外国語)【R2304】英語オーラル・コミュニケーションⅡ [ELIKO M KOSAKA] 秋学期授業/Fall	2842

2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択] 外国語(英語・諸外国語) 【R2305】 英語オーラル・コミュニケーションⅠ [LASSEGARD JAMES] 春学期授業/Spring	2843
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択] 外国語(英語・諸外国語) 【R2306】 英語オーラル・コミュニケーションⅡ [LASSEGARD JAMES] 秋学期授業/Fall	2844
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択] 外国語(英語・諸外国語) 【R2351】 ビジネス・イングリッシュⅠ [JOHN REILLY] 春学期授業/Spring	2845
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択] 外国語(英語・諸外国語) 【R2352】 ビジネス・イングリッシュⅡ [JOHN REILLY] 秋学期授業/Fall	2846
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択] 外国語(英語・諸外国語) 【R2381】 English Reading and VocabularyⅠ [ウォルター・カズマー] 春学期授業/Spring	2847
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択] 外国語(英語・諸外国語) 【R2382】 English Reading and VocabularyⅡ [ウォルター・カズマー] 秋学期授業/Fall	2848
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択] 外国語(英語・諸外国語) 【R2383】 English Reading and VocabularyⅠ [ERIC J RITTER] 春学期授業/Spring	2849
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択] 外国語(英語・諸外国語) 【R2384】 English Reading and VocabularyⅡ [ERIC J RITTER] 秋学期授業/Fall	2850
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択] 外国語(英語・諸外国語) 【R2391】 English Academic WritingⅠ [PAUL K KALLENDER] 春学期授業/Spring	2851
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択] 外国語(英語・諸外国語) 【R2392】 English Academic WritingⅡ [PAUL K KALLENDER] 秋学期授業/Fall	2853
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択] 外国語(英語・諸外国語) 【R2393】 English Academic WritingⅠ [MARK D BURNS] 春学期授業/Spring	2855
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択] 外国語(英語・諸外国語) 【R2394】 English Academic WritingⅡ [MARK D BURNS] 秋学期授業/Fall	2856
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択] 外国語(英語・諸外国語) 【R2395】 English Academic WritingⅠ [ALAN M NICHOLLS] 春学期授業/Spring	2857
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択] 外国語(英語・諸外国語) 【R2396】 English Academic WritingⅡ [ALAN M NICHOLLS] 秋学期授業/Fall	2859
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択] 外国語(英語・諸外国語) 【R2401】 英語で学ぶ社会と文化Ⅰ [田中 邦佳] 春学期授業/Spring	2861
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択] 外国語(英語・諸外国語) 【R2402】 英語で学ぶ社会と文化Ⅱ [田中 邦佳] 秋学期授業/Fall	2863
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択] 外国語(英語・諸外国語) 【R2403】 英語で学ぶ社会と文化Ⅰ [根本 怜奈] 春学期授業/Spring	2865
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択] 外国語(英語・諸外国語) 【R2404】 英語で学ぶ社会と文化Ⅱ [根本 怜奈] 秋学期授業/Fall	2866
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択] 外国語(英語・諸外国語) 【R2405】 英語で学ぶ社会と文化Ⅰ [萩原 眞一] 春学期授業/Spring	2867
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択] 外国語(英語・諸外国語) 【R2406】 英語で学ぶ社会と文化Ⅱ [萩原 眞一] 秋学期授業/Fall	2869
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択] 外国語(英語・諸外国語) 【R2407】 英語で学ぶ社会と文化Ⅰ [余田 剛] 春学期授業/Spring	2871
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択] 外国語(英語・諸外国語) 【R2408】 英語で学ぶ社会と文化Ⅱ [余田 剛] 秋学期授業/Fall	2873
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択] 外国語(英語・諸外国語) 【R2409】 英語で学ぶ社会と文化Ⅰ [金谷 優子] 春学期授業/Spring	2875
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択] 外国語(英語・諸外国語) 【R2410】 英語で学ぶ社会と文化Ⅱ [金谷 優子] 秋学期授業/Fall	2877
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択] 外国語(英語・諸外国語) 【R2411】 英語で学ぶ社会と文化Ⅰ [大曲 陽子] 春学期授業/Spring	2879
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択] 外国語(英語・諸外国語) 【R2412】 英語で学ぶ社会と文化Ⅱ [大曲 陽子] 秋学期授業/Fall	2881
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択] 外国語(英語・諸外国語) 【R2441】 English PresentationⅠ [NADER Jamelea] 春学期授業/Spring	2883
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択] 外国語(英語・諸外国語) 【R2442】 English PresentationⅡ [NADER Jamelea] 秋学期授業/Fall	2885

2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択] 外国語(英語・諸外国語) 【R2443】 English Presentation I [JOHN REILLY] 春学期授業/Spring	2887
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択] 外国語(英語・諸外国語) 【R2444】 English Presentation II [JOHN REILLY] 秋学期授業/Fall	2888
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択] 外国語(英語・諸外国語) 【R2445】 English Presentation I [コートランド・デイビッド・スミス] 春学期授業/Spring	2889
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択] 外国語(英語・諸外国語) 【R2446】 English Presentation II [コートランド・デイビッド・スミス] 秋学期授業/Fall	2891
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択] 外国語(英語・諸外国語) 【R2447】 English Presentation I [MARK D BURNS] 春学期授業/Spring	2893
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択] 外国語(英語・諸外国語) 【R2448】 English Presentation II [MARK D BURNS] 秋学期授業/Fall	2894
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択] 外国語(英語・諸外国語) 【R2451】 英語アカデミック・リーディング I [岩崎 博] 春学期授業/Spring	2895
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択] 外国語(英語・諸外国語) 【R2452】 英語アカデミック・リーディング II [岩崎 博] 秋学期授業/Fall	2897
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択] 外国語(英語・諸外国語) 【R2481】 英語検定試験対策 I [久慈 美貴] 春学期授業/Spring	2899
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択] 外国語(英語・諸外国語) 【R2482】 英語検定試験対策 II [久慈 美貴] 秋学期授業/Fall	2901
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択] 外国語(英語・諸外国語) 【R2483】 英語検定試験対策 I [青山 恵子] 春学期授業/Spring	2903
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択] 外国語(英語・諸外国語) 【R2484】 英語検定試験対策 II [青山 恵子] 秋学期授業/Fall	2904
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択] 外国語(英語・諸外国語) 【R2485】 英語検定試験対策 I [宮崎 早季] 春学期授業/Spring	2905
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択] 外国語(英語・諸外国語) 【R2486】 英語検定試験対策 II [宮崎 早季] 秋学期授業/Fall	2906
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択] 外国語(英語・諸外国語) 【R2487】 英語検定試験対策 I [高橋 佳江] 春学期授業/Spring	2907
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択] 外国語(英語・諸外国語) 【R2488】 英語検定試験対策 II [高橋 佳江] 秋学期授業/Fall	2909
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択] 外国語(英語・諸外国語) 【R2601】 Oral Communication I [板橋 美也] 春学期授業/Spring	2911
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択] 外国語(英語・諸外国語) 【R2602】 Oral Communication II [板橋 美也] 秋学期授業/Fall	2912
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択] 外国語(英語・諸外国語) 【R2611】 English through Movies and Drama I [井上 紗央里] 春学期授業/Spring	2913
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択] 外国語(英語・諸外国語) 【R2612】 English through Movies and Drama II [井上 紗央里] 秋学期授業/Fall	2914
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択] 外国語(英語・諸外国語) 【R2613】 English through Movies and Drama I [舟橋 美香] 春学期授業/Spring	2915
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択] 外国語(英語・諸外国語) 【R2614】 English through Movies and Drama II [舟橋 美香] 秋学期授業/Fall	2916
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択] 外国語(英語・諸外国語) 【R2621】 TOEIC(R) I [井上 紗央里] 春学期授業/Spring	2917
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択] 外国語(英語・諸外国語) 【R2622】 TOEIC(R) II [井上 紗央里] 秋学期授業/Fall	2918
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択] 外国語(英語・諸外国語) 【R2623】 TOEIC(R) I [板橋 美也] 春学期授業/Spring	2919
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択] 外国語(英語・諸外国語) 【R2624】 TOEIC(R) II [板橋 美也] 秋学期授業/Fall	2920
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択] 外国語(英語・諸外国語) 【R2631】 英語検定試験対策 I [青山 恵子] 春学期授業/Spring	2921
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択] 外国語(英語・諸外国語) 【R2632】 英語検定試験対策 II [青山 恵子] 秋学期授業/Fall	2922

2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択] 外国語(英語・諸外国語) 【R2641】 Business Communication I [今井 澄子] 春学期授業/Spring	2923
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択] 外国語(英語・諸外国語) 【R2642】 Business Communication II [今井 澄子] 秋学期授業/Fall	2925
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択] 外国語(英語・諸外国語) 【R2651】 ニュース英語 I [塩谷 幸子] 春学期授業/Spring	2927
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択] 外国語(英語・諸外国語) 【R2652】 ニュース英語 II [塩谷 幸子] 秋学期授業/Fall	2928
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_4群 (諸外国語分野) 【R3621】 日本語の世界L A [尾形 太郎] 春学期授業/Spring	2929
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_4群 (諸外国語分野) 【R3622】 日本語の世界L B [尾形 太郎] 秋学期授業/Fall	2931
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_4群 (諸外国語分野) 【R3623】 日本の文化と社会L A [尾形 太郎] 春学期授業/Spring	2933
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_4群 (諸外国語分野) 【R3624】 日本の文化と社会L B [尾形 太郎] 秋学期授業/Fall	2935
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択] 外国語(英語・諸外国語) 【R4281】 ドイツ語コミュニケーション I [JENS OSTWALD] 春学期授業/Spring	2937
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択] 外国語(英語・諸外国語) 【R4282】 ドイツ語コミュニケーション II [JENS OSTWALD] 秋学期授業/Fall	2938
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択必修] 外国語(諸外国語) 【R4283】 ドイツ語表現法 I [Schmidt Ute] 春学期授業/Spring	2939
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択必修] 外国語(諸外国語) 【R4284】 ドイツ語表現法 II [Schmidt Ute] 秋学期授業/Fall	2940
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択] 外国語(英語・諸外国語) 【R4285】 ドイツ語視聴覚 I [D. ハイデンライヒ] 春学期授業/Spring	2941
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択] 外国語(英語・諸外国語) 【R4286】 ドイツ語視聴覚 II [D. ハイデンライヒ] 秋学期授業/Fall	2942
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択] 外国語(英語・諸外国語) 【R4287】 SDGsで学ぶドイツ語 I [熊田 泰章] 春学期授業/Spring	2943
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択] 外国語(英語・諸外国語) 【R4288】 SDGsで学ぶドイツ語 II [熊田 泰章] 秋学期授業/Fall	2945
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_4群 (諸外国語分野) 【R4295】 ドイツ語の世界L A [Schmidt Ute] 春学期授業/Spring	2947
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_4群 (諸外国語分野) 【R4296】 ドイツ語の世界L B [Schmidt Ute] 秋学期授業/Fall	2948
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_4群 (諸外国語分野) 【R4297】 ドイツの文化と社会L A [上田 知夫] 春学期授業/Spring	2950
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_4群 (諸外国語分野) 【R4298】 ドイツの文化と社会L B [上田 知夫] 秋学期授業/Fall	2951
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_4群 (諸外国語分野) 【R5271】 フランス語の世界L A [廣松 勲] 春学期授業/Spring	2952
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_4群 (諸外国語分野) 【R5272】 フランス語の世界L B [廣松 勲] 秋学期授業/Fall	2954
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択] 外国語(英語・諸外国語) 【R5273】 フランス語コミュニケーション(初級) I [ニコラ ガイヤール] 春学期授業/Spring	2956
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択] 外国語(英語・諸外国語) 【R5274】 フランス語コミュニケーション(初級) II [ニコラ ガイヤール] 秋学期授業/Fall	2957
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択] 外国語(英語・諸外国語) 【R5279】 時事フランス語 I [大中 一彌] 春学期授業/Spring	2958
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択] 外国語(英語・諸外国語) 【R5280】 時事フランス語 II [大中 一彌] 秋学期授業/Fall	2960
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_4群 (諸外国語分野) 【R5291】 フランスの文化と社会L A [鈴木 正道] 春学期授業/Spring	2963
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_4群 (諸外国語分野) 【R5292】 フランスの文化と社会L B [鈴木 正道] 秋学期授業/Fall	2965

2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台リベラルアーツ科目_4群(諸外国語分野)【R5293】フランス生活文化論L A [河村 英和] サマーセッション/Summer Session.....	2967
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台リベラルアーツ科目_4群(諸外国語分野)【R5294】フランス生活文化論L B [河村 英和] 秋学期授業/Fall.....	2969
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台リベラルアーツ科目_4群(諸外国語分野)【R5295】フランス生活文化論L A [梶谷 彩子] 春学期授業/Spring.....	2971
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台リベラルアーツ科目_4群(諸外国語分野)【R5296】フランス生活文化論L B [梶谷 彩子] 秋学期授業/Fall.....	2972
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台リベラルアーツ科目_4群(諸外国語分野)【R6241】ロシア語の世界L A [木部 敬] 春学期授業/Spring.....	2973
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台リベラルアーツ科目_4群(諸外国語分野)【R6242】ロシア語の世界L B [木部 敬] 秋学期授業/Fall.....	2974
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台リベラルアーツ科目_4群(諸外国語分野)【R6243】ロシアの文化と社会L A [佐藤 千登勢] 春学期授業/Spring.....	2975
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台リベラルアーツ科目_4群(諸外国語分野)【R6244】ロシアの文化と社会L B [佐藤 千登勢] 秋学期授業/Fall.....	2977
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台外国語科目_4群[選択]外国語(英語・諸外国語)【R7413】中国語コミュニケーション初級I [周 重雷] 春学期授業/Spring.....	2979
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台外国語科目_4群[選択]外国語(英語・諸外国語)【R7414】中国語コミュニケーション初級II [周 重雷] 秋学期授業/Fall.....	2980
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台外国語科目_4群[選択必修]外国語(諸外国語)【R7431】中国語作文初級I [康 鴻音] 春学期授業/Spring.....	2981
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台外国語科目_4群[選択必修]外国語(諸外国語)【R7432】中国語作文初級II [康 鴻音] 秋学期授業/Fall.....	2982
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台外国語科目_4群[選択必修]外国語(諸外国語)【R7433】中国語視聴覚初級I [劉 渴水] 春学期授業/Spring.....	2983
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台外国語科目_4群[選択必修]外国語(諸外国語)【R7434】中国語視聴覚初級II [劉 渴水] 秋学期授業/Fall.....	2984
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台外国語科目_4群[選択]外国語(英語・諸外国語)【R7437】資格中国語初級I [青木 正子] 春学期授業/Spring.....	2985
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台外国語科目_4群[選択]外国語(英語・諸外国語)【R7438】資格中国語初級II [青木 正子] 秋学期授業/Fall.....	2986
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台リベラルアーツ科目_4群(諸外国語分野)【R7447】中国の文化と社会L A [山本 律] 春学期授業/Spring.....	2987
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台リベラルアーツ科目_4群(諸外国語分野)【R7448】中国の文化と社会L B [山本 律] 秋学期授業/Fall.....	2988
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台外国語科目_4群[選択]外国語(英語・諸外国語)【R8301】スペイン語コミュニケーションI [瓜谷 アウロラ] 春学期授業/Spring.....	2989
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台外国語科目_4群[選択]外国語(英語・諸外国語)【R8302】スペイン語コミュニケーションII [瓜谷 アウロラ] 秋学期授業/Fall.....	2990
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台外国語科目_4群[選択必修]外国語(諸外国語)【R8303】現代のスペイン語I [大西 亮] 春学期授業/Spring.....	2992
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台外国語科目_4群[選択必修]外国語(諸外国語)【R8304】現代のスペイン語II [久木 正雄] 秋学期授業/Fall.....	2993
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台リベラルアーツ科目_4群(諸外国語分野)【R8305】スペイン語の世界L A [塩崎 公靖] 春学期授業/Spring.....	2994
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台リベラルアーツ科目_4群(諸外国語分野)【R8306】スペイン語の世界L B [塩崎 公靖] 秋学期授業/Fall.....	2995
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台外国語科目_4群[選択必修]外国語(諸外国語)【R9283】朝鮮語4 B I (視聴覚) [新谷 あゆり] 春学期授業/Spring.....	2996
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台外国語科目_4群[選択必修]外国語(諸外国語)【R9284】朝鮮語4 B II (視聴覚) [新谷 あゆり] 秋学期授業/Fall.....	2997
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台外国語科目_4群[選択]外国語(英語・諸外国語)【R9285】朝鮮語5 A I (講読) [吉良 佳奈江] 春学期授業/Spring.....	2998
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台外国語科目_4群[選択]外国語(英語・諸外国語)【R9286】朝鮮語5 A II (講読) [吉良 佳奈江] 秋学期授業/Fall.....	3000

2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択] 外国語(英語・諸外国語) 【R9287】 朝鮮語5 B I (表現法) [神谷 丹路] 春学期授業/Spring	3001
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択] 外国語(英語・諸外国語) 【R9288】 朝鮮語5 B II (表現法) [神谷 丹路] 秋学期授業/Fall.....	3002
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_4群 (諸外国語分野) 【R9289】 朝鮮の文化と社会 LA [李 英美] 春学期授業/Spring	3003
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 リベラルアーツ科目_4群 (諸外国語分野) 【R9290】 朝鮮の文化と社会 LB [李 英美] 秋学期授業/Fall.....	3004
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択必修] 外国語(諸外国語) 【R9291】 朝鮮語4 C I (コミュニケーション) [富所 明秀] 春学期授業/Spring.....	3005
2017年度以降入学者_ILAC科目_200番台 外国語科目_4群 [選択必修] 外国語(諸外国語) 【R9292】 朝鮮語4 C II (コミュニケーション) [富所 明秀] 秋学期授業/Fall.....	3006

LAW100AB

憲法 I

建石 真公子

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

単位数：2 単位

備考（履修条件等）：クラス指定科目 ※法律 1 年 A-G・2 年以上全

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

授業では、立憲主義の原理と基本的人権について、歴史、理論、判例を通じて学ぶ。

授業の目的は、明治憲法制定及び日本国憲法制定時に西欧立憲主義を取り入れた日本の憲法史の特徴を理解し、第二次世界大戦後の違憲審査制や国際人権保障制度によって変容した憲法原理を踏まえ、さらにグローバル化に直面した現代の立憲主義の課題について考える能力を養うことである。

全てのコースに配置されている。

【到達目標】

1. 立憲主義について理解できるようになる。
2. 基本的人権の本質とその保障のメカニズムを理解できるようになる。
3. 日本国憲法における基本的人権の保障について、具体的な問題として理解でき、国際社会や日本社会における人権課題として考えられるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に強く関連。

【授業の進め方と方法】

授業は大人数講義ですので、オンデマンド授業（録画）となります。授業形式は、教科書、レジュメに基づき講義中心に行いつつ、合間に理解度を確認するために質問を行う場合があります。

レジュメおよび録画は、毎週水曜日にアップします。

録画のアップ方法は、第 2 週に「お知らせ」で通知します。

質問は、Hoppi の掲示板に書いてください。可能な限り、1 週間以内にお返事します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション 「憲法とは何か」を学ぶ	授業の進め方や学び方についてのガイダンスを行う。
第 2 回	憲法判例とは？	憲法判例の意義や学び方について理解する。
第 3 回	立憲主義	教科書 1～4 章から、立憲主義の概要について学ぶ。
第 4 回	立憲主義（2）	国際法と憲法の関係について学ぶ（教科書第 5 章）
第 5 回	憲法改正	憲法改正について、理論、諸外国の制度、日本における課題について学ぶ。
第 6 回	明治憲法体制と日本国憲法体制（1）	明治憲法の原理と特徴を学ぶ。
第 7 回	明治憲法体制と日本国憲法体制（2）	日本国憲法制定過程に関する議論について学ぶ。日本国憲法の特徴、及び課題について理解する。
第 8 回	基本的人権総論	基本的人権について、歴史、類型、主体、保障について理解する。

第 9 回	公務員の人権	公務員は、法律により人権を制約されているが、その法的根拠、課題について学ぶ。
第 10 回	外国人の人権	日本に滞在、居住する外国人の人権保護、及び課題について学ぶ。
第 11 回	人権の国際的保障	第 2 次世界大戦後に創設された国際人権保障について、意義、制度、課題について学ぶ。
第 12 回	人権の私人間適用	私人間における人権保障について間接的に憲法を適用する理論である「私人間適用」について理解する。
第 13 回	個人の尊重と人格権	憲法 13 条の個人の尊重の解釈、判例について学ぶ。
第 14 回	個人の尊重－プライバシーの権利－	現代的な権利である「プライバシーの権利」に関して、理論と判例を学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の前に、教科書を読んで、わかりにくい点を明らかにしておいてください。

授業後は、レジュメや判例を読み直して理解を深めてください。本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

元山健・建石真公子編『現代日本の憲法』法律文化社、2016 年。
長谷部恭男・石川健治・宍戸常寿（編）『憲法判例百選 I・II』（第 7 版）2019 年

【参考書】

芦部信喜（高橋和之補訂）『憲法』（第 7 版）岩波書店、2019 年

【成績評価の方法と基準】

期末に行う「論述式の定期試験」により評価する。
感染症などの状況によっては「レポート」に変更する場合もある。

【学生の意見等からの気づき】

時事問題を理解したいという要望がありますので、適宜解説していきます。

【学生が準備すべき機器他】

オンデマンドの授業を視聴できる機器等。

【その他の重要事項】

オフィスアワーは、基本的にオンラインで行います。
疑問のある時には気軽 HOPPI の掲示板で日程のリクエストをしてください。

【Outline (in English)】

< Course outline >

Learn the principles of the Constitutionalism and the fundamental human rights through history, theory and cases. It is arranged in all courses.

< Learning Objectives >

The purpose of the lecture is to understand the characteristics of Japanese constitution established by importing the Western Constitutionalism, from the viewpoint of comparative law, and to cultivate the ability to think about the various problems concerning the constitution in the age of globalization.

< Learning activities outside of classroom >

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than two hours for a class.

< Grading Criteria /Policies >

Final grade will be calculated according to the following process, term-end examination or Report(100%).

LAW100AB

憲法Ⅱ

建石 真公子

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
 単位数：2 単位
 備考（履修条件等）：クラス指定科目 ※法律 1 年 A-G・2 年以上全
 その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

基本的人権の保護について、解釈、判例、課題を理解する。授業の目的は、現代の国際社会及び日本の社会における人権に関する問題について理解し、人権保護について考える能力を養う事である。全てのコースに配置されている科目である。

【到達目標】

1. 基本的人権の概念について、日本社会及び国際社会における課題について理解できるようになる。
2. 人権保障のメカニズムと、その課題を理解できるようになる。
3. 憲法判例の意義、及び違憲審査基準論の課題を理解できるようになる。
4. 以上の理解を通じて、実際の社会において提起される人権問題に関して、法的解決方法を提示することができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に強く関連。

【授業の進め方と方法】

秋学期の授業は、教科書に沿って、録画またはレジュメによって行う。レジュメおよび録画は、原則として毎週水曜日にアップする。録画のアクセスについては、第 2 週に「お知らせ」で通知する。質問は、Hoppi の掲示板に書いてください。可能な限り、1 週間以内に返信します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の進め方と基本的人権保障の人権総論
第 2 回	人権主体- 公務員・外国人の人権	憲法が保護している権利の主体は誰か。例えば、法制度上、一定の権利制約が認められている人々がいる。たとえば、未成年、受刑者、公務員などである。また、外国人野人権はどのように保護されているのだろうか。現状を理解し、学説、判例から学び、考える。
第 3 回	私人間適用	憲法は、公権力を統制する法であり、私人間には直接には適用されないと解釈されている。それでは、私人間の人権問題には憲法は適用できないのか。学説及び判例から、私人間の人権問題に関する憲法の適用の可能性と方法について学ぶ。
第 4 回	13 条- 人格権	13 条における個人の尊重と幸福追求権の解釈を理解し、人格権に関する学説と判例を学ぶ。

第 5 回	13 条- プライバシーの権利	13 条から、学説及び判例はプライバシーの権利を引きだしているが、その範囲は多岐に渡る。プライバシーの権利について、国際人権基準、外国法の解釈を参考にしつつ、その内容と射程を理解する。
第 6 回	生命権	13 条の保護する生命権の定義を学び、どのような場面でその保護が問題となるのかを理解する。
第 7 回	平等	憲法上の平等の解釈について、形式的平等、相対的平等、アファーマティブ・アクションについて理解する。
第 8 回	思想・良心の自由	思想・良心の自由の保護に関して、三菱樹脂事件、君が代起立拒否事件の判例を通じて理解する。
第 9 回	信教の自由	信教の自由の意義を理解し、その課題を判例を通じて理解する。政教分離に関して比較法の観点から理解し、日本における意義を考える。
第 10 回	表現の自由	表現の自由の意義を理解し、その課題を判例を通じて理解する表現の自由の保護と、ヘイトスピーチによって権利侵害されている人の人権保護について考える。
第 11 回	参政権	参政権の意義と課題について学ぶ
第 12 回	社会権・生存権	生存権保護の意義について、歴史、学説を通じて理解する諸外国の社会保障との比較を通じて、日本の問題点について考える。
第 13 回	労働基本権	現代社会における労働者の保護の内容と課題について学ぶ。
第 14 回	人身の自由・公正な裁判	刑事手続きにおける人身の自由保護に関して、制度及び課題について学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業を受講する前に、教科書の予定範囲部分を読んで予習すること。授業には、レジュメを印刷し持参すること、授業後は、レジュメや教科書を読み直し、理解を深めること。本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

元山健・建石真公子『現代日本の憲法』法律文化社、2016 年。
 長谷部恭男・石川健治・宍戸常寿（編）『憲法判例百選Ⅰ・Ⅱ』（第 7 版）2019 年

【参考書】

芦部信喜（高橋和之補訂）『憲法』（第 7 版）岩波書店、2019 年

【成績評価の方法と基準】

対面の「論述式の定期試験」（100%）によって評価する。感染症の状況によっては「レポート」に変更する場合もある。

【学生の意見等からの気づき】

時事的な問題についての要望があるので、適宜触れます。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

判例百選は学習に必須ですので準備しておいて下さい。

【Outline (in English)】

< Course outline >
 Understand the question about the protection of the fundamental human rights through theory and cases.
 < Learning Objectives >
 The purpose of lecture is to cultivate the ability to understand human rights issues in contemporary international society and Japanese society.
 It is a subject that is arranged in all courses.
 < Learning activities outside of classroom >

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than two hours for a class.

< Grading Criteria /Policies >

Final grade will be calculated according to the following process, term-end examination or Report (100%).

LAW100AB

憲法 I

建石 真公子

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

単位数：2 単位

備考（履修条件等）：クラス指定科目 ※法律 1 年 H-N・2 年以上全

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

授業では、立憲主義の原理と基本的人権について、歴史、理論、判例を通じて学ぶ。

授業の目的は、明治憲法制定及び日本国憲法制定時に西欧立憲主義を取り入れた日本の憲法史の特徴を理解し、第二次世界大戦後の違憲審査制や国際人権保障制度によって変容した憲法原理を踏まえ、さらにグローバル化に直面した現代の立憲主義の課題について考える能力を養うことである。

全てのコースに配置されている。

【到達目標】

1. 立憲主義について理解できるようになる。
2. 基本的人権の本質とその保障のメカニズムを理解できるようになる。
3. 日本国憲法における基本的人権の保障について、具体的な問題として理解でき、国際社会や日本社会における人権課題として考えられるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に強く関連。

【授業の進め方と方法】

授業は大人数講義ですので、オンデマンド授業（録画）となります。授業形式は、教科書、レジュメに基づき講義中心に行いつつ、合間に理解度を確認するために質問を行う場合があります。

レジュメおよび録画は、毎週水曜日にアップします。

録画のアップ方法は、第 2 週に「お知らせ」で通知します。

質問は、Hoppi の掲示板に書いてください。可能な限り、1 週間以内にお返事します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション 「憲法とは何か」を学ぶ	授業の進め方や学び方についてのガイダンスを行う。
第 2 回	憲法判例とは？	憲法判例の意義や学び方について理解する。
第 3 回	立憲主義	教科書 1～4 章から、立憲主義の概要について学ぶ。
第 4 回	立憲主義（2）	国際法と憲法の関係について学ぶ（教科書第 5 章）
第 5 回	憲法改正	憲法改正について、理論、諸外国の制度、日本における課題について学ぶ。
第 6 回	明治憲法体制と日本国憲法体制（1）	明治憲法の原理と特徴を学ぶ。
第 7 回	明治憲法体制と日本国憲法体制（2）	日本国憲法制定過程に関する議論について学ぶ。日本国憲法の特徴、及び課題について理解する。
第 8 回	基本的人権総論	基本的人権について、歴史、類型、主体、保障について理解する。

第 9 回	公務員の人権	公務員は、法律により人権を制約されているが、その法的根拠、課題について学ぶ。
第 10 回	外国人の人権	日本に滞在、居住する外国人の人権保護、及び課題について学ぶ。
第 11 回	人権の国際的保障	第 2 次世界大戦後に創設された国際人権保障について、意義、制度、課題について学ぶ。
第 12 回	人権の私人間適用	私人間における人権保障について間接的に憲法を適用する理論である「私人間適用」について理解する。
第 13 回	個人の尊重と人格権	憲法 13 条の個人の尊重の解釈、判例について学ぶ。
第 14 回	個人の尊重- プライバシーの権利-	現代的な権利である「プライバシーの権利」に関して、理論と判例を学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の前に、教科書を読んで、わかりにくい点を明らかにしておいてください。

授業後は、レジュメや判例を読み直して理解を深めてください。本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

元山健・建石真公子編『現代日本の憲法』法律文化社、2016 年。
長谷部恭男・石川健治・宍戸常寿（編）『憲法判例百選 I・II』（第 7 版）2019 年

【参考書】

芦部信喜（高橋和之補訂）『憲法』（第 7 版）岩波書店、2019 年

【成績評価の方法と基準】

期末に行う「論述式の定期試験」により評価する。
感染症などの状況によっては「レポート」に変更する場合もある。

【学生の意見等からの気づき】

時事問題を理解したいという要望がありますので、適宜解説していきます。

【学生が準備すべき機器他】

オンデマンドの授業を視聴できる機器等。

【その他の重要事項】

オフィスアワーは、基本的にオンラインで行います。
疑問のある時には気軽 Hoppi の掲示板で日程のリクエストをしてください。

【Outline (in English)】

< Course outline >

Learn the principles of the Constitutionalism and the fundamental human rights through history, theory and cases. It is arranged in all courses.

< Learning Objectives >

The purpose of the lecture is to understand the characteristics of Japanese constitution established by importing the Western Constitutionalism, from the viewpoint of comparative law, and to cultivate the ability to think about the various problems concerning the constitution in the age of globalization.

< Learning activities outside of classroom >

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than two hours for a class.

< Grading Criteria /Policies >

Final grade will be calculated according to the following process, term-end examination or Report(100%).

LAW100AB

憲法Ⅱ

建石 真公子

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

単位数：2 単位

備考（履修条件等）：クラス指定科目 ※法律 1 年 H-N・2 年以上全

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

基本的人権の保護について、解釈、判例、課題を理解する。授業の目的は、現代の国際社会及び日本の社会における人権に関する問題について理解し、人権保護について考える能力を養う事である。全てのコースに配置されている科目である。

【到達目標】

1. 基本的人権の概念について、日本社会及び国際社会における課題について理解できるようになる。
2. 人権保障のメカニズムと、その課題を理解できるようになる。
3. 憲法判例の意義、及び違憲審査基準論の課題を理解できるようになる。
4. 以上の理解を通じて、実際の社会において提起される人権問題に関して、法的解決方法を提示することができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に強く関連。

【授業の進め方と方法】

秋学期の授業は、教科書に沿って、録画またはレジュメによって行う。レジュメおよび録画は、原則として毎週水曜日にアップする。録画のアクセスについては、第 2 週に「お知らせ」で通知する。質問は、Hoppi の掲示板に書いてください。可能な限り、1 週間以内に返信します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の進め方と基本的人権保障の人権総論
第 2 回	人権主体- 公務員・外国人の人権	憲法が保護している権利の主体は誰か。例えば、法制度上、一定の権利制約が認められている人々がいる。たとえば、未成年、受刑者、公務員などである。また、外国人野人権はどのように保護されているのだろうか。現状を理解し、学説、判例から学び、考える。
第 3 回	私人間適用	憲法は、公権力を統制する法であり、私人間には直接には適用されないと解釈されている。それでは、私人間の人権問題には憲法は適用できないのか。学説及び判例から、私人間の人権問題に関する憲法の適用の可能性と方法について学ぶ。
第 4 回	13 条- 人格権	13 条における個人の尊重と幸福追求権の解釈を理解し、人格権に関する学説と判例を学ぶ。

第 5 回	13 条- プライバシーの権利	13 条から、学説及び判例はプライバシーの権利を引きだしているが、その範囲は多岐に渡る。プライバシーの権利について、国際人権基準、外国法の解釈を参考にしつつ、その内容と射程を理解する。
第 6 回	生命権	13 条の保護する生命権の定義を学び、どのような場面でその保護が問題となるのかを理解する。
第 7 回	平等	憲法上の平等の解釈について、形式的平等、相対的平等、アファーマティブ・アクションについて理解する。
第 8 回	思想・良心の自由	思想・良心の自由の保護に関して、三菱樹脂事件、君が代起立拒否事件の判例を通じて理解する。
第 9 回	信教の自由	信教の自由の意義を理解し、その課題を判例を通じて理解する。政教分離に関して比較法の観点から理解し、日本における意義を考える。
第 10 回	表現の自由	表現の自由の意義を理解し、その課題を判例を通じて理解する表現の自由の保護と、ヘイトスピーチによって権利侵害されている人々の人権保護について考える。
第 11 回	参政権	参政権の意義と課題について学ぶ
第 12 回	社会権・生存権	生存権保護の意義について、歴史、学説を通じて理解する諸外国の社会保障との比較を通じて、日本の問題点について考える。
第 13 回	労働基本権	現代社会における労働者の保護の内容と課題について学ぶ。
第 14 回	人身の自由・公正な裁判	刑事手続きにおける人身の自由保護に関して、制度及び課題について学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業を受講する前に、教科書の予定範囲部分を読んで予習すること。授業には、レジュメを印刷し持参すること、授業後は、レジュメや教科書を読み直し、理解を深めること。本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

元山健・建石真公子『現代日本の憲法』法律文化社、2016 年。
長谷部恭男・石川健治・宍戸常寿（編）『憲法判例百選Ⅰ・Ⅱ』（第 7 版）2019 年

【参考書】

芦部信喜（高橋和之補訂）『憲法』（第 7 版）岩波書店、2019 年

【成績評価の方法と基準】

対面の「論述式の定期試験」（100%）によって評価する。感染症の状況によっては「レポート」に変更する場合もある。

【学生の意見等からの気づき】

時事的な問題についての要望があるので、適宜触れます。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

判例百選は学習に必須ですので準備しておいて下さい。

【Outline (in English)】

< Course outline >

Understand the question about the protection of the fundamental human rights through theory and cases.

< Learning Objectives >

The purpose of lecture is to cultivate the ability to understand human rights issues in contemporary international society and Japanese society.

It is a subject that is arranged in all courses.

< Learning activities outside of classroom >

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than two hours for a class.

< Grading Criteria /Policies >

Final grade will be calculated according to the following process, term-end examination or Report (100%).

LAW200AB

憲法Ⅲ

茂木 洋平

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

単位数：2 単位

備考（履修条件等）：クラス指定科目 ※法律 2 年 A-G・3 年以上全

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は、「行政・公共政策と法」コースに位置づけられるものとして、憲法の統治機構の諸問題を扱う。立法、行政、司法という水平的権力分立と中央と地方という垂直的権力分立の二つの側面から、日本の統治機構のあり方を学ぶ。また、立憲主義の発展過程の中で権力分立制がどのように展開されてきたか、さらにそれが民主主義論とどのように結びついているのかを比較法的な視点も踏まえて考察する。

【到達目標】

日本国憲法における権力分立制のあり方を通し、民主主義と立憲主義の関係を理解することが目標である。具体的には、国会、内閣、裁判所、地方自治に関する憲法上のトピックを学び、統治機構の枠組とその現代的变化の状況を把握することを目指す。また振り返って権力分立制がなぜ必要なのか、日本の政治社会の動向の中で統治のしくみがどうあるべきなのかを自ら考えてゆく力を身につけることも目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に強く関連。

【授業の進め方と方法】

本授業は講義形式で行います。レジュメや資料を適宜配布し、レジュメに沿って進行する。質問はウェブ上及び講義前後に随時受け付ける。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	講義の進め方 憲法を学ぶ意義
2	権力分立（1）	権力分立の意義
3	権力分立（2）	権力分立の現代的展開
4	国民主権	国民主権をめぐる諸問題
5	国会（1）	国会の地位
6	国会（2）	国会の組織
7	国会（3）	国会議員の地位
8	内閣（1）	内閣の権限
9	内閣（2）	内閣の組織
10	裁判所（1）	司法権の意義
11	裁判所（2）	司法権の独立
12	裁判所（3）	裁判所の組織と機能
13	地方自治	地方自治をめぐる諸問題
14	まとめ	全体の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義内容と関連する箇所を、どの教科書でも構わないので、事前に読むこと。講義で取ったメモをまとめて、分かり易い文章にまとめること。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

指定はしないが、基本的には、辻村みよ子『憲法[第 7 版]』（日本評論社, 2021）に沿って講義を進める。

【参考書】

講義中に適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

中間と期末に 2 回のレポートを出す。
単位取得には、2 回ともに提出が必要。
成績はレポート（100 %）により評価する。

【学生の意見等からの気づき】

前年度担当していないため、特になし。

【学生が準備すべき機器他】

レジュメ等の資料は学習支援システムにアップするので、レジュメを見れる機器を用意、あるいは事前にレジュメをプリントアウトすること。

【Outline (in English)】

This lecture will focus on the issues of government institutions in terms of comparative perspectives of constitution.

At the end of the course, students are expected to understand the relationship between democracy and Constitutionalism.

Before and after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading will be done on two reports (100%).

Two reports must be submitted in order to obtain credits.

LAW200AB

憲法Ⅳ

茂木 洋平

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

単位数：2 単位

備考（履修条件等）：クラス指定科目 ※法律 2 年 A-G・3 年以上全

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「行政・公共政策と法」コースに位置づけられる科目として、日本国憲法のトピックのうち、違憲審査制、安全保障、財政などの論点について講義を行います。授業では、比較憲法的な視点も踏まえながら、近代立憲主義とその現代の変容という視点から、日本国憲法がどのような民主主義および立憲主義のあり方を想定しているのかをを学んでいく。

【到達目標】

日本国憲法における違憲審査制、安全保障の問題、憲法保障、財政に関する論点を理解するようにします。またそれらを通じて、現代日本における政治的な問題について法的視点から考え、判断できる能力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に強く関連。

【授業の進め方と方法】

本授業は講義形式で行います。レジュメをウェブ上にアップして、レジュメに沿って講義をすすめる。

質問はウェブ上及び講義前後に随時受け付ける。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンスと違憲審査制（1）	違憲審査制の意義と類型
2	違憲審査制（2）	憲法訴訟の意義
3	違憲審査制（3）	違憲審査基準（1）
4	違憲審査制（4）	違憲審査基準（2）
5	違憲審査制（5）	憲法訴訟に見る違憲審査の限界
6	違憲審査制（6）	違憲判決の効力
7	平和主義と安全保障（1）	平和主義の現代的展開
8	安全保障（2）	9 条の解釈
9	安全保障（3）	安全保障の現代的展開
10	財政	財政をめぐる諸問題
11	憲法保障	抵抗権と緊急権
12	憲法改正（1）	憲法改正の意義
13	憲法改正（2）	国民投票をめぐる問題点
14	まとめ	講義の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

どの教科書でも構わないので、講義に関連する箇所を読み込むこと。講義後は講義中にとったメモを分かり易い文章にまとめておくこと。

予習復習の時間はおよそ 2 時間となる。

【テキスト（教科書）】

指定はしないが、違憲審査以外の項目については、辻村みよ子『憲法 [第 7 版]』（日本評論社，2021）に沿って講義を進める。

【参考書】

講義中に適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

中間レポートと期末レポートを出す。
単位取得のためには、両方のレポートを出す必要がある。
成績はレポートによって評価する（100％）。

【学生の意見等からの気づき】

新規担当のため、特になし。

【学生が準備すべき機器他】

レジュメをウェブ上にアップする為、閲覧できる電子機器を用意、あるいはレジュメを事前にプリントアウトすること。

【Outline (in English)】

This course will focus mainly on the issues of the constitutional review system, the fiscal system, and the national security under the Constitution of Japan.

At the end of the course, students are expected to develop the ability to think and judge political issues in Japan from a legal perspective

Before and after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading will be done on two reports (100%).

Two reports are required to obtain credits.

LAW200AB

現代情報法 I

鈴木 秀美

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

単位数：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日々生起する「情報や表現（言論）」に関わる問題をきっかけに、現在の日本の日常ではあまりにも当たり前ものとして、取り立てて意識することが少ないであろう「表現の自由」を、半期の講義を通して問い直します。いったいなぜ、表現の自由なのか、何が守られるべき権利なのかを考えます。インターネットによるSNSでの投稿のように、表現活動とその限界は私たちの生活のあらゆる場面において問題となりうるので、どのコースとの関係でも意義のある授業内容です。

【到達目標】

表現の自由の基本原則、メディア・ジャーナリズム活動を支える法・社会制度について、その全体像のイメージを理解することを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

なぜ民主主義の社会において表現の自由が大切なのかという視点から、表現の自由の意味や保障の限界、名誉やプライバシーと表現の自由の調整の仕方、国家秘密や裁判の公正のための取材・報道に対する制限をめぐる裁判例、ジャーナリストに憲法上認められた特別扱いはどのようなものかについて学びます。具体的な事例を手がかりに、それがどのように解決されており、その解決の仕方にもどのような問題があるかを検討します。ジャーナリストを目指すだけでなく、SNSなどによる情報発信者として誰でも知っておくべき表現の自由についての基礎知識を解説します。授業で扱う個別テーマの順番や内容は変更する可能性があります。

なお、授業形態は「対面授業」ですが、第1回から第6回まではオンライン（オンデマンド）で行う予定です。

毎回、「学習支援システム」でレジュメのデータを配布します。対面授業に際しては、教室で印刷したレジュメも配布します。オンライン授業の場合、「学習支援システム」を通じて授業動画へのアクセス方法を連絡します。また、「学習支援システム」に各回授業についての質問欄を設けます。質問には個別に回答するほか、必要に応じて授業の中でも解説します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	オリエンテーション
第2回	表現の自由1	名誉毀損総論
第3回	表現の自由2	名誉毀損各論
第4回	表現の自由3	プライバシーの侵害
第5回	表現の自由4	犯罪報道とその限界
第6回	表現の自由5	事前差止め
第7回	表現の自由6	表現の内容規制と内容中立規制
第8回	表現の自由7	ヘイトスピーチ規制（外国）
第9回	表現の自由8	ヘイトスピーチ規制（日本）
第10回	取材の自由・報道の自由1	法廷カメラ取材の規制を中心に
第11回	取材の自由・報道の自由2	取材源の証言強制
第12回	取材の自由・報道の自由3	取材資料の提出強制と取材の自由

第13回 取材の自由・報道の自由 国家秘密と取材の自由
由4

第14回 取材の自由・報道の自由 特定秘密と取材の自由
由5

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。復習にあたっては、各回レジュメの確認問題で理解度をセルフチェックしたうえで、冒頭に書かれている論述問題の答案を作成してみるとよいでしょう。

【テキスト（教科書）】

鈴木秀美＝山田健太編著『よくわかるメディア法〔第2版〕』（ミネルバ書房、2019年）

【参考書】

長谷部恭男ほか編『メディア判例百選〔第2版〕』有斐閣、2018年
松井茂記『マスメディア法入門〔第5版〕』日本評論社、2013年
山田健太『法とジャーナリズム〔第3版〕』学陽書房、2014年
*このほかは配布する授業レジュメに記載します。

【成績評価の方法と基準】

教室で試験を実施できる場合、論述式の筆記試験（持込不可）によります（100％）。

【学生の意見等からの気づき】

各回のテーマがどのような問題なのかについての気づきや理解のきっかけとなるよう、各回のテーマに関連する判例や具体的事件を手がかりにします。

【その他の重要事項】

この授業では、表現の自由についての発展的問題や応用問題を扱います。この授業を履修するためには、まえもって、憲法（人権）の授業を履修しておくか、自分で憲法の教科書のなかの表現の自由についての解説を読んでおくといでしょう。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire an understanding of the Information Law (defamation, hate speech law, freedom of the press and State secret etc.). (Learning activities outside of classroom) Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content. (Grading Criteria) Your overall grade in the Class will be decided based on Term-end examination: 100%.

LAW200AB

現代情報法Ⅱ

鈴木 秀美

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

単位数：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日々生起する「情報や表現（言論）」に関わる問題をきっかけに、現在の日本の日常ではあまりにも当たり前ものとして、取り立てて意識することが少ないであろう「表現の自由」を問い直す。いったいなぜ、表現の自由なのか、何が守られるべき権利なのかを、放送法、インターネット法、情報公開法、個人情報保護法を中心に考えます。テレビ番組の政治的公平性や真実性、また、インターネットのSNSによるプライバシー権や肖像権の侵害など、表現活動とその限界は私たちの生活のあらゆる場面において問題となりうるので、どのコースとの関係でも意義のある授業内容です。

【到達目標】

放送とインターネットを支える法・社会制度について、また、情報公開法と個人情報保護法について、その全体像のイメージを理解することを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連。

【授業の進め方と方法】

なぜ民主主義の社会において表現の自由が大切なのか、なぜ政治がメディアに圧力をかけてはいけないのかという視点から、放送法や放送倫理、インターネット法やインターネットリテラシー、情報公開法などについて学びます。また、なぜ自分が自分らしくあるためにプライバシーは保護されるべきなのかという視点から個人情報保護法についても学びます。具体的事例を手がかりに、それがどのように解決されており、その解決の仕方にどのような問題があるかを検討します。テレビ局やIT企業で働くことを目指す人だけでなく、視聴者として、また、SNSなどによる情報発信者として誰もが知っておくべき基礎知識を解説します。授業で扱う個別テーマの順番や内容は変更する可能性があります。

なお、授業形態は「対面授業」としますが、第1回から第5回までをオンラインで行う予定です。

毎回、「学習支援システム」でレジュメのデータを配布します。対面授業に際しては、教室で印刷したレジュメも配布します。オンライン授業の場合、「学習支援システム」を通じて授業動画へのアクセス方法を連絡します。また、「学習支援システム」に各回授業についての質問欄を設けます。質問には個別に回答するほか、必要に応じて授業の中でも解説します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	放送法制1	放送制度の概要
第2回	放送法制2	番組編集準則の合憲性
第3回	放送法制3	「真実」確保のための放送法の仕組み
第4回	放送法制4	訂正放送と反論権
第5回	放送法制5	公共放送の仕組みと役割
第6回	放送法制6	放送法制における法的規制と自主規制
第7回	インターネット法1	インターネット上の表現の自由
第8回	インターネット法2	プロバイダの責任
第9回	インターネット法3	検索結果削除請求権（忘れられる権利？）
第10回	インターネット法4	SNS法規制
第11回	インターネット法5	インターネット上の青少年保護

第12回 情報公開・個人情報保護1 知る権利はどのように法制度として具体化されているか？

第13回 情報公開法・個人情報保護2 自己情報コントロール権はどのように法制度として具体化されているか？ メディア適用除外はなぜ認められているか？

第14回 情報公開法・個人情報保護法3 情報公開制度と個人情報保護制度はどのような関係にあるか？

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。復習にあたっては、各回レジュメの確認問題で理解度をセルフチェックしたうえで、レジュメ冒頭に書かれている論述問題の答案を作成してみるとよいでしょう。

【テキスト（教科書）】

鈴木秀美＝山田健太編著『よくわかるメディア法〔第2版〕』ミネルヴァ書房、2019年

【参考書】

鈴木秀美＝山田健太編著『放送制度概論』商事法務、2011年
松井茂記＝鈴木秀美＝山口いつ子『インターネット法』有斐閣、2015年
長谷部恭男ほか編『メディア判例百選〔第2版〕』有斐閣、2018年
松井茂記『マスメディア法入門〔第5版〕』日本評論社、2013年
山田健太『法とジャーナリズム〔第3版〕』学陽書房、2014年
*そのほかの参考書は授業レジュメに記載します。

【成績評価の方法と基準】

教室で試験を実施できる場合、論述式の筆記試験（持込不可）によります（100％）。

【学生の意見等からの気づき】

各回のテーマがどのような問題なのかについての気づきや理解のきっかけとなるよう、各回のテーマに関連する判例や具体的事件を手がかりにします。

【その他の重要事項】

この授業では、表現の自由についての発展的問題や応用問題を扱います。この授業を履修するためには、まえもって、憲法（人権）の授業を履修しておくか、自分で憲法の教科書のなかの表現の自由についての解説を読んでおくといよいでしょう。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire an understanding of the Information Law (broadcasting law, internet Law, official information disclosure system, personal information protection system etc.). (Learning activities outside of classroom) Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content. (Grading Criteria) Your overall grade in the Class will be decided based on Term-end examination: 100%.

LAW300AB

国際社会と憲法 I

大津 浩

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

単位数：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

西欧の近現代憲法史の流れの中で、「外見的立憲主義」、「近代立憲主義」、「民衆型立憲主義」のそれぞれの特徴とその成立背景、そして立憲主義間の対立を学ぶ。そのうえで、現代のイギリス、フランス、ドイツそれぞれの憲法の基本的特徴、各国憲法に共通する「現代立憲主義」化の特徴と 21 世紀のグローバル立憲主義への対応状況についても考察する。

本授業は、「行政・公共政策と法コース」「国際社会と法コース」に属する。

【到達目標】

西欧の近現代憲法史の流れの中で、「外見的立憲主義」、「近代立憲主義」、「民衆型立憲主義」のそれぞれの特徴とその成立背景、そして立憲主義間の対立を理解できるようになる。現代のイギリス、フランス、ドイツそれぞれの憲法の基本的な特徴を理解したうえで、それぞれの憲法の違いを超えて共通して存在する「現代立憲主義」化の傾向とそのような変化の基本的な要因を理解できるようになる。最後に、21 世紀のグローバル立憲主義における西欧憲法原理の展開方向を見通す力を獲得することを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

イギリス、フランス、ドイツの近現代憲法史を講義する中で、「外見的立憲主義」、「近代立憲主義」、「民衆型立憲主義」のそれぞれの特徴と成立背景、及び立憲主義間の対立を解説する。その上で、20 世紀以降、現在までのイギリス、フランス、ドイツそれぞれの憲法の特徴と変容を分析することで「現代立憲主義」の特徴と 21 世紀のグローバル立憲主義の展開方向を解説する。

授業は Hoppii に事前にアップしたレジュメや資料を用い、レジュメに沿って講義中心で授業を進める。原則として毎授業後に Hoppii を通じて小テストを課し、次の授業時にその内容を解説することを通じて授業内容の理解度を確認する。

対面式を予定しているが、大学の方針が変更された場合には、オンデマンド方式のオンライン授業を行う（詳細は春学期開始時の第 1 回ガイダンス時に連絡する）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の進め方と比較憲法の方法論、及び「近代市民憲法」成立の歴史的背景について講義する。
第 2 回	近代イギリス憲法 (1)	イギリス市民革命とイギリスにおける近代立憲主義の成立について講義する。
第 3 回	近代イギリス憲法 (2)	イギリスにおける議会政治の発達と近代立憲主義の確立について講義する。
第 4 回	現代イギリス憲法	現代イギリス憲法の特徴について講義する。
第 5 回	近代フランス憲法 (1)	フランス革命期の「近代立憲主義」と「民衆型立憲主義」の対立について講義する。

第 6 回	近代フランス憲法 (2)	フランス第 3 共和制における近代立憲主義の確立と現代立憲主義への変容の萌芽について講義する。
第 7 回	現代フランス憲法 (1)	フランス第 4 共和制憲法の成立と崩壊、ならびに第 5 共和制憲法の成立について講義する。
第 8 回	現代フランス憲法 (2)	フランス第 5 共和制憲法の特徴について講義する。
第 9 回	現代フランス憲法 (3)	第 5 共和制憲法の特徴を引き続き講義したのちに、現在のフランス憲法の変容について講義する。
第 10 回	近代ドイツ憲法 (1)	ドイツにおける近代立憲主義の困難性とフランクフルト憲法成立について講義する。
第 11 回	近代ドイツ憲法 (2)	プロイセン憲法とドイツ帝国憲法の分析を踏まえつつ、「外見的立憲主義」について講義する。
第 12 回	現代ドイツ憲法 (1)	ワイマール憲法について講義する。
第 13 回	現代ドイツ憲法 (2)	現行ドイツ憲法の成立過程とその人権保障の特徴について講義する。
第 14 回	現代ドイツ憲法 (3)	現行ドイツ憲法の統治機構面の特徴、ならびに欧州統合におけるその変容について講義する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

西欧近現代史について、毎回の講義の時間で扱われる予定の部分を自主的に勉強し、あるいは授業後に自主的に復習すること。また、イギリス、フランス、ドイツそれぞれについて、テキストの各国憲法の「概説」部分を予習すること。

対面式授業を受ける場合でも可能な限り、Hoppii にアップした各回の授業内容ビデオ（オンデマンド式）と文字ベースの授業内容要旨を事前・又は事後に読了すること。加えて、同じくアップする予定の小テストに授業後に解答し、授業内容の確認に努めること。本授業の準備学習・復習時間は各 4 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

初宿正典・辻村みよ子編『新解説世界憲法集（第 5 版）』2020 年、三省堂、2,700 円＋税

【参考書】

杉原泰雄『憲法の歴史～新たな比較憲法学のすすめ～』岩波書店（1996 年）

辻村みよ子『比較憲法（第 3 版）』岩波書店（2018 年）

辻村みよ子・糠塚康江『フランス憲法入門』三省堂（2012 年）

【成績評価の方法と基準】

定期試験（80 %）、各回の小テストの合計（15 %）、及び授業参加の積極度（5 %）により評価する。

なお対面式試験の実施が不可能な場合、または履修者が少ない場合は、各回の小テストの合計（50 %）、授業アンケートや期末レポート（45%）、その他の授業参加の積極度（5%）により評価する。

【学生の意見等からの気づき】

講義内容が多いため進捗が遅れがちとなり、授業の最後で急ぐ傾向があるので、時間配分に留意するよう努める。

【学生が準備すべき機器他】

予習や復習用に PC、タブレット、スマートフォン等の情報端末が必要。

【その他の重要事項】

レジュメや資料は Hoppii で事前配布するので、特に対面式授業の場合は、必ず事前にプリントアウトして持参してほしい。

【Outline (in English)】

【Course outline】Lecture of some constitutional histories and their actual constitutionalism in the developed democratic countries like England, France and Germany.

【Learning Objectives】The goals of this course are to be able to understand some different characters of constitutionalism type between England, France and Germany and their futures under the globalization.

【Learning activities outside of classroom】 Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understanding the course content in following the lecture videos and some contents offered in the Hoppii.

【Grading Criteria/Politics】 Your overall grade in the class will be decided based on the following;

Term-end examination:80%, Total of short tests:15%, and in-class contribution;5%.

LAW200AB

ジェンダーと法 I

谷田川 知恵

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

単位数：2 単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈ダ〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は「行政・公共政策と法コース」「企業・経営と法コース（労働法中心）」「文化・社会と法コース」に属する。

1. ジェンダー法学について学ぶ。この呼称は新しいものだが、扱われる内容は、古くから続く性差別と法の問題である。20 世紀後半に興隆した第2波フェミニズムの成果を引き継ぎながら、性差別のない社会を構築するため、既存の法体系を批判的に検討して、あらたな法理論の構築を試みる。

2. 女性差別の構造を中心に学ぶ。性差別には、女性差別だけではなく、男性差別も性的少数者（従来の女性か男性かとの分類におさまらない人々）差別もあり、各差別の構造は一樣ではない。しかし、法が「普遍的」「中立的」としながら排除してきた人間社会最大のマイノリティである女性に対する差別の構造を理解することは、男性差別と性的少数者差別、さらにはあらゆるマイノリティに対する差別をも理解することに繋がる。

【到達目標】

1. これまでに身につけた狭い価値観や偏見にとらわれずに、性差別をめぐる実態と、その解決のために国際社会が積み重ねてきた到達点を知る。

2. 教員の解説を無批判に受容するのではなく、また、自分と対立する見解をやみくもに批判するのではなく、多様性を尊重しつつ建設的な議論ができる。

3. 事実に基づき、論理を用いて、反対意見にも目配りしながら、実質的平等にかなう提案を導く。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

0. オンライン授業をオンデマンド配信でおこなう。資料は学習支援システムに掲示する。

1. 講義：受講者がこれからの人生で出会うであろうさまざまな問題を取り上げる。日本は性差別を禁じた憲法を擁し、女性差別撤廃条約も批准しているが、国民の7割は「日本社会全体で見ると男性の方が優遇されている」と感じている。このような国民の意識と法のあり方にはどのような関係があるのか、法は歴史的に女性をどのように遇してきたのか、法は女性が現実の生活で出会う出来事に対応しているのか、ジェンダーバイアスは法制度にどのように埋め込まれているのか等を解説する。

2. リアクションペーパー：教員の解説を学んだ後、学習支援システムに非公開で毎回提出する。

3. 議論への貢献：学習支援システムの公開掲示板に意見を投稿し、受講生同士で議論を行い、より良い方策を検討する。この方法が有効に機能するためには、受講生各人が、主権者として、法のあるべき姿を探求する知的好奇心を持っていることが前提となる。

4. レポート：容易に解決法の見つからない重要な問題についてのレポートを、3 - 4 回提出する。

5. 課題へのフィードバック：原則として提出締切後の翌週の授業で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	ジェンダー統計から見える日本と世界

2	ジェンダー法の見取り図	ジェンダーと法で何を学ぶのか、全体像の把握
3	ジェンダーをめぐる法の歴史 1	欧米を中心にした女性の権利の歴史
4	ジェンダーをめぐる法の歴史 2	日本における女性の権利の歴史、天皇制と性差別
5	国連と女性差別撤廃条約	国連憲章、女性差別撤廃条約
6	ポジティブ・アクション (PA)、アファーマティブ・アクション (AA)	事実上の平等を進めるための装置 AA/PA の歴史と種類、効果
7	S O G I (性的指向と性自認) 1	伝統的な女性・男性の枠組みにあてはまらない人々 (LGBTQ+) の現状
8	S O G I (性的指向と性自認) 2	伝統的な女性・男性の枠組みにあてはまらない人々 (LGBTQ+) の権利保障
9	男女共同参画社会基本法	基本計画と条例
10	政治分野のジェンダー平等	諸外国の状況、日本の候補者男女均等法
11	家族とジェンダーと法 1	多様な家族と現行法
12	家族とジェンダーと法 2	民法改正をめぐる問題
13	家族とジェンダーと法 3	少子化と家族制度のこれから
14	まとめ	これまでの学びから、性差別が続くのはなぜか、どのような変化が必要かを考える

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

初回から内閣府男女共同参画局のパンフレット『ひとりひとりが幸せな社会のために——男女共同参画社会の実現を目指して』を使用するので、男女共同参画局ホームページからダウンロードして持参する。http://www.gender.go.jp/kaigi/renkei/pamphlet/index.html 授業前にパンフレットと教科書の該当箇所を通読し、各回のテーマについて基礎知識を得ておくことが望ましい。授業後は、毎回リアクションペーパーを提出すること、そして掲示板での問題提起・議論を可能な範囲で行うこと。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教科書は初回授業で指示する。また、有斐閣『ポケット六法』等の小型六法があれば常時利用し、使いこなしてほしい。

【参考書】

授業で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

期末テストは行わない。【到達目標】で示したことが身に付いたかを、【授業の進め方と方法】で示した議論への貢献（20%）、コメント（30%）、およびレポート（50%）の完成度から、総合的に評価する。議論について、受講生は開講当初は不慣れたため参加にためらいがあるかもしれないが、当初はうまくできなくてかまわないので、恐れずに発言してほしい。教室は失敗するための場所と割り切り、だんだんとチャラをつけていく姿を見せてほしい。

【学生の意見等からの気づき】

受講生からは「説明が明快で非常にわかりやすい」と言われる。しかし、現実の問題はそれほど単純ではない。担当者の説明を手がかりに、もう一歩、自分で踏み込んで考えてほしい。

【その他の重要事項】

人生の大海原で航路を見失いかけたときに、手がかりを与えてくれる星座のひとつとなるような講義を目指している。受講生は、十分に予習・復習を行い、集中して講義を聴き、つねに自分が発言を求められることを期待（覚悟？）して主体的に参加することで、自分だけの海図を得られる。しなやかに、したたかに、自分の手で、漕ぎ続けよう。

【Outline (in English)】

We are going to learn issues around gender and law system in Japan and global struggling to achieve gender equality de facto. Succeeding feminist approaches derived in 1970's, we should be critical to review present law system which has been built by only male for last 2 centuries. Our topics are not only for women, but also for men and LGBTIQ or other sexual minorities.

【Learning Objectives】

1. To know what gender discrimination is like and how to solve the problems from international perspectives.
2. To make a better argument with respectfulness involving diversity.
3. To reach a solution that is fair and based on facts without gender biases.

【Learning activities outside of classroom】

1. Reading textbook and making your own answer about each topic are recommended for 2 hours each before and after the lecture.
2. Submitting reaction paper after every lecture.
3. Make or join arguments in a forum on the class website.

【Grading Criteria /Policy】

1. In-class contribution(20%): how your participation of arguments among students in a forum on the class website was.
2. Reaction paper on each lecture(30%): how you understood every lecture was.
3. Reports of some important issues (3-4 times required)(50%): how you explained and presented your thought about gender law issues.

LAW200AB

ジェンダーと法Ⅱ

谷田川 知恵

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

単位数：2 単位

備考（履修条件等）：※定員制（受講者多数のため 4/20（木）13 時時点の仮登録者のみ履修可とする）

その他属性：〈他〉〈優〉〈ダ〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は「行政・公共政策と法コース」「企業・経営と法コース（労働法中心）」「文化・社会と法コース」に属する。

1. ジェンダー法学について学ぶ。この呼称は新しいものだが、扱われる内容は、古くから続く性差別と法の問題である。20 世紀後半に興隆した第 2 波フェミニズムの成果を引き継ぎながら、性差別のない社会を構築するため、既存の法体系を批判的に検討して、あらたな法理論の構築を試みる。
2. 女性差別の構造を中心に学ぶ。性差別には、女性差別だけでなく、男性差別も性的少数者（従来の女性か男性かとの分類におさまらない人々）差別もあり、各差別の構造は一様ではない。しかし、法が「普遍的」「中立的」としながら排除してきた人間社会最大のマイノリティである女性に対する差別の構造を理解することは、男性差別と性的少数者差別、さらにはあらゆるマイノリティに対する差別をも理解することに繋がる。

【到達目標】

1. これまでに身につけた狭い価値観や偏見にとらわれずに、性差別をめぐる実態と、その解決のために国際社会が積み重ねてきた到達点を知る。
2. 教員の解説を無批判に受容するのではなく、また、自分と対立する見解をやみくもに批判するのではなく、多様性を尊重しつつ建設的な議論ができる。
3. 事実に基づき、論理を用いて、反対意見にも目配りしながら、実質的平等にかなう提案を導く。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

0. オンライン授業をオンデマンド配信でおこなう。資料は学習支援システムに掲載する。
1. 講義：受講者がこれからの人生で出会うであろうさまざまな問題を取り上げる。日本は性差別を禁じた憲法を擁し、女性差別撤廃条約も批准しているが、国民の 7 割は「日本社会全体で見ると男性の方が優遇されている」と感じている。このような国民の意識と法のあり方にはどのような関係があるのか、法は歴史的に女性をどのように遇してきたのか、法は女性が現実の生活で出会う出来事に対応しているのか、ジェンダーバイアスは法制度にどのように埋め込まれているのか等を解説する。
2. リアクションペーパー：教員の解説を学んだ後、学習支援システムに非公開で毎回提出する。
3. 議論への貢献：学習支援システムの公開掲示板に意見を投稿し、受講生同士で議論を行い、より良い方策を検討する。この方法が有効に機能するためには、受講生各人が、主権者として、法のあるべき姿を探求する知的好奇心を持っていることが前提となる。
4. レポート：容易に解決法の見つからない重要な問題についてのレポートを、3 - 4 回提出する。
5. 課題へのフィードバック：原則として提出締切後の翌週の授業で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	統計から見える日本と世界のジェンダー平等格差
2	ジェンダー法総論	事実上のジェンダー平等に向けて
3	労働とジェンダーと法	均等法ができる前：結婚解雇、近年差別
4	労働とジェンダーと法	男女雇用機会均等法
5	労働とジェンダーと法	間接差別、アンパイドワーク
6	暴力とジェンダーと法	女性に対する暴力（violence against women）の発見
7	暴力とジェンダーと法	ドメスティック・ヴァイオレンス（DV）
8	暴力とジェンダーと法	デート DV
9	暴力とジェンダーと法	性暴力をめぐる神話
10	暴力とジェンダーと法	世界的な性暴力法改革
11	暴力とジェンダーと法	セクシュアル・ハラスメント、ストーカー、
12	暴力とジェンダーと法	買売春、ポルノグラフィー
13	生殖とジェンダーと法	リプロダクティブライツ
14	まとめ	女性に対する暴力と男性被害

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

初回から内閣府男女共同参画局のパンフレット『ひとりひとりが幸せな社会のために——男女共同参画社会の実現を目指して』を使用するので、男女共同参画局ホームページからダウンロードして持参する。<http://www.gender.go.jp/kaigi/renkei/pamphlet/index.html> 授業前にパンフレットと教科書の該当箇所を通読し、各回のテーマについて基礎知識を得ておくことが望ましい。本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教科書は初回授業で指示する。また、有斐閣『ポケット六法』等の小型六法があれば常時利用し、使いこなしてほしい。

【参考書】

授業で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

期末テストは行わない。【到達目標】で示したことが身に付いたかを、【授業の進め方と方法】で示した議論への貢献（20%）、コメント（30%）、およびレポート（50%）の完成度から、総合的に評価する。議論について、受講生は開講当初は不慣れなため参加にためらいがあるかもしれないが、当初はうまくできなくてかまわないので、恐れずに発言してほしい。教室は失敗するための場所と割り切り、だんだんとチカラをつけていく姿を見せてほしい。

【学生の意見等からの気づき】

受講生からは「説明が明快で非常にわかりやすい」と言われる。しかし、現実の問題はそれほど単純ではない。担当者の説明を手がかりに、もう一歩、自分で踏み込んで考えてほしい。

【その他の重要事項】

人生の大海原で航路を見失いかけたときに、手がかりを与えてくれる星座のひとつとなるような講義を目指している。受講生は、十分に予習・復習を行い、集中して講義を聴き、つねに自分が発言を求められることを期待（覚悟？）して主体的に参加することで、自分だけの海図を得られる。しなやかに、したたかに、自分の手で、漕ぎ続けよう。

【Outline (in English)】

【Course outline】

We are going to learn issues around gender and law system in Japan and global struggling to achieve gender equality de facto. Succeeding feminist approaches derived in 1970's, we should be critical to review present law system which has been built by only male for last 2 centuries. Our topics are not only for women, but also for men and LGBTIQ or other sexual minorities.

【Learning Objectives】

1. To know what gender discrimination is like and how to solve the problems from international perspectives.
2. To make a better argument with respectfulness involving diversity.
3. To reach a solution that is fair and based on facts without gender biases.

【Learning activities outside of classroom】

1. Reading textbook and making your own answer about each topic are recommended for 2 hours each before and after the lecture.
2. Submitting reaction paper after every lecture.
3. Make or join arguments in a forum on the class website.

【Grading Criteria /Policy】

1. In-class contribution(20%): how your participation of arguments among students in a forum on the class website was.
2. Reaction paper on each lecture(30%): how you understood every lecture was.
3. Reports of some important issues (3-4 times required)(50%): how you explained and presented your thought about gender law issues.

LAW300AB

憲法訴訟論

大津 浩

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
単位数：2 単位

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

憲法訴訟論は、実体法と訴訟法の双方を系統的に学び、裁判をフィールドにした法解釈の専門的能力の習得を目指す「裁判と法」コースおよび、現代的な法を学ぶ「行政・公共政策と法」に分類されていることに鑑みて、本授業では、実際の日本の憲法判例の分析を通じて、日本国憲法の違憲審査制の特質並びにそこから導かれる憲法訴訟の特質と法技術を理解することを旨とする。

【到達目標】

付随審査制（司法審査制）としての日本の違憲審査制の特質に由来する憲法訴訟の諸特徴と限界について理解できるようになること、こうした限界の中でも、権利の実効的保障のために試みられている様々な新たな憲法訴訟の手法や法理について理解できるようになること、さらに、新しい憲法判例の中でもこのような手法や法理がより一層取り入れられるようになるうえで必要な条件は何かについて、自ら考える力を身に付けることが目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」に関連。

【授業の進め方と方法】

初めに外国の違憲審査制と対比しつつ、付随審査制（司法審査制）としての日本の違憲審査制の特質を講義する。次に、この違憲審査制の特質から導き出される憲法訴訟の諸理論、諸法理について講義し、そのうえで、それぞれの憲法訴訟論に関わる具体的な憲法判例の分析を行う。

学部生の授業であることを念頭に置き、あまり難解で高度な授業にはしないつもりである。

対面式を予定しているが、新型コロナ感性の再拡大などで大学の方針が変更された場合は、オンデマンド式のオンライン授業を行う（詳細は秋学期開始時の第1回授業のガイダンスにおいて説明する）。

授業は Hoppii に事前にアップしたレジュメや資料（資料は対面式が可能な場合は教室で配布する）を用い、レジュメに沿って講義中心で授業を進める。原則として毎授業後に Hoppii を通じて小テストを課し、次の授業時にその内容を解説することを通じて、授業内容の理解度を確認する。

対面式を予定しているが、大学の方針が変更された場合は、オンデマンド方式のビデオによるオンライン授業を行う（詳細は春学期開始時の第1回ガイダンス時に連絡する）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	憲法訴訟に関する受講生の知識を確認するアンケートを実施した後、授業の進め方を解説する。
第2回	違憲審査制の諸類型と日本の違憲審査制の特質	アメリカ、ドイツ、フランスの違憲審査制と対比しつつ、日本の違憲審査制の特質を講義する。
第3回	事件性と客観訴訟	司法権概念の分析から、適法な訴訟となるための訴訟要件を講義する。
第4回	憲法訴訟の当事者適格	実際の訴訟において違憲性を争点とするための要件について講義する。第三者の権利援用についても説明する。

第5回	憲法判断回避の準則・合憲的限定解釈	具体的な判例の分析を通じて、付随審査制の特質に由来する憲法判断回避の準則と合憲的限定解釈について講義する。
第6回	違憲判断の方法と違憲判決の効力（1）	具体的な判例の分析を通じて法令違憲について講義する。
第7回	違憲判断の方法と違憲判決の効力（2）	具体的な判例の分析を通じて適用違憲、処分違憲、違憲判決の効力について講義する。
第8回	立法行為の違憲訴訟	立法行為、とりわけ立法の不作为の違憲訴訟について講義する。
第9回	合理的期間論と事情判決の法理（1）	選挙訴訟を例に挙げて違憲・無効判断の回避手法の展開について講義する。
第10回	合理的期間論と事情判決の法理（2）	前回に引き続き、選挙訴訟を例に挙げて合理的期間論の新たな展開について講義する。
第11回	立法者の合理的意思推定と部分無効の法理	郵便法事件判決と国籍法事件判決を分析し、権利救済のための司法による事実上の立法の意味と限界を探る。
第12回	司法権の限界と部分社会の法理	具体的な判例を紹介しつつ、統治行為論や部分社会の法理の意味と限界を解説する。
第13回	裁判を受ける権利と対審・公開の原則	憲法32条と82条が保障する裁判を受ける権利の意味について、具体的な判例を通じて解説する。
第14回	違憲審査基準の現状と本授業のまとめ	二重の基準論、規制目的二分論などの従来の違憲審査基準論のあり方を概観したのちに、最近の最高裁判所の違憲審査の状況や「三段階審査」論について講義する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回の授業テーマについて、学部の憲法の授業（憲法Ⅰ～Ⅳ）で用いた教科書の該当部分を参照し予習しておくこと。また、各回の授業で扱った憲法判例について、判例集や参考書の当該部分を参照し、自分で判決内容をまとめ直すことで、理解をより深めること。1回の授業につき最低でも4時間の予習復習を行うことが推奨される。

対面式授業の場合には、Hoppii に事前にアップされた各回の授業内容のビデオ（オンデマンド式）を事前ないし事後に視聴し、また同じくアップされている各回の小テストに授業後に解答するよう努めること。

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教科書指定はせず、代わりにオンデマンド方式のビデオで授業内容を解説する予定である。

【参考書】

高橋和之『体系・憲法訴訟』（岩波書店、2017年）、3,800円（+税）
初宿正典他共著『憲法 Case and Materials 憲法訴訟』（有斐閣、第2版、2013年）7,150円
芦部信喜（高橋和幸補訂）『憲法』（岩波書店、第7版、2019年）3,520円
L S 憲法研究会編『プロセス演習・憲法』（信山社、第4版、2012年）5,800円（+税）円

【成績評価の方法と基準】

定期試験（80%）、各回の小テストの合計（15%）、及び授業参加の積極度（5%）により評価する。

なお、対面式試験の実施が不可能になった場合や履修者が少なかった場合は、各回の小テストの合計（50%）、授業アンケートや期末レポート（45%）、その他の授業参加の積極度（5%）により評価する。

【学生の意見等からの気づき】

内容が専門的であり、難解な講義となりがちなので、具体例を多く用いつつ、十分な時間をかけて分かりやすい講義に努める。時間配分に気を付けて、最終テーマまで到達できるよう心掛ける。

【学生が準備すべき機器他】

事前や事後の学習、学習準備のため、PC、タブレット、スマートフォン等の情報端末を用意すること。

【その他の重要事項】

弁護士として訴訟実務も行っているので、憲法訴訟論の中で、必要に応じて実際の訴訟との関連性を考慮した授業を行う。

授業で用いるレジュメや資料は **Hoppii** に事前にアップしておくので、各自で事前にダウンロード、プリントアウトして、特に対面式授業の場合は授業に持参すること。

【Outline (in English)】

【Course outline】 Lecture of Japanese constitutional litigation theories through analysis of some constitutional precedents in Japan.

【Learning Objectives】 The goals of this course are to be able to understand the proper character of Japanese constitutional litigation system and the actualities of its constitutional decisions.

【Learning activities outside of classroom】 Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understanding the course content in following the lecture videos and some contents offered in the Hoppii.

【Grading Criteria/Politics】 Your overall grade in the class will be decided based on the following;

Term-end examination:80%, Total of short tests:15%, and in-class contribution;5%.

LAW200AB

生命倫理と人権 I

鵜澤 和彦

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

単位数：2 単位

その他属性：〈優〉〈ダ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

生命倫理は、20 世紀中葉の非人道的な人体実験を背景にして、今日の形態へと発展してきました。本授業は、このような歴史的な人権問題を考慮しながら、生命倫理の四原則（自律尊重、仁恵、無危害、正義）、三種類の同意概念（インフォームド・コンセント、インフォームド・アセント、代理同意）、そして、関連する法規定（法律、ガイドライン、宣言）を学びます。その際、授業内容に関連する医療ドラマを視聴し、生命倫理の諸概念や人権問題の理解を深めていきます。なお、本科目は「文化・社会と法コース」にあげられている法的教養を深めるに適した科目です。また「行政・公共政策と法」の各コースにも配置されています。

【到達目標】

- ①生命倫理と人権思想の連関を把握し、日常生活の出来事から倫理的及び法的問題を見つけることができる。
- ②具体的な事例に基づいて、生命倫理の土台を成す四原則（自律尊重、仁恵、無危害、正義）を把握することができる。
- ③インフォームド・コンセント、インフォームド・アセント、代理同意という三種類の同意概念、そして、それらに関連する法規定（法律、ガイドライン、宣言）を理解することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

本授業は、対面の形式で行われます。学習支援システム Hoppii を通じて、パワーポイント原稿、解説動画、授業資料、課題を提供します。課題は主に医療ドラマから出され、受講生はこの視聴覚教材を視聴し、課題に答えてください。課題の提出並びに教員からのフィードバックは、Hoppii を通じて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	授業ガイダンス	教員の自己紹介、到達目標、授業内容、授業の進め方について説明します。また、スピッツの「ホスピタリズム」研究から人間の生命について考えます。
第 2 回	生命倫理と人権思想の歴史的考察①	生命倫理の成立史（ニュルンベルク綱領、ヘルシンキ宣言、ベルモントレポート）を解説します。
第 3 回	生命倫理と人権思想の歴史的考察②	ロバート・J・リフトンによるナチズムの研究から、生命倫理と人権、とくに差別、抑圧、暴力の問題について考えます。
第 4 回	終末期医療と患者の人権①	死の概念、患者の自己決定権、インフォームド・コンセント（IC）、パターナリズム、いのちの「終わり」の選択（①セデーション、②自然死、③安楽死、④延命治療）を解説し、それぞれの問題点とそれに関するモラル・ジレンマを明らかにします。

第 5 回	終末期医療と患者の人権②	がん告知に関する法整備、がん告知についての統計、がん告知の問題、終末期患者への対応、死の受容に関する五段階説（エリザベス・キューブラーロス）、医療資源の配分などの問題を考えていきます。
第 6 回	終末期医療と患者の人権③	第 4 回と第 5 回の授業及び課題をふまえて、そのテーマに関してグループディスカッションと全体発表を行います。
第 7 回	小児医療と子供の人権①	ホスピタリズムと幼児の能力（ヤヌシュ・コルチャック、内藤寿七郎）、幼児の精神的な病気（スピッツ）、インフォームド・アセント（IA）の概念、親の許諾、患児の賛同、IA の適用例、日本における IA の実施率について考察します。
第 8 回	小児医療と子供の人権②	拒食症と宗教的理由から輸血を拒否する事例を取り上げ、パターナリズムと治療の拒否権について考えます。
第 9 回	小児医療と子供の人権③	第 7 回と第 8 回の授業及び課題をふまえて、そのテーマに関してグループディスカッションと全体発表を行います。
第 10 回	コンピテンスと患者の人権①	判断能力のない患者（生まれながらに判断能力を持ちえない患者と事故や病気で判断能力を失った患者）、リビング・ウィル、成年後見、代理同意とその基準（最高利益と代理判断）及び問題点、臓器移植法改正、家族の範囲について考察します。
第 11 回	コンピテンスと患者の人権②	自律、コンピテンス、人権との関係、及びコンピテンスの臨床基準について説明します。
第 12 回	コンピテンスと患者の人権③	第 11 回と第 12 回の授業及び課題をふまえて、そのテーマに関してグループディスカッションと全体発表を行います。
第 13 回	生命倫理の四原則と人権	自律尊重、仁恵、無危害、正義の諸原則を整理し、それらの原則と人権思想との関連をまとめます。
第 14 回	生命倫理における同意概念と人権	人権との関連でインフォームド・コンセント、インフォームド・アセント、代理同意の概念をまとめます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習：受講生は授業に関連する教科書の該当箇所を読んでおいてください。また、参考書を使って、専門用語の意味等を理解してください（2 時間）。復習：授業時に配布された資料（講義原稿と参考資料）を読み直してください。そして、授業支援システムを使って、各授業後に出される課題に答えてください。さらに、ディスカッションでの他の受講生の意見を参考にしながら、そのテーマに関する自分の考えをまとめてください（3 時間）。

【テキスト（教科書）】

生命倫理と法編集委員会（編集）『新版 資料集 生命倫理と法』、太陽出版、2860 円、ISBN-10:4884695585

【参考書】

- ①樋口範雄・土屋裕子（編集）『生命倫理と法』、弘文堂、3520 円、ISBN-10:433535343X
- ②小林亜津子著『はじめて学ぶ生命倫理』、ちくまプリマー新書、780 円、ISBN-10:4480688684
- ③トム・L・ピーチャム他著『生命医学倫理』、成文堂、7,560 円、ISBN-10:4792360641

【成績評価の方法と基準】

試験方法：筆記試験、実施時期：授業内試験。各課題 50%、筆記試験 50%の総合評価。筆記試験と毎回の課題は、到達目標に挙げられた以下の基準に従って評価されます。①自分の経験や見聞した知見による例証が、適切に行われているかどうか (40%)。②四原則の内容が、適切に理解され、説明されているかどうか (30%)。③三種類の合意概念が、正しく把握されて、使用されているかどうか (30%)。なお、グループディスカッションで司会 (及び「まとめ」の執筆) を担当した受講生には、授業評価点として 5 点が追加されます。

【学生の意見等からの気づき】

教科書以外の学習教材は、すべて学習支援システム Hoppii にアップロードされていますので、病気などで欠席した方は、これを活用して各自習してください。

【学生が準備すべき機器他】

授業時そして予習や復習の際にも、学習支援システム Hoppii を利用するため、インターネット、パソコンあるいはノートブックを使用します。

【その他の重要事項】

NPO 法人ホームケアエクスパーツ協会, 日本生殖医療看護学会 (第 13 回実践セミナー), 文部省 SSH 事業。医療や介護の現場の声を生かしながら、現代の医療・介護問題の本質を明らかにし、生命倫理に即した解決策を考えます。

【Outline (in English)】

Bioethics has evolved from the inhumane human experimentation of the mid-twentieth century to its present-day form. Taking into account these historical human rights issues, this class will study the four principles of bioethics (respect for autonomy, beneficence, nonmaleficence, and justice), the three types of consent concepts (informed consent, informed assent and proxy consent), and related legal provisions (laws, guidelines, and declarations). Students will watch medical dramas related to the course content to deepen their understanding of various concepts of bioethics and human rights issues. This course is suitable for deepening legal education as listed in the "Culture, Society and Law Course". It also belongs to the course "Administration, Public Policy and Law" courses. In the preparations, Students should read the relevant sections of the textbook related to the class. Students should also use reference books to understand the meaning of technical terms, etc. (2 hours). Review: Students should read and review the materials distributed in class (lecture notes and reference materials). Then, answer the assignments given after each class using the class support system. In addition, summarize your thoughts on the topic, referring to the opinions of other students in the discussion (3 hours). Examination method: Written exam, timing: In-class exam. Overall evaluation: 50% for each assignment and 50% for the written exam. These two elements have the following criteria: (1) Whether or not the student can give appropriate examples based on their own experience and knowledge (40%). (2) Whether the four principles are correctly understood and explained (30%). (3) Whether the three consensus concepts are correctly understood and used (30%). Students who moderate the group discussion (and write the "Summary") will receive an additional 5 points for the class evaluation.

LAW200AB

生命倫理と人権 II

洪 賢秀

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
 単位数：2 単位

その他属性：〈優〉〈ダ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

生命科学技術の進展により、私たちは、「いのちにどこまで人為的な介入を許すべきか」という難題に直面しています。本授業では、生命倫理をめぐる諸課題について社会的・文化的背景を踏まえながら、各社会が新たに登場した生命科学技術をどのように受容し対応しているのかについて、人権及び法的視点からアプローチしていきます。法律学科のコース制との関係では、「裁判と法」「行政・公共政策と法」及び「文化・社会と法」の各コースに属する科目です。

【到達目標】

本授業では、生殖医療技術、遺伝子関連技術、再生医療、移植医療、終末期医療などについて、各社会がどのような規制をもち、どのような議論をしているのか、具体的な事例を検討し、生命倫理に関する基本的情報を習得します。また、他の人との意見交換をとおして、生命倫理に関する多様な立場や価値観への理解を示すとともに、自分の考えを深めていくことを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

授業内容の理解度を確認し、テーマにおける自分の考えを整理していただくために、ミニレポートを課し提出してもらいます。提出されたミニレポートに対して、個人への回答やコメントが必要な場合には、個別に回答・コメントをお送りします。また、全体として共有したほうがよいと思われる内容については、次の講義の際に、おさらいと補足をいたします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	生命倫理とは何か	人間の欲望と歴史的教訓としての倫理
第 2 回	生殖医療技術と倫理	生殖医療技術と「生殖医療民法特例法」と諸課題
第 3 回	遺伝子関連技術と倫理	遺伝情報と差別
第 4 回	① 遺伝子関連技術と倫理	ゲノム研究とゲノム医療
第 5 回	② 遺伝子関連技術と倫理	ゲノム編集と遺伝子関連検査
第 6 回	③ 再生医療と倫理①	クローン技術
第 7 回	再生医療と倫理②	人体組織と再生医療
第 8 回	エンハンスメントと倫理	エンハンスメントの問題と背景
第 9 回	① 移植医療をめぐる倫理	脳死と臓器移植
第 10 回	② 移植医療をめぐる倫理	いのちの贈物の光と影
第 11 回	③ 移植医療をめぐる倫理	移植ツーリズムにおける諸課題
第 12 回	死をめぐる倫理①	終末期医療
第 13 回	死をめぐる倫理②	新型コロナウイルスと終末期
第 14 回	死をめぐる倫理③	死体の研究利用

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業において適宜指示します。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

準備学習としては、授業内容と関連するテーマについてテキストや参考文献を読んで、授業に臨んでください。毎回のミニレポートの作成は、授業内容の論点整理や理解を確認するための復習の時間となります。

【テキスト（教科書）】

神里 彩子・武藤 香織 編『医学・生命科学の研究倫理ハンドブック』（東京大学出版会、2015 年、税込 2592 円）

棚島次郎著、『先端医療と向き合う：生老病死をめぐる問いかけ』（平凡社新書、2020 年、税込 880 円）

【参考書】

『ジュリスト増刊 ケース・スタディ 生命倫理と法』、松原洋子・伊吹友秀『生命倫理のレポート・論文を書く』（東京大学出版会）、棚島次郎『先端医療と向き合う：生老病死をめぐる問いかけ』（平凡社新書）

その他、授業において毎回レジュメや資料を配布し、参考文献は随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】

評価の配分は、期末レポート 50%と、ミニレポートの課題 50%とし、総合評価します。

【学生の意見等からの気づき】

毎回、提出してもらったミニレポートなどから得られた学生さんからのご質問やご意見について必要に応じてクラス全体で共有し、受講者とのコミュニケーションが活性化できるようにしていきます。

【Outline (in English)】

Advances in the life sciences and technologies are forcing us to confront the difficult question of “How much artificial intervention into life should be permitted?” In this class, drawing on the social and cultural background of a variety of issues surrounding bioethics, we adopt a legal and human rights perspective as we approach the question of how each society accepts and responds to newly emerging life sciences and technologies. With reference to the law school’s course system, this class is affiliated with the following courses: “Courts and the Law,” “Administrative and Public Policy and the Law,” and “Culture, Society, and Law.”

LAW200AB

行政法入門Ⅰ

西田 幸介

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

単位数：2 単位

備考（履修条件等）：クラス指定科目 ※法律 2 年 H-N・3 年全

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

行政法とは行政に関する法のことを指す。行政法が他の法分野と大きく異なるのは、行政法という名前の法律（行政法典）がないことである。このため、学習者は行政法の体系や基本原理を法典を通して知ることができない。「行政法は難しい」といわれる理由の一つはこの点にある。行政法も、法の一種であるから、権利義務あるいは法律関係を対象とする。しかし、行政法では、民事法と異なり、権利義務の有無よりも行政の行為の適法性が問題となる。

この授業では、行政法を学ぶ土台を作るために、行政法の概略、行政法とはどのような法なのか、行政の組織に関する法律論の基礎的な枠組みおよび行政法の基本原理を学ぶ。

この科目は全てのコースに配当されている。

【到達目標】

- ①行政法とは何かを説明することができる。
- ②行政主体と行政機関について説明することができる。
- ③権限の代行について説明することができる。
- ④指揮監督について説明することができる。
- ⑤行政法の基本原理について説明することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に強く関連。

【授業の進め方と方法】

授業は、オンライン・オンデマンドで実施する。そのために、学修支援システム（Hoppii）と Google クラウドルームを利用する。Hoppii は授業開始当初に受講者または受講希望者への連絡のために用い、Google クラウドルームを主として利用する。受講者は、① Google クラウドルームを通して配信される動画を指定テキストと照らし合わせながら閲覧した（必須）うえで、② Google クラウドルームを通して理解度確認のための小テストを受験し（任意）リアクションペーパーを提出する（任意）ことで、学習を進める。

小テストに対するフィードバックは、個別に得点を開示しかつ解説を示すことにより行う。リアクションペーパーに対するフィードバックは、必要に応じて担当者が個別にコメントすることによって実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション 行政法のイメージ	授業の進め方 行政法令の諸相 行政の主体とプロセス
第 2 回	行政法序論（1）	行政と行政法 行政法の三分野 行政法典の不在
第 3 回	行政法序論（2）	行政の意義と分類
第 4 回	行政法序論（3）	公法私法二元論 民事法の適用
第 5 回	行政主体と行政機関（1）	行政主体の種類
第 6 回	行政主体と行政機関（2）	行政機関の権限と分類
第 7 回	行政主体と行政機関（3）	行政機関の類似概念

第 8 回	行政機関の相互関係	指揮監督 権限の代行
第 9 回	行政法の基本原理（1）	法律による行政の原理の意義と内容
第 10 回	行政法の基本原理（2）	法律による行政の原理の形式性と克服
第 11 回	行政法の基本原理（3）	信義誠実の原則
第 12 回	行政法の基本原理（4）	権利濫用禁止の原則
第 13 回	行政法の基本原理（5）	比例原則
第 14 回	行政法の基本原理（6）	平等原則

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキスト、参考図書、その他授業内で指示された内容にもとづく学習。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

西田幸介『行政法入門講義』（生協書籍部で販売）を用いる。

【参考書】

教科書・体系書

- ・稲葉馨ほか『行政法』（2018 年、第 4 版、有斐閣）
 - ・今村成和（著）= 畠山武道（補訂）『行政法入門』（2012 年、第 9 版、有斐閣）
 - ・宇賀克也『行政法概説Ⅰ』（2020 年、第 7 版、有斐閣）
 - ・小早川光郎『行政法上』（1999 年、弘文堂）、『行政法講義下Ⅰ』（2002 年、弘文堂）
 - ・塩野宏『行政法Ⅰ』（2015 年、第 6 版、有斐閣）
 - ・芝池義一『行政法読本』（2016 年、第 4 版、有斐閣）
 - ・高橋滋『行政法』（2018 年、第 2 版、弘文堂）
 - ・原田尚彦『行政法要論』（2012 年、全訂第 7 版補訂 2 版、学要書房）
 - ・藤田宙靖『新版行政法総論（上）』（2020 年、青林書院）
- その他
- ・宇賀克也ほか（編）『行政判例百選Ⅰ・Ⅱ』（2017 年、第 7 版、有斐閣）
 - ・稲葉馨ほか（編）『ケースブック行政法』（2018 年、第 6 版、弘文堂）
 - ・芝池義一（編）『判例行政法入門』（2017 年、第 6 版、有斐閣）

【成績評価の方法と基準】

原則としてレポート（100 %）のみで評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。引き続き授業改善に努めていきたい。

【学生が準備すべき機器他】

Google クラウドルームおよび学習支援システムを利用するので、インターネット環境だけでなく、パソコン、タブレット、スマートフォンなど、インターネットの利用が可能な情報機器の準備が必須である。スマートフォンのみでの受講は推奨せず、それによって不都合が生じている受講者に特別の対応は実施しない。

【その他の重要事項】

行政法の科目としては、行政法入門Ⅰ・Ⅱのほかに、行政作用法Ⅰ・Ⅱ、行政救済法Ⅰ・Ⅱ、行政組織法、地方自治法、環境法、都市法、租税実体法、租税手続法がある。行政法の科目を履修または受講する場合、いずれも行政法入門Ⅰ・Ⅱを受講していることを前提として授業が行われるので、単位修得の有無にかかわらず、2 年次に行政法入門Ⅰ・Ⅱを受講しておくことが望ましい。ただし、行政法の他の科目を履修するに当たって、行政法入門Ⅰ・Ⅱの履修あるいは単位取得は必須の条件としていない。

これらのほか、法学部のカリキュラムでは行政法として位置づけられていないが、教育法、経済法、社会保障法など行政と密接に関係する法律分野もある。行政に関する法律問題を学びたいと思っている学生は、行政法の科目のみならず、これらの科目を受講するとよいだろう。

【Outline (in English)】

Administrative Law is whole body of Laws concern to Public Administration. Although Administrative Law regulate legal relationship between Nation and Natural or Legal Person, in Administrative Law, legality of acts that Administrative Agency do is very important matter. In this course, Students learn about outline of Administrative Law, Administrative Organ and basic principal of Administrative Law.

At the end of the course, students are expected to understand outline of Administrative Law, Administrative Organ and basic principal of Administrative Law.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on the following;

Term-end report: 100%.

LAW200AB

行政法入門Ⅱ

西田 幸介

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

単位数：2 単位

備考（履修条件等）：クラス指定科目 ※法律 2 年 H-N・3 年全

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

行政法入門Ⅱでは、行政法入門Ⅰに引き続きそれを前提に、行政作用法および行政救済法の基本的な理論について解説する。

行政作用とは行政主体が私人に対してする行政活動を指し、これを規律するのが行政作用法である。行政作用法の詳細は、この授業に続く行政作用法Ⅰ・Ⅱで取り扱われる。行政作用は人権に関わる。たとえば、営業規制は営業（職業選択・職業活動）の自由を、建築規制は財産権を、それぞれ規制するものであるし、生活保護は生存権を実現するためのものといえる。この意味で行政法は、人権侵害に対抗するための法律論である。

この授業では、こうした認識を前提に、行政作用については、行政作用に関する法律論の基礎的な枠組みを示すとともに、行政作用に関する一般制度として行政手続を取り上げる。前者では、とりわけ、行政機関が行政主体のために行政作用としてする行為（行政の行為）の法形式の整理が重要である。行政の行為には様々なものが含まれるが、それは、権力性、法効果および具体性の三要素によって分類される。この基準によって行政の行為の法的性質を見極められるようになることが、まずもって必要である。

行政救済とは、行政作用により私人に生じた不利益の救済のことをいい、これを行政救済法は規律する。その主要法律として、行政事件訴訟法、行政不服審査法および国家賠償法がある。行政救済法の詳細は、この授業に続く行政救済法Ⅰ・Ⅱで取り扱われる。行政法学では、行政救済に関して、行政事件訴訟、行政上の不服申立て、行政作用の司法審査というものがある。これは、行政作用の適法性を行政とは個別される国家機関である裁判所が審査するものであり、それは行政事件訴訟だけでなく民事訴訟や刑事訴訟においても行われる。

この授業の受講者は、行政法入門Ⅰで学んだ行政法の基本原則と行政組織法の基礎を前提に、行政作用法と行政救済法の基本的な法制度を理解し、行政法現象を法的に把握できるようになることを期待される。

なお、この科目は全てのコースに配当されている。

【到達目標】

- ①行政の各種の行為（行為形式）について説明することができる。
- ②行政救済の概略を説明することができる。
- ③行政手続について説明することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に強く関連。

【授業の進め方と方法】

授業は、オンライン・オンデマンドで実施する。そのために、学修支援システム（Hoppii）と Google クラウドを利用する。Hoppii は授業開始当初に受講者または受講希望者への連絡のために用い、Google クラウドを主として利用する。受講者は、① Google クラウドを通して配信される動画を指定テキストと照らし合わせながら閲覧した（必須）うえで、② Google クラウドを通して理解度確認のための小テストを受験し（任意）リアクションペーパーを提出する（任意）ことで、学習を進める。

小テストに対するフィードバックは、個別に得点を開示しかつ解説を示すことにより行う。リアクションペーパーに対するフィードバックは、必要に応じて担当者が個別にコメントすることによって実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	行政の各種の行為（1）	内部的行為と外部的行為 行政の行為形式
第 2 回	行政の各種の行為（2）	行政行為
第 3 回	行政の各種の行為（3）	法規命令
第 4 回	行政の各種の行為（4）	行政契約 実力行使 行政指導
第 5 回	行政救済法の基礎（1）	行政作用の司法審査 行政事件訴訟の意義
第 6 回	行政救済法の基礎（2）	取消訴訟の意義
第 7 回	行政救済法の基礎（3）	取消訴訟の訴訟要件
第 8 回	行政救済法の基礎（4）	無効等確認訴訟 差止訴訟
第 9 回	行政救済法の基礎（5）	義務付け判決 当事者訴訟
第 10 回	行政救済法の基礎（6）	民衆訴訟 機関訴訟
第 11 回	行政救済法の基礎（7）	行政上の不服申立て
第 12 回	行政救済法の基礎（8）	国家賠償・損失補償
第 13 回	行政手続の基礎（1）	適正手続の保障
第 14 回	行政手続の基礎（2）	行政手続の手法

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキスト、参考図書、その他授業内で指示された内容にもとづき学習する。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

西田幸介『行政法入門講義』（生協書籍部で販売）

【参考書】

教科書・体系書

- ・稲葉馨ほか『行政法』（2018 年、第 4 版、有斐閣）
- ・今村成和（著）=畠山武道（補訂）『行政法入門』（2012 年、第 9 版、有斐閣）
- ・宇賀克也『行政法概説Ⅰ』（2020 年、第 7 版、有斐閣）
- ・小早川光郎『行政法 上』（1999 年、弘文堂）、『行政法講義 下Ⅰ』（2002 年、弘文堂）
- ・塩野宏『行政法Ⅰ』（2015 年、第 6 版、有斐閣）
- ・芝池義一『行政法読本』（2016 年、第 4 版、有斐閣）
- ・高橋滋『行政法』（2018 年、第 2 版、弘文堂）
- ・原田尚彦『行政法要論』（2012 年、全訂第 7 版補訂 2 版、学要書房）
- ・藤田宙靖『行政法総論（上）』（2020 年、青林書院）
- その他
- ・宇賀克也ほか（編）『行政判例百選Ⅰ・Ⅱ』（2017 年、第 7 版、有斐閣）
- ・稲葉馨ほか（編）『ケースブック行政法』（2018 年、第 6 版、弘文堂）
- ・芝池義一（編）『判例行政法入門』（2017 年、第 6 版、有斐閣）

【成績評価の方法と基準】

原則としてレポート（100%）による。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

Google クラウドおよび学習支援システムを利用するので、インターネット環境だけでなく、パソコン、タブレット、スマートフォンなど、インターネットの利用が可能な情報機器の準備が必須である。スマートフォンのみでの受講は推奨せず、それによって不都合が生じている受講者に特別の対応は実施しない。

【その他の重要事項】

行政法入門Ⅱのカリキュラム上の位置づけについては、行政法入門Ⅰのシラバス参照。

【Outline (in English)】

In this course, the basic legal theories of acts of Administrative Agency and the outline of Administrative Remedies are taken up. Acts of Administrative Agency are concerned to Fundamental Human Rights. For example, Regulation to Occupation will regulate the Freedom to act Occupation. Livelihood Protection will realize the Right to live. So, in these meanings, the Administrative Law theories are means of Human Rights Protection. Administrative Remedies mean remedies to rights or interests that are injured by acts of Administrative Agency.

At the end of the course, students are expected to understand legal forms of act of Administrative Agency, law of Administrative Remedies and law of Administrative Procedure.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Term-end report: 100%.

LAW300AB

行政作用法 I

氏家 裕順

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

単位数：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国・都道府県などの行政は、われわれ個人の活動を規制したり、私人に対して給付したりするほか、租税の徴収もしている。さらに行政は、実質的な立法活動も行っており、私人の権利義務を一般的に規律する場合がある。行政の活動が適法に行われることが、私人の生活にとって重要なことである。行政活動の適法性を確保するための法解釈・法理論を提供しているのが行政法学である。

行政活動に関する法である行政作用法には、行政代執行法、行政手続法、行政機関の情報の公開に関する法律などの一般法や、建築基準法、警察官職務執行法、食品衛生法、道路交通法、都市計画法などの個別法がある。その多くは個別法である。行政法学における主な検討課題は、一般法に関してはそれらの具体的な解釈であり、また、個別法に関してはそれらにおいて規定されている行為に共通する性格を持つ「行政の行為」の法的規制等の法律論である。ここにいう行政の行為には、行政規範の制定（行政立法）、行政行為、行政上の強制執行、即時強制、行政契約、行政指導がある。また、行政計画、行政調査の意義・法的規制も行政法学における検討課題である。行政罰及び制裁的措置の意義・法的規制も重要である。上記のうち、行政上の強制執行、行政罰、制裁的措置は行政の実効性確保の仕組みないし手段といえる。

行政作用法 I では、行政規範の制定、行政行為をとりあげ、その意義や法的規制・法律論について学ぶ。

行政作用法 I は、「裁判と法」「行政・公共政策と法」及び「文化・社会と法」の各コースに属する。

【到達目標】

法規命令の意義と法的規制について説明することができる。
行政規則の意義と性格について説明することができる。
行政行為の意義と分類について説明することができる。
行政行為の実体的規制と手続的規制について説明することができる。
行政行為の成立と効力発生、行政行為の特質について説明することができる。
行政行為の附款について説明することができる。
行政行為の無効について説明することができる。
行政行為の職権取消しと撤回について説明することができる。
行政行為における裁量に関して、裁量の所在を説明することができる。
行政行為における裁量に関して、濫用審査について説明することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に強く関連。

【授業の進め方と方法】

授業は講義形式で行う。いわゆるハイフレックス授業の方式を採用する予定。

毎回、授業の簡単なまとめ、あるいは、授業内容を踏まえた意見の提出を求める。そのうち、受講者間で共有すべきものは、授業内でこれを紹介し、これにコメントする。フィードバックは授業内で行う予定である。

上記のまとめ等の提出のために学習支援システムを利用する。開講前に連絡する必要がある場合にもこれを用いる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	行政の各種の行為（流れ）のモデル
第 2 回	行政規範の制定（行政立法）（1）	行政規範の意義と分類
第 3 回	行政規範の制定（行政立法）（2）	法規命令の法的規制
第 4 回	行政規範の制定（行政立法）（3）	行政規則の性格
第 5 回	行政行為（1）	行政行為の意義と分類
第 6 回	行政行為（2）	行政行為の法的規制（実体的規制）
第 7 回	行政行為（3）	行政行為の法的規制（行政手続法による規制—申請に対する処分の手続の規制）
第 8 回	行政行為（4）	行政行為の法的規制（行政手続法による規制—不利益処分の手続の規制）
第 9 回	行政行為（5）	行政行為の成立と効力発生 行政行為の特質（行政行為の効力）
第 10 回	行政行為（6）	行政行為の附款
第 11 回	行政行為（7）	行政行為の無効
第 12 回	行政行為（8）	行政行為の職権取消しと撤回
第 13 回	行政行為（9）	裁量の所在
第 14 回	行政行為（10）	濫用審査

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

後掲のテキスト・参考書を参照しながら、予習・復習を行う。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

西田幸介『行政作用法講義』（生協書籍部で販売）

【参考書】

宇賀克也『行政法概説 I 〔第 7 版〕』（有斐閣、2020 年）
塩野宏『行政法 I 〔第 6 版〕』（有斐閣、2016 年）
芝池義一『行政法読本〔第 4 版〕』（有斐閣、2016 年）
芝池義一『行政法総論講義〔第 4 版補訂版〕』（有斐閣、2006 年）
高橋滋『行政法〔第 2 版〕』（弘文堂、2018 年）
藤田宙靖『新版行政法総論（上）』（青林書院、2020 年）
そのほか、初回授業で紹介するもの

【成績評価の方法と基準】

定期試験による（100 %）が、感染症り患リスクの回避のため通学できない場合にはレポートによる（100 %）。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできない。

【学生が準備すべき機器他】

最新版の六法。これは毎回持参すること。また、学習支援システムの利用のために必要な PC あるいはスマートフォン。上記の通り、学習支援システムは授業内容のまとめ等の提出のために毎回使用する。感染症り患リスク回避のために通学できない場合にはさらに、(1) Zoom や Webex が利用できるだけの通信環境、(2) 各回の配布物を参照するための PDF 閲覧ソフトウェア（Adobe Acrobat Reader [無料] など）、(3) レポート課題の閲覧・提出のために用いる、.doc、.docx の形式で保存できるソフトウェア（Microsoft Word など）が必要となる。

【その他の重要事項】

行政作用法 I・II の授業は、行政法入門 I・II の内容を修得したこと、あるいは、修得中であることを前提に行われる。行政法入門 I・II でとりあげられる事柄を修得できていない場合、それらを自習すること。そうしなければ、授業内容を理解できないおそれがあるからである。自習範囲は担当教員に相談すること。

行政作用法 II も履修することが望ましい。同科目において行政作用法分野における他の検討課題が説明される予定である。

【Outline (in English)】

This course is designed to learn meaning and legal controls of acts performed by the executive agencies (hereinafter the executive agencies' acts are simply referred to as 'acts'), specially focusing on (1) making Administrative Rules and (2) 'Gyousei Kou'.

As to (1), the executive agencies (e.g., Ministers) make norms. Norms set up by the executive agencies are Administrative Rules. Some Administrative Rules are made with Parliament's delegation of legislative power. They have legal effect on the individuals (such Administrative Rules are hereinafter referred to as 'Decrees'). The other Administrative Rules do not have the legal force. They contain administrative interpretation of some questionable points in statutes or administrative exercise of discretion accorded by statutes. These non-statutory rules are made in order to ensure that the executive agencies should work or function in a uniform manner (such Administrative Rules are hereinafter referred to as 'Guidelines'). But Guidelines can have de facto effect on the individuals.

Concerning (2), 'Gyousei Kouji' in Japanese shall decide rights, obligations, and other legal status finally without consent of the person(s) to whom it is addressed. About 'Gyousei Kouji', there are several issues. It is considered, for instance, what effect 'Gyousei Kouji' has on individual rights and obligations. When performing 'Gyousei Kouji' may involve exercise of some discretionary power, it is also examined where discretion exists and how courts control exercise of discretionary power.

After completing this course, you should be able to:

- Explain meaning and legal controls of Decrees;
- Explain meaning and characteristics of the Guidelines;
- Explain meaning and sorts of 'Gyousei Kouji';
- Explain legal controls of 'Gyousei Kouji';
- Explain when 'Gyousei Kouji' comes into existence and becomes effective;
- Explain typical features (or typical qualities) of 'Gyousei Kouji';
- Explain conditions, time limits, and other manifestations of intention added to 'Gyousei Kouji';
- Explain invalidity of 'Gyousei Kouji' (this invalidity means 'Gyousei Kouji' has no legal effect – without any executive agency's measure – from a date it actually took place);
- Explain acts making void ab initio (with relation back) 'Gyousei Kouji' which has become effective;
- Explain acts making void ex post facto 'Gyousei Kouji' which has become effective;
- Explain where discretion exists in doing 'Gyousei Kouji';
- Explain tests used by courts against misuse of executive discretionary powers.

You should spend at least 4 hours on independent learning in order to prepare for and/or follow up every class, reading the textbook and your own reference book(s).

Assessment for degree of your understanding is done by an end-of-term written exam (100%). If you cannot attend school because of the spread of COVID-19, it is done by an essay in using 'Learning Management System [an internet-based system for learning]'.

LAW300AB

行政作用法Ⅱ

氏家 裕順

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

単位数：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国・都道府県などの行政は、われわれ個人の活動を規制したり、私人に対して給付したりするほか、租税の徴収もしている。さらに行政は、実質的な立法活動も行っており、私人の権利義務を一般的に規律する場合がある。行政の活動が適法に行われることが、私人の生活にとって重要なことである。行政活動の適法性を確保するための法解釈・法理論を提供しているのが行政法学である。

行政活動に関する法である行政作用法には、行政代執行法、行政手続法、行政機関の情報の公開に関する法律などの一般法や、建築基準法、警察官職務執行法、食品衛生法、道路交通法、都市計画法などの個別法がある。その多くは個別法である。行政法学における主な検討課題は、一般法に関してはそれらの具体的な解釈であり、また、個別法に関してはそれらにおいて規定されている行為に共通する性格を持つ「行政の行為」の法的規制等の法律論である。ここにいる行政の行為には、行政規範の制定（行政立法）、行政行為、行政上の強制執行、即時強制、行政契約、行政指導がある。また、行政計画、行政調査の意義・法的規制も行政法学における検討課題である。行政罰及び制裁的措置の意義・法的規制も重要である。上記のうち、行政上の強制執行、行政罰、制裁的措置は行政の実効性確保の仕組みないし手段といえる。

行政作用法Ⅰの授業では、上記のうち、行政規範の制定、行政行為がとりあげられた。行政作用法Ⅱでは、行政の実効性確保の手段（行政上の強制執行、行政罰、制裁的措置）、即時強制、行政契約、行政指導、行政計画、行政調査をとりあげ、その意義や法的規制について主に学ぶ。さらに、行政機関の保有する情報の公開に関する法律、個人情報の保護に関する法律（個人情報の公的部門における管理体制に限る）及び公文書等の管理に関する法律（行政文書の管理体制に限る）の概要を学習する。各法律は一般法であり、それぞれ、行政活動を私人が「民主的に統制するためのもの、私人のプライバシー」を保護するためのもの、文書の適切な管理体制を整備するためのものである。

行政作用法Ⅱは、「裁判と法」「行政・公共政策と法」及び「文化・社会と法」の各コースに属する。

【到達目標】

行政の実効性確保の手段にはどのようなものがあるか、それが抱える法的問題はどのようなものか、説明することができる。

行政契約の意義と法的規制について説明することができる。

行政指導の意義と法的規制について説明することができる。

行政計画の意義と法的規制について説明することができる。

行政調査の意義と法的規制について説明することができる。

行政機関の保有する情報の公開に関する法律の概要について説明することができる。

個人情報の保護に関する法律において定められている、個人情報の公的部門における管理体制の概要について説明することができる。

公文書等の管理に関する法律において定められている、行政文書の管理体制の概要について説明することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に強く関連。

【授業の進め方と方法】

授業は講義形式で行う。いわゆるハイフレックス授業の方式を採用する予定。

毎回、授業の簡単なまとめ、あるいは、授業内容を踏まえた意見の提出を求める。そのうち、受講者間で共有すべきものは、授業内でこれを紹介し、これにコメントする。フィードバックは授業内で行う予定である。

上記のまとめ等の提出のために学習支援システムを利用する。開講前に連絡する必要がある場合にもこれを用いる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	行政の実効性確保（1）	行政上の強制執行—行政代執行
第2回	行政の実効性確保（2）	行政上の強制執行—執行罰・直接強制・行政上の強制徴収
第3回	行政の実効性確保（3）	民事上の強制執行の余地 行政上の強制執行と即時強制の共通点と相違点 即時強制の法的規制
第4回	行政の実効性確保（4）	行政罰—行政刑罰と秩序罰たる過料
第5回	行政の実効性確保（5）	制裁的措置、とりわけ違反金、給付拒否、制裁としての公表・実効性確保のための公表
第6回	行政契約（1）	行政契約の意義と法的規制（実体的規制）
第7回	行政契約（2）	行政契約の法的規制（手続的規制）
第8回	行政指導（1）	行政指導の意義と分類 行政指導が行われる理由
第9回	行政指導（2）	行政指導の法的規制
第10回	行政計画	行政計画の意義と法的規制
第11回	行政調査（行政情報の収集）	行政調査の意義と法的規制
第12回	行政情報の公開	行政機関の保有する情報の公開に関する法律の概要
第13回	行政情報の管理（1）	個人情報の保護に関する法律（個人情報の公的部門における管理体制）
第14回	行政情報の管理（2）	公文書等の管理に関する法律（行政文書の管理体制）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

後掲のテキスト・参考書を参照しながら、予習・復習を行う。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

西田幸介『行政作用法講義』（生協書籍部で販売）

【参考書】

宇賀克也『行政法概説Ⅰ〔第7版〕』（有斐閣、2020年）

塩野宏『行政法Ⅰ〔第6版〕』（有斐閣、2016年）

芝池義一『行政法読本〔第4版〕』（有斐閣、2016年）

芝池義一『行政法総論講義〔第4版補訂版〕』（有斐閣、2006年）

高橋滋『行政法〔第2版〕』（弘文堂、2018年）

藤田宙靖『新版行政法総論（上）』（青林書院、2020年）

そのほか、初回授業で紹介するもの

【成績評価の方法と基準】

定期試験による（100%）が、感染症り患リスクの回避のため通学できない場合にはレポートによる（100%）。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできない。

【学生が準備すべき機器他】

最新版の六法。これは毎回持参すること。また、学習支援システムの利用のために必要なPCあるいはスマートフォン。上記の通り、学習支援システムは授業内容のまとめ等の提出のために毎回使用する。感染症り患リスク回避のために通学できない場合にはさらに、(1) Zoom や Webex が利用できるだけの通信環境、(2) 各回の配布物を参照するためのPDF閲覧ソフトウェア（Adobe Acrobat Reader〔無料〕など）、(3) レポート課題の閲覧・提出のために用いる、.doc、.docx の形式で保存できるソフトウェア（Microsoft Word など）が必要となる。

【その他の重要事項】

行政作用法Ⅰ・Ⅱの授業は、行政法入門Ⅰ・Ⅱの内容を修得したこと、あるいは、修得中であることを前提に行われる。行政法入門Ⅰ・Ⅱでとりあげられる事柄を修得できていない場合、それらを自習すること。そうしなければ、授業内容を理解できないおそれがあるからである。自習範囲は担当教員に相談すること。

【Outline (in English)】

This course is designed to learn meaning and legal controls of some acts performed by the executive agencies (hereinafter the executive agencies' acts are simply referred to as 'acts'), specially focusing on (1) acts which may be done for a purpose of ensuring that a particular administrative objective should be achieved (hereinafter these acts are referred to as 'Measures for Ensuring Administrative Efficacy'), (2) 'Gyousei Keiyaku', (3) Administrative Guidance, (4) Administrative Plan (Administrative Planning), and (5) Administrative Investigation. It is also designed to study (6) the Act on Access to Information Held by Administrative Organs [the executive agencies], (7) the Act on the Protection of Personal Information (especially management systems of personal information which systems are set up on personal information held by public sector and are applied to them), and (8) the Public Records and Archives Management Act (particularly management systems of Administrative Documents).

As to (1), typical examples of Measures for Ensuring Administrative Efficacy are (a) a measure which is laid down in the Act on Substitute Execution by Administration 1948 (c.48) and (b) measures which are provided in the National Tax Collection Act 1959 (c.147). A measure, laid down in the Act 1948, may be employed by executive agencies in order to fulfil an 'individual administrative obligation' (which is imposed by administrative law or acts) on behalf of the individual. Measures, enacted by the Act 1959, may be implemented by executive agencies so as to collect national tax arrears. Besides (a) and (b) above, there are other important Measures for Ensuring Administrative Efficacy to know. 'Sokuji Kyousei' is not Measures for Ensuring Administrative Efficacy, but in this course it is taken up together with them. 'Sokuji Kyousei' is common to a measure (measures) laid down in the Act 1948 and the Act 1959 in that it involves the employment of force, but differs from them in that it is implemented when no individual administrative obligation is imposed.

Concerning (2), 'Gyousei Keiyaku' in Japanese is a contract which the public entities conclude (thus 'Gyousei Keiyaku' shall decide rights and obligations finally, but only with consent of the citizen who makes it). 'Gyousei Keiyaku' is subjected to special legal controls.

As concerns (3), Administrative Guidance is 'guidance, recommendations, advice, or other acts by which an Administrative Organ [see Art. 2 (v) of the Administrative procedure Act 1993 (c. 88)] may seek, within the scope of its duties or processes under its jurisdiction, certain action or inaction on the part of specified persons in order to realize administrative aims, where the acts are not Dispositions [see Art. 2 (ii) of the Act]' (Art. 2 (vi) of the Act).

With respect to (4), Administrative Plan is a plan developed by the executive agencies. It presents an administrative objective to achieve in future and comprehensive means for accomplishing its objective.

Regarding (5), Administrative Investigation is the executive agencies' operation for getting information. It is said that obtaining information should be done in a timely and appropriate manner in order to make administrative decisions that are to be lawful and that are to be conformable with the public interest, but it is also said that gaining information would carry a risk of violating the rights or interests of citizens.

As concerns purpose of the Acts above mentioned, (6) is for citizens' democratic control of central government functions, (7) is intended to protect the privacy of citizens, and (8) is to establish appropriate management systems for Administrative Documents.

After completing this course, you should be able to:

- Explain sorts of Measures for Ensuring Administrative Efficacy;
- Explain problems of Measures for Ensuring Administrative Efficacy;
- Explain meaning and legal controls of 'Gyousei Keiyaku';
- Explain meaning, sorts, and legal controls of Administrative Guidance;
- Explain meaning and legal controls of Administrative Plan;
- Explain meaning and legal controls of Administrative Investigation;
- Sketch out the Act on Access to Information Held by Administrative Organs;
- Sketch out management systems of personal information in the public sector which systems are provided in the Act on the Protection of Personal Information;
- Sketch out management systems of Administrative Documents laid down in the Public Records and Archives Management Act.

You should spend at least 4 hours on independent learning in order to prepare for and/or follow up every class, reading the textbook and your own reference book(s).

Assessment for degree of your understanding is done by an end-of-term written exam (100%). If you cannot attend school because of the spread of COVID-19, it is done by an essay in using 'Learning Management System [an internet-based system for learning]'.

LAW300AB

行政救済法 I

高橋 滋

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
単位数：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

(注意・4月4日・4月8日にガイダンスクラス分けの時間指定を訂正しました)

行政法入門で習得した知識・能力を基盤として、行政救済法に関して学部レベルで期待される知識・能力の修得を目指す。この科目は「裁判と法」「行政・公共政策と法」および「文化・社会と法」の各コースに配置されている。

Ⅱ行政救済法Ⅱと併せて4単位の講義であることから、条文解釈を含めた行政法令の理解、学説の対立点と背景、最高裁判例についての事実関係と判旨の正確な理解を修得することを目指す。

Ⅲ具体的には、行政訴訟を取り扱う。時間数の関係上、行政争訟制度のうち、行政不服審査、苦情処理については、行政救済法Ⅱにおいて取り扱う。

【到達目標】

I 知識面

行政救済法のうち、行政訴訟を取り扱う。関係法令、学説、判例に係る学部レベルでの知識の確実な修得を目指す。

Ⅱ 能力面

①行政救済法分野における学部生向けの解説書・解説文を自ら読解できる能力を養う。併せて、最高裁判所の判旨を正確に理解できる能力を養う。

②解説文、最高裁判所の判決要旨等について、理解できない点、疑問点を発見し、これらについて自ら学術論文を調べ、あるいは、担当教員等に質問するなどして、受動的ではなく、積極的に講義に参加する学習態度を身に付ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に強く関連。

【授業の進め方と方法】

I ①一般的な講義形式による。ただし、新型コロナウイルス感染症の拡散を抑制するため、また、受講者数を勘案して、クラスを半分に分けて対面講義とライブ講義とを併用する(2クラスに分け、対面を認める回とオンラインとする回を交互に割り当てる)。指定と異なる回に対面で出席し又はアクセスした場合には、出席をカウントしない。

②初回のガイダンスについては対面で実施し、2クラスに分けて行う(13時10分～13時50分は3年生A～Gクラス、13時50分～14時は入替え時間、14時～14時40分は3年生H～Nクラス・4年生・他学科等)。初回についても出席票を配布する。指定とは異なる時間帯に出席した場合には、出席をカウントしない。

③対面講義・オンライン講義にかかわらず、講義時間中に学習支援システムの「Timed Test」の正誤問題の機能を利用して簡単な確認テストを実施する(初回を除く。各講義において1問)。また、2回の中間テストを実施する(2クラスに分けて実施する可能性もある、30分の正誤問題)。よって、PC等を用意すること。

Ⅱ 受講者は教科書を購入すること。また、講義資料は教室では配布しない。学習支援システムからダウンロードした資料を利用すること。

Ⅲ 受講者は、予習をし、対面又はオンラインでの講義で学習を深め、その後の復習を通じて理解を定着させること。

Ⅳ 学生に対するフィードバックは、講義時間中の確認テスト、2回の中間テストを通じて実施する。出席にインセンティブを与え、かつ、リアクションを講義に反映させる見地から、講義時間中に正誤問題による簡単な確認テストを実施する。正誤問題の回答(対面の回は出席票も)については平常点として加点する(最大40%を加点)。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

なし/No

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス・行政争訟法(概説)、行政訴訟(沿革等)、行政統制と司法(前半)〔前半・後半の2クラスに分ける〕	ガイダンス・行政争訟法(概説)、行政訴訟(沿革等)、行政統制と司法(前半)〔前半・後半の2クラスに分ける〕
第2回	行政訴訟・概説(2)	行政訴訟と司法(後半)、行政事件訴訟の意義と類型、行政事件と民事事件
第3回	抗告訴訟(1)	取消訴訟の訴訟要件、処分性(1) - 基本的な考え方
第4回	抗告訴訟(2)	処分性(2)、原告適格(1)
第5回	抗告訴訟(3)	原告適格(2)
第6回	第1回中間試験(30分の正誤問題。2クラスに分けて実施する)	第1回中間試験(試験範囲・第1回～第5回)
第7回	抗告訴訟(5)	狭義の訴えの利益
第8回	抗告訴訟(6)	他の訴訟要件、取消の審理(1) - 訴訟物、主張立証責任、文書提出義務、違法判断の基準時
第9回	抗告訴訟(7)	取消訴訟の審理(2) - 主張制限、原処分主義、処分理由の追加・差換え、複雑な訴訟形態
第10回	抗告訴訟(8)	複雑な訴訟形態 - 訴訟の終了
第11回	第2回中間試験(30分の正誤問題。2クラスに分けて実施する)	第2回中間試験(試験範囲・第7回～第10回)
第12回	抗告訴訟(9)	訴訟の終了、その他の抗告訴訟(前半)
第13回	抗告訴訟(10)	その他の抗告訴訟(後半)
第14回	機関訴訟、仮の救済	民衆訴訟と機関訴訟

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

行政救済法Ⅰ・Ⅱを合計して学部4単位の講義科目であるので、指定教科書を熟読し、わからない用語等があれば、参考文献を調べる。興味が出た事項・判例については、参考文献・ウェブサイトの判例データベースを自ら調べ、それでも解決できない場合は、教員に質問できるよう準備をしておくこと。

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト(教科書)】

高橋滋『行政法〔第2版〕』(弘文堂、2018年)3,500円
(最新の内容の理解が重要であり、理解度テストも最新の知見を重視するため、第1版の使用は推奨しない(第1版の記述に依拠して解答した場合は及第点が獲得できない可能性がある))

【参考書】

以下のものを推奨する(図書館等において、参照し活用すること)。
斎藤誠=山本隆司『行政判例百選Ⅱ(第8版)』(有斐閣、2022)
塩野宏『行政法Ⅱ(第6版)』(有斐閣・2019)、
宇賀克也『行政法概説Ⅱ 行政救済法(第7版)』(有斐閣・2021)
芝池義一『行政救済法』(有斐閣・2022)

【成績評価の方法と基準】

I 2回の中間試験(40%)、期末試験(60%)の合計100%とする。いずれも、中間試験は正誤問題、期末試験は文章問題とする(正誤問題による平常点の評価については40%の範囲で加点する)。

Ⅱ 講義への出席が講義内容の理解度の向上に寄与するとの観点、及び、出席にインセンティブを与え、かつ、リアクションを講義に反映させる見地から、講義時間中に正誤問題による簡単な確認テストを実施する。接続不良の際の回答ミスの場合の届出方法については、別途、周知する(基本的に当該時点における接続不良の画面をスマホ等で撮影した画像の提出が必要となる)。学習支援システムのテスト機能を用いた正誤問題の回答については平常点として加点する(最大40%を加点)。

Ⅲ 学生に対するフィードバックは、講義時間内の正誤問題への解説、中間テストへの解説等によって実施する。

【学生の意見等からの気づき】

① 学習に意欲的な受講者の反応からは、オンライン講義の形態であっても、対面講義に劣らない講義内容を提供できたものとする

② 教員・学生相互にオンライン講義の習熟度が向上したと思われることから、平常点の確認の手法をより厳格なものに切り替えることとした。

③ Zoom についても学習支援システムについても、稀にはあるが通信障害が生ずることが確認された。この点を踏まえ、昨年度においても救済措置を実施したが、平常点の評価の厳格化に伴い、救済措置としてのレポートの評価も厳格化する。

【学生が準備すべき機器他】

PC・無線ルーターの準備については大学の方針を参照されたい。

【その他の重要事項】

行政法入門を受講していない者については、受講を推奨しない。判例の分析を重視し、かつ、様々な行政学説を見渡したバランスの良い解説を心がけることとする。

【Outline (in English)】

【Course outline ・ Learning Objectives 】 In the "Administrative Remedy Law I", we will deal with the field of the Administrative Remedy Law in conjunction with the "Administrative Remedy Law II. The aim of this lecture is to acquire an understanding of administrative laws and regulations, including the methods of interpretation about articles of administrative statutes, the logical constructions and backgrounds of the administrative law theories, and an accurate understanding of the facts and judgment reasons of the Supreme Court's cases in the field of administrative law.

【Learning activities outside of classroom 】 Students should prepare for the lessons, deepen their learning through face-to-face or high-flex lectures, and consolidate their understanding through subsequent review.

【Grading Criteria /Policy 】I. Two mid-term examinations (40%) and a final exam (60%) totaled 100%. In both cases, the midterm exam is a true/false question, and the final exam is a written question (points are added in the range of 40% for evaluation of normal scores based on true/false questions).

II. Conduct a simple confirmation test with true/false questions during lecture time. The notification method in the case of an answer error in the event of a bad connection will be separately disseminated (basically, it is necessary to submit an image taken with a smartphone or the like of the screen of the connection failure at that time). Answers to true/false questions using the test function of the learning support system will be added as normal points (up to 40% will be added).

LAW300AB

行政救済法Ⅱ

高橋 滋

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

単位数：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

I 行政救済法Ⅰに続き、行政法入門で習得した知識・能力を基盤として、行政救済法に関して学部レベルで期待される知識・能力の修得を目指す。この科目は「裁判と法」「行政・公共政策と法」および「文化・社会と法」の各コースに配置されている。

II 行政救済法Ⅰと併せて4単位の講義であることから、条文解釈を含めた行政法令の理解、学説の対立点と背景、最高裁判例についての事実関係と判旨の正確な理解を修得することを目指す。

III 具体的には、行政不服審査制度、苦情処理・オンブズマン

損失補償、国家賠償法、国家補償の谷間

を取り扱う。

【到達目標】

I 知識面

行政救済法のうち、行政不服審査制度等の狭義の行政争訟制度、国家補償制度について、関係法令、学説、判例に係る学部レベルでの知識の確実な修得を目指す。

II 能力面

① 行政救済法分野における学部生向けの解説書・解説文を自ら読解できる能力を養う。併せて、最高裁判所の判旨を正確に理解できる能力を養う。

② 解説文、最高裁判所の判決要旨等について、理解できない点、疑問点を発見し、これらについて自ら学術論文を調べ、あるいは、担当教員等に質問するなどして、受動的ではなく、積極的に講義に参加する学習態度を身に付ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に強く関連。

【授業の進め方と方法】

I ①一般的な講義形式による。ただし、新型コロナウイルス感染症の拡散を抑止するため、また、受講者数を勘案して、クラスを半分に分けて対面講義とオンライン講義とを併用する（2クラスに分け、対面を認める回とオンラインとする回とを交互に割り当てる）。指定と異なる回に対面で出席し又はアクセスした場合には、出席をカウントしない。

②初回のガイダンスについては、対面で実施し、2クラスに分けて行う（10時40分～11時20分は3年生A～Dクラス、11時20分～11時30分は入替え時間、11時30分～12時10分は3年生E～Gクラス・4年生・他学科等）。初回についても出席票を配布する。指定とは異なる時間帯に出席した場合には、出席をカウントしない。

③対面講義・オンライン講義にかかわらず、講義時間中に学習支援システムの「Timed Test」の正誤問題の機能を利用して簡単な確認テストを実施する（初回を除く。各講義において1問）。また、2回の中間テストを実施する（2クラスに分けて実施する。30分の正誤問題）。よって、PC等を用意すること。

II 受講者は教科書を購入すること。また、講義資料は教室では配布しない。学習支援システムからダウンロードした資料を利用すること。

III 受講者は、予習をし、対面又はオンラインでの講義で学習を深め、その後の復習を通じて理解を定着させること。

IV 学生に対するフィードバックは、講義時間中の確認テスト、2回の中間テストを通じて実施する。出席にインセンティブを与え、かつ、リアクションを講義に反映させる見地から、講義時間中に正誤問題による簡単な確認テストを実施する。正誤問題の回答（対面の回は出席票も）については平常点として加点する（最大40%を加点）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス・行政不服審査等（1）	ガイダンス・①行政不服審査制度の沿革等、②行政不服審査の手続Ⅰ（審理員の手続）（前半と後半の2クラスに分けて実施する）
第2回	行政不服審査等（2）	①行政不服審査の手続Ⅱ（行政不服審査会） ②行政審判・苦情処理・オンブズマン
第3回	国家補償法・概説、損失補償（1）	国家補償法の体系・利害調整の制度、損失補償の理念、憲法29条3項の法的効果
第4回	損失補償（2）	損失補償の要否・損失補償の方法、損失補償と訴訟
第5回	第1回中間試験（30分の正誤問題。2クラスに分けて実施する）	第1回中間試験（試験範囲は、第1回～第4回）
第6回	国家賠償（1）	国家賠償の沿革、国家賠償法の体系、国家賠償法1条の本質論
第7回	国家賠償（2）	国家賠償法1条の要件（1）- 公権力の行使と公務員、違法性と故意・過失（1）
第8回	国家賠償（3）	国家賠償法1条の要件（2）- 違法性と故意・過失（2）
第9回	国家賠償（4）	国家賠償法1条の要件（3）- 職務行為基準説とその評価、その他の要件
第10回	第2回中間試験（30分の正誤問題。2クラスに分けて実施する）	第2回中間試験（試験範囲は、第6回～第9回）
第11回	国家賠償（5）	国家賠償法2条（1）- 営造物の概念、設置・管理の瑕疵（道路）
第12回	国家賠償（6）	国家賠償法2条（2）- 設置管理の瑕疵（河川）、タイムラグ、1条と2条の関係
第13回	国家賠償（7）	国家賠償法3条ないし6条
第14回	国家補償の谷間	国家補償の谷間

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

行政救済法Ⅰ・Ⅱを合計して学部4単位の講義科目であるので、指定教科書を熟読し、わからない用語等があれば、参考文献を調べる。興味が出た事項・判例については、参考文献・ウェブサイトの判例データベースを自ら調べ、それでも解決できない場合は、教員に質問できるよう準備しておくこと。
本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

高橋滋『行政法〔第2版〕』（弘文堂、2018年）3,500円

（最新の内容の理解が重要であり、理解度テストも最新の知見を重視するため、第1版の使用は推奨しない（第1版の記述に依拠して解答した場合は及第点が獲得できない可能性がある））

【参考書】

以下のものを推奨する（図書館等において、参照し活用すること）。

斎藤誠＝山本隆司『行政判例百選Ⅱ〈第8版〉』（有斐閣、2022）

塩野宏『行政法Ⅱ〈第6版〉』（有斐閣、2019）、

宇賀克也『行政法概説Ⅱ 行政救済法〈第7版〉』（有斐閣、2021）

芝池義一『行政救済法』（有斐閣、2022）

【成績評価の方法と基準】

I 2回の中間試験（40%）、期末試験（60%）の合計100%とする。いずれも、中間試験は正誤問題、期末試験は文章問題とする（正誤問題による平常点の評価については40%の範囲で加点する）。

Ⅱ 講義への出席が講義内容の理解度の向上に寄与するとの観点、及び、出席にインセンティブを与え、かつ、リアクションを講義に反映させる見地から、講義時間中に正誤問題による簡単な確認テストを実施する。接続不良の際の回答ミスの場合の届出方法については、別途、周知する（基本的に当該時点における接続不良の画面をスマホ等で撮影した画像の提出が必要となる）。学習支援システムのテスト機能を用いた正誤問題の回答については平常点として加点する（最大 40 % を加点）。

Ⅲ 学生に対するフィードバックは、講義時間内の正誤問題への解説、中間テストへの解説等によって実施する。

【学生の意見等からの気づき】

① 学習に意欲的な受講者の反応からは、オンライン講義の形態であっても、対面講義に劣らない講義内容を提供できたものとする。

② 教員・学生相互にオンライン講義の習熟度が向上したと思われることから、平常点の確認の手法をより厳格なものに切り替えることとした。

③ Zoom についても学習支援システムについても、稀にはあるが通信障害が生ずることが確認された。この点を踏まえ、昨年度においても救済措置を実施したが、平常点の評価の厳格化に伴い、救済措置としてのレポートの評価も厳格化する。

【学生が準備すべき機器他】

PC・無線ルーターの準備については大学の方針を参照されたい。

【その他の重要事項】

行政救済法Ⅰを受講していない者については、受講を推奨しない。2単位の独立した科目であるので、教科書は独自に指定する。その上で、判例の分析を重視し、かつ、様々な行政学説を見渡したバランスの良い解説を心がけて、行政救済法Ⅰとの整合性・連続性を確保する。

【Outline (in English)】

【Course outline ・ Learning Objectives 】 In the "Administrative Remedy Law II", we will deal with the field of the Administrative Remedy Law in conjunction with the "Administrative Remedy Law I". The aim of this lecture is to acquire an understanding of administrative laws and regulations, including the methods of interpretation of articles of administrative statutes, the logical constructions and backgrounds of the administrative law theories, and an accurate understanding of the facts and judgment reasons of the Supreme Court's cases in the field of administrative law.

【Learning activities outside of classroom 】 Students should prepare for the lessons, deepen their learning through face-to-face or high-flex lectures, and consolidate their understanding through subsequent review.

【Grading Criteria /Policy 】 I. Two mid-term examinations (40%) and a final exam (60%) totaled 100%. In both cases, the midterm exam is a true/false question, and the final exam is a written question (points are added in the range of 40% for evaluation of normal scores based on true/false questions).

II. Conduct a simple confirmation test with true/false questions during lecture time. The notification method in the case of an answer error in the event of a bad connection will be separately disseminated (basically, it is necessary to submit an image taken with a smartphone or the like of the screen of the connection failure at that time). Answers to true/false questions using the test function of the learning support system will be added as normal points (up to 40% will be added).

LAW300AB

租税手続法

阿部 雪子

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

単位数：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講義では、租税の申告、更正・決定等の確定手続きや納税の滞納処分などの租税徴収手続に関する基本的事項を学習する。租税の確定手続や徴収手続は、行政法や民法などの法領域とも密接に関連しているため、これらの法も参照しながら租税の手続的側面について学ぶ。租税手続法上の重要論点は、裁判例を通じて知識を確実なものとする。なお、この科目は、「裁判と法コース」、「行政・公共政策と法コース」、「企業経営と法コース（商法中心）」、「国際社会と法コース」に配置されている。

【到達目標】

租税手続法は、租税の確定手続や徴収手続を対象とする法分野である。本講義では、租税の確定手続及び徴収手続に関する法律上の要件や効果について基本的な知識を習得する。この講義を通じて、租税手続法の解釈や適用問題について理解できるようになる。税制改革の論議や税制に関わる記事にも関心をもち得るような能力を涵養する。司法試験、公務員採用試験などの各種資格試験の勉強にも資するものとする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連。

【授業の進め方と方法】

授業用教材は、随時、学習支援システムにアップロードするので、各自、印刷して使用すること。講義内容や課題等への質問事項に対するフィードバックの方法として授業時間内に解説時間を設けたり、必要に応じて学習支援システムの教材機能に参照資料を掲載したい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	授業のガイダンス	授業の進め方、租税手続法とは
第 2 回	租税法の基本原則 (1)	租税法律主義
第 3 回	租税法の基本原則 (2)	租税公平主義
第 4 回	租税法の解釈と適用	租税法と私法、租税回避、仮装行為
第 5 回	租税手続法、租税確定手続 (1)	租税義務の確定手続と租税徴収手続との関係、納税義務の成立と確定
第 6 回	租税手続法、租税確定手続 (2)	申告納税制度、青色申告制度
第 7 回	租税手続法、租税確定手続 (3)	加算税制度
第 8 回	租税手続法、租税確定手続 (4)	更正・決定、源泉徴収制度
第 9 回	租税手続法、租税確定手続 (5)	推計課税の要件・方法、納税環境の整備
第 10 回	租税手続法、租税確定手続 (6)	質問検査権（税務調査）、質問検査の法的根拠、質問検査の要件
第 11 回	租税徴収手続・納付と徴収 (1)	租税の納付、徴収納付（源泉徴収等）、租税の徴収
第 12 回	租税徴収手続・納付と徴収 (2)	連帯納付義務、第二次納税義務
第 13 回	租税徴収手続・納付と徴収 (3)	滞納処分、違法性の承継
第 14 回	租税徴収手続・納付と徴収 (4)	租税債権の優先劣後

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキスト、授業内に指示された判例、参考文献にもとづく学習。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

水野忠恒編『テキストブック租税法 3 版』（中央経済社、2022）

【参考書】

金子 宏『租税法』（弘文堂、2021）

水野忠恒『大系租税法第 3 版』（中央経済社、2021）

増井良啓『租税法入門 2 版』（有斐閣、2018）

水野忠恒編『テキストブック租税法第 2 版』（中央経済社、2018）

中里実・佐藤英明・増井良啓・渋谷雅弘編『租税判例百選（第 7 版）』（有斐閣、2021）

阿部雪子『資産の交換・買換えの課税理論』（中央経済社、2017）

【成績評価の方法と基準】

中間試験 20%（レポート）、期末試験 70%、平常点 10%とする。

【学生の意見等からの気づき】

抽象的な説明にならないように、授業では裁判例を多く取り上げるなどの工夫をしている。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

関連科目として行政法、憲法、民法、会社法等を履修することが望ましい。

【Outline (in English)】

The student can learn the basic matter of collection procedure, such as tax procedures to fixes, such as decision(filing of return,correction,determination) of a tax, payment, return of a tax, and a notice of tax payment, a disposition for failure to pay, by this lecture.Since a tax procedures to fix and collection-of-taxes procedure are closely connected with law, such as Civil Code and the administrative law, the student can learn the fundamental knowledge of the procedural side of a tax, referring to these law.The student can learn exact knowledge by analysis of a judicial precedent about the important point of argument of tax adjective law.

LAW300AB

租税実体法

阿部 雪子

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

単位数：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

租税実体法は、所得税法、法人税法、相続税法、消費税法、地方税法などを総称する法分野である。これらの税目のうち、特に所得課税の分野である所得税法、法人税法を中心に学習し、租税法の基礎理論を習得する。各税法の解釈や適用の問題は、裁判例を通じて確かな知識を身につける。

なお、この科目は、「裁判と法コース」、「行政・公共政策と法コース」、「企業経営と法コース（商法中心）」、「国際社会と法コース」に配置されている。

【到達目標】

所得税法及び法人税法を体系的に学習することを通じて、社会で必要な税法の知識を身につける。所得税法では、所得税の基本理念が理解できるようになる。また、法人税法では法人所得の計算と企業会計の関係について必要な知識を習得する。税制改革の論議や税制に関わる記事にも関心をもち得るような能力を涵養する。司法試験、公務員採用試験などの各種資格試験の勉強にも資するものとする。なお、後期は、租税法分野のうち租税手続法を取扱い、租税の確定や徴収に関する手続的側面の理論、知識を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連。

【授業の進め方と方法】

授業用教材は、随時、学習支援システムにアップロードするので、各自、印刷して使用すること。講義内容や課題等への質問事項に対するフィードバックの方法として、授業時間内に解説の時間を設けたり、必要に応じて学習支援システムの教材機能に参照資料を掲載し解説したい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス、租税法と	授業の進め方、租税法体系、租税の現状、租税の必要性
第 2 回	租税法の基本原則、申告納税制度	租税法主義、租税公平主義、シャープ税制の成立
第 3 回	所得税法、所得の定義、非課税所得	所得概念の理論・消費型・支出型所得概念、発生型・取得型所得概念、非課税所得
第 4 回	所得の分類と所得税の基本的仕組み、各種の所得 (1)	所得区分、所得分類の意義、各種所得区分の判例 (1)
第 5 回	所得の分類と所得税の基本的仕組み、各種の所得 (2)	所得区分、所得分類の意義、各種所得区分の判例 (2)
第 6 回	所得の分類と所得税の基本的仕組み、各種の所得 (3)	所得区分、所得分類の意義、各種所得区分の判例 (3)
第 7 回	所得の年度帰属、必要経費	年度帰属の原則、権利確定主義、必要経費の意義、家族的企業と必要経費、判例
第 8 回	損益通算、所得控除と税額控除、確定申告	損益通算制度、所得控除と税額控除の意義、課税標準と税額
第 9 回	法人税法と法人税の納税義務者	法人の形態と納税義務者、事業体の課税問題

第 10 回 法人所得・法人税額の 法人所得の計算と企業会計の関係計算 (1)

第 11 回 法人所得・法人税額の 益金、益金の別段の定め、判例計算 (2)

第 12 回 法人所得・法人税額の 損金、損金の別段の定め①計算 (3)

第 13 回 法人所得・法人税額の 損金、損金の別段の定め②、判例計算 (4)

第 14 回 特殊関係法人の課税問 同族会社の課税・同族会社の行為・計算の否認規定

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキスト、授業内に指示された判例、参考文献にもとづく学習。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。復習を重視すること。

【テキスト（教科書）】

増井良啓『入門租税法 2 版』有斐閣

【参考書】

金子 宏『租税法』（弘文堂、2021）

水野忠恒『大系租税法第 4 版』（中央経済社、2023）

中里実・佐藤英明・増井良啓・渋谷雅弘編『租税判例百選（第 7 版）』（有斐閣、2021）

阿部雪子『資産の交換・買換えの課税理論』（中央経済社、2017）

【成績評価の方法と基準】

中間試験 20%（レポート）、期末試験 70%、平常点 10%とする。

【学生の意見等からの気づき】

抽象的な説明にならないように裁判例を多く取り上げるなどの工夫をしている。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

関連科目として行政法、憲法、民法、会社法等を履修することが望ましい。

【Outline (in English)】

A Tax substantive law is a law field that collectively refers to the Income Tax Law, Corporate Tax Law, Inheritance Tax Law, Consumption Tax Law, and Local Tax Law. The students can learn the basic theory of tax law, focusing on the fields of income taxation and corporate income taxation. The problem of the interpretation and application of each tax law will be acquired through court cases. The student can learn exact knowledge according to a judicial precedent about application of Income Tax Law, Corporate Tax Law, or an interpretative important point of argument.

LAW300AB

地方自治法

氏家 裕順

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

単位数：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

市町村、都道府県などの地方公共団体は、国とほぼ同じ分野において行政活動を行っており、住民の活動を規制し住民に対して給付するほか、租税の賦課徴収もしている。立法活動については、条例などを制定して、住民の権利義務を抽象的に規律する場合がある。地方公共団体の活動は住民の生活に深く関わるものである。その活動に関して住民は、直接請求権を行使し、また、住民訴訟を提起するなど、権利主体として法的な主張をすることができる。住民の権利のありようなどの、地方公共団体と住民に関わりのある法的問題は重要なものである。

憲法が規定している地方自治を詳細化する、各種の法令・地方自治法（＝地方自治法制）が存在するが、授業では、地方自治の一般的・基本的枠組みを定めている地方自治法を主に参照しながら、地方公共団体と住民をめぐる主要な法的問題について学ぶ。その目的は、行政・公共政策と法コースにあげられているような、法的問題を理解し、その問題の解決に向けて積極的に取り組むことができる能力を身につけることにある。

【到達目標】

①住民自治・団体自治、②地方公共団体の意義と種類、③住民の権利、④議会と長の関係、⑤条例制定権の限界・地方自治法相互の関係、⑥国と普通地方公共団体及び普通地方公共団体相互間の行政事務配分、⑦国の行政的関与について、それぞれ説明することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

授業は講義形式で行う。いわゆるハイフレックス授業の方式を採用する予定。

毎回、授業の簡単なまとめ、あるいは、授業内容を踏まえた意見の提出を求める。そのうち、受講者間で共有すべきものは、授業内でこれを紹介し、これにコメントする。フィードバックは授業内で行う予定である。

上記のまとめ等の提出のために学習支援システムを利用する。開講前に連絡する必要がある場合にもこれを用いる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	主要な法的問題
第 2 回	地方自治の基礎	地方制度から地方自治の保障へ 住民自治と団体自治
第 3 回	地方公共団体の意義と種類 (1)	普通地方公共団体の意義と種類 団体間の組織・権限の違い
第 4 回	地方公共団体の意義と種類 (2)	大都市制度 普通地方公共団体の再編
第 5 回	地方公共団体の意義と種類 (3)	特別地方公共団体の意義と種類
第 6 回	住民の権利 (1)	住民の意義 参政権
第 7 回	住民の権利 (2)	直接請求権
第 8 回	住民の権利 (3)	公の施設の利用権
第 9 回	住民の権利 (4)	住民監査請求 住民訴訟
第 10 回	住民の権利 (5)	住民投票
第 11 回	地方公共団体の組織	議会と長の関係

第 12 回	地方公共団体の自治立法権	条例制定権の限界・地方自治法相互の関係
第 13 回	地方公共団体の自治行政権	国と普通地方公共団体及び普通地方公共団体相互間の行政事務配分
第 14 回	国と地方公共団体の関係	国の行政的関与の概要

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

参考書のいずれかを参照しながら、予習・復習をする。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

配布レジメ。テキストは使用しない。

【参考書】

塩野宏『行政法 III 〔第 5 版〕』（有斐閣、2019 年）

人見剛・須藤陽子編著『ホンブック地方自治法 〔第 3 版〕』（北樹出版、2015 年）

白藤博行ほか著『アクチュアル地方自治法』（法律文化社、2010 年）

【成績評価の方法と基準】

定期試験による（100 %）が、感染症り患リスクの回避のため通学できない場合にはレポートによる（100 %）。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

最新版の六法。これは毎回持参すること。また、学習支援システムの利用のために必要な PC あるいはスマートフォン。上記の通り、学習支援システムは授業内容のまとめ等の提出のために毎回使用する。感染症り患リスク回避のために通学できない場合にはさらに、(1) Zoom や Webex が利用できるだけの通信環境、(2) 各回の配布物を参照するための PDF 閲覧ソフトウェア（Adobe Acrobat Reader [無料] など）、(3) レポート課題の閲覧・提出のために用いる、.doc, .docx の形式で保存できるソフトウェア（Microsoft Word など）が必要となる。

【その他の重要事項】

この科目は行政法科目に該当する。あらかじめ行政法入門を履修したか、現に履修中であることが、科目での学びが効果的なものとなるため、望ましい。

【Outline (in English)】

This course is designed to lean major problems concerning local authorities and the public, while consulting Local Autonomy Act 1947 (c.67) which lays down fundamental and general framework of local autonomy system.

After completing this course, you should be able to:

- Explain a principle of local autonomy;
- Explain definition and sorts of local authorities;
- Explain individual's rights which the Act 1947 provides for;
- Explain relationship between council (which is comparable though not identical idea of county council, district council, parish council, and so on) and head of a local authority;
- Explain limits on legislative powers of local authorities;
- Explain differences between public services necessarily delivered by the state and local authorities;
- Explain a manner of state intervention in (local authorities' carrying out) the executive functions.

You should spend at least 4 hours on independent learning in order to prepare for and/or follow up every class, reading your own reference book(s).

Assessment for degree of your understanding is done by an end-of-term written exam (100%). If you cannot attend school because of the spread of COVID-19, it is done by an essay in using 'Learning Management System [an internet-based system for learning]'.

LAW300AB

環境法

高橋 滋

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

単位数：2 単位

その他属性：〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

環境法に関する 2 単位の科目として、環境法の全体像の紹介を試みる。環境保全の制度の進展は目覚ましく、環境法令についても頻繁に制定・改廃が行われているが、最新の法令の状況、学説の議論を踏まえつつも、環境法の基本的な考え方の修得に講義の重点を置くことにしたい。

本科目は「行政・公共政策と法コース」、「国際社会と法コース」に属する。民法・憲法等の基本関連科目のほか、「行政法入門Ⅰ・Ⅱ」、「行政法作用法Ⅰ・Ⅱ」、「行政救済法Ⅰ・Ⅱ」の知識・理解をもつ受講者には、より精確な講義の理解が可能となる。

【到達目標】

Ⅰ 知識面

①受講者が、環境法分野における法令、理論、判例を学ぶことを通じ、憲法、民法、行政法等の関連知識を確実なものとするができる、あるいは、これらの分野を本格的に学習する足がかりとすることができる講義を目指す。

②さらに進んで、受講者が、地球温暖化問題、東アジアの環境汚染、環境問題への参加、司法アクセスの改善等、法政策的な課題についても、最新の知識が取得できる講義を目指す。

Ⅱ 能力面

①受講者が、法律文献を正確に読解できる力を身に付けることを目指す。併せて、受講者が、最高裁判所をはじめとする裁判例の論理を正確に把握できる能力を身に付けることを目指す。

②受講者が、関連する自然科学上の知識について高校レベルの正確な知識を踏まえ、環境問題の正しい把握の上に法的な分析を行うことのできる能力を身に付けることを目指す。

③受講者が、興味・関心に応じ、自然科学の基礎的な文献にも取り組む積極的な姿勢を身に付けることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

Ⅰ ①原則、対面での講義を行う。ただし、教室の規模に比して受講者が過多となった場合、新型コロナの蔓延が深刻になった場合には、2 クラスに分けて対面とオンラインとを交互に割当てする、あるいは、全面的にリアルタイム配信に切り替える可能性がある（2 クラスの分け方は、前半のクラスは、学年にかかわらず A～G クラス・法学部他学科、後半のクラスは学年にかかわらず H～N クラス・他学部とする）。指定とは異なる方式で出席または zoom にアクセスした場合、その回の平常点はカウントしない。

②初回については、感染状況及び教室の大きさを踏まえ、クラス分けを実施せず、対面で実施する。

③レポートあるいは試験について、提出物又は解答のレベルに照らして必要と認められた場合には、出題意図、採点方針及び所感を公表する。なお、国際環境法を取り扱う回については、教材を提供し、参考資料を踏まえたレポートとする（30％）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業概要・成績評価の方法。クラス分けを実施せず、対面で行う。
第 2 回	環境法の生成（1）	公害法の生成、公害対策基本法、公害・環境訴訟の展開

第 3 回	環境法の生成（2）	地球環境問題の発生、環境基本法、福島原発事故・環境法への組み込み
第 4 回	環境法の基礎（1）	環境法の理念、環境法における主体、環境保全の手法①（規制的手法、土地利用規制手法、事業手法、買上げ・管理契約手法、計画的な管理手法）
第 5 回	環境法の基礎（2）	環境保全の手法②（非権力的手法）・③（経済的インセンティブ・デイスインセンティブ）・④（情報を媒介としたインセンティブ・デイスインセンティブ）
第 6 回	環境法の基礎（3）	環境保全の費用負担
第 7 回	環境法の基礎（4）	国際的な環境保全、東アジアの環境問題（レポート提出とする）
第 8 回	環境汚染の規制・環境保全（1）	環境の保全と計画的な手法
第 9 回	環境汚染の規制・環境保全（2）	公害規制（大気汚染・土壌汚染を例として）
第 10 回	環境汚染の規制・環境保全（3）	原子力安全規制（1）- 歴史・概要
第 11 回	環境汚染の規制・環境保全（4）	原子力安全規制（2）- 福島原発事故以降の改革、化学物質規制
第 12 回	環境汚染の規制・環境保全（5）	廃棄物処理・循環型社会形成
第 13 回	地球環境問題とその対策	地球環境問題とその対策
第 14 回	公害・環境紛争と司法・行政上の解決（概論）	共同不法行為・環境行政訴訟（公権力の行使、処分性、原告適格、仮の救済、住民訴訟）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

○学際的な科目であり、応用科目であるので、授業中でわからない用語等が出てきた場合には、自主的に環境省ホームページ等を検索して調べることが望ましい。

○また、環境問題の実態は科学技術上の基礎知識がないと理解できないことも多いので、興味関心のあるテーマについては環境省のホームページ等の解説を調べることを望まれる。

○本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教科書は用いない。学習支援システムに事前に資料をアップする。教室においては配布しない。

【参考書】

（図書館等において、参照し活用すること）

大塚直『環境法 BASIC（第 3 版）』（有斐閣、2021 年） 4,730 円

大塚直『環境法〔第 4 版〕』（有斐閣、2020 年） 5,280 円

北村喜宣『環境法〔第 5 版〕』（弘文堂、2020 年） 3,630 円

【成績評価の方法と基準】

Ⅰ 期末の教場試験（70％）、レポート（30％）。リアクションペーパーの提出（毎回の講義におけるリアクションペーパーの提出は加点要素とする。合計 40％）

Ⅱ ハイフレックス講義実施の可能性を踏まえ、PC 及び無線ルーターの準備については、大学の方針を参照されたい。

【学生の意見等からの気づき】

特にありません。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システム等を使用する。参照すべき行政法規がミニ六法には掲載されていないこともあるので、対面での参加の場合には、法令データベースを参照できる情報機器（無線 LAN の接続が可能な PC、スマートフォン等）を持参することが望ましい。オンラインリアルタイム配信を利用する場合には、①PC（所有しない者には大学から貸与される）、②無線ルーター（所有しない者には貸与または通信費が補助される）又はデータ回線、③六法（WEB 上に政府の法令データベースが公開されている）

【その他の重要事項】

特にありません。

【Outline (in English)】

【Course outline】 This lecture is a two-credit course and deals with an overview of environmental law.

【Learning Objectives】 The purpose of this lecture is to learn the basics of environmental law while focusing on domestic environmental law.

【Learning activities outside of classroom】 Students should prepare for the lessons, deepen their learning through face-to-face or high-flex lectures, and consolidate their understanding through subsequent review.

【Grading Criteria /Policy】 I. End-of-term classroom exam (70%), report (30%). Submission of reaction papers (Submission of reaction papers in each lecture is an additional point. Total 40%)

LAW100AB

民事法総論

大澤 彩

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

単位数：2 単位

備考（履修条件等）：クラス指定科目 ※法律 1 年 A-G・2 年以上全

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

主として民法総則を中心に扱い、民法の基本制度、基本原則、さらには消費者問題、高齢者問題といった現代社会特有の問題に対処する上で民法が果たす役割について学ぶ。「裁判と法コース」など全コースに属している。

【到達目標】

民法総則のうち、特に信義則・権利濫用、権利外観法理、法人、時効の基本的知識・考え方を判例や学説をもとに理解することができる。また、消費者問題、高齢者問題など現代社会特有の問題に民法が果たす役割について、民法総則の知識を生かして幅広い視点から考える力を身につけることができる。

以上の学習にあたり、実際の紛争の内容およびその解決の在り方（条文の解釈・適用の仕方）について、判例をもとに理解することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

民事法総論では、主として民法総則を講義の対象とし、民法の定める基本原則の意味のほか、物の概念、無効と取消し、時効といった民法の基本知識に加え、権利外観法理や法人制度など、これまでの民法の講義で学んだ分野の発展的問題をとりあげる。毎回の講義において、これらの分野の基本知識・考え方を説明するとともに、関連する判例を読んで民法の規定が具体的にどのように解釈・適用されるかを理解する。

また、民法は私たちの生活にとって身近でかつ重要な法律であることを踏まえ、現代社会における民法の役割、重要性についても発展的な講義を行う。これらについても、関連する判例をもとに説明する。具体的には、①授業日 2 日前までにレジュメを学習支援システムにアップする。必要に応じて、事前課題ファイルをアップする。これらを使って予習すること。②授業日は ZOOM で解説を行う。解説終了後、質疑応答タイムを設ける。ZOOM での解説は同時録画し、学習支援システムにアップする。③質問は随時、学習支援システム内の掲示板（毎回の講義毎にトピックを設定する）で受け付ける。また、オンラインでのオフィスアワーを行うことがあるので進路相談や学習相談に活用して欲しい。

事前課題や小テストの解説、および、学生からの質問への回答は授業内で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	民法とは何か・民法上	民法とは何か、民法の「物」概念の基本概念（物とは何か）および関連規定についての講義
第 2 回	民法の基本原則①	民法の信義則概念についての講義・判例分析
第 3 回	民法の基本原則②	民法の権利濫用法理についての講義・判例分析
第 4 回	権利の主体・発展問題 ①民法における外観法理	民法 94 条 2 項と 110 条をめぐる判例の解説

第 5 回 権利の主体・発展問題
②法人 法人とは何か、法人の設立についての講義

第 6 回 権利の主体・発展問題
③法人 法人の対外関係についての講義

第 7 回 無効と取消しについて 無効・取消しの意義、両者の違いをめぐる講義

第 8 回 時効① 時効とは何か、時効の援用についての講義

第 9 回 時効② 時効の完成猶予、更新についての講義

第 10 回 時効③ 消滅時効についての講義

第 11 回 時効④ 時効の起算点をめぐる判例の分析

第 12 回 民法と特別法の関係－消費者契約法 消費者契約法についての解説・民法との関係についての説明

第 13 回 現代における民法の役割①消費者問題と民法 消費者契約法が適用された裁判例の分析

第 14 回 現代における民法の役割②高齢者問題と民法 高齢者問題をめぐる裁判例の分析・成年後見制度についての講義

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業 2 日前までにアップするレジュメを使って予習すること。同時にテキストの指定箇所（毎回の講義の最後に次回の該当箇所を指定する）を読むとさらに理解が深まる。また、民法判例集の指定箇所等、学習支援システムで指示された文献はきちんと読んでおくこと。学生が予習をしてきていることを前提に授業日に ZOOM での解説を行う。

講義内容によっては、学習支援システムに「事前課題」をアップすることがあるので、この課題を解くつもりでテキストの指定箇所や民法判例集の指定箇所を読むと理解が深まる。

特に判例集に掲載された判例については、紛争の内容および争点を図を書くなどして具体的に把握する。

本授業の予習・復習は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

佐久間毅『民法の基礎 1 総則（第 5 版）』（有斐閣、2020 年）（講義の予習・復習用として必ず購入すること）。

内田貴＝山田誠一＝大村敦志＝森田宏樹『民法判例集 総則・物権（第 2 版）』（有斐閣、2014 年）

以上 2 点ともに、開講時の最新版を購入すること。

六法（出版社は問わないが、『ポケット六法』や『デイリー六法』といったコンパクトなもので十分である）

【参考書】

判例の解説として、潮見佳男＝道垣内弘人編『民法判例百選 1 総則・物権（第 9 版）』（有斐閣、2023 年）

学習の理解を助けるものとして、大村敦志『新基本民法 1 総則（第 2 版）』（有斐閣、2019 年）。

滝沢昌彦『民法がわかる民法総則（第 4 版）』（弘文堂、2018 年）

その他の参考書は開講時に指示する。

【成績評価の方法と基準】

「学習支援システム」の「テスト」機能を使った小テストを学期中に複数回行う（行う場合には、事前に学習支援システムで告知するので、学習支援システムはこまめにチェックすること）。また、「テスト」機能で中間テストを行う。これらのテストによる評価を 45 % とする。

また、学期末に定期試験（対面での試験が可能である場合）またはレポート試験（オンライン）を行う。この学期末試験による評価を 55 % とする。

つまり、小テスト 45 % + 学期末試験またはレポート 55 % = 100 % で評価する。

以上は予定であり、詳しくは開講時に学習支援システムで指示する。

【学生の意見等からの気づき】

オンラインで小テストを行う場合には、問題文が見やすくなるよう工夫する。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムで教材を配布したり、小テストを行う。また、講義や質疑応答は ZOOM で行う。そのことから、パソコンかタブレットを準備することを勧める。

【その他の重要事項】

レジュメ、板書に頼らず、自分でノートをとる習慣を身につけること。大学の授業を受ける上で本来望まれる姿勢は教員の話聞き取って自分でノートをとるという姿勢である。自分で教員の話聞き取った上で要点をまとめてノートに書くという作業を行うことで、さらに授業の理解が深まり、また、記述式試験の対策にもなる。少なくとも「契約法Ⅰ」を受講した上でこの科目を受講すること。学習支援システムで随時お知らせを配信するため、こまめにチェックすること。

【Outline (in English)】

We learn the general provisions of Civil Code, especially, the juridical person and the prescription. The goals of this course are to comprehend this rule.

Before / after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.

Final grade will be calculated according to the following process
Mini-examination(40%) and term-end examination(60%).

LAW100AB

契約法 I

大澤 彩

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

単位数：2 単位

備考（履修条件等）：クラス指定科目 ※法律 1 年 A-G・2 年以上全

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

民法のうち、契約の成立、有効要件、および、契約の主体に関する法的問題を扱う。「裁判と法コース」など全コースに属している。民法には家族、契約、物の所有といった、私達にとって身近な事柄に関する規定が設けられているが、このうち、この授業では私達が日々行っている契約に関する基本ルールを学ぶ。

大学に入学して初めて民法を学ぶ機会でもあることから、民法とは何か、契約とは何かといった民法の基本的な考え方はもちろん、判例の調べ方、文献の調べ方といった民法の学習方法も身につける。

【到達目標】

契約の成立、有効要件、および契約の主体にかかわる民法総則、契約総論部分の知識・考え方を判例や学説をもとに理解することができる。

また、実際の紛争の内容およびその解決の在り方（条文の解釈・適用の仕方）について、判例をもとに理解することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

民法総則は、民法全体にわたる規定であり、しかも、抽象的な規定が多いことから、必ずしも理解が容易な分野ではない。講義では契約における法的問題を中心に学説・判例の考え方を示すとともに、判例を実際に読むことで紛争を解決するための法的思考方法や民法の規定が具体的にどのように解釈・適用されるかについても説明する。具体的には、①授業日 2 日前までにレジュメを学習支援システムにアップする。必要に応じて、事前課題ファイルをアップする。これらを使って予習すること、②授業日は ZOOM で解説を行う。解説終了後、質疑応答タイムを設ける。ZOOM での解説は同時録画し、学習支援システムにアップする。③質問は随時、学習支援システム内の掲示板（毎回の講義毎にトピックを設定する）で受け付ける。また、オンラインでのオフィスアワーを行うので進路相談や学習相談に活用して欲しい。

事前課題や小テストの解説、および、学生からの質問への回答は授業内で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	契約とは何か（ガイダンスも兼ねて）	民法とは何か、契約法とは何か
第 2 回	契約の成立	民法における契約の成立に関する規定
第 3 回	契約の解釈・契約の内容	契約の解釈、公序良俗規定
第 4 回	契約の有効要件①意思表示総論、心裡留保、虚偽表示	意思表示総論、心裡留保、虚偽表示①
第 5 回	契約の有効要件②意思の不存在	虚偽表示②、錯誤
第 6 回	契約の有効要件③意思表示の瑕疵	詐欺、強迫
第 7 回	契約の主体①自然人	権利能力、失踪宣告

第 8 回 契約の主体②自然人 意思能力、行為能力①行為能力とは何か、未成年者

第 9 回 契約の主体③自然人 行為能力②成年被後見人、被保佐人、被補助人、取引の相手方の保護

第 10 回 代理① 代理とは何か、代理の種類、代理人の義務

第 11 回 代理② 代理権の濫用、代理行為、無権代理①

第 12 回 代理③ 無権代理②、無権代理と相続

第 13 回 代理④ 表見代理①民法 109 条、110 条

第 14 回 代理⑤ 表見代理②民法 112 条、109 条と 110 条の重畳適用、110 条と 112 条の重畳適用

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業 2 日前までにアップするレジュメを使って予習すること。同時にテキストの指定箇所（毎回の講義の最後に次回の該当箇所を指定する）を読むとさらに理解が深まる。また、民法判例集の指定箇所等、学習支援システムで指示された文献はきちんと読んでおくこと。学生が予習をしてきていることを前提に授業日に ZOOM での解説を行う。

講義内容によっては、学習支援システムに「事前課題」をアップすることがあるので、この課題を解くつもりでテキストの指定箇所や民法判例集の指定箇所を読むと理解が深まる。

特に判例集に掲載された判例については、紛争の内容および争点を図を書くなどして把握するよう努めること。

本授業の予習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

佐久間毅『民法の基礎 1 総則（第 5 版）』（有斐閣、2020 年）（講義の予習・復習用として必ず購入すること）。

内田貴＝山田誠一＝大村敦志＝森田宏樹『民法判例集 総則・物権（第 2 版）』（有斐閣、2014 年）

以上 2 点ともに、開講時の最新版を購入すること。

六法（出版社は問わないが、『ポケット六法』や『デイリー六法』といったコンパクトなもので十分である）

【参考書】

判例の解説として、潮見佳男＝道垣内弘人編『民法判例百選 1 総則・物権（第 9 版）』（有斐閣、2023 年）

学習の理解を助けるものとして、大村敦志『新基本民法 1 総則（第 2 版）』（有斐閣、2019 年）

滝沢昌彦『民法がわかる民法総則（第 4 版）』（弘文堂、2018 年）

【成績評価の方法と基準】

「学習支援システム」の「テスト」機能を使った小テストを学期中に複数回行う（行う場合には、事前に学習支援システムで告知するので、学習支援システムはこまめにチェックすること）。また、「テスト」機能で中間テストを行う。これらのテストによる評価を 45 % とする。

また、学期末に定期試験（対面での試験が可能である場合）またはレポート試験（オンライン）を行う。この学期末試験による評価を 55 % とする。

つまり、小テスト・中間テスト 45 % + 学期末試験またはレポート 55 % = 100 % で評価する。

以上は予定であり、詳しくは開講時に学習支援システムで指示する。

【学生の意見等からの気づき】

オンラインで小テストを行う場合には、問題文が見やすくなるよう、工夫する。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムで教材を配布したり、小テストを行う。また、講義や質疑応答は ZOOM で行う。そのことから、パソコンかタブレットを準備することを勧める。

【その他の重要事項】

レジュメに頼らず、自分でノートをとる習慣を身につけること。大学の授業を受ける上で本来望まれる姿勢は教員の話聞き取って自分でノートをとるという姿勢である。自分で教員の話聞き取った上で要点をまとめてノートに書くという作業を行うことで、さらに授業の理解が深まり、また、記述式試験の対策にもなる。学習支援システムで随時お知らせを配信するため、こまめにチェックすること。

【Outline (in English)】

We learn the juristic acts, the agency, and the formation of contracts of Civil Code. The goals of this course are to comprehend this rule.

Before / after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.

Final grade will be calculated according to the following process
Mini-examination and mid-term examination (45%) and term-end examination(55%).

LAW100AB

民事法総論

新堂 明子

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

単位数：2 単位

備考（履修条件等）：クラス指定科目 ※法律 1 年 H-N

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

民法総則のうち、無効、取消し、代理、法人、消滅時効を扱う。これに関する法律（民法等）、判例を学び、適宜、学説について検討する。

民法総則はすべてのコースの基本となる。とくに、裁判と法コースを選択する場合、履修を強くすすめる。

【到達目標】

民法総則のうち、無効、取消し、代理、法人、消滅時効を説明することができる。これに関する法律（民法等）、判例を説明することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に強く関連。

【授業の進め方と方法】

講義形式で進める。

対面授業、リアルタイムオンライン授業、または両者併用のどの実施形態になるかは未定です。学習支援システムの「お知らせ」に注意してください。

教材中の設例に対し、授業中に適宜解説および解答をする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	法学入門	法学入門
第 2 回	民法入門	民法入門
第 3 回	無効と取消し（1）	無効と取消し（1）
第 4 回	無効と取消し（2）	無効と取消し（2）
第 5 回	代理（1）	有権代理の要件と効果（1）
第 6 回	代理（2）	有権代理の要件と効果（2）
第 7 回	代理（3）	無権代理（1）
第 8 回	代理（4）	無権代理（2）
第 9 回	代理（5）	表見代理（1）
第 10 回	代理（6）	表見代理（2）
第 11 回	法人（1）	法人（1）
第 12 回	法人（2）	法人（2）
第 13 回	消滅時効（1）	消滅時効（1）
第 14 回	消滅時効（2）	消滅時効（2）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習は軽く、復習は重く。

民法の条文を声に出して読み上げる。授業でよく分からなかった箇所を教科書で確認する。学期中、試験前に教科書の該当箇所を初めから終わりまで通読する。

本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

自分に合った（自分で選んだ）教科書（参考書の中から選んでください）。

『民法判例百選 I 総則・物権〔第 9 版〕』が、2023 年 2 月に出る予定です。

六法

（必ず最新版をそろえましょう。）

【参考書】

佐久間毅『民法の基礎 1 総則〔第 5 版〕』（2020 年）

四宮和夫＝能見善久『民法総則〔第九版〕』（2018 年）

（必ず最新版をそろえましょう。）

【成績評価の方法と基準】

定期試験。（100%）

【学生の意見等からの気づき】

関係図、時系列を板書し、学生の理解に努めたい。

【その他の重要事項】

私語厳禁です。周囲の学生に迷惑をかけないように気をつけましょう。注意しても止まない場合、退出をお願いすることがあります。

録音、録画厳禁です。録音、録画が必要な学生は別途相談を受け付けます。もちろん、板書の写メも厳禁です。

【Outline (in English)】**【Course outline】**

studying avoidance, agency, corporation and the statute of limitations in the Japanese Civil Code

【Learning Objectives】

understanding avoidance, agency, corporation and the statute of limitations in the Japanese Civil Code

【Learning activities outside of classroom】

Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapters from the text. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

【Grading Criteria/Policy】

term-end examination: 100%

LAW100AB

契約法 I

新堂 明子

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

単位数：2 単位

備考（履修条件等）：クラス指定科目 ※法律 1 年 H-N

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

民法総則のうち、契約の成立要件、有効要件、効果を扱う。これに関する法律（民法）、判例を学び、適宜、学説について検討する。民法総則はすべてのコースの基本となる。とくに、裁判と法コースを選択する場合、履修を強くすすめる。

【到達目標】

民法総則のうち、契約の成立要件、有効要件、効果を説明することができる。これに関する法律（民法）、判例を説明することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に強く関連。

【授業の進め方と方法】

講義形式で進める。

対面授業、リアルタイムオンライン授業、または両者併用のどの実施形態になるかは未定です。学習支援システムの「お知らせ」に注意してください。

教材中の設例に対し、授業中に適宜解説および解答をする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	法学入門	法律要件、法律効果、法的三段論法
第 2 回	民法入門（1）	所有 → 物権、契約 → 債権の抽象化。法律行為、意思表示の意味。「総則」の意味
第 3 回	民法入門（2）	契約の成立
第 4 回	民法入門（3）	契約の終了
第 5 回	権利能力、意思能力、行為能力（1）	権利能力、意思能力、未成年者
第 6 回	行為能力（2）	成年被後見人と成年後見人
第 7 回	行為能力（3）	被保佐人と保佐人、被補助人と補助人
第 8 回	意思表示（1）	心裡留保、虚偽表示（1）
第 9 回	意思表示（2）	虚偽表示（2）
第 10 回	意思表示（3）	錯誤（1）
第 11 回	意思表示（4）	錯誤（2）
第 12 回	意思表示（5）	詐欺・強迫（1）
第 13 回	意思表示（6）	詐欺・強迫（2）
第 14 回	強行規定違反、公序良俗違反	強行規定違反、公序良俗違反

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習は軽く、復習は重く。

民法の条文を声に出して読み上げる。授業でよく分からなかった箇所を教科書で確認する。学期中、試験前に教科書の該当箇所を初めから終わりまで通読する。

本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

自分に合った（自分で選んだ）教科書（参考書の中から選んでください。）

『民法判例百選 I 総則・物権 [第 9 版]』が、2023 年 2 月に出る予定です。

六法

（必ず最新版をそろえましょう。）

【参考書】

佐久間毅『民法の基礎 1 総則 [第 5 版]』（2020 年）

四宮和夫＝能見善久『民法総則 [第九版]』（2018 年）
（必ず最新版をそろえましょう。）

【成績評価の方法と基準】

定期試験（100 %）。

【学生の意見等からの気づき】

関係図、時系列を板書し、学生の理解に努めたい。

【その他の重要事項】

私語厳禁です。周囲の学生に迷惑をかけないように気をつけましょう。注意しても止まない場合、退出をお願いすることがあります。録音、録画厳禁です。録音、録画が必要な学生は別途相談を受け付けます。もちろん、板書の写メも厳禁です。

【Outline (in English)】

【Course outline】

studying formation of contracts in the Japanese Civil Code

【Learning Objectives】

understanding formation of contracts in the Japanese Civil Code

【Learning activities outside of classroom】

Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapters from the text. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

【Grading Criteria/Policy】

term-end examination: 100%

LAW200AB

契約法Ⅱ

滝沢 昌彦

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

単位数：2 単位

備考（履修条件等）：クラス指定科目 ※法律 2 年 A-G・3 年以上全

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、いわゆる債権総論（民法第3編第1章）のうち契約に直接に関わる部分、すなわち、債権の目的（第1節）、債務不履行責任（第2節第1款）、および、債権の消滅（第6節）を扱う。「契約法Ⅱ」と題する所以であり、契約法ⅠやⅢと密接に関連する。

なお、本授業は、「裁判と法コース」など全てのコースに属する。

【到達目標】

民法の基本的な概念や制度について理解し、また、運用上問題となる論点について判例や学説を参考にして解釈する能力を身に付ける。そして、最終的には、基本的な事例問題について民法を適用して解決できるようにすること、つまり、民法を「使える」ようになることが目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

基本的にはテキストに従って講義をするが、適宜、債権総論以外の分野にも必要に応じて言及する。なるべく民法を全体として理解してもらおうである。

また、随時復習を行うし、場合によっては「眠気防止」の為に受講生を指名して発言を求めることがあるかもしれない。なお、授業の中で課題を課した場合には、返却等適宜授業の中でフィードバックをする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	契約概論	債権総論からは外れるが、契約の成立や効力など契約制度の概観をする。
第 2 回	債権の目的①	特定物債権と種類債権
第 3 回	債権の目的②	金銭債権等
第 4 回	契約違反総論：履行の強制	契約違反に対する対抗手段 特に履行の強制
第 5 回	債務不履行責任①	損害賠償責任の成立要件
第 6 回	債務不履行責任②	損害賠償責任の免責事由
第 7 回	債務不履行責任③	損害賠償の範囲
第 8 回	債務不履行責任④	損害賠償による代位等
第 9 回	債権の消滅①	弁済①
第 10 回	債権の消滅②	弁済②
第 11 回	債権の消滅③	相殺
第 12 回	債権の消滅④	その他の債権消滅原因
第 13 回	債権の消滅⑤	受領遅滞等
第 14 回	総復習	これまでの講義を適宜補充した上で、全体的な総復習を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前にテキストの該当部分を読み、事後的には、知識の定着を図る為の復習を行う。語学と同様に、反復練習が必須です。準備・復習に各2時間を想定している。

【テキスト（教科書）】

栗田他『有斐閣ストゥディア民法4 債権総論』（2018年）

【参考書】

民法判例百選Ⅱ（第9版）（有斐閣、2023年）

【成績評価の方法と基準】

定期試験による（100パーセント）

【学生の意見等からの気づき】

イメージを具体的にする為に、時系列や関係図を板書する。

【Outline (in English)】**【Course outline】**

In this class, students will learn articles of Japanese Civil Law Part3 Chapter1, which relate Contract Law, namely §§399-411, §§412-422-2, §§473-520.

【Learning Objectives】

Students are expected to understand the meaning of the articles and to be able to apply the articles.

【Learning activities outside of classroom】

Your study time will be about four hours for each class.

【Grading Criteria/Politics】

Term-end examination 100 %

LAW200AB

債権回収法 I

滝沢 昌彦

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

単位数：2 単位

備考（履修条件等）：クラス指定科目 ※法律 2 年 A-G・3 年以上全

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、いわゆる債権総論（第3編第1章）のうち、債権の回収に関わる部分、すなわち、債権者代位権（第2節第2款）、詐害行為取消権（第2節第3款）、多数当事者の債権・債務（第3節）、債権譲渡（第4節）、および、債務引受け（第5節）を扱う。なお、この科目は全てのコースに属している。

【到達目標】

民法の基本的な概念や制度について理解し、また、運用上問題となる論点について判例や学説を参考にして解釈する能力を身に付ける。そして、最終的には、基本的な事例問題について民法を適用して解決できるようにすること、つまり、民法を「使える」ようになることが目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

基本的にはテキストに従って講義をするが、適宜、債権総論以外の分野にも必要に応じて言及する。なるべく民法を全体として理解してもらおうである。

また、随時復習を行うし、場合によっては「眠気防止」の為に受講生を指名して発言を求めることがあるかもしれない。なお、授業の中で課題を課した場合には、返却等適宜フィードバックを授業でする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	債権の効力	給付の受領・保持 第三者に対する妨害排除の可否
第 2 回	債権者代位権①	債権者代位権の成立要件
第 3 回	債権者代位権②	債権者代位権の行使 転用例
第 4 回	詐害行為取消権①	詐害行為取消権の成立要件
第 5 回	詐害行為取消権②	詐害行為取消権の行使
第 6 回	詐害行為取消権③	詐害行為取消権の効果
第 7 回	債権譲渡①	債権譲渡の対抗要件
第 8 回	債権譲渡②	債権譲渡の効果
第 9 回	債務引受・契約上の地位の移転	併存的債務引受け 免責的債務引受け 契約上の地位の移転
第 10 回	多数当事者の債権・債務①	分割債権・債務 連帯債権
第 11 回	多数当事者の債権・債務②	連帯債務 不可分債権・債務
第 12 回	保証①	保証債務
第 13 回	保証②	連帯保証 共同保証等
第 14 回	総復習	ここまでの講義を適宜補充し、全体的な総復習を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前にテキストの該当部分を読み、事後的には、復習により知識の定着を図る。語学と同様に、反復練習が必須です。準備・復習時間は各2時間を想定しています。

【テキスト（教科書）】

栗田他『有斐閣ストゥディア民法4 債権総論』（2018年）

【参考書】

民法判例百選II（第8版）（有斐閣、2018年）第9版が出るかもしれない。

【成績評価の方法と基準】

定期試験による（100パーセント）。

【学生の意見等からの気づき】

イメージを具体的に作る為、時系列や関係図を板書する。

【Outline (in English)】

[Course outline]

Students will learn Subrogation Right or other Rights for Creditors (§§423-426), Claims and Obligation of multiple Parties (§§427-465-10), and Assignments of Claims (§§466-472-4) in Japanese Civil Law Part3 Chapter1.

[Learning Objectives]

Students are expected to understand the meaning of the articles and to be able to apply the articles.

[Learning activities outside of classroom]

Your study time will be about four hours for each class.

[Grading Criteria/Politics]

Term-end examination 100 %

LAW200AB

契約法Ⅱ

滝沢 昌彦

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
 単位数：2 単位
 備考（履修条件等）：クラス指定科目 ※法律 2 年 H-N・3 年以上全
 その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、いわゆる債権総論（民法第3編第1章）のうち契約に直接に関わる部分、すなわち、債権の目的（第1節）、債務不履行責任（第2節第1款）、および、債権の消滅（第6節）を扱う。「契約法Ⅱ」と題する所以であり、契約法ⅠやⅢと密接に関連する。

なお、本授業は、「裁判と法コース」など全てのコースに属する。

【到達目標】

民法の基本的な概念や制度について理解し、また、運用上問題となる論点について判例や学説を参考にして解釈する能力を身に付ける。そして、最終的には、基本的な事例問題について民法を適用して解決できるようにすること、つまり、民法を「使える」ようになることが目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

基本的にはテキストに従って講義をするが、適宜、債権総論以外の分野にも必要に応じて言及する。なるべく民法を全体として理解してもらおうである。

また、随時復習を行うし、場合によっては「眠気防止」の為に受講生を指名して発言を求めることがあるかもしれない。なお、授業の中で課題を課した場合には、返却等適宜フィードバックを授業でする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	契約概論	債権総論からは外れるが、契約の成立や効力など契約制度の概観をする。
第 2 回	債権の目的①	特定物債権と種類債権
第 3 回	債権の目的②	金銭債権等
第 4 回	契約違反総論：履行の強制	契約違反に対する対抗手段 履行の強制
第 5 回	債務不履行責任①	損害賠償責任の成立要件
第 6 回	債務不履行責任②	損害賠償責任の免責事由
第 7 回	債務不履行責任③	損害賠償の範囲
第 8 回	債務不履行責任④	損害賠償による代位等
第 9 回	債権の消滅①	弁済①
第 10 回	債権の消滅②	弁済②
第 11 回	債権の消滅③	相殺
第 12 回	債権の消滅④	その他の債権消滅原因
第 13 回	債権の消滅⑤	受領遅滞等
第 14 回	総復習	これまでの講義を適宜補充した上で、全体的な総復習を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前にテキストの該当部分を読み、事後的には、知識の定着を図る為の復習を行う。語学と同様に、反復練習が必須です。準備・復習に各2時間を想定している。

【テキスト（教科書）】

栗田他『有斐閣ストゥディア民法4債権総論』（2018年）

【参考書】

民法判例百選Ⅱ（第8版）（有斐閣、2018年）第9版が出るかもしれない。

【成績評価の方法と基準】

定期試験の成績による（100%）。

【学生の意見等からの気づき】

イメージを具体的ににする為に、時系列や関係図を板書する。

【Outline (in English)】

【Course outline】

In this class, students will learn articles of Japanese Civil Law Part3 Chapter1, which relate Contract Law, namely §§399-411, §§412-422-2, §§473-520.

【Learning Objectives】

Students are expected to understand the meaning of the articles and to be able to apply the articles.

【Learning activities outside of classroom】

Your study time will be about four hours for each class.

【Grading Criteria/Politics】

Term-end examination 100 %

LAW200AB

債権回収法 I

滝沢 昌彦

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

単位数：2 単位

備考（履修条件等）：クラス指定科目 ※法律 2 年 H-N・3 年以上全

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、いわゆる債権総論（第3編第1章）のうち、債権の回収に関わる部分、すなわち、債権者代位権（第2節第2款）、詐害行為取消権（第2節第3款）、多数当事者の債権・債務（第3節）、債権譲渡（第4節）、および、債務引受け（第5節）を扱う。なお、この科目は全てのコースに属している。

【到達目標】

民法の基本的な概念や制度について理解し、また、運用上問題となる論点について判例や学説を参考にして解釈する能力を身に付ける。そして、最終的には、基本的な事例問題について民法を適用して解決できるようにすること、つまり、民法を「使える」ようになることが目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

基本的にはテキストに従って講義をするが、適宜、債権総論以外の分野にも必要に応じて言及する。なるべく民法を全体として理解してもらおうである。

また、随時復習を行うし、場合によっては「眠気防止」の為に受講生を指名して発言を求めることがあるかもしれない。なお、授業の中で課題を課した場合には、返却等適宜フィードバックをする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	債権の効力	給付の受領・保持 第三者に対する妨害排除の可否
第 2 回	債権者代位権①	債権者代位権の成立要件
第 3 回	債権者代位権②	債権者代位権の行使 転用例
第 4 回	詐害行為取消権①	詐害行為取消権の成立要件
第 5 回	詐害行為取消権②	詐害行為取消権の行使
第 6 回	詐害行為取消権③	詐害行為取消権の効果
第 7 回	債権譲渡①	債権譲渡の成立要件
第 8 回	債権譲渡②	債権譲渡の効果
第 9 回	債務引受・契約上の地位の移転	併存的債務引受け 免責的債務引受け 契約上の地位の移転
第 10 回	多数当事者の債権・債務①	分割債権・債務 連帯債権
第 11 回	多数当事者の債権・債務②	連帯債務 不可分債権・債務
第 12 回	保証①	保証債務
第 13 回	保証②	連帯保証 共同保証等
第 14 回	総復習	ここまでの講義を適宜補充し、全体的な総復習をする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前にテキストの該当部分を読み、事後的には、復習により知識の定着を図る。語学と同様に、反復練習が必須です。準備・復習時間は各2時間を想定しています。

【テキスト（教科書）】

栗田他『有斐閣ストゥディア民法4 債権総論』（2018年）

【参考書】

民法判例百選Ⅱ（第8版）（有斐閣、2018年）第9版が出るかもしれない。

【成績評価の方法と基準】

定期試験の成績による（100％）。

【学生の意見等からの気づき】

イメージを具体的に示す為、時系列や関係図を板書する。

【Outline (in English)】

[Course outline]

Students will learn Subrogation Right or other Rights for Creditors (§§423-426), Claims and Obligation of multiple Parties (§§427-465-10), and Assignments of Claims (§§466-472-4) in Japanese Civil Law Part3 Chapter1.

[Learning Objectives]

Students are expected to understand the meaning of the articles and to be able to apply the articles.

[Learning activities outside of classroom]

Your study time will be about four hours for each class.

[Grading Criteria/Politics]

Term-end examination 100 %

LAW100AB

不法行為法

川村 洋子

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

単位数：2 単位

備考（履修条件等）：クラス指定科目 ※法律 2 年 A-G・3 年以上全

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

債権は、その発生原因を基準にすると、契約的債権と、不法行為に代表される法定債権（事務管理、不当利得を含む）の二つに大別されるが、本授業では、後者の法定債権を扱う。交通事故や医療過誤など私人間の多様な加害事例における被害者救済制度として機能する不法行為法を、その現代的役割に照らして、学習する。私人間の財産関係を規律する財産法分野における重要領域であり、法学の基本科目の一つとして、民法による問題解決の仕方の基礎を固める意義をもつ。この科目は全てのコースに属している。

【到達目標】

基本型不法行為の類型並びに要件・効果、及び、複合型不法行為の種類・適用領域並びに要件・効果を述べることができる。

その他の法定債権（不当利得・事務管理）の基本的内容を説明することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

この授業はオンデマンド方式によるオンライン授業を原則とする（一部、リアルタイム配信を利用する場合もあり得る）。事前に学習支援システムに各回の資料（レジュメ、スライド等）を配信するので、受講生はテキストの該当箇所を読み、レジュメとスライドを参照しつつ内容の理解に努めていただきたい。

学習支援システムの掲示板で質問も受けつける。

授業後に各回の内容に応じた小テストを学習支援システム上で実施し、提出後に解説を提供する。受講生は、自分の理解度を確認するツールとして活用することができる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	概要の説明 参考文献の指示
第 2 回	基本型不法行為の要件論①	直接加害型不法行為の不法性——主観的要件と権利侵害
第 3 回	基本型不法行為の要件論②	間接加害型不法行為の不法性——客観的過失
第 4 回	基本型不法行為の要件論③	間接加害型不法行為における過失認定①——医療過誤
第 5 回	基本型不法行為の要件論④	間接加害型不法行為における過失認定②——交通事故と工作物責任
第 6 回	基本型不法行為の要件論⑤	間接加害型不法行為における過失認定③——名誉・プライバシー侵害等
第 7 回	基本型不法行為の要件論⑥	損害発生・因果関係
第 8 回	基本型不法行為の要件論⑦	責任能力 責任無能力者の監督義務者等の責任（714 条）
第 9 回	基本型不法行為の効果論①	賠償されるべき損害事実の範囲

第 10 回 基本型不法行為の効果 損害事実の金銭評価処理論②

第 11 回 基本型不法行為の効果 減額調整——過失相殺と損益相殺論③

第 12 回 基本型不法行為の効果 損害賠償請求権者の範囲・間接損害論④

第 13 回 複合型不法行為 使用者責任（715 条）と共同不法行為（719 条）

第 14 回 その他の法定債権 事務管理と不当利得

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

レジュメの指示による授業の予習と復習、小テスト。本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

潮見佳男『基本講義 債権各論Ⅱ 不法行為法』（第 4 版、2021 年、新世社）。通常の書籍版があるほか、電子書籍版を同社のサイトで入手することができる。

【参考書】

藤岡康宏他『民法Ⅳ－債権各論』（第 4 版）、潮見佳男『基本講義 債権各論Ⅰ』（不当利得・事務管理の箇所）（第 4 版）、平野裕之『コア・テキスト民法Ⅵ』（第 2 版）、大村敦志『新基本民法 6 不法行為編』（第 2 版）、平井宜雄『債権各論Ⅱ 不法行為』、『民法判例百選Ⅱ』（第 8 版）など。詳細は開講時に指示する。

【成績評価の方法と基準】

授業後の小テスト（上限 50%）と期末試験（50%）（期末試験の配分に関しては、小テストの実施状況により増える可能性がある）。

【学生の意見等からの気づき】

授業中のスライド・ホワイトボードの利用を増やすなど、オンライン上の授業の実施方法をさらに工夫したい。

【学生が準備すべき機器他】

レジュメ・資料等の配信、小テストの実施等について授業支援システムを利用するので、対応できるように準備しておいてください。

【Outline (in English)】

【Course outline】

This course introduces students to the organizing principles of tort law, such as civil liability, negligence, duty of care, causation, damages and vicarious liability. The general principles of tort law is provided in Chapter 5, Part.3 of the Japanese Civil Code, and tort law is a branch of law whose rules and methods are mainly developed through court decisions, thereby we will concentrate on case law analysis as well as legislative provisions. The course will also address the basic principles of unjust enrichment and negotiorum gestio under Chapter 3 and 4 of the Civil Code.

This course falls under all Course Models.

【Learning Objectives】

Upon completion of this course, students should have a clearer sense of how the law operates and how lawyers (courts) help to shape it in civil law practice, enhance reasoning skills in relation to complex legal problems and develop the ability to identify major tort issues which may arise in a particular factual situation.

【Learning activities outside of classroom】

Students are expected to read course materials that will be posted on the course website. Your required study time is at least 4 hours for each class.

【Grading Criteria /Policy】

After class short test (max. 50%) and final examination (min. 50%)

LAW200AB

契約法Ⅲ

川村 洋子

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

単位数：2 単位

備考（履修条件等）：クラス指定科目 ※法律 2 年 A-G・3 年以上全

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

有償契約の典型である売買契約を対象として、交換型契約の基礎理論を学習する。無償の財産の提供である贈与契約とも対比し、両者の特徴を正確に理解することを目的とする。

法律学の基本的科目である民法のうち、私人間の取引を規律する財産法分野の最重要領域である売買契約の学習を通じて、民法による問題解決の仕方を身につける意義をもつ。この科目は全てのコースに属する。

【到達目標】

契約の概念、双務契約上の権利義務の発生・関係・消滅、売買契約に関する基本的ルール、及び贈与契約の特殊的效果等について、述べることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

授業は原則として対面による講義方式で行う。状況により、数回程度、オンライン授業を実施する場合もありうる（オンデマンド又はリアルタイム配信）。

事前に学習支援システムに各回の資料（レジュメ、スライド等）を配信するので、受講生はテキストの該当箇所を読み、レジュメとスライドを参照しつつ内容の理解に努めていただきたい。

授業後、及び学習支援システムの掲示板上で、質問を受けつける。授業後に各回の内容に応じた小テストを学習支援システム上で実施し、提出後に解説を提供する。受講生は、自分の理解度を確認するツールとして活用することができる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	概要の説明 参考文献の指示
第 2 回	有償諾成契約法総論①	物権と債権の概念 民法の体系における契約法の位置づけ
第 3 回	有償諾成契約法総論②	契約の成立——申込と承諾
第 4 回	有償諾成契約法総論③	契約の効力——同時履行の抗弁 権・危険負担
第 5 回	有償諾成契約法総論④	契約の終了段階——解除と危険負担
第 6 回	売買の成立	売買契約の成立要件と契約の拘束力
第 7 回	売買の効力①	売買契約の当事者の義務——総説
第 8 回	売買の効力②	売主の責任①——権利の瑕疵（不適合）
第 9 回	売買の効力③	売主の責任②——物の瑕疵（不適合）
第 10 回	売買の効力④	契約上の危険の移転・期間制限等
第 11 回	売買の終了	売買契約の解除の効果
第 12 回	贈与	贈与契約の成立と効力
第 13 回	契約交渉	契約交渉段階の法律関係
第 14 回	契約関係の清算	不当利得（給付利得）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

レジュメで指示される予習と復習、小テスト。

契約法Ⅲが対象とする債権編については 2020 年 4 月から改正法が施行されている。六法は改正法に対応したものを使用すること。

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

潮見佳男『基本講義 債権各論 I 契約法・事務管理・不当利得』（第 4 版、2022 年、新世社）。通常の書籍版もあるが、電子書籍版を同社のサイトで入手することができる。

【参考書】

藤岡・磯村他『民法Ⅳ－債権各論』（第 4 版）、中田裕康『契約法〔新版〕』、大村敦志『新基本民法 5 契約編』（第 2 版）、その他債権法改正（2017 年成立）に対応しているもの。開講時に指示する。

【成績評価の方法と基準】

授業後の小テスト（上限 50%）と期末試験（50%）（期末試験の配分に関しては、小テストの実施状況により増える可能性がある）。

【学生の意見等からの気づき】

授業中のスライドや板書の利用を増やすなど、授業の実施方法をさらに工夫したい。

【学生が準備すべき機器他】

レジュメ・資料の配布等に授業支援システムを利用するので、準備しておいてください。

【Outline (in English)】

[Course outline]

Contract law is the study of legally enforceable promises between individuals and this course introduces students to the basic concepts of contract law so as to enable them to deal effectively with the disputes related to contracts. The principles of contract law are mostly provided in Chapter 2, Part.3 of the Japanese Civil Code, of which this course addresses Section 1 General Provisions, applicable to all types of contracts, Section 2 Gifts and Section 3 Sales, of specific contracts. Among the Topics covered are: formation (offer and acceptance), effect and termination of a contract, rights and obligations of the parties to a contract of sale, seller's warranty in particular and enforceability of gift promises.

This course falls under all Course Models.

[Learning Objectives]

Upon completion of this course, students should have a clearer sense of how the law operates and how lawyers (courts) help to shape it in civil law practice, enhance reasoning skills in relation to complex legal problems and develop the ability to identify major contract issues which may arise in a particular factual situation.

[Learning activities outside of classroom]

Students are expected to read course materials that will be posted on the course website. Your required study time is at least 4 hours for each class.

[Grading Criteria /Policy]

After class short test (max. 50%) and final examination (min. 50%)

LAW300AB

契約法Ⅳ

大澤 彩

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

単位数：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

契約各則のうち、貸借型（消費貸借・質貸借・使用貸借）、役務提供型（請負・委任・雇用・寄託）、その他（組合など）について学習する。「裁判と法コース」など全てのコースに属する。

私達の日常生活においては売買以外の契約も多く見られる。例えば家を借りる、お金を借りる、家を建ててもらう、医者診療を受ける、といった有償の取引はもちろん、友達に本を借りる、ホテルのフロントに荷物を預けるといった無償での約束も、実は民法の売買契約以外の契約類型に該当する。このような現代取引において重要な契約類型を学ぶことで、現代取引におけるルールのほか、現代取引のあり方について学ぶ。

【到達目標】

質貸借、使用貸借、消費貸借、請負、委任、雇用、寄託、組合等についてその権利義務の発生・その内容・終了に関わるルールの意義と内容を理解することができる。

具体的には各契約における当事者間の権利義務の発生、権利義務の内容、契約の終了を中心に、規定の内容やそれに関する学説や判例を理解する。単に規定の内容を学ぶだけではなく、各契約類型の特徴およびその現代取引における役割を意識しながら、なぜそのような規定となっているのか、現行規定にはどのような問題があるのか、といった観点から学ぶ。

また、契約類型によっては民法以外の特別法において詳細なルールが設けられていることも多い。本講義ではこれらのうち、実際の取引において重要な役割を果たしているものについても学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

①授業日 2 日前までにレジュメを学習支援システムにアップする。必要に応じて、事前課題ファイルをアップする。これらを使って予習すること、②授業日はレジュメをもとに解説を行う。解説終了後、質疑応答タイムを設ける。③質問は随時、学習支援システム内の掲示板（毎回の講義毎にトピックを設定する）で受け付ける。授業前後にも受け付ける。④事前課題に関する意見を学習支援システム内の掲示板に書き込んでもらい、授業内でその書き込みをふまえた補足解説を行うこともある。学生からの質問や意見については、授業内にフィードバックする。

受講生の数が多くない場合には双方向授業を行う可能性もある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	概要 参考文献の指示
第 2 回	貸借型①	消費貸借①民法の消費貸借
第 3 回	貸借型②	消費貸借②クレジット契約、消費者信用
第 4 回	貸借型③	使用貸借
第 5 回	貸借型④	質貸借①質貸借とは、質貸借契約の成立
第 6 回	貸借型⑤	質貸借②質貸人・質借人の義務
第 7 回	貸借型⑥	質貸借③譲渡・転貸、第三者との関係

第 8 回	貸借型⑦	質貸借④質貸借の終了、定期借家権
第 9 回	役務型①	委任①
第 10 回	役務型②	委任②サービス契約の規定の在り方
第 11 回	役務型③	請負①請負とは、請負の成立
第 12 回	役務型④	請負②請負の効力、終了
第 13 回	役務型⑤	雇用、寄託
第 14 回	その他	組合契約について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業 2 日前までにアップするレジュメを使って予習すること。同時にテキストの指定箇所（毎回の講義の最後に次回の該当箇所を指定する）を読むとともに理解が深まる。また、民法判例集の指定箇所等、学習支援システムで指示された文献はきちんと読んでおくこと。学生が予習をしてきていることを前提に授業日に解説を行う。

講義内容によっては、学習支援システムに「事前課題」をアップすることがあるので、この課題を解くつもりでテキストの指定箇所や民法判例集の指定箇所を読むと理解が深まる。「事前課題」に対する解答や意見を学習支援システムの掲示板に書き込むのも歓迎する。本授業の予習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

山本敬三監修・大澤彩＝三枝健治＝田中洋『有斐閣ストゥディア民法 5 契約』（有斐閣、2022 年）。

判例教材として、瀬川信久＝内田貴『民法判例集債権各論第 4 版』（有斐閣、2020 年）。

【参考書】

契約各論に関しては、以下の 4 つの書籍を特に薦める。経済的事情が許せば購入して学習して欲しい。

契約各論の全体像および現代における契約規定の在り方を考える上で有益な書籍として、大村敦志『新基本民法 5 契約編 各種契約の法（第 2 版）』（有斐閣、2020 年）

山本豊＝笠井修＝北居功『民法 5 契約（有斐閣アルマ）』（有斐閣、2018 年）。

中田裕康『（新版）契約法』（有斐閣、2021 年）

曾野裕夫ほか『民法Ⅳ契約』（有斐閣、2021 年）

【成績評価の方法と基準】

「学習支援システム」の「テスト」機能を使った中間テストを学期中に行う（詳しい日時や試験範囲については事前に学習支援システムで告知するので、学習支援システムはこまめにチェックすること）。この小テストによる評価を 30 % とする。

また、学期末に定期試験（対面での試験が可能である場合）またはオンライン試験（オンライン）を行う。この学期末試験による評価を 70 % とする。

つまり、小テスト 30 % + 学期末試験 70 % = 100 % で評価する。以上は予定であり、詳しくは開講時に学習支援システムで指示する。

【学生の意見等からの気づき】

授業での解説は聞き取りやすい速度で、レジュメを工夫しながら行う。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムへのアクセスが容易になるよう、パソコンやタブレットを準備して欲しい。

【Outline (in English)】

In this lesson, we learn the rule of each contract in a Civil Code, for example, the lease contract, the service contract. The goals of this course are to comprehend this rule.

Before / after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.

Final grade will be calculated according to the following process: Mini-examination(30%) and term-end examination(70%).

LAW200AB

不法行為法

川村 洋子

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

単位数：2 単位

備考（履修条件等）：クラス指定科目 ※法律 2 年 H-N・3 年以上全

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

債権は、その発生原因を基準にすると、契約的債権と、不法行為に代表される法定債権（事務管理、不当利得を含む）の二つに大別されるが、本授業では、後者の法定債権を扱う。交通事故や医療過誤など私人間の多様な加害事例における被害者救済制度として機能する不法行為法を、その現代的役割に照らして、学習する。私人間の財産関係を規律する財産法分野における重要領域であり、法学の基本科目の一つとして、民法による問題解決の仕方の基礎を固める意義をもつ。この科目は全てのコースに属している。

【到達目標】

基本型不法行為の類型並びに要件・効果、及び、複合型不法行為の種類・適用領域並びに要件・効果を述べることができる。

その他の法定債権（不当利得・事務管理）の基本的内容を説明することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

この授業はオンデマンド方式によるオンライン授業を原則とする（一部、リアルタイム配信を利用する場合もあり得る）。事前に学習支援システムに各回の資料（レジュメ、スライド等）を配信するので、受講生はテキストの該当箇所を読み、レジュメとスライドを参照しつつ内容の理解に努めていただきたい。

学習支援システムの掲示板で質問も受けつける。

授業後に各回の内容に応じた小テストを学習支援システム上で実施し、提出後に解説を提供する。受講生は、自分の理解度を確認するツールとして活用することができる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	概要の説明 参考文献の指示
第 2 回	基本型不法行為の要件論①	直接加害型不法行為の不法性——主観的要件と権利侵害
第 3 回	基本型不法行為の要件論②	間接加害型不法行為の不法性——客観的過失
第 4 回	基本型不法行為の要件論③	間接加害型不法行為における過失認定①——医療過誤
第 5 回	基本型不法行為の要件論④	間接加害型不法行為における過失認定②——交通事故と工作物責任
第 6 回	基本型不法行為の要件論⑤	間接加害型不法行為における過失認定③——名誉・プライバシー侵害等
第 7 回	基本型不法行為の要件論⑥	損害発生・因果関係
第 8 回	基本型不法行為の要件論⑦	責任能力 責任無能力者の監督義務者等の責任（714 条）
第 9 回	基本型不法行為の効果論①	賠償されるべき損害事実の範囲

第 10 回 基本型不法行為の効果 損害事実の金銭評価処理論②

第 11 回 基本型不法行為の効果 減額調整——過失相殺と損益相殺論③

第 12 回 基本型不法行為の効果 損害賠償請求権者の範囲・間接損害論④

第 13 回 複合型不法行為 使用者責任（715 条）と共同不法行為（719 条）

第 14 回 その他の法定債権 事務管理と不当利得

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

レジュメの指示による授業の予習と復習、小テスト。本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

潮見佳男『基本講義 債権各論Ⅱ 不法行為法』（第 4 版、2021 年、新世社）。通常の書籍版があるほか、電子書籍版を同社のサイトで入手することができる。

【参考書】

藤岡康宏他『民法Ⅳ－債権各論』（第 4 版）、潮見佳男『基本講義 債権各論Ⅰ』（不当利得・事務管理の箇所）（第 4 版）、平野裕之『コア・テキスト民法Ⅵ』（第 2 版）、大村敦志『新基本民法 6 不法行為編』（第 2 版）、平井宜雄『債権各論Ⅱ 不法行為』、『民法判例百選Ⅱ』（第 8 版）など。詳細は開講時に指示する。

【成績評価の方法と基準】

授業後の小テスト（上限 50%）と期末試験（50%）（期末試験の配分に関しては、小テストの実施状況により増える可能性がある）。

【学生の意見等からの気づき】

授業中のスライド・ホワイトボードの利用を増やすなど、オンライン上の授業の実施方法をさらに工夫したい。

【学生が準備すべき機器他】

レジュメ・資料等の配信、小テストの実施等について授業支援システムを利用するので、対応できるように準備しておいてください。

【Outline (in English)】

【Course outline】

This course introduces students to the organizing principles of tort law, such as civil liability, negligence, duty of care, causation, damages and vicarious liability. The general principles of tort law is provided in Chapter 5, Part.3 of the Japanese Civil Code, and tort law is a branch of law whose rules and methods are mainly developed through court decisions, thereby we will concentrate on case law analysis as well as legislative provisions. The course will also address the basic principles of unjust enrichment and negotiorum gestio under Chapter 3 and 4 of the Civil Code.

This course falls under all Course Models.

【Learning Objectives】

Upon completion of this course, students should have a clearer sense of how the law operates and how lawyers (courts) help to shape it in civil law practice, enhance reasoning skills in relation to complex legal problems and develop the ability to identify major tort issues which may arise in a particular factual situation.

【Learning activities outside of classroom】

Students are expected to read course materials that will be posted on the course website. Your required study time is at least 4 hours for each class.

【Grading Criteria /Policy】

After class short test (max. 50%) and final examination (min. 50%)

LAW200AB

契約法Ⅲ

川村 洋子

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

単位数：2 単位

備考（履修条件等）：クラス指定科目 ※法律 2 年 H-N・3 年以上全

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

有償契約の典型である売買契約を対象として、交換型契約の基礎理論を学習する。無償の財産の提供である贈与契約とも対比し、両者の特徴を正確に理解することを目的とする。

法学の基本的科目である民法のうち、私人間の取引を規律する財産法分野の最重要領域である売買契約の学習を通じて、民法による問題解決の仕方を身につける意義をもつ。この科目は全てのコースに属する。

【到達目標】

契約の概念、双務契約上の権利義務の発生・関係・消滅、売買契約に関する基本的ルール、及び贈与契約の特殊的效果等について、述べることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

授業は原則として対面による講義方式で行う。状況により、数回程度、オンライン授業を実施する場合もありうる（オンデマンド又はリアルタイム配信）。

事前に学習支援システムに各回の資料（レジュメ、スライド等）を配信するので、受講生はテキストの該当箇所を読み、レジュメとスライドを参照しつつ内容の理解に努めていただきたい。

授業後、及び学習支援システムの掲示板上で、質問を受けつける。授業後に各回の内容に応じた小テストを学習支援システム上で実施し、提出後に解説を提供する。受講生は、自分の理解度を確認するツールとして活用することができる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	概要の説明 参考文献の指示
第 2 回	有償諾成契約法総論①	物権と債権の概念 民法の体系における契約法の位置づけ
第 3 回	有償諾成契約法総論②	契約の成立——申込と承諾
第 4 回	有償諾成契約法総論③	契約の効力——同時履行の抗弁 権・危険負担
第 5 回	有償諾成契約法総論④	契約の終了段階——解除と危険負担
第 6 回	売買の成立	売買契約の成立要件と契約の拘束力
第 7 回	売買の効力①	売買契約の当事者の義務——総説
第 8 回	売買の効力②	売主の責任①——権利の瑕疵（不適合）
第 9 回	売買の効力③	売主の責任②——物の瑕疵（不適合）
第 10 回	売買の効力④	契約上の危険の移転・期間制限等
第 11 回	売買の終了	売買契約の解除の効果
第 12 回	贈与	贈与契約の成立と効力
第 13 回	契約交渉	契約交渉段階の法律関係
第 14 回	契約関係の清算	不当利得（給付利得）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

レジュメで指示される予習と復習、小テスト。

契約法Ⅲが対象とする債権編については 2020 年 4 月から改正法が施行されている。六法は改正法に対応したものを使用すること。

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

潮見佳男『基本講義 債権各論 I 契約法・事務管理・不当利得』（第 4 版、2022 年、新世社）。通常の書籍版もあるが、電子書籍版を同社のサイトで入手することができる。

【参考書】

藤岡・磯村他『民法Ⅳ－債権各論』（第 4 版）、中田裕康『契約法〔新版〕』、大村敦志『新基本民法 5 契約編』（第 2 版）、その他債権法改正（2017 年成立）に対応しているもの。開講時に指示する。

【成績評価の方法と基準】

授業後の小テスト（上限 50%）と期末試験（50%）（期末試験の配分に関しては、小テストの実施状況により増える可能性がある）。

【学生の意見等からの気づき】

授業中のスライドや板書の利用を増やすなど、授業の実施方法をさらに工夫したい。

【学生が準備すべき機器他】

レジュメ・資料の配布等に授業支援システムを利用するので、準備しておいてください。

【Outline (in English)】

[Course outline]

Contract law is the study of legally enforceable promises between individuals and this course introduces students to the basic concepts of contract law so as to enable them to deal effectively with the disputes related to contracts. The principles of contract law are mostly provided in Chapter 2, Part.3 of the Japanese Civil Code, of which this course addresses Section 1 General Provisions, applicable to all types of contracts, Section 2 Gifts and Section 3 Sales, of specific contracts. Among the Topics covered are: formation (offer and acceptance), effect and termination of a contract, rights and obligations of the parties to a contract of sale, seller's warranty in particular and enforceability of gift promises.

This course falls under all Course Models.

[Learning Objectives]

Upon completion of this course, students should have a clearer sense of how the law operates and how lawyers (courts) help to shape it in civil law practice, enhance reasoning skills in relation to complex legal problems and develop the ability to identify major contract issues which may arise in a particular factual situation.

[Learning activities outside of classroom]

Students are expected to read course materials that will be posted on the course website. Your required study time is at least 4 hours for each class.

[Grading Criteria /Policy]

After class short test (max. 50%) and final examination (min. 50%)

LAW300AB

消費者法 I

大澤 彩

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
 単位数：2 単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

私たちの消費生活では、契約トラブル、悪徳商法、食の安全など、日々様々な法律問題が生じている。このような法律問題を考える上で必要となってくるのが、消費者法と呼ばれる領域の法知識・考え方である。本講義は消費者法についての考え方、知識を身につけ、日常生活における法律問題を考える際に必要なリーガルマインドを有した「消費者」になることを目的とする。学習にあたっては、民法はもちろん、消費者契約法・製造物責任法などの特別法、さらには消費者行政に重要な役割を果たしている行政機関や行政規制の役割、民事訴訟を中心とした紛争解決制度の現状など、様々な分野にわたる知識・理解・関心が求められる。消費者法 I では、主に契約をめぐる法的問題につき、民法のみならず消費者契約法、特定商取引法、割賦販売法などの特別法の内容とともに学ぶ。それにより、消費者契約をめぐるトラブルに対処するための法解釈・適用の在り方を理解することができる。「裁判と法コース」「行政・公共政策と法コース」「企業・経営と法コース（商法中心コース）・（労働法中心コース）」「文化・社会と法コース」に属する。

【到達目標】

民法の契約総論、各論部分のみならず、消費者契約法、特定商取引法、割賦販売法などの特別法の知識を身につける。契約トラブルなどの日常的な消費者問題に対して民法・各種特別法がいかなる役割を果たしているのかについて、法律の規定のみならず判例・学説をもとに理解する。これによって、民法の特に総則・債権法部分の発展的な学習を行うこともできる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

①授業日 2 日前までにレジュメを学習支援システムにアップする。レジュメに「事前課題」をのせることもある。受講生はこの事前課題やレジュメ、教科書、さらには裁判例集を読んで予習しておくこと。②授業日は、受講者がすでに教科書を読んでいることを前提に、発展的な解説を行う。③質問は随時、学習支援システム内の掲示板（毎回の講義毎にトピックを設定する）で受け付ける。また、授業開始前・終了後にも受け付ける。④事前課題に関する意見を学習支援システム内の掲示板に書き込んでもらい、授業内でその書き込みをふまえた補足解説を行うこともある。受講生の数が多くない場合には、双方向授業を行う可能性もある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	消費者法とは何か	消費者・事業者概念、消費者基本法
第 2 回	消費者契約の締結過程の適正化①契約の成立	消費者契約の成立、契約締結上の過失
第 3 回	消費者契約の締結過程の適正化②民法の役割	民法の錯誤、詐欺
第 4 回	消費者契約の締結過程の適正化③消費者契約法	消費者契約法 4 条など
第 5 回	消費者契約の締結過程の適正化④交渉力の不均衡	民法の強迫、消費者契約法 4 条など

第 6 回	消費者契約の内容の適正化①中心的債務：公序良俗	公序良俗規定と消費者取引
第 7 回	消費者契約の内容の適正化②不当条項規制その 1	民法による不当条項規制、約款論
第 8 回	消費者契約の内容の適正化③不当条項規制その 2	消費者契約法 8 条～10 条
第 9 回	消費者契約の内容の適正化④履行段階	信義則の役割、契約の解釈
第 10 回	消費者契約と特定商取引法①	特定商取引法の概要
第 11 回	消費者契約と特定商取引法②	クーリングオフ、過量販売規制など
第 12 回	消費者取引とシステム責任論①割賦販売法	割賦販売法の概要、抗弁の接続
第 13 回	消費者取引とシステム責任論②名義貸し、不正利用、預金トラブル	名義貸し、預金トラブル
第 14 回	消費者取引と不法行為法	消費者取引における不法行為法の役割

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業 2 日前までにアップするレジュメや教科書を使って予習すること。また、教科書や消費者法判例集の指定箇所等、学習支援システムで指示された文献はきちんと読んでおくこと。学生が予習をできていることを前提に授業日に解説を行う。講義内容によっては、学習支援システムに「事前課題」をアップすることがあるので、この課題を解くつもりで教科書の指定箇所や消費者法判例集の指定箇所を読むと理解が深まる。「事前課題」に対する解答や意見を学習支援システムの掲示板に書き込むのも歓迎する。また、新聞やテレビ、インターネット等で日頃から私たちの日常生活におけるトラブルについてのニュースを見聞きしておくことも重要である。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

大澤彩『消費者法』（商事法務、2023 年）
 このほかに、オリジナル教材『消費者法裁判例集』を作成し、使用する予定。詳細は初回授業で指示するため、それまでは購入しないこと。

【参考書】

中田邦博＝鹿野菜穂子編『基本講義消費者法（第 5 版）』（日本評論社、2022 年）
 河上正二＝沖野眞巳編『消費者法判例百選（第 2 版）』（有斐閣、2020 年）
 松本恒雄＝後藤巻則編『消費者法判例インデックス』（商事法務、2017 年）
 大村敦志『消費者法（第 4 版）』（有斐閣、2011 年）

【成績評価の方法と基準】

学期末に定期試験（対面での試験が可能である場合）またはオンライン試験（オンライン）を行う。この学期末試験による評価を 100 % とする。以上は予定であり、詳しくは開講時に学習支援システムで指示する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムへのアクセスが容易になるよう、パソコンやタブレットを準備して欲しい。感染状況に応じて、対面からオンライン授業へ切り替えることや、隔週での対面・オンラインの組み合わせに切り替える可能性がある。そのためにも、学習支援システムの「お知らせ」をこまめにチェックすること。

【その他の重要事項】

・レジュメに頼らず、自分でノートをとる習慣を身につけること。大学の授業を受ける上で本来望まれる姿勢は教員の話聞き取って自分でノートをとるといふ姿勢である。
 ・感染状況に応じて、対面からオンライン授業へ切り替えることや、隔週での対面・オンラインの組み合わせに切り替える可能性がある。学習支援システムの「お知らせ」をこまめにチェックすること。

・契約法（Ⅰ～Ⅳ）・不法行為法の講義をすでに受講、ないしは同時に受講していることが望ましい。

・消費者問題に直接取り組む弁護士のみならず、消費者問題に対する対処が求められており、そのための部署も設けられている国・地方公共団体の職員を目指す学生、さらには、近年コンプライアンス意識が一層顕著になっているすべての企業で働くことになる学生にとっても重要な科目である。

秋学期に開講される「消費者法Ⅱ」も合わせて受講することが望ましい。

SDG s の観点からも受講することをお勧めする。

学生向けに消費者法を学ぶことの意味について書いた、拙稿「消費者法－私達＝「消費者」のよりよい消費生活のために」法学教室 487号（2021年）別冊付録掲載を読んで欲しい。

【Outline (in English)】

We learn the consumer law, especially, the consumer contract law. The goals of this course are to comprehend this law.

Before / after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.

Final grade will be calculated according to the term-end examination(100%).

LAW300AB

消費者法Ⅱ

大澤 彩

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
単位数：2 単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

消費者法Ⅰの理解をもとに、消費者取引における物・サービスの品質・安全に関する法制度を学ぶ。また、消費者取引のうち、特殊な法的問題をはらむ数種の取引類型をとりあげ、民法、特別法が果たす役割を学ぶ。さらに、行政組織、訴訟手続など消費者法を形成している制度についても理解を深める。

「裁判と法コース」「行政・公共政策と法コース」「企業・経営と法コース（商法中心コース）・（労働法中心コース）」「文化・社会と法コース」に属する。

【到達目標】

物・サービスの品質、安全についての民事ルール、業法ルールの知識を身につける。

消費者取引のうち、特に問題となることが多い取引類型につき、民法、特別法が果たしている役割を理解する。

消費者問題に関連する行政規制、訴訟法の知識を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

①授業日 2 日前までにレジュメを学習支援システムにアップする。レジュメに「事前課題」をのせることもある。受講生はこの事前課題やレジュメ、教科書、さらには裁判例集を読んで予習しておくこと。②授業日は、受講生がすでに教科書を読んでいることを前提に、発展的な解説を行う。③質問は随時、学習支援システム内の掲示板（毎回の講義毎にトピックを設定する）で受け付ける。また、授業開始前・終了後にも受け付ける。④事前課題に関する意見を学習支援システム内の掲示板に書き込んでもらい、授業内でその書き込みをふまえた補足解説を行うこともある。受講生の数が多くない場合には、双方向授業を行う可能性もある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	消費者取引の対象①物	民法の規定との関係の品質
第 2 回	消費者取引の対象②物	製造物責任①の安全性（1）
第 3 回	消費者取引の対象③物	製造物責任の安全性（2）
第 4 回	消費者取引の対象④品	食品衛生法など
	品質・安全性に関する行政規制	
第 5 回	消費者取引の対象⑤	民法の規定・特定商取引法
	サービス契約論	
第 6 回	消費者取引・各論①悪徳商法	悪徳商法の各類型についての説明
第 7 回	消費者取引・各論②金融商品	金融商品トラブルをめぐる民事判例および特別法
第 8 回	消費者取引・各論③建築取引	建築トラブルをめぐる民事判例
第 9 回	消費者取引・各論④電子商取引	電子商取引をめぐる民事判例および特別法
第 10 回	消費者保護制度論①行政機関の役割	消費者庁、国民生活センターの役割

第 11 回	消費者保護制度論②消費者紛争解決制度その	ADR 制度、消費者団体訴訟
	1	
第 12 回	消費者保護制度論③消費者紛争解決制度その	集団的消費者被害救済について
	2	
第 13 回	消費者取引と市場の公正	独禁法と消費者法の関係、景品表示法について
第 14 回	消費者・事業者の活動	消費者団体の役割、公益通報者保護法

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業 2 日前までにアップするレジュメや教科書を使って予習すること。また、教科書や消費者法判例集の指定箇所等、学習支援システムで指示された文献はきちんと読んでおくこと。学生が予習をしてきていることを前提に授業日に解説を行う。

講義内容によっては、学習支援システムに「事前課題」をアップすることがあるので、この課題を解くつもりで教科書の指定箇所や消費者法判例集の指定箇所を読むと理解が深まる。「事前課題」に対する解答や意見を学習支援システムの掲示板に書き込むのも歓迎する。また、新聞やテレビ、インターネット等で日頃から私たちの日常生活におけるトラブルについてのニュースを見聞きしておくことも重要である。

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

大澤彩『消費者法』（商事法務、2023 年）

このほかに、オリジナル教材『消費者法裁判例集』を作成し、使用する予定。詳細は初回授業で指示するため、それまでは購入しないこと。

【参考書】

中田邦博＝鹿野菜穂子編『基本講義消費者法（第 5 版）』（日本評論社、2022 年）

河上正二＝沖野真巳編『消費者法判例百選（第 2 版）』（有斐閣、2020 年）

松本恒雄＝後藤巻則編『消費者法判例インデックス』（商事法務、2017 年）

大村敦志『消費者法（第 4 版）』（有斐閣、2011 年）

【成績評価の方法と基準】

学期末に定期試験（対面での試験が可能である場合）またはオンライン試験（オンライン）を行う。この学期末試験による評価を 100 % とする。

以上は予定であり、詳しくは開講時に学習支援システムで指示する。

【学生の意見等からの気づき】

特に無し。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムへのアクセスが容易になるよう、パソコンやタブレットを準備して欲しい。

感染状況に応じて、対面からオンライン授業へ切り替えることや、隔週での対面・オンラインの組み合わせに切り替える可能性がある。そのためにも、学習支援システムの「お知らせ」をこまめにチェックすること。

【その他の重要事項】

・レジュメに頼らず、自分でノートをとる習慣を身につけること。大学の授業を受ける上で本来望まれる姿勢は教員の話聞き取って自分でノートをとるといふ姿勢である。

・消費者法Ⅰを受講済みであるのが望ましい。

・感染状況に応じて、対面からオンライン授業へ切り替えることや、隔週での対面・オンラインの組み合わせに切り替える可能性がある。そのためにも、学習支援システムの「お知らせ」をこまめにチェックすること。

・消費者問題に直接取り組む弁護士のみならず、消費者問題に対する対処が求められており、そのための部署も設けられている国・地方公共団体の職員を目指す学生、さらには、近年コンプライアンス意識が一層顕著になっているすべての企業で働くことになる学生にとっても重要な科目である。

SDG s の観点からも受講することをお勧めする。

学生向けに消費者法を学ぶことの意味について書いた、拙稿「消費者法－私達は「消費者」のよりよい消費生活のために」法学教室 487 号（2021 年）別冊付録掲載を読んで欲しい。

【Outline (in English)】

We learn consumer law, especially, the safety and the the quality of the goods and the service. The goals of this course are to comprehend this law.

Before / after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand tne course content.

Final grade will be calculated according to the term-end examination(100%).

LAW200AB

商法総則・商行為法 I

椽川 泰史

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
 単位数：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

商法と会社法によって規整されているものは、私法上の権利義務関係、すなわち本来は民法によって規整されるはずの生活関係です。そこで疑問となるのは「なぜ民法の他にわざわざ商法や会社法といった法律が制定されたのか？」ということですね。この疑問に対して、商法や会社法がその適用対象としている人（法人も含む）や組織のもつ特徴に視点をあてて疑問への答を探ろう、ということがこの講義のテーマとなります。

(1) まず、民法と比較しながら、商法という法分野（注：法分野としての商法は、「商法」という名称の法律も含まれますが、それよりもっと広い概念で、例えば「会社法」も法分野としての商法に含まれます）にはどのような特色があるのかについて学びます。その際に重要になる法概念が「商人」及び「商行為」です。この2つの概念については、法律上の厳密な定義がありますから、この定義をしつかり覚え身に付けることが、この講義の第1 関門になります。

(2) 次に、「企業」という概念について学びます。これは「商人」とは異なり、厳密な法的定義のない言葉ですが、商法を学ぶ際に鍵となる概念です。やや抽象的な議論になりがちなところですが、現実にある様々な形態・業態の企業をイメージしながら考えていきましょう。

(3) 次に企業の営みであり、また企業の組織そのものを指す言葉でもある「営業」「事業」についての商法・会社法上の規定と、その意義について学びます。ここら辺から本格的に判例についても言及していきます。予め読んでおいて欲しい判例は事前に示しますので、講義当日には指定された判例の全文を手元に置いて講義を聞くようにして下さい。

(4) 次に、「営業」「事業」と不可分の関係にある「商号」について学びます。併せて「営業所」「支店」「商業帳簿」など、企業の物的設備に関する規整も学びましょう。

(5) 企業の人的設備と言われる「使用人」についての規定も学びます。民法の「代理」についての定めの特則になる部分ですので、民法における代理に関する諸規定も併せて復習しながら考えていきます。

(6) 商業登記に関する規整を検討します。同じ登記でも不動産登記とは大きく異なる制度ですので、混乱しないようについてきて下さい。

(7) 最後に商取引の分野における民法とは異なる商法の規律について検討します。

なお、本講義は『裁判と法コース』および『企業・経営と法コース（商法中心）（労働法中心）』に属します。

【到達目標】

商法及び会社法の「総則」部分および商法の「商行為」に置かれている条文が、実際にどのような場面で、どのような規範として適用されることになるのかを理解することです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連。

【授業の進め方と方法】

講義形態で行います。

対面授業ですが、1 時限目の授業であることから、zoom での同時配信（録画をオンデマンドでも提供）するハイフレックスの方式で行います。（第1 回目のみ完全オンデマンドです。）

本シラバスだけでなく、各回の授業用のレジュメや参考資料を配付して理解の助けとなりますようにします。資料等は Hoppii の資料配付機能を利用して、極力事前配付します。授業外や課題に関連する質問については、授業（配信動画を含む）の中でフィードバックします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1 回	開講にあたって・商法とは何か	講義の進め方と全体像／民法と規整範囲が重なる商法・会社法が制定されなければならないのは何故なのかを考える。
第2 回	商人と商行為	「商人」及び「商行為」の法律上の定義について学ぶ。
第3 回	民法と商法の関係	商法1 条の「商事」とは何を指すかについて、商的色彩説と企業法説とを紹介しながら、民法と商法の異同とその関係を考える。〔テキスト第1 章〕
第4 回	客観的意義における営業・事業	譲渡の対象となる営業・事業とは何か。営業譲渡・事業譲渡の要件及び効果はどのようになっているかを検討する。〔テキスト pp.33-38〕
第5 回	営業譲渡・事業譲渡（1）	営業譲渡の意義・譲渡人の法定責任・譲受人の法定責任〔テキスト pp.43-48〕
第6 回	営業譲渡・事業譲渡（2）	営業譲受人の法定責任・詐害営業譲渡〔テキスト pp.43-49〕
第7 回	商号の保護と名板貸責任	商号の意義、商号権の侵害と商号権侵害に関する救済方法、他人に商号使用を許諾した場合（名板貸）に生じ得る責任について学ぶ。〔テキスト第3 章・第7 章〕
第8 回	支配人と表見支配人	支配人など商業使用人の資格と権限及び義務、表見支配人の行為に関する営業主の責任について学ぶ。〔テキスト pp.75-88、第8 章〕
第9 回	支配人以外の商業使用人	無権限で商人や会社を代理する権限があるかのように振る舞った者がいる場合について、いくつか判例を取り上げて、現行法における規範を検討する。〔テキスト pp.88-90〕
第10 回	商業登記	商業登記の意義・商業登記の公示力〔テキスト第5 章〕
第11 回	悪意擬制説・不実登記	表見支配人制度と商業登記の関係・不実登記の効力〔テキスト第8 章・第9 章〕
第12 回	商事代理	商事代理における非顕名主義・商事代理における本人の死亡〔テキスト pp.191-197〕
第13 回	補助商（1）	補助商の意義・代理商・仲立人〔テキスト pp.275-286〕
第14 回	補助商（2）	問屋（といや）〔テキスト pp.287-295〕

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・民法のなかでも、法律行為（特に代理）、債権譲渡、債務不履行責任については、ひととおりは学修してあることが望ましい。

・受講者はテキストの該当部分を事前に一読しているということをお前提として講義を進めます。

・予め指定された判例については、最低でも下記【参考書】欄に掲げた判例百選の該当判例の部分を読んでおいて下さい。できれば解説部分にも目を通していただければ更に講義内容についての理解が深まります。本授業の準備学習・復習時間は各2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

大塚英明ほか『商法総則・商行為法〔第3 版〕』（有斐閣アルマ・2019 年）

【参考書】

神作裕之ほか『商法判例百選』別冊ジュリスト 243 号（有斐閣・2019 年）

【成績評価の方法と基準】

期末試験（100 %）

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

・法律学科の専門科目ですから言うまでもないことですが、商法・会社法だけでなく他の法令も掲載されている六法を常に参照可能な状態で用意しておいて下さい。

・六法は (a) 最新の条文が反映され、(b) 講義中に口頭で指示される指定条文を素早く一覧できるものを使用して下さい。(a・bの2条件を満たしていれば紙に印刷されたものである必要はありませんが、教壇から見ていると、スマホで条文を引いている方の中には、指定の条文に辿り着くのにかなり時間がかかっている方が多いようです。課金を厭わず学修するために最適な六法を利用して下さい。)

・なお、定期試験では印刷された六法以外の参照は禁止されます。

【Outline (in English)】

【Course outline】

Participants in this course will learn about the following legal issues; the definition of a merchant, business transfer, trade name, commercial registration, commercial agency, and intermediary business.

【Learning Objectives】

At the end of the course, students are expected to grasp the basic concepts of commercial law compared to civil law.

【Learning activities outside of classroom】

Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours understanding the course content.

【Grading Criteria /Policy】

Your grade in the class will be decided based on the term-end examination (100 %).

LAW200AB

会社法

荒谷 裕子

授業形式：講義 | 開講セメスター：年間授業/Yearly

単位数：4 単位

備考（履修条件等）：クラス指定科目 ※法律 2 年 H-N・3 年全

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、実務的な法学教育を意識して、企業、特に株式会社が法律上どのように規整されているのか概観するとともに、実務では実際に企業はどのように運営されているのかということについて考察する。

卒業後すぐに役立つ会社実務の基礎的知識の習得、金融商品取引法と並んで企業を取り巻く法環境について多角的な考察力を身につけることを目標とする。

この科目は全てのコースに属している。

【到達目標】

- ① 株式会社は一体どのように設立され、どのように運営されているのか、また出資者である株主や会社債権者を保護するために法はどのような規制を設けているのか、その概要を理解する。
- ② ビジネスに必要な様々な用語やスキームを理解し、新聞の経済面を楽しむ読み解くことができるようにする。
- ③ 就職活動に役立つ専門知識を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に強く関連。

【授業の進め方と方法】

会社、特に株式会社は、現代の日本経済になくはならない存在であり、ほとんどの学生が、現在その組織の中に組み込まれている、あるいは卒業後組み込まれていくにもかかわらず、これを規律する法律である会社法は、刑法や民法などに比べてとっつきにくいという印象が強く、どうしても敬遠されがちである。そこで、本講義では、会社とはどういうものなのか、そして現代社会において如何なる機能を果たしているのかといった会社全般に関する総論的なことを説明した後、会社の中でも最もよく利用され、最も重要な機能を果たしている株式会社に焦点を絞って、株式会社は一体どのように設立され、どのように運営されているのか、また出資者である株主や会社債権者を保護するために法はどのような規制を設けているのかといった株式会社組織全般の法規制の内容を分かりやすく説明する。会社法は学生には馴染みがないので、実際に話題となっている企業買収事例や企業不祥事などの時事問題や判例を紹介しながら具体的に会社法が果たす役割や問題についてわかりやすく説明する予定である。

なお、大講義では、ともしれば教える側の一方通行になりがちであるが、本講義では、ただ単に法律上の手続きや規制の内容を覚えるだけでなく、学生が自分の頭で考えながら理解することを目標に、「何故そうした法規制が必要なのか」、「どうしてそういうことが問題となるのか」といった問題意識を絶えず念頭におき、学生との質疑応答を交えながら進めて行くつもりである。

授業外の質問に対しては、授業支援システムの掲示板もしくは次の回の授業で回答する形でフィードバックする。

【重要】 新型コロナウイルスの感染防状況によっては、双方向のオンライン型ライブ授業に切り替えることがあります。授業方法の変更等については、授業支援システムの「お知らせ」に掲示しますので、随時チェックするようにしてください。

なお、レジュメは、原則として、授業支援システムに掲載しますので、各自用意するようにしてください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	オリエンテーション
第 2 回	会社法総論	会社の経済的機能と会社法について概説する
第 3 回	会社の概念・種類	会社の定義、および会社法上認められている会社の種類・意義について概説する
第 4 回	会社の権利能力	会社の権利能力について、八幡製鉄献金事件などの判例を交えながら概説する。
第 5 回	株式会社—総説—	株式会社とはどういうものを言うのか、その特質について概説する。
第 6 回	株式会社の機関総論	株式会社の機関、機関設計について概説する。
第 7 回	株主総会 1	株主総会とはどういうものか、その概要について概説する。
第 8 回	株主総会 2	株主提案権・決議要件・株主総会決議の瑕疵について概説する。
第 9 回	経営機構	株式会社の経営機構の概要について概説する。
第 10 回	取締役・取締役会	取締役会の機能・権限、取締役の資格・報酬等について概説する。
第 11 回	取締役の権限・代表取締役	取締役の権限、代表訴訟の意義・権限について鍵説する。
第 12 回	指名委員会設置会社・監査監査役・監査役	各経営機構について、コーポレート・ガバナンスの視点から概説する。
第 13 回	役員・監査人等委員会設置会社	取締役等株式会社の役員の責任について、判例を交えながら概説する。
第 14 回	役員の対第三者責任	役員の対第三者責任について概説する。
第 15 回	株主代表訴訟	株主第三者割当・多重代表訴訟について概説する。
第 16 回	株式と株主	株式と株主について解説する。
第 17 回	株式の種類と内容	株主平等原則、種類株式の概要について解説する。
第 18 回	キャッシュ・アウト、全部取得条項付株式	全部取得条項付株式の概要と問題点、およびキャッシュ・アウト制度について概説する。
第 19 回	株式譲渡	株式譲渡に関する法規制の概要について概説する。
第 20 回	株式の併合・分割・無償割当	株式の併合・分割・無償割当について解説する。について概説する。
第 21 回	募集株式の発行と不正な株式発行等	募集株式の発行と不正な株式発行について、判例を交えながら概説する。
第 22 回	新株予約権	新株予約権に関する法規制について概説する。
第 23 回	社債	社債に関する法規制について概説する。
第 24 回	企業買収・企業再編	テーマに基づく講義
第 25 回	合併	合併に関する法規制について概説する。
第 26 回	会社分割	会社分割に関する法規制について概説する。
第 27 回	株式交換・株式移転	株式交換・株式移転に関する法規制について、具体的な事例を交えながら概説する。
第 28 回	事業譲渡・事業の譲受け	事業譲渡・事業の譲受けに関する法規制について概説する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習は特にしなくても良いので、その分、前回の講義の復習をきちんとすること。また、新聞の経済面を毎日読んで、企業に関する情報—例えば、株主総会が開催され、そこで取締役の解任が議論されたとか、株主が取締役に対する損害賠償を提起したとか、どこの会社とどこの会社が合併するといった記事—toに注目し、何が問題となっているのか自分なりに考えてみる（準備学習）。こうした知識が頭にあるだけで、会社法の講義は楽になります。本授業の準備学習・復習時間は各 4 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

- ・田中亘「会社法【第 3 版】」（2021 年）東京大学出版会
- ・必ず最新の六法を持参すること

【参考書】

- ・神作裕之・藤田友敬・加藤貴仁編「会社法判例百選【第 4 版】」有斐閣
- ・浜田道代・岩原紳作編「会社法の争点」有斐閣

【成績評価の方法と基準】

年度末の定期試験 (50%) と学期中の小テスト (50%) によって評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline (in English)】**【Course outline】**

The objective of this course is to understand the rules of the Companies Act, especially in relation to:

- (a) incorporation of a company,
- (b) corporate governance,
- (c) corporate financing,
- (d) M & A.

【Learning Objectives】

By the end of the course, students should be able to do the followings:

- ① understand the system of Japanese company law
- ② understand the economic aspects of newspapers
- ③ acquire knowledge useful for job hunting

【Learning activities outside of classroom】

Before /after each class meeting, students will be expected to read the relevant chapter from the text. Your required study time is at least 4 hours for each class meeting.

【Grading Criteria /Policy】

Final grade will be calculated according to the following process Mid-term examination(50%), and term-end examination (50%)

LAW200AB

会社法

伊藤 雄司

授業形式：講義 | 開講セメスター：年間授業/Yearly

単位数：4 単位

備考（履修条件等）：クラス指定科目 ※法律 2 年 A-G・3 年全

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は、会社に関わる法制度を取り扱うものである。講義においては、基本的な概念及び制度の仕組みを解説し、さらに重要な法的論点について、学説や判例を踏まえた検討を行う。

【到達目標】

株式会社においては、株主や会社債権者をはじめとする多くのステークホルダー（利害関係人）が存在しており、会社法はこれらのステークホルダーの利害調整を行う役割も果たしている。本講義では、会社法上の各種のルールが個々のステークホルダーの利益保護にとってどのような意義を有しているのかに着目しながら、会社法の基礎を学んでもらうことを目的としており、本講義を通じて、会社法の基本的な仕組みとその機能を理解することができることになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に強く関連。

【授業の進め方と方法】

授業は、基本的に講義形式で行う。受講者の理解を促すため、それぞれのテーマについて、関連する裁判例を取りあげて解説を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	会社法総論①	・会社法の歴史 ・会社法の基本構造
第 2 回	会社法総論②、会社法総則	・会社の意義 ・会社法総則
第 3 回	株式①	・株式の意義、内容
第 4 回	株式②	・種類株式
第 5 回	株式③	・株式の流通 ・株主の権利行使
第 6 回	機関総説	・機関の意義 ・機関設計
第 7 回	株主総会①	・株主総会の権限 ・株主総会の議事
第 8 回	株主総会②	・株主総会決議の瑕疵
第 9 回	役員を選解任	・役員の意義 ・役員を選解任
第 10 回	取締役・代表取締役、非取締役会設置会社	・取締役の地位、権限
第 11 回	取締役会	・取締役会の権限 ・取締役会決議の瑕疵
第 12 回	監査役・監査役会	・監査役・監査役会の権限
第 13 回	役員責任	・会社に対する責任 ・第三者に対する責任 ・代表訴訟
第 14 回	監査等委員会設置会社、指名委員会等設置会社	・監査等委員会設置会社、指名委員会等設置会社のシステム
第 15 回	春学期のまとめ	・第 1 4 回までの講義内容のまとめ
第 16 回	募集株式の発行等①	・新株発行規制の概要
第 17 回	募集株式の発行等②	・新株発行の瑕疵
第 18 回	新株予約権①	・新株予約権の意義 ・新株予約権の発行規制
第 19 回	新株予約権②	・新株予約権の機能 ・新株予約権発行の瑕疵
第 20 回	計算①	・計算書類の意義
第 21 回	計算②	・計算書類の確定

第 22 回	組織再編①	・組織再編概論
第 23 回	組織再編②	・組織再編の手続き
第 24 回	組織再編③	・利害関係者の保護
第 25 回	持分会社	・各種の持分会社
第 26 回	設立	・設立の意義、概要
第 27 回	社債	・社債の意義
第 28 回	秋学期まとめ	・まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義の前にテキスト及び関連条文に目を通しておくこと。予習・復習に 4 時間程度を充てることが望まれる。

【テキスト（教科書）】

笠原武朗ほか『NBS 会社法』（日本評論社、2021）
神作裕之ほか『会社法判例百選（第 4 版）』（有斐閣、2021）

【参考書】

神田秀樹『会社法』（弘文堂）

【成績評価の方法と基準】

期末試験の成績（100 %）によって行う。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【Outline (in English)】

This lecture deals with the legal system related to companies. The objective of this lecture is to enable students to understand the basic structure of corporate law and the basic principles for coordinating the interests of parties related to companies. Students are expected to attend this lecture and devote 4 hours to self-study. Grading will be based solely on the results of a final examination.

LAW300AB

民事訴訟法 I

杉本 和士

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

単位数：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

・この講義は、具体的な民事紛争を念頭に置きながら、民事紛争の解決という観点からみて民事訴訟がどのような性格を有しているのか、民事訴訟法における諸概念がどのような意義を有しているのか、また、具体的にどのような手続として運営されているのかについて理解することを目的とします。

・なお、この講義は、「裁判と法」、「行政・公共政策と法」、「企業・経営と法（商法中心）」、「同（労働法中心）」及び「法曹コース」の各コースに配置されます。

【到達目標】

・第 1 審までにおける民事訴訟手続（判決手続）の手続構造を理解し、かつ、個々の規律を条文に即して説明することができる。
・民事訴訟法における基本概念及び基本原則について、条文及び具体例に即して適切に説明することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

・この講義では、教員の配布する講義ノート及び配布教材に沿って進行します。受講者が講義に出席するだけでなく十全な予習復習を行って来ることを前提として講義を行います。

・各回の講義の初めに、前回の講義に関して学習支援システム上で提出されたリアクションペーパーの内容を採り上げて、全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス（講義の進め方等） 民事紛争解決制度としての民事訴訟 民事訴訟審理の基本構造と基本概念	ガイダンスを行った後、民事訴訟制度の全体像及びその基本構造について概観する。
第 2 回	訴えの提起（1）その 1	訴え・処分権主義・請求の趣旨及び原因・訴訟物・請求の客観的併合
第 3 回	訴えの提起（1）その 2	訴え・処分権主義・請求の趣旨及び原因・訴訟物・請求の客観的併合
第 4 回	訴えの提起（2）その 1	訴訟要件、訴えの利益
第 5 回	訴えの提起（2）その 2	訴訟要件、訴えの利益
第 6 回	訴えの提起（3）	当事者、当事者の確定
第 7 回	訴えの提起（4）	当事者能力、訴訟能力
第 8 回	訴えの提起（5）	訴訟上の代理、法人等の代表者
第 9 回	訴えの提起（6）	当事者適格、第三者の訴訟担当
第 10 回	訴えの提起（7）	裁判所・裁判官、管轄
第 11 回	訴えの提起（8）	訴え提起の効果（送達を含む）、二重起訴禁止
第 12 回	口頭弁論（1）	口頭弁論の意義及びその必要性、口頭弁論における諸原則
第 13 回	口頭弁論（2）	弁論主義①（総論、第 1 テーゼ）

第 14 回 口頭弁論（3） 弁論主義②（第 2 テーゼ、裁判上の自白）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・授業時間外の学習（予習・復習のほか、発展学習）に関する一般的な指示は、初回講義冒頭のガイダンスで行うほか、各回の講義内容に関する具体的な予習・復習の内容に関しては、「予習用課題・復習テスト」の教材を配布することで指示します。

・なお、本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

・講義は、教員の配布する講義ノート、参考資料及び予習復習用教材を用いて進めます。

・使用する教材等は、全て「法政大学学習支援システム」において PDF ファイルとして配布します。必ず受講前に各自で教材を準備して下さい。

【参考書】

<入門書>

○伊藤真『民事訴訟法への招待』（有斐閣、2022 年）

○また、本講義を受講するに当たり、下記のいずれか（できれば双方）を熟読しておくことを「強く」推奨します。いずれも民事訴訟手続に対する理解に大いに役立つ、小説仕立ての入門書です。

・福永有利＝井上治典著・中島弘雅＝安西明子補訂『アクチュアル民事の訴訟〔補訂版〕』（有斐閣、2016 年）

・山本和彦『よくわかる民事裁判〔第 4 版〕』（有斐閣、2023 年）

<通読に適した教科書>

・山本弘ほか『民事訴訟法〔第 3 版〕有斐閣アルマシリーズ』（有斐閣、2018 年）

・三木浩一ほか『民事訴訟法（リーガルクエスト）』（有斐閣、第 3 版、2018 年）

<本格的な体系書として>

・新堂幸司『新民事訴訟法』（弘文堂、第 6 版、2019 年）

・伊藤真『民事訴訟法』（有斐閣、第 7 版、2020 年）

<各テーマに関する詳細な検討について>

・高橋宏志『重点講義民事訴訟法（上）』（有斐閣、第 2 版補訂版、2013 年）

・高橋宏志『重点講義民事訴訟法（下）』（有斐閣、第 2 版補訂版、2014 年）

<判例集> 下記のいずれか 1 冊を持っておくことをお勧めします。

・上原敏夫ほか『基本判例民事訴訟法』（有斐閣、第 2 版補訂、2010 年）

・高橋宏志ほか編『民事訴訟法判例百選』（有斐閣、第 5 版、2015 年）

・中島弘雅＝岡伸浩編著『民事訴訟法判例インデックス』（商事法務、2015 年）

・山本和彦『最新重要判例 250 民事訴訟法』（弘文堂、2022 年）

【成績評価の方法と基準】

・成績評価は、リアクションペーパー又はレポート等による平常点（30%）及び期末試験（70%）によります。具体的な方法等は、「学習支援システム」において提示します。

なお、成績評価に際しては、上記の到達目標が指標となります。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline (in English)】

-This course introduces the principles of civil procedure to students taking this course.

-The goals of this course are to

(1) obtain basic knowledge about the principles and proceedings of civil procedure.

(2) be able to understand and explain how to apply the principles and proceedings to the cases.

-Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

-Your overall grade in the class will be decided based on the following ;

Term-end examination: 70% and Mid-term report : 30%

LAW300AB

民事訴訟法Ⅱ

杉本 和士

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

単位数：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

・この講義は、具体的な民事紛争を念頭に置きながら、民事紛争の解決という観点からみて民事訴訟がどのような性格を有しているのか、民事訴訟法における諸概念がどのような意義を有しているのか、また、具体的にどのような手続として運営されているのかについて理解することを目的とします。

・なお、この講義は、「裁判と法」、「行政・公共政策と法」、「企業・経営と法（商法中心）」、「同（労働法中心）」及び「法曹コース」の各コースに配置されます。

【到達目標】

・第 1 審までにおける民事訴訟手続（判決手続）の手続構造を理解し、かつ、個々の規律を条文に即して説明することができる。
 ・民事訴訟法における基本概念及び基本原則について、条文及び具体例に即して適切に説明することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

・この講義では、教員の配布する講義ノート及び配布教材に沿って進行します。受講者が講義に出席するだけでなく十全な予習復習を行って来ることを前提として講義を行います。

・各回の講義の初めに、前回の講義に関して学習支援システム上で提出されたリアクションペーパーの内容を採り上げて、全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス（講義の進め方等） 民事訴訟審理の基本構造と基本概念の復習（「民事訴訟法Ⅰ」の学修内容の確認）	ガイダンスを行った後、「民事訴訟法Ⅰ」における学修内容を踏まえて、改めて民事訴訟手続の基本構造について確認を行う。
第 2 回	口頭弁論（4）	口頭弁論における当事者の行為、訴えの変更・反訴、共同訴訟・独立訴訟参加・補助参加
第 3 回	口頭弁論（5）	裁判所による口頭弁論の指揮、釈明権・釈明義務
第 4 回	口頭弁論（6）	口頭弁論期日の実施とその準備、争点整理手続、送達
第 5 回	口頭弁論（7）	証拠調べ（証拠法）総論
第 6 回	口頭弁論（8）その 1	証拠調べ各論
第 7 回	口頭弁論（8）その 2	証拠調べ各論
第 8 回	口頭弁論（9）	自由心証主義、証明責任
第 9 回	終局判決による訴訟の終結（1）	判決の種類、判決の成立・確定、処分権主義
第 10 回	終局判決による訴訟の終結（2）その 1	確定判決の効力：既判力
第 11 回	終局判決による訴訟の終結（2）その 2	確定判決の効力：既判力
第 12 回	終局判決による訴訟の終結（2）その 3	確定判決の効力：既判力 訴訟承継との比較

- 第 13 回 裁判によらない訴訟の終結 訴訟上の和解、請求の認諾・放棄、訴えの取下げ
- 第 14 回 上訴、非常救済手続 控訴、上告、抗告、特別上訴、再審

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・授業時間外の学習（予習・復習のほか、発展学習）に関する一般的な指示は、初回講義冒頭のガイダンスで行うほか、各回の講義内容に関する具体的な予習・復習の内容に関しては、「予習用課題・復習テスト」の教材を配布することで指示します。

なお、本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

・講義は、教員の配布する講義ノート、参考資料及び予習復習用教材を用いて進めます。

・使用する教材等は、全て「法政大学学習支援システム」において PDF ファイルとして配布します。必ず受講前に各自で教材を準備して下さい。

【参考書】

<入門書>

○伊藤眞『民事訴訟法への招待』（有斐閣、2022 年）
 ○また、本講義を受講するに当たり、下記のいずれか（できれば双方）を熟読しておくことを「強く」推奨します。いずれも民事訴訟手続に対する理解に大いに役立つ、小説仕立ての入門書です。

・福永有利＝井上治典著・中島弘雅＝安西明子補訂『アクチュアル民事の訴訟〔補訂版〕』（有斐閣、2016 年）

・山本和彦『よくわかる民事裁判〔第 4 版〕』（有斐閣、2023 年）

<通読に適した教科書>

・山本弘ほか『民事訴訟法〔第 3 版〕有斐閣アルマシリーズ』（有斐閣、2018 年）

・三木浩一ほか『民事訴訟法（リーガルクエスト）』（有斐閣、第 3 版、2018 年）

<本格的な体系書として>

・新堂幸司『新民事訴訟法』（弘文堂、第 6 版、2019 年）

・伊藤眞『民事訴訟法』（有斐閣、第 7 版、2020 年）

<各テーマに関する詳細な検討について>

・高橋宏志『重点講義民事訴訟法（上）』（有斐閣、第 2 版補訂版、2013 年）

・高橋宏志『重点講義民事訴訟法（下）』（有斐閣、第 2 版補訂版、2014 年）

<判例集> 下記のいずれか 1 冊を持っておくことをお勧めします。

・上原敏夫ほか『基本判例民事訴訟法』（有斐閣、第 2 版補訂、2010 年）

・高橋宏志ほか編『民事訴訟法判例百選』（有斐閣、第 5 版、2015 年）

・中島弘雅＝岡伸浩編著『民事訴訟法判例インデックス』（商事法務、2015 年）

・山本和彦『最新重要判例 250 民事訴訟法』（弘文堂、2022 年）

【成績評価の方法と基準】

・成績評価は、リアクションペーパー又はレポート等による平常点（30%）及び期末試験（70%）によります。具体的な方法等は、「学習支援システム」において提示します。

・なお、成績評価に際しては、上記の到達目標が指標となります。

【学生の意見等からの気づき】

該当なし。

【Outline (in English)】

-This course introduces the principles of civil procedure to students taking this course.

-The goals of this course are to

(1) obtain basic knowledge about the principles and proceedings of civil procedure.

(2) be able to understand and explain how to apply the principles and proceedings to the cases.

-Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

-Your overall grade in the class will be decided based on the following ;

Term-end examination: 70% and Mid-term report : 30%

LAW300AB

破産法 I

倉部 真由美

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

単位数：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

倒産処理法の基本である破産法の基礎を理解する。「裁判と法」「企業・経営と法」「国際社会と法」の各コースに配置される。

【到達目標】

清算型倒産手続の一般法である破産法の意義、破産手続の流れと全般的な仕組みを理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

倒産とは、債務者が、その有する財産、信用力、収入・収益などを総合的に考慮して、債権者に対して債務の全般を支払えなくなる状況をいう。このような状況を処理するための法律を総称して、一般的に倒産処理法あるいは倒産法というが、その中には、破産法、会社法の特別清算の部分、民事再生法、会社更生法が含まれる。前二者を清算型と呼び、債務者の財産を換価することによって得られた換価金から債権者に平等に配当することを主たる目的としている。後二者を再生型と呼び、債務者を再生・再建することにより将来の収益から債権者に弁済することを主たる目的とする。

本講義では、これら倒産処理法の基本である破産法を扱うが、手続の側面と消費者破産を中心に説明する。破産手続における契約関係の処理といわゆる倒産実体法（取戻権、別除権、相殺権、否認権）については、破産法Ⅱで扱うため、破産法ⅠとⅡを連続して受講することを強く推奨する。

授業内外での質問は個別に対応するほか、必要に応じてクラス全体で共有する。課題へのフィードバックは、学習支援システムを通じて行うほか、必要に応じて授業中にコメントする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	倒産の世界へようこそ	ガイダンス
第 2 回	裁判所で行われる倒産手続	裁判所で行われる倒産手続の概要を紹介する。
第 3 回	私的整理／倒産 ADR	裁判所の外で行われる私的整理と倒産 ADR について扱う。
第 4 回	破産手続の基本的な流れ	チャート等を用いて、これから学ぶ破産手続の流れがどのように進むものなのかを解説する。
第 5 回	破産手続の開始 (1)	破産能力、破産手続開始申立て、開始決定を扱う。
第 6 回	破産手続の開始 (2)	各種保全処分を扱う。
第 7 回	破産管財人と破産財団	破産管財人、破産財団と取戻権を扱う。
第 8 回	破産債権、財団債権、債権の種類と優先順位	財団債権、破産債権その他の債権の種類と優先劣後関係を扱う。
第 9 回	破産債権の届出・調査・確定	破産債権の届出、調査、確定の方法とプロセスを扱う。
第 10 回	破産財団の管理・換価・	破産管財人が破産財団を管理・換価するための手法とプロセスを扱う。
第 11 回	配当	債権者に換価金を配当する方法とプロセスを扱う。
第 12 回	破産手続の終了	破産手続が終了する場面を扱う。

第 13 回 個人破産と免責 消費者についての破産手続開始申立て、同時廃止、自由財産、免責と復権等を扱う。

第 14 回 総括 第 13 回までの授業内容を振り返り、質問を受け付ける。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習と復習のいずれに重点を置くかは、各受講生の学習のスタイルに委ねるが、適宜、授業中に配布するレジュメを中心に、教科書・参考文献の該当箇所を読んで自習することが求められる。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

・倉部真由美＝高田賢治＝上江洲純子『ストゥディア倒産法』（有斐閣、2018 年）
・携行するサイズの六法を必ず持参すること。

【参考書】

・山本和彦『倒産処理法入門〔第 5 版〕』（有斐閣、2018 年）
・山本和彦ほか『倒産法概説〔第 2 版補訂版〕』（弘文堂、2015 年）
倒産判例について
・松下淳一＝菱田雄郷編『倒産判例百選〔第 6 版〕』（有斐閣、2021 年）

【成績評価の方法と基準】

期末試験 100 %

【学生の意見等からの気づき】

とくになし。

【Outline (in English)】

This course is designed to provide a comprehensive overview of the insolvency system and the law of bankruptcy in Japan. We will primarily focus on the procedure of Bankruptcy.

Students are expected to understand concepts of the law and the procedure of Bankruptcy.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend 4 hours to understand the course content.

Grading will be decided based on final examination 100%.

LAW300AB

破産法Ⅱ

倉部 真由美

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

単位数：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

倒産処理法の基本である破産法の基礎を理解する。
「裁判と法」「企業・経営と法」「国際社会と法」の各コースに属する。

【到達目標】

清算型倒産手続の一般法である破産法の意義、破産手続の流れと全般的な仕組みを理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示された
どの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針
に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

倒産とは、債務者が、その有する財産、信用力、収入・収益などを総合的に考慮して、債権者に対して債務の全般を支払えなくなる状況をいう。このような状況を処理するための法律を総称して、一般的に倒産処理法あるいは倒産法というが、その中には、破産法、会社法の特別清算の部分、民事再生法、会社更生法が含まれる。前二者を清算型と呼び、債務者の財産を換価することによって得られた換価金から債権者に平等に配当することを主たる目的としている。後二者を再生型と呼び、債務者を再生・再建することにより将来の収益から債権者に弁済することを主たる目的とする。

本講義では、これら倒産処理法の基本である破産法を扱うが、破産手続における法律関係・契約関係の処理といわゆる倒産実体法（取戻権、別除権、相殺権、否認権）を中心に説明する。手続に関する部分と消費者破産については、破産法Ⅰで扱うが、破産法ⅠとⅡは関連性が強く、破産法Ⅰで扱った内容に言及することが多い。破産法ⅠとⅡを連続して受講することを強く推奨する。破産法Ⅰを受講していない場合は、予めテキストを通読して自習しておくこと。

授業内外での質問は個別に対応するほか、必要に応じてクラス全体で共有する。課題へのフィードバックは、学習支援システムを通じて行うほか、必要に応じて授業中にコメントする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス／破産手続の概観	ガイダンス。破産手続を概観し、破産法Ⅰを簡単に復習する。
第 2 回	破産財団をめぐる契約関係 (1)	双方未履行双務契約を扱う。
第 3 回	破産財団をめぐる契約関係 (2)	賃貸借契約を扱う。
第 4 回	破産財団をめぐる契約関係 (3)	請負契約を扱う。
第 5 回	別除権 (1)	別除権の意義と行使方法、破産手続における取扱いを扱う。
第 6 回	別除権 (2)	担保権消滅請求許可制度を扱う。
第 7 回	相殺権 (1)	相殺権の破産手続における行使方法と相殺が禁止される場面を扱う。
第 8 回	相殺権 (2)	相殺権の破産手続における行使方法と相殺が禁止される場面を扱う。
第 9 回	否認権 (1)	否認権の意義と種類、行使方法を扱う。
第 10 回	否認権 (2)	否認権の意義と種類、行使方法の続きを扱う。
第 11 回	役員の実任追及	役員の実任追及について扱う。

第 12 回	最新判例の紹介	最新の判例を紹介する。
第 13 回	最新トピックの紹介	注目されているトピックを紹介する。
第 14 回	総括	第 13 回までの授業内容を振り返り、質問を受け付ける。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習と復習のいずれに重点を置くかは、各受講生の学習のスタイルに委ねるが、適宜、授業中に配布するレジュメを中心に、教科書・参考文献の該当箇所を読んで自習することが求められる。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

・倉部真由美＝高田賢治＝上江洲純子『ストゥディア倒産法』（有斐閣、2018 年）
・携行するサイズの六法を必ず持参すること。

【参考書】

・山本和彦『倒産処理法入門〔第 5 版〕』（有斐閣、2018 年）
・山本和彦ほか『倒産法概説〔第 2 版補訂版〕』（弘文堂、2015 年）
倒産判例について
・松下淳一＝菱田雄郷『倒産判例百選〔第 6 版〕』（有斐閣、2021 年）

【成績評価の方法と基準】

期末試験 100 %

【学生の意見等からの気づき】

とくになし。

【Outline (in English)】

This course is designed to provide a comprehensive overview of the insolvency system and the law of bankruptcy in Japan. We will primarily focus on treatment of contracts, the rights of secured creditors, set-off, and avoidance under the Bankruptcy law.

Students are expected to understand concepts of the law and the procedure of Bankruptcy.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend 4 hours to understand the course content.

Grading will be decided based on final examination 100%.

LAW300AB

民事再生法

倉部 真由美

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

単位数：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

再建型倒産手続の一般法について定める民事再生法の基礎を理解する。

「裁判と法」「企業・経営と法」「国際社会と法」の各コースに配置されている。

【到達目標】

再建型倒産手続の一般法である民事再生手続の意義、手続の流れ、一般的な仕組みを理解する。破産法と民事再生法の主たる相違点を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

倒産といえば、自己破産をイメージして、債務者の財産を換価し債権者への平等に配当する手続を思い出すかもしれないが、わが国にはこのようないわゆる清算型の手続だけではなく、再建型の手続も存在する。民事再生法は、再建型倒産手続について定める一般法であり、利害関係人の利害を調整しつつ、主として債務者を再生することにより、将来の収益から債権者に弁済することを主たる目的とする手続である。本講義では、民事再生法の意義、手続の流れ、一般的な仕組みを、適宜、破産法と比較しながら解説する。

なお、本講義では、破産法Ⅰ・Ⅱで扱った内容に言及することが多いため、破産法Ⅰ・Ⅱを予めまたは並行して受講することを強く推奨する。

授業内外での質問は個別に対応するほか、必要に応じてクラス全体で共有する。課題へのフィードバックは、学習支援システムを通じて行うほか、必要に応じて授業中にコメントする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス／再建型倒産手続の概観	ガイダンス。再建型倒産手続を中心に倒産処理制度を概観する。
第 2 回	手続の開始	再生手続開始申立て、申立権者、開始決定、各種保全処分を扱う。
第 3 回	手続の機関	再生裁判所、再生債務者、監督委員、管財人、債権者集会、債権者委員会を扱う。
第 4 回	債権の種類と優先順位	共益債権、再生債権など債権の種類と優先劣後関係を扱う。
第 5 回	債権の届出・調査・確定	再生債権の届出、調査、確定の方法とプロセスを扱う。
第 6 回	担保権の取扱い	別除権の意義と取扱い、不足額責任主義の適用される場面を扱う。
第 7 回	担保権に対する制約	担保権実行中止命令と担保権消滅許可制度を扱う。
第 8 回	否認権	否認権の行使に関する民事再生法上の特別な取扱いを扱う。
第 9 回	再生計画の立案・認可	再生計画を立案・提出できる者、再生計画の内容、再生計画認可要件を扱う。
第 10 回	手続の終了	再生手続の終了を扱う。
第 11 回	個人再生	小規模個人再生手続、給与所得者等再生手続及び住宅資金貸付債権に関する特則を扱う。

第 12 回 民事再生と会社更生 民事再生と会社更生を比較して紹介する。

第 13 回 最新判例の紹介 最新の判例を紹介する。

第 14 回 総括 第 13 回までの授業内容を振り返り、質問を受け付ける。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習と復習のいずれに重点を置くかは、各受講生の学習のスタイルに委ねるが、適宜、授業中に配布するレジュメを中心に、教科書・参考文献の該当箇所を読んで自習することが求められる。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

・倉部真由美＝高田賢治＝上江洲純子『ストゥディア倒産法』（有斐閣、2018 年）

・携行するサイズの六法を必ず持参すること。

【参考書】

・山本和彦『倒産処理法入門〔第 5 版〕』（有斐閣、2018 年）

・山本和彦ほか『倒産法概説〔第 2 版補訂版〕』（弘文堂、2015 年）

・松下淳一『民事再生法入門』（有斐閣、第 2 版、2014 年）

判例について

・松下淳一＝菱田雄郷『倒産判例百選<第 6 版>』（有斐閣、2021 年）

【成績評価の方法と基準】

期末試験 100 %

【学生の意見等からの気づき】

とくになし。

【Outline (in English)】

This course is designed to provide a comprehensive overview of the insolvency system and the law of Civil Rehabilitation Act in Japan.

Students are expected to understand concepts and the procedure under Civil Rehabilitation Act and recognize differences between Bankruptcy Act and Civil Rehabilitation Act

Before/after each class meeting, students will be expected to

spend 4 hours to understand the course content.

Grading will be decided based on final examination 100%.

LAW100AB

刑法総論 I

佐藤 輝幸、佐野 文彦

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

単位数：2 単位

備考（履修条件等）：クラス指定科目 ※法律 1 年 A-G・2 年以上全（オンライン授業希望者は A0080 を登録）

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

全てのコースに配置されている刑法総論は、法律学科の基本科目である刑法の内容のうち、全ての犯罪に共通する要素についてその内容と機能を明らかにし、犯罪の実質、成否についての統一的な理解を導こうとするものである。刑法総論の授業科目としては、刑法総論 I と刑法総論 II が設けられているが、各コースに共通の選択必修科目である刑法総論 I では、刑法総論の内容のうち、刑事法全般にわたる入門的講義である概説刑事法で学修した知識・考え方を基礎に、犯罪の成否を判断するために必要な基本的な内容を講義する。より踏み込んだ高度な議論は刑法総論 II で学習する。

【到達目標】

刑法総論に関するテーマについて、抽象的な条文の解釈を基本原理から理論的に導くという刑法総論特有の思考方法を習得するとともに、基本的な犯罪成立要件を理解することを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

学習支援システムにアップしたレジュメに沿って、対面の講義形式で行う。初回のガイダンスのみオンラインで実施する。

全授業をオンラインで受講するクラスは別途設定されているので（A0080）、オンラインでの受講を希望する学生は、そちらに登録すること。途中での受講形態の変更は認められない。ガイダンスの内容も踏まえて選択し、間違えないように登録すること。

毎回の授業計画は、下記を基本とするが、受講者の理解度に応じて調整することがある。

質問については、授業前後、オフィスアワーおよび学習支援システムによって対応する。また、中間レポートについては、期末試験までに講評をアップロードする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス・刑法総論とは（佐野）	授業の進め方、教材等の説明。刑法総論の意義
第 2 回	刑法の基本原則（佐野）	刑罰の意義、罪刑法定主義、責任主義など
第 3 回	構成要件（佐藤）	構成要件の意義と機能・因果関係
第 4 回	違法性 I（佐藤）	刑法における違法の意義
第 5 回	違法性 II（佐藤）	緊急避難
第 6 回	違法性 III（佐藤）	正当防衛
第 7 回	違法性 IV（佐藤）	その他の違法性阻却事由
第 8 回	責任 I（佐野）	刑法における責任の意義・故意前半
第 9 回	責任 II（佐野）	故意後半
第 10 回	責任 III（佐野）	過失、責任能力
第 11 回	責任 IV（佐野）	その他責任要素
第 12 回	不作為犯論（佐野）	不作為犯の意義と作為義務
第 13 回	未遂犯論（佐藤）	実行の着手、不能犯、中止犯
第 14 回	共犯（佐藤）	共犯の処罰根拠・教唆補助・共同正犯

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

概説刑事法の内容を一通り理解していることを前提に行う。自信がない場合は、夏期休暇等を利用して、2、3 時間程度でも復習しておくことより刑法総論の修得に有益であろう。

概説刑事法の内容の理解があれば、予習よりも復習に力を入れ、分かったことと分からないことを明確化し、分からないことについては、オフィスアワー等で質問すること。大学は、勉強習慣を身につける場ではなく、研究に必要な知識や考え方を習得する場であるので、「学習時間」で判断することは無意味であるが、一応の目安として、上述の分かったことと分からないことの明確化を目的とした復習に 3 時間程度をかけ、余裕があれば、授業前にレジュメや入門書の該当箇所を流し読みしておくこと。さらに、レポート及び定期試験の前に、対策を兼ねて、15～20 時間程度かけて全体の復習しておくことは、全体像の理解とそれに基づく相互の関連性の理解にもつながり、知識を定着させ、学修を深めるのに非常に有益である。

【テキスト（教科書）】

西田典之ほか『判例刑法総論』（第 8 版（授業開始までに改訂されなかった場合には 7 版（2018）を用いる）、2023、有斐閣）及び、六法（小型のもので良い）は、毎回持参すること。

【参考書】

基本書等については、受講者の自由に選択してよいが、選び方等に関して初回の授業で説明する。

【成績評価の方法と基準】

中間レポート 30 %、期末試験 70 % の予定である。詳細は学習支援システム等で告知する。

なお、昨年度レポートの質問に正面から答えていない答案も多く見られた。とにかく字数を書けば良いと勘違いしていると思われる者がいるが、正しく理解しているかを評価する。

【学生の意見等からの気づき】

レジュメだけ読んで理解できている学生がいるようであるが、レジュメは、あくまで授業の補助資料であって、授業を聞いて補充することを予定しているものであるため、それだけで完結したものではないことを踏まえて学修すること。

また、昨年度のレポートでは、「～について説明せよ」と聞かれれば調べて回答できるが、自分で問題点を見つけて検討を加える力が身に付いていないように感じられた。受講人数のためにオンライン授業ではあるが、受け身ではなく、自分で考えながら動画を視聴して欲しい。

分からないことは、オフィスアワーなどを利用して積極的に質問すること。

【学生が準備すべき機器他】

初回のガイダンスはオンライン講義であるため、初回については PC や通信設備等が必要となる。

【Outline (in English)】

This course is designed to introduce students to the fundamental principles of substantive criminal law. It addresses the basic penal theory, the general elements of crime and the criminal defenses.

Students are expected to spend 3 hours to review the lesson after each class, and 15-20 hours to review the whole lessons before the mid-term report and term-end exam. The overall grade will be based on the mid-term report (30%) and term-end exam (70%).

LAW200AB

刑法総論Ⅱ

佐藤 輝幸

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
 単位数：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

刑法総論の分野について、刑法総論Ⅰで学修したことを前提に、さらに踏み込んだ議論を学修する。重要判例や議論状況を正確に把握することで、具体的な問題や発展的な問題についても自ら解決の方向性を示す能力を身につけることを目指す。

【到達目標】

刑法総論Ⅰで学修した基本的な考え方を前提に、重要判例を丹念に読むことで、基礎的な知識に肉付けを行うと共に、理論・実務における発展的な問題の考え方を身につける。具体的には、主に刑法総論に関する近時の重要判例を題材とし、先例や学説との関係でその意義と射程を正確に理解することで、刑法総論の各分野の知識を深めつつ、交錯領域等の問題について、その捉え方を具体的に学ぶことを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

基本的に対面での実施を予定している。
 詳細は、学習支援システムで連絡する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
 なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
 なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	はじめに	ガイダンス、刑法総論Ⅰの復習
第 2 回	構成要件論	早すぎた構成要件の実現
第 3 回	違法論・責任論（1）	質的過剰防衛・量的過剰防衛
第 4 回	違法論・責任論（2）	誤想防衛・誤想過剰防衛
第 5 回	違法論・責任論（3）	過失犯論
第 6 回	違法論・責任論（4）	原因において自由な行為を論じるにあたって
第 7 回	違法論・責任論（5）	原因において自由な行為を巡る諸学説
第 8 回	正犯共犯論（1）	刑法総論Ⅰの復習等
第 9 回	正犯共犯論（2）	正犯性
第 10 回	正犯共犯論（3）	共謀の射程・共犯からの離脱
第 11 回	正犯共犯論（4）	承継的共犯
第 12 回	正犯共犯論（5）	共犯と他領域の交錯
第 13 回	罪数論	法条競合・包括一罪・科刑上一罪・併合罪
第 14 回	さいごに	まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習復習が求められる。特に刑法総論Ⅰで学んだ内容や、教員の事前に指定する判例について、事前に確認することが求められる。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

西田典之ほか『判例刑法総論〔第 7 版〕』（有斐閣、2018）（開講までに改定があった場合は新版を用いる）及び六法（小型のもので可）は毎回参照できるようにすること。追加資料がある場合は適宜配布する。

【参考書】

基本書等については受講者に委ねるが、初回に多少の案内を行う。

【成績評価の方法と基準】

期末試験（試験実施が難しい場合は期末レポート）で評価する（100%）。

【学生の意見等からの気づき】

講義を受講している学生と、受講せずレジュメだけ見ていると思われる学生とでは、評価に大きな開きがある。レジュメは講義の補助資料であり、レジュメだけでは具体的な考え方は身につかないので、毎週講義を受講すること。

【Outline (in English)】

This course is designed to introduce students to the advanced materials on the general elements of crime and the criminal defenses.

Before/after each class, students are expected to spend 2 hours to prepare for/review the lesson. The overall grade will be based on the term-end examination (100%).

LAW200AB

刑法総論 I

佐藤 輝幸、佐野 文彦

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

単位数：2 単位

備考（履修条件等）：クラス指定科目 ※法律 1 年 H-N・2 年以上全（オンライン授業希望者は A0080 を登録）

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

全てのコースに配置されている刑法総論は、法律学科の基本科目である刑法の内容のうち、全ての犯罪に共通する要素についてその内容と機能を明らかにし、犯罪の実質、成否についての統一的な理解を導こうとするものである。刑法総論の授業科目としては、刑法総論 I と刑法総論 II が設けられているが、各コースに共通の選択必修科目である刑法総論 I では、刑法総論の内容のうち、刑事法全般にわたる入門的講義である概説刑事法で学修した知識・考え方を基礎に、犯罪の成否を判断するために必要な基本的な内容を講義する。より踏み込んだ高度な議論は刑法総論 II で学習する。

【到達目標】

刑法総論に関するテーマについて、抽象的な条文の解釈を基本原理から理論的に導くという刑法総論特有の思考方法を習得するとともに、基本的な犯罪成立要件を理解することを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

学習支援システムにアップしたレジュメに沿って、対面の講義形式で行う。初回のガイダンスのみオンラインで実施する。

全授業をオンラインで受講するクラスは別途設定されているので（A0080）、オンラインでの受講を希望する学生は、そちらに登録すること。途中での受講形態の変更は認められない。ガイダンスの内容も踏まえて選択し、間違えないように登録すること。

毎回の授業計画は、下記を基本とするが、受講者の理解度に応じて調整することがある。

質問については、授業前後、オフィスアワーおよび学習支援システムによって対応する。また、中間レポートについては、期末試験までに講評をアップロードする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス・刑法総論とは（佐野）	授業の進め方、教材等の説明。刑法総論の意義
第 2 回	刑法の基本原則（佐野）	刑罰の意義、罪刑法定主義、責任主義など
第 3 回	構成要件（佐藤）	構成要件の意義と機能・因果関係
第 4 回	違法性 I（佐藤）	刑法における違法の意義
第 5 回	違法性 II（佐藤）	緊急避難
第 6 回	違法性 III（佐藤）	正当防衛
第 7 回	違法性 IV（佐藤）	その他の違法性阻却事由
第 8 回	責任 I（佐野）	刑法における責任の意義・故意前半
第 9 回	責任 II（佐野）	故意後半
第 10 回	責任 III（佐野）	過失、責任能力
第 11 回	責任 IV（佐野）	その他責任要素
第 12 回	不作為犯論（佐野）	不作為犯の意義と作為義務
第 13 回	未遂犯論（佐藤）	実行の着手、不能犯、中止犯
第 14 回	共犯（佐藤）	共犯の処罰根拠・教唆補助・共同正犯

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

概説刑事法の内容を一通り理解していることを前提に行う。自信がない場合は、夏期休暇等を利用して、2、3 時間程度でも復習しておくことより刑法総論の修得に有益であろう。

概説刑事法の内容の理解があれば、予習よりも復習に力を入れ、分かったことと分からないことを明確化し、分からないことについては、オフィスアワー等で質問すること。大学は、勉強習慣を身につける場ではなく、研究に必要な知識や考え方を習得する場であるので、「学習時間」で判断することは無意味であるが、一応の目安として、上述の分かったことと分からないことの明確化を目的とした復習に 3 時間程度をかけ、余裕があれば、授業前にレジュメや入門書の該当箇所を流し読みしておくこと。さらに、レポート及び定期試験の前に、対策を兼ねて、15～20 時間程度かけて全体の復習しておくことは、全体像の理解とそれに基づく相互の関連性の理解にもつながり、知識を定着させ、学修を深めるのに非常に有益である。

【テキスト（教科書）】

西田典之ほか『判例刑法総論』（第 8 版（授業開始までに改訂されなかった場合には 7 版（2018）を用いる）、2023、有斐閣）及び、六法（小型のもので良い）は、毎回持参すること。

【参考書】

基本書等については、受講者の自由に選択してよいが、選び方等に関して初回の授業で説明する。

【成績評価の方法と基準】

中間レポート 30 %、期末試験 70 % の予定である。詳細は学習支援システム等で告知する。

なお、昨年度レポートの質問に正面から答えていない答案も多く見られた。とにかく字数を書けば良いと勘違いしていると思われる者がいるが、正しく理解しているかを評価する。

【学生の意見等からの気づき】

レジュメだけ読んで理解できている学生がいるようであるが、レジュメは、あくまで授業の補助資料であって、授業を聞いて補充することを予定しているものであるため、それだけで完結したものではないことを踏まえて学修すること。

また、昨年度のレポートでは、「～について説明せよ」と聞かれれば調べて回答できるが、自分で問題点を見つけて検討を加える力が身に付いていないように感じられた。受講人数のためにオンライン授業ではあるが、受け身ではなく、自分で考えながら動画を視聴して欲しい。

分からないことは、オフィスアワーなどを利用して積極的に質問すること。

【学生が準備すべき機器他】

初回のガイダンスはオンライン講義であるため、初回については PC や通信設備等が必要となる。

【Outline (in English)】

This course is designed to introduce students to the fundamental principles of substantive criminal law. It addresses the basic penal theory, the general elements of crime and the criminal defenses.

Students are expected to spend 3 hours to review the lesson after each class, and 15-20 hours to review the whole lessons before the mid-term report and term-end exam. The overall grade will be based on the mid-term report (30%) and term-end exam (70%).

LAW100AB

刑法総論 I

佐藤 輝幸、佐野 文彦

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

単位数：2 単位

備考（履修条件等）：オンライン授業希望者 ※対面希望者は A0077/A0079 を登録

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

全てのコースに配置されている刑法総論は、法律学科の基本科目である刑法の内容のうち、全ての犯罪に共通する要素についてその内容と機能を明らかにし、犯罪の実質、成否についての統一的な理解を導こうとするものである。刑法総論の授業科目としては、刑法総論 I と刑法総論 II が設けられているが、各コースに共通の選択必修科目である刑法総論 I では、刑法総論の内容のうち、刑事法全般にわたる入門的講義である概説刑事法で学修した知識・考え方を基礎に、犯罪の成否を判断するために必要な基本的な内容を講義する。より踏み込んだ高度な議論は刑法総論 II で学習する。

【到達目標】

刑法総論に関するテーマについて、抽象的な条文の解釈を基本原理から理論的に導くという刑法総論特有の思考方法を習得するとともに、基本的な犯罪成立要件を理解することを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

学習支援システムにアップしたレジュメに沿って、オンラインの講義形式で行う。対面での講義（A0077, A0079）の講義動画が毎週アップロードされるので、受講生はそれを視聴する形となる。期末試験のみは対面の試験となる。

対面で受講するクラスは別途設定されているので（A0077, A0079）、対面での受講を希望する学生は、そちらに登録すること。途中での受講形態の変更は認められない。ガイダンスの内容も踏まえて選択し、間違えないように登録すること。

毎回の授業計画は、下記を基本とするが、受講者の理解度に応じて調整することがある。

質問については、オフィスアワーおよび学習支援システムによって対応する。また、中間レポートについては、期末試験までに講評をアップロードする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス・刑法総論とは（佐野）	授業の進め方、教材等の説明。刑法総論の意義
第 2 回	刑法の基本原則（佐野）	刑罰の意義、罪刑法定主義、責任主義など
第 3 回	構成要件（佐藤）	構成要件の意義と機能・因果関係
第 4 回	違法性 I（佐藤）	刑法における違法の意義
第 5 回	違法性 II（佐藤）	緊急避難
第 6 回	違法性 III（佐藤）	正当防衛
第 7 回	違法性 IV（佐藤）	その他の違法性阻却事由
第 8 回	責任 I（佐野）	刑法における責任の意義・故意前半
第 9 回	責任 II（佐野）	故意後半
第 10 回	責任 III（佐野）	過失、責任能力
第 11 回	責任 IV（佐野）	その他責任要素
第 12 回	不作為犯論（佐野）	不作為犯の意義と作為義務
第 13 回	未遂犯論（佐藤）	実行の着手、不能犯、中止犯

第 14 回 共犯（佐藤）

共犯の処罰根拠・教唆補助・共同正犯

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

概説刑事法の内容を一通り理解していることを前提に行う。自信がない場合は、夏期休暇等を利用して、2、3 時間程度でも復習しておくことより刑法総論の修得に有益であろう。

概説刑事法の内容の理解があれば、予習よりも復習に力を入れ、分かったことと分からないことを明確化し、分からないことについては、オフィスアワー等で質問すること。大学は、勉強習慣を身につける場ではなく、研究に必要な知識や考え方を習得する場であるので、「学習時間」で判断することは無意味であるが、一応の目安として、上述の分かったことと分からないことの明確化を目的とした復習に 3 時間程度をかけ、余裕があれば、授業前にレジュメや入門書の該当箇所を流し読みしておくことと良い。さらに、レポート及び定期試験の前に、対策を兼ねて、15～20 時間程度かけて全体の復習しておくことは、全体像の理解とそれに基づく相互の関連性の理解にもつながり、知識を定着させ、学修を深めるのに非常に有益である。

【テキスト（教科書）】

西田典之ほか『判例刑法総論』（第 8 版（授業開始までに改訂されなかった場合には 7 版（2018）を用いる）、2023、有斐閣）及び、六法（小型のもので良い）は、毎回持参すること。

【参考書】

基本書等については、受講者の自由に選択してよいが、選び方等に関して初回の授業で説明する。

【成績評価の方法と基準】

中間レポート 30 %、期末試験 70 % の予定である。詳細は学習支援システム等で告知する。

なお、昨年度レポートの質問に正面から答えていない答案も多く見られた。とにかく字数を書けば良いと勘違いしていると思われる者がいるが、正しく理解しているかを評価する。

【学生の意見等からの気づき】

レジュメだけ読んで理解できている学生がいるようであるが、レジュメは、あくまで授業の補助資料であって、授業を聞いて補充することを予定しているものであるため、それだけで完結したものではないことを踏まえて学修すること。

また、昨年度のレポートでは、「～について説明せよ」と聞かれれば調べて回答できるが、自分で問題点を見つけて検討を加える力が身に付いていないように感じられた。受講人数のためにオンライン授業ではあるが、受け身ではなく、自分で考えながら動画を視聴して欲しい。

分からないことは、オフィスアワーなどを利用して積極的に質問すること。

【学生が準備すべき機器他】

PC や通信設備等が必要となる。

【Outline (in English)】

This course is designed to introduce students to the fundamental principles of substantive criminal law. It addresses the basic penal theory, the general elements of crime and the criminal defenses.

Students are expected to spend 3 hours to review the lesson after each class, and 15-20 hours to review the whole lessons before the mid-term report and term-end exam. The overall grade will be based on the mid-term report (30%) and term-end exam (70%).

LAW200AB

犯罪学

佐野 文彦

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

単位数：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、犯罪をコントロールする方法を研究する刑事学のうち、犯罪の現状、すなわち、犯罪の原因や発生状況を分析することを目的とする。このような犯罪学は、刑法学における犯罪の成立要件の解釈や刑事政策学における犯罪予防の方策の研究に対して、基礎となる犯罪の現状認識を提供し、合理的かつ有効な研究を可能とするものである。

【到達目標】

前半の授業により、我が国における犯罪の現状について、データを基礎に（但し、データの限界を踏まえて）、その現状を理解することができる。

後半の授業により、なぜ犯罪が生じるのかについて、生物学、心理学、社会学等を利用した分析手法を学ぶ。

両者を総合して、犯罪対策、刑事政策のベースとなる正確なデータと理論的な仮説を調査し、自ら批判的に分析することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に強く関連。「DP2」に関連。

【授業の進め方と方法】

基本的に対面での講義を予定している。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の進め方、教材等の説明、犯罪学の意義。
第 2 回	犯罪統計の読み方	犯罪統計の種類と意義、分析の注意点など、犯罪統計の基本用語。
第 3 回	我が国の犯罪の全体像	我が国の治安に対するイメージ、認知件数・検挙件数の推移。
第 4 回	犯罪者の処遇に関する近年の動向	刑事手続きの各段階における処遇の現状。
第 5 回	個別の犯罪の検討 (1)	殺人の件数の推移、被害者との関係、処遇の動向、強盗の件数の推移、手口、処遇の動向。
第 6 回	個別の犯罪の検討 (2)	窃盗及び覚せい剤事犯、女性犯罪、高齢者犯罪。
第 7 回	個別の犯罪の検討 (3)	再犯者による犯罪の推移。
第 8 回	個別の犯罪の検討 (4)	少年の犯罪・非行に対する手続の概観、少年犯罪・非行の件数の推移。
第 9 回	近時の犯罪の動向	令和期に入ってからの変化。
第 10 回	犯罪の分析の刑事政策へのつながり	犯罪のイメージと実態、犯罪者処遇への示唆、刑事手続・処遇以前の対応の重要性。
第 11 回	犯罪原因論の歴史の概観	古典派犯罪学、犯罪生物学、犯罪心理学、犯罪社会学。
第 12 回	犯罪原因論の分析手法 (1)	古典派犯罪学の意義、初期の犯罪生物学の評価、新しい犯罪生物学。
第 13 回	犯罪原因論の分析手法 (2)	深層心理と犯罪、性格と犯罪、知能と犯罪、近時の心理学的アプローチ。

第 14 回 犯罪原因論の分析手法 (3) 初期の社会学的アプローチ、社会過程アプローチ、緊張理論、葛藤理論。新しいアプローチ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とする。また、犯罪等に関する報道等に注意し、授業やデータに照らして考えてみることも望ましい。

【テキスト（教科書）】

法務省『令和 4 年版 犯罪白書』（冊子版の他、法務省のホームページ (https://www.moj.go.jp/housouken/houso_hakusho2.html) でも閲覧可能)。

【参考書】

やや古いが犯罪学全体についての定評ある教科書として、

瀬川晃『犯罪学』（1998、成文堂）。

犯罪統計の分析に関する詳細かつわかりやすい解説として、

浜井浩一編著『犯罪統計入門』（第 2 版、2013、日本評論社）、

同編著『刑事司法統計入門』（2010、日本評論社）。

【成績評価の方法と基準】

期末試験（試験実施が難しい場合は期末レポート）で評価する（100%）。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline (in English)】

This course is designed to introduce students to the basics of criminology. The first half of the class will focus on learning how to read statistics while the second half will introduce the mains theories and their evolution.

Before/after each class, students are expected to spend 2 hours to prepare for/review the lesson. The overall grade will be based on the term-end examination (100%).

LAW200AB

刑事政策

朝村 太一

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

単位数：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

①刑罰と保安処分，②犯罪者の処遇，③犯罪被害者の地位に関する議論の概況を把握することによって，これらに関する諸問題について考えるに当たっての知的基盤を形成する。

【到達目標】

(1)①刑罰と保安処分，②犯罪者の処遇，③犯罪被害者の地位に関する基本的な諸問題について，立法の動向等を踏まえつつ，現在の議論の到達点を把握する。

(2)1)を踏まえて，刑事政策分野の古典的な論点及び近時の問題について，具体的な知識に根ざした議論を行うことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に強く関連。「DP2」に関連。

【授業の進め方と方法】

講義形式で行う。

学習支援システムを通じて配布されるレジュメを用いる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	本講義で学ぶこと
第 2 回	刑罰と保安処分①	刑罰目的論 量刑理論 犯罪化と非犯罪化
第 3 回	刑罰と保安処分②	死刑
第 4 回	刑罰と保安処分③	自由刑
第 5 回	刑罰と保安処分④	財産刑 資格制限 保安処分
第 6 回	犯罪者の処遇①総説	ディヴェージョン
	司法的	微罪処分
	処遇 1	起訴猶予
第 7 回	犯罪者の処遇②司法的	刑の執行猶予
	処遇 2	宣告猶予
第 8 回	犯罪者の処遇③施設内	受刑者の矯正処遇
	処遇 1	
第 9 回	犯罪者の処遇④施設内	受刑者の法的地位
	処遇 2	
第 10 回	犯罪者の処遇⑤施設内	施設内の規律及び秩序の維持
	処遇 3	不服申立制度 行刑運営の透明性の確保
第 11 回	犯罪者の処遇⑥社会内	総説
	処遇 1	仮釈放
第 12 回	犯罪者の処遇⑦社会内	保護観察
	処遇 2	その他の社会内処遇
第 13 回	犯罪被害者の地位①	刑事手続における犯罪被害者の法的地位
第 14 回	犯罪被害者の地位②	刑事手続外における被害者の保護と救済
	まとめ	本講義で学んだこと

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習：教科書の該当部分及び配布されるレジュメを読む（各回 2 時間程度）。

復習：教科書や各回末に紹介する参考文献を適宜参照しつつ，自分なりに講義内容を整理する（各回 2 時間程度）。

【テキスト（教科書）】

川出敏裕＝金光旭『刑事政策〔第 2 版〕』（成文堂，2018）

【参考書】

ガイダンス及び各回末に紹介する。

【成績評価の方法と基準】

期末試験（100%）。

【学生の意見等からの気づき】

（本年度授業担当者変更のため）特になし。

【Outline (in English)】**【Course outline】**

In this course, students will gain an overview of the debate on various issues in the field of criminal policy.

【Learning Objectives】

The goals of this course is to be able to discuss classic and recent issues in the field of criminal policy, based on specific knowledge.

【Learning activities outside of classroom】

Before/after each class, students are expected to spend 2 hours to prepare for/review the lesson.

【Grading Criteria /Policy】

The overall grade will be based on the term-end examination (100%).

LAW200AB

労働法総論・労働契約法

藤木 貴史

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

単位数：2 単位

備考（履修条件等）：クラス指定科目 ※法律 2 年 A-G・3 年以上全

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

〈概要〉私たちの社会では、多くの人が雇用されて労働し、賃金を得ることで生活しています。しかし、労働者は使用者よりも力が弱いので、適切な法規制がなされないと、さまざまな困難に直面することになります。労働法は、こうした困難を防ぎ、人間が人間らしく生きられるようにさまざまな規制を行う法分野です。

労働法総論・労働契約法では、個別的労働法の枠組み部分を扱います。労働法総論・労働契約法と労働基準法は連続性が強いので、継続して履修することを強く勧めます。

この科目は選択必修科目であり、全てのコースに属しています。

〈目的〉この分野を学ぶねらいは、次の 3 点です。

- ①労働法学の体系的・専門的な知識を身につける
- ②労働トラブルに対し、法的な問題の妥当な解決を図ることができる
- ③労働法分野の条文・判例の読み方を自主的に学習できる

【到達目標】

- ①個別的労働法の基礎的な知識を習得する。
- ②個別的労働法を知らない人に対して、労働法の仕組みを説明し、職場の問題解決の指針を示すことができる。
- ③個別的労働法上の問題に対して、自主的・自律的に調査・学習する習慣を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

- ・第 1 回はオンライン授業です（法学部共通）
- ・第 2 回以降対面での講義を実施します。感染状況によりオンラインとする場合には授業内で連絡します。
- ・授業は、教科書の一部をまとめたレジュメを配布して進めます。
- ・講義中詳細に触れられない点につき、教科書で学習するよう指示することがあります。
- ・進度は学生の理解に応じて調整されることがあります。授業計画の変更については、学習支援システム等で必要に応じて提示します。確認を怠らないようにお願いします。
- ・毎回授業ごとに小テスト（&リアクションペーパー）を課すことを予定しています。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	労働法の意義／労働法の体系／労働法と紛争解決
第 2 回	労働法のプレーヤー	労働者性／使用者性・事業／労働組合／過半数代表者／労働法の法源
第 3 回	労働者の自由と権利	労働憲章／未成年保護／寄宿舎規定
第 4 回	レポート課題にむけて	法的三段論法の記述方法
第 5 回	労働契約規制 (1)	本体的権利義務／人格権論
第 6 回	労働契約規制 (2)	付随義務論
第 7 回	労働契約規制 (3)	労働契約の解釈・現代的課題
第 8 回	労働契約の開始	労働契約の成立／内定（内々定）／試用期間

- | | | |
|--------|-------------|--------------------------------|
| 第 9 回 | 労働契約の終了 (1) | 合意解約と辞職／定年／解雇制限 |
| 第 10 回 | 労働契約の終了 (2) | 解雇権濫用法理 |
| 第 11 回 | 労働契約の終了 (3) | 整理解雇法理／労働契約・労使慣行／労働条件の決定 (1) 行 |
| 第 12 回 | 労働条件の決定 (2) | 就業規則と労働契約法 |
| 第 13 回 | 労働条件の決定 (3) | 就業規則の不利益変更 |
| 第 14 回 | 労働紛争の実態 | 労働紛争の実態を検討する |

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

[予習] (1 時間程度)

- ・LMS 上からレジュメを印刷しましょう。
- ・レジュメに指示された部分の教科書を読みましょう。
- ・内容を忘れた場合、前回の講義音声聞きなおし（オンライン授業時）。

[復習] (3 時間程度)

- ・LMS 上の小テストを解きましょう。
- ・その回の内容を友人・家族に説明できるか試してみましょう。
- ・その回で取り扱われた判例について、(i) どのような事件だったか、(ii) 裁判所はどのようなルールを設定したか、(iii) 裁判所はそのルールをどう使ったのか、説明してみましょう。
- ・教科書の「練習問題」を解いてみましょう。

【テキスト（教科書）】

藤本茂・沼田雅之・山本圭子・細川良編著『ファーストステップ労働法』（エイデル研究所 2020）

【参考書】

- ・別冊ジュリスト『労働判例百選（第 10 版）』（有斐閣、2022 年）
- ・ジュリスト増刊『労働法の争点』（有斐閣、2014 年）
- ・『デリー六法 令和 4 年版』（三省堂、2013 年）

【成績評価の方法と基準】

到達目標①の計測のために小テストを、到達目標②・③の計測のために中間テスト、期末テストを、それぞれ実施します。

- ・[小テスト] 3 割（穴埋め問題／選択式問題により、基礎的知識の定着度を測る）
- ・[中間テスト] 2 割（説明問題／事案問題により、労働法の仕組みを説明できるかを測る）
- ・[期末テスト] 5 割（説明問題／事案問題により、労働法の仕組みを説明できるかを測る）

【学生の意見等からの気づき】

初年度のため特記事項なし

【学生が準備すべき機器他】

オンライン授業時に備えてパソコン等を準備しておいてください。

【その他の重要事項】

【関連科目】

本講義の理解のためには、①日本国憲法、②民法（民法総則、債権総論、契約法）、③行政法、④民事訴訟法、⑤刑法などの基礎的知識があることが望ましいです（ただし、これらの科目未履修の学生も、この講義を履修して構いません）

【授業を受ける姿勢】

- ・休まないで出席することは理解の前提となるので、その旨心がけてください。
- ・教科書の購入は必須です。試験の際には、原則、教科書のみ持ち込みを認めます。
- ・六法／法令集も授業に必ず持ってくる。また、自分で必要な条文を探せるようにしておくこと。
- ・講義中は、適切にノートをとるなど、講義に集中することが求められます。
- ・ゲームや私事を見つけた場合には止めるよう注意をします。

【新型コロナウイルス感染症対応】

- ・新型コロナウイルス感染症の状況に照らし、オンライン授業となる場合があります。
- ・対面授業においては、感染防止の観点から、①飲食を控え、②マスクを必ず着用してください。守れない場合には退室を命じざるを得ない場合があります。

【Outline (in English)】

1.Course outline

In our society, many people are employed to work and earn wages to make a living. However, because workers have less bargaining power than employers, they face various difficulties if appropriate laws and regulations are not in place. Labor & Employment Law is a field of law that prevents such difficulties and imposes various regulations so that people can live with dignity.

In this lecture, students learn about the framework of individual labor & employment law. Since there is a high degree of continuity between Labor Contract Law and Labor Standards Law, it is strongly recommended that students take these courses consecutively as much as possible.

2.Learning Objectives

(1) Students acquire basic knowledge of individual labor & employment law.

(2) Students are able to explain the structure of labor laws to those who are not familiar with individual labor laws and provide guidelines for solving problems in the workplace.

(3) Students acquire the habit of independently and autonomously researching and learning about individual labor law issues.

3.Learning activities outside of classroom

< Before the class > (about 1 hour)

-Print out your resume from the LMS.

-Read the textbook for the part indicated in the resume.

< After the class > (about 3 hours)

-Take the quiz in LMS.

-Solve the "Exercise Questions" in the textbook.

-Try to explain the case law about (i) what kind of case it was, (ii) what kind of rule the court told

4.Grading Criteria /Policy

-Quiz(30%)

-midterm exam(20%)

-final exam(50%)

LAW200AB

労働基準法

藤木 貴史

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

単位数：2 単位

備考（履修条件等）：クラス指定科目 ※法律 2 年 A-G・3 年以上全

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

〈概要〉私たちの社会では、多くの人が雇用されて労働し、賃金を得ることで生活しています。しかし、労働者は使用者よりも力が弱いので、適切な法規制がなされないと、さまざまな困難に直面することになります。労働法は、こうした困難を防ぎ、人間が人間らしく生きられようとするさまざまな規制を行う法分野です。

労働基準法では、労働条件に対する法規制や労働契約の展開を規律する法規制を学びます。労働法総論・労働契約法と労働基準法は連続性が高い授業ですので、できるだけ連続して受講することを勧めます。

この科目は、「企業・経営と法（労働法中心）」コースの中心科目です。また、「法曹コース」を除くすべてのコースで履修が推奨されています。

〈目的〉この分野を学ぶねらいは、次の 3 点です。

- ①労働法学の体系的・専門的な知識を身につける
- ②労働トラブルに対し、法的な問題の妥当な解決を図ることができる
- ③労働法分野の条文・判例の読み方を自主的に学習できる

【到達目標】

- ①個別的労働法の基礎的な知識を習得する。
- ②個別的労働法を知らない人に対して、労働法の仕組みを説明し、職場の問題解決の指針を示すことができる。
- ③個別的労働法上の問題に対して、自主的・自律的に調査・学習する習慣を身に着ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】**【授業の進め方と方法 / Method(s)】**

- ・対面での講義を予定していますが、オンラインに変更となる可能性があります。
- ・授業は、教科書の一部をまとめたレジュメを配布して進めます。
- ・講義中詳細に触れられない点につき、教科書で学習するよう指示することがあります。
- ・進捗は学生の理解に応じて調整されることがあります。授業計画の変更については、学習支援システム等で必要に応じて提示します。確認を怠らないようにお願いします。
- ・毎回授業ごとに小テスト（&リアクションペーパー）を課すことを予定しています。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	日本的雇用と労働条件
第 2 回	賃金 (1)	労働基準法と賃金／最低賃金法
第 3 回	賃金 (2)	賞与／退職金／休業手当
第 4 回	労働時間 (1)	労働時間の定義／休憩・休日
第 5 回	労働時間 (2)	時間外労働、休日労働／割増賃金／固定残業代
第 6 回	労働時間 (3)	弾力的な労働時間制度
第 7 回	労働時間 (4)	裁量労働制／労働時間法制の適用除外

第 8 回	年次有給休暇	年休権の法的性質／計画年休制度／年休付与義務
第 9 回	映像で学ぶ労働法	中間のまとめ／労働法に関する映像学習
第 10 回	人事制度 (1)	配転／出向、転籍
第 11 回	人事制度 (2)	昇・降格／企業再編
第 12 回	懲戒	企業秩序論／懲戒処分の根拠と限界
第 13 回	労災	労災保険とは何か／通勤災害と労災保険／労災民訴
第 14 回	労働基準行政	労働基準の実情を学ぶ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

[予習] (1 時間程度)

- ・LMS 上からレジュメを印刷しましょう。
- ・レジュメに指示された部分の教科書を読みましょう。
- ・内容を忘れた場合、前回の講義音声聞きなおし（オンライン授業時）。

[復習] (3 時間程度)

- ・LMS 上の小テストを解きましょう。
- ・その回の内容を友人・家族に説明できるか試してみよう。
- ・その回で取り扱われた判例について、(i) どういう事件だったか、(ii) 裁判所はどのようなルールを設定したか、(iii) 裁判所はそのルールをどう使ったのか、説明してみよう。
- ・教科書の「練習問題」を解いてみましょう。

【テキスト（教科書）】

藤本茂・山本圭子・沼田雅之・細川良編著『ファーストステップ労働法』（エイデル研究所、2020 年）

【参考書】

村中学史・荒木尚志『労働判例百選（第 10 版）』（有斐閣、2022 年）
日本労働政策研究・研修機構『労働関係法規集（2023 年版）』
三省堂『デイリー六法』

【成績評価の方法と基準】

到達目標①の計測のために小テストを、到達目標②・③の計測のために中間テスト、期末テストを、それぞれ実施します。

- ・[小テスト] 3 割（穴埋め問題／選択式問題により、基礎的知識の定着度を測る）
- ・[期末テスト] 7 割（説明問題／事案問題により、労働法の仕組みを説明できるかを測る）

【学生の意見等からの気づき】

着任初年度のため特記事項なし

【学生が準備すべき機器他】

オンライン授業時に備えてパソコン等を準備しておいてください。

【その他の重要事項】

[関連科目]

本講義の理解のためには、①日本国憲法、②民法（民法総則、債権総論、契約法）、③行政法、④民事訴訟法、⑤刑法などの基礎的知識があることが望ましいです（ただし、これらの科目未履修の学生も、この講義を履修して構いません）

[授業を受ける姿勢]

- ・休まないで出席することは理解の前提となるので、その旨心がけてください。
- ・教科書の購入は必須です。試験の際には、原則、教科書のみ持ち込みを認めます。
- ・六法／法令集も授業に必ず持ってくる。また、自分で必要な条文を探せるようにしておくこと。
- ・講義中は、適切にノートをとるなど、講義に集中することが求められます。
- ・ゲームや私事を見つけた場合には止めるよう注意をします。

[新型コロナウイルス感染症対応]

- ・新型コロナウイルス感染症の状況に照らし、オンライン授業となる場合があります。
- ・対面授業においては、感染防止の観点から、①飲食を控え、②マスクを必ず着用してください。守れない場合には退室を命じざるを得ない場合があります。

【Outline (in English)】

1.Course outline

In our society, many people are employed to work and earn wages to make a living. However, because workers have less bargaining power than employers, they face various difficulties if appropriate laws and regulations are not in place. Labor & Employment Law is a field of law that prevents such difficulties and imposes various regulations so that people can live with dignity.

In Labor Standards Law, students learn about laws and regulations governing working conditions and the development of labor contracts. Since there is a high degree of continuity between Labor Contract Law and Labor Standards Law, it is strongly recommended that students take these courses consecutively as much as possible.

2.Learning Objectives

(1) Students acquire basic knowledge of individual labor & employment law.

(2) Students are able to explain the structure of labor laws to those who are not familiar with individual labor laws and provide guidelines for solving problems in the workplace.

(3) Students acquire the habit of independently and autonomously researching and learning about individual labor law issues.

3.Learning activities outside of classroom

< Before the class > (about 1 hour)

-Print out your resume from the LMS.

-Read the textbook for the part indicated in the resume.

< After the class > (about 3 hours)

-Take the quiz in LMS.

-Solve the "Exercise Questions" in the textbook.

-Try to explain the case law about (i) what kind of case it was,

(ii) what kind of rule the court told

4.Grading Criteria /Policy

-Quiz(30%)

-Final exam(70%)

LAW200AB

労働法総論・労働契約法

沼田 雅之

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

単位数：2 単位

備考（履修条件等）：クラス指定科目 ※法律 2 年 H-N・3 年以上全

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「労働法総論」部分については、労働法関連科目を通じた労働法の目的・必要性、すなわち基本原則について説明する。「労働契約法」部分については、解雇や労働条件の変更といった問題を扱う。2008 年 3 月に施行された労働契約法の内容を説明し、関連する多くの判例法理を整理して講義する。

【到達目標】

1. 授業の概要で示した法領域とそれに関連する判例法理について理解できる。
2. 授業の概要で示した法領域とそれに関連する判例法理についての基本的な問題や少し難易度の高い問題（ワークルール検定・法学検定アドバンスト〈上級〉コースレベル）に解答できるようになる。
3. 授業の概要で示した法領域とそれに関連する判例法理に関する事例問題（司法試験の問題を平易にしたもの）に文章で解答できる。
4. 1～3 で獲得した知識をもって、労働関係の発展的な問題に、リーガルマインドをもって積極的に関与できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

※履修登録前に、学習支援システムにて最新情報を確認すること※
・本講義は、対面授業とする。

※新型コロナウイルス感染症の状況によってはオンライン授業、あるいはハイフレックス授業になる場合がある。オンライン授業あるいはハイフレックス授業となった場合は、Zoom を使用する。
・授業の進め方の説明については、第 1 回ガイダンス（4 月 11 火）で Zoom にて行います。Zoom アドレスは学習支援システム「HOPPII」で確認してください。この初回のみオンラインとなります。

・講義は、PowerPoint を用いながら講義形式で授業を進める。
・授業に関する質問等については、授業終了後あるいはオフィスアワーにて対応し、その場でフィードバックする。
・試験に関しては最終授業時あるいは学習支援システムにてフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	講義内容や評価方法について。労働法の全体像について
第 2 回	労働法の法源と労働条件決定ルール	労働条件決定の多様なツールについて
第 3 回	労働関係のプレイヤー	労働者、使用者について
第 4 回	労働契約上の権利・義務	労働契約上当然にある権利・義務について
第 5 回	労働契約の終了（1）	解雇の手続き規制、法律上の解雇理由規制、労使の自主的ルールによる規制について
第 6 回	労働契約の終了（2）	解雇権の濫用について

第 7 回	労働関係の終了（3）	整理解雇について
第 8 回	労働関係の終了（4）	辞職、合意解約、定年、当事者の消滅について
第 9 回	懲戒	企業秩序遵守義務とその違反に関するルールについて
第 10 回	採用・採用内定・試用	採用内定の取消しや、試用期間後に本採用しないこと（本採用の拒否）に関するルールについて
第 11 回	就業規則と労働条件の変更	就業規則による労働条件の不利益変更法理について
第 12 回	人事（1）	同一使用者のもとでの労働者の異動である配転について
第 13 回	人事（2）	異なる使用者間の労働者の異動である出向・転籍について
第 14 回	紛争解決	労働関係の紛争解決手段について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・事前に配布するレジュメ、資料を熟読のうえ受講すること。
- ・労働関係、労働法に関心を持ち、日頃から新聞、雑誌などの記事を読んでおくこと。法改正の動向は厚生労働省のホームページなどで随時確認すること。
- ・関連科目である労働契約法、労働基準法について、履修前に自学しておくこと。
- ・本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

- ・藤本茂・山本圭子・沼田雅之・細川良編著『ファーストステップ労働法』（エイデル研究所、2020 年）
- ・プリント教材

【参考書】

- ・ジュリスト増刊『労働法の争点』（2014 年、有斐閣）
- ・別冊ジュリスト『労働判例百選（第 10 版）』（2022 年、有斐閣）

【成績評価の方法と基準】

- 試験（80 点）
- ・期末試験として 1 回実施。論述形式の問題（事例問題）を出題する。
 - ・概ね到達目標に即した解答がなされている否かを評価基準とする。
- Web 小テスト（20 点）
- ・講義ごとに実施する小テストの点数を 20 点満点に換算して評価します。
- ※新型コロナウイルス感染症の状況によっては、期末試験をレポート試験に変更する場合があります。

【学生の意見等からの気づき】

長年この科目の担当を外れていたため特になし。

【学生が準備すべき機器他】

- ・オンラインあるいはハイフレックス授業（オンラインで参加する場合）の場合は、インターネットに接続できる環境と Zoom を利用可能な端末。
- ・レジュメ等は PDF データで提供するため、データを保存・表示可能な端末。

【【専門領域と研究業績】】

<専門領域> 社会法（社会保障法・労働法）
<研究テーマ> 非正規労働者の社会保障法、労働法上の課題
<主要研究業績>

「日本のクラウドソーシングの現状と労働法上の課題」（労働法律旬報 1903 = 1904 号、2018 年）、「日本の労働立法政策と人権・基本権論——労働市場政策における人権・基本権アプローチの可能性——」（日本労働法学会誌 129 号、2017 年）、「公契約規整の到達点と社会的価値実現の可能性」（法学志林 113 号、2016 年）、（共著）「労働契約法 20 条の研究」（労働法律旬報 1853 号、2015 年）、「事業主の届出義務懈怠の私法上の責任と過失相殺：労働者の確認請求不行使を中心にして」（賃金と社会保障 1645 号、2015 年）ほか

【Outline (in English)】

1. Course Outline

The purpose of this course is to lecture on the basic principles and basic legal issues of Japanese labor law.

The outline is as follows:

- 1. A basic principles of labor law;
- 2. A Labor Contract Act;
- 3. A case law concerning the Labor Contract Act.

2. Learning Objectives

By the end of the course, students should be able to do the followings:

- A. Understand the legal domain shown in the "Class Outline" above and the related case law.
- B. You will be able to answer basic questions about the legal domain and related case law and slightly more difficult questions (work rule test / legal test advanced < advanced > course level) shown in the above "Outline of class".
- C. You can answer the case questions (simplified bar examination questions) related to the legal domain and related judicial doctrine shown in the above "Outline of Class" in sentences.
- D. With the knowledge acquired in A to C, you will be able to actively participate in the developmental problems of labor relations with a legal mind.

3. Learning Activities Outside of Classroom

Lecture/Exercise (two-credits)

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

4. Grading Criteria /Policies

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

- a. Term-end examination: 80%
- b. Online quiz : 20%

LAW200AB

労働基準法

沼田 雅之

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

単位数：2 単位

備考（履修条件等）：クラス指定科目 ※法律 2 年 H-N・3 年以上全

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講義では、労働法のうち、労働基準法とこれに関連する判例法理を扱う。

法律学科の選択必修科目の一つであり、「企業・経営と法（労働法中心）」コースの中心科目である。また、「法曹コース」を除くすべてのコースで履修が推奨されている。

「企業・経営と法（労働法中心）」コースをモデルとして履修計画をたてている者は、良好な成績で単位を修得することが強く求められる。

【到達目標】

1. 授業の概要で示した法領域とそれに関連する判例法理について理解できる。

2. 授業の概要で示した法領域とそれに関連する判例法理についての基本的な問題や少し難易度の高い問題（ワークルール検定・法学検定アドバンスト

〈上級〉コースレベル）に解答できるようになる。

3. 授業の概要で示した法領域とそれに関連する判例法理に関する事例問題

（司法試験の問題を平易にしたもの）に文章で解答できる。

4. 1～3で獲得した知識をもって、労働関係の発展的な問題に、リーガル

マインドをもって積極的に関与できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】※履修登録前に、学習支援システムにて最新情報を確認すること※
・本講義は、対面授業とする。

※新型コロナウイルス感染症の状況によってはオンライン授業、あるいはハイフレックス授業になる場合がある。オンライン授業あるいはハイフレックス授業となった場合は、Zoom を使用する。

・授業の進め方の説明については、第1回ガイダンス（9月26日）でZoomにて行います。Zoomアドレスは学習支援システム「HOPPII」で確認してください。この初回のみオンラインとなります。

・講義は、PowerPoint を用いながら講義形式で授業を進める。

・授業に関する質問等については、授業終了後あるいはオフィスアワーにて対応し、その場でフィードバックする。

・試験に関しては最終授業時あるいは学習支援システムにてフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No**【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】**

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス ・労働基準法の適用範囲と実効性の確保	講義内容や評価方法の説明について 労働基準法が定める基準を守るための手段について
第2回	労働基準法の労働者・使用者（1）	労働基準法上の「労働者」について
第3回	労働基準法の労働者・使用者（2）	労働基準法上の「使用者」について

第4回	労働者の人権	均等待遇原則、強制労働の禁止について
第5回	賃金（1）	賃金の定義、賃金支払規制について
第6回	賃金（2）	休業手当、最低賃金規制について
第7回	賃金（3）	賞与（ボーナス）、退職金に関する諸問題について
第8回	労働時間規制（1）	法定労働時間規制、労働時間の概念について
第9回	労働時間規制（2）	休日規制、時間外・休日労働、深夜業規制について
第10回	労働時間規制（3）	割増賃金、労働時間規制の適用除外について
第11回	フレキシブルな労働時間制度（1）	変形労働時間制・フレックスタイム制について
第12回	フレキシブルな労働時間制度（2）	事業場外労働のみなし時間制・裁量労働制について
第13回	休暇	年次有給休暇等について
第14回	労働者の安全衛生	労働安全衛生法について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・事前に配布するレジュメ、資料を熟読のうえ受講すること。
- ・労働関係、労働法に関心を持ち、日頃から新聞、雑誌などの記事を読んでおくこと。法改正の動向は厚生労働省のホームページなどで随時確認すること。
- ・関連科目である労働契約法、労働基準法について、履修前に自学しておくこと。
- ・本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

- ・藤本茂・山本圭子・沼田雅之・細川良編著『ファーストステップ労働法』（エイデル研究所、2020年）
- ・プリント教材

【参考書】

- ・ジュリスト増刊『労働法の争点』（2014年、有斐閣）
- ・別冊ジュリスト『労働判例百選（第10版）』（2022年、有斐閣）

【成績評価の方法と基準】

- 試験（80点）
- ・期末試験として1回実施。論述形式の問題（事例問題）を出題する。
- ・概ね到達目標に即した解答がなされている否かを評価基準とする。
- Web小テスト（20点）
- ・講義ごとに実施する小テストの点数を20点満点に換算して評価します。
- ※新型コロナウイルス感染症の状況によっては、期末試験をレポート試験に変更する場合があります。

【学生の意見等からの気づき】

長年この科目の担当を外れていたため特になし。

【学生が準備すべき機器他】

- ・オンラインあるいはハイフレックス授業（オンラインで参加する場合）の場合は、インターネットに接続できる環境とZoomを利用可能な端末。
- ・レジュメ等はPDFデータで提供するため、データを保存・表示可能な端末。

【専門領域と研究業績】

<専門領域> 社会法（社会保障法・労働法）

<研究テーマ> 非正規労働者の社会保障法、労働法上の課題

<主要研究業績>

「日本のクラウドソーシングの現状と労働法上の課題」（労働法律旬報1903 = 1904号、2018年）、「日本の労働立法政策と人権・基本権論——労働市場政策における人権・基本権アプローチの可能性——」（日本労働法学会誌129号、2017年）、「公契約規整の到達点と社会的価値実現の可能性」（法学志林113号、2016年）、（共著）「労働契約法20条の研究」（労働法律旬報1853号、2015年）、「事業主の届出義務懈怠の私法上の責任と過失相殺：労働者の確認請求不行使を中心にして」（賃金と社会保障1645号、2015年）ほか

【Outline (in English)】**1. Course Outline**

The purpose of this course is to lecture on the basic principles and basic legal issues of Japanese labor law.

The outline is as follows:

- 1. About a Labor Standards Act;
- 2. A case law concerning the Labor Standards Act.

2. Learning Objectives

By the end of the course, students should be able to do the followings:

- A. Understand the legal domain shown in the "Class Outline" above and the related case law.
- B. You will be able to answer basic questions about the legal domain and related case law and slightly more difficult questions (work rule test / legal test advanced < advanced > course level) shown in the above "Outline of class".
- C. You can answer the case questions (simplified bar examination questions) related to the legal domain and related judicial doctrine shown in the above "Outline of Class" in sentences.
- D. With the knowledge acquired in A to C, you will be able to actively participate in the developmental problems of labor relations with a legal mind.

3. Learning Activities Outside of Classroom

Lecture/Exercise (two-credits)

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

4. Grading Criteria /Policies

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

- a. Term-end examination: 80%
- b. Online quiz : 20%

LAW300AB

労働組合法

藤木 貴史

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

単位数：2 単位

その他属性：〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

〈概要〉私たちの社会では、多くの人が雇用されて労働し、賃金を得ることで生活しています。しかし、労働者は使用者よりも力が弱いいため、適切な法規制がなされないと、さまざまな困難に直面することになります。労働法は、こうした困難を防ぎ、人間が人間らしく生きられるようにさまざまな規制を行う法分野です。

労働組合法では、労働法のうち、集団的労働法に関する基礎的部分を扱います。労働法総論・労働契約法、労働基準法を履修していることが望ましいです。

この科目は、企業・経営と法コース（労働法中心）に属しています。

〈目的〉この分野を学ぶねらいは、次の2点です。

- ①労働法学の体系的・専門的な知識を身につける
- ②労働トラブルに対し、法的な問題の妥当な解決を図ることができる

【到達目標】

- ①集団的労働法の基礎的な知識を習得する。
- ②集団的労働法を知らない人に対して、労働法の仕組みを説明し、職場の問題解決の指針を示すことができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

- ・第1回はオンライン授業です（法学部共通）
- ・第2回以降対面での講義を実施します。
- ・授業は、教科書の一部をまとめたレジュメを配布して進めます。
- ・講義中詳細に触れられない点につき、教科書で学習するよう指示することがあります。
- ・進度は学生の理解に応じて調整されることがあります。授業計画の変更については、学習支援システム等で必要に応じて提示します。確認を怠らないようにお願いします。
- ・毎回授業ごとに小テスト（&リアクションペーパー）を課すことを予定しています。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	労働組合法総論	・労働組合法の意義/目的 ・憲法28条の規範的意義と法的効果
第2回	労働組合法上の労働者・使用者	・個別法との違い ・最高裁判決の状況
第3回	公務労働と団結権保障	・公務員法制 ・判例の展開
第4回	不当労働行為（1）	・行政救済の特徴 ・救済の名宛人
第5回	不当労働行為（2）	・不利益取扱い ・支配介入
第6回	団結権（1）	・労働組合の組織的類型 ・法内組合
第7回	団結権（2）	・ユニオン・ショップ協定 ・統制処分
第8回	団体行動権（1）	・団体行動の類型 ・争議行為と組合活動？
第9回	団体行動権（2）	・正当性の判断基準
第10回	団体行動権（3）	・使用者側の対抗手段 ・損害賠償責任

第11回 団体交渉権（1）

- ・交渉類型
- ・団体交渉の相手方、当事者
- ・団交応諾義務

第12回 団体交渉権（2）

- ・誠実交渉義務
- ・中立保持義務

第13回 労働協約（1）

- ・労働協約の規範的効力・債務的効力

第14回 労働協約（2）

- ・労働協約の不利益変更

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・本授業の準備・復習時間は各4時間を標準とします。

【予習】（1時間程度）

- ・LMS上からレジュメを印刷しましょう。
- ・レジュメに指示された部分の教科書を読みましょう。
- ・内容を忘れた場合、前回の講義音声聞きなおし（オンライン授業時）。

【復習】（3時間程度）

- ・LMS上の小テストを解きましょう。
- ・その回の内容を友人・家族に説明できるか試してみましょう。
- ・その回で取り扱われた判例について、(i) どのような事件だったか、(ii) 裁判所はどのようなルールを設定したか、(iii) 裁判所はそのルールをどう使ったのか、説明してみましょう。
- ・教科書の「練習問題」を解いてみましょう。

【テキスト（教科書）】

名古道功ほか編著『労働法Ⅰ 集団的労働関係法・雇用保障法』法律文化社（2012年）

【参考書】

藤本茂ほか『ファーストステップ労働法』エイデル出版（2020年）
西谷敏『労働組合法〔第3版〕』有斐閣（2012年）

【成績評価の方法と基準】

到達目標①の計測のために小テストを、到達目標②の計測のために期末テストを、それぞれ実施します。

・[小テスト] 3割（穴埋め問題/選択式問題により、基礎的知識の定着度を測る）

・[期末テスト] 7割（説明問題/事案問題により、労働法の仕組みを説明できるかを測る）

【学生の意見等からの気づき】

着任初年度のため、特になし

【学生が準備すべき機器他】

オンライン授業時に備えてパソコン等を準備しておいてください。

【その他の重要事項】

【関連科目】

本講義の理解のためには、①日本国憲法、②民法（民法総則、債権総論、契約法）、③行政法、④民事訴訟法、⑤刑法などの基礎的知識があることが望ましいです（ただし、これらの科目未履修の学生も、この講義を履修して構いません）

【授業を受ける姿勢】

・休まないで出席することは理解の前提となるので、その旨心がけてください。

・六法/法令集は授業に必ず持ってくる。また、自分で必要な条文を探せるようにしておくこと。

・講義中は、適切にノートをとるなど、講義に集中することが求められます。

・ゲームや私事を見つけた場合には止めるよう注意をします。

【新型コロナウイルス対応】

・新型コロナウイルス感染症の状況に照らし、オンライン授業となる場合があります。

・対面授業においては、感染防止の観点から、①飲食を控え、②マスクを必ず着用してください。守れない場合には退室を命じざるを得ない場合があります。

【Outline (in English)】

Course outline

In our society, many people are employed to work and earn wages to make a living. However, because workers are less powerful than employers, they face various difficulties if appropriate laws and regulations are not in place. Labor law is a field of law that prevents these difficulties and imposes various regulations so that people can live like human beings.

Labor Union Law deals with the basic part of labor law that relates to collective labor law. It is desirable for students to have taken General Labor Law, Labor Contract Law, and Labor Standards Law.

Learning Objectives

- (1) Acquire basic knowledge of collective labor laws.
- (2) To be able to explain the structure of labor laws to those who are not familiar with collective labor laws and provide guidelines for solving problems in the workplace.

Learning activities outside of classroom

The standard preparation and review time for this class is 4 hours each.

Grading Criteria /Policy

A quiz will be given to measure achievement goal (1), and a final exam will be given to measure achievement goal (2).

[Quiz] 30% (fill-in-the-blank questions/choice-type questions to measure the level of retention of basic knowledge)

[Final exam] 70% (to determine whether students can explain the structure of labor law through explanatory questions and case study questions).

LAW300AB

労働法特論

沼田 雅之

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

単位数：2 単位

その他属性：〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講義では、労働法のうち、非正規労働者に関する法（労働契約法のうち有期契約労働者に関する部分、パートタイム労働法など）、労働市場に関する法（職業安定法、労働者派遣法など）、高齢者雇用・障害者雇用に関する法を扱う。

法律学科の「企業・経営と法（労働法中心）」コースの中心科目である。また「企業・経営と法（商法中心）」「文化・社会と法」を除くすべてのコースで履修が推奨されている。

【到達目標】

1. 授業の概要で示した法領域とそれに関連する判例法理について理解できる。
2. 授業の概要で示した法領域とそれに関連する判例法理についての基本的な問題や少し難易度の高い問題（ワークルール検定・法学検定アドバンスト〈上級〉コースレベル）に解答できるようになる。
3. 授業の概要で示した法領域とそれに関連する判例法理に関する事例問題（司法試験の問題を平易にしたもの）に文章で解答できる。
4. 1～3で獲得した知識をもって、労働関係の発展的な問題に、リーガルマインドをもって積極的に関与できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

※履修登録前に、学習支援システムにて最新情報を確認すること※

・本講義は、対面授業とする。

※新型コロナウイルス感染症の状況によってはオンライン授業、あるいはハイフレックス授業になる場合がある。オンライン授業あるいはハイフレックス授業となった場合は、Zoomを使用する。

・授業の進め方の説明については、第1回ガイダンス（4月7（金））でZoomにて行います。Zoomアドレスは学習支援システム「HOPPII」で確認してください。この初回のみオンラインとなります。

・講義は、PowerPointを用いながら講義形式で授業を進める。

・授業に関する質問等については、授業終了後あるいはオフィスアワーにて対応し、その場でフィードバックする。

・試験に関しては最終授業時あるいは学習支援システムにてフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	講義内容や評価方法の説明。労働法の全体像の説明。労働法特論の労働法における位置付けの説明。
第2回	女性・年少者の保護	女性・年少者の保護のカタログについて学習する。
第3回	性差別の禁止（1）	男女同一賃金原則について学ぶ。
第4回	性差別の禁止（2）	均等法の制定と発展について学ぶ。
第5回	ハラスメント	職場における様々な形態のハラスメントについて学ぶ。
第6回	育児介護休業法	育児介護休業法上の諸制度について理解する。
第7回	有期雇用労働者・パート労働者（1）	有期契約労働者に関する保護策について学習する。
第8回	有期雇用労働者・パート労働者（2）	均衡・均等処遇を中心にパート有期法について学習する。
第9回	派遣労働者（1）	労働者派遣の歴史について学ぶ。労働者派遣の基本的枠組みを理解する。
第10回	派遣労働者（2）	派遣元事業主と派遣先事業主が講じるべき措置等について学習する。
第11回	高年齢者	高年齢者の雇用の安定に関する措置について学ぶ。
第12回	障害者	障害者権利条約の批准と障害者雇用促進法の改正点について学習する。
第13回	外国人	外国人労働者の就労と適用される労働法について学習する。
第14回	まとめ	本講義のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・事前に配布するレジュメ、資料を熟読のうえ受講すること。

・労働関係、労働法に関心を持ち、日頃から新聞、雑誌などの記事を読むこと。法改正の動向は厚生労働省のホームページなどで随時確認すること。

・関連科目である労働契約法、労働基準法について、履修前に自学しておくこと。

・本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

・藤本茂・山本圭子・沼田雅之・細川良編著『ファーストステップ労働法』（エイデル研究所、2020年）

・プリント教材

【参考書】

・ジュリスト増刊『労働法の争点』（2014年、有斐閣）

・別冊ジュリスト『労働判例百選（第10版）』（2022年、有斐閣）

【成績評価の方法と基準】

試験（80点）

・期末試験として1回実施。論述形式の問題（事例問題）を出題する。

・概ね到達目標に即した解答がなされている否かを評価基準とする。

Web小テスト（20点）

・講義ごとに実施する小テストの点数を20点満点に換算して評価します。

※新型コロナウイルス感染症の状況によっては、期末試験をレポート試験に変更する場合があります。

【学生の意見等からの気づき】

シラバス作成時点では学生からの意見はない。

【学生が準備すべき機器他】

・オンラインあるいはハイフレックス授業（オンラインに参加する場合）の場合は、インターネットに接続できる環境とZoomを利用可能な端末。

・レジュメ等はPDFデータで提供するため、データを保存・表示可能な端末。

【その他の重要事項】

・「労働法総論・労働契約法」、「労働基準法」を履修していることが望ましい。

・同時に、「社会政策」、「雇用・福祉政策」を履修するとより理解を深めることができる。

【Outline (in English)】

1. Course Outline

The objective of this course is to lecture on development subjects of Japanese Labor Law.

The outline is as follows:

- 1. A law on non-regular workers;
- 2. The Law of the Labor Market;
- 3. A law on Employment of the Elderly;
- 4. A law on Employment of Persons with Disabilities.

2. Learning Objectives

By the end of the course, students should be able to do the followings:

- A. Understand the legal domain shown in the "Class Outline" above and the related case law.
- B. You will be able to answer basic questions about the legal domain and related case law and slightly more difficult questions (work rule test / legal test advanced < advanced > course level) shown in the above "Outline of class".
- C. You can answer the case questions (simplified bar examination questions) related to the legal domain and related judicial doctrine shown in the above "Outline of Class" in sentences.
- D. With the knowledge acquired in A to C, you will be able to actively participate in the developmental problems of labor relations with a legal mind.

3. Learning Activities Outside of Classroom

Lecture/Exercise (two-credits)

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

4. Grading Criteria / Policies

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

- a. Term-end examination: 80%
- b. Online quiz : 20%

LAW300AB

社会保障法 I

沼田 雅之

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

単位数：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講義では、社会保障法のうち社会保障法総論及び福祉関係法を扱う。法律学科の「企業・経営と法（労働法中心）」コースの中心科目であり、「行政・公共政策と法」コースの履修推奨科目である。社会保障の総論や社会福祉は、企業が提供する法定内外の福利厚生に密接に関連する。さらに社会保障は、誰もがその恩恵を受けうるものであり、「企業・経営と法」コースを主体に科目選択している学生だけではなく、すべての学生にとって必要な知識である。しがたって、社会保障制度の理論的根拠としての総論をふまえて、個別の諸制度の目的、制度内容そしてその課題についての情報を提供する。

社会保障は、行政サービスの大きな部分を占めていることから、法律学科の「行政・公共政策と法」コースが想定する職業に就くことを検討している方も、受講するのがのぞましい。

【到達目標】

1. 社会保障法の定義、法体系などの総論的事項、および生活保護法と福祉法の概要を説明できるようになる。
2. 生活保護法と福祉法の法的問題点について、自己の見解を説得的に論じることができるようになる。
3. 1～2で獲得した知識をもって、実社会で想定される公的扶助・社会福祉領域での基本的問題に、リーガルマインドをもって積極的に関与できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

※履修登録前に、学習支援システムにて最新情報を確認すること※

・本講義は、対面授業とする。

※新型コロナウイルス感染症の状況によってはオンライン授業、あるいはハイフレックス授業になる場合がある。オンライン授業あるいはハイフレックス授業となった場合は、Zoomを使用する。

・授業の進め方の説明については、第1回ガイダンス（4月11（火））でZoomで行います。Zoomアドレスは学習支援システム「HOPPII」で確認してください。この初回のみオンラインとなります。

・講義は、PowerPointを用いながら講義形式で授業を進める。

・授業に関する質問等については、授業終了後あるいはオフィスアワーにて対応し、その場でフィードバックする。

・試験に関しては最終授業時あるいは学習支援システムにてフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の内容、進め方、学習方法などについて説明を行う。
第2回	社会保障法の概論	社会保障法学の射程、限界などに関して考察する。
第3回	社会保障法の法源等	社会保障法の定義・法体系・発展経緯を解説する。
第4回	生存権	生存権の意義・学説・判例について考察する。
第5回	生活保護法の概要	公的扶助の歴史、生活保護法の原理・原則、自立の意義について考える。
第6回	生活保護法における補足性の原理	補足性の原理の具体的内容、および関連判例を検討する。
第7回	生活保護法のその他の原理・原則等	世帯単位の原則ほか、被保護者の権利・義務について説明し、関連判例について考察する。
第8回	福祉関係法の概要	福祉の意義、福祉法制の発展経緯のほか、社会福祉基礎構造改革について説明する。
第9回	福祉関係法（障害者福祉）	障害者関連法の概要について解説する。
第10回	福祉関係法（高齢者福祉）	介護保険法など、高齢者福祉に関する法律について検討する。
第11回	福祉関係法（児童福祉）	児童福祉に関する法律について説明する。
第12回	福祉関係法（家庭福祉）	ひとり親世帯等の福祉に関する法律について説明する。
第13回	社会手当法	社会手当の概念、および子ども手当法、児童扶養手当法、特別児童扶養手当法の概要を説明する。

第14回 総合研究

社会保障法に関する近年の法的諸問題を取り上げて、考察する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・事前に配布した「配布プリント」や「参考資料」を事前に一読のこと。
- ・本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

- ・教科書は指定しない。プリント教材を使用する。

【参考書】

- ・本沢己代子・新田秀樹編『トピック社会保障法（第17版）』（信山社、2023年4月刊行予定）
 - ・菊池馨実『社会保障法【第3版】』（有斐閣、2022年）
- このほか、生活保護制度の行政実務の実態を理解するためには、柏木ハルコ作の『健康で文化的な最低限度の生活』のコミック各巻は、大いに参考となる。

【成績評価の方法と基準】

試験（80点）

- ・期末試験として1回実施。論述形式の問題（事例問題）を出題する。

・概ね到達目標に即した解答がなされている否かを、評価基準とする。

Web小テスト（20点）

- ・講義ごとに実施する小テストの点数を20点満点に換算して評価します。
- ※新型コロナウイルス感染症の状況によっては、期末試験をレポート試験に変更する場合があります。

【学生の意見等からの気づき】

シラバス作成時点では学生からの意見はない。

【学生が準備すべき機器他】

- ・オンラインあるいはハイフレックス授業（オンラインに参加する場合）の場合は、インターネットに接続できる環境とZoomを利用可能な端末。
- ・レジュメ等はPDFデータで提供するため、データを保存・表示可能な端末。

【Outline (in English)】

1. Course Outline

The objective of this course is to lecture on Japanese Social Welfare Law. The outline is as follows:

- 1. About Article 25 of the Constitution of Japan;
- 2. Japanese Public Assistance Act;
- 3. Welfare law for people with disabilities;
- 4. Elderly Welfare law;

5. Child Welfare Act.

2. Learning Objectives

By the end of the course, students should be able to do the followings:

- A. Be able to explain the definition of social security law, general matters such as legal system, and outline of public assistance law and welfare law.
- B. You will be able to persuasively discuss your views on the legal issues of the Public Assistance Act and the Welfare Act.
- C. With the knowledge acquired in A to B, you will be able to actively participate in the basic problems in the field of public assistance and social welfare that are expected in the real world with a legal mind.

3. Learning Activities Outside of Classroom

Lecture/Exercise (two-credits)

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

4. Grading Criteria /Policies

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

- a. Term-end examination: 80%
- b. Online quiz: 20%

LAW300AB

社会保障法Ⅱ

沼田 雅之

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

単位数：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講義では、社会保障法のうち社会保険法を扱う。法律学科の「企業・経営と法（労働法中心）」コースの中心科目であり、「行政・公共政策と法」コースの履修推奨科目である。社会保険は、企業が提供する法定内外の福利厚生に密接に関連する。さらに社会保障は、誰もがその恩恵を受けうるものであり、「企業・経営と法」コースを主体に科目選択している学生だけではなく、すべての学生にとって必要な知識である。社会保険法に含まれる個別の諸制度の目的、制度内容そしてその課題についての情報を提供する。

社会保障は、行政サービスの大きな部分を占めていることから、法律学科の「行政・公共政策と法」コースが想定する職業に就くことを検討している方も、受講するのがのぞましい。

【到達目標】

1. 社会保障法のうち社会保険法（医療関係法、年金法、労災保険法、雇用保険法）の概略について説明できるようになる。
2. 社会保障法のうち社会保険法（医療関係法、年金法、労災保険法、雇用保険法）の法的問題点について、自己の見解を説得的に論じることができるようになる。
3. 1～2で獲得した知識をもって、実社会で想定される社会保険法上の基本的問題に、リーガルマインドをもって積極的に関与できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

※履修登録前に、学習支援システムにて最新情報を確認すること※

・本講義は、対面授業とする。

※新型コロナウイルス感染症の状況によってはオンライン授業、あるいはハイブックス授業になる場合がある。オンライン授業あるいはハイブックス授業となった場合は、Zoom を使用する。

・授業の進め方の説明については、第1回ガイダンス（9月26日（火））でZoom で行います。Zoom アドレスは学習支援システム「HOPPII」で確認してください。この初回のみオンラインとなります。

・講義は、PowerPoint を用いながら講義形式で授業を進める。

・授業に関する質問等については、授業終了後あるいはオフィスアワーにて対応し、その場でフィードバックする。

・試験に関しては最終授業時あるいは学習支援システムにてフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の内容、進め方、学習方法などについて説明を行う。
第2回	医療保障（1）	医療関係法の法体系、医療受給権の特徴などについて説明する。
第3回	医療保障（2）	保険診療の仕組みを説明し、関連判例について考察する。
第4回	医療保障（3）	健康保険法の概要を説明し、関連判例について考察する。
第5回	医療保障（4）	国民健康保険法等の概要を説明し、関連判例について考察する。
第6回	年金保険（1）	年金法の法体系、概要、年金受給権の法構造、スライド制などについて説明する。
第7回	年金保険（2）	老齢年金と障害年金の概要を説明し、関連判例について考察する。
第8回	年金保険（3）	遺族年金の概要を説明し、関連判例について考察する。
第9回	年金保険（4）	年金分割制度等について説明する。
第10回	労災保険（1）	労災保険法の概要、同法で使用される諸概念について説明する。
第11回	労災保険（2）	業務災害給付について説明し、関連判例を考察する。
第12回	労災保険（3）	通勤災害給付について説明し、関連判例を考察する。
第13回	雇用保険（1）	求職者給付について説明し、関連判例を考察する。
第14回	雇用保険（2）	就職促進給付、教育訓練給付、雇用継続給付について説明し、関連判例を考察する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・事前に配布した「配布プリント」や「参考資料」を事前に一読のこと。
- ・課題プリントに解答すること（覚えるべきことが多いことによる措置）。
- ・本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は指定しない。プリント教材を使用する。

【参考書】

- ・東京都産業労働局「働く人のための労働保険 社会保険」(<http://www.hataraku.metro.tokyo.jp/sodan/siryo/index.html>)
- ・本沢己代子・新田秀樹編『トピック社会保障法（第17版）』（信山社、2023年4月刊行予定）
- ・菊池馨実『社会保障法【第3版】』（有斐閣、2022年）

【成績評価の方法と基準】

試験（80点）

- ・期末試験として1回実施。論述形式の問題（事例問題）を出題する。
- ・概ね到達目標に即した解答がなされている否かを、評価基準とする。

Web 小テスト（20点）

- ・講義ごとに実施する小テストの点数を20点満点に換算して評価します。
- ※新型コロナウイルス感染症の状況によっては、期末試験をレポート試験に変更する場合があります。

【学生の意見等からの気づき】

シラバス作成時点では学生からの意見はない。

【学生が準備すべき機器他】

- ・オンラインあるいはハイブックス授業（オンラインに参加する場合）の場合は、インターネットに接続できる環境とZoomを利用可能な端末。
- ・レジュメ等はPDFデータで提供するため、データを保存・表示可能な端末。

【その他の重要事項】

事前に社会保障法Ⅰを履修していることがのぞましい。

【Outline (in English)】

1. Course Outline

The objective of this course is to lecture on Japanese Social Insurance Law.

The outline is as follows:

- 1. Japanese Health Insurance Act;
- 2. Japanese Pension Insurance Law;
- 3. Japanese Unemployment Insurance Law.

2. Learning Objectives

By the end of the course, students should be able to do the followings:

- A. You will be able to explain the outline of the social insurance law (medical care law, pension law, labor accident insurance law, employment insurance law) among the social security laws.
- B. You will be able to persuasively discuss your own views on the legal issues of the social insurance law (medical care law, pension law, labor accident insurance law, employment insurance law) among the social security laws.
- C. With the knowledge acquired in A to B, you will be able to actively participate in the basic problems of social insurance law that are assumed in the real world with a legal mind.

3. Learning Activities Outside of Classroom

Lecture/Exercise (two-credits)

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

4. Grading Criteria/Policies

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

- a. Term-end examination: 80%
- b. Online quiz: 20%

LAW300AB

社会政策

藤木 貴史

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

単位数：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

（概要）私たちの社会では、多くの人が雇用されて労働し、賃金を得ることで生活しています。しかし、働くことだけが人生ではありません。働くこと以外にも「人間らしい豊かな生活」を送るためのサポートが必要です。社会政策は、それらを実現するための政策体系です。

「社会政策」の講義では、講義上の「社会政策」領域のうち、労使関係論を主たる対象とします。現代的な問題を考えるための前提として、日本とアメリカの雇用慣行がどのように出来上がってきたのか、歴史に沿った検討を行います。

法律学科の「企業・経営と法（労働法中心）」の中心科目であり、「行政・公共政策と法コース」の履修推奨科目です。また、「文化・社会と法コース」において、履修することが望ましいとされている科目でもあります。

〈目的〉この分野を学ぶねらいは、次の 2 点です。

- ①社会政策の体系的・専門的な知識を身につける
- ②社会政策について自主的に学習し、多角的観点から問題を分析する能力を身につける。

【到達目標】

到達目標は次の 2 点です。

- ①労使関係論をめぐる問題について、専門的な知識を理解することができる。
- ②労使関係論の形成史を理解し、多角的な観点から問題を分析することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」、「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

・第 1 回はオンライン授業です（法学部共通）

・第 2 回以降対面での講義を実施します。

・進度は学生の理解に応じて調整されることがあります。授業計画の変更については、学習支援システム等で必要に応じて提示します。確認を怠らないようお願いします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	講義の進め方、評価方法についての説明。
第 2 回	社会政策とは何か	社会政策論争／労使関係と日本的雇用慣行
第 3 回	労使関係の世界史	労使関係論の概観
第 4 回	労使関係の歴史（1）	19 世紀前半のアメリカの労働
第 5 回	労使関係の歴史（2）	19 世紀後半のアメリカの労働
第 6 回	労使関係の歴史（3）	20 世紀前半のアメリカの労働
第 7 回	労使関係の歴史（4）	20 世紀後半のアメリカの労働
第 8 回	労使関係の歴史（5）	21 世紀のアメリカの労働
第 9 回	日本的雇用と労使関係（1）	産業革命期の労働者と経営者
第 10 回	日本的雇用と労使関係（2）	戦間期における雇用制度
第 11 回	日本的雇用と労使関係（3）	戦時の労使関係と政府
第 12 回	日本的雇用と労使関係（4）	戦後の労使関係
第 13 回	日本的雇用と労使関係（5）	高度成長期以降の労使関係
第 14 回	授業全体のまとめ	労使関係論からの社会政策／雇用・福祉と社会政策

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・事前に配布した「配布プリント」や「参考資料」を事前に一読のこと。
- ・本授業の予習時間は各 1 時間を、復習時間は各 3 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

- ・野村達朗『アメリカ労働民衆の歴史』（ミネルヴァ書房、2013 年）
 - ・アンドルー・ゴードン『日本労使関係史 1853-2010』（岩波書店、2013 年）
- ※授業はレジュメの配布に沿って行います。

【参考書】

- ・濱口桂一郎『働き方改革の世界史』（ちくま新書、2020 年）
- ・山崎憲『働くこと』を問い直す』（岩波新書、2014 年）

【成績評価の方法と基準】

到達目標①の計測のために小テストを、到達目標②の計測のために期末テストを実施します。

・[小テスト] 3 割（穴埋め問題／選択式問題により、基礎的知識の定着度を測る）

・[期末テスト] 7 割（説明問題／事案問題により、社会政策の仕組みを説明できるかを測る）

【学生の意見等からの気づき】

新任のため、特になし。

【その他の重要事項】

【関連科目】

・労働組合法と併せて履修すると内容理解が深まります。

【授業を受ける姿勢】

- ・休まないで出席することは理解の前提となるので、その旨心がけてください。
- ・講義中は、適切にノートをとるなど、講義に集中することが求められます。
- ・ゲームや私事を見つけた場合には止めるよう注意をします。

【新型コロナウイルス対応】

・新型コロナウイルス感染症の状況に照らし、オンライン授業となる場合があります。

・対面授業においては、感染防止の観点から、①飲食を控え、②マスクを必ず着用してください。守れない場合には退室を命じざるを得ない場合があります。

【Outline (in English)】

Course outline

In our society, many people live by being employed, working, and earning wages. However, working is not the only part of life. In addition to working, we need support to live a "rich and humane life. Social policy is a system of policies to realize these goals.

In the "Social Policy" course, the main subject is the theory of labor-management relations in the area of "social policy" in academia. As a prerequisite for considering contemporary issues, we will examine how employment practices in Japan and the U.S. have developed over the course of history.

Learning Objectives

The two goals of the course are as follows.

(1) To understand the specialized knowledge of the issues surrounding labor-management relations theory.

(2) To be able to understand the history of the formation of labor-management relations theory and analyze the issues from multiple perspectives.

Learning activities outside of classroom

Students are required to read the handouts and reference materials distributed in advance.

Grading Criteria / Policy

A quiz will be given to measure the achievement goal (1), and a final exam will be given to measure the achievement goal (2).

Quiz: 30% (fill-in-the-blank questions/choice-type questions will be used to measure the level of retention of basic knowledge)

Final exam] 70% (to assess whether students can explain the mechanism of social policy by means of explanatory questions and case study questions)

LAW300AB

雇用・福祉政策

藤木 貴史

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

単位数：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

〈概要〉私たちの社会では、多くの人が雇用されて労働し、賃金を得ることで生活しています。しかし、働くことだけが人生ではありません。働くこと以外にも「人間らしい豊かな生活」を送るためのサポートが必要です。社会政策は、それらを実現するための政策体系です。

「雇用・福祉政策」の講義では、講学上の「社会政策」領域のうち、非正規労働の生活保障問題や、雇用や社会保障の交錯領域等の現代的な問題を対象とします。各問題について、現状の制度を確認したのち、政策的な対応について検討・解説を行います。

法学学科の「企業・経営と法（労働法中心）」の中心科目であり、「行政・公共政策と法コース」の履修推奨科目です。また、「文化・社会と法コース」において、履修することが望ましいとされている科目でもあります。

〈目的〉この分野を学ぶねらいは、次の 2 点です。

- ①社会政策の体系的・専門的な知識を身につける
- ②社会政策について自主的に学習し、多角的観点から問題を分析する能力を身につける

【到達目標】

到達目標は次の 2 点です。

- ①社会政策上の現代的問題について、専門的な知識を理解することができる。
- ②社会政策上の現代的問題を理解し、多角的な観点から問題を分析することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」、「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

- ・第 1 回はオンライン授業です（法学部共通）
- ・第 2 回以降対面での講義を実施します。
- ・進度は学生の理解に応じて調整されることがあります。授業計画の変更については、学習支援システム等で必要に応じて提示します。確認を怠らないようお願いいたします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	講義の進め方、評価方法説明。
第 2 回	非正規労働者と日本の雇用慣行	非正規労働者についての総論的説明
第 3 回	均衡・均等処遇問題の現状	非正規－正規間の均等・均衡処遇問題に関する現状の説明
第 4 回	均衡・均等処遇問題の課題	均等・均衡処遇問題に対する判例法理の展開を学ぶ
第 5 回	労働者派遣制度の現状	労働者派遣制度の制度枠組みについての説明
第 6 回	労働者派遣制度の課題	労働者派遣制度が直面する課題についての説明
第 7 回	労働市場政策の現状と課題	労働者が雇用を確保するための市場政策について説明
第 8 回	雇用保険制度の現状と課題	労働者が雇用されない場合の生活保障政策について説明
第 9 回	福祉国家と社会政策（1）	雇用政策と福祉政策の関係について学ぶ
第 10 回	福祉国家と社会政策（2）	福祉国家の類型について学ぶ
第 11 回	高齢者の社会保障の現状	高齢者向けの雇用政策を学ぶ
第 12 回	高齢者の社会保障の課題	高齢者向けの福祉政策を学ぶ
第 13 回	障害者の社会保障の現状	障害者向けの雇用政策を学ぶ
第 14 回	障害者の社会保障の課題	障害者向けの福祉政策を学ぶ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・事前に配布した「配布プリント」や「参考資料」を事前に一読のこと。
- ・本授業の予習時間は各 1 時間を、復習時間は各 3 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業はレジュメや板書を通じて行います

【参考書】

藤本茂ほか『ファーストステップ労働法』（エイデル研究所、2020 年）
本沢巳代子ほか『トピック社会保障法 [2023 第 17 版]』（信山社、2023 年）
田中拓道『福祉政治史』（勁草書房、2017 年）

【成績評価の方法と基準】

到達目標①の計測のために小テストを、到達目標②の計測のために期末テストを実施します。

・[小テスト] 3 割（穴埋め問題／選択式問題により、基礎的知識の定着度を測る）

・[期末テスト] 7 割（説明問題／事案問題により、労働法の仕組みを説明できるかを測る）

【学生の意見等からの気づき】

新規着任のため特になし

【学生が準備すべき機器他】

オンライン授業時に備えてパソコン等を準備しておいてください。

【その他の重要事項】

【関連科目】

「労働法総論」「労働契約法」「労働基準法」「労働組合法」に加え、「労働法特論」「社会保障法Ⅰ・Ⅱ」と併せて履修すると、理解が深まります。

【授業を受ける姿勢】

・休まないで出席することは理解の前提となるので、その旨心がけてください。

・講義中は、適切にノートをとるなど、講義に集中することが求められます。

・ゲームや私事を見つけた場合には止めるよう注意をします。

【新型コロナウイルス感染症対応】

・新型コロナウイルス感染症の状況に照らし、オンライン授業となる場合があります。

・対面授業においては、感染防止の観点から、①飲食を控え、②マスクを必ず着用してください。守れない場合には退室を命じざるを得ない場合があります。

【Outline (in English)】

Course outline

In our society, many people live by being employed, working, and earning wages. However, working is not the only part of life. In addition to working, we need support to live a "rich and humane life. Social policy is a system of policies to realize these goals.

In the "Employment and Welfare Policy" course, we will focus on contemporary issues such as livelihood security for irregular workers and the intersection of employment and social security, among other "social policy" areas in academia. For each issue, the current system will be reviewed, and then policy responses will be discussed and explained.

Learning Objectives

The objectives of the course are as follows

(1) To be able to understand the specialized knowledge of contemporary social policy issues.

(2) To be able to understand contemporary social policy issues and analyze them from multiple perspectives.

Learning activities outside of classroom

Students are required to read the handouts and reference materials distributed in advance.

Grading Criteria / Policy

A quiz will be given to measure achievement goal (1), and a final exam will be given to measure achievement goal (2).

Quiz: 30% (fill-in-the-blank questions/choice-type questions to measure the level of retention of basic knowledge)

Final exam] 70% (to determine whether students can explain the structure of labor law by means of explanatory questions and case study questions)

LAW200AB

国際法基礎理論

森田 章夫

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
単位数：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国際法は主として国家間関係を規律する法である。この授業では、国際社会において生じている事象を法的観点から理解するために国家に関する国際法の基本的な概念と実行を学ぶ。

法学部法律学科のコース制における位置づけとしては、この科目は「国際社会と法」コースに最も強く関連するが、「裁判と法」「行政・公共政策と法」および「企業・経営と法（商法中心）」「企業・経営と法（労働法中心）」の各コースにも配置されている。

グローバル化の進展が著しい今日においては、日本国内の法律専門家、公務員、企業に勤める者にも国際法の基本知識が求められる場合が増えており、それに対応するための素地を作ることも必要である。国際法という特定の分野についての科目であることはもちろんだが、同時に、国際法の特徴（国内法との相違）を理解することを通じて、そもそも法とは何か、社会の中でどのような意味を持っているかを考える契機を与えるという基礎的な側面も有する。

【到達目標】

国際法の総論分野を中心とする各事項（具体的には下記【授業計画】参照）について、国際社会の構造との関係を意識しながら理解し、概念や制度を説明できるようになること。

同時に、国際法の歴史的展開と現状を学ぶことを通じて、日々生起する国際問題を法的視点からどのように捉えるべきか自ら考えられるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に強く関連。

【授業の進め方と方法】

下記【授業計画】に示す項目について、授業計画に従って講義形式で進める。「国際法入門」で扱った内容を繰り返し説明することはないので、合わせて履修することを強く推奨する。

各回の授業計画、学習に必要な資料等、具体的な授業の方法その他は、授業中や学習支援システムで提示する。

課題等に対するフィードバックは、授業中での回答や学習支援システム掲示板を用いて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業計画の説明、参考文献紹介に関する説明
第 2 回	条約法（1）	条約の定義、締結
第 3 回	条約法（2）	条約の効力、解釈
第 4 回	条約法（3）	条約の留保
第 5 回	条約法（4）	条約の無効、終了
第 6 回	国家責任（1）	国家責任法の機能と歴史的展開
第 7 回	国家責任（2）	国家責任の発生要件
第 8 回	国家責任（3）	違法性阻却事由
第 9 回	国家責任（4）	救済、追及
第 10 回	国家責任（5）	国家責任の現代的問題
第 11 回	国家管轄権（1）	国家管轄権の基本的概念
第 12 回	国家管轄権（2）	国家管轄権の競合と抵触
第 13 回	国家管轄権（3）	国家管轄権の現代的問題
第 14 回	まとめ	全体の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の予習として、教科書の該当範囲を読んでおくことを推奨する。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

・『国際条約集 2023』（有斐閣）
・中谷和弘、植木俊哉、河野真理子、森田章夫、山本良『国際法〔第 4 版〕』（有斐閣、2021 年）

【参考書】

・『国際法判例百選〔第 3 版〕』（有斐閣、2021 年）
・小寺・岩沢・森田編著『講義国際法（第 2 版）』（有斐閣、2010 年）
・浅田正彦編『国際法〔第 5 版〕』（東信堂、2022 年）
その他は、開講時に指示する。

【成績評価の方法と基準】

学期末の筆記試験による（100％）。

【学生の意見等からの気づき】

積極的な質疑を歓迎します。

【学生が準備すべき機器他】

資料は学習支援システムを通じて配布する場合があります。

【Outline (in English)】

In this lecture, basic concepts of public international law, such as "sources of international law", "subjects of international law" and so on, will be dealt with. Today, globalization of international society is getting more and more irreversible.

As a result, not only lawyers, but also civil servants and employees at private corporation are required to have basic understanding of public international law. It would be appreciated if this lecture could contribute something special to the understanding of public international law, for those people who are interested in contemporary issues in international society.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend 2 hours to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination: 100%

LAW300AB

国際空間法

田中 佐代子

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

単位数：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国家領域以外の空間に関する国際法について学ぶ。法学部法律学科のコース制における位置づけとしては「国際社会と法コース」に最も強く関係する。同時に、この科目は「裁判と法」「行政・公共政策と法」および「企業・経営と法（商法中心）」「企業・経営と法（労働法中心）」の各コースにも属している。

グローバル化の進展が著しい今日においては、日本国内の法律専門家、公務員、企業に勤める者にも国際法の基本知識が求められる局面が増えており、それに対応するための素地を作ることも目指している。国際法という特定の分野について深める科目であることはもちろんだが、同時に、国際法の特徴（国内法との相違）を理解することを通じて、そもそも法とは何か、社会の中でどのような意味を持っているかを考える契機を与えるという基礎的な側面も有する。

【到達目標】

国家領域以外の空間に関わる国際法の規律を理解する。また、本分野における国際法上の諸制度の歴史的展開と現状を学ぶことを通じて、日々生起する国際問題を法的視点からどのように捉えるべきかを自ら考えられるようになることも目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

授業は、教員からの講義だけでなく、受講生とのやりとりをまじえながら、進める。

学生に対するフィードバックは、授業中のコメント等により行う。授業時間中以外の質問については、学習支援システム上で対応する。授業方法等についてはより具体的な指示は、学習支援システム上で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	本分野を学ぶ意義、参考文献紹介
第 2 回	海洋法（1）	海洋法の歴史的展開と全体像
第 3 回	海洋法（2）	海域の具体的制度（基線、内水、領海、国際海峡）
第 4 回	海洋法（3）	海域の具体的制度（排他的経済水域、大陸棚）
第 5 回	海洋法（4）	海域の具体的制度（公海、深海底）
第 6 回	海洋法（5）	海洋環境、海洋科学的調査
第 7 回	海洋法（6）	紛争解決
第 8 回	授業前半のまとめ	授業前半の復習・質疑応答
第 9 回	授業後半の総説	国家領域以外の空間（海洋を除く）の制度の概観
第 10 回	空域	領空、国際空域、航空犯罪等
第 11 回	宇宙（1）	宇宙空間の法的地位
第 12 回	宇宙（2）	宇宙活動に対する責任と管轄権等
第 13 回	国際化地域	南極等
第 14 回	授業全体のまとめ	授業全体についての復習・質疑応答

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学習支援システム上の教材を予習すること。

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする（ただし、これはあくまで一般的な標準の時間を示したものにすぎず、各回の内容等により大きく異なることがある）。

【テキスト（教科書）】

『国際条約集』（有斐閣）。（ここ数年のものであれば、最新年度版でなくても構わない。）

玉田大・水島朋則・山田卓平『国際法〔第 2 版〕』（有斐閣）。

柳原正治・森川幸一・兼原敦子編『プラクティス国際法講義〔第 4 版〕』（信山社）。

浅田正彦編著『国際法〔第 5 版〕』（東信堂）。

テキストの使用方法については初回授業で説明するので、その確認後に購入することを推奨する。

【参考書】

開講時に指示する。

【成績評価の方法と基準】

期末試験（60％）。平常点（リアクションペーパーおよび授業内の議論への参加）（40％）。

詳細な成績評価方法・基準は、授業内で説明するとともに学習支援システム上で提示する。

【学生の意見等からの気づき】

大学では、どのような形態の授業であれ、与えられるのを待つのではなく、自ら学ぶ姿勢が重要であることを、学生に改めて理解してもらえるようにしたい。その上で、受講生からの質問等には、引き続き丁寧に対応していきたい。

【Outline (in English)】

【Course outline and Learning Objectives】 This course provides students with a basic understanding of international law regulating areas and spaces other than territories attributed to States, such as the sea, air and outer space, and the Antarctic.

【Learning activities outside of classroom】 Students are expected to read the assignment before each class.

【Grading Criteria / Policy】 Grading is based on the term-end examination (60%) and the in-class contribution (40%).

LAW300AB

国際安全保障法

田中 佐代子

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

単位数：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国際社会における暴力の規制は、国際法にとって一貫して（しかし問題の諸相を変化させつつ）重要な課題であり続けている。この授業では、紛争の平和的解決および武力の規制に関わる国際法について学ぶ。法学部法律学科のコース制における位置づけとしては「国際社会と法コース」に最も強く関係する。同時に、この科目は「裁判と法」「行政・公共政策と法」および「企業・経営と法（商法中心）」「企業・経営と法（労働法中心）」の各コースにも属している。グローバル化の進展が著しい今日においては、日本国内の法律専門家、公務員、企業に勤める者にも国際法の基本知識が求められる局面が増えており、それに対応するための素地を作ることも目指している。国際法という特定の分野について深める科目であることはもちろんだが、同時に、国際法の特徴（国内法との相違）を理解することを通じて、そもそも法とは何か、社会の中でどのような意味を持っているかを考える契機を与えるという基礎的な側面も有する。

【到達目標】

紛争の平和的解決、国際社会の平和と安全の維持に関わる国際法について理解することが目標となる。同時に、本分野における国際法の歴史的展開と今日の実態を学ぶことを通じて、日々生起する国際問題を法的視点からどのように捉えるべきかを自ら考えられるようになることも目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

授業は、教員からの講義だけでなく、受講生とのやりとりをまじえながら、進める。

学生に対するフィードバックは、授業中のコメント等により行う。授業時間中以外の質問については、学習支援システム上で対応する。授業方法等についてより具体的な指示は、学習支援システム上で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	本分野を学ぶ意義、参考文献紹介
第 2 回	紛争の平和的解決 (1)	総論的検討
第 3 回	紛争の平和的解決 (2)	非裁判的手続
第 4 回	紛争の平和的解決 (3)	裁判的手続
第 5 回	武力行使禁止 (1)	武力行使の制限・禁止の歴史的展開
第 6 回	武力行使禁止 (2)	武力不行使原則の射程
第 7 回	集団安全保障	国連の集団安全保障体制等
第 8 回	国連平和維持活動 (PKO)	PKO の意義と問題点、歴史的変遷
第 9 回	自衛権 (1)	個別的自衛権
第 10 回	自衛権 (2)	集団的自衛権
第 11 回	自衛権以外の武力行使 正当化の主張	在外自国民保護、人道的干渉
第 12 回	武力紛争法	交戦法規
第 13 回	武力紛争非当事国の法 的地位	「中立」の問題

第 14 回 軍備管理、軍縮 軍備管理、軍縮

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学習支援システム上の教材を予習すること。

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする（ただし、これはあくまで一般的な標準の時間を示したものにすぎず、各回の内容等により大きく異なることがある）。

【テキスト（教科書）】

『国際条約集』（有斐閣）。（ここ数年のものであれば、最新年度版でなくても構わない。）

玉田大・水島朋則・山田卓平『国際法〔第 2 版〕』（有斐閣）。

柳原正治・森川幸一・兼原敦子編『プラクティス国際法講義〔第 4 版〕』（信山社）。

浅田正彦編著『国際法〔第 5 版〕』（東信堂）。

テキストの使用方法については初回授業で説明するので、その確認後に購入することを推奨する。

【参考書】

開講時に指示する。

【成績評価の方法と基準】

期末試験（60％）。平常点（リアクションペーパーおよび授業内の議論への参加）（40％）。

詳細な成績評価方法・基準は、授業内で説明するとともに学習支援システム上で提示する。

【学生の意見等からの気づき】

大学では、どのような形態の授業であれ、与えられるのを待つのではなく、自ら学ぶ姿勢が重要であることを、学生に改めて理解してもらえようになりたい。その上で、受講生からの質問等には、引き続き丁寧に対応していきたい。

【Outline (in English)】

【Course outline and Learning Objectives】 This course explores the international law relating to the settlement of disputes, armed conflicts, and the threat and use of force.

【Learning activities outside of classroom】 Students are expected to read the assignment before each class.

【Grading Criteria / Policy】 Grading is based on the term-end examination (60%) and the in-class contribution (40%).

LAW300AB

国際人権法

佐々木 亮、建石 真公子

授業形式：講義 | 開講セメスター：年間授業/Yearly
 単位数：4 単位

その他属性：〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国際人権規約、ヨーロッパ人権条約、子どもの権利条約等の人権条約によって人権を保護する国際人権法について、国際人権法の誕生の歴史や各人権条約の仕組みや国内適用にあたっての憲法上の課題について学ぶ。

実際に国際人権法がどのような人権保障を行っているか、国際的および国内的な解釈や判例を通じて現状を理解する。

【到達目標】

- ①国家を越えて、人権を国際社会が国際機関や人権条約で保障することの意義及びそのための仕組みを理解する。
- ②国際人権法の国内実施制度について理解する。多様な人権の内容について理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

春学期に、国際人権法の概要や国際的人権保障制度を中心に学んだ後、秋学期に、人権条約の国内適用の現状を国内法や判例を通じて学ぶ。

春学期は教室での対面授業を基本とし、必要に応じて Zoom を使用してオンラインで実施する。秋学期は Zoom を使用してオンラインで実施する。

教材は、レジュメ配布、また PPT を使用する。Zoom の URL およびレジュメについては、前日に配付・通知する。

質問は、授業の際に、または Hoppi の掲示板に書いてください。なるべく 1 週間以内にお返事します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	導入・国際人権法を学ぶ意義	国際人権法の枠組で扱う問題、国際人権法を学ぶ意義や学び方を概観する。
2	国際人権法の思想的基礎と法源	国際人権法の発展と形成の歴史をたどり、その根底にある哲学的基礎と国際人権保障の根拠となる法規範について学ぶ。
3	人権基準の発展と人権の分類（1）：第1・第2・第3世代の人権	国際人権法によって保障されている「人権」とはどのようなものなのか、その歴史的発展を踏まえながら理解する。
4	人権基準の発展と人権の分類（2）：非差別・平等と合理的配慮	社会的弱者を含む全ての人の基本的権利を保護するための法としての国際人権法の基本原則、及び、主要な人権条約によって保障されている権利と、それら諸権利の法的性格を検討する。
5	国家の人権保護・促進義務	国際人権法を遵守するために、国家はどのような義務を履行しなければならないのかを検討する。
6	国連の主要人権条約を通じた国際人権法の実施	世界レベルの主要な人権条約の履行監視制度について検討する。

7	国連人権理事会による国際人権法の実施	国連人権理事会の活動と人権保障におけるその意義、人権条約との異同を検討する。
8	地域的人権保障制度	国際人権保障における地域的国際機構の役割とその意義について検討する。
9	国際人権法の調査とその情報源	国際人権法の実態についてより詳しく調べるために有用な情報源の使い方について学ぶ。
10	公共政策への人権基準の反映と人権擁護者	人権侵害の防止や被害者の救済のために、国際人権法をどのように活用し得るのかを検討する。
11	地球規模課題と国際人権法	地球規模課題としての気候変動に起因する人権侵害の事例を検討し、持続可能な社会の実現のために、国際人権法がいかなる意義を有するかを考察する。
12	人権の普遍性と文化多様性	「国際人権基準と両立しない文化的慣行を維持することも人権なのか」という問いについて考えながら、国際人権法及び人権の普遍的性格を再問する。
13	国家の保護を受けられない人々の人権：難民・国内避難民	国家による人権保障の枠組から排除された存在としての「難民」に注目し、国際的な難民保護の仕組みや日本の難民認定制度の問題点を検討する。
14	武力紛争下での人権保護と平和に対する権利	武力紛争の下で生じる人権侵害を防止するための法的な枠組と、平和のうちに生きることの人権としての性格を検討する。
15	イントロダクション なぜ国内の人権保護に国際人権法が必要か	秋学期の内容の紹介 映画「ニュルンベルグ裁判」（抜粋）を視聴し、国際人権法の登場した背景について考える。
16	憲法と国際法- 国内における国際人権法の法規範の性質とは	憲法と国際法の関係が、時代によって変遷してきた事について、比較法の観点もまじえて学ぶ
17	国内裁判所における人権条約の適用- 国内人権との架橋	国内法制度（立法、行政、司法）において、人権条約をどのように実施するのにかに関する実践と解釈の両面から学ぶ
18	女性差別撤廃条約と日本における女性の人権保護（1） なぜ、女性の人権が問題となるのか- 公的生活と労働	日本における女性の人権の現状について理解し、女性差別撤廃条約の観点からどのような保障が可能かを考える
19	女性差別撤廃条約と日本における女性の人権保護（2） - 家族および私生活	歴史的に女性は公的な生活- 政治や労働- に参画する権利が制約され、私的な空間のみで生きてきたが、家族や婚姻においても、家制度の下で女性の権利は非常に制約されてきた。現在でもその影響は残っているが、人権条約によってどのような改善が可能かを学ぶ。
20	子どもの権利条約と日本の子どもの権利の現状と課題（1）	子どもの権利条約の内容及び国内適用の問題を考える。児童虐待、貧困、施設収容、学校などに関して、子どもの権利をどのように保護しうるかを考える。
21	子どもの権利と親の権利の交錯	子奪取条約（ハーグ条約）について学び、子どもの最善の利益について考える。また共同親権について考える。
22	私生活の尊重と国際人権法および憲法 13 条、24 条。	ヨーロッパ人権条約では「私生活及び家族生活の尊重」が規定されている。日本の法制度では馴染みのないこれらの権利について学び、憲法 13 条及び 24 条の解釈との関連を考える。

- 23 生殖医療と国際人権法 日本では生殖医療のあり方を定める法が存在しない。そのため、日本では認められていないか明確ではない生殖医療-代理懐胎や受精卵の提供など-に関しては、外国で実施する人々もいる。しかし、生殖医療は、人の生命や胚の価値に関わる重要なものであることから、国際的な基準の可能性について考える。
- 24 LGBT と国際人権法-ヨーロッパ人権裁判所判決を例に。 LGBT の権利保護は、国によって大きく異なる。婚姻までは全面的に認めている EU 諸国から、同性愛関係を死刑とするイスラム諸国まで、その保護の状況は多様である。国際人権法における LGBT の権利保護を学び、日本における権利保護の可能性を考える。
- 25 人種差別撤廃条約とヘイトスピーチ：京都地裁と大阪高裁の判決、川崎市人権条例などを例に考える 人種差別撤廃条約が加盟国においてどのように適用されているか。また現在の国際社会における人種差別の撤廃の直面する課題について学ぶ禁止委員会は、我が国に対してどのような勧告を行っているかを理解し、その実現に向けた問題と課題を検討する。
- 26 障がい者の権利と国際人権法 障がい者権利条約の意義を考える。日本における同条約の適用の現状を踏まえ、障がい者の権利保護の改善に衝いて考える。
- 27 感染症 (Covid-19) と国際人権法-生命権、健康権を中心に。 Covid-19 は、国際的な広がりを持つ感染症 (パンデミック) のため、その対処については WHO などの国際的な統制が必要となる。日本の対応を踏まえつつ、国際的な感染症対策の観点からどのような人権保護が必要かを考える。
- 28 安全保障をめぐる国際人権法と憲法-国際刑事裁判所と国連「平和への権利」宣言 安全保障は、一国の主権の権限であるが、しかし、第二次世界大戦後には、平和への権利を初め、人権保護の観点から各国の武力行使は原則として禁止されている。国際的な安全保障制度と、日本の憲法 9 条との関係を考える。また国際刑事裁判所の仕組みを学ぶ。

Learn about international human rights law that protects human rights through human rights treaties such as the International Covenant on Human Rights, the European Convention on Human Rights, and the Convention on the Rights of the Child. .

< Learning Objectives >

Understand the current state and problem of international human rights law through interpretations and precedents.

< Learning activities outside of classroom >

Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.

< Grading Criteria /Policy >

Grading will be decided based on reports at the end of each semesters (100%).

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

事前に配布レジュメを読んで疑問点を明らかにしておく。

本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

毎回レジュメを配付します。

【参考書】

戸波ほか編著『ヨーロッパ人権裁判所の判例 I』信山社、2008 年、
「ヨーロッパ人権裁判所の判例 II」信山社、2019 年。

山下泰子ほか編『コンメンタール 女性差別撤廃条約』尚学社、2010 年。
国際法、憲法のテキスト。

【成績評価の方法と基準】

期末にレポート (前期と後期) (100 %)

【学生の意見等からの気づき】

映画や DVD による授業の希望があったので試みたい。

【学生が準備すべき機器他】

パソコン

【Outline (in English)】

< Course outline >

LAW300AB

国際経済法

猪瀬 貴道

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

単位数：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国際経済活動のうち貿易および投資を規律する法制度（国際（公）法的分野）を中心に上げて基本原則について学び、どのような特色があり、どのように機能しているか理解する。国際経済活動における法的課題について解決を考える。この科目は「企業・経営と法（商法中心）コース」と「国際社会と法コース」に属している。

【到達目標】

貿易および投資を中心とする国際経済活動に関する法的規律の基本構造（基本的考え方（原理）、原則と例外）について基礎的な知識を修得する。

国際経済活動から生じる問題や紛争の処理の実際について、先例から基本的な判断枠組を理解して適切に説明ができる。具体的な例として「WTO の基本原則と例外の関係」「WTO における貿易救済措置」「投資条約に基づく投資家＝国家間紛争処理」「国際経済法と国家の規制権限」などについて関連条約の条文や事例などに基づいて適切に説明でき、その課題について指摘できる。

（発展的目標）国際経済法と「途上国の開発・発展」「人権の保障」「環境の保護」などを規律する法規範との調整方法について考えて適切な意見を持てる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

貿易・投資・金融・商取引などの国際経済活動のうち、貿易分野の法的規律（世界貿易機関 WTO を中心とする）および投資分野の法的規律（二国間投資条約 BIT、自由貿易協定 FTA、経済連携協定 EPA および投資紛争解決国際センター ICSID）について取り上げる。原則として講義方式で実施し、関連条約の条文および事例を参照しながら基本構造について教員が解説する。教科書を指定するが、授業計画は教科書の章立てとは若干異なるので、各授業回において適宜参照箇所は指示する。

受講人数等に応じて、授業における口頭質疑（少人数の場合）または授業後のリアクションペーパー・理解度チェックの小テスト（Hoppii 等を活用）によって理解状況を確認する。フィードバックは原則として授業での解説に取り入れる形で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	科目全体で取り上げる内容、授業の進め方と注意事項の確認をシラバスを参照しながら行う。
2	国際経済法の基本枠組	国際経済活動の範囲とその法的規制について整理して、その規律原理と規律対象を概説する。
3	国際貿易の法制度	国際貿易を規律する WTO の組織と機能について、紛争解決を含めて概要と特徴を取り上げる。
4	WTO の基本原則	WTO の基本原則である無差別原則と自由化原則について条文や事例を参照しながら解説する。
5	WTO における例外	WTO の基本原則の例外として規定されるルールについてその内容や意義を整理する。

6	WTO における貿易救済措置	貿易救済措置として認められているセーフガード、アンチダンピング、補助金・相殺措置について概説する。
7	物品貿易以外の諸協定	農業貿易、サービス貿易、知的財産権関連についての WTO の規律を概説する。
8	多数国間制度と地域経済統合、二国間制度	多角的自由貿易体制を原則とする WTO の限界、国際経済における地域主義の位置づけについて検討する。
9	国際投資の法制度	私人による国境を超える経済活動の一形態である外国直接投資の規律について概説する。
10	投資条約制度の基本枠組	投資条約による外国投資の規律の基本枠組について条文や事例を参照しながら整理する。
11	投資条約における紛争処理手続	投資家と国家との間の投資紛争の処理方法の概要と特徴を取り上げる。
12	国際経済法と他分野その 1	国際経済法の規律原理と経済開発、環境保護の間に生じる問題を概説する。
13	国際経済法と他分野その 2	国際経済法の規律原理と人権保障や個人の権利保護との間に生じる問題を概説する。
14	国際経済法の課題	国際経済法の課題について考えるとともに講義全体のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各自が、到達目標の達成に必要なと考える内容の授業時間外の学習を行う必要がある。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。準備学習の例としては、教科書・参考書・参考資料の関連分野に目を通してわからない部分を把握する。復習の例としては、教科書、配布資料と自分で作成したノートを見直し整理する。その他、授業において個別の課題を指示する場合がある。

【テキスト（教科書）】

小林友彦・飯野文・小寺智史・福永有夏『WTO・FTA 法入門：グローバル経済のルールを学ぶ』（第 2 版）法律文化社（2020 年）

【参考書】

中川淳司・清水章雄・平寛・間宮勇『国際経済法』（第 3 版）有斐閣（2019 年）

柳赫秀（編集）『講義 国際経済法』東信堂（2018 年）

小寺彰（編著）『国際投資協定』三省堂（2010 年）

松下満雄・中川淳司・清水章雄（編）『ケースブック WTO 法』有斐閣（2009 年）

小寺彰・中川淳司（編）『基本経済条約集』（第 2 版）有斐閣（2014 年）

経済産業省通商政策局編『不公正貿易報告書』（経済産業省 https://www.meti.go.jp/policy/trade_policy/wto/3_dispute_settlement/32_wto_rules_and_compliance_report/321_past_report/compliance_report.html）

その他の資料は授業の際に紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業への能動的な参加・各授業回のリアクションペーパー・理解度チェックの小テスト（20～30%）、期末試験（上記の到達目標に示した具体的な例に関する論述型筆記試験またはレポート課題）（70～80%）により評価する。

期末試験（論述型筆記試験またはレポート課題）の評価基準は、出題の意図を正しく捉えて、正確な知識に基づいて論理的に私見を述べているもの（単なる意見や感想は不可）を基本点として、論じている視点・論点の豊富さ、記述内容の正確さ、論拠の説得力、他の法制度との比較の巧みさなどにより加点し、文章の稚拙さ、余計な表現・表記や誤字・脱字などは減点する。

【学生の意見等からの気づき】

具体的事例を取り上げて、法規範の理解を深める内容にする予定である。大枠は、上記授業計画に則って行うが、受講者数、受講者の希望等に応じて調整する。また、本科目の対象はルール形成の途上にあることから知識だけではなく基本的な考え方の修得について重視する。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システム（Hoppii）などを活用して関連資料について指示や課題管理を行う。対応した情報機器（PC、タブレット等）および通信環境をできるだけ準備してほしい。

【Outline (in English)】

This course focuses on the international law (public international law) governing international economic activities, especially international trade, and investment. I will lecture on fundamental knowledge. We will discuss what the basic principles are and how they work. We consider solutions to legal issues in international economic activities. This course belongs to the "Corporate, Management, and Law (Commercial Law)" and "International Society and Law" courses.

Students will be expected to study preparation and review for 4 hours for each class meeting. Example of preparation: to read the relevant chapter(s) from the text. Example of review: review the textbook, handouts, and your notes.

The final grade will be calculated according to the following process, 2 or 3 times mini-test(on LMS) (20-30%), term-end report (70-80%), and in-class contribution (comments on each class meeting, etc. Points-adding element).

LAW200AB

日本法制史 I

川口 由彦

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

単位数：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この科目は、法律学科の「文化・社会と法」コースにおかれている。また、「裁判と法」「行政・公共政策と法」「企業・経営と法（商法中心）/（労働法中心）」の各コースでも履修が推奨されている。法を理解するためには、公法・私法、刑事法・民事法など諸分野の法の相違を認識することが必要である。この認識には、解釈論的理解と並んで法制史的理解も必要となる。平面的ではなく、立体的に法を学ぶ機会を提供するのが、法制史である。

【到達目標】

現代日本法は、制定法を主体とし、六法典を中心に据えるという形態をとっている。しかし、このようなあり方は、必ずしも近代法一般の態様ではない。近代国家の下でも、判例法を主体とする国もあるし、法典主義の国でも法典の数が異なることはよくあるからである。

なぜ、日本の近代法はこのような姿なのか、それはどのような経緯を経てそうなったのかを理解するのがこの授業の目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」、「DP3」に強く関連。

【授業の進め方と方法】

人類社会は、生まれたときから何らかのルールをもってきた。それは、形態、内容、実質、執行システム等いずれも多様なものである。

法といわれているものは、こうしたルールの中のあるグループのことなのだが、こうしたグループは、歴史上発生を見た社会もあれば、発生しなかった社会もある。日本社会は、幸か不幸か、この法というグループをもつにいたった社会である。

しかし、そうはいつても、この法という社会規範は、国により民族により、時代によりきわめて多様で、簡単に一般論を語らせてくれない難物である。

この難物を扱うには、いろいろな方法があるが、各時代の人々から「法」と呼ばれたものをピックアップして相互に比較し、そのうえで、おのおのの特徴を捉えるというのは有効なアプローチの方法である。法史学という学問の意義も一つには、そのあたりにある。

講義では、明治以降の、通常「近代法」と呼ばれる「法」のあり方を座標軸とした、今日の法の特徴を考えてみたい。

現代日本法は、ほとんどが明治期に作られたものである。試みに六法をみてみよう。すると、民法の制定年は明治 29 年（1896 年）となっていて 19 世紀の産物であることがわかる。商法も明治 32 年（1899 年）と 19 世紀の産物である。刑法は、明治 40 年（1907 年）制定だから、何とか 20 世紀の所産といえるが、いずれにせよ明治時代の産物で、しかも、この刑法は、明治 13 年（1880 年）に制定された刑法（旧刑法）の条文をかなりひきずっているから、やはり、歴史ある法典といえる。日本の法典には、一世紀以上の長い歴史があるのである。

このような法は、一体どのようにして、どのような考え方の下でつくられたのか。考えてみれば、これら諸法典は、封建領主支配が解体してから、ほんのわずかの年数を経て外国法を摂取しつつつくられているのだから、その営為たるや驚異的といえる。

この急速な法の形成は、当然ながら、江戸時代にみられた法との「断絶」を生み出した。この「断絶」には、封建法から近代法への変化という他国にも共通してみられるものと、日本的なものから西欧的なものへの変容という二様のものがある。

しかも、こうした「近代法」の形成は、一概に既存の法との「断絶」のみとは特徴づけられず、すぐれて日本的なもの・東アジア的なものの継承という要素を多分に残したものであった。

講義では、このような諸契機、諸要素が、どのように絡み合っているかに焦点をあてつつ、日本の「近代法」の形成過程を考察したい。

講義では、単元が終わる都度、質問を募り、それに回答する。また、授業支援システム上でも質問を募り、講義時間内に回答する。また、最終授業で、質問内容を含めた履修者の授業理解について講評を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	講義の進め方・試験等についての説明
第 2 回	日本近代法史概観	時期区分について
第 3 回	19 世紀近代法とは何か	伝統ヨーロッパの「市民社会」と法
第 4 回	19 世紀のイギリス近代法	判例法主義の歴史的事実
第 5 回	19 世紀のフランス・ドイツ近代法	法典主義の歴史的事実
第 6 回	固有名詞としての「雑新法」	明治初期の法的混乱
第 7 回	律型法典と西欧型法典 1	criminal からの civil の分離・独立
第 8 回	律型法典と西欧型法典 2	東洋型罪刑法定主義と西欧型罪刑法定主義
第 9 回	律型法典と西欧型法典 3	教育刑と応報刑－その歴史的文脈
第 10 回	近代法の形成 1	太政官制と内閣制
第 11 回	近代法の形成 2	「統治権」と「主権」
第 12 回	近代法の形成 3	ボアソナードと旧民法
第 13 回	近代法の形成 4	法典論争－大分裂の謎
第 14 回	近代法の形成 5	法典調査会と明治民法

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書、参考書を読んでくること。
本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

川口由彦『日本近代法制史 第 2 版』（新世社）

【参考書】

高谷知佳・小石川裕介編著『日本法史から何がみえるか』（有斐閣）

【成績評価の方法と基準】

論述式筆記試験 100 %（テキスト・講義内容より出題。持ち込み不可。）

教室で試験が出来ない場合は、期末レポートにより評価する。

【学生の意見等からの気づき】

学生によって歴史知識の有無がかなり異なることがわかってきたので、この点に留意したい。

【Outline (in English)】

It is necessary to recognize difference in legal fields - public law/ private law,criminal law/civil law- to understand law. Also it is necessary to understand legal history besides law interpretation. It is legal history to provide the opportunity to learn jurisprudence not superficially but three-dimensionally.

At the end of the course, participants are expected to understand how japanese legal system has been formed.

In this lesson, the corresponding section of a textbook is read out and those contents are explained in detail after that. The participant has to read a textbook and a reference book. A participant needs to spend 2 hours, respectively for preparation and review of this lesson.

Results are decided by a written examination. An exam questions is an essay type.

LAW200AB

日本法制史Ⅱ

川口 由彦

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

単位数：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この科目は、法律学科の「文化・社会と法」コースにおかれている。また、「裁判と法」「行政と公共政策と法」「企業・経営と法（商法中心）/（労働法中心）」の各コースでも履修が推奨されている。法を理解するためには、公法・私法、刑事法・民事法など諸分野の法の相違を認識することが必要である。この認識には、解釈論的理解と並んで法制史的理解も必要となる。平面的ではなく、立体的に法を学ぶ機会を提供するのが、法制史である。

【到達目標】

制定法主義を最も特徴的に表現する六法が成立する頃、日本社会は急速に変化の様相を呈していく。この時期は、行政・軍事官僚システムや司法官僚システムが自律性を高めていく時期で、明治末から大正にかけて重大な法的变化が生じるようになる。

司法・行政・立法の連携構造や公法・私法関係の変容を理解し、法を立体的にとらえられるようにすることが授業の目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」、「DP3」に強く関連。

【授業の進め方と方法】

日本法制史Ⅰでは、明治期に六法典を中心とする日本近代法が成立する過程を述べた。

これらの法の作成に際して参照された外国法は、フランス、ドイツ、イタリア、イギリス、アメリカ、オランダ、ベルギー等多岐にわたるが、これらの様々な外国法は、日本人法律家の手によって吟味され、選択的に輸入されたものであった。

この選択のあり方を規定したのが、当時の日本がおかれた国際的位置（不平等条約改正のための西欧型法典の速やかな作成）と、国内の規範状況であった。国内の規範状況とは、江戸時代に形成された国家と社会の関係、及び広範に日本社会を覆った慣習規範と西欧的規範の接合・すりあわせのあり方に他ならない。

このように形成された規範構造は、明治末から早くも再編成され、大正・昭和期に大きな変更を加えられることとなる。

日露戦争を契機に、都市商工業に富を吸いあげられた農村の疲弊が顕著となり、その救済が特別法により行われるようになっていく。また、ネーションステイツ化が強調され、これに応じて、教育・社会事業等の分野に新たな立法が展開されることとなるのである。現代法の中で肥大化してあらわれる福祉法制や教育法制の原像がここに垣間見られる。

政治的にも、明治天皇の死によって憲法システムは動揺をきたし、新たな国家機構の構築が模索されていった。

明治憲法体制は、本来、法的装置と法外的装置の組み合わせによって機能するようになっていたが、「天皇の意思」がシステム上大きな後退をみるとともに、特別法による憲法機構の再構築という新たな展開がみられるようになるのである。

また、社会的矛盾が拡大し、都市市民運動、労働運動、借地借家運動、小作運動などが広く見られるようになり、これに応じて言論規制は後退する。これら社会運動の展開に対応するため、調停法の制定や選挙法の改正、治安政策の再編成が行われ、社会的主張が大幅に国家法の世界に流れ込むこととなった。もっとも、これは、同時に国家的統合の触手がより深く社会の底部に及ぶことを意味していた。

この時期には、給与生活者世帯や単身者世帯が増加し、「他人」同士の社会的接触の程度が高まって、「家族」をめぐる法は大きな変動の中におかれる。民法制定当初から不安定だった「家」秩序は、決定的な解体過程に入り、民法・家族法の改正論が展開することとなり、これが、第二次大戦後の「家」制度解体につながるのである。

このような変化の様相を考察し、今日の法構造に直接接続する史的文脈を描出する。

講義では、単元が終わる都度、質問を募り、それに回答する。また、授業支援システム上でも質問を募り、講義時間内に回答する。また、最終授業で、質問内容を含めた履修者の授業理解について講評を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	講義の進め方、試験等についての説明
第2回	明治期近代法史概観	法典体制の成立
第3回	明治天皇と法1	和協の詔勅と大臣罷免
第4回	明治天皇と法2	対外戦争と大元帥
第5回	明治天皇と法3	軍令の成立
第6回	明治天皇と法4	伊藤博文・梅謙次郎と植民地法制
第7回	刑法大改正	明治40年刑法の成立
第8回	大正天皇と法1	天皇機関説の行方
第9回	大正天皇と法2	国家・天皇・政党
第10回	大正天皇と法3	宮中某重大事件
第11回	選挙法と治安対策	「普通選挙」と治安維持法による国家・社会システムの再編
第12回	法の「民衆化」	各種調停法と陪審法の制定
第13回	昭和天皇と法1	内閣瓦解
第14回	昭和天皇と法2	軍縮と軍部

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書、参考書を読んでくること。

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

川口由彦『日本近代法制史 第2版』（新世社）

【参考書】

高谷知佳・小石川裕介編著『日本法史から何がみえるか』（有斐閣）

【成績評価の方法と基準】

論述式筆記試験 100%（テキスト・講義内容から出題。持ち込み不可。）

教室で試験が出来ない場合は、期末レポートにより評価する。

【学生の意見等からの気づき】

学生によって歴史知識の有無がかなり異なることがわかってきたので、この点に留意したい。

【Outline (in English)】

It is necessary to recognize difference in legal fields - public law/ private law, criminal law/civil law- to understand law. Also it is necessary to understand legal history besides law interpretation. It is legal history to provide the opportunity to learn jurisprudence not superficially but three-dimensionally. At the end of the course, participants are expected to understand how Japanese legal system has been formed.

In this lesson, the corresponding section of a textbook is read out and those contents are explained in detail after that. The participant has to read a textbook and a reference book. A participant needs to spend 2 hours, respectively for preparation and review of this lesson.

Results are decided by a written examination. An exam questions is an essay type.

LAW300AB

日本法制史Ⅲ

川口 由彦

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

単位数：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この科目は、法律学科の「文化・社会と法」コースにおかれている。また、「裁判と法」「行政・公共政策と法」「企業・経営と法（商法中心）/（労働法中心）」の各コースでも履修が推奨されている。法を理解するためには、公法・私法、刑事法・民事法など諸分野の法の相違を認識することが必要である。この認識には、解釈論的理解と並んで法制史的理解も必要となる。平面的ではなく、立体的に法を学ぶ機会を提供するのが、法制史である。

【到達目標】

日本の近代法が作成されていく過程で近代法とは何かを示唆するような事件がいくつも起きた。日本国家、日本社会の変動を法の視点から理解できるようにすることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」、「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

1889年に大日本帝国憲法が制定される以前の明治前半期は、国家は極めて弱体で不安定だった。憲法はこの不安定さを克服するために作成されたものである。この不安定さを理解するために、奇兵隊員脱走事件、佐賀の乱、赤坂喰違の変、地租改正反対一揆、竹橋事件、紀尾井坂の変、秩父事件、条約改正反対運動等を取りあげる。

講義では、単元が終わる都度、質問を募り、それに回答する。また、授業支援システム上でも質問を募り、講義時間内に回答する。また、最終授業で、質問内容を含めた履修者の授業理解について講評を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	本講義の概要 講義の進め方と成績評価について
第2回	大日本帝国憲法の構造	「シラス」と「国約」
	1	
第3回	大日本帝国憲法の構造	内閣と議会
	2	
第4回	大日本帝国憲法の構造	宮中と府中
	3	
第5回	事件と法1	大村益次郎襲撃事件
第6回	事件と法2	奇兵隊員脱走事件
第7回	事件と法3	佐賀の乱
第8回	事件と法4	赤坂喰違事件
第9回	事件と法5	地租改正反対一揆
第10回	事件と法6	竹橋事件
第11回	事件と法7	紀尾井坂の変
第12回	事件と法8	秩父事件
第13回	事件と法9	三大事件建白運動
第14回	事件と法10	大隈重信襲撃事件

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書、参考書を読んでくること。
本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

川口由彦『日本近代法制史 第2版』（新世社）

【参考書】

高谷知佳・小石川裕介編著『日本法制史から何がみえるか』（有斐閣）

【成績評価の方法と基準】

論述式筆記試験 100%（テキスト・講義内容より出題。持ち込み不可。）

教室で試験が出来ない場合は、期末レポートにより評価する。

【学生の意見等からの気づき】

学生によって歴史知識の有無がかなり異なることがわかってきたので、この点に留意したい。

【Outline (in English)】

It is necessary to recognize difference in legal fields - public law/ private law,criminal law/civil law- to understand law. Also it is necessary to understand legal history besides law interpretation. It is legal history to provide the opportunity to learn jurisprudence not superficially but three-dimensionally.

At the end of the course, participants are expected to understand how japanese legal system has been formed.

In this lesson, the corresponding section of a textbook is read out and those contents are explained in detail after that. The participant has to read a textbook and a reference book. A participant needs to spend 2 hours, respectively for preparation and review of this lesson.

Results are decided by a written examination. An exam questions is an essay type.

LAW300AB

日本法制史IV

川口 由彦

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

単位数：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この科目は、法律学科の「文化・社会と法」コースにおかれている。また、「裁判と法」「行政と公共政策と法」「企業・経営と法」の各コースでも履修が推奨されている。法を理解するためには、公法・私法、刑事法・民事法など諸分野の法の相違を認識することが必要である。この認識には、解釈論的理解と並んで法制史的理解も必要となる。平面的ではなく、立体的に法を学ぶ機会を提供するのが、法制史である。

【到達目標】

近代日本の法典体系は、1898年に完成した姿をあらわす。この時期以降に起こった諸事件を通して、日本近代法の再編の姿を理解できるようにすることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」、「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

法典体系が整備され、日清戦争、日露戦争を経て日本の国家は社会を深く統制する力を獲得していく。この過程で生じた、星亨暗殺事件、日比谷焼打事件、伊藤博文暗殺事件、大逆事件、米騒動、原敬暗殺事件、大杉栄殺害事件、315事件、416事件、515事件、帝人事件、226事件等を取りあげる。

講義では、単元が終わる都度、質問を募り、それに回答する。また、授業支援システム上でも質問を募り、講義時間内に回答する。また、最終授業で、質問内容を含めた履修者の授業理解について講評を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	講義の進め方、試験等についての説明
第2回	国制の再編	憲法と政党
第3回	事件と法1	星亨暗殺事件
第4回	事件と法2	日比谷焼打事件
第5回	事件と法3	伊藤博文暗殺事件
第6回	事件と法4	大逆事件
第7回	事件と法5	米騒動
第8回	事件と法6	原敬暗殺事件
第9回	事件と法7	大杉栄殺害事件
第10回	事件と法8	315事件
第11回	事件と法9	416事件
第12回	事件と法10	515事件
第13回	事件と法11	帝人事件
第14回	事件と法12	226事件

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書、参考書を読んでくること。
本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

川口由彦『日本近代法制史 第2版』（新世社）

【参考書】

高谷知佳・小石川裕介編著『日本法史から何がみえるか』（有斐閣）

【成績評価の方法と基準】

論述式筆記試験（テキスト・講義内容より出題。持ち込み不可。）

教室で試験が出来ない場合は、期末レポートにより評価する。

【学生の意見等からの気づき】

学生によって歴史知識の有無がかなり異なることがわかってきたので、この点に留意したい。

【Outline (in English)】

It is necessary to recognize difference in legal fields - public law/ private law, criminal law/civil law- to understand law. Also it is necessary to understand legal history besides law interpretation. It is legal history to provide the opportunity to learn jurisprudence not superficially but three-dimensionally. At the end of the course, participants are expected to understand how Japanese legal system has been formed.

In this lesson, the corresponding section of a textbook is read out and those contents are explained in detail after that. The participant has to read a textbook and a reference book. A participant needs to spend 2 hours, respectively for preparation and review of this lesson.

Results are decided by a written examination. An exam questions is an essay type.

LAW200AB

ドイツ法制史 I

高 友希子

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

単位数：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

我が国の法体系は、系統的な分類においていわゆる大陸法に属し、古代ローマに遡るヨーロッパ法の伝統を受け継いでいます。このことは、明治期の法典編纂過程において、主としてプロイセン（ドイツ）やフランスの法を継受したことに起因しています。では、ヨーロッパ法の伝統とはどのようなものでしょうか。

法制度や法の形成・発展はその国や地域の長い歴史と密接な関係にあるため、発展の経緯や理由を理解するためには、「国境」と「時空」を超えた考察が必要になります。また、その考察を通して外国法を学ぶことは、自らの置かれている世界を客観視する視点を得ること、すなわち現代の日本の法や法制度を再考するための素地を養成することを可能にしてくれます。

I では、古代ローマ、中世ヨーロッパにおける社会や法の歴史的な展開を概観することを通じて、その成立および発展の過程を理解していきます。

この科目は法律学科の「文化・社会と法コース」に最も強く関係しますが、全てのコースに属しています。

【到達目標】

- 1 歴史の観点から考察することを通じて、我が国の母法である「ヨーロッパ法」の形成・展開の過程およびその特徴を理解する。
- 2 「国境」と「時空」を超えた比較を通じて、日本の法制度を客観的に考察・検討できるようになる。
- 3 自らとは異なる属性や理念を持つ人々や、自らとは異なる慣習のもとで生きていた「他者」である過去の人々が、経験してきたことや直面したことがどのような意味を持っているのかを考えることを通じて、複雑な事象を柔軟で多様な視点から捉えることができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」、「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

受講後に、学習支援システムに準備したクイズに取り組み、フィードバック機能を利用して、各自、理解度を確認してください。

質問については、学習支援システムの掲示板あるいはクイズの質問欄に記入してください（講義後に質問することも可能です）。授業支援システムを通じて、あるいは授業の中で解説します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業概要の説明
第 2 回	ヨーロッパ古代の法と社会（1）	ローマ市民法の世界
第 3 回	ヨーロッパ古代の法と社会（2）	古典期ローマ法曹と法学
第 4 回	ヨーロッパ古代の法と社会（3）	古代ローマ法
第 5 回	ヨーロッパ古代の法と社会（4）	古ゲルマンの法と社会
第 6 回	ヨーロッパ中世の法と社会（1）	部族法典
第 7 回	ヨーロッパ中世の法と社会（2）	ユスティニアヌス法典
第 8 回	ヨーロッパ中世の法と社会（3）	フランク王国の法と法制

第 9 回 ヨーロッパ中世の法と 封建社会：身分の成立と展開
社会（4）

第 10 回 ヨーロッパ中世の法と 中世法の理念と現実
社会（5）

第 11 回 ヨーロッパ中世の法と ヨーロッパ法システムへの転換
社会（6）

第 12 回 ヨーロッパ中世の法と ボローニャ大学とローマ法のルネ
社会（7） サンス

第 13 回 ヨーロッパ中世の法と 中世ローマ法学と条例理論
社会（8）

第 14 回 ヨーロッパ中世の法と カノン法：教皇権と法の合理化
社会（9）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

受講後に、学習支援システムに準備してあるクイズに取り組んでください。

更に理解を深めたい方は、授業の中で紹介する文献の講読や映像の視聴を通じて、ヨーロッパの法や法制度の背景となる社会や文化、歴史に触れることをお勧めします。

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

毎回、レジュメ・資料を配布します。

【参考書】

勝田有恒・森征一・山内進編著『概説 西洋法制史』（ミネルヴァ書房、2004 年）。

ピーター・スタイン（屋敷二郎監訳、関良徳・藤本幸二訳）『ローマ法とヨーロッパ』（ミネルヴァ書房、2003 年）。

ウルリッヒ・マンテ（田中実・瀧澤栄治訳）『ローマ法の歴史』（ミネルヴァ書房、2008 年）。

佐藤篤士監訳『ガイウス法学提要』（敬文堂、2002 年）。

柴田光蔵『法律ラテン語辞典』（日本評論社、1985 年）。

その他については、レジュメおよび講義中に適宜、指示します。

【成績評価の方法と基準】

学期末試験（50%）、クイズ（20%）、小レポート（30%）

【学生の意見等からの気づき】

科目の性質上、初めて耳にする用語や概念が出てくることもありますが、資料や図、ホワイトボードなどを使いながら、分かりやすく解説していきたいと思っています。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムの利用およびオンライン授業に対応するための通信機器

【その他の重要事項】

各回の授業形態はシラバス執筆時のものであり、今後、変更もあります。その場合には、授業支援システムを通じて指示します。

【Outline (in English)】

The objective of this course is to learn about the origins and development of European Law, legal institutions and the legal profession.

Students will be able to 1) have basic knowledge of European legal history, from ancient Rome to middle age, 2) understand/discuss current issues of modern Japanese law from the viewpoint of European legal history.

Students are expected to complete quizzes after each lecture. Your study time will be more than four hours for a class.

Students will be graded on:

Final paper (50%)

Quizzes (20%)

Short essay (30%)

LAW200AB

ドイツ法制史Ⅱ

高 友希子

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

単位数：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

我が国の法体系は、系統的な分類においていわゆる大陸法に属し、古代ローマに遡るヨーロッパ法の伝統を受け継いでいます。このことは、明治期の法典編纂過程において、主としてプロイセン（ドイツ）やフランスの法を継受したことに起因しています。では、ヨーロッパ法の伝統とはどのようなものでしょうか。

法制度や法の形成・発展はその国や地域の長い歴史と密接な関係にあるため、発展の経緯や理由を理解するためには、「国境」と「時空」を超えた考察が必要になります。また、その考察を通して外国法を学ぶことは、自らの置かれている世界を客観視する視点を得ること、すなわち現代の日本の法や法制度を再考するための素地を養成することを可能にしてくれます。

Ⅱでは、近世、近・現代ヨーロッパにおける社会や法の歴史的な展開を概観することを通じて、その成立および発展の過程を理解していきます。

この科目は法律学科の「文化・社会と法コース」に最も強く関係しますが、全てのコースに属しています。

【到達目標】

- 1 歴史の観点から考察することを通じて、我が国の母法である「ヨーロッパ法」の形成・展開の過程およびその特徴を理解する。
- 2 「国境」と「時空」を超えた比較を通じて、日本の法制度を客観的に考察・検討できるようになる。
- 3 自らとは異なる属性や理念を持つ人々や、自らとは異なる慣習のもとで生きていた「他者」である過去の人々が、経験してきたことや直面したことがどのような意味を持っているのかを考察することを通じて、複雑な事象を柔軟で多様な視点から捉えることができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」、「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

受講後に、学習支援システムに準備したクイズに取り組み、フィードバック機能を利用して、各自、理解度を確認してください。

質問については、学習支援システムの掲示板あるいはクイズの質問欄に記入してください（講義後に質問することも可能です）。授業支援システムを通じて、あるいは授業の中で解説します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業概要の説明
第2回	ヨーロッパ近世の法と社会（1）	学識法曹とローマ法継受
第3回	ヨーロッパ近世の法と社会（2）	帝室裁判所と宗派對立
第4回	ヨーロッパ近世の法と社会（3）	糾問訴訟と魔女裁判
第5回	ヨーロッパ近世の法と社会（4）	ローマ法の相対化
第6回	ヨーロッパ近世の法と社会（5）	身分制議會と絶対主義国家
第7回	ヨーロッパ近世の法と社会（6）	パンデクテンの現代的慣用
第8回	ヨーロッパ近世の法と社会（7）	自然法論と人間理性

第9回 ヨーロッパ近世の法と 啓蒙主義と法典編纂
社会（8）

第10回 ヨーロッパ近・現代の 歴史法学派
法と社会（1）

第11回 ヨーロッパ近・現代の パンデクテン法学と私法実証主義
法と社会（2）

第12回 ヨーロッパ近・現代の 近代公法学の誕生
法と社会（3）

第13回 ヨーロッパ近・現代の 近代法システムの完成と揺らぎ
法と社会（4）

第14回 ヨーロッパ近・現代の 19世紀ヨーロッパ法の継受から
法と社会（5） 20世紀アメリカ法の受容へ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

受講後に、学習支援システムに準備してあるクイズに取り組んでください。

更に理解を深めたい方は、授業の中で紹介する文献の講読や映像の視聴を通じて、ヨーロッパの法や法制度の背景となる社会や文化、歴史に触れることをお勧めします。

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

毎回、レジュメ・資料を配布します。

【参考書】

勝田有恒・森征一・山内進編著『概説 西洋法制史』（ミネルヴァ書房、2004年）。

ピーター・スタイン（屋敷二郎監訳・関良徳・藤本幸二訳）『ローマ法とヨーロッパ』（ミネルヴァ書房、2003年）。

K.W. ネル（村上淳一訳）『ヨーロッパ法史入門：権利保護の歴史』（東京大学出版会、1999年）。

U. ファルクほか編（小川浩三ほか監訳）『ヨーロッパ史のなかの裁判事例：ケースから学ぶ西洋法制史』（ミネルヴァ書房、2014年）。その他については、レジュメおよび講義中に適宜、指示します。

【成績評価の方法と基準】

学期末試験（50%）、クイズ（20%）、小レポート（30%）

【学生の意見等からの気づき】

科目の性質上、初めて耳にする用語や概念が出てくることもありますが、資料や図、ホワイトボードなどを使いながら、分かりやすく解説していきたいと思っています。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムの利用およびオンライン授業に対応するための通信機器

【その他の重要事項】

各回の授業形態はシラバス執筆時のものであり、今後、変更もあります。その場合には、授業支援システムを通じて指示します。

【Outline (in English)】

The objective of this course is to learn about the origins and development of European Law, legal institutions and the legal profession.

Students will be able to 1) have basic knowledge of European legal history, from early modern to 20th century, 2) understand/discuss current issues of modern Japanese law from the viewpoint of European legal history.

Students are expected to complete quizzes after each lecture. Your study time will be more than four hours for a class.

Students will be graded on:

Final paper (50%)

Quizzes (20%)

Short essay (30%)

LAW200AB

イギリス法制史 I

高 友希子

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

単位数：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

みなさんは、手続法は権利・義務などの法律関係や内容を規定する実体法（例えば民法）を実現するためのものと理解していると思いますが、イギリスでは手続法が実体法に先んじて発展しました。そのイギリスは、成文法主義の日本とは異なり判例法主義で、判例の中から法が形成されてきました。またイギリス法の理解に欠かせないコモン・ローとエクイティは、数多くの裁判所が併存する形で運用され、裁判官たちは、大学（オックスフォードやケンブリッジ）の法学部ではなく、ロンドンにある法曹学院といういわゆるギルドで養成されてきました。

法制度や法の形成・発展はその国の長い歴史と密接な関係にあるため、なぜこのような発展を遂げてきたのかを理解するためには、「国境」と「時空」を超えた考察が必要になります。また、その考察を通して外国法を学ぶことは、自らの置かれている世界を客観視する視点を育てること、すなわち現代の日本の法や法制度を再考するための素地を養成することを可能にしてくれます。

Iでは、イギリスの法制度を歴史の観点から考察することを通じて、その成立および発展の過程を理解していきます。

この科目は法律学科の「文化・社会と法コース」に最も強く関係しますが、全てのコースに属しています。

【到達目標】

- 1 イギリスの法制度を歴史の観点から考察することを通じて、判例法、慣習法の世界を理解する。
- 2 「国境」と「時空」を超えた比較を通じて、日本の法制度を客観的に考察・検討できるようになる。
- 3 自らとは異なる属性や理念を持つ人々や、自らとは異なる慣習のもとで生きていた「他者」である過去の人々が、経験してきたことや直面したことがどのような意味を持っているのかを考察することを通じて、複雑な事象を柔軟で多様な視点から捉えることができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」、「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

受講後に、学習支援システムに準備したクイズに取り組み、フィードバック機能を利用して、各自、理解度を確認してください。質問については、学習支援システムの掲示板あるいはクイズの質問欄に記入してください（講義後に質問することも可能です）。授業支援システムを通じて、あるいは授業の中で解説します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業概要の説明
第 2 回	イギリス法の基礎 (1)	判例法主義
第 3 回	イギリス法の基礎 (2)	コモン・ローとエクイティ／連合王国のつくり
第 4 回	イギリス法の基礎 (3)	法の支配と議会主権
第 5 回	初期ブリテン島の法と慣習／コモン・ローの諸起源	中央と地方の裁判所、旅する裁判官
第 6 回	コモン・ロー上位裁判所	王座裁判所、民訴裁判所、財務府裁判所の成立と発展

第 7 回	コモン・ロー訴訟手続 (1)	令状体系と訴訟方式：手続法が実体法に先んじた世界
第 8 回	コモン・ロー訴訟手続 (2)	訴答術と陪審：裁判における法律家と素人の役割
第 9 回	大法官府裁判所とエクイティ	コモン・ロー裁判所で救済されない事件への対応とその方法／エクイティはイギリスに固有のものだろうか？
第 10 回	国王評議会系列の裁判所	コモン・ローでもエクイティでもない、国王の大権的裁判権に基づく裁判所とは？
第 11 回	カノン法と教会裁判所	教会法と世俗の法、裁判権をめぐるローマ教皇と国王の争い
第 12 回	司法審査制度	上訴、誤審、再審、弾劾裁判
第 13 回	法律専門職と法曹教育	大学法学部と法曹学院、その関係と役割
第 14 回	法源	判例、慣習、制定法と法の解釈、法改革運動

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

受講後に、学習支援システムに準備してあるクイズに取り組んでください。

更に理解を深めたい方は、授業の中で紹介する文献の講読や映像の視聴を通じて、イギリスの法や法制度の背景となる社会や文化、歴史に触れることをお勧めします。

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

毎回、レジュメ・資料を配布します。

【参考書】

J.H. ベイカー（深尾裕造訳）『イギリス法史入門（第 4 版）第 I 部〔総論〕』（関西学院大学出版会、2014 年）。

戒能通弘・竹村和也『イギリス法入門』（法律文化社、2018 年）。

幡新大実『イギリスの司法制度』（東信堂、2009 年）。

小山貞夫『英米法律語辞典』（研究社）。

青山ほか編『イギリス史 1～3』（山川出版社）。

その他については、レジュメおよび講義中に適宜、指示します。

【成績評価の方法と基準】

学期末試験（50％）、クイズ（20％）、小レポート（30％）

【学生の意見等からの気づき】

科目の性質上、初めて耳にする用語や概念が出てくることもあると思いますが、資料や図、ホワイトボードなどを使いながら、分かりやすく解説していきたいと思っています。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムの利用およびオンライン授業に対応するための通信機器

【その他の重要事項】

各回の授業形態はシラバス執筆時のものであり、今後、変更もありません。その場合には、授業支援システムを通じて指示します。

【Outline (in English)】

The objective of this course is to learn about the origins and development of English Law, legal institutions and the legal profession.

Students will be able to 1) have basic knowledge of English legal history, 2) understand/ discuss current issues of modern Japanese law from the viewpoint of English legal history.

Students are expected to complete quizzes after each lecture. Your study time will be more than four hours for a class.

Students will be graded on:

Final paper (50%)

Quizzes (20%)

Short essay (30%)

LAW200AB

イギリス法制史Ⅱ

高 友希子

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

単位数：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

みなさんは、手続法は権利・義務などの法律関係や内容を規定する実体法（例えば民法）を実現するためのものと理解していますが、イギリスでは手続法が実体法に先んじて発展しました。そのイギリスは、成文法主義の日本とは異なり判例法主義で、判例の中から法が形成されてきました。またイギリス法の理解に欠かせないコモン・ローとエクイティは、数多くの裁判所が併存する形で運用され、裁判官たちは、大学（オックスフォードやケンブリッジ）の法学部ではなく、ロンドンにある法曹学院といういわゆるギルドで養成されてきました。

法制度や法の形成・発展はその国の長い歴史と密接な関係にあるため、なぜこのような発展を遂げてきたのかを理解するためには、「国境」と「時空」を超えた考察が必要になります。また、その考察を通して外国法を学ぶことは、自らの置かれている世界を客観視する視点を獲得すること、すなわち現代の日本の法や法制度を再考するための素地を養成することを可能にしてくれます。

Ⅱでは、個別の法分野における法の形成および発展の過程を、政治・経済・文化などの背景を踏まえて考察していきます。

この科目は法律学科の「文化・社会と法コース」に最も強く関係しますが、全てのコースに属しています。

【到達目標】

1 判例を中心に、個別の法分野を政治や経済などの背景を踏まえて歴史の観点から考察することを通じて、法（ルール）の形成・発展のプロセスだけでなく、様々な法分野の重なりや、現代に至るまでの、あるいは現代とは異なる法の枠組みを理解する。

2 「国境」と「時空」を超えた比較を通じて、日本法を客観的に考察・検討することができるようになる。

3 自らとは異なる属性や理念を持つ人々や、自らとは異なる慣習のもとで生きていた「他者」である過去の人々が、経験してきたことや直面したことがどのような意味を持っているのかを考えることを通じて、複雑な事象を柔軟で多様な視点から捉えることができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」、「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

受講後に、学習支援システムに準備したクイズに取り組み、フィードバック機能を利用して、各自、理解度を確認してください。

質問については、学習支援システムの掲示板あるいはクイズの質問欄に記入してください（講義後に質問することも可能です）。授業支援システムを通じて、あるいは授業の中で解説します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス 不文憲法の国	授業概要の説明 マグナ・カルタ、権利請願、権利章典の役割と意義
第 2 回	議会主権と国王大権	国王は勝手に課税できるのだろうか？ 議会はそれを止められるのだろうか？
第 3 回	人権と法の支配	国王による恣意的な拘束は認められるのだろうか？
第 4 回	国籍と外国人の人権	植民地政策のもとでの帰化や国籍付与

第 5 回	引受訴訟と契約法	約束や契約はなぜ守らなければならないのだろうか？
第 6 回	契約と損害賠償	契約に拘束力を与える根拠 得べかりし利益と予見可能性 （日本民法 416 条との関係）
第 7 回	不法行為法	工作物と厳格責任、過失による製造物責任
第 8 回	信託の起源：ユース	土地をめぐるコモン・ロー上の権利と利益取得権（エクイティ上の権利）、どちらが保護されるのだろうか？
第 9 回	ユースから信託へ	女性は財産を保有できるのだろうか？ できるとしたらどのような？
第 10 回	商慣習とコモン・ロー	海外貿易におけるルール（商慣習）と国内法の関係
第 11 回	コピーライトとコモン・ロー	新しい利権の誕生、保護の対象は誰の何？
第 12 回	使用者と被用者をめぐるルール	誰が他者の過失に責任を負うのだろうか？ 請負人の法的地位（日本民法 716 条との関係）
第 13 回	救貧政策から福祉国家へ	救貧法、チャリティ
第 14 回	刑事法と警察組織	私訴、自力救済、聖域・聖職者の特権、刑罰と死刑

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

受講後に、学習支援システムに準備したクイズに取り組んでください。更に理解を深めたい方は、授業の中で紹介する文献の講読や映像の視聴を通じて、イギリスの法や法制度の背景となる社会や文化、歴史に触れることをお勧めします。

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

毎回、レジュメ・資料を配布します。

【参考書】

J.H. ベイカー（深尾裕造訳）『イギリス法史入門（第 4 版）第 I 部〔総論〕』（関西学院大学出版会、2014 年）。

J.H. ベイカー（深尾裕造訳）『イギリス法史入門（第 4 版）第 II 部〔各論〕』（関西学院大学出版会、2014 年）。

小山貞夫『英米法律語辞典』（研究社）。

青山ほか編『イギリス史 1～3』（山川出版社）。

その他については、レジュメおよび講義中に適宜、指示します。

【成績評価の方法と基準】

学期末試験（60%）、クイズ（20%）、小レポート（20%）

【学生の意見等からの気づき】

科目の性質上、初めて耳にする用語や概念はありえますが、資料や図、ホワイトボードなどを使いながら、分かりやすく解説していきたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムの利用およびオンライン授業に対応するための通信機器

【その他の重要事項】

各回の授業形態はシラバス執筆時のものであり、今後、変更もあります。その場合には、授業支援システムを通じて指示します。

【Outline (in English)】

The objective of this course is to learn about the relationship between English legal system and its background: social, economical and political force.

Students will be able to 1) have basic knowledge of English legal history from case studies, 2) understand/ discuss current issues of modern Japanese law from the viewpoint of English legal history.

Students are expected to complete quizzes after each lecture. Your study time will be more than four hours for a class.

Students will be graded on:

Final paper (50%)

Quizzes (20%)

Short essay (30%)

LAW200AB

法社会学

北村 隆憲

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

単位数：4 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

（遠隔オンライン授業の方法により実施します。ただし、1 回目の授業は、ズームにより遠隔対面授業を行う予定。毎回、授業ビデオと関連書類をシステムにアップするので、受講生は毎回それらを学習して、レポート課題を提出してもらうことになります）法社会学は、法規も含めて様々な法的な制度やメカニズムが、実際の社会・文化の中でどのように機能しているのかについて、経験科学的な方法を用いて研究する社会科学の一分野であり、「文化・社会と法コース」に属する。法社会学は他の実定法分野と異質な研究目標と研究方法を有するので、単に知識の提供にとどまらず、法に対する「見方」「考え方」の相違についての認識を持ってもらうことに、本講義の重要な目的の一つがある。今回は、エスノメソドロジーと会話分析という社会学のアプローチを使って、日常のコミュニケーションと法的場面における様々なコミュニケーションを検討する。

【到達目標】

法的場面における様々なコミュニケーションについて理解し、自分でも概要を分析できるようにする。法的コミュニケーションの特徴と機能について分析・理解できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」、「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

授業は毎回、授業ビデオとスライド資料を利用しておこなう。必要な資料は授業前に配布する。また、授業の内容や課題や質問に対しては、個別にメールで対応して質疑や議論のフィードバックを行う。また、提出された課題については、そこでの問題点への対応を含めて次回の授業でフィードバックされるように配慮する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	法的コミュニケーションと法社会学	法的コミュニケーションとは何か。法社会学的観点から理解する。
第 2 回	法的コミュニケーションの詳細	法的コミュニケーションのメカニズムについて学習する
第 3 回	日常のコミュニケーションと法的コミュニケーション	日常のコミュニケーションと法的コミュニケーションの諸特徴と応用
第 4 回	日常のコミュニケーションのメカニズム（順番交替）	順番交代と会話の関係について
第 5 回	日常のコミュニケーションのメカニズム（順番交替と行為連鎖）	行為連鎖のメカニズムについて。
第 6 回	行為連鎖について考える	順番交代のルールと行為連鎖のメカニズムの関係
第 7 回	修復のメカニズムとは何か	修復の秩序
第 8 回	修復のメカニズムと法的コミュニケーション	修復のメカニズムと法的コミュニケーション
第 9 回	陪審制度における法的コミュニケーション	司法への国民参加市民の司法参加について理解する
第 10 回	裁判員制度における法的コミュニケーション	陪審と裁判員ビデオの視聴と分析的コミュニケーション

第 11 回	優先性のメカニズムと法	優先性の秩序とは何か？
第 12 回	会話と優先性	優先性の秩序と法規範の関係
第 13 回	成員カテゴリと法	成員カテゴリとコミュニケーション
第 14 回	法における成員カテゴリと結合活動	成員カテゴリと結合活動の法的関連性
第 15 回	成員カテゴリと適用規則	成員カテゴリ化装置の概要
第 16 回	成員カテゴリ化と法的コミュニケーション	成員カテゴリ化装置が法的コミュニケーションにどのような関連性を持つか
第 17 回	反対尋問におけるコミュニケーション	反対尋問のコミュニケーションの意義
第 18 回	反対尋問におけるコミュニケーションと会話の秩序	ケネディースミス・レイブ事件における反対尋問
第 19 回	反対尋問の具体例と相互行為分析	ブラックの反対尋問のメカニズム 日本における反対尋問コミュニケーションの実際
第 20 回	反対尋問と成員カテゴリ分析	日本の反対尋問教育について
第 21 回	市民の司法参加と評議のコミュニケーション	陪審評議のコミュニケーションと常識の利用
第 22 回	評議のコミュニケーションにおける常識	裁判員評議における常識の利用
第 23 回	常識とは何か？	実際の評議データから「常識」を発見する
第 24 回	評議における常識とは何か？	実際の評議データから「常識」を発見する：特にその相互行為的特徴を学習
第 25 回	学校型コミュニケーションの諸特徴	オウム説法のコミュニケーションと教育場面のコミュニケーションの比較
第 26 回	学校型コミュニケーションと法的コミュニケーション	教育場面のコミュニケーションと法的コミュニケーションの異同
第 27 回	評議における裁判官の発言	評議における裁判官のコントロールの技法
第 28 回	緊急通報電話	緊急通報電話の特徴の学習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回のレジュメを復習する。授業の進行に合わせてテキストの該当部分を読む。課題を行う本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

資料は大学のウェブシステムで配布する。

【参考書】

エスノメソドロジー—人びとの実践から学ぶ（ワードマップ）単行本（ソフトカバー）前田 泰樹（編集）、水川 喜文（編集）、岡田 光弘（編集）新曜社（2007/8/3）

【成績評価の方法と基準】

評価は、毎回の課題レポート提出に対する評価に基づいて行う（100 パーセント）。課題レポートは原則として授業日後 1 週間の締め切りを付す。2 度を超えるレポート不提出の場合には、単位が与えられないことがある。

【学生の意見等からの気づき】

授業ビデオの音声をより聞きやすいものとした。また、スライドをより見やすく理解しやすいものに改善した。

【学生が準備すべき機器他】

オンライン授業に参加できるための PC と通信環境については受講生が責任をもって準備をしてください。

【Outline (in English)】

(Course outline)

The sociology of law, or "law and society" studies, is a research field in which to study how the law actually works in a variety of settings in our society by collecting and examining various kinds of data from social scientific perspectives. This year the class focuses particularly on how communications in law-related situations are conducted, including examinations in court, jury deliberations, lawyers' interviews/counseling with their clients, mediations and legal negotiations, and examines the data from the perspective of ethnomethodology and conversation analysis as a research method.

(Learning objectives)

The goal of this course is to enable students to understand and analyze interactions in legal situations on their own, to grasp the reality and problems of such interactions, and to gain a broader perspective on the law and the legal system as a result.

(Learning activities outside of classroom)

Students are expected to thoroughly review the presented materials and assignments before and after class. Details will be given in class and in the materials to be uploaded.

(Grading criteria/ policy)

Grading will be based on the submission of appropriate answers to each assignment and the degree of proactive and active participation in each class.

LAW300AB

アジア法 I

陳 志明

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
単位数：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は、アジア法Ⅱ（秋学期）と一体をなすものであり、アジア各国・地域の法制度（特に憲法制度）をテーマとしています。アジア法Ⅰ及びアジア法Ⅱは、法律学科の専門教育科目では基礎法科目に属し、「行政・公共政策と法コース」、「企業・経営と法コース（商法中心）」、「企業・経営と法コース（労働法中心）」、「国際社会と法コース」及び「文化・社会と法コース」では履修が望まれる選択科目に挙げられています。春学期のアジア法Ⅰでは、総論としてアジアの法制度の特質を概観した上で、東南アジアに属する各国の法制度を中心に取り上げる予定です。

【到達目標】

受講生がアジア各国・地域の法制度について、その背景にある諸要因（歴史・文化等）を踏まえつつ理解し、自分なりの問題意識及びそれに対する見解を持つに至ることを目標としています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」、「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

授業は毎回配布するレジュメや資料に沿って進めます。また質問等に対するフィードバックは随時行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	講義概要（シラバス）の説明
第 2 回	総論（アジアの法制度）	アジアの法制度の特質 アジアの法制度を理解する上での留意点
第 3 回	フィリピンの法制度①	フィリピンの概観 フィリピンの歴史と法制度の変遷 現在のフィリピン憲法
第 4 回	フィリピンの法制度②	フィリピンの統治構造 フィリピンの人権
第 5 回	マレーシアの法制度①	マレーシアの概観 マレーシアの歴史と法制度の変遷 現在のマレーシア憲法
第 6 回	マレーシアの法制度②	マレーシアの統治構造 マレーシアの人権
第 7 回	シンガポールの法制度	シンガポールの概観 シンガポールの歴史と法制度の変遷 現在のシンガポール憲法
第 8 回	タイの法制度①	タイの概観 タイの歴史と法制度の変遷 現在のタイ憲法
第 9 回	タイの法制度②	タイの統治構造 タイの人権
第 10 回	インドネシアの法制度①	インドネシアの概観 インドネシアの歴史と法制度の変遷 現在のインドネシア憲法
第 11 回	インドネシアの法制度②	インドネシアの統治構造 インドネシアの人権

第 12 回	ベトナムの法制度	ベトナムの概観 ベトナムの歴史と法制度の変遷 現在のベトナム憲法
第 13 回	カンボジアの法制度	カンボジアの概観 カンボジアの歴史と法制度の変遷 現在のカンボジア憲法
第 14 回	授業内試験（教室レポート）	レポートの作成及び提出並びにまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業前後に参考書の該当部分を読むことと併せて、新聞等でアジアの最新動向を追うことを勧めます。この授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません。

【参考書】

作本直行編『アジア諸国の憲法制度』（経済協力シリーズ 182、アジア経済研究所、1997 年）
大村泰樹・小林昌之編『東アジアの憲法制度』（経済協力シリーズ 187、日本貿易振興会アジア経済研究所、1999 年）
安田信之『東南アジア法』（日本評論社、2000 年）
鮎京正訓編『アジア法ガイドブック』（名古屋大学出版会、2009 年）
稲正樹・孝忠延夫・國分典子編著『アジアの憲法入門』（日本評論社、2010 年）
加藤和英「仏暦 2560 年（西暦 2017 年）タイ王国憲法について」（『タイ国情報』第 51 巻別冊第 1 号、日本タイ協会、2017 年 5 月、巻頭 1～18 ページ）
知花いづみ・今泉慎也『現代フィリピンの法と政治—再民主化後 30 年の軌跡』（アジ研選書 53、アジア経済研究所、2019 年）
青木まき編『タイ 2019 年総選挙—軍事政権の統括と新政権の展望』（電子書籍 PDF 版）（情勢分析レポート 32、アジア経済研究所、2020 年、https://www.ide.go.jp/Japanese/Publish/Books/Jpn_Books/Josei/032.html、2023 年 2 月 1 日閲覧）
鮎京正訓編集代表・島田弦編著『インドネシア—民主化とグローバルゼーションへの挑戦』（アジア法整備支援叢書、旬報社、2020 年）
鮎京正訓・四本健二・浅野宜之編『新版 アジア憲法集』（明石書店、2021 年）
その他の参考書は、必要に応じてその都度紹介します。

【成績評価の方法と基準】

春学期末の授業内試験（教室レポート）（80 %）及び平常点（20 %）により、「到達目標」に掲げた「アジア各国・地域の法制度について、その背景にある諸要因（歴史・文化等）を踏まえつつ理解すること」等の達成度を評価します。

【学生の意見等からの気づき】

例年受講生が大変多いこともあり、授業の形式は片方向的なものとなりがちですので、一定の双方向性を確保するため、授業後における個別の質問を歓迎します。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire an understanding of the characteristics of the legal system in Asia and the legal system of each country belonging to Southeast Asia. At the end of the course, students are expected to understand the legal systems of Asian countries and regions, taking into account the factors (history, culture, etc.) behind them. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Final grade will be calculated according to the following process: Term-end examination (80%) and in-class contribution (20%).

LAW300AB

アジア法Ⅱ

陳 志明

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

単位数：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は、アジア法Ⅰ（春学期）と一体をなすものであり、アジア各国・地域の法制度（特に憲法制度）をテーマとしています。アジア法Ⅰ及びアジア法Ⅱは、法律学科の専門教育科目では基礎法科目に属し、「行政・公共政策と法コース」、「企業・経営と法コース（商法中心）」、「企業・経営と法コース（労働法中心）」、「国際社会と法コース」及び「文化・社会と法コース」では履修が望まれる選択科目に挙げられています。秋学期のアジア法Ⅱでは、東アジアに属する各国・地域の法制度を中心に上げますが、南アジアに属するインドの法制度、さらにイスラム法も取り上げる予定です。

【到達目標】

受講生がアジア各国・地域の法制度について、その背景にある諸要因（歴史・文化等）を踏まえつつ理解し、自分なりの問題意識及びそれに対する見解を持つに至ることを目標としています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」、「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

授業は毎回配布するレジュメや資料に沿って進めます。また質問等に対するフィードバックは随時行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	インドの法制度①	インドの概観 インドの歴史と法制度の変遷 現在のインド憲法
第 2 回	インドの法制度②	インドの統治構造 インドの人権
第 3 回	イスラム法	イスラム法と聖典 イスラム法学と法学派 イスラム法の淵源
第 4 回	韓国の法制度①	韓国の概観 韓国の歴史と法制度の変遷 現在の韓国憲法
第 5 回	韓国の法制度②	韓国の統治構造 韓国の人権
第 6 回	北朝鮮の法制度	北朝鮮の概観 北朝鮮の歴史と法制度の変遷 現在の北朝鮮憲法
第 7 回	モンゴルの法制度	モンゴルの概観 モンゴルの歴史と法制度の変遷 現在のモンゴル憲法
第 8 回	中国の法制度①	中国の概観 中国の歴史と法制度の変遷 現在の中国憲法
第 9 回	中国の法制度②	中国の統治構造 中国の人権
第 10 回	香港の法制度	香港の概観 香港の歴史と法制度の変遷 現在の香港基本法
第 11 回	マカオの法制度	マカオの概観 マカオの歴史と法制度の変遷 現在のマカオ基本法

第 12 回 台湾の法制度① 台湾の概観
台湾の歴史と法制度の変遷
現在の台湾統治基本法

第 13 回 台湾の法制度② 台湾の統治構造
台湾の人権

第 14 回 授業内試験（教室レポート） レポートの作成及び提出並びにまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業前後に参考書の該当部分を読むことと併せて、新聞等でアジアの最新動向を追うことを勧めます。この授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません。

【参考書】

鮎京正訓編『アジア法ガイドブック』（名古屋大学出版会、2009 年）
稲正樹・孝忠延夫・國分典子編著『アジアの憲法入門』（日本評論社、2010 年）

金永完『中国における「一国二制度」とその法的展開—香港・マカオ・台湾問題と中国の統合』（国際書院、2011 年）

大河原知樹・堀井聡江『イスラム法の「変容」—近代との邂逅』（イスラムを知る 17、山川出版社、2015 年）

蔡秀卿・王泰升編著『台湾法入門』（法律文化社、2016 年）

孝忠延夫・浅野宜之『インドの憲法〔新版〕—「国民国家」の困難性と可能性』（関西大学出版部、2018 年）

尹龍澤・青木清・大内憲昭・岡克彦・國分典子・中川敏宏・三村光弘編著『コリアの法と社会』（日本評論社、2020 年）

王雲海・周劍龍・周作彩編著『よくわかる中国法』（やわらかアカデミズム・〈わかる〉シリーズ、ミネルヴァ書房、2021 年）

鮎京正訓・四本健二・浅野宜之編『新版 アジア憲法集』（明石書店、2021 年）

その他の参考書は、必要に応じてその都度紹介します。

【成績評価の方法と基準】

秋学期末の授業内試験（教室レポート）（80 %）及び平常点（20 %）により、「到達目標」に掲げた「アジア各国・地域の法制度について、その背景にある諸要因（歴史・文化等）を踏まえつつ理解すること」等の達成度を評価します。

【学生の意見等からの気づき】

例年受講生が大変多いこともあり、授業の形式は片方向的なものとなりがちですので、一定の双方向性を確保するため、授業後における個別の質問を歓迎します。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire an understanding of the legal system of India, the Islamic law, and the legal system of each country and region belonging to East Asia. At the end of the course, students are expected to understand the legal systems of Asian countries and regions, taking into account the factors (history, culture, etc.) behind them. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Final grade will be calculated according to the following process: Term-end examination (80%) and in-class contribution (20%).

LAW300AB

社会安全政策論 I

篠崎 ほし江

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

単位数：2 単位

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

犯罪等の人の行為に起因する危険から個人や社会を守るためには、誰がどのような行動をとればよいのでしょうか。本講義では、現実社会で問題となっている各種の治安事象について説明しつつ、それに対する各方面からの取組を紹介し、講義や議論を通じて、犯罪の発生状況や犯罪対策について正確に理解するとともに、社会を担う一員として、社会の安全安心についての考え方を確立することを目指します。

【到達目標】

人は常に犯罪の危険にさらされています。よって、この講義により、犯罪リスク、逸脱行動への対処の仕方を学びます。また、人は犯罪を抑止することができます。この講義を受けることで、皆さんが社会の構成員として担うべき役割、責務を学び、安全な社会を作るプレーヤーとしての能力を養うことを目指します。その他、近年の我が国における治安情勢についての理解を深め、効果的かつ均衡のとれた政策の在り方について考察する素養を身に付けます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」、「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

グラフや画像を活用したわかりやすい資料を講師が毎回作成し、配布します。出席した皆さんから講義に関する質問や意見を受け付け、いただいた質問には次回講義で回答します。講義時間外の質問も可能です。その場合は、メールを原則とし、メールで返信します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業のテーマ、進め方、評価の仕方、警察概要、社会安全政策論の定義等
第 2 回	犯罪情勢	日本の犯罪情勢に係る統計、安心と安全の違い等
第 3 回	犯罪予防	犯罪予防総論・各論
第 4 回	犯罪捜査	捜査の概要、司法制度改革、捜査の高度化のための取組等
第 5 回	犯罪被害者支援	犯罪被害者を取り巻く状況、日本における被害者等施策の推移等
第 6 回	女性等を守る施策	性犯罪対策、ストーカー対策、DV 対策等
第 7 回	子どもを守る施策	児童虐待対策、児童ポルノ対策等
第 8 回	少年非行対策	少年法の概要、少年非行情勢、少年非行への対策等
第 9 回	特別講義	実務の現状
第 10 回	特殊詐欺対策	特殊詐欺の発生状況、手口の詳細、対策等
第 11 回	サイバー犯罪対策	サイバー犯罪の現状、対策等
第 12 回	組織犯罪対策	暴力団とは、暴力団による犯罪情勢、対策等
第 13 回	薬物対策	薬物の基礎知識、薬物犯罪情勢、対策等

第 14 回 汚職・企業犯罪対策 贈賄等の汚職事件、企業による不正活動、対策等

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

治安事象に関する報道等に広く関心を持って下さい。本授業の準備・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

使いません

【参考書】

全体を通じて、警察政策学会編『社会安全政策論』立花書房（2018 年）、警察白書、犯罪白書等を参考としてください。警察白書は警察庁ウェブサイト、犯罪白書は法務省ウェブサイトに掲載されていますので、購入せずとも見ることができます。その他、講義ごとに参考資料を明示します。

【成績評価の方法と基準】

授業での学習状況や参加度を平常点として評価します。また、学期末にレポートを提出してもらいます。成績評価に当たっては、それぞれ 50 % を配分します。

【学生の意見等からの気づき】

授業内容について概ね肯定的な評価をいただいたことから、新年度の授業についても、基本的な構成は踏襲しつつ、学生の関心に応えられるよう、最新の情勢を反映するなど、さらなる改善に努めます。

【学生が準備すべき機器他】

講義で使用する資料は、原則として、事前に学習支援システムにアップロードしますので、可能な限り資料を印刷し、事前に目を通しておいてください。

【その他の重要事項】

講師は現役の警察庁職員であり、警察庁のほか、他省庁や都道府県警察でも勤務した経験を持ちます。講師の知見を活かしつつ、現実社会に即した社会安全政策論について、分かりやすく解説します。刑法、刑事訴訟法の基礎知識があると理解が平易になります。

【Outline (in English)】

This course, Theory on Social Security Policy, deals with policies for protecting the individual or society from dangers arising from people's behavior, mainly related to crimes. The course provides theoretical understanding of the dramatic improvement of the public safety situation in the recent years. The students can also get some keys to properly handle the risks or other challenges they might face in the future. This course ultimately aims to develop their ability to grasp and analyze various kinds of problems in society, and find out solutions.

(Learning Objectives)

People are always at risk of crime. Therefore, by this lecture, the students will learn how to deal with criminal risks and deviant behavior.

Also, one can deter crime. By taking this lecture, the students will learn the roles and responsibilities they should play as members of society to create safer society. In addition, the course will help the students to deepen the understanding of the security situation in Japan in recent years, and acquire the ability to consider an effective and balanced policy.

(Learning activities outside of classroom)

Please pay attention to media reports on security events.

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

(Grading Criteria/Policy)

The learning situation and degree of participation in class is evaluated as normal points.

The students will also be asked to submit a report at the end of the semester.

50% will be allocated to each grade evaluation.

LAW100AB

法思想史

大野 達司

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

単位数：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は「文化・社会と法コース」に属する。

近代日本の法思想・法制度に対する海外法思想の影響と理解を概観する。

【到達目標】

近代日本法思想の海外法思想の受容と歴史的背景を理解し、近代化の意味とともに、とくに西欧法思想をわたしたちが学ぶ意味をとらえ、一般に目にする西欧中心の法思想史を学ぶきっかけをうる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」、「DP3」に強く関連。

【授業の進め方と方法】

教科書に沿って、学習支援システムで配布するレジュメに基づいて授業を進める。

対面授業ができない場合は、概要について動画・または音声ファイルをシステムにアップする予定。同システムを通じて、授業時間内・また一定の期間質問を受け付ける。次回授業か、学習支援システムで応答する。授業各回のあとで、内容確認のため、オンラインクイズを実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第一回	はじめに	授業・評価の方法と全体の概要
第二回	第一章法と権利	近代初期日本への法と権利概念の継受
第三回	際 2 章自然法の思想	西欧自然法論の概要
第四回	第 3 章公と知識人	明治期の「市民社会」= 公共圏のありか
第五回	第 4 章憲法と自治	明治憲法制定期の議会制と自治をめぐる議論
第六回	第 5 章初期明治憲法理論 第 12 章天皇機関説事件の法思想	穂積八東・美濃部達吉・上杉慎吉らの法思想
第七回	第 6 章明治民法学	日本とドイツの法典論争
第八回	第 7 章刑法理論の対立	初期刑法学以降の旧派と新派の対立と意味
第九回	第 8 章大正デモクラシー	大正デモクラシーの法・政治思想と初期フェミニズム
第十回	第 9 章マルクス主義法学	社会法の法思想のはじまりと、思想弾圧
第十一回	第 10 章国際法と国際政治	第一次大戦後の国際法・政治思想とケルゼン・シュミット
第十二回	第 11 章国粹主義の法思想	昭和初期の政治基盤の変容と右派法思想
第十三回	第 13 章総動員体制（新体制）の構築と法思想	第二次大戦に突入するころの法思想
第十四回	第 14 章戦時体制下の法思想 第 15 章新憲法体制の法思想	第二次大戦直後の法思想の対応

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配布するレジュメに基づいて予習復習をすること。教科書を利用する場合は、事前に指示した箇所を確認しておくこと本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

大野・森元・吉永『近代法思想史入門』法律文化社、2016 年

【参考書】

教科書にあげられているものの他、西欧法思想史について

森村進編『法思想の水脈』法律文化社、2016 年

西村清貴『近代ドイツの法と国制』成文堂、2017 年

中山・浅野・松嶋・近藤『法思想史』有斐閣、2019 年

西村清貴『法思想史入門』成文堂、2020 年

戒能通弘・神原和宏・鈴木康文『法思想史を読み解く』法律文化社、2020 年

日本思想史について、山口種臣／福家崇洋篇『思想史講義』明治 1、大正、戦前昭和篇、ちくま新書、2022 年（明治 2 は 2023 年刊予定とのこと）。

授業では触れられないかもしれないが、

オリヴァー・リーマン『イスラム哲学への扉』中村廣治郎訳、ちくま学芸文庫、2002 年

小嶋祐馬『中国思想史』KK ベストセラーズ、2017 年

【成績評価の方法と基準】

期末レポート（70 %）とオンラインクイズ（30 %）。

【学生の意見等からの気づき】

なし

【学生が準備すべき機器他】

なし

学習支援システムが使えるように。また google classroom も使えるように。

【その他の重要事項】

授業で話しきれない部分は、オンデマンドで提供します。必要に応じて視聴してください。

【Outline (in English)】

(Course outline) This lecture focuses on the modern Japanese legal thoughts and their receptions from foreign legal thoughts as their backgrounds.

(Learning Objectives) To understand origins and backgrounds of modern legal thoughts and their historical importance and reality in Japan.

(Learning activities outside of classroom) Before each lesson participants should read the relevant capitals by themselves.

(Grading Criteria/Policy) Grade evaluation is based on answers to quizzes after each lesson (30%) and term-end reports (70%).

LAW200AB

法律学特講（情報社会と犯罪捜査）

朝村 太一

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

単位数：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

情報技術の発展は、新たな犯罪捜査手法を生み出す。これらの新たな捜査手法は、複雑化・巧妙化を続ける犯罪行為に関する情報収集手段として極めて有用である。他方で、これらの捜査手法については、それが対象者の「プライバシー」等を制約する側面を有することも多いこと、及び現行刑法が主として伝統的な捜査手法を念頭に置いた規定を有していることから、その許容性・許容要件が活発に議論されている。

本講義では、情報技術の発展に伴って生じた新たな捜査手法に対する法的規律についての議論の概況を把握することを通じて、情報社会における犯罪捜査のあり方を考える端緒を提供することを目的とする。

【到達目標】

情報技術の発展に伴って生じた犯罪捜査に関する種々の問題について、立法・判例・学説上どのような解決の試みが行われているのかを理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

講義形式で行う（六法を持参してください）。
刑事訴訟法を学んだことがない学生であっても内容を理解できるよう、捜査法に関する前提知識からレクチャーする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	問題の所在 本講義で学ぶこと
第 2 回	捜査法の基本構造	強制処分法定主義 令状主義
第 3 回	写真撮影と犯罪捜査	公道上の人の容ぼう等の写真・ビデオ撮影
第 4 回	通信傍受と犯罪捜査①	通信傍受法制定以前の問題状況
第 5 回	通信傍受と犯罪捜査②	通信傍受法の内容
第 6 回	GPS と犯罪捜査①	GPS 大法廷判決以前の問題状況
第 7 回	GPS と犯罪捜査②	GPS 大法廷判決 関連する捜査手法
第 8 回	小括①	「プライバシー」を制約する側面を有する捜査手法に対する法的規律
第 9 回	データと犯罪捜査①	平成 23 年刑事訴訟法改正以前の問題状況
第 10 回	データと犯罪捜査②	平成 23 年刑事訴訟法改正の内容
第 11 回	データと犯罪捜査③	サイバー犯罪捜査の実務
第 12 回	パスワードと犯罪捜査①	問題の所在 諸外国における議論の概況
第 13 回	パスワードと犯罪捜査②	パスワード入力力の強要と自己負罪拒否特権
第 14 回	小括② 全体のまとめ	技術発展に伴って生じる種々の問題に対する解決の試み 総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習：学習支援システムを通じて配布されるレジュメに目を通す（各回 2 時間程度）

復習：各回末に紹介する参考文献を適宜参照しつつ、講義内容を自分なりに整理する（各回 2 時間程度）。

【テキスト（教科書）】

なし。

【参考書】

捜査に関する法的規律の概要を把握するに当たっては、池田公博＝笹倉宏紀『刑事訴訟法』（有斐閣、2022 年）が有用である。

その他の参考文献は、ガイダンス及び各回末に紹介する。

【成績評価の方法と基準】

期末試験（100 %）。

【学生の意見等からの気づき】

（本年度新規開講のため）特になし。

【Outline (in English)】

[Course Outline]

The aim of this course is to provide an opportunity to consider the state of criminal investigation in the information society through an overview of the debate on the regulation of new investigative techniques that have arisen with the development of information technology.

[Learning Objectives]

The goal of this course is to understand what kind of solutions are being attempted to solve various problems related to criminal investigations that have arisen as a result of the advanced development of information technology.

[Learning Activities Outside of Classroom]

Before/after each class, students are expected to spend 2 hours to prepare for/review the lesson.

[Grading Criteria / Policy]

The overall grade will be based on the term-end examination (100%).

LAW200AB

行政法入門Ⅰ

高橋 滋

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

単位数：2 単位

備考（履修条件等）：クラス指定科目 ※法律 2 年 A-G・3 年全

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

I 行政法とは行政に関する法のことを指す。行政法が他の法分野と大きく異なるのは、行政法という名前の法律（行政法典）がないことである。しかしながら、市場及び国民生活に対する公的な介入としての行政のメカニズムに即して、行政法は独自の体系を構築している。

II 本講義は、行政法に関する入門科目として、行政法入門Ⅱとともに、行政法に関する題材を幅広く取扱い、行政法の全体像の把握、行政法の基礎知識に関する修得を目指す。

III 行政法入門Ⅰにおいては、具体的には、行政法の基礎、行政組織法の基礎、行政活動（作用）法入門（前半）を取り扱う。全てのコースに配置されている科目である。

【到達目標】

I 知識面

①行政法の全体像を把握し、各学習項目について基礎的な知識を確実に理解する。

②行政法の基礎的な理解に不可欠な行政法令、代表的な最高裁判所の判決の概要について、確実な知識を身に付ける。

③具体的には、次のものを取り扱う。

行政法の体系、法治主義と法の支配、行政法の基本原理、行政組織法の基礎
行政行為

II 能力面

①行政法分野における基礎的な解説文が読解できる能力を養う。併せて、代表的な最高裁判所の判旨を正確に理解できる能力を養う。

②解説文、最高裁判所の判決要旨等について、理解できない点、疑問点を発見し、これらについて自ら基礎的な文献を調べ、あるいは、担当教員等に質問するなどして、受動的ではなく、積極的に講義に参加する学習態度を身に付ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

I ①一般的な講義形式による。ただし、新型コロナ感染症の拡散を抑制するため、また、受講者数を勘案して、クラスを半分に分けて対面講義とオンライン講義とを併用する（2 クラスに分け、対面を認める回とオンラインとする回とを交互に振り分ける。クラス分けの基準は②に準ずる）。指定と異なる回に対面で開催し又はアクセスした場合には、出席をカウントしない。

②初回については、対面で実施し、2 クラスに分けて実施する（10 時 40 分から 11 時 20 分は 2 年生 A～D クラス、11 時 20 分から 11 時 30 分は入替え、11 時 30 分から 12 時 10 分は 2 年生 E～G クラス、3 年生以上・他学科等）。初回についても出席票を配布する。指定と異なる時間帯に出席した場合には、出席票をカウントしない。

③また、対面講義・オンライン講義にかかわらず、講義時間中に学習支援システムの「Timed Test」の正誤問題の機能を利用して簡単な確認テストを実施する（初回を除く。各講義において 1 問）。また、2 回の中間テストを実施する（2 クラスに分けて実施する。30 分の正誤問題）。よって、PC 等を準備すること。

II 受講者は教科書を購入すること。また、講義資料は教室では配布しない。学習支援システムからダウンロードした資料を利用すること。

III 受講者は、予習をし、対面又はオンラインでの講義で学習を深め、その後の復習を通じて理解を定着させること。

IV 学生に対するフィードバックは、講義時間中の確認テスト、2 回の中間テストを通じて実施する。出席にインセンティブを与え、かつ、リアクションを講義に反映させる見地から、講義時間中に正誤問題による簡単な確認テストを実施する。正誤問題の回答（対面の回は出席票も）については平常点として加点する（最大 40 %を加点）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション 行政法とは何か	授業の進め方・行政法令の例（前半と後半で 2 クラスに分けて実施する。クラス分けの基準は【授業の進め方と方法】を参照）
第 2 回	行政法基礎（1）	行政法の基本原理（1）
第 3 回	行政法基礎（2）・行政組織法（1）	行政法の基本原理（2）・行政組織法（1）(行政主体)
第 4 回	行政法組織法（2）	行政組織法（2）(国・地方関係、地方分権)
第 5 回	第 1 回中間試験（30 分の正誤問題。2 クラス分けをして実施する）	第 1 回中間試験（試験範囲は、第 1～第 4 回）
第 6 回	行政組織法（3）	行政組織法（3）(公私協働、行政機関)
第 7 回	行政作用法入門（1）	行政作用法入門（1）(行政の行為形式論、「行政行為」①(概説))
第 8 回	行政作用法入門（2）	行政作用法入門（2）(行政行為②（行政行為と事後的救済の制度①))
第 9 回	行政作用法入門（3）	行政行為③（行政行為と事後的救済の制度②)
第 10 回	第 2 回中間試験（30 分の正誤問題。2 クラス分けて実施する）	第 2 回中間試験（試験範囲は、第 6 回～第 9 回）
第 11 回	行政作用法入門（4）	行政行為④（行政手続①- 概説・申請に対する処分）
第 12 回	行政作用法入門（5）	行政行為⑤（行政手続②- 不利益処分）
第 13 回	行政作用法入門（6）	行政行為⑥（行政裁量）
第 14 回	行政作用法入門（7）	行政指導

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

入門科目であるので、テキストを熟読すること。また、適宜、プリントを配布するので、それも必要に応じて参照すること。さらに、わからない用語等があれば、法律学辞典等を調べる。本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

高橋滋＝野口貴公美＝磯部哲＝大橋真由美編『行政法 Visual Materials〔第 2 版〕』（有斐閣、2020 年）2,750 円（最新の内容の理解が重要であり、理解度テストも最新の知見を重視するため、第 1 版の使用は推奨しない（第 1 版の記述に依拠して解答した場合は及第点が獲得できない可能性がある））

【参考書】

高橋滋『行政法（第 2 版）』（弘文堂、2018 年）3,500 円

【成績評価の方法と基準】

I 2 回の中間試験（40%）、期末試験（60%）の合計 100%とする。いずれも、中間試験は正誤問題、期末試験は文章問題とする（正誤問題による平常点（対面の回は出席票も）の評価については 40%の範囲で加点する）。

II 講義への出席が講義内容の理解度の向上に寄与するとの観点、及び、出席にインセンティブを与え、かつ、リアクションを講義に反映させる見地から、講義時間中に正誤問題による簡単な確認テストを実施する。接続不良の際の回答ミスの場合の届出方法については、別途、周知する（基本的に当該時点における接続不良の画面をスマホ等で撮影した画像の提出が必要となる）。学習支援システムのテスト機能を用いた正誤問題の回答については平常点（対面の回は出席票も）として加点する（最大 40 %を加点）。

Ⅲ 学生に対するフィードバックは、講義時間内の正誤問題への解説、中間テストへの解説等によって実施する。

【学生の意見等からの気づき】

- ① 学習に意欲的な受講者の反応からは、オンライン講義の形態であっても、対面講義に劣らない講義内容を提供できたものとする
- ② 教員・学生相互にオンライン講義の習熟度が向上したと思われることから、平常点の確認の手法をより厳格なものに切り替えることとした。
- ③ Zoom についても学習支援システムについても稀にはあるが通信障害が生ずることが確認された。この点を踏まえ、昨年度においても救済措置を実施したが、平常点の評価の厳格化に伴い、救済措置としてのレポートの評価も厳格化する。

【学生が準備すべき機器他】

PC・無線ルーターの準備については、大学方針を参照されたい。

【その他の重要事項】

なし

【Outline (in English)】

【Course outline】 As an introductory lecture of administrative law, together with Introduction to Administrative law II, this lecture handles many materials about the administration. ① Introduction of administrative law. ② Theory of administrative organization and civil service. ③ Theories of administrative dispositions and guidance of administrative organization.

【Learning Objectives】 Students are expected to grasp the whole structure of the subject and to acquire basic knowledge about the administrative law.

【Learning activities outside of classroom】

Students should prepare for the lessons, deepen their learning through face-to-face or high-flex lectures, and consolidate their understanding through subsequent review.

【Grading Criteria/Policy】 I. Two mid-term examinations (40%) and a final exam (60%) totaled 100%. In both cases, the midterm exam is a true/false question, and the final exam is a written question (points are added in the range of 40% for evaluation of normal scores based on true/false questions).

II. Conduct a simple confirmation test with true/false questions during lecture time. The notification method in the case of an answer error in the event of a bad connection will be separately disseminated (basically, it is necessary to submit an image taken with a smartphone or the like of the screen of the connection failure at that time). Answers to true/false questions using the test function of the learning support system will be added as normal points (up to 40% will be added).

LAW200AB

行政法入門Ⅱ

高橋 滋

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

単位数：2 単位

備考（履修条件等）：クラス指定科目 ※法律 2 年 A-G・3 年全

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

I 行政法に関する入門科目として、行政法入門Ⅰとともに、全てのコースに置かれている。行政法に関する題材を幅広く取扱い、行政法の全体像の把握、行政法の基礎知識に関する修得を目指す。

II 実定法、特に行政法の講義内容が抽象的なものとなりがちであることに留意し、行政法の複雑な仕組みを平易に説明した図・グラフ、重要判例の事案の理解に資する図・説明文、行政実務に用いられている文書等を多く用い、行政法全体の体系に関する基礎的な理解及び基礎知識が 1 年間 4 単位の講義を通じて修得できることを目指す。

III 具体的には、次の内容を取り扱う。

- 行政立法、行政計画、行政契約
- 情報公開、個人情報保護
- 国家補償法入門、国家賠償、損失補償
- 行政訴訟法入門、行政訴訟

【到達目標】

I 知識面

①行政法の全体像を把握し、各学習項目について基礎的な知識を確実に理解する。

②行政法の基礎的に理解に不可欠な行政法令、代表的な最高裁判所の判決の概要についても、確実な知識を身に付ける。

II 能力面

①行政法分野における基礎的な解説文が読解できる能力を養う。併せて、代表的な最高裁判所の判旨を正確に理解できる能力を養う。

②解説文、最高裁判所の判決要旨等について、理解できない点、疑問点を発見し、これらについて自ら基礎的な文献を調べ、あるいは、担当教員等に質問するなどして、受動的ではなく、積極的に講義に参加する学習態度を身に付ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

I ①一般的な講義形式による。ただし、新型コロナウイルス感染症の拡散を抑制するため、また、受講者数を勘案して、クラスを半分に分けて対面講義とを併用する（2 クラスに分け、対面を認める回とオンラインとする回とを交互に振り分ける。クラス分けの基準は②に準ずる）。指定と異なる回に出席し又はアクセスした場合には、出席をカウントしない。

②初回については、対面で実施し、2 クラスに分けて実施する（10 時 40 分～11 時 20 分は 2 年生 A～D クラス、11 時 20 分から 11 時 30 分は入替え、11 時 30 分～12 時 10 分は 2 年生 E～G クラス・他学科等）。初回についても出席票を配布する。指定と異なる時間帯に出席した場合には、出席票をカウントしない。

③対面講義・オンライン講義にかかわらず、講義時間中に学習支援システムの「Timed Test」の正誤問題の機能を利用して簡単な確認テストを実施する（初回を除く。各講義において 1 問）。また、2 回の中間テストを実施する（2 クラスに分けて実施する。30 分の正誤問題）。よって、PC を準備すること。

II 受講者は教科書を購入すること。また、講義資料は教室では配布しない。学習支援システムからダウンロードした資料を利用すること。

III 受講者は、予習をし、対面又はハイフレックスでの講義で学習を深め、その後の復習を通じて理解を定着させること。

IV 学生に対するフィードバックは、講義時間中の確認テスト、2 回の中間テストを通じて実施する。出席にインセンティブを与え、かつ、リアクションを講義に反映させる見地から、講義時間中に正誤問題による簡単な確認テストを実施する。正誤問題の回答（対面の回は出席票も）については平常点として加点する（最大 40 % を加点）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	行政契約・行政立法①	行政契約・行政立法①(概説)(2 クラスに分けて実施する。クラス分けの基準は【授業の進め方と方法】を参照)
第 2 回	行政立法②	行政立法②(法規命令・行政規則①)
第 3 回	行政立法③・行政計画	行政立法③(行政規則②)・行政計画
第 4 回	行政情報の公開	行政情報の公開
第 5 回	行政情報と個人情報保護	行政情報と個人情報保護
第 6 回	第 1 回中間試験(30 分。2 クラスに分けて実施する)	第 1 回中間試験(試験範囲は、第 1 回から第 5 回)
第 7 回	行政訴訟の基礎・抗告訴訟①	行政訴訟の基礎・抗告訴訟の種類・取消訴訟の要件①
第 8 回	抗告訴訟②	取消訴訟の訴訟要件①- 処分性・原告適格
第 9 回	抗告訴訟③	その他の抗告訴訟・仮の救済
第 10 回	当事者訴訟・客観訴訟	当事者訴訟・客観訴訟
第 11 回	第 2 回中間試験(30 分。2 クラスに分けて実施する)	第 2 回中間試験(試験範囲は、第 7 回～第 10 回)
第 12 回	国家賠償法①	国家賠償法①- 概説、公務員・公権力の行使
第 13 回	国家賠償法②	国家賠償法②- 故意・過失・違法性、職務行為基準説
第 14 回	国家賠償法③	公の营造物の設置管理の瑕疵・国家補償の谷間

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

入門科目であるので、テキストを予め熟読すること。また、わからない用語等があれば、参考文献を調べる。本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

高橋滋＝野口貴公美＝磯部哲＝大橋真由美編『行政法 Visual Materials 〔第 2 版〕』（有斐閣、2020 年）2,750 円（最新の内容の理解が重要であり、理解度テストも最新の知見を重視するため、第 1 版の使用は推奨しない（第 1 版の記述に依拠して解答した場合は及第点が獲得できない可能性がある））

【参考書】

高橋滋『行政法（第 2 版）』（弘文堂、2018 年） 3,500 円

【成績評価の方法と基準】

I 2 回の中間試験（40%）、期末試験（60%）の合計 100% とする。いずれも、中間試験は正誤問題、期末試験は文章問題とする（正誤問題による平常点（対面の回は出席票も）の評価については 40% の範囲で加点する）。

II 講義への出席が講義内容の理解度の向上に寄与するとの観点、及び、出席にインセンティブを与え、かつ、リアクションを講義に反映させる見地から、講義時間中に正誤問題による簡単な確認テストを実施する。接続不良の際の回答ミスの場合の届出方法については、別途、周知する（基本的に当該時点における接続不良の画面をスマホ等で撮影した画像の提出が必要となる）。学習支援システムのテスト機能を用いた正誤問題の回答（対面の回は出席票も）については平常点として加点する（最大 40% を加点）。

III 学生に対するフィードバックは、講義時間内の正誤問題への解説、中間テストへの解説等によって実施する。

【学生の意見等からの気づき】

- ① 学習に意欲的な受講者の反応からは、オンライン講義の形態であっても、対面講義に劣らない講義内容を提供できたものとする。
- ② 教員・学生相互にオンライン講義の習熟度が向上したと思われることから、平常点の確認の手法をより厳格なものに切り替えることとした。
- ③ Zoom についても学習支援システムについても、稀にはあるが通信障害が生ずることが確認された。この点を踏まえ、昨年度においても救済措置を実施したが、平常点の評価の厳格化に伴い、救済措置としてのレポートの評価も厳格化する。

【学生が準備すべき機器他】

PC 及び無線ルーターの準備については大学の方針を参照されたい。

【その他の重要事項】

なし。

【Outline (in English)】

【Course outline】 As an introductory lecture of administrative law, together with Introduction to Administrative law I, this lecture handles many materials about the administration.

① Introduction to administrative operations (last half), ② Freedom of Administrative Information and Protection of Personal Data, ③ State Compensation, ④ Appeals, and Suits against Administration.

【Learning Objectives】 Students are expected to grasp the whole structure of the subject and to acquire basic knowledge about the administrative law.

【Learning activities outside of classroom】

Students should prepare for the lessons, deepen their learning through face-to-face or high-flex lectures, and consolidate their understanding through subsequent review.

【Grading Criteria /Policy】I. Two mid-term examinations (40%) and a final exam (60%) totaled 100%. In both cases, the midterm exam is a true/false question, and the final exam is a written question (points are added in the range of 40% for evaluation of normal scores based on true/false questions).

II. Conduct a simple confirmation test with true/false questions during lecture time. The notification method in the case of an answer error in the event of a bad connection will be separately disseminated (basically, it is necessary to submit an image taken with a smartphone or the like of the screen of the connection failure at that time). Answers to true/false questions using the test function of the learning support system will be added as normal points (up to 40% will be added).

LAW200AB

外国書講読（独語） I

大野 達司

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

単位数：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は、各コースの基礎となるものであり、法律学の学問的視野を広める土台となることを目的としている。対象はドイツ法・政治であり、関連するドイツ語文献を読んでみる。なお、ドイツ語未修者でも履修できる。

【到達目標】

法学や政治学の基本概念である「正義」Gerechtigkeit を、思想史の中で理解する。思想や社会の歴史的な背景に配慮しながら、それぞれの時代での理解・転換を跡づける。各自ドイツ語の文献に挑戦し、授業の中で文献の内容を理解できるようになる。未修者は自分で辞書を引きながら調べられるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

毎回一頁ほどのペースで、テキストの輪読を行う。参加者の習熟に合わせて増減する。各回の「予定」は外国書講読 2 とあわせてテキストの目次をもとに、内容を紹介しているので、関心があるところを探しておいてほしい。

対面授業が難しい場合には、zoom を用いて実施する。テキストは授業支援システムで配布する。語学そのものというより、内容理解と背景の確認ができるように。質問は学習支援システム、授業内で受け付け、応答する。なお、大学院法学研究科の類似授業との乗り入れで実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	本書のイントロダクションと概要の説明 Gerechtigkeit, Konzepte und Praktiken eines europaischen Grundbegriffs im Wandel.
2	イントロダクション続き	前回の続き
3	古代概観	古代のイントロダクション
4	プラトン	Gerechtigkeit als Recht zur Selbstverwirklichung bei Plato.
5	プラトン 2	前回の続き
6	ローマ法	"Ehrenhaft leben - niemandem verletzen - jedem das Seine gewahren", DerGerechtigkeitsdiskurs in Rom zwischen Tradition, Ethik und Recht
7	ローマ法 2	前回の続き
8	ローマ共和制	Gerechtigkeitskonkurrenzen in der politischen Praxis der roemischen Republik
9	ローマ共和制 2	前回の続き
10	中世概観	中世のイントロダクション

11	中世の秩序論	Die Begrueudung der besten Ordnung. Gerechtigkeitskonzeptionen im Mittelalter
12	中世の秩序論 2	前回の続き
13	中世政治	Gerechtigkeit und politische Praxes im Mittelalter zwischen Konsens und Transzendenz
14	中世政治 2	前回の続き

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前の予習。文法的な問題だけでなく、内容について日本語の文献を参考にしながら、できるだけ自分で調べておく。授業外では、毎週 1 時間程度の予習・復習をする。

【テキスト（教科書）】

Gert Melville, Gregor Vogt-Spira, Mirko Breitenstein (Hg.), Gerechtigkeit, Boehlau, 2014. 該当箇所を配布する予定。

【参考書】

大野・森元・吉永『近代法思想史入門』など

【成績評価の方法と基準】

平常点と「努力点」70 + 30 %

平常点は、各回での参加度合い。努力点とは、参加者それぞれで出発点が違うので、初回と比べて最終回までにどれだけ理解度が増したか、を基準とする。

【学生の意見等からの気づき】

実施せず

【学生が準備すべき機器他】

とくにないが、テキストを授業支援システムで配布することがある。

【その他の重要事項】

内容に関連したドイツ映画を参考にすることがある。大学院との合同授業。初学者・他学科学生も歓迎。

【Outline (in English)】

(Course outline) Students and teacher read together German Text about legal, political or social topics and translate it into Japanese.

(Learning Objectives) The aim is to understand their basic concepts and to acquire skills for reading German text by oneself.

(Learning activities outside of classroom) Before each lesson participants should read the relevant text by themselves.

(Grading Criteria/ Policy) Grades are based on normal points.

LAW200AB

外国書講読（独語）Ⅱ

大野 達司

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
 単位数：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は、各コースの基礎となるものであり、法律学の学問的視野を広める土台となることを目的としている。対象はドイツ法・政治であり、関連するドイツ語文献を読んでみる。なお、ドイツ語未修者でも履修できる。

【到達目標】

法学や政治学の基本概念である「正義」Gerechtigkeit を、思想史の中で理解する。思想や社会の歴史的な背景に配慮しながら、それぞれの時代での理解・転換を跡づける。各自ドイツ語の文献に挑戦し、授業の中で文献の内容を理解できるようになる。未修者は自分で辞書を引きながら調べられるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

毎回一頁ほどのペースで、テキストの輪読を行う。参加者の習熟に合わせて増減する。各回の「予定」は外国書講読 2 とあわせてテキストの目次をもとに、内容を紹介しているので、関心があるところを探しておいてほしい。

対面授業が難しい場合には、zoom を用いて実施する。テキストは授業支援システムで配布する。語学そのものというより、内容理解と背景の確認ができるように。質問は学習支援システム、授業内で受け付け、応答する。なお、大学院法学研究科の類似授業との乗り入れで実施する。

「1」からの継続となるが、「2」からの履修も可。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	近世概観	近世のイントロダクション
2	初期近世	Gerechtigkeitskonzeptionen in der Fruehen Neuzeit
3	初期近世 2	前回の続き
4	私法の紛争解決諸形式	Formen des privaten Rechts. Schiedsprueche im gesellschaftlichen und wirtschaftlichen Leben Norditaliens im Uebergang zur fruehen Neuzeit
5	私法の紛争解決諸形式 2	前回の続き
6	啓蒙時代概観	啓蒙期のイントロダクション
7	啓蒙された正義	Aufgeklarte Gerechtigkeit. Einheit der Vernunft und Vielfalt der Lebensformen
8	啓蒙された正義 2	前回の続き
9	啓蒙時代の iustitia	Iustitia im Zeitalter der Aufklaerung: Dislurs und Verfahren
10	啓蒙時代の iustitia 2	前回の続き
11	現代概観	現代のイントロダクション
12	今日の論争における正義	Gerechtigkeit im Theoriediskurs der Gegenwart

- 13 結果平等から機会平等 Von der Ergebnisgleichheit zur Chancengleichheit? Gerechtigkeitsvorstellungen der Bevoelkerung der Gegenwart im Wandel
- 14 正義への期待喪失 Gerechtigkeit kann man nicht erwarten - nur ein Urteil

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前の予習。文法的な問題だけでなく、内容について日本語の文献を参考にしながら、できるだけ自分で調べておく。授業外では、毎週 1 時間程度の予習・復習をする。

【テキスト（教科書）】

Gert Melville, Gregor Vogt-Spira, Mirko Breitenstein (Hg.), Gerechtigkeit, Boehlau, 2014. 該当箇所を配布する予定。なお上の内容の他、イスラムに関する小がある。Gerechtigkeit und Vollkommenheit der irdischen Verhaeltnisse in islamischer Sicht.

【参考書】

戒能・神原・鈴木『法思想史を読み解く』、法律文化社、2020 年、大野・森元・吉永『近代法思想史入門』、法律文化社、2016 年など

【成績評価の方法と基準】

平常点と「努力点」70 + 30 %

平常点は、各回での参加度合い。努力点とは、参加者それぞれで出発点が違うので、初回と比べて最終回までにとどれだけ理解度が増したか、を基準とする。

【学生の意見等からの気づき】

実施せず

【学生が準備すべき機器他】

とくにないが、テキストを授業支援システムで配布することがある。

【その他の重要事項】

内容に関連したドイツ映画を参考にすることがある。大学院との合同授業。初學者・他学科学生も歓迎。

【Outline (in English)】

(Course outline) Students and teacher read together German Text about legal, political or social topics and translate it into Japanese.

(Learning Objectives) The aim is to understand their basic concepts and to acquire skills for reading German text by oneself.

(Learning activities outside of classroom) Before each lesson participants should read the relevant text by themselves.

(Grading Criteria/ Policy) Grades are based on normal points.

LAW200AB

外国書講読（英語） I

田中 佐代子

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

単位数：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は各コースの基礎となるものであり、法学の学問的視野を広める土台となることを目的とする。

具体的には、英語で書かれた国際法の文献を読み、内容について議論する。

【到達目標】

英語で書かれた国際法文献の内容を正確に理解できるようになること。

その内容について議論ができるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

事前に配布する英文を受講生各自が予習して来た上で、授業当日は、全員で内容を確認し、正確に理解する。できる限り、当該英文で扱われたテーマについての議論の時間もとりたい。

今年度は国際司法裁判所の判決を扱う予定である。受講生が国際裁判例の原文を読むのが初めてであることを想定して、一回ごとの分量はかなり少なく設定し、丁寧に説明しながら読み解いていく。国際法を体系的に学んだことのない学生にも配慮して進める。法律学科以外の学生ももちろん歓迎する。

受講生からの質問等に対しては、授業内のコメントによりフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業計画の説明
第 2 回	文献の輪読と討論 (1)	全員で文献 1 の内容を確認し、討論を行う
第 3 回	文献の輪読と討論 (2)	全員で文献 2 の内容を確認し、討論を行う
第 4 回	文献の輪読と討論 (3)	全員で文献 3 の内容を確認し、討論を行う
第 5 回	文献の輪読と討論 (4)	全員で文献 4 の内容を確認し、討論を行う
第 6 回	文献の輪読と討論 (5)	全員で文献 5 の内容を確認し、討論を行う
第 7 回	文献の輪読と討論 (6)	全員で文献 6 の内容を確認し、討論を行う
第 8 回	文献の輪読と討論 (7)	全員で文献 7 の内容を確認し、討論を行う
第 9 回	文献の輪読と討論 (8)	全員で文献 8 の内容を確認し、討論を行う
第 10 回	文献の輪読と討論 (9)	全員で文献 9 の内容を確認し、討論を行う
第 11 回	文献の輪読と討論 (10)	全員で文献 10 の内容を確認し、討論を行う
第 12 回	文献の輪読と討論 (11)	全員で文献 11 の内容を確認し、討論を行う
第 13 回	文献の輪読と討論 (12)	全員で文献 12 の内容を確認し、討論を行う
第 14 回	総括	理解度の確認と全体の復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の予習として、英語文献を精読してくること。

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする（ただし、これはあくまで一般的な標準の時間であり、実際には各回の内容等により大きく異なることがある）。

【テキスト（教科書）】

国際司法裁判所の判決を扱う。

取り上げる事件は、受講生の関心も考慮しつつ選定する。

教材の入手方法については初回に説明する。

【参考書】

開講時に指示する。

【成績評価の方法と基準】

平常点 (100 %)。予習、当日の質疑・討論への参加を総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

受講生の自習の方法について十分説明するようにしたい。

【Outline (in English)】

In this seminar, participants are expected to read and discuss on English literatures on international law. Before each class, students are expected to read the assignment. Grading is based on the in-class contribution.

LAW200AB

外国書講読（英語）Ⅱ

田中 佐代子

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

単位数：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は各コースの基礎となるものであり、法学の学問的視野を広める土台となることを目的とする。

具体的には、英語で書かれた国際法の文献を読み、内容について議論する。

【到達目標】

英語で書かれた国際法文献の内容を正確に理解できるようになること。

その内容について議論ができるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

事前に配布する英文を受講生各自が予習して来た上で、授業当日は、全員で内容を確認し、正確に理解する。できる限り、当該英文で扱われたテーマについての議論の時間もとりたい。

今年度は国際司法裁判所の判決を扱う予定である。受講生が国際裁判例の原文を読むのが初めてであることを想定して、一回ごとの分量はかなり少なく設定し、丁寧に説明しながら読み解いていく。国際法を体系的に学んだことのない学生にも配慮して進める。法律学科以外の学生ももちろん歓迎する。

受講生からの質問等に対しては、授業内のコメントによりフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業計画の説明
第 2 回	文献の輪読と討論 (1)	全員で文献 1 の内容を確認し、討論を行う
第 3 回	文献の輪読と討論 (2)	全員で文献 2 の内容を確認し、討論を行う
第 4 回	文献の輪読と討論 (3)	全員で文献 3 の内容を確認し、討論を行う
第 5 回	文献の輪読と討論 (4)	全員で文献 4 の内容を確認し、討論を行う
第 6 回	文献の輪読と討論 (5)	全員で文献 5 の内容を確認し、討論を行う
第 7 回	文献の輪読と討論 (6)	全員で文献 6 の内容を確認し、討論を行う
第 8 回	文献の輪読と討論 (7)	全員で文献 7 の内容を確認し、討論を行う
第 9 回	文献の輪読と討論 (8)	全員で文献 8 の内容を確認し、討論を行う
第 10 回	文献の輪読と討論 (9)	全員で文献 9 の内容を確認し、討論を行う
第 11 回	文献の輪読と討論 (10)	全員で文献 10 の内容を確認し、討論を行う
第 12 回	文献の輪読と討論 (11)	全員で文献 11 の内容を確認し、討論を行う
第 13 回	文献の輪読と討論 (12)	全員で文献 12 の内容を確認し、討論を行う
第 14 回	総括	理解度の確認と全体の復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の予習として、英語文献を精読してくること。

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする（ただし、これはあくまで一般的な標準の時間であり、実際には各回の内容等により大きく異なることがある）。

【テキスト（教科書）】

国際司法裁判所の判決を扱う。

取り上げる事件は、受講生の関心も考慮しつつ選定する。

教材の入手方法については初回に説明する。

【参考書】

開講時に指示する。

【成績評価の方法と基準】

平常点 (100 %)。予習、当日の質疑・討論への参加を総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

受講生の自習の方法について十分説明するようにしたい。

【Outline (in English)】

In this seminar, participants are expected to read and discuss on English literatures on international law. Before each class, students are expected to read the assignment. Grading is based on the in-class contribution.

LAW200AB

国際法基礎理論

森田 章夫

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

単位数：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国際法は主として国家間関係を規律する法である。この授業では、国際社会において生じている事象を法的観点から理解するために国家に関する国際法の基本的な概念と実行を学ぶ。

法学部法律学科のコース制における位置づけとしては、この科目は「国際社会と法」コースに最も強く関連するが、「裁判と法」「行政・公共政策と法」および「企業・経営と法（商法中心）」「企業・経営と法（労働法中心）」の各コースにも配置されている。

グローバル化の進展が著しい今日においては、日本国内の法律専門家、公務員、企業に勤める者にも国際法の基本知識が求められる場合が増えており、それに対応するための素地を作ることも必要である。国際法という特定の分野についての科目であることはもちろんだが、同時に、国際法の特徴（国内法との相違）を理解することを通じて、そもそも法とは何か、社会の中でどのような意味を持っているかを考える契機を与えるという基礎的な側面も有する。

【到達目標】

国際法の総論分野を中心とする各事項（具体的には下記【授業計画】参照）について、国際社会の構造との関係を意識しながら理解し、概念や制度を説明できるようになること。

同時に、国際法の歴史的展開と現状を学ぶことを通じて、日々生起する国際問題を法的視点からどのように捉えるべきか自ら考えられるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に強く関連。

【授業の進め方と方法】

下記【授業計画】に示す項目について、授業計画に従って講義形式で進める。「国際法入門」で扱った内容を繰り返し説明することはないので、合わせて履修することを強く推奨する。

各回の授業計画、学習に必要な資料等、具体的な授業の方法その他は、授業中や学習支援システムで提示する。

課題等に対するフィードバックは、授業中での回答や学習支援システム掲示板を用いて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業計画の説明、参考文献紹介に関する説明
第 2 回	条約法（1）	条約の定義、締結
第 3 回	条約法（2）	条約の効力、解釈
第 4 回	条約法（3）	条約の留保
第 5 回	条約法（4）	条約の無効、終了
第 6 回	国家責任（1）	国家責任法の機能と歴史的展開
第 7 回	国家責任（2）	国家責任の発生要件
第 8 回	国家責任（3）	違法性阻却事由
第 9 回	国家責任（4）	救済、追及
第 10 回	国家責任（5）	国家責任の現代的問題
第 11 回	国家管轄権（1）	国家管轄権の基本的概念
第 12 回	国家管轄権（2）	国家管轄権の競合と抵触
第 13 回	国家管轄権（3）	国家管轄権の現代的問題
第 14 回	まとめ	全体の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の予習として、教科書の該当範囲を読んでおくことを推奨する。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

・『国際条約集 2023』（有斐閣）
・中谷和弘、植木俊哉、河野真理子、森田章夫、山本良『国際法〔第 4 版〕』（有斐閣、2021 年）

【参考書】

・『国際法判例百選〔第 3 版〕』（有斐閣、2021 年）
・小寺・岩沢・森田編著『講義国際法（第 2 版）』（有斐閣、2010 年）
・浅田正彦編『国際法〔第 5 版〕』（東信堂、2022 年）
その他は、開講時に指示する。

【成績評価の方法と基準】

学期末の筆記試験による（100％）。

【学生の意見等からの気づき】

積極的な質疑を歓迎します。

【学生が準備すべき機器他】

資料は学習支援システムを通じて配布する場合があります。

【Outline (in English)】

In this lecture, basic concepts of public international law, such as "sources of international law", "subjects of international law" and so on, will be dealt with. Today, globalization of international society is getting more and more irreversible.

As a result, not only lawyers, but also civil servants and employees at private corporation are required to have basic understanding of public international law. It would be appreciated if this lecture could contribute something special to the understanding of public international law, for those people who are interested in contemporary issues in international society.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend 2 hours to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination: 100%

LAW200AB

会社法入門

荒谷 裕子

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

単位数：2 単位

備考（履修条件等）：クラス指定科目 ※法律 2 年 H-N・3 年以上全

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は、法学部法律学科の入門科目として、会社法、金融商品取引法とはどのようなものかその全体像を理解することを目的とするものである。すなわち、「企業」とか「会社」は身近な存在であるにもかかわらず、これを規律する会社法は、条文の数が多いだけでなく、特殊な用語や定義があり、その全体像を把握しようと思っても簡単ではない。そこで、会社法・金融商品取引法への橋渡しをすることが本講義の目的である。

この科目は、全てのコースに属している。

【到達目標】

- ① 会社法とはどういうものか、その全体像を理解する。
- ② 会社法の基本的な用語・概念—たとえば取締役、社長、監査役、株主、M&A—を理解し、自分の言葉で説明できるようになる。
- ③ 新聞やニュースで話題となっている企業に関する時事問題—たとえば、企業の不祥事が起きた場合に、何故それが法律上問題となるのか、その責任は誰が負うのか？—について、関心も持つようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に強く関連。

【授業の進め方と方法】

授業は講義形式で行う。ただ、オンライン授業では、どうしても教える側の一方通行になりがちであることから、学生が自分の頭で考えながら理解することができるようになることを目標に、学生との質疑応答を交えながら講義を進めていくつもりである。

授業外の質問に対しては、授業支援システムの掲示板もしくは次の回の授業で回答する形でフィードバックする。

【重要】新型コロナウイルス感染防止の観点から、大学の方針に従い、今年度はすべて双方向型オンライン・ライブ授業を行います。学習支援システムに、詳細なレジュメと、受講性が自習すべきテキストの該当箇所を指示しますので、お知らせメールが来たら、授業支援システム上の「教材」からダウンロードしてください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	会社法とはどのようなものか。
第 2 回	会社法概説	会社の経済的機能と会社法について概説する。
第 3 回	会社の意義	会社の意義について概説する。
第 4 回	会社の種類	会社法上認められている会社の種類について概説する。
第 5 回	株式会社とは？	株式会社とはどのようなものか。そのシステムについて概説する。
第 6 回	株主と経営者との関係	株主と経営—所有と経営—の関係について、概説する。
第 7 回	会社法と金融商品取引法	株式会社と証券市場の関係、上場の意義、会社法と金融商品取引法の関係について概説する。
第 8 回	コーポレート・ガバナンスとは？	コーポレート・ガバナンスとは？その意義について概説する。

第 9 回	株式会社の設立	株式会社はどのように設立されるのか概説する。
第 10 回	企業はどのように経営されているのか？	企業はどのように経営されているのかについて概説する。
第 11 回	経営者の責任	経営者の責任について概説する。
第 12 回	コーポレート・ファイナンス	株式会社はどのように資金を調達しているのかについて概説する。
第 13 回	M&A(1)	M&A とは？ その意義と方法について概説する。
第 14 回	M&A(2)	企業が買収されそうになったときの防衛策について概説する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習はしなくても良いので、復習を必ずすること。また、新聞の経済面を毎日見て、今、何が企業で問題となっているのか（たとえば、A 会社の不祥事、B 会社と C 会社の合併、D 会社の上場など）、常に関心を持つこと（準備学習）。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

- ・田中亘「会社法〔第 3 版〕」（2021 年 3 月）東京大学出版会
- ・必ず新しい六法を用意してください。

【参考書】

- ・浜田道代・岩原伸作編「会社法の争点」有斐閣
- ・神作裕之・藤田友敬・加藤貴仁編「会社法判例百選（第 4 版）」有斐閣

【成績評価の方法と基準】

期末試験 90 %、平常点 10 %

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

全講義オンライン授業になりますので、Zoom を利用できる環境を整えてください。

【その他の重要事項】

特になし。

【Outline (in English)】

【Course outline】

The purpose of this lecture is to understand the management system of the company and the method of financing the company.

【Learning Objectives】

By the end of the course, students should be able to do the followings:

- ① understand the system of Japanese company law
- ② understand the economic aspects of newspapers
- ③ acquire knowledge useful for job hunting

【Learning activities outside of classroom】

Before /after each class meeting, students will be expected to read the relevant chapter from the text. Your required study time is at least 4 hours for each class meeting.

【Grading Criteria /Policy】

Final grade will be calculated according to the following process
Term-end examination (90%), and in-class contribution(10%)

LAW200AB

会社法

伊藤 雄司

授業形式：講義 | 開講セメスター：年間授業/Yearly
 単位数：4 単位
 備考（履修条件等）：クラス指定科目 ※法律 3 年以上全
 その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は、会社に関わる法制度を取り扱うものである。講義においては、基本的な概念及び制度の仕組みを解説し、さらに重要な法的論点について、学説や判例を踏まえた検討を行う。

【到達目標】

株式会社においては、株主や会社債権者をはじめとする多くのステークホルダー（利害関係人）が存在しており、会社法はこれらのステークホルダーの利害調整を行う役割も果たしている。本講義では、会社法上の各種のルールが個々のステークホルダーの利益保護にとってどのような意義を有しているのかに着目しながら、会社法の基礎を学んでもらうことを目的としており、本講義を通じて、会社法の基本的な仕組みとその機能を理解することができることになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に強く関連。

【授業の進め方と方法】

授業は、基本的に講義形式で行う。受講者の理解を促すため、それぞれのテーマについて、関連する裁判例を取りあげて解説を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	会社法総論①	・ 会社法の歴史 ・ 会社法の基本構造
第 2 回	会社法総論②、会社法総則	・ 会社の意義 ・ 会社法総則
第 3 回	株式①	・ 株式の意義、内容
第 4 回	株式②	・ 種類株式
第 5 回	株式③	・ 株式の流通 ・ 株主の権利行使
第 6 回	機関総説	・ 機関の意義 ・ 機関設計
第 7 回	株主総会①	・ 株主総会の権限 ・ 株主総会の議事
第 8 回	株主総会②	・ 株主総会決議の瑕疵
第 9 回	役員を選解任	・ 役員の意義 ・ 役員を選解任
第 10 回	取締役・代表取締役、非取締役会設置会社	・ 取締役の地位、権限
第 11 回	取締役会	・ 取締役会の権限 ・ 取締役会決議の瑕疵
第 12 回	監査役・監査役会	・ 監査役・監査役会の権限
第 13 回	役員責任	・ 会社に対する責任 ・ 第三者に対する責任 ・ 代表訴訟
第 14 回	監査等委員会設置会社、指名委員会等設置会社	・ 監査等委員会設置会社、指名委員会等設置会社のシステム
第 15 回	春学期のまとめ	・ 第 1 4 回までの講義内容のまとめ
第 16 回	募集株式の発行等①	・ 新株発行規制の概要
第 17 回	募集株式の発行等②	・ 新株発行の瑕疵

第 18 回	新株予約権①	・ 新株予約権の意義 ・ 新株予約権の発行規制
第 19 回	新株予約権②	・ 新株予約権の機能 ・ 新株予約権発行の瑕疵
第 20 回	計算①	・ 計算書類の意義
第 21 回	計算②	・ 計算書類の確定
第 22 回	組織再編①	・ 組織再編概論
第 23 回	組織再編②	・ 組織再編の手続き
第 24 回	組織再編③	・ 利害関係者の保護
第 25 回	持分会社	・ 各種の持分会社
第 26 回	設立	・ 設立の意義、概要
第 27 回	社債	・ 社債の意義
第 28 回	秋学期まとめ	・ まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義の前にテキスト及び関連条文に目を通しておくこと。予習・復習に 4 時間程度を充てることが望まれる。

【テキスト（教科書）】

笠原武朗ほか『NBS 会社法』（日本評論社、2021）
 神作裕之ほか『会社法判例百選〔第 4 版〕』（有斐閣、2021）

【参考書】

神田秀樹『会社法』（弘文堂）

【成績評価の方法と基準】

期末試験の成績（100 %）によって行う。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【Outline (in English)】

This lecture deals with the legal system related to companies. The objective of this lecture is to enable students to understand the basic structure of corporate law and the basic principles for coordinating the interests of parties related to companies. Students are expected to attend this lecture and devote 4 hours to self-study. Grading will be based solely on the results of a final examination.

POL100AC

政治体制論 I

細井 保

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

単位数：2 単位

その他属性：〈他〉〈優〉

【その他の重要事項】

講義の実施形態等に変更があった場合は、授業支援システムに記してまいりますので、履修者は必ず、同支援システムにも登録し、定期的に関覧するようにしてください。

【Outline (in English)】

Diese Vorlesung ist ein Versuch, um ein Überblick über die Vergleichende politische Regime zu geben.

English Keyword: comparing political regimes

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

政治学科科目の中で現代政治科目群に属する科目であり、政治における基本制度を、それが前提とし、実現しようとする理念と合わせて論ずる。したがってサブタイトルをつけるとすれば「政治における制度とその理念」となる。

【到達目標】

政治を制度とその理念の両側面から同時に考察することによって、穏当な、少なくとも人間性に著しく反しない政治の在り方への手ごかりを見出したい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

この政治の「制度（構造）」と「精神（理念）」の複合的な把握を、下記授業計画に示したようなかたちで、ダールのポリアーキー論を検討することによって試みる。授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	導入	講義の進め方・政治体制とは何か
第 2 回	ロバート・ダール	『ポリアーキー』
第 3 回	ロバート・ダール	『ポリアーキー』
第 4 回	ロバート・ダール	『ポリアーキー』
第 5 回	ロバート・ダール	『現代政治分析』
第 6 回	ロバート・ダール	『現代政治分析』
第 7 回	ロバート・ダール	『現代政治分析』
第 8 回	春学期中間考察	前半の内容をふりかえる
第 9 回	ロバート・ダール	『統治するのは誰か』
第 10 回	ロバート・ダール	『統治するのは誰か』
第 11 回	ロバート・ダール	『統治するのは誰か』
第 12 回	ライト・ミルズ	『パワー・エリート』
第 13 回	スティーブン・ルークス	『現代権力論批判』
第 14 回	春学期総括考察	後半と全体の内容をふりかえる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義内容を毎回まとめることが出来るように復習を心がけてください。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない予定ですが、授業計画（テーマと内容）に記した著者名の文献の多くは文庫本で読むことができます。履修者は極力、事前・事後にそれらの文献を読むように心がけてください。

【参考書】

参考文献は逐次、講義内であげてゆきます。

【成績評価の方法と基準】

評価は平常点と期末試験で行う。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

POL100AC

政治体制論Ⅱ

細井 保

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

単位数：2 単位

その他属性：〈他〉〈優〉

【その他の重要事項】

講義の実施形態等に変更があった場合は、授業支援システムに記してまいりますので、履修者は必ず、同支援システムにも登録し、定期的に閲覧するようにしてください。

【Outline (in English)】

Diese Vorlesung ist ein Versuch, um ein Überblick über die Vergleichende politische Regime zu geben.

English Keyword: comparing political regimes

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

政治学科科目の中で現代政治科目群に属する科目であり、政治における基本制度を、それが前提とし、実現しようとする理念と合わせて論ずる。したがってサブタイトルをつけるとすれば「政治における制度とその理念」となる。

【到達目標】

政治を制度とその理念の両側面から同時に考察することによって、穏当な、少なくとも人間性に著しく反しない政治の在り方への手掛かりを見出したい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

この政治の「制度（構造）」と「精神（理念）」の複合的な把握を、下記授業計画に示したようなかたちで、分節政治理論と全体主義批判を検討することによって試みる。授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	序論	原初条件と現代政治の条件
第2回	分節政治理論	農村型社会と都市型社会
第3回	分節政治理論	近代化の過渡媒体国家
第4回	分節政治理論	大衆政治の問題性
第5回	分節政治理論	シビル・ミニマム
第6回	分節政治理論	多元・重層化
第7回	分節政治理論	官僚内閣制・国会内閣制
第8回	中間考察	分節政治理論の可能性
第9回	天皇制国家の支配原理	装置と生活共同態
第10回	全体主義の時代経験	戦争
第11回	全体主義の時代経験	政治
第12回	全体主義の時代経験	政治
第13回	全体主義の時代経験	生活
第14回	結び	分節政治理論と全体主義

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義内容を毎回まとめることが出来るように復習を心がけてください。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない予定です。

【参考書】

- ・松下家一『現代政治の条件』
- ・松下圭一『現代政治の基礎理論』
- ・藤田省三『天皇制国家の支配原理』
- ・藤田省三『全体主義の時代経験』

このほかにも参考文献は逐次、講義内であげてゆきます。

【成績評価の方法と基準】

評価は平常点と期末試験で行う。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

POL200AC

比較政治論 I

新川 敏光

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

単位数：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、近代政治の基本的分析枠組（国民国家、民主主義、資本主義）を設定し、欧米日本における近代政治の形成・発展を比較検討する。

【到達目標】

現代政治の諸問題を、歴史的空間的比較の視座（比較歴史制度発展論）から、理論的に理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に強く関連。「DP1」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

講義方式によって行う。

二回目以降の講義では、前回の講義に関する質問や疑問への対応を含む、簡単なまとめを行う。また最終回では、講義全般に関するまとめと質疑応答を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第一回	本講義の射程	比較とは何か、政治とは何かをテーマに本講義の目的と対象範囲を明らかにする。
第二回	権力と支配	権力とは何か、そして支配とは何かについて検討する。
第三回	近代国民国家	近代国民国家をモデル化し、英仏独米における国民国家形成を比較する。
第四回	政治体制：リベラルデモクラシー	近代における政治範型である自由民主主義についてモデル化する。
第五回	実証的デモクラシー論	現代デモクラシーの実証諸理論と各国の事例を比較検討する。
第六回	資本主義経済の発展：レッセ・フェール・夜警国家から帝国主義の時代へ	資本主義経済の発展とそれに呼応した国家機能の拡大を考察する。
第七回	左右イデオロギーの収斂	資本主義経済の批判理論である社会主義理論と擁護理論である自由主義、双方における変化（収斂）を考察する。
第八回	福祉国家パラダイム	国民国家、資本主義経済、階級政治の新たな枠組の誕生として福祉国家を検討する
第九回	福祉国家の多様性	福祉国家の多様性を類型論に基づいて紹介する。
第一〇回	福祉国家の経済体制	フォーディズム、ケイン主義、埋め込まれた自由主義について検討する。
第一一回	福祉国家の政治体制	階級闘争の民主化、民主的階級闘争がリベラル・デモクラシーの安定化をもたらしたことを論ずる。
第一二回	福祉国家と資本主義の多様性	福祉国家の多様性は、各国の資本主義経済システムの多様性と連動するものであることを明らかにする。

第一三 福祉国家の影
回

福祉国家の負の側面として、管理社会化、国家部門の肥大を検討する。

第一四 試験
回

授業内試験を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前にアップロードされた教材について予習し、講義後はノートを整理し、理解が不十分な点について調べ、不明な点は次回質問すること。

【テキスト（教科書）】

新川敏光『政治学：概念・理論・歴史』（ミネルヴァ書房）。本書は比較政治論 I だけではなく、II においても使用します。

【参考書】

新川敏光『福祉国家変革の理路』（ミネルヴァ書房）

【成績評価の方法と基準】

成績評価は、筆記試験によって行う。

【学生の意見等からの気づき】

事前に学習支援システムに教材をアップロードする。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

本講義の内容は、秋学期の比較政治論 II と連続している。

【Outline (in English)】

This course is to compare the developments of the nation state, democracy, and capitalism in major industrial societies.

POL200AC

比較政治論Ⅱ

新川 敏光

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

単位数：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

20 世紀後半以降、とりわけ福祉国家の危機、東西冷戦の終焉、グローバル化といわれる時代におきた政治変化について、欧米日を中心に検討する。

なお比較の方法、基準については、比較政治論Ⅰで紹介するので、できるだけⅠを履修のうえで本講義を受講すること。

【到達目標】

本講義では、20 世型国民国家パラダイムともいうべき福祉国家が国際システム、資本主義経済、社会構造の変化に伴い有効性を失い、国民統合の手段として再分配に代わってイデオロギーが再び大きな役割を担うようになり、その結果暴力の爆発、ポピュリズムの台頭、格差の深刻化が生じていることを概念的理論的に理解できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に強く関連。「DP1」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

講義方式による。二回目以降の講義では、前回の講義に関する質問や疑問への対応を含む、簡単なまとめを行う。また最終回では、全体に関するまとめのほか、それまでの提出物への講評も行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第一回	福祉国家の危機①	ケインズ主義に代わって経済学主流となったネオ・リベラリズムの政治的文脈を明らかにする。
第二回	福祉国家の危機②	ネオ・リベラリズム台頭の背景として、戦後の国際経済システム、「埋め込まれた自由主義」の崩壊を明らかにする。
第三回	福祉国家の危機③	豊かな社会のなかでの階級的求心力の低下と脱フォーディズムにおける労働の柔軟化について検討する。
第四回	新自由主義の現実	1980 年代いち早く新自由主義政権が生まれた英サッチャー政権、米レーガン政権、日本中曽根政権を比較検討する。
第五回	グローバル化と格差社会	東西冷戦によって本格化したグローバル化の世界的影響力について検討する。
第六回	左の右旋回：「第三の道」、「新しい中道」	ネオ・リベラリズムの台頭に対する左の刷新（穏健化）について、英米独を中心に検討する。
第七回	危険社会論	個人化が進むなかで、階級社会論に代わって出てきた危険社会論のもつ射程と限界について検討する。
第八回	人口減少社会とジェンダー・ポリティクス	近代を超える新たな政治論として注目されるジェンダー論について検討する

第九回	文明の衝突	東西冷戦の終焉は、「文明の衝突」を招くというハンチントン・テーゼについて検討する
第十回	ポピュリスト・ナショナリズム：分断の政治	欧米における福祉ショービニズム、そしてポピュリスト・ナショナリズムの台頭を紹介する。
第一一回	リベラル・ナショナリズムと多文化主義	右翼ポピュリズムへの対抗基軸としての利部ある・ナショナリズムとその具体的展開として多文化主義を紹介する。
第一二回	パトリオティズム	ナショナリズムとは異なるパトリオティズムの可能性として、共和主義パトリオティズムと憲法パトリオティズムを紹介する。
第一三回	民主主義の可能性と市民社会の再生	民主主義の危機とその克服について、市民社会の再生をめざす運動から考える。
第一四回	試験	授業内試験を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

アップロードされた教材を参考に予習し、講義後はノートを整理し、理解が不十分な点は調べ、なお不明な点は次回質問すること。

【テキスト（教科書）】

新川敏光『政治学：概念・理論・歴史』（ミネルヴァ書房）。本書は比較政治論ⅠとⅡの共通テキストです。

【参考書】

新川敏光『福祉国家変革の理路』（ミネルヴァ書房）
新川敏光他『政治学』（有斐閣）

【成績評価の方法と基準】

成績評価は、筆記試験によって行う。

【学生の意見等からの気づき】

事前に教材を学習支援システムにアップロードします。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

比較政治論ⅡはⅠを前提としているので、できるだけⅠを履修してほしい。

【Outline (in English)】

This course is to clarify the transformation of the 20th century paradigm of politics by examining the crisis of the welfare state, the end of the cold war, and globalization.

LAW300AB

保険法 I

潘 阿憲

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

単位数：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

保険法 I は、2010 年から施行された「保険法」のうち総則と損害保険契約を対象とするものです。保険は、リスク移転の仕組みであり、学生の皆さんも含め、ほとんどすべての人は何らかの形で保険によるリスク移転のメリットを受けていると言えます。この講義は、このように我々の日常生活に不可欠なリスク移転の仕組みに係る法律関係を対象とするもので、多くの学生の受講を歓迎します。

【到達目標】

この授業の到達目標は、リスク移転の仕組みに係わる法律関係、すなわち各種の「保険に係る契約」= 保険契約の内容を正確に理解し習得することです。将来、保険の実務に従事する際の専門的知識のみならず、万が一火災等の不慮の事故に遭遇した場合の権利義務関係の処理に使える知識を習得することが狙いです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

授業は、講義形式で行う。各回の授業計画に変更がある場合には、学習支援システムでその都度提示する。また、受講生からの授業外の質問については、授業内で回答することとする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	春学期授業の全体的な説明および教科書等の説明など
第 2 回	保険制度	保険の仕組みなどの説明
第 3 回	保険契約と保険契約の当事者、関係者	保険契約の種類と各種の保険契約の特徴
第 4 回	損害保険契約の成立と効力（1）	損害保険の概念、保険事故、保険価額、保険金額
第 5 回	損害保険契約の成立と効力（2）	被保険者利益、告知義務
第 6 回	損害保険契約の成立と効力（3）	第三者のためにする損害保険契約
第 7 回	損害保険契約の成立と効力（4）	超過保険、保険価額の減少、危険の減少
第 8 回	損害保険契約に基づく保険給付（1）	損害防止義務と損害発生時の通知義務
第 9 回	損害保険契約に基づく保険給付（2）	保険者免責
第 10 回	損害保険契約に基づく保険給付（3）	支払保険金の算定
第 11 回	損害保険契約に基づく保険給付（4）	保険代位
第 12 回	損害保険契約に基づく保険給付（5）	責任保険契約と火災保険契約に基づく保険給付
第 13 回	損害保険契約の終了（1）	終了原因、保険契約者による任意解除
第 14 回	損害保険契約の終了（2）	危険増加による解除

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

受講生は、予習のうえ、毎週 1 回の講義に出席すること。本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

潘阿憲『保険法概説〔第 2 版〕』（2018 年、中央経済社）

【参考書】

山下友信 = 竹濱修ほか著『保険法第 4 版』（有斐閣）

【成績評価の方法と基準】

期末試験の成績（100%）により、評価します。

【学生の意見等からの気づき】

とくになし。

【Outline (in English)】

This lecture is to study of Insurance Contract Law in Japan. The goals of this course are to understand how the insurance law works. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Your overall grade in the class will be decided based on the Term-end examination(100%).

LAW300AB

保険法Ⅱ

潘 阿憲

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

単位数：2 単位

その他属性：〈優〉

【Outline (in English)】

This lecture is to study of Insurance Contract Law in Japan. The goals of this course are to understand how the insurance law works. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Your overall grade in the class will be decided based on the Term-end examination (100%).

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

保険法Ⅱは、2010年から施行された「保険法」のうち、生命保険契約および傷害疾病損害保険契約を取り上げ、それぞれの保険契約の特徴と内容を正確に理解し習得することです。保険は、リスク移転の仕組みであり、学生の皆さんも含め、ほとんどすべての人は何らかの形で保険によるリスク移転のメリットを受けていると言えます。この講義は、このように我々の日常生活に不可欠なリスク移転の仕組みに係る法律関係を対象とするもので、多くの学生の受講を歓迎します。

【到達目標】

この授業の到達目標は、リスク移転の仕組みに係わる法律関係、すなわち各種の「保険に係る契約」= 保険契約の内容を正確に理解し習得することです。将来、保険の実務に従事する際の専門的知識のみならず、万が一火災等の不慮の事故に遭遇した場合の権利義務関係の処理に使える知識を習得することが狙いです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

授業は、講義形式で行う。各回の授業計画に変更がある場合には、学習支援システムでその都度提示する。また、受講生からの授業外の質問については、授業内で回答することとする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	生命保険契約の内容	生命保険契約の保険事故と保険金額
第2回	生命保険契約の成立と効力（1）	契約の成立と責任開始
第3回	生命保険契約の成立と効力（2）	告知義務制度の内容
第4回	生命保険契約の成立と効力（3）	第三者のためにする生命保険契約
第5回	生命保険契約に基づく保険給付（1）	保険者免責
第6回	生命保険契約に基づく保険給付（2）	生命保険契約上の権利の処分と差押え
第7回	生命保険契約に基づく保険給付（3）	特別受益の持ち戻し遺留分減殺
第8回	生命保険契約の終了（1）	・ 保険契約者による任意解除 ・ 危険増加による解除 ・ 重大事由解除
第9回	生命保険契約の終了（2）	・ 被保険者の解除請求に基づく解除
第10回	傷害疾病定額保険契約（1）	傷害疾病定額保険契約の概要
第11回	傷害疾病定額保険契約（2）	傷害保険契約の保険給付事由その1
第12回	傷害疾病定額保険契約（3）	傷害保険契約の保険給付事由その2
第13回	傷害疾病定額保険契約（4）	疾病保険の特徴とその内容
第14回	傷害疾病定額保険契約（5）	契約前発病不担保条項とその問題点

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

受講生は、予習のうえ、毎週1回の講義に出席すること。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

潘阿憲『保険法概説〔第2版〕』（2018年、中央経済社）

【参考書】

山下友信＝竹濱修ほか著『保険法第4版』（有斐閣）

【成績評価の方法と基準】

期末試験の成績（100％）により、評価します。

【学生の意見等からの気づき】

とくになし。

POL200AC

ジェンダー論 I

中野 洋恵

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

単位数：2 単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈ダ〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は、政治学科科目の中で現代政治科目群に属する科目で、ジェンダーの視点から政治・政策を考察することを目的としています。ジェンダーは、現代社会を読み解くうえで、極めて有効な概念です。今日では、社会科学や人文科学における鍵概念の一つになっています。ジェンダーの概念とは何か？一言でいえば、権威化され、硬直化した既存の観念を批判し、新鮮かつ柔軟な見方を提示するための「ものの見方」であり、「考え方」と言うことができます。ジェンダーの概念は、これまで主流派政治学が見過ごしてきた社会の周縁や見捨てられた人びと、あるいは生活世界の問題に光を当て、停滞した既存の学問や固定化し融通性を失った通説への挑戦だとしても過言ではありません。本講義は、このような政治学における新しい領域としてのジェンダーの視点に光を当てます。このジェンダー論 I では、ジェンダーとはどのような考え方なのか、その意味や意義、アプローチなどを学びます。言わば、ジェンダー論の基礎編になります。

【到達目標】

授業では、この「ジェンダー」を、現代社会を読み解く分析概念として位置づけ、政治や政策を、従来にはない新しい観点から再考することを目指します。すなわち、既存の理論や考え方、あるいは通説を批判的に検討し、それらとは異なった、そして意外性のある見方や考え方を学びます。そしてそれがそれがどのような政策につながっているのかを理解してほしいと考えます。このような学びを通して、学生にはこれまでの概念を批判的に問い直し、自分自身の解答に到達する能力を身につけることを目指します。政治や政策は机上の理論ではなく、私たちの政策に密接にかかわっています。だからこそ参画して変えていくことが可能になるのです。そのために、ものごとの本質を見抜く、能力を磨くことを目標としています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に強く関連。「DP1」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

ジェンダーの視点から政治、政策の中心的な課題を問い直します。

(1) ジェンダー概念

本講義では、政治、政策の課題をジェンダーの視点から検討し、どのような変化がみられるのか、そのそしてその要因はどのような政治的、社会的と関わっているのかを理解します。

この作業の前提として、講義ではまずジェンダーとは何か、ジェンダーに基づく見方や考え方、またジェンダー分析の射程について学びます。従来、ジェンダーは男女の役割や関係を表す用語として用いられてきましたが、今にちではさまざまな社会関係に応用され、また性の多様性を表現する概念に発展しています。

(2) 様々な政策からジェンダー問題を理解する

1999年に可決された男女共同参画社会基本法、2020年12月に閣議決定された「第5次男女共同参画基本計画」で強調されている政策を理解します。

(3) ジェンダー平等を進めるために

平等であることに異議を唱える人はあまりいないと思います。また、平等は人権が尊重され、誰もが幸福に生きるため社会的基盤といっても良いでしょう。しかし、いまだに、性別、人種や民族、性的マイノリティ、障がいのある人びとが差別的に取り扱われているという現実があります。

どうすればいいのか、国内の動きや海外の動きを見ることによって考えます。

授業ではパワーポイントの資料や行政で作成されている動画などを随時活用して講義を進めます。課題ごとのレポートを提出していただきます。また、提出していただいた課題ごとのレポートについては授業の初めに、いくつか内容を取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。

レポートの提出は「学習支援システム」を通じて行う予定です。

また、対話やグループワークなどを取り入れ、参加型の授業を試みます。

授業は対面で実施します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	序：本講義の目的、講義の見取り図	本講義の概要、全体を通して学ぶべきこと、受講の姿勢
第2回	講義の全体像の理解 ジェンダーとは？ ジェンダーについての理解を深める	ジェンダーとは「社会的・文化的に形成された性別」のこと。人間には生まれつきの生物学的性別（セックス／sex）とは異なる。どうしてジェンダーについて考える必要があるかを理解する。
第3回	家族とジェンダー① 親密な近親者ベースの小さな集団である家族について考える	家族とは何か？ 家族とは何か、家族の変化について説明する。多様性を認める方向の中で夫婦別姓や同性婚に関する動向についても考察する。
第4回	家族とジェンダー②	日本では「男性は外で働き、女性は家事育児」と考えられてきました。これを性別役割分業意識という。 ここでは性別役割分業について理解する。 現在、議論が進んでいる「異次元の子育て支援」についても考察する。
第5回	教育とジェンダー①	一般に教育の場は男女平等だと言われている。問題はないのかを考える。
第6回	教育とジェンダー②	「理系は男子が得意で女子は文系が得意」という言説について考える。内在しているアンコンシャス・バイアスを理解する。
第7回	労働とジェンダー①	「ワーク・ライフ・バランス」「女性の活躍」が政策課題になっている。女性の継続就労が当たり前になりつつある中の課題について言及する。
第8回	労働とジェンダー②	女管理職に女性が少ないのはどうしてなのか？企業等の意思決定の場に女性が少ない問題点とその要因を明らかにする。
第9回	メディアとジェンダー	インターネット、テレビ、新聞や雑誌など私たちのまわりは情報にあふれているがジェンダーのステレオタイプを再生産することが少なくない。メディアをジェンダーの視点で分析するとともに「メディア・リテラシー」を理解する。
第10回	女性に対するあらゆる暴力の根絶	女性に対する暴力は重大な人権侵害である。その予防と被害からの回復、暴力の根絶を葉えるためにはどうすべきかを考える。

第 11 回	政治とジェンダー	政策・方針決定過程への女性の参画の拡大は現在の日本において大きなジェンダー課題となっている、特に政治分野における女性の参画拡大を進めるためにはどのような方策がとられているかを理解する。
第 12 回	国内のジェンダー平等政策	ジェンダー平等を進めるためにどのような方策がとられてきたのかを「男女共同参画基本計画」を基に理解する。
第 13 回	国際的に見たジェンダー平等の取組	世界の中でも日本のジェンダー平等のランキングは低い。国際的な動向を踏まえ日本の課題を考える。ジェンダー平等が達成されていない分野を明確にし。その要因も考える。
第 14 回	授業内試験	持ち込み不可

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前の下調べ、授業後のノート整理は不可欠です。また、理解を深めるために、紹介文献等を読むことを薦めます。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

毎回レジュメや参考資料を配付する、映像資料も活用する。

【参考書】

- ・三浦まり『さらば、男性政治』（岩波新書 2023 年）
- ・前田健太郎『女性のいない民主主義』（岩波書店 2019 年）
- ・第 5 次男女共同参画基本計画
http://www.gender.go.jp/about_danjo/basic_plans/4th/index.html
- ・内閣府「仕事と生活の調和」推進サイト ワーク・ライフ・バランスの実現に向けて
<http://wwwa.cao.go.jp/wlb/index.html>
- ・女性に対する暴力
若年層を対象とした性的な暴力の啓発教材
http://www.gender.go.jp/policy/no_violence/index.html
- NWEC 実践研究第 9 号「ジェンダーに基づく暴力」
- ・内閣府男女共同参画局女性活躍推進法見える化サイト
http://www.gender.go.jp/policy/suishin_law/index.html
- ・厚生労働省女性活躍推進法特集ページ
<https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000091025.html>
- ・内閣府男女局 理工チャレンジ（リコチャレ）
<http://www.gender.go.jp/c-challenge/>
- ・科学技術振興機構 ダイバーシティ推進
<http://www.jst.go.jp/diversity/index.html>
- ・初等中等教育における男女共同参画
国立女性教育会館 <https://www.nwec.jp/about/publish/kyoin-program.html>

【成績評価の方法と基準】

内容ごとの課題レポートの提出（50%）
筆記試験（授業内試験、持ち込み不可）（50%）

【学生の意見等からの気づき】

学生の理解度に注意を払い、受講へのモチベーションを高めるように努力します。ジェンダー平等に向けてどのような社会を構築することが持てられるのかは様々な意見があります。現状の何が課題となっているのかをデータや理論から丁寧な説明を心がけます。意見交換の場の充実を検討します。

【Outline (in English)】

Gender is one of the most important concepts in social science discourse. In the lecture, I will critically discuss political phenomena, events and institutions through gender lens.

Course outline

This course introduces gender concept, gender policy and gender issues in Japanese society to students taking this course.

Learning Objectives

The goals of this course are to understand Japanese gender issues and develop the ability to think critically about social phenomena.

Lecture/Exercise (two-credits)

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

Grading Criteria /Policies

Your overall grade in the class will be decided based on the following Term-end examination: 50%, Short reports : 50%

POL200AC

ジェンダー論Ⅱ

梅垣 千尋

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

単位数：2 単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈ダ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は、政治学科科目の中で現代政治科目群に属する科目です。ジェンダーと政治をめぐる問題を、時間的にも空間的にも射程を広げてとらえ返すことを目的とします。具体的には、おもにイギリス近現代史に焦点を当てながら、ジェンダーの視点からみた政治のあり方について、現代日本に生きる私たちに新たな気づきを与えるさまざまな歴史的事例を学びます。

【到達目標】

- ・現代日本のジェンダーと政治をめぐる問題を、国際的および歴史的視点から相対化できるようになる。
- ・ジェンダーの視点から、議会内外の政治のあり方を複眼的にとらえ、政治の多元性について理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」に強く関連。「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

講義が中心となりますが、可能なかぎり視聴覚資料を使用して理解を助けます。授業の終わりにリアクションペーパーを提出してもらい、次回の授業でその内容をいくつか取り上げ、全体にむけてフィードバックを行いながらさらなる議論に活かします。また、前半のテーマと後半のテーマのそれぞれの締め括りの回では、全体でディベートを行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	〈ジェンダーと政治〉について考える
第 2 回	歴史とジェンダー (1)	近世君主制とジェンダー
第 3 回	歴史とジェンダー (2)	近代君主制とジェンダー
第 4 回	歴史とジェンダー (3)	現代君主制とジェンダー
第 5 回	歴史とジェンダー (4)	女性君主をめぐる問題
第 6 回	歴史とジェンダー (5)	日本における女性天皇の可能性
第 7 回	女性と政治参加 (1)	政治の民主化とフェミニズム
第 8 回	女性と政治参加 (2)	女性参政権運動
第 9 回	女性と政治参加 (3)	政治運動とジェンダー
第 10 回	女性と政治参加 (4)	ウーマンリブ運動
第 11 回	女性と政治参加 (5)	労働運動とジェンダー
第 12 回	女性と政治参加 (6)	女性首相の誕生
第 13 回	女性と政治参加 (7)	政治的リーダーシップとジェンダー
第 14 回	女性と政治参加 (8)	日本におけるクオータ制の可能性

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業前は、講義予定を勘案しながら、キーワードとなる人物や事柄について調べておくこと。授業後は、講義内容を振り返り、各自の関心に従って参考文献を読み進めること。この講義の準備学習・復習時間は、それぞれ 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に使用しません。

【参考書】

授業時にその都度、紹介します。

【成績評価の方法と基準】

- ・平常点 80 %（リアクションペーパーの内容にたいする評価点の合算など）
- ・レポート 20 %（前半のテーマと後半のテーマのそれぞれに関連して 2 本分）

詳しい評価基準や積算方法については、初回の授業で説明します。

【学生の意見等からの気づき】

リアクションペーパーの内容を（匿名で）取り上げて紹介したり、授業中にブレインストーミングの時間をもったりすることで、受講者同士での学び合いを促したいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

課題の提出は、学習支援システムを利用する予定です。受講にあたっては、学習支援システムを活用できる環境が必要です。

【その他の重要事項】

ディベートの回では、可能なかぎり多くの受講者に発言を求める予定です。

【Outline (in English)】

COURSE OUTLINE

This course explores a range of historical issues relating to gender and politics with a particular focus on modern British history.

LEARNING OBJECTIVES

By the end of the course, students will be able to gain comparative perspectives on issues surrounding gender and politics, both internationally and historically.

LEARNING ACTIVITIES OUTSIDE OF CLASSROOM

Students are required to complete weekly assignments. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

GRADING CRITERIA

Grading will be decided based on weekly assignments (80%) and short reports (20%).

LAW300AB

知的財産法 I

武生 昌士

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

単位数：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は、知的財産法に分類される法律のうち主要なもののひとつである著作権法を一通り学ぶことを内容とする。著作権法は基本的には民法の特別法に位置付けられ、その意味ではやや応用的な科目ではあるものの、表現活動全般において問題となり得る法律であるため、「裁判と法コース」、「企業・経営と法コース（商法中心）」、「同（労働法中心）」、「文化・社会と法コース」などを中心に幅広く関連を有し得る身近な法律であり、その基礎的な理解を身に付けておくことは、受講生にとって将来的に公私両面にわたって意義を有するものといえる。

【到達目標】

著作権法について、制度全体についての一通りの体系的理解及び主要な論点における基本的な考え方を身に付けてもらうことにより、今後著作権法に関する問題に直面した際に、自分で調査し考えることができるだけの基礎的素養を涵養することを目標とする。

より具体的には、第一に、著作権法を理解する上で重要な基礎的な概念について十分に理解し、その内容を正確に示すことができるようになることを目標とする。

第二に、著作権法が問題となる具体的な事例（紛争）について、著作権法を適用するとどのような帰結が導かれる（解決が図られる）こととなるのかを、裁判例・学説の理解の前提に立った上で示すことができるようになることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

この授業では、知的財産法の中核を担う法律のひとつである著作権法について、文化の発展に寄与するためにどのような制度が設けられているのかを、具体的な裁判例にも触れながら、講義形式で一通り説明していく。

下記授業計画に示した形での講義を予定しているが、順序や内容については必要に応じ変更する可能性がある。

質問等は出席票・メール・学習支援システムを通じて随時受け付けるほか、授業前後に直接口頭でご質問いただいてももちろん構わない。フィードバックは個別に、あるいは次回授業冒頭に全体に対して、行うこととしたい。期末の試験（レポート）に関しては、学習支援システムを通じて講評を行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス・知的財産法の概要	本講義の概要説明、知的財産法の全体像
第 2 回	著作権法総説・権利の客体 (1)	著作権法の概要、著作物の定義（総説）
第 3 回	権利の客体 (2)	著作物の定義（創作性要件など）
第 4 回	権利の客体 (3)	著作物の具体例、特殊な問題など
第 5 回	権利の主体	著作者の認定、職務著作、映画の場合など
第 6 回	著作者人格権	公表権・氏名表示権・同一性保持権など
第 7 回	著作権 (1)	各支分権について
第 8 回	著作権 (2)	著作権の制限
第 9 回	著作権 (3)	保護期間など
第 10 回	著作権に関する取引	著作権の譲渡、利用許諾など

第 11 回	著作隣接権	実演家の権利など
第 12 回	侵害と救済 (1)	侵害成立のための要件（依拠性・類似性）、間接侵害など
第 13 回	侵害と救済 (2)	民事的救済（差止め・損害賠償など）及び刑事罰など
第 14 回	まとめ	講義全体の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回の終了時に、次回までに予習すべき資料（論文・裁判例等）を指定する場合がありますので、一読した上で授業に臨むこと。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教科書は特に指定しない。なお、六法を持参するなどして、著作権法の条文を確認できる状態で授業に臨んでほしい。

【参考書】

島並良ほか『著作権法入門〔第 3 版〕』（有斐閣、2021）、田村善之『知的財産法〔第 5 版〕』（有斐閣、2010）、中山信弘『著作権法〔第 3 版〕』（有斐閣、2020）、愛知靖之ほか『知的財産法〔第 2 版〕』（有斐閣、2023）など。

詳細は開講時に改めて、また授業中にも適宜、指示する。

【成績評価の方法と基準】

期末試験の実施が可能であれば期末試験により評価する（期末試験 100 %）。試験の実施ができない場合、レポート課題で評価する（期末レポート 100 %）。詳細は学習支援システムを通じて改めて提示する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

講義資料は印刷したものを教室で配布するほか、学習支援システムからも利用できるようにする予定である。

【その他の重要事項】

民法（物権法、不法行為法など）や民事訴訟法などの科目を履修済みか、並行して履修することが望ましいが、初学者にもわかりやすい講義を心がけたい。

著作権法と特許法とを比較しながら学習することによって、知的財産法の特質をより深く理解することができるため、できれば秋学期の「知的財産法 II」を本講義に続けて受講してほしい。

【Outline (in English)】

【授業の概要（Course outline）】

This course covers the basics of Copyright Law of Japan with attention to fundamental case law.

【到達目標（Learning Objectives）】

By the end of the course, students should be able to :

— Demonstrate knowledge and understanding of Copyright Law System.

【授業時間外の学習（Learning activities outside of classroom）】

Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.

【成績評価の方法と基準（Grading Criteria /Policy）】

Your overall grade in the class will be decided based on Term-end examination (100%) / (or Term-end Report (100%)).

LAW300AB

知的財産法Ⅱ

武生 昌士

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

単位数：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は、知的財産法に分類される法律のうち主要なもののひとつである特許法を一通り学ぶことを内容とする。特許法は基本的には民法の特別法と位置付けられるほか、特許権の発生には特許庁という行政庁が関係することもあり、私法・公法両面にわたり学習を進めた者がそれらの理解を活かしてさらに進んで学ぶべき応用的な科目と位置付けることができる。特に「裁判と法コース」、「企業・経営と法コース（商法中心）」、「同（労働法中心）」、「文化・社会と法コース」における学習の最終段階において受講すべき科目のひとつである。

【到達目標】

特許法について制度全体についての一通りの体系的理解及び主要な論点における基本的な考え方を身に付けてもらうことにより、今後特許法に関する問題に直面した際に、自分で調査し考えることができるだけの基礎的素養を涵養すること、また、そのことを通じて、法的なものの考え方や法制度設計の技法を習得することが目標である。

より具体的には、第一に、特許法を理解する上で重要な基礎的な概念について十分に理解し、その内容を正確に示すことができるようになることを目標とする。

第二に、特許法が問題となる具体的な事例（紛争）について、特許法を適用するとどのような帰結が導かれる（解決が図られる）こととなるのかを、裁判例・学説の理解の前提に立った上で示すことができるようになることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

この授業では、知的財産法の中核を担う法律のひとつである特許法について、産業の発達に寄与するためにどのような制度が設けられているのかを、具体的な裁判例にも触れながら、講義形式で一通り説明していく。

下記授業計画に示した形式での講義を予定しているが、順序や内容については必要に応じ変更する可能性がある。

質問等は出席票・メール・学習支援システムを通じて受け付けるほか、授業の前後に口頭でご質問いただいても構わない。フィードバックは個別に、あるいは次回授業の冒頭に全体に対して、行うこととした。期末試験に関しては、学習支援システムを通じて講評を行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス・知的財産法の概要	本講義の概要説明、知的財産法の全体像
第 2 回	特許法の概要・権利の客体 (1)	特許法の全体像、発明の定義（自然法則の利用要件）
第 3 回	権利の客体 (2)・特許の要件 (1)	発明の定義（その他の要件）、特許要件（新規性・進歩性）
第 4 回	特許の要件 (2)	特許要件（先願・拡大先願など）
第 5 回	権利の主体 (1)	発明者、特許を受ける権利、共同発明、冒認出願に対する救済など
第 6 回	権利の主体 (2)	職務発明など
第 7 回	権利取得の手續	出願、出願公開、審査、補正など
第 8 回	審判・審決取消訴訟	各種審判及び審決取消訴訟の目的と概要

第 9 回	特許権 (1)	特許権の内容・存続期間など
第 10 回	特許権 (2)	特許権の制限、法定通常実施権など
第 11 回	特許権に関する取引	特許権の譲渡、専用実施権、通常実施権など
第 12 回	侵害と救済 (1)	文言侵害・均等侵害・間接侵害など
第 13 回	侵害と救済 (2)	抗弁事由、民事的救済など
第 14 回	まとめ	授業全体の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回の終了時に、次回までに予習すべき資料（論文・裁判例等）を指定する場合がありますので、一読した上で授業に臨むこと。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教科書は特に指定しない。なお、六法を持参するなどして、特許法の条文を確認できる状態で授業に臨んでほしい。

【参考書】

田村善之『知的財産法〔第 5 版〕』（有斐閣、2010）、中山信弘『特許法〔第 4 版〕』（弘文堂、2019）、鳥並良ほか『特許法入門〔第 2 版〕』（有斐閣、2021）、愛知靖之ほか『知的財産法〔第 2 版〕』（有斐閣、2023）など。

詳細は開講時に改めて、また授業中にも適宜、指示する。

【成績評価の方法と基準】

期末試験により評価する（期末試験 100 %）。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

講義資料は印刷したものを教室で配布するほか、学習支援システムからも利用できるようにする予定である。

【その他の重要事項】

民法（物権法、不法行為法など）や民事訴訟法、行政法などの科目を履修済みか、並行して履修することが好ましいが、初学者にもわかりやすい講義を心がけたい。

特許法と著作権法とを比較しながら学習することによって、知的財産法の特質をより深く学習することができるため、できれば春学期の「知的財産法Ⅰ」と連続で受講してほしい。

【Outline (in English)】

【授業の概要（Course outline）】

This course covers the basics of Patent Law of Japan with attention to fundamental case law.

【到達目標（Learning Objectives）】

By the end of the course, students should be able to :

— Demonstrate knowledge and understanding of Patent Law System.

【授業時間外の学習（Learning activities outside of classroom）】

Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.

【成績評価の方法と基準（Grading Criteria /Policy）】

Your overall grade in the class will be decided based on Term-end examination (100%).

POL200AC

日本政治論 I

中嶋 一成

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

単位数：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

戦後・55年体制確立後の歴代政権の施策、スタイル、与野党の動きや有権者の投票行動を取り上げ、現代の日本政治を理解するための基礎を学ぶ。政治という幅広い概念の中から、有権者として必要な知識を身につける。

【到達目標】

政治は「遠い存在」でも「誰かに任せておけばよいもの」でもなく、自らが政治の主人公たる有権者であり、政治を身近に感じ、政治が自分の生活に多大な影響を与えていることを理解し、国家、地域、社会と自らの関係性を考えられるようにする。国政、地方政治を問わず、自らの知識、経験、考察を通じ、先入観や固定観念を排し、虚偽の情報・伝聞に惑わされず、何が真実であるかを、自らの力で見極められるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

対面授業を基本とするが、新型コロナウイルスの感染状況や学生の希望なども考慮しながら、オンラインによる授業とすることもありうる。シラバスをはじめ授業計画の変更などは、授業内で告知するとともに、学習支援システムに提示する。主要テーマや新聞に掲載された諸課題などに関して、計3回の小レポートを求める。リアクションペーパーの毎回提出は必須としないが、氏名を伏した上で授業の中で取り上げることもありうる。授業の初めに、前回の授業後に提出されたリアクションペーパーや小レポートを取り上げ、全体に対し講評や解説をし、フィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	日本政治の現状と課題	政治とは何か。現代日本の政治に求められているものは何か、浮かび上がっている課題を考える
2	政権のスタイル①～個性型	「列島改造論」の田中内閣、「クリーン」を掲げた三木内閣を例に、首相の個性が政権運営や政策などにどう影響するのかを考える
3	政権のスタイル②～大統領型	「戦後政治の総決算」を唱え、国鉄民営化などに取り組んだ中曽根内閣が、どのようにして政策を実現させていったのかを検証する
4	政権のスタイル③～積み上げ型	大平内閣の売上税構想から竹下内閣での消費税導入までの経緯を振り返り、数代にわたる政権がどのように政策を実現させていったのかを検証する
5	政権のスタイル④～官邸主導型	橋本内閣における「行政改革」、小泉内閣の「郵政民営化」、安倍内閣の「官邸政治」を取り上げ、3政権の相違に焦点を当てる
6	自民党の政権維持システム①	一時期をのぞいて、結党以来、自民党がどのように政権を維持してきたのかを学ぶ

7	自民党の政権維持システム②	政権維持のために構築してきたシステムの変容と、それがもたらす功罪を考える
8	自民党の政権維持システム③	自民党としては初となる中曽根政権時代の新自由クラブとの連立と、現在の公明党との連立の経緯や性質の違いを考える
9	野党①	55年体制後の野党の系譜を振り返り、細川政権、民主党政権が短命に終わった理由を考察する
10	野党②	「批判ばかり」と揶揄される野党の役割は何か。現状とその課題を探る
11	有権者の意識①	選挙制度の変遷や公職選挙法の改正をたどり、各制度の問題点や各党候補者の選挙戦略・選挙運動に与える影響を分析する
12	有権者の意識②	報道機関が実施する世論調査やSNSによる世論形成にも触れつつ、有権者はいかに政党や候補者を選んでいいのか、候補者たちはどのように票を集めるのかを取り上げる
13	政治と民意	沖縄の米軍普天間飛行場の代替施設建設をめぐる住民投票や選挙結果を例に、示された民意と政治の関係性を考察する
14	試験・まとめと解説	授業全般を通して学習したことに関し試験を実施する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日々、新聞の政治記事を読んで何が起きているかを把握する。地方、中央問わず興味がある、あるいは持てそうな議員を見つけて、公式HPや新聞などをチェックするなどして、定点観測する。本授業の準備学習・復習時間は各1時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

毎回必ず使用する教科書はないが、授業内で新聞に掲載された問題に関して、取り上げることもあるため、新聞を読むことは必須

【参考書】

「戦後政治史 第四版」(石川真澄、山口二郎共著、岩波新書、2021年3月)
「平成政治史」(大嶽秀夫著、ちくま新書、2020年、1000円)
「自民党―「一強」の実像」(中北浩爾著、中公新書、2017年、880円)
「検証 安倍イズム～胎動する新国家主義」(柿崎明二著、岩波新書、2015年、800円)
「政権交代とは何だったのか」(山口二郎著、岩波新書、2012年、880円)
「現代日本政治入門」(新藤宗幸、阿部齋共著、東京大学出版会、2016年、3190円)
「戦う民意」(翁長雄志著、角川書店、2015年、1540円)
* 沖縄の米軍普天間飛行場移設問題に関して、あまり知識がない学生は必読。なお、電子版の入手は容易、1100円)
「地方選」(常井健一著、KADOKAWA、2020年、1700円)

【成績評価の方法と基準】

3回の提出を求める課題ごとの小レポートで45%、期末試験が40%、リアクションペーパーを含む平常点が15%

【学生の意見等からの気づき】

リアクションペーパーを利用し、その後の授業に生かす。

【学生が準備すべき機器他】

なし

【その他の重要事項】

出席を取る。単位取得には①一定数以上の講義への出席②3回の小レポートの提出③授業内で行う期末試験の受講（ただし、所定の手続きを踏んだ場合の欠席は除く）が必要となる。小職は共同通信社政治部で20年以上にわたり、政治取材を続け、ここ十数年は国政、地方選を問わず、どの候補者が当選するかを判断する総括責任者として主に選挙の現場から政治を見てきた。授業では日本の政治を体系的に俯瞰、分析するだけでなく、学生も有権者として政治の重要なアクターになることを踏まえ、渦中にある当事者の視点や気づき、学生との対話も交えながら授業を行う

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire a basic ability to grasp Japanese politics with certainty.

At the end of the course, students are expected to be aware that you are the main character of politics as a voter, and understanding that politics has a great influence on your life, you will be able to think about your relationship with the nation, region, and society. Regardless of national politics or local politics, through your own knowledge, experience, and consideration, you should be able to eliminate prejudices and stereotypes, avoid being confused by false information and hearsay, and determine what is true by yourself.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend one hours to understand the lecture content.

Your overall grade in the class will be decided based on the following: term-end examination: 40%, three times short reports : 45%, in class contribution(including re-action papers): 15%

POL200AC

日本政治論Ⅱ

藤田 直央

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

単位数：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

政治とは、私たちがどんな社会を目指すのかという目標をどう定め、実現するかを探る営みである。政治を今の日本に生きる私たちがを実践するにはどうすればいいか。そうした問題意識を、戦後から今日にかけての度重なる選挙を通じた「国民の選択」が日本政治にもたらした変化を学ぶことで身につける。

【到達目標】

歴代最長の安倍内閣と野党の分断に象徴される、今の自民党「一強」政権。それが生まれるに至った経緯を、政権交代が繰り返された1990年代以降を中心に学んで理解する。節目節目の政治課題と選挙結果という「国民の選択」をたどることで、今の政治の動きや課題、今後の日本にとってどんな政治のあり方が望ましいのかについて考えを深められるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

授業前に課題資料を読み、講義・質問、授業後のリアクションペーパー提出というサイクルで進めます。授業の初めに前回のリアクションペーパーをいくつか取り上げフィードバックします。新聞記者（朝日新聞編集委員）らしく自分の取材経験を交えて話し、時事問題も「今週の政治の動き」といった形で解説します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	はじめに いま政治に何が起きているのか	安倍元首相暗殺や旧統一教会問題といった、政治を揺るがす最近の出来事の原因を考える。授業の進め方も説明
2	日本政治の課題	少子高齢化、格差、過疎化、コロナ禍。高まる中国・北朝鮮との緊張。課題山積だが財政は逼迫、上がらない投票率
3	自民党・長期政権と二度の下野①	1955年の結党から93年の最初の下野までの「55年体制」と、「政権交代可能な二大政党制」を掲げた政改革を概観
4	自民党・長期政権と二度の下野②	冷戦構造が崩れた1990年代の激動。94年の社会党との連立による政権復帰から、99年に始まった公明党との連立まで
5	自民党・長期政権と二度の下野③	「自民党をぶっ壊す」。2001年から06年までの小泉内閣での官邸主導、劇場型政治。
6	自民党・長期政権と二度の下野④	2006年から09年まで安倍（一次）、福田、麻生と内閣が転々。衆参ねじれ国会の混乱から自民党の二度目の下野へ
7	民主党政権の混迷①	1990年代以降の政治改革の帰結と、鳩山内閣の普天間移設問題にみる政権交代の危うさ。

8	民主党政権の混迷②	菅内閣の東日本大震災対応。野田内閣の消費増税解散と民主党分裂。政治主導とマニフェスト政治の限界
9	安倍内閣、歴代最長の理由①	日本政治の変質の帰結。1990年代の政治・行政改革が、小泉内閣や民主党政権を経て歴代最長の安倍内閣に至った。逆に民主党は分裂で一強多弱
10	安倍内閣、歴代最長の理由②	日本政治最大のイベントである衆院解散とは何かと、それが安倍内閣でどのように運用されたかを考える
11	ポスト安倍の日本政治	菅・岸田両内閣。コロナ対策に追われながら内政・外交の課題にどう取り組んできたか。安倍元首相暗殺以降の自民政権の動揺
12	今後の争点①憲法改正	改憲になぜ自民党はこだわるのか、なぜ歴代最長の安倍内閣でも実現できなかったか。一方で9条の形骸化
13	今後の争点②外交・安全保障	米中対立、ロシアのウクライナ侵攻の中で日本はどうするか。防衛力や財源をどうすべきか。広島サミットの評価
14	まとめ	授業を振り返りつつ、夏の参院選の結果をふまえてまとめ。期末レポートについて説明。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習では毎回の授業に向け読むべき資料を新聞記事中心に示す。復習はリアクションペーパーの作成など。各1時間を標準とする。ほかおすすめとしては、現在進行形の課題に政府がどう対応しようとしているか、国会でどんな議論がされているかについて、新聞記事（ネット可）を読んで把握しておく。SNS等で関心を持った国会議員や政党の経歴、主張をウェブサイトなどでさらに掘ってみるのもいい。

【テキスト（教科書）】

必ず使う教科書はないが、参考書に挙げた本の中で新書はわかりやすいのでざっと目を通すことをおすすめする。

【参考書】

- ・岸田ビジョン（岸田文雄著、講談社+α新書、2021年、860円）
- ・戦後政治史 第三版（石川真澄・山口二郎著、岩波新書、2010年、940円）
- ・政権交代とは何だったのか（山口二郎著、岩波新書、2012年、880円）
- ・自民党（北岡伸一著、中公文庫、2008年、1026円）
- ・日本は「右傾化」したのか（小熊英二・樋口直人編、慶応大学出版会、2020年、2000円）
- ・ナショナリズムを陶冶する ドイツから日本への問い（藤田直央著、朝日新聞出版社、2021年、1650円）
- ・防衛事務次官 冷や汗日記（黒江哲郎著、藤田直央編、朝日新聞出版、2022年、935円）

【成績評価の方法と基準】

授業ごとのリアクションペーパー（出席確認を兼ねて当日中）で60%、期末レポートで40%。

【学生の意見等からの気づき】

リアクションペーパーをその後の授業に生かします。最後の授業では、学生たちからの意見をもとに授業の進め方の反省会もします。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to understand that politics is setting and trying to realize the goal of our society generally, and to learn basic contemporary issues for us to practice politics in Japan especially.

POL100AC

日本政治思想史 I

河野 有理

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

単位数：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「日本政治思想史 I」：政治学教科目の中で、歴史・思想科目群に属します。江戸から明治にかけての政治思想史の流れについて、主要な思想家の議論の概要を押さえつつ、理解を深めていきます。

【到達目標】

現代日本においてたとえ「保守」的立場を標榜する人物といえども、江戸時代への「復古」を本気で主張することはほとんど想定できません。しかし、なぜなのでしょう。考えてみれば不思議なことです。この問いは、もちろん、日本にとって明治維新（明治革命）がいかなる意味を持ったのかという問いと深く結びついています。「維新」という言葉や明治維新についての通俗的イメージは広く流布していますが、明治維新を江戸の政治思想史からさかのぼって説明できる人は決して多くありません。なぜ明治維新は起きたのか。そしてそれにはどんな意味があったのか。説明してみたいとは思いませんか。この講義はそのための機会を提供することを目指しています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に強く関連。「DP1」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

現在のところ、対面講義を想定しています。適宜、小レポートやアンケートの提出を求めることで双方向性を確保します。また、授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	導入	授業の進め方や評価の方法について。
第 2 回	江戸時代とは何か	「名」と「身分」
第 3 回	武士について	軍人と「ならずもの道徳」
第 4 回	儒学について	東アジアのグローバル政治哲学
第 5 回	伊藤仁斎	儒学の日本化
第 6 回	新井白石	日本の儒学化
第 7 回	荻生徂徠（1）	「礼楽」の政治思想——方法、学問、言語
第 8 回	荻生徂徠（2）	「礼楽」の政治思想——アーキテクチュアによる支配
第 9 回	本居宣長（1）	「みやび」の（反）政治思想——方法・学問・言語
第 10 回	本居宣長（2）	「みやび」の（反）政治思想——「美」の逆説
第 11 回	海保青陵	「市場」の政治思想
第 12 回	横井小楠・吉田松陰	「危険思想」としての儒学
第 13 回	福澤諭吉（1）	「社交」の政治思想
第 14 回	福澤諭吉（2）	「愛国心」と「やせ我慢」について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

参加者は、指定したテキストを通読し、講義の内容をよく復習しつつ、翌週の講義に臨むようにしてください。また、講義で紹介した史料、あるいはテキストに引用されている史料の原典にあたり、教員やテキスト執筆者の解釈のあらさがしをすることも望ましい授業外学習として推奨に値します。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

渡辺浩『日本政治思想史 十七～十九世紀』（東京大学出版会、2010 年）

【参考書】

荻部直『日本思想史への道案内』（NTT 出版、2017 年）

原武史『日本政治思想史』（放送大学教材、2017 年）

【成績評価の方法と基準】

期末試験（70 %）、小テスト・アンケートの提出状況（30 %）

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

covid19 の流行状況の変化に伴い講義形態の変更がありえますので、学生ポータルで最新の情報を入手するように注意してください。

【Outline (in English)】

This course is designed to overview the history of Japanese political thought from 1600 to 1868, focusing on some Confucian Thinkers and Native-Learning(Kokugaku) thinkers.

POL100AC

日本政治思想史 II

河野 有理

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

単位数：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「日本政治思想史 II」：政治学科科目の中で、歴史・思想科目群に属します。近代日本の政治思想史について、主要な思想家の議論を概観しつつ、時に原典史料にあたり、その理解を深めていきます。

【到達目標】

「日本」とはいったい何でしょうか。それはいったいいかなるものであったのでしょうか、あるいはありえたのでしょうか。「これからどうすべきか」を論じるにあたり、しばしば「今までがどうであったのか」についてのイメージを持つことが重要になってきます。この講義では、近代日本に大きな影響を与えた思想家のなかでも特に「これまで日本がどうであったのか」を自らの立論の前提として重視している（ように見える）人々をとりあげ、彼ら（残念ながららずべて男性なのですが、随時、同時代の女性の視点を導入して相対化する努力をしていきたいと思います）が提示する様々な「日本」像について考えていきたいと思っています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に強く関連。「DP1」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

現在のところ、対面講義を行う予定です。授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	導入	進行方法や成績評価について
第 2 回	福澤諭吉と田口卯吉	「文明論」の衝撃
第 3 回	植木枝盛と中江兆民	反〈上から目線〉の政治思想
第 4 回	徳富蘇峰と陸羯南	それでも〈上から目線〉の必要について
第 5 回	竹越三又と山路愛山	〈史論〉の復権
第 6 回	内村鑑三と新渡戸稲造	〈キリスト教 made in Japan〉の破壊力
第 7 回	高山樗牛と北村透谷	〈美的反逆〉の系譜
第 8 回	「国民道徳」と井上哲次郎	道徳憲法としての「教育勅語」とその新しさ
第 9 回	柳田国男と折口信夫	「民俗学」の登場：私たちは私たちのことをよく知っているのか？
第 10 回	和辻哲郎と津田左右吉	「日本」について改めて
第 11 回	権藤成卿と大川周明	〈偽史〉の政治学
第 12 回	「講座派」と三木清・戸坂潤	〈マルクス主義〉の降臨
第 13 回	京都学派	〈超克せよ〉と近代は言う
第 14 回	丸山眞男	〈作為せよ〉と近代は言う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

参加者は、指定したテキストを通読し、講義の内容をよく復習しつつ、翌週の講義に臨むようにしてください。また、講義で紹介した史料、あるいはテキストに引用されている史料の原典にあたり、教員やテキスト執筆者の解釈のあらさがしをすることも望ましい授業外学習として推奨に値します。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

河部直『日本思想史への道案内』（NTT 出版、2017 年）

【参考書】

渡辺浩『日本政治思想史 十七～十九世紀』（東京大学出版会、2010 年）

原武史『日本政治思想史』（放送大学教材、2017 年）

【成績評価の方法と基準】

定期試験（90 パーセント）、講義への積極的な貢献度（10 パーセント）

【学生の意見等からの気づき】

無し。

【学生が準備すべき機器他】

無し。

【Outline (in English)】

This course is designed to overview the history of Japanese political thought from 1868 to 1945, focusing on various thinkers who tried to embrace "Western Impact" in various ways.

POL200AC

日米関係論 I

井上 史

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

単位数：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、19 世紀中葉から現在に至るまでの日米関係の史的展開を概観し、グローバルヒストリーにおける両国の位置づけを検討します。外交面の通史理解を軸としつつ、グローバル資本主義、国家対立、階級、人種、ジェンダーなどをめぐるポリティックスと日米関係との連動も考察します。第二次世界大戦後、米軍統治下に置かれた沖縄の歴史的経験を含める「日米」関係の構造を立体的に捉え、両国が抱えるさまざまな問題を歴史的に捉える視座・思考を養います。

【到達目標】

1. 日米関係の通史的理解を習得する。
2. 日米関係の歴史的変遷をグローバルかつ越境的な視野に立って見通す。
3. 資本、国家、人種、ジェンダーなど重層的に絡み合うポリティックスと日米関係との連動を把握し、両国の外交史を多面的に捉える分析力を養う。
4. 近年の英語圏における日米関係史研究の知見をふまえ、日米関係の過去・現在・未来について論じる能力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

各回の授業は、講義／映像資料の紹介（前半）、グループディスカッションと振り返り（後半）の二部構成で行われます。後半では、講義、課題、映像資料をふまえて特定のテーマについて議論します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	①なぜ日米関係史を学ぶのか ②19 世紀の世界秩序と日米関係の誕生
2	「戦争の世紀」前半における日米関係	①ふたつの帝国の共通利害、類似点、差異 ②協力から対立に至った経緯－日露戦争からアジア太平洋戦争まで
3	日本の敗戦、核時代の幕開け	①マンハッタン計画と「人種戦争」としての第二次世界大戦 ②冷戦と米国の核政策
4	占領期の日米関係	①占領体制と戦後日米関係の形成 ②占領空間における人種、ジェンダー、階級
5	冷戦とサンフランシスコ体制	①東アジアにおける冷戦体制 ②日本の主権回復と日米安全保障条約の成立
6	米軍統治下の沖縄	①沖縄戦 ②初期占領からサンフランシスコ体制下の米軍統治体制へ
7	沖日米関係の転換期としての 1955 年	①講和後日本における「反米」ナショナリズムの高揚と「55 年体制」の成立 ②日本の市民社会と「沖縄問題」 ③占領下沖縄における米軍統治体制への異議申し立て

8	日米安保条約の改定と安保闘争	①「ジラード事件」と在日米軍再編 ②安保闘争と沖縄の祖国復帰運動
9	日米「イコール・パートナーシップ」時代	①日米経済関係の強化・拡大 ②ベトナム戦争と 70 年安保
10	沖縄返還	①返還交渉 ②沖縄における復帰運動・反基地運動・越境的連帯運動
11	東アジアにおける冷戦構造の変化と日米関係	①米中接近と日中国交正常化 ②日米安保体制下の沖縄
12	冷戦後の日米安保再定義	①新冷戦と日米同盟の強化 ②沖日米関係にとっての 1995 年
13	21 世紀初頭における日米安保体制	①日米同盟の西方拡大 ②日米市民間の交流
14	まとめ	①グローバルヒストリーにおける日米関係の位置づけ ②今後の課題・展望

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

指定された文献・一次資料を事前に読んできてください。学期末に期末レポートを提出する必要があります。1 回の授業につき 4 時間の事前学習・復習をおこなってください。

【テキスト（教科書）】

吉次公介『日米安保体制史』岩波書店、2018 年。

【参考書】

細谷千博編『日米関係史』東京大学出版会、1995 年。
五百旗頭真『日米関係史』有斐閣、2008 年。
松田武『自発的隷従の日米関係史 日米安保と戦後』岩波書店、2022 年。

【成績評価の方法と基準】

平常点：出席、ディスカッションへの参加（30 パーセント）、期末レポート（70 パーセント）

【学生の意見等からの気づき】

前年度の授業担当なし。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

毎回、授業時間後にオフィスアワーを設けます。

【Outline (in English)】

This course offers an overview of the history of the Japan-U.S. relationship with a focus on its post-1945 trajectory. Covering the period from the nineteenth century to the present, the course locates the present-day Japan-U.S. relationship in global history. The students will acquire a chronological understanding of the Japan-U.S. diplomatic relationship and cultivate skills to analyze the bilateral relationship's interactions with the multi-layered politics arising from global capitalism, inter-state conflicts, class, race, and gender. Further, this course aims to develop a structural and multi-dimensional understanding of the Japan-U.S. relationship with particular attention to the U.S.-occupation of Okinawa (1945-1972) and its aftermaths in order for us to better understand the two countries' contemporary problems.

POL200AC

日米関係論Ⅱ

井上 史

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

単位数：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、「日米関係論Ⅰ」で習得した通史理解を応用しつつ、特定のテーマにしぼって日米関係の内実を検討します。より具体的には、①核、②沖縄、③「アンポ」、④日系アメリカ人、⑤アメリカ社会にとつての戦争、⑥米軍基地／日米地位協定問題をテーマとする6つの映像作品を視聴し、日米関係がどのように描かれているか、制作者の問題提起をどのように受け止めればよいのか、各々のテーマの理解をより深めるためにいかなる補足情報を必要とするか、などの問いを総合的に検証します。講義と事前学習にもとづく映像作品の批評を通じて、日米関係を多角的に理解し、学術的に分析する力を養います。

【到達目標】

1. 日米両国の歴史を理解するうえで重要なテーマについて知見を深める。
2. 多様な日米関係分析／研究にふれることにより、日米関係を多角的に捉え、分析する力を養う。
3. 事前学習、講義、映像作品の内容を整理したうえで、日米関係をめぐるテーマについて自らの考えを他者に伝える表現力を培う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

事前に関連文献を読んだうえで映像作品を鑑賞し、その次の回の授業で、講義、学生によるプレゼンテーション、ディスカッションをおこないます（6回）。学生は個人あるいはグループによるプレゼンテーションを担当することになり（1～2回）、その割り振りは初回の授業で決定します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション (授業の概要や進め方の説明)	①映像作品を通じて日米関係を学ぶ意義 ②6つのテーマ紹介 ③次回テーマ「核」の概要
2	核①	映画視聴（ゴジラ）
3	核②	①核をめぐる日米関係史 ②次回テーマ「沖縄」の概要
4	沖縄①	映画視聴（米軍占領）
5	沖縄②	①沖縄戦と米軍占領 ②次回テーマ「日米安保体制」の概要
6	日米安保体制①	映画視聴（日米安保闘争）
7	日米安保体制②	①戦後日本における親米と反米、それを乗り越える視座と試み ②次回テーマ「日系アメリカ人」の概要
8	日系アメリカ人①	映画視聴（第二次世界大戦下の日系アメリカ人兵士）
9	日系アメリカ人②	①日系アメリカ人の歴史 ②次回テーマ「アメリカ社会にとつての戦争」
10	アメリカ社会にとつての戦争①	映画視聴（アメリカ市民にとつてのイラク戦争）

11	アメリカ社会にとつての戦争②	①米国の戦争史 ②次回テーマ「米軍基地／日米地位協定問題」概要
12	米軍基地／日米地位協定問題①	映画視聴（米軍基地／日米地位協定問題）
13	米軍基地／日米地位協定問題②	米軍基地史における沖縄と日本の地位
14	まとめ	6つのテーマから得られた視点、「日米関係」像の共有

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

指定された文献・一次資料を事前に読んできてください。プレゼンテーションを一回担当し、学期末に期末レポートを提出する必要があります。1回の授業につき4時間の事前学習・復習をおこなってください。

【テキスト（教科書）】

なし

【参考書】

明田川融『沖縄基地問題の歴史－非武の島、戦の島』みすず書房、2008年。
明田川融『日米地位協定－その歴史と現在』みすず書房、2017年。
増田弘・土山實男『日米関係キーワード』有斐閣、2001年。
道場親信『占領と平和（戦後）という経験』青土社、2005年。
吉見俊哉『親米と反米－戦後日本の政治的無意識』岩波書店、2007年。
タカシ・フジタニ『共振する帝国 朝鮮人皇軍兵士と日系人米軍兵士』岩波書店、2021年。

【成績評価の方法と基準】

平常点（20パーセント）、プレゼンテーション（30パーセント）、期末レポート（50パーセント）

【学生の意見等からの気づき】

前年度の授業担当なし。

【その他の重要事項】

毎回、授業時間後にオフィスアワーを設けます。

【Outline (in English)】

Building on the contents of “The Japan-U.S. relationship Part I” provided in the previous semester, this course takes a thematic approach to the history and the present of the Japan-U.S. relationship. The selected themes are 1) nuclear weapons and power, 2) Okinawa, 3) Anpo, 4) Japanese-Americans, 5) the place of wars in U.S. society, and 6) the Japan-U.S. Status of Forces Agreement and the American military presence. We will watch six films that address the above themes and analyze representations of the Japan-U.S. relationship in each work. Further, we will consider the producers’ intentions, messages, and additional information necessary for us to better understand each theme and the Japan-U.S. relationship. By evaluating each film based on lectures, assignments, and discussions, the students will learn how to develop a multi-dimensional understanding of the Japan-U.S. relationship and cultivate analytical skills that can be applied in other disciplines and activities.

LAW200AB

法律学特講（知的財産法の今日的課題）

武生 昌士

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

単位数：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講義では、知的財産法に関する諸問題のうち、著作権法・特許法・標識法以外のものの中から、その時々的重要と思われる課題を個別的に採り上げ、どのような制度が設けられているのかを、具体的な裁判例や関連する他の法制度にも触れながら学んでいく。

今年度も、近時その重要性をますます高めつつある営業秘密の保護を中心に採り上げる。雇用の流動性が高まりつつある今日、その反面として、退職従業員による営業秘密の流出といった案件を報道において目にする機会もまた多くなっている。営業秘密の保護は、知的財産法のひとつである不正競争防止法において規定されているものであるが、これは、市場において競争を行っている事業者のみならず、その従業員や役員といった個人にも関係してくる規律であるため、これについて一定の理解を身に付けておくことは、社会に出た際に少なくない意義を有するものである。

この授業は、以上のような営業秘密に関する規律を中心に、不正競争防止法のうちのいくつかの規定等を学ぶことを目的とするものである。民法（不法行為法）や労働法を学んだ上での応用科目といった意味合いを有するが、情報の秘密管理といった事柄は幅広い分野に関連し得るため、「裁判と法コース」、「行政・公共政策と法コース」、「企業・経営と法コース（商法中心）」、「同（労働法中心）」などの各コースにおける学習の最終段階において受講すべき科目のうちのひとつとして位置付けられる。

【到達目標】

不正競争防止法における営業秘密の保護に関する規律などを中心に、関連する知的財産法上の規律について、制度全体についての一通りの体系的理解及び主要な論点における基本的な考え方を身に付けてもらうことにより、今後関連する問題に直面した際に、自分で調査し考えることができるだけの基礎的素養を涵養することを目標とする。

より具体的には、第一に、営業秘密保護の規律などを理解する上で重要な基礎的な概念について十分に理解し、その内容を正確に示すことができるようになることを目標とする。

第二に、営業秘密保護などが問題となる具体的な事例（紛争）について、不正競争防止法を適用するとどのような帰結が導かれる（解決が図られる）こととなるのかを、裁判例・学説の理解の前提に立った上で示すことができるようになることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

この授業では、不正競争防止法における営業秘密の保護（及びデザイン保護に関する法制度等）をテーマとし、具体的な裁判例にも触れながら、講義形式で一通り説明していく。

下記授業計画に示した形での講義を予定しているが、順序や内容については必要に応じ変更する可能性がある。

質問等は出席票・メール・学習支援システムを通じて受け付けるほか、授業前後に直接口頭で質問していただいても構わない。フィードバックは個別に、あるいは次回授業冒頭に全体に対して、行うこととしたい。期末試験に関しては、学習支援システムを通じて講評を行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス・知的財産法の概要	本講義の概要説明、知的財産法の全体像に占める本講義の位置
第 2 回	営業秘密の不正利用 (1)	不競法 2 条 1 項 4～10 号総説、営業秘密の定義（秘密管理性等）
第 3 回	営業秘密の不正利用 (2)	営業秘密の定義（有用性、非公知性等）
第 4 回	営業秘密の不正利用 (3)	不正利用行為
第 5 回	営業秘密の不正利用 (4)	適用除外、救済手段など
第 6 回	営業秘密の不正利用 (5)	営業秘密に関する問題演習、答案の書き方の解説など
第 7 回	限定提供データの不正利用	不競法 2 条 1 項 11 号～16 号の概説
第 8 回	商品形態模倣行為の規律 (1)	不競法 2 条 1 項 3 号の制度趣旨、保護の要件
第 9 回	商品形態模倣行為の規律 (2)	保護の要件、適用除外
第 10 回	商品形態模倣行為の規律 (3)	請求主体、救済手段など
第 11 回	意匠法概説 (1)	登録意匠制度とは、意匠の定義
第 12 回	意匠法概説 (2)	意匠の定義、登録要件
第 13 回	意匠法概説 (3)	登録要件、意匠権・意匠権侵害概説など
第 14 回	まとめ	授業の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回の終了時に、次回までに予習すべき資料や解いてくるべき課題などを出す場合があるので、取り組んだ上で授業に臨むこと。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教科書は特に指定しない。なお、六法を持参するなどして、不正競争防止法等の条文を確認できる状態で授業に臨んでほしい。詳細は開講時に改めて指示する。

【参考書】

田村善之『知的財産法〔第 5 版〕』（有斐閣、2010）、茶園成樹編『知的財産法入門〔第 3 版〕』（有斐閣、2020）、愛知靖之ほか『知的財産法〔第 2 版〕』（有斐閣、2023）、茶園成樹編『意匠法〔第 2 版〕』（有斐閣、2020）など。

詳細は開講時に改めて、また授業中にも適宜、指示する。

【成績評価の方法と基準】

期末試験により評価する（期末試験 100 %）。

【学生の意見等からの気づき】

受講生の理解の度合いを見計らいながら授業を進めるよう心掛けたい。

【学生が準備すべき機器他】

講義資料は印刷したものを教室で配布するほか、学習支援システムからも利用できるようにする予定である。

【その他の重要事項】

民法（特に不法行為法）や労働法、民事訴訟法、知的財産法などの科目を履修済みか、並行して履修することが好ましいが、初学者にもわかりやすい講義を心がけたい。

【Outline (in English)】

【授業の概要（Course outline）】

This course covers the basics of Trade Secret Protection and Design Protection in Japan with attention to fundamental case law.

【到達目標（Learning Objectives）】

By the end of the course, students should be able to :

— Demonstrate knowledge and understanding of Trade Secret Protection and Design Protection.

【授業時間外の学習（Learning activities outside of classroom）】

Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.

【成績評価の方法と基準（Grading Criteria / Policy）】

Your overall grade in the class will be decided based on Term-end examination (100%).

POL200AC

ヨーロッパ政治思想史 I

犬塚 元

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

単位数：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代政治学の源流をたどることを通じて、政治や政治学について理解を深める科目です。ヨーロッパにおける政治学の歴史（政治学史）、政治思想の歴史（政治思想史）を学びます。この科目は、政治学科科目の中で歴史・思想科目群に属する科目です。

【到達目標】

- ・政治学の基本的な考え方や用語を理解する。
- ・古代・中世ヨーロッパの政治学史、政治思想史の基礎知識を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に強く関連。「DP1」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

講義形式。配布資料にもとづいて講義をおこないます。対面を原則とします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	この授業の概要	政治思想史から政治学を学ぶ
第 2 回	日本の弥生時代にギリシアでは...	古代ギリシアにおける政治について2つの考え（ヘロドトス トゥキュディデス）
第 3 回	直接民主政治は衆愚政治になってしまうのか	古代ギリシアの民主主義の制度設計
第 4 回	幸福になるためにはなにが必要だろうか	プラトン 1（『ソクラテスの弁明』）
第 5 回	「弱肉強食こそが自然の掟である」	プラトン 2（『ゴルギアス』）
第 6 回	優秀な人による政治か、民主政治か	プラトン 3（『ポリテイア』）
第 7 回	男女には肉体の違いがあるから、社会での役割も違うのだろうか	プラトン 4（『ポリテイア』）
第 8 回	安定した政治の条件	アリストテレス 1（『ニコマコス倫理学』）
第 9 回	人間らしく生きるために（野獣でも神でも、機械でもない人間）	アリストテレス 2（『政治学』）
第 10 回	かつてサンデルブームがありました	アリストテレス 3（『政治学』）
第 11 回	安定した政治の条件（2）	古代ローマの政治思想（ポリュビオス）
第 12 回	神に仕えるか、皇帝に仕えるか	政治思想としてのキリスト教
第 13 回	この世か、あの世か	「中世」の政治思想
第 14 回	試験・まとめ	授業内試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で紹介する古典をひとつでも読んでみるのが望ましい。政治思想史を学ぶために重要なのは、講義を聴くことでも、教科書を読むことでもなく、過去のテキストを実際に読んでみることです。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキスト（教科書）は使用しません。必要な資料は配布します。資料配布については、初回の講義で説明します。

【参考書】

参考文献は、必要に応じて、各回の授業で説明します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（48%）、期末の授業内試験（52%）

【学生の意見等からの気づき】

難易度に留意して、できるだけわかりやすく授業をおこないます。高校で「世界史」を学んでいる必要はありません。

【Outline (in English)】

Explores history of political thought in Europe, especially of the ancient ages and the middle ages.

POL200AC

ヨーロッパ政治思想史Ⅱ

犬塚 元

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

単位数：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代政治学の源流をたどることを通じて、政治や政治学について理解を深める科目です。ヨーロッパにおける政治学の歴史（政治学史）、政治思想の歴史（政治思想史）を学びます。この科目は、政治学科科目の中で歴史・思想科目群に属する科目です。

【到達目標】

- ・政治学の基本的な考え方や用語を理解する。
- ・初期近代ヨーロッパの政治学史、政治思想史の基礎知識を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に強く関連。「DP1」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

講義形式。配布資料にもとづいて講義をおこないます。対面を原則とします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	この授業の概要	政治思想史は役立たず？
第 2 回	『君主論』は、やりた い放題のすすめ？	マキアヴェッリ
第 3 回	「サタンは滅ぼすべし」	宗教戦争の時代（ルター カル ヴァン ベーズ オトマン）
第 4 回	神の栄光か、秩序ある 社会か	ボダン
第 5 回	いまの歴史学では通用 しない「市民革命」と いう言葉	イングランドの宗教対立 1（レ ヴェラーズ）
第 6 回	「みんな平等だから、 独裁者が必要」	イングランドの宗教対立 2（ホッ プズ）
第 7 回	ケーキを公平に切り分 けるためにはどうした らよいか	イングランドの宗教対立 3（ハリ ントン）
第 8 回	クーデタのすすめ（が 自由主義の聖典になっ た）	イングランドの宗教対立 4（ロッ ク）
第 9 回	「熱狂するのは格好悪 い」	18 世紀の文明社会論
第 10 回	「現代社会は腐りきっ ている」	ジャン=ジャック・ルソー
第 11 回	どこでも生まれてしま う派閥争いをどうした らよいか	革命の時代 1（フェデラリスト）
第 12 回	理想主義を疑う	革命の時代 2（パーク）
第 13 回	個人の自由を妨げるの は世間の圧力	19 世紀の自由主義（トクヴィル ミル）
第 14 回	試験・まとめ	授業内試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で紹介する古典をひとつでも読んでみるのが望ましい。政治思想史を学ぶために重要なのは、講義を聴くことでも、教科書を読むことでもなく、過去のテキストを実際に読んでみることです。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキスト（教科書）は使用しません。必要な資料は配布します。資料配布については、初回の講義で説明します。

【参考書】

参考文献は、必要に応じて、各回の授業で説明します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（48%）、期末の授業内試験（52%）

【学生の意見等からの気づき】

難易度に留意して、できるだけわかりやすく授業をおこないます。高校で「世界史」を学んでいる必要はありません。

【Outline (in English)】

Explores history of political thought, especially of the early modern Europe.

POL200AC

福祉政策 I

淵元 初姫

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
 単位数：2 単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈ダ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は政策・都市・行政の分野に属する科目です。福祉政策とは何か。そこではどのような政策の選択肢があり得るのか。また、福祉はどのような過程を経て人々のもとに届くのか。本講義では、現代社会において福祉政策がどのように構成され、議論されているのかを検討するための基本的な概念や理論を取り扱います。

【到達目標】

- (1) 福祉政策を論じる上で必要となる基本的な用語や概念を理解する。
- (2) 現代社会における福祉政策の問題がどのように構成されているかを理解する。
- (3) 福祉政策をめぐる制度や仕組みを理解し、支援の実際について説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

教員による講義のほか、履修人数によっては、学生によるディスカッションの機会を設けることがあります。また、講義の内容について学生の理解を確認するため、リアクション・ペーパーもしくは課題の提出を求めます。これは不定期に合計 3 回ほど実施する予定で、成績評価の対象となります。授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業のテーマや到達目標、評価基準等について説明し、福祉政策を学ぶ際の視点について考える。
第 2 回	現代の福祉課題	現代社会において生活を営む上で私たちが直面している福祉問題・課題について考える。
第 3 回	福祉制度の歴史と展開 (1)	福祉国家の形成過程について説明し、社会福祉がいかに制度化されてきたのかを学ぶ。
第 4 回	福祉制度の歴史と展開 (2)	福祉国家の変容とポスト福祉国家体制について学ぶ。
第 5 回	社会福祉の原理	なぜ人と人は支え合うのかを問いながら、福祉社会のあり方について検討する。
第 6 回	福祉政策の範囲と体系	広義・中間義・狭義の「社会福祉」を理解し、社会福祉法をはじめとする関連法規の概要を学ぶ。
第 7 回	社会保障制度	年金・医療保健制度をはじめとする社会保険制度のほか、社会扶助制度、社会福祉制度の内容について学ぶ。
第 8 回	日本における社会福祉の特徴	日本型福祉社会の形成過程と特徴を説明し、家族や地域社会、企業がいかなる役割を果たしてきたのかを論じる。

第 9 回	福祉政策の国際比較	福祉国家の類型について学びながら、国際比較の視点と方法を考える。
第 10 回	福祉政策と地方自治	地方自治体におけるこれまでの福祉政策に関する取り組みを学び、今後の課題を考える。
第 11 回	福祉政策の担い手	福祉政策を支える自治体職員、福祉専門職のほか、社会福祉法人や NPO 法人について学び、それらの役割を考える。
第 12 回	社会福祉と市民参加	福祉政策の領域における市民参加の諸形態について学ぶ。
第 13 回	コミュニティにおける社会福祉	地域福祉という考え方とその実践について学び、これからの福祉政策を展望する。
第 14 回	まとめ	授業を振り返り、その内容についてまとめる。また、授業内容に関する筆記試験を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

多様な複数のメディアを通じて、身近な政策課題について関心をもつように心がけてください。皆さんが居住する自治体のホームページなども重要な情報源です。授業中は、重要であると思う点等についてノートを取り、不明な点があれば、教員に質問したり、出席者同士で問いかけあうことも必要です。講義の後は、復習としてその内容について振り返り、知識の定着をはかるとともに、自らの興味や関心と関連付けて考えてみることも大切です。本授業の準備学習・復習時間は 4 時間を標準とします。授業中にリアクション・ペーパーや課題を指示された場合は、期日までに提出してください。

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。必要に応じてプリント等を配布します。

【参考書】

必要に応じて授業中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

期末試験（70%）及び授業内リアクション・ペーパー（30%）により評価します。評価の基準については、授業の内容や課題への取り組みを通してみなさんがどのように考えたのかを重視しています。

【学生の意見等からの気づき】

本年度新規科目につきアンケートを実施していません。

【Outline (in English)】

The lecture explores how social/welfare policies are constructed and debated in contemporary society. How are policies made? Which voices matter? How policies are delivered? The course will be of interest to those with an interest in how social/welfare policies, which affect our everyday lives, are made by politicians, government officials, citizens, and various other actors.

Students will be expected to spend four hours to understand the course content before/after each class meeting.

Students will be Assessed by;

Written Exam 70%, Reaction paper 30%

POL200AC

福祉政策Ⅱ

荒木 千晴

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
単位数：2 単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈ダ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

政治学科科目の中で「政策系」の分野に属する科目である。日本の社会福祉制度は、対象者別に発展してきたが、現在「地域共生社会の実現」に向けて、地域を基盤に、社会福祉の各制度を包括化する方向で展開されている。本授業では福祉政策の展開と論点を理解するとともに、近年の福祉政策を特徴づける包括的支援体制について検討する。また、海外の福祉政策との比較から、日本の福祉政策の特徴について理解を深める。

【到達目標】

- ・福祉政策が求められる背景にある社会問題を理解する。
- ・現在の日本がおかれている福祉環境と福祉政策の概要を理解する。
- ・近年における福祉政策の展開を理解する。
- ・福祉政策の内容と実際について、複数のテーマにおける事例をもとに理解する。
- ・海外の福祉政策との比較から、日本の福祉政策の特徴を知る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

- ・福祉政策に関する基礎概念、政策、団体、海外の制度等、毎回中核となる主題をとりあげる。また、テーマに即した具体的な事例等を通じて、多角的・実践的な視点から福祉政策の理解をすすめる。
- ・なお、各回のリアクションを受け止めるため、専用のメールを開講する。このメールに質問、感想などを求め、理解度や疑問に対応しながら授業を進める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業の概要、注意事項、評価方法等を説明する。
第 2 回	福祉政策の展開	日本における福祉政策の歴史的な展開を理解する。
第 3 回	今日の社会問題と福祉政策	現代における社会問題を概括し、福祉政策に求められている論点について考える。
第 4 回	所得保障に関する福祉政策	所得保障に関する各制度の概要、生活保護、生活困窮者自立支援事業等、政策動向について理解する。
第 5 回	高齢者福祉政策	高齢者福祉に関する福祉政策について、介護保険をはじめ各制度の概要・政策動向を理解する。
第 6 回	障害者福祉政策	障害者福祉政策について、障害者自立支援制度をはじめ制度の概要・地域の支援体制を理解する。
第 7 回	子ども家庭福祉政策	地域において子どもと家庭を支援する福祉政策について、概要・政策動向を理解する。
第 8 回	権利擁護に関する福祉政策	地域における権利擁護体制の推進について、成年後見制度の利用促進・意思決定支援等の政策を例に理解する。

第 9 回	社会的包摂に関する福祉政策	地域共生社会に向け、多文化共生や司法福祉など、社会的包摂の観点が求められる福祉政策の現状について理解する。
第 10 回	地域福祉政策と包括的支援体制	包括的支援体制の構築の基盤となる地域福祉政策の展開、体制について、自治体の取組事例をもとに検討する。
第 11 回	地域福祉計画	地域福祉の計画と実践について、自治体における事例をもとに検討する。
第 12 回	福祉政策を推進する体制	福祉政策を推進するための各機関や人材等について理解し、各機関の連携・協働等今後の体制のあり方を考える。
第 13 回	海外の福祉政策	海外における福祉政策の展開との比較から、日本の福祉政策の特徴を理解する。
第 14 回	授業のまとめ、到達度確認（試験）	第 13 回までの授業を振り返り、授業のまとめを行う。到達度を確認する試験を実施する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業中に提供した資料、記録をもとに復習を行うとともに、各回のテーマについて居住する自治体の情報やニュース等、福祉政策の実際に触れ、情報収集を行い、理解を深めることが推奨される。学習支援システムを通じて教材を事前配布した場合には、授業前に読んで検討しておくことが準備学習として求められる。本授業の準備学習・復習時間は 4 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。必要に応じて学習支援システムを通じて教材の配布を行う。

【参考書】

- ・一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟「社会福祉の原理と政策」2021 年、中央法規出版
- ・小田 憲三他監修「社会福祉概論 第 5 版: 社会福祉の原理と政策」2021 年、勁草書房
- ・厚生労働省「地域共生社会のポータルサイト」：
<https://www.mhlw.go.jp/kyouseisyakaiportal/>
その他の文献はその都度提示する。

【成績評価の方法と基準】

期末試験（70 %）、授業内リアクションペーパー（30 %）により評価する。

【学生の意見等からの気づき】

該当なし。

【Outline (in English)】

This subject belongs to the "policy-oriented" field within the Department of Political Science courses. Japanese social welfare system has been developed by the target groups. Currently, however, the system is being developed in the direction of making each social welfare system more inclusive, based on the community, toward the "realization of a regional inclusive society".

In this class, we will understand the development and issues of welfare policy and examine the comprehensive support system that characterizes recent welfare policy. In addition, we will deepen our understanding of the characteristics of Japanese welfare policy by comparing it with welfare policies in other countries.

Students will be Assessed by;

Written Exam 70%, Reaction Paper 30%

POL200AC

比較福祉国家 I

山本 卓

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

単位数：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

＜この授業は、現代政治科目群に属する科目である。＞

福祉国家のかたちは国際的に多様である。では、福祉国家はどのように多様であり、また、何がその多様性を生み出しているのだろうか。「福祉国家 I」では、これらの点を説明しようと提示されてきた理論・視点を、データ分析の実習的な要素もとり入れて学習する。さらに、福祉国家の今日の状況について、「福祉国家と経済のグローバル化」という観点から考察する。

【到達目標】

- ① 福祉国家の国際的な多様性を説明する代表的な理論について説明できる。
- ② 福祉国家・福祉レジームの類型を、その分析枠組みと合わせて説明できる。
- ③ 用意されたデータを使って、上記の分析枠組みを用いた考察ができる。
- ④ 福祉国家に対する経済的グローバル化の影響について説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

※「比較福祉国家 I」は、オンライン授業です。

- 授業時限に、講義を Zoom 配信します（リアルタイム）。
- 毎回、電子教材を配信します（教材の URL は、学習支援システムの「お知らせ」で連絡します）。
- 受講者は、学修状況の確認を目的とする小課題に取り組み、指定する期日内に提出します（提出先は、学習支援システム）。
- 課題や質問等へのフィードバックは、全体に対しては教材内での紹介やコメントの形で、個別적으로는メールやオフィスアワーで起こないです。
- 授業用に設けたデータサイト：Comparative study of Welfare States (<https://public.tableau.com/profile/welfarestates#!/>) 等を使うことがあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	この授業の概要や評価方法などの説明を受ける。
第 2 回	北欧型福祉国家	「福祉国家」の概念について確認したのち、代表的な「福祉国家」とされることの多い北欧の福祉国家を、経済と福祉の関連に注目して考察する。
第 3 回	福祉国家と経済分野のグローバル化（1）	経済のグローバル化が福祉国家にどのような変化をもたらしているのを、ドイツの事例を扱った映像資料を使って考察する。
第 4 回	福祉国家と経済分野のグローバル化（2）	前回の学習を踏まえて、福祉国家に対する経済的グローバル化の影響を、構造的に分析する。
第 5 回	社会保障のグローバルな次元	ILO の World Social Protection Data 等を使って、国際的な社会保障の今日の状況をグローバルな見地から考察する視点を学ぶ。

第 6 回	福祉国家の多様性を説明する理論（1）近代化説	近代化説の福祉国家観を学習し、それを高度経済成長期の日本の事例で検証する。
第 7 回	福祉国家の多様性を説明する理論（2）権力資源動員論	権力資源動員論に基づく福祉国家の国際的多様性はどのように説明されるのかを学習した上で、その説明を日本の「福祉元年」の事例で検証する。
第 8 回	福祉国家の多様性を説明する理論（3）新制度論	新制度論の視点を学習したのち、選挙制度が有権者の再分配に関する投票行動に及ぼす影響について理論的に考察する。
第 9 回	福祉国家の類型（1）福祉レジームと脱商品化	「福祉レジーム」の概念を学習した上で、福祉レジームを分類する基準のひとつめとして「脱商品化」指標の構成を学習する。
第 10 回	福祉国家の類型（2）社会的階層化	福祉レジームを分類する基準のふたつめとして「社会的階層化」を学習する。また、「社会的階層化」との関係で、ミーンズテスト、選別主義と普遍主義、「再分配のパラドクス」についても考察する。
第 11 回	福祉国家の類型（3）福祉レジームの三類型	データを使って「脱商品化」指標と「社会的階層化」指標に基づく国際比較をおこなう。その結果を参照しつつ、E・アンデルセンの提示した福祉レジームの三類型を学習する。
第 12 回	ジェンダー・家族・福祉国家（1）家族主義と脱家族化	ジェンダーと福祉国家の関係を、男性稼ぎ主モデル、家族主義、脱家族化の概念を交えて考察する。
第 13 回	ジェンダー・家族・福祉国家（2）家族政策の国際比較	家族主義・脱家族化にかかわる家族政策の国際比較を、福祉レジームと関連付けて考察する。
第 14 回	振り返りと総括	春学期の学習内容を振り返り、総括する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で出された課題に取り組む。また、授業内で紹介された各種資料を使って、学習した内容に関する知見を深める。
この授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

電子教材を毎回配信する。

【参考書】

・OECD, Social policies and data (<https://www.oecd.org/els/soc/>)
・ILO, Social Protection (<https://www.social-protection.org/gimi/gess/WSPR.action>)
その他、授業・教材の中で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

課題の提出状況とその内容（90%）、提出課題や質問での、授業全体にとって有意義な視点や問題の提起（10%）、で評価する。
※大学の定める「試験等における不正行為」基準に則り、課題においても不正行為には厳格に対処する。

【学生の意見等からの気づき】

主体的、発展的な学習を促す教材等の開発に、引き続き努める。

【学生が準備すべき機器他】

※インターネットに接続できる PC ないタブレット。
※学習支援システムへの登録（授業に関するお知らせ配信・教材の配信・課題の提出は、学習支援システムでおこなうため）。

【Outline (in English)】

This course will provide students with the conceptual knowledge and comparative methods to understand and analyze international diversity of welfare state. It also introduces a viewpoint to understand the relationship between welfare state and economic globalization.

POL200AC

比較福祉国家Ⅱ

山本 卓

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
単位数：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は、現代政治科目群に属する科目である。>

20 世紀の第 3 四半期までに福祉国家を形成した諸国では、1980・90 年代以降の福祉国家再編の過程を経て、「新しい福祉国家」が「新しい福祉国家の政治」とともに姿を現しつつあるとされる。では、それらは具体的にはどのようなものなのだろうか？ 本授業では、社会政策・福祉政策学分野で提示されてきた理論や視点を、諸国の社会保障分野における制度、政策に当てはめて考察することを通して、上記の問いにアプローチする。

【到達目標】

- ① 福祉多元主義の観点から諸国の福祉制度、政策を比較・考察できる。
- ② 政府間財政関係の観点から、社会支出に関する財政統計を分析できる。
- ③ 福祉三角形のモデルを応用して、福祉国家再編の政治を分析できる。
- ④ 福祉ガバナンスの視点を諸国の福祉制度、政策に当てはめて考察できる。
- ⑤ 諸国の年金改革を、高齢期の所得保障という観点から国際比較できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

※「比較福祉国家Ⅱ」は、オンライン授業です。

- 授業時間に、講義を Zoom 配信します（リアルタイム）。
- 毎回、電子教材を配信します（教材の URL は、学習支援システムの「お知らせ」で連絡します）。
- 受講者は、学修状況の確認を目的とする小課題に取り組み、指定する期日内に提出します（提出先は、学習支援システム）。
- 課題や質問等へのフィードバックは、全体に対しては教材内での紹介やコメントの形で、個別적으로는メールやオフィスアワーでおこないます。
- 授業用に設けたデータサイト：Comparative study of Welfare States (<https://public.tableau.com/profile/welfarestates#!/>) 等を使うことがあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業概要の説明を受けたのち、秋学期の学習テーマを理解する。
第 2 回	福祉国家の行財政 (1) サービス供給	福祉サービスの供給面を学習する。
第 3 回	福祉国家の行財政 (2) 企画・規制と政府間関係	福祉サービスの企画・規制面について、政府間財政関係（中央・地方関係）の視点と合わせて学ぶ。
第 4 回	福祉国家の行財政 (3) 政府間関係の国際比較	政府間財政関係の観点から社会保障制度の国際比較をおこなう。
第 5 回	福祉国家の行財政 (4) 政府間財政関係	COFOG に基づく政府財政統計の体系を学習することを通して、福祉国家の政府間財政関係について学習する。

第 6 回	福祉国家の行財政 (5) 政府間財政関係の国際比較	政府間財政関係について、統計数値の制度的背景を分析する視点を学ぶ。
第 7 回	【歴史の窓】同業組合と互助・共済——社会保険の起源	ヨーロッパの同業組合に関するビデオを視聴し、互助・共済活動の歴史を学ぶ。
第 8 回	福祉国家の財源と所得再分配 (1) 財源構成	福祉国家の財源について、所得再分配機能との関係を中心に学習した上で、OECD 諸国の財源構成を比較する。
第 9 回	福祉国家の財源と所得再分配 (2) 税・不平等・社会保障	財源構成と所得分布（所得の不平等、貧困率）の関係を、OECD の国際統計を使って国際比較する。
第 10 回	福祉多元主義	福祉多元主義の歴史的背景を学んだのち、福祉多元主義に基づいた福祉国家再編を福祉三角形のモデルを使って分析する。
第 11 回	福祉国家再編の国際的動向	福祉国家再編の国際的動向として、Privatization（民営化・民間化）、市場化、脱家族化の三つを取り上げて考察する。
第 12 回	福祉ガバナンス	福祉ガバナンスについて、「ガバメントからガバナンスへ」の見方および福祉多元主義との関係を軸に理解する。
第 13 回	医療保障のガバナンス	福祉ガバナンスの理念型を学習した上で、イギリス・ドイツ・アメリカの医療保障にその類型を当てはめて考察する。
第 14 回	高齢期の所得保障	高齢期の収入源について国際比較したのち、年金改革の国際的動向について考察する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で出された課題に取り組む。また、授業内で紹介された各種資料を使って、学習した内容に関する知見を深める。
この授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

電子教材を毎回配信する。

【参考書】

- ・IMF Data, Government Finance Statistics
 - ・OECD, Social policies and data (<https://www.oecd.org/els/soc/>)
 - ・ISSA, Social Security Country Profiles (<https://www.issa.int/country-profiles>)
 - ・European Observatory on Health Systems and Policies (<https://www.euro.who.int/en/about-us/partners/observatory>)
 - ・厚生労働省『世界の厚生労働（海外情勢報告）』
- その他、授業・教材の中で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

課題の提出状況とその内容（90%）、提出課題や質問での、授業全体にとって有意義な視点や問題の提起（10%）、で評価する。
※大学の定める「試験等における不正行為」基準に則り、課題においても不正行為には厳格に対処する。

【学生の意見等からの気づき】

主体的、発展的な学習を促す教材等の開発に、引き続き努める。

【学生が準備すべき機器他】

※インターネットに接続できる PC ないしタブレット。
※学習支援システムへの登録（授業に関するお知らせ配信・教材の配信・課題の提出は、学習支援システムでおこなうため）。

【Outline (in English)】

This course will provide students with the conceptual knowledge and methods to understand and analyze welfare institutions and policies of modern welfare states. Specific social policy areas, such as health and pension will be focused and recent reforms will be discussed comparatively.

ECN200AC

経済政策 I

濱秋 純哉

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

単位数：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

政府は、ダムや道路の建設、教育サービスの提供、及び社会保障制度の整備などの「経済政策（公共政策）」を行っている。民間企業の自由な活動に任せる分野がある一方で、このように政府が直接・間接に財・サービスの提供に関与する分野があるのはなぜだろうか。このような疑問に対して、経済学の余剰分析の考え方にに基づき考察する。

【到達目標】

この講義では、受講者各人が、現実の経済政策を評価する力を身に付けることを目標とする。具体的には、経済学の余剰分析の考え方にに基づき、外部性の問題や望ましい公共財の供給について主体的に考察できるようになることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連。

【授業の進め方と方法】

直感的な理解が進むように図表を使った説明を交えながら、講義形式で経済政策に関するトピックを解説する。授業の途中や授業後に復習問題を解く時間を設け、受講者が自分の頭で考える機会も作る。復習問題については、翌週の授業までに解説資料をアップロードし、解答の説明と講評（多かった間違いや興味深い解答の紹介など）を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	経済学でどのように経済政策について考えるか？
2	経済政策を分析するための準備 1	完全競争市場とは何か、需要曲線と供給曲線
3	経済政策を分析するための準備 2	消費者余剰の図示
4	経済政策を分析するための準備 3	弾力性の概念
5	経済政策を分析するための準備 4	様々な費用の概念
6	経済政策を分析するための準備 5	企業の利潤最大化行動と供給曲線
7	経済政策を分析するための準備 6	生産者余剰の図示
8	経済政策を分析するための準備 7	経済政策の余剰分析
9	外部性への対処 1	外部性の概念
10	外部性への対処 2	外部性の存在と市場の効率性
11	外部性への対処 3	指導・監督政策による外部性への対処
12	外部性への対処 4	市場重視政策（ビゲー税と排出権取引）による外部性への対処
13	公共財の供給 1	公共財の最適供給の条件、公共財の自発的供給
14	公共財の供給 2	国家公共財と地方公共財の供給

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の準備学習・復習を行うこと。準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

八田達夫、2008、『ミクロ経済学 I』東洋経済新報社
N・グレゴリー・マンキュー、2019、『マンキュー経済学 I ミクロ編 [第 4 版]』東洋経済新報社

【参考書】

小川光・西森晃、2022、『公共経済学 [第 2 版]』中央経済社

【成績評価の方法と基準】

期末試験（70%）、復習問題の解答の提出（30%）によって評価する。

【学生の意見等からの気づき】

毎回の授業で学生が受け身の学習にならないように、授業中に簡単な質問に答えてもらったり、授業内容に即した復習問題を課したりする。また、経済学の抽象的な概念の説明の際には、必ず具体例とセットで説明することで理解を促す。

【Outline (in English)】

Course Outline

Governments conduct a wide range of economic and other public policies including, for example, the construction of dams and roads, the provision of education services, and the provision of a social security system. While of course there are a large number of areas that are left to the private sector, the question nevertheless is why there are areas in which governments directly and indirectly contribute to the provision of goods and services. This course considers this issue from a microeconomic perspective using welfare analysis.

Learning Objectives

At the end of the course, students are expected to acquire the ability to evaluate economic policies based on economics.

Learning Activities Outside of Classroom

Before/after each class meeting, students are expected to spend four hours to understand the course content.

Grading Criteria /Policy

Final grade will be decided based on the following:

Term-end examination: 70%, Review questions after each class: 30%

ECN200AC

経済政策Ⅱ

濱秋 純哉

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

単位数：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

政府や中央銀行は、財政政策や金融政策などのマクロ経済政策を行っているが、どのような目的で、さらには、どのような根拠に基づいて政策を実行しているのだろうか。このような疑問に対して、マクロ経済学の IS-LM モデルを用いて考察する。また、GDP、物価指数、失業率といった経済政策立案の際に参照される各種マクロ統計の作成方法とその計測上の課題、及び近年の雇用問題についても検討する。

【到達目標】

この講義では、受講者各人が経済学の考え方に基づいて、現実の経済政策を評価する力を身に付けることを目標とする。具体的には、各種マクロ統計の作成方法と統計の読み方を理解すること、及び財政政策と金融政策が経済に与える影響などについて主体的に考察できるようになることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連。

【授業の進め方と方法】

直感的な理解が進むように図表を使った説明を交えながら、講義形式で経済政策に関するトピックを解説する。授業の途中や授業後に復習問題を解く時間を設け、受講者が自分の頭で考える機会も作る。復習問題については、翌週の授業までに解説資料をアップロードし、解答の説明と講評（多かった間違いや興味深い解答の紹介など）を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	マクロ経済と私たちの生活
2	経済政策のためのマクロ統計 1	GDP の概念と作成方法
3	経済政策のためのマクロ統計 2	名目 GDP と実質 GDP
4	経済政策のためのマクロ統計 3	物価指数の概念と作成方法
5	経済政策のためのマクロ統計 4	失業率の概念と作成方法
6	労働政策 1	需要不足失業とミスマッチ失業
7	労働政策 2	失業への政策的対処
8	労働政策 3	最低賃金引き上げの影響
9	財政・金融政策 1 : IS-LM モデルの構築 1	ケインジアン の交差図、乗数効果
10	財政・金融政策 2 : IS-LM モデルの構築 2	IS 曲線の導出
11	財政・金融政策 3 : IS-LM モデルの構築 3	貨幣量の測定とコントロール
12	財政・金融政策 4 : IS-LM モデルの構築 4	LM 曲線の導出
13	財政・金融政策 5 : IS-LM モデルの応用 1	財政政策の効果とクラウディング・アウト
14	財政・金融政策 6 : IS-LM モデルの応用 2	金融政策の効果と流動性の罫

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本講義を履修するにあたり、経済政策論 A を履修済みのことが望ましい（ただし、需要曲線・供給曲線、余剰や弾力性の概念、及び余剰分析の方法などを学習済みなら、必ずしも経済政策論 A を履修済みの必要はない）。また、授業の準備学習・復習を行うこと。準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

N・グレゴリー・マンキュー、2017、『マクロ経済学Ⅰ（第4版）』東洋経済新報社

【参考書】

福田慎一・照山博司、2016、『マクロ経済学・入門（第5版）』有斐閣

【成績評価の方法と基準】

期末試験（70%）、復習問題の解答の提出（30%）によって評価する。

【学生の意見等からの気づき】

毎回の授業で学生が受け身の学習にならないように、授業中に簡単な質問に答えてもらったり、授業内容に即した復習問題を課したりする。また、経済学の抽象的な概念の説明の際には、必ず具体例とセットで説明することで理解を促す。

【Outline (in English)】**Course Outline**

Governments and central banks conduct macroeconomic policies such as fiscal policy and monetary policy, but for what purpose and on what basis do they implement such policies? This course considers these questions from a macroeconomic perspective using IS-LM model. The course also examines how various macroeconomic statistics such as GDP statistics, price indexes (consumer price indexes and GDP deflators), and unemployment rates are compiled as well as related measurement issues, and moreover, investigates employment issues in recent years.

Learning Objectives

At the end of the course, students are expected to acquire the ability to evaluate economic policies based on economics.

Learning Activities Outside of Classroom

Before/after each class meeting, students are expected to spend four hours to understand the course content.

Grading Criteria /Policy

Final grade will be decided based on the following:

Term-end examination: 70%, Review questions after each class: 30%

POL100AC

行政学 I

林 嶺那

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

単位数：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、主に日本を素材として、行政や官僚制の構造と機能の解説を行う。国際比較や公民の対比も適宜、実施する。

【到達目標】

行政や官僚制の構造と機能に関する基本的なテーマを理解できるようになることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

行政や官僚制の構造と機能に関わる 13 のトピックを、1 回の授業で 1 つずつ取り上げ、逐次解説を行う。以上を通じて、行政学を構成する制度論、政策論、管理論という 3 つの領域をカバーする。授業は一般的な座学の形式をとる。授業の最後にコメントを回収し、次の冒頭でフィードバックを行う。学期末に 1 度の定期試験を予定している。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	この授業の狙いと方針について論じる。
第 2 回	官僚制①	官僚制の諸モデルについて論じる。
第 3 回	官僚制②	政官関係について論じる。
第 4 回	議院内閣制と大統領制	議院内閣制と大統領制の下での行政の位置づけについて論じる。
第 5 回	公務員制度とその運用	公務員の採用・昇進・配置について論じる。
第 6 回	省庁	日本の中央省庁を中心とした行政組織について論じる。
第 7 回	予算編成	予算の編成プロセスについて論じる。
第 8 回	地方自治①	地方自治の諸アクターについて論じる。
第 9 回	地方自治②	政府間関係について論じる。
第 10 回	政府と市場	政府と市場の関係性について論じる。
第 11 回	ガバナンス	統治をめぐるアクター間の関係性について論じる。
第 12 回	政策類型	政策の類型について論じる。
第 13 回	アジェンダ設定	アジェンダ設定の理論と実証について論じる。
第 14 回	政策決定	政策決定と合理性について論じる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

行政に関する新聞、インターネット、テレビ、雑誌等の情報に接するように努力する。本授業の準備学習・復習時間は、教科書購読 15 分、新聞閲読毎日 15 分 × 7 日 = 115 分で、合計 120 分を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

真淵勝（2020）『行政学 [新版]』有斐閣、定価 4290 円

曾我謙悟（2022）『行政学 [新版]』有斐閣、定価 2970 円

【成績評価の方法と基準】

コメントペーパー（30%）

定期試験（70%）

【学生の意見等からの気づき】

前年度、試行的に導入した学生相互のディスカッションについては、有益な気づきを得られたという肯定的な意見が多く見られた。今年度は、学生相互のディスカッションにより多くの時間を割き、複合的な視点から行政を観察することができるような機会を作るようにしたい。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

新聞／雑誌を読む。

【Outline (in English)】

This class covers the structure and function of public administration and bureaucracy, based mainly on Japan. The lecture will also include international comparisons and investigating the differences between public and private sectors as needed.

POL100AC

行政学Ⅱ

林 嶺那

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

単位数：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、主に日本を素材として、行政や官僚制の構造と機能の解説を行う。国際比較や公民の対比も適宜、実施する。

【到達目標】

行政や官僚制の構造と機能に関する基本的なテーマを理解できるようになることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

行政や官僚制の構造と機能に関わる 13 のトピックを、1 回の授業で 1 つずつ取り上げ、逐次解説を行う。以上を通じて、行政学を構成する制度論、政策論、管理論という 3 つの領域をカバーする。授業は一般的な座学の形式をとる。授業の最後にコメントを回収し、次の冒頭でフィードバックを行う。学期末に 1 度の定期試験を予定している。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	この授業の狙いと方針について論じる。
第 2 回	政策決定	利益・制度・アイデアについて論じる。
第 3 回	政策実施	第一線公務員論等の政策実施論について論じる。
第 4 回	政策評価	政策評価について論じる。
第 5 回	行政組織の研究系譜	行政組織をめぐる研究史について論じる。
第 6 回	マネジメントの公民比較	マネジメントに関する公民の異同について論じる。
第 7 回	人事行政①	モチベーションについて論じる。
第 8 回	人事行政②	リーダーシップ、チームワークについて論じる。
第 9 回	価値	行政組織が目指す価値について論じる。
第 10 回	組織文化	行政組織をめぐる組織文化について論じる。
第 11 回	組織変革	行政組織の変革について論じる。
第 12 回	行政と技術	行政における技術の導入と利用について論じる。
第 13 回	管理とパフォーマンス	行政管理とパフォーマンスの関係について論じる。
第 14 回	日本の行政システム	日本の行政システムの特徴について論じる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

行政に関する新聞、インターネット、テレビ、雑誌等の情報に接するように努力する。本授業の準備学習・復習時間は、教科書購読 15 分、新聞閲読毎日 15 分 × 7 日 = 115 分で、合計 120 分を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

真淵勝（2020）『行政学 [新版]』有斐閣、定価 4290 円

曾我謙悟（2022）『行政学 [新版]』有斐閣、定価 2970 円

【成績評価の方法と基準】

コメントペーパー（30%）

定期試験（70%）

【学生の意見等からの気づき】

前年度、試行的に導入した学生相互のディスカッションについては、有益な気づきを得られたという肯定的な意見が多く見られた。今年度は、学生相互のディスカッションにより多くの時間を割き、複合的な視点から行政を観察することができるような機会を作るようにしたい。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

新聞／雑誌を読む。

【Outline (in English)】

This class covers the structure and function of public administration and bureaucracy, based mainly on Japan. The lecture will also include international comparisons and investigating the differences between public and private sectors as needed.

POL200AC

政治文化論 I

新川 敏光

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

単位数：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、政治と文化の関係について、比較論的に考察する。

【到達目標】

政治における文化の重要性を理解する。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示された
どの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針
に明示された学習成果との関連）】**

【授業の進め方と方法】

講義形式で進める。事前に学習視線システムに資料をアップロードする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第一回	民主主義と文化①	市民文化と社会資本の理論
第二回	民主主義と文化②	アメリカの民主主義と文化
第三回	民主主義と文化③	イギリスの民主主義と文化
第四回	民主主義と文化④	フランスの民主主義と文化
第五回	民主主義と文化⑤	日本の民主主義と文化
第六回	政治における暴力	権力と暴力の理論的考察
第七回	革命と暴力	フランス革命やロシア革命など
第八回	民族浄化	ナチス・ドイツや ユーゴスラビアの解体など。
第 9 回	進化論と優生学	ダーウィンとスペンサーの理論
第 10 回	優生学の発現①	イギリスとフランス
第 11 回	優生学の発現②	アメリカとドイツ
第 12 回	フェミニズム	フェミニズムの理論
第 13 回	フェミニズムの発現	イギリス・アメリカ・カナダの フェミニズム運動
第 14 回	授業内試験	70分の筆記試験を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教科書は指定しない。毎回授業前に資料を学習支援システムにアップロードする。

【参考書】

新川敏光『政治学：概念・理論・歴史』（ミネルヴァ書房）は、比較政治論 I・II の教科書であるが、本授業でもその一部を使用する。

【成績評価の方法と基準】

成績評価は、授業内試験によって行う。

【学生の意見等からの気づき】

授業の最後に質問時間を設ける。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムへのアクセスは確保すること。

【その他の重要事項】

特になし。

【Outline (in English)】

This course aims at clarifying how politics relates with culture in comparative terms.

POL200AC

マス・コミュニケーション論 I

郭 善英

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

単位数：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

マス・コミュニケーションの特徴・役割などに関する基本的な概念と理論を学び、実際行っているコミュニケーション、メディア現象をより分析的・批判的に考察できる能力を養う。

【到達目標】

- 1) マス・コミュニケーションに関する概念・理論を理解する。
- 2) 現代社会におけるマスコミュニケーションの役割・重要性を理解し、分析的・批判的に考察する。
- 3) 学習した理論・概念を現実のメディア・コミュニケーション現象に適用し、自分の意見・議論を共有する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に強く関連。「DP2」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

- 主に講義とケース分析を行い、ケース分析では最近話題になるメディア現象などを中心に紹介します。学生には自らのケース紹介およびディスカッション参加が求められます。
- 授業内容に応じて、意見・感想をワークシートに記入してもらったり、グループワークを行うことがあります。ワークシートは原則、授業当日中に提出してもらい、提出内容につきましては次回の授業中に解説を行い、意見・感想の内容はクラスで共有し議論します。
- レポートとテストは採点の後、学習情報システムにて返却します。
- 対面授業が難しい場合、Zoom によるリアルタイム授業を行い、出席できない学生には授業の録画を提供します。（事前相談必要）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	授業概要：マス・コミュニケーションとは？	授業の構成とマス・コミュニケーション論を学ぶ意義について紹介します。
2	マス・コミュニケーションの歴史と機能	マス・コミュニケーション、マス・メディアの歴史と関連概念の変遷について学びます。
3	表現の自由と規範理論	マス・メディアの在り方に関する規範理論を学びます。
4	2つのパラダイム (1)	コミュニケーション学の2大パラダイムの中、主流・伝統パラダイムを学びます。
5	2つのパラダイム (2)	マルクス主義に基づく批判的パラダイムを学びます。
6	ニュースの社会学	報道の過程に影響を及ぼす社会的要因を通じて、マス・メディアと社会の関係を考察します。
7	マス・コミュニケーションと民主主義	民主主義のためのメディアの役割について学びます。
8	【TOPIC】選挙とコミュニケーション	コミュニケーションと選挙の関係、日本の選挙報道における「公正性」について考察します。
9	オールド・メディアとニュー・メディア	インターネットなどニュー・メディアの特徴について学びます。
10	マス・コミュニケーション効果理論	マス・コミュニケーションの効果に関する理論を学びます。

11	オーディエンス論	批判的理論の伝統の中発展してきたオーディエンスに関する理論を学びます。
12	メディア倫理 I	倫理問題が問われるケースから、倫理問題が発生する理由についてグループワークを行います。
13	メディア倫理 II	メディア倫理に関するグループワークの結果を共有します。
14	期末テスト	オープンブック形式で、授業内容に基づき自分の意見を述べます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

新聞、テレビ、ネットニュースなど、メディア・コンテンツに接し、気になる現象、議論などを考えておいてください。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

決まった教科書はありません。

【参考書】

マクウェル、デニス (2010) 『マスコミュニケーション研究』慶應義塾大学出版会

McQuail, Denis and Mark Deuze. 2020. McQuail's Mass Communication Theory. London: Sage.

スタンリー J. バラン、デニス K. デイビス (2007) 『マス・コミュニケーション理論—メディア・文化・社会』新曜社

Baran, Stanley J. and Dennis K. Davis. 2020. Mass Communication Theory: Foundations, Ferment, and Future. Oxford University Press.

大石裕 (2022) 『コミュニケーション研究』慶應義塾大学出版会

【成績評価の方法と基準】

授業参加 20%（出席・ワークシートなど）

テスト 40%（オープンブック形式）

期末レポート 20%

選挙報道課題 10%

メディア倫理グループワーク 10%

【学生の意見等からの気づき】

映画などの活用は学生から反応が良いし、良いコメント・議論にもなりますので引き続き活用します。前年度のグループワークから斬新で発展的な議論が出来たので、今年度も積極的に活用したいと思えます。

【Outline (in English)】

This course introduces basic concepts and theories about the characteristics and roles of mass communication, in order to provide grounds on that students can develop analytical and critical viewpoints on communication and media phenomena.

POL200AC

マス・コミュニケーション論Ⅱ

郭 善英

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

単位数：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

マス・コミュニケーションⅠから学んだマス・コミュニケーション一般の概念・理論を元に、コミュニケーション学の具体的な分野の概念・理論を学び、周りのメディア・コミュニケーション現象を批判的に考察することを目的とする。

【到達目標】

- 1) コミュニケーション学の具体的な分野の概念・理論を理解する。
- 2) 学習した理論・概念を現実のメディア・コミュニケーション現象に適用し、自分の意見・議論を共有する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に強く関連。「DP2」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

- 主に講義とケース分析を行い、ケース分析では最近話題になるメディア現象などを中心に紹介します。学生には自らのケース紹介およびディスカッション参加が求められます。
- 授業内容に応じて、意見・感想をワークシートに記入してもらったり、グループワークを行うことがあります。ワークシートは原則、授業当日中に提出してもらい、提出内容につきましては次回の授業中に解説を行い、意見・感想の内容はクラスで共有し議論します。
- レポートとテストは採点の後、学習情報システムにて返却します。
- 対面授業が難しい場合、Zoom によるリアルタイム授業を行い、出席できない学生には授業の録画を提供します。（事前相談必要）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	授業概要・課題案内	授業で紹介するコミュニケーション学の分野について紹介し、期末プロジェクトのケース研究について案内します。
2	国際コミュニケーション：概念と理論（1）	国境を越えて行われるコミュニケーション現象を語る理論の中、主流パラダイムの流れを学びます。
3	国際コミュニケーション：概念と理論（2）	文化帝国主義など、国際コミュニケーションを語る批判的理論を学びます。展過程について学びます。
4	【TOPIC】 グローバル・オーディエンスとファン活動	海外のコンテンツを消費するオーディエンスについて学び、積極的なファン活動の様子とその影響力について議論します。
5	メディア・イベントと国際報道	海外の出来事を報道する国際報道の特徴を国際的なメディア・イベントを中心に議論します。
6	メディア産業	メディア産業の特徴を学びます。
7	グローバルメディア企業とローカル戦略	メディア企業のグローバル戦略について検討します。
8	広告と消費社会	現代社会における広告の役割と位置づけについて議論します。
9	【TOPIC】 フェイクニュース（1）	フェイクニュースに関する番組を視聴し、その原因と対策についてグループワークを行います。

- | | | |
|----|---------------------|---|
| 10 | 【TOPIC】 フェイクニュース（2） | グループワークの結果を共有します。 |
| 11 | 子供とコミュニケーション | メディアが子供に及ぼす影響や子供のメディア表象、子供のメディア利用など、子供とメディアの関係を語る概念を学びます。 |
| 12 | コミュニケーションと多様性 | ジェンダー、人種、社会的マイノリティーなど、コミュニケーションと多様性の問題について話します。 |
| 13 | 世界のメディア・システム | 日本とは違う、海外のメディア・システムとその背景について学びます |
| 14 | 期末テスト | オープンブック形式で、授業内容に基づき自分の意見を述べます。 |

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

新聞、テレビ、ネットニュースなど、メディア・コンテンツに接し、気になる現象、議論などを考えておいてください。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

決まった教科書はありません。

【参考書】

マクウェール、デニス (2010) 『マスコミュニケーション研究』 慶應義塾大学出版会
 McQuail, Denis and Mark Deuze. 2020. McQuail's Mass Communication Theory. London: Sage.
 スタンリー J. バラン、デニス K. デイビス (2007) 『マス・コミュニケーション理論 上—メディア・文化・社会
 Baran, Stanley J. and Dennis K. Davis. 2020. Mass Communication Theory: Foundations, Ferment, and Future. Oxford University Press.

【成績評価の方法と基準】

授業参加 20%（出席・ワークシートなど）
 テスト 40%（オープンブック形式）
 期末レポート 20%
 コメント提出（グローバルオーディエンス） 10%
 グループワーク（フェイクニュース） 10%

【学生の意見等からの気づき】

映画などの活用は学生から反応が良いし、良いコメント・議論にもなりますので引き続き活用します。前年度のグループワークから斬新で発展的な議論が出来ましたので、今年度も積極的に活用したいと思います。

【Outline (in English)】

With the foundation of the theories and concepts studied in Mass Communication I, this course introduces concepts and theories in specific fields of communication studies.

POL100AC

日本政治史 I

明田川 融

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

単位数：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本科目は選択必修科目のなかの学科基礎科目群に属する。そして、政治学が実証科学、法則科学、批判科学、そして政策科学という多層性をもつ学とすれば、その基層をなすものといえよう。近現代日本政治の複雑な道筋をたどりながら、そこから何らかのパターンや問題点を抉りだし、こんごの政策立案ならびに制度構想に資することを目的とする。

【到達目標】

近現代日本政治の制度（しくみ）と過程（ながれ）を理解する。そのさい、日沖（琉）関係の視座（中村 哲）、天皇制国家の支配原理（藤田省三）、官治集権と自治分権の対立軸（松下圭一）など、いわば法政政治学の先達たちが提示した問題意識や争点を念頭に置きつつ、日本政治史を理解することを心がけたい。また、政治制度や運用実態の、一見して自明と思われるようなことでも批判的に検証する態度や眼力を涵養したい。たとえば、そもそも「日本」政治史といふけれど、民主化の歩みにおいて、沖縄のそれと、いわゆる本土のそれとは一絡げにできるか？

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」に強く関連。「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

幕末・維新から第二次大戦での敗北にいたる時期の日本政治史を概説する。憲法、政党政治、選挙制度、議会制、官僚機構、中央・地方関係、内政と外交の連関などとともに、為政者の側だけでなく民衆運動をふくむ民主化のさまざまな担い手の言動にも可能なかぎり論及しながら講義をおこないたい。

第2回目以降、授業のはじめに、前回授業で教員がだした課題に対する個々の受講生の解答からいくつか取りあげ、受講生全体に対するフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業の目的・到達目標・成績評価方法などにつき説明。参考文献リスト配布
第2回	幕藩体制の動揺	徳川幕藩体制後期の変動と諸改革。維新への条件
第3回	明治国家の成立	維新政府と民権運動。長州支配の淵源と政党の結成
第4回	憲法制定、議院開設	体制モデルの相剋。イギリス・モデル対ドイツ・モデル
第5回	初期議会と政党政治	議会政治、政党政治事始め。議会制における政党の定位・役割
第6回	政党政治の展開	原敬内閣まで。試される政党の力
第7回	憲政の常道	政友会と民政党。二大政党制の経験
第8回	都市化と政治	「男子普通選挙」制の導入、社会主義運動。社会変動期における政治課題
第9回	国際政治と内政	ワシントン会議、ロンドン軍縮会議と国内政治。国際協調と国内民主化の連関、

第10回	政党政治の凋落	国家改造運動、テロ事件、「満州事変」。政と軍
第11回	新体制運動	国家総動員と翼賛政治。政党政治の終焉
第12回	戦争のなかの政治	日中戦争の拡大と対米開戦決定過程。戦争のはじめ方
第13回	敗戦への道程 1	沖縄戦から対米英和平工作まで
第14回	敗戦への道程 2	ポツダム宣言受諾にいたる政治過程

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

この授業を履修する学生は、理解を深めるために、各回のテーマについて事前に予習し、講義後はノートを整理し、配布プリントを見直すなど、授業実施期間を通して、各々が適当と判断する時間の授業時間外学習が必要となる。参考までに、大学設置基準によれば、この授業の準備学習・復習時間は各2時間が標準となる。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

さしあたり、以下を挙げておく。

升味準之輔『日本政治史』1~3、東京大学出版会、1988年。

鶴見俊輔ほか編著『日本の百年』1~9、筑摩書房（ちくま学芸文庫）2007-2008年。

沖縄県文化振興会史料編纂室編『沖縄県史』各論編第5巻（近代）編集工房東洋企画、2011年。

前田勇樹・古波藏契・秋山道宏編『つながる沖縄近現代史—沖縄のいまを考えるための十五章と二十のコラム』ポーターインク、2021年。

【成績評価の方法と基準】

期末試験（70%）、出席状況をふくむ平常点等（30%）を考慮して、総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムやオンラインによる授業に参加できるような機器およびネット環境

【その他の重要事項】

重要なお知らせ（2023年2月7日）

新型コロナ禍により、授業の開始日や方法等につき重要な連絡がなされる可能性がありますので、受講生は本 Web シラバスおよび学習支援システムを小まめにチェックするようにしてください。

【Outline (in English)】

【Course outline】

Political history of Japan 1 is categorized to one of the basic subjects in the department of politics. In this class, we trace the complicated course of the political history of modern Japan. From that work, we find out the patterns and questions of the course and lessons of the past for the policy-making and the institution-planning.

【Learning objectives】

The goal of this course is to understand political history of modern Japan.

【Learning activities outside of classroom】

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

【Grading criteria/policy】

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination:70%, and in class contribution:30%

POL100AC

日本政治史Ⅱ

明田川 融

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

単位数：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本科目は選択必修科目のなかの学科基礎科目群に属する。そして、政治学が実証科学、法則科学、批判科学、そして政策科学という多層性をもつ学とすれば、その基層をなすものといえよう。近現代日本政治の複雑な道筋をたどりながら、そこから何らかのパターンや問題点を抉りだし、こんごの政策立案ならびに制度構想に資することを目的とする。

【到達目標】

近現代日本政治の制度（しくみ）と過程（ながれ）を理解する。そのさい、日沖（琉）関係の視座（中村 哲）、天皇制国家の支配原理（藤田省三）、官治集権と自治分権の対立軸（松下圭一）など、いわば法政政治学の先達たちが提示した問題意識や争点を念頭に置きつつ、日本政治史を理解することを心がけたい。また、政治制度や運用実態の、一見して自明と思われるようなことでも批判的に検証する態度や眼力を涵養したい。たとえば、そもそも「日本」政治史というけれど、民主化の歩みにおいて、沖縄のそれと、いわゆる本土のそれとは一絡げにできるか？

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」に強く関連。「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

第二次大戦末期から対日講和にいたる時期の日本政治史を概説する。憲法、政党政治、選挙制度、議会制、官僚機構、中央・地方関係、内政と外交の連関などとともに、為政者の側だけでなく民衆運動をふくむ民主化のさまざまな担い手の言動にも可能なかぎり論及しながら講義をおこないたい。

第2回目以降、授業のはじめに、前回授業で教員がだした課題に対する個々の受講生の解答からいくつか取りあげ、受講生全体に対するフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業の目的・到達目標・成績評価方法などにつき説明。参考文献リスト配布
第2回	前史	沖縄戦、ヒロシマ、ナガサキと戦後政治
第3回	対日占領のはじまり	立案過程と究極目標
第4回	統治体制の変革	象徴天皇制への道
第5回	双面神の憲法構想	「平和憲法」と沖縄
第6回	早期講和と安保問題	芦田メモと昭和天皇の沖縄メッセージ
第7回	戦後政党政治の起動	いわゆる本土と沖縄
第8回	対日政策の転換	交錯する二つの論理
第9回	講和論争	国務省 vs. 米軍部、全面講和論 vs. 片面講和論
第10回	講和交渉	日米の外交指導
第11回	対日講和条約の成立	潜在主権方式（第3条）を中心に
第12回	日米安保条約の成立	「安保条約の論理」を中心に
第13回	サンフランシスコ体制	その光と影を考える
第14回	補論	戦後政治史と昭和天皇

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

この授業を履修する学生は、理解を深めるために、各回のテーマについて事前に予習し、講義後はノートを整理し、配布プリントを見直すなど、授業実施期間を通して、各々が適当と判断する時間の授業時間外学習が必要となる。参考までに、大学設置基準によれば、この授業の準備学習・復習時間は各2時間が標準となる。

「日本の政治と外交Ⅰ」および「日本の政治と外交Ⅱ」をも履修することが望ましい。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

さしあたり、以下を挙げておく。

中野好夫・新崎盛暉『沖縄戦後史』岩波書店（岩波新書）1976年。
升味準之輔『日本政治史』4、東京大学出版会、1988年。
新崎盛暉『沖縄現代史 新版』岩波書店（岩波新書）2005年。
河野康子『日本の歴史 24 戦後と高度成長の終焉』講談社（講談社学術文庫）、2010年。

櫻澤 誠『沖縄現代史：米国統治、本土復帰から「オール沖縄」まで』中央公論新社（中公文庫）、2015年。

前田勇樹・古波藏契・秋山道宏編『つながる沖縄近現代史—沖縄のいまを考えるための十五章と二十のコラム』ボーダーインク、2021年。

平良好利・高江洲昌哉編『戦後沖縄の政治と社会 「保守」と「革新」の歴史的位相』吉田書店、2022年。

沖縄県教育庁文化財課史料編集班『沖縄県史 各論編 第七巻 現代』沖縄県教育委員会、2022年。

【成績評価の方法と基準】

期末試験（70%）、出席状況をふくむ平常点等（30%）を考慮して、総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムやオンラインによる授業に参加できるような機器およびネット環境

【その他の重要事項】

重要なお知らせ（2023年2月7日）

新型コロナ禍により、授業の開始日や方法等につき重要な連絡がなされる可能性がありますので、受講生は本 Web シラバスおよび学習支援システムを小まめにチェックするようにしてください。

【Outline (in English)】

【Course outline】

Political history of Japan 2 is categorized to one of the basic subjects in the department of politics. In this class, we trace the complicated course of the political history of post-war Japan. From that work, we find out the patterns and questions of the course and lessons of the past for the policy-making and the institution-planning.

【Learning objectives】

The goal of this course is to understand political history of Japan after World War II.

【Learning activities outside of classroom】

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

【Grading criteria/policy】

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination:70%, and in class contribution:30%

POL300AC

外国書講読（独語） I

上田 知夫

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

単位数：2 単位

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ハーバマスの最新刊をドイツ語で読み、学術的なドイツ語の読解力を身につけ、政治哲学の最新の議論に触れる。

【到達目標】

ドイツ語の学術的な文章を論理的に読むことができるようになること。

政治哲学についての基本的な理解を手に入れること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP3」、「DP4」に強く関連。

【授業の進め方と方法】

内容としては、演習形式でドイツ語の文章を精読します（各回約 2 ページ進むことを目指します）。

担当者は決めず、ランダムに文章ごとに担当者を指名しますので、指名された者は、その文章に関係する文法事項を述べることを求められます。参加者のレベルに合わせて質問は調節しますので、初学者でも問題なくついてこられるように努力します。少人数授業ですので毎回授業中に予習時の疑問点などについては解説していきます。また授業後のオフィスアワーを活用して、より詳細な解説を行うことも可能です。

また内容について、各回教員が小さな議論を作ってきますので、それを検討することも重要です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	オリエンテーション：今回扱う文献の紹介
第 2 回	導入部精読	ドイツ語の文章講読および日本語で議論
第 3 回	第 1 節精読	ドイツ語の文章講読および日本語で議論
第 4 回	第 1 節精読	ドイツ語の文章講読および日本語で議論
第 5 回	第 1 節精読	ドイツ語の文章講読および日本語で議論
第 6 回	第 1 節精読	ドイツ語の文章講読および日本語で議論
第 7 回	第 2 節精読	ドイツ語の文章講読および日本語で議論
第 8 回	第 2 節精読	ドイツ語の文章講読および日本語で議論
第 9 回	第 2 節精読	ドイツ語の文章講読および日本語で議論
第 10 回	第 2 節精読	ドイツ語の文章講読および日本語で議論
第 11 回	第 3 節精読	ドイツ語の文章講読および日本語で議論
第 12 回	第 3 節精読	ドイツ語の文章講読および日本語で議論
第 13 回	第 3 節精読	ドイツ語の文章講読および日本語で議論
第 14 回	まとめ	まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストの該当箇所の文法事項を予習することが必須です。文法事項で解説してほしいこと、わかることの区別をきちんとつけてくる予習をしてください。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

Jürgen Habermas, "Überlegungen und Hypothesen zu einem erneuten Strukturwandel der politischen Öffentlichkeit" in ders. Ein neuer Strukturwandel der Öffentlichkeit und die deliberative Politik (Suhrkamp, 2022), 9-67.

初回にコピーを配布します。

【参考書】

ドイツ語の文法の授業で使った教科書および独和辞典を 1 冊持ってきてください。

独和辞典を所有していない方は、

『アクセス独和辞典』（三修社）

『大独和辞典』（小学館）

などを入手してください。

文法書を所有していない人は、

中島他『必携ドイツ語文法総まとめ』（白水社）

などを持参してください。

その他は、授業内で指示します。

【成績評価の方法と基準】

予習を重視し、平常点により採点します (100%)。予習に基づいて分かることと分からないことの区別をつけられる学生や、教室で積極的に発言をする学生を歓迎します。

【学生の意見等からの気づき】

単にテキストを淡々と訳読するだけではなくて、書かれていることの背景となる意図や問題についてきちんと掘り起こして議論できるようにしたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

辞書は、電子辞書・スマートフォンアプリ・紙媒体のどれでも結構ですが、必ず持ってきてください。

文法書・文法教科書も、必ず持ってきてください。

(どちらも平常点の評価ポイントになります。)

【その他の重要事項】

ドイツ語の初級文法のクラスを履修していることをおすすめしますが、意欲のある学生は初級文法を履修せずにこの科目を履修することを認めます。(昨年度は文法を初めて学ぶ学生もいました。)

【Outline (in English)】

【Course Outline and Learning Objectives】

This course aims to acquire academic reading skills in the German language by reading Habermas's most recent work.

【Learning activities outside of classroom】

This course requires 2 hours of preparation.

【Grading Criteria /Policy】

Preparation of class materials and active participation in the classroom: 100%

POL300AC

外国書講読（独語）Ⅱ

上田 知夫

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

単位数：2 単位

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ハーバースの最新刊をドイツ語で読み、学術的なドイツ語の読解力を身につけ、政治哲学の最新の議論に触れる。

【到達目標】

ドイツ語の学術的な文章を論理的に読むことができるようになること。

政治哲学についての基本的な理解を手に入れること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP3」、「DP4」に強く関連。

【授業の進め方と方法】

内容としては、演習形式でドイツ語の文章を精読します（各回約2ページ進むことを目指します）。

担当者は決めず、ランダムに文章ごとに担当者を指名しますので、指名された者は、その文章に関係する文法事項を述べることを求められます。参加者のレベルに合わせて質問は調節しますので、初学者でも問題なくついてこられるように努力します。少人数授業ですので毎回授業中に予習時の疑問点などについては解説していきます。また授業後のオフィスアワーを活用して、より詳細な解説を行うことも可能です。

また内容について、各回教員が小さな議論を作ってきますので、それを検討することも重要です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	オリエンテーション：今回扱う文献の紹介
第2回	第4節精読	ドイツ語の文章講読および日本語で議論
第3回	第4節精読	ドイツ語の文章講読および日本語で議論
第4回	第4節精読	ドイツ語の文章講読および日本語で議論
第5回	第4節精読	ドイツ語の文章講読および日本語で議論
第6回	第5節精読	ドイツ語の文章講読および日本語で議論
第7回	第5節精読	ドイツ語の文章講読および日本語で議論
第8回	第5節精読	ドイツ語の文章講読および日本語で議論
第9回	第5節精読	ドイツ語の文章講読および日本語で議論
第10回	第6節精読	ドイツ語の文章講読および日本語で議論
第11回	第6節精読	ドイツ語の文章講読および日本語で議論
第12回	第6節精読	ドイツ語の文章講読および日本語で議論
第13回	第6節精読	ドイツ語の文章講読および日本語で議論
第14回	まとめ	まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストの該当箇所の文法事項を予習することが必須です。文法事項で解説してほしいこと、わかることの区別をきちんとつけてくる予習をしてください。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

Jürgen Habermas, "Überlegungen und Hypothesen zu einem erneuten Strukturwandel der politischen Öffentlichkeit" in ders. Ein neuer Strukturwandel der Öffentlichkeit und die deliberative Politik (Suhrkamp, 2022), 9-67.

初回にコピーを配布します。

【参考書】

ドイツ語の文法の授業で使った教科書および独和辞典を1冊持ってきてください。

独和辞典を所有していない方は、

『アクセス独和辞典』（三修社）

『大独和辞典』（小学館）

などを入手してください。

文法書を所有していない人は、

中島他『必携ドイツ語文法総まとめ』（白水社）

などを持参してください。

その他は、授業内で指示します。

【成績評価の方法と基準】

予習を重視し、平常点により採点します(100%)。予習に基づいて分かることと分からないことの区別をつけられる学生や、教室で積極的に発言をする学生を歓迎します。

【学生の意見等からの気づき】

単にテキストを淡々と訳読するだけではなく、書かれていることとの背景となる意図や問題についてきちんと掘り起こして議論できるようにしたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

辞書は、電子辞書・スマートフォンアプリ・紙媒体のどれでも結構ですが、必ず持ってきてください。

文法書・文法教科書も、必ず持ってきてください。

(どちらも平常点の評価ポイントになります。)

【その他の重要事項】

ドイツ語の初級文法のクラスを履修していることをおすすめしますが、意欲のある学生は初級文法を履修せずにこの科目を履修することを認めます。(昨年度は文法を初めて学ぶ学生もいました。)

春学期の続きを読みますが、途中参加も可能です。

【Outline (in English)】

【Course Outline and Learning Objectives】

This course aims to acquire academic reading skills in the German language by reading Habermas's most recent work.

【Learning activities outside of classroom】

This course requires 2 hours of preparation.

【Grading Criteria /Policy】

Preparation of class materials and active participation in the classroom: 100%

POL300AD

日本外交史 I

高橋 和宏

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
単位数：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は、敗戦から 1970 年代前半までの日本外交史を国際情勢と内政という「外」と「内」との連関という視点から学び、その現代的な意味を考える。

具体的には、①占領・講和期の外交・安全保障、②日米安保体制の確立、③戦後処理外交、④高度成長と経済外交の 4 つをサブ・テーマとして設定し、各々における主要な 이슈がいかにかに展開していったのかを国際関係と国内政治の影響に注目しながら概説する。

【到達目標】

敗戦から 1970 年代前半までの日本外交の歴史的展開を理解し、現代の日本外交の課題を歴史的文脈に位置付けて考察できる知識を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

講義形式。映像資料を活用することで、より深い歴史理解を促す。初回の授業は対面では行わず、Zoom を用いたリアルタイムのオンライン授業とする。Zoom の情報は学習支援システムに掲示する。各回の授業の最後に小テストを課す。この小テストは学習支援システム上から回答するので、学生は学習支援システムに接続できるノートパソコンやタブレットを準備すること。小テストへのフィードバックは、次回の授業の冒頭で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の進め方、評価方法、参考文献の紹介
第 2 回	占領・講和 (1)	ポツダム宣言、戦後改革
第 3 回	占領・講和 (2)	冷戦、朝鮮戦争、再軍備
第 4 回	占領・講和 (3)	サンフランシスコ平和条約、日米安保条約
第 5 回	日米安保体制の確立 (1)	安保条約改定
第 6 回	日米安保体制の確立 (2)	沖縄返還
第 7 回	戦後処理外交 (1)	日ソ国交回復
第 8 回	戦後処理外交 (2)	東南アジア諸国との賠償交渉
第 9 回	戦後処理外交 (3)	日韓国交正常化
第 10 回	戦後処理外交 (4)	日中国交正常化
第 11 回	高度成長と経済外交 (1)	自由貿易体制への参画
第 12 回	高度成長と経済外交 (2)	アジア諸国との経済関係
第 13 回	高度成長と経済外交 (3)	日米経済問題、ニクソン・ショック
第 14 回	総括	これまでの議論を総括し、戦後日本政治外交の論点を俯瞰的に考察する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義内容をよりよく理解するために、参考書を授業の予習・復習に活用すること。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

指定しない。

【参考書】

五百旗頭真編『戦後日本外交史（第 3 版増訂版）』有斐閣アルマ、2014 年
添谷芳秀『入門講義 戦後日本外交史』慶応義塾大学出版会、2019 年
渡邊昭夫編『戦後日本の宰相たち』中公文庫、2001 年

【成績評価の方法と基準】

小テスト (50 %)
期末試験 (50 %)

【学生の意見等からの気づき】

また、各回の授業冒頭で前回の授業の小テストの解説を行い、学生に自らの理解度を確認させる。

【学生が準備すべき機器他】

事前の資料配布や授業各回に行う小テストの回答のために学習支援システムを利用するので、学生は学習支援システムに接続できるノートパソコンやタブレットを準備すること。

【その他の重要事項】

受講生に応じて、授業計画を調整することがある。

【担当教員の専門分野】

<専攻領域> 日本外交史、経済外交論、国際関係史
<研究テーマ> 冷戦期の日米関係、国際経済秩序をめぐる日本外交
<主要業績> 『ドル防衛と日米関係 高度成長期日本の経済外交 1959~1969 年』（千倉書房、2018 年）など。

【Outline (in English)】

(Outline and objectives)

This course examines Japanese diplomacy from 1945 to the early 1970s, focusing on the links between diplomacy and domestic politics. The following topics are to be covered:

- 1) political and security issues during the occupation era, such as the establishment of the Constitution, rearmament, and negotiations over the Peace Treaty and the Japan-U.S. Security Treaty,
- 2) establishment of the Japan-U.S. security system, such as amendment of the Security Treaty and negotiation for Okinawa reversion,
- 3) normalization of diplomatic relations and remaining problems with Russia, South Korea, Southeast Asia, and China
- 4) Economic Diplomacy in the high economic growth period, such as access to free trade regime, economic relations with Asian countries, and trade friction with the U.S.

(Learning activities outside of the classroom)

Students should expect to spend an additional four hours before/after the lecture class engaged in reading, review, and writing activities.

(Grading Criteria/Policy)

Grading will be decided based on the small tests(50%) and term-end examination(50%).

POL300AD

日本外交史Ⅱ

高橋 和宏

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

単位数：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、1970年代から2010年代までの日本外交史の展開を国際情勢と内政という「外」と「内」との連関という視点から学び、その現代的な意味を考える。

具体的には、①「日米同盟」の深化、②「経済大国」の経済外交、③残された戦後処理問題の3つをサブ・テーマとして設定し、各々における主要な 이슈がいかに関係していったのかを国際関係と国内政治の影響に注目しながら概説する。

【到達目標】

1970年代以降の日本外交の歴史的展開を理解し、現代の日本外交の課題を歴史的な文脈に位置付けて考察できる知識を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

講義形式。映像資料を活用することで、より深い歴史理解を促す。初回の授業は対面では行わず、Zoomを用いたリアルタイムのオンライン授業とする。Zoomの情報は学習支援システムに掲載する。各回の授業の最後に小テストを課す。この小テストは学習支援システム上から回答するので、学生は学習支援システムに接続できるノートパソコンやタブレットを準備すること。小テストへのフィードバックは、次回の授業の冒頭で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の進め方、評価方法、参考文献の紹介
第2回	「日米同盟」の深化(1)	デタント下の日米安保体制
第3回	「日米同盟」の深化(2)	新冷戦下の日米安保体制
第4回	「日米同盟」の深化(3)	湾岸戦争、カンボジア PKO
第5回	「日米同盟」の深化(4)	日米安保再定義、沖縄米軍基地問題
第6回	「日米同盟」の深化(5)	2000年代以降の安全保障政策
第7回	「経済大国」の経済外交(1)	石油ショック、サミット
第8回	「経済大国」の経済外交(2)	日米貿易摩擦
第9回	「経済大国」の経済外交(3)	グローバル化と地域統合
第10回	残された戦後処理問題(1)	歴史問題
第11回	残された戦後処理問題(2)	領土をめぐる諸問題
第12回	残された戦後処理問題(3)	北朝鮮をめぐる外交・安全保障
第13回	残された戦後処理問題(4)	北方領土交渉
第14回	総括	これまでの議論を総括し、戦後日本政治外交の論点を俯瞰的に考察する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義内容をよりよく理解するために、参考書を授業の予習・復習に活用すること。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

指定しない。

【参考書】

五百旗頭真編『戦後日本外交史（第3版増訂版）』有斐閣アルマ、2014年
宮城大蔵『現代日本外交史』中公新書、2016年
渡邊昭夫編『戦後日本の宰相たち』中公文庫、2001年
宮城大蔵編『平成の宰相たち』ミネルヴァ書房、2021年
添谷芳秀『入門講義 戦後日本外交史』慶応義塾大学出版会、2019年

【成績評価の方法と基準】

小テスト（50%）

期末試験（50%）

【学生の意見等からの気づき】

また、各回の授業冒頭で前回の授業の小テストの解説を行い、学生に自らの理解度を確認させる。

【学生が準備すべき機器他】

事前の資料配布や授業各回に行う小テストの回答のために学習支援システムを利用するので、学生は学習支援システムに接続できるノートパソコンやタブレットを準備すること。

【その他の重要事項】

受講生に応じて、授業計画を調整することがある。

【担当教員の専門分野】

<専攻領域>日本外交史、経済外交論、国際関係史
<研究テーマ>冷戦期の日米関係、国際経済秩序をめぐる日本外交
<主要業績>『ドル防衛と日米関係 高度成長期日本の経済外交 1959~1969年』（千倉書房、2018年）など。

【Outline (in English)】

(Outline and objectives)

This course examines Japanese diplomacy from the 1970s to the 2010s, focusing on the links between diplomacy and domestic politics. The following topics are to be covered:

- 1) the deepening of the Japan-U.S. alliance, such as negotiation over the Gulf War and dispatch of corps to UN peacekeeping operations, and redefining of Japan-U.S. security relations in the post cold war era,
- 2) economic diplomacy as an "economic superpower" such as Oil Crisis, G7, and trade friction with the U.S.
- 3) remaining problems with North Korea, territorial issues, and historical issues concerning World War II.

(Learning activities outside of the classroom)

Students should expect to spend an additional four hours before/after the lecture class engaged in reading, review, and writing activities.

(Grading Criteria/Policy)

Grading will be decided based on the small tests(50%) and term-end examination(50%).

LAW200AB

法律学特講（こども行政と法）

村元 宏行

授業形式：講義 | 開講semester：秋学期授業/Fall

単位数：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は、「行政・公共政策と法コース」に位置付けられています。

従来から、子どもをめぐる行政制度は縦割り行政の弊害等が指摘されてきました。このような中、2022年に「こども基本法」が公布され、こども家庭庁が創設されるなど、大きな変革が起こっています。

この授業では、以上の動向をふまえ、子どもをめぐる行政についてその概要と課題点を学んでいきます。

【到達目標】

子ども行政を考察する前提としての子どもの最善利益について理解している。

こども基本法とこども家庭庁について説明できる。

子ども行政を担っている国、地方自治体の諸機関について説明できる。

子ども行政をめぐる諸課題について自分なりの考察ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

授業はレジュメに沿って講義形式で行います。ただし一方通行にならないためにも、毎回小レポート（リアクションペーパー）を提出してもらい、授業の初めにいくつかを取り上げ、全体に対してフィードバックを行うなど、授業に取り入れていきます。

この授業は対面を基本とします。万が一オンライン等で授業を行う場合には授業支援システムにて前日までに告知するので、毎回確認してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	受講にあたっての諸注意など
第2回	子どもの最善の利益とは	子ども行政の理念としての、子どもの最善の利益について
第3回	こども基本法①	こども基本法制定の背景
第4回	こども基本法②	こども基本法の逐条考察（前半）
第5回	こども基本法③	こども基本法の逐条考察（後半）
第6回	こども家庭庁①	こども家庭庁創設の背景
第7回	こども家庭庁②	こども家庭庁の概要
第8回	国の子ども行政の課題	国の子ども行政をめぐる今後の課題
第9回	地方の子ども行政①	国と地方の役割分担について
第10回	地方の子ども行政②	地方自治体の子ども行政の実態
第11回	個別考察：子どもの貧困	子どもの貧困について、国、地方自治体、民間の役割等を考察する
第12回	個別考察：子ども虐待	子ども虐待について、行政の役割を考察する
第13回	個別考察：少子化	少子化について、政策と課題を考察する
第14回	まとめ	授業全体の振り返りとまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

レジュメや関連文献による復習のほか、授業で取り上げる事柄について新聞や専門誌で最新動向をつかんでおくことが求められます。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しません。

【参考書】

授業で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

期末試験（50%）

授業内小レポート（リアクションペーパー）（50%）

【学生の意見等からの気づき】

本年度から担当のため無し。

【学生が準備すべき機器他】

万が一オンラインにて行う場合に備えて、ZOOMが視聴できる環境。

【その他の重要事項】

履修にあたっての注意事項は開講時のガイダンスで説明するので、ガイダンスには出席してください。出席できない場合は、友人などに内容を確認できるようにしておいてください。

【Outline (in English)】**Course outline**

The purpose of this lecture is to understand the basic principle that supports the administration for Children and its background.

Learning Objectives

The goals of this course are to understand the basic principle that supports the administration for Children and its background

Learning activities outside of classroom

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading Criteria /Policies

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination: 50%, Short reports : 50%

LAW200AB

法律学特講（政策と法）

村元 宏行

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

単位数：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は行政・公共政策と法コースに位置づけられています。従来、法学のベーシックな学習として法解釈を通じて論理的思考能力を養うという方法があります。勿論この方法は非常に重要であって、これによって培われた思考力が将来法律そのものを職業として扱うことがない者にとっても役に立つこととなります。一方で、私たちが生活している社会問題を法によって解決するためにはどのような立法が必要かという政策的側面からの法学学習の重要性も説かれています。この授業では、社会問題を解決するための法政策について実践的な側面を含めて学んでいくこととします。

【到達目標】

法学学習として、法解釈とは別の側面として、法政策の重要性を理解できる。
法政策の形成やそれに関わる機関の役割について説明できる。
身近な社会問題を法で解決するための方策について考察できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

授業はまず原則としてレジュメに沿って講義形式で行います。ただし一方通行にならないためにも、毎回小レポート（リアクションペーパー）を提出してもらい、授業の初めにいくつかを取り上げ、全体に対してフィードバックを行うなど、授業に取り入れていきます。この授業は対面を基本とします。万一オンライン等で授業を行う場合には授業支援システムにて前日までに告知するので、毎回確認してください。

【重要】受講者の人数によりますが、受講者と相談のうえで、グループワークや個人・グループ発表を取り入れる予定です。また、政策を担う諸機関へのフィールドワークを行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業の進め方について相談の上で決定する。
第 2 回	法政策総論①	国の政策形成と立法過程
第 3 回	法政策総論②	地方自治体の政策形成と立法過程
第 4 回	個別的な法政策①	個別の立法過程について調査する
第 5 回	個別的な法政策②	個別の立法過程について調査した結果をまとめる
第 6 回	法政策の実際①	法政策に関わる諸機関について調査する
第 7 回	法政策の実際②	引き続き、法政策に関わる諸機関について調査する
第 8 回	社会問題と法政策①	それぞれが解決したい社会問題を考える
第 9 回	社会問題と法政策②	引き続き、それぞれが解決したい社会問題を考える
第 10 回	社会問題と法政策③	考察した社会問題を解決するための立法を考える
第 11 回	社会問題と法政策④	引き続き、考察した社会問題を解決するための立法を考える
第 12 回	成果報告①	自分達が考えた立法を提案する

第 13 回 成果報告② 引き続き、自分達が考えた立法を提案する

第 14 回 まとめ 授業全体をふりかえる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義では、毎時限分からなかった事項について復習を中心に行い、次回の授業課題がある場合にはそれに取り組むための時間として各 2 時間を標準とします。

授業後半では成果報告に向けての準備を授業時間外で取り組むための時間として 4 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しません。

【参考書】

授業で紹介する。

【成績評価の方法と基準】

定期試験 50 %
小レポート・課題の取り組み 50 %

【学生の意見等からの気づき】

本年度からの担当につきなし。

【学生が準備すべき機器他】

万一オンラインにて行う場合に備えて、ZOOM が視聴できる環境。

【その他の重要事項】

初回授業にて授業の具体的な進め方について決めるので初回授業には必ず出席してください。万一欠席する場合は初回授業で決めた具体的内容を承知してもらい、以降出席してもらうこととなります。

【Outline (in English)】

Course outline

The purpose of this lecture is to understand the basic principle that supports the legislative policy and its background.

Learning Objectives

The goals of this course are to understand the basic principle that supports the legislative policy and its background

Learning activities outside of classroom

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading Criteria /Policies

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination: 50%, Short reports : 50%

LAW200AB

外国書講読（英語） I

石井 宏司

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
 単位数：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本科目は、すべてのコースに属する科目である。本科目では、外国語の法律文献のうち、英語で書かれたものを読む能力を養う。そのために英語で書かれたアメリカの文献を精読する。

今回はアメリカの大学生向けの法律のシステムについての概説書を原文で読んでいく。授業ではこの本で取り上げられる様々な問題について日本の法律のシステムとの比較をしながら授業中で説明し議論する予定である。

【到達目標】

辞書を参照しながら、英語で書かれたアメリカの法律文献を正確に読み、その内容を理解することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

アメリカの大学の学部生向けに書かれた、同国の法律のシステムについて解説している教科書から、An Introduction to the Legal System of the United States を読む予定。

毎回数ページ程度、参加者が予習したものを発表する形式とする。フィードバックは授業内に行う予定。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業の進め方 輪読する文献の紹介
第 2 回	輪読	文献を読む① Part1 Historical Background(1)
第 3 回	輪読	文献を読む② Part1 Historical Background(2)
第 4 回	輪読	文献を読む③ Part1 Historical Background(3)
第 5 回	輪読	文献を読む④ Part2 Legal Education(1)
第 6 回	輪読	文献を読む⑤ Part2 Legal Education(2)
第 7 回	輪読	文献を読む⑥ Part2 Legal Education(3)
第 8 回	輪読	文献を読む⑦ Part3 Legal Profession(1)
第 9 回	輪読	文献を読む⑧ Part3 Legal Profession(2)
第 10 回	輪読	文献を読む⑨ Part3 Legal Profession(3)
第 11 回	輪読	文献を読む⑩ Part4 The Jucicial System(1)
第 12 回	輪読	文献を読む⑪ Part4 The Jucicial System(2)
第 13 回	輪読	文献を読む⑫ Part4 The Jucicial System(3)

第 14 回 輪読

文献を読む⑬
 総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回指定される範囲を予習するとともに、復習も行う。予習では文法構造を把握し、法律用語を辞書で調べる。辞書はオリエンテーションで紹介する。復習では授業で重要であると指摘されたことを理解できているかどうかを確認する。本授業の準備学習時間は 3 時間を、復習時間は 1 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

輪読する文献の複写物を配布する予定である。

【参考書】

E. Allan Farnsworth, An Introduction to the Legal System of the United States(4th ed. 2010).

【成績評価の方法と基準】

平常点により評価し（100%）、文献を正確に読み、その内容を理解するために必要となる予習をし発表をした場合、合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

輪読する予定の文献の英語については最初の方は特に歴史用語等法律以外の単語が出てくるのでその点で難しいことが想定される。ただし、予習・復習を行えば、理解できると考えられるので予習・復習の手助けとなるような助言を適切に行っていきたい。

【学生が準備すべき機器他】

宿題の提出等については原則として Google Student 等を利用して提出してもらう予定である。このため、PC またはスマホが必要となる。

授業出席時には予習してきたものを見ることができる PC やスマホ、またはプリントアウトした紙等を用意すること。

【Outline (in English)】

In order to enhance your linguistic ability to read English-language material on law, this course is designed to read US textbook such as E. Allan Farnsworth , An Introduction to the Legal System of the United States, Fourth Edition (4th ed, 2010, Oxford University Press) .

After completing this course, :

- ・ To be able to accurately read American law legal literature in English.; and
- ・ Understand their meanings.

It would be normal to spend 3 hours preparing for each coursework and to take 1 hour following up each class.

The final mark bases on work done during a course of study (100%).

LAW200AB

外国書講読（英語）Ⅱ

石井 宏司

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

単位数：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本科目は、すべてのコースに属する科目である。本科目では、外国語の法律文献のうち、英語で書かれたものを読む能力を養う。そのために英語で書かれたアメリカの文献を精読する。

今回はアメリカの大学生向けの法律のシステムについての概説書を原文で読んでいく。授業ではこの本で取り上げられる様々な問題について日本の法律のシステムとの比較をしながら授業中で説明し議論する予定である。

授業の進行次第では適宜、こちらで指定した文献の輪読を行う予定である。

【到達目標】

辞書を参照しながら、英語で書かれたアメリカの法律文献を正確に読み、その内容を理解することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

アメリカの大学の学部生向けに書かれた、同国の法律システム等について解説している教科書である、An Introduction to the Legal System of the United States を読む予定。

毎回数ページ程度、参加者が予習したものを発表する形式とする。フィードバックは授業内に行く予定。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業の進め方 輪読する文献の紹介
第 2 回	輪読	文献を読む① Part5 Case law(1)
第 3 回	輪読	文献を読む② Part5 Case law(2)
第 4 回	輪読	文献を読む③ Part5 Case law(3)
第 5 回	輪読	文献を読む④ Part6 The Legislative System(1)
第 6 回	輪読	文献を読む⑤ Part6 The Legislative System(2)
第 7 回	輪読	文献を読む⑥ Part6 The Legislative System(3)
第 8 回	輪読	文献を読む⑦ Part7 Statute(1)
第 9 回	輪読	文献を読む⑧ Part7 Statute(2)
第 10 回	輪読	文献を読む⑨ Part7 Statute(3)
第 11 回	輪読	文献を読む⑩ Part8 Secondary Authority(1)
第 12 回	輪読	文献を読む⑪ Part8 Secondary Authority(2)

第 13 回 輪読

文献を読む⑫

第 14 回 輪読

Part8 Secondary Authority(3)

文献を読む⑬

総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回指定される範囲を予習するとともに、復習も行う。予習では文法構造を把握し、法律用語を辞書で調べる。辞書はオリエンテーションで紹介する。復習では授業で重要であると指摘されたことを理解できているかどうかを確認する。本授業の準備学習時間は 3 時間を、復習時間は 1 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しない。輪読する文献の複写物を配布する。

【参考書】

E. Allan Farnsworth, An Introduction to the Legal System of the United States (4th ed. Oxford University Press 2010).

【成績評価の方法と基準】

平常点により評価し（100%）、文献を正確に読み、その内容を理解するために必要となる予習をしている場合、合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

輪読する予定の文献の英語については最初の方は特に歴史用語等法律以外の単語が出てくるのでその点で難しいことが想定される。ただし、予習・復習を行えば、理解できると考えられるので予習・復習の手助けとなるような助言を適切に行っていきたい。

【学生が準備すべき機器他】

授業においては受講者が準備すべきものは、PC あるいはスマートフォンである。そのほかの用意すべき機器等については予め授業内で指定する。

宿題の提出においては Google Student 等のサービスを利用する予定であるため、PC 又はスマホ等が必要となる。なお、詳細については授業内で説明する。

【Outline (in English)】

In order to enhance your linguistic ability to read English-language material on law, this course is designed to read US textbook such as E. Allan Farnsworth , An Introduction to the Legal System of the United States, Fourth Edition (4th ed, 2010, Oxford University Press) .

After completing this course, :

- ・ to be able to accurately read American law legal literature in English.; and
- ・ Understand their meanings.

It would be normal to spend 3 hours preparing for each coursework and to take 1 hour following up each class.

The final mark bases on work done during a course of study (100%).

POL200AC

ロシア政治史 I

油本 真理

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

単位数：2 単位

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「ロシア政治史」では主に 20 世紀以降のロシアにおける歴史と政治を学ぶ。そのうち、「ロシア政治史 I」では、帝政末期からソ連期を経て現在に至るまでの通史を概観する。なお、本科目は「歴史・思想科目群」に属する。

【到達目標】

(1) ロシアという国について、その歴史や政治の様々な事項について説明できる。(2) 政治学で学んだ諸概念を応用してロシアの事例を分析することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

講義形式で行う。質問やコメントは授業の前後および Google フォームで受け付け、次回授業の冒頭でフィードバックする。
※毎回の授業は対面形式で行うが、Zoom によるリアルタイム配信及び録画リンクの共有も実施する予定である。期末試験（授業内試験）は対面形式で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	講義の進め方、本講義の対象地域について
2	世界史とロシア	世界近現代史におけるロシアの位置づけ
3	帝政期	「大改革」とその後
4	ロシア革命①	帝政の終焉とソ連政権の樹立
5	ロシア革命②	内戦と初期のソ連・ソ連建国
6	ソ連①	スターリン時代
7	ソ連②	大祖国戦争・後期スターリン時代
8	ソ連③	フルシチョフ時代
9	ソ連④	ブレジネフ時代
10	ソ連⑤	ペレストロイカとソ連の解体
11	現代ロシア①	エリツィン時代
12	現代ロシア②	第一次プーチン政権
13	現代ロシア③	「タンデム」期・第二次プーチン政権
14	まとめ	まとめ・期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各週のテーマに関わる参考文献を予め示すので、授業前に目を通しておく。授業の後には理解が不十分であった箇所を洗い出し、自分で調べる。調べてもわからなかったことについてはその次の授業で質問する。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特になし。必要な資料は事前に授業支援システムにアップロードする。

【参考書】

栗生沢猛夫『図説ロシアの歴史増補新装版』河出書房新社、2014 年。
和田春樹編『ロシア史（新版 世界各国史）』山川出版社、2002 年。
川端香男里・佐藤経明編『新版ロシアを知る事典』平凡社、2004 年。

【成績評価の方法と基準】

平常点（リアクションペーパーの提出・計 3 回）（30 %）、期末試験（70 %）。

【学生の意見等からの気づき】

歴史をより身近に感じられるようにするため、可能な限り写真や映像を用いて授業を行う。

【Outline (in English)】

【Course outline】

This course will explore the history and politics of Russia. The first part of the course will be structured in a chronological order. The discussion topics will include causes and consequences of the Russian Revolution, characteristics of Soviet rule, collapse of the Soviet Union, regime change (including transition to market economy), and recent development of authoritarianism under Vladimir Putin. No prior knowledge of Russian history and politics is required.

【Learning Objectives】

By the end of this course, students will be able to 1) explain Russian history and politics, and 2) apply various theories of political science to analyze the Russian case.

【Learning activities outside of classroom】

Read through the reference materials before class. After the class, review the lecture contents again for a better understanding.

【Grading Criteria /Policy】

Your overall grade in the class will be based on the following:

Term-end examination: 70%, Reflection papers: 30%.

POL200AC

ロシア政治史Ⅱ

油本 真理

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

単位数：2 単位

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「ロシア政治史」では主に 20 世紀以降のロシアにおける歴史と政治を学ぶ。そのうち、「ロシア政治史Ⅱ」では、様々なテーマを取り上げ、ソ連・ロシアの事例を他国の経験とも比較しながら検討する。なお、本科目は「歴史・思想科目群」に属する。

【到達目標】

(1) ロシアという国について、その歴史や政治の様々な事項について説明できる。(2) 政治学で学んだ諸概念を応用してロシアの事例を分析することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

講義形式で行う。講義内容へのリアクションおよび質問は Google フォームで受け付け、次回授業の冒頭でフィードバックする。
※毎回の授業は対面形式で行うが、Zoom によるリアルタイム配信及び録画リンクの共有も実施する予定である。期末試験（授業内試験）は対面形式で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	本講義の進め方、取り上げるテーマについて
2	ソ連とロシア①	帝政期・ソ連
3	ソ連とロシア②	ソ連・現代ロシア
4	政治体制①	選挙
5	政治体制②	政党・社会運動
6	国家と社会①	体制と市民
7	国家と社会②	家族・ジェンダー
8	様々な政治主体①	宗教と政治
9	様々な政治主体②	軍・治安機関
10	国家と市場①	経済体制
11	国家と市場②	社会政策
12	民族と政治①	連邦制
13	民族と政治②	ナショナリズム
14	まとめ	まとめ・期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各週のテーマに関わる参考文献を予め示すので、授業前に目を通しておく。授業の後には理解が不十分であった箇所を洗い出し、自分で調べる。調べてもわからなかったことについてはその次の授業で質問する。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特になし。必要な資料は事前に授業支援システムにアップロードする。

【参考書】

松戸清裕・浅岡善治・池田嘉郎・宇山智彦・中嶋毅・松井康浩編『ロシア革命とソ連の世紀（全 5 巻）』岩波書店、2017 年。
川端香男里・佐藤経明編『新版ロシアを知る事典』平凡社、2004 年。

【成績評価の方法と基準】

平常点（リアクションペーパーの提出・計 5 回）（30 %）、期末試験（70 %）。

【学生の意見等からの気づき】

リアクションペーパーへのフィードバックを重視し、双方向的な授業を心がける。

【Outline (in English)】

【Course outline】

This course will explore the history and politics of Russia. The second part of the course will be structured according to the relevant topics. The discussion topics will include political regime, state – society relationship, politics and economy, center – periphery relationships, and ethnicity and nationalism. In each class, we will try to focus on the continuity and discontinuity between the Soviet Union and present Russia.

【Learning Objectives】

By the end of this course, students will be able to 1) explain Russian history and politics, and 2) apply various theories of political science to analyze the Russian case.

【Learning activities outside of classroom】

Read through the reference materials before class. After the class, review the lecture contents again for a better understanding.

【Grading Criteria /Policy】

Your overall grade in the class will be based on the following:

Term-end examination: 70%, Reflection papers: 30%.

POL100AC

政治過程論 I

田中 信一郎

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

単位数：2 単位

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この科目は、政治学科科目の中で「政策」の分野に属する科目であり、現代の民主政治において政策が立案、決定、実施される過程を理解するための基本的な理論枠組み、概念を理解することを目指す。

【到達目標】

現代政治の基本的な構図を理解すること。テレビ、新聞等を通して伝えられる政治記事を読み解き、批判的に理解すること。市民として政治に対する問題意識を持つこと。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

講義、意見表明、動画視聴、新聞記事等の読解等を組み合わせた授業形態である。レポートへのフィードバックは、ポータルサイトを通じて行う。

講義マナーを重視し、私語、居眠り、無関係の作業等は禁じる。正当な事由がない限り、遅刻・早退を認めない。指示に従わない場合は退出等を求め、成績に反映させる。出席に際しての不正行為、いわゆる代返行為やそれを助ける行為をした場合、理由の如何を問わず、単位を認めない。質問がある場合は、話の途中でも結構なので挙手すること。

中間レポートの提出を求める。課題は教科書（山口二郎『いまを生きるための政治学』岩波書店）の要約である。

期末試験を必須とする。期末試験を受けなければ、単位を認めない。期末試験の詳細は、第1回講義で説明する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	講義の趣旨と受講方法を説明する。レポート等の課題も説明する。
第2回	民主主義とは何か	民主主義、人権、国家、憲法等について考察する。
第3回	日本の政治システム	議会制民主主義、政治参加、国会、内閣等について考察する。
第4回	公共政策と財政	政策、法律、財政、税金等について考察する。
第5回	中央政府と地方自治	国・地方関係、自治制度、住民参加等について考察する。
第6回	政治と司法	政治・行政と司法との関係、相互作用等について考察する。
第7回	政治と企業・団体	政治・行政と企業・団体との関係、相互作用等について考察する。
第8回	政治と市民・メディア	政治・行政と市民・メディアとの関係、相互作用、選挙等について考察する。
第9回	政治と国際社会	政治・行政と国際社会との関係、相互作用等について考察する。
第10回	政策決定過程	政策決定過程、それに対するアクターの動き等について考察する。
第11回	戦前日本の政治過程	アジア・太平洋戦争に至る戦前の政治過程について考察する。
第12回	現代日本の政治システムの成立過程	日本国憲法、国会、戦後民主主義等の成立過程について考察する。

第13回 戦後日本の政治過程 高度経済成長、バブル経済期を中心とする政治過程について考察する。

第14回 現代の政治課題 SDGsを手掛かりに現代の日本が抱える政治課題について考察する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

新聞を毎日読むこと。各講義で紹介される参考図書を読むこと。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

山口二郎『今を生きるための政治学』岩波書店、2013年

【参考書】

講義の中で紹介する。

【成績評価の方法と基準】

講義への貢献 42 %、中間レポート 16 %、期末試験 42 %（必須）である。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできない。

【学生が準備すべき機器他】

PC（ノートブックパソコン）を持参すること。保有していない場合は、スマートフォンでも構わない。

【その他の重要事項】

本年度に限り非常勤教員の担当となるため、オフィスアワーはない。講義時間外に教員と連絡を取る場合は、第1回講義で説明する教員のメールアドレスへ行くこと。

【Outline (in English)】

1 Aim

This lecture aims at providing basic framework and concepts to understand the modern democracy. It also explains how democracy works and how we should engage in democratic politics.

2 Requirement

Students are required to read assigned articles, and submit an mid-term essay.

3 Grading

Grading will be made based on contribution to the class(42%), mid-term essay(16%) and essential term-end essay(42%).

POL100AC

政治過程論Ⅱ

田中 信一郎

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

単位数：2 単位

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この科目は、政治学科科目の中で「政策」の分野に属する科目であり、現代の民主政治において政策が立案、決定、実施される過程を理解するための基本的な理論枠組み、概念を理解することを目指す。

【到達目標】

現代政治の基本的な構図を理解すること。テレビ、新聞等を通して伝えられる政治記事を読み解き、批判的に理解すること。市民として政治に対する問題意識を持つこと。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

講義、意見表明、動画視聴、新聞記事等の読解等を組み合わせた授業形態である。レポートへのフィードバックは、ポータルサイトを通じて行う。

講義マナーを重視し、私語、居眠り、無関係の作業等は禁じる。正当な事由がない限り、遅刻・早退を認めない。指示に従わない場合は退出等を求め、成績に反映させる。出席に際しての不正行為、いわゆる代返行為やそれを助ける行為をした場合、理由の如何を問わず、単位を認めない。質問がある場合は、話の途中でも結構なので挙手すること。

中間レポートの提出を求める。課題は「憲政記念館の見学」である。（憲政記念館：千代田区永田町 1-1-1）

期末試験を必須とする。期末試験を受けなければ、単位を認めない。期末試験の詳細は、第1回講義で説明する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	講義の趣旨と受講方法を説明する。レポート等の課題も説明する。
第2回	人口と日本政治	人口の増減と日本政治の関係について考察する。
第3回	なぜ人口が減少しているのか？	人口減少の原因と政府の対応について考察する。
第4回	経済成長と日本政治	経済成長と日本政治の関係について考察する。
第5回	経済成熟と日本政治	経済成熟の原因と政府の対応について考察する。
第6回	経済政策と日本政治	経済政策の決定過程について考察する。
第7回	経済をめぐる日本政治の課題	与党・野党の構造的な課題について考察する。
第8回	社会の課題と日本政治	社会課題と政治との関係について考察する。
第9回	政治の行き詰まりと民主主義	政治の機能不全と民主主義の可能性について考察する。
第10回	国家方針をめぐる政治潮流	明治から現代に至るまでの政治潮流について考察する。
第11回	権威主義と民主主義	現代の国内外における政治システムについて考察する。
第12回	新自由主義と社会的共通資本	現代の国内外における経済システムについて考察する。

第13回 工業先進国と発展途上国 現代のグローバルな政治経済システムについて考察する。

第14回 炭素文明と脱炭素文明 文明のあり方と現代政治の関係について考察する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

田中信一郎『政権交代が必要なのは、総理が嫌いだからじゃない— 私たちが人口減少、経済成熟、気候変動に対応するために』現代書館、2020年

田中信一郎『国家方針を転換する決定的十年— 新自由主義から社会的共通資本へ』現代書館、2021年

【参考書】

講義の中で紹介する。

【成績評価の方法と基準】

講義への貢献 42%、中間レポート 16%、期末試験 42%（必須）である。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできない。

【学生が準備すべき機器他】

PC（ノートブックパソコン）を持参すること。保有していない場合は、スマートフォンでも構わない。

【その他の重要事項】

「政治過程論Ⅰ」を予め履修することが望ましい。

本年度に限り非常勤教員の担当となるため、オフィスアワーはない。講義時間外に教員と連絡を取る場合は、第1回講義で説明する教員のメールアドレスへ行うこと。

【Outline (in English)】

1 Aim

This lecture aims at providing basic knowledge about post-war Japanese politics. It deals with the development of post-war Japanese politics, dynamics of policy process and participation. It also covers such current issues as deterioration of democratic politics in advanced countries.

2 Requirement

Students are required to read assigned articles and try to read recommended books as much as possible. Mid-term essay is requirement for credits.

3 Grading

Grading will be made based on contribution to the class(42%), mid-term essay(16%) and essential term-end essay(42%).

LAW200AB

民事手続法入門

倉部 真由美

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

単位数：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

民事紛争を解決するために裁判所で行われる手続のなかから、民事保全手続、民事訴訟手続（判決手続）、そして、民事執行手続のそれぞれの手続の基礎を理解する。

本科目は、入門として全てのコースに配置される。

【到達目標】

・具体的な民事紛争に対処するイメージをもちながら、訴え提起の準備から始まり、権利の実現に至るまでの一連の手続の流れを理解することができる。

・民事紛争を解決するために裁判所で行われる手続として、民事保全手続、民事訴訟手続（判決手続）、そして、民事執行手続のそれぞれの手続の意義・目的、流れ、仕組みを理解することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

民事紛争は、いつ何をきっかけに生じるかわからない。例えば、交通事故にあい、治療費がかかったが、加害者が損害を賠償してくれない、アルバイト先が給料を払わないといったことは、学生の皆さんのまわりでも起こりうることである。

本講義では、民事紛争を処理・解決するために用意されている様々な手段・手続の中から、裁判所で行われる訴訟手続を中心に扱う。具体的な事例を想定しながら、できる限り実際の紛争処理の流れに沿って解説していく。

授業外での質問には個別に対応するほか、必要に応じて、授業中に共有してコメントする。課題についてのフィードバックは、学習支援システムを通じて行うほか、必要に応じて、授業中に行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	民事手続法の世界へようこそ	ガイダンス
第 2 回	民事紛争と民事手続法	民事紛争を解決するために利用することができる手続を概観する。
第 3 回	民事裁判の特徴と概要	裁判所の組織、管轄、裁判官・書記官・弁護士など法廷の人々、民事裁判の大まかな流れを扱う。
第 4 回	訴え提起の準備／民事保全	訴えを提起する前に行われる準備、民事保全手続の意義・目的・流れと仕組みを扱う。
第 5 回	訴えの提起	訴えの提起、当事者を扱う。
第 6 回	訴えの種類と利益／訴訟物	給付・確認・形成の訴えの内容とそれぞれの利益、訴訟物の意義を扱う。
第 7 回	審理	審理、弁論主義、釈明権、口頭弁論の意義と内容を扱う。
第 8 回	争点整理手続	争点整理手続の意義・目的、種類と内容を扱う。
第 9 回	証拠調べ／証拠の収集	証拠、証明責任、証拠調べ、証拠の収集のために使われる手続を扱う。
第 10 回	訴訟の終了・判決	当事者による訴訟の終了、判決の意義と効力について扱う。

第 11 回 民事執行手続の概要 民事執行手続の意義・目的・流れと仕組みを扱う。

第 12 回 不動産執行 不動産執行の手続の流れを扱う。

第 13 回 動産執行・債権執行 動産執行・債権執行の手続の流れを扱う。

第 14 回 総括 第 13 回までの授業内容を振り返り、質問を受け付ける。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習と復習のいずれに重点を置くかは、各受講生の学習のスタイルに委ねるが、適宜、授業中に配布するレジュメを中心に、教科書・参考文献の該当箇所を読んで自習することが求められる。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

テキストは指定せず、レジュメを配布する。また、必要な資料も適宜配布する。

携行するサイズの六法を持参すること。

【参考書】

民事訴訟の流れを理解するために早い時期に一読をお勧めするもの
・山本和彦『よくわかる民事裁判—平凡吉訴訟日記〔第 3 版〕』（有斐閣、2018 年）

・福永有利=井上治典『アクチュアル民事の訴訟〔補訂版〕』（有斐閣、2016 年）

いわゆる民事手続法全般を網羅的に扱っているもの

・佐藤鉄男ほか『民事手続法入門〔第 4 版〕』（有斐閣、2012 年）

・中野貞一郎『民事裁判入門〔第 3 版補訂版〕』（有斐閣、2012 年）

【成績評価の方法と基準】

期末試験 100 %

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline (in English)】

This course deals with the procedures, principles, and rules that courts in Japan use to resolve civil disputes. We will focus primarily on Civil procedure law and Debtor-creditor law.

Students are expected to understand the procedures, principles, and rules that courts in Japan use to resolve civil disputes. Before/after each class, students will be expected to spend 4 hours to understand the course content.

Grading will be decided based on the final examination 100%.

LAW200AB

法律学特講（英米法思想史）

金井 光生

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

単位数：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

主として、「文化・社会と法コース」との関連が深い授業です。法思想史のうち、「英米系の法思想史」を概観します。法も人間が「権利のための闘争」の中で生み出してきた共同の文化遺産である以上、人類の長い思想の物語（narratives）に裏づけられています。

法の意義と意味を深く知り、より生産的な実定法解釈を実践するために、単なる思想の理解や知識の獲得を目的とするだけでなく、その現代日本法における意義も考えながら「自分で思索できる」ようになることを目指します。

英米法思想における先人たちの知恵に学びつつ、現代の私たちがどうしていくべきか、法・正義・人権などについて原理的に考えていきましょう。

「人は哲学を学ぶことはできない…ただ哲学することを学びうるのである」（カント『純粋理性批判』B866）。

【到達目標】

- (1) 基本的な論点を理解できる。
- (2) 主要な思想を「自分の言葉で」説明できる。
- (3) 諸思想を踏まえたうえで、現代日本法の考え方にアプローチできる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

教科書を前提に、レジュメ等を配布して講義する予定です。

授業内容は、主に「コモン・ロー主義と制定法主義」という図式の下で、(1) イギリス近代まで、(2) アメリカ近代まで、(3) 現代の英米法思想、を扱う予定です。

適時にリアクションペーパーやレポートを課すことで理解度を測り、その後の授業で、リアクションペーパーについては応答し、レポートについては講評することで、フィードバックします。

*授業計画はあくまで予定で、履修者や時間の関係等で変更する可能性があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	英米法思想史を学ぶ意味と意義
第 2 回	英米法と英米法思想	コモン・ローと法思想
第 3 回	イギリスの自然法論と法実証主義①	E. クック vs. Th. ホップズ
第 4 回	イギリスの自然法論と法実証主義②	J. ロック vs. D. ヒューム
第 5 回	イギリスの自然法論と法実証主義③	W. ブラックストーン vs. J. ベンサム
第 6 回	イギリスの分析法学と歴史法学	J. オースティン vs. H. メイン
第 7 回	イギリス・アメリカの憲法思想①	マグナ・カルタ、権利章典、『ザ・フェデラリスト』など
第 8 回	イギリス・アメリカの憲法思想②	独立宣言、合衆国憲法、プラグマティズム法学など
第 9 回	現代英米正義論①	J. ロールズ
第 10 回	現代英米正義論②	R. ドゥオーキン、A. セン
第 11 回	現代英米正義論③	R. ノージック、M. サンドルなど

- 第 12 回 現代英米正義論④ H.L.A. ハート vs. R. ドゥオーキン
- 第 13 回 英米における現代の法思想の潮流 批判法学・フェミニズム法学など
- 第 14 回 まとめ：日本法の一源 日本法思想との対話流としての英米法思想

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- (1) テキストとレジュメ・資料の指定範囲を予習・復習する。
 - (2) 下記の参考書を活用して、自分なりに補習する。
 - (3) 用語や関連する論点等を各自で図書館やデータベースを活用して調べる。
- *本授業の準備・復習時間は「各 2 時間」を標準とします。

【テキスト（教科書）】

深田三徳ほか編著『よくわかる法哲学・法思想（第 2 版）』（ミネルヴァ書房、2015 年）

【参考書】

- 竹下賢ほか編『はじめて学ぶ法哲学・法思想』（ミネルヴァ書房、2010 年）
- 田中成明ほか『法思想史（第 2 版）』（有斐閣、1997 年）
- 中山竜一ほか『法思想史』（有斐閣、2019 年）
- 田中英夫『英米法のことば』（有斐閣、1986 年）
- 大野達司ほか『近代法思想史入門』（法律文化社、2016 年）
- 戒能通弘『近代英米法思想の展開』（ミネルヴァ書房、2013 年）
- 金井光生『裁判官ホームズとプラグマティズム』（風行社、2006 年）
- 中山竜一『二十世紀の法思想』（岩波書店、2000 年）
- 田中英夫編集代表『英米法辞典』（東京大学出版会、1991 年）

【成績評価の方法と基準】

「到達目標」の達成の度合いに応じて評価します。平常点・リアクションペーパー（30 %）+ 期末試験またはレポート課題（70 %）

【学生の意見等からの気づき】

レジュメ・資料等を改良

【その他の重要事項】

「大陸法思想史」および「英米法」も科目履修することを推奨します。

【Outline (in English)】

【Course outline】

We learn the history of Anglo - American legal ideas. And we think thoughtfully those ideas in comparison to Japanese legal ideas.

【Learning Objectives】

The goals of this course are to understand the basic issues and think them thoughtfully.

【Learning activities outside of classroom】

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

【Grading Criteria /Policy】

Your overall grade in the class will be decided based on the following,

Term-end examination or term-end report: 70 %, Short reports: 30 %.

LAW300AB

行政組織法

氏家 裕順

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

単位数：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国や都道府県・市町村などの行政主体が実際に行政活動をするには、大臣、副大臣、局長・部長・課長（室長）、徴収職員、知事・市町村長、副知事・副市町村長、消防吏員などの行政機関がなければならない。多数の行政機関の体系的な機構を行政組織という。その設置・名称・構成・所掌事務などを規律する法が、狭義の行政組織法である（以下、狭義の行政組織法を「行政組織法」という）。

行政機関は、行政主体のために行政事務を担当する自然人をその地位で捉えたものであり、その意味で観念的存在であって、そのため現実の行政活動の遂行には、行政主体のために働く自然人も必要である。その自然人のうち、行政主体と勤務関係にある者を公務員という。公務員を規律する法が、公務員法である。

また、行政活動の遂行には、庁舎・その土地、事務用品などの物品もなければならず、また、行政目的の達成には、道路・河川・保健所などの物的施設の提供・管理も不可欠である。これらの物品・物的施設のような、行政主体により直接に公の目的に供される有体物を公物という。公物に関する法が、公物法である。

行政組織法では、行政主体や行政機関の意義・種別、行政機関相互の関係なども検討されるが、これらは行政法入門でとりあげられているため、授業では、これらとの重複を避ける。学習するのは、現行法上の行政組織の編成であり、また、公務員法と公物法の概要である。それらの学びを通して、国や地方公共団体の抱える法的問題を把握したり、その法的問題に対処したりする能力を養ってほしい（行政・公共政策と法コース）。

【到達目標】

内閣・内閣府・外局などの、現行法上の行政組織の編成について説明することができる。

公務員の意義、種類、勤務関係、権利と義務について説明することができる。

公物の意義、種類、管理権、使用権について説明することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連。

【授業の進め方と方法】

授業は講義形式で行う。いわゆるハイフレックス授業の方式を採用する予定。

毎回、授業の簡単なまとめ、あるいは、授業内容を踏まえた意見の提出を求める。そのうち、受講者間で共有すべきものは、授業内でこれを紹介し、これにコメントする。フィードバックは授業内で行う予定である。

上記のまとめ等の提出のために学習支援システムを利用する。開講前に連絡する必要がある場合にもこれを用いる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	行政組織法・公務員法・公物法のイメージと本授業での学び
第 2 回	行政組織法 (1)	内閣
第 3 回	行政組織法 (2)	内閣府
第 4 回	行政組織法 (3)	省
第 5 回	行政組織法 (4)	外局等
第 6 回	行政組織法 (5)	地方公共団体の行政組織の編成
第 7 回	公務員法 (1)	公務員の意義と種類 人事行政機関

第 8 回	公務員法 (2)	勤務関係
第 9 回	公務員法 (3)	公務員の権利
第 10 回	公務員法 (4)	公務員の義務（職務専念義務、法令及び上司の命令に従う義務）
第 11 回	公務員法 (5)	公務員の義務（争議行為等の禁止、政治的行為の制限など）
第 12 回	公物法 (1)	公物の意義と種類
第 13 回	公物法 (2)	公物管理権の主体と内容
第 14 回	公物法 (3)	公共用物の使用関係

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

後掲の参考書のいずれかを用いて予習・復習をする。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

テキストは用いず、各回配布するレジメ等を使用する。

【参考書】

宇賀克也『行政法概説 III [第 5 版]』（有斐閣、2019 年）
塩野宏『行政法 III [第 5 版]』（有斐閣、2021 年）
藤田宙靖『行政組織法 [第 2 版]』（有斐閣、2022 年）
室井力編『新現代行政法入門 (2)』（法律文化社、2004 年）

【成績評価の方法と基準】

定期試験による（100 %）が、感染症り患リスクの回避のため通学できない場合にはレポートによる（100 %）。

【学生の意見等からの気づき】

特記事項なし。

【学生が準備すべき機器他】

最新版の六法。これは毎回持参すること。また、学習支援システムの利用のために必要な PC あるいはスマートフォン。上記の通り、学習支援システムは授業内容のまとめ等の提出のために毎回使用する。感染症り患リスク回避のために通学できない場合にはさらに、(1) Zoom や Webex が利用できるだけの通信環境、(2) 各回の配布物を参照するための PDF 閲覧ソフトウェア（Adobe Acrobat Reader [無料] など）、(3) レポート課題の閲覧・提出のために用いる、.doc、.docx の形式で保存できるソフトウェア（Microsoft Word など）が必要となる。

【その他の重要事項】

この科目は行政法科目に該当する。あらかじめ行政法入門を履修したか、現に履修中であることが、科目での学びが効果的なものとなるため、望ましい。

【Outline (in English)】

This course is designed to understand a contemporary composition of the executive branch, to provide an overview of law on civil service, and to sketch out law on tangible things used directly by public entities or made available to the public (about tangible things, see Art. 85 of the Civil Code).

After completing this course, you should be able to:

- Explain a contemporary composition of the executive branch, such as Cabinet, Cabinet Office, Ministry;
- Explain a notion, sorts, and recruitment (including working conditions) of civil servants, and also spell out their rights and obligations;
- Explain a notion and sorts of the tangible things used directly by public entities or made available to the public, and also expound public entities' power to administer them and individual's rights to use them.

You should spend at least 4 hours on independent learning in order to prepare for and/or follow up every class, reading your own reference book(s).

Assessment for degree of your understanding is done by an end-of-term written exam (100%). If you cannot attend school because of the spread of COVID-19, it is done by an essay in using 'Learning Management System [an internet-based system for learning]'.

LAW300AB

都市法

西田 幸介

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

単位数：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

都市空間の利用を制御し都市空間の整備や保全を規律するのが都市法である。都市空間の利用は、私人だけでなく国や地方公共団体によっても行われる。都市空間の整備・保全は主として国や地方公共団体が行うが、私人がこれに関与することもある。この授業は、このような都市法について、できるだけ身近な問題を取り上げながら、検討することを目的とする。

具体的には、都市計画、開発規制、建築規制、土地収用、都市計画事業（土地区画整理、市街地再開発等）、都市問題に関連して生じる紛争の解決を取り上げる。いずれのテーマも、一見とすると、人の生活に直接関係がないように見える。しかし、各自が居住する地域を思い巡らせば容易に分かるように、個人の居宅、マンション、商店、オフィスビル、ショッピングセンターなどの建設は、日々、行われており、また、道路や公園の整備は個人の生活に深く関係する。この授業は、具体的には、これらの法律問題について検討するものである。

この授業の受講者は、都市法を学ぶことを通して、都市空間の利用を制御する法、都市空間の整備や保全を規律する法を修得し、また、それらの問題点を把握し、さらに、都市法を利用してよりよい生活環境を享受するためにいかなる行動をとるべきかを判断できるようになることを期待される。

なお、この科目は「行政・公共政策と法コース」に配当されている。

【到達目標】

- ①都市法と都市問題の関係について説明することができる。
- ②新たな建築を行う場合に当該建築物がどのような建築規制を受けることとなるかを調べ確認して説明することができる。
- ③都市計画の内容や決定・変更の手續について説明することができる。
- ④都市計画制限について説明することができる。
- ⑤土地収用について、事業認定や収用裁決の適否を含め、説明することができる。
- ⑥区画整理・再開発について、その仕組みやメリット・デメリット、それらに伴う紛争解決のあり方について、説明することができる。
- ⑦都市計画事業について、その概略を説明することができる。
- ⑧建築紛争や開発調整について、具体例を含めて、説明することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

授業は、一般的な講義形式により、テキストを利用して行う（プリント配布なし）。ただし、新型コロナウイルスの感染状況に鑑み、ライブ配信を行ってハイフレックス授業とするほか、テキストを解説した動画を受講者向けに提供する（オンデマンド配信）ので、適宜、各自の判断で、これを利用すること（復習のための利用も可）。

上記の動画配信に加え、小テスト（任意）実施、リアクションペーパー（任意）回収、期末レポート（必須）回収等のために、Google クラスルームを利用する。登録方法は Hoppii で授業開始日までに案内する。利用方法は、初回の授業で案内するほか、Google クラスルームにも掲載する。教室で対面授業を受ける場合でも、オンデマンド配信を利用する場合でも、同じように小テスト受験・リアクションペーパー提出が可能にする。

小テストに対するフィードバックは、個別に得点を開示しかつ解説を示すことにより行う。リアクションペーパーに対するフィードバックは、個別に点数を開示し、必要に応じて担当者が個別にコメントすることにより行う。

なお、受講者に対する各種の周知（成績評価に関する事項を含む）には、Google クラスルームを利用する。質問については、口頭によるほかは、授業内容に関する質問は、原則としてリアクションペーパーに記載し、それ以外に関する質問は、Google クラスルームを利用して行うこと（Hoppii の掲示板は利用しないこと）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	国土利用と都市法制（1）	都市問題と都市法 都市法とは何か
第2回	国土利用と都市法制（2）	国土利用計画法 都市計画法
第3回	国土利用と都市法制（3）	マスタープラン 都市計画提案制度
第4回	都市空間の制御（1）	開発と建築 開発規制
第5回	都市空間の制御（2）	建築基準法 建築物概念
第6回	都市空間の制御（3）	用途地域制
第7回	都市空間の制御（4）	建築物の高さ制限 日影規制
第8回	都市空間の制御（5）	道路に関する規制
第9回	都市空間の制御（6）	建築確認
第10回	都市空間の制御（7）	地区計画 建築協定
第11回	都市空間の形成（1）	土地収用の対象とプロセス
第12回	都市空間の形成（2）	土地収用と損失補償
第13回	都市空間の形成（3）	都市計画事業
第14回	都市空間の形成（4）	土地区画整理事業 市街地再開発事業

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

参考書、その他授業内で指示された内容にもとづき学習する。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

西田幸介『都市法講義』（法政大学生協書籍部のみで販売）

【参考書】

- ・生田長人『都市法入門講義』（2010年、信山社）
- ・稲本洋之助・小柳春一郎・周藤利一『日本の土地法〔第3版〕』（2016年、成文堂）
- ・碓井光明『都市行政法精義Ⅰ』（2013年、信山社）、『都市行政法精義Ⅱ』（2014年、信山社）
- ・逐条解説建築基準法編集委員会（編）『逐条解説建築基準法』（2012年、ぎょうせい）
- ・安本典夫『都市法概説〔第3版〕』（2017年、法律文化社）

【成績評価の方法と基準】

原則としてレポート（100%）による。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。ただし、今後とも授業改善に努めていきたい。

【学生が準備すべき機器他】

Google クラスルームおよび学習支援システムを利用するので、インターネット環境だけでなく、パソコン、タブレット、スマートフォンなど、インターネットの利用が可能な情報機器の準備が必須である。スマートフォンのみでの受講は推奨せず、それによって不都合が生じている受講者に特別の対応は実施しない。

【Outline (in English)】

Urban Law controls use of urban space and regulates maintenance and conservation of urban space. This course covers urban planning, development regulations, building regulations, land acquisition, and urban planning projects (land readjustment, urban redevelopment, etc.).

Students who take this course are expected to master legal method to resolve urban problems by Urban Law. They are also expected to become able to find what actions should be taken to enjoy a better living environment by Urban Law.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on the following;

Term-end report: 100%.

POL300AD

アメリカ政治外交史

石川 敬史

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

単位数：2 単位

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は、アメリカ的な外交政策が揺籃された背景を歴史的に考察するものです。ヨーロッパ文明に端を発しながらも、ヨーロッパとは異なる世界観を獲得するに至ったアメリカ文明の形成過程を植民地時代から外観します。

受講生は、日々のニュースでもたらされる膨大なアメリカの行動の背景に存在する「原則」を歴史的視座から理解できるようになることを目指していただきます。

【到達目標】

- ①アメリカ合衆国の外交政策を歴史的・文化的背景から考察する視座を涵養する。
- ②アメリカ合衆国の外交を内政の延長上にあるものとして再定位できるようにする。
- ③アメリカ合衆国を題材としつつも、外交政策一般の形成過程を各国の歴史的経緯から理解するよう努める知的習慣を身につける。
- ④外交政策を思想的に理解することができるようになる。
- ⑤アメリカ合衆国の合わせ鏡として最終的には世界の中の日本を考察する材料を獲得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

講義形式の授業とします。概ね 7 回目の授業を目処に簡単なミニレポートの課題を出し、授業前半の理解を確認し足します。質問はメール等で常時受けつけます。その質問内容は、授業に反映することもあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	重商主義政策下におけるヨーロッパ人のアメリカ大陸への移住とイギリス領北アメリカ植民地の形成史
第 2 回	フレンチ・インディアン戦争から反イギリス抗争へ	イギリス領北アメリカ植民地とイギリス本国の統治原則の乖離
第 3 回	国際戦争としてのアメリカ独立戦争	イギリス領北アメリカ植民地の戦時体制と啓蒙主義思想による戦時国際法の変化によるアメリカ合衆国の独立
第 4 回	フェデラリスト政権の外交 (1)	初代大統領ジョージ・ワシントンの外交政策とアメリカ孤立主義外交の契機
第 5 回	フェデラリスト政権の外交 (2)	第二代大統領ジョン・アダムズ政権の外交と内政事情
第 6 回	フロリダ併合から 1812 年の米英戦争	アメリカ合衆国における党派対立から政党政治への移行と消滅、その政治哲学的考察
第 7 回	モンロー・ドクトリンとアメリカ大陸の覇権国家への道	第 5 代大統領ジェイムズ・モンローと国務長官ジョン・クインシー・アダムズによる積極的孤立主義外交

第 8 回	アメリカの膨張と「マニフェスト・デスティニー」	アフリカ人奴隷制度をめぐる争いを梃子としたアメリカ合衆国の膨張
第 9 回	共和党の誕生と南北戦争	アメリカ合衆国憲法が棚上げにされてきた問題の解決と内戦期におけるリンカン政権の外交
第 10 回	フロンティアの消滅と新たな外交思想	第 26 代大統領セオドア・ローズヴェルト、第 27 代大統領ウィリアム・タフト、第 28 代大統領ウッドロー・ウィルソンによるアメリカ外交思想の形成
第 11 回	アメリカ合衆国と第一次世界大戦	図らずも訪れたアメリカの世紀
第 12 回	アメリカ合衆国と第二次世界大戦	ニューディール政策がもたらした動員力と冷戦の始まり、および冷戦期の外交
第 13 回	2001 年 9 月 11 日とアメリカ合衆国	冷戦終焉後の 10 年が見落としていた 21 世紀の諸問題
第 14 回	21 世紀現在のアメリカ外交の外観	保守レジームにおけるアメリカ外交

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・授業で配布した資料、参考文献、授業で紹介した文献を読み込み復習に重点をおいた学習を心がけてください。概ね 1 時間 30 分。
・ミニレポートは、減点材料としては使用しません。授業で理解したことを言語化すると同時に、理解していなかったことに気づくためのものです。積極的に活用・提出を心がけてください。
・上記 2 点を踏まえた上で、次の授業テーマに当たる項目について参考文献に目を通してください。概ね 30 分。

【テキスト（教科書）】

教科書は特に指定しません。授業毎にテーマに沿った資料を配布します。

授業において必要な参考文献を紹介します。

【参考書】

斎藤真・古矢旬『アメリカ政治外交史 [第二版]』（東京大学出版会、2012 年）
久保文明・岡山裕『アメリカ政治史講義』（東京大学出版会、2022 年）

【成績評価の方法と基準】

ミニレポート 30 %

期末試験 70 %

※単位取得の必須条件は、期末試験を受験することにあります。
※もしミニレポートを提出していなくても期末試験は受験できます。その際は、最高評価は B となります。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者につきフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

無し

【その他の重要事項】

質問は毎授業後に受けつけます。気軽に声をかけてください。また、下記メールで質問してもかまいません。

t-ishikawa@main.teikyo-u.ac.jp

【Outline (in English)】

This class is a historical view of the background of American-style foreign policy. We will look at the formation process of American civilization, which originated in European civilization but came to acquire a worldview different from that of Europe, starting in the colonial period.

Students are expected to be able to understand from a historical perspective the "principles" that exist behind the vast array of American actions brought to us in the daily news.

LAW200AB

法律学特講（社会保障法の現代的課題 I）

大原 利夫

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

単位数：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

学生は、社会保障法に関する基礎的知識と判断能力を得るために、貧困と児童虐待に関する諸問題を学びます。

この科目は、すべてのコースに属しています。

【到達目標】

学生は、ホームレス、貧困母子家庭、生活保護、児童虐待に関して、問題を抽出し、その解決策を提示することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

この授業は原則として対面型の講義形式で行います。学生は、解説を聞き、また資料映像を見て、毎回、レポートを提出します。

レポートのフィードバックは、学習支援システムにおいて全体に対して行います。

なお、最新の教材採用等を理由に、授業内容・方法を修正する場合があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	社会保障法のイメージ、授業の進め方、授業の受け方などについてシラバスに基づいて説明する。
第 2 回	導入	社会保障とボランティアの関係について扱う。
第 3 回	社会保障財政と貧困	社会保障財政の現状と貧困・所得格差について扱う。
第 4 回	水際作戦	生活保護の水際作戦と、姉妹孤立死について扱う。
第 5 回	女性と児童虐待	女性への児童虐待について扱う。
第 6 回	ガールズ・ブア	近年注目される女性の貧困について扱う。
第 7 回	被虐待児の保護	児童相談所の役割と里親について扱う。
第 8 回	母子家庭の貧困	母子家庭の貧困に焦点をあてて、銚子心中未遂事件などを扱う。
第 9 回	被虐待児への支援 1	虐待を受けた子どもに対する自立支援の課題や取り組みなどを扱う。
第 10 回	10 代の貧困	10 代の貧困とその社会構造を考察する。
第 11 回	被虐待児への支援 2	虐待を受けた子どもに対する自立支援の課題や取り組みなどを扱う。
第 12 回	ホームレス	現代のホームレスとその支援を扱う。
第 13 回	世界の貧困	世界の貧困の実態と支援の実際を扱う。
第 14 回	世界の所得格差	所得格差をグローバルに考察する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

指示に従って予習および復習をして下さい。

また授業の中で紹介した参考書等により、知見をさらに深めて下さい。本授業の準備学習・復習時間は合計 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません。

【参考書】

本沢巴代子ほか『トピック社会保障法 第 16 版』（信山社、2022 年）

加藤智章ほか『社会保障法 第 7 版』（有斐閣、2019 年）

菊池馨実『社会保障法 第 2 版』（有斐閣、2018 年）

【成績評価の方法と基準】

平常点（レポート、質疑応答、受講態度）100 %により評価します。

【学生の意見等からの気づき】

説明の仕方を工夫したいと思います。また、資料の用い方を工夫したいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

質問は授業終了後またはメールにて受け付けます。

【Outline (in English)】

This course introduces various problems of poverty and child abuse.

【Learning Objectives】

The aim of this course is to gain rudimentary knowledge and Judgment ability of social security law, especially poor law and child abuse act.

【Learning activities outside of classroom】

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

【Grading Criteria /Policy】

Your overall grade in the class will be calculated according to the following process: Usual performance score 100%,

LAW200AB

法律学特講（社会保障法の現代的課題Ⅱ）

大原 利夫

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

単位数：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

学生は、社会保障法の基礎的知識と判断能力を得るために、主に障がい者福祉に関する諸問題を学びます。

この科目は、すべてのコースに属しています。

【到達目標】

学生は、特別支援学校、盲導犬、サリドマイド薬害、障がい者排斥思想、脳死、顔の異形、出生前診断等に関して、問題を抽出し、その解決策を提示することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

この授業は原則として対面型の講義形式で行います。一部はオンデマンド授業で行います。学生は、解説を聞き、また資料映像を見て、毎回、レポートを提出します。

レポートのフィードバックは、学習支援システムにおいて全体に対して行います。

また、最新の教材採用等を理由に、授業内容・方法を修正する場合があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	シラバスに基づき、授業の内容、おすすめ方を説明する。
第 2 回	導入	社会保障法におけるボランティアと社会事業について考察する。
第 3 回	視覚障がい	盲導犬とペットを比較するかたちで、視覚障がいについて扱う。
第 4 回	福祉に携わる人びと	児童福祉の分野において功績を遺した澤田美喜を扱う。
第 5 回	介護労働	福祉の現場における介護人材について扱う。
第 6 回	特別支援学校	特別支援学校の分教室を取り上げて、障がい者と健常者の関係性について考察する。
第 7 回	顔の異形	顔のアザなど、顔の異形と障がいについて扱う。
第 8 回	T4 作戦	障がい者への排斥思想を扱う。
第 9 回	障がいと薬害	サリドマイド薬害について扱う。
第 10 回	出生前診断	出生前診断と障がいについて扱う。
第 11 回	社会事業	民間部門としての社会事業について扱う。
第 12 回	死の判定基準	死に関する2つの判断基準と脳死について扱う。
第 13 回	高福祉社会と低福祉社会	高・低福祉社会について考えるために諸外国を扱う。
第 14 回	規制と変革	医療における規制とその変革を扱う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

基本的に予習は不要です。指示に従って復習をして下さい。また授業の中で紹介した参考書等により、知見をさらに深めて下さい。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません。

【参考書】

本沢巳代子ほか『トピック社会保障法 第 16 版』（信山社、2022 年）
加藤智章ほか『社会保障法 第 7 版』（有斐閣、2019 年）
菊池馨実『社会保障法 第 2 版』（有斐閣、2018 年）

【成績評価の方法と基準】

平常点（レポート、質疑応答、受講態度）100 %により評価します。

【学生の意見等からの気づき】

資料の用い方を工夫したいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

パソコンなど

【その他の重要事項】

質問は授業終了後またはメールにて受け付けます。

【Outline (in English)】

This course introduces various problems of disability welfare.

【Learning Objectives】

The goals of this course are to gain rudimentary knowledge and Judgment ability of disability law.

【Learning activities outside of classroom】

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

【Grading Criteria /Policy】

Your overall grade in the class will be calculated according to the following process: Usual performance score 100%.

LAW200AB

外国書講読（仏語） I

大津 浩

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

単位数：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

最初に、フランス語の文法の知識を再確認するためにいくつか簡単なフランス語の文章を読んでフランス語文法を復習する。そのうえで、読みやすいフランスの憲法の教科書の一部分を輪読することで、フランス語の翻訳・読解能力と現代フランス憲法学そのものについての理解を深めるコースワーク科目である。

【到達目標】

フランス語原典を読みこなす力を身につける。加えて、現代フランスの憲法学の基礎を十分に理解できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

輪番制を採る。学生は割り当てられた部分のフランス語原典を翻訳し、報告する。教師は適宜、文法や訳語について解説を行う。加えて、参考書などを利用してテキストが扱うフランスの憲法理論と政治思想についての解説も行う。

授業は対面式を予定しているが、新型コロナウイルス感染が再拡大し、大学の方針が変更された場合には、Zoom によるリアルタイムのオンライン授業を行う（詳細は春学期開始時の第 1 回授業の中で授業ガイダンスの一環として説明する）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の進め方とローテーションの設定を行う。
第 2 回	フランス語文法復習	簡単なフランス語の文章を読んで基礎知識を確認する。
第 3 回	憲法の意義（1）	フランスの憲法教科書（憲法の意義の箇所の最初の部分）の輪読を通じて、憲法の歴史とその意義について学ぶ。
第 4 回	憲法の意義（2）	フランスの憲法教科書（憲法の意義の箇所の第 2 の部分）の輪読を通じて、憲法の歴史とその意義について学ぶ。
第 5 回	憲法の意義（3）	フランスの憲法教科書（憲法の意義の箇所の第 3 の部分）の輪読を通じて、憲法の歴史とその意義について学ぶ。
第 6 回	憲法の意義（4）	フランスの憲法教科書（憲法の意義の箇所の第 4 の部分）の輪読を通じて、憲法の歴史とその意義について学ぶ。
第 7 回	国家と主権	フランスの憲法教科書の輪読を通じて国家と主権の一般論を学ぶ。
第 8 回	規範としての憲法（1）	フランスの憲法教科書（規範としての憲法の箇所の第 1 の部分）の輪読を通じて憲法の意義について学ぶ。

第 9 回	規範としての憲法（2）	フランスの憲法教科書（規範としての憲法の箇所の第 2 の部分）の輪読を通じて法制度と法規範の意義について学ぶ。
第 10 回	規範としての憲法（3）	フランスの憲法教科書（規範としての憲法の箇所の第 3 の部分）の輪読を通じて法規範のヒエラルキーについて学ぶ。
第 11 回	規範としての憲法（4）	フランスの憲法教科書（規範としての憲法の箇所の第 4 の部分）の輪読を通じて立憲主義について学ぶ。
第 12 回	規範としての憲法（5）	フランスの憲法教科書（規範としての憲法の箇所の第 5 の部分）の輪読を通じて憲法の制定と改正について学ぶ。
第 13 回	規範としての憲法（6）	フランスの憲法教科書（規範としての憲法の箇所の第 6 の部分）の輪読を通じて合憲性の原理について学ぶ。
第 14 回	規範としての憲法（7）と前半のまとめ	フランスの憲法教科書（規範としての憲法の箇所の第 7 の部分）の輪読を通じて法治国家と憲法の関係について学ぶ。加えて最後に半年間を振り返る。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に各回の予定部分の仏語原文を各自で翻訳しておくこと。事後には、授業で示された翻訳内容と自己の翻訳とを照らし合わせて、よりよい仏語翻訳の技術を身につけること。

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

Louis Favoreu et al., *Droit constitutionnel*, 22e ed., 2020, Dalloz の一部を用いる予定。輪読を予定する部分は事前に受講生にコピーを配布する。なお、適宜、フランス語の復習に役立つような仏文の抜粋のコピーも配布する予定である。

【参考書】

授業中、適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

輪番で割り当てられた原典の翻訳内容（60%）と質疑その他の授業への積極的参加度（40%）

【学生の意見等からの気づき】

初歩のフランス語を学ぶ学生が多い場合、進度を遅らせて、フランス語の文法や法思想、政治思想の背景についての解説の時間を多くとることが必要だった。今後も学生の状況に応じて、進度については臨機応変に進める。

【学生が準備すべき機器他】

事前に Hoppii を通じて各回のレポーターの翻訳及び教師の翻訳や資料を配布する関係上、PC、タブレット、スマートフォン等の情報端末が必要になる。

【Outline (in English)】

【Course outline】

Reading of some parts of the text about the French constitution.

【Learning Objectives】

The goal of this course is a learning of French language and French constitutional theories.

【Learning activities outside of classroom】

Students have to read and translate each part of text by oneself.

【Grading Criteria / Policy】

Quality of translation of the part of text assigned to the student (60%) and the active participation to the discussion (40%).

LAW200AB

外国書講読（仏語）Ⅱ

大津 浩

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

単位数：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

春学期に引き続き、現代フランスの憲法教科書の一部分を輪読することで、フランス語の翻訳・読解能力と現代フランス憲法学そのものについての理解を深めるコースワーク科目である。

【到達目標】

フランス語原典を読みこなす力を身に着ける。加えて、現代フランス憲法学の十分な基礎知識を得る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

輪番制を採る。学生は割り当てられた部分のフランス語原典を翻訳し、報告する。教師は適宜、文法や訳語について解説を行う。加えて、参考書などを利用してテキストが扱うフランスの憲法理論と政治思想についての解説も行う。

授業は対面式を予定しているが、新型コロナウイルス感染が再拡大し、大学の方針が変更された場合には、Zoom によるリアルタイムのオンライン授業を行う（詳細は秋学期開始時の第 1 回授業の中でガイダンスの一環として説明する）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の進め方とローテーションの設定を行う。
第 2 回	フランス憲法における権力分立（1）	フランスの憲法教科書（権力分立の箇所の第 1 の部分）の輪読を通じて権力分立の意義を学ぶ。
第 3 回	フランス憲法における権力分立（2）	フランスの憲法教科書（権力分立の箇所の第 2 の部分）の輪読を通じて権力分立の意義を学ぶ。
第 4 回	フランス憲法における権力分立（3）	フランスの憲法教科書（権力分立の箇所の第 3 の部分）の輪読を通じて権力分立の意義を学ぶ。
第 5 回	フランス憲法における基本権保障（1）	フランスの憲法教科書（基本権総論の箇所の第 1 の部分）の輪読を通じて基本権の総論を学ぶ。
第 6 回	フランス憲法における基本権保障（2）	フランスの憲法教科書（基本権総論の箇所の第 2 の部分）の輪読を通じて基本権の総論を学ぶ。
第 7 回	フランス憲法における基本権保障（3）	フランスの憲法教科書（基本権総論の箇所の第 3 の部分）の輪読を通じて基本権の総論を学ぶ。
第 8 回	フランス憲法における基本権保障（4）	フランスの憲法教科書（基本権保障の箇所の各論第 1 の部分）の輪読を通じて基本権保障のあり方を検討する。
第 9 回	フランス憲法における基本権保障（5）	フランスの憲法教科書の（基本権保障の箇所の各論第 2 の部分）の輪読を通じて基本権保障のあり方を検討する。

第 10 回	フランス憲法における基本権保障（6）	フランスの憲法教科書（基本権保障の箇所の各論第 3 の部分）の輪読を通じて基本権保障のあり方を検討する。
第 11 回	フランス憲法における基本権保障（7）	フランスの憲法教科書（基本権保障の箇所の各論第 4 の部分）の輪読を通じて基本権保障のあり方を検討する。
第 12 回	フランス憲法における違憲審査制（1）	フランスの憲法教科書（違憲審査制の箇所の第 1 の部分）の輪読を通じて違憲審査制の意義を学ぶ。
第 13 回	フランス憲法における違憲審査制（2）	フランスの憲法教科書（違憲審査制の箇所の第 2 の部分）の輪読を通じて違憲審査制の意義を学ぶ。
第 14 回	フランス憲法における違憲審査制（3）とまとめ	フランスの憲法教科書（違憲審査制の箇所の第 3 の部分）の輪読を通じて違憲審査制の意義を学ぶ。加えて全体を総括する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に各回の予定部分の仏語原文を各自で翻訳しておくこと。事後には、授業で示された翻訳内容と自己の翻訳とを照らし合わせて、よりよい仏語翻訳の技術を身に着けること。

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

Louis Favoreu et al., *Droit constitutionnel*, 22e ed., 2020, Dalloz.

なお、輪読の対象となる部分はコピーを配布する予定である。

【参考書】

授業中、適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

輪番で割り当てられた原典の翻訳内容（60%）と質疑その他の授業への積極的参加度（40%）

【学生の意見等からの気づき】

初歩のフランス語を学ぶ学生がいる場合は、進度を遅らせて、フランス語の文法や法思想、政治思想の背景についての解説を多くとることが必要だった。今後も学生の状況に応じて、進度については臨機応変に進める。

【学生が準備すべき機器他】

事前に Hoppii を通じて各回のレポーターの翻訳や教師の翻訳や資料を配布する関係上、PC、タブレット、スマートフォン等の情報端末が必要になる。

【Outline (in English)】

【Course outline】

Reading of some parts of the text about the French constitution, succeeding to this first semester class.

【Learning Objectives】

The goal of this course is a learning of French language and French constitutional theories.

【Learning activities outside of classroom】

Students have to read and translate each part of text by oneself.

【Grading Criteria / Policy】

Quality of translation of the part of text assigned to the student (60%) and the active participation to the discussion (40%).

LAW200AB

会社法入門

椽川 泰史

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

単位数：2 単位

備考（履修条件等）：クラス指定科目 ※法律 2 年 A-G・3 年以上全

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は、会社法を体系的に学ぶために必要な基礎的知識を講義形式で学ぶ授業です。この科目は全てのコースに属しています。

より具体的な授業目的は以下の 2 つです。

(a) 3 年次以降、商法関連科目のうち会社法分野に属する科目（会社法・企業結合・金融商品取引法など）の体系的履修を予定する学生が、これらの科目への導入として、会社法に関する基礎的知識を獲得すること。

(b) 必ずしも会社法等の商法関連科目の体系的履修を予定していない学生が、公法・民事法・社会法分野においても無視し得ないプレーヤーである営利企業について、その組織や行動はいかなる法原理によって動機付けられているかを理解するための助けとなる知識を獲得すること。

【到達目標】

[1] 株式・コーポレートガバナンス・取締役会・増資・代表訴訟・M&A など、会社法に関する基礎的な用語の意味が説明できるようになる。

[2] 新聞やニュースで話題となっている企業に関する時事問題——たとえば、企業の不祥事が起きた場合に、何故それが法律上問題となるのか、その責任は誰が負うのか？——について、関心を持って考えることができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に強く関連。

【授業の進め方と方法】

(1) 講義形態で行います。授業参加者がテキスト等の資料を読んできたことを前提に、ポイントを絞った解説をします。

(2) 第 1 回と第 2 回（オンデマンド授業）を除き、各回とも対面授業の形式で実施します。ただし、1 時間目の授業であることも考慮し、zoom による同時配信（録画あり）を併用するハイフレックス方式とします。

(3) Hoppii の教材・テスト/アンケート・課題等の機能を利用して、資料の事前事後の配付だけでなく、部分的なオンデマンド授業（動画ファイル配信）も実施し、また受講生には小テストやアクションの提出も求めることがあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	「会社法」とは、どのような法分野か？	・講義の進め方 ・「商人」と「商行為」 ・商法と民法の違い ・講義の全体像
2	負債・資本・利益	・あるベンチャー企業の決算公告から ・「企業価値」という考え方
3	共同出資の法律関係	・組合契約 ・法人化した組合＝持分会社 ・企業形態とは 〔教科書『序章』参照〕

4	「出資者という法的地位」の価格	・細分化された持分＝株式 ・株主有限責任の原則 ・所有と経営の分離
5	「株式会社」総説	・株式と資本 ・営利社団法人 ・所有と経営の分離 ・株主有限責任 (教科書『第 1 章』参照)
6	株主総会	・会社の機関 ・株主総会 〔教科書『第 2 章』1・2 参照〕
7	取締役・取締役会・代表取締役	取締役会の権限と役割 ・代表取締役の権限 ・選定業務執行取締役の権限 ・業務執行取締役と使用者（従業員）の関係 〔教科書『第 2 章』3 参照〕
8	監査機関	・株式会社の監査機関 ・監査機関と取締役会の関係 〔教科書『第 2 章』4・5・6〕
9	役員等の責任（1）	・任務懈怠責任 ・経営判断の原則 〔教科書『第 2 章』7 参照〕
10	役員等の責任（2）	・役員等の責任の追及方法 ・株主代表訴訟 ・役員等の対第三者責任 ・違法な業務執行の差止め〔教科書『第 2 章』7 参照〕
11	株式会社の資金調達（1）	・資金調達方法の類型 ・株式発行による調達の利害関係者への影響 続〔テキスト『第 4 章』参照〕
12	株式会社の資金調達（1）	・募集株式の発行等の手続 ・違法な募集株式発行への救済 〔教科書『第 4 章』参照〕
13	株式会社の設立	・設立手続の概要 ・定款 ・出資の履行 ・会社機関の具備 ・設立登記 〔教科書『第 7 章』参照〕
14	会社の組織再編	・事業譲渡 ・合併 ・株式移転／株式交換 ・会社分割 〔教科書『第 6 章』参照〕

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業支援システムを利用して配布するレジュメ・資料等には必ず目を通してから参加して下さい。また事前課題については、「とりあえずやってみて、さっと提出する」程度の取り組み方で構いません。（選択肢を選ぶタイプの小テストは「何度でも提出できる」ように設定しますが、これは「正解に至るまで納得できない」タイプの方のための設定ですので、正解するまでやり直す必要はありません。）また、新聞の経済面を毎日見て、今、何が企業で問題となっているのか（たとえば、A 会社の不祥事、B 会社と C 会社の合併、D 会社の上場など）、常に関心を持ちながら本講義に臨んで下さい。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

中東正文ほか『会社法〔第 2 版〕』（有斐閣ストゥディア・2021 年）ISBN978-4-641-15084-3

【参考書】

田中亘『会社法〔第 3 版〕』東京大学出版会（2021 年）
高橋美加ほか『会社法〔第 3 版〕』弘文堂（2020 年）
伊藤靖ほか『会社法〔第 5 版〕（LEGAL QUEST）』有斐閣（2021 年）
上記はいずれも定評のある会社法の教科書です。比較的アクセス容易な文献や資料の紹介がなされていますので、より詳細な参考資料を知りたいという場合にもちょっと覗いてみて下さい。

【成績評価の方法と基準】

平常点（事前・事後の小テスト等の課題の提出状況を含む） 20 %

定期試験 80 %

【学生の意見等からの気づき】

特にありません

【学生が準備すべき機器他】

オンラインによる動画配信と資料配付を受けることが可能な情報機器

【その他の重要事項】

受講者は「契約法Ⅰ」を履修済みであることを前提として講義を進めます。「契約法Ⅰ」の単位未修得でも履修は可能ですが、頑張って再履修して下さい。

【Outline (in English)】

【Course outline】

Participants in this course will learn about the following topics for an introduction to corporate law:

- (1) Corporate Governance,
- (2) Corporate Finance,
- (3) Mergers and Acquisitions.

【Learning Objectives】

At the end of the course, students are expected to grasp the basic concepts of corporate law.

【Learning activities outside of classroom】

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

【Grading Criteria /Policy】

Your grade in the class will be decided based on some short tests: 20%, and the term-end examination: 80%.

LAW300AB

金融商品取引法 I

荒谷 裕子

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

単位数：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

近年、身近なものとなっている株取引などの金融商品取引の意義およびその法規制の必要性和概要について理解することにより、企業を取り巻く法環境について多角的な考察力を身につけることを目標とする。

この科目は、「企業・経営と法コース（商法中心）」に属する科目である。

【到達目標】

- ① 金融商品取引法の全体構造を理解する。
- ② 近年、専門的な知識もないままに株式取引や FX 取引等を行う学生が多く被害も後をたたない。そこで、本講義では、金融商品取引に関する正しい知識を身につける。
- ③ 新聞の経済面を楽しく興味を持って読むことができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に強く関連。

【授業の進め方と方法】

金融商品取引法というのは、有価証券だけではなく広く金融商品を横断的に規制する法律である。最近、インターネットや銀行等で気楽に株式等の金融商品に投資したり、コンビニで本や弁当を買うように気楽に株式等を売買できるようになるなど金融商品取引は学生にとっても身近な存在になりつつある。また、NISA や iDeCo(イデコ) といった長期分散投資制度の普及と超低金利を反映して、急速に、金融商品取引への関心が高まっている。しかし、他方において、映画ファンドやミュージック・ファンドなど趣味と投資を兼ねた投資商品や FX、暗号資産（旧仮想通貨）といった商品が多数開発され、十分な知識や投資意識がないままこれに参加し、多額の被害を蒙るケースも多発している。金融商品取引のシステムは本屋で本を買うのとは違い、かなりの専門知識を必要とするので、十分な知識もなくこうした取引に手を出すのは非常に危険である。そこで、本講義では、まずこうした金融商品に関する基本的な概念や取引システムをわかりやすく説明するとともに、一般投資家を保護するために法は具体的にどのような規制を行っているのかといった金融商品取引法の内容について、判例の分析を交えながら概説をする。

なお、学生の問題意識を喚起し、併せて理解度を高めるために、日本銀行の見学や最新のニュース・判例等を題材に質疑応答形式を取り入れた講義を行いたいと考えている。

授業外の質問に対しては、授業支援システムの掲示板もしくは次の授業で回答する形でフィードバックする。

【重要】 新型コロナウイルスの感染防状況によっては、双方向のオンライン型ライブ授業に切り替えることもあります。授業方法の変更については、授業支援システムの「お知らせ」に掲示しますので、随時チェックするようにしてください。

なお、レジュメは、原則として、授業支援システムに掲載しますので、各自用意するようにしてください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	金融商品取引法とはどのような法律なのか、1 年間の授業の進め方等について説明をする。
第 2 回	金融商品取引法の意義および目的	金融商品取引法の意義および目的についてわかりやすく解説する。

第 3 回	金融商品取引法の制定・改正経緯	金融商品取引法制定前の法律である証券取引法制定の背景、改正の経緯とその背後にある理念・目的について概説する。
第 4 回	有価証券の意義 1	金融商品取引法の基本となる有価証券概念の意義について概説する
第 5 回	有価証券の意義 2	金融商品取引法の基本となる有価証券概念の意義について概説する。
第 6 回	ファンド規制	最近話題となっているファンドとはどのようなものをいうのか、そのファンドを金融商品取引法はなぜ規制しようとしているのか、其の背後にある政策などを踏まえながら概説する。
第 7 回	デリバティブ取引の意義	デリバティブ取引とはなにか、其の意義についても概説する。
第 8 回	金融商品取引業・金融商品取引仲介業	証券会社や銀行など金融商品取引に関わる専門家の業務の内容について概説する。
第 9 回	日本銀行の見学	日本銀行の見学
第 10 回	発行市場における規制 1	発行市場における開示規制の概要について概説する。
第 11 回	発行市場における規制 2	発行市場における開示規制の概要について概説する。
第 12 回	継続開示規制 1	流通市場における開示規制の概要について解説する。
第 13 回	継続開示規制 2	流通市場における開示規制の概要について解説する。適時開示規制。
第 14 回	大量保有規制	上場会社における大量保有規制、いわゆる 5% ルールの概要について解説する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・特に予習は不要であるが、復習は必ずすること。新聞の経済面には毎日目を通すこと（準備学習）。
・会社法もしくは会社法入門の講義を受講することが望ましい。本授業の準備学習・復習時間は 4 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

近藤光男・志谷匡史・石田眞得・鎌田薫子「基礎から学べる金融商品取引法（第 5 版）」(成文堂)

【参考書】

初回の講義のときに紹介する。

【成績評価の方法と基準】

期末試験（90%）と平常点（10%）で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline (in English)】

【Course outline】

The objective of this course is to understand the rules of the Financial Instruments and Exchange Law.

【Learning Objectives】

By the end of the course, students should be able to do the followings:

- ① Understand the entire structure of the Financial Instruments and Exchange Act.
- ② Acquire correct knowledge about financial instruments transactions.
- ③ Understand the economic aspects of newspapers.

【Learning activities outside of classroom】

After each class meeting, students will be expected to spend 4hours to understand the course content.

【Grading Criteria /Policy】

Final grade will be calculated according to the following process.

Term-end examination (90%), and in-class contribution(10%)

LAW300AB

金融商品取引法 II

荒谷 裕子

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

単位数：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、近年しばしば耳にする公開買付（TOB）やインサイダー取引、相場操縦といった金融商品取引上の不正行為規制の意義および概要について理解する。

この科目は、「企業・経営と法コース（商法中心）」に属する科目である。

【到達目標】

- ① 金融商品取引に関する不正行為の意義と規制の内容を理解する。
- ② 新聞の経済面を楽しく興味を持って読むことができるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に強く関連。

【授業の進め方と方法】

最近では、投資に関心を持つ学生も増えて、簡単にコンピュータを利用して株取引やFXなどを行っているが、金融商品取引のシステムは本屋で本を買うのとは違い、かなりの専門知識を必要とするので、十分な知識もなくこうした取引に手を出すのは非常に危険である。特に、インサイダー取引とは何かを知らずに違法行為当事者になったり、掲示板等を通じて虚偽の情報や噂を流すなど無意識に違法行為を犯している場合がある。そこで、本講義では、金融商品取引法上の不正取引の意義と概要について、判例の分析を交えながら概説するとともに、トラブルに巻き込まれたときの対処方法等についても論ずるつもりである。

なお、学生の問題意識を喚起し、併せて理解度を高めるために、東京証券取引所の見学や最新のニュース・判例等を題材に質疑応答形式を取り入れた講義を行いたいと考えている。

レジュメは、原則として、授業支援システムに掲載するので、各自用意すること。授業外の質問に対しては、授業支援システムの掲示板もしくは次回の授業で回答する形でフィードバックする。

【重要】 新型コロナウイルスの感染防状況によっては、双方向のオンライン型ライブ授業に切り替えることがあります。授業方法の変更等については、授業支援システムの「お知らせ」に掲示しますので、随時チェックするようにしてください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	公開買付規制 1	公開買付（TOB）の規制の概要について実例を交えながら解説を加える。
第 2 回	公開買付規制 2	公開買付（TOB）の規制の概要について実例を交えながら解説を加える。
第 3 回	不公正取引概説	不公正取引一般について概説する。
第 4 回	風説の流布	風説の流布に関する規制の概要を実際に判例上問題となった事案を中心に概説をする。
第 5 回	偽計取引に関する規制	ライブドア事件で有名になった偽計取引をもちいた不公正取引の規制の概要について概説する。
第 6 回	相場操縦規制 1	相場操縦の規制の概要を判例を交えながら詳細に解説する。

第 7 回	相場操縦規制 2	相場操縦の規制の概要を判例を交えながら詳細に解説する。
第 8 回	短期売買差益返還義務について	短期売買差益返還義務に関する規制の概要とその規制の意義について解説する。
第 9 回	インサイダー取引規制 1	インサイダー取引に関する規制の概要について判例を交えながら概観する。
第 10 回	インサイダー取引規制 2	インサイダー取引に関する規制の概要について判例を交えながら概観する。
第 11 回	損失補てん・損失保障の禁止	損失補てん・損失補償の禁止に関する規制の概要を実際に判例で問題となった事案の検証を交えながら概説を行なう。
第 12 回	東京証券取引所の見学	証券取引所を見学し、株取引の模擬売買を体験する。
第 13 回	金融商品取引業協会と金融庁の果たす役割	金融商品取引業協会と金融庁の果たす役割について概説する。
第 14 回	投資者保護基金と金融ADR 制度	紛争処理の制度と金商業者の破綻処理を制度、ADR 制度について概観する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

特に予習は不要であるが、復習は必ずしていただくこと。新聞の経済面には毎日目を通すこと。会社法の講義を受講することが望ましい（準備学習）。

なお、金融商品取引法の全体像がわからないと本講義は理解できないので、必ず金融商品取引法 I を受講してください。本授業の準備学習・復習時間は 4 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

近藤光男・志谷匡史・石田眞得・鎌田薫子「基礎から学べる金融商品取引法（第 5 版）」（成文堂）

【参考書】

・松岡啓祐「最新金融商品取引法講義【第 5 版】（中央経済社）
・川村正幸・品谷篤哉、山田剛志、芳賀良「金融商品取引法の基礎」（中央経済社）

【成績評価の方法と基準】

小テストと定期試験（90 %）、平常点（10 %）で成績を判断する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline (in English)】

【Course outline】

The objective of this course is to understand the rules of the Financial Instruments and Exchange Law.

【Learning Objectives】

By the end of the course, students should be able to do the followings:

- ① Understand the entire structure of the Financial Instruments and Exchange Act.
- ② Understand the economic aspects of newspapers.

【Learning activities outside of classroom】

After each class meeting, students will be expected to spend 4hours to understand the course content.

【Grading Criteria /Policy】

Final grade will be calculated according to the following process
Term-end examination (90%), and in-class contribution(10%)

LAW300AB

経済法Ⅲ

青柳 由香

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

単位数：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

経済法は、市場における経済秩序に関する複数の法制度を含む講義上の概念である。本講義ではその中心である独占禁止法、および同法と関連する法制度との交錯領域等や、発展・先端的な論点を取り上げる。講義を通じて、独占禁止法の発展的な内容を理解し、複雑な経済事象を背景とする事業活動における「公正で自由な競争」のあり方について多面的に検討する。

※本講義では、経済法Ⅰを履修してすでに独禁法の知識を得ていることを前提とする。したがって、経済法Ⅰを未履修の者は登録すべきではない。注意されたい。なお、経済法Ⅱと並行して履修することは想定している。

【到達目標】

独占禁止法のより先端的な内容について、各領域における特徴を理解する。特に以下の領域。

- (1) 知的財産権と独占禁止法
- (2) 著作物再販
- (3) 域外適用
- (4) デジタルエコノミー

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

教場での対面授業を原則としつつ、数回オンライン授業を実施する可能性を予定している。授業実施方法が授業計画とは異なる場合は、授業内および学習支援システム Hoppii を通じて周知する。

授業では、配布するレジュメにそって講義を行う。講義では、事例等を用いて説明すると。事実関係の図などを板書するので、PC 等で講義ノートを作成する受講生は、素早く作図することが可能なタブレット、あるいは紙のノートなどを携帯されたい。

オンライン授業では、リアルタイム・オンライン授業、あるいはオンデマンド・オンライン授業を行う（未定）。オンライン授業を実施する場合、事前に授業および Hoppii 等を通じて日時・方法について周知する。

いずれの授業形式においても、受講者は各授業の受講後にリアクションペーパーを提出されたい。これに基づいて、授業中にフィードバックを行う。またレポート課題を複数課すことを予定している。

また、ゲストスピーカーを迎える授業を 1 回開催することを予定している。実施の有無、実施の詳細については、授業内および学習支援システム Hoppii を通じて周知するので注意されたい。ゲストスピーカー回の日程によって、授業計画にずれが生じる可能性があることを承知されたい。また何らかの事情でやむなくゲストスピーカーを迎えることがかなわない場合には、通常の授業を行う。

※本講義では、受講者が経済法Ⅰを履修済みで、独占禁止法についてかなりの知識を有していることを前提に授業を実施する。経済法Ⅰの未履修者に対して、経済法Ⅰの範囲について個別の対応はしない。経済法Ⅱとの並行しての履修は許容される。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロ	独占禁止法の確認、現代的な問題の所在。
第 2 回	知的財産権と独禁法 (1)	独禁法と適用除外制度の概要、21 条に基づく適用除外

第 3 回	知的財産権と独禁法 (2)	知的財産権が関与する事例
第 4 回	知的財産権と独禁法 (3)	知的財産権が関与する事例
第 5 回	知的財産権と独禁法 (4)	著作物再販
第 6 回	知的財産権と独禁法 (5)	新聞特殊指定
第 7 回	域外適用 (1)	国際的なエンフォースメントの概要
第 8 回	域外適用 (2)	事例の検討
第 9 回	域外適用 (3)	事例の検討
第 10 回	プラットフォームと独占禁止法 (1)	概要
第 11 回	プラットフォームと独占禁止法 (2)	事例の検討
第 12 回	プラットフォームと独占禁止法 (3)	事例の検討、プラットフォーム規制の動向
第 13 回	独占禁止法の運用実務	実務の動向
第 14 回	まとめ	本講義で取り上げたテーマに共通の問題等の検討および課題について講評等を通じて、全体的な理解を深める。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で取り上げた事例を、授業後に再度読み、理解を深めてほしい。また、新聞などを通じて最新の独禁法の運用動向に触れるようにされたい。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

レポートを作成する際に、教科書が必要になるので購入すること。購入する場合には版に注意。

岸井大太郎他『経済法』（有斐閣、第 9 版補訂、2022）

※過去に経済法Ⅰまたは経済法Ⅱを受講した際に用意した独占禁止法の教科書が数年内のものであれば足りるので、新たに購入する必要はない。ただし、近年の事例・法改正（特に手続法）に対応していないことに注意されたい。

【参考書】

授業中に指示する。ウェブ上の資料等を活用したい。

【成績評価の方法と基準】

レポート課題 70 %、平常点 30 %。

レポート課題は複数回課す。授業ではリアクションペーパーの提出を求め、平常点の対象とする。

【学生の意見等からの気づき】

リアクションペーパー等を通じて授業の在り方について様々なコメントを受けた。おおむね好評であった。全体のスタイルは継続しつつ、事例・図・資料等を活用してさらに理解を促すような授業を行いたい。

【学生が準備すべき機器他】

六法、ないし独禁法と関連する法律の条文を毎回用意されたい。オンラインで授業を実施する可能性があるため、PC やタブレットなどの機材を用意されたい。

【その他の重要事項】

本講義では、少なくとも経済法Ⅰを履修済みで、すでに独禁法の基礎的な知識を得ていることを前提として実施する。経済法Ⅱは受講済みであることが望ましくはあるものの、本講義と並行しても受講できるように思われる。

【Outline (in English)】

(1) Course Outline

Economic law is an academic concept that includes multiple laws to develop and maintain economic order in the markets. This lecture will focus on the antitrust law, which is the core of the economic law, and the area where the law intersects with the related legal systems.

Through lectures, students will understand the evolution of the Antimonopoly Act, and will consider "fair competition" in the context of complex and dynamic economy from various aspects.

(2) Learning Objectives

Understand the characteristics of the advanced themes of antitrust law in each area. In particular, the following areas.

- (a) Intellectual property rights and antitrust law
- (b) Resale price maintenance of copyrighted works
- (c) Extraterritorial application
- (d) Digital Economy

(3) Learning Activities Outside of Classroom

Students are encouraged to review the cases discussed in class after class to deepen their understanding. Also, it is encouraged to keep abreast of the latest trends regarding the application of antitrust laws through newspapers and other media. The standard preparation and review time for this class is 4 hours.

(4) Grading Criteria /Policy

70% for the assignments and 30% for participation and others. Several report assignments will be given. Reaction papers will be required in class and they are subject to class participation grades(30%).

LAW200AB

法律学特講（(法学部同窓会寄付講座) 企業法務への案内)

武生 昌士

授業形式：講義 | 開講semester：春学期授業/Spring

単位数：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は、いわゆる企業法務とは何か、法律学科で学んだ内容を活かして企業等で働くとは実際にはどういうことなのかといった事柄を、本学の卒業生を中心としたゲストスピーカーの先生方からお話を伺うことを通じて学んでいくものです。

我が国では、社会の成熟・複雑多様化が進展するに伴い、個人や企業、あるいは団体（地方公共団体や学校法人・NPO 法人など）を取り巻く権利義務関係も、より複雑かつ精密なものとなりつつあります。これを受けて、社会における法の支配の必要性はますます高まっており、社会のあらゆる場面において、法律に準拠した判断を行うことによって紛争を未然に防止し、あるいは適正かつ迅速に解決することが要請されているのが現状です。

これに伴って、企業・団体に設けられた法務部は、その重要性に対する社会的認識が日増しに高まるとともに、その活動も急速に充実化しつつあります。このような法務部が取り扱う諸問題（契約、人事・労務、経営、M&A、知財、会計・税務、環境、訴訟等）が、実際に企業等でどのように扱われているのか、その実態を法務部等の最前線で現に活躍しておられるゲストスピーカーの先生方から学ぶのが、この授業の目的です。

なお、ここでいう「法務」は、必ずしも狭義の「法務部」の仕事には限定されるものではありません。法務の仕事を他の部署が担っている会社も少なくないですし、また法務部のみが法的な思考をしていればそれで足りるというものでもないからです。法的素養を活かして働くという事柄に関心を持つ皆さんが幅広く受講して下さることを期待しています。

以上のように、法律学科での学びが将来どのように活かされるかを知るための講義ですので、本講義は法律学科に設けられた6つのコースすべてに関係するものと位置付けられます。

【到達目標】

受講生が、我が国における法務部の取り扱う問題とそれに関係する法律の解釈適用の実情を理解し、卒業後の進路のひとつとしての法務部、あるいは法的素養を活かしつつ企業等で働くということに関する具体的なイメージを獲得すること。また、企業・団体の法務部が、法律の専門的素養を活かすことができる職場であり、かつ、社会的にも有用でやり甲斐のある職場であることを理解すること。

さらに、そのような職場を目指すために、在学中にどのような法分野を学習しておくべきかについて、主体的に捉えることができるようになることも、この授業の目標とするところです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

この授業では、本学の卒業生を中心に、企業・団体の法務部等において実務経験を有する方々をゲストスピーカーとしてお招きし、講義をしていただく形で授業を進めます。

講義していただく内容は、企業・団体の法務部等で実際に取り扱った事例に即したものとなります。事例の具体的な分野としては、契約、人事・労務、経営、M&A、知財、会計・税務、環境、訴訟等が想定されます。そして、取り上げられた事例がどのようにして処理ないし解決されていったかということ、実務の機微に触れる形でご紹介いただきます。ゲストスピーカーの先生によっては、受講生を指名して質問をされる場合があります。

以下、過去の実績をベースに仮の授業計画を示しますが、テーマ・順番ともに変更される可能性があります。

ゲストスピーカーの先生方への質問は、当日お答えいただくほか、必要に応じて後日、学習支援システムを通じてフィードバックします。また、期末のレポートに関しても、学習支援システムを通じて講評を公開する予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	担当教員によるこの授業に関する説明
第2回	企業法務とは何か？	ゲストスピーカーによる講演（企業法務総論）
第3回	企業と契約	ゲストスピーカーによる講演
第4回	AI・データと法	ゲストスピーカーによる講演
第5回	紛争・トラブル対応と企業法務	ゲストスピーカーによる講演
第6回	コンプライアンス・コーポレートガバナンス	ゲストスピーカーによる講演
第7回	総合商社の法務とキャリアパス	ゲストスピーカーによる講演
第8回	労働災害とその取扱い	ゲストスピーカーによる講演
第9回	競争法（国際カルテルを中心に）	ゲストスピーカーによる講演
第10回	法学部生が知っておきたい金融経済	ゲストスピーカーによる講演
第11回	公務員の対応する法的問題（営造物管理瑕疵等について）	ゲストスピーカーによる講演
第12回	不動産業界における法務対応	ゲストスピーカーによる講演
第13回	リーガルテックとは何か	ゲストスピーカーによる講演
第14回	まとめ	担当教員による講義全体の総括等

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習は基本的には必要ありませんが、事前準備を求められたテーマについては、事前配布資料の読み込みなどが必要となる場合があります。

復習については、各回の話題で特に興味を持った点について、各自自分なりに調べてみることを推奨されます。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは特にありません。毎回、レジュメを配布する予定です。

【参考書】

経営法友会 企業法務入門テキスト編集委員会編著『企業法務入門テキスト——ありのままの法務』（商事法務、2016）。

このほか、必要に応じて各回に指示します。

【成績評価の方法と基準】

毎回講義後に、学習支援システムを通じて、講義に対する感想文を提出してもらう予定であり、これによって平常点を評価します（60%）。なお、ゲストスピーカーの講義回の出席数（感想文の提出数）が半数に満たない場合、単位を付与しません（いわゆる「足切り」）。

このほか、期末のレポートによっても評価します（40%）。ゲストスピーカーの先生方のお話の中から、興味を持ったテーマについてさらに掘り下げて調べたものをレポートとしてご提出いただきます。詳細は学習支援システムを通じて改めて提示します。

なお、毎回の感想文にせよ、期末レポートにせよ、自身の将来の働き方にどのように活かせるかを考えつつ、真剣にゲストスピーカーのお話を聞いたということが読み手に伝わるような文章であることが、最低限求められます。大半の学生にはわざわざ注意するまでもない事柄ですが、一部、こちらの予想がまったく及ばないような低水準の感想文・答案が見られることがあったので、念のため注意喚起しておきます。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【その他の重要事項】**【受講年次について】**

4年生の受講者からは、受講した感想として、「もっと早い学年で受講しておけばよかった」という意見が少なからず見受けられます。実際、講義内容を皆さんの進路選択に際して活かしていただくためには、2年次又は3年次での履修が推奨されます。(もともと、4年生の履修を妨げるものではありません。)

【出席（感想文提出）要件について】

この授業は、多様な分野にわたるゲストスピーカーのお話を幅広く聴講することを通じて、受講者の見聞や興味関心を広げることにより、今後の進路選択等に役立ててもらおうということを狙いとしています。それゆえに、受講者が自身の興味関心のあるテーマの回のみをつまみ食いの聴講するという受講の仕方は、推奨されるものではありません。

このような理由から、上記「成績評価の方法と基準」欄にも記載したとおり、出席数（感想文提出数）による「足切り」を実施しています。こうした授業の性質をよく理解した上で受講するようにしてください。

【Outline (in English)】**【授業の概要 (Course outline)】**

This omnibus course covers the basics of "corporate legal affairs". Most of the speakers are the graduates of this university.

【到達目標 (Learning Objectives)】

By the end of the course, students should be able to :

— Demonstrate knowledge and understanding of "corporate legal affairs".

【授業時間外の学習 (Learning activities outside of classroom)】

Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.

【成績評価の方法と基準 (Grading Criteria /Policy)】

Your overall grade in the class will be decided based on:

- Short reports(60%)
- Term-end report(40%)

POL300AC

政治学特殊講義 I (安全保障政策)

半田 滋

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

単位数：2 単位

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

日本の安全保障政策について考察します。日本防衛を担うのは一義的には自衛隊です。日米安全保障条約により、米軍にもその役割が求められています。海外で武力行使せず、専守防衛に徹してきた自衛隊は冷戦後、海外活動に乗り出しました。さらに安全保障関連法により、集団的自衛権の行使、他国軍への後方支援へと踏み込もうとしています。日本はシビリアンコントロール(文民統制)の国ですから、もちろん政治による決定です。政治が決める自衛隊や米軍のあり方について、具体的な事例をもとに学びます。

【到達目標】

日本の安全保障政策を理解すること。中国、北朝鮮などの軍事力の現状と狙いを知ることにより、日本を取り巻く安全保障環境について考察を深めます。そのうえで自衛隊に求められる役割が日本防衛だけでなく、国際秩序の構築、人道復興支援などに広がり、そうした活動が結果的に日本や国際社会の平和につながることを理解していきます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

原則として対面授業とします。仮登録すれば、授業支援システムの「政治学特殊講義 I (安全保障政策)」にアクセスできます。仮登録後の授業は教科書の『変貌する日本の安全保障』(半田滋著・弓立社)や「学習支援システム」にアップする「お知らせ」「教材」を活用して授業を進めます。授業の初めに前回の授業で提出されたリアクションペーパーなどからいくつか取り上げ、回答します。またメールなどでいただいた疑問についても回答します。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

なし/No

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス(日本国憲法と自衛隊)	戦争放棄を明記した日本国憲法のもと、政府は自衛隊を合憲としています。自衛隊とはどのような存在なのでしょうか。また国民は自衛隊をどうみているのでしょうか。自衛隊の全体像を勉強します。
第 2 回	日米安全保障体制とは	日米安全保障条約により、米国は日本に基地を置くことが認められています。基地の存在が日本の主権侵害につながる例もあります。米軍駐留の意味について学びます。
第 3 回	沖縄の米軍基地の現状と問題点	国土面積の 0.6% に過ぎない沖縄県に米軍専用施設の 7 割が集中しています。米海兵隊のための辺野古新基地の建設をめぐる、沖縄県は政府と鋭く対立しています。米軍基地の現状と問題点を学びます。

第 4 回	多様化する自衛隊の活動	自衛隊は、日本が他国から侵略されることがないので防衛出動をゼロ。その一方で災害派遣や福島第一原発の事故には出動し、災害救援隊の色彩が強まっています。自衛隊の国内における実像に迫ります。
第 5 回	国連平和維持活動(PKO)の現実	冷戦後、自衛隊はPKOへの参加を開始しました。すでに14回の派遣実績があります。南スーダンPKOでは「違憲」との批判がある安保法制が適用されました。憲法との整合性と活動の実態をみます。
第 6 回	ソマリア沖の海賊対処/拡大するジブチの自衛隊海外拠点	現在、自衛隊の海外活動はソマリア沖の海賊対処が典型例です。海賊対処のために初めてアフリカのジブチに恒久施設を持った自衛隊の活動とその狙いは何でしょうか。
第 7 回	テロ、イラク特別措置法による海外派遣	米国のアフガニスタン攻撃、イラク戦争に合わせて自衛隊は対米支援を実施しました。初の戦地派遣です。このうち憲法違反の判決を受けた活動もあるのです。何が起きていたのか検証します。
第 8 回	中国の軍事力強化とその狙い	巨大経済圏・安全保障構想「一带一路」を進める中国。海軍力を強め、外洋進出を図る一方で、米軍の南シナ海進出は阻止する構えです。中国の狙いは何か。日本の安全に影響があるのか学びます。
第 9 回	北朝鮮の核・ミサイル開発の狙いと朝鮮半島情勢	核とミサイル開発を進める北朝鮮。南北首脳会談、米朝首脳会談を経て、朝鮮半島情勢は変化したといえるのでしょうか。北朝鮮の核・ミサイルが日本の安全保障にどのようにかわるのか学習します。
第 10 回	弾道ミサイル迎撃システムの問題点	自衛隊は米国以外では唯一、米国製のミサイル防衛システムを導入しています。導入を断念したイージス・アショアに代わり、イージス・システム搭載艦2隻の建造が決まりました。問題点を探ります。
第 11 回	首都圏に配備されたオスプレイ	防衛省は千葉県にオスプレイ17機を配備します。米軍と合わせる和日本を飛ぶオスプレイは合計53機に。欠陥機と呼ばれるオスプレイ配備の理由とその問題点を探ります。
第 12 回	安全保障関連法と「敵基地攻撃能力の保有」による自衛隊の変化・その1	安倍晋三政権は安全保障関連法を成立させ、自衛隊の活動に集団的自衛権行使を含めました。多くの憲法学者から違憲との指摘もある活動の身をみていきます。
第 13 回	安全保障関連法と「敵基地攻撃能力の保有」による自衛隊の変化・その2	前の授業に続き、安全保障関連法による自衛隊の変化を勉強します。中国による台湾の武力統一への警戒を強める米国と日本の敵基地攻撃能力の保有を考えます。
第 14 回	テスト	これまで学んできた自衛隊や米軍の現状、日本を取り巻く安全保障環境などについて幅広く出題します。書籍、資料は持ち込み可とし、スマホ、パソコンなどの電子機器類は不可とします。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日本を取り巻く安全保障環境はこの四半世紀の間に大きく変わりました。政府は昨年12月、国家安全保障戦略、国家防衛戦略(旧防衛計画の大綱)、防衛力整備計画(旧中期防衛力整備計画)の3文書を改定し、「敵基地攻撃能力の保有」「防衛費のGDP比2%増」を打ち出し、日本の安全保障政策は大転換しました。一方、中国は台湾を武力で統一するのか、核・ミサイル開発を進めてきた北朝鮮は今後、どうなるのか。新聞、テレビを通じて、日々の動きを追い、日本の安全がどのような形で維持されていくのか注視してください。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

半田滋『変貌する日本の安全保障』（弓立社）＝授業やテストに活用します。

【参考書】

防衛省『令和3年版防衛白書 日本の防衛』＝あくまで参考資料です。

【成績評価の方法と基準】

テストにより、評価します。

【学生の意見等からの気づき】

政治の動きと自衛隊の活動は一体化しているので、「新聞が参考になる」との学生の意見がありました。本授業では、新聞のみならず、テレビ、インターネット情報も積極的に取り入れていきます。

【学生が準備すべき機器他】

資料はポータルサイト（Hoppiiの学習支援システム）にアップします。そのために必要な機材（パソコン、スマートフォン、プリンターなど）を準備してください。

【その他の重要事項】

東京新聞記者として防衛省・自衛隊、在日米軍の取材を30年以上、続けてきました。現在も防衛ジャーナリストとして、安全保障に関する論考を書籍や雑誌、インターネット番組（デモクラシータイムス『半田滋の眼』など）で発表しています。現場から見える安全保障の実像をみなさんと共有していきます。

【Outline (in English)】

I will examine Japanese security policy. It is the Self Defense Force who uniquely plays Japan defense. U.S. military roles are required by the Japan-US Security Treaty. Without exercising force abroad, the Self Defense Force, which has dedicated itself to exclusive defense, began working overseas after the Cold War. Furthermore, by the security-related law, we are trying to step into the exercise of collective self-defense rights and backward support to other national forces. Since Japan is a country of civilian control, of course, it is decision by politics. We will learn about the way the SDF and the US military are determined by politics based on concrete examples.

LAW200AB

外国書講読（英語） I

和田 幹彦

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
単位数：2 単位

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

★法律学科、政治学科、国際政治学科の学生、どなたも歓迎します。
★法・政治・国際政策にかかわる、質の高い時事英語ニュース記事、やや専門的な英語の文献の読解力の向上が最重要な目的です。並行して、英語で聞き、理解する能力の向上も目的とします。

【到達目標】

★法・政治・国際政策にかかわる、質の高い時事英語ニュース記事、やや専門的な文献な英語の読解力の向上。
★英語の基礎的および応用的な文法の復習や、新たな文法上の学び。
★英語の新たな表現、(たとえば「法と遺伝学」といった) 学問や研究の新分野の新しいボキャブラリーの習得。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に強く関連。

【授業の進め方と方法】

概略以下のとおり予定

★初回授業：必ず英和・和英辞典を持参すること（電子辞書・スマホも可）。

★授業方法：基本的にゼミ形式で、日本語と英語双方を使いながら行います。（但し、英語の聞き取り／発言が不得手でも、努力により参加は十分可能です。）ネット上の質の高い動画・ビデオ・DVD・ブルーレイの教材や映画も見ます。

事前：次回以後の英語文献を学習支援システム上の「教材」で配信・配布——参加者はダウンロード・持ち帰り、予習する。予習に際しては、新出単語・表現・内容に関連する疑問点を（英和・英英）辞書やグーグルで徹底的に調べてくる。

授業：①参加学生全員による英語文献の音読・講読 意味内容の把握（要約；部分的に精読・全訳）

②文献の検討：国際的生命政策・先端的法分野 について、質問し、議論する。

●課題・発表・質問等に関するフィードバックは、授業において、適宜、行います。

★本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間、合計 4 時間を標準とします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	教材①の配信・配布・講読	英和・和英辞典（電子辞書・スマホも可能）での法学専門用語の見つけ方の基礎的解説と、ディスカッション
第 2 回	教材①【複数英文テキストを順に；以下同様】の講読（1）	教材①テキストの音読 → 学生に質問させる → 教師から学生に質問する → 全体の内容の把握と理解
第 3 回	教材①の講読（2）	教材①の英文の特徴の把握とディスカッション
第 4 回	教材①の講読（3）	教材①における、法的・倫理的・社会的問題の扱いに関する英語理解の学習とディスカッション

第 5 回	教材①の講読（4）	教材①における、法的・倫理的・社会的問題の扱いに関する英語理解のさらなる学習とディスカッション
第 6 回	教材①の講読（5）	教材①における、法的・倫理的・社会的問題の英語による議論の総括的理解の確認と、ディスカッション
第 7 回	教材②【複数英文テキストを順に；以下同様】の講読（1）	教材②テキストの音読 → 学生に質問させる → 教師から学生に質問する → 全体の内容の把握と理解
第 8 回	教材②の講読（2）	教材②の英文の特徴の把握とディスカッション
第 9 回	教材②の講読（3）	教材②における、法的・倫理的・社会的問題の扱いに関する英語理解の学習とディスカッション
第 10 回	教材②の講読（4）	教材②における、法的・倫理的・社会的問題の扱いに関する英語理解のさらなる学習とディスカッション
第 11 回	教材②の講読（5）	教材②における、法的・倫理的・社会的問題の英語による議論の総括的理解の確認と、ディスカッション
第 12 回	教材③【複数英文テキストを順に；以下同様】の講読（1）	教材③テキストの音読 → 学生に質問させる → 教師から学生に質問する → 全体の内容の把握と理解
第 13 回	教材③の講読（2）	教材③の英文の特徴の把握とディスカッション
第 14 回	教材③の講読（3）	教材③における、法的・倫理的・社会的問題の英語による議論の総括的理解の確認と、ディスカッション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

★次回の授業以後の英語文献を学習支援システム上の「教材」で配信・配布するので、授業参加者（履修者）は、事前にダウンロード・持ち帰り、予習する。

★予習に際しては、教材の英語のみならず、【内容】を理解できるように、解らない新出の単語・熟語・表現、そして英文テキストの内容に関連する疑問点を、（英和・英英）辞書やグーグルで徹底的に調べてくること。

【テキスト（教科書）】

初回の授業時に教員が指示します。その後は、その都度、必要な資料を、教員が学習支援システム上の「教材」で配信・配布します。

【以下の具体的例は 2022 年度の例を含む；2023 年度は更新した最新内容の英文テキストを教員が指示する。】

①国際的政策に関する法的・倫理的・社会的諸問題に関する英語文献。具体的例としては：

★国連関連の条約や付随文書：国連憲章；国連人権規約；最新の国連総会議決：

"Resolution adopted by the General Assembly on 26 April 2022"

"Optional Protocol to the International Covenant on Civil and Political Rights"

<https://www.ohchr.org/en/instruments-mechanisms/instruments/optional-protocol-international-covenant-civil-and-political>

★The International Society for Stem Cell Research (ISSCR), "ISSCR Guidelines for Stem Cell Research and Clinical Translation"

<https://www.isscr.org/guidelines>

②先端的法分野：「医事法」「人工生殖」「法と遺伝学」等。具体的例としては：

★イギリスの代表的新聞 The Guardian, "Chinese scientist who edited babies' genes jailed for three years," 31 Dec 2019

<https://www.theguardian.com/world/2019/dec/30/gene-editing-chinese-scientist-he-jiankui-jailed-three-years>

★同上紙 "Scientist who edited babies' genes says he acted 'too quickly'," 4 Feb 2023

<https://www.theguardian.com/science/2023/feb/04/scientist-edited-babies-genes-acted-too-quickly-he-jiankui>

③ SOGI (sexual orientation and gender identity) 関連。具体的例としては：

★ 2015 年 6 月のアメリカ連邦最高裁の、同性婚を全国で合憲とした判決文。

★ CBS NEWS の書き起こし記事："Diving into the debate over trans athletes," MARCH 27, 2022

<https://www.cbsnews.com/news/diving-into-the-debate-over-trans-athletes/>

★ BBC NEWS 記事："What Singapore's move to legalise egg freezing says about its society," 28 April, 2022

<https://www.bbc.com/news/world-asia-61076349>

★同上："Toronto professor Jordan Peterson takes on gender-neutral pronouns," 4 November 2016

<https://www.bbc.com/news/world-us-canada-37875695>

④その他、履修者が高い関心を示す分野の、質の高い英文テキスト

【参考書】

参考書は指定しない。

【成績評価の方法と基準】

毎週の授業での質問や議論への参加（平常点：50点）と、事前の予習準備の程度（50点）で評価します。（期末試験なし。）

【学生の意見等からの気づき】

●クラス内の、うち解けた雰囲気でのディスカッションをもっとも重視します。

●英語の教材や、映画を DVD、ブルーレイも見ます。

●春学期・秋学期合わせての履修を推奨しますが、義務ではありません。

●春学期の「法と遺伝学 I」、秋学期の「法と遺伝学 II」の履修を推奨しますが、義務ではありません。

●持参すべきものは、英和・和英辞典（電子辞書、スマホも可能）、グーグル検索のできるスマホ。

【学生が準備すべき機器他】

和英・英和辞書を所持していない場合は、それに代わるスマホ。

【その他の重要事項】

「実務経験のある教員による授業」に該当します。日本・スイスにおける銀行業務で日本法・英米法・スイス法・ドイツ法に基づく法務を経験しており、それに関連して特に英米法・日本法と、法制度に関連する英語圏・日本の政策・政治を、実務の観点からもこの授業で取り上げます。

【Outline (in English)】

【Course outline】：To learn how to read English text on legal, political and international issues.

【Learning Objectives】：Acquire the skill of understanding most recent news English of high quality and essential English text, both

【Learning activities outside of classroom】：Check new words, idioms, expressions of English and the unknown contents of the text in advance before the class, using dictionary and reliable websites on the Internet.

【Grading Criteria /Policy】：attendance/participation (50%) and preparation for the class (50%).

LAW200AB

外国書講読（英語）Ⅱ

和田 幹彦

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

単位数：2 単位

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

★法律学科、政治学科、国際政治学科の学生、どなたも歓迎します。
★法・政治・国際政策にかかわる、質の高い時事英語ニュース記事、やや専門的な英語の文献の読解力の向上が最重要な目的です。並行して、英語で聞き、理解する能力の向上も目的とします。

【到達目標】

★法・政治・国際政策にかかわる、やや専門的な文献な英語の読解力の向上。
★英語の基礎的および応用的な文法の復習や、新たな文法上の学び。
★英語の新たな表現、(たとえば「法と進化生物学・進化心理学・脳科学」という)学問や研究の新分野の新しいボキャブラリーの習得。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に強く関連。

【授業の進め方と方法】

概略以下のとおり予定

★初回授業：必ず英和・和英辞典を持参すること（電子辞書・スマホも可）。

★授業方法：基本的にゼミ形式で、日本語と英語双方を使いながら行います。（但し、英語の聞き取り／発言が不得手でも、努力により参加は十分可能です。）ネット上の質の高い動画・ビデオ・DVD・ブルーレイの教材や映画も見ます。

事前：次回以後の英語文献を学習支援システム上の「教材」で配信・配布——参加者はダウンロード・持ち帰り、予習する。予習に際しては、新出単語・表現・内容に関連する疑問点を（英和・英英）辞書やグーグルで徹底的に調べてくる。

授業：①参加学生全員による英語文献の音読・講読 意味内容の把握（要約；部分的に精読・全訳）

②文献の検討：国際的生命政策・先端的法分野 について、質問し、議論する。

●課題・発表・質問等に関するフィードバックは、授業において、適宜、行います。

★本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間、合計 4 時間を標準とします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	教材①②の配信・配布	英和・和英辞典（電子辞書・スマホも可能）での法学専門用語の見つけ方の基礎的解説と、ディスカッション
第 2 回	教材①【複数英文テキストを順に；以下同様】の講読（1）	教材①テキストの音読 → 学生に質問させる → 教師から学生に質問する → 全体の内容の把握と理解
第 3 回	教材①の講読（2）	教材①における、法的・倫理的・社会的問題の扱いに関する英語理解の学習とディスカッション
第 4 回	教材①の講読（3）	教材①における、法的・倫理的・社会的問題の扱いに関する英語理解のさらなる学習とディスカッション

第 5 回 教材①の講読（4） 教材①における、法的・倫理的・社会的問題の扱いに関する英語理解に基づく ≪ この論文が例えば「サイエンス誌 (Science)」「ネイチャー誌 (Nature)」に掲載された意味 ≫ の英語による学習とディスカッション

第 6 回 教材②【複数英文テキストを順に；以下同様】の講読（1） 教材②テキストの音読 → 学生に質問させる → 教師から学生に質問する → 全体の内容の把握と理解

第 7 回 教材②の講読（2） 教材②における、法的・倫理的・社会的問題の扱いに関する英語理解の学習とディスカッション

第 8 回 教材②の講読（3） 教材②における法学と、法学に直結する科学の専門的英語・熟語の学び方の解説と、ディスカッション

第 9 回 教材③【複数英文テキストを順に；以下同様】の講読（1） 教材③テキストの音読 → 学生に質問させる → 教師から学生に質問する → 全体の内容の把握と理解

第 10 回 教材③の講読（2） 教材③における、法的・倫理的・社会的問題の扱いに関する英語理解の学習とディスカッション

第 11 回 教材③の講読（3） 教材③における、法的・倫理的・社会的問題の扱いに関する英語理解のさらなる学習とディスカッション

第 12 回 教材③の講読（4） 教材③における、法的・倫理的・社会的問題の扱いに関する英語理解に基づく ≪ この論文が例えば一流新聞の「ガーディアン紙 (The Guardian)」「ニューヨークタイムズ紙 (New York Times)」に掲載された意味 ≫ の英語による学習とディスカッション

第 13 回 教材④の講読（1） 教材④テキストの音読 → 学生に質問させる → 教師から学生に質問する → 全体の内容の把握と理解

第 14 回 教材④の講読（2） 教材④における、法的・倫理的・社会的問題の英語による議論の発展性の理解と、ディスカッション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教材の内容を理解できるように、分からない単語、熟語は全て辞書（スマホで使える辞書でも良い）とグーグルで予習して調べておくこと。

【テキスト（教科書）】

初回の授業時に教員が指示します。その後は、その都度、必要な資料を、教員が学習支援システム上の「教材」で配信・配布します。
【以下の具体的例は 2022 年度の例を含む； 2023 年度は更新した最新内容の英文テキストを教員が指示する。】

①国際的生命政策 関連:「デザイナー・ベビーの是非と国際的な規制の要否（ヒトの受精卵の遺伝子操作によって生まれる子どもに関する法的・倫理的・社会的諸問題）」。具体的例としては：

Rosario Isasi et al. (2016), "Editing policy to fit the genome?" in "Science"

②先端的法分野：「法と進化生物学・進化心理学・脳科学」。具体的例としては：

Frank Krueger and Morris Hoffman (2016), "The Emerging Neuroscience of Third-Party Punishment" in "Trends in Neurosciences"

Keelah E.G. Williams et al. (2019), "Capital and punishment: Resource scarcity increases endorsement of the death penalty"

③質の高い時事英語ニュース記事。具体的例としては：

Nature 誌: "The effects of overturning Roe v. Wade in seven simple charts," 10 August 2022

<https://www.nature.com/articles/d41586-022-02139-3>

④その他、履修者が高い関心を示す分野の、質の高い英文テキスト。例えば日本語ではほとんど紹介されない諸外国の文化に関する記事。具体的例としては：

"Inclusion for All in Bengkulu, Bali's Deaf Village"
<https://www.ashleyderrington.com/blog/post-9>

【参考書】

参考書は指定しない。

【成績評価の方法と基準】

毎週の授業での質問や議論への参加（平常点：50点）と、事前の予習準備の程度（50点）で評価します。（期末試験なし。）

【学生の意見等からの気づき】

- クラス内の、うち解けた雰囲気でのディスカッションをもっとも重視します。
- 英語の教材や、映画をDVD、ブルーレイも見ます。
- 春学期・秋学期合わせての履修を推奨しますが、義務ではありません。
- 春学期の「法と遺伝学 I」、秋学期の「法と遺伝学 II」の履修を推奨しますが、義務ではありません。
- 持参すべきものは、英和・和英辞典（電子辞書、スマホも可能）、グーグル検索のできるスマホ。

【学生が準備すべき機器他】

和英・英和辞書を所持していない場合は、それに代わるスマホ。

【その他の重要事項】

「実務経験のある教員による授業」に該当します。日本・スイスにおける銀行業務で日本法・英米法・スイス法・ドイツ法に基づく法務を経験しており、それに関連して特に英米法・日本法と、法制度に関連する英語圏・日本の政策・政治を、実務の観点からもこの授業で取り上げます。

【Outline (in English)】

【Course outline】 : To learn how to read English text on legal, political and international issues.

【Learning Objectives】: Acquire the skill of understanding most recent news English of high quality and essential English text, both

【Learning activities outside of classroom】 : Check new words, idioms, expressions of English and the unknown contents of the text in advance before the class, using dictionary and reliable websites on the Internet.

【Grading Criteria /Policy】 : attendance/participation (50%) and preparation for the class (50%).

POL200AC

都市政策

杉崎 和久

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
単位数：2 単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉〈S〉〈A〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

政治学科科目の中で「行政・地方自治科目群」に属し、多様な利害と価値観が錯綜する都市において、私たちの活動の基盤となる空間形成を制御するシステムである都市計画法等の諸制度の内容について概観するものである。

【到達目標】

- 1) 都市空間の形成を制御するシステム（制度、プロセス等）を理解できること
- 2) 都市空間の現代的な課題を認識し、成長を前提とした既存システムの抱える課題について考察できること

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に強く関連。「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

- ・オンデマンド教材を用いて行う。
- ・火曜日中に授業動画を学習支援システムにアップロードする（なお、スライドデータは配布しない）。
- ・受講者は、オンデマンド教材を視聴し、学習支援システムを通じて出題された課題を同じ週の金曜日18時までに提出する。
- ・必要に応じて、授業の中で解説を行うことを通じてフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	都市とは何か	オリエンテーション・都市の成り立ちと集積
第 2 回	近代都市計画の誕生	計画的都市の形成過程
第 3 回	都市計画概要	都市計画の目的、手段、対象、都市計画法の体系
第 4 回	都市施設 1	都市施設の概要、道路
第 5 回	都市施設 2	公園緑地
第 6 回	都市計画事業	概要、土地区画整理事業、市街地再開発事業
第 7 回	土地利用規制	近代都市計画の誕生、ゾーニング、地域地区・用途地域、集団規定（建築基準法）
第 8 回	地域特性に相応しい土地利用規制 1	補助的地域地区、地区計画
第 9 回	地域特性に相応しい土地利用規制 2	建築協定（建築基準法）、まちづくり条例等
第 10 回	開発許可制度	経済成長期の開発と開発許可制度の導入、概要概要
第 11 回	都市の計画	都市計画マスタープラン（都市計画区域マスタープランと市町村マスタープラン）
第 12 回	都市計画の決め方	都市計画決定のプロセスと市民参加
第 13 回	人口減少社会とコンパクトシティ	立地適正化計画、地域公共交通
第 14 回	公共施設のマネジメント	都市インフラの長期的管理運営

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。
- ・「土地利用に関するレポート」は、自らが生活する地域の土地利用の現状、土地利用規制等を考察するため、資料収集や現地調査が必要となる。

【テキスト（教科書）】

- ・教科書は使用しない。授業では、オンデマンド教材（動画）を使用する。

【参考書】

澤木昌典・嘉名光市 編著「図説 都市計画」（学芸出版社）
<https://book.gakugei-pub.co.jp/gakugei-book/9784761528324/>

【成績評価の方法と基準】

- ・評価は、「①授業ごとに出題する課題」の合計（70%）、「②レポート課題」（30%）の合計点で評価する（期末試験は実施しない）。
- ・また、①については提出回数が 9 回未満（全 14 回のうち）、②については未提出の場合には成績評価をしない（E 評価とする）。
- ・「①授業ごとに出題する課題」の評価は下記になる。
A：授業内容を踏まえて、独自に事例や制度の調査を行うなど独自の視点からの意見や考え方が記述されている。
B：適切な分量を満たし、授業内容を踏まえた内容が記述されている。
C：授業内容を踏まえた内容が記述されていないか、適切な分量をみなしていない。
D：未記入
- なお、提出締切時間は厳守すること（締切時間を過ぎたものは理由の如何に関係なく、採点評価しない）。
- ・「②レポート課題」について
出題は、6 月中の講義の中で行う（実施日は未定）。
提出締切は、授業内で指示する。提出は、学習支援システムを通じて行う。
（締切日時以降の提出は、いかなる理由があっても受理しない。そのため余裕をもって提出作業をすることが望ましい。）
- ・評価は下記とする。
A：地域特性や回答者の特徴を踏まえるなど、独自の視点からの意見が記述されているなど優れた内容である。
B：レポートの課題主旨ができ、適切な内容である。
C：レポートの課題主旨が理解できていない、または提出形式に不備がある、とする。

【学生の意見等からの気づき】

背景となる社会事情、実現する都市空間などについて理解を深めるため、具体的な都市における事例解説を行い、それらの解説のための視覚資料等の改善を行いたい。

【学生が準備すべき機器他】

この講義は、オンデマンド教材にて実施する。動画配信、資料配布、課題提出等に学習支援システムを活用する。そのためオンデマンド教材を視聴するインターネット環境、課題作成、提出をするための環境が必要になる。

【その他の重要事項】

複数の地方自治体の現場において、行政と地域住民をつなぐまちづくりコーディネーターとして勤務経験を有する教員が地域での実践事例を交えながら、都市の空間制御に関する仕組みについて講義する。

【Outline (in English)】

【授業の概要（Course outline）】

In this lecture, we overview the system to control the space in the city.

【到達目標（Learning Objectives）】

By the end of the course, students should be able to do the followings:

A.Understanding the system that controls the formation of urban space

B.Recognizing the contemporary problems of urban space

【授業時間外の学習（Learning activities outside of classroom）】

Your required study time is at least two hours for each class meeting.

【成績評価の方法と基準（Grading Criteria /Policy）】

Grading will be decided based on Mid-term report (30%), and reports at each class(70%).

POL200AC

まちづくり論

杉崎 和久

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

単位数：2 単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉〈S〉〈A〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

政治学科科目の中で「行政・地方自治科目群」に属し、全国一律の都市空間制御の仕組みである都市計画法の運用に加えて、特定課題別の政策的対応、さらに地方自治体や地域住民等が地域特性や課題に対応して都市空間制御を実践している事例について概観するものである。

【到達目標】

- 1) 地域特性に対応した都市空間制御等の運用事例の特徴・効果等を分析できること
- 2) 現代、将来に対する都市計画等システムの課題を認識できること
- 3) 都市問題には、多様な利害の存在していることを理解し、それを踏まえた課題解決が行われることを理解すること

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に強く関連。「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

- ・オンデマンド教材を用いて行う。
- ・火曜日中に授業動画は学習支援システムにアップロードする（なお、スライドデータは配布しない）。
- ・受講者は、オンデマンド教材を視聴し、学習支援システムを通じて出題された課題を同じ週の金曜日18時までに提出する。
- ・必要に応じて、授業の中で解説を行うことを通じてフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり/Yes

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	地域課題と地域独自の取組（まちづくり）
第2回	戦後の住宅政策	セーフティネットとしての役割を果たしてきた住宅供給を目的とする政策について理解する。
第3回	防災まちづくり1（大規模地震への対応）	地震・火災など大規模災害に備えた対策について理解する。
第4回	防災まちづくり2（気候変動に伴う災害への対応）	近年増加している水害等への対応について理解する。
第5回	商業・流通政策とまちづくり	購買活動の変化に伴う都市構造、空間の変化を理解する。
第6回	歴史的街並み保存・再生	歴史的価値を持つ街並みや集落を継承し、活用していく取組について理解する。
第7回	アーバンデザイン・景観	地域特性の活かした都市空間を形成する方法について理解する
第8回	ユニバーサルデザイン・バリアフリー	多様な主体の社会参加を担保する都市空間のあり方を理解する。
第9回	公共空間の利活用	身近な空間を利用した地域の魅力向上のための取組を理解する。
第10回	都市のモビリティ	高齢社会における都市空間の移動の課題とその対応について理解する
第11回	都市農地の保全	都市空間における農地の価値の再評価とその施策について理解する。

第12回 草の根まちづくり概論 地域住民、当事者等によるボトムアップによる都市空間改善の経緯を理解する。

第13回 草の根まちづくりの事例1 地域住民等による地域環境改善の取り組み事例を理解する。

第14回 草の根まちづくりの事例2 地域住民等による地域環境改善の取り組み事例を理解する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。
- ・「地域課題に関するレポート」は、自らが生活する地域の土地利用の現状、課題に関する考察をするため、資料収集や現地調査が必要となる。

【テキスト（教科書）】

- ・教科書は使用しない。オンデマンド教材（動画）を使用する。

【参考書】

澤木昌典・嘉名光市 編著「図説 都市計画」（学芸出版社）
伊藤雅春・小林郁雄・澤田雅浩・野澤千絵・真野洋介・山本俊哉 編著「都市計画とまちづくりがわかる本 第二版」（彰国社）

【成績評価の方法と基準】

- ・評価は、「①授業ごとに出席する課題」の合計（70%）、「②レポート課題」（30%）の合計点で評価する（期末試験は実施しない）。
- ・また、①については提出回数が9回未満（全14回のうち）、②については未提出の場合には成績評価をしない（E評価とする）。
- ・「①授業ごとに出席する課題」のについて
- ・評価は下記とする。

A：授業内容を踏まえて、独自に事例や制度の調査を行うなど独自の視点からの意見や考え方が記述されている。

B：適切な分量を満たし、授業内容を踏まえた内容が記述されている。
C：授業内容を踏まえた内容が記述されていないか、適切な分量をみなしていない。

D：未記入

なお、提出締切時間は厳守すること（締切時間を過ぎたものは理由の如何に関係なく、採点評価しない）。

・「②レポート課題」について

出題は、11月中の講義の中で行う（実施日は未定）。

提出締切は、授業内で指示する。提出は、学習支援システムを通じて行う。

（締切日時以降の提出は、いかなる理由があっても受理しない。そのため余裕をもって提出作業をすることが望ましい。）

・評価は下記とする。

A：地域特性や回答者の特徴を踏まえるなど、独自の視点からの意見が記述されているなど優れた内容である。

B：レポートの課題主旨ができ、適切な内容である。

C：レポートの課題主旨が理解できていない、または提出形式に不備がある、とする。

【学生の意見等からの気づき】

背景となる社会事情、実現する都市空間などについて理解を深める視覚資料等の改善を行いたい。

【学生が準備すべき機器他】

この講義は、オンデマンド教材にて実施する。授業動画配信、資料配布、課題提出等には学習支援システムを活用する。そのためオンデマンド教材を視聴するインターネット環境、課題作成、提出をするための必要環境が必要となる。

【その他の重要事項】

・春学期の「都市政策」を受講している前提で講義を進める（ただし「都市政策」は未受講でも履修は認める）。

・授業担当者は、複数の地方自治体の現場において、行政と地域住民をつなぐまちづくりコーディネーターとして勤務経験を有する教員が地域での実践事例を交えながら、都市の空間制御に関する仕組みについて講義する。

【Outline (in English)】

【授業の概要（Course outline）】

In this lecture, we overview the system to control the space in the city.

【到達目標（Learning Objectives）】

By the end of the course, students should be able to do the followings:

A.Understanding the system that controls the formation of urban space

B.Recognizing the contemporary problems of urban space

【授業時間外の学習 (Learning activities outside of classroom)】

Your required study time is at least two hours for each class meeting.

【成績評価の方法と基準 (Grading Criteria /Policy)】

Grading will be decided based on Mid-term report (30%), and reports at each class(70%).

POL200AC

環境政策

西谷内 博美

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

単位数：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

環境政策について、対応する問題状況、国内の政策、そして国際動向を考察する。視点としては、政策の原則と手法、そしてアクターに注目する。テーマとしては、大気汚染、水環境、資源循環、気候変動、化学物質、生物多様性、そして SDGs の展開を扱う。

【到達目標】

- ・環境問題について、「偉い人がなんとかするだろう」ではなく自分ごととしてとらえることができる。
- ・環境問題の解決に向けた方策について、環境論や政策論の概念を用いて説明することができる。
- ・環境問題の代表的なトピックの、問題状況、国内政策、そして国際動向について概ね理解し、説明することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

同時双方型オンライン授業。授業形態は講義よりも、宿題（個人ワーク）と授業内でのグループワークがメインとなります。より具体的には、授業前学習において、宿題となるテーマやキーワードについて、テキストやその他の外部資料を用いて十分に学習してもらいます。授業内では、その知識をもちよりグループワークを実施することで、知識を定着させたり、理解を展開させたりします。毎授業回の最後にリアクションペーパーを書くことで、個々の学びを振り返り整理してもらいます。宿題とリアクションペーパーの回答はクラスで共有し、まとめてフィードバックします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	ガイダンス／ブレインストーミング	授業の内容と進め方を共有します。また、特定の問題事例について「誰が」「何を」とよいかを、ざっくりばらんにブレインストーミングします。
2	導入 1 環境の時間軸	本題に入る前に、環境問題と近代化の関係を確認しておきます。また南北問題もおさえておきます。
3	導入 2 国際環境政策	国際政策の前提となる政治的な国際秩序を確認しておきます。また特定の事例に即して、多国間環境協定の運用について理解を深めます。
4	環境政策の原則と手法	テキスト序論
5	大気汚染	テキスト第 1 章
6	水環境	テキスト第 2 章
7	中間試験・まとめと解説	前半の授業内容について中間試験を実施します。またピアインストラクション形式で答え合わせと解説を実施します。
8	廃棄物と資源循環	テキスト第 3 章
9	気候変動	テキスト第 4 章
10	化学物質	テキスト第 5 章
11	生物多様性	テキスト第 6 章
12	SDGs の概要	テキスト第 7 章
13	SDGs の取り組み	テキスト第 8・終章

14 期末試験・まとめと解説 後半の授業内容について期末試験を実施します。またピアインストラクション形式で答え合わせと解説を実施します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習はとりわけ重要です。テキストの指定された箇所を能動的に読み、十分に理解を深めてください（クリティカルリーディング）。また、指定されたキーワードについての宿題を実施し提出してください。その学習のためには、テキストのみならず、任意の外部資料にも当たって理解を深める必要があります。復習については、各回の授業内容について、十分に理解を深め定着させておいてください。

【テキスト（教科書）】

竹本和彦編, 2020, 『環境政策論講義——SDGs 達成に向けて』東京大学出版会。

【参考書】

倉坂秀史, 2014, 『環境政策論 第 3 版』信山社出版。

白井信雄, 2020, 『持続可能な社会のための環境論・環境政策論』大学教育出版。

吉田徳久, 2019, 『環境政策のクロニクル——水俣病問題からパリ協定まで』早稲田大学出版部。

【成績評価の方法と基準】

中間テスト 25 %、期末テスト 25 %、平常点 50 %。

平常点の内訳は以下の通り。配分は受講者数等に応じて調整する場合があります。

一宿題 25 %

一発言シートとグループワーク 15 %

一リアクションペーパー 10 %

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません

【学生が準備すべき機器他】

zoom 用のデバイス、カメラ、そしてマイク。発言機会が常時あるためマイクが必要です。また、グループワークは基本的にカメラ ON で実施してもらうためカメラも必要です。

【Outline (in English)】

【Course Outline】

In the field of environmental policy, this class will look into the problematic situation, national policies and international trends.

As regards points of view, we shall pay attention to the principles, techniques and actors of environmental policies.

As regards topics, we will address air pollution, the water system, waste and resources, climate change, chemicals, biodiversity and the SDGs.

【Learning objectives】

At the end of the course, students should be able to:

- ・consider environmental problems to be their own, rather than someone else's.

- ・can explain their views on environmental policy using terms and concepts derived from environmental policy theories.

- ・can explain the problematic situation, national policies and international trends of typical environmental problems.

【Learning activities outside of classroom】

Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter(s) from the text. Your required study time is at least one hour for each class meeting.

【Grading Criteria /Policies】

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

midterm and final examination: 25% each, class contribution: 50%.

The contribution point will be allocated as follows:

homework 25%, speak in class 10%, reaction paper 10%, groupwork 5%.

However, I may adjust the allocation of the point depending on circumstances such as the number of students attending the class.

POL200AC

都市の環境問題

松村 正治

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
単位数：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義で扱う範囲は、都市の中で発生する環境問題だけではなく、都市に伴う力が引き起こす地方や遠方の環境問題も扱います。こうした対象に迫るために、都市と環境に関わる社会学・都市計画学・地理学・歴史学・生態学など、複合領域の知見を取り入れます。都市と環境は対立的な概念と思われがちですが、本講義では、都市が環境問題を引き起こす必要悪とは捉えられません。環境問題を都市の問題として引き受け、どのような都市をつくれれば、誰ひとり取り残さない環境を実現できるのかを考えます。

【到達目標】

- ・環境問題とは何かについて、社会的に考えられるようになる。
- ・都市に伴う権力を理解し、さまざまな環境問題を都市の問題として認識できるようになる。
- ・環境-社会-経済というレイヤーで、環境問題の解決法を模索できるようになる。
- ・都市のあり方について具体的に考え行動することが面白いと思えるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

講義形式で授業をおこないます。基本的にシラバスに示した進めませんが、受講生の理解度や社会情勢の変化などによって変更することがあります。授業に用いる教材は学習支援システムを通して提供します。基本的に毎回リアクションペーパーを提出していただき、次の授業にフィードバックします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス／「環境問題」とは何か	本講義の進め方などを短く案内したあと、本講義でいう「環境問題」とは社会的に構築されるものであることを説明します。
2	都市の公害史・終わらない公害	都市の環境問題として「公害」に焦点を当て、おもに 1960 年代以降の公害史と今日の公害（光害・香害など）を紹介します。
3	都市と物質循環	物質循環の視点から、歴史的に都市を見つめます。江戸のリサイクル事情、東京ごみ戦争、NIMBY 問題、プラスチックごみ問題などを取りあげます。
4	都市と水循環	水循環の視点から都市について考えます。琵琶湖の水質汚濁、石けん運動、流域再生、都市型水害などを取りあげます。
5	都市の交通問題	都市内の交通問題と都市間の高速交通ネットワークの問題について考えます。宇沢弘文『自動車の社会的費用』、新幹線公害、リニア中央新幹線などを取りあげます。

6	「東京」にとっての水俣・福島	公害を象徴する水俣病事件と今世紀最悪の公害である福島第一原発事故による放射能汚染を、見田宗介『現代社会の理論』を参考にし、これを「東京」の都市問題として考えます。
7	グローバル化と環境正義	現在の都市環境がきれいになったとしても、都市から排出される廃棄物が地方に、遠方に、将来に運ばれているとしたら公正ではありません。その不公正をたず環境正義や、近年話題の気候正義について考えます。
8	首都圏の基地問題	首都圏にある立川・厚木・横須賀などの米軍基地がもたらす問題を取りあげ、なぜ敗戦から 80 年近く経過しても基地がなくならないのかを考えます。
9	都市と権力	都市は食料自給率が低いにもかかわらず、戦時中を除いて飢えることがありません。藤田弘夫『都市の論理』を参考にしながら、このような都市を支える権力構造について考えます。
10	都市再開発・ジェントリフィケーション	都市の再開発は環境の改善を目指すものですが、それによって行き場を失う人々が現れることがあります。批判的地理学の研究からジェントリフィケーションの議論を学びながら、誰ひとり取り残さない都市環境について考えます。
11	東京一極集中と脱成長	コロナがやや落ち着き、日本国内では東京一極集中の傾向が依然として見られます。この弊害を理解するとともに、脱成長や里山資本主義の議論を参考に、これからの日本の都市のありかたを考えます。
12	都市と農・里山コモンズ	かつて都市には農地は不要と言われていましたが、今日では都市の諸問題を解決する場として農的な役割が期待されています。都市農業、コミュニティガーデン、里山コモンズなど、最新の動向を取りあげます。
13	都市の生態学	都市は人間生活の利便性を高めるための空間に違いないですが、この中にはさまざまな生きものがいます。都市生態学の最新の知見を参照しながら、都市の生物多様性を高め方について考えます。
14	まとめにかえて：都市と分解	これまでの講義をふりかえりながら、分解という視点からあらためて都市を捉えます。その上で、誰ひとり取り残さない環境に向けて、どうすれば持続可能な都市を実現できるのかを考えます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業終了後に、授業をふりかえり、リアクションペーパーを提出してください。本講義に関連する参考図書を読むことを勧めます。

【テキスト（教科書）】

テキストは指定しません。

【参考書】

さらに深く学びたい場合、以下の参考書が助けになります（発行年順）。
宇沢弘文（1974）『自動車の社会的費用』岩波書店。
藤田弘夫（1993）『都市の論理：権力はなぜ都市を必要とするか』中央公論社。
見田宗介（1996）『現代社会の理論：情報化・消費化社会の現在と未来』岩波書店。

品田譲（2004）『ヒトと緑の空間：かわりの原構造』東海大学出版会。

デビッド・ハーヴェイ（2013）『反乱する都市：資本のアーバナイゼーションと都市の再創造』作品社。

宮内泰介編（2013）『なぜ環境保全是うまくいかないのか：現場から考える「順応的ガバナンス」の可能性』新泉社。

矢部宏治（2014）『日本はなぜ、「基地」と「原発」を止められないのか』集英社。

藤原辰史（2019）『分解の哲学：腐敗と発酵をめぐる思考』青土社。

セルジュ・ラトゥーシュ（2020）『脱成長』白水社。

飯田晶子・曾我昌史・土屋一彬（2020）『人と生態系のダイナミクス 3 都市生態系の歴史と未来』朝倉書店。

メノ・スヒルトハウゼン（2020）『都市で進化する生物たち：“ダーウィン”が街にやってくる』草思社。

安藤聡彦・林美帆・丹野春香編（2021）『公害スタディーズ：哀しみ、闘い、語りつく』ころから

岸由二（2021）『生きのびるための流域思考』筑摩書房。

新保奈穂美（2022）『まちを変える都市型農園 コミュニティを育む空き地活用』学生出版社

『世界』2021年3月号「特集 21世紀の公害」

リアクションペーパー（小テスト含む場合があります）：100%
 ※授業内容をまとめても評価できません。授業で取りあげた概念、方法論、事例などをもとに、何を考えたのかを評価します。

※授業中の発言内容によって加点することがあります。

【学生の意見等からの気づき】
 本年度授業担当者変更によりフィードバックできません

【その他の重要事項】
 【実務経験】大学の専任教員として、環境社会学・持続可能社会論などを教えました。環境コンサルタント会社・環境系行政研究機関に約5年勤務、環境NPO代表など市民活動の経験は20年以上。

【Outline (in English)】
 【Course Outline】

The scope of this lecture covers not only environmental problems that arise within cities, but also local and remote environmental problems caused by the power that accompanies cities. In order to approach these subjects, we will incorporate knowledge from multidisciplinary fields such as sociology, urban planning, geography, history and ecology related to cities and the environment. We take on environmental problems as urban problems and consider what kind of city can realise an environment where no one is left behind.

【Learning objectives】

- ・ Be able to think sociologically about what environmental problems are.
- ・ Be able to understand the power that comes with cities and to recognise various environmental problems as urban problems.
- ・ Be able to seek solutions to environmental problems on an environment-social-economic layer.
- ・ It becomes interesting to think and act specifically about how cities should be.

【Learning activities outside of classroom】

After the class, look back at the class and submit a reaction paper.

I recommend that you read a reference books.

【Grading Criteria /Policies】
 Reaction papers (may include quizzes): 100%

*Additional points may be given depending on what is said in class.

POL200AC

市民公益活動論

熊谷 紀良

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

単位数：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

公益をめざした事業や取り組みは、行政だけが行うものではありません。

市民が自分だけでなく他者のために、社会をより良くしたいと考えて取り組むものもまた、公益性をもった活動といえます。

市民が取り組むこのような活動は、社会課題の解決をめざして広がりや深まりをもって展開されています。

この授業では、ボランティアやNPOなど市民が参加する活動の成り立ちと発展、活動から見える社会課題や市民の活動上の課題など、具体的な事例を通して学び、社会における市民公益活動の意義やあり方を考察します。

【到達目標】

- ・公益について、非営利・市民セクターについて整理し、市民活動・公益活動の社会的意義と活動を支える仕組みや制度について理解する。
- ・市民の活動により取り組まれる社会的課題と取り組みの歴史と現状、アプローチの方法を理解し、考察することによって活動の意義と課題を知る。

- ・受講者自らが社会的課題と課題への取組みに関心をもち、調べ、仲間とともに考えることによって、主体性・連帯性・先駆性・非営利性の意味と意義を認識し理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

- ・各回毎に、テーマに沿った講義を行います。テーマによって、ボランティア・市民活動者によるゲストスピーチを取り入れます。

- ・各回毎に講義やゲストスピーチに関連した話し合いを小グループに分かれて行ない、グループで出た意見やワークの結果をリアクションペーパーにまとめて提出してもらいます。内容によっては、意見や結果を発表・共有してもらうことがあります。

- ・質問・意見については、講義のその場で、または次回の授業でコメントし振り返ります。また、振り返りから発展して、出された意見をもとに討議をすすめ、お互いで意見やアイデアを出し合い、学びを深めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション 「市民」とは・「公益」とは	授業の目標、内容、進め方について 市民社会と市民セクターについて
第 2 回	ボランティアとは何か	ボランティア活動の成り立ちと歴史 ボランティアの主体性、連帯性、無償性、先駆性
第 3 回	市民活動と非営利組織（NPO）への展開	NPOの意味と歴史 多様な組織形態と法制度、法人格
第 4 回	社会課題への取り組み①	地域の福祉問題（高齢、障害、子ども・子育て）と向き合うボランティア・NPOの実践事例から
第 5 回	社会課題への取り組み②	環境問題（ごみ、河川・森林保全、気候変動）と向き合うボランティア・NPOの実践事例から

第 6 回	社会課題への取り組み③	外国にルーツをもつ人たちが抱える問題・多文化共生や国際協力に取り組むボランティア・NPOの実践事例から
第 7 回	社会課題への取り組み④	貧困・格差・孤立がもたらす問題（路上生活、自死、DV、マイノリティ）と向き合うボランティア・NPOの実践事例から
第 8 回	社会課題への取り組み⑤	子ども食堂・地域の中の居場所づくり活動の広がりや実践事例から
第 9 回	社会課題への取り組み⑥	災害ボランティアと災害に備えたNPO・広範な団体のネットワークと実践事例から
第 10 回	市民公益活動を支える制度とNPO・行政の協働	市民活動・NPOと行政との協働形態（参画、共催、補助、委託）と条例、協定、協約
第 11 回	多様な団体による社会課題解決のための参加と協働	企業、学校、地縁組織や各種団体、専門家等によるプラットフォームと連携・協働
第 12 回	参加と協働をすすめる「中間支援組織」とは	中間支援組織の意義と役割、実態 中間支援機能の広がりへの期待
第 13 回	授業の振り返りと発表①	授業の振り返り・半期を通じて調べてきた市民公益活動と参加と協働を支える制度についての発表
第 14 回	授業の振り返りと発表②・まとめ	授業の振り返り・半期を通じて調べてきた市民公益活動と参加と協働を支える制度についての発表、発表をふまえたまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・各回ともレジュメ（スライド資料等）を配布するので、授業後に各自で授業内容を振り返り内容をよく理解し、自分なりの考えを整理してください。疑問点や感想・意見についてリアクションペーパーにて提出してください。

- ・欠席した場合も授業支援システムからレジュメをダウンロードして授業内容を把握しておいてください。

- ・各自で、関心のある分野のボランティア・NPOの事例をインターネットやボランティア・市民活動・NPO支援センター等で情報収集したり、活動に体験参加してみることをお勧めします。

【テキスト（教科書）】

テキストは指定しません。

【参考書】

授業の中でテーマに関連する資料や参考書を紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業中の発言、リアクションペーパーの提出、グループ討議を含む参加姿勢など）：40%

テスト・レポート：60%

なお、原則として、4回以上欠席した者は、成績評価を行いません。

【学生の意見等からの気づき】

本年度新規科目につきアンケートを実施していません。

【学生が準備すべき機器他】

特にありません。

【その他の重要事項】

現在までに20年以上、中間支援組織であるボランティア・市民活動センターにて、ボランティアへの参加、NPOなど市民活動団体の設立・運営支援、社会課題に取り組むネットワーク運営などを行ってきました。活動での経験をもとに、具体的な事例や体験談を交えて授業を行います。

【Outline (in English)】

公益をめざした事業や取り組みは、行政だけが行うものではありません。

市民が自分だけでなく他者のために、社会をより良くしたいと考えて取り組むものもまた、公益性をもった活動といえます。

市民が取り組むこのような活動は、社会課題の解決をめざして広がりや深まりをもって展開されています。

この授業では、ボランティアやNPOなど市民が参加する活動の成り立ちと発展、活動から見える社会課題や市民の活動上の課題など、具体的な事例を通して学び、社会における市民公益活動の意義やあり方を考察します

POL300AC

外国書講読（中国語） I

黄 偉修

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

単位数：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「言語は生き物、進化する物」と言われていますが、その言語を使う国における政治、経済、社会、文化などの要因が、言語の「生き方」「進化」に影響を与えたのです。この授業は、毎回時事的な中国語、具体的には雑誌及び新聞記事の講読を行います。また、中国大陸に限らず、台湾と香港などでも中国語が使用されているため、中国語圏の文献を幅広く使用します。履修者が読解には必要な力を身に付けることは本講の主な目的です。また、履修者が文献を通じて中国語圏全体への理解を深めることも本講の重要な目的ですので、中国語圏の事情に興味のある学生、これから中国語圏の事情について学びたい学生の履修を歓迎します。

【到達目標】

- ①辞書さえあれば中国語の新聞や雑誌の内容が理解できる能力を身に付けます。
- ②中国語の文献を通じて中国語圏の政治、経済、社会、文化などに対する理解を深めます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP3」、「DP4」に強く関連。

【授業の進め方と方法】

- ①辞書の持参：必ず辞書を持参してください。電子辞書も可。
- ②授業の進行：文献の意味内容の把握（教員による専門用語・文法の解説、音読）→文献の検討（教員の解説、受講者の質問、議論）→感想文の提出
- ③教員は受講者の能力や関心の方向に応じて文献・補足の教材・解説に柔軟に調整し、工夫します。
- ④課題に対するフィードバックの方法：感想提出後に学習支援で学生に対して個別に、あるいは次回の授業の初めに全体に対してフィードバックを行います。また、最終授業で、13回までの講義内容のまとめ、復習、講評、解説を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンスおよびブレースメントテスト	①授業方針などを説明します。 ②学生の中国語力を確認するために簡単な試験を行います（成績評価基準に含みません）。辞書を必ず持参してください。 ③中国語検定の合格証明書を持っていれば持ってきてください。 ④ブレースメントテストの解説を行います
第 2 回	中国語教材の読解	文献の読解。
第 3 回	中国語教材の読解	同上
第 4 回	中国語教材の読解	同上
第 5 回	中国語教材の読解	同上
第 6 回	中国語教材の読解	同上
第 7 回	中国語教材の読解	同上
第 8 回	中国語教材の読解	同上
第 9 回	中国語教材の読解	同上
第 10 回	中国語教材の読解	同上
第 11 回	中国語教材の読解	同上
第 12 回	中国語教材の読解	同上
第 13 回	中国語教材の読解	同上

第 14 回 総括

期末課題の回収と今学期の授業の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ①授業に出席するだけでは語学は身に付きません。今まで学んだ文法と単語を繰り返して復習してください。
- ②中国を中心とするアジアに関する記事（日本語の記事も可）を読む習慣を身につけてください。
- ③本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は特に指定しません。担当教員が中華圏を紹介する文献、必要な参考資料を受講者の中国語能力と希望、興味関心などを考慮して印刷・配布します。

【参考書】

各自の持っている日中・中日辞書

【成績評価の方法と基準】

課題（50%）、授業内での議論への参加（50%）を評価します。

【学生の意見等からの気づき】

記事の内容が難しいという意見が時にありましたが、外国語を学ぶことは、言葉を通して自分の知らない世界を知ることにつながります。そのため、はじめは時に難しい単語、わからない分野の知識が多くて骨が折れます。しかし、身に付けば自分の世界が広がります。担当教員が柔軟に調整・工夫していきますので、一緒に頑張りましょう。

【その他の重要事項】

学習支援システムを通じて随時お知らせします。

【Outline (in English)】

This course will offer students a series of literature from the Chinese world (Taiwan, Hong Kong, and China). The goal of this course is to enable students to not only comprehend the usage of Chinese vocabulary at progressively higher levels, but also to also enhance their ability to translate simple phrases (from Chinese to Japanese). Additionally, this course will provide students with a basic understanding of the Chinese world through literature. This course's goals will be accomplished by the student's ability to apply a basic core of reading skills (e.g. skimming and making inferences).

POL300AC

外国書講読（中国語）Ⅱ

黄 偉修

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

単位数：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「言語は生き物、進化する物」と言われていますが、その言語を使う国における政治、経済、社会、文化などの要因が、言語の「生き方」「進化」に影響を与えたのです。この授業は、毎回時事的な中国語、具体的には雑誌及び新聞記事の講読を行います。また、中国大陸に限らず、台湾と香港などでも中国語が使用されているため、中国語圏の文献を幅広く使用します。履修者が読解には必要な力を身に付けることは本講の主な目的です。また、履修者が文献を通じて中国語圏全体への理解を深めることも本講の重要な目的ですので、中国語圏の事情に興味のある学生、これから中国語圏の事情について学びたい学生の履修を歓迎します。

【到達目標】

- ①辞書さえあれば中国語の新聞や雑誌の内容が理解できる能力を身に付けます。
- ②中国語の文献を通じて中国語圏の政治、経済、社会、文化などに対する理解を深めます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP3」、「DP4」に強く関連。

【授業の進め方と方法】

- ①辞書の持参：必ず辞書を持参してください。電子辞書も可。
- ②授業の進行：文献の意味内容の把握（教員による専門用語・文法の解説、音読）→ 文献の検討（教員の解説、受講者の質問、議論）→ 感想文の提出
- ③教員は受講者の能力や関心の方向に応じて文献・補足の教材・解説に柔軟に調整し、工夫します。
- ④課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法：感想提出後に学習支援システムで学生に対して個別に、あるいは次回の授業の初めに全体に対してフィードバックを行います。また、最終授業で、13 回までの講義内容のまとめ、復習、講評、解説を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンスおよびブレースメントテスト	①授業方針などを説明します。 ②学生の中国語力を確認するために簡単な試験を行います（成績評価基準に含みません）。辞書を必ず持参してください。 ③中国語検定の合格証明書を持っていれば持ってきてください。 ④ブレースメントテストの解説を行います。
第 2 回	中国語教材の読解	文献の読解。
第 3 回	中国語教材の読解	同上
第 4 回	中国語教材の読解	同上
第 5 回	中国語教材の読解	同上
第 6 回	中国語教材の読解	同上
第 7 回	中国語教材の読解	同上
第 8 回	中国語教材の読解	同上
第 9 回	中国語教材の読解	同上
第 10 回	中国語教材の読解	同上
第 11 回	中国語教材の読解	同上
第 12 回	中国語教材の読解	同上
第 13 回	中国語教材の読解	同上

第 14 回 試験・総括

期末課題の回収と今学期の授業の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ①授業に出席するだけでは語学は身に付きません。今まで学んだ文法と単語を繰り返して復習してください。
- ②中国を中心とするアジアに関する記事（日本語の記事も可）を読む習慣を身につけてください。
- ③本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は特に指定しません。担当教員が中華圏を紹介する文献、必要な参考資料を受講者の中国語能力と希望、興味関心などを考慮して印刷・配布します。

【参考書】

各自の持っている日中・中日辞書

【成績評価の方法と基準】

期末課題（50 %）、授業内での議論への参加（50 %）を評価します。

【学生の意見等からの気づき】

記事の内容が難しいという意見が時にありましたが、外国語を学ぶことは、言葉を通して自分の知らない世界を知ることにつながります。そのため、はじめは時に難しい単語、わからない分野の知識が多くて骨が折れます。しかし、身に付けば自分の世界が広がります。担当教員が柔軟に調整・工夫していきますので、一緒に頑張りましょう。

【その他の重要事項】

学習支援システムを通じて随時お知らせします。

【Outline (in English)】

This course will offer students a series of literature from the Chinese world (Taiwan, Hong Kong, and China). The goal of this course is to enable students to not only comprehend the usage of Chinese vocabulary at progressively higher levels, but also to also enhance their ability to translate simple phrases (from Chinese to Japanese). Additionally, this course will provide students with a basic understanding of the Chinese world through literature. This course's goals will be accomplished by the student's ability to apply a basic core of reading skills (e.g. skimming and making inferences).

LAW300AB

知的財産法Ⅲ

武生 昌士

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

単位数：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は、知的財産法に分類される法律のうち、「ブランド」の保護などに関連する、いわゆる「標識法」に分類される法制度（商標法及び不正競争防止法の一部）について一通り学ぶことを目的とする。これらの法律はいずれも民法の特別法に位置付けられるほか、消費者法や行政法、独占禁止法とも関連を有するものであり、「裁判と法コース」、「企業・経営と法コース（商法中心）」、「同（労働法中心）」、「文化・社会と法コース」における学習の最終段階において受講すべき応用的な科目のひとつである。

【到達目標】

知的財産法のうち、いわゆる標識法に分類される法制度について、一通りの体系的理解及び主要な論点における基本的な考え方を身に付けてもらうことにより、今後関連する問題に直面した際に、自分で調査し考えることができるだけの基礎的素養を涵養することを目標とする。

より具体的には、第一に、標識法を理解する上で重要な基礎的な概念について十分に理解し、その内容を正確に示すことができるようになることを目標とする。

第二に、標識法が問題となる具体的な事例（紛争）について、不正競争防止法・商標法を適用するとどのような帰結が導かれる（解決が図られる）こととなるのかを、裁判例・学説の理解の前提に立った上で示すことができるようになることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

この講義では、標識法に関する法制度としてどのようなものが設けられているのかを、具体的な裁判例にも触れながら、講義形式で一通り説明していく。

下記授業計画に示した形での講義を予定しているが、順序や内容については必要に応じ変更する可能性がある。

質問等は出席票・メール・学習支援システムを通じて受け付けるほか、授業前後に直接口頭で質問していただいても構わない。フィードバックは個別に、ある

いは次回授業の冒頭に全体に対して、行うこととしたい。期末試験に関しては、学習支援システムを通じて講評を行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス・知的財産法の概要	本講義の概要説明、知的財産法の全体像
第 2 回	標識法概説・不正競争防止法総説	標識法の概説、不正競争防止法の全体像
第 3 回	混同惹起行為の規律 (1)	不競法 2 条 1 項 1 号の趣旨及び要件
第 4 回	混同惹起行為の規律 (2)	不競争 2 条 1 項 1 号の要件
第 5 回	混同惹起行為の規律 (3)	不競法 2 条 1 項 1 号の要件及び効果
第 6 回	著名表示冒用行為の規律 (1)	不競法 2 条 1 項 2 号の趣旨及び要件
第 7 回	著名表示冒用行為の規律 (2)	不競法 2 条 1 項 2 号の要件及び効果

第 8 回 不競法のその他の関連 不競法 2 条 1 項 19 号等の概説規定

第 9 回 商標法総説 商標法の全体像

第 10 回 商標の登録要件 (1) 積極的登録要件

第 11 回 商標の登録要件 (2) 消極的登録要件

第 12 回 商標権の保護範囲 商標権の内容、商標の類似性など

第 13 回 商標権の制限 権利行使が制限される場合について

第 14 回 まとめ 授業全体の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回の終了時に、次回までに予習すべき資料等を指定する場合がありますので、一読した上で授業に臨むこと。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教科書は特に指定しない。なお、六法を持参するなどして、不正競争防止法等の条文を確認できる状態で授業に臨んでほしい。

【参考書】

田村善之『知的財産法〔第 5 版〕』（有斐閣、2010）、茶園成樹編『知的財産法入門〔第 3 版〕』（有斐閣、2020）、愛知靖之ほか『知的財産法〔第 2 版〕』（有斐閣、2023）など。

詳細は開講時に改めて、また授業中にも適宜、指示する。

【成績評価の方法と基準】

期末試験により評価する（期末試験 100 %）。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

講義資料は印刷したものを教室で配布するほか、学習支援システムからも利用できるようにする予定である。

【その他の重要事項】

民法（特に不法行為法）や消費者法、行政法、経済法、民事訴訟法、知的財産法（特許法・著作権法）などの科目を履修済みか、並行して履修することが好ましいが、初学者にもわかりやすい講義を心掛けたい。

【Outline (in English)】

【授業の概要（Course outline）】

This course covers the basics of Trademark Protection in Japan with attention to fundamental case law.

【到達目標（Learning Objectives）】

By the end of the course, students should be able to :

— Demonstrate knowledge and understanding of Trademark Protection.

【授業時間外の学習（Learning activities outside of classroom）】

Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.

【成績評価の方法と基準（Grading Criteria /Policy）】

Your overall grade in the class will be decided based on Term-end examination (100%).

LAW200AB

法律学特講（憲法哲学）

金井 光生

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
単位数：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「文化・社会と法コース」と密接な関連を有する科目です。本講義では、諸々の市民の法的な物語群（narratives）に支えられた共同の文化作品として「憲法」を捉えて、人間の存在の constitution に照応した国家の constitution として、憲法をナラティブ論の観点から哲学的解釈学的に解明し、立憲主義の普遍的な精神的基礎を哲学的人間学的に探究します。

その際は、憲法物語として、多彩なテキスト（文芸作品、宗教聖典、戦争文学、東日本大震災と福島原発事故の記録 etc.）を読解しながら、「法の支配」「立憲主義」の思想を読み取り、多様な人間の平和的共生のための「希望」のよすがとして、1946 年日本国憲法の記憶を thoughtful に思索していきます。

単なる実定法解釈学以上の憲法の魂に触れたい人、せっかく大学に入ったのだから本格的な学芸としての法の醍醐味を味わいたい人、または、大学に来てしまった者の責任として「学芸としての法」をじっくり思索したい人の受講を求めます。

【到達目標】

- (1) 基本的な論点を理解できる。
- (2) テキストの基本的な読解ができる。
- (3) 立憲主義をめぐる主要な思想を「自分の言葉で」物語ることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

基本的に講義形態です。教科書に加えてレジュメ等を配布します。本講義は実験的なものです。毎年度、授業の後半に取り上げるテキストは異なります。今年度は、『仏典（仏教経典）』を中心に引き上げ、憲法ナラティブズの観点から憲法哲学的に読解していく予定です（昨年度は『聖書』を取り上げました）。宗教としてではなく、「法思想」との関連でその象徴的意味を解釈していきます。

ただし、下記【授業計画】はあくまで予定であり、受講者との対話的応答の中で、内容は変更する場合があります。大学の授業は学生のみならずとも思索しながら、その都度の対話的探究の中で共同制作していくものですから。

そのためにも、適時にリアクションペーパーやレポートを課すことで理解度を測り、その後の授業で、リアクションペーパーについては応答し、レポートについては講評することで、フィードバックします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス：「憲法哲学」ということ	憲法物語群（ナラティブズ）と立憲的信
第 2 回	法とナラティブズ①	法と文学
第 3 回	法とナラティブズ②	法と物語の哲学
第 4 回	法とナラティブズ③	法と哲学的解釈学
第 5 回	小括	言霊と神話と法
第 6 回	憲法物語①	インド思想とダルマ
第 7 回	憲法物語②	シャカ思想と仏教入門
第 8 回	憲法物語③	初期仏典
第 9 回	憲法物語④	般若経典類
第 10 回	憲法物語⑤	浄土三部経類

第 11 回	憲法物語⑥	華嚴経類
第 12 回	憲法物語⑦	法華経類
第 13 回	憲法物語⑧	密教経典類
第 14 回	まとめ：全世界の国民の平和的生存権	「ナラティブ」としての 1946 年日本国憲法と、カフカ「法の前で」

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- (1) 該当箇所での予習・復習をする
- (2) 図書館を徹底的に活用する（参考書など）
- (3) 本講義や関連科目の学びを自分の生き方や将来の職業にいかす
*本授業の準備・復習時間は「各 2 時間」を標準とします。

【テキスト（教科書）】

島蘭進『宗教を物語でほどく——アンデルセンから遠藤周作へ』（NHK 出版新書、2016 年）

【参考書】

中村元『中村元の仏教入門』（春秋社、2014 年）
平川宗信『憲法的刑法学の展開——仏教思想を基盤として』（有斐閣、2014 年）
B.R. アンバードカル（山際素男訳）『ブッダとそのダンマ』（光文社新書、2004 年）
島蘭進『日本仏教の社会倫理』（岩波現代文庫、2022 年）
H. アーレント（大久保和郎訳）『エルサレムのアイヒマン（新版）』（みすず書房、2017 年）
大野達司ほか『近代法思想史入門』（法律文化社、2016 年）
大和田雅人『憲法とみやぎ人』（河北新報社、2018 年）
奥平康弘『「憲法物語」を紡ぎ続けて』（かもがわ出版、2015 年）
H.-G. ガダメー（轡田収ほか訳）『真理と方法（全 3 巻）』（法政大学出版局、1986-2012 年）
金井光生『フクシマで日本国憲法〈前文〉を読む』（公人の友社、2014 年）
来栖三郎『法とフィクション』（東京大学出版会、1999 年）
小森陽一『ことばの力 平和のちから』（かもがわ出版、2006 年）
柴田哲雄『フクシマ・抵抗者たちの近現代史』（彩流社、2018 年）
R. ドゥオーキン（小林公訳）『法の帝国』（未来社、1995 年）
夏目漱石『私の個人主義』（講談社学術文庫、1978 年）
野家啓一『物語の哲学』（岩波現代文庫、2005 年）
林田清明『《法と文学》の法理論』（北海道大学出版会、2012 年）
渡邊二郎『構造と解釈』（ちくま学芸文庫、1994 年）
東京電力福島原子力発電所事故調査委員会『国会事故調報告書』（徳間書店、2012 年）

【成績評価の方法と基準】

「到達目標」の達成の度合いに応じて評価します。
平常点・リアクションペーパー（30%）＋期末試験またはレポート課題（70%）

【学生の意見等からの気づき】

「この授業の学習内容が他の法律学や日々の生活にリンクすることも多く、今後の就職や人生にも有益で、難解だが面白かった」等のアンケートを踏まえて、一層レジュメや資料等を改良した。

【Outline (in English)】

【Course outline】

We read the constitutional narratives as major literary works etc., because a Constitution is also a constitutional narrative. We think thoughtfully The Constitution (of Japan) who is supported by peoples' narratives representing constitutional faiths.

【Learning Objectives】

The goals of this course are to understand the basic issues and think them thoughtfully.

【Learning activities outside of classroom】

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

【Grading Criteria / Policy】

Your overall grade in the class will be decided based on the following,

Term-end examination or term-end report: 70%, Short reports: 30%.

POL300AC

政治学特殊講義 I (現代の政治理論)

面 一也

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
 単位数：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

近年、デモクラシーの危機が唱えられている。実際に、議事堂襲撃(アメリカ、ブラジル)や国家転覆計画(ドイツ)を企てた、反デモクラシー的な政治勢力が、世界各地で台頭している。日本においても、投票率の低下や国会審議の形骸化など、デモクラシーの機能不全が長く続いている。果たして、デモクラシーに未来はあるのか？

これらの問題を捉えるには、出来事をただ表面的に追いかけるのではなく、理論的なアプローチが不可欠である。この授業では、デモクラシーを考える上で重要な複数の政治理論をそれぞれ体系的に学びながら、デモクラシーはそもそも望ましい政治体制なのかどうか、それが問題や限界を抱えているなら、より望ましい政治体制はどのようなものなのか、といった問いについて考察していく。

【到達目標】

1. F・ニーチェ、C・シュミット、H・アーレントの政治理論を、それぞれ体系的に学習する。
2. デモクラシーをめぐる上記の三人による議論を理解する。
3. デモクラシーの未来について理論的に考察する力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に強く関連。「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

講義形式で行なう。リアクションペーパーの提出(2～3回)を予定している。リアクションペーパー実施後の授業時に、提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】あり/Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の概要と進め方、教材などについて。
2	フリードリヒ・ニーチェ 1	文体の技法、キリスト教道徳への批判
3	ニーチェ 2	近代デモクラシーへの批判
4	ニーチェ 3	末人と超人
5	ニーチェ 4	大いなる政治
6	カール・シュミット 1	政治的なものの概念 一友と敵の区別—
7	シュミット 2	リベラル・デモクラシーと近代社会への批判
8	シュミット 3	権威体制の擁護
9	シュミット 4	ナチズムへの関与
10	ハンナ・アーレント 1	活動、自由、公的空間
11	アーレント 2	全体主義への批判
12	アーレント 3	人間の条件：近代の価値転倒
13	アーレント 4	公的空間の再興—それが不可能なら—
14	期末筆記試験	まとめと解説

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

復習に力点を置くことを勧める。ノートと引用資料をよく読み返し、自らの考察を簡単に書き留めておくことよい。初回授業時に詳しく説明するが、成績評価に際しても考察を重視する。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト(教科書)】

授業時に配布する引用資料を主に用いる。

【参考書】

藤原保信、飯島昇藏編著『西洋政治思想史Ⅱ』新評論、1995年。
 杉田敦、川崎修編著『西洋政治思想資料集』法政大学出版局、2014年。

【成績評価の方法と基準】

期末試験(70%)、リアクションペーパー(30%)。

【学生の意見等からの気づき】

授業外の発展学習をいっそう促す授業内容を心がけたい。

【Outline (in English)】

In recent years, there have been calls for a crisis of democracy. In fact, anti-democratic political forces have emerged in many parts of the world, plotting to storm the Capitol (in the U.S. and Brazil) and to overthrow the state (in Germany). Also in Japan, democracy has been dysfunctional for a long time, as evidenced by the declining voter turnout and the disorganization of parliamentary deliberations. Does democracy really have a future?

In order to grasp these issues, it is essential to take a theoretical approach rather than merely following events superficially. In this course, we will systematically study several political theories that are important for thinking about democracy, and consider questions such as whether democracy is a desirable political system in the first place, and if it has problems and limitations, what kind of political system would be more desirable.

POL300AC

政治学特殊講義Ⅱ（現代の政治理論）

面 一也

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

単位数：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

私たちは自由な社会で生きている、とされる。実際に、日本を含む多くの国家が採用する政治体制では、思想や言論などの諸自由が、憲法によって保障されている。しかし他方で、虐待や同調圧力やブラック労働など、およそ自由と相容れない事態も、私たちの社会に広く見られる。これらの事態は、たんに自由に反するだけでなく、自由な社会それ自体を原因とする、皮肉かつ逆説的な結果ではないのか…？

これらの問題を捉えるには、出来事をただ表面的に追いかけるのではなく、理論的なアプローチが不可欠である。この授業では、自由を考える上で重要な複数の政治理論をそれぞれ体系的に学びながら、私たちは本当に自由な社会で生きているのか、それが問題や限界を抱えているなら、それはどのように（または、そもそも）克服されるのか、といった問いについて考察していく。

【到達目標】

1. J・ベンサム、M・フーコー、J・ロールズの政治理論を、それぞれ体系的に学習する。
2. 自由をめぐる上記の三人による議論を理解する。
3. 自由な社会の未来のあり方について、理論的に考察する力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に強く関連。「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

講義形式で行なう。リアクションペーパーの提出（2～3回）を予定している。リアクションペーパー実施後の授業時に、提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の概要と進め方、教材などについて。
2	ジェレミー・ベンサム 1	功利主義の成立：T・ホップズ、J・ロック、A・スミスとの関連から
3	ベンサム 2	個人の利益と社会の利益の調和…？
4	ベンサム 3	人民主権と集権体制
5	ベンサム 4	快楽と個性：J・S・ミルによる批判
6	ミシェル・フーコー 1	“真理”を語る者は誰か？：近代批判としての系譜学的問い
7	フーコー 2	規律=訓練テクノロジー：権力への自発的服従
8	フーコー 3	司牧者権力と生政治：知と権力の結託による生の監視
9	フーコー 4	近代への抵抗：新しい主体の可能性
10	ジョン・ロールズ 1	正義論の構想：ベトナム戦争や人種差別への反対、功利主義の克服

11	ロールズ 2	正義の二原理：リベラル・デモクラシーと福祉国家の擁護
12	ロールズ 3	正義論をめぐる論争：新自由主義による批判を中心に
13	ロールズ 4	正義論の国際社会への適用：永遠平和のための正しい戦争、人道的介入、核武装
14	期末筆記試験	まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

復習に力点を置くことを勧める。ノートと引用資料をよく読み返し、自らの考察を簡単に書き留めておくことよい。初回授業時に詳しく説明するが、成績評価に際しても考察を重視する。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

授業時に配布する引用資料を主に用いる。

【参考書】

藤原保信、飯島昇藏編著『西洋政治思想史Ⅱ』新評論、1995年。
杉田敦、川崎修編著『西洋政治思想資料集』法政大学出版社、2014年。

【成績評価の方法と基準】

期末試験（70%）、リアクションペーパー（30%）。

【学生の意見等からの気づき】

授業外の発展学習をいっそう促す授業内容を心がけたい。

【Outline (in English)】

It is said we live in a free society. In fact, in the political systems adopted by many nations, including Japan, freedom of thought, speech, and other freedoms are guaranteed by the Constitution. However, there are many situations in our society that are incompatible with freedom, such as abuse, peer pressure, black labor, etc. These situations are not only contrary to freedom, but are ironic and paradoxical consequences of a free society itself…?

In order to grasp these issues, it is essential to take a theoretical approach rather than merely following events superficially. In this course, we will systematically study each of the political theories that are important for thinking about freedom, and consider questions such as: do we really live in a free society, and if it has problems and limitations, how (or whether) can they be overcome?

LAW200AB

憲法Ⅳ

小川 亮

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

単位数：2 単位

備考（履修条件等）：クラス指定科目 ※法律 2 年 H-N・3 年以上全

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「行政・公共政策と法」コースに位置づけられる科目として、日本国憲法のトピックのうち、違憲審査制、安全保障、財政などの論点について講義を行います。授業では、哲学的な視点も踏まえながら、近代立憲主義とその現代の変容という視点から、日本国憲法がどのような民主主義および立憲主義のあり方を想定しているのかを学んでいきます。

【到達目標】

憲法の基本的概念について、多くの学説に共有されている理解を説明することができるようになる。

憲法に関する基本的判例の知識を習得する。

憲法に関する議論を批判的に検討できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に強く関連。

【授業の進め方と方法】

本授業は講義形式で行います。レジュメや資料を適宜配布し、レジュメに沿って進行します。レジュメの中に「問い」を立てて、適宜、皆さんに質問します。グループディスカッションも行うことがあります。

また、授業の中盤に、憲法学の論文を読む回を設けます。受講生の皆さんには、その際に、コメントペーパーを作成していただきます。詳細については第一回において説明します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンスと違憲審査制（1）	ガイダンス及び違憲審査制の基礎
2	違憲審査制（2）	違憲審査の要件
3	違憲審査制（3）	論証責任論
4	違憲審査制（4）	違憲審査の方法
5	違憲審査制（5）	違憲審査の効力と憲法判例の意義
6	違憲審査の演習	これまでの復習及び問題演習
7	憲法解釈方法論（1）	言葉の意味に対する懐疑論とその応答
8	憲法解釈方法論（2）	憲法の解釈方法
9	安全保障（1）	憲法9条の解釈とその変遷
10	安全保障（2）	憲法9条解釈の実質的根拠
11	安全保障（3）	安全保障を巡る現代的課題と憲法
12	憲法学の論文を読む	憲法学の論文を一本読みます。受講生には全員、コメントペーパーを出していただきます。
13	財政	財政民主主義及び財政に関する憲法的論点
14	期末試験	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業に関連する参考書、判例などを事前に読み、授業に臨むようにします。また授業後は、配布されたレジュメや資料を読み直し、理解不十分だった事項については自ら調べるようにします。

新聞その他のメディアにおける政治問題や社会問題に関心をもって、憲法の観点から考えてみます。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

六法長谷部恭男・石川健治・宍戸常寿編『憲法判例百選Ⅰ・Ⅱ』第7版（有斐閣、2019年）

【参考書】

芦部信喜（高橋和之補訂）『憲法』第7版（岩波書店、2019年）

佐藤幸治『日本国憲法論』（成文堂、2011年）

野中俊彦・中村睦男・高橋和之・高見勝利『憲法Ⅱ』第5版（有斐閣、2012年）

辻村みよ子『憲法』第6版（日本評論社、2018年）

高橋和之『立憲主義と日本国憲法』第5版（有斐閣、2020年）

元山建・建石真公子編『現代日本の憲法』第2版（法律文化社、2016年）

渡辺康行・宍戸常寿・松本和彦・工藤達朗『憲法Ⅱ 総論・統治』（日本評論社、2020年）

など

【成績評価の方法と基準】

期末試験（70%）及びアクティブラーニング（30%）により評価します。後者の評価方式については初回に説明します。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません

【学生が準備すべき機器他】

毎回のレジュメや資料は学習支援システム上にアップします。コメントペーパーは学習支援システムにアップロードしていただきます。

【Outline (in English)】

This course will focus mainly on the issues of the constitutional review system, the fiscal system, and the national security under the Constitution of Japan.

At the end of the course, students are expected to develop the ability to think and judge political issues in Japan from a legal perspective

Before and after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Final grade will be calculated according to the following process: Active Learning: 30%; Final Exam: 70%

LAW200AB

憲法Ⅲ

小川 亮

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

単位数：2 単位

備考（履修条件等）：クラス指定科目 ※法律 2 年 H-N・3 年以上全

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は、「行政・公共政策と法」コースに位置づけられるものとして、憲法の統治機構の諸問題を扱います。立法、行政、司法という水平的権力分立と中央と地方という垂直的権力分立の二つの側面から、日本の統治機構のあり方を勉強します。

【到達目標】

憲法の基本的概念について、多くの学説に共有されている理解を説明することができるようになる。

憲法に関する基本的な判例に関する知識を習得する。

憲法に関する議論を批判的に検討できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に強く関連。

【授業の進め方と方法】

本授業は講義形式で行います。レジュメや資料を適宜配布し、レジュメに沿って進行します。レジュメの中に「問い」を立てて、適宜、皆さんに質問します。グループディスカッションも行うことがあります。

また、授業の中盤に、憲法学の論文を読む回を設けます。受講生の皆さんには、その際に、コメントペーパーを作成していただきます。詳細については第一回において説明します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンスと本講義の序論	授業の進め方について 国家はなぜ正統なのか
2	権力分立と天皇制	日本国憲法における権力分立制の枠組と日本国憲法下の天皇制の位置づけ
3	国民主権	国民主権の意味
4	選挙	日本国憲法下の選挙制度とその諸問題
5	国会（1）	国会の権限と活動
6	国会（2）	国会議員の地位
7	内閣（1）	日本国憲法における議院内閣制と内閣の権限を巡る諸問題
8	内閣（2）	総理大臣の地位と権限
9	憲法学の論文を読む	憲法学の論文を一本読みます。受講生には全員、コメントペーパーを出していただきます。
10	裁判所（1）	司法の機能
11	裁判所（2）	司法権の限界
12	裁判所（3）	裁判所の組織と司法権の独立
12	地方自治	地方自治を巡る諸問題
14	期末試験	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で挙げる参考書を事前に読んで授業に臨みます。また授業後は、配布されたレジュメや資料を読み直し、関連判例などを自分で調べるようにします。

新聞その他のメディアにおける政治問題に関心をもって、憲法との関連で考えてみるようにします。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

長谷部恭男・石川健治・宍戸常寿編『憲法判例百選Ⅰ・Ⅱ』第7版（有斐閣、2019年）

【参考書】

芦部信喜（高橋和之補訂）『憲法』第7版（岩波書店、2019年）

佐藤幸治『日本国憲法論』（成文堂、2011年）

野中俊彦・中村睦男・高橋和之・高見勝利『憲法Ⅱ』第5版（有斐閣、2012年）

辻村みよ子『憲法』第6版（日本評論社、2018年）

高橋和之『立憲主義と日本国憲法』第5版（有斐閣、2020年）

元山建・建石真公子編『現代日本の憲法』第2版（法律文化社、2016年）

渡辺康行・宍戸常寿・松本和彦・工藤達朗『憲法Ⅱ 総論・統治』（日本評論社、2020年）

長谷部恭男・石川健治・宍戸常寿編『憲法判例百選Ⅰ・Ⅱ』第7版（有斐閣、2019年）

【成績評価の方法と基準】

定期試験（70%）及びアクティブラーニングへの参加度（30%）により評価します。後者の評価方式については初回に説明します。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません

【学生が準備すべき機器他】

毎回のレジュメや資料は学習支援システム上にアップします。コメントペーパーは学習支援システムにアップロードしていただきます。

【Outline (in English)】

This lecture will focus on the issues of government institutions. At the end of the course, students are expected to understand the relationship between democracy and Constitutionalism.

Before and after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Final grade will be calculated according to the following process: Active Learning: 30%; Final Exam: 70%

LAW200AB

法律学特講 (コンテンツビジネスの実相と知的財産権)

安田 和史

授業形式：講義 | 開講semester：秋学期授業/Fall

単位数：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

2021 年のコンテンツ産業の市場規模は 12 兆 7,582 億円、前年比 107.7 %であった。

新型コロナウイルスの影響を受けた 2020 年と比較すると、大きく回復したと言える。

コンテンツビジネスは、流通や収益構造などに大きな変化があらわれており、毎年キープレイヤーが入れ替わっている。また、コンテンツビジネスは多岐の分野にわたるが、授業では大きな変化が見られているゲーム市場、出版市場、および、近年エンタテインメント化が進む広告等をテーマに、法的な課題等を交えて解説を行う。

また、授業では、ゲストスピーカーとして各分野の専門家および実務家を招致し、受講者の理解を深めたいと考えている。

(なお、ゲストスピーカーのスケジュールによりシラバスの順番が入れ替わる場合がありますのでご了承ください。また、COVID - 19 の影響により、インタビュー動画の配信になったり、LIVE 配信を行う場合がありますのでご了承ください。)

この授業は、知的財産法に分類される法律のうちコンテンツビジネスに関連するものを中心として学ぶことを内容とするが、知的財産法を横断的に取り扱うことになる。従って、知的財産法Ⅰ～Ⅲ [武生昌士] および法律学特講 (知的財産法の今日的課題) [武生昌士] を受講している (あるいは、将来受講する) と全体的な理解が深まるようになると思われることから推奨する。

「裁判と法コース」、「企業・経営と法コース (商法中心)」、「行政・公共政策と法コース」、「文化・社会と法コース」などを中心に幅広く関連を有し得る。

【到達目標】

コンテンツビジネス (ゲーム、出版、広告等) にかかる法的問題について理解し、それを解消するための考え方を身につける。授業では、判例や実務的な解決手段等を紹介するが、問題解決の手段はそれだけに留まらない。この授業あるいはそれ以外で得た知識をフル活用して、自分であればどのような解決手段を提案できるかということを考えてられるようになってほしい。

Able to propose solutions to legal issues related to the content business.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

授業では、コンテンツビジネス市場についてゲーム、出版、広告を主要なテーマに掲げ、最新技術の動向を交えながら、コンテンツと法に関する解説を行う。また、ある程度ビジネス環境等の理解ができたとところで、法的問題について海賊版サイト問題や、ゲームのチートに関する法的な問題など、皆さんに身近なケースを紹介しながら解説し理解を深める。知識を深めるということも重要であるが、問題解決のための考え方を養ってもらいたい。

授業形態は、講義形式で行う。ゲストスピーカーを承知する場合があります。また、教室を使うことが可能であれば体験学習やワークショップを行うことも考えている。

講義の後にリアクションペーパーを回収する。その中で、質問等がある場合には記載してもらい、翌週の冒頭で質問に回答する。

第1回と第14回を対面とし、その他を ONLINE としているが、コロナの状況や受講生の希望、ゲストの希望により変更する可能性がある。

詳細は、学習支援システムを通じてお知らせする。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	コンテンツビジネスの実相と知的財産の概要	初回講義では、講義の進め方および講師の紹介、成績評価の方法などについて説明を行う。また、現在のコンテンツ市場について、解説を行う。
2	コンテンツビジネスの実相と知的財産～プロテクト技術と知的財産法～	ゲームは、ゲーム機側とソフト側双方にプロテクトがかけられており、違法なソフトは起動しない技術的な工夫がされている。しかしながら、このような手段を回避するための装置やプログラムを提供する者が存在しており、この対応として著作権法や不正競争防止法の規定が用いられる。近年においては、民事対応のみならず、不正競争防止法による刑事対応および、関税法における水際措置が効果を上げている。授業では、ゲームの技術的保護と関連法に関する具体例を中心に解説する。
3	コンテンツビジネスの実相と知的財産～通信規格・メモリ等のインフラ～	ゲーム機やソフトウェアの流通において、メモリーや通信関連技術、ファイル圧縮技術等の標準化が不可欠となる。標準化は、複数の企業が所有する特許権をプールすることで成立する。これらの特許は FRAND 宣言され、公正、合理的かつ非差別的な条件 (FRAND 条件) でライセンスされることになる。しかしながら、FRAND 条件の前提があったとしても、特許権者とこれらの特許を使用する者との間でライセンス交渉が行われるに当たり、具体的な条件等について折り合わず紛争が起きている。FRAND に関する問題は、日本のみならず国際的な問題であることから、日米欧の現状について解説する。
4	コンテンツビジネスの実相と知的財産～オンラインゲーム (1)～	オンラインゲーム市場は、コンテンツ市場の中でも極めて好調である。ソーシャルモデルとフリーミアムモデルによる相乗効果もあり、高収益化に成功している。他方で、オンラインゲームは悪質なユーザーによる「チート」行為の被害が深刻化している。チート行為は、ゲーム内の秩序を破壊し、企業に経営上の被害をもたらす。授業では、チート行為の一部が、知的財産法による法的対応が可能であり、民事対応による損害賠償請求や刑事対応が効果をあげていることについて解説する。

5	コンテンツビジネスの実相と知的財産～オンラインゲーム (2)～	ゲームアプリは、Apple の App Store や google の Google Play 等を通じてダウンロードされており、その総数は、其々 200 万以上とも言われている。このように競争が激しいゲームアプリ市場において、自社のゲームコンテンツを知的財産権等により保護することは極めて重要である。AR 技術・スマホの位置情報技術を用いたゲームアプリが世界中で大ヒットしているが、関係各社は技術やキャラクターについての知的財産権による保護に余念がなく現在のところ同種のゲームアプリの追随を許していない。また、スタートアップ系の企業に勢いのあるゲームアプリ業界であるが、知的財産権のクリアランスが不十分であれば、将来の経営リスクになる。授業では、具体的な紛争事例等を交えながら、ゲームアプリの知的財産権による保護について解説する。	10 「コンテンツを工学する」とは何か？	コンテンツ市場の成長に工学的なアプローチが不可欠になっている。海外市場を見据えた取り組みや、海賊版対策、新たなプラットフォームの構築などにおいて国内のスタートアップ企業がしのぎを削っている。これらの最新動向について解説する。
6	コンテンツビジネスの実相と知的財産～XR 関連の専門家からのインタビュー 1～	バーチャルリアリティ (VR) 技術の動向について、解説をするとともに、同分野に詳しい専門家を招致して理解を深めたい。内容及びゲストについては、第 1 回講義のときにお知らせする。	11 コンテンツビジネスの実相と知的財産～広告コンテンツの創作と法的制約 1～	広告は、法的な制約を受けており、その枠組みの中でクリエイターが制作を行っている。具体的には、他人の知的財産権等をはじめとする権利を侵害しないように留意する必要がある他、広告に関連する法的規制も受けている。さらに、倫理上の制約等も存在している。授業では、これらの法的規制および広告コンテンツの創作との関係について 2 回に渡って解説する。
7	コンテンツビジネスの実相と知的財産～出版市場のデジタル化と流通の変化～	デジタル出版が可能となったことで、出版社を介さずに、直接出版をすることが可能になった。出版社を介した出版の場合、作家に入る印税は 10 % である。他方で、大手の電子出版サービスを利用すると、70 % が作家に入ることになる。このような事実から、出版社が将来的に不要になるのではとの考え方も成立し得るが、プロの作家は必ずしもそのようには考えていない。この問題をひも解くために、作品の創作において出版社がどのような役割を担っているのかという点、および、法的立場を明らかにした上で、「デジタル出版時代には出版社は不要か？」という点を考察する。	12 コンテンツビジネスの実相と知的財産～広告コンテンツの創作と法的制約 2～	前回の続き
8	コンテンツビジネスの実相と知的財産～海賊版サイトに対する出版社の戦い～	インターネット上の違法コンテンツについては、米国 DMCA に準拠した方式 (我が国ではプロ責法) による削除申請をサイト事業者にすることで削除される場合がある。また、これらはサイトによっては検出から削除まで自動化されており一定の効果を上げていて作業効率も上がっている。講義では、毎年新しい試みが行われている出版社による海賊版対策の実際と法的対抗手段について解説する。	13 コンテンツビジネスの実相と知的財産～WEB マーケティングにおけるブランド等名称の重要性と知的財産法による保護～	WEB 広告などを中心に行われているマーケティングにおいてリコメンドを行うにあたりブランド等の名称の重要性が増している。ブランド名称を不正に利用されないためにどのような対抗手段が考えられるか具体的なケースを参酌しながら解説を試みる。
9	複雑化する海賊版サイト問題	海賊版サイトは、毎年のように姿や国を変え、コンテンツ事業者を翻弄している。講義では海賊版サイト問題について詳述するとともに、海賊版サイトへの対抗手段について解説する。	14 コンテンツビジネスの実相と知的財産 まとめ	コンテンツビジネスの実相と知的財産について総括する。また、この講義の時点で起きている注目すべき事例などがあれば解説を行う。その他、期末レポートの課題について説明を行う。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

配布レジュメの内容について十分に復習すること。事前配布した資料については、授業当日までに内容について検討しておくこと。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

Read the distributed resumes carefully. Approximately 2 hours of preparation and review are required.

【テキスト (教科書)】

教科書は使用せず、レジュメを必要に応じて配布します。なお、プロジェクターには投影できても、事情により配布できない資料もありますのでご了承ください。

【参考書】

経済産業省 商務情報政策局 (監修) 『デジタルコンテンツ白書 2023』一般財団法人デジタルコンテンツ協会 (2023 年 8 月)
総務省 『令和 5 年版 情報通信白書』※総務省ウェブサイトにて無料で取得可能。

『逐条解説 不正競争防止法』※経産省ウェブサイトにて無料で取得可能。
前田健他編著 『図録 知的財産法』(弘文堂、2021 年 02 月)
その他、鳥並良ほか 『著作権法入門 [第 3 版]』(有斐閣、2021)、田村善之 『知的財産法 [第 5 版]』(有斐閣、2010)、中山信弘 『著作権法 [第 3 版]』(有斐閣、2021)、茶園成樹編 『知的財産法入門 [第 3 版]』(有斐閣、2021)、茶園成樹編 『不正競争防止法 [第 2 版]』(有斐閣、2020)、土肥一史 『知的財産法入門 [第 16 版]』(中央経済、2019)、藤野仁三 (著、編集) = FRAND 研究会 (編集) 『標準必須特許ハンドブック SEP HANDBOOK [第 2 版]』(発明推進協会 (2021 年 4 月)、小林十四雄、末吉 互他編著 『重要判例分析 × ブランド戦略推進 商標の法律実務』中央経済社 (2023 年 1 月) など。

【成績評価の方法と基準】

毎回のリアクション [30%]+期末レポート [60%]+平常点 [10 %]
期末レポートが未提出の場合は、成績を与えません。

リアクションペーパーの回収は期限厳守。公欠を除き、事後提出は認めません。

期末レポートの課題は、12月初旬に学習支援システムから提示します。

リアクションの提出は、学習支援システムを使用します。

平常点は、リアクションの内容や授業への積極的な取り組み等を評価します。

Your final grade will be calculated according to the following process:

Reactions will be submitted after the lecture[30%].Final Report[60%].Usual performance score[10%].

【学生の意見等からの気づき】

コンテンツビジネスと知的財産法の問題の中でも、現在ニュースなどで報じられている問題や、皆さんの身近で起きている問題、皆さんが抱えている疑問などについては、質問をしてもらえれば、可能な限り講義で取り扱うようにします。

【学生が準備すべき機器他】

講義資料は各回の冒頭に配布します。授業支援システムにも誤記等を修正したものを適宜アップロードします。

【その他の重要事項】

知的財産法などの科目を履修済みか、並行して履修することが好ましいが、初学者にもわかりやすい講義を心がけます。

【Outline (in English)】

Lectures on content business and intellectual property law.

ECN100AC

財政と金融 I

島澤 諭

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

単位数：2 単位

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本は現在、①少子化、高齢化の進展への対応、②財政再建への対応、③金融システムの安定化、といった多くの課題を抱えている。本講義では、政府や金融機関の経済活動に関する実態及び基礎的理論について踏まえた後、現実の日本財政や金融についてデータを参照しながら学習する。

【到達目標】

市場主義経済における政府の役割について、どのような考え方があるのかを理解する。また、日本の財政や金融を取り巻く問題を把握する。その上で、政府の役割と日本の財政がどうあるべきかまた今後どうあるべきかについて、自分なりの意見を持てるようになるための論理的思考力、分析能力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」に関連。

【授業の進め方と方法】

現在のところ、基本的には講義資料に沿って講義を進めることを予定している。参考文献がある時にはその都度指示する。また、各回のテーマは以下を予定するが、受講生の知識・理解度を勘案し、必要に応じて授業スピードの変更を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	ガイダンス
第 2 回	財政の役割（1）	経済活動と政府、財政の役割、大きな政府と小さな政府
第 3 回	財政制度（1）	財政と法律、予算制度
第 4 回	財政制度（2）	財政投融资、地方財政制度
第 5 回	通貨金融についての基礎知識（1）	金融の概念、金融機関の役割
第 6 回	通貨金融についての基礎知識（2）	通貨の概念、通貨の供給、通貨の需要
第 7 回	金融・資本市場（1）	相対市場と公開市場、短期金融市場と長期金融市場
第 8 回	金融・資本市場（2）	金融派生商品市場、オンショア市場とオフショア市場
第 9 回	日本の財政問題（1）	財政赤字の累増、財政赤字の構造的要因
第 10 回	日本の財政問題（2）	財政赤字の問題点
第 11 回	政府支出の理論と実際（1）	政府支出の理論
第 12 回	政府支出の理論と実際（2）	政府支出の膨張要因、政府支出の構造
第 13 回	租税の原則と経済効果（1）	税の役割と租税原則
第 14 回	租税の原則と経済効果（2）	公平な税とは、課税と経済効率

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備・復習時間は、各 4 時間を目安とする。

【テキスト（教科書）】

なし

【参考書】

受講者が授業を補完するために勉強する場合は、以下の文献が参考となる。

- (1) 井堀利宏『財政学（第4版）』新世社
- (2) 畑農鋭矢、林正義、吉田浩『財政学をつかむ』有斐閣
- (3) 釣雅雄、宮崎智視『グラフィック財政学』新世社
- (4) 小黒一正等『財政学 15 講』新世社
- (5) 林宜嗣等『財政学（第4版）』新世社

【成績評価の方法と基準】

現在のところ、平常点（授業に臨む態度、積極度）（40%）と期末レポート（60%）で評価することを予定。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【その他の重要事項】

初回授業に必ず出席すること。

なお、経済企画庁（現内閣府）の官庁エコノミストとして様々な政策立案や執行に携わった経験等も踏まえて講義する。

【Outline (in English)】

Japan is currently facing a number of challenges, including (1) coping with the declining birthrate and aging population, (2) dealing with fiscal reconstruction, and (3) stabilizing the financial system. In this lecture, we will study the actual situation and basic theories on economic activities of the government and financial institutions, and then refer to data on the actual Japanese fiscal and financial situation.

To understand the concept of the role of government in a market-based economy. Also, understand the issues surrounding Japan's public finances and finance. Students will then acquire the logical thinking and analytical skills to be able to form their own opinions on the role of the government and how Japan's finances should be and will be in the future.

At present, we plan to basically follow the lecture materials. If there is any reference literature, it will be indicated each time. In addition, the following topics will be covered in each session, but the speed of the class will be changed as necessary, taking into account the level of knowledge and understanding of the students.

Preparation and review time is estimated to be 4 hours each. Currently, the plan is to evaluate the students on the basis of their regular scores (attitude toward class and level of activity) (40%) and a final report (60%).

ECN100AC

財政と金融Ⅱ

島澤 諭

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

単位数：2 単位

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本は現在、①少子化、高齢化の進展への対応、②財政再建への対応、③金融システムの安定化、といった多くの課題を抱えている。本講義では、政府や金融機関の経済活動に関する実態及び基礎的理論について踏まえた後、現実の日本財政や金融についてデータを参照しながら学習する。

【到達目標】

日本財政や金融、社会保障制度・財源の現状と課題を理解し、経済学の視点から財政・社会保障制度、金融政策の効果について考察するための基礎知識の習得を目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に強く関連。

【授業の進め方と方法】

現在のところ、基本的には講義資料に沿って講義を進めることを予定している。参考文献がある時にはその都度指示する。また、各回のテーマは以下を予定するが、受講生の知識・理解度を勘案し、必要に応じて授業スピードの変更を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	ガイダンス
第 2 回	社会保障の財政問題 I	超高齢社会と社会保障
	(1)	
第 3 回	社会保障の財政問題 I	最低生活の保障、年金問題
	(2)	
第 4 回	社会保障の財政問題 II (1)	医療と財政
第 5 回	社会保障の財政問題 II (2)	社会福祉の改革
第 6 回	景気変動と財政政策 (1)	国民所得の決定
第 7 回	景気変動と財政政策 (2)	乗数、ビルトインスタビライザー
第 8 回	景気変動と財政政策 (3)	財政政策の効果
第 9 回	景気変動と金融政策 (1)	通貨と実体経済のかかわり
第 10 回	景気変動と金融政策 (2)	インフレーションとデフレーション
第 11 回	公債の負担 (1)	公債とは、公債発行の問題点、クラウディングアウト
第 12 回	公債の負担 (2)	公債の将来世代に対する負担
第 13 回	公債の負担 (3)	中立命題
第 14 回	世代会計	世代会計

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備・復習時間は、各 4 時間を目安とする。

【テキスト（教科書）】

なし

【参考書】

受講者が授業を補完するために勉強する場合は、以下の文献が参考となる。

(1) 井堀利宏『財政学（第 4 版）』新世社

(2) 畑農鋭矢、林正義、吉田浩『財政学をつかむ』有斐閣

(3) 釣雅雄、宮崎智視『グラフィック財政学』新世社

(4) 小黒一正等『財政学 15 講』新世社

(5) 小塩隆士『社会保障の経済学（第 4 版）』日本評論

(6) 島澤諭『シルバー民主主義の政治経済学』日本経済新聞出版社

【成績評価の方法と基準】

現在のところ、平常点（授業に臨む態度、積極度）（40 %）と期末レポート（60 %）で評価することを予定。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【その他の重要事項】

初回授業に必ず出席すること。

なお、経済企画庁（現内閣府）の官庁エコノミストとして様々な政策立案や執行に携わった経験等も踏まえて講義する。

【Outline (in English)】

Japan is currently facing a number of challenges, including

(1) coping with the declining birthrate and aging population, (2) dealing with fiscal reconstruction, and (3) stabilizing the financial system. In this lecture, we will study the actual situation and basic theories on economic activities of the government and financial institutions, and then refer to data on the actual Japanese fiscal and financial situation.

The goal of this course is to acquire basic knowledge to understand the current status and issues of Japanese public finances, finance, and social security systems and financial resources, and to examine the effects of fiscal and social security systems and monetary policies from an economics perspective.

At present, it is planned to basically follow the lecture materials. If there is any reference literature, it will be indicated each time. In addition, the following topics will be covered in each session, but the speed of the class will be changed as necessary, taking into account the level of knowledge and understanding of the students.

Preparation and review time is estimated to be 4 hours each.

Currently, the plan is to evaluate the students on the basis of their regular scores (attitude toward class and level of activity) (40%) and a final report (60%).

POL200AC

自治体論

土山 希美枝

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

単位数：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講は「政策・都市・行政」の分野に含まれる内容に重点を置く。こんにちの「都市型社会」の特性を理解し、こんにちの公共政策のありかたと理念を理論的にとらえつつ、自治とその機構である自治体について学ぶ。これを通じて、社会を構造的にとらえ、地域課題や公共課題を自治の目線から考える視角を養う。

本講の履修後（できれば続けて）秋学期の「自治体政策論」を受講することが望ましい。両講義をあわせて自治・自治体・公共政策が理解できるよう設計されている。

※なお、講義構成の変更にもない、一部の教材資料に 2021 年度「自治体政策論」と重なっているものがある。

【到達目標】

都市型社会の構造、近代化と政策類型の歴史的展開を知る。「自ずから治める」自治をデモクラシー理論から理解する。その機構としての自治体が日本でどのように成立してきたかを理解する。

都市型社会における自治とその主体のありかた、自治体との関係を理解し、制度と機能、現状と課題を理解する。

地域課題や公共課題を自治の視点からとらえ、政策を考察するための基礎的な知識と能力を得る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」、「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

講義を中心とするが、アクティブ・ラーニングとして参加者どうしの意見交換を行うことがある。必要に応じて視聴覚教材を利用することがある。

「自治」と「自治体」をめぐって、「いま、わたしたちの目の前に存在する事象」がどういう構造と機能をもっているのかを理解するために、歴史的、理論的な整理も行う。

講義後のコメントシートによる質問やコメントを歓迎する。次の講義で、前講義をふりかえる時間をつくり、共有されるべき質問等にはそこで答えていく。

なお、本講の履修後（できれば続けて）秋学期の「自治体政策論」を受講することが望ましい。両講義をあわせて自治・自治体・公共政策が理解できるよう設計されている。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	導入：都市型社会と公共政策	本講義の全体像として、こんにちの社会の構造と公共政策のありかたについて概説、講義の進めかたを示す。
第 2 回	農村型社会の成立と原基型政策	社会構造の変化を人類史的にとらえ、農村型社会の成立と政策を示す。
第 3 回	近代化と近代化政策の類型	近代化と政策類型の展開をとらえる。
第 4 回	自治としてのデモクラシー	近代化と政治権力、支配と被支配の関係をとらえる。日常にある「権力による支配」を理解する
第 5 回	自治と支配と権力	デモクラシーとロック・モデルという「発見」を理解し、支配から「自治」への転換をとらえる

第 6 回	日本の近代化と自治	近代化の歴史と自治体の位置を理解する
第 7 回	近代化と近代化 III 型政策への展開	近代化政策を再確認し、III 型政策の展開が意味する「転換」を理解する
第 8 回	高度成長期の社会変動と自治体	高度成長期の社会変動と、それがもたらした政策課題をとらえる
第 9 回	高度成長期の社会変動と「自治体の発見」	高度成長期の社会変動による「政策主体としての自治体」の登場をとらえる
第 10 回	「自治体の発見」と政策	革新自治体の潮流と、自治体改革の展開をとらえる
第 11 回	「政府としての自治体」の機能	こんにちの自治体を機能の面からとらえる
第 12 回	「政府としての自治体」の制度	「自治体の政府化」を 2000 年分権改革とともに、制度として確認する
第 13 回	「政府としての自治体」の今日的課題	自治体政策の〈制御〉をめぐる今日的課題を整理する
第 14 回	まとめ	講義の全体をふりかえり、総括する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本講義では「準備学習・復習時間は各 2 時間」が標準となるよう大学設置基準によって定められている。自治・自治体を理解するためには、講義の受講、示した資料や参考文献を理解するだけでなく、課題の現場である社会（とくに地域社会）でおこる事象を標準時間にとどまらず日常的にメディアやニュースをつうじてとらえ、考察することが必要である。

【テキスト（教科書）】

石橋章市朗・佐野巨・土山希美枝・南島和久『公共政策学』（ミネルヴァ書房）。

松下圭一『政策型思考と政治』（東京大学出版会）。

【参考書】

天川晃『天川晃最終講義 戦後自治制度の形成』（放送大学叢書）。
今井照『地方自治講義（ちくま新書）】。
金井利之『自治制度』（東京大学出版会）。
土山希美枝『高度成長期「都市政策」の政治過程』（日本評論社）。
松下圭一『ロック「市民政府論」を読む』（岩波現代文庫）。ほか、講義中に指示する。

【成績評価の方法と基準】

期末試験を中心（新型コロナウイルス感染症の状況によってはレポート）（80%）とし、講義終了時に課すコメント等の提出状況などを平常点（20%）として扱う。

【学生の意見等からの気づき】

講義終了時にコメントや質問を受け付け、その後の講義にいかす。

【学生が準備すべき機器他】

なし。

【その他の重要事項】

本講の履修後（できれば続けて）秋学期の「自治体政策論」を受講することが望ましい。両講義をあわせて自治・自治体・公共政策が理解できるよう設計されている。

【Outline (in English)】

In this lecture, we will understand theories for modern (urban type) society, development of public policy, local governance and local government. We will cultivate the ability to consider of self-governance with perspective for society, local issues and public issues.

POL200AD

Global Governance

弓削 昭子

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
単位数：2 単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈ダ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

The students will learn about the basic elements of global governance, including its meaning, key actors, and various types of global governance. They will learn how global governance has evolved over the years in this increasingly globalized world. The students will also study the dilemmas of global governance and challenges for the future.

【到達目標】

Through this course, the students will gain a deeper understanding of global governance that has evolved with the changing situation of the world. This includes the role of various actors and interaction among them in global governance, and how political, economic, social, and other factors affect the contents and forms of global governance. Through the lectures and discussions in English, the students will also enhance their English language proficiency.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

Bearing in mind the threats and opportunities that the world is facing, the course will examine global governance in the following areas: international peace and security, economic and social development, human rights, environmental issues, and others. This course will examine the changes that are taking place in the role of nations, international organizations, and non-state actors including the private sector and civil society, as well as the evolving relationship among them in an increasingly globalized and interdependent world. The course will also discuss the gaps and dilemmas of global governance. The course will be conducted in English. The students are expected to read the assigned materials, listen to the lectures, and participate in class discussions.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Introduction to global governance	What is global governance?
2	Actors in global governance	Actors and institutions in global governance
3	Challenges in global governance	Increasing need and process for global governance
4	Varieties of global governance	Various forms of global governance
5	Globalization and global governance	How globalization has affected global governance
6	Foundations of global governance	Foundations of pieces of global governance
7	United Nations (UN)	UN as centerpiece of global governance
8	Global conferences	Global and summit conferences
9	Non-state actors	Role of non-state actors in global governance

10	Networks and social movements	Non-state actors' networks and social movements
11	Role of states	Role of states in global governance
12	Evolution of global governance	Evolution of global governance and its effects
13	Dilemmas of global governance	Innovations in global governance in the twenty-first century
14	Summary and review	Review of course materials

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students should spend an average of 2 hours each for preparing and reviewing materials for every class.

【テキスト（教科書）】

Margaret P. Karns and Karen A. Mingst, Kendall W. Stiles, International Organizations, the Politics and Processes of Global Governance, Third Edition, Lynne Rienner Publishers, 2015.

【参考書】

・ Thomas G. Weiss and Rorden Wilkinson, Global Governance Futures, Routledge, 2022.
 ・ Thomas G. Weiss, Global Governance, Why? What? Whither?, Polity Press, 2013.
 ・ Thomas G. Weiss and Ramesh Thakur, Global Governance and the UN, An Unfinished Journey (United Nations Intellectual History Project Series), Indiana University Press, 2010.
 ・ 西谷真規子・山田高敬（編著）『新時代のグローバル・ガバナンス論 制度・過程・行為主体』ミネルヴァ書房、2021年
 ・ 鈴木基史、『グローバル・ガバナンス論講義』、東京大学出版会、2017
 ・ 笹岡雄一、『新版グローバル・ガバナンスにおける開発と政治—文化、国家政治、グローバリゼーション』明石書店、2016年

【成績評価の方法と基準】

Class participation (30%) and final exam (70%)

【学生の意見等からの気づき】

No particular points to note

【その他の重要事項】

As the professor had spent many years working as United Nations staff member, she teaches this course covering both theory and practice, reflecting her own professional experience and perspectives on various issues related to global governance.

【Outline (in English)】

As written above.

POL200AD

International Politics

Emily Szu-hua Chen

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
単位数：2 単位

その他属性：〈グ〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

In our era of globalization, what happens on the other side of the world affects our lives. The COVID-19 outbreak in a Chinese city in 2019 evolved into a worldwide pandemic that still lingers. Russia's months-long war in Ukraine has accelerated a global energy and cost-of-living crisis and caused an economic slowdown in many countries. Understanding the problems that seem far away from home has become ever more important in this global era as we cannot afford to ignore them. But how can we interpret and tackle the key issues and challenges facing our world today? This introductory course in international politics and global affairs is designed to provide students with the analytical skills to explore and explain solutions to real-world issues.

The course consists of three segments. To start, we will look at the historical background of today's international system, focusing on the evolution from the end of the bipolarity of the Cold War to the emerging global order increasingly led by rising powers. The second segment will cover the main concepts and major strands of theory in the discipline of international relations (IR). These conceptual tools help us analyze global problems and are necessary knowledge for students who wish to continue their studies of international politics after the conclusion of this course. In the final segment, we will investigate contemporary issues that are likely to affect our world for years to come.

Students of all disciplines who are interested in international relations or political science are welcome to enroll. No prerequisites or previous knowledge of international relations is required, but it would be an advantage.

【到達目標】

At the end of this course, students should be able to:

- Describe the historical development of the international system from the end of the Cold War to the present
- Demonstrate a foundational understanding of the major IR theories and concepts and apply them to historical cases and current events
- Analyze and consider solutions to global challenges in the contemporary world
- Develop research, communication, and writing skills useful for future career paths in the field

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

The course will meet once a week. The structure of the course will be a mix of lectures, student presentations, and group discussions. Lectures, which give background information on each week's topic, will be followed by students' presentations on the weekly required reading of selected seminal texts, case studies, or other materials designed to expand the student's knowledge of the theme. Students will have a chance to interact with each other in small groups to review what has been introduced in class and respond to discussion questions before participating in a whole-class discussion. During the last few sessions of the class, students will share a proposal of their intended research with the class.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Introduction I	Introduction to the course
2	Introduction I	What are international politics? Why study international politics?
3	The Historical Context I: Post-Cold War International Relations	Contending paradigms of the post-Cold War order
4	The Historical Context II	China's rise: U.S.-China competition and the emerging global order
5	The Historical Context III	The liberal world order challenged? Democracy vs. authoritarianism
6	Theoretical Approaches I: How Can We Explain State Behavior?	An analytical tool: Levels of analysis
7	Theoretical Approaches II	Theories of state behavior I: Realism
8	Theoretical Approaches III	Theories of state behavior II: Liberalism
9	Theoretical Approaches IV	Theories of state behavior III: Constructivism
10	Contemporary Issues in Contemporary International Politics I	The contested war memory and the "history problem" in East Asia (Case study: Should the Japanese prime minister visit the Yasukuni Shrine?)
11	Contemporary Issues in Contemporary International Politics II	Global health (Case study: Is COVID-19 reshaping the world order?)
12	Contemporary Issues in Contemporary International Politics III	Human rights (Case study: Whether, and to what extent should a country take actions to respond to others' human rights violations?)
13	Conclusion I	Research proposal presentations
14	Conclusion II	Research proposal presentations/Course Wrap-up

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Outside of formal classes, students are expected to:

- Read the weekly required materials and submit relevant questions to clarify and confirm their understanding or questions they wish to discuss in class
- Summarize and critically assess one or two required readings and prepare their analysis to share with the class
- Conduct an individual research project on a current event or issue of interest in global affairs and produce results via presentations and writing

Students are encouraged to do the following to contribute meaningfully to the class discussion:

- Explore recommended readings or materials provided on the list
- Keep abreast of current events by reading major news stories relating to international politics

【テキスト（教科書）】

All required course materials will be made available via hyperlinks in the syllabus or through the Learning Management System (LMS). No purchases are necessary.

【参考書】

The optional reference readings below are on reserve in the library. They provide helpful background information, particularly for the IR theoretical foundations.

- Baylis, John, Steve Smith, and Patricia Owens. 2020. *The Globalization of World Politics: An Introduction to International Relations*. Oxford: Oxford University Press.
- Brown, Chris. 2019. *Understanding International Relations*. London: Bloomsbury Academic.
- Pevehouse, Jon C., and Joshua S. Goldstein. 2019. *International Relations*. London: Pearson.

- Drezner, Daniel W. 2015. Theories of International Politics and Zombies. Princeton, NJ: Princeton University Press.

【成績評価の方法と基準】

- Class Participation (30%): This requirement includes class attendance and active participation in class discussions (15%) and a weekly submission of one to two discussion/clarification questions to the LMS before class (15%).
- Presentation on Required Reading (30%): Students will present on one to two articles from the entire required reading list during the semester.
- Individual Research Project (40%): Students will select a current event or policy issue of interest in global affairs as a research project. The requirement includes a proposal presentation of their intended research (20%) and a submission of a 1000 - 1500-word final research paper (20%).

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

The instructor will use the Learning Management System to manage the course.

【その他の重要事項】

Because this is an introductory course in international politics, the class can only cover a broad range of material in a limited time. If students wish to discuss certain topics in detail on an individual basis, they should feel free to reach out after class or make an appointment with the instructor via email. Students are also welcome to discuss their performance in class with the instructor at any time during the semester.

【Outline (in English)】

Same as above.

POL200AD

外交総合講座

本多 美樹

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
 単位数：2 単位

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業の目的は、日本と国際社会の主要なカウンターパートの外交関係の現状と課題を知るとともに、軍縮問題、移民問題、開発や環境問題といった国際社会が共に直面する越境的な諸問題について、日本の政府のみならず、企業や市民社会もどのように他国の多様なアクターと取り組んでいるのかについても理解を深めることにある。各回の授業に、実務家、ジャーナリスト、研究者、民間企業や NGO からの有識者に講義していただき、質疑応答も活発に行うことにより、政府間関係からでは知りえない広義の「外交」への理解を深める。

【到達目標】

- ・国際社会の主要なカウンターパートと日本の外交関係の現状と課題について基本的な知識を身に着ける。
- ・国際社会が直面する地球規模の諸問題に対して日本がどのような政策を取り、他の主体（アクター）とどのように協働して取り組んでいるのか、現状と課題を知る。
- ・日本の各分野の政策における課題に気づき、自分なりの意見を持つ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

政府間関係だけではない広義の「外交」への理解を促すため、ゲストスピーカーの講義の後には毎回、質疑応答の場を設ける。（*ゲストスピーカーの予定と調整を行うため、授業の順序とトピックは変更する可能性がある。）
 毎回の授業後には講義への理解を確認するため、Hoppii を通じて課題の提出を求める。課題に対するフィードバックは個々に行うとともに、必要に応じて次の授業の際にコメントする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
 あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
 なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の目的と進め方の説明
2	アジア太平洋における日本の外交政策	ゲストスピーカーによる講義と質疑応答
3	国連と日本	ゲストスピーカーによる講義と質疑応答
4	日本の対アフリカ外交	ゲストスピーカーによる講義と質疑応答
5	平和維持活動から考える外交	ゲストスピーカーによる講義と質疑応答
6	移民と難民：国際社会と日本	ゲストスピーカーによる講義と質疑応答
7	核と日本の外交	ゲストスピーカーによる講義と質疑応答
8	日本の経済外交	ゲストスピーカーによる講義と質疑応答
9	日本のメディアと外交	ゲストスピーカーによる講義と質疑応答
10	日本企業と国際社会	ゲストスピーカーによる講義と質疑応答
11	日本企業と国際社会	ゲストスピーカーによる講義と質疑応答
12	国際 NGO/NPO と日本	ゲストスピーカーによる講義と質疑応答

13	日本と国際人権	ゲストスピーカーによる講義と質疑応答
14	まとめ	これまでのゲストスピーカーの講義の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回、講義に関連する資料を事前に読んでから授業に臨むこと。授業の予習復習には 2 時間程度時間を要する。

【テキスト（教科書）】

特になし。関連資料は毎回事前に配布する。

【参考書】

関連資料は随時授業時に知らせる。

【成績評価の方法と基準】

講義や質疑応答への活発な参加などの平常点（40%）と課題の提出（60%）から総合的に判断する。なお、4 回以上課題の提出を怠った学生には単位の授与はないので気を付けること。

【学生の意見等からの気づき】

なし。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

受講生は日々のニュースをフォローするなど、国際社会での出来事に関心を寄せること。関連するセミナーやシンポジウムへの参加が望ましい。これについても随時紹介する。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>
 国際関係論、国際機構論、安全保障研究、国連研究
 <研究テーマ>
 国際社会による「平和」のための協働と確執、アジア太平洋地域の伝統的・非伝統的安全保障
 <主要研究業績>
 近著に、『「非伝統的安全保障」によるアジアの平和構築：共通の危機・脅威に向けた国際協力は可能か』（明石書店、2021 年）、「国連による『スマート・サンクション』と金融制裁：効果の追求と副次的影響の回避を模索して』『国連の金融制裁：法と実務』（東信堂、2018 年）、「平和構築の新たな潮流と『人間の安全保障』：ジェンダー視座の導入に注目して』『東南アジアの紛争予防と『人間の安全保障』（明石書店、2016 年）、「国連による経済制裁と人道上の諸問題：『スマート・サンクション』の模索』（国際書院、2013 年）、「北東アジアの『永い平和』：なぜ戦争は回避されたか』（勁草書房、2012 年）、「『グローバル・イシュー』としての人権とアジア：新たな国際規範をめぐる国際社会の確執に注目して』『グローバリゼーションとアジア地域統合』（勁草書房、2012 年）、Japan: COVID-19 and the Vulnerable,” M. Caballero-Anthony and N. M. Morada (eds), Covid-19 and Atrocity Prevention in East Asia (Routledge, 2022); “Smart Sanctions’ by United Nations and Financial Sanctions,” United Nations Financial Sanctions (Routledge, 2020); “Coordination challenges for the UN-initiated peace-building architecture Problems in locating ‘universal’ norms and values on the local,” Complex Emergencies and Humanitarian Response (Union Press, 2018); “The Role of UN Sanctions against DPRK in the Search of Peace and Security in East Asia: Focusing on the Implementation of UN Resolution 1874,” East Asia and the United Nations: Regional Cooperation for Global Issues (Japan Association for United Nations Studies, 2010) などがある。執筆した主な教科書として、『国際機構論 活動編』（国際書院、2020 年）、『国際機構論 総合編』（国際書院、2015 年）、『国際学のすすめ』（東海大学出版会、2013 年）などがある。

【Outline (in English)】

This course provides students with the basic information and challenges of the Japan's policy toward her major counterparts including the United States, Asian nations, European nations, African nations and international institutions. The foreign policy will be analyzed from a wide variety of interdisciplinary perspectives – historical, political, economic, and security relations – and through diverse paradigmatic lenses. The course invites officials from Japanese ministries, journalists, political scientists, experts from businesses and NGOs. Through lectures by guest speakers and question-and-answer sessions, students are expected to gain a better understanding of the Japanese foreign policy from broader perspective and to form their own ideas towards it.

POL300AD

国際NGO論 I

渡部 カンコロンゴ 清花

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

単位数：2 単位

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

社会が健全に機能するためには、社会資本や公共サービスなどの「公共財」を供給する政府（行政）の役割、社会が必要とする商品やサービスを提供し経済活動を回しながら利益追求型で成長する企業の役割、そして、NGO を含めた非営利組織の役割が必要と言われる。近年では、教育、環境、災害、貧困、人権、福祉、医療などでも非営利組織の顕著な活動が増えている。

この授業では、実際に NPO の実務に関わる講師と共に、世界の NGO・NPO、日本の NGO・NPO の発展と歴史について学ぶ。また、NGO・NPO に直接携わる外部講師を招き、質問や議論を通して現場の経験や葛藤から今後私たちが考えるべき論点を探る。これらを通して、現代社会、未来における NGO・NPO の可能性と課題を学ぶ。

【到達目標】

- 1、社会における非営利組織の存在意義/役割について理解できるようになる
- 2、非営利組織の構造的・制度的な課題について理解できるようになる
- 3、非営利組織の存在を身近なものとして捉え、自分の意見をもてるようになる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に強く関連。「DP1」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

実際に現役で NPO の代表を務める講師が、テキストを使用しながら、スライドや映像を使って具体的事例なども組み込んで実践的に学びます。皆さんと世代が近い分、経験のみならず葛藤や課題についても、率直に共有・議論したいと思えます。講義だけではなく、なるべくグループワークや議論、発表などを通して学生が参加する機会も設けます。グループディスカッションに参加する姿勢を持って授業に臨んでください。

授業後には「テスト/アンケート機能」を使い、毎回振り返りのコメントを提出してもらいます。それを次回の授業での材料とします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	講義の狙いおよび春学期の授業計画の説明
第 2 回	NGO・NPO とは何か	民間組織における NGO・NPO の位置付け、株式会社との違い、NGO と NPO の違い
第 3 回	NGO・NPO の法人制度	組織に人格を与えるとは？ 1998 年に成立した NPO 法の背景と成立過程、税制優遇制度の導入
第 4 回	非営利組織のアカウントビリティ	NGO・NPO の組織運営、財源、組織運営、ガバナンス
第 5 回	NPO の状況と支援組織	自治体や民間企業との違いや協働関係、市民参加、特徴について
第 6 回	実際の NPO の組織及び活動の事例（外部講師①）	第 5 回を受けて具体事例を聞く & 質問・議論

第 7 回	NGO の状況とネットワーク組織	第 6 回の講義を受けてのディスカッション、国際協力、SDGs、ソーシャルビジネスについて
第 8 回	実際の NGO の組織及び活動の事例（外部講師②）	第 7 回を受けて具体事例を聞く & 質問・議論
第 9 回	講師が NPO に携わる中での意義と課題	第 8 回の講義を受けてのディスカッション、講師による現場からの考察についてレクチャー
第 10 回	当事者の話を聞く（外部講師③）	日本に暮らす難民の方から話を聞く、質問・議論
第 11 回	NGO・NPO と政策提言	ルール形成、アドボカシー、政策起業
第 12 回	NGO・NPO で働くには？	関心のあるテーマ、領域、組織のリサーチ、発表。
第 13 回	プロジェクト立案（ワークショップ）	グループワーク発表、質疑応答、講評
第 14 回	まとめ	春学期の授業の全体を振り返る

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義において、適時次回授業までの課題および予習がある際には内容を指示します。

また、期末レポート提出があります。

本授業の準備学習・復習時間は計 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『NPO・NGO の世界』大橋 正明/利根川 佳子。放送大学教育振興会、2021 年、価格 ¥ 3,410

上記に挙げたテキストについては、こちらで準備します。

授業にて使用するスライドはシステムにアップします。

【参考書】

『開発 NGO とパートナーシップ 南の自立と北の役割』（コモンズ 2007）下澤 嶽

『国境を超える市民ネットワーク』（東洋経済新報社、2003）目加田 説子

『アメリカの NPO：日本社会へのメッセージ』（第一書林、2000）

NPO サポートセンター編

『スタンフォード・ソーシャルイノベーション・レビュー 日本版 01 ソーシャルイノベーションの始め方』（SSIR Japan, 2022）

【成績評価の方法と基準】

「テスト/アンケート機能」での振り返りコメント提出（40 %）

期末レポート（40 %）

議論への参加姿勢（20 %）

【学生の意見等からの気づき】

本年度新規科目につきアンケートを実施していません

【学生が準備すべき機器他】

資料配布・課題提出等のために学習支援システムを使えるようにしておいてください

【その他の重要事項】

授業後 10 分を、オフィスアワーとします。質問等がある方は、有効活用してください。

【Outline (in English)】

(Course outline)

In order for society to function soundly, there is a role for the government (administration) to provide "public goods" such as social capital and public services, and there are companies that provide products and services and grow in pursuit of profit. In addition to these roles, it is said that the roles of non-profit organizations, including NGOs, are necessary. In recent years, notable activities of non-profit organizations have increased in areas such as education, environment, disasters, poverty, human rights, welfare, and medicine.

In this class, students will learn about the development and history of NGOs and NPOs in the world and in Japan with a lecturer who is actually involved in NPO practice.

In addition, external lecturers directly involved in NGOs and NPOs will be invited to explore, through questions and discussions, the issues we should consider in the future based on their experiences and struggles in the field.

Through these activities, students will learn about the possibilities and challenges of NGOs and NPOs in today's society and in the future.

(Learning Objectives)

- 1、 To be able to understand the significance/role of non-profit organizations in society
- 2、 To be able to understand the structural and institutional challenges of nonprofit organizations
- 3、 Become familiar with non-profit organizations and be able to have your own opinion

Instructors who are actually active representatives of NPOs use textbooks and use slides and videos to proceed with the lessons. I would like to share and discuss frankly not only my experiences, but also my conflicts and challenges, as my generation is somewhat similar to yours.

(Grading Criteria /Policy)

In addition to lectures, there will be opportunities for student participation through group work, discussions, and presentations. Please come to class with an attitude of participation in group discussions.

After each class, students are asked to submit comments on their reflections using the "test/survey function". This will be used as material for the next class.

Submission of reflection comments via the "test/survey function" (40%)

Final report (40%)

Attitude toward participation in discussions (20%)

POL300AD

国際NGO論Ⅱ

堀場 明子

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

単位数：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

飢餓や貧困、人権侵害、環境破壊など、様々な地球規模の課題がますます深刻化しています。これらの課題に対して、国境を越えて市民の立場から非営利で解決に取り組む NGO の役割が重要になってきています。

NGO の支援においては、物質的な支援だけではなく、人々の潜在的な能力を強め、住民自身が自立的に改善に取り組んでいくことを重視しています。このような NGO の活動理念やアプローチを実例から学び、NGO が社会の中で果たす役割と今後の課題を理解し、自分たちに何ができるかを考えることを目的とします。

【到達目標】

- (1) 地球規模課題に取り組む NGO の特徴と課題を理解する。
- (2) 一人ひとりの市民が、国際協力にどのように関わることができるか、糸口を見つける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に強く関連。「DP1」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

私が実際に途上国や日本国内で経験してきた現場の活動を中心に、パワーポイントやビデオを使って授業を進めます。

講義だけではなく、グループワークや投票・発表など、学生の皆さんにも参加してもらい機会を作ります。

授業終了後に「テスト/アンケート機能」や「課題機能」を使った授業の振り返りを提出してもらいます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	NGO についての概要
第 2 回	政府と非政府	政府の役割と NGO の役割について
第 3 回	民主化支援の NGO	東南アジアの民主化支援 NGO を事例に
第 4 回	環境保護の取り組み	森林保護をめぐる NGO の活動について
第 5 回	平和構築への取り組み	東南アジアの紛争から考える。
第 6 回	NGO 間のネットワーク	ネットワークの意義と NGO 間の連携
第 7 回	人道支援 NGO	国内外の緊急支援 NGO について
第 8 回	NGO と企業との連携	NGO と企業との連携の意義および課題と事例
第 9 回	NGO の組織運営とファンドレイジング	NGO の組織の特徴と、NGO 活動を支える組織運営・資金調達についての概要
第 10 回	プロジェクト立案	問題分析から事業立案を実際に行い、発表してもらう
第 11 回	プロジェクト立案	発表の続き
第 12 回	政策提言	政策実現にむけた政治とのかかわりについて
第 13 回	働く場としての NGO	NGO の職場環境や待遇と、NGO で働くことの意義
第 14 回	まとめ	全体の授業のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義において、適時次回授業までの課題および予習内容を指示します。また、発表してもらうため、その準備に関しては授業中に指示します。本授業の準備学習・復習時間は各 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特にテキストは使いません。

授業中に使用するパワーポイントを授業支援システムにアップします。

【参考書】

- ・めざすは貧困なき世界、高柳彰夫、フェリス女学院大学
- ・SDGs 一危機の時代の羅針盤、南博、稲場雅紀、岩波新書
- ・あの日私たちは東北へ向かった 国際協力 NGO と 3・11、国際協力 NGO センター、早稲田大学出版部
- ・ジャパンプラットフォーム ウェブサイト
<https://www.japanplatform.org/>
- ・国際協力 NGO センター (JANIC) ウェブサイト
<https://www.janic.org/>

【成績評価の方法と基準】

成績評価は、課題の発表とその内容 (60%)、授業中のグループディスカッションでの発言内容 (20%)、授業後のリフレクションペーパー (20%) を目安とします。

【学生の意見等からの気づき】

資料については、見やすい資料を作るように心がけるとともに、できるだけ最新のデータを収集して作成します。

グループに分かれての議論やワークショップに対する要望が多いので、授業にできるだけ議論する場を取り入れます。そのため、この授業を取る学生は、グループディスカッションで積極的に発言することを求めます。

【Outline (in English)】

Various global issues such as hunger, poverty, human rights abuses, and environmental destruction are becoming increasingly serious. The role of NGOs, which work for non-profit solutions to these issues from the standpoint of citizens beyond national borders, is becoming ever more important.

In providing assistance, NGOs focus not only on material support, but also on strengthening people's own abilities to reach their potential and to work for self-reliance and improvement by the residents themselves. The purpose of this program is to learn the philosophy and approach of NGO activities from actual examples, to understand the role NGOs play in society and the challenges they face in the future, and to think about what we can do to contribute.

POL300AD

国際文化交流 I

牧田 東一

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

単位数：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

授業概要：国際関係論の中で扱われる文化の問題について基本的な理解をしたうえで、歴史的な経緯を追いながら、今日の国際文化関係の基層となっている、国民国家と文化の関係、帝国主義時代の宗主国と植民地の文化関係、脱植民地化の過程で問われてきた文化的依存関係等について、何が不公正であるのか、何が問題であるのかを考える。

授業の目的・意義：国際政治の本質を理解するために、文化という国家のもっとも基礎的な部分を理解し、国際政治・国際関係の動因の重要な要素としての文化が分かるようになる、ことを目的とする。

【到達目標】

国際関係論で取り上げられる文化は他の学問領域における文化とは異なり、国際政治に影響を与えるものとしての文化である。その点をまず理解することが必要である。その上で、普遍に捉えられる国際関係に、文化の違いがどのように影響するのかを理解すること。今日の国家間関係の中で文化の問題とされる諸課題の歴史的経緯を理解すること。そこで、何が不公正なのかを理解すること。さらに、国家がどのように文化を国家アイデンティティの表象として用いるのかを理解すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に強く関連。「DP1」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

授業は、基本的には対面で行います。ただし、感染状況によりオンライン授業が大学から指示された場合には、Youtube を使った授業ビデオを事前に見て、授業当日に Zoom を用いてディスカッションなどのオンライン授業を行います。Zoom は無料で簡単にダウンロードできます。詳しくは、授業支援システムの「授業内掲示板」を見てください。対面授業では、講義に加えて、テーマを与えてグループディスカッションを行います。授業後、授業支援システムを使っての小テストを行います。締め切りは授業当日の 23 : 55 です。成績評価は小テストの平均値（50 %）と期末レポート（50 %）とします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション：国際関係における文化の問題	国際関係という政治経済を中心とする領域において、文化がどのように扱われるのか。
第 2 回	ナショナリズムと国民国家	国家の成立と文化の関係をナショナリズムの観点から理解する。
第 3 回	伝統とは何か：伝統の創造	国家と文化の関係において重要な「伝統」の操作について。
第 4 回	帝国主義と文化政策	国民国家とはことなる帝国における支配政策が被支配民族の文化をどのように扱うのか。
第 5 回	文化国際主義	国家を超えようとする国際主義は、どのように多様な国際社会の文化を扱おうとするのか。
第 6 回	近代化へのアンチテーゼ、文化相対主義	帝国主義支配への反省から、人類文化の普遍性に挑戦する文化相対主義の考え方とは何か。

第 7 回	文化変容の理論、文化触変論	国際交流、異文化接触によって、文化はどのように変容するのか。
第 8 回	文化帝国主義批判	欧米文化の不当な影響力を批判する文化帝国主義批判とは何か。
第 9 回	文明の衝突論	ハンチントンの文明の衝突論の内容とそれへの批判。
第 10 回	原理主義	冷戦後の宗教の重要性と原理主義の国際社会への影響を考える。
第 11 回	欧米諸国の対外文化政策	国家が文化を用いて対外政策を組み立てるという観点から、欧米諸国の外交における文化の位置づけを考える。
第 12 回	日本の対外文化政策	明治以降の近代日本は、どのように外に対して自らの文化を表象してきたのか。
第 13 回	地域形成のための域内文化協力	EU 統合に見られる新しい欧州人アイデンティティ形成に向けての EU 文化政策とは何か。
第 14 回	ユネスコと文化政策	世界遺産登録というユネスコの人類規模の文化政策はどのような意味があるのか。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業後、与えられた課題にこたえる小テストに回答する必要があります。回答のためには、自ら情報を集めて、考察し、回答をすることが求められます。また、授業の各回で参考文献を紹介するので、関心のあるテーマについて、自ら進んで勉強を進めることが期待されます。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは定めない。

【参考書】

参考文献は授業の各回にレジュメで示す。

【成績評価の方法と基準】

授業の参加 50 %、期末レポート 50 %。（レポートは 1 回）。授業への参加は、第 1 回を除いて、小テストを行い、その点数の平均とする。遅刻の場合は、小テストの点数を半分とするので、遅刻しないように。期末レポートは、授業の中盤で課題を示す。参考文献を最低 1 冊読んで、課題について自分の意見をまとめる。提出は授業支援システムを利用。

小テストの採点については、簡単なコメントをつける他、次の回の授業の際に、共通の問題点（減点の理由）を解説し、また高得点の回答の内容を紹介するなど、フィードバックを行う。

【学生の意見等からの気づき】

該当なし。

【学生が準備すべき機器他】

なし。

【その他の重要事項】

なし。

【Outline (in English)】

This lecture deals with the various issues related culture in International Relations. It follows historical course of cultural issues appeared, including relationship between nation state and culture, cultural relations between Capital country and its colonies during imperialism period, problems of cultural dependency voiced in the process of decolonization, focusing on unfairness and real problems raised.

The students are expected to understand the issue of culture that is the base of nation and an important factor of dynamism of international politics.

POL300AD

国際文化交流Ⅱ

牧田 東一

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

単位数：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

授業概要：国際移民の問題を多文化共生の観点から理解する。日本の多文化状況について理解を深めると同時に、他の先進国における移民政策や移民の人権擁護について理解する。

授業の目的・意義：国際移民を国際関係における一つの避けがたい現象であることをまず理解し、客観的な観点、また国際人権の観点から考える姿勢を身につけることを目的とする。その前提の上で、政府がとりうる政策について、最終的には日本の政策の可能性について、自ら考えるための基礎的な知識を身につける。

【到達目標】

日本を含む先進国の多文化状況の現状、原因、課題について理解する。移民問題の一つの対処方法である多文化主義の理念と現実について、海外の事例を含めて理解する。日本における多文化共生の理念と現実について理解する。日本の移民に対する政府、自治体、市民社会の政策や活動について、内容と課題を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に強く関連。「DP1」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

基本的には対面で行います。

ただし、感染状況によりオンライン授業が大学から指示された場合には、Youtube を使った授業ビデオを事前に見て、授業当日に Zoom を用いてディスカッションなどのオンライン授業を行います。Zoom は無料で簡単にダウンロードできます。詳しくは、授業支援システムの「授業内掲示板」をご覧ください。

対面授業では、講義に加えて、テーマを与えてグループディスカッションを行います。

授業後、授業支援システムを使っての小テストを行います。締め切りは授業当日の 23 : 55 です。成績評価は小テストの平均値 (50 %) と期末レポート (50 %) とします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	国際移民の時代	国際移民を歴史的に概観し、グローバル化と移民の関係を理解する。
第 2 回	在日韓国朝鮮人の移民の原因	帝国主義の時代の遺産である旧植民地出身者の中で最大集団である在日韓国朝鮮人の形成を歴史的に理解する。
第 3 回	在日韓国朝鮮人の社会生活、文化	戦後日本において、在日韓国朝鮮人がどのように生きてきたのか、その社会的貢献を含めて理解する。
第 4 回	アジア系新移民	1970 年代以降のアジア系の新移民について、その原因や置かれた状況を理解する。
第 5 回	日系移民	1990 年代にアジア系に取って代わった中南米からの日系移民の原因と現状を理解する。
第 6 回	フランス、ドイツの移民問題	フランスとドイツの移民問題、移民政策の基本を理解する。

第 7 回	イギリスの移民問題、多文化主義	イギリスの移民問題、多文化主義の思想を理解する。
第 8 回	アメリカの移民問題、多文化主義	アメリカの移民問題、多文化主義を理解する。
第 9 回	カナダの多文化主義	カナダの移民問題、多文化主義を理解する。
第 10 回	オーストラリアの多文化主義	オーストラリアの移民問題、多文化主義を理解する。
第 11 回	在日外国人が抱える諸問題	在日外国人の人々が抱えている様々な問題を広く把握する。
第 12 回	日本の移民政策の変化と現状	日本政府の移民政策を歴史的に見ると同時に、現状の課題を考える。
第 13 回	地方自治体の外国人政策の変化と現状	地方自治体で行われている外国籍住民への政策を神奈川県を例に見る。
第 14 回	民間 NPO による外国人支援	外国人支援を行っている民間団体、NPO の活動の特徴、限界などをみる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業後に、出された課題に対して小テストに回答していただきます。回答にはある程度自分で調べる作業が必要になります。その後、情報を比較検討して、自分の考えをまとめる作業が必要です。また、授業で取り上げる様々なテーマについて、参考文献を自ら読み進め、理解を深めることが期待されます。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは定めません。

【参考書】

参考文献は授業の各回にレジュメで示す。

【成績評価の方法と基準】

授業への参加 50 %、期末レポート 50 %。（レポートは 1 回）。授業への参加は、第 1 回を除いて、小テストを行い、その点数の平均とする。遅刻の場合は、小テストの点数を半分とするので、遅刻しないように。期末レポートは、授業の中盤で課題を示す。参考文献を最低 1 冊読んで、課題について自分の意見をまとめる。提出は授業支援システムを利用。

小テストの採点については、簡単なコメントをつける他、次の回の授業の際に、共通の問題点（減点の理由）を解説し、また高得点の回答の内容を紹介するなど、フィードバックを行う。

【学生の意見等からの気づき】

該当なし。

【学生が準備すべき機器他】

なし

【その他の重要事項】

なし

【Outline (in English)】

This lecture deals with problems related to migration and multicultural situation in the recipient society, focusing on Japanese situation, but it also deals with immigration and human rights policy in other developed countries.

The students are expected to understand international migration as an unavoidable phenomenon of the present world and see it from objective viewpoint and international human rights protection. Then, they are also expected to acquire knowledge to think by themselves possible government migrant policies in Japan.

POL300AD

アジア国際政治概論

水野 孝昭

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

単位数：2 単位

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ウクライナ侵攻の影響もあってアジアの国際情勢は険しくなる一方です。米中対立は外交・安全保障から経済・技術に広がっています。台湾海峡や朝鮮半島、南シナ海など緊張は高まり、民主化の挫折や平和構築の失敗も続いています。日本外交も北朝鮮や中国だけでなく、日韓関係も打開の途がなかなか見えません。冷戦後の「平和の配当」を享受して「東アジア共同体」を目指していたアジアが、冷戦時代の対立の再現に様変わりしたのはなぜでしょう。どうしたら紛争を予防できるでしょう。日米中のトライアングル関係を軸に領土問題や歴史認識などの争点を取り上げて、日本のパワーが衰えつつある現実をリアルに把握しつつ、「他者との共存」を図るトランスナショナルな視点をもつことを目指します。

【到達目標】

21 世紀のアジアを理解するために

- ①アジアの戦争と平和の経験を学んで、国際政治の基礎を把握する
- ②軍事、経済、ソフトパワーなど国際社会を動かすパワーの視点から日米中のトライアングル関係を理解する
- ③中国と台湾、朝鮮半島、ベトナムという「分断国家」の現状を比較してアジア特有のナショナリズムの意味を理解する
- ④日本とアジアの将来について自分の言葉で語れるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に強く関連。「DP1」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

参考にするべき動画や資料を事前に提供したうえで対面授業と討論を行います。

前半は戦後アジアの国際紛争の事例を欧州などと比較しつつ「戦後処理」を軸に考察する。後半は領土紛争、歴史認識、地域統合など個別争点を取り上げて、その原因と和解の方策を考える。毎回のテーマごとに受講生から「討論者」を募集して授業を進める。ニュースの背景解説もふくめて国際問題をファクトに基づいて「議論する力」を身につける。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション・「冷戦後から新冷戦へ」	ウクライナ戦争の余波は？ / リアリズムとリベラリズム / アジアと米国 / 「インド太平洋」と「一帯一路」
第 2 回	「冷戦の終わり方」 欧州とアジアの経験	欧州とアジアの冷戦の違い / 「封じ込め」と熱い戦争 / アジアの「分断国家」とドイツ統一の教訓
第 3 回	対立の原型①：「二つの中国」と台湾の地位	国共内戦と「中国の喪失」 / 毛沢東と蒋介石 / 中ソ対立と米中接近 / 共産党の世界観
第 4 回	対決の原型②：イデオロギーの対決 朝鮮戦争と日米安保	「民族解放」と朝鮮国連軍 / 米韓同盟と日米同盟 / 日韓基本条約と植民地支配の清算
第 5 回	対決の原型③ ベトナム戦争と「グローバルサウス」	内戦と代理戦争 / 第 3 世界のナショナリズム / メディアと反戦運動 /

第 6 回	冷戦後①中国の「平和的台頭」とその変質	天安門事件と鄧小平 / APEC と WTO 加盟 / 香港返還と「一国二制度」 / 海洋強国路線へ
第 7 回	冷戦後②韓国の民主化と南北関係	軍服からシビリアンへ / 金大中というカリスマ / 米朝交渉の経緯
第 8 回	冷戦後③カンボジアと平和と米越和解	ドイモイと市場経済 / 日本の和平努力 / 国連 PKO の役割 /
第 9 回	冷戦後④ ASEAN : 地域機構の意義と限界	ベトナムの加盟と ARF 外交 / アジア金融危機と開発独裁 / APEC の迷走 / TPP と「一帯一路」
第 10 回	民主化と関与政策：フィリピン、ミャンマー、タイ	「開発独裁」から民主化したフィリピンやインドネシア、民主化から逆戻りしたタイ、ミャンマー
第 11 回	習近平体制の中国	「歴史決議」と「中華民族の偉大な復興」 / 「共同富裕」と市場経済 / ロシア、インド、日本の位置づけ
第 12 回	米中関係の展開	米国の大統領選挙と中国政策 / 経済安全保障と台湾 / ウクライナ戦争と核抑止
第 13 回	日本の選択は	日米同盟の深化とは / 台湾海峡と尖閣問題 / 朝鮮半島有事と日韓関係 / 歴史認識問題への姿勢
第 14 回	まとめ：日本の選択は？	「平和国家」のアイデンティティ / 「経済大国」のパワーと国家安全保障戦略 / 日本の「抑止力」とは

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

初回に配る参考文献リストから毎回の参考文献や資料を紹介するので、事前に目を通して下さい。アジアで日々起る問題について、国際政治の視点から背景、現状、対応を説明できるようにニュースを日々読んでください。本授業の準備学習・復習時間は各 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特定の教科書は指定しません。授業支援システムや google クラウドルームを使ってレジュメや資料などを配布します。

参考文献は授業の初回で指示します。

【参考書】

小原雅博『戦争と平和の国際政治』（ちくま新書）
 千々和泰明『戦後日本の安全保障』（中公新書）
 千々和泰明『戦争はいかに終結したか』（中公新書）
 佐橋亮『米中対立』（中公新書）
 毛利和子『日中漂流』（岩波新書）
 服部龍二『外交ドキュメント 歴史認識』（岩波新書）
 同『日中国交正常化』（中公新書）
 阿南友亮『中国はなぜ軍拡を続けるのか』（新潮選書）
 五味洋治『朝鮮戦争はなぜ終わらないのか』（創元社）
 ジョン・ダワー『敗北を抱きしめて』（岩波書店）
 イアン・ブルマ『戦争の記憶 日本人とドイツ人』
 若宮啓文『和解とナショナリズム』（朝日新書）
 波多野澄雄『日本の歴史問題』（中公新書）
 朴裕河『帝国の慰安婦』（朝日新聞出版）
 木宮正史『日韓関係史』（岩波書店）
 ドン・オーバードーフアー『二つのコリア』（共同通信）
 吉田文彦『核のアメリカ』（岩波書店）
 加納雄大『東南アジア外交』（信山社）

【成績評価の方法と基準】

最終レポート（3000 字）を 70%、授業参加を 30% で評価します。レポートのテーマ選択については授業で説明します。

【学生の意見等からの気づき】

毎回の授業内容や順序はできるだけ現実の国際社会の動きに合わせていく。必ずアジアに関する日々の国際ニュースをチェックすること。

【学生が準備すべき機器他】

ipad などネットが閲覧できる情報機器を持参するのが望ましい。

【その他の重要事項】

朝日新聞での 30 年間の記者経験、とくにハノイ、ワシントン、ニューヨークでの特派員としての経験をいかして、戦争報道や国際報道のメディアリテラシーを高めることを目指す。

【Outline (in English)】

This class tries to provide a fresh look at strategic landscapes in Asian region through Japan's experiences. Asian countries in general have been enjoying economic growth and development by trade and investment. Regional economic integrations and economic interdependences, however, do not mean political reconciliation nor a stable regional order. We will examine these trends and think of the future perspectives in Asia.

POL100AD

中東の政治と社会 I

木村 正俊

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

単位数：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中東イスラーム世界の宗教と国家の歴史的展開に関する基本的知識を身につけることを目的とする。同時に、第一次大戦後の中東世界の政治を考えることに必要な知識を得ることを目指す。

【到達目標】

学生は以下のことが可能になります。

中東地域の政治、歴史、宗教に関する知識の習得。

中東地域と他の地域（特にヨーロッパ）との関係についての理解。

国際政治学や比較政治に関する基本的な知識の習得。

By the end of the course, students should be able to do the followings:

To acquire knowledge of politics, history and religion in the Middle East

To understand the relationship between the Middle East and other regions (especially Europe)

To acquire basic knowledge of international politics and comparative politics

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に強く関連。

【授業の進め方と方法】

講義形式で行う。

対面授業は最低 7 回以上行う。

授業の初めに、前回授業時の個別質問に対する回答や、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
#1	Intro.	講義の概要の紹介と講義のやり方
#2	古代末期文明	古代末期文明における宗教
#3	疫病、国家、宗教	ユスティアヌスのベスト
#4	イスラームの出現	古代末期文明とイスラームの出現
#5	初期イスラームとベスト	ベスト/疫病に対するイスラームの原則
#6	イスラームの確立	スンナ派とシーア派
#7	聖戦と正戦	宗教と戦争
#8	黒死病とその後	中東と西ヨーロッパのベストに対する対応の比較
#9	中東の火薬帝国	オスマン朝とサファヴィー朝
#10	預言者の医学	イスラームと医学の関係
#11	国家と疫病	疫病対策に関するオスマン帝国とヨーロッパ諸国の相違
#12	エジプトの近代化	ムハンマド・アリー登場以降のエジプト
#13	オスマン帝国の近代化	オスマン帝国の近代化とヨーロッパ外交
#14	第一次世界大戦へ	講義のまとめと第一次世界大戦後の中東世界の展望

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習および復習のために配布したプリントに目を通すこと。

新聞やインターネットなどを利用して中東で生じている問題に関心をもつこと。

可能なかぎり紹介された文献を読むこと。

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。この時間には各種メディアを通じた中東に関する情報へアクセスすることも含まれる。

Read the prints distributed each time before class and review after class.

Be Interested in problems occurring in the Middle East by using newspapers and the Internet.

Your study time will be more than four hours for a class.

【テキスト（教科書）】

テキストの代わりに、毎回プリントを配布する。

【参考書】

適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業の内容に関するレポートのみで評価。

小レポート 20 %、期末レポート 80 %

出席は当然であるが、欠席に由来する不利益に関しては何の対応もしません。

Final grade will be calculated according to short reports and term-end report.

【学生の意見等からの気づき】

授業時間外の質問はメールで対応します。

必要であれば個別に ZOOM によるミーティングを行います。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを利用できるようにしてください。

【その他の重要事項】

大学における講義、シラバスの内容、予習・復習に 2 時間を要することなどに関して興味のある人は、佐藤郁哉『大学改革の迷走』（ちくま新書、2019 年）を参照してください。

【Outline (in English)】

This course deals with political and religious history of the Middle East from roughly 600 to 1914. The fundamental aim of this course is to acquire the basic knowledge of Christianity, Islam and Judaism, and to consider the relations between politics and religion. In addition, we aim to get a lens through which politics and public affairs can be viewed.

POL100AD

中東の政治と社会Ⅱ

木村 正俊

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

単位数：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

第一次世界大戦後の中東諸国の政治および中東の国際政治に関する知識とともに、宗教、とくにイスラームと政治の関係に関する知識を身につけてもらうことを目指す。これによって、比較政治学や国際政治学の基本的知識を習得することを目標とする。

【到達目標】

学生は以下のことが可能になります。

中東地域の政治、歴史、宗教に関する知識の習得。

中東地域と他の地域の関係についての理解。

国際政治学や比較政治に関する知識の習得。

By the end of the course, students should be able to do the followings:

To acquire knowledge of politics, history and religion in the Middle East

To acquire basic knowledge of international politics and comparative politics

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に強く関連。

【授業の進め方と方法】

講義形式で行う。

対面授業は最低 7 回以上行う。

授業の初めに、前回授業時の個別質問に対する回答や、前回の授業で提出されたりアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
#1	Intro.	講義の概要の紹介と講義のやり方
#2	第一次世界大戦と中東世界	イスラーム帝国の解体と国民国家の登場
#3	アラブ・ナショナリズム	アラブ・ナショナリズムの思想・運動と第一次中東戦争
#4	ナセルのエジプト	ナセル時代のエジプトとアラブ世界
#5	ナセル後のエジプト	エジプトの権威主義体制の特徴
#6	イスラームと政治	エジプトのムスリム同胞団とアラブの春
#7	シリア	シリアのバアス党体制
#8	イラク	イラクのバアス党体制とその後
#9	サラフィー主義	サラフィー主義の思想・運動
#10	US と中東	UA の中東政策
#11	湾岸諸国	ガルフ資本主義と湾岸地域国際政治
#12	イラン	革命国家イランと地域国際政治
#13	パレスチナ問題	パレスチナとイスラエル
#14	Outro.	講義のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習および復習のために配布したプリントに目を通すこと。

新聞やインターネットなどを利用して中東で生じている問題に関心をもつこと。

可能なかぎり紹介された文献を読むこと。

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。この時間には各種メディアを通じた中東に関する情報へアクセスすることも含まれる。

Read the prints distributed each time before class and review after class.

Be Interested in problems occurring in the Middle East by using newspapers and the Internet.

Your study time will be more than four hours for a class.

【テキスト（教科書）】

講義形式で行う。

対面授業は最低 7 回以上行う。

授業の初めに、前回授業時の個別質問に対する回答や、前回の授業で提出されたりアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【参考書】

適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業の内容に関するレポートのみで評価。

小レポート 20 %、期末レポート 80 %

出席は当然であるが、欠席に由来する不利益に関しては何の対応もしません。

Final grade will be calculated according to short reports and term-end report.

【学生の意見等からの気づき】

授業時間外の質問はメールで対応します。

必要であれば ZOOM によるミーティングを行います。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを利用できるようにしてください。

【その他の重要事項】

大学における講義、シラバスの内容、予習・復習に 2 時間を要することなどに関して興味のある人は、佐藤郁哉『大学改革の迷走』（ちくま新書、2019 年）を参照してください。

【Outline (in English)】

This course deals with domestic and regional politics in the Middle East

since WW II. The fundamental aim of this course is to acquire the basic knowledge of Christianity, Islam and Judaism, and to consider the

relations between politics and religion. In addition, we aim to get a lens

through which politics and public affairs can be viewed.

POL100AD

旧ソ連諸国の政治と社会 I

溝口 修平

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

単位数：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

20 世紀末にソ連が崩壊したことによって、15 の独立国家が誕生した。これらの国々は、かつて同一国家であったという歴史を共有しているが、現在の政治のあり方は様々である。そこで、本講義では、比較政治学の理論的観点から旧ソ連諸国の政治を比較検討する。講義ではまず比較政治学の理論的研究を紹介し、その理論で旧ソ連諸国の政治がどう捉えることができるのか（できないのか）を考える。

【到達目標】

1. 比較政治学の理論的研究の基礎を理解できる。
2. 理論的研究に基づいて、旧ソ連諸国の政治を理解できる。
3. 理論的見地から、旧ソ連諸国の特殊性と他地域との共通点を説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

毎回配布する資料に基づいて講義形式で行います。リアクションペーパーを配布して授業内容の理解度を確認するとともに、質問等については翌週の授業でフィードバックします。

授業は原則として対面で行いますが、場合によってはオンライン授業を併用する可能性があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の概要説明、参考文献の説明
2	政治体制の類型（1）	民主主義体制について
3	政治体制の類型（1）	全体主義体制と権威主義体制について
4	ソ連という政治体制	前2回の講義内容に基づき、ソ連という政治体制の特徴を検討する
5	政治体制の変動（1）	民主主義の概念と民主化について
6	政治体制の変動（2）	現代の権威主義について
7	旧ソ連諸国の政治変動（1）	ソ連崩壊後の旧ソ連諸国の政治について
8	旧ソ連諸国の政治変動（2）	2000年代以降の旧ソ連諸国の変化について
9	執政制度	大統領制と議院内閣制の特徴、それらの世界的分布について
10	旧ソ連諸国の政治制度（1）	旧ソ連諸国の政治制度選択の過程を比較する
11	旧ソ連諸国の政治制度（2）	旧ソ連諸国の大統領制の違いを比較する
12	権威主義体制における選挙と政党	権威主義体制において選挙が実施され、政党が組織されるのはなぜか
13	旧ソ連諸国の選挙	旧ソ連諸国ではどのような選挙が行われているか
14	総括	今学期のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で関心を持ったテーマについて、自分で調べて知識を深めていく習慣をつけること。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

開講時に指示する。

【成績評価の方法と基準】

中間レポート（30 %）

期末試験（70 %）

【学生の意見等からの気づき】

毎回リアクション・ペーパーを配布し、そこで出された質問に次の授業でできる限り答えるようにしています。

【担当教員の専門分野等】

＜専門領域＞比較政治学、旧ソ連諸国の政治外交

＜研究テーマ＞旧ソ連諸国の体制転換、権威主義体制における憲法の役割

＜主要研究業績＞

- ①『入門講義 戦後国際政治史』慶應義塾大学出版会、2022 年（共著）。
 - ②『ロシア連邦憲法体制の成立－重層的転換と制度選択の意図せざる帰結』北海道大学出版会、2016 年。
 - ③『連邦制の逆説？——効果的な統治制度か』ナカニシヤ出版、2016 年（共編著）。
- など

【Outline (in English)】

The former Soviet countries have experienced various courses of political and economic transformation after the collapse of the Soviet Union. In this course, we will explore the characteristics of of the Soviet Union and examine the similarities and differences of the post-Soviet countries. The course puts emphasis on studying the above topics from theoretical perspectives. We will deal with the following questions: why have some post-Soviet countries become stable, but others not? What explains the differences of the political institutions built in these countries. Students will be required to write midterm papers and pass final exams.

POL100AD

旧ソ連諸国の政治と社会Ⅱ

溝口 修平

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

単位数：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

20 世紀末にソ連が崩壊したことによって、15 の独立国家が誕生した。これらの国々は、かつて同一国家であったという歴史を共有しているが、現在の政治のあり方は様々である。本講義では、ソ連崩壊後のロシア政治を中心に扱う。

比較政治学の理論的研究を参照しながら、ロシアの政治制度がどのようなものかを理解するとともに、ロシアとウクライナの戦争がなぜ発生したのかロシア国内の文脈から理解することを目指す。

【到達目標】

1. ロシアの政治制度の基本的特徴を説明できる。
2. 比較政治学の理論的研究に基づいて、ロシアの特殊性と他地域との共通点を説明できる。
3. ロシアとウクライナの関係の歴史的背景、ウクライナ危機の原因を説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

毎回配布する資料に基づいて講義形式で行います。リアクションペーパーを配布して授業内容の理解度を確認するとともに、質問等については翌週の授業でフィードバックします。

授業は原則として対面で行いますが、場合によってはオンライン授業を併用する可能性があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の概要説明、参考文献の説明
2	ロシアの体制転換	ソ連崩壊後のロシアにおける憲法制定と政治制度の特徴について
3	執政制度	ロシアの大統領制の特徴について
4	市場と国家（1）	ソ連末期からの市場経済化とその結果について
5	市場と国家（2）	現在のロシアの企業と国家の関係について
6	議会制度と政党システム	議会制度の特徴と政党システムの変化について
7	中央・地方関係	連邦制の特徴とその変化について
8	ロシアと旧ソ連諸国の関係	在外ロシア人、移民問題について
9	ロシアとウクライナの関係（1）	ロシアとウクライナの関係の歴史、ソ連崩壊後の変化について
10	ロシアとウクライナの関係（2）	ウクライナ危機について
11	ロシア政治の現状（1）	ウクライナ危機後のロシアについて
12	ロシア・ウクライナ戦争（1）	戦争の原因について
13	ロシア・ウクライナ戦争（2）	戦争の影響と今後について
14	今学期のまとめ	全体の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で関心を持ったテーマについて、自分で調べて知識を深めていく習慣をつけること。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

開講時に指示する

【成績評価の方法と基準】

中間レポート（30 %）

期末テスト（70 %）

【学生の意見等からの気づき】

毎回リアクション・ペーパーを配布し、そこで出された質問に次の授業でできる限り答えるようにしています。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域> 比較政治学、旧ソ連諸国の政治外交

<研究テーマ> 旧ソ連諸国の体制転換、権威主義体制における憲法の役割

<主要研究業績>

- ①『入門講義 戦後国際政治史』慶應義塾大学出版会、2022 年（共著）。
 - ②『ロシア連邦憲法体制の成立－重層的転換と制度選択の意図せざる帰結』北海道大学出版会、2016 年。
 - ③『連邦制の逆説？——効果的な統治制度か』ナカニシヤ出版、2016 年（共編著）。
- など

【Outline (in English)】

The former Soviet countries have experienced various courses of political and economic transformation after the collapse of the Soviet Union. In this course, we will explore several aspects of post-Soviet Russian politics in detail. The course puts emphasis on studying the above topics from theoretical perspectives. We will deal with the following questions: What are the peculiarities of Russia's presidential system? Why has President Putin been so popular for a long time? Students will be required to pass both midterm and final exams.

POL100AD

国際協力論 I

志賀 裕朗

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

単位数：2 単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉〈ダ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ウクライナ戦争は世界のあり方を大きく変えつつある。国際社会が団結して環境問題や貧困問題、感染症対策等の地球規模課題に取り組む必要性は明白だが、大国の対立や各国の思惑の違いなどのために国際社会は一致団結できておらず、世界の将来はますます不確定となっている。

こうした不安定な世情のなか、「問題の本質がどこにあるのか」を的確に見定めようとして、健全な猜疑心をもって「定説」を疑い、自らの頭で考え、他人を説得できる自分なりの見解を持つことが、現代社会を生きる上で不可欠のリテラシー（基礎的素養）となっている。

本講義ではまず、途上国問題や開発援助のあり方について建設的な議論と創造的な発想をするうえで不可欠の前提となる基礎知識を習得することを目指す。次いで、「自分なりの考え」を持ち、それを友人や講師と議論することの重要性、難しさと楽しさを体感することを目指す。講師は、政府開発援助（ODA）の実務家であり研究者でもあるので、援助の現場における生の経験と、研究分野における最新の議論とのバランスのとれた講義を行いたい。

【到達目標】

まず、途上国問題および開発援助についての基礎知識を習得することを目指す。途上国問題を理解するとは、開発途上国において、何が、なぜ問題になっているのか、その原因は何か（何と考えられているか）を理解することである。また開発援助を理解するとは、途上国問題に対してどのようなアクターが、どのような問題意識と動機にもとづいて、どのような方法で対処しようとしているか、その試みは上手くいっているのか、成功していないとすればそれは何故かを理解することである。本講義では、こうした論点を、大きな国際政治経済史の流れの中に位置づけて理解することを目指す。

次いで、こうした知識を活用しつつ、様々な論点に関する多様な意見のなかから、自分なりの意見を形成して説得的に提示できるようになることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に強く関連。「DP1」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

インターアクティブな授業とする。講師はしつこく「なぜ？」という問いを投げかけ、議論を奨励するので、受講生は積極的に議論に参加してほしい。自分らしい“Something New”を創造して世界に訴えたい、主体性と自律性をもって自分の夢を追いかけたい！と願う学生の積極的受講を期待している。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	講義の目的と概要、成績評価方法、学生の心構え等の説明を行う。
2	コロナ危機と途上国	新型コロナウイルスのパンデミックは途上国に急速に広がりがつつある。国民の命と生活を守るうえで、途上国政府はどんな課題やジレンマに直面しているかを検討する。

3	コロナ危機と開発援助	国際社会は、パンデミックと戦う途上国を、どのように支援できるだろうか。先進国経済も悪化し、米中の対立が激化するなか、「ポストコロナの世界」における開発援助の将来を考える。
4	途上国が（コロナ危機以前から）直面する課題	途上国が（コロナ危機前から）直面してきた様々な課題を、SDGS（持続可能な開発目標）を参考にしながら広く検討する。
5	開発援助の仕組み	開発援助にはどのようなアクター（援助機関、途上国政府、企業、NGO等）が携わっているのか、援助政策はどのようにして決定されているのか、等を検討する。
6	開発思想の歴史①	貧しい国はなぜ貧しく、豊かな国はなぜ豊かなのか、貧しい国を豊かにするには何が必要なのか。こうした問いにどう答えるかは、途上国の開発戦略・援助機関の援助戦略を立案する上で重要である。こうした開発思想の歴史的展開を振り返る。
7	開発思想の歴史②	開発思想については、アメリカや欧州諸国と日本のあいだで大きな相違がある。それは如何なるものか、そうした違いがなぜ存在するのかを考える。
8	中間振り返り	これまで学習・議論したことを振り返り、ディスカッションを行う。
9	日本の政府開発援助（ODA）①	欧米諸国、世界銀行のような国際機関、または中国の援助と比較して、日本のODAにはどのような特徴があるのか、その長所と欠点を検討する。
10	日本の政府開発援助（ODA）②	日本のODAの代表的な事例（借款によるインフラ整備支援や、法整備を目指した技術援助）を取り上げ、その特徴を、他国による援助と比較しながら検討する。
11	途上国問題と開発援助の新潮流①	近年の国際政治経済情勢の変動のなかで、途上国問題や開発援助のあり方がどのように変化しつつあるかを検討する。
12	途上国問題と開発援助の新潮流②	近年の日本を取り巻く国際政治経済情勢の変化や途上国問題の変動を受けて、日本はどのような援助政策を打ち出そうとしているのかを検討する。
13	ロールプレイング・ゲーム	途上国問題あるいは開発援助に関する具体的なテーマを取り上げ、それに関連するアクター（二国間援助機関、国際機関、途上国政府、NGO等）の役割を各自で分担して実際に戦略立案や交渉を体験するゲームを行う。
14	振り返りと総括	改めて、コロナ危機が我々に突き付けたものを振り返る。それは、途上国だけの問題だろうか？日本を含む先進国にもその問題は存在しないだろうか？

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

受講生は、講師からの指示に基づき、参考文献等を使用しながら特定のテーマについてのレポートを作成・提出するほか、グループディスカッションの準備等を行う。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に使用しない。

【参考書】

西垣昭、下村恭民、辻一人、2009年、『開発援助の経済学:「共生の世界」と日本のODA』、有斐閣。

木村宏恒、近藤久洋、金丸裕志編、2013年、『開発政治学の展開:途上国開発戦略におけるガバナンス』、勁草書房。

木村宏恒編、2018年、『開発政治学を学ぶための61冊:開発途上国のガバナンス理解のために』、明石書店。

【成績評価の方法と基準】

授業中に提出を求める課題(40%)と最終試験(60%)で成績を評定する予定であるが、履修学生数によって変更がありうる。

【学生の意見等からの気づき】

授業時間の延長が無いように心がける。また、前回よりも講義(講師からの説明)の比重を減らし、学生自身が参加し議論する時間の割合を高めるつもりである。なお、授業の内容・方法等に関する要望・提案・批判は大歓迎であるので、随時受け付けます。

【学生が準備すべき機器他】

各自PC持参が望ましい。

【その他の重要事項】

■本講義は、国際協力機構、国際協力銀行、財務省等で開発援助の実務に携わってきた講師が、援助の実務と理論の双方を踏まえた講義を行う。

■本講義の履修に先立って履修しておくべき科目は無い。途上国問題、開発援助、国際政治経済に関する前提知識も一切必要としない。

■「国際開発論Ⅱ」を併せて受講することを推奨する。

■本講義は決して「ラクタン」(楽に単位が取れる科目)では無いので、その点を十分に理解して臨むよう希望する。

■提出物において剽窃が認められた場合には、理由の如何を問わずに不合格判定とするので十分に注意すること。受講生は「剽窃」の意味を事前に確認しておくこと。

【Outline (in English)】

How should we eradicate poverty and inequality? How should we achieve peace and justice? How should we guarantee prosperity, health, education, and decent work for all? Japan has been tackling these challenges for over sixty years, by providing aid (Official Development Assistance: ODA) to developing countries with distinctive aid philosophy and unique instruments.

This course firstly introduces a basic knowledge about development issues and Japan's ODA policy. Then students are encouraged to think critically about the conventional wisdom on global agendas. The course will be interactive, with the combination of lecture, group discussion, and role-playing game. No prior knowledge is required.

POL100AD

国際協力論Ⅱ

志賀 裕朗

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

単位数：2 単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉〈ダ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

世界の政治経済を巡る秩序が大きな転換点を迎え、世界の先行きはますます不透明になっている。こうしたなか、「問題の本質がどこにあるのか」を的確に見定めたいと、健全な猜疑心をもって「定説」を疑い、自らの頭で考え、他人を説得できる自分なりの見解を持つことが、現代国際社会を生きる上で不可欠のリテラシー（基礎的素養）となっている。

本講義では、途上国や開発援助に関する様々な問題を、ひとつひとつ時間をかけて深く掘り下げて検討することを通じて、正解の無い難問について「自分なりの考え」を持ち、それを友人や講師と議論することの重要性、難しさと楽しさを体感することを目指す。講師は、政府開発援助（ODA）の実務家であり研究者でもあるので、援助の現場における生の経験と、研究分野における最新の議論とのバランスのとれた講義を行いたい。

【到達目標】

本講義では、ひとつのテーマについて徹底的に議論することを通じて、「国際協力論Ⅰ」で学んだ幅広い知識を深めることを目指す。同時に、様々な論点に関する多様な意見のなかから、自分なりの意見を形成して説得的に提示するためのスキルを獲得することも目指す。

なお、国際情勢の変動や受講生の希望により議論するテーマを変更する可能性が高い（そのため、シラバスに提示したテーマはあくまでも暫定的なものである）。議論したいテーマ、疑問に思うテーマの提案を大いに歓迎する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に強く関連。「DP1」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

本講義では、各テーマについて講師が導入の説明を行ったのち、受講生からの発表およびディスカッションを行う。重点は後者にあり、その意味で本講義は「講義」よりも「ゼミ」に近い形態となる。講師はしつこく「なぜ？」という問いを投げかけ、議論を奨励するので、受講生は事前に十分な準備を行ったうえで積極的に議論に参加することが求められる。自分らしい“Something New”を創造して皆に訴えたい、主体性と自律性をもって自分の夢を追いかけたい！と願う学生の受講を期待している。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	講義の目的と概要の説明を行う。
2	途上国が直面する多様な課題①	サブサハラ・アフリカには、世界の HIV-AIDS 患者の 7 割が集中すると言われ、特に南アフリカ共和国では 30 代前半の女性の罹患率が 36 % という深刻さである。なぜこうした事態が起きているのか、これに効果的に対処するにはどうすればよいかを議論する。

3	途上国が直面する多様な課題②	「戦後最悪の人道危機」と言われ、国民の実に半数が難民となっているシリア紛争と難民問題に国際社会はどう対処すべきかを、近年欧米を中心とする先進国で台頭する排外主義的な動きと関連づけながら議論する。
4	途上国が直面する多様な課題③	「なぜ異なる民族は殺し合うのか、殺し合った民族を共存・和解させるにはどうすればよいのか」を、1990 年代に発生したボスニア・ヘルツェゴヴィナ紛争とその後の同国の状況、日本の援助（平和構築支援）の実例を題材に議論する。
5	途上国が直面する多様な課題④	1970 年代の東京の深刻な交通渋滞を見たタイの政府関係者は「バンコクは東京のようにはならない」と言ったが、バンコクは世界有数の交通渋滞都市になってしまった。これを見たベトナムの政府関係者は「ハノイはバンコクのようにはならない」と言ったが、ハノイもまた深刻な交通渋滞に悩まされている。他の国の教訓から学ぶことはなぜ難しいのだろうか？ アジアの都市交通問題を例に、考えてみたい。
6	開発思想と援助手法①	「東・東南アジア諸国の多くが高度経済成長を達成したのに対して、アフリカ諸国の多くはなぜ長期にわたる経済停滞を経験し、今なお貧しいままなのか？」という問いを検討する。
7	開発思想と援助手法②	「汚職腐敗がひどい権威主義体制国に対しては援助すべきではない」という主張の是非を検討する。
8	近年の国際政治経済情勢の激変と国際援助秩序①	これまで国際開発援助を主導してきた欧米先進国において、異なる文化や価値観に対する軽蔑や不寛容が台頭しているほか、客観的な事実が重視されない「ポスト真実（post-truth）の時代」が来たと言われる。こうした動きは、今後の開発援助や途上国問題の解決にどう影響するのかを議論する。
9	近年の国際政治経済情勢の激変と国際援助秩序②	2015 年に採択された SDGs（持続可能な開発目標）を読み、2000 年に策定された MDGs（ミレニアム開発目標）と比較しながら、その特徴と問題点を議論する。
10	近年の国際政治経済情勢の激変と国際援助秩序③	「2000 年代以降、中国は援助を急増させ、人権侵害を行っている独裁国家を支援したり環境を破壊したりしているほか、アジアインフラ投資銀行（AIIB）等の援助機関を設置して開発援助に関する既存の国際秩序を混乱させている」という見解について議論する。
11	日本の政府開発援助（ODA）の特徴①	第二次大戦における敗北から 10 年も経っていない 1954 年、日本はアメリカや世界銀行から多額の援助を受けながら、途上国に対する援助を開始した。それは何故だったか、そうした経験が日本のその後の援助のあり方にどのように影響したかを検討する。

- | | | |
|----|----------------------|---|
| 12 | 日本の政府開発援助 (ODA) の特徴② | 日本の ODA は借款を多用するという特徴を持っている。このことは、「援助は豊かな国が貧しい国に対して行う慈善なのだから無償であるべきだ」と考える欧州諸国からの強い批判にさらされてきた。「金利を取ってカネを貸す」援助方式の是非を議論する。 |
| 13 | 日本の政府開発援助 (ODA) の特徴③ | 2015 年に日本政府が発表した「開発協力大綱」を読み、日本が ODA を通じてどのように国際貢献をしようとしているか、過去の「ODA 大綱 (1992 年制定、2003 年改訂)」と比較しながら読み解く。 |
| 14 | 授業内容の振り返りと総括 | これまで学習した内容を振り返り、これから学習すべきことを展望する。 |

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

受講生は、講義で取り上げる問題について事前に調べ、自分の意見とその根拠を簡潔に記載したペーパー (A4 サイズで 2 枚以内) を作成して講義に臨むこと。事前の調査に際しては、英語のソースにアクセスすることを推奨する。なお、講義のトピックは学生の興味も勘案して決定する (シラバス通りとは限らない)。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

特に使用しない。

【参考書】

近藤康太郎、2020 年、『三行で撃つーく 善く、生きる> ための文章塾』、CCC メディアハウス。

小坂井敏晶、2017 年、『答えのない世界を生きる』、祥伝社。

【成績評価の方法と基準】

授業で提出を求める課題 (60%) およびディスカッションへの積極的参加の度合い (40%) によって成績を評定する予定 (最終試験は行わない) であるが、履修学生の数によって変更がありうる。

【学生の意見等からの気づき】

授業時間の延長が無いように心がける。なお、授業の内容・方法等に関する要望・提案・批判は大歓迎であるので、随時受け付けます。

【学生が準備すべき機器他】

各自 PC 持参が望ましい。

【その他の重要事項】

■本講義は、国際協力機構、国際協力銀行、財務省等で開発援助の実務に携わってきた講師が、援助の実務と理論の双方を踏まえた講義を行う。

■途上国問題や開発援助に関する前提知識があることが望ましい。本講義の履修に先立って履修しておくべき科目は無いが、「国際協力論 I」を併せて受講することを推奨する。

■本講義は決して「ラクタン」(楽に単位が取れる科目) ではない。特に、全く発言しないような消極的姿勢の場合には単位を与えないので、その点を十分に理解したうえで履修に臨むよう希望する。

■提出物において剽窃が認められた場合には、理由の如何を問わず不合格判定とするので十分に注意すること。受講生は「剽窃」の意味を事前に確認しておくこと。

【Outline (in English)】

How should we eradicate poverty and inequality? How should we achieve peace and justice? How should we guarantee prosperity, health, education, and decent work for all? Students are encouraged to think critically about the conventional wisdom on the global agendas mentioned above. The course will be interactive, with the combination of lecture, group discussion, and role-playing game. No prior knowledge is required.

POL100AD

国際公共政策 I

坂根 徹

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

単位数：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、「グローバルな国際公共政策」をテーマに（また国際行政論 I では「グローバルな国際行政」をテーマに）、国際公共政策について以下の諸項目で記載した要領で学習を進めていく。それにより、関連の専門知識を得るとともに、政策的思考を行うことができる能力の涵養を図ることを目的とする。また、プレゼンテーション能力の養成も期待される。

【到達目標】

国際公共政策（以下の国際公共政策の記載は国際行政論 I では国際行政に読み替えて頂きたい）について、グローバルな見地から理解を深めた上で、各自が関心を持つ具体的なテーマや課題について考察し、その考察と結果をまとめて発表することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

国際公共政策をグローバルな視点から考察していく。具体的には、グローバルな最大の国際機関である国連システムを事例として、先ず様々な国際公共政策の政策分野及び基礎・理論などについて概説した上で、国際公共政策の歴史・制度と組織・資源の調達と管理などについて概説する。また、履修者は各自の関心に基づき、本講義に関連する任意の具体的な国際公共政策等のテーマを設定し、そのテーマについて考察し、その考察と結果をまとめて発表する（なおその発表に対しては時間が許す範囲で検討・議論等が予定される）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	本科目のテーマや進め方の概要などの導入講義
第 2 回	国際公共政策の基礎・理論と関心テーマの表明	国際公共政策の基礎・理論の概説と国際公共政策における各自の関心テーマの表明
第 3 回	国際公共政策の政策分野 1	持続可能な開発目標 (SDGs) 政策と地球環境エネルギー政策の概説
第 4 回	国際公共政策の政策分野 2	国際防災・人道・危機管理政策と国際安全保障・国連 PKO 政策の概説
第 5 回	国際公共政策の政策分野 3	国際貿易・金融・経済政策と移民・難民・国際人権政策の概説
第 6 回	国際公共政策の政策分野 4	国際感染症・保健医療・公衆衛生政策と国際教育・文化・科学技術政策の概説
第 7 回	調査研究テーマの選定と中間発表 1	各自の調査研究テーマの選定と調査の進捗状況や今後の課題についての中間発表の開始
第 8 回	調査研究テーマの選定と中間発表 2	各自の調査研究テーマの選定と調査の進捗状況や今後の課題についての中間発表の継続
第 9 回	国際公共政策の歴史	国際公共政策の歴史の概説
第 10 回	国際公共政策の制度と組織	国連システムを事例とした国際公共政策の制度と組織の概説
第 11 回	国際公共政策の資源の調達と管理	国連システムを事例とした国際公共政策の資源の調達と管理の概説

第 12 回 調査研究テーマの最終発表 1 各自の調査研究テーマに関する最終発表の開始

第 13 回 調査研究テーマの最終発表 2 各自の調査研究テーマに関する最終発表の継続

第 14 回 調査研究テーマの最終発表 3 とまとめ 各自の調査研究テーマに関する最終発表の継続とまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義で学んだ内容の復習を重点的に行い、理解を確認していくことに加えて、特に各自の関心に基づき設定したテーマに関する発表に向けての事前準備をしっかりと行うこと。本授業の準備・復習に要する時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

福田耕治・坂根徹『国際行政の新展開：国連・EU と SDGs のグローバル・ガバナンス』法律文化社、2020 年。

【参考書】

開講時などに適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点 (50 点) と期末プレゼンテーション (50 点) による。平常点は、主に講義中の期末よりも前の発表や配布するレスポンスペーパーの提出の有無とその内容等により評価する。

【学生の意見等からの気づき】

該当なし。

【その他の重要事項】

上記の授業計画は、実際の授業の進度や履修者数及び履修者の関心テーマ等により修正・変更されることがありうる。

【Outline (in English)】

Main theme of this course (International Public Policy 1) is to learn and consider about global international public policy. By taking this course, students are expected to acquire related specialized knowledge and also foster the ability to consider and analyze various policies. In addition, students are expected to nourish presentation skills.

In average, your study time outside of each class will be about 4 hours. Actual needed time will be varied depending on various elements especially when each student is assigned and scheduled presentations.

Grading will be decided based on in-class contribution (50%) and final presentation (50%).

POL300AD

オセアニアの政治と社会 I

今泉 裕美子

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

単位数：2 単位

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

オセアニアは、近年、米中競合の場として注目され、「自由で開かれたインド太平洋」、QUAD などに関連して報道される機会も増えた。しかし、日本の報道にみるオセアニア、なかでも島嶼国・地域は、パワーポリティクスに翻弄される、受動的な存在として映し出される傾向が否めない。また島の人々の様子も見えてこない。

オセアニアが生存を委ねる太平洋に目を向けると、地球の地表面積の 35 %、全海洋の 50 %、全陸地表面積の 1.2 倍の広がりを持ち、地球環境を大きく反映させる現場でもある。

小説家・島尾敏雄は日本列島を「ヤボネシア」と表現したが、複数の島嶼から成り立つ日本列島も太平洋に依存し、オセアニアと歴史的に深い関わりをもってきた。しかし日本のオセアニア、とくに島嶼への関心は小さく、流通する情報には偏りや不正確さも目立つ。

オセアニアは、オーストラリア大陸とメラネシア、ポリネシア、ミクロネシアの島々からなるが、こうした区分は外来者によって行われたものである。すなわち欧米、日本の植民地や占領地とされた経験を持ち、植民地下で生み出された民族対立、資源の枯渇、プランテーション経営の“遺産”は、島々の自立に影を落としている。また、海面上昇や巨大台風襲来、核実験や放射性廃棄物による被ばくは、心身への被害、離散をもたらし、社会・文化の消滅の可能性すら現実的なものとなっている。

しかし、こうした状況にあるからこそ、オセアニアの島嶼は、ゆるやかな協同を通じて、大国中心の国際関係や平和の問い直しを促し、国際社会に具体策を提言してきた。また、強いられた植民地化であっても、外来のものを受入れながら、祖先から引き継いだ知恵を活かし、共同体を鍛え、島を離れた同胞たちともつながりながら、課題に取り組んできた。本授業では、上記のようなオセアニアの島嶼の実情や取り組みを、オセアニア島嶼への人類の到達から第一次世界大戦までの歴史を中心に学ぶ。「オセアニアの政治と社会Ⅱ」の前提となる授業である。

【到達目標】

1. オセアニアの特に島嶼について、政治や社会の特徴、直面する課題の固有性を歴史のなかで理解すると同時に、世界の諸地域に通底する課題としても理解することができる。
2. オセアニアに関する情報の所在を知り、正確な知識を得るとともに、島嶼や海に対する自身の認識を再構成する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に強く関連。「DP1」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

1. 授業は原則としてオンラインライブで行う（【その他の注意事項】を確認すること）。レジュメや資料は Hoppii にて配布する。
2. リアクションペーパーなど提出物で注目すべきコメントや質問があれば、授業内で紹介し、受講生のさらなる学びにつなげる。
3. オセアニア情勢、学生の関心、理解度に応じて、授業計画を一部変更する場合がある。
4. 授業内でクイズやテスト、意見を聞く機会を設けることがある。
5. 授業の予習、復習のために課題を出すことがある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の進め方、注意事項の説明。受講生の本授業への関心についてアンケートをとる。
第 2 回	「オセアニア」とは？	オセアニア、太平洋に関する呼称、範囲、概念を学ぶ。

第 3 回	現代日本におけるオセアニア認識	日本社会および受講者のオセアニア認識を明らかにし、本授業のアプローチを確認する。
第 4 回	オセアニアの課題につながる日本①	日本とオセアニアの現状や受講生の関心から第 5 回以後の授業につながるトピックスを選ぶ。
第 5 回	オセアニアの課題につながる日本②	日本とオセアニアの現状や受講生の関心から第 6 回以後の授業につながるトピックスを選ぶ。
第 6 回	オセアニアへの人類の進出とくらし①	島嶼の人々がアイデンティティーのよりどころとする海への認識、航海や漁労を学ぶ。
第 7 回	オセアニアへの人類の進出とくらし②	島嶼の人々がアイデンティティーのよりどころとする巨石文化を学ぶ。
第 8 回	世界の一体化のなかのオセアニアの植民地化①	近代国際関係のなかでヨーロッパ人のオセアニア進出、島嶼の人々との「出会い」、これらが双方の社会にもたらした影響を学ぶ。
第 9 回	世界の一体化のなかのオセアニアの植民地化②	近代国際関係のなかで列強による島嶼の植民地化を学び、現在の脱植民地化において直面する課題との関係を考察する。
第 10 回	世界の一体化のなかのオセアニアの植民地化③	列強による島嶼の植民地化の実態を、具体的な事例から学ぶ。
第 11 回	オセアニアにとっての第一次世界大戦①	ANZAC を事例に、オセアニアにとっての第一次世界大戦を学び、その経験を今なお記念する意味を考察する。
第 12 回	オセアニアにとっての第一次世界大戦②	第一次世界大戦によるオセアニアの再分割を委任統治制度の創設から理解し、現代に続く問題を学ぶ。
第 13 回	受講生の関心に基づいたテーマ	受講生の関心を踏まえて決めたテーマについて学ぶ。
第 14 回	まとめ	春学期授業の総括。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1. シラバスやレジュメに提示した参考文献、特に授業中に指示した部分は必ず読む。
2. オセアニア関連の HP などを参照し、オセアニア情報に意識的に接する。
3. 予習、復習それぞれ 2 時間程度を標準とする。

【テキスト（教科書）】

テキストは用いない。

【参考書】

山本真鳥編『オセアニア史』山川出版社、2000 年。
吉岡政徳監修『オセアニア学』京都大学学術出版会、2009 年。
印東道子編『ミクロネシアを知るための 58 章』明石書店、2005 年。
石森大知ほか編『南太平洋（メラネシア・ポリネシア）を知るための 58 章』明石書店、2010 年。
今泉裕美子「太平洋の「地域」形成と日本－日本の南洋群島統治から考える」李成市他編『岩波講座日本歴史第 20 巻（地域論）』岩波書店、2014 年。
石森大知他編『ようこそオセアニア世界へ』昭和三堂、2023 年。
その他必要に応じて、授業時に提示する。

【成績評価の方法と基準】

1. リアクションペーパー、授業内で適宜実施するクイズ、テスト、課題への提出物を総合して（50%）。セメスター末のレポート（50%）。本成績評価の方法をもとに、授業の到達目標の 60 % 以上を達成したものを合格とする。
2. 提出物について、指示した期限、提出先を守らない場合、やむを得ない事情（対象となる事情や証明資料の提出は定期試験のルールに則る）がない限り未提出として扱う。

【学生の意見等からの気づき】

オセアニアに関する基礎知識や関心がなくとも、授業で適切な情報を得て関心が広がったとの意見から、継続して丁寧な情報提供を行う。

【学生が準備すべき機器他】

オンライン授業では、パソコンかタブレットを準備することが望ましい。

【その他の重要事項】

1. 講義内容に関する日本語での研究や情報は必ずしも多くはないため、特に英語の資料を用いる機会が多い。
2. 授業内容によっては動画や画像を配信したり、グループディスカッションを行う可能性があるため、安定的な接続環境で、通信容量に制限がない状態にしておくのが望ましい。

3. 提出物は学習支援システムで提出してもらおう。提出は期限に余裕をもって準備し、安定的な接続環境で行うこと（スマホからの提出ではトラブルが報告されているので注意）。
4. **Hoppii** のお知らせ欄は常にチェックすること。教員への連絡は掲示板を通じて行ってください。

【Outline (in English)】

This course will introduce students a fundamental understanding of the politics and society of Oceania through a focus on the history of Pacific Islands.

The course then examines some important specific issues such as human migration; the processes of imperialism and colonialism; militarization as a neocolonialism; decolonization movement by indigenous peoples; navigation and livelihood in the Pacific Ocean. The focus is on before World War II. This course is highly recommended for those who are planning to take “Politics and Society of Oceania II”.

【Learning Objectives】

Students will be able to

1. Develop an awareness of the Pacific Islands and their peoples by learning their politics, society, culture and historical experience.
2. Understand the history of imperialism, colonialism and militarism of Pacific islands and struggle against them by Pacific Islanders.
3. Reviewing key concepts and theories of International Studies and structure of international relations based on the history of Pacific Islands.
4. Develop a critical thinking about some issues in contemporary world from the viewpoints of Pacific Islanders.

【Learning activities outside of classroom】

The standard time required for preparatory study and review for this class are 2 hours each.

【Grading Criteria /Policy】

1. Reaction Papers, Quizzes and Small Assignments during the semester:50%
2. Term-end Examination or Report (The details will be informed later) :50%

POL300AD

オセアニアの政治と社会Ⅱ

今泉 裕美子

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

単位数：2 単位

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

オセアニアは、近年、米中競合の場として注目され、「自由で開かれたインド太平洋」、QUAD などに関連して報道される機会も増えた。しかし、日本の報道にみるオセアニア、なかでも島嶼国・地域は、パワーポリティクスに翻弄される、受動的な存在として映し出される傾向が否めない。また島の人々の様子も見えてこない。

オセアニアが生存を委ねる太平洋に目を向けると、地球の地表面積の 35%、全海洋の 50%、全陸地表面積の 1.2 倍の広がりを持ち、地球環境を大きく反映させる現場でもある。

小説家・島尾敏雄は日本列島を「ヤポネシア」と表現したが、複数の島嶼から成り立つ日本列島も太平洋に依存し、オセアニアと歴史的に深い関わりをもってきた。しかし日本のオセアニア、とくに島嶼への関心は小さく、流通する情報には偏りや不正確さも目立つ。

オセアニアは、オーストラリア大陸とメラネシア、ポリネシア、ミクロネシアの島々からなるが、こうした区分は外来者が行ったものである。すなわち欧米、日本の植民地や占領地とされた経験を持ち、植民地下で生み出された民族対立、資源の枯渇、プランテーション経営の“遺産”は、島々の自立に影を落としている。また、海面上昇や巨大台風襲来、核実験や放射性廃棄物による被ばくは、心身への被害、離散をもたらし、社会・文化の消滅の可能性すら現実的なものとなっている。

しかし、こうした状況にあるからこそ、オセアニアの島嶼は、ゆるやかな協同を通じて、大国中心の国際関係や平和の問い直しを促し、国際社会に具体策を提言してきた。また、強いられられた植民地化であっても、外来のものを受入れながら、祖先から引き継いだ知恵を活かし、共同体を鍛え、島を離れた同胞たちともつながりながら、課題に取り組んできた。本授業では、上記のようなオセアニアの島嶼の実情や取り組みを、日本が最も深いいかかわりを持つ赤道以北のグアム島を除くミクロネシア（旧南洋群島）を中心に学ぶ。本年度の「オセアニアの政治と社会Ⅰ」を受講していることを強く推奨する。

【到達目標】

1. ミクロネシアと日本との歴史や現状について、研究や情報を適切に選び、批判的に考察するための視点や方法を身に着ける。
2. オセアニアの特に島嶼について、政治や社会の特徴、直面する課題の固有性を歴史のなかで理解すると同時に、世界の諸地域に通底する課題としても理解することができる。
3. オセアニアに関する情報の所在を知り、正確な知識を得るとともに、島嶼や海に関する自身の認識を再構成する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に強く関連。「DP1」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

1. 授業は原則としてオンラインライブで行う（【その他の注意事項】を確認すること）。レジュメや資料は Hoppii にて配布する。
2. リアクションペーパーなど提出物で注目すべきコメントや質問があれば、授業内で紹介し、受講生のさらなる学びにつなげる。
3. オセアニア情勢、学生の関心、理解度に応じて、授業計画を一部変更する場合がある。
4. 授業内でクイズやテスト、意見を聞く機会を設けることがある。
5. 授業の予習、復習のために課題を出すことがある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクションー三つのネシアとミクロネシア	授業の進め方、注意事項の説明。「オセアニアの政治と社会Ⅰ」との関連づけ。受講生の本授業テーマについてアンケートをとる。

第 2 回	ミクロネシアと日本との関係の現在	ミクロネシアと日本との現在の関係に関するトピックスをもとに、戦前、戦後のミクロネシアと日本との関係を学ぶ意義を確認する。
第 3 回	日本の南洋群島統治を分析する視点と方法	南洋群島統治をめぐる日本政府、研究者の評価を批判的に検討し、本授業のアプローチを学ぶ。
第 4 回	「南洋群島」時代のミクロネシア①ー法的な側面からみた南洋群島統治の特徴	国際連盟の委任統治制度のもとで行われた日本の南洋群島統治の特徴を、第一次世界大戦後の世界の植民地支配体制の中で、また日本の植民地法制度のなかで学ぶ。
第 5 回	「南洋群島」時代のミクロネシア②ー植民地社会の特徴	現地住民人口の 2 倍もの日本人が移民し、なかでも沖繩出身者が多かった植民地社会の特徴を学ぶ。
第 6 回	「南洋群島」時代のミクロネシア③ーチャモロとカロリニアン	チャモロとカロリニアン
第 7 回	The Typhoon of Warーミクロネシアの第二次世界大戦経験①	沖繩戦に先駆けて地上戦が行われた南洋群島での戦争を、沖繩戦と比較し関係づけながら学び、ミクロネシアにとっての戦争経験を考察する。
第 8 回	The Typhoon of Warーミクロネシアの第二次世界大戦経験②	南洋群島での戦争を生きのびた人々が戦争経験をどう捉え、若い世代に伝えようとしているか、非体験者として考察する。
第 9 回	「核の海」ミクロネシアー Operation Crossroad と戦略的信託統治	国際連合の戦略的信託統治として行われたアメリカのミクロネシア統治の特徴を、冷戦体制下アメリカの核軍勢力を支えたマーシャル諸島での初の核実験を中心に学ぶ。
第 10 回	「核の海」ミクロネシアー水爆 Bravo による核被害	米国がビキニ環礁で行った水爆 Bravo 投下による実験での、住民の核被害の実態、その経験と継承から学び、現代世界の核兵器問題、放射能被害の考察につなげる。
第 11 回	「核の海」ミクロネシアー「ビキニ事件／第五福竜丸事件」	日本にとって「ビキニ事件／第五福竜丸事件」と表現される水爆 Bravo 投下について、日本の漁師の経験から学び、現代世界の核兵器問題、放射能被害の考察につなげる。
第 12 回	ミクロネシアと日本との関係再開	「ミクロネシア協定」から始まる、戦後日本とミクロネシアとの関係を学ぶ。
第 13 回	ミクロネシアと日本ー受講生の関心に基づくトピックス	受講生の関心に基づくトピックスを選び、学ぶ。
第 14 回	まとめ	授業を総括し、私たちとオセアニアの島嶼との関係を改めて考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1. シラバスやレジュメに提示した参考文献、特に授業中に指示した部分は必ず読む。
2. オセアニア関連の HP など参照し、オセアニア情報に意識的に接する。
3. 予習、復習それぞれ 2 時間程度を標準とする。

【テキスト（教科書）】

テキストは用いない。

【参考書】

山本真島編『オセアニア史』山川出版社、2000 年。
 印東道子編『ミクロネシアを知るための 58 章』明石書店、2005 年。
 吉岡政徳監修『オセアニア学』京都大学学術出版会、2009 年。
 石森大知ほか編『南太平洋（メラネシア・ポリネシア）を知るための 58 章』明石書店、2010 年。
 中山京子編『グアム・サイパン・マリアナ諸島を知るための 54 章』2012 年。
 今泉裕美子「太平洋の「地域」形成と日本ー日本の南洋群島統治から考える」李成市他編『岩波講座日本歴史第 20 巻（地域論）』岩波書店、2014 年。
 石森大知他編『ようこそオセアニア世界へ』昭和堂、2023 年。
 その他必要に応じて、授業時に提示する。

【成績評価の方法と基準】

1. リアクションペーパー、適宜実施するクイズ、テスト、課題への提出物を総合して（50%）。セメスター末のレポート（50%）。本成績評価の方法をもとに、授業の到達目標の 60% 以上を達成したものを合格とする。

2. 提出物について、指示した期限、提出先を守らない場合、やむを得ない事情（対象となる事情や証明資料の提出は定期試験のルールに則る）がない限り未提出として扱う。

【学生の意見等からの気づき】

リアクションペーパーで注目する意見や質問を取り上げて紹介し、授業に反映させたり、受講生の関心に基づいて授業計画を微修正したことが、ミクロネシアへの関心を高め、積極的に学ぶ姿勢につながったとの意見が複数寄せられたことから、今年度もこうした工夫を行う。

【学生が準備すべき機器他】

オンライン授業では、パソコンかタブレットを準備することが望ましい。

【その他の重要事項】

1. 講義内容に関する日本語での研究や情報は必ずしも多くはないため、特に英語の資料を用いる機会が多い。
2. 授業内容によっては動画や画像を配信したり、グループディスカッションを行う可能性があるため、安定的な接続環境で、通信容量に制限がない状態しておくのが望ましい。
3. 提出物は学習支援システムで提出してもらおう。提出は期限に余裕をもって準備し、安定的な接続環境で行うこと（スマホからの提出ではトラブルが報告されているので注意）。
4. Hoppiiのお知らせ欄は常にチェックすること。教員への連絡は掲示板を通じて行ってください。
5. 沖縄県の県史、市史などの編さん、執筆に関わったり、ミクロネシアの研究者、教育者と交流を続けているので、地域住民の経験をどう記録し、次世代に継承するか、聞き取りの方法、地域外の研究者として地域にいかに関わるか、の経験に基づく「地域研究」の方法を反映させた講義である。

【Outline (in English)】

This course will introduce students a fundamental understanding of the politics and society of Oceania through a focus on the history of Pacific Islands.

The course then examines some important specific issues such as human migration; the processes of imperialism and colonialism; militarization as a neocolonialism; decolonization movement by indigenous peoples; navigation and livelihood in the Pacific Ocean. The focus is on Micronesia-Japan relations. It is strongly recommended that this course be taken after taking “Politics and Society of Oceania I.”

【Learning Objectives】

Students will be able to

1. Understand the Oceania focused on the historical relationship between Micronesia and Japan with reviewing international relations and Japanese modern and contemporary history.
2. Acquire the fundamental understanding of Micronesia-Japan relations especially about imperialism, colonialism, militarism and decolonization.
3. Develop a critical thinking about the role and responsibilities of Japan/ Japanese as a member of Pacific Islands/ Pacific Islanders.

【Learning activities outside of classroom】

The standard time required for preparatory study and review for this class are 2 hours each.

【Grading Criteria /Policy】

1. Reaction Papers, Quizzes and Small Assignments during the semester:50%
- 2.Term-end Examination or Report (The details will be informed later) :50%

POL300AD

国際機構論Ⅱ

弓削 昭子

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

単位数：2 単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

In this course “International Organizations II” (which follows “International Organizations I”), students will learn about the different roles and activities of various international organizations, notably the UN system and its agencies. They will learn how different UN agencies deal with key global issues, particularly those included in the 2030 Agenda on Sustainable Development and the Sustainable Development Goals (SDGs). The course will examine the evolving role of the UN and its partnerships with Member States, other international organizations, civil society, business community, and others. The students will also learn about the strengths and limitations of UN agencies as well as future challenges in addressing the evolving needs in the world.

【到達目標】

The students will deepen their understanding of the role and activities of the various UN agencies, including their strengths and limitations as well as challenges for the future. They will also enhance their understanding on how the UN system agencies collaborate with each other and with other partners in global partnerships to achieve the SDGs. Through the lectures and discussions in English, the students will also enhance their English language proficiency.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

The course offers a blend of theory and practice on issues related to international organizations, notably the UN and its work. Students will examine the different roles and activities of UN agencies, including their strengths and limitations using examples of past and present. The course will be conducted in English considering that its proficiency is required to study materials produced and dealt by UN and other international organizations. Students are expected to read the assigned materials and participate in class discussions.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Role of international organizations (IO)	IO as global actors
2	Role of Member States	Relationship between Member States and UN
3	Role of civil society	Relationship between civil society and UN
4	Role of private sector	Relationship between the private sector and UN
5	Regional organizations	Relationship between regional organizations and UN
6	Sustainable development	2030 Agenda and SDGs
7	UN Secretariat	Role of UN Secretariat
8	Global governance	UN and global governance
9	Human security	Role of UN in human security

10	Peacebuilding	Role of UN in peacebuilding
11	UN and Japan	Japan's role in the UN
12	Multilateralism	Multilateralism and UN
13	UN reform	Progress and issues in UN reform
14	Summary and review	Review of course contents

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students must spend an average of 2 hours each for preparing and reviewing materials for every class.

【テキスト（教科書）】

Besides those listed below, other materials will be assigned in class.

・ United Nations Department of Public Information, Basic Facts about the United Nations, 42nd Edition. United Nations Publication, New York, 2017.

・ 国際連合広報局『国際連合の基礎知識 第42版』、八森充（翻訳）関西学院大学総合政策学部、2018

【参考書】

・ Volker Rittberger, Bernhard Zangl, Andreas Kruck, International Organizations, Second Edition. Palgrave MacMillan, 2012.

・ 植木安弘『国際連合 その役割と機能』（日本評論社、2018）

・ 山田哲也『国際機構論 入門』（東大出版会、2018）

・ 最上敏樹『国際機構論講義』（岩波書店、2016年）

・ 渡部茂己・望月康恵 編著『国際機構論 総合編』（国際書院、2015年）

・ 内田孟男 編著『国際機構論』（ミネルヴァ書房、2013年）

【成績評価の方法と基準】

Class participation (30%) and final exam (70%)

【学生の意見等からの気づき】

No particular points to note.

【その他の重要事項】

As the professor had spent many years working as United Nations staff member, she teaches this course covering both theory and practice, reflecting her own professional experience and perspectives on issues related to international organizations.

【Outline (in English)】

As written above.

POL100AD

ラテンアメリカの政治と社会 I

真嶋 麻子

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

単位数：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、ラテンアメリカ地域の多様性を学び、この地域の政治と社会を理解するための基本的な視点を学ぶことを目的とする。そのためにまず、ラテンアメリカの政治史を振り返り、いくつかの国を取り上げて地域の多様性を学ぶ。これを基礎として、現在のラテンアメリカ諸国が直面する課題とそれに対してどのように取り組んでいるのかを考えていく。

【到達目標】

1. ラテンアメリカ地域の政治と社会の多様性ならびに地域的特徴について説明できるようになる。
2. ラテンアメリカ地域内の関心を持った国について、その政治および社会の特徴と課題を説明できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に強く関連。「DP1」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

基本的に講義形式で行うが、課題提出やプレゼンテーションの機会を設け、学生自身が学び考えたことを発信することを重視する。履修者数や授業の進み具合によって、予定を変更することがある。授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	ラテンアメリカ地域の概要
第 2 回	政治体制の変遷	植民地支配からの独立、ナショナリズム、ポピュリズム、軍政
第 3 回	民主化・経済危機の 1980 年代	民主化の要因と南米諸国の民主化について理解する
第 4 回	新自由主義の時代	新自由主義がもたらした問題群
第 5 回	地域的多様性①	アルゼンチンの政治と社会の特徴を理解する
第 6 回	地域的多様性②	メキシコの政治と社会の特徴を理解する
第 7 回	地域的多様性③	ブラジルの政治と社会の特徴を理解する
第 8 回	地域的多様性④	中米諸国の政治と社会の特徴を理解する
第 9 回	地域的多様性⑤	カリブ海諸国の政治と社会の特徴を理解する
第 10 回	現代社会の課題①	貧困と格差
第 11 回	現代社会の課題②	先住民運動と文化的多様性
第 12 回	現代社会の課題③	組織犯罪と暴力
第 13 回	現代社会の課題④	政治の左傾化と社会運動
第 14 回	試験・まとめと解説	春学期に解説した内容についての確認を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

参考文献を参照し講義内容の理解を深めると共に、ラテンアメリカの現状への理解を深めるためテレビ・新聞・インターネット等で伝えられる地域の政治・経済・社会に関する情報に積極的に触れるようにしてください。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

授業内で提示する。

【成績評価の方法と基準】

期末テスト 60%

授業内課題 40%

【学生の意見等からの気づき】

ラテンアメリカという必ずしも熟知されているわけではない地域を扱う授業であり、具体的な問題を扱いながら、イメージを持ってもらえるような授業を心がける。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布・課題提出の際には、学習支援システムを利用する。

【Outline (in English)】

The purpose of this lecture is to study the diversity of the Latin American region and to learn the basic perspectives for understanding the politics and society of this region. To this end, we will first look back at the political history of Latin America and study the diversity of the region by focusing on several countries. Based on this, we will consider the challenges that Latin American countries are facing today and how they are tackling them.

POL100AD

ラテンアメリカの政治と社会Ⅱ

真嶋 麻子

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

単位数：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、国際関係とラテンアメリカとの連関について学び、ラテンアメリカ地域の政治と社会を理解するための視点を学ぶ。そのためにまず、アメリカ合衆国との関係を中心としたラテンアメリカの国際関係史を振り返る。これを基礎として、地球規模の様々な課題に対してラテンアメリカ地域がどのように取り組んでいるのかを考えていく。

【到達目標】

1. ラテンアメリカ地域の政治と社会を特徴づけてきた国際関係要因について説明できるようになる。
2. 関心を持った地球規模課題とラテンアメリカ地域との関わりについて説明できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に強く関連。「DP1」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

基本的に講義形式で行うが、課題提出やプレゼンテーションの機会を設け、学生自身が学び考えたことを発信することを重視する。履修者数や授業の進み具合によって、予定を変更することがある。授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	ラテンアメリカ地域の概要
第 2 回	国際関係史①	植民地支配からの独立と経済発展
第 3 回	国際関係史②	米国の覇権主義の拡大
第 4 回	国際関係史③	経済危機とネオリベラリズムの台頭
第 5 回	国際関係史④	ポスト冷戦期の地域協調
第 6 回	中間まとめ	国際関係におけるラテンアメリカ
第 7 回	地球規模課題とラテンアメリカ①	軍縮・非核地帯
第 8 回	地球規模課題とラテンアメリカ②	武力紛争と平和
第 9 回	地球規模課題とラテンアメリカ③	人権とジェンダー
第 10 回	地球規模課題とラテンアメリカ④	移民
第 11 回	地球規模課題とラテンアメリカ⑤	地球環境問題
第 12 回	地球規模課題とラテンアメリカ⑥	貧困問題
第 13 回	地球規模課題とラテンアメリカ⑦	社会運動
第 14 回	試験・まとめと解説	秋学期に解説した内容についての確認を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

参考文献を参照し講義内容の理解を深めると共に、ラテンアメリカの現状への理解を深めるためテレビ・新聞・インターネット等で伝えられる地域の政治・経済・社会に関する情報に積極的に触れるようにしてください。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

畑恵子・浦部浩之編『ラテンアメリカ 地球規模課題の実践』新評論、2021 年。

その他の参考資料は授業内で提示します。

【成績評価の方法と基準】

期末テスト 60%

授業内課題 40%

【学生の意見等からの気づき】

ラテンアメリカという必ずしも熟知されているわけではない地域を扱う授業であり、具体的な問題を扱いながら、イメージを持ってもらえるような授業を心がける。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布・課題提出にあたっては、学習支援システムを利用する。

【その他の重要事項】

本講義は春学期開講の「ラテンアメリカの政治と社会Ⅰ」を履修済みであることを前提に進める。

【Outline (in English)】

In this lecture, we will learn about the linkage between international relations and Latin America, and learn perspectives for understanding the politics and society of the Latin American region. To this end, we will first review the history of Latin American international relations, with a focus on relations with the United States. On this basis, we will consider how the Latin American region is addressing various global issues.

POL300AD

国際経済論 I

田村 晶子

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

単位数：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国際貿易の基礎理論を講義します。なぜ自由な貿易が望ましいのか、貿易がもたらす利益、関税などの貿易政策が社会全体におよぼす影響を理解し、FTAやEPAなどが進む現在の国際貿易体制について考えます。

【到達目標】

貿易の基礎理論により、どのように貿易の利益が示せるかを説明できる。貿易政策が、各経済主体に与える影響を説明し、その是非を議論できる。地域貿易協定の是非について、理論に基づき議論できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に強く関連。「DP1」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

パワーポイントを用いて講義します。キーワードや数式、グラフなどを書き込む形の空白のある配布資料を配布します。毎回の授業内容を復習する練習問題を学習支援システムで解き、得点は自動採点でフィードバックされます。次回授業で解答について解説します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	ガイダンスと世界貿易の概要
第 2 回	比較優位の理論①	リカードモデルの仮定
第 3 回	比較優位の理論②	貿易後の相対価格と世界供給
第 4 回	比較優位の理論③	貿易の利益と実証研究
第 5 回	資源と貿易①	ヘクシャー・オリー・モデルの仮定
第 6 回	資源と貿易②	貿易による利益と実証研究
第 7 回	規模の外部経済	生産の国際立地
第 8 回	新しい貿易理論	グローバル経済の企業
第 9 回	貿易政策のツール①	輸入関税の効果
第 10 回	貿易政策のツール②	輸出補助金の効果
第 11 回	貿易政策のツール③	輸入割当と輸出自主規制
第 12 回	国際貿易体制	自由貿易の進展、WTO
第 13 回	地域貿易協定の効果	FTAが与える影響
第 14 回	講義のまとめと質問	講義内容への質問

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

参考文献を読んで準備学習をする。毎回の授業終了後に練習問題を解き、配布資料で復習をする。準備は 1 時間、復習は 3 時間を目安とします。

【テキスト（教科書）】

なし。

【参考書】

クルグマン・オブズフェルド・メリッツ（山形浩生、守岡校訳）『クルグマン国際経済学 理論と政策（原書第 10 版）上：貿易編』丸善出版、2017 年
石川城太・椋寛・菊地徹著『国際経済学をつかむ（第 2 版）』有斐閣、2013 年
伊藤恵子・伊藤匡・小森谷徳純『国際経済学 15 講』新世社、2022 年

【成績評価の方法と基準】

練習問題（13 回を予定）（30 %）と、授業内に行う期末試験（70 %）

【学生の意見等からの気づき】

進度を気をつけて、学生が理解しているかを確認しながら授業を進めます。

【学生が準備すべき機器他】

パワーポイント、授業支援システムを利用します。

【Outline (in English)】

Students study the basics of International Trade. At the end of the course, students will comprehend why free trade is desirable, as well as they will learn the effect of trade policy such as tariffs. Also, students comprehend the international trade framework with Free Trade Agreements. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Grading will be decided based on 13 quizzes(30%) and term-end examination (70%).

POL300AD

国際経済論Ⅱ

田村 晶子

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

単位数：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国際金融論、国際マクロ経済学の基礎を勉強します。為替レートの決定理論を勉強した上で、為替介入の効果や現在の国際通貨体制の問題について考えます。国際収支表の見方や経常収支と国内経済との関係について理解します。

【到達目標】

国際収支表を理解し、経常収支、金融収支の内容を説明できる。為替レートの決定要因から、現在の為替レートの動きを説明できる。為替レートの適正水準を理解する。統一通貨や通貨危機など、国際通貨体制における問題を議論できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に強く関連。「DP1」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

パワーポイントを用いて講義を行います。キーワードや数式グラフなどを自分で書き込む空白のある配布資料を配布します。毎回の授業の練習問題を学習支援システムから出し、自動採点で得点をフィードバックします。次の授業で解き方を解説し、理解を深めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	国際収支表	国際収支表の項目
第 2 回	日本の国際収支	国際収支データの推移
第 3 回	開放経済における国民所得恒等式	貯蓄・投資バランス
第 4 回	為替レートと外国為替市場	外国為替市場のしくみ
第 5 回	外国為替取引の種類	スワップ取引とオプション取引
第 6 回	短期の為替レート決定	アセットアプローチ
第 7 回	金融政策と為替レート	オーバーシュートモデル
第 8 回	長期の為替レート決定	購買力平価
第 9 回	実質為替レート	購買力平価からの乖離
第 10 回	固定為替レート	外国為替市場介入
第 11 回	国際通貨制度	通貨トリレンマ
第 12 回	金融のグローバル化	リスクと銀行危機
第 13 回	最適通貨圏とユーロ	固定為替レートの範囲
第 14 回	授業のまとめ	授業全体のまとめと質問

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

参考文献を読んで準備学習をする。授業終了後に練習問題を解き、配付資料で復習をする。準備は 1 時間、復習は 3 時間を目安とします。

【テキスト（教科書）】

なし

【参考書】

クルグマン・オブズフェルド（山形浩生、守岡桜訳）『クルグマン国際経済学 理論と政策（原書第 10 版）下：金融編』丸善出版、2017 年
清水順子・大野早苗・松原聖・川崎健太郎著『徹底解説 国際金融』日本評論社、2016 年
高木信二著『入門国際金融（第 4 版）』日本評論社、2011 年

【成績評価の方法と基準】

毎回の授業の練習問題（30％）と、授業内に行う期末試験（70％）

【学生の意見等からの気づき】

パワーポイントの進度に気をつけて、学生の理解度に気を配ります。

【学生が準備すべき機器他】

パワーポイントと学習支援システムを利用します。

【Outline (in English)】

Students study the basics of International finance and Open Economy Macroeconomics. At the end of the course, students will comprehend the determination of exchange rates, then consider the effects of the foreign exchange intervention and the problems of monetary systems. Students also comprehend balance of payments and the relation between current account and domestic economy. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Grading will be decided based on 13 quizzes(30%) and term-end examination (70%)

POL300AD

平和・軍事研究 I

権 鎬淵

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

単位数：2 単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

世の中を知るために、いろいろなレンズが使われる。お金というレンズで世の中を分析すると、それまでに見えにくかった現象がより明確に理解できると同様に、軍事というレンズを通して世界を眺めると、それまでに見えなかったことが鮮明に見えてくるかも知れない。戦後の日本では軍事というレンズをもって国際および国内を観察するという試みを意図的に避けてきた一方、昨今の一部勢力には歪んだ見方が流行ったりして、大学生や教養人として健全たる軍事的な判断能力が求められる。

この科目は軍事というレンズで世界や国際秩序を理解する授業である。細かい軍事知識が説明される場合も多いが、それは「世界を知るため」の必要最小限にとどまる。「平和」を願うなら、「軍事」のことを考えなければならない。平和を理想だけに求めず、武力万能論にも走らず、「平和」を現実的に追求していくことを模索していく。

【到達目標】

平和や軍事問題に関する基礎的な見方や知識の習得、国際政治への性悪説的なアプローチに接し、自分なりの安全保障観の確立を目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に強く関連。「DP1」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

世界の基本秩序は軍事力の力関係によって形づくられるが、その力関係の根本を作るのはやはり核兵器である。核兵器を語らずに世界秩序の基本を語ることはできない。武器というものは使われない時でも存在するだけで力を発揮しており、核兵器はなおさらである。

被爆経験のある日本ではこれまで正面で取り上げることがなかった、核兵器や核戦略のことを徹底的に分析する。

毎回の授業の中で、前回の授業で提出されたリアクションペーパー、課題、小レポートに対する講評や解説も行う。

授業の形態は対面授業を原則とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	軍事という観点から世界を見る。	軍事はなぜ重要なのか
第 2 回	原子爆弾と水素爆弾の構造	作る方法と作らせない方法も
第 3 回	核戦略序論	両方とも核を保有している場合、どう戦うのか？
第 4 回	相互確証破壊戦略	奇抜な内容の戦略が世界を支配する
第 5 回	限定的な核使用戦略	核兵器を使いやすくする戦略
第 6 回	Middle Power の核戦略	イギリス、フランス、中国の核戦略の考え方。
第 7 回	冷戦終了後の核兵器状況	2019 年の時点で、世界に 1 万発の核兵器が現存
第 8 回	（時事問題について、随時解説）	（時事問題）
第 9 回	北朝鮮の核	なぜ、北朝鮮は核兵器に固執するのか。

第 10 回 日本の冷戦時代の戦略 「非核 3 原則」「専守防衛」は表面的なだけで、実態とは全然異なる。

第 11 回 日本の核能力 核燃料リサイクル政策と今後取りうる核戦略の選択肢を説明する。

第 12 回 中国の核戦力 中国の核戦略、核戦力の詳細

第 13 回 （時事問題について、随時解説） （時事問題）

第 14 回 ミサイル防衛 「飛んでくる弾を弾で落とす」戦略は有効か

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

参考書や映像（Youtube、映画、ドラマなど）、記念物、展示会を見て感想文を提出することを求めることがある。

本授業の準備・復習時間は、各 2 時間程度を目途とする。

【テキスト（教科書）】

開講時に開示する

【参考書】

授業中に随時開示する。

【成績評価の方法と基準】

授業への参加（20%）、課題（0～20%）、試験（60～80%）

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【Outline (in English)】

This course introduces the international political history, mainly based on arms race competition for supremacy in nuclear warfare between the United States, the Soviet Union, and their respective allies during the Cold War.

It introduces also contemporary big military issues, missile defense system and terror issues.

The aim of this course is to help students understand international political situations with basic knowledge of nuclear warfare systems.

LAW200AB

商法入門 I

潘 阿憲

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

単位数：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は、商法（実質的意義における商法）上の各制度の内容を全般的に取り扱うものである。講義においては、商法上の基本的な概念及び制度の仕組みを解説し、さらに重要な法的論点について、学説や判例を踏まえた検討を行う企業・経営と法コースの基礎科目である。

【到達目標】

一般に企業とは、継続性と計画性をもって営利行為を行う独立の経済的主体と定義されるが、このような企業をめぐる関係主体相互間の経済的利益の調整を目的とするのが実質的意義における商法である。本科目では、商法典上の各制度のほか、会社法、保険法、手形法・小切手法等の制度の内容を取り上げ、企業組織と企業活動についての法規制の概要を理解できるようにするのが目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に強く関連。

【授業の進め方と方法】

授業は、講義形式で行う。各回の授業計画に変更がある場合には、学習支援システムでその都度提示する。また、受講生からの授業外の質問については、授業内で回答することとする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	「商法入門」で何を学ぶか？	・商法の意義 ・商法適用
第 2 回	商法総則（1）	・商人と営業 ・商業登記 ・商号
第 3 回	商法総則（2）	・商業帳簿 ・商業使用人 ・代理商
第 4 回	会社（1）	・会社の意義 ・会社の設立
第 5 回	会社（2）	・株式制度
第 6 回	会社（3）	・株主総会制度
第 7 回	会社（4）	・取締役と取締役会
第 8 回	会社（5）	・監査役と監査役会
第 9 回	会社（6）	・委員会型会社制度
第 10 回	商行為（1）	・商法行為の概念と類型
第 11 回	商行為（2）	・約款の効力とその規制
第 12 回	商行為（3）	・企業間の売買（商事売買）
第 13 回	商行為（4）	・運送営業と運送取扱営業
第 14 回	商行為（5）	・倉庫営業

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストを予習してこくこと、また、復習を行うこと。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

近藤光男編 『現代商法入門（第 11 版）』 2021 年 有斐閣

【参考書】

初回授業時に指定する。

【成績評価の方法と基準】

期末レポート試験（100 %）に基づいて評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【Outline (in English)】

This lecture is to study of Commercial law and Practice in Japan. The goals of this course are to understand how the Commercial law and Practiceworks. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Your overall grade in the class will be decided based on the Term-end examination (100%).

LAW200AB

商法入門Ⅱ

潘 阿憲

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

単位数：2 単位

その他属性：〈優〉

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【Outline (in English)】

his lecture is to study of Commercial law and Practice in Japan. The goals of this course are to understand how the Commercial law and Practiceworks. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Your overall grade in the class will be decided based on the Term-end examination (100%).

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は、商法（実質的意義における商法）上の各制度の内容を全般的に取り扱うものである。講義においては、商法上の基本的な概念及び制度の仕組みを解説し、さらに重要な法的論点について、学説や判例を踏まえた検討を行う企業・経営と法コースの基礎科目である。

【到達目標】

一般に企業とは、継続性と計画性をもって営利行為を行う独立の経済的主体と定義されるが、このような企業をめぐる関係主体相互間の経済的利益の調整を目的とするのが実質的意義における商法である。本科目では、商法典上の各制度のほか、会社法、保険法、手形法・小切手法等の制度の内容を取り上げ、企業組織と企業活動についての法規制の概要を理解できるようにするのが目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に強く関連。

【授業の進め方と方法】

授業は、基本的に講義形式で行うが、受講者の理解を促すため、それぞれのテーマについて、関連する裁判例を取りあげて解説を行う。また、受講生からの授業外の質問については、授業内で回答することとする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	保険制度 (1)	・ 保険の仕組み ・ 保険契約の概念と類型
第 2 回	保険制度 (2)	・ 損害保険契約 (1)
第 3 回	保険制度 (3)	・ 損害保険契約 (2)
第 4 回	保険制度 (4)	・ 損害保険契約 (3)
第 5 回	保険制度 (5)	・ 生命保険契約 (1)
第 6 回	保険制度 (6)	・ 生命保険契約 (2)
第 7 回	保険制度 (7)	・ 傷害疾病定額保険契約 (1)
第 8 回	保険制度 (8)	・ 傷害疾病定額保険契約 (2)
第 9 回	手形・小切手 (1)	・ 手形・小切手の機能
第 10 回	手形・小切手 (2)	・ 手形行為 ・ 手形の振出
第 11 回	手形・小切手 (3)	・ 手形の裏書き
第 12 回	手形・小切手 (4)	・ 手形保証 ・ 手形の支払い
第 13 回	手形・小切手 (5)	・ 遡求
第 14 回	手形・小切手 (6)	・ 手形上の権利の消滅

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストを予習してくること、また、復習を行うこと。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

近藤光男編 『現代商法入門（第 11 版）』 2021 年 有斐閣

【参考書】

初回授業時に指定する。

【成績評価の方法と基準】

期末レポート試験（100 %）に基づいて評価する。

LAW200AB

法律実務入門 I

沼田 雅之

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

単位数：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は、法律実務家をめざす人のための入門講座です。法学部で法律の勉強をしている学生で、法律実務家の実態を知らない者は意外と多いと感じます。弁護士や裁判官、検察官といった「法曹三者」についてはある程度理解していても、自分の将来の進路としては少し難しすぎると考える学生も多くいて、結局は法律実務家の道をあきらめてしまうのでしょうか。しかし、世の中には、法曹三者以外にも、実に様々な法律実務家が存在し、彼らは立派に自立して社会的に有益な活動をしています。こうした法律実務家のことをほとんど知らない学生に、その仕事の内容とその資格を得るためのノウハウを知ってもらうことがこの授業の目的です。この科目は全てのコースに属しています。

【到達目標】

この講義を通じて、受講生が自分の進むべき道を考えることができれば目標は達成されたと思っています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」、「DP4」に強く関連。「DP1」、「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

・外部からゲストスピーカーを招へいし、講演をしてもらう形で授業を行います。

・授業の進め方の説明については、第1回ガイダンス（4月7日（金）2限目）でZoomにて行います。Zoomアドレスは学習支援システム「HOPPII」で確認してください。初回のみオンラインとなります。この場合は、「ビデオの停止」「ミュート」で参加してください。

・この講義は、外部講師によるオンニバス方式で実施されます。外部講師の先生方は、法政大学の教職員でない方が多くいらっしゃいます。そのため、この講義の模様が第三者に配信されるとトラブル発生の原因ともなりかねません。講義の録画・録音は絶対にしないでください。Zoomの設定で、受講者は録画等を行えないように設定してありますが、この点ご協力願います。

・講義は原則として対面形式で行います。ただし、外部講師の事情により、教室でオンラインで講義される場合があります。

・新型コロナウイルス感染学生などの特別な事情がある場合に限り、オンラインで配信いたします。また、主催者側は講義内容を録画いたします。

・2回目以降、各回の講義終了後に主に選択式のミニテストを実施します。期限までに解答してください。（解答時間は、授業時間内（～12：20）で先生の講義終了後10分程度とを考えています。）

・質問は、学習支援システムの「課題（リアクションペーパー（質問））」の方法があります。「課題（リアクションペーパー（質問））」は時間制限を設けています。授業時間終了前15分程度です。ミニテストと重なりますが、ご了承ください。

※ 質問等への回答について、チャットでの質問については、講師の先生が口頭で回答します。学習支援システム「HOPPII」の「課題（リアクションペーパー（質問））」で行ってください。質問多数の場合は、15件程度に絞ってそれについて講師の先生に回答をお願いし、寄せられた回答を、授業支援システムの「お知らせ」欄にアップロードして対応します。

・教材（レジュメ等）は、学習支援システムの「教材」欄に事前にアップロードいたします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	この講義の目的と全体構成について	担当者によるこの講義の目的や授業の進め方についての説明
第2回	法律実務家を目指す諸君へ	法政土業の会長による講義
第3回	弁護士の職務と役割	弁護士による講義
第4回	裁判実務について	元裁判官による講義
第5回	検察官の職務と役割	検察官による講義
第6回	法科大学院の仕組みと機能	法科大学院教授による講義
第7回	法曹三者の職務について	担当者による講義と授業内中間試験
第8回	地方公務員の職務と役割	地方公務員による講義
第9回	労働基準監督官の職務と役割	労働基準監督官による講義
第10回	公認会計士の職務と役割	公認会計士による講義
第11回	弁理士の職務と役割	弁理士による講義
第12回	社会保険労務士の職務と役割	社会保険労務士による講義
第13回	不動産鑑定士の職務と役割	不動産鑑定士による講義
第14回	法律実務家を目指すことについて	担当者による総括と定期試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義をよく聞いて、必ず復習をすること。
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストはありませんが、各講師の授業についてのレジュメを配布します。「授業支援システム」の「教材」欄を参照してください。

【参考書】

必要に応じて指示します。

【成績評価の方法と基準】

◎ミニテスト、中間・定期試験および平常点・質問によって評価します。

<講義後に実施するミニテスト>

・2回目以降の講義終了後に主に選択式の問題が出題されます。この正答率を評価基準とします。（配点70点）
・解答時間は、各回の講義終了後10分程度を考えています。授業終了時刻内で終わるように時間配分するつもりです。

<中間・授業内定期試験>

・本講座の目的・趣旨からどのくらい真剣に向き合っているかを評価基準とします（各10点、合計20点）

<平常点・質問>

・講義ごとに実施するリアクションペーパー（質問）の提出及びその内容を評価対象とします。評価基準は、講義への積極的参加度などです。（配点10点）

【学生の意見等からの気づき】

おおむね評判の良い講義ですが、実務家の講師選択に対する注文もあります。講師の幅を広げてみることを考えないと思っています。従前の課題－受講生の数に対応しない教室の狭隘さ、マイク設備の不備－は、改善されています（対面授業の場合）。

過去において学生の私語や授業途中の無断（注意無視の）退席など、講師の先生に対する失礼な行動も散見されました。学生のモラルに問いかけつつ、厳粛に対応する必要も感じています。なお、オンライン授業でも私語をミュートをわざわざ外して行った受講生がいました。厳粛に対処する必要性を痛感しています。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

（新型コロナウイルス感染症などの理由でオンライン参加する場合には、Zoomが利用できる環境が必須となる。）

【Outline (in English)】

(1) 【Course outline】

This course will lecture only to second grade student of department of law about the activity of Law practitioners.

We know many kind of Law practitioners, for example, Lawyer, Judge, Prosecutor, Patent attorney, Certified Public Accountants, Labor standards inspectors, etc.

This course contents from 11 guest speakers of above Law practitioners.

(2) **[Learning Objectives]**

At the end of the course, students are expected to study specialized subjects with prospects for the profession.

(3) **[Learning activities outside of classroom]**

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

(4) **[Grading Criteria /Policy]**

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Mid-term and Term-end examination: 20%、Short reports after each class meeting: 70%、in class contribution: 10%

LAW200AB

法律実務入門Ⅱ

沼田 雅之

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

単位数：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は、文字通り法律実務家をめざす人のための入門講座です。春学期の「法律実務入門Ⅰ」の続編です。

法学部で法律の勉強をしている学生で、法律実務家の実態を知らない者は意外と多いと思います。この科目は法律実務家から直に職務を伺うことにより、近い将来の進路を真剣に考えるきっかけとし、その仕事の内容とその資格を得るためのノウハウを知ってもらうことを目的としています。

秋学期は、弁護士の様々な仕事をより具体的なテーマに即して講義をしていただきます。

この科目は全てのコースに属しています。

【到達目標】

この講義を通じて、受講生が自分の進むべき道を考えることができれば目標は達成されたと思われる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」、「DP4」に強く関連。「DP1」、「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

・外部からゲストスピーカーを招へいし、講演をしてもらう形で授業を行います。

・授業の進め方の説明については、第1回ガイダンス（9月22日（金）2限目）でZoomにて行います。Zoomアドレスは学習支援システム「HOPPII」で確認してください。初回のみオンラインとなります。この場合は、「ビデオの停止」「ミュート」で参加してください。

・この講義は、外部講師によるオンニバス方式で実施されます。外部講師の先生方は、法政大学の教職員でない方が多くいらっしゃいます。そのため、この講義の様子が第三者に配信されるとトラブル発生の原因ともなりかねません。講義の録画・録音は絶対にしないでください。Zoomの設定で、受講者は録画等を行えないように設定してありますが、この点ご協力願います。

・講義は原則として対面形式で行います。ただし、外部講師の事情により、教室でオンラインで講義される場合があります。また、第12回（12月15日）は担当教員が通信教育部の地方スクーリングのための出張により、オンデマンド方式となります。

・新型コロナウイルス感染症学生などの特別な事情がある場合に限り、オンラインで配信いたします。また、主催者側は講義内容を録画いたします。

・2回目以降、各回の講義終了後に主に選択式のミニテストを実施します。期限までに解答してください。（解答時間は、授業時間内（～12：20）で先生の講義終了後10分程度と考えています。）

・質問は、学習支援システムの「課題（リアクションペーパー（質問）」の方法があります。「課題（リアクションペーパー（質問）」は時間制限を設けています。授業時間終了前15分程度です。ミニテストと重なりますが、ご了承ください。

※ 質問等への回答について、チャットでの質問については、講師の先生が口頭で回答します。学習支援システム「HOPPII」の「課題（リアクションペーパー（質問）」で行ってください。質問多数の場合は、15件程度に絞ってそれについて講師の先生に回答をお願いし、寄せられた回答を、授業支援システムの「お知らせ」欄にアップロードして対応します。

・教材（レジュメ等）は、学習支援システムの「教材」欄に事前にアップロードいたします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	この講座の目的を考える－秋学期を迎えて	担当者による本講義の目的と内容
第2回	知的財産権と弁護士	弁護士による講義
第3回	家事事件と弁護士	弁護士による講義
第4回	会社再建と弁護士	弁護士による講義
第5回	民事調停と弁護士	弁護士による講義
第6回	人権裁判と弁護士	弁護士による講義
第7回	司法書士の職務と役割	司法書士による講義
第8回	税理士の職務と役割	税理士による講義
第9回	企業経営者から見た法律実務家の必要性	経営者・企業法務担当者による講義
第10回	会社顧問弁護士の役割	弁護士による講義
第11回	労働者側弁護士の役割	弁護士による講義
第12回	労働法専門教員のある日の仕事について	担当者による講義とレポート課題（中間試験）
第13回	「働き方」としての弁護士	弁護士による講義
第14回	総括－法律実務家を目指すことを問う	科目担当者によるまとめと授業内定期試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義をよく聞いて、必ず復習をすること。
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストはないが、各講師の授業についてのレジュメを配布する予定。

【参考書】

必要に応じて指示する。

【成績評価の方法と基準】

◎ミニテスト、中間・定期試験および平常点・質問によって評価します。

<講義後に実施するミニテスト>

・2回目以降の講義終了後に主に選択式の問題が出題されます。この正答率を評価基準とします。（配点70点）

・解答時間は、各回の講義終了後10分程度を考えています。授業終了時刻内で終わるように時間配分するつもりです。

<中間・授業内定期試験>

・本講座の目的・趣旨からどのくらい真剣に向き合っているかを評価基準にします。中間試験はレポート（オンライン提出）となります。（各10点、合計20点）

<平常点・質問>

・講義ごとに実施するリアクションペーパー（質問）の提出及びその内容を評価対象とします。評価基準は、講義への積極的参加度などです。（配点10点）

【学生の意見等からの気づき】

おおむね評判の良い講義であるが、実務家の講師選択に対する注文もある。講師の幅を広げてみることも考えたい。

なお、従前の課題－受講生の数に対応しない教室の狭さ、マイク設備の不備－は、昨年度新教室に移動したことによって改善された。

後部座席の学生の私語や学生の授業途中の退席などの指摘もある。学生のモラルに問いかけつつ対応したい。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

（新型コロナウイルス感染症などの理由でオンライン参加する場合には、Zoomが利用できる環境が必須となる。）

【Outline (in English)】

(1) 【Course outline】

This course will lecture only to second grade student of department of law about the activity of Law practitioners.

We know many kind of Law practitioners, for example, Lawyer, Judge, Prosecutor, etc.

This course contents from 11 guest speakers of Lawyers, Judicial scrivener, Tax Accountant, etc.

(2) 【Learning Objectives】

At the end of the course, students are expected to study specialized subjects with prospects for the profession.

(3) 【Learning activities outside of classroom】

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

(4) [Grading Criteria /Policy]

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Mid-term and Term-end examination: 20%、Short reports after each class meeting: 70%、in class contribution: 10%

POL300AC

外国書講読（仏語） I

近江屋 志穂

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

単位数：2 単位

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

文法の知識を固め、語彙を増やししながら、フランス語で書かれた文章の読解力を養います。扱う文章のジャンルは、物語、評論、時事です。また、文章の読解を通して、フランスの社会、歴史、文化についての知見を広げます。

【到達目標】

中～上級レベルの読解力を身につけることが目標です。フランス語の構文を確実に把握し、文章を正しく読みこなせるようにします。ただし到達目標は受講者のフランス語の習熟度に合わせて変更することもあり得ます。

また、初級文法の学習を終えていることを受講の前提としますが、未習項目があれば補足します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」、「DP3」、「DP4」に強く関連。「DP1」に関連。

【授業の進め方と方法】

訳読が中心となります。易しめの文章から始め、原書（外国人学習者向けに易しく書きかえられていない文章）を読んでいきます。翻訳書のあるものは、翻訳書を見ながら読んでも構いません。少しずつペースを上げ、最終的には辞書を引きながら原書の文章を読むようにします。

文章の読解の他に、動詞の活用練習、文章の音読の練習を行います。音読ファイルの提出を課すこともあります。また、語彙数を増やすため、単語の小テストを行います。

課題へのフィードバックは授業内および学習支援システムを通じて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の内容、進め方、教材の説明
2	外国人学習者向けに易しく書きかえられた文章	講読
3	外国人学習者向けに易しく書きかえられた文章	講読
4	短編の抜粋	講読
5	短編の抜粋	講読
6	短編の抜粋	講読
7	評論文の抜粋	講読
8	評論文の抜粋	講読
9	評論文の抜粋	講読
10	評論文の抜粋	講読
11	時事文の抜粋	講読
12	時事文の抜粋	講読
13	時事文の抜粋	講読
14	総括	まとめと復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・授業の予習を行うこと。
- ・文章を音読する練習も行うこと。

本授業の準備学習・復習時間は各 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

久松健一編著『データ本位 出る順仏検単語集 5 級～2 級レベル』駿河台出版社、2006 年

* 読解教材に関しては、プリントを配布します。

【参考書】

森本英夫・三野博司著『新・リュミエール フランス文法参考書』駿河台出版社、2008 年

【成績評価の方法と基準】

平常点 100 %（単語の小テストはそのうち 10 %）

【学生の意見等からの気づき】

特にありません。

【学生が準備すべき機器他】

- ・仏和辞書（紙の辞書、電子辞書のどちらでも構いません）
- ・初級のフランス語の授業（「フランス語 1」など）で使用した文法の教科書

【その他の重要事項】

・予定している授業内容は授業計画に掲げた通りですが、本授業は年度によって受講希望者のフランス語習熟度に違いが見られます。そのため最終的に教材は受講者のフランス語習熟度と関心も考慮して決定します。関心のある方は初回授業に参加してみてください。

・昨年度の春学期は主にヴィクトル・ユゴーの『死刑囚最後の日』（一部）を読みました。

【Outline (in English)】

Reading a French text. This course is designed for students who are improving French reading comprehension.

The goal of this course is to obtain the level B1-B2 of CEFR.

Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter from the text.

Your required study time is at least one hour for each class meeting.

Grading will be decided based on in-class contribution (100%).

POL300AC

外国書講読（仏語）Ⅱ

近江屋 志穂

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

単位数：2 単位

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

文法の知識を固め、語彙を増やししながら、フランス語で書かれた文章の読解力を養います。扱う文章のジャンルは物語、評論、時事です。また、文章の読解を通して、フランスの社会、歴史、文化についての知見を広げます。

【到達目標】

中～上級レベルの読解力を身につけることが目標です。フランス語の構文を確実に把握し、文章を正しく読みこなせるようにします。ただし到達目標は受講者のフランス語の習熟度に合わせて変更することもあり得ます。

また、初級文法の学習を終えていることを受講の前提としますが、未習項目があれば補足します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」、「DP3」、「DP4」に強く関連。「DP1」に関連。

【授業の進め方と方法】

訳読が中心となります。易しめの文章から始め、原書（外国人学習者向けに易しく書きかえられていない文章）を読んできます。翻訳書のあるものは、翻訳書を見ながら読んでも構いません。少しずつペースを上げ、最終的には辞書を引きながら原書の文章を読むようにします。

文章の読解の他に、動詞の活用練習、文章の音読の練習を行います。音読ファイルの提出を課すこともあります。また、語彙数を増やすため、単語の小テストを行います。

課題へのフィードバックは授業内および学習支援システムを通じて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の内容、進め方、教材の説明
2	外国人学習者向けに易しく書きかえられた文章	講読
3	外国人学習者向けに易しく書きかえられた文章	講読
4	短編の抜粋	講読
5	短編の抜粋	講読
6	短編の抜粋	講読
7	評論文の抜粋	講読
8	評論文の抜粋	講読
9	評論文の抜粋	講読
10	評論文の抜粋	講読
11	時事文の抜粋	講読
12	時事文の抜粋	講読
13	時事文の抜粋	講読
14	総括	まとめと復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・授業の予習を行うこと。
- ・文章を音読する練習も行うこと。

本授業の準備学習・復習時間は各 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

久松健一編著『データ本位 出る順仏検単語集 5 級～2 級レベル』駿河台出版社、2006 年

* 読解教材に関しては、プリントを配布します。

【参考書】

森本英夫・三野博司著『新・リュミエール フランス文法参考書』駿河台出版社、2008 年

【成績評価の方法と基準】

平常点 100 %（単語の小テストはそのうち 10 %）

【学生の意見等からの気づき】

特にありません。

【学生が準備すべき機器他】

- ・仏和辞書（紙の辞書、電子辞書のどちらでも構いません。）
- ・初級のフランス語の授業（「フランス語 1」など）で使用した文法の教科書

【その他の重要事項】

- ・予定している授業内容は授業計画に掲げた通りですが、本授業は年度によって受講希望者のフランス語習熟度に違いが見られます。そのため最終的に教材は受講者のフランス語習熟度と関心も考慮して決定します。関心のある方は初回授業に参加してみてください。
- ・昨年度の秋学期は、アニー・エルノーの小説の抜粋を中心に読みました。

【Outline (in English)】

Reading a French text. This course is designed for students who are improving French reading comprehension.

The goal of this course is to obtain the level B1-B2 of CEFR.

Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter from the text.

Your required study time is at least one hour for each class meeting.

Grading will be decided based on in-class contribution (100%).

POL200AC

ヨーロッパ政治史 I

網谷 龍介

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

単位数：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は、近現代ヨーロッパの歴史を政治発展という視点から鳥瞰するものである（したがってミクロな歴史過程を講じるものではない）。

政治の世界は、個人の創発的行為と集合的に形成されたパターンの双方から織り成されている。しかもその「パターン」は一様ではなく、時代・社会毎に異なっている。

そこで、政治現象の理解には、ある社会の事例を他の社会との比較の中におくとともに、その事例を歴史的な文脈に位置付けて理解することが重要となる。この作業をヨーロッパを題材として行うのが、この授業の内容である。

学生はこの授業を通じて、特定の国（たとえば日本）の現在の政治を理解するために必要な背景となる知識と、政治の多様性についての認識を獲得することができる。

【到達目標】

- ・ヨーロッパの政治発展における共通の課題・趨勢の概略を理解する
- ・各社会の対応のヴァリエーションを類型化しながら理解する
- ・ヨーロッパの政治発展を題材としてうまれてきた比較政治学上の鍵概念を理解する

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

講義により行う。学生は概ね 2 回につき 1 通の予習課題を提出する。予習課題を基礎として、授業時間中には理解が不足している部分の補足や、発展的内容を中心に講じる。毎回リアクションペーパーを実施し、理解度を確認しながら進めていく。

リアクションペーパーや予習課題を通じて提示された質問や意見に対しては、リプライを配布するほか、重要なものについて授業中に応答を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	内容の導入を行うとともに、授業の前提としてヨーロッパに成立した「国民国家」という枠組について説明する。
2	自由主義的議会政治	19 世紀のヨーロッパ政治を概観し、そこにおける中心的な理念としての自由主義と、それを基礎とする議会政治の枠組みについて説明する。
3	民主主義の挑戦	20 世紀に入って選挙権がすべての成人（男子）に拡大されたことで、19 世紀の政治モデルがどのような困難に直面し、どのような解決が模索されたか、概観する。
4	オランダ・ベルギー (1)	オランダやベルギーの政治発展を、「柱」という観点から検討する。
5	オランダ・ベルギー (2)	オランダやベルギーの政治発展を、「多極共存型デモクラシー」という観点から検討する。

6	北欧諸国 (1)	北欧諸国の政治発展を、「社会的亀裂」という観点から検討する。
7	北欧諸国 (2)	北欧諸国の政治発展を、「福祉国家」という観点から検討する。
8	レビュー・セッション (1)	これまでの内容をまとめるとともに、補足的内容を講じる。
9	ドイツ (1)	ドイツの政治発展を「民主主義の崩壊」という観点から検討する。
10	ドイツ (2)	ドイツの政治発展を「連邦制」という観点から検討する。
11	イギリス (1)	イギリスの政治発展を「近世的政治制度の漸進的拡張」という観点から検討する。
12	イギリス (2)	イギリスの政治発展を「戦後コンセンサス」と「サッチャリズム」という観点から検討する。
13	レビュー・セッション (2)	これまでの内容をまとめるとともに、補足的内容を講じる。
14	全体のまとめ	授業全体を総括する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習課題提出回については、テキストの事前に指定された部分を読み、要約やコメントを提出する。授業終了後は内容を復習しコメントペーパーや小テストに備える。事前学習・復習を合わせて授業時間外学習は各回概ね 4 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

網谷龍介・伊藤武・成廣孝『ヨーロッパのデモクラシー 改訂第 2 版』ナカニシヤ出版、2014 年。

【参考書】

- マーク・マゾワー『暗黒の大陸』未来社、2015 年。
- 篠原一『ヨーロッパの政治』東京大学出版会、1986 年。
- 馬場康雄・平島健司編『ヨーロッパ政治ハンドブック 第 2 版』東京大学出版会、2010 年。
- 中山洋平・水島治郎『ヨーロッパ政治史』放送大学教育振興会、2020 年。

【成績評価の方法と基準】

授業前提出課題 34%：A4 で 1 ページ程度の予習課題を提出。テキストの指定部分について内容のまとめとコメント・疑問を記載する。内容を自分で理解しようとしているか、疑問やコメントが適切に記載されているかを評価する。

授業内課題 26%：主にリアクション・ペーパー。授業内容についての理解度を確認する。

学期末試験 40%：全体としての講義の理解度と到達目標の達成度を確認する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【Outline (in English)】

This course gives an overview of European political history from the perspective of "Political Development" leading to democratic regimes.

"Politics" of a given society in a given era is moulded by the collective patterns of political behaviour and creative and path-breaking action of a person. We focus on those patterns, which has been forged historically and takes different forms in various societies. For that reason, it is important to take comparative and historical approach to understand "politics" in a given setting. Therefore, the course is concentrated on the European cases but has further implication to understand democratization pathways.

POL200AC

ヨーロッパ政治史Ⅱ

網谷 龍介

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

単位数：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は、近現代ヨーロッパの歴史を政治発展という視点から鳥瞰するものである（したがってミクロな歴史過程を講じるものではない）。

政治の世界は、個人の創発的行為と集合的に形成されたパターンの双方から織り成されている。しかもその「パターン」は一様ではなく、時代・社会毎に異なっている。

そこで、政治現象の理解には、ある社会の事例を他の社会との比較の中におくとともに、その事例を歴史的な文脈に位置付けて理解することが重要となる。この作業をヨーロッパを題材として行うのが、この授業の内容である。

学生はこの授業を通じて、特定の国（たとえば日本）の現在の政治を理解するために必要な背景となる知識と、政治の多様性についての認識を獲得することができる。

【到達目標】

- ・ヨーロッパの政治発展における共通の課題・趨勢の概略を理解する
- ・各社会の対応のヴァリエーションを類型化しながら理解する
- ・ヨーロッパの政治発展を題材としてうまれてきた比較政治学上の鍵概念を理解する

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

講義により行う。学生は概ね 2 回につき 1 通の予習課題を提出する。予習課題を基礎として、授業時間中には理解が不足している部分の補足や、発展的内容を中心に講じる。毎回リアクションペーパーを実施し、理解度を確認しながら進めていく。

リアクションペーパーや予習課題を通じて提示された質問や意見に対しては、リプライを配布するほか、重要なものについて授業中に応答を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	内容の導入を行う。
2	戦後ヨーロッパの政治変動	第二次大戦後のヨーロッパ政治と、そこにおける政治変動の「波」を概観する。
3	デモクラシーの変容から融解へ？	戦後ヨーロッパ型のデモクラシーがどのように変容してきたかを概観する。
4	フランス (1)	フランスの政治発展を、「議会主権体制」という観点から検討する。
5	フランス (2)	フランスの政治発展を、「半大統領制」という観点から検討する。
6	イタリア (1)	イタリアの政治発展を、「自由主義と政治的クライエンテリズム」という観点から検討する。
7	イタリア (2)	イタリアの政治発展を、「政権選択型デモクラシーの創出」という観点から検討する。
8	レビュー・セッション (1)	これまでの内容をまとめるとともに、補足的内容を講じる。

9	南欧諸国 (1)	スペイン・ポルトガルの政治発展を「権威主義体制」という観点から検討する。
10	南欧諸国 (2)	スペイン・ポルトガルの政治発展を「民主制への移行」という観点から検討する。
11	中欧諸国 (1)	中欧諸国の政治発展を「社会主義体制からの体制変動」という観点から検討する。
12	中欧諸国 (2)	中欧諸国の政治発展を「民主制の定着」という観点から検討する。
13	レビュー・セッション (2)	これまでの内容をまとめるとともに、補足的内容を講じる。
14	全体のまとめ	授業全体を総括する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習課題提出回については、テキストの事前に指定された部分を読み、要約やコメントを提出する。授業終了後は内容を復習しコメントペーパーや小テストに備える。事前学習・復習を合わせて授業時間外学習は各回概ね 4 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

網谷龍介・伊藤武・成廣孝『ヨーロッパのデモクラシー 改訂第 2 版』ナカニシヤ出版、2014 年。

【参考書】

マーク・マゾワー『暗黒の大陸』未来社、2015 年。
篠原一『ヨーロッパの政治』東京大学出版会、1986 年。
馬場康雄・平島健司編『ヨーロッパ政治ハンドブック 第 2 版』東京大学出版会、2010 年。
中山洋平・水島治郎『ヨーロッパ政治史』放送大学教育振興会、2020 年。

【成績評価の方法と基準】

授業前提出課題 34%：A4 で 1 ページ程度の予習課題を提出。テキストの指定部分について内容のまとめとコメント・疑問を記載する。内容を自分で理解しようとしているか、疑問やコメントが適切に記載されているかを評価する。

授業内課題 26%：小テスト、リアクション・ペーパーなどを実施する。授業内容についての理解度を確認する。

学期末試験 40%：全体としての講義の理解度と到達目標の達成度を確認する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【Outline (in English)】

This course gives an overview of European political history from the perspective of "Political Development" leading to democratic regimes.

"Politics" of a given society in a given era is moulded by the collective patterns of political behaviour and creative and path-breaking action of a person. We focus on those patterns, which has been forged historically and takes different forms in various societies. For that reason, it is important to take comparative and historical approach to understand "politics" in a given setting. Therefore, the course is concentrated on the European cases but has further implication to understand democratization pathways.

LAW300AB

人権と企業社会 I

土屋 仁美

授業形式：講義 | 開講セメスター：オースタムセッション/Autumn Session

単位数：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代資本主義社会の経済活動は、企業によって支えられ、企業の活動は、社会全体に大きな影響力を与えています。現代社会における企業活動には、営利を追求するだけでなく、社会の一員として、労働、環境、消費等に関わる社会的な問題を解決するための行動が求められています。そこで、現代社会が抱える問題に企業が対応する意義や必要性について理解を深めつつ、人権保障の観点から問題を考察する力を身に付けます。「企業・経営と法コース」のコース配当科目③憲法科目に位置づけられます。

【到達目標】

- ① 企業活動における関係当事者の権利を理解する。
- ② 人権保障の観点から、企業活動に求められる対応や取組みを理解する。
- ③ 法的な観点から問題を把握し、考察する力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

企業活動における利害関係者の権利を理解したうえで、国内外の具体的な事例について、関連する判例や学説をもとに、講義形式で授業を進めていきます。

授業内で取り組んだ課題等（テスト／レポート）については、学習支援システム等を用いてフィードバックします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回 (9 月 13 日)	企業社会の形成と企業の社会的責任	日本型企业社会の特徴と、社会の一員としての企業の責任について学びます。
第 2 回 (9 月 13 日)	企業活動による人権保障の重要性	企業活動における人権保障の重要性について、人権の私人間効力の観点から学びます。
第 3 回 (9 月 13 日)	ステークホルダーの権利と法規範	企業活動に関わる利害関係者として、労働者、消費者、地域住民等の権利について学びます。
第 4 回 (9 月 13 日)	国際社会におけるビジネスと人権	国際法の中でも経済分野に焦点を当て、自由貿易体制の維持と人権保障について学びます。
第 5 回 (9 月 13 日)	環境保護に対する国内外的取組	気候変動や公害の輸出の問題について、環境権の観点から企業活動における環境保護の必要性について学びます。
第 6 回 (9 月 14 日)	長時間労働の是正と過労死等の防止	長時間労働の是正と過労死等の防止の観点から、労働者の権利保障について学びます。
第 7 回 (9 月 14 日)	雇用分野における女性の活躍の推進	雇用分野における男女格差の是正について、ジェンダー平等やポジティブアクションの観点から学びます。
第 8 回 (9 月 14 日)	消費者問題の特徴と消費者の権利	消費者被害の現状を把握し、消費者契約の特徴について、消費者の権利の観点から学びます。

第 9 回 (9 月 14 日)	食品の安全性の確保	消費者の生命権・健康権の観点から、商品・サービスにおける安全性確保の必要性について学びます。
第 10 回 (9 月 14 日)	営利的表現としての広告・表示	営利的表現としての広告・表示について、事業者の表現の自由と消費者の知る権利の観点から学びます。
第 11 回 (9 月 15 日)	AI ネットワーク社会における自己決定	プロファイリングに基づくマーケティングの問題点について、消費者の自己決定の観点から学びます。
第 12 回 (9 月 15 日)	ビックデータの利活用と個人情報保護	プライバシー権の観点から、企業が保有するビックデータの利活用における個人情報保護について学びます。
第 13 回 (9 月 15 日)	巨大 IT 企業と競争市場の維持	企業が活動する市場に焦点を当て、営業の自由の観点から、巨大 IT 企業に対する規制について学びます。
第 14 回 (9 月 15 日)	試験（レポート）・まとめと解説	授業内容についての試験（レポート）を行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

その日のうちに配布プリント・資料をもとに復習しましょう。日ごろから時事問題に関心を持ちましょう。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは指定しません。
講義時にレジュメ・資料を配布します。
講義の際には、六法を持参してください。

【参考書】

元山 健・建石真公子編『現代日本の憲法 [第 2 版]』(法律文化社、2016 年)
『(別冊ジュリスト) 憲法判例百選 I 第 7 版』(有斐閣、2019 年)
『(別冊ジュリスト) 憲法判例百選 II 第 7 版』(有斐閣、2019 年)
『(別冊ジュリスト) 労働判例百選 第 9 版』(有斐閣、2016 年)
『(別冊ジュリスト) 環境法判例百選 第 3 版』(有斐閣、2018 年)
『(別冊ジュリスト) 消費者法判例百選 第 2 版』(有斐閣、2020 年)

【成績評価の方法と基準】

各講義の小テスト (40%)、レポート (60%) により評価します。

【学生の意見等からの気づき】

受講者が能動的に参加できるように、受講者自身が問題と向き合い考える時間 (小テスト・小レポート) を設けます。受講者数によって、グループディスカッション等を行う場合があります。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布や課題提出等に学習支援システムを利用します。

【Outline (in English)】

In Modern capitalism, business activities have great influence on society. As a member of society, business enterprises need to take actions with social problems related to labor, environment, and consumption, etc. The aim of this course is to help students learn about the significance of business activities to protect the human rights.

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than two hours for a class.

The overall grade for the class will be determined based on the following.

short tests(each class): 40%, short reports(3 times): 60%

POL200AC

アメリカ政治史 I

中野 勝郎

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

単位数：2 単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本科目は「歴史・思想」の科目群に属する科目です。アメリカ合衆国の政治を歴史的に考察します。

本年度は、合衆国の政治と社会の特質をいくつかのテーマにわけて考察していきます。

【到達目標】

われわれの目に映る現代のアメリカ合衆国は、どのような経緯を経ていまの姿をとるようになったのかを検討するのが本授業の目的です。合衆国において、どのような争点をめぐって政治がおこなわれ、どのような価値観・イデオロギー・理念のなかで人びとは自分たちの社会を捉えてきたのかという観点から、アメリカ史を辿ります。

アメリカ合衆国は、理解することがむずかしい国です。この授業によって、「アメリカ合衆国とはなにか」という問いにたいする答えを出すことはできないと思いますが、その問いに答えるための補助線を身につけることはできると思います。

また、このような作業をとおして、日本に住むあなたたちが、自分たちの国や社会について思いを巡らせ、「自分たちは何者であるのか」を考える視点を築くための材料を得ることも、この授業の目的です。

The goal of this course is to enhance your understanding of how the U.S. has become what it is now.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

基本的には、教室での対面授業を行なう予定ですが、新型コロナウイルスの感染状況や授業の進行具合によっては、オンライン授業に切り替えることがあります。

オンライン授業の場合、リアルタイムではなく、あらかじめ収録していた授業を YouTube で限定配信します。YouTube の URL は授業日までに HOPPII にアップします。

授業にかんする情報も、すべて、HOPPII にアップします。

受講者は、毎回、質問・コメントなどを HOPPII にアップしてください。

（すぐれたリアクションペーパーは、成績評価の際に加味します）

In-person lecture.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	「America」と「United States」
第 2 回	時間 1	新しい社会
第 3 回	時間 2	古典古代の終わり
第 4 回	時間 3	共和主義・ビュウリタニズム・啓蒙主義
第 5 回	空間 1	隔離の論理
第 6 回	空間 2	聖地とフロンティア
第 7 回	空間 3	膨張の論理
第 8 回	人間 1	アメリカ人とはなにか 1 ー入植者と移民
第 9 回	人間 2	アメリカ人とはなにか 2 ー人種・階級・ジェンダー
第 10 回	人間 3	アメリカ人とはなにか 3 ーオバマとトランプ

第 11 回	アメリカニズム 1	統合の論理
第 12 回	アメリカニズム 2	包摂の論理と排除の論理
第 13 回	アメリカニズム 3	世界とアメリカ
第 14 回	時間・空間・人間	それぞれのアメリカを描いてみる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業中に適宜参考文献・資料を指示しますので、それを読むようにしてください。

授業以外の学習時間は各回 4 時間が標準です。

Before/after each class meeting, students will be expected to spend a few hours to understand the course content.

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。

【参考書】

授業中に適宜紹介します。

資料は、コピーして配布するか HOPPII にアップします。

【成績評価の方法と基準】

学期末試験 (100 %)

Grading will be decided on the term-end examination only.

なお、HOPPII へのコメントが優れている場合には、期末試験の点数に加点して成績評価をします。

【学生の意見等からの気づき】

ノートを取りやすいように心がける。

【その他の重要事項】

この授業は、アメリカ政治史Ⅱとセットになっています。できるだけ、両方の科目とも履修するようにしてください。

【Outline (in English)】

This course aims to analyze several hallmarks of politics and society of U.S.

POL200AC

アメリカ政治史Ⅱ

中野 勝郎

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

単位数：2 単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本科目は「歴史・思想」の科目群に属する科目です。
本年度は、アメリカ合衆国の政治思潮について考察します。
合衆国についての情報は日本に溢れていますし、合衆国の文化は日本社会に深く広く浸透しています。政治的・軍事的・経済的にも、合衆国は日本と密接な関係にあります。
しかし、合衆国についての理解は深まっていませんし、そもそもわかりにくい国だと思えます。
この授業では、合衆国について理解するための一つの補助線として、アメリカ社会の思想（物事の捉え方というくらいの意味で）や行動の特質を考えてみようと思えます。

【到達目標】

合衆国において、どのような争点をめぐって政治がおこなわれ、どのような価値観・イデオロギー・理念のなかで人びとは自分たちの社会を捉えてきたのかという観点から、アメリカ理解を深めることをめざします。

アメリカ合衆国は、理解することがむずかしい国です。この授業によって、「アメリカ合衆国とはなにか」という問いにたいする答えを出すことはできないと思いますが、その問いに答えるための補助線を身につけることはできると思えます。

また、このような作業をとおして、日本に住むあなたたちが、自分たちの国や社会について思いを巡らせ、「自分たちは何者であるのか」を考える視点を築くための材料を得ることも、この授業の目的です。

The goal of this course is to enhance your understanding of how the U.S. has become what it is now.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

基本的には、対面授業です。
ただし、新型コロナウイルスの感染状況や授業の進行具合によっては、オンライン授業に切り替えることがあります。
オンライン授業の場合、リアルタイムではなく、あらかじめ収録していた授業を YouTube で限定配信します。YouTube の URL は授業日までに HOPPII にアップします。
授業にかんする情報も、すべて、HOPPII にアップします。
受講者は、毎回、リアクション（質問・コメントなど）を HOPPII にアップしてください。
すぐれたリアクションについては、成績評価において加点します。

In-person lecture

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	リベラリズム 1	・リベラリズムの伝統ーリベラリズムしか知らない社会
第 2 回	リベラリズム 2	・封建制の不在と社会主義の不在 社会民主主義としてのリベラル vs. リベラリズムとしての保守主義
第 3 回	リベラリズム 3	多文化主義とリベラリズムー分離の論理と包摂の論理
第 4 回	デモクラシー 1	代表制ー自治なのか統治なのか アメリカ的な代表観を考える

第 5 回	デモクラシー 2	ポピュリズムー「人民（people）」とはだれなのか
第 6 回	デモクラシー 3	ストリート・デモクラシーー直接民主政の伝統
第 7 回	アメリカ的キリスト教 1	丘の上の町ーアメリカ例外主義
第 8 回	アメリカ的キリスト教 2	市民宗教ー統合の論理
第 9 回	アメリカ的キリスト教 3	信仰復興運動ー改革の思想
第 10 回	多文化主義 1	多様性の論理
第 11 回	多文化主義 2	共通の価値の解体
第 12 回	反知性主義 1	有用な知識の重視
第 13 回	反知性主義 2	知性への不信心
第 14 回	理念の共和国	アメリカとはなにか

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業中に適宜参考文献を指示しますので、それを読むようにしてください。

とりわけ、教科書は、読んでいることを前提にして授業しますので、授業中にはその内容について触れない場合もあります。ですから、教科書は必読です。

Before/after each class meeting, students will be expected to spend a few hours to understand the course content.

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。

【参考書】

授業中適宜紹介します。
資料は、コピーして配布します。

【成績評価の方法と基準】

学期末試験（100%）

Grading will be decided on the term-end examination only.

リアクションが優れていれば、成績評価において加味します。

【学生の意見等からの気づき】

ノートを取りやすいように心がける。

【その他の重要事項】

この授業は、アメリカ政治史Ⅰの続編です。できるだけ、両方の科目を履修するようにしてください。

【Outline (in English)】

American Political and Social Thought.

POL200AC

協同組合論

杉崎 和久

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

単位数：2 単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

政治学科科目の中で「政策」の分野に属する科目である。

一人ひとりが尊重され、生き活きと暮らし続ける社会を実現していくため、協同組合や NPO 等の非営利市民事業による様々な取り組みが行なわれています。グローバリズムが加速する中で、貧困根絶や仕事の創出等に関する協同組合の貢献は国際的に評価されており、国連は 2012 年を「国際協同組合年」とし、2013 年に社会的連帯経済タスクフォースを立ち上げました。一方、日本では人口が減少し、超高齢社会に突入し、働く者の数が減少する中、経済ばかりでなく社会システムの停滞・行き詰まりが表面化していますが、こうした問題に市場や行政だけでは十分に対応できない状況下においても、諸外国のように生協等の協同組合による実践の価値や可能性が広く認識されているとはいえません。このような中で 2020 年 12 月労働者協同組合法が成立しました。協同組合運動は新しい段階を迎えます。なぜ今、「非営利・協同」の運動と事業に期待がよせられているのか。「もう一つの世界は可能か—協同組合と社会的連帯経済」この点を本講座の中心テーマとし、協同組合あるいは非営利市民事業の歴史的社会的背景、現状、そして今後の展望や可能性について、第一線の学者および実践者による講義を行ないます。

【到達目標】

- ① 世界における協同組合および社会的企業の歴史・沿革を踏まえ、日本における活動状況や今日的な意義や課題について知ること。
- ② 非営利市民事業及び協同組合が展開する事業・活動が、市民生活に及ぼす役割について知ること。
- ③ 協同組合をはじめ非営利市民事業の今後の展望や可能性等について考えることなどを通じて、生活者・市民が主体者である新しい公共政策の理論と実践について考える基礎力を身につけること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連。

【授業の進め方と方法】

授業は原則「対面」で行う予定であるが、講師等の都合によりオンデマンド教材などを併用することがある。

この講座では、①世界の協同組合をはじめとした非営利・協同セクターが切り開いてきた歴史を学ぶとともに、②生協を中心とした日本の協同組合や NPO 等の非営利市民事業の活動を広く検証し、③協同組合や NPO 等を中心とする非営利・協同セクターが今日の日本の地域の課題解決にどのような可能性を持っているか、④生活者・市民が主体者である公共政策をどのように実践し、担っていくのか、など協同組合・非営利市民事業の現代的意義について、テーマ毎にゲストスピーカーによる実践報告を交えながら検討する。授業中に授業内容に関するコメントを提出する。なお、小レポート等から提出された質問について、講義時間等に回答する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 01 回	① ガイダンス ② 「もう一つの世界は可能か—非営利セクターと生協	① 本講座の主旨、狙い、講座概要、成績評価方法などを説明します。 ② 公共政策にとって、政府セクター、営利セクターと違った、非営利セクターの役割を俯瞰し、現代生協の一つとしての生活クラブ運動の普遍的価値について触れます。今年、施行となる労働者協同組合法を含めた状況についても論じます。全 14 回の講座の道しるべとします。
第 02 回	世界の協同組合から考える—協同組合法制の変遷と課題	世界を見渡すと、協同組合を「憲法」に位置づけている国もあります。社会の変化は急速であり現行生協法にも様々な課題が生じています。生協法や労働者協同組合法を中心に協同組合運動と事業における課題認識を現行法との関連で深めます。
第 03 回	東京の生協と生活クラブ（消費材と共同購入）	東京の生協全体の状況を把握します。日本全体の協同組合や生協の現況に触れつつ、焦点としては、東京の生協の歴史、そしてその特徴を、街で走る「生協車両」の姿など、学生にとっても、身近な事例と結び付けて、論じます。その上で、生活クラブ生協の事業と運動の取組みを、具体的な食品問題（添加物、農薬、放射能、BSE 等）を事例に紹介します。以降の講座で生活クラブを理解する上で、前提となる「考え方」を伝える講座となる予定です。
第 04 回	若者と協同組合—韓国の事例から	韓国では、2012 年に「協同組合基本法」を施行し、また 2013 年度に「ソウル市特別協同組合活性化支援条例」が制定されて以来、3,000 に及ぶ協同組合が設立しています。特に若者の協同組合への参加に焦点をあてて、現在の分析につなげていきます。韓国において「制度」が整備されることによって、「運動」が拡大していく条件を学びます。
第 05 回	地域づくりを描く協同組合	地域協議会の活動と働く人たちがつくる協同組合であるワーカーズ・コレクティブの理念と様々な事業分野に展開する実践および課題について学びます。ワーカーズ運動は、生活クラブ運動の中から生まれた経過を踏まえ、地域において「労働」が位置付けられるべきか議論します。一方、本年、労働者協同組合法が施行となる状況は、運動の新しい課題をもたらすものと考えます。
第 06 回	市民によるエネルギー自給の可能性を探る—エネルギーの共同購入	気候危機が世界的な課題となっています。しかし、日本の施策は、大幅に遅れているといっても過言ではありません。相変わらず、「電力業界」という古い世界が、「新電力」の壁となっており、問題が山積みです。こうした状況の背景を学びながら、地域と結びつきながら、再生可能エネルギーの推進をすすめる生活クラブのエネルギー自給の取り組みの背景と課題を研究者の立場から論じます。

- 第07回 コミュニティの未来を担うディーセントな働き方を求めて
人々が大事にされる働き方（ディーセントワーク）によってこそ、私たちの生きる基盤を支え、充実させていくことが可能となります。しかしながら、現代社会はディーセントな働き方が実現しにくい仕組みになっています。この仕組みに「挑戦」していくためには、どんな思想、実践が手掛かりになるのでしょうか。それを考え合うことが本講義の目的です。
- 第08回 市民参加で都市農業を守る
生活クラブは、都市農業の育成と強化を柱としてきました。2016年度から開始した、生活クラブ農園・あきるの野の実践の意義と実践および政策的課題を共有します。
- 第09回 市民金融によるコミュニティ・エンパワメント
協同組合運動にとって、「金融」とは不可欠な歴史があります。お金に意志と意思をもたせるために市民がつくった市民のための非営利市民金融による、公正な暮らしや働き方、持続可能な社会づくりをすすめる取組みを紹介し、日本の協同組合が日本の食文化を守り伝えていくことに果たした役割は大きいものがあります。日本の風土に沿った食のあり方や添加物などの問題をととした生活提案やまちづくりを学びます。飲み物などの実験を行い、学生が体感することで理解を深めます。
- 第10回 地球と身体にやさしい食～私の食が世界・地球をつくる～
日本の協同組合が日本の食文化を守り伝えていくことに果たした役割は大きいものがあります。日本の風土に沿った食のあり方や添加物などの問題をととした生活提案やまちづくりを学びます。飲み物などの実験を行い、学生が体感することで理解を深めます。
- 第11回 協同組合と子育て支援事業
子育て支援事業は、大都市部において、そのニーズは減っていません。しかし、政府政策は、その点で十分な措置をとっていません。このためこの事業の財政運営は、厳しいものがあります。このような状況の中で、生協事業の多様な世代への展開という点でも、この事業は不可欠となっていますが、その生活クラブの「子育て支援」の特徴を、「制度」や「地域的課題」と結びつけて、考えていきます。
- 第12回 生活クラブと居場所づくり
生活クラブが「個人化」時代の中で、「地域」にどうアプローチしていくのか、防災や減災という課題を関係づけながら、課題を共有します。とりわけて「居場所づくり」と結びついた、生活クラブの福祉事業についても言及します。地域の具体的な問題解決の活動事例を学びます。
- 第13回 地域づくりを描く協同組合と非営利セクター
協同組合や社会的連帯経済の世界的動向を踏まえつつ、ワーカーズ・コレクティブの理念と様々な事業分野に展開する実践を一方でグローバルな非営利セクターの視点で位置づけるとともに、地域の課題に引き付けて学びます。とくに、地域で、障がいがあってもなくてもともに働くワーカーズ運動に焦点を当てます。

- 第14回 市民による公共政策実現のプロセス～地域政策づくり／全体とのまとめ
講座全体の総合的な視点として、「政治」を講座の中心に置きます。運動グループの政治運動の全体と、条例提案や地域の実践という運動とリスク評価という点でも、視点をひろげながら課題を共有します。政策的課題の事例を踏まえつつ、最終的には、公共性政策という課題を展望します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予定されたテーマについて自分なりに調べてみてください。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しません。配布資料は、授業前日までに学習支援システムにアップロードしますので、各自対応してください。

【参考書】

適宜、案内します。

【成績評価の方法と基準】

各講義時の小レポートによる評価の合計：各回講義の最後に講義内容に関するコメントをリアクションペーパーに記入し提出する。

・小レポートの評価は下記とする。

A：授業内容を踏まえて、独自の視点からの意見や考え方が記述されている。

B：適切な分量（リアクションペーパーの7割以上）を満たし、授業内容を踏まえた内容が記述されている。

C：授業内容を踏まえた内容が記述されていないか、適切な分量をみなしていない。

D：未記入

なお、授業時間外に提出した場合には理由の如何に関係なく、受理しない。

【学生の意見等からの気づき】

学生からの質問へは、なるべく早く対応したいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

講師によって、パワーポイント、映像を活用します。

【Outline (in English)】

【授業の概要（Course outline）】

This lecture will learn about the history, current situation, future prospects and possibilities of cooperatives or nonprofit projects.

【到達目標（Learning Objectives）】

By the end of the course, students should be able to do the followings:

A.Learning about the status of activities in Japan and its significance and issues today, based on history of cooperatives and social enterprises around the world.

B.Recognizing the contemporary problems of urban space

C.Acquiring the basic ability to think about the theory and practice of new public policy in which consumers and citizens are the main actors.

【授業時間外の学習（Learning activities outside of classroom）】

Your required study time is at least two hours for each class meeting.

【成績評価の方法と基準（Grading Criteria /Policy）】

Grading will be decided based on reports at each class.

LAW300AB

企業規制の法律学 I

青柳 由香

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

単位数：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、公益事業などを対象とする事業規制（事業法等）について、その規制のあり方や意義等を扱う。電気通信、運輸、エネルギー事業等の公益事業は、国民にとってきわめて身近であり、日常的に利用し、また料金の支払いを行っているものである。公益サービス等を通じて国民生活を支える各種事業が、どのように規律されているかを理解することにより、市場経済にありながらも、完全な自由競争に委ねられず、国家の介入を受ける形で事業が実施されていること、それにより安定的なサービス供給等が可能となっていることについて理解を深める。（公益事業以外の産業であっても、事業に対する規制を受ける事業分野を取り上げることがある。）個別の事業法として、本年度は、特に航空法と放送法を取り上げる。なお、いわゆる事業法は講義上の経済法に含まれる重要な法制である。本講義において事業法を学ぶことにより、経済法Ⅰ・Ⅱ・Ⅲとあわせて広く経済法に関する知見を得ることが可能となる。

【到達目標】

以下の理解を得ることを目標とする。

- (1) 事業法の運用と機能の外觀
- (2) 市場経済における規制の役割

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

講義形式で授業を行う。論点ごとに可能であれば事例を扱うことによって理解を深める。事例の検討等において学生の挙手や発言を求めることがある。積極的な参加を歓迎する。

教場での対面授業を原則としつつ、数回オンライン授業を実施する可能性を予定している。オンライン授業を実施する場合、日程や実施方法については授業と Hoppii 等で周知する。

いずれの授業形式においても、受講者は各授業の受講後にリアクションペーパーを提出されたい。各回毎に提出される受講生からのリアクションペーパーで寄せられた重要な質問等に対して回答することでフィードバックを図る。積極的に質問や意見等を提示されたい。複数回の課題を予定している。レジュメと参考資料を適宜配布する。またゲストスピーカーを迎えて実施する対面授業を予定している。講義計画の記載の都合上、最終回に記載しているが、講師とのスケジュール調整により授業期間のどこかで実施する。実施予定日は授業等を通じて周知する。講師の都合により、オンラインリアルタイムへの変更、開催の取りやめ（その場合には通常の授業を実施する）の可能性がある。

また、成績評価の対象となる課題・小テストを何回か課すことを予定している。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロ	市場経済における規制の役割
第 2 回	歴史的沿革	戦時経済統制法から現代までの規制の沿革
第 3 回	法制度における位置づけ	事業法の法的性質
第 4 回	規制の策定過程	政策過程、形式
第 5 回	事業法	事業法総論
第 6 回	規制類型（1）	参入・退出規制

第 7 回	規制類型（2）	料金規制
第 8 回	規制類型（3）	その他のタイプの規制
第 9 回	料金規制	料金規制の概要、問題点
第 10 回	事業別分野の法制度 1	航空法 1
第 11 回	事業別分野の法制度 2	航空法 2
第 12 回	事業別分野の法制度 3	放送法 1
第 13 回	事業別分野の法制度 4	放送法 2、その他
第 14 回	企業規制と実務	企業規制に関する実務の状況

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

特に授業後の復習をされたい。また、公益事業等に関する新聞記事などに触れてほしい。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

適宜資料等を配布する。

【参考書】

授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

レポート課題 70 %、平常点 30 %。

レポート課題は複数回課す。授業ではリアクションペーパーの提出を求め、平常点の対象とする。

【学生の意見等からの気づき】

授業のありかたに対しては、おおむね好評だった。継続しつつ、資料や事案の参照などについて、より理解を促進するような内容・形式にバージョンアップを図りたい。また、具体的な事例や近時の動向等、受講生の関心に沿った授業の実施を心がけたい。

【Outline (in English)】

(1) Course Outline

This lecture will cover business regulations especially for public utilities. Utilities, such as telecommunications, transportation, and energy, are very familiar to people's life. We use them on a daily basis, and pay for them. We will learn how the various businesses are regulated, and why businesses are not entrusted to complete free competition and receive state intervention, despite being in a market economy. Also, business

sectors subject to regulations besides so called utilities may be covered in the lecture.

Business regulations are an important legal system included in the economic law. Through this lecture, attendees will gain broader understanding of so called economic law along with other courses titled economic law I, II, III.

(2) Learning Objectives

The course objective is to gain an understanding of the following;

(a) The appearance of the operation and function of business law

(b) The role of regulation in a market economy

(3) Learning Activities Outside of Classroom

Students are encouraged to review the cases discussed in class after class to deepen their understanding. Also, it is encouraged to keep abreast of the latest trends regarding the application of antitrust laws through newspapers and other media. The standard preparation and review time for this class is 4 hours.

(4) Grading Criteria / Policy

70% for the assignments and 30% for participation and others. Several report assignments will be given. Submission of the reaction papers will be required in class and they are subject to class participation grades(30%).

POL300AC

政治学特殊講義 I (政治学の原典を読む)

細井 保

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

単位数：2 単位

その他属性：〈優〉

【Outline (in English)】

Diese Vorlesung beschäftigt sich mit den klassischen Werken bzw. Standardwerken der Politikwissenschaft.

English Keyword: classical works of political science

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

政治学の基礎的かつ古典的な文献を購読する。

【到達目標】

政治学の基礎的かつ古典的な文献の読破と理解。「歴史・思想・理論」に関心のある学生だけでなく、「政策・都市・行政」を主に学んでいる学生であっても、政治学科に籍を置く者であれば、誰もが読んでおいたほうが良い文献、もしくは言い方をかえると、政治学科生であれば読んでいることが周囲から期待されている（読んでいないと恥ずかしい）文献をとりあげる。したがって、基礎科目の政治学や、必修科目の政治学入門で聞いたことはあるかもしれないが、実際に手にとって読んだことのないような文献が選定の基準となる。今年度はさしあたり E・H・カーやハンス・モーゲンソーなどを念頭においている。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

【授業の進め方と方法】

本科目は演習科目ではないが、授業形態としては演習形態を予定している。すなわち授業内での発表、リアクションペーパーの提出などを考えている。シラバス執筆段階では以下の授業計画を予定している。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	春学期をはじめるにあたって	準備情報
2	E・H・カー	『歴史と何か』
3	E・H・カー	『歴史と何か』
4	E・H・カー	『歴史と何か』
5	E・H・カー	『歴史と何か』
6	E・H・カー	『歴史と何か』
7	E・H・カー	『歴史と何か』
8	春学期中間考察	前半をふりかえる
9	E・H・カー	『危機の二十年』
10	E・H・カー	『危機の二十年』
11	E・H・カー	『危機の二十年』
12	E・H・カー	『危機の二十年』
13	E・H・カー	『危機の二十年』
14	春学期総括考察	後半と全体をふりかえる

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

文献を事前に読み、読書ノートを作成。

【テキスト (教科書)】

E・H・カー 『歴史とは何か』 岩波書店

E・H・カー 『危機の二十年』 岩波書店

【参考書】

授業内で紹介。

【成績評価の方法と基準】

平常点 (報告および討論) を総合して評価。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

POL300AC

政治学特殊講義Ⅱ（政治学の原典を読む）

細井 保

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

単位数：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

政治学の基礎的かつ古典的な文献を購読する。

【到達目標】

政治学の基礎的かつ古典的な文献の読破と理解。「歴史・思想・理論」に関心のある学生だけでなく、「政策・都市・行政」を主に学んでいる学生であっても、政治学科に籍を置く者であれば、誰もが読んでおいたほうが良い文献、もしくは言い方をかえると、政治学科生であれば読むことが周囲から期待されている（読んでいないと恥ずかしい）文献をとりあげる。したがって、基礎科目の政治学や、必修科目の政治学入門で聞いたことはあるかもしれないが、実際に手にとって読んだことのないような文献が選定の基準となる。今年度はさしあたりE・H・カーやハンス・モーゲンソーなどを念頭においている。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

本科目は演習科目ではないが、授業形態としては演習形態を予定している。すなわち授業内での発表、リアクションペーパーの提出などを考えている。シラバス執筆段階では以下の授業計画を予定している。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	春学期をはじめるにあたって	準備情報
2	ハンス・モーゲンソー	『国際政治』
3	ハンス・モーゲンソー	『国際政治』
4	ハンス・モーゲンソー	『国際政治』
5	ハンス・モーゲンソー	『国際政治』
6	ハンス・モーゲンソー	『国際政治』
7	ハンス・モーゲンソー	『国際政治』
8	秋学期中間考察	前半をふりかえる
9	ハンス・モーゲンソー	『国際政治』
10	ハンス・モーゲンソー	『国際政治』
11	ハンス・モーゲンソー	『国際政治』
12	ハンス・モーゲンソー	『国際政治』
13	ハンス・モーゲンソー	『国際政治』
14	秋学期総括考察	後半と全体をふりかえる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

文献を事前に読み、読書ノートを作成。

【テキスト（教科書）】

ハンス・モーゲンソー『国際政治』岩波書店

【参考書】

授業内で紹介。

【成績評価の方法と基準】

平常点（報告および討論）を総合して評価。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline (in English)】

Diese Vorlesung beschäftigt sich mit den klassischen Werken bzw. Standardwerken der Politikwissenschaft.

English Keyword: classical works of political science

POL300AC

政治学特殊講義 I (日韓比較政治思想)

崔 先鎬

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
 単位数：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

政治学科科目の中で「思想・歴史系」の分野に属する科目です。この講義においては、近代と日韓の思想を通して、両国における政治・社会・文化についての思考能力、並びに両国関係をめぐる諸問題に対する関心の向上を目指します。

近代という時代を克服して、戦後の日韓と世界で指導的役割を發揮しながら活躍した知識人の思想を基に、現在を構成する一員としての我々が備えるべき問題意識を歩むべき方向性について真剣に考えて行きたいです。

【到達目標】

一般論としての政治学分野に加えて、最も重要な近隣諸国である日韓関係についての理解を高めたい学生のために、両国の歴史・文化・社会をめぐる諸問題について考察していく予定です。

社会科学としての政治思想分野、とくに日韓関係に興味のある人、並びに、これらについてこれから学んでいくことで学問的視座を広げたいと思う人も無論歓迎します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

政治学的一般論について理論書を通して学習しつつ、歴史的な取り組みから現代の時事問題に至るまでの内容を包括して説明を行います。日韓をめぐるいろいろな問題意識を有する学生を包含し、文書購読を行います。また、理論的文献の他に、新聞、雑誌、並びに、ドキュメンタリーなどを使用して、その内容と主題について分析を行います。

課題等の提出・フィードバックは学習支援システムを通じて行う予定です。なお、提出された課題等における良い内容は、次回の授業の更なる議論に活かす予定です。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】
 なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】
 なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第一回	(前期)	講義全般についての紹介 オリエンテーション
第二回	近現代の日韓における状況について	関連内容の紹介・説明
第三回	日韓関係をめぐる市民社会の論理と心理について①	関連内容の紹介・説明
第四回	日韓関係をめぐる市民社会の論理と心理について②	関連内容の紹介・説明
第五回	日韓における人間と道徳認識について①	関連内容の紹介・説明
第六回	日韓における人間と道徳認識について②	関連内容の紹介・説明
第七回	日韓におけるナショナルリズムの諸問題について①	関連内容の紹介・説明
第八回	日韓におけるナショナルリズムの諸問題について②	関連内容の紹介・説明

第九回	歴史的視座から見た日韓における西欧認識について①	関連内容の紹介・説明
第十回	歴史的視座から見た日韓における西欧認識について②	関連内容の紹介・説明
第十一回	日韓の学問世界における普遍的ものの追求について①	関連内容の紹介・説明
第十二回	日韓の学問世界における普遍的ものの追求について②	関連内容の紹介・説明
第十三回	現代の日韓における態度決定の諸問題について①	関連内容の紹介・説明
第十四回	現代の日韓における態度決定の諸問題について②	関連内容の紹介・説明

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

様々な語彙・用語を丁寧に読むこと。授業中はノートを取る。授業内容の録画・録音・写真撮影は絶対しないこと。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

歴史教育研究会編『学びつなげる日本と韓国の近現代史』東京、明石書店、2013 年
 (必要な場合、映画・ドキュメンタリー等の映像を使用いたします。その他、必要な場合はコピーを配布いたします。)
 三谷太一郎『日本の近代とは何であったかー問題史的考察』岩波新書 1650、東京、岩波書店、2017 年

【参考書】

南原繁『政治哲学序説』、岩波書店、1988 年
 白樂濬『歴史と文化』、延世大学出版部、1995 年
 中野勝郎・杉田敦・崔先鎬ほか『市民社会と立憲主義』、法政大学出版局、2012 年
 中野勝郎・崔先鎬ほか『境界線の法と政治』、法政大学出版局、2016 年

【成績評価の方法と基準】

受講態度 (= 手書きのレポートなどの提出物、40%) + 試験 (60%)
 感染症の拡散による事態が解消するまでは上記の何も学習支援システムで対応する場合がある。)

【学生の意見等からの気づき】

日韓関係における持続可能な信頼の構築

【学生が準備すべき機器他】

ノート筆記

【その他の重要事項】

授業内容の録画・録音・写真撮影は絶対に行わないこと。
 (授業中の電子機器の使用禁止。スマホはカバンの中に仕舞うこと。)
 試験時に黒の油性ボールペンを必ず用意すること。

【Outline (in English)】

By this subject about the modern history in Japanese & Korean politics, society, the culture study it. In addition, by this lecture, to improve interest about various the relationship around Japanese & Korean's modern age. Particularly, to consider education system with the Elite between these two countries.

POL300AC

政治学特殊講義Ⅱ（日韓比較政治思想）**崔 先鎬**

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

単位数：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

政治学科科目の中で「思想・歴史系」の分野に属する科目です。この講義においては、近代と日韓の思想を通して、両国における政治・社会・文化についての思考能力、並びに両国関係をめぐる諸問題に対する関心の向上を目指します。

近代という時代を克服して、戦後の日韓と世界で指導的役割を發揮しながら活躍した知識人の思想を基に、現在を構成する一員としての我々が備えるべき問題意識を歩むべき方向性について真剣に考えて行きたいです。

【到達目標】

一般論としての政治学分野に加えて、最も重要な近隣諸国である日韓関係についての理解を高めたい学生のために、両国の歴史・文化・社会をめぐる諸問題について考察していく予定です。

社会科学としての政治思想分野、とくに日韓関係に興味のある人、並びに、これらについてこれから学んでいくことで学問的視座を広げたいと思う人も無論歓迎します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」、「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

政治学的一般論について理論書を通して学習しつつ、歴史的な取り組みから現代の時事問題に至るまでの内容を包括して説明を行います。日韓をめぐるいろいろな問題意識を有する学生を包含し、文書購読を行います。また、理論的文献の他に、新聞、雑誌、並びに、ドキュメンタリーなどを使用して、その内容と主題について分析を行います。

課題等の提出・フィードバックは学習支援システムを通じて行う予定です。なお、提出された課題等における良い内容は、次回の授業の更なる議論に活かす予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第一回	(後期)	講義全般についての紹介 オリエンテーション
第二回	日韓における文化的共通認識と歴史的価値について①	関連内容の紹介・説明
第三回	日韓における文化的共通認識と歴史的価値について②	関連内容の紹介・説明
第四回	日韓における文化的共通認識と歴史的価値について③	関連内容の紹介・説明
第五回	日韓におけるリベラリズムとデモクラシーについて①	関連内容の紹介・説明
第六回	日韓におけるリベラリズムとデモクラシーについて②	関連内容の紹介・説明
第七回	日韓におけるリベラリズムとデモクラシーについて③	関連内容の紹介・説明
第八回	日韓における市民社会について①	関連内容の紹介・説明

第九回 日韓における市民社会 関連内容の紹介・説明について②

第十回 日韓における市民社会 関連内容の紹介・説明について③

第十一回 日韓における文化多元主義について①

第十二回 日韓における文化多元主義について②

第十三回 国際関係としての日韓 関連内容の紹介・説明について

第十四回 日韓友好関係の意義と可能性について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

様々な語彙・用語を丁寧に読むこと。授業中はノートを取る。授業内容の録画・録音・写真撮影は絶対しないこと。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

歴史教育研究会編『学びつなげる日本と韓国の近現代史』東京、明石書店、2013 年

(必要な場合、映画・ドキュメンタリー等の映像を使用いたします。その他、必要な場合はコピーを配布いたします。)

三谷太一郎『日本の近代とは何であったかー問題史的考察』岩波新書 1650、東京、岩波書店、2017 年

【参考書】

南原繁『政治哲学序説』、岩波書店、1988 年

白樂溶『歴史と文化』、延世大学出版社、1995 年

中野勝郎・杉田敦・崔先鎬ほか『市民社会と立憲主義』、法政大学出版局、

2012 年

中野勝郎・崔先鎬ほか『境界線の法と政治』、法政大学出版局、

2016 年

【成績評価の方法と基準】

受講態度 (= 手書きのレポートなどの提出物、40%) + 試験 (60%)
感染症の拡散による事態が解消するまでは上記の何も学習支援システムで対応する場合がある。)

【学生の意見等からの気づき】

日韓関係における持続可能な信頼の構築

【学生が準備すべき機器他】

ノート筆記

【その他の重要事項】

授業内容の録画・録音・写真撮影は絶対に行わないこと。
(授業中の電子機器の使用禁止。スマホはカバンの中に仕舞うこと。)
試験時に黒の油性ボールペンを必ず用意すること。

【Outline (in English)】

By this subject about the modern history in Japanese & Korean politics, society, the culture study it. In addition, by this lecture, to the improve interest about various the relationship around Japanese & Korean's modern age. Particularly, to consider education system with the Elite between these two countries.

POL300AC

政治学特殊講義 I (近代日本における〈道徳〉と〈政治〉)

金子 元

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
単位数：2 単位

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

授業の概要：今年度前期は昨年度にひきつづき明治時代の思想家・中江兆民が翻訳した哲学史論『理学沿革史』（原著はアルフレッド・フィエ『哲学の歴史』(Alfred Fouillée, Histoire de la Philosophie))の後半部分の読解を通じて日本の思想家がどのように西洋の近代思想を受容し、どのような政治を目指したのかを検討する。

授業の目的：近代日本が受け入れてきた西洋思想の概要と、西洋の思想を受け入れる前提となった日本の伝統思想について学び、哲学的・政治的概念についての認識を深める。

【到達目標】

- ・西洋思想が近代日本に及ぼした影響についての理解を深める。
- ・日本や東アジアの伝統的な思想についての理解を深める。
- ・文章を批判的に読む方法を習得する。
- ・歴史的な文章に実際に触れることで史料読解能力を向上する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に強く関連。

【授業の進め方と方法】

- ・基本的に講義形式で行います。毎回のプリントに加えて、『理学沿革史』の PDF ファイルとフランス語原文および参考のための試訳を配布しますので、意欲的な受講者は該当範囲をあらかじめ読んで内容を把握しておくことにより深い理解につながるでしょう (もちろんフランス語読解能力は必須ではありません)。
- ・希望があればテキスト (『理学沿革史』) の内容について受講者による口頭報告を実施します。
- ・原則として対面授業を予定していますが、新型コロナウイルス感染症の状況しだいでは Zoom リアルタイム授業に切り替える場合があります。
- ・リアクションペーパーのうち興味深いものは授業内で紹介し、考察を深める材料とします。
- ・レポート課題はやや早めに提出し、最終日に講評を行う予定です (受講者数によっては全員のレポートについて言及できないことがあります)。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	講義の概要と『理学沿革史』前半部分の概略	・授業の概要、進行方法、成績評価などを説明する。 ・『理学沿革史』「叙論」の前半部分の概略
第 2 回	スピノザ	『理学沿革史』第三編第四章の内容を読み解き、スピノザの思想についての記述を検討する。
第 3 回	ライプニッツ	『理学沿革史』第三編第五章の内容を読み解き、ライプニッツの思想についての記述を検討する。
第 4 回	ロック、パークリ、ヒューム	『理学沿革史』第四編第六章前半部分の内容を読み解き、イギリス経験論についての記述を検討する。
第 5 回	スミス、ベンサム、スコットランド学派	『理学沿革史』第四編 第六章前半部分の内容を読み解き、スコットランド啓蒙や功利主義についての記述を検討する。

第 6 回	十八世紀フランス哲学 (1)(コンデイヤック、ディドロ、ドルバック、ヴォルテール、ルソー)	『理学沿革史』第四編 第七章前半部分の内容を読み解き、フランス十八世紀の哲学についての記述を検討する。
第 7 回	十八世紀フランス哲学 (2)(エルヴェシウス、モンテスキュー、ヴォルテール、ルソー、テュルゴー、コンドルセ)	『理学沿革史』第四編 第七章後半部分の内容を読み解き、フランス十八世紀の政治思想についての記述を検討する。
第 8 回	カント	『理学沿革史』第四編 第八章の内容を読み解き、カントについての記述を検討する。
第 9 回	十九世紀フランス哲学 (1)(メヌ・ド・ピラン、クーザン)	『理学沿革史』第四編 第九章前半の内容を読み解き、フランス十九世紀哲学についての記述を検討する。
第 10 回	十九世紀フランス哲学 (2)(オーギュスト・コント、社会主義)	『理学沿革史』第四編 第九章後半の内容を読み解き、フランスの実証主義や社会主義についての記述を検討する。
第 11 回	フィヒテ、シェリング	『理学沿革史』第四編 第十章前半の内容を読み解き、フィヒテやシェリングについての記述を検討する。
第 12 回	ヘーゲル、ショーペンハウアー	『理学沿革史』第四編 第十章後半の内容を読み解き、ヘーゲルやショーペンハウアーについての記述を検討する。
第 13 回	J.S. ミル、スペンサー	『理学沿革史』第四編 第十一章の内容を読み解き、十九世紀イギリス思想についての記述を検討する。
第 14 回	まとめとレポート講評	これまでの内容のまとめとレポートの講評を行う。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

授業で指定・配布する史料を授業内容に即して正確に理解することに加えて、関連する文献を読み、自分なりの視点で考えをまとめることを推奨します。

【テキスト (教科書)】

教科書は使用しません。レジュメ・史料資料類は Hoppii 等を通じて配布します。

【参考書】

- ・『中江兆民全集』第 4 巻～第 6 巻 (岩波書店、1984 ～ 1985 年)
- ・宮村治雄『理学者 兆民』(みすず書房、1989 年)
- ・岩田靖夫『ヨーロッパ思想入門』(岩波ジュニア新書、2003 年)
- ・和田博文・山辺春彦編『近現代日本思想史「知」の巨人 100 人の 200 冊』(平凡社新書、2023 年)

【成績評価の方法と基準】

レポート (60%)、リアクションペーパー・授業内発言 (40%)

【学生の意見等からの気づき】

リアクションペーパーの記述を重視します。

【学生が準備すべき機器他】

特になし (教育活動レベルによって web 接続が可能な PC が必要となります)。

【その他の重要事項】

- ・必須ではありませんが春学期と秋学期を連続して履修することにより問題の見通しがよくなるでしょう。
- ・ヨーロッパ政治思想史 I および日本政治思想史 I・II の事前あるいは同時履修によってさらに理解が深まると思います。

【Outline (in English)】

This year, we will examine how Japanese thinkers accepted Western ideas and what kind of politics they aimed for by reading "History of Philosophy" (originally written by Alfred Fouillée, *Histoire de la Philosophie*) translated by Chomin Nakae, a thinker of the Meiji era. We will examine how Japanese thinkers accepted Western ideas and what kind of politics they aimed for.

The purpose of the course is to learn the outline of Western thought that modern Japan has embraced, and the traditional Japanese thought that was the premise for embracing Western thought and to deepen our awareness of philosophical and political concepts.

POL300AC

政治学特殊講義Ⅱ(近代日本における〈道徳〉と〈政治〉)

金子 元

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

単位数：2 単位

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

授業の概要：今年度後期は明治時代の思想家・中江兆民が翻訳した道徳論『道徳学大原論』(原著はショーペンハウアー『倫理学の二つの根本問題』)の読解を通じて日本の思想家がどのように西洋の思想を受容し、どのような政治を目指したのかを検討する。

授業の目的：近代日本が受け入れてきた西洋思想の概要と、西洋の思想を受け入れる前提となった日本の伝統思想について学び、哲学的・政治的概念についての認識を深める。

【到達目標】

- ・西洋思想が近代日本に及ぼした影響についての理解を深める。
- ・日本や東アジアの伝統的な思想についての理解を深める。
- ・文章を批判的に読む方法を習得する。
- ・歴史的な文章に実際に触れることで史料読解能力を向上する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」、「DP4」に強く関連。

【授業の進め方と方法】

- ・基本的に講義形式で行います。毎回のプリントに加えて、『道徳学大原論』の PDF ファイルを配布しますので、意欲的な受講者は該当範囲をあらかじめ読んで内容を把握しておくことより深い理解につながるでしょう(もちろんフランス語読解能力は必須ではありません)。
- ・希望があればテキストの内容について受講者による口頭報告を実施します。
- ・リアクションペーパーのうち興味深いものは授業内で紹介し、考察を深める材料とします。
- ・レポート課題はやや早めに出題し、最終日に講評を行う予定です(受講者数によっては全員のレポートに言及できないことがあります)。
- ・原則として対面授業を予定していますが、新型コロナウイルス感染症の状況しだいでは Zoom リアルタイム授業に切り替える場合があります。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】あり/Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	講義の概要	・授業の概要、進行方法、成績評価などを説明する。
第 2 回	第一章 諸論	『道徳学大原論』第一章の記述を検討する。
第 3 回	第二章 カント定むる所の道徳の本原の駁撃(1)	『道徳学大原論』第二章第三節・第四節の記述を検討する。
第 4 回	第二章 カント定むる所の道徳の本原の駁撃(2)	『道徳学大原論』第二章第五節・第六節の記述を検討する。
第 5 回	第三章 カント定むる所の道徳の本原の駁撃(3)	『道徳学大原論』第三章第七節・第八節の記述を検討する。
第 6 回	第四章 カント定むる所の道徳の本原の駁撃(4)	『道徳学大原論』第四章第九節～第十一節の記述を検討する。
第 7 回	第五章 道徳の樹立(1)	『道徳学大原論』第五章第十二節～第十四節の記述を検討する。
第 8 回	第五章 道徳の樹立(2)	『道徳学大原論』第五章第十五節・第十六節の記述を検討する。

第 9 回	第五章 道徳の樹立(3)	『道徳学大原論』第五章第十七節・第十八節の記述を検討する。
第 10 回	第五章 道徳の樹立(4)	『道徳学大原論』第五章第十七節・第十八節の記述を検討する。
第 11 回	第五章 道徳の樹立(5)	『道徳学大原論』第五章第十九節・第二十節の記述を検討する。
第 12 回	第六章 道徳の本原に係る庶物原理学上の解釈	『道徳学大原論』第五章第二十一節・第二十二節の記述を検討する。
第 13 回	中江兆民の思想におけるショーペンハウアー倫理学の意義	『道徳学大原論』の読解全体を通して中江兆民の思想のなかでショーペンハウアーの思想はどのような位置付けであったかを検討する。
第 14 回	まとめとレポート講評	授業全体のまとめとレポートの講評を行う。

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

- ・授業で指定・配布する史料を授業内容に即して正確に理解することに加えて、関連する文献を読み、自分なりの視点で考えをまとめることを推奨します。
- ・本授業の準備・復習時間は、該当範囲の予習に 3 時間、復習に 1 時間を標準とします。

【テキスト(教科書)】

教科書は使用しません。必要なレジュメ・史資料類は配布します。

【参考書】

- ・『中江兆民全集』第 9 巻(岩波書店、1984 年)
- ・『ショーペンハウアー全集 9：倫理学の二つの根本問題』(白水社、2016 年)
- ・宮村治雄『理学者 兆民』(みすず書房、1989 年)
- ・岩田靖夫『ヨーロッパ思想入門』(岩波ジュニア新書、2003 年)
- ・和田博文・山辺春彦編『近現代日本思想史「知」の巨人 100 人の 200 冊』(平凡社新書、2023 年)

【成績評価の方法と基準】

レポート(60%)、リアクションペーパー・授業内発言(40%)

【学生の意見等からの気づき】

リアクションペーパーの記述を重視します。

【学生が準備すべき機器他】

特になし(教育活動レベルによって web 接続が可能な PC が必要となります)。

【その他の重要事項】

- ・必須ではありませんが春学期と秋学期を連続して履修することにより問題の見通しがよくなるでしょう。
- ・ヨーロッパ政治思想史Ⅱおよび日本政治思想史Ⅰ・Ⅱの事前あるいは同時履修によってさらに理解が深まると思います。

【Outline (in English)】

This year, we will examine how Japanese thinkers accepted Western ideas and what kind of politics they aimed for by reading "Doutokugaku Daigenron" (originally written by Arthur Schopenhauer, Die beiden Grundprobleme der Ethik) translated by Chomin Nakae, a thinker of the Meiji era. We will examine how Japanese thinkers accepted Western ideas and what kind of politics they aimed for. The purpose of the course is to learn the outline of Western thought that modern Japan has embraced, and the traditional Japanese thought that was the premise for embracing Western thought and to deepen our awareness of philosophical and political concepts.

POL300AC

現代政策学特講 I (立法学)

正木 寛也

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
単位数：2 単位

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

皆さんが学んでいる法制度は、天賦のものでも不動不変でもなく、多くの人間の「利害」が交わる中で作られ、社会の動きに対応して日々変化し続けるものです。立法学は、この観点から法の有り様を捉えなおす学問であり、古くから、日本の法学（教育及び研究）の中心にある解釈法学に対する概念としてその必要性が指摘され、様々な分野の研究者が各自の視点から論じてきました。本科目は、立法学の全体像を法制度の形成過程を着眼点として、I・IIを通して俯瞰しようとするものです。具体的には、これまでの立法学に関する議論を整理した上で、法制度がいかんして形成されていくかを、立法過程論にとどまらず、立法される（べき）内容と憲法を頂点とする法体系、ひいては法や正義との関係といった立法政策論の観点も加えて多角的に分析することにより、立法学を政治学と解釈法学及び基礎法学の間に体系的に位置付けることを試みます。Iでは、主に政策の形成過程から分析します。

【到達目標】

政治学科・国際政治学科の皆さんにおいては、政治過程における政策形成からそのアウトプットの一形態としての法制度構築までの一連の流れを理解することにより、また、法律学科の皆さんにおいては、解釈の対象としてのみ捉えられがちな実定法を、それを誰が主体的に作っているのかという視点を加えることで動的なものとして理解することにより、各々の専攻分野に対する理解を深めるとともに、今後、皆さんが社会において（法）制度に関わる場面で、制度を使う側に立つても制度を作る立場に立つても、有益な視点を得ることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に強く関連。「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

講義形式で行い、映像も使用します。立法学の理論だけでなく、国会でリアルタイムに展開している政治・立法過程を随時紹介し、理論と交差させることで理解の深化を図ります。また、具体的に取り上げる事例についても、授業中にアンケートを取り、皆さんの要望に可能な限り対応する予定です。さらに、各段階において、考える時間を確保することにより法制度の形成過程における立法者の思考の流れを追体験してもらうとともに、提出された質問や課題の回答を端緒にしたフィードバックを適宜行うこと等を通じて、「実用」性を高める工夫もしたいと思います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	講義のアウトライン
第2回	「立法学」とはなにか	テーマに沿った講義
第3回	立法学の再定位	テーマに沿った講義
第4回	政策形成過程総論	テーマに沿った講義
第5回	政府における政策形成過程（1）	テーマに沿った講義
第6回	政府における政策形成の事例研究（1）	テーマに沿った講義
第7回	政府における政策形成過程（2）	テーマに沿った講義
第8回	政府における政策形成の事例研究（2）	テーマに沿った講義

第9回	政党における政策形成過程	テーマに沿った講義
第10回	政党における政策形成の事例研究	テーマに沿った講義
第11回	政策形成と選挙制度の関係	テーマに沿った講義
第12回	日本の選挙制度の実態（1）	テーマに沿った講義
第13回	日本の選挙制度の実態（2）	テーマに沿った講義
第14回	まとめ	まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

政治の場で議論される社会における諸課題と法制度は、密接に結びついています。政治と法との関係を常に意識するとともに、授業で紹介する文献等を読むことにとどまらず、普段意識していないところにも法があり、それは所与のものではなく人によって作られたものである、という視点から幅広く学び、深く考えるようにしてください。

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。まず、この「時間」の記載がどのような根拠に基づいているか、を入口にして、なぜそういう時間が必要なのか、時間数の根拠は何か、さらに、それは妥当なものであるのか、と思考を進めてもらえるといいと思います。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません。

【参考書】

法制執務・法令用語研究会『条文の読み方〔第2版〕』（有斐閣、2021年）。その他については、講義において適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

授業の進度に合わせて適時（学期中に数回）課す課題（50%）、学期末レポート（50%）

【学生の意見等からの気づき】

該当なし

【その他の重要事項】

教員は、衆議院法制局で勤務しており、20年以上にわたる議員立法の補佐等を通じて衆議院の政治・立法過程に携わっています。授業では、題材として実際の法律の立法過程を取り扱うのはもちろん、その時点で国会の争点となっている重要テーマ（近年の授業で紹介した事例として、TPP、安全保障関連法案、違法伐採、入管法改正など）を取り上げて具体的に説明することで、皆さんが興味を持ち、より深く理解してもらえるような授業を心がけています。

【Outline (in English)】

In this course, the students will learn about formulating policy and law-making process in Japan.

The goal of this course is to get some points of view about five Ws on legislative process in Japan.

Before/after each lecture, students will be expected to spend four hours to understand the course contents.

Students will be graded on:

Short reports(50%), Term-end report(50%).

POL300AC

現代政策学特講Ⅱ（立法学）

正木 寛也

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
単位数：2 単位

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

皆さんが学んでいる法制度は、天賦のものでも不動不変でもなく、多くの人間の「利害」が交わる中で作られ、社会の動きに対応して日々変化し続けるものです。立法学は、この観点から法の有り様を捉えなおす学問であり、古くから、日本の法学（教育及び研究）の中心にある解釈法学に対する概念としてその必要性が指摘され、様々な分野の研究者が各自の視点から論じてきました。本科目は、立法学の全体像を法制度の形成過程を着眼点として、Ⅰ・Ⅱを通して俯瞰しようとするものです。具体的には、これまでの立法学に関する議論を整理した上で、法制度がいかんして形成されていくかを、立法過程論にとどまらず、立法される（べき）内容と憲法を頂点とする法体系、ひいては法や正義との関係といった立法政策論の観点も加えて多角的に分析することにより、立法学を政治学と解釈法学及び基礎法学の間に体系的に位置付けることを試みます。Ⅱでは、議会（国会）における議論・調整を通じた法制度の形成過程から分析します。

【到達目標】

政治学科・国際政治学科の皆さんにおいては、政治過程における政策形成からそのアウトプットの一形態としての法制度構築までの一連の流れを理解することにより、また、法律学科の皆さんにおいては、解釈の対象としてのみ捉えられがちな実定法を、それを誰が主体的に作っているのかという視点を加えることで動的なものとして理解することにより、各々の専攻分野に対する理解を深めるとともに、今後、皆さんが社会において（法）制度に関わる場面で、制度を使う側に立っても制度を作る立場に立っても、有益な視点を得ることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に強く関連。「DP3」、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

講義形式で行い、映像も使用します。立法学の理論だけでなく、国会でリアルタイムに展開している政治・立法過程を随時紹介し、理論と交差させることで理解の深化を図ります。また、具体的に取り上げる事例についても、授業中にアンケートを取り、皆さんの要望に可能な限り対応する予定です。さらに、各段階において、考える時間を確保することにより法制度の形成過程における立法者の思考の流れを追体験してもらったと同時に、提出された質問や課題の回答を端緒にしたフィードバックを適宜行うこと等を通じて、「実用」性を高める工夫もしたいと思えます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	講義のアウトライン
第2回	「選挙」とは何か	テーマに沿った講義
第3回	選挙制度概論	テーマに沿った講義
第4回	比較選挙制度論	テーマに沿った講義
第5回	選挙制度と二院制	テーマに沿った講義
第6回	日本の選挙制度改革の歴史と方向性	テーマに沿った講義
第7回	議会制度概論	テーマに沿った講義
第8回	二院制と立法過程	テーマに沿った講義
第9回	日本の立法の量的・質的分析	テーマに沿った講義

第10回	立法の今日的課題	テーマに沿った講義
第11回	事例研究（1）	具体的な法律の立法過程の分析
第12回	事例研究（2）	具体的な法律の立法過程の分析
第13回	事例研究（3）	具体的な法律の立法過程の分析
第14回	まとめ	まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

政治の場で議論される社会における諸課題と法制度は、密接に結びついています。政治と法との関係を常に意識するとともに、授業で紹介する文献等を読むことにとどまらず、普段意識していないところにも法があり、それは所与のものではなく人によって作られたものである、という視点から幅広く学び、深く考えるようにしてください。

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。まず、この「時間」の記載がどのような根拠に基づいているか、を入口にして、なぜそういう時間が必要なのか、時間数の根拠は何か、さらに、それは妥当なものであるのか、と思考を進めてもらえるといいと思います。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません。

【参考書】

法制執務・法令用語研究会『条文の読み方〔第2版〕』（有斐閣、2021年）。その他については、講義において適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

授業の進度に合わせて適時（学期中に数回）課す課題（50%）、学期末レポート（50%）

【学生の意見等からの気づき】

該当なし

【その他の重要事項】

教員は、衆議院法制局で勤務しており、20年以上にわたる議員立法の補佐等を通じて衆議院の政治・立法過程に携わっています。授業では、題材として実際の法律の立法過程を取り扱うのはもちろん、その時点で国会の争点となっている重要テーマ（近年の授業で紹介した事例として、TPP、安全保障関連法案、違法伐採、入管法改正など）を取り上げて具体的に説明することで、皆さんが興味を持ち、より深く理解してもらえるような授業を心がけています。

【Outline (in English)】

In this course, the students will learn about formulating policy and law-making process in Japan.

The goal of this course is to get some points of view about five Ws on legislative process in Japan.

Before/after each lecture, students will be expected to spend four hours to understand the course contents.

Students will be graded on:

Short reports(50%), Term-end report(50%).

POL300AC

外国書講読（朝鮮語） I

崔 先鎬

授業形式：講義 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
単位数：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講義においては、ハングルを通して、政治・社会・文化についての思考能力、並びに文献分析能力の向上を目指します。この科目を受講するには、「母語使用者以外で第二外国語として初級レベルの韓国語を履修済み・TOPIK 三級以上・ハングル検定三級以上の何れかの語学力」が必要です。

【到達目標】

基礎レベルのハングル学習能力をもとに、基本的なハングル文献判読能力を高めたい学生のために学習を行う予定です。語学としてのハングル・日韓関係に興味のある人、並びに、これらについてこれから学んでいくことで学問的視座を広げたいと思う人も無論歓迎します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP3」、「DP4」に強く関連。

【授業の進め方と方法】

文例集を参考にさまざまな実用文について学習しつつ、現地の時事雑誌などを使用して訳の比較を行います。少ない語彙で表現できるレベルから、語彙そのものを高めるレベルまで、いろいろな語学水準の学生を包容し、文書講読の練習を行います。

また、ハングル文献、新聞、雑誌、並びに、現地で制作したドキュメンタリーなどを使用して、その内容と主題について分析を行う予定です。

課題等の提出・フィードバックは学習支援システムを通じて行う予定です。なお、提出された課題等における良い内容は、次回の授業の更なる議論に活かす予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第一回	(前期) レヴェルテスト・オリエンテーション	レヴェルテスト・講義全般についての紹介
第二回	文献購読	関連語彙、並びに用語の紹介・説明
第三回	文献購読	関連語彙、並びに用語の紹介・説明
第四回	文献購読	関連語彙、並びに用語の紹介・説明
第五回	文献購読	関連語彙、並びに用語の紹介・説明
第六回	文献購読	関連語彙、並びに用語の紹介・説明
第七回	文献購読	関連語彙、並びに用語の紹介・説明
第八回	文献購読	関連語彙、並びに用語の紹介・説明
第九回	文献購読	関連語彙、並びに用語の紹介・説明
第十回	文献購読	関連語彙、並びに用語の紹介・説明
第十一回	文献購読	関連語彙、並びに用語の紹介・説明
第十二回	文献購読	関連語彙、並びに用語の紹介・説明

第十三回	文献購読	関連語彙、並びに用語の紹介・説明
第十四回	文献購読	関連語彙、並びに用語の紹介・説明

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

様々な語彙・用語を丁寧に読むこと。必要に応じてノートを取ること。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

コピーを配布いたします。
(必要な場合、映画・ドキュメンタリー等の映像、並びに音楽等を使用して進めて行く予定です。感染症の拡散による事態が解消するまでは、Web上の文書にて対応する場合があります。)

【参考書】

日韓・韓日辞書は必要です。紙の辞書を用意してください。
Hana 韓国語教育研究会編『韓国語ライティングの文例集』、アルク、2010年
和田春樹・石坂浩一編『岩波小辞典 現代韓国・朝鮮』、岩波書店、2002年

【成績評価の方法と基準】

平常点：参加度（＝受講態度・授業内での発表 40%）＋レポートなどの提出物（60%）
(感染症の拡散による事態が解消するまでは上記の何も学習支援システムで対応する場合がある。)

【学生の意見等からの気づき】

日韓関係の再構築

【学生が準備すべき機器他】

紙の辞書（日韓・韓日兼用のポケット版）

【その他の重要事項】

授業内容の録画・録音・写真撮影は絶対に行わないこと。
(授業中の電子機器の使用禁止。スマホはカバンの中に仕舞うこと。)
黒の油性ボールペンを必ず用意すること。

【Outline (in English)】

By this lecture, the consider about Japanese & Korean politics, society, culture through by the Korean language (=Hangul) and improve the ability of the documents analysis.

Hangul of the beginner's class level as the second foreign language has been studied to attend this subject or linguistic ability more than the TOPIK third grade is necessary.

POL300AC

外国書講読（朝鮮語）Ⅱ

崔 先鎬

授業形式：講義 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

単位数：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講義においては、ハングルを通して、政治・社会・文化についての思考能力、並びに文献分析能力の向上を目指します。この科目を受講するには、「母語使用者以外で第二外国語として初級レベルの韓国語を履修済み・TOPIK 三級以上・ハングル検定三級以上の何れかの語学力」が必要です。

【到達目標】

基礎レベルのハングル学習能力をもとに、基本的なハングル文献判読能力を高めたい学生のために学習を行う予定です。語学としてのハングル・日韓関係に興味のある人、並びに、これらについてこれから学んでいくことで学問的視座を広げたいと思う人も無論歓迎します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP3」、「DP4」に強く関連。

【授業の進め方と方法】

文例集を参考にさまざまな実用文について学習しつつ、現地の時事雑誌などを使用して訳の比較を行います。少ない語彙で表現できるレベルから、語彙そのものを高めるレベルまで、いろいろな語学水準の学生を包容し、文書講読の練習を行います。

また、ハングル文献、新聞、雑誌、並びに、現地で制作したドキュメンタリーなどを使用して、その内容と主題について分析を行う予定です。

課題等の提出・フィードバックは学習支援システムを通じて行う予定です。なお、提出された課題等における良い内容は、次回の授業の更なる議論に活かす予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第一回	（後期）レベルテスト・オリエンテーション	レベルテスト・講義全般についての紹介
第二回	文献購読	関連語彙、並びに用語の紹介・説明
第三回	文献購読	関連語彙、並びに用語の紹介・説明
第四回	文献購読	関連語彙、並びに用語の紹介・説明
第五回	文献購読	関連語彙、並びに用語の紹介・説明
第六回	文献購読	関連語彙、並びに用語の紹介・説明
第七回	文献購読	関連語彙、並びに用語の紹介・説明
第八回	文献購読	関連語彙、並びに用語の紹介・説明
第九回	文献購読	関連語彙、並びに用語の紹介・説明
第十回	文献購読	関連語彙、並びに用語の紹介・説明
第十一回	文献購読	関連語彙、並びに用語の紹介・説明
第十二回	文献購読	関連語彙、並びに用語の紹介・説明

第十三回	文献購読	関連語彙、並びに用語の紹介・説明
第十四回	文献購読	関連語彙、並びに用語の紹介・説明

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

様々な語彙・用語を丁寧に読むこと。必要に応じてノートを取る。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

コピーを配布いたします。
 （必要な場合、映画・ドキュメンタリー等の映像、並びに音楽等を使用して進めて行く予定です。感染症の拡散による事態が解消するまでは、Web上の文書にて対応する場合があります。）

【参考書】

日韓・韓日辞書は必要です。紙の辞書を用意してください。
 Hana 韓国語教育研究会編『韓国語ライティングの文例集』、アルク、2010年
 和田春樹・石坂浩一編『岩波小辞典 現代韓国・朝鮮』、岩波書店、2002年

【成績評価の方法と基準】

平常点：参加度（＝受講態度・授業内での発表 40%）＋レポートなどの提出物（60%）
 （感染症の拡散による事態が解消するまでは上記の何も学習支援システムで対応する場合があります。）

【学生の意見等からの気づき】

日韓関係の再構築

【学生が準備すべき機器他】

紙の辞書（日韓・韓日兼用のポケット版）

【その他の重要事項】

授業内容の録画・録音・写真撮影は絶対に行わないこと。
 （授業中の電子機器の使用禁止。スマホはカバンの中に仕舞うこと。）
 試験時に黒の油性ボールペンを必ず用意すること。

【Outline (in English)】

By this lecture, the consider about Japanese & Korean politics, society, culture through by the Korean language (=Hangul) and improve the ability of the documents analysis.
 Hangul of the beginner's class level as the second foreign language has been studied to attend this subject or linguistic ability more than the TOPIK third grade is necessary.

PHL300BB

哲学特講（1）－1

奥田 和夫

授業コード：A2212 | 曜日・時限：火 4/Tue.4

春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：2～4 年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義ではアリストテレスの倫理思想を検討する。具体的にはアリストテレスの『ニコマコス倫理学』の内容・意義を考察することが目的である。また、そのさい、現代社会の倫理的諸問題を対置する時、アリストテレス倫理学はどのように対応するのか（しないのか）という問題も受講生には考察してもらいたい。

【到達目標】

アリストテレスの倫理学の内容を理解しその意義を考察することができること、が到達目標である。意義を考察するさい、現代社会の倫理的諸問題、たとえば幸福の問題を対置してみよう。そのとき、アリストテレスの倫理学はどのように対応するのか（しないのか）という問題をどこまで自分で考えることができるか。その考えを自分ですこし先までのばすことを試みてみよう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

アリストテレス『ニコマコス倫理学』の内容に沿いながら、各トピックスを検討する。質問は随時受けつける。リアクションペーパーによる質問には、次の授業の冒頭にて前回の復習を行なう際に回答する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	アリストテレスの哲学
	生の目的	目的の階層と最高善（幸福）
第 2 回	性格の徳と中庸説	性格の徳の形成と中庸説の検討・理解
第 3 回	性格の徳とは何か	性格の徳の検討・理解
第 4 回	性格の徳各論 1	勇気と節制の検討・理解
第 5 回	性格の徳各論 2	気前のよさ、度量の大きさ、高邁、等の検討・理解
第 6 回	正義と不正 1	完全な徳としての正義、徳の部分としての正義、の検討・理解
第 7 回	正義と不正 2	配分的、是正的、比例的正義、の検討・理解
第 8 回	思考の徳	思考の徳の検討・理解
第 9 回	思考の徳各論	エピステーメー、テクネー、プロネーシス等の検討・理解
第 10 回	無抑制と節制	無抑制と節制の検討・理解
第 11 回	快楽	もっともよきものとしての快楽の検討・理解
第 12 回	友愛論	友愛論の検討・理解
第 13 回	快楽と幸福	快楽と幸福の諸問題の検討・理解
第 14 回	『ニコマコス倫理学』 全体のまとめ	『ニコマコス倫理学』全体の検討・理解

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

実際に『ニコマコス倫理学』を読み、内容を把握すること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。毎回の講義で講義概要と資料を配布する。『ニコマコス倫理学』の邦訳書としては次のものがある。

1. 高田三郎 訳（岩波文庫）
2. 加藤信朗 訳（岩波旧版『アリストテレス全集』）
3. 朴一功 訳（京都大学学術出版会）
4. 神崎繁 訳（岩波新版『アリストテレス全集』第 15 巻）
5. 渡辺邦夫・立花幸司 訳（光文社古典新訳文庫）

【参考書】

山口義久『アリストテレス入門』（ちくま新書）。中畑正志『アリストテレスの哲学』（岩波新書）。その他は講義にて適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

小レポートの内容と期末レポートの内容によって評価する。小レポートの回数により、小レポートの内容評価の割合が 20～40 % になり、比例して期末レポートの割合が 80～60 % になる。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

なし

【その他の重要事項】

なし

【Outline (in English)】

This class gives a lecture on Aristotle's "Nicomcean Ethics". We analyze the points of his ethical thoughts and estimate their philosophical values.

PHL300BB

哲学特講（1）－2

山下 真

授業コード：A2213 | 曜日・時限：水 4/Wed.4

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2～4 年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講義のテーマは、「ヤスパースと共同性の哲学」です。

ドイツ語のゲマインシャフト **Gemeinschaft**（英語だと **community**）という言葉は、〈共同体〉とも〈共同性〉とも訳すことができます。それは一方では、家族や仲間、組織、民族、国家など、様々なレベルでの具体的な「集団」のことです。また他方では、そうした集団の内部で共有され、人間たちを取りまとめて統一している「性質」をも意味します。今日もなお私たちは、或る共同体が別の共同体を侵略したり、共同体の成員が権力によって支配されたりする様を目の当たりにしています。特定の性質を強要し、異質な存在を排除する時、集団は抑圧的・閉鎖的となります。では、人々を結びつけて一つにしなから、同時に多様性をも保持する開かれた共同体は、どのように可能なのでしょう。

本講義では、20 世紀ドイツの実存哲学者、カール・ヤスパースの思考を通じて、この問題を考えます。ヤスパースは、個としての人間存在を〈実存 **Existenz**〉と呼び、実存たちの間に成り立つ〈交わり **Kommunikation**〉という事態を追究しました。それは、異質な他者との共存の理路を示す、〈共同性の哲学〉だと言えます。さらに彼の交わり概念は、あらゆる実存へと可能に開かれた、限界なき交わりの構想へと拡大されていきます。その背景には、第二次大戦中、ナチス・ドイツの全体主義体制の渦中で自らもマイノリティとして迫害された、ヤスパースの体験と反省がありました。

受講者は、こうしたヤスパース哲学の展開過程と全体像を学ぶことで、〈共同性/共同体〉という問題事象への理解と考察を深めることとなるでしょう。

【到達目標】

受講者が達成すべき目標は、以下の三点です。

- ① ヤスパースの基本概念と全体構想、および彼の〈共同性の哲学〉の特質を学ぶ。
- ② 哲学的背景や 20 世紀の社会状況との関連を視野に入れ、実存的な〈共同性〉思想が持つ意義や可能性を理解する。
- ③ 〈共同性〉概念をめぐる今日の問題状況を哲学的に考察する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は、配布資料を使って講義形式で進めます。毎回、テーマとなる哲学者の中心課題や基本概念を解説し、問題となっている事柄を捉えていきます。

受講者には、出席票を兼ねたコメントカードで、感想や意見、質問を提出してもらいます。そのうち重要なものについては、次回の授業でいくつか取り上げ、応答することとします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	講義の概要と導入	ヤスパース哲学と〈共同性〉の問題
第 2 回	限界状況と実存（1）	〈実存〉概念の意味とその背景
第 3 回	限界状況と実存（2）	〈限界状況〉における自己生成
第 4 回	実存的交わり（1）	他者の実存との共同的自己生成
第 5 回	実存的交わり（2）	〈愛しながらの争い〉と実存的共同性
第 6 回	暗号解読の形而上学（1）	超越者の〈暗号〉とは何か
第 7 回	暗号解読の形而上学（2）	超越者のもとでの存在の共同性
第 8 回	形而上学的責め	ドイツ戦争責任論と共同性の拡張
第 9 回	理性の哲学へ	後期哲学の形成と〈理性〉概念の導入
第 10 回	包括者論と哲学的根本知	〈包括者〉への問いと哲学的論理学
第 11 回	哲学的信仰の多元性	哲学と宗教との対話の可能性
第 12 回	哲学史との交わり	ヤスパースの哲学史観とその特徴
第 13 回	原子爆弾と人間の未来	ヤスパースの原爆論と人類の共同性
第 14 回	講義全体の総括	〈共同性の哲学〉と〈哲学の共同性〉

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

受講者は、配布資料や指定した参考文献を読解し、予習・復習を実施して参加すること（大学の基準では、本授業の準備・復習時間は、毎回 4 時間以上が標準とされています）。

各回の連続性が高いので、欠席が多いと内容を理解できなくなります。学んだ事柄を自主的に整理した上で、極力休まず参加してください。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しません。

【参考書】

ヤスパースの主要著作の邦訳は、『哲学』全 3 巻（創文社）や『ヤスパース選集』全 37 巻（理想社）などで読めます。高価・入手難のものが多いので、まずは図書館を利用してください。また、さしあたりの概説的な書物として、

- ・宇都宮芳明『人と思想 ヤスパース』清水書院
- ・重田英世『人類の知的遺産 ヤスパース』講談社
- ・中山剛史『ヤスパース』野家啓一責任編集『哲学の歴史 第 10 巻 危機の時代の哲学（20 世紀 I）』所収、中央公論社
- ・W・シュスラー『ヤスパース入門』岡田聡訳、月曜社

【成績評価の方法と基準】

出席状況およびコメントカードでの理解度や意見・質問の積極性、受講態度などの平常点（50%）と、学期末の課題レポート（50%）で、上記「到達目標」三点の達成度を総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

各人の経験に引きつけて思考できるよう、常に具体的な事例を織り交ぜた説明を心がけています。また、背景となる哲学的な知識や、様々な術語の原語に含まれるニュアンスなど、詳しく話しています。配布資料では哲学者のテキストを多く引用し、原典の言葉から問題を理解できるような手法をとります。コメントカードへの応答は参考になるとの声が多いので、各回時間を取って対応しています。

【Outline (in English)】

[Course outline]

This course deals with Karl Jaspers' philosophy and the concept of "Gemeinschaft" (community). "Gemeinschaft" means not only various groups of people but also its "commonality" that unites members as one group. This commonality act as the structural element to creation of pluralistic community. But if it is forced on people, the community will become closed and authoritarianistic. Jaspers thought the idea of "existential community" of human beings as free individuals by his central concept of "Kommunikation" (communication). "Kommunikation" is coexistence with otherness through conflicts. Jaspers' thought can be interpreted as the "philosophy of community". The student will obtain basic knowledge about the Jaspers' philosophy and the concept of "Gemeinschaft" as a philosophical issue by this lecture.

[Learning Objectives]

The goals of this course are to

- (1) learn basic knowledge about the development and concepts of Jaspers' philosophy.
- (2) understand philosophical and contemporary problems of the concept of "Gemeinschaft" (community).

[Learning activities outside of classroom]

Before/ after each class meeting, students will be expected to have read the teaching materials and reference books. Your required study time is at least four hours for each class meeting.

[Grading Criteria]

Grading will be decided based on usual performance score (50%), and final paper (50%).

PHL300BB

哲学特講（3）－1

佐藤 真人

授業コード：A2216 | 曜日・時限：木 3/Thu.3
 春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：2～4 年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

デカルト哲学の最も困難な問題の一つである心身合一と情念の理論を、古代（古代ギリシア、ストア派）、中世（トマス）、近世（スピノザ）の理論との対比で考察します。関連する著述を読み解きながら、デカルトが晩年の『情念論』でめざしたものは何だったのか、その哲学の最終到達点を明らかにするとともに、デカルト哲学が残した課題への批判的回答としてのスピノザの情念論を最後に検討します。

【到達目標】

- ① デカルトの心身合一と情念の理論を精確に理解する。
- ② スピノザの情念論を精確に理解する。
- ③ 両者の哲学の相違や問題点を情念論の観点から説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

対面の講義形式で、哲学者の思想や配布した著述について、スライド資料を用いつつ説明します。授業後に出席票を兼ねたリアクション・ペーパー（各自の考察を論述）を毎回提出してもらいます。その幾つかを次回授業で共有し、コメントします。

また、人数次第で中間の小テストを実施する予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	予備的考察①	古代の情念論（古代ギリシア、ストア派）
第 2 回	予備的考察②	中世の情念論（トマス・アクィナス）
第 3 回	デカルト哲学における情念論の発生	実体の区別と心身合一
第 4 回	心身合一の構造①	『方法序説』第五部と『人間論』
第 5 回	心身合一の構造②	「第六省察」と「諸答弁」
第 6 回	心身合一と原初的概念	エリザベトとの往復書簡①
第 7 回	情念と道徳の考察へ	エリザベトとの往復書簡②
第 8 回	『情念論』第一部	自然学としての情念論と人間の本性
第 9 回	『情念論』第二部	情念の分類と原初的情念
第 10 回	『情念論』第三部	情念の効用と人生の善
第 11 回	デカルトからスピノザへ	倫理学としての情念論
第 12 回	『エチカ』の情念論①	第三部「感情の起源と本性」
第 13 回	『エチカ』の情念論②	第四部「人間の隷属あるいは感情の力」
第 14 回	『エチカ』の情念論③	第五部「人間の自由」

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配布されたテキストを丁寧に読み、理解した内容や疑問などを各自でまとめるようにしてください。

内容のまとめと、疑問・質問を明らかにしたうえで授業に臨めば理解がいつそう深まり、そこからさらなる疑問が生じることで、もっと知りたいという思考の流れの好循環が生まれます。

本授業の準備学習・復習は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

購入は義務ではありませんが、『方法序説（叙説）』『省察』『情念論』（以上デカルト）と『エチカ』（スピノザ）はいずれも哲学史上の名著であり、手元に置いてすぐ参照できれば便利です。

重要な著述は、授業支援システムで適宜配布予定です。

【参考書】

- ・G・ロデイス・レヴィス、『デカルトの著作と体系』、紀伊国屋書店、1990 年
- ・野田又夫、『デカルト』、岩波新書、1966 年
- ・小林道夫、『デカルト入門』、ちくま新書、2006 年
- ・――、『デカルト哲学の体系』、勁草書房、1995 年
- ・上野修、『スピノザの世界』、講談社現代新書、2005 年
- ・廣川洋一、『古代感情論』、岩波書店、2000 年

【成績評価の方法と基準】

平常点（リアクション・ペーパーの内容や参加姿勢）約 25%、期末試験（またはレポート）約 75%の割合で評価します。

なお、欠席 4 回で不可としますので注意してください（事情がある場合は要相談）。

【学生の意見等からの気づき】

なるべく丁寧でわかりやすい説明と、皆さんの自主的な思考を促す授業を心がけます。

【その他の重要事項】

哲学は受け身で聞き流すだけでは身につかないので、テキストを熟読し、ぜひ自分で考えるようにしてください。

【Outline (in English)】

This lecture examines one of the most difficult problems of Descartes' philosophy, the theory of the union of mind and body and the passions, by contrasting it with ancient (Stoics), medieval (Thomas Aquinas), and early modern (Spinoza) theories.

By reading the relevant writings, we will clarify what Descartes was aiming for in his late theory of the passions, which was the final destination of his philosophy, and finally, examine Spinoza's theory of the passions as a critical response to the challenges left behind by Descartes' philosophy.

Students are expected by the end of the course 1) to understand precisely the contents of the Cartesian theory of morals and passions in comparison with Scholastic philosophy, 2) to find their own questions in it, search for answers and deepen their understanding and consideration through discussions with others, 3) to construct their arguments logically through readings and discussions, and 4) to explain them clearly in their own words.

Before each class meeting, students are to read carefully the relevant text of the next class and summarize what the text is arguing for. The group or individual in charge of the presentation of the day is to prepare a resume to be distributed. Required study time is two hours each before and after the class.

The grade will be decided on the following proportion. In-class contribution: 25%, Term-end examination or report: 75%.

PHL300BB

哲学特講（3）－2

古屋 俊彦

授業コード：A2217 | 曜日・時限：火 5/Tue.5

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2～4 年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ソシュールの『一般言語学講義』を詳しく読み、現代思想の理解に不可欠な言語の本質についての考察を学ぶ。構造主義と構造主義以後の現代思想を理解するためにはソシュールの『一般言語学講義』における考察を正確に知っていなければならない。今は古典となっているこのような本の丁寧な読解は常に必要だが、特にソシュールの『一般言語学講義』は本質的かつ具体的な言語の考察が際立っていて今でも特異性を失わないので読む価値がある。

【到達目標】

ソシュールの『一般言語学講義』に書かれている、言語の本質に関する考え方や基本的な概念とその言い換えなどを理解する。予備知識として十九世紀から二十世紀の言語学の歴史を把握し、『一般言語学講義』の考察を、その中で位置づけて理解する。更に、『一般言語学講義』の考察を、現代思想、その中でも特に構造主義と構造主義以後の思想への影響の中で理解する。以上の理解を前提として、課題となる小論文の中で、『一般言語学講義』にならって言語に関する原理的な考察を自分なりに試みる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は、ソシュールの『一般言語学講義』の講読を講義形式で進める。受講者は、事前に本を読み、疑問点や問題点を授業中あるいはウェブサイトにて提示する。受講生は、毎回、受講報告として、授業を受けて考えたことを文章で書いて提出する。教員は疑問点や問題点を検討して次の日に返答する。受講報告についても同様に次の日に詳しく返答する。要約や詳述などの資料は独自に作成したウェブサイトを使用して講義と同時に開示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	授業概要	授業の説明、自己紹介
第 2 回	まえおき その 1	『一般言語学講義』の成立事情、基本概念、同時代の思想との関連
第 3 回	まえおき その 2	言語学者としてのソシュールの経歴、影響関係
第 4 回	まえおき その 3	比較言語学、音韻論、ソシュール以後の言語学との関係
第 5 回	前年度までの内容 1	序論
第 6 回	前年度までの内容 2	第 1 部 一般原理
第 7 回	前年度までの内容 3	第 2 部 共時言語学
第 8 回	前年度までの内容 4	第 3 部 通時言語学 第 1 章から第 6 章
第 9 回	第 3 部 通時言語学	第 7 章 膠着
第 10 回	第 3 部 通時言語学	第 8 章 通時的な単位、同一性、現実性
第 11 回	第 3 部と第 4 部への付録	A 主観的分析と客観的分析 B 主観的な分析と下位単位の確定 C 語源学
第 12 回	第 4 部 言語地理学	第 1 章 言語の多様性について 第 2 章 地理的多様性の複雑化 第 3 章 地理的多様性の原因 第 4 章 言語的な波の伝播
第 13 回	第 5 部 回顧的言語学の諸問題	第 1 章 通時言語学の 2 つの観点 第 2 章 最古の言語と原型 第 3 章 再建
第 14 回	第 5 部 回顧的言語学の諸問題 まとめ	第 4 章 人類学と先史学での言語の証拠 第 5 章 語族と言語類型

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

ソシュールの『一般言語学講義』の指定箇所をあらかじめ読み、疑問点、問題点を書き出しておく。授業と並行して、小論文の課題を進める。小論文は、できるだけ早く提出を始めて、書き直しながら再提出を繰り返す。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『一般言語学講義』 フェルディナン・ド・ソシュール、町田健訳、研究社、3500円

【参考書】

授業の中で、必要に応じて紹介していく

【成績評価の方法と基準】

小論文 60%

『一般言語学講義』の理解に基づいて言語に関する原理的な考察を継続的に文章の中で上げていく過程を特に評価の対象とする。基本的な概念の理解は重要だが考察を積み重ねていく努力を特に重視する。

平常点 40%

毎回提出する受講報告から授業への取り組みの度合いを評価する

【学生の意見等からの気づき】

要約の資料だけでなく解説的な補足資料を用意する

【Outline (in English)】

(Course outline)

Reading of the 'Course in the General Linguistics' by Ferdinand de Saussure in Japanese translation. We learn about the essence of the language itself for understanding of the contemporary philosophy. (Learning Objectives)

Understanding the fundamental concept concerning essence of language in the 'Course in the General Linguistics' by Ferdinand de Saussure, and as a background knowledge, the history of linguistics of 19 and 20 century, and the influences to the contemporary thinking especially the structuralism. On the assumption of that, the continuous exercise is writing and polishing of the essay on the own thinking about the language.

(Learning activities outside of classroom)

Reading of the concerned text in advance of each lecture, and extracting the phrases that is obscure. At the same time, try to write and polish of the essay continuously.

(Grading Criteria /Policies)

writing and polishing of the essay concerning language: 80%
short reports to each lecture: 20%

PHL300BB

哲学特講（4）－1

菅沢 龍文

授業コード：A2218 | 曜日・時限：火 3/Tue.3
 春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：2～4 年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

カントの『たんなる理性の限界内の宗教』を通じて、「理性信仰」による人類の宗教について、カントがどのように考えたのかを知る。これにより、宗教のあり方について、宗教への多様な関心に従って考えを深める。

【到達目標】

カントによる人類の理性的宗教論にかんして、次の3点を到達目標とする。
 (1) カントの宗教論で説かれていることを理解できる。
 (2) 宗教について、カントの宗教論の観点から考察できる。
 (3) 多様な観点からカントの宗教論の意義を評価できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

(1) 受講者は、事前に学習支援システム（Hoppii）で配布される授業プリント PDF に目を通しておきます。
 (2) 授業の最初に、前回の復習により、自分たちの理解を確認します。
 (3) 次に、当該の回の課題について説明を受けて、授業のなかで考察します。
 (4) 最後に、課題について考察したことを作文にして、学習支援システムで提出します。（提出された課題作文は無記名・順不同の形で、文集としてパスワード付 PDF で授業内で配布され、次回の復習に役立てられます。）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
 なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
 なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	(1) オリエンテーション (2) 道徳から宗教へ	(A) 本授業について (B) 理性的宗教 (1) 最高善 (2) 神の存在証明 (3) 純粹な理性宗教
第 2 回	悪への性癖	テキスト第 1 編 (1) 性善説と性悪説 (2) 善への根源的素質 (3) 悪への性癖
第 3 回	人間本性の悪の起源	テキスト第 1 編 (1) 根本悪（根元悪） (2) 悪の根拠 (3) 悪の起源
第 4 回	恩寵の作用	テキスト第 1 編 (1) 人間の根源的素質 (2) 考え方の革命 (3) よき生き方の宗教
第 5 回	善の原理	テキスト第 2 編 (1) 善の原理の人格化 (2) 神の御子の理念 (3) 3つの困難と解決
第 6 回	悪の原理との戦い	テキスト第 2 編 (1) 悪魔および悪の国 (2) 一個人格、イエス (3) 道徳的結末、迫害
第 7 回	奇跡	テキスト第 2 編 (1) 歴史の序曲：奇跡 (2) 2種類の奇跡 (3) 科学や道徳と奇跡
第 8 回	倫理的公共体	テキスト第 3 編 (1) 倫理的公共体 (2) 人類の人類自身に対する義務 (3) 純粹宗教信仰
第 9 回	善の原理の支配	テキスト第 3 編 (1) ユダヤ教とキリスト教 (2) 普遍的な世界宗教 (3) 神の国
第 10 回	神秘	テキスト第 3 編 (1) 自由と神秘 (2) 神の三つの位格 (3) 三位一体論と神秘
第 11 回	神への奉仕	テキスト第 4 編 (1) 自然的宗教 (2) 学識的宗教 (3) 真の奉仕と偽奉仕

第 12 回	神への偽奉仕	テキスト第 4 編 (1) 宗教妄想 (2) 聖職制 (3) 良心の要請
第 13 回	恩寵の手段	テキスト第 4 編 (1) 儀式 (2) キリスト教とマホメット教 (3) 妄想信仰
第 14 回	カントによる人類の宗教の意義について	全体を振り返り、レポートを作成する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の前には、学習支援システム（Hoppii）にアップされた授業プリントの PDF に目を通して、あらかじめ授業内容について考えておく（2 時間）。授業後には、授業内容を復習し、課題について考えたことを作文して、学習支援システムで提出する（2 時間）。

【テキスト（教科書）】

カント『たんなる理性の限界内の宗教』（北岡武司訳、岩波書店・カント全集 10）

※新刊本は入手不可能なので、図書館等で利用するか、古書店で入手するしかありません。（これ以前の理想社版のカント全集第九巻に宇都宮芳明訳もありますが、やはり新刊では入手不可能です。）なお、入手できなくても、授業で配布するプリント（PDF）によりテキストが紹介されるので大丈夫です。

【参考書】

○高峯一愚『カント講義』（論創社）
 ※本書で、カントの宗教論を読み解くための基礎知識が得られる。
 ○有福孝岳／牧野英二【編】『カントを学ぶ人のために』（世界思想社）
 ○牧野英二【編】『新カント読本』（法政大学出版局）
 ○浜田義文【編】『カント読本』（法政大学出版局）
 ○中島義道『カントの「悪」論』（講談社学術文庫）
 ○中島義道『悪について』（岩波書店・岩波新書）
 ○氷見潔『カント哲学とキリスト教』（近代文藝社）
 ○量義治『宗教哲学としてのカント哲学』（勁草書房）
 ○宇都宮芳明『カントと神』（岩波書店）

【成績評価の方法と基準】

(1) 参加の姿勢と、毎回の課題レポートで確認された到達目標達成度
 (2) セメスター末の期末レポートで確認された到達目標達成度
 (1) を 7 割、(2) を 3 割として、総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

口頭での説明の際に、発音を明瞭にし、ゆっくり分かりやすく話すようにする。

【Outline (in English)】

【Course Outline】

Through Kant's "Religion within the boundaries of mere reason" we will learn how Kant thought about the religion of mankind through "rational belief (Vernunftglaube)". This will deepen our thinking about the nature of religion according to our diverse interests in religion.

【Learning Objectives】

The following three points are to be achieved in relation to Kant's theory of the rational religion of mankind.

(1) To be able to understand what Kant's theory of religion teaches.
 (2) To be able to consider religion from the perspective of Kant's theory of religion.
 (3) To be able to evaluate the significance of Kant's theory of religion from various perspectives.

【Work to be done outside of classroom】

Before class, students are required to read through the PDF of the class handout uploaded on the learning support system (Hoppii) and think about the class content in advance (2 hours). After class, they are required to review the class content, write an essay on what they thought about the assignment, and submit it on the learning support system (2 hours).

【Grading Criteria /Policy】

(1) Attitude toward participation and achievement of the learning objectives as confirmed in each assignment report

(2) Level of achievement of the learning objectives confirmed by the final report at the end of the semester.

* The overall evaluation will be made by assigning 70% for (1) and 30% for (2).

PHL300BB

哲学特講（４）－２

近堂 秀

授業コード：A2219 | 曜日・時限：火 2/Tue.2

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2～4 年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

イマヌエル・カントの哲学思想の現代的意義をフリードリッヒ・ニーチェの哲学思想との関係に注目して検討する。

【到達目標】

学問としての哲学の特徴を理解し、哲学を通じて時代状況について主体的に考察する力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

カントの主要著作を読み、関連文献を参照しながら、カントと現代の哲学思想の関係を考察する。授業は講義形式で進め、課題の提出とフィードバックは学習支援システムを通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	哲学を学ぶとは	時代状況と哲学
第 2 回	カントの哲学思想 (1)	カント哲学の概要
第 3 回	カントの哲学思想 (2)	カントの理論哲学
第 4 回	カントの哲学思想 (3)	カントの実践哲学
第 5 回	カントの哲学思想 (4)	カントの世界市民主義
第 6 回	カントとニーチェ (1)	ニーチェ思想の概要
第 7 回	カントとニーチェ (2)	カントとニーチェの初期思想
第 8 回	カントとニーチェ (3)	カントとニーチェの中期思想
第 9 回	カントとニーチェ (4)	カントとニーチェの後期思想
第 10 回	カントと現代の哲学思想 (1)	現代の哲学思想
第 11 回	カントと現代の哲学思想 (2)	カントと現象学
第 12 回	カントと現代の哲学思想 (3)	カントとプラグマティズム
第 13 回	カントと現代の哲学思想 (4)	カントと分析哲学
第 14 回	カントの哲学思想の現代的意義	ニーチェからカントへ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内で参照を指示した資料文献を分析し、関連文献を調査する。準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

授業内で指示する。

【参考書】

牧野英二編『新・カント読本』、法政大学出版局、2018 年。
 近堂秀『『純粹理性批判』の言語分析哲学的解釈——カントにおける知の非還元主義』、晃洋書房、2018 年。
 トム・ロックモア『カントの航跡のなかで——二十世紀の哲学』牧野英二監訳、法政大学出版局、2008 年。

【成績評価の方法と基準】

学問としての哲学の特徴を理解し、哲学の著作を読む力は出席率と授業の内容理解度によって、哲学を通じて時代状況について主体的に考察する力は学期末レポートによって、それぞれ 30 % と 70 % の割合で評価する。

※定期試験は実施しない

【学生の意見等からの気づき】

授業の内容と学生の内容理解度とのバランスを調整する。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire an understanding of the philosophical problems of Kant and Nietzsche.

(Learning Objectives)

At the end of the course, students are expected to understand the fundamental problems of Kant's philosophy and modern philosophy.

(Learning activities outside of classroom)

After each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

(Grading Criteria /Policies)

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Term-end report: 70%, in class contribution: 30%.

PHL300BB

哲学特講（5）－1

西塚 俊太

授業コード：A2220 | 曜日・時限：金 2/Fri.2
 春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：2～4 年
 その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講義では、日本の近代哲学を代表する西田幾多郎の著作を読み解くことを通じて、日本近代思想の一端の把握を目指していく。講義形式ではあるが、原典の読解を軸にすることで、最終的に自身で哲学書を読み進めていく力を養成することを目的としている。

【到達目標】

- ・日本近代の哲学書を読み解くことが出来る。
- ・テキストに含まれている論点を自身で見出すことが出来る。
- ・哲学的思索や考察内容を自身の言葉として文章化し表現出来る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

※すべての回において「対面式」で実施する予定です。

- (1) 「原典読解」を中心とする講義形式を基本とする。
- (2) 毎回の講義時に、講義担当教員がテキストとレジュメを作成・配布し、そのレジュメをもとにして講義を進めていく。
- (3) 毎回の講義の終盤に、講義内容の確認と次回の講義内容へとつながるミニレポートを作成し、講義中に提出してもらうことになる。
- (4) 講義の始めに、前回の講義で提出された課題の講評を行いフィードバックをする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	日本近代思想を学ぶことの意味	講義内容や進め方および評価方法の説明 日本近代哲学の特徴はいかなる点に存在するのか
第 2 回	第一編第一章「純粹経験」	西田幾多郎『善の研究』（岩波文庫）pp.17-27 以下の回のページ数はすべて岩波文庫 2012 年以降の版による
第 3 回	第一編第二章「思惟」	『善の研究』 pp.28-40 の解説
第 4 回	第一編第三章「意志」	『善の研究』 pp.41-55
第 5 回	第一編第四章「知的直観」、第二編第一章「考究の出立点」	『善の研究』 pp.56-70
第 6 回	第二編第二章「意識現象が唯一の実在である」、第三章「実在の真景」	『善の研究』 pp.71-84
第 7 回	第二編第四章「真実には常に同一の形式を有って居る」、第五章「真実在の根本形式」、第六章「唯一実在」、第七章「実在の分化発展」	『善の研究』 pp.85-109
第 8 回	第二編第八章「自然」、第九章「精神」	『善の研究』 pp.110-127
第 9 回	第二編第十章「実在としての神」、第三編第一章「行為 上」、第二章「行為 下」	『善の研究』 pp.128-146
第 10 回	第三編第三章「意志の自由」、第四章「価値的研究」	『善の研究』 pp.147-159
第 11 回	第三編第五章「倫理学の諸説 その一」、第六章「倫理学の諸説 その二」、第七章「倫理学の諸説 その三」、第八章「倫理学の諸説 その四」	『善の研究』 pp.160-186
第 12 回	第三編第九章「善（活動説）」、第十章「人格的善」	『善の研究』 pp.187-200
第 13 回	第三編第十一章「善行為の動機（善の形式）」、第十二章「善行為の目的（善の内容）」、第十三章「完全なる善行」	『善の研究』 pp.201-221

第 14 回 第四編第一章「宗教的要 善の研究」 pp.223-263 西田の思想
 求」、第二章「宗教の本 の総まとめ
 質」、第三章「神」、第四
 章「神と世界」、第五章
 「知と愛」

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前学習よりも講義内で課すミニレポートを丁寧に作成することが講義内容の理解を高めるために重要となる。また、講義内容を講義後に復習する際には、毎回の講義内で言及された「原典」を確認することが有効である。本授業の準備・復習時間は準備 1 時間・復習 4 時間の計 5 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教科書として西田幾多郎『善の研究』（岩波文庫）の 2012 年以降の版を指定する。毎回の講義において必ず使用することになるため、受講に際して必須の教科書となる。教科書指定してあるので、受講希望の場合は必ず購入すること。

【参考書】

参考書は毎回の講義時に各回のテーマに沿った書籍を指定していくことになる。

【成績評価の方法と基準】

毎回の講義時に課すミニレポートの評価（45 %）と、学期末レポート（55 %）によって評価する。講義における質問や発言は高く評価するポイントとなる。
 ※すべての回において対面式で実施する予定です。

【学生の意見等からの気づき】

正当な理由がない遅刻者への対応をより厳密することで、途中入室者への対応で講義が中断しないようにいっそう心掛けたい。

【学生が準備すべき機器他】

なし

【その他の重要事項】

講義終了後に質問を受け付けているが、時間の余裕がない場合は hoppii の掲示板機能などを利用しての質問を随時受け付けている。
 ※すべての回において対面式で実施する予定です。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域> 日本近代哲学・日本思想史
 <研究テーマ> 京都学派を中心とした日本近代哲学の研究、ならびに日本思想史（神・儒・仏・物語・武士道など）の研究

<主要研究業績>

- ① 「「ひと」であること、「私」であること—三木清の「哲学的人間学」をめぐって—」（『日本倫理思想論究 第 2 号』、2014）
- ② 『科学技術の倫理学Ⅱ』（勢力尚雅 編共著、2015）
- ③ 「『曾我物語』における敵討の動因——「実の父」の欠如と希求という観点から——」（『倫理学紀要 第 26 輯』、2019）

【Outline (in English)】

The aim of this course is to acquire an understanding of Japanese thought and philosophy through reading "An Inquiry into the Good" by Kitaro Nishida. By the end of this course, students should be able to fully grasp the feature of Japanese thought and culture.

Student will be expected to have completed the required assignments after each class. Your study time will be more than five hours for a class.

Grading will be decided based on Short reports 45%, term-end reports 55%.

PHL300BB

哲学特講（5）－2

相原 博

授業コード：A2221 | 曜日・時限：金 2/Fri.2

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2～4 年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業の内容は、「考えながら学ぶ西洋哲学史」です。受講生は、古代から現代にいたる、西洋の主要な哲学者たちの生涯や考えを学びます。哲学史は、偉大な哲学者たちの対話や論争の歴史であり、それ自身が一つの哲学の営みです。授業では、過去の哲学者たちの思考をたどりながら、彼らがどのような事柄を哲学の問題として理解しており、その問題にどのような解答を与えたのか、具体的に学んでいきます。それによって、自分で考える力、哲学的に考える能力を得ることを目的とします。

【到達目標】

第一に、哲学史にかんする知識を身につけながら、自分で説明することができる。
第二に、日常の様々な出来事について、哲学的に問題を立てて考え、論じることができる。
第三に、議論を通して、多様な意見の存在を知り、自分の考えを深めることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

基本的に講義形式で行いますが、受講生との意見交換を重視します。また積極的に参加してもらうため、毎回の授業では二人一組で議論し、その結論を発表してもらいます。受講にあたっては、自分自身で考えること、他の受講生と議論すること、また授業で発言できることが必要です。その他、授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス・西洋哲学史とは何か	授業の進め方、評価方法などについて説明する
第 2 回	神話から哲学へ	神話の否定と哲学の誕生について説明する
第 3 回	論理とエレア学派	説得の技術と対話の技術について説明する
第 4 回	ソクラテスと人間	ソクラテスによる知恵の探究について説明する
第 5 回	プラトンとイデア	普遍や理想の存在を認めた、プラトンのイデア論について説明する
第 6 回	アリストテレスと徳倫理学	よい人生を送ることを目的とする、徳倫理学について説明する
第 7 回	ヘレニズムとローマの哲学	個人の生き方を問題にした、ヘレニズムとローマの哲学について説明する
第 8 回	キリスト教と哲学	キリスト教の影響と、異教徒に対するキリスト教の弁護について説明する
第 9 回	宗教改革の思想	ローマ・カトリック教会の支配の終わりと、その影響について説明する
第 10 回	デカルトと近代哲学	「私は考える」をもとに世界を捉えなおす哲学について、説明する
第 11 回	イギリス経験論の系譜	生得観念を否定し、経験を重視した哲学について説明する
第 12 回	カントとドイツ観念論	現象と物自体の二元論とその克服の試みについて、説明する
第 13 回	実存主義の哲学	抽象的な人間一般でなく、「今ここにいる私」を重視する哲学について説明する
第 14 回	現代の哲学	存在の意味の探究と、哲学における言語分析について説明する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業は発展的な内容も含むため、予習や復習は不可欠です。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません。適宜資料を配付します。

【参考書】

岩崎武雄『西洋哲学史（再訂版）』、有斐閣、1975 年。
野家啓一（責任編集）『哲学の歴史』（第 1 巻- 第 12 巻）、中央公論新社、2007-2008 年。

牧野英二、小野原雅夫、山本英輔、齋藤元紀（編）『哲学の変換と知の越境』、法政大学出版局、2019 年。

【成績評価の方法と基準】

授業参加度と授業後のレポートによって、過去の哲学者の考えを理解しているかどうか、また自分の考えを表現できるかどうか評価します（40%）。また学期末レポートによって、過去の哲学者の考えを正しく理解しているかどうか、また哲学的に問題を立てて考え、論じることができるかどうか評価します（60%）。

【学生の意見等からの気づき】

受講生が議論や質問しやすい雰囲気づくりを心がけたい。またわかりやすい授業を行うために努力したい。

【Outline (in English)】

The content of this class is the history of Western philosophy. Students will study the lives and ideas of major Western philosophers from antiquity to the modern era. The history of philosophy is a history of dialogues and debates among great philosophers and is a philosophical activity in itself. In the class, students will follow the thoughts of philosophers and learn specifically what they understood as philosophical problems and what answers they gave to those problems. By

doing so, students will gain the ability to think for themselves and to think philosophically. By the end of the course, students should be able to do the followings:

A. While acquiring knowledge about the history of philosophy, students will be able to give their explanations.

B. Students will be able to formulate, think about, and discuss philosophical issues regarding various everyday events.

C. Through discussion, students can learn about the existence of diverse opinions and deepen their thinking.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours understanding the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on the following.

Term-end report: 60%、Short reports and in class contribution: 40%.

PHL300BB

哲学特講（6）－1

大橋 基

授業コード：A2222 | 曜日・時限：木 2/Thu.2
 春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：2～4 年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ヘーゲルの『法の哲学』における「自由」と「国家」の関係を学ぶことを通じて、個人と政府の両面から、現代社会の政治統合の問題点を探る。

【到達目標】

ヘーゲルが「相互承認」論に基づいて構想した「自由」概念の哲学的特徴を説明できる。

「自由の最高の形式」が「愛国心に基づく政治統合への関与」とされた理由を説明できる。

「国家」が「愛国心」の対象になるために満たさなければならない諸条件を説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

教員が作成した「講義用資料」（学生各自が学習支援システムからプリントアウト・持参する、または、授業時に PC で参照する）を用いた講義。毎回、授業終了時に、リアクションペーパーを提出する（教員からの回答は、次回授業時とする）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	講義概要・授業方法・成績評価の説明
第 2 回	「意志の概念」としての「自由」	『法の哲学』の原理としての「自由」概念の哲学的特徴
第 3 回	「自由」の具体像としての「相互承認」	「制度化された承認関係」としての「人倫共同体」
第 4 回	「客観的義務の必然的体系」	「自由意志」に対する善悪の規定根拠としての「人倫共同体」
第 5 回	近代的現実に基づく「国家」の二重性格	「家庭」と「職業団体」を基底としつつ、それらの前提である「国家」
第 6 回	プロイセン王国における政治と哲学の連動	大国の覇権に抗うドイツの自由主義的ナショナリズム
第 7 回	憲法制定をめぐる伝統と理性の争い	対立する歴史法学派と理性法学派のあいだでの立ち位置
第 8 回	市民の「教養形成」の倫理的限界	「私的欲望」から家族や同業者の「幸福」を経て「万人の福祉」へ
第 9 回	「愛国心」に値する「国家」の形式的条件	「信頼と服従の感情」を調達する前提としての「権力分立」
第 10 回	「君主権」における自然と精神の関係	血統にもとづくが、実権をもたない「国家の統一的意志の象徴」
第 11 回	「統治権」に向けられる不偏性請求	私利を排除する「行政組織」と「官僚」の倫理
第 12 回	「立法権」としての議会における代表性の欠如	政治信条なき集団の利害を集約するための「身分制議会」
第 13 回	「戦争」で問われる「国民の精神的健康」	市民に対して奉仕を義務づける「戦争」の諸条件
第 14 回	期末レポート	現代において個人生活と政治権力の関係はどうあるべきか？

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学習支援システムにアップされている該当回の「講義用資料」を参照して、その要点や疑問点を整理し、授業のさいに確認・質問できるようにしておく。講義の進捗に応じて必要となる歴史的知識を各自で確認する。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

指定しない。

【参考書】

ヘーゲル『法の哲学』（Ⅰ、Ⅱ）中公クラシックス、2001 年、各 1650 円
 アヴィネリ『ヘーゲルの近代国家論』未来社、1978 年
 ビビン『ヘーゲルの実践哲学』法政大学出版局、2013 年

【成績評価の方法と基準】

期末レポート（小論文形式）70%、平常点 30% の比率で、成績評価を行い、60 点以上を及第点とする。リアクションペーパー・Eメール・口頭での質問・意見から平常点を算出する。

【学生の意見等からの気づき】

専門用語を用いるさいは、できる限り日常言語での説明、具体的事例による解説を心がける。

リアクションペーパーやメールによる質問に対する回答のなかで重要なものは「学習支援システム」の「掲示板」に掲載して、常時、確認可能にする（そのさい学生の個人名は伏せる）。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムや zoom を利用できる電子端末

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire an understanding of the basic problem of Hegel's ethical thought in his "Philosophy of Right". On the one hand Hegel explained "the truth of freedom" as the mutual recognition between free persons, but on the other hand he represented the obedience to the modern state as "the highest form of freedom". In order to resolve this contradiction, Hegel expounded "the ethical community (Sittlichkeit)" such as domestic division of labor, professional organization, and political integration, as the instituted relationship of recognized agents, in which they verify the significance of their existence. However, does the Hegel's theory as above succeed to convince us? To answer this question, it deals with four themes as follow: 1. The concept of freedom and its realization forms as the ethical communities, 2. Two bases of the state as modern family and civic society, 3. The self-education (Bildung) of the citizen necessary to participate in politics, 4. Some requirements for the government which deserves patriotism. By the end of the course, students should be able to give careful consideration to the possible relation between the people and the government in our present day. Before each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content. Your overall grade in the class will be decided based on the following: term-end report: 70%, and in class contribution: 30%.

PHL300BB

哲学特講（6）－2

内藤 淳

授業コード：A2223 | 曜日・時限：火 4/Tue.4

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2～4 年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

メタ倫理学における「道徳の存在論」に関する講義を行う。メタ倫理学とは、「努力するのは善いことだ」「泥棒は悪い」などというときの「善い」「悪い」とは正確にはどういう意味なのかという「善悪の分析」をする学問で、その中の「道徳の存在論」とは、「善悪」は客観的な真理として実在しているものなのか、そうでないのかという議論を指す。こうした議論に関する基本的な学説や理論を解説し、そこでの論点や問題点を分析するのが講義の内容である。これらを学ぶことにより、受講生が、物事の善悪を通常よりも一段階踏み込んだ次元で理解し、自分や他者の考えをメタレベルの視点で分析できるようにすることが授業の目的である。

【到達目標】

- ①メタ倫理学における存在論の基本的な論点を把握する。
- ②それに関する主要な学説と理論の内容、それらの間の対立点などを理解する。
- ③それぞれの学説・理論に対する賛成/反対を含めた自分の考えを形成する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式で実施し、授業の中で重要論点についてのディスカッションやコメント提出などを適宜行う。提出コメントや質問に対しては、授業の中で随時解説をする。

授業計画は以下の予定だが、受講生の理解状況や進行ペースに応じて内容や順序を変更する場合がある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の進め方とメタ倫理学の概要について
第 2 回	メタ倫理学の基礎	客観主義と主観主義、相対主義について
第 3 回	実在論と非実在論	存在論の論点について
第 4 回	非実在論の主要理論	錯誤理論について
第 5 回	非実在論の問題点	錯誤理論への批判について
第 6 回	実在論の主要理論の第一（1 回目）	自然主義について
第 7 回	実在論の主要理論の第一（2 回目）	自然主義の中の立場の違いについて
第 8 回	実在論の主要理論の第二（1 回目）	非自然主義について
第 9 回	実在論の主要理論の第二（2 回目）	非自然主義の中の立場の違いについて
第 10 回	実在論の問題点	実在論の諸立場への非難について
第 11 回	第三の立場の検討（1 回目）	準実在論について
第 12 回	第三の立場の検討（2 回目）	感受性理論について
第 13 回	第三の立場の検討（3 回目）	静寂主義について
第 14 回	全体のまとめ	道徳の実在/非実在とは？

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1. 事前にテキストの該当箇所を読み、記載されている参考文献を適宜読んでおく。
 2. 復習として、各回の授業で解説された内容を見直し、特に理論の筋道を整理して理解する。
 3. コメントや小論文の課題などが出された場合は、テキストと参考文献の内容を踏まえて自分の考えをまとめてそれらを作成する。
- 本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

佐藤岳詩『メタ倫理学入門：道徳のそもそもを考える』勁草書房、2017 年

【参考書】

佐藤岳詩『倫理の問題』とは何か：メタ倫理学から考える』光文社新書、2021 年
永井均『倫理とは何か：猫のインジヒトの挑戦』ちくま学芸文庫、2011 年
安彦一恵『「道徳的である」とはどういうことか：要説・倫理学言論』世界思想社、2013 年

【成績評価の方法と基準】

期末課題により、上記「到達目標」で示した①～③の達成度を評価する。但し、受講人数や講義の進捗状況、コロナ感染状況などに応じて、期末課題ではなく期末試験もしくは授業内試験にする場合がある。併せて、授業内でコメント提出等の課題を出した場合はその評価を加味する（要素配分は、期末課題 80 % + 授業内課題 20 % の予定）。

【学生の意見等からの気づき】

本年度から新規の授業担当のため、これまでのアンケートがないが、理論的な内容が多く含まれるため、なるべく具体的に平易な説明を心掛けたい。

【その他の重要事項】

授業中の私語は進行の妨げになるので厳禁。その他、途中での入退室を慎む、携帯電話の電源を切るなど、受講上のマナーを厳守すること。

【Outline (in English)】

(Course outline)

This course deals with the ontology of morality in meta-ethics.

(Learning Objectives)

At the end of this course, students are expected to understand basic theories of the ontology of morality in meta-ethics and to be able to analyze their own ideas about right and wrong.

(Learning activities outside of classroom)

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

(Grading Criteria /Policy)

Your overall grade in the class will be decided based on the following.

Term-end report: 80%, Short reports in class: 20%.

PHL300BB

哲学特講（7）－1

酒井 健

授業コード：A2224 | 曜日・時限：木 5/Thu.5
 春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：2～4 年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

- 1) 西欧近代の実存主義思想を基礎から学んでいく。
- 2) とくにフランス現代思想初期の思想家ジョルジュ・バタイユ（1897-1962）の 2 本の雑誌掲載論文（「実存主義から経済の優位へ」（1947-48）と「実存主義」（1950））を読んで、理解を深めていく。
- 3) 毎回、課題に対して授業内で論述する。さらに期末課題の提出もある。勉強になるがかなりハードな授業。

【到達目標】

- ①キルケゴールに発しハイデガーを経由し、1940 年代後半にサルトル、さらにレヴィナスに至る実存主義思想の系譜を学ぶ。
- ②実存主義思想とフランス現代思想との接点および相違をバタイユの解釈とともに理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

- 1) 講義形式。
- 2) 主要テキストとしてバタイユの実存主義解釈の上記 2 本の論文の邦訳を用いて、基本的な問題点を理解していく。
- 3) 毎回、授業の後半で課題が呈示にされ、これに対するレスポンスを論述形式で授業内に 15 - 20 行ほど書いて提出する。
- 4) そのフィードバックは翌週、教室あるいは hoppii を通してなされる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業に関する概要説明
第 2 回	バタイユの論文「実存主義」（1950）①	配布テキスト 307-308 頁「実存」という言葉およびこれをめぐる西欧近代思想の系譜
第 3 回	バタイユの論文「実存主義」（1950）②	配布テキスト 309-310 頁
第 4 回	バタイユの論文「実存主義」（1950）③	配布テキスト 311 - 313 頁
第 5 回	バタイユの論文「実存主義から経済の優位へ」①	配布テキスト 256 - 260 頁
第 6 回	バタイユの論文「実存主義から経済の優位へ」②	配布テキスト 261-264 頁
第 7 回	バタイユの論文「実存主義から経済の優位へ」③	配布テキスト 265-269 頁
第 8 回	バタイユの論文「実存主義から経済の優位へ」④	配布テキスト 270-274 頁
第 9 回	バタイユの論文「実存主義から経済の優位へ」⑤	配布テキスト 275-279 頁
第 10 回	バタイユの論文「実存主義から経済の優位へ」⑥	配布テキスト 280-284 頁

第 11 回 バタイユの論文「実存主義から経済の優位へ」⑦

第 12 回 バタイユの論文「実存主義から経済の優位へ」⑧

第 13 回 バタイユの論文「実存主義から経済の優位へ」⑨

第 14 回 バタイユの論文「実存主義から経済の優位へ」⑩

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。配布資料やノート、指示される参考書を使って授業内容をよく理解するよう努め、わからない点があれば質問すること。

【テキスト（教科書）】

ジョルジュ・バタイユ（1897-1962）が書評誌『クリティック』に発表した 2 本の論文（「実存主義から経済の優位へ」（1947-48）と「実存主義」（1950））。その邦訳を用いる。コピーにて配布。

【参考書】

- 1) キルケゴール著『ドン・ジョヴァンニ 音楽的エロスについて』浅井真男訳、白水社 U ブックス、2006 年
- 2) ハイデガー著『存在と時間』（全 3 巻）原佑・渡辺二郎訳、中公クラシックス、2006 年
- 3) サルトル著『実存主義とは何か』伊吹武彦他訳、人文書院、2022 年
- 4) レヴィナス著『実存から実存者へ』西谷修訳、ちくま学芸文庫、2006 年
- 5) バタイユ著『戦争/実存/政治』（バタイユ著作集第 11 巻）山本功訳、二見書房、1972 年

【成績評価の方法と基準】

授業の平常点が 50%、期末レポートが 50%。前者はリアクションペーパーの内容、後者は上記「到達目標」がどの程度達成されているかによって評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【Outline (in English)】

(Course outline)

This course deals with the Existentialist thought in Western modernity.

(Learning Objectives)

The goal of this course is to understand the fundamentals of existentialism and Georges Bataille's interpretation on this subject.

(Learning activities outside of classroom)

Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter(s) from the references. Your required study time is at least four hours for each class meeting.

(Grading Criteria /Policies)

Grading will be decided based on in-class contribution (50%) and term-end report (50%).

PHL300BB

哲学特講（7）－2

編澤 和彦

授業コード：A2225 | 曜日・時限：水 5/Wed.5

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2～4 年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

カント『判断力批判』を読む — 美学と自然目的論の基礎づけ
カントは 1780 年代後半、認識能力と欲求能力の他に、快と不快の感情（生命感情）にもア・プリオリな原理（合目的性）を認め、批判哲学を体系的に深化・発展させました。その影響は、同時代の詩人のシラーやゲーテから、現代思想の様々な分野（政治哲学、現象学、解釈学）にまで及んでいます。本授業は『判断力批判』を取り上げ、カントによる美学と自然目的論の基礎づけのほか、第一批判と第二批判を媒介する第三批判の体系的意義を明らかにします。生命感情の分析から神学の議論に行きつく思索を辿ることで、カント批判哲学の到達点を学ぶことを目的とします。

【到達目標】

- ① 哲学の古典テキストを読解する仕方や内容のまとめ方を学ぶことができる。
- ② 18 世紀の美学および自然目的論の概念史を学ぶことができる。
- ③ 反省的判断力の原理（合目的性）の体系的意義を理解することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

講義は授業支援システム Hoppii を使用しながら、対面の形式で行ないます。テーマの変わり目で、グループワークと質疑応答の時間を作り、授業内容の理解の深化を図ります。質問と感想は、授業時に配布するリアクションペーパーに記入してください。このペーパーの提出で出席となります。質問への回答は、次の授業時に行います。課題の出題、回収、評価とフィードバックは、Hoppii を使用します。受講生の積極的な参加を望みます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	授業ガイダンス	授業の概要と目的、授業の方法などを説明するほか、授業の導入として『判断力批判』の成立史と影響作用史、ならびに、問題設定と第三批判の体系的位置づけについて解説します。
第 2 回	反省的判断力：教科書第 IV 章第 1 節	反省的判断力概念、並びに、その原理としての合目的性とその体系的意義を解説します。
第 3 回	美感的判断力の批判：教科書第 IV 章第 2 節	趣味判断の四つの契機（質・量・関係・様相）を学びます。
第 4 回	グループワークと質疑応答	第 1 回から第 3 回までの授業に関するグループワーク、並びに、質疑応答を行います。
第 5 回	崇高の分析論：教科書第 IV 章第 2 節	崇高の概念、および、数学的崇高と力学的崇高の区別について学びます。
第 6 回	純粹美感的判断の演繹（1）：教科書第 IV 章第 2 節	第三批判における演繹の意味、趣味判断の固有性と共通感官を説明します。
第 7 回	純粹美感的判断の演繹（2）：教科書第 IV 章第 2 節	カントの天才論、芸術論について解説します。

第 8 回	美感的判断力の弁証論：教科書第 IV 章第 2 節	趣味のアンチノミー、合目的性の観念論、道徳性の象徴としての自然美について学びます。
第 9 回	グループワークと質疑応答	第 5 回から第 8 回までの授業に関するグループワークと質疑応答を行います。
第 10 回	目的論的判断力の批判：教科書 IV 章第 3 節	自然の客観的・形式的合目的性、自然目的、自然の相対的合目的性と内的合目的性について学びます。
第 11 回	目的論的判断力の方法論：教科書 IV 章第 3 節	判断力のアンチノミーとその解決、自然の客観的合目的性の概念、自然目的を説明します。
第 12 回	目的論的判断力の方法論：教科書 IV 章第 3 節	機械論の目的論への従属、物理的神学と倫理的神学、道徳的信仰について学びます。
第 13 回	グループワークと質疑応答	第 10 回から第 12 回までの授業のグループワークと質疑応答を行います。
第 14 回	授業全体のまとめ	美学と自然目的論の内容をまとめ、第三批判の体系的意義について解説します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習：テキストの関連箇所や参考文献を読み、理解できない点をまとめるほか、それに関連する諸概念を調べてください（2 時間）。復習：再度、授業資料とテキストを読み直し、疑問点が解決できたかどうかを確認してください。疑問があれば、授業支援システム Hoppii の投稿欄に質問を記入してください。また、課題も提出してください（2 時間）。

【テキスト（教科書）】

高峯一愚（著）『カント講義』、論創社：四六版（2022）、3300 円

【参考書】

- ① 牧野英二（訳）『判断力批判』カント全集第 8 巻と第 9 巻、岩波書店（2017 年）
- ② 牧野英二（編）『新・カント読本』法政大学出版局（2018 年）
- ③ 牧野英二（著）『崇高の哲学 情感豊かな理性の構築に向けて』法政大学出版局（2007 年）
- ④ 相原博（著）『カントと啓蒙のプロジェクト 《判断力批判》における自然の解釈学』法政大学出版局（2017 年）

【成績評価の方法と基準】

各授業の課題（A）と期末レポート（B）を、それぞれ 50 % の評価とし、総合的に成績を算出します。また、評価については（1）カントの問題設定、概念、方法を適切に理解できているかどうか、（2）問いに対する答えという仕方、課題やレポートの構成と表現が、読者に理解できるように書かれているか、という点を基準にします。

【学生の意見等からの気づき】

教科書以外の学習教材は、すべて学習支援システム Hoppii にアップロードされますので、病気などで欠席した場合、このシステムを活用して各自自習してください。

【学生が準備すべき機器他】

授業時そして予習や復習の際にも、学習支援システム Hoppii を利用するため、インターネット、パソコンあるいはノートブックを使用します。

【その他の重要事項】

その他、授業の詳細については、学習支援システム Hoppii に掲載していますので、そちらをご覧ください。

【Outline (in English)】

In the late 1780s, Kant systematically deepened and developed his critical philosophy by recognizing the a priori principle in the pleasant and unpleasant emotions (life emotions). This influence extends from his contemporaries, the poets Schiller and Goethe, to various fields of modern thought (political philosophy, phenomenology, and hermeneutics). This class will focus on "The Critique of Judgment" to clarify Kant's foundations of aesthetics and natural teleology and the systematic significance of the Third Critique. By tracing the speculations that lead from the analysis of life emotions to the discussion of theology, we aim to learn the innermost truths of critical philosophy. Read the textbook and find points you do not understand (2 hours). Review whether your questions find an answer (2 hours). If you have any questions, please write them down in the posting section of Hoppii, the class support system. The assignment (A) and the final report (B) will be 50 % each. The evaluation standard will lie in (1) whether you have a correct understanding of Kant's problem setting, concepts, and methods, and (2) whether the structure and expression of the assignments and reports, in the form of answers to questions, are written in a way that readers can understand.

PHL300BB

哲学特講（8）－1／科学哲学 I

木島 泰三

授業コード：A2226, A3672 | 曜日・時限：月 2/Mon.2

春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：2～4 年

備考（履修条件等）：心理学科生は「科学哲学 I」として履修。

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「自然主義的人間観——その歴史と現在」というテーマで、自然主義的人間観という主題を、その歴史的な由来と現在について、哲学的観点から学んでいく。

本講義で取り上げる「自然主義的人間観」とは、近代自然科学の知見に基づく人間観を指し、また本講義では主にこのような人間観と伝統的な人間観との関わり（不一致、対立、調停の可能性、など）を考察する。そのために講義中盤まででは近代科学の始まりやそれ以前の世界観との対立、またその中での人間観の問題を取り上げる。そして終盤では現代における自然主義的人間観とその問題を、それまでの歴史的な知見も踏まえながら学び、考えていく。

【到達目標】

到達目標は次の 2 点である：

- (1) 講義で取り上げた哲学的諸問題やそれに関連する歴史的な諸事項について、概略的にはあれ正確な説明ができる程度の知識を習得すること。
- (2) その知識をベースに、自然主義的人間観をめぐる哲学的諸問題に関して、各種資料の裏付けに支えられた自分なりの論述を作成できるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は毎回資料を配布し、それをベースに講義形式で進めていく。また、毎回の講義の受講確認課題の提出を、受講後 Hoppii の課題提出機能を用いて求め、能動的、双方向的な学びの機会を設ける。なお、提出課題に問題がある場合、コメントを付けて返信するの再提出すること。問題なしと認められ、チェックマークがついて始めてその回が「受講済み」扱いとなる。学期末にはレポート提出を求める。レポートは最終の授業の後、Hoppii の課題提出機能から受け付ける（最終の授業の内容も反映できるよう、締切は少し後に設定する）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	講師の自己紹介、授業の進め方や成績評価などの説明、授業の概要など
第 2 回	自然と超自然／「神話から哲学へ」／ソクラテスの問いかけ	「自然」や「自然主義」という概念についての本講義の理解を明らかにし、その後初期古代ギリシャ哲学における人間観の問題を見る
第 3 回	アリストテレスの自然観とデモクリトスの自然観	古代における対象的な自然観としてのアリストテレスの自然観と古代原子論の自然観を見ていく
第 4 回	17 世紀科学革命におけるアリストテレス自然学の批判	近代科学（天文学、力学）の基礎をもたらした 17 世紀科学革命とそのアリストテレス自然学との相違を見ていく
第 5 回	デカルトの人間観／ホッブズの人間観 (1)	科学革命を経て成立した 1 つの典型的な人間観としてのデカルトの「心身二元論」に基づく思想を学び、続いてそれとは対象的なホッブズの唯物論的人間観を学ぶ
第 6 回	ホッブズの人間観 (2)／18 世紀の自然主義的人間観	引き続きホッブズの人間観を学び、その後 18 世紀における唯物論的な思想を概観する
第 7 回	近代における生命およびデザインの問題／ダーウィンの自然選択説とその意義 (1)	科学革命後に「生命」および「デザイン」の問題が焦点化されていく過程を概観し、続いてそれに対するダーウィンの自然選択説の意義を学ぶ
第 8 回	ダーウィンの自然選択説の意義 (2)／19 世紀-20 世紀前半の自然主義的人間観	引き続き自然選択説の意義について学び、その後 19 世紀後半の進化論の登場後盛んになった様々な形態の自然主義的人間観を概観する
第 9 回	非ダーウィン主義的進化論から「進化の総合説」へ	19 世紀後半から 20 世紀前半まで支配的だった「非ダーウィンの進化論」の諸形態と、20 世紀半ばに成立し現代に至る「進化の総合説」について見ていく

第 10 回	第二次大戦後の文化主義と社会生物学論争	第二次大戦後に主流となった「文化主義」の人間論と、1970 年代から 80 年代に繰り広げられた「社会生物学論争」を見ていく
第 11 回	認知革命と進化心理学の成立	時代を少しさかのぼり、20 世紀半ばに生じた「認知革命」について学び、さらに、認知革命の成果と進化生物学の成果の合流としての進化心理学の成立という経過を追っていく
第 12 回	現代の自然主義的人間観 (1)：文化と言語の進化	現代における文化および言語の自然主義的＝進化論的アプローチを学ぶ
第 13 回	現代の自然主義的人間観 (2)：宗教の自然化	現代の自然主義的アプローチの典型例として、宗教研究における進化心理学の適用について学ぶ
第 14 回	現代の自然主義的人間観 (3)：自由意志と責任の問題	自由意志および責任という古来からの人間観のも根本問題に関する自然主義的アプローチを学ぶ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Hoppii の課題提出機能を用いた受講後の受講確認課題（ごく簡単な回答で済むものにする予定）によるポイントの理解の確認が必須の時間外の学習となる。講義資料や講義内容を見返し、不明瞭な点があれば質問し理解を補うこと（質問等は受講者に告知するメールアドレスから受け付ける。受講確認課題提出と同時に進めてもよい）。

講義資料に付した重要文献の抜粋などは読んでおくこと。また、講義中紹介した文献なども、関心に応じて読むのが望ましい。特にレポート準備においてはこれら講義外での調査や学習も重要になる。

なお、本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。

【参考書】

本講義全般に関連する主題を別の観点から取り上げた書物として、木島泰三『自由意志の向こう側——決定論をめぐる哲学史』（講談社選書メチエ 2020 年）を挙げておく。その他個別のトピックに関連する文献については、講義内で紹介する。

【成績評価の方法と基準】

各講義の受講確認課題により、「到達目標」(1) の到達度の評価、および、平常の受講態度の評価を行う (40%)。加えて、期末レポートによる (2) の到達度の評価を行う (60%)。

【学生の意見等からの気づき】

板書をなるべく整理して書くこと、急がず落ち着いて語ることを心がけたい。

【学生が準備すべき機器他】

受講確認課題、および期末レポートの提出のため、Hoppii にアクセス可能な端末が必要となる。講義資料を PDF ファイルで配布する場合があります、pdf 閲覧できる環境が望ましいが、できない場合は相談に応じる。

【その他の重要事項】

特になし。

【Outline (in English)】

Course outline:

Our theme is "Naturalistic view of humanity: on its history and contemporary problems". You can learn various philosophical problems about the naturalistic view of humanity, firstly from historical point of view and secondly in terms of contemporary scientific perspectives.

Learning Objectives: The goals of this course are the followings:

(1) to learn about the topics on philosophy and history on the naturalistic view of humanity so that you will be able to explain them at least in outline, and,

(2) to produce your term-end report reflecting your knowledge which you will get in the class and from other extra-class studies.

Learning activities outside of classroom: You will be expected to submit your task issued after each class through Hoppii and to understand the course content if you would feel uncompleted. You are also expected to read relevant literature especially for your term-end report. Your required study time is at least one hour for each class meeting.

Grading Criteria /Policies: Final grade will be calculated based on term-end report (60%) and in-class contribution (including your attitude to after-class tasks)(40%) .

PHL300BB

哲学特講（8）－2／科学哲学Ⅱ

中釜 浩一

授業コード：A2227, A3673 | 曜日・時限：月 2/Mon.2

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2～4 年

備考（履修条件等）：心理学科生は「科学哲学Ⅱ」として履修。

その他属性：〈優〉

Learning Objectives: To acquire a deeper understanding of nature and functions of language and to learn more about methods of analytical philosophy.

Learning activities outside of classroom: After each class meeting, students are expected to spend four hours to understand the content and to write a short paper concerning the subject.

Grading Criteria: short reports: 70%, term-end report: 30%

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テーマ：言語哲学の展開

言語が哲学の問題になるのは、言語が人間の「心の構造」を写し出すものだからである。たとえ「言葉にならない思い」が存在するとしても、その「思い」の正体を自分自身で正しく理解できるようになるためには、まずは言語化される必要がある。言語は思考・知識・信念・感情など、人間の心の働きすべてに関わり、単なるコミュニケーション手段である以上に、人間の心を形成する中心的な要素である。したがって、その働きを知ることは、人間の心そのものを知ることもある。この講義では、20世紀以降に革命的に発展した言語に対するアプローチを解説し、言語と心の問題を考えるための基本的素材を与える。

【到達目標】

フレーゲ・ラッセル・タルスキらの言語に関する考え方の革新性を理解し、心の問題を含む哲学的諸問題に対する言語哲学的アプローチの方法を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

講義とそれに対する学生からの疑問・質問、およびその解説によって議論を進める。

毎回小課題を課し、次回授業の冒頭で前回の小課題の解説し、質問や疑問に解答する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	導入	20世紀の言語哲学の革新性
第2回	フレーゲの言語哲学（1）	意味と意義
第3回	フレーゲの言語哲学（2）	概念と関数
第4回	フレーゲの言語哲学（3）	思想と意義
第5回	フレーゲの言語哲学（4）	論理的意味論の展開
第6回	ラッセルの言語哲学（1）	記述の謎
第7回	ラッセルの言語哲学（2）	ラッセルの記述理論
第8回	ラッセルの言語哲学（3）	論理形式と文法形式
第9回	ラッセルの言語哲学（4）	ストローソンの批判と語用論
第10回	タルスキーと真理の問題	真理に関する代表的な考え方（1）
第11回	タルスキーと真理の問題	タルスキーの真理の定義（2）
第12回	タルスキーと真理の問題	嘘つきパラドクス（3）
第13回	タルスキーと真理の問題	タルスキーへの批判（4）
第14回	まとめ	20世紀の言語哲学

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業後に課された小課題を Hoppii 上で提出する。

言語哲学の種々の参考書を読んでおく。

本講義の予習復習時間は、授業ノートの整理・課題の執筆・参考文献の読解を合わせて毎回 4 時間程度を標準とする。

【テキスト（教科書）】

使用しない。

【参考書】

フレーゲ、ラッセル、タルスキの諸著作

飯田隆、言語哲学大全 1～IV 勁草書房

K. Taylor, Truth and Meaning, Blackwell

【成績評価の方法と基準】

毎回の小課題の提出 70%、期末レポート 30%

【学生の意見等からの気づき】

小レポートの課題を工夫して授業内容をより反映させたものとし、また解説を充実させる。

【Outline (in English)】

Course outline: This course introduces philosophies of language since the beginning of 20th century.

LIT300BC

日本文芸批評史 A

伊東 祐吏

授業コード：A2553 | 曜日・時限：金 4/Fri.4

春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本の近代文学における文芸批評の歴史を、個々の文芸評論家の文章と批評自体の流れから概観します。

【到達目標】

近代文学における批評の役割を理解すること。
日本の近代文学史を相対化する視点を手に入れること。
自らのうちに一つの批評眼を確立すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

講義と発表を組み合わせて進めます。
講義では、評論文を読みながら、文学史における批評の流れについて解説します。
発表では、課題を出し、自分の考えや解釈を述べたり、文章を書いてもらったりします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	日本の近代文学の概説	前史と西洋近代文学の影響
第2回	批評とは何か	その特徴について
第3回	坪内逍遙と二葉亭四迷	日本の近代文学のはじまり
第4回	尾崎紅葉と幸田露伴	その後の文学の展開
第5回	森鷗外の評論	坪内逍遙との論争
第6回	北村透谷の批評	山路愛山との論争
第7回	高山樗牛	彼の作品の若者への影響について
第8回	斎藤緑雨の箴言	風刺と皮肉の効用
第9回	正岡子規の歌論	短歌・俳句と写生文
第10回	自然主義の誕生	国木田独步、島崎藤村、田山花袋
第11回	言文一致運動	その過程の論争
第12回	反自然主義	自然主義と違う立場の作家
第13回	平塚雷鳥と与謝野晶子	女性解放運動をめぐる批評
第14回	大逆事件	石川啄木の評論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日本近代文学史についての専門的知識は特に必要ありませんが、自分のテーマや目標に応じて、授業でとりあげる作家や評論家の作品を読むことが望まれます。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

千葉俊二／坪内祐三編『日本近代文学評論選』[明治・大正篇]および[昭和篇]（岩波文庫）。（ただし、入手困難のため、毎回プリントを配布します。）

【参考書】

必要に応じて授業で指示します。

【成績評価の方法と基準】

成績は平常点5割、発表（課題）5割で、総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

アクティブラーニングの時間をなるべく増やします

【Outline (in English)】

Acquire an overview of the history of literary criticism in the Japanese modern literature through the writings of each critic and the stream of criticism.

Course Outline: This course provides an overview of the history of literary criticism in modern Japanese literature, in terms of both the writings of individual literary critics and the criticism itself.

Learning Objectives: Students who successfully complete this course will: 1. understand the role of criticism in modern literature; 2. gain a relative perspective on the history of modern Japanese literature; and 3. develop their own critical eye.

Learning Activities Outside of the Classroom: Although specialized knowledge of the history of modern Japanese literature is not required, students are encouraged to read the works of authors and critics discussed in class according to their own interests and goals.

Grading Criteria/Policy: Grades will be based on a comprehensive evaluation, with 50% for regular work and 50% for presentations (assignments).

LIT300BC

日本文芸批評史 B

伊東 祐吏

授業コード：A2555 | 曜日・時限：金 4/Fri.4

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2～4 年

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本の近代文学における文芸批評の歴史を、個々の文芸評論家の文章と批評自体の流れから概観します。

【到達目標】

近代文学における批評の役割を理解すること。
日本の近代文学史を相対化する視点を手に入れること。
自らのうちに一つの批評眼を確立すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

講義と発表を組み合わせて進めます。
講義では、評論文を読みながら、文学史における批評の流れについて解説します。
発表では、課題を出し、自分の考えや解釈を述べたり、文章を書いてもらったりします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	大正・昭和期の文学の概説	20 世紀の欧米文学との比較
第 2 回	夏目漱石の批評	文明批評について
第 3 回	和歌と漢文	日本人の文化的喪失について
第 4 回	白樺派	武者小路実篤の作品と批評
第 5 回	佐藤春夫と印象批評	菊池寛との論争
第 6 回	谷崎潤一郎と芥川龍之介	純文学と通俗小説に関する論争
第 7 回	プロレタリア文学と新感覺派	関東大震災後の新たな潮流
第 8 回	小林秀雄の登場	日本における近代文芸批評の確立
第 9 回	戦時下の文学と言論	日本浪漫派と文学報国会
第 10 回	敗戦と占領下の批評	終戦直後の状況について
第 11 回	坂口安吾と太宰治	無頼派の批評や作品について
第 12 回	「政治と文学」論争	「近代文学」と中野重治の論争
第 13 回	吉本隆明と江藤淳	戦後を代表する左派と右派の思想
第 14 回	ポストモダンとニューアカデミズム	柄谷行人の批評

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日本近代文学史についての専門的知識は特に必要ありませんが、自分のテーマや目標に応じて、授業でとりあげる作家や評論家の作品を読むことが望まれます。本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

千葉俊二／坪内祐三編『日本近代文学評論選』[明治・大正篇] および [昭和篇] (岩波文庫)。(ただし、入手困難のため、毎回プリントを配布します。)

【参考書】

必要に応じて授業で指示します。

【成績評価の方法と基準】

成績は平常点 5 割、発表（課題）5 割で、総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

アクティブラーニングの時間をなるべく増やします

【Outline (in English)】

Acquire an overview of the history of literary criticism in the Japanese modern literature through the writings of each critic and the stream of criticism.

Course Outline: This course provides an overview of the history of literary criticism in modern Japanese literature, in terms of both the writings of individual literary critics and the criticism itself.

Learning Objectives: Students who successfully complete this course will: 1. understand the role of criticism in modern literature; 2. gain a relative perspective on the history of modern Japanese literature; and 3. develop their own critical eye.

Learning Activities Outside of the Classroom: Although specialized knowledge of the history of modern Japanese literature is not required, students are encouraged to read the works of authors and critics discussed in class according to their own interests and goals.

Grading Criteria/Policy: Grades will be based on a comprehensive evaluation, with 50% for regular work and 50% for presentations (assignments).

LIT300BC

日本語学特殊研究 A

間宮 厚司

夜間時間帯

授業コード：A2558 | 曜日・時限：木 5/Thu.5

春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：2~4 年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、上代・中古・中世における日本の文学作品について、言語学的に考え、正しく解釈する方法を学ぶことを目的にします。

【到達目標】

文学作品を成り立たせている日本語そのものを研究対象にして、時代を問わず、様々な視点から自分なりの論を立てられるようになるための授業です。卒業論文の作成に役立つ知識やスキルを身につけることが、到達目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

まず、文学作品の言語表現の問題点について説明します。それから受講生全員に共通の課題を出し、次の授業で一人ずつ全員に報告してもらい、質疑応答を行います。そして、節目節目でレポートを提出する形で進めます。提出されたレポートは次の時間に紹介し、質問にも答えます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業内容・受講の仕方・成績評価等についての説明
第 2 回	上代文学作品の言語表現研究（1）	問題となる言語表現の説明と次回の課題
第 3 回	上代文学作品の言語表現研究（2）	課題の報告・質疑応答・次回の課題
第 4 回	上代文学作品の言語表現研究（3）	課題の報告・質疑応答・次回レポートの説明
第 5 回	上代文学作品の言語表現研究（4）	レポート提出と総括
第 6 回	中古文学作品の言語表現研究（1）	問題となる言語表現の説明と次回の課題
第 7 回	中古文学作品の言語表現研究（2）	課題の報告・質疑応答・次回の課題
第 8 回	中古文学作品の言語表現研究（3）	課題の報告・質疑応答・次回レポートの説明
第 9 回	中古文学作品の言語表現研究（4）	レポート提出と総括
第 10 回	中世文学作品の言語表現研究（1）	問題となる言語表現の説明と次回の課題
第 11 回	中世文学作品の言語表現研究（2）	課題の報告・質疑応答・次回の課題
第 12 回	中世文学作品の言語表現研究（3）	課題の報告・質疑応答・次回レポートの説明
第 13 回	中世文学作品の言語表現研究（4）	レポート提出と総括
第 14 回	まとめ	春学期の授業の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

図書館を大いに活用し、必要に応じて相談に来て下さい。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは指定しません。

【参考書】

参考書は研究テーマにそって、そのつど提示します。

【成績評価の方法と基準】

課題報告の内容（30%）・質疑応答の発言（20%）・レポート（50%）を勘案して、総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

レポートの課題が良いと思いました。

【Outline (in English)】

Course Outline: This course is an interactive lecture about the issues of Japanese language studies.

Learning Objectives: The goal is to focus on the Japanese language as the basic element of literary works, in order to propose theories about it from a variety of perspectives and with no limit as to historical period; this semester deals with works of the ancient and medieval periods. By doing so, students acquire the skills and knowledge necessary for writing their graduation thesis.

Learning Activities Outside of the Classroom: In addition to using the library for study, students should visit the instructor's office for consultation if needed. As preparation and review of each class, students will be expected to spend about 2 hours to understand the course content.

Grading Criteria/Policy: Your overall grade in the class will be decided based on the following: short oral presentations (30%); in-class contribution (20%); and written reports (50%).

LIT300BC

日本語学特殊研究 B

間宮 厚司

夜間時間帯

授業コード：A2560 | 曜日・時限：木 5/Thu.5

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2～4 年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、近世・近代・現代における日本の文学作品について、言語学的に考え、正しく解釈する方法を学ぶことを目的にします。

【到達目標】

文学作品を成り立たせている日本語そのものを研究対象にして、時代を問わず、様々な視点から自分なりの論を立てられるようになるための授業です。卒業論文の作成に役立つ知識やスキルを身につけることが、到達目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

まず、文学作品の言語表現の問題点について説明します。それから受講生全員に共通の課題を出し、次の授業で一人ずつ全員に報告してもらい、質疑応答を行います。そして、節目節目でレポートを提出する形で進めます。提出されたレポートは次の時間に紹介し、質問にも答えます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業内容・受講の仕方・成績評価等についての説明
第 2 回	近世文学作品の言語表現研究（1）	問題となる言語表現の説明と次回の課題
第 3 回	近世文学作品の言語表現研究（2）	課題の報告・質疑応答・次回の課題
第 4 回	近世文学作品の言語表現研究（3）	課題の報告・質疑応答・次回レポートの説明
第 5 回	近世文学作品の言語表現研究（4）	レポート提出と総括
第 6 回	近代文学作品の言語表現研究（1）	問題となる言語表現の説明と次回の課題
第 7 回	近代文学作品の言語表現研究（2）	課題の報告・質疑応答・次回の課題
第 8 回	近代文学作品の言語表現研究（3）	課題の報告・質疑応答・次回レポートの説明
第 9 回	近代文学作品の言語表現研究（4）	レポート提出と総括
第 10 回	現代文学作品の言語表現研究（1）	問題となる言語表現の説明と次回の課題
第 11 回	現代文学作品の言語表現研究（2）	課題の報告・質疑応答・次回の課題
第 12 回	現代文学作品の言語表現研究（3）	課題の報告・質疑応答・次回レポートの説明
第 13 回	現代文学作品の言語表現研究（4）	レポート提出と総括
第 14 回	まとめ	秋学期の授業の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

図書館を大いに活用し、必要に応じて相談に来て下さい。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは指定しません。

【参考書】

参考書は研究テーマにそって、そのつど提示します。

【成績評価の方法と基準】

課題報告の内容（30%）・質疑応答の発言（20%）・レポート（50%）を勘案して、総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

改善してほしいところは特にありません。

【Outline (in English)】

Course Outline: This course is an interactive lecture about the issues of Japanese language studies.

Learning Objectives: The goal is to focus on the Japanese language as the basic element of literary works, in order to propose theories about it from a variety of perspectives and with no limit as to historical period; this semester deals with works of the early modern to contemporary periods. By doing so, students acquire the skills and knowledge necessary for writing their graduation thesis.

Learning Activities Outside of the Classroom: In addition to using the library for study, students should visit the instructor's office for consultation if needed. As preparation and review of each class, students will be expected to spend about 2 hours to understand the course content.

Grading Criteria/Policy: Your overall grade in the class will be decided based on the following: short oral presentations (30%); in-class contribution (20%); and written reports (50%).

LIT200BC

中国文芸史 A

遠藤 星希

授業コード：A2561 | 曜日・時限：木 2/Thu.2
春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：2～4 年

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

【先秦・漢・魏・晋・南北朝文芸史】

中国文芸史における時代区分のうち、最も古い先秦・漢・魏・晋・南北朝時代（すなわち唐より前の時代）の文芸及びその土壌となった社会背景について講義をする。中国の古典文学といえば、おそらく唐詩（李白や杜甫、白居易などの詩）が日本にとって最も馴染み深いものの一つといえるだろうが、その唐詩を生み出す源泉となった唐より前の時代の文芸がどのようなものであったのかを学ぶ。

【到達目標】

先秦時代から南北朝時代までの文芸史のアウトラインを理解すること。また、各時代の代表的な文学作品を読解することを通して、中国文芸の様々なジャンルについて広く学び、同時に作品の背景にある中国文化や民間習俗、日本文化との違いについても確認すること。加えて、中国の古い文献を読解したり探したりする際に利用すべき基本資料を把握することなどを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

毎回設定されたテーマに即して講義形式で授業を行う。テーマは原則として時代順に設定されている。各テーマに関連する作品や資料のプリントを毎回配布し、それらを参照しながら解説を加える。漢文で書かれた作品や資料には原則として現代日本語訳を用意するが、原文の読解が比較的容易な資料については、書き下し文のみのこともある。必要に応じてプロジェクターとスライドを使用し、画像や動画を映すこともある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	中国古典文学についての概説
第 2 回	中国神話	中国の古代神話とその特徴について
第 3 回	詩経	中国最古の歌謡集である「詩経」の歌謡を読む
第 4 回	楚辞	戦国時代の楚の地方で発祥した韻文『楚辞』の諸篇を読む
第 5 回	諸子百家	戦国時代の諸子百家の思想書を読む
第 6 回	漢代の楽府	「楽府」と呼ばれる民間歌謡を読む
第 7 回	漢代の賦と『史記』	漢代に盛行した「賦」と呼ばれる文学ジャンルと司馬遷の『史記』から、漢代の人々の世界観をさぐる
第 8 回	漢代の古詩	漢代に発祥した五言詩を読む
第 9 回	西晋の文学（1）	西晋の代表的文人である潘岳の悼亡詩を読む
第 10 回	西晋の文学（2）	西晋の左思が自分の娘を詠んだ「嬌女の詩」を読む
第 11 回	六朝志怪小説（1）	六朝時代に数多く記された怪異譚「志怪小説」についての概説
第 12 回	六朝志怪小説（2）	志怪小説中に見える異類婚姻譚を読む
第 13 回	陶淵明の詩賦と南朝の艶詩	東晋の陶淵明の作品と、南朝で流行した「艶詩」と呼ばれるジャンルの詩を読む
第 14 回	南朝の民歌	南朝の民間歌謡に見える恋の歌を読む

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業のテーマと内容について、授業前にあらかじめ参考書に目を通して大まかなイメージを掴んでおく。時間がなければ、インターネットの検索サイトを利用して、授業のテーマに関連するサイトをなるべく多く閲覧しておく。授業中にプロジェクターで映したスライド資料は、電子ファイル化されたものが学習支援システムにアップロードされるので、毎回授業後にダウンロードし、配布資料と合わせて復習することで内容を記憶に定着させる。本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキスト（教科書）は使用しない。担当教員が作成した印刷物を授業開始時に配布する。

【参考書】

・前野直彬編『中国文学史』（東京大学出版会、1975 年）
・松原朗・佐藤浩一・児島弘一郎著『教養のための中国古典文学史』（研文出版、2009 年）
その他、適宜授業中に指示する。

【成績評価の方法と基準】

100 % 学期末試験（筆記）の結果に基づいて評価する。試験の際の持ち込み・参照は不可。

【学生の意見等からの気づき】

授業中に眠ってしまう学生が毎回確認できたので、講義形式とはいえ、一方的に話すだけではなく、授業中に学生に質問して回答やコメントを求めるなど、なるべく双方向的な授業になるように工夫をする予定である。

【その他の重要事項】

・毎回、出席調査票を用いて出席をとる予定。
・授業日数の 3 分の 2 以上の出席がないと、原則として学期末試験の受験資格を失う。なお、出席に関する個別の問い合わせには応じないので、欠席回数を受講者が各自で記録し、把握しておくこと。
・授業の進み具合によっては、事前に受講者に説明をした上で、講義内容の一部変更する可能性がある。

【Outline (in English)】

Course Outline: Amongst other periods in the history of Chinese literature, this lecture course will focus on the literature and the underlying social background of the most ancient periods, from Pre-Qin to Han, Wei, Jin, and Northern and Southern dynasties (i.e., periods before the Tang dynasty). As far as Chinese classical literature goes, Tang poetry (the poetry of Li Bai, Du Fu and Bai Juyi) is arguably one of the most familiar genres for the Japanese, and in this course we will learn about the characteristics of literature of periods prior to the Tang dynasty, which formed the foundation for the creation of Tang poetry.

Learning Objectives: By the end of the course, students will:

- understand the outline of the history of literature from the Pre-Qin Dynasty to the Northern and Southern Dynasties;
- have knowledge of the various genres of Chinese literature through reading representative literary works of each period, and at the same time understand the background of Chinese culture, folk customs, and differences with Japanese culture; and
- have acquired the basic skills necessary to read and comprehend Chinese materials.

Learning Activities Outside of the Classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading Criteria/Policy: Term-end examination (100%)

LIT200BC

中国文芸史 B

遠藤 星希

授業コード：A2563 | 曜日・時限：木 2/Thu.2
 秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2～4 年

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

【唐代文芸史】

中国文芸史における時代区分のうち、日本文学への影響力がとりわけ強かった唐代の文芸及びその土壌となった社会背景について講義をする。中国の古典文学といえば、おそらく唐詩（李白・杜甫・白居易などの詩）が日本にとって最も馴染み深いものの一つといえるだろうが、唐代の文芸ジャンルは詩だけではなく、「伝奇」と呼ばれる小説や韓愈・柳宗元らの散文も文芸史上において重要な意義を持っている。本授業では、唐代各期の様々なジャンルの文学作品を講義することを通して、唐代に書かれた詩や小説・散文の多様性、現代にも通じるその芸術性及び現代では理解しがたい特殊性などについて、幅広い知識を習得する。

【到達目標】

唐代文芸史のアウトラインを理解すること。また、唐詩の形式的特徴（絶句・律詩など）や内容的特徴（辺塞詩・閨怨詩・送別詩など）及び唐代に書かれた小説や散文の特徴について、具体例に即して人に説明できるようになること。加えて、中国の古い文献を読解したり探したりする際に利用すべき基本資料を把握することなどを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

毎回設定されたテーマに即して講義形式で授業を行う。各テーマに関連する作品や資料のプリントを毎回配布し、それらを参照しながら解説を加える。漢文で書かれた作品や資料には原則として現代日本語訳を用意するが、原文の読解が比較的容易な資料については、書き下し文のみのこともある。必要に応じてプロジェクターとスライドを使用し、画像や動画を映すこともある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス（1）	唐代文学についての概説
第 2 回	ガイダンス（2）	中国古典詩における諸々の規則についての概説
第 3 回	初唐の詩	初唐の代表的な詩人の作品を読む
第 4 回	辺塞詩	辺境地帯の風物や出征兵士の嘆きを詠じた「辺塞詩」というジャンルの詩について
第 5 回	閨怨詩	愛の喪失を嘆く女性の姿を詠じた「閨怨詩」というジャンルの詩について
第 6 回	盛唐の詩（1）	中国を代表する詩人であり、「詩仙」とも呼ばれる李白の詩を読む
第 7 回	盛唐の詩（2）	中国を代表する詩人であり、「詩聖」とも呼ばれる杜甫の詩を読む
第 8 回	唐代伝奇小説（1）	唐代に書かれた「伝奇」と呼ばれる短編小説についての概説
第 9 回	唐代伝奇小説（2）	中国では散逸し、日本に渡って生き残った伝奇「遊仙窟」を読む
第 10 回	唐代伝奇小説（3）	中島敦「山月記」の粉本として知られる伝奇「李徴」を読む
第 11 回	唐代伝奇小説（4）	芥川龍之介による翻案で知られる伝奇「杜子春」を読む
第 12 回	中唐の詩	中唐の代表的な詩人である韓愈・柳宗元・李賀の詩を読む
第 13 回	唐代古文運動	中唐に勃興した古文復興運動について概説し、あわせて韓愈と柳宗元の散文を読む
第 14 回	晩唐の詩	晩唐期の代表的な詩人である杜牧と李商隱の詩を読む

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業のテーマと内容について、授業前にあらかじめ参考書に目を通して大まかなイメージを掴んでおく。時間がなければ、インターネットの検索サイトを利用して、授業のテーマに関連するサイトをなるべく多く閲覧しておく。授業中にプロジェクターで映したスライド資料は、電子ファイル化されたものが学習支援システムにアップロードされるので、毎回授業後にダウンロードし、配布資料と合わせて復習することで内容を記憶に定着させる。本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキスト（教科書）は使用しない。担当教員が作成した印刷物を授業開始時に配布する。

【参考書】

・前野直彬編『中国文学史』（東京大学出版会、1975 年）
 ・小川環樹著『唐詩概説』（岩波文庫、2005 年）
 ・松原朗・佐藤浩一・児島弘一郎著『教養のための中国古典文学史』（研文出版、2009 年）
 その他、適宜授業中に指示する。

【成績評価の方法と基準】

100 % 学期末試験（筆記）の結果に基づいて評価する。試験の際の持ち込み・参照は不可。

【学生の意見等からの気づき】

授業中に眠ってしまう学生が毎回確認できたので、講義形式とはいえ、一方的に話すだけではなく、授業中に学生に質問して回答やコメントを求めるなど、なるべく双方向的な授業になるように工夫をする予定である。

【その他の重要事項】

・毎回、出席調査票を用いて出席をとる予定。
 ・授業日数の 3 分の 2 以上の出席がないと、原則として学期末試験の受験資格を失う。なお、出席に関する個別の問い合わせには応じないので、欠席回数を受講者が各自で記録し、把握しておくこと。
 ・授業の進み具合によっては、事前に受講者に説明をした上で、講義内容の一部変更する可能性がある。

【Outline (in English)】

Course Outline: Amongst other periods in the history of Chinese literature, this lecture course will be focus on the literature and the underlying social background during the Tang dynasty, when there was a particularly strong influence on Japanese literature. As far as Chinese classical literature goes, Tang poetry (the poetry of Li Bai, Du Fu and Bai Juyi) is arguably one of the most familiar genres for the Japanese. Poetry, however, was not the only literary genre of the Tang, and novels called *chuan-qi* as well as the prose of Han Yu and Liu Zongyuan are particularly noteworthy in the history of Chinese literature. In this course, through reading literary works of various genres from each period during the Tang, we will attain broad knowledge of the diversity of poetry, novels and prose written during the Tang dynasty, their artistry that can be appreciated today, as well as peculiarities that are difficult to understand today.

Learning Objectives: By the end of the course, students will:

A. understanding the outline of Tang-Dynasty literary history;
 B. understand the form and content of Tang poetry and the characteristics of novels and prose written in the Tang Dynasty; and
 C. have acquired the basic skills necessary to read and comprehend Chinese materials.

Learning Activities Outside of the Classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading Criteria/Policy: Term-end examination (100%)

LIT300BC

書誌学

山口 恭子

夜間時間帯

授業コード：A2566 | 曜日・時限：火 5/Tue.5

春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：2~4 年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

・授業の概要

本授業では、書誌学の基礎を講ずるとともに、くずし字解読を行い、翻刻の基礎力を養います。

書誌学とは、「本」そのものを研究対象とする学問です。本の形態や歴史、料紙や出版書肆など幅広く精査し、それを踏まえてその本の作成年代や流通などについて追究することを目的とします。本授業では、とくに日本の江戸時代までの本を対象とし、書物の装訂や素材、出版の展開など、書誌学の基礎的なことについて講義します。

・授業の目的

日本古典籍書誌学の基礎を学ぶことを目的とします。本にまつわる様々な文化、およびそれを作りあげた人々の知の世界をともに眺めてゆきましょう。書誌学を学び和本の知識をもつことは、将来、学芸員や司書、その他、本や文化財に携わりたいというかたにおおいに役立ちます。

【到達目標】

・「書誌学」の概念を知る。

・日本古典籍書誌学の基礎的事項、とくに江戸時代までの写本と版本の特徴や歴史、本にまつわる文化について理解し、かつそれらを的確に説明することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

・授業各回において、まず書誌学的な調査研究に欠くことのできない基本的なくずし字の解読（翻刻）作業を行います。次いで、日本古典籍書誌学の基礎的事項を講義してゆきます。

・くずし字については写本・版本の教材（和歌等）を皆で翻刻してゆく時間を設けます。書誌学についてはパワーポイント資料や配布プリントをもとに進めます。

・毎時、リアクションペーパーを提出していただきます。次回授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行ってゆきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	・「書誌学」という学問の概要や目的について ・くずし字の基礎について ・授業計画について
第 2 回	装訂の様々	・卷子本から冊子本に至る、書物の主な装訂と発展について
第 3 回	写本の姿 (1)	・写本に関する様々な用語の意味と使い方について
第 4 回	写本の姿 (2)	・転写本における「写す」方法と特徴について
第 5 回	古筆切と手鑑	・古筆切の種類と特徴、および手鑑の歴史について
第 6 回	料紙について (1)	・紙の歴史、および和紙の材料と製法について
第 7 回	料紙について (2)	・日本の加工料紙、とくに平安時代の料紙装飾について
第 8 回	版本の歴史 (1)	・版本の種類に関する概説
第 9 回	版本の歴史 (2)	・中世までの印刷の歴史について ・キリシタン版について
第 10 回	版本の歴史 (3)	・古活字版の特徴と種類について ・古活字版から整版本への移行について
第 11 回	江戸時代の本屋について	・書肆（本屋）の始まりと展開について
第 12 回	本の顔かたち (1)	・本の構成要素、とくに、「表紙」「外題」のバリエーションについて
第 13 回	本の顔かたち (2)	・本の構成要素、とくに、「内題」「奥付」「刊記」について ・前回の講義内容とあわせ、書物の特徴を理解するための観点について講ずる
第 14 回	まとめ	半期の授業のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・参考文献や授業資料に予め目を通し、授業に臨みましょう。
- ・随時配布される復習用プリントをもとに復習に努めましょう。
- ・本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

くずし字の翻刻のために笠間影印叢刊刊行会編『字典かな』（笠間書院）を用意すること（他社の字典をすでにお持ちであればそれを使用して構いません）。書誌学に関してはテキストを定めず、配布プリントを用います。

【参考書】

- ・廣庭基介・長友千代治『日本書誌学を学ぶ人のために』（世界思想社、1998年）
 - ・『日本古典籍書誌学辞典』（岩波書店、1999年）
 - ・橋口侯之介『和本入門』・『続和本入門』（平凡社、2005年・2007年）
 - ・堀川貴司『書誌学入門』（勉誠出版、2010年）
- このほか、授業時に提示します。

【成績評価の方法と基準】

期末試験の成績（80%）に、平常点（20%）を加味して評価します。期末試験は筆記試験とし、書誌学という学問の意味を理解したか、そして、授業において講じた書誌学の基本事項を理解したかを主な評価基準とします。後者には、書誌学的事項を正しく説明できるかについての評価も含まれます。

【学生の意見等からの気づき】

実際の古典籍を多く見せたり、現代の書物・出版物との関連を示すなどすることで、学習のモチベーションを高める工夫をしたいと考えています。

【Outline (in English)】

Course Outline: *Shoshigaku* ("bibliography") is the study of books. This course deals with the basic concepts of bibliography.

Learning Objectives: The purposes of this course are as follows:

- (1) to master basic knowledge of classical Japanese bibliography
- (2) to understand the culture of books

Learning Activities Outside of the Classroom: Before and after each class meeting, students are expected to spend two hours understanding the content of the course.

Grading Criteria/Policy: The overall grade of the class will be determined based on: final exam (80%); performance in class (20%).

LIT300BC

メディアと社会

中沢 けい

夜間時間帯

授業コード：A2568 | 曜日・時限：火 5/Tue.5

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2～4 年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

文芸創作は社会から孤立した営為ではありません。文芸作品は社会の中に置かれています。この講義では、社会の中に置かれた文芸創作、文章表現などがどのような問題性をもっているのかを学んでもらいます。同時に創作とは何か？表現とは何か？という根本的な問題を現実の事例を通して、受講生ひとりひとりに考察してもらうことが目標になります。

Relationship between media and society

【到達目標】

社会的制度から創作とは何をか考えるのが目的です。また情報技術の変化がメディアにもたらす変化についても考察する手がかりを得てください。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

オムニバス形式です。講師にはそれぞれの分野の第一線で活躍している先生方をお招きしています。授業時にはコメント付きの出席をとります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	この授業のねらいについてお話しします。(中沢けい)
第 2 回	知的財産権の捉え方 1	1冊の本には多様な著作権者の権利が交错しています。
第 3 回	同上	内藤裕之講師（元講談社文芸局長）
第 4 回	海外の著作権取得について	翻訳書を作る時、海外から著作権を取得します。それはどのような作業なのでしょうか。
第 5 回	同上	山口和人講師（元講談社文芸局勤務）
第 6 回	文化を報道する	文化を報道するとはどういう意味を持つのかを考えます。
第 7 回	同上	鶴飼哲夫講師（読売編集委員）
第 8 回	編集とはどのような仕事か	編集をいうものが持つ意味を広い視野で捉えます
第 9 回	同上	仲俣暁生（編集者）
第 10 回	ノンフィクションの現在	ノンフィクションの意味。現在のノンフィクションについて考えます。
第 11 回	同上	安田浩一（ノンフィクション作家）
第 12 回	建築と文学の空間創造	文学と建築、この一見、異なる世界の繋がりを考えてみましょう。
第 13 回	建築と文学の空間創造	鈴木隆之（建築家、小説家）
第 14 回	現代社会と表現の相克	中沢けい まとめの講義とともに受講生の意見交換をいたします。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

第一線で御活躍の講師の先生をお招きしてお話をお聞きます。講師の御著作を紹介いたしますので、読んでおくようにしてください。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業時にそれぞれの講師からプリントが配布されます。プリントはレポートで使用しますのでファイルしておいて下さい。

【参考書】

講師から提示されます。

【成績評価の方法と基準】

「配分 (%)」：レポート 30 % 平常点 70 %

「評価基準」：積極的な授業参加と洞察力に富んだレポート内容。

【学生の意見等からの気づき】

現在、起きていることについて具体的な講義を聞くのがこの授業の目的ですから、新聞報道などに多く目を通し、感覚を磨くようにしておくことが重要になります。

【学生が準備すべき機器他】

特にありません。

【その他の重要事項】

授業計画補足：ご都合などにより講義の順番が変更されることがありますのでご注意ください。

中沢けい

小説家。1978 年「海を感じる時」で第 21 回群像新人賞受賞。1985 年「水平線上にて」で第 6 回野間新人賞受賞。小説、評論、エッセイなどを執筆。

【Outline (in English)】

Course Outline: Literary creation is not an activity isolated from society; on the contrary, literary works are situated within society. In this course, students will learn about the issues involved in literary creation and written expression in society.

Learning Objectives: The objective is to consider what creation means from the perspective of social systems and institutions. The course will also provide hints for considering the changes that shifts in information technology are bringing to the media.

Learning Activities Outside of the Classroom: We will invite lecturers who are active in the forefront of the field to speak to us. Please be sure to read the lecturers' publications. Standard preparation and review time for each class is 2 hours each.

Grading Criteria/Policy: Performance in class (70%); report (30%). The criteria are active class participation and insightful report content.

ART300BC

音楽芸能史特殊研究 A

野川 美穂子

授業コード：A2569 | 曜日・時限：水 3/Wed.3

春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：2～4 年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

近世以降に発展した芸能のうち、「三曲」と呼ばれる種目の特徴と魅力を学びます。

【到達目標】

音楽を中心に、近世以降に発展した芸能（とくに「三曲」）への関心を広げること、そのための基本的な知識（歴史、特徴）を身につけることを到達目標とします。

The goals of this course are to expand interest in music and performing arts that have developed since the early modern period, and to acquire basic knowledge of their history and characteristics.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

近世以降の日本の芸能を対象に、歴史、音楽と詞章の特徴、演劇や舞踊との関連、享受する人間の身分や階層など、さまざまな側面から概観します。春学期（A2569）と秋学期（A2571）の授業は個別に履修可能ですが、内容的には関連します。

春学期には、お稽古事の対象として普及し、音楽のみで楽しめることの多い「三曲」（地歌、箏曲、尺八楽、胡弓楽）をとりあげます。まずは「三曲」に使われる楽器を紹介し、続いて、それらの音色を生かし、歌としての魅力にも富む多彩な作品を紹介します。知識としてではなく、目で耳で感じ取ることができるよう、多くの視聴覚教材を使います。なお、「三曲」の大正時代以降の状況については、秋学期の授業で紹介いたします。

毎授業の最初に、前回の授業で提出されたリアクションペーパーのコメントや質問にもとづいて、フィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス。 近世芸能の概観。	講義内容の説明。近世に発展した音楽 芸能の特徴。
第 2 回	三曲とは何か。 三曲に使う楽器。	三曲の伝承者の特徴。三曲に使う楽器 (箏、三味線、尺八、胡弓) の特徴。絹 糸弦の製作方法。
第 3 回	三味線の伝来。 地歌の歴史と特徴①	三味線伝来の経緯。伝承の基本となっ た三味線組歌と長歌物。
第 4 回	地歌の歴史と特徴②	叙情性に満ちた端歌物。
第 5 回	地歌の歴史と特徴③	音色の重なりと緩急の変化が楽しい手 事物。
第 6 回	地歌の歴史と特徴④	芝居の一場面を歌う浄瑠璃物と滑稽な 物語を歌う作物。
第 7 回	箏曲の歴史と特徴①	箏の製作方法。箏曲の誕生。
第 8 回	箏曲の歴史と特徴②	伝承の基本となった箏組歌。器楽曲で ある段物のルーツ。
第 9 回	箏曲の歴史と特徴③	段物の魅力。美しい響きの幕末新箏曲。
第 10 回	箏曲の歴史と特徴④	江戸で人気を得た山田流箏曲。
第 11 回	尺八楽の歴史と特徴①	尺八の歴史のなぞ。尺八本曲の魅力。
第 12 回	尺八楽の歴史と特徴② 胡弓楽の歴史と特徴。	尺八本曲の魅力。 胡弓の歴史のなぞと胡弓曲の魅力。
第 13 回	明治時代の三曲。	明治時代の演奏会の特徴。明治新曲に ついて。
第 14 回	他の種目との関連。	文楽や歌舞伎に登場する地歌・箏曲。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業時に紹介される作品を、自身の感性を研ぎ澄まし、自分なりに受けとめる姿勢が基本です。授業前の予習はとくに必要ありません。授業後には、配布資料を整理し、それぞれの作品の歴史的背景や特徴を復習して、次回の授業に備えます。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。Before and after each class, students are expected to spend four hours understanding the course content and organizing the materials.

【テキスト（教科書）】

教科書は使用せず、毎回、資料を配布します。

【参考書】

参考書は、授業時に随時紹介します。「三曲」の魅力を味わえる演奏会情報も紹介します。

【成績評価の方法と基準】

成績は、平常点 40 %、期末試験 60 %（配布資料とノートの持ち込み可）の比率で評価します。出席回数が授業総数の 3 分の 2 に満たない場合には、特別な理由がない限り、不可とします。

Your overall grade in the class will be decided based on the following: term-end examination (60%); in-class contribution (40%).

【学生の意見等からの気づき】

できるだけ具体的に、わかりやすく説明します。

【Outline (in English)】

Regarding the Japanese performing arts that developed after the early modern era, we will learn about the history, the characteristics of music and lyrics, the relation to theater and dance, the characteristics of experts and enthusiasts, and above all the music. In the spring semester, we mainly target music for the *koto*, *shamisen*, *shakuhachi* and *kokyū*.

The goals of this course are to expand interest in music and performing arts that have developed since the early modern period, and to acquire basic knowledge of their history and characteristics.

Before and after each class, students are expected to spend four hours understanding the course content and organizing the materials.

Your overall grade in the class will be decided based on the following: term-end examination (60%); in-class contribution (40%).

ART300BC

音楽芸能史特殊研究 B

野川 美穂子

授業コード：A2571 | 曜日・時限：水 3/Wed.3

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2～4 年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

近世以降に発展した芸能のうち、歌舞伎、文楽を中心に、それぞれの特徴と魅力を学びます。

【到達目標】

音楽を中心に、近世以降に発展した芸能（とくに歌舞伎と文楽）への関心を広げること、そのための基本的な知識（歴史、特徴）を身につけることを到達目標とします。

The goals of this course are to expand interest in music and performing arts that have developed since the early modern period, and to acquire basic knowledge of their history and characteristics.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

近世以降の日本の芸能を対象に、歴史、音楽と詞章の特徴、演劇や舞踊との関連、享受する人間の身分や階層など、さまざまな側面から概観します。春学期（A2569）と秋学期（A2571）の授業は個別に履修可能ですが、内容的には関連します。

秋学期には、舞踊や演劇との関連が強い文楽や歌舞伎をとりあげます。また、箏や尺八などを用いる「三曲」（春学期の授業内容）の大正時代以降の状況、歌舞伎の明治以降の状況を紹介し、音楽芸能の未来についても考えます。

多くの視聴覚教材を使って授業を進めます。教室内のプロジェクターによる鑑賞ではありますが、それぞれの芸能の魅力をじっくりと味わってもらいたいと思います。

毎授業の最初に、前回の授業で提出されたリアクションペーパーのコメントや質問にもとづいて、フィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス。近世の芸能。	講義内容の説明。近世に発展した音楽芸能の分類。
第 2 回	劇場で使われる楽器。	文楽や歌舞伎で使われる楽器の特徴。
第 3 回	文楽の歴史と特徴①	義太夫節の歴史。三業一体とは何か。
第 4 回	文楽の歴史と特徴②	文楽の名作の魅力。
第 5 回	歌舞伎の歴史と特徴①	歌舞伎の歴史。歌舞伎における音楽の役割。
第 6 回	歌舞伎の歴史と特徴②	歌舞伎の名作の魅力。
第 7 回	文楽と歌舞伎の比較。	同じ題材の作品で、文楽と歌舞伎の演出を比較する。
第 8 回	豊後系浄瑠璃。	歌舞伎舞踊を支える常磐津節と清元節の魅力。艶のある新内節の魅力。
第 9 回	他の種目との関連①	道成寺物の魅力。
第 10 回	長唄①	歌舞伎を支える長唄の魅力。
第 11 回	長唄②	長唄の多様性。
第 12 回	他の種目との関連②	石橋物の魅力。
第 13 回	近代・現代の三曲。	洋楽を取り入れた新日本音楽。多様性を見せる現代邦楽。
第 14 回	現代の歌舞伎。	現代劇の脚本家や演出家とのコラボレーションをはじめ、最新技術を駆使して新しい展開を見せる歌舞伎。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業時に紹介する作品を、自身の感性を生かし、自分なりに受けとめる姿勢が基本です。授業前の予習はとくに必要ありません。授業後には、配布資料を整理し、それぞれの作品の歴史的背景や特徴を復習して、次回の授業に備えます。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

Before and after each class, students are expected to spend four hours understanding the course content and organizing the materials.

【テキスト（教科書）】

教科書は使用せず、毎回、資料を配布します。

【参考書】

参考書は、必要に応じて、授業時に随時紹介します。文楽や歌舞伎の上演情報も紹介します。

【成績評価の方法と基準】

成績は、平常点 40 %、期末試験 60 %（配布資料とノートの持ち込み可）の比率で評価します。出席回数が授業総数の 3 分の 2 に満たない場合には、特別な理由がない限り、不可とします。

Your overall grade in the class will be decided based on the following: term-end examination (60%); in-class contribution (40%).

【学生の意見等からの気づき】

それぞれの作品の特徴をできるだけ具体的に説明します。

【Outline (in English)】

Regarding Japanese performing arts that developed after the early modern era, we will learn about the history, the characteristics of music and lyrics, the relation to theater and dance, the characteristics of experts and enthusiasts, and above all the music. In the fall semester, we mainly focus on *bunraku* and *kabuki*.

The goals of this course are to expand interest in music and performing arts that have developed since the early modern period, and to acquire basic knowledge of their history and characteristics.

Before and after each class, students are expected to spend four hours understanding the course content and organizing the materials.

Your overall grade in the class will be decided based on the following: term-end examination (60%); in-class contribution (40%).

LIT200BC

表現と著作権 A

内藤 裕之

夜間時間帯

授業コード：A2584 | 曜日・時限：木 5/Thu.5

春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：2~4 年

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

著作権を知的財産権にまで広げて考える。著作人権と財産権としての著作権、身の回りにある知的財産権について理解し、権利を守る立場を確認する。文芸誌、週刊誌、男性ヴィジュアル誌で体験した事例をもとに、法律とは別の現場感覚を伝えたい。簡単に発信してしまう、拡散してしまうことはどれだけ危険か。氾濫する情報を利用するにあたって、知的財産権について、どう対処すべきか。コロナ禍で在宅の活動に縛られ、情報の比較ができていく中において、注意すべき事柄を考える。

【到達目標】

知識の量ではなく、ものの考え方、考える道筋を獲得する。そのためには、法律ではなく、現場は何を守り、何は誤りと認めるべきと考えられているかを紹介しつつ、謝る力を身につけることを目指す。どんな職業についても、必ず関わってくる知的財産権について、著作権の視点から、クロ、シロ、グレーを見分けられることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

講義を中心としながら、授業内での課題発表、もしくはグループディスカッションを講義のまとめの意味で行う予定。また課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	講義の進め方と手順	知的財産権についての概説と法律家でない現場の見方
第 2 回	知的財産権には何があるか。	身近にある具体例について考える。
第 3 回	知的財産権 2	知的財産権の侵害例。
第 4 回	それでは著作権とは何か。	著作権と著作人権
第 5 回	知的財産権とトラブル①	週刊誌の現場で学んだこと
第 6 回	知的財産権とトラブル②	月刊誌の現場で学んだこと
第 7 回	盗作と剽窃	文芸の世界で学んだこと
第 8 回	アイデアとタイトル	書籍の編集で学んだこと
第 9 回	権利侵害についての事例	表現形式の違いによる侵害例
第 10 回	グループにわかれて討議①	著作権侵害の原告となってみる。
第 11 回	グループにわかれて討議②	著作権侵害の被告となってみる。
第 12 回	グループにわかれて討議③	判決を下すとすれば。
第 13 回	誰でもが発信者になれる危険性。	発信、あるいは安易な拡散がもたらすもの。
第 14 回	SNS 時代の新たな危険と総括	違法アップロード、リーチサイト、知らぬ間に著作権侵害。編集者として肝に銘じていること。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

新聞を読む、テレビのニュース、ワイドショーを見る。リアルタイムに起きた事件を可能な限り取り込んでいきますので、世の中の出来事について関心を持ち、事実関係を理解していることを望みます。本授業の準備学習・復習時間として、各メディアのいずれかに一日合計 2 時間程度接し、社会情勢について常識的な知識を持つことを標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

発表やグループワークへの参加は必須とし、30%。グループワーク等での積極的、建設的な発言、20%、通常授業での平常点 30%、課題評価 20%。ただしオンライン授業となった場合、各回にコメントや感想を求める可能性があります。その際は、このコメント提出を以て出席とし、平常点とします。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

ワライになったときは、携帯電話ではなく、PC で受講されることを望みます。

【その他の重要事項】

出版社の講談社で、「FRIDAY」「PENTHOUSE」「群像」「小説現代」などの雑誌編集や、文庫、書き下ろし単行本の企画、編集、また文芸の責任者として、著作権等の問題解決にあたった経験を生かして、メディアに限らず、一般企業にも通じる基本的な課題解決の留意点、プロセスを獲得できる授業を行う。リスクヘッジの感覚を養い、表面的な言葉の問題に陥ることのない、過程を重視する姿勢を身につける。差別表現も視野に入れて、知的創作物の本質にある表現と社会との関連に目を向ける。

【Outline (in English)】

Course Outline: This course aims for an understanding of intellectual property rights. We live while taking advantage of various rights. It is necessary to understand the intellectual property rights around you and confirm your stance of protecting them. Based on examples I have experienced in literary magazines, weekly magazines, and men's visual magazines, I would like to convey a sense of the field as it differs from the law.

Learning Objectives: At the end of the course, students are expected to understand the protection of intellectual property.

Learning Activities Outside of the Classroom: Before each class meeting, students will be expected to have read the newspaper, and/or watched TV while thinking about the issue of intellectual property.

Grading Criteria/Policy: Your overall grade in the class will be decided based on the following: active participation in group work (60%); short reports (20%); in-class contribution (20%).

LIT200BC

表現と著作権 B

内藤 裕之

夜間時間帯

授業コード：A2586 | 曜日・時限：木 5/Thu.5

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

メディアの違いによる特質を理解し、表現と社会についての関連をつかむ。同時にグループワーク等を通じて、各メディアの現場がどのような視点から情報発信しているかを体験し、情報が氾濫する現代にあって、振り回されることなく、的確な判断ができる姿勢を獲得することを旨とする。

【到達目標】

同じ事件、情報であっても、メディアによって、視点、切り口、方向性は、自ずと違ってくる。メディアの特質やこれらの違いを理解し、情報を取捨選択できる判断力を身につけることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

各メディアの規模、特徴などを講義により理解し、メディアの特性から、同じテーマのニュースであっても、視点や切り口、方向性が違い、選び取られたものがいかに違うかを知る。受講人数によるが、後半は各メディアを想定したグループに分かれ、メディアの性質を活かす企画を考える。模擬実務体験のグループワークを行い、メディアの立場から社会との関連を考える。また課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	講義の概要と進め方	秋学期は、講座名からは少し離れて、メディアについて考える。知識の量ではなく、求められるのは、考える過程。
第2回	メディアを概観する	新聞、テレビ、雑誌、出版メディアの規模と実情について学ぶ。
第3回	新聞について考えてみる①	発行形態から見る、ジャンルから見る。新聞が果たしてきた役割。新聞に求められるもの
第4回	新聞について考えてみる②	ジャーナリズムとは何か。戦争報道は何を遺したか。誤報とねつ造。
第5回	テレビについて考えてみる①	「テレビがテレビから追い出される日」。テレビの現場は、いま何を考えているか。
第6回	テレビについて考えてみる②	事実と真実の差。「切り取られた真実」を理解するには。
第7回	雑誌について考えてみる①	女性誌、男性誌、週刊誌、月刊誌、総合誌、文芸誌、マスマガジン、クラスマガジン。読者対象や刊行形態から雑誌を分析する。
第8回	雑誌について考えてみる②	紙のエンターティナーか、野次馬精神か。企画力と企画達成力の違い。
第9回	出版について考えてみる①	文庫は月刊総合誌。「読んでから見るか、見てから読むか」。名作からスタンダードに。
第10回	出版について考えてみる②	新書は知の最前線。単行本も時代を切り取るジャーナリズム。
第11回	グループワークでメディアの企画を制作してみる①	新聞記者になってみる。目線は一体どこにあるか。（受講者数によってスタイルを変えます）
第12回	メディアの企画を制作してみる②	テレビを作る、雑誌を作る。企画はどこから生まれるか。（受講者数、コロナ流行状況によって形式を変えます）
第13回	制作した企画を発表する。	発表された企画について、フリートーク、ディスカッション。
第14回	SNS時代の危険な落とし穴に落ちないために。総括	SNS時代のメディア。電子書籍とは何か。受信者でしかなかった者が、簡単に発信者になれる時代に待ち構える危険な落とし穴。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

新聞を読む、テレビのニュース、ワイドショーを見る。雑誌を見る、本を読む。リアルタイムで起きた事件、情報を、可能な限り取り込んでいきます。事実関係や背景などの説明に要する時間を限りなくゼロに近づけたいと思っていますので、授業内容の理解の手助けのため、今現実には起きている社会事象や事件について、最低限の情報を持つようにする。

本授業の準備学習・復習時間は、新聞を読む、テレビを見るなど、現実社会の情報に遅れないため、各2時間程度を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし。必要に応じて資料を配付します。

【参考書】

特にありません。

【成績評価の方法と基準】

積極的な発言や質問等を加点点評価します。発表やグループワークへの参加は必須とし、30%。グループワーク等での積極的、建設的な発言、20%。通常授業での平常点30%、課題評価20%。ただしオンライン授業となった場合、各回にコメントや感想を求める可能性ががあります。その際は、このコメント提出を以て出席とし、平常点とします。

【学生の意見等からの気づき】

本年度新規担当のため、アンケートがありません。

【学生が準備すべき機器他】

自宅等で、インターネット環境を持っていることが望ましい。

【その他の重要事項】

出版社の講談社で、「FRIDAY」「PENTHOUSE」「群像」「小説現代」などの雑誌編集や、文庫、書き下ろし単行本の企画、編集、また文芸の責任者として、著作権等の問題解決にあたった経験を生かして、メディアに限らず、一般企業にも通じる基本的な課題解決の留意点、プロセスを獲得できる授業を行う。リスクヘッジの感覚を養い、表面的な言葉の問題に陥ることのない、過程を重視する姿勢を身につける。差別表現も視野に入れて、知的創作物の本質にある表現と社会との関連に目を向ける。

【担当教員の専門分野】

<専門領域> 総合出版の講談社において、文芸分野（フィクション）を統括する元文芸局長。

日本文化を海外に発信するべく、若い世代の文化交流と海外の日本語教育の普及、支援に努める公益財団法人 国際文化フォーラムの前代表理事 常務理事。

<主要研究業績（社歴）>

群像編集部、PENTHOUSE 編集部、FRIDAY 副編集長、小説現代副編集長、文庫出版部次長、文庫出版部長、文芸局次長兼文芸図書第二出版部長、文芸局長、文芸局長兼文芸文庫出版部長、文芸局長兼群像編集長。

【Outline (in English)】

Course Outline: If you think the news is the same in all of the media, you would be wrong. Each media has its own stance. Newspaper articles are not neutral, and neither is television. Students learn the difference between the news on each media, how different they are, and why such differences exist.

Learning Objectives: At the end of the course, students are expected to have gained the ability to understand the essence of incidents by selectively choosing media.

Learning Activities Outside of the Classroom: Before each class meeting, students will be expected to have read several newspapers, to be familiar with the headlines, and to have watched a number of current affairs programs.

Grading Criteria/Policy: Your overall grade in the class will be decided based on the following: active participation in group work (60%); short reports (20%), in-class contribution (20%).

LIT100BC

古文・漢文の基礎

栗山 元子

授業コード：A2604 | 曜日・時限：木 5/Thu.5

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2～4 年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、古文や漢文を読むにあたっての基礎的知識の習得・拡充を目指します。具体的には、「紫式部が好んだ漢詩文」というテーマで、『源氏物語』や『紫式部日記』で引用された漢詩文や漢籍の故事を紹介し、それらが引かれた場面を精読して味わうことで、どのように和文として昇華されているのかについて見ていきます。教育実習で古文や漢文を教える予定の人や、古文・漢文の基礎を学び直したいという人に向けての講義です。

【到達目標】

- ①古典文法や漢文の句法についての学びを深め、正確な理解ができる力を養う。
- ②古文・漢文を読むにあたって必要な、時代背景や風俗などの基礎知識を習得する。
- ③漢詩文や漢籍の引用が『源氏物語』や『紫式部日記』においていかになされているかということやその表現効果について学ぶ。さらに漢文学が平安期の文学に深い影響を及ぼしたことへの認識を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

- ・毎回講師作成のプリントなどの教材を準備します。授業は対面で行います。
- ・毎回、理解度の確認のための小課題を課します。
- ・講評など、課題に対するフィードバックは授業の冒頭で行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業内容・方針についての説明 ／「平安期の漢詩文と女性」というテーマの解説を行う。
第 2 回	紫式部と漢文学	紫式部が日記中で漢学と自らの関わりについて述べた箇所を見ていく。
第 3 回	紫式部が見た清少納言の漢学の知識	紫式部が清少納言の漢学の知識をどのように評価していたかを解説する。
第 4 回	『紫式部日記』と漢詩文①	白楽天の詩「海漫漫」の解説と、『紫式部日記』の中でその詩がどのように引用されているかを見ていく。
第 5 回	『紫式部日記』と漢詩文②	紫式部が中宮彰子に漢学を進講するにあたって、白楽天の詩集の中でも「新樂府」を選んだ理由について考察していく。
第 6 回	『源氏物語』と漢詩文①	桐壺巻における白楽天の「長恨歌」の引用について見ていく。「長恨歌」の内容は長いので、二回に分けて講義を行う。
第 7 回	『源氏物語』と漢詩文②	前回に続き桐壺巻における白楽天の「長恨歌」引用について見ていく。
第 8 回	『源氏物語』と漢詩文③	須磨巻における白楽天や菅原道真の詩の引用について見ていく。

- 第 9 回 『源氏物語』と漢詩文④ 『源氏物語』における「高唐賦」や関連作品の影響を見ていく。
- 第 10 回 『源氏物語』と漢詩文⑤ 柏木巻における白楽天の詩「自嘲」の引用について、詩の内容の確認と引用の効果を見ていく。
- 第 11 回 『源氏物語』と漢詩文⑥ 『源氏物語』における白楽天の詩「李夫人」の引用を見ていく。
- 第 12 回 『源氏物語』と漢籍故事① 総合巻で引かれる「王昭君」の故事についての確認と他作品における受容との比較を行う。
- 第 13 回 『源氏物語』と漢籍故事② 弘徽殿女御にまつわる漢籍故事の引用について確認し、その表現効果を見ていく。
- 第 14 回 まとめと確認 授業の総括とフィードバックを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業前には、次回授業時で取り上げる『紫式部日記』や『源氏物語』の該当場面や該当巻を読んで内容を理解しておくこと、引用される漢詩文・故事の出典を確認し、内容についての知識を得ておくことを必須とします（2時間程度）。授業後には授業時に出た課題を作成し、授業内容を整理・復習することを必須とします（2時間程度）。

【テキスト（教科書）】

講師作成のプリントを配布します。

【参考書】

- 【古文・漢文文法】小田勝『古代日本語文法』（ちくま学芸文庫、2020年、1,540円）、小西甚一『古文の読解』（ちくま学芸文庫、2010年、1,540円）、塚田勝郎著『新人教師のための漢文指導 入門講座』（大修館書店、2014年、2,420円）、前野直彬著『精講 漢文』（ちくま学芸文庫、2018年、1,870円）、鈴木健一編『漢文のルール』（笠間書院、2018年5月、1,320円）など。
- 『源氏物語』のテキストは岩波文庫のものが、『紫式部日記』は角川のビギナーズクラシックス『紫式部日記』（山本淳子編）が入手しやすく便利です。
- 白楽天の詩などは、新釈漢文大系の『白氏文集』（明治書院）などで読めます。

【成績評価の方法と基準】

①毎回の授業時に小課題あるいはコメントシートの作成を課し、これにより授業への取り組み姿勢・授業内容の理解度を計り、平常点として評価していきます。②学期末に課す最終課題では授業内容についての理解の深浅を計り、知識の定着度を見ます。③成績をつけるにあたっての①と②の比重については、①が70%、②が30%の割合とし、その合算により最終的な評価とします。

【学生の意見等からの気づき】

課題やコメントシートに書かれた疑問には次回の授業冒頭の時間などを利用して答えたり、意見なども紹介を行う形でフィードバックを行います。

【Outline (in English)】

Learning Objectives: The goals of this course are to acquire and expand basic knowledge of Chinese and Japanese classical literature.

Learning Activities Outside of the Classroom: Before each class, students will be expected to have read the relevant chapters of the text. After each class, students are expected to revise the class content, read the materials related to the lecture content, and complete assignments. These tasks take four hours each week.

Grading Criteria/Policy: Grading will be based on 14 assignments (70%) and a long report (30%).

LIT200BC

日本文芸研究特講（1）上代A

坂本 勝

授業コード：A2657 | 曜日・時限：木 4/Thu.4
 春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：1～4 年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

古代日本の神話世界について講義します。現代の私たちが見失った古代人のものの見方、感じ方、考え方を学びます。

【到達目標】

なぜ私たちは神話という思考様式を生み出したのか、その意味を確かめる。古代日本の神話世界を理解するための文献解読法を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

古事記、日本書紀、風土記などの古代のテキストを通して、古代日本の神話世界について考えていきます。私たち人間の歴史や文学に対する想像は、かつては神話的な物語として産み出されました。もちろん、そこに流れているのは、私たち人間自身についての深い思いです。私たち人間はどのような存在なのか、なぜこの世に存在し、そこにどんな喜びや悲しみ、驚きや感動があるのか、人生のさまざまな問題が神話を産み出す原動力でした。授業では、そうした古代の人々の思考の跡を、追っていきます。日本の神話にターゲットを据えますが、日本の神話と同じような神話が、世界の各地にも残っています。そうした諸外国の神話なども紹介しながら講義を進めていきます。第1回授業、各回の授業内容などについてH o p p i i上で確認してください。最終授業で、13回までの講義内容のまとめや復習だけでなく、授業内で行った課題に対する講評や解説も行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	講義概要 自然と文化の共生	授業全体の概説 賀茂の〈御生れ（ミアレ）〉神事と山城 国風土記の神話
第2回	日本の《はじまり》物語	日本の創世記を紹介します
第3回	世界の《はじまり》物語	古事記、日本書紀の創世神話を学びます
第4回	最初の《喪失》体験	火の誕生と文化の始まりについて考えます
第5回	《生》と《死》の神話	神話を産み出す心のメカニズムを考えます
第6回	《黄泉の国》はどこにある	生と死の神話について考えます
第7回	《根の国》の話	大地と生命の神話について考えます。
第8回	ヲロチ退治の物語	英雄神話について考えます
第9回	《天》と《地》の神話	古代の宇宙観を学びます
第10回	《海》の神話	同前
第11回	神々と出会う《場所》	神話と祭りの関係について考えます
第12回	神々と出会う《人》	同前
第13回	神々と出会う《時》	同前
第14回	まとめとレポート提出	あらためて今、神話を学ぶ意味を考えます

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配布資料をよく読んでおくこと。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『はじめての日本神話 古事記を読みとく』ちくまプリマー新書、780円、坂本勝。

書籍がない場合は電子書籍を購入すること

※電子書籍版の配信先は kindle,kobo,iBook, 紀伊国屋、honto など（Google版を除く）

スマホ、タブレット、専用端末等、各社の端末やアプリにもすべて対応しているようです。

ほかに、プリント教材を配布。

【参考書】

参考文献『古事記の読み方』岩波新書、坂本勝

【成績評価の方法と基準】

レポート試験（1回60点）に平常点（40点、出席状況、リアクションペーパーによる授業への参加状況など）を加味して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

自分で考え調べること、小さな世界から大きな世界に自分の思考を広げることの大切さ。

【Outline (in English)】

Course Outline: This lecture is about the mythological world of ancient Japan. Learn how the ancients saw, felt, and thought in ways that we today have lost sight of.

Learning Objectives: The objectives of this lecture course are: to ascertain the meaning of why we have created a way of thinking called mythology; and to learn how to decipher documents to understand the mythological world of ancient Japan.

Learning Activities Outside of the Classroom: Please read the handouts carefully. The standard preparation and review time for a class is 2 hours each (4 hours per week).

Grading Criteria/Policy: Grading will be based on the following: report exam (60%), attendance (40%, including reaction papers, etc.).

LIT200BC

日本文芸研究特講（1）上代B

坂本 勝

授業コード：A2658 | 曜日・時限：木 4/Thu.4

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：1～4 年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

万葉集を通して古代日本の人間群像を考えます。

【到達目標】

万葉集読解の基礎的方法を身につける。ことばの面白さと重要性を知る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

万葉集が産み出された時代は、この列島が東アジアの辺境のクニ（国）から本格的な古代国家、当時の感覚では、急激な《近代》国家へと、大きな変貌を遂げた時代です。その時代の転換期に、人々はなにを感じ、なにを考え、どのような人生を生きただけでしょうか。《村》の暮らしから《都会》の暮らしに、自然の中に生きていた時代から、自然の外側で生きていくようになる時代へ、この時期の人々は、明治以降の近代の人々が経験したことと同じような劇的体験を重ねながら、その心の奇跡を多くの歌に刻みました。この授業では、時代の転換期を生き抜いた万葉の人々のさまざまな人間模様を考えていきます。最終授業で、13 回までの講義内容のまとめや復習だけでなく、授業内で行った課題に対する講評や解説も行います。授業形態は「対面あり」となっていますが、当面はオンライン zoom 授業で行います。新型コロナウイルス感染の状況が落ち着いてきた場合には「対面」授業を行う可能性もあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	はじめに	講義概要
第 2 回	初期万葉の大王たち	雄略天皇と舒明天皇
第 3 回	額田王	恋と言霊の姫王
第 4 回	有間皇子と大津皇子	悲劇の皇子たち
第 5 回	天武天皇と持統女帝	古代と近代の狭間
第 6 回	柿本人麻呂	愛と死の歌人
第 7 回	同前	同前
第 8 回	高市黒人と長意吉麻呂	旅と笑いの歌人
第 9 回	山部赤人と笠金村	自然の発見と王権讃美
第 10 回	大伴旅人と山上憶良	人生を見つめる
第 11 回	後期万葉の女たち	坂上女郎ほか
第 12 回	防人歌と東国民衆の歌謡	東国の歌謡と抒情
第 13 回	大伴家持	倭歌の離陸
第 14 回	まとめとレポート提出	万葉集を学ぶ意義をあらためて考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配布資料をよく読んでおくこと。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

プリント教材など、Hoppi 上で確認してください。

【参考書】

参考文献については授業の中で指示します。

【成績評価の方法と基準】

レポート試験（1 回、60 点）と平常点（40 点、リアクションペーパーなど、授業への参加態度）によって評価します。

【学生の意見等からの気づき】

自分で調べ考えることの大切さ。ひとつのことばに自然と人間の深い交流が刻まれていること、そういうことばの大切さを知ること。

【Outline (in English)】

Course Outline: We will explore humanity in ancient Japan, through the study of *Man'yōshū*.

Learning Objectives: To acquire basic methods for reading *Man'yōshū*. To understand how interesting and important words can be.

Learning Activities Outside of the Classroom: Please read the handouts carefully. The standard preparation and review time for a class is 2 hours each (4 hours per week).

Grading Criteria/Policy: Grading will be based on the following: report exam (60%), attendance (40%, including reaction papers, etc.).

LIT200BC

日本文芸研究特講（2）中古A

栗山 元子

授業コード：A2661 | 曜日・時限：火 5/Tue.5
春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：1～4 年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では『源氏物語』の入門講座として、物語の表現に触れることを通じて、作品の概容やその魅力・文学的達成・文学史的意義についての理解を深めていくことを目指します。具体的には、物語の第一部と呼ばれる光源氏の生涯の前半生を描いた部分について、巻々の名場面を取り上げ講読し、その表現世界を味わっていきます。古典作品を読むのに必要な基礎知識の習得や確認につながるような授業にしたいと思います。

【到達目標】

- ①『源氏物語』の表現に触れ、その物語世界について知ることで、この作品の文学的な達成や文学史的意義について理解する。
- ②古典文学の本文を読んでいくことで、古語や文法についての理解を深め、また古典作品を読むにあたって必要な平安期の習俗や歴史などについての知識を広げる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

- ・毎回講師の作成したプリントを配布し講義を行います。
- ・毎回授業内容についての理解度を計るために、リアクションペーパーの提出を課します。
- ・リアクションペーパーに書かれた意見の紹介や質問への解答を通じてフィードバックを行います。
- ・授業は対面で行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーションと『源氏物語』について	授業内容・方針・方法などについての説明を行い、『源氏物語』の基礎的な知識の確認
第 2 回	桐壺巻冒頭を読む	光源氏の誕生前史にあたる、桐壺帝による桐壺更衣への寵愛ぶりを語る物語の冒頭を講読する。
第 3 回	帚木巻を読むー雨夜の品定とは	第二巻目の帚木巻に書かれた雨夜の品定について考察する。
第 4 回	夕顔巻冒頭を読む	巻の冒頭の夕顔歌について、その解釈の揺れなども含めて講義を行う。
第 5 回	夕顔巻ー夕顔怪死の場面を読む	夕顔怪死の場面を読み、物の怪の出現の意味について考える。
第 6 回	若紫巻を読む	源氏が若紫君（のちの紫の上）を垣間見する場面を中心に講読する。
第 7 回	紅葉賀巻を読むー藤壺と源氏について	紅葉賀巻の青海波の舞の場面などの読解を通じて、光源氏と藤壺との関係について考えていく。
第 8 回	葵巻を読む	葵巻における物の怪出現の場面を中心に、読んでいく。
第 9 回	賢木巻を読む	源氏不遇の時期の物語を、朧月夜との密会発覚の場面を中心に確認していく。
第 10 回	須磨巻を読むー配所における光源氏	光源氏の失意の日々を描いた須磨巻で、古来名文とされてきた場面を中心に取り上げ、鑑賞する。

- 第 11 回 明石～松風巻を読む 光源氏が都へ復帰し、政治家として返り咲いていくといった物語の内容を、要点を抑えつつ概観する。
- 第 12 回 薄雲巻・朝顔巻を読む 藤壺の死について書かれた場面を読み、その波紋について考える。
- 第 13 回 少女巻・玉鬘十帖前半の物語についての概観 光源氏の建てた六条院という壮麗な屋敷で展開される栄華の世界と新たなヒロインの投入による波紋を確認していく。
- 第 14 回 玉鬘十帖後半から梅枝・藤裏葉巻の物語の概観／第二部の物語粗描 第一部の大団円にむけての物語世界について確認し、第二部の物語とどのようにつながっていくのかということなどについても触れる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前学習としてはスムーズに授業内容に対応できるように、各回授業の前に取り上げる巻の内容や出てくる登場人物などについて調べておいてください。また授業後には、授業内容を振り返って整理し、より深く掘り下げて主体的に学ぶべく、関連論文などにあたって学びを深めてください（参考論文については授業時にも紹介します）。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて4時間程度を標準とします。

【テキスト（教科書）】

講師作成の文書を配信します。

【参考書】

中野幸一編『新装版 常用 源氏物語要覧』（武蔵野書院 2012）は、系図や巻の順番ごとの要約、物語の年表など、簡便な事典のようにして使えます。林田孝和他編集『源氏物語事典』（大和書房 2002）などはキーワードから物語世界についての知識を得ることができます。物語世界を概観するには、中野幸一『源氏物語みちしるべ』（小学館 1997）、高木和子『源氏物語を読む』（岩波新書）などがあります。また原文を読みたい人には、入手しやすいテキストとして岩波文庫『源氏物語』（柳井滋他校注 2017 から刊行中）や角川ソフィア文庫のものがあります。なお風俗博物館（京都）のサイトは、平安時代の風俗や年中行事を知る上で非常にわかりやすく参考になります。<http://www.iz2.or.jp/>

【成績評価の方法と基準】

毎回の授業時に課すリアクションペーパーや小課題による評価が70%、期末のまとめ課題による評価が30%とします。評価のポイントは、課題への取り組み姿勢と授業内容の理解度の深浅に拠ります。なお課題の提出が三分の二以上であることを単位修得のための必須条件とします。

【学生の意見等からの気づき】

わかりやすい講義を心がけたいと思います。なお授業に関しての質問や意見にはフィードバックとして次回の授業冒頭で対応をするようにします。

【Outline (in English)】

Course Outline: In this class, we will read *Genji monogatari* (*The Tale of Genji*) by Murasaki Shikibu. Since the story is long, we will focus on the first half of the life of the main character, Hikaru Genji: a story of overcoming setbacks and attaining glory. By carefully reading famous scenes of this work, we will discover what this great work of literature accomplished, the power of its excellent expression and ingenuity, and how it has managed to captivate people throughout the ages.

Learning Objectives: The goals of this lecture course are for students: (1) to understand the literary achievement and historical significance of *The Tale of Genji* by experiencing its expressions and learning about the world of the tale; and (2) to deepen their understanding of ancient language and grammar, and broaden their knowledge of the customs and history of the Heian period, which is necessary for reading classical literature.

Learning Activities Outside of the Classroom: Before each class, students will be expected to have read the relevant chapters of the text. After each class, students are expected to revise the class content, read the materials related to the lecture content, and complete assignments. These tasks take four hours each week.

Grading Criteria/Policy: Grading will be based on 14 assignments (70%) and a long report (30%).

LIT200BC

日本文芸研究特講（2）中古B

加藤 昌嘉

授業コード：A2662 | 曜日・時限：火 5/Tue.5

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：1～4年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

- ◆テーマは、『源氏物語』と現代の作家たちです。
- ◆20世紀の小説家や随筆家たちが、どのように『源氏物語』を訳し、どのように『源氏物語』を増補改変して来たのか、考察してゆきます。

【到達目標】

1. 『源氏物語』が孕む問題点を理解する。
2. 作家たちの翻訳方法や創作技法を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

- ◆プリントを配布し、講義形式で進めます。
- ◆毎回、リアクションペーパーに意見や疑問を書いてもらい、それを次講で解説（フィードバック）します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	小説家が古典を自由に翻訳する
2	町田康ほか	『源氏物語 九つの変奏』
3	円地文子	『源氏物語私見』
4	田辺聖子	『新源氏物語』
5	橋本治	『窠変源氏物語』
6	瀬戸内寂聴	『藤壺』
7	丸谷才一	『輝く日の宮』
8	大塚ひかり	『源氏物語』
9	林望	『謹訳源氏物語』
10	毬矢まりえ&森山恵	A・ウェイリー英訳
11	江川達也ほか	漫画『源氏物語』
12	与謝野晶子	『新新訳源氏物語』
13	谷崎潤一郎	『夢の浮橋』
14	古川日出男	『紫式部日記』

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ◆授業で取り上げられた本を、入手して、読んでください。
- ※本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

- ◆毎回、プリントを配布します。

【参考書】

- ▼以下の入門書を推薦します。
- ◎小泉吉宏『まる、ん？ 一大掴源氏物語―』（幻冬舎）
- ◎竹内正彦『図説 あらすじと地図で面白いほどわかる！ 源氏物語』（青春新書）
- ◎高木和子『源氏物語を読む』（岩波新書）
- ▼『源氏物語』の原文と現代語訳は、以下に収められています。
- ◎『源氏物語』全9冊（岩波文庫）
- ◎『源氏物語 現代語訳付き』全10冊（角川ソフィア文庫）
- ◎『新潮日本古典集成 源氏物語』全8冊（新潮社）
- ◎『新編日本古典文学全集 源氏物語』全6冊（小学館）

【成績評価の方法と基準】

- ◆期末レポート（72%）。『源氏物語』の現代語訳や二次創作物を分析する小論文を書いてもらいます。

- ◆リアクションペーパー（28%）。毎回、アイデアや疑問点などを書いてもらいます。

【学生の意見等からの気づき】

- ◆『源氏物語』だけでなく、その他の古典、さらには、20～21世紀の文学・文化・思想も、積極的に取り挙げます。

【Outline (in English)】

Course Outline: The theme of this lecture course is “*The Tale of Genji* and Modern Writers.” We will examine how novelists and essayists of the 20th century translated *The Tale of Genji* and modified it as they did so.

Learning Objectives: The goals of the course are the following two points:

- understanding the issues of *The Tale of Genji*; and
- understanding the translation methods and creative techniques of the authors.

Learning Activities Outside of the Classroom: Students will be expected to read the books introduced in class. Preparation and review time will be 2 hours for each class.

Grading Criteria/Policy: Grading will be based on a final report (72%), and reaction papers for each session (28%).

LIT200BC

日本文芸研究特講（3）中世A

阿部 真弓

授業コード：A2665 | 曜日・時限：火 2/Tue.2
 春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：1～4 年
 その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代の日本において最も身近でありながら、今なお謎の多い歌集『百人一首』をとりあげ、成立・配列の問題を考察し、代表的和歌について講義します。編纂時には当該歌がどのように解釈されていたか、この歌集が和歌史、文化史にどのように位置づけられるか考察を試みます。

【到達目標】

- ①和歌の表現に関する知識を身につける。
- ②古典和歌を解釈する力を養う。
- ③和歌史に関する基本的な知識を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

パワーポイントを使い、講義形式で行います。授業のはじめに、学習支援システムにアップロードされた受講生からの質問や意見を取り上げてフィードバックし、前回授業の振り返りを行います。

和歌の解釈にあたっては、テキストのほか、適宜、歌学書や古注などを参照しながら、解説します。

なお、状況によって、オンライン授業となる可能性があります。その際は、学習支援システムを通じて、連絡します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業計画の説明など
第 2 回	『百人一首』の謎	成立の問題について
第 3 回	『百人一首』の謎	配列の問題について
第 4 回	『百人一首』の謎	藤原定家について
第 5 回	『百人一首』の謎	和歌史の流れ
第 6 回	『百人一首』講読	二条派の歌人について
第 7 回	『百人一首』講読	天皇の和歌について
第 8 回	『百人一首』講読	歌合での和歌について
第 9 回	『百人一首』講読	40「しのぶれど」歌・41「こひすてふ」歌について
第 10 回	『百人一首』講読	題詠について
第 11 回	『百人一首』講読	女流歌人の和歌について
第 12 回	『百人一首』解説	89「たまのをよ」歌
第 13 回	『百人一首』解説	男歌・女歌について
第 14 回	まとめ	授業の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内容をしっかり復習し、理解した上で、次の授業に臨みましょう。

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

角川ソフィア文庫『新版 百人一首』（島津忠夫、KADOKAWA、1999 年）。

その他、適宜、プリントを配布します。

【参考書】

講談社学術文庫『百人一首』（有吉保、講談社、1983 年）
 角川ソフィア文庫『ビギナーズ・クラシックス 日本の古典 百人一首（全）』（谷知子、KADOKAWA、2010 年）
 その他の参考書については、授業内で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

学期末レポート（70%）、平常点（30%）によって評価します。レポートは【授業の到達目標】①～③に照らして採点します。また平常点については、毎回、学習支援システムに提出された課題によって授業の理解度を確認します。

【学生の意見等からの気づき】

パワーポイントのスライドのプリントアウトにノートを取ってもらう形を、今年度も継続します。また、双方向授業を目指していきます。

【Outline (in English)】

Course Outline: This course deals with the waka anthology *Hyakunin Isshu* (one hundred waka poems by one hundred poets).

Learning Objectives: The aim of this course is to help students acquire an understanding of the characteristics of Japanese classical literature and waka poetry.

Learning Activities Outside of the Classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading Criteria/Policy: Your overall grade in the class will be decided based on the following: term-end report (70%); short reports (30%).

LIT200BC

日本文芸研究特講（3）中世B

阿部 真弓

授業コード：A2666 | 曜日・時限：火 2/Tue.2

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：1～4年

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代の日本において最も身近でありながら、今なお謎の多い歌集『百人一首』をとりあげ、成立・配列の問題を勘案しながら、代表的和歌について講義します。編纂時には当該歌がどのように解釈されていたか、また、中世・近世で『百人一首』がどのように享受されていたかについて検討し、この歌集が和歌史、文化史にどのように位置づけられるか考察を試みます。

【到達目標】

- ①和歌の表現に関する知識を身につける。
- ②古典和歌を解釈する力を養う。
- ③和歌史に関する基本的な知識を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

パワーポイントを使い、講義形式で行います。授業のはじめに、学習支援システムにアップロードされた受講生からの質問や意見を取り上げてフィードバックし、前回授業の振り返りを行います。

和歌の解釈にあたっては、テキストのほか、適宜、歌学書や古注などを参照しながら、解説します。

なお、状況によって、オンライン授業となる可能性があります。その際は、学習支援システムを通じて、連絡します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業計画の説明など
第2回	『百人一首』講読	成立について
第3回	『百人一首』講読	中世・近世の古注釈について
第4回	『百人一首』講読	六歌仙の和歌について
第5回	『百人一首』講読	8「わがいはは」歌について
第6回	『百人一首』解説	「然ぞ」か「鹿ぞ」か
第7回	『百人一首』解説	9「はなのいろは」歌について
第8回	『百人一首』解説	12「あまつかぜ」歌について
第9回	『百人一首』解説	17「ちはやぶる」歌について
第10回	『百人一首』解説	「括る」か「潜る」か
第11回	『百人一首』解説	22「ふくからに」歌について
第12回	『百人一首』解説	『百人一首』と絵画の関係について
第13回	『百人一首』解説	『百人一首』とカルタ
第14回	まとめ	授業の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内容をしっかり復習し、理解した上で、次の授業に臨みましょう。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

角川ソフィア文庫『新版 百人一首』（鳥津忠夫、角川学芸出版、1999年）。

その他、適宜、プリントを配布します。

【参考書】

講談社学術文庫『百人一首』（有吉保、講談社、1983年）
 角川ソフィア文庫『ビギナーズ・クラシックス 日本の古典 百人一首（全）』（谷知子、角川学芸出版、2010年）
 その他の参考書については、授業内で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

学期末レポート（70%）、平常点（30%）によって評価します。レポートは【授業の到達目標】①～③に照らして採点します。また平常点については、毎回、学習支援システムに提出してもらう課題によって授業の理解度を確認します。

【学生の意見等からの気づき】

パワーポイントのスライドのプリントアウトにノートを取ってもらう形を、今年度も継続します。また、双方向授業を目指していきます。

【Outline (in English)】

Course Outline: This course deals with the waka anthology *Hyakunin Isshu* (one hundred waka poems by one hundred poets).

Learning Objectives: The aim of this course is to help students acquire an understanding of the characteristics of Japanese classical literature and waka poetry.

Learning Activities Outside of the Classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading Criteria/Policy: Your overall grade in the class will be decided based on the following: term-end report (70%); short reports (30%).

LIT200BC

日本文学研究特講（3）中世C

阿部 亮太

夜間時間帯

授業コード：A2667 | 曜日・時限：木 5/Thu.5

春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：1～4 年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本の「中世」は平安時代末期の源平合戦、「治承・寿永の乱」に始まります。この合戦に取材したのが、日本古典文学の傑作の一つ『平家物語』です。本授業では、それらのなかから主要な伝本の原文を読みます。そして、各作品の特徴や、それらの生み出された歴史的背景を理解することで、『平家物語』の作品世界を概観し、中世文学の一側面を捉えてみたいと思います。

【到達目標】

1. 『平家物語』を原文で読み、その内容（構想・構成・表現の特徴等）を理解し、説明する力を身につける。
2. 作品の成立する歴史的背景（当時の思想・文化等）を的確に把握した上で、作品世界を共時的に理解し、それを説明する力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式です。毎回、作品の解題と本文の読解を行います。授業終盤にはコメントカードを記入、提出していただきます。そこで受けた質問などには、次回授業の冒頭で回答する予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	「軍記物語」概説	授業の進め方と「軍記物語」の概説。
第 2 回	「平家物語」概説	『平家物語』 諸本・研究史の概説。
第 3 回	語り本系『平家物語』①	覚一本講読。
第 4 回	語り本系『平家物語』②	覚一本講読。
第 5 回	語り本系『平家物語』③	覚一本講読。
第 6 回	語り本系『平家物語』④	覚一本講読。
第 7 回	語り本系『平家物語』⑤	覚一本講読。
第 8 回	語り本系『平家物語』⑥	覚一本講読。
第 9 回	語り本系『平家物語』⑦	覚一本講読。
第 10 回	語り本系『平家物語』⑧	覚一本講読。
第 11 回	読み本系『平家物語』①	延慶本講読。
第 12 回	読み本系『平家物語』②	延慶本講読。
第 13 回	読み本系『平家物語』③	源平盛衰記講読。
第 14 回	授業内試験	春学期授業のまとめと授業内試験。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

作品の一部を扱うため、前後の文脈は各自で確認してください。また、原文を読むため、高等学校国語科（古典）程度の古典文法や、高等学校社会科（日本史）程度の基礎知識を理解しておくことよいでしょう。予・復習は各 2 時間程度とします。

【テキスト（教科書）】

毎回の授業でプリントを配布します。

【参考書】

- ・佐伯真一氏『三弥井古典文庫 平家物語』上・下（三弥井書店 1993・2000）
- ・延慶本注釈の会編『延慶本平家物語全注釈』1—12（汲古書院 2005—19）
- ・栃木孝惟氏はか編『校訂延慶本平家物語』1—12（汲古書院 2000—09）
- ・市古貞次氏はか校注『中世の文学 源平盛衰記』1—7（三弥井書店 1991—2015）未完
- ・大津雄一氏・日下力氏・佐伯真一氏・櫻井陽子氏編『平家物語大事典』（東京書籍 2010）
- ・『日本古典文学大辞典』1-6（岩波書店 1983-85）
- ・『日本古典文学大事典』（明治書院 1998）
- ・久保田淳氏編『日本古典文学辞典』（岩波書店 2007）

【成績評価の方法と基準】

毎回提出するコメントカード 40 %と、期末試験 60 %で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【Outline (in English)】

Course Outline: The Middle Ages of Japan began with the Genpei wars, otherwise known as the disturbances of the Jishō and Juei years, at the end of the Heian period (late 12th century). *Heike monogatari* (*The Tale of the Heike*) deals with these wars. In this class we will read major variants of the tale in their original forms. By understanding the characteristics of each variant and the historical background in which it was created, we will gain an overview of the world of *The Tale of the Heike* and grasp an important aspect of medieval literature.

Learning Objectives: By the end of the course, students should be able to do the following:

1. Read the original text of *The Tale of the Heike*, and understand and explain its content (plot, composition, expression characteristics, etc.); and
2. Understand and explain the world of the tale based on a proper understanding of its historical background (the thought and culture of the period, etc.).

Learning Activities Outside of the Classroom: Since we will work with passages from a literary work, students should acquaint themselves with the context of the passages. To read the original text, you will need to have basic knowledge of classical Japanese grammar at high school level and basic knowledge of Japanese history at high school level. Preparation and review will require about 2 hours.

Grading Criteria/Policy: Final grades will be calculated as follows: in-class contribution (40%), and term-end examination (60%).

LIT200BC

日本文芸研究特講（4）近世A

小林 ふみ子

授業コード：A2669 | 曜日・時限：火 2/Tue.2
春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：1～4 年

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

江戸っ子の笑いと機知を読み解く。
江戸時代中期、18 世紀後半に成熟期を迎えた江戸で「江戸っ子」という言葉が生まれ、その独自の気風・美学からさまざまな文学が生み出される。さまざまなジャンルに触れつつ、知識を基盤としてそれと戯れる笑いの技法のさまざまなふまえて実際に作品を読み解くことで、表現技法の多様性とこの時代の文芸の特質を探る。

【到達目標】

1. 江戸戯作の各ジャンルの特質・表現について理解する。
2. うがち、ちゃかし、地口などの江戸文芸の技法に親しむ。
3. 雅俗にわたり、擬古文と会話体が併存した江戸文芸の表現の多様性を知る。
4. デジタル公開されている江戸の文芸や浮世絵の資料の調査方法を知る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

1～3 回で 1 ジャンルを学ぶ。

提供した授業資料と指定したデジタル公開資料などを読み解いてもらい、各ジャンルの特徴を知る。

100 分を個人での課題への取り組み、グループ・ディスカッションでの共有、講義などを織りまぜて構成する。発表に対しては授業内でフィードバックし、最終レポートはコメントを付けて返却する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	導入	「江戸っ子」誕生の時代背景を知る。
第 2 回	時代背景 洒落本①	江戸の遊里事情を知り、作品のさまざまなを読む。
第 3 回	洒落本②	江戸人の美学、「通」の概念を考える。
第 4 回	黄表紙①	赤本、黒本・青本という草双紙を「戯作」化したこのジャンルの基本的な性格を学ぶ。
第 5 回	黄表紙②	一例として『仮名手本忠臣蔵』のパロディ『案内手本通人蔵』を講義する。
第 6 回	狂詩	漢詩の形式に俗語をはめ込んだ狂詩のおもしろさを知る。
第 7 回	狂歌①	中世以来の狂歌の歴史に触れ、さまざまな作品を読み解く。
第 8 回	狂歌②	百物語の代わりに、妖怪を題に百首の狂歌を詠んだ『狂歌百鬼夜行』を読み解く。
第 9 回	滑稽本①	ことばの面白さを追求した式亭三馬の試みについて学ぶ。
第 10 回	滑稽本②	『平家物語』敦盛最期をちやかして遊んだ『大千世界楽屋探』を読む。
第 11 回	合巻①	黄表紙の後継ジャンルである合巻について学ぶ。
第 12 回	合巻②	なかでも『源氏物語』の近世番として著名な『修紫田舎源氏』の夕顔巻に該当する部分の前半を読む。
第 13 回	合巻③	『修紫田舎源氏』の夕顔巻に該当する部分の後半を読む。
第 14 回	まとめ	この時代の文芸の特質を考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回のリアクション・ペーパーは終了後 10 分程度かけましょう。期末の試験やレポートを課す代わりに、単元ごとに 3 回程度の小課題を出します。本授業の準備学習は 30 分・復習時間は平均して 3 時間程度を標準に考えます。成績評価がアップグレード(?) できる任意課題として、「没後 200 年 江戸の知の巨星 大田南畝の世界」(たばこと塩の博物館・押上/4 月 29 日(土)～6 月 25 日(日)) 見学レポートを出します(チケットは配付します)

【テキスト（教科書）】

各回、資料提供し、参照すべき URL を提示します。

【参考書】

小林ふみ子『へんちくりん江戸挿絵本』(集英社インターナショナル [インターナショナル新書]、2019)

この時代の文芸についてのまとまった解説があります。

【成績評価の方法と基準】

毎回のリアクション・ペーパー (Hoppii 40%)、計 4 回の課題の得点 (60%) を合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

口語体の多い江戸文芸ですが、現代語訳を確認しながら進めるようにします。講義と(予習も含めた)個人での読解作業とグループでの解説と全体の共有のよいバランスを模索したいと思います。
グループは、一人で受講する学生も・友だちのいる学生にも公平になるように、できるだけ参加者の意欲の有無で左右されないように工夫したいと思います。そしてなにより、パロディ、妖怪・・・今日のサブカルチャーにも通じる江戸戯作の世界をご堪能ください!

【学生が準備すべき機器他】

教室の対面授業をメインとしますが、オンライン(双方向)併用も想定して実施します。デジタル資料の参照を推奨しますので、教室で参加する場合も(スマホでもいいのですが)、ノートパソコンまたはスマホより画面の大きなタブレットを用意しましょう。
図書館のデータベースのうちジャパンナレッジは随時使えるようにしておきましょう。(授業内で接続方法は案内します)

【その他の重要事項】

質問は Hoppii に提出してもらって各回の感想、および Hoppii の掲示板で受け付けます。

【Outline (in English)】

Course Outline: Reading and analyzing comic works from late 18th-century Edo (modern Tokyo) to discover the diversity of literary style, vocabulary and expressions in them.

Learning Objectives: The main goal of this course is to become familiar with each genre of literature of the time, understanding the skills applied in them and the various means of expression they make use of. Students also learn how to utilize digitalized materials.

Learning Activities Outside of the Classroom: Writing a reaction paper after every class in 10 minutes. Four short reports are also required.

Grading Criteria/Policy: Reaction paper (40%), short reports (60%).

LIT200BC

日本文芸研究特講（4）近世B

齊藤 千恵

授業コード：A2670 | 曜日・時限：火 2/Tue.2

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：1～4 年

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「忠臣蔵」とその周辺文化について学ぶ。
赤穂義士の討ち入り事件は広く世に知られ、早くから舞台化も行われた。なかでも大ヒットしたのは、「仮名手本忠臣蔵」である。人形浄瑠璃として作られ、すぐに歌舞伎化されたこの作品は、さまざまなジャンルの「忠臣蔵もの」作品を生み出す母体となった。その流れは今日まで続き、「忠臣蔵」を扱った小説、テレビドラマや映画なども多く作られている。本講義では、「忠臣蔵もの」作品が生まれる母体となった「仮名手本忠臣蔵」と、その派生的作品をいくつか採り上げ、忠臣蔵文化の拡がり学ぶ。

【到達目標】

- ①人形浄瑠璃・歌舞伎「仮名手本忠臣蔵」の特色を学び、日本人を魅了し続けた芸能について深く理解する。
- ②「仮名手本忠臣蔵」から派生した「忠臣蔵もの」の作品を分析できる。
- ③人形浄瑠璃・歌舞伎・浮世絵・近世小説・落語などに触れ、その楽しみ方、味わい方を身につける。
- ④現代にも通じる「忠臣蔵」文化の始原のあり様を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式を基本とし、質問・意見はリアクション・ペーパーを用いて募る。また、半年間で4回程度、小課題の提出を求める。リアクション・ペーパー及び小課題については、授業中にフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	導入・時代背景	物語の生み出された土壌と、史実の赤穂事件について理解を深める。
第2回	人形浄瑠璃と歌舞伎	人形浄瑠璃と歌舞伎の芸能としての特性を理解し、『仮名手本忠臣蔵』が生み出されるまでの流れを知る。
第3回	「仮名手本忠臣蔵」①	判官の無念の死はどのように引き起こされたのか。『仮名手本忠臣蔵』に描かれた事件の真相に迫る。
第4回	「仮名手本忠臣蔵」②	勘平はどのようにして追い詰められ、早すぎた死を選ぶのか。運命に翻弄された男女の悲恋を味わう。
第5回	「仮名手本忠臣蔵」③	大星家と加古川家の関係を考える。本蔵の死によってもたらされたものを知る。
第6回	「仮名手本忠臣蔵」④	敵討を支える登場人物たちの動きから、上演の問題点を理解する。
第7回	さまざまな「忠臣蔵もの」	「忠臣蔵」から派生した作品の諸相に触れる。
第8回	歌舞伎「東海道四谷怪談」①	作品の成り立ちと初演時の上演形態から、「忠臣蔵」との関わりを読み解く。
第9回	歌舞伎「東海道四谷怪談」②	鶴屋南北の表現手法と演出技法に触れ、作品の魅力に迫る。
第10回	「忠臣蔵もの」の浮世絵	「忠臣蔵」を描いたさまざまな浮世絵に触れ、その面白さを知る。
第11回	「忠臣蔵もの」の草双紙	「忠臣蔵」のパロディ絵本を読み解く。
第12回	「忠臣蔵もの」の滑稽本と劇書	評論『忠臣蔵偏痴気論』『古今いろは評林』を読む。
第13回	「忠臣蔵もの」の舌耕文芸	落語『中村仲蔵』『四段目』の面白さを味わう。

第14回 まとめ 「忠臣蔵もの」「忠臣蔵もの」文芸の特質を考える。
のゆくえ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配布資料をよく読み、予習・復習に生かすこと。

授業外に提出課題を課すことがある。

本授業の準備時間は1時間程度、復習時間は平均して3時間程度とする。最近多く配信されている古典芸能の映像を鑑賞したり、ネット公開されている各種関連資料を閲覧してみるなど、積極的に見聞を広めてほしい。

【テキスト（教科書）】

資料を配布する。

【参考書】

『仮名手本忠臣蔵を読む』（服部幸雄編、吉川弘文館、2008）

『新潮日本古典集成 浄瑠璃集』（土田衛校注、新潮社）

『新編日本古典文学全集 浄瑠璃集』（鳥越文蔵ほか校注・訳、小学館）

その他、講義中にも参考書・URL等を紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（リアクションペーパーへの取り組み）：40%

小課題（×4回）：60%

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

Hoppiiを活用するため、スマートフォン・タブレット等を用意してほしい（ただし、何らかの事情で利用できない学生にも適宜配慮します）。

【その他の重要事項】

オフィスアワーは設けないが、質問等は授業後およびリアクションペーパーで受け付ける。

【Outline (in English)】

Course Outline: This lecture course is about *Kanadehon Chūshingura (The Treasury of Loyal Retainers)* and derivative works. The historical incident of the revenge of the forty-seven *rōnin* of Akō is widely known, and was adapted for the stage from early on. One of the most successful stage productions was *Kanadehon Chūshingura*. Originally a puppet play (*ningyō jōruri*), it was soon performed on the *kabuki* stage, and many derivative works were born in various other genres. This trend has continued to the present day, and many novels, TV dramas, and movies have been produced on the same theme.

Learning Objectives: At the completion of this course, students will:

1. understand the characteristics of the *ningyō jōruri* and *kabuki* versions of *Kanadehon Chūshingura*;
2. will be able to analyze works derived from *Kanadehon Chūshingura*;
3. will have learned how to enjoy and savor *ningyō jōruri*, *kabuki*, *ukiyo-e*, early modern novels, *rakugo*, etc.
4. will understand the evolution of *Chūshingura* as a cultural phenomenon, which still retains its relevance today.

Learning Activities Outside of the Classroom: Students are required to read the handouts and use them for preparation and review. About 4 assignments are to be done outside of class. Before each class meeting, students will be expected to spend 1 hour to understand the course content. The standard learning and review time after each class is 3 hours.

Grading Criteria/Policy: Performance in class (reaction papers): 40%. Short assignments (4): 60%.

LIT200BC

日本文芸研究特講（5）近代A

佐藤 未央子

授業コード：A2673 | 曜日・時限：木 3/Thu.3
 春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：1～4 年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、1910～20年代の大衆文化を題材にした谷崎潤一郎の短編小説を取り上げる。日本を代表する小説家である谷崎潤一郎は、当時最先端の文化や芸術を作品に積極的に取り入れた。そのサブ・カルチャー的な世界観や、尖端的なジェンダー・セクシュアリティ表現、メディアを横断した活動の実態を学ぶことで、近現代の文化や社会に対する批評眼を養う。また作品読解を通して、戦前の検閲や既成道徳とはいかなるものであったかも学び、文学がいかなる力を持ちうるかを考察を深める。

【到達目標】

- ・作家の言説を相対化し、客観的に分析することができる。
- ・同時代資料を読み解き、歴史的に意味づけることができる。
- ・表現規制（内務省検閲）の実態について説明することができる。
- ・当時の文化に関する知識を援用して、作品を論じることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式で行う。授業中にリアクションペーパーを記入・提出する。次回授業でコメントをいくつか取り上げ、質問や意見に関してはフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業内容と進め方に関する説明／谷崎潤一郎の作家性と作品について
第2回	「秘密」①	小説の舞台となる盛り場・浅草の文化について学ぶ。
第3回	「秘密」②	作中で言及される海外文学や思想の内容を確認する。
第4回	「秘密」③	語り手が行う異性装の同時代的意義を考察する。
第5回	文学・映画の表現規制①	文学・映画に対する内務省検閲の実態を取り上げ、特徴を比較する。
第6回	文学・映画の表現規制②	谷崎の作品において、実際にどのような表現が規制されたかを具体的に確認する。
第7回	中間総括	これまでの学習を確認する。
第8回	近代女優の誕生	日本近代演劇・映画において、女優という存在がいかに創られてきたのかを学ぶ。
第9回	「人面疽」①	女優の身体表象について、映画の果たした役割を踏まえて考察する。
第10回	「人面疽」②	作中映画におけるエキゾチズムとその問題について、日米関係をふまえて分析する。
第11回	「人面疽」③	ヴァルター・ベンヤミンの理論をもとに、映画がもたらす複製の恐怖について考察する。
第12回	谷崎潤一郎の映画製作①	谷崎が所属した大正活映の活動を中心に、日本映画の改良運動とその意義について確認する。
第13回	谷崎潤一郎の映画製作②	谷崎が映画化を手がけた、泉鏡花の短編「葛飾砂子」を読む。
第14回	総括	これまでの復習を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

対象作品を読んでいることを前提に講義を進めるので、毎回必ず予習しておくこと。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

谷崎潤一郎「秘密」 https://www.aozora.gr.jp/cards/001383/files/57349_60032.html（青空文庫）
 ほか、担当教員が作成した印刷物を授業にて配布する。

【参考書】

- ・谷崎潤一郎著、千葉俊二編『潤一郎ラビリンズ（11）銀幕の彼方』（1999、中央公論社）
- ・五味潤典編『言葉を食べる 谷崎潤一郎、1920-1931』（2009、世織書房）
- ・山中剛史『谷崎潤一郎と書物』（2020、秀明大学出版会）
- ・佐藤未央子『谷崎潤一郎と映画の存在論』（2022、水声社）

ほか、適宜講義で指示する。

【成績評価の方法と基準】

・リアクションペーパーを含む授業への参加度：40%

・学期末テスト：60%

テストは参照不可。講義で扱った事項に関する問題と、理解度を測る記述問題を課す。

以上を考慮し、総合的に判断する。

【学生の意見等からの気づき】

受講生にも積極的に参加してもらい、双方向的な授業を目指します。リアクションペーパーのコメントを多く取り上げ、質問や意見を参考にして授業を行う予定です。授業内で分からないことや、説明不足な点があれば、ご遠慮なくお問い合わせください。

授業進度や要望に合わせてシラバスを変更する可能性もあります。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを通じた資料配布・課題提出を行います。

【Outline (in English)】

Course Outline: This course will focus on Tanizaki Jun'ichirō's short stories about popular culture of the 1910s and 20s. Tanizaki Jun'ichirō, one of Japan's leading novelists, actively incorporated the latest culture and art into his works. By learning about its subcultural elements, gender and sexual expression, and cross-media activities, students develop a critical eye for modern and contemporary culture and society. They also learn about pre-war censorship and established morality.

Learning Objectives: By the end of the course, students should be able to do the following:

- Analyze the writer's discourse objectively.
- Interpret the primary sources in history.
- Explain about censorship by the Home Ministry.
- Use knowledge of modern culture to discuss works.

Learning Activities Outside of the Classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend 2 hours to understand the course content.

Grading Criteria/Policy: Your overall grade in the class will be decided based on the following: term-end examination (60%), in-class contribution (40%).

LIT200BC

日本文芸研究特講（5）近代B

佐藤 未央子

授業コード：A2674 | 曜日・時限：木 3/Thu.3

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：1～4 年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

谷崎潤一郎の小説は、1930年代以降の文芸映画ブームの中で次々と映画化されていった。本講義では、谷崎の小説が映画化されるに際して生じた問題とその背景を考察する。具体的には、映画に際して働いたバイアスや表現規制と、女性（女優）の演出に焦点を当てる。映画化された文学が持つ新たな相貌とその波及効果、さらに女優が社会状況を反映して表象されていく様相について考えていく。

【到達目標】

- ・作家の言説を相対化し、客観的に分析することができる。
- ・同時代資料を読み解き、歴史的に意味づけることができる。
- ・表現規制（内務省/GHQ 検閲）の実態について説明することができる。
- ・当時の文化に関する知識を援用して、作品を論じることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式で行う。授業中にリアクションペーパーを記入・提出する。次回授業でコメントをいくつか取り上げ、質問や意見に関してはフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション：アダプテーションとは何か	授業内容と進め方に関する説明。文学作品から多様な形に変換されていく「アダプテーション」（翻案）行為の意義について考える。
第2回	「蛇性の姪」①	谷崎が「雨月物語」をいかに翻案したのか、脚本を分析する。
第3回	「蛇性の姪」②	谷崎の脚本と溝口健二監督「雨月物語」を比較し、それぞれの主題を考察する。
第4回	「春琴抄」①	1930年代の文芸映画ブーム以降、繰り返し映画化されてきた理由と演出の傾向を分析する。
第5回	「春琴抄」②	昭和から平成の映画化を具体的に確認し、原作と比較する。
第6回	「春琴抄」③	「春琴抄」の主題である「盲目」を映画化することの意味について考察する。
第7回	中間総括	これまでの学習を確認する。
第8回	「盲目物語」①	ひらがなを多用した谷崎独自の文体と、歴史を語る手法について学ぶ。
第9回	「盲目物語」②	戦時下に映画化されるにあたり、原作のいかなる点が前掲化されたのか分析する。
第10回	「痴人の愛」①	戦前に小説「痴人の愛」と登場人物の「ナオミ」がもったインパクトを明らかにする。
第11回	「痴人の愛」②	戦後の映画化で、ストーリーの根幹が大きく変更された背景と要因を考える。
第12回	「卍」①	女性同性愛の表象について、谷崎による戦前の小説と、戦後の映画版ではいかなる差異がみられるか分析する。
第13回	「卍」②	ナチス政権下のドイツを舞台とした映画化を取り上げ、日本版と比較検討する。
第14回	総括	これまでの復習を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

対象作品を読んでいることを前提に講義を進めるので、毎回必ず予習しておくこと。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。担当教員が作成した印刷物を授業にて配布する。

【参考書】

- ・谷崎潤一郎「春琴抄」https://www.aozora.gr.jp/cards/001383/files/56866_58169.html
- ・谷崎潤一郎「盲目物語」https://www.aozora.gr.jp/cards/001383/files/56868_58745.html
- ・谷崎潤一郎「痴人の愛」https://www.aozora.gr.jp/cards/001383/files/58093_62049.html

・谷崎潤一郎「卍」https://www.aozora.gr.jp/cards/001383/files/56873_62035.html

(以上、青空文庫)

・谷崎潤一郎著、千葉俊二編『潤一郎ラビリンズ（11）銀幕の彼方』（1999、中央公論社）

・千葉伸夫『映画と谷崎』（1989、青蛙房）

・佐藤未央子

・北村匡平『スター女優の文化社会学 戦後日本が欲望した聖女と魔女』（2017、作品社）

・田中純一郎『日本映画発達史』3～5巻（1976、中央公論社）

ほか、適宜講義で指示する。

【成績評価の方法と基準】

・リアクションペーパーを含む授業への参加度：40%

・学期末テスト：60%

テストは参照不可。講義で扱った事項に関する問題と、理解度を測る記述問題を課す。

以上を考慮し、総合的に判断する。

【学生の意見等からの気づき】

受講生にも積極的に参加してもらい、双方向的な授業を目指します。リアクションペーパーのコメントを多く取り上げ、質問や意見を参考にして授業を行う予定です。授業内で分からないことや、説明不足な点があれば、ご遠慮なくお問い合わせください。授業進度や要望に合わせてシラバスを変更する可能性もあります。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを通じた資料配布・課題提出を行います。

【Outline (in English)】

Course Outline: This course deals with the problems that occurred when Tanizaki Jun'ichirō's novels were made into movies. It also explains censorship and bias of expression with film-making, and actresses' performance. We discuss the new aspects of the film adaptation of literature and its ripple effects, as well as the representation of actresses reflecting social situations.

Learning Objectives: By the end of the course, students should be able to do the following:

- Analyze the writer's discourse objectively.
- Interpret primary sources in history.
- Explain about censorship by GHQ/SCAP.
- Use knowledge of postwar culture to discuss works.

Learning Activities Outside of the Classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend 2 hours to understand the course content.

Grading Criteria/Policy: Your overall grade in the class will be decided based on the following: term-end examination (60%), in-class contribution (40%).

LIT200BC

日本文芸研究特講（6）現代A

藤木 直実

授業コード：A2677 | 曜日・時限：火 3/Tue.3
 春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：2~4 年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

森鷗外の作品とそのアダプテーション（鷗外作品を素材とする演劇や映画）を、ジェンダーとセクシュアリティに焦点化して読む。20 世紀初頭に編み込まれた性をめぐる規範を確認し、規範形成過程と文学との相関の様相を知る。鷗外作品の精読を通じて、文学テキストを批評的に読解する視点と技術と方法を身につける。以上の学修によって、実社会にもつながる課題や自身の研究への示唆を、受講者それぞれが発見し、考える、きっかけとなることを目指す。

【到達目標】

近現代文学作品および演劇や映画を、ジェンダーとセクシュアリティの観点から精読するための方法を身につけ、現代にまでつながる問題をみずから発見し思考する力を涵養する。

To learn how to read modern and contemporary literary works, plays and movies from a gender and sexuality perspective, and to develop the ability to discover and think about problems that lead to the present day.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

おおむね講義形式によるが、校外学習・調査学習・ワークショップ形式などを取り入れる場合がある。双方向的な授業構築のために、リアクションペーパーの提出を課す。リアクションペーパーにおいて提示された質問や感想には適宜リプライを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	講義の概要、スケジュール、評価方法などをガイダンスする
第 2 回	「舞姫」(1)	「近代自我とその挫折の物語」としての受容の系譜
第 3 回	「舞姫」(2)	定番教材としての受容の系譜
第 4 回	「舞姫」(3)	「妊娠小説」へのパラダイムシフトと日本のフェミニズム文学批評について
第 5 回	「舞姫」(4)	ジェンダーの観点から「舞姫」を再読する
第 6 回	映画「舞姫」(1)	篠田正浩監督「舞姫」を鑑賞する
第 7 回	映画「舞姫」(2)	鑑賞の続きとグループワークによる批評
第 8 回	映画「舞姫」(3)	各グループでの討議内容の発表
第 9 回	鷗外と女性たち	鷗外と明治大正期の女性表現者たちとのかかわりを知る
第 10 回	鷗外と第一波フェミニズム(1)	鷗外と第一波フェミニズムとの関わりを踏まえて、「さへづり」を読む
第 11 回	鷗外と第一波フェミニズム(2)	鷗外と第一波フェミニズムとの関わりを踏まえて、「なのりそ」「団子坂」その他を読む
第 12 回	鷗外と性欲の問題系	「キタ・セクスアリス」などの鷗外作品を読む
第 13 回	鷗外と性暴力の問題系	「魔睡」「鼠坂」などの鷗外作品を読む
第 14 回	全体のまとめ	今期の振り返りとレポート提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【準備学習】①森鷗外の作品やその周辺について調査する。②各回でとりあげた作品を通読し、不明な点については辞書や注釈を参照する。③各作品についての自身の感想・印象を整理する。

【復習】①講義内容を踏まえて作品を再読し、理解の定着につとめる。②紹介された文献を入手し、通読する。③他の鷗外作品や同時代の小説を読む。

【宿題】文京区立森鷗外記念館、神奈川県立神奈川近代文学館、そのほか授業中に紹介された博物館展示を踏査する。

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

Preparation: 1. Investigate the works of Ogai Mori and their context. 2. Read through the works covered in each session, and refer to dictionaries and annotations for any unclear points. 3. Organize your own impressions and impressions of each work.

Review: 1. Reread the work based on the content of the lecture and try to consolidate your understanding. 2. Obtain literature introduced in class and read it through. 3. Read other Ogai works and contemporaneous novels.

Homework: Visit and explore Mori Ogai Memorial Museum (Bunkyo Ward), Kanagawa Museum of Modern Literature, and other museum exhibits introduced during class.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

【テキスト（教科書）】

授業時にプリント配布する。鷗外作品の多くについては青空文庫でのダウンロードを用いる

。映像作品の視聴方法については授業時に指示する。

【参考書】

『鷗外近代小説集』（岩波書店）、金子幸代編『鷗外女性論集』（不二出版）、その他授業中に指示する。

【成績評価の方法と基準】

リアクションペーパーおよび小レポートの内容 30 %、期末レポート（または試験）70 %。3 分の 2 以上の出席を必須とする。

The final grade will be calculated according to the following process: Short reports (30%), term-end examination (70%). Attending at least two-thirds of classes is required.

【学生の意見等からの気づき】

学生の興味関心を広げるため、鷗外作品と今日のトピックを架橋する話題提供を行う。学生の意見を尊重してその発想に学問的裏付けが得られるようサポートするために、リアクションペーパー用いた質問・コメントと、それに対するリプライを徹底する。映像資料と視覚資料を活用し、学修内容の理解につとめる。文献調査の仕方やレポートの書き方の基本的なガイダンスを行い、卒業論文執筆のための参考に供する。

【学生が準備すべき機器他】

パソコンが使用できることが望ましい。プリンターがあれば学習効率がより高くなると思われる。

【その他の重要事項】

明治末期から大正期にかけての文学史的知識を備えていること、フェミニズム/ジェンダーの学知について興味と関心があること、春学期・秋学期あわせて履修することが望ましい。質問については授業時に受け付けるほかメールでも対応する。メールでの質問の場合は、件名を「日本文芸研究特講 学籍番号 氏名」とすること。メール宛先：fujiki@olive.ocn.ne.jp

【Outline (in English)】

Course Outline: We will focus our scrutiny on works of literature by Mori Ogai. After ascertaining Japan's contemporary gender norms, we will attempt to discern aspects of the interplay between these norms and Ogai's literature in line with specific works, reflecting on how the gender of the writer has influenced their works and expressions. Through these tasks, we seek to provide students with the opportunity to master the perspectives, techniques, and methods for critical reading of literature. In doing so, students will discover and think about challenges that are also relevant to today's society, as well as suggestions for their own research.

Learning Objectives: By the end of the course, students should be able to do the following:

Read modern and contemporary literary works, plays and movies from a gender and sexuality perspective, and discover and think about problems that lead to the present day.

Learning Activities Outside of the Classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Preparation: 1. Investigate the works of Ogai Mori and their context. 2. Read through the works covered in each session, and refer to dictionaries and annotations for any unclear points. 3. Organize your own impressions and impressions of each work.

Review: 1. Reread the work based on the content of the lecture and try to consolidate your understanding. 2. Obtain literature introduced in class and read it through. 3. Read other Ogai works and contemporaneous novels.

Homework: Visit and explore Mori Ogai Memorial Museum (Bunkyo Ward), Kanagawa Museum of Modern Literature, and other museum exhibits introduced during class.

Grading Criteria/Policy: The final grade will be calculated according to the following process: Short reports (30%), term-end examination (70%). Attending at least two-thirds of classes is required.

LIT200BC

日本文芸研究特講（6）現代B

藤木 直実

授業コード：A2678 | 曜日・時限：火 3/Tue.3

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2～4 年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

森鷗外の作品とそのアダプテーション（鷗外作品を素材とする演劇や映画）を、ジェンダーとセクシュアリティに焦点化して読む。20 世紀初頭に編制された性をめぐる規範を確認し、規範形成過程と文学との相関の様相を知る。鷗外作品の精読を通じて、文学テキストを批評的に読解する視点と技術と方法を身につける。以上の学修によって、実社会にもつながる課題や自身の研究への示唆を、受講者それぞれが発見し、考える、きっかけとなることを目指す。

【到達目標】

近現代文学をジェンダーとセクシュアリティの観点から精読するための方法身につけ、現代にまでつながる問題をみずから発見し思考する力を涵養する。To acquire the ability to carefully read modern and contemporary literature from the perspective of gender and sexuality, and to develop the ability to discover and think about problems that lead to the present age.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

おおむね講義形式によるが、校外学習・調査学習・ワークショップ形式などを取り入れる場合がある。双方向的な授業構築のために、リアクションペーパーの提出を課す。リアクションペーパーにおいて提示された質問や感想には適宜リプライを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	講義の内容、スケジュール、評価方法などをガイダンスする
第 2 回	森鷗外「半日」の波紋	「半日」をめぐる私小説としての受容について
第 3 回	森鷗外「半日」の戦略	設定とプロットを検討し、「半日」のテーマを考える
第 4 回	「作家の妻」とテクスチュアルハラメント	森しげ（鷗外後妻）へのハラメントについて知る
第 5 回	永井愛「鷗外の怪談」(1)	演劇作品「鷗外の怪談」(2014) の鑑賞
第 6 回	永井愛「鷗外の怪談」(2)	鑑賞の続きと解説
第 7 回	鷗外と大逆事件	大逆事件の影響下で書かれた鷗外作品の概略を知る
第 8 回	森しげ「波瀾」の戦略と「あだ花」の宛先	森しげの代表作を読む
第 9 回	鷗外・しげのインターテクスチュアリティ	二作家の作品群のテキスト間相互関連性について知る
第 10 回	森しげ「お鯉さん」の逸脱と挫折	「お鯉さん」に描かれた女性から女性への欲望の様相を読む
第 11 回	雑誌『三越』と鷗外、しげ、与謝野晶子(1)	三越百貨店機関雑誌『三越』の成立と、寄稿された鷗外作品について
第 12 回	雑誌『三越』と鷗外、しげ、与謝野晶子(2)	三越百貨店機関雑誌『三越』の成立と、寄稿された森しげと与謝野晶子の作品について
第 13 回	鷗外と与謝野晶子	自然主義時代における与謝野晶子の活動と鷗外との関係について
第 14 回	全体のまとめ	今期の振り返りとレポート提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【準備学習】①森鷗外の作品やその周辺について調査する。②各回でとりあげる作品を通読し、不明な点については辞書や注釈を参照する。③各作品についての自身の感想・印象を整理する。

【復習】①講義内容を踏まえて作品を再読し、理解の定着につとめる。②紹介された文献を入手し、通読する。③他の鷗外作品や同時代の小説を読む。

【宿題】文京区立森鷗外記念館、神奈川県立神奈川近代文学館、そのほか授業中に紹介された博物館展示を踏査する。

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

Preparation: 1. Investigate the works of Ogai Mori and their context. 2. Read through the works covered in each session, and refer to dictionaries and annotations for any unclear points. 3. Organize your own impressions and impressions of each work.

Review: 1. Reread the work based on the content of the lecture and try to consolidate your understanding. 2. Obtain literature introduced in class and read it through. 3. Read other Ogai works and contemporaneous novels.

Homework: Visit and explore Mori Ogai Memorial Museum (Bunkyo Ward), Kanagawa Museum of Modern Literature, and other museum exhibits introduced during class.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

【テキスト（教科書）】

授業時にプリント配布する。

【参考書】

『鷗外近代小説集』（岩波書店）、『明治文学全集』（筑摩書房）、その他授業中に指示する。

【成績評価の方法と基準】

リアクションペーパーの内容 30 %、期末レポート（または試験）70 %。3 分の 2 以上の出席を必須とする。

The final grade will be calculated according to the following process: Short reports (30%), term-end examination (70%). Attending at least two-thirds of classes is required.

【学生の意見等からの気づき】

学生の興味関心を広げるため、鷗外作品と今日のトピックを架橋する話題提供を行う。学生の意見を尊重してその発想に学問的裏付けが得られるようサポートするために、リアクションペーパーを用いた質問・コメントと、それに対するリプライを徹底する。映像資料や視覚資料を活用し、学修内容の理解につとめる。文献調査の仕方やレポートの書き方の基本的なガイダンスを行い、卒業論文執筆のための参考に供する。

【その他の重要事項】

明治末期から大正期にかけての文学史的知識を備えていること、フェミニズム/ジェンダーの学知について興味と関心があること、春学期・秋学期あわせて履修することが望ましい。質問については各回の授業時に対応するほかメール fujiki@olive.ocn.ne.jp でも受け付ける。メールでの質問の場合は件名を「学籍番号 氏名」とすること。

【Outline (in English)】

Course Outline: We will focus our scrutiny on works of literature by Mori Ogai. After ascertaining Japan's contemporary gender norms, we will attempt to discern aspects of the interplay between these norms and Ogai's literature in line with specific works, reflecting on how the gender of the writer has influenced their works and expressions. Through these tasks, we seek to provide students with the opportunity to master the perspectives, techniques, and methods for critical reading of literature. In doing so, students will discover and think about challenges that are also relevant to today's society, as well as suggestions for their own research.

Learning Objectives: By the end of the course, students should be able to do the following:

Read modern and contemporary literary works, plays and movies from a gender and sexuality perspective, and discover and think about problems that lead to the present day.

Learning Activities Outside of the Classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Preparation: 1. Investigate the works of Ogai Mori and their context. 2. Read through the works covered in each session, and refer to dictionaries and annotations for any unclear points. 3. Organize your own impressions and impressions of each work.

Review: 1. Reread the work based on the content of the lecture and try to consolidate your understanding. 2. Obtain literature introduced in class and read it through. 3. Read other Ogai works and contemporaneous novels.

Homework: Visit and explore Mori Ogai Memorial Museum (Bunkyo Ward), Kanagawa Museum of Modern Literature, and other museum exhibits introduced during class.

Grading Criteria/Policy: The final grade will be calculated according to the following process: Short reports (30%), term-end examination (70%). Attending at least two-thirds of classes is required.

LIT200BC

日本文学研究特講（6）現代C

高口 智史

夜間時間帯

授業コード：A2679 | 曜日・時限：木 6/Thu.6

春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：2~4 年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

戦時下の日本文学を読む

「戦時下の文学」というどのような文学を思い浮かべられるだろうか。多くの人は国策・戦争に協力した文学が大量生産された不毛の時代を思い浮かべると思う。たしかに表現で戦争に抵抗することは重要だが、しかしそれを戦時下の表現に求める事は難しい。亡命でも出来れば別だが、職業作家は検閲でマークされると発表の場を失うからだ。それは失業を意味していた。

もちろん、だからといって批評としての文学が死んだわけではなかった。私たちの良く知る太宰治や中島敦は、日中戦争の開始、国家総動員法の制定から敗戦までのわずか八年の間に精力的に作品を発表している。このことは改めて考えなければならない問題だと思う。

当然彼らは時代を選ぶことは出来ない。文学を手放さないためには、そのような過酷な状況でもそれを宿命として引き受けざるを得なかった。そして状況との対話を通してそれぞれの思索や表現を深めていったのだ。

旧来の権力や戦争に抵抗した、しなないという「色分け」では、あまりに大雑把すぎて彼らが状況の中でどのように思索を深め、何を表現しようとしたのかは見えない。しかし改めてなぜ彼らの戦時下の作品が今日まで読み継がれる普遍性を持ち得ているのか立ち止って考える必要があるだろう。結論から言えば、彼らが格闘した問題とは、戦時下の〈同調圧力〉に塗り込められた〈牢獄〉のような社会のなかで孤独に耐えながら、個を見失わないで如何に生きるか、ということだったのではないかと思う。そしてそのことが同じく生きにくい現代を生きる読者の共感を得ているのではないかと思う。

もちろんリアリズムの死滅した戦時下の小説は、表層の物語を押さえるだけでは作者のメッセージを捉える事はできない。この授業では井伏鱒二「へんろう宿」太宰治「富嶽百景」「待つ」堀辰雄「曠野」中島敦「山月記」「李陵」など今日でも読まれる戦時下の作品を取り上げて、それぞれの作品の表現構造や状況との関係を丁寧におさえながら、戦時下の文学者の思索と表現の今日の可能性を明らかにしていきたい。また加えて、間に小林秀雄、坂口安吾の評論を挟みながら、今日の視点から戦時下の文学の意味を様々な視点から捉え直して再評価していきたい。

【到達目標】

- ・戦時下文学の歴史の意味を理解する。
- ・日本の戦時下文学の批評性が現在にどのような意味を持つのか理解する。
- ・小説の基本的な構造分析と読み方について学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式で行う。作品ごとに、授業に入る時にその作品についての感想を提出してもらおう。また終了時には、どういう発見、どういう事を学ぶことが出来たか、または授業の質問などについて提出してもらおう。そしてそれらを授業冒頭で適宜発表したい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	①この授業の方向性について ②戦時下の文学をなぜ読むのか
第 2 回	第一回 井伏鱒二「へんろう宿」を読む	①基本的な構造分析 ②戦時下の思想と方法 —アレゴリーと韜晦
第 3 回	第二回 太宰治「富嶽百景」を読む①	①基本的な構造分析 ②戦時下の方法—偽装の方法（私小説）
第 4 回	第三回 太宰治「富嶽百景」と「待つ」を読む②	②戦時下の思想—批評としてのプリコラージュ
第 5 回	第四回 堀辰雄「曠野」①	①基本的な構造分析 ②戦時下の方法—偽装の方法（古典）
第 6 回	第五回 堀辰雄「曠野」②	①戦時下の思想—戦時下を如何に生きるかという問い
第 7 回	第六回 中島敦「山月記」①	①基本的な構造分析 ②戦時下の方法—偽装の方法（古典）
第 8 回	第七回 中島敦「山月記」②	①戦時下の思想—自己幻想を開く意味
第 9 回	第八回 戦時下の批評を読む—坂口安吾・小林秀雄	安吾「文学のふるさと」「日本文化私観」、小林「無常ということ」「戦争について」などをめぐる戦争への対し方

第 10 回	第九回 中島敦「李陵」を読む①	①基本的な構造分析 ②戦時下の方法—「一」の表現の意味（「山月記」からの発展として）
第 11 回	第九回 中島敦「李陵」を読む②	①戦時下の思想—「二」司馬遷の物語が問いかけるもの
第 12 回	第九回 中島敦「李陵」を読む③	①戦時下の思想—「三」李陵の物語が問いかけるもの
第 13 回	第十回 まとめ	戦時下の文学の達成と戦後文学との関係（坂口安吾「白痴」を補助線として）
第 14 回	学期末試験と解説	①授業の理解を確認する試験 ②試験の解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に必ず作品を読んで授業に臨んでほしい。さらに今回取り上げる戦時中から戦後の時代についても歴史を予習し、時代についてのおおまかなイメージをつかんでおいてほしい。本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業で使用するテキストや資料は、事前に学習システムを通して配布する。いずれも文庫本で手に入りやすいテキストなので、できればその作家の他の作品にも目を通してもらいたい。

【参考書】

- ・内田樹『映画の構造分析』（文春文庫）なぜテキスト論なのか、映画を対象にテキスト分析の実際をわかりやすく論じている。
- ・土方洋一『物語のレッスン』（青舎舎）手に入りやすいが、読み方をめぐる最良の入門書。探しても読んでほしい。
- ・廣野由美子『批評理論入門—『フランケンシュタイン』解剖講義』（中公新書）カタログ的な本だが、テキスト分析用語、様々な批評理論についての知識を身につけるためにはよい。
- ・『日本の歴史 25 太平洋戦争』（中公文庫）

【成績評価の方法と基準】

- ・平常点 = 各作品をめぐる感想や授業コメント等（50%）
授業に対する取り組み姿勢（作品をしっかり読みこんでいるか、授業を理解しようとする姿勢があるか等）
- ・学期末試験（50%）

【学生の意見等からの気づき】

- ・講義形式で一方通行になりがちなので、学習支援システムを有効に活用し出来る限りリアクションペーパーや感想を通して受講生の声を取り上げていきたい。
- ・話が早くて理解が追いつかないという意見もあった。なるべく基本的な点については丁寧に説明するように心掛けた。

【Outline (in English)】

Course Theme: Reading Literature in Wartime

Course Outline: As in the past, judging whether literary people resisted war during wartime is not the only way to understand wartime literature. For example, Dazai Osamu and Nakajima Atsushi, with whom we are familiar, vigorously published their works during the period of only eight years between the start of the Sino-Japanese War, the enactment of the National Mobilization Law, and the defeat of Japan. Of course, they were not pandering to war. But why do their works have the universality that allows them to be read to this day? With these questions in mind, we will reconsider what literary people thought and tried to express during wartime.

Learning Objectives: In this class, we will focus on wartime works that are still read today, such as Ibuse Masuji's *Henrōyado*, Dazai Osamu's two works, *Fugaku hyakkei* and *Matsu*, Hori Tatsuo's *Arano*, and especially Nakajima Atsushi's two works, *Sangetsuki*, and *Riryō*. Although it is difficult to capture the author's message from works published under severe censorship, students will learn to explore the possibilities of wartime literature in the modern age, while gaining a careful understanding of the expressive structure of each work and its relationship to the wartime situation.

Learning Activities Outside of the Classroom: Students are expected to have read each work before the class in which it is discussed. They should also try to gain a broad grasp of the circumstances of the time, by revising the history of the war years and post-war years.

Grading Criteria/Policy: written reactions to the works and comments on the content of each lecture (50%); final examination (50%).

LIT200BC

日本文芸研究特講（6）現代D

梅澤 亜由美

夜間時間帯

授業コード：A2680 | 曜日・時限：月 5/Mon.5

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2～4 年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

*近代小説の語り、および視点と小説の関係について考える。
→この授業では、1930年代以降の一人称で書かれた小説を読みます。小説の背景を学ぶと同時に、一人称の小説の語り、および視点に注目し、その効果を考えます。また、実際に自分で一人称小説を探し、分析してもらいます。最終的には、小説における語り・視点の分析が自分でできること、またその役割について理解することを目標とします。

【到達目標】

- 1、小説における語り・視点の役割について、理解することができる。
- 2、語りの構造や視点と小説の関係を分析することができる。
- 3、学んだことを応用し、自分で小説の分析ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

基本的には、以下の3つによって講義を進めます。

- 1、指定された資料を用いての事前学習
- 2、教員による講義、および学生同士の意見交換
- 3、その日のワーク

ワーク①：小説の内容確認や語り・視点についての分析してもらいます。
ワーク②：語り・視点を変えた場合の小説の可能性について考察してもらいます。

→ワークについては、前回の授業で提出されたものの中からいくつかをとりあげ、フィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業のテーマ、目標、やり方について説明する。
第2回	武田泰淳『審判』	小説の背景を学び、語りや視点の役割について考える。 ワーク：登場人物整理、語りの効果分析。
第3回	梅崎春生『蜩』	小説の背景を学び、語りや視点の役割について考える。 ワーク：登場人物整理、語りの効果分析。
第4回	坂口安吾『風博士』	小説の背景を学び、語りや視点の役割について考える。 ワーク：登場人物整理、語りの効果分析。
第5回	太宰治『トカトントン』	小説の背景を学び、語りや視点の役割について考える。 ワーク：登場人物整理、語りの効果分析。
第6回	小松左京『くだんのはは』	小説の背景を学び、語りや視点の役割について考える。 ワーク：登場人物整理、語りの効果分析。
第7回	吉屋信子『鶴』	小説の背景を学び、語りや視点の役割について考える。 ワーク：登場人物整理、語りの効果分析。
第8回	三島由紀夫『雛の宿』	小説の背景を学び、語りや視点の役割について考える。 ワーク：登場人物整理、語りの効果分析。
第9回	安部公房『死んだ娘が歌った……』	小説の背景を学び、語りや視点の役割について考える。 ワーク：登場人物整理、語りの効果分析。
第10回	村上春樹『レキシントンの幽霊』	小説の背景を学び、語りや視点の役割について考える。 ワーク：登場人物整理、語りの効果分析。

第11回	川上弘美『神様』	小説の背景を学び、語りや視点の役割について考える。 ワーク：登場人物整理、語りの効果分析。
第12回	一人称小説の分析実践編	授業で学んだことをもとに、各自で一人称小説を探し分析する。
第13回	一人称小説の分析実践編	授業で学んだことをもとに、各自で一人称小説を探し分析する。
第14回	まとめ①	一人称小説の語り、視点の特徴とは何か。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・【事前学習】指定されたテキストを必ず読み、以下を行う。
→登場人物を抜き出す（テキストに印をつける）。
→語り手の特徴を抜き出す（テキストに印をつける）。
・【事後学習】講義をもとに、提示された課題を行い、学習支援システムから提出する
→語り・視点を変えた場合の小説への影響を考える（他の人物が語り手になったらどう変わるか）。語りの特徴について、分析する。
本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

小説テキストについては、手に入りやすい文庫は購入しましょう。手に入りにくいものについては、青空文庫などを適宜、使用します。第1回で指示します。

武田泰淳『審判』、『上海の蜩・審判』 P+d BOOKS 所収

梅崎春生『蜩』、『ボロ家の春秋』 講談社文芸文庫

坂口安吾『風博士』、『ちくま日本文学 坂口安吾』ちくま文庫

太宰治『トカトントン』、『ヴィヨンの妻』新潮文庫

小松左京『くだんのはは』、『くだんのはは』ハルキ文庫

吉屋信子『鶴』、『鬼火・底のぬけた柄杓』講談社文芸文庫

三島由紀夫『雛の宿』、『女神』新潮文庫所収

安部公房『死んだ娘が歌った……』、『R 62号の発明・鉛の卵』新潮文庫所収

村上春樹『レキシントンの幽霊』文春文庫

川上弘美『神様』中公文庫

【参考書】

安藤宏『「私」をつくる—近代小説の試み』岩波新書

廣野由美子『一人称小説とは何か—異界の「私」の物語』ミネルヴァ書房

石原千秋他・木股知史・小森陽一・島村輝・高橋世織『読むための理論』世織書房

【成績評価の方法と基準】

①各回課題（60パーセント）、②学期末課題（40パーセント）の評価を合わせ、総合的に判断します。

【学生の意見等からの気づき】

・授業内で他の人の意見を聞いたり、提出されたレポートに関する発表を聞くことができるのが楽しいという声が多いです。一方で、ワークはワードファイルでワークを提出してもらっていましたが、これが少し手間というコメントがありました。今後、検討します。

【学生が準備すべき機器他】

PC、タブレット、スマホなど。PDFのファイルを見るのに利用します。

【その他の重要事項】

・秋学期の授業となります。必ず秋学期最初に、再度、シラバスを確認するようにしてください。なお、選定された小説、および順序に若干の変更ができる可能性があります。

・学期末課題は、以下の2つから1つを選んでもらう予定です。

①自分で一人称小説を探し、学んだことをもとに分析してもらいます。近代文学～現代文学まで、自分で一人称の在り方が面白いと思う小説をとりあげてほしいです。

②語り手を変えて、小説の一部を書き換えてもらいます。

なお、学期末課題の提出は11回授業終了後、12月初旬となります。授業のまとめとして、提出されたレポートを紹介していく予定です。

【Outline (in English)】

Course Outline: This course introduces the style of stories called “first-person novels” written after the 1930’s. We learn about its position in the history of literature, and analyze examples in terms of the expression of perspective.

Learning Objectives: By the end of the course, students should be able to do the following:

- ・ Understand the role of narrative in novels.
- ・ Explain the relation between narrative and theme in novels.
- ・ Write analytical papers of their original thought using the theory learned in class.

【Learning Activities Outside of the Classroom:】

Preparation: Students read each novel and think about the characters and the narrator in the novel.

Review: Students write and upload a short paper after each class meeting.

Your study time will be more than four hours for a class.

Grading Criteria/Policy: Your final grade will be calculated according to the following process: regular short papers (60%); final paper (40%).

LIT200BC

日本文芸研究特講（7）漢文A

遠藤 星希

授業コード：A2681 | 曜日・時限：木 4/Thu.4
春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：1～4 年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

【諸子百家の文を読む】

先秦時代の諸子百家の書から比較的有名な文章を精選し、原文で読解する。諸子百家の「諸子」とは、孔子・孟子・韓非子・老子・莊子・墨子・孫子などを代表とする諸々の思想家たちのこと、「百家」とは、儒家・法家・道家・墨家・兵家などを代表とする数多くの学派のことである。戦乱が恒常化した世の中で、学術・思想の自由競争社会を生き抜くため、春秋・戦国時代の思想家たちは様々な思索をめぐらせた。諸子百家の書を通じて彼らの思索を追体験することにより、現代社会をとらえ直す新たな視野を獲得することを目指し、同時に漢文を読解するための基礎的なスキルを養う。

【到達目標】

1. 漢文の基礎的な語法・句法を習得し、平易な漢文を読解できるようになる。
2. 調点（句読点・返り点・送り仮名）がついた漢文を正確に訓読できるようになる。
3. 書き下し文を参照しながら白文に返り点をつけることができるようになる。
4. 諸子の各学派の思想的特徴を把握する。
5. 漢文を読解する際に利用すべき基本的な工具書（辞典・目録など）を把握する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式で授業を行う。必要に応じてプロジェクターとスライドを使用し、画像や動画を映すこともある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	諸子百家の思想とその時代背景についての概説
第 2 回	儒家の思想（1）	『論語』を読む（1）：「為政篇」「公冶長篇」「先進篇」等より
第 3 回	儒家の思想（2）	『論語』を読む（2）：「雍也篇」「述而篇」「憲問篇」等より
第 4 回	儒家の思想（3）	『孟子』を読む（1）：「公孫丑上」「離婁上」等より
第 5 回	儒家の思想（4）	『孟子』を読む（2）：「梁惠王上」「尽心上」等より
第 6 回	道家の思想（1）	『老子』を読む：「第一章」「第五章」等より
第 7 回	道家の思想（2）	『莊子』を読む（1）：「齊物論篇」「大宗師篇」等より
第 8 回	道家の思想（3）	『莊子』を読む（2）：「応帝王篇」「秋水篇」等より
第 9 回	道家の思想（4）	『列子』を読む：「天瑞篇」「周穆王篇」等より
第 10 回	法家の思想（1）	『韓非子』を読む（1）：「五蠹篇」等より
第 11 回	法家の思想（2）	『韓非子』を読む（2）：「外儲說篇」等より
第 12 回	雑家の思想	『淮南子』を読む：「人間訓」等より
第 13 回	墨家の思想	『墨子』を読む：「非攻篇上」等より
第 14 回	兵家の思想	『孫子』を読む：「謀攻篇」「軍争篇」等より

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

資料のプリントは 1 週間以上前に配布されるので、授業前に必ず予習（辞書を引いて文意をつかむ等）をして、問題点・疑問点を明確にしておくこと。授業中にプロジェクターで映したスライド資料は、電子ファイルが学習支援システムにアップロードされるので、毎回授業後にダウンロードし、配布資料と合わせて復習することで内容を記憶に定着させる。なお、本授業の準備・復習時間は、4 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

テキスト（教科書）は使用しない。担当教員が作成した印刷物を教室で配布する。

【参考書】

- ・前野直彬『漢文入門』（ちくま学芸文庫、2015 年）
- ・古田島洋介『これならわかる返り点』（新典社、2009 年）
- ・加地伸行『漢文法基礎』（講談社学術文庫、2010 年）

- ・古田島洋介・湯城吉信『漢文訓読入門』（明治書院、2011 年）
 - ・古田島洋介『これならわかる漢文の送り仮名』（新典社、2012 年）
- その他、適宜授業中に指示する。

【成績評価の方法と基準】

100 % 学期末試験（筆記）の結果に基づいて評価する。試験の際の持ち込み・参照は不可。

【学生の意見等からの気づき】

授業中に眠ってしまう学生が毎回確認できたので、講義形式とはいえ、一方的に話すだけではなく、授業中に学生に質問して回答やコメントを求めるなど、なるべく双方向的な授業になるように工夫をする予定である。

【その他の重要事項】

- ・毎回、出席調査票を用いて出席をとる予定。
- ・授業日数の 3 分の 2 以上の出席がないと、原則として学期末試験の受験資格を失う。なお、出席に関する個別の問い合わせには応じないので、欠席回数を受講者が各自で記録し、把握しておくこと。
- ・授業の進み具合によっては、事前に受講者に説明をした上で、授業の予定を一部変更する可能性がある。

【Outline (in English)】

Course Outline: We will carefully select relatively famous passages from the writings of the *zhuzi baijia* (the Hundred Schools of Thought) during the Pre-Qin period in China and closely read them in the original language. *Zhuzi* in *zhuzi baijia* refers to various thinkers including Confucius, Mencius, Han Fei, Laozi, Zhuangzi, Mozi, and Sunzi. *Baijia* refers to a variety of schools including Confucianism, Daoism, Mohism, and the School of the Military. Against the backdrop of continuous wars, thinkers during the Spring and Autumn period and the Warring States period pursued their thoughts in various forms in order to survive the free competition between schools of thought. Through the works of *zhuzi baijia*, we will relive their thoughts and in so doing seek to attain a novel perspective from which to revisit contemporary society, while at the same time developing basic skills for reading literary Chinese.

Learning Objectives: By the end of the course, students will:

- A. have acquired Classical Chinese grammar and be able to read and comprehend plain Classical Chinese texts;
- B. be able to accurately read Chinese classical writings with *kunten* (marks for reading the Chinese into literary Japanese);
- C. be able to add return markers to the unmarked Chinese texts with reference to transcription of the Chinese classics into Japanese;
- D. have grasped the characteristics of the philosophy of the *zhuzi baijia*; and
- E. have acquired the basic skills necessary to read and comprehend Chinese materials.

Learning Activities Outside of the Classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading Criteria/Policy: Term-end examination (100%)

LIT200BC

日本文芸研究特講（7）漢文B

遠藤 星希

授業コード：A2682 | 曜日・時限：木 4/Thu.4

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：1～4 年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

【『戦国策』と『史記』を読む】

史書の『戦国策』と『史記』の中から比較的有名な文章を精選し、原文で読解する。『戦国策』は、戦国時代の遊説家の弁論や献策、逸話などを国別にまとめたもので、前漢末の劉向の編とされる。平安時代の日本にはすでに伝来しており、その後もわが国で広く読まれた。『史記』は前漢の司馬遷が著した史書であり、黄帝の時代から前漢中期に至る三千年にわたる通史である。『枕草子』に「ふみは、文集、文選、新賦、史記五帝本紀……」とあるように平安時代の貴族にとって最も馴染み深い漢籍の一つであり、『源氏物語』にもその影響が色濃く見えるのみならず、その後の日本文学にも影響力を持ち続けた。本授業では、『戦国策』と『史記』の文を精読することを通して、古代中国の社会・文化に対する理解を深め、そこに描かれた人々の英知を吸収すると同時に、漢文資料を読解するための基礎的なスキルを養う。

【到達目標】

1. 漢文の基礎的な語法・句法を習得し、平易な漢文を読解できるようになる。
2. 訓点（句読点・返り点・送り仮名）がついた漢文を正確に訓読できるようになる。
3. 書き下し文を参照しながら白文に返り点をつけることができるようになる。
4. 『戦国策』と『史記』についての基礎的な知識を習得する。
5. 漢文を読解する際に利用すべき基本的な工具書（辞典・目録など）を把握する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式で授業を行う。必要に応じてプロジェクターとスライドを使用し、画像や動画を映すこともある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	『戦国策』ガイダンス	『戦国策』と中国の戦国時代についての概説
第2回	『戦国策』精読（1）	「斉策」より
第3回	『戦国策』精読（2）	「燕策」より
第4回	『戦国策』精読（3）	「楚策」より
第5回	『戦国策』精読（4）	「魏策」より
第6回	『史記』ガイダンス	『史記』と司馬遷についての概説
第7回	『史記』精読（1）	「廉頗藺相如列伝」より「完璧」
第8回	『史記』精読（2）	「廉頗藺相如列伝」より「渾池の会」
第9回	『史記』精読（3）	「項羽本紀」より
第10回	『史記』精読（4）	「淮陰侯列伝」より
第11回	『史記』精読（5）	「管晏列伝」より
第12回	『史記』精読（6）	「伍子胥列伝」より
第13回	『史記』精読（7）	「孫子呉起列伝」より
第14回	『史記』精読（8）	「刺客列伝」より

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

資料のプリントは1週間以上前に配布されるので、授業前に必ず予習（辞書を引いて文意をつかむ等）をして、問題点・疑問点を明確にしておくこと。授業中にプロジェクターで映したスライド資料は、電子ファイル化されたものが学習支援システムにアップロードされるので、毎回授業後にダウンロードし、配布資料と合わせて復習することで内容を記憶に定着させる。なお、本授業の準備・復習時間は4時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

テキスト（教科書）は使用しない。担当教員が作成した印刷物を授業にて配布する。

【参考書】

- ・前野直彬『漢文入門』（ちくま学芸文庫、2015年）
 - ・古田島洋介『これならわかる返り点』（新典社、2009年）
 - ・加地伸行『漢文法基礎』（講談社学術文庫、2010年）
 - ・古田島洋介・湯城吉信『漢文訓読入門』（明治書院、2011年）
 - ・古田島洋介『これならわかる漢文の送り仮名』（新典社、2012年）
- その他、適宜授業中に指示する。

【成績評価の方法と基準】

100%学期末試験（筆記）の結果に基づいて評価する。試験の際の持ち込み・参照は不可。

【学生の意見等からの気づき】

授業中に眠ってしまう学生が毎回確認できたので、講義形式とはいえ、一方的に話すだけでなく、授業中に学生に質問して回答やコメントを求めるなど、なるべく双方向的な授業になるように工夫をする予定である。

【その他の重要事項】

- ・毎回、出席調査票を用いて出席をとる予定。
- ・授業日数の3分の2以上の出席がないと、原則として学期末試験の受験資格を失う。なお、出席に関する個別の問い合わせには応じないので、欠席回数を受講者が各自で記録し、把握しておくこと。
- ・授業の進み具合によっては、事前に受講者に説明をした上で、授業の予定を一部変更する可能性がある。

【Outline (in English)】

Course Outline: We will carefully select and read relatively famous passages from *Zhan Guo Ce (Strategies of the Warring States)* and *Shiji (Records of the Grand Historian)* in the original language. *Zhan Guo Ce* is a compilation by dynasty of rhetoric, strategic suggestions and anecdotes of strategists during the Warring States period, compiled by Liu Xiang at the end of the former Han period. It had already been introduced to Japan by the Heian period, and was widely read thereafter. *Shiji* is a history book written by Sima Qian during the early Han period, and is one of the most familiar Chinese classic books that not only exerted strong influence on *The Tale of Genji* but also had enduring effects on subsequent Japanese literature. In this course, through close reading of passages from *Zhan Guo Ce* and *Shiji*, we will deepen our understanding of ancient Chinese society and culture and absorb the wisdom of the people described therein, and develop basic skills for reading Chinese classical writings.

Learning Objectives: By the end of the course, students will:

- A. have acquired Classical Chinese grammar and be able to read and comprehend plain Classical Chinese texts.
- B. be able to accurately read Chinese classical writings with *kunten* (marks for reading the Chinese into literary Japanese);
- C. be able to add return markers to the unmarked Chinese texts with reference to transcription of the Chinese classics into Japanese;
- D. have acquired a basic knowledge of *Zhan Guo Ce* and *Shiji*.
- E. have acquired the basic skills necessary to read and comprehend Chinese materials.

Learning Activities Outside of the Classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading Criteria/Policy: Term-end examination (100%)

LIT200BC

日本文芸研究特講（8）言語A

王安

授業コード：A2685 | 曜日・時限：火 5/Tue.5

春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：1～4年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

言葉は言葉で独立しているのではなく、使い手である言語主体、すなわち私たち自身の認知のあり方を反映している。あらゆる言語表現の意味には言語主体の解釈や捉え方が関与している。同じ事態でも、言語主体の視点や解釈が違えば言語表現の意味も異なってくる。本講義では、認知言語学の基本を学び、日本語や英語、中国語の言語事例を取り上げ、言語主体の捉え方がどのように言葉の意味に反映されているのかを理解していく。

【到達目標】

- (1) 認知言語学の基本理念、概念を理解する。
- (2) 言語表現の意味と言語主体の「捉え方」との関係を理解する。
- (3) 認知言語学の基本的な考えを利用して、言語表現の意味構造を説明できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

基本的には講義形式で進めるが、内容と必要に応じて、調査課題を与え、発表をしてもらったり、皆でディスカッションをしたりしながら授業を進める。また、授業の理解度を確認するために、二、三回の授業に一度リアクションペーパーを書いてもらう。フィードバックは随時授業内で行う。

なお、授業形態は対面で行う予定ですが、変更があった場合は学習支援システムにてお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	第1章	授業ガイダンス、認知言語学と言語学
第2回	第2章	ことばの記号性
第3回	第3章	ものの見方と意味
第4回	第4章	プロトタイプとカテゴリー
第5回	第5章	イメージ・スキーマ
第6回	第6章	イメージ・スキーマと比喩
第7回	第7章	意味のネットワーク
第8回	第8章	メタファー（隠喩）
第9回	第9章	メトニミー（換喩）
第10回	第10章	概念メタファー
第11回	第11章	方向性のメタファー
第12回	第12章	色とことば
第13回	第13章	構文と意味
第14回	これまでのまとめ	総合討論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1. 授業前にテキストを読み、予習を行う。知らない概念や用語があれば、調べておく。（2時間）
2. 授業のあと、当日授業で学んだ内容を整理し、復習を行う（1～2時間）
3. 課題がある場合、しっかり参考書などを調べ、課題を行う（3時間）

【テキスト（教科書）】

『学びのエクササイズ 認知言語学』谷口一美 ひつじ書房 1200円

【参考書】

○『言葉のしくみ』高橋英光 2010 北海道大学出版会

○『ファンダメンタル認知言語学』2014 野村益寛 ひつじ書房
○『新編 認知言語学キーワード事典』2013 辻幸夫編 研究社
『日本語表現で学ぶ 入門からの認知言語学』初山洋介 研究社
『日本語研究のための認知言語学』初山洋介、研究社
『認知言語学とは何か』高橋英光 野村益寛 森雄一 くろしお出版
『認知意味論：言語から見た人間の心』ジョージレイコフ著、紀伊国屋書店
『認知意味論のしくみ』初山洋介著、研究社
『認知意味論の新展開—メタファーとメトニミー』谷口一美著、研究社

【成績評価の方法と基準】

課題40%+リアクションペーパー20%+期末レポート40%=100%で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

説明がわかりやすく丁寧な点、用例がたくさんあり、内容がわかりやすい点、配布資料が丁寧に作成された点などが評価され、うれしいです。また、たくさんの方から授業を通して認知言語学に対して興味を持つようになったとのコメントを頂いてとてもうれしいです。これからも様々な工夫をしてよい授業をしていきます。

【その他の重要事項】

1. 参考書のうち、特に“○”がついているものは頻繁に使うため、購入するかまたは図書館から借りておいてください。
2. 新型コロナウイルスに関する大学の方針変更等の事由により、対面授業およびzoom形式を併用して授業を行う可能性があります。詳細は、hoppiiにて連絡いたします。

【担当教員の専門分野】

<専門領域>

対照言語学、現代中国語文法、認知言語学

<研究テーマ>

形容詞の意味と機能、感情の概念化と言語の多様性、感情表現の構文パターンにおける類型論的研究

<主要研究業績>

「中国語の<主観性>の再考察—使役表出文を例として—」『認知言語学研究の広がり』大橋浩・川瀬義清・古賀恵介・長加奈子・村尾治彦編。pp.35-50. 2018. 開拓社

「感情の普遍性とその言語化—感情表現の類型論的研究に向けて—」『ことばのバースペクティブ』（中村芳久教授退職記念論文集刊行会編。pp.71-84. 2018. 開拓社

第8章「主体化」『認知言語学 基礎から最前線へ』森雄一・高橋英光編 2013. くろしお出版

「感情表現における日中対照研究—感情の語り方と人称制限の普遍性に着目して—」『言語研究の諸相』pp.35-45. 2010. 北海道大学出版

【Outline (in English)】

Course Outline: This course will study the basic knowledge of cognitive linguistics. Through Japanese, English, and Chinese language examples, we will understand how the cognitive subject's construe is reflected in the meaning and structure of the language.

Learning Objectives: The goal of this course is to understand the basic concepts and ideas of cognitive linguistics.

Learning Activities Outside of the Classroom: Before/after each class, students will be expected to spend three or four hours understanding the course content.

Grading Criteria/Policy: The overall grade in the class will be decided based on the following elements:

- Assignments: 40%
- Reaction paper: 20%
- Term-end report: 40%

LIT200BC

日本文芸研究特講（8）言語B

間宮 厚司

授業コード：A2686 | 曜日・時限：火 5/Tue.5

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：1～4 年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

『万葉集』の名歌・類歌・難調歌を取り上げ、言語学的に読み解く方法について考えます。万葉歌の訓読の再検討と類歌の比較を行うことにより、上代日本語の表記・文法・表現について理解を深めます。

【到達目標】

千年以上も前に、漢字だけで書かれた万葉歌を言語学的に読み解くプロセスを通して、上代日本語の歌ことばについて学びます。テキストを読み進め、解説することで、問題点の発見・資料の集め方・論証の仕方・論の展開・結論の導き方についても学び、応用のきく、考える力を多方面から身につけます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は講義形式で、テキストとプリントを併用して、丁寧に解説します。講義形式の授業ですが、リアクションペーパーに書かれた「質問・コメント・感想等」を次の授業で紹介したり、質問に対しては個別に答えたりします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業内容・受講の仕方・テキスト・成績評価等についての説明
第 2 回	『万葉集』の基礎知識	テキストの 5 頁～22 頁を解説
第 3 回	『万葉集』の訓読の再検討と類歌の表現比較（1）	テキストの第 1 話
第 4 回	『万葉集』の訓読の再検討と類歌の表現比較（2）	テキストの第 2 話と第 2 話補遺
第 5 回	『万葉集』の訓読の再検討と類歌の表現比較（3）	テキストの第 3 話導入と第 3 話
第 6 回	『万葉集』の訓読の再検討と類歌の表現比較（4）	テキストの第 4 話と第 5 話
第 7 回	『万葉集』の訓読の再検討と類歌の表現比較（5）	テキストの第 6 話と第 7 話
第 8 回	『万葉集』の訓読の再検討と類歌の表現比較（6）	テキストの第 8 話と第 9 話
第 9 回	『万葉集』の訓読の再検討と類歌の表現比較（7）	テキストの第 10 話と第 11 話
第 10 回	『万葉集』の訓読の再検討と類歌の表現比較（8）	テキストの第 12 話と第 13 話
第 11 回	『万葉集』の訓読の再検討と類歌の表現比較（9）	テキストの第 14 話と第 15 話
第 12 回	『万葉集』の訓読の再検討と類歌の表現比較（10）	テキストの第 16 話と第 17 話
第 13 回	『万葉集』の訓読の再検討と類歌の表現比較（11）	テキストの第 18 話と第 19 話
第 14 回	『万葉集』の訓読の再検討と類歌の表現比較（12）	テキストの第 20 話と第 21 話 大レポートの注意事項 まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストを事前に読んで、授業に臨んで下さい。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

間宮厚司『万葉異説【増補版】』（森話社、2021 年、2000 円＋税）

【参考書】

参考書はテキストの 158 頁に一覧してありますが、授業の進行にそって、そのつと紹介します。

【成績評価の方法と基準】

毎時間提出する「課題（感想等）」(50%)と学期末の大レポート(50%)の内容を勘案して、評価します。

【学生の意見等からの気づき】

大学の先生は遠い存在だと思っていたが、近い存在に感じました。

【Outline (in English)】

Course Outline: This lecture introduces the method for reading the poems of *Man'yōshū*. We use the textbook cited in the Japanese syllabus.

Learning Objectives: Through the process of reading *man'yō-ka*, which were written in *kanji* (Chinese characters) over a thousand years ago, students learn the *uta-kotoba* (words for *man'yō-ka*) of Old Japanese. By reading the textbook and listening to the instructor's commentary, students learn how to discover problems, collect materials, set out arguments, and draw conclusions. Students acquire the ability to think flexibly from different perspectives.

Learning Activities Outside of the Classroom: Before each class, students need to read the textbook. As preparation and review of the class, students will be expected to spend about 2 hours to understand the course content.

Grading Criteria/Policy: Your overall grade in the class will be decided based on the following: assignment (comments, thoughts, etc.) at each class meeting (50%), term-end report (50%).

LIT200BC

日本文芸研究特講（9）表現A

藤谷 治

授業コード：A2687 | 曜日・時限：水 5/Wed.5

春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：2～4 年

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

文学における多様な表現の諸相を、小説を例にとり原理的に考えていきます。

【到達目標】

文学における「表現」の意義、目的を多角的にとらえる。「読む」ことから見えてくる文学のあり方の基本を、小説を例にとって考える。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

藤谷治「小説は君のためにある」を読みながら、講義形式で進めます。レポートを課します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	「君」とは何か	文学が成り立つ最低必要条件である「君」という存在について
第 2 回	表現の存在意義	なぜ表現はあるのか
第 3 回	文学とは何か	文学を定義する
第 4 回	文学の評価	文学を評価するための基本について
第 5 回	文学の拠点	文学のありかについて
第 6 回	書く	文学における創作という側面と、その価値について
第 7 回	表現と情報	表現と情報の違いについて
第 8 回	小説- 人物の複数性	小説の顕著な特徴である「登場人物」とその複数性について
第 9 回	作者の存在	小説における作者の役割と、その存在がもたらす文学への影響について
第 10 回	小説の自由	小説表現が本来持っている自由について
第 11 回	稗史としての小説	稗史と、その子孫としての小説の一面について
第 12 回	非現実	小説における荒唐無稽や空想について
第 13 回	ストーリー	小説にとってのストーリーの位置と価値
第 14 回	まとめ	これまでのまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内容によって読むべき文献が指示される可能性あり。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

藤谷治「小説は君のためにある」（ちくまプリマー新書）

【参考書】

特にありません。

【成績評価の方法と基準】

授業の参加状況50%。レポート50%。

【学生の意見等からの気づき】

授業後に毎回アクション・ペーパーを提出していただきます。そこからの意見や質問等を選び、次回の授業で応じます。

【その他の重要事項】

講師は小説家。2003年デビュー。2015年『世界でいちばん美しい』で第31回織田作之助賞受賞。他に『いつか棺桶はやってくる』（第21回三島由紀夫賞候補）『船に乗れ！』（第7回本屋大賞第7位）『燃えよ、あんず』『小説は君のためにある』など。

【Outline (in English)】

Course Outline: We will undertake an elementary study of various aspects of literature with selected examples from novels.**Learning Objectives:** At the end of the course, students are expected to be able to see the significance of “expression” from multiple perspectives.**Learning Activities Outside of the Classroom:** Before and after each class meeting, students will be expected to spend two hours to read the textbook.**Grading Criteria/Policy:** Grading will be decided based on in-class contribution (50%), and short reports (50%).

LIT200BC

日本文芸研究特講（9）表現 B

藤谷 治

授業コード：A2688 | 曜日・時限：水 5/Wed.5

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2～4 年

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

文学における表現の諸相が、作品を実際を書く上でどのように実現されるか、小説の創作を例にとって解析する。

【到達目標】

表現と創作の実際的な困難や非論理性などを理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式で進めます。レポートを課します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	発想	趣向について
第 2 回	取材	空気を吸うことについて
第 3 回	文章	スタイルの選択
第 4 回	起筆	書き出しについて
第 5 回	持続	書き続けることの困難
第 6 回	題名	題名を決める
第 7 回	人物	性格の否定について
第 8 回	禁止	自らに課す禁止事項及びボルノの自戒について
第 9 回	推敲	文章の検討と批判
第 10 回	改稿	初稿の否定について
第 11 回	構成	作品全体について
第 12 回	秘密	語りえないこと及び読者との秘密の共有について
第 13 回	完成	作品の独立について
第 14 回	まとめ	一年間のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内容によって読むべき文献が指示される可能性あり。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

藤谷治「世界でいちばん美しい」（小学館文庫）

【参考書】

特になし

【成績評価の方法と基準】

授業の参加状況 50%。レポート 50%。

【学生の意見等からの気づき】

「情報」ではなく、経験に基づいた「思索」を中心に講義を進めます。

【その他の重要事項】

職業作家である講師が、創作の現場で考察し、また直面する文学とその表現について指導します。

【Outline (in English)】

Course Outline: We will analyze the way a story progresses, with selected example from novels, and discuss how aspects of expression are realized in literary works.

Learning Objectives: The goal of this course is to understand the realistic difficulty and inconsequentiality of expression.

Learning Activities Outside of the Classroom: Before and after each class meetings, students will be expected to spend two hours to read the textbook.

Grading Criteria/Policy: Grading will be decided based on in-class contribution (50%), and short reports (50%).

LIT200BC

日本文芸研究特講（10）演劇A

伊海 孝充

授業コード：A2689 | 曜日・時限：月 2/Mon.2

春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：1～4 年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、古典芸能の「能」の基本を学んでいく。能は難解で敷居の高い芸能だと思われている。確かに、独特なルールが存在するが、初心者でもその世界を堪能できる視点もある。その視点の一つとして、本講義では、能を日本古典文学の名場面集として捉えていき、それがいかに身体で表現されるかを考えていく。

【到達目標】

本講義では、能という芸能の基本を理解し、自分の言葉でこの芸能を説明できることを目標とする。能と言えば、「幽玄」などの固定観念で説明されることが多い。そうした既成の言葉ではなく、自身の言葉で能を形容できるようになるのが、目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は講義形式に進める。舞台芸術の授業であるため、テキストを読むだけでなく、視聴覚資料も多用する。また、受講者のほとんどが、古典芸能に馴染みがないはずである。毎回、コメントカードを配布し、それに授業内容に関する疑問点を書いてもらう。それに対する回答は、適宜授業冒頭で行なうことで、積極的に意見を出してほしい。授業のはじめにリアクションペーパーからいくつか取り上げて、フィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり/Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	能はなぜ難しいと言われるのか？
第2回	能楽の基本	用語と劇構成
第3回	能楽の歴史	室町時代から江戸時代までの能の歴史を概観する。
第4回	能《頼政》を読む①	『平家物語』と能
第5回	能《頼政》を読む②	作品を読む
第6回	能《葵上》を読む①	『源氏物語』と能
第7回	能《葵上》を読む②	作品を読む
第8回	能《高砂》を読む①	和歌と能
第9回	能《高砂》を読む②	作品を読む
第10回	能《安宅》を読む①	義経伝承と能
第11回	能《安宅》を読む②	作品を読む
第12回	能《土蜘蛛》を読む①	土蜘蛛伝承と能
第13回	能《安宅》を読む②	作品を読む
第14回	総括	春学期のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。実際能楽堂まで行き、生の舞台を鑑賞してほしい。公演は授業内で紹介する。

【テキスト（教科書）】

プリントを配布する。

【参考書】

授業内で紹介する。

【成績評価の方法と基準】

コメントカードの評価 50%
授業内小テスト（2～3回） 20%
学期末レポート 30%

【学生の意見等からの気づき】

初めて能について学ぶ学生もついてこられるように、はじめの説明を丁寧に行ないます。

【Outline (in English)】

Course Outline: This course is an introduction to Noh.

Learning Objectives: The goal of this course is to gain basic knowledge of Noh.

Learning Activities Outside of the Classroom: Students will be expected to go to see Noh, Kyogen, and other classical performing arts. Your study time will be more than four hours for a class.

Grading Criteria/Policy: Grading will be based on reaction papers (70%), and term-end report (30 %).

LIT200BC

日本文芸研究特講（10）演劇B

伊海 孝充

授業コード：A2690 | 曜日・時限：月 2/Mon.2

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：1～4 年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

古典芸能の「狂言」の基本を学ぶ。狂言はテレビや高校までの芸術鑑賞会で観たことがあるかもしれないが、能との関係やその歴史については知らない者も多いだろう。そうした者を対象として、代表的な演目を通し、狂言の特質を学んでいく。また狂言は、作品が作られた時代の文化を反映した史劇であるとともに、フィクション世界でもある。狂言を通して、中近世の人間模様と非現実な遊戯空間を読み解いていく。

【到達目標】

本講義では、「狂言とはこのような芸能である」と自分の言葉で正確に説明できることを目標とする。そのためには、狂言の台本を正確に読み、また舞台のセリフ・演技を理解することが必要である。中近世の口語で構成されている狂言のセリフ慣れ、狂言の舞台を台本なしで鑑賞できるようになってほしい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は講義形式に進める。舞台芸術の授業であるため、テキストを読むだけでなく、視聴覚資料も多用する。また、受講者のほとんどが、古典芸能に馴染みがないはずである。毎回、コメントカードを配布し、それに授業内容に関する疑問点を書いてもらう。それに対する回答は、適宜授業冒頭で行なうことで、積極的に意見を出してほしい。授業のはじめにリアクションペーパーからいくつか取り上げて、フィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり/Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	能と狂言の関係
第2回	狂言の歴史	狂言の形成と展開
第3回	狂言概説	狂言の流派と家
第4回	附子①	狂言「附子」を読む
第5回	附子②	太郎冠者と次郎冠者
第6回	武悪①	狂言「武悪」を読む
第7回	武悪②	下廻上の文学
第8回	髭櫓①	狂言「髭櫓」を読む
第9回	髭櫓②	わわしい女
第10回	首引①	狂言「首引」を読む
第11回	首引②	豪傑と狂言
第12回	川上①	狂言「川上」を読む
第13回	川上②	狂言と〈社会的弱者〉
第14回	総括	秋学期のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。現存する芸能の、生の舞台を鑑賞してほしい。公演は授業内で紹介する。

【テキスト（教科書）】

毎回プリントを配布する。

【参考書】

授業内で紹介する。

【成績評価の方法と基準】

コメントカードの評価 50%
授業内小テスト（2～3回） 20%
学期末レポート 30%

【学生の意見等からの気づき】

時間の制約上、狂言のビデオ全部見られない曲もあります。それらの曲について、DVDの貸し出しなども行ないます。

【Outline (in English)】

Course Outline: This course is an introduction to Kyogen.

Learning Objectives: The goal of this course is to gain basic knowledge of Kyogen.

Learning Activities Outside of the Classroom: Students will be expected to go to see Noh, Kyogen, and other classical performing arts. Your study time will be more than four hours for a class.

Grading Criteria/Policy: Grading will be based on reaction papers (70%), and term-end report (30 %).

ART200BC

日本文芸研究特講（11）音楽芸能史A

本塚 亘

授業コード：A2693 | 曜日・時限：木 2/Thu.2

春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：1～4年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、日本の音楽の歴史について、古代・中世を中心に概観しながら、古典文学作品の中に見える音楽描写について学んでいきます。春学期は「日本の音楽とは何か」という問題について考えます。雅楽や仏教音楽、平家語りなどを中心に、「日本の音楽」を外来文化とのかかわりの中で客観的に捉え、その普遍性と特殊性について考えてみましょう。

【到達目標】

- ・日本音楽史（古代・中世）の概要について理解を深めます。
- ・古典文学作品に表れる音楽描写について正確に理解できるようにします。
- ・日本の音楽と外来文化との関係性について理解を深めます。
- ・日本の音楽の普遍性と客観性について考察を深めます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

初回のガイダンスを除き、原則として対面講義形式での授業を行う予定です。ただし、新型コロナウイルスに関する大学の方針変更等の事由により、形式を変更する可能性があります。

授業は4つのテーマ、すなわち「Ⅰ：日本の音楽とは」、「Ⅱ：日本音楽略史」、「Ⅲ：外来楽について」、「Ⅳ：在来楽について」、および「補論」に分かれます。ⅠからⅣについては、小課題として要約などの課題を設けます。

資料の配布・公開、質問の受付、小課題の提出、およびフィードバックは、教室で直接行う場合と、Hoppii を介して行う場合と、またはこれらを併用する場合とがあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	Ⅰ：日本の音楽とは - ガイダンス	【オンライン】授業の進め方、扱う範囲、評価方法等の確認を行う。 雅楽（管絃）に用いられる楽器や楽譜、演奏形式の由来について考える。 「Ⅰ：日本の音楽とは」に関する履修者の質問への回答。
第2回	- ジャンルと楽器	
第3回	- フィードバック	
第4回	Ⅱ：日本音楽略史 - 制度の形成	出土品や『隋書』倭国伝、『古事記』の記述などをもとに、日本の音楽の黎明について学び、その様相や対外的な機能について考える。
第5回	- 確立と発展	律令制度の整備に伴って組織化された日本の音楽の体系を学び、その機能や思想的背景について考える。
第6回	- フィードバック	
第7回	Ⅲ：外来楽について - 舞楽（左方・右方）	舞楽（左方・右方）の編成や形式などについて学び、『源氏物語』における舞楽の描写を鑑賞する。
第8回	- 管絃と御遊	管絃の編成や御遊の形式などについて学び、『源氏物語』における管絃の描写を鑑賞する。
第9回	- フィードバック	
第10回	Ⅳ：在来楽について - 国風歌謡	国風歌舞（久米舞、大和舞、東遊などの在来歌舞）について学び、その由来や享受について考える。
第11回	- 催馬楽について	御遊などで歌われる催馬楽について学び、その音楽性や歌謡の性質について学ぶ。
第12回	- フィードバック	
第13回	V：補論 - 源氏物語と音楽	『源氏物語』における音楽場面（舞楽・管絃・催馬楽など）について取り上げる。

第14回 - 平家語り、語り物の普遍性

平家語りについて学び、雅楽や声明から受けた影響について考える。また国外の語り物文化との関係について学び、語り物芸能の普遍性について考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・授業時間外に、hoppii 上で小課題等の入力をお願いします。
- ・小課題：テーマ毎（Ⅰ～Ⅳ）に要約等の課題を設けます。全4回。
- ・期末レポート：3000字程度のレポートを課します。
- ・質問（任意）：毎時受け付けます。
- ・アンケート（任意）：都度協力をお願いする場合があります。課題回答、および準備学習・復習については4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

なし。教室での配布資料、または hoppii を経由して資料を公開します。

【参考書】

- ・岸辺成雄『古代シルクロードの音楽』（講談社、1982）
- ・平野健二ほか編『日本音楽大事典』（平凡社、1989）
- ・『日本音楽基本用語辞典』（音楽之友社、2007）
- ・遠藤徹『雅楽を知る事典』（東京堂出版、2013）
- その他、授業時に適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

【到達目標】に照らして以下の2項目を評価の対象とします。

- ・小課題 60%
- ・期末レポート 40%

【学生の意見等からの気づき】

専門的で理解が難しい、あるいは情報量が多すぎる、といった旨のご意見を多くいただきました。授業の性質上、どうしても専門的な資料や用語などを多用せざるを得ないのですが、毎時の学習到達目標を示すことによって、理解すべき点を明確にし、学生の反応をみながら適宜調整してまいりたく存じます。

【学生が準備すべき機器他】

hoppii にアクセスできるPC、インターネット環境を用意してください。対面授業時に教室内でPCを利用してもかまいませんが、必須ではありません。

【その他の重要事項】

新型コロナウイルスに関する大学の方針変更等の事由により、上記の授業内容を変更する可能性があります。変更があった場合は、hoppii にて連絡いたします。

【Outline (in English)】

Outline: This is an undergraduate-level lecture that provides an overview of Japanese music from the ancient to early medieval period, while interpreting the depiction of music in classical literary works. In the spring semester, we will focus on the question "What is Japanese music?" by learning about *gagaku*, Buddhist music, *Heike-gatari* and so on. We objectively consider these genres of "Japanese music" in relation to foreign cultures and learn about their universal and unique characteristics.

Goals: By the end of the course, students should have deepened their understanding of the following:

- The basics of ancient and medieval Japanese music history.
- The depiction of music in classical literary works.
- The relationship between Japanese music and foreign cultures.
- The universality and objectivity of Japanese music.

Learning activities outside of classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading Criteria/Policies: In accordance with the above goals, the following two elements will be graded:

- Subtasks (60%).
- Final report (40%).

ART200BC

日本文学研究特講（11）音楽芸能史B

本塚 亘

授業コード：A2694 | 曜日・時限：木 2/Thu.2

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：1～4 年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、日本の音楽の歴史について、古代・中世を中心に概観しながら、古典文学作品の中に表れる音楽描写について学んでいきます。秋学期は「うたと音楽との関係」について考えます。和歌や催馬楽、朗詠などを中心に、旋律に乗って歌われる言葉の機能や、替え歌によって生じるイメージの拡がりや分析し、その多様性と複層性について考えてみましょう。

【到達目標】

- ・日本音楽史（古代・中世）の概要についての理解を深めます。
- ・古典文学作品に表れる音楽描写について正確に理解できるようにします。
- ・日本の「うた」の文学性と音楽性についての理解を深めます。
- ・歌謡における旋律と詞章との重層的な関係について考察を深めます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

初回のガイダンスを除き、原則として対面講義形式での授業を行う予定です。ただし、新型コロナウイルスに関する大学の方針変更等の事由により、形式を変更する可能性があります。

授業は4つのテーマ、すなわち「Ⅰ：和歌をうたう」、「Ⅱ：表記と歌唱形式」、「Ⅲ：和歌のレトリック」、「Ⅳ：歌合について」、および「補論」に分かれます。ⅠからⅣについては、小課題として要約などの課題を設けます。

資料の配布・公開、質問の受付、小課題の提出、およびフィードバックは、教室で直接行う場合と、Hoppii を介して行う場合と、またはこれらを併用する場合があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	Ⅰ：和歌をうたう - ガイダンス	【オンライン】授業の進め方、扱う範囲、評価方法等の確認を行う。
第2回	- 和歌の歌唱例	現代における和歌の歌唱例を鑑賞する。また、記紀や『万葉集』などにおける歌唱例について学ぶ。
第3回	- フィードバック	「Ⅰ：和歌をうたう」に関する履修者の質問への回答。
第4回	Ⅱ．表記と歌唱形式 - 歌謡と歌体	記紀歌謡や『万葉集』における歌体と、『琴歌譜』などで実際に歌われた形式とを比較し、その関係を学ぶ。
第5回	- 催馬楽の歌唱形式	催馬楽における同音グループ間の詞章と旋律の関係を比較し、レパートリーの成立過程について考える。
第6回	- フィードバック	「Ⅱ．表記と歌唱形式」に関する履修者の質問への回答。
第7回	Ⅲ：和歌のレトリック 上代～中古	和歌（短歌）の成立過程、および枕詞、序詞などのレトリックについて学び、その発声上の機能について考える。
第8回	- 中世・その他	縁語や掛詞、本歌取り、体言止めなどのレトリックについて学び、和歌史における質的な変遷について考える。
第9回	- フィードバック	「Ⅲ：和歌のレトリック」に関する履修者の質問への回答。
第10回	Ⅳ：歌合について - 初期の歌合	歌合の歴史を概観しながら、初期歌合において催される音楽や、和歌の詠唱方法について学ぶ。
第11回	- 中世の歌合	中世以降に起こった歌合の変化について学ぶ。
第12回	- フィードバック	「Ⅳ：歌合について」に関する履修者の質問への回答。
第13回	補論 - 越殿楽の系譜	雅楽が寺院歌謡に取り込まれ、やがて越殿楽歌物として様々な芸能分野に拡散していく過程を追う。
第14回	- 君が代の歴史	和歌や朗詠、隆達節歌謡など、様々な形で伝播し、やがて数奇な運命をたどるに至った「君が代」について考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・授業時間外に、hoppii 上で小課題等の入力をお願いします。
- ・小課題：テーマ毎（Ⅰ～Ⅳ）に要約等の課題を設けます。全4回。
- ・期末レポート：3000 字程度のレポートを課します。
- ・質問（任意）：毎時受け付けます。
- ・アンケート（任意）：都度協力をお願いする場合があります。課題回答、および準備学習・復習については4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

なし。教室での配布資料、または hoppii を経由して資料を公開します。

【参考書】

- ・平野健二ほか編『日本音楽大辞典』（平凡社、1989）
- ・青柳隆『日本朗詠史 研究篇』（笠間書院、1999）
- ・『日本音楽基本用語辞典』（音楽之友社、2007）
- ・渡部泰明編『和歌とは何か』（岩波文庫 新赤版 1198、2013）
- その他、授業時に適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

【到達目標】に照らして以下の2項目を評価の対象とします。

- ・小課題 60%
- ・期末レポート 40%

【学生の意見等からの気づき】

専門的で理解が難しい、あるいは情報量が多すぎる、といった旨のご意見を多くいただきました。授業の性質上、どうしても専門的な資料や用語などを多用せざるを得ないのですが、毎時の学習到達目標を示すことによって、理解すべき点を明確にし、学生の反応をみながら適宜調整してまいります。

【学生が準備すべき機器他】

hoppii にアクセスできるPC、インターネット環境を用意してください。対面授業時に教室内でPCを利用してもかまいませんが、必須ではありません。

【その他の重要事項】

新型コロナウイルスに関する大学の方針変更等の事由により、上記の授業内容を変更する可能性があります。変更があった場合は、hoppii にて連絡いたします。

【Outline (in English)】

Outline: This is an undergraduate-level lecture giving an overview of Japanese music from the ancient to early medieval period, while interpreting the depiction of music in classical literary works. In the autumn semester, we center on the relationship between song and music by learning about *waka*, *saibara*, *rōei*, and so on. We analyze the function of the words sung to the melody and the spread of the image caused by change in the lyrics, and think about the diverse and multilayered nature of song.

Goals: By the end of the course, students should have deepened their understanding of the following:

- The basics of ancient and medieval Japanese music history.
- The depiction of music in classical literary works.
- The literary and musical characteristics of ancient Japanese *uta* songs.
- The multilayered relationship between melody and lyrics.

Learning activities outside of classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading Criteria/Policies: In accordance with the above goals, the following two elements will be graded:

- Subtasks (60%).
- Final report (40%).

LIT300BC

日本文芸研究特講（12）詩歌A

四元 康祐

授業コード：A2695 | 曜日・時限：金 2/Fri.2
 春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

詩を書いてみる、読んでみる、考えてみる。
 コトバの魔術としての詩、ココロの発露としての詩。物語る詩、歌う詩、祈る詩。目の詩、耳の詩。詩のさまざまな在り方に親しむことによって、詩とは何か、そして詩を書く唯一の動物としての人間とはどのようなものなのか、頭だけでなく、五感のすべてを使って洞察する。春期は詩の原理と構造を中心に、秋期は原型的な詩人像を巡って講義と演習を行います。

【到達目標】

「詩」と呼ばれる人類特有の営みの、時代や文化ごとに移り変わる多様性に触れるとともに、深層的な象徴言語としてのその普遍性について学び、自分自身の意識の根底に組み込まれた詩的想像力の働きを自覚する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

講義と演習を隔週で行う予定です。リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。可能な限り教室での対面授業といたします。やむなくオンライン授業となった場合は、オンラインでのライブストリーミングを基本とします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	講師と受講生の自己紹介。この授業の目的、進め方、期待するものなどの相互確認。50名の定員を超える仮登録があった場合は、抽選により選抜を行います。
第2回	講義1：詩と散文	詩のコトバは、新聞や法律の言葉とどこが違うのか？ 詩と小説の関係とは？
第3回	演習1：詩を書いてみる	与えられたテーマ・手法に則して詩を書き、相互に観賞・批評、推敲する。
第4回	講義2：声の詩、文字の詩	詩の中に太古から在る口承の要素と、文字を用いる詩の特徴を比較し、詩が目と耳、そして肉体と理性に、それぞれどのように働きかけてくるかを学ぶ。
第5回	演習2：詩を書いてみる	与えられたテーマ・手法に則して詩を書き、相互に観賞・批評、推敲する。
第6回	講義3：モノの詩、ココロの詩	中世の叙事詩、近代の俳句、現代のイマジスト派などを通して、詩における、事と心の相互作用を学ぶ。
第7回	演習3：詩を書いてみる	与えられたテーマ・手法に則して詩を書き、相互に観賞・批評、推敲する。
第8回	講義4：宴と孤心	大岡信の『宴と孤心』理論を中心に、詩における個と共同体のダイナミズムについて学ぶ。
第9回	演習4：ミニ連詩	小グループに分かれて、短い行を交互に連ねることによって、連歌・連詩の醍醐味を体感する。
第10回	講義5：AI(人工知能)に詩は書けるか？	AIを用いた詩の制作を通して、人間の意識と言語の関わりを考察する。
第11回	演習5：AI詩で遊ぶ	短歌・俳句自動作成アプリや「偶然短歌」などを利用して自分だけのAI詩を作ってみる。
第12回	講義6：詩の自由と抵抗	詩による現実への抵抗、現実からの解放について学ぶ。
第13回	演習6：詩を書いてみる	与えられたテーマ・手法に則して詩を書き、相互に観賞・批評、推敲する。
第14回	まとめと解説	春季の授業を振り返り、必要に応じて解説をする。現代詩相談室も合わせて実施。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

演習（6回）の授業では、授業中に詩を書くこともあれば、予め課題の詩や文章を書いてくることもあります。いずれの場合も、授業で学んだことを基に推敲した上で、その週の課題として提出します。講義の授業では、その日に学んだことの感想や質問を簡潔にまとめて提出する。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

For the 6 classes of poetry workshop, you are required to write a poem or poetic text either during the class or beforehand.

For the 6 classes of lectures, you are required to submit your reaction or questions after each lecture.

2 hours each should be adequate for the preparation and review of each class in this course.

【テキスト（教科書）】

なし。必要な資料はその都度スライドを準備して配布します。

【参考書】

四元康祐著『詩人たちよ！』思潮社 2015年
 四元康祐著『ホモサピエンス詩集 四元康祐翻訳集現代詩篇』澤標 2020年
 四元康祐著『ダンテ、李白に会う 四元康祐翻訳集古典詩篇』思潮社 2023年
 あくまでも参考です。授業のために読んでおく必要はありません。

【成績評価の方法と基準】

レポート/Report 70 %
 平常点/Class Participation 30 %

【学生の意見等からの気づき】

昨年の授業では、キャンパスの近くを散歩しながら詩を書く「サンボエム」、グループで即興的に1篇の詩を書く「あいうえお連詩」、与えられた課題曲に歌詞をつける（そして唄う）「歌詞ワークショップ」などの演習が好評でした。今年もいろんな詩の書き方を試してみたいと思っています。

【その他の重要事項】

50名の定員を超える仮登録があった場合は、抽選により選抜を行います。

【Outline (in English)】

Students are exposed to poetic expressions and sensitivities by writing, reading, translating, and discussing varieties of poetry. They gain insight into the function and nature of poetic language, and the role of the poetic imagination in human intelligence.

Course Outline: In this class we will write, read, and think about poetry: poetry as the magic of words, poetry as an outpouring of the heart; poetry that tells stories, poetry that sings, poetry that prays; poetry for the eyes, poetry for the ears. By becoming familiar with the various forms of poetry, we will gain insight into what poetry is and what it means to be a human being, the only animal that writes poetry, using all of our senses, not just our minds. The spring term will focus on the principles and structure of poetry, while the fall term will consist of lectures and exercises concerning the archetypal image of the poet.

Learning Objectives: Students are exposed to poetic expressions and sensitivities by writing, reading, translating, and discussing varieties of poetry. They gain insight into the function and nature of poetic language, and the role of the poetic imagination in human intelligence.

Learning Activities Outside of the Classroom: For the 6 poetry workshops, students are required to write a poem or poetic text either during the class or beforehand. For the 6 lecture classes, they are required to submit their reactions and/or questions after each lecture. Two hours each should be adequate for the preparation and review of each class in this course.

Grading Criteria/Policy: Report (70%), class participation (30%).

LIT300BC

日本文芸研究特講（12）詩歌B

四元 康祐

授業コード：A2696 | 曜日・時限：金 2/Fri.2

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2～4 年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

詩を書いてみる、読んでみる、考えてみる。
 コトバの魔術としての詩、ココロの発露としての詩。物語る詩、歌う詩、祈る詩。目の詩、耳の詩。詩のさまざまな在り方に親しむことによって、詩とは何か、そして詩を書く唯一の動物としての人間とはどのようなものなのか、頭だけでなく、五感のすべてを使って洞察する。春期は詩の原理と構造を中心に、秋期は原型的な詩人像を巡って講義と演習を行います。

【到達目標】

「詩」と呼ばれる人類特有の営みの、時代や文化ごとに移り変わる多様性に触れるとともに、深層的な象徴言語としてのその普遍性について学び、自分自身の意識の根底に組み込まれた詩的想像力の働きを自覚する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

後期の前半部分、初回から 11 月初旬まではズームによる授業となる可能性があります。それ以降は対面です。詳細は後期の履修登録期間開始までに、講義内容を更新いたします。
 講義と演習を交互に繰り返してゆく予定です。
 リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロ	講師と受講生の自己紹介。この授業の目的、進め方、期待するものなどの相互確認。仮登録者が定員（50 名）を超えた場合は抽選により選抜します。
第 2 回	講義 1：放浪と越境の詩人たち	ダンテ『神曲』、紀貫之『土佐日記』、伊藤比呂美『河原荒草』などを例に、詩における放浪と越境の意味を問う。
第 3 回	演習 1：詩を書いてみる	与えられたテーマ・手法に則して詩を書き、相互に観賞・批評、推敲する。
第 4 回	講義 2：部族の声としての詩人たち	ウォルト・ホイットマン、アレン・ギンズバーグ、シェーマス・ヒーニーなどを例に、共同体の代弁者としての詩人像を探る。
第 5 回	演習 2：詩を書いてみる	与えられたテーマ・手法に則して詩を書き、相互に観賞・批評、推敲する。
第 6 回	講義 3：愛と孤独の女性詩人たち	和泉式部、エミリー・ディキンソン、石垣りんらを例に、女性詩人の系譜を追う。
第 7 回	演習 3：詩を書いてみる	与えられたテーマ・手法に則して詩を書き、相互に観賞・批評、推敲する。
第 8 回	講義 4：言語を疑う詩人たち	ゲーテ『ファウスト』と谷川俊太郎『詩人の墓』を例に、詩における言語と現実との関係を探る。
第 9 回	演習 4：詩を書いてみる	与えられたテーマ・手法に則して詩を書き、相互に観賞・批評、推敲する。
第 10 回	講義 5：自由と抵抗の詩人たち	金子光晴、マイケル・パーマー、現代のミャンマーの詩人たちを例に、詩における自由と抵抗の在り方について考察する。
第 11 回	演習 5：詩を書いてみる	与えられたテーマ・手法に則して詩を書き、相互に観賞・批評、推敲する。
第 12 回	講義 6：笑う詩人たち	ジョン・ダン、ウィリアム・ブレイク、サイモン・アーミテッジ、平田俊子らを例に、詩におけるユーモアの働きを探る。
第 13 回	演習 6：詩を書いてみる	与えられたテーマ・手法に則して詩を書き、相互に観賞・批評、推敲する。
第 14 回	まとめ：詩とは何か	後期の授業のまとめと現代詩相談室。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

演習（全 6 回）では、授業中に詩を書くこともあれば、予め課題の詩や文章を書いてくることもあります。いずれの場合も、授業で学んだことをもとに推敲したうえで、その週の課題として提出します。
 それ以外の授業では、その回に学んだことの感想や質問を簡潔にまとめて提出する。

本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

For the 6 classes of poetry workshop, you are required to write a poem or poetic text either during the class or beforehand.

For the 6 classes of lectures, you are required to submit your reaction or questions after each lecture.

2 hours each should be adequate for the preparation and review of each class in this course.

【テキスト（教科書）】

なし。必要なテキストは、授業の都度配布します。

【参考書】

四元康祐著『詩人たちよ！』思潮社 2015 年
 四元康祐著『ホモサピエンス詩集 四元康祐翻訳集現代詩篇』滯標 2020 年
 四元康祐著『ダンテ、李白に会う 四元康祐翻訳集古典詩篇』思潮社 2023 年
 あくまでも参考です。授業のために読んでおく必要はありません。

【成績評価の方法と基準】

レポート/Report 70 %

平常点/Class Participation 30 %

【学生の意見等からの気づき】

昨年の授業では、キャンパスの近くを散歩しながら詩を書く「サンボエム」、グループで即興的に 1 篇の詩を書く「あいいうお連詩」、与えられた課題曲に歌詞をつける（そして唄う）「歌詞ワークショップ」などの演習が好評でした。今年もいろんな詩の書き方を試してみたいと思っています。

【その他の重要事項】

50 名の定員を超える仮登録があった場合は、抽選により選抜を行います。

【Outline (in English)】

Students are exposed to poetic expressions and sensitivities by writing, reading, translating, and discussing varieties of poetry. They gain insight into the function and nature of poetic language, and the role of the poetic imagination in human intelligence.

Course Outline: In this class we will write, read, and think about poetry: poetry as the magic of words, poetry as an outpouring of the heart; poetry that tells stories, poetry that sings, poetry that prays; poetry for the eyes, poetry for the ears. By becoming familiar with the various forms of poetry, we will gain insight into what poetry is and what it means to be a human being, the only animal that writes poetry, using all of our senses, not just our minds. The spring term will focus on the principles and structure of poetry, while the fall term will consist of lectures and exercises concerning the archetypal image of the poet.

Learning Objectives: Students are exposed to poetic expressions and sensitivities by writing, reading, translating, and discussing varieties of poetry. They gain insight into the function and nature of poetic language, and the role of the poetic imagination in human intelligence.

Learning Activities Outside of the Classroom: For the 6 poetry workshops, students are required to write a poem or poetic text either during the class or beforehand. For the 6 lecture classes, they are required to submit their reactions and/or questions after each lecture. Two hours each should be adequate for the preparation and review of each class in this course.

Grading Criteria/Policy: Report (70%), class participation (30%).

LIT300BC

日本文芸研究特講（13）児童文芸A

三井 喜美子

授業コード：A2697 | 曜日・時限：水 2/Wed.2

春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本児童文学について総論的に歴史や意義を理解する。各論的には、明治期における巖谷小波の業績とその意義、翻訳児童文学の影響、大正期における「赤い鳥」の果たした役割、昭和期における戦前戦後の日本児童文学の諸相等について理解する。短編児童文学を創作し、合評会を行う

【到達目標】明治から現代に至る日本の児童文学史の代表的な作品を理解することができる。巖谷小波「こがね丸」を音読すること。児童文学の創作をし、合評会で意見交換をすることができる。

【授業時間外の学習】講義で扱う作品を事前に必ず読むこと。講義後の感想を必ず **hoppii** に投稿し出席確認すること。児童文学短編を創作し相互評価すること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【到達目標】

明治から現代に至る日本の児童文学史の代表的な作品を読んで感想を意見交換することができる。明治期の児童文学は、巖谷小波・翻訳小説を中心に特徴を捉えることができる。小波の「こがね丸」は日本児童文学史の始まりとされている作品であるので、必ず読了すること。特に、声に出して読むこと。大正期においては、雑誌「赤い鳥」の果たした役割を理解することができる。昭和期の児童文学については、現代の児童文学の多様性を捉えることができる。また、代表的な作家の業績をとらえることができる。実際に児童文学の創作をし、**Hoppii** のシステムを使って相互評価することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

講義。大学の指示に則り、状況に応じてオンラインも活用する。対面かオンラインかは随時学習支援システムで伝達する。

講義内容に即した関連作品を毎回読むこと。児童文学の創作を提出し、相互評価をすること。**Hoppii** の授業内掲示板に授業後の感想を書き、講師とコミュニケーションをとると同時に、出席確認をすること。

具体的な授業の準備や課題など、詳細は授業支援システムで確認すること・授業の初めに、前回の授業で提出された感想（リアクションペーパーに代わる **Hoppii** の投稿）からいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行い、さらなる議論に活かす。

・課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	授業の進め方について 児童文学の領域について	現代児童文学をどう捉えるか、現代の児童文学の多様さについて視野を広げる
第 2 回	明治期の児童文学	巖谷小波の功績
第 3 回	小波の「こがね丸」 ここまでで作品を読了しておくこと	「こがね丸」の面白さについて理解することを通して、日本児童文学の出版を考察することができる
第 4 回	児童文学の面白さとは 翻訳児童文学	「小公子」と「十五少年」を中心に翻訳児童文学の特性を理解する。特に文体の特徴を捉えることができる
第 5 回	大正期の児童文学	御伽噺から童話へどのように変化していったか理解することができる
第 6 回	小川未明「赤い船」その他	情緒性と文体の特徴を理解することができる
第 7 回	小川未明「赤いろうそくと人魚」	作品の評価を巡って、児童文学史における未明作品の価値を理解することができる
第 8 回	「赤い鳥」の功績	赤い鳥運動と大正デモクラシーについて理解することができる
第 9 回	鈴木三重吉の児童文学観について	文壇作家の作品を読み、その特性を理解することができる
第 10 回	文壇作家の児童文学 浜田廣介の作品と作家像 「泣いた赤鬼」を中心に	廣介童話といわれる作風の特徴を理解することができる
第 11 回	創作の相互評価と合評会	童心主義とは何かを理解する 実作した作品を読み合い、感想を出し合う。ベスト作品を選定する。
第 12 回	豊島与志雄その他	夢を書くということについて考える 大人の文学と子どもの文学その 1

第 13 回	千葉県三その他 創作集について	子どもを描くということについて考える
第 14 回	坪田譲治その他	大正から昭和へ作品の変化を理解することができる 大人の文学と子どもの文学その 2

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義で扱う作品を事前に必ず読むこと。
講義後の感想を必ず **Hoppii** に投稿し出席確認をとること。
児童文学短編を創作すること。
合評会をして作品評価をすること。**Hoppii** の相互評価を活用する予定
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

各作家の短編集
小川未明・浜田広介・坪田譲治及び赤い鳥傑作集は文庫本で必携のこと

【参考書】

明治の児童文学 大正期の児童文学 現代児童文学
『児童文学入門』（関口安義著 中教出版 2200 円）『アプローチ児童文学』（関口安義編 翰林書房 2000 円）

【成績評価の方法と基準】

学習支援システム（ホッピー）の授業内掲示板に毎回感想を投稿し、教員とコミュニケーションをとること。感想の投稿をもって出席とする

平常点（授業への参加態度と授業感想）40%

児童文学（掌編）の創作 20%と合評 20%

期末レポート 20%

出席は開始 10 分までを認める

【学生の意見等からの気づき】

学生とのコミュニケーションを大事にすること。
学生同士の交流を取り入れること。
スクリーンを活用して、映像や音声による資料の提示も積極的に導入する予定。

【その他の重要事項】

創作は学習支援システムの相互評価を活用する。

【Outline (in English)】

Course Outline: The aim of the course is for students to be able to understand the history and significance of Japanese children's literature. Students will create a short children's story and have an evaluation session.

Learning Objectives: At the end of the course, students will be able to understand the major Japanese children's literature from the Meiji era to the present. Students will read aloud Iwaya Sazanami's *Koganemaru*. Students will also create an original children's story and exchange opinions in an evaluation session.

Learning Activities Outside of the Classroom: Before each class session, students are expected to read the works discussed in the lecture. After class, they are to post their comments on **Hoppii** and confirm their attendance. During the course, students must create their own children's story and evaluate their classmates' works. The expected time of preparation and review for class is 2 hours per session.

Grading Criteria/Policy: Participation (attitude and comments) (40%); creation of children's short story (20%); evaluation of classmates' works (20%); short essay (20%).

LIT300BC

日本文芸研究特講（13）児童文芸B

三井 喜美子

授業コード：A2698 | 曜日・時限：水 2/Wed.2

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2～4 年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

春学期の内容を受けて、秋学期では昭和から現代に至る児童文学について、具体的に作家やジャンルごとのテーマに沿って講義をする。それぞれの作家の作風や表現の特徴を捉えることができる。ジャンルの特徴を捉えることができる。また、子どもを取り巻くメディアにも広く関心を向けて児童文学を捉えた時、児童文学を読み、考えることで、どういう「今」が見えてくるか、現代社会を批判的に見据えていくことを視座として、児童文学を考え抜くことができる。アクティブラーニングとして推薦絵本のプリオバトル風に紹介する

【到達目標】 取り上げる作家・作品・ジャンルについてその特徴や歴史的意味を捉えることができる。絵本の紹介をし合い、作品評価をグループで議論することができる。

【授業時間外の学習】 地域の図書館や書店で絵本を出来るだけたくさん読み、今だからこそ紹介したい本を見つけること。推薦絵本のプリオバトルは Zoom で行う。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【到達目標】

現代の児童文学の多様化を、読者論、社会論的に探究し、その問題と可能性を検討し、考えを伝えることができる。取り上げる作家についての代表作や文学史的評価を捉えることができる。児童文学のジャンルについてその特徴や歴史的意味を捉えることができる。絵本の紹介をし合い、作品評価を議論することができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

大学の指示にのっとり、状況に応じてオンラインを活用する。授業形態は状況に応じて随時判断し、学習支援システムを使って伝達する。個人的に取り上げる作家は、新美南吉と宮沢賢治。また、ジャンル別に作品を取り上げ、幼年童話、戦争児童文学、歴史児童文学、少年少女小説、ファンタジーなどについて、諸相を捉えていくこと。また、絵本も積極的に取り上げる。

新たな児童文学の観点も意識して、推奨絵本作品をプレゼンテーションする。詳細はホッピー（学習支援システム）にて連絡するので、確認すること・授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパー（Hoppii に投稿した感想）からいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行い、さらなる議論に活かす。

・課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	絵本の今日的読まれ方	今学期の授業の進め方のオリエンテーションを含む。 大人も楽しむ児童文学 プリオバトルのガイド
第 2 回	新美南吉「ごんぎつね」を中心に	南吉文学の特徴である不条理の世界を理解することができる
第 3 回	新美南吉の民話的作品	新美南吉の人と作品について
第 4 回	絵本の世界～かこさとしとヨシタケシンスケを中心に	絵本の児童文学性、芸術性、多様性について認識を深め、絵本プリオに挑む
第 5 回	宮沢賢治のユーモア作品について	宮沢賢治の民話的作品の世界また独特のユーモアを理解することができる
第 6 回	宮沢賢治「なめとこ山の熊」を中心に	宮沢賢治の不条理の世界観 また、独特の表現の特徴と効果を理解することができる
第 7 回	宮沢賢治「銀河鉄道の夜」	宮沢賢治のファンタジー世界を理解する
第 8 回	推薦したい絵本を紹介しあい、児童文学の評価を考える	推薦絵本のプリオバトル
第 9 回	プリオバトルのチャンプ本のプレゼンテーション 幼年文学	評価の高かったチャンプ本全体に発表 松谷みよ子、今西祐行を中心に幼年童話の特徴を理解することができる
第 10 回	戦争児童文学①	「かわいそうな象」「干からびた象と象使いの話」を中心に
第 11 回	戦争児童文学②	今西祐行作品を中心に

第 12 回 歴史児童文学 歴史児童文学のジャンルについて作品

第 13 回 少年少女小説と YA を読み、特徴を理解することができる
児童と大人の狭間の読者論的理解

第 14 回 ファンタジー ファンタジーの系譜を理解し、ファンタジー作品の文学の力について考えをまとめることができる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

地域の図書館や書店で絵本を出来るだけたくさん読み、今だからこそ紹介したい本を見つけること。推薦絵本のプリオバトルを Zoom で行う。フィールドワークは、検討中。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特に指定なし。新美南吉、宮沢賢治、松谷みよ子、今西祐行の短編集は必携

【参考書】

別冊太陽特集絵本 ○○年のベスト絵本 その他授業で紹介

【成績評価の方法と基準】

学習支援システム（ホッピー）の授業内掲示板に毎回感想を投稿し、教員とコミュニケーションをとること。投稿感想をもって出席とする
授業への参加態度と感想文及び授業進行過程での回答 40%、
推薦絵本プレゼンテーション 20%
推薦絵本の書評 20%
レポート 20%
出席は開始 10 分までを認める

【学生の意見等からの気づき】

教員とのコミュニケーションをとること。
学生間のコミュニケーションをとること。
プレゼンの経験を積むこと。

【学生が準備すべき機器他】

OHC の使用

【その他の重要事項】

絵本紹介はアクティブラーニングとして必須
詳細は学習支援システムに掲載する

【Outline (in English)】

Course Outline: Following the contents of the spring term, this course's lectures focus on the author Miyazawa Kenji and the different genres that make up children's literature. Students will understand the characteristics of each genre. Students will recommend and evaluate a children's book of their choice.

Learning Objectives: Students will be able to understand the characteristics and historic meaning of each author, their works, and the different genres. They will introduce children's books to each other, following with its evaluation and group discussion.

Learning Activities Outside of the Classroom: Students are expected to read as many children's books as possible in their local libraries or bookstores and find a book they wish to introduce to others. A "Bibliobattle" of books they recommend will be conducted on Zoom. The expected time of preparation and review for class is 2 hours per session.

Grading Criteria/Policy: After each session, students must post their comments on Hoppii and confirm their attendance as well as communicate with others. Class participation and comments (40%); presentation on recommended book (20%); participation in the "Bibliobattle" (20%); report (20%).

LIT300BC

日本文芸研究特講（14）沖縄文芸A

福 寛美

授業コード：A2699 | 曜日・時限：金 3/Fri.3

春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

沖縄にはグスクと称される構造物がある。グスクはヤマト的な意味では城だが、日本的な城とは相当異なっている。グスクについての最古の文献は『おもろさうし』のオモロ（神歌）である。グスクについての理解を深めることは、琉球の知られざる歴史を知ることでもある。日本の中の異文化、琉球文化を理解するため、グスクに関連するオモロを読んでいく。

【到達目標】

『おもろさうし』のオモロは平かなを主体に、簡単な漢字を用いて日本語で記載されている。しかし、オモロは神歌なので、何がどうしてどうなった、という論理性を欠く。しかし、豊かなイメージを提示する。一方、オモロはどのような日本文学とも似ていない。そのような文学世界の存在を知ることは、まさに異文化を知ることもある。日本の中の異文化を深く知ることにより、文化と文化の接触のあり方を知ることができる。

成績評価は平常点（出席回数）、学期末試験による。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

講義を中心とする。琉球・沖縄文化への理解を深めるため、沖縄関係のDVDや沖縄の音楽のCDを鑑賞することもある。学期末試験は記述式の問題を出題する。授業に出席し、教科書をよく読み、参考文献や参考資料を読めば簡単に記述できる問題を出題する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オモロ概説	『おもろさうし』とオモロについて概説する。
第2回	グスク概説①	琉球の構造物、グスクについて概説する。
第3回	グスク概説②	グスクに関するオモロを概説する。
第4回	尚真王（しょうしんおう）概説	琉球王国第二尚王統の王であり、「神格化されている尚真王について概説する。
第5回	尚真王のオモロの概説	尚真王関係のオモロについて概説する。
第6回	石を割る道具について	石を割る道具について概説する。
第7回	造営のオモロと歴史事象①	グスク造営のオモロについて概説する。
第8回	造営のオモロと歴史事象②	グスク造営のオモロと歴史事象の重なりについて概説する。
第9回	「げらへる」という言葉について①	石垣の石を積むことを意味する「げらへる」という言葉を概説する。
第10回	「げらへる」という言葉について②	オモロ世界では何を「げらへる」かを概説する。
第11回	「げらへる」という言葉について③	オモロ世界では誰が「げらへる」かを概説する。
第12回	「げらへる」という言葉について④	美称辞としての「げらへ」について概説する。「げらへる」以外の造営に関わる言葉を概説する。

第13回 石について 石垣の石について概説する。

第14回 信仰、呪的な石について 信仰される石、呪的な石について概説する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・テキスト、参考資料を事前に読む。復習も同様にする。
- ・授業外における必要な学習時間は4時間程度。
- ・授業計画に沿って授業を進めるが、学生の関心にもある程度はこたえる予定。現代におけるチャーマン文化、琉球の神話の神話学的分析、などを学生が望む場合、授業時間内で、できる範囲で解説することも考えている。講義主体の授業だが、積極的な授業参加を望む。

【テキスト（教科書）】

教科書

『ぐすく造営のおもろ一立ち上がる琉球世界』

（福寛美著 新典社 2015年 1100円）

【参考書】

参考書

『『おもろさうし』と群雄の世紀－三山時代の王たち』

（福寛美著 森話社 2013年 3200円＋税）

【成績評価の方法と基準】

- ・授業3回につき1回程度、リアクション・ペーパーを配布する。学生のリアクションによって、理解の度合いを確認する。
- ・グスクとグスク造営のオモロ、そして古い時代の琉球文化について理解を深めたかどうかを、学期末試験で確認する。
- ・期末試験は複数の問題から2つ選んで記述する、という形をとる。また、平常点もあわせて評価する。学期末試験を60%、平常点を40%とする。

【学生の意見等からの気づき】

- ・『おもろさうし』やオモロを素材に講義する場合、「難しい」、「よくわからなかった」という声が出ることがある。わかりにくい素材ではあるが、できるだけ学生に趣旨が伝わるように努める。

【学生が準備すべき機器他】

- ・対面授業を基本とする。対面授業で参考資料を配布する。
- ・休講の連絡、ほかで学習支援システムを利用する場合がある。大事な連絡は、メールの一斉送信で周知するようにする。また、学習支援システムにインターネットで読める参考資料を提示する予定。

【その他の重要事項】

- ・春学期と秋学期は異なる教科書を用いる。春学期で完結する授業形態とする。

【Outline (in English)】

Course Outline: Structures with stone walls similar to castles or fortresses are called gusuku in Okinawa. The omoro (songs, poems, and prayers) in the Omoro Sōshi are the oldest literature that refer to the gusuku. Deepening one's understanding of the gusuku leads to learning about the unknown history of Ryukyu. In this course, we will read omoro related to gusuku to understand Ryukyuan culture.

Learning Objectives: The goal of this course is to understand gusuku and ancient Ryukyuan culture.

Learning Activities Outside of the Classroom: Intensive reading of textbooks and references is necessary before and after each class. Required study time is one hour for a class.

Grading Criteria/Policy: The final grade will be evaluated by in-class performance (40%) and the result of a term-end examination (60%).

LIT300BC

日本文芸研究特講（14）沖縄文芸B

福 寛美

授業コード：A2700 | 曜日・時限：金 3/Fri.3

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2～4 年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

風は気象現象であるが、民俗世界では悪霊そのものとなる場合がある。平安時代の歴史物語、『栄花物語』には悪霊の風の用例が散見される。その悪霊の風を分析する際、琉球民俗、そして日本民俗の事例が役に立つ。

一見、別次元に見える文学世界と民俗世界が非常に近いこと、民俗事例が根強いものであることを確認し、広く言えば今後の生き方に生かすようにしてほしい。

【到達目標】

・日本の歴史物語、『栄花物語』の世界の悪霊の風について深く知る。
・琉球民俗、日本民俗の事例と平安時代の物語の事例の一致について考察する。

・霊的世界は、現実社会において「存在しないもの」とみなされる。しかし、霊的世界への関心は高い。そのことの意義、そして現代のスピリチュアル・ブームについても考察してみたい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式とする。授業 3 回につき 1 回程度、理解度をはかるため、リアクション・ペーパーの提出を求める。沖縄、奄美群島を含む南西諸島についての理解を深めるため、DVD の映像、CD の音源を鑑賞する機会を設ける。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	招魂	死者の魂を呼び戻すための儀礼について考察する。
第 2 回	平安時代の霊的事象	平安時代の霊的事象について考察する。
第 3 回	藤原道長の病と霊的事象	藤原道長の病と霊的事象について考察する。
第 4 回	霊的事象、藤原教通北の方の場合	藤原教通の北の方（正妻）の霊的事象について考察する。
第 5 回	悪霊	悪霊について考察する。
第 6 回	風・風病	平安時代の病を指す、風、風病の用例を考察する。
第 7 回	頼通の風	藤原頼通の霊的な病、風について考察する。
第 8 回	自然現象の風	自然現象の風について考察する。
第 9 回	民俗世界の悪霊の風	民俗世界の悪霊の風について考察する。
第 10 回	民俗辞書の悪しき風の用例	1950 年代にまとめられた民俗の辞書に掲載されている悪しき風の事例を考察する。
第 11 回	悪霊の風	悪霊の風について概説する。
第 12 回	無常の風	無常の風について概説する。
第 13 回	返りの風	民俗世界の返りの風について考察する。
第 14 回	風の行方	風の行方について考察する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・教科書を事前に読む。参考文献や参考資料を読む。授業後、確認のため復習しておく。

・授業外の学習時間は 4 時間程度とする。
・授業計画に沿って、教科書を用いて対面授業を行う。

【テキスト（教科書）】

『平安貴族を襲う悪霊の風－『栄花物語』異聞－』（福寛美著 新典社 2022 年 1200 円＋税）

【参考書】

特に指定しない。

【成績評価の方法と基準】

・霊的事象は不可視なので言語化しにくい、古来、人々は深い関心を持ってきた。その霊的事象が物語、民俗にどのように反映しているかをよく知ることを到達目標とする。

・成績評価は平常点と期末試験による。期末試験は出題された問題から 2 問選んで記述する、という形をとる。

・平常点を 40 %、期末試験を 60 %とする。

【学生の意見等からの気づき】

琉球民俗の事例や古典の文献を用いる場合、学生はなじみがないため、わかりにくい、という声を聞く。なるべくわかりやすく説明するようつとめる。

【学生が準備すべき機器他】

休講などの情報は学習支援システムを用いて提示する。重要な連絡は、メールで一斉送信するようにする。

授業の参考資料は対面授業時に配布するが、授業支援システムにもアップする。

【その他の重要事項】

授業は通年実施だが、春学期と秋学期の内容は異なるため、学期での完結となる。

【Outline (in English)】

Course Outline: Although the wind is an atmospheric phenomenon, it also means disease in the historical tale Eiga monogatari (A Tale of Flowering Fortunes), which was compiled in the Heian period. The demoniac wind that causes diseases is known in old folktales in every region of Ryukyu and Japan. In this course, students will study to deepen their understanding of the demoniac wind, spiritual power, and Shamanic cultures.

Learning Objectives: The aim of this course is to understand the consistency of folklore and its stories, and to learn about the power of folklore in preserving traditions.

Learning Activities Outside of the Classroom: Intensive reading of textbooks and references is necessary before and after each class. Required study time is one hour for a class.

Grading Criteria/Policy: The final grade will be evaluated by in-class performance (40%) and the result of the term-end examination (60%).

LIT300BC

日本文芸研究特講（15）国際日本学A

スティーヴン ネルソン

授業コード：A2703 | 曜日・時限：金 2/Fri.2

春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「日本意識」といえるものが芽生え、発展していった現象を概観した後、幕末・明治期の日本の外国とのかわり合いを、主に2つの観点から考察します。題材として取り上げるのは、幕末から明治期にかけて滞日した外国人（特にイギリス人）の残した文章と、明治期という激変の時代を生き、西洋文明に接した日本の知識人3人が、海外へ発信するために英文で著した次の文献です。
・内村鑑三（1861-1930）*Representative Men of Japan*（代表的日本人、1908。*Japan and the Japanese* [1894]の改訂版）。
・新渡戸稲造（1862-1933）*Bushido: The Soul of Japan*（武士道、1900）。
・岡倉天心（1862-1913）*The Book of Tea*（茶の本、1906）。
文学と芸術（美術・音楽）にも触れます。

【到達目標】

・幕末・明治期に滞日した外国人がどんな印象を持ったか、日本をどう理解したかを知る
・西洋文明に接した明治期の日本人が、日本文化について何を西洋人に伝えるべきだと思ったかを知る
・幕末から明治・大正期にかけて日本の文学や芸術が世界的に知られていったプロセスを知る

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

教員による講義が中心ですが、計3回の討論会（授業第5・9・13回）で、複数の学生グループによるプレゼンテーションと議論を行います。履修者は、プレゼンテーションに必ず1回参加するとともに、議論にも参加します。授業第1～3回にプレゼンテーション打合せ・相談のための時間を設けます。毎回リアクション・ペーパーを提出してもらいます。授業の冒頭、前回の授業で提出されたリアクション・ペーパーからいくつか取り上げ、フィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	序説	授業履修の意味を確認 アンケート
第2回	「(国際) 日本学」とは	プレゼンテーション担当の調整 世界の中の日本 文化圏の存在
第3回	日本意識の芽生えと発展	プレゼンテーションの準備 「中華思想」との接触 中世の日本意識
第4回	ヨーロッパ人との出会い 江戸期という「閉ざされた時代」の中で	プレゼンテーションの準備（続） キリスト教宣教師の見聞（ザビエルとフロイス） 長崎（出島）歴代オランダ商館長らの研究 博物学と本草学
第5回	討論会① 内村鑑三著『代表的日本人』をめぐって	プレゼンテーションと討論
第6回	明治維新前後の外国人の活躍①	オールコック、アストン等
第7回	明治維新前後の外国人の活躍②	アーネスト・サトウ等 Asiatic Society of Japan の設立と活動
第8回	明治維新前後の外国人の活躍③	チェンバレン、ハーン
第9回	討論会② 新渡戸稲造『武士道』をめぐって	プレゼンテーションと討論
第10回	日本美術とジャポニスム	浮世絵の移入、パリ万国博覧会 印象派への影響
第11回	ジャポニスムと音楽①	オペレッタ《ミカド》、または幕末流行歌《トコトンヤレ節》の出世
第12回	ジャポニスムと音楽②	オペラ《蝶々夫人》の東洋的表象
第13回	討論会③ 岡倉天心『茶の本』をめぐって	プレゼンテーションと討論
第14回	日本文学の再評価	フェノロサのノートからパウンド・イエイツの能へ ウェイリーが訳した能と『源氏物語』

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

第5・9・13回のプレゼンテーションのために計画的に準備を進めること。

第6回 テキスト pp. 10-17

第7回 テキスト pp. 18-23

第8回 テキスト pp. 64-69、70-77

第14回 テキスト pp. 104-111

その他の回 事前に配付されたプリントに目を通し、内容について考えておくこと。

プレゼンテーションに対する議論・コメントを受けて、期末レポートをまとめること。

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

佐伯彰一、芳賀徹編『外国人による日本論の名著 ギンチャロフからパンゲまで』（中央公論社、1987）中公文庫 832（本体 780 円、ISBN4-12-100832-4）

【参考書】

授業内に適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

リアクション・ペーパー（35%）、プレゼンテーションと議論への参加度（25%）、期末レポート（プレゼンテーションを文章化したもの、40%）。試験はありません。

【学生の意見等からの気づき】

昨年度、各自のプレゼンテーションが長くなり、討論が十分できないことがあったので、予め時間配分を決めることにしたいと思います。

【その他の重要事項】

担当教員は英語を母語とするオーストラリア人ですが、本講義では元々英語で書かれた文章も原則として和訳で読むので、英語の読解力はあまり問題になりません。ただし、プレゼンテーションのために敢えて英文も読んでみたい学生のためには原文を用意し、読解の指導もします。日本文学科の学生のみならず、哲学科、英文学科、史学科などの学生の履修も歓迎します。

【Outline (in English)】

Course Outline: This class deals with Japan and its relations with the other nations of the world, focussing on the 19th and early 20th century. Introductory lectures deal with the issues of global cultural spheres, and Japan's relations with China and Europe (Spain, Portugal and the Netherlands) in earlier centuries. We then examine accounts of 19th-century Japan written by such figures as Alcock, Aston, Satow, Chamberlain and Hearn. Each student participates in one of three presentations on books written in English by Japanese men of the time: Uchimura Kanzō's *Representative Men of Japan* (1908), Nitobe Inazō's *Bushido: The Soul of Japan* (1900), and Okakura Tenshin's *The Book of Tea* (1906), in an effort to determine what it was about Japan that these men wanted to present to the world. Other lectures deal with the influence of Japanese art and music on 19th-century and early 20th-century Europe, and Europe's discovery of Japanese classical literature. The class uses many sources written in English; existing Japanese translations are provided, and often commented on, by the instructor.

Learning Objectives: Students will gain a comprehensive understanding of the image of 19th-century Japan recorded by foreign visitors to the country, the facets of Japanese culture that the Japanese of the time felt should be communicated to the West, and the process by which Japanese literature and arts came to be known to the world outside Japan's borders.

Learning Activities Outside of the Classroom: Students must prepare their presentations, deliver them, and write them up as their final report. Sections of the textbook are required reading for certain classes; other materials for required reading are distributed electronically prior to the class in which they are dealt with.

Grading Criteria/Policy: Reaction paper (submitted after each class) 35%; participation in presentation and discussion 25%; final written report 40%.

LIT300BC

日本文学研究特講（15）国際日本学B

スティーヴン ネルソン

授業コード：A2704 | 曜日・時限：金 2/Fri.2

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2～4 年

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

秋学期は第二次世界大戦後間もなく、アメリカ合衆国の文化人類学者のルース・ベネディクトによって書かれた *The Chrysanthemum and the Sword* (菊と刀, 1946) と、それが引き起こした議論を取り上げます。後年特に注目された「恩」「義理」「恥」に関する章を、学生グループのプレゼンテーションを交えながら詳しく検討します。その他、1960年代以降の日本人論・日本文化論や、それに対する批判をみていきます。また、日本文学の国際的な広がりについても考えます。

【到達目標】

・「文化の型」という見方で20世紀前半の日本を捉えた *The Chrysanthemum and the Sword* の中で、後年特に影響が大きかった要素を知る
 ・戦後、特に1960年代以降に激増した「日本論」「日本人論」「日本文化論」の内容を客観的・批判的に考えることができる
 ・戦後、日本の文学が世界的に評価されるようになったプロセスを知る

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

教員による講義が中心ですが、計3回の討論会（授業第5・9・12回）で、複数の学生グループによるプレゼンテーションと議論を行います。履修者は、プレゼンテーションに必ず1回参加するとともに、議論にも参加します。授業第1～3回にプレゼンテーション打合せ・相談のための時間を設けます。毎回リアクション・ペーパーを提出してもらいます。授業の冒頭、前回の授業で提出されたリアクション・ペーパーからいくつか取り上げ、フィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	序説	授業履修の意味を確認 プレゼンテーション担当の調整
第2回	『菊と刀』①	ベネディクトの主張① プレゼンテーションの準備
第3回	『菊と刀』②	ベネディクトの主張② プレゼンテーションの準備
第4回	『菊と刀』③	青木保（『日本文化論』の変容）の捉え方を読む 『菊と刀』の「受容」
第5回	討論会①『菊と刀』の「恩」をめぐる	プレゼンテーションと討論 第5章“Debtor to the Ages and the World”と第6章“Repaying One-Ten-Thousandth”
第6回	日本文学、世界文学へ	第二次世界大戦がきっかけとなって日本文学にかかわるようになったキーン、サイデンステッカー等の活躍
第7回	60～70年代の日本人論	中根千枝、土居健郎、山崎正和等、河合隼雄、角田忠信、ライシャワー等
第8回	日本人論の特徴	日本人、日本語、日本社会にかかわる言説のさまざま（極論も含めて）
第9回	討論会②『菊と刀』の「義理」をめぐる	プレゼンテーションと討論 第7章“The Repayment Hardest to Bear”と第8章“Clearing One’s Name”
第10回	翻訳の可能性	古典文学の翻訳、能への関心、ロイヤル・タイラー
第11回	日本人論、日本文化論への批判①	李御寧（イ・オリョン）、ハルミ・ベフ、青木保 ピーター・デール、井上章一、古谷野敦
第12回	討論会③『菊と刀』の「恥」をめぐる	プレゼンテーションと討論 第10章“The Dilemma of Virtue”と第12章“The Child Learns”
第13回	日本人論、日本文化論への批判②	デールの「恥の文化的恥」論
第14回	日本文化論の今後	東アジアの中の日本

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

第5・9・12回のプレゼンテーションのために計画的に準備を進めること。

第2回 テキスト pp. 182-187

第6回 テキスト pp. 214-219、266-271

第7回 テキスト pp. 248-253

第11回 テキスト pp. 260-265

その他の回 事前に配付されたプリントに目を通し、内容について考えておくこと。

プレゼンテーションに対する議論・コメントを受けて、期末レポートをまとめること。

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

佐伯彰一、芳賀徹編『外国人による日本論の名著 ギンチャロフからパンゲまで』（中央公論社、1987）中公文庫 832（本体 780 円、ISBN4-12-100832-4）

【参考書】

青木保『『日本文化論』の変容 戦後日本の文化とアイデンティティ』（中央公論社、1990）中公文庫 533、1999

【成績評価の方法と基準】

リアクション・ペーパー（35%）、プレゼンテーションと議論への参加度（25%）、期末レポート（プレゼンテーションを文章化したもの、40%）。試験はありません。

【学生の意見等からの気づき】

昨年度、各自のプレゼンテーションが長くなり、討論が十分できないことがあったので、予め時間配分を決めることにしたいと思います。

【その他の重要事項】

担当教員は英語を母語とするオーストラリア人ですが、本講義では元々英語で書かれた文章も原則として和訳で読むので、英語の読解力はあまり問題になりません。ただし、プレゼンテーションのために敢えて英文も読んでみたい学生のためには原文を用意し、読解の指導もします。日本文学部の学生のみならず、哲学科、英文学科、史学科などの学生の履修も歓迎します。

【Outline (in English)】

Course Outline: This class deals with issues in the field of Japanology (Japanese studies) in the post-war era, especially in connection with Ruth Benedict's *The Chrysanthemum and the Sword* (1946). After initial lectures on the content of Benedict's book, students participate in one of three presentations on Benedict's discussion and understanding of the Japanese concepts of *on* (Chapters 5 & 6), *giri* (Chapters 7 & 8), and *haji* (Chapter 10). Other topics of lectures given by the instructor include the Nihonjinron (studies of the Japanese) of the 1960s and 1970s, criticisms of these studies in succeeding decades, and trends in the translation of Japanese classical literature in the post-war era. The class uses many sources written in English; existing Japanese translations are provided, and often commented on, by the instructor.

Learning Objectives: Students will gain a comprehensive understanding of the elements of Benedict's book that had a particularly strong influence on the development of Nihonjinron and Japanese cultural studies within Japan in the second half of the 20th century, will learn how to view these objectively and critically, and will also gain an understanding of international reception of Japanese literature, focusing on its classical genres.

Learning Activities Outside of the Classroom: Students must prepare their presentations, deliver them, and write them up as their final report. Sections of the textbook are required reading for certain classes; other materials for required reading are distributed electronically prior to the class in which they are dealt with.

Grading Criteria/Policy: Reaction paper (submitted after each class) 35%; participation in presentation and discussion 25%; final written report 40%.

LIT300BC

日本文芸研究特講（16）特域C

安原 眞琴

夜間時間帯

授業コード：A2707 | 曜日・時限：木 6/Thu.6

春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2~4年

備考（履修条件等）：・本科目を履修済みの場合、A2581「文化史1」（夜間科目）は履修不可。

・学芸員の資格取得に本科目は適用となりません。A2581「文化史1」を履修登録してください。

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

授業の概要：

仏教は日本に千年以上根付いている、日本文化の根幹をなすものである。にもかかわらず、近年忘れられつつある。グローバル時代のいまこそ仏教を学び、日本の特徴のようなものを考えたい。

授業の目的：

仏教についての基本的な歴史や考え方を学習する。

仏教が文学のベースにもなっていたことを学習する。

【到達目標】

「日本人は無宗教」とよく言われるが、それに対してきちんと答えられるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり/Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	「日本人は無宗教だ」について考える。今までの各自の仏教のイメージを考える。
第2回	仏教のはじまり	インドの釈迦の一生を学ぶ。
第3回	仏教のおわり？	釈迦の死と死後について学ぶ。
第4回	仏教の宇宙観（考え方）を知る1	概要を知る。
第5回	仏教の宇宙観（考え方）を知る2	六道輪廻を知る。
第6回	仏教の宇宙観（考え方）を知る3	仏像を知る。
第7回	仏教の宇宙観（考え方）を知る4	地獄を知る。
第8回	仏教の宇宙観（考え方）を知る5	宇宙観の総復習として「熊野観心十界曼荼羅」を知る。
第9回	日本の仏教を知る1	仏教公伝を知る。
第10回	日本の仏教を知る2	日本仏教の宗派を知る。
第11回	日本の仏教を知る3	神仏習合や修験道などについて知る。
第12回	中近世文学を中心に、仏教と文学の関係性を知る1	説話や説話集を通して仏教と文学の関係性を知る。
第13回	中近世文学を中心に、仏教と文学の関係性を知る2	主に絵入のお伽草子や草双紙などを通して仏教と文学の関係性を知る。
第14回	振り返り	「雨ニモ負ケズ」などを見ながら学んだ仏教について振り返る。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習：授業内容に関する事柄を事前に学習してくる。

復習：授業で学んだことを踏まえて、事前学習をブラッシュアップしてくる。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特に定めず、授業中に指示する。

【参考書】

特に定めず、授業中に指示する。

【成績評価の方法と基準】

毎回のリアクションペーパー・リアベクイズ（40%）、中間小テスト（20%）、期末レポート（40%）で総合的に判断する。

【学生の意見等からの気づき】

この授業には、いつも学ぼうとする学生が多く集まり、教室の雰囲気もよく、嬉しく思っています。今回のテーマは仏教なので不安に思う学生もいるかもしれませんが、仏教は文学を読むためにも重要な考え方でしたので、どんな考え方なのかなどを、いつもの通り一緒に学んでいきましょう。

【学生が準備すべき機器他】

Hoppii を使って授業をす住めるので、それを見て使える機器を準備すること。

【その他の重要事項】

質問等は授業前に教壇前で受け付けます。

【Outline (in English)】

Course Outline: People from other countries often say that Japanese people are non-religious, but our students will be able to argue about how true that statement is by the time that this lecture course is finished.

Learning Objectives: To understand the fundamentals of the more than one-thousand-year history of Buddhism in Japan, and its function as the base of Japanese literature.

Learning Activities Outside of the Classroom: Preparation and revision will each require two hours' study.

Grading Criteria/Policy: Overall grades are determined according to: written reactions to lectures and in-class quizzes (40%); mid-semester test (20%); and final report (40%).

LIT300BC

日本文芸研究特講（16）特域D

山口 恭子

夜間時間帯

授業コード：A2708 | 曜日・時限：木 6/Thu.6

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2~4 年

備考（履修条件等）：・日本文学科生でない文学部生が「文化史2」（資格）を履修する場合は哲学科主催の「文化史2」（資格）（A3862）を履修すること。

・本科目を履修済みの場合、「文化史2」（A2582）（夜間）は履修不可。

・日本文学科生が学芸員の資格を取得するには「文化史2」（A2582）を履修登録する必要があります。特域Dでは学芸員科目になりませんのでご注意ください。

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講座では、中国、および日本の「書の歴史」を学びます。また、このことを通じ、広く文字の文化に関する知見を養います。

【到達目標】

中国、および日本の書芸術の流れと、それに関わる基本的な事項を習得することを目標とします。とくに、主要な書道史的事項、人物、作品、それらの書道史上の意義等について理解し、説明することができるよう目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

中国、および日本における書の史的展開について講義します。中国の書道史では漢字の起りから唐代までを、日本の書道史では飛鳥・奈良時代から江戸時代初期までを中心に取り上げます。

なお、授業の内容に関して毎時リアクションペーパーを提出してもらいます。次回授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行ってゆきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス 中国書道史1 (殷・周の書)	・書および書道史研究について ・古代の漢字 ・甲骨文と金文
第2回	中国書道史2 (秦・漢の書)	・始皇帝の文字統一 ・隷書の発展と後漢の石碑
第3回	中国書道史3 (三国の書)	・書体の発展
第4回	中国書道史4 (東晋の書)	・王羲之、王献之の書
第5回	中国書道史5 (南北朝の書)	・北朝の石刻について
第6回	中国書道史6 (唐の書)	・初唐の三大家と楷書
第7回	日本書道史1 (飛鳥・奈良の書)	・文字の受容 ・聖武天皇、ならびに光明皇后の書
第8回	日本書道史2 (平安前期の書)	・三筆の書
第9回	日本書道史3 (平安中期の書)	・三蹟の書 ・和様の成立
第10回	日本書道史4 (仮名の書のさまざま)	・仮名の書とその書美
第11回	日本書道史5 (平安後期の書)	・西本願寺本三十六人家集
第12回	日本書道史6 (中世の書)	・尊円親王の書 ・さまざまな書流
第13回	日本書道史7 (近世の書)	・寛永の三筆の書
第14回	まとめ	中国書道史、日本書道史のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

図書館で、『書道全集』（平凡社、1974年）、石川九揚『書の宇宙』（二玄社、1996年）といった全集、図版類を見たり、可能であれば博物館・美術館での展示に足を運ぶなどして、より多くの書にふれること。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

指定しません。パワーポイント資料や配布プリントをもとに進めます。

【参考書】

・書学書道史学会編『日本・中国・朝鮮 書道史年表事典』（堂原書房、2005年）

・角井博監修『中国書道史』（芸術新聞社、2009年）

・名見耶明監修『日本書道史』（芸術新聞社、2009年）

そのほか、講義時に提示します。

【成績評価の方法と基準】

試験（70%）平常点（30%）により評価します。とくに、試験では、主要な書道史的事項、書家、書作品、それらの書道史上の意義について理解し、説明することができるかを評価基準とします。

【学生の意見等からの気づき】

書の歴史を講ずるだけでなく、作品の鑑賞や解釈などについてみなさんとともに考察する機会を設け、学習のモチベーションを高める工夫をしたいと考えています。

【Outline (in English)】

Course Outline: This course deals with the history of Chinese and Japanese calligraphy.

Learning Objectives: The aim of this course is to understand the fundamentals of the history of calligraphy, such as styles and schools of calligraphy, major calligraphers, and the significance of surviving examples of calligraphy.

Learning Activities Outside of the Classroom: Before and after each class meeting, students are expected to spend two hours understanding the content of the course

Grading Criteria/Policy: The overall grade of the class will be determined based on: final exam (70%); and performance in class (30%).

LIN100BD

英語学概論 A

椎名 美智

授業コード：A2804 | 曜日・時限：月 4/Mon.4

春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：1～4 年

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

英語学の研究領域の全体を、2セメスターをかけて概観します。春学期は、世界の英語、形態論、意味論、語用論、文体論、英語教育を中心に、英語学研究の全体像が把握できるように広い視野を持って学習します。今後の英語学研究の基礎となる科目ですので、なるべく1年次に、春・秋と連続して履修することが望ましいです。

【到達目標】

英語学研究の諸分野の内容、アプローチと研究の現状を学び、自分の興味のある分野の研究を概観し、さらに今後の自分の研究テーマの位置づけができるようになることが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

授業開始は4月11日です。コロナの状況で授業形態（対面かズーム）が変更する場合は、Hoppii での週末までにお知らせします。テキストはそれまでに自分で生協にて買っておいください。毎週 Hoppii 「学習支援システム」に何らかの授業の課題ややってほしいこと、読んでほしい箇所などの情報を入れます。授業日が月曜日4限ですので、必ず、前日までは Hoppii をチェックしてください。ハンドアウト、パワーポイント、課題、指示、いろんなメディアを使って、授業のエッセンスをお伝えします。基本的には対面授業の予定ですが、場合によっては、オンデマンドやオンラインになることもあるかもしれません。そうした情報も含め、全て前日までは Hoppii でお知らせします。Hoppii から皆さんへはメールでお知らせがいくようになります。

「言語」といっても、書き言葉、話し言葉、文法の知識、頭のなかの言語知識など、研究者によって捉え方は異なります。こうした捉え方のちがいは、そのまま研究アプローチに反映されます。言語学には、理論的な側面から研究を進める分野もあれば、具体的な言語現象に注目する分野もあります。できるだけ多くの分野を、講義形式で紹介していきます。テキスト、ハンドアウト、パワーポイントを使います。次々と新しい分野へ移動していくので、テキストの該当する部分の予習と復習が必要です。英語で書かれたテキストなので、予習、復習、エキササイズなどは、各自、自分で読み進めていく必要があります。

リアクションペーパーは毎時間、提出していただきます。授業の初めに、前回の授業に提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げて、全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	英語学研究の概説と春学期の授業の進め方や履修条件について説明します。
	毎週、授業日の前日に、必ず HOPPII を見てください。	
第2回	世界の英語 (1)	世界語としての英語について
第3回	世界の英語 (2)	英語が話されている国と地域、英語のバリエーションについて
第4回	形態論 (1)	形態論の概説、単語ができるしくみ
第5回	形態論 (2)	形態論と形態素
第6回	中間の振り返り	これまでの内容のまとめと復習と演習
第7回	意味論 (1)	意味論の概説
第8回	意味論 (2)	意味の拡張としてのメタファー、メトニミー
第9回	語用論 (1)	語用論の概説、言葉の意味について
第10回	語用論 (2)	語用論の演習、コミュニケーション論の概説
第11回	文体論 (1)	文体論の概説
第12回	文体論 (2)	テキスト分析の方法、言語の規則性
第13回	英語教育	英語教育の現状と問題点
第14回	社会言語学、言葉と社会、およびコンサルテーション	社会言語学の概説、および春学期の講義内容についてのまとめ、コンサルテーション、課題に対する解説など

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

履修する学生は、事前にテキストの該当部分を読んでから授業に出席する必要があります。また、Hoppii にアップロードされた授業の資料は必ずしも、すべてを授業でとりあげるわけではないので、自分で読んで復習をする必要があります。準備・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

影山太郎他、『First Steps in English Linguistics:英語学の第一歩』くろしお出版

【参考書】

内容ごとに参考文献や資料を紹介し、Hoppii にアップロードします。

【成績評価の方法と基準】

通常の授業では、学期末試験 70%、レポート 10%、平常点 20%で、評価します。変更しなければならない状況になったら、Hoppii にて連絡をします。

【学生の意見等からの気づき】

初めてのことはばかりなので、授業を聞いているだけでは難しいかもしれませんが、授業の前後に予習と復習をきちんとすると、だんだん理解できるようになります。

【学生が準備すべき機器他】

課題は、基本的に Hoppii に添付ファイルの形で提出してもらいます。

【その他の重要事項】

・パワーポイントの資料は、必要な場合には、授業後に Hoppii にアップします。
・オフィスアワーは木曜4限です。事前にメールで予約をしてください。詳細は授業で説明します。授業後にも時間があればコンサルテーションを受け付けます。

【Outline (in English)】

The purpose of this course is to acquire an overview of the English linguistics. The course will focus on important issues in the fields such as World Englishes, Morphology, Semantics, Pragmatics, Sociolinguistics, Stylistics and English teaching.

The leaning object of this class is to have an overview of the English linguistics and also become able to locate one's own research interest in the field.

Students need to read the chapter before attending the class and also to review what they have learned in the class after the class.

The grade includes the term end exam (70%), academic essays (10%), and attendance (20%). Any change will be announced in the class or by Hoppii.

LIN100BD

英語学概論 B

福元 広二

授業コード：A2805 | 曜日・時限：金 2/Fri.2

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：1～4 年

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

春学期（A）では、世界の英語、形態論、意味論、語用論などについて学びました。ひきつづき、秋学期（B）では、英語の歴史、音声学・音韻論、統語論、言語習得などについて学びます。英語が誕生してから現代に至るまでの歴史、英語の音の体系、言語習得や、伝統的文法から最近の生成文法に至るまでの基本的な知識を習得します。言語学研究の諸分野のアプローチと研究の現状を学びます。自分の今後の英語学研究の基礎となるような内容が身につきます。

【到達目標】

この授業を受講することで、英語を専攻する学生として必須である、英語の母音や子音の発音の実際の仕組みを知り、実践できるようになります。英語を組み立てている構造についての知識が獲得できるようになります。特に日本語と英語とは何が異なり、何が共通なのかを知ることで第2言語としての英語の習得が容易になります。また、多用される英語的な構文について表面的ではない深い分析を加える方法で理解することができるようになります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

英語が誕生してから現代に至るまでの歴史、英語の音の体系、言語習得や、学校文法から最近の生成文法についての基礎的概念や用語、理論の変遷などは基本的に講義形式で行います。音の仕組みに関しては、インターネットに接続して発音の仕組みの動画を使用しながら、英語母語話者の発音を聞き、実際に発音してみます。リアクション・ペーパーも提出してもらいます。リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業の進め方や教科書、参考文献、履修条件について
第 2 回	英語学とは	英語学の基本を解説する
第 3 回	音声・音韻論 (1)	音声学・音韻論の概説：調音器官の説明、母音の仕組み 音韻論の演習：母音の発音の実践
第 4 回	音声・音韻論 (2)	音声学の概説：子音の仕組み
第 5 回	音声・音韻論 (3)	音声学の演習：子音の発音の実践
第 6 回	音声・音韻論 (4)	英語と日本語の違い：音節とモーラ
第 7 回	統語論の基礎	統語論の概説：言語の構造について
第 8 回	統語構造	統語論の理論について：生成文法による構造分析
第 9 回	言語構造の解析	言語の構造について：主要部、補語、付加部とは何か
第 10 回	言語習得 (1)	言語習得の基礎的概念
第 11 回	言語習得 (2)	言語習得を説明する主な理論
第 12 回	英語の歴史 (1)	英語史の概説
第 13 回	英語の歴史 (2)	英語の音韻・統語・形態・意味の変化
第 14 回	期末試験	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書の該当する箇所は必ず事前に読んでおきます。自分で辞書を引きなからとりあえずは読んでみて、授業時間に学ぶことが復習となるように心がけること。また、授業のあとで必ずもう一度復習しておくことで、知識が確実に脳内に残ります。授業でやった内容を利用した課題を解くことでしっかり記憶ができます。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『First Steps in English Linguistics 英語言語学の第一歩』

影山太郎、日比谷潤子、プレント デ・シェン 著

くろしお出版

【参考書】

適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】

到達目標に示した、その分野の基礎的知識が十分に理解できているかで評価します。

期末試験 40%
平常点 40%
レポート 20%

【学生の意見等からの気づき】

教科書の解説も丁寧に行うようにします。

【その他の重要事項】

できれば、1 年次に春学期「英語学概論 A」と合わせて履修することを勧めます。英語学の基本的知識は、「英語学概論 A」と「英語学概論 B」を両方履修してはじめて得られます。授業の構成や順序に関しては、学生の理解度に応じて微修正もあります。出席は毎回とります。

4 回以上欠席した場合は D 評価となります。

【Outline (in English)】

This course introduces students to basic terminology and concepts in the study of the English language. Students get a general introduction to English linguistics, including phonetics and phonology (the study of speech sounds), syntax (the structure of sentences), and language acquisition (how children acquire their native language) and the history of the English language.

The goal of this course is to give students the basic knowledge to understand English linguistics.

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

Final grade will be calculated according to the following process: Mid-term report (20%), term-end examination (40%), and in-class contribution (40%).

LIN100BD

言語学概論 A

石川 潔

授業コード：A2806 | 曜日・時限：水 2/Wed.2

春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：1～4 年

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

知識ゼロの人向けの言語科学の案内です。知識を得るといふより、取り上げるそれぞれの分野の「ノリ」を実感していただくことになるので、それぞれの分野が自分に向いているか向いていないかの判断の材料としてお使いください。

【到達目標】

- 「言語」についての世間にあふれた誤解を解く。
- それぞれの分野への自分の向き・不向きを判断の材料を得る（あくまで「材料」に過ぎませんが）。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

具体的な謎の解明を通して、言語科学の様々な分野を紹介します。基本的には講義です。

リアクションペーパーを募りますが、特に重要なものには口頭でのフィードバックを行う予定です。

学生の理解度や要望などに応じて、スケジュールは柔軟に変えたいと思います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	導入、および「音素」その 1（音声学・音韻論）	この授業の紹介、および、 <i>party</i> はカタカナで何と言うべき？
第 2 回	「音素」その 2（音声学・音韻論）	英語には日本語流の「長母音・短母音」は存在しない、その他
第 3 回	「音節」その 1（音声学・音韻論）	アメリカ人いわく、「英単語のカタカナ発音をするのは、つらい」……なぜ？
第 4 回	「音節」その 2（音声学・音韻論）	英語にも存在する母音挿入
第 5 回	日本語動詞（形態論）	日本語における「規則動詞」と「不規則動詞」
第 6 回	今日の文法理論その 1（統語論）	統語論「研究」実体験：日本語を例として
第 7 回	今日の文法理論その 2（統語論）	「5 文型」のアホさ、X-bar Theory
第 8 回	今日の文法理論その 3（統語論）	英語の「動詞句」って何だろう？ そんなもの、本当に <i>native speaker</i> の頭の中にあるの？
第 9 回	今日の文法理論その 4（意味論・語用論）	英語の進行形の基本的意味
第 10 回	今日の文法理論その 5（意味論・語用論）	なぜ進行形で丁寧さが出るか
第 11 回	人間はどのように文を理解するか（心理言語学）	<i>Without her contributions failed to come in.</i> ってどういう意味？ …… 「文の曖昧さ」およびそれへの対処
第 12 回	人間はどのように文を理解するか（心理言語学）	実験方法、そして人間の文処理の方式の理由
第 13 回	言語習得（心理言語学）	言語生得説、そして U-curve development
第 14 回	まとめ	全体のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

リアクションペーパー。また、授業で学んだ方法論を、自分の身近な問題に応用して考えてみましょう。

なお本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

学習支援システムにて教材を配布します。

【参考書】

参考書は適宜指示。

【成績評価の方法と基準】

期末試験、100 %。

公平性を最重視するので、個人的な事情は一切考慮しません。

但し、授業外での実験参加による加点が行なわれる場合があります（純粋加点であり、参加なしの人への減点はありません）。

【学生の意見等からの気づき】

自由記述では、わかりやすかったという声ばかりいただきましたが、わかりにくく感じた人は自由記述を書いていないものと推測します。なので、一部ではなく全体の理解度を上げるべく、一層精進します。

また、英文学科以外の学生も履修していることを忘れないように頑張ります。

【その他の重要事項】

この授業は「言語学概論 B」とは独立していますが、両方とも合わせて受講することをお勧めします。

【Outline (in English)】

(Course outline) An introduction to linguistic sciences for novice.

(Learning Objectives) To clear up common misconceptions concerning language, and to get a feel of how research in each of the fields is typically conducted.

(Learning activities outside of classroom) Reaction papers

(Grading Criteria /Policy) Final (100%)

LIN100BD

言語学概論 B

石井 創

授業コード：A2807 | 曜日・時限：水 3/Wed.3

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：1～4 年

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業の内容は、「経験科学」としての言語学入門になります。いわゆる人文系の学生は、「科学」と聞くと一般に苦い顔をするものですが、それはおそらく「科学」に対する誤った認識によるものです。そのような誤解を解きつつ、統語論・形態論・意味論・音声学・音韻論といった言語学で基本となる諸分野を紹介し、各分野にどのような言語の謎があるのかを見ていきます。その紹介を通じて、受講者に言語研究における各分野ごとの雰囲気や基礎知識に触れてもらうこと、そしてその中から自分の肌に合う分野を探してもらうことが授業の目的となります。

【到達目標】

1. 言語学の各分野における基礎知識を理解できる
2. 身近で話されている言語の事実に敏感に気付ける、また気付いた事実に対し初歩的な考察・分析ができる
3. 科学研究の方法論に対して、正しい認識をもっている

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

1. 授業形態

本シラバス執筆時点では、本科目は教室での「対面授業」を毎回実施する予定です。しかし、新型コロナウイルスの流行状況が悪化した場合は、感染のリスクやそれに伴う社会情勢、感染対策、及びその他諸般の事情を鑑み、「オンライン授業」(Zoomを用いたリアルタイム配信形式)に授業形態を切り替えることも考慮に入れています。よって、各授業回の形態がどちらになるかは、その時期の新型コロナウイルス流行状況とそれに付随する社会情勢などを考慮して教員が決定し、その旨を学習支援システム経由で履修者にお知らせします。

2. 授業の進め方

授業形態が「対面授業」と「オンライン授業」のどちらになるかにかかわらず、本授業は教員による講義形式で進められます。ただし、教員が一方向的にレクチャーするだけでなく、内容理解を助けるために、受講者が授業内や宿題で練習問題を解く機会も適宜設けていきます。

教員は具体的な言語現象とそれにまつわる謎を提示しながら、その謎に対する答えを出すのに必要な基礎的な知識を説明していきます。しかし、教員が教える答えは「仮説」であり、「正解」ではありません。受講者は教えられた答えを鵜呑みにせず、そのもっともらしさを自分で疑う姿勢を大切に、その姿勢によって得られた疑問点や不明点を授業内の質疑応答もしくはリアクションペーパーで積極的に発信することが望まれます。また、リアクションペーパー等で得られた面白い質問やコメントは、時間の許す限りその後の授業内で紹介して教員がそれに答えることで、授業における話題や議論を広げるのに役立てていきます。

なお、受講者の理解度などに応じて、説明にかける授業の回数等は柔軟に調整します。よって、以下の授業計画は参考例となります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	導入	言語学ってどんな学問？
第2回	言語理論と言語観	ソシュール以降の「言語」の捉え方とその変遷
第3回	形態論1	語の内部構造と形態素
第4回	形態論2	語の作られ方
第5回	形態論3	日本語の「ラ」抜きはどのようにして生じたか？
第6回	言語学と科学方法論	言語研究における問い・仮説・予測・データの関係
第7回	音声学1	音声産出と子音・母音の体系
第8回	音声学2	異なる子音・母音の聞き分けとその手がかり
第9回	音韻論	音節とモーラ
第10回	統語論1	句構造と X-bar Theory
第11回	統語論2	句構造から文構造へ
第12回	統語論3	生成文法における「移動」と「痕跡」の概念
第13回	意味論1	意味の記述と語彙分解
第14回	意味論2	述語のアスペクト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業1回あたりの標準の準備・復習時間は、各2時間とします。

1. 準備

後述するように、事前配布されるその授業日のハンドアウトにあらかじめ目を通しておくと、その日の授業内容の理解の助けになるでしょう。また、前回の授業内容を理解していることを前提にその日の授業は行われます。よって、例えば統語論の回なら、それ以前の統語論の授業内容を見直す、というように、授業前にそれ以前の関連内容を思い返す作業を必ず行ってください。

2. 復習（宿題、その他応用学習も含む）
その日の授業内容をハンドアウトやノートを用いて整理し、さらに宿題が課されていた場合はそれに取り組んでください。そして、これらの過程で疑問点・不明点が出たら、ハンドアウトの引用文献に当たるなど、まずは自分で答えを出す努力をしてみてください。その成果をリアクションペーパーや学習支援システムの掲示板、あるいは授業後の質問のような形で教員に示してもらえれば、こちらもそれに対してさらなるリアクションをいたします。また、授業で出てきた言語現象と似たものを日々の生活の中で見つけたら、授業で学んだ方法でその現象について考えてみる習慣を身に付けていただきたいと思います。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用せず、代わりに適宜ハンドアウトを配布します。紙のハンドアウトは基本的に教室で配布せず、授業日の前にその日に使用するハンドアウトの電子データを学習支援システムにアップロードします（アップロードのスケジュールは学期開始時にお知らせします）。よって、受講者は各自でハンドアウトのデータを事前にダウンロードし、手元に用意した状態で授業に臨んでください（授業中にハンドアウトに直接書き込みをしたい人は、紙に印刷するか、もしくはデータに直接書き込みができるタッチペン等のデバイスを用意してください）。

【参考書】

参考書は授業内で必要に応じて紹介します。

【成績評価の方法と基準】

1. 期末試験：100%

本シラバス執筆時点では、(A) 通常の教室内試験、(B) 学習支援システムの「テスト/アンケート」機能を用いたオンライン試験、のどちらになるか未定です。試験形態は定期試験期間中の新型コロナウイルス流行状況や大学の教室使用状況などに左右されるため、試験期間が近づいてきたら (A) と (B) のどちらになるかを改めてお知らせします。

2. プラスアルファの加点

上記1の通り、本科目の成績は基本的には期末試験による一発勝負での評価となりますが、それに加え、下記の項目を満たした受講生には成績にプラスアルファで少々の加点をいたします。

(a) リアクションペーパーや質疑応答などで、授業内容に対し良い質問やコメントを行った者

(b) 授業外で学内教員の実施する実験に参加した者（不参加の者が減点されることはない）

なお、本授業では出席は取りません。よって、リアクションペーパーも出席票ではなく、授業の内容や方法に対して受講者が意見や質問、希望を記すためのものであり、「出さないと減点される」という類のものではありません。ゆえに、出席票を出すノリでいい加減なリアクションペーパー（e.g., 氏名を記入しただけのもの、「面白かった」「興味深かった」等の一言感想だけのもの）を提出した者は、逆に成績から減点いたします。

【学生の意見等からの気づき】

1. 一昨年度に本科目を担当した際、リアクションペーパー等による学生からの質問や意見にコメントを十分に返すことができなかったため、その点を反省し、昨年度はリアクションペーパーへのコメント返しに力を入れ、それが授業改善アンケートにおいて学生から大いに好評でした。ただしその一方で、コメント返しに授業時間を割きすぎて（酷い場合は授業時間の半分近くをコメント返しに費やした回もあった）、授業進捗が大幅に遅れ、その結果シラバスに記載した授業で扱う内容をすべて網羅することができず、それに苦言を呈す意見も授業改善アンケートでいただきました。教員・学生間のインタラクションにより授業内容が変更になったり充実することは悪いことではありませんが（むしろ授業とはそうあるべき）、授業計画を完遂できないこともまた問題ですので、今年度はリアクションペーパーへのコメント返しに関して、取り上げる学生からの質問・意見を厳選する、コメント返しをより簡潔にする等の工夫をして、予定している授業内容の完遂とコメント返しの充実を両立させることを目指していきたいと考えています。

2. 「授業が終了時間ぴったりには終わらず延びることが多く、それにより次の時限の授業に間に合わずに困った」という苦言を授業改善アンケートでいただきました。上記1で記載したように、授業進捗の遅れに焦り、2～3分程度授業時間が延びてしまうことが確かにあったので、今年度は少なくとも授業の終了時間にはきちんと授業を終わらせるように心掛けていこうと思います。

【学生が準備すべき機器他】

「オンライン授業」が実施される場合、受講生は以下の機器・環境を準備する必要があります。

(a) Zoom などの双方向通信アプリを使用できるデバイス（スマートフォンではなく PC が望ましい）

(b) 上記アプリによるリアルタイム配信授業の視聴に十分耐えうるインターネット回線

これらの機器・環境を用意するのが経済的な理由などで困難な受講生は、大学の事務課に相談してみてください。

【その他の重要事項】

1. 本授業では学習支援システムが頻繁に利用される見込みです。よって、授業に関するお知らせをきちんと受け取れるように、法政大学から学生用に配布される Gmail アドレスを支援システムに登録したうえで、普段は別のメールアドレスを使用するつもりの方は、法政 Gmail から自分が使いたいアドレスへメールが自動転送されるように、法政 Gmail 上で設定を行っておいってください。

2. 「対面授業」に出席できない受講生 (e.g., 入国できない留学生、基礎疾患を有する学生) は、秋学期開始前にその旨を教員にメールで連絡してください (ハイフレックス授業の準備が必要になるため)。なお、教員のメールアドレスは秋学期開始前に学習支援システムを通じてお知らせします。

3. 本科目に割り当てられた教室に全受講者を収容できない事態が生じた場合、全受講者を2グループに分割し、そのグループごとに「対面授業」と「オンライン授業」を交互に繰り返すハイフレックス授業になる可能性があります。

[Outline (in English)]

1.Course outline

This is an introductory course on linguistics as an empirical science. It covers main areas of linguistics (e.g., syntax, morphology, semantics, phonetics, and phonology) and gives basic knowledge and illustrates specific research topics in these areas. This course aims to help students understand a scientific method of theoretical linguistics and find a research area that suits their interests.

2.Learning objectives

In this course, students are expected to achieve the followings:

- (a) Being able to understand basic knowledge in each field of linguistics.
- (b) Being sensitive to facts about languages that are spoken around them, and being able to do introductory consideration and analysis of a fact which they noticed.
- (c) Having a correct understanding of a scientific research methodology.

3.Learning activities outside of classroom

Preparatory study and review time for this course are 2 hours each.

(a) Preparation

If you read through a handout which is distributed in advance before class, the content of the day's class will be easier to understand. In addition, students are expected to think back to the contents which they have learned in previous classes related to the content of the day's class before class.

(b) Review

You should get the content of the day's class straight by checking handouts and your notes. If a homework is given in the day's class, please work on it prior to attending next week's class. Then, if you have any questions, first of all, please make an effort to provide your answer to it. Furthermore, when you find something similar to the linguistic phenomena that were introduced in this course in daily life, I'd like you to consider the phenomena using the methods that you have learned in this course.

4.Grading Criteria /Policy

Term-end examination: 100%

LIN200BD

英語・言語学講義 A

椎名 美智

授業コード：A2808 | 曜日・時限：月 2/Mon.2

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2～4 年

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

授業形態は基本的には対面ですが、変更するときは Hoppii で連絡します。互いに日本語で話しているのに、なにを言いたいのかわからない時があります。外国語だとなおさらそうです。原因の多くは「意味論の意味」と「語用論の意味」のズレ、つまり言葉の辞書的な意味と伝えたいメッセージが一致していないことにあります。本講義では、そうした「意味」をめぐる人間のコミュニケーションの一面を探ります。講義のテーマは、「語用論」の中でも特に注目されている「ポライトネス」です。理論的枠組みを学び、知識としてだけでなく、実際のコミュニケーションの技術を身につけ、人間関係を見つめなおす切り口を探ることです。「語用論」を学ぶことによって、「意味」をめぐる人間のコミュニケーションの一面を探ります。

【到達目標】

授業の最終目標は、コミュニケーション力を向上させていく感性を身につけることです。語用論やポライトネス理論を学ぶと、日常生活でのコミュニケーションギャップの理由が理解できるようになります。よって、「コミュニケーション力」アップを目指す学生への履修をお勧めします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

教科書、ハンドアウト、PPT を使った講義形式です。日本語のテキストなので、授業前に予習をしてください。実際に人々のコミュニケーションを観察するフィールドワークやロールプレイも行います。基本的には対面授業の予定ですが、状況に応じて、授業の形式は変わりますので、毎週、授業の前日までは Hoppii を見てください。毎時間リアクションペーパーを提出してもらいます。授業の初めに、提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げて、全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	学問領域の概説と、各自の課題設定
第 2 回	語用論とは何か	語用論とポライトネスについて概説
第 3 回	第 1 章：ポライトネスの背景（1）	人間関係に関わる普遍的なルール
第 4 回	第 1 章：ポライトネスの背景（2）	ポライトネスについて
第 5 回	第 2 章：ブラウン＆レビソンのポライトネス理論（1）	効率と配慮について
第 6 回	第 2 章：ブラウン＆レビソンのポライトネス理論（2）	ポライトネスと言語文化について
第 7 回	第 3 章：敬語とポライトネス（1）	会話の場で人間関係を切り分けることについて
第 8 回	第 3 章：敬語とポライトネス（2）	敬語と距離感について
第 9 回	第 4 章：距離とポライトネス（1）	「人を呼ぶこと」と「ものを呼ぶこと」の語用論
第 10 回	第 4 章：距離とポライトネス（2）	呼称と指示語について
第 11 回	第 5 章：ポライトネスのコミュニケーション（1）	会話のスタイル・言語行為・文化差について
第 12 回	第 5 章：ポライトネスのコミュニケーション（2）	言語の形式と機能について
第 13 回	第 6 章：終助詞の意味とポライトネス	話者が直観的にしていることについて
第 14 回	歴史語用論概説	歴史語用論の射程の方法論について、これまでの授業のまとめに加え、レポート等、課題に対する講評や解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日常生活における人々のコミュニケーションを観察するフィールド・ワークを実践します。自分の生活の中の会話の分析をします。レポートの課題については、ワークショップの形で考えていきたいと思えます。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書として、以下の本を使いますので、各自、購入しておいてください。滝浦真人（2008）『ポライトネス入門』（研究社）

【参考書】

椎名美智（2022）『「させていただく」の使い方-日本語と敬語のゆくえ』(角川新書)

「ポライトネス」「語用論」「コミュニケーション論」といったタイトルのついた本は参考になります。

【成績評価の方法と基準】

期末レポート 80%、平常点（提出物等）20%で評価します。学期末のレポート以外に、学期中に教員が提案したテーマについて提出された課題レポートは加点の対象になります。

【学生の意見等からの気づき】

授業で使った PPT 資料は、授業後に学習支援システムにアップする予定ですので、それを参考にしてください。授業中はスクリーンの内容をノートにとることよりも、授業の内容に集中してください。講義中心の一方通行の授業になりがちなので、テーマにそって議論できるチャンスを毎回作ります。

【学生が準備すべき機器他】

特にありません。

【その他の重要事項】

オフィスアワーは木曜日 4 限です。事前に予約メールをください。

「社会言語学」も履修すると、さらに広い言語観を身につけることができるようになります。

【Outline (in English)】

This course deals with human communication with politeness on focus. Students are expected to find problems regarding their own everyday communication.

The goal of this class is to learn pragmatics and politeness theory and raise the consciousness on one's own communication.

Students need to review what they learn in the class.

The grading includes presentation (20%) and term paper (80%).

LIN200BD

英語・言語学講義 B

石川 潔

授業コード：A2809 | 曜日・時限：水 2/Wed.2

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2～4 年

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

外国語学習に役立つであろう言語学的「雑学」的な知識を学びます。

【到達目標】

現代言語学から見れば間違っている「巷に溢れた嘘」や「誤解に基づく素人分析」から脱却すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

具体的なネタを取り上げた講義、および訳や作文の実習。

訳や作文に授業時にコメントを加え、かつ、リアクションペーパーで重要ものにはコメントを返す予定です。

なお、授業計画は、学生の理解度その他により変更される可能性があります（し、あるべきだと考えます）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	巷の日本語論の嘘（その 1）	うなぎ文（その 1）：翻訳とは何か、日本語の主語について
第 2 回	巷の日本語論の嘘（その 2）	うなぎ文（その 2）：奥津説、菅井説
第 3 回	「訳」についての誤解（その 1）	代名詞と「役割語」
第 4 回	「訳」についての誤解（その 2）	意味と文法的手段
第 5 回	文化と思考と言語	概念の切り取り方の文化／言語ごとの違い
第 6 回	ハとガ、英語の冠詞（その 1）	情報の新旧説……英語の冠詞
第 7 回	ハとガ、英語の冠詞（その 2）	情報の新旧説……日本語の助詞
第 8 回	「黒人」英語（その 1）	必要な（統語論的）道具立ての整備
第 9 回	「黒人」英語（その 2）	無意識の規則
第 10 回	「黒人」英語（その 3）	必要な（意味論的）概念の整備
第 11 回	「黒人」英語（その 4）	細かい意味的な区別
第 12 回	強形・弱形・再強勢形	do の 3 単現（その 1）
第 13 回	音節量	do の 3 単現（その 2）
第 14 回	まとめ	全体のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

リアクションペーパー。また、訳や作文の実習の問題は、授業前に自分の答えを考えてきてください。

なお本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

学習支援システムにてハンドアウトを配布します。

【参考書】

参考書は適宜指示。

【成績評価の方法と基準】

平常点 30 %、期末試験 70 %。

公平性を最重視するので、個人的な事情は一切考慮しません。

但し、授業外での実験参加による加点が行なわれる場合があります（純粹加点であり、参加なしの人への減点はありません）。

【学生の意見等からの気づき】

一部ではなく全体の理解度を上げることを重視したいと思います。

【Outline (in English)】

(Course outline) Various "lessons" from linguistics presumably useful for foreign language learning.

(Learning Objectives) To clear up misconception concerning language.

(Learning activities outside of classroom) Translations and compositions; reaction papers.

(Grading Criteria /Policy) Participation (30%); Final (70%)

LIN200BD

社会言語学

権名 美智

授業コード：A2810 | 曜日・時限：月 2/Mon.2

春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：2～4 年

その他属性：〈他〉〈優〉

【Outline (in English)】

The purpose of this class is to become aware of the use of language in society. By the end of the term, the students will have a fair linguistic sense towards languages in the world.

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

社会言語学は文字通り「社会と言語の関係について研究する学問」ですが、この授業では、幅広い視野から社会言語学を概観し、言語的側面から歴史、社会、政治、そして日常生活を見直す考え方を身につけることを目標にしています。

【到達目標】

世界中の様々な国に住む、様々な民族の言語状況に目を向け、その背後にある政治的・社会的・歴史的・民族的な要因を考える習慣を身につけてもらいたいと思います。それと同時に、自分の生活環境における言語的実情を自分で調べる「フィールド・ワーク」をする習慣を身につけてもらいたいと思います。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

国会では標準語で話しているのに、地元での選挙演説では方言を使う政治家がよくいます。また、電車の中でおしゃべりしている中高校生の語彙やイントネーションが、まるで外国語のように奇妙に聞こえることも、よくあることです。日常生活におけるこうした言語をめぐるおもしろい現象をきっかけに、「社会」と「人間」と「言語」の関わりを探っていきます。また、世界における言語状況を自分たちの身近な問題として考えていきます。テキストおよびハンドアウト、PPTを使った講義形式です。なお、各回の内容は、履修学生の興味によって変更する可能性があります。毎時間、リアクションペーパーに講義で学んだこと、考えたことなどを書いて、提出してもらいます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	社会言語学の学問領域の概説と各自の課題設定
第 2 回	社会言語学の枠組み	社会と言語の関係
第 3 回	言語と社会の規定関係	言語と社会・文化
第 4 回	社会言語類型論	言語類型論的観点
第 5 回	言語間の格差	言語の捉え方
第 6 回	標準語と方言	言語運用の地域差
第 7 回	言葉の性差	言葉の中に見える性差
第 8 回	集団語	集団語の位置付け
第 9 回	敬語と社会	言語相対性と敬語
第 10 回	日本語の文字	文字と社会
第 11 回	談話の規則性	談話モデルとルール
第 12 回	談話と言語のバリエーション	規則性と創造性
第 13 回	ケース・スタディー	『マイフェアレディ』における「方言」
第 14 回	社会言語学的センス	これまで勉強した事柄の総括とディスカッション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

自分の言語環境を、社会言語学的な観点から見直す訓練をします。この授業の準備・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

井上史雄、田邊和子（共編）『社会言語学の枠組み』（くろしお出版）を使うので、各自購入しておいてください。

【参考書】

内容ごとに参考文献を紹介し、資料を配布します。

【成績評価の方法と基準】

レポート 8 割（フィールド・ワーク重視）、平常点 2 割（課題も含む）で評価の参考にします。

【学生の意見等からの気づき】

例年、配付資料が数多く、授業内で扱いきれないので、厳選して資料を配付します。PPT 資料は、授業後に授業支援システムにアップしますので、参考にしてください。授業中はノートをとることよりも、講義の内容に集中し、テーマにそって議論できるように、自ら考えるようにしてください。

【学生が準備すべき機器他】

パワーポイントはリクエストがあれば、授業支援システムにアップします。

【その他の重要事項】

・オフィスアワーは木曜 4 限です。事前にメールで予約をしてください。詳細は授業で説明します。授業後にも時間があればコンサルテーションを受け付けます。

LIN200BD

応用言語学

川崎 貴子

授業コード：A2811 | 曜日・時限：金 4/Fri.4

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2～4 年

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Applied Linguistics の分野の中でも Language Acquisition の理論、特に第二言語習得を中心に扱います。言語習得の分野で、どのような研究がなされてきたか、また、言語習得の過程はどのようにして明らかにしていくのかを、授業、及び実験への参加を通して学ぶ。

【到達目標】

こどもはどのように母語を獲得するのか、そして大人の第二言語習得と母語習得とはどのように異なるのか、そして習得理論はその違い、および類似点をどのように説明してきたのかを学び、言語習得理論の知識を身につけることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は半期のみなので、他の分野の紹介も織り交ぜ、言語習得理論のエッセンスの紹介をします。基本的には講義形式ですが、毎回、提示された問題について考える時間を設けます。また、授業外で、本学学部生、大学院生、教員の行う言語実験に被験者として参加し、実験がどのようにしてなされるのかを学ぶことも推奨します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	導入	授業の内容説明
第 2 回	言語知識	子供と大人の言語知識
第 3 回	第一言語習得 1	子供の言語習得
第 4 回	第一言語習得 2	入力の問題点・生得性
第 5 回	第一言語習得 3	臨界期仮説
第 6 回	第一言語習得 4	第一言語習得の研究
第 7 回	言語教育～言語習得	第二言語習得の歴史
第 8 回	第二言語習得 1	第二言語習得における入力問題
第 9 回	第二言語習得 2	L1 と L2 の相違点
第 10 回	第二言語習得 3	言語差と難易度
第 11 回	SLA 研究	実験方法の変遷
第 12 回	SLA 理論 1	パラメタと有標性
第 13 回	SLA 理論 2	パラメタの習得
第 14 回	SLA 研究の教育への応用	理論と教育、第二言語教育

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

特に予習は必要ありませんが、授業の復習を行う必要があります。授業内では宿題が出されます。宿題も含めて試験範囲となります。宿題の回答を頭の中で考えるだけでなく、書いてまとめることが求められます。

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

毎回、プリントを配布します。PDF ファイルは、授業後に授業支援システムにアップロードします。

【参考書】

Lightbown, Patsy and Nina Spada 2011. How Languages Are Learned. Oxford University Press. [P. ライトバウン & N. スパダ『言語はどのように学ばれるか——外国語学習・教育に生かす第二言語習得論』白井恭弘&岡田雅子（訳）2014. 岩波書店]
その他、授業内で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

最終試験を 100 % として評価します。

【学生の意見等からの気づき】

言語習得研究の幅広さを知っていただき、分野に興味を持っていただけたようでよかったですと思います。

【Outline (in English)】

Outline: This course deals with Applied Linguistics, focusing on the theory of Language Acquisition, especially second language acquisition. Through classes and participation in experiments, students will learn what kind of research has been conducted in the field of language acquisition.

Goal: The purpose of this course is to provide students with knowledge about language acquisition and to enable them to think logically about issues related to language acquisition.

LIT200BD

比較文学 A

日中 鎮朗

授業コード：A2824 | 曜日・時限：木 5/Thu.5
春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：2～4 年

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

絵画、オペラ、文学、能、歌舞伎、建築など諸芸術を比較しながら、イタリア、フランス、ドイツ、イギリス、アメリカなどで同一素材（テーマ）がどのように表現されてきたか、どのように解釈され、取り扱われてきたかを見る。比較文学としては Stoffgeschichte（素材史）、テーマ批評にあたるが、影響史も学ぶ。

【到達目標】

さまざまな作品の成立過程を学び、また他の諸ジャンルの芸術そのものを鑑賞・比較することによって、概念や感情に対するヨーロッパの表現方法に関する知見を広め、また通常言われている作品のイメージをさらに解釈を深めることによって、芸術の解釈力や構造の発見力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式で行う。

関連するオペラ、文学、絵画、能、歌舞伎、建築の成立史を見たりすることが中心となる。1 作品に 2～3 回時間をかける予定である。なお、毎回授業の出席を取るが、その際にコメント欄に書かれたコメントをいくつか授業時に取り上げ、答えていくことでレスポンスを行い、授業の双方向的な構成を作っていくつもりである。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション 比較文学とは何か？ 絵画の見方 マリアについて	比較文学・文化の意味と手法
第 2 回	聖書とマリア	マリアについての概説
第 3 回	マリアの絵画 キリスト教の絵画について	受胎告知から聖母へ マリア以外の聖書の絵画
第 4 回	『われら』 『素晴らしい新世界』 『1984』	歴史と未来とそのヴィジョンの関係
第 5 回	『私を離さないで』	未来文学と SF について
第 6 回	ユートピアの意味と文学と女性 『侍女の物語』 『消滅世界』	ユートピアとディストピアの諸相
第 7 回	椿姫（ラ・トラヴィアータ）（1）	成立史 デュマの原作との比較 病と文学 ドゥミ・モンド
第 8 回	椿姫（ラ・トラヴィアータ）（2）	村上春樹『ノルウェイの森』 エリック・シーガル『ラブ・ストーリー』との比較
第 9 回	ジャポニスムについて 舞台とジャポニスム	ジャポニスムの歴史と作品 フランスにおけるジャポニスム
第 10 回	蝶々夫人（1）	「蝶々夫人」成立史と日本の開国 ビエール・ロチの『お菊さん』との比較
第 11 回	蝶々夫人（2）	ルース・ベネディクト『菊と刀』 恥と日本文化
第 12 回	蝶々夫人（3）	歌舞伎『仮名手本忠臣蔵』 能『隅田川』との比較
第 13 回	世界文学という考え方	フランコ・モレッティについて
第 14 回	期末試験	春学期の振り返りとまとめ 期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。
本などで作品を確認したり、オペラであればその見どころ、あらすじなどを知っておくとよい。
また、授業で取り扱わない作品でも、TVなどで放映があれば、見ておくとよい。興味が第一です。

【テキスト（教科書）】

基本的にパワーポイントを使用して授業を行う。必要な教科書テキストはありません。ハンドアウトと資料を配布・使用します。

【参考書】

あらかじめ用意しておくものはありません。

【成績評価の方法と基準】

出席・課題（50%）と期末のテスト（50%）に基づいて評価する。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできませんが、スライドの文字情報がやや多く、詰まっているという指摘が以前あったので、留意し、改善したい。

【Outline (in English)】

【Course outline】 While comparing various arts such as painting, opera, literature, Noh, Kabuki, and architecture, how the same material (theme) has been expressed in Italy, France, Germany, England, America, etc., and how it is interpreted. The main aims of this course are to deepen knowledge and understanding of the concept of arts and works related to this theme.

We will focus on the theoretical foundations and the conceptual framework of comparative literature through the different types of works to provide students with opportunities to treat various types of literature/artworks from the perspective of comparative literature and culture.

Students are required to be interested in close surveillance of the related works.

【Learning Objectives】

By the end of the course, students should be able to:

- understand the concept and the method of world-literature studies.
- conduct a critical analysis of the works mentioned in the class.
- express your own point of view clearly in discussion.

【Learning activities outside of classroom】: Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter(s) from the text. Students are required to study at least 4 hours outside of classroom.

【Grading criteria】: Your overall grade in the class will be decided based on the following.

Term-end test: 50%, an assignment and in-class contribution: 50%

LIT200BD

比較文学B

日中 鎮朗

授業コード：A2825 | 曜日・時限：木 5/Thu.5

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2～4 年

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

春学期で学んだことを踏まえ、絵画、オペラ、文学、能、歌舞伎、建築など諸芸術を比較しながら、イタリア、フランス、ドイツ、イギリス、アメリカなどで同一素材（テーマ）がどのように表現されてきたか、どのように解釈され、取り扱われてきたかを見る。比較文学としては *Stoffgeschichte*（素材史）、テーマ批評にあたるが、影響史も学ぶ。

【到達目標】

諸ジャンルの芸術そのものを鑑賞・比較することによって、概念や感情に対するヨーロッパの表現方法に関する知見を広め、また通常言われている作品のイメージをさらに解釈を深めることによって、芸術の解釈力や構造の発見力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式で行う。

関連するオペラ、文学、絵画、能、歌舞伎、建築の成立史を見たりすることが中心となる。1 作品に2～3 回時間をかける予定である。なお、毎回授業の出席を取るが、その際にコメント欄に書かれたコメントをいくつか授業時に取り上げ、答えていくことでレスポンスを行い、授業の双方向的な構成を作っていくつもりである。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	芸術文化の諸ジャンルの比較について
第 2 回	カルメン（1）	成立史 プロスパー・メリメ『カルメン』との比較
第 3 回	カルメン（2）	ファミ・ファタル（1） ホセの人物像
第 4 回	映画『ダメージ』	ファミ・ファタルの諸像
第 5 回	魔笛（1）	『魔笛』の成立史 モーツァルトの生涯
第 6 回	魔笛（2）	フリーメーソンの歴史 松本清張『モーツァルトの伯楽』とシカネーダー
第 7 回	魔笛（3）	グスタフ・クリムトのベートーベン・フリーズ
第 8 回	魔笛（4）	シラー「歓喜に寄せて」 <夜の女王>が象徴するもの <ザラストロ>とは誰/何か？
第 9 回	アーツ・アンド・クラフト運動	ウィリアム・モリスとユートピア
第 10 回	柳宗悦と民芸	民芸運動とモリスの影響
第 11 回	アル・ヌーヴォー	フランスへの影響と美術 ピアズリー
第 12 回	バウハウスと建築	20 世紀の建築と未来都市
第 13 回	現代芸術	21 世紀の美術に向けて
第 14 回	期末試験	秋学期の振り返りとまとめ 期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各2 時間を標準とします。

本などでオペラ作品の見どころ、あらすじなどを知っておくとよい。
また、授業で取り扱わない作品でも、TV などで放映があれば、見ておくとよい。

【テキスト（教科書）】

基本的にパワーポイントを使用して授業を行う。必要な教科書テキストはありません。ハンドアウトと資料を配布・使用します。

【参考書】

あらかじめ用意しておくものはとくにありません。

【成績評価の方法と基準】

出席・課題（50 %）と期末のテスト（50 %）に基づいて評価する。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできませんが、スライドの文字情報がやや多く、詰まっているという指摘が以前あったので、留意し、改善したい。

【Outline (in English)】

【Outline and objectives】 While comparing various arts such as painting, opera, literature, Noh, Kabuki, and architecture, how the same material (theme) has been expressed in Italy, France, Germany, England, America, etc., and how it is interpreted. The main aims of this course are to deepen knowledge and understanding of the concept of arts and works related to this theme.

We will focus on the theoretical foundations and the conceptual framework of comparative literature through the different types of works to provide students with opportunities to treat various types of literature/artworks from the perspective of comparative literature and culture.

Students are required to be interested in close surveillance of the related works.

【Goal】

By the end of the course, students should be able to:

- understand the concept and the method of world-literature studies.
- conduct a critical analysis of the works mentioned in the class.
- express your own point of view clearly in discussion.

【Work to be done outside of class】 Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter(s) from the text. Students are required to study at least 4 hours outside of classroom.

【Grading criteria】 Your overall grade in the class will be decided based on the following.

Term-end test: 50%, an assignment and in-class contribution: 50%

LIN200BD

英語史 A

福元 広二

授業コード：A2901 | 曜日・時限：火 4/Tue.4

春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：2～4 年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、ヨーロッパ大陸の北海沿岸に住んでいた人々が、ブリテン島に渡ってからの約 1500 年間で英語が辿ってきた歴史的・社会的・文化的背景とその間に起こった音韻・形態・統語・意味・語彙などの言語変化について概観する。そして、英語がどのようにして世界中で使用されるようになり、世界共通語となってきたかを解説する。また、英語の歴史を学ぶことで、現代の英語に対してさらに理解を深めることを主な目的としている。

【到達目標】

英語史における各時代の発音・綴り・文法・語彙などの言語的特徴を簡潔に説明することができる。

現代英語における興味深い文法現象を、英語史的な視点から考察することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は基本的に講義形式で行います。教科書だけでなくパワーポイントの資料を使って、授業内容をわかりやすく解説します。また、適宜、講義資料も配布し、テキスト以外の箇所についても説明します。DVD などの映像教材も使用して理解を深めます。

リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業内容の紹介
第 2 回	世界の英語	世界中に広がる英語について
第 3 回	英語外面史	英語外面史の概説
第 4 回	インド・ヨーロッパ祖語	インド・ヨーロッパ祖語とゲルマン語族
第 5 回	古英語の時代背景	古英語期における社会的・文化的時代背景
第 6 回	古英語の名詞	古英語における名詞の性・数・格
第 7 回	古英語の代名詞	古英語における代名詞の語形変化
第 8 回	古英語の形容詞・副詞	古英語における形容詞と副詞の特徴
第 9 回	古英語の動詞	古英語の強変化動詞と弱変化動詞の活用
第 10 回	古英語の語順・否定	古英語における語順、否定、その他
第 11 回	古英語の作品講読	古英語の代表的な作品を講読する
第 12 回	中英語の時代背景	中英語期における社会的・文化的時代背景
第 13 回	中英語の名詞・形容詞	中英語における名詞と形容詞の語形変化
第 14 回	期末試験	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で学んだ内容を振り返り、教科書やハンドアウトなどで復習を行ってください。テキストを事前に読んでおき、授業で学ぶことを予習してください。本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

チャールズ・バーバー『英語発達史』英宝社

【参考書】

寺澤眉 『英語の歴史』（中公新書）
 中尾俊夫 『英語の歴史』（講談社現代新書）
 岸田 緑溪ほか 『英語の謎 歴史でわかるコトバの疑問』（角川ソフィア文庫）
 朝尾幸次郎 『英語の歴史から考える一英文法の「なぜ」』（大修館）

【成績評価の方法と基準】

評価については、期末試験、平常点、レポートを総合して評価します。
 期末試験 40%、平常点 40%、レポート 20%

【学生の意見等からの気づき】

クラスでのディスカッションを増やしていきたいと思っています。

【その他の重要事項】

この科目は、時代に沿ってそれぞれの時代の特徴を見ていくので、秋学期に開講される「英語史 B」と合わせて履修することをお勧めします。

4 回以上欠席した場合は D 評価となります。

【Outline (in English)】

This course aims to provide an overview of the history of the English language from Old English to Present-day English. This course also helps students understand the linguistic change in English as well as its social and cultural change by introducing literature and multimedia.

The goal of this course is to give students the basic knowledge to understand the history of the English language.

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

Final grade will be calculated according to the following process: Mid-term report (20%), term-end examination (40%), and in-class contribution (40%).

LIN200BD

英語史 B

福元 広二

授業コード：A2902 | 曜日・時限：火 4/Tue.4

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2～4 年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、ヨーロッパ大陸の北海沿岸に住んでいた人々が、ブリテン島に渡ってからの約 1500 年間で英語が辿ってきた歴史的・社会的・文化的背景とその間に起こった音韻・形態・統語・意味・語彙などの言語変化について概観する。そして、英語がどのようにして世界中で使用されるようになり、世界共通語となってきたかを解説する。また、英語の歴史を学ぶことで、現代の英語に対してさらに理解を深めることを主な目的としている。

【到達目標】

・英語史における各時代の発音・綴り・文法・語彙などの言語的特徴を簡潔に説明することができる。
・現代英語における興味深い文法現象を、英語史的な視点から考察することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は基本的に講義形式で行います。教科書だけでなくパワーポイントの資料を使って、授業内容をわかりやすく解説します。また、適宜、講義資料も配布し、テキスト以外の箇所についても説明します。DVD などの映像教材も使用して理解を深めます。

リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	春学期の復習と秋学期で扱うテーマの紹介
第 2 回	中英語の発音・代名詞	中英語における発音と代名詞の語形変化
第 3 回	中英語の動詞	中英語における強変化動詞と弱変化動詞
第 4 回	中英語の借用語	中英語期における借用語
第 5 回	中英語の作品講読	中英語の代表的な作家である Chaucer の作品講読
第 6 回	初期近代英語の時代背景	初期近代英語期における社会的・文化的時代背景
第 7 回	初期近代英語の文法	初期近代英語期に特徴的な文法
第 8 回	Shakespeare の英語	Shakespeare の英語の特徴を概説する
第 9 回	初期近代英語の作品講読	初期近代英語の代表的な作家である Shakespeare の作品講読
第 10 回	後期近代英語の時代背景	後期近代英語期における社会的・文化的時代背景と英文法書・辞書の発達
第 11 回	後期近代英語の文法と作品講読	後期近代英語期に特徴的な文法と文学作品を講読する
第 12 回	アメリカ英語の成立	アメリカ英語の成立と語彙の特徴
第 13 回	現代英語の変化	現在進行中である英語の文法的变化
第 14 回	期末試験	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で学んだ内容を振り返り、教科書やハンドアウトなどで復習を行ってください。テキストを事前に読んでおき、授業で学ぶことを予習してください。本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

チャールズ・バーバー 『英語発達史』 英宝社

【参考書】

寺澤盾 『英語の歴史』（中公新書）

中尾俊夫 『英語の歴史』（講談社現代新書）

岸田 緑溪ほか 『英語の謎 歴史でわかるコトバの疑問』（角川ソフィア文庫）

朝尾幸次郎 『英語の歴史から考える一英文法の「なぜ」』（大修館）

【成績評価の方法と基準】

評価については、期末試験、平常点、レポートを総合して評価します。

期末試験 40%、平常点 40%、レポート 20%

【学生の意見等からの気づき】

ディスカッションの時間をなるべく多くとるように心がけたいと思います。

【その他の重要事項】

この科目は、時代に沿ってそれぞれの時代の特徴を見ていくので、春学期に開講される「英語史 A」と合わせて履修することをお勧めします。

4 回以上欠席した場合は D 評価となります。

【Outline (in English)】

This course aims to provide an overview of the history of the English language from Old English to Present-day English. This course also helps students understand the linguistic change in English as well as its social and cultural change by introducing literature and multimedia.

The goal of this course is to give students the basic knowledge to understand the history of the English language.

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

Final grade will be calculated according to the following process: Mid-term report (20%), term -end examination (40%), and in-class contribution (40%).

LIT200BD

英文学史 A

田中 裕希

授業コード：A2903 | 曜日・時限：木 2/Thu.2

春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：2～4 年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

古英語の時代（中世前期）から 20 世紀中期までのイギリス詩の歴史をたどりつつ、英詩において「私」がどのように表現されているかについて学ぶ。個人の内面を表現する抒情詩に対する理解を、国家の成立など大きなテーマを扱う叙事詩との比較を通じて深めていく。

【到達目標】

イギリス詩の流れを、歴史の大きな動向と関連づけながら概観する。そのことをとおして、イギリスにおける抒情詩の伝統がどのように形成されてきたのかを学ぶ。文学作品の解釈の方法を身につけるとともに、作品の一部を英語で講読することをとおして、英語読解能力の向上もめざす。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

原則として講義形式であるが、リアクションペーパーの提出などをおしてできるだけコミュニケーションの機会をつくる。対面授業とオンライン授業を併用する。その授業形式にあわせて、授業内容の順序を変えることがある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション、中世前期	叙事詩と抒情詩
第 2 回	中世後期	Chaucer
第 3 回	ルネサンス（1）	近世の恋愛詩
第 4 回	ルネサンス（2）	Shakespeare の英語
第 5 回	ルネサンス（3）	Shakespeare の登場人物
第 6 回	17 世紀（1）	形而上詩人
第 7 回	17 世紀（2）	Milton と叙事詩
第 8 回	18 世紀	ロマン派と抒情詩
第 9 回	19 世紀（1）	ロマン派第二世代
第 10 回	19 世紀（2）	dramatic monologue を読む
第 11 回	20 世紀（1）	モダニズムとは
第 12 回	20 世紀（2）	第一次世界大戦と詩
第 13 回	20 世紀（3）	第二次世界大戦と詩
第 14 回	期末試験とまとめ	学期全体をおして学習したことを確認する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。あらかじめ与えられた課題（たとえば作品）を読むこと、授業内で指示された課題を提出すること。

【テキスト（教科書）】

授業内で配布する資料。

Shakespeare の作品。

【参考書】

『イギリス名詩選』（岩波文庫）平井 正穂（編集）

【成績評価の方法と基準】

リアクションペーパー 30 %

期末テスト 70 %

原則、未提出のリアクションペーパーが 4 つ以上で単位取得資格を失う。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません

【Outline (in English)】

Outline and objectives: This class will cover the history of British poetry from the era of the Old English (the early Medieval period) to the mid 20th century.

Learning activities outside of classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend a total of four hours to understand the course content.

Grading Criteria/Policies: Final grade will be calculated according to the following process: reaction papers (30%), final exam (70%).

LIT200BD

英文学史 B

小澤 央

授業コード：A2904 | 曜日・時限：木 2/Thu.2

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2～4 年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

イギリス文学の歴史を、散文を中心に学ぶ。近代小説以前の散文から、18 世紀の（反）リアリズム小説、ヴィクトリア朝の社会小説、歴史小説、家庭小説、教養小説、20 世紀のモダニズム小説、ポストコロニアル小説、さらに多様化する今日の小説まで、名作の抜粋を読みながら英文学史を辿る。政治的・文化的文脈を踏まえ、作品を原作とする映画を確認しながら、授業を進める。

英文学史の知識や文学解釈の基本を身につけ、英文読解力を伸ばすことが目的である。

【到達目標】

- ・ 歴史的な文脈において英文学の散文の名作を位置づけられる
- ・ 文学を解釈するとはどういうことかを把握し実践してみる
- ・ 辞書や和訳を参照しながらも、英文学の抜粋を原文で読める英語力をつける

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

原則的に講義形式で進める。映像資料も適宜取り入れる。リアクション・ペーパー（小レポート）を提出してもらう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	散文の歴史概観、近代小説以前
第 2 回	18 世紀初期	Defoe, Swift など
第 3 回	18 世紀中後期	Richardson, Sterne など
第 4 回	19 世紀初期 (1)	Austen, Shelley など
第 5 回	19 世紀初期 (2)	映画の鑑賞と議論
第 6 回	19 世紀中期	Dickens, Brontë など
第 7 回	19 世紀後期	Wilde, Conrad など
第 8 回	20 世紀初期 (1)	Forster, Lawrence など
第 9 回	20 世紀初期 (2)	映画の鑑賞と議論
第 10 回	20 世紀初期 (3)	Joyce, Woolf など
第 11 回	20 世紀中期 (1)	Huxley, Golding など
第 12 回	20 世紀中期 (2)	映画の鑑賞と議論
第 13 回	20 世紀後期以降	McEwan, Ishiguro など
第 14 回	期末試験とまとめ	今学期の総括、今後の研究についての示唆

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回予め指示された文献（作品の抜粋など）を読むこと、定期的に出される課題（小レポート）を提出することが求められる。さらに、和訳でも構わないので、授業で扱う作品をできるだけ多く自分で読み通すことが望ましい。

予習・復習は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

授業のレジュメ

【参考書】

- ・ 授業で扱う文学作品
- ・ 浦野郁、奥村沙矢香編、『よくわかるイギリス文学史』、ミネルヴァ書房、2020 年
- ・ 白井義昭著、『読んで愉しむイギリス文学史入門』、春風社、2013 年
- ・ 石塚久郎ほか編、『イギリス文学入門』、三修社、2014 年

【成績評価の方法と基準】

- ・ リアクション・ペーパー（小レポート）などの課題、授業に取り組む姿勢、議論への貢献度：30%
- ・ 期末試験：70%

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできない。

【その他の重要事項】

コロナウイルスの感染状況によって授業形態を変更する可能性がある。

【Outline (in English)】

In this course, students are expected to learn the history of English literature, particularly British fiction, from the 16th to the 21st century, by reading extracts from the text in English and considering the historical background. This course also refers to films based on British fiction. The goals of this course are to position masterpieces of British fiction in historical contexts, learn the basics of interpretation of literature and improve English reading comprehension. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. The final grade will be calculated according to the following process: performance in class activities (30%) and term-end examination (70%).

LIT200BD

米文学史 A

宮川 雅

授業コード：A2905 | 曜日・時限：月 2/Mon.2

春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：2～4 年

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

アメリカ文学の「アメリカンネス」とは何かを考えながら、アメリカ文学史を概観する。

春学期 A は、植民地時代の文学から 19 世紀中葉の南北戦争前までのアメリカ文学の歴史を、ピューリタニズムという宗教問題、黒人やネイティブ・アメリカンであらわになる人種問題、産業革命と近代的自我の不安の問題、人間中心主義問題などとアメリカ作家・文学との関連を考えながら、たどる。

目的は、

- (1) アメリカ文学の流れをたどり、その特質を考えることと、
 - (2) 積極的に作品を読み文学テキストに触れること、
- により、アメリカ文学の歴史的なパースペクティブを得ることである。

【到達目標】

- (1) 英語で書かれた代表的なアメリカ文学作品について理解している。
- (2) アメリカ文学を構成する主要な作家と協役の顔ぶれを知る。
- (3) アメリカ文学作品の背景の知識を得ている。
- (4) 文学作品の鑑賞方法を身につける。
- (5) アメリカ文学作品で描かれている、国・地域の歴史と文化について理解している。
- (6) アメリカ文学について人に語れる。
- (7) 好きな作家・作品から将来も読書がひろがっていくという感覚をもてる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

アメリカ文学とはどんな文学なのか、歴史的に概説する。どんな作家がいてどんな作品があるのか、どのような背景があるのか、どんなふう読み取れるのか、どんなふうにつつかしいのか、おもしろいのか、などを解説していきたい。背景の知識についても触れる。参加者は自分から積極的に作品を読むことが求められる。

前期の A では 17 世紀初頭の植民地時代から南北戦争のころまでを扱う予定。講義。ほぼ毎回ハンドアウト（プリント）を配布する。可能な限り「講義」の原稿をこしらえてそれも資料とする。学習支援システムの「教材」に資料を入れる。

今年度は、昨年度と同様、(1) なんでもいいから米文学史の本を各自 1 冊読むこと（ただしボルヘスの注釈付きアメリカ文学史を参考文献として「教材」にいます）、(2) レポートは 3 作品、3 本とします。

提出されたりアクションペーパーなどにおけるコメント・質問へは、そのうちのいくつかを取り上げ、全体に対してフィードバックをおこない、議論に活かします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	移民の国アメリカ	イントロダクション：アメリカという国の性格について。
第 2 回	植民地時代の文学 I	ピューリタニズムとタイポロジカルな想像力。
第 3 回	植民地時代の文学 II	エレジーと名前の重要性。
第 4 回	ベンジャミン・フランクリンの自伝	アメリカの宗教と理神論 (Deism) について。プロテスタンティズムと資本主義の精神。自伝とフィクション。
第 5 回	チャールズ・ブロックデン・ブラウンとアメリカン・ゴシックの伝統	ノヴェル対ロマンス。ゴシック・ロマンス。
第 6 回	ジェイムズ・フェニモア・クーパー	"Leather-Stocking Tales" とウェスタンのヒーロー像。フロンティアと文学的想像力。
第 7 回	ワシントン・アーヴィング	ゴシックの変容とアメリカのユーモア。アメリカの短篇小説の特徴。
第 8 回	エマソンとアメリカ超絶主義	アメリカのロマン主義と自己信頼。ローとホイットマン。
第 9 回	エドガー・アラン・ポー	ロマン主義とゴシック。ゴシックの多様性。芸術至上主義と象徴主義。
第 10 回	ホーソンとロマンス	ホーソンの小説論。ノヴェル対ロマンス (2)。
第 11 回	メルヴィルの小説	小説の極限について。長篇・短篇・詩。

第 12 回	感傷小説の伝統	大衆小説、高級小説。プロット、ストーリー、キャラクター。女性読者・女性作家・男性作家。
第 13 回	ホイットマンとディキンソン	詩の独自性と現代詩へのつながり。アメリカ詩の伝統。
第 14 回	南北戦争その他	19 世紀の文化と社会

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

レポート課題の作品を読んで考えること。積極的に他の作品も読むこと。なんでもいいのでアメリカ文学史の本を必ず一冊読むこと（試験において確認する）。レポート該当作品も含めて代表的作品リストを初回に配布する。予習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

プリントを配布する。研究書・論文・参考書等は折に触れて提示したりプリントを配ったりリストを示したりする。学習支援システムの「教材」にきほんは回ごとのフォルダーにしてさまざまな資料ファイルを放り込む。

【参考書】

現在日本人の書いた最も充実した米文学史の本は、渡辺利雄の『講義 アメリカ文学史 [全 4 巻]』（研究社、2007、2010）であろう。文学的洞察として（興味）深いのは小説家でもある平石貴樹の『アメリカ文学史』（松柏社、2010）。英語で書かれたもので、（まだ「文学史」が成立していた頃の本として）すぐれたものは、だいぶ古いのが、英国の学者による（すなわち他者視点による）Marcus Cunliffe, *Literature of the United States* (1964; rpt. Pelican Books) だと思ふ。米国内の多文化主義的な文学史の見直しの流れを受けとめたうえで詳細なのは Emory Elliott の *The Columbia Literary History of the United States* (Columbia UP, 1988) 1263pp. である。おそらく最も短くて文学趣味的なのはアルゼンチンの作家ボルヘスの文学史講義をもとにした *Introduction to American Literature* (Schocken, 1974) 95pp. である（柴田元幸の翻訳が出ています）。

さまざまな主題からの文学史的な本は、授業で折に触れて紹介する。古典的研究書を 2 冊だけ前もってあげておいたら、正統キリスト教の視点から書かれた、ホーソン学者 Randall Stewart の、*American Literature and Christian Doctrine* (1958) (邦訳『アメリカ文学とキリスト教』)、アメリカ小説をハイブリッドなロマンス=ノヴェルとした Richard Chase の、*The American Novel and Its Tradition* (1958) (邦訳『アメリカ小説とその伝統』)。

【成績評価の方法と基準】

(1) 授業内小テストならびにアクション・ペーパー (20%)、(2) 3 作品を読んだレポート (40%)、(3) 期末試験 (40%)、で総合的に評価する。レポートは、きちんと自分で読んでいれば合格点は付く。盗用（無断引用）があれば、失格ないし大幅な減点となる。

【学生の意見等からの気づき】

むつかしくなりすぎないようにやさしく語り。やさしくなりすぎないように論理を構築すること。

【その他の重要事項】

後期（秋学期）の「米文学史 B」との継続履修が望ましい。

【Outline (in English)】

[Outline and objectives:] This course presents a historical survey of American literature from the period of exploration and settlement to the present. Students will study works of fiction, poetry, drama, and prose in relation to their historical and cultural contexts. The course aims at considering "what is the Americanness of American literature."
[Learning activities outside of classroom:] Before/after each class meeting, students are expected to spend 2 hours respectively to understand the course content.

[Grading Criteria/Policies:] Overall grade in the class will be decided based on the following:

- 1) Participation and discussion (reaction papers and occasional mini tests) (20%)
- 2) 3 papers ("reports" on reading American literary work) (40%)
- 2) End-of-term examination (40%)

LIT200BD

米文学史 B

宮川 雅

授業コード：A2906 | 曜日・時限：月 2/Mon.2

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2～4 年

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

アメリカ文学の「アメリカネス」（ナショナル・アイデンティティーとかかわるもの）とは何かを考えながら、アメリカ文学史を概観する。

秋学期 B は、南北戦争を契機にヨーロッパに遅れて起こるリアリズムの運動を、自然主義やフェミニズムや社会の変化と関連付けながら理解し、その後 20 世紀前半のモダニズムや後半のカウンターカルチャーを経て、あらためて 1960 年代以降から今日までの非リアリズム的な文学に至る大きな変化を考える。

【到達目標】

- (1) 英語で書かれた代表的なアメリカ文学作品について理解している。
- (2) アメリカ文学を構成する主要な作家と脇役の顔ぶれを知る。
- (3) アメリカ文学作品の背景的知識を得ている。
- (4) 文学作品の鑑賞方法を身につける。
- (5) アメリカ文学作品で描かれている、国・地域の歴史と文化について理解している。
- (6) アメリカ文学について人に語る。
- (7) 好きな作家・作品から将来も読書がひろがっていくという感覚をもてる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

アメリカ文学とはどんな文学なのか、講義形式で歴史的に概説する。どんな作家がいてどんな作品があるのか、どのような背景があるのか、どんなふうに関心できるのか、どんなふうに関心できるのか、おもしろいのか、などを解説していききたい。背景の知識についても触れる。参加者は自分から積極的に作品を読むことが求められる。

後期の B では南北戦争から現代までを扱う予定。

ほぼ毎回ハンドアウト（プリント）を配布する。可能な限り「講義」の原稿をこしらえてそれも資料とする。学習支援システムの「教材」に資料を入れる。

A と同様、本年度は、(1) なんでもいから米文学史の本を各自 1 冊読むこと（ただし、ホルヘ・ルイス・ボルヘスの文学史を電子化して英語原書＋注釈書として配布）、(2) レポートは 3 作品、3 本とすること、とします。

提出されたリアクションペーパーなどにおけるコメント・質問へは、そのうちのいくつかを取り上げ、全体に対してフィードバックをおこない、議論に活かします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	南北戦争とアメリカ文学のリアリズム	ジャーナリズムと文学の文体。
第 2 回	ルイーザ・メイ・オルコットの家庭小説と少女小説とスリラー	女性小説の伝統。
第 3 回	サムエル・クレメンズ（マーク・トウェイン）と語りのスタイル	American vernacular について。
第 4 回	ヘンリー・ジェイムズと幽霊	視点（point of view）の問題。
第 5 回	フランク・ノリス、ステューヴン・クレイン、セオドア・ドライサー	アメリカの自然主義文学。
第 6 回	アメリカ文学の世紀末	エコロジー、神秘主義、神秘学。
第 7 回	アーネスト・ヘミングウェイ、スコット・フィッツジェラルド、ウィリアム・フォークナー	ロスト・ジェネレーションの文学。
第 8 回	S F と探偵小説	小説のジャンル、ジャンルの分化の問題。
第 9 回	T・S・エリオット、エズラ・パウンド、ガートルード・スタイン	アメリカの現代詩。
第 10 回	ジャック・ケルアック、アレン・ギンズバーク、ゲーリー・スナイダー	ビート・ジェネレーションの文学。
第 11 回	カウンター・カルチャーとアメリカ文学	カルト的なものも含めてアメリカ文化・文学の特性をあらためて考える。

第 12 回 トマス・ピンチョンと ポスト=モダンな意識とは何か。

ジョン・バー

第 13 回 アメリカン・ドラマ 演劇とミュージカル。

第 14 回 同時代作家たち アメリカ文学の現在。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

レポート課題の作品を読んで考えること。積極的に他の作品も読むこと。なんでもいのでアメリカ文学史の本を一冊読むこと。レポート該当作品も含めて代表的作品リストを初回に配布する。予習・復習時間はそれぞれ 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

プリントを配布する。研究書・論文・参考書等は折に触れて提示したりプリントを配ったりリストを配ったりする。学習支援システムの「教材」にきほんは回ごとのフォルダーにしてさまざまな資料ファイルを放り込む。

【参考書】

渡辺利雄『講義 アメリカ文学史 [全 4 巻]』（研究社、2007、2010）

平石貴樹『アメリカ文学史』（松柏社、2010）

Marcus Cunliffe, *Literature of the United States* (1964; rpt. Pelican Books)

Emory Elliott, *The Columbia Literary History of the United States* (Columbia UP, 1988)

Jorge Luis Borges, *Introduction to American Literature* (Schocken, 1974)

【成績評価の方法と基準】

(1) 授業内小テストならびにリアクション・ペーパー（20 %）、(2) 作品 3 冊を読んでのレポート（40 %）、(3) 期末試験（40 %）、で総合的に評価する。レポートは、きちんと自分で読んでいれば合格点は付く。盗用（無断引用）があれば、失格ないし大幅な減点となる。

【学生の意見等からの気づき】

やさしさを心がける。

【その他の重要事項】

前期（春学期）の「米文学史 A」からの継続履修がかなり絶対的に近いくらい望ましい。

【Outline (in English)】

[Outline and objectives:] This course presents a historical survey of American literature from the period of exploration and settlement to the present. Students will study works of fiction, poetry, drama, and prose in relation to their historical and cultural contexts. The course aims at considering "what is the Americanness of American literature." [Learning activities outside of classroom:] Before/after each class meeting, students are expected to spend 2 hours respectively to understand the course content.

[Grading Criteria/Policies:] Overall grade in the class will be decided based on the following:

- 1) Participation and discussion (reaction papers and occasional mini tests) (20%)
- 2) 3 papers ("reports" on reading American literary work) (40%)
- 2) End-of-term examination (40%)

LIT200BD

英米文学講義 I A

宮川 雅

授業コード：A2907 | 曜日・時限：金 4/Fri.4

春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：1～4 年

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

英米文学とその研究についての概説的な科目として、歴史的、地理的、構造的な解説をこころみる。

- (1) 英米文学作品テキストを具体的にかじり読みし、
- (2) 英米文学の背景・歴史について枠組みを知り、
- (3) 英米文学研究の方法や道具について知識を得る。

（これを1年の授業をとっておこないたいので、通年の履修が望まれる）

【到達目標】

- (1) 英語文学作品で描かれている、英語が使われている国の歴史と文化について概略を理解している。
- (2) 英語文学のジャンル（詩・小説・演劇など）とその歴史について概略を理解している。
- (3) 英語文学作品の背景的知識を得ている。
- (4) 英米文学作品を読むときの資料蒐集や参考書・辞書などについて知識を持っている。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式で英米文学の歴史やジャンルや英米の特性について考察するとともに、文学研究の道具や背景の知識についてもプリントを配布して身につける。リアクション・ペーパーを提出してもらう。

提出されたリアクションペーパーなどにおけるコメント・質問へは、そのうちのいくつかを取り上げ、全体に対してフィードバックをおこない、議論に活かします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	英語文学とは何か	導入。地理と歴史、空間と時間。
第2回	英語史と英米文学	言葉とスタイルの変容。
第3回	映画と文学（1）	映画を観る。
第4回	映画と文学（2）	映画を観てから映画を読む。→ novel とは何かの理解へ。
第5回	小説とは何か	歴史的・構造的考察。
第6回	ノヴェルとロマンス	イギリス文学の特性としての novel 性。
第7回	ノヴェルとロマンス（2）	アメリカ文学の特性としての romance 性。
第8回	小説の登場人物について	round character と flat character（E・M・フォースターの『小説の諸相』）
第9回	会話と話法について	学校文法のおさらいから。
第10回	視点と人物について	全知の視点と腹心の友。
第11回	背景の知識について	ゴシック小説と美学。
第12回	英語の辞書のはなし（1）	OED その他の標準辞典。
第13回	英詩のはなし	英詩の構造、rhyme と meter。
第14回	本の蒐集について	本を買う、借りる、閲覧する、ダウンロードする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

作品プリントを辞書を使って読むこと。積極的に英米文学作品を読んでもらいたい。メジャーな作家のメジャーな作品を翻訳でも読み進めてもらいたい。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

担当教員が作成した印刷物を教室で配布／学習支援システム（Hoppii）の「教材」に蓄積

【参考書】

豊田昌倫『英語のスタイル』（研究社、1981）

豊田昌倫『英語のスタイル——教えるための文体論入門』（研究社、2017）

E. M. Forster, *The Aspects of the Novel* 『小説の諸相』（ダヴィッド社）

英米の文学史（教室でリストを配布する）

その他、授業内で適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

授業内小テストとリアクション・ペーパー 20 パーセント

レポート 20 パーセント

期末試験 60 パーセント

【学生の意見等からの気づき】

課題を過大にしない。

【学生が準備すべき機器他】

ない。ただし、ときどきパソコン等で Hoppii をチェックしてほしい——「教材」に授業のハンドアウトや参考資料を保存するので。

【Outline (in English)】

This course is designed to impart basic knowledge about "English" literature, and about studying English literature. Students learn historical and geographical backgrounds, learn critical approaches and tools to read literary texts, and learn to create their own texts, including essays.

[Learning activities outside of classroom:] Before/after each class meeting, students are expected to spend 2 hours respectively to understand the course content.

[Grading Criteria/Policy:] Overall grade in the class will be decided based on the following:

- 1) Participation and discussion (reaction papers and occasional mini tests) (20%)
- 2) A couple of papers ("reports") (20%)
- 2) End-of-term examination (60%)

LIT200BD

英米文学講義 I B

宮川 雅

授業コード：A2908 | 曜日・時限：金 4/Fri.4

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：1～4 年

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

英米文学とその研究についての概説的な科目として、歴史的、地理的、構造的な解説をこころみる。

- (1) 英米文学作品テキストを具体的にかじり読みし、
 - (2) 英米文学の背景・歴史について枠組みを知り、
 - (3) 英米文学研究の方法や道具について知識を得る。
- (これを1年の授業をとっておこないたいため、通年の履修がたいそう望まれる)

【到達目標】

- (1) 英語文学作品で描かれている、英語が使われている国の歴史と文化について概略を理解している。
- (2) 英語文学のジャンル（詩・小説・演劇など）とその歴史について概略を理解している。
- (3) 英語文学作品の背景の知識を得ている。
- (4) 英文学作品を読むときの資料蒐集や参考書・辞書などについて知識を持っている。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式で英米文学の歴史やジャンルや英米の特性について考察するとともに、文学研究の道具や背景の知識についてもプリントを配布して身につける。（ときどき、なかば演習スタイルで）作品を読んでリサーチの方法・辞書の引き方を体感する。リアクション・ペーパーを提出する。

提出されたリアクションペーパーなどにおけるコメント・質問へは、そのうちのいくつかを取り上げ、全体に対してフィードバックをおこない、議論に活かします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	秋学期のイントロダクションとして	イントロダクション
第2回	キリスト教と英米文学／シェークスピアと演劇	聖書、コンコーダンス。引用と盗用（剽窃）。エリザベス朝の舞台から大衆演芸まで。
第3回	アメリカの建国と言語問題——アメリカン・ヴァナキュラー	レポート課題の提示
第4回	アメリカの短篇小説を読む（1）	19世紀アメリカの短篇小説。
第5回	英語の辞書のはなし（2）	俗語、慣用句、方言、引用、その他。オックスフォード英語大辞典と歴史原則。
第6回	注釈について	注釈について。
第7回	本文校訂とテキストの問題	textual criticism と “text” の多様な意味について。
第8回	Speech/ Narration —— 話法について（2）	とくに描出話法、中間話法、自由間接文体について。
第9回	スタイルについて（1）	style のいろいろな意味といろいろなスタイルについて。
第10回	スタイルについて（2）	subordination と coordination
第11回	アメリカの短篇小説を読む（2）	20世紀アメリカの短篇小説。
第12回	視点と話法について——話法について（3）	作品に即して具体的に考える。
第13回	ナラトロジーについて	ジュネットとブース、その他
第14回	エンディング	作品の結末と終末。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

作品プリントを辞書を使って読むこと。積極的に英米文学作品を読んでもらいたい。メジャーな作家のメジャーな作品を翻訳ででも読み進めてもらいたい。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

担当教員が作成した印刷物を教室で配布／学習支援システムの「教材」に蓄積。

【参考書】

授業内で適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

授業内小テストとリアクション・ペーパー 10 パーセント

レポート 40 パーセント

期末試験 50 パーセント

【学生の意見等からの気づき】

課題を余裕のあるものとする。

昨年はAの課題が長文だったのでBの課題をなくしたが、Aをとっていない人も多くて反省した——Bでも課題レポートを設定する。

【その他の重要事項】

前期春学期の「英米文学講義 I A」からの継続履修がこころから望ましい。

【Outline (in English)】

This course is designed to impart basic knowledge about "English" literature, and about studying English literature. Students learn historical and geographical backgrounds, learn critical approaches and tools to read literary texts, and learn to create their own texts, including essays.

[Learning activities outside of classroom:] Before/after each class meeting, students are expected to spend 2 hours respectively to understand the course content.

[Grading Criteria/Policy:] Overall grade in the class will be decided based on the following:

- 1) Participation and discussion (reaction papers and occasional mini tests) (10%)
- 2) A couple of papers ("reports") (40%)
- 2) End-of-term examination (50%)

LIT200BD

英米文学講義Ⅱ A

小澤 央

授業コード：A2909 | 曜日・時限：木 4/Thu.4
春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：1～4 年

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

英米文学の重要なテーマのひとつ、ユートピア（ディストピアを含む）と関連の深い有名な文学作品を、政治的・文化的文脈に位置づけながら解釈する。帝国主義、進化論、マルクス主義、フェミニズム、ポストヒューマニズムといった、今日でも重要な意義を持つ諸問題との関係で分析する。作品を原作とする映画を確認し、具体的イメージを膨らませるとともに、原作との違いから生まれる解釈の差異などを考える。ユートピアというテーマの持つ可能性や限界についても議論する。

ユートピア文学の知識や文学解釈の基本を身につけ、英文読解力を伸ばすことが目的である。

【到達目標】

・ユートピアというテーマとの関係で英文学を概観できる
・作品と関連する政治的・文化的問題について基本的知識を習得する
・辞書や和訳を参照しながらも、ユートピア文学の抜粋を原文で読める英語力をつける

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

原則的に講義形式で進める。映像資料も適宜取り入れる。リアクション・ペーパー（小レポート）を提出してもらう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	ユートピアとは何か、ユートピア文学史概観
第2回	16, 17 世紀	More, <i>Utopia</i> など
第3回	18 世紀	Swift, <i>Gulliver's Travels</i> など
第4回	19 世紀 (1)	Shelley, <i>Frankenstein</i> など
第5回	19 世紀 (2)	映画の鑑賞と議論
第6回	19 世紀 (3)	Wells, <i>The Time Machine</i> など
第7回	20 世紀前半 (1)	Huxley, <i>Brave New World</i> など
第8回	20 世紀前半 (2)	Orwell, <i>Nineteen Eighty-Four</i> など
第9回	20 世紀前半 (3)	映画の鑑賞と議論
第10回	20 世紀後半 (1)	Le Guin, <i>The Dispossessed</i> など
第11回	20 世紀後半 (2)	Atwood, <i>The Handmaid's Tale</i> など
第12回	21 世紀 (1)	Ishiguro, <i>Never Let Me Go</i> など
第13回	21 世紀 (2)	映画の鑑賞と議論
第14回	期末試験とまとめ	今学期の総括、今後の研究についての示唆

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回予め指示された文献（作品の抜粋など）を読むこと、定期的に出される課題（小レポート）を提出することが求められる。さらに、和訳でも構わないので、授業で扱う作品をできるだけ多く自分で読み通すことが望ましい。

予習・復習は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

授業のレジュメ

【参考書】

・授業で扱う文学作品

・グレゴリー・クレイズ著、『ユートピアの歴史』、巽孝之監訳、小畑拓也訳、東洋書林、2013 年
・川端香男里著、『ユートピアの幻想』、講談社学術文庫、1993 年
・John Carey, ed., *The Faber Book of Utopias*, Faber and Faber, 1999.
・Gregory Claeys, ed., *The Cambridge Companion to Utopian Literature*, Cambridge UP, 2010.

【成績評価の方法と基準】

・リアクション・ペーパー（小レポート）などの課題、授業に取り組む姿勢、議論への貢献度：30%
・期末試験：70%

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできない。

【その他の重要事項】

コロナウイルスの感染状況によって授業形態を変更する可能性がある。

【Outline (in English)】

In this course, students are expected to interpret English utopian literature in relation to political and cultural contexts, such as imperialism, Darwinism, Marxism, feminism and posthumanism. This course also refers to films based on utopian literature. The goals of this course are to survey the history of English utopian literature, learn the basics of interpretation of literature and improve English reading comprehension. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. The final grade will be calculated according to the following process: performance in class activities (30%) and term-end examination (70%).

LIT200BD

英米文学講義ⅡB

田中 裕希

授業コード：A2910 | 曜日・時限：木 4/Thu.4

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：1～4年

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

英語圏の詩を精読し、翻訳することで、英詩の特徴と伝統を概観する。また授業では学生の翻訳を合評する機会を設け、英詩を現代の日本語に訳す方法を模索する。人称やリズム、文化的背景など、翻訳されることで失われるニュアンスをどう伝えるか。

【到達目標】

英語圏の詩を精読し、英詩の特徴を学ぶ。また英詩を和訳することで、能動的に詩を理解し、総合的な英語力また日本語力を伸ばす。言葉の意味や音楽性に敏感になり、英語文学の読解力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

ワークショップ形式を軸にした、ディスカッション中心の授業。授業内でのフィードバックをもとに訳文を練り直す。コロナの感染状況と授業内容に配慮しながら、対面授業と遠隔授業を併用する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	英詩の特徴
第2回	英詩のリズム	韻律について
第3回	翻訳ワークショップ（1）	リズムをどう訳すか
第4回	"I"をどう訳すか	英語の"I"と日本語の「私」
第5回	翻訳ワークショップ（2）	人称代名詞をどう訳すか
第6回	英詩の形式	Formとは
第7回	翻訳ワークショップ（3）	詩型をどう訳すか
第8回	英詩の「声」	Voiceとは
第9回	翻訳ワークショップ（4）	口調をどう訳すか
第10回	英詩の多様性	英詩の中の非英語
第11回	翻訳ワークショップ（5）	異文化をどう訳すか
第12回	英詩の読者	歴史的背景と詩
第13回	翻訳ワークショップ（6）	歴史をどう訳すか
第14回	期末試験とまとめ	学期のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

詩を翻訳し、お互いの訳文を読み批評する。また配布されたプリントを読む。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

授業支援システムを通じて配布。

【参考書】

阿部公彦『英詩のわかり方』（研究社）

【成績評価の方法と基準】

授業への貢献度50%（リアクションペーパー、翻訳など）

期末レポート50%

原則、未提出の課題・リアクションペーパーが計4つ以上で単位取得資格を失う。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【Outline (in English)】

In this course, we will read English-language poetry. The class revolves around students' presentations and discussions. There will be some lectures, but most of the class time will be devoted to students' active participation. Grades will be determined based on weekly responses and assignments (50%) and the final paper (50%).

LIN200BD

英語学講義 A

福元 広二

授業コード：A2911 | 曜日・時限：火 2/Tue.2

春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：2～4 年

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代英語の文法についての基本的な知識を得ることをめざします。何故、英語はこのようなあり方をしているのか、何故、このような語順でないといかないのか、表面が似ている文が、全く違った内部構造をしているといった踏み込んだ分析ができるようになることをめざします。通言語的な視点も紹介し日本語についても理解を深めてもらいます。

【到達目標】

英語の基本的な構造について、知識が持てるようになります。また、英語の分析法の代表的なものについてある程度の知識を持つことができるようになります。英語と日本語の違いと共通点が言語構造に基づくものであることを理解できるようになります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

基本的には、パワーポイント使って講義形式で行います。教科書も適宜使用します。英語と真正面から取り組み、真剣に取り組んでください。また、リアクション・ペーパーも提出してもらいます。

リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。

授業は対面で行う予定ですが、コロナの状況によってはリモートになる場合もあります。授業形態については **Hoppii** で連絡します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の内容や、進め方についての説明
第 2 回	英文法の問題	実際に英語の問題を解いてみよう
第 3 回	品詞	英語の品詞について
第 4 回	英語の文型	5 文型の分析
第 5 回	自動詞と他動詞	他動性について
第 6 回	意味役割	意味役割とは何か
第 7 回	テンス（1）	現在時制
第 8 回	テンス（2）	過去時制と未来表現
第 9 回	アスペクト（1）	進行相
第 10 回	アスペクト（2）	完了相
第 11 回	態	受動態
第 12 回	モダリティ（1）	法助動詞
第 13 回	モダリティ（2）	準助動詞
第 14 回	期末試験	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で触れる予定のテーマについては、事前にある程度予習しておくことが必要です。高校までの授業でどのように教わってきたかを復習しておくようにという課題が出ているときは、教科書や使用していた参考書をもう一度読んでおくことが必要です。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

村田勇三郎・成田圭市 『英語の文法』（大修館）

【参考書】

適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】

期末試験、平常点、レポートで、総合的に判断します。

期末試験 40%、平常点 40%、レポート 20%

【学生の意見等からの気づき】

ディスカッションの時間をなるべく多くとるように心がけたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

とくにありません。

【その他の重要事項】

授業の構成、内容や順序は、受講生の理解度などを検証しつつ、柔軟に対応させていきます。受講生の理解度に応じて、さらに必要と思われる内容を入れていくこともあります。

4 回以上欠席した場合は D 評価となります。

【Outline (in English)】

This course deals with the study of the characteristics of English grammar. Grammatical categories, phrases and sentences structures are discussed in relation to the forms and meanings. This course aims at enabling students to analyze a variety of English sentence structures.

The goal of this course is to give students the basic knowledge to understand English grammar

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

Final grade will be calculated according to the following process
Mid-term report (20%), term -end examination (40%), and in-class contribution (40%)

LIN200BD

英語学講義 B

福元 広二

授業コード：A2912 | 曜日・時限：火 2/Tue.2

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2～4 年

その他属性：〈他〉〈優〉

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

Final grade will be calculated according to the following process:

Mid-term report (20%), term -end examination (40%), and in-class contribution (40%)

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代英語の文法についての基本的な知識を得ることをめざします。何故、英語はこのようなあり方をしているのか、何故、このような語順でないといけないのか、表面が似ている文が、全く違った内部構造をしているといった踏み込んだ分析ができるようになることをめざします。通言語的な視点を紹介し日本語についても理解を深めてもらいます。

【到達目標】

英語の基本的な構造について、知識が持てるようになる。英語学講義 B の授業では、認知言語学や代表的な構文についての知識を持てるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

基本的には、パワーポイントを用いて講義形式で行います。教科書も適宜使用します。英語と真正面から取り組み、真剣に取り組んでください。また、リアクション・ペーパーも提出してもらいます。リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。

授業は対面で行う予定ですが、コロナの状況によってはリモートになる場合もあります。授業形態については Hoppii で連絡します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の進め方と内容について
第 2 回	日英語比較	事態把握
第 3 回	認知言語学 (1)	メタファー
第 4 回	認知言語学 (2)	メトニミーとシネドキシ
第 5 回	認知言語学 (3)	文法化
第 6 回	談話標識	談話標識の分析
第 7 回	不定詞 (1)	不定詞節
第 8 回	不定詞 (2)	繰り上げ動詞とコントロール動詞
第 9 回	動名詞	名詞的動名詞と動詞的動名詞
第 10 回	不定詞と動名詞	不定詞と動名詞の意味
第 11 回	There 構文	There 構文の特徴
第 12 回	二重目的語構文	与格交替について
第 13 回	関係代名詞	関係代名詞の制約
第 14 回	期末試験	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で触れる予定のテーマについては、事前にある程度予習しておくことが必要です。高校までの授業でどのように教わってきたかを復習しておくようにという課題が出ているときは、教科書や使用していた参考書をもう一度読んでおくことが必要です。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

ハンドアウトを配布する。

【参考書】

適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】

期末試験、平常点、レポートで、総合的に判断します。

期末試験 40%、平常点 40%、レポート 20%

【学生の意見等からの気づき】

ディスカッションの時間をなるべく多くとるように心がけたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

授業の構成や順序は、受講生の理解度などを検証しつつ、春学期の内容をどの程度理解できているかに応じて柔軟に対応させていただきます。

4 回以上欠席した場合は D 評価となります。

【Outline (in English)】

This course deals with the study of the characteristics of English grammar. Grammatical categories, phrases and sentences structures are discussed in relation to the forms and meanings. This course aims at enabling students to analyze a variety of English sentence structures. The goal of this course is to give students the basic knowledge to understand English grammar.

LIN200BD

言語学講義 I A / 言語と論理 1 (言語学講義 I) A

石川 潔

授業コード：A2913, A2326 | 曜日・時限：月 3/Mon.3

春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：2~4 年

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

音声知覚や単語の聞き取りに関する心理言語学の入門

【到達目標】

- ・人間の言語情報処理に関する入門レベルの知識の習得
- ・言語研究にも役立つけど、**社会人一般にも役立つ**、データ分析の基礎

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

基本的には講義ですが、グループ・ディスカッションを行う回もある予定です。

リアクションペーパーには、オンライン配信または口頭で、フィードバックを行う予定です(フィードバック方法は内容/分量によります)。

学生の理解度や要望などに応じて、スケジュールは柔軟に変えたいと思います。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	導入	授業全体の説明
第 2 回	<i>Olympic</i> って、「オリンピック」と「オリンピック」の、どっちが正しい?	人間は、自分がやっていることを自覚できないもの、という教訓(その1)
第 3 回	<i>rice</i> と <i>rise</i> 、語尾に母音を入れないで発音できる?	人間は、自分がやっていることを自覚できないもの、という教訓(その2)
第 4 回	「しおり」は可愛い……のかな? 比較対象は?	実験と統計分析の必要性: 統制条件、仮説と予測
第 5 回	英語の L と R、聞き分けられる?	母語の音韻体系に依存した音声知覚(その1): 注目する音響手がかり
第 6 回	母語話者でも、わからない違い	カテゴリー知覚(有声・無声、L と R、など)
第 7 回	わたしが言ったのは「抱っこ」じゃなくて「たっこ」!	音声知覚における語彙効果(Ganong effect)
第 8 回	「アメリカ人に <i>tloop</i> って言ったら、聞き間違えられた」とのこと。	音声知覚における音素配列制約の効果
第 9 回	<i>straight issue</i> と <i>stray tissue</i> って、どうやって聞き分けるの?	音節の概念、英語の強勢
第 10 回	<i>non-native</i> の方が <i>native</i> より成績が上!?	英語の聞き取り実習など
第 11 回	その単語、どういう意味?(その1)	意味プライミング(その1): 単語検索
第 12 回	単語が聞き取れない!!	単語認識の諸モデル
第 13 回	その単語、どういう意味?(その2)	意味プライミング(その2): ambiguity resolution
第 14 回	全体のまとめ	全体のまとめ

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

授業で学んだ話に基づいて、テレビやネットの報道や広告を批判的に眺め直してみてください。

また、英語で歌う機会も設けてください(理由は授業を受ければわかる…はず)。

なお本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト(教科書)】

学習支援システムにて資料配布。

【参考書】

適宜、指示。

【成績評価の方法と基準】

平常点 30%、期末試験 70%。

公平性を最重視するので、個人的事情は一切考慮しません。

【学生の意見等からの気づき】

「他の授業と重複している」という声もあり、また他の理由もあり、大幅に内容を変えました。

【その他の重要事項】

原則「言語学講義 I B」と連続履修すること。

【Outline (in English)】

(Course outline) An introduction to psycholinguistic studies of speech perception and auditory word recognition.

(Learning Objectives) To grasp experimental methods on the one hand, and an introductory knowledge of human language processing.

(Learning activities outside of classroom) Critically examine advertisements etc. encountered on the net etc. Furthermore, sing in English!

(Grading Criteria/Policy) Participation (30%); Final (70%)

LIN200BD

言語学講義 I B / 言語と論理 1 (言語学講義 I) B

石川 潔

授業コード：A2914, A2327 | 曜日・時限：月 3/Mon.3

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2～4 年

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

英語と日本語を、意味の面から比較します。

【到達目標】

- ・母語干渉につながる言語間の違いを認識すること。
- ・でも、言語間には共通性もあることを認識すること。
- ・論理的な分析能力を身につけること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

配信教材と講義で、二重に説明を行う予定です。
リアクションペーパーには、オンラインまたは口頭でのフィードバックを行う予定です。
学生の理解度や要望などに応じて、スケジュールは柔軟に変えたいと思います。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	時制とアスペクト 1	述語の 2 分類
第 2 回	時制とアスペクト 2	英語の進行形の基本
第 3 回	時制とアスペクト 3	英語の進行形の応用
第 4 回	時制とアスペクト 4	英語に「未来形」ってあるのか？
第 5 回	時制とアスペクト 5	英語の完了形の基本
第 6 回	時制とアスペクト 6	英語の完了形の応用
第 7 回	時制とアスペクト 7	日本語に「現在形・過去形」はない？
第 8 回	時制とアスペクト 8	日本語だって「現在形・過去形」だ！ (その 1)
第 9 回	時制とアスペクト 9	日本語だって「現在形・過去形」だ！ (その 2)
第 10 回	時制とアスペクト 10	telicity
第 11 回	時制とアスペクト 11	日本語のテンスについての補足
第 12 回	時制とアスペクト 12	従属節の時制の日英比較
第 13 回	時制とアスペクト 13	「～している」の意味 (基本編)
第 14 回	まとめ	全体のまとめ

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

時制・アスペクトについても授業でカバーしきれない事柄はたくさんあります。授業中でも、様々な謎を「答えなし」のまま残します。答えを考えてみてください。また、授業で紹介された分析への反例も、日ごろ日本語 (や英語) に接していれば見つかるはず。見つけてください。もし学期中に見つければ、教員に反論してくださいませ (有効な反論、特に教員が言い返せない反論をしてくれれば、平常点に大幅加点となります)。
なお本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

学習支援システムにて教材配信。

【参考書】

教材に記載。

【成績評価の方法と基準】

平常点 30 %、期末試験 70 %。
公平性を最重視するので、個人的事情は一切考慮しません。

【学生の意見等からの気づき】

一昨年に比べて昨年度の方が、(一部を除いて) 全体的な評価が下がってしまいましたが、自分が感じていた学生の反応とも、それは一致しています。少なくとも一昨年に評価していただけていた良い点を取り戻しつつ、さらに内容・構成ともに改善していきたいと思えます。

【その他の重要事項】

原則「言語学講義 I A」と連続履修すること。

【Outline (in English)】

(Course outline) Comparisons of English and Japanese semantics, as well as a glimpse of experimental studies on sentence processing.

(Learning Objectives) To grasp differences and commonalities between English and Japanese; to acquire logical analysis skills.

(Learning activities outside of classroom) To seek for answers to those questions left unanswered in the classroom; to try to find counterexamples to the analyses presented in the classroom.

(Grading Criteria /Policy) Participation (30%); Final (70%)

LIN200BD

言語学講義Ⅱ A

伊藤 達也

授業コード：A2915 | 曜日・時限：月 4/Mon.4

春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：3～4 年

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業ではさまざまな言語学の分野を眺めます。言語は身近すぎて、日ごろ深く考えることはあまりありません。この授業では言語について考えるトレーニングをします。

【到達目標】

言語について考えることによって言語を内省する能力を養います。言語を内省する能力は、外国語を習得したり、他人に教えたりするうえで役に立ちます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

講義が中心ですが、授業の性質上、実技・演習をすることもあります。まとめの回では、授業内で行った課題に対する講評や解説を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	導入	導入と授業のポリシーの説明
第 2 回	形態論 (1)	形態素の種類
第 3 回	形態論 (2)	派生と語の内部構造
第 4 回	形態論 (3)	造語
第 5 回	統語論 (1)	文の構成素分析
第 6 回	統語論 (2)	句構造規則で文を作る
第 7 回	統語論 (3)	変形規則で文を変える
第 8 回	意味論 (1)	語、句、文の意味
第 9 回	意味論 (2)	直喩、隠喩、換喩
第 10 回	語用論 (1)	協調の原理と会話の公理
第 11 回	語用論 (2)	発話行為、ポライトネス
第 12 回	社会言語学 (1)	地域や人種による言語の変異
第 13 回	社会言語学 (2)	ジェンダーと言語
第 14 回	春学期のまとめ	まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備・復習時間は各 2 時間を標準とします。資料をあらかじめ配布しますので、準備としてそれを読んでください。復習として、授業中に解いた練習問題をもう一度やり直してください。

【テキスト（教科書）】

こちらでプリントを用意します。

【参考書】

『フロムキンの言語学』、ピー・エヌ・エヌ新社、2006

『ランゲージ・ファイルー英語学概論ー』、研究社、2000

【成績評価の方法と基準】

期末試験 (70%) と平常点 (30%) から総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

授業中に作業をしてもらうときには、十分に時間を取るようにします。

【Outline (in English)】

This course is designed to introduce students to a wide range of linguistic data. The goal is to become able to think deeply about language. Students will be expected to read materials before class and be prepared to discuss the topics in class. Grading will be decided based on term-end examination (70%) and active participation (30%).

LIN200BD

言語学講義ⅡB

伊藤 達也

授業コード：A2916 | 曜日・時限：月 4/Mon.4

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：3～4 年

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業ではさまざまな言語学の方野を眺めます。言語は身近すぎて、日ごろ深く考えることはあまりありません。この授業では言語について考えるトレーニングをします。

【到達目標】

言語について考えることによって言語を内省する能力を養います。言語を内省する能力は、外国語を習得したり、他人に教えたりするうえで役に立ちます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

講義が中心ですが、授業の性質上、実技・演習をすることもあります。まとめの回では、授業内で行った課題に対する講評や解説を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	導入	導入と授業のポリシーの説明
第 2 回	音声学 (1)	母音、子音
第 3 回	音声学 (2)	自然類
第 4 回	音韻論 (1)	弁別素性
第 5 回	音韻論 (2)	音素と異音
第 6 回	音韻論 (3)	音韻規則
第 7 回	音韻論 (4)	強勢
第 8 回	歴史言語学 (1)	イギリス史、語彙変化
第 9 回	歴史言語学 (2)	音声変化、統語変化、意味変化
第 10 回	歴史言語学 (3)	言語の系統
第 11 回	心理言語学 (1)	文の解析
第 12 回	心理言語学 (2)	言語習得
第 13 回	機能主義	機能主義的な文法現象の説明
第 14 回	秋学期のまとめ	まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備・復習時間は各 2 時間を標準とします。資料をあらかじめ配布しますので、準備としてそれを読んでください。復習として、授業中に解いた練習問題をもう一度やり直してください。

【テキスト（教科書）】

こちらでプリントを用意します。

【参考書】

『フロムキンの言語学』、ピー・エヌ・エヌ新社、2006
『ランゲージ・ファイルー英語学概論ー』、研究社、2000

【成績評価の方法と基準】

期末試験 (70%) と平常点 (30%) から総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

授業中に作業をしてもらうときには、十分に時間を取るようにします。

【Outline (in English)】

This course is designed to introduce students to a wide range of linguistic data. The goal is to become able to think deeply about language. Students will be expected to read materials before class and be prepared to discuss the topics in class. Grading will be decided based on term-end examination (70%) and active participation (30%).

LIN100BD

英語音声学 A

田中 邦佳

授業コード：A2917 | 曜日・時限：水 1/Wed.1

春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：1～4 年

その他属性：〈優〉

Learning Objectives: The goal of this course is to acquire basic knowledge of phonetic and phonology of Japanese and English, and understand how phonetic and phonological differences between Japanese and English affect the way native speakers of Japanese learn English.

Learning activities outside of classroom: It is necessary to review the class each time. Students are required to study at least four hours outside of classroom.

Students are required to study at least four hour outside of classroom.
Grading Criteria /Policy: Final exam 80%, Assignment 20%

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本語・英語の音声的な構造の比較を行いながら、音声学の基礎を学びます。

【到達目標】

日本語と英語の母語話者の発話にどのような音声・音韻プロセスが見られるか、観察できるようになること。日本語母語話者が英語を学ぶ際、日本語と英語の音声・音韻の差異がどのように影響するかを理解すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

最初の数回の授業では、発声・構音器官や発音記号（IPA）などの、音声学の基本事項の説明を行います。その後、英語・日本語の音の並び方、制約について解説する予定です。授業中に提示する問題を受講者に解いてもらうことにより、理解を深めながら学んでもらう方式をとります。授業で提出されたリアクションペーパーなどにおけるコメント・質問へは、そのうちのいくつかを取り上げ、全体に対してフィードバックを行い、議論に活かします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	「音声学」とは？	調音・聴覚・音響音声学について
第 2 回	発声・調音 (1)	呼吸、発声・構音
第 3 回	発声・調音 (2)	調音器官
第 4 回	音とシンボル (1)	国際音声記号（子音）
第 5 回	音とシンボル (2)	国際音声記号（母音）
第 6 回	音声学の基本概念	音素と異音、相補分布
第 7 回	気音と VOT	音素、VOT と範疇知覚
第 8 回	日本語の音声変化 (1)	サ行・ハ行
第 9 回	本語の音声変化 (2)	母音変化、英語習得への転移
第 10 回	音とまとまり (1)	聞こえ度・音節構造
第 11 回	音とまとまり (2)	英語の音節構造
第 12 回	音とまとまり (3)	音節構造の日英比較
第 13 回	音節構造と音声変化	英語の /l/
第 14 回	まとめ	基本概念、音節構造、音声変化の記述の復習、練習問題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- 予習は特に必要としませんが、積み重ねの授業ですので、各自で毎回、授業の復習を行うことが必要です。
- 授業内では宿題が出されます。宿題も含めて試験範囲となります。
- 宿題の回答を頭の中で考えるだけでなく、書いてまとめることが求められます。
- 本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

- 『日本語音声学入門 改訂版』 齊藤純男 (2006) 三省堂 2,000 円+税
- 授業で適宜ハンドアウトを配布する予定です。なお、ハンドアウトは学習支援システムにて配布します。

【参考書】

Carr, Philip 2012. *English Phonetics and Phonology: An Introduction, Second Edition*. Wiley-Blackwell.

【成績評価の方法と基準】

学期末試験：80%

課題：20%

【学生の意見等からの気づき】

授業内での練習課題を増やせるようにします。

【学生が準備すべき機器他】

PC・タブレットなどの情報機器と通信環境を整えてください。

【その他の重要事項】

この授業は原則として「英語音声学 B」と連続履修して下さい。

【Outline (in English)】

Course outline: This course provides students with a basic knowledge of English phonetics and phonology.

LIN100BD

英語音声学 B

田中 邦佳

授業コード：A2918 | 曜日・時限：水 1/Wed.1

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：1～4 年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「英語音声学 A」にて扱う音声学の基礎知識を前提として、英語、および日本語の音韻現象を学びます。主に音声変化に重点を置き、英語の子音・母音が、環境によってどのように変化するかを学びます。また、後半では英語の強勢について、そして強勢の有無による音声変化について学びます。

【到達目標】

この授業では、「英語音声学 A」で学んだ内容を発展させ、英語、および日本語の音声についてより発展的な内容を学び、英語・日本語の音韻変化、プロソディーについての知識を得ること。また、学んだ知識を応用し、日本語、および英語のデータを分析し、その中に規則性を見だし、記述できるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

前半は主に音声変化に重点を置き、英語の子音・母音が、環境によってどのように変化するかを学びます。後半では、英語の強勢について、そして強勢の有無による音声変化について学びます。授業中に提示する問題を受講者に解いてもらうことにより、理解を深めながら学んでもらう方式をとります。授業で提出されたリアクションペーパーなどにおけるコメント・質問へは、そのうちのいくつかを取り上げ、全体に対してフィードバックを行い、議論に活かします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	音声学の基礎 (1)	日・英の子音・母音
第 2 回	音声学の基礎 (2)	音節構造・モーラなど
第 3 回	音声規則 (1)	音素・音声変化の記述
第 4 回	音声規則 (2)	英語の音声変化—気音化
第 5 回	音声規則 (3)	英語の音声変化—flapping
第 6 回	モーラと母音	Minimal word と英語の母音
第 7 回	日本語のプロソディー	モーラとアクセント
第 8 回	英語のプロソディー (1)	英語の音節タイプとストレス
第 9 回	英語のプロソディー (2)	英語のストレスルール
第 10 回	借用語と音韻変化	借用過程における変化
第 11 回	日本語のアクセント	アクセントと意味変化
第 12 回	外来語とアクセント	外来語アクセント規則
第 13 回	ESL データ分析	日本語話者による英語発話エラー分析
第 14 回	まとめ	音声規則、モーラ、プロソディーに関する練習問題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- 授業内容の復習をすることがとても重要です。
- また、「英語音声学 A」の知識を前提とした内容になりますので、必ず「英語音声学 A」の復習を復習し、確認しつつ授業に臨んでください。
- 授業内では宿題が出されます。宿題も含めて試験範囲となります。
- 宿題の回答を頭の中で考えるだけでなく、書いてまとめることが求められます。
- 本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

- 『日本語音声学入門 改訂版』 齊藤純男 (2006) 三省堂 2,000 円+税
- 授業で適宜ハンドアウトを配布する予定です。なお、ハンドアウトは学習支援システムにて配布します。

【参考書】

Carr, Philip 2012. *English Phonetics and Phonology: An Introduction, Second Edition*. Wiley-Blackwell.

【成績評価の方法と基準】

学期末試験：80%

課題：20%

【学生の意見等からの気づき】

授業内での練習課題を増やせるようにします。

【その他の重要事項】

この授業の内容は「英語音声学 A」で学ぶ内容を発展させたものとなります。「英語音声学 A」と連続履修して下さい。

【Outline (in English)】

This course further explores English and Japanese phonetics and phonology.

Course outline: This course provides students with a basic knowledge of English phonetics and phonology.

Learning Objectives: The goal of this course is to acquire basic knowledge of phonetic and phonology of Japanese and English, and understand how phonetic and phonological differences between Japanese and English affect the way native speakers of Japanese learn English.

Learning activities outside of classroom: It is necessary to review the class each time. Students are required to study at least four hours outside of classroom.

Grading Criteria /Policy: Final exam 80%, Assignment 20%

LIN100BD

英語音声学 A

川崎 貴子

授業コード：A2919 | 曜日・時限：木 2/Thu.2

春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：1～4 年

その他属性：〈優〉

Learning activities outside of classroom: It is necessary to review the class each time. Students are expected to study at least 4 hours a week outside of classroom.

Grading Criteria /Policy: Final exam 100%

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本語・英語の音声的な構造の比較を行いながら、音声学の基礎を学び、日本語・英語の基礎的な音声・音韻構造の知識を身につけることを目的とします。

【到達目標】

日本語と英語の母語話者の発話にどのような音声・音韻プロセスが見られるか、観察できるようになること。日本語母語話者が英語を学ぶ際、日本語と英語の音声・音韻の差異がどのように影響するかを理解すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

最初の数回の授業では、発声・構音器官や発音記号（IPA）などの、音声学の基本事項の説明を行います。その後、英語・日本語の音の並び方、制約について解説する予定です。授業中に提示する問題を受講者に解いてもらうことにより、理解を深めながら学んでもらう方式をとります。

授業で提出されたリアクションペーパーなどにおけるコメント・質問へは、そのうちのいくつかを取り上げ、全体に対してフィードバックを行い、議論に活かします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	「音声学」とは？	調音・聴覚・音響音声学について
第 2 回	発声・調音 (1)	呼吸、発声・構音
第 3 回	発声・調音 (2)	調音器官
第 4 回	音とシンボル (1)	国際音声記号（子音）
第 5 回	音とシンボル (2)	国際音声記号（母音）
第 6 回	音声学の基本概念	音素と異音、相補分布
第 7 回	気音と VOT	音素、VOT と範疇知覚
第 8 回	日本語の音声変化 (1)	サ行・ハ行
第 9 回	本語の音声変化 (2)	母音変化、英語習得への転移
第 10 回	音とまとまり (1)	聞こえ度・音節構造
第 11 回	音とまとまり (2)	英語の音節構造
第 12 回	音とまとまり (3)	音節構造の日英比較
第 13 回	音節構造と音声変化	英語の /l/
第 14 回	まとめ	基本概念、音節構造、音声変化の記述の復習、練習問題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- 予習は特に必要としませんが、積み重ねの授業ですので、各自で毎回、授業の復習を行うことが必要です。
- 授業内では宿題が出されます。宿題も含めて試験範囲となります。
- 宿題の回答を頭の中で考えるだけでなく、書いてまとめることが求められます。
- 本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業で適宜ハンドアウトを配布する予定です。なお、ハンドアウトは学習支援システムにて配布します。

【参考書】

Carr, Philip 2012. *English Phonetics and Phonology: An Introduction, Second Edition*. Wiley-Blackwell.

【成績評価の方法と基準】

学期末試験 ...100%

【学生の意見等からの気づき】

学生が理解を深められるよう、練習問題を時折、配布し、進めてまいります。

【学生が準備すべき機器他】

PC・タブレットなどの情報機器と通信環境を整えてください。

【その他の重要事項】

この授業は原則として「英語音声学 B」と連続履修して下さい。

【Outline (in English)】

Course outline: This course provides students with a basic knowledge of English phonetics and phonology.

Learning Objectives: The goal of this course is to acquire basic knowledge of phonetic and phonology of Japanese and English, and understand how phonetic and phonological differences between Japanese and English affect the way native speakers of Japanese learn English.

LIN100BD

英語音声学 B

川崎 貴子

授業コード：A2920 | 曜日・時限：木 2/Thu.2

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：1～4 年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「英語音声学 A」にて扱う音声学の基礎知識を前提として、英語、および日本語の音韻現象を学びます。主に音声変化に重点を置き、英語の子音・母音が、環境によってどのように変化するかを学びます。また、後半では英語の強勢について、そして強勢の有無による音声変化について学びます。日本語と英語の音声学・音韻論の基礎知識を習得し、日本語と英語の音声学・音韻論の違いが日本語母語話者の英語学習にどのような影響を与えるかを理解することを目標とします。

【到達目標】

この授業では、「英語音声学 A」で学んだ内容を発展させ、英語、および日本語の音声についてより発展的な内容を学び、英語・日本語の音韻変化、プロソディーについての知識を得ること。また、学んだ知識を応用し、日本語、および英語のデータを分析し、その中に規則性を見だし、記述できるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

前半は主に音声変化に重点を置き、英語の子音・母音が、環境によってどのように変化するかを学びます。後半では、英語の強勢について、そして強勢の有無による音声変化について学びます。授業中に提示する問題を受講者に解いてもらうことにより、理解を深めながら学んでもらう方式をとります。授業で提出されたリアクションペーパーなどにおけるコメント・質問へは、そのうちのいくつかを取り上げ、全体に対してフィードバックを行い、議論に活かします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	音声学の基礎 (1)	日・英の子音・母音
第 2 回	音声学の基礎 (2)	音節構造・モーラなど
第 3 回	音声規則 (1)	音素・音声変化の記述
第 4 回	音声規則 (2)	英語の音声変化—気音化
第 5 回	音声規則 (3)	英語の音声変化—flapping
第 6 回	モーラと母音	Minimal word と英語の母音
第 7 回	日本語のプロソディー	モーラとアクセント
第 8 回	英語のプロソディー (1)	英語の音節タイプとストレス
第 9 回	英語のプロソディー (2)	英語のストレスルール
第 10 回	借用語と音韻変化	借用過程における変化
第 11 回	日本語のアクセント	アクセントと意味変化
第 12 回	外来語とアクセント	外来語アクセント規則
第 13 回	ESL データ分析	日本語話者による英語発話エラー分析
第 14 回	まとめ	音声規則、モーラ、プロソディーに関する練習問題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- 授業内容の復習をすることがとても重要です。
- また、「英語音声学 A」の知識を前提とした内容になりますので、必ず「英語音声学 A」の復習を復習し、確認しつつ授業に臨んでください。
- 授業内では宿題が出されます。宿題も含めて試験範囲となります。
- 宿題の回答を頭の中で考えるだけでなく、書いてまとめることが求められます。
- 本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業で適宜ハンドアウトを配布する予定です。なお、ハンドアウトは学習支援システムにて配布いたします。

【参考書】

Carr, Philip 2012. *English Phonetics and Phonology: An Introduction, Second Edition*. Wiley-Blackwell.

【成績評価の方法と基準】

学期末試験 ……100%

【学生の意見等からの気づき】

授業の最初に質問への回答や復習を行うことで理解が促進されたようです。また、授業中に紹介した具体例により理解が深まったと好評でしたので、今年度も良い例が提供できるように努力したいと思います。

【その他の重要事項】

この授業の内容は「英語音声学 A」で学ぶ内容を発展させたものとなります。「英語音声学 A」（木曜日）と連続履修して下さい。

【Outline (in English)】

This course further explores English and Japanese phonetics and phonology.

Course outline: This course provides students with a basic knowledge of English phonetics and phonology.

Learning Objectives: The goal of this course is to acquire basic knowledge of phonetics and phonology of Japanese and English, and understand how phonetic and phonological differences between Japanese and English affect the way native speakers of Japanese learn English.

Learning activities outside of classroom: It is necessary to review the class each time. Students are required to study at least four hours outside of classroom.

Grading Criteria /Policy: Final exam 100%

LIN200BD

英語・言語学特殊講義 A

岸山 健

授業コード：A2923 | 曜日・時限：金 2/Fri.2

春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：2～4 年

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

人が音声を聞き分けて単語を認識し、単語の列から文を理解する過程を検証しながら学びます。前期では音声の概要と音声を知覚する過程、そして検証方法を学びます。検証には統計学や心理学、計算機科学の手法を借ります。実験を組み立てたり、データを分析したりする方法も体験できます。

【到達目標】

1. 音声の特徴と生成プロセスを説明できる
2. 人が音声を知覚する処理のモデルを説明できる
3. 実験やシミュレーションで仮説を検証できる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

資料の輪読と実習を中心に進めます。各回でフィードバックの時間を設け、第7回では前半の理解を確認、補足します。第14回では後半の理解を確認、補足します。統計学やプログラミングの初学者であることを前提とした内容です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	心理言語学の概要1	心理言語学の研究対象・言語学・音声学との関係
第2回	音声の生成と知覚	Praat を用いた音声学入門・不思議な知覚現象
第3回	音声の錯覚とモデル	不思議な知覚現象を説明するモデルの紹介
第4回	音声知覚の実験：概要	対照実験とははじめ・音声ファイルの予備的知識
第5回	音声知覚の実験：実施	実験の実施とデータの取得
第6回	音声知覚の実験：分析	統計的仮説検定と可視化の実践
第7回	理解度の確認と質疑応答	前半の振り返りと理解の補完
第8回	研究とははじめ	IMRaD と研究の進め方の学習・サーベイの体験
第9回	研究立案と推敲	サーベイ内容をまとめて報告、推敲
第10回	音声の概要（準備編）	発展的な概念の学習するため Python を導入
第11回	音声の概要（発展編）	より発展的な概念の学習（フーリエ変換、MFCC 等）
第12回	音声の知覚（準備編）	Python の機械学習ライブラリの実習
第13回	音声の知覚（発展編）	計算機上で音声の知覚をシミュレーション実験
第14回	理解度の確認と質疑応答	後半の振り返りと理解の補完

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内で指定する資料の要約と復習は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『パソコンがあればできる！ ことばの実験研究の方法』中谷健太郎、ひつじ書房、2019、定価 2,600 円
ISBN 978-4-89476-964-9

【参考書】

音声学を学ぶ人のための Praat 入門
音声言語処理と自然言語処理

【成績評価の方法と基準】

平常点 50%+中間試験と期末試験で 50%

【学生の意見等からの気づき】

本年度新規担当のため、なし。

【学生が準備すべき機器他】

ノートパソコン（タブレット可、OS 不問）

【その他の重要事項】

講義内容が連続する「英語・言語学特殊講義 B」も履修を検討されたい。
統計学やプログラミングの知識は不問とする。

【Outline (in English)】

In this course, students will learn the process by which people listen to speech sounds, recognize words, and understand sentences from word sequences. In the first semester, students will learn an overview of speech sounds, the process of perceiving speech sounds, and experimental methods. The methods depend on statistics, psychology, and computer science. You will also experience how to construct experiments and analyze data.

The goals of this course are threefold: 1. to be able to explain the characteristics of speech sounds and the processes by which they are produced; 2. to be able to explain models of the processing where people perceive speech sounds; and 3. to be able to test hypotheses through experiments and simulations.

The class will focus on reading materials in rotation and hands-on practice. Feedback will be provided in each class, and in the 7th class, the understanding of the first half will be checked and supplemented. In the 14th class, that of the second half will be checked and supplemented. Grades will be based on assignments in classes (50%) + mid-term exam and final exam (50%).

LIN200BD

英語・言語学特殊講義 B

岸山 健

授業コード：A2924 | 曜日・時限：金 2/Fri.2

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈他〉〈優〉

The goals of this course are threefold: 1. to be able to explain the relationship between regular expressions and context-free grammars 2. to be able to explain the model of the process by which people give structure to words 3. to be able to test hypotheses through experiments and simulations.

The class will focus on reading materials in rotation and hands-on practice. Feedback will be provided in each class, and in the 7th class, the understanding of the first half will be checked and supplemented. In the 14th class, that of the second half will be checked and supplemented. Grades will be based on assignments in classes (50%) + mid-term exam and final exam (50%).

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

人が単語の列から文を理解する過程を検証しながら学びます。後期では言語を「記号列」とみなし、記号列に構造を与える過程、検証方法を学びます。検証には統計学や心理学、計算機科学の手法を借ります。実験を組み立てたり、データを分析したりする方法も体験できます。

【到達目標】

1. 正規表現と文脈自由文法の関係を説明できる
2. 人が単語に構造を与える処理のモデルを説明できる
3. 実験やシミュレーションで仮説を検証できる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

資料の輪読と実習を中心に進めます。各回でフィードバックの時間を設け、第7回では前半の理解を確認、補足します。第14回では後半の理解を確認、補足します。統計学やプログラミングの初学者であることを前提とした内容です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	心理言語学の概要2	心理言語学の研究対象・言語学・統語論との関係
第2回	オートマトンと言語理論	構文解析に必要な範囲に絞って文脈自由文法まで解説
第3回	構文解析と心理的実在生	文脈自由文法をベースとした構文解析を比較・検討
第4回	容認性調査：概要	対照実験の復習・that-痕跡効果・PCIBexの導入
第5回	容認性調査：実施	実験の実施とデータの取得
第6回	容認性調査：分析	統計的仮説検定と可視化の実践
第7回	理解度の確認と質疑応答	前半の振り返りと理解の補完
第8回	研究ことはじめ2	IMRaDと研究の進め方の復習・サーベイの実施
第9回	研究立案と推敲	サーベイ内容をまとめて報告、推敲
第10回	構文解析（発展編）	Pythonを使って構文解析器の挙動を学習
第11回	自己ベース読文実験：概要	ガーデンパス効果・PCIBexの復習
第12回	自己ベース読文実験：実施	実験の実施とデータの取得
第13回	自己ベース読文実験：分析	統計的仮説検定と可視化の実践
第14回	理解度の確認と質疑応答	後半の振り返りと理解の補完

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内で指定する資料の要約と復習は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『パソコンがあればできる！ ことばの実験研究の方法』中谷健太郎、ひつじ書房、2019、定価 2,600円
ISBN 978-4-89476-964-9

【参考書】

オートマトン 言語理論 計算論 I [第2版]
音声言語処理と自然言語処理

【成績評価の方法と基準】

平常評価 50%+中間試験と期末試験で 50%

【学生の意見等からの気づき】

本年度新規担当のため、なし。

【学生が準備すべき機器他】

ノートパソコン（タブレット可、OS不問）

【Outline (in English)】

In this course, students will learn the process by which people listen to speech sounds, recognize words, and understand sentences from word sequences. In the first semester, students will learn an overview of speech sounds, the process of perceiving speech sounds, and experimental methods. The methods depend on statistics, psychology, and computer science. You will also experience how to construct experiments and analyze data.

LIT200BD

英米文学特殊講義 I

宮川 雅

授業コード：A2965 | 曜日・時限：火 3/Tue.3

春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：2~4 年

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

◀ ジーン・ウェブスターから英米文学を考える——『あしながおじさん』から／へ ▶

マーク・トウェインの姪の娘で、彼が出資してつくった出版社 Charles L. Webster and Company の社主チャールズ・ウェブスターの娘でもあるのが『あしながおじさん *Daddy Long-legs*』(1912) の著者として有名な女性作家 ジーン・ウェブスター (Jean Webster, 1876-1916) で、ヴァッサー大学在学中に創作を始めて、作家デビューしたときには大祖父の大作家から激励の手紙をもらったりもしていて、文体的にも American vernacular と呼ばれる口語体のスタイルの作品を書いた。が、文学史的には、大衆作家——児童文学ないし少女小説ないしユーモア小説作家——として、まともにとりあげられることはなかったと言ってよい。大衆作家ないし少女小説作家として周縁に位置づけられた女性作家ウェブスターの小説を中心に据え、アメリカ文学の特性や英米文学一般について、あるいは小説論について語ることで、複層的に視野を広げてもらいたい。

【到達目標】

- ① 作品の構造を語れる。
- ② 書簡体と視点について語れる。
- ③ 文体について語れる。
- ④ テキストを丁寧に読む楽しみを味わえる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

特殊講義として、文学史では語れない突っ込んだ議論を、いくつかのテーマに即してウェブスターの『あしながおじさん』を中心にしておこなっていく。作品テキストを丁寧に読んでもらうことが議論の前提となる。教師が注釈プリント（ハンドアウト）をこしらえるので、それと作品テキストを読むことができるので必要。

歴史的背景的文化的知識についても語る。

授業で提出されたりアクションペーパーなどにおけるコメント・質問へは、そのうちのいくつかを取り上げ、全体に対してフィードバックをおこない、議論に活かします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション——古い映画を観る	プロローグ／テキストと参考文献について／邦題『孤児の生涯』(1919) サイレント映画時代のスター Mary Pickford (1892-1979) 主演、Marshall Neilan (1891-1958) 監督、85 分。
第 2 回	"Blue Wednesday" を読む——枠構造	ジャンル問題——少女小説と児童文学と『滑稽文学』(ユーモア小説)、そしてフェミニズム小説——東健而と遠藤寿子、そしてエレイン・ショーウォルター
第 3 回	1 年生の手紙	文体問題—— American vernacular と Mark Twain / アメリカの大学について／北部と南部
第 4 回	書簡体	書簡体小説の伝統／一人称の語りと物語の時間
第 5 回	2 年生の手紙	小説の時間／カレンダー／建物のシンボリズム
第 6 回	空間のシンボリズム	devil down-heads と地獄のイメージ
第 7 回	ムカデ（百足）と詩脚	英詩の構造／電報
第 8 回	3 年生の手紙	冒険と小説
第 9 回	引用の織物	英文科の授業と読書
第 10 回	教養小説——芸術家小説	ピカレスク小説からの変容／小説のジャンル
第 11 回	4 年生の手紙	本について
第 12 回	恋愛小説とフェミニズム	あらためてジャンル問題を考える
第 13 回	社会問題	social reform への関心／フェビアン協会／『続あしながおじさん』における優生思想への批判
第 14 回	まとめ	エピローグ—— belong to の意味

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

この授業の標準的な予習・復習時間はそれぞれ 2 時間です。作品を積極的に読んでいただきたい。できるだけ（翻訳でもよいので）作品を読む、そのことに予習 2 時間復習 2 時間割けるなら、授業はそれなりに注意深く聞く（聴く）だけでよい（というくらいです）。

【テキスト（教科書）】

Elaine Showalter 編の Penguin Classics 版 *Daddy-Long-Legs and Dear Enemy* をプリントもしくは電子媒体で配布する。古い訳（たとえば『世界滑稽名作集』[1929] 所収の東健而の訳——その 10 年前の 1919 年、サイレント映画の『孤児の生涯』の出た年、の、たぶん暮れに出版された本邦初訳『滑稽小説 蚊とんぼスミス』のリアプリント）も Hoppii の教材に入れる。

【参考書】

初回に参考書などのリストを提示する。折に触れて研究書・論文などを示す。教室での配布資料は、作品テキストとともに、そして配布できない資料とともに、Hoppii の「教材」になるべく蓄積するようにしたい。

【成績評価の方法と基準】

期末試験（70 パーセント）と授業への積極的参加度——抜き打ち小テスト、アンケート、リアクションペーパーなど（30 パーセント）。

【学生の意見等からの気づき】

学生の議論への参加を考えてみようとは思いますが、きほん熱く語るしかないかな、と考えています。

【学生が準備すべき機器他】

オンラインでおこなう場合があるので、Zoom のための機器とインターネット接続環境を準備していただきたい。

【Outline (in English)】

[Objective] This lecture tries to consider several literary topics through reading closely Jean Webster's novel *Daddy-Long-Legs* (1912). Students will learn and think about the American-vernacular style; the narrative point of view; the "time" in narrative; literary allusions and quotations; symbolism of space; genres of bildungsroman and epistolary novel; English versification, and several kinds of "background" knowledge. [Learning activities outside of classroom:] Before/after each class meeting, students are expected to spend 2 hours respectively to understand the course content.

[Grading Criteria/Policies:] Overall grade in the class will be decided based on the following: in-class contribution [positive participation] (30%), final examination (70%).

LIT200BD

英米文学特殊講義Ⅱ

宮川 雅

授業コード：A2966 | 曜日・時限：火 3/Tue.3

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2～4 年

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

≪ゴシックから推理小説・SFへ——ポーを中核にしてミステリー属の文学を考える≫

おもてだった営みとしては、「近代 探偵小説の父」と呼ばれる Edgar Allan Poe (1809-49) の推理小説を読む。探偵オーギュスト・デュパンを主人公とした「モルグ街の殺人事件」「盗まれた手紙」「マリー・ロジェの謎」の3篇のほか、「お前が犯人だ」、暗号解読の物語「黄金虫」（以上5篇が通常ポーの推理小説とされる）、さらに、探偵小説のメカニズムを考えながら「群衆の人」と「アッシャー家の没落」を、マボット版全集を使用して読む。

それと並行して、ドロシー・セイヤーズやハワード・ヘイクラフトやラッセル・ナイなどの古典的な探偵小説論を読んで歴史的・構造的な視野を得る。18世紀にイギリスでおこったゴシック小説がポーの時代（まで）にどのように変容しえたのかを考え、さらに20世紀のたとえばトマス・ピンチオンやポール・オースター、さらに（突飛を承知の上で）フラナリー・オコナーといったSF的な探偵小説のないゴシック的作家に、「ミステリー」の感覚はどのようにつながっているのかを考えてみたい。それは、ボルヘスの短篇「アル・ムターシムへの接近」の言葉を使うなら「探偵小説のメカニズム」と「神秘主義の底流」がどのようにアメリカ文学の中にあるかを考えることになるのではないか、と思う。また、「神秘」「秘義」が「秘密」「謎」に、ちょうど magic が魔術から奇術・手品に格下げない人間化されたように、意義が変わるのが近代だとすれば、そのような時代における mystery の意味を、アメリカ文学との関係で考えることになるのではないかとも思っている。

【到達目標】

- ①ゴシック・ロマンスの主題や方法についての概観的知識を得ること。
- ②ポーの "tales of ratiocination" を概念的に理解すること。
- ③ゴシックの変容について歴史的理解を得ること。
- ④ポーを読む楽しみを味わうこと。
- ⑤「ミステリー」の幅を考えられるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

特殊講義として、文学史では語れない突っ込んだ議論を、いくつかのテーマに即してポーの探偵小説を中心しつつもゴシック小説をあわせて読むことで、おこなっていく。

歴史的背景的文化的知識についても語る。

授業で提出されたリアクションペーパーなどにおけるコメント・質問へは、そのうちのいくつかを取り上げ、全体に対してフィードバックをおこない、議論に活かします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション——ボルヘス「アル・ムターシムへの接近」	プロローグ／テキストと参考文献について
第2回	短篇作家の出発	"Metzengerstein"; "Berenice" ほか初期短篇／ゴシックの流行とポーの選択
第3回	解かれるミステリーと解かれないミステリー——「アッシャー家の没落 The Fall of the House of Usher」(1839) とテキストの重層性	デュパン以前の代表作を読み、ゴシックの超自然と推理小説のメカニズムについて考える／この超自然小説と見える作品を推理小説的に読む批評を考える
第4回	「群衆の人 The Man of the Crowd」(1840)	ワルター・ベンヤミンによって探偵小説の原型として有名になったこの都市小説をポール・オースターと比べてみる
第5回	「モルグ街の殺人 The Murders in the Rue Morgue」(1841)	この最初の探偵小説の出版100年を記念して書かれたハワード・ヘイクラフトの『娯楽のための殺人』(1941)を紹介する。
第6回	「モルグ街の殺人」(1841) その2	テキストの精読／詩人批評家リチャード・ウィルバーのポー論を紹介する。

第7回	「マリー・ロジェの謎 The Mystery of Marie Roget」(1842)	現実のニューヨークの事件に基づいて作家ポーが推理を展開し、通好みかもしれない「マリー・ロジェの謎」——タイトルに mystery が入るが超自然について否定的な言葉がある——を読む。
第8回	「盗まれた手紙 The Purloined Letter」(1844)	デュパンもの第3作「盗まれた手紙」のテキストの精読／doubleの問題を考える。
第9回	「黄金虫 The Gold-Bug」(1843)	テキストの精読／暗号解読とエジプト学・神聖文字／フランスの批評家ジャン・リカルドゥーによる暗号解読的読み
第10回	「おまえが犯人だ Thou Art the Man」／ラッセル・ナイを読む	「盗まれた手紙」と同じ1844年の11月に発表された「お前が犯人だ」をさらっと読む／アメリカ大衆文化論の古典 Russell Nye, <i>The Unembarrassed Muse</i> のなかの探偵小説の章を読む。
第11回	ポーと科学と擬似科学	ゴシック・探偵小説・SF／ロマン主義と超自然
第12回	ドロシー・セイヤーズのアンソロジー序文／20世紀の「思想」状況	3冊の探偵小説・恐怖小説アンソロジーを編んだイギリスの学者作家 Dorothy Sayers の序文を読む。3つの序文の原文を配る。
第13回	アメリカ現代作家とポー	トマス・ピンチオン『競売品49の叫び』ほか
第14回	まとめ——「ミステリー」をあらためて考える	エピソード——『秘義の発生』（カーモド）、『秘義と習俗』（オコナー）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

この授業の標準的な予習・復習時間はそれぞれ2時間です。作品を積極的に読んでいただきたい。できるだけ（翻訳でもよいので）作品を読む、そのことに予習2時間割けるなら、授業はそれなりに注意深く聞く（聴く）だけでよい（というくらいです）。

【テキスト（教科書）】

Thomas Olive Mabbott 編の *Collected Works of Edgar Allan Poe* をプリントもしくは電子媒体で配布する。翻訳も配れるだけ配る。

【参考書】

初回にポー作品の注釈書などのリストを提示する。折に触れて参考書（研究書・論文など）を示す。教室での配布資料は、作品テキストとともに、また配布できない資料とともに Hoppii の「教材」になるべく蓄積するようにしたい。

【成績評価の方法と基準】

期末ペーパー（70パーセント）と授業への積極的参加度——抜き打ち小テスト、アンケート、リアクションペーパーなど（30パーセント）。

【学生の意見等からの気づき】

学生の議論への参加を考えてみようとは思いますが、きほん熱く語るしかないかな、と考えています。

【学生が準備すべき機器他】

オンラインでおこなう場合があるので、Zoomのための機器とインターネット接続環境を準備していただきたい。

【Outline (in English)】

Students learn to carry to a higher level the skillful analysis of language and text, by (participating in) close reading of Edgar Allan Poe's gothic fiction and "tales of ratiocination." Students also obtain knowledge about literary gothicism and about its developments.

[Objective] The principal objective of this class is to obtain a historical perspective of "mystery" in American literature, mainly through the consideration of tales by Edgar Allan Poe, who, while a gothic story-teller, originated the genres of science fiction and detective fiction.

[Learning activities outside of classroom:] Before/after each class meeting, students are expected to spend 2 hours respectively to understand the course content.

[Grading Criteria/Policies:] Overall grade in the class will be decided based on the following: in-class contribution [positive participation] (30%), final report [paper] (70%).

LIT200BD

英米文学特殊講義Ⅲ

吉田 裕

授業コード：A2967 | 曜日・時限：月 5/Mon.5
春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：2～4 年

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、カリブ文学を通史的に学ぶことで、代表的な文学作品やその背景についての知識を体系的に身につけることを目指します。英語で作品を読み解く基礎を身につけた上で、作品を批評的に読解する訓練も行います。音楽や映像も考察の対象とします。

本講義のもう一つの主眼は、カリブ文学を読むことを通じて、文学作品と現実の歴史や政治を行き来しながら考える習慣を身につけることです。特に、春学期の英米文学特殊講義Ⅲでは、カリブ海地域と近代世界の形成について、コロンブスの到来から 20 世紀前半までの歴史や政治を扱いつつ、関連する文学作品を紹介して、文学史の概要を学びます。カリブ文学のみならず、植民地以後の歴史が刻まれた作品には、フェミニズム、移動、人種、階級などの複合的な関係性（最近の言葉では「インターセクショナル」な関係性）を読み取ることができます。

文学作品は現実と関係がないと思われがちですが、決してそんなことはありません。むしろ、現実との葛藤のなかで書かれてきたものも数多くあります。その中で、皆さんの葛藤を見出してください。

【到達目標】

1. カリブ文学とは何かについて、とりわけコロンブスによるカリブ海地域の発見から 20 世紀前半までの歴史的・文化的な概要を身につけること。
2. カリブ文学がどのような背景から生まれて、どのような課題に直面しているのかを、自分の言葉で説明できるようになること。
3. 英語で書かれた文学作品を分析し、解釈することができるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

授業の最後に毎回リアクションペーパーを提出すること。授業の初めにリアクションペーパーの一部を紹介し、教員が質疑などに答える。

授業では既存の翻訳と英語での原著を交えて扱う。英語圏カリブ文学は翻訳が少ないので、どうしても原文と付き合うことが多いが、作品の未読者にも理解可能なように、こちらで作品の要約やキーワードの説明をするので心配はいらない。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	カリブ文学の定義について学ぶ。 C.L.R. James, "From Toussaint L'Ouverture to Fidel Castro" (1963)
第 2 回	Vera Bell, "Ancestor on the Auction Block" (1948) Orland Patterson, <i>The Sociology of Slavery</i> (1967)	奴隷制度について学ぶ。砂糖の生産と労働の実態を知る。
第 3 回	C.L.R. James, <i>The Black Jacobins</i> (1938)	ハイチ革命の経緯と世界史的意義について学ぶ。ハイチ革命を演劇として描いた作品を比較する。

第 4 回	Mary Prince, <i>The History of Mary Prince</i> (1831)	奴隷解放に資本主義の発展が果たした役割、ジェンダーのちがいがいによる経験の差異について学ぶ。
第 5 回	Jean Rhys, <i>Wide Sargasso Sea</i> (1966)	イギリスの家父長制度と不在地主制度がカリブ海地域の植民地統治に与えた影響について学ぶ。
第 6 回	Vic Reid, <i>New Day</i> (1949)	モラント湾の反乱 (1865) がカリブ海地域の歴史、イギリスの政治に与えたインパクトについて学ぶ。
第 7 回	Edgar Mittelholzer, <i>Corentyne Thunder</i> (1941) <i>Redemption Song</i> , BBC ドキュメンタリー	インド及び中国からの移民を中心に、年季奉公制度の世界史的な意義について学ぶ。
第 8 回	Jamaica Kincaid, <i>Annie John</i> (1985) Austin Clarke, <i>Growing Up Stupid Under Union Jack</i> (1980)	植民地教育に英文学が果たした役割について学ぶ。帝国統治の言説と人種差別との関係について学ぶ。
第 9 回	Marcus Garvey, <i>Speeches</i> , Eric Walrond, <i>Tropic Death</i> (1926)	合衆国やパナマへの移住経験と人種意識の関係について学ぶ。
第 10 回	Claude McKay, <i>Una Marson</i> , Louise Bennet	故郷を離れることと民衆語で詩を書くことの関係について学ぶ。
第 11 回	C.L.R. James, "Victory" (1929) Alfred Mendes, <i>Black Fauns</i> (1935)	バラック・ヤード・ジャンルと芸術運動について学ぶ。
第 12 回	Geroge Lamming, <i>In the Castle of My Skin</i> (1953) 音楽 Paul Robeson, "Let My People Go"	1930 年代のストライキとその後自治の獲得、物語での自我の揺れとの関連について学ぶ。
第 13 回	Aimé Césaire, <i>Return to My Native Land</i> (1956), Lorna Goodison, "I am Becoming My Mother" (1986)	ネグリチュード運動について学ぶ。「故郷」の発見と「母国」イメージの関係について学ぶ。
第 14 回	まとめ	講義の内容をまとめる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習・復習時間はそれぞれ 2 時間ずつとする。
予習は、あらかじめこちらで指定及び配布した作品からの引用箇所について、分からない単語や表現を可能な限り辞書で調べてくること。分からない表現や気になった箇所についてメモをしてくること (2 時間)。復習は、授業で紹介した関連文献や引用について、積極的に読むこと。授業中に説明した内容で分からない部分について、質問を考えてくること (2 時間)。

【テキスト（教科書）】

テキストは購入する必要はない。授業の資料はこちらで作成する。必要な場合は、授業支援システムにて配布する。

【参考書】

川北稔『砂糖の歴史』岩波ジュニア新書、1996 年。
エリック・ウィリアムズ『資本主義と奴隷制』ちくま学芸文庫、中山毅訳、2020 年。
エリック・ウィリアムズ『コロンブスからカストロまで——カリブ海域史、1492-1969(I) (II)』岩波現代文庫、川北稔訳、2014 年。
その他、詳しくは授業中に関連文献を紹介する。

【成績評価の方法と基準】

毎回の授業のリアクションペーパー (30%)
期末試験 (70%)

【学生の意見等からの気づき】

本年度新規科目につきアンケートを実施していません

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

この授業は基本的に対面授業だが、感染状況によっては受講生との相談の上、オンライン授業に切り替えることがある。

なお、この授業は単独でも受講可能であるが、秋学期の「英米文学特殊講義 IV」と内容が連動しているため、あわせて受講することが望ましい。

【Outline (in English)】

【Course outline】

This lecture deals with the history of Caribbean Literature. Students will learn famous works and their backgrounds. In reading a series of Caribbean fiction and poems, we learn the very basics of how to read fiction written in English language and, furthermore, a critical attitude to discuss and analyze fiction.

【Learning Objectives】

The objective of this lecture is to get used to thinking about literary works in contrast to history and politics, and to learn complex phenomena involving feminism, migration, race, class—intersectionality in today's nomenclature—through reading fiction.

【Learning activities outside of classroom】

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

【Grading Criteria /Policy】

Your overall grade in the class will be decided based on the following.

Term-end exam: 70%

In class contribution and reaction papers: 30%

LIT200BD

英米文学特殊講義Ⅳ

吉田 裕

授業コード：A2968 | 曜日・時限：月 5/Mon.5

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2～4 年

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、カリブ文学を文学史として学ぶことで、代表的な文学作品やその背景についての知識を学びます。後期では、20 世紀半ばから、2010 年代までに発表されたカリブ文学について扱います。音楽や映画も織り交ぜて考察の対象とします。英語で作品を読み解く基礎を身につけた上で、作品を批評的に読解する訓練も行います。

本講義のもう一つの主眼は、カリブ文学を読むことを通じて、文学作品と現実の歴史や政治を行き来しながら考える習慣を身につけることです。特に、秋学期の英米文学特殊講義Ⅳでは、カリブ海地域が植民地支配からの自治を獲得し、国として独立してゆく過程から、二十世紀後半に至る独立後の困難、合衆国のブラック・パワーの影響、レゲエやカリブソなどの音楽などさまざまなトピックを扱います。関連する作品を紹介して、文学史の概要を学びます。

カリブ文学のみならず、植民地以後の歴史が刻まれた作品には、フェミニズム、移動、人種、階級などの複合的な関係性（最近の言葉では「インターセクショナル」な関係性）を読み取ることができ

ます。文学作品は現実と関係がないと思われがちですが、決してそんなことはありません。むしろ、現実との葛藤のなかで書かれてきたものも数多くあります。その中で、皆さんの葛藤を見出してください。

【到達目標】

1. カリブ文学とは何かについて自分の言葉で説明できること。とりわけ 20 世紀前半から 2000 年代に至る歴史的・文化的な概要を身につけること。
2. カリブ文学の作品を批評的な観点から理解すること。
3. 英語で書かれた文学作品を分析し、解釈することができるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

授業の最後に毎回リアクションペーパーを提出すること。授業の初めにリアクションペーパーの一部を紹介し、教員が質疑などに答える。

授業では既存の翻訳と英語での原著を交えて扱う。英語圏カリブ文学は翻訳が少ないので、どうしても原文と付き合うことが多くなるが、作品の未読者にも理解可能なように、こちらで作品の要約やキーワードの説明をするので心配はいらない。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	カリブ文学における歴史をめぐる
	Derek Walcott, “The Muse of History” (1974)	問いについて考察する。
第 2 回	V.S. Naipaul, <i>Miguel Street</i> (1959)	カリブソという音楽ジャンルの社会的背景について学ぶ。
	Mighty Sparrow, “Jean and Dinah” (1956)	

第 3 回	Ralph de Boissière, <i>Rum and Coca Cola</i> (1954) Robert Antoni, <i>My Grandmother’s Erotic Folktales</i> (2000)	米軍基地の建設により生活と社会、セクシュアリティがどのように変化したかを学ぶ。
第 4 回	Martin Carter, “I am No Soldier”, “I Clench My Fist” (1954) Edwidge Danticat, <i>Krik? Krak!</i> (1995) 映画 <i>The Man by the Shore</i> (1993)	冷戦期の「熱戦」が文学にどのように描かれているかを学ぶ。
第 5 回	Samuel Selvon, <i>The Lonely Londoners</i> (1956) 音楽 Lord Kitchner, “London is the Place for Me” (1948) 映画『パディントン』 (2015)	なぜロンドンがカリブ文学誕生の地と言われているのかを学ぶ。
第 6 回	Orland Patterson, <i>The Children of Sisyphus</i> (1968)	民間信仰と宗教を描くことがなぜ重要なのかを学ぶ。
第 7 回	Roger Mais, <i>Brother Man</i> (1954) Erna Brodber, <i>Jane and Louisa Soon Will Come Home</i> (1980)	ラストファリ運動とナショナル・イメージの関係について学ぶ。
第 8 回	Merle Hodge, <i>Crick Crack, Monkey</i> (1970) Zee Edgel, <i>Beka Lamb</i> (1982)	女性の成長と自立を描くことがナショナル・イメージの変容と結びついていることを学ぶ。
第 9 回	音楽 Bob Marley, “Redemption Song” (1980) Mutabarka, “dis poem” (1992) Jean Binta Breeze, “Can a Dub Poet be a Woman?” (1990) 映画『ハーダー・ゼイ・カム』 (1972)	レゲエやダブなどの音楽と詩の世界が、日常とその変革と関連していることを学ぶ。
第 10 回	Beryl Gilroy, <i>Black Teacher</i> (1976)	移住の地（イギリス）での生活と教育がいかに描かれているかを学ぶ。
第 11 回	Earl Lovelace, <i>The Dragon Can’t Dance</i> (1979) Jamaica Kincaid, <i>Small Place</i> (1988)	ブラックパワーの影響、独立後の不満がいかに作品に描かれているかを学ぶ。
第 12 回	Merle Collins, <i>Angel</i> (1987) Dionne Brand, <i>Chronicles of the Hostile Sun</i> (1984)	グレナダ革命及びグレナダ侵攻の経緯、現代的意義について学ぶ。
第 13 回	Marlene Noubese Philip, <i>Harriet’s Daughter</i> (1988) David Chariandy, <i>Brother</i> (2017)	カリブ文学第二の故郷と言われるカナダのトロントが作品にいか
第 14 回	まとめ	講義の内容についてまとめる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習・復習時間はそれぞれ2時間ずつとする。

予習は、あらかじめこちらで指定及び配布した作品からの引用箇所について、分からない単語や表現を可能な限り辞書で調べてくること。分からない表現や気になった箇所についてメモをしてくること（2時間）。復習は、授業で紹介した関連文献や引用について、積極的に読むこと。それでも分からない部分について、質問を考えてくること（2時間）。

【テキスト（教科書）】

授業の資料はこちらで作成する。必要な場合は、授業支援システムにて配布する。

【参考書】

川北稔『砂糖の歴史』岩波ジュニア新書、1996年。
エリック・ウィリアムズ『資本主義と奴隷制』ちくま学芸文庫、中山毅訳、2020年。
エリック・ウィリアムズ『コロンブスからカストロまで——カリブ海域史、1492-1969(I)(II)』岩波現代文庫、川北稔訳、2014年。
その他、詳しくは授業中に関連文献を紹介する。

【成績評価の方法と基準】

毎回の授業のリアクションペーパー（30%）
期末試験（70%）

【学生の意見等からの気づき】

本年度新規科目につきアンケートを実施していません。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

この授業は基本的に対面授業だが、感染状況によっては受講生との相談の上、オンライン授業に切り替えることがある。

なお、この授業は単独でも受講可能であるが、春学期の「英米文学特殊講義 III」と内容が連動しているため、あわせて受講することが望ましい。

【Outline (in English)】

【Course outline】

This lecture deals with the history of Caribbean Literature. Students will learn famous works and their backgrounds. In reading a series of Caribbean fiction and poems, we learn the very basics of how to read fiction written in English language and, furthermore, a critical attitude to discuss and analyze fiction.

【Learning Objectives】

The objective of this lecture is to get used to thinking about literary works in contrast to history and politics, and to learn complex phenomena involving feminism, migration, race, class—intersectionality in today's nomenclature—through reading fiction.

【Learning activities outside of classroom】

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be four hours for a class.

【Grading Criteria /Policy】

Your overall grade in the class will be decided based on the following.

Term-end exam 70%

In class contribution and reaction papers: 30%

LIT200BD

文学研究方法論 A

小島 尚人

授業コード：A2969 | 曜日・時限：火 4/Tue.4
 春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：1～4 年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この科目は英米文学・文化研究への入門授業である。

- ①文学を学ぶことは何がどうおもしろいのか
 - ②文学を学ぶことは将来何の役に立つのか
 - ③文学を学ぶことは英語力の向上にどう繋がるのか
 - ④文学を研究する方法にはどのようなものがあり、具体的にどのようなプロセスで進めていくものなのか
- という 4 つの問いを念頭に置いて、文学研究の意義と方法を、解釈の実践を通じて体験的に学ぶ。
- 題材は、小説と映画を中心に、演劇、漫画、テレビアニメ、グラフィック・ノベル、音楽、などできるだけさまざまなものを用いる。英語に触れる機会を増やすため、また教員の専門分野の都合上、アメリカ文学・文化に関わる作品を主に扱う。

【到達目標】

- ①「授業の概要と目的」に掲げた 4 つの問いに対する回答を、実感とともに獲得する。
- ②能動的な読書や作品鑑賞（とそれを通じた英語学習）のための意欲と技法と知識を得る。
- ③いくつかの批評理論の概要について説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

毎回、文学研究の基本概念、方法論、批評理論についてパワーポイントを用いて講義するかたちで授業を進めていく。題材として扱う作品は、授業内で鑑賞することもあれば、事前に配布して宿題として読んでくることを求める場合もある。ほぼ毎週ワークシートが配布され、そこで出される問いへの自分の意見や読み方を記述するかたちで、講義へのレスポンスや作品解釈を行ってもらう。翌週の授業で適宜教員からのフィードバックがなされる。そのような解釈の実践の積み重ねと双方向的な議論を通じて、文学研究のおもしろさや意義を能動的に把握する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	英米文学研究にまつわる 4 つの問い
第 2 回	「メディアを読む」こと	形式と内容、その連関 「メディアはメッセージである」とは
第 3 回	作品解釈と歴史的コンテクスト	ミッキーはなぜ口笛を吹くのか
第 4 回	解釈は推理で（も）ある①	「モルグ街の殺人」における犯人特定のプロセス
第 5 回	解釈は推理で（も）ある②	「モルグ街の殺人」のさまざまな解釈の実例
第 6 回	はじめてのナラトロジー	物語の組み立てを知る 『ピーナッツ』の主人公は誰か
第 7 回	「語られたもの」のナラトロジー	物語の組み立てを知る 順序、提示方法、速度
第 8 回	「語るもの」のナラトロジー	語れるものと語れないもの 人称、視点人物、焦点化
第 9 回	ナラトロジー応用編	「信頼できない語り手」とは何か
第 10 回	作品鑑賞と解釈の実践：『ピノキオ』①	映像の形式・視点・描写とその効果
第 11 回	作品鑑賞と解釈の実践：『ピノキオ』②	感想からレポートへ：5 つのステップ
第 12 回	作品鑑賞と解釈の実践：『裏窓』①	映像の形式・視点・描写とその効果
第 13 回	作品鑑賞と解釈の実践：『裏窓』②	感想からレポートへ：5 つのステップ
第 14 回	まとめ：文学・文化研究のススメ	さまざまな面白さと役立て方

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ①フィードバックシート（受講者の考察と教員のコメントをまとめたもの）を授業後に改めて読み、自分の考えを深めたり、友人と話し合ったりする。（1 時間）
- ②授業で学んだ内容を、これまでに自分が読んだ小説や漫画、観た映画やアニメとどのように関連づけることができるかを考えてみる。友人と話し合う。（1 時間）

③授業で学んだ作家の他の作品や、教員・受講生が紹介する参考文献や映画に積極的に触れ、自分の興味の幅を広げる。（2 時間）

【テキスト（教科書）】

担当教員が作成した印刷物を毎回の授業時に配布する。

【参考書】

テリー・イーグルトン『文学とは何か（上・下）』岩波文庫、2014 年。
 J. ヒリス・ミラー『文学の読み方』岩波書店、2008 年。
 林文代（編）『英米小説の読み方・楽しみ方』岩波書店、2009 年。
 丹治愛・山田広昭（編）『文学批評への招待』放送大学教育振興会、2018 年。
 大橋洋一（編）『現代批評理論のすべて』新書館、2006 年。
 筒井康隆『文学部唯野教授』岩波現代文庫、2000 年。
 ほか、授業内で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（リアクションペーパーおよびワークシートの記述課題における授業の理解度と積極的参加の度合い）：50 %
 期末試験（授業内容を踏まえた論述問題が中心）：50 %
 ※リアクションペーパーおよびワークシートは、出席者が当該回の授業終了時にのみ提出できる（事後の提出は理由の如何にかかわらず認められない）。

【学生の意見等からの気づき】

受講者の考察、感想、意見、質問を出来る限り紹介してコメントし、授業内容に組み込んで行きたいと思っています。また、記述主体のワークシートを用いた授業が考える力や文章を書く力の向上に役立ったという意見をいただいたので、引き続き実施するつもりです。

【その他の重要事項】

この授業は原則として「文学研究方法論 B」と連続履修してください。

【Outline (in English)】

This course is designed to be an introduction to literary studies and literary criticism. Through the survey of various approaches to literary and visual texts, students will get a better sense of cultural and social relevance of literary studies in the world we live in.

Classes consist of lectures and in-class writing assignments (the worksheets). Students' writings will be picked and shared to the class next week through the "feedback sheets" provided by the instructor.

Grades will be determined based on the following:

- 1) Participation and in-class assignments (50%)
- 2) Final exam (50%)

LIT200BD

文学研究方法論B

小島 尚人

授業コード：A2970 | 曜日・時限：火 4/Tue.4

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：1～4 年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この科目は英米文学・文化研究への入門授業である。

- ①文学を学ぶことは何がどうおもしろいのか
 - ②文学を学ぶことは将来何の役に立つのか
 - ③文学を学ぶことは英語力の向上にどう繋がるのか
 - ④文学を研究する方法にはどのようなものがあり、具体的にどのようなプロセスで進めていくものなのか
- という4つの問いを念頭に置いて、文学研究の意義と方法を、解釈の実践を通じて体験的に学ぶ。

題材は、小説と映画を中心に、演劇、漫画、テレビアニメ、グラフィック・ノベル、音楽、などできるだけさまざまなものを用いる。英語に触れる機会を増やすため、また教員の専門分野の都合上、アメリカ文学・文化に関わる作品を主に扱う。

【到達目標】

- ①「授業の概要と目的」に掲げた4つの問いに対する回答を、実感とともに獲得する。
- ②能動的な読書や作品鑑賞（とそれを通じた英語学習）のための意欲と技法と知識を得る。
- ③いくつかの批評理論の概要について説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

毎回、文学研究の基本概念、方法論、批評理論についてパワーポイントを用いて講義するかたちで授業を進めていく。題材として扱う作品は、授業内で鑑賞することもあれば、事前に配布して宿題として読んでくることを求める場合もある。ほぼ毎週ワークシートが配布され、そこで出される問いへの自分の意見や読み方を記述するかたちで、講義へのレスポンスや作品解釈を行ってもらう。翌週の授業で適宜教員からのフィードバックがなされる。そのような解釈の実践の積み重ねと双方向的な議論を通じて、文学研究のおもしろさや意義を能動的に把握する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	批評理論とは何か、何の役に立つのか
第2回	心理と無意識に着目する 精神分析批評①	理論の概要と実例を知る ハムレットはなぜ復讐を引き延ばすのか
第3回	心理と無意識に着目する 精神分析批評②	ミッキーの無意識をさぐる
第4回	性とジェンダーに着目する フェミニズム批評とクイア批評①	理論の概要と実例を知る ベクテル・テストを使いこなす
第5回	性とジェンダーに着目する フェミニズム批評とクイア批評②	エルサの物語をどう読むか プルートのジェンダー・アイデンティティ
第6回	作品鑑賞と解釈の実践①	「気づきの道具」としての批評理論
第7回	作品鑑賞と解釈の実践②	フィードバックシートを用いてレポートに繋げる
第8回	異文化・異民族の描かれ方に着目する ポストコロニアル批評①	理論の概要と実例を知る オリエンタリズムとは
第9回	異文化・異民族の描かれ方に着目する ポストコロニアル批評②	『ロスト・イン・トランスレーション』における日本人と日本文化
第10回	社会的・階級の意味に着目する マルクス主義批評①	理論の概要と実例を知る クラリッサの見えないタクシー
第11回	社会的・階級の意味に着目する マルクス主義批評②	『フランケンシュタイン』の怪物とは何か
第12回	作品鑑賞と解釈の実践③	「気づきの道具」としての批評理論
第13回	作品鑑賞と解釈の実践④	フィードバックシートを用いてレポートに繋げる
第14回	まとめ：文学・文化研究のススメ、ふたたび	他者を読み、自分を読みかえる経験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ①フィードバックシート（受講者の考察と教員のコメントをまとめたもの）を授業後に改めて読み、自分の考えを深めたり、友人と話し合ったりする。（1時間）
- ②授業で学んだ内容を、これまでに自分が読んだ小説や漫画、観た映画やアニメとどのように関連づけることができるかを考えてみる。友人と話し合う。（1時間）
- ③授業で学んだ作家の他の作品や、教員・受講生が紹介する参考文献や映画に積極的に触れ、自分の興味の幅を広げる。（2時間）

【テキスト（教科書）】

担当教員が作成した印刷物を毎回の授業時に配布する。

【参考書】

テリール・イーグルトン『文学とは何か（上・下）』岩波文庫、2014年。
 J. ヒリス・ミラー『文学の読み方』岩波書店、2008年。
 林文代（編）『英米小説の読み方・楽しみ方』岩波書店、2009年。
 丹治愛・山田広昭（編）『文学批評への招待』放送大学教育振興会、2018年。
 大橋洋一（編）『現代批評理論のすべて』新書館、2006年。
 筒井康隆『文学部唯野教授』岩波現代文庫、2000年。
 ほか、授業内で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（リアクションペーパーおよびワークシートの記述課題における授業の理解度と積極的参加の度合い）：50%
 期末レポート（授業で学んだアプローチを応用して課題作品を分析・解釈）：50%
 ※リアクションペーパーおよびワークシートは、出席者が当該回の授業終了時のみ提出できる（事後の提出は理由の如何にかかわらず認められない）。

【学生の意見等からの気づき】

受講者の考察、感想、意見、質問を出来る限り紹介してコメントし、授業内容に組み込んで行きたいと思っています。また、記述主体のワークシートを用いた授業が考える力や文章を書く力の向上に役立ったという意見をいただいたので、引き続き実施するつもりです。

【その他の重要事項】

この授業は原則として「文学研究方法論A」と連続履修してください。

【Outline (in English)】

This course is designed to be an introduction to literary studies and literary criticism. Through the survey of various approaches to literary and visual texts, students will get a better sense of cultural and social relevance of literary studies in the world we live in.

Classes consist of lectures and in-class writing assignments (the worksheets). Students' writings will be picked and shared to the class next week through the "feedback sheets" provided by the instructor.

Grades will be determined based on the following:

- 1) Participation and in-class assignments (50%)
- 2) Final paper (50%)

LIN200BD

英語の文法力 I

椎名 美智

授業コード：A2977 | 曜日・時限：月 3/Mon.3
 春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：2～4 年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

大学生に必要な英語力の基礎となるのが、英文法の基礎知識と応用力です。本授業は、文学作品を使って、高校までの英文法の知識を復習しつつ、これまで学んできた事柄を項目横断的に総括することによって、実際の英語でのコミュニケーション力、プレゼンテーション力をアップさせることを目的としています。

【到達目標】

英語を話すときに必要な構文やフレーズが、実際のコミュニケーションで自然に使えるようになります。役にたつ英語の構文を理解し、必要なフレーズを暗記し、応用することによって、自然に自分の言いたいことが、適切な構文と語彙を使って言えるように、書けるようになります。また、PPT を使って、英語でプレゼンテーションができるようになる練習もします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

授業形態は、基本的に対面です。変更する場合は、事前に Hoppii で連絡します。

それまでに生協などで、教科書を手に入れておいてください。テキストを中心に、予習、復習、課題など、演習方式で授業を進めていきます。学生によるプレゼンテーションも行います。少人数での演習タイプの授業を行う予定なので、履修希望者が多い場合は、小テストによる選抜を行います。よって、履修希望者は必ず初回の授業に出席してください。毎時間リアクションペーパーを提出してもらいます。授業の初めに、提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げて、全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	研究領域の概説と春学期の授業の進め方や履修条件について説明します。
第 2 回	Chapter 0：英文法の歩き方	学生のプレゼンテーション、文法の考え方について考える。
第 3 回	Chapter 1：主語・動詞・基本文型（1）	学生のプレゼンテーション、主語と動詞について考える。
第 4 回	Chapter 1：主語・動詞・基本文型（2）	学生のプレゼンテーション、基本文型について考える。
第 5 回	Chapter 2: 名詞（1）	学生のプレゼンテーション、可算名詞と不可算名詞について考える。
第 6 回	Chapter 2: 名詞（2）	学生のプレゼンテーション、限定詞・代名詞について考える。
第 7 回	Chapter 3: 形容詞（1）	学生のプレゼンテーション、前からの限定について考える。
第 8 回	Chapter 3: 形容詞（2）	学生のプレゼンテーション、後ろからの限定について考える。
第 9 回	Chapter 4: 副詞（1）	学生のプレゼンテーション、説明の副詞について考える。
第 10 回	Chapter 4: 副詞（2）	学生のプレゼンテーション、限定の副詞について考える。
第 11 回	Chapter 5: 比較（1）	学生のプレゼンテーション、同等レベルの比較について考える。
第 12 回	Chapter 5: 比較（2）	学生のプレゼンテーション、比較級・最上級について考える。
第 13 回	Chapter 6: 否定（1）	学生のプレゼンテーション、否定文の作り方について考える。
第 14 回	Chapter 6: 否定（2）	not について考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

履修する学生は、授業前にテキストの該当部分を予習した上で、授業に出席する必要があります。準備・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

大西泰斗・ポール・マクベイ著『一億人の英文法』（東進ブックス）

【参考書】

久野・高見（共著）『謎解き英文法』シリーズ（くろしお出版）を使います。必要な場合は、項目、内容ごとに参考文献や資料、課題などを配布します。

【成績評価の方法と基準】

学期末レポート 80 %、課題 20 % で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

毎回、授業の後に質疑応答の時間を設けて、理解度をチェックしながら、進めていきます。

【学生が準備すべき機器他】

課題は Hoppii の課題として添付ファイルで提出してもらいます。

【その他の重要事項】

・今後の英語力向上の基礎となるよう、できれば春・秋セメスターと、連続して履修してください。
 ・オフィスアワーは木曜 4 限です。事前に予約メールをください。授業で詳しく説明します。時間がある場合は、授業前後にもコンサルテーションに応じます。

【Outline (in English)】

The purpose of this course is to acquire grammatical competence in English. The course will consist of lecture and discussion. Reading and writing tasks are required.

The goal of this class is to be able to think in English.

Students need to read and review the chapter before and after the class. The grading includes the term paper or term end exam (80%) and presentation (20%).

LIN200BD

英語の文法力Ⅱ

椎名 美智

授業コード：A2978 | 曜日・時限：月 3/Mon.3

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2～4 年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

大学生に必要な英語力を身につけるための基礎となるのが、英文法の基礎知識と応用力です。本授業では、高校までの英文法の知識を復習しつつ、これまで学んできた事柄を項目横断的に総括することによって、実際の英語でのコミュニケーション力をアップさせる勉強をします。

【到達目標】

英語と日本語の違いを知り、その奥に潜む考え方の共通点と相違点を深く考えて、英語の感覚を身につけます。英語の体幹を強化して、社会に出てから、自分で英語的に考えて、英語を使えるようになる力をつけます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

基本的には対面授業の予定ですが、状況によっては、リモートになるかもしれません。事前に Hoppii で連絡します。連絡事項や課題は前日までに Hoppii にアップロードするので、必ず見ながら授業に臨んでください。テキストを中心に、予習、復習、課題など、演習方式で授業を進めていきます。可能ならば、少人数による演習タイプの授業を行う予定です。履修希望者が多い場合は、初回の授業で、小テストによる選抜を行いますので、履修希望者は必ず初回授業に出席してください。毎時間アクションペーパーを提出してもらいます。授業の初めに、提出されたアクションペーパーからいくつか取り上げて、全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	扱う領域の概説と秋学期の授業の進め方や履修条件について説明します。
第 2 回	Chapter 7: 助動詞 (1)	学生の発表、must, may, will について考える。
第 3 回	Chapter 7: 助動詞 (2)	学生の発表、can, shall, should について考える。
第 4 回	Chapter 8: 前置詞	学生の発表、前置詞の位置と機能について考える。
第 5 回	Chapter 9: WH 修飾 (1)	学生の発表、who, which について考える。
第 6 回	Chapter 9: WH 修飾 (2)	学生の発表、where, when、WH を使わない場合について考える。
第 7 回	Chapter 10: 動詞 -ing 形	学生の発表、-ing の位置と機能について考える。
第 8 回	Chapter 11: TO 不定詞	学生の発表、TO 不定詞の位置と機能について考える。
第 9 回	Chapter 12: 過去分詞 (1)	学生の発表、受動文について考える。
第 10 回	Chapter 12: 過去分詞 (2)	学生の発表、過去分詞による修飾について考える。
第 11 回	Chapter 13: 節	学生の発表、節の役割について考える。
第 12 回	Chapter 14: 疑問文 (1)	学生の発表、基本的な疑問文について考える。
第 13 回	Chapter 14: 疑問文 (2)	学生の発表、wh 疑問文について考える。
第 14 回	授業の振り返り	秋semester全体の授業のまとめに加え試験、レポート等、課題に対する講評や解説など

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

履修する学生は、授業前にテキストの該当部分を予習した上で、授業に出席する必要があります。準備・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

大西泰斗・ポール・マクベイ『一億人の英文法』（東進ブックス）

【参考書】

久野・高見（共著）『謎解き英文法』シリーズ（くろしお出版）を使います。必要な場合は、項目、内容ごとに参考文献や資料、課題などを Hoppii にアップロードします。

【成績評価の方法と基準】

学期末試験・レポート 80%、課題・プレゼンテーション 20%で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

毎回、授業の後に質疑応答の時間を設けて、理解度をチェックしながら、進めていきます。

【学生が準備すべき機器他】

課題は HOPPII に添付資料で提出してもらいますので、自分用の PC があると良いと思います。

【その他の重要事項】

・今後の英語力向上の基礎となるよう、できれば春・秋セメスターを続けて履修してください。

・オフィスアワーは木曜 4 限です。前もって予約メールをください。授業で詳しく説明します。時間がある場合は、授業前後にもコンサルテーションに応じます。

【Outline (in English)】

The purpose of this course is to acquire grammatical competence in English. The course will consist of lecture and discussion. Reading and writing tasks are required.

The goal of this class is to be able to think in English.

Students need to read and review the chapter before and after the class.

The grading includes the term paper or term end exam (80%) and presentation (20%).

BSP200BD

メディア・リテラシー I

田中 邦佳

授業コード：A2979 | 曜日・時限：火 4/Tue.4

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2～4 年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

新聞、雑誌、テレビなどのメディアやインターネット上には多種多様なデータがグラフなどの形で可視化され掲載されています。データを目に見る形にする方法には様々な手法があり、読み取りが困難であったり、そのまとも方に何らかの意図が込められている場合もあります。

本授業は、これまでデータ分析にあまり馴染みのない参加者を対象にします。授業では、データを受け取る側として各種のグラフの読み取り方や、読み取りの注意点を学び、データを発信する側として、データの種類によってどのような手法を用いるのが適切か、また、データ化や可視化における注意点を学びます。

授業の参加者各自が何らかのテーマを設定し、データを可視化して誰にもわかりやすいレポートを完成することを最終目的とする。

【到達目標】

- (1) 各種のグラフの読み取りができるようになる。
- (2) 具体的な場合に合ったデータのグラフ化ができるようになる。
- (3) データを客観的に文で報告できるようになる。
- (4) 上記の 3 つの項目を踏まえて、何らかのデータを適切に発信できるように 1 枚のポスターにしてまとめられるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式でメディア上で見られる、各種のデータ・グラフを紹介します。参加者は、それらのデータから読み取れることを考えたり、作図する演習を行い、レポート執筆の準備を行います。データの解釈やまとめ方についてグループディスカッションを行うこともあります。

授業の最終目標のレポートの完成に向け、各自が考えたデータ分析のテーマや可視化の手法について教員からコメントします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	Introduction	授業の進め方の説明
第 2 回	様々なグラフ	グラフの種類の紹介
第 3 回	棒グラフ	棒グラフについて学ぶ
第 4 回	ヒストグラム	ヒストグラム
第 5 回	折れ線グラフ	折れ線グラフ
第 6 回	2つの手法が組み合わされたグラフ	2つの手法が組み合わされたグラフ
第 7 回	散布図	散布図
第 8 回	円グラフ	円グラフ
第 9 回	適しているグラフ適していないグラフ	データのまとめ方に合わせたグラフの選び方
第 10 回	データを表にする	データを表にする
第 11 回	データの数値化	データを数値としてまとめる時の注意点
第 12 回	平均値と中央値	平均値と中央値
第 13 回	標準偏差	標準偏差
第 14 回	ことばで報告する	データを文で説明する場合の注意点

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

参加者は、各種データを読み取って文にまとめたり、数値データをまとめてグラフなどの形に作図し準備しておく必要があります。最終レポートに向け、データ分析の計画を立て、途中経過を報告する必要があります。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

プリントを配布します。

【参考書】

特にありません。

個別の項目に対し、参考になりそうな情報に関しては授業中にお知らせします。

【成績評価の方法と基準】

40%: 期末課題（ポスター）

60%: 授業内外の課題

以下のいずれかに該当する場合は評価の対象としません。

- ・ 授業での課題の未提出が 4 回に達した場合
- ・ 期末の課題が提出されなかった場合

【学生の意見等からの気づき】

実現可能なレポートのテーマの設定や、データの構築、分析に時間を要することが伝わっていないように感じました。その点についてより実感を持って理解できるように促すことができたと思います。

【学生が準備すべき機器他】

課題の提出のために学習支援システムを使用する予定です。

【その他の重要事項】

作図の演習では、データの入力など初歩的な項目から実際のデータ分析においてミスをしてしまいがちなポイントや、困難点になりそうな点を紹介します。

本授業では、卒業論文などのために調査や実験の結果の可視化の具体的な手法を学びたい、今後のためにデータの可視化の手法を学びたいという参加者を対象にします。授業では記述統計の手法を扱いますが、推測統計は扱わないことに留意してください。

※

【Outline (in English)】

Course outline: In the class, (1) as a receiver of data, students will learn how to read various types of graphs and what to pay attention to when reading them. (2) As an analyzer of data, students will learn what methods of visualizations are appropriate for different types of data.

Learning Objectives: At the end of the course, students are expected to do the followings:

- (1) Reading various types of graphs.
- (2) Making graph data according to specific cases.
- (3) Reporting data objectively in writing.
- (4) Summarizing some data in a poster

Learning activities outside of classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.

Grading Criteria /Policy: Final report (poster) 40%, Class Assignment 60%

BSP200BD

メディア・リテラシーⅡ

吉川 純子

授業コード：A2980 | 曜日・時限：木 4/Thu.4

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2～4 年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、今日的なさまざまなトピックについて自分で調べ、何が正しいのか比較検討して選択をする訓練を通して、主体的に情報の取捨選択ができる力、すなわちメディア・リテラシーを身につけます。

【到達目標】

学校で教わったことやマスコミで流される情報を鵜呑みにしている人のことを、ネットの世界では「情報弱者（情弱）」と呼びます。だまされて操られる「カモ」にされかねない「情弱」を脱却し、一つのトピックについて異なる立場や意見があることを調べて理解できるようになり、考えて議論することができるようになり、主体的に情報を取捨選択できる「情報強者（情強）」になることが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は、対面の演習形式で行います。初回の授業で、各トピックについてのリーディングリストを受講者全員に配布します。ただし、それはあくまで考えるきっかけであって、そこに書いてあることを鵜呑みにしてほしいわけではありません。発表担当者はそのトピックについて調べ、わかったことや考えたことを発表します。その際、自分がこれまで知っていたこと、思っていたことと何が違うのかをはっきりさせてください。そして、どのような意見の違いがあるのかを紹介し、自分の考えを述べます。他の受講者は、同じトピックについて自分でも調べて考えてきてください。授業では担当者の発表の後、議論をしますが、結論を出すことが目的ではなく、立場の違いが明確になればよしとします。一人最低一回は発表をしなければなりません。発表後に教員のコメントを述べる形でフィードバックします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
イントロ	「情弱」と「情強」	授業の進め方など
ダクショ ン		
第一回	日本の階級	格差社会の現状
第二回	健康格差	経済と健康のリンク
第三回	日本の人口減少	人口の減少によって何が起るのか
第四回	貧困世代	なぜ今の若者世代は貧困に陥る可能性が高いのか
第五回	過労鬱、過労自殺	現状と対策
第六回	介護保険	介護保険の仕組み
第七回	消費税	消費税の仕組み
第八回	コロナ禍とワクチン	コロナ禍とワクチンをめぐる論争
第九回	食糧問題	食品添加物、農業、遺伝子組み換え食品など
第十回	デジタル・ファシズム	デジタル化と監視社会
第十一回	ショック・ドクトリンと新自由主義	惨事便乗資本主義とは何か？
第十二回	戦後の日米関係と日米安全保障条約	なぜ重要なのか？
第十三回	今期学んだことのまとめ	今期学んだことを振り返り、議論する。レポート提出。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

発表担当者は、担当のトピックについて調べて論点を整理します。他の受講者も、同じトピックについて調べて考えます。本授業の準備学習・復習時間は、各 4 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

初回にリーディングリストを配布します。

【参考書】

初回に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

発表 30%、授業への貢献度 30%、期末レポート 40%

【学生の意見等からの気づき】

「情報強者への一歩を踏み出した」「マスコミの情報を鵜呑みにしてはいけないということがわかった」という感想をいただき、とても心強く思いました。

【学生が準備すべき機器他】

パソコン

【その他の重要事項】

取りあげるトピックは、知って楽しいものはないかもしれませんが、皆さんがこれから社会に出て大人として生きていくにあたって重要なものばかりです。社会の厳しい現実を直視し、「情報強者」として生き延びていくための重要な武器の一つはメディア・リテラシーです。「知的サバイバー」を目指して、ぜひこの授業に主体的に参加してください。

【Outline (in English)】

We are going to acquire media literacy by making research and giving presentations, and having discussions on several important topics.

We are going to grow out of "the information-illiterate", who never doubt what they have learned at school or from the mass-media, and become "the information-literate", that is, those who have media literacy, can make research on, think about, and discuss various important topics, and choose appropriate information on the mass-media.

Presenters need to make research on the assigned topic, and prepare for their presentations. The other students also need to make research on the same topic, and think about it. Preparation and the review of each class takes 4 hours.

Grading criteria of this course consist of presentation(30%), contribution to the class(30%), and a report at the end of the semester(40%).

ARS200BD

比較文化論（1）

小島 尚人

授業コード：A2981 | 曜日・時限：水 1/Wed.1

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2～4 年

その他属性：〈他〉〈優〉〈ダ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

世界中からの多種多様な移民によって形成された移民国家アメリカの文化は、異文化交流の歴史と課題の縮図である。本科目では、アメリカ合衆国をはじめとした英語圏の国々における「日々の暮らしの中の伝統文化と現代文化」に着目し、日本文化と比較しながら学ぶ。教員による講義と学生間の交流を通して、文化の多様性を学ぶとともに、広いコンテクストから現在の社会を問い直す視座を探る。

【到達目標】

- 1) 英語圏の国々の代表的な伝統文化について比較しながら説明できる。
- 2) アメリカ合衆国の文化が、他国からの移民の多様な異文化を吸収・改変・保持しながら発展してきた過程を具体的に説明できる。
- 3) 英語圏の国々の現代文化が、伝統文化をどのように生かしつつも変容させているかを具体的な事例を通して説明できる。
- 4) 多様な文化的背景を持った人々との交流を通して、文化の多様性および異文化交流の意義について体験的な理解を得る。
- 5) 以上の知識と体験に基づいて、文化の多様性および異文化コミュニケーションの現状と課題を理解できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

アメリカ合衆国と他の英語圏の国々の比較を念頭に置きながら、日常生活のレベルにおける様々な文化的現象を学ぶ。扱う題材は、食生活、民話、歌、年中行事、スポーツ、現代大衆文化など多岐にわたる。また、授業全体を通して、近現代日本の話題も随時取り上げる。

授業では、英語圏の国々の最新の動向を伝える文化や社会に関するニュース記事や映像・音声資料を題材に、留学生を含めた多様な背景、異なる価値観を持つ学生同士で議論・交流を行うことで、学生参加型の体験的な理解を促進する。

授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックをおこなう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーションおよび授業の導入	人間の日々の生活の営みとしての文化
第 2 回	移民国家アメリカ	多文化社会を読み解くための歴史的考察
第 3 回	文化を「比較」することの意味	世界から見た日本文化（留学生を迎えるためのディスカッション①）
第 4 回	食生活	「英米の料理はまずい」は本当か
第 5 回	年中行事	ハロウィンとクリスマスの地域差、国ごとの差
第 6 回	民話とその起源	それぞれの伝統を知り教訓を学ぶ
第 7 回	アメリカの愛唱歌とその起源	歌詞の比較から見えてくる価値観とは
第 8 回	文化のグローバル化とアメリカ化	世界各国におけるアメリカ文化（留学生を迎えるためのディスカッション②）
第 9 回	ポップカルチャー進化論	異文化混交から生まれる新しさ
第 10 回	デジタル時代に生きる伝統文化	文化的越境の媒体としてのインターネット
第 11 回	学生によるグループ・プレゼンテーション	食生活、スポーツ、年中行事
第 12 回	学生によるグループ・プレゼンテーション	民話、音楽、インターネット文化
第 13 回	異文化交流のこれから	現状と課題を話し合う（留学生を迎えるためのディスカッション③）
第 14 回	異文化相互理解のために必要なこと	授業のまとめと授業内期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・授業で紹介した参考文献を読み、動画や映画を積極的に視聴する。(2 時間)
 ・自分の日常生活の中から「異文化理解」に関係する事象を探し出し、授業と関連づけて考えたり、友人や家族と話し合ったりする。(1 時間)
 ・プレゼンテーションおよび期末試験の準備を計画的に進める。(1 時間)

【テキスト（教科書）】

担当教員が作成した印刷物を授業にて配布。

【参考書】

佐々木英明（編）『異文化への視線——新しい比較文学のために』（名古屋大学出版会、1996 年）

アメリカ学会（編）『アメリカ文化事典』（丸善出版、2018 年）

ウェルズ恵子、リサ・ギャバート『多文化理解のためのアメリカ文化入門 社会・地域・伝承』（丸善出版、2017 年）

【成績評価の方法と基準】

授業内での課題および授業への貢献度 30 %

グループ・プレゼンテーション 30 %

授業内期末試験 40 %

【学生の意見等からの気づき】

「留学生とのディスカッション」の回で英語で発言をしやすい環境をつくるため、準備のアクティビティをより工夫したいと思います。

【その他の重要事項】

定員を 30 名とし、それを超える場合は選抜をおこなう（文学部生の教職科目履修者を優先とする）。

履修希望者は必ず初回授業に出席してください。

【Outline (in English)】

This course examines everyday forms of culture that exist in people's lives. Focusing primarily on American culture, students will learn cultural diversity and ways of discussing cultural issues in a critical and comparative perspective.

Classes will consist of lectures, in-class tasks, and group discussions. In particular, students participate in many group discussions on various topics introduced in the lectures. Students will also give a group presentation toward the end of the semester.

Grades will be determined based on the following:

1) Participation and in-class assignments (30%)

2) Group presentation (30%)

3) Final exam (40%)

ARS200BD

英米文化概論 A

田中 裕希

授業コード：A2982 | 曜日・時限：木 3/Thu.3

春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：1～4 年

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「帝国」をテーマに、19 世紀末から 20 世紀にかけてのイギリス文学・映画を読み解く。イギリス帝国主義の根底にある進歩主義や異文化への偏見が作品でどう描かれ、二つの世界大戦を経てどう変化していくのか。授業の後半では、イギリス統治下のアイルランドと南アフリカについても学ぶ。

【到達目標】

歴史的な脈絡の中で作品を読む力をつける。文学・映画批評を通して、イギリス文化・社会について学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

コロナの感染状況と授業内容に配慮しながら、対面授業と遠隔授業を併用する。パワーポイントを使った講義を中心に授業を進める。毎回リアクションペーパーを書く。授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	帝国主義とは
第 2 回	Joseph Conrad, <i>Heart of Darkness</i>	啓蒙思想と帝国
第 3 回	<i>Heart of Darkness</i>	語りの構造
第 4 回	<i>Heart of Darkness</i>	『闇の奥』批判
第 5 回	戦争詩人	第一次世界大戦
第 6 回	<i>The King's Speech</i>	第二次世界大戦
第 7 回	<i>The King's Speech</i>	人間としての王
第 8 回	W. B. Yeats, "The Song of Wandering Aengus"	アイルランド文芸復興運動
第 9 回	James Joyce, "Araby"	アイルランドの夢と現実
第 10 回	Yeats, "Easter, 1916"	イースター蜂起
第 11 回	Nadine Gordimer, "Once Upon a Time"	南アフリカにおける植民地政策
第 12 回	<i>My Beautiful Laundrette</i>	ポストコロニアリズムとは
第 13 回	<i>My Beautiful Laundrette</i>	現代イギリスと移民
第 14 回	期末テスト	学期のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の予習復習をする。中間・期末テストのためにもこまめに歴史背景・文化背景を調べる。

本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『闇の奥』（光文社古典新訳文庫） ジョゼフ コンラッド（著）、黒原 敏行（翻訳）
必要に応じて、授業支援サイトを通じ資料を配布する。

【参考書】

D・ボードウェル、K・トンプソン『フィルム・アート—映画芸術入門—』（名古屋大学出版会）

【成績評価の方法と基準】

リアクションペーパー 30 %

期末テスト 70 %

原則、未提出のリアクションペーパーが 4 つ以上で単位取得資格を失う。

【学生の意見等からの気づき】

大人数の授業だが、学生が意見を言える機会をもっと増やしていきたい。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システム Hoppii を使用する。

【Outline (in English)】

This class focuses on the representation of the British Empire in literature and films. We will analyze the foundational values of British imperialism and how they changed and were critiqued over the course of the twentieth century. Students are expected to review course materials every week and turn in every assignment. Grades will be determined based on weekly responses (30%) and the final exam (70%).

ARS200BD

英米文化概論 B

田中 裕希

授業コード：A2983 | 曜日・時限：木 3/Thu.3

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：1～4 年

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

アメリカ文学・映画を通じてアメリカン・ドリームとはなにかを考える。建国の時代から根強くのこるアメリカン・ドリームという概念は、アメリカ独自の価値観に強く関わってくる。自治の精神、民主主義、機会平等の理念、などアメリカの「夢」にまつわる主題を考えながら、作品を読み解く。また、西部劇のようになぜ特定のジャンル映画がアメリカン・ドリームを体現するに至ったかも考える。

【到達目標】

歴史的な文脈・文化的な文脈の中で作品を読む力をつける。文学・映画を通して、アメリカ文化・社会について学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

コロナの感染状況と授業内容に配慮しながら、対面授業と遠隔授業を併用する。パワーポイントを使った講義を中心に授業を進める。毎回リアクションペーパーを書く。授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	アメリカン・ドリームの歴史
第 2 回	Walt Whitman, <i>Song of Myself</i>	建国の理念と叙事詩
第 3 回	<i>Red River</i>	民主主義の夢
第 4 回	<i>Red River</i>	西部劇と民主主義
第 5 回	F. Scott Fitzgerald, <i>The Great Gatsby</i>	語りの構造
第 6 回	<i>The Great Gatsby</i>	情景描写と文明批判
第 7 回	<i>The Great Gatsby</i>	幻想としてのアメリカンドリーム
第 8 回	Langston Hughes	人種と夢
第 9 回	Sylvia Plath	ジェンダーと夢
第 10 回	<i>Easy Rider</i>	60 年代のアメリカ
第 11 回	<i>Easy Rider</i>	New Hollywood とは
第 12 回	<i>Moonlight</i>	マイノリティーの夢
第 13 回	<i>Moonlight</i>	成長物語
第 14 回	期末テスト	学期のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の予習復習をする。中間・期末テストのためにもこまめに歴史背景・文化背景を調べる。本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『グレート・ギャツビー』（新潮文庫）フィッツジェラルド（著）、野崎 孝（翻訳）

必要に応じて、授業支援システムを通じて資料を配布する。

【参考書】

D・ボードウェル, K・トンブソン『フィルム・アート—映画芸術入門—』（名古屋大学出版会）

Jim Cullen, *The American Dream: A Short History of an Idea That Shaped a Nation* (Oxford University Press)

【成績評価の方法と基準】

リアクションペーパー 30 %

期末テスト 70 %

原則、未提出のリアクションペーパーが 4 つ以上で単位取得資格を失う。

【学生の意見等からの気づき】

大規模の授業だが、学生が意見を言える機会をもっと増やしていきたい。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システム Hoppii を使用する。

【Outline (in English)】

In this class, we will analyze the representation of the American Dream in literature and films. The idea of the American Dream has been present since the founding of the nation. We will consider some of the reasons why it has exercised such fascination in American society. By tracing the motif of dream in American cinema, we will discuss the role of self-governance, democracy, equal opportunity, and the frontier in the U.S. history. We will also discuss why particular genres such as the Western came to embody the spirit of the American Dream more than any other genres. Students are expected to review course materials every week and turn in every assignment. Grades will be determined based on weekly responses (30%) and the final exam (70%).

BSP200BD

Academic Writing A

中谷 安男

授業コード：A2984 | 曜日・時限：水 2/Wed.2
 春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：2～4 年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

- ・説得力があり読者の心を掴む英文がかかるようになる。
 - ・TOEFL や IELTS などのエッセイを楽しみながら書けるようになる
 - ・英語で卒業論文を書く基礎を身に着ける
 - ・持続可能な発達目標（SDG s）の課題に対して理解を深め将来社会に貢献する
- ための当事者意識をたかめる

【到達目標】

- ・ Academic Writing Strategies を身に着け、Coherence や Cohesion を構築し
- 読みやすく説得力のある英文が書けるようになる。
- ・「自分の意見を述べる」「比較対照を行う」「問題を解決する」という IELTS、TOEFL の 3 つの出題形式のエッセイが書けるようになる
- ・英語論文執筆の基礎を学ぶ
- ・SDG s の課題を認識する

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

- ・アカデミックライティングの演習を行う
 - ・英語で積極的に SDG s の課題をディスカッションする
 - ・テーマによってアクションペーパーや課題を提出し、参加者同士や全体でも
- フィードバックを行う

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	Flow of Sentences 1	Healthy food 1 SDG 3 Good health and well-being for people
第 2 回	Flow of Sentences 2	Healthy food 2 End focus strategy End weight strategy
第 3 回	Basic Paragraph 1	Food issues 1 SDG 12: Responsible consumption and production
第 4 回	Basic Paragraph 2	Food issues 2 Creating Unity, Topic sentence, Supporting sentence, Example
第 5 回	Developing Coherence 1	Mobile broadband network 1
第 6 回	Developing Coherence 2	Mobile broadband network 2
第 7 回	Guiding Readers 1	AI and Singularity 1
第 8 回	Guiding Readers 2	AI and Singularity 2
第 9 回	Hedges and Boosters 1	Ecotourism 1
第 10 回	Hedges and Boosters 2	Ecotourism 2
第 11 回	Generating Ideas 1	Convenient for who? 1
第 12 回	Generating Ideas 2	Convenient for who? 2
第 13 回	How to attract your readers 1	Starting your essay more attractively 1
第 14 回	How to attract your readers 2	Starting your essay more attractively 2

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の前にテキストを最低 2 時間予習する。
 授業の復習を最低 2 時間必ず行うこと。特に重要語彙やイディオムは毎回習得するよう努める。

【テキスト（教科書）】

Academic Writing Strategies: Focus on Global Issues for SDGs 金星堂 Nakatani. Y.

『大学生のためのアカデミック英文ライティング』大修館書店 中谷安男

【参考書】

『オックスフォード世界最強のリーダーシップ教室』
 中谷安男 中央経済社

【成績評価の方法と基準】

クラス平常点（40 %）、小テスト（10 %）、レポート（50 %）で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

学生にも理解ができるようにベースを考える。

【学生が準備すべき機器他】

DVD 機器

【その他の重要事項】

出席を特に重視するので毎回出席のこと。

 〈重要〉

「英語表現演習（Writing）」(5)(6)(7)(8)、「英語表現演習（Speaking）」(5)(6)(7)(8)、「英語表現演習（翻訳）」(1)(2)と「Academic Writing」の春学期秋学期科目合わせて 22 科目については、英文学科指定の「定員」が設定されています。また、「事前抽選」を実施します。詳細はガイダンスおよび掲示で案内します。抽選が 4 月初頭（初回授業日より前）に実施されるので、必ず期限内に申請してください。基本的に、春学期と秋学期をセットで履修することになり、秋学期の科目も春学期に申請する必要があります。

「事前抽選結果」発表時には、定員に空きのある科目のリストも掲示します。それらの科目の履修を希望する場合は、必ず春学期の初回授業に出席してください。担当教員が選抜を行う場合があります。

※ 「英語表現演習（総合）」に関しては、別途「事前登録」が実施されるので、履修希望者は期限内（4 月初頭）にそちらに申請してください。

※ 2 年次クラス指定の「英語表現演習（Writing）」(1)(2)(3)、「英語表現演習（Speaking）」(1)(2)(3)に関しては、事前抽選および選抜はありません。

【Outline (in English)】

We can learn how to develop persuasive essays by focusing on reader-centered approach.

We can learn significant issues about SDGs.

You need to prepare and review for each lesson for 2 hours.

Your grade is evaluated by class contribution (40 %), quizzes (10 %), report (50 %).

BSP200BD

Academic Writing B

中谷 安男

授業コード：A2985 | 曜日・時限：水 2/Wed.2

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2～4 年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

- ・読者を効果的に誘導し説得力のある英文が書けるようになる。
- ・長い英文エッセイが書けるようになる
- ・卒業論文や論文を書くトレーニングを行う
- ・持続可能な発達目標（SDG s）の課題理解を通して将来社会に貢献するための問題意識を深める

【到達目標】

- ・論文構成の IMRD の構築方法を身に着ける。
- ・英語論文執筆の効果的な Writing Strategies を学ぶ
- ・SDG s の課題を認識する

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

- ・英語のライティングの演習を行う
- ・英語論文の構成を学ぶ
- ・テーマによってリアクションペーパーや課題を提出し、参加者同士や全体でもフィードバックを行う

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Supporting Your Ideas 1	Developing supporting sentences 1
2	Supporting Your Ideas 2	Developing supporting sentences 2
3	Concluding Paragraphs 1	City and Environment 1
4	Concluding Paragraphs 2	City and Environment 2
5	Comparison and Contrast Paragraphs 1	Education for future 1
6	Comparison and Contrast Paragraphs 2	Education for future 2
7	Essay Structure 1	Decent Job 1
8	Essay Structure 2	Decent Job 2
9	Problem Solving Essay 1	Eco-friendly 1
10	Problem Solving Essay 2	Eco-friendly 2
11	The First Step for Academic Papers 1	Solutions and informing benefits 1
12	The First Step for Academic Papers 2	Solutions and informing benefits 2
13	Writing Introduction 1	IMRD
14	Writing Introduction 2	Review

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の復習を必ず行うこと。特に重要語彙やイディオムは毎回習得するよう努める。本授業の準備学習・復習時間は、それぞれ 2 時間以上を標準とします。

【テキスト（教科書）】

Academic Writing Strategies: Focus on Global Issues for SDGs 金星堂 Nakatani, Y.

『大学生のためのアカデミック英文ライティング』大修館書店中谷安男

【参考書】

『オックスフォード最強のリーダーシップ教室』中谷安男 中央経済社

【成績評価の方法と基準】

クラス平常点（40 %）、小テスト（10 %）、レポート（50 %）で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

基礎力の構築ができていない学生にも理解ができるようにベースを考える。

【学生が準備すべき機器他】

DVD 機器、インターネット接続

【その他の重要事項】

積極的な授業出席

《重要》

「英語表現演習（Writing）」(5)(6)(7)(8)、「英語表現演習（Speaking）」(5)(6)(7)(8)、「英語表現演習（翻訳）」(1)(2)と「Academic Writing」の春学期秋学期科目合わせて 22 科目については、英文学科指定の「定員」が設定されています。また、「事前抽選」を実施します。詳細はガイダンスおよび掲示で案内します。抽選が 4 月初頭（初回授業日より前）に実施されるので、必ず期限内に申請してください。基本的に、春学期と秋学期をセットで履修することになり、秋学期の科目も春学期に申請する必要があります。

「事前抽選結果」発表時には、定員に空きのある科目のリストも掲示します。それらの科目の履修を希望する場合は、必ず春学期の初回授業に出席してください。担当教員が選抜を行う場合があります。

※ 「英語表現演習（総合）」に関しては、別途「事前登録」が実施されるので、履修希望者は期日内（4 月初頭）にそちらに申請をしてください。

※ 2 年次クラス指定の「英語表現演習（Writing）」(1)(2)(3)、「英語表現演習（Speaking）」(1)(2)(3)に関しては、事前抽選および選抜はありません。

【Outline (in English)】

We can learn how to develop persuasive essays by focusing on reader-centered approach.

We can learn how to write effective academic papers.

We can learn significant issues about SDGs.

You need to prepare and review for each lesson for 2 hours individually.

Your grade is evaluated by class contribution (40 %), quizzes (10 %), report (50 %).

ARS300BD

Seminar in Cross-cultural Studies A

田中 裕希

授業コード：A2986 | 曜日・時限：金 4/Fri.4
 春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「若者」をテーマに、様々な国の文学作品・映画を分析する。成長物語、ヒッピー文化など、若者まつわるジャンルや文化を学ぶ。

【到達目標】

Students will develop the ability to read texts closely, with an eye to their cross-cultural contexts, and conduct discussions in English.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

The class revolves around students' presentations and discussions. There will be some lectures, but most of the class time will be devoted to students' active participation. Students will also translate texts of their own choosing and discuss them in class.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	Introduction	What is youth culture?
第2回	Elizabeth Bishop, "In the Waiting Room"	Self in the making
第3回	Beat Generation	Youth and freedom
第4回	Creative Writing Workshop	Coming-of-age poems
第5回	<i>The 400 Blows</i>	French New Wave
第6回	<i>The Graduate</i>	New Hollywood
第7回	<i>The Graduate</i>	Youth and experimentation
第8回	Youth and Subculture (1)	Presentations
第9回	Youth and Subculture (2)	Presentations
第10回	Youth and Subculture (3)	Presentations
第11回	Comparative Approach to Japanese Literature (1)	Comparing youth culture in Japan and the US.
第12回	Comparative Approach to Japanese Literature (2)	Japan in the 60s
第13回	Comparative Approach to Japanese Literature (3)	Youth and the city
第14回	Presentations	Conclusion

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Each week, students will read a novel, a short story, or a poem or two. They are expected to spend at least four hours preparing for each class.

【テキスト（教科書）】

Handouts will be distributed in class.

【参考書】

N/A

【成績評価の方法と基準】

Attendance, Participation, Homework: 30%

Presentation: 30%

Final Paper: 40%

More than three absences will result in an "E."

【学生の意見等からの気づき】

引き続き活発なディスカッションを心がける。

【Outline (in English)】

In this class we will explore the representation of youth culture in literature and film. The class revolves around students' presentations and discussions. There will be some lectures, but most of the class time will be devoted to students' active participation. Grades will be determined based on assignments, presentations, and participation (60%) and the final paper (40%).

ARS300BD

Seminar in Cross-cultural Studies B

田中 裕希

授業コード：A2987 | 曜日・時限：金 4/Fri.4

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「都市」をテーマに、ニューヨークにまつわる文学と映画を見ていく。ニューヨークの文化や歴史的背景をふまえつつ、都市に生きるとはどういうことなのか、また都市特有の文学とは何かを考える。授業後半では東京を舞台にした作品を通じて、都市文学への理解を深める。

【到達目標】

Students will develop the ability to read texts closely, with an eye to their cross-cultural contexts.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

The class revolves around students' presentations and discussions. There will be some lectures, but most of the class time will be devoted to students' active participation. Students will receive feedback on their work in class, via Hoppii, and during office hours.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	Introduction	The city in literature and film
第2回	New York School (1)	Art in New York
第3回	New York School (2)	Walking in NYC
第4回	Elizabeth Bishop, "The Man-Moth"	The city and solitude
第5回	<i>The Apartment</i>	Working in the city
第6回	<i>The Apartment</i>	Continued
第7回	Bernard Malamud, "The Jewbird"	Immigrants in NYC
第8回	<i>The Face of Another</i>	Tokyo vs. NYC
第9回	<i>The Face of Another</i>	The crowd and the self
第10回	Sayaka Murata, <i>Convenience Store Woman</i>	The city vs. the countryside
第11回	<i>Convenience Store Woman</i>	Gender and the city
第12回	Thesis Presentations (1)	Presentations
第13回	Thesis Presentations (2)	Presentations
第14回	Conclusion	Presentations

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Each week, students will read a novel, a short story, or a poem. They are expected to spend at least four hours preparing for each class meeting.

【テキスト（教科書）】

Handouts will be distributed in class.

【参考書】

To be announced in class.

【成績評価の方法と基準】

Attendance, Participation, Homework: 30%

Presentation: 30%

Final Paper: 40%

More than three absences will result in an "E."

【学生の意見等からの気づき】

引き続き活発なディスカッションを心がける。

【Outline (in English)】

In this class, we will explore the theme of the city by analyzing literary texts and films set in New York City. What are some of the characteristics of city life and how are they represented in these texts? There will be some lectures, but most of the class time will be devoted to students' active participation. Grades will be determined based on assignments, presentations, and participation (60%) and the final paper (40%).

ARS200BD

Comparative Culture(2)

小島 尚人

授業コード：A2988 | 曜日・時限：火 2/Tue.2
 春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年
 備考（履修条件等）：定員30名を超えた場合は文学部所属学生を優先して選抜する。
 その他属性：〈グ〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This course examines culture and society of the United States in comparison with other countries of immigrants such as Canada and Mexico, focusing on its transborderness and mobility. Often conceived of as a cross-border experience across regions and nations, the experience of traveling has been one of the central concerns in the history of literary and visual narratives particularly in the US. Through the analysis of American road movie and travel literature in comparison with those of other countries, this course introduces students to ways of thinking about US culture in a comparative and historical perspective.

【到達目標】

Through this course, students are expected to be able to do the following:
 1. Examine the ways in which travel is represented in literary and visual narratives
 2. Develop their skills to discuss culture through literary and visual texts
 3. Give presentations in which the concepts and topics covered in the course are applied

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

Classes will consist of lectures, in-class tasks, and group discussions. In particular, students participate in many group discussions on various topics introduced in the lectures. Students will also give a group or individual presentation toward the end of the semester. Students' writings will be picked and shared to the class the following week through the "feedback sheets" provided by the instructor.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	Course Introduction	Review course goals; brief self-introduction by students; characteristics of the US as a nation of immigrants
第2回	US and North America	The historical and cultural background of the US in comparison with other North American countries (Canada and Mexico)
第3回	Transborderness	The role of Mexico in Jack Kerouac's <i>On the Road</i>
第4回	Mobility	American frontier, Western expansion, and cultural fusion
第5回	Americalization	Family and national identity
第6回	Ethnicity	Ethnic pluralism and cultural diversity
第7回	Social Class	Migrant workers and <i>The Grapes of Wrath</i>
第8回	Gender	Travel narrative and the domestic ideology; Feminist politics in <i>Thelma & Louise</i>
第9回	Slavery and African American culture	<i>Adventures of Huckleberry Finn</i> as travel narrative
第10回	Orientalism	Travel narrative and power relations: reading an essay
第11回	Language Barrier and Communication	Representation of Tokyo and the Japanese characters in <i>Lost in the Translation</i>
第12回	Study Abroad as a Cross-border Experience	The image of "America" in post-WWII Japan
第13回	Student Presentations (1)	Student presentations on "Family" and "Ethnicity"
第14回	Student Presentations (2)	Student presentations on "Gender" and "Orientalism"

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1) Reading assigned texts (or watching assigned films) and preparing for quizzes and in-class discussions (2 hours)
 2) Preparing for a group presentation (2 hours)

【テキスト（教科書）】

There is no required textbook for this course. Course materials will be distributed in class.

【参考書】

Primeau, Ronald. *Romance of the Road: The Literature of American Highway*. Bowling Green, OH: Bowling Green State UP, 1996.
 Laderman, David. *Driving Visions: Exploring the Road Movie*. Austin: U of Texas P, 2002.
 King, Homay. *Lost in Translation: Orientalism, Cinema, and the Enigmatic Signifier*. Durham: Duke UP, 2010.

【成績評価の方法と基準】

Class participation (worksheets, discussions, and other in-class activities): 40%
 Presentations: 20%
 Final Exam: 40%

【学生の意見等からの気づき】

I plan to allot more time for students to share their thoughts with the class.

【その他の重要事項】

定員を30名とし、それを超える場合は選抜をおこないます（文学部生を優先とする）。
 履修希望者は、辞書（電子辞書可・携帯電話不可）を持参の上、必ず初回授業に出席してください。

【Outline (in English)】

N/A

HIS200BE

日本考古学／日本考古学（資格）

古庄 浩明

授業コード：A3113, A3856 | 曜日・時限：月 2/Mon.2

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

備考（履修条件等）：他学部公開制度のない学部の学生が履修する場合は資格科目用（A3856）で履修する。

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本考古学の歴史について理解することを目的とする。日本考古学がどのような学術をたどって成立してきたかを理解し、日本考古学の現状と課題を理解する。

【到達目標】

日本考古学の成り立ちを理解し、現在の考古学の学問的位置と状況について説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は講義形式で行う。状況によってはオンデマンド型の授業となる可能性もある。資料配布・課題提出・フィードバック等は授業中および学習支援システム等を利用する。具体的には、学習支援システムに課題を提出していただき、そのフィードバックも学習支援システムで各学生に返信する。質問及びそれに対する回答は授業中および学習支援システムで行う。授業では資料も利用する。授業のプリントは各自「古庄浩明の講義ノート」(<https://wacoffee.blogspot.com/>)からダウンロードして使用する。プロテクトを掛けてあり、プロテクトキーは授業で知らせる。プリントを授業中に配布する場合もある。毎回授業後に小レポートの提出を求める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	概要説明	授業の概要と方法・評価基準
第2回	近代以前の考古学	考古学以前
第3回	近代日本考古学の誕生 民族論	大森貝塚とモース コロボックルと 先住民族
第4回	実証主義の萌芽	層位学 弥生土器の発見 古墳時代
第5回	大正時代の考古学	鳥居龍藏 喜田貞吉
第6回	型式学のはじまり	濱田耕作 松本彦七郎
第7回	実証的研究	加曾利貝塚 姥山貝塚
第8回	旧石器論争	国府遺跡 直良信夫と明石原人
第9回	弥生文化の研究	様式論
第10回	科学的歴史研究	ひだびと論争 社会構成体論
第11回	縄文土器と弥生土器の編年研究	山内清男 森本六爾
第12回	戦後の日本考古学	岩宿遺跡と登呂遺跡 相沢忠洋
第13回	ニューアーケオロジー（プロセス考古学）と考古学の現在	ルイス・ビンフォード
第14回	総括 期末試験（60分）	全体のふりかえりと講評

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配布する資料やノート・参考書等をよく読み、各時代の研究の流れを理解する。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

勅使河原彰 1995 『日本考古学の歩み』 名著出版
古庄浩明 2013 『「日本」のはじまり－考古学から見た原始・古代』 和出版
Hiroaki FURUSHO 2022 『Beginning of Japan』 kindle

【成績評価の方法と基準】

授業内の課題にもとづく小レポートによる評価を50%とし、期末試験による評価を50%とする。

【学生の意見等からの気づき】

配付資料やノートをよく読み、時代背景も鑑みて学史を理解してほしい。現代の学史的解釈だけではなく、できるだけその時代の論文や図録を使って、当時の研究者の文章や図版に触れ、時代背景とともに解説するようにした。

【学生が準備すべき機器他】

ネット環境とデバイス（パソコン・スマホ・パッドなど） 資料配布・課題提出等のために学習支援システム等を利用する。

【その他の重要事項】

本科目は資格課程の関連科目として公開しており、史学科以外の受講者も受け入れているが、史学科の専門科目としての難易度を有する科目であるので、特に他学部・他学科の受講者は考古学に関する概説書等を読んでおくことを推奨する。

【Outline (in English)】

The purpose of this course is to understand the history of Japanese archaeology. To understand how Japanese archaeology has been established through its academic history, and to understand the current status and issues of Japanese archaeology.

Understand the origins of Japanese archaeology and be able to explain the current academic position and status of archaeology.

Classes will be conducted in lecture format. On-demand lectures may be given depending on the situation. Distribution of materials, submission of assignments, feedback, etc. will be conducted in class and through the learning support system. Specifically, students will be asked to submit assignments to the learning support system, and feedback will be sent back to each student via the learning support system. Questions and answers will be provided in class and via the learning support system. Materials will also be used in class. Students will be able to download and use class handouts from "Hiroaki Furusho's Lecture Notes" (<https://wacoffee.blogspot.com/>). They are protected, and the protection key will be provided in class. Printed materials may be distributed in class. Students are required to submit a small report after each class. Students should carefully read the distributed materials, notes, and reference books to understand the flow of research in each period.

Standard preparation and review time for this class is 2 hours each. 50% of the evaluation will be based on a short report based on in-class assignments, and 50% will be based on the final examination.

HIS200BE

日本古代史

春名 宏昭

授業コード：A3114 | 曜日・時限：水 5/Wed.5

春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「平安時代と貴族社会」と題して講義します。平安前期の改革の時代の国家・政治のあり方、貴族たちのあり方を理解するようつとめます。

【到達目標】

平安時代の貴族社会のあり方の把握を目指します。基礎的な知識を得て、その上でそれぞれの事象に興味を持ってアプローチし、国家・政治の本質を理解できる能力を身につけましょう。平安時代の官僚のあり方は現代の日本にも通じるオンタイムの問題ですから、現代の政治が抱える問題点も理解できるようになるでしょう。そのような視点から課題レポートにも取り組んで下さい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

平安前期の改革によって国家・政治のあり方がどのように変わっていったのか、この変化が平安中期の王朝貴族の時代に帰結していったのかを検証していきます。この授業では、一般啓蒙書に書かれることのない天皇や貴族たちのあり方を見ていきます。講義ですが、聴いているだけでは話が耳を通り抜けていきますから、問題意識をもって授業に取り組むことが必要です。授業を聴いて問題意識をもった後、参考書等をあらためて読み直すと新しい理解が見えてきます。就職活動や教育実習等あるでしょうが、十分な聴講（もちろん遅刻は含まず）が最低限の必須条件です。心して下さい。質問がある場合は、授業後に対応します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の内容の説明
第2回	〈時代〉の変化	ワンランク上の国家を目指して
第3回	官人たちの変化	良吏政治のスタート＝大同元年勅
第4回	天皇の性格変化	桓武天皇と平城天皇
第5回	良吏政治の展開	嵯峨朝への政策継承
第6回	良吏政治の実践	弘仁三年勅から天長元年官符へ
第7回	承和の変の前奏	淳和朝・仁明朝の政治状況
第8回	承和の変	母橘嘉智子と娘正子内親王
第9回	貴族の時代へ	文徳朝・清和朝の様相
第10回	応天門の変	安定の時代、摂関政治へ
第11回	源氏と藤原氏	源氏の左大臣と藤原氏の右大臣
第12回	藤原基経の国政運営	清和天皇の悲嘆と陽成天皇の廃位
第13回	阿衡の紛議	昌泰の変へ
第14回	平安前期という時代	平安時代史概観

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

平安時代に関して問題意識を持つには、その前提として平安前期・中期の知識が必要です。奈良時代から平安時代への推移についても概括的な理解が必要です。それらを得るために、どれでも参考書（該当巻）を読んでみて下さい。ただし、著者の理解・興味関心によって内容はずいぶん違います。この講義では、通説的理解がいかに不十分（言葉足らず）かということを述べます。それを確認するためにも参考書（該当巻）を読んでおいて下さい。また、平城天皇の事績をより詳しく知るには私の『平城天皇』（吉川弘文館人物叢書）を、延喜年間以降については『岩波講座日本歴史』第5巻の「摂関時代と政治構造」を読んで下さい。この講義の準備・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業に必要な史料はプリントして配布します。

【参考書】

春名宏昭『〈謀反〉の古代史 平安朝の政治改革』（吉川弘文館）
中央公論社（文庫）・小学館（文庫）・集英社・講談社（文庫）から出版された『日本の歴史』や、吉川弘文館の『日本の時代史』・『日本古代の歴史』、東京大学出版会の『日本史講座』、岩波書店の『シリーズ日本の古代史』（新書）、『岩波講座日本歴史』の該当巻。

【成績評価の方法と基準】

平常点とレポートで評価します。基準は平常点30%、レポート70%です。レポートで取り上げる範囲は平安時代に限りませんが、テーマは学生各人で選んでよいことにしています。ただ、どのようなテーマを選んでも、授業の理解の度合いはおのずとレポートの内容にあらわれます。

【学生の意見等からの気づき】

板書は教師の書いたものをただ写すだけでは身につけません。人物名・事象名・年号や学術用語などのキーワードを書きますから、それらも含めて、自分で工夫して自分なりのノートを作って下さい。

【Outline (in English)】

This lecture is attended under the heading of "The Heian period and the aristocracy". This course introduces how should be the nation and aristocrats in the former term of the Heian period to students taking this course. By the end of the course, students should be able to understand the essence of the nation and politics. Before/after each class meetings, students will be expected to spend four hours to read the textbook and one of reference books introduced. Grading will be decided based on term-end report(70%) and usual contribution(30%).

HIS200BE

日本中世史

及川 亘

授業コード：A3115 | 曜日・時限：火 5/Tue.5

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2～4 年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本における 16～17 世紀は中世から近世へと社会が変容する時期であり、日本における城郭もその時期に確立する。「普請」という言葉をキーワードとして、中世城郭から近世城郭への進化の過程を政治史的に跡付け、併せて当該期の日本の政治・社会の在り方を考える。

【到達目標】

16～17 世紀の城郭建設を通じて政治・経済・社会の変容を学び、併せて当該期史料の読解の基礎を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

前もって城郭建設に関連する史料のプリントを配布し、参加者には史料の音読と解釈をしてもらう。それに対して訂正・補足説明（フィードバック）して、さらにその内容を参考史料を提示しながら解説する。併せてそれぞれの史料が持つ城郭史における意義を政治・社会の状況と関連付けて検討する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり/Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業テーマ・進め方について説明する。
第 2 回	中世の「普請」	「普請」という言葉の原義などについて解説する。
第 3 回	戦国大名の城郭建設と「普請役」①	戦国大名武田氏の事例について解説する。
第 4 回	戦国大名の城郭建設と「普請役」②	その他の戦国大名の事例について解説する。
第 5 回	織田信長の城郭建設と「普請役」	織田信長の城郭建設と京都での普請について解説する。
第 6 回	豊臣秀吉の城郭建設と「普請役」	豊臣秀吉の国内での城郭建設（大坂城・肥前名護屋城・伏見城など）について解説する。
第 7 回	豊臣秀吉の朝鮮出兵と城郭建設	朝鮮半島南岸に建設された倭城について解説する。
第 8 回	徳川家康の天下統一	豊臣政権から徳川政権への移行を解説する。
第 9 回	江戸幕府の「公儀普請役」による城郭建設①	江戸城の建設について解説する。
第 10 回	江戸城の巡見	江戸城の堀・石垣を現地見学する。
第 11 回	江戸幕府の「公儀普請役」による城郭建設②	駿府城の建設について解説する。
第 12 回	江戸幕府の「公儀普請役」による城郭建設③	名古屋城の建設について解説する。
第 13 回	江戸幕府の「公儀普請役」による城郭建設④	大坂の陣後の大坂城再築について解説する。
第 14 回	まとめ	中世城郭から近世城郭への過程をおさらいする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

史料読解の予習・復習が必要である。（合計 2 時間程度）

【テキスト（教科書）】

教科書は使用せず、史料プリントを配布する。

【参考書】

及川亘「名古屋御城石垣絵図を読む」（名古屋城調査研究センター編『史料が語る 名古屋城石垣普請の現場』名古屋城調査研究報告 3 史料調査研究報告書 1、2022 年）
同「「公儀御普請」―現場監督する大名」（『城郭史研究』41 号、2022 年）
北原糸子『江戸城外堀物語』ちくま新書、1999 年
斎藤慎一・向井一雄『日本城郭史』吉川弘文館、2016 年
白峰旬『日本近世城郭史の研究』校倉書房、1998 年
同『豊臣の城・徳川の城』校倉書房、2003 年
『日本名城集成 江戸城』小学館、1986 年
『日本名城集成 名古屋城』小学館、1985 年
『日本名城集成 大坂城』小学館、1985 年
『大御所徳川家康の城と町』（駿府城関連史料調査報告書）静岡市教育委員会、1999 年
など

【成績評価の方法と基準】

平常点 50 %、期末試験（またはレポート）50 % で評価する。積極的な授業参加を期待する。

【学生の意見等からの気づき】

歴史学では必ずしも一つの答えが見つかるわけではないが、史料読解や論理展開にいくつかの可能性がある場合も、参考史料なども提示しながらそれらなるべく分かりやすく整理して解説したい。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

特になし

【Outline (in English)】

【Course outline】

The 16th and 17th centuries in Japan was a period of social transformation from the Middle Ages to the modern age, and castles in Japan were also established during this period. With the word "fushin" as a keyword, We trace the process of evolution from medieval castles to modern castles in political history, and consider the state of Japanese politics and society during that period

【Learning Objective】

Through the construction of castles in the 16th and 17th centuries, learn about the transformation of politics, economy, and society, and at the same time learn the basics of reading historical materials of the period.

【Learning activities outside of classroom】

A total of 2 hours of preparation and review of reading comprehension of historical materials is required.

【Grading Criteria/Policy】

Evaluation is based on 50% of the average score and 50% of the final exam (or report).

Expect active class participation.

HIS200BE

日本近世史

松本 剣志郎

授業コード：A3116 | 曜日・時限：水 2/Wed.2

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2～4 年

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

江戸時代人の記した文章を読み、そこから当時の生活や社会の仕組み、江戸時代人の常識や思考方法などを読み取ろうとする授業である。ここでは旗本森山孝盛（1738～1815）の記した「蟹の焼藻の記」を素材とする。学生には活字史料を読む訓練ともなるだろう。

【到達目標】

- ①活字史料を読みこなし、適切に現代語訳することができる。
- ②人名や語句について適切な辞書を用いて調べることができる。
- ③史料に基づいて旗本の生活について説明できる。
- ④史料に基づいて江戸時代の社会や制度について説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

講義と演習を併用した形式の授業とする。hoppii に教材をアップするので各自プリントアウトして授業にのぞむこと。あるいはタブレット端末等でみてもよい。学生は必ず予習として、日記の次回授業分を読み、人物や不明な語について調べておくこと。授業時に指名して発表してもらおう。質問等に対するフィードバックは授業内でおこなう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	旗本と森山孝盛について
第 2 回	幼少期の学問	テキスト 201～205 頁
第 3 回	経済事情	テキスト 206～210 頁
第 4 回	養子と学問	テキスト 211～215 頁
第 5 回	出世と賄賂	テキスト 216～220 頁
第 6 回	御徒頭として	テキスト 221～225 頁
第 7 回	風雅の道	テキスト 226～230 頁
第 8 回	定信の登場と打ちこわし	テキスト 231～235 頁
第 9 回	目付として	テキスト 236～240 頁
第 10 回	目付として（続）	テキスト 241～245 頁
第 11 回	関東筋川々普請見分へ	テキスト 246～250 頁
第 12 回	火附盗賊改加役として	テキスト 251～255 頁
第 13 回	寛政 10 年の時点から	テキスト 256～263 頁
第 14 回	まとめと試験	解説とも

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前にテキストを読み込むこと。不明な人物は『寛政重修諸家譜』で、語句は『国史大事典』『日本国語大辞典』（第 2 版）で調べること。授業中に参考文献を随時示すので、事後にはそれらの確認をすること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

「蟹の焼藻の記」（『日本随筆大成』2 期 22 巻、吉川弘文館、1995 年所収）

【参考書】

『自家年譜』上中下（内閣文庫影印叢刊、1994～5 年）

『日本都市生活史料集成』2 巻（学習研究社、1977 年）

『徳川幕臣人名辞典』（東京堂出版、2010 年）

小川恭一『江戸の旗本事典』（講談社、2003 年）

松本剣志郎「自家年譜（寛政 3 年正月～6 月）解題」（『法政史学』99 号、2023 年）

【成績評価の方法と基準】

期末試験（70 %）、平常点（30 %）

【学生の意見等からの気づき】

日本近世史を専攻しない学生にも理解できるよう授業する積もりですが、参考文献を予め読んでおくことを勧めます。

【Outline (in English)】

This course introduces documents of vassal of Tokugawa shogunate to students taking this course. The aim of this course is to help students acquire an understanding of the historical document. Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapters from the text. Your study time will be more than four hours for a class. Your overall grade in the class will be decided based on the following Term-end examination: 70%, in class contribution: 30%.

HIS200BE

日本近代史

内藤 一成

授業コード：A3117 | 曜日・時限：月 2/Mon.2

春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：2～4 年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本近代史を、立憲政治の観点から、立法院を中心に読み解いていく。帝国議会は貴族院と衆議院により構成されるが、本講義では、特に貴族院に注目して考察をはかる。授業を通じて、実証研究の蓄積が学問領域に新たな地平を開くことを明らかにしていく。

【到達目標】

①日本近代史を立憲政治の観点から理解する。②帝国議会を構成する貴族院・衆議院について、特に前者の役割について理解を深める。③歴史の連続性について考える手がかりを得る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式とし、板書とパワーポイントを併用させる。適宜史料のコピー等を配布し、史料を音読したり、内容を検討することもある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	講義に関する全体の説明、注意点など
第 2 回	日本における議会制の導入	欧米の議会制度と日本での導入をめぐる議論について論じる
第 3 回	憲法の制定と帝国議会の発足	大日本帝国憲法の制定と帝国議会について考察する
第 4 回	初期議会	初期議会の政府と帝国議会について考察する
第 5 回	藩閥と政党	藩閥政府と議会の関係を考察する
第 6 回	桂園時代	桂園時代の歴代政権と帝国議会の関係について考察する
第 7 回	転換期としての大正	大正政変とその後の政治の推移について帝国議会の見地から考察する
第 8 回	大正デモクラシー	原敬内閣の誕生を機に起きた帝国議会の変化を考察する
第 9 回	政党内閣期	第二次護憲運動後に到来した政党内閣期における帝国議会について考察する
第 10 回	昭和初期の政治	昭和初期、政党政治が揺らぐなかでの帝国議会のあり方を考察する
第 11 回	軍部の台頭と帝国議会	軍部が台頭するなか、帝国議会のあり方を考察する
第 12 回	大戦下の議会	第二次世界大戦下における帝国議会について考察する
第 13 回	帝国議会から国会へ	第二次世界大戦後、帝国議会から国会への変遷を考察する
第 14 回	まとめ 総括と質疑応答	講義全体のまとめ、質疑応答

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に配布する資料には必ず目を通して置く。授業後には内容をよく確認し、指示のあった文献や資料に目を通して置く。平素より参考文献を読んでおくことが望ましい。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは用いない。参照が必要な文献等がある場合には、講義の際、指示する。

【参考書】

『議会制度百年史』全 12 巻、『貴族院』（同成社）

【成績評価の方法と基準】

平常点（40%）、期末試験（60%）をもとに総合的に評価する。期末試験はノート持ち込み可。なお、特別の事情がなく、授業への参加度が不良と判断された場合、あるいは期末試験を受けない場合には不合格の評価とする。

【学生の意見等からの気づき】

クエスチョンタイムに相当する時間を適宜設けるなどして、授業理解が得られるよう努める。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムの利用が可能な IT 機器

【その他の重要事項】

・「日本近代史科学」（秋学期）との継続履修を推奨する。
・大学院における学部合同科目（「日本近代史研究」I）である。

・やむを得ない事情により授業を欠席する場合（介護体験実習、教育実習など）には、その事情を証明する文書を提出すること。新型コロナウイルス感染防止策として教室での対面授業を行わない場合には、授業内容を変更することがある。

・授業に関連する連絡は、学習支援システムの「お知らせ」サイトや、「授業内掲示板」サイトを利用して行うので、見落とさないようにすること。

・担当教員への直接連絡にはメールを利用すること。担当教員のメールアドレスは、学習支援システムに掲示する。

【Outline (in English)】

(Course outline)

This course examines the modern era of Japan with a focus on the Imperial Diet. In particular, I will focus on the character of the House of Peers and the role it played in history. What is particularly important in this course is the correct and historical understanding of the development of modern Japanese history and constitutional politics. (Learning Objectives)

By the end of the course, students should be able to do the followings:

– A. Understanding modern Japanese history through the development of constitutional politics.

– B. Deepening understanding of the role of the Imperial Diet centered on the House of Peers.

– C. Get clues to think about the continuity of history.

(Learning activities outside of classroom)

Students should read the materials distributed in advance. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

(Grading Criteria /Policy)

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination: 60%, in class contribution: 40%

HIS200BE

日本現代史

劉 傑

授業コード：A3118 | 曜日・時限：金 2/Fri.2

春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

昭和期の日本は、戦争と戦後復興を経て、世界の経済大国になった。激動する日本が歩んだ道を振り返り、世界のなかの日本、アジアのなかの日本という視点から、昭和期日本の内政と外交に対する理解を深め、「昭和」は日本にとってどのような時代だったのかを考えていきたい。多様な近代史史料の利用法も学んでいく。

昭和戦前期日本の内政と外交は、戦争と密接な関係にあった。議会や軍部はもちろん、経済界、メディアなども外交政策の策定や外交交渉の遂行に影響を与えた。複雑な力が働くなかで、外務省はどのように行動したのか。とりわけ外交官の対外認識と外交手法が日本の対外関係に何をもたらしたのか。「事件」や「事変」、戦争が絶えなかった時代における外交の可能性について、考えていきたい。

【到達目標】

内政と外交に関する多様な記録を教員と共に選択し、解説することによって、現代日本が進んできた道筋に対する理解を深めることができる。また、外交の特徴や、内政と外交の関係、及び外交政策に影響する諸要素を討論形式で考え、客観的、多面的な歴史理解をめざす。講義や討論を通じて、日本と世界の国々とのかかわりかたを理解し、「日本」を対外発信する能力も身に付けていきたい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

講義と討論を併用する形式で授業を行う。講義内容に合わせて、関係史料を読む。必要に応じて、映像資料なども用いる。講義後の討論のなかで、歴史を理解するための問題点を発見し、歴史を「解説」する方法を学んでいく。授業中の質問に対しては討論の中で答えることとし、提出課題に対しては、授業中に解説を加えるなど、フィードバックを実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	「昭和」という時代 (1)	日本近代史の中の昭和時代について考える。
第2回	「昭和」という時代 (2)	昭和初期の世相を多様な資料を通じて理解する。
第3回	「昭和」という時代 (3)	メディアと政治について討論する。
第4回	外務省と軍部 (1)	外務省の歴史を概観し、日本外交の特質を理解する。
第5回	外務省とメディア (2)	世論の形成と外交官の世論への影響を考える。
第6回	昭和初期の外務省と外交官 (1)	外務省内の中国通はどのように形成したのか、その役割について討論する。
第7回	昭和初期の外務省と外交官 (2)	外務省の外交政策論を諸外国と比較しながら考える。
第8回	山東出兵と日本外交 (1)	山東出兵の経緯と中国の対応を事例として、日本外交に対する理解を深める。
第9回	山東出兵と日本外交 (2)	田中外交と幣原外交、蒋介石の対日認識と政策について討論する。
第10回	満州事変と日本外交 (1)	日本にとって、満洲はなんだったのかを理解する。
第11回	満州事変と日本外交 (2)	満洲事変への各方面の対応を検討する。
第12回	満州事変と日本外交 (3)	満洲国の成立、満洲国が目指したもの、満洲国の評価について討論する。
第13回	日中戦争前の国交調整	陸軍の華北進出と日本の中国政策について考える。
第14回	試験・まとめと解説：昭和戦前期の日本外交	日中戦争までの日本外交について総合討論を行い、試験を実施する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

指定された参考書を授業の前後に読むこと。
配布史料を授業終了後に熟読すること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

講義にあたって、関連史料を配布する。

【参考書】

参考図書などは、講義の進行に応じて紹介するが、手元に以下の数冊を用意しておくとう便利であろう。

箕原俊洋・奈良岡聡智『ハンドブック近代日本外交史：黒船来航から占領期まで』（ミネルヴァ書房（2016年））

増田弘・佐藤晋『新版日本外交史ハンドブック——解説と資料——』（有信堂、2007年）

井上寿一『日本外交史講義』（岩波書店、2003年）

川島真・服部龍二『東アジア国際政治史』（名古屋大学出版会、2007年）

劉傑・三谷博・楊大慶『国境を越える歴史認識』（東京大学出版会、2006年）

劉傑・川島真『1945年の歴史認識』（東京大学出版会、2009年）

劉傑・川島真『対立と共存の歴史認識』（東京大学出版会、2013年）

【成績評価の方法と基準】

学期末に試験を実施する。普段のレポートや討論への参加も成績評価の対象になる。試験7割、平常点3割。

【学生の意見等からの気づき】

講義に関する詳細な内容を板書するか、パワーポイントなどを利用する。

【学生が準備すべき機器他】

【その他の重要事項】

新型コロナウイルス感染防止対策として、Web学習支援システムなどを利用する。授業方式や課題などを見落とさないように注意し、指示にしたがって学習を行ってください。

【Outline (in English)】

This lecture covers the domestic affairs and diplomacy of Japan in the Showa period.

Congress and the military as well as the economic circle and the media influenced the formulation of foreign policy and diplomatic negotiations. How did the Ministry of Foreign Affairs act before the Sino-Japanese War? How did diplomats' recognition and techniques influence Japanese diplomacy? We will think about the possibility of diplomacy in the era of war.

The goals of this course are to learn how to read the archives on domestic and foreign policy and understand the path that modern Japan has taken. Students will also understand the characteristics of diplomacy, the relationship between domestic and foreign policy, and the various factors that influence foreign policy.

Students will be expected to read the assigned reference books before and after class meetings. It is important to review the distributed historical materials. Your study time will be more than four hours for a class.

Your overall grade in the class will be decided based on the following :
Term-end examination: 50%, Short reports :30%, in class contribution: 20%.

HIS300BE

日本古代史科学 I

春名 宏昭

授業コード：A3121 | 曜日・時限：水 5/Wed.5

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2~4 年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

『続日本紀の史科学』と題して講義を行います。八世紀の日本は、当時先進の文化を誇った中国のような国家建設を目標に掲げて邁進していました。『続日本紀』を題材に史料への取り組み方を学び、日本古代史における歴史の流れ、あり方の把握を目指します。

【到達目標】

続日本紀の記事を数点取り上げ、史料へのアプローチの仕方を習得することができる。この授業を通して、奈良時代の基礎的な理解を身につけ、他の史料に対してもつねに興味を持って臨めるようになり、それを論理的に解析し正しい理解に到達できる技能を身につけられる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

取り上げた記事を糸口に、その背後にある問題点を探り出し検証していきます。講義ですが、聴いているだけでは話が耳を通り抜けていきますから、問題意識をもって授業に取り組むことが必要です。授業を聴いて問題意識をもった後、参考書等をあらためて読み直すと新しい理解が見えてきます。就職活動や教育実習等あるでしょうが、十分な聴講（もちろん遅刻は含まず）が最低限の必須条件です。心して下さい。質問がある場合は、授業後に対応します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	続日本紀とはどのような史料か？
第 2 回	天平二年の太政官奏（1）	天平二年六月甲寅朔条の紹介
第 3 回	天平二年の太政官奏（2）	続日本紀の3つのテキスト
第 4 回	天平二年の太政官奏（3）	わずか 31 文字の史料の“奥行”
第 5 回	慶雲元年の公解銀（1）	慶雲元年七月庚子条の紹介
第 6 回	慶雲元年の公解銀（2）	公解銀から見えてくるもの
第 7 回	左右京尹の設置（1）	天平宝字五年二月丙辰朔条の紹介
第 8 回	左右京尹の設置（2）	左右京尹に対する理解
第 9 回	左右京尹の設置（3）	左右京尹の新たな性格分析
第 10 回	紫微内相と兵権（1）	天平宝字元年五月丁卯条の紹介
第 11 回	紫微内相と兵権（2）	紫微内相の性格分析
第 12 回	奈良から平安へ	藤原仲麻呂政権の評価
第 13 回	税司主鑑（1）	大宝二年二月乙丑条の紹介
第 14 回	税司主鑑（2）	大宝令施行直後の地方政治

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

取り上げた記事を含む意味を理解するためには、それぞれの記事に現れた事象の時代背景を知る必要があります。そのためには、どれでもいいですから参考書（奈良時代該当巻）を読んでみて下さい。著者の理解・興味関心によって内容はぜひぶん違います。

この講義では、現在の通説的理解がいかに不十分（言葉足らず）かということを書いていきます。それを確認するためにも参考書（該当巻）を読んでおいて下さい。

この講義の準備・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に定めません。授業に必要な史料はプリントして配布します。

【参考書】

岩波書店・新日本古典文学大系『続日本紀』が基本です。他に平凡社『続日本紀』、現代思潮社『続日本紀』があります。一般啓蒙書として、中央公論社（文庫）・小学館（文庫）・集英社・講談社（文庫）から出版された『日本の歴史』や、吉川弘文館の『日本の時代史』・『日本古代の歴史』、東京大学出版会の『日本史講座』、岩波新書『シリーズ日本の古代史』、『岩波講座日本歴史』の該当巻があります。

【成績評価の方法と基準】

平常点とレポートで評価します。基準は平常点 30 %、レポート 70 % です。レポートで取り上げるテーマは学生各人で選んでよいことにしていますが、どのようなテーマを選んでも授業の理解の度合いはおのずとレポートの内容にあらわれます。

【学生の意見等からの気づき】

板書は教師の書いたものをただ写すだけでは身につけません。人物名・事象名・年号や学術用語などのキーワードを書きますから、それらも含めて、自分で工夫して自分なりのノートを作って下さい。 ”自分で考える” がキーポイントです。

【担当教員の専門分野等】

〈専門領域〉 日本古代政治史
 〈研究テーマ〉 日本古代の皇権と官制
 〈主要研究業績〉

『律令国家官制の研究』（吉川弘文館）

『平城天皇』（吉川弘文館）

『皇位継承 歴史をふりかえり変化を見定める』（共著、山川出版社）

『（謀反）の古代史 平安朝の政治改革』（吉川弘文館）

【Outline (in English)】

This lecture is attended under the heading of “The world of Shokunihongi”. This course introduces “shokunihongi” and the way of wrestle Japanese history to students taking this course. By the end of the course, students should be able to understand how to make a new approach to problems. Before/after each class meetings, students will be expected to spend four hours to read one of reference books introduced to tell the difference between it and my lecture. Grading will be decided based on term-end report(70%) and usual contribution(30%).

HIS300BE

日本近世史科学 I

松本 剣志郎

授業コード：A3124 | 曜日・時限：月 2/Mon.2

春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：2～4 年

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

近世史研究において、くずし字の読解能力を身につけていることは、研究の幅を大きく広げると同時に、学問をより深めるものとなる。本授業は、基礎的な読解能力を養成することを目的とする。あわせて基本的な近世文書の種類を覚えていってもらいたい。

【到達目標】

- ①くずし字の読解能力を身につける。
- ②基本的な近世文書の種類を覚える。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

講義と演習を併用するかたちをとる。古文書のコピー Hoppii にアップするので、まずは自力で読解に取り組む（教室でプリントは配布しない）。授業時に割り当てるので、学生はこれを板書し、答え合わせをする。教師は当該古文書について解説する（課題に対するフィードバック）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	くずし字の辞典について
第 2 回	古文書読解入門	近世史科学講義
第 3 回	検地帳読解（1）	数字を覚えよう
第 4 回	検地帳読解（2）	単位を覚えよう
第 5 回	武家屋敷組合名簿読解（1）	名前を覚えよう
第 6 回	武家屋敷組合名簿読解（2）	通称を覚えよう
第 7 回	領地宛行状読解	大名家領の安堵
第 8 回	年貢割付状読解	年貢請求書
第 9 回	年貢皆済目録読解	年貢領取書
第 10 回	宗門人別改帳読解	江戸時代の家族
第 11 回	五人組帳前書読解	百姓への規制
第 12 回	変体仮名読解	俳句をよむ
第 13 回	金子借用証文読解	年貢滞納
第 14 回	試験とまとめ	解説とも

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に、配布された古文書のコピーを辞書を引きながら予習すること。事後には、読めなかった字を必ず復習すること。とにかく古文書をながめる時間をたくさんとること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

なし。

【参考書】

『新編古文書読解辞典』（柏書房）
『くずし字用例辞典』（東京堂出版）など
辞書は必須。毎回持参のこと。

【成績評価の方法と基準】

期末試験（90 %）、平常点（10 %）

【学生の意見等からの気づき】

まずは自分で辞書をひきながら読むことが大事です。

【その他の重要事項】

本授業担当者は学芸員の実務経験を有しており、古文書を中心とした史料の整理や活用に一定の実践経験をもつ。このことを活かして実際の古文書の取り扱いや保存管理等についての情報も織り交ぜながら授業を展開する。

【Outline (in English)】

This course deals with the historical documents of early modern Japan. It also enhances the development of student's skill in decipherment of cursive-style writing. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Your overall grade in the class will be decided based on the following Term-end examination: 90%, in class contribution: 10%.

HIS300BE

日本近世史科学Ⅱ

松本 剣志郎

授業コード：A3125 | 曜日・時限：月 2/Mon.2

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2～4 年

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

多様な近世史料の読解能力を養うことを目的とする。さまざまなくずし字を解読すると同時に、読解した史料の意味を理解することが重要となる。

【到達目標】

- ①くずし字を解読することができる。
- ②読解した史料の意味を理解することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

本授業は日本近世史科学Ⅰを履修済みであることを前提として授業を進める。Hoppii に古文書のコピーをアップするので、これにまずは自力で解読に取り組む。授業時に答え合わせし、教師は当該古文書について解説する（課題に対するフィードバック）。古文書解読の中級編として、近世の行政文書のほか、書状や発句など書体の異なる史料も対象とする。なお、近世ゼミの夏合宿で撮影した古文書をテキストとすることがある。また、現物古文書の整理作業を体験することもある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	発句読解	変体仮名
第 2 回	離縁状読解	三行半
第 3 回	触書読解（1）	ベリー来航
第 4 回	触書読解（2）	株仲間再興
第 5 回	武家文書読解（1）	御堀の管理
第 6 回	武家文書読解（2）	橋梁の管理
第 7 回	武家文書読解（3）	三方領地替（前半）
第 8 回	武家文書読解（4）	三方領知替（後半）
第 9 回	漢詩読解	七言絶句
第 10 回	書状読解（1）	松平容保書簡（前半）
第 11 回	書状読解（2）	松平容保書簡（後半）
第 12 回	日記読解（1）	自家年譜（前半）
第 13 回	日記読解（2）	自家年譜（後半）
第 14 回	試験とまとめ	解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に配布された古文書のコピーを、辞書を使って自力で読むこと。事後には、必ず復習すること。多くの古文書に触れることが重要である。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

なし。

【参考書】

『新編古文書解読字典』（柏書房）
『くずし字用例辞典』（東京堂出版）
辞書は必須。毎回持参のこと。

【成績評価の方法と基準】

期末試験（90 %）、平常点（10 %）

【学生の意見等からの気づき】

筆の動きをみるのが、古文書読解能力向上のためのポイントです。

【その他の重要事項】

本授業担当者は学芸員の実務経験を有しており、古文書を中心とした史料の整理や活用に一定の実践経験をもつ。このことを活かして実際の古文書の取り扱いや保存管理等についての情報も織り交ぜながら授業を展開する。

【Outline (in English)】

This course deals with the historical documents of early modern Japan. It also enhances the development of student's skill in decipherment of cursive-style writing. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Your overall grade in the class will be decided based on the following Term-end examination: 90%, in class contribution: 10%.

HIS300BE

日本近代史料学

内藤 一成

授業コード：A3126 | 曜日・時限：月 2/Mon.2

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2～4 年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本近代史研究では、数多くの、かつさまざまな史（資）料を駆使して議論を組み立てることが珍しくない。本授業では各種の史（資）料を取り上げ、それぞれの特色や限界を明らかにしていく。さらに自ら史料発掘やオーラルヒストリーに取り組むときの手順についても学ぶことで、実践的なスキルを磨く。これらの内容を通じて、日本の歴史史（資）料の特色の一端を窺うことができるようになる。

【到達目標】

①一次・二次史料の違いとそれぞれの特色を理解する。②公文書・私文書の違いとそれぞれの特色を理解する。③文字・非文字資料の違いと、それぞれの特色を理解する。①～③を総合し、近代史（資）料について基礎的な理解をはかる。また独自に史（資）料調査を行う際に必要となる知識を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式をとる。板書とパワーポイントを併用する。授業で使用する史（資）料は、学習支援システムを利用して配布する。史（資）料は授業時に音読したり、内容の検証を行う。状況が許せば学外で行う講義もある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり/Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	講義に関する全体の説明、注意点など
第 2 回	書簡研究（1）	近代の書簡の形態・書式等について
第 3 回	書簡研究（2）	近代の書簡の内容について（政治家の書簡を読む）
第 4 回	書簡研究（3）	近代の書簡の内容について（文化人の書簡を読む）
第 5 回	日記研究（1）	近代の日記の形態・書式等について
第 6 回	日記研究（2）	近代の日記の内容について（政治家の日記を読む）
第 7 回	日記研究（3）	近代の日記の内容について（文化人の日記を読む）
第 8 回	公文書研究	さまざまな公文書の特色について
第 9 回	新聞、雑誌、書籍の世界	新聞、雑誌や各種書籍といった活字資料の特色と歴史研究での活用法について学ぶ
第 10 回	史料調査の世界	史料調査の手順や注意点について学ぶ
第 11 回	オーラルヒストリーの世界	オーラルヒストリーとは何か、調査の手順、注意点について学ぶ
第 12 回	金石文の世界	金石文の特色について、フィールドワークとともに学ぶ
第 13 回	編纂史料の世界	翻刻された史料や伝記などの編纂物の特色について
第 14 回	まとめ 総括と質疑応答	講義全体のまとめ、質疑応答

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に配布する史（資）料には必ず目を通して置く。その際、読みや意味のわからない文字を調べ、さらに記された内容や、作成した人物についても予習しておく。授業後には内容を再確認することで、知識の定着をはかる。本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

テキストに使用する史（資）料は、学習支援システムにより事前に配布する。

【参考書】

五味文彦・杉森哲也編『日本史史料論』（放送大学教育振興会）、中村隆英・伊藤隆隆編『近代日本研究入門 [増補版]』（東京大学出版会）、佐々木隆「近代文書と政治史研究」（『日本の時代史 30 歴史と素材』吉川弘文館）、御厨貴編著『近現代日本を史料で読む』（中公新書）、『日記に読む近代日本』全 5 巻（吉川弘文館）、御厨貴編『オーラル・ヒストリーに何が出来るか』（岩波書店）

【成績評価の方法と基準】

平常点（40%）、期末試験（60%）をもとに総合的に評価する。期末試験はノート持ち込み可。なお、特別の事情がなく、授業への参加度が不良と判断された場合、あるいは期末試験を受けない場合には不合格の評価とする。

【学生の意見等からの気づき】

クエスチョンタイムに相当する時間を適宜設けるなどして、授業理解が得られるよう努める。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムの利用が可能な IT 機器

【その他の重要事項】

- ・「日本近代史」（春学期）との継続履修を推奨する。
- ・大学院における学部合同科目（「日本近代史研究」Ⅱ）である。
- ・やむを得ない事情により授業を欠席する場合（介護体験実習、教育実習など）には、その事情を証明する文書を提出すること。新型コロナウイルス感染防止策として教室での対面授業を行わない場合には、授業内容を変更することがある。
- ・授業に関連する連絡は、学習支援システムの「お知らせ」サイトや、「授業内掲示板」サイトを利用して行うので、見落とさないようにすること。
- ・担当教員への直接連絡にはメールを利用すること。担当教員のメールアドレスは、学習支援システムに掲載する。

【Outline (in English)】

【Course outline】

In this course, I will explain the characteristics and limitations of each of the various modern Japanese historical materials while analyzing them in detail. I will also teach you the steps to discover historical sources and conduct oral history research yourself. Through the lessons, you will gain basic knowledge and understanding of historical materials.

【Learning Objectives】

The goal of this course is to recognize the characteristics of various historical materials and to acquire the professional abilities necessary for documentary research.

【Learning activities outside of classroom】

Students should read the materials distributed in advance. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

【Grading Criteria /Policy】

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination: 60%, in class contribution: 40%

HIS300BE

日本現代史料学

劉 傑

授業コード：A3127 | 曜日・時限：金 2/Fri.2

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2～4 年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代史料の探し方、読み方を学び、史料のなかの日本外交を考える。具体的には、外交記録、日記、手紙、報告書、回想録など多様な史料の調査法、利用法などを習得する。

昭和 12 年、日本と中国は全面戦争に突入する。戦争の拡大と平行して展開された外交は、戦争そのものだけでなく、戦後日本のあり方にも大きな影響を与えた。外交官の対外認識と外交手法が日本の対外関係を何をもたらしたのか。戦争の時代における外交の可能性について考える。

戦後の日本外交は対米関係を軸に展開され、日本は直接戦争に巻き込まれることなく今日の繁栄を築きあげた。戦後日本の政治家と外交官の外交理念を辿りながら、平和な国際環境を創出するための日本外交の戦後史を学ぶ。

【到達目標】

近現代の日本外交に関連する記録を解説し、近現代日本外交の特徴や、外交政策に影響する諸要素を史料のなかから読み解く方法を身に付けることができる。

史料の探し方、史料批判の方法、史料利用の方法などについて検討し、多様な史料を手がかりに、日本とアジア、世界とのかかわりかたを理解する。

また、討論を通じて、世界の中の日本を理解し、「日本」を対外発信する能力も身に付けていきたい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

講義と討論を併用する形式で授業を行う。講義内容に合わせて、関係史料を読む。必要に応じて、映像資料なども用いる。講義後の討論のなかで、歴史を理解するための問題点を発見し、歴史を「解説」する方法を学んでいく。授業中の質問に対しては、討論の中で答えることとし、提出課題に対しては、授業中に解説を加えるなど、フィードバックを実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	昭和史研究と史料	昭和期史料の特徴を概観する。
第 2 回	史料で学ぶ日中戦争と外交 (1)	史料を読み、日中戦争中の「和平工作」を考える。
第 3 回	史料で学ぶ日中戦争と外交 (2)	「近衛声明」の意味とその影響について討論する。
第 4 回	史料で学ぶ外交官と戦争 (1)	外交官の日記を読み、その史料価値を考える。
第 5 回	史料で学ぶ外交官と戦争 (2)	外交官の報告を読み、その影響について分析する。
第 6 回	史料で学ぶ太平洋戦争下の外交 (1)	開戦をめぐる諸問題を外交官の報告で考える。
第 7 回	史料で学ぶ太平洋戦争下の外交 (2)	対中外交を軍人の報告書で読む。
第 8 回	史料で学ぶ太平洋戦争下の外交 (3)	占領地政権問題を日記で考える。
第 9 回	史料で学ぶ終戦外交 (1)	陸軍の終戦構想を記録で検証する。
第 10 回	史料で学ぶ終戦外交 (2)	外交記録で終戦を読む。
第 11 回	史料で学ぶ冷戦下の日本外交 (1)	メディアのあり方と冷戦について討論する。
第 12 回	史料で学ぶ冷戦下の日本外交 (2)	中国、台湾の公的文書をよみ、日本のアジア外交を考える。
第 13 回	史料で学ぶ日中国交回復とアジア外交の新展開	日中両国の史料を読み、日中関係の特質について討論する。
第 14 回	試験・まとめと解説：近代日本のアジア外交	日中の新聞記事を分析し、日本のアジア外交を総括する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

指定された参考書を授業の前後に読むこと。
配布史料を授業後に熟読すること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

講義にあたって、関連史料を配布する。

【参考書】

その他の参考図書などは、講義の進行に応じて紹介するが、手元に以下の数冊を用意しておくとう便利であろう。
箕原俊洋・奈良岡聡智『ハンドブック近代日本外交史：黒船来航から占領期まで』（ミネルヴァ書房（2016 年）

井上寿一『日本外交史講義』（岩波書店、2003 年）

増田弘・佐藤晋『新版日本外交史ハンドブック——解説と資料——』（有信堂、2007 年）

川島真・服部龍二『東アジア国際政治史』（名古屋大学出版会、2007 年）

劉傑・三谷博・楊大慶『国境を越える歴史認識』（東京大学出版会、2006 年）

劉傑・川島真『1945 年の歴史認識』（東京大学出版会、2009 年）

劉傑・川島真『対立と共存の歴史認識』（東京大学出版会、2013 年）

【成績評価の方法と基準】

毎回授業時間内に討論か、小レポート課題を完成していただく。学期末にこれを参考にし（50%）、試験（50%）とともに成績評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】

講義の詳細な内容を板書するか、パワーポイントなどを利用するなど、履修者によりよく内容を理解してもらおうように努める。

【学生が準備すべき機器他】

パソコンなどの通信機器。

【その他の重要事項】

新型コロナウイルス感染防止対策として、Web 学習支援システムなどを利用する。授業方式や課題などを見落とさないように注意し、指示にしたがって学習を行ってください。

【Outline (in English)】

In this lesson, we will learn how to research and read historical materials of the modern history of Japan. Also, think about Japanese diplomacy in historical materials.

Specifically, we will learn how to find and analyze documents such as diplomatic records, diaries, letters, reports, memoirs.

In 1937, Japan and China started a general war. The diplomatic negotiations between Japan and China had a great influence not only on the war itself but also on the way of Japan after the war. We will discuss how did diplomats' perceptions and diplomatic approaches influence China-Japan relations? And think about the possibility of diplomacy in the era of war.

The goals of this course are to learn how to read the archives on domestic and foreign policy and understand the path that modern Japan has taken. Students will also understand the characteristics of diplomacy, the relationship between domestic and foreign policy, and the various factors that influence foreign policy.

Students will be expected to read the assigned reference books before and after class meetings. It is important to review the distributed historical materials. Your study time will be more than four hours for a class.

Your overall grade in the class will be decided based on the following :
Term-end examination: 50%、Short reports :30%、in class contribution: 20%.

HIS200BE

東洋古代史

飯尾 秀幸

授業コード：A3135 | 曜日・時限：月 2/Mon.2

春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：2～4 年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「家族」は、人類の誕生とともに居住単位・婚姻単位・経済単位として存在するが、歴史の各段階においてそれは変遷する。この授業においては、文化人類学・考古学の成果に学びつつ、婚姻単位としての家族が如何なる構造をもつものであったのかを中国古代史を対象として考える。

【到達目標】

家族とは、いかなるものかを 19 世紀～20 世紀における文化人類学の展開から理解し、説明できる。
また、集落・家屋といった考古学的研究の成果をどのように歴史学に取り入れるかを習得することができる。
史料の扱い方（漢籍と甲骨文字・青銅器銘文など）に精通することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式

文化人類学の調査などを参考に、歴史学において家族をどう捉えたらよいかを考え、中国の新石器時代における家族を、とくに婚姻単位としての家族という観点から位置づける。

現代の家族問題と比較して、受講生自身の問題意識を高め議論を深めていきたい。

なおリアクションペーパー・質問や課題について、その代表的なものを紹介し機会を設けて更なる説明を加えることとする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	歴史学における空間（地域）を考える。	n 地域論を理解し、具体的に地域間の諸関係を考える。
第 2 回	歴史学における時間（時代区分論）を考える。	時代区分論を理解し、具体的に時代の画期を提示し、その変化の意味を考える。
第 3 回	核家族のイメージの再考	モン族（中国南部）、モン族（ヴェトナム北部）の集落構造・婚姻制度から歴史的家族を考える。
第 4 回	婚姻単位としての家族を考える。	文化人類学における家族の方法論から家族論を検討する。
第 5 回	経済単位としての家族を考える	社会経済史の議論から家族論を考える
第 6 回	歴史学が考える家族の成立と社会・国家との関係を検討する。	婚姻単位・経済単位としての家族が居住単位としての家族に合一することを家族の成立と定義する意味を考える。
第 7 回	国家と社会・家族の理論的展開を概観する。	社会と家族が国家支配と如何なる関係にあるのかを検討する。
第 8 回	中国考古学の成果、検討する。	中国文明の地域的多様性を考える。
第 9 回	姜寨遺跡の紹介	発掘された紀元前 4500 年ころの一つの集落の構造を考える。
第 10 回	ボロロ族の集落構造	レヴィ・ストロースの調査に基づいて、ブラジルのボロロ族の集落構造・婚姻制度を紹介する。
第 11 回	姜寨遺跡からみた集落構造の意味	ボロロ族を参考に、仰韶文化期の集落構造を考える。
第 12 回	半坡遺跡、その他の仰韶文化期の遺跡の紹介	仰韶文化期のその他の遺跡から集落構造、婚姻制度を考える。
第 13 回	竜山文化期以降の集落遺跡の紹介と「家族」成立前史	新石器時代後半の集落と家屋の状況を考える。
第 14 回	春学期のまとめ・解説	歴史学、文化人類学での家族の扱い方をまとめる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

中国古代史をテーマとした概説書を読むことを予習として、知識を得てください。また授業中で歴史学、文化人類学などの研究書を紹介いたしますので、参照してください。とくに興味を引くテーマには積極的に検索して書物のありかを確認して調べていただきたい。

予習・復習は、講義 1 回につき 4 時間を標準とします。

また絶えず、現在の家族について考えることを望みます。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用せず、資料を配布します。

【参考書】

飯尾秀幸『中国史のなかの家族』（山川出版社、2008）

【成績評価の方法と基準】

毎回、学習支援システムの課題欄に提出された 200 字程度の小レポート、および回数提出を課すレポート（600 字）で評価する。前者・後者をそれぞれ 50 % とする。

【学生の意見等からの気づき】

分かりやすく説明することと心がけます。

【その他の重要事項】

質問は、授業中に原則として受けます。また学習支援システムの「お知らせ」欄に E メールアドレスを提示しますので、いつでもメールで質問してください。

【Outline (in English)】

This course introduces about the formation of the family in ancient China.

The aim of this course is to help students acquire an understanding of the family history, family styles and the establishment of family in Chinese ancient times.

The goals of this course are to learning about the formation of the family in ancient China and understanding how to handle historical materials. Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on the following.

term-end examination:80% , in class contribution: 20%

HIS200BE

東洋中世史

宇都宮 美生

授業コード：A3136 | 曜日・時限：木 4/Thu.4

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2～4 年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

人の生活に不可欠な水を通して、中国が水問題に対してどのように対処したのか、水をどのように有効利用したのかをみていく。これにより、近年頻発する日本の水害についても考えていきたい。

【到達目標】

水に関する中国人の活動に対し、それを生み出した要因と背景、それによる影響と発展について理解する。また具体的事例を通して、文献史料だけでなく文物、遺構、古地図などを併用した研究の方法、分析および考察について実践的テクニクを身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

授業ではパワーポイントで概要を説明するので、各自ノートに必要事項を記入し、説明を記録する。文献、地図、写真、絵、表などの資料の使い方を学習する。また、与えられた資料を使って、分析する方法を学ぶ。学生からの質問に関しては授業中随時受け付け、学習内容に対するフィードバックも行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	水問題	水問題と学習の意義
第2回	河川史1	黄河
第3回	河川史2	長江
第4回	河川史3	渭水
第5回	河川史4	洛水
第6回	運河史1	運河の構造
第7回	運河史2	運河の発展
第8回	穀倉	穀物の運搬と保管
第9回	船舶史	船舶の種類と発展
第10回	水軍史	水上の軍事行動
第11回	農業史	灌漑と水車
第12回	庭園1	庭園の種類と発展
第13回	庭園2	皇室庭園
第14回	水害	災害と防災

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内で資料、論文等を配布もしくは指示するので、それを読んでおく。また、質疑応答により確認をし、理解度を高める。授業後は、各自参考書等により補足する。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特になし。資料については配布するが、レジュメは配布しない。

【参考書】

愛宕元・富谷至編『中国の歴史 上・下』昭和堂、2009年改訂版
富谷至・森田憲司編『中国の歴史 上・下』昭和堂、2016年改訂版
『中国の歴史（全集叢書）』講談社、2005年
その他、随時紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（30%）と筆記試験（70%、事前に問題を知らせる）

【学生の意見等からの気づき】

この授業では自分で書くことにより、「自分のノート」を作ってもらいたいので、写真撮影を禁じる。

【学生が準備すべき機器他】

色鉛筆（あれば青色）：作業をしてもらう。

【その他の重要事項】

特になし

【Outline (in English)】

This course introduces an understanding of Chinese history in respect to various issues on water. The aim of this course is to help students acquire an importance of water in life, city, military affairs, agriculture, culture and diplomacy.

Learning Objectives: The goal of this course is to understand the flow of Chinese history, the factors and backgrounds that created the historical facts, their influence and development, and the mutual influence and international relations with the surrounding areas.

Learning activities outside of classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading Criteria/Policies: Your overall grade in the class will be decided based on assignments at each class meeting (30%) and term-end examination(70%).

HIS200BE

西洋古代史

内田 康太

授業コード：A3143 | 曜日・時限：金 3/Fri.3
 春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：2～4 年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

古代ローマ史に関する諸問題のうち、「共和政期（前 6 世紀～前 1 世紀）における公職選挙」を取り上げる。共和政ローマの運営を支えた公職選挙のしくみを制度と実態の両面から分析することで、その支配構造の特質について学ぶ。

【到達目標】

到達目標は以下のとおり。
 ・共和政ローマにおける公職選挙について基礎的知識を習得する。
 ・一次資料の扱い方を習得し、公職者の選出に対する民衆の影響力について自ら考察できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は講義形式で行うが、第 12 回・第 13 回は受講生によるディスカッションを組み入れる。講義形式の授業については、授業時間内に質疑応答の機会を設けるとともに、適宜リアクションペーパーを提出してもらうことで、受講生の理解度、関心事項、疑問点等を確認しながら授業を進めていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	ローマ共和政と公職選挙
第 2 回	公職のしくみ	諸公職の機能と公職階梯（クルスス・ホノーラム）
第 3 回	公職選挙のしくみ（1）	トリプス民会／平民会
第 4 回	公職選挙のしくみ（2）	ケントゥリア民会
第 5 回	クリエンテラ	庇護する者（パトロヌス）と庇護される者（クリエンス）
第 6 回	選挙運動（1）	固定票の保持をめぐる
第 7 回	選挙運動（2）	浮動票の獲得をめぐる
第 8 回	選挙不正	賄賂の分配とその効果
第 9 回	対立候補	共和政末期（前 1 世紀）における競争の激化と票の分散
第 10 回	秘密投票	導入の経緯とその効果
第 11 回	優先投票	優先投票ケントゥリア（ケントゥリア・プラエロガティエウァ）の役割
第 12 回	投票者（1）	だれが投票したのか？
第 13 回	投票者（2）	どのように投票したのか？
第 14 回	試験・まとめと解説	到達度の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。参考書として挙げた書籍などを用いて、自主的に学習することが求められる。

【テキスト（教科書）】

特になし。担当教員が作成したレジュメ・資料を配布する。

【参考書】

エルンスト・マイヤー『ローマ人の国家と国家思想』（鈴木一州訳）、岩波書店、1978 年。
 島田誠『世界史リブレット 3 古代ローマの市民社会』、山川出版社、1997 年。
 長谷川岳男／樋脇博敏『古代ローマを知る事典』、東京堂出版、2004 年。

【成績評価の方法と基準】

期末の筆記試験（80 %）
 リアクションペーパーや質問等、授業への積極的参加度（20 %）

【学生の意見等からの気づき】

本年度新規担当のためフィードバックできない。

【Outline (in English)】

Course outline: This course deals with the issue of elections in the Roman Republic (6-1 century B.C.). Analyzing it from both institutional and practical aspects, it helps students learn the characteristics of governance in this ancient polity.

Learning Objectives: The followings are the goals of this course.

- Students are able to acquire fundamental knowledge concerning elections in the Roman Republic.
- Using primary sources properly, students are able to estimate the influence of the people over the outcome of elections.

Learning activities outside of classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. They are required to read relevant books, such as those listed in the reference section, and learn by themselves.

Grading Criteria: Grading will be decided based on term-end examination (80%) and in-class contribution (20%).

HIS200BE

西洋中世史

大貫 俊夫

授業コード：A3144 | 曜日・時限：水 1/Wed.1

春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：2～4 年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は、ヨーロッパ中世社会においてシトー会が果たした役割とその意義を包括的に論じるものである。シトー会は 1098 年にフランス・ブルゴーニュ地方に創建されたシトー修道院を母体とし、12 世紀を通じて爆発的に拡大した修道会である。ベネディクト戒律を遵守する修道士は、理念としては禁域内で祈りの生活を送るものとされたが、実態としては農村・都市の別なく様々な領域で社会と接触し、社会の構成要素として不可欠の役割を果たしていた。講義では毎回、そうした様相を最新の研究と具体的な史料によってわかりやすく提示していきたい。

【到達目標】

1. ヨーロッパ中世史に関する基礎的知識を習得する。
2. シトー会を通じてキリスト教修道制がヨーロッパ中世社会に及ぼした影響を考察する。
3. 社会の各領域の変化が相互に関連していることを知る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

事前学習は特に求めないが、授業で扱った内容はその都度プリントを見返し、参考文献を読むことで理解を定着させること。リアクションペーパーへのフィードバックは授業内で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	本講義の目的と概要について説明します。
第 2 回	キリスト教修道制とは何か	キリスト教修道制とは何かについて論じます。
第 3 回	シトー会の成立とその問題 (1)	シトー会の成立とその問題について論じます。
第 4 回	シトー会の成立とその問題 (2)	シトー会の成立とその問題について論じます。
第 5 回	修道会としてのガバナンス	修道会としてのガバナンスについて論じます。
第 6 回	クレルヴォーのベルナルとシトー会の拡大	クレルヴォーのベルナルとシトー会の拡大について論じます。
第 7 回	シトー会修道院での修道生活	シトー会修道院での修道生活について論じます。
第 8 回	シトー会修道院と教会権力	シトー会修道院と教会権力の関係について論じます。
第 9 回	シトー会修道院と世俗権力	シトー会修道院と世俗権力の関係について論じます。
第 10 回	シトー会修道院とグランギア	シトー会修道院が経営する所領（グランギア）について論じます。
第 11 回	シトー会修道院と農村社会の関係	シトー会修道院と農村社会の関係について論じます。
第 12 回	シトー会修道院と都市社会の関係	シトー会修道院と都市社会の関係について論じます。
第 13 回	シトー会と司牧	シトー会と司牧の関係について論じます。
第 14 回	シトー会と女性	シトー会と女性の関係について論じます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

復習：授業内容を振り返る。

本授業の復習時間は 1 回あたり 4 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用せず、授業でプリントを配布する。

【参考書】

杉崎泰一郎『修道院の歴史』（創元社、2015 年）

K. S. フランク『修道院の歴史』（教文館、2002 年）

ルイス・J. レッカイ『シトー会修道院』（平凡社、1989 年）

【成績評価の方法と基準】

期末レポート（80%）

中間課題（20%）

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

特になし

【Outline (in English)】

Course outline:

This lecture will discuss the role and significance of the Cistercian Order in European medieval society.

Learning Objectives:

The goals of this course are to understand the Cistercian Order in European medieval society, and consider the interrelationship between monasticism and secular social life.

Learning activities outside of classroom:

Students should consolidate their understanding of the course content by reviewing the handouts and reading the bibliography.

Grading Criteria/Policy:

Short reports: 20%, Term-end report: 80%

HIS200BE

西洋近代史

島田 顕

授業コード：A3145 | 曜日・時限：水 3/Wed.3

春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：2～4 年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現在の国際情勢を理解するうえで、欠かすことのできないロシアの、近現代における政治・社会的発展を多面的に考察する。本講義では、ロシア帝国からロシア革命を経て第二次世界大戦に至るまでのロシア近現代史を概観する。

【到達目標】

ロシアの近代化過程を、主に政治・社会史の観点から検討し、さらにロシアの近代化がその後の政治・社会、国際関係・国際社会に与えた様々な影響を理解する。ロシアという国家の歴史的に積み重ねられてきた特徴を理解し、他国と比較・考察する視角を習得するとともに、ロシア近現代史の経験を近代世界全体の中に位置づける作業を通じて、現代の国際関係・国際社会における問題を考える土台とすること。本講義で身につけた知識をもとに、現代の国際関係・国際社会における問題を現在だけでなく、将来においても自分自身で考え、主体的に学び続けるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

まずロシアの非西欧的特質について触れる。つづいて、ロシアが近代化の過程の中で得たもの（資本主義的生産、市民社会）、また前近代の克服（農奴制、共同体）の過程、社会主義思想の受容と独自の運動の展開を紹介する。第一次世界大戦から第二次世界大戦にかけての国際社会の動きのなかで、ロシアが果たした役割、ロシアの行動の影響について概括する。

関連のビデオ教材も使用する。
講義レジュメは、学習支援システム Hoppii を通じてあらかじめ配布する。受講生はレジュメをダウンロードし、講義中に利用できるようにしておくこと。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス、近代とは何か	近代とは何かを概観する。
第 2 回	ロシアの非西欧的性格	ロシアの非西欧的性格を概観する。
第 3 回	共同体・農奴制と農奴解放	ロシアの農村共同体と農奴制、農奴解放について概観する。
第 4 回	社会主義・共産主義とは何か	社会主義の系譜、インタナショナル、空想的社会主義と科学的社会主義、社会主義と共産主義の違いについて概観する。
第 5 回	ロシアの革命思想とロシアの社会主義運動	ロシアの革命思想とロシアの社会主義運動、特にナロードニキとロシア・マルクス主義について概観する。
第 6 回	帝国主義と第一次世界大戦	ロシアの資本主義の発展、帝国主義的進出、第一次世界大戦におけるロシアの動きについて概観する。
第 7 回	レーニンとロシア革命	ロシア革命と内戦・干渉戦争、ロシア革命以降のソ連の状況について概観する。
第 8 回	革命後のロシアと世界	レーニンの死からスターリン主義化までのロシアの動きについて概観する。
第 9 回	ロシア革命以降のソ連外交	戦間期ソ連外交について概観する。
第 10 回	コミンテルン	コミンテルンと人民戦線戦術、ソ連外交との関連について概観する。
第 11 回	スターリン主義と大粛清	スターリンの独裁と大粛清について概観する。
第 12 回	リトヴィノフと集団安全保障外交	リトヴィノフと集団安全保障外交、そしてその終焉、独ソ不可侵条約までのソ連の動きを概観する。
第 13 回	第二次世界大戦とソ連・ロシア	第二次世界大戦でやったこと、ソ芬戦争、ポーランド分割、カチンの森事件、シベリア抑留、戦後復興を概観する。
第 14 回	まとめ：冷戦と社会主義体制の強化	これまでの講義の流れをまとめ、戦後冷戦期におけるソ連の動き、さらにポスト冷戦期の動きを概観する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

プリントを読み、わからない語句等を参考書、インターネット等で調べておくこと。

講義の際に提示する課題に取り組み、復習や準備学習を行う。本講義の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

授業中、もしくはプリントにおいて全体に対するフィードバックを行う。また各講義開始前、もしくは終了後に質問を受けつける。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。配布する資料プリントを使用する。

【参考書】

参考文献は随時講義中に提示する。

【成績評価の方法と基準】

講義中に課する課題の提出（60%）と学期末定期試験（40%）により総合的に評価する。

なお成績評価の割合（%）は一応の目安であり、詳細は受講状況を見ながら講義中に提示する。受講者の学習意欲、積極性を大いに評価するので、任意のレポート、講義・ビデオの感想等を歓迎する。講義中の携帯と私話を禁止する。

単位認定には定期試験の受験を要件とする。定期試験期間中の試験となるため、試験日に受験できるようにすること。

7 回以上の欠席、課題 7 回以上の未提出は定期試験受験資格を失うものとする。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【Outline (in English)】

(Course outline)

In order to understand the current international situation, we will study the political and social development of Russia in modern times from various perspectives. This lecture provides an overview of the modern history of Russia, from the Russian Empire through the Russian Revolution to World War II.

(Learning activities outside of classroom)

Read the handouts and look up any words or phrases you do not understand in reference books or on the Internet.

Work on the assignments presented in the lectures, review and prepare for them. The standard time for preparation and review for this lecture is 2 hours each.

(Grading Criteria/Policy)

Comprehensive evaluation is based on the submission of assignments given during lectures (60%) and final examinations at the end of the semester (40%).

Note that the grade evaluation ratio (%) is only a guideline, and details will be presented during the lecture while observing the attendance status. We highly value the willingness and enthusiasm of the students to learn, so we welcome any reports, impressions of the lectures and videos, etc. Mobile phones and private conversations are prohibited during lectures.

Taking regular exams is a requirement for credit certification. Since the exam will be held during the regular exam period, please be prepared to take the exam on the exam date.

If you are absent 7 or more times and do not submit 7 or more assignments, you will lose your eligibility to take the regular examination.

HIS200BE

西洋現代史

古川 高子

授業コード：A3146 | 曜日・時限：月 2/Mon.2

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2～4 年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

歴史的考察力を養い、現代世界で生じている様々な事件や事柄を理解するために、国民国家、国民、民族、地域という視点から歴史を学ぶ。

【到達目標】

西洋近現代史において扱われる国民国家、国民、民族、地域といった概念で示される事象が具体的にどのようなものだったのか、またどのような意味を持っていたのかを理解する。そして、国民国家の形成とその変遷や地球全体にまたがる人の移動等の歴史の変容過程を学ぶことで、現在の新自由主義時代に生じている諸問題の端緒を把握する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

・国民、国民国家、自由主義、国民主義、帝国主義、ファシズム等の諸概念に関する歴史学上の議論を紹介するとともに、西洋諸国が支配した地域における問題も含めた近現代史の諸事象を国民や民族、地域といった視点で考察する。授業は講義を中心に進める。

・講義のレジュメは、前日までに学習支援システムを通じて配布するので、各自プリントアウトして、授業にそれを利用すること。

・講義において疑問に感じたことについては授業の最後の時間に質問時間を設けるのでそこで行うこと。時間不足で解答できなかった質問については学習支援システムを通じて全員に回答する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	試験等の受け方、書評の行い方、註の付け方等の説明
第 2 回	国民国家の諸問題	ネイション概念、国民国家、ネイション・ナショナリズム研究の紹介、地域概念等の解説
第 3 回	フランス革命と国民	フランス革命の意味、フランス革命と植民地支配、女性にとってのフランス革命
第 4 回	産業革命・社会問題	資本と労働、階級形成、社会問題、社会主義の思想、1848 年革命、ウィーンの労働者街区
第 5 回	帝国主義の時代	帝国主義、米西戦争、南アフリカ戦争他
第 6 回	世界をマクロとミクロに把握する	近代化論、従属論、世界システム論、エトノスという把握の仕方
第 7 回	人の移動と世界	大都市の成立、新大陸、移民の世紀
第 8 回	ヴェルサイユ体制と国民国家の制度化	第一次世界大戦前のネイションとナショナリティ、ウィルソンの 14 箇条、マイノリティ保護
第 9 回	ファシズム時代の国民主義と国民的抵抗	世界各地のファシズム、世界恐慌、反ファシズム
第 10 回	アジア・アフリカ・ラテンアメリカ諸国 (1)	冷戦、アジア諸国の独立、アラブ地域の動向と中東戦争
第 11 回	アジア・アフリカ・ラテンアメリカ諸国 (2)	アフリカ諸国の独立、ラテンアメリカの動向
第 12 回	冷戦の時代	ヨーロッパにおける冷戦、国民国家体制の普遍化、冷戦国家
第 13 回	新自由主義の時代	新自由主義の成立、グローバル・サウス、新自由主義のヘゲモニー
第 14 回	試験、まとめ	授業内筆記試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内で指示する参考書をできるだけ読み、国民、国民国家、民族あるいは地域といった概念や事例の理解を深めること。本授業の予習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教科書は特に用いない。

【参考書】

参考書は授業中に適宜指示する。

但し、以下の参考書は本講義において重要なので可能な限り読んでおくこと。
・小沢弘明『東欧における地域とエトノス』歴史学研究会編『現代歴史学の成果と課題 II 1980-2000 年 国家像・社会像の変貌』（青木書店、2003）pp. 223-237.

・木畑洋一『二〇世紀の歴史』（岩波書店、2014）。

【成績評価の方法と基準】

・レポート（書評論文）を含む平常点（40 %）および筆記試験（60 %）による総合評価を行う。

【レポート（書評論文）】は、講義で示す参考書から各自の選好に従って、2 冊選んで読み、相互に結びつけながら書評を行った上で、評者=学生の意見まで入れたものとする。それを学習支援システムを通じて提出（提出時期は講義開始時に指示）。書評「論文」であることに注意せよ。

【筆記試験】は、ノート・レジュメのみ、持ち込み可の論述試験。授業で学んだ事柄について、多くの参考書を読んで理解を深め、論点を抜き出してノートにまとめておき、それをもとに筆記・レポート試験に臨むこと。試験当日に参考文献を読んでも間に合わない知識と思考力および論理力を試す試験を行うので、必ず参考書を読んでおくこと。試験は暗記したものを記すものではないので、文章を正しく、論理的に書く練習をしておくこと。

【注意】レポート（書評論文）において、参考文献を利用した場合は、かならず、出典（頁も含む）および引用註を付けること。剽窃が判明した場合は、全体の評価をしないので注意すること。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline (in English)】

【Goals of the course】

Studying history from the perspective of nation-states, nations, ethnic groups and areas. And enhancing the thinking ability and understanding the meanings and roles of various events in the world history of 19. and 20. century.

【Learning objectives and methods】

Introducing ideas and discussions about nations, nation-states, and ethnic groups. Including some case studies, examining events in world history from the viewpoint of nations, nation-states, and ethnic groups. Basically lectures, including answering questions.

【Learning activities outside of classroom】

Reading suggested books in the class to learn and understand historical concepts and events.

【Grading criteria/policy】

40 % from contributing through positive attitude in class and book reviews, 60% from a writing test with notes, reports and summary.

HIS200BE

考古学概論／考古学概論（資格）

古庄 浩明

授業コード：A3152, A3855 | 曜日・時限：月 2/Mon.2

春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：2～4 年

備考（履修条件等）：他学部公開制度のない学部の学生が履修する場合は資格科目用（A3855）で履修する。

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

歴史学研究を物質資料の検討によって実践する考古学について学ぶ。考古学の概要と方法に関する講義を通して、考古学の本質、関連諸科学との関係、学史的展開等を理解することを目標とし、物質文化から組み立てる広義の歴史像について考えることがテーマとなる。

【到達目標】

日本を中心とした考古学の学術的展開過程を解説できるようになる。
考古学的方法が発達する過程が理解できる。
考古学と関連諸科学との関係が理解できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

主に学史の観点から考古学の方法と考え方について理解するとともに、物質文化から組み立てる広義の歴史像について考える。

授業は講義形式で行う。状況によってはオンデマンド型の授業となる可能性もある。資料配布・課題提出・フィードバック等は学習支援システム等を利用する。具体的には、学習支援システムに課題を提出していただき、そのフィードバックは学習支援システムで各学生に返信する。質問及びそれに対する回答は授業中および学習支援システムを利用して行う。授業には資料も利用する。授業のプリントは「古庄浩明の講義ノート」(<https://wacoffee.blogspot.com/>)から各自ダウンロードして使用する。プロテクトを掛けてあり、プロテクトキーは授業で知らせる。毎回授業後に小レポートの提出を求める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	考古学とは何でしょう	考古学の定義
第 2 回	世界考古学の大まかな歴史	世界考古学史
第 3 回	日本考古学の大まかな歴史	日本考古学史
第 4 回	考古学の資料収集 1	遺跡の発見
第 5 回	考古学の資料収集 2	遺跡の発掘
第 6 回	何が残っているか	考古資料とその種類
第 7 回	時代決定法 1	層位学
第 8 回	時代決定法 2	型式学
第 9 回	科学的年代測定法	放射性炭素年代測定法 年輪年代測定法 磁気年代測定法
第 10 回	分布論 1	ミクロの研究
第 11 回	分布論 2	マクロの研究
第 12 回	製作技法	石器の製作技法 土器の製作技法
第 13 回	用途論 遺跡の保存	機能と用途 遺跡保存の実例 文化財保護
第 14 回	授業の総括	期末テスト 60 分

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日本考古学の発達史の内容を含んでいるため、教科書・参考書等をよく読み、考古学についての知見を深めておくこと。本授業の準備学習・復習時間は、各 4 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

古庄浩明 2021『第 2 版 考古学の世界－初めて考古学を勉強する方のために』三恵社
ISBN 978-4-86693-380-1 C1020 定価 1650 円（本体 1500 円＋税 10 %）

【参考書】

佐々木憲一ほか（2011）『はじめて学ぶ考古学』有斐閣アルマ、勅使河原彰（1995）『日本考古学の歩み』名著出版、岩波書店刊『岩波講座日本考古学』（全 9 巻）

【成績評価の方法と基準】

授業内の課題にもとづく小レポートによる評価を 50 % とし、期末試験による評価を 50 % とする。

【学生の意見等からの気づき】

プリント類を利用した解説、板書、映像投影など多様な方法を用いて講義するので、しっかりと対応すること。

【学生が準備すべき機器他】

ネット環境とデバイス（パソコン・スマホ・パッドなど）資料配布・課題提出等のために学習支援システム等を利用する。

【その他の重要事項】

本科目は資格課程の関連科目としても公開しており、史学科以外の受講者も受け入れているが、史学科の専門科目としての難易度を有する科目であるので、特に他学部・他学科の受講者は考古学に関する概説書等を読んでおくことを推奨する。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to learn about archeology research methods and history.

To be able to explain the process of academic development of archaeology, especially in Japan.

To be able to understand the process of development of archaeological methods.

To be able to understand the relationship between archaeology and related sciences.

Students will understand the methods and ideas of archaeology mainly from the perspective of academic history, and consider the broad historical picture that can be assembled from material culture.

The class will be conducted in a face-to-face lecture format. The class may be conducted on-demand depending on the situation. The distribution of materials, submission of assignments, feedback, etc. will be done through the learning support system and other means. Specifically, students will be asked to submit assignments to the Learning Support Office system, and feedback will be sent back to each student via the Learning Support System. Questions and answers to them will be given in class and via the learning support system. Materials will also be used in class. Students will be able to download and use class handouts from "Hiroaki Furusho's Lecture Notes" (<https://wacoffee.blogspot.com/>). They are protected, and the protection key will be provided in class.

Students will be asked to submit a small report after each class.

50% of the evaluation will be based on a short report based on in-class assignments, and 50% will be based on the final examination.

An internet environment and a terminal (computer, smart phone, pad, etc.) are required. I will use a learning support system or other means to distribute materials and submit assignments.

HIS200BE

史学概論／歴史思想（史学概論）

高澤 紀恵

授業コード：A3153, A2274 | 曜日・時限：木 1/Thu.1

春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

歴史学とはどのような学問なのだろうか。過去に向き合うことに、どのような意味があるのだろうか。そのために必要な作法は何だろうか。この授業は、東西の歴史家の営みに学びながらこうした問題と向き合い、歴史的思考を育み、自ら研究する基礎を獲得することを目標とする。授業の全体はA) 史学史篇とB) 実践篇にわけられる。この授業を通して、受講生は歴史学の方法論をめぐる書物を読み、報告し、議論することを期待されている。

【到達目標】

この授業は3つの目標掲げる。

- ①歴史学を専門に学ぶ上で必要な史学史的な基礎を理解する。
- ②歴史学が今、直面する課題について考える。
- ③歴史学を主体的に学ぶための技術を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

この授業は、報告、ディスカッション、講義の組み合わせで進める。受講生は、学期中に一回、設定した十のテーマから一つを選び、指定された文献を読んでレジュメを用意して報告をする。報告に基づいてグループ・ディスカッションを予定している。授業では、毎回、リアクション・ペーパーの提出を求める。フィードバックは、次回授業の冒頭に口頭で行う。最後に、本文4000字（+注、参考文献表）のレポートの提出を求める。交通機関の遅延など特別の事情がない限り、20分以上の遅刻は出席と認めない。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の概要の説明、テーマ毎グループ分け。
第2回	今、歴史学では？	ウクライナ戦争をめぐる議論から
第3回	歴史修正主義を考える	映画『否定と肯定』から歴史修正主義を考える。
第4回	史学史篇① 制度としての歴史学	制度としての歴史学が形成されるプロセスを学ぶ。
第5回	史学史篇② 日本における展開	日本において、日本史・東洋史・西洋史の三区分が生まれた経緯を考える。
第6回	史学史篇③ 戦後歴史学の挑戦	敗戦後の日本の社会科学と歴史学の展開を考える。
第7回	史学史篇④ アナルの挑戦	1970年代に日本に大きな影響を与えたアナルの挑戦について考える。
第8回	史学史篇⑤ 記憶と歴史	1980年代以降の記憶をめぐる議論について考える。
第9回	史学史篇⑥ 現代歴史学への「転回」	英語圏で展開した言語論的転回と新しい文化史について考える。
第10回	史学史篇⑦ グローバル・ターン？	グローバル化の進展に伴う観察尺度の変化を考える。
第11回	実践篇① 史料を読む	史料の探し方、読み方を学ぶ。
第12回	実践篇② 事実と解釈	歴史研究の現場から、事実と解釈について考える。
第13回	実践篇③ 歴史を書く	自分で歴史を書くために必要な作法を考える。
第14回	総括討論	これまでの学びを通して見えてきた論点を整理する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業ではグループ・ディスカッションを多用するので、課題テキストを読んだり、事前準備を求められることが多い。報告は、グループ報告となるので、他のメンバーと一緒に作業することになる。担当週に向けて集中して準備することになるが、平均すると各週の準備ならびに復習には週4時間を要する。

【テキスト（教科書）】

特に指定せず。適宜プリントなどを配布する。

【参考書】

- ・リン・ハント（長谷川貴彦訳）『なぜ歴史を学ぶのか』岩波書店、2019。
 - ・E.H. カー（近藤和彦訳）『歴史とは何か（新版）』岩波書店、2022。
 - ・ジョン・H・アーノルド『歴史』岩波書店、2003。ほか。
- 初めに参考文献表を配付する。

【成績評価の方法と基準】

授業での報告(40%) + レポート(60%)
レポートは本文4000字 + 脚注 + 参考文献表

【学生の意見等からの気づき】

毎回のグループ報告に際しては、学生から活発な質問が寄せられた。二年生から四年生まで、日本史、東洋史、西洋史の多様な分野を学ぶ学生から構成されていたことがよかったと思う。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを最大限利用するため、パソコンがあることが望ましい。

【Outline (in English)】

(Course outline and learning objectives)

What characterizes history as an academic discipline? What does it mean to confront the past? What skills and attitudes should we learn? This course aims to offer students opportunities to think about these problems through reading works of previous historians of the East and the West, nurture historical thinking, and acquire the ability to conduct historical research.

The course consists of two parts; the first treats historiography (A), and the second treats practical skills required in historical research (B). Students are expected to read, do presentations about, and discuss books and articles about historical methodology.

(Learning activities outside of the classroom)

Your study time will be more than four hours for a class.

(Grading Criteria)

Grading will be decided based on the students' presentation (40%) and the final report (60%).

HIS200BE

日本史特講 I

中山 学

授業コード：A3154 | 曜日・時限：水 3/Wed.3

春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：2～4 年

その他属性：〈優〉

(Learning Objectives)

Be able to explain the content of the drug distribution policy implemented in the middle of the 18th century and the factors behind it.

(Learning activities outside of classroom)

Preparation and review of teaching materials written in Japanese (56 hours)

(Grading Criteria /Policy)

Several reports submitted during the course:50%

Courde-end report:50%

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

18 世紀前期から中期にかけて、江戸幕府は支配の再強化を目的とした一連の政策を実施した。徳川吉宗（8 代将軍）の親裁によって実施された享保改革がそれである。当科目では、当時実施された政策うち、吉宗が特に意を注いだと考えられる医薬分野の政策に注目し、この政策が強力に推し進められた要因を考察する。近世日本が自己完結しえない世界の中に位置づいていたが故の政策展開であったという点に注視したい。

【到達目標】

享保改革期に実施された医薬政策の内容と実施要因を説明することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

史料を読み解きながら講義を行う。よって、史料読解を深めるために学習支援システムを利用してレポート学習を併用する。なお、質問や小レポート等へのフィードバックも、学習支援システムを介して実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	徳川吉宗の人物像 (1)	徳川吉宗の出自と将軍職就任の事情
第 2 回	徳川吉宗の人物像 (2)	吉宗の自覚-将軍家の正統性観念と救済の秩序-
第 3 回	徳川吉宗の人物像 (3)	吉宗の自覚-将軍家の正統性観念と救済の秩序 (続) -
第 4 回	徳川吉宗の人物像 (4)	吉宗の自覚-将軍家の正統性観念と救済の秩序 (続) -
第 5 回	享保改革期の医薬政策 (1)	政策実施の社会的背景（都市社会の形成と薬材需要の高まり）
第 6 回	享保改革期の医薬政策 (2)	特殊人材の採用と薬草調査
第 7 回	享保改革期の医薬政策 (3)	特殊人材の採用と薬草調査 (続)
第 8 回	享保改革期の医薬政策 (4)	和薬種改めの実施
第 9 回	享保改革期の医薬政策 (5)	和薬種改めの実施 (続)
第 10 回	享保改革期の医薬政策 (6)	和薬種改めの実施 (続)
第 11 回	医薬政策の展開要因 (1)	「にせ薬種」問題
第 12 回	医薬政策の展開要因 (2)	「にせ薬種」問題 (続)
第 13 回	医薬政策の展開要因 (3)	「にせ薬種」問題 (続)
第 14 回	医薬政策の展開要因 (4)	「にせ薬種」問題 (続) / 享保改革期医薬政策の歴史的意義

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習、復習、小レポートの作成等（56 時間）

【テキスト（教科書）】

特に指定しない（資料配付）

【参考書】

辻 達也『徳川吉宗』吉川弘文館（1985 年）
 安田 健『江戸諸国産物帳－丹羽正伯の人と仕事』晶文社（1987 年）
 田代和生『江戸時代 朝鮮薬材調査の研究』慶應義塾大学出版会（1999 年）
 新村 拓『日本医療史』吉川弘文館（2006 年）

【成績評価の方法と基準】

小レポート（50 %）、期末レポート（50 %）

【学生の意見等からの気づき】

史料読解の際には現代語訳（意識）を行い、学生側の史料の内容把握を補助する。

【学生が準備すべき機器他】

教材配付や課題提出のために学習支援システムを使用する。よって各自インターネットの使用を前提としたパソコンまたはタブレットを準備すること。

【その他の重要事項】

テーマ関連科目：日本史特講IV

【Outline (in English)】

(Course outline)

From the early to mid 18th century, the Edo Shogunate implemented a series of policies aimed at re-strengthening of dominance.

In this course, we will focus on the policy on drug distribution that Shogun Yoshimune Tokugawa showed enthusiasm among the policies implemented at that time, and consider the factors that strongly promoted this policy.

HIS200BE

日本史特講Ⅱ

大塚 紀弘

授業コード：A3155 | 曜日・時限：金 4/Fri.4

春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：2～4 年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中世前期（平安時代後期から南北朝時代）の日中文化交流についての理解を深めるため、中国（南宋）文化に関係する題材を取り上げ、伝記や図像なども活用して多角的に学ぶ。あわせて、史料を読解して史実を追究し、歴史像を描くという、歴史学の方法を習得することを目的とする。

【到達目標】

経済的関係に起因する日中間の交通が、中世前期の社会・国家に及ぼした影響の実態について、文化交流史の視点から説明することができる。日本中世の漢文史料を正しく読解することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

7章構成とし、講義形式で進める。配布プリントとパワーポイントを併用して解説する。パワーポイントの文面については、事前に各章ごとに「学習支援システム」にアップロードする（印刷プリントは配布しない）。章ごと（第1章から第6章）に計6回の小テストを実施する。小テストに記入された疑問点については、次の授業で回答する（フィードバック）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	中世前期の唐船貿易と文化交流	履修のガイダンスと概説
第2回	鎌倉時代における宋式喫茶の展開（1）	喫茶文化の伝播と受容
第3回	鎌倉時代における宋式喫茶の展開（2）	喫茶文化の伝播と受容
第4回	鎌倉仏教と印刷メディア（1）	仏教勢力による印刷メディアの活用
第5回	鎌倉仏教と印刷メディア（2）	仏教勢力による印刷メディアの活用
第6回	日宋の王権と仏牙舍利信仰（1）	ブツダの歯への信仰と日中の王権
第7回	日宋の王権と仏牙舍利信仰（2）	ブツダの歯への信仰と日中の王権
第8回	日宋の王権と仏牙舍利信仰（3）	ブツダの歯への信仰と日中の王権
第9回	渡唐天神説話と神仏習合（1）	禅僧の衣服をめぐる説話と神祇信仰
第10回	渡唐天神説話と神仏習合（2）	禅僧の衣服をめぐる説話と神祇信仰
第11回	渡唐天神説話と神仏習合（3）	禅僧の衣服をめぐる説話と神祇信仰
第12回	日本の宝篋印塔と中国の阿育王塔（1）	特異な舍利塔図像の伝播と受容
第13回	日本の宝篋印塔と中国の阿育王塔（2）	特異な舍利塔図像の伝播と受容
第14回	鎌倉時代の唐物と文化伝播	授業内容の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

「学習支援システム」の「教材」にアップロードされた配布プリントとパワーポイントの文面を基に予習する。授業時間内に提出できなかった小テストに取り組む。プリント、ノート等を用いて復習し、授業時に紹介する参考文献を可能な限り読む。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。章ごとにプリント（PDFファイル）を配布する。

【参考書】

『週刊朝日百科 週刊新発見！日本の歴史21 鎌倉時代4 鎌倉仏教の主役は誰か』（朝日新聞出版、2013年）
大塚紀弘『日宋貿易と仏教文化』（吉川弘文館、2017年）
その他は、授業の際、各章ごとに指示する。

【成績評価の方法と基準】

小テストの合計点数100%で評価する予定である。

【学生の意見等からの気づき】

各章の論点を最初に明示する。

【学生が準備すべき機器他】

「学習支援システム」を利用し、事前に「教材」から配布プリントをダウンロードすること。また、「テスト/アンケート」から期限内に小テストを提出すること。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students learn historical research methods of reading historical materials. The goals of this course are to pursue historical facts, and drawing historical images. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Your overall grade in the class will be decided based on the following. Short reports : 100%.

HIS200BE

日本史特講Ⅲ

稲田 奈津子

授業コード：A3156 | 曜日・時限：金 1/Fri.1

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2～4 年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

平安時代の貴族といえば、藤原道長がすぐに思い浮かぶであろう。望月の歌で知られるように、道長の時代は摂関政治の絶頂期を迎えたのであるが、その前提として、父・兼家の存在を忘れることはできない。恵まれた条件のもとで成功を取った子・道長が、鷹揚な性格として肯定的に語られることが多いのに対して、度重なる挫折を味わいながらも虎視眈々と権力の座を狙い続けた父・兼家は、一般的に粗暴・傲慢不遜といった否定的なイメージが持たれている。だが一方で、逆境を乗り越える不屈で逞しい姿は、魅力的にも映るのである。本講義では、兼家に関する史料群の読解を中心に、彼の生きた平安貴族社会の様相を、様々な角度から垣間見ていくことにしたい。

【到達目標】

1. 歴史書・日記・文学作品といった様々な歴史資料に触れ、その特質を理解するとともに、それらを読み解く力を身につける。
2. 教科書的な知識から一歩すすみ、具体的な史料読解を通して、平安時代像をより鮮明に捉え直すことができる。
3. 史料批判を通じて批判的精神を養い、問題を発見し解決するための論理的な思考過程を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

- ・講義スタイルで進めます。
- ・講義中には、指名によって史料を音読してもらうことがあります。ただし流暢さではなく取り組み方を重視するので、古文の苦手な人や留学生も臆さず参加してください。
- ・講義中には、画像も提示する予定ですが、提示した画像をすべてレジュメとして配布するわけではありません。毎回の出席が肝要となります。
- ・毎回授業の冒頭で、前回授業に関する小テストを実施します（10分程度、第1回を除く）。期末試験・期末レポートは予定していません。
- ・やむを得ず休講とする際には、レポートを課す場合があります。また授業進捗をみた上で、授業スケジュールに一部変更を加える場合があります。
- ・質疑応答は授業内や授業前後に口頭で、または授業後に提出してもらったりアクションペーパーで受け付けます。受講者全員の参考になるような質問・意見は、次回授業の冒頭に紹介・回答します。アクションペーパーでクイズに回答してもらった場合もあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の進め方、出自と官歴
第2回	内裏焼亡	若き日々
第3回	安和の変	969年
第4回	兄・兼通との確執（1）	972年
第5回	兄・兼通との確執（2）	977年
第6回	兼家をめぐる女性たち（1）	正妻と妾
第7回	兼家をめぐる女性たち（2）	蜻蛉日記
第8回	兼家をめぐる女性たち（3）	娘の入内
第9回	花山天皇の出家	その裏幕
第10回	栄華の絶頂	摂政就任
第11回	六十算賀	儀式の風景
第12回	老いと死	仏教への傾倒、葬儀
第13回	こどもたち	詮子、道隆、道長
第14回	まとめ	兼家の時代

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・事前学習 次回講義に関するレジュメを配布するので、事前に目を通しておいてください。（2時間程度）
- ・事後学習 レジュメを読みなおし疑問を残さないようにして、小テストに備えてください。（2時間程度）

【テキスト（教科書）】

レジュメを配布します。Hoppii にアップするので、各自印刷して手元に用意してください。教室での紙媒体による配布はいたしません。

【参考書】

古瀬奈津子『シリーズ日本古代史⑥ 摂関政治』（岩波新書、2011年）

【成績評価の方法と基準】

- ・小テスト・レポート（100%）…小テストは授業時間の冒頭に実施します。レポートの提出は授業支援システムを利用します。
- ・授業の積極性（加点要素）…リアクションペーパー、授業内での音読・発言など。

【学生の意見等からの気づき】

オンライン向けに変更した評価方法（毎回の小テスト実施、期末試験の廃止）が好評であったので、今年度も継続する予定である。

【Outline (in English)】

In this class, we will study about Fujiwara-no-Kaneie, a famous politician of Heian period. The aim of the class is for students to become familiar with ancient records, and to be able to read it at a basic level. In addition, through reading comprehension, the course aims to develop students' interest in the politics, society, and culture of the Heian period and enable them to investigate and consider matters with a sense of the issues that arise.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content and prepare for the quizzes.

Your overall grade in the class will be decided based on the following: Quizzes and Short reports : 100%, and in-class contribution

HIS200BE

日本史特講Ⅳ

中山 学

授業コード：A3157 | 曜日・時限：水 3/Wed.3

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2～4 年

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

江戸幕府第8代の将軍であった徳川吉宗は、行財政方面の再建・強化を中心とした幕政改革の主導者として注目されてきた。だが、実はこの人物が将軍職に就任することが決まって最も早期に着手していたのは、将軍家文庫（御文庫）の書籍目録の閲覧であった。そして、この書籍目録の閲覧以降、20年以上にわたって御文庫所蔵の書籍の校合、校勘に尽力していた。この授業では、吉宗が実施したこの事業がいったい何のために行われたものであるのか検討する。

【到達目標】

史料に基づき、徳川吉宗が実施した将軍家蔵書の校合・校勘の目的とその歴史的意義を論じることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

史料を読み解きながら講義を行う。よって、史料読解を深めるため、学習支援システムを利用してレポート学習を併用する。なお、質問や小レポート等へのフィードバックも、学習支援システムを介して実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	徳川吉宗の人物像(1)	徳川吉宗の出自と将軍職就任の事情
第2回	徳川吉宗の人物像(2)	「徳川実紀」にみる吉宗の個性
第3回	将軍家の文庫(1)	御文庫と将軍家蔵書の沿革
第4回	将軍家の文庫(2)	御文庫と将軍家蔵書の沿革(続)
第5回	将軍家の文庫(3)	御文庫と将軍家蔵書の沿革(続)
第6回	吉宗と書物(1)	徳川吉宗による武家故実研究の展開とその実態
第7回	吉宗と書物(2)	徳川吉宗による武家故実研究の展開とその実態(続)
第8回	吉宗と書物(3)	徳川吉宗による武家故実研究の展開とその実態(続)
第9回	吉宗と書物(4)	徳川吉宗による武家故実研究の展開とその実態(続)
第10回	吉宗と書物(4)	書物研究の内実とその意義(書物奉行下田師古の日記を読む)
第11回	吉宗と書物(5)	書物研究の内実とその意義(書物奉行下田師古の日記を読む)(続)
第12回	吉宗と書物(6)	書物研究の内実とその意義(書物奉行下田師古の日記を読む)(続)
第13回	吉宗と書物(7)	書物研究の内実とその意義(書物奉行下田師古の日記を読む)(続)
第14回	まとめ	吉宗政権の歴史的意義

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習、復習、小レポートの作成等（56時間）

【テキスト（教科書）】

特に指定しない（資料を配付する）

【参考書】

辻 達也『徳川吉宗公伝』東照宮（1962年）

福井 保『江戸幕府の参考図書館 紅葉山文庫』郷学舎（1980年）

辻 達也『徳川吉宗』吉川弘文館（1985年）

大石 学『徳川吉宗—日本社会の文明化を進めた将軍（日本史リブレット人）』山川出版社（2012年）

小川剛生『日本史リブレット 78 中世の書物と学問』山川出版社（2013年3刷）

その他、下田師古に関する研究論文等

【成績評価の方法と基準】

小レポート（50%）、期末レポート（50%）

【学生の意見等からの気づき】

史料読解の際には現代語訳（意訳）を行い、学生側の史料の内容把握を補助する。

【学生が準備すべき機器他】

教材配付や課題提出のために学習支援システムを使用する。よって各自インターネットの使用を前提としたパソコンまたはタブレットを準備すること。

【その他の重要事項】

テーマ関連科目・日本史特講Ⅰ

【Outline (in English)】

(Course outline)

Yoshimune Tokugawa, the 8th shogun of the Edo period, is known as the driving force behind the administrative and financial reforms of the shogunate. In fact, the first thing this person did after taking office was to browse the shogun family's library catalog. Yoshimune, who saw this library catalog, spent more than 20 years proofreading the collection. This subject examines the purpose of this project by Yoshimune.

(Learning activities outside of classroom)

Preparation and review of teaching materials written in Japanese (56 hours)

(Grading Criteria /Policy)

Several reports submitted during the course:50%

Courde-end report:50%

HIS200BE

日本史特講Ⅴ

宮間 純一

授業コード：A3158 | 曜日・時限：火 4/Tue.4

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2～4 年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

近代日本の発端として位置づけられてきた明治維新の具体相を学ぶことで、近世・近代移行期における日本社会の歴史像を構築する力を身につける。

【到達目標】

講義で解説された明治維新に関するさまざまな事象を単に暗記するのではなく、日本史上における明治維新の位置づけを把握し、独自の歴史意識を持てるようになる。また、その歴史意識を言語化し、明瞭に論述できるようになる。具体的なテーマとしては、天皇・武士・公家・ジェンダー・被差別民等の問題を扱う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式で実施する。折に触れてショートレポートの提出を求め、その内容に対して次の授業時間にフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	明治維新像の変遷	戦前以来の明治維新像の変遷を歴史研究の動向を踏まえながら解説する。
第 2 回	天皇と明治維新	近世には「みえない」存在であった天皇が国家元首となるまでの過程を解説する。
第 3 回	公家の明治維新	公家の明治維新について鷲尾隆聚という下級公家を中心に解説する。
第 4 回	大名の明治維新	大名の明治維新について下総佐倉藩堀田家を中心に解説する。
第 5 回	武士の明治維新	旧秋田藩士・旧幕臣を中心に武士の明治維新について解説する。
第 6 回	志士の明治維新	幕末維新期に現れた志士の動向について解説する。
第 7 回	外交儀礼と明治維新	明治初期における日本の外交儀礼の形成について解説する。
第 8 回	宗教と明治維新	明治政府の神道国教化政策、キリスト教の黙許などについて解説する。
第 9 回	書物・記録と明治維新	幕府が管理していた文庫や明治政府が設置した書籍館について解説する。
第 10 回	文明開化と明治維新	文明開化について違式註違条例など生活に関わる問題を中心に解説する。
第 11 回	遊女の明治維新	吉原の明治維新を芸妓解放令を中心に解説する。
第 12 回	被差別民の明治維新	被差別民の明治維新を「身分解放令」や新政反対一揆を中心に解説する。
第 13 回	記憶にみる明治維新	明治維新の顕彰による集合的記憶の形成について新選組などを事例に解説する。
第 14 回	まとめと成果確認	達成度を確認するための試験を実施する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前配布するテキストに事前に目を通すこと。
準備・復習時間は講義 1 回につき 4 時間以上とする。

【テキスト（教科書）】

テキストは特に使用せず、毎回レジュメを配付する。

【参考書】

都度紹介するが、さしあたり以下の文献をあげておく。
明治維新史学会編『講座明治維新』1～12（有志舎、2010 年～2018 年）
宮地正人『幕末維新変革史』上・下（岩波書店、2012 年）
井上清『明治維新』（日本の歴史 20、中央公論新社、2006 年）
松尾正人『維新政権』（吉川弘文館、1995 年）
井上勲『王政復古』（中公新書、1991 年）

【成績評価の方法と基準】

期末試験（70％）・ショートレポート（20％）・授業に対する取り組み方（10％）によって評価する。

【学生の意見等からの気づき】

歴史学を専攻していない学生も理解できるよう、基本的な事項についても丁寧に解説する。また、できるだけ現代との結びつきを念頭においた授業を展開する。

【学生が準備すべき機器他】

資料配付、リアクション・ペーパーの提出に際して、学習支援システムを利用することがある。

【Outline (in English)】

This course introduces Meiji Restoration to students taking this course. The goal of this course is to understand the Meiji Restoration. Your study time will be more than four hours for a class. Your overall grade in the class will be decided based on the following Term-end examination: 70%, Short reports: 20%, in class contribution: 10%.

HIS200BE

日本史特講Ⅵ

米崎 清実

授業コード：A3159 | 曜日・時限：金 3/Fri.3

春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本各地には文化遺産ともいえる近世の地方文書が伝来しています。近世の国家や社会を理解するために、地方文書の分析を通じた地域社会からアプローチする方法があります。授業では、地方文書の解読、分析方法を学ぶとともに、それらを通じた近世地域社会の成立、維持運営、展開について理解します。

【到達目標】

- ・地域史研究の意義を理解します。
- ・さまざまな近世の地方文書が作成され、伝来してきた意義を理解します。
- ・地方文書を解読し、分析できる力を修得します。
- ・地方文書の分析を通じて、近世の国家や社会を理解します。
- ・今日の街づくりや地域文化について考える視野を培います。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

主に関東の地方文書の解読、分析を通じて近世の地域社会の成立から近代移行期までを項目ごとに解説します。受講生自らが史料を解読し、主体的に考え、意見を述べてもらう双方向の授業運営を図ります。授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつかを取り上げ、全体に対してのフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	講義の内容と評価の方法、課題の説明、文化遺産としての地方文書、近世地域史研究の意義
第2回	近世の支配体制と地方文書	近世の支配体制、地方文書の成立、地方文書の種類
第3回	近世村落の成立と検地	検地帳の記載内容、検地帳の分析、検地の意義、郷から村
第4回	百姓の家	宗門人別帳の記載内容、宗門人別帳の分析、家の特徴、村内の家格
第5回	村の法・財政と村落運営	村議定、村入用、村役人の家、村役人制
第6回	村組と地域格差	村の中のムラ、村組の役割、村の中心、村役人をめぐる村組の対立
第7回	支配のしくみと地域社会	幕領支配のしくみ、中間支配機構の成立と役割、非領国地域の特質
第8回	百姓の年貢諸役	年貢諸役、年貢諸役を負担するしくみと意識
第9回	地域社会の身分集団	地域社会の身分集団、村を訪れる人々、村人と身分集団
第10回	村人の信仰と文化活動	村社会と寺院、村人の信仰、旅と参詣、村人の文化活動
第11回	村の祭りや若者仲間	村の社会組織・祭祀組織、祭礼の秩序とその変容、若者仲間と地域意識
第12回	村社会の生業と百姓意識	村人の生業、商品生産の展開、救済と百姓成り立ち
第13回	村社会と家族の秩序	村落生活の変化と家族、家族への眼差し、家と村の存続
第14回	まとめ	近世から近代へ、異文化としての近世の地域社会、現代まで続く近世の地域社会

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配布する史料（活字にした近世の地方文書）を理解できるように、わからない文言などを辞書で調べて、授業に出席してください。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。史料を配布します。

【参考書】

木村礎『近世の村』（1980年、教育社）、水林彪『封建制の再編と日本の社会の確立』（1987年、山川出版社）、大石学編『多摩と江戸』（2000年、けやき出版）、その他授業の中で適宜紹介します。大藤修『近世村人のライフサイクル』（2003年、山川出版社）、水本邦彦『村—百姓たちの近世—』（2015年、岩波新書）

【成績評価の方法と基準】

期末試験（80%）、平常点（20%）

【学生の意見等からの気づき】

史料（活字にした近世の地方文書）を用いて具体的に近世の地域社会について解説します。また、学生との意思疎通を図る双方向の授業運営を心がけます。

【学生が準備すべき機器他】

事前の史料の配布、課題の提出は学習支援システムを利用します。

【担当教員の専門分野等】

日本近世・近代史。博物館学。文化政策学。

【Outline (in English)】

Local documents of Edo period, which can be regarded as cultural heritage exist in all part of Japan. In order to understand the nation and society of Edo period, there is a method to approach from local community through analysis of regional documents. In this course students learn the method of deciphering and analyzing the documents. And through the process, students comprehend formation, operation and maintenance of local communities of Edo period.

The goals to be achieved in this course are the following five points.

- ・ Understand the significance of regional history research.
- ・ Understand the significance of the creation and transmission of various modern local documents.
- ・ Acquire the ability to decipher and analyze local documents.
- ・ Apprehend modern nations and societies through analysis of local documents.
- ・ Cultivate a perspective to think about today's community development and local culture.

Assignment:

Before the class, please check the words you do not understand in the dictionary to be able to understand handouts. The standard preparation & review time for this course is 2 hours each.

Grade evaluation: Final exam (80%), usual performance score (20%)

HIS200BE

日本史特講Ⅶ

山田 康弘

授業コード：A3160 | 曜日・時限：金 1/Fri.1
 春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：2～4 年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、主として日本史（特に戦国時代）を概観していくことで、二つのことを学生の皆さんが理解できるようにしていく。まずひとつは「歴史学とは何をする学問か」ということである。

よく「歴史学は、過去を解明する学問だ」といわれるが、それは誤りである。歴史学の目的は、過去を知り、この過去を使って「現代をより深く知る」ということである。私たちは現代に生きている。それゆえ「現代をよく知らない」というのは危険なことである。だが、現代はあまりにも当たり前すぎるので、私たちに現代が意外に見えにくい。そこで、過去を使うのである。たとえば、過去を知ることによって現代に生起しているさまざまな問題の「はじまり」を問い、過去から現代までの変化の筋道を明らかにしていく。あるいは、過去を知り、その過去を現代と比較することで現代の特徴をあぶり出していく。このような方法によって、現代を見ているだけでは見えにくい、現代の姿に気づく——これが歴史学という学問なのである。本講義ではこのことを、戦国時代の日本と現代の世界とを比較することを通じて説明していく。

本講義で取りあげるもうひとつのテーマは「歴史学の研究は、どのように進めていくのか」ということである。歴史学研究は「疑問を見つける」⇒「史料を集め、正しく分析する」⇒「自分なりの仮説を立てる」⇒「他者と議論して仮説を修正する」⇒「事実によって裏づけられ、かつ、論理的につじまの合った結論を導きだしていく」という手順で進めていく。このうちとくに重要なのが史料のあつかい方で、歴史学では「この史料は信用できるのか」、「どのようなことを読み取ることができるのか」といったことを考えながら結論を導きだしていくのである。本講義では、こういった歴史学の手法を学生諸君が身につけることができるよう、わかりやすく解説していく。なぜならば、こうした歴史学の手法——自分で問題を見つけ、データを正しくあつかい、そこから事実と論理に基づいた結論を導きだす、という手法は、さまざまな情報が氾濫する現代社会で生きていくうえで、きっと強力な武器になっていくだろうからである。

歴史学は、法学や経済学にくらべればメジャーな学問ではない。しかし、だからこそ学生諸君にとって、歴史学を学んだことは社会に出たあとで「強み」になろう。なぜならば、人と違うことを学んでこそ、人と違う新しい発想ができ、イノベーションを創出することができるようになるからである。但し、ただ単に、何百年も昔の出来事を知るだけでは意味がない。そうではなく、歴史学の目的を理解したうえで、その考え方ややり方の「型」を身につけることが大事である。本講義では、こうした「型」を学生の皆さんが習得できるようにしていく。

【到達目標】

歴史学の存在意義を認識するとともに、論理整合性と事実立脚性という歴史学の決まりごとを理解することができる。また、データ（史料）の正しい取り扱い方や、問題設定から歴史像の構築にいたるまでの手法を把握することができる。さらに、歴史学研究の「社会的使命」をきちんと理解したうえで、歴史学の隣接諸科学におけるさまざまな理論の使い方などを身につけることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

3部構成とし、講義形式で進める。具体的には、まず第1～3回において、歴史学とは何を目的とする学問なのか、ということを示すとともに、歴史学の研究はどのように進めていくのか、といった、歴史学のいわば「型」を解説していく。次いで第4～8回において「過去を知ることで現代を知る」ということを、戦国時代の日本と現代の世界とを比較しながら具体的に説明していく。そして第9～13回において、この「過去を知ることで現代を知る」ことをよりいっそう理解することができるよう、戦国時代から近代にいたるさまざまな事柄を歴史学の手法を使いながら分析し、議論していく予定である。

なお、配布プリントを使って解説する。出席カードやリアクションペーパー記入された疑問点については、次回の授業で回答する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	歴史学の目的は何か——「当たり前」を疑い、「当たり前」から自由になる。	何百年も昔の過去を知って、現代に生きる私たちに何か役に立つのか。過去を知れば、教訓や得たり、未来を見通したりすることができるのか……。ここでは、歴史学とは何をする学問であり、何のためにあるのか、といった、歴史学の「存在意義」を説明していく予定である。

第2回	歴史学は「型」は、どのようなものなのか（前編）。	歴史学の研究は、どのように進めていくのか。歴史学の根幹である「論理整合性」と「事実立脚性」とは何か……。ここでは、「疑問をもち、データを集めて分析し、自分なりの仮説を立て、他人と議論してこの仮説を修正していく」という、歴史学の基本的な「型」を伝授していく予定である。
第3回	歴史学は「型」は、どのようなものなのか（後編）。	どうしたら自分で問題を探ることができるのか。史料の正しい取りあつかい方とはどのようなものか。なぜ他人と議論しあう必要があるのか。歴史学と「歴史修正主義」とはどう違うのか……。ここでは前回に引き続き、歴史学の基本的な「型」を説明していく予定である。
第4回	戦国時代の足利将軍とは何だったのか（前編）。	戦国時代、将軍はどこで、何をしていたのか……。戦国期においても、将軍はなお「日本列島全体の存在」であった。それゆえ戦国日本を知るためには、将軍を理解することが欠かせない。そこでここでは、戦国時代に活躍した将軍7人をとりあげ、その生涯を概説していく予定である。
第5回	戦国時代の足利将軍とは何だったのか（後編）。	戦国期に生きた将軍たちは、いずれもさまざまな事件に巻き込まれ、時には京都から地方に流浪した。しかし、それでもしぶとく生き残り、京都・畿内に一定の平利をもたらすこともあった。ここでは前回に引き続き、こうした戦国期将軍7人の生涯を概説していく。
第6回	「信長包囲網」がうまくいかなかったのはなぜか。	足利義昭や毛利・武田・上杉・本願寺といった反織田信長の連合は、なぜ信長の封じこめに失敗したのか……。ここでは、現代でも当てはまる「対等な者同士が団結しつづける」とこの困難さを、心理学や行動経済学、社会学の知見も援用しながら考えていく予定である。
第7回	なぜ足利将軍はすぐには滅亡しなかったのか。	足利将軍が戦国末まで存続しえた理由は何だろうか……。ここでは、「大名たちにとって、将軍にはいかなる利用価値があったのか」という問題を考えていくことによって、将軍がすぐに滅亡しなかった謎を解き明かしていく予定である。
第8回	戦国社会について、どのような「全体の見取り図」を描けるのか。	戦国期日本列島は、全体としてどのような姿をしていたのだろうか……。ここではまず、戦国社会の「構造」（＝骨組み）に注目していくことで、全体の見取り図を描き出していく。そしてそのうえで、戦国社会と現代世界とをくらべ、現代世界の特徴をあぶり出していく予定である。
第9回	戦争はなぜ起きるのか、協調が成立するのはなぜか——大名同士の「つき合い方」から考える。	なぜ大名たちの間では、大規模な戦争がそれほど起きなかったのだろうか……。ここでは、「情報の非対称性」など、戦争を引き起こす諸要因を紹介するとともに、大名たちが近隣の者同士でそれなりに協調しあうことができたのはなぜか、といった問題を考えていく予定である。
第10回	「文化の相違」は、いかなる問題を引き起こすのか——キリスト教の伝来と禁教から考える。	キリスト教が戦国末に禁止されるのはなぜか……。ここでは、戦国の人たちがキリスト教という「異文化」をどのように「誤解」したのか、そしてその誤解を正そうとして宣教師たちは何をしていたのか、といったことを見ていくことで、現代でもしばしば紛争を引き起こす「文明の衝突」を考える。
第11回	天皇はなぜ生き残ったのか——英仏の王権と比較する。	武家政権は、なぜ天皇を存続させたのだろうか……。ここでは、「歴代武家政権と天皇との関係」を「中世における英・仏王権と教会との関係」と比較しながら考察し、「権威があったからだ」といったことで片づけられがちな、天皇存続の謎を解き明かしていく予定である。
第12回	トップダウンとボトムアップのどちらがよいのか。	現場の指揮官がトップの指示通りに動かないことは是なのか非なのか……。ここでは、戦国大名の軍隊、江戸時代の藩、戦前の軍部、戦後直後の半導体やデジカメ開発などの事例をとりあげながら、現代における組織のあり方についてあらためて考えていく予定である。

- 第 13 回 歴史学が直面する問題とは何か。 歴史学の研究成果は、なぜ一部のマニアだけのものになりつつあるのか…
…ここでは、専門化・細分化し、一般人はもとより他分野の研究者にとっても難解すぎて理解不能になっている歴史学の現状を説明し、なぜこのような事態にいたっているのかを考えていく予定である。
- 第 14 回 まとめ これまでのまとめ、または試験を実施する予定である。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

プリント、ノートを見直して復習する。また、授業時に紹介する参考文献を可能な限り読む。本授業の準備学習・復習時間は、合計 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。毎回、プリントを配布する。

【参考書】

山田康弘『足利義輝・義昭——天下諸侍、御主に候』（ミネルヴァ書房、2019年）。その他は、授業時に適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

学期末試験の点数 70%、レポート 20%、平常点 10% の合計で評価する予定である。正当な理由による欠席の場合、自作の「欠席理由書」を提出すれば考慮する。

【学生の意見等からの気づき】

出席カードやリアクションペーパーなどで授業に関する疑問点などを書いてもらえれば、次回授業の際に取り上げていきたい。

【Outline (in English)】

Learn historical research methods of reading historical materials, pursuing historical facts, and drawing historical images.

The goals of this course are to learn historical research.

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than 2 hours for a class.

Your overall grade in the class will be decided based on the following.

Term-end examination: 70%、Short reports : 20%、in class contribution: 10 %

HIS200BE

東洋史特講 I

飯尾 秀幸

授業コード：A3162 | 曜日・時限：月 2/Mon.2

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2～4 年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「家族」は、居住単位・婚姻単位・経済単位として存在したが、歴史のある段階で、その三者が合一する。そのことをこの授業においては、家族の成立と考え、その家族の成立過程において、婚姻単位と経済単位とが居住単位としての家族と如何なる関係を持ち、それらの関係がどう変容し、どのように三者が合一していったのかを、中国古代史を対象に考える。

This course introduces about the formation of the family in ancient China.

【到達目標】

考古学資料を歴史学として扱う方法を身に付ける。
甲骨文字・青銅器銘文（金文）をどう扱うかを習得する。
文字史料を読み込む力をつける。
家族を歴史的に把握する方法を得ることで、現代の家族の問題を考える視点を広げる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式

殷代における居住単位・婚姻単位・経済単位としての「家族」の変遷を、考古学の成果、甲骨文字、殷代青銅器銘文などを概観しつつ、中国の最古の「王朝」と呼ばれる時代の家族の形態を中心に、家族の在り方について考える。現代の家族問題と比較して、受講生の問題意識を高め議論を深めていきたい。なおリアクションペーパー・質問や課題について、その代表的なものを紹介し機会を設けて更なる説明を加えることとする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	家族とは何か	中国新石器時代の姜寨集落遺跡とブラジルのボロロ族集落を比較する（確認）
第 2 回	中国考古学の成果—青銅器時代	二里头文化の前期・後期の概要を紹介し、夏と殷について考える。
第 3 回	殷墟文化とその社会	殷代の祭祀区と墓葬区（小屯と侯家莊遺跡）を紹介し、殷代社会構造を考える。
第 4 回	甲骨文字の出土と甲骨文字の性格	甲骨文字の性格（祭祀と占いと政治）を考える。
第 5 回	殷代の政治と社会の構造	甲骨文字から見える殷代の政治方法と社会構造を考える。
第 6 回	殷代の「家族」に関する諸学説の紹介	王位の継承についての二学説（王家存在説と王家不存在説）を紹介し、問題点を考える。
第 7 回	王家不存在説からみた王族グループの存在	王家不存在説から王族の構造を考える。王名・王妣名と太陽神話（10 個の太陽）との関連を紹介する。
第 8 回	王家不存在説からみた王位継承法	王位継承の仮説から、王族グループの構造について考える。姜寨集落遺跡との比較（連続性）
第 9 回	王家不存在説への批判とそれへの反論としての殷代青銅器銘文の性格	親族称問題を紹介する。殷代青銅器銘文の分類から親族称問題を考える。
第 10 回	殷代青銅器銘文分類のうちの宝貝賜与金文の構造	宝貝賜与金文から青銅器作器者問題を考え、それが親族称問題と密接につながることを理解する。
第 11 回	殷代青銅器の種類と青銅器製造方法、青銅器製造集団の存在。	外范分割法の紹介。銘文と文様の鑄込み方を紹介する。
第 12 回	殷代青銅器作器者問題を考える実例紹介	鬲・尊の比較から青銅器作器者問題を考える。
第 13 回	親族称問題と青銅器作器者問題のまとめ	王家不存在説という仮説が成立していることを確認し、家族構造が連続していることの意味を考える。
第 14 回	秋学期の解説	各授業での質疑を含め、秋学期のまとめをする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

中国古代史をテーマとする概説書を読んで知識を得てください。また興味を引いたテーマについては図書館などで研究書のありかを検索し、積極的な学びを実践していただきたい。

予習・復習は、講義 1 回につき 4 時間を標準とします。絶えず、現在の家族について考えることを望みます。

【テキスト（教科書）】

授業内で資料・図版を配布する。

【参考書】

飯尾秀幸『中国史のなかの家族』（山川出版社、2008）

【成績評価の方法と基準】

毎回、学習支援システムの課題欄に提出された 200 字程度の小レポート、および回数提出を課すレポート（600 字程度）で評価する。前者・後者をそれぞれ 50 % とする。

【学生の意見等からの気づき】

分かりやすく説明することを心掛けたい。
現代の問題と関連づけて授業を進めることとしたい。

【その他の重要事項】

質問は授業内で原則受け付けます。また学習支援システムの「お知らせ」欄に E メールアドレスを提示するので、質問などはメールにていつでも送信してください。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire an understanding of the family history, family styles and the establishment of family in Chinese ancient times.

The goals of this course are to learning about the formation of the family in ancient China and understanding how to handle historical materials. Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on the following.

term-end examination:80% , in class contribution: 20%

HIS200BE

東洋史特講Ⅱ

澁谷 由紀

授業コード：A3163 | 曜日・時限：金 1/Fri.1

春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：2～4 年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、古代から現代までの東南アジア通史を学びます。授業を通じて東南アジア史の主な特徴を理解し、それを基盤として現代の東南アジアに関する様々な問題について自ら探求する力を養うことを目的とします。

【到達目標】

- ・東南アジアの地理と歴史にかかわる基本的な事項を知ること
- ・東南アジア史の特徴を理解すること
- ・東南アジア史の諸問題に関して自らの見解を述べる力をつけること

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

オンライン授業に移行した場合、Zoomにてリアルタイム配信型の授業を行います。提出された課題はクラス内で（匿名で）共有します。期末レポートについては個別にコメントをお返しします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	「東南アジア」概念の成立	東南アジアの地域認識
第 2 回	東南アジア地域の地理的概観	生態的背景
第 3 回	青銅器文化と初期国家の形成	先史時代から 9 世紀
第 4 回	中世国家の展開	10～14 世紀
第 5 回	交易の時代前期	15～16 世紀前半
第 6 回	交易の時代後期	16 世紀前半～17 世紀
第 7 回	近世国家群の展開と再編	18～19 世紀前半
第 8 回	植民地支配の進展	19 世紀後半
第 9 回	東南アジア経済の再編成	19 世紀後半～1930 年代①
第 10 回	ナショナリズムの勃興	19 世紀後半～1930 年代②
第 11 回	第二次世界大戦と東南アジア諸国の独立	1940 年代～1950 年代
第 12 回	冷戦への主体的対応	1950 年代半ば～1970 年代半ば
第 13 回	経済発展・ASEAN10・民主化	1970 年代半ば～1990 年代
第 14 回	まとめ	ふりかえり

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内で示される課題に取り組み、原則として次回授業開始時までに提出してください。本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

古田元夫『東南アジア史 10 講』（岩波新書，新赤版 1883）2021 年、岩波書店

【参考書】

石井米雄・桜井由躬雄編『東南アジア史①大陸部』1999 年、山川出版社

池端雪浦編『東南アジア史②島嶼部』1999 年、山川出版社

その他の参考文献は授業中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

課題（40%）、期末レポート（60%）

期末レポートの詳細は別途配布します。

期末レポートについては第 10 回の授業が終わるころまでに予定しているテーマと関連する文献を報告していただきます。

【学生の意見等からの気づき】

期末レポート作成の際には、法政大学図書館のウェブサイトの「お役立ちサポート：レポート・論文を書くには」（<https://www.hosei.ac.jp/library/kensaku/support/report/>）を参考にしてください。

【学生が準備すべき機器他】

オンライン授業時には Zoom を使用します。

【Outline (in English)】

This course explores the entire span of Southeast Asian history, from prehistoric times to the present day. At the end of this course, students will understand major themes in the historical analysis of Southeast Asian history. Your final grade will be calculated according to the following process: In-class writing assignments (40%), final report (60%). Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than 2 hours for a class.

HIS200BE

東洋史特講Ⅲ

芦沢 知絵

授業コード：A3164 | 曜日・時限：金 2/Fri.2

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2～4 年

その他属性：〈他〉〈優〉

【Outline (in English)】

This course introduces the history of the modern Chinese economy.

The goal of this course is to understand the historical process and problems of China's economic growth.

After each class meeting, students will be expected to spend 2 hours to understand the course content.

Final grade will be decided based on term-end report (70%) and in-class contribution (30%).

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は「近現代の中国経済史」をテーマとする。

中国の経済発展は今や目覚ましい。一方、中国がなぜこれほど急速な発展を遂げたのか、また中国経済の実態や構造はどのようなものなのか、疑問を持つ人も多いであろう。そもそも歴史を振り返ってみれば、近代以前の中国は、政治的にも経済的にもアジアの中心であった。しかし、近代以降は列強の進出や戦争の影響により、中国経済は「停滞」したとされる。もっとも、近年の研究では、上海などの沿海都市部における、近代産業の発展的側面も明らかにされつつある。

本授業では、こうした最新の研究成果や諸資料をもとに、中国がどのような過程を経て今日の経済発展に至ったのか概観する。その上で、現在にも通じる中国経済の特質・問題点とは何か、歴史的な視点から共に考えていきたい。

【到達目標】

近現代における中国経済の変遷をたどり、中国近現代史及び中国経済史に関する知識や理解を深めるとともに、歴史的視点からみた中国経済の特質・問題点について、主体的に考察する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

原則として対面授業を実施する。基本的に講義形式をとり、毎回授業後にリアクションペーパーを提出する。提出されたリアクションペーパーは、次回授業時に一部を公開・回答し、フィードバックを行う。また、本授業ではやや専門的な内容を扱うため、中国近現代史の概略については、各自である程度予習が必要となる場合もある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	中国経済史入門	中国経済史を学ぶ意義・方法
第2回	前近代の中国経済	伝統的商業秩序の形成
第3回	清末の近代化①	開港と外国資本
第4回	清末の近代化②	洋務運動と殖産興業
第5回	民国期の産業勃興①	新興資本家の出現
第6回	民国期の産業勃興②	軍閥と地方財政
第7回	国民政府の経済政策①	中央集権化と幣制改革
第8回	国民政府の経済政策②	戦時下の動員・統制
第9回	戦後の香港・台湾経済	冷戦期の華人資本
第10回	社会主義計画経済①	集団化と国有化
第11回	社会主義計画経済②	政治運動と混乱・停滞
第12回	改革開放と経済成長①	市場経済への移行
第13回	改革開放と経済成長②	WTO加盟とグローバル化
第14回	現在の中国経済	発展と社会矛盾

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回授業後にリアクションペーパーを提出する。また、授業内で紹介した参考文献や配布資料をもとに知識と理解を深めるほか、中国経済に関するニュースや新聞・雑誌記事にも自主的に目を通し、問題意識を高める。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

主な概説書は以下。その他は授業内で紹介する。

岡本隆司編『中国経済史』名古屋大学出版会、2013年。（第4・5章）

久保亨・加島潤・木越義則『統計でみる中国近現代経済史』東京大学出版会、2016年。

丸川知雄『現代中国経済 新版』有斐閣、2021年。

【成績評価の方法と基準】

① 平常点 30%

主に毎回授業後に提出するリアクションペーパーを評価対象とする。

② 期末レポート 70%

授業内容に関するテーマをもとにレポートを執筆し提出する。

【学生の意見等からの気づき】

初学者にも理解しやすい講義を心がけ、写真や映像などの視覚的な資料も多く用いる。また、毎回リアクションペーパーへのフィードバックを行う。

【学生が準備すべき機器他】

授業連絡・資料配布・課題提出等のために学習支援システムを利用する。

HIS200BE

東洋史特講Ⅳ

塩沢 裕仁

授業コード：A3165 | 曜日・時限：木 3/Thu.3

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2～4 年

その他属性：〈優〉〈S〉

【Outline (in English)】

【Course outline and Learning Objectives】 On grasping the time and space area characteristic in visual aspect with increased archaeological data in China, we will be able to understand the study situation and issues on the Chinese Archaeology, Art and Architecture.

【Learning activities outside of classroom】 Need two hours in a day.

【Grading Criteria /Policy】 Based on written test 100 percent.

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

東アジアの考古・美術・建築に対する研究の現状と課題の理解を目指します。近年増大する考古学の成果などを用い、ビジュアルな面から時間的・空間的に地域相をとらえることで、東アジアの考古・美術・建築に対する研究の現状と課題などが理解できるようになります。

【到達目標】

高度な技術を生み出してきた東アジアの物質文化に対して、これまでとは違った見方、考え方、接し方、ひいては新たな認識をもつことができます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

文化財の保護を主題とし、洛陽、西安、北京、南京、開封の都市文化を軸に講じていきます。

中国三千年王朝史の9割にもおよぶ期間が置かれてきた洛陽、西安、北京は、まさしく東アジアの文化の中心であり、そこに営まれた歴史、文化を理解することで、日本文化の淵源を理解することもできます。また、古代の都城が抱えた生活環境問題などを考えることで、今日の都市問題への問題提起を考えることができます。

青銅器や陶磁器といった工芸資料にとどまらず石窟芸術や宮殿・陵墓建築などの考古・美術的な価値についても考えてみたいと思います。

課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	長安の都市と陵墓	長安の都市圏と皇帝陵墓
第2回	洛陽の都市と陵墓	洛陽が有する都市空間
第3回	漢の諸文化	馬王堆漢墓
第4回	後漢三國・北朝の都城	許昌と鄴都
第5回	六朝の都城	六朝の都城建康と貴族文化
第6回	遊牧都市文化	フフホト・盛楽・大同・洛陽の遺構と出土遺物
第7回	仏教文化 1	西域・敦煌・麦積山石窟
第8回	仏教文化 2	雲崗・龍門石窟
第9回	隋唐の長安	隋唐の都城長安と隋唐陵墓
第10回	隋唐の洛陽	煬帝・武則天の都城洛陽
第11回	法門寺出土遺物	唐代の金属工芸技術
第12回	青磁と曜変天目	越窯・汝窯・鈞窯・建窯
第13回	白磁	定窯と景德鎮窯
第14回	漆器	茶文化と漆器

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

ほとんどの学生が当授業の内容に対しては初心者であると思います。講義の内容をよりよく理解するため、歴史事項だけでなく地理情報などの理解も必要です。あらかじめキーワードを授業内で示しますので、参考書等で確認しておくようにしてください。

また、東京国立博物館東洋館、根津美術館、出光美術館などを自主的に参観し、東アジアの考古・美術に関する知識を増大させてください。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特定の教科書は使用しません。

【参考書】

授業の進行に合わせて適宜紹介しますが、写真や図版が多用されておりますので『ビジュアル版世界の歴史5、中国文明の成立』（松丸道雄・永田英正、講談社、1985年）『ビジュアル版世界の歴史8、東アジアの世界帝国』（尾形勇、講談社、1985年）『ビジュアル版世界の歴史11、東アジアの変貌』（小山正明、講談社、1985年）には目を通していただきたいと思います。

【成績評価の方法と基準】

期末試験 100 %。

あらかじめ授業内で課題を提示します。問題意識を如何に持つかを重視しますので、自らの考えを自分の言葉で表現できるよう、平素より講義内容をまとめておくようにしてください。

【学生の意見等からの気づき】

当授業の内容を将来に生かすため、百貨店や骨董店など身近なところで東アジアの物質文化に触れる機会を増やしてください。

HIS200BE

西洋史特講 I

内田 康太

授業コード：A3168 | 曜日・時限：金 3/Fri.3

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2～4 年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

古代ローマ史に関する諸問題のうち、「共和政期（前 6 世紀～前 1 世紀）における立法」を取り上げる。共和政ローマの運営を支えた立法のしくみを制度と実態の両面から分析することで、その支配構造の特質について学ぶ。

【到達目標】

到達目標は以下のとおり。
 ・共和政ローマにおける立法について基礎的知識を習得する。
 ・一次資料の扱い方を習得し、法律の制定に対する民衆の影響力について自ら考察できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は講義形式で行うが、第 12 回・第 13 回は受講生によるディスカッションを組み入れる。講義形式の授業については、授業時間内に質疑応答の機会を設けるとともに、適宜リアクションペーパーを提出してもらうことで、受講生の理解度、関心事項、疑問点等を確認しながら授業を進めていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	ローマ共和政と立法
第 2 回	立法のしくみ	法案の起草から民会での票決まで
第 3 回	元老院	立法における元老院の役割とその時代的変遷
第 4 回	政治集会（コンティオ）（1）	開催・運営の制度と特質
第 5 回	政治集会（コンティオ）（2）	参加者の構成
第 6 回	政治集会（コンティオ）（3）	議論の内容
第 7 回	情報の公開	「ローマ民主政論」
第 8 回	票決のゆがみ	法案の可決、法案の否決と撤回
第 9 回	立法プロセスの再検討（1）	法案の起草から公示まで
第 10 回	立法プロセスの再検討（2）	政治集会（コンティオ）における議論をめぐって
第 11 回	立法プロセスの再検討（3）	法案の公示から民会での票決まで
第 12 回	投票者（1）	だれが投票したのか？
第 13 回	投票者（2）	どのように投票したのか？
第 14 回	試験・まとめと解説	到達度の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。参考書として挙げた書籍などを用いて、自主的に学習することが求められる。

【テキスト（教科書）】

特になし。担当教員が作成したレジュメ・資料を配布する。

【参考書】

エルンスト・マイヤー『ローマ人の国家と国家思想』（鈴木一州訳）、岩波書店、1978 年。
 島田誠『世界史リブレット 3 古代ローマの市民社会』、山川出版社、1997 年。
 長谷川岳男／樋脇博敏『古代ローマを知る事典』、東京堂出版、2004 年。

【成績評価の方法と基準】

期末の筆記試験（80 %）
 リアクションペーパーや質問等、授業への積極的参加度（20 %）

【学生の意見等からの気づき】

本年度新規担当のためフィードバックできない。

【Outline (in English)】

Course outline: This course deals with the issue of legislation in the Roman Republic (6-1 century B.C.). Analyzing it from both institutional and practical aspects, it helps students learn the characteristics of governance in this ancient polity.

Learning Objectives: The followings are the goals of this course.

- Students are able to acquire fundamental knowledge concerning legislation in the Roman Republic.
- Using primary sources properly, students are able to estimate the influence of the people over the outcome of lawmaking.

Learning activities outside of classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. They are required to read relevant books, such as those listed in the reference section, and learn by themselves.

Grading Criteria: Grading will be decided based on term-end examination (80%) and in-class contribution (20%).

HIS200BE

西洋史特講Ⅱ

大貫 俊夫

授業コード：A3169 | 曜日・時限：水 2/Wed.2

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2～4 年

その他属性：〈優〉

The goals of this course are to understand Christian monasticism, understand religious spirituality in medieval society through monasticism, and consider the interrelationship between monasticism and secular social life.

Learning activities outside of classroom:

Students should consolidate their understanding of the course content by reviewing the handouts and reading the bibliography.

Grading Criteria/Policy:

Short reports: 20%, Term-end report: 80%

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、古代から中世後期におけるキリスト教修道制の展開とその歴史的意義について論じる。

【到達目標】

1. キリスト教修道制について包括的に理解できる。
2. 修道制を通して中世社会における宗教的心性のあり様を理解できる。
3. 修道制と世俗の社会生活との相互関係について考察できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

事前学習は特に求めないが、授業で扱った内容はその都度プリントを見返し、参考文献を読むことで理解を定着させること。リアクションペーパーへのフィードバックは授業内で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	本講義の目的と概要について説明します。
第 2 回	キリスト教修道制の起こり	キリスト教修道制の起こりについて論じます。
第 3 回	西欧の修道制とベネディクト戒律	中世ヨーロッパの修道制の基礎といえるベネディクトゥスの『戒律』について論じます。
第 4 回	フランク王国における修道制改革	フランク王国における修道制改革について論じます。
第 5 回	クリュニー修道院の成立	クリュニー修道院の成立について論じます。
第 6 回	クリュニー修道制の宗教的・社会的意義	クリュニー修道制の宗教的・社会的意義について論じます。
第 7 回	シトー会の成立とその特徴	シトー会の成立とその特徴について論じます。
第 8 回	シトー会と世俗社会	シトー会と世俗社会について論じます。
第 9 回	プレモントレ会とカルトゥジオ会	プレモントレ会とカルトゥジオ会について論じます。
第 10 回	托鉢修道会の成立	托鉢修道会の成立について論じます。
第 11 回	托鉢修道会とその意義	托鉢修道会とその意義について論じます。
第 12 回	後期中世における修道制	後期中世における修道制について論じます。
第 13 回	修道制と女性	修道制と女性について論じます。
第 14 回	まとめ	本授業を総括します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

復習：授業内容を振り返る。

本授業の復習時間は 1 回あたり 4 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用せず、授業でプリントを配布する。

【参考書】

杉崎泰一郎『修道院の歴史』（創元社、2015 年）

K. S. フランク『修道院の歴史』（教文館、2002 年）

【成績評価の方法と基準】

中間課題（20%）

期末レポート（80%）

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

特になし

【Outline (in English)】

Course outline:

This lecture will discuss the development of Christian monasticism and its historical significance from ancient times to the late Middle Ages.

Learning Objectives:

HIS200BE

西洋史特講Ⅲ

吉岡 潤

授業コード：A3170 | 曜日・時限：月 4/Mon.4

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2～4 年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中・東欧諸国、特にポーランドにおける歴史認識問題について検討する。

言語、宗教、政治文化などを異にする様々な国家・民族が複雑に入り組み、起伏に富んだ歴史を歩んできた中・東欧において、歴史認識の相違は国家・民族間の対立をもたらすだけでなく、近年では同一国民を分断するようにもなっている。特に激動の現代史をくぐり抜けてきたポーランドでは、現在、第二次世界大戦期や社会主義期の記憶をめぐって「過去をめぐる戦争」と称しうる国内対立が展開され、国論を二分している。

本講義では、冷戦後の中・東欧諸国をめぐる国際関係を踏まえつつ、主にポーランドにおける歴史認識をめぐる諸問題について検討していく。具体的な検討課題として、第二次世界大戦期と社会主義期の記憶、旧社会主義国における「移行期正義」、歴史博物館と公共史（パブリック・ヒストリー）、歴史政策と記憶の政治などを予定している。

【到達目標】

過去や歴史が政治化・紛争化する構造を、実際に展開している歴史認識問題の地域性と歴史性を踏まえて分析できるようになること。歴史認識問題に対して、専門知としての歴史学が何をなすのか、また何をなすべきかを考察するための手がかりを得ること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式で授業を進める。授業回ごとにコメントシートを提出してもらい、そこで出された質問やコメントに対するフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	導入	歴史認識問題とは何か、歴史認識問題を検討する意義とは何か、考察する。
第 2 回	前提 (1)	歴史学・歴史研究におけるキーワードの一つ「記憶」について解説する。
第 3 回	前提 (2)	検討対象としての中・東欧諸国の歴史、特にポーランドの現代史を概観する。
第 4 回	歴史認識と国際関係 (1)	冷戦後のポーランドとドイツとの間の、歴史認識をめぐる対立と相互理解の試みについて解説する。
第 5 回	歴史認識と国際関係 (2)	冷戦後のポーランドとロシアとの間の、歴史認識をめぐる対立と相互理解の試みについて解説する。
第 6 回	歴史認識と国際関係 (3)	冷戦後のポーランドとウクライナなどとの間の、歴史認識をめぐる対立と相互理解の試みについて解説する。
第 7 回	記憶の政治 (1)	中・東欧諸国、特にポーランドにおける第二次世界大戦期および社会主義期の記憶について解説する。

第 8 回	記憶の政治 (2)	ポーランドにおける「移行期正義」について解説する。
第 9 回	記憶の政治 (3)	ポーランドにおける「過去をめぐる戦争（第一次）」について解説する。
第 10 回	記憶の政治 (4)	ポーランドにおける「過去をめぐる戦争（第二次）」について解説する。
第 11 回	歴史認識問題と公共史 (1)	歴史と社会とを結ぶメディアについて考察する
第 12 回	歴史認識問題と公共史 (2)	歴史認識問題の現場としての歴史博物館について考察する。
第 13 回	歴史認識問題と公共史 (3)	専門知としての歴史学が果たす役割について考察する。
第 14 回	まとめ	改めて、歴史認識をめぐる対立と相互理解について考察する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。

【参考書】

授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

コメントシートの提出など平常点と、期末課題とによる評価。評価における両者間の配分は平常点のパーセンテージ：期末課題のパーセンテージで 35 : 65 ないし 40 : 60 とする。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

授業が対象とする地域についての知識は必要ありません。ヨーロッパ（特に東ヨーロッパ）の近現代史、日本も決して無縁ではない歴史認識問題などに関心のある方の受講を歓迎します。

【Outline (in English)】

This course deals with the problems of historical consciousness in Central and Eastern European countries (CEEC), especially in Poland, after the Cold War. Students are expected to learn about such topics as collective memory of communist past in CEEC, transitional justice in CEEC, and politics of memory in CEEC.

Before and/or after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Grading will be decided based on term-end examination (60%) and in-class contribution (40%).

HIS200BE

西洋史特講Ⅳ

高澤 紀恵

授業コード：A3171 | 曜日・時限：水 2/Wed.2

春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：2～4 年

その他属性：〈他〉〈優〉

Your study time will be more than four hours for a class.

(Grading Criteria)

Grading will be decided based on the students' presentation (40%), participation to the discussion (20%), and the final report (40%).

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

近世ヨーロッパ社会の基底で起こった変化を、「生存の条件」「社会的結合関係」「文化変容」「緊張と排除」という4つの視角から検討する。対象とする時期は16世紀から18世紀とする。あらかじめ配布した資料をもちいて小グループでディスカッションする機会をもうけるなど、学生の主体的参加を求める。

【到達目標】

近世ヨーロッパ社会史をテーマとするこの授業は、2つの到達目標をもつ。ひとつは、16世紀以降のヨーロッパの歴史を基底でゆっくり変化する人々の生活・宗教・意識の変化から追ひ、近代ヨーロッパの理解を深めることである。二つ目は、日常性に着目する社会史の方法と成果を学ぶことを通して、私たちの生きる時代と社会を相対化し、その歴史的特質を理解することである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

講義、学生による報告、ディスカッションを組み合わせたクラスである。リアクション・ペーパーは毎回提出を求める。次回授業の冒頭で、学生のリアクションへのフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	社会史とはなにか
第2回	映画『帰ってきたマルタン・ゲール』	次回、感想文を提出のこと
第3回	生存の条件	他者としての過去との出会い
第4回	社会的結合関係（1）	血縁的な結合
第5回	ディスカッション（1）	婚姻と家をめぐって
第6回	社会的結合関係（2）	宗教的結合と地縁的結合
第7回	文化変容（1）	宗教改革とカトリック改革
第8回	文化変容（2）	民衆文化と時間・空間意識
第9回	文化変容（3）	文字文化の浸透
第10回	緊張と排除（1）	魔女
第11回	緊張と排除（2）	放浪者・貧民
第12回	緊張と排除（3）	ユダヤ人
第13回	ディスカッション（2）	近代と排除
第14回	まとめ	啓蒙のゆくえ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

受講学生は、テーマの一つを選び、報告（30分）を準備すること。ディスカッションに際しては、事前に配布された資料について課題に対する自分の考えをA4一枚程度のレポートにまとめて持参すること。レポートはディスカッション終了後に提出すること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

とくに定めず

【参考書】

ナタリー・ゼーモン・デーヴィス『帰ってきたマルタン・ゲール——16世紀フランスの偽亭主事件』平凡社ライブラリー、1993年ほか。
参考文献表を最初の授業で配布する。

【成績評価の方法と基準】

報告への評価（40%）
ディスカッションへの参加・提出物などによる平常点（20%）
エッセイ形式の期末試験を教室で実施する（40%）

【学生の意見等からの気づき】

2019年度は分厚い参考文献表を最初の授業に配布しましたが、分厚すぎて受講生はあまり活用していないことに気がつきました。2020年度以降、リストを短くして必読文献に絞るほうが有益かと思ひ改善しました。

【Outline (in English)】

(Course Outline and Learning Objectives)

Social history is not a simple branch of history but a critical history in its own right. By grasping the society as a whole on the level of everyday experience, it illuminates every aspect of social life considered meaningful to each historian. In this course, participants are expected to make a presentation on a topic provided in advance, and engage in discussion.

(Learning activities outside of the classroom)

HIS200BE

西洋史特講V

高澤 紀恵

授業コード：A3172 | 曜日・時限：水 2/Wed.2

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2～4 年

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

都市は、政治・社会・経済・宗教の変動の最先端にあり、新たな統治技術が生まれる場でもあった。2023 年度においては、パリという具体的な都市の歴史に即して、空間、建物、信仰の三点から中・近世における変化を分析する。あらかじめ配布した資料をもちいて小グループでディスカッションする機会をもうけるなど、学生の主体的参加を求める。

【到達目標】

中・近世都市の歴史をテーマとするこの授業は、2 つの到達目標をもつ。ひとつは、「市民」、「公共性」、「代表」、「救済」といった概念が、どのような歴史的現実の中で生まれ、変容してきたかを理解することである。二つ目は、都市史研究の成果と方法を学び、自分の生活空間を学問的に検討する力を養うことである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

このコースは、講義を中心とするが、グループ・ディスカッションも行う。その場合は、事前に配布された資料をよく読み、A4 一枚程度に考えをまとめてレポートを作成すること。このレポートをディスカッションに持参し、提出のこと。レポートならびにディスカッションへのフィードバックは、授業内で行う。また学生のリアクションへのフィードバックは、次の授業冒頭でまとめて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	福澤論吉から考える都市
第 2 回	空間を読む（1）	パリの三つの顔
第 3 回	空間を読む（2）	シテ島の中心性
第 4 回	空間を読む（3）	右岸と市民
第 5 回	空間を読む（4）	左岸と大学
第 6 回	ディスカッション	都市と大学をめぐって
第 7 回	建物を読む（1）	ノートル・ダムを読む
第 8 回	建物を読む（2）	サン・ポールを読む
第 9 回	ディスカッション	残るもの、失うもの
第 10 回	見えないものを読む（1）	教区と街区
第 11 回	見えないものを読む（2）	教区教会の役割
第 12 回	見えないものを読む（3）	教区における闘い
第 13 回	見えないものを読む（4）	都市と信仰、都市の信仰
第 14 回	まとめ	都市を考える、都市から考える

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義中心のクラスであるが、ディスカッションに際しては事前に配布された資料を熟読の上、課題に答える A4 一枚程度のレポートを用意し、これを基にディスカッションを行う。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

とくになし

【参考書】

吉田伸之、伊藤毅（編）『伝統都市 全四巻』東京大学出版会、2010 年。
高澤紀恵『近世パリに生きる——ソシアビリテと秩序』岩波書店、2008 年。
高澤紀恵、アラン・ティレ、吉田伸之編『パリと江戸—— 伝統都市の比較史へ』山川出版社、2009 年。

【成績評価の方法と基準】

ディスカッションへの参加・提出物などによる平常点（40 %）、エッセイ形式の期末試験（60 %）

【学生の意見等からの気づき】

2022 年度は、ほぼ対面で授業を行うことができました。また、学生の希望を聞いて「市ヶ谷を歩く」という特別セッションを行いました。都市史への理解を深めたと思います。今年度も学生の要望を聞いた上、シラバスを変更して同様のフィールドワークを行う可能性があります。

【学生が準備すべき機器他】

課題提出などは学習支援システムを活用しますので、パソコンを使える環境がのぞましい。

【その他の重要事項】

関心のある方は必ず仮登録をしてください。
ネット環境が整わない方は、メールで相談してください。

【Outline (in English)】

(Course Outline and Learning Objectives)

This course aims to help students understand the social and spatial transformation in early modern Paris, focusing on the following four topics: topography, architecture, and religion. This course consists of lectures and discussions. Students are expected to read assignments in advance.

(Learning activities outside of the classroom)

Your study time will be more than four hours for a class.

(Grading Criteria)

I will decide your overall grade in the class based on the following:

・ Final examination (60%), and short essays and in-class contributions (40%)

HIS200BE

西洋史特講Ⅵ

大鳥 由香子

授業コード：A3173 | 曜日・時限：月 4/Mon.4
春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：2～4 年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は 19 世紀以降のアメリカ史についての理解を深めることを目的とする。ジェンダーギャップという点からすると、日本よりもアメリカ社会の方が「進んでいる」という評価を下されることが多い。例えば大学に関していうと、ジェンダー研究やセクシュアリティ研究などの分野は日本よりもアメリカ合衆国の方がずっと盛んであり、キャンパス内における性暴力防止などの取り組みも進んでいる。このような事情を踏まえ、今年度は 19 世紀以降のアメリカ史について、特にジェンダーと高等教育の視点から論じる。

【到達目標】

アメリカ社会におけるジェンダーについての基礎的な知識を得る。
英文の史料を解釈する能力を伸ばす。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

この授業は基本的に講義形式で進める。履修人数によっては、演習形式を取り入れる場合もあるが、リアクションペーパーの提出は必須となる。また、日本語訳のない英語の史料の講読を課題とする週もある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業内容の紹介
第 2 回	19 世紀アメリカにおける女性と高等教育	アメリカ合衆国において女子教育はどのように始まったのか
第 3 回	教師としての白人女性たち	女子教育は人種とどう関わっていたのか
第 4 回	20 世紀前半のアメリカにおける女性と高等教育	女性たちはどのように科学に携わっていったのか
第 5 回	黒人女性と高等教育	黒人女性はどうして高等教育へのアクセスを得ていったのか
第 6 回	公民権運動とフェミニズム	公民権運動は女性たちの歩みをどう変えたのか
第 7 回	タイトル・ナイン	フェミニズムはなぜ教育の平等を求めたのか
第 8 回	覇権国家とアメリカ女性	アメリカの覇権は女性たちの歩みをどう変えたのか
第 9 回	タイトル・ナイン	高等教育におけるジェンダーの平等とは何か
第 10 回	女性と大学スポーツ	女性学生の増加は何をもたらしたのか
第 11 回	女性と大学スポーツ	アメリカの事例から私たちは何を学ぶことができるのか
第 12 回	キャンパスにおける多様性	キャンパスにおける多様性はどのように考えられてきたのか
第 13 回	キャンパスにおける性暴力防止の取り組み	タイトル・ナインは何をもたらしているのか
第 14 回	期末試験	期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授本授業の準備・復習時間は各 4 時間を標準とします。学生は授業の復習のほか、授業内で取り上げる文献に関する課題を行っていただきます。課題については次週の授業で解説を行う、また皆さんのコメントを取り上げるなどの形でフィードバックを行います。また、教科書を活用し、アメリカ史の基本的な流れを各自で抑え、基本的な事項の定着を図ります。

【テキスト（教科書）】

遠藤泰生・小田悠生『はじめて学ぶアメリカの歴史と文化』ミネルヴァ書房(2022)

このテキストは秋学期開講のアメリカ史の授業（西洋史特講Ⅶ）と共通である。そのほかの資料については、適宜配布する。

【参考書】

リンダ・K・カーバー、ジェーン・シエロン・ドゥハート編著、有賀夏紀 [ほか] 編訳『ウイメンズアメリカ 資料編』（2000）

エレン・キャロル・デュボイス、リン・デュメニル著、石井紀子 [ほか] 訳『女性の日からみたアメリカ史』（2009）

有賀夏紀、小椋山ルイ『アメリカ・ジェンダー史研究入門』（2010）

【成績評価の方法と基準】

毎週の課題（履修者数によってディスカッションへの参加と貢献）：30 %
小テスト：30 %

期末試験：40%

【学生の意見等からの気づき】

昨年度の授業ではアメリカの大学事情に関するコメントが寄せられており、今年度はジェンダーと高等教育についてより広範に取り扱う予定である。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布・課題提出、小テスト実施等のために学習支援システム等を利用する予定。

【Outline (in English)】

This course explores modern US history, with an emphasis on gender and higher education. Women's educational advancements served as cornerstones of gender equality in the United States, creating gender/sexuality studies as established disciplines and promoting sexual violence prevention programs on campus and beyond.

Students will gain basic knowledge of gender and education in the United States. They will also learn how to interpret English-language primary sources.

This will be a lecture course. Every week students will submit response papers in Japanese. Some of the reading materials are available only in English.

Approximately four hours of study and preparation are required. Students need to do weekly readings and submit response papers as some of them will be discussed in class. Students are also expected to study on their own for weekly quizzes in Japanese.

A breakdown of the final grade will be:

Weekly Assignments:30%

Quizzes:30%

Final Exam:40%

HIS200BE

西洋史特講Ⅶ

遠藤 泰生

授業コード：A3174 | 曜日・時限：月 2/Mon.2

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2～4 年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

植民地時代から現代までのアメリカ合衆国の歴史と文化を概観し、現代アメリカ社会を形づくる社会規範の生成と変成を学ぶ。2023 年度は、とくに、アメリカ社会を今なお強く規定する人種規範の歴史に注意を払いながら、アメリカの近代史を学ぶ。政治文書にとどまらず、文学表象、絵画、映画など多様なメディアに刻まれた時代の相貌に触れることで、立体的で興行きのある歴史理解の習得を目指す。また、諸外国における人種問題に目を配ることで、アメリカ合衆国の歴史に対する理解を相対化させる。

【到達目標】

人種・民族規範の歴史構築性が指摘されるようになって久しいにもかかわらず、その規範の起源を読み解き、あらたな未来に向けて因習を読み替える作業は容易ではない。アメリカ合衆国の近代史を学びながら、その困難に丁寧に向き合い、多文化共生の基盤形成に不可欠な人種・民族規範への理解を深める。その一方で、アメリカ合衆国以外の国の例も参照しながら、多文化共生の選択肢が幾通りも存在することを学ぶ。

課題図書の見直しを準備する過程で、論文を記すための文章の構成や言葉遣いを学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式で授業は行う。学生とのインターアクティブな会話を重視し、各授業内に質疑の時間を必ず設ける。提出してもらった読書レポートやリアクションペーパーにはコメントを付けて返却する。図像史料の読み解きはパワポインント画像などを使って行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	アメリカ合衆国の歴史と文化を学ぶ視点	アメリカ近代史を徹底する歴史観として「有用なる過去」の概念を紹介する。
第 2 回	アメリカ先住民の世界	“アメリカ近代史”が始まる以前から存在した先住民の歴史とその遺産を確認する。
第 3 回	ピューリタニズムの遺産	英領北米植民地における多元社会構築の原理を、ピューリタンの入植の歴史を事例に学ぶ。
第 4 回	近代アメリカにおける寛容の発生	「政教分離」のアメリカ合衆国における意味を、フランス近代の経験などと対比しながら学ぶ。
第 5 回	合衆国独立の論理	18 世紀の西洋政治思想の文脈において、アメリカの「独立」が何を意味し得たのか学ぶ。
第 6 回	合衆国連邦憲法の成立	アメリカ合衆国が国家の体裁を整えるために準備した最大の文書、連邦憲法の制定の歴史を確認する。
第 7 回	南北アメリカにおける奴隷制社会の誕生	アメリカ近代史における最悪の逆説と言われる黒人種奴隷制度に着目し、その英領植民地への導入の歴史を学ぶ。そもそも奴隷とはいかなる存在であったのかを、「差別」の問題を視野に入れながら考える。
第 8 回	近代アメリカにおける黒人種奴隷制度の発展	独立宣言で「全ての人間の平等」をうたったアメリカ合衆国は、実体としては奴隷制国家として発展を遂げる。そのディレンマを概観する。
第 9 回	南部社会論の系譜	映画『それでも夜は明ける』が描く 19 世紀前半のアメリカ南部社会を学ぶ。
第 10 回	良心の呵責？：反奴隷制運動の展開と限界	大西洋世界にひろがった反奴隷制思想とアメリカ合衆国における奴隷制廃止運動の共振を学ぶ。
第 11 回	セクショナリズムの時代	領土の西への拡大とともに深刻化した南北セクショナリズムの対立を学ぶ。
第 12 回	南北戦争	未曾有の内戦を経ることで国民国家への変貌を遂げたアメリカ合衆国の体験を理解する。

第 13 回 占領と再建

南北戦争後に試みられた連邦再建の試みと其中で生まれた新たな人種間関係に焦点を当て、19 世紀後半のアメリカ合衆国の歴史を俯瞰する。

第 14 回 二つのゲティスバーグ演説

南北戦争の記憶と南北の和解が必然とした人種正義の後退と現代への歴史遺産を学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

一学期の間に 2 本の読書レポートを課す。テキストとなるのはいずれもアフリカ系アメリカ人文化史における古典と呼ばれる作品である。歴史の史料として自伝や評論が持つ意味を考える作業にもなる。このほか、白地図への書き込みを通したヴィジュアルな歴史理解の醸成も図る。本授業の準備・復習時間は、各 3 時間とします。

【テキスト（教科書）】

・フレデリック・ダグラス著/専修大学文学部歴史学科南北アメリカ史研究会訳『アメリカの奴隷制を生きるーフレデリック・ダグラス自伝』（彩流社、2016）

・W.E.B. デュボイス著/木島始・鮫島重俊・黄寅秀訳『黒人のたましい』（岩波文庫、1992）

【参考書】

遠藤泰生・小田悠生編『はじめて学ぶアメリカの歴史と文化』（ミネルヴァ書房、2023）

【成績評価の方法と基準】

提出物を期限までに必ず提出すること。読書レポートは、テーマ設定のオリジナリティ、形式、論理性、文章の練度の各視点から評価される。授業におけるリアクションペーパーの議論も評価の対象とする。

成績の配点は以下。白地図（20%）、読書レポート（60%）、リアクションペーパー（10%）、小テスト（10%）。

【学生の意見等からの気づき】

パワポイントによる教材提示は、情報量が増えて考える時間が不足するという意見が聞かれるので、板書も取り入れつつゆっくり議論を進めることにする。

【学生が準備すべき機器他】

とくになし。

【その他の重要事項】

他国の歴史と比較しながらアメリカ合衆国の歴史の特性を議論したいので、イギリス史や日本史などの歴史を学ぶ学生の受講も歓迎する。

【Outline (in English)】

This class surveys the history of the United States in the 18th and 19th centuries. This year, the racial and ethnic norms and their influence on life and experience of contemporary America will be examined with special care. Students are expected to cultivate balanced sensibilities to differences of race and ethnicity.

In this class, in preparing book reports, students are expected to learn how to write academic writing: format, vocabulary, and logic.

Two book reports are required. One is on Narrative of the Life of Frederick Douglass, An American Slave (1845) and another on The Souls of Black Folk (1903). Both of them are the classics of African American Intellectual History. Students are expected to learn how to read literary text and social criticism as historical documents. Besides these two reports, students must submit a few historical maps during the semester. Reaction papers to weekly lectures are required too. Students are expected to spend about 3hrs a week in out of class study.

Book reports and reaction papers will be returned with comments. Grading are based on Map Studies (20%), Book Reports (60%), Reaction Papers (10%), Short Quiz (10%).

HIS200BE

日本史特講Ⅹ

内藤 一成

授業コード：A3201 | 曜日・時限：木 3/Thu.3
 春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：2～4 年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日露戦後の日本について、青年のまなざしと活動を通じて歴史的に考察する。具体的には、三島弥彦と石川啄木、立場も経歴もまったく異なる二人の青年の日記をもとに明治 41 年を追体験する。授業を通じて、歴史を教科書や年表に記された事実の羅列ではなく、多面かつ重層的な世界であることが理解できるようにすることをめざす。

【到達目標】

①歴史を単なる過去ではなく、実感を持ったものとして理解する。②史料の多彩な読み方を理解する。③近代日本の歩みを歴史的にとらえ、未来を展望する上での示唆を得る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式とし、板書とパワーポイントを併用させる。適宜史料のコピー等を配布し、史料を音読したり、内容を検討することもある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	講義に関する全体の説明、注意点など
第 2 回	明治 41 年 7 月の弥彦と啄木 (1)	西洋文化としてのスポーツの受容と定着など
第 3 回	明治 41 年 7 月の弥彦と啄木 (2)	近代青年をめぐる友情の世界など
第 4 回	明治 41 年 8 月の弥彦と啄木 (1)	避暑と避暑地の世界など
第 5 回	明治 41 年 8 月の弥彦と啄木 (2)	都市生活の諸相など
第 6 回	明治 41 年 9 月の弥彦と啄木 (1)	スポーツをめぐる国際交流など
第 7 回	明治 41 年 9 月の弥彦と啄木 (2)	地方出身者の上京生活など
第 8 回	明治 41 年 10 月の弥彦と啄木 (1)	米艦隊の来日とその反響など
第 9 回	明治 41 年 10 月の弥彦と啄木 (2)	明治の文学者の生活など
第 10 回	明治 41 年 11 月の弥彦と啄木 (1)	陸上競技の国際化への道のりなど
第 11 回	明治 41 年 11 月の弥彦と啄木 (2)	園遊会と社交をめぐる世界など
第 12 回	明治 41 年 11 月の弥彦と啄木 (1)	明治の大学生生活など
第 13 回	明治 41 年 12 月の弥彦と啄木 (2)	明治青年の日常など
第 14 回	まとめ	総括と質疑応答 講義全体のまとめ、質疑応答

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に配布する史料等には必ず目を通して置く。その際、読みや意味のわからない文字を調べ、さらに記された内容や、作成した人物についても予習しておく。授業後には内容を再確認することで、知識の定着をはかる。本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特には用いない。

【参考書】

『三島弥彦—伝記と史料』（芙蓉書房出版）、ドナルド・キーン『石川啄木』（新潮社）

【成績評価の方法と基準】

平常点（40 %）、期末試験（60 %）をもとに総合的に評価する。期末試験はノート持ち込み可。なお、特別の事情がなく、授業への参加度が不良と判断された場合、あるいは期末試験を受けない場合には不合格の評価とする。

【学生の意見等からの気づき】

クエスチョンタイムに相当する時間を適宜設けるなどして、授業理解が得られるよう努める。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムの利用が可能な IT 機器

【その他の重要事項】

・やむを得ない事情により授業を欠席する場合（介護体験実習、教育実習など）には、その事情を証明する文書を提出すること。新型コロナウイルス感染症防止策として教室での対面授業を行わない場合には、授業内容を変更することがある。
 ・授業に関連する連絡は、学習支援システムの「お知らせ」サイトや、「授業内掲示板」サイトを利用して行うので、見落とさないようにすること。
 ・担当教員への直接連絡にはメールを利用すること。担当教員のメールアドレスは、学習支援システムに掲載する。

【Outline (in English)】
(Course outline)

In this course, I will consider Japan after the Russo-Japanese War. Specifically, we will focus on Yahiko Mishima(1886-1954) and Takuboku Ishikawa(1886-1912), analyze their 1908 diaries, and compare them. Through this lecture, I aim to be able to understand history as a multifaceted and multi-layered one.

【Learning Objectives】

The goal of this course is to recognize the characteristics of various historical materials and to acquire the professional abilities necessary for documentary research.

【Learning activities outside of classroom】

Students should read the materials distributed in advance. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

【Grading Criteria /Policy】

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination: 60%, in class contribution: 40%

HIS200BE

日本史特講Ⅹ

森田 貴子

授業コード：A3202 | 曜日・時限：火 2/Tue.2

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2～4 年

その他属性：〈優〉

【Outline (in English)】

This course aims for students to study modern Japanese economic history, focusing on issues that have been regarded as important issues in research history. The goals of this course are to understand from multiple perspectives such as the role of Aristocratic Capital in Japan's Industrialization, the formation of Zaibatsu, Economic policy after World War II, etc. Students will be expected to have completed the required assignments before/after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class. Your overall grade in the class will be decided based on the following Term-end examination: 60%, Short reports: 40%.

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

近現代日本経済史について、研究史上、重要な課題とされてきた問題を軸に理解を深める。

【到達目標】

本講義は、日本経済を歴史的にとらえ、研究史上、重要な課題とされてきた問題について、理解を深めることを目標とする。日本の近現代を歴史的事実に基づき理解し、広い視野と現代社会を主体的に考察する視角を得る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

近現代の日本経済について、経済と社会の関連に注目しながら、時系列的に講義を進める。

毎回、リアクションペーパーを提出する。リアクションペーパーへのフィードバックは授業内で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業について。近代日本経済史について。現代社会について主体的に考察するための歴史学の持つ意義について。
第 2 回	日本資本主義論争	「日本資本主義論争」について、論争の過程で提出された論点について考える。
第 3 回	華族資本	華族が日本の工業化・資本主義化に対して果たした役割について考える。
第 4 回	松方財政	激しいデフレを招いた松方財政について、その意義と社会との関連について考える。
第 5 回	日清戦争と戦後経営 1	日清戦争と財政について考える。
第 6 回	日清戦争と戦後経営 2	日清戦争と戦後経営の特徴と内閣・政党との関連を考える。
第 7 回	日露戦争と戦後経営 1	日露戦争と国際情勢について考える。
第 8 回	日露戦争と戦後経営 2	日露戦争と日露戦後経営の特徴について考える。
第 9 回	第一次世界大戦と戦後恐慌	第一次世界大戦時の経済状況と、戦後恐慌について考える。
第 10 回	金融恐慌	金融恐慌の実状と日本銀行の役割、財閥の形成について考える。
第 11 回	昭和恐慌	昭和恐慌の実状と政府・軍部・財閥の関連について考える。
第 12 回	占領期の日本経済 1	第二次世界大戦後の占領期の経済政策について考える。
第 13 回	占領期の日本経済 2	第二次世界大戦後の占領下の経済政策について考える。（財閥解体、等）
第 14 回	試験とまとめ	試験とまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

新聞・ニュースの経済面を、積極的に読むこと。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は、特に指定しない。

資料レジュメを配布する。

【参考書】

教場で、適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（40％）と、学期末の試験 1 回（60％）による。

【学生の意見等からの気づき】

オンライン回は、ディスカッションタイムを実施予定です。

【学生が準備すべき機器他】

インターネットに接続できるパソコン。

【その他の重要事項】

評価には、3分の2以上（9回以上）のリアクションペーパー（小レポート）の提出と、学期末試験を受けることを必須とします。

HIS300BE

日本古代史科学Ⅱ a

山口 英男

授業コード：A3204 | 曜日・時限：火 5/Tue.5
 春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：2～4 年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

正倉院文書と木簡を中心に、日本古代史料研究の課題、古代史料の特徴、歴史情報抽出の方法を学び考えます。史料のどこに注目したらよいかを知ること、史料の背後の世界へと視野が広がります。

日本古代史を研究するための材料となる史料は、他の時代に比べて数が限定されている印象が強く、新たな検討の余地は少ないように思われがちです。しかし、周知の史料でありながら十全な検討がなされていないものや、研究の進展に応じた再調査・再検討が必要となっている史料が意外に多くあります。何よりも、正倉院文書や木簡など、当時の実務の現場で用いられた書面が大量に残されていることが、日本古代史料の特徴です。現代に引きつけていけば、お役所の内部書類が外部に流出したようなものです。まさに「宝の山」といってよい史料群であり、見つけ出されることを待っている情報がまだまだたくさんあります。

そうした情報にどうやれば接近できるのか。記載内容（文字）を読み取るだけではなく、史料を「もの」として分析することで、古代史科学・古文書学の新たな知見が蓄積されて来ている。より多くの情報を史料から抽出することで、古代史研究の地平をさらに広げていくことが期待できます。本講義では、古代史料の「すがた・かたち」を検討しながら、史料の分類と分析の視角・手法を考え、古代史研究の新たな視野を展望します。

【到達目標】

古代史料研究の課題について理解する。
 古代史料の特徴を知り、歴史情報に接近するための視角と方法を身につける。
 史料に対する目のつけどころ、問いかけ方を学ぶことで、史料の持つ豊かで多様な情報に近づくことができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は講義形式（対面授業）で進めます。
 配布した史料プリントを使いながら、史料の分析とはどのような作業であるのか、その結果がわかるのか、具体的な例を挙げながら解説します。
 3 回程度の講義のまとめごとに、小レポートを提出してもらうことで、理解と認識の深まりを確かめながら進めます。小レポートについては、下記も参照してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	講義のねらいと進め方
第 2 回	古代の実務文書の面白さ	正倉院文書と木簡
第 3 回	古代史科学の課題と視角①	古代史料の概要と「史料批判」
第 4 回	古代史科学の課題と視角②	古代史料の特徴と分析視角
第 5 回	古代史科学の課題と視角③	実務官司の仕事と書面
第 6 回	古代史料に見る情報の定着と移動①	情報の記録・伝達と「書類学」という考え方
第 7 回	古代史料に見る情報の定着と移動②	仕事に用いる文書とメモ
第 8 回	古代史料に見る情報の定着と移動③	仕事の進行とともに役割を変えていく書面
第 9 回	木簡と帳簿①	木簡と古代史科学の関係
第 10 回	木簡と帳簿②	紙の書面と木簡
第 11 回	木簡と帳簿③	「食口」という方法と木簡
第 12 回	口頭伝達と書面の関係①	書面の背後に見える口頭伝達
第 13 回	口頭伝達と書面の関係②	口頭伝達の記録
第 14 回	口頭伝達と書面の関係③	「口状」の発見からわかった業務の実態

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配布するテキストに目を通しておいください。また、講義の内容を、自分なりに文章に整理しておくことをすすめます。参考書や、講義中に紹介した研究文献にもできるだけ目を通してください。
 本授業の準備・復習時間は、2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

プリントを配布するので、講義に必ず持参してください。教科書は使用しません。

【参考書】

柴原永遠男『正倉院文書入門』（角川学芸出版、2011 年）
 市川理恵『正倉院写経所文書を読みとく』（同成社、2017 年）
 山口英男『日本古代の地域社会と行政機構』（吉川弘文館、2019 年）
 山口英男「装演小治田人公口状とその背景」（古瀬奈津子編『古代日本の政治と制度—律令制・儀式・史料—』同成社、2021 年）
 山口英男「正倉院文書に見える「口状」について」（佐藤信編『史料・史跡と古代社会』吉川弘文館、2018 年）
 山口英男「写経所の機構」（犬飼隆編『古代の文字文化』竹林舎、2017 年）
 山口英男「正倉院文書から見た「間食」の意味について」（『正倉院文書研究』13、2013 年）
 東京大学史料編纂所編『日本史の森を行く』（中公新書、2014 年）
 山口英男「正倉院文書に見える文字の世界」（国立歴史民俗博物館他編『古代日本と古代朝鮮の文字文化交流』大修館書店、2014 年）
 正倉院文書マルチ支援（多元的解析支援）データベース SHOMUS・奈良時代大日本古文書フルテキストデータベース（東京大学史料編纂所 SHIPS データベース <http://www.wap.hi.u-tokyo.ac.jp/ships/db.html>）
 奈良文化財研究所 木簡庫データベース <http://mokkanko.nabunken.go.jp/en/>

【成績評価の方法と基準】

成績評価は、期間中に提出してもらう複数の小レポートの内容によって行います。講義の進行に合わせて課題を出します。小レポートでは、講義の受講を前提に、講義内容の整理とその批判的論評を求めます。理解力（40%）、調査・考察力（30%）、文章力・独創性（30%）を基準に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

小レポートは、提出の翌週にコメントと評価を付して返却しますので、次のレポート作成の参考にしてください。これを繰り返すことで、文章のレベルや内容、説得力が確実にアップします。

【その他の重要事項】

インターネット等から文章を「剽窃」したレポートに対しては厳格な措置を取ります。他人の文章を盗み、あたかも自分の文章であるかのように人を欺く行為が許されないことを十分認識してください。

【Outline (in English)】

Learn research subjects on ancient historical documents, and the method of historical information extraction, focusing on Shosoin Document and Wooden Tablet.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend 2 hours to understand the course content.

Grades are determined by multiple reports on lecture content. Evaluation criteria of the report are 40% comprehension, 30% research and consideration, and 30% originality.

HIS200BE

東洋近現代史

芦沢 知絵

授業コード：A3208 | 曜日・時限：金 2/Fri.2

春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：2～4 年

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は「中国・香港・台湾からみる東アジア近現代史」をテーマとする。東アジアにおいて、中国・香港・台湾はそれぞれ重要な地域であり、日本とも政治・経済・文化など多方面にわたって深い交流がある。この三地域は「兩岸三地」と総称され、同じ中華文化圏として一括りに捉えられることが多い。しかし、歴史的には異なる背景を持ち、特に近代以降は植民地統治や政治的対立の時代を経て、互いに複雑な関係の下に置かれてきた。その過程は今日の東アジア、ひいては世界的な国際関係にも、大きな影響を及ぼしている。

本授業では、こうした近現代における中国・香港・台湾の交流／対立の歴史をたどりながら、それぞれの国家や地域社会・文化がどのように形成されてきたかを概観する。その上で、現在の三地域および東アジアの国際関係をめぐる、外交、経済発展、地域アイデンティティ、政治的民主化といった様々な問題について、歴史的な視点から共に考えていきたい。

【到達目標】

近現代の中国・香港・台湾の歴史をたどりながら、それぞれの国家や地域社会・文化の成り立ちについて、知識と理解を深めるとともに、現在の三地域および東アジアの国際関係をめぐる諸問題について、主体的に考察する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

原則として対面授業を実施する。基本的に講義形式をとり、毎回授業後にリアクションペーパーを提出する。提出されたリアクションペーパーは、次回授業時に一部を公開・回答し、フィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	東アジア近現代史入門	東アジア近現代史を学ぶ意義・方法
第 2 回	中国の近代①	アヘン戦争と清末の変動
第 3 回	中国の近代②	辛亥革命と中華民国の成立
第 4 回	香港の近代	イギリス統治下の都市発展
第 5 回	台湾の近代	日本統治下の近代化と社会統合
第 6 回	戦時の中国・香港・台湾	日本の軍事侵攻と地域社会
第 7 回	戦後東アジアの冷戦構造	国共内戦と台湾海峡危機
第 8 回	社会主義国家としての中国①	中華人民共和国の成立
第 9 回	社会主義国家としての中国②	文化大革命から改革開放へ
第 10 回	戦後の香港	経済成長と中国への返還
第 11 回	戦後の台湾	国民党独裁から民主化へ
第 12 回	グローバル化時代の東アジア	地域社会の交流と変容
第 13 回	現在の中国・香港・台湾	東アジア国際関係の現状と行方
第 14 回	東アジア近現代史の課題と展望	東アジア近現代史をめぐる諸問題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回授業後にリアクションペーパーを提出する。また、授業内で紹介した参考文献や配布資料をもとに知識と理解を深めるほか、中国・香港・台湾に関するニュースや新聞・雑誌記事にも自主的に目を通し、問題意識を高める。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

主な概説書は以下。その他は授業内で紹介する。

久保亨・土田哲夫・高田幸男・井上久士・中村元哉『現代中国の歴史——兩岸三地 100 年の歩み（第 2 版）』東京大学出版会、2019 年。

中村元哉・森川裕貴・関智英・家永真幸『概説 中華圏の戦後史』東京大学出版会、2022 年。

吉澤誠一郎他『中国近現代史①～⑥』岩波書店（岩波新書）、2010～17 年。

倉田徹・張瑛啓『香港——中国と向き合う自由都市』岩波書店（岩波新書）、2015 年。

若林正丈『台湾——変容し躊躇するアイデンティティ』筑摩書房（ちくま新書）、2001 年。

【成績評価の方法と基準】

① 平常点 30 %

主に毎回授業後に提出するリアクションペーパーを評価対象とする。

② 期末試験 70 %

授業内容に関する論述問題を出題する。

【学生の意見等からの気づき】

初学者にも理解しやすい講義を心がけ、写真や映像などの視覚的な資料も多く用いる。また、毎回リアクションペーパーへのフィードバックを行う。

【学生が準備すべき機器他】

授業連絡・資料配布・課題提出等のために学習支援システムを利用する。

【Outline (in English)】

This course introduces the history of the modern east Asia focusing on China (People's Republic of China), Hong Kong and Taiwan (Republic of China) area.

The goal of this course is to understand the present various issues about international relations of east Asia from a historical perspective.

After each class meeting, students will be expected to spend 2 hours to understand the course content.

Final grade will be decided based on term-end examination (70%) and in-class contribution (30%).

HIS200BE

東洋考古・美術史

塩沢 裕仁

授業コード：A3209 | 曜日・時限：木 3/Thu.3
春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：2～4 年

その他属性：〈優〉〈S〉

【Outline (in English)】

【Course outline and Learning Objectives】 On grasping the time and space area characteristic in visual aspect with increased archaeological datas in China, we will be able to understand the study situation and issues on the Chinese Archaeology, Art and Architecture.

【Learning activities outside of classroom】 Need two hours in a day.

【Grading Criteria /Policy】 Based on written test 100 percent.

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

東アジアの考古・美術・建築に対する研究の現状と課題の理解を目指します。近年増大する考古学の成果などを用い、ビジュアルな面から時間的・空間的に地域相をとらえることで、東アジアの考古・美術・建築に対する研究の現状と課題などが理解できるようになります。

【到達目標】

高度な技術を生み出してきた東アジアの物質文化に対して、これまでとは違った見方、考え方、接し方、ひいては新たな認識をもつことができます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

文化財の保護を主題とし、洛陽、西安、北京、南京、開封の都市文化を軸に講じていきます。

中国三千年王朝史の9割にもおよぶ期間が置かれてきた洛陽、西安、北京は、まさしく東アジアの文化の中心であり、そこに営まれた歴史、文化を理解することで、日本文化の淵源を理解することもできます。また、古代の都城が抱えた生活環境問題などを考えることで、今日の都市問題への問題提起を考えることができます。

青銅器や陶磁器といった工芸資料にとどまらず石窟芸術や宮殿・陵墓建築などの考古・美術的な価値についても考えてみたいと思います。

課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	導入	中国考古学の現状
第2回	新石器時代の聚落遺跡と出土遺物 1	仰韶文化と彩陶
第3回	新石器時代の聚落遺跡と出土遺物 2	竜山文化と灰陶、黒陶
第4回	文明多元論	河母渡・大地湾・夏家店・良渚文化
第5回	中国王朝の曙	二里头遺址と出土遺物
第6回	殷王朝の文化 1	偃師商城・鄭州商城遺址と出土遺物
第7回	殷王朝の文化 2	殷墟の甲骨と青銅器
第8回	周王朝の文化 1	周原の遺跡と出土遺物
第9回	周王朝の文化 2	東周洛陽の遺跡と出土遺物
第10回	春秋戦国の文化 1	曾公乙墓と出土遺物
第11回	春秋戦国の文化 2	曲阜孔廟と関連遺産
第12回	四川独自の文化	三星堆の遺構と出土遺物
第13回	秦初期の文化	天水・雍城の遺構と出土遺物
第14回	始皇帝の理想とその文化	始皇帝陵と兵馬俑

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

ほとんどの学生が当授業の内容に対しては初心者であると思います。講義の内容をよりよく理解するため、歴史事項だけでなく地理情報などの理解も必要です。あらかじめキーワードを授業内で示しますので、参考書等で確認しておくようにしてください。

また、東京国立博物館東洋館、根津美術館、出光美術館などを自主的に参観し、東アジアの考古・美術に関する知識を増大させてください。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特定の教科書は使用しません。

【参考書】

授業の進行に合わせて適宜紹介しますが、写真や図版が多用されているので『ビジュアル版世界の歴史5、中国文明の成立』（松丸道雄・永田英正、講談社、1985年）『ビジュアル版世界の歴史8、東アジアの世界帝国』（尾形勇、講談社、1985年）『ビジュアル版世界の歴史11、東アジアの変貌』（小山正明、講談社、1985年）などには目を通しておいてもらいたいと思います。

【成績評価の方法と基準】

期末試験 100%。

あらかじめ授業内で課題を提示します。問題意識を如何に持つかを重視しますので、自らの考えを自分の言葉で表現できるよう、平素より講義内容をまとめておくようにしてください。

【学生の意見等からの気づき】

当授業の内容を将来に生かすため、百貨店や骨董店など身近なところで東アジアの物質文化に触れる機会を増やしてください。

HIS200BE

日本史特講 XI

遠藤 慶太

授業コード：A3216 | 曜日・時限：月 2/Mon.2

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2～4 年

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講義は、日本最初の公式な歴史書である六国史について、基礎的な知識や調査の方法を習得することを目的とする。『日本書紀』をはじめとする六国史は古代史の基本史料であるだけでなく、古典として長く読み継がれてきた。現在のわたしたちが目にする活字や電子テキストの背後には、時代ごとの写本や刊本、個性的な解釈が存在する。この講義では六国史の具体的な記事を取りあげ、テキストの特色にも注意しながら、歴史を書き記す意味について考えてゆく。

【到達目標】

六国史各自の成り立ちや特色について、史料の根拠や歴史学の研究の現状に即して理解し、その内容を説明できるようになることを目標とする。そのためには漢文で書かれた記事の内容やテキスト（写本、刊本、注釈）を比較しながら、史料批判に代表される歴史学の基本的な考え方を学び、論理立てて自ら判断する思考を養っていきたい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式で、受講生の質問にも応えながら進行します。実際に史料を読んでもらうことや、調べてもらったことを発表してもらうこともあります。受け身ではなく意欲ある受講が、より深い学びにつながると考えるからです。前回の授業のリアクションペーパーからいくつか取り上げて授業内で紹介し、さらなる議論に活かしてゆきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	六国史について	ガイダンス／六国史についての概説
第 2 回	日本書紀の成立と受容	日本紀講と写本のながれ
第 3 回	日本書紀と神話	神代巻の構成と神社の伝承
第 4 回	日本書紀の対外交渉記事	外国史料との対応関係
第 5 回	日本書紀と壬申の乱	戦乱の叙述方法
第 6 回	続日本紀の成立	桓武天皇をめぐる修史事業
第 7 回	続日本紀と大仏開眼	大仏開眼記事にみる奈良時代の仏教
第 8 回	日本後紀とその復原	失われた歴史書の探索と出版
第 9 回	日本後紀の薨卒伝	官人の伝記と歴史叙述
第 10 回	続日本後紀と宮廷の安定	仁明天皇と「国風文化」をめぐる
第 11 回	日本文徳天皇実録と春秋	六国史と中国史書との影響関係
第 12 回	日本三代実録と儀式書	平安前期の儀礼と史書
第 13 回	日本三代実録と類聚国史	菅原道真の学問と歴史記事の部類について
第 14 回	国史を継ぐもの	六国史の後の歴史叙述／全体のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義資料を事前に web で公開するので、各自事前に読んでおいてください。とくに質問する項目については、各自で調べておいてください。この講義の準備・復習時間は各 1 時間を基本とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用せず、必要資料は配布する。

【参考書】

坂本太郎『史書を読む』（中公文庫、1987 年）、遠藤慶太『六国史——日本書紀に始まる古代の「正史」』（中公新書、2016 年）

【成績評価の方法と基準】

成績評価は、発言や発表など意欲ある講義参加（30%）、小テストやレポート課題（70%）を総合して行う。

【学生の意見等からの気づき】

講義の時間内で典籍や史料の画像や江戸時代の木版本の実物をみてもらい、関係書籍を紹介するなかで、受講生がより分かりやすく、さらに学ばすかけを提供できるよう心がける。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to teach students basic knowledge and methods of research about the old Japanese history book, 'Rikkokushi' (Chronicles of the Japan). 'Rikkokushi' is not only a basic historical source of ancient history, but has been read as a classic for a long time. Behind the Type text and Electronic text that we see today, there are books that have been transcribed, published, and even unique annotations. In this lecture, we will take a concrete article on 'Rikkokushi' and consider the meaning of writing History while paying attention to the characteristics of each Text.

Students are expected to complete the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than an hour he in class.

The overall class grade will be determined by the following criteria: Report: 70%, Contribution during class: 30%

HIS200BE

東洋史特講Ⅶ

徳留 大輔

授業コード：A3217 | 曜日・時限：月 5/Mon.5
春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：2～4 年

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

【授業の概要】 東アジア陶磁史——中国陶磁史を中心に

【目的・意義】 東アジアの陶磁史は悠久の歴史を有する。その陶磁器の生産は素材である粘土の採取をはじめ、それぞれの地域・窯が所在する自然地理的環境に大きな影響を受ける。そのためそれぞれに独自の陶磁器文化を生み出してきた。その一方で、国・地域を超えて人々の交流が密になるなかで、陶磁器の造形や意匠、様式にも交流の結果による変化や新しい陶磁器文化を生み出した。本講義では考古学・美術史・歴史学的研究成果をもとに「人」「交流」をキーワードに東アジアの陶磁史を学ぶ。

【到達目標】

陶磁器を「考古学」「美術史」「歴史学」という様々な研究方法から学ぶことで、それぞれの研究のアプローチの方法を修得することができる。また国・地域を超えた相互の交流によって生み出される文化・芸術を学ぶことで、「国際性」を身につけることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

講義を中心としながら、授業内での発表、リアクションペーパーの提出、2～3 回程度課題を出し、それに対するフィードバックを行う。また少なくとも 1 回は博物館・美術館で陶磁関係の展覧会の見学を予定している（なお交通費は各自負担）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	第 1 回目は「陶磁器（やきもの）」とはいったいどのような物質なのか。やきものは何のために、なぜ生まれたのか？ まずは皆で考えてみるとともに、陶磁器を通してどのようなことが分かるのか、どのような魅力があるのか体験してみる。
第 2 回	土器を知る！	東アジアの中でも古くから様々な種類の土器を生み出した、中国新石器時代の土器、なかでも彩陶、黒陶を中心にその機能や社会的意味を考える。
第 3 回	陶磁器の分類・枠組	イントロダクションで触れた陶磁器の概要をもとに土器・陶器・炆器・磁器、白磁・青磁・青花・黒釉・五彩（色絵）など、陶磁器の分類・枠組を理解する
第 4 回	東西交流のはじまり	いまから 2000 年前。アジアの西と東で交流が密になる中で、工芸品の分野では青銅器、ガラス製品だけでなく、陶磁器が交流の表舞台に現れる。シルクロード、海の道を介して本格化する東西交流のはじまりと陶磁器を介して探る。

第 5 回	チャイナインパクト—世界に影響を与えた中国陶磁器①	8 世紀後半から中国の陶磁器は貿易品として本格的に中国国外へ輸出される。晩唐・五代、宋時代における中国陶磁器の特徴を理解する。
第 6 回	チャイナインパクト—世界に影響を与えた中国陶磁器②	晩唐から宋時代における中国陶磁器の輸出先と貿易港をとりあげ、この時期の東西交流の様子を紐解く。
第 7 回	「青花」の誕生	14 世紀前半、突如として流行する青花磁器。白磁の上にコバルトを用いて筆書きにより表された意匠は、西アジアの人々を魅了した中国陶磁であった。またあわせて中国国内、東南アジアでも広く受容された。その青花が誕生し、流行した背景について西アジアの工芸品も含めながら、考察していく。
第 8 回	明清陶磁の展開	明清時代には景德鎮にて官窯が設置され、皇帝・宮廷用の陶磁器と民間用の陶磁器生産体制ならびに様式・質にも大きな違い生まれる。とくに明時代に着目しながら、官窯製品の特徴、また時期により異なる官民の製品の影響関係について理解を深める。
第 9 回	大航海時代と陶磁器	大航海時代には中国・日本の陶磁器が欧州をはじめ世界へ広がる。東アジアの陶磁器はなぜ世界を魅了したのか。明清時代の陶磁器、そして日本の古伊万里、柿右衛門を取り上げる。
第 10 回	唐物茶碗と茶の湯	茶の湯で用いられる茶碗には多くの唐物（中国陶磁器など）がある。それらは時代により流行する陶磁器が異なる。それはなぜなのか。陶磁器の受容という視点からその背景を探る。
第 11 回	日本における陶磁器鑑賞の歴史	日本では古くより寺社仏閣、茶の湯や華道など様々な分野で陶磁器を用いられてきた。一方で、近代に入り欧州から新しい価値感をもとに陶磁器を使用するのではなく、鑑賞することに主眼をおく見方が生まれる。それによりそれまで顧みられることがなかった、あるいは見過ごされてきた陶磁器が注目をうけることになる。その鑑賞の歴史を学ぶ。
第 12 回	日本における近現代陶芸の世界	明治維新後、日本の陶芸の世界は新しい時代を迎える。それまでの窯や産地を中心とする陶磁器だけでなく、個人作家が生まれる。ここでは近現代陶芸のバイオニアである板谷波山を中心に欧州の芸術様式の影響、中国や日本の古陶磁や工芸品が作家の作品づくりにどのような影響を与えたのか見ていく。
第 13 回	博物館見学	実際に陶磁器作品を見て、立体造形の陶磁器の魅力を感じ取る
第 14 回	まとめ	本講義で学んだことの復習。陶磁器の魅力について感想を求めます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。講義の際にレジュメの配布ならびに内容にあわせて参考文献を紹介します。授業の前・後に読んで要点をまとめて授業に臨んでください。また授業では課題を出しますので、次回の講義時に提出してください。

【テキスト（教科書）】

講義では教科書は使用しません。毎回レジュメを配布します。ただし、【参考書】に関してはぜひ一読してください。

【参考書】

葉喆民原著、出川哲朗 監訳、徳留大輔／新井崇之 訳『中国陶磁史』科学出版社東京、国書刊行会、2019 年
徳留大輔責任編集『茶の湯の茶碗 唐物茶碗』淡交社、2021 年

【成績評価の方法と基準】

期末レポート 60 %、各講義時に課す課題（宿題）20 %、平常点 20 %

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

本講義の担当者は美術館に勤務する学芸員であり、陶芸を中心とする工芸分野を担当しています。可能な限り、実物作品の実見や資料などの観察の方法のレクチャーや資料にふれる機会を設けるようにします。

【教員の専門領域など】

<専門領域>考古学・東洋陶磁史

<研究テーマ>中国初期王朝形成過程の考古学的研究、中国陶磁史

<主要研究業績>

徳留大輔責任編集『茶の湯の茶碗 第一巻 唐物茶碗』淡交社、2021 年
葉喆民原著、出川哲朗 監訳、徳留大輔／新井崇之 訳『中国陶磁史』科学出版社東京、国書刊行会、2019 年
徳留大輔編集『宋磁—神秘のやきもの』（展覧会・図録）、出光美術館、2018 年

【Outline (in English)】

【Outline】 The history of ceramics in East Asia focuses on the history of Chinese ceramics.

【Purpose and Significance】 The history of ceramics in East Asia has a long history. The production of ceramics is greatly influenced by the natural geographical environment of each region and kiln, including the extraction of clay, which is the raw material for ceramics. This is why each region and kiln has developed its own unique ceramic culture. On the other hand, as people interacted more closely with each other across countries and regions, the shapes, designs, and styles of ceramics also changed and new ceramic cultures emerged as a result of these interactions. In this lecture, we will study the history of ceramics in East Asia with the keywords "people" and "exchange" based on the results of archaeological, art historical, and historical studies.

【Learning activities outside of the classroom】

Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.

【Grading Criteria /Policy】

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination (report) : 60%、Short reports : 20%、in class contribution: 20%

HIS200BE

東洋史特講Ⅷ

松本 隆志

授業コード：A3218 | 曜日・時限：金 3/Fri.3
春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：2～4 年

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、古代地中海世界から説き起こし、アラビア半島での預言者ムハンマドの出現、中東地域への発展と分裂を経て、現在の私たちが知るところの「イスラーム」が形成されていった最初期のプロセスを学んでいきます。本授業を通じて、受講生がイスラームの生成と展開についてその歴史背景も含めて自分の理解を形成すること、そして自身の理解を文章で他者へ提示することを学びます。

【到達目標】

この授業を通じて学生は、高校までの世界史教科書等では断片的な情報しか得られないイスラームの生成と発展について、古代地中海世界に固有の信仰伝統の文脈の中で理解していくこととなります。そうして形成された歴史理解を、学生各自が自分の言葉で語るようになることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

毎回の授業は講師による講義と受講生によるペーパーの作成・提出で構成されます。課せられるペーパーは毎回の授業内容に関する論述です。提出されたペーパーについては次回の授業冒頭でフィードバックをおこなう予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の概要、テーマの説明と意義、授業の受け方について。
第 2 回	古代地中海世界の宗教伝統	古代地中海世界の信仰伝統としての一神教信仰について。
第 3 回	古代末期の地中海世界とアラビア半島	ビザンツ帝国とサーサーン朝の抗争と、その時代のアラビア半島の位置付けについて。
第 4 回	預言者ムハンマドと神の啓示	預言者ムハンマドの生涯とイスラームの誕生について。
第 5 回	預言者没後の指導者をめぐる試行錯誤の始まり	正統カリフ時代～第一次内乱に至る出来事について。
第 6 回	統一の再生と崩壊	第一次内乱の経緯とウマイヤ朝の成立について。
第 7 回	指導者の資格とは何か	第二次内乱前後の状況とウマイヤ朝の再興について。
第 8 回	ウマイヤ朝の到達点	ウマイヤ朝最盛期の歴史的な位置付けと問題点について。
第 9 回	ウマイヤ朝の衰退、対抗勢力の胎動	ウマイヤ朝末期の状況とハーシミーヤ運動について。
第 10 回	アッバース朝の確立	アッバース朝最初期の状況について。
第 11 回	革命をもう一度	アミンとマアムーンによるアッバース朝の内乱とその背景について。
第 12 回	イスラームの完成、帝国の限界	イスラームとアッバース朝カリフの関係について。
第 13 回	イスラーム世界の確立	諸王朝の乱立とイスラーム世界確立の関係について。
第 14 回	総括	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回配布する資料でその日の授業内容に関わる追加の参考文献を適宜紹介するとともに、次回内容に関わるキーワードを示していきます。追加文献に目を通したり、提出したペーパーを再検討することが復習になります。また、配布資料で示される次回のキーワードについて調べるのが予習になります。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特定の教科書は使用しません。
毎回授業資料を配布します。

【参考書】

・概説書
小杉泰、『イスラーム帝国のジハード』（講談社学術文庫）、講談社、2016 年。
菊地達也編著、『図説イスラームの歴史』、河出書房新社、2017 年。
・工具書
大塚和夫ほか編、『岩波イスラーム辞典』、岩波書店、2002 年。
その他の参考文献は適宜配布資料に記載します。

【成績評価の方法と基準】

毎回提出のペーパー（50%）、期末試験（50%）
ペーパーについては毎回素点をつけ、その累積をもとに評価します。
期末試験は論述試験となる予定です。
毎回のペーパーも試験も、ともに学生各自の見解を論述するものになります。授業内容を踏まえて自分なりの見解・解釈を生み出すこと、それを論理的に文章で示すことを評価の対象とします。

【学生の意見等からの気づき】

昨年度の授業改善アンケートより、図像等を用いてイメージをやすくしてほしいとの声がありました。特に地図などはできるだけ示しながら授業をしていきたいと考えています。

【学生が準備すべき機器他】

毎回の授業資料は Hoppii にて PDF で配布し、それをスクリーンで映しながら講義する予定です。配布資料は板書の代わりです。それを印刷して持参するか、あるいは自身の端末で閲覧するなどして、書き込みをしながら受講しましょう。

【その他の重要事項】

上記の内容は状況の変化によって変更される可能性があります。その場合は速やかに学習支援システムを通じて全員あてに告知します。受講予定者は正式な履修登録と合わせ、学習支援システムへの「仮登録」を必ず済ませておいてください。

【Outline (in English)】**【Course outline】**

In this course, we will study the initial process of the formation of "Islam" as we know it today. We will start from the ancient Mediterranean world, through the emergence of the Prophet Muhammad in the Arabian Peninsula, the development of the Middle East, and the division of the region, to the completion of "Islam".

【Learning Objectives】

At the end of this course, students are expected to form their own understanding of the creation and development of Islam, including its historical background, and to be able to present their understanding in writing to others.

【Learning activities outside of classroom】

Additional references will be introduced in the handouts distributed each class, and key words related to the contents of the next session will be indicated. Reading through the references and reviewing the submitted papers will serve as review. And researching the key words in the next lecture will serve as preparatory study.

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria /Policies】

Papers to be submitted each class (50%), final exam (50%)

The papers will be graded based on the cumulative score.

The final exam will be an essay exam. Both the papers and the exam will be about each student's views. Students will be graded on the basis of their own views and interpretations, and on their ability to present them logically in writing.

HIS200BE

西洋史特講Ⅹ

大澤 広晃

授業コード：A3219 | 曜日・時限：木 2/Thu.2
春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：2～4 年

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、救貧・福祉の視座から近現代イギリスの歴史を考える。具体的には、貧民や貧困にかかわる制度の変遷とともに、人々の日常生活に現れる助け合いのかたちとその変容にも注目することで、思想および実践としての救貧・福祉を検討する。そうすることで、近世から現代に至るイギリスの政治・社会・文化の特質を探っていききたい。

【到達目標】

・救貧・福祉という視点から、近現代イギリス史を理解する。
・現代の重要な社会課題のひとつである貧困や福祉という問題を、歴史に即して批判的に考える力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

この授業は原則として講義形式で行うが、授業中に質問をしたり、リアクションペーパーを積極的に活用したりして、受講生と「対話」しながら進めることを心がける。また、資料に基づくディスカッションや、受講生の数に応じてプレゼンテーションをしてもらうことも考えている。課題や質問に対しては、授業の内容や目的に照らして有益なものを抽出したうえで、次の授業までにフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の概要を説明する。
第 2 回	近世の救貧①：法と制度	近代以前の救貧と福祉の法制度について学ぶ。
第 3 回	近世の救貧②：貧民たちの戦略	近代以前の貧民のありようと共助や生存戦略について学ぶ。
第 4 回	改革の時代と新救貧法	新救貧法の内容とその特質を学ぶ。
第 5 回	「自由放任」の時代の救貧と福祉	19 世紀中葉における救貧と福祉の複合的なかたちを学ぶ。
第 6 回	貧民の世界	19 世紀の貧民たちの生活について学ぶ。
第 7 回	貧民の生存戦略	19 世紀の貧民たちの生存戦略について学ぶ。
第 8 回	貧困観の転回	19 世紀後半における貧困観の変化を、社会調査や社会主義、ニューリベラリズムの興隆と関連づけながら学ぶ。
第 9 回	福祉とナショナリズム	「外国人」への姿勢という観点から、福祉とナショナリズムの関係を学ぶ。
第 10 回	第一次世界大戦と福祉	第一次世界大戦が福祉の思想と実践に与えた影響を学ぶ。
第 11 回	帝国と福祉	イギリスの帝国支配と福祉の関係を学ぶ。
第 12 回	第二次世界大戦と福祉国家	第二次世界大戦期における福祉をめぐる議論と福祉国家の成立について学ぶ。
第 13 回	まとめ	授業の内容を総括する。
第 14 回	授業内試験	期末試験。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。以下に掲げる参考書などを自主的に読み、授業で扱う内容についての理解を深める。また、授業で用いる資料について宿題が課される場合もある。

【テキスト（教科書）】

使用しない。授業でプリントを配付する。

【参考書】

高田実・中野智世編『近代ヨーロッパの探求 福祉』ミネルヴァ書房、2012 年
長谷川貴彦『イギリス福祉国家の歴史的源流—近世・近代転換期の中間団体』東京大学出版会、2014 年
金澤周作『チャリティとイギリス近代』京都大学学術出版会、2008 年
金澤周作『チャリティの帝国—もうひとつのイギリス近現代史』岩波新書、2021 年

【成績評価の方法と基準】

・平常点（授業参加度、課題への取り組み）：50 %
・期末試験：50 %

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【Outline (in English)】

< Course outline >

This course examines poverty and welfare in modern and contemporary British history. It covers various topics including system and ideology of poor relief and welfare, charity and philanthropy, mutual aid of ordinary people, makeshift economy, and so on.

< Learning objectives >

- 1) Students are able to acquire basic knowledge about poverty and welfare in modern and contemporary British history.
- 2) Students are able to acquire critical views on poverty and welfare in contemporary world in reference to history.

< Learning activities outside of classroom >

Students have to spend at least two hours on preparation for and review of each class respectively. They are expected to read relevant books, such as those listed in the reference section, and learn by themselves. They also have to work on assignments given by the instructor.

< Grading policy >

Class participation and assignments: 50% Final examination: 50%

GEO200BF

地誌学概論（1）

小寺 浩二

授業コード：A3408 | 曜日・時限：木 2/Thu.2
 春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：2～4 年
 備考（履修条件等）：2022 年度以前入学生（2023 年度以降入学生は「地誌学概論（A3901）」を履修）

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

地誌学に関する基礎知識の習得と具体的な「自然誌」作成能力の育成。地誌学の概論を講義するとともに、日本の自然誌についてのサンプルを示し、自分誌や自然誌を具体的に記述することで、自分で地誌を作成する力を育成する。GIS の活用など、技術的なものも身に着ける。

【到達目標】

「地理学」において、「系統地理学」と並んで重要な分野である「地誌学」の歴史や方法論などについての基礎知識を習得する。あわせて、具体的な地域を取り上げた「自然誌」を作成し、「地誌」作成の基礎能力を修得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

授業全体を通して、「地理学」および「地理学的概念」、「地理学的研究手法」において重要な役割を果たす「地誌学」の歴史、理論、手法などについての基礎知識が習得できるように構成している。

また、授業の流れに沿って指示される2つの「自然誌」作成と、その講評・課題提示によって、基本的な「自然誌」作成能力の育成を目指す。さらに、データ処理や結果の図化、主題図の作成方法などについても講義し、レポート執筆能力の向上、論文作成技術の基礎を習得する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	講義内容概略	授業計画と課題説明
第2回	地理学と地誌学	地理学の中での地誌学の位置づけ
第3回	地誌学の歴史	地誌学の発展の歴史と主要文献紹介
第4回	地誌学の学派・方法論	フランス・ドイツ・アメリカなどの学派と地誌の方法論
第5回	広域地誌	広域地誌の定義と事例
第6回	国家地誌	国家地誌の定義と事例
第7回	総合的地誌	総合的地誌の定義と事例
第8回	動態地誌	動態地誌の定義と事例
第9回	景観論	景観論とそれに基づいた地誌
第10回	行政界と自然界	地誌における地域界について
第11回	自然誌	総合自然誌と主題自然誌
第12回	自分誌	自分誌の定義と事例
第13回	歩く自然誌	実際の経験によって組み立てる地誌
第14回	画像・映像による地誌	様々な画像や映像を用いた地誌

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

新聞記事をもとに、様々な地域の地誌をまとめる。
 自分の成長と共に変化した空間認識の違いについて「自分誌」としてまとめる。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

・杉谷隆・平井幸弘・松本淳（2005）：『風景の中の自然地理「改訂版」』、古今書院
 ・配布プリント資料

【参考書】

・長谷川典夫（1994）：『地誌学研究－地誌学作成法とその実例』、大明堂
 ・山本正三・田中真吾・太田 勇（1973）：『世界の自然環境』、大明堂
 ・藤岡謙二郎ほか（1982）：『世界地誌』-改訂増補版-、大明堂
 その他、授業内で紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（小テスト）課題、試験による総合評価。
 平常点3割、課題3割、試験4割とする。

【学生の意見等からの気づき】

今までの学生からの意見などをもとに、教材を新たに作成し直した。毎回の講義の結果からも修正していくつもりである。

【学生が準備すべき機器他】

原則として、毎回、PowerPoint や映像資料を活用してわかりやすく説明する。様々な分布図の作成のためのGIS活用法についてもコンピュータを用いて示す。

【その他の重要事項】

地理学科2年生に配置された重要な科目である。「地理学」を理解する上で欠かすことのできない「地誌学」を基礎から学ぶ科目であると同時に、卒論に至る重要なステップであるという位置づけのもとに授業内容を構成している。資料の検索・収集法からデータ整理・解析法の基礎、レポート・論文執筆のノウハウも伝授する。こうした知識・技術の習得如何で卒論の質が大きく異なってくるので、現段階での前向きな学習を期待する。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>自然地理学・水文学・陸水学

<研究テーマ>

- 1) 水循環に伴う物質循環
- 2) 人間活動に伴う水環境変化と保全
- 3) GIS を用いた流域水・物質循環解析と環境マネジメント

【Outline (in English)】

Basic knowledge is acquired about the history of "topography science" and the methodology which are the important field as well as "systematic geography" in "geography". The "natural topography" I disqualified for an area in detail all together is made and the basis ability of the "topography" making is acquired.

In "Geography", acquire basic knowledge about the history and methodology of "Regional geography", which is an important field along with "Systematic geography". At the same time, create a "natural magazine" that covers specific areas, and acquire the basic ability to create a "geographical magazine".

Throughout the course, you will be able to acquire basic knowledge about the history, theory, and methods of "geography," which plays an important role in "geography," "geographical concepts," and "geographical research methods." is doing.

In addition, we aim to develop basic "natural magazine" creation ability by creating two "natural magazines" that are instructed along the flow of the lesson and presenting their comments and assignments.

In addition, lectures will be given on data processing, result plotting, thematic map creation, etc., to improve report writing ability and learn the basics of dissertation writing technology.

Based on newspaper articles, we will summarize the geographies of various regions.

Summarize the differences in spatial perception that changed with your growth as a "self-magazine". The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each.

Normal score (quick test) assignments, comprehensive evaluation by exams.

Normal points are 30%, tasks are 30%, and exams are 40%.

GEO200BF

地球科学概論 I

穴倉 正展

授業コード：A3412 | 曜日・時限：火 3/Tue.3

春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：1~4 年

備考（履修条件等）：「地球科学概論 I」の受講者は原則として秋学期授業/Fall の「地球科学概論 II」も連続して受講し、1 年を通じて受講すること。

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

地球は生きていられると言われるが、日本列島に住む我々は特に、地震や火山噴火といった現象を目の当たりにしてそれを実感していることだろう。本講義では「地球」がどのように誕生し、どのような歴史を辿ってきたのか、またどのような理（ことわり）で活動しているのか、そのダイナミクスを固体地球科学の観点から解説する。また地震や火山噴火の予測について説明し、地球科学が社会に貢献できる可能性とその限界についても理解してもらう。

【到達目標】

我々が住む地球がどのように生まれ、我々の祖先となる生物がどのように進化してきたのか、また潮汐や磁場のような地球規模の現象、プレートテクトニクス理論による地震や火山噴火など、地球にまつわる様々な事象を理解することを目標とする。また普段から地球科学に関するニュースに接し、教科書の範囲を超えた科学の最新事情を知る姿勢を身につける。毎回の授業においてリアクションペーパーや課題レポートを提出することで、授業内容の理解度が評価される。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

基本的には講義の形式を取るが、グループワークも行う予定である。グループワークでは与えられたテーマについてディスカッションを行い、その結果をグループごとに発表してもらう。

毎回の授業においてリアクションペーパー（講義やグループワークの感想や質問）を提出してもらう。また授業内容に応じた課題の提出を求めることもある。

提出されたリアクションペーパーや課題レポートに対する回答は次の授業の冒頭で行い、フィードバックする。また課題に対する補講として 14 回の授業以外に校外学習（日帰りの現地見学等）も予定している。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	本講義のテーマの説明と評価法などについて説明する。
第 2 回	宇宙の中の地球	宇宙論の変遷、太陽系の成因論、地球のでき方について説明する。
第 3 回	地球の概観 1	地球の形と大きさ、内部の構造などについて、どのように測るか説明する。
第 4 回	地球の概観 2	地球の磁場と潮汐について、そのしくみや地層に残された記録について説明する。
第 5 回	地球誕生からの歴史	地球誕生 46 億年の歴史を生命の進化とともに説明する。
第 6 回	プレートテクトニクス 1	プレートテクトニクスの概念とメカニズムについて説明する。
第 7 回	プレートテクトニクス 2	プレートテクトニクスの研究の歴史について、日本における受容と拒絶を中心に説明する。
第 8 回	地震の基礎 1	地震の種類、震度とマグニチュードの違いなどを説明する。
第 9 回	地震の基礎 2	地震のメカニズム、予測に関する様々な観測などを説明する。
第 10 回	地震の基礎 3	地震予知情報に関する説明を行う。
第 11 回	グループワーク（地震）	地震をテーマにしたグループディスカッションを行い、グループごとに発表する。
第 12 回	火山 1	火山の種類や噴火メカニズムなどについて説明する。
第 13 回	火山 2	火山災害に関する説明を行う。
第 14 回	グループワーク（火山）	火山をテーマにしたグループディスカッションを行い、グループごとに発表する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

普段から宇宙や地球、地震、火山に関する最近の話題を新聞、雑誌、インターネットなど媒体を問わず各自で情報収集し、レポート作成に役立てる。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

テキストは特に定めない。関連する書籍や論文の重要なものは適宜紹介する。

【参考書】

西本昌司「改訂新版 地球のはじまりからダイジェスト-地球のしくみと生命進化の 46 億年」合同出版

http://www.godo-shuppan.co.jp/products/detail.php?product_id=487

泊次郎「プレートテクトニクスの拒絶と受容 戦後日本の地球科学史」東京大学出版会

<http://www.utp.or.jp/bd/978-4-13-060307-2.html>

穴倉正展「巨大地震をほり起こす」少年写真新聞社

<http://www.schoolpress.co.jp/s-293/>

大木聖子「地球の声に耳をすませて」くもん出版

<http://kumonshuppan.com/ehon/ehon-syousai/?code=34518>

【成績評価の方法と基準】

1・毎回提出してもらうリアクションペーパーや課題レポートの内容（90%）。
2・教員への積極的な質問等、授業に取り組む姿勢（10%）。
全 14 回（予定）の授業のうち 2/3 以上の出席をした者のみを評価の対象とする。

【学生の意見等からの気づき】

授業中の私語が気になるという意見があった。注意喚起を徹底したい。

【学生が準備すべき機器他】

授業中にクリッカーを使った投票を行うので、ノート PC やスマートフォンなど学習支援システムに接続できる機器を持参すること。

【その他の重要事項】

この授業はグループワークの班分けの都合から受講定員は 80 名程度とし、第 1 回の授業において 80 名以上の受講希望者がいる場合は選抜を行う。選抜方法は学習支援システムを通じたレポートの提出により採点を行い、可否は第 2 回授業までに教員より連絡する。

また地球科学概論 I の受講者は原則として秋学期の地球科学概論 II も連続して受講し、1 年を通じて受講すること。

本講義の教員は地球科学専門の国立研究機関に所属し、地震や津波の調査業務、地質図の作成業務などに携わっている。また政府機関等において地震防災に関する行政施策にも関わっている。これらの実務経験を踏まえ、単なる学術的な知識だけでなく、それを活かした地球科学の社会貢献に関わる議論まで行う。

教員は毎週火曜日のみ学内におり、授業時以外でコンタクトを取りたい場合はメールにて受け付ける。

【Outline (in English)】

【Course outline】

The ground motion of earthquakes and volcanic eruptions in the Japan Islands are giving a real sense of the living earth. This course explains how the earth has appeared and evolution, and how the earth's actions work from the point of view of solid earth science. Also, this course explains the forecast of earthquakes and volcanic eruptions and ask them to understand the possibilities and limitations of earth science to contribute to society.

【Learning Objective】

The goal of this course is to understand how the Earth we live on was created, how our ancestors evolved, global phenomena such as tides and magnetic fields, earthquakes and volcanic eruptions based on the theory of plate tectonics, and various other events related to the Earth. In addition, students will be exposed to news related to earth science regularly, and acquire an attitude of knowing the latest situation in science beyond the scope of the textbook. Students will be evaluated on their understanding of the class content by submitting reaction papers and assignment reports every week.

【Learning activities outside of classroom】

Students are expected to collect information on recent topics related to space, earth, earthquakes, and volcanoes, regardless of media such as newspapers, magazines, and the Internet, and use this information to prepare reports. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria/Policies】

1. Content of reaction papers and assignment reports being submitted each time (90%).
2. Attitude toward the class, including active questioning of the instructor (10%).

Only those who attend more than 2/3 of the 14 classes (scheduled) will be evaluated.

GEO200BF

地球科学概論Ⅱ

宍倉 正展

授業コード：A3413 | 曜日・時限：火 3/Tue.3

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：1～4 年

備考（履修条件等）：この授業は原則として春学期授業/Spring の「地球科学概論Ⅰ」から連続して受講するもの以外は受講を認めない。

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

地球表層の気圏、水圏・地圏それぞれで生じる現象は、我々人類に様々な影響を与えている。地震に伴う津波や地殻変動、また地球規模の気候変動やそれに伴うローカルな侵食・堆積などは、我々に災害をもたらすとともに、様々な恵みをもたらしている。本講義では地球科学概論Ⅰにおいて学んだ知識を基礎として、これらの自然現象のメカニズムを説明するとともに、そこから生じる災害とそれに対する課題について議論をしていく。

【到達目標】

我々が目にする山や川、海岸の景色は、地球内部と外部の両面からの作用や人為的な作用によって形づくられていることを理解し、地球のシステムを知って自然を見る目を養うことで、地学現象と自然災害との関係を理解することを目標とする。また普段から自然災害や防災対策に関するニュースに接してもらい、地球科学と社会との関係を考える姿勢を身につける。毎回の授業において出される課題に答え、また感想・質問を書いて提出することで、授業内容の理解度が評価され、論理的な思考能力と表現能力が評価される。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

基本的には講義の形式を取るが、グループワークも行う予定である。グループワークでは与えられたテーマについてディスカッションを行い、その結果をグループごとに発表してもらう。毎回の授業においてリアクションペーパー（講義やグループワークの感想や質問）を提出してもらい、また授業内容に応じた課題の提出を求めることもある。提出されたリアクションペーパーや課題レポートに対する回答は次の授業の冒頭で行い、フィードバックする。また課題に対する補講として 14 回の授業以外に校外学習（日帰りの現地見学等）も予定している。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	津波 1	最初に秋学期の講義全体の内容について説明。 後半は津波に関する講義を行う
第 2 回	津波 2	津波発生のしくみ、津波の高さの定義、津波堆積物について説明する。
第 3 回	グループワーク（津波）	津波をテーマにしたグループディスカッションを行い、グループごとに発表する。
第 4 回	地殻変動 1	地殻変動の観測方法や急激様々な様式の地殻変動を紹介する。
第 5 回	地殻変動 2	地形や生物に記録された地殻変動の調査研究例を紹介する。
第 6 回	活断層	活断層の定義や活断層の活動で形成される様々な地形、地層について説明する。
第 7 回	気候変動 1	10 万年スケールで繰り返してきた氷期と間氷期の歴史とそのメカニズムについて説明する。
第 8 回	気候変動 2	歴史的な気候変動や現在の地球温暖化について考える。
第 9 回	グループワーク（気候変動）	気候変動をテーマにしたグループディスカッションを行い、グループごとに発表する。
第 10 回	侵食と堆積 1	地球表層で生じる外的作用としておもに山の侵食を司る斜面移動について説明。
第 11 回	侵食と堆積 2	地球表層で生じる外的作用としておもに川の侵食と堆積および水害について説明。
第 12 回	侵食と堆積 3	地球表層で生じる外的作用として海岸の侵食・堆積について説明。

第 13 回 グループワーク（気象災害） 水害や土砂災害など気象災害をテーマにしたグループディスカッションを行い、グループごとに発表する。

第 14 回 防災教育と地球科学 地球科学の防災上の意義と社会的貢献について説明。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

津波、地殻変動、気候変動、水害・土砂災害などに関する最近の話題を新聞、雑誌、インターネットなど媒体を問わず各自で情報収集し、そこから課題を抽出して自身の考えをまとめるクセをつけること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは特に定めない。関連する重要な書籍や論文は講義中に紹介する。

【参考書】

杉村 新「大地の動きを探る」岩波書店

<https://www.iwanami.co.jp/BOOKS/11/7/1151980.html>

宍倉正展「巨大地震をほり起こす」少年写真新聞社

<http://www.schoolpress.co.jp/s-293/>

矢守克也「巨大災害のリスク・コミュニケーション 災害情報の新しいかたち」ミネルヴァ書房

<http://www.minervashobo.co.jp/book/b120801.html>

【成績評価の方法と基準】

1・毎回提出してもらうリアクションペーパーや課題レポートの内容（90%）。
2・教員への積極的な質問等、授業に取り組む姿勢（10%）。
全 14 回（予定）の授業のうち 2/3 以上の出席をした者のみを評価の対象とする。

【学生の意見等からの気づき】

授業中の私語が気になるという意見があった。注意喚起を徹底したい。

【学生が準備すべき機器他】

授業中にクリッカーを使った投票を行うので、ノート PC やスマートフォンなど学習支援システムに接続できる機器を持参すること。

【その他の重要事項】

この授業は原則として春学期の地球科学概論Ⅰから連続して受講するもの以外は受講を認めない。

本講義の教員は地球科学専門の国立研究機関に所属し、地震や津波の調査業務、地質図の作成業務などに携わっている。また政府機関等において地震防災に関する行政施策にも関わっている。これらの実務経験を踏まえ、単なる学術的な知識だけでなく、それを活かした地球科学の社会貢献に関わる議論まで行う。

教員は毎週火曜日のみ学内におり、授業時以外でコンタクトを取りたい場合はメールにて受け付ける。

【Outline (in English)】

【Course outline】

Phenomena occurring in the atmosphere, hydrosphere, and geosphere of the earth surface give human various influences. Tsunamis and crustal deformation associated with the earthquake, global climate change, and the accompanying local erosion and sedimentation bring us not only disasters but also various blessings. Based on the knowledge of the lecture in the spring semester, this lecture explains the mechanism of such phenomena and also discusses associated disasters and their issues.

【Learning Objective】

The goal of this course is to help students understand that the mountains, rivers, and coastal landscapes we see are shaped by both internal and external forces, as well as by human actions, and to help them understand the relationship between geological phenomena and natural disasters by developing an understanding of the Earth's systems and an eye for nature. In addition, students will be exposed to news about natural disasters and disaster prevention measures regularly and will learn to think about the relationship between earth science and society. Students will be required to answer the questions and write down their impressions and questions in each class to evaluate their understanding of the class content, as well as their ability to think logically and express themselves.

【Learning activities outside of classroom】

Students are expected to collect information on recent topics related to tsunamis, crustal movement, climate change, floods, and landslides, regardless of media such as newspapers, magazines, and the Internet. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria/Policies】

1. Content of reaction papers and assignment reports being submitted each time (90%).
2. Attitude toward the class, including active questioning of the instructor (10%).
Only those who attend more than 2/3 of the 14 classes (scheduled) will be evaluated.

GEO200BF

自然環境論

宇津川 喬子

授業コード：A3417 | 曜日・時限：火 5/Tue.5

春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：2～4 年

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、主に日本の流域・沿岸域に焦点を当て、自然環境の変遷を理解し、人々の暮らしとの関係を考えていく。

【到達目標】

さまざまな地域の自然環境の成り立ちを把握し、人々との関係を理解できる。自分自身や周囲の人々と身近な自然環境とのかかわりについて考察できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式で進める。毎回スライドを投影し、授業資料は Hoppii で公開する。毎回の授業の最後にコメントシート（感想、質問など）を提出してもらう。次の授業開始時に、前回提出されたコメントシートからいくつか取り上げ、コメントに対するフォローを行う。コメントシートや時事などに応じて、各テーマから若干異なる内容を授業内で展開する場合がある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス・導入：河川とは	授業の概要、計画、評価方法を説明する。また、河川（特に地形）の基礎的な事項を復習する。
第 2 回	日本の自然環境	日本の自然環境を概説する。
第 3 回	岩石と自然景観	岩石の分類を学び、主要な自然景観との関係を探る。
第 4 回	堆積物と環境変遷	様々な地層から読み取れる自然環境の変遷を学ぶ。
第 5 回	河川がつくった暮らし（1）	多摩川水系を例に、地形発達と土地利用を考える。
第 6 回	河川がつくった暮らし（2）	米代川流域を例に、地形発達と土地利用を考える。
第 7 回	自然災害と社会（1）	安倍川と常願寺川を例に、土石流を中心とした自然災害と地形発達を考える。
第 8 回	自然災害と社会（2）	相模川水系を例に、火山災害と土地利用を考える。
第 9 回	自然環境と人間生活（1）	天竜川水系を例に、海岸侵食と沿岸保全について考える。
第 10 回	自然環境と人間生活（2）	熊野川・信濃川水系を例に、地形発達と河川管理について考える。
第 11 回	自然環境と人間生活（3）	琉球列島・小笠原諸島を例に、地形・地質と水や土地の利用を考える。
第 12 回	海外の自然環境（1）大陸河川	大陸河川周辺の自然環境から日本の自然環境を見つめ直す。
第 13 回	海外の自然環境（2）島嶼	海外島嶼域の自然環境から日本の自然環境を見つめ直す。
第 14 回	まとめ	自然環境に関わる時事問題を取り上げながら、これまでの授業内容の総括を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

前回までの授業内容を復習する。

日常の自然環境にかかわる話題や事柄に関心を持つ。時事問題を取り上げた記事や書籍に目を通す癖をつけておくこと。

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

使用しない。授業資料は Hoppii で配布する。

【参考書】

授業内で適宜紹介する。地図帳の持参を推奨する（高校までに使用していたもので構わない）。

【成績評価の方法と基準】

中間レポート（30%）、期末レポート（50%）、コメントシート（20%）により評価する。

【学生の意見等からの気づき】

本科目は専門科目であり、また「概説」ではありませんので、教員の視点と専門性が強めに反映された授業内容になっています。授業では扱っていないが関連して興味をもっている内容は自分自身で調べて学びを深めてもらいつつ、適宜教員に相談してもらえれば学びへのアドバイスはできます。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【Outline (in English)】

This course focuses mainly on the geomorphological perspective of natural environment around drainage basin and coastal zone in Japan.

By the end of the course, students should be able to do the followings:

- A) Understand the formation of natural environment and relationship with the living people in various regions.

- B) Consider the relationship between yourselves, the people around them, and the familiar natural environment.

Before/after each class meeting students will be expected to spend two hours to understand the course content.

Grading will be decided based on the mid-report (30%), final report (50%) and short comments (20%).

HUG200BF

社会経済地理学（1）

小原 文明

授業コード：A3426 | 曜日・時限：金 3/Fri.3

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2～4 年

その他属性：〈他〉〈優〉

Final grade will be calculated according to the following process: term-end examination (70 %) and short reports (30 %).

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は社会経済地理学の基礎的科目として開講するものです。本年度は都市における様々な問題を題材にして、都市の構造や変化、社会的側面などの諸相を考えていきます。具体的には、発生場所や時代、内容などの観点から多岐にわたる都市問題を分類し、その背景や要因を社会的・空間的観点から考えていきます。

【到達目標】

本講義を通じて、地理学の立場から都市に関わる基本的な概念を理解できるようになります。また、都市問題を考えることを通じて、都市に関わる様々な事象の関係性や因果関係を、地理的（＝空間的）な観点から捉える力を身に付けることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

本授業は講義形式で行います。前述の通り、都市における様々な問題を題材にして、都市の構造や変化、社会的側面などの諸相を考えていきます。講義形式の授業であるため、担当者による話題提供が中心となりますが、講義内容に対して受講生自らの考えを表明することが大切であることから、授業中ならびに授業外でレポート課題を課すことがあります。授業外のレポート課題では、受講生自身が調べ、分析・考察することが求められます。

なお、課題等のフィードバックは次回以降の授業にて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり/Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス／都市の概念・成り立ち①	講義の方針・内容について／都市の概念・定義
第 2 回	都市の概念・成り立ち②	集落の成立
第 3 回	都市の概念・成り立ち③	都市の構造
第 4 回	都市問題①	都市問題の種類、発生場所
第 5 回	都市問題②	途上国の都市問題①
第 6 回	都市問題③	途上国の都市問題②
第 7 回	都市問題④	都心部の都市問題①
第 8 回	都市問題⑤	都心部の都市問題②
第 9 回	都市問題⑥	インナーシティの都市問題①
第 10 回	都市問題⑦	インナーシティの都市問題②
第 11 回	都市問題⑧	都市縁辺部の都市問題①
第 12 回	都市問題⑨	都市縁辺部の都市問題②
第 13 回	都市問題⑩	都市問題の時代的変遷
第 14 回	総括	まとめ・補足

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義中に指示するレポート課題（授業内課題・授業外課題）に取り組んでもらいます。授業外のレポート課題では、実際に調査を行ってもらい、その上で分析・考察することを求めます。また、講義中に紹介する参考文献を積極的に読むことを期待します。なお、本授業の授業外学習（レポート課題・準備・予習・復習）は各 4 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しません。レジュメならびに講義資料は授業中に配布します。

【参考書】

本講義に関連する参考文献は講義中に随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業内小レポート課題・授業外課題等）：30 %、筆記試験（持ち込み不可）：70 %。授業で扱う内容を正しく理解した上で、それぞれの事象の関係性を総合的かつ論理的に考える力を重視します。

【学生の意見等からの気づき】

講義内容は、できるかぎり各回で完結するよう心掛けますが、受講生の反応に合わせて授業内容や進度を変えることがあります。

【Outline (in English)】

This course introduces the urban structures and the urban problems to students taking this course.

The goals of this course are to understand causes and influences of urban problems and the basic geographical concepts, and to acquire the ability to generally consider geographical phenomena.

Before / after each class meeting, students will be expected to spend each 2 hours to understand the course content.

HUG200BF

社会経済地理学（2）

伊藤 達也

授業コード：A3427 | 曜日・時限：月 3/Mon.3
 春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：2～4 年

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

The goal of the class is "cultivation of public awareness to face environmental problems and act". The goal is to deepen the understanding of water problems occurring in Japan from this lecture. Learning activities outside of classroom

Do not limit the content of the lesson to the lesson, but connect it with the events in the actual life. Please observe carefully. The standard preparation and review time for this class is 2 hour each. Grading Criteria /Policy

The final exam is 70% and the normal score is 30%.

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

授業ではわが国の水問題を中心に全般的に学び、問題の本質の理解に努めます。

【到達目標】

授業の到達目標は「環境問題と向き合い行動する市民意識の育成」です。教員の講義からはわが国で発生している水問題についての理解を深めることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は教員の講義方式で進めていきます。途中、授業理解の促進のために、PPT を使用する予定です。授業に関する意見や質問は授業の最後に行うリアクションペーパーで提出します。対応すべき内容があった場合、次の授業の開始時に返答します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロ	講義概要と目的の説明をします。
第 2 回	環境問題を考える	環境とは何か、環境問題とは何かについて説明します。
第 3 回	環境の中の水資源	水資源の特徴について説明します。
第 4 回	水資源利用の歴史	水資源利用の歴史について説明します。
第 5 回	ダム・河口堰計画の特徴と環境コスト	ダム・河口堰による水資源開発の方法と環境コストについて説明します。
第 6 回	水資源問題を考える視角	日本の環境問題を考える視角について長良川河口堰問題を中心に説明します。
第 7 回	全国のダム・河口堰反対運動	ダム・河口堰反対運動について説明します。
第 8 回	ダムと山村	ダムが山村に与えた影響について説明します。
第 9 回	利根川の水問題	利根川の水利用の現況と問題点について説明します。
第 10 回	脱ダムの地域再生	熊本県五木村の地域再生について説明します。
第 11 回	長良川河口堰開門検討委員会	長良川河口堰開門検討委員会の活動について説明します。
第 12 回	農業用水と地域社会	わが国における農業用水の特徴と地域社会について説明します。
第 13 回	カッパと水辺環境保全・地域振興	地域社会に占めるカッパ等妖怪の果たす役割について説明します。
第 14 回	水環境を取り込んだ生活再編成	授業をまとめます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の中の内容を授業にとどめず、実際の暮らしの中の出来事と結び付けてください。よく観察してください。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

伊藤達也『水資源問題の地理学』原書房 2023 年

【参考書】

参考書は授業中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

期末試験 70 %、平常点 30 %で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

授業内容が自らに関係するものであることを気づいてもらえるよう努力します。

【学生が準備すべき機器他】

パワーポイントの使用を基本とします。

【Outline (in English)】**Course outline**

The goal of this class is to have public awareness to face environmental issues and act. In this class, we learn about water problems in Japan in general.

Learning Objectives

HUG200BF

社会経済地理学（3）

佐々木 達

授業コード：A3428 | 曜日・時限：火 3/Tue.3

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2～4 年

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、日本経済の地域構造の再編と農業地域の変貌について学習する。経済現象の地域性を明らかにする経済地理学の枠組みから、日本の経済社会と農業・農村問題の基本問題を明らかにすることが目的である。

【到達目標】

授業のテーマ：日本経済の構造変化と農業地域の変貌

到達目標①：日本経済の変化とそのもとの国土空間の利用の特徴を理解すること

到達目標②：戦前と戦後の日本経済の発展構造の違いを理解すること

到達目標③：日本経済の構造変化に対する農業地域の対応を理解すること

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

本講義は2部構成をとる。第1部は日本経済の地域構造の変化である。戦前から戦後の日本社会がどのような変化を辿ってきたのか、その地理的特徴について説明する。第2部は、日本の農業地域の変容メカニズムである。第1部を踏まえて経済構造の変化に農業地域はどのような対応を示してきたのかを検討する。これらを通じて、現在、日本が直面している多くの問題は歴史的なつながりで生み出されていること、および地域間関係の中で形成されてきたことを理解することがねらいとなる。

また、上記の方法を確認するために、双方向型の授業づくりとして複数回のリアクションペーパーや受講生による質疑応答の時間を設ける。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	社会経済地理学の枠組み	経済現象の地域性とは？
第2回	産業資本確立期の日本経済の地域構造	明治期の日本経済の課題
第3回	戦前期の日本経済の再生構造と国土利用	近代産業、植民地、地主制
第4回	戦後復興期の日本経済の地域構造の再編	敗戦と戦後復興期の国土利用の特徴
第5回	高度経済成長のメカニズム	太平洋ベルトの工業化
第6回	高度経済成長下の農業農村	労働力の大移動と出稼ぎ
第7回	オイルショックと産業構造の転換	電気機械工業の成長と地方の時代
第8回	安定成長期の農業・農村	発展なき成長メカニズムと農家兼業
第9回	低成長期とバブル経済	産業構造の再編と国土利用
第10回	経済のグローバル化と地域	産業空洞化と投資主導型経済構造
第11回	人口減少社会への突入	地方消滅論と農村社会の行方
第12回	これからの日本経済と国土利用	少子高齢化と日本経済の展望
第13回	日本の農業地域はどこに向かうのか？	減反50年、食料消費の多様化、食料自給率について
第14回	試験・まとめ	試験とまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日本経済や農業・農村の基本的な知識については、新書を読むなどしてください。本授業の準備・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しません。授業中に資料を配布します。

【参考書】

長岡顕・中藤康俊・山口不二雄編『日本農業の地域構造』、大明堂、1978年
石井素介・浮田典良・伊藤喜栄編『図説日本の地域構造』、古今書院、1986年
生源寺真一『日本農業の真実』、ちくま新書、2011年
吉川洋『高度成長』、中公文庫、2012年
増田寛也編著『地方消滅』、中公新書、2014年
中澤高志『住まいと仕事の地理学』、旬報社、2019年

【成績評価の方法と基準】

小レポート（50%）、試験（50%）により総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

特にありませんでした。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを利用する予定です。

【Outline (in English)】

【Course outline】 This course deals with the structural reorganization of Japanese economy and development of agricultural region.

【Learning Objectives】 There are three viewpoints of learning objectives.

1. Understanding the changes in the Japanese economy and the characteristics of national land use

2. Understanding the differences in the development structure of the Japanese economy before and after the war.

3. Understanding the reflection of agricultural region to structural changes in the Japanese economy

【Learning activities outside of classroom】 Your study time will be more than four hours for a class.

【Grading Criteria /Policy】 Your overall grade in the class will be decided based on the following Short report (50%), Term-end examination (50%)

GEO200BF

世界地誌（1）

堤 純

授業コード：A3443 | 曜日・時限：火 1/Tue.1

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2～4 年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

世界で最も美しく暮らしやすい国の一つといわれるオーストラリア。「温暖な気候に恵まれ、豊富な農産・鉱物資源に恵まれ、陽気でフレンドリーなオージーの暮らす大らかで豊かな国」という印象の強いオーストラリアだが、1970年代中盤までは、白豪主義を掲げ、アジア系移民を受け付けない、全くの「別人」だった。そのオーストラリアが、日本と「相思相愛」の関係になるまでの道は決して平坦ではなかった。この授業では、自然条件、歴史、文化的背景、経済状況、そして国際社会における役割など多様な視点から地誌学（地域地理学）的に、この国の素顔に迫る。

【到達目標】

1. オーストラリアの自然、歴史、文化的な特徴を説明できる。
2. オーストラリア建国時と今日の外交上のスタンスの変化を説明できる。
3. オーストラリアの都市社会が抱える諸問題とその解決策について一例を挙げて説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

対面による授業を予定していますが、担当教員の都合により4～7回のオンライン（当該授業時間中にライブ配信+有効期限のあるオンデマンド動画併用予定）の回がある見込みです。詳細は、初回の授業日にアナウンスします。詳細は、法政大学のルールに従うことにします。どの回が対面で、どの回がオンラインになるかは、初回の授業時（9月26日：初回は必ず対面）にアナウンスします。リアクションペーパー（500字未満）は毎回書く事を求めます。詳しくは、【成績評価の方法と基準】欄も併せて参照して下さい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オーストラリアとはどんな国か？	オリエンテーション
第2回	オーストラリアの自然環境の特殊性（5500万年の大陸移動と厳しい乾燥）	乾燥が激しいオーストラリアの自然環境は、人が住む大陸の中で最も厳しい一方で、固有の動植物を生み出してきた重要な条件となってきた背景について講義する。
第3回	多様な気候条件と固有種（なぜコアラとカンガルーが大繁殖したか）	自然環境と固有種の関係について、前回授業の内容をさらに深掘りする。
第4回	映画に描かれたオーストラリア社会の表象① -Harsh History of Immigrants-	移民によって作られたオーストラリアにおいても、イングランド系移民とアイルランド系移民の間で厳しい対立があった背景について講義する。
第5回	映画に描かれたオーストラリア社会の表象② -Stolen Generations-	先住民のアボリジニの子供を強制的に親から離し、白人社会の中で育てていた政策について講義する。
第6回	広大な大地と Dreaming Story -アボリジニの文化-	文字をもたない文化ゆえに優れた芸術性をもったアボリジナル・アートについて講義する。

第7回	植民地の成立とオーストラリア政治 -ゴードラッシュと白豪主義-	白豪主義が成立した背景と、1970年代に白豪主義が撤廃されるに至った経緯について講義する。
第8回	イギリスとの「決別」とアジア・太平洋地域への接近 -国家アイデンティティの確立-	オーストラリアがなぜアジアの一員になったのかについて、社会・経済条件の観点から講義する。
第9回	オーストラリアの農牧業 -もはや「羊の背中のにっつた国」ではない？-	オーストラリアの農業の特徴について講義する。
第10回	オーストラリアの都市社会①（鉄鉱山へのFIFO「飛行機通勤」で発展するパース）	パースとその周辺地域の特徴について講義する。
第11回	オーストラリアの都市社会②（グローバル都市・シドニー）	シドニーとその周辺地域の特徴について講義する。
第12回	オーストラリアの都市社会③（伝統と最新が調和する都市・メルボルン）	メルボルンとその周辺地域の特徴について講義する。
第13回	Lovely Aussie Lifestyle (wagyu, バーベキュー, LOHAS な休日, LGBTQ 社会, 観光など)	豊かでゆっくりと時間が流れるオーストラリアの休日の風景について講義する。
第14回	試験・まとめと解説	試験実施（LMSにレポートを提出するスタイルを予定）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で使うパワーポイントのスライド（空欄穴埋め式）はおおむね当該授業の前週の授業日までにはLMS上にアップされているので、次週の授業までの間にあらかじめ目を通して、空欄に入る用語を予習した上で当日の授業に臨むとよい（2時間）。パワーポイントの内容と、授業時の教官の口頭説明や板書内容を書き取った自筆ノートとを比較しながら復習する（2時間）。

【テキスト（教科書）】

特定の教科書は使用しない。

【参考書】

堤 純 編（2018）『変貌する現代オーストラリアの都市社会』筑波大学出版会、ISBN 4904074467
竹田いさみ（2000）『物語オーストラリアの歴史：多文化ミドルパワーの実験』中央公論社、ISBN 9784121015471

【成績評価の方法と基準】

毎回のリアクションペーパーで50%、期末試験（LMSにレポートを提出するスタイルを予定）にて50%。

【学生の意見等からの気づき】

本年度新規科目につきアンケートを実施していません。

【学生が準備すべき機器他】

オンラインの授業が4～7回ある予定のため、オンライン動画を視聴できる環境が必要です。

【その他の重要事項】

毎回の授業で用いる教材（パワーポイント資料、授業動画）は、LMS上で公開します。

担当教官は非常勤講師ゆえ、オフィスアワーはありません。質問・連絡事項がある場合は、メール（jtsu@geoenv.tsukuba.ac.jp）で受け付けますが、その際、必ず「PCのメールアドレス（GmailなどのWebmail可）」から送信して下さい。未着トラブルが多いので、携帯ドメイン（docomo, ezweb, softbank等）からのメールには返信しません。

【Outline (in English)】

Australia is considered one of the most beautiful and comfortable countries in the world. Australia has a strong impression of being "a generous and prosperous country blessed with a warm climate, abundant agricultural and mineral resources, and cheerful and friendly Aussie people," but until the mid-1970s, Australia was a completely different country with a White Australia policy that did not accept Asian immigrants. Australia's path to a "honeymoon relationship" with Japan was by no means smooth. In this lecture, we will approach the real face of Australia from diverse perspectives, such as, including its natural environment, history, cultural background, economic situation, and role in international society, and so on.

Goal

1. Students will be able to explain the nature, history, and cultural characteristics of Australia.
2. Students will be able to explain changes in the diplomatic stance of Australia between the time of the beginning and today.
3. Students will be able to explain the urban social problems in Australia by giving some concrete examples.

Work to be done outside of class (preparation, etc.)

The PowerPoint slides (filling-blank-space type) to be used in the class are subject to be uploaded on the LMS by the week before the class, so it is recommended that students read through the slides before the next class and try to find the terms that fits blanks before attending the class (2 hours).

Review the contents of the PowerPoint slide by comparing your answer with the instructor's oral explanations (2 hours).

Grading criteria

50% on the reaction paper assigned in each class, and 50% on the final exam (report will be submitted to the LMS).

GEO200BF

世界地誌（2）

小原 文明

授業コード：A3444 | 曜日・時限：火 3/Tue.3
 春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：2～4 年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

地誌学とは、特定の地域の様々な事象について、有機的な繋がりを持って体系的かつ総合的に考え、理解する学問です。本授業では北米各国・各地域の歴史・文化や産業、都市の発展に焦点を当てて授業を行います。とりわけ、国境を越えて展開される産業（アグリビジネス、製造業など）について学びます。

【到達目標】

本授業を通じて、世界における北米地域の位置づけや同地域の産業の展開を理解することができるようになります。また、本授業では、北米地域の地誌についての知識を修得するだけでなく、それら諸事象について体系的・総合的に考察する力を身に付けることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

まず、北米地域全体の自然環境や人口分布、世界における位置づけ、アメリカ合衆国・カナダ・メキシコの関係性などについて学びます。それらを踏まえて、各国の歴史・文化や産業などについて考えます。そして最後に、都市ならびにエスニックマイノリティ（日本人）に焦点を当て、都市・都市圏構造や都市開発、エスニックビジネスなどについて考えていきます。

なお、小レポート課題等のフィードバックは次回以降の授業内で行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス／北米の概略①	授業の進め方／自然環境
第 2 回	北米の概略②	人口分布／アメリカ合衆国・カナダ・メキシコの関係性
第 3 回	アメリカ合衆国の地誌①	歴史・文化／人口
第 4 回	アメリカ合衆国の地誌②	産業①：農業の展開
第 5 回	アメリカ合衆国の地誌③	産業②：工業の展開
第 6 回	カナダの地誌①	歴史・文化／人口
第 7 回	カナダの地誌②	産業①：農業の展開
第 8 回	カナダの地誌③	産業②：工業の展開
第 9 回	メキシコの地誌①	歴史・文化／人口
第 10 回	メキシコの地誌②	産業：農業の展開
第 11 回	メキシコの地誌③	産業：工業の展開
第 12 回	北米における都市発展	都市・都市圏／都市システム／都市開発
第 13 回	北米における日本人	エスニックタウン／エスニックビジネス
第 14 回	総括	まとめ／補足／質疑応答

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内外でレポート課題（授業外課題・小レポート課題等）に取り組んでもらいます。また、授業で紹介する参考文献については、自主的に読むことを求めます。

なお、本授業の授業外学習（レポート・準備・復習時間）は各 4 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用せず、授業レジュメや資料はこちらで作成・準備し、配布します。

【参考書】

・小塩和人・岸上伸啓編（2006）：『朝倉世界地理講座—大地と人間の物語—13 アメリカ・カナダ』朝倉書店。
 ・国本伊代編著（2011）：『現代メキシコを知るための 60 章』明石書店。
 ・坂井正人・鈴木 紀・松本栄次編（2007）：『朝倉世界地理講座 14 ラテンアメリカ』朝倉書店。
 ・田辺 裕監修（1997）：『図説大百科世界の地理 1・2 アメリカ合衆国 I・II』朝倉書店。
 ・田辺 裕監修（1999）：『図説大百科世界の地理 4 中部アメリカ』朝倉書店。
 ・田辺 裕・竹内信夫監訳（2008）：『アメリカ ベラン世界地理体系 17』朝倉書店。
 ・矢ヶ崎典隆編（2011）：『世界地誌シリーズ 4 アメリカ』朝倉書店。
 ・矢ヶ崎典隆（2010）：『食と農のアメリカ地誌』東京学芸大学出版会。
 ・矢ヶ崎典隆ほか編著（2003）：『アメリカ大平原—食糧基地の形成と持続性—』古今書院。

・その他の参考文献については、授業の中で適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業外課題・小レポート課題等）：30％、期末試験：70％。それぞれの事象の背景や要因、結果について総合的かつ論理的に考える力を重視します。なお、期末試験は論述形式の筆記試験を行います。

【学生の意見等からの気づき】

講義形式の授業であるため担当者からの話題提供が中心となりますが、多くの資料・データを提示することで、受講生自身が考察を行った上で、講義内容を理解できる授業となるよう心掛けます。

【Outline (in English)】

This course introduces the regional geography of the north American counties to students taking this course. The goals of this course are to be able to understand the basic geographical concepts and points of view, to analyze the causes, processes, influences and interrelationships of various phenomena of the area, and to acquire the ability to generally consider geographical phenomena.

Before / after each class meeting, students will be expected to spend each 4 hours to understand the course content.

Final grade will be calculated according to the following process: term-end examination (70 %) and short reports (30 %).

GEO200BF

世界地誌（3）

小寺 浩二

授業コード：A3445 | 曜日・時限：木 2/Thu.2

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2～4 年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

地理学において、系統地理学と並び重要な「地誌学」の基礎を理解し、中でも世界地誌・広域地誌の対象地域としてのアジアの具体的な地誌を学び、様々な地域特性とその地誌としての記述方法について学習する。まず、世界のもののアジアを理解し、つぎに、アジアの個々の地域について概観する。

講義を踏まえて、具体的な地域を選定して自然誌を作成し、地誌を記述する上での技術についても学ぶ。

【到達目標】

わが国と地理的にもっとも近いアジアの自然と、そこに暮らす人々の生活を理解する。気候・地形・植生・水環境など様々な自然環境の特徴を中心とした「自然誌」の理解を前提に、文化・社会的な特徴についても理解し、地誌の記述方法についても学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

アジア全体の概観から各諸地域、個別の国の地誌を講義する。古くからの資料を活用しながらも、最新の研究成果なども紹介し、古くて新しいアジアの現状を示す。

また、具体的なデータなどから、自ら理解する工夫なども行い、「地誌の記述」についての理解も深めるよう指導する。

毎回の授業では、出席簿に授業の要約や質問等を記述して提出させ、次回授業でその内容についてコメントする。

また、小レポートと最終レポートを提出させ、それぞれ評価した上で、模範解答を基に、理想的なレポートについて解説する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり/Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	講義概要・ガイダンス	講義の概要と授業の進め方について説明。
第 2 回	アジア総論（1） 世界の中のアジア概観	アジアの特殊性についての概要。
第 3 回	アジア総論（2） 位置・地質・地形	アジアの地理的位置・地質構造・大地形。
第 4 回	アジア総論（3） 河川・湖沼・気候	アジアの代表的な河川・湖沼と気候の特徴。
第 5 回	アジア総論（4） 植生・地域区分	アジアの植生の特徴と、地域区分を理解。
第 6 回	東アジア（1） 中国と台湾	隣国である中国と台湾について。
第 7 回	東アジア（2） モンゴル・韓国・北朝鮮・極東ロシア	中国と台湾以外の東アジアについて。
第 8 回	東南アジア（1） インドシナ半島	インドシナ半島の自然環境と諸国について。
第 9 回	東南アジア（2） 東南アジアの島嶼国	東南アジアの島嶼国について。
第 10 回	南アジア（1） 南アジア全域・インド	南アジア全域とインドの概要。
第 11 回	南アジア（2） インド以外の南アジア	スリランカ・パキスタン・バングラディッシュ・ネパールなど。
第 12 回	中央アジア（1） 中央アジア全域とウズベキスタン・カザフスタン	中央アジア全域とウズベキスタン・カザフスタンの概要。
第 13 回	中央アジア（2） その他の中央アジア	キルギスタン・タジキスタン・トルクメニスタンなど。
第 14 回	西アジアの概要	イラン・イラク・サウジアラビア・トルコなど。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

普段からアジア全体の動きに注目し、テレビのニュースや新聞の記事には、つねに問題意識を持つようにしてほしい。特に復習に力を注いで頂きたい。

毎回の講義に対して、予習・復習をそれぞれ 2 時間、小レポートに関しては 3 時間程度、最終レポートに関しては、数時間以上は時間を確保して取り組むことが望ましい。

【テキスト（教科書）】

多田文男（1972）：『世界地誌 I（アジア）』、法政大学通信教育部、291p。
古い教科書であるため、新しい情報は、講義の度にプリントなどで紹介する。

【参考書】

河野通博編（1991）：世界地誌ゼミナール I 『新訂 東アジア』、大明堂、242p。
岩田慶治編（1972）：世界地誌ゼミナール II 『南アジア』、大明堂、212p。など。
講義の度に紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業への取り組み・課題・試験による総合評価。取り組み 3 割、課題 3 割、試験 4 割を原則とするが、その他小テストなどを行う場合もある。

【学生の意見等からの気づき】

なし（新規担当であるため）

ただし、資料や映像などをなるべく多く活用してわかりやすい講義とする。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

特になし。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>自然地理学・水文学・陸水学

<研究テーマ>

- 1) 水循環に伴う物質循環
- 2) 人間活動に伴う水環境変化と保全
- 3) GIS を用いた流域水・物質循環解析と環境マネジメント

【Outline (in English)】

Even during understanding an important basis of "topography science" as well as systematic geography in a geography, an Asian topography in detail as a target area of the world topography and a wide area topography is learned and it's learned about a description method as various regional characteristics and the topography. First Asia in the world is understood and it next is surveyed about each Asian area.

Understand the nature of Asia, which is geographically closest to Japan, and the lives of the people who live there. Based on the understanding of "natural magazines" focusing on the characteristics of various natural environments such as climate, topography, vegetation, and water environment, we will also understand cultural and social characteristics and learn how to write geographies.

Lectures on regional geography of each region and individual country from an overview of Asia as a whole. While utilizing old materials, it also introduces the latest research results and shows the current state of old and new Asia.

In addition, we will also devise ways to understand ourselves from specific data, etc., and instruct them to deepen their understanding of the "description of the geography".

In each lesson, write a summary of the lesson, questions, etc. in the attendance book and submit it, and comment on the contents in the next lesson.

In addition, we will ask you to submit a small report and a final report, evaluate each, and explain the ideal report based on the model answer. I would like you to keep an eye on movements throughout Asia and always be aware of problems in TV news and newspaper articles. Please pay particular attention to the review.

For each lecture, it is desirable to secure 2 hours for preparation and review, 3 hours for small reports, and several hours or more for the final report.

Comprehensive evaluation based on class initiatives, assignments, and exams. In principle, 30% of efforts, 30% of tasks, and 40% of tests are conducted, but other quizzes may be conducted.

GEO300BF

自然地理学特講（3）

丸本 美紀

授業コード：A3453 | 曜日・時限：金 5/Fri.5

春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：3～4 年

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、気候変動と日本の気象災害の歴史について扱います。特に、日本の奈良・平安時代にあたる中世気候異常期と現在深刻さを増している地球温暖化を取り上げ、これらの2つの温暖化の時代の気象災害について、地理学の観点から学んでいきます。また、これらを通して、地理学における役割についても考えていきます。

【到達目標】

1. 気候変動と日本の気象災害の歴史について理解することができる。
2. 地球温暖化に対して、どのような気象災害が起こるのかを予測し、行動することができる。
3. 地理学、気候学の理解に繋げることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

初回はオンライン、2回目以降は対面で行う予定です。パワーポイントと配布資料で講義を行い、各回ミニレポートを授業内に提出してもらいます。提出してもらったミニレポートは翌授業以降にフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	はじめに	授業の概要紹介 地理学における気候学の視点
第2回	気候の構造	気候のスケールと複合構造 気象災害の構造、モデル
第3回	気候変動の歴史	気候変動の歴史と気候の復元方法
第4回	歴史時代の気候	中世気候異常期（MCA）の特徴
第5回	日本の歴史時代の気候①	奈良・平安時代の気象災害と瀬戸内気候
第6回	日本の歴史時代の気候②	奈良時代の干ばつと奈良の自然環境
第7回	日本の歴史時代の気候③	平安時代の大雨・洪水害と京都の自然環境
第8回	歴史時代の気候④	貞観時代の自然災害と人びとの生活
第9回	地球温暖化	地球温暖化の現状とメカニズム
第10回	地球温暖化と極端現象①	地球温暖化と猛暑
第11回	地球温暖化と極端現象②	地球温暖化と集中豪雨
第12回	地球温暖化と極端現象③	地球温暖化と台風
第13回	地球温暖化のその他への影響	地球温暖化と都市気候
第14回	まとめ	気候変動と気象災害についてまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません。毎回、資料を配布します。

【参考書】

各回の講義内で紹介します

【成績評価の方法と基準】

期末レポート 60% + ミニレポート（平常点）40%

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

防災士の資格を生かして、防災の観点も取り入れて授業を行いたいと思います。

【Outline (in English)】

This course deals with climate change and climatic disasters in Japan. And we will consider the significance of climatology in geography. At the end of the course, students are expected to understand histories of climate change and climatic disasters in Japan. Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than two hours for a class. Final grade will be calculated according to the following process: term-end examination (60%), and short reports in each class(40%).

HUG300BF

人文地理学特講（1）

小田 宏信

授業コード：A3455 | 曜日・時限：火 2/Tue.2

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：3～4 年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

産業立地論と産業集積論をベースにした経済地理学の主要な関心事について、基本的な考え方と研究事例を紹介します。これを通じて、地理的見方、考え方を培い、地理学の立場から現代の経済社会をみつめる一助とします。

【到達目標】

1. 経済地理学の視点から、地域の発展と変容のメカニズムを理解できる。
2. 産業立地論や産業集積論の基本を理解できる
3. 産業立地と経済発展の関わりについて理解できる。
4. 地理学の観点から現代社会を見つめることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

オーソドックスな講義形式の授業です。学習支援システムを通じた小課題の提出をお願いする予定です。フィードバックは授業時に口頭で、もしくは学習支援システムを通じて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	産業立地論の基本概念——距離と拡がり	産業活動にとっての距離と拡がりについて考えます。 → テキスト：序章、第 1 章 1 節
第 2 回	産業立地論の古典 (1) ——チューネンの農業立地論	チューネン理論の意義について考えます。 → テキスト：第 1 章 2 節 (1)
第 3 回	産業立地論の古典 (2) ——ウェーバーの工業立地論	ウェーバーの工業立地論について輸送費指向論を中心に紹介します。 → テキスト：第 1 章 2 節 (2)
第 4 回	産業立地論の古典 (3) ——クリスタラーの中心地理論	中心地論の基本的な考え方を学びます。 → テキスト：第 1 章 2 節 (3)
第 5 回	集積と外部経済の理論	ウェーバー、マーシャルやヴァーノンの古典的理解を中心に、産業集積論の基本的な考え方を学びます。 → テキスト：第 1 章 3 節、第 10 章 1 節
第 6 回	グローバル化のなかでのローカリゼーション——ICT およびコンテンツ産業を中心に	グローバル化の中で、ローカルなものもつ役割について考えます。 → テキスト：第 5 章 2 節 (1)、第 7 章 2 節 (3)、第 10 章 2 節 (1)、第 13 章
第 7 回	工業分散と企業内地域間分業——前グローバル化期までの日本を事例に	工業立地の分散と企業内地域間分業について、事例を通じて考えます。 → テキスト：第 1 章 3 節 (2)、第 5 章 1 節
第 8 回	グローバル生産ネットワークの形成——対外直接投資と多国籍企業の事業展開	直接投資の理論を紹介するとともに、日本の自動車メーカーを事例に、海外展開の実際を紹介します。 → テキスト：第 5 章 2 節 3 節、第 11 章
第 9 回	グローバルな商品流動と商品連鎖	グローバルな商品連鎖が途上国の発展の道筋に与える影響を考えます。 → テキスト：第 6 章
第 10 回	新興国の工業化と大都市問題	東南アジアを事例に工業化のプロセスを追い、それに伴う諸問題を考えます。 → テキスト：第 11 章
第 11 回	国民経済の地域間不均衡と都市群システム	地域格差の形成のメカニズムについて考えます。 → テキスト：第 2 章 2 節および第 9 章 2 節
第 12 回	大都市の衰退と再生、そして世界都市化	大都市圏のダイナミズムと世界都市化に伴う諸問題を考えます。 → テキスト：第 8 章および第 9 章 1 節
第 13 回	大都市のものづくり産業	東京を中心に大都市におけるものづくり産業集積の現代的意義を考えます。 → テキスト：第 7 章 2 節 (4) および第 10 章
第 14 回	まとめ	全体を振り返り、到達度を確認します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストを用いて毎回の予習・復習を着実に心がけてください。復習用の課題が出た場合には、それに取り組んで下さい。本授業の準備・復習時間は、各 4 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

伊藤達也・小田宏信・加藤幸治編『経済地理学への招待』ミネルヴァ書房、2020 年。

このテキストの、序章、第 1 章、第 2 章、第 5 章、第 6 章、第 7 章、第 8 章、第 9 章、第 10 章、第 11 章、第 13 章の部分を扱います。

【参考書】

経済地理学会編『キーワードで読む経済地理学』原書房、2018 年。

小田宏信『現代日本の機械工業集積』古今書院、2005 年。

竹内淳彦・小田宏信編『日本経済地理読本（第 9 版）』東洋経済新報社、2014 年。

貝沼恵美・小田宏信・森島清『変動するフィリピン』二宮書店、2009 年。

杉浦芳夫編『空間の経済地理』朝倉書店、2004 年。

青山裕子ほか（小田宏信ほか訳）『経済地理学キーコンセプト』古今書院、2014 年。

菊地俊夫・小田宏信編『東南アジア・オセアニア』朝倉書店、2014 年。

加賀美雅弘編『ヨーロッパ』朝倉書店、2019 年。

矢ヶ崎典隆ほか編『グローバリゼーション』朝倉書店、2018 年。

サクセニアン, A. (山形浩生・柏木亮二訳)『現代の二都物語』日経 BP、2009 年。

サクセニアン, A. (酒井泰介訳)『最新・経済地理学』日経 BP、2008 年。

フロリダ, R. (井口典夫訳)『クリエイティブ都市論』ダイヤモンド社、2009 年。

【成績評価の方法と基準】

平常時の小課題（60％）と最終の到達度確認テスト（40％）より評価します。

【学生の意見等からの気づき】

最初の方は抽象的でイメージしにくい部分もあるかも知れませんが、徐々に具体的な話になってきますので、しばらくご辛抱ください。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを使用します。

【その他の重要事項】

配布プリントは毎回、A4 で 4 ページないし 8 ページ分をお渡しします。ファイリングすると、小冊子となりますので、整理を心がけてください。

【Outline (in English)】

This course provides an introduction to economic and industrial geography. Topic areas include economic globalization, spatial distribution of industrial sectors, multinational corporations, regional economic development, and illegal economic activities.

The goals of this course are to understand the impacts and effects of industrial location on regional economic growth and decline.

After each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content

Final grade will be calculated according to the following process in-class report (60%) and term-end examination (40%).

HUG300BF

人文地理学特講（3）

松井 圭介

授業コード：A3457 | 曜日・時限：月 2/Mon.2

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：3~4 年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

地理学とは、人間の営む生活文化の諸特性について、とくに環境との相互作用から考える学問である。なかでも文化地理学は、人間と場所との関わりに強い関心を有してきた。人間は所与の環境条件の制約のもと、場所を資源として利用してきた。その結果、人間生活には多様な地域性が生み出されてきたといえる。本講義において受講生は、ある場所が特別な意味をもち、価値づけがなされ、商品化されていくプロセスに関する講義を通して、人間による場所に働く力へのダイナミズムを理解することを学ぶ。なかでも文化の商品化をめぐる現状と課題について、講義と事前事後学習を通して、理解を深めていくことが期待される。なお講義で取り上げるトピックスについては、履修者の関心にも留意したうえで決定する。

【到達目標】

本講義では次の3段階の達成目標を設定する。

第1段階：受講生はまず初めに、文化地理学・人文地理学の学説史の流れを理解することが求められる。古典理論（20世紀初頭）から現代の潮流（21世紀）を学ぶことを通じて、履修者は文化地理学的なモノの見方・考え方の基礎を修得する。

第2段階：複数の具体的なトピックスに関して、文化地理学研究の具体的な内容紹介を通して、受講生は場所の政治学にかかわる文化地理学的な知の営みの一端を理解することが期待される。

第3段階：以上を通じて受講生は、文化地理学に関わる批判的・創造的思考力、文化的現象の分析力、文化的課題への対応力などに関わる知識や思考様式を身につけることが期待される。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

授業では、対面講義を主に必要に応じて、オンデマンド教材（講義）を活用しながら進める。対面講義については、教員による説明が主となるが、オンデマンド教材を活用した講義においては、テーマに沿った文献調査やリアクションペーパー作成が求められる。提出されたリアクションペーパー等のフィードバックを対面講義で行いながら、講義内容の理解を深化させていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	はじめに・Introduction	オリエンテーション（本講義の目的と概要）を説明、文化地理学の枠組み（地理学の見方・考え方）
第2回	文化地理学の展開（1）	文化地理学の古典理論（文化生態・文化伝播・文化景観など）
第3回	文化地理学の展開（2）	現代地理学への道（計量主義・新しい文化地理学の勃興）
第4回	景観と環境から読み解く地域社会（1）	ケーススタディ：五箇山・白川郷の集落景観と地域生態①
第5回	景観と環境から読み解く地域社会（2）	ケーススタディ：五箇山・白川郷の集落景観と地域生態②
第6回	文化景観をめぐるポリティクス（1）	文化遺産をめぐる場所のポリティクス
第7回	文化景観をめぐるポリティクス（2）	都市景観にみる権力と政治性①
第8回	文化景観をめぐるポリティクス（3）	都市景観にみる権力と政治性②

第9回	世界遺産と宗教ツーリズム①	インバウンドツーリストは熊野古道に何を求めるのか？
第10回	世界遺産と宗教ツーリズム②	なぜキリシタンが観光資源化されるのか？ 長崎におけるカトリック
第11回	世界遺産と宗教ツーリズム③	なぜキリシタンが観光資源化されるのか？ ホスト地域の観光動態と戦略
第12回	世界遺産と宗教ツーリズム④	キリシタンの資源化はいかになされたのか？ 世界遺産への動き 教会を訪れる人びと
第13回	世界遺産と宗教ツーリズム⑤	キリシタンの資源化はいかになされたのか？ 創造される聖地巡礼
第14回	世界遺産と宗教ツーリズム⑥	場所の商品化は何をもたらすのか？ 信仰か観光か 持続可能なツーリズムとは

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

受講生は準備学習として、関連文献の探索・精読や地域情報の収集を行う。各授業回ではリアクションペーパー・小課題の提出が求められるので、授業内容の復習とともに宿題作成を授業時間外に行う。本授業の準備・復習時間は4時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。

【参考書】

松井圭介（2017）：『観光戦略としての宗教-長崎の教会群と場所の商品化』筑波大学出版会。
山中 弘編（2013）：『宗教とツーリズム』世界思想社。
竹中克行ほか（2009）：『人文地理学』ミネルヴァ書房。
森 正人・中川 正（2022）：『文化地理学ガイダンス（改訂版）』ナカニシヤ。
講義の中で必要に応じて指示する。

【成績評価の方法と基準】

学期末レポートもしくは筆記試験（50%）および講義終了後に提出させるリアクションペーパー・小課題（50%）の比率で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

本年度新規科目（授業担当者変更）のため、アンケート未実施。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

シラバス作成時点では、全授業を対面講義で実施する予定であるが、感染症の状況や教員の都合などにより、オンライン（オンデマンド）講義になる場合がある。その時には、講義中に周知する。

【Outline (in English)】

Geography is the study of the characteristics of human life and culture, especially in terms of their interaction with the environment. Cultural geography, in particular, has been strongly interested in the relationship between humans and places. Human beings have used places as resources under the constraints of given environmental conditions. As a result, we can say that a variety of local characteristics have been produced in human life. In this course, students will learn to understand the dynamism of human power over places through lectures on the processes by which places take on special meaning, are given value, and are commodified. In particular, students are expected to deepen their understanding of the current situation and issues surrounding the commodification of culture through the lectures and pre and post-lecture studies. The topics to be covered in the lectures will be determined based on the interests of the students. Students are expected to search for and read relevant literature and collect information on the region as preparatory study. Students are required to submit a reaction paper and a small issue in each class session, so they should review the contents of the class and prepare homework assignments. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

The evaluation will be based on the ratio of the end-of-term report or written exam (50%) and the reaction paper or small issue (50%) to be submitted after the lecture.

HUG200BF

文化地理学（1）

村田 陽平

授業コード：A3482 | 曜日・時限：金 5/Fri.5

春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈他〉〈優〉〈ア〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代の文化地理学において、主要な潮流であるジェンダー地理学を理解することを目的とする。

【到達目標】

空間や場所におけるジェンダーやセクシュアリティ、ポジショナリティを十分に理解し、文化地理学を身近なものとして認識できるようになることが目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

教科書を用いて、文化地理学とジェンダー、セクシュアリティをわかりやすく解説し、毎回リアクションペーパーを提出する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	はじめに	講義の全体像の提示
第2回	文化地理学とジェンダー	フェミニスト地理学の誕生
第3回	文化地理学とセクシュアリティ (1)	LGBTの空間経験 (1)
第4回	文化地理学とセクシュアリティ (2)	LGBTの空間経験 (2)
第5回	文化地理学とセクシュアリティ (3)	「女性専用車両」の意味
第6回	文化地理学とポリティクス (1)	政治という場所
第7回	文化地理学とポリティクス (2)	男性・同性愛の空間構造
第8回	文化地理学と広告 (1)	自然な風景
第9回	文化地理学と広告 (2)	身体と空間
第10回	文化地理学と男性	ホモソーシャルな空間
第11回	文化地理学と女性	地理学界のジェンダー
第12回	文化地理学とポジショナリティ	建築、空間、場所
第13回	文化地理学と現象学 (1)	空間の認識論
第14回	文化地理学と現象学 (2)	よりよい空間へ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書の復習や授業中に紹介する関連文献を読むこと。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

村田陽平（2009）『空間の男性学：ジェンダー地理学の再構築』京都大学学術出版会、¥3800円＋税

【参考書】

特になし

【成績評価の方法と基準】

毎回の授業で提出するリアクションペーパー（100%）を成績判定の材料とする。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【Outline (in English)】

This course deals with Cultural Geography. It also enhances the development of students' skill in Cultural Geography. The aims and the goals of this course is to help students acquire an understanding of the contemporary Cultural Geography. At the end of the course, students are expected to realize the contemporary Cultural Geography. Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting, which will need more than 2 hours. Final grade will be decided based on the Short reports.

HUG200BF

文化地理学（2）

村田 陽平

授業コード：A3483 | 曜日・時限：金 5/Fri.5

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2～4 年

その他属性：〈他〉〈優〉〈ア〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

文化地理学の対象と手法をさまざまなトピックから学ぶ。受講生が文化地理学を身近なものに結び付けて考察できるようになることを目的とする。

【到達目標】

文化地理学のさまざまな知識や概念、方法を学び、文化地理学の深層を理解できるようになることが目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

教科書を用いて、順に読解しながら、文化地理学のさまざまなトピックを学び、毎回リアクションペーパーを提出する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	はじめに	授業の目的
第 2 回	文化地理学の視点	空間・環境・景観
第 3 回	文化地理学研究の手順	視点としての空間
第 4 回	空間と環境と景観	さまざまな環境論
第 5 回	言語の文化地理学	言語と空間・環境・景観
第 6 回	自然と生業の文化地理学	自然・生業と空間・環境・景観
第 7 回	宗教の文化地理学	宗教と空間・環境・景観
第 8 回	民俗の文化地理学	民俗と空間・環境・景観
第 9 回	政治の文化地理学	政治と空間・環境・景観
第 10 回	都市の文化地理学	都市と空間・環境・景観
第 11 回	観光の文化地理学	観光と空間・環境・景観
第 12 回	性の文化地理学	性と空間・環境・景観
第 13 回	文化地理学の前線と現代の文化	デジタル文化
第 14 回	文化地理学の応用	まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

初回の授業時に、各回の講義内容に関連した少し詳細な文献案内を配布するので、そこに示された著書や論文に目を通したうえで授業に臨んでほしい。さらに A-4 サイズのペーパーファイルを 1 冊用意して、毎回の授業内容を、配布する教材プリントにしたがって整理し綴じ込んでおくこと。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

森正人・中川正 (2022)：『文化地理学ガイダンス [改訂版]』（ナカニシヤ出版）¥2400 + 税

【参考書】

中俣均編 (2011)：『空間の文化地理』（朝倉書店）¥4180

【成績評価の方法と基準】

毎回の授業で提出するリアクションペーパー（100%）を成績判定の材料とする。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【その他の重要事項】

可能な限り文化地理学（1）を履修したうえで登録・履修してほしい。

【Outline (in English)】

This course deals with Cultural Geography. It also enhances the development of students' skill in Cultural Geography. The aims and the goals of this course is to help students acquire an understanding of the contemporary Cultural Geography. At the end of the course, students are expected to realize the contemporary Cultural Geography. Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting, which will need more than 2 hours. Final grade will be decided based on the Short reports.

GEO300BF

自然地理学特講（1）

藁谷 哲也

授業コード：A3500 | 曜日・時限：月 4/Mon.4
 春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：3～4 年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

一般に、地形変化が生じる前に地形を構成する物質（地形物質）は、風化プロセスによる強度低下を起こす。強度低下によって、地形はより侵食されやすくなると考えることができる。すなわち風化プロセスは、地形変化の準備段階として重要な意味を持っている。この講義で学生は、さまざまな風化プロセスとそれらのメカニズム、地形変化との関係性について学修し、地形変化に関する理解を深めることができる。

【到達目標】

学生は、地形変化の仕組みに風化作用がかかわっていることや身近に豊富な事例のあることが説明できる。地形の形成・変化と岩石の風化プロセスの関連性について、いくつかの事例をもとに説明することができる。また、講義を通じて得た経験や学修から得られた豊かな知識と教養を基に、自己の倫理観を倫理的な課題に適用することができる。入手した客観的な情報を基に、論理的・批判的な思考をすることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は講義形式で進める。パワーポイントのスライドや配布教材をもとに説明し、レポート作成や小テスト等も適宜実施する。授業に対する質疑応答、および小テスト・レポート等の課題に対するフィードバックは、いずれも教室あるいは学習支援システムを通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	講義のテーマや到達目標および講義の方法について説明する。 【事前学習】シラバスを事前に確認し、地形学の学習内容を確認する。(2 時間) 【事後学習】学習支援システムの教材を復習し、不明箇所を参考資料から調べる。(2 時間)
第 2 回	地形を構成する岩石の物性	地形構成物質の物理的・化学的性質を説明する。 【事前学習】地形学実験のテキストを確認する。(2 時間) 【事後学習】岩石物性についてノートに整理する。(2 時間)
第 3 回	熱風化プロセス	熱疲労と熱衝撃破砕について説明する。 【事前学習】乾燥地域の分布をノートにまとめる。(2 時間) 【事後学習】岩石の熱破砕についてノートに整理する。(2 時間)
第 4 回	乾湿風化プロセス	乾湿風化プロセスと粘土鉱物について説明する。 【事前学習】大谷石について調べておく。(2 時間) 【事後学習】粘土鉱物の特徴をノートに整理する。(2 時間)
第 5 回	塩類風化プロセス	塩類風化プロセスと微地形形成について説明する。 【事前学習】塩類について知識を得ておく。(1 時間) 【事後学習】タフォニと塩類風化の関係をノートに整理し、関連文献をもとにレポートを作成する。(3 時間)
第 6 回	凍結風化プロセス	凍結風化プロセスと周氷河地形について説明する。 【事前学習】周氷河地形について調べる。(2 時間) 【事後学習】凍結風化プロセスと地形変化についてノートに整理する。(2 時間)

第 7 回	シーティングおよび生物の物理的風化プロセス	シーティングおよび生物活動由来の風化プロセスについて説明する。 【事前学習】インゼルベルクについて調べておく。(2 時間) 【事後学習】生物風化の事例をノートに整理する。(2 時間)
第 8 回	化学的風化プロセスおよび溶食地形	化学的風化プロセスおよび溶食地形について説明する。 【事前学習】カルスト地形について調べる。(2 時間) 【事後学習】鉱物の科学的風化の順位を整理する。(2 時間)
第 9 回	風化殻	風化殻の形成と発達について説明する。 【事前学習】土壌化のプロセスについて調べる。(2 時間) 【事後学習】風化とマスマーブメントの関係を整理する。(2 時間)
第 10 回	風化環境	気候と風化プロセスおよび風化制約環境と運搬制約環境について説明する。 【事前学習】気候区分図を地図帳で確認する。(2 時間) 【事後学習】風化制約の地形変化を整理する。(2 時間)
第 11 回	風化速度	岩石の風化速度について説明する。 【事前学習】石造文化財の劣化について調べる。(1 時間) 【事後学習】風化速度の特徴を整理し、指定文献をもとにレポートを作成する。(3 時間)
第 12 回	石造文化財の保存・修復に対する風化研究の貢献	カンボジア・アンコール遺跡に囚われる風化プロセスを例に風化研究の貢献を説明する。 【事前学習】アンコール遺跡についてインターネットで調べる。(2 時間) 【事後学習】アンコール遺跡の風化の特徴を整理する。(2 時間)
第 13 回	組織地形と岩石制約論	組織地形と岩石制約論について説明する。 【事前学習】地形変化と風化の関係をまとめる。(2 時間) 【事後学習】風化プロセスについて整理する。(2 時間)
第 14 回	試験・総括	期末試験を行うとともに、これまでの学修内容の解説を行い、授業の理解を深める。 【事前学習】第 1 回から第 13 回までの講義内容を復習する。(2 時間) 【事後学習】試験内容を振り返り、学修課題を見つける。(2 時間)

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業計画の各回ごとに記載。事前に、授業計画に示した講義テーマに関する基礎知識を参考図書やインターネットなどから得ておくこと。また、講義後は質問や参考資料などで疑問点を解消し、講義内容をノートにまとめること。これら事前、事後の準備学習（予習、復習）には 1 回につき 4 時間以上かかることと想定されます。

【テキスト（教科書）】

使用しない。講義資料を配布します。

【参考書】

松倉公憲 『地形変化の科学－風化と侵食－』朝倉書店 2008 年 第 1 版
 松倉公憲 『地形学』朝倉書店 2021 年
 上記を推薦します。その他、講義中に適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

レポート・課題に対する内容の充実度、提出状況等を見て評価します (40%)。授業内テスト・授業内及びオンライン等により実施し、評価します (50%)。授業参画度:授業時間中の質問に対する回答などから評価します (10%)。成績評価は、これら講義中に行う小テスト、期末テスト、課題レポートなどをもとに総合評価します。期限を過ぎたレポートなど提出物については評価対象外です。

【学生の意見等からの気づき】

本年度新規科目につきアンケートを実施していません。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布や課題提出等では、学習支援システムを利用することがあります。

【その他の重要事項】

授業計画を参考に、参考書やインターネットなどから授業の前に基礎知識を獲得して準備する。授業後は、講義内容を整理してノートにまとめる。講義内容に対する質問や意見をするようにしてください。

【Outline (in English)】

In this lecture, students will gain an understanding of the different weathering processes, their mechanisms and their relationship to landform changes. Students can explain the involvement of weathering processes in the mechanisms of landform change and the abundance of familiar examples. Students can explain the link between the formation and change of landforms and the weathering process of rocks, based on some examples.

Students are also able to apply their own sense of ethics to ethical issues, based on the wealth of knowledge and education they have gained from their experience and studies through this lecture. They are able to think logically and critically on the basis of objective information obtained. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Final grade will be calculated according to the following process: Mid-term report (40%), term-end examination (50%), and in-class contribution(10%).

PSY100BG

心理学概論／心理学 1（心理学概論） 1

伊藤 尚枝

授業コード：A3601, A2254 | 曜日・時限：金 3/Fri.3

春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：1～4 年

その他属性：〈優〉

Students are strongly expected to take notes and to summarize what they learned in preparation for the term-end examination (1 hour per class).

[Grading Criteria]

Grading will be based on (1) term-end examination (80%) and (2) usual performance score (assignments and quizzes) (20%).

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

心理学は、人がなぜそのような感じ振る舞うのかを、科学的に分析する学問です。本講座では、身近なトピックを取り上げながら、人の行動と心の働きに関する心理学的知見を学びます。

【到達目標】

心理学の基礎的な知識を得ることができます。心理学の歴史、古典的研究（知覚心理学や学習心理学など）の基礎的な知見、最近の研究（認知神経科学、脳と行動に関する研究など）の紹介を通じて、心理学の全体像を掴むことを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

- ・授業は基本的に講義形式で行います。
- ・教科書を毎回の授業で使用しますので、持参してください。
- ・学習内容の理解を促進するために、適宜ディスカッションを入れる予定です。
- ・「Google Classroom」を通じて、課題などの提出・小テストの実施・資料の配付を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の進め方・心理学の成り立ち
第 2 回	感覚・知覚 (1)	感覚情報の処理過程・知覚のメカニズム
第 3 回	感覚・知覚 (2)	視覚と身体運動の協応
第 4 回	学習 (1)	古典的条件づけ・道具的条件づけ
第 5 回	学習 (2)	さまざまな学習（観察学習・洞察学習）
第 6 回	記憶 (1)	記憶のメカニズム
第 7 回	記憶 (2)	記憶障害と脳損傷
第 8 回	発達	幼児期・児童期の発達
第 9 回	言語・思考	問題解決・推論
第 10 回	動機づけ	動機づけ理論（動因論と誘因論）
第 11 回	社会の中のこころ (1)	社会的認知（印象形成・態度）
第 12 回	社会の中のこころ (2)	社会的影響（多数派への同調・集団意思決定）
第 13 回	こころの個人差	知能・性格
第 14 回	最終試験	まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・教科書や授業中に配布する資料を読み返して、授業内容の理解を深めてください（1 時間）。
- ・この授業では、自分でノートをとることを大切に考えています。最終試験にむけて、ノートのまとめをきちんと行いましょう（1 時間）。

【テキスト（教科書）】

福田由紀（編） 2022 心理学要論 心の世界を探る 培風館

【参考書】

適宜、授業中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

最終試験（80%）、平常点（課題や小テストなどの提出状況とその内容）（20%）で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【Outline (in English)】

【Course outline】

This course introduces the foundations of psychology by considering from a psychological perspective what behavioral characteristics people exhibit when they see objects or socialize with other people.

【Learning Objectives】

The aim of this course will help students broadly acquire a basic understanding of psychology.

【Learning activities outside of classroom】

Students are required to review each class using handouts to deepen your understanding of the class content (1 hour per class).

PSY100BG

心理学史／心理学 1（心理学史） 2

矢口 幸康

授業コード：A3602, A2255 | 曜日・時限：火 2/Tue.2

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：1～4 年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では心理学の歴史を学びます。心理学が独立した学問として認められたのはまだ120年ほど前のことであり、それからさまざまな変遷がありました。現在の心理学を当たり前ものと考えずに、人々が人間のこころや行動について考えるとはどういうことかをさらに深く理解するために、心理学の歴史と前史を学びます。

【到達目標】

この心理学史を受講することで、心理学の流れを理解することができます。19世紀後半にまず欧米の大学で心理学を学ぶことが可能になりましたが、なぜその時代にならないと学ばなかったのかを理解するために、まず19世紀までの前史を学びます。そのあとで心理学における20世紀の3大潮流を学び、「心理学の世紀」と呼ばれた20世紀の展開を学びます。これらの知識から、なぜ今の心理学が統計学や実験方法を使う一方で、個人の主観的な言説をデータとして利用しているのかについて理解することができます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

授業はパワーポイントを利用した講義が中心です。心理学史において有名な人物は必ずしも他の授業のなかで登場するわけではないので、そういう人々の生涯も含めて説明します。パワーポイントの資料は **hoppii** に事前に掲載するので、授業を欠席した人も内容を事後に確認することができます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	心理学史を学ぶ意義と、心理学史の方法論について
第2回	心理学前史	心理学という語の由来と、中世・ルネサンス期の概観
第3回	心理学成立の3要因 (1)	19世紀哲学と心理学への影響について
第4回	心理学成立の3要因 (2)	19世紀における医学と生物学が心理学に与えた影響について
第5回	近代心理学の始まり	ドイツで始まった精神物理学と生理学的心理学について
第6回	大学における心理学の展開	アメリカにおける大学心理学の展開について
第7回	現場における心理学の拡大	アメリカを中心とした発達心理学や臨床心理学の始まりについて
第8回	日本における心理学の展開	19世紀末の日本の大学における心理学の登場と、その後の展開について
第9回	20世紀の3大潮流 (1)	行動主義について
第10回	20世紀の3大潮流 (2)	精神分析について
第11回	20世紀の3大潮流 (3)	ゲシュタルト心理学について
第12回	20世紀後半の心理学の展開	臨床心理学と認知心理学について
第13回	社会における心理学の関わり	心理学研究成果の社会還元について
第14回	まとめ	授業内容の再確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

この授業は「心理学概論」の内容を理解していることを前提としています。それでも授業のなかで知らない概念が出てきた場合には、復習して理解してください。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】特に使いません。各回資料 PDF は **Hopii** で閲覧可能です。**【参考書】**

サトウタツヤ・高砂美樹 2022 流れを読む心理学史【補訂版】 有斐閣
アルマ
高砂美樹 2021 心理学史はじめての一步（改訂電子版） アルテ

【成績評価の方法と基準】

期末試験 100%

【学生の意見等からの気づき】

1年生の受講科目だと思って油断していると、上級生でも単位を落とすことがあります。他学部の履修者にも心理学の基礎知識を要求しますので、それを理解したうえで受講してください。

【学生が準備すべき機器他】

使う予定の資料 (PDF) は **Hoppii** にあげておきますので、適宜、事前に自分でダウンロードして教科書代わりに使用してください。

【Outline (in English)】

The lectures on the basic history of psychology, including Japanese one, are given. The students are supposed to understand the background and the transition of trends of psychology from the late 19th to the end of the 20th century after the whole lectures. The slides to be used in the lectures can be obtained through Hoppii to prepare for better understanding. The grading criteria: 80% final exam, 20% attendance with small tasks.

PSY100BG

脳の科学

高橋 敏治

授業コード：A3619 | 曜日・時限：木 5/Thu.5

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：1～4 年

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

神経伝達物質から脳の高次脳機能まで、心理学の基礎となる脳の科学の基本的事項を学びます。精神生理学や精神薬理学など精神科臨床に関係する医師としての経験を活かし、心理学を学ぶ学生が知っておくべき脳科学の基礎知識や、認知科学の最新のトピックスを取り上げます。

【到達目標】

健康や臨床との関わりの中で、脳の役割の重要性を説明できるようにします。心、身体、自律神経、脳の各部位がそれぞれどのように結びつき、どのように反応するのかを概略し、説明できるようにします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

心理学を学ぶ上で最低限必要な脳の各部位の解剖、脳の生理的な働き、神経細胞の機能、最新の脳内の伝達物質などを学びます。心の働きと脳の基本的な関係を学習します。毎回の授業では、初めて触れる概念や用語等が多くあります。前回の内容の振り返り、新規の内容、前回の知識のミニテストというように無理のない授業進行を進めます。授業内で行った試験、課題の模範解答や主な質疑応答は授業内でできる限り紹介し、解説も行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	脳の研究の歴史、授業の形式の説明
第 2 回	大脳皮質 1	前頭葉、頭頂葉の部位や機能
第 3 回	大脳皮質 2	後頭葉、側頭葉の部位や機能
第 4 回	脳幹部 1	間脳、橋の部位や機能
第 5 回	脳幹部 2	中脳、延髄の部位や機能
第 6 回	小脳、運動系	小脳や運動経路（錐体路と錐体外路）の部位機能
第 7 回	大脳辺縁系 1	本能・感情の生まれる場所
第 8 回	大脳辺縁系 2	記憶のメカニズム
第 9 回	神経ニューロン 1	ニューロン細胞の機能、構成
第 10 回	神経伝達物質 1	神経伝達物質の種類
第 11 回	神経伝達物質 2	気分障害、ストレス障害、統合失調症と神経伝達物質の関係
第 12 回	脳科学のトピックス 1	男性と女性の脳の分化の仕組み、ミラーニューロンやデフォルトネットワークの問題を解説する
第 13 回	総合的な知識の復習	達成度テストの総合的な復習・まとめ
第 14 回	総合的な達成度テストの振り返り、脳科学のトピックス 2	総合的な達成度テストのまとめの解説、グリーンパテックシステムとアルツハイマー型認知症との関係、睡眠との関係を解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間合計 4 時間を設定しています。第 2 回～14 回 達成度テストで成果を確認するので復習してください。数回のレポート課題を実施します（脳の基礎知識の確認）。

【テキスト（教科書）】

教科書は用いません。授業内に適宜プリントを配布します。

【参考書】

リタ・カーター（著）養老孟司（監修）（2022）ブレインブック（原書第 3 版）みえる脳 南江堂

【成績評価の方法と基準】

毎回授業の中で 10 分程度の達成度テストを行い、復習します。また期末に試験を行い、評価は達成度テスト・レポート課題を含む平常点（50%）と期末試験（50%）で行います。

【学生の意見等からの気づき】

91 人の受講者のうち 30 名から回答者を頂きました。授業の工夫では 4-5 の段階が、75% 近くの評価でした。毎回課題を課しましたが、課外学習時間はほとんど行っていなかった人が 25% と多く認められました。自由記述では、「脳に関するビデオを見た授業は興味深かった。今後も脳に関する動画を見たい」と嬉しい。「他の学部だったら学ぶ機会がなかなかなかった内容だったのでとても面白かったです。」「脳については難解なイメージがあったが、想像以上に面白くてさらに興味が湧いた」「脳の機能や役割について基礎的なところを学ぶことが出来て面白かった。」「実際に経験された患者さんの例やご自身の研究などに言及して下さって、とても興味深いお話で勉強になりました。」などのコメントの一方で、「5 限だとお腹が空くので 5 限より前の時間にしてほしい。」「学生同士のディスカッションがあると嬉しい。」「心理学とのかわりがなど具体的なイメージがしにくく、何のために聞いているのか見失うことがあった。」のコメントも寄せられました。脳についてはこの授業で初めて接する専門用語が多く、知識内容も多く取りつき難かったかもしれません。少しでも復習などに役立つように達成度テスト、Hoppii への録画の掲載などを行っています。最後の授業で、脳の科学と他の心理学の科目の関連について触れました。もう少し講義形式を少なくし、友達とのディスカッションや動画視聴などを多くします。時限については、なかなか他の科目の関係や大学の方針で受講生の多い科目の教室をとるのが難しいのですが、検討してみます。

【学生が準備すべき機器他】

ノート PC を使用して、パワーポイントを使用します。学習支援システムを利用して、授業内配布のプリントや資料を掲載します。また、学習支援システムの「お知らせ」を使用します。普段使用しているメールを学習支援システムに登録しておいて下さい。

【その他の重要事項】

【重要】初回の授業には必ず出席して下さい。

実施の順序については変更することがあるため、学習支援システムや授業の中で案内しますので、注意してください。

【オフィスアワー】 Web 上の【在学生用】文学部授業関連情報まとめ内、3. 授業関係の 02. オフィス・アワーをご覧ください。担当教員は、厚生労働省精神保健指定医、日本精神学会精神科専門医および日本睡眠学会専門医として 30 年以上精神科の臨床に携わって実務面の仕事をしています。この経験を生かし、脳と精神の関わりについて講義をします。

【Outline (in English)】

From the neurotransmitter to the higher brain function, we will learn basic matters of brain science which is the foundation of psychology.

To be able to explain the importance of the role of the brain in the relation each class on to health and clinical practice.

It takes 2 hours to prepare and 2 hours to review for each lesson.

Final examination 50% in clear contribution 50% including achievement test.

PSY200BG

認知心理学

竹島 康博

授業コード：A3620 | 曜日・時限：金 2/Fri.2

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2～4 年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

心理学において人間の認知機能がどのように研究されてきたのかを解説します。この授業を通じて、実験を中心に進められてきた認知心理学という分野の特徴やその研究方法について理解することを目的とします。

【到達目標】

人間は、感覚器官を通じて周囲の環境を把握し、それに適応するように行動している。このような感覚情報による外界の知覚やより高次な認知処理は、人間の様々な心理的な活動を支える基盤と考えられる。このような知覚心理学や認知心理学の知見は他の心理学分野の現象とも密接に関連しており、心理学全般について学ぶ上でも大きな意義がある。本講義ではこのような人間の感覚情報処理について、高次な認知機能に関連した情報処理を中心に概説していく。加えて、認知心理学は実験的な研究手法を重視しているため、講義の中ではこの研究手法についても解説する。人間の感覚情報処理が実験を主な研究方法の1つとして研究されてきた背景を学ぶことにより、物事を科学的に捉える思考力を身に付けることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

認知心理学の内容を中心に講義を進めていく。講義はパワーポイントのスライドや動画といった視覚教材を活用して実施する（受講者数確認のため、第1回はオンライン授業として授業動画をアップロード予定）。また、認知心理学の研究の中で用いられてきた実験手法を体験する機会を設け、学術的な問いに対してどのような手法で解決していくことができるのかについて学ぶことも重視した授業を実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	はじめに	認知心理学の歴史についての解説
第2回	記憶の機能 (1)	物事を記憶する一連の過程や仕組みについての解説
第3回	記憶の機能 (2)	記憶したことの忘却や変容の過程についての解説
第4回	感情の機能 (1)	感情の経験が生じる過程に関する諸理論についての解説
第5回	感情の機能 (2)	感情と注意および記憶といった機能との関連を解説
第6回	注意の機能 (1)	情報処理における「注意」の機能についての解説
第7回	注意の機能 (2)	視覚的な注意を中心とした注意の研究法についての解説
第8回	感覚の基本特性	順応や恒常性といった感覚全般のもつ基本特性について解説
第9回	異種感覚間相互作用	異なる感覚情報を統合した知覚の処理についての解説
第10回	感性とデザイン	感性の認知とその工学デザインへの応用に関する解説
第11回	心的イメージ	心的イメージの機能についての解説
第12回	意思決定	選択や選好を含めた意思決定の過程についての解説
第13回	問題解決と推論	問題解決および推論を行う過程についての解説
第14回	期末試験と全体の総括	期末試験を行ったうえで、その解説を中心とする全体の総括を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。授業内で紹介した現象について、日常場面に当てはめて考えることを復習として行います。また、関連した内容を参考図書等で自主学習します。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しません。

【参考書】

御領謙・菊地正・江草浩幸・伊集院睦雄・服部雅史・井関龍太『最新 認知心理学への招待 [改訂版] ——心の働きとしくみを探る——』2016 サイエンス社

【成績評価の方法と基準】

授業への参加の度合いやコメントペーパーによる理解度を併せた平常点を評価の40%とし、60%を学期末に行う期末試験の成績とします。

【学生の意見等からの気づき】

昨年度から新規担当者になった科目ですが、理解度は4.18と全科目平均よりやや高かったのです。一方、履修してよかったかについては4.18と全科目平均より低い結果でした。授業内容については数年かけて検討する予定で、今年度は昨年度から一部変更します。また、受講生がノートを取る時間を考えて話すスピードを落としています。遅いという意見が出ていたのでここも調整したいと思います。

【Outline (in English)】

【Course outline】

This course deals with human information processes, especially with higher-order cognitive processing.

【Learning objectives】

The goals of this course are to understand psychology of cognition.

【Learning activities outside of classroom】

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

【Grading Criteria /Policy】

Grading will be decided based on class contribution (40%) and term-end examination (60%).

PSY100BG

認知科学入門

田嶋 圭一

授業コード：A3621 | 曜日・時限：火 2/Tue.2
 春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：1～4 年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

見る、聞く、言葉を読む、覚える、考える、他者とかかわるといった日常的に無意識に行われる知的活動を可能にする心の働きを、様々な学問的視点から追究する認知科学について学びます。

【到達目標】

認知科学の歴史と、視覚・聴覚・言語・記憶・推論・社会的認知といった各部門の概略について、各自の具体的な経験などを踏まえて他者に説明できるようになることが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は基本的に講義形式で行いますが、適宜視聴覚教材・ミニ実験・動画などを盛り込む予定です。また、授業中に個別あるいはグループで課題に取り組んだり、コメントシートを作成したりすることで、授業への能動的な参加が期待されます。課題やテストに関するフィードバックを授業中または学習支援システムを利用して返します。また、学生からの質問やコメントのいくつかを、次の授業スライドの末尾に回答と共に掲載します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	導入	シラバスの説明、「認知科学」とはどんな学問か、認知科学が対象とする「知的活動」とはどんな活動か
第 2 回	認知科学の歴史	心理学の略歴、認知科学の誕生、認知科学の諸分野
第 3 回	知覚	心への入口としての感覚と知覚、感覚の範囲、物理量と心理量の関係、感覚のしくみと種類
第 4 回	視知覚	感覚の一般的特性、形の知覚と知覚的体制化
第 5 回	視知覚と高次認知過程	奥行き知覚、高次知覚過程（パターン認識、トップダウン処理とボトムアップ処理、文脈効果）、顔の表情認知
第 6 回	聴知覚	音の正体、音の大きさ・高さ・音色の知覚、聴覚情景分析
第 7 回	視聴覚の統合	選択的注意、音声の知覚、視覚と聴覚の統合
第 8 回	言語	言語とはどんなものか、言語知識、言語獲得
第 9 回	記憶	記憶の流れと区分、短期記憶と長期記憶、日常生活と記憶、記憶の変容
第 10 回	知識	概念やスキーマとしての知識、心的表象（世界を脳内でどのように表現しているか）、命題や文の心的表象
第 11 回	思考	思考、推論、問題解決
第 12 回	情動	情動とは、情動と脳、情動を認知するためのメカニズム、情動の変化を定量的に捉える
第 13 回	社会的認知	社会的認知とは何か、社会的条件の影響、対人認知、認知科学の今後の展望
第 14 回	試験、授業の総括	授業内容の理解度を確認するための授業内試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配布資料を読んだり、課題に取り組んだりすることで、毎回の授業の復習や理解度チェックを行ってください。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは特に指定しません。レジュメ等の資料をエチュード経由で配布します。

【参考書】

行場次郎・箱田祐司（編）（2014）. 新・知性と感性の心理 ―認知心理学最前線― 福村出版.

鈴木宏昭（2016）. 教養としての認知科学 東京大学出版会.

内村直之・植田一博・今井むつみ・川合伸幸・嶋田総太郎・橋田浩一（2016）.

はじめての認知科学 新曜社.

大津由紀雄・波多野諄余夫（編著）（2004）. 認知科学への招待 ―心の研究の面白さに迫る― 研究社.

都築啓史（編）（2002）. 認知科学パースペクティブ ―心理学からの 10 の視点― 信山社.

大島尚（編）（1986）. ワードマップ：認知科学 新曜社.

【成績評価の方法と基準】

平常点・課題 25%、中間テスト 25%、期末テスト 50%の割合で評価する予定です。原則として、正当な理由なく 4 回を超えて授業を欠席した場合、または期末テストを未受験の場合は単位が授与されないものとします。

【学生の意見等からの気づき】

本授業を最後に開講した 2021 年度（オンライン形式）の授業改善アンケートの結果に基づいた気づきを書きます。

65 名の回答者のうち、「履修してよかった」と回答してくれた人が 61 名（94%、前々年 90%）、「理解できた」が 53 名（81%、前々年 77%）、「工夫されていた」が 61 名（94%、前々年 93%）でした。いずれも前々年と大きな違いはなく、高い評価をいただきました。授業外学習時間については「1-2 時間」が 37%、「30 分-1 時間」が 46%、「ほとんど行っていない」が 9%でした。オンライン授業になっても満足度はほぼ変わらず、逆に毎週課題を出すようにしたため授業外学習をほとんどやらない人が以前より減ったことは喜ばしいことだと思います。リアルタイムとオンデマンドのバランス、Zoom のブレイクアウトルームと Google ドキュメントを使ったグループ活動、投票機能や画面共有・音声共有機能を使ったミニ実験、Hoppii で毎回取り組む課題、いずれについても肯定的なコメントをたくさんいただきました。「オンラインの良さを存分に発揮している講義だった」「オンラインではありましたが、満足感がすごかったです。受講して本当に良かったと思いました！」といった嬉しいコメントをいただきました。教室で座る位置が固定化しがちな対面授業に比べて、グループがランダムに生成されるブレイクアウトルームでは毎回色々な人と交流できることも好評でした。その一方で、心理学科 1 年生が同学年の人同士で交流できる場がもっと欲しかった、という声もありました。オンラインでは難しいですね。

【その他の重要事項】

授業の内容や運営方法の詳細について説明しますので、受講希望者は初回の授業に必ず出席してください。

【Outline (in English)】

【Course outline】

This course introduces students to cognitive science, an interdisciplinary field that studies how the mind works, that is, the mental processes that enable people to engage in everyday activities such as seeing, hearing, using language, remembering, thinking, and interacting with others.

【Learning objectives】

Through this course, students should be able to understand and explain based on their own experiences the mechanisms underlying mental processes such as visual and auditory perception, language, memory, reasoning, and social cognition.

【Learning activities outside of classroom】

Students are expected to study the assigned materials, work on homework assignments, and prepare for the next class. The standard study time required before and after each class is 4 hours total.

【Grading criteria/policy】

Your overall grade will be determined based on attendance and class participation (25%), midterm test (25%), and final test (50%). and in-class presentations (60%). As a rule, if you are absent for more than 4 classes or neglect to take the final test without a legitimate reason, course credit will not be granted.

PSY200BG

発達心理学

渡辺 弥生

授業コード：A3622 | 曜日・時限：火 2/Tue.2
 春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：2～4年
 備考（履修条件等）：他学科公開の受講年次は3～4
 その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

心はいつからどのように変化していくのか。受精から死を迎えるまでのライフスパンを視野にいれながらも、本授業では、胎児期から、乳児期、幼児期、児童期、青年期までを中心に、時間の経過とともに質的および量的に変化するさまざまな発達の特徴を理解する。発達心理学という学問大系を学ぶだけでなく、身近な子育て、教育、人としての生き方等を考える機会とし、社会的に還元できる知識や探索のしかたを学ぶ。

【到達目標】

心の発達についておおまかにでも各時期における発達の特徴を説明できるようになることが望ましい。また、関心のある知見についてグループで討論したり、こうした知識をいかに生活の中で役立てていくかを考え、将来、実際に活かすことができるようになることを目標とする。

- (1) 人間の発達についていくつかの理論を学ぶ。
- (2) 人間の発達を明らかにしていくための研究にふれる。
- (3) 生活のどのような部分に役立てられるかを意識し応用する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

基本的には講義形式であるが、人間の発達を実感できるように視覚教材を適宜用いていく。受講者には、各時間による積極的な発言や質問による参加を期待する。テキストを用いるので、事前に予習したり、復習することが必須である。授業の感想を毎回求める。☆例年、受講者数が多いので制限する可能性があることから、希望者は初回時には必ず出席すること。初回が終わり、受講者数が多いことから2回の仮登録までを履修者として、以降制限する。課題のフィードバックについては、学習支援システムで実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	発達ということ	発達理論の枠組みの理解 「発達」が意味することや、研究方法、さらには、主要な理論の存在について認識する。
第2回	胎児の発達	お腹の中の赤ちゃんについて：胎児期に起きている神秘ともいえる変化について理解する。
第3回	感覚・知覚の発達	見える世界、聞こえる世界の理解：感覚や知覚が年齢とともにどのように変化するかを理解する。
第4回	感情の発達	泣くから悲しい？ 悲しいから泣く？ ：当たり前と考えていたことが、実は明確でないことや、感情のメカニズムについて知る。
第5回	認知の発達	考えることの発達：考えるということの意味や、認知と感情、行動の関係について学ぶ。
第6回	言語の発達	ことばを覚える、ことばを使う：言葉の獲得や言葉の使用など、言葉の発達の様々な側面を理解する。
第7回	親子関係の発達	「ひとりでも泣かないよ」 乳幼児期の親子関係を中心に、基本的な理論を習得する。
第8回	友人関係の発達	友人関係を築き維持すること：友人関係を築くこと、維持することなど、また、友人関係のトラブルへの対応などについて学ぶ。
第9回	知能の発達	頭が良いとはどういうこと？ 知能の概念や、それをどのように測定するかという点について理解する。
第10回	意欲・動機づけの発達	やる気メカニズム：勉強嫌い、無気力になってしまう原因などを考え、意欲的に学習するためのメカニズムを知る。

第11回	自我の発達	一生継続「自分とは何か：自我のめざめや自己意識の問題は生涯発達の軸になるテーマであるが、多くの理論を学ぶ。
第12回	性役割の発達	ジェンダーの獲得「男とは女とは」：生物学的な違いなのか後天的な違いなのか、いくつかの研究から考えてみる。
第13回	道徳性の発達	善悪の判断はどのように育つ？：道徳的な人とそうでない人は、発達の違いがあるのか。善悪の判断や、向社会的な行動のメカニズムについて知る。
第14回	発達障害の理解	発達障害の理解と対応：近年、明らかにされてきた障害の特徴について知るとともに、どのように支援していけるかを考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の前日までに毎回、テキストの課題となる章を読み、テーマを理解する。知らない用語などは、自分で調べておくことが望ましい。テキストの図表から読み取れることを考え、わからないところを明確にしておく。わからないことは支援システムなどで質問するようにし、授業後は復習する。予習復習には、各2時間（合計4時間）をかけるようにする。

【テキスト（教科書）】

必ず使用する。
 『ひと目でわかる発達心理学』、渡辺弥生・西野泰代 編著（福村出版）2020

【参考書】

『子どもの「10歳の壁」とは何か？ 一乗り越えるための発達心理学』渡辺弥生著（光文社）2020
 『発達心理学』渡辺弥生監修（ナツメ社）2021
 『まんがでわかる発達心理学（仮）』（5月刊行予定）渡辺弥生監修（講談社）2019

【成績評価の方法と基準】

ミニクイズ10回（正答かどうかによって配点が異なる）と課題2回の総合点で評価する。ミニクイズの評価は70%。課題の評価は30%。ただし、成績評価の対象はミニクイズを6回以上かつ課題を2つとも締め切り内に提出した人のみ。それ以外の場合は成績を評価しない。また課題の提出ミスなどは考慮しませんので正確に提出して下さい。

【学生の意見等からの気づき】

授業外の予習および復習をする上でより意欲的に取り組める課題を考える。

【学生が準備すべき機器他】

テキストを持参すること。学習支援システムに入ること。

【その他の重要事項】

学習支援システムに登録すること。初回は必ず出席。

【Outline (in English)】

・ The aims of this course are to understand the flow of research to date and research questions that have been previously clarified, from the viewpoint of lifelong development, including from infancy to elderly.
 ・ By the end of the course, students are expected to consider how to contribute to society by the researches in this area.
 ・ Students will be expected to have completed the required assignments before /after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.
 ・ The grade will be based on the total score of 10 mini-quizzes (the points will vary depending on whether the answers are correct or not) and 2 assignments. The mini-quiz will be graded at 70%. The assignment will be graded at 30%. However, only those who submit at least 6 mini-quizzes and both assignments will be graded. Otherwise, no grade will be given.

PSY200BG

教育心理学

梶井 直親

授業コード：A3623 | 曜日・時限：金 4/Fri.4

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2～4 年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

教育心理学とは、教育に関わる様々な心理学的知見を応用する学問です。ここでの教育とは、一般的な学校教育だけでなく、家庭や社会などあらゆる場面でされる学習や訓練などが含まれています。本講義ではそういった様々な場面での教育に関する、発達心理学、学習心理学、言語心理学、脳科学などの知見を紹介していきます。また、実社会で必要となってくる「他者の話を聞きながら、階層構造を意識したノート（メモ）を取る」スキルもこの授業で身につけられます。

【到達目標】

- (1) 教育心理学の基礎的な知識が身につく。
- (2) 他者の話を聞きながらメモを取る。
- (3) 階層構造を意識したノート（メモ）を取ることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

基本は対面での講義形式です。教科書は毎回使用します。授業の初めに、提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。また、Hoppii を通して課題を出す予定ですので、授業の前までに提出してください。こちらの回答に関しても全体にフィードバックを行う予定です。なお、COVID-19 感染症の蔓延状況によってはオンライン講義に変更する回もあるので、Hoppii からのお知らせに注意してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション・教育心理学とは	講義の進め方の説明と、教育心理学を学ぶためのベースとなる部分を概説する。
第 2 回	言語力と心の理解の発達	円滑なコミュニケーションの実現に関わる、言語力や心の理解の発達などについて概説する。
第 3 回	教える人と教わる人の関係	「教える—教わる」の関係性が築かれる、親子・友人・教師との関係などについて概説する。
第 4 回	学習理論と記憶理論	学習理論や記憶理論などについて概説する。
第 5 回	記憶理論と深い理解	記憶理論や深い理解などについて概説する。
第 6 回	読み書きからの学習	文章を読む/書くことからの学習や読解力、文章理解理論などについて概説する。
第 7 回	上手に学ぶ	上手に学ぶための学習者の工夫などについて概説する。
第 8 回	上手に教える (1)	授業過程や伝統的な授業法などについて概説する。
第 9 回	上手に教える (2)	最近の授業法や教師側の工夫などについて概説する。
第 10 回	知能と認知スタイル	知能検査や認知スタイルなどについて概説する。
第 11 回	学力と評価	学力の測定法や評価などについて概説する。
第 12 回	学校不適応と予防	学校不適応やいじめのメカニズムなどについて概説し、その予防法についても触れる。
第 13 回	学習障がいとその支援	学習障がいやその支援法などについて概説する。
第 14 回	期末テストとまとめ	期末テストの実施とその解説、授業のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

準備学習：次回の授業の内容について、事前に教科書を読んだり、書籍等で調べるなどをして、概要を把握しておく。また、前回の講義の最後に出された宿題に回答する。

復習：講義で取ったノートや教科書を読み返し、学んだ概念の具体例を自分自身の中に探す。また、講義で紹介する文献や資料を読む。

【テキスト（教科書）】

「教育心理学」原田・福田・森山（編） 大学教育出版 2022 年

【参考書】

なし。

【成績評価の方法と基準】

評価は、リアクションペーパーと宿題の提出による平常点 20%と期末テスト (80%) の配分で総合的に決定されます。期末テストの追試は、履修の手引きに記載されている条件が満たされた時のみ行われます。期末テストでは授業で紹介した内容や自分で教科書を読んだ内容などをベースとした内容が問われます。

【学生の意見等からの気づき】

授業の担当が初年度のため、特にありません。

【その他の重要事項】

授業のテーマにもあるように、教育心理学は応用心理学の一つですので、心理学に対する基礎的な知識が必要です。具体的には、心理学概論といった授業を修得したレベルを考慮しています。また、授業では、時間の制約のために、基礎知識については扱いません。

【実験や調査への参加】

授業の前後に心理学の実験や調査参加募集のお願いが何回かあると思います。心理学は実証科学です。講義だけではなく、他者が行う実験や調査にも積極的に参加してください。

【Outline (in English)】

Course outline : This course introduces educational psychology.

Learning Objectives : By the end of the course, students should be able to do the following:

- A. understand about basic of educational psychology
- B. take memos while hearing
- C. take notes organized hierarchically

Learning activities outside of classroom : Before/after each class meeting, students will be expected to have completed the required assignments. Your study time will be four hours for a class.

Grading Criteria : Your overall grade in the class will be determined based on the following: final examination: 80%, in-class contribution: 20%.

PSY200BG

学習心理学

藤田 哲也

授業コード：A3624 | 曜日・時限：木 2/Thu.2
春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：2～4 年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

人間の活動に不可欠な「学習」という現象を、心理学的に幅広く捉え、理解することがこの授業の目的です。単に心理学の知識として授業内容を覚えるのではなく、実際に自分自身の日常生活に活用できるレベルで理解します。そうすることで、自分の生活をより有意義なものにしていくという考え方を身につけます。

【到達目標】

半期の授業が終了した時点で、以下のことができるようになっていくことが到達目標です。

1. 学習に関する心理学的な現象や理論について、概要を適切に説明すること。
2. 自分自身の日常生活に、学習に関する心理学的な現象や理論をどのように応用可能なかを説明すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP5」「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】

条件づけという基礎的な学習理論から授業を始めますが、動物実験の結果は人間にも当てはまります。次に、主に教育場面における学習活動を客観的に捉え、動機づけや学習方略、メタ認知などについて学びます。また、知識の獲得過程として記憶のしくみの基礎を知り、自分自身の学習活動にも役立て下さい。講義形式の授業ですが、より深い理解を促すために、ペア・ワークなど用いて、受講生が積極的に参加する機会を設けます。同様に、授業内容に関連した簡単な実験や質問紙を通じて、自分自身の学習過程についても見つける機会をできるだけ提供します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業内容と目標の確認
第 2 回	古典的条件づけ	〇〇恐怖症の原因
第 3 回	オペラント条件づけ	報酬と罰の使い分け
第 4 回	観察学習	暴力映像視聴の影響
第 5 回	動機づけの基礎	やる気メカニズム
第 6 回	動機づけの応用	やる気のコントロール
第 7 回	記憶の分類	認知活動を支える記憶
第 8 回	作動記憶・手続記憶	短期記憶と長期記憶
第 9 回	記憶の理論を活かす	エピソード記憶獲得法
第 10 回	学習方略	自律的な学習のために
第 11 回	メタ認知と学習観	認知の認知を客観視
第 12 回	ここまでのまとめ	振り返りと理解度確認
第 13 回	レポート回収と解説	自己評価と動機づけ
第 14 回	授業の総括	到達目標自己評価

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

基本的に、一回の授業で教科書の1章分進み、毎回の授業は、予習をしてあることを前提に行います。「ただ読むだけ」ではなく、内容を把握することを目的意識を持って、予習をしてきてください。深い理解を伴う予習を行うために、毎回「予習シート」を完成させ、授業の二日前までに学習支援システムに提出したうえで授業に臨んでください。また、毎回発行する「授業通信」を読んで、前の週の授業内容を振り返ることも求めます。半期に2回、それまでの授業内容に関する「振り返りシート」に取り組みます。従って、本授業の準備時間は3時間、復習時間は1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

「絶対役立つ教育心理学 [第2版] 実践の理論, 理論の実践」藤田哲也(編)(2021) ミネルヴァ書房

【参考書】

毎回の授業内容に合わせて、随時紹介します。レポート作成が不安な人は次の本を参考にしてください。

「大学基礎講座」藤田哲也(編)(2006) 北大路書房

【成績評価の方法と基準】

平常点(40%)…授業の二日前までに予習シートを学習支援システムに提出すること、授業へ出席し積極的にペアワークに参加すること、授業の終わりに振り返りを行い、質問・意見・感想等を書いて提出することのすべてがそろっている場合に、その授業回分の平常点を付与します。

期末レポート(60%)…授業内容についての基本的な理解と、その授業内容を日常生活に応用できるレベルで理解できているかどうかの両者を主な評価対象とします。

【学生の意見等からの気づき】

2022年度の授業改善アンケートから：毎年高い評価を得ているので、授業内容には大きな変更はしませんでした。「履修してよかった」は4.87と、高評価をいただきました。「理解度」も以前より大幅UPし4.83となりました。実は今年度から予習課題の事前提出を平常点の対象に変更したのに伴い、「授業外学習時間」の最頻値も週1時間～2時間未満(60.9%)で予習を実質化できたことが大きかったと理解しています。「予習課題が大変だったが、意味のあるものだったのでやりがいがあった」という自由記述に、受講生の皆さんの受講態度が集約されていますね。学んだことを日常生活でもどんどん活用してください。

【その他の重要事項】

授業の運営方針や授業計画の説明をしますので、受講希望者は初回の授業に必ず出席してください。初回はオンラインで行いますが、2回目からは対面形式を予定しています。この授業の運営の仕方それ自体が、学習心理学の教材となっていますので、毎回、積極的に授業に参加することを求めます。ペア・ワークなどの授業内の活動にも心理学的な裏付けがありますし、解説もしていきますので、授業運営の仕方について十分に理解した上で受講するかどうかを決めてください。

【Outline (in English)】

【Course outline】

In this class, students understand the phenomenon of "learning" necessary for human activities from a psychological point of view.

【Learning Objectives】

By the end of the course, students should be able to do the following:

1. Students can properly explain the outline of psychological phenomena and theories related to learning.
2. Students can explain how psychological phenomena and theories about learning can be applied to one's own daily life.

【Learning activities outside of classroom】

Before each class meeting, students are expected to read the textbook and then submit their preparatory sheets. The required preparatory study time is about 3 hours. After each class meeting, students will be expected to spend about one hour to understand the course content.

【Grading Criteria /Policy】

The overall grade of the class is determined based on the following.

In-class contribution 40%, report 60%.

PSY200BG

言語心理学

菊池 理紗

授業コード：A3667 | 曜日・時限：火 1/Tue.1

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2～4 年

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、人間が「ことば」を使うときにどのような処理をしているのかについて、言語心理学・認知心理学・教育心理学などで培われた知見・考え方を理解することを目的とします。また、学んだことを踏み台に、どうすれば自分の「言語力」をさらに育てていけるのかを考えていきましょう。

【到達目標】

- (1) 言語がどのように理解・産出されるのかを理解し、その概要を説明することができる。
- (2) 言語がどのように発達するのかを理解し、その概要を説明することができる。
- (3) 日常生活における経験を、授業で理解した考え方で捉え、適切な例を挙げることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は講義が中心で、適宜、近くの席の人とグループワークを行います。授業では、毎回、Hoppii を使った課題の提出と授業後の小テストへの解答を求めます。提出された課題や小テストについては、次の授業の最初に全体に向けてフィードバックを行います。また、教科書は毎時間使用しますので、必ず購入し、持参してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション、	授業の進め方および成績評価に関する説明、言語心理学の研究目的
第 2 回	「言語心理学」とは コミュニケーションを 考える	言語的コミュニケーションと非言語的コミュニケーション、コミュニケーションの難しさ
第 3 回	話し言葉の発達	子どもが話し言葉を身に付けていく様子
第 4 回	書き言葉の発達	子どもが書き言葉を身に付けていく様子
第 5 回	心的辞書とは 1	知識の多様性、単語の意味の構造
第 6 回	心的辞書とは 2	心的辞書の活用事例、単語の認知処理、頻度と親密度
第 7 回	文の理解	ガーデンパス理論、ワーキングメモリの働き
第 8 回	文章の理解 1	文章を読むときの認知プロセス、推論
第 9 回	文章の理解 2	文章の理解に影響するもの（スキーマ、スクリプト、視点）
第 10 回	文章の産出 1	文章を書くときの認知プロセス、書き言葉の特徴
第 11 回	文章の産出 2	コミュニケーションの中の文章、「伝える」文章を書くには
第 12 回	第二言語学習	第二言語学習に関する理論、第二言語学習過程
第 13 回	言語力の育成	「言語力」とは何か、書き言葉と話し言葉の違い、「言語力」を育てるには
第 14 回	期末テストと解説	期末テストの実施とその解説、授業全体の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回、次の授業の内容に関連する簡単な課題を出します。Hoppii で解答を提出してください。その解答の提出と、教科書の関連ページを読んでいただくことが事前学習になります。

授業後には、Hoppii で授業内容に関する小テストを出題しますので、解答してください。また、第 14 回の試験に向けて、随時、教科書で学習を行ってください。

本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

福田由紀（編著）（2012）「言語心理学入門—言語力を育てる—」ISBN：978-4-563-05231-7、2,970 円（税込）

【参考書】

必要に応じて、授業内で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

課題の提出 + 毎回の小テスト 20%、第 14 回の期末テスト 80% の合計点で評価します。なお、期末テストの追試は、履修の手引きに記載されている条件が満たされたときのみにあります。期末テストでは、授業で紹介した内容だけでなく、自分で教科書を読んで学習する内容と、応用問題も出題します。形式は多肢選択式です。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

課題の提出は Hoppii を通して行います。また、メモを取れるようにノートやルーズリーフを持参することを推奨します。

【その他の重要事項】

質問は、授業の前後に直接話しに来るか、第 1 回の授業で伝える連絡先に連絡してください。

【実験参加へのお願い】

授業の前後に心理学の実験や調査の参加者を募集する学生が来ることがあります。授業で知識を学ぶだけでなく、他の人の実験や調査をぜひ積極的に体験してみてください。

【Outline (in English)】

The purpose of this course is to enable students to acquire knowledge of the Psychology of Language and relate it to their own daily life. Also, using what you have learned as a stepping stone, think about how you can further develop your own "language skills." We will be using textbooks, so be sure to bring them with you to class. In the 14th class, there will be a final exam. In addition to working on preparation and review assignments, please study the contents of the textbook. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each. Grades are evaluated at 20% for submission of assignments and answers to quizzes, and 80% for final exams. If you are absent more than 5 times, no credit will be given.

PSY200BG

社会心理学特講

島宗 理

授業コード：A3687 | 曜日・時限：土 3/Sat.3, 土 4/Sat.4, 土 5/Sat.5

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2～4 年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

多様化、高齢化が急速に進む現代社会においては、わが国の歴史や文化に対する理解を深めながら、広い視野を持ち、自分とは異なる価値観や考えを持つ他者と共生していけること、すなわち、良識ある公民たることが求められます。

本授業では、現代社会が直面している様々な問題を取り上げ、これに対する心理学からのアプローチを紹介します。

【到達目標】

様々な社会的問題を、1) 先行研究や統計資料などのデータを活用して記述し、2) 多面的、客観的、主体的に考察し、3) 他者との議論を活かしながら、公正な判断を下せるようになることが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

本授業は変則的な隔週のオムニバス形式の授業として開講します。2～3回の授業時限を1単位とし、単元ごとに1つの社会的問題や課題を取り上げ、これに関連する心理学の研究や実践などについて担当教員が講義します。学生はこれをもとに、自らの考えをまとめ、授業内で討論します。さらに、自らの考えを他者に伝え、他者の考えを積極的に聞く練習をしながら、最終的に単元ごとにレポートを作成して提出します。

レポートの提出・フィードバックは学習支援システムを通じて行う予定です。ZoomのURLは学習支援システムの「お知らせ」に掲載します。

第01回（2023/9/30：対面）持続可能な社会と心理学：講義（島宗）3, 4, 5 時限

第02回（2023/10/14：対面）現代社会における家族と心理学：講義（高橋）3, 4, 5 時限

第03回（2023/10/28：オンライン）異文化・言語と心理学：講義（田嶋）3, 4, 5 時限

第04回（2023/11/18：対面）対人環境の心理学：講義（竹島）3, 4 時限

第05回（2023/12/09：オンライン）危機予防の心理学：講義（渡辺）3, 4, 5 時限

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	現代社会が直面する問題について概観し、本授業の進め方やレポート課題、成績評価方法などについて説明する。
第2回	持続可能な社会と心理学 (1)	資源や環境問題について、持続可能な社会を実現するための行動分析学からのアプローチについて解説する。
第3回	持続可能な社会と心理学 (2)	持続可能な社会を実現するための方法論についてチーム内で議論し、各自がレポートのアウトラインを作成する。
第4回	現代社会における家族と心理学 (1)	戦後の家族規範の変化、夫婦制家族・核家族化への変化、父系から母系家族への変化など、日本の家族の歴史的変遷について考える。
第5回	現代社会における家族と心理学 (2)	家族の変化に伴い精神保健的な家族問題がいろいろと顕在化している。具体的には、アダルトチルドレンの問題、EE (Emotional Expression) 研究、家族学習会（家族ネット）、痴呆ケアの家族の問題、虐待と家族など危機に瀕した家族の問題を取り上げ、チームで発表議論する。
第6回	テーマ別調べ学習とレポート作成	ここまでのテーマとレポートのアウトラインに基づき、図書館やオンライン資料などを調べ、論拠となるデータを入力し、レポートを作成する。
第7回	異文化・言語と心理学 (1)	既有知識がある場合と無い場合における相手とのコミュニケーションを体験して、共有された世界を構築するために何が重要なのかを考える。
第8回	異文化・言語と心理学 (2)	共有された世界を構築するために、どのような活動が必要かを体験を通して考える。

第9回 テーマ別調べ学習とレポート作成

ここまでのテーマとレポートのアウトラインに基づき、図書館やオンライン資料などを調べ、論拠となるデータを入力し、レポートを作成する。「自分の周囲に他者がいる」という対人環境が個人に与える様々な影響について、影響の受けやすさに関連する個人特性も含めて解説する。自分の個人特性を理解し、対人環境からの影響の受けやすさを理解した上で、そのような環境下でどのように行動するかを受講生同士で議論する。いじめ、不審者侵入などあらゆる種類の学校危機に対する予防のあり方をエビデンスをもとに解説する。心理的な危機を予防するためにどのようなアプローチやプログラムが可能かを議論し、具体案を作成する。ここまでのテーマとレポートのアウトラインに基づき、図書館やオンライン資料などを調べ、論拠となるデータを入力し、レポートを作成する。必要に応じて講義担当教員へ質問し、最終的にレポートをまとめ、提出する。

第10回 対人環境の心理学 (1)

第11回 対人環境の心理学 (2)

第12回 危機予防の心理学 (1)

第13回 危機予防の心理学 (2)

第14回 テーマ別調べ学習とレポート作成

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業時間内にも調べ学習などの時間をとってありますが、単元ごとに提出するレポートの作成には図書館へ行ったり、文献を検索したり、レポートを書く時間を確保しておきましょう。各単元のレポートにかかる時間は各単元ごとの復習6時間とレポート作成6時間の計12時間を標準としています。

【テキスト（教科書）】

テキストはありません。

【参考書】

参考文献を紹介します（以下は一例です）。

○ Chance, P., & Heward, W. L. (2010). Climate Change: Meeting the Challenge. *The Behavior Analyst*, 33, 197 - 206.

○ Abrahamse, W., Steg, L., Vlek, C., & Rothengatter, T. (2005). A review of intervention studies aimed at household energy conservation. *Journal of Environmental Psychology*, 25, 273-291.

○ 山崎勝幸・戸田有一・渡辺弥生 (2013). 世界の学校予防教育 金子書房

○ Brock, S.E., & Jimerson, S. R. (Eds.) (2012). *Best Practices in School Crisis Prevention and Intervention 2nd edition*, National Association of School Psychologists.

○ 石原 邦雄 (2008). 家族のストレスとサポート 放送大学教育振興会

○ 井出 祥子・平賀 正子 (2005). 講座社会言語科学（第1巻）異文化とコミュニケーション ひつじ書房

【成績評価の方法と基準】

テーマ別レポート（全5題）をそれぞれ20点満点で採点し、合計得点が満点（100点）に占める割合で成績を評価します。

【学生の意見等からの気づき】

(2022年度は未開講でした)

【その他の重要事項】

代表として島宗のオフィスアワーを掲載しておきます。他の教員のオフィスアワーについては各自が担当する授業シラバスを参照して下さい。

○ オフィスアワーは春学期、秋学期ともに火曜日の2限、場所は研究室（富士見坂校舎 6F9号室）です。

【Outline (in English)】

【Course outline】

In today's rapidly diversifying and aging society, we need to be sensible citizens, who understand our country's history and culture, have a broad perspective, and can coexist with others who have different values and ways of thinking from our own. The purpose of this course is to learn research-based psychological solutions to various social problems that modern society is facing such as energy consumption, family issues, risk management at schools, communication, and cross-cultural understanding.

【Learning Objectives】

At the end of the course, students should be able to discuss, in their own words, the research-based psychological solutions to today's social issues covered in this class.

【Learning activities outside of classroom】

Students are expected to 1) read the materials distributed in class, 2) search and read relevant papers and articles, and 3) write and submit reports. 2 hours of study per class is expected.

【Grading Criteria /Policy】

Final grade in this class will be decided based on the total score of five reports (20% x 5 = 100%).

PSY200BG

産業組織心理学

島宗 理

授業コード：A3721 | 曜日・時限：木 4/Thu.4

秋学期授業/Fall・2 単位 | 配当年次：2～4 年

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

企業における様々な課題に心理学の知見を活かして取り組む方法を学びます。経営、マーケティング、商品開発、品質管理、販売管理、マネジメント、メンタルヘルス、リーダーシップとコーチング、安全管理、コンプライアンスなどをテーマに、組織を健全に運営するために役立つ考え方や研究について学びます。

【到達目標】

企業における課題をまず知ることから始めます。このため、日本の企業が直面している問題や取組を具体的に学びます。基本的なビジネス用語の意味を定義できるようになることも目標とします。その上で、消費者や社員の行動に影響を及ぼす心理学的な要因や介入方法について述べられるようになることを目標とします。たとえば、日本企業が東南アジア諸国における自社製品の販売を促進しようとするときに問題となることやその解決方法を論じられるようになることがこの授業の到達目標となります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式で授業を行います。毎回、前回の授業で学んだことをテストで確認します。

講義を通して、ビジネスや産業組織心理学の基本を理解し、重要なキーワードを覚え、使えるようになったかどうかを評価します。

毎回行うテストの得点は Google クラスでフィードバックします。授業全体の得点は学習支援システムを通じてフィードバックします。

新型コロナウイルス感染拡大状況にもよりますが、2023 年度は授業内演習を取り入れることを計画しています。授業計画に変更がある場合には、Google Classroom を使って連絡します。学習支援システムのこの授業科目のトップページで Google Classroom の登録コードなどを案内しますので確認し、登録してからこの授業を受講してください。

学習支援システム：<https://hoppii.hosei.ac.jp/portal>

Google Classroom：<https://classroom.google.com/>

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業内容と方法、約束事を説明します。ビジネス心理学の概要について講義します。
第 2 回	小売業その 1：スーパーにおける取組み	スーパーにおける取組みを通して、以下のキーワードについて学びます。価格競争、市場（マーケット）、消費者心理、購入行動、貯蓄行動、投資行動、差別化、ブランド、機能のコモディティ化、売上げ、利益、利益率、費用、固定費、変動費、原価率、売上総利益率（粗利）
第 3 回	小売業その 2：スーパーにおける取組み	スーパーにおける取組みを通して、以下のキーワードについて学びます。ビジュアルマーチャンダイジング（VMD）、減価償却、コンサルティング、アウトソーシング、PB（プライベートブランド）、NB（ナショナルブランド）、OEM、ブランディング
第 4 回	テーマパークその 1：東京ディズニーリゾートの取組み	TDR における取組みを通して、以下のキーワードについて学びます。リピーター、同一性と新奇性、イノベーション、ブランド・ロイヤルティ、スイッチングコスト（感情的コミットメント）、計算的コミットメント）、ロールプレイを用いた接客訓練、接客訓練の維持・般化促進のための強化、トークンシステム、トークンシステムを運用するさいの注意点、職務分析

第 5 回	テーマパークその 2：東京ディズニーリゾートの取組み	TDR における取組みを通して、以下のキーワードについて学びます。需産業と外需産業（日本の自動車会社は？）、市場調査（マーケティングリサーチ）、顧客満足度（CS：Customer Satisfaction）、定量分析、定性評価、プロダクト・ポートフォリオ・マネジメント（金のなる木、花形製品、負け犬、問題児）、従業員満足度（ES：Employee Satisfaction）、ロイヤルティ
第 6 回	業績評価指標（KPI）とそのマネジメント	様々な業界の業績評価指標（KPI）を紹介し、これに関連して、経営目標（売上、利益、粗利、利益率など）、目標管理制度（MBO）、バランス・スコアカード（BSC）、PDCA サイクル（Plan-Do-Check-Action サイクル）などについて学びます。
第 7 回	企業におけるメンタルヘルス	いわゆるブラック企業問題について検討しながら、以下のキーワードについて学びます。5大疾病（糖尿病、脳卒中、がん、心臓病、精神疾患）、努力報酬不均衡モデル、日本の雇用慣行（新卒者の一斉採用、専門性の軽視（入社後の研修や訓練を重視）、終身雇用、年功序列、ボーナスによる人件費調整）、休職や離職のリスク、労働基準法、法令違反、法令遵守、コンプライアンス、法令違反の例（残業代の未払い、上司によるパワハラ、長時間労働、不当解雇、退職勧奨）、労働契約書、就業規則、労働基準監督署、内部告発、是正勧告、労働組合（連合）と経団連、労使交渉、労災申請、福利厚生、従業員支援プログラム（EAP）、一次的、二次的、三次的予防（ストレスコーピング法、定期検診、ストレスチェックリスト、復職支援と再発予防）
第 8 回	働きがいのある会社	働きがいをつくる方法を検討しながら、以下のキーワードについて学びます。休職や離職のリスク、職業紹介所、ハローワーク、採算ライン、損益分岐点、権限委譲、エンパワーメント、コーチング、OJT、Off-JT、人事評価（人事考課）、給与体系（賃金体系）、目標管理制度、ジョブローテーション、（復習）固定費、変動費、ワークライフバランス、人材の多様化（ダイバーシティ）、女性活躍推進
第 9 回	特別講義（内容は未定です）	企業や団体で働く実践家をお招きし、組織における心理的な問題や対応などについてお話しをうかがいます。
第 10 回	広告とブランドづくりその 1	マーケティングや広告について検討しながら、以下のキーワードについて学びます。ドラッカー、コトラー、マーケティング、ニーズ、ウォンツ、デマンド、名言されたニーズ、真のニーズ、名言されないニーズ、喜びのニーズ、隠れたニーズ、セグメンテーション、ターゲティング、ポジショニング、バリュープロポジション、顧客価値の三本柱：QSP、マーケティング・チャンネル、コミュニケーションチャンネル、流通チャンネル、サービスチャンネル、サプライチェーンとサプライチェーンマネジメント、市場のセグメンテーション（C、T、F、M など）、AIDMA、ローランド・ホール
第 11 回	広告とブランドづくりその 2	マーケティングや広告について検討しながら、以下のキーワードについて学びます。ワトソン、パブロフ、間接推奨広告、古典的条件づけ（レスポナント条件づけ）、単純接触効果、鋭敏化、要求特性のバイアス（実験者効果）、内観報告（質問紙法）の欠点、評価条件づけ、古典的条件づけの成立条件、AIDMA から AISAS/AISCEAS へ、商品価値、有形価値（プロダクト）、無形価値（ブランド）、行動経済学、行動分析学、対応法則、ブランディング、マーケティング調査とマーケティング戦略
第 12 回	産業組織心理学は役に立つのか？	産業組織心理学の歴史や現状について解説します。

- 第 13 回 グローバリゼーションと ローカリゼーション 日本企業の海外進出に関して検討しながら、以下のキーワードについて学びます。グローバリゼーション、ローカリゼーション、自社ブランド製品、有形価値の文化差、個人差、マーケティング・チャンネル（コミュニケーションチャンネル、流通チャンネル、サービスチャンネル）、AISAS モデル、BOP ビジネス、CSR
- 第 14 回 まとめと振り返り 今学期の授業内容について振り返り、まとめます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- 毎回、授業開始時に、前回の授業内容に関する復習クイズを実施します。受講生は授業ノートで示される各回のキーワードの定義や例を読み返し、理解を深めて復習し、クイズに備えて下さい。
- 授業で解説しなかったキーワードも出題されることがあります。スライド資料や参考文献は提供していますので、自習を含めた復習をしてください。
- 本授業の準備・復習時間は、それぞれ平均 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは指定しません。

【参考書】

- 研究テーマや課題に応じて、適宜、資料を配付し、参考文献などを紹介します（以下は一例です）。
- 山岡道男・浅野忠克 (2009). アメリカの高校生が読んでいる起業の教科書 アスペクト
 - リー・コールドウェル (2013). 価格の心理学—なぜ、カフェのコーヒーは「高い」と思わないのか?— 武田玲子 (訳) 日本実業出版社
 - 森岡 毅 (2016). USJ のジェットコースターはなぜ後ろ向きに走ったのか? 角川文庫
 - 鳥宗 理 (2015). リーダーのための行動分析学入門 日本実業出版社

【成績評価の方法と基準】

- 毎回行われるクイズ (50%) と授業内演習の得点 (50%) で成績を評価します。
- 授業を欠席したときには授業内演習を補完するレポートを書いて提出してください。学期内 6 回まではこのレポートの得点で授業内演習の得点を補完できるものとします。

【学生の意見等からの気づき】

今年度は対面授業を再開しましたが、オンデマンド型の動画や教材も配信したせいか、教室に来る受講生の数が少なかったように感じました。この授業ではビジネスとビジネスにおける心理学の基礎知識を学ぶことを目標にしているため、どちらかという用語を覚える形態の学習が多くなってしまっているのですが、来年度はもう少し「考える」活動を増やそうと考えています。

【その他の重要事項】

- 本授業では企業へのコンサルテーションを行っている担当者がその経験を活かして講義します。
- オフィスアワーは春学期、秋学期ともに火曜日の 2 限、場所は研究室（富士見坂校舎 6F9 号室）です。

【Outline (in English)】

【Course outline】

The purpose of this course is to learn basic concepts in industrial/organizational psychology that are relevant to current problems in the workplace. The topic of the lecture will cover from marketing, cost-profit analysis, quality control, staff management, human resources, and overseas expansion.

【Learning Objectives】

At the end of the course, students should be able to do the followings:

- 1) describe overall topic of interests in industrial/organizational psychology, 2) explain basic concepts and terms in business, and 3) give examples of business practices based on psychological research.

【Learning activities outside of classroom】

Students are expected to complete weekly assignments on research projects (average of 2 hours).

【Grading Criteria /Policy】

Final grade in this class will be decided based on the following: Weekly tests (100%) or alternative reports which are allowed to replace with untaken test scores up to 6 times.

HUG200BA

歴史地理学（1）

米家 志乃布

授業コード：A3819 | 曜日・時限：水 1/Wed.1
 春学期授業/Spring・2 単位 | 配当年次：2～4 年
 備考（履修条件等）：「歴史地理学 I」を修得済みの場合は履修不可。

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

授業のテーマ：「遺産」の歴史・観光地理
 本講義で扱う「遺産」とは、世界中に残る人類が残した過去の文化遺産や伝統全般を指します。この講義では、これらの「遺産」の歴史そのものやそれらを後世において語り、利用することによって発展した歴史・観光地理を扱います。たとえば、日本の京都には、多くの「遺産」（神社仏閣・芸術品・祇園祭など）が残されています。これらの「遺産」は、古代の平安京から中世～近代に至る京都の歴史的発展過程のなかで造られてきたものであり、現代では制度としての「文化財」や「世界遺産」に指定されています。京都における「遺産」を深く考えるためには、これらの「遺産」の歴史そのものと保存・活用制度を学ぶことのみならず、「遺産」の歴史を語り利用することによって成り立っている現代の観光都市としての京都の在り方も学ぶ必要があるでしょう。本講義ではこのような視点から、日本や世界各地の「遺産」の歴史と保存・利用、それらをめぐる観光業と地域の在り方に注目し、「遺産」の歴史・観光地理を考察していきます。

【到達目標】

この講義の目標は、日本や世界各地に残る「遺産」について、単に歴史的で普遍的な価値があるという視点だけでなく、観光産業に大きな利用価値があることをどのようにとらえていったらいいのか、肯定的であれ否定的であれ、受講者自らが考える姿勢を養うことにあります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

1. 日本・世界における「遺産」の歴史について概要を説明します。2. 日本・世界における「遺産」の保存や利用に関わる法制度について学びます。3. 日本の代表的な歴史的観光都市を取り上げ、「遺産」の歴史と地域の関係について、個別具体的に解説します。1～3について、パワーポイントやプリントを用いて講義します。理解を深めるために、授業内でビデオ観賞もしますので、それについての感想文を書いていただきます。ビデオ鑑賞の感想については、授業内で紹介し、コメントをつけて返却します。大学の方針で、対面授業を基本としますが、学習支援システムでパワーポイントやプリント資料もアップします（感染予防のため紙では配布しません）。授業開始時間等にも配慮します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業内容・授業方法の説明、成績評価の基準など
第 2 回	「遺産」と歴史地理学	日本・欧米における歴史地理学の方法論
第 3 回	日本における歴史的遺産と文化財保護制度	歴史的町並み保存・文化的景観を中心に、日本の歴史と景観の関係について学ぶ
第 4 回	「世界遺産」と各国・各地域の関係	ユネスコの世界遺産制度について学ぶ
第 5 回	身近な地域から歴史地理学を考える	法政大学周辺の歴史地理、江戸から東京へ、都市構造の継承について学ぶ
第 6 回	奈良の歴史地理①	奈良市内の歴史遺産、特に、平城京と現在の都市構造の関係について学ぶ
第 7 回	奈良の歴史地理②	飛鳥・吉野の歴史遺産、特に、古代～中世の宗教遺産について学ぶ
第 8 回	京都の歴史地理①	都城の歴史、平安京と現在の都市構造の関係について学ぶ
第 9 回	京都の歴史地理②	豊臣秀吉による京都改造、歴史的遺産の保存と観光の課題について学ぶ
第 10 回	伏見の歴史地理①	豊臣秀吉による近世城下町プラン、城下町の復元研究について学ぶ
第 11 回	伏見の歴史地理②	近代以降の酒造業の発展、現在のまちづくりについて学ぶ
第 12 回	大阪の歴史地理①	石山本願寺、豊臣秀吉の大坂城建設と城下町整備、徳川時代へ
第 13 回	大阪の歴史地理②	近代以降の大阪城の意義、大阪のまちづくり

第 14 回 歴史観光都市・観光地の 京都の祇園祭と現在
 取り組み

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本講義にかかわる準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。テレビの旅行番組を見たり、様々な旅行記などを読んで、様々な国や地域の観光の在り方について考えてみましょう。

【テキスト（教科書）】

特に指定はしません。適宜、学習支援システムでプリントを配布します。

【参考書】

適宜、必要に応じて、学習支援システムで紹介します。

【成績評価の方法と基準】

期末レポート課題 50 %、ビデオ鑑賞コメント提出 25 %、平常点 25 % で評価いたします。

【学生の意見等からの気づき】

文学部地理学科以外の学生にもわかりやすいように工夫しますので、他学科や他学部の学生も遠慮なく履修してください。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムで資料配信します（紙での配布はしません）。随時確認することができるように、PC やスマートフォンなど機器類を準備してください。

【その他の重要事項】

歴史地理学の基本・応用を学ぶために、春学期・秋学期合わせての履修を推奨いたします。

【Outline (in English)】

【Course outline】 This lecture examines a historical geography of heritage in Japan.

【Learning Objectives】 The goals of this course are to learn, understand and practice about historical geography of heritage and tourism.

【Learning activities outside of classroom】 Your study time will be more than four hours for a class.

【Grading Criteria】 Term-end reports:50% Short reports:25 % and in class contribution:25 %

HUG200BA

歴史地理学（2）

米家 志乃布

授業コード：A3820 | 曜日・時限：水 1/Wed.1

秋学期授業/Fall・2単位 | 配当年次：2～4年

備考（履修条件等）：「歴史地理学Ⅱ」を修得済みの場合は履修不可。

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

授業のテーマ：「フロンティア」の歴史・政治地理

本講義で扱う「フロンティア」とは、近代国家が拡大する際の最前線である「辺境地域」を指します。この講義では、担当者の専門の関係から、日本やロシアにおける「フロンティア」の歴史とそれらの地域をめぐる現代まで続く歴史・政治地理を扱います。たとえば、19世紀日本における北方フロンティアとして蝦夷地・北海道、17世紀以降のロシアにおける東方フロンティアとしてシベリアが挙げられます。近代において、帝国主義国家によるその領土拡大と先住民支配および植民地経営は、歴史学・地理学・民族学などの分野において重要な研究テーマです。現在における北方領土問題も、このフロンティアの歴史、つまり両国家による領土拡大と植民地経営に大きく関わってきます。本講義ではこのような視点から、北東アジアにおける17世紀～20世紀にかけての日本とロシアの「フロンティア」、具体的には、蝦夷地・北海道や樺太・千島、シベリア・極東などの歴史・政治地理を考察していきます。

【到達目標】

この講義の目標は、国民国家と「領土」を歴史・政治地理的に改めて見直し、近代国家とは何か、先住民・少数民族と近代国家の関係とはどのようなものか、歴史地理学的方法を通して、受講者自らが考える姿勢を養うことにあります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

1. 蝦夷地・北海道について、歴史地理学的方法を通して学びます。2. 北方領土問題について学びます。3. 近代国家と「フロンティア」の関係を、先住民との関係から考えます。北方領土問題やアイヌ民族の文化に関する映像を見て、感想を提出してもらいます。受講生のみなさんの感想は、授業内で紹介し、こちらでコメントして返却します。大学の方針により、対面授業とします。パワーポイントや資料はすべて学習支援システムで配布します（感染予防のため紙での配布はありません）。授業開始時間等にも配慮します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業内容および授業方法の説明、成績評価基準について
第2回	地理的認識をめぐる歴史地理学	新しい歴史地理学の方法について学ぶ
第3回	蝦夷地の歴史地理	蝦夷地・北海道をめぐる和人・アイヌ関係を学ぶ
第4回	古地図からみた蝦夷地①	蝦夷地を描いた日本・欧米の地図の歴史
第5回	古地図から見た蝦夷地②	ロシア・日本・ヨーロッパの日本像と蝦夷地
第6回	旅行記から見た蝦夷地・北海道①	松浦武四郎とライマンの旅行記からみた蝦夷地・北海道
第7回	旅行記から見た蝦夷地・北海道②	松浦武四郎とライマンのアイヌ民族へのまなざしについて考える
第8回	風景画から見た北海道・札幌①	風景画・写真・古地図などの画像史料と開拓の歴史の関係
第9回	風景画から見た北海道・札幌②	開拓都市の表象について、歴史地理学的方法で考える
第10回	北方領土問題①	NHKスペシャルを鑑賞する
第11回	北方領土問題②	日本とロシアの国際的な関係、北方領土問題を考える
第12回	千島列島（クリル諸島）・樺太（サハリン）の歴史地理	千島列島・樺太の歴史地理を日本側・ロシア側の両方から学ぶ
第13回	現代に生きるアイヌ民族の若者たち	NHKスペシャルを鑑賞する
第14回	日本におけるアイヌ民族の法的地位と文化振興	日本における先住民政策史をおさえ、日本のアイヌ民族に関する歴史的状況についておさえる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本講義にかかわる準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。アイヌ民族にかかわる日本の法令や雑誌の特集などは積極的に読んでみてください。アイヌ民族だけでなく、世界の領土問題や先住民に関する文献も自分で探して読んでみてください。

【テキスト（教科書）】

米家志乃布『近世蝦夷地の地域情報-日本北方地図史の再考』2021年、法政大学出版局。その他、必要に応じて、適宜資料をPDFファイルで学習支援システムにアップします。

【参考書】

適宜、必要に応じて、学習支援システムで紹介します。

【成績評価の方法と基準】

期末レポート 50%、ビデオ鑑賞コメント提出 25%、平常点 25%で評価いたします。

【学生の意見等からの気づき】

文学部地理学科以外の学生にもわかりやすいように工夫しますので、他学部・他学部の学生も遠慮なく履修してください。

【学生が準備すべき機器他】

基本的に教科書をもとに説明するか、学習支援システムで資料配信します（紙での配布はしません）。随時確認できるように、教科書は対面授業に持参し、PCやスマートフォンなど機器類を準備してください。

【その他の重要事項】

歴史地理学の基本・応用を学ぶために、通年での履修を推奨します。

【Outline (in English)】

【Course outline】 This lecture examines a historical geography of northern frontier in Japan and Russia.

【Learning Objectives】 The goals of this course are to learn, understand, write a report of the history of Hokkaido.

【Learning activities outside of classroom】 Your study time will be more than 4 hours for a class.

【Grading Criteria】 Term-end reports: 100% Short reports:25% and in class contribution:25%

GEO100BF

地誌学概論

南 春英

授業コード：A3901 | 曜日・時限：金 2/Fri.2
 春学期授業/Spring・2単位 | 配当年次：1～4年
 備考（履修条件等）：2022年度以前入学生は「地誌学概論（2）（A3409）」を履修する（配当年次は2～4）。

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

地理学は地誌学と系統地理学とに大別されます。本講義の到達目標は、講義を通して地誌学的アプローチを理解し、グローバル地誌とテーマ別地誌、比較交流地誌的アプローチを組み合わせ対象とする地域を説明できるようになることです。地域概念について理解し、空間スケールに着目しながら日本および世界の地理的多様性に関する知見を深めます。

【到達目標】

本講義を受講することによって受講者は、特定の地域の特性や構造、およびその変化について、自然・人文地理学の様々な視点から理解・説明できることと、地域を科学的に見ることが出来るよう目指します。また、地図帳や統計を使って地域を空間的に把握出来るよう目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は教員の講義形式で進めていく。講義形式で進めていく。毎回スライドを投影し、適宜プリントを配布する。スライドやプリントに多くの図や写真などを示すことで、視覚的に理解できるように努める。途中、授業理解の促進のために、DVD等を使用する予定です。

受講生には、授業後にペーパー（あるいは授業支援システム）を通して、感想・質問等のリアクションやミニ課題の提出をお願いすることがあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロ	授業内容の説明
第2回	地誌学とは	地誌学の目的とアプローチ
第3回	地誌学と国際理解教育	アジアにおける地誌教育
第4回	身近な事例	原宿：歴史と若者の街
第5回	世界の多様性①	生活と環境
第6回	世界の多様性②	世界の食肉文化
第7回	グローバル地誌①	現代世界のグローバル化地誌
第8回	グローバル地誌②	グローバリゼーションと日本
第9回	テーマ別地誌①	中国の多民族と文化の多様性
第10回	テーマ別地誌②	中国の都市化と課題
第11回	比較交流地誌①	朝鮮半島の文化
第12回	網羅累積地誌①	アメリカ合衆国の多様性
第13回	地域差①	自然環境と歴史からうまれた北京と上海の住民の省民性
第14回	まとめ	授業内試験を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習として、講義で扱う地域を地図帳などで確認し、基本的な位置関係や地名を確認しておくことが求められます。また、講義中に紹介する文献をよむことを望みます。こうしたことから、各自がそれぞれ2時間以上自ら学ぶことを期待します。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しません。授業中に資料を配布します。書籍や文献は授業のなかで随時紹介するので、積極的に読んでください。

【参考書】

時事的な社会情勢の理解に役立つよう、常に最新の題材を取り扱っていきたい。
 可見弘明ほか（1998）『民族で読む中国』朝日新聞社
 河上税・田村俊和（2009）『日本からみた世界の地域 世界地誌概説』原書房
 菊地俊夫（2011）『日本』朝倉書店
 国立国語院（2006）『韓国伝統文化事典』教育出版
 高井潔司・藤野彰・曾根康雄（2012）『現代中国を知るための40章』明石書店
 帝国書院編集部（2019）『図説地理資料 世界の諸地域 NOW』帝国書院
 帝国書院編集部（2020）『新・世界の国々 < 9 > 世界各地の生活と環境』帝国書院
 藤野彰（2018）『現代中国を知るための52章』明石書店
 矢ヶ崎典隆・加賀美雅弘・牛垣雄矢（2020）『地誌学概論』朝倉書店
 立正大学地理学教室（2007）『日本の地誌』古今書院

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業外課題）：40%、期末試験（持ち込み不可）：60%で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

多くの資料・データを提示することで、受講者自身が考察を行った上で、講義内容を理解できる授業となることを心掛けます。

【Outline (in English)】

Outline and objectives (概要目的)

This course introduces various fundamental knowledge of regional geography to students taking this course. The goal of this course are to obtain fundamental knowledge of various regions and to acquire the ability to generally and systematically consider various geographical phenomena.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Final grade will be calculated according to the following process Short reports (40%), term-end examination (60%).

MAN200FA

キャリア・マネジメント I (2019 年度以降入学者)

小川 憲彦

経営学科専門科目 200 番台 2~4 (経営学科) 3~4 (経営戦略学科・市場経営学科) 年次 / 2 単位 [春学期授業/Spring]

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

キャリア論の基本について学習します。その中で、キャリアを歩んでいく上での考え方、就職活動のことに加えて、会社のこと、会社組織を取り巻く社会環境についてもお話したいと考えています。自分の考えと照らし合わせながら参加できるように、適宜ディスカッション等を行います。

The purpose of this class is to learn fundamental career theories including the basic mind for career development, the process of job-hunting and recruiting, the ways that companies work, and the social environment surrounding an individual career and organizations at which you will work.

【到達目標】

- ①キャリアの基本理論の概要やこれに関わる術語を知っていること
- ②就職活動、および就職以降も続く各自のキャリア形成について、暫定的でも自分なりの考え方を持って臨めるようになること

Students who complete the course will be expected to:

- (1) understand the basic terms and concepts of the career development theories,
- (2) begin preparations for job-hunting, using your own thoughts, as the first step for lifelong career development/management.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP5」に関連が特に強く、「DP1-1」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

・初回は Zoom を用いたオンライン、以降は原則的に対面での講義を実施します。対面の場合の参加ルールは以下です。詳細は授業で伝えます。

- ①他人の迷惑になる行為を行わないこと
- ②授業に関係のないことをしないこと
- ③その他については、教員の指示に従うこと

Zoom の場合の参加は以下が加わります。詳細は授業で伝えます。

- ①音声は指示がない場合は原則としてオフ
- ②動画カメラは原則オン
(ただし電波状況が悪い場合は、氏名と学籍番号をチャットで伝えたくうえで

オフを許可します)

- ③表示する氏名は漢字
(仮名表記の名前の方はそれで結構です。外国人の方はアルファベットでも可)

- ・適宜リアクションペーパーを課します。
- ・グループ・ディスカッションを行うことがあります。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	参加の諸注意、評価方法、レポート情報などの説明
第 2 回	キャリアとは	経営学におけるキャリア論の位置づけやキャリアという概念の理解
第 3 回	キャリアを取り巻く環境の変化	これからの世の中で、どのような変化が生じうるのか、その上でどのようなキャリアが求められるのか
第 4 回	企業の新卒採用活動 (1)	採用側の理論について

第 5 回	企業の新卒採用活動 (2)	採用研究について紹介します
第 6 回	企業の新卒採用活動 (3)	面接研究について紹介します
第 7 回	企業の採用活動事例の紹介 (1)	過去は、金融、メーカー、マスコミ、小売、サービスなどの各種業界の採用活動の実際を紹介しました (業界や会社は皆さんの要望を踏まえ変わることがあります)
第 8 回	企業の採用活動事例の紹介 (2)	過去は、金融、メーカー、マスコミ、小売、サービスなどの各種業界の採用活動の実際を紹介しました (業界や会社は皆さんの要望を踏まえ変わることがあります)
第 9 回	職場適応の理論 (1)	入社した後の会社への適応について (概要)
第 10 回	職場適応の理論 (2)	入社した後の会社への適応について (人間関係)
第 11 回	キャリア発達の理論 (1)	長期にわたるキャリアの見通しについて
第 12 回	キャリア発達の理論 (2)	長期にわたるキャリアの見通しについて
第 13 回	キャリア・トランジション論	転職など、キャリアの移行期について
第 14 回	近年のキャリア論	偶発性アプローチの紹介など

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

任意の宿題 (レポート等) を出すことがあります。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

金井壽宏 (2002) 『働くひとのためのキャリア・デザイン』 PHP 研究所。良い本ですが必ずしも購入する必要はありません。授業は配布資料を基に進めます。参考書も同様です。

【参考書】

大久保幸夫 (2006) 『キャリアデザイン入門 (1) 基礎力編』・『キャリアデザイン入門 (2) 専門力編』 日経文庫。
エドガー・H・シャイン (著)・金井壽宏 (訳) (2003) 『キャリア・アンカー —自分のほんとうの価値を発見しよう』・『キャリア・サバイバル—職務と役割の戦略的プランニング』 白桃書房。

【成績評価の方法と基準】

・期末試験ないしレポート (50%)、平常点 (50% : 参加態度、リアクションペーパー、課題等含む)

【学生の意見等からの気づき】

平日の時間帯なので難しいかもしれませんが、可能であればキャリア・マネジメント II のようにゲストを招く回を設けたいと思っています。

【その他の重要事項】

I は理論編、II は事例編です。前者は講義が中心ですが、後者では社会人ゲストを呼んで業界のことや仕事、キャリアについて具体的に話してもらいます。II は現役社会人ゲストを呼ぶので土曜日開講ですが、1 回 1 回の授業が OBOG 訪問のような場になりますので、2、3 年生の早いうちから受講することを勧めます。どのようなゲストかは II のシラバスを見てください (22 年度のゲストなので同じ方々ではありませんが、多様な業界職種の方をお呼びしています。)

【Outline (in English)】

Outline

The purpose of this class is to learn fundamental career theories including the basic mind for career development, the process of job-hunting and recruiting, the ways that companies work, and the social environment surrounding an individual career and organizations at which you will work.

Learning objectives

Students who complete the course will be expected to:

- (1) understand the basic terms and concepts of the career development theories,
- (2) begin preparations for job-hunting, using your own thoughts, as the first step for lifelong career development/management.

Learning activities outside of classroom

Assignments (that include reaction papers, readings, small reports, and others) will be given at the instructor's discretion. Two hours for preparation and same hours for review may be required for each class.

Grading criteria/policy

Grading will be decided based on the mid-term or term-end examination (50%) and in-class attitudes and regular assignments (50%).

MAN200FA

キャリア・マネジメントⅡ（2019年度以降入学者）

小川 憲彦

経営学科専門科目 200 番台 2～4（経営学科）3～4（経営戦略学科・市場経営学科）年次／2 単位 [秋学期授業/Fall]

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

キャリアマネジメントⅠの知識を前提に、やや応用的な内容について扱います。また、この授業では各界の老若男女様々な社会人ゲストをお呼びして、業界や仕事の紹介、ご自身のキャリアについて話をしてもらいながら、質疑応答を行います。様々な働き方・考え方に触れることで視野を広げながら、自分自身のキャリアについて考える契機として下さい。

The purpose of this class is to learn advanced career theories and to think about your career development through interactions with guest-speakers who have diverse backgrounds: career, jobs, positions, occupations, and industries. They will talk about not only their careers but the lives overall, and you will be able to learn a lot from them.

【到達目標】

- ① 社会人との交流が適切に行えること
- ② 就職活動、および就職以降も続く各自のキャリア形成について暫定的でも自分なりの考え方をもちて臨めること

Students who complete the course will be expected to:

- (1) be able to communicate and exchange views with working people (guests) in an adequate manner,
- (2) begin preparation for job-hunting (including visiting OBs & OGs and internships) initiatively as the first step for lifelong career development/management.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP5」に関連が特に強く、「DP1-1」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

ゲストを招くことで社会人とのコミュニケーションの場を設けます。仕事世界やキャリアに関する知見・視野を広げてほしいと思います。また、キャリア形成に関する理論、研究、事例等の紹介等も行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	参加の諸注意、評価方法、レポート情報などの説明、キャリア・マネジメント論Ⅰの振り返り
第 2 回	就職活動について	学生の就職活動報告を共有し気付きを共有します
第 3 回	企業の採用活動	就職活動を企業の側から、すなわち採用活動について具体的な選抜方法やその視点について紹介します
第 4 回	ゲスト（キャリアセンター職員）	キャリア・センターの活用と30代の女性職員の方のキャリア
第 5 回	ゲスト（非営利組織職員）	新卒1年目で非営利組織（フードリボン等を展開）で働く若手 OB
第 6 回	ゲスト（野村証券）	証券会社3年目の若手 OB
第 7 回	ゲスト（ベンチャー企業）	化粧品などを扱っている広報畑の OG
第 8 回	ゲスト（物流）	世界各地で事業展開をしている物流会社の初級管理職 OB
第 9 回	ゲスト（IT）	楽天の常務執行役員。上場企業の社長などの経験があります。
第 10 回	ゲスト（中小企業）	印刷会社の40代の経営者です。
第 11 回	ゲスト（クリエイティブ産業）	現在はアニメプロデューサーをしていますが、ゲーム会社でのシナリオライターなどの経験もあります。
第 12 回	ゲスト（鉄道）	鉄道会社の管理職 OB です。
第 13 回	境界なきキャリア	転職等の効果について
第 14 回	出世について	大企業での出世や昇進のメカニズムについて

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

任意の宿題（レポートや読書）を適宜出します。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

Assignments (that include reaction papers, readings, small reports, and others) will be given at the instructor's discretion.

Two hours for preparation and same hours for review may be required for each class.

【テキスト（教科書）】

金井壽宏（2002）『働くひとのためのキャリア・デザイン』PHP 研究所。良い本ですが必ずしも購入の必要はありません。参考書も同様です。授業はゲストの用意した資料等に基づいて行われます。

【参考書】

大久保幸夫（2006）『キャリアデザイン入門（Ⅰ）基礎力編』・『キャリアデザイン入門（Ⅱ）専門力編』日経文庫。

エドガー・H・シャイン（著）・金井壽宏（訳）（2003）『キャリア・アンカー—自分のほんとうの価値を発見しよう』・『キャリア・サバイバル—職務と役割の戦略的プランニング』白桃書房。

【成績評価の方法と基準】

・期末試験か期末レポート（50%）、平常点（50%：リアクションペーパーや小レポート等含む）

・出席は取りませんが適宜課題を出すことがあります。

・レポートも課題は任意ですが、内容が不十分であれば加点はしません。コピペ、内容のないもの、不十分と思われるもの、読めないものなどは減点もあります。

・参加しないで出されたリアクションペーパーは不正とみなします。

・参加する際の注意事項（その他参照）が守られない場合、私の判断で大幅な減点や単位不認定があります。

・詳細は授業で指示します。

Grading will be decided based on the mid-term or term-end examination or the report (50%) and in-class attitudes and regular assignments (50%).

【学生の意見等からの気づき】

出来るだけ男女バランスよくゲストをお呼びしたいと思います。

【その他の重要事項】

①各回の内容は前年度のもので、ゲストは毎年変更しています。

②不適切な参加態度であると私がみなした場合、退出を命じることがあります。程度によっては、減点や単位不認定もあります。

③初回講義で具体的な注意など指示し、以降は無条件で②のような対応をします。なお、携帯電話の電源を切って鞆にしまう、写真や動画をとったりUPしたりしない、関係のないおしゃべりをしない、帽子やサングラスをしない等は基本です。

関連科目：キャリア・マネジメントⅠ

【Outline (in English)】

The purpose of this class is to learn advanced career theories and to think about your career development through interactions with guest-speakers who have diverse backgrounds: career, jobs, positions, occupations, and industries. They will talk about not only their careers but the lives overall, and you will be able to learn a lot from them.

Learning objectives

Students who complete the course will be expected to:

- (1) be able to communicate and exchange views with working people (guests) in an adequate manner,
- (2) begin preparation for job-hunting (including visiting OBs & OGs and internships) initiatively as the first step for lifelong career development/management.

Learning activities outside of classroom

Assignments (that include reaction papers, readings, small reports, and others) will be given at the instructor's discretion.

Two hours for preparation and same hours for review may be required for each class.

Grading criteria/policy

Grading will be decided based on the mid-term or term-end examination (50%) and in-class attitudes and regular assignments (50%).

MAN300FB

経営組織論 I

長岡 健

経営学科専門科目 300 番台経営学科専門科目 3～4 年次 / 2 単位 [春学期授業/Spring]

その他属性：〈優〉〈S〉〈ア〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日常生活の中で、私たちは様々な「組織」に関わっています。しかし、日常的経験があるが故にかえって深く考えることをせず、その結果として、本質的な理解が妨げられることも多いのではないのでしょうか。

この授業では、経営組織論の概念をもとに個人、集団、組織全体についての考察を進め、現代社会における「組織」の諸側面を深く理解すると同時に、組織における個人・集団の振る舞いや、経営組織の活動の背後にある意味を洞察する力を磨いていくことをめざします。

【到達目標】

- (1) 多様な組織観・人間観をもとに、現代社会における組織の諸側面について多面的かつ批判的に考察できる。
- (2) 経営組織論の視点から、組織における個人・集団の振る舞いや、現代社会における組織の活動の意味を説明することができる。
- (3) 組織における個人・集団の活動や、現代社会における組織の活動に関する本質的な「問い」を主体的に見いだすことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP4」に関連が特に強い

【授業の進め方と方法】

春学期の授業（経営組織論 I）では、「組織と個人の創造的関係」という視点から、関連する概念や理論をもとに、振る舞いの背後にある意味を読み解いていきます。具体的には、①個人の振る舞い、②キャリア開発、③集団の振る舞い、④組織と個人の関係、という4つのテーマに関する様々なトピックを取り上げ、多面的かつ批判的な考察を進めます。

授業の進め方については、「参加者が主体的に考える場」の実現をめざして運営します。テーマ毎に、2週を1モジュールとした授業構成とします。各モジュールでは、テーマに関する講義を行います。受講者が主体的に考え、発言する機会（twitterを使用）をできる限り設けていく予定です。さらに、ゲスト講義では、それぞれのテーマに関連した事例や検討課題を取り上げ、講義の中で学んだ理論／概念との関係を意識しながら、現実社会における「組織」の諸側面を読み解いていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業のねらいと進め方についての説明と導入講義
第2回	個人の振る舞い①	仕事の中での「学習と成長」に関する基礎概念
第3回	個人の振る舞い②	組織における「モチベーション」に関する基礎概念
第4回	事例研究①	「組織と個人の創造的関係」の事例に関するゲスト講義
第5回	キャリア開発①	組織における「キャリア・デザイン」の基礎概念
第6回	キャリア開発②	組織における「専門職」の意味／意義／位置づけ
第7回	事例研究②	「組織と個人の創造的関係」の事例に関するゲスト講義

第8回	集団の振る舞い①	経営学における「グループ」の意味／意義／位置づけ
第9回	集団の振る舞い②	組織における「創造的コラボレーション」の可能性と課題
第10回	事例研究③	「組織と個人の創造的関係」の事例に関するゲスト講義
第11回	組織と個人の関係①	組織における「対話的コミュニケーション」の可能性と課題
第12回	組織と個人の関係②	組織における「リーダーシップ」の基礎概念
第13回	事例研究④	「組織と個人の創造的関係」の事例に関するゲスト講義
第14回	ラップアップ	春学期の授業で取り上げた諸概念の振り返りと総括講義

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- (1) 各回の「講義項目」と「学習内容」を確認し、参考書(1)『経営組織』の該当箇所を読み、疑問点などを整理した上で、授業に臨んでください。
- (2) テキスト・参考書以外に、各テーマに関連する文献を適宜紹介していきますので、自分の興味・関心に沿ったものを選び、読み進めてください。
- (3) 各テーマ（モジュール）ごとに振り返りレポートを作成します（合計4回）。この振り返りレポートは成績評価の対象となります（成績評価中40％）。
- (4) 本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

各講義に関連した資料を配布します。資料は「学習支援システム」上に PDF ファイルでアップします。各自で事前にダウンロードした上で、授業に臨んでください。

【参考書】

以下に挙げたものは、春学期・秋学期に共通した参考書です。この3冊以外にも、各回の講義テーマに関連する文献を紹介していきます。

- (1) 金井壽宏『経営組織』（日経文庫）日本経済新聞社
- (2) ロビンス, S. P.『組織行動のマネジメント』ダイヤモンド社
- (3) グロービス経営大学院『グロービス MBA 組織と人材マネジメント』ダイヤモンド社

【成績評価の方法と基準】

- (1) 最終レポート（1回）：40％
- (2) 振り返りレポート（4回）：40％
- (3) ゲスト講義へのコメント（4回）：20％

【学生の意見等からの気づき】

今年度はできる限り具体的事例を取り上げて検討していきます。

【学生が準備すべき機器他】

- (1) zoom を使ったオンライン授業（リアルタイム配信型）を受講するための機器と環境は各自で準備してください（詳細については事前資料として配布する「受講の準備と注意点」を参照してください）。
- (2) 受講者が主体的に考え、発言する意見交換の場として、twitter を活用する予定です。受講者は twitter のアカウントを設定し、授業中にアクセスするための機器を各自で用意してください。
- (3) 上記【テキスト】で説明した通り、授業中に使用する資料を、事前に「授業支援システム」からダウンロードすることも必要です。

【その他の重要事項】

- (1) オンライン受講の準備については、事前資料として配布する「受講の準備と注意点」を参照してください。
- (2) 『経営学総論 I/II』もしくは『組織論入門』を事前に履修していることが望ましい。

【担当教員のウェブサイト】

- (1) プロフィール
<http://www.tnlab.net/profile.html>
- (2) ゼミ活動
<http://www.tnlab.net/seminar/>
- (3) フェイスブック
<https://www.facebook.com/takeru.nagaoka.9>
- (4) ツイッター
<https://twitter.com/TakeruNagaoka>

【Outline (in English)】

[Course Outline]

In our everyday life, we have consciously or unconsciously many contact points with “organisations” in various ways. However, the casual and frequent contact would sometimes lead us to getting indifferent to “organisations”, and possibly prevent our deep understanding of the nature of “organisations”.

In this course, by using the conceptual tools of Management Organisation Theory, we carry out both theoretical and practical analyses into the three facets of business organisations; (1) individual behaviours, focusing on learning, motivation, leadership, and so on; (2) functions of small groups, focusing on communications, creative collaborations, and so on; (3) structures and cultures of whole organizations, focusing on organisational change, innovation, diversity management, and so on.

[Learning Objectives]

The objectives of this course are :

- (1) to deepen the understanding of various aspects of business organisations in the context of the modern society in Japan, and
- (2) to sharpen the insight into both individual and group behaviours in Japanese business organisations, and the contexts in which the organisational behaviours are situated.

[Learning Activities outside of Classroom]

The learners in this course are expected to have read the relevant chapters from the texts, as well as to complete the required assignments, which are the term-end academic essay, 4 short reports about guest lectures, and 4 reflection papers about the lectures.

[Grading Criteria/Policies]

Grading is decided based on the term-end academic essay (40%), 4 short reports about guest lectures (20%), and 4 reflection papers about the lectures (40%).

MAN300FB

経営組織論Ⅱ

長岡 健

経営学科専門科目 300 番台経営学科専門科目 3～4 年次 / 2 単位 [秋学期授業/Fall]

その他属性：〈優〉〈S〉〈A〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日常生活の中で、私たちは様々な「組織」に関わっています。しかし、日常的経験があるが故にかえって深く考えることをせず、その結果として、本質的な理解が妨げられることも多いのではないのでしょうか。

この授業では、経営組織論の概念をもとに個人、集団、組織全体についての考察を進め、現代社会における「組織」の諸側面を深く理解すると同時に、組織における個人・集団の振る舞いや、経営組織の活動の背後にある意味を洞察する力を磨いていくことをめざします。

【到達目標】

- (1) 多様な組織観・人間観をもとに、現代社会における組織の諸側面について多面的かつ批判的に考察できる。
- (2) 経営組織論の視点から、組織における個人・集団の振る舞いや、現代社会における組織の活動の意味を説明することができる。
- (3) 組織における個人・集団の活動や、現代社会における組織の活動に関する本質的な「問い」を主体的に見いだすことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP4」に関連が特に強い

【授業の進め方と方法】

秋学期の授業（経営組織論Ⅱ）では、「組織変革とマネジメント」という視点から、関連する概念や理論をもとに、現代社会における経営組織の活動の背後にある意味を読み解いていきます。具体的には、①組織構造、②組織文化、③社会と組織、④変化と適応、という4つのテーマに関する様々なトピックを取り上げ、多面的かつ批判的な考察を進めます。

授業の進め方については、「参加者が主体的に考える場」の実現をめざして運営します。テーマ毎に、2週を1モジュールとした授業構成とします。各モジュールでは、テーマに関する講義を行います。受講者が主体的に考え、発言する機会（twitterを使用）をできる限り設けていく予定です。さらに、ゲスト講義では、それぞれのテーマに関連した事例や検討課題を取り上げ、講義の中で学んだ理論／概念との関係を意識しながら、現実社会における「組織」の諸側面を読み解いていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業のねらいと進め方についての説明と導入講義
第2回	組織構造①	組織設計の視点とピラミッド型組織の基本原則
第3回	組織構造②	組織形態のフラット化・ネットワーク化の進展
第4回	事例研究①	「組織変革とマネジメント」の事例に関するゲスト講義
第5回	組織文化①	企業文化論から見た日本的経営の特徴
第6回	組織文化②	日本的経営から働き方改革への移行
第7回	事例研究②	「組織変革とマネジメント」の事例に関するゲスト講義

第8回	社会と組織①	働き方の変化（第四次産業革命とSDGs）
第9回	社会と組織②	ダイバーシティ・マネジメントの可能性と課題
第10回	事例研究③	「組織変革とマネジメント」の事例に関するゲスト講義
第11回	事例研究④	「組織変革とマネジメント」の事例に関するゲスト講義
第12回	変化と適応①	組織変革を阻む振る舞いとマインドセット
第13回	変化と適応②	学習棄却（アンラーニング）の意味と方法
第14回	ラップアップ	秋学期の授業で取り上げた諸概念の振り返りと総括講義

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- (1) 各回の「講義項目」と「学習内容」を確認し、参考書(1)『経営組織』の該当箇所を読み、疑問点などを整理した上で、授業に臨んでください。
- (2) テキスト・参考書以外に、各テーマに関連する文献を適宜紹介していきますので、自分の興味・関心に沿ったものを選び、読み進めてください。
- (3) 各テーマ（モジュール）ごとに振り返りレポートを作成します（合計4回）。この振り返りレポートは成績評価の対象となります（成績評価中40％）。
- (4) 本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

各講義に関連した資料を配布します。資料は「学習支援システム」上にPDFファイルでアップします。各自で事前にダウンロードした上で、授業に臨んでください。

【参考書】

以下に挙げたものは、春学期・秋学期に共通した参考書です。この3冊以外にも、各回の講義テーマに関連する文献を紹介していきます。

- (1) 金井壽宏『経営組織』（日経文庫）日本経済新聞社
- (2) ロビンス, S. P.『組織行動のマネジメント』ダイヤモンド社
- (3) グロービス経営大学院『グロービス MBA 組織と人材マネジメント』ダイヤモンド社

【成績評価の方法と基準】

- (1) 最終レポート（1回）：40％
- (2) 振り返りレポート（4回）：40％
- (3) ゲスト講義へのコメント（4回）：20％

【学生の意見等からの気づき】

今年度はできる限り具体的事例を取り上げて検討していきます。

【学生が準備すべき機器他】

- (1) zoomを使ったオンライン授業（リアルタイム配信型）を受講するための機器と環境は各自で準備してください（詳細については事前資料として配布する「受講の準備と注意点」を参照してください）。
- (2) 受講者が主体的に考え、発言する意見交換の場として、twitterを活用する予定です。受講者はtwitterのアカウントを設定し、授業中にアクセスするための機器を各自で用意してください。
- (3) 上記【テキスト】で説明した通り、授業中に使用する資料を、事前に「学習支援システム」からダウンロードすることも必要です。

【その他の重要事項】

- (1) オンライン受講の準備については、事前資料として配布する「受講の準備と注意点」を参照してください。
- (2) 『経営学総論 I/II』もしくは『組織論入門』を事前に履修していることが望ましい。

【担当教員のウェブサイト】

- (1) プロフィール
<http://www.tnlab.net/profile.html>
- (2) ゼミ活動
<http://www.tnlab.net/seminar/>
- (3) フェイスブック
<https://www.facebook.com/takeru.nagaoka.9>
- (4) ツイッター
<https://twitter.com/TakeruNagaoka>

【Outline (in English)】

[Course Outline]

In our everyday life, we have consciously or unconsciously many contact points with “organisations” in various ways. However, the casual and frequent contact would sometimes lead us to getting indifferent to “organisations”, and possibly prevent our deep understanding of the nature of “organisations”.

In this course, by using the conceptual tools of Management Organisation Theory, we carry out both theoretical and practical analyses into the three facets of business organisations; (1) individual behaviours, focusing on learning, motivation, leadership, and so on; (2) functions of small groups, focusing on communications, creative collaborations, and so on; (3) structures and cultures of whole organizations, focusing on organisational change, innovation, diversity management, and so on.

[Learning Objectives]

The objectives of this course are :

- (1) to deepen the understanding of various aspects of business organisations in the context of the modern society in Japan, and
- (2) to sharpen the insight into both individual and group behaviours in Japanese business organisations, and the contexts in which the organisational behaviours are situated.

[Learning Activities outside of Classroom]

The learners in this course are expected to have read the relevant chapters from the texts, as well as to complete the required assignments, which are the term-end academic essay, 4 short reports about guest lectures, and 4 reflection papers about the lectures.

[Grading Criteria/Policies]

Grading will be decided based on the term-end academic essay (40%), 4 short reports about guest lectures (20%), and 4 reflection papers about the lectures (40%).

MAN300FB

人的資源管理 I

佐野 嘉秀

経営学科専門科目 300 番台経営学科専門科目 3～4 年次 / 2 単位 [春学期授業/Spring]

その他属性：〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、「人的資源管理（HRM = Human Resource Management）」の基礎を体系的に学習します。人的資源管理の考え方では、企業経営の視点から、働く人々を自社の貴重な「人的資源（Human Resource）」とみなします。そして、そうした人的資源の効果的な活用をはかります。「管理（Management）」の対象は人です。一筋縄にはいきません。それぞれが自立した考え方をもちながら、家族や地域社会など、企業以外の社会とかかわりをもって生活しています。向き不向きもあります。そうした個人に、企業目標に向けて活躍してもらわなくてはなりません。この授業では、人的資源管理をめぐる基本的な考え方を学ぶとともに、日本の人的資源管理の現状と課題について、具体的なトピックスにも触れながら、体系的に学び理解します。

【到達目標】

1) 人的資源管理の基本的な考え方を理解し、説明できるようになる。
2) 人的資源管理の領域として、①採用、②人材育成、③雇用区分、④配置転換、⑤昇進・昇格、⑥人事評価、⑦賃金管理などの領域について学ぶ。このうち、人的資源管理 I では①～③、人的資源管理 II では④～⑦を中心に学習することで、各領域に関する基本的な考え方を理解し、説明できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP4」に関連が特に強く、「DP5」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

オンデマンド形式の授業です。「人的資源管理 I」「人的資源管理 II」とともに学習支援システム上の教材（スライド資料およびスライド資料を音声解説した映像資料）に基づく学習を基本とします。これをもとに各自学習を進めてください。また学習する領域の区切りごとに、小テストを受験して理解度を確認します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン / online

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション、人的資源管理を学ぶ視点	「人的資源管理 I / II」の学習範囲、人的資源管理（HRM）の目的と担い手、等
第 2 回	人的資源管理の考え方	経営学の中での HRM の位置づけ、人的資源管理の定義、等
第 3 回	人的資源管理の考え方	HRM の担い手、人事部とライン管理者の権限配分、人事部不要論の検討、等
第 4 回	採用管理①：採用計画と要員計画	採用管理のプロセス、採用管理と要員管理、要員管理のアプローチ、等
第 5 回	採用管理②：中途採用と新卒採用	中途採用の目的、新卒採用の合理性、企業特殊的技能と採用、等
第 6 回	採用管理③：人材募集の方法	多様な採用ルート、RJP（リアリスティック・ジョブ・プレビュー）、等
第 7 回	人材育成①：HRM と HRD	HRM と HRD（人材育成）、技能の性格と人材育成、人材育成の方法、等
第 8 回	人材育成②：分業と教育訓練	分業と教育訓練、多能工と単能工、幅広い OJT と知的熟練、等
第 9 回	人材育成③：OJT と of f-JT	OJT と of f-JT、教育訓練の測定、OJT が機能する条件、等

第 10 回	人材育成④：教育訓練投資	「投資」としての教育訓練、教育訓練の費用、人材の定着と教育訓練、等
第 11 回	雇用区分①：正社員と非正社員	雇用区分を分ける理由、正社員と非正社員の相違、非正社員の基幹化、等
第 12 回	雇用区分②：多様な就業形態の活用	柔軟な企業モデル、派遣社員・請負社員の活用、等
第 13 回	雇用区分③：正社員の多様化	正社員の多様化、限定正社員、雇用区分の合理性、等
第 14 回	春学期のまとめ	春学期の授業で学んだことの整理

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

①講義で学習したテーマや論点に関して、日頃から、参考書や新聞記事等を読んで理解を深める。②インターンシップやアルバイト、部活動・サークル活動など、人的資源管理に関わる活動を行うなかで、講義で学習した議論や理論をもとに人的資源管理の実態や課題について考え、授業での学習内容について理解を深める。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

とくに教科書は指定しません。学習支援システム上の教材をもとに学習を進めてください。

【参考書】

各自が自習するための参考書として、上林千恵子編著『よくわかる産業社会学』ミネルヴァ書房に収められた「Ⅲ企業内キャリアと人事管理」の章は、担当教員による人的資源管理に関する解説であり、本授業の内容に対応しています。また今野浩一郎・佐藤博樹著『人事管理入門（第3版）』日本経済新聞出版は、人的資源管理に関する発展的な理解に役立ちます。

【成績評価の方法と基準】

平常点（小テストの受験による）：30%

期末試験：70%

春学期と秋学期ともに、小テストの受験による平常点と期末試験の得点をもとに成績をつけます。授業内で学習した人的資源管理に関わる概念や理論、考え方や議論について、十分に理解できているかを問う試験問題とします。

定期試験期間中に教室での期末試験を実施します。形式はマークシート方式。資料は持ち込み不可です。

【学生の意見等からの気づき】

今年度も、専門的な内容について「理解しやすい」授業になるよう心がけるつもりです。オンデマンドの教材による授業であるため、いっそう丁寧な説明をするようにします。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを用いて教材を共有します。映像資料も含まれるので、通信環境の確保をお願いします。

【その他の重要事項】

春学期に開講する人的資源管理 I と秋学期に開講する人的資源管理 II の授業をすべて受講すると、人的資源管理の全体像が体系的にあきらかになってきます。ですから、春学期と秋学期、続けての受講を勧めます。とはいえ、春学期と秋学期でそれぞれ扱うテーマ（人的資源管理の分野）が異なるため、関心にしたがって春学期のみ秋学期のみの受講でも、授業内容についての理解は可能です。本授業と関連がある科目としては、組織論入門が挙げられます。

【Outline (in English)】

【Course outline】

Our objective is to Learn and understand basic human resource management theories and practices. We focus on HRM practices in Japan from comparative perspectives. HRM practices can be understood as a system.

We are to focus on each area of HRM system respectively. Theories of HRM, wage system, appraisal, recruiting and selection, training and development, internal promotion and welfare are main areas of HRM.

【Learning Objectives】

(1) To understand and be able to explain the basic concept of human resource management.

(2) Students will learn about the areas of human resource management, including (1) recruitment, (2) human resource development, (3) employment classification, (4) reassignment, (5) internal promotion, (6) personnel evaluation, and (7) wage management. By focusing on (1) to (3) in Human Resource Management I and (4) to (7) in Human Resource Management II, students will be able to understand and explain the basic concepts of each area.

【Learning activities outside of classroom】

1) Deepen your understanding of the themes and issues studied in the lecture by reading reference books and newspaper articles on a daily basis.

2) Deepen your understanding of the content of the class by thinking about the actual situation and issues of human resource management based on the theories learned in the lecture while engaging in activities related to human resource management, such as internships, part-time jobs, club activities and circle activities.

The standard preparation study and review time for the lecture is 2 hours each.

【Grading Criteria/Policy】

Ordinary marks (based on taking short tests): 30%.

Examination: 70%.

In both the spring and autumn semesters, students will be graded on the basis of their performance on the ordinary marks (based on taking short tests) and the examination. The examination questions will be designed to test whether students have a sufficient understanding of the concepts, theories, ideas and arguments related to human resource management studied in the lecture.

The examination will be held in classrooms during the regular examination period. The format is mark-sheet based. Students are not allowed to bring in any materials.

MAN300FB

人的資源管理Ⅱ

佐野 嘉秀

経営学科専門科目 300 番台経営学科専門科目 3～4 年次 / 2 単位 [秋学期授業/Fall]

その他属性：〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、「人的資源管理（HRM = Human Resource Management）」の基礎を体系的に学習します。人的資源管理の考え方では、企業経営の視点から、働く人々を自社の貴重な「人的資源（Human Resource）」とみなします。そして、そうした人的資源の効果的な活用をはかります。「管理（Management）」の対象は人です。一筋縄にはいきません。それぞれが自立した考え方をもちながら、家族や地域社会など、企業以外の社会とかかわりをもって生活しています。向き不向きもあります。そうした個人々に、企業目標に向けて活躍してもらわなくてはなりません。この授業では、人的資源管理をめぐる基本的な考え方を学ぶとともに、日本の人的資源管理の現状と課題について、具体的なトピックスにも触れながら、体系的に学び理解します。

【到達目標】

1) 人的資源管理の基本的な考え方を理解し、説明できるようになる。
2) 人的資源管理の領域として、①採用、②人材育成、③雇用区分、④配置転換、⑤昇進・昇格、⑥人事評価、⑦賃金管理などの領域について学ぶ。このうち、人的資源管理Ⅰでは①～③、人的資源管理Ⅱでは④～⑦を中心に学習することで、各領域に関する基本的な考え方を理解し、説明できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP4」に関連が特に強く、「DP5」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

オンデマンド形式の授業です。「人的資源管理Ⅰ」「人的資源管理Ⅱ」とともに学習支援システム上の教材（スライド資料およびスライド資料を音声解説した映像資料）に基づく学習を基本とします。これをもとに各自学習を進めてください。また学習する領域の区切りごとに、小テストを受験して理解度を確認します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	配置転換①：配置転換の機能	配置転換の種類、配置転換の機能、日本企業における配置転換、等
第 2 回	配置転換②：配置転換と人材育成	幅広い仕事経験と技能、配置転換の人材育成機能、配置転換の範囲、等
第 3 回	配置転換③：個人選択型の配置転換	個人選択型の配置転換、自己申告制度、社内公募制度、個人選択型への転換の背景と課題、等
第 4 回	社員格付け制度①：格付け基準の多様性	社員格付け制度と賃金制度、格付け基準の条件と多様性、2重のランキング・システム、等
第 5 回	社員格付け制度②：社員格付け制度の変化	年功制から職能資格制度へ、「能力主義」から「成果主義」へ、社員格付け制度の変化、等
第 6 回	昇進管理①：昇進の機能と実態	昇進の機能、「トーナメント移動」としての昇進、キャリアツリー、等
第 7 回	昇進管理②：「遅い」選抜	選抜のタイミングと機能、「遅い」選抜、日本型ファスト・トラック、等

第 8 回	昇進管理③：昇進の変化と専門職制度	組織のフラット化と昇進機会、「部下のいない管理職」、専門職制度の導入と変化、等
第 9 回	人事評価①：人事評価の設計と運用	人事評価の機能、人事評価の設計と運用、絶対評価と相対評価、等
第 10 回	人事評価②：評価基準の選択	多様な評価要素、「成果主義」と人事評価、目標管理制度、等
第 11 回	賃金管理①：賃金管理の機能	賃金管理の機能、動機づけ要因としての賃金、労使関係の安定と賃金管理、等
第 12 回	賃金管理②：賃金の総額管理と個別管理	賃金の総額管理と個別管理、能力給と職務給、「年功的」賃金プロファイルの普遍性、等
第 13 回	福利厚生	法定福利と法定外福利、福利厚生の機能と変化、等
第 14 回	秋学期のまとめ	秋学期の授業で学んだことの整理

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

①講義で学習したテーマや論点に関して、日頃から、参考書や新聞記事等を読んで理解を深める。②インターンシップやアルバイト、部活動・サークル活動など、人的資源管理に関わる活動を行うなかで、講義で学習した議論や理論をもとに人的資源管理の実態や課題について考え、授業での学習内容について理解を深める。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

とくに教科書は指定しません。学習支援システム上の教材をもとに学習を進めてください。

【参考書】

各自が自習するための参考書として、上林千恵子編著『よくわかる産業社会学』ミネルヴァ書房に収められた「Ⅲ企業内キャリアと人事管理」の章は、担当教員による人的資源管理に関する解説であり、本授業の内容に対応しています。また今野浩一郎・佐藤博樹著『人事管理入門（第3版）』日本経済新聞出版は、人的資源管理に関する発展的な理解に役立ちます。

【成績評価の方法と基準】

平常点（小テストの受験による）：30%

期末試験：70%

春学期と秋学期ともに、小テストの受験による平常点と期末試験の得点をもとに成績をつけます。授業内で学習した人的資源管理に関わる概念や理論、考え方や議論について、十分に理解できているかを問う試験問題とします。

定期試験期間中に教室での期末試験を実施します。形式はマークシート方式。資料は持ち込み不可です。

【学生の意見等からの気づき】

今年度も、専門的な内容について「理解しやすい」授業になるよう心がけるつもりです。オンデマンドの教材による授業であるため、いっそう丁寧な説明をするようにします。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを用いて教材を共有します。映像資料も含まれるので、通信環境の確保をお願いします。

【その他の重要事項】

春学期に開講する人的資源管理Ⅰと秋学期に開講する人的資源管理Ⅱの授業をすべて受講すると、人的資源管理の全体像が体系的にあきらかになってきます。ですから、春学期と秋学期、続けての受講を勧めます。とはいえ、春学期と秋学期でそれぞれ扱うテーマ（人的資源管理の分野）が異なるため、関心にしたがって春学期のみ秋学期のみの受講でも、授業内容についての理解は可能です。本授業と関連がある科目としては、組織論入門が挙げられます。

【Outline (in English)】

【Course outline】

Our objective is to Learn and understand basic human resource management theories and practices. We focus on HRM practices in Japan from comparative perspectives. HRM practices can be understood as a system.

We are to focus on each area of HRM system respectively. Theories of HRM, wage system, appraisal, recruiting and selection, training and development, internal promotion and welfare are main areas of HRM.

【Learning Objectives】

(1) To understand and be able to explain the basic concept of human resource management.

(2) Students will learn about the areas of human resource management, including (1) recruitment, (2) human resource development, (3) employment classification, (4) reassignment, (5) internal promotion, (6) personnel evaluation, and (7) wage management. By focusing on (1) to (3) in Human Resource Management I and (4) to (7) in Human Resource Management II, students will be able to understand and explain the basic concepts of each area.

【Learning activities outside of classroom】

1) Deepen your understanding of the themes and issues studied in the lecture by reading reference books and newspaper articles on a daily basis.

2) Deepen your understanding of the content of the class by thinking about the actual situation and issues of human resource management based on the theories learned in the lecture while engaging in activities related to human resource management, such as internships, part-time jobs, club activities and circle activities.

The standard preparation study and review time for the lecture is 2 hours each.

【Grading Criteria/Policy】

Ordinary marks (based on taking short tests): 30%.

Examination: 70%.

In both the spring and autumn semesters, students will be graded on the basis of their performance on the ordinary marks (based on taking short tests) and the examination. The examination questions will be designed to test whether students have a sufficient understanding of the concepts, theories, ideas and arguments related to human resource management studied in the lecture.

The examination will be held in classrooms during the regular examination period. The format is mark-sheet based. Students are not allowed to bring in any materials.

MAN300FB

税務会計論 I

大下 勇二

経営学科専門科目 300 番台経営学科専門科目 3～4 年次 / 2 単位 [春学期授業/Spring]

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

会社の中心的な税金である法人税の課税所得計算の基礎とその基本的な考え方を学習します。例えば、法人税の性質、会計利益と課税所得、売買損益、受取配当、売上原価、有価証券譲渡原価、固定資産の減価償却、繰延資産の償却等、課税所得計算の基礎を取り上げます。これにより、税務会計の基礎を修得し、財務会計との関係と考え方の違いを理解した上で、今日的な企業課税の諸問題を的確に議論できる基礎的能力の涵養を目的とします。

【到達目標】

受講生は、経営学部の学生として必要と思われる法人税の基礎、課税所得計算の基礎、益金の計算、原価分配を中心とした損金の計算など、法人税法における課税所得計算の基本的なフレームワークを理解し、財務会計と比較しながら税務会計特有の考え方を理解することができる。これにより、法人課税上の諸問題を理論的に考え整理できる基礎的能力を修得することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-2」、「DP4」に関連が特に強く、「DP1-1」、「DP1-3」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

本授業は対面授業を基本としています（初回のみ Zoom によるオンライン授業です）。学習支援システム上には、毎回、講義スライドと小テスト（第 1 回～第 13 回）をアップロードしますので、授業を受講した後に小テストを受ける形で学習していきます。また、必要に応じて、学習支援システムを通じて課題レポートを課す予定にしております。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	法人税の基礎 (1)	法人税の基礎を学習し、法人課税の基本的考え方を理解する。
第 2 回	法人税の基礎 (2)	法人税の基礎を学習し、法人課税の特徴を理解する。
第 3 回	課税所得計算の基礎 (1)	課税所得計算の基礎を学習し、財務会計の利益計算との関係を理解する。
第 4 回	課税所得計算の基礎 (2)	課税所得計算の基礎を学習し、課税取得計算の特徴を理解する。
第 5 回	売買損益等の計算 (1)	売上収益の認識等を中心に、売買損益計算の基礎を学習する。
第 6 回	売買損益等の計算 (2)	売上収益の原則的な認識基準に対する例外的な処理を学習する。
第 7 回	その他の収益の計算 (1)	受贈益、受取配当等（前半）の営業外収益の計算の基礎を学習する。
第 8 回	その他の収益の計算 (2)	受取配当等（後半）の営業外収益の計算の基礎を学習する。
第 9 回	売上原価の計算 (1)	売上原価の計算の仕組みを学習する。
第 10 回	売上原価の計算 (2)	棚卸資産の期末評価の考え方を学習する。
第 11 回	有価証券の譲渡原価の計算	有価証券の譲渡原価の仕組みを学習し、有価証券の期末評価の考え方を学習する。
第 12 回	固定資産の減価償却 (1)	減価償却計算の仕組み、償却の特例および取得原価の算定の考え方を学習する。
第 13 回	固定資産の減価償却 (2) および繰延資産の償却	固定資産の減価償却 (2) では耐用年数、残存価額および償却方法の考え方を理解し、償却限度額の計算を学習します。さらに繰延資産の償却では、税法上の繰延資産を取り上げ、その考え方を学習します。
第 14 回	総合問題演習	総合問題演習を実施する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義スライドで予習・復習する形で学習を進めて下さい。レポート、小テスト、最終テストの実施を予定しております。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

・講義スライド(学習支援システムの「教材」にアップロード)。

【参考書】

・大下勇二著『税務会計 I・II』(2019 年) 法政大学通信教育テキスト(図書館蔵)
・渡辺・山本著『法人税の考え方・読み方』税務経理協会

・成松洋一著『法人税法 理論と計算』税務経理協会

【成績評価の方法と基準】

今期の成績評価の方法と基準は以下のとおりです。

- 1) 毎回、学習支援システム上の「テスト」で、小テスト（第 1 回～第 13 回）を受けてもらい、これを成績に反映します。
 - 2) 課題レポートを提出してもらい、これを成績に反映します（1 回程度）。
 - 3) 最終テストを受けてもらい、これを成績に反映します。
- 成績評価の配分は、小テスト（全 13 回）45%、課題レポート（1 回程度）5%、最終テスト 50%です。

【学生の意見等からの気づき】

小テストの結果を定期的に観察して、授業内容の理解をその都度確認する取り組みをしたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システム、パワーポイント、さらには初回のオンライン授業では Zoom を用いますので、これを利用できる環境を準備して下さい。学習支援システムの「お知らせ」「教材」「課題」「テスト」などを定期的に見るようにしてください。

【その他の重要事項】

本科目は会計関連の専門科目と密接に関連しています。1 年次の簿記入門 I/II、2 年次の会計学入門 I/II を履修しておくことが望ましく、また、平行して、財務会計論 I/II、国際会計論 I/II を履修し、会計学の基礎を理解しておくこと、本講義の理解がより一層促進されます。法人税等の税金関連の新聞記事をほぼ理解できるように頑張りましょう。

【Outline (in English)】

Course outline

This course deals with corporate income tax and the basic framework of tax accounting in Japan. You will learn the basics of taxable income of corporate income tax which is the core tax of the company (for example, nature of corporate income tax, accounting profit and taxable income, sales of products, securities and fixed assets, depreciation of fixed assets, amortization of deferred assets, revenues of dividends etc).

Learning Objectives

By the end of the course, students should be able to understand the basic concepts and principles of corporate income tax and basic structure of taxable income compared to accounting profit. This course also enhances the development of students' skill in tax accounting practice.

Learning activities outside of classroom

Students will be expected to have completed the quiz after each meeting (on-line test) and mid-term report. Before/after each meeting, students will be expected to spend at least four hours to understand the course content.

Grading Criteria/Policy

Your overall grade will be decided based on the following:

Quiz after each meeting (on-line test) (45%), mid-term report (5%), term-end examination (50%).

MAN300FB

税務会計論Ⅱ

大下 勇二

経営学科専門科目 300 番台経営学科専門科目 3～4 年次 / 2 単位 [秋学期授業/Fall]

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、「税務会計Ⅰ」で会社の中心的な税金である法人税の課税所得計算の基礎を学んだ上で、今日的な企業課税の諸問題（新しい事業体の問題、交際費・寄附金の課税問題、役員給与の課税問題、不良債権の課税問題、減価償却の諸問題、企業組織再編とグループ課税の問題、国際課税の問題など）を取り上げ、法人税課税の基礎的な考え方から理論的にこれら諸問題をいかに整理し考察するのかを学習します。

【到達目標】

受講生は、法人税課税の基礎的な考え方に基づいて、新しい事業体の課税問題、交際費・寄附金と企業の社会的責任、給与の新しい支給形態、不良債権の償却、組織再編と企業集団化、経済活動の国際化など、今日の法人課税上の重要な諸問題を個別具体的に考え、これを理論的に考察できる能力を修得することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-2」、「DP4」に関連が特に強く、「DP1-1」、「DP1-3」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

授業は、対面授業を基本としています（初回、第 8 回および第 11 回は Zoom によるオンライン授業です）。学習支援システム上には、講義スライドと小テスト（全 13 回）をアップロードしますので、授業を受講した後に小テスト受ける形で学習していきます。また、学習支援システムを通じて課題レポートを課す予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	事業形態の多様化と課税問題	ベイ・スルー課税、パス・スルー課税を取り上げ、新しい事業体の出現により、いかなる課税問題が生じているかを学習する。
第 2 回	企業の社会的責任と交際費課税	交際費課税の基本的考え方を学習し、損金算入制限を企業の社会的責任の観点から考える。
第 3 回	企業の社会的責任と寄附金課税	寄附金課税の基本的考え方を学習し、損金算入制限を企業の社会的責任の観点から考える。
第 4 回	給与の支給形態の多様化と課税問題 (1)	最近の役員給与の支給形態の変化と課税の問題を学習する。
第 5 回	給与の支給形態の多様化と課税問題 (2)	役員給与の損金算入制限の考え方を理解し、役員給与の課税の問題を学習する。
第 6 回	不良債権の償却の課税問題 (1)	不良債権の償却の問題につき、法人税法の貸倒損失の処理の考え方を学習する。
第 7 回	不良債権の償却の課税問題 (2)	不良債権の償却の問題につき、法人税法の貸倒引当金の処理の考え方を学習する。
第 8 回	固定資産の減価償却-その 2(1)	増加償却・陳腐化償却、評価減の考え方を学習する。
第 9 回	固定資産の減価償却-その 2(2)	修繕費と資本的支出、除却、特別償却の考え方を理解する。
第 10 回	企業活動の集団化と課税問題 (1)	合併・分割・株式交換・株式移転等の組織再編税制の考え方を学習する。
第 11 回	企業活動の集団化と課税問題 (2)	グループ法人税制（グループ法人単体課税制度、旧連結納税制度およびグループ通算制度）の特徴とその考え方を学習する。
第 12 回	企業活動の国際化と課税問題 (1)	国際課税の基礎理論を学習する。
第 13 回	企業活動の国際化と課税問題 (2)	国際課税の考え方を海外事業展開の例を用いて理解し、移転価格税制、過少資本税制、タックス・ヘイブン税制等の基礎を学習する。
第 14 回	総合問題演習	総合問題演習を実施する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義スライドで予習・復習する形で学習を進めて下さい。レポート、小テスト、最終テストの実施を予定しております。本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

・講義スライド（学習支援システムの「教材」にアップロード）

【参考書】

・大下勇二著『税務会計Ⅰ・Ⅱ』（2019 年）法政大学通信教育テキスト（図書館所蔵）
 ・成松洋一著『法人税法 理論と計算』（最新版）税務経理協会
 ・渡辺淑夫著『法人税法』（最新版）中央経済社
 ・大河原健・マーク・キャンベル・水野正夫著『税務コストの減らし方』中央経済社

【成績評価の方法と基準】

今期の成績評価の方法と基準は以下のとおりです。

- 1) 毎回、学習支援システム上の「テスト」で、小テスト（第 1 回～第 13 回）を受けてもらいますが、これを成績に反映します。
 - 2) 課題レポートを提出してもらい、これを成績に反映します（1 回程度）。
 - 3) 最終テストを受けてもらい、これを成績に反映します。
- 成績評価の配分は、小テスト（全 13 回）45%、課題レポート（1 回程度）5%、最終テスト（50%）です。

【学生の意見等からの気づき】

小テストの結果を定期的に観察して授業内容の理解をその都度確認する取り組みをしたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システム、パワーポイント、さらにはオンライン授業では Zoom を用いますので、これを利用できる環境を準備して下さい。学習支援システムの「お知らせ」「教材」「課題」「テスト」などを定期的に見るようにしてください。

【その他の重要事項】

本科目は会計関連の専門科目と密接に関連しています。春学期の「税務会計論Ⅰ」を履修しておくことが望ましく、税務会計の基礎を理解しておく、本講義の理解がより一層促進されます。会社の法人課税の今日的な問題をほぼ理解できるように頑張りましょう。

【Outline (in English)】

Course outline

This course deals with the problems of the current corporate income taxation in Japan. In this course, after learning the basics of taxable income of corporate income tax in "Tax Accounting I", we will take up various problems of current corporate income taxation (for example, new business entities, executive compensation, entertainment expense, donation, disposal of bad loans, corporate reorganization, group taxation and international taxation).

Learning Objectives

By the end of the course, students should be able to understand the relationship and differences between tax accounting and financial accounting.

Learning activities outside of classroom

Students will be expected to have completed the quiz after each meeting (on-line test) and mid-term report. Before/after each meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading Criteria/Policy

Your overall grade will be decided based on the following:

Quiz after each meeting (on-line test) (45%), mid-term report (5%), term-end examination (50%).

ECN300FB

組織経済学

奥西 好夫

経営学科専門科目 300 番台経営学科専門科目 3～4 年次 / 2 単位 [春学期授業/Spring]

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

・伝統的なミクロ経済学は、企業を市場取引の参加者として重視してきたが、企業組織内の意思決定や雇用関係などの非市場取引、企業グループや系列などの企業間関係についてはほとんど立ち入らなかった。しかし、1980 年代以降、組織や人事制度を経済学的手法を用いて分析する「組織の経済学」が徐々に形成されるのに伴い、こうした状況は大きく変化した。本授業はそうした「組織の経済学」の基本的内容を講義する。

・学生は、本講義を通じて組織内の人間行動や組織の意思決定、それらに影響する環境・制度要因の作用を理解し、さらに改善の方途を考案することを学ぶ。

【到達目標】

・学生は、組織経済学の基本的な方法論、分析ツールを説明できる。特に人間の行動原理、組織や取引の評価基準、組織デザイン、インセンティブ問題などの理解は必須である。

・経済合理性を主たる方法論とする伝統的経済学が組織のさまざまな問題を理解し解決する上でどこまで有用なのか、そしてどのような点で限界があるのかを説明できる。

・そうした理解を踏まえ、現実の組織の問題を分析し、何らかの改善策を具体的に考案できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-3」、「DP4」に関連が特に強く、「DP1-1」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

・授業内容の概要を記した教材（ハンドアウト）は、学習支援システム（Hoppii）にアップするので、各自ダウンロードすること。

・原則として全て対面授業で行う。万一、コロナ感染の状況等によってそれが困難な場合は、適宜 Zoom を用いて行う。アクセスに必要な ID、PW は Hoppii を通じて連絡する。最低限、事前に講義ハンドアウトや指示された資料等に目を通して参加すること。

・課題提出等も Hoppii を通じて指示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	講義概要、人間の行動原理 (1)	・組織経済学の内容、方法論 ・経済合理性に関するアンケート
第 2 回	人間の行動原理 (2)	・経済合理性
第 3 回	人間の行動原理 (3)	・経済非合理性
第 4 回	人間の行動原理 (4)	・不完全情報下の経済合理的行動
第 5 回	取引・組織の評価基準 (1)	・効率性 ・公正性に関するアンケート
第 6 回	取引・組織の評価基準 (2)	・さまざまな公正性概念
第 7 回	コースの定理 (1)	・効率性概念の応用
第 8 回	コースの定理 (2)	・市場と組織の選択 ・ルール化の損得
第 9 回	組織デザイン (1)	・組織構造
第 10 回	組織デザイン (2)	・コーポレート・ガバナンス
第 11 回	組織デザイン (3)	・職務設計 ・多様性管理
第 12 回	インセンティブ問題 (1)	・本人-代理人関係 ・インセンティブの強度 ・ナッジ
第 13 回	インセンティブ問題 (2)	・賃金制度への応用
第 14 回	講義内容の応用	・応用問題として、日本の賃金停滞の理由と課題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・学生は、授業前に Hoppii にアップした講義ハンドアウトや資料に目を通しておくこと。

・事前にアンケートや小課題の回答を求められることがあるので、それらを誠実にこなすこと。

・講義内容に関する質問は、なるべく当該授業中か、次回授業の冒頭に全員の前で行うこと。（その方が、受講生全員の理解向上につながるため。）

・本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

・単一のテキストは特に用いない。

・担当教員が作成する授業ハンドアウト等は Hoppii を通じて配付する。

・より進んだ学習を希望する学生は、下記の【参考書】を参照のこと。

【参考書】

・ポール・ミルグロム、ジョン・ロバーツ『組織の経済学』NTT 出版、1997 年。組織経済学の包括的かつ基本的な教科書。

・エドワード・P・ラジャー、マイケル・ギブス『人事と組織の経済学・実践編』日本経済新聞出版社、2017 年。人事制度や組織デザインを扱っている。

・ジョン・ロバーツ『現代企業の組織デザイン』NTT 出版、2005 年。上記、ミルグロム、ロバーツ著と重複するが、組織問題の経済学的エッセンスを扱っている。

・ロバート・H・フランク『日常の疑問を経済学で考える』日経ビジネス人文庫、2013 年。経済合理性というレンズで身の回りの事象を眺めるとどうなるかという思考訓練になる。

・リチャード・セイラー『行動経済学の逆襲』早川書房、2016 年。経済非合理性に立脚した経済学のパイオニアによる自伝的入門書。

・マイケル・サンデル『これからの「正義」の話をしよう』ハヤカワ・ノンフィクション文庫、2011 年。経済学者が重用する「効率性」（功利主義）以外のさまざまな正義観を知ることができる。

・ロナルド・H・コース『企業・市場・法』東洋経済新報社、1992 年。取引費用やコースの定理など著者の主要論文を全て所収したもの。

【成績評価の方法と基準】

・学期中に 2、3 回程度の課題提出を行い、それらの合計点でコース全体の評価結果とする。なお、最終課題は教室での定期試験（期末試験）として行う可能性がある（コロナの収束状況等による）。また、各回のウェイトは課題に要する時間、難易度等によって異なる場合がある。

・課題の内容は、講義内容の理解度と上記【到達目標】の達成度を評価できる内容とする。

【学生の意見等からの気づき】

・2021 年度は、全て Zoom で行ったが、学生の顔が見えず、問いかけへの反応も乏しかったため、どこまで授業内容を理解できたか不安であった。実際、課題のフィードバック時に初めて、「合理性」と「効率性」の意味の違いが分かったという学生もいた。

・2022 年度は、全て対面で行ったが、冬期の月曜 1 限ということもあり、出席状況は良くなかった。今年度は春学期の開催でもあり、積極的に出席し、不明な点は質問等をしてもらいたい。

【学生が準備すべき機器他】

・Hoppii へのアクセスが必須であることから、オンライン接続可能な PC ないしタブレットの利用が不可欠である。

【その他の重要事項】

・本科目は以前、I、II の通年開講授業であったが、2018 年度以降、新カリキュラムに合わせて I のみの開講となる。このため II の主要テーマであった人事制度に関する部分は大幅にカットされた。ただし、それに該当する内容は、より詳細に GBP 用の「HRM I/II」（I は秋学期、II は春学期）でカバーしている。履修にあたっては一定の英語力が必要だが、興味ある学生は是非そちらも受講してほしい（ただし、日本語の「人的資源管理 I/II」との重複履修は不可）。

・担当教員は、1980～89 年、(旧)労働省で労働経済の分析、労働政策の企画・調整、労働基準行政の現場業務等の実務経験を有する。本講義の内容と直接的には重ならないが、組織での仕事経験から得られた知見は、本講義でも必要に応じ伝えたい。

【関連科目】

・ミクロ経済学、組織行動論、人的資源管理等が関連科目だが、本科目の履修にあたっての前提条件とはしない。

【Outline (in English)】

・Traditional micro-economics has emphasized the role of firms as players of markets. But it did not fully study non-market transactions such as those within firms and between firms. Such a situation has changed greatly, however, since the advent of "organizational economics," whose basics are the topic of this course.

・Students will understand human behaviors and decision-making within an organization, and the influence of environmental or institutional factors. Furthermore, they can think of how to improve the present situation.

・Students are expected to read the course handouts and reference materials before the class, and to submit occasional assignments diligently.

・The final grade depends on the total points of the assignments.

ECN300FB

組織経済学 I (2018 年度以前入学者)

奥西 好夫

経営学科専門科目 3~4 年次 / 2 単位 [春学期授業/Spring]

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

・伝統的なミクロ経済学は、企業を市場取引の参加者として重視してきたが、企業組織内の意思決定や雇用関係などの非市場取引、企業グループや系列などの企業間関係についてはほとんど立ち入らなかった。しかし、1980 年代以降、組織や人事制度を経済学的手法を用いて分析する「組織の経済学」が徐々に形成されるのに伴い、こうした状況は大きく変化した。本授業はそうした「組織の経済学」の基本的内容を講義する。

・学生は、本講義を通じて組織内の人間行動や組織の意思決定、それらに影響する環境・制度要因の作用を理解し、さらに改善の方途を考案することを学ぶ。

【到達目標】

・学生は、組織経済学の基本的な方法論、分析ツールを説明できる。特に人間の行動原理、組織や取引の評価基準、組織デザイン、インセンティブ問題などの理解は必須である。

・経済合理性を主たる方法論とする伝統的経済学が組織のさまざまな問題を理解し解決する上でどこまで有用なのか、そしてどのような点で限界があるのかを説明できる。

・そうした理解を踏まえ、現実の組織の問題を分析し、何らかの改善策を具体的に考案できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-3」、「DP4」に関連が特に強く、「DP1-1」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

・授業内容の概要を記した教材 (ハンドアウト) は、学習支援システム (Hoppii) にアップするので、各自ダウンロードすること。

・原則として全て対面授業で行う。万一、コロナ感染の状況等によってそれが困難な場合は、適宜 Zoom を用いて行う。アクセスに必要な ID、PW は Hoppii を通じて連絡する。最低限、事前に講義ハンドアウトや指示された資料等に目を通して参加すること。

・課題提出等も Hoppii を通じて指示する。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	講義概要、人間の行動原理 (1)	・組織経済学の内容、方法論 ・経済合理性に関するアンケート
第 2 回	人間の行動原理 (2)	・経済合理性
第 3 回	人間の行動原理 (3)	・経済非合理性
第 4 回	人間の行動原理 (4)	・不完全情報下の経済合理的行動
第 5 回	取引・組織の評価基準 (1)	・効率性 ・公正性に関するアンケート
第 6 回	取引・組織の評価基準 (2)	・さまざまな公正性概念
第 7 回	コースの定理 (1)	・効率性概念の応用
第 8 回	コースの定理 (2)	・市場と組織の選択 ・ルール化の損得
第 9 回	組織デザイン (1)	・組織構造
第 10 回	組織デザイン (2)	・コーポレート・ガバナンス
第 11 回	組織デザイン (3)	・職務設計 ・多様性管理
第 12 回	インセンティブ問題 (1)	・本人-代理人関係 ・インセンティブの強度 ・ナッジ
第 13 回	インセンティブ問題 (2)	・賃金制度への応用
第 14 回	講義内容の応用	・応用問題として、日本の賃金停滞の理由と課題

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

・学生は、授業前に Hoppii にアップした講義ハンドアウトや資料に目を通しておくこと。

・事前にアンケートや小課題の回答を求めることがあるので、それらを誠実にこなすこと。

・講義内容に関する質問は、なるべく当該授業中か、次回授業の冒頭に全員の前で行うこと。(その方が、受講生全員の理解向上につながるため。)

・本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト (教科書)】

・単一のテキストは特に用いない。

・担当教員が作成する授業ハンドアウト等は Hoppii を通じて配付する。

・より進んだ学習を希望する学生は、下記の【参考書】を参照のこと。

【参考書】

・ポール・ミルグロム、ジョン・ロバーツ『組織の経済学』NTT 出版、1997 年。組織経済学の包括的かつ基本的な教科書。

・エドワード・P・ラジャー、マイケル・ギブス『人事と組織の経済学・実践編』日本経済新聞出版社、2017 年。人事制度や組織デザインを扱っている。

・ジョン・ロバーツ『現代企業の組織デザイン』NTT 出版、2005 年。上記、ミルグロム、ロバーツ著と重複するが、組織問題の経済学的エッセンスを扱っている。

・ロバート・H・フランク『日常の疑問を経済学で考える』日経ビジネス人文庫、2013 年。経済合理性というレンズで身の回りの事象を眺めるとどうなるかという思考訓練になる。

・リチャード・セイラー『行動経済学の逆襲』早川書房、2016 年。経済非合理性に立脚した経済学のパイオニアによる自伝的入門書。

・マイケル・サンデル『これからの「正義」の話をしよう』ハヤカワ・ノンフィクション文庫、2011 年。経済学者が重用する「効率性」(功利主義)以外のさまざまな正義観を知ることができる。

・ロナルド・H・コース『企業・市場・法』東洋経済新報社、1992 年。取引費用やコースの定理など著者の主要論文を全て所収したもの。

【成績評価の方法と基準】

・学期中に 2、3 回程度の課題提出を行い、それらの合計点でコース全体の評価結果とする。なお、最終課題は教室での定期試験 (期末試験) として行う可能性がある (コロナの収束状況等による)。また、各回のウェイトは課題に要する時間、難易度等によって異なる場合がある。

・課題の内容は、講義内容の理解度と上記【到達目標】の達成度を評価できる内容とする。

【学生の意見等からの気づき】

・2021 年度は、全て Zoom で行ったが、学生の顔が見えず、問いかけへの反応も乏しかったため、どこまで授業内容を理解できたか不安であった。実際、課題のフィードバック時に初めて、「合理性」と「効率性」の意味の違いが分かったという学生もいた。

・2022 年度は、全て対面で行ったが、冬期の月曜 1 限ということもあり、出席状況は良くなかった。今年度は春学期の開催でもあり、積極的に出席し、不明な点は質問等をしてもらいたい。

【学生が準備すべき機器他】

・Hoppii へのアクセスが必須であることから、オンライン接続可能な PC ないしタブレットの利用が不可欠である。

【その他の重要事項】

・本科目は以前、I、II の通年開講授業であったが、2018 年度以降、新カリキュラムに合わせて I のみの開講となる。このため II の主要テーマであった人事制度に関する部分は大幅にカットされた。ただし、それに該当する内容は、より詳細に GBP 用の「HRM I/II」(I は秋学期、II は春学期) でカバーしている。履修にあたっては一定の英語力が必要だが、興味ある学生は是非そちらも受講してほしい (ただし、日本語の「人的資源管理 I/II」との重複履修は不可)。

・担当教員は、1980 ~ 89 年、(旧) 労働省で労働経済の分析、労働政策の企画・調整、労働基準行政の現場業務等の実務経験を有する。本講義の内容と直接的には重ならないが、組織での仕事経験から得られた知見は、本講義でも必要に応じ伝えたい。

【関連科目】

・ミクロ経済学、組織行動論、人的資源管理等が関連科目だが、本科目の履修にあたっての前提条件とはしない。

【Outline (in English)】

・Traditional micro-economics has emphasized the role of firms as players of markets. But it did not fully study non-market transactions such as those within firms and between firms. Such a situation has changed greatly, however, since the advent of "organizational economics," whose basics are the topic of this course.

・Students will understand human behaviors and decision-making within an organization, and the influence of environmental or institutional factors. Furthermore, they can think of how to improve the present situation.

・Students are expected to read the course handouts and reference materials before the class, and to submit occasional assignments diligently.

・The final grade depends on the total points of the assignments.

MAN300FC

日本経営史 I

二階堂 行宣

経営戦略学科専門科目 300 番台経営戦略学科専門科目 3~4 年次 / 2 単位 [春学期授業/Spring]

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

・19 世紀後半～20 世紀の日本における近代企業の発展と、それを担った企業家の活動について、事例を取り上げながら説明します。
 ・授業を通じて、さまざまな社会現象を長期的な視点から分析する意義を学ぶとともに、現状の日本経済や企業経営についての理解を深めることを目指します。

【到達目標】

・近代日本の経済・経営発展の歴史について、基礎的な知識を習得し、それらを体系的に整理することができる。
 ・「各時代における経済・経営環境の変化 → ビジネス・チャンスの発生 → 企業家たちの具体的活動」という一連の流れを、明確にイメージすることができる。
 ・講義で学んだことを、客観的・論理的に説明することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-3」、「DP4」、「DP5」に関連が特に強く、「歴史学」、「教養」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

・オンデマンド型の授業です。
 ・現時点では、以下のような授業運営方法を想定しています。
 ①学習支援システム等から教材（講義資料や説明音声・動画）をダウンロードし、順次自分のペースで学習する。
 ②学習の到達度を確認するため、学習支援システム上で定期的に出題される論述課題（2～3 回を予定 / 提出期限あり）をこなす。
 ③学期末には、学習支援システム上で期末課題を出題する。
 ・感染状況によって、運営方法を変更する場合があります。ただし、授業で扱う内容・トピックについては、このシラバスから変更する予定はありません。
 ・授業動画は、100 分 × 14 回の形でアップロードするのではなく、各章ごとにアップロードします。ただし、総時間数は 1400 分以内になるようにします。
 ・「100 分の動画を毎週アップロード」という形ではないので、毎週の受講ペースは各自で調整していただく必要があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	経営分析への歴史的視点
第 2 回	幕末維新期の経営	概説：幕末維新期の日本経済
第 3 回	幕末維新期の経営	幕末維新期の新興商人：丁吟と吉村屋の発展
第 4 回	幕末維新期の経営	大店の明治維新：三井家と三野村利左衛門
第 5 回	幕末維新期の経営	海運業の発展：内海船と北前船
第 6 回	明治前期の経営	概説：明治前期の日本経済
第 7 回	明治前期の経営	政商の登場：三菱の創始者・岩崎弥太郎
第 8 回	明治前期の経営	政商の登場：住友の事業再編と池田幸平
第 9 回	明治前期の経営	企業家活動の組織化：「会社」の誕生と渋沢栄一
第 10 回	産業革命期の経営	概説：日本の産業革命
第 11 回	産業革命期の経営	専門経営者の台頭：三菱合資会社と荘田平五郎
第 12 回	産業革命期の経営	専門経営者の台頭：三井の財閥化と中上川彦次郎
第 13 回	産業革命期の経営	地方からの産業革命：安川敬一郎とその時代
第 14 回	まとめ	幕末～産業革命期のビジネス・チャンスと企業家活動

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・高等学校で日本史・世界史を選択していない受講者は、高校教科書等で、事前に 18 世紀以降の歴史の大まかな流れを予習してください。
 ・授業の後には、参考書の該当箇所や、配布資料・ノートを使用し、充分復習してください。
 ・本講義の履修や単位取得には、大学生としてふさわしいレベルの日本語記述能力が求められます。論理的な長文を書くことが苦手な方は、自主的な鍛錬を繰り返してください。
 ・本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

・使用しない。

【参考書】

- ①経営史学会編『日本経営史の基礎知識』（有斐閣、2004 年）。
- ②宮本又郎・阿部武司ほか『日本経営史 [新版]』（有斐閣、2007 年）。
- ③三和良一・原朗編『近現代日本経済史要覧 補訂版』（東京大学出版会、2010 年）。
- ④宇田川勝・生島淳編『企業家に学ぶ日本経営史』（有斐閣、2011 年）。
- ⑤三和良一『概説日本経済史 近現代（第 3 版）』（東京大学出版会、2012 年）。
- ⑥粕谷誠『ものづくり日本経営史』（名古屋大学出版会、2012 年）。
- ⑦宮本又郎『企業家たちの挑戦』（中央公論新社、2013 年）。
- ⑧沢井実・谷本雅之『日本経済史』（有斐閣、2016 年）。
- ⑨武田晴人『日本経済史』（有斐閣、2019 年）。

【成績評価の方法と基準】

・論述課題 60 %（実施回数で均等配分）、期末課題 40 % で評価します。単位取得の条件は、期末課題を提出すること、かつ合計点が 60 点以上であること、の 2 点です。
 ・成績評価の際は、知識の暗記よりも、歴史的な事実を論理的に体系化し、説明する能力が身に付いたかどうかを重視します。
 ・科目の性格上、課題はすべて長文の論述式とします。マーク式、記号選択式の問題を出題する予定はありません。

【学生の意見等からの気づき】

・高校時代に日本史を選択していない学生から「基礎的な事項について解説をしてほしい」との意見が寄せられました。ただし、授業中にそこまで解説する時間の余裕はないため、高校教科書・参考文献による自習か、個別の質問で対応してください。
 ・「授業資料の図表が見にくい」という声に対しては、資料作成時や説明時にできるだけ拡大するなどの改善を心がけます。
 ・障害学生支援の観点から、授業動画は担当教員の顔が映る形でのアップロードとします。

【学生が準備すべき機器他】

・資料の配布や連絡を行う際には、授業支援システムを利用します。
 ・法政大学のメールアドレスを設定し、常にメールを確認できるようにしてください。

【その他の重要事項】

・論述課題や期末課題を評価する際、不正行為（他者の答案や、過年度の授業資料の無断引用を含む）には厳しく対処します。
 ・法政大学が定める不正行為の定義と、処分の基準については、下記を参照してください。

https://www.hosei.ac.jp/application/files/8115/9183/9346/01_.pdf

【関連科目】

- ・産業史 I / II
- ・日本経営論 I / II
- ・日本経済論 I / II

【Outline (in English)】

【Course Outline】

・Business History of Modern Japan.
 ・In this lesson, we will explain the development of modern enterprises in the latter half of the 19th century to 20th century and the activities of entrepreneurs who took charge of it.
 ・We will learn the significance of analyzing various social phenomena from a long-term perspective through classes and aim to deepen their understanding of the current Japanese economy and corporate management.
 【Learning Objectives】
 ・Learn basic knowledge about the history of economic and business development in modern Japan.
 ・Clarify the series of flows of "changes in the economy and business environment-> generation of business opportunities-> concrete activities of entrepreneurs" for each era.
 ・Explain what you learned in the lecture in objective and logical Japanese.
 【Learning Activities outside of Classroom】

・Students who have not selected Japanese history or world history in high school should prepare in advance the general flow of history after the 18th century using high school textbooks.

・After class, please use the relevant parts of the reference book, handouts and notebooks to thoroughly review.

・To take this course and earn credits, you need to have a level of Japanese writing ability suitable for a university student. If you are not good at writing long logical sentences, please repeat the voluntary training.

・The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria / Policy】

- Evaluate with 60% for essay assignments and 40% for term-end assignments. There are two conditions for earning credits: submitting a term-end assignment and having a total score of 60 points or more.
- When evaluating grades, it is more important to have the ability to logically systematize and explain historical facts rather than memorizing knowledge.
- Due to the nature of the subject, all assignments will be essay-style. There are no plans to ask questions about the mark type and the symbol selection type.

MAN300FC

日本経営史Ⅱ

二階堂 行宣

経営戦略学科専門科目 300 番台経営戦略学科専門科目 3～4 年次 / 2 単位 [秋学期授業/Fall]

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

・19 世紀後半～20 世紀の日本における近代企業の発展と、それを担った企業家の活動について、事例を取り上げながら説明します。
・授業を通じて、さまざまな社会現象を長期的な視点から分析する意義を学ぶとともに、現状の日本経済や企業経営についての理解を深めることを目指します。

【到達目標】

・近代日本の経済・経営発展の歴史について、基礎的な知識を習得し、それらを体系的に整理することができる。
・「各時代における経済・経営環境の変化 → ビジネス・チャンスの発生 → 企業家たちの具体的活動」という一連の流れを、明確にイメージすることができる。
・講義で学んだことを、客観的・論理的に説明することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-3」、「DP4」、「DP5」に関連が特に強く、「歴史学」、「教養」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

・オンデマンド型の授業です。
・現時点では、以下のような授業運営方法を想定しています。
①学習支援システム等から教材（講義資料や説明音声・動画）をダウンロードし、順次自分のペースで学習する。
②学習の到達度を確認するため、学習支援システム上で定期的に出題される論述課題（2～3 回を予定 / 提出期限あり）を何度かこなす。
③学期末には、学習支援システム上で期末課題を出題する。
・感染状況によって、運営方法を変更する場合があります。ただし、授業で扱う内容・トピックについては、このシラバスから変更する予定はありません。
・授業動画は、100 分 × 14 回の形でアップロードするのではなく、各省ごとにアップロードします。ただし、総時間数は 1400 分以内になるようにします。
・「100 分の動画を毎週アップロード」という形ではないので、毎週の受講ペースは各自で調整していただく必要があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	経営分析への歴史的視点
第 2 回	第一次大戦期の経営	概説：第一次大戦期の日本経済①
第 3 回	第一次大戦期の経営	概説：第一次大戦期の日本経済②
第 4 回	第一次大戦期の経営	大戦ブームと企業者活動：鈴木商店と金子直吉
第 5 回	両大戦間期の経営	概説：1920～30 年代の日本経済①
第 6 回	両大戦間期の経営	概説：1920～30 年代の日本経済②
第 7 回	両大戦間期の経営	都市型産業の発展：小林一三と阪急
第 8 回	両大戦間期の経営	新興コンツェルンの発展：日本産業と日本窒素肥料
第 9 回	戦後期の経営	概説：復興から高度経済成長へ
第 10 回	戦後期の経営	概説：高度成長の終焉と日本経済
第 11 回	戦後期の経営	概説：バブルの発生と崩壊
第 12 回	戦後期の経営	大衆消費社会の到来
第 13 回	戦後期の経営	規制緩和によるビジネス・チャンス
第 14 回	まとめ	近現代日本のビジネス・チャンスと企業家活動

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・高等学校で日本史・世界史を選択していない受講者は、高校教科書等で、事前に 18 世紀以降の歴史の大きな流れを予習してください。
・授業の後には、参考書の該当箇所や、配布資料・ノートを使用し、充分復習してください。
・本講義の履修や単位取得には、大学生としてふさわしいレベルの日本語記述能力が求められます。論理的な長文を書くことが苦手な方は、自主的な鍛錬を繰り返してください。
・本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

・使用しない。

【参考書】

- ①経営史学会編『日本経営史の基礎知識』（有斐閣、2004 年）。
- ②宮本又郎・阿部武司ほか『日本経営史 [新版]』（有斐閣、2007 年）。
- ③三和良一・原朗編『近現代日本経済史要覧 補訂版』（東京大学出版会、2010 年）。
- ④宇田川勝・生島淳編『企業家に学ぶ日本経営史』（有斐閣、2011 年）。
- ⑤三和良一『概説日本経済史 近現代（第 3 版）』（東京大学出版会、2012 年）。

⑥粕谷誠『ものづくり日本経営史』（名古屋大学出版会、2012 年）。

⑦宮本又郎『企業家たちの挑戦』（中央公論新社、2013 年）。

⑧沢井実・谷本雅之『日本経済史』（有斐閣、2016 年）。

⑨武田晴人『日本経済史』（有斐閣、2019 年）。

【成績評価の方法と基準】

・論述課題 60 %（実施回数で均等配分）、期末課題 40 % で評価します。単位取得の条件は、期末課題を提出すること、かつ合計点が 60 点以上であること、の 2 点です。

・成績評価の際は、知識の暗記よりも、歴史的な事実を論理的に体系化し、説明する能力が身に付いたかどうかを重視します。

・科目の性格上、課題はすべて長文の論述式とします。マーク式、記号選択式の問題を出題する予定はありません。

【学生の意見等からの気づき】

・高校時代に日本史を選択していない学生から「基礎的な事項について解説をしてほしい」との意見が寄せられました。ただし、授業中にそこまで解説する時間的余裕はないため、高校教科書・参考文献による自習か、個別の質問で対応してください。

・「授業資料の図表が見にくい」という声に対しては、資料作成時や説明時にできるだけ拡大するなどの改善を心がけます。

・障害学生支援の観点から、授業動画は担当教員の顔が映る形でのアップロードとします。

【学生が準備すべき機器他】

・資料の配布や連絡を行う際には、授業支援システムを利用します。
・法政大学のメールアドレスを設定し、常にメールを確認できるようにしてください。

【その他の重要事項】

・論述課題や期末試験答案を評価する際、不正行為（他者の答案や、過年度の授業資料の無断引用を含む）には厳しく対処します。

・法政大学が定める不正行為の定義と、処分の基準については、下記を参照してください。

https://www.hosei.ac.jp/application/files/8115/9183/9346/01_.pdf

【関連科目】

- ・産業史Ⅰ / Ⅱ
- ・日本経営論Ⅰ / Ⅱ
- ・日本経済論Ⅰ / Ⅱ

【Outline (in English)】

【Course Outline】

・Business History of Modern Japan.

・In this lesson, we will explain the development of modern enterprises in the latter half of the 19th century to 20th century and the activities of entrepreneurs who took charge of it.

・We will learn the significance of analyzing various social phenomena from a long-term perspective through classes and aim to deepen their understanding of the current Japanese economy and corporate management.

【Learning Objectives】

・Learn basic knowledge about the history of economic and business development in modern Japan.

・Clarify the series of flows of "changes in the economy and business environment-> generation of business opportunities-> concrete activities of entrepreneurs" for each era.

・Explain what you learned in the lecture in objective and logical Japanese.

【Learning Activities outside of Classroom】

・Students who have not selected Japanese history or world history in high school should prepare in advance the general flow of history after the 18th century using high school textbooks.

・After class, please use the relevant parts of the reference book, handouts and notebooks to thoroughly review.

・To take this course and earn credits, you need to have a level of Japanese writing ability suitable for a university student. If you are not good at writing long logical sentences, please repeat the voluntary training.

・The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria / Policy】

・Evaluate with 60% for essay assignments and 40% for term-end assignments. There are two conditions for earning credits: submitting a term-end assignment and having a total score of 60 points or more.

・When evaluating grades, it is more important to have the ability to logically systematize and explain historical facts rather than memorizing knowledge.

· Due to the nature of the subject, all assignments will be essay-style.
There are no plans to ask questions about the mark type and the symbol
selection type.

MAN300FC

企業評価論 I

高橋 美穂子

経営戦略学科専門科目 300 番台経営戦略学科専門科目 3~4 年次 / 2 単位 [春学期授業/Spring]

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、企業を分析・評価するための方法を学びます。企業評価論 I では、企業の過去から現在までの実績や特徴を分析する方法、企業評価論 II では、過去の実績に基づいて将来分析を行い、それを企業価値評価につなげる方法に焦点をあてて学びます。

企業評価論 I の授業では、はじめに、企業について調べたい、何らかの分析を行いたいと考えた時に、その企業を分析する上で有益な情報とその入手方法を説明します。次に、企業の経営環境や事業内容を理解するための情報や分析ツールを解説します。続いて、企業活動の成果や事業の特徴が財務諸表にどのように反映されるのかを理解するために、財務諸表の見方を解説します。最後に、収益性や安全性などの企業特性を評価するための財務比率や経営指標を説明します。

【到達目標】

この授業の到達目標は、

1. 企業活動と関連付けて財務諸表を読むことができる
2. 財務比率や経営指標の内容が理解できる
3. 分析の目的に応じて（上記 2 の）財務比率や経営指標を活用できることです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

授業は第 1 回はオンライン、第 2 回以降は対面で行います。初回のオンライン授業のリンクや講義に関する連絡事項は学習支援システム（Hoppii）でお知らせします。履修を希望される方は授業開始前に Hoppii の「お知らせ」を確認してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の進め方、経営分析、企業評価の意義と全体像
第 2 回	情報収集	重要な情報とその入手方法
第 3 回	事業の理解（1）	マクロ経済分析・産業分析
第 4 回	事業の理解（2）	企業戦略分析
第 5 回	事業の理解（3）	セグメント分析
第 6 回	会計分析（1）	財務諸表の構成要素と体系・会計情報の特徴
第 7 回	会計分析（2）	損益計算書の見方
第 8 回	会計分析（3）	貸借対照表の見方
第 9 回	会計分析（4）	キャッシュフロー計算書の見方
第 10 回	財務比率分析（1）	収益性の分析・ROA と ROE の関係、ROE の基本分解
第 11 回	財務比率分析（2）	利益率の分析
第 12 回	財務比率分析（3）	回転率の分析
第 13 回	財務比率分析（4）	安全性の分析
第 14 回	財務比率分析（5）	成長性の分析

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

前回の授業内容の復習と練習問題を行ってください。本授業の準備・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません。

【参考書】

桜井久勝著『財務諸表分析』、中央経済社、最新版。
S.H. ペンマン著、荒田映子他訳『アナリストのための財務諸表分析とバリュエーション』、有斐閣、2018 年。
ランドホルム他著、深井忠他訳『企業価値評価 eval による財務分析と評価』、マグロウヒル・エデュケーション、2015 年
K.G. バレブ他著、斎藤静樹監訳『企業分析入門』、東京大学出版会、2001 年。

【成績評価の方法と基準】

期末試験（100%）で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

実際の財務諸表を用いて企業の特徴を分析した点が面白かったとの意見がありましたので、引き続き財務諸表などの情報を活用しながら講義を進めます。

【学生が準備すべき機器他】

インターネットに接続可能なパソコンやタブレット端末を準備してください。

【その他の重要事項】

簿記 3 級程度（簿記入門 I/II、会計学入門 I/II）の内容は理解していることを前提に授業を進めます。知識が不足している学生は、簿記や会計の基礎的な知識を修得してから本授業を履修してください。

【関連科目】

財務会計論 I/II、国際会計論 I/II

【Outline (in English)】

(Course outline)

This course introduces how to analyze and value business firms. Students learn a framework for analyzing and evaluating firms by using financial information and other related information.

(Learning Objectives)

By the end of the course, students are expected to do the following:

1. Understand financial statements in relation to corporate activities
2. Understand major financial ratios and performance indicators
3. Utilize financial ratios and indicators (as described in 2. above) according to the purpose of analysis

(Learning activities outside of classroom)

After each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content since the contents of each class are highly related.

(Grading Criteria)

Grading will be decided based on term-end exam (100%).

MAN300FC

企業評価論Ⅱ

高橋 美穂子

経営戦略学科専門科目 300 番台経営戦略学科専門科目 3～4 年次 / 2 単位 [秋学期授業/Fall]

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、企業を分析・評価するための方法を学びます。企業評価論Ⅱでは、企業評価論Ⅰで学んだ内容を掘り下げて、企業の過去の実績を分析するとともに、予測財務諸表を作成し、それを企業価値評価につなげる方法を学びます。

授業では、はじめに企業評価論Ⅰ（春学期）の内容で取り上げた主要な財務比率を復習します。次に、ROE を事業活動の成果と財務活動の効果に分解する上級 ROE 分解を解説し、事業活動の成果と資本構成の影響が ROE に与える影響を切り離して理解することを目指します。さらに、主要な財務比率に基づいて予測財務諸表を作成し、それをを用いて株主価値を推定する枠組みを解説します。

【到達目標】

この授業の到達目標は、

1. 財務比率や経営指標の意味を理解した上で、企業特性を把握するために利用できる
2. 資本利益率 (ROA・ROE) と資本コスト、企業 (株主) 価値の理論的關係が理解できる
3. 過去の実績や仮定に基づいて予測財務諸表を作成できる
4. 予測財務諸表を用いて株主価値を推定する方法が理解できることです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

授業は第1回はオンライン、第2回以降は対面で行います。初回のオンライン授業のリンクや講義に関する連絡事項は学習支援システム (Hoppii) でお知らせします。履修を希望される方は授業開始前に Hoppii の「おしらせ」を確認してください。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	講義の進め方、経営分析、企業評価の意義
第2回	春学期の復習 (1)	財務諸表の構成要素と体系
第3回	春学期の復習 (2)	ROE の基本分解
第4回	収益性の分析 (1)	ROE の上級分解 (1) : 純事業資産利益率・有利子負債のコスト・レバレッジの関係を理解する
第5回	収益性の分析 (2)	ROE の上級分解 (2) : 純事業資産利益率・純金融資産利益率・レバレッジの関係を理解する
第6回	収益性の分析 (3)	ROE の上級分解 (3) : 純金融資産の保有が ROE に与える影響を理解する
第7回	成長性の分析	売上高成長率の仮定とサステナブル成長率を理解する
第8回	レバレッジの分析	信用分析とデフォルトの関係を理解する
第9回	企業価値評価の考え方と手法	マーケットアプローチ・インカムアプローチ・コストアプローチによる評価方法の特徴を理解する
第10回	貸借対照表項目の予測	過去の財務比率や将来の仮定に基づいて予測貸借対照表を作成する
第11回	損益計算書項目の予測	過去の財務比率や将来の仮定に基づいて予測損益計算書を作成する
第12回	貨幣の時間的価値と割引計算・資本コスト	資本コストの推定方法を学習する
第13回	株主価値評価の理論①	配当割引モデルと超過利益モデルを学習する
第14回	株主価値評価の理論②	予測財務諸表と超過利益モデルから株主価値を推定する方法を学習する

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

前回の授業内容の復習と練習問題を行ってください。本授業の準備・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

テキストは使用しません。

【参考書】

桜井久勝著『財務諸表分析』, 中央経済社, 最新版。

S.H. ペンマン著, 荒田映子他訳『アナリストのための財務諸表分析とバリユエーション』, 有斐閣, 2018 年。

ランドホルム他著, 深井忠他訳『企業価値評価 eval による財務分析と評価』, マグロウヒル・エデュケーション, 2015 年

K.G. バレブ他著, 斎藤静樹監訳『企業分析入門』, 東京大学出版会, 2001 年。

【成績評価の方法と基準】

期末試験 (100%) で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

実際の財務諸表を用いて企業の特徴を分析した点が面白かったとの意見がありましたので、引き続き財務諸表などの情報を活用しながら講義を進めます。

【学生が準備すべき機器他】

インターネットに接続可能なパソコンやタブレット端末を準備してください。

【その他の重要事項】

簿記3級程度 (簿記入門Ⅰ/Ⅱ, 会計学入門Ⅰ/Ⅱ) ならびに企業評価Ⅰ (春学期) の内容を理解していることを前提に授業を進めます。知識が不足している学生は、該当科目を履修してからこの授業を受講してください。

【関連科目】

財務会計論Ⅰ/Ⅱ

【Outline (in English)】

(Course outline)

This course introduces how to analyze and value business firms. In this course, students will learn more advanced content from Business Analysis and Valuation I. Topics that will be covered are advanced ROE analysis, preparation of forecasted financial statements and valuation models.

(Learning Objectives)

By the end of the course, students are expected to do the following:

1. Comprehend financial ratios and performance indicators and be able to utilize them to understand the underlying corporate characteristics
2. Understand the relationship between return on capital (ROA and ROE), cost of capital, and corporate (shareholder) value
3. To be able to prepare forecasted financial statements
4. Understand how to estimate shareholder value using forecasted financial statements

(Learning activities outside of classroom)

After each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content since the contents of each class are highly related.

(Grading Criteria)

Grading will be decided based on term-end exam (100%).

MAN300FC

経営分析論 I

福多 裕志

経営戦略学科専門科目 300 番台経営戦略学科専門科目 3~4 年次 / 2 単位 [春学期授業/Spring]

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

1982 年にピーターズ、ウォータマンは、著書『In Search of Excellence』の中で、顧客から選択される素晴らしい企業になるためには、頑健な財務体質が重要であると説いている。われわれが企業あるいは企業グループの総合力を評価するとき、直感を含めた六感すべてを駆使し、「エクセレント!、すばらしい!、いまいち!」などと判断を下す。本科目のテーマは、いかなる組織 (営利、非営利企業) にあっても必要となる財務諸表分析を中心とする経営分析の基礎知識とその応用を、実際に開示された財務データを処理しながら着実に習得することである。まず春学期では、製造業の財務諸表データに基づき各種の財務比率を計算し、企業や業界が内包する「問題点の所在の推定」を目指す。

【到達目標】

本講義では、経営分析の領域の一つである財務諸表分析にはほぼ焦点を絞り講義する。経営分析 I では、実在する上場製造企業の財務諸表を参照し、基礎統計学を援用しながら、財務体質の基本的な捉え方を学習する。この結果、参加者は、(1) 財務諸表分析の基本手続き (2) データベースを利用した財務指標の算出、(3) 安全性、効率性、収益性、成長性に関する具体的指標の算出と解釈について理解を深めることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-2」、「DP1-4」、「DP2-1」、「DP2-2」、「DP4」、「DP5」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

当授業では、まず春学期において会計理論に基づいた財務諸表分析の方法を学ぶ。インターネット上で公開されている財務諸表やオンライン・データベースを駆使し、比率分析、趨勢分析、クロスセクション分析、基礎統計学の経営分析への応用等を学習しながら企業分析の理解に役立つ授業を展開する。授業支援システムを利用し、さまざまな授業関連情報を提供する。受講者には頻繁に同システムへのアクセスを推奨したい。

【重要】

第 1 回目の授業 (ZOOM) を除き、キャンパス内での対面授業を実施する予定です。不明な点は、当授業の「授業内掲示板」までお尋ねください。ZOOM ID は、第 1 回目の授業迄に、当サイト上の「お知らせ」にて発表します。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	年間講義計画	財務諸表分析の概要および年間講義計画の説明
第 2 回	経営分析の目的と財務データ	経営分析の目的およびインターネット上の入手可能財務データの検索
第 3 回	財務諸表の枠組み：BS と IS	貸借対照表、損益計算書の構造、ストック項目、フロー項目等の概念説明
第 4 回	財務諸表の枠組み：CFS	キャッシュ・フロー計算書および百分率財務諸表の構造。基本統計量のまとめ
第 5 回	短期の財務安全性	短期的財務安全性の意味およびそれに関連する具体的指標 - 流動比率、当座比率等の説明
第 6 回	長期の財務安全性	長期の財務安全性に関連する指標 - 自己資本比率、固定比率、固定長期適合率等の説明
第 7 回	効率性：その 1	効率性の意味およびそれに関連する具体的指標 - 総資本回転率、棚卸資産回転率等の説明
第 8 回	効率性：その 2	売上債権回転率、固定資産回転率、有形固定資産減価償却率、設備投資効率、付加価値等の説明
第 9 回	収益性：その 1	収益性の意味および主として売上高や資産と関連する指標 - ROS、ROE、ROA 等について説明
第 10 回	収益性：その 2	オペレーティング・レバレッジ、変動費、固定費、総費用等の諸概念の確認
第 11 回	損益分岐点分析の基本	固定分解、最小二乗法
第 12 回	損益分岐点分析 - 短期利益計画への応用：その 1	損益分岐点比率、安全余裕率
第 13 回	損益分岐点分析 - 短期利益計画への応用：その 2	エクセル上での損益分岐点分析の展開

第 14 回 成長性および総括

代表的なストック項目およびフロー項目に関する増減率等の説明および春学期全体の総括

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

授業およびスライド等で指示される文献を充分予習すること。「学習支援システム」へ頻繁にアクセスし、必要なデータやスライドを入手すること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト (教科書)】

参考文献を基に資料・スライドを作成し、講義する。すべて「学習支援システム」に掲載されるので必ず参照すること。

【参考書】

- 1) 青木茂男編著『要説 経営分析 六訂版』森山書店、2022 年。
- 2) 奥野忠一・山田文道『情報化時代の経営分析』東京大学出版会、1995 年。
- 3) 菊池誠一『キャッシュフロー計算書 その作成と分析・評価』中央経済社、1999 年。
- 4) 菊池誠一『連結財務分析入門』中央経済社、2002 年。
- 5) 國部克彦『アメリカ経営分析発達史』白桃書房、1994 年。
- 6) 國貞克則『財務 3 表実践活用法』(朝日新書) 朝日新聞出版、2012 年。
- 7) 鳥邊晋司他『会計情報と経営分析』中央経済社、1996 年。
- 8) 西山茂『企業分析シナリオ 第 2 版』東洋経済新報社、2006 年。
- 9) 野村健太郎『連結企業集団の経営分析 全訂版』税務経理協会、2003 年。
- 10) 宮川公男『新版 意思決定論 基礎とアプローチ』中央経済社、2010 年。

【成績評価の方法と基準】

期末筆記試験 80%、発表 20%

受講者には、授業への出席と継続的な問題演習を強く期待したい。

【学生の意見等からの気づき】

実社会において取り上げられる経営分析関連の話題をより分かり易く解説することを目指す。

【学生が準備すべき機器他】

授業および試験の際、電卓を必ず持参すること。なお、PC を持参し、自らデータ処理を行えば財務諸表分析力は飛躍的に向上するであろう。

【その他の重要事項】

本科目の内容を初めて学習する方は、毎回授業に出席し、自ら計算問題等を解く努力をしなければ単位修得は極めて困難となる。継続的学習が必須である。関連科目：管理会計論 I/II、経営管理論 I/II、基礎統計学 I/II

【重要事項】

感染状況の変化により、大学の方針に基づき対面授業からオンライン授業への切り替えもありうることを予めご了承ください。不明な点や質問の有る方は、Hoppii「経営分析論 I」の「授業内掲示板」より遠慮なくお尋ねください。

【Outline (in English)】

【Course outline and objectives】

Stakeholders need to be able to analyze and interpret the company's financial statements. Precise analysis of these documents can help both internal and external decision-makers evaluate an organization's past performance and predict its future performance. In 'Business Analysis I' we will focus our attention on some basic and important ratios, concepts and other analytical tools.

【Learning activities outside of classroom】

Participants are expected to ensure that they prepare and review for the class by solving assignments.

【Grading criteria】

Contributions to class activities (20%), final exam (80%)

MAN300FC

経営分析論Ⅱ

福多 裕志

経営戦略学科専門科目 300 番台経営戦略学科専門科目 3~4 年次 / 2 単位 [秋学期授業/Fall]

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

1982 年にピーターズ、ウォータマンは、著書『In Search of Excellence』の中で、顧客から選択される素晴らしい企業になるためには、頑健な財務体質が重要であると説いている。われわれが企業あるいは企業グループの総合力を評価するとき、直感を含めた六感すべてを駆使し、「エクセレント!、すばらしい!、いまいち!」などと判断を下す。本科目のテーマは、いかなる組織（営利、非営利企業）にあっても必要となる財務諸表分析を中心とする経営分析の基礎知識とその応用を、実際に開示された財務データを処理しながら着実に習得することである。秋学期では、製造業の財務諸表データに基づき幾つかの財務比率を計算し、その後、企業の合理的な経済的意思決定モデルと創出した会計情報の価値を算出する。

【到達目標】

本講義では、実在する上場企業の財務諸表を参照し、基礎統計学を援用しながら、秋学期は株価関連指標から学習を開始し、次に経済合理的意思決定を促進する観点より、リスクおよび不確実性下での意思決定モデルを考察する。最終段階では、創出した財務情報の価値、価格付け等について学習する。この結果、参加者は、(1) 株価関連指標、(2) 総合評価の方法、(3) リスクおよび不確実性下での意思決定モデル、(4) 創出情報の価値算出等について理解を深めることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-2」、「DP1-4」、「DP2-1」、「DP2-2」、「DP4」、「DP5」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

当授業では、インターネット上で公開されている財務諸表やオンライン・データベースを駆使し、比率分析、趨勢分析、クロスセクション分析、基礎統計学の経営分析への応用等を学習しながら企業分析の理解に役立つ授業を展開する。授業支援システムを利用し、さまざまな授業関連情報を提供するので、受講者には頻りに同システムへのアクセスを推奨したい。

【重要】

第 1 回目の授業（ZOOM）を除き、キャンパス内での対面授業を実施する予定です。不明な点は、当授業の「授業内掲示板」までお尋ねください。ZOOM ID は、第 1 回目の授業迄に、当サイト上の「お知らせ」にて発表します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	秋学期講義計画および株価関連指標：その 1	一株当たり利益、株価収益率等の検討
第 2 回	株価関連指標：その 2	株価純資産倍率、株価キャッシュ・フロー倍率の説明と評価
第 3 回	外国企業の財務諸表分析：その 1	オンライン・データベースよりグローバル企業の財務データ抽出と国際比較
第 4 回	外国企業の財務諸表分析：その 2	EDGAR より米国企業の財務情報を入力し、日米企業の財務体質比較
第 5 回	総合評価：その 1	学習した各指標を活用し、企業の財務体質を総合的に評価する方法を考察
第 6 回	総合評価：その 2	学習したさまざまな財務指標を活用し、企業の財務体質を統計的手法に基づき評価する方法を考察
第 7 回	経営分析の応用：その 1	財務諸表分析情報に基づき、リスク下における意思決定原理－要求水準原理、最尤未来原理等－について考察
第 8 回	経営分析の応用：その 2	財務諸表分析情報に基づき、不確実性下における意思決定原理－ラプラス原理、マクシミン原理、ミンマックス原理等の考察
第 9 回	経営分析の応用：その 3	財務諸表分析情報に基づき、不確実性下におけるサヴェッジ原理の考察
第 10 回	経営分析の応用：その 4	財務諸表分析情報に基づき、不確実性下におけるサヴェッジ原理の考察
第 11 回	会計情報の価値Ⅰ	会計情報の一般的定義および情報価値計算の手続き
第 12 回	会計情報の価値Ⅱ	事前確率、条件付き確率、同時確率、事後確率、ベイズ定理等の学習
第 13 回	会計情報の価値Ⅲ	創出されたさまざまな情報の価値計算
第 14 回	会計情報の価値Ⅳ	会計情報の価値に関する問題演習とその解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業およびスライド等で指示される文献を充分予習すること。「学習支援システム」へ頻りにアクセスし、必要なデータやスライドを入手すること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

参考文献を基に資料・スライドを作成し、講義する。すべて「学習支援システム」に掲載されるので必ず参照すること。

【参考書】

- 1) 青木茂男編著『要説 経営分析 六訂版』森山書店、2022 年。
- 2) 奥野忠一・山田文道『情報化時代の経営分析』東京大学出版会、1995 年。
- 3) 菊池誠一『キャッシュフロー計算書 その作成と分析・評価』中央経済社、1999 年。
- 4) 菊池誠一『連結財務分析入門』中央経済社、2002 年。
- 5) 國部克彦『アメリカ経営分析発達史』白桃書房、1994 年。
- 6) 國貞克則『財務 3 表実践活用法』（朝日新書）朝日新聞出版、2012 年。
- 7) 鳥邊晋司他『会計情報と経営分析』中央経済社、1996 年。
- 8) 西山茂『企業分析シナリオ 第 2 版』東洋経済新報社、2006 年。
- 9) 野村健太郎『連結企業集団の経営分析 全訂版』税務経理協会、2003 年。
- 10) 宮川公男『新版 意思決定論 基礎とアプローチ』中央経済社、2010 年。

【成績評価の方法と基準】

期末筆記試験 80%、発表 20%

受講者には、授業への出席と継続的な問題演習を強く期待したい。

【学生の意見等からの気づき】

実社会において取り上げられる経営分析関連の話題をより分かり易く解説したい。

【学生が準備すべき機器他】

授業および試験の際、電卓を必ず持参すること。なお、PC を持参し、自らデータ処理を行えば財務諸表分析力は飛躍的に向上するであろう。

【その他の重要事項】

本科目の内容を初めて学習する方は、毎回授業に出席し、自ら計算問題等を解く努力をしなければ単位修得は極めて困難となる。継続的学習が必須である。関連科目：管理会計論Ⅰ/Ⅱ、経営管理論Ⅰ/Ⅱ、基礎統計学Ⅰ/Ⅱ

【重要事項】

感染状況の変化により、大学の方針に基づき対面授業からオンライン授業への切り替えもありうることを予めご了解ください。不明な点や質問の有る方は、Hoppii「経営分析論Ⅱ」の「授業内掲示板」より遠慮なくお尋ねください。

【Outline (in English)】

【Course outline and objectives】

Stakeholders need to be able to analyze and interpret the company's financial statements. Precise analysis of these documents can help both internal and external decision-makers evaluate an organization's past performance and predict its future performance. In 'Business Analysis I' we focused our attention on some basic and important ratios, concepts and other analytical tools. In 'Business Analysis II' comprehensive evaluation and decision-making process will be discussed based on ratios discussed in the spring semester.

【Learning activities outside of classroom】

Participants are expected to ensure that they prepare and review for each class by solving assignments.

【Grading criteria】

Contributions to class activities (20%), final exam (80%)

MAN300FC

経営分析 I

高橋 美穂子

経営戦略学科専門科目 3～4 年次 / 2 単位 [春学期授業/Spring]

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、企業を分析・評価するための方法を学びます。企業評価論 I では、企業の過去から現在までの実績や特徴を分析する方法、企業評価論 II では、過去の実績に基づいて将来分析を行い、それを企業価値評価につなげる方法に焦点をあてて学びます。

企業評価論 I の授業では、はじめに、企業について調べたい、何らかの分析を行いたいと考えた時に、その企業を分析する上で有益な情報とその入手方法を説明します。次に、企業の経営環境や事業内容を理解するための情報や分析ツールを解説します。続いて、企業活動の成果や事業の特徴が財務諸表にどのように反映されるのかを理解するために、財務諸表の見方を解説します。最後に、収益性や安全性などの企業特性を評価するための財務比率や経営指標を説明します。

【到達目標】

この授業の到達目標は、

1. 企業活動と関連付けて財務諸表を読むことができる
2. 財務比率や経営指標の内容が理解できる
3. 分析の目的に応じて（上記 2 の）財務比率や経営指標を活用できることです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

授業は第 1 回はオンライン、第 2 回以降は対面で行います。初回のオンライン授業のリンクや講義に関する連絡事項は学習支援システム（Hoppii）でお知らせします。履修を希望される方は授業開始前に Hoppii の「お知らせ」を確認してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の進め方、経営分析、企業評価の意義と全体像
第 2 回	情報収集	重要な情報とその入手方法
第 3 回	事業の理解（1）	マクロ経済分析・産業分析
第 4 回	事業の理解（2）	企業戦略分析
第 5 回	事業の理解（3）	セグメント分析
第 6 回	会計分析（1）	財務諸表の構成要素と体系・会計情報の特徴
第 7 回	会計分析（2）	損益計算書の見方
第 8 回	会計分析（3）	貸借対照表の見方
第 9 回	会計分析（4）	キャッシュフロー計算書の見方
第 10 回	財務比率分析（1）	収益性の分析・ROA と ROE の関係、ROE の基本分解
第 11 回	財務比率分析（2）	利益率の分析
第 12 回	財務比率分析（3）	回転率の分析
第 13 回	財務比率分析（4）	安全性の分析
第 14 回	財務比率分析（5）	成長性の分析

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

前回の授業内容の復習と練習問題を行ってください。本授業の準備・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません。

【参考書】

桜井久勝著『財務諸表分析』、中央経済社、最新版。

S.H. ペンマン著、荒田映子他訳『アナリストのための財務諸表分析とバリュエーション』、有斐閣、2018 年。

ランドホルム他著、深井忠他訳『企業価値評価 eval による財務分析と評価』、マグロウヒル・エデュケーション、2015 年

K.G. バレブ他著、斎藤静樹監訳『企業分析入門』、東京大学出版会、2001 年。

【成績評価の方法と基準】

期末試験（100%）で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

実際の財務諸表を用いて企業の特徴を分析した点が面白かったとの意見がありましたので、引き続き財務諸表などの情報を活用しながら講義を進めます。

【学生が準備すべき機器他】

インターネットに接続可能なパソコンやタブレット端末を準備してください。

【その他の重要事項】

簿記 3 級程度（簿記入門 I/II、会計学入門 I/II）の内容は理解していることを前提に授業を進めます。知識が不足している学生は、簿記や会計の基礎的な知識を修得してから本授業を履修してください。

【関連科目】

財務会計論 I/II、国際会計論 I/II

【Outline (in English)】

(Course outline)

This course introduces how to analyze and value business firms. Students learn a framework for analyzing and evaluating firms by using financial information and other related information.

(Learning Objectives)

By the end of the course, students are expected to do the following:

1. Understand financial statements in relation to corporate activities
2. Understand major financial ratios and performance indicators
3. Utilize financial ratios and indicators (as described in 2. above) according to the purpose of analysis

(Learning activities outside of classroom)

After each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content since the contents of each class are highly related.

(Grading Criteria)

Grading will be decided based on term-end exam (100%).

MAN300FC

経営分析Ⅱ

高橋 美穂子

経営戦略学科専門科目 3～4 年次 / 2 単位 [秋学期授業/Fall]

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、企業を分析・評価するための方法を学びます。企業評価論Ⅱでは、企業評価論Ⅰで学んだ内容を掘り下げて、企業の過去の実績を分析するとともに、予測財務諸表を作成し、それを企業価値評価につなげる方法を学びます。

授業では、はじめに企業評価論Ⅰ（春学期）の内容で取り上げた主要な財務比率を復習します。次に、ROE を事業活動の成果と財務活動の効果に分解する上級 ROE 分解を解説し、事業活動の成果と資本構成の影響が ROE に与える影響を切り離して理解することを目指します。さらに、主要な財務比率に基づいて予測財務諸表を作成し、それをを用いて株主価値を推定する枠組みを解説します。

【到達目標】

この授業の到達目標は、

1. 財務比率や経営指標の意味を理解した上で、企業特性を把握するために利用できる
2. 資本利益率 (ROA・ROE) と資本コスト、企業 (株主) 価値の理論的關係が理解できる
3. 過去の実績や仮定に基づいて予測財務諸表を作成できる
4. 予測財務諸表を用いて株主価値を推定する方法が理解できることです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」、「DP1-2」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

授業は第1回はオンライン、第2回以降は対面で行います。初回のオンライン授業のリンクや講義に関する連絡事項は学習支援システム (Hoppii) でお知らせします。履修を希望される方は授業開始前に Hoppii の「おしらせ」を確認してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	講義の進め方、経営分析、企業評価の意義
第2回	春学期の復習 (1)	財務諸表の構成要素と体系
第3回	春学期の復習 (2)	ROE の基本分解
第4回	収益性の分析 (1)	ROE の上級分解 (1)：純事業資産利益率・有利子負債のコスト・レバレッジの関係を理解する
第5回	収益性の分析 (2)	ROE の上級分解 (2)：純事業資産利益率・純金融資産利益率・レバレッジの関係を理解する
第6回	収益性の分析 (3)	ROE の上級分解 (3)：純金融資産の保有が ROE に与える影響を理解する
第7回	成長性の分析	売上高成長率の仮定とサステナブル成長率を理解する
第8回	レバレッジの分析	信用分析とデフォルトの関係を理解する
第9回	企業価値評価の考え方や手法	マーケットアプローチ・インカムアプローチ・コストアプローチによる評価方法の特徴を理解する
第10回	貸借対照表項目の予測	過去の財務比率や将来の仮定に基づいて予測貸借対照表を作成する
第11回	損益計算書項目の予測	過去の財務比率や将来の仮定に基づいて予測損益計算書を作成する
第12回	貨幣の時間的価値と割引計算・資本コスト	資本コストの推定方法を学習する
第13回	株主価値評価の理論①	配当割引モデルと超過利益モデルを学習する
第14回	株主価値評価の理論②	予測財務諸表と超過利益モデルから株主価値を推定する方法を学習する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

前回の授業内容の復習と練習問題を行ってください。本授業の準備・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません。

【参考書】

桜井久勝著『財務諸表分析』、中央経済社、最新版。

S.H. ペンマン著、荒田映子他訳『アナリストのための財務諸表分析とバリエーション』、有斐閣、2018 年。

ランドホルム他著、深井忠他訳『企業価値評価 eval による財務分析と評価』、マグロウヒル・エデュケーション、2015 年

K.G. バレブ他著、斎藤静樹監訳『企業分析入門』、東京大学出版会、2001 年。

【成績評価の方法と基準】

期末試験 (100%) で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

実際の財務諸表を用いて企業の特徴を分析した点が面白かったとの意見がありましたので、引き続き財務諸表などの情報を活用しながら講義を進めます。

【学生が準備すべき機器他】

インターネットに接続可能なパソコンやタブレット端末を準備してください。

【その他の重要事項】

簿記3級程度 (簿記入門Ⅰ/Ⅱ、会計学入門Ⅰ/Ⅱ) ならびに企業評価Ⅰ (春学期) の内容を理解していることを前提に授業を進めます。知識が不足している学生は、該当科目を履修してからこの授業を受講してください。

【関連科目】

財務会計論Ⅰ/Ⅱ

【Outline (in English)】

(Course outline)

This course introduces how to analyze and value business firms. In this course, students will learn more advanced content from Business Analysis and Valuation I. Topics that will be covered are advanced ROE analysis, preparation of forecasted financial statements and valuation models.

(Learning Objectives)

By the end of the course, students are expected to do the following:

1. Comprehend financial ratios and performance indicators and be able to utilize them to understand the underlying corporate characteristics
2. Understand the relationship between return on capital (ROA and ROE), cost of capital, and corporate (shareholder) value
3. To be able to prepare forecasted financial statements
4. Understand how to estimate shareholder value using forecasted financial statements

(Learning activities outside of classroom)

After each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content since the contents of each class are highly related.

(Grading Criteria)

Grading will be decided based on term-end exam (100%).

MAN300FC

経営分析Ⅲ

福多 裕志

経営戦略学科専門科目 3～4 年次 / 2 単位 [春学期授業/Spring]

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

1982年にピーターズ、ウォータマンは、著書『In Search of Excellence』の中で、顧客から選択される素晴らしい企業になるためには、頑健な財務体質が重要であると説いている。われわれが企業あるいは企業グループの総合力を評価するとき、直感を含めた六感すべてを駆使し、「エクセレント!、すばらしい!、いまいち!」などと判断を下す。本科目のテーマは、いかなる組織（営利、非営利企業）にあっても必要となる財務諸表分析を中心とする経営分析の基礎知識とその応用を、実際に開示された財務データを処理しながら着実に習得することである。まず春学期では、製造業の財務諸表データに基づき各種の財務比率を計算し、企業や業界が内包する「問題点の所在の推定」を目指す。

【到達目標】

本講義では、経営分析の領域の一つである財務諸表分析にはほぼ焦点を絞り講義する。経営分析Ⅰでは、実在する上場製造企業の財務諸表を参照し、基礎統計学を援用しながら、財務体質の基本的な捉え方を学習する。この結果、参加者は、(1) 財務諸表分析の基本手続き (2) データベースを利用した財務指標の算出、(3) 安全性、効率性、収益性、成長性に関する具体的指標の算出と解釈について理解を深めることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-2」、「DP1-4」、「DP2-1」、「DP2-2」、「DP4」、「DP5」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

当授業では、まず春学期において会計理論に基づいた財務諸表分析の方法を学ぶ。インターネット上で公開されている財務諸表やオンライン・データベースを駆使し、比率分析、趨勢分析、クロスセクション分析、基礎統計学の経営分析への応用等を学習しながら企業分析の理解に役立つ授業を展開する。授業支援システムを利用し、さまざまな授業関連情報を提供するのので、受講者には頻りに同システムへのアクセスを推奨したい。

【重要】

第1回目の授業（ZOOM）を除き、キャンパス内での対面授業を実施する予定です。不明な点は、当授業の「授業内掲示板」までお尋ねください。ZOOM ID は、第1回目の授業迄に、当サイト上の「お知らせ」にて発表します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	年間講義計画	財務諸表分析の概要および年間講義計画の説明
第2回	経営分析の目的と財務データ	経営分析の目的およびインターネット上の入手可能財務データの検索
第3回	財務諸表の枠組み：BSとIS	貸借対照表、損益計算書の構造、ストック項目、フロー項目等の概念説明
第4回	財務諸表の枠組み：CFS	キャッシュ・フロー計算書および百分率財務諸表の構造。基本統計量のまとめ
第5回	短期の財務安全性	短期的財務安全性の意味およびそれに関連する具体的指標 - 流動比率、当座比率等の説明
第6回	長期の財務安全性	長期の財務安全性に関連する指標 - 自己資本比率、固定比率、固定長期適合率等の説明
第7回	効率性：その1	効率性の意味およびそれに関連する具体的指標 - 総資本回転率、棚卸資産回転率等の説明
第8回	効率性：その2	売上債権回転率、固定資産回転率、有形固定資産減価償却率、設備投資効率、付加価値等の説明
第9回	収益性：その1	収益性の意味および主として売上高や資産と関連する指標 - ROS、ROE、ROA 等について説明
第10回	収益性：その2	オペレーティング・レバレッジ、変動費、固定費、総費用等の諸概念の確認
第11回	損益分岐点分析の基本	固定分解、最小二乗法
第12回	損益分岐点分析 - 短期利益計画への応用：その1	損益分岐点比率、安全余裕率
第13回	損益分岐点分析 - 短期利益計画への応用：その2	エクセル上での損益分岐点分析の展開

第14回 成長性および総括

代表的なストック項目およびフロー項目に関する増減率等の説明および春学期全体の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業およびスライド等で指示される文献を充分予習すること。「学習支援システム」へ頻りにアクセスし、必要なデータやスライドを入手すること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

参考文献を基に資料・スライドを作成し、講義する。すべて「学習支援システム」に掲載されるので必ず参照すること。

【参考書】

- 1) 青木茂男編著『要説 経営分析 六訂版』森山書店、2022年。
- 2) 奥野忠一・山田文道『情報化時代の経営分析』東京大学出版会、1995年。
- 3) 菊池誠一『キャッシュフロー計算書 その作成と分析・評価』中央経済社、1999年。
- 4) 菊池誠一『連結財務分析入門』中央経済社、2002年。
- 5) 國部克彦『アメリカ経営分析発達史』白桃書房、1994年。
- 6) 國貞克則『財務3表実践活用法』（朝日新書）朝日新聞出版、2012年。
- 7) 鳥邊晋司他『会計情報と経営分析』中央経済社、1996年。
- 8) 西山茂『企業分析シナリオ 第2版』東洋経済新報社、2006年。
- 9) 野村健太郎『連結企業集団の経営分析 全訂版』税務経理協会、2003年。
- 10) 宮川公男『新版 意思決定論 基礎とアプローチ』中央経済社、2010年。

【成績評価の方法と基準】

期末筆記試験 80%、発表 20%

受講者には、授業への出席と継続的な問題演習を強く期待したい。

【学生の意見等からの気づき】

実社会において取り上げられる経営分析関連の話題をより分かり易く解説することを旨とする。

【学生が準備すべき機器他】

授業および試験の際、電卓を必ず持参すること。なお、PCを持参し、自らデータ処理を行えば財務諸表分析力は飛躍的に向上するであろう。

【その他の重要事項】

本科目の内容を初めて学習する方は、毎回授業に出席し、自ら計算問題等を解く努力をしなければ単位修得は極めて困難となる。継続的学習が必須である。関連科目：管理会計論Ⅰ/Ⅱ、経営管理論Ⅰ/Ⅱ、基礎統計学Ⅰ/Ⅱ

【重要事項】

感染状況の変化により、大学の方針に基づき対面授業からオンライン授業への切り替えもありうることを予めご了承ください。不明な点や質問の有る方は、Hoppii「経営分析論Ⅰ」の「授業内掲示板」より遠慮なくお尋ねください。

【Outline (in English)】

【Course outline and objectives】

Stakeholders need to be able to analyze and interpret the company's financial statements. Precise analysis of these documents can help both internal and external decision-makers evaluate an organization's past performance and predict its future performance. In 'Business Analysis I' we will focus our attention on some basic and important ratios, concepts and other analytical tools.

【Learning activities outside of classroom】

Participants are expected to ensure that they prepare and review for the class by solving assignments.

【Grading criteria】

Contributions to class activities (20%), final exam (80%)

MAN300FC

経営分析Ⅳ

福多 裕志

経営戦略学科専門科目 3～4 年次 / 2 単位 [秋学期授業/Fall]

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

1982年にピーターズ、ウォータマンは、著書『In Search of Excellence』の中で、顧客から選択される素晴らしい企業になるためには、頑健な財務体質が重要であると説いている。われわれが企業あるいは企業グループの総合力を評価するとき、直感を含めた六感すべてを駆使し、「エクセレント!、すばらしい!、いまいち!」などと判断を下す。本科目のテーマは、いかなる組織（営利、非営利企業）にあっても必要となる財務諸表分析を中心とする経営分析の基礎知識とその応用を、実際に開示された財務データを処理しながら着実に習得することである。秋学期では、製造業の財務諸表データに基づき幾つかの財務比率を計算し、その後、企業の合理的な経済的意思決定モデルと創出した会計情報の価値を算出する。

【到達目標】

本講義では、実在する上場企業の財務諸表を参照し、基礎統計学を援用しながら、秋学期は株価関連指標から学習を開始し、次に経済合理的意思決定を促進する観点より、リスクおよび不確実性下での意思決定モデルを考察する。最終段階では、創出した財務情報の価値、価格付け等について学習する。この結果、参加者は、(1) 株価関連指標、(2) 総合評価の方法、(3) リスクおよび不確実性下での意思決定モデル、(4) 創出情報の価値算出等について理解を深めることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-2」、「DP1-4」、「DP2-1」、「DP2-2」、「DP4」、「DP5」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

当授業では、インターネット上で公開されている財務諸表やオンライン・データベースを駆使し、比率分析、趨勢分析、クロスセクション分析、基礎統計学の経営分析への応用等を学習しながら企業分析の理解に役立つ授業を展開する。授業支援システムを利用し、さまざまな授業関連情報を提供するので、受講者には頻りに同システムへのアクセスを推奨したい。

【重要】

第1回目の授業（ZOOM）を除き、キャンパス内での対面授業を実施する予定です。不明な点は、当授業の「授業内掲示板」までお尋ねください。ZOOM ID は、第1回目の授業迄に、当サイト上の「お知らせ」にて発表します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	秋学期講義計画および株価関連指標：その1	一株当たり利益、株価収益率等の検討
第2回	株価関連指標：その2	株価純資産倍率、株価キャッシュ・フロー倍率の説明と評価
第3回	外国企業の財務諸表分析：その1	オンライン・データベースよりグローバル企業の財務データ抽出と国際比較
第4回	外国企業の財務諸表分析：その2	EDGARより米国企業の財務情報を入力し、日米企業の財務体質比較
第5回	総合評価：その1	学習した各指標を活用し、企業の財務体質を総合的に評価する方法を考察
第6回	総合評価：その2	学習したさまざまな財務指標を活用し、企業の財務体質を統計的手法に基づき評価する方法を考察
第7回	経営分析の応用：その1	財務諸表分析情報に基づき、リスク下における意思決定原理－要求水準原理、最尤未来原理等－について考察
第8回	経営分析の応用：その2	財務諸表分析情報に基づき、不確実性下における意思決定原理－ラプラス原理、マクシミン原理、ミンマックス原理等の考察
第9回	経営分析の応用：その3	財務諸表分析情報に基づき、不確実性下におけるサヴェッジ原理の考察
第10回	経営分析の応用：その4	財務諸表分析情報に基づき、不確実性下におけるサヴェッジ原理の考察
第11回	会計情報の価値Ⅰ	会計情報の一般的定義および情報価値計算の手続き
第12回	会計情報の価値Ⅱ	事前確率、条件付き確率、同時確率、事後確率、ベイズ定理等の学習
第13回	会計情報の価値Ⅲ	創出されたさまざまな情報の価値計算
第14回	会計情報の価値Ⅳ	会計情報の価値に関する問題演習とその解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業およびスライド等で指示される文献を充分予習すること。「学習支援システム」へ頻りにアクセスし、必要なデータやスライドを入手すること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

参考文献を基に資料・スライドを作成し、講義する。すべて「学習支援システム」に掲載されるので必ず参照すること。

【参考書】

- 1) 青木茂男編著『要説 経営分析 六訂版』森山書店、2022年。
- 2) 奥野忠一・山田文道『情報化時代の経営分析』東京大学出版会、1995年。
- 3) 菊池誠一『キャッシュフロー計算書 その作成と分析・評価』中央経済社、1999年。
- 4) 菊池誠一『連結財務分析入門』中央経済社、2002年。
- 5) 國部克彦『アメリカ経営分析発達史』白桃書房、1994年。
- 6) 國貞克則『財務3表実践活用法』（朝日新書）朝日新聞出版、2012年。
- 7) 鳥邊晋司他『会計情報と経営分析』中央経済社、1996年。
- 8) 西山茂『企業分析シナリオ 第2版』東洋経済新報社、2006年。
- 9) 野村健太郎『連結企業集団の経営分析 全訂版』税務経理協会、2003年。
- 10) 宮川公男『新版 意思決定論 基礎とアプローチ』中央経済社、2010年。

【成績評価の方法と基準】

期末筆記試験 80%、発表 20%

受講者には、授業への出席と継続的な問題演習を強く期待したい。

【学生の意見等からの気づき】

実社会において取り上げられる経営分析関連の話題をより分かり易く解説したい。

【学生が準備すべき機器他】

授業および試験の際、電卓を必ず持参すること。なお、PCを持参し、自らデータ処理を行えば財務諸表分析力は飛躍的に向上するであろう。

【その他の重要事項】

本科目の内容を初めて学習する方は、毎回授業に出席し、自ら計算問題等を解く努力をしなければ単位修得は極めて困難となる。継続的学習が必須である。関連科目：管理会計論Ⅰ/Ⅱ、経営管理論Ⅰ/Ⅱ、基礎統計学Ⅰ/Ⅱ

【重要事項】

感染状況の変化により、大学の方針に基づき対面授業からオンライン授業への切り替えもありうることを予めご了解ください。不明な点や質問の有る方は、Hoppii「経営分析論Ⅱ」の「授業内掲示板」より遠慮なくお尋ねください。

【Outline (in English)】

【Course outline and objectives】

Stakeholders need to be able to analyze and interpret the company's financial statements. Precise analysis of these documents can help both internal and external decision-makers evaluate an organization's past performance and predict its future performance. In 'Business Analysis I' we focused our attention on some basic and important ratios, concepts and other analytical tools. In 'Business Analysis II' comprehensive evaluation and decision-making process will be discussed based on ratios discussed in the spring semester.

【Learning activities outside of classroom】

Participants are expected to ensure that they prepare and review for each class by solving assignments.

【Grading criteria】

Contributions to class activities (20%), final exam (80%)

MAN200FD

日本経営論 I

金 容 度

市場経営学科専門科目 200 番台市場経営学科専門科目 2～4（市場経営学科）3～4（経営学科・経営戦略学科）年次／2 単位 [春学期授業/Spring]

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本の企業経営の現状と歴史を国際比較の視点から講義すると共に、関連する論点についてのディスカッションを行う。それによって、日本の企業システムについての理解を深めると共に、日本企業の諸現象を論理的に考える能力を高める。

【到達目標】

この授業の到達目標は、第 1 に、国際比較を通じて日本の企業システムの特殊性と普遍性を理解すること、第 2 に、日本の企業システムにおける組織性と市場性の両面を理解すること、第 3 に、日本の企業経営の現状と歴史の関連についての思考能力を高めることである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」に関連が特に強く、「DP4」、「DP5」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

毎週の授業は、講義とディスカッションを織り交ぜて行われる。ディスカッション時の発言者には加算点が与えられる。また、学期ごとに 1 回、授業と関連する文章を読んで感想文を書く時間を設け、その内容によって加算点も与える。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の進め方について案内し、日本の企業経営に関する論点についてディスカッションする。
第 2 回	日本の企業システムの特徴	企業内部の組織と活動、企業間関係などの特徴を概観する。
第 3 回	日本企業のトップマネジメント	戦後日本の経営者の属性とキャリア、経営上の特性、経営者報酬などについて講義する。
第 4 回	トップマネジメントの日米比較	20 世紀の日米企業の経営者にどのような共通点と相違点があるかを講義する。
第 5 回	日本のコーポレートガバナンス	日本企業のコーポレートガバナンス（企業統治）の特徴を検討する。
第 6 回	日本のコーポレートガバナンスの変化	1990 年代以降、日本のコーポレートガバナンスはどのように変化しているかを講義する。
第 7 回	コーポレートガバナンスの日独比較	日本とドイツのコーポレートガバナンスにどのような共通点と相違点を講義する。
第 8 回	コーポレートガバナンスの日米比較	日本とアメリカのコーポレートガバナンスにどのような共通点と相違点を講義する。
第 9 回	日本企業の研究開発	戦後日本企業の研究及び開発活動の特徴を講義する。
第 10 回	労使関係・人的資源管理の日米比較①	日本的経営の「3 種の神器」といわれるのがすべて労使関係及び人的資源管理と絡んでいる点に着目して、工業化初期における日米の労使関係・人的資源管理の共通点について講義する。
第 11 回	労使関係・人的資源管理の日米比較②	内部労働市場が形成された戦後日米企業で、70 年代まで、労使関係・人的資源管理にどのような共通点と相違点があったかを講義する。
第 12 回	労使関係・人的資源管理の日米比較③	1980 年代以降最近まで、日米企業の労使関係・人的資源管理においてどのような共通点と相違点があったかを講義する。
第 13 回	日本企業の資金調達	戦後日本企業の資金調達行動を時期別に分析、講義する。
第 14 回	日本の企業経営の展望	今後の日本の企業経営の展望について講義、議論する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストで毎週の授業分の内容を読んでから授業に参加すること。なお、授業補助資料がある週の授業には、「授業支援システム」にアップロードする授業補助資料を読んでから参加すること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

金容度 (2023)『日本経営論』博英社。なお、授業の補助資料は授業支援システムに掲載する。

【参考書】

- ①橋本寿朗・長谷川信・宮島英昭・斉藤直 (2018)『現代日本経済第 4 版』有斐閣
- ②金容度 (2021)『日本の企業間取引』有斐閣
- ③小池和男 (1991)(2005)『仕事の経済学』東洋経済新報社、第 1 版及び第 3 版
- ④鈴木良隆・大東英祐・武田晴人 (2004)『ビジネスの歴史』有斐閣

【成績評価の方法と基準】

成績評価基準は、期末試験 (70 %)、授業中の小試験 (30 %) である。授業中の小試験は 3 回行われる。また、ディスカッション時の発言者には加算点を与える上、ディスカッション・シート、授業中に作成する感想文 (1 回) についても内容によって加算点を与える。

【学生の意見等からの気づき】

ディスカッション・シートなどで提出される受講者からの質問に答える時間を増やす。

【その他の重要事項】

授業中の私語は絶対禁ずる。

【Outline (in English)】

【Course outline】 Every week class consists of lecture, discussion on business management in Japan and Q&A. Discussion sheets to be submitted will be made in discussion time of every class. You will learn logical thinking and knowledge on Japanese management by lecture, discussion and Q&A.

【Learning Objectives】 The Learning Objective of this course is to understand business management in Japan more deeply on the perspective of international comparisons.

【Learning activities outside of classroom】 Attend every week class after reading the references. The references of every week class will be uploaded to the "Hoppii" one week before. It will take more than two hours to prepare for and to review every week class.

【Grading Criteria /Policy】 Final test(70 percent) and small tests(30 percent).

MAN200FD

日本経営論Ⅱ

金 容 度

市場経営学科専門科目 200 番台市場経営学科専門科目 2～4（市場経営学科）3～4（経営学科・経営戦略学科）年次／2 単位 [秋学期授業/Fall]

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

市場性と組織性の絡み合い、国際比較という視角から日本の企業間関係の現状と歴史を講義すると共に、関連する論点についてのディスカッションを行う。具体的に、メインバンクシステム、企業間ものの取引（鉄鋼、自動車部品、半導体、液晶部材）が取り上げられる。国際比較の対象は、日本、アメリカ、ドイツである。

それによって、日本の企業間関係についての理解を深めると共に、企業間関係の諸現象を論理的に考える能力を高めることが本授業の目的である。

【到達目標】

この授業の到達目標は、第 1 に、国際比較を通じて日本の企業間関係の特殊性と普遍性を理解すること、第 2 に、日本の企業間関係における組織性と市場性の両面を理解すること、第 3 に、日本の企業間関係の現状と歴史の関連についての思考能力を高めることである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」に関連が特に強く、「DP4」、「DP5」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

毎週の授業は、講義とディスカッションを織り交ぜて行われる。ディスカッション時の発言者には加算点を与えられる。また、学期ごとに 1 回、授業と関連する文章を読んで感想文を書く時間を設け、その内容によって加算点も与える。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	企業間関係をみる理由と視点	なぜ、どのように企業間関係をみるかについて講義する。
第 2 回	日本の企業間関係の特徴と日米共通点	日本の企業間関係の特徴を概観すると共に、国際比較の視点から、企業間関係の日米共通点を考察する。
第 3 回	メインバンクシステム 1	組織性と市場性に焦点を合わせて、日本のメインバンクシステムの特徴を検討する。
第 4 回	メインバンクシステム 2	日本のメインバンクシステムの機能を考察する。
第 5 回	メインバンクシステム 3(日独比較)	ドイツと日本のメインバンクシステム間の共通点と相違点を考察する。
第 6 回	メインバンクシステム 4(新たな展開)	メインバンクシステムにおける新たな動きについて検討する。
第 7 回	自動車部品の企業間取引 1(日本の特徴)	日本のサプライヤーシステムの代表的な産業である自動車産業を取り上げ、企業間取引の特徴を考察する。
第 8 回	自動車部品の企業間取引 2(日米比較)	日米の共通点に着目して、1900 年代～1910 年代のアメリカと戦後日本の自動車部品取引を比較検討する。
第 9 回	自動車部品の企業間取引 3(日米比較②)	日米の共通点に着目して、1920 年代～40 年代のアメリカと戦後日本の自動車部品取引を比較検討する。
第 10 回	自動車部品の企業間取引 4(日独比較)	ドイツと日本の自動車部品取引の共通点と相違点を分析する。
第 11 回	鉄鋼の企業間関係 1	「産業の米」といわれる素材、鉄鋼の企業間取引について検討する。
第 12 回	鉄鋼の企業間関係 2(日米比較)	自動車向け鉄鋼の企業間取引を事例に、日米間にどのような共通点と相違点が現れるかを考察する。
第 13 回	液晶部材の企業間関係	日本企業の競争力が極めて高い液晶部材産業を取上げ、企業間取引を検討する。
第 14 回	日本の企業間関係の展望	今後の日本の企業間関係の展望について講義、議論する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストで毎週の授業分の内容を読んでから授業に参加すること。なお、授業補助資料がある週の授業には、「授業支援システム」にアップロードする授業補助資料を読んでから参加すること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

金容度 (2023)『日本経営論』博英社。なお、授業の補助資料は授業支援システムに掲載する。

【参考書】

- ①金容度 (2021)『日本の企業間取引-市場性と組織性の歴史構造』有斐閣
- ② Kim,Yongdo(2015).The Dynamics of Inter-firm Relationships: Markets and Organization in Japan.Cheltenham: Edward Elgar Publishing Ltd.
- ③金容度 (2006)『日本 IC 産業の発展史-共同開発のダイナミズム』東京大学出版会
- ④浅沼萬里 (1997)『日本の企業組織革新的適応のメカニズム:長期取引関係の構造と機能』東洋経済新報社

【成績評価の方法と基準】

日本経営論Ⅱの成績評価基準は、期末試験 70 %、授業中の小テスト 30 % (1 回 10 % ×3 回)。また、ディスカッション時の発言者には加算点を与える上、ディスカッション・シート、授業中に作成する感想文 (1 回) についても内容によって加算点を与える。

【学生の意見等からの気づき】

授業中、質問を受け付け、答える時間を増やす。

【その他の重要事項】

授業中の私語を禁じる

【Outline (in English)】

【Course outline】 Every week class consists of lecture, discussion on the inter-firm relationships in Japan and Q&A. Discussion sheets to be submitted will be made in discussion time of every class. You will learn logical thinking and knowledge on the inter-firm relationships by lecture, discussion and Q&A.

【Learning Objectives】 The Learning Objective of this course is to understand the inter-firm relationships in Japan more deeply on the perspective of international comparisons.

【Learning activities outside of classroom】 Attend every week class after reading the references. The references of every week class will be uploaded to the "Hoppii" one week before. It will take more than two hours to prepare for and to review every week class.

【Grading Criteria /Policy】 Final test(70 percent) and small tests(30 percent).

ECN200FD

デリバティブ入門Ⅰ（2019年度以降入学者）

山崎 輝

市場経営学科専門科目 200 番台 2～4（市場経営学科）3～4（経営学科・経営戦略学科）年次／2 単位 [春学期授業/Spring]

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、デリバティブ（金融派生商品）の入門的な内容を講義します。まずは「デリバティブとはなにか？」から始まりますが、すぐに金融や財務の様々な場面でデリバティブ取引が活用されていることが理解できるでしょう。ファイナンスの重要な概念である「無裁定条件」を前提とするデリバティブの価格決定理論を学ぶことが講義の主目的となりますが、それと並行して金融実務での活用例も詳しく解説します。さらには、デリバティブ理論の応用編として、「将来の為替レートは予想できるのか？」や「中央銀行の金融政策を占うには？」などのトピックを取り上げます。また、デリバティブに関連する歴史や事件なども適宜紹介します。講義内容は金融実務の資格試験「証券外務員一種」、「証券アナリスト（一次試験）」、「FP（フィナンシャル・プランナー）技能士」に関連しています。

【到達目標】

次の4つを到達目標に掲げます。

- (1) 金融・証券の基礎知識に基づき、金融に関連するニュースを正しく理解できる。
- (2) 先渡取引や先物取引のしくみや活用方法を説明できる。
- (3) 無裁定条件に基づくデリバティブの価格決定理論がわかる。
- (4) 金融市場やデリバティブ取引の初歩的な分析ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」に関連が特に強く、「DP1-3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

この授業はオンデマンド授業（フルオンデマンド型）となります。履修希望者は学習支援システムで授業の仮登録をしてください。授業のアクセス方法等に関しては、学習支援システムに仮登録されているメールアドレス宛に案内します。授業中に計算することがありますので、電卓（関数電卓やタブレット、ノート PC の表計算ソフトを利用してもよい）を用意してください。小テストのフィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の進め方や成績評価方法などの説明
第2回	金融・証券市場の基礎知識 (1)	債券市場、株式市場、外国為替市場などの概説
第3回	金融・証券市場の基礎知識 (2)	デリバティブ市場の概説
第4回	キャッシュフローと現在価値 (1)	将来価値と現在価値の概念
第5回	キャッシュフローと現在価値 (2)	複利、付利期間、割引因子などの概念
第6回	効率的市場と無裁定価格	株式市場を巡る論争と効率的市場仮説、無裁定条件と無裁定価格
第7回	先渡取引 (1)	先渡取引の概要、為替予約とその活用方法
第8回	先渡取引 (2)	先渡価格の決定理論、フォワード・プレミアム・パズル
第9回	先物取引 (1)	先物取引の概要、日経平均先物とその活用方法
第10回	先物取引 (2)	先物価格の決定理論
第11回	債券と金利の関係 (1)	債券価格と利回り計算
第12回	債券と金利の関係 (1)	スポットレート、バーレート、短期金利
第13回	先渡取引 (3)	FRA とその活用方法
第14回	先渡取引 (4)	先渡金利の決定理論、中央銀行の金融政策を占う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義資料の復習をしっかりと行ってください。指定した参考書を併用すると理解が深まります。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は指定しません。講義資料は各自で学習支援システムの「教材」からダウンロードしてください。

【参考書】

- (1) 岸本直樹・池田昌幸、『入門・証券投資論』、2019年、有斐閣
- (2) フィナンシャルバンクインスティテュート編、『うかる！証券外務員一種必修テキスト 2022-2023年版』、2022年、日本経済新聞出版社

- (3) 佐野三郎、『改訂版 パーフェクト証券アナリスト第1次レベル』、2022年、ビジネス教育出版社

- (4) ジョン・ハル、『先物・オプション取引入門』、2001年、ピアソン・エデュケーション

【成績評価の方法と基準】

試験期間中に行う定期試験（80%）と授業期間中の小テスト（20%）で評価します。小テストの実施については、学習支援システムの「お知らせ」で案内します。

【学生の意見等からの気づき】

金融実務での実例をたくさん紹介することで、デリバティブ取引やその理論が理解しやすくなるように工夫します。

【学生が準備すべき機器他】

電卓（関数電卓やタブレット、ノート PC の表計算ソフトを利用してもよい）を用意してください。

【その他の重要事項】

講義内容は金融実務の資格試験「証券外務員一種」、「証券アナリスト（一次試験）」、「FP（フィナンシャル・プランナー）技能士」などに関連しています。

【関連科目】

ファイナンス入門、デリバティブ入門Ⅱ、投資入門、ポートフォリオ理論入門、コーポレートファイナンス入門Ⅰ/Ⅱ、Excel で学ぶファイナンス理論Ⅰ/Ⅱ

【実務経験のある教員による授業】

民間金融機関や中央銀行において、デリバティブ取引やデリバティブ開発などの金融実務に通常 14 年間携わりました。授業では、実際の金融ビジネスとデリバティブの基礎理論の関わりをわかり易く解説します。

【Outline (in English)】

[Course outline] This course provides students with an introduction to derivatives. [Learning objective] It has four objectives: (1) To give the fundamental knowledge of financial system and derivative markets. (2) To teach the basics of derivative transactions and their applications in practice. (3) To offer the concept of the arbitrage-free pricing to evaluate derivative products including forwards and futures. (4) To introduce the applications of the derivative theory to some topics such as the forward premium puzzle. [Learning activities outside of classroom] Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content. [Grading criteria] Your overall grade in the class will be decided based on the following. Term-end examination: 80%, short examination: 20%.

ECN200FD

デリバティブ入門Ⅱ（2019年度以降入学者）

山崎 輝

市場経営学科専門科目 200 番台 2～4（市場経営学科）3～4（経営学科・経営戦略学科）年次／2 単位 [秋学期授業/Fall]

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、デリバティブ（金融派生商品）の入門的な内容を講義します。特に、最も重要なデリバティブである「オプション」のしくみと価格決定理論を学ぶことが主な目的となります。また、金融実務におけるオプション取引やスワップ取引の活用例も詳しく説明します。さらには、デリバティブ理論の応用編として、「様々な相場観に基づく投資戦略」や「株式公開買い付け（企業買収）の分析」などのトピックを取り上げます。また、デリバティブに関連する歴史や事件なども適宜紹介します。講義内容は金融実務の資格試験「証券外務員一種」、「証券アナリスト（一次試験）」、「FP（フィナンシャル・プランナー）技能士」に関連しています。

【到達目標】

次の4つを到達目標に掲げます。

- (1) 金融・証券の基礎知識に基づき、金融に関連するニュースを正しく理解できる。
- (2) スワップ取引やオプション取引のしくみや活用方法を説明できる。
- (3) 無裁定条件に基づくデリバティブの価格決定理論がわかる。
- (4) 金融市場やデリバティブ取引の簡単な計量分析ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」に関連が特に強く、「DP1-3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

この授業はオンデマンド授業（フルオンデマンド型）となります。履修希望者は学習支援システムで授業の仮登録をしてください。授業のアクセス方法等に関しては、学習支援システムに仮登録されているメールアドレス宛に案内します。授業中に計算することがありますので、電卓（関数電卓やタブレット、ノート PC の表計算ソフトを利用してもよい）を用意してください。小テストのフィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の進め方や成績評価方法などの説明
第 2 回	デリバティブ入門Ⅰの復習	現在価値、無裁定条件、先物取引、先物取引、債券価格と利回り計算などの復習
第 3 回	スワップ取引 (1)	IRS とその活用方法
第 4 回	スワップ取引 (2)	通貨スワップとその活用方法
第 5 回	スワップ取引 (3)	スワップレートの決定理論
第 6 回	オプション取引 (1)	コールとプット、プット・コール・パリティ
第 7 回	オプション取引 (2)	オプションの活用方法
第 8 回	ファイナンスのための確率論入門	確率、確率変数、期待値などの諸概念
第 9 回	オプション価格理論 (1)	1 期間 2 項モデルによるオプション価格の算出
第 10 回	オプション価格理論 (2)	リスク中立確率とデリバティブの価格評価
第 11 回	オプション価格理論 (3)	Yahoo! JAPAN による ZOZO の株式公開買い付け
第 12 回	オプション価格理論 (4)	2 期間 2 項モデルによるオプション価格の算出
第 13 回	オプション価格理論 (5)	動的複製ポートフォリオとデルタ
第 14 回	オプション価格理論 (6)	ブラック・ショールズ理論の概説と最近の動向

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義資料の復習をしっかりと行ってください。指定した参考書を併用すると理解が深まります。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は指定しません。講義資料を各自でダウンロードしてください。ダウンロードの方法は講義初回に説明します。

【参考書】

- (1) 岸本直樹・池田昌幸、『入門・証券投資論』、2019 年、有斐閣
- (2) フィナンシャルバンクインスティテュート編、『わかる！証券外務員一種必修テキスト 2022-2023 年版』、2022 年、日本経済新聞出版社
- (3) 佐野三郎、『改訂版 パーフェクト証券アナリスト第 1 次レベル』、2022 年、ビジネス教育出版社
- (4) ジョン・ハル、『先物・オプション取引入門』、2001 年、ピアソン・エデュケーション

【成績評価の方法と基準】

試験期間中に行う定期試験（80 %）と授業期間中の小テスト（20 %）で評価します。小テストの実施については、学習支援システムの「お知らせ」で案内します。

【学生の意見等からの気づき】

金融実務での実例をたくさん紹介することで、デリバティブ取引やその理論が理解しやすくなるように工夫します。

【学生が準備すべき機器他】

電卓（関数電卓やタブレット、ノート PC の表計算ソフトを利用してもよい）を用意してください。

【その他の重要事項】

講義内容は金融実務の資格試験「証券外務員一種」、「証券アナリスト（一次試験）」、「FP（フィナンシャル・プランナー）技能士」などに関連しています。

【関連科目】

ファイナンス入門、デリバティブ入門Ⅰ、投資入門、ポートフォリオ理論入門、コーポレートファイナンス入門Ⅰ/Ⅱ、Excel で学ぶファイナンス理論Ⅰ/Ⅱ

【実務経験のある教員による授業】

民間金融機関や中央銀行において、デリバティブ取引やデリバティブ開発などの金融実務に通算 14 年間携わりました。授業では、実際の金融ビジネスとデリバティブの基礎理論の関わりをわかり易く解説します。

【Outline (in English)】

[Course outline] This course provides students with an introduction to derivatives. [Learning objective] It has four objectives: (1) To give the fundamental knowledge of financial system and derivative markets. (2) To teach the basics of derivative transactions and their applications in practice. (3) To offer the concept of the arbitrage-free pricing to evaluate derivative products including swaps and options. (4) To introduce the applications of the derivative theory to some topics such as takeover bid (TOB). [Learning activities outside of classroom] Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content. [Grading criteria] Your overall grade in the class will be decided based on the following. Term-end examination: 80%, short examination: 20%.

ECN300FD

産業組織論 I

大木 良子

市場経営学科専門科目 300 番台市場経営学科専門科目 3~4 年次 / 2 単位 [春学期授業/Spring]

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

経済学のモノの見方を通して、企業の意思決定や産業の構造について考察する方法を学ぶ。普段目にする価格付けや、製品の差別化、企業間の合併や契約などについて、経済学の分析手法を用いてそのメカニズムを整理し、市場競争に与える影響を明らかにする力をつけることを目指す。

具体的には、寡占競争、製品差別化、価格差別、垂直的な取引契約、合併など産業組織論の各トピックをミクロ経済学の理論を道具として分析し、それに対応する現実の事例について、理論分析の結果と現実との一致や相違点について考察する。

I では、まず、より現実的な市場競争の構造である寡占市場を理論的に分析する方法を学ぶ。カルテルや価格差別など市場で実際に見られる競争政策上の問題についても理論的に分析する。

【到達目標】

産業組織論の基本的な考え方・もの見方を自分のものにし、それを応用して具体的な企業や市場について自分の考えを論述することができるようになることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-3」、「DP4」に関連が特に強く、「DP1-1」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

オンデマンド型オンライン授業として、全 14 回、YouTube による動画配信で授業を実施する。

全て講義形式で行い、講義にはスライドを用いる。授業内課題として、授業で学んだ理論を企業の事例に応用する問題や、理論的な理解を問う問題を出題し、それを宿題として提出することにより、各回の講義内容の理解を深める。学習内容の確認のために、オンラインでの中間試験、また期末試験を行う。学習支援システムの掲示板やオフィスアワーを活用して、随時、受講者とインタラクションを持つ機会を確保する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	ミクロ経済学で「企業」「市場（産業）」「政府」はどのように扱われているか？ 企業の数と競争の度合いとの関係（市場集中度） 独占市場、完全競争市場、寡占市場とは？
第 2 回	ミクロ経済学の復習と産業組織論のトピックの概観	企業は何を決めることができるのか？ 企業の利潤はどのように決まるのか？ 完全競争市場、独占市場それぞれのメカニズムを確認する。
第 3 回	独占	独占企業の行動と完全競争市場における企業の行動との違いとは？ なぜ独占になるのか？（規模の経済・自然独占）
第 4 回	価格差別（1）	価格差別の定義と経済モデルの紹介
第 5 回	価格差別（2）	価格差別が市場競争に与える影響と競争政策
第 6 回	価格差別（3）	価格差別の現実の事例を理論的に分析する（携帯電話や飛行機チケットなど）
第 7 回	中間試験	これまでの学習内容について計算問題・論述問題を出題。試験終了後解説を行う。
第 8 回	寡占（1）	数量を決定して競争する場合（クールノー競争）企業の数が増えたり減ったりすると競争はどのように変わっていくか？
第 9 回	寡占（2）	価格を決定して競争する場合（バルトラン競争） クールノー競争との違い
第 10 回	ゲーム理論（1）	ゲーム理論とはなにか？ ゲーム理論を使うとどのような分析が可能になるのか？
第 11 回	ゲーム理論（2）	いろいろなゲームの均衡を求める。
第 12 回	ゲーム理論（3）	ゲーム理論を用いて寡占市場における数量競争・価格競争を再考する。
第 13 回	競争政策と産業組織論・事例分析	競争政策の基礎を学ぶ。 現実に競争政策上問題とされた事件を産業組織論を用いて分析する。

第 14 回 問題演習

春学期に学んだ内容について練習問題を解き解説する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

中間試験・期末試験を念頭に、授業後の復習が必要です。各トピックに応じて紹介する参考文献での自主学習も期待しています。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

講義中に以下の参考書の該当箇所を適宜紹介します。自主的に読むことで一層の学習効果が期待できます。

『産業組織とビジネスの経済学』花崗誠著、有斐閣、2018 年

『ミクロ経済学』伊藤元重著、日本評論社、2018 年

『入門 ゲーム理論と情報の経済学』神戸伸輔著、日本評論社、2004 年

『プラクティカル 産業組織論』泉田・柳川著、有斐閣アルマ、2013 年

『産業組織の経済学 第 2 版』長岡・平尾著、日本評論社、2013 年

『イノベーション時代の競争政策』小田切宏著、有斐閣、2016 年

『競争政策論 第 2 版』小田切宏著、日本評論社、2017 年

『経営の経済学 第 3 版』丸山雅祥著、有斐閣、2017 年

【成績評価の方法と基準】

宿題 20 %

中間試験 15 %

期末試験 65 %

【学生の意見等からの気づき】

受講生のレベルや関心に合わせ、授業内容の難易度やスピード、扱うトピックを調整していきます。

【学生が準備すべき機器他】

授業動画の URL、関連するスライド等の資料や、宿題、中間試験、期末試験等の重要なお知らせは、学習支援システムに掲載します。

宿題も、学習支援システムを通じて提出して頂きます。

学習支援システムへの頻繁なアクセスや、オンラインでの宿題の提出が出来る環境が必要になります。

【その他の重要事項】

ミクロ経済学について基本的な知識を習得していること、または同時に履修して学習していることを受講の前提とします。

産業組織論 I と II は密接に関係しているため、産業組織論の全体を理解するためにも、連続した履修を強く薦めます。（春学期の I の内容を前提として秋学期の II が進められます。I を履修せず II を履修する場合は、関連する箇所については自習によってキャッチアップしてください）

この授業は、経済学入門、ミクロ経済学入門 I / II、経営のための経済学と強く関連しています。

【関連科目】

経済学入門、ミクロ経済学入門 I / II、経営のための経済学

【Outline (in English)】

This course provides an introduction to Industrial Organization. The course introduces a broad range of topics in the theoretical Industrial Organization. Students will learn the firm behavior and its consequences in oligopolistic markets where the assumptions of perfect competition do not hold. Topics include the pricing and marketing strategies of individual firms in monopoly and oligopoly; price discrimination, product differentiation, vertical constraints, merger, and platform strategies.

Studying Industrial Organization will help you to understand how markets work in a logical way and to obtain a new perspective on firms' behaviors.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Final grade will be calculated based on term-end examination (65%) and homework (20%) and mid-term exam (15%).

ECN300FD

産業組織論Ⅱ

大木 良子

市場経営学科専門科目 300 番台市場経営学科専門科目 3~4 年次 / 2 単位 [秋学期授業/Fall]

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

経済学のモノの見方を通して、企業の意思決定や産業の構造について考察する方法を学ぶ。普段目にする価格付けや、製品の差別化、企業間の合併や契約などについて、経済学の分析手法を用いてそのメカニズムを整理し、市場競争に与える影響を明らかにする力をつけることを目指す。

具体的には、寡占競争、製品差別化、価格差別、垂直的な取引契約、合併など産業組織論の各トピックをマイクロ経済学の理論を道具として分析し、それに対応する現実の事例について、理論分析の結果と現実との一致や相違点について考察する。

Ⅱでは、春学期の産業組織論Ⅰで学んだ内容を前提とし、製品差別化や垂直的取引制限など現実によく観察される企業の行動を経済学的に考察するツールを学ぶ。その中で競争政策上問題とされる行動について事例を通じて理解する。

【到達目標】

産業組織論の基本的な考え方・モノの見方を自分のものにし、それを応用して具体的な企業や市場について自分の考えを論述することができるようになることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-3」、「DP4」に関連が特に強く、「DP1-1」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

オンデマンド型オンライン授業として、全 14 回、YouTube による動画配信で授業を実施する。

全て講義形式で行い、講義にはスライドを用いる。授業内課題として、授業で学んだ理論を企業の事例に応用する問題や、理論的な理解を問う問題を出題し、それを宿題として提出することにより、各回の講義内容の理解を深める。学習内容の確認のために、オンラインでの中間試験、また期末試験を行う。学習支援システムの掲示板やオフィスアワーを活用して、随時、受講者とインテラクションを持つ機会を確保する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	近年競争政策上問題となった事例の紹介
第 2 回	競争政策の復習	競争政策と産業組織論の関係について、春学期に学習した内容を概観し、秋学期の内容の位置づけを確認する。
第 3 回	製品差別化と競争 (1)	差別化の源泉は何か？ (立地、ブランド)
第 4 回	製品差別化と競争 (2)	垂直的な製品差別化の経済モデルの紹介
第 5 回	製品差別化と競争 (3)	水平的な製品差別化の経済モデルの紹介
第 6 回	参入と退出・参入阻止	市場における企業の数はどのように決まるのか？ 参入阻止と市場競争との関係 参入阻止を可能にする企業の戦略
第 7 回	合併	合併の経済モデルの紹介、合併が市場競争に与える影響
第 8 回	中間試験	これまで学習した経済理論について計算問題・論述問題を出題。試験終了後解説を行う
第 9 回	垂直的取引制限 (1)	垂直的取引制限とはなにか？ 競争政策上問題とされる具体的な事例の紹介
第 10 回	垂直的取引制限 (2)	様々な垂直的取引制限と市場競争との関係を理論分析する
第 11 回	研究開発と特許	技術開発・特許制度と市場競争との関係
第 12 回	ネットワーク外部性 (1)	ネットワーク外部性の定義とそれが見られる具体的な市場の紹介 (検索エンジンや SNS のビジネスモデル)
第 13 回	ネットワーク外部性 (2)	プラットフォーム間競争と競争政策、最近の事例の紹介
第 14 回	事例研究	これまでの学習内容を最近の競争政策上問題とされた企業の事例を用いて考察する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

中間試験・期末試験を念頭に、授業後の復習が必要です。各トピックに応じて紹介する参考文献での自主学習も期待しています。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

講義中に以下の参考書の該当箇所を適宜紹介します。自主的に読むことで一層の学習効果が期待できます。

- 『産業組織とビジネスの経済学』花崗誠著 有斐閣 2018 年
- 『マイクロ経済学』伊藤元重著、日本評論社、2018 年
- 『入門 ゲーム理論と情報の経済学』神戸伸輔著、日本評論社、2004 年
- 『プラクティカル 産業組織論』泉田・柳川著、有斐閣アルマ、2013 年
- 『産業組織の経済学 第 2 版』長岡・平尾著、日本評論社、2013 年
- 『イノベーション時代の競争政策』小田切宏之著、有斐閣、2016 年
- 『競争政策論 第 2 版』小田切宏之著、日本評論社、2017 年
- 『経営の経済学 第 3 版』丸山雅祥著、有斐閣、2017 年

【成績評価の方法と基準】

宿題 20 %
中間試験 15 %
期末試験 65 %

【学生の意見等からの気づき】

受講生のレベルや関心に合わせ、授業内容の難易度やスピード、扱うトピックを調整していきます。

【学生が準備すべき機器他】

授業動画の URL、関連するスライド等の資料や、宿題、中間試験、期末試験等の重要なお知らせは、学習支援システムに掲載します。宿題も、学習支援システムを通じて提出して頂きます。学習支援システムへの頻繁なアクセスや、オンラインでの宿題の提出が必要になります。

【その他の重要事項】

マイクロ経済学について基本的な知識を習得していること、または同時に履修して学習していることを受講の前提とします。産業組織論ⅠとⅡは密接に関係しているので、産業組織論の全体を理解するためにも、連続した履修を強く薦めます。(春学期のⅠの内容を前提として秋学期のⅡが進められます。Ⅰを履修せずⅡを履修する場合は、関連する箇所については自習によってキャッチアップしてください) この授業は、経済学入門、マイクロ経済学入門Ⅰ/Ⅱ、経営のための経済学と強く関連しています。

【関連科目】

経済学入門、マイクロ経済学入門Ⅰ/Ⅱ、経営のための経済学

【Outline (in English)】

This course provides an introduction to Industrial Organization. The course introduces a broad range of topics in the theoretical Industrial Organization. Students will learn the firm behavior and its consequences in oligopolistic markets where the assumptions of perfect competition do not hold. Topics include the pricing and marketing strategies of individual firms in monopoly and oligopoly; price discrimination, product differentiation, vertical constraints, merger, and platform strategies.

Studying Industrial Organization will help you to understand how markets work in a logical way and to obtain a new perspective on firms' behaviors.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Final grade will be calculated based on term-end examination (65%) and homework (20%) and mid-term exam (15%).

COT300FD

情報技術論 I

入戸野 健

市場経営学科専門科目 300 番台市場経営学科専門科目 3~4 年次 / 2 単位 [春学期授業/Spring]

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

コンピュータを中心とした様々な情報技術や通信ネットワークについて仕組みや役割を体系的に理解することを目的とします。

【到達目標】

情報技術、通信技術の現状を理解し、発展的な活用方法を見出すための基礎知識を身につけることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

コンピュータの構成や仕組みなどについての基礎知識から、われわれの生活のあらゆる場面に浸透したパソコン、スマートフォン、インターネットに関する利用技術まで、最近の話題を織り交ぜながら体系的に解説します。また、それらのビジネスへの展開や活用事例についても取り上げて行きます。

この科目の授業は原則として、学習支援システム (Hoppii) と Google Classroom を使用してオンデマンド形式で行います。毎回の授業では学習支援システムで提示される教材 (講義資料) の内容に沿って学習を進めてください。合わせて出題される課題などについて期限までに提出してください。課題等についての講評は適宜、主に学習支援システムを通じて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	コンピュータの発展	計算の道具としてのコンピュータの変遷について解説する。
第 2 回	デジタル表現とコンピュータ	コンピュータの内部処理について概観する。
第 3 回	情報の量	ビット、バイトといった情報の量の表わし方について説明する。
第 4 回	アナログとデジタル	アナログとデジタルの違いについて考察する。
第 5 回	情報のデジタル化	情報のデジタル化の考え方について解説する。
第 6 回	コンピュータの動作と仕組み	コンピュータの動作原理について概観する。
第 7 回	論理演算とコンピュータ	コンピュータ内で行われる論理演算について説明する。
第 8 回	基数の変換	数の表現方法として 10 進数・2 進数などの性質や変換の方法について解説する。
第 9 回	コンピュータ内部の数と文字の表現	数や文字の内部表現や符号化について解説する。
第 10 回	コンピュータの構成装置 (1)	演算装置、制御装置、主記憶装置の機能と役割について解説する。
第 11 回	コンピュータの構成装置 (2)	補助記憶装置、入出力装置の機能と役割について解説する。
第 12 回	周辺機器の接続とインターフェース	各種機器を PC へ接続するためのインターフェースについて説明する。
第 13 回	IC とデジタル回路	論理演算を基にしたデジタル回路とその集積回路 (IC) の基礎について解説する。
第 14 回	デジタル機器とデジタル家電	PC やスマートフォンと連携する各種の身の回りのデジタル家電を考察する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に指定がある場合はその範囲について文献やインターネットの情報等を参考にして予習をしておいてください。授業後は各自で授業内容の要点を整理してください。

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

開講時に提示します。

【参考書】

授業の中で随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点 (15 %) : 毎回の授業で出題されるクイズや受講確認を提出してください。

課題レポート (15 %) : 授業内容の理解を深めるために講義内容に沿った課題を授業内で 2~3 回程度出題します。

期末考査 (70 %) : 期末には期末レポートを作成して提出してもらいます。

【学生の意見等からの気づき】

資料スライドの構成や図表等の提示方法について工夫を試みたい。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システム (Hoppii) と Google Classroom を使用します。

【関連科目】

情報学基礎 I / II

プログラミング言語 I / II

情報学発展 I / II

【Outline (in English)】

(Course outline) This course focuses on a variety of information technologies and communication networks. The course aims at systematic understanding on the mechanisms and roles of the technologies mainly based on computers.

(Learning Objectives) The goal of this course is to understand the current information and communication technologies and to acquire the basic knowledge to find ways to use them in an advanced way.

(Learning activities outside of classroom) Students will be expected to prepare for the classes by referring to the literature and the Internet and to review the points after the classes.

(Grading Criteria /Policy) Grading will be decided based on quiz in every class (15%), mid-term reports (15%), and term-end report (70%).

COT300FD

情報技術論Ⅱ

入戸野 健

市場経営学科専門科目 300 番台市場経営学科専門科目 3～4 年次 / 2 単位 [秋学期授業/Fall]

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

コンピュータを中心とした様々な情報技術や通信ネットワークについて仕組みや役割を体系的に理解することを目的とします。

【到達目標】

情報技術、通信技術の現状を理解し、発展的な活用方法を見出すための基礎知識を身につけることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-4」に関連が特に強く、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

コンピュータの構成や仕組みなどについての基礎知識から、われわれの生活のあらゆる場面に浸透したパソコン、スマートフォン、インターネットに関する利用技術まで、最近の話題を織り交ぜながら体系的に解説します。また、それらのビジネスへの展開や活用事例についても取り上げて行きます。

この科目の授業は原則として、学習支援システム (Hoppii) と Google Classroom を使用してオンデマンド形式で行います。毎回の授業では学習支援システムで提示される教材 (講義資料) の内容に沿って学習を進めてください。合わせて出題される課題などについて期限までに提出してください。

課題等についての講評は適宜、学習支援システム等を通じて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	ソフトウェアとプログラム	ソフトウェアの特性について解説する。
第 2 回	基本ソフトとカーネル	基本ソフト（オペレーティングシステム）とカーネルの役割について説明する。
第 3 回	プログラミング言語の概要	主要なプログラミング言語の種類と用途について解説する。
第 4 回	情報インフラストラクチャーと通信ネットワーク	情報インフラとしての通信ネットワークの変遷について概観する。
第 5 回	LAN とその発展	LAN や小規模なネットワークからその発展による広域化について解説する。
第 6 回	インターネットの構成と利用技術	インターネットの仕組みとその利用技術について解説する。
第 7 回	Web 技術と e コマース	Web によるサービスの展開方法を解説し e コマースの事例を考察する。
第 8 回	マルチメディアとその応用	マルチメディアに必要となる各種の技術について解説する。
第 9 回	コンピュータグラフィックスとその応用	コンピュータグラフィックスの技法を概観し各種分野への応用事例を紹介する。
第 10 回	移動体通信と携帯電話	スマートフォンや携帯電話等の移動体通信の仕組みを解説する。
第 11 回	情報とセキュリティ	高度情報化に伴う問題・課題と必要となるセキュリティについて考察する。
第 12 回	情報技術とインターネットビジネス	インターネットを利用したビジネスモデルを考察する。
第 13 回	情報化と社会活動	新しい情報ツールが日常生活や組織活動へ与える影響について展望する
第 14 回	応用と展望	IoT (モノのインターネット) や AI (人工知能) 等の応用技術を考察し今後を展望する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に指定がある場合はその範囲について文献やインターネットの情報等を参考にして予習を行ってください。授業後は各自で授業内容の要点を整理してください。

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

開講時に提示します。

【参考書】

授業の中で随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点 (15%) : 毎回の授業で出題されるクイズや受講確認を提出してください。

課題レポート (15%) : 授業内容の理解を深めるために講義内容に沿った課題を授業内で 2～3 回程度出題します。

期末考査 (70%) : 期末には期末レポートを作成して提出してもらいます。

【学生の意見等からの気づき】

資料スライドの構成や図表等の提示方法について工夫を試みたい。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システム (Hoppii) と Google Classroom を使用します。

【関連科目】

情報学基礎Ⅰ/Ⅱ

プログラミング言語Ⅰ/Ⅱ

情報学発展Ⅰ/Ⅱ

【Outline (in English)】

(Course outline) This course focuses on a variety of information technologies and communication networks. The course aims at systematic understanding on the mechanisms and roles of the technologies mainly based on computers.

(Learning Objectives) The goal of this course is to understand the current information and communication technologies and to acquire the basic knowledge to find ways to use them in an advanced way.

(Learning activities outside of classroom) Students will be expected to prepare for the classes by referring to the literature and the Internet and to review the points after the classes.

(Grading Criteria /Policy) Grading will be decided based on quiz in every class (15%), mid-term reports (15%), and term-end report (70%).

ECN300FD

経営のための経済学

大橋 賢裕

市場経営学科専門科目 300 番台市場経営学科専門科目 3~4 年次 / 2 単位 [サマーセッション/Summer Session]

授業実施日：8 月 1 日 (火) ~5 日 (土)

1~4 日は 2,3,4 限

5 日は 1,2 限

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

この授業ではゲーム理論と行動経済学の初歩を紹介します。受講生は、人の意思決定において現れる戦略的思考と認知バイアスについて、学術的にわかっていることを知ることができます。

【到達目標】

(1) 受講生は、自分の行動の善し悪しが、自分の行動だけでなく、他人の行動に依存して決まる状況において、いかに行動すべきか (いかに行動すべきでないか) を判断するための思考ツールを身につけることができる。(2) 人間の認知における癖が人の行動に与える影響とその対策、そしてそれらを利用する方法を身につけることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-3」と「DP4」に関連が特に強い

【授業の進め方と方法】

講義形式です。理解確認のためその場で行う演習を含む場合があります。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ゲーム理論：ゲームの定義と解	ゲーム理論の初歩として、「ゲームとは何か」「ゲームをどう分析するか/どう解くか」といった基本的な事柄を、例を用いながら解説する。
第 2 回	ゲーム理論：戦略とナッシュ均衡	ゲーム理論で用いられる戦略とは何か。そして戦略を用いてゲームの解として代表的なナッシュ均衡について解説する。
第 3 回	ゲーム理論：混合戦略	行動を確率的に選ぶという混合戦略の考え方と、混合戦略まで含めればナッシュ均衡が必ず存在するというナッシュの定理について解説する。
第 4 回	ゲーム理論：応用例	これまで学んだゲーム理論を使って、現実の経済問題を分析した例を解説する。
第 5 回	ゲーム理論：逐次手番ゲーム	他の人の行動を観察したあとに自分の行動を選べるという状況を分析するための考え方と解概念について解説する。
第 6 回	ゲーム理論：繰り返しゲーム	経済活動における長期的関係を前提とした行動は、同じゲームを何回も繰り返すゲームとして記述できる。そうした繰り返しゲームにおける戦略と均衡、そしてよく知られた「フォーク定理」について解説する。

第 7 回	行動経済学：ヒューリスティックとバイアス	行動経済学の初歩では、人間の意思決定の仕方とそのから生まれる歪み (バイアス) について学ぶ。すでに知られているいくつかの思考の癖と歪みについて紹介する。
第 8 回	行動経済学：二重過程理論	認知における性質について学ぶ。認知システムには、速い思考と遅い思考がある。それらの特性について、事例を交えて紹介する。
第 9 回	行動経済学：確率判断にともなうバイアス	人間は確率を伴う意思決定における判断が苦手であることを学ぶ。確率を伴う意思決定における傾向についても紹介する。
第 10 回	行動経済学：プロスペクト理論	人間は、得をするより損をすることを嫌う傾向があることを事例を通じて紹介する。次いでその傾向を記述するプロスペクト理論を学ぶ。
第 11 回	行動経済学：現在バイアス	異時点間の消費における動学的非整合性の問題を事例と共に紹介する。次いで人間の「せっかちさ」を記述するモデルを紹介する。
第 12 回	行動経済学：社会的選好	経済学が仮定する合理的個人では説明のできない、社会における人間の振るまいについて解説する。扱うのは最後通牒ゲームや公共財ゲームである。
第 13 回	ゲーム理論と行動経済学	これまでの授業のふりかえりとして、ゲーム理論の枠組みに行動経済学の発想を融合させることができるかを考える。戦略的思考と人間の思考、それぞれの特徴をつかんで、よりよい制度を作ることを考える。
第 14 回	確認試験と解説	授業内容確認のための筆記試験とその解説を行う。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

各回の授業の復習時間は 1 時間を標準とします。1 日 3 回授業がある場合は 3 時間です。

【テキスト (教科書)】

教科書は使用しません。

【参考書】

岡田章「ゲーム理論の見方・考え方」(勁草書房、2022 年)
 岡田章「新版 ゲーム理論・入門」(有斐閣、2014 年)
 大竹文雄「行動経済学の使い方」(岩波新書、2019 年)
 リチャード・セイラー (遠藤真美・訳)「行動経済学の逆襲 (上/下)」(早川書房、2019 年)

【成績評価の方法と基準】

授業内試験の成績、50%・平常点、50%

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

なし

【その他の重要事項】

担当教員の連絡先

大橋 賢裕 (おおはし よしひろ)

ohashi.yoshihiro@nihon-u.ac.jp

【関連科目】

特になし

【Outline (in English)】

(Course outline) This course introduces introductory game theory and introductory behavioral economics to students. (Learning objectives) Students acquire knowledge about strategic reasoning and cognitive biases. (Learning activities outside of classroom) Students are required frequent review. (Grading criteria) test and quizzes

ECN300FD

ファイナンス論 I (2018 年度以前入学者)

山崎 輝

市場経営学科専門科目 3~4 年次 / 2 単位 [春学期授業/Spring]

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

本講義では、デリバティブ(金融派生商品)の入門的な内容を講義します。まずは「デリバティブとはなにか?」から始まりますが、すぐに金融や財務の様々な場面でデリバティブ取引が活用されていることが理解できるでしょう。ファイナンスの重要な概念である「無裁定条件」を前提とするデリバティブの価格決定理論を学ぶことが講義の主目的となりますが、それと並行して金融実務での活用例も詳しく解説します。さらには、デリバティブ理論の応用編として、「将来の為替レートは予想できるのか?」や「中央銀行の金融政策を占うには?」などのトピックを取り上げます。また、デリバティブに関連する歴史や事件なども適宜紹介します。講義内容は金融実務の資格試験「証券外務員一種」、「証券アナリスト(一次試験)」、「FP(フィナンシャル・プランナー)技能士」に関連しています。

【到達目標】

次の4つを到達目標に掲げます。

- (1) 金融・証券の基礎知識に基づき、金融に関連するニュースを正しく理解できる。
- (2) 先渡取引や先物取引のしくみや活用方法を説明できる。
- (3) 無裁定条件に基づくデリバティブの価格決定理論がわかる。
- (4) 金融市場やデリバティブ取引の初歩的な分析ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」に関連が特に強く、「DP1-3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

この授業はオンデマンド授業(フルオンデマンド型)となります。履修希望者は学習支援システムで授業の仮登録をしてください。授業のアクセス方法等に関しては、学習支援システムに仮登録されているメールアドレス宛に案内します。授業中に計算することがありますので、電卓(関数電卓やタブレット、ノートPCの表計算ソフトを利用してよい)を用意してください。小テストのフィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

なし/No

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の進め方や成績評価方法などの説明
第2回	金融・証券市場の基礎知識(1)	債券市場、株式市場、外国為替市場などの概説
第3回	金融・証券市場の基礎知識(2)	デリバティブ市場の概説
第4回	キャッシュフローと現在価値(1)	将来価値と現在価値の概念
第5回	キャッシュフローと現在価値(2)	複利、付利期間、割引因子などの概念
第6回	効率的市場と無裁定価格	株式市場を巡る論争と効率的市場仮説、無裁定条件と無裁定価格
第7回	先渡取引(1)	先渡取引の概要、為替予約とその活用方法
第8回	先渡取引(2)	先渡価格の決定理論、フォワード・プレミアム・パズル
第9回	先物取引(1)	先物取引の概要、日経平均先物とその活用方法
第10回	先物取引(2)	先物価格の決定理論
第11回	債券と金利の関係(1)	債券価格と利回り計算
第12回	債券と金利の関係(1)	スポットレート、バーレート、短期金利
第13回	先渡取引(3)	FRAとその活用方法
第14回	先渡取引(4)	先渡金利の決定理論、中央銀行の金融政策を占う

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

講義資料の復習をしっかりと行ってください。指定した参考書を併用すると理解が深まります。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト(教科書)】

教科書は指定しません。講義資料は各自で学習支援システムの「教材」からダウンロードしてください。

【参考書】

- (1) 岸本直樹・池田昌幸、『入門・証券投資論』、2019年、有斐閣
- (2) フィナンシャルバンクインスティテュート編、『うかる! 証券外務員一種必修テキスト2022-2023年版』、2022年、日本経済新聞出版社

- (3) 佐野三郎、『改訂版 パーフェクト証券アナリスト第1次レベル』、2022年、ビジネス教育出版社

- (4) ジョン・ハル、『先物・オプション取引入門』、2001年、ピアソン・エデュケーション

【成績評価の方法と基準】

試験期間中に行う定期試験(80%)と授業期間中の小テスト(20%)で評価します。小テストの実施については、学習支援システムの「お知らせ」で案内します。

【学生の意見等からの気づき】

金融実務での実例をたくさん紹介することで、デリバティブ取引やその理論が理解しやすくなるように工夫します。

【学生が準備すべき機器他】

電卓(関数電卓やタブレット、ノートPCの表計算ソフトを利用してよい)を用意してください。

【その他の重要事項】

講義内容は金融実務の資格試験「証券外務員一種」、「証券アナリスト(一次試験)」、「FP(フィナンシャル・プランナー)技能士」などに関連しています。

【関連科目】

ファイナンス入門、デリバティブ入門Ⅱ、投資入門、ポートフォリオ理論入門、コーポレートファイナンス入門Ⅰ/Ⅱ、Excelで学ぶファイナンス理論Ⅰ/Ⅱ

【実務経験のある教員による授業】

民間金融機関や中央銀行において、デリバティブ取引やデリバティブ開発などの金融実務に通算14年間携わりました。授業では、実際の金融ビジネスとデリバティブの基礎理論の関わりをわかり易く解説します。

【Outline (in English)】

[Course outline] This course provides students with an introduction to derivatives. [Learning objective] It has four objectives: (1) To give the fundamental knowledge of financial system and derivative markets. (2) To teach the basics of derivative transactions and their applications in practice. (3) To offer the concept of the arbitrage-free pricing to evaluate derivative products including forwards and futures. (4) To introduce the applications of the derivative theory to some topics such as the forward premium puzzle. [Learning activities outside of classroom] Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content. [Grading criteria] Your overall grade in the class will be decided based on the following. Term-end examination: 80%, short examination: 20%.

ECN300FD

ファイナンス論Ⅱ（2018年度以前入学者）

山崎 輝

市場経営学科専門科目 3～4 年次 / 2 単位 [秋学期授業/Fall]

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、デリバティブ（金融派生商品）の入門的な内容を講義します。特に、最も重要なデリバティブである「オプション」のしくみと価格決定理論を学ぶことが主な目的となります。また、金融実務におけるオプション取引やスワップ取引の活用例も詳しく説明します。さらには、デリバティブ理論の応用編として、「様々な相場観に基づく投資戦略」や「株式公開買い付け（企業買収）の分析」などのトピックを取り上げます。また、デリバティブに関連する歴史や事件なども適宜紹介します。講義内容は金融実務の資格試験「証券外務員一種」、「証券アナリスト（一次試験）」、「FP（フィナンシャル・プランナー）技能士」に関連しています。

【到達目標】

次の4つを到達目標に掲げます。

- (1) 金融・証券の基礎知識に基づき、金融に関連するニュースを正しく理解できる。
- (2) スワップ取引やオプション取引のしくみや活用方法を説明できる。
- (3) 無裁定条件に基づくデリバティブの価格決定理論がわかる。
- (4) 金融市場やデリバティブ取引の簡単な計量分析ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1-1」に関連が特に強く、「DP1-3」、「DP4」に関連がかなりある

【授業の進め方と方法】

この授業はオンデマンド授業（フルオンデマンド型）となります。履修希望者は学習支援システムで授業の仮登録をしてください。授業のアクセス方法等に関しては、学習支援システムに仮登録されているメールアドレス宛に案内します。授業中に計算することがありますので、電卓（関数電卓やタブレット、ノート PC の表計算ソフトを利用してもよい）を用意してください。小テストのフィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の進め方や成績評価方法などの説明
第 2 回	デリバティブ入門Ⅰの復習	現在価値、無裁定条件、先物取引、先物取引、債券価格と利回り計算などの復習
第 3 回	スワップ取引 (1)	IRS とその活用方法
第 4 回	スワップ取引 (2)	通貨スワップとその活用方法
第 5 回	スワップ取引 (3)	スワップレートの決定理論
第 6 回	オプション取引 (1)	コールとプット、プット・コール・パリティ
第 7 回	オプション取引 (2)	オプションの活用方法
第 8 回	ファイナンスのための確率論入門	確率、確率変数、期待値などの諸概念
第 9 回	オプション価格理論 (1)	1 期間 2 項モデルによるオプション価格の算出
第 10 回	オプション価格理論 (2)	リスク中立確率とデリバティブの価格評価
第 11 回	オプション価格理論 (3)	Yahoo! JAPAN による ZOZO の株式公開買い付け
第 12 回	オプション価格理論 (4)	2 期間 2 項モデルによるオプション価格の算出
第 13 回	オプション価格理論 (5)	動的複製ポートフォリオとデルタ
第 14 回	オプション価格理論 (6)	ブラック・ショールズ理論の概説と最近の動向

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義資料の復習をしっかりと行ってください。指定した参考書を併用すると理解が深まります。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は指定しません。講義資料を各自でダウンロードしてください。ダウンロードの方法は講義初回に説明します。

【参考書】

- (1) 岸本直樹・池田昌幸、『入門・証券投資論』、2019 年、有斐閣
- (2) フィナンシャルバンクインスティテュート編、『わかる！証券外務員一種必修テキスト 2022-2023 年版』、2022 年、日本経済新聞出版社
- (3) 佐野三郎、『改訂版 パーフェクト証券アナリスト第 1 次レベル』、2022 年、ビジネス教育出版社
- (4) ジョン・ハル、『先物・オプション取引入門』、2001 年、ピアソン・エデュケーション

【成績評価の方法と基準】

試験期間中に行う定期試験（80 %）と授業期間中の小テスト（20 %）で評価します。小テストの実施については、学習支援システムの「お知らせ」で案内します。

【学生の意見等からの気づき】

金融実務での実例をたくさん紹介することで、デリバティブ取引やその理論が理解しやすくなるように工夫します。

【学生が準備すべき機器他】

電卓（関数電卓やタブレット、ノート PC の表計算ソフトを利用してもよい）を用意してください。

【その他の重要事項】

講義内容は金融実務の資格試験「証券外務員一種」、「証券アナリスト（一次試験）」、「FP（フィナンシャル・プランナー）技能士」などに関連しています。

【関連科目】

ファイナンス入門、デリバティブ入門Ⅰ、投資入門、ポートフォリオ理論入門、コーポレートファイナンス入門Ⅰ/Ⅱ、Excel で学ぶファイナンス理論Ⅰ/Ⅱ

【実務経験のある教員による授業】

民間金融機関や中央銀行において、デリバティブ取引やデリバティブ開発などの金融実務に通算 14 年間携わりました。授業では、実際の金融ビジネスとデリバティブの基礎理論の関わりをわかり易く解説します。

【Outline (in English)】

[Course outline] This course provides students with an introduction to derivatives. [Learning objective] It has four objectives: (1) To give the fundamental knowledge of financial system and derivative markets. (2) To teach the basics of derivative transactions and their applications in practice. (3) To offer the concept of the arbitrage-free pricing to evaluate derivative products including swaps and options. (4) To introduce the applications of the derivative theory to some topics such as takeover bid (TOB). [Learning activities outside of classroom] Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content. [Grading criteria] Your overall grade in the class will be decided based on the following. Term-end examination: 80%, short examination: 20%.

BSP100ZA

Presentation and Public Speaking (Advanced)

Mark Birtles

Credit(s) : 2 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 1~4

Day/Period : 木 3/Thu.3

その他属性 : 〈優〉

[Outline and objectives]

Being able to take command of a room and speak confidently in front of other people is a vital skill, but one many people have difficulty with. The primary aim of this course is to build confidence and competence in public speaking, with the main focus on the preparation and delivery of two kinds of speech: informative and persuasive. This course will not only have relevance in an academic sense, but the skills learned can also be applied in both business and social settings.

[Goal]

Upon completing this course, students will have gained:

- Competency in identifying and analysing basic communication theory
- The ability to put this theory into practice
- Confidence in presentation and public speaking on a variety of topics
- Key skills in both verbal and non-verbal aspects of public speaking
- The ability to be an active listener and ask meaningful questions.

[Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?]

Will be able to gain "DP 2" and "DP 4".

[Method(s)]

Although there is some theoretical analysis, Presentation and Public Speaking is primarily a practical, skills-based course, with students producing meaningful class content. Submission of assignments and feedback will either be in-person or via the Learning Management System. Students will prepare and deliver speeches and learn essential skills along the way: how to select, organize and use materials to support an idea, delivery techniques, and how to effectively utilise multimedia tools in presentations.

[Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)]

あり / Yes

[Fieldwork in class]

なし / No

[Schedule] 授業形態 : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction	Introduction
2	Personal Introduction Speech	The basics of public speaking
3	Analysing an Informative Speech	Identifying key concepts and models of communication
4	Analysing an Informative Speech II	Identifying key concepts and models of communication
5	Informative Speech Preparation	Preparing an informative speech of your own
6	Delivery Strategies I	Practice using verbal cues
7	Delivery Strategies II	Practice using non-verbal cues
8	Informative Speech Performances	Student presentations
9	Exploiting Visuals I	Making engaging presentation slides in PowerPoint
10	Exploiting Visuals II	Infographics and visual representations
11	Asking and Dealing with Questions	How to be an active listener and engage in Q&A
12	Persuasive Speech Preparation	Preparing a persuasive speech of your own
13	Persuasive Speech Preparation	Preparing a persuasive speech of your own
14	Persuasive Speech Performance	Student presentations

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]

Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

[Textbooks]

No single textbook will be used; the instructor will provide materials.

[References]

Anderson, C. (2018). *Ted talks: the official TED guide to public speaking*. London, UK: Nicholas.

Stafford, M. (2012). *Successful presentations: an interactive guide*. Tokyo, Japan: Cengage Learning.

[Grading criteria]

Class participation (20 %), assignments (10%), self introduction speech (10%), analysis paper (10%), informative speech (25%), persuasive speech (25%). The grading of speeches will take into account preparation, visuals, delivery and performance.

[Changes following student comments]

Some students were mistaken in thinking that the Presentation and Public Speaking course had two parts, but that is incorrect. The "Standard" and "Advanced" levels have the same course content and students can only take this course once. Please see the "Others" section for more details.

[Equipment student needs to prepare]

A laptop will be required in many sessions. If access to a laptop computer is difficult, please inform the instructor.

[Others]

This course has two levels, "Standard" and "Advanced." This is not a two-part course: the two levels are designed to separate students based on English proficiency, so the instructors can tailor the content for different skill levels. Think carefully about which level is right for you before selecting the course. For the Advanced level course, students are expected to meet or exceed one of the following scores: TOEFL ITP 550, TOEFL iBT 80, IELTS 6.5 or IB Diploma (English as Language A).

[Prerequisite]

None.

BSP100ZA

Presentation and Public Speaking (Advanced)

Mark Birtles

Credit(s) : 2 | Semester : 秋学期授業/Fall | Year : 1~4
Day/Period : 金 5/Fri.5

その他属性 : 〈優〉

[Outline and objectives]

Being able to take command of a room and speak confidently in front of other people is a vital skill, but one many people have difficulty with. The primary aim of this course is to build confidence and competence in public speaking, with the main focus on the preparation and delivery of two kinds of speech: informative and persuasive. This course will not only have relevance in an academic sense, but the skills learned can also be applied in both business and social settings.

[Goal]

Upon completing this course, students will have gained:

- Competency in identifying and analysing basic communication theory
- The ability to put this theory into practice
- Confidence in presentation and public speaking on a variety of topics
- Key skills in both verbal and non-verbal aspects of public speaking
- The ability to be an active listener and ask meaningful questions.

[Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?]

Will be able to gain "DP 2" and "DP 4".

[Method(s)]

Although there is some theoretical analysis, Presentation and Public Speaking is primarily a practical, skills-based course, with students producing meaningful class content. Submission of assignments and feedback will either be in-person or via the Learning Management System. Students will prepare and deliver speeches and learn essential skills along the way: how to select, organize and use materials to support an idea, delivery techniques, and how to effectively utilise multimedia tools in presentations.

[Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)]

あり / Yes

[Fieldwork in class]

なし / No

[Schedule] 授業形態 : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction	Introduction
2	Personal Introduction Speech	The basics of public speaking
3	Analysing an Informative Speech	Identifying key concepts and models of communication
4	Analysing an Informative Speech II	Identifying key concepts and models of communication
5	Informative Speech Preparation	Preparing an informative speech of your own
6	Delivery Strategies I	Practice using verbal cues
7	Delivery Strategies II	Practice using non-verbal cues
8	Informative Speech Performances	Student presentations
9	Exploiting Visuals I	Making engaging presentation slides in PowerPoint
10	Exploiting Visuals II	Infographics and visual representations
11	Asking and Dealing with Questions	How to be an active listener and engage in Q&A
12	Persuasive Speech Preparation	Preparing a persuasive speech of your own
13	Persuasive Speech Preparation	Preparing a persuasive speech of your own
14	Persuasive Speech Performance	Student presentations

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]

Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

[Textbooks]

No single textbook will be used; the instructor will provide materials.

[References]

Anderson, C. (2018). *Ted talks: the official TED guide to public speaking*. London, UK: Nicholas.
Stafford, M. (2012). *Successful presentations: an interactive guide*. Tokyo, Japan: Cengage Learning.

[Grading criteria]

Class participation (20 %), assignments (10%), self introduction speech (10%), analysis paper (10%), informative speech (25%), persuasive speech (25%). The grading of speeches will take into account preparation, visuals, delivery and performance.

[Changes following student comments]

Some students were mistaken in thinking that the Presentation and Public Speaking course had two parts, but that is incorrect. The "Standard" and "Advanced" levels have the same course content and students can only take this course once. Please see the "Others" section for more details.

[Equipment student needs to prepare]

A laptop will be required in many sessions. If access to a laptop computer is difficult, please inform the instructor.

[Others]

This course has two levels, "Standard" and "Advanced." This is not a two-part course: the two levels are designed to separate students based on English proficiency, so the instructors can tailor the content for different skill levels. Think carefully about which level is right for you before selecting the course. For the Advanced level course, students are expected to meet or exceed one of the following scores: TOEFL ITP 550, TOEFL iBT 80, IELTS 6.5 or IB Diploma (English as Language A).

[Prerequisite]

None.

BSP100ZA

Presentation and Public Speaking (Standard)

Alan Meadows

Credit(s) : 2 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 1~4

Day/Period : 水 3/Wed.3

その他属性 : 〈優〉

【Outline and objectives】

Being able to take command of a room and speak confidently in front of other people is a vital skill, but one many people have difficulty with. The primary aim of this course is to build confidence and competence in public speaking, with the main focus on the preparation and delivery of two kinds of speech: informative and persuasive. This course will not only have relevance in an academic sense, but the skills learned can also be applied in both business and social settings.

【Goal】

Upon completing this course, students will have gained:

- Competency in identifying and analysing basic communication theory
- The ability to put this theory into practice
- Confidence in presentation and public speaking on a variety of topics
- Key skills in both verbal and non-verbal aspects of public speaking
- The ability to be an active listener and ask meaningful questions.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain “DP 2” and “DP 4”.

【Method(s)】

Although there is some theoretical analysis, Presentation and Public Speaking is primarily a practical, skills-based course, with students producing meaningful class content. Submission of assignments and feedback will either be in-person or via the Learning Management System. Students will prepare and deliver speeches and learn essential skills along the way: how to select, organize and use materials to support an idea, delivery techniques, and how to effectively utilise multimedia tools in presentations.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり / Yes

【Fieldwork in class】

なし / No

【Schedule】 授業形態 : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction	Introduction
2	Personal Introduction Speech	The basics of public speaking
3	Analysing an Informative Speech	Identifying key concepts and models of communication
4	Analysing an Informative Speech II	Identifying key concepts and models of communication
5	Informative Speech Preparation	Preparing an informative speech of your own
6	Delivery Strategies I	Practice using verbal cues
7	Delivery Strategies II	Practice using non-verbal cues
8	Informative Speech Performances	Student presentations
9	Exploiting Visuals I	Making engaging presentation slides in PowerPoint
10	Exploiting Visuals II	Infographics and visual representations
11	Asking and Dealing with Questions	How to be an active listener and engage in Q&A
12	Persuasive Speech Preparation	Preparing a persuasive speech of your own
13	Persuasive Speech Preparation	Preparing a persuasive speech of your own
14	Persuasive Speech Performance	Student presentations

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

【Textbooks】

No single textbook will be used; the instructor will provide materials.

【References】

Anderson, C. (2018). *Ted talks: the official TED guide to public speaking*. London, UK: Nicholas.

Stafford, M. (2012). *Successful presentations: an interactive guide*. Tokyo, Japan: Cengage Learning.

【Grading criteria】

Class participation (20 %), assignments (10%), self introduction speech (10%), analysis paper (10%), informative speech (25%), persuasive speech (25%). The grading of speeches will take into account preparation, visuals, delivery and performance.

【Changes following student comments】

Some students were mistaken in thinking that the Presentation and Public Speaking course had two parts, but that is incorrect. The "Standard" and "Advanced" levels have the same course content and students can only take this course once. Please see the "Others" section for more details.

【Equipment student needs to prepare】

A laptop will be required in many sessions. If access to a laptop computer is difficult, please inform the instructor.

【Others】

This course has two levels, "Standard" and "Advanced." This is not a two-part course: the two levels are designed to separate students based on English proficiency, so the instructors can tailor the content for different skill levels. Think carefully about which level is right for you before selecting the course. For the Advanced level course, students are expected to meet or exceed one of the following scores: TOEFL ITP 550, TOEFL iBT 80, IELTS 6.5 or IB Diploma (English as Language A).

【Prerequisite】

None.

BSP100ZA

Presentation and Public Speaking (Standard)

Alan Meadows

Credit(s) : 2 | Semester : 秋学期授業/Fall | Year : 1~4
Day/Period : 水 4/Wed.4

その他属性 : 〈優〉

[Outline and objectives]

Being able to take command of a room and speak confidently in front of other people is a vital skill, but one many people have difficulty with. The primary aim of this course is to build confidence and competence in public speaking, with the main focus on the preparation and delivery of two kinds of speech: informative and persuasive. This course will not only have relevance in an academic sense, but the skills learned can also be applied in both business and social settings.

[Goal]

Upon completing this course, students will have gained:

- Competency in identifying and analysing basic communication theory
- The ability to put this theory into practice
- Confidence in presentation and public speaking on a variety of topics
- Key skills in both verbal and non-verbal aspects of public speaking
- The ability to be an active listener and ask meaningful questions.

[Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?]

Will be able to gain "DP 2" and "DP 4".

[Method(s)]

Although there is some theoretical analysis, Presentation and Public Speaking is primarily a practical, skills-based course, with students producing meaningful class content. Submission of assignments and feedback will either be in-person or via the Learning Management System. Students will prepare and deliver speeches and learn essential skills along the way: how to select, organize and use materials to support an idea, delivery techniques, and how to effectively utilise multimedia tools in presentations.

[Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)]

あり / Yes

[Fieldwork in class]

なし / No

[Schedule] 授業形態 : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction	Introduction
2	Personal Introduction Speech	The basics of public speaking
3	Analysing an Informative Speech	Identifying key concepts and models of communication
4	Analysing an Informative Speech II	Identifying key concepts and models of communication
5	Informative Speech Preparation	Preparing an informative speech of your own
6	Delivery Strategies I	Practice using verbal cues
7	Delivery Strategies II	Practice using non-verbal cues
8	Informative Speech Performances	Student presentations
9	Exploiting Visuals I	Making engaging presentation slides in PowerPoint
10	Exploiting Visuals II	Infographics and visual representations
11	Asking and Dealing with Questions	How to be an active listener and engage in Q&A
12	Persuasive Speech Preparation	Preparing a persuasive speech of your own
13	Persuasive Speech Preparation	Preparing a persuasive speech of your own
14	Persuasive Speech Performance	Student presentations

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]

Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

[Textbooks]

No single textbook will be used; the instructor will provide materials.

[References]

Anderson, C. (2018). *Ted talks: the official TED guide to public speaking*. London, UK: Nicholas.
Stafford, M. (2012). *Successful presentations: an interactive guide*. Tokyo, Japan: Cengage Learning.

[Grading criteria]

Class participation (20 %), assignments (10%), self introduction speech (10%), analysis paper (10%), informative speech (25%), persuasive speech (25%). The grading of speeches will take into account preparation, visuals, delivery and performance.

[Changes following student comments]

Some students were mistaken in thinking that the Presentation and Public Speaking course had two parts, but that is incorrect. The "Standard" and "Advanced" levels have the same course content and students can only take this course once. Please see the "Others" section for more details.

[Equipment student needs to prepare]

A laptop will be required in many sessions. If access to a laptop computer is difficult, please inform the instructor.

[Others]

This course has two levels, "Standard" and "Advanced." This is not a two-part course: the two levels are designed to separate students based on English proficiency, so the instructors can tailor the content for different skill levels. Think carefully about which level is right for you before selecting the course. For the Advanced level course, students are expected to meet or exceed one of the following scores: TOEFL ITP 550, TOEFL iBT 80, IELTS 6.5 or IB Diploma (English as Language A).

[Prerequisite]

None.

LAN100ZA

English Test Preparation for IELTS

Marcus Lovitt

Credit(s) : 2 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 1~4

Day/Period : 水 4/Wed.4

その他属性 : 〈優〉

【Outline and objectives】

English Test Preparation for IELTS is designed to teach language skills, effective test-taking techniques, and strategies for the IELTS examination.

【Goal】

This course is designed for students who are interested in improving their English test scores or who want to study in the United Kingdom, Australia or New Zealand in the future. Its purpose is to help you attain advanced command of English, which shall be reflected in your IELTS test scores.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain "DP 4".

【Method(s)】

Students will learn effective strategies for increasing scores in each section of the IELTS through class discussion and exercises throughout the course. These include becoming familiar with the test format, understanding question types, and learning how to expand speaking and writing responses. Personal advice on methods of individual study (which is strongly recommended) will be given as required. As this is a skills-based course, emphasis will be placed on practical skills rather than class lectures. To this end, students will also participate in regular vocabulary and idiom quizzes, as peer review activities. Feedback on coursework will be given during class.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり / Yes

【Fieldwork in class】

なし / No

【Schedule】 授業形態 : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction	Introduction
2	Writing I	<ul style="list-style-type: none"> Introduction to the writing section. The class will look at question types, scoring and test strategies Vocabulary and idiomatic expression quiz
3	Speaking I	<ul style="list-style-type: none"> Introduction to the speaking section. The class will study question types, scoring and test strategies Practice for Speaking Part 1 Vocabulary and idiomatic expression quiz
4	Listening I	<ul style="list-style-type: none"> Introduction to the listening section. We will cover questions types, scoring and test strategies Vocabulary and idiomatic expression quiz
5	Reading I	<ul style="list-style-type: none"> Introduction to the reading section. The class will cover question types, scoring and strategies Vocabulary and idiomatic expression quiz
6	Writing II	<ul style="list-style-type: none"> Practice for writing task 1. The class will study language for summarizing data. Vocabulary and idiomatic expression quiz
7	Mid-term examination; Speaking II	<ul style="list-style-type: none"> This class will consist of a short exam to test student progress Practice for speaking part 2
8	Listening II	<ul style="list-style-type: none"> The class will undertake listening and summarizing exercises Vocabulary and idiomatic expression quiz

9	Reading II	<ul style="list-style-type: none"> The class will do exercises for the reading section and practice techniques such as skimming and scanning Vocabulary and idiomatic expression quiz
10	Writing III; Speaking III	<ul style="list-style-type: none"> Practice for writing task 2. The class will study opinion techniques, paraphrasing etc. Practice for speaking parts 2 & 3 Vocabulary and idiomatic expression quiz
11	Listening III; Reading III	<ul style="list-style-type: none"> Practice for listening tasks 3 & 4 Practice for reading section (timed exercises, etc.) Vocabulary and idiomatic expression quiz
12	Writing IV; Speaking IV	<ul style="list-style-type: none"> Review of the writing and speaking sections
13	Listening IV; Reading IV	<ul style="list-style-type: none"> Review of the listening and reading sections
14	Final Examination and Wrap-Up	Assessing the degree to which students understand the subject

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

【Textbooks】

1. Pauline Cullen, Amanda French, et al. The Official Cambridge Guide to IELTS Student's Book with Answers with DVD-ROM. Cambridge English (Feb 27, 2014)

【References】

1. Essential Words for the IELTS: With Downloadable Audio by Lin Lougheed Ph.D. Barrons Educational Series. Third edition (December 1, 2016)

2. Cambridge Univ Press. IELTS 14 Academic Student's Book with Answers with Audio: Authentic Practice Tests (Jun 20, 2019)

【Grading criteria】

Assessment will be based on the following:

1. Class participation and homework (30%)
2. Mid-term exam / practice test (30%)
4. Final exam (40%)

【Changes following student comments】

Not applicable

【Equipment student needs to prepare】

Not applicable

【Prerequisite】

None.

CAR100ZA

Professional Communication

Mark Birtles

Credit(s) : 2 | Semester : 秋学期授業/Fall | Year : 1~4
Day/Period : 金 3/Fri.3

その他属性 : 〈優〉

【Outline and objectives】

Communication is one of the key skills employers look for in potential employees. The rapid diversification of global communications and the collapse of traditional professional working practices in the first two decades of the twenty-first century have made these skills even more salient; modern employers increasingly demand transferrable skills, interdisciplinary knowledge and an ability to address a diverse audience. At their very heart, these competencies are enhanced by an ability to understand, construct and manipulate written information in order to use them in a variety of situations.

【Goal】

Graduates with a good command of English are likely to end up in the global job market, so this course aims at giving students a competitive edge when embarking upon their chosen career path. This course will help students prepare for the English-language job hunting process and provide an overview of the key professional communication styles, as well as a chance to see how these have a real application in the professional world.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain “DP 2” and “DP 4”.

【Method(s)】

The first half of the course will look at the English-language job hunting process, from analysing a job advertisement to creating a CV (résumé) and cover letter. Students will learn how to make their application documents stand out from the crowd and then participate in a mock interview for the job. These documents and skills can be used in a real-life job, or internship, application. The second half of the course then aims to build familiarity in some of the key forms of professional communication, such as press releases, emails and business documents. Submission of assignments and feedback will be via the Learning Management System.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり / Yes

【Fieldwork in class】

なし / No

【Schedule】 授業形態 : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction	Introduction
2	Job Hunting: Writing a CV I	Explanation of the features of a good CV (résumé)
3	Job Hunting: Writing a CV II	Producing an English language CV (résumé)
4	Job Hunting: The Cover Letter I	Explanation of the features of a good cover letter
5	Job Hunting: The Cover Letter II	Writing an original cover letter
6	Professional Writing: Style and Tone	Putting ideas into words quickly and concisely
7	Job Hunting: Preparing for an Interview	What will they ask?
8	Mock Job Interviews	Students will participate in a mock job interview with the instructor
9	Formal Emails	Striking the right tone in communication
10	Editing	Common errors and ways to improve written English
11	Press Releases	The basics of how to prepare information for publication
12	Reports	Communicating business information
13	Agendas and Minutes	Outlining standard layouts of everyday documents
14	Final Exam and Wrap Up	Written examination and summary

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

【Textbooks】

No single textbook will be used; the instructor will provide materials.

【References】

Anderson, J. & Dean, D. (2014). *Revision decisions: talking through sentences and beyond*. Portland, US: Stenhouse Publishers.
Garner, B. (2012). *Harvard Business Review guide to better business writing*. Boston, US: Harvard Business Review Press.
Marsen, S. (2020). *Professional writing (fourth edition)*. London, UK: Palgrave Macmillan.
Strunk, W & White, E. (1999). *The elements of style (fourth edition)*. Boston, US: Allyn & Bacon.

【Grading criteria】

Class participation (10%), assignments (25%), CV and cover letter (20%), mock interview (20%), final exam (25%).

【Changes following student comments】

The mock interviews will be conducted via Zoom as the medium allows students to be immersed in an authentic-looking interview environment. The interviews are recorded and shared with the student for self-reflection and critical analysis.

【Equipment student needs to prepare】

A laptop will be required in most sessions. If access to a laptop computer is difficult, please inform the instructor.

【Prerequisite】

None.

PRI100ZA

Statistics

Yuji Ogihara

Credit(s) : 2 | Semester : 秋学期授業/Fall | Year : 1~4
Day/Period : 木 3/Thu.3

その他属性 : 〈優〉

Those who take and pass this course may be given priority in the enrollment of some of the psychology courses.

【Prerequisite】

None.

【Outline and objectives】

In this course, students learn basic concepts and skills of statistical methods and data analysis.

【Goal】

The objective of this course is twofold. First, students learn basic concepts in statistics (e.g., mean, standard deviation, standard error, normal distribution, t-test and regression analysis). Second, practical skills for visualizing data and conducting appropriate statistical tests are introduced and students practice them using statistical software.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain “DP 1”, “DP 2”, and “DP 4”.

【Method(s)】

This is an introductory course on statistical methods and data analysis. It explains the basic ideas behind statistical testing and covers various statistical methods for survey and experimental data. Each class combines a lecture with hands-on exercises (free statistical software are used). In addition, an assignment is given after every class. At the beginning of class, feedback for the previous class is given using some comments from submitted assignments. Students are encouraged to ask questions and to be actively involved in the class.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり / Yes

【Fieldwork in class】

なし / No

【Schedule】 授業形態 : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction	Introduction
2	Descriptive Statistics (1)	Introducing basic descriptive statistics (e.g., mean, median, mode)
3	Descriptive Statistics (2)	Introducing basic descriptive statistics (e.g., standard deviation, variance, standard error)
4	Correlation	The relationship between two variables
5	Population and Sample	Random sampling and distribution of population
6	Probability Distribution	Probability distribution and Z-score
7	Hypothesis Testing and Statistical Tests	Testing your hypothesis using statistical tests and sampling distribution
8	Regression Analysis (1)	Single regression analysis
9	Regression Analysis (2)	Multiple regression analysis
10	T-test (1)	Testing if the difference is significant
11	T-test (2)	Related and unrelated t-tests
12	Analysis of Variance	Introducing ANOVA
13	Categorical Data Analysis	Introducing categorical data analysis
14	Summary & In-class Exam	Overall summary and in-class exam

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

Students are encouraged to review their lecture notes and handouts after each class. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

【Textbooks】

No textbook will be used. Handouts and reading materials will be provided by lecturer.

【References】

References will be introduced in class.

【Grading criteria】

Students will be evaluated on the basis of assignments given in each class (50%) and in-class exam (50%). No credit will be given to students with more than two unexcused absences.

【Changes following student comments】

None.

【Others】

This course is strongly recommended for students interested in various disciplines in social sciences.

LANe100ZA

Translation

Sarah Allen

Credit(s) : 2 | Semester : 秋学期授業/Fall | Year : 1~4
Day/Period : 金 4/Fri.4

その他属性 : 〈優〉

[Changes following student comments]
Not applicable.

[Equipment student needs to prepare]
Dictionary

[Prerequisite]
None.

[Outline and objectives]

To improve Japanese-to-English translation and intercultural communication skills. Major emphasis will be placed on: 1) non-verbatim translation, 2) logical clarity, and 3) language accuracy and 4) intercultural communication.

[Goal]

Students will learn to how to: (1) choose the appropriate English when translating from Japanese to English (2) use natural, idiomatic English (3) convey information and meaning accurately, logically, and in the proper register.

[Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?]
Will be able to gain “DP 1”, “DP 2”, “DP 3”, and “DP 4”.

[Method(s)]

This introductory-level course in Japanese-to-English translation will be conducted in a workshop style. Methods will include both sight translation and written translation. In sight translation, students will be called on, individually and in groups, to orally translate a text from Japanese to English on the spot. This will be followed by feedback, discussion, and write-up. Students will also complete translation exercises and submit written translations for homework and peer review. Material will be taken from newspaper and magazine articles, essays, and short literary and academic texts. Feedback on homework assignments will also be given in class in the form of discussion and examples.

[Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)]
あり / Yes

[Fieldwork in class]
なし / No

[Schedule] 授業形態 : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Orientation	Orientation
2	What is a Translation?	Background & history of Japanese-to-English translation; short practice
3	Sight Translation (1)	In-class oral translation (1); identifying difficult areas
4	Sight Translation (2)	In-class oral translation (2); transitions
5	Translation Skills	What skills constitute competence?
6	Peer Review	Evaluating and editing; criteria
7	Kinds of Meaning (1)	Review; mid-term take-home exam
8	Sight Translation (3)	In-class oral translation (3); sentence structure
9	Sight Translation (4)	In-class oral translation (4); grammar
10	Kinds of Meaning (2)	Types of meaning and ambiguity; register
11	Sight Translation (5)	In-class oral translation (5); idiomatic usage
12	Sight Translation (6)	In-class oral translation (6); editing decisions
13	Discourse Genres	Tenses, clauses, complex sentences, style, structure
14	Summary	In-class final exam and wrap-up

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]

Students are asked to read and complete all assignments before class and come prepared to share their translations and participate in class discussions and critique. Students may be asked to resubmit translation work after discussion and critique. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

[Textbooks]

Handouts will be provided by the lecturer.

[References]

Hasegawa, Yuko. *The Routledge Course in Japanese Translation*. New York: Routledge, 2011.

Other references will be given in class.

[Grading criteria]

(1) Participation 20% (2) Homework 30% (3) Mid-term 25% (4) Final exam 25%

FRI100ZA

Introduction to Programming

Youyung Hyun

Credit(s) : 2 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 1~4

Day/Period : 金 2/Fri.2

その他属性 : 〈優〉

【Outline and objectives】

In this class, students will learn the role of programming within the context of data science and IT and practicing basic and intermediate level of programming with various examples.

【Goal】

Students will 1) learn main components of programming, 2) use major programming patterns, 3) learn and practice knowledge a popular programming language Python, and 4) be prepared for the more advanced programming courses such as Big Data and Analytics as well as Database Utilization.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain “DP 1”, “DP 2” and “DP 4”.

【Method(s)】

This course will proceed with lectures, practice learning and Q&A sessions (including individual instructions). Students are required to review what they have learned in the last class and take a mini test every week for about 10 minutes.

At the beginning of every class, feedback for the previous class will be given, and a brief review will be conducted.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり / Yes

【Fieldwork in class】

なし / No

【Schedule】 授業形態 : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction of Course	Introduction of Course
2	Chapter 1. The Overall Picture of Programming	Students will learn the role of programming within the context of data science and IT
3	Chapter 2. Programming Language & Software	Students will learn basic programming language used in Python and familiarize with how to use software (e.g., anaconda & Jupyter notebook).
4	Chapter 3. Data Type & Variables	Students will learn types of data, how to make variables, and how to "print" some results using Python.
5	Chapter 4. Data Structure	Students will learn data structures and practice format & print
6	Chapter 5. Coding "If" function	Students will learn "if" coding in Python and practice print "if" coding in various examples.
7	Chapter 6. Coding "String," "List," & "If"	Students will learn "string," "list," & "if" codings with advanced examples.
8	Review & Simulation	Students will review what the class has covered during the first half of the semester and take a simulation test.
9	Chapter 7. Coding "While," & "For" (1)	Students will learn coding "while," and "for" and practice them with examples.
10	Chapter 8. Coding "While," & "For" (2)	Students will learn coding "while," and "for" with advanced utilization & examples.
11	Chapter 9. Practice Diverse Functions	Students will learn a set of functions and get used to using them with examples.
12	Chapter 10. A Variety of Data Structures (a)	Students will learn tuple, dictionary, and set coding.
13	Chapter 11. A Variety of Data Structures (b)	Students will practice tuple, dictionary, and set coding by using multiple examples.
14	Final Exam & Wrap-up	The instructor will summarize what we have learned throughout the semester, and students will take a final exam.

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

Preparatory study and review time for this class are 2 hours each. For example, students need to solve some practice problems assigned in class or summarize the assigned chapters for understanding Python.

【Textbooks】

Handouts and reading materials will be provided by lecturer.

【References】

Python Basics: A Practical Introduction to Python 3 (English Edition) David Amos, Dan Bader, Joanna Jablonski, Fletcher Heisler, Real Python (2022/1/24),

【Grading criteria】

Participation (20%); Mini test (20%); Simulation (20%); Final exam (40%).

【Changes following student comments】

Not applicable

【Equipment student needs to prepare】

Laptop (*downloaded with 'anaconda' and 'jupyter notebook')

【Prerequisite】

None.

PHL100ZA

Religious Studies

Robert Sinclair

Credit(s) : 2 | Semester : 秋学期授業/Fall | Year : 1~4
Day/Period : 水 3/Wed.3

その他属性 : 〈優〉

[Outline and objectives]

The primary purpose of this course is to expose students to some of the major questions in the scholarly study of religion. What is religion? What do religious symbols mean? Why do religions exist? How should we account for the differences among religions? Can or should we make judgments about religions, especially given our own commitments and biases? How does or should religion relate to morality? What is the relation of religion to culture? The selected readings will provide an introduction to the many approaches found in the study of religion, and provide examples of the various theories that arise when considering the complexity of religious experience. We will further discuss the early development of religion, and provide overviews of major and minor religions from Islam to Scientology.

[Goal]

The course aims to:

1. promote an enquiring, critical and sympathetic approach to the study of religion.
2. introduce students to the challenging and varied nature of religion, and to the ways in which this is reflected in experience, belief and practice
3. help students to identify and explore questions about the meaning of life, and to consider such questions in relation to religious traditions

[Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?]

Will be able to gain “DP 1”, “DP 2”, “DP 3”, and “DP 4”.

[Method(s)]

Students will attend lectures, read related materials, and have two written examinations. Feedback on completed assignments will be given in class.

[Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)]

あり / Yes

[Fieldwork in class]

なし / No

[Schedule] 授業形態 : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Course Overview	Course Overview
2	Religion: An Overview	Suffering and Evil, Explaining Death, Importance of Order and Ritual.
3	The Early Development of Religious Studies	Philosophy, Theology, and Religious Studies, Biblical Criticism, Anthropology and Religion, Negative Views of Religion
4	Recent Approaches to Religious Studies	Phenomenology and Religious Studies, Philosophy of Religion, Anthropology of Religion, Sociology of Religion, Psychology of Religion, Theories and Methods
5	Early Traditions	Prehistoric Religions, Animism and Anthropomorphism, Death and Hunting Rituals, Oral Traditions, and Religion, The Neolithic Revolution and the Rise of Historic Religions
6	Jewish and Christian Traditions	The History and Teachings of Judaism, The Rituals of Judaism, Judaism Today, The History and Teachings of Christianity, The Institutionalization and Politicization of Christianity, The Protestant Reformation, Christian Rituals, Christianity Today
7	Review & Midterm Exam	Assessing the degree to which students understand the subject
8	Islamic Religious Traditions	The History and Teachings of Islam, The Life of Muhammad and the Rashidun Caliphs, The Modern Period: Reform and Recovery, Islamic Rituals
9	Hinduism	History and Teachings of Hinduism, Classical Hinduism, Hinduism Today, Rituals

10	Buddhism	History and Teachings of Buddhism, The Four Noble Truths, The Core of All Buddhist Traditions Theravada (Hinayana), Mahayana, Vajrayana, Buddhist Rituals
11	Confucianism, Taoism, and Buddhism in China	The History of Chinese Religious Thought, Confucius, Taoism, Buddhism in China, Chan (Zen) Buddhism, Rituals in Chinese Traditions
12	Zoroastrianism, Shinto, Baha'i, Scientology, Wicca, and Seneca Traditions	Zoroastrian Rituals, History and Teachings of Shinto, History and Teachings of Baha'i, Wiccan Rituals, History and Teachings of the Seneca
13	Conclusions	Defining Religion, Secularization, Contemporary Atheist Views, Resurgent Islam, Medical Science and Religion, Religion and Mental Health
14	Final Exam & Wrap-up	Assessing the degree to which students understand the subject

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]

Students will attend lectures, read related materials, and have two written examinations. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

[Textbooks]

Readings will be distributed in class or posted/linked online. Students should download them, print them out, and bring the required readings to class each week.

[References]

The Religion Toolkit: A Complete Guide to Religious Studies by John Morreall and Tamara Sonn, 2011, Wiley-Blackwell. (RT)

[Grading criteria]

Selection exam worth 10%: conducted during the first class.

Midterm exam worth 30%: The midterm exam will test your knowledge of the chapters discussed in the first half of class.

Final Exam worth 45%: The final exam will test your knowledge of the chapters discussed in the second half of class.

Continuous Assessment worth 15%: Class Participation and Group Discussion of Exercises

[Changes following student comments]

None.

[Equipment student needs to prepare]

Students are expected to bring readings to class in either paper or electronic formats.

[Prerequisite]

None.

HIS100ZA

History of Modern Europe

Markus Winter

Credit(s) : 2 | Semester : 秋学期授業/Fall | Year : 1~4
Day/Period : 月 1/Mon.1

その他属性 : 〈優〉

【Outline and objectives】

The world we live in is a world of sovereign (nation-)states. It seems as if those countries we know today have always been there, at least in some form. This course will critically examine this view and look at the major developments in Western history from the 18th to the 20th century that shaped modern Europe:

The emergence of modern states, 1789, the idea of the nation and nationality; the Industrial Revolution; colonisation and imperialism; the idea of 'balance of power'; the onset of mass democracy; and two world wars.

【Goal】

1) Gain an in-depth understanding of the origin of European state-and-nation-building, its impact on the world, and how it still shapes our perceptions today; 2) Identify the major intellectual, economic, and political developments from 1789-1945; 3) understand how 'modernity' and 'modern life' took shape in Western Europe and why; 4) Train your academic writing and speaking skills.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】
Will be able to gain "DP 1", "DP 2", "DP 3", and "DP 4".

【Method(s)】

Each class has three components: 1) The main component of the class is a series of lectures. 2) Each class will begin with a discussion part where students will pre-discuss the week's topic. 3) Lastly, at the end of the course, depending on the number of students, you will be asked to sit a final exam or give a brief presentation.

Feedback will be given to each individual student's graded work in writing.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり / Yes

【Fieldwork in class】

なし / No

【Schedule】 授業形態 : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	A State in the Middle Ages?	A State in the Middle Ages? Early modern states in Europe
2	Absolutism	'Absolute' rule? The Tilly Thesis; the court of Versailles
3	1789: the French Revolution	The Watershed: causes, triggers and ramifications
4	1789: the Aftermath & the rise of Napoleon	The triumph of absolutism after 1789? Napoleon's rise
5	The Concert of Europe - a first system of European International Relations	Europe's order post Napoleon: the system of Balance of Power
6	The Industrial Revolution	Europe - an Anomaly? Modernity and capitalism
7	Review & Mid-term Exam	A short exam on the topics covered so far
8	Nationalism and the Nation-State	The idea of the nation & nationalism
9	Heart of Darkness: European Imperialism	Colonisation; Imperialism; Orientalism;
10	Social Change: gender, family, consumer	A look at the social changes created by the previously studied developments
11	The Collapse of the Concert of Europe	The Road to War: the German Question & nationalism
12	'The Great War': World War I	'Total War'; uncertain outcomes; Treaty of Versailles
13	The Rise of Totalitarianism & World War II	The disenchantment of the world: the Holocaust
14	Final Exam	A final exam covering the topics of the class

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

1) Please conduct background research in preparation for the in-class discussion on each week's assigned topic. 2) In the case of no final exam: Brief presentation, due at the end of the term: Pick any European country you like and write about one specific aspect of its historical development that we address in this class. Preparatory study and review time for this class is ca. 4 hours per week.

【Textbooks】

Merriman, John. (2010). *A History of Modern Europe* (Volume Two): From the French Revolution to the Present. New York: Norton & Company.

【References】

<http://legacy.fordham.edu/Halsall/mod/modsbook13.asp> A very useful collection of primary sources, such as letters from Marie Antoinette, the Declaration of the Rights of Man, or writings from von Metternich. Ordered according to topic (see menu bar on the left) & <http://avalon.law.yale.edu/default.asp> Similar to the Fordham collection, but listed chronologically.

【Grading criteria】

Participation: 25%; Mid-term exam: 25%; Final Presentation or Final Exam (depending on number of students): 50%

【Changes following student comments】

Each lecture will start with a ca. 20 minute pre-discussion of the main themes of the week.

【Prerequisite】

None.

HIS100ZA

History of Modern East Asia

Chris H Park

Credit(s) : 2 | Semester : 秋学期授業/Fall | Year : 1~4
Day/Period : 木 3/Thu.3

その他属性 : 〈優〉

[Outline and objectives]

This course employs two perspectives to understand the histories of modern China, Japan, Korea, and Taiwan in the context of tradition and globalization from the late 19th century to the present. It examines the struggles of these four countries to preserve or establish their boundaries, identities, and cultures in a rapidly emerging modern world order. The course also looks at how individuals respond to and are shaped by the variety of modernity(ies).

The main questions that will be asked and addressed are:

What and why does the history of East Asia matter where capitalism has reached into all corners of the world and the term 'globalization' has become a cliché?

What are the major transformations and lines of continuity in East Asian history?

What factors in the historical development of modern China, Japan, Korea, and Taiwan explain changes and continuity?

[Goal]

This course has some basic goals including: 1) To familiarize students with some fundamental concepts of reconciliation, peace, and coexistence in a range of historical contexts; 2) To encourage students the capacity to analyze and to interpret historical theories and case studies in the local and global context of East Asia (China, Japan, Korea(s), and Taiwan) to ensure a transnational perspective; and 3) To help students develop an in-depth understanding of national, regional, and global dimensions in the makings of modern East Asia and interactions by shedding particular lights on human agency, nongovernmental organization, and local dynamics in East Asia to think critically about historical narratives.

[Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?]

Will be able to gain "DP 1", "DP 2", "DP 3", and "DP 4".

[Method(s)]

This course highly encourages students to engage in discussion and debate, and the capacity to interpret historical theories and case studies in the local and global context.

In addition, it is possible that some comments from the reaction papers may be introduced in class to elaborate on each lecture and to facilitate discussions.

Comments for assignments and the final reports are given through email.

Please check your university email account and Hoppii regularly to keep yourself updated.

[Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)]

あり / Yes

[Fieldwork in class]

なし / No

[Schedule] 授業形態 : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction to the course & self introduction	Introduction to the course & self introduction
2	Space and time in the making of East Asia: Decline of Chinese hegemony and rise of world capitalism	Theories and concepts
3	Nationalism, modernization & reform I	Lecture and discussion
4	Nationalism, modernization & reform II	Lecture and discussion
5	Japan builds an empire: Revolution or reactionary reform?	Lecture and discussion
6	Colonial modernity and Imperial Subjects I: Settler's colonialism	Lecture and discussion
7	Colonial modernity and imperial Subjects II: Diaspora(s) and Migrants	Review essay due

8 Contested histories: The Pacific War and its legacies Lecture and discussion

9 Marxist-Leninist revolution in East Asia I: North Korea (case studies) Lecture and discussion

10 Marxist-Leninist revolution in East Asia II: Mao's revolution in China (case studies) Lecture and Discussion: "Edgar Snow, Red Star Over China: The Classic Account of the Birth of Chinese Communism."

11 East Asia and U.S. Hegemony: Postwar and postcolonial nation building I Lecture and discussion

12 East Asia and U.S. Hegemony: Postwar and postcolonial nation building II Lecture and discussion

13 East Asia and U.S. Hegemony: Postwar and postcolonial nation building III Lecture and discussion

14 Conclusion: A history of East Asia in Global Perspective Group presentation and discussion

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]

It is important to note that all assignments must be completed to pass the course, and all assignments must be completed on time or be marked down accordingly (for papers, five points per day late).

In addition to preparing for discussions, students are expected to read and review class materials before each class. It requires at least 2-3 hours to prepare for this class.

[Textbooks]

The additional readings will be distributed before class.

[References]

Rebecca E. Karl, Mao Zedong and China in the Twentieth-Century World: A Concise History (Durham: Duke University Press, 2010)

Anita Chan, Richard Madsen, & Jonathan Unger, Chen Village: Revolution to Globalization (Berkeley: University of California Press, 2009)

Leo T.S. Ching, Becoming Japanese: Colonial Taiwan and the Politics of Identity Formation (Berkeley: University of California Press, 2001)

Andrew Gordon, A Modern History of Japan from Tokugawa Times to the Present (New York: Oxford UP, 2014)

John W. Dower, Embracing Defeat: Japan in the Wake of World War II (New York: W.W. Norton & Company, 1999)

Bruce Cumings, Korea's Place in the Sun: A Modern History (New York: W.W. Norton, 2005)

[Grading criteria]

Class Participation and Discussion: 30%, Presentation & Review Essay: 30% (in class presentation 15%, and a review essay 15%), Final Group Project: 40% (a group presentation 15%, and a final group report 25%)

[Changes following student comments]

n/a

[Equipment student needs to prepare]

None.

[Others]

The additional readings will be distributed before class.

[Prerequisite]

None.

ART100ZA

Music Appreciation

Cathy Cox

Credit(s) : 2 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 1~4

Day/Period : 水 5/Wed.5

その他属性 : 〈優〉

[Outline and objectives]

What is music, how is it made, and what does it mean to 'appreciate' it? In this course we will investigate these and other questions surrounding music-making and musical experiences. Each week students will participate in directed listening and music-making activities as we explore various genres of music with an emphasis on Western music traditions.

[Goal]

Students will be able to:

- (1) develop vocabulary to talk about music;
- (2) develop listening skills;
- (3) develop ability to interpret, appreciate, and critique music in a variety of forms and contexts.

[Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?]

Will be able to gain "DP 2", "DP 3", and "DP 4".

[Method(s)]

The course is taught through a combination of lectures, guided listening sessions, musical activities, and group discussions. The course will facilitate self-learning through required weekly reading and listening assignments that will be assessed through short writing assignments, as well as collective learning through a final group presentation. Feedback will be given collectively in class or through the Learning Management System (Google Classroom), depending on the nature of the assignment.

[Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)]

あり / Yes

[Fieldwork in class]

なし / No

[Schedule] 授業形態 : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction	Overview of the course and requirements
2	Time and Rhythm	Music as a time-based artform. Introduction to concepts of tempo, beats, meter and rhythm.
3	Melody	Adding pitch to rhythm. Investigating how melodies move from one pitch to the next. Abstracting scales and modes from melodies.
4	Texture	How different voices or instrument parts are woven together to create the fabric of music, layers of different sounds.
5	Harmony	A focus on the use of chords and chord progressions in homophonic textures. Investigating harmonic rhythm and the interaction of harmony and meter. Discuss ideas of dissonance and consonance.
6	Timbre	Describing the 'sound' of sound: differences among instruments, voices, playing styles.
7	Mid-term review	Review of topics and materials from weeks 1-6. Selection of group projects.
8	Studio production	Hearing and understanding contemporary sound production techniques.
9	Repetition and Form	Understanding various approaches to large-scale musical structure
10	The Art of Performance	Improvisation, interpretation, cover-versions and mashups.
11	Music Analysis 1	Student-led discussions and presentations of music analysis projects
12	Music Analysis 2	Student-led discussions and presentations of music analysis projects
13	Music Analysis 3	Student-led discussions and presentations of music analysis projects

14 Review and Wrap-Up Review of topics and materials

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]

Students are expected to read assigned texts, listen to assigned recordings, and complete assigned writing and creative tasks. Students are also expected to find music examples to share with the class. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

[Textbooks]

Required weekly reading and listening assignments will be made available by the instructor.

[References]

GOTHAM, Mark et al. (2021). Open Music Theory, version 2 (<https://viva.pressbooks.pub/openmusictheory>)MOUNT, Andre. (2020). Fundamentals, Function, and Form: Theory and Analysis of Tonal Western Art Music (<https://milneopentextbooks.org/fundamentals-function-and-form/>)

[Grading criteria]

In-Class Discussion and Activities: 30%,
Questionnaires for Weekly Reading and Reflection: 30%
Short Essay Assignments: 20%,
Group Presentation: 20%

[Changes following student comments]

Integrated opportunities for music-making activities.

[Equipment student needs to prepare]

Some in-class activities may require the use of computers, tablets or smartphones for the creation and/or playback of sound.

Recommend GarageBand for Mac OS; Studio One for Windows OS.

[Others]

Class materials and assignments can be accessed through Google Classroom.

[Prerequisite]

None

ART100ZA

Manga Studies

Stevie Suan

Credit(s) : 2 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 1~4

Day/Period : 木 2/Thu.2

その他属性 : 〈優〉

【Outline and objectives】

This class will provide an introduction to the field of manga studies. Here we will explore how manga operates as a type of media, analyzing manga from a multidisciplinary perspective. This means that we will look at manga from a variety of different perspectives, including its modes of reading/viewing, economics, aesthetics, and political history while considering its place in Japanese society and abroad. We will learn what makes manga specific as a type of media and how that allows us to delve into its particularities. This includes examining how manga mediated different shifts in Japanese society, as we explore the differences in the major manga genres, and how they cover various topics, from gender to memory. Beyond the local, we will ask what manga made outside of Japan can tell us about global the spread of media. We will also ask what manga, a media form that developed from paper and print, can tell us about other issues regarding the digitalization of our world as it moves into new formats for the 21st century.

【Goal】

In addition to teaching the students information about manga, its surrounding cultures, and business practices, this class aims to develop critical thinking and analytical skills. Throughout the semester students will: 1) learn the specific history of manga; 2) how to analyze manga as media; 3) examine how manga interacts with other media and society; 4) explore how to critically engage with manga.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain “DP 2”, “DP 3”, and “DP 4”.

【Method(s)】

Classes will be lecture-based, with visual material such as clips of films and animation. Students will be asked to have group discussions and analyses on certain themes and specific manga. Each week students will be provided with an academic reading relevant to the topic. These readings will be important background information and/or will be directly addressed as the topic of the lecture and discussion. Lectures will explain in detail and through examples the topic for that class. Discussions based on the lecture will be facilitated by questions from the instructor to help the students explore and develop their critical and analytical skills for that topic. Students will be assessed on their understanding of the lectures and readings through their presentations and papers. Students will receive feedback in class and in written form, based on a grading rubric.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり / Yes

【Fieldwork in class】

なし / No

【Schedule】 授業形態：対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction	Introduction
2	Manga's Visuals	Manga's visual language
3	Making Manga's History	Are there pre-modern manga?
4	Pre-war Manga	Manga in Meiji and Taisho Japan
5	Post-war Manga	Tezuka Osamu's legacy
6	Media Influences	Manga, cinema, and anime's interactions
7	Genres I	Industrial genres: mainstream manga
8	Genres II	Shōjo manga and gendered expression
9	Genres III	Gekiga and existential themes
10	Genres IV	Alternative manga
11	Digital Manga	Effects of changing formats
12	Global Manga	Manga made outside of Japan
13	Student Presentations I	Feedback and preparations for final paper
14	Student Presentations II	Feedback and preparations for final paper, wrap-up of semester

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

Students should complete the assigned readings before each class and study the notes they take in class. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

【Textbooks】

No textbook will be required as readings will be provided by the instructor.

【References】

Berndt, Jaqueline, editor. *Manga, Comics and Japan: Area Studies as Media Studies*. Vol. 156, *Orientaliska Studier*, 2018, <https://orientaliskastudier.se/tidskrifter/156-2/>.

【Grading criteria】

Participation 20%

Presentation 40%

Final exam 40%

【Changes following student comments】

Not applicable.

【Prerequisite】

None.

ART100ZA

Visual Arts

Aquilés Hadjis

Credit(s) : 2 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 1~4

Day/Period : 水 3/Wed.3

その他属性 : 〈優〉

【Outline and objectives】

The advent of digital photography and the present ubiquity of high speed internet and camera phones has sent most of us into a frenzy of image production and consumption. We simply recognize when a particular picture or video “hits the spot”, but how is that effect achieved? Is everyone a photographer now? Are our memes real art?

This course invites participants to answer those questions through a practice-based inquiry into image making in both “documentary” and “artistic” modalities.

【Goal】

What special conditions make an image get closer to being seen as “art” or at least “artistic”? Is the way we document our daily life on social media the same as a “real” documentary? How often do you look at the images you post online afterwards, and have you ever printed them?

This course aims to foster a critical eye towards camera use and the imagery it generates. Among other topics, it will explore basic techniques in image making which the participants will experience practically during the semester, including camera operation (full manual operation) and the basic handling of subjects and locations (lighting, composition, editing) gaining insight into what documentary or art photography is/isn't. Students will learn the basics of ‘making’ photographs and gain practical experience in working with real-life subjects. Drawing upon these experiences, students will prepare a final project based on a theme and methodology to be decided in class.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain “DP 1”, “DP 2”, “DP 3”, and “DP 4”.

【Method(s)】

This course uses a practice-based learning approach centered around the production of still photography with some video. Workshops, assignments and supporting lectures are employed to develop students’ basic understanding of image making using examples from many eras and contexts. Students create an Instagram account for the course and post one photograph daily in response to a weekly class project. Final submission comprises a project portfolio, a written project statement, and evidence of participation (i.e., weekly assignments, class discussion).

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり / Yes

【Fieldwork in class】

なし / No

【Schedule】 授業形態 : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction	Introduction
2	What Can your Camera Really Do?	Learning about sensors, compression, and manual camera settings.
3	Lighting, Lenses and Beautification.	Seeing how lighting, composition and art direction sculpt scenes and subjects and the effects of lenses.

4	Photography and Film as Documents	Discussing early instances of photography as a documentary medium and a source of legal evidence.
5	The Genesis and Afterlife of Images	Exploring photography’s relationship with appropriation, influence and iconography and symbolic frameworks
6	Is the Document the Work Itself? Images as Things.	Discussing the relationships between documentary photography and art and the physical qualities of photo prints and book art
7	Past & Contemporary Documentary Photographers	Discussing the evolution of the themes and methods of documentary photography through key practitioners.
8	Past & Contemporary Art Photographers	Discussing the evolution of the themes and methods of fine art photography through key practitioners.
9	Project Proposals	Discussing and preparing project proposals. First Presentation.
10	The Logic of Images	Exploring and developing strategies for addressing a theme throughout multiple images across time.
11	Editing is Key	Discovering the power of editing as a second moment of creation where we recognize (or falsify) patterns, narratives and motivations.
12	Peer Review: The Gaze of Others	Assembling and reviewing of project drafts with peer groups.
13	Final Project Review and Submission	Reviewing final portfolios and technical challenges prior to submission.
14	Final Presentation and Wrap-up	Final students’ presentation on their projects and feedback session.

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

Students must regularly take photographs and or videos, and concentrate on organizing them coherently in groups. Every week students are expected to participate in a camera-based assignment, which will be discussed in class. In order to track progress, students are expected to create a new Instagram account and post a single image taken daily (7 days x 12 weeks = 84 images). They are also expected to use the photobook resource in the library and do assigned readings. Preparatory study and review time for this class are about 2 hours each.

【Textbooks】

No textbook will be used. Handouts and reading materials will be distributed in class.

【References】

Barthes, Roland (1993) *Camera Lucida: Reflections on Photography*, Vintage Classics.
 Batchen, Geoffrey (2011) *Photography Degree Zero: Reflections on Roland Barthes’s Camera Lucida*, MIT Press.
 Berger, John (2013) *Understanding a Photograph*, Penguin Books.
 Fontcuberta, Joan (2014) *Pandora’s Camera*, Mack.
 Gibson, David (2014) *The Street Photographer’s Manual*, Thames & Hudson.
 Heng, Terence (2016) *Visual Methods in the Field: Photography for the Social Sciences*, Routledge.
 Lubben, Kristen (2014) *Magnum Contact Sheets*, Thames & Hudson.

Meyerowitz, Joel and Westerbeck, Colin (2017) *Bystander: A History of Street Photography*, Lawrence King.

Sontag, Susan (1977/2008) *On Photography*, Penguin Classics.

Krivine, Andrew (2020) *Too Fast to Live Too Young to Die: Punk & Post Punk Graphics 1976-1986*, Pavilion.

Additional references will be provided by the instructor in class.

[Grading criteria]

Participation: this applies to daily posts (or multiple image posts for a project) to Instagram for weekly photo projects (minimum of 84 images total for projects). More than 2 unexcused absences will result in failure of this course.

Main Project: Each student must produce a portfolio (booklet) of 8-12 images selected from photographs made of one subject (or theme) during the course. Students are free to choose their subject but it must be discussed with the instructor and peers. A written project statement will be required. A template for the portfolio will be provided but students' proposals about using other templates or presenting video (or alternative printed formats) will be considered by the instructor on a case by case basis.

Presentation: each student must make short presentations (3-5 minutes) when they settle the plan for the project and when they conclude it. Additional casual presentations connected to assignments may be requested.

The final grade is based on: Participation 30%, Class Presentations 20%, Main Project 50%.

[Changes following student comments]

Changes have been made to help students to produce photographs of a higher conceptual and practical skill as well as design and present their projects.

[Equipment student needs to prepare]

Students will need a laptop, a camera (mobile-phone cameras are the minimum) and general stationary (e.g. pen, pencil, glue, tape, paperclips). Please note that the use of a smartphone camera is acceptable for this course. However, if you have regular access to a better camera, please bring it and the instructor will show you how to use it. For several of the assignments you will need to print out your images as contact sheets and booklets. Convenience store laser prints are acceptable.

[Others]

Students are expected to come to class on time, participate and show interest in class topics, and develop enthusiasm about the subject of their projects.

The instructor is a practicing artist and filmmaker whose work across disciplines (visual arts, music, installations, film and photography) has been shown at venues, publications and exhibitions around the world.

[Prerequisite]

None.

ART100ZA

Topics in Arts: Fine Arts

Suzanne Mooney

Credit(s) : 2 | Semester : 秋学期授業/Fall | Year : 1~4
Day/Period : 金 1/Fri.1

その他属性 : 〈優〉

[Outline and objectives]

Drawing is at the root of expression and communication in fine art. Through this course, students gain a fundamental understanding of art, while also pushing the boundaries of drawing beyond a traditional understanding of the medium. The skills being taught start with traditional drawing methods, and throughout the course, the definition of drawing is expanded to include elements of photography, digital imaging, and computer code.

Fine art is often dismissed as purely subjective and beyond comprehension or academic interrogation. Through a structured, methodical approach to image-making, supported by a comprehensive introduction to basic theory, and examples of these methods in practice, students will gain the ability to hone in on an area of interest and apply drawing and image-making as a means of research or expression.

[Goal]

Learning how to 'look' is the biggest obstacle to successful drawing. Before even considering how to reproduce the appearance of an object or form, one must see beyond the obvious and the expected. Through active engagement in guided practical class activities and the production of an individual portfolio, students will gain an understanding of the potential of fine arts as a communicative tool, in addition to aesthetic experience and self-expression.

[Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?]

Will be able to gain "DP 1", "DP 2", "DP 3", and "DP 4".

[Method(s)]

Students engage in weekly practical exercises supported by lectures introducing relevant artists and their works. Exercises take the form of drawing activities that ask students to visually explore an object/subject.

Working towards an individual approach, students produce a portfolio of drawings. In addition to a final portfolio of drawings, students are required to keep a weekly sketchbook and take part in presentations and discussions in class.

Students will receive direct feedback and critique in class, combined with regular written feedback or grades for assignments submitted online. For major assignments, a grading rubric will be provided and explained in detail.

[Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)]

あり / Yes

[Fieldwork in class]

なし / No

[Schedule] 授業形態 : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction & doodling	Introduction & doodling
2	Gesture drawing	Observing and rendering a subject in terms of line and feeling. Learn how to use quick sketching techniques. Ignore details to make drawings that capture the weight and pose of an object or person. Practical exercise: Gesture drawing.
3	Mark-making & tactility	Observing and rendering a subject in terms of controlled marks. Instruction on getting the full range of marks from your tools. Practical exercise: Mark-making.
4	Light & dark	Observing and rendering a subject in terms of light, shade and erasure. Positive and negative space Understanding light and form. Instruction on how to use dark and light shading to render form. Practical exercise: Shading.

5	Drawing in 3D	Exploring three-dimensional space with line: Wireframe drawing; Isometric drawing and linear perspective. Beginning a drawing without a drawing surface. Practical exercise: Perspective drawing.
6	Lines, angles, mathematics and logic	Study of the use of mathematics art. Practical exercise: Two-point perspective and patterns.
7	Light as a tool for drawing	Making drawings using time and light. Considering photography in drawing and also the relationship between time and light in drawing image. Practical exercise: Drawing with light and drawing with shadows.
8	Pixel drawing	Understand pixels and digital image data. Learn about correct scaling for screen and for print. Use layers to build complex digital images. Practical exercise: Editing scanned images.
9	Vector drawing	Using computer software/apps for making scalable drawings in a digital environment. Understand the difference between vector graphics and pixels, and the application of vector graphics in drawing, illustration and design. Practical exercise: Basics of vector drawing.
10	Visual coding	Code and creative programming in generative drawing. Instructional lesson in basic computer coding for generative drawing and motion graphics. Practical exercise: Editing and writing simple drawing programs.
11	Portfolio preparation	Group discussions reviewing drawings produced so far.
12	Portfolio review	In class portfolio presentation and critique for all students. Individual presentations to the class.
13	Portfolio review	In class portfolio presentation and critique for all students. Individual presentations to the class.
14	Portfolio review/ The bigger picture	Individual presentations(continued) and considering the application of drawing beyond this course. Class discussion.

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]

Preparatory study and review time for this class are 2 hours each. Students are be required to complete practical activities outside of class time.

In addition to class activities and regular notebook work, students will be required to spend time every week working towards their portfolio before the final review.

Research on an artist selected by the student will also be expected.

[Textbooks]

No textbook will be used

[References]

Winter, Roger (2008) On Drawing Rowman & Littlefield Publishers
Berger, John (1977) Ways of Seeing, Penguin Books. • Dexter, Emma (2005) Vitamin D: New Perspectives in Drawing. Phaidon Press.

The Drawing Projects: An Exploration of the Language of Drawing. Black Dog Publishing.
On Drawing, Roger Winter. Rowman & Littlefield Publishers, 2008

[Grading criteria]

Participation and attitude - 25%

Tasks - 30%

Completed portfolio - 30%

Presentation - 15%

[Changes following student comments]

More time has been allocated for portfolio review presentations.

[Equipment student needs to prepare]

A sketchbook (A3) and notebook (A5-A4) with plain white paper.

Loose sheets of paper for quick sketching.

Basic drawing materials:

Pencils (ex. 2B, 4B, 6B)

Black ball-point pen

30cm ruler

Soft eraser

Charcoal or chalk pastels

A computer will be required for some classes.

Additional materials will be specified throughout the course as required.

[Prerequisite]

None.

ART100ZA

Topics in Arts: Visual Communication Design

Gary McLeod

Credit(s) : 2 | Semester : 秋学期授業/Fall | Year : 1~4
Day/Period : 土 2/Sat.2

その他属性 : 〈優〉

[Outline and objectives]

Images seen on walls and in public spaces are rarely random. Most are designed to grab attention and make the viewer want to do something, whether it be desire a car, a drink, a movie, or to share in an idea such as a political message or charity. If images always carry messages, this course explores such message through the practice of making images.

[Goal]

During this course, we will learn how visual messages are conveyed through the acquisition of essential skills (e.g. use of grids, balance, rhythm, typography). We will also develop a working understanding of the impact that images have upon contemporary society. In doing so, the course aims to encourage students' critical awareness of surrounding visual environments.

[Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?]

Will be able to gain "DP 1", "DP 2", "DP 3", and "DP 4".

[Method(s)]

Blending theory and practice to introduce the basics of Visual Communication Design, the first part of the course looks at how and why we "read" images in different ways. The second part looks at supporting students through the process of designing an advertisement. To develop a contextual understanding of the subject, students also create a dedicated Instagram account for collecting advertisements seen around Tokyo. Final submission comprises a final project (advertisement) and evidence of participation (Instagram posts). Attendance is recorded weekly using visual media (e.g. photograph). Feedback is given via dialogue and discussion of work in class.

[Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)]

あり / Yes

[Fieldwork in class]

あり / Yes

[Schedule] 授業形態 : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Sight and Perception	Introducing the the problems of visual communication.
2	Visual Cues	Looking at the many cues that the brain receives when looking at images and how to use them.
3	Visual Theories	Exploring theories associated with the act of seeing.
4	Visual Persuasion	Discussing the use of persuasion and the commonality of propaganda.
5	Visual Stereotypes	Exploring stereotypes within the contemporary visual landscape.
6	Visual Analysis	Analyzing images using Lester's six perspectives.
7	Visual Literacy	Discussion of advertisements in Tokyo.
8	Layout	Exploring the value of different layouts in design.
9	Typography	Exploring the history and use of typefaces for design.
10	Images	Looking at ways to reproduce/scale/multiply images within designs.
11	Colour	Exploring colour as a communicative decision for design.
12	Constructive Feedback	Getting feedback on poster designs.
13	Peer Review	Making final amendments and adjustments to designs.
14	Taking Responsibility	Discussing the future of advertisements.

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]

Students are expected to download and read assigned readings prior to lectures. Students are also expected to create a dedicated Instagram account and post a single image taken daily (7 days x 13 weeks = 91 images). The project will require a number of hours spent outside of class in order to make the work. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

[Textbooks]

Lester, Paul Martin (2014) *Visual Communication: Images with Messages*, Wadsworth Cengage Learning.

Additional handouts and reading materials will be will be uploaded on H'etudes or distributed in class.

[References]

Ambrose, Gavin and Harris, Paul (2011) *Basics Design 01: Format*, Fairchild Books.

Ambrose, Gavin and Harris, Paul (2011) *Basics Design 02: Layout*, 2nd Edition, Fairchild Books.

Ambrose, Gavin and Harris, Paul (2005) *Basics Design 03: Typography*, Fairchild Books.

Ambrose, Gavin and Harris, Paul (2006) *Basics Design 04: Image*, Fairchild Books.

Ambrose, Gavin and Harris, Paul (2007) *Basics Design 05: Colour*, Fairchild Books.

Berger, John (1977) *Ways of Seeing*, Penguin Books.

Frascara, Jorges (2004) *Communication Design: Principles, Methods, and Practice*, Allworth Press.

Triggs, Teal and Atzmon, Leslie (2017) *The Graphic Design Reader*, Bloomsbury.

Additional references will be provided by the instructor in class.

[Grading criteria]

Participation: this applies to class-activities, assigned readings and daily posts to Instagram. More than 2 unexcused absences will result in failure of this course.

Final Project: each student must produce an advertisement relating to a topic determined by the instructor.

The final grade is based on: Participation 40% and Final Project 60%.

[Changes following student comments]

Changes reflect feedback and suggestions. Thank you.

[Equipment student needs to prepare]

Students will need a laptop, a camera, a workbook (e.g. blank sketchbook/notebook), and general stationary (e.g. pen, pencil, glue, tape, paperclips). Students will also need access to a printer and know how to use it (e.g. Convenience store print machine). Paper and other basic art materials may also be requested from time to time.

[Others]

Being naturally creative is not a requirement for this course. However, students are expected to come to class on time, participate and demonstrate an active interest.

[Prerequisite]

None.

LIN100ZA

Contrastive Linguistics

Geraldo Faria

Credit(s) : 2 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 1~4

Day/Period : 金 2/Fri.2

その他属性 : 〈優〉

【Outline and objectives】

In this course, you will learn how Contrastive Linguistics is defined as an academic subject. By drawing on topics related to variations within a language (i.e. dialects) or between related languages, this course provides an accessible and engaging overview of Contrastive Linguistics.

【Goal】

The development of practical skills through the acquisition of a basic knowledge of Contrastive Linguistics. Three main skills are emphasized: 1) finding similarities and differences between dialects or related languages; 2) compiling data for documentation and analysis; and 3) gaining basic knowledge of under-documented and endangered languages.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain “DP 1”, “DP 2”, “DP 3”, and “DP 4”.

【Method(s)】

After an introduction to the topics in the form of mini-lectures, examples from target languages are presented for discussion and analysis. This course contains assignments and writings outside of class, which may be presented in class. Note that the suggested topics may vary slightly depending on the number of registered students and their interests. Finally, submissions of assignments and their feedback will be via Google.docs (unless students are notified previously).

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり / Yes

【Fieldwork in class】

なし / No

【Schedule】 授業形態 : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction	Introduction
2	Concepts	Contrasts and similarities between dialects of a language and related languages
3	Diachronic Changes of a Language/Dialect 1	Examination of changes (sound variations): comparisons and contrasts
4	Diachronic Changes of a Language/Dialect 2	Examination of changes (lexical variations): comparisons and contrasts
5	Contrastive Descriptions	From speech sounds to discourse, seven types of contrasts will be examined
6	Phonological Contrasts	Various techniques will be introduced to examine intralingual and interlingual data. Midterm review quiz.
7	Contrasts between Writing Systems	Synchronic and diachronic examination of writing systems.
8	Morphological Contrasts	Diachronic and synchronic comparisons of data will help students to better understand two variants of intralingual and interlingual data
9	Lexicological Contrasts	Variations of word meanings intralingually and interlingually
10	Phraseological Contrasts	Variations of collocations will be examined cross-dialectally
11	Syntactic Contrasts	Structuring sentences across languages is examined to better describe and produce well-formed sentences in a second language
12	Textual Contrasts	Contrasting recorded diachronic oral stories
13	Presentations	Students will give short academic presentations
14	Consolidation	End-of-course assessment, feedback, and wrap-up

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

Students are expected to complete weekly reading assignments before class and review previous handouts before the following class.

They should also organize their notes in the form of a notebook or computer file.

Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

【Textbooks】

No textbook will be used. The teacher will provide handouts, reading material, and links to online data.

【References】

Austin, Peter and Julia Sallabank. *The Cambridge Handbook of Endangered Languages*. Cambridge University Press, 2011 ISBN 9780521882156

Moravcsik, Edith. *Introducing Language Typology*. Cambridge University Press, 2013 ISBN 9780521193405

The teacher will suggest material appropriate to the students' projects and interests through either the Internet or reference books available at the university library.

【Grading criteria】

Grades will be based on exams (mid-term 30% and final 30%), assignments 30%, and participation 10%.

【Changes following student comments】

No feedback yet received.

【Equipment student needs to prepare】

Quick researches online are at times required; therefore, a laptop or smartphone may be used for such searches.

【Others】

A willingness to tackle language-related puzzles.

【Prerequisite】

None.

EDU100ZA

Language Education in the Digital Era

Robert Paterson

Credit(s) : 2 | Semester : 秋学期授業/Fall | Year : 1~4
Day/Period : 水 1/Wed.1

その他属性 : 〈優〉

[Outline and objectives]

This course will aim to teach students the current best practices in educational technology for language learning with reference to teaching professionals. As such, we will explore pedagogical approaches to using technology as well as the actual educational technology apps and eco systems that can be used.

[Goal]

By the end of the course students should be able to:

- 1 - understand the Google educational eco systems for teachers and students,
- 2 - be able to use the Google apps and approaches for their project work in (4) below,
- 3 - work collaboratively in teams using the apps and tools in (2) above to complete the work in (4) below,
- 4 - create and design an appropriate project website that hosts students' multimedia work,
- 5 - maintain a personal reflective blog for the duration of the course and share it with the class and teacher.

[Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?]

Will be able to gain "DP 2" and "DP 4".

[Method(s)]

Some classes will have a mini demonstration of various ed-tech tools by the teacher followed by time for students to repeat the same actions by themselves. Other classes will teach various research techniques using technology, followed by longer periods of research time for students to gather information. All classes will have homework - sometimes design work, sometimes research work, sometimes written work, and sometimes commenting on the work of others. At the beginning of class feedback for the previous classes homework will be given by the teacher. All assignments will be done on Google Docs/Slides/Sites/Blogs and checked online at the start of the next class.

[Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)]

あり / Yes

[Fieldwork in class]

なし / No

[Schedule] 授業形態 : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Class Intro & Intro to Educational Technology	Class Intro & Intro to Educational Technology
2	Schools of Thought in Educational Technology	This class will be an overview of the different philosophical and pedagogical schools of thought on educational technology in schools and colleges / universities.
3	Google in Education 1	This course will provide an overview of Google's apps and tools for education and the educational benefits it offers.
4	Google in Education 2	This course will provide a further overview of Google's apps and tools for education and the educational qualifications Google offers.
5	Other Ed-tech Players in Education	This course will provide an overview of other 3rd party apps and tools for education and the educational qualifications these other groups offer.
6	Educational Technology Pedagogies 1	This week we will explore in detail the first set of pedagogical approaches that use some of the apps / tools previously covered.
7	Educational Technology Pedagogies 2	This week we will continue to explore in detail the second set of pedagogical approaches that use some of the apps / tools previously covered.

8	Mobile Language Learning	Here we will examine mobile language learning - i.e. how mobile devices like tables and smart phones can be used. We will cover the pros and cons of using these devices and the apps on them.
9	SNS in Education	Here we will examine SNS language learning - i.e. how SNS apps can be used. We will cover the pros and cons of using different SNS accounts and how to use them educationally.
10	Project Work 1	Here we will start the team project work. Each team will have a full digital portfolio of apps and tools and will have made a multimedia website using Google Sites.
11	Project Work 2	Continuation of Project week 1 above including guidance on how to give engaging presentations.
12	Project Work 3	Continuation of Project week 1 above.
13	Final Project Presentations 1	In these last two weeks the student groups will present their findings to the others in the class.
14	Final Project Presentations 2 & Feedback	Detailed feedback on all the course work.

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]

There will be some homework readings almost every week as well as the weekly blog writing and project work. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

[Textbooks]

No textbooks - all materials will be supplied by the teacher.

[References]

No reference books - all materials will be supplied by the teacher

[Grading criteria]

Participation - 10%

Weekly blog work - 10%

Other weekly homework - 10%

In class performance - 10%

Final project work - 60% (website design - 10% / slideshow - 10% / video - 10% / presentation performance - 10% / final written blog report - 20%)

[Changes following student comments]

Previous students from the academic 2022 year, gave the course very good feedback so I plan to keep it much the same.

[Equipment student needs to prepare]

All students will need a personal Gmail account as the Hosei ones have many things turned off. Also having your own laptop would be very useful. Alternatively, a tablet and smart phone would be okay.

[Others]

This course should be fun as you will be learning many things about technology in education that is not commonly taught to students. So come with an open mind and be ready to learn.

[Prerequisite]

None.

LIN100ZA

Second Language Acquisition

Tomoko Shigyo

Credit(s) : 2 | Semester : 秋学期授業/Fall | Year : 1~4
Day/Period : 金 4/Fri.4

その他属性 : 〈優〉

[Outline and objectives]

The course provides an overview of second language (L2) learning; in particular, it provides basic studies and theories of how languages are learned from different perspectives such as first language (L1) acquisition and individual differences (ID). It also covers issues on characteristics of L2 learners and learning through the observation of L2 classrooms and discussion about it.

[Goal]

Upon completion of this course, students should be able to do the following:

- (1) Learn important concepts, perspectives, and theories in second language learning, including influence by first language acquisition and its studies
- (2) Understand basic factors influence on of second language learning
- (3) Explain basic factors that influence building theoretical frameworks of L2 learning.

[Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?]

Will be able to gain “DP 2” and “DP 4”.

[Method(s)]

This course looks at how languages are learned: based on the lecture giving explanation of terms of SLA in the first half of the course, students are to make a presentation of core issues on L2 learning in the classroom with their L2 learning experiences in the second half of the course.

[Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)]

あり / Yes

[Fieldwork in class]

なし / No

[Schedule] 授業形態 : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction	Course guidance
2	Language Learning in Early Childhood	First language acquisition Explaining first language acquisition - The behaviorist perspective - The innatist perspective - Interactionist/ development perspective
3	Second Language Learning (1)	Learner characteristics Learning conditions Studying the language of second language learners - Contrastive analysis, error analysis, and interlanguage - Developmental sequences
4	Second Language Learning (2)	More about first language influence Vocabulary Pragmatics Phonology Sampling learners' language
5	Individual Differences in Second Language Learning (1)	Research on learner characteristics - Intelligence - Language learning aptitude - Learning styles - Personality - Attitudes and motivation - Motivation in the classroom - Identity and ethnic group affiliation - Learner beliefs
6	Individual Differences in Second Language Learning (2)	Individual differences and classroom instruction Age and second language learning Age and second language instruction
7	Explaining Second Language Learning (1)	The behaviourist perspective The innatist perspective The cognitive perspective

8	Explaining Second Language Learning (2)	Second language applications: interacting, noticing, processing, and practising - The interaction hypothesis - The noticing hypothesis - Input processing - Processability theory - The role of practice Natural and instructional settings Classroom comparions: Teacher–student interaction
9	Observing Learning and Teaching in the Second Language Classroom (1)	Observation schemes - Classroom comparisons: Teacher–student interaction
10	Observing Learning and teaching in the Second Language Classroom (2)	Classroom comparisons: Student–student interaction - Corrective feedback in the classroom - Questions in the classroom Ethnography
11	Second Language Learning in the Classroom (1)	1 Get it right from the beginning 2 Just listen ... and read 3 Let's talk
12	Second Language Learning in the Classroom (2)	4 Get two for one 5 Teach what is teachable 6 Get it right in the end
13	Popular Ideas about Language Learning Revisited	Reflecting on the popular ideas: Learning from research
14	Consolidation of Second Language Learning	Reflection & Summary

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]

Preparation 2 hours, review 2 hours, a total of 4 hours.

Students are expected to complete weekly reading assignments

[Textbooks]

Lightbown, P. M. & Spada, N. (2013). How languages are Learned. 4th. Oxford University Press. ¥ 2,099

[References]

1.Benati, A. G. & Angelovska, T. (2016). Second Language Acquisition: A Theoretical Introduction to Real-World Applications. Bloomsbury Academic.

2.VanPatten, B., Smith, M. & Benati, A. G. (2019). Key Questions in Second Language Acquisition: An Introduction. Cambridge University Press.

[Grading criteria]

Evaluation will be based on:

1. Class participation (20%)
2. Presentation (30%)
3. Presentation material (10%)
4. Final assignment (40%)

More than 2 unexcused absences will result in failure of this course.

[Changes following student comments]

Not applicable.

[Equipment student needs to prepare]

Use a laptop in class, get lecture materials, etc. in Hoppi.

[Prerequisite]

None.

EDU100ZA

Comparative Education

Machiko Kobori

Credit(s) : 2 | Semester : 秋学期授業/Fall | Year : 1~4
Day/Period : 木 2/Thu.2

その他属性 : 〈優〉

【Outline and objectives】

This course is for students intending to explore second language learning (SLL) focusing on motivational issues within the context of comparative education. It provides a basic understanding of different conceptual frameworks of second language (L2) motivation and a historical overview of the development of L2 motivational studies focusing on social, cognitive and educational aspects of motivational psychology. Its purpose is to give an insight into the significant variables of L2 motivation as core elements in L2 education from a global perspective. It explains how they are affected by globalisation and local settings related to L2 learners, such as their ethnic background, age, language preferences, L2 learning conditions, etc., and especially by comparing the teaching of English to other foreign languages. This course also studies how to put related knowledge into practice: it gives an insight into collections of related research studies ranging worldwide, and it is expected to stimulate debate on how to deal with motivational aspects of learners, lessons, teaching materials, evaluation, etc. effectively in L2 education.

【Goal】

Upon completion of this course, students should be able to do the following:

- (1) Learn different concepts, perspectives, and theories in L2 motivation.
- (2) Explain various factors that influence building conceptual frameworks of L2 motivation.
- (3) Utilise the theoretical knowledge of L2 motivation to explain motivational issues of L2 education.
- (4) Discuss motivational approaches to deal with controversial issues of L2 education.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain “DP 1”, “DP 2”, “DP 3”, and “DP 4”.

【Method(s)】

A presentation, final exam and writing assignment are required for the completion of this course; students are required to choose one of the course topics, make a presentation and submit a writing assignment on it. Submission of the final requirements and feedback will be on the learning management systems (HOPPIL, etc.).

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり / Yes

【Fieldwork in class】

なし / No

【Schedule】 授業形態 : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction	Introduction
2	The Conceptualisation of Motivation	Issues in defining motivation and its fundamental challenges
3	The Development of the L2 Motivational Studies (1)	Issues in the classical studies
4	The Development of the L2 Motivational Studies (2)	Issues in the social-psychological period
5	The Development of the L2 Motivational Studies (3)	Issues in the cognitive-situated period
6	The Development of the L2 Motivational Studies (4)	Issues in the process-oriented and socio-dynamic periods
7	L2 Motivation in Practice	Issues in teaching strategies and approaches
8	L2 Motivation in Context	Issues in demotivating influences
9	L2 Motivation Research from a Global Perspective (1)	Issues from a perspective of cross-sectional studies
10	L2 Motivation Research from a Global Perspective (2)	Issues from a perspective of longitudinal studies
11	Presentation (1)	Preparation for presentation: checking contents, materials, procedure and performance
12	Presentation (2)	Discuss and review (1)
13	Presentation (3)	Discuss and review (2)

14 Consolidation of Comparative Education Final exam and review

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

1. Every week before class, students are required to comprehend the assigned readings and be ready for group discussion on related topics in class.
2. Students are required to complete daily tasks by choosing the related topics of lectures.
3. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

【Textbooks】

Dörnyei, Z., & Ushioda, E. (2011). *Teaching and researching motivation*. Cambridge University Press.

【References】

1. Apple, T. M., Silva, Da D., & Fellner, T. (eds.). (2017). *L2 selves and motivations in Asian contexts*. Multilingual Matters.
2. Dörnyei, Z. (2005). *The psychology of the language learner*. LEA.
3. Dörnyei, Z. (2020). *Innovations and challenges in language learning motivation*. Routledge.
4. Dörnyei, Z., & Ushioda, E. (eds.). (2009). *Motivation, language identity and the L2 self*. Multilingual Matters.
5. Dörnyei, Z. et al. (2006). *Motivation, language attitudes and globalisation: A Hungarian perspective*. Multilingual Matters.
6. Ushioda, E. (2013). *International perspectives on motivation: Language learning and professional challenges*. Palgrave Macmillan.

【Grading criteria】

Evaluation will be based on:

1. Class participation (10%)
2. Presentation (30%)
3. Writing assignment (30%)
4. Final Exam (30%)

【Changes following student comments】

More frequent and detailed notifications regarding class activities and tasks will be given in order to 1) avoid causing any difficulties in getting access to important information about the course, and 2) allow students to prepare for class discussions, final requirements, etc.

【Equipment student needs to prepare】

Use a laptop in class, get lecture materials, etc. in HOPPIL.

【Others】

None.

【Prerequisite】

None.

PHL100ZA

History of Philosophy

Joel Van Fossen

Credit(s) : 2 | Semester : 秋学期授業/Fall | Year : 1~4
Day/Period : 月 4/Mon.4

その他属性 : 〈優〉

【Outline and objectives】

Over 2,000 years ago in ancient Greece, Socrates introduced a new mode of general and abstract inquiry, which he described as "the love of wisdom" or "philosophy." This course focuses on two areas of the history of philosophical inquiry in ancient Greece and early modern Europe: metaphysics and epistemology. Metaphysics deals with the first principles of being, causation, and identity. Metaphysical questions covered in this course include: What is most fundamental about reality? What does it mean for one thing to cause another thing to happen? What does it mean for something to be the same thing over time? Epistemology deals with the nature and possibility of knowledge. Questions surveyed include: What is knowledge? Do we know anything? If so, what do we know? Philosophers surveyed in this course include Plato, Aristotle, René Descartes, John Locke, David Hume, and Immanuel Kant.

【Goal】

This course has four primary learning goals. First, students will learn about various and diverging views throughout the history of philosophy with a focus on metaphysics and epistemology. Second, students will improve critical thinking skills when engaging with abstract philosophical reasoning. Third, students will improve their reading skills when confronting nuanced and challenging text. Finally, students will improve their writing skills to communicate complex ideas clearly and confidently.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】
Will be able to gain "DP 1", "DP 2", "DP 3", and "DP 4".

【Method(s)】

Roughly one hour of each meeting will consist of an interactive lecture with slides. Students will then write a short in-class reflective writing exercise. Finally, each class will conclude with an interactive debate or discussion. The mid-term and final exams will be a combination of short and long-form essay questions. These exams will be written in class during exam days. Students will receive feedback on their exams via the Learning Management System.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり / Yes

【Fieldwork in class】

なし / No

【Schedule】 授業形態 : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction	Philosophy before Socrates
2	Ancient Greek Philosophy 1	Plato's Euthyphro and excerpt from Meno
3	Ancient Greek Philosophy 2	Plato's Apology
4	Ancient Greek Philosophy 3	Excerpts from Plato's Phaedo and Republic
5	Ancient Greek Philosophy 4	Excerpts from Aristotle's Metaphysics
6	Ancient Greek Philosophy 5	Excerpts from Aristotle's Physics and De Anima
7	Midterm	Review and midterm exam
8	Early Modern European Philosophy 1	René Descartes's Discourse on Method, Parts 1 & 2, and Mediations, Meditation 1
9	Early Modern European Philosophy 2	René Descartes's Mediations, Meditations 2 & 3
10	Early Modern European Philosophy 3	Excerpt from John Locke's an Essay Concerning Human Understanding
11	Early Modern European Philosophy 4	David Hume's Enquiry Concerning Human Understanding, §§1-7
12	Early Modern European Philosophy 5	Immanuel Kant's Prolegomena to Any Future Metaphysics, Preface and Preamble
13	Early Modern European Philosophy 6	Excerpts from Immanuel Kant's Prolegomena to Any Future Metaphysics
14	Final Exam	Review, wrap-up, and final exam

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

Students should complete weekly readings before coming to class. Students should also review their own notes and course slides after every class. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

【Textbooks】

There are no required textbooks for this course. All readings will be provided by the instructor either in print or online.

【References】

The Stanford Encyclopedia of Philosophy is a great resource for delving further into any topics discussed in class: <https://plato.stanford.edu>

【Grading criteria】

Participation 20%
Mid-term exam 35%
Final exam 45%

【Changes following student comments】

Not applicable

【Others】

Please bring a computer for in-class surveys.

【Prerequisite】

None

PHL100ZA

Introduction to Ethics

Joel Van Fossen

Credit(s) : 2 | Semester : 秋学期授業/Fall | Year : 1~4
Day/Period : 金 1/Fri.1

その他属性 : 〈優〉

Peer-review report response 10%

Final paper 45%

【Changes following student comments】

Not applicable

【Equipment student needs to prepare】

Please bring a computer for in-class surveys.

【Prerequisite】

None

【Outline and objectives】

We make decisions every day, but some decisions are better than others. This raises some important questions: Which decisions should we make? And more generally, what kind of life is worth living? Ethics is the rational inquiry into these questions. In this course, we will explore two central dimensions of ethics. First, we will consider the nature of well-being or what it means for one's life to go well. However, we not only care about our own well-being. We should also consider other people's interests. Therefore, the second main topic we will explore in this class will be morality. Morality is concerned with making the right decisions regarding the interests and lives of others.

【Goal】

This course has four primary learning goals. First, students will learn about various and diverging views on the philosophy of well-being and moral philosophy. Second, students will improve critical thinking skills when engaging with abstract reasoning in ethically challenging scenarios. Third, students will improve their reading skills when confronting nuanced and challenging text. Finally, students will improve their writing skills to communicate complex ideas clearly and confidently.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain "DP 1", "DP 2", "DP 3", and "DP 4".

【Method(s)】

Classes will sometimes begin with a short quiz to assess comprehension of weekly readings. Then roughly one hour of each meeting will consist of an interactive lecture with slides. Students will then write a short in-class reflective writing exercise. Lastly, students will participate in a class discussion or debate. Before the semester's final meeting, students will write a critical and constructive report on a draft of the final essay of the course. In the final meeting, students will discuss these reports with each other and the instructor. Submissions and feedback for the peer-review report, peer-review report response, and the final paper will be provided via the Learning Management System. Quiz feedback will be provided at the beginning of each class.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり / Yes

【Fieldwork in class】

なし / No

【Schedule】 授業形態 : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction	What is ethics?
2	Well-being 1	Hedonism
3	Well-being 2	Desire fulfillment theory
4	Well-being 3	Objective list theory
5	Well-being 4	Death and happiness
6	Well-being 5	Happiness and immortality
7	Morality 1	Happiness and morality
8	Morality 2	Virtue ethics
9	Morality 3	Utilitarianism 1
10	Morality 4	Utilitarianism 2
11	Morality 5	Deontology 1
12	Morality 6	Deontology 2
13	Morality 7	Anti-theory
14	Paper Workshop	Workshop final paper & exchange peer-review reports

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

Students should complete weekly readings before coming to class. Students should also review their own notes and course slides after every class. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

【Textbooks】

There are no required textbooks for this course. All readings will be provided by the instructor either in print or online.

【References】

The Stanford Encyclopedia of Philosophy is a great resource for delving further into any topics discussed in class: <https://plato.stanford.edu>

【Grading criteria】

Participation 15%

Quizzes 20%

Peer-review report 10%

LANf100ZA

French A I

Masamichi Suzuki

Credit(s) : 1 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 1~4

Day/Period : 月 4/Mon.4

Notes : < GIS students > 2015 年度以前入学者は 2 単位

その他属性 : <優>

[Outline and objectives]

This course is designed for beginners (or more advanced students). The aim of this course is to help students acquire basic skills of communication. In our epoch of "globalization", knowledge of only one foreign language (for example, English) is far from sufficient. By learning French, students will have more opportunities to work on the world stage.

[Goal]

The goal of this course is to develop basic daily communication skills: asking for information, answering questions, speaking about oneself, and understanding simple texts.

[Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?]
Will be able to gain "DP 3".

[Method(s)]

Mr.Okamura (French BI) and I will use the same textbook (see below) and conduct the class in relay. The students will learn all basic skills - speaking, listening, reading and writing although learning of practical skills takes precedence in this course. (Mr. Okamura will rather focus on learning the grammar. It is therefore required that the students attend both of the courses). Active participation is necessary not only for the acquisition of communicative skills through various means (e.g., role-playing), but for an understanding of French culture or that of other French-speaking countries.

The students will get information about the course by way of Learning Management System (LMS).

During the semester, the students are required to submit several assignments through LMS. They will get them back equally through LMS.

[Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)]

あり / Yes

[Fieldwork in class]

なし / No

[Schedule] 授業形態 : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Orientation - Initiation 1 Bonjour.	Orientation - Initiation 1 Greetings.
2	Initiation 2 Je suis français.	Self introduction
3	Lesson 1 Il s'appelle comment?	Introduction; Asking questions about people
4	Lesson 2 Qu'est-ce qu'elle fait dans la vie?	Asking about jobs
5	Lesson 2 Vous parlez anglais?	Expressions about jobs
6	Lesson 3 Vous connaissez Omar Sy?	Do you know...?
7	Lesson 3 Quelle langue est-ce qu'on parle au Canada?	What language do they speak?
8	Lesson 4 Qu'est-ce que vous aimez?	Expressing likes and dislikes
9	Lesson 4 Qu'est-ce que vous préférez, la mer ou la montagne?	Expressing preferences
10	Lesson 5 Qu'est-ce que vous aimez faire le week-end?	Expressing what one likes to do
11	Lesson 5 Tu voudrais faire quoi ce week-end?	Expressing what one wants to do
12	Lesson 6 Vous aimez le golf?	Explaining preferences

13 Examination Lesson 6 Examination Describing a person

Comment est-ce qu'elle est?

14 Review of examination Lesson 6 Review of examination Describing a person

Elle n'est pas sérieuse.

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]

1st week: Review of greetings and preparation for the next lesson

2nd week: Homework and preparation for the next lesson

3rd week: Review of introductions and preparation for the next lesson

4th week: Review of expressions for jobs and preparation for the next lesson

5th week: Homework and preparation for the next lesson

6th week: Homework and preparation for the next lesson

7th week: Review of expressions of likes and preparation for the next lesson

8th week: Homework and preparation for the next lesson

9th week: Homework and preparation for the next lesson

10th week: Review of expressions for phone conversation and preparation for the next lesson

11th week: Review of expressions for favorite activities and preparation for the next lesson

12th week: Preparation for the examination

13th week: Review of description of persons /

Preparation for the next lesson

14th week: Total review

Preparatory study and review time for this class are 1 hour.

[Textbooks]

Spirale nouvelle édition 『新スパラルー日本人初心者のためのフランス語教材』, Gaël Crépieux, Philippe Callens, 高瀬智子, 根岸純, アシエット・ジャボン (Hachette Japon), 2015 年

[References]

『英語がわかればフランス語はできる』久松健一、駿河台出版社、1999 年

French Demystified: A Self-Teaching Guide, Annie Heminway, McGraw-Hill, 2007

[Grading criteria]

Progress will be assessed by classwork and assignments. A term-end examination will be held. Continuous assessment: 50%; term-end examination: 50%. Students must work routinely at home: they must read aloud expressions and sentences given in the textbook. They must be able to use them in oral or writing class activities. Active participation in role-playing is important.

[Changes following student comments]

The covid 19 situation has caused some problems on a larger or smaller scale: confusion of schedule because of the alternation of online classes and face-to-face classes, awkwardness of class activities especially on oral level because of distance between students in the classroom, etc. I will try to create an optimum situation which can facilitate students' class performance.

[Others]

Students should also attend Mr.Okamura's course French BI.

[Prerequisite]

None.

LANf100ZA

French A II

Masamichi Suzuki

Credit(s) : 1 | Semester : 秋学期授業/Fall | Year : 1~4

Day/Period : 月 4/Mon.4

Notes : < GIS students > 2015 年度以前入学者は 2 単位

その他属性 : <優>

[Outline and objectives]

This course is designed for beginners (or more advanced students). The aim of this course is to help students acquire basic skills of communication. In our epoch of "globalization", knowledge of only one foreign language (for example, English) is far from sufficient. By learning French, students will have more opportunities to work on the world stage.

[Goal]

The goal of this course is to develop basic daily communication skills: asking for information, answering questions, speaking about oneself, and understanding simple texts.

The students must make an effort to reach the level A1 of CEFER.

[Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?] Will be able to gain "DP 3".

[Method(s)]

As in the spring semester, Mr. Okamura (French BII) and I will use the same textbook (see below) and conduct the class in relay. The students will learn all basic skills - speaking, listening, reading and writing although learning of practical skills takes precedence in this course. (Mr. Okamura will rather focus on learning of the grammar. It is therefore required that the students attend both of the courses). Active participation is necessary not only for the acquisition of communicative skills through various means (e.g., role-playing), but for an understanding of French culture or that of other French-speaking countries.

The students will get information about the course by way of Learning Management System (LMS).

During the semester, the students are required to submit several assignments through LMS. They will get them back equally through LMS.

[Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)]

あり / Yes

[Fieldwork in class]

なし / No

[Schedule] 授業形態 : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Orientation, Lesson 7 Quel âge avez-vous?	Orientation, Lesson 7 Asking about someone's age
2	Lesson 7 Vous avez quels cours le mardi matin?	University life
3	Lesson 8 Est-ce que vous avez une voiture?	Describing objects
4	Lesson 8 Excusez-moi, vous avez un stylo, s'il vous plaît?	In the class
5	Lesson 9 Le Louvre, qu'est-ce que c'est?	Describing sights
6	Lesson 9 Est-ce qu'il y a un restaurant italien dans le quartier?	Asking for directions
7	Lesson 10 Madame, qu'est-ce que vous faites demain?	Asking about activities
8	Lesson 10 Qu'est-ce que vous lisez en ce moment?	Asking for more details about activities
9	Lesson 11 Est-ce que vous faites du sport?	Speaking about one's activities
10	Lesson 11 Quels sports est-ce que les hommes font en général en France?	Interview

11	Lesson 12 Tu habites avec ta famille?	Speaking about one's family
12	Lesson 12 Qu'est-ce que vous avez fait?	Past tense 1
13	Examination Lesson 13 Où allez-vous ce week-end?	Examination Asking about one's plan
14	Review of examination Lesson 13 Est-ce que vous êtes sorti ce week-end?	Review of examination Past tense 2

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]

1st week: Homework and preparation for the next lesson

2nd week: Homework and preparation for the next lesson

3rd week: Review of expressions for sightseeing and preparation for the next lesson

4th week: Review of expressions for directions and preparation for the next lesson

5th week: Review of expressions for activities and preparation for the next lesson

6th week: Homework and preparation for the next lesson

7th week: Homework and preparation for the next lesson

8th week: Homework and preparation for the next lesson

9th week: Reviews of expressions for family members and preparation for the next lesson

10th week: Reviews of expressions for E-mail and preparation for the next lesson

11th week: Review of expressions for destination and preparation for the next lesson

12th week: Preparation for the examination

13th week: Review of the past tense

14th week: Total review

Preparatory study and review time for this class are 1 hour.

[Textbooks]

The same textbook that is used during the first semester:
Spirale, Nouvelle édition, Gaël Crépieux, Philippe Callens, Tomoko Takase, Jun Negishi, Hachette, 2015

[References]

『英語がわかればフランス語はできる』久松健一、駿河台出版社、1999 年
French Demystified: A Self-Teaching Guide, Annie Heminway, McGraw-Hill, 2007

[Grading criteria]

Progress will be assessed by classwork and assignments. A term-end examination will be held. Continuous assessment: 50%; term-end examination: 50%.

The students must work routinely at home: they must read aloud expressions and sentences given in the textbook. They must be able to use them in oral class activities. Active participation in role-playing is important.

[Changes following student comments]

The covid 19 situation has caused some problems on a larger or smaller scale: confusion of schedule because of the alternation of online classes and face-to-face classes, awkwardness of class activities especially on oral level because of distance between students in the classroom, etc. I will try to create an optimum situation which can facilitate students' class performance.

[Others]

The students should also attend Mr.Okamura's course French BII .

[Prerequisite]

None.

LANf100ZA

French B I

Tamio Okamura

Credit(s) : 1 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 1~4

Day/Period : 水 2/Wed.2

Notes : < GIS students > 2015 年度以前入学者は 2 単位

その他属性 : < 優 >

【Outline and objectives】

フランス語初級文法を学ぶ。時間のゆるすかぎりフランス語圏の社会・歴史・文化に関する情報を紹介する。

【Goal】

フランス語初級文法の修得。初級レベルのオーラル能力。

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain “DP 3”.

【Method(s)】

French AI と連動し、教科書『Spirale Nouvelle édition』に関する文法を学習し、練習問題を解く。また『新版 3段階チェック式フランス語トレーニング・コース』を使用し、体系的な文法学習を補う。各課終了ごとに小テスト (10 ~ 20 点満点) を行う。

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり / Yes

【Fieldwork in class】

なし / No

【Schedule】 授業形態 : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	ガイダンス	ガイダンス
2	Initiation のつづき	-動詞 être -動詞 aller
3	Leçon 1	-動詞 faire -否定文
4	Leçon 1	-疑問文
5	Leçon 2	-所有形容詞
6	Leçon 2	-名詞・形容詞の男性形/女性形
7	Leçon 3	-動詞 connaître -人称代名詞 on-定冠詞
8	Leçon 3	-定冠詞 1
9	Leçon 4	-動詞 préférer
10	Leçon 4	-定冠詞 2
11	Leçon 5	-不定法
12	Leçon 5	-vouloir の条件法現在
13	Leçon 6	-形容詞の男性形/女性形 2 -trouver の用法
14	期末テストと総括	期末テスト

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

前回の復習。ときどき宿題。各課終了ごとに小テストを出すのでその準備をすること。Preparatory study and review time for this class are 1 hour.

【Textbooks】

『Spirale スピラールー日本人初学者のためのフランス語教材 Nouvelle édition』(アシェット・ジャポン、2015 年)
『新版 3段階チェック式フランス語トレーニング・コース』(白水社、2003 年)

【References】

講義内で適宜指示する。

【Grading criteria】

授業内評価 50% + 期末試験 50%

具体的な方法と基準は、FrenchAI と擦り合わせ、学習支援システムで提示する。

【Changes following student comments】

授業内で復習できなかった宿題を評価後に返却する。

【Others】

『Spirale』という同一教科書を French AI と交互にレリーしながら使用するので、必ず French AI と合わせて履修すること。なお BI では『フランス語トレーニング・コース』も使用する。初回から 2 冊の教科書を使用するので、生協で購入しておくこと。

【Prerequisite】

None.

【Outline (in English)】

【Course outline】 Students study Elementary French grammar.

【Learning activities outside of classroom】 After each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content

【Grading Criteria /Policy】 Term-end examination: 50%, in class contribution: 50%

LANf100ZA

French B II

Tamio Okamura

Credit(s) : 1 | Semester : 秋学期授業/Fall | Year : 1~4

Day/Period : 水 2/Wed.2

Notes : < GIS students > 2015 年度以前入学者は 2 単位

その他属性 : 〈優〉

【Outline and objectives】

フランス語初級文法を学ぶ。

We study Elementary French grammar.

【Goal】

要点を身につけると同時に日常生活のテーマを通して、フランス語の会話力を向上させる。さらに語学力とフランス文化についての知識を養うことを目指す。

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain "DP 3".

【Method(s)】

日本人教師とフランス人教師が行う授業です。テーマに即した会話のパターンを聞き、語彙、文法を説明し、練習問題を繰り返す。そして、ペアーでロールプレーなどを行い、フランス語を磨く。その上、フランスについての簡単な資料を使って、理解力を深める。

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり / Yes

【Fieldwork in class】

なし / No

【Schedule】 授業形態：対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Révisions	Révisions
2	Leçon 7	自分について話す (年齢、学年)
		科目について話す
3	Leçon 7	時間の使い方 時間割について話す
4	Leçon 8	持っているもの 所有を表す
5	Leçon 8	物を借りる
6	Leçon 9	ある場所について説明し、 情報を求める
7	Leçon 9	名所について情報を求める 位置づける
8	Review & Test	中間テスト
9	Leçon 10	何をするか尋ねる、答える
10	Leçon 10	詳しくきく
11	Leçon 11	趣味・余暇について話す 頻度を表す
12	Leçon 11	習慣について話す
13	Test & Wrap-up	期末テスト
14	Révisions	期末テストの返却と答えあわせ

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

宿題（書く練習をする） Preparatory study and review time for this class are 1 hour.

【Textbooks】

『Spirale スピラルー日本人初学者のためのフランス語教材 Nouvelle édition』
(アンシュット・ジャボン)

『新版 3段階式フランス語トレーニング・コース』(白水社)

【References】

授業内で適宜指示する。

【Grading criteria】

授業内評価 50 % + 期末試験 50 %

具体的な方法と基準は、French BI と擦り合わせ、学習支援システムで提示する。

【Changes following student comments】

授業内で復習できなかった宿題を評価後に返却する。

【Others】

『Spirale』という同一教科書を French A II と交互にレリーしながら使用するので、必ず French A II と合わせて履修すること。初回から教科書を使用するので、生協で購入しておくこと。

2015 年度以前に入学した学生は、2 単位となる。

【Prerequisite】

None.

【Outline (in English)】

【Course outline】 Students study Elementary French grammar.

【Learning activities outside of classroom】 After each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content

【Grading Criteria /Policy】 Term-end examination: 50%, in class contribution: 50%

LANs100ZA

Spanish A I

Taiga Wakabayashi

Credit(s) : 1 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 1~4

Day/Period : 金 5/Fri.5

Notes : < GIS students > 2015 年度以前入学者は 2 単位

その他属性 : <優>

[Outline and objectives]

Basic Spanish grammar and conversation.

[Goal]

By the end of the semester, students should be able to write, speak, and understand basic Spanish, in the simple present and past tense.

[Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?]

Will be able to gain "DP 3".

[Method(s)]

This course begins with the Spanish alphabet. Basic Spanish grammar will be explained during each weekly lesson. After an explanation of grammatical principles, students will be asked some practical questions. This class advances slowly. In order to prepare, students should do the review exercises at home and bring their textbook and a Spanish-Japanese dictionary to class (see below). To foster a deeper appreciation of Spanish and Latin American cultures, some Spanish songs and movies will be shared, time permitting.

The feedback for homework will be given through Hoppii Learning Assistant System.

Please note that the first week will be offered online to avoid overcrowding the classroom. The Zoom URL for the first class will be announced on Hoppii Learning Assistant System before the semester begins.

[Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)]

あり / Yes

[Fieldwork in class]

なし / No

[Schedule] 授業形態 : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction Alphabet	Course overview The Spanish alphabet
2	Pronunciation and Accent	Rules of Spanish pronunciation and spelling
3	Gender, Singular and Plural	Masculine, feminine and neuter nouns of Spanish
4	Definite and Indefinite Articles	Singular and plural form of nouns Definite ("el", "la", "lo") and indefinite ("un", "una") articles Their distinction and singular / plural forms
5	Adjectives I	Inflection of adjectives with vowel and consonant termination
6	Adjectives II	Inflection of adjectives which express place-names and nationalities Adjectives whose termination is omitted by inflection
7	Conjugation of the Verb "ser"	Conjugation of the verb "ser" which expresses nature and quality
8	Mid-term Exam Self-introduction	Practice of self-introduction in Spanish Asking and telling the place of origin
9	Conjugation of the Verb "estar" Expression of Existence	Conjugation of the verb "estar" which expresses state and condition The phrase "Hay ..." which expresses "There is ..."
10	Existence, Quality and State	How to differentiate among "ser", "estar" and "hay" Prepositions and pronouns
11	Regular Indicative Conjugation of Verbs (present tense)	Rule of regular indicative conjugation of verbs with "-ar", "-er" and "-ir" terminations
12	Expression of Time I Numbers I	Expression of time to say "at ... o'clock" Numbers from 1 to 12

13	Demonstrative Adjectives and Pronouns	Demonstrative adjectives ("este/a", "ese/a", "aquel/lla") and pronouns ("esto", "eso", "aquello")
14	Final Exam & Wrap-up	Final exam (written) Review

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]

Preparation and review are necessary. Students should review lesson vocabulary using a dictionary.

Preparatory study and review time for this class are 1 hour.

[Textbooks]

泉水浩隆『スペイン語キックオフ』(白水社、2011年、2,310円(税込)
ISBN: 978-4-560-01679-4

[References]

A Spanish-Japanese dictionary is essential for Spanish learning. Students have to bring a dictionary to the class every week. Although a particular dictionary is not required,『西和中辞典』(小学館) is recommended. Also an electronic dictionary is useful for quick look-ups. Other Spanish-Japanese dictionaries can be found on the web. For example:

<http://gaikoku.info/spanish/dictionary.htm>

[Grading criteria]

Evaluation is by midterm and final exam. Class participation and attitude towards learning will be taken into consideration.

Evaluation is as follows:

Class participation and attitude: 30%

Midterm exam: 30%

Final exam: 40%

[Changes following student comments]

Progress will be adjusted based on student needs.

[Others]

Only this column is described in Japanese, as follows:

必ず Spanish BI と同セメスターで履修すること。

[Prerequisite]

None.

LANs100ZA

Spanish A II

Taiga Wakabayashi

Credit(s) : 1 | Semester : 秋学期授業/Fall | Year : 1~4
 Day/Period : 金 5/Fri.5
 Notes : < GIS students > 2015 年度以前入学者は 2 単位

その他属性 : 〈優〉

【Outline and objectives】

Basic Spanish grammar and conversation.

【Goal】

By the end of the semester, students should be able to write, speak, and understand basic Spanish, in the simple present and past tense.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain "DP 3".

【Method(s)】

This course begins where "Spanish AI" and "Spanish BI" ended. Basic Spanish grammar will be explained during each weekly lesson. After an explanation of grammatical principles, students will be asked some practical questions. This class advances slowly. In order to prepare, students should do the review exercises at home and bring their textbook and a Spanish-Japanese dictionary to class (see below). To foster a deeper appreciation of Spanish and Latin American cultures, some Spanish songs and movies will be shared, time permitting. The feedback for homework will be given through Hoppii Learning Assistant System.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり / Yes

【Fieldwork in class】

なし / No

【Schedule】 授業形態 : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction Irregular Indicative Conjugation of Verbs (present tense) I	Class overview Irregular indicative conjugations of verbs in the present tense
2	Possessive Adjectives Numbers III	Prepositive possessive adjectives ("mi", "nuestro/a", "tu", "vuestro/a", "su") Numbers from 31 to 99
3	Irregular Indicative Conjugation of Verbs (present tense) II Expression of Obligation and Necessity	Irregular indicative conjugations of verbs in the present tense Expression of obligation and necessity ("tener que ...")
4	Numbers IV Direct and Indirect Objective Pronouns	Numbers from 100 to 999 Direct and indirect objective pronouns ("me", "nos", "te", "os", "lo/le/la", "los/les/las")
5	Verb "gustar"	Use of the verb "gustar" which expresses "like (to) ..." or "love (to) ..."
6	Other Verbs of "gustar" Type	Verbs of "gustar" type whose subjective corresponds to things or matters
7	Reflexive Verbs Impersonal Expressions	Reflexive verbs whose objective corresponds to the subject Impersonal expressions with the reflexive pronoun "se"
8	Mid-term Exam Expression of Time II Expression of Weather I	Expression of time to say "It's ... o'clock" and "do ~ at ... o'clock" Expression of weather I
9	Regular Indicative Conjugation of Verbs (indefinite past tense)	Regular indicative conjugations of verbs in the indefinite past tense
10	Expression of Weather II	Expression of weather II
11	Irregular Indicative Conjugation of Verbs (indefinite past tense)	Irregular indicative conjugations of verbs in the indefinite past tense
12	Months	Names of months in Spanish
13	Regular and Irregular Indicative Conjugation of Verbs (preterite past tense)	Regular and irregular indicative conjugation of verbs in the preterite past tense

14 Final Exam & Wrap-up Final exam (written)
Review

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

Preparation and review are necessary. Students should review lesson vocabulary and use a dictionary. Preparatory study and review time for this class are 1 hour.

【Textbooks】

泉水浩隆『スペイン語キックオフ』(白水社)、2011年、2,310円(税込)
 ISBN: 978-4-560-01679-4

【References】

A Spanish-Japanese dictionary is essential for Spanish learning. Students have to bring a dictionary to the class every week. Although a particular dictionary is not required, 『西和中辞典』(小学館) is recommended. Also an electronic dictionary is useful for quick look-ups. Other Spanish-Japanese dictionaries can be found on the web. For example:

<http://gaikoku.info/spanish/dictionary.htm>

【Grading criteria】

Evaluation is by midterm and final exam. Class participation and attitude towards learning will be taken into consideration.

Evaluation is as follows:

Class participation and attitude: 30%

Midterm exam: 30%

Final exam: 40%

【Changes following student comments】

Progress will be adjusted based on student needs.

【Others】

Only this column is described in Japanese, as follows:

必ず Spanish BII と同 Semester で履修すること。

【Prerequisite】

None.

LANs100ZA

Spanish B I

Yoshifumi Onuki

Credit(s) : 1 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 1~4

Day/Period : 火 4/Tue.4

Notes : < GIS students > 2015 年度以前入学者は 2 単位

その他属性 : 〈優〉

[Outline and objectives]

Basic Spanish grammar and conversation.

[Goal]

By the end of the semester, students should be able to write, speak, and understand basic Spanish, in the simple present and past tense.

[Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?]

Will be able to gain "DP 3".

[Method(s)]

This course begins with the Spanish alphabet. Basic Spanish grammar will be explained during each weekly lesson. After an explanation of grammatical principles, students will be asked some practical questions. This class advances slowly. In order to prepare, students should do the review exercises at home and bring their textbook and a Spanish-Japanese dictionary to class (see below). To foster a deeper appreciation of Spanish and Latin American cultures, some Spanish songs and movies will be shared, time permitting.

At the beginning of class, feedback for the previous class is given using some comments from submitted reaction papers.

[Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)]

あり / Yes

[Fieldwork in class]

なし / No

[Schedule] 授業形態 : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction Alphabet Pronunciation and Accent	Guidance to the class Spanish alphabet Rules of Spanish pronunciation and spelling
2	Gender, Singular and Plural of Nouns	Masculine, feminine and neuter nouns of Spanish Singular and plural form of nouns
3	Definite and Indefinite Articles	Definite ("el", "la", "lo") and indefinite ("un", "una") articles Their distinction and singular / plural forms
4	Adjectives I	Inflection of adjectives with vowel and consonant termination
5	Adjectives II	Inflection of adjectives which express place-names and nationalities Adjectives whose termination is omitted by inflection
6	Conjugation of the Verb "ser"	Conjugation of the verb "ser" which expresses nature and quality
7	Self-introduction	Practice of self-introduction in Spanish Asking and telling the place of origin
8	Conjugation of the Verb "estar" Expression of Existence	Conjugation of the verb "estar" which expresses state and condition The phrase "Hay ..." which expresses "There is ..."
9	Existence, Quality and State	How to differentiate among "ser", "estar" and "hay" Prepositions and pronouns
10	Regular Indicative Conjugation of Verbs (present tense)	Rule of regular indicative conjugation of verbs with "-ar", "-er" and "-ir" terminations
11	Expression of Time I Numbers I	Expression of time: "at ... o'clock" Numbers from 1 to 12
12	Demonstrative Adjectives and Pronouns	Demonstrative adjectives ("este/a", "ese/a", "aquel/lla") and pronouns ("esto", "eso", "aquello")
13	Numbers II	Numbers from 13 to 30 Questions and concerns about the content of the entire semester will be accepted for the final exam

14 Review and Final Exam Review and Final Exam (written)

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】
Preparation and review are necessary. Students should review lesson vocabulary and use a dictionary. Preparatory study and review time for this class are 1 hour.

【Textbooks】

『スペイン語キックオフ』 泉水浩隆 (白水社)

【References】

『西和中辞典』 (小学館)

『わかるスペイン語文法』 西川喬 (同学社)、2010 年
授業中の携帯電話やノートパソコンを利用したのオンライン辞書の使用は認められない

【Grading criteria】

Students evaluations are based on class participation (50%) and the final exam (50%). Participation and attitude will factor in the final grade.

【Changes following student comments】

Progress will be adjusted based on student needs.

【Others】

Only this column is described in Japanese, as follows:

必ず Spanish AI と同セメスターで履修すること。

2015 年度以前に入学した学生は、2 単位となります。

【Prerequisite】

None.

LANs100ZA

Spanish B II

Yoshifumi Onuki

Credit(s) : 1 | Semester : 秋学期授業/Fall | Year : 1~4

Day/Period : 火 4/Tue.4

Notes : < GIS students > 2015 年度以前入学者は 2 単位

その他属性 : 〈優〉

【Outline and objectives】

Basic Spanish grammar and conversation.

【Goal】

By the end of the semester, students should be able to write, speak, and understand basic Spanish, in the simple present and past tense.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain “DP 3”.

【Method(s)】

This course begins where “Spanish AI” and “Spanish BI” ended. Basic Spanish grammar will be explained during each weekly lesson. After an explanation of grammatical principles, students will be asked some practical questions. This class advances slowly. In order to prepare, students should do the review exercises at home and bring their textbook and a Spanish-Japanese dictionary to class (see below). To foster a deeper appreciation of Spanish and Latin American cultures, some Spanish songs and movies will be shared, time permitting.

At the beginning of class, feedback for the previous class is given using some comments from submitted reaction papers.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり / Yes

【Fieldwork in class】

なし / No

【Schedule】 授業形態 : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction Irregular Indicative Conjugation of Verbs (present tense) I	Class overview
2	Possessive Adjectives Numbers III	Prepositive possessive adjectives ("mi", "nuestro/a", "tu", "vuestro/a", "su") Numbers from 31 to 99
3	Irregular Indicative Conjugation of Verbs (present tense) II Expression of Obligation and Necessity	Irregular indicative conjugations of verbs in the present tense Expression of obligation and necessity ("tener que ...")
4	Numbers IV Direct and Indirect Objective Pronouns	Numbers from 100 to 999 Direct and indirect objective pronouns ("me", "nos", "te", "os", "lo/le/la", "los/les/las")
5	Verb "gustar"	Use of the verb "gustar" which expresses "like (to) ..." or "love (to) ..."
6	Other Verbs of "gustar" Type	Verbs of "gustar" type whose subjective corresponds to things or matters
7	Reflexive Verbs Impersonal Expressions	Reflexive verbs whose objective corresponds to the subject Impersonal expressions with the reflexive pronoun "se"
8	Expression of Time II Expression of Weather I	Expression of time to say "It's ... o'clock" and "do ~at ... o'clock"
9	Regular Indicative Conjugation of Verbs (indefinite past tense)	Expression of weather I Regular indicative conjugations of verbs in the indefinite past tense
10	Expression of Weather II	Expression of weather II
11	Irregular Indicative Conjugation of Verbs (indefinite past tense) Months	Irregular indicative conjugations of verbs in the indefinite past tense Names of months in Spanish
12	Regular and Irregular Indicative Conjugation of Verbs (preterite past tense)	Regular and irregular indicative conjugation of verbs in the preterite past tense

13	Differences between Indefinite and Preterite Past Tenses	Proper use and differentiation of the indefinite / preterite tenses Questions and concerns about the content of the entire semester will be accepted for the final exam
14	Review and Final Exam	Review and Final Exam (written)

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】
Preparation and review are necessary. Students should review lesson vocabulary and use a dictionary. Work to be done outside of class":
"Preparatory study and review time for this class are 1 hour.

【Textbooks】

『スペイン語キックオフ』 泉水浩隆 (白水社)

【References】

『西和中辞典』(小学館)等

『わかるスペイン語文法』西川喬 (同学社)、2010年

授業中の携帯電話やノートパソコンを利用しているオンライン辞書の使用は認められない

【Grading criteria】

Students evaluations are based on class participation (50%) and the final exam (50%). Participation and attitude will factor in the final grade.

【Changes following student comments】

Progress will be adjusted based on student needs.

【Others】

Only this column is described in Japanese, as follows:

必ず Spanish AII と同セメスターで履修すること。

2015 年度以前に入学した学生は、2 単位となります。

【Prerequisite】

None.

LANe100ZA

Chinese A I

Yuko Takada

Credit(s) : 1 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 1~4

Day/Period : 水 3/Wed.3

Notes : < GIS students > 2015 年度以前入学者は 2 単位

その他属性 : < 優 >

[Outline and objectives]

This is for learners with little or no prior knowledge of the Chinese language, or for those who wish to review basic skills.

[Goal]

You will learn basic skills enabling you to find out information and to make yourself understood in everyday situations.

[Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?]

Will be able to gain “DP 3”.

[Method(s)]

Topics include:

- Pronunciation of Chinese as romanized in *Pī nyī n* (拼音)
- Greetings and farewells
- Introducing oneself, friends and family
- Basic grammar of contemporary Chinese

In relation to the topics listed above, students will develop the following skills:

- Giving basic personal information
- Communicating through simple questions and answers
- Basic grammar terminology and structures.

Feedback on assignments will be given during class time or via email.

[Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)]

あり / Yes

[Fieldwork in class]

なし / No

[Schedule] 授業形態 : オンライン/online

No.	Theme	Contents
1	Introduction and Overview	Introduction and overview.
2	Lesson 1	Pronunciation of Chinese as written in <i>Pī nyī n</i> (拼音) 1
3	Lesson 3	Pronunciation of Chinese as written in <i>Pī nyī n</i> (拼音) 3
4	Revision and Consolidation 1	Revision and consolidation 1
5	Lesson 5	Greetings and introducing oneself
6	Revision and Consolidation 2	Revision and consolidation 2
7	Lesson 7	Basic grammar terminology and structures 2
8	Lesson 9	Basic grammar terminology and structures 4
9	Lesson 11	Basic grammar terminology and structures 6
10	Revision and Consolidation 3	Revision and consolidation 3
11	Lesson 13	Sentences with a predicate verb “shì” (是) 2
12	Lesson 15	Sentences with a predicate verb “yǒu” (有) 2
13	Lesson 17	The action-measure complement

14 Examination & Generalization Wrap-up Examination

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]

Listening to the textbook CD, and doing preparation and review work. Preparatory study and review time for this class are 1 hour.

[Textbooks]

Chiyoshi Oishi. *Point Learning: Elementary Chinese Revised Edition*. Toho Shoten, 2010. (ポイント学習中国語初級 改訂版)

[References]

Materials will be provided by the instructor.

[Grading criteria]

Grading will be based on weekly tests (30%) and term-end exam (70%).

I believe that homework is an essential part of the study program for all students.

[Changes following student comments]

Using e-learning every week

[Others]

Only this column is described in Japanese, as follows:

必ず Chinese BI と同セメスターで履修すること。

2015 年度以前に入学した学生は、2 単位となります。

[Prerequisite]

None.

LANe100ZA

Chinese A II

Yuko Takada

Credit(s) : 1 | Semester : 秋学期授業/Fall | Year : 1~4
 Day/Period : 水 3/Wed.3
 Notes : < GIS students > 2015 年度以前入学者は 2 単位

その他属性 : 〈優〉

【Outline and objectives】

This is for learners who have already attended the Chinese AI course.

【Goal】

You will learn basic skills enabling you to find out information and to make yourself understood in everyday situations.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain “DP 3”.

【Method(s)】

Topics include:

- Numbers/time/dates
- Description of daily activities

In relation to the topics listed above, students will develop the following skills:

- Communicating through simple questions and answers
- Following instructions in the target language.

Feedback on assignments will be given during class time or via email.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり / Yes

【Fieldwork in class】

なし / No

【Schedule】 授業形態 : オンライン/online

No.	Theme	Contents
1	Lesson 19	Perfect aspect
2	Lesson 21	Past experiences
3	Revision and Consolidation 1	Revision and consolidation 1
4	Lesson 23	Adverbs
5	Lesson 25	Comparative sentences 2
6	Lesson 27	Nominal predicate sentences 2
7	Lesson 29	Adjectival clause
8	Revision and Consolidation 2	Revision and consolidation 2
9	Lesson 31	Modal complement
10	Lesson 33	Resultative complement
11	Lesson 35	Potential complement
12	Revision and Consolidation 3	Revision and consolidation 3
13	Lesson 37	Imperative sentences
14	Examination & Wrap-up	Generalization Examination

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

Listening to the textbook CD, and doing preparation and review work. Preparatory study and review time for this class are 1 hour.

【Textbooks】

Chiyoshi Oishi. *Point Learning: Elementary Chinese Revised Edition*. Toho Shoten, 2010. (ポイント学習中国語初級)

【References】

Materials will be provided by the instructor.

【Grading criteria】

Grading will be based on weekly tests (30%) and final exam (70%).

I believe that homework is an essential part of the study program for all students.

【Changes following student comments】

Using e-learning every week

【Others】

Only this column is described in Japanese, as follows:

必ず Chinese BII と同セメスターで履修すること。

2015 年度以前に入学した学生は、2 単位となります。

【Prerequisite】

None.

LANc100ZA

Chinese B I

Shota Watanabe

Credit(s) : 1 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 1~4

Day/Period : 木 4/Thu.4

Notes : < GIS students > 2015 年度以前入学者は 2 単位

その他属性 : < 優 >

[Outline and objectives]

中国語初習者を対象に、発音・文法・会話・作文などの項目を学習しつつ、「読む・書く・聞く・話す」の 4 技能をバランスよく身に付け、初級レベルの総合的な中国語コミュニケーション能力を養う。

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

[Goal]

この授業の到達目標は以下の通りである。

- (1) 基本的な中国語を読んだり聞いたりして、相手の意見や情報などを理解することができる。
- (2) 基本的な中国語を書いたり話したりして、自分の考えや経験などを表現することができる。
- (3) Spring 学期の学習を完了した段階で、HSK1 級に合格できるレベルの中国語能力を身に付ける。
- (4) 中国語圏の言語や文化に対する関心を持ち、積極的に異文化を理解することができる。

The goals of this course are as follows:

- (1) Students can understand the thoughts and information of the other party by reading and listening to basic Chinese.
- (2) Students can express their thoughts and experiences by writing and speaking basic Chinese.
- (3) Students can pass HSK Level 1 by the end of the spring semester.
- (4) Students can have an interest in Chinese culture and language, and be able to actively understand different cultures.

[Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?]

Will be able to gain "DP 3".

[Method(s)]

・授業は基本的にテキストに沿って毎回 1 課ずつ進める。毎回の授業は、概ね以下の手順で進める。1. 小テスト (約 20 分)、2. 前回の復習 (約 10 分)、3. テキストの学習 (約 40 分)、4. 問題演習・コミュニケーション活動など (約 30 分)。

・外国語の習得のためには、継続的な学習が重要であるため、毎回授業の最初に小テストを行う。

・この授業ではブレンド型学習 (教室での対面学習と自宅での e ラーニングを組み合わせた学習方法) を導入し、教室学習と自宅学習を有機的に連携させつつ行う。

・教員は小テストの添削や質問への回答を準備し、授業時に返却・回答することで随時フィードバックを行う。

[Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)]

あり / Yes

[Fieldwork in class]

なし / No

[Schedule] 授業形態 : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	ガイダンス	授業概要の説明
2	第一課あるいは第二課	発音 (一) [簡体字とピンイン]、発音 (二) [声母]
3	第三課あるいは第四課	発音 (三) [韻母]、発音 (四) [二音節語の声調 20 パターン]
4	第五課あるいは第六課	自己紹介 [您贵姓?]、動詞述語文 [你学习什么?]
5	第七課あるいは第八課	形容詞述語文 [北京大学很大]、名詞述語文 [我十八岁]
6	第九課あるいは第十課	主述述語文 [你哪儿不舒服?]、連体修飾語・連用修飾語 [一年级的学生都学外语]
7	第十一課あるいは第十二課	補語 [你每天看几个小时?]、動詞述語文 (一) [她是谁?]
8	第十三課あるいは第十四課	動詞述語文 (二) [这是什么?]、動詞述語文 (三) [你有铅笔吗?]
9	第十五課あるいは第十六課	動詞述語文 (四) [你家有几口人?]、動詞述語文 (五) [这儿有邮局吗?]
10	第十七課あるいは第十八課	動詞述語文 (六) [请再念一次]、動詞述語文 (七) [去中国干什么?]
11	第十九課あるいは第二十課	完了態 [这本书你看了吗?]、変化態 [快要考试了]

12	復習	Spring 学期の学習項目の総復習
13	HSK1 級問題	HSK1 級問題の紹介・解説
14	総括	これまでの学習内容の総括を行う

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]

・受講開始後は、既習事項の復習をしっかり行うこと。特に、中国語の発音や文法に慣れるために、繰り返しデジタル教科書及び e ラーニング教材 (<http://fic.xsrv.jp/hosei>) を活用し、毎回の学習事項を確実に定着させるよう心がけてほしい。

・予習/復習の時間は毎回 1 時間を標準とする。

After every class, students review the items you have already learned. In particular, in order to get used to the pronunciation and grammar of Chinese, students are expected to use digital textbooks and e-learning materials. (<http://fic.xsrv.jp/hosei>)

Preparatory study and review time for this class are 1 hour.

[Textbooks]

大石智良 他 『ポイント学習中国語初級 [改訂版]』 (東方書店) 2010 年

[References]

有用な文法書として以下のものをあけておく。

- ・劉月華 (他) 2019 『实用現代漢語語法 (第三版)』 北京: 商務印書館
- ・相原茂 (他) 2016 『Why?にこたえるはじめての中国語の文法書 新訂版』 東京: 同学社
- ・守屋宏則 (他) 2019 『やさしくくわしい中国語文法の基礎 [改訂新版]』 東京: 東方書店

[Grading criteria]

毎回授業の初めに行う小テストの平均点で 100 % 評価し、期末試験は実施しない。小テストは 100 点満点で行い、そのうちの 40 点は e ラーニングによる自宅学習の達成度とする。小テストの平均点が 60 点以上の者を合格とする。The average score of mini tests(100%). No final exam will be held in this course.

[Changes following student comments]

文法事項の詳細は解説に関しては、今後も継続したい。また、受講生が中国語を話す機会をできるだけ多く設けるよう心掛けた。

[Equipment student needs to prepare]

デジタル教科書や e ラーニングを活用するため、PC 等を使用する予定だが、詳細は授業時に説明する。

[Others]

・オンライン授業が実施される場合は、授業計画や成績評価が変更になる可能性がある。そのため、学習支援システムを随時確認すること。

・本講義は全回の出席が評価の前提である。即ち、欠席は原則的に認めない。体調不良等のやむを得ない事情がある場合は、各種証明書を提出するなど、各自で然るべき対応を取ること。尚、小テストは毎回授業の最初に行うので、遅刻は厳禁。

・授業中に、HSK (中国語版 TOEFL と呼ばれる中国政府公認の中国語検定) の紹介・解説を行う予定。HSK は、就職、留学など様々なシーンで活用できる資格なので、興味のある人はぜひチャレンジしてほしい。詳しくは、HSK のホームページ (<http://www.hskj.jp/>) も参照。

・必ず Chinese A I と同セメスターで履修すること。2015 年度以前に入学した学生は、2 単位となる。

[Prerequisite]

None.

[Outline (in English)]

[Outline]

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

[Goal]

The goals of this course are as follows:

- (1) Students can understand the thoughts and information of the other party by reading and listening to basic Chinese.
- (2) Students can express their thoughts and experiences by writing and speaking basic Chinese.
- (3) Students can pass HSK Level 1 by the end of the spring semester.
- (4) Students can have an interest in Chinese culture and language, and be able to actively understand different cultures.

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]

After every class, students review the items you have already learned. In particular, in order to get used to the pronunciation and grammar of Chinese, students are expected to use digital textbooks and e-learning materials. (<http://fic.xsrv.jp/hosei>)

Preparatory study and review time for this class are 1 hour.

[Grading criteria]

The average score of mini tests(100%). No final exam will be held in this course.

LANe100ZA

Chinese B II

Shota Watanabe

Credit(s) : 1 | Semester : 秋学期授業/Fall | Year : 1~4

Day/Period : 木 4/Thu.4

Notes : < GIS students > 2015 年度以前入学者は 2 単位

その他属性 : < 優 >

[Outline and objectives]

中国語初習者を対象に、発音・文法・会話・作文などの項目を学習しつつ、「読む・書く・聞く・話す」の 4 技能をバランスよく身に付け、初級レベルの総合的な中国語コミュニケーション能力を養う。

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

[Goal]

この授業の到達目標は以下の通りである。

- (1) 基本的な中国語を読んだり聞いたりして、相手の意見や情報などを理解することができる。
- (2) 基本的な中国語を書いたり話したりして、自分の考えや経験などを表現することができる。
- (3) Fall 学期の学習を完了した段階で、HSK2 級に合格できるレベルの中国語能力を身に付ける。
- (4) 中国語圏の言語や文化に対する関心を持ち、積極的に異文化を理解することができる。

The goals of this course are as follows:

- (1) Students can understand the thoughts and information of the other party by reading and listening to basic Chinese.
- (2) Students can express their thoughts and experiences by writing and speaking basic Chinese.
- (3) Students can pass HSK Level 1 by the end of the spring semester.
- (4) Students can have an interest in Chinese culture and language, and be able to actively understand different cultures.

[Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?]

Will be able to gain "DP 3".

[Method(s)]

・授業は基本的にテキストに沿って毎回 1 課ずつ進める。毎回の授業は、概ね以下の手順で進める。1. 小テスト (約 20 分)、2. 前回の復習 (約 10 分)、3. テキストの学習 (約 40 分)、4. 問題演習・コミュニケーション活動など (約 30 分)。

・外国語の習得のためには、継続的な学習が重要であるため、毎回授業の最初に小テストを行う。

・この授業ではブレンド型学習 (教室での対面学習と自宅での e ラーニングを組み合わせた学習方法) を導入し、教室学習と自宅学習を有機的に連携させつつ行う。

・教員は小テストの添削や質問への回答を準備し、授業時に返却・回答することによって随時フィードバックを行う。

[Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)]

あり / Yes

[Fieldwork in class]

なし / No

[Schedule] 授業形態 : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	既習項目の復習・確認	既習項目 (第一課~第二十課) の復習と確認
2	第二十一課あるいは第二十二課	経験態 [你去过海边儿吗?]、進行態・持続態 [你在做什么呢?]
3	第二十三課あるいは第二十四課	形容詞述語文 (一) [水饺好吃吗?]、形容詞述語文 (二) [明天比今天还热]
4	第二十五課あるいは第二十六課	形容詞述語文 (三) [比泰山高一点儿]、名詞述語文 (一) [今天几月几号?]
5	第二十七課あるいは第二十八課	名詞述語文 (二) [现在几点?]、名詞述語文 (三) [这只手表多少钱?]
6	第二十九課あるいは第三十課	連体修飾語 [你的这件新毛衣真漂亮!]、連用修飾語 [我在饭馆儿辛辛苦苦地干了一个月]
7	第三十一課あるいは第三十二課	程度補語 [谁打得好好?]、数量補語 [你打了几年网球?]
8	第三十三課あるいは第三十四課	結果補語 [对不起, 我打错了]、方向補語 [你退回去吧]
9	第三十五課あるいは第三十六課	可能補語 [我听不懂]、助動詞 [我不想见他]
10	第三十七課あるいは第三十八課	兼語文 [让谁讲好呢?]、受身表現 [衣服都被淋湿了]
11	第三十九課あるいは第四十課	把構文 [我把衬衫弄脏了]、存現文 [大楼门口出来了一个高个子]
12	復習	Fall 学期の学習項目の総復習

13 HSK2 級問題

HSK2 級問題の紹介・解説

14 総括

これまでの学習内容の総括を行う

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]

・受講開始後は、既習事項の復習をしっかりと行うこと。特に、中国語の発音や文法に慣れるために、繰り返しデジタル教科書及び e ラーニング教材 (<http://fic.xsrv.jp/hosei>) を活用し、毎回の学習事項を確実に定着させるよう心がけてほしい。

・予習/復習の時間は毎回 1 時間を標準とする。

・After every class, students review the items you have already learned.

In particular, in order to get used to the pronunciation and grammar of Chinese, students are expected to use digital textbooks and e-learning materials. (<http://fic.xsrv.jp/hosei>)

・Preparatory study and review time for this class are 1 hour.

[Textbooks]

大石智良 他 『ポイント学習中国語初級 [改訂版]』(東方書店) 2010 年

[References]

有用な文法書として以下のものをあけておく。

・劉月華 (他) 2019 『实用現代漢語語法 (第三版)』北京: 商務印書館

・相原茂 (他) 2016 『Why?にこたえるはじめての中国語の文法書 新訂版』東京: 同書社

・守屋宏則 (他) 2019 『やさしくくわしい中国語文法の基礎 [改訂新版]』東京: 東方書店

[Grading criteria]

毎回授業の初めに行う小テストの平均点で 100 % 評価し、期末試験は実施しない。小テストは 100 点満点で行い、そのうちの 40 点は e ラーニングによる自宅学習の達成度とする。小テストの平均点が 60 点以上の者を合格とする。The average score of mini tests(100%). No final exam will be held in this course.

[Changes following student comments]

文法事項の詳細は解説に関しては、今後も継続したい。また、受講生が中国語を話す機会をできるだけ多く設けるよう心掛けた。

[Equipment student needs to prepare]

デジタル教科書や e ラーニングを活用するため、PC 等を使用する予定だが、詳細は授業時に説明する。

[Others]

・オンライン授業が実施される場合は、授業計画や成績評価が変更になる可能性がある。そのため、学習支援システムを随時確認すること。

・本講義は全回の出席が評価の前提である。即ち、欠席は原則的に認めない。体調不良等のやむを得ない事情がある場合は、各種証明書を提出するなど、各自で取るべき対応を取ること。尚、小テストは毎回授業の最初に行うので、遅刻は厳禁。

・授業中に、HSK (中国語版 TOEFL と呼ばれる中国政府公認の中国語検定) の紹介・解説を行う予定。HSK は、就職、留学など様々なシーンで活用できる資格なので、興味のある人はぜひチャレンジしてほしい。詳しくは、HSK のホームページ (<http://www.hskj.jp/>) も参照。

・必ず Chinese A II と同セメスターで履修すること。2015 年度以前に入学した学生は、2 単位となる。

[Prerequisite]

None.

[Outline (in English)]

[Outline]

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

[Goal]

The goals of this course are as follows:

- (1) Students can understand the thoughts and information of the other party by reading and listening to basic Chinese.
- (2) Students can express their thoughts and experiences by writing and speaking basic Chinese.
- (3) Students can pass HSK Level 2 by the end of the fall semester.
- (4) Students can have an interest in Chinese culture and language, and be able to actively understand different cultures.

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]

・After every class, students review the items you have already learned.

In particular, in order to get used to the pronunciation and grammar of Chinese, students are expected to use digital textbooks and e-learning materials. (<http://fic.xsrv.jp/hosei>)

・Preparatory study and review time for this class are 1 hour.

[Grading criteria]

The average score of mini tests(100%). No final exam will be held in this course.

SOC100ZA

Cultural and Ethnic Diversity in Japan

Keiko Nishimura

Credit(s) : 2 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 1~4

Day/Period : 水 4/Wed.4

その他属性 : 〈優〉

[Outline and objectives]

This course discusses and examines cultural and ethnic diversity in Japan as institutional, interpersonal and internalized experiences.

[Goal]

At the end of this course, you should be able to:

- Explain such concepts as race/ethnicity, nationalism, minority and diversity
- Think cross-culturally, critically, and collaboratively about cultures and practices of “Japan” in specific and changing sociocultural contexts.
- Analyze, apply, and extend conceptual material both informally and formally through discussion and writing.
- Think critically about the relationship among cultural difference, personal experiences, and power dynamics.
- Understand and analyze a complex set of privileges we live with and how differently we are situated in the society accordingly
- Converse civilly with people whose backgrounds, social position, and beliefs are different from yours.
- Envision different ways to realize equality and equity

[Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?]

Will be able to gain “DP 1”, “DP 2”, “DP 3”, and “DP 4”.

[Method(s)]

Although the instructor will provide the basic framework in a lecture format, students are expected to actively participate in and contribute to class discussion. This includes asking questions, seeking clarification and offering your critical ideas and interpretation. In addition, a small group of 3-5 individuals will work on 1 presentation on weekly readings. Further directions will be given in class. Verbal and written feedback will be given on assignments.

[Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)]

あり / Yes

[Fieldwork in class]

あり / Yes

[Schedule] 授業形態 : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction	In-class reading: Miner “Body Rituals Among the Narcirema”
2	Representation	Watch: Hall (1997) Representation & the Media (50 min) & Complete Worksheet
3	Multiculturalism	Read: Hankins (2014) Working Skin, Preface & Introduction, pp.xi-28
4	Language	Read: Sakai (1997) Translation & Subjectivity, Introduction, pp.1-17
5	Nation	Read: Morris-Suzuki (1998) Re-Inventing Japan “Japan” pp.9-34
6	Nation	Read: Allison (1996) “Japanese Mothers and Obento” pp.81-103
7	Diaspora	Watch: The Cats of Mirikitani (2006, 1h 14 min) & Complete Worksheet
8	Diaspora	Read: Lie (2008) Zainichi (Koreans in Japan), Chapter 1, pp.1-31
9	Refugees	Read: Slater & Barbaran (2020) “Refugees in Japan’s detention centers during the pandemic”
10	Precarity	Read: Allison (2013) Precarious Japan, “The Social Body” pp.122-165
11	Gender & Sexuality	Watch: Shinjuku Boys (1995, 53 min) & Complete Worksheet
12	Gender & Sexuality	Read: Ho “Categories that bind” pp.1-19
13	Group Presentation	Group presentation and discussion
14	Final Exam	Final review, exam, and final discussion

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]

Preparatory study and review time for this class are 2 hours each. Add 1 hour to complete the writing assignment. Complete all readings prior to attending class in order to make meaningful contribution to discussion. Take notes of any concepts, terms, or sections that are unfamiliar, formulate questions, and bring them to class.

[Textbooks]

There is no required textbook for this course. Assigned readings will become available as PDF documents and by other means to be specified by the instructor.

[References]

Further reference may be provided based on students’ areas of interest.

[Grading criteria]

Active Participation20%
Weekly Reflection Post35%
Worksheets15%
Group Presentation10%
Final Exam20%

[Changes following student comments]

The instructor will make a feedback form available to incorporate students’ feedback.

[Equipment student needs to prepare]

None.

[Others]

Students are allowed 2 absences. These include medical reasons, job interviews, family emergency and train delays. If you arrive late or leave early, each will be counted as one ½ absence. If you miss 20 min of class time, it will be considered as 1 absence. 3 or more absences will result in not-passing. You must complete all the assignments to pass the course. Students with special needs should notify the instructor as early as possible, no later than the third week of the semester.

Our goal in this class will not be to memorize or master a series of clear-cut answers; rather, by engaging in lively discussions, we aim to hone our ability to ask critical questions so as to further develop our skills as writers, readers and thinkers. In order to create such a learning environment, students should speak to each other and the instructor with respect. Abusive and harsh language will not be tolerated.

[Prerequisite]

None.

PSY100ZA

Developmental Psychology

Sayaka Aoki

Credit(s) : 2 | Semester : 秋学期授業/Fall | Year : 1~4
Day/Period : 月 2/Mon.2

その他属性 : 〈優〉

【Outline and objectives】

This course introduces basic topics/theories of developmental psychology, specifically focusing on how “typical” individuals develop from infancy to adolescence as well as sharing characteristics of individuals following “atypical” development. Students will also develop skills for analyzing social phenomena and reflecting their own personal experiences from the perspective of developmental psychology.

【Goal】

Through this course, students are expected to:

- understand how “typical” individuals develop from infancy to adolescence, in different aspects (cognitive and social/emotional)
- learn some fundamental theories proposed by developmental psychologists, such as Piaget and Bowlby
- acquire some knowledge about developmental disorders and childhood mental disorders, including autistic spectrum disorders, attention deficit and hyperactivity disorder (ADHD), learning disorders, Down's syndrome, etc.
- develop skills of analyzing social and personal experiences from perspectives of developmental psychology
- build abilities to apply what one learned in classrooms to understand real-world psychological phenomena
- increase skills for expressing ideas about human behavior in English, through oral discussions and reflection papers

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain “DP 1”, “DP 2”, and “DP 4”.

【Method(s)】

Each week, students will learn concepts/theories of developmental psychology through a lecture and an oral discussion. When sharing ideas during oral discussions, students are expected to integrate knowledge acquired through the lecture as well as their own insight from daily life experiences. At the end of each class, students are asked to write a brief reflection paper, which is graded and returned by the beginning of the next class, with a comment from the lecturer. In the reflection paper, students are also encouraged to ask questions, which are shared anonymously and answered in the next class. Exams are held in the middle and at the end of the semester.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり / Yes

【Fieldwork in class】

なし / No

【Schedule】 授業形態 : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction and Overview	Introduction and Overview
2	Human's early development	Development in infancy and early childhood
3	Cognitive development (1)	Piaget's theory
4	Cognitive development (2)	Vygotsky's theory
5	Cognitive development (3)	Development of information processing
6	Social emotional Development (1)	Development of social interaction
7	Mid-term exam & Review	Assessing the degree to which students understand the subject
8	Social emotional Development (2)	Development of emotional recognition and expression
9	Social emotional Development (3)	Theory of attachment
10	Development of self	Development of self
11	Atypical development (1)	Intellectual disorder/Learning disorder
12	Atypical development (2)	Attention-deficit and hyperactivity disorder (ADHD)
13	Atypical development (3) and review	Autistic Spectrum Disorders(ASD)
14	Final exam & Wrap-up	Assessing the degree to which students understand the subject

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

Students are expected to read the course slides uploaded on the course website prior to attending the classes. Time to spend for preparatory study, review, and homework completion for this class is 2 hours each week.

【Textbooks】

No textbook is used. Reading assignments, including journal articles and book chapters, along with links to websites, will be uploaded on the course website.

【References】

Kipp & Shaffer (2013) *Developmental psychology: Childhood and adolescence*, 9th edition. Wardsworth publishing.

【Grading criteria】

Mid-term exam 35%; Final exam 35%;

Reflection paper 20%; Participation and discussion 10%

【Changes following student comments】

This class seems to facilitate one's learning a lot, especially for students who like to learn from discussion and reflection.

The exam format is somewhat unusual, which seemed to disturb some students, though I believe this method is the best in order to make the exam for both who can attend the class and those who need to take the exam online,

【Prerequisite】

None.

CUA100ZA

Media Studies

Muge Igarashi

Credit(s) : 2 | Semester : 秋学期授業/Fall | Year : 1~4
Day/Period : 木 3/Thu.3

その他属性 : 〈優〉

[Outline and objectives]

What are the effects of computers, cell phones, and television in our lives? Does the way we receive news or other information alter our perceptions of current events? Do our relationships with friends change depending on how we communicate with them?

The way we interact is mediated by communication technologies. This class is an introduction to media studies focused on how media has evolved and how it has come to shape and transform the way we communicate.

[Goal]

1. Introduce the history of major media and communication technologies.
2. Provide students with theoretical frameworks to understand and interpret media effects.
3. Build fundamental skills of media literacy.

[Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?]

Will be able to gain “DP 1”, “DP 2”, “DP 3”, and “DP 4”.

[Method(s)]

Each course begins with a historical introduction for a better understanding of mass communication and its evolution.

We will discuss a variety of media forms such as print, sound, film, internet, as well as their evolution, and their impact on culture.

The last few weeks will focus on changing trends in media culture by looking at topics such as advertising, online gaming, and virtual reality. Students are always encouraged to share their views and interesting media content during class or through the Google Classroom stream.

Students are always welcome to send in questions by e-mail, these will be addressed at the beginning of each class.

Individual feedback on assignments and examinations will be provided through Google Classroom.

[Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)]

あり / Yes

[Fieldwork in class]

なし / No

[Schedule] 授業形態 : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction	Introduction
2	Introduction to Mass Communication	Introduction to the field of mass communication.
3	Media Literacy	An introduction and exercises analyzing various types of media.
4	Texts and Print	The historical evolution of the printing press and its significance.
5	News and Journalism	Early history of news journalism and its transformation.
6	Sound and Recording	Early history of sound recording and the music industry.
7	Intellectual Property and Piracy	Piracy and the music industry. Copyright, fair use, and sampling.
8	Early Film	The history of early film. From photography to motion pictures.
9	Contemporary Film	Genre theory and product standardization.
10	The Internet	The history of information revolution and online cultures.
11	Video Games	Gaming cultures and the virtual world.
12	Advertising	Brand logic and persuasive strategies.
13	Discussion Session	1. Internet addiction 2. Relation between democracy and the internet.
14	Final Exam & Wrap-up	In-class final exam and review.

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]

Students should complete assigned readings before each class and regularly review current news in the fields of media and technology. Preparatory study and review time for this class is two hours per week.

[Textbooks]

The text book is available at the library but readings as well as relevant media will be uploaded to Google Drive.

[References]

Campbell, Richard, Christopher R. Martin, and Bettina Fabos. 2017. Media & culture: mass communication in a digital age. 11th edition. Bedford/St. Martin's.

[Grading criteria]

Participation 10%
Assignments 30%
Discussion session 10%
Take home midterm exam 20%
Final Exam (in class) 30%

[Changes following student comments]

None.

[Prerequisite]

None.

POL100ZA

Introduction to Development Studies

Norio Usui

Credit(s) : 2 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 1~4

Day/Period : 月 4/Mon.4

その他属性 : 〈優〉

【Outline and objectives】

Why do we need to extend aid to developing countries? If needed, how can we support growth and development of recipient countries? Do we really know what prevents growth and development (poverty reduction) in developing countries? If not, how can we know them, and then how to develop aid strategy based on the identified constraints? If development aid contains lending, how can we assess debt repayment capacity of a recipient country? Can projects financed by our aid attain expected goals? How can we measure the impact of an aid-funded project that can be attributed to the project? The course aims to answer these critical questions in development aid policy. After reviewing the traditional development paradigms — Structural adjustments and Washington consensus (confusion), the course focuses on the emerging 3rd generation of development paradigm, which emphasizes “diagnostics” and “evaluation” in formulating an effective development aid policy. A unique feature of the course is its intensive uses of case studies to deepen students’ understanding.

【Goal】

Students who have taken this course should be able to:

- (1) understand how development aid is designed to resolve challenges in developing countries;
- (2) understand how development paradigms have been evolving and how the changes in development paradigms have affected development organizations’ operational strategies;
- (2) develop analytical skills to analyze development challenges and formulate an effective aid (and development) strategy.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain “DP 1”, “DP 2”, “DP 3”, and “DP 4”.

【Method(s)】

The intent of this course is to expose the student to a range of ideas and issues in aid and development policy through an interactive learning process. Students will be provided an opportunity to learn, think and discuss broadly and deeply about aid and development issues through lectures, discussions, group work, presentations and homework. Comments will be provided to assignments. Good works will be presented in class.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり / Yes

【Fieldwork in class】

なし / No

【Schedule】 授業形態 : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Guidance	Guidance
2	Why are we so rich but they so poor? Why is development aid needed?	Poverty reduction requires growth, which can be constrained by lack of financial resources, recipient’s capacity, and poor governance
3	Two gap theory (1st generation paradigm)	‘Ghost’ of the financing gap
4	Original and augmented Washington consensus (2nd generation paradigm)	Is everything important to grow and develop?
5	Growth diagnostics (3rd generation paradigm)	A new approach focusing on only binding constraints
6	How the growth diagnostics work?	Case study 1: Pakistan
7	How the growth diagnostics work?	Case study 2: Philippines
8	Aid inflows induce the Dutch disease?	A dilemma of aid
9	How to measure project impact?	A dilemma of ‘before and after comparison
10	Randomized control trials (RCTs)	How to create treatment and control groups?
11	How the impact evaluation work?	Case study 1: Philippines’ conditional cash transfer
12	How the impact evaluation work?	Case study 2: Mosquito nets for Malaria prevention

13 Recap: Core features of Diagnostics and Evaluation the new development (aid policy) paradigm

14 Final exam & wrap up Final exam & wrap up

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

【Textbooks】

No textbook will be required, but students are highly recommended to review readings from the reference listed below. Necessary reading material will be provided during the class.

【References】

- Banerjee, A., and E. Duflo (2012), *Poor Economics: A Radical Rethinking of the Way to Fight Global Poverty*, PublicAffairs. (for Classes 9-12)
- Rodrik, D. (2006), “Goodbye Washington Consensus, Hello Washington Confusion? A Review of the World Bank’s Economic Growth in the 1990s: Learning from a Decade of Reform. (for Class 4)
- Hausmann, R., D. Rodrik, and A. Velasco. (2005), “Growth Diagnostics”, John F. Kennedy School of Government, Harvard University (for Classes 5).
- Felipe, J., N. Usui, and A. Abdon (2011), “Rethinking the Growth Diagnostics Approach: Questions from the Practitioners”, *Journal of International Commerce, Economics and Policy*, 2 (2): 251-276. (for Classes 5-7)
- N. Usui, “Aid Induced Structural Change in Developing Countries: An Extension of the Two-Gap Model”, *Singapore Economic Review*, 41 (2): 53-66, 1998. (For Class 8).
- N. Usui, “Searching for Effective Poverty Interventions: Conditional Cash Transfer in the Philippines”. 2011, Asian Development Bank. (for Class 11).

【Grading criteria】

The following criteria will be used to evaluate students:

- Class contribution (ex. Questions, Presentations, Discussions) 30%
- Reaction papers and homework 30%
- Final Exam 40%

【Changes following student comments】

Student requests and comments will be taken into consideration.

【Others】

Week 1 attendance is mandatory to register for this class.

Including attendance in week 1, more than 2 unexcused absences will result in failure of this course. An overall score of 60% or more is needed to pass this course.

【Prerequisite】

Non-GIS students wishing to take part in this course should have adequate English skills to complete the course work and assignments.

TRS100ZA
Introduction to Tourism Studies
 John Melvin
 Credit(s) : 2 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 1~4
 Day/Period : 月 1/Mon.1
 その他属性 : 〈優〉〈実〉

[Outline and objectives]
 The purpose of this course is to provide students with an introduction to the field of tourism. You will gain an overview of the scale, scope and organization of the tourism sector and consider both the positive and negative impacts of tourism on destinations. Through a range of international case studies, we will learn about the development of destinations' natural, built and cultural resources and how these can be managed and enjoyed sustainably. Students will engage in additional learning opportunities such as in-class discussions and a group project, focusing on tourism-related issues at a particular destination. This includes consideration of how tourism may recover from the coronavirus pandemic in 2023 and beyond. As an introductory 100-level class, students will encounter some of the fundamental issues and theories relating to the study of tourism.

[Goal]
 At the completion of this course, students should be able to:
 1. Describe the structure and organisation of the tourism sector and the interrelationships between the various stakeholders (governments, local communities, companies, NGOs, etc.)
 2. Identify processes to enable the sustainable development of a destination's natural, built and cultural resources
 3. Identify factors facilitating the growth of travel and tourism at the global, national and local level
 4. Discuss changes in consumer behaviour and the implications for tourism managers
 5. Describe the impact of technology, particularly social media, on both tourism organizations and tourists

[Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?]
 Will be able to gain "DP 1", "DP 2", "DP 3", and "DP 4".

[Method(s)]
 The course is designed to facilitate a free exchange of ideas and information. Lectures will take place in an interactive environment, with students contributing through discussions and a group presentation. These are important elements of the course and will aid in your learning. The group project on a given case study will provide you with in-depth understanding of the unique challenges facing your group's destination. You will be required to analyze this and present your solutions and recommendations via a report and presentation. Assignments will be submitted via Hoppii; insightful answers will be shared in class to facilitate discussion.

[Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)]
 あり / Yes

[Fieldwork in class]
 なし / No

[Schedule] 授業形態 : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction to the Course Content and Class Format	Introduction to the course content and class format
2	The Structure and Organization of the Tourism Sector	Exploring the structure and organization of the tourism sector at the local, national & international level
3	Tourists: Who, What, Where, Why, How	Exploring different typologies of tourists & evolutions in tourists' motivations, decision-making and behaviors
4	Tourism Impacts in Developed and Developing Countries	Investigating how tourism can impact positively and negatively on host communities, economies and environments
5	Tourism: Sustainable Development	Examining the importance of sustainability & approaches on how to manage tourism more sustainably
6	Selling Dreams and Experiences: Tourism Marketing	Examining evolving theories of marketing, and the particular challenges of marketing services such as tourism
7	Issues in Destination Management	Analyzing destination management from a case study on Venice, Italy

8	Tourism and Technology	Considering how tourism has facilitated the management & organization of tourism. Also, analyze the impact of technology on tourism organizations & tourists.
9	Event Tourism	Analyzing the role of events in destination development and marketing
10	Tourism Crisis and Disaster Management	Analyzing the vulnerability of tourism and how destinations can respond to disasters, including COVID-19
11	Tourism in Japan	Examining the past, present and future development of tourism in Japan
12	Group Presentations	Student group project presentations (case studies will be assigned earlier in the semester)
13	Future Developments in Tourism	Considering different scenarios how tourism may develop in the future, including post-COVID
14	Examination & Wrap-up	End of semester examination & course review

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]
 Students will be assigned individual and group reading as preparation for classes. Students are expected to download and preview the lecture slides before each class. More details on evaluation criteria and assignments will be given in class. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

[Textbooks]
 There is no set textbook. Weekly handouts and reading materials will be distributed in class and/or available via the online class management page.

[References]
 Cooper, C., Fletcher, J., Fyall, A., Gilbert, D. and Wanhill, S. (2013 5th edition) *Tourism: Principles and Practice*. Harlow: Pearson Education
 Cooper, C. and Hall, C. M. (2018) *Contemporary Tourism: An International Approach*. London: Goodfellow
 The reference books are available in the university library and in the GIS Reference Room.

[Grading criteria]
 Evaluation will be based on
 1. Class participation & homework assignments (30%)
 2. Group presentation and report (30%)
 3. Exam (40%)
 Students are expected to complete all the assigned reading and homework to enable them to get the most benefit from the lectures. To help develop students' group-working skills and to encourage and reward cooperation and hard work, the group project is assessed on an individual basis through peer assessment.

[Changes following student comments]
 N/A

[Others]
 I can draw from my experience in organizing events and as marketing director of a tourism business in the UK to help provide students with examples and to illustrate issues.

[Prerequisite]
 None.

TRS100ZA

Introduction to Tourism Studies

John Melvin

Credit(s) : 2 | Semester : 秋学期授業/Fall | Year : 1~4
Day/Period : 火 3/Tue.3

その他属性 : 〈優〉〈実〉

【Outline and objectives】

The purpose of this course is to provide students with an introduction to the field of tourism. You will gain an overview of the scale, scope and organization of the tourism sector and consider the positive and negative impacts of tourism on destinations. Through a range of international case studies, we will learn about the development of destinations' natural, built and cultural resources and how these can be managed and enjoyed sustainably. Students will engage in additional learning opportunities such as in-class discussions and a group project, focusing on tourism-related issues at a particular destination. This includes consideration of how tourism may recover from the coronavirus pandemic in 2022 and beyond. As an introductory 100-level class, students will encounter some of the fundamental issues and theories relating to the study of tourism.

【Goal】

At the completion of this course, students should be able to:

1. Describe the structure and organisation of the tourism sector and the interrelationships between the various stakeholders (governments, local communities, companies, NGOs, etc.)
2. Identify processes to enable the sustainable development of a destination's natural, built and cultural resources
3. Identify factors facilitating the growth of travel and tourism at the global, national and local level
4. Discuss changes in consumer behaviour and the implications for tourism managers
5. Describe the impact of technology, particularly social media, on both tourism organizations and tourists

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain "DP 1", "DP 2", "DP 3", and "DP 4".

【Method(s)】

The course is designed to facilitate a free exchange of ideas and information. Lectures will take place in an interactive environment, with students contributing through discussions and a group presentation. These are important elements of the course and will aid in your learning. The group project on a given case study will provide you with in-depth understanding of the unique challenges facing a destination. You will be required to analyze this and present your solutions and recommendations via a report and presentation. Assignments will be submitted via Hoppii; insightful answers will be shared in class to facilitate discussion.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり / Yes

【Fieldwork in class】

なし / No

【Schedule】 授業形態 : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction to the Course Content and Class Format	Introduction to the Course Content and Class Format
2	The Structure and Organization of the Tourism Sector	Exploring the structure and organization of the tourism sector at the local, national & international level
3	Tourists: Who, What, Where, Why, How	Exploring different typologies of tourists & evolutions in tourists' motivations, decision-making and behaviors
4	Tourism Impacts in Developed and Developing Countries	Investigating how tourism can impact positively and negatively on host communities, economies and environments
5	Tourism: Sustainable Development	Examining the importance of sustainability & approaches on how to manage tourism more sustainably
6	Selling Dreams and Experiences: Tourism Marketing	Examining evolving theories of marketing, and the particular challenges of marketing services such as tourism
7	Issues in Destination Management	Analyzing destination management from a case study on Venice, Italy

8	Tourism and Technology	Considering how tourism has facilitated the management & organization of tourism. Also, analyze the impact of technology on tourism organizations & tourists.
9	Event Tourism	Analyzing the role of events in destination development and marketing
10	Tourism Crisis and Disaster Management	Analyzing the vulnerability of tourism and how destinations can respond to disasters, including COVID-19
11	Tourism in Japan	Examining the past, present and future development of tourism in Japan
12	Group Presentations	Student group project presentations (case studies will be assigned earlier in the semester)
13	Future Developments in Tourism	Considering different scenarios how tourism may develop in the future, including post-COVID
14	Examination & Wrap-up	End of semester examination & course review

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

Students will be assigned individual and group reading as preparation for classes. Students are expected to download and preview the lecture slides before each class. More details on evaluation criteria and assignments will be given in class. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

【Textbooks】

There is no set textbook. Weekly handouts and reading materials will be distributed in class and/or available via the online class management page.

【References】

Cooper, C., Fletcher, J., Fyall, A., Gilbert, D. and Wanhill, S. (2013 5th edition) *Tourism: Principles and Practice*. Harlow: Pearson Education
Cooper, C. and Hall, C. M. (2018) *Contemporary Tourism: An International Approach*. London: Goodfellow
The reference books are available in the university library and in the GIS Reference Room.

【Grading criteria】

Evaluation will be based on

1. Class participation & homework assignments (30%)
2. Group presentation and report (30%)
3. Exam (40%)

Students are expected to complete all the assigned reading and homework to enable them to get the most benefit from the lectures.

To help develop students' group-working skills and to encourage and reward cooperation and hard work, the group project is assessed on an individual basis.

【Changes following student comments】

N/A

【Others】

I can draw from my experience in organizing events and as marketing director of a tourism business in the UK to help provide students with examples and to illustrate issues.

【Prerequisite】

None.

FRI100ZA

Information Studies

Alfons Josef Schuster

Credit(s) : 2 | Semester : 秋学期授業/Fall | Year : 1~4
Day/Period : 水 2/Wed.2

その他属性 : 〈優〉

[Outline and objectives]

Information study is an interdisciplinary science with a wide range of interests and goals. A major element in the field is concerned with fundamental information processes such as the acquisition and collection of information, the classification and storage of information, the manipulation and retrieval of information, as well as the analysis, dissemination, usage, and maintenance of information. Although information has attained a very important role in the world around us, it is a concept that is very difficult to define. This course tries to familiarize students with the history and evolution of the field of information study. Students completing the course will recognize the aims and goals of fundamental information processes. They will learn to analyze, evaluate, and appreciate the value information study provides, and they will understand today's information society and modern technology from an information perspective.

[Goal]

By the end of the semester, students should: (i) be familiar with the history and evolution of the field of information study, (ii) understand fundamental information processes, (iii) have acquired an understanding about the notion of information from various points of view, and (iv) be able to reason about modern society and modern technology from an information perspective.

[Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?]

Will be able to gain "DP 1", "DP 2", and "DP 4".

[Method(s)]

The main elements of the course are lectures, assignments, and in-class discussions. The lectures relate to the topics mentioned in the course schedule below. A class typically provides feedback and guidance on assignments. In addition, each class provides an opportunity for students to engage actively in a discussion related to current issues in information studies.

[Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)]

あり / Yes

[Fieldwork in class]

なし / No

[Schedule] 授業形態 : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction	Introduction
2	Information Society and Information Revolution (1)	A brief introduction to information society and the information revolution.
3	Information Society and Information Revolution (2)	A brief introduction to information society and the information revolution.
4	The Language of Information	Understanding data, information and knowledge. A roadmap of information concepts.
5	Mathematical Theory of Information	Shannon's interpretation of information.
6	Physical Information	Life and entropy.
7	Biological Information (1)	Genetic code and genetic engineering.
8	Biological Information (2)	Brains and artificial neural networks.
9	Economic Information	Interpretations of information from the point of view of game theory.
10	Information Ethics	Responsibility in information environments.
11	Modern Information Environments (1)	Complex systems, the Internet, cyberspace.
12	Modern Information Environments (2)	Big data, machine learning, and artificial intelligence.
13	Information Future	Possible directions of information culture and information society. Outlook.
14	Examination & Wrap-up	Final tips; final exam.

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]

(1) Reading. Students are expected to read the course textbook and other materials carefully in order to acquire a thorough understanding of the ideas and concepts presented to them in class.

(2) Assignments. Students are given several assignments. These assignments are an important element in the course and contribute to the overall mark that a student may achieve.

Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

[Textbooks]

Luciano Floridi, Information: A Very Short Introduction (Oxford: Oxford University Press, 2010) ISBN-13: 978-0-19-955137-8.

[References]

In addition to Floridi's book, we use newspaper and journal articles, science fiction short stories, videos, as well as other materials in this course.

[Grading criteria]

Assignments: 50%

Final Exam: 50%

[Changes following student comments]

Not applicable.

[Equipment student needs to prepare]

None.

[Others]

None.

[Prerequisite]

None.

FRI100ZA

Information and Society

May Kristine Jonson Carlon

Credit(s) : 2 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 1~4

Day/Period : 土 2/Sat.2

その他属性 : 〈優〉

[Outline and objectives]

Information is now a fundamental feature of the human experience: we consume, produce, and use it to make important decisions. In this course, we will be approaching information studies from the lens of human-computer interaction, data visualization, and analytics. We will be introducing the students to various aspects of information and society: our changing views, how we utilize it, the effects of technological advancements, and our responsibility.

[Goal]

At the end of this course, the students are expected to apply critical thinking to exercise responsible digital citizenship. They should be able to discuss how information affects them as individuals and as a society, evaluate information credibility, and exercise caution in presenting information.

[Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?]

Will be able to gain “DP 1”, “DP 2”, “DP 3”, and “DP 4”.

[Method(s)]

Course materials will be provided at least a week in advance via the learning management system. Each class will be kicked off with a short review from the previous week. This will be followed by lectures, discussions, and activities covering the topics given in the weekly schedule. Each class will close with a short retention quiz that students can choose to work on individually or collaboratively. A reminder of the assigned study materials and other announcements for the following week will also be given.

[Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)]

あり / Yes

[Fieldwork in class]

なし / No

[Schedule] 授業形態 : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction	Introduction: briefing on the course coverage and setting expectations.
2	Evolution of Information	A historical overview of the evolution of information will be presented: how was it disseminated and how has it grown through time.
3	Information Stakeholders	Custodianship, ownership, and access will be discussed.
4	Argumentation and Information	Critical thinking concepts such as fallacies will be reviewed. Examples where information was used for faulty argumentation will be presented.
5	Human Factors of Information Consumption	Cognitive biases will be reviewed and methods on how these biases were used to influence information consumption will be presented.
6	Information and Public Opinion	Landmark cases where information has swayed public opinion, both for the good and for the bad, will be discussed.
7	Midterm Reflection	Students will write a short reflection paper in advance on the lessons learned thus far and will be given a few minutes to explain portions of their reflections in a guided discussion manner.
8	Big Data and AI	Big data in key sectors such as healthcare, education, and national security will be introduced. Enablers of big data (e.g., increased computing power, internet) will also be discussed.
9	Data and AI Ethics	Examples of algorithms and practices used with information and how they can potentially threaten the society will be presented.

10	Information Security	Information security (confidentiality, integrity, and accessibility) along with its related concepts (cybersecurity, cryptography) will be introduced.
11	Digital Footprint	Landmark cases where digital footprints were used, both for the good and for the bad, will be discussed.
12	Future of Information	Expert predictions on how the future will change as we advance in the knowledge economy will be explored.
13	Responsible Digital Citizenship	Protective and ethical measures to prevent misinformation and promote healthy information activism will be debated.
14	Final Examination and Wrap-up	An open-book closed-response timed exam will be administered.

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]

Students are expected to read the relevant material for the week prior to class to promote lively discussion. Students may optionally prepare short reports for knowledge sharing in advance. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

[Textbooks]

All reference materials will be made available at the start of the term.

[References]

These texts are recommended but not required:

Tufte, E. R. (1990). *Envisioning information*. Graphics Press.

Mackenzie, I. S. (2013). *Human-Computer Interaction. An Empirical Perspective*.

O'Neil, C. (2016). *Weapons of Math Destruction: How Big Data Increases Inequality and Threatens Democracy*.

[Grading criteria]

Quizzes: 40%

Participation: 20%

Midterm Reflection: 20%

Final Examination: 20%

[Changes following student comments]

Grading criteria were adjusted to lessen the percentage of participation.

The contents for Introduction and Midterm Reflection were clarified.

The Methods section was additionally modified to reflect how the class was actually conducted the previous year.

[Prerequisite]

None

LIT200ZA

Topics in Japanese Literature: History of Japanese Literature in Translation

Gregory Khejrnejat

Credit(s) : 2 | Semester : 秋学期授業/Fall | Year : 2~4
Day/Period : 月 2/Mon.2

その他属性 : 〈グ〉〈優〉

【Prerequisite】
None.

【Outline and objectives】

This course examines the social, political, and cultural forces that shape the canon of Japanese literature available in English translation. In particular, we will focus on translations published in the United States in the postwar period. How did publishers determine which authors to introduce to an American audience, and how did those choices influence our images of Japanese literature in Japan, the US, and globally?

【Goal】

Students will think critically about the discourses of translation, publication, and world literature. Students will also develop critical reading and writing skills through class assignments.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】
Will be able to gain “DP 2”, “DP 3”, and “DP 4”.

【Method(s)】

Classes will consist of lectures followed by group discussions. Quizzes will be used to check reading comprehension, and students will complete two papers for midterm and final evaluations. In-class feedback will be given for daily reaction papers, and students will receive personal feedback on written assignments.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり / Yes

【Fieldwork in class】

なし / No

【Schedule】 授業形態：対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction	Introduction
2	Images of Japanese Literature	A comparison of early translations of Japanese literature into English
3	The Postwar Translation Project	Knopf and the Japanese literature publication project
4	Osaragi Jiro and Postwar Narratives in Translation	Osaragi, <i>Homecoming</i>
5	Traditional Aesthetics in Translation	Tanizaki, <i>In Praise of Shadows</i>
6	Tanizaki and Orientalism	Tanizaki, <i>In Praise of Shadows</i>
7	Visions of Japan in the Postwar US	Loti, <i>Madame Chrysantheme</i>
8	Review and Midterm Examination	A review of topics covered in the first half of the course
9	Reconsidering the "Return to Japan"	Tanizaki, <i>Some Prefer Nettles</i>
10	Orientalism and Self-Orientalism	Tanizaki, <i>Some Prefer Nettles</i>
11	O-Hisa and Images of "Traditional" Beauty	Tanizaki, <i>Some Prefer Nettles</i>
12	Kawabata Yasunari and the Nobel Prize	Kawabata, <i>Japan, the Beautiful, and Myself</i>
13	Contemporary Trends	Contemporary authors in translation
14	Final Synthesis	A review of the major themes of the course

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

Students are expected to perform close readings of assigned texts and should be ready to engage in discussion each week. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

【Textbooks】

Tanizaki, Junichiro. *In Praise of Shadows*. Vintage, 2001.

Tanizaki, Junichiro. *Some Prefer Nettles*. Vintage, 2001.

Other readings will be provided as handouts in class.

【References】

References will be announced in class.

【Grading criteria】

Class contribution (30%), reading quizzes (20%), in-class midterm paper (25%), final paper (25%)

【Changes following student comments】

None.

SOC200ZA

American History and Society

Robert Sinclair

Credit(s) : 2 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 2~4

Day/Period : 月 4/Mon.4

その他属性 : 〈優〉

【Outline and objectives】

This course will introduce students to the culture and society of the United States, focusing primarily on events of the 20th and 21st century. A central theme will be the idea of America as a place of unlimited possibility and opportunity. This idea presents the United States as a new type of social experiment, where true freedom is available and where everyone can look to a better future. As we examine this perspective on America, we will further explore the conflict between American ideals and social reality as seen in the tensions between continuity and change, individualism and community, consensus and diversity.

【Goal】

Students will acquire knowledge about various aspects of America and American life, including its history, geography and political system, as well as its economic, educational, social and foreign policy. Students can then expect to (1) acquire general knowledge of the society and people in contemporary America, (2) learn how America developed from a small British colony into a major superpower, and (3) examine the new realities facing America and its global influence.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain “DP 1”, “DP 2”, “DP 3”, and “DP 4”.

【Method(s)】

Students will attend lectures, read related material and have two written examinations. Concerning assignments, students will receive feedback in class.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり / Yes

【Fieldwork in class】

なし / No

【Schedule】 授業形態 : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction	Introduction
2	History (1)	Birth of a Nation, American Revolution and Constitution, Civil War, Reconstruction, Gilded Age
3	History (2)	Progressive Era, The New Deal, rise as a superpower, The Cold War, recent developments
4	Land and People	Native Americans, African Americans, immigration
5	US Political Institutions	The US Constitution, Federal Government, branches of government
6	US Religious Culture	US religions, church and state, religion and education
7	Review & Midterm Exam	Assessing the degree to which students understand the subject
8	US Education	The American education system, education and democracy, recent problems
9	US Economy	Economic Liberalism, social class and economy, the contemporary economy
10	US Foreign Policy (1)	Current attitudes, history of American foreign policy until WWI
11	US Foreign Policy (2)	History of American foreign policy to recent times
12	US Social Services	History of social services, organization, public vs. private services
13	US Culture: Arts, Sports and Leisure	History, the arts, sporting activities and leisure
14	Final Exam & Wrap-up	Assessing the degree to which students understand the subject

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

Students are expected to read the materials as instructed and prepare for class participation and discussion. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

【Textbooks】

Contemporary America. 4th edition, Russell Duncan and Joe Goddard, 2013, Palgrave Macmillan.

American Civilization: An Introduction, 7th Edition, David Mauk and John Oakland, 2017, Routledge.

【References】

A - Z of Modern America, Alicia Duchak, 1999, Routledge.

Oxford Guide to British and American Culture, Jonathan Crowther, 2005, Oxford University Press.

【Grading criteria】

Evaluation will be based on a selection exam (10%) class participation (15%) and two exams (75%).

【Changes following student comments】

Some of the topics and readings covered in the class have been changed.

【Prerequisite】

None.

PHL200ZA

Philosophy and Political Thought

Joel Van Fossen

Credit(s) : 2 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 2~4

Day/Period : 火 4/Tue.4

その他属性 : 〈優〉

[Changes following student comments]

Not applicable

[Equipment student needs to prepare]

Please bring a computer for in-class surveys.

[Prerequisite]

None

[Outline and objectives]

Humans are deeply social creatures. Unlike other social creatures, humans create and exist within complex and dynamic political arrangements with laws, customs, institutions, and designated sources of authority. This situation presents us with the question of how we should arrange ourselves politically. The rational inquiry into this question is the primary task of political philosophy. In this course, we will explore a variety of topics in political philosophy with an emphasis on the social contract tradition and theories of justice. Philosophers surveyed in this course include Thomas Hobbes, John Locke, Jean-Jacques Rousseau, John Stuart Mill, Emma Goldman, and Karl Marx.

[Goal]

This course has four primary learning goals. First, students will acquire knowledge about the various and diverging views on political philosophy. Second, students will improve critical thinking skills when engaging with abstract reasoning about political philosophy. Third, students will improve their reading skills when confronting nuanced and challenging text. Finally, students will improve their writing skills to communicate complex ideas clearly and confidently.

[Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?]

Will be able to gain "DP 1", "DP 2", "DP 3", and "DP 4".

[Method(s)]

Classes will begin with a one-hour lecture with interactive slides. In many meetings, an in-class activity will accompany the lecture. These activities are interactive and require active participation. Finally, each class will end either (1) with a discussion or debate about the course content or (2) an open discussion about the in-class activity for that day. There are two in-class exams. These exams will include multiple choice, short answer, and essay questions.

[Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)]

あり / Yes

[Fieldwork in class]

なし / No

[Schedule] 授業形態 : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction	What is political philosophy?
2	The Social Contract 1	The need for a state
3	The Social Contract 2	The legitimacy of political authority
4	The Social Contract 3	The nature of consent
5	The Social Contract 4	Religion and the state
6	The Social Contract 5	The corrupting influence of the state
7	The Social Contract 6	Political pessimism
8	Midterm	Review and midterm exam
9	The State and Justice 1	The limits of state intervention
10	The State and Justice 2	The nature of justice
11	The State and Justice 3	Gender, race, and justice
12	The State and Justice 4	Anarchism
13	The State and Justice 5	Stateless society
14	Final Exam	Wrap-up, review, and final exam

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]

Students should complete weekly readings before coming to class. Students should also review their own notes and course slides after every class. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

[Textbooks]

There are no required textbooks for this course. All readings will be provided by the instructor either in print or online.

[References]

The Stanford Encyclopedia of Philosophy is a great resource for delving further into any topics discussed in class: <https://plato.stanford.edu>

[Grading criteria]

Participation 15%

In-class activities 15%

Midterm exam 30%

Final exam 40%

PHL200ZA

Topics in Philosophy

Joel Van Fossen

Credit(s) : 2 | Semester : 秋学期授業/Fall | Year : 2~4
Day/Period : 月 1/Mon.1

その他属性 : 〈優〉

【Outline and objectives】

Philosophy & Aesthetics

Whether in nature or art, humans love beauty. In fact, appreciating and taking pleasure in beautiful things seems central to what it means to be a human. But what is beauty? What is art? Does art need to be beautiful? What is the value of art and beauty? What's the relation between the value of beauty and other values, like moral value? Why is art so important to us? These questions are the primary concern for the branch of philosophy called "aesthetics." In this course, we will investigate these questions in depth by exploring various texts on aesthetics from the history of philosophy. Philosophers surveyed in this course include Plato, Aristotle, Francis Hutcheson, David Hume, Immanuel Kant, G.W.F. Hegel, Arthur Schopenhauer, Friedrich Nietzsche, Leo Tolstoy, and Clive Bell.

【Goal】

This course has four primary learning goals. First, students will learn about various and diverging views on aesthetics. Second, students will improve critical thinking skills when engaging with abstract reasoning. Third, students will improve their reading skills when confronting nuanced and challenging text. Finally, students will improve their communication skills to present complex ideas clearly and confidently in written and spoken forms.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain "DP 1", "DP 2", "DP 3", and "DP 4".

【Method(s)】

Classes will begin with a one-hour lecture with interactive slides. For the first four meetings, a class discussion will follow the lecture. For meetings 5-13, student presentations will follow the lecture. Each student must present once throughout the semester. Student presentations apply the course's various theoretical topics and ideas to analyze the students' choice of some piece(s) of art. The instructor will provide more detailed instructions on the online learning management system. In addition to presentations, there will be a final exam in the last meeting. The final exam will consist of short and long essay questions. Students will receive written feedback on the presentation and exam.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり / Yes

【Fieldwork in class】

なし / No

【Schedule】 授業形態 : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction	What is aesthetics?
2	The value of beauty 1	Plato, Hippias Major and Ion
3	The value of beauty 2	Plato, excerpts Republic, Books II, III, & X
4	The value of beauty 3	Aristotle, Poetics
5	Aesthetic Pleasure 1	Francis Hutcheson, excerpts from various works
6	Aesthetic Pleasure 2	David Hume, "Of the Standard of Taste"
7	Aesthetic Pleasure 3	Immanuel Kant, excerpts from the Critique of Judgment
8	Aesthetic Pleasure 4	Immanuel Kant, excerpts from the Critique of Judgment (cont.)
9	Beauty Beyond Pleasure 1	G.W.F. Hegel, excerpts from Introductory Lectures on Aesthetics
10	Beauty Beyond Pleasure 2	Arthur Schopenhauer, excerpts from The World as Will and Representation
11	Beauty Beyond Pleasure 3	Friedrich Nietzsche, excerpts from Twilight of the Idols
12	What is art? 1	Leo Tolstoy, excerpts from What is Art?
13	What is art? 2	Clive Bell, excerpts from Art
14	Final Exam	Review, wrap-up, and final exam

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

Students should complete weekly readings before coming to class. Students should also review their own notes and course slides after every class. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

【Textbooks】

There are no required textbooks for this course. All readings will be provided by the instructor either in print or online.

【References】

The Stanford Encyclopedia of Philosophy is a great resource for delving further into any topics discussed in class: <https://plato.stanford.edu>

【Grading criteria】

Participation 20%
Presentations 30%
Final Exam 50%

【Changes following student comments】

Not applicable

【Equipment student needs to prepare】

Please bring a computer for in-class surveys.

【Prerequisite】

None

SOC200ZA

Sociology of Work and Employment

Allen Kim

Credit(s) : 2 | Semester : 秋学期授業/Fall | Year : 2~4
Day/Period : 金 4/Fri.4

その他属性 : 〈優〉

[Outline and objectives]

This course is broadly concerned with the sociological analysis of work and society. Frequently, the first question we ask when we meet someone is “What do you do?” For many, the routine cycle of getting up, getting dressed, going to work and returning home to repeat the cycle the following day is common in contemporary industrialized economies. We devote many hours on the job. Work has powerful effects on both economic and social wellbeing. This course explores the sociological study of both the structure and nature of work, major economic changes including globalization, and concerns of workers such as earnings, promotions, personal finance, the “gigged” society, unemployment and the balance between work and family. We will examine broad topics including: education, the social organization of work, employment trends, inequalities at work, and the purpose of work as it relates to opportunity and rewards. Critical reading of texts, cogent writings, articulate oral presentations, and full participation in dialogue are all mandatory. Class assignments will measure your ability to grasp and apply the sociological perspective from readings and from information emerging from class discussions. Analytical projects provide opportunities to pursue interests in greater depth.

[Goal]

Through this course, students will acquire the basic sociological tools to analyze the development and impact of work and employment by learning the key concepts and theories used in social analysis and applying them in written assignments and discussions. Through the various assignments in this class, students will develop critical thinking, writing, discussion, and research skills.

[Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?]

Will be able to gain “DP 1”, “DP 2”, “DP 3”, and “DP 4”.

[Method(s)]

Lectures are conducted weekly to introduce students to key concepts, theories, and research related to each topic. Students will interview professionals outside of the classroom setting. Short discussions are also integrated into the lectures to help students learn and apply the concepts and theories. In addition, there are also formal small group discussions for which students have to prepare in advance. Submission of assignments and feedback will be via the Learning Management System

[Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)]

あり / Yes

[Fieldwork in class]

あり / Yes

[Schedule] 授業形態 : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	The “Sociological Imagination”	The “Sociological Imagination”
2	Basic Concepts & Theories (1).	Major sociological perspectives
3	Contours of Work	Broad changes and trends of work
4	Industrialization and its Consequences	Rapid social and economic changes
5	Bureaucratic Organizations & Globalization	Mcdonaldization and stratification
6	New Ways of Working	“Gigged society”?
7	Workplace Culture and Socialization	Professionalization
8	Rewards, Perils and Pressures of Work	Concerns of workers
9	Income Inequality	Economic and social wellbeing
10	Unemployment and Income	Disappearance of work and meaning
11	Gender, Family and Work	Balancing work and life
12	Presentations	Class presentations
13	Money and Work	Financial literacy and retirement
14	Occupational Analysis	Interview reports

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]

In addition to completing assignments and preparing for discussion, students are expected after each class to review class materials, and prepare for their occupation projects and interviews. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

[Textbooks]

Class materials and reading materials will be uploaded or distributed via email.

[References]

TBA

[Grading criteria]

The grade will be calculated as follows: Mini-think Journal (50%), Occupational Analysis Poster (25%), Interview a Professional Report and Presentation (25%).

[Changes following student comments]

NA

[Equipment student needs to prepare]

NA

[Others]

This is an intermediate level sociology course. A background in the discipline is highly recommended. Students who intend to register for this course are required to attend the first class. A screening test based on the lecture and discussion will be conducted.

[Prerequisite]

None.

SOC200ZA

Sociology of Law

Kelesha Nevers

Credit(s) : 2 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 2~4

Day/Period : 月 6/Mon.6

その他属性 : 〈優〉

[Outline and objectives]

Every aspect of our lives is directly or indirectly regulated by various laws. In this course, students are introduced to the study of law and society from a multidisciplinary and comparative perspective. We will discuss why people (and corporations and other institutions) obey or do not obey laws, and how they act when resolving disputes. We will also study in-depth the ways in which law shapes society, how society influences law, and effectively bringing about social changes.

[Goal]

Upon completion of this course, students should have a better understanding of the role of law in society, and its impact (or lack of it) on individuals as well as society as a whole. Students will learn to analyze and apply abstract principles, and organize new information and their thoughts. Through group discussion and student presentations, students will develop their skills of communication and cooperation, as well as experience the importance of peer-learning.

[Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?]

Will be able to gain "DP 1", "DP 2", "DP 3", and "DP 4".

[Method(s)]

Throughout the semester, we will discuss specific topics related to law and social change, and the impact of law on society. Students will be expected to read materials concerning the basic concepts and ideas in sociology of law, attend and participate in classroom discussions, and complete assignments based on the readings. Students will also be required to make presentations, and engage actively in class discussion. Students also demonstrate their acquisition and mastery of the course content upon completion of the assessments. For assignments, discussions, and exams feedback is given in the form of comments which is available on the classroom online dashboard; during the lectures, students will also receive feedback to further clarify and develop conversations that arise from the lectures.

[Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)]

あり / Yes

[Fieldwork in class]

なし / No

[Schedule] 授業形態 : オンライン/online

No.	Theme	Contents
1	Orientation	Orientation
2	Learning the Basics	What is law? Sources and types of law. Functions of law. What is sociology of law concerned with?
3	Why Do (or Don't) We Obey the Law?	Incentive, Punishments and their effects; Evolution of Law
4	Theoretical Perspectives	Functionalism; Marxist/Conflict; Critical Legal Studies
5	Lawmaking	What is the relationship between law and society? What is the relationship between social structure, culture, and law?
6	Midsemester Exam	This proctored exam consists of a short essay, multiple choice, and fill-in the blank questions.
7	Sanctions and Social Control	Is law a tool for domination? How and why the law is mobilized
8	Conflict Resolution and Litigation	The process through which legal disputes emerge? Court and Social Change
9	Law and Social Change	How does law impact society? Should social change precede law reform?
10	Topics on Law and Social Change	Law as the cause of social change. Can we solve social ills by changing the law?
11	Topics on Law and Social Change	Can legal change effectively bring about social change?
12	Presentations	Student presentation(s) and class discussion. Topic to be decided based on the interests of the students.

13	Presentations and Wrap-up	Student presentation(s) and class discussion. Topic to be decided based on the interests of the students. We will also use this time to address any questions.
14	Final Exam and Wrap-up	The proctored exam will consist of multiple choice, fill-in the blank, and short essay type questions.

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]

Students are required to do the reading assignments before coming to class. In addition, reviewing class materials after every class will be a great benefit to your learning. Students should also allocate sufficient time to preparing for their assessments and presentations. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

[Textbooks]

Class materials will be provided by the instructor and distributed in class. Readings will be taken from the following book(which you are not required to purchase): Vago, Steven and Barkan, Steven E. (2018). Law and Society (11th edition). New York, NY: Routledge.

[References]

Readings: These materials are posted on the classroom dashboard; any changes to this list will be announced during class and online.

Encyclopedia of Law & Society: American and Global Perspectives - Sociology of Law, Sage Publication, Inc.; The Common Place of Law - Transforming Matters of Concern into the Objects of Everyday Life, Susan S. Silbey and Ayn Cavicchi; Why People Obey the Law, Tom R. Tyler, Yale University Press; Law in Classical Social Theory - Durkheim and Marx; Contemporary Social Theory and Law - Critical Legal Theory; Lawmaking - Making Hate a Crime - Social Movement to Law Enforcement; Law and Social Change - Social Control; Law and Social Change - Discrimination, the Law - and Blacks in America

[Grading criteria]

Attendance and Preparation for class: 10%

Attendance will be taken each day. A preparation sheet is online - select a topic that interests you and sign-up for when you will lead the discussion for that topic of the day.

Participation: 25 %

Individual and group reflections during class, short written responses where you are asked to define key concepts and/or provide commentaries on videos and article excerpts on the discussion forum, feedback on the presentations

Midsemester Exam: 20 %

This exam covers all the materials discussed up until that point of the semester/midsemester assessment. A review of critical materials will be discussed prior to the exam.

Presentation: 20 %

This is a real-world current event analysis presentation. Students will work with a team to select and present on a topic of interest. The goal is to expand on theories and research discussed throughout the semester to take a position on an issue and discuss the impact on society.

What you need to submit:

Submit PowerPoint slides (10-15 slides maximum) that summarizes/current event, the class material that relates to the topic/current event, and any new research you discovered. The PowerPoint presentation should have a reference page with citations/links of those references (e.g. journal articles, newspaper articles, video links). Your presentations will be recorded and upload online, and will receive feedback from the instructor and students.

Final exam: 25 %

This exam covers all the materials discussed throughout the semester. A review of critical materials will be discussed prior to the exam.

[Changes following student comments]

In order to diversify opportunities for learning, a variety of approaches for the different learning styles are integrated throughout the semester. Feedback from the students will also be incorporated into the lessons and assignments.

[Equipment student needs to prepare]

Internet access (smartphone, tablet, computer).

[Others]

The schedule and format for this course is subject to adjustments (given the number of students who will eventually enroll in this class, students' interests, and/or university policies, etc.).

[Prerequisite]

None.

SOC200ZA

Gender, Sexuality and Society

Daiki Hiramori

Credit(s) : 2 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 2~4

Day/Period : 金 1/Fri.1

その他属性 : 〈優〉

【Outline and objectives】

This course serves as an introduction to the sociology of gender and sexuality. The first half of the course covers the sociology of gender, and the second half of the course covers the sociology of sexuality. While a range of issues relevant to gender and sexuality will be taken up, this course focuses on the perspectives offered by relevant social science theories and concepts to interpret findings from social science research. In this course, students will learn to look at gender and sexuality issues critically and understand the subtle social processes through which taken-for-granted ideas and practices about gender and sexuality are created.

【Goal】

By the end of this course, students will be able to: (1) identify the difference between sex, gender, and sexuality, (2) define the key theories and concepts of gender and sexuality (remembering/understanding), (3) apply those concepts to understand how gender and sexuality affect individuals' experiences embedded in structures of power (applying), and (4) analyze the ways in which sex, gender, and sexuality are socially constructed (analyzing).

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain "DP 1", "DP 2", "DP 3" and "DP 4".

【Method(s)】

This course is taught primarily through interactive lectures. A variety of active learning techniques, such as in-class writing assignments (one-minute papers), neighbor discussions (think-pair-share), and comment sheets, are used to accommodate the diversity in student learning styles. In-class quizzes are held occasionally so that students understand their own level of understanding of the course materials at the moment. Verbal and written feedback on assignments is given during class discussions and through using other tools as appropriate. Also, feedback for the previous class is given at the beginning of each class. Students are encouraged to visit the instructor during office hours for more personalized feedback.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり / Yes

【Fieldwork in class】

なし / No

【Schedule】 授業形態：対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction	Introduction
2	Sexing the Body	How is sex determined in human beings?
3	Sex Differences	Is sex difference nature, culture, or both?
4	Gender Theory	What are major gender theories?
5	Gender and Family	What does gender division of labor among married couples look like?
6	Gender and Labor	What do we know about gender inequality at work?
7	Review & Midterm Exam	Course review, students' inquiries, and midterm exam
8	The Invention of Sexuality	What is the "social construction" of sexuality?
9	History of LGBTQ movements	How do LGBTQ movements advocate for the human rights of LGBTQ people in society?
10	Same-Sex Marriage	How might same-sex marriage oppress those who are most marginalized within the LGBTQ community?
11	Discrimination against Transgender People	What social-institutional barriers do transgender people face?
12	Sexual/Gender Minorities and Social Attitudes	Is Japan "tolerant" of non-normative gender and sexuality?
13	Demography of Sexual Orientation and Gender Identity	How many people are LGBTQ? Do LGBTQ people earn more or less than non-LGBTQ people?
14	Review & Final Exam	What have we learned in this course? Final exam

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

Students are expected to review the lecture slides and other course materials after each class. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

【Textbooks】

No textbook will be used. Electronic slides will be provided by the instructor.

【References】

Further reference may be provided based on students' areas of interest.

【Grading criteria】

Participation: 15%

In-class quizzes: 15%

Midterm exam: 30%

Final exam: 40%

【Changes following student comments】

Students have generally evaluated the class positively. The instructor will be attentive to student feedback and adjust workload and class material, when necessary.

【Equipment student needs to prepare】

None. Students are encouraged to use computers/tablets for class-related purposes in class.

【Prerequisite】

None.

SOC200ZA

Media Effects

Muge Igarashi

Credit(s) : 2 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 2~4

Day/Period : 月 2/Mon.2

その他属性 : 〈優〉

[Outline and objectives]

Media such as news, movies, and the Internet affect us both individually and socially. On the one hand media shapes our everyday lives at the individual level through our inspirations, career goals, and consumption patterns. On the other hand, at the social level, media can influence our perceptions on political decisions, leaders, economic performance, our global allies and/or enemies.

This course examines both of these individual and social effects of media, offering students a toolbox of terms and theories in order to recognize, analyze, and personally manage the pervasive effects of media in our lives.

[Goal]

- 1) Introduce basic terms and theories of media effects research.
- 2) Provide case studies on major topics in media effects research such as violence, consumer desire, nationalism, gender, and culture industries.
- 3) Equip students with basic skills to recognize and manage media effects on a personal level.

[Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?]

Will be able to gain "DP 1", "DP 2", "DP 3", and "DP 4".

[Method(s)]

This course focuses on the impact of the mass media on individuals and society. An overview of the history of media effects research will be presented and dominant theories in the field will be introduced.

Classes will also often include the textual reading of a particular media such as advertisements, TV shows, films, or web pages.

Students should be eager to participate in class discussion and share their ideas and experiences.

Students are required to submit three assignments and to participate in a group presentation.

Feedback will be provided through Google Classroom.

[Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)]

あり / Yes

[Fieldwork in class]

なし / No

[Schedule] 授業形態 : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction	Introduction
2	Media as Medium	"The medium is the message" (McLuhan)
3	Media Effects	Introduction to media effects.
4	Media Influence	Brief historical overview of media influence on individuals and society.
5	Media Theory I	Cultivation Theory - Student presentations.
6	Media Effect: Case Study I	Effect of media: violence and sexuality - Student Presentations. Assignment #1 due.
7	Media Theory II	Agenda setting and framing - Student presentations.
8	Media Theory III	Uses and gratifications - Student presentations. Assignment #2 due.
9	Media Effect: Case Study II	Media Effects of Gaming and the Internet - Student presentations.
10	Media Effect: Case Study III	Anime, manga, and gaming in Japan - Student presentations.
11	Society, Culture, and Mass Media	Culture industries.
12	Media Effect in Japan	Idols and Japanese entertainment industry - Student presentations.
13	Group Discussion	Group discussion on media effects. Assignment #3 due.
14	Wrap-up and Final Exam	Wrap-up and Final Exam

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]

Students are expected to review class materials, complete assignments, and find relevant material. Preparatory study and review time for this class are two hours per week.

[Textbooks]

There is no single textbook required for this course. Readings as well as relevant media will be uploaded to Google Drive.

[References]

- Jennings Bryant, Susan Thompson, and Bruce Finklea. (2013). *Fundamentals of Media Effects*. Second Edition. Waveland: Illinois.
- Potter, James. (2012). *Media Effects*. Sage Publications: UK, India, Singapore.

[Grading criteria]

Participation 10%
 Presentation 10%
 Group Discussion 10%
 Assignments 45%
 Final Exam 25%

[Changes following student comments]

None.

[Prerequisite]

None.

SOC200ZA

Gender, Sexuality and Society

Daiki Hiramori

Credit(s) : 2 | Semester : 秋学期授業/Fall | Year : 2~4
Day/Period : 金 1/Fri.1

その他属性 : 〈優〉

[Outline and objectives]

This course serves as an introduction to the sociology of gender and sexuality. The first half of the course covers the sociology of gender, and the second half of the course covers the sociology of sexuality. While a range of issues relevant to gender and sexuality will be taken up, this course focuses on the perspectives offered by relevant social science theories and concepts to interpret findings from social science research. In this course, students will learn to look at gender and sexuality issues critically and understand the subtle social processes through which taken-for-granted ideas and practices about gender and sexuality are created.

[Goal]

By the end of this course, students will be able to: (1) identify the difference between sex, gender, and sexuality, (2) define the key theories and concepts of gender and sexuality (remembering/understanding), (3) apply those concepts to understand how gender and sexuality affect individuals' experiences embedded in structures of power (applying), and (4) analyze the ways in which sex, gender, and sexuality are socially constructed (analyzing).

[Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?]

Will be able to gain "DP 1", "DP 2", "DP 3" and "DP 4".

[Method(s)]

This course is taught primarily through interactive lectures. A variety of active learning techniques, such as in-class writing assignments (one-minute papers), neighbor discussions (think-pair-share), and comment sheets, are used to accommodate the diversity in student learning styles. In-class quizzes are held occasionally so that students understand their own level of understanding of the course materials at the moment. Verbal and written feedback on assignments is given during class discussions and through using other tools as appropriate. Also, feedback for the previous class is given at the beginning of each class. Students are welcome to visit the instructor during office hours for more personalized feedback.

[Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)]

あり / Yes

[Fieldwork in class]

なし / No

[Schedule] 授業形態 : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction	Introduction
2	Sex Differences and Gendered Bodies	Is sex difference nature, culture, or both?
3	Gender Theory and Theorists	What are major gender theories?
4	Gender Relations	What does it mean to consider gender as a social structure?
5	Personal Life	What is gender identity?
6	Work, Economy and Globalization	What do we know about gender inequality at work?
7	Review & Midterm Exam	Course review, students' inquiries, and midterm exam
8	The Invention of Sexuality	What is the "social construction" of sexuality?
9	The Challenge of Diversity	How do perversity and diversity relate to sexuality?
10	Sexuality, Intimacy, and Politics	When does who you sleep with become political?
11	Private Pleasures and Public Policies	What is sexual democracy?
12	LGBTQ in Japan by the Numbers	Is Japan "tolerant" of non-normative gender and sexuality?
13	Latest Research in the Demography of Sexual Orientation and Gender Identity	How to measure gender and sexuality on surveys? What can researchers do once they measure gender and sexuality on surveys?
14	Review & Final Exam	What have we learned in this course? Final exam

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]

Students are expected to review the lecture slides and other course materials after each class. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

[Textbooks]

No textbook will be used. Electronic slides will be provided by the instructor.

[References]

The structure of this course relies heavily on the following books: Connell, Raewyn. 2021. *Gender: In World Perspective*. 4th ed. Medford: Polity. Weeks, Jeffrey. 2016. *Sexuality*. 4th ed. New York: Routledge. Further reference may be provided based on students' areas of interest.

[Grading criteria]

Participation: 15%

In-class quizzes: 15%

Midterm exam: 35%

Final exam: 35%

[Changes following student comments]

Not applicable. This course is taught for the first time by this instructor.

[Equipment student needs to prepare]

None. You are welcome to use computers/tablets for class-related purposes in class.

[Prerequisite]

None.

ART200ZA

Asian Popular Culture

Kukhee Choo

Credit(s) : 2 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 2~4

Day/Period : 火 5/Tue.5

その他属性 : 〈優〉

【Outline and objectives】

This class will examine popular culture across Asia, focusing on the region of East Asia, specifically media and cultural practices in South Korea, China, Taiwan, and Japan. Over this semester we will examine how various media — music, film, TV dramas, and internet videos — are part of local cultural practices in each place. This will include an examination of their histories in the area, their connections to society, and what cultural practices they accompany. However, instead of focusing exclusively on different countries, we will concentrate on how these cultural products work across borders, operating transnationally. By close examination of the production, distribution, and consumption of these media across East Asia, students will gain insight into connections beyond the countries they are usually associated with. In other words, this class will analyze the links between these countries that are facilitated by the media. With this in mind, this class will ultimately consider how media flows across national boundaries and engages with cultural regionalism.

【Goal】

In addition to teaching the students about contemporary East Asian societies and media, this class aims to develop critical thinking and analytical skills. Throughout the semester students will: 1) learn methodologies to examine popular culture from Asia; 2) explore the histories of various popular cultural products from Asia; 3) examine how cultural practices cross national boundaries and interact; 4) consider how these cultural products engage with regionalization in Asia.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain “DP 1”, “DP 2”, “DP 3”, and “DP 4”.

【Method(s)】

Classes will be discussion-based, with visual material such as clips of films and animation. Each week students will be provided with an academic reading relevant to the topic. These readings will be important background information and/or will be directly addressed as the topic of the class content and discussion. Discussions based off of the reading material will be facilitated by questions from the instructor to help the students explore and develop their critical and analytical skills for that topic. Feedback will be given throughout the course via discussion topics. Students will be assessed on their understanding of the readings and discussions through their presentations and exam.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり / Yes

【Fieldwork in class】

なし / No

【Schedule】 授業形態：対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction	Introduction
2	Theories of Popular Culture	Readings on what popular culture is
3	Nationalism and Popular Culture	Readings on how popular culture influences our everyday lives
4	Early Asian Film Practices	Wartime/postwar film industries in Asia
5	Film Adaptation Across Borders	Global Hong Kong films
6	Powtwar Western Influences in Asia	American culture in Japan
7	Japanese Popular Culture in Asia	Manga and Jpop across Asia
8	Online Fan Practices of Asian popular Culture	Online circulation of Japanese popular media
9	New Develoments the 21st Century	Changes in the Asian entertainment industries
10	Korean Wave/Korean Drama	Transnational Korean culture
11	Globalization of Cool Japan	Cultural policy changes in Asia
12	Hybrid Asian Popular Culture	New developments in race/gender/national identities
13	Student Presentations	Feedback and Discussion
14	Student Presentations	Feedback and Discussion

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

Students should complete the assigned readings before each class and study the notes they take in class. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

【Textbooks】

No textbook will be required as readings will be provided by the instructor.

【References】

Various articles will be uploaded on Hoppii

【Grading criteria】

Minimum absences 10%
Speaking up during class discussions 40%
Presentation 50%

【Changes following student comments】

Not applicable.

【Prerequisite】

None.

ART200ZA

Japanese Popular Culture

Jason Cody Douglass

Credit(s) : 2 | Semester : 秋学期授業/Fall | Year : 2~4
Day/Period : 金 3/Fri.3

その他属性 : 〈優〉

【Outline and objectives】

When asked to speak about Japan, individuals often turn to pop-cultural phenomena, such as manga, anime, or cosplay. This implies a link between culture and nation that is vital, yet ambiguous. What do folks mean when they say they like Japanese culture? Why has Japan become so popular?

Drawing on cultural and media studies, this course will explore the historical and theoretical study of Japanese popular culture. Lectures and discussions will engage with media forms and case studies from many eras, covering topics ranging from Takarazuka theater and pre-war radio culture to anime fandom and the so-called “golden age of Japanese cinema.” The course culminates with students delivering a presentation and submitting an essay on a pop-cultural phenomenon not covered in depth during a class session.

【Goal】

Students will learn many of the key theories, terms, and arguments of cultural studies, especially as those ideas relate to Japan. Students will practice analyzing, historically contextualizing, and writing about specific pop-cultural phenomena. Students should leave the course with a refined ability to define and discuss abstract concepts such as nation, culture, and what it means for something to be “Japanese.”

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain “DP 1”, “DP 2”, “DP 3”, and “DP 4”.

【Method(s)】

Classes will combine lectures, discussions, and student presentations. In addition to reading critical and theoretical texts, students are expected to experience, or refer back to their past experiences with, cultural objects and practices in question, and analyze them in a global context in their final papers. Students will also conduct research for the final paper. Submission of assignments and feedback will be via the Learning Management System. In-class oral feedback will be provided for presentation assignments.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり / Yes

【Fieldwork in class】

なし / No

【Schedule】 授業形態 : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction	How, and why, might we study popular culture?
2	Critical Concepts 1	"Japanese" and nihonjinron
3	Critical Concepts 2	"Popular"
4	Critical Concepts 3	"Culture"
5	Topics in Japanese Popular Culture 1	Theater
6	Topics in Japanese Popular Culture 2	Film
7	Topics in Japanese Popular Culture 3	Radio and TV
8	Topics in Japanese Popular Culture 4	Manga
9	Topics in Japanese Popular Culture 5	Animation before anime

10	Topics in Japanese Popular Culture 6	Anime and its global fandom
11	Topics in Japanese Popular Culture 7	Games, AR, VR, and beyond
12	Research Workshop 1	Student presentations
13	Research Workshop 2	Student presentations
14	Summary	Is Japan still popular?

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

Students are required to complete reading assignments so that they are ready for class discussions. Students will regularly be asked to summarize and reflect upon the weekly articles. Students will conduct research, deliver a presentation, and submit a final paper. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

【Textbooks】

No textbook will be used. Reading materials will be provided by lecturer in PDF format.

【References】

Tsutsui, William. *Japanese Popular Culture and Globalization*. Ann Arbor, MI: Association for Asian Studies, 2010.

Ko, Mika. *Japanese Cinema and Otherness: Nationalism, Multiculturalism and the Problem of Japaneseness*. New York: Routledge, 2010.

Storey, John. *Cultural Theory and Popular Culture: An Introduction*. Ninth Edition. New York: Routledge, 2021.

Morris-Suzuki, Tessa. *Re-inventing Japan: Time, Space, Nation*. New York: M. E. Sharpe, 1998.

【Grading criteria】

Assessments of student performance will be based upon preparedness for, and participation in, discussions (25%), an in-class presentation (25%), and a final paper (50%).

【Changes following student comments】

Not applicable.

【Equipment student needs to prepare】

Not applicable.

【Others】

Do not miss the first class as a selection process may occur.

【Prerequisite】

None.

ART200ZA

Music and Culture

Cathy Cox

Credit(s) : 2 | Semester : 秋学期授業/Fall | Year : 2~4
Day/Period : 水 5/Wed.5

その他属性 : 〈優〉

【Outline and objectives】

What is the relationship between music and culture? How does culture shape music? How does music express culture? In this course we will investigate these and other questions surrounding music as a culturally defined phenomenon. Each week students will participate in directed listening or music-making activities related to a specific topic, drawing on examples from various musical traditions and practices from around the world.

【Goal】

Students will be able to:

- (1) develop vocabulary to talk about music;
- (2) develop an awareness and appreciation of various musics of the world;
- (3) develop an ability to recognize the role of music in their own cultural identity;
- (4) think critically about the complex cultural workings within a piece of music or musical practice.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain “DP 1”, “DP 2”, “DP 3”, and “DP 4”.

【Method(s)】

The course is taught through a combination of lectures, documentary-viewings and group discussions. The course will facilitate self-learning through required weekly reading and listening assignments that will be assessed through short writing assignments, as well as collective learning through a final group presentation. Feedback will be given collectively in class or through the Learning Management System (Google Classroom), depending on the nature of the assignment.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり / Yes

【Fieldwork in class】

なし / No

【Schedule】 授業形態 : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction: Music and Culture / Music and Identity	Introduction: Music and Culture / Music and Identity
2	Basic Concepts of Music 1	Approaches to understanding melody, modes and scales.
3	Basic Concepts of Music 2	Ways of thinking about rhythm, timbre, texture
4	Music and Ritual 1	The role of music in religious rituals and traditions; Music as an expression of spirituality
5	Music and Ritual 2	Music and modern-day rituals; reflections on personal uses or experiences of music as ritual.
6	Music and Ethnicity 1	Expression of ethnic identity through traditional forms of music-making
7	Music and Ethnicity 2	Complex expressions of ethnic identity or national culture through contemporary forms of music-making
8	Music and Gender 1	Traditional gender roles for music-making; Culturally defined roles of 'masculine' and 'feminine' as expressed in music.
9	Music and Gender 2	Counter-cultures, subcultures and culture-clashes involving music and gender.
10	Music and Globalization 1	Impacts of global trade and human migration on music; musical diasporas.
11	Music and Globalization 2	Music as an expression of local traditions and community vs. music as a global commodity.
12	Group A Presentations	Final presentations by students in Group A with follow-up discussions
13	Group B Presentations	Final presentations by students in Group B with follow-up discussions
14	Final Review and Wrap-Up	review of topics and materials

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

Students are expected to read assigned texts, listen to assigned recordings, and complete assigned writing tasks. Students are also expected to find music examples to share with the class. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

【Textbooks】

Required weekly reading and listening assignments will be made available by the instructor.

【References】

Bakan, M. (2007). *World Music: Traditions and Transformations*, Second Edition. New York: McGraw-Hill.
Cornelius, S. and M. Natvig. (2018). *Music: A Social Experience*, Second Edition. New York: Routledge.
Milioto Matsue, J. (2016). *Music in Contemporary Japan*. New York: Routledge.

【Grading criteria】

Class Discussion and Activities: 30%,
Questionnaires for Weekly Reading and Reflection: 30%,
Short Essay Assignments: 20%,
Group Presentation: 20%

【Changes following student comments】

- More time added for learning and review of technical terminology;
- Number of topics decreased to allow for deeper focus;
- More opportunities added for practical music-making.

【Equipment student needs to prepare】

Some in-class activities may require the use of computers, tablets or smartphones for the creation and/or playback of sound.

【Others】

Class materials and assignments can be accessed through Google Classroom.

【Prerequisite】

None.

LIT200ZA

Performance Studies

Stevie Suan

Credit(s) : 2 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 2~4

Day/Period : 木 3/Thu.3

その他属性 : 〈優〉

[Outline and objectives]

This class will explore performance studies, an interdisciplinary field which uses various conceptions of performance to analyze the world around us. To perform can mean many things: to execute (to perform an action), to bring about (to perform a ritual: "I hereby pronounce the official beginning of the Olympics"), to judge ("how well did she perform at the Olympics?"). This includes performance in the traditional sense, such as in the theater, but also in everyday life, in our societies and daily practices of living, how we think about ourselves and our relationship to society: how are we performing when we use SNS or when we change our behavior with friends or family? How can thinking about the world as a series of performances allow us to analyze the news, public elections, gender, branding, and technology. Throughout the class we will be using Richard Schechner's textbook, developed to introduce Performance Studies, to guide the course. We will look at an overview of the major approaches used in the field, examine their theories, and explore how they can reveal important insights about our world.

[Goal]

In addition to teaching the students about the fundamentals to performance studies, this class aims to develop critical thinking and analytical skills. Throughout the semester students will: 1) learn various methodologies and theories about performance; 2) explore how to apply these concepts to other subject matter beyond the theater; 3) to learn how to articulate what, where, how, and why we are performing; 4) learn how to conduct analyses on various topics by applying the concepts from performance studies.

[Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?]
Will be able to gain "DP 2", "DP 3", and "DP 4".

[Method(s)]

Classes will be lecture-based, with visual material such as video clips and images. Students will be asked to have group discussions on certain themes. Students will be asked to have group discussions on certain themes. Each week students will be assigned a section from Schechner's book. This reading will be important background information and/or will be directly addressed as the topic of the lecture and discussion. Lectures will explain in detail and through examples the topic for that class. Discussions based on the lecture will be facilitated by questions from the instructor to help the students explore and develop their critical and analytical skills for that topic. Students will be assessed on their understanding of the lectures and readings through their presentations and papers. Students will receive feedback in class and in written form, based on a grading rubric.

[Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)]
あり / Yes

[Fieldwork in class]
なし / No

[Schedule] 授業形態 : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction	Introduction
2	What is Performance?	Performance beyond the theatrical stage
3	Conceptualizing Performance	Ways of examining performances around us
4	Ritual Practices	Types of rituals across cultures
5	Modern Rituals	Regular practices in modern society
6	Playing and Performance	Thinking about "playing" beyond games
7	Philosophies of Play	Gradients of playfulness in various contexts
8	Performativity of Language	How are words active on us
9	Performativity of Gender	How gender is constituted as practice
10	Ways of Performing	Types of acting and their implications on us
11	Shifting Frames of Reference	Stages in everyday life and how they effect us
12	Intercultural Performances	Performance on the global stage
13	Student Presentations	Student presentations

14 Student Presentations II Student presentations; final paper submission

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]
Students should complete the assigned readings before each class and study the notes they take in class. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

[Textbooks]
Schechner, Richard. *Performance Studies: An Introduction*. 3rd ed., Routledge, 2013.

[References]
Bial, Henry. *The Performance Studies Reader*. 3rd ed., Routledge, 2013.

[Grading criteria]
Participation 20%
Presentation 40%
Final paper 40%

[Changes following student comments]
Not applicable.

[Prerequisite]
None.

LAN200ZA

Digital Writing and Publication

Mark Birtles

Credit(s) : 2 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 2~4

Day/Period : 金 3/Fri.3

その他属性 : 〈優〉

[Outline and objectives]

Technological advances have pushed society toward an ever-more participatory global culture; we both consume and create vast quantities of the written word on our phones, laptops and tablets. These digital texts have expanded the definition of what we call writing and what we can do with it. This course will look more closely at how this kind of digital copy is produced and the way it impacts our daily life. Together, we will examine the planning, writing and publication stages of digital content creation, as well as the practical and ethical issues that are involved.

[Goal]

Frederich Nietzsche once said, "it is my ambition to say in 10 sentences what others say in a whole book," and that is what we will aim to do: produce clear and concise written communication. As part of this process, we will:

- Examine how technology has profoundly altered traditional writing practices
- Learn how to deliver content to a brief, within set style guidelines
- Be engaged in the analysis and production of digital writing, both individually and as part of a team
- Consider the fundamentally new set of ethical issues the online world has created.

[Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?]

Will be able to gain "DP 1", "DP 2", and "DP 4".

[Method(s)]

Digital Writing and Publication has a focus on quality rather than quantity; in today's digital world, information must be conveyed quickly and attractively. An assignment may be as short as 50 words, but students will learn how to make those 50 words count. Submission of assignments and feedback will be via the Learning Management System. We will look at practices that promote a collaborative approach toward a common goal via technology. Students will also learn industry-standard practices, such as writing to a specific style guide and for a specific audience.

[Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)]

あり / Yes

[Fieldwork in class]

なし / No

[Schedule] 授業形態 : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction	Introduction
2	Principles of Good Writing	The foundation of good copywriting practices
3	Identifying the Audience	Before we write a single word, we need to answer three questions: who is our audience? What do they need? What is our purpose?
4	Choosing a Voice and Writing to a Brief	The importance of tone and examples of the kind of brief a writer may be given
5	AP Style	A close look at the importance of writing to a specific style, using the standard AP stylebook
6	Editing	A dive into the world of content editing
7	Review and Midterm Exam	Review and written examination of content thus far
8	Visual Style and Publication	An examination of the interplay between text, images, video and colour
9	Digital Ethics I	Current debates regarding ownership, copyright and fair use
10	Collaborative Working Practices I	Over the two sessions, students will work as a team to create original digital content
11	Digital Ethics II	Current debates regarding standards and ethical codes
12	Collaborative Working Practices II	Over the two sessions, students will work as a team to create original digital content

13	AI and the Future of Writing	Will the machines take over?
14	Final Presentations and Assessment	Student presentations and take-home assessment

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]

Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

[Textbooks]

No textbook will be required in class, materials will be supplied by the instructor.

[References]

Alexander, J., & Rhodes, J. (2018). *The Routledge handbook of digital writing and rhetoric*. New York, US: Routledge.
 Anderson, J. & Dean, D. (2014). *Revision decisions: talking through sentences and beyond*. Portland, US: Stenhouse Publishers.
 Beach, R. (2014). *Understanding and creating digital texts: an activity-based approach*. Lanham, US: Rowman & Littlefield.
 Carroll, B. (2017). *Writing and editing for digital media (third edition)*. New York: Routledge.
 DeVoss, D., Eidman-Aadah, E. and Hicks, T. (2010). *Because digital writing matters*. San Francisco, US: Jossey-Bass.
 Strunk, W & White, E. (1999). *The elements of style (fourth edition)*. Boston, US: Allyn & Bacon.

[Grading criteria]

Class participation 15%, assignments 15%, midterm exam 20%, collaborative project 25%, final exam 25%.

[Changes following student comments]

The collaborative working sessions have been split to allow students more out-of-class working time on the project.

[Equipment student needs to prepare]

Please bring a laptop computer to every class. If access to a laptop computer is difficult, please inform the instructor.

[Prerequisite]

None.

LAN200ZA

Digital Writing and Publication

Mark Birtles

Credit(s) : 2 | Semester : 秋学期授業/Fall | Year : 2~4
Day/Period : 木 5/Thu.5

その他属性 : 〈優〉

【Outline and objectives】

Technological advances have pushed society toward an ever-more participatory global culture; we both consume and create vast quantities of the written word on our phones, laptops and tablets. These digital texts have expanded the definition of what we call writing and what we can do with it. This course will look more closely at how this kind of digital copy is produced and the way it impacts our daily life. Together, we will examine the planning, writing and publication stages of digital content creation, as well as the practical and ethical issues that are involved.

【Goal】

Frederich Nietzsche once said, “it is my ambition to say in 10 sentences what others say in a whole book,” and that is what we will aim to do: produce clear and concise written communication. As part of this process, we will:

- Examine how technology has profoundly altered traditional writing practices
- Learn how to deliver content to a brief, within set style guidelines
- Be engaged in the analysis and production of digital writing, both individually and as part of a team
- Consider the fundamentally new set of ethical issues the online world has created.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain “DP 1”, “DP 2”, and “DP 4”.

【Method(s)】

Digital Writing and Publication has a focus on quality rather than quantity; in today's digital world, information must be conveyed quickly and attractively. An assignment may be as short as 50 words, but students will learn how to make those 50 words count. Submission of assignments and feedback will be via the Learning Management System. We will look at practices that promote a collaborative approach toward a common goal via technology. Students will also learn industry-standard practices, such as writing to a specific style guide and for a specific audience.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり / Yes

【Fieldwork in class】

なし / No

【Schedule】 授業形態 : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction	Introduction
2	Principles of Good Writing	The foundation of good copywriting practices
3	Identifying the Audience	Before we write a single word, we need to answer three questions: who is our audience? What do they need? What is our purpose?
4	Choosing a Voice and Writing to a Brief	The importance of tone and examples of the kind of brief a writer may be given
5	AP Style	A close look at the importance of writing to a specific style, using the standard AP stylebook
6	Editing	A dive into the world of content editing
7	Review and Midterm Exam	Review and written examination of content thus far
8	Visual Style and Publication	An examination of the interplay between text, images, video and colour
9	Digital Ethics I	Current debates regarding ownership, copyright and fair use
10	Collaborative Working Practices I	Over the two sessions, students will work as a team to create original digital content
11	Digital Ethics II	Current debates regarding standards and ethical codes
12	Collaborative Working Practices II	Over the two sessions, students will work as a team to create original digital content
13	AI and the Future of Writing	Will the machines take over?

14 Final Presentations and Assessment Student presentations and take-home assessment

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】
Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

【Textbooks】

No textbook will be required in class, materials will be supplied by the instructor.

【References】

Anderson, J. & Dean, D. (2014). *Revision decisions: talking through sentences and beyond*. Portland, US: Stenhouse Publishers.
Beach, R. (2014). *Understanding and creating digital texts: an activity-based approach*. Lanham, US: Rowman & Littlefield.
Carroll, B. (2017). *Writing and editing for digital media (third edition)*. New York: Routledge.
DeVoss, D., Eidman-Adahl, E. and Hicks, T. (2010). *Because digital writing matters*. San Francisco, US: Jossey-Bass.
Strunk, W & White, E. (1999). *The elements of style (fourth edition)*. Boston, US: Allyn & Bacon.

【Grading criteria】

Class participation 15%, assignments 15%, midterm exam 20%, collaborative project 25%, final exam 25%.

【Changes following student comments】

The collaborative working sessions have been split to allow students more out-of-class working time on the project.

【Equipment student needs to prepare】

Please bring a laptop computer to every class. If access to a laptop computer is difficult, please inform the instructor.

【Prerequisite】

None.

SHS200ZA

Science and Technology Studies

Youyung Hyun

Credit(s) : 2 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 2~4

Day/Period : 火 2/Tue.2

その他属性 : 〈優〉

[Outline and objectives]

This course aims at helping students to learn the confluence of major technological forces—cloud computing, big data, artificial intelligence, and the Internet of Things—in driving a new digital society. In doing so, students will understand how digital-age companies such as Amazon, Google, Netflix, and Spotify are creating whole new industries and business models.

[Goal]

Students will understand the role of digital technologies in determining the capabilities of both incumbents and digital-born companies. To do so, students will learn how companies have transformed their business models and how they have embedded new technologies in their organizational fabric. This will be covered from the era of post-industrial society to the digital society.

Also, using multiple case studies, students will be able to explore and analyze how specific organizations have led their own digital transformation.

[Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?]

Will be able to gain “DP 2”, “DP 3” and “DP 4”.

[Method(s)]

This course will proceed with lectures, readings, group presentations, and group discussion. Students are required to read each chapter of a textbook in advance that will be covered during the class and submit a summary of it. After partial lectures from an instructor, students will participate in group presentations and subsequent discussions. The subject of group presentations will be divided into two types – (1) the content of each chapter based on rigorous understanding, (2) case studies of the modern companies that can deepen understandings of each chapter and develop students’ own critical perspective on the cases. At the beginning of class, feedback for the previous class is given using some comments from submitted weekly papers.

[Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)]

あり / Yes

[Fieldwork in class]

なし / No

[Schedule] 授業形態 : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction of Course	Introduction of Course
2	Post- and Pre-Industrial Society	The class first covers how the pre-and post-industrial societies had emerged. The class pays particular attention to the role of data processing, data-bases in leading the development of manufacturing.
3	Chapter (1): Punctuated Equilibrium and Economic Disruption	This class covers the impact of science and technology on economic systems, and how it creates economic disruption and new stability in a society.
4	Chapter (2a): Digital Transformation	This class covers the definition, scope, and applications of digital transformation.
5	Chapter (2b): Digital Transformation and Case Studies	This class covers digitalization and the impact of the Internet using case studies and compares how incumbents and digital-born companies deal with digital transformation.
6	Chapter (3a): The Information Age	This class will cover technology innovations (e.g., cloud computing, big data, artificial intelligence, machine learning, deep learning, the Internet of Things).
7	Chapter (3b): The Information Age and Case Studies	We will cover how modern companies incorporate new digital technologies to create/modify their new business model.
8	Chapter (4a): The Elastic Cloud	This class covers the rise of cloud computing, its business value, benefits, and risks.

9	Chapter (4b): The Elastic Cloud and Case Studies	This class covers specific companies that have made exponential growth with using cloud computing and examines risks involved in cloud computing via discussions.
10	Chapter (5a): Big Data and Analytics	This class covers the definition / size/ speed/ structure of big data and a brief history behind it.
11	Chapter (5b): Big Data and Analytics and Case Studies	This class covers specific applications of big data using case studies and discusses challenges in handling big data for modern enterprises.
12	Chapter (6, 7a): The AI and IoT	This class covers the definition of AI / Internet of Things (machine learning, neural networks)and the overall field of AI today.
13	Chapter (6, 7b): The AI and IoT and Case Studies	This class covers how AI and IoT are deployed and improved an organization’s workflow using case studies and discusses some challenges associated with them.
14	Wrap-up and Finalizing chapter 1-6	The final class will briefly wrap up what we have learned by an instructor, and students will do small group presentations.

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]

Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

[Textbooks]

Digital Transformation: Survive and Thrive in an Era of Mass Extinction (English Edition), Thomas M. Siebel, RosettaBooks (2019/7/9), 3,257yen (hardcover).

[References]

- Rogers, D. (2016). The digital transformation playbook. Columbia University Press.
- Marr, B. (2016). Big data in practice: how 45 successful companies used big data analytics to deliver extraordinary results. John Wiley & Sons.

[Grading criteria]

Participation (20%); Weekly paper (20%); Group presentations (40%); Group discussions (20%).

[Changes following student comments]

Not applicable

[Equipment student needs to prepare]

Bring to class: a notebook, the textbook on a laptop or a tablet, or bring a hard copy. Further information will be provided by the instructor.

[Prerequisite]

None.

ART200ZA

Art and Design

Suzanne Mooney

Credit(s) : 2 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 2~4

Day/Period : 金 1/Fri.1

その他属性 : 〈優〉

[Outline and objectives]

Art and design play important roles in society. This is true not only for the 21st century, as art and design have been formative in the shaping of the history of societies throughout the world for centuries.

This course introduces students to the fields of art and design, identifying and exploring the differences and the overlaps between them.

[Goal]

Through this course, students will learn about the relationship between art and design and society, while also gaining an understanding of concepts relating to aesthetics, media studies, art history and contemporary art and design. Through the ideas introduced in this course, students will become more aware of the impact of art and design in the world around them, and equip them with the knowledge and vocabulary to engage in discussions related to the topics raised.

[Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?]

Will be able to gain "DP 1", "DP 2", "DP 3" and "DP 4".

[Method(s)]

In addition to attending lectures on art and design, students will engage in weekly tasks in response to the subjects of the lectures. As the first half of the course concludes, the students are expected to choose a topic for their final presentation.

The presentation of the project will be a combination of oral presentation, slides(optional) and presentation of preparatory notebook work.

Submission of assignments and feedback will be via the Learning Management System.

Feedback on presentations will be given in class. Separate feedback will be given via email or the Learning Management System if required.

[Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)]

あり / Yes

[Fieldwork in class]

あり / Yes

[Schedule] 授業形態 : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction	Introduction
2	The functions of art	What does/should art do? What should art not do? Considering aesthetics, entertainment politics, ritual and other functions of art in society.
3	The functions of design	The purpose of design and the various roles within its production. Considering branding, products, and their impact on society.
4	Authorship in art and design	From the author as genius to the anonymous company designer, considering the importance of authorship in art and design
5	Art objects	Exploring art objects as commodities
6	Beyond function	Creativity in design and how design is not always functional
7	Mid-term presentations	Students present their proposed topic in a group and discuss how to develop each person's topic towards the final presentation.
8	Focus on media art	Art beyond the art object: technology in art
9	Focus on technology in design	Cutting-edge technology and new materials in design
10	Innovation	Innovation in art and design in the 21st century:
11	Entertainment becomes art	Examples in computer games, cinema, etc.
12	Consumer culture	Understanding what we want and why we want it
13	Final Presentations	End of term presentations and discussion 1
14	Final Presentations	End of term presentations and discussion 2

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]

Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

[Textbooks]

No textbook will be used.

The instructor will provide digital notes through Google Classroom, as well as access to reading materials.

[References]

Manoich, Lev (2002) *The Language of New Media*, MIT Press. Berger, John (2012/1972) *Ways of Seeing*, Penguin. Lidwell, William, et al. (2010) *Universal Principles of Design*, Rockport. Meggs, Philip, Purvis, Alston (2016) *Meggs' History of Graphic Design*, Wiley.

[Grading criteria]

Participation:

Includes classroom activities, assigned readings, weekly submitted tasks/response.

Final Presentation: Students choose examples of "innovative" art or design they have experienced or engaged with directly. The presentation should include key points such as innovation, value, authorship, the user/viewer experience, and also logically reason the work's appeal to them and to the general public. In addition to the presentation itself, preparatory work in a notebook will be assessed to form the final grade. Students are free to choose their topic, but must present the chosen topic in class during the first half of the semester.

Final assessment is based on:

Active participation 60% (including weekly tasks submitted through Google Classroom = 50% and mid-term presentation/discussion = 10%), Final Project 40% (Presentation = 30% preparatory notebook work = 10%)

[Changes following student comments]

Not applicable.

[Equipment student needs to prepare]

Students will need a computer, a notebook (e.g. sketchbook/notebook), and general stationary (e.g. pen, pencil, glue, tape). A digital notebook/tablet is also acceptable.

Students will need access to a camera or scanner to submit digital images of their notebook work online.

[Prerequisite]

None.

PSY200ZA

Applied Psychology

Sayaka Aoki

Credit(s) : 2 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 2~4

Day/Period : 月 2/Mon.2

その他属性 : 〈優〉

[Outline and objectives]

This course focuses on how psychology is applicable to our own life. Students will acquire new perspectives to analyze and conceptualize themselves and world. They will also acquire various psychological skills that can be useful to improve the quality of their daily life.

[Goal]

Upon completion of this course, students will have

- (1) learned some psychological concepts and theories that are applied to tackle the issues in various settings in our life, including schools and workplaces
- (2) acquired a basic knowledge about how one's psychological characteristics are assessed and mental and behavioral problems are treated, and
- (3) developed an array of skills that can be used to understand one's psychological characteristics and handle mental and behavioral problems in daily life

[Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?]

Will be able to gain "DP 1", "DP 2", "DP 3", and "DP 4".

[Method(s)]

This course is taught primarily through lectures and in-class activities students are expected to be engaged in. At the end of each class, students complete a brief reflection paper, which will be graded and returned with feedback comments from the lecturer by the beginning of the next class. In the middle of the course, students are also asked to work on a small project, which is directly related to the contents of the final exam.

[Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)]

あり / Yes

[Fieldwork in class]

なし / No

[Schedule] 授業形態 : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction of the course	Introduction of the course
2	Assessment (I)	Overview of psychological assessment - How do we know ourselves?
3	Assessment (II)	Psychological tests (i)
4	Assessment (III)	Psychological tests (ii)
5	Assessment (IV)	Questionnaire
6	Assessment (V)	Interview
7	Assessment (VI)	Observation
8	Intervention (I)	Overview of psychological intervention - How do we change ourselves?
9	Intervention (II)	Cognitive behavior therapy
10	Intervention (III)	Dialectic behavior therapy
11	Intervention (IV)	Emotional control
12	Intervention (V)	Behavioral management
13	Intervention (VI)	Motivation control
14	Final Exam & Wrap-up	Review and Final exam

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]

Students are required to print out and read over the slides for the class in advance, which are uploaded on the class website. Reading assignments, links to relevant websites for the next class, will be also included in the last slide. Students are also expected to consider the answers for the essay questions in the final exam which are shared in the beginning of the course. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

[Textbooks]

No specific textbooks are used; class materials are uploaded in the class website.

[References]

Braden, J. P. (2013). Psychological assessment in school settings. In J. R. Graham, J. A. Naglieri, & I. B. Weiner (Eds.), *Handbook of psychology: Assessment psychology* (pp. 291 - 314). John Wiley & Sons, Inc..
Spiegler, M. D., & Guevremont, D. C. (2015). *Contemporary behavior therapy*, 6th ed. Belmont, CA, : Wadsworth/Cengage Learning.

Beck, J.S. (2021). *Cognitive behavior therapy, Basics and beyond*, 3rd ed. Guilford Press.

[Grading criteria]

The following show approximate activity-by-activity percentage points toward your final course grade: (a) active participation, preparation, and engagement (10%); (b) Reflection papers and assignment (40%); (c) Final exam (in-class report) (50%)

[Changes following student comments]

For the final exam, students are expected to start preparation well in advance, as they need to develop their own answers through experiences of practicing what they learned in the classes in on their own lives. For this purpose, the questions are shared in the beginning of this course.

[Equipment student needs to prepare]

Class materials are uploaded on the class websites

[Others]

None

[Prerequisite]

None

PSY200ZA

Quantitative Research Methods

Yu Niiya

Credit(s) : 2 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 2~4

Day/Period : 木 2/Thu.2

その他属性 : 〈グ〉〈優〉

【Outline and objectives】

The goal of this course is to introduce the students to various quantitative research methods used in the social sciences. When making important decisions, be it choosing a strategy to increase the sales of a product, implementing an intervention program to boost people's well-being, or selecting a school program to increase students' learning, people can rely on their intuition and experience, or they can base their decisions on facts: data. In this course, students will develop skills to obtain valid and reliable data through experimental and survey methods. The course will also cover topics related to research ethics, some basic statistics, and APA-style writing.

【Goal】

This course provides an overview of the 'how's and 'why's of quantitative research in social sciences, and it covers such topics as design, ethics, and APA-style writing and such strategies as field experiments and surveys. Students will develop the ability to design, conduct, evaluate, and report empirical studies. By developing hypotheses and critically assessing information, students will improve on their critical thinking skills.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain “DP 1”, “DP 2”, and “DP 4”.

【Method(s)】

The course consists of lectures, in which general ideas and methods of research will be presented, and hands-on applications of the methods, in which student's research projects will be planned and presented. Although some of the class time will be set aside for planning students' research, the majority of it will be done as assignments to be completed outside class. Feedback for research will be given during class time. Comments for papers will be given via the Learning Management System.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり / Yes

【Fieldwork in class】

なし / No

【Schedule】 授業形態 : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction	What is research? Why should we care?
2	The Fundamentals of Research	How do we define variables? How do we measure them? What is good research? How do I know if I can trust the findings?
3	Common Experimental Designs	Evaluating causal claims with experiments: random assignment and control
4	Understanding Research Paper	Understanding the structure of a research paper
5	Experimental Research I	Presentation of the research question, hypotheses, and theories
6	Experimental Research II	Identifying the various threats to internal validity
7	Data Analyses I	Understanding the basics of inferential statistics
8	Correlational Research I	How are the two variables associated? How can we write clear questions?
9	Correlational Research II	Presentation of the research question, hypotheses, and theories
10	Correlational Research III	Creating a questionnaire
11	Sampling Issues and Validities	How generalizable are my findings?
12	Data Analyses II	Computing reliabilities and correlations
13	Data Analyses III	Data analysis workshop using a statistical software
14	Students Poster Presentations	Poster presentations of group research

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

Students will have to complete the assigned homework on time to successfully complete the class. They will be asked to do the readings, create research materials, collect data, etc. outside the class. Please bear in mind that the course will require that students spend a considerable amount of time outside class (at least 2 hours every week, sometimes more). Most work will be done in small groups, suggesting that students need to be flexible in finding time to meet other students during the week. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

【Textbooks】

No textbooks required.

【References】

Morling, B. (2021). *Research methods in psychology: Evaluating a world of information* (4th ed.). New York, NY: W.W. Norton & Company.
Hacker, D. & Sommers, N. (2020). *A pocket style manual*. (8th ed.). APA Version.

The reference books will be available in the library and the GIS Reference Room for those who wish to learn about each topic in more detail. Handouts and reading materials are on the course website.

【Grading criteria】

Final grades are based on two research papers (20% and 30%), a poster presentation (20%), and the quality and timeliness of group work done outside class (30%).

【Changes following student comments】

Students in previous years found this course very demanding but rewarding. Some students aimed to accomplish at a higher level while others were somewhat struggling to meet the requirements. I will provide office hours and other consulting time outside the class to meet the need of individual students.

【Equipment student needs to prepare】

For some weeks, students will be asked to bring laptop computers. Students must get the login information for PyscINFO database from the library.

【Others】

Students who have successfully completed Statistics will be given priority during enrollment.

Students must take and pass this course if they wish to enroll in the Self and Culture seminar. Students who plan to enroll in other seminars in social sciences are also strongly encouraged to take this course.

【Prerequisite】

none

ECN200ZA

Macroeconomics II

Alberto Iniguez

Credit(s) : 2 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 2~4

Day/Period : 金 5/Fri.5

その他属性 : 〈優〉

【Outline and objectives】

This course will provide students with more knowledge of the core theories in macroeconomics, particularly on the economics of open economies, unemployment, monetary growth and inflation, and the model of aggregate demand and supply. Moreover, the role of fiscal and monetary policy to stimulate the economy will be discussed.

To prepare students for embarking confidently on their journey in the world of economic analysis and for seriously analyzing the economic signals and data we all face daily to be able to justify views and opinions with sound economic reasoning.

【Goal】

By the end of this course, students should be able to:

1. Apply macroeconomic knowledge to analyze contemporary macroeconomic issues and real-world problems.
2. Interpret macroeconomic issues and problems from the theoretical perspectives.
3. Assess macroeconomic theories in terms of their policy implications.
4. Articulate macroeconomic debates clearly, using both analytical tools and an intuitive approach.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain “DP 1”, “DP 2”, “DP 3”, and “DP 4”.

【Method(s)】

This course will be mainly conducted through lectures, with analysis of appropriate case studies related to each topic. Students are expected to read the required material prior to the lecture to discuss and solve problems in class. Assignments and related feedback will be given via the learning-management system. Additionally, midterm-exam and in-class-assignment feedback will be provided in class.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり / Yes

【Fieldwork in class】

なし / No

【Schedule】 授業形態 : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction to the Course (Syllabus) Interdependence and the Gains from Trade (Ch3)	Introduction to the Course (Syllabus) Interdependence and the Gains from Trade (Ch3)
2	Consumers, Producers, and the Efficiency of Markets (Ch7) Application: International Trade (Ch9)	Consumer surplus Producer surplus Market efficiency The determinants of trade The winners and losers from trade
3	Application: International Trade (Ch9) International economics (Wheelan, 2019)	The effects of a tariff How did a nice country like Iceland go bust? (Ch11,p.250-257)

4	Open-economy macroeconomics (Ch31)	The international flows of goods and capital The prices for international transactions A first theory of exchange-rate determination
5	International economics (Wheelan, 2019) Theory of the open economy (Ch32)	How did a nice country like Iceland go bust? (Ch11,p.257-265) Supply and demand for loanable funds and the foreign-currency exchange
6	Theory of the open economy (Ch32)	Equilibrium in the open economy How policies and events affect an open economy
7	Review & midterm exam	Assess students' performance for the 1st half of the course (week 1-6).
8	Money Growth and Inflation -1 (Ch30)	The classic theory of inflation
9	Money Growth and Inflation -2 (Ch30)	The cost of inflation Case study
10	Aggregate demand and aggregate supply -1 (Ch33)	Economic fluctuations The aggregate demand curve
11	Aggregate demand and aggregate supply -2 (Ch33)	The aggregate supply curve Two causes of economic fluctuations Problems
12	The influence of monetary and fiscal policy on aggregate demand (Ch34)	How monetary policy influences aggregate demand
13	The influence of monetary and fiscal policy on aggregate demand (Ch34)	How fiscal policy influences aggregate demand
14	Review & final exam	Assess students' performance for the 2nd half of the course (week 8-13).

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

Students are expected to read the relevant material (text-book/articles/cases) and to participate in class discussions. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

【Textbooks】

Mankiw, N. Gregory. *Principles of Economics*, 9th Asia Edition. Cengage, 2021. (ISBN-13: 9780357562833). Digital version. You must buy a MindTap access code as well to submit your assignments. (Required; sold as a bundle by Cengage at <https://www.cengageasiaestore.com/jp/principles-of-economics-mindtap-12-months-digital-access.html>) Students should not buy the physical copy of the textbook. You should buy MindTap, 12-month-digital access, which includes the eText for "Principles of Economics", from Cengage through the link shared above. This is the REQUIRED material to submit assignments. Cengage provides a 55% discount on the purchase to Hosei University students when using the following discount code: JPAYU2023FA (Available till 2023/5/31) Special Price: 6,660 JPY (before tax) 7,326 JPY (with tax)

【References】

Blanchard, O. *Macroeconomics*, 8th Edition, Pearson, 2021. (ISBN: 978-0-13-489789-9)
Wheelan, C. *Naked Economics: Undressing the Dismal Science*, Fully revised and updated, WW Norton & Company, 2019. (ISBN: 978-0-393-35649-6)

【Grading criteria】

1. Participation: 10%
2. Homework: 20%
3. Midterm exam: 35%
4. Final exam: 35%

【Changes following student comments】

Students are encouraged to provide feedback and suggestion regarding the course. Constructive suggestion is appreciated and may be taken for course adjustment.

【Equipment student needs to prepare】

A calculator and a ruler are required.

【Others】

None

【Prerequisite】

Macroeconomics I (except for students who entered 2012 - 2015. All students who entered 2012 - 2015 can take this course.)

Students who have taken other economics courses need to discuss with the instructor for permission.

ECN200ZA

Microeconomics II

AugustoRicardoDelgadoNarro

Credit(s) : 2 | Semester : 秋学期授業/Fall | Year : 2~4
Day/Period : 水 4/Wed.4

その他属性 : 〈優〉

[Outline and objectives]

This is the second part to an introductory course in microeconomics. (See prerequisite below.)

In this semester, we will continue covering fundamental concepts and principles in microeconomics. This time, we will focus on producer and consumer theory and the labor market. In the first half of the semester, we will study firm behavior and market structures. In the second half of the semester, we will discuss consumer theory. The labor market and income determination will also be examined.

[Goal]

The intention of this course is to integrate theory and application. At the end of the course, students should grasp and be able to discuss fundamental concepts in microeconomics, i.e. how different market structures affect producers and consumers and how the labor market works. Students should be able to examine issues related to consumption, production, the labor market, income inequality, and poverty.

[Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?]
Will be able to gain “DP 1”, “DP 2”, “DP 3”, and “DP 4”.

[Method(s)]

At the beginning of class, feedback for the previous class is given using some comments from submitted reaction papers.
Submission of assignments and feedback will be via the Learning Management System.

[Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)]
あり / Yes

[Fieldwork in class]
なし / No

[Schedule] 授業形態 : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction to the Course	Introduction to the Course Review of Microeconomic I.
2	Producer Theory (1)	Producer Theory (1)
3	Producer Theory (2)	Firms in competitive markets (Chapters 13 and 14)
4	Producer Theory: Firms in Non-competitive Markets (1)	Monopoly (Chapter 15)
5	Producer Theory: Firms in Non-competitive Markets (2)	Monopolistic competition (Chapter 16)
6	Producer Theory: Firms in Non-competitive Markets (3)	Oligopoly (Chapter 17)
7	Producer Theory: Firms in Non-competitive Markets (4)	Problems set 1 (Chapters 15, 16, and 17)
8	Review & Mid-term Exam	Review & In-class written exam
9	Consumer Theory	Preferences and optimization (Chapter 21)
10	Labor Economics	Labor demand and supply Equilibrium in the labor market (Chapter 18); Determinants of wages Economics of discrimination (Chapters 19, 20)
11	Pareto Efficiency	Pareto Efficiency and Welfare Theorems
12	Topics	Problem set 2 (Chapters 18, 19, and 20)
13	Discussion and Review	Discussion and review
14	Final Exam & Wrap-up	Review & In-class written exam

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]

1. Readings - Students are expected to read the textbook chapters carefully and to prepare for the lecture. Special attention should be paid to understanding the tables and the graphs.

2. Short assignments - Students are at times given assignments to strengthen their understanding of the application of the concepts. Assignments will be presented and discussed in class.

Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

[Textbooks]

Mankiw, Gregory. N. (2015) *Principles of Microeconomics*, 7th edition, Cengage Learning.

[References]

Other materials, if any, will be given by the instructor or shall be announced in class.

[Grading criteria]

Assignments and Class Participation: 15%

Problem Set 1: 12.5%

Problem Set 2: 12.5%

Midterm Exam: 30%

Final Exam: 30%

[Changes following student comments]

The lecture schedule may be adjusted depending on the pace of the class or at the discretion of the instructor. Any changes will be announced in class.

[Others]

This course requires students to have a good understanding of mathematics and graphic analysis.

[Prerequisite]

Microeconomics I, Understanding Microeconomics or an equivalent introductory course in microeconomics or economics.

FRI200ZA
Data Visualization
 Youyung Hyun
 Credit(s) : 2 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 2~4
 Day/Period : 火 3/Tue.3
 その他属性 : 〈優〉

[Outline and objectives]

This course aims at learning why and how contemporary organizations perform data visualization from a business perspective and practicing a data visualization tool, called Tableau.

[Goal]

By participating in lectures and group projects, students will (1) understand the basic of data visualization in contemporary organizations, (2) learn to analyze and critically evaluate ideas, arguments, and perspective, and (3) develop skills on a data visualization tool needed by business professionals in the field most closely related to this course.

[Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?]

Will be able to gain “DP 1”, “DP 2”, “DP 3”, and “DP 4”.

[Method(s)]

This course will proceed with lectures, group presentations, and group projects to practically learn how to use a data visualization tool. For the first half of the semester, the class involves lectures and group presentations that are aimed at understanding the basics of data analytics use (in this course, data visualization tool) in contemporary organizations and how it affects the paradigm of core business processes in the company.

In the second half of the semester, the class involves practical learning of Tableau and group projects. Students will learn how to use software called Tableau from an instructor and work on group projects with using Tableau. An instructor will give feedback and address major questions from students at the end of every class.

[Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)]

あり / Yes

[Fieldwork in class]

なし / No

[Schedule] 授業形態 : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction and Overview	Introduction and Overview
2	Chapter 1: The basics of data visualization	This class is focused on learning the basics of data visualization.
3	Chapter 2: Use of data visualization	This class covers why and how organizations use data visualization for business objectives.
4	Chapter 3: Functionalities of data visualization	This class aims at learning different functionalities of data visualization.
5	Chapter 4: Use of data visualization tools (1)	This class covers the use cases of data visualization tools.
6	Chapter 5: Use of data visualization tools (2)	This class practices storytelling with data.
7	Chapter 6: Introduction to Tableau	This class provides basic knowledge of how to use Tableau.

8	Chapter 7: Tableau practice	This class focuses on learning data analytics with Tableau (for example, chart, scatterplot, and map).
9	Chapter 8: Multivariate visualization	This class helps learn multivariate visualization and create one's own chart.
10	Chapter 9: Order of operations	This class covers set with various topics and order of operations.
11	Chapter 10: Dashboard and storytelling (1)	This class focuses on structuring dashboard.
12	Chapter 11: Dashboard and storytelling (2)	This class helps practices Tableau dashboard and creates storytelling.
13	Group project (1)	This class proceeds with group projects (using Tableau) and subsequent discussion.
14	Group project (2)	This class proceeds with group projects (using Tableau) and subsequent discussion.

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]

Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

[Textbooks]

Cole Nussbaumer Knaflic (2015). *Storytelling with Data: A Data Visualization Guide for Business Professionals*. Wiley.

[References]

1. Cole Nussbaumer Knaflic (2015). *Storytelling with Data: A Data Visualization Guide for Business Professionals*. Wiley.
2. Sarikaya, A., Correll, M., Bartram, L., Tory, M., & Fisher, D. (2018). What do we talk about when we talk about dashboards?. *IEEE transactions on visualization and computer graphics*, 25(1), 682-692.
3. Szafir, D. A. (2018). The good, the bad, and the biased: five ways visualizations can mislead (and how to fix them). *interactions*, 25(4), 26-33.

[Grading criteria]

Participation (20%); Weekly assignment (20%); Group presentation(30%); Group project (30%)

[Changes following student comments]

Not applicable

[Equipment student needs to prepare]

- 1.A notebook, the references provided by an instructor
- 2.Laptop (*downloaded with Tableau)

[Others]

None.

[Prerequisite]

None.

FRI200ZA

Data Visualization

Youyung Hyun

Credit(s) : 2 | Semester : 秋学期授業/Fall | Year : 2~4

Day/Period : 火 2/Tue.2

その他属性 : 〈優〉

【Outline and objectives】

【Goal】

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain “DP 1”, “DP 2”, “DP 3”, and “DP 4”.

【Method(s)】

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり / Yes

【Fieldwork in class】

なし / No

【Schedule】 授業形態 : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction and Overview	Introduction and Overview

2

3

4

5

6

7

8

9

10

11

12

13

14

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

【Textbooks】

【References】

【Grading criteria】

【Changes following student comments】

LIN200ZA

Teaching Pronunciation

Katsuya Yokomoto

Credit(s) : 2 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 2~4

Day/Period : 木 5/Thu.5

その他属性 : 〈優〉

[Outline and objectives]

This course will cover the theoretical and practical aspects of pronunciation teaching. We will look at pronunciation variations, and explore possible obstacles that adults and children come across in speech perception and production. We will discuss how teachers can help students learn and understand the articulation of English sounds.

[Goal]

At the end of this course, students will be able to:

- (1) Understand and explain the articulation of individual sounds in English,
- (2) Understand and explain the basic rules about the connected speech, rhythm, and intonation in English,
- (3) Understand the common challenges that learners encounter in learning pronunciation in English, and
- (4) Apply the knowledge about the English pronunciation and learners' difficulties into pronunciation teaching.

[Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?]

Will be able to gain "DP 1", "DP 2", and "DP 4".

[Method(s)]

This course is offered through lectures and discussions in class. Handouts are provided in class, and students are expected to participate in all class activities actively. Individual members' contributions to group work are vital to successful learning. Please make sure to complete preparatory study to maximize your contributions to class members and therefore learning outcomes. Good comments in group discussions will be introduced to the class for further discussions, and comments and explanations for tests will be given either in class or in a recording. Written feedback on microteaching will be given to individual students.

[Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)]

あり / Yes

[Fieldwork in class]

なし / No

[Schedule] 授業形態 : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction: Pronunciation and pronunciation teaching	Introduction: Pronunciation and pronunciation teaching
2	The consonant system	Phonetic symbols of English consonants How to pronounce consonants in English
3	The vowel system	Phonetic symbols of English vowels How to pronounce vowels in English
4	Teaching English consonants and vowels	Practical issues in teaching English vowels
5	Practice teaching English consonants and vowels	Microteaching: Consonants and vowels
6	Review: Teaching consonants and vowels	Review and midterm exam
7	Connected speech and teaching connected speech	What is connected speech? Practical issues in teaching connected speech
8	Practice teaching connected speech	Microteaching: Connected speech
9	Stress and teaching stress in English	Word stress and sentence stress in English Practical issues in teaching stress in English
10	Practice teaching stress	Microteaching: Word stress and sentence stress
11	Prominence and teaching prominence	Roles of prominence in English Practical issues in teaching prominence in English
12	Intonation and teaching intonation	What is intonation in English? Practical issues in teaching intonation in English

13	Practice teaching prominence and intonation	Microteaching: Prominence and intonation
14	Review: teaching beyond individual sounds	Review and final exam

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]

Students are expected to read handouts thoroughly and think about the questions and issues in the handouts before class. Students are also expected to refer to recommended readings when necessary as preparatory study for class discussion. If you miss a class, please make sure to contact your classmates or the instructor about lectures, discussions, and assignments. Students are expected to spend 2 hours for preview and 2 hours for review.

[Textbooks]

No textbook will be used.

[References]

Levis, J. M. (2018). *Intelligibility, oral communication, and the teaching of pronunciation*. Cambridge University Press.
Murphy, J. (2013). *Teaching pronunciation*. TESOL International Association.
Murphy, J. (Ed.). (2017). *Teaching the pronunciation of English: Focus on whole courses*. University of Michigan Press.
Celce-Murcia, M., Brinton, D. M., Goodwin, J. M., & Griner, B. (2010). *Teaching pronunciation: A course book and reference guide*. Cambridge University Press.

[Grading criteria]

Participation (20%), Microteaching (20%), Midterm exam (30%), and Final exam (30%)

Students are expected to attend every class. When you have legitimate reasons for being absent, please notify your instructor of your absence prior to class. Being absent three times without reasonable notice will result in the failure of this course. Students will choose a teaching focus (e.g., consonants) for microteaching, and rubrics for microteaching will be provided in advance.

[Changes following student comments]

Not applicable

[Equipment student needs to prepare]

Not applicable

[Others]

Students who are interested in teaching English and/or teaching pronunciation are welcome.

[Prerequisite]

None

LIN200ZA

Semantics and Pragmatics

Nobumi Nakai

Credit(s) : 2 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 2~4

Day/Period : 金 2/Fri.2

その他属性 : 〈優〉

【Outline and objectives】

Semantics is the study of meaning in language. Pragmatics is the study of the ways people use language in actual conversations. The aim of this course is to provide students with an essential understanding of semantics and pragmatics, with examples drawn from English and Japanese.

【Goal】

By the end of the course, students will:

- (1) Have a general understanding of the interface between semantics and pragmatics.
- (2) Understand key concepts and major theories in the fields.
- (3) Survey the wide range of semantic and pragmatic phenomena in all their richness and variety.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain “DP 1”, “DP 2”, “DP 3”, and “DP 4”.

【Method(s)】

This course begins by covering some essential issues of semantics. In subsequent lectures, we will discuss how the identification of the semantic contribution of words and sentences gets us only partway to understanding what an utterance means. The course is a combination of lectures, group discussions, and review exercises. Feedback will be given during class discussions as necessary.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり / Yes

【Fieldwork in class】

なし / No

【Schedule】 授業形態 : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction	Introduction
2	An Overview of Semantics	Describes the components of linguistic meaning and introduces lexical and compositional semantics.
3	Lexical Semantics (1): The Meanings of Words	Examines the different ways that word senses could be represented in the mind of a language user and discusses the types of reference that words can have.
4	Lexical Semantics (2): Word Relations	Discusses the kinds of meaning relationships that exist between words.
5	Compositional Semantics (1): The Meanings of Sentences	Introduces propositions, truth values, and truth conditions, and discusses relationships between propositions.
6	Compositional Semantics (2): Putting Meanings Together	Introduces the Principle of Compositionality in more detail and discusses different ways that lexical meanings combine to give rise to phrasal meanings.
7	Practice (1)	Provides exercises, discussion questions, and activities.
8	Language in Context	Explores several ways in which context can affect the meaning of utterances, and introduces the idea of felicity in discourse.
9	Rules of Conversation	Discusses why conversation needs to follow rules, and introduces Grice's maxims for cooperative conversation.
10	Drawing Conclusions	Shows ways in which language users may employ context to convey or derive meaning that is not part of an utterance's entailed meaning.
11	Speech Acts	Outlines many of the jobs that speakers accomplish with language and the ways in which they accomplish them.
12	Presupposition	Discusses another precondition for felicity.

13	Practice (2)	Provides exercises, discussion questions, and activities.
14	Examination & Wrap-up	Semester-end exam

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

Students are required to read the relevant reading materials carefully in advance so that they can actively participate in discussions. Practice problems will be assigned occasionally. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

【Textbooks】

No textbooks are used. All reading materials and exercises will be provided in class or/and through Hoppii.

【References】

The following books will be helpful for a general understanding of the fields.

(1) Cruise, Alan (2010)

Meaning in language: An introduction to semantics and pragmatics, Oxford UP.

(2) Riemer, Nick (2010)

Introducing semantics, Cambridge UP.

(3) Saeed, John I. (2015)

Semantics, John Wiley Inc.

(4) Birner, Betty J. (2012)

Introduction to pragmatics, Wiley-Blackwell.

(5) Senft, Gunter (2014)

Understanding pragmatics: An interdisciplinary approach to language use, Hodder Arnold/Routledge.

(6) Loebner, Sebastian (2012)

Understanding semantics, Hodder Arnold/Routledge.

【Grading criteria】

Student evaluations are based on class participation (30%), in-class assignments (30%), and a final exam (40%). More than two unexcused absences will result in failure of the course. Attendance at the first class is mandatory.

【Changes following student comments】

Not applicable.

【Equipment student needs to prepare】

The handouts are downloadable in PDF format.

【Others】

None.

【Prerequisite】

None.

LIN200ZA

Psycholinguistics

Mako Ishida

Credit(s) : 2 | Semester : 秋学期授業/Fall | Year : 2~4
Day/Period : 月 2/Mon.2

その他属性 : 〈優〉

[Outline and objectives]

This course will cover the basic notions of psycholinguistics – how languages are acquired, learnt, used, and understood in daily situations. It primarily focuses on human speech communication - how auditory and visual information is processed and integrated in the human brain. We will explore research findings in linguistics, acoustics, psychology, and neuroscience.

[Goal]

There are three main goals:

- (1) Students understand the basic structures of language.
- (2) Students understand communication strategies including auditory and optical illusion.
- (3) Students understand the basic brain structure and functions for human speech communication.

[Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?]

Will be able to gain “DP 2” and “DP 4”.

[Method(s)]

This course consists of lectures, discussions, pop-quizzes, and midterm/final reviews. Handouts and worksheets are provided in class. Students are expected to actively participate in class: take notes, be responsive to questions, and work in pairs and groups. Feedback for course contents and assignments will be provided in class.

[Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)]

あり / Yes

[Fieldwork in class]

なし / No

[Schedule] 授業形態 : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction	Introduction
2	Language Acquisition	How did we acquire a first language?
3	Speech Communication 1	The basic components of language 1
4	Speech Communication 2	The basic components of language 2
5	Speech Communication 3	The basic components of language 3
6	Speech Communication 4	The basic components of language 4
7	Checkpoint	Review and midterm exam
8	Speech Chain 1	Speech Production
9	Speech Chain 2	Physical and Psychological Properties
10	Speech Chain 3	Speech Perception
11	Neuroscience 1	Basic brain anatomy and function
12	Neuroscience 2	Auditory Illusions
13	Neuroscience 3	Optical illusions
14	Checkpoint	Review and final exam

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]

Students are expected to review what was covered in class every week. If you miss a class, please be sure to contact your classmates or the course instructor about lecture notes and assignments. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

[Textbooks]

No textbook will be used. Handouts and worksheets are provided in class.

[References]

Berninger, V.W., & Richards, T.L. (2002). Brain literacy for educators and psychologists. San Diego, CA: Academic Press.
Carroll, D.W. (2008). Psychology of language (5th edition). Belmont, CA: Cengage Learning/Wadsworth.
O'Grady, W., Dobrovolsky, M., & Katamba, F. (1996). Contemporary linguistics: An introduction. Essex: Pearson Education.

[Grading criteria]

Attitude and participation (20%), Pop quizzes (20%), Midterm exam (30%), Final exam (30%).

Please be sure to attend every class. Absence three times without prior and reasonable notice will result in the failure of this course. A delay can be counted as an absence. Pop quizzes are “open-notes” (not “open-book”), and they are intended to assess your comprehension of materials.

[Changes following student comments]

No particular change.

[Equipment student needs to prepare]

Not applicable.

[Others]

Students who are interested in human speech communication are welcome.

[Prerequisite]

None.

LIN200ZA

Topics in Applied Linguistics A: Linguistic Landscapes

Chie Saito

Credit(s) : 2 | Semester : 秋学期授業/Fall | Year : 2~4
Day/Period : 木 1/Thu.1

その他属性 : 〈優〉

【Outline and objectives】

The course will explore how linguistic landscapes reflect complicated relationships between language and society. Linguistic landscapes are defined by Landry and Bourhis (1997) as “the visibility and salience of languages on public and commercial signs in a given territory or region.” Linguistic landscapes is a concept in sociolinguistics to study languages visually used in multilingual societies. We may not perceive Japanese society as multilingual. However, when you look at language use on public signs, you will realize that you are surrounded by more than just one language. Because the function of linguistic landscapes is not only an informational indicator but also a symbolic marker, you can observe our ever-changing society through an investigation of language use in signs. In the course, students will learn about the basic concepts of linguistic landscapes through lectures and literature reviews and deepen their understanding by conducting research.

【Goal】

By the end of the course, students should be able to meet the following objectives:

- (1) Becoming aware of the presence of different languages and its meanings in public space,
- (2) Understanding how social, political, economic, and technological elements are embedded in linguistic landscapes,
- (3) Becoming familiar with the basic theories and methodologies of linguistic landscapes, and
- (4) Applying the knowledge to conduct individual research projects.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain “DP 1”, “DP 2”, “DP 3”, and “DP 4”.

【Method(s)】

The main elements of the course are lectures, discussions, and student presentations. To begin with, the key concepts of linguistic landscapes will be explained. Next, the theories and methodologies of linguistic landscapes will be discussed through literature reviews. During the course, all the literature and extra materials are provided in class or on the course website. The students are encouraged to read the literature before attending a class. Interactive class participation is highly encouraged. Students will be required to carry out small-scale research projects in the field of linguistic landscapes and share their findings in class at the end of the course. Feedback is given both in class and through e-mail. Attendance at the first class is mandatory.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり / Yes

【Fieldwork in class】

なし / No

【Schedule】 授業形態 : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction	Introduction
2	Signage in Tokyo (1)	Terminology (what is linguistic landscapes?)
3	Signage in Tokyo (2)	Methodology (how to classify and analyze signs)
4	Signage in Tokyo (3)	Tendency of LL in Tokyo (Multilingual or monolingual?)
5	Previous research (1)	Linguistic landscapes in Seoul, Korea
6	Previous research (2)	Linguistic landscapes in Bangkok, Thailand
7	Previous research (3)	Linguistic landscapes in Kuala Lumpur, Malaysia
8	Previous research (4)	Linguistic Landscapes in Brussels, Belgium
9	Previous research (5)	Linguistic Landscapes in Montreal, Canada
10	New perspectives on linguistic landscape (1)	The use of Japanese in LL in overseas
11	New perspectives on linguistic landscape (2)	Errors in the use of English in LL
12	Student presentations (1)	Student in-class presentations
13	Student presentations (2)	Student in-class presentations

14	Student presentations (3) Summary	Student in-class presentations Review the course
----	--------------------------------------	---

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

Students are expected to read the handouts beforehand for class participation and discussion. For giving presentations in class and writing end-term reports, students are required to conduct field research outside of class. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

【Textbooks】

All handouts are posted on the course website.

【References】

Backhaus, P. (2007). *Linguistic landscapes. A comparative study of urban multilingualism in Tokyo*. Clevedon: Multilingual Matters.
 Gorter, D., Marten, H. F., & Van Mensel, L. (Eds.). (2011). *Minority languages in the linguistic landscape*. Springer.
 Shohamy, E., & Gorter, D. (Eds.). (2008). *Linguistic landscape: Expanding the scenery*. Routledge.
 Shohamy, E. G., Rafael, E. B., & Barni, M. (Eds.). (2010). *Linguistic landscape in the city*. Multilingual Matters.
 庄司博史, ペート・バックハウス, & フロリアン・クルマス. (2009). 『日本の言語景観』. 三元社.
 内山純蔵 (監), 中井精一, ダニエル・ロング (編). (2011) 『世界の言語景観 日本の言語景観-景色のなかのことは-』. 桂書房刊.

【Grading criteria】

Class participation and attitude: 20%

Reflection paper: 20%

Presentation: 30%

Research report: 30%

【Changes following student comments】

Student constructive feedback will be taken into consideration.

【Prerequisite】

None.

MAN200ZA

Business Negotiation

Takamasa Fukuoka

Credit(s) : 2 | Semester : 秋学期授業/Fall | Year : 2~4
Day/Period : 月 3/Mon.3

その他属性 : 〈優〉

[Changes following student comments]

The lecturer will provide more business negotiation tips.

[Prerequisite]

None.

[Outline and objectives]

Negotiation is an interdisciplinary study (psychology, business management, economics, politics, law, etc.) which has been developed since the 1970s, when Harvard University started researching negotiation in a systematic manner. The study of this has become increasingly significant to global society. This course introduces students to the basic negotiation theories and techniques.

[Goal]

The purpose of this course is to learn basic negotiation theories and techniques, and utilize them in both business negotiations and daily life.

[Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?]

Will be able to gain “DP 1”, “DP 2”, “DP 3” and “DP 4”.

[Method(s)]

In this course, students will learn basic negotiation theories, read and discuss case studies, and study consensus building so as to be able to interact with different societies. Feedback can be given verbally in class, non-verbally or in written form.

[Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)]

あり / Yes

[Fieldwork in class]

なし / No

[Schedule] 授業形態 : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Course Introduction	Course Introduction
2	What is Negotiation?	Learn the definition of negotiation.
3	Negotiation and Conflict	Learn how negotiation is a method to resolve conflicts.
4	Win-Lose Negotiation (distributive bargaining)	Learn Win-Lose negotiation (theory and techniques).
5	Case Study (1)	Read and discuss case studies of Win-Lose negotiation.
6	Win-Win Negotiation (integrative bargaining)	Learn Win-Win negotiation (theory and techniques).
7	Case Study (2)	Read and discuss case studies of Win-Win negotiation.
8	Pareto-Optimal Solution	Learn how to search for Pareto-Optimal solutions in negotiation.
9	Negotiation Strategy and BATNA	Learn why BATNA is important in negotiation.
10	Case Study (3)	Read and discuss BATNA case studies.
11	Case Study (4)	Read and discuss BATNA case studies.
12	Consensus Building	Learn how to build consensus while negotiating complex issues.
13	Intercultural Negotiation	Learn cultural differences and effective intercultural negotiation methods.
14	Review and Final Exam	Review and final exam.

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]

As instructed, students will have to read chapters of the coursebook and also other materials for each class. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

[Textbooks]

No textbook will be used. Handouts will be provided by the instructor.

[References]

Fisher, Roger and William Ury. *Getting to Yes: Negotiating Agreement Without Giving In* New York: Penguin Books, 1983.

Wheeler, Michael. *The Art of Negotiation: How to improvise Agreement in a Chaotic World* New York: Simon and Schster, 2013.

Bazerman, Max and Margaret Neale. *Negotiating Rationally* Free Press, 1994.

[Grading criteria]

Evaluation will be based on class participation (20%), a writing assignment (20%), and the final exam (60%).

MAN200ZA

General Topics II: Business Ethics

Maurizio Raffone

Credit(s) : 2 | Semester : 秋学期授業/Fall | Year : 2~4
Day/Period : 水 1/Wed.1

その他属性 : 〈優〉

[Outline and objectives]

Business Ethics covers a variety of contemporary case studies which demonstrates the dynamics between what could be called opportunity and misconduct. Over the years this has led to conflicts of interest, even more regulation to try and separate rule-makers from the rule-enforcers and the players and, where that fails, often catastrophic results ensue. This course aims to provide students with a framework to understand and deal with the fundamentals of ethics applied to the business world. We will look at various case studies to observe how companies operate within the grey area and/or have not acted responsibly in a highly competitive environment. This course will delve into specific areas that touch upon business ethics such as sustainability, ESG and technology. Students are encouraged to gain awareness of the interconnectedness of organizations and nations in a globalized world and how their actions as managers will affect different stakeholders, nations and the world as a whole.

[Goal]

Using the critical thinking assignments and class discussions, students will be able to apply their knowledge to case-studies and group work. Skills they acquire through this course should prepare them to understand key technical terms and give a better understanding of the business world.

[Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?]

Will be able to gain "DP 1", "DP 2", "DP 3", and "DP 4".

[Method(s)]

Lessons will be structured with an initial lecture covering key themes and then a discussion of one or two case studies and examples. Students will be assigned three graded assignments, will sit two quizzes and one final exam.

Written feedback will be provided to the student individually on each graded assignment, quiz results will be shared also individually. The grades of the last exam will be sent back after grading, inclusive of personalized comments.

[Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)]

あり / Yes

[Fieldwork in class]

なし / No

[Schedule] 授業形態 : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction to Business Ethics	An Overview of Business Ethics. Case Study review and Discussion.
2	Insights from Ethical Theory	Exploration of various ethical theories and how they can be applied to business situations.
3	Capitalism & its ethical implications	Introduction to ethical issues that arise from the capitalist economic model.
4	Corporate Social Responsibility	Introduction to the concept of corporate social responsibility (CSR).
5	ESG	Introduction to the concept of ESG and how it's emerged over time.
6	Regulations and regulatory failures	Analysis of different regulatory regimes across countries and industries, and discussion of some notable failures. Quiz.
7	Human Resources and Hiring	Discussion of ethical issues that predominantly arise in the field of human resources.
8	Rights and Consumer Protection	Exploration of how ethics affects business advertising and the sales process.
9	Corporate engagement	Expanding from lecture 5 on CSR, discussion on how companies proactively engage with positive impact causes.
10	Ethics and Sustainability	Discussion of how sustainability can be tackled ethically by businesses.

11	Business Ethics in Technology	How do technological advances, such as big data, artificial intelligence, and cryptocurrencies impact business ethics.
12	Fraud & Greed	A history of corporate fraud, highlighting common themes and differences. Quiz.
13	Discussion and Review	Review of overall course and in-class discussion of key course topics.
14	Wrap-up and Final Exam	Wrap-up, review of class & in-class written exam.

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]

Preparatory study and review time for this class are 2 hours each. Additional reading on the daily news and related research articles is highly recommended. Three "at home" assignments to be done as indicated in the course schedule. Review of the textbook chapters indicated but the instructor is necessary after each class.

[Textbooks]

"Ethics and Business. An Introduction", second edition. Author: Kevin Gibson. Publisher: Cambridge University Press

[References]

Reading references will be provided in class.

[Grading criteria]

20% Quizzes (2x 10%)

30% Homework (3x 10%)

50% Final examination (1x 50%)

[Changes following student comments]

None.

[Equipment student needs to prepare]

None.

[Others]

None.

[Prerequisite]

None.

MAN200ZA
Organizational Behavior
 Junko Shimazoe
 Credit(s) : 2 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 2~4
 Day/Period : 木 5/Thu.5
 その他属性 : 〈優〉

[Outline and objectives]
 In this course, students learn (1) why modern organizations behave as they do, (2) how the behavior emerges from inside the organization, and (3) how exogenous forces influence formation of the behavior. Since studies of organizations are fundamentally cross-disciplinary, this course approaches organizations from sociological, social psychological, public policy, and psychological perspectives about organizational behavior. For the same reason, examples covered in this course include organizations in the public, private, and non-profit sectors. At the end of this course, students will develop a multifaceted view of their own to explain various problems of modern organizations.

[Goal]
 This course has three goals. First, students are expected to understand the scientific approach to study organizations. For example, what does it mean to study organizational behavior in a scientific manner? What are the objects of studying, organizational structure, performance, routines, or interactions among people and organizations? How is it possible to explain the relationship between behavior of people and organizational behavior? Second, students are expected to understand “organic aspects” of organizations. Organizations are more than machines whose structures and rules repeatedly generate intended results. Members interact with each other and in organizational contexts, from which unintended outcomes may emerge. In addition, organizations are influenced from temporal, geographical, and other environmental conditions. It is important for students to understand organizations as evolving and interactive actors with members and other organizations. Finally, students are expected to become able to explain problems caused by modern organizations in their own words. Regardless of their career after graduation, organizations are everywhere in modern life, and students may encounter minor to major issues caused both in and by organizations. It is essential for students to apply concepts that they learn in this course to organizational behavior that they observe in real life.

[Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?]
 Will be able to gain “DP 1”, “DP 2”, “DP 3”, and “DP 4”.

[Method(s)]
 In each class, I will assign readings to explore the topic of the next class. Finish them before class.
 Active participation in class is required. In this course, we will use lectures by the instructor, audiovisual materials, discussion, and group presentations. The contents covered in class will go beyond assigned readings of the week. In the case of being unable to come to the class, send an e-mail in advance to the lecturer unless the reason is that you are sick.
 In this course, students work together to study and make a presentation about organizational accidents. In the group presentation, explain the probable causes of the accidents and their implications to society using the knowledge from this course. Do not simply repeat what the internet sources, books, or other authorities say about the problems. Build your own explanation based on what you learn in this course.
 Students will receive feedback on their presentations in class.

[Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)]
 なし / No

[Fieldwork in class]
 なし / No

[Schedule] 授業形態 : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction	Introduction
2	Diversity in an Organization	- Diversity and its challenges
3	Individual Differences #1	- Values - Personality
4	Individual Differences #2	- Perception - Work attitudes and behaviors
	Attitudes and Behaviors	- Psychological contract - Relationships at work - OCB
5	Motivating Work Environment	- Job design - Goal setting - Performance appraisals - Performance incentives

6	Motivation	- Maslow’s Hierarchy - EPG theory - Theory X, Theory Y
7	Stress and Emotion at Workplace	- Stress - Stress process - Workplace stressors - Role demands - Outcomes of stress - Individual differences in experiences and managing stress - Organizational approaches to managing stress - Emotions - Emotional contagion - Emotions at work - Emotional labor
8	Groups and Teams	- Groups - Development stages - Cohesion - Problems of too much cohesion - Teams - Team roles - Types of teams - Designing effective teams
9	Decision Making	- Decision making - Ideal process - Reality - Game plan?
10	Organizational Accident and Learning	- Organizational accident - Risk vs. uncertainty - Normal accident - Organizational learning - Barriers to organizational learning - high-reliability organization
11	Power in an Organization Knowledge Management	- Power - Sources and conditions of power - Knowledge management - Intellectual capital - Organizational memory
12	Leadership Organizational Change	- Traits for leadership - Types of leadership - Process and forces of organizational change
13	Organizational Culture	- Organizational culture - Types of organizational culture - Why culture matters - Weakness of the strong culture - Strength of the adaptive culture - Organizational socialization - Outcomes
14	Group Presentations	- Presentations - Wrap-up

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]
 In each class, I will assign readings to explore the topic of the next class. Students have to finish them before they come to the class. Students are also required to understand distributed materials in the class. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

[Textbooks]
 University of Minnesota Libraries. (2017). Organizational Behavior (University of Minnesota Libraries Publishing Edition). Minneapolis: online textbook available at <https://open.lib.umn.edu/organizationalbehavior/>. (Original author removed at request of original publisher.)

[References]
 N/A

[Grading criteria]
 - Class participation (15%)
 - Group presentation (40%)
 - Final paper (45%)

[Changes following student comments]
 N/A

[Equipment student needs to prepare]
 N/A

[Prerequisite]
 None

MAN200ZA

Brand Management

Takamasa Fukuoka

Credit(s) : 2 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 2~4

Day/Period : 月 3/Mon.3

その他属性 : 〈グ〉〈優〉〈実〉

【Outline and objectives】

To explore effective management for building a strong corporate / regional brand. Brand strategy has been receiving attention since the 1980s, after the innovative concept of brand equity became an important part of marketing strategy, helping companies and local governments to survive a competitive marketplace. In this course, students will examine some significant theories by Aaker and Keller, who are eminent researchers in this field. Basic / advanced theories by other researchers will also be explored.

【Goal】

The purpose of this course is to develop an understanding of branding and branding strategy. Students will learn effective ways to build a strong brand.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】
Will be able to gain “DP 1”, “DP 2”, “DP 3”, and “DP 4”.

【Method(s)】

In this course, students will read theories, discuss and analyze some case studies to find out the most suitable processes for building a strong brand, which will be helpful in increasing domestic and overseas sales. Moreover, as a wrap-up, we will also discuss the future outlook of brand management from a strategic viewpoint.

Feedback can be given verbally, non-verbally or in written form.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり / Yes

【Fieldwork in class】

なし / No

【Schedule】 授業形態 : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Course Introduction	Course Introduction
2	What is a Brand?	Learn how the definition of "brand".
3	Brand Equity	Learn how new brand equity is a set of assets.
4	Brand Loyalty	Learn new brand loyalty is one of the brand assets, and key considerations when placing a value on a brand that is to be bought or sold.
5	Brand Awareness	Learn new brand awareness and the strength of a brand's presence in the consumer's mind.
6	Perceived Quality	Learn about how new perceived quality is a brand association that is elevated to the status of a brand asset.
7	Brand Associations	Learn how new brand equity is supported in great part by associations that consumers make with a brand.
8	Name, Symbol and Slogan	Learn how the new name, symbol and slogan are the basic core indicators of a brand.
9	Brand Extension	Learn about line extensions, brand stretching, brand extensions, and co-branding.
10	Brand Identity	Learn the definition of brand identity and related concepts.
11	Brand Personality	Learn how new brand personality is a set of human characteristics associated with a given brand.
12	Brand Strategies over Time	Learn the reason why consistency is good.
13	Managing Brand Systems	Learn how to manage brands in a complex environment.
14	Review and Final Exam	Review of what students have learned from this course and final exam.

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

As instructed, students will have to read chapters of the coursebook and also other materials for each class. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

【Textbooks】

No textbook will be used. Handouts will be provided by the instructor.

【References】

Aaker, D.A (1991) *Managing Brand Equity: Capitalizing on the Value of Brand Name*, Free press.

Aaker, D.A (1996) *Building Strong Brand*, Free press.

Keller, K.L (1998) *Strategic Brand Management: Building, Measuring, and Managing Brand Equity*, Prentice-Hall, Pearson Education.

【Grading criteria】

Class participation (20%)

Assignment (20%)

Final exam (60%)

【Changes following student comments】

The course structure and content was favorably evaluated.

【Others】

This course is conducted based on academic knowledge and the lecturer's global business experience.

【Prerequisite】

None

MAN200ZA
Marketing Research
 Kayhan Tajeddini
 Credit(s) : 2 | Semester : 秋学期授業/Fall | Year : 2~4
 Day/Period : 木 5/Thu.5
 その他属性 : 〈優〉

[Outline and objectives]

This course will provide an introduction to market research as a business decision-making tool. The primary goal of this course is to equip students with an understanding of how market research can help them make business decisions and how they can transform research findings into actionable business insights. The course also aims to help students gain the ability to evaluate and interpret research designed and conducted by outside providers. During the course, we will discuss a wide range of research methods, including in-depth interviews, focus groups, surveys and modeling, and their application to the services and non-profit sectors. We will also discuss data sources and data collection methods. Students will have the opportunity to define a business problem, develop a research plan, collect and analyze data and present findings and their implications as a class project.

This course aims to help students:

- (1) Discuss what market research is and how, why, and when it's useful.
- (2) Identify a range of market research tools (e.g., focus groups, interviews, surveys), consider their strengths and weaknesses, and discuss when it would (and wouldn't) make sense to use each.
- (3) Use these tools to solve business problems and craft business strategies.

[Goal]

At the completion of this course, students are expected to be able to:

- (1) Understand the importance of marketing research
- (2) Formulate a research problem
- (3) Design a questionnaire
- (4) Collect respondent data
- (5) Enter respondent data into a computerized spreadsheet
- (6) Analyze respondent data with statistical software
- (7) Write a research report
- (8) Make a in-class presentation about the findings

[Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?]

Will be able to gain "DP 1", "DP 2", "DP 3", and "DP 4".

[Method(s)]

The course will be lecture, case, and discussion based. The assignments are designed to help students build skills that cover scientific, information, and communication literacy. Effort will be made to make the class both challenging and exciting.

We will use a combination of text and cases to explore and apply the topics. It is vitally important that you come to class prepared and ready to discuss the topics. If you read and prepare the materials you will learn more during the discussions and will be successful at the assignments.

Regarding the presentation and case studies, it will be explained in the first class with all guidelines, expectations and standards. The strengths and weaknesses of each presentation and reports will be discussed individually.

[Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)]

あり / Yes

[Fieldwork in class]

なし / No

[Schedule] 授業形態 : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction	Introduction
2	Overview of Marketing Research Process	This session gives an overview of the process of marketing research and an introduction on research design.
3	Secondary Data and Research Question	This session explains the role of secondary data and how to clarify research question from secondary data.
4	Measurement	This session discusses measurement and measurement scales.
5	Data Gathering Instrument	This session introduces two important groups of data gathering instrument: (1) Survey and interview (2) Questionnaire.
6	Sample	This session discusses sample method and sample size.

7	Midterm Exam Basic Statistics	Midterm exam This session offers a crash course in basic statistics useful in marketing research.
8	Statistical Software	This session offers a crash course in how to use SPSS effectively.
9	Analyzing and Interpreting Data	This session introduces methods in analyzing and interpreting data: (1) Preparation and description (2) Exploring and displaying.
10	Analyzing and Interpreting Data	This is a follow up session of week 9 and introduces methods in analyzing and interpreting data: (1) Hypothesis testing (2) Measures of association.
11	Presenting Findings	This session discusses how to present findings by oral presentation and written report.
12	Review and Case Study	This session reviews the course contents by studying a complete case.
13	Student Presentation	Reserved for students to present their work.
14	Course Review Final Written Exam & Wrap-up	Course Review Final written exam

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]

Attendance is required at all scheduled class sessions, presentation and examinations. Students are expected to conduct their own project, write a report, and make a presentation. The project should begin after lecture 3. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

[Textbooks]

- Naresh K. Malhotra (2015) *Essentials of Marketing Research: A Hands-On Orientation*, Prentice Hall, New Jersey.

- Alvin C. Burns, Ann Veeck, Ronald F. Bush (2016) *Marketing Research (8th Edition)*, Prentice Hall, New Jersey.

Students will be advised in the first week on whether they need to purchase the textbook(s).

[References]

Burns A. C. & Bush, R. F. (2014): *Marketing Research (7th Edition)* Prentice Hall, New Jersey.

[Grading criteria]

Quiz: 20%

Presentation: 20%

Midterm Exam: 20%

Final Exam: 40%

[Changes following student comments]

Not applicable

[Others]

This course is self-contained. Basic knowledge in statistics is desirable but not necessary.

[Prerequisite]

None

TRS200ZA

Tourism Development in Japan

John Melvin

Credit(s) : 2 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 2~4

Day/Period : 月 2/Mon.2

その他属性 : 〈優〉〈実〉

[Outline and objectives]

Up until the end of 2019, inbound tourism to Japan was experiencing unparalleled growth. An increasingly diverse range of tourists had brought opportunities and challenges to tourism managers, yet from 2020 there has been a refocus on domestic tourism due to the global coronavirus pandemic.

After a consideration of historical tourism development, this course will examine a range of topical issues, including relations with South Korea, the Tokyo Olympics in 2021 and the impact of UNESCO World Heritage Site designation of Mt. Fuji. We will analyze different management and marketing approaches of tourism in different prefectures. We will consider the factors behind the remarkable recovery of inbound tourism after the 2011 Great East Japan Earthquake and how Japanese tourism may develop in 2023 and beyond.

[Goal]

Upon completion of this course students should be able to:

- 1) Understand how tourism in Japan has developed into its present form
- 2) Appreciate some of the key stakeholders involved in planning tourism in Japan
- 3) Consider destination management and how to harness the social and economic potential of tourism for revitalizing Japan at prefectural level
- 4) Critically analyze prefectural and national government tourism management and marketing campaigns

[Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?]

Will be able to gain "DP 1", "DP 2", "DP 3", and "DP 4".

[Method(s)]

The course is primarily lecture-based, though students will have a number of opportunities to have group and class discussions. A range of case studies can help students consolidate their learning by illustrating the lecture content with real examples.

In groups, students will conduct an in-depth analysis of tourism in a particular prefecture, which will provide an opportunity to apply the theories and concepts from the lectures and enhance understanding of key issues.

Assignments will be submitted via Hoppii; insightful answers will be shared in class to facilitate discussion.

[Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)]

あり / Yes

[Fieldwork in class]

なし / No

[Schedule] 授業形態 : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction to the Course Content and Class Format	Introduction to the course content and class format
2	The Roots of Japanese Travel Culture and Tourism Development	Exploring the historical development and evolution of the tourism sector in Japan
3	Destination Management	Analysis of destination management theory, and an introduction to some of the key organizations involved in tourism management and planning in Japan
4	Tourism as Economic and Social Lifeline	Exploring destination management and tourism sustainability. Also the economic potential of tourism for local and regional development 'off the beaten track' to tackle serious demographic problems.
5	Tourism Marketing	Consider different approaches to tourism marketing and analyzing examples of prefectural marketing
6	Japan and Asia. Case Study: Japan and South Korea	Examining the current & historical connections with some of Japan's close neighbors, with a particular focus on South Korea. We will also consider how Japan is differentiating itself amid growing international competition for inbound tourists.

7	Tourism Resources: Events	Analysing how Japan's rich event calendar provides competitive advantage at local and international levels
8	Tourism Resources: Natural, Built and Cultural	Analyzing the tangible and intangible resources in Japan, with a particular focus on World Heritage Sites and how they are utilized for tourism purposes
9	Inbound Tourism	Historical and current trends in inbound tourism. Also a consideration of the management challenges of varying motivations and behaviors of different visitor groups.
10	Case Study	In-depth focus on sustainable destination management through a case study
11	Disaster Management and Recovery	Analyzing how destinations can manage disasters. The response to the Great East Japan earthquake in 2011 will be considered, as will the potential recovery from the coronavirus pandemic.
12	Group Presentations	Presentations on tourism in selected prefectures
13	Tourism Focus: Niche Tourism	Considering different forms of tourism including ecotourism, gastronomic tourism and cultural tourism related to anime, movies and TV shows
14	Examination & Wrap-up	End of semester examination & course review

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]

Students will be assigned reading as preparation for classes. Students are expected to download the lecture slides to preview before class. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

[Textbooks]

There is no set textbook. Weekly handouts and reading materials will be distributed in class and/or available via the online class management page.

[References]

Various reference books are available in the library and in the GIS Reference Room, including:
 Funck, C. and Cooper, M. (2013) *Japanese Tourism: Spaces, Places and Structures*. Berghahn: New York
 Sharpley, R. and Kato, K. (2020) *Tourism Development in Japan: Themes, Issues and Challenges (Contemporary Geographies of Leisure, Tourism and Mobility)*. Routledge: London

[Grading criteria]

1. Class participation & homework assignments (30%)
2. Group project (30%)
3. Exam (40%)

Students are expected to complete all the assigned reading and homework assignments to enable them to get the most benefit from the lectures. To improve students' group-working skills and encourage and reward cooperation and hard work, the group project is assessed on an individual basis.

[Changes following student comments]

In light of greater interest and awareness, the course will have a greater focus on sustainable tourism management.

[Equipment student needs to prepare]

N/A

[Others]

I can draw from my experience in organizing events and as marketing director of a tourism business in the UK to help provide students with examples and to illustrate issues. Although not essential, students are encouraged to have taken (or concurrently take) the 100-level 'Introduction to Tourism Studies' course.

[Prerequisite]

None.

<p>MAN200ZA</p> <p>General Topics II: Japanese Taxation</p> <p>Toshiki Onozuka</p> <p>Credit(s) : 2 Semester : 春学期授業/Spring Year : 2~4</p> <p>Day/Period : 木 2/Thu.2</p> <p>その他属性 : 〈優〉</p> <p>[Outline and objectives] Taxation plays a crucial role in the functioning of the modern state. Tax revenues pay for public services, e.g., education, roads, defense, welfare, water supply and so on. People cannot live a healthy and cultured life without public services funded by tax revenues. In this course, we study such taxation in Japan. In the first half of this course students will study the basics of taxation from various angles; 1) what is the history of taxation? 2) what is the structure of taxation? 3) what type of taxes do we have? 4) who bears the burden of tax? Then, in the latter half of this course, with the basic knowledge acquired so far, they will study the real social issues involved in taxation, which include; 1) what is the difference between the tax evasion and the tax avoidance? 2) what is the qualified invoice system for consumption tax that the government plans to introduce from October 2023? 3) what is “the 100-million-yen wall” problem? The lecturer will explain the above items from the general point of view and in a simple and easy manner. Students will also study the basic terminology and mechanics of how corporate and personal taxation is calculated for a basic understanding of taxation.</p> <p>[Goal] By the end of this course, students should have a fundamental mastery of: a.Basic structure of Japanese taxation systems b.History of Japanese taxation vis-a-vis other countries c.Current issues surrounding Japanese taxation d.Global issues surrounding taxation The knowledge they acquire through this course will help them to develop the ability to identify and solve social problems they may encounter, and provides the means to solve them.</p> <p>[Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?] Will be able to gain “DP 1”, “DP 2” and “DP 4”.</p> <p>[Method(s)] During the course, each class is composed of a partial lecture on key concepts and in-class exercises including quizzes, small group discussions and class presentations to help students learn and apply the concepts. Students will obtain feedback through Hoppii when they submit their work.</p> <p>[Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)] あり / Yes</p> <p>[Fieldwork in class] なし / No</p> <p>[Schedule] 授業形態 : 対面/face to face</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>No.</th> <th>Theme</th> <th>Contents</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>History of Taxation</td> <td>Students will learn the brief global history of taxation from the earliest taxes in Mesopotamia to the present day taxation. Also, they will discuss the history of taxation in Japan, focusing on how it has changed after World War II. Through this study, they will learn the meaning of taxes to us, i.e., “Is tax for us an obligation, a donation, a right, or a membership fee?”</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>Overview of Taxation in Japan</td> <td>Students will look at the overall picture of Japanese taxation. The items to be learnt are; 1) the underlying principles of taxation 2) the type of tax 3) the structure of taxation 4) historical trend of national revenues and expenditures. 5) Japan's tax burden ratio in comparison with other countries.</td> </tr> </tbody> </table>	No.	Theme	Contents	1	History of Taxation	Students will learn the brief global history of taxation from the earliest taxes in Mesopotamia to the present day taxation. Also, they will discuss the history of taxation in Japan, focusing on how it has changed after World War II. Through this study, they will learn the meaning of taxes to us, i.e., “Is tax for us an obligation, a donation, a right, or a membership fee?”	2	Overview of Taxation in Japan	Students will look at the overall picture of Japanese taxation. The items to be learnt are; 1) the underlying principles of taxation 2) the type of tax 3) the structure of taxation 4) historical trend of national revenues and expenditures. 5) Japan's tax burden ratio in comparison with other countries.	<p>3</p> <p>Formal and Effective Incidence of Tax</p> <p>4</p> <p>Introduction to Income Tax</p> <p>5</p> <p>Introduction to Corporate Tax</p> <p>6</p> <p>Introduction to Consumption Tax</p> <p>7</p> <p>Introduction to Inheritance Tax and Other Tax-related Topics</p> <p>8</p> <p>Review and Mid-term Examination</p> <p>9</p> <p>Tax Evasion and Tax Avoidance (1)</p> <p>10</p> <p>Tax Evasion and Tax Avoidance (2)</p>	<p>Students will study who bears the tax burden from legal and economic standpoints. The economic perspective of taxation distinguishes “formal” and “effective” (or economic) incidences of tax. While formal incidence is a matter of who is legally liable to pay tax, effective incidence concerns the more fundamental question of who ultimately bears the burden of tax from a micro economic view point.</p> <p>Students will study income tax (所得税). There are 10 types of income subject to income tax, which are wage income, interest income, dividend income, etc. We will briefly look at how to calculate tax for each income. Then, two tax return filing processes will be explained, which are; 1) the tax return by a company employee, and 2) the tax return by a sole proprietorship (個人事業主).</p> <p>Students will study corporate tax (法人税). The items to be covered are; 1) what kind of tax is corporate tax? 2) who is legally liable for corporate tax? 3) what is corporate tax levied on? 4) Is the Japan's statutory tax rate competitive with other countries? 5) what is the tax return filing process?</p> <p>Students will study the general consumption tax (一般消費税). The items to be covered are; 1) what is this tax? 2) what is the history of this tax? 3) Who is liable for this tax, and who pays it to the government? 4) what are tax exempt businesses (免税事業) ?</p> <p>Students will study inheritance tax (相続税) and other tax related topics. The other tax related topics include 1) tax audits by the national tax agency (国税局による税務調査) 2) tax accountant qualification (税理士資格) 3) the “Furusato” tax (ふるさと納税).</p> <p>Review and in-class written examination.</p> <p>Tax evasion (脱税) is an illegal act that is against the law. On the other hand, tax avoidance (節税) is legal as long as it is done within the limits of the law. However, there are times when the line between tax evasion and tax avoidance is vague. Using a simple case of a tax return filing (税務申告) by a small family corporation, we will confirm the difference between tax evasion and tax avoidance.</p> <p>The content of the class is the same as class #9. In this class, our focus will shift from a domestic small corporation to a large corporation which is running its business globally. The points to be covered are what it is doing to reduce the amount of tax it has to pay within legal means. Similar to class #9, a simple case will be used to understand the tax planning activities by a global corporation.</p>
No.	Theme	Contents									
1	History of Taxation	Students will learn the brief global history of taxation from the earliest taxes in Mesopotamia to the present day taxation. Also, they will discuss the history of taxation in Japan, focusing on how it has changed after World War II. Through this study, they will learn the meaning of taxes to us, i.e., “Is tax for us an obligation, a donation, a right, or a membership fee?”									
2	Overview of Taxation in Japan	Students will look at the overall picture of Japanese taxation. The items to be learnt are; 1) the underlying principles of taxation 2) the type of tax 3) the structure of taxation 4) historical trend of national revenues and expenditures. 5) Japan's tax burden ratio in comparison with other countries.									

11	Invoice System for Consumption Tax	Effective October 1, 2023, the invoice system will be introduced for the general consumption tax (一般消費税). The implementation of the invoice system puts tax exempt businesses (免税事業) at a financial disadvantage. Thus, tax-exempt businesses have been campaigning against it for the past two years. In this class, in the context of the history of the consumption tax, we will learn why this causes such an opposition movement.
12	The Wealth Disparity and Tax	Globally, the gap between rich and poor is widening. As Thomas Piketty, a French economist, points out, this disparity is expected to widen further in the future. With this trend, we will look at the situation in Japan, and think about the way to narrow the gap through taxation.
13	Discussion and Review.	We will review the contents learnt in the classes, and wrap up the important points through discussion before the final examination.
14	Final Examination and Wrap-up.	Wrap-up and in-class written examination.

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]

- a. Readings – Students are expected to read the reading materials carefully and to prepare for lectures.
 - b. Short assignments – Students are at times given assignments to strengthen their understanding of the application of the concepts. They are expected to hand in their homework in the following class. In the case of absence, they must hand in homework during the next class.
 - c. Case study analysis – Students form small groups to make a presentation on a case study based on specific theories or concepts discussed in class. Specific guidelines will be given in class.
- Preparatory study and review time for each class is two hours each.

[Textbooks]

No textbooks will be used. Handouts and reading materials will be provided by the lecturer.

[References]

Smith, Stephen (2011), Taxation: A Very Short Introduction. London: OXFORD
Hama, Yuko (2020), Why do people pay taxes? Tokyo: Toyo Keizai Shinpo-sha
Piketty, Thomas (2014), Capital in the 21st Century. London: Harvard University Press
Scheve, Kenneth (2016), Taxing the Rich. New Jersey: Princeton University Press

[Grading criteria]

- a. Attitude 10%
- b. Assignments 15%*
- c. Case Study Analysis 15%
- d. Mid-term Examination 30%
- e. Final Examination 30%

*The two lowest graded assignments are not included into the calculation of the final grade.

[Changes following student comments]

Not applicable.

[Equipment student needs to prepare]

None.

[Others]

My business experience at international companies will be taught in part in class.

[Prerequisite]

None.

EDU200ZA

English Teaching in Primary School

Machiko Kobori

Credit(s) : 2 | Semester : 秋学期授業/Fall | Year : 2~4
Day/Period : 木 3/Thu.3

その他属性 : 〈グ〉〈優〉

【Outline and objectives】

This course is for students intending to teach English to young learners as primary pupils. It provides an overview of second language learning (SLL) for such young learners, with reference to primary modern foreign languages (PMFL), in particular, English as a foreign language (EFL) within the global context. Its purpose is to give an insight into a range of SLL theories to primary pupils from psychological, educational and linguistic perspectives. It also explores modern second language (L2) pedagogy for them with consideration to make consistency in L2 education from the primary to secondary levels. It looks at practical issues of their SLL, such as the global movement towards primary L2 education, differences in teaching and assessing primary pupils and other L2 learners at higher levels of education, etc. Students will be encouraged to develop their own perspectives on the teaching of English in primary school.

【Goal】

Upon completion of this course, students should be able to do the following:

1. Understand the core issues of SLL theories of young learners.
2. Explain different perspectives of the core issues of L2 education in primary school.
3. Examine the connection between the core issues of young learners' SLL and L2 pedagogy in primary school.
4. Utilise the theoretical knowledge of L2 education for young learners to give an insight into cultivating L2 pedagogy in primary school.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain “DP 1”, “DP 2”, “DP 3”, and “DP 4”.

【Method(s)】

A presentation, final exam and writing assignment are required for the completion of this course; students are required to choose one of the course topics, make a presentation and submit a writing assignment on it. Submission of the final requirements and feedback will be on the learning management systems (HOPPII, etc.).

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり / Yes

【Fieldwork in class】

なし / No

【Schedule】 授業形態：対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction	Introduction
2	Rationales of English Teaching in Primary School	Issues in the placement of primary modern foreign languages (PMFL) in the primary curriculum
3	SLL of Young Learners (1)	Issues in learning and development
4	SLL of Young Learners (2)	Issues in learning languages
5	SLL of Young Learners (3)	Issues in teaching four skills: the spoken language
6	SLL of Young Learners (4)	Issues in teaching four skills: words
7	SLL of Young Learners (5)	Issues in teaching four skills: grammar
8	Primary L2 Education (1)	Issues in teaching learning to learn
9	Primary L2 Education (2)	Issues in pedagogical approaches for primary pupils
10	Primary L2 Education (3)	Issues in assessing primary pupils
11	Presentation (1)	Preparation for presentation: checking contents, materials, procedure and performance
12	Presentation (2)	Discuss and review (1)
13	Presentation (3)	Discuss and review (2)
14	Consolidation of English Teaching in Primary School	Final exam and review

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

1. Every week before class, students are required to comprehend the assigned readings and be ready for group discussion on related topics in class.

2. Students are required to complete daily tasks by choosing the related topics of lectures.

3. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

【Textbooks】

1. Cameron, L. (2001). *Teaching languages to young learners*. Cambridge University Press.

【References】

1. Annamaria Pinter. (2006). *Teaching young language learners*. Oxford University Press.
2. Coyle, D., Hood, P., & Marsh, D. (2010). *CLIL: Content and language integrated learning* (1st ed.). Cambridge University Press.
3. Curtain, H. & Dahlberg, A. C. (2005). *Languages and children: Making the match*. Pearson.
4. Jalongo, M. *Young children and picture books*. (2004). National Association for the Education of Young Children.
5. Ellis, G., Brewster, J., & Girard, D. (2002). *The primary English teacher's guide*. (New). Penguin English Guides.
6. Nikolov, M. (2009). *Early learning of modern foreign languages: Process and outcomes*. Oxford University Press.
7. VanPatten, B., Smith, M., & Benati, A. (2020). *Key questions in second language acquisition*. Cambridge UP.
8. 『創造的な学びを育む初等英語教育—時代を超えて生き続ける理論と実践—』(2022) 津田塾大学言語文化研究所早期英語教育研究会 (編) 朝日出版社.
9. 文部科学省 (2017) 『小学校学習指導要領 (平成 29 年告示) 解説外国語活動・外国語編』 開隆堂.

【Grading criteria】

Evaluation will be based on:

1. Class participation (10%)
2. Presentation (30%)
3. Writing assignment (30%)
4. Final Exam (30%)

【Changes following student comments】

More frequent and detailed notifications regarding class activities and tasks will be given in order to 1) avoid causing any difficulties in getting access to important information about the course, and 2) allow students to prepare for class discussions, final requirements, etc.

【Equipment student needs to prepare】

Use a laptop in class, get lecture materials, etc. in HOPPII.

【Others】

Recommended to complete at least one of the courses presented below:

1. TESOL I
2. Second Language Acquisition
3. Comparative Education
4. Language Education in the Digital Era

【Prerequisites】

none.

POL200ZA

Japanese Politics

Heiko Lang

Credit(s) : 2 | Semester : 秋学期授業/Fall | Year : 2~4
Day/Period : 木 1/Thu.1

その他属性 : 〈優〉

【Outline and objectives】

This course is designed as an introduction to Japanese politics. The first part traces the historic development of Japan's politics since the Second World War, focusing on the main turning-points and choices. In the second part, we look at the principal actors and structures that inform Japan's political system. The third part will focus on contemporary political issues.

【Goal】

Students who have completed this course will be able to
-understand the basics of Japan's political system,
-understand the main issues in contemporary Japanese politics,
-develop informed opinions on these issues, and
-critically assess the policies taken by the Japanese Government in response to these issues.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain "DP 1", "DP 2", "DP 3", and "DP 4".

【Method(s)】

The course will be based on a combination of lectures and discussion. You will be encouraged to engage in critical debate, thorough textual analysis, and group work.

In each class, a lecture by the instructor will introduce the main aspects of the session's topic. This will be followed by discussion activities which will give you the chance to ask questions and share your opinions with the class.

You will be given timely feedback on your contributions in class or through Hoppii.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり / Yes

【Fieldwork in class】

なし / No

【Schedule】 授業形態 : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction	Introducing the main issues in Japanese politics
2	Occupation Reforms and Constitution	Analyzing the emergence of Japan's post-war political system
3	Historic Overview I	Analyzing the turning points in Japanese politics from the early postwar period to the end of the Cold War
4	Historic Overview II	Analyzing the turning points in Japanese politics since the 1990s
5	Diet and Electoral System	Analyzing the electoral system and the workings of the Japanese Parliament
6	Political Parties	Analyzing the LDP and other parties
7	Bureaucracy and Prime Minister	Analyzing the roles of public servants
8	Review and Mid-Term Exam	Exam and summary of the course content so far
9	Civil Society	Analyzing the influence of non-state actors on Japanese politics
10	War Memory and Responsibility	Analyzing the influence of history on Japanese politics
11	Immigration	Analyzing policies regarding immigration and other demographic challenges
12	National Security and Foreign Policy	Analyzing recent changes in Japan's foreign policy
13	Environmental Protection	Analyzing the role of environmental issues in Japanese politics
14	Conclusion	Wrap-up of the course content and discussion of challenges for Japan's politics in the near future

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

Preparatory study and review time for this class are 2 hours each week.

Students are expected to closely read the assigned texts before class, submit discussion points on the readings before each class, and to engage in discussion.

【Textbooks】

The weekly readings will mainly rely on the following two books:

- Neary, Ian (2019): *The State and Politics in Japan*, Cambridge etc.: Polity Press- Pekkanen, Robert J. and Pekkanen, Saadia M. (eds.) (2022): *The Oxford Handbook of Japanese Politics*, Oxford: Oxford University Press.

【References】

A detailed list of required and recommended readings, and further materials for reference, will be distributed in class.

All required texts will be uploaded to the online course management system.

【Grading criteria】

Participation and discussion: 30%

Mid-term exam: 30%

Final exam: 40%

In this course, 30% of your grade will depend on your participation and contribution to the class discussion.

You will also be required to submit two essays; this will form 70% of your grade: An in-class essay in the 8th week, and a take-home essay at the end of the semester.

The topics of the essays and a detailed instruction on how to write them will be given in class. You will be given timely feedback.

【Changes following student comments】

(not applicable)

【Others】

Students who have completed General Topics II: Japanese Politics can not take this course.

【Prerequisite】

None.

POL200ZA

Religion and Politics

Christopher Michael Kavanagh

Credit(s) : 2 | Semester : 秋学期授業/Fall | Year : 2~4
Day/Period : 火 1/Tue.1

その他属性 : 〈優〉

[Outline and objectives]

This course is designed to introduce students to the complex relationships between religion and politics drawing on cross-cultural case studies that range from the premodern to the contemporary period. The course takes a cross-disciplinary approach examining research from anthropology, sociology, psychology, and history. "Religion," as defined in the course, refers not only to doctrinal beliefs and formal institutions but also to informal supernatural beliefs, ritual practices, and the various subcultures and social aspects associated with religious communities. The principal aim of the course is to explore how religions as cultural systems interact and affect political systems and nation-states. By the end of the course, students will have a firm understanding of the complex relationship that religious groups, institutions, and larger traditions have with political systems.

[Goal]

By the end of the course, students will be able to: (1) analyze and discuss the roles that religion has played historically and cross-culturally in politics and public life; (2) understand the complex and diverse ways that religion and politics can interact; (3) critically evaluate scholarly research and media accounts that explore issues of religion and politics; (4) compare and contrast various theoretical models of religion and politics and the associated arguments.

[Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?]

Will be able to gain "DP 1", "DP 2", "DP 3", and "DP 4".

[Method(s)]

This courses will be taught primarily through a combination of lectures, class discussion, and small group discussion. Each class will include a lecture followed by a class/group discussion based on related readings. Students will also need to complete reaction papers assigned to help reflect on the topics of selected classes. Students will also be required to select a topic and prepare an oral presentation on one of the topics covered during the classes. Presentations should be submitted with a script and students will receive written feedback.

[Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)]

あり / Yes

[Fieldwork in class]

なし / No

[Schedule] 授業形態 : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Religion and Politics: Course Introduction and Overview	Religion and Politics: Course Introduction and Overview
2	Defining Religion and Politics	An examination of the debates surrounding how to define religion and politics and the associated theoretical approaches.
3	The evolutionary role of religion in society	Exploring the role of religion in human societies from a cultural evolutionary perspective. Discussing its potential role in enabling large scale cooperation.
4	Religion and the State: Compatibility, Conflict, and Convergence	An examination of the varied relationships between religions and states, drawing on historical and contemporary examples.
5	Secularization Thesis	A critical assessment of the secularization thesis and the evidence presented for and against the position.
6	Resurgent Religiosity	An examination of contemporary claims of resurgent religiosity and growth in alternative religious beliefs.
7	Mid-term Exam & Course Review	Mid-term Exam and Course Review
8	Religious Identity & Intergroup Conflict	Exploring the role of religious identity in conflicts through two case studies: 1. Buddhist nationalism and Hindu minority identities in Sri Lanka. 2. The role of Catholic & Protestant identity in the Northern Irish 'Troubles'

9	Religious Activism and Social Protest	Exploring the ability for religion to function as a source of activism including as an anti-state counter-hegemonic, emancipatory force.
10	Online Gurus, Conspiracy Cults, & New Political Movements	Reviewing new interactions between religion and politics in the contemporary world, especially in the online sphere.
11	State Religion & War	Examining the nature of state religions through a case study of State Shinto & Buddhist institutions involvement in WW2.
12	Religious Extremism & Terrorism	A critical examination of the role that religious doctrines and personal beliefs play in terrorism.
13	Religion and Social Issues: Evolution, Abortion, and Same-Sex Marriage	Investigating the role that religion plays in controversial social issues. Focusing on debates surrounding the teaching of evolution, abortion, and same sex marriage.
14	Final Exam & Wrap-up	Course wrap up and final exam

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]

Students are expected to complete their weekly reading assignments and reaction papers, participate in class discussions and prepare a 15-20 minute oral presentation on a topic of their choice. For selected weeks students will be asked to summarise key readings. Preparatory study/reading and review time for this class is estimated to be at least 4 hours per week.

[Textbooks]

All readings will be distributed by the instructor.

[References]

Haynes, J. (Ed.). (2008). Routledge handbook of religion and politics. Routledge.

Fox, J. (2018). An introduction to religion and politics: Theory and practice. Routledge.

These books are useful references but not necessary to purchase.

[Grading criteria]

Presentation 20%

Mid-term exam 25%

Final exam 25%

Weekly in-class participation 15%

Reaction Papers & Homework 15%

[Changes following student comments]

To help avoid confusion and facilitate discussion all students will be tasked with reading the same core readings each week and then provided with additional optional readings. Some additional opportunities will be provided to discuss how to structure answers and presentations ahead of exams so students can improve their techniques.

[Equipment student needs to prepare]

Students do not need any specialist equipment beyond access to a PC/laptop & the internet. Students will need to complete readings before each class and submit reaction papers online via Google Classroom. At various points in the semester, students should be prepared to participate in discussions of ideas and concepts covered in readings.

[Prerequisite]

None.

ECN200ZA

Development Economies

Augusto Ricardo Delgado Narro

Credit(s) : 2 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 2~4

Day/Period : 水 2/Wed.2

その他属性 : 〈優〉

[Outline and objectives]

This is an introductory course to the field of Economic Development. This course aims to understand the main issues of development economics, analyze the economic problems of developing countries, and discuss strategies for achieving inclusive growth and reducing poverty and extreme inequality. This understanding will help the students answer key questions: Why do some countries achieve high levels of economic development and others do not? What are the policies governments can implement to change the growth path of their countries? This course will start from a “macro” perspective and later introduce a “micro” viewpoint of the problems to explore the social-economic factors that affect economic development. This course will cover economic growth, agricultural development, food security, population, education, migration, poverty reduction, informality, and more.

[Goal]

- Understand: (1) why some emerging countries have been successful in catching up with rich countries in per capita income, while others are left behind, (2) why half of humanity remains poor, and many of them are living with less than \$2 per day, and (3) why environmental degradation and resource exploitation are commonly associated with income growth.
- Understand: what can be done to promote development through policies. Learn to analyze the economic and social impacts of specific initiatives.
- Use data to conduct development analyses such as growth diagnostics, poverty assessments, impact analysis of development projects.
- Encourage students to explore alternative paths of economic development that promote the well-being of individuals and communities.

[Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?]
Will be able to gain “DP 1”, “DP 2”, “DP 3”, and “DP 4”.

[Method(s)]

The course will be mainly conducted through lectures where we will study theory and applications. Students are encouraged and expected to participate in classes. Depending on the number of students we may have presentations or a final essay. Feedback will be given to students at the end of each presentation/essay. Please note that the teaching approach may vary according to the established sanitation level and following the university rules in this regard.

[Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)]

あり / Yes

[Fieldwork in class]

なし / No

[Schedule] 授業形態 : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction and Overview	Introduction and Overview
2	Growth and Development	-Distribution and Economic Growth: Theory and Evidence. -Inequality and growth: Theory and evidence.
3	Theory 01. Exogenous Economic Growth Theory	What makes countries grow? What are some of the characteristics of high growth economies?. Harrod-Domar and Solow Neoclassical Growth Model.
4	Theory 02. Endogenous Economic Growth Theory	What are the critics to the Exogenous Growth Theory models? Models: AK, Cass, Romer, and Lucas growth theories.
5	Theory 03. Non-classical Economic Growth Theory	What are the critics to the Endogenous Growth Theory models? Demand side growth theories. Trade and economic growth.
6	Theory 04. Economic Convergence	What is economic convergence? Absolute Economic Convergence. Relative Economic Convergence. Clubs of Convergence. Middle-Income Trap.

7	Review & Midterm Exam	Assess students' understanding of the 1st half of course materials (Week 1-6)
8	Inequality and Poverty	Definitions of inequality. Income mobility: Theory and evidence. Social welfare: Theory and evidence. How is inequality related to poverty and development?
9	Food	Definitions of nutrition?. Nutrition-based poverty trap. Hidden traps.
10	Population	Relationship between population and poverty. Population and development. Causes of rapid population growth, the effects of growth population and policy implications.
11	Education	Education and development economics. Impact of education over the income inequality and poverty.
12	Health	Health and development economics. Impact of health over the income inequality and poverty. Health systems and conditions in developing countries.
13	Informality	Definition of Informality, Shadow Economy, and Hybrid Economy.
14	Final Exam & Wrap-up	Assess students' understanding of the 2nd half of course materials (Week 8-13)

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]

Students are expected to read the assigned materials (text-book/articles/cases) and to participate in class discussion. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

[Textbooks]

Ray, Debraj. (1998), Development Economics, Princeton University Press.

I highly recommend to buy this book for better understanding and complement our classes.

[References]

Additional references will be provided in the class.

[Grading criteria]

- Class participation: 20%*
- Essay or Presentation: 20%**
- Midterm exam: 30%
- Final exam: 30%

* Class participation includes class attendance and participation.

** To be decided in class.

[Changes following student comments]

Students are encouraged to provide feedback and suggestion regarding the course. Constructive suggestion is appreciated and may be taken for course adjustment.

[Prerequisite]

None

SES200ZA

Environment and Development

Gregory Toth

Credit(s) : 2 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 2~4

Day/Period : 金 6/Fri.6

その他属性 : 〈優〉

[Outline and objectives]

We will first define “development” and “environment” from the most prominent perspectives (noting theory) and trace their formations, the overlapping portions of which will guide our exploration of related ethics and norms and their translation into international law. From this base, we will analyze the intersection of environment and development in various sectors and international efforts. After noting detractions, we will look forward towards the continued evolution (including potential divergence and convergence) of these concepts.

[Goal]

The purpose of this course is to introduce students to topics related to environment and development, including the contextual background and recent trends. Students will develop critical thinking and policy analysis skills through discussion of the various topics, as well as understandings of elements related to: international relations, international law, sustainability, socio-economic and political division, and related theory and philosophy.

[Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?]

Will be able to gain “DP 1”, “DP 2”, “DP 3” and “DP 4”.

[Method(s)]

The course follows a lecture-discussion method. After the material for each unit has been introduced, students will have an opportunity to ask questions and make comments about the material. Feedback will be provided directly during discussion sessions in the form of leading (Socratic-esque) questions and in summaries of the common trends in the completed assignments. Individualized feedback will be given in response to final assignment and upon request.

[Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)]

あり / Yes

[Fieldwork in class]

なし / No

[Schedule] 授業形態 : オンライン/online

No.	Theme	Contents
1	Introduction	Introduction
2	Development Theory	Classical / contemporary in the context of the National, Regional, and International
3	The Environment	Values/Valuation, Eastern/Western perspectives, converging ethics
4	Environmental Law	Philosophical underpinnings, North/South perspectives, converging norms
5	Sustainable Development	United Nations et al., and implementing the precautionary principle
6	Official Development Assistance	Premises and politics, USAID, JICA, etc.
7	Global Institutions	World Bank, International Monetary Fund, etc.
8	Foreign Direct Investment	Purposes, pluses, and protections
9	Trade and Development	World Trade Organization, environmental impacts and protections
10	Agriculture and Development	World Food Program, Food and Agriculture Organization, sustainable technology, etc.
11	Anti-globalization and Post-development	Beyond detraction, proposed alternatives, theories, successes, and false starts
12	Environmental Law (revisited)	Fragmentation and convergence in environment and development (compatibility)
13	Presentations	Group format, Zoom presentations
14	Conclusion	Course retrospective (remaining presentations, as necessary)

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]

Reading of materials identified (and often provided) by the instructor; preparation of discussion talking points and questions; group report/presentation. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

[Textbooks]

There are no textbooks for this course.

[References]

Various references will be noted within the course materials.

[Grading criteria]

Students will be evaluated on the basis of class participation (40%) and a final review report/presentation (30/30%). Class participation will be judged based on attendance, preparation of questions/comments for discussion, and peer review during group work scenarios.

[Changes following student comments]

Students are encouraged to utilize the discussion time to speak in class.

[Equipment student needs to prepare]

None

[Others]

Instructor reserves the right to adapt this syllabus as they deem fit during the course.

[Prerequisite]

None.

LIT300ZA

Advanced Topics in American Literature: US Southern Literature

Gregory Khezrnejat

Credit(s) : 2 | Semester : 秋学期授業/Fall | Year : 3~4
Day/Period : 月 3/Mon.3

その他属性 : 〈グ〉〈優〉

【Outline and objectives】

Southern literature is perhaps the best-known regional literature of the United States, featuring voices, genres, and motifs specific to its distinct tradition. But it is far from a monolith, and the literature of the south reflects the diverse cultures, peoples, and languages of the region. Southern literature has often given a sharp focus to social, historical, and cultural issues of the United States, serving as a grim counterpoint to more optimistic national mythmaking. This course will focus on southern literature in the twentieth century, exploring how writers respond to questions of war, race, memory, class, and modernization.

【Goal】

Students will examine the historical context and major themes of southern literature. Students will also develop critical reading and writing skills.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain “DP 2”, “DP 3”, and “DP 4”.

【Method(s)】

Class time will be divided between lectures and group discussions. In-class feedback will be given for daily reaction papers, and students will receive personal feedback on written assignments.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり / Yes

【Fieldwork in class】

なし / No

【Schedule】 授業形態：対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction	Introduction
2	Defining the South	An overview of the culture and history of the South
3	Postwar Culture and Modernity	Tate, <i>Ode to the Confederate Dead</i>
4	Community and Memory	Faulkner, <i>A Rose for Emily</i>
5	Race in the Postwar South (1)	Wright, <i>The Ethics of Living Jim Crow</i>
6	Race in the Postwar South (2)	Welty, <i>Where is the Voice Coming From?</i>
7	Southern Gothic	Capote, <i>A Tree of Night</i>
8	Review and Midterm Examination	A review of topics covered in the first half of the course
9	Precariousness in the Changing South	Dickey, selected poems
10	Grotesque Allegories	O'Connor, <i>A Good Man is Hard to Find</i>
11	Culture and Authenticity	Walker, <i>Everyday Use</i>
12	The Modern South (1)	Gates, <i>Colored People</i>
13	The Modern South (2)	Rash, <i>Speckled Trout</i>
14	Final Synthesis	Review of the major themes of the course

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

Students should perform close readings of each of the assigned texts. Students should come to class prepared to ask questions and engage in discussion. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

【Textbooks】

Readings will be provided in class as handouts.

【References】

Andrews, William et al. *The Literature of the American South*. Norton, 1998.

Additional references will be announced in class.

【Grading criteria】

Class contribution (30%), reading quizzes (20%), in-class midterm paper (25%), final paper (25%)

【Changes following student comments】

None.

【Prerequisite】

None.

LIT300ZA

Modern Japanese Fiction in Translation

Gregory Kheyrnejat

Credit(s) : 2 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 3~4

Day/Period : 月 3/Mon.3

その他属性 : 〈グ〉〈優〉

[Outline and objectives]

How do we process the experience of encountering a new language and culture? How does that process in turn affect our own personal language and identity? In this course, we will read translations of personal essays and fiction written in the Japanese language by contemporary authors undergoing such experiences, including Japanese authors living abroad and non-Japanese authors writing in their adopted language. As we compare their stories and observations, we will also consider how the act of writing provides each author with a space to form and perform new cultural identities and personal idioms.

[Goal]

Students will practice reading and writing critically as they explore dynamics of culture, language, and identity in modern Japanese literature.

[Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?] Will be able to gain “DP 1”, “DP 2”, “DP 3”, and “DP 4”.

[Method(s)]

Classes will be divided roughly evenly between lectures and guided discussions. Short quizzes will be given to assess comprehension of weekly readings. Students will submit midterm and final papers. In-class feedback will be given for daily reaction papers, and students will receive personal feedback on written assignments.

[Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)]

あり / Yes

[Fieldwork in class]

なし / No

[Schedule] 授業形態 : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction	Introduction
2	Transnational Literature	Concepts of transnational literature
3	Creating the Modern Japanese Canon	Mack, <i>Manufacturing Modern Japanese Literature</i>
4	Culture Shock and Interpretation	Tawada, <i>Where Europe Begins</i>
5	Exophony and Border Crossing	Tawada, <i>Where Europe Begins</i>
6	Language, Literature, and Imagined Communities	Mizumura, <i>A True Novel</i>
7	Language and the Construction of Identity	Mizumura, <i>The Fall of Language in the Age of English</i>
8	Review and Midterm Examination	A review of topics covered in the first half of the course
9	Language and Belonging	Levy, <i>A Room Where the Star-Spangled Banner Cannot Be Heard</i>
10	Identity as Costume	Levy, <i>A Room Where the Star-Spangled Banner Cannot Be Heard</i>
11	The Right to Language	Levy, <i>A Room Where the Star-Spangled Banner Cannot Be Heard</i>
12	Transnationalism and Borrowed Ideology	Zoppetti, <i>Ichigensan</i>
13	Writing Within the Canon	Zoppetti, <i>Ichigensan</i>
14	Final Synthesis	Review major themes of the course and discuss new frontiers in transnational Japanese literature

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]

Students are expected to perform close readings of weekly reading assignments and prepare to actively engage in class discussions. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

[Textbooks]

Levy, Ian Hideo. *A Room Where The Star-Spangled Banner Cannot Be Heard: A Novel in Three Parts*. Columbia University Press, 2011.

Additional readings will be distributed through the H'etudes system.

[References]

Mack, Edward. *Manufacturing Modern Japanese Literature: Publishing, Prizes, and the Ascription of Literary Value*. Duke University Press, 2010.

Mizumura, Minae. *A True Novel*. Other Press, 2014.

Mizumura, Minae. *The Fall of Language in the Age of English*. Columbia University Press, 2015.

Tawada, Yoko. *Where Europe Begins*. New Directions, 2007.

Zoppetti, David. *Ichigensan: The Newcomer*. Ozaru Books, 2011.

[Grading criteria]

Class contribution (30%), quizzes (20%), in-class midterm paper (25%), final paper (25%)

[Changes following student comments]

None.

[Prerequisite]

None.

PHL300ZA

Readings in Philosophy

Robert Sinclair

Credit(s) : 2 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 3~4

Day/Period : 月 3/Mon.3

その他属性 : 〈優〉

[Outline and objectives]

The three main objectives of the course are to introduce: (i) some of the real-world problems of global justice and the moral and philosophical challenges they present, (ii) some of the main positions and arguments that philosophers have proposed in response to these problems, and (iii) the philosophical method of analyzing and evaluating these different perspectives and arguments. A larger aim is to show how philosophy can help provide analytical tools for both clarifying and addressing the problems of humanity. Some of the topics we will discuss include: world poverty and economic inequality, human rights and sovereignty, nationalism and cultural diversity, just war and humanitarian intervention, and boundaries and immigration.

[Goal]

Students will (1) develop a deeper understanding of the basic issues, concepts and viewpoints found in global ethics and global political philosophy, (2) explore how philosophical ideas apply to real life events and (3) learn to think critically and express their opinions accurately. The class provides students with the moral background for their studies in the related fields of political science, international relations and politics.

[Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?]
Will be able to gain "DP 1", "DP 2", "DP 3", and "DP 4".

[Method(s)]

Students will attend lectures, read related materials and have two written examinations. Feedback on completed assignments will be given in class.

[Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)]

あり / Yes

[Fieldwork in class]

なし / No

[Schedule] 授業形態 : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction	Introduction
2	World Poverty	Moral responsibility and global poverty, utilitarianism and rights-based approaches
3	Global Economic Equality	Global egalitarianism, justice as fairness, resources versus capabilities
4	Against Global Egalitarianism	Questioning global Egalitarianism, Rawl's laws of peoples
5	Nationalism and Patriotic Sentiments	The problem of nationalism, cosmopolitanism, patriotism and partiality
6	The Universality of Human Rights	The nature of human rights, universal rights, liberal rights
7	Review & Midterm Exam	Review
8	Human Rights: State Sovereignty, Culture and Gender	Possible conflicts between human rights and sovereignty, culture and gender
9	Just Wars and Humanitarian Intervention	Just war theory, military intervention
10	Borders: Immigration, Secession and Territory	Ethics of immigration, secession and territorial rights
11	Climate Change Justice: Sharing the Burden	Climate justice, subsistence, per capita emissions, who pays?
12	Global Democracy: Cosmopolitan Versus International	Problems with democracy, Alternatives? Cosmopolitan versus international
13	Conclusion	Real world problems, the need for a global theory of justice
14	Final Exam & Wrap-up	Review

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]

Students are expected to read the materials as instructed and prepare for class participation and discussion. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

[Textbooks]

What is This Thing Called Global Justice? Kok-Chor Tan, 2017, Routledge.

All required readings for the class are from this text. Any other class materials will be made available by the instructor. Students do not need to purchase the text.

[References]

International Ethics: Concepts, Theories, and Cases in Global Politics, 4th Edition, Mark R. Amstutz, 2013, Rowman and Littlefield.

The Global Justice Reader, edited by Thom Brooks, 2008, Wiley-Blackwell.

Global Ethics: An Introduction, Heather Widdows, 2014, Routledge.

More difficult, but useful, discussions of these issues can be found in the following articles from the Stanford Encyclopedia of Philosophy (<http://plato.stanford.edu/>): global justice, international distributive justice, globalization, cosmopolitanism, citizenship and many others.

[Grading criteria]

Evaluation will be based on a selection exam (10%) class participation (15%) midterm exam (35%) and final exam (40%).

[Changes following student comments]

Some small changes have been made to the topics covered in the class.

[Others]

This course is intended for the those new to the philosophical study of global justice, presupposing little or no background in philosophy.

[Prerequisite]

none.

PHL300ZA

Advanced Topics in Philosophy I

Joel Van Fossen

Credit(s) : 2 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 3~4

Day/Period : 月 1/Mon.1

その他属性 : 〈優〉

【Outline and objectives】

Philosophy of Love

Love comes in many forms: romantic love, familial love, and friendship are some examples. Moreover, love and loving relationships play important roles in human life and well-being, and because of this, many of us are familiar with love. However, despite love's familiarity, puzzling philosophical questions arise when reflecting on its nature. What exactly is love? Is love irrational? Can it be immoral? How do advances in technology alter or shape how we think about love? These are all questions that we will explore in this course.

【Goal】

This course has four primary learning goals. First, students will learn about various and diverging views on the philosophy of love. Second, students will improve critical thinking skills when engaging with abstract reasoning, especially in the context of philosophical debate. Third, students will improve their reading skills when confronting nuanced and challenging text. Finally, students will improve their writing skills to communicate complex ideas clearly and confidently.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain "DP 1", "DP 2", "DP 3", and "DP 4".

【Method(s)】

Each meeting will include an interactive lecture with slides and an active learning period. The lectures will occupy roughly one hour of each meeting. Students will then write a short in-class reflective writing exercise. Lastly, students will participate in a class discussion or debate. The instructor will assess students primarily on their final paper. Students will produce a paper proposal before writing a paper draft. After the proposal has been approved, students will write a draft of their paper. Students will then exchange papers with each other, and they will write a peer-reviewed report of another student's paper. Students should consider this report when revising their final drafts. In addition to the final paper, students will produce a short report explaining how they integrated changes from their peer-reviewed report into their final paper draft. The instructor will provide written feedback on the final paper.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり / Yes

【Fieldwork in class】

なし / No

【Schedule】 授業形態 : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction & Love's Nature 1	Love, society, and biology
2	Love's Nature 2	Possessive love
3	Love's Nature 3	Selfless love
4	Love and Rationality 1	Irrational love
5	Love and Rationality 2	The qualities view of love's reasons
6	Love and Rationality 3	The personhood view of love's reasons
7	Love and Rationality 4	The relationships view of love's reasons
8	Love and Rationality 5	Pluralism and love's reasons
9	Love and Morality 1	Love and partiality
10	Love and Morality 2	Immoral love
11	Love and Morality 3	Moral love
12	Love and Applied Ethics 1	A right to be loved
13	Love and Applied Ethics 2	Taking drugs to fall in and out of love
14	Love and Applied Ethics 3	Love, robots, and AI

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

Students should complete weekly readings before coming to class. Students should also review their own notes and course slides after every class. Preparatory study time for this class is 3-4 hours, and review time for this class is 2 hours.

【Textbooks】

There are no required textbooks for this course. All readings will be provided by the instructor either in print or online.

【References】

The Stanford Encyclopedia of Philosophy is a great resource for delving further into any topics discussed in class: <https://plato.stanford.edu>
The philosopher Jim Pryor has created helpful guides for writing and reading philosophy papers. Writing: <http://www.jimpryor.net/teaching/guidelines/writing.html> Reading: <http://www.jimpryor.net/teaching/guidelines/reading.html>

Two helpful resources for getting started are:

de Sousa, Ronald. (2015) Love: A Very Short Introduction. Oxford: Oxford University Press.

Jenkins, Carrie. (2017) What Love Is: and What It Could Be. New York: Basic Books.

【Grading criteria】

Participation 15%

Paper proposal 10%

Peer-review report 10%

Peer-review report response 10%

Final paper 55%

【Changes following student comments】

Not applicable

【Equipment student needs to prepare】

Please bring a computer for in-class surveys.

【Prerequisite】

None

PHL300ZA

Advanced Topics in Philosophy II

Joel Van Fossen

Credit(s) : 2 | Semester : 秋学期授業/Fall | Year : 3~4
Day/Period : 月 2/Mon.2

その他属性 : 〈優〉

【Outline and objectives】

Philosophy of the Person

Hedonism is the view that people should strive to live the most pleasurable lives possible. Some philosophers worry that this view renders humans in an undignified light and fails to capture what is most important about being a person. They instead claim that self-perfection should be the ultimate aim of human beings. This debate has wide-ranging effects on topics such as moral epistemology, moral psychology, moral theory, the nature of virtue, duty, and the good life. This course explores this debate in depth, focusing on Henry Sidgwick's and T.H. Green's ethical works.

【Goal】

This course has four primary learning goals. First, students will learn about various and diverging ethical views. Second, students will improve critical thinking skills when engaging with abstract reasoning, especially in the context of philosophical debate. Third, students will improve their reading skills when confronting nuanced and challenging text. Finally, students will improve their writing skills to communicate complex ideas clearly and confidently.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain “DP 1”, “DP 2”, “DP 3”, and “DP 4”.

【Method(s)】

Each meeting will include an interactive lecture with slides and an active learning period. The lectures will occupy roughly one hour of each meeting. Students will then write a short in-class reflective writing exercise. Lastly, students will participate in a class discussion or debate. The instructor will assess students primarily on their final paper. Students will produce a paper proposal before writing a paper draft. After the proposal has been approved, students will write a draft of their paper. Students will then exchange papers with each other, and they will write a peer-reviewed report of another student's paper. Students should consider this report when revising their final drafts. In addition to the final paper, students will produce a short report explaining how they integrated changes from their peer-reviewed report into their final paper draft. The instructor will provide written feedback on the final paper.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり / Yes

【Fieldwork in class】

なし / No

【Schedule】 授業形態 : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction	Historical context and introducing the main themes of the course
2	Moral Epistemology 1	Henry Sidgwick, the Methods of Ethics (ME), Preface & excerpts from Book I
3	Moral Epistemology 2	T.H. Green, Prolegomena to Ethics (PE), Introduction and excerpts from Book I
4	Moral Psychology 1	Green, PE, excerpts from Book II
5	Moral Psychology 2	Sidgwick, ME, excerpts from Book I & Appendix
6	Pleasure 1	Sidgwick, ME, excerpts from Books I-III
7	Pleasure 2	Green, PE, excerpts from Books III & IV
8	Virtue 1	Green, PE, excerpts from Book III
9	Virtue 2	Sidgwick, ME, excerpts from Book III
10	Duty 1	Sidgwick, ME, excerpts from Books I & III
11	Duty 2	Green, PE, excerpts from Book IV
12	Utilitarianism 1	Green, PE, excerpts from Book IV
13	Utilitarianism 2	Sidgwick, ME, excerpts from Books I-III
14	Utilitarianism 3	Sidgwick, ME, excerpts from Book IV

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

Students should complete weekly readings before coming to class. Students should also review their own notes and course slides after every class. Preparatory study time for this class is 3-4 hours, and review time for this class is 2 hours.

【Textbooks】

There are no required textbooks for this course. All readings will be provided by the instructor either in print or online.

【References】

The Stanford Encyclopedia of Philosophy is a great resource for delving further into any topics discussed in class: <https://plato.stanford.edu>
The philosopher Jim Pryor has created helpful guides for writing and reading philosophy papers. Writing: <http://www.jimpryor.net/teaching/guidelines/writing.html> Reading: <http://www.jimpryor.net/teaching/guidelines/reading.html>

The instructor will provide students with readings for the course. However, the course will focus almost exclusively on two texts. Students may prefer to have hard copies of these texts:

Sidgwick, Henry. (1981). The Methods of Ethics, 7th edition. Indianapolis, IN: Hackett.

Green, T.H. (2003). Prolegomena to Ethics. Oxford: Oxford University Press.

【Grading criteria】

Participation 15%

Paper proposal 10%

Peer-review report 10%

Peer-review report response 10%

Final paper 55%

【Changes following student comments】

Not applicable

【Equipment student needs to prepare】

Please bring a computer for in-class surveys.

【Prerequisite】

None

ART300ZA

Advanced Topics in Contemporary Art

Utako Shindo

Credit(s) : 2 | Semester : 秋学期授業/Fall | Year : 3~4
Day/Period : 火 6/Tue.6

その他属性 : 〈他〉〈優〉

[Outline and objectives]

Since the late 19th century we have witnessed a number of artistic movements from, what is considered, modern to contemporary: the birth of realism, impressionism, abstract expressionism, minimalism, the rise of conceptual art, installation, video and pop art, the extension into earth, body, public domain, the revival of painting, the exploration into photography, the shift to more participation and collaboration based art practices. Amidst all these transformations, how does art continue to remain inspirational and ‘contemporary’? In which way, are we able to recognize and respond to truly creative works from personal, global and interdisciplinary perspectives? This course looks at various topics in Fine art and closely pay attentions to how an artwork exists in a certain milieu: time and space, and among all kinds of relationships. Artistic practices mainly in Europe, North America, Asia and also other areas across the globe will be examined.

[Goal]

You will learn to appreciate an artwork by ‘listening’ to voices of an artwork as well as an artist, becoming familiar with terms in art from the late modern to contemporary times.

You will understand how one can engage with an artwork respectfully and express her/his/their unique experience in writing and speech.

You will become active and discerning participants/viewers of art, equipped with basic knowledges of Fine Art and related theories.

[Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?]

Will be able to gain “DP 1”, “DP 2”, “DP 3”, and “DP 4”.

[Method(s)]

I will provide a referential material as a post on Google Classroom in prior to each class. In the class, we will read texts, watch video clips, look at lecture slides, to learn about the key terms, artistic backgrounds, a milieu of an artwork that will help us understand and engage with the work. We will also have a in-class exercise and the time for questions at the end. Unless your question involves something personal, please ask during this time. In addition, you are required to attend at least one off-campus museum or gallery exhibition relevant to the course (determined by the instructor). You will then make presentations and write their research papers. You will be also asked to explore your own creative possibility, inspired by the shared learnings and experiments, at the end of the course.

The feedbacks to the in-class exercises will be provided in the next class as well as through the google classroom as comments where students are asked to submit them.

The feedbacks to the assignments, the presentations, and the experiments will be provided through the google classroom as comments as well as in the class.

NOTE 1: Please be aware that some works shown in class may address controversial issues and may include nudity.

NOTE 2: The schedule and the content may change in response to the students’ needs.

[Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)]

あり / Yes

[Fieldwork in class]

あり / Yes

[Schedule] 授業形態 : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction	Overview of the course: experiencing and understanding an artwork in time and space.
2	Modern to Contemporary	Romanticism, Impressionism, Cubism (William Turner, Gustave Courbet, Édouard Manet, Paul Cezanne, Pablo Picasso)
3	Modern Life and the Wars	Abstract Art, Symbolism, Surrealism, Bauhaus (Wassily Kandinsky, Joseph&Annie Albers, Edvard Munch, Paul Gauguin)
4	From Europe to America	Abstract Expressionism, Minimalism (Mark Rothko, Jackson Pollock, Ad Reinhardt, Frank Stella, Donald Judd, Agnes Martin)

5	Explosion of Medium	Post Minimalism, Video, Performance (Robert Rauschenberg, Vito Acconci, Fujiko Nakaya, John Cage, Marce Cunningham)
6	Institutional Critique	Conceptual Art, Dematerialization, Installation Art (Marcel Duchamp, Joseph Kosuth, Jiro Takamatsu, Micheal Asher)
7	Criticism of Social Norms	Queer Art, Pop Art, Art in Public (Yasumasa Morimura, Felix Gonzales=Torres, Andy Warhole, Barbara Kruger)
8	Impossibility of Representation	Counter Monument and Architecture (Rachel Whiteread, Isamu Noguchi, Daniel Libeskind)
9	Telling and sharing story	Relational Art, Participatory Art, Video Installation, (Rirkrit Tiravaniya, William Kentridge, Neshat Shirin)
10	Archive and Collective	Collection, Collaboration, Curation (Tino Sehgal, Koki Tanaka, Raqs Media Collective)
11	Research Workshop 1	Student presentations 1
12	Research Workshop 2	Student presentations 2
13	Research Workshop 3	Student presentations 3
14	Experimentation & Wrap-up	Experimentations for interdisciplinary and creative minds

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]

Students need to keep up with the class materials (readings, videos and so forth) and to be prepared for class discussions and activities. As part of their research, students are required to make at least one visit to an art exhibition suggested by the instructor in order to prepare their presentations and research papers. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

[Textbooks]

No textbook will be used. Readings will be made available on Hoppii or Google Classroom.

[References]

References will be made available on Hoppii or Google Classroom.

[Grading criteria]

Participation (30%) : Students will be expected to spend time with the referential materials (text and video clip) posted on Google Classroom for each class. Students will complete comment card (as part of In-class-exercise) and submit at the end of the class or 5pm on the next day. A self-guided field trip to one exhibition and the following presentation and paper: Each student is required to visit one of the exhibitions to be suggested by the instructor.

Short Presentation (20%) : Present the chosen work to class that you engage with during your self-guid museum/gallery visit. Project Paper (30%) : Write a paper, which is more than the written version of your presentation. Rather, it is a research paper and you will need to find and discuss an article on the artwork or the artist of your choice.

Experimentation (20%) : Students will experiment to connect a topic from the class to your interdisciplinary interest, to draw an idea for new art, and together to follow an instruction for making an artwork.

[Changes following student comments]
I have made the reaction comments due by 5pm on the next day. This will achieve equity especially for slow-writing students.

[Others]
Do not miss the first class as a selection process may occur.

[Prerequisite]

None.

ART300ZA

Art in the Real World

Suzanne Mooney

Credit(s) : 2 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 3~4

Day/Period : 金 2/Fri.2

その他属性 : 〈優〉

[Outline and objectives]

Despite art being a part of human culture and civilisation for millennia, the art world is often looked upon as something disconnected from everyday life. In this course, we will examine how art and everyday life are intertwined. This will be followed by study on the forms art takes in contemporary society, the value of art, spaces for art, and case studies on how artists live and work in contemporary society.

[Goal]

Through this course, students will gain an understanding of the role of contemporary art in society.

An important aspect of this study is to comprehend the processes of creation and the thinking behind public exhibitions, the multifaceted approaches of artists, and the infrastructure of the world of contemporary art in Japan and abroad, and how the art world is connected to the "real" world.

[Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?]

Will be able to gain "DP 1", "DP 2", "DP 3" and "DP 4".

[Method(s)]

In addition to lectures on relevant topics, students will take part in practical exercises to gain first-hand knowledge and experience of the processes involved in contemporary art-making.

- Drawing to communicate
- Collating images to create narrative
- Combining text and images to change meaning
- Action-based art

Students will also research a living artist working now, and will make a presentation on the results of this research.

In addition to the above, students must keep track of their weekly learning by collating images and text in a class notebook, 2 pages (minimum) per week that are relevant to the course material.

Submission of assignments and feedback will be via the Learning Management System.

Feedback on presentations will be given in class. Separate feedback will be given via email or the Learning Management System if required.

[Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)]

あり / Yes

[Fieldwork in class]

あり / Yes

[Schedule] 授業形態 : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction	Introduction
2	Art as communication	Sharing experiences through drawing. Practical activity to explore the communicative qualities of images.
3	Worthless art(?)	Artists with subversive approaches to value: Marcel Duchamp, Andy Warhol, Jeff Koons, Tracy Emin, etc.
4	Art with value	Group and class discussion on artworks with value for the 21st century
5	Connecting with the land	Connecting art practices with pre-historic art and ritual. Artists who work directly in the landscape: Robert Smithson, Richard Long, Christo and Jean Claude, Nancy Holt, etc.
6	Originality: It's all been done before	Tracing the thread of an idea in art; redefining originality
7	Art as action	Performance art and happenings, activism as art, and the importance of documentation
8	A working artist	A visit from, or case study of, an artist, discussing their works and career
9	Text and Images: Making meaning	Study of examples from art and online media. Practical exercises in making meaning

10	Outside of the gallery system	Artist-led initiatives and unconventional art spaces in Japan and abroad
11	Curation as practice	How curation creates meaning. Planning a fictional exhibition.
12	Student Presentations I & discussion	On each student's artist of choice working in the world today
13	Student Presentations II & discussion	On each student's artist of choice working in the world today
14	Final discussion and review	Presentation of notebooks and group discussion on art in the real world

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]

Students are expected to prepare a notebook and basic writing and drawing materials. Reading and preparation activities will be assigned on a weekly basis.

Students are also expected to visit at least one art exhibition and conduct research in preparation for a presentation (suggestions will be provided).

Students are also expected to use their notebook to keep a record of ideas, samples of artworks, and other experiences throughout the semester. A digital notebook is acceptable.

Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

[Textbooks]

No textbook will be used. Lecture slides/notes/other materials will be provided online.

[References]

Berger, John. *Ways of Seeing*, Penguin Books (1972)
 Sontag, Susan. *On Photography* (1977)
 Benjamin, Walter. *Art in the Age of Mechanical Reproduction* (1935)
 Debord, Guy. *The Society of the Spectacle* (1967)
 Krauss, Rosalind. *Sculpture in the Expanded Field* October, vol. 8, 1979, pp. 31 - 44.
 Shifman, Limor. *Memes in Digital Culture*, The MIT Press (2013)
 Foster, Hal. *Art Since 1900: Modernism, Antimodernism, Postmodernism*. London: Thames & Hudson (2004)

[Grading criteria]

Participation:

This applies to class activities, assigned readings, exhibition visit and regular contribution to the group discussions.

Weekly submitted responses:

This is a requirement to submit weekly assignments. Examples of weekly assignments are: Pages from your workbook; a written response to class contents, a response to an assigned reading, evidence of activities completed in class that week.

Presentation: each student must make a short presentation on a living, working artist within the context of the course.

The final grade is calculated as follows:

Active participation 30%

Weekly submitted responses 40%

Presentation 30%

[Changes following student comments]

Not applicable.

[Equipment student needs to prepare]

Students will need a class notebook (e.g. A5-A4 sketchbook/notebook), and general stationary (e.g. pen, pencil, glue, tape, scissors). A digital notebook is also acceptable. Access to a computer, as weekly responses and submissions will be digital only.

Details of other items required will be given as required.

[Others]

You do not need to be "good at art" or have previous practical experience in art to take this class.

What is essential for this class is to be curious and open-minded about what art can be, and to be willing to engage in discussions on topics that are new and, at times, challenging.

Students are expected to be punctual. As many of the topics are open for debate, participation in group and class discussions will be expected of all students.

Weekly responses must be submitted before the next weeks class, through an online system.

[Prerequisite]

None.

ART300ZA

Film Studies

CatherineMarie Munroe Hotes

Credit(s) : 2 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 3~4

Day/Period : 水 5/Wed.5

その他属性 : 〈優〉

【Outline and objectives】

This course is an introduction to the study and analysis of film. Over the course of the semester you will be exposed to key critical and theoretical approaches in film studies (genre, auteur theory, realism, formalism, etc.), in addition to gaining further knowledge into world cinema history and major film movements. All films screened in class are in their original language with Japanese subtitles.

【Goal】

(1) Students will learn the basic terminology of film form in order to describe and analyze films. (2) Students will learn the key concepts of film authorship and genre. (3) Students will gain an understanding of film history and major film movements. (4) Students will learn, practice, and improve their film writing skills.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】
Will be able to gain “DP 1” and “DP 4”.

【Method(s)】

Each class consists of a lecture (50%), film clips (30%), and discussion (20%). There will also be two film screenings. Feedback on quizzes will be provided in class; feedback on written assignments will be sent via the Learning Management System.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり / Yes

【Fieldwork in class】

なし / No

【Schedule】 授業形態 : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction: What is Film Studies?	Introduction: What is Film Studies?
2	Early Film History and Approaches to Film	A selection of early shorts (Lumière, Edison, Méliès) and film excerpts (D.W. Griffith, Edwin S. Porter, Mack Sennett).
3	Classical Hollywood, the Studio System, and Mise-en-scène	<i>Cleopatra</i> (Cecil B. DeMille, 1934, US); <i>Casablanca</i> (Michael Curtiz 1942, US).
4	Soviet montage, Russian Cinema, and the Kuleshov Effect	<i>Potemkin</i> (Sergei Eisenstein, 1925, USSR); <i>October</i> (Sergei Eisenstein, 1927, USSR).
5	Cinematography, Composing the Frame, and Authorship	Selection of Alfred Hitchcock clips.
6	Narrative Form I and Information Control	<i>Citizen Kane</i> (Orson Welles, 1941, US).
7	Narrative Form II, Camera Angle	<i>Do the Right Thing</i> (Spike Lee, 1989, US); <i>Seven Samurai</i> (Akira Kurosawa, 1954, Japan).
8	Editing, and Camera Movement, and the Long Take	Clips from <i>Touch of Evil</i> (Orson Welles, 1958) and <i>Spectre</i> (Sam Mendes, 2015).
9	New Hollywood and the Blockbuster Economy	Selections of short clips from early Martin Scorsese films. For their mid-term, students will watch a film in class and write a scene analysis to be submitted the following week.
10	Art Cinema and the Festival Circuit	Selection of clips from Michelangelo Antonioni films; <i>The Great Beauty</i> (Paolo Sorrentino, 2013, Italy).
11	Genre I: Melodrama, Colour, Affect	<i>Written on the Wind</i> (Douglas Sirk, 1945, US); <i>Far From Heaven</i> (Todd Haynes, 2002, US).
12	Genre II: Film Noir and Lighting	<i>Double Indemnity</i> (Billy Wilder, 1944, US).
13	Sound, Cinephilia, Discontinuity Editing, and the French New Wave	<i>Cléo de 5 à 7</i> (Agnès Varda, 1962, France).
14	Semester Recap and Final Exam Screening	For their final, students will watch a film in class and write an analytical essay.

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

【Textbooks】

All readings will be provided by the instructor and made available online.

【References】

David Bordwell, Kristin Thompson and Jeff Smith, *Film Art: An Introduction* (McGraw-Hill, 2019); Kristin Thompson and David Bordwell, *Film History: An Introduction* (McGraw-Hill, 2018); Maria Pramaggiore and Tom Wallis, *Film: A Critical Introduction*, second edition (Pearson, 2008).

【Grading criteria】

Quizzes (5x10%): 50%

Scene analysis: 20%

Final Exam: 30%

【Changes following student comments】

Not applicable.

【Equipment student needs to prepare】

This is a paper-free class. Students will need to access class materials and submit assignments online. No electronic device is required in class, and students should refrain from using them during lectures, screenings, and class discussions.

【Prerequisite】

None.

PHL300ZA

Existentialism

Joel Van Fossen

Credit(s) : 2 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 3~4

Day/Period : 火 2/Tue.2

その他属性 : 〈優〉

Homework assignments 50%

Final exam 35%

【Changes following student comments】

Not applicable

【Equipment student needs to prepare】

Please bring a computer for in-class surveys.

【Prerequisite】

None

【Outline and objectives】

Existentialism is a branch of philosophy that confronts some of the most problematic aspects of existence. These include the value of freedom and rationality, whether living an authentic life is achievable, whether life can be meaningful, the nature of absurdity, whether modern life is nihilistic, and the role of emotions in ethics. This course is an in-depth exploration of several themes from existentialist thought. This course focuses on the philosophical writings of Fyodor Dostoevsky, Albert Camus, Søren Kierkegaard, Friedrich Nietzsche, Jean-Paul Sartre, Simone de Beauvoir, and Iris Murdoch.

【Goal】

This course has four primary learning goals. First, students will learn about various and diverging views on the philosophy of existentialism. Second, students will improve critical thinking skills when engaging with abstract reasoning. Third, students will improve their reading skills when confronting nuanced and challenging philosophical and literary texts. Finally, students will improve their writing skills to communicate complex ideas clearly and confidently.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain “DP 1”, “DP 2”, “DP 3”, and “DP 4”.

【Method(s)】

Each meeting will include an interactive lecture with slides and a discussion period. The lectures will occupy roughly one hour of each meeting. The nature of the discussion period will change based on whether a homework assignment is due the following week. On weeks when a homework assignment is due the following week, students will work in small groups to discuss the assignment prompt. On weeks when there is no homework assignment due the following week, class-wide discussions or debates will follow the lecture. Students will receive feedback from the instructor on homework assignments and the final exam via the online Learning Management System.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり / Yes

【Fieldwork in class】

なし / No

【Schedule】 授業形態 : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction	What is existentialism?
2	Fyodor Dostoevsky 1	A revolt against reason
3	Fyodor Dostoevsky 2	Portrait of an anti-rational life
4	Albert Camus	Life without objective meaning
5	Søren Kierkegaard 1	The paradox of faith
6	Søren Kierkegaard 2	Infinite resignation
7	Friedrich Nietzsche 1	The death of God
8	Friedrich Nietzsche 2	Eternal recurrence and the affirmation of life
9	Jean-Paul Sartre 1	Existence precedes essence
10	Jean-Paul Sartre 2	Bad faith
11	Simone de Beauvoir 1	Existentialist ethics
12	Simone de Beauvoir 2	Existentialism and politics
13	Iris Murdoch	The selfishness of existentialism
14	Final Exam	Review, wrap-up, and final exam

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

Students should complete weekly readings before coming to class. Students should also review their own notes and course slides after every class. Preparatory study time for this class is 3-4 hours, and review time for this class is 2 hours.

【Textbooks】

There are no required textbooks for this course. All readings will be provided by the instructor either in print or online.

【References】

The Stanford Encyclopedia of Philosophy is a great resource for delving further into any topics discussed in class: <https://plato.stanford.edu>
The philosopher Jim Pryor has created helpful guides for writing and reading philosophy papers. Writing: <http://www.jimpryor.net/teaching/guidelines/writing.html> Reading: <http://www.jimpryor.net/teaching/guidelines/reading.html>

【Grading criteria】

Participation 15%

SOC300ZA

Race, Class and Gender II: Global Inequalities

Daiki Hiramori

Credit(s) : 2 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 3~4

Day/Period : 木 1/Thu.1

その他属性 : 〈グ〉〈優〉〈S〉〈未〉

[Outline and objectives]

This class builds on what students have learned in Race, Class and Gender I to look at how inequalities are inter-connected through examining various global issues. Students will learn to analyze how race, class, gender, and sexuality are connected to each other as intersecting inequalities in a society and the world, and on that basis, consider the possibility of an equal but diverse world.

[Goal]

A major goal is to develop students' sensitivity towards issues of inequality and skills in social analysis and critical thinking. By exploring social issues in an international and global context, students will learn to see how any global issue is multidimensional, and specifically, how inequalities are complex and constituted by the interconnection of race, class, gender, sexuality, and other bases of inequality.

[Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?]

Will be able to gain "DP 1", "DP 2", "DP 3", and "DP 4".

[Method(s)]

This course will be based on a combination of short lectures by the instructor and student-led class discussions. Verbal and written feedback on assignments is given during class discussions and through using other tools as appropriate. Students are encouraged to visit the instructor during office hours for more personalized feedback.

[Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)]

あり / Yes

[Fieldwork in class]

なし / No

[Schedule] 授業形態 : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction	Introduction
2	Theoretical Understanding of Race, Class, and Gender	Reviewing what was covered in Race, Class and Gender I
3	The Social Construction of Sperm	How does science construct a romance based on stereotypical male-female roles?
4	Female Disadvantage in Infant/Child Mortality	Why does gender imbalance in infant mortality occur?
5	Race and Queer Family Formation	How does race and sexuality intersect in the context of surrogacy?
6	Transnational Adoption	Film viewing: "First Person Plural"
7	Domestic Helpers	How do gender and migration intersect?
8	Diversity Policy in Global Companies	How is diversity policy in global companies localized?
9	Global Economy of Desire	How do race, sex, and romance intersect in the global economy of desire?
10	War and Violence	What is the "comfort women" issue?
11	Human Trafficking and Sex Work I	What is sex work? What is the difference between human trafficking and sex work?
12	Human Trafficking and Sex Work II	Who are migrant sex workers? What are some issues faced by them?
13	Prepare for Final Paper	Preparation and feedback for final paper
14	Review & Final Paper Preparation	What have we learned in this course? Preparing and submitting the final paper

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]

Students are expected to complete the weekly readings and prepare for class discussion. Please note that the assigned readings for this course tend to be dense. As such, I recommend giving yourself ample time to complete them, even if the number of pages assigned at any given time appears small. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

[Textbooks]

No textbook will be used. All readings will be provided by the instructor.

[References]

Further reference may be provided based on students' areas of interest.

[Grading criteria]

Participation: 10%

Discussion facilitation: 20%

Weekly reading responses: 40%

Final paper: 30%

[Changes following student comments]

Students have generally evaluated the class positively. The instructor will be attentive to student feedback and adjust workload and class material, when necessary.

[Equipment student needs to prepare]

None. Students are encouraged to use computers/tablets for class-related purposes in class.

[Prerequisite]

To take this class, students are expected to have passed "Race, Class and Gender I."

SOC300ZA

Migration and Diaspora

Chris H Park

Credit(s) : 2 | Semester : 秋学期授業/Fall | Year : 3~4
Day/Period : 木 4/Thu.4

その他属性 : 〈優〉

[Outline and objectives]

Scholarship on diaspora has drastically increased in the last three decades, and the issues pertaining to immigration and exile, as well as nation-state, nationalism, citizenship, identity and belonging have been explored and examined through a lens of diaspora in various academic disciplines. The course will address various issues that constitute diaspora such as the process of transmigration, settlement, and creation of diasporic communities, as well as identity formation, cultural hybridization, and cultural/knowledge productions – all of which are informed by race, gender, sexuality, class, religion, language and others.

In so doing, the class will first locate the roots of diasporas. As early historical references of the Jewish diaspora and the Black diaspora suggest, the displacement of people and communities from the original homeland often involved both internal and external forces that rendered them “exiles” or “slaves” against their will. Similarly, more recent diasporas emerge as a result of conflicts, wars, colonization, decolonization and globalization that result dispersion of people as “immigrants,” “refugees” and “adoptees.” Situating diaspora in broader projects of nation-building and empire-building, the course will ask and complicate the questions not simply about who, but also when, how, and under what circumstances people become diaspora, as well as how they (re)construct diasporic subjectivity and identity. Finally, the course will have a special focus on women’s experiences and voices.

[Goal]

At the end of this course, students should be able to:

- Explain such concepts as nationalism, citizenship, identity and belonging
- Explain historical and contemporary issues faced by various displaced people categorized as “immigrants,” “refugees,” and “adoptees” in their process of transmigration, settlement, and creation of diasporic communities
- Analyze various data sources including policies, legislations, historical facts, popular cultural production and personal narratives
- Use intersectionality as a lens of analysis to discuss issues pertaining to identity formation

[Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?]

Will be able to gain “DP 1”, “DP 2”, “DP 3”, and “DP 4”.

[Method(s)]

Although the instructor will provide the basic framework in a lecture format, students are expected to actively participate in and contribute to class discussion. This includes asking questions, seeking clarification and offering critical ideas and interpretation. In addition, a small group of 3-5 individuals will work on a project and present findings and analyses on a topic of their choice. Further directions will be given in class.

In addition, it is possible that some comments from the reaction papers may be introduced in class to elaborate on each lecture and to facilitate discussions.

Comments for assignments and the final reports are given through email.

Students are expected to regularly check (at least once or twice a week) their university email account and Hoppii for course announcements and updates.

[Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)]

あり / Yes

[Fieldwork in class]

なし / No

[Schedule] 授業形態 : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Course Overview & Self-introduction	Course Overview & Self-introduction
2	Definitional questions	Theories and concepts: Migrant categories, return migration, migrants to citizens, diasporas and transnational communities.
3	Identity/ies for diasporic subjects	Why the poorest don't migrate: examining systems, links, chains, routes, networks and diverse migrant motivations.

4	"Military Wives"	Japanese women's departure, becoming American, the "modernized subjects"
5	"To Save the Children"	Origin of international adoption
6	Militarized process of "Leaving"	How "refugee" subjects are created and mobilized through spaces and modernity.
7	War, racism and incarceration	Japanese American internment experience during WWII
8	Forced identity	Representation of "Good" & "Grateful" minority
9	Racialized as "Invisible Asians"	Korean adoptees' experience
10	Orphan with two mothers	Film: Liem, Deann Borshay, First Person Plural (2000)
11	Diasporic homecoming	Homecoming experiences: Japanese Brazilians v. Japanese Americans
12	Between home and homeland	Film: Yang, Yonghi. Dear Pyongyang (2005)
13	Group presentation I	Student presentation
14	Group presentation II	Student presentation

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]

In addition to preparing for discussions, students are expected to review class materials after each class, note down reflections on the videos shown in class, and do the prescribed readings. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

[Textbooks]

No textbook will be used. Handouts, readings and other materials will be distributed in class and/or uploaded on online course management system.

[References]

Espiritu, Y. *Home bound Filipino American lives across cultures, communities, and countries*. UC Press, 2003.

[Grading criteria]

Participation: 30%

Reading and Writing Assignments: 20%

Presentation on Weekly Reading: 20%

Group Project: 30%

Students are not allowed for more than 2 unexcused absences. These exclude absences due to medical reasons, job interviews, but include those due to family emergency and train delays. If students arrive late or leave early, each will be counted as one ½ absence. If students miss 20 min of class time, it will be considered as 1 absence. 3 or more absences will result in not-passing. Students must complete all the assignments to pass the course. If students have special need, exceptions may be made. Contact the instructor no later than Week 3.

[Changes following student comments]

NA

[Equipment student needs to prepare]

NA

[Others]

Changes to the above class schedule may take place.

Students who intend to enrol in this class are expected to have passed or taken Understanding Society or Introduction to Sociology.

This prerequisite may be waived through consultation with the instructor.

[Prerequisite]

NA

SOC300ZA

Feminist Theory

Daiki Hiramori

Credit(s) : 2 | Semester : 秋学期授業/Fall | Year : 3~4
Day/Period : 月 3/Mon.3

その他属性 : 〈優〉

【Outline and objectives】

This course focuses on vibrant intellectual conversations engendered by the production of feminist theory in the contemporary moment. This course is divided into the following four sections: (1) theorizing feminist times and spaces, (2) theorizing intersectionality and difference, (3) theorizing feminist knowledge and agency, and (4) imagine otherwise/solidarity reconsidered. In addition, this course pays a special attention to Chicana feminist theory. Through this course, students will learn the ways feminist theorizing moves across disciplines and at times intentionally defines and destabilizes disciplinary categorization.

【Goal】

By the end of this course, students will be able to: (1) identify and describe the key concepts and main themes of feminist theory (remembering/understanding), (2) apply feminist theory to contemporary social issues in Japan and abroad (applying), (3) compare and contrast various strands of feminist theory (analyzing), and (4) develop and present their own ideas and perspectives on gender and sexuality (evaluating/creating).

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain “DP 1”, “DP 2”, “DP 3”, and “DP 4”.

【Method(s)】

This course will be based on a combination of short lectures by the instructor and student-led class discussions. Verbal and written feedback on assignments is given during class discussions and through using other tools as appropriate. Students are encouraged to visit the instructor during office hours for more personalized feedback.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり / Yes

【Fieldwork in class】

なし / No

【Schedule】 授業形態 : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction	Introduction
2	Theorizing Feminist Times and Spaces I	What is the role of theory in feminist studies?
3	Theorizing Feminist Times and Spaces II	What is Black feminist theory?
4	Theorizing Feminist Times and Spaces III	Who are included as women in feminism?
5	Theorizing Intersectionality and Difference I	What is intersectionality? Why does this concept gain popularity?
6	Theorizing Intersectionality and Difference II	What is the relationship between Marxism and feminism?
7	Theorizing Feminist Knowledge and Agency I	What is feminist standpoint theory?
8	Theorizing Feminist Knowledge and Agency II	What is the relationship between science and feminism?
9	Imagine Otherwise/Solidarity Reconsidered I	What is postcolonial feminism?
10	Imagine Otherwise/Solidarity Reconsidered II	What is the relationship between the mainstreaming of feminism and the politics of backlash in Japan?
11	Chicana Feminist Theory I	What are the characteristics of Chicana feminism?
12	Chicana Feminist Theory II	How does Chicana feminism challenge mainstream feminism?
13	Chicana Feminist Theory III	What is the methodology of the oppressed?
14	Theory in Action	What have we learned in this course? Preparing and submitting the final paper

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

Students are expected to complete the weekly readings and prepare for class discussion. Please note that the assigned readings for this course tend to be dense. As such, I recommend giving yourself ample time to complete them, even if the number of pages assigned at any given time appears small. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

【Textbooks】

No textbook will be used. All readings will be provided by the instructor.

【References】

Further reference may be provided based on students' areas of interest.

【Grading criteria】

Participation: 10%

Discussion facilitation: 20%

Weekly reading responses: 40%

Final paper: 30%

【Changes following student comments】

Students have generally evaluated the class positively. The instructor will be attentive to student feedback and adjust workload and class material, when necessary.

【Equipment student needs to prepare】

None. Students are encouraged to use computers/tablets for class-related purposes in class.

【Prerequisite】

Students who intend to enroll in this course are expected to have passed "Race, Class and Gender I."

SOC300ZA

Advanced Topics in Critical Theory

Daiki Hiramori

Credit(s) : 2 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 3~4

Day/Period : 火 1/Tue.1

その他属性 : 〈優〉

【Outline and objectives】

Students will learn the fundamental concepts of queer theory, which has been attracting attention in recent years not only in the humanities but also in the social sciences. In this year's class, in addition to the foundational texts of queer studies, students will read Black queer studies and queer demography literature to acquire proficiency in the consideration of social phenomena related to gender and sexuality.

【Goal】

By the end of this course, students will be able to: (1) identify and describe the key concepts and main themes of queer theory (remembering/understanding), (2) apply queer theory to contemporary social issues in Japan and abroad (applying), (3) compare and contrast various strands of queer theory (analyzing), and (4) develop and present their own ideas and perspectives on gender and sexuality (evaluating/creating).

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain "DP 1", "DP 2", "DP 3", and "DP 4".

【Method(s)】

This course will be based on a combination of short lectures by the instructor and student-led class discussions. Verbal and written feedback on assignments is given during class discussions and through using other tools as appropriate. Students are encouraged to visit the instructor during office hours for more personalized feedback.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり / Yes

【Fieldwork in class】

なし / No

【Schedule】 授業形態 : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction	Introduction
2	The Beginning of Queer Theory I	What are the core principles of queer theory?
3	The Beginning of Queer Theory II	What is homosociality?
4	The Development of Queer Thinking	Why can't sexuality be properly studied within gender studies?
5	Gender Performativity	How does gender performativity differ from gender performance?
6	Trans Politics	What does critical trans politics envision?
7	HIV/AIDS in the '80s	How does the HIV/AIDS crisis affect queer theory?
8	HIV/AIDS in the '00s	How does a queer theoretical understanding of barebacking subculture differ from an epidemiological understanding?
9	Homonormativity	What happens when neoliberalism meets LGBT movements?
10	Homonationalism	What happens when nationalism meets LGBT movements?
11	Black Queer Studies	How does sexuality intersect with race?
12	Queer Demography	How can LGBTQ populations be studied from a queer theoretical perspective?
13	Prepare for Final Paper	Preparation and feedback for final paper
14	Theory in Action	What have we learned in this course? Preparing and submitting the final paper

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

Students are expected to complete the weekly readings and prepare for class discussion. Please note that the assigned readings for this course tend to be dense. As such, I recommend giving yourself ample time to complete them, even if the number of pages assigned at any given time appears small. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

【Textbooks】

No textbook will be used. All readings will be provided by the instructor.

【References】

Further reference may be provided based on students' areas of interest.

【Grading criteria】

Participation: 10%

Discussion facilitation: 20%

Weekly reading responses: 40%

Final paper: 30%

【Changes following student comments】

Students have generally evaluated the class positively. The instructor will be attentive to student feedback and adjust workload and class material, when necessary.

【Equipment student needs to prepare】

None. Students are encouraged to use computers/tablets for class-related purposes in class.

【Prerequisite】

Students who intend to enroll in this course are expected to have passed "Race, Class and Gender I."

ART300ZA

Special Topics I: Photography and Culture

Gary McLeod

Credit(s) : 2 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 3~4

Day/Period : 土 2/Sat.2

その他属性 : 〈優〉

[Outline and objectives]

How can photography help to understand the world around us? Can it support or shape the way in which we interact with it? This course looks at the role of photography in an increasingly digital and time-poor society. Through “rephotography”, a set of visual practices for expanding conversations about place over time, the course explores the dual pressures upon today’s camera users to evidence and record reality while embodying authentic acts of personal expression.

[Goal]

Students carry out an independent rephotography project from conception to publication under a broader research agenda to visually record time and place in Tokyo. Through producing a photo book, students will develop critical perspectives toward contemporary image-making while learning to articulate research methodologies and give constructive feedback.

[Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?]

Will be able to gain “DP 1”, “DP 2”, “DP 3”, and “DP 4”.

[Method(s)]

This course uses a practical approach. Workshops, assignments and supporting lectures are employed to develop students’ understanding of contemporary photography and improve critical skills regarding the production of images (i.e. visual literacy). Students produce and print a contact sheet of 35 photographs every week which is used for discussion in class. Final submission comprises a photo book and evidence of participation (12 submitted contact sheets). Attendance is recorded weekly using visual media (e.g. photograph). Feedback is given through ongoing dialogue between students and instructor during production of the contact sheets and photobook.

[Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)]

あり / Yes

[Fieldwork in class]

あり / Yes

[Schedule] 授業形態 : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Slow Glass	Introducing photography as a visual methodology.
2	Looking Again	Photographing the campus ‘in’ time.
3	The Landscape of Rephotography	Discussing rephotography as a diverse set of visual strategies.
4	Re-entering the Past	Discussing the relationship between rephotography and place.
5	Now and Again	Discussing the relationship between rephotography and time.
6	Conversations with the future	Sharing ideas for visually exploring time and place in Tokyo.
7	Photo Book Research	Analysing photo books in the university library.
8	Developing Strategies	Discussing and reviewing work-in-progress in terms of strategies.
9	Developing Sequences	Discussing and reviewing work-in-progress in terms of sequences.
10	Refining Selections	Discussing and reviewing work-in-progress in terms of selections.
11	Expanding Horizons	Discussing and reviewing work-in-progress in terms of outcomes.
12	Draft Photobook	Making preparations for producing a booklet.
13	Photobook Review	Reviewing reflection and notation in workbooks.
14	Final Photobook Review	Making final improvements to books prior to submission.

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]

Students must regularly take photographs throughout the semester. Every week students are required to bring a contact sheet containing 35 photographs made during the week before, which will be discussed in class. They are also expected to use the photo book resource in the library and do assigned readings. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

[Textbooks]

No textbook will be used. Handouts and reading materials will be will be uploaded on Hoppii or distributed in class.

[References]

Batchen, Geoffrey (2008) *William Henry Fox Talbot*, Phaidon.
 Berger, John (1977) *Ways of Seeing*, Penguin Books.
 Flusser, Vilém (2014) *Gestures*, University of Minnesota Press.
 Ruetz, Michael (2008) *Eye on Infinity*, Steidl.
 Ritchin, Fred (2013) *Bending the Frame*, Aperture.
 Sagami, Tomoyuki (2018) *YKTO*, Steidl.
 Tomiyasu, Hayahisa (2018) *TTP*, Mack Books.
 Watanabe, Toshiya. (2018) *Thereafter*, Steidl.
 Additional references will be provided by the instructor in class.

[Grading criteria]

Participation: this applies to weekly contact sheets (minimum of 12) More than 2 unexcused absences will result in failure of this course.
 Photo book: each student must produce a small photo book (min. 96 pages) that communicates ideas relating to the city and time.
 The final grade is based on: Participation 40% and Photo book 60%. As a variety of predictable and unpredictable factors are involved in the process of creating a photobook, evaluation considers a blend of concept, research, originality, visual communication ability and tenacity.

[Changes following student comments]

Changes have been made in response to student feedback, thank you.

[Equipment student needs to prepare]

Students will need a laptop with photo-editing software and a camera. Please note that the use of a smartphone camera is acceptable for this course. However, if you have regular access to other kinds of cameras (and wish to use them), please bring them to class and the instructor will happily show you how to use them.

[Others]

Being naturally creative is not a requirement for this course. However, students are expected to come to class on time, participate and demonstrate an active interest.

[Prerequisite]

None.

LIT300ZA

Fact and Fiction in the Movies

CatherineMarie Munroe Hotes

Credit(s) : 2 | Semester : 秋学期授業/Fall | Year : 3~4
Day/Period : 水 5/Wed.5

その他属性 : 〈優〉

【Outline and objectives】

This course will examine how reality is depicted on film, from the advent of cinema to contemporary forms of online media. We will look at how the tropes of documentary fiction and non-fiction were developed and changed with new technologies.

【Goal】

Students will learn documentary film theory and narrative film theory with particular emphasis on how cinematography, mise-en-scène, sound, editing and other techniques are used by filmmakers in both fiction and non-fiction films to give the impression of realism. We will also discuss the ethics of depicting the lives of real people and events on film. Students will learn to engage critically with media and learn how to determine fact from fiction.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain “DP 1”, “DP 2”, “DP 3”, and “DP 4”.

【Method(s)】

Lecture, readings, film analysis, quizzes, group work, exam, and essay writing.

Lectures take a hybrid form that actively encourages student participation in discussion.

The participation mark will include attendance, mini-quizzes that will evaluate comprehension of assigned readings, group work and peer evaluation of in-class group work.

Submission of assignments and feedback will be via the Learning Management System.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり / Yes

【Fieldwork in class】

なし / No

【Schedule】 授業形態：対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Course Introduction & Introduction to Documentary Theory	Course Introduction & Introduction to Documentary Theory
2	Kino Pravda	Man with a Movie Camera (Dziga Vertov, 1929)
3	Docudrama	Nanook of the North (Robert J. Flaherty, 1922)
4	Ethnographic Filmmaking	How to Build an Igloo (Douglas Wilkinson, 1949) If You Want to Get Married... You Have to Learn How to Build an Igloo! (Allen Auksaq, 2011)
5	Indigenous Perspectives	Alanis Obomsawin readings and clips Film Terminology Quiz
6	Docufiction, Direct Cinema, Cinéma Vérité	Chronique d'un été (Jean Rouch & Edgar Morin, 1961) Lonely Boy (Roman Kroiter & Wolf Koenig, 1962)
7	First Person Narration	Waiting for Fidel (Michael Rubbo, 1974)
8	Review & Mid-term Exam	Examination on material read, viewed and discussed during weeks 2-7
9	Historical Dramas: Fact vs. Fiction	Readings and clips from Braveheart (Mel Gibson, 1995) and The Favourite (Yorgos Lanthimos, 2018)
10	Biographical Films (BioPics)	Readings and clips from Frida (Julie Taymor, 2002), Becoming Jane (Julian Jarrold, 2007)
11	Re-enactment of True Events	The Docudrama: Clips from <i>The Thin Blue Line</i> Reading: "Play It Again, Sam (Re-enactments, Part One)" Short quiz.
12	How Real is Reality TV?	A Selection of Video Clips and Readings Class Debate

13	Edutainment, Infotainment, “Soft News”, Clickbait	Group presentation of research done on a selected film
14	Final Discussion: How to Discern Fact from Fiction in Online Media	Class Discussion Final Paper Due

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

Reading academic texts and answer comprehension questions (4 hours each week). The estimated preparation time includes watching video clips.

【Textbooks】

This is a paperless class. The films and academic readings, and other materials will be made available using online resources or shared files.

Nichols, Bill. Introduction to Documentary. 3rd ed. Bloomington: Bloomington UP, 2017. (available as an ebook)

【References】

Bordwell, David. The Way Hollywood Tells It: Story and Style in Modern Movies. Berkeley: U of California P, 2006.

Bordwell, David, Kristin Thompson and Jeff Smith. Film Art: An Introduction. 12th ed. New York: McGraw-Hill, 2019

【Grading criteria】

Participation (30%); film terminology quiz (20%); mid-term exam (20%); essay(30%).

【Changes following student comments】

Not applicable.

【Equipment student needs to prepare】

Students should bring their device (laptop, tablet, et al.) to class in order to refer to course readings if necessary.

【Others】

Enrollment is limited to 3rd and 4th year students.

【Prerequisite】

None

CUA300ZA

Comparative Media

Kukhee Choo

Credit(s) : 2 | Semester : 秋学期授業/Fall | Year : 3~4
Day/Period : 火 4/Tue.4

その他属性 : 〈優〉

[Grading criteria]

Minimum absence (10%)
Participation and speaking up during class discussions (40%)
Presentation (50%)

[Changes following student comments]
Not applicable.

[Prerequisite]

Previously taking classes on media, race and gender will enhance the learning experience for this class.

[Outline and objectives]

In this class we will explore how different media operate, exploring how various mediums — such as cinema, television, comics, animation and social media—allow us to see and understand the world in different ways. By using theories and methods developed for each media, we will gain a better understanding of how each media operates, and what it allows us to see or hides from our view. In order to keep some common ground, we will compare each of these media to a particular type of media platform. While comparing and contrasting these media, we will be analyzing specific films, television series, manga, anime works, etc., detailing how they touch on topics such as societal critique, politics, race, gender, technology, spectatorship, geopolitics, and consumerism.

[Goal]

In addition to teaching the students about contemporary media and society, this class aims to develop critical thinking and analytical skills. Throughout the semester students will: 1) learn methodologies to analyze various media; 2) examine the specific operations of each media; 3) learn how to analyze the media's relationship to self and society; 4) explore how to conduct in-depth analyses of specific media works.

[Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?]

Will be able to gain “DP 1”, “DP 2”, “DP 3”, and “DP 4”.

[Method(s)]

Classes will be discussion-based, with visual material such as images and clips of films, manga, animation, etc. Each week students will be provided with an academic reading relevant to the topic. These readings will be important background information and/or will be directly addressed as the topic of the class content and discussion. Discussions based off of the reading material will be facilitated by questions from the instructor to help the students explore and develop their critical and analytical skills for that topic. Students will be assessed on their understanding of the readings through class discussions presentations. In class, feedback is given using some comments in relation to student questions and comments.

[Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)]

あり / Yes

[Fieldwork in class]

なし / No

[Schedule] 授業形態 : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction	Introduction
2	Exploring Contemporary Visual Media	What you see is what you get?
3	Modernism to Postmodernism	Post-modernity and its relationship to media
4	Live-Action Cinema	Cinema and the problems of "realism"
5	Usages of Cinema and TV	Media and its relationship to warfare
6	Reading Animation	Recreating space and time
7	Comics/Manga Adaptations	Comics vs. live action vs. anime films
8	Multiplatform Media	Transmedia storytelling
9	More Real than Reality	Reality TV and voyeurism
10	Spectators and Media	Gender and viewership across media
11	Social Media and the Self	Fantasy and self-hood as presented in different mediums
12	Virtual Reality	Life after death on the Internet
13	Student Presentations	Feedback and Discussion
14	Student Presentations	Feedback and Discussion

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]

Students should complete the assigned readings before each class and study the notes they take in class. Preparatory study and review time for this class are about 3 hours each.

[Textbooks]

Reading material will be provided via Hoppii.

[References]

References to different online articles and other media will be provided in class.

CUA300ZA

Media and Globalization

Stevie Suan

Credit(s) : 2 | Semester : 秋学期授業/Fall | Year : 3~4
Day/Period : 木 3/Thu.3

その他属性 : 〈優〉

【Outline and objectives】

With Disney films and anime becoming popular all over the world, it is hard not to see animation as a dominant form of global media. But how can we explore animation in its global position? Focusing on animation from the U.S., Japan, as well as Europe and parts of Asia, in this class we will closely examine the particularities of animation, exploring different thematic topics that intersect with globalization. Throughout the semester we will be engaging with the aesthetics of animation, analyzing its history, production processes, and global presence. In the first section of the class, we will learn how animation functions as a certain type of technology, how it operates transnationally, and how this is representative of contemporary globalization. In the second section of the class, we will examine specific topics that are relevant to globalization, including the spread of culture, the ethics of globalization, and global environmental destruction. Utilizing the methods learned in the first section of the class, we will analyze how specific animations and genres grapple with these topics.

【Goal】

In addition to teaching students information about animation and globalization, this class aims to develop critical thinking and analytical skills. Throughout the semester students will: 1) learn methodologies to examine animation as a particular type of media; 2) explore many of the problems of globalization through the example of animation; 3) learn how to apply those methodologies to analyze how certain animations engage with the problems of globalization.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain “DP 1”, “DP 2”, “DP 3”, and “DP 4”.

【Method(s)】

Classes will be lecture-based, with visual material such as clips of films and animation. Students will be asked to have group discussions on certain themes. Each week students will be provided with an academic reading relevant to the topic. These readings will be important background information and/or will be directly addressed as the topic of the lecture and discussion. Lectures will explain in detail and through examples the topic for that class. Discussions based on the lecture will be facilitated by questions from the instructor to help the students explore and develop their critical and analytical skills for that topic. Students will be assessed on their understanding of the lectures and readings through their presentations and papers. Students will receive feedback in class and in written form, based on a grading rubric.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり / Yes

【Fieldwork in class】

なし / No

【Schedule】 授業形態：対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction	Introduction
2	Media Flows Across the World	Different ways of thinking about globalization
3	Transnational Production of Media	Animation production across national borders and Regions
4	Global History of Media	Transnational influences from Russia, US, and Japan
5	Global Expansion of Animation	Differences and similarities of consuming media in various locales
6	Animation as Global Technology	Effects of technology in the ways we see and think about globalization
7	Globalized Aesthetics	Implications of anime's globally recognizable stylistics
8	Animating Characters Differently	Disney's techniques vs. anime's techniques and their relationship to culture
9	Dislocation of Transnational Media	How different animations consider ways to exist in an interconnected world
10	Local Folklore Gone Global	Traditional cultures in conflict with globalization
11	Ecology as a Global Issue	Environmentalism in various types of animation
12	A Technological Globe	Imagining a global world in cyberpunk animation

13 Student Presentations Feedback and Discussion

14 Student Presentations Feedback and Discussion

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

Students should complete the assigned readings before each class and study the notes they take in class. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

【Textbooks】

Stevie Suan, *Anime's Identity: Performativity and Form Beyond Japan*. Minneapolis: University of Minnesota Press, 2021.

Additional readings will be provided by the instructor.

【References】

Appadurai, Arjun. *Modernity at Large: Cultural Dimensions of Globalization*. University of Minnesota Press, 1996.

【Grading criteria】

Participation 20%

Presentation 40%

Final paper 40%

【Changes following student comments】

Not applicable.

【Prerequisite】

None.

CUA300ZA

Media and the Nation

Stevie Suan

Credit(s) : 2 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 3~4

Day/Period : 木 4/Thu.4

その他属性 : 〈優〉

[Outline and objectives]

In this class, we will explore how various media intersect with the idea of the nation in Japan. This will include engaging with the intersection of different media during the formation of the modern Japanese nation-state in the late 1800s. From this point of departure, we will move forward through Japanese history, exploring different media and how they operated in Japanese society at different times. We will examine print culture, from newspapers and wood-block prints, to comics and magazines, as well as moving-image media such as animation and live-action TV and film. Exploring their history, we will analyze some of their shifts over time, and how they reflect changes in their relationship to images of the nation in Japan. This includes how subcultural “otaku” media became official symbols of Japanese national culture, both locally and globally. After addressing this topic in detail, we will then return to more mainstream media, such as films and TV dramas and their relationship to shifts in Japanese society.

[Goal]

In addition to teaching the students about modern Japanese history, society, and media, this class aims to develop critical thinking and analytical skills. Throughout the semester students will: 1) learn methodologies to examine various media and their connection to Japanese society; 2) examine the specific dynamics of each media and their connection with the nation of Japan on a local and global scale; 3) develop how to analytically engage with the history of Japan and these media through the methodologies learned in class.

[Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?]

Will be able to gain “DP 1”, “DP 2”, “DP 3”, and “DP 4”.

[Method(s)]

Classes will be lecture-based, with visual material such as clips of films and animation. Students will be asked to have group discussions on certain themes. Each week students will be provided with an academic reading relevant to the topic. These readings will be important background information and/or will be directly addressed as the topic of the lecture and discussion. Lectures will explain in detail and through examples the topic for that class. Discussions based on the lecture will be facilitated by questions from the instructor to help the students explore and develop their critical and analytical skills for that topic. Students will be assessed on their understanding of the lectures and readings through their presentations and papers. Students will receive feedback in class and in written form, based on a grading rubric.

[Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)]

あり / Yes

[Fieldwork in class]

なし / No

[Schedule] 授業形態 : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction	Introduction
2	Imagined Communities	Newspapers and the early nation-state
3	Making National Arts	Theater and hanga's transformations in Meiji Japan
4	Wartime Media	Animation and film during the Taisho and Showa periods
5	Post-war Shifts	Shifting gender dynamics in popular genres from the 1960s and 1970s
6	From Niche to Mass	Anime and manga's rise to national fame from 1980s to early 2000s
7	Media Stereotypes	Creating an image of otaku in the 1980s to early 2000s
8	Otaku in Transition	Shifting images of otaku in film in the 2000s
9	Otaku Consumption/Production	Conceptualizing different types of consumption patterns of otaku
10	National Visibility of Fujoshi	Rise of female otaku consumers in early 2000s
11	Post-Bubble TV	Celebrity and lifestyle in TV dramas in 1990s and 2000s
12	Making Japan's Food	Contemporary "food focused TV" in imagining the nation
13	Student Presentations	Feedback and Discussion

14 Student Presentations Feedback and Discussion**[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]**

Students should complete the assigned readings before each class and study the notes they take in class. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

[Textbooks]

No textbook will be required as readings will be provided by the instructor.

[References]

Anderson, Benedict. *Imagined Communities: Reflections on the Origin and Spread of Nationalism*. Verso Ed., 1985.

[Grading criteria]

Participation 20%

Presentation 40%

Final paper 40%

[Changes following student comments]

Not applicable.

[Prerequisite]

None.

CUA300ZA

Media Research

Kukhee Choo

Credit(s) : 2 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 3~4

Day/Period : 火 4/Tue.4

その他属性 : 〈優〉

【Outline and objectives】

This course aims at helping students historicize and contextualize the socio-political and economic influences that media technology has had on our everyday lives and how that influence manifested itself in media representations. The study of media technology as material culture through its production, dissemination and uses has become more urgent as new forms of media are created faster than ever. In this course, students will analyze how media technology has developed throughout history and will further examine the pros and cons, social embracement and anxieties associated with each technology and their representations. Students will apply what they learn about the development of media technology and how it has been represented from a historical and socio-economic perspective and reflect it in their research projects.

【Goal】

By the end of the course, students will be able to,

- understand the history of media technology and its institutional development through their research projects
- learn theories regarding the development of media technology and learn how the technological development of media and its institutions has informed human perception, anxieties, body, gender and politics throughout history
- improve critical thinking ability about how the historical development of media technology has changed the institutional landscape as we know it and demonstrate that understanding by constructing strong arguments during class discussions

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain “DP 1”, “DP 2”, “DP 3”, and “DP 4”.

【Method(s)】

The course will cover the historical development of media technology through required readings and watching relevant media examples. The class will be centered on student discussions related to the required readings and topics and the instructor will guide the discussions accordingly.

Comments/feedback for assignments (tests and reports, etc.) are given during office hours.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり / Yes

【Fieldwork in class】

なし / No

【Schedule】 授業形態：対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction	Introduction
2	Print culture	Printing press, nationalism, and communities
3	Photography	First photography, stereoscopic images, and historical understandings
4	Film	Invention of cinema, sound technology and aura
5	Film	Animation technology
6	Telephone	Telegraph wire, telephone and fear of connection
7	Radio	War and radio, commercialization and fan culture
8	Review & research project	Review & research project
9	Television	Postwar development, shifting concepts of time & space
10	Computers	Mediated technologies and fear
11	Video games	Reconfiguring spaciality and senses
12	Internet	Communities, democracy and networks
13	Digital divide	Wealth and technology, internet and human rights
14	Final research project & wrap-up	Final research project & wrap-up

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

Students must read required readings before class. Each class will have about 30-80 pages of reading per class.

【Textbooks】

No text book required.

【References】

Anthony R. Fellow “Before the American experience”
 Benedict Anderson “Imagined communities”
 Shelton A. Gunaratne “Paper, printing and the printing press”
 “A brief history of photography”
 Walter Benjamin “The history of photography”
 Laura Schiavo “From phantom image to perfect vision”
 Geoffrey Batchen “Seeing and saying”
 Wheeler W. Dixon & Gwendolyn Foster “The invention of the movies”
 Charles O’Brien “Sound’s impact on film style”
 Chris Pallant “Disney innovation”
 Bendazzi Giannalberto “Silent pioneers in animation”
 Paul Starr “The first wire, “New connections: Telephone, cable and wireless”
 Schantz “Telephonic film”
 Dean Juniper “The First World War and radio development”
 Randall Patnode “What these people need is a radio”
 Charlene Simmons “Dear radio broadcaster”
 Mitchell Stephens “History of television”
 John P. Robinson and Steven Martin “Of Time and Television”
 Michael Curtin “Organizing difference on global TV”
 Morrison & Krugman “A look at Mass and computer mediated technologies”
 Dinello “Machines out of control”
 Leonard Herman “Early home video game systems”
 Eugenie Shinkle “Video games, emotion and the six senses”
 William Galston “Does the Internet strengthen community?”
 Don Tapscott “The net generation and democracy”
 Natalie Fenton “The internet and social networking”
 Gene Marks “If I were a poor black kid”
 Toure “On Gene Marks ‘If I were a poor black kid””
 Joanna Goode “Mind the gap”
 Kevin O’Brien “ Top 1% of Mobile Users Use Half of World’s Wireless Bandwidth”
 Vinton G. Cerf “ Internet Access Is Not a Human Right”

【Grading criteria】

Minimum absences (10%)
 Asking questions and speaking up during class discussions (40%)
 Midterm research project (20%)
 Final research project (30%)

【Changes following student comments】

None.

【Equipment student needs to prepare】

Students are not allowed to use computers, tablets or smartphones in this class. They must bring hard copies of the required readings to class. Students who require a PC for accessibility purposes should consult with the instructor.

【Others】

The content of this syllabus may be subject to change.

【Prerequisite】

None.

PSY300ZA

Cultural Psychology

Takafumi Sawaumi

Credit(s) : 2 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 3~4

Day/Period : 金 3/Fri.3

その他属性 : 〈グ〉〈優〉

【Outline and objectives】

This course introduces the perspectives and major research findings of cultural psychology. The course will introduce general theories and perspectives underlying cultural psychology, explore cultural influences on a wide range of psychological processes, including socialization, self-concept, motivation, emotion, and cognition. The course will also explain the mechanisms underlying cultural differences and examine the process of acculturation and biculturalism in an increasingly diverse world. Throughout this course, students will learn how culture shapes the way we think and behave and how we, at the same time, shape these cultures.

【Goal】

One of the aims of this course is to introduce students to the perspectives, research methods, and findings of cultural psychology. Another equally important aim of this course is cultivating students' abilities to understand and deal with variations in psychological processes across cultural and ethnic groups, as well as to gain an understanding of the cultural groundings of their own experiences and actions. By the end of this course, students will be able to demonstrate understanding of how cultural systems influence individuals' psychological processing, including development, self-concepts, motivation, emotion, and cognition. They will also be able to critically engage and analyze cultural products, such as books, films, and advertisements.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain "DP 1", "DP 2", "DP 3", and "DP 4".

【Method(s)】

Instructional methods include lectures, films, discussion over assigned readings, and small group activities. At the beginning of class, feedback for the previous class is given using some comments from submitted slips and papers.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり / Yes

【Fieldwork in class】

なし / No

【Schedule】 授業形態：対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction	Introduction
2	Culture and Socialization I	Development of the cultural mind
3	Culture and Socialization II	Education practices
4	Culture and the Self I	Cultural differences in self-concepts
5	Culture and the Self II	Consequences for self-consistency and egoism
6	Culture and Motivation I	Goals and theories underlying motivation
7	Culture and Motivation II	Cultural differences in motivation, control, and choice
8	Review and Midterm Exam	What have we learned so far? Multiple choice questions and short-essays
9	Culture and Emotion	Universality and cultural variation in emotions
10	Culture and Cognition I	Cultural differences in cognition
11	Culture and Cognition II	Where do cultural differences come from?
12	Acculturation and Biculturalism I	Time course of acculturation and factors that influence acculturation
13	Acculturation and Biculturalism II	The bicultural self
14	Review and Final Exam	What have we learned so far? Multiple choice questions and short-essays

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

Students should review their notes before each class and be prepared to explain the major concepts and theories they have learned. Students must download and print out the handouts before each class and bring them to class to take notes. Students are required to do the assigned readings and submit reaction papers during the term. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

【Textbooks】

Handouts and reading materials will be provided by lecturer.

【References】

Heine, S. J. (2015). *Cultural Psychology*. New York: W. W. Norton.
Cohen, D., & Kitayama, S. (2019). *Handbook of Cultural Psychology*. Second edition. New York: Guilford Press.

Both reference books are available in the library and the GIS Reference Room for those who wish to learn about each topic in more detail.

【Grading criteria】

Final grades are based on two exams (25% each), reaction papers for assigned readings (25%), and class participation (25%).

【Changes following student comments】

Students found this class difficult but appreciated the challenge. I hope to continue engaging students with materials through various hands-on activities and discussions.

【Prerequisite】

Students must have taken and received credits in at least one (preferably both) of the following courses: Social Psychology I, Social Psychology II.

PSY300ZA

Community Psychology

Toshiaki Sasao

Credit(s) : 2 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 3~4

Day/Period : 水 3/Wed.3

その他属性 : 〈優〉

【Outline and objectives】

This course has been designed to provide a rigorous undergraduate-level introduction to the theories and methods of community psychology. Community psychology is concerned with person-environment interactions and the ways society impacts individual and community functioning. The field focuses on social issues, social institutions, and other settings that influence individuals, groups, and organizations. Community psychology aims to optimize the well-being of individuals and communities with innovative alternative interventions designed in collaboration with affected community members and with other related disciplines inside and outside of psychology. Students are expected to gain a comprehensive understanding of working knowledge and skills in community psychology, as practiced around the world.

【Goal】

Upon completion of the course, students are expected to achieve the following goals:

- to develop an understanding of the role of social-historical factors in the development of community psychological perspectives while dispelling the popular myth about the field;
- to gain a working knowledge of different theoretical approaches for prevention of social and psychological problems in the community and begin to think about how these can be practically implemented and evaluated;
- to critically analyze the community psychological literature; and
- to appreciate professional careers and practices in community psychology.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain "DP 1", "DP 2", "DP 3", and "DP 4".

【Method(s)】

This course combines several different kinds of pedagogical strategies including lectures, class discussion, film discussion, and small group work. The requirements of the course include: (a) active participation, preparation, and engagement in class, (b) in-class and take-home exercises, and (c) midterm and final exam. Feedback will be provided via individual face-to-face sessions and/or the Hosei Hoppi System.

Required Readings

Students are expected to come to class fully prepared to participate in class discussion and other activities. In order to do so, students are required to have read the readings for each module prior to coming to class sessions.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり / Yes

【Fieldwork in class】

なし / No

【Schedule】 授業形態 : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction & Overview	Introduction & Overview
2	Community Psychology (CP): History, Values, & Assumptions	Introduces and discusses key historical events, values and assumptions in CP practice and research
3	Embracing Social Change	Discusses the nature of social change and theories
4	Empowerment	Introduces several empowerment models and theories of empowerment
5	Community and Citizen Participation	Discusses theoretical frameworks for community and citizen participation
6	Ecological and Environmental Approaches (1)	Introduces ecological models for understanding life space
7	Ecological and Environmental Approaches (2)	Discusses ecological interventions and a video presentation
8	Midterm Review	In-Class Review and/or Film Review
9	Appreciating and Affirming Human and Cultural Diversity	Discusses models of human diversity and interventions around the world

10	Prevention, Strengths & Promotion Approaches (1)	Discusses key concepts in prevention science
11	Prevention, Strengths & Promotion Approaches (2)	Introduces "best practices" in prevention interventions
12	Stress & Coping Approaches	Compare and contrast several clinical approaches to stress and coping with CP approaches
13	Social Justice Approaches	Introduces the idea of social justice for community psychology
14	Emerging Trends in Community Psychology	Ends the course with discussion on several recent trends and future directions in CP research and practice

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

Students are expected to complete all the reading assignments, and are prepared to engage in class activities and discussion. The course requirements and assignments are explained above in the Method(s) section, but depending on the level of students' preparation and interest, chances are that some of the requirements may be subject to change slightly, if not entirely. Preparatory study and review time for this class are 3 hours each.

【Textbooks】

Class readings will be available online. Some of the chapters will be drawn from the following textbooks, and from American Journal of Community Psychology, American Psychologist, Journal of Community Psychology, etc.

Kelly, J.G. et al. (2004). *Six community psychologists tell their stories: History, contexts, and narratives*. Binghamton, NY: Haworth Press.

Jason, L. A. et al. (2019). Introduction to community psychology. Downloadable free of charge from <https://press.rebus.community/introductiontocommunitypsychology/>

【References】

Additional references and readings will be introduced and/or provided in class.

【Grading criteria】

The following show approximate activity-by-activity percentage points toward your final course grade: (a) Active Participation, Preparation, and Engagement (30%); (b) In-class and take-home Exercises (30%) and (c) Midterm and Final (40%).

【Changes following student comments】

From time to time during class sessions, ideas and opinions are solicited from students re the class structure and format.

【Equipment student needs to prepare】

None.

【Others】

Please note that successful completion of general psychology, social psychology, clinical psychology, and/or a few psychology-related courses may be assumed and desirable, but not required. Additional course work in sociology, education, social work, international relations, anthropology, etc. would be useful.

【Prerequisite】

None.

PSY300ZA

Clinical Psychology

Keiko Ito

Credit(s) : 2 | Semester : 秋学期授業/Fall | Year : 3~4
Day/Period : 月 6/Mon.6

その他属性 : <優>

[Outline and objectives]

Major topics include definition, psychological assessment methods, psychotherapy approaches, along with the history of treatment and the role of science in clinical psychology. The course also explores some of the most common mental illnesses.

[Goal]

Major Course Objectives.

By the end of the course, you should be able to:

- Demonstrate an understanding of how clinical psychologists approach mental health from a biological, cognitive, and social perspective.
- Explain the importance of the scientist-practitioner model of clinical psychology.
- Describe the types of questions clinical psychologists ask and realize that appropriate research methods must be employed in order to answer them.
- Identify the major tasks and responsibilities of clinical psychologists as health care professionals.
- Engage with the ethical framework for the practice of psychology.
- Identify diversity issues as they relate to clinical psychology.

[Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?]

Will be able to gain “DP 1”, “DP 2”, “DP 3”, and “DP 4”.

[Method(s)]

Through a series of lectures, readings, exercises, films, and group projects, this course introduces and provides a broad overview of the field of clinical psychology. 1. Final Project -presentation

The final project is to be completed in small groups of students (if you want to do it individually, you must clear it with myself). The goal of the final project is for students to research and present information about the topic of clinical psychology in class by using power-point slides. Projects will focus on and cover the specific topic of clinical intervention. Possible examples of the projects include: Person-centered therapy, Psychodynamics therapy, Humanistic & Existential Psychotherapies, Behavior therapy, Cognitive-Behavioral therapy, Child & Family therapy, Couple therapy, Psychopharmacology, etc.

The topic could be a specific issues in clinical psychology other than intervention, but those who wants to do so must consult myself in advance.

2.Movie Report: A list of movies will be provided in class.

3. Exams: There will be no exam, but a brief final paper will be assigned.

4. Research Article Summary: In order to help you develop your understanding of psychological findings and methodology, you will be required to complete a brief (2 to 5 pages) summary of a research article. Articles appropriate for this paper can be found on the website or in library. Use an article of interest to you as long as it is appropriate to the course content and relevant to the field of clinical psychology. Insightful comments from reaction papers will be introduced in class and used in deeper discussions.

[Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)]

あり / Yes

[Fieldwork in class]

なし / No

[Schedule] 授業形態 : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Orientation & Guidance.	Orientation & Guidance.
2	History	The history of psychiatry and clinical psychology.
3	Group project discussion / Libarary research	Assessment of psychopathology and personality
	Overview of Assessment (1)	Projective tests personality test
4	Overview of Assessment (2)	Intelligence testing
		Neuropsychological assessment, behavioral assessment
		DSM & ICD 10
5	Major Psychiatric Disorder (1)	Anxiety disorder(includes panic/ OCD / PTSD)
6	Major Psychiatric Disorder (2)	Mood disorder (depression / bipolar)

7	Major Psychiatric Disorder (3)	Schizophrenia
8	Developmental Disorders	ADHD Learning disorder Autisic syndrome
9	Culture Issues in Clinical Psychology	Multicultural counseling Therapists' culture identity development
10	Stress management	Stress and its coping methods
11	Clinical Interventions/ Therapies	Psychoanalytic Therapy, Person Centered Therapy, CBT, Behavior Therapy, and other psychological interventions
12	Group Project Presentation (1)	Topics in clinical psychology and its intervention (2)
13	Group Project Presentation (2)	Topics in clinical psychology and its intervention (3)
14	The Road to Becoming a Clinical Psychologist	Wrap up

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]

· Class Preparation: An active learning approach requires students to prepare the readings and assignments BEFOFE class.

· Group Project: Students should expect to allocate time outside of class to meet with their group members to discuss/ prepare project assignment.

· Movie assignments: Write reflection essays on the movie.

Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

[Textbooks]

None.

[References]

· Class handouts will be provided in class.

· Supplemental readings will be provided in class.

· There will be an instructions session for how to find the research article assignment and articles to use in class.

· The APA Ethics Code including 2010 amendments can be downloaded for free directly from the APA website: <http://www.apa.org/ethics/code/index.aspx>.

[Grading criteria]

Participation: 20%

Reaction Papers: 10%

Movie Report (2): 10%

Group (or individual) Project: 35%

Research Article Summary: 10%

Final Report: 15%

Total: 100%

[Changes following student comments]

Not applicable.

[Equipment student needs to prepare]

Not in particular (there will be a power point presentation in class).

[Others]

Dates and contents of a class may change somewhat depending on our progress in covering the material.

Office hours (contact by email).

[Prerequisite]

None.

PSY300ZA

Psychology of Morality

Christopher Michael Kavanagh

Credit(s) : 2 | Semester : 秋学期授業/Fall | Year : 3~4
Day/Period : 火 2/Tue.2

その他属性 : 〈優〉

[Outline and objectives]

This course is designed to introduce students to the major theoretical perspectives and empirical research on the psychology of morality. In recent decades there has been a renaissance in research exploring morality and its associated psychological aspects. Accordingly, this course will focus primarily on psychological research on morality from a variety of fields (including cognitive psychology, comparative psychology, social psychology, developmental psychology, and evolutionary psychology) but will also include discussion of related work in philosophy, animal behavior, economics, and neuroscience. The course is intended to provide an introductory overview to the psychology of morality while also addressing core questions, such as: What is morality? Where does it come from? Do humans have core innate moral intuitions or are they socially learned and culturally dependent? Is there evidence of morality in any other species? By the end of the course, the students will have a greater appreciation of potential answers to these questions and then ongoing debates that surround them.

[Goal]

By the end of the course, students should be able to: (1) recognise and understand the key terms and major theoretical approaches in the psychology of morality; (2) discuss relevant studies and identify the strengths and weaknesses in their methodology and theoretical models; (3) compare and contrast different psychological theories of morality and discuss their application to selected scenarios; (4) critically evaluate the key theoretical approaches and their potential relevance to everyday life and moral judgments.

[Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?]

Will be able to gain “DP 1”, “DP 2”, “DP 3”, and “DP 4”.

[Method(s)]

This course will be taught primarily through a combination of lectures and group discussion. In the first part of the class the lecture will introduce key topics and theories and the group discussions will focus on related readings and issues of debate. Reaction papers will be assigned for selected topics in order to encourage engagement with relevant issues. Over the course of the semester, students will be required to prepare an oral presentation that discusses the research on a topic of their choosing covered on the course. The mid term and final exams will consist of questions that will evaluate the lecture content and core readings. Exams will be conducted on and feedback will be provided through Google Classrooms.

[Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)]

あり / Yes

[Fieldwork in class]

なし / No

[Schedule] 授業形態 : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction to Psychology of Morality	Introduction to Psychology of Morality
2	What is morality?	Introducing key psychological theories of morality, including classical approaches & moral foundations theory.
3	Where does morality come from?	Exploring the evolutionary origins of morality and comparative research on morality in non-humans.
4	Morality and religion	Examining the complex relationship between religion and morality and the impact of concepts like supernatural punishment and High Gods.
5	Person Centred Morality	Exploring how a person centred approach to morality might offer an alternative to deontological and utilitarian perspectives.
6	Developmental Psychology and Morality	Addressing the evidence for innate moral intuitions in infants.
7	Mid-Term Exam & Review	Mid-Term Exam & Review

8	Emotions and Moral Judgments	Examining the role that emotional responses, especially disgust, play in determining moral judgments and the social intuitionist model
9	Mind Perception and Moral Judgement	Reviewing how perception of intentionality & agency impact moral judgements and the Dyadic Morality model
10	Empathy: For & Against	Exploring the arguments for and against empathy as a core component of ethical moral systems.
11	The role of punishment in morality	Examining the role of punishment in moral systems and how it influences psychological responses
12	Moral Responsibility, Free Will & Determinism	Addressing the various perspectives on free will and how they impact concepts of moral responsibility.
13	Morality, Genetics, and Politics	Exploring the role that moral sentiments play in determining political beliefs and whether there is evidence these are impacted by genetic factors.
14	Final Examination & Wrap-up	Final Exam & Course Wrap Up

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]

Students are expected to complete weekly reading assignments, participate in class discussions, and prepare an oral presentation on a topic of their choice. Reaction papers will be assigned for specific weeks and can be submitted online via Google Classroom. Preparatory study and review time for this class will be at least 4 hours per week.

[Textbooks]

All readings will be distributed by the instructor.

[References]

Joshua Greene (2014). *Moral Tribes: Emotion, Reason and the Gap Between Us and Them* (English Edition), Penguin Books.

Valerie Tiberius (2014). *Moral Psychology: A Contemporary Introduction*(First Edition), Routledge Contemporary Introductions to Philosophy).

These books are not necessary to buy but provide good introductions to the topics covered on the course.

[Grading criteria]

Presentations 20%

Mid-term exam 25%

Final exam 25%

Weekly in-class participation 15%

Reaction papers & Homework 15%

[Changes following student comments]

More detailed feedback will be provided in regard to the reaction papers and how to structure essay-style answers for exams. All students will be tasked with reading the same core reading for each class with additional reading options to reduce confusion and improve class discussion. More time will be allocated to in-class discussion and debates to insure students understand lecture topics.

[Equipment student needs to prepare]

There is no specialist equipment required beyond a PC/laptop and access to the internet. Some classes may be held online. Weekly readings and reaction papers will be distributed via Google Classroom.

[Others]

None.

[Prerequisite]

You must have taken and received credits in at least 2 courses in psychology.

CUA300ZA

Qualitative Research Methods

Allen Kim

Credit(s) : 2 | Semester : 秋学期授業/Fall | Year : 3~4
Day/Period : 金 5/Fri.5

その他属性 : 〈優〉

【Outline and objectives】

This course is designed to introduce students to qualitative research methods. The course begins with research problems, questions and design considerations. The course follows with training, through lecture, group work and hands-on experiences, in data collection methods commonly used in qualitative research—field observation, interviews, and the use of documents and archival data. Students will undertake a pilot research study as part of the course requirements. This includes designing a research question, doing a literature review, creating a questionnaire, observing a field setting, analyzing field notes, and presenting on preliminary research findings. The exercises are intended to develop the mindset required to think through, design, and execute a qualitative study.

【Goal】

Provide students with an appreciation for and the basic steps of qualitative research design. Acquaint students with a diversity of qualitative methods and associated theoretical, ethical, and pragmatic issues. Instruct students on how to conduct qualitative research that is descriptively rich, theoretically illuminating, and personally meaningful. Each student will be able to create her/his own research questions, decide a research site/community, conduct original research, and present their findings.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain “DP 1”, “DP 2”, “DP 3”, and “DP 4”.

【Method(s)】

Although the instructor will provide the basic framework in a lecture format, students are expected to actively participate in and contribute to class discussion. This includes asking questions, seeking clarification and offering your critical ideas and interpretation about student projects, practical fieldwork issues, and lectures on other fieldwork techniques. Submission of assignments and feedback will be via the Learning Management System.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり / Yes

【Fieldwork in class】

あり / Yes

【Schedule】 授業形態：対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction	Introduction
2	Research Design	Types of research
3	Designing and QR set up	Beginning of individual project. Conceptual frameworks, research validity in data gathering
4	Starting a study	Entry into the field; developing rapport; role of the researcher; confidentiality; collecting background information, sampling
5	Literature Review	Reviewing existing scholarly work
6	Writing Research Proposal	Research questions, site, methods, contribution
7	Presentation and Data Collection Procedures	Research proposal presentation (summary of existing literature & introduction of research question) Write a summary of issues/challenges in data collection and bring to class for discussion
8	Interviews: Fieldwork I	Types of interviews (structured to unstructured). How to design interview questions; how to conduct interviews
9	Observations: Fieldwork II	Taking notes, types of observation. Analyzing social settings. How to observe and focus. Discuss fieldwork, share challenges.
10	Documents and internet data	Definition, review of sources and types of data, methods of collection and analysis.
11	Integrating, synthesizing data. Coding and Coding categories	Reflexivity and organizing data

12	Student Presentation I	Student presentations on mini-research proposal and feedback
13	Student Presentation II	Student presentations on mini-research proposal and feedback
14	Wrap up and Writing tips	Writing Qualitative Research Method Tips

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

Students should come to class having read and prepared to discuss assigned readings. The course will also require students to conduct participant-observational fieldwork outside of class. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

【Textbooks】

No textbook will be used for the course. Readings will be provided through the online course management system.

【References】

References will be shared in class.

【Grading criteria】

Field I, II, III Assignments: 60%
Research Proposal/Presentation 40%

Three or more unexcused absences will result in an incomplete grade (marked “E” on grading sheet). Please provide documentation if you need to be absent from class for medical reasons, job interviews and family emergency. If you arrive late or leave early, each will be counted as one ½ absence. 5 absences will result in “not passing.”

【Changes following student comments】

Weekly assignments have been updated.

【Equipment student needs to prepare】

None. You may use laptop or tablet to take notes.

【Others】

Slight modifications may be expected. Our goal in this class will not be to memorize or master a series of clear-cut answers; rather, by engaging in lively discussions, we aim to hone our ability to ask critical questions so as to further develop our skills as writers, readers and thinkers. In order to create such a learning environment, students should speak to each other and the instructor with respect. Abusive and harsh language will not be tolerated. Students with special needs should notify the instructor as early as possible, no later than the third week of the semester. Student attendance is critical because each lecture builds on the previous week. Missing out on critical components of the research process will put you behind in being able to design and implement a full project.

【Prerequisite】

None.

PSY300ZA

Advanced Topics in Social Psychology

Yu Niiya

Credit(s) : 2 | Semester : 秋学期授業/Fall | Year : 3~4
Day/Period : 金 2/Fri.2

その他属性 : 〈優〉

【Outline and objectives】

We all want to live a happy life and yet we may be inadvertently creating obstacles to achieving happiness. In this course, students will learn how we get to know ourselves, the maladaptive habits that our minds develop to protect the self from various ego threats, and various ways to improve psychological well-being of the self and others.

【Goal】

Upon completion of the course, students should be able to:

- Identify and explain classic and contemporary theories relating to the self.
- Critically analyze and synthesize empirical research in social psychology.
- Apply their learning to their own life to critically evaluate and explain interpersonal experiences during daily life.
- Verbally present their reactions and experiences to course content.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain “DP 1”, “DP 2”, “DP 3”, and “DP 4”.

【Method(s)】

This course mostly combines lectures and student-led class discussions on assigned readings. Students will receive oral and written feedback on their discussion questions and reaction papers.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり / Yes

【Fieldwork in class】

なし / No

【Schedule】 授業形態 : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction and Overview	Overview of course and review of syllabus
2	Know Thyself (1)	Knowing ourselves through introspection
3	Know Thyself (2)	Knowing ourselves through our behaviors and emotions
4	Know Thyself (3)	The consequences of knowing ourselves
5	The Vulnerable and Maladaptive Self (1)	How do we evaluate ourselves?
6	The Vulnerable and Maladaptive Self (2)	Self-evaluation maintenance model and downward social comparison
7	The Vulnerable and Maladaptive Self (3)	Self-presentation and its consequences
8	The Vulnerable and Maladaptive Self (4)	Self-serving cognitions
9	What the Self Needs (1)	Self-theories: Belief that one can change
10	What the Self Needs (2)	Self-determination theory
11	What the Self Needs (3)	Self-compassion
12	The Self in the Ecosystem (1)	Compassionate and self-image goals
13	The Self in the Ecosystem (2)	Nonzero-sum beliefs and prosociality
14	Synthesis	What have we learned so far and where do we go from here?

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

Students should review their notes and be able to explain the major concepts and theories they have learned in previous lectures. They will read the assigned readings before each class and prepare a reaction paper and discussion questions based on the readings. They must also download and print out handouts prior to each class and bring them to class to take notes. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

【Textbooks】

None.

【References】

The assigned readings will be uploaded on Hoppii.

【Grading criteria】

Students are evaluated based on a final paper (30%), in-class quizzes (20%), discussion questions (15%), reaction papers (25%), and class participation (10%).

【Changes following student comments】

This is a new course.

【Others】

Students will be asked to reflect on their daily experiences and share examples that illustrate various concepts and theories covered in the course.

Students who have taken and passed courses in psychology and statistics may be given priority in student selection.

【Prerequisite】

Students must have taken and passed one of the following courses: Social Psychology 1, Social Psychology 2, or Cultural Psychology.

FRI300ZA

Database Utilization

Youyung Hyun

Credit(s) : 2 | Semester : 秋学期授業/Fall | Year : 3~4
Day/Period : 火 3/Tue.3

その他属性 : 〈優〉

【Outline and objectives】

This course aims at understanding database and SQL. Through lectures and actual practices, students will learn how to build and utilize database.

【Goal】

By participating lectures and actual practices, students can (1) understand and implement crawling and MySQL, (2) implement programs using SQL and learn how to use MySQL using Python, and (3) utilize database on their own.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain “DP 1”, “DP 2”, “DP 3”, and “DP 4”.

【Method(s)】

This course will proceed with lectures, actual practices, and Q&A sessions (including individual instructions if necessary). Students are required to review what they have learned in the last class and to take the mini test every week about content of the last class.

At the beginning of every class, feedback for the previous class is given, and a brief review will be conducted.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり / Yes

【Fieldwork in class】

あり / Yes

【Schedule】 授業形態 : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction	Introduction
2	Chapter 1: Introduction to database	This class focuses on introducing databases and RDBMS.
3	Chapter 2: Introduction to SQL (1)	This class introduces SQL.
4	Chapter 3: Introduction to SQL (2)	This class covers basic grammar of SQL.
5	Chapter 4: Using SQL	This class focuses on practicing multiple ways to utilize SQL.
6	Chapter 5: Building database (1)	This class helps students build databases based on the actual dataset.
7	Chapter 6: Building database (2)	This class helps students build databases and understand SQL to manage MySQL.
8	Review & Simulation	Students will learn what the class has covered during the first half of the semester, and students will take a simple simulation test.
9	Chapter 7: Introduction to Python	This class focuses on introduction of Python, including how to use library, installation of pymysql, and so on.
10	Chapter 8: Python and MySQL (1)	This class focuses on learning Python and MySQL through pattern.
11	Chapter 9: Python and MySQL (2)	This class provides students with multiple examples to get used to Python and MySQL.
12	Chapter 10: Python and MySQL (3)	This class covers pandas library, pymysql, and Foreign Key.
13	Chapter 11: Data analysis and SQL	This class helps students analyze the actual dataset using SQL.
14	Final Exam & Wrap-up	The instructor will summarize the content throughout the semester, and students will take a final exam.

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

【Textbooks】

Handouts and reading materials will be provided by a instructor.

【References】

- Walter Shields (2019) SQL QuickStart Guide: The Simplified Beginner's Guide to Managing, Analyzing, and Manipulating Data With SQL. ClydeBank Media LLC.
- Anthony DeBarros (2022) Practical SQL, 2nd Edition: A Beginner's Guide to Storytelling with Data. No Starch Press

【Grading criteria】

Participation (20%); Weekly mini test (20%); Simulation (20%); Final exam (40%).

【Changes following student comments】

Not applicable.

【Equipment student needs to prepare】

Laptop (*downloaded with 'anaconda', 'jupyter notebook', 'SQL')

【Others】

This course is highly recommended to students who already took Introduction to Programming and/or Big Data and Analytics.

【Prerequisite】

None.

LIN300ZA

Language Policy

Geraldo Faria

Credit(s) : 2 | Semester : 秋学期授業/Fall | Year : 3~4
Day/Period : 金 2/Fri.2

その他属性 : 〈優〉

【Outline and objectives】

In this course, you will learn how Language Policy is defined as an academic subject. This course will cover major concepts behind language policies. By drawing on various topics related to language variation (e.g. social class and gender), this course will provide an accessible and engaging overview of Language Policy.

【Goal】

The understanding of language policies that cause and result in linguistic mechanisms utilized by particular members of a given society so as to distinguish themselves from societal members. The broad goal of this course is to promote social understanding and justice in schools, communities, and corporations.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain “DP 2”, “DP 3”, and “DP 4”.

【Method(s)】

After an introduction to the topics in the form of mini-lectures, examples of policies or general concepts will be presented for discussion, activity, and analysis. This course will contain assignments and writings outside of class, which may be presented in class. Note that the suggested topics may vary slightly depending on the number of registered students and their interests. Finally, submissions of assignments and their feedback will be via Google.docs (unless students are notified previously).

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり / Yes

【Fieldwork in class】

なし / No

【Schedule】 授業形態 : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction	Introduction
2	Concepts	Language overview and policies that affect its use by members of a given society
3	Language Planning	Language policies prescribed by governments to standardize language use
4	Language and Social Class	Social stratification and linguistic differentiation within a society
5	Language and Geography	National languages (standard registers) versus dialects
6	Designing a Project Related to Language Policy	Preparation for a study (requirements, data, analysis, text production, and presentation)
7	Language and Gender	Constraints (types, consequences, and formation of gender-neutral language) imposed by the gender of speakers. Mid-term review quiz
8	National Policies on Foreign Language Studies	Implications of governmental regulations on the choice of foreign language studies
9	Multilingualism	The language of minority groups within a larger society
10	Endangered Languages and Fieldwork Studies	Assimilation, language death, linguistic and societal implications / Language policy research models
11	Migrations and Pidginization of Languages	Human migration and its effects on language (second language, linguistic transition, and the language of the next generation)
12	Profession-specific Registers	Specialized language as a means to distance groups from non-specialists
13	Presentations of group projects	Students will give short academic presentations, followed by feedback
14	Consolidation	End-of-course assessment, feedback, and wrap-up

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

Students are expected to complete weekly reading assignments before class and review previous handouts before the following class. They should also organize their notes in the form of a notebook or a computer file. Students must choose a topic, and prepare a presentation with a handout, which will be delivered in class.

Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

【Textbooks】

No textbook will be used. The teacher will provide handouts, reading material, and links to online data.

【References】

Crystal, David. *The Cambridge Encyclopedia of Language*. Third Edition. Cambridge University Press, 2010 ISBN 9780521516983

Finegan, Edward. *Language: Its Structure and Use*. Harcourt Brace Jovanovich, 1992 ISBN 0729512681

Johnson, David. *Language Policy*. Palgrave MacMillan, 2013 ISBN 9781403911858

Pereltsvaig, Asya. *Languages of the World*. Cambridge University Press, 2014 ISBN 9780521175777

Yule, George. *The Study of Language*. Fifth Edition. Cambridge University Press, 2014 ISBN 9781107044197

The teacher will suggest material appropriate to the students' projects and interests through either the Internet or reference books available at the library.

【Grading criteria】

Grades will be based on exams (mid-term 30% and final 30%), assignments 30%, and participation 10%.

【Changes following student comments】

No feedback yet received.

【Equipment student needs to prepare】

A laptop or smartphone may be used to research an in-class assignment. Students may choose to take notes using their laptops.

【Others】

An enthusiasm to investigate (in)formal language policies that affect social justice globally.

【Prerequisite】

None

MAN300ZA

International Business

Shiaw Jia Eyo

Credit(s) : 2 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 3~4

Day/Period : 火 4/Tue.4

その他属性 : 〈グ〉〈優〉

【Outline and objectives】

Learning and applying the principles of international business. Globalization and international business will continue to impact international activities and influence local outcomes. In this course, students will learn concepts, processes and strategies of international business management. Emphasis will be on issues impacting international business and how companies conduct business to compete successfully in the global market.

【Goal】

The goal of this course is to understand the environment of international business, and its advantages and disadvantages. Students will develop analytical and critical thinking skills by analyzing business cases relating to international business.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】
Will be able to gain “DP 1”, “DP 2”, “DP 3”, and “DP 4”.

【Method(s)】

This course is taught primarily through lecture and discussions. Feedback is given during class time or through tools such as HOPPII or email. Interactive class participation is encouraged.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり / Yes

【Fieldwork in class】

なし / No

【Schedule】 授業形態 : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction and Overview	Introduction and Overview
2	Foundation Concepts (1)	What is international business?
3	Foundation Concepts (2)	Dimensions and drivers of market globalization
4	The Environment of International Business (1)	The cultural environment of international business
5	The Environment of International Business (2)	Ethics, CSR, sustainability and governance
6	The Environment of International Business (3)	Government intervention in international business
7	The Environment of International Business (4)	Case studies
8	Emerging Markets, Developing Economies and Advanced Economies (1)	Understanding emerging markets (presentation)
9	Emerging Markets, Developing Economies and Advanced Economies (2)	Potential, risks and challenges of emerging markets (presentation)
10	International Monetary and Financial Environment	Exchange rates, currencies, monetary and financial system.
11	Strategy and Opportunity Assessment (1)	Strategy and organization in the international firm
12	Strategy and Opportunity Assessment (2)	Case studies
13	Issues in International Business	Debates of current issues in international business
14	Final Exam & Wrap-up	Assessing the understanding of the subject

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

Download and print out the handouts before each class. Read the assigned chapters in the textbook and complete any assignments given. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

【Textbooks】

Cavusgil, Tamer S., Knight, Gary and Riesenberger, John. *International Business: The new Realities*, 4th Edition, Prentice Hall, 2016.

【References】

Further materials will be provided by the instructor.

【Grading criteria】

Students will be evaluated based on class participation (15%), assignments (25%), group presentation (15%) and final exam (45%).

【Changes following student comments】

Not applicable.

【Others】

Students who are interested to take this course, must attend the first week of class. A selection process will be conducted during the first week prior to the enrollment of this course.

Students who have taken business or economic courses are preferred.

【Prerequisite】

None

MAN300ZA

International Finance

Keiichiro Omae

Credit(s) : 2 | Semester : 秋学期授業/Fall | Year : 3~4
Day/Period : 月 5/Mon.5

その他属性 : 〈優〉

【Outline and objectives】

This course is an advanced class to learn key concepts of international finance. We cover topics such as financial markets (money, foreign exchange, bonds, stocks, etc.) and roles of financial institutions (commercial banks, investment banks, insurance companies and various types of funds (hedge funds, pension funds, etc.)). We also cover variety of financial products such as derivatives (futures, options), structured products and cryptocurrencies.

Regardless of whether you want to work in financial industry or not, in your future professional career, you will work with global financial institutions and impacted by international financial markets in various situations no matter what type of business you engage in. Through this course, you will obtain deep and practical understanding of financial markets, institutions and products that will be a great asset for your future career.

【Goal】

You should be able to apply theories and knowledge we learn in the class in a real-world situation. The goal of this course is to prepare yourselves to start your professional career successfully in international business environment.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】
Will be able to gain “DP 1”, “DP 2”, “DP 3”, and “DP 4”.

【Method(s)】

This class consists of lecture and discussion based on real-world examples. In addition to Final Exam, several mini test (quiz) will be conducted from time to time to check your understanding of basic concepts. While class participation is also an important component of the entire grade, adoption of “called call” or “warm call” will be decided depending upon the preparedness and enthusiasm of registered students. Feedback is given in class or after class on a group or an individual basis.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり / Yes

【Fieldwork in class】

なし / No

【Schedule】 授業形態 : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction	Introduction and review of key concepts
2	Basics of Finance and Market	Understand the role of finance and market in the economy.
3	The Stock Market	Understand how the stock market works including roles of Stock Exchange
4	The Bond Market	Understand how the bond market works and how the interest rates are decided
5	The Foreign Exchange Market	Understand how the foreign exchange market works
6	Derivatives	Understand derivatives such as futures, forwards and options
7	Financial Institutions and funds	Understand roles and characteristics of financial institutions
8	Valuation (1)	Learn valuation using Discount Cash Flow method
9	Valuation (2)	Learn valuation using comparable method
10	Option (1)	Learn concept of option including “real option”
11	Option (2)	Learn option pricing model
12	Recent topics in International Finance	To apply learned concepts to real world financial economy
13	Wrap up	Review all concepts learned
14	Final exam and review	Final exam and review

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

You will be expected to read and digest materials distributed before each class. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each. It is also expected to prepare questions in case you do not fully understand the facts or concepts in the materials. Detail of expected preparation for the following class will be provided in each class.

【Textbooks】

There are no textbooks required. Handouts and case studies will be distributed in advance for each class.

【References】

Zvi Bodie, Alex Kane, and Alan J. Marcus. (2021). Essentials of Investments 12th ed. McGraw-Hill. (ISBN: 978-1260772166)
Zvi Bodie, Alex Kane, and Alan J. Marcus. (2023). Investments 13th ed. McGraw-Hill. (ISBN: 978-1266837319)

(Below textbooks are discontinued and available only in libraries)

Bodie, Zvi, Robert C. Merton, and David L. Cleeton. (2009). Financial Economics. 2nd ed. Prentice Hall. (ISBN: 978-0131579521)

(Japanese Translation)

『現代ファイナンス論』(原著第2版) ボディ、マートン、クリートン著
大前恵一朗訳 ビアソン (2011) (ISBN: 978-4864010160)

【Grading criteria】

The grading will be based on the final exam (40%), quizzes (30%) and class participation (attendance, discussion, etc.) (30%).

【Changes following student comments】

None.

【Equipment student needs to prepare】

Using a laptop PC in the class is permitted but not required.

【Others】

There is no prerequisite in terms of financial knowledge to take this course.

However, because this is an advanced class, basic understanding of economics and financial statements is preferred, but not required.

【Prerequisite】

None.

FRI300ZA

Digital Transformation

Youyung Hyun

Credit(s) : 2 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 3~4

Day/Period : 金 1/Fri.1

その他属性 : 〈優〉

[Outline and objectives]

This course aims at learning three domains of business strategy, “customer”, “competition”, “data” as individual topics in relation to digital transformation. Then students will explore and analyze the meanings / applications of three domains for modern companies (including both incumbents and digital-born companies) through a textbook and multiple case studies.

[Goal]

In this course, by participating a series of group presentations and group discussions, students will (1) discover the macro/ micro mechanisms in digital transformation, (2) learn to suggest solutions to dilemmas that modern companies have, (3) synthesize emerging opportunities derived from big data and create positive organizational strategies, products, services, and experiences.

[Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?]

Will be able to gain “DP 1”, “DP 2”, “DP 3”, and “DP 4”.

[Method(s)]

This course will proceed with lectures, readings, group presentations, and group discussion. Students are required to read each chapter of a textbook in advance that will be covered during the class and submit summary of it. After partial lectures from an instructor, students will participate in group presentations and subsequent discussions. The subject of group presentations will be divided into two types – (1) the content of each chapter based on rigorous understandings, (2) case studies of the modern companies that can deepen understandings of each chapter and develop students’ own critical perspective on each case of digital transformation.

At the beginning of class, feedback for the previous class is given using some comments from submitted weekly papers.

[Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)]

あり / Yes

[Fieldwork in class]

なし / No

[Schedule] 授業形態 : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction of Course	Introduction of Course
2	Chapter (1a): Digital Transformation	This class covers what digital transformation is and what historical background is behind.
3	Chapter (1b): Five Domains of Strategy	This class covers the role of customers, competition, data, innovation, and value in leading digital transformation of companies.
4	Chapter (2a): Customer Networks	This class covers customer network model, marketing funnel, and relevant customer behaviors
5	Chapter (2b): Customer Network Strategy Generator	This class covers core behaviors of customer networks which generates new marketing communications, customer experiences, and new product/service innovations
6	Case Study of BTS	This class proceeds with open discussion about how BTS (K-pop) makes success from the perspective of digital networks.
7	Chapter (3a): Business Platform	This class covers powerful benefits of business platforms and studies how This class covers the nature / types of business platforms and analyzes how digital impacts platforms.
8	Chapter (3b): Competitive Benefits of Platforms	This class covers powerful benefits of business platforms and studies how Apple, Google, and Microsoft have built their businesses on platform business models.

9	Chapter (3c): Value Train Analysis in Business Platforms	This class aims to understand value trains in platform businesses and identifies differences between traditional market and digital platform.
10	Chapter (4a): Big Data and Analytics	This class covers the definition of big data (in terms of data structure, volume, velocity) and studies tools that can make data into assets.
11	Chapter (4b): Big Data in Business	This class specifically covers how modern enterprise turns big data into business value.
12	Big Data in Practice (1): Representative Cases	This class is focused on understanding real-world examples of modern companies that successfully utilize big data.
13	Big Data in Practice (2): Representative Cases	This class is focused on understanding real-world examples of modern companies that successfully utilize big data.
14	Wrap-up & Finalizing Chapters 1-4	The final class will briefly wrap up what we have learned by an instructor, and students will do small group presentations.

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]

Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

[Textbooks]

Rogers, D. (2016). The digital transformation playbook. Columbia University Press, 3,492yen (hardcover).

[References]

Marr, B. (2016). Big data in practice: how 45 successful companies used big data analytics to deliver extraordinary results. John Wiley & Sons.

[Grading criteria]

Participation (20%); Weekly paper (20%); Group presentations (40%); Group discussions (20%).

[Changes following student comments]

Not applicable

[Equipment student needs to prepare]

Bring to class: a notebook, the textbook on a laptop or a tablet, or bring a hard copy. Further information will be provided by the instructor.

[Prerequisite]

None.

FRI300ZA

Digital Transformation

Youyung Hyun

Credit(s) : 2 | Semester : 秋学期授業/Fall | Year : 3~4
Day/Period : 火 1/Tue.1

その他属性 : 〈優〉

【Outline and objectives】

This course aims at learning three domains of business strategy, “customer”, “competition”, “data” as individual topics in relation to digital transformation. Then students will explore and analyze the meanings / applications of three domains for modern companies (including both incumbents and digital-born companies) through a textbook and multiple case studies.

【Goal】

In this course, by participating a series of group presentations and group discussions, students will (1) discover the macro/ micro mechanisms in digital transformation, (2) learn to suggest solutions to dilemmas that modern companies have, (3) synthesize emerging opportunities derived from big data and create positive organizational strategies, products, services, and experiences.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain “DP 1”, “DP 2”, “DP 3”, and “DP 4”.

【Method(s)】

This course will proceed with lectures, readings, group presentations, and group discussion. Students are required to read each chapter of a textbook in advance that will be covered during the class and submit summary of it. After partial lectures from an instructor, students will participate in group presentations and subsequent discussions. The subject of group presentations will be divided into two types – (1) the content of each chapter based on rigorous understandings, (2) case studies of the modern companies that can deepen understandings of each chapter and develop students’ own critical perspective on each case of digital transformation.

At the beginning of class, feedback for the previous class is given using some comments from submitted weekly papers.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり / Yes

【Fieldwork in class】

なし / No

【Schedule】 授業形態 : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction of Course	Introduction of Course
2	Chapter (1a): Digital Transformation	This class covers what digital transformation is and what historical background is behind.
3	Chapter (1b): Five Domains of Strategy	This class covers the role of customers, competition, data, innovation, and value in leading digital transformation of companies.
4	Chapter (2a): Customer Networks	This class covers customer network model, marketing funnel, and relevant customer behaviors
5	Chapter (2b): Customer Network Strategy Generator	This class covers core behaviors of customer networks which generates new marketing communications, customer experiences, and new product/service innovations
6	Case Study of BTS	This class proceeds with open discussion about how BTS (K-pop) makes success from the perspective of digital networks.
7	Chapter (3a): Business Platform	This class covers powerful benefits of business platforms and studies how This class covers the nature / types of business platforms and analyzes how digital impacts platforms.
8	Chapter (3b): Competitive Benefits of Platforms	This class covers powerful benefits of business platforms and studies how Apple, Google, and Microsoft have built their businesses on platform business models.

9	Chapter (3c): Value Train Analysis in Business Platforms	This class aims to understand value trains in platform businesses and identifies differences between traditional market and digital platform.
10	Chapter (4a): Big Data and Analytics	This class covers the definition of big data (in terms of data structure, volume, velocity) and studies tools that can make data into assets.
11	Chapter (4b): Big Data in Business	This class specifically covers how modern enterprise turns big data into business value.
12	Big Data in Practice (1): Representative Cases (Netflix & Airbnb)	This class is focused on understanding real-world examples of modern companies that successfully utilize big data including Netflix and Airbnb.
13	Big Data in Practice (2): Representative Cases (Fitbit & WaltDisney Parks & Resorts)	This class is focused on understanding real-world examples of modern companies that successfully utilize big data including Fitbit and WaltDisney Parks & Resorts.
14	Wrap-up & Finalizing Chapters 1-4	The final class will briefly wrap up what we have learned by an instructor, and students will do small group presentations.

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

【Textbooks】

Rogers, D. (2016). The digital transformation playbook. Columbia University Press, 3,492yen (hardcover).

【References】

Marr, B. (2016). Big data in practice: how 45 successful companies used big data analytics to deliver extraordinary results. John Wiley & Sons.

【Grading criteria】

Participation (20%); Weekly paper (20%);
Group presentations (40%); Group discussions (20%).

【Changes following student comments】

Not applicable

【Equipment student needs to prepare】

Bring to class: a notebook, the textbook on a laptop or a tablet, or bring a hard copy. Further information will be provided by the instructor.

【Prerequisite】

None.

MAN300ZA

Digital Marketing

Youyung Hyun

Credit(s) : 2 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 3~4

Day/Period : 火 1/Tue.1

その他属性 : 〈優〉

[Outline and objectives]

This course aims at understanding the application of human-mimicking technologies (AI,NLP, sensors, robotics, augmented reality, etc.) to create, communicate, deliver, and enhance value across the customer journey.

[Goal]

Students will first understand the current challenges that marketers to deal with in a modern society (e.g., generation gap, COVID-19, digital divide). Based on that, students will learn the role of human-like technologies in addressing such challenges and marketing customers effectively. In this line, predictive marketing, contextual marketing, and augmented marketing will be covered. Finally, students will practically learn how to apply what they have learned and how to devise feasible solutions by performing their own group projects.

[Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?]

Will be able to gain “DP 1”, “DP 2”, “DP 3”, and “DP 4”.

[Method(s)]

This course will proceed with lectures, readings, group presentations, and group discussion. Students are required to read each chapter of a textbook in advance that will be covered during the class and submit summary of it. After partial lectures from an instructor, students will participate in group presentations and subsequent discussions. The subject of group presentations will be divided into two types – (1) the content of each chapter based on rigorous understanding, (2) case studies of the modern companies that can deepen understandings of each chapter and develop students’ own critical perspective on the cases. At the beginning of class, feedback for the previous class is given using some comments from submitted weekly papers.

[Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)]

あり / Yes

[Fieldwork in class]

あり / Yes

[Schedule] 授業形態 : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction of Course	Introduction of Course
2	Chapter 1: Marketing 5.0	This class covers the definition of marketing 5.0 enabled by a group of technologies that emulate capabilities of human marketers.
3	Chapter 2: Marketers’ Challenges (Generation Gap)	This class covers five different generations and corresponding marketing strategies in general.
4	Chapter 3: Marketers’ Challenges (Prosperity Polarization)	This class covers characteristics of today’s polarized society (jobs, ideologies, lifestyle, and markets) and explores why inclusivity and sustainability matters.
5	Chapter 5: COVID-19 as the Digitalization Accelerator	This class covers what changes have brought out due to COVID-19 and what types of new strategies are required to provide new customer experiences.
6	Chapter 6: Human-Like Technologies	This class covers the concepts and features of human-like technologies including natural language processing, sensor, robotics, mixed reality.
7	Chapter 7: The New Customer Experience	This class covers the future landscape of service industries that combine service robots and human employees to serve customers.
8	Chapter 8: Data-Driven Marketing	This class covers the definition of data-driven marketing and the requirements to perform data-driven marketing.
9	Chapter 9: Predictive Marketing	This class covers the definition of predictive marketing, what predictive marketing can do, and why it is necessary in a fast-changing digital market.

10	Chapter 10: Contextual Marketing	This class covers newly emerging marketing strategy that develops humans’ situational awareness by scanning environments. This can help marketers provide personalized services to customers.
11	Chapter 11: Augmented Marketing (Customer Tiering Model)	This class covers the future of human-machine collaboration and explores future directions of robotics development to devise effective marketing strategies.
12	Project 1: Project Analysis Methods	This class covers methodologies and examples of marketing projects. It includes problem identification, analysis, and finding feasible solutions.
13	Project 2: Planning for Group Projects	In this class, students (each group) will present which type of marketing strategy they will focus on to analyze the real-world case
14	Project 3: Final Presentation of Group Projects & Wrap-Up	In this class, students (each group) will give their case analysis based on a specific marketing strategy. After the presentation, subsequent discussion and feedback will follow.

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]

Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

[Textbooks]

Marketing 5.0: Technology for Humanity (English Edition) , Philip Kotler, Hermawan Kartajaya, Iwan Setiawan, Wiley(2021/1/27), 2,972yen (hardcover)

[References]

Rogers, D. (2016). The digital transformation playbook. Columbia University Press

[Grading criteria]

Participation (20%); Weekly paper (20%); Group presentations (40%); Final project (20%).

[Changes following student comments]

Not applicable

[Equipment student needs to prepare]

Bring to class: a notebook, the textbook on a laptop or a tablet, or bring a hard copy. Further information will be provided by the instructor.

[Prerequisite]

None.

MAN300ZA

Supply Chain Management

Kayhan Tajeddini

Credit(s) : 2 | Semester : 秋学期授業/Fall | Year : 3~4
Day/Period : 木 6/Thu.6

その他属性 : 〈優〉

【Outline and objectives】

Global supply chains interact with all facets of business and society. In this interdisciplinary course, students will gain a multi-faceted perspective on the global dimensions of today's business operations. Students will explore the interrelationships between global supply chains, logistics operations, society, and the environment. The study of business operations will be set in the context of social science theories and popular perspectives on the history, geography, structure and ethics of trade. Students will examine the impacts of current trade systems on both production and consumption regions and the human and environmental consequences of trade patterns.

【Goal】

1. For students to gain a multi-faceted perspective on the global dimensions of today's business operations through understanding how modern, global supply chains and logistics networks operate.
2. For students to understand the multi-disciplinary facets of how a global supply chain can be viewed, analyzed, and operated.
3. For students to explain multiple key social science theories and popular perspectives on the history, geography, structure and ethics of trade, and apply them to the analysis of supply chains.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】
Will be able to gain "DP 1", "DP 2", "DP 3", and "DP 4".

【Method(s)】

The course will be lecture, case, and discussion based. The assignments are designed to help students build skills that cover scientific, information, and communication literacy. Effort will be made to make the class both challenging and exciting.

We will use a combination of text and cases to explore and apply the topics. It is vitally important that you come to class prepared and ready to discuss the topics. If you read and prepare the materials you will learn more during the discussions and will be successful at the assignments.

Regarding the presentation and case studies, it will be explained in the first class with all guidelines, expectations and standards. The strengths and weaknesses of each presentation and reports will be discussed individually.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】
あり / Yes

【Fieldwork in class】
あり / Yes

【Schedule】 授業形態 : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introductory Session Operations and Productivity	Introductory Session Operations and Productivity
2	Project Management	Demand forecasting in a supply chain
3	Design of Goods and Services	Concepts for product and service design that include a supply chain perspective
4	Managing Quality, Statistical Process Control	The use of statistical techniques to control a process or production method
5	Process Strategy and Sustainability	The development and implementation of process strategy the development
6	Capacity and Constraint Management, Location Strategies	Incorporating capacity issues into management
7	Midterm Exam Layout Strategies	Midterm Exam How to develop an economic layout
8	Human Resources, Job Design, and Work Measurement	How human resources, job design, and work measurement affect the organizational effectiveness
9	Supply-Chain Management	Main components of supply chain management
10	Outsourcing as a Supply Chain Strategy Inventory Management	Manage, improve and optimize the supply chain by hiring a third-party company

11	Aggregate Planning Material Requirements Planning (MRP) and ERP	Understanding the difference between ERPs and MRPs in managing different levels of performance and capabilities
12	Short-Term Scheduling, JIT and Lean Operations	Different types of production system
13	Maintenance and Reliability	The importance of maintenance and reliability management in any well-functioning production
14	Course Review Final Exam	Course review Final exam

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】
Students are expected to complete regular reading assignments. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

【Textbooks】

Jay Heizer, Barry Render, 2011, Operations Management, 10e
Principles of Operations Management, 8e
Pearson Education, Inc. publishing as Prentice Hall
ISBN-13: 9780135107263

【References】

Chopra, Sunil and Peter Meindl, *Supply Chain Management*, Sixth Edition, Person Education, Inc., Upper Saddle River, NJ, 2015.
Johnsen, Thomas, Mickey Howard, and Joe Miemczyk, *Purchasing and Supply Chain Management: A Sustainability Perspective*, Routledge, 2014.

【Grading criteria】

Quiz: 20%
Presentation: 20%
Midterm Exam: 20%
Final Exam: 40%

【Changes following student comments】

Student requests and comments will be taken into consideration.

【Prerequisite】

None

MAN300ZA

Services Marketing

John Melvin

Credit(s) : 2 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 3~4

Day/Period : 月 4/Mon.4

その他属性 : 〈優〉〈実〉

[Outline and objectives]

What are services? The service sector, which includes finance, education and tourism, now accounts for around 80% of developed countries' economies and today's graduates are highly likely to be employed in such organizations. The purpose of this course is to provide students with an in-depth understanding of the theoretical and practical processes of marketing services, with a particular focus on tourism. Driven particularly by more demanding customers and advances in technology, organizations are pursuing closer and more interactive relationships with their customers, with important consequences for marketing. It is essential for companies and destinations to understand the impact of these changes in order to maintain and develop competitive advantage.

This course will consider strategic issues in services marketing; we will also consider micro-marketing issues relating to service design, the service experience, tourist behavior and the challenges and opportunities for managers presented by technological developments. Students will engage in additional learning opportunities such as group discussions and presentations. We will analyze a number of tourism-related case studies in addition to other service sectors.

[Goal]

This course aims to give students insights into the particular characteristics of marketing services such as tourism. After exploring current marketing theory on destination marketing, consumer value creation and the consumer experience, the course will apply these to the management and marketing of services.

From the consumer perspective, students will learn about consumer behavior, the impact of the service environment and forming relationships with service providers. From an organizational perspective, we will consider managing the service environment, innovation and developing service brands in order to facilitate consumer value creation and provide more memorable and rewarding experiences.

[Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?]

Will be able to gain "DP 1", "DP 2", "DP 3", and "DP 4".

[Method(s)]

Lectures will take place in an interactive environment, with students contributing through group discussions and a presentation. In group projects, students will gain an in-depth understanding of a particular organization/destination and must then present the results of their analysis.

Assignments will be submitted via Hoppii; insightful answers will be shared in class to facilitate discussion.

[Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)]

あり / Yes

[Fieldwork in class]

なし / No

[Schedule] 授業形態 : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction to the Course Content and Class Format	Introduction to the course content and class format
2	Consumer Value Creation	Considering the concept of value, and analyzing theories relating to the new marketing paradigm of value co-creation
3	The Experience Economy	Analyzing the implications for service providers as economies evolve beyond goods and services
4	Managing the Consumer Experience	Exploring different influences on the service experience, and the various stages of service delivery
5	Service Systems and the Servicescape	Exploring the design of the service environment and the impact on service consumption & customer satisfaction
6	Buyer Decision Making	Examining the influences on decision-making and how organizations can manage these
7	Innovation and New Service Development	Considering the challenges and opportunities for organizations in developing new services

8	Developing Service Brands	Investigating branding and differentiation from a destination's perspective
9	Service Quality	Examining consumer perceptions of quality and organizational strategy
10	Service Delivery	Examining the role of employees in facilitating consumer value creation, including intercultural sensitivity
11	Case Study	An in-depth analysis of service marketing & management through an international case study
12	Group Presentations	Student group presentations
13	Marketing, Sustainability & Corporate Social Responsibility (CSR)	Analyze organizational approaches towards sustainability and more responsible business approaches
14	Examination & Wrap-up	End of semester examination & course review

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]

Students will be assigned both individual and group reading as preparation for classes. Students are expected to download and preview the lecture slides before each class. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

[Textbooks]

There is no set textbook. Weekly handouts and reading materials will be distributed in class and/or available via the online class management page.

[References]

McCabe, S. (2014) *The Routledge Handbook of Tourism Marketing*. London: Routledge

Palmer, A. (2014) (7th Edition) *Services Marketing*. London: McGraw Hill

Pine, J. and Gilmore, J. (2011) (Updated Edition). *The Experience Economy*. Harvard: Harvard University Press

[Grading criteria]

Evaluation will be based on

1. Class participation & homework assignments (30%)
2. Group presentation and report (30% - individually assessed)
3. Exam (40%)

Students are expected to complete all the assigned reading and homework to enable them to get the most benefit from the lectures.

To improve students' group-working skills and encourage and reward cooperation and hard work, the group project is assessed on an individual basis.

[Changes following student comments]

In light of greater consumer interest, there will be more focus on sustainability and its importance on services marketing.

[Equipment student needs to prepare]

N/A

[Others]

Although not essential, students are strongly encouraged to have taken/concurrently take at least one other tourism-related courses, such as the 100-level 'Introduction to Tourism Studies', the 200-level 'Event Management' and 'Tourism Development in Japan' courses or the 300-level 'Cultural Tourism' course.

I can draw from my experience in organizing events and as marketing director of a tourism business in the UK to help provide students with examples and to illustrate issues.

[Prerequisite]

None.

MAN300ZA

Corporate Social Responsibility

Sairan Hayama

Credit(s) : 2 | Semester : 秋学期授業/Fall | Year : 3~4
Day/Period : 金 2/Fri.2

その他属性 : 〈優〉

[Outline and objectives]

This course is designed to introduce and explore the diversified perspectives and understandings on Corporate Social Responsibility (CSR). We are going to develop an understanding of CSR in the global context and learn why and how modern corporations are managing CSR in their business activities. The major topics dealt with in this course will be Defining CSR, CSR Concepts and Theories, Cases For and Against CSR, Responsibilities to Stakeholders, CSR in the Marketplace, CSR in the Workplace, and etc.

[Goal]

The goal of this course is to help students build the basic understanding of CSR, know how CSR is applied in different arenas of business and explore CSR management in companies. Students will be able to define CSR and explain the meanings of CSR strategic practices in modern corporations after taking this course.

[Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?]

Will be able to gain "DP 1", "DP 2", "DP 3", and "DP 4".

[Method(s)]

The class format consists of lecture and discussion, group work, class presentation, assignments, quizzes, and exams. In order to develop a global vision and analytical thinking, students will be encouraged to discuss their findings from the course materials and compare their own personal cultural views with those of their peers. Therefore, regular attendance is required for this course. Feedback will be given verbally, non-verbally or in written form.

[Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)]

あり / Yes

[Fieldwork in class]

なし / No

[Schedule] 授業形態 : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Orientation & Introduction	Orientation & Introduction
2	CSR in a Global Context	Introduce the key concepts in corporate social responsibility, the essential issues relevant to the responsible management of businesses. Textbook: pp.3-25 (lecture & discussion)
3	The Cases for and against CSR -1	Discuss different perspectives for and against CSR. Textbook: pp.27-65 (lecture & discussion)
4	The Cases for and against CSR-2	Discuss different perspectives for and against CSR. Textbook: pp.27-65 (lecture & discussion)
5	CSR Concepts and Theories -1	Explore the concepts and theories of CSR. Textbook: pp.66-96 (lecture & discussion)
6	CSR Concepts and Theories -2	Explore the concepts and theories of CSR. Textbook: pp.104-127 (lecture & discussion)
7	Responsibilities to Stakeholders -1	Who are the stakeholders? How should companies respond to these stakeholders? Textbook: pp.133-164 (lecture & discussion)
8	Responsibilities to Stakeholders -2	What are the responsibilities of companies for stakeholders? Textbook: pp.168-198 (lecture & discussion)
9	Case Study -1 Mid-term Exam	Company A regards employees as No.1 stakeholders and adopt stakeholder-oriented management philosophy and implement CSR positively.
10	CSR in the Marketplace	How to improve the bottom line by implementing an engaging, authentic, and business-enhancing CSR program that helps staff and business thrive. Textbook: pp.213-250 (lecture & discussion)

11	Case Study -2	Company B- BOP business in Africa. A case study on the business designed for people who live at the bottom of the base pyramid.
12	CSR in the Workplace	Discuss human rights and work-life balance issues in the workplace. Textbook: pp.253-289 (lecture & discussion)
13	Case Study -3	Company C - family friendly company. A case study on the work-life balance implementations.
14	Case Study -4 Final Exam (Presentation)	Company D - corporate citizenship in the community. A case study on corporate citizenship and sustainable development.

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]

Students are required to have their own text material copies and prepare for each class by reading through the materials to be covered before coming to class. The textbook is available in the library but you are recommended to have your own textbook. Preparatory study and review for this class are 2 hours each.

[Textbooks]

Andrew Crane, Dirk Matten and Laura J. Spence (2014), *Corporate Social Responsibility: Readings and Cases in a Global Context*, Routledge.

[References]

1. Andrew Crane & Dirk Matten (2016), *Business Ethics: Managing Corporate Citizenship and Sustainability in the Age of Globalization*, Oxford Univ. Printing.
2. Charlotte Walker & John D. Kelly edited (2015), *Corporate Social Responsibility? : Human Rights in the New Global Economy*, University of Chicago Press.
3. Jeremy Moon (2015), *Corporate Social Responsibility: A Very Short Introduction*, Oxford Univ. Printing.
4. J.Okpara & S.O. Idowu edited (2016), *Corporate Social Responsibility: Challenges, Opportunities and Strategies for 21st Century Leaders* (CSR, Sustainability, Ethics & Governance), Springer.
5. Peter Baines (2015), *Doing Good By Doing Good: Why Creating Shared Value is the Key to Powering Business Growth and Innovation*, Wrightbooks.

[Grading criteria]

participation and attitude 30%, presentation and report / homework 30%, mid-term 20 %, final exam 20%

[Changes following student comments]

Students taking this course are required to have basic business management knowledge.

[Others]

A formal document of proof is necessary when you are absent from the class meetings because of recruiting interviews which are on an assigned date by the company. Absences for free selection group interviews will not be given consideration since the class has priority.

[Prerequisite]

None.

TRS300ZA

Cultural Tourism

John Melvin

Credit(s) : 2 | Semester : 秋学期授業/Fall | Year : 3~4
Day/Period : 月 1/Mon.1

その他属性 : 〈優〉〈実〉

[Outline and objectives]

The phenomenon of cultural tourism exists in many forms and is regarded as one of the oldest forms of tourism. Defined as “A form of tourism that relies on a destination’s cultural heritage assets and transforms them into products that can be consumed by tourists.” (du Cros & McKercher, 2015: p.6), this course will analyze the 4 elements within the definition: (i) Tourism, (ii) Utilization of Cultural Assets, (iii) Consumption of Cultural Tourism Experiences, and (iv) Tourists and the Host Community.

We will consider the importance of cultural assets: as a way to define and understand nations, as a manifestation of people’s ethnicities and identities as well as a vital driver of tourism. To do so, we will analyze the role played by various stakeholders, such as governments, businesses, the media, NGOs and conservation organizations such as UNESCO & ICOMOS.

[Goal]

Upon completion of this course students should be able to:

- 1) Understand the various forms of cultural tourism
- 2) Understand the key organizations involved in providing and conserving cultural tourism at local, national and international level
- 3) Understand the role of cultural tourism in destination branding and marketing
- 4) Understand the role of cultural resources in forming people’s national and local identity, and how these are preserved and managed
- 5) Understand the complexities of stakeholder relations in the management of cultural tourism resources

[Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?]
Will be able to gain “DP 1”, “DP 2”, “DP 3”, and “DP 4”.

[Method(s)]

The course is primarily lecture-based, though students will have a number of opportunities to discuss issues in small groups. A broad range of case studies can help students consolidate their learning.

In groups, students will conduct an in-depth analysis of tourism in a selected destination through a case study, which will provide an opportunity to apply the theories and concepts from the lectures and enhance understanding of key issues.

Assignments will be submitted via Hoppii; insightful answers will be shared in class to facilitate discussion.

[Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)]

あり / Yes

[Fieldwork in class]

なし / No

[Schedule] 授業形態 : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction to Cultural Tourism (CT)	Introduction to cultural tourism (CT)
2	People: Cultural Tourists & Host Communities	Analyzing tourist demand for CT and the role of CT in destination management & development. Also, considering the important socio-cultural role of CT from the host community’s perspective.
3	Cultural Tourism and Authenticity	What is an ‘authentic’ experience? Considering the authenticity of tangible and intangible resources, and the importance of authenticity for visitors & local communities.
4	Impacts of Cultural Tourism	Considering the economic and socio-cultural impacts of CT on host communities
5	Culture & Nation Branding	Consider the strategic role of culture for developed & developing countries’ tourism portfolios
6	Politics of Cultural Tourism & Dark Heritage Sites	Consider the role of socio-political attitudes in influencing how culture is interpreted and the subjectivity of history: whose version of history prevails?
7	World Heritage Sites 1	Consider concepts and definitions of heritage tourism, and the management of built and natural heritage resources

8	World Heritage Sites 2	Consider the value of heritage resources for host communities, and the management and preservation of heritage sites
9	Cultural Visitor Attractions	Consider the educational and conservational role of cultural visitor attractions. Also the range of management issues, including developing an engaging visitor experience.
10	The Marketing of Cultural Tourism	Consider the challenges & issues relating to the marketing of CT
11	Food Tourism	Consider the role of food & drink as cultural resources, and using tourism to preserve local heritage
12	Group Presentations	Presentations on group case study destinations
13	Film- and TV-inspired Tourism	Consider the role of movies, TV and other media content as cultural resources; also the importance of accurate & artistic representations of local culture
14	Future of Cultural Tourism & Course Wrap Up	Considering how CT has evolved, and possible future trends

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]

Students will be assigned reading individually and in groups as preparation for classes. Students are expected to download the lecture slides to preview before class. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each. Please note, as a 300-level class the reading load is heavy.

[Textbooks]

Park, H. (2014). *Heritage Tourism*. London: Routledge
Students can purchase the paperback version or the e-book; alternatively, the e-book may be rented more cheaply for a fixed time from the publisher’s website (more details to be provided in class). Also weekly handouts and reading materials will be distributed in class and/or available via the online class management page.

[References]

du Cros, H. and McKercher, B. (2015). *Cultural Tourism* (2nd Edition). London: Routledge
Jimura, T. (2019). *World Heritage Sites: Tourism, Local Communities and Conservation Activities*. London: CABI

[Grading criteria]

1. Class participation & assignments (30%)
2. Group project (40%)
3. Term paper (30%)

Students are expected to complete all the assigned reading and homework assignments to enable them to get the most benefit from the lectures.

To improve students’ group-working skills and to encourage and reward cooperation and hard work, the group project is assessed on an individual basis.

[Changes following student comments]

N/A

[Equipment student needs to prepare]

N/A

[Others]

Although not essential, this course will be more accessible for students who have taken other tourism-related courses. As such, students are strongly recommended to have taken/concurrently take one or more of the following: 100-level Introduction to Tourism Studies or the 200-level Event Management or Tourism Development in Japan courses. I can draw from my experience in organizing events and as marketing director of a tourism business in the UK to help provide students with examples and to illustrate issues.

[Prerequisite]

None

MAN300ZA

Digital Marketing

Youyung Hyun

Credit(s) : 2 | Semester : 秋学期授業/Fall | Year : 3~4
Day/Period : 木 1/Thu.1

その他属性 : 〈優〉

【Outline and objectives】

This course aims at understanding the application of human-mimicking technologies (AI,NLP, sensors, robotics, augmented reality, etc.) to create, communicate, deliver, and enhance value across the customer journey.

【Goal】

Students will first understand the current challenges that marketers to deal with in a modern society (e.g., generation gap, COVID-19, digital divide). Based on that, students will learn the role of human-like technologies in addressing such challenges and marketing customers effectively. In this line, predictive marketing, contextual marketing, and augmented marketing will be covered. Finally, students will practically learn how to apply what they have learned and how to devise feasible solutions by performing their own group projects.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain “DP 1”, “DP 2”, “DP 3”, and “DP 4”.

【Method(s)】

This course will proceed with lectures, readings, group presentations, and group discussion. Students are required to read each chapter of a textbook in advance that will be covered during the class and submit summary of it. After partial lectures from an instructor, students will participate in group presentations and subsequent discussions. The subject of group presentations will be divided into two types – (1) the content of each chapter based on rigorous understanding, (2) case studies of the modern companies that can deepen understandings of each chapter and develop students’ own critical perspective on the cases. At the beginning of class, feedback for the previous class is given using some comments from submitted weekly papers.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり / Yes

【Fieldwork in class】

あり / Yes

【Schedule】 授業形態 : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction of Course	Introduction of Course
2	Chapter 1: Marketing 5.0	This class covers the definition of marketing 5.0 enabled by a group of technologies that emulate capabilities of human marketers.
3	Chapter 2: Marketers’ Challenges (Generation Gap)	This class covers five different generations and corresponding marketing strategies in general.
4	Chapter 3: Marketers’ Challenges (Prosperity Polarization)	This class covers characteristics of today’s polarized society (jobs, ideologies, lifestyle, and markets) and explores why inclusivity and sustainability matters.
5	Chapter 5: COVID-19 as the Digitalization Accelerator	This class covers what changes have brought out due to COVID-19 and what types of new strategies are required to provide new customer experiences.
6	Chapter 6: Human-Like Technologies	This class covers the concepts and features of human-like technologies including natural language processing, sensor, robotics, mixed reality.
7	Chapter 7: The New Customer Experience	This class covers the future landscape of service industries that combine service robots and human employees to serve customers.
8	Chapter 8: Data-Driven Marketing	This class covers the definition of data-driven marketing and the requirements to perform data-driven marketing.
9	Chapter 9: Predictive Marketing	This class covers the definition of predictive marketing, what predictive marketing can do, and why it is necessary in a fast-changing digital market.

10	Chapter 10: Contextual Marketing	This class covers newly emerging marketing strategy that develops humans’ situational awareness by scanning environments. This can help marketers provide personalized services to customers.
11	Chapter 11: Augmented Marketing (Customer Tiering Model)	This class covers the future of human-machine collaboration and explores future directions of robotics development to devise effective marketing strategies.
12	Project 1: Project Analysis Methods	This class covers methodologies and examples of marketing projects. It includes problem identification, analysis, and finding feasible solutions.
13	Project 2: Planning for Group Projects	In this class, students (each group) will present which type of marketing strategy they will focus on to analyze the real-world case
14	Project 3: Final Presentation of Group Projects & Wrap-Up	In this class, students (each group) will give their case analysis based on a specific marketing strategy. After the presentation, subsequent discussion and feedback will follow.

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

【Textbooks】

Marketing 5.0: Technology for Humanity (English Edition) , Philip Kotler, Hermawan Kartajaya, Iwan Setiawan, Wiley(2021/1/27), 2,972yen (hardcover)

【References】

Rogers, D. (2016). The digital transformation playbook. Columbia University Press

【Grading criteria】

Participation (20%); Weekly paper (20%); Group presentations (40%); Final project (20%).

【Changes following student comments】

Not applicable

【Equipment student needs to prepare】

Bring to class: a notebook, the textbook on a laptop or a tablet, or bring a hard copy. Further information will be provided by the instructor.

【Prerequisite】

None.

EDU300ZA

English Teaching in Primary School: Advanced

Tomoko Shigyo

Credit(s) : 2 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 3~4

Day/Period : 金 4/Fri.4

その他属性 : 〈優〉

[Outline and objectives]

This course is for students intending to teach English to young learners as primary pupils. It provides an overview of the curriculum development of the teaching of English in primary school based on second language learning (SLL) theories to primary pupils. Its purpose is to cultivate skills to implement second language (L2) education in primary school appropriately. It particularly looks at how to design English classes to facilitate literacy skills (reading and writing) of primary pupils with consideration to make consistency in L2 education from the primary to secondary levels. The students are encouraged to develop their own perspectives on designing English classes and practice modern EFL pedagogy such as content and language integrated learning (CLIL) and using picture books.

[Goal]

Upon completion of this course, students should be able to do the following:

1. Understand how children learn to read and write.
2. Understand how to link picture books with curriculum.
3. Develop curriculum of CLIL using picture books.

[Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?]

Will be able to gain “DP 1”, “DP 2”, “DP 3”, and “DP 4”.

[Method(s)]

Developing a lesson plan, micro-teaching and final assignment are required for the completion of this course; students are to create their lesson plans and demonstrate their English lessons based on the plans. They are required to reflect on their lessons in class and to revise their lesson plans based on the reflection in the final assignment. Submission of the final requirements and feedback will be on the learning management systems (HOPPII).

[Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)]

あり / Yes

[Fieldwork in class]

なし / No

[Schedule] 授業形態 : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction	Course guidance
2	Issues in Children Learning L2: Literacy (1)	Phonological awareness and children’s development
3	Issues in Children Learning L2: Literacy (2)	For starting to read and write in English
4	Issues in Children Learning L2: Picture books	Development of children’s literacy–picture books
5	Issues in Children Learning L2: Stories (1)	Learning through stories
6	Issues in Children Learning L2: Stories (2)	Language and stories
7	Lesson Planning (1)	Curriculum development (1)

8	Micro-teaching (1)	Micro-teaching (1), review and discuss(1)
9	Issues in Children Learning L2: CLIL	Introduction of CLIL
10	Issues in Children Learning L2: CLIL with picture books	CLIL and picture books
11	Issues in Children Learning L2: Assessment	CLIL and assessment
12	Lesson Planning (2)	Curriculum development (2)
13	Micro-teaching (2)	Micro-teaching (2), review and discuss(2)
14	Consolidation of English Teaching in Primary School: Advanced	Reflection & Summary

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]

Every week before attending class, students are expected to have completed the assigned readings. Students are required to choose a topic, prepare a presentation, and write a reflective paper. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

[Textbooks]

Cameron, L. (2001). Teaching Languages to Young Learners. Cambridge University Press.

[References]

1. Coyle, D., Hood, P., Marsh, D. (2010). CLIL: Content and lanugage integrated learning. Cambridge.
2. Dale, L. and Tanner, R. (2012). CLIL Activities: A resource for subject and language teachers. Cambridge University Press.
3. Mehisto, P. (2008). Uncovering CLIL: Content and language integrated learning in bilingual and multilingual education. MacMillan Education, Limited
4. Jalongo, M. R. (2004). Young children and picture books. Naeyc.
5. Fresch, M. J. and Hakins, P. (2009). The power of picture books: Using content area literature in middle school. NCTE.
6. 吉田真理子・佐藤佳子・執行智子 (2021) 『小学校英語に児童文学を一絵本・ナーサリーライム・ストーリーテリングの世界に遊ぶ』春風社
7. 津田塾大学言語文化研究所早期英語教育研究会 (編) (2022) 『創造的な学びを育む初等英語教育一時代を超えて生き続ける理論と実践』朝日出版社
8. 文部科学省 (2017) 『小学校学習指導要領 (平成 29 年告示) 解説外国語活動・外国語編』開隆堂

[Grading criteria]

Evaluation will be based on:

1. Class participation (30%)
2. Micro-teaching (30%)
3. Final assignment (40%)

More than 2 unexcused absences will result in failure of this course.

[Changes following student comments]

Not applicable.

[Equipment student needs to prepare]

Use a laptop in class, get lecture materials, etc. in Hoppi.

[Prerequisite]

None.

POL300ZA

International Relations of the Asia-Pacific

Takeshi Yuzawa

Credit(s) : 2 | Semester : 秋学期授業/Fall | Year : 3~4
Day/Period : 木 3/Thu.3

その他属性 : 〈グ〉〈優〉

【Outline and objectives】

This course will explore the nature of international relations in the Asia-Pacific. It will mainly examine and discuss the following: (1) factors for stability and peace in the Asia-Pacific region after the end of the Cold War; (2) roles for the great powers in the region: the United States, China, and Japan; (3) problems and prospects for regional security and economic cooperation; (4) the evolution of regional institutions; (5) the prospects for regional order.

【Goal】

The course objectives are: (1) to develop students' ability to effectively use IR theories to analyze and explain developments in regional affairs; (2) to enable students to analyze the foreign policies of the major powers and selected regional countries; (3) to enable students to assess the developments of regional institutions; (4) to enable students to examine and assess the status and prospects for regional order.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain "DP 1", "DP 2", "DP 3", and "DP 4".

【Method(s)】

This course is composed of twelve lectures. In each class, a background lecture on a pre-selected topic will be provided to students. After a lecture, there will be a discussion. While the lectures will provide an overview of the topics in question, the discussions will give students an opportunity to examine policies in more depth.

Comments for assignments are given during class and office hours.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり / Yes

【Fieldwork in class】

なし / No

【Schedule】 授業形態 : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction	Introduction
2	The United States and the Asia-Pacific	Examining US foreign and security policies with special reference to the Asia-Pacific region
3	China and the Asia-Pacific I	Examining China's foreign and security policies with special reference to the Asia-Pacific region
4	China and the Asia-Pacific II	Examining China's foreign and security policies with special reference to the Asia-Pacific region
5	Japan and the Asia-Pacific I	Examining Japan's foreign and security policies with special reference to the Asia-Pacific region
6	Japan and the Asia-Pacific II	Examining Japan's foreign and security policies with special reference to the Asia-Pacific region
7	Mid-term Review	Review of major topics covered by week 2 to 6
8	Mid-term exam and review	Written test and review
9	The Development of ASEAN	Investigating the processes behind the development of ASEAN
10	Economic Cooperation and Integration in the Asia-Pacific	Investigating the problems and prospects for regional economic cooperation
11	Security Cooperation and Multilateralism in the Asia-Pacific	Investigating the problems and prospects for regional security cooperation
12	Prospects for Regional Order in the Asia-Pacific I	Examining prospects for regional order
13	Prospects for Regional Order in the Asia-Pacific II	Examining prospects for regional order
14	Review and Wrap-up	Wrap-up

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

Students are required to have pored over assigned readings before attending the lectures. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

【Textbooks】

There is no assigned textbook for this course. Students are required to read the journal articles and the book chapters specified in the reading list.

【References】

Yahuda, Michael. *The International Politics of the Asia Pacific*. Fourth and revised edition. Routledge, 2019.

Connors, Michael K., Davison Rémy and Dosch, Jorn (eds), *The New Global Politics of the Asia-Pacific*. Third edition. Routledge, 2017.

Dent, Christopher M. *East Asian Regionalism*. Second edition. Routledge, 2016.

Shambaugh, David and Yahuda, Michael (eds), *International Relations of Asia*. Second edition. Rowman & Littlefield Publishers, 2014.

Pekkanen, Saadia, Ravenhill, John and Foot, Rosemary (eds), *The Oxford Handbook of the International Relations of Asia*. Oxford University Press, 2014.

Wallis, Joanne and Carr, Andrew (eds.) *Asia-Pacific Security: An Introduction*. Georgetown University Press, 2016.

【Grading criteria】

Contribution to discussion (10%), Mid-term Examinations (45%), Final Essay (45%)

【Changes following student comments】

Handouts to be provided in a timely manner.

【Equipment student needs to prepare】

Course materials will be delivered via the Hoppii.

【Others】

none.

【Prerequisite】

GIS students wishing to take part in this course are required to have completed "Introduction to International Relations" or "World Politics".

Non-GIS students wishing to take part in this course should have a basic knowledge of International Relations theories and adequate English skills to complete the course work and assignments.

POL300ZA
Advanced Comparative Politics
 Kana Inata
 Credit(s) : 2 | Semester : 秋学期授業/Fall | Year : 3~4
 Day/Period : 木 2/Thu.2
 その他属性 : 〈優〉

[Outline and objectives]
 This course provides a broad overview of key concepts and theories in comparative politics and aims at facilitating the students' understanding of why and how political events happen. Specifically, each lecture addresses important substantive questions about the world today (e.g., Why do protests happen? Why do some countries successfully democratise while others do not? Why does the military intervene in political affairs?) and explains how existing studies have answered those questions. This course critically examines several existing theories so that the students will be able to analyse current political events from their own comparative perspectives. In addition, this course introduces the key methodological concepts that are associated with the analysis of comparative politics. Specifically, the course explains what causal relationships are, how they are different from correlations, and what we should do to explain political events.

[Goal]
 This course helps students:
 · To learn the fundamental concepts and theories on comparative politics.
 · To learn how to use the knowledge acquired in this course for explaining the various political issues in the world today.
 · To understand the research methods relevant to the study of comparative politics.

[Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?]
 Will be able to gain "DP 1", "DP 2", "DP 3", and "DP 4".

[Method(s)]
 At the beginning of the class, feedback for the previous class is given using some comments submitted via the Learning Management System. This course also involves group discussions and group presentations.

[Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)]
 あり / Yes

[Fieldwork in class]
 なし / No

[Schedule] 授業形態 : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction	Introduction
2	Conceptualisation and Measurement	The class discusses the types of issues that arise when social scientists try to conceptualise and measure abstract political phenomena. Textbook Chapter 5
3	Group Presentation	Group Presentation
4	Democratisation 1	The class discusses what factors bring about democratisation. Textbook Chapters 6, 8 Lipset SM. 1959. Some Social Requisites of Democracy: Economic Development and Political Legitimacy. American Political Science Review, 53(1): 69-105.
5	Democratisation 2	The class discusses what factors bring about democratisation. Textbook Chapter 8 North D and Barry R. Weingast. 1989. Constitutions and Commitment: Evolution of the Institutions Governing Public Choice in 17th Century England. Journal of Economic History, 49: 803-832.
6	Democratic Consolidation	The class discusses why some countries consolidate democracy, while others do not. Textbook Chapters 6, 7
7	Authoritarian Consolidation	The class discusses why some countries consolidate autocracy, while others do not. Textbook Chapter 10 Frantz (2018) Chapter 7

8	Executive Systems	The class discusses what factors determine differences in executive systems. Textbook Chapter 12
9	Election Systems	The class discusses what factors determine differences in electoral systems. Textbook Chapters 13, 14
10	Party Systems	The class discusses what factors determine differences in party systems. Textbook Chapters 13, 14
11	Types of Democracies	The class discusses varieties of democracy and political outcomes. Textbook Chapter 16 Lijphart(2012) Chapters 2-4
12	Group Work	Group Work
13	Group Presentation	Group Presentation
14	Group Presentation	Group Presentation

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]
 Students are expected to complete weekly reading assignments. Students are required to prepare intensively ahead of group presentations.

[Textbooks]
 W Clark, M Golder, and S Nadenichek Golder, Principles of Comparative Politics 3rd edition, Sage, 2017

[References]
 • A Lijphart, Patterns of Democracy: Government Forms and Performance in Thirty-Six Countries, Yale University Press, 2012.
 • D Samuels, Comparative Politics, Pearson, 2013.
 • E Frantz. Authoritarianism: What Everyone Needs to Know. Oxford University Press, 2018.

[Grading criteria]
 Group presentations 50% (25% for each presentation), short essay 30%, participation 20 %

[Changes following student comments]
 Nothing in particular.

[Others]
 • Active participation is more than welcome and is valued highly. Students may ask questions about readings and lectures for clarification, express their opinions, and respond to other students' comments. Student's willingness to comment and ask questions matters for a better learning experience for all.
 • Plagiarism is a very serious academic offence and whether done wittingly or unwittingly it is the student's responsibility. Ignorance is no excuse. The result of plagiarism will have consequences. If it is a very serious case, I will immediately report it to the University and ask for their judgement.

[Prerequisite]
 None.

POL300ZA

Globalization and Political Change

Jenny Balboa

Credit(s) : 2 | Semester : 秋学期授業/Fall | Year : 3~4
Day/Period : 水 3/Wed.3

その他属性 : 〈優〉

【Outline and objectives】

This course aims to examine the current global political issues and their implications. The rise of populist and authoritarian leaders in many parts of the world – in the US, Europe and Asia had threatened global stability and the future of democracy. The election of Trump as US President had a costly legacy in the US and global politics. The UK's vote for Brexit provided a striking image of the power of far-right movements in the UK and Europe. The resurgence of these movements are fueled by post-truth politics, denialism and fake news which imperil civic engagement and democratic ideals. These developments are thought to be connected to the negative consequences of globalization, notably the deepening of inequality, the cultural clash, and the divide of values, which led to social and economic fragmentation and highly polarized politics. Adding to the global anxiety and uncertainty is the Russia-Ukraine war which was instigated by Russia's own authoritarian-populist leader, Putin. These crucial global events and issues need thorough examination and reflection since they significantly affect our lives, the future of democracy, and the rules-based international order. At the same time, we need to understand our options, as well as the appropriate choice of policy actions to counter the negative impacts of the social, economic and political changes that are brought by these challenges.

【Goal】

In examining globalization and political change, the course aims to answer three questions: 1) What are the impact and consequences of globalization? 2) What are the recent trends in global politics? and 3) What is the future of globalization and politics?

Globalization has provided opportunities for international cooperation and for minor voices to be heard; however, it has also become a significant source of domestic and global friction and instability. Globalization has both positive and negative consequences. We need to understand how we can benefit from its positive impact, and as much as possible, work on how the positive benefits can be harnessed. Meanwhile, we also need to carefully study the negative impact, how they can be managed, reduced, or even eliminated.

This course will help you develop deeper understanding of contemporary political issues, and strengthen your ability in analyzing the impact of crucial global events. In relation to these, we will engage in exercises that will improve your critical thinking skills, as well as help you effectively communicate your ideas and personal reflections of reading materials and current events. You will be writing reflective essays for your mid-terms examinations. The final exam will be a short essay and test on what you learned from the key themes of the course. We will have Active Learning Tasks composed of class debate and individual student report that will help you improve your confidence in presenting your ideas clearly and logically.

To receive credit from the class, you need to attend the lectures, participate in the Active learning tasks, and pass the mid terms and final examinations, which require you to read and reflect on the materials provided.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain “DP 1”, “DP 2”, “DP 3”, and “DP 4”.

【Method(s)】

The class combines lectures with active learning tasks, such as class debate and individual presentation. To make the class more lively and interesting, you are encouraged to participate actively and share your opinion regarding the topic of the day and the reading materials. The first half of the course tackles the nature, impact and consequences of globalization. The second half of the course examines the recent trends and future direction of globalization and politics.

Submission of assignments and feedback will be via the Learning Management System. Insightful comments from reflective essays will be introduced in class and used in deeper discussions.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり / Yes

【Fieldwork in class】

なし / No

【Schedule】 授業形態：対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction and Overview of the Course	Outline of the course, definition of terms, explanation of course requirements
2	Impact and Consequences of Globalization (a)	Nature and consequences of globalization/Debate teams are decided
3	Impact and Consequences of Globalization (b)	Globalization and Inequality/Individual report topics are discussed and decided
4	Impact and Consequences of Globalization (c)	Global rift, resistance and backlash/Individual Report topics are discussed and decided
5	Active learning task 1	Class Debate
6	Recent Trends in Global Politics (a)	Illiberal democracy
7	Recent Trends in Global Politics (b)	Populist and Authoritarian leaders
8	Recent Trends in Global Politics (c)	Brexit and the far right movement in Europe
9	Recent Trends in Global Politics (d)	Post-truth politics
10	Recent Trends in Global Politics (e)	Identity Politics
11	Active learning task 2: Group 1	Individual student report
12	Active learning task 2: Group 2/country case study	Individual student report
13	The Future of Globalization and Politics	Globalization in the Post-Covid World: Social Protection as a Critical Agenda & Country Case Study on the Consequence of Fake News
14	Review and examination	Strategies to counter populism, illiberalism and deniers of history and science & Wrap-up discussion/ Final examination

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

Preparatory study and review time for this class is at least 2 hours each for every meeting. The students are expected to read the assigned materials prior to class and conduct research for the active learning tasks.

【Textbooks】

Class materials will be provided by the Instructor.

[References]

- Arendt, Hannah. 1967. Truth and Politics. The New Yorker. February 25, 1967. Accessed at <https://www.newyorker.com/magazine/1967/02/25/truth-and-politics>
- Frieden, Jeffrey. 2017. The Politics of Globalization and Backlash: Sources and Implications. Conference Paper, American Economics Association, January 6, 2018. <https://institute.global/policy/high-tide-populism-power-1990-2020>
- https://scholar.harvard.edu/files/jfrieden/files/the_political_economy_of_the_globalization_backlash.pdf
- Fukuyama, Francis. 2018. Against Identity Politics: The New Tribalism and the Crisis of Democracy. Council on Foreign Relations: Foreign Affairs. <https://www.foreignaffairs.com/articles/americas/2018-08-14/against-identity-politics-tribalism-francis-fukuyama>
- Huntington, Samuel. 1991. Democracy's Third Wave. Journal of Democracy. Spring 1991.
- Huntington, Samuel. 2011. "The Clash of Civilizations?" In Essential Readings in World Politics. Mingst, Karen and Jack Snyder (eds). The Norton Series in World Politics. (pp. 159-166)
- Kyle, Jordan and Brett Meyer. 2020. High Tide? Populism in Power, 1990-2020. Tony Blair Institute for Global Change. Accessed at <https://institute.global/policy/high-tide-populism-power-1990-2020>
- Milanovic, Branko. 2016. Global Inequality. Cambridge, Massachusetts, London: The Belknap Press of Harvard University Press. Chapters 1& 3.
- Milner, Helen. 2018. Globalization and its Political Consequences: The Effects on Party Politics in the West. APSA Conference Paper, 2018. https://scholar.princeton.edu/sites/default/files/hvmilner/files/milner_globalization_political_consequences.pdf
- Rodrik, Dani. 2000. "Has Globalization Gone Too Far?". In The Global Transformations Reader. David Held and Anthony McGrew (Eds). Polity Press. Chapter 28.
- Sen, Amartya. 2004. "How to Judge Globalism." In The Globalization Reader. Frank Lechner and John Boli (Eds). Blackwell Publishing.
- Sen, Amartya. 2004. "Universal Truths: Human Rights and Westernizing Illusion". In Essential Readings in World Politics. Mingst, Karen and Jack Snyder (eds). The Norton Series in World Politics.
- Zakaria, Fareed. 1997. The Rise of Illiberal Democracy. Accessed at <https://www.foreignaffairs.com/articles/1997-11-01/rise-illiberal-democracy>

[Grading criteria]

Grading Criteria:

- 1) Class participation - 10%
- 2) Active Learning Tasks - 20%
- 3) Midterms examination - 30%
- 4) Final examination - 40%

Notes:

- a) For the active learning tasks, other than applying what you learned in class, the activities also aim to enhance your presentation and team work skills. Excellent mark will be given to well-prepared, interesting presentations.
- b) Class participation - excellent mark will be given to those who raise relevant issues, contribute in class discussions in ways that reflect the reading materials, and treat the opinions of others with respect.

[Changes following student comments]

The active learning tasks may change depending on class size.

[Equipment student needs to prepare]

None.

[Prerequisite]

None.

POL300ZA	Peace Building	Aigul Kulnazarova	Credit(s) : 2 Semester : 春学期授業/Spring Year : 3~4	Day/Period : 水 4/Wed.4	その他属性 : 〈優〉	<table border="1"> <tbody> <tr> <td data-bbox="825 123 847 152">2</td> <td data-bbox="922 123 1086 226">Peace and Peacebuilding in International Relations</td> <td data-bbox="1139 123 1452 450">Positive and negative peace Theoretical diversity (realism, liberalism, constructivism, cosmopolitanism, critical theory) Practical approaches to peace: preventive diplomacy, peacemaking, peacekeeping and peacebuilding Academic writing/analytical presentation workshop: basic techniques</td> </tr> <tr> <td data-bbox="825 454 847 483">3</td> <td data-bbox="922 454 1007 483">Conflicts</td> <td data-bbox="1139 454 1452 618">Definition of armed conflicts under international law Civil conflicts in the post-Cold War period Conflict analysis and conflict complexes</td> </tr> <tr> <td data-bbox="825 622 847 651">4</td> <td data-bbox="922 622 1031 651">Prevention</td> <td data-bbox="1139 622 1452 725">What is conflict prevention? Early warning signs Instruments for conflict prevention</td> </tr> <tr> <td data-bbox="825 730 847 759">5</td> <td data-bbox="922 730 1066 788">Mediation and Negotiation</td> <td data-bbox="1139 730 1452 810">Mediation Negotiation Peace agreements</td> </tr> <tr> <td data-bbox="825 815 847 844">6</td> <td data-bbox="922 815 1043 844">Use of Force</td> <td data-bbox="1139 815 1452 1061">General prohibition of the use of armed force Special cases of the use of armed force in response to mass atrocities: - UN Security Council: Chapter VII - UN General Assembly: "Uniting for Peace"</td> </tr> <tr> <td data-bbox="825 1066 847 1095">7</td> <td data-bbox="922 1066 1066 1124">Humanitarian Intervention</td> <td data-bbox="1139 1066 1452 1370">Political and legal issues of humanitarian interventions - de lege lata and de lege ferenda Moral and ethical aspects of humanitarian interventions Structural problems of humanitarian interventions Sanctions Peacekeeping operations Peace enforcement: R2P Case study in-retrospect: The "New UN Peacekeeping" in Cambodia Case study in-prospect: What's the UN's Role in Peacekeeping in Ukraine?</td> </tr> <tr> <td data-bbox="825 1285 847 1314">8</td> <td data-bbox="922 1285 1050 1344">Coercion and Enforcement</td> <td data-bbox="1139 1285 1452 1532">Role of international organizations The UN in peace processes Regional peacebuilding architectures</td> </tr> <tr> <td data-bbox="825 1536 847 1565">9</td> <td data-bbox="922 1536 1098 1639">Peacebuilding: International and Regional Frameworks</td> <td data-bbox="1139 1536 1452 1805">Role of "The Local" in peacebuilding Resources and processes Dilemmas of humanitarian relief</td> </tr> <tr> <td data-bbox="825 1675 847 1704">10</td> <td data-bbox="922 1675 1126 1756">Peacebuilding: Local Contexts and Development</td> <td data-bbox="1139 1675 1452 1980">Human security - human rights synergy: article 28 of the UDHR Dimensions of human security: UNDP Human Development Report 1994 Human security - peacebuilding nexus</td> </tr> <tr> <td data-bbox="825 1816 847 1845">11</td> <td data-bbox="922 1816 1110 1919">Peacebuilding: Human Security, Human Rights and Governance</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	2	Peace and Peacebuilding in International Relations	Positive and negative peace Theoretical diversity (realism, liberalism, constructivism, cosmopolitanism, critical theory) Practical approaches to peace: preventive diplomacy, peacemaking, peacekeeping and peacebuilding Academic writing/analytical presentation workshop: basic techniques	3	Conflicts	Definition of armed conflicts under international law Civil conflicts in the post-Cold War period Conflict analysis and conflict complexes	4	Prevention	What is conflict prevention? Early warning signs Instruments for conflict prevention	5	Mediation and Negotiation	Mediation Negotiation Peace agreements	6	Use of Force	General prohibition of the use of armed force Special cases of the use of armed force in response to mass atrocities: - UN Security Council: Chapter VII - UN General Assembly: "Uniting for Peace"	7	Humanitarian Intervention	Political and legal issues of humanitarian interventions - de lege lata and de lege ferenda Moral and ethical aspects of humanitarian interventions Structural problems of humanitarian interventions Sanctions Peacekeeping operations Peace enforcement: R2P Case study in-retrospect: The "New UN Peacekeeping" in Cambodia Case study in-prospect: What's the UN's Role in Peacekeeping in Ukraine?	8	Coercion and Enforcement	Role of international organizations The UN in peace processes Regional peacebuilding architectures	9	Peacebuilding: International and Regional Frameworks	Role of "The Local" in peacebuilding Resources and processes Dilemmas of humanitarian relief	10	Peacebuilding: Local Contexts and Development	Human security - human rights synergy: article 28 of the UDHR Dimensions of human security: UNDP Human Development Report 1994 Human security - peacebuilding nexus	11	Peacebuilding: Human Security, Human Rights and Governance	
2	Peace and Peacebuilding in International Relations	Positive and negative peace Theoretical diversity (realism, liberalism, constructivism, cosmopolitanism, critical theory) Practical approaches to peace: preventive diplomacy, peacemaking, peacekeeping and peacebuilding Academic writing/analytical presentation workshop: basic techniques																																		
3	Conflicts	Definition of armed conflicts under international law Civil conflicts in the post-Cold War period Conflict analysis and conflict complexes																																		
4	Prevention	What is conflict prevention? Early warning signs Instruments for conflict prevention																																		
5	Mediation and Negotiation	Mediation Negotiation Peace agreements																																		
6	Use of Force	General prohibition of the use of armed force Special cases of the use of armed force in response to mass atrocities: - UN Security Council: Chapter VII - UN General Assembly: "Uniting for Peace"																																		
7	Humanitarian Intervention	Political and legal issues of humanitarian interventions - de lege lata and de lege ferenda Moral and ethical aspects of humanitarian interventions Structural problems of humanitarian interventions Sanctions Peacekeeping operations Peace enforcement: R2P Case study in-retrospect: The "New UN Peacekeeping" in Cambodia Case study in-prospect: What's the UN's Role in Peacekeeping in Ukraine?																																		
8	Coercion and Enforcement	Role of international organizations The UN in peace processes Regional peacebuilding architectures																																		
9	Peacebuilding: International and Regional Frameworks	Role of "The Local" in peacebuilding Resources and processes Dilemmas of humanitarian relief																																		
10	Peacebuilding: Local Contexts and Development	Human security - human rights synergy: article 28 of the UDHR Dimensions of human security: UNDP Human Development Report 1994 Human security - peacebuilding nexus																																		
11	Peacebuilding: Human Security, Human Rights and Governance																																			
[Outline and objectives]																																				
This course explores the emerging field of peacebuilding in international relations, with a focus on the social, economic and political dynamics of war and peace, conflict prevention and resolution, use of force, and other issues. The course is designed for upper-level undergraduate students specializing in global studies, international relations, security and similar programs. Building on lectures, discussions and conceptual/analytical reflections on the weekly readings, it aims to enhance understanding of critical issues and challenges related to international peacebuilding processes, as well as their transformation in today's global politics. Course readings are mainly selected from academic journals and research monographs. This is a student-centered course in which the student learning experience forms the core of each class.																																				
[Goal]																																				
By the end of the course, successful students will be able to link theory with policy issues. In particular, they will be able to:																																				
<ul style="list-style-type: none"> - Explain various conceptual and theoretical frameworks of peacebuilding in international relations. - Analyze the legal, political and ethical aspects of armed conflicts and their resolution in accordance with international law. - Identify links between humanitarian interventions and prospects for sustainable peacebuilding. - Understand the growing role of humanitarian factors as well as their specific challenges and constraints in post-conflict peacebuilding. - Integrate knowledge, skills and competences in peace and conflict studies, international relations, international law, and the emerging field of peacebuilding. - Enhance independent research skills, including academic writing, critical thinking and analytical presentation. 																																				
[Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?]																																				
Will be able to gain "DP 1", "DP 2", "DP 3", and "DP 4".																																				
[Method(s)]																																				
The teaching methods of this course will combine lectures and discussions with active learning tools designed for each class. In addition, feedback will be provided after student presentations, discussions, and group work ("good", or "what needs to be improved", etc.). Detailed written comments on the discussion paper and the final exam will be provided individually. These comments will be emailed or posted on the designated course website within 1-3 weeks of submission. The class will meet once a week for 100 minutes. Please note that the learning approach may vary from face-to-face to virtual and vice-versa depending on the pandemic situation.																																				
[Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)] あり / Yes																																				
[Fieldwork in class] なし / No																																				
[Schedule] 授業形態 : 対面/face to face																																				
No.	Theme	Contents																																		
1	Introduction	Introduction																																		

12	Peacebuilding: Women and Security	Feminist approaches to peace and peacebuilding Human security, women's security and gender justice UN Security Council resolution 1325
13	Challenges of Peacebuilding for the 2020s	New forms of violence Terrorism, revolution and unconventional warfare Gendering international affairs Climate challenges Global health: era of pandemics? Peer evaluation of final presentations
14	The Future of Peacebuilding and Final Exam	Group discussion of course topics Peer evaluation of final presentations

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]

Preparatory study and review time for this class is 2 hours per week. In addition, each assignment will require 2 to 5 hours of preparation each week, including discussion papers, final exam and other activities.

[Textbooks]

There are no required textbooks for this course. Handouts and readings such as journal articles, primary and other texts will be posted on the course website through Hoppii.

[References]

- Richard K. Betts, *Conflict After the Cold War: Arguments on Causes of War and Peace*, 5th ed. (Routledge, 2017).
- Henry F. Carey, *Peacebuilding Paradigms: The Impact of Theoretical Diversity on Implementing Sustainable Peace* (Cambridge University Press, 2020).
- Mary Kaldor, *New and Old Wars*, 3rd ed. (Cambridge : Polity , 2012).
- Aigul Kulnazarova and Vesselin Popovski, *The Palgrave Handbook of Global Approaches to Peace* (Palgrave Macmillan, 2019).
- Roland Paris, *At War's End: Building Peace after Civil Conflict* (Cambridge University Press, 2004).
- Oliver P. Richmond, *Peace in International Relations* (Routledge, 2006).
- Peter Wallensteen, *Understanding Conflict Resolution*, 5th ed. (Sage, 2019).

[Grading criteria]

Participation and learning attitude: 20%

Participation does not mean only attendance. It includes both consistent attendance and good preparation for class discussions based on weekly readings, lecture topics, and contributions to group activities. Active participation in class discussions, as well as critical assessment of the assigned course reading, and peer interpretations are essential to ensure the success of the course and its learning outcomes.

Discussion paper: 40%

In addition to regular reading, each student will be required to discuss 1-2 journal articles as per the weekly schedule. Starting from the third week, the last 40 minutes of each session will be devoted to at least two presentations (15-20 minutes each) based on your discussion papers. Each student should critically discuss selected journal article(s) and submit core points on 3-4 double-spaced pages within one week of the presentation. The discussion paper should focus on the theoretical knowledge and empirical evidence related to the argumentation of the article(s), assess whether the author succeeds in his/her goals, and establish links to other course topics. The second week will include an academic writing workshop and detailed instructions on how to write a discussion paper and prepare an analytical presentation.

Final exam: 40%

The final exam consists of short and long critical essays and will be conducted in an open book format for a fixed period of time. This requires students to work independently, using their own words and drawing on course lectures, handouts, and reading materials (no external sources should be consulted). Detailed instructions will be provided a week before the exam.

[Changes following student comments]

From 2022: Although I think that the students still experienced some difficulties, mainly related to the method of active participation and deep involvement in the learning process, it seems to me that the second year of working with GIS students was less problematic. Perhaps this is due to the fact that students already had some understanding of this course through the syllabus, etc.

From 2021: This course turned out to be somewhat difficult due to the fact that students were not so accustomed to participatory and active learning methods, in particular critical thinking, independent reading and writing in accordance with academic standards and specific techniques of each discipline, class discussion and peer interpretations, etc. Therefore, while continuing to adhere to my teaching philosophy of participatory and active learning, I have changed some assignments/ requirements and added an academic writing/analytical presentation workshop to gradually help students improve their learning skills and habits. I look forward to achieving these goals together!

[Equipment student needs to prepare]

PC for class use when needed (no smartphones and other digital devices will be allowed without permission).

[Others]

Final grade:

Please note that your final grade will be calculated based on your participation, learning attitude, discussion paper and final exam (see, "Grading Criteria"). In no case will your final grade be assessed for just one component. In addition, failure to complete one of the components will result in course failure. Remember that your final grade is the accumulation of points earned during the semester. Please plan your learning goals ahead of time, including your expected grade.

Course syllabus:

This is an abridged version of the syllabus for prior reference. A detailed syllabus with weekly readings and assignments will be shared at the beginning of the semester.

Previous course participation:

Although no prerequisites are required for the course, previous participation in international relations, international law, international security, human rights, global politics, and/or development is recommended.

[Prerequisite]

No course prerequisites are required.

POL300ZA

International Development Policy

Ippeita Nishida

Credit(s) : 2 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 3~4

Day/Period : 木 2/Thu.2

その他属性 : 〈優〉

【Outline and objectives】

International development policies have been formulated along two domains, one by the donor coordination group (i.e. providers of Official Development Aid), traditionally represented by the OECD-DAC and another at the multilateral agenda setting forum such as the United Nations. While both serve the purpose of advancing the lives of people and discussions are mutually-related, each has distinct interests and constraints. In this course, we aim to understand how international development policy/agenda is being formulated and what the current (and future) issues are. Specifically, students will explore (1) the rationale and evolution of development policies by the donor community, (2) the holistic and people-centered agenda setting at the United Nations and (3) current policy issues related to development, such as impact of COVID-19, debt-sustainability and great power rivalry between China and the U.S., etc.

【Goal】

The course objectives are:

- 1) To enable students to assess the development policy debates from multiple aspects.
- 2) To make students able to differentiate development agenda formulation process at different stakeholder groups.
- 3) To equip students with the holistic understanding of the ongoing issues that affect on the process of global development, through groupwork.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain “DP 1”, “DP 2”, “DP 3”, and “DP 4”.

【Method(s)】

This class will have lectures and interactive discussions, as well as group presentations. Active participation is expected. Students will undertake a final exam and have occasional short papers to write. Insightful comments from papers will be introduced in class and used in deeper discussions.

The course is composed of three parts. The first part (weeks 3-6) will have lectures on debates among traditional donors. In the second part (weeks 7-9), lectures will cover key discourses of the United Nations adaptation of the Sustainable Development Goals. The third part (weeks 10-13) will examine current policy issues that are related to development and students will be tasked to do research and make group presentations. Except the first day, in principle, this class will adopt the face-to-face format, to allow students' direct interaction. Yet, it may use the online platform when necessary (in such case, students will be notified in advance).

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり / Yes

【Fieldwork in class】

なし / No

【Schedule】 授業形態 : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction	Introduction
2	Overview of Discourse	History and institutions
3	Foreign Aid	Concept of helping others and use of “aid” in foreign policy

4	ODA	Concept of “Official Development Assistance (ODA)”
5	ODA Policy in Practice	Case studies of respective countries. Role of OECD-DAC.
6	Issues of Aid	Aid financing, Shaping development debate, rise of new donors, state fragility, etc.
7	Multilateral Forum	United Nations, UN for development, People-centric approach
8	SDGs	Formulating the “Sustainable Development Goals (SDGs)”
9	Synthesis Discussion	Reconciling states' interests and global agenda
10	Current Policy Issues 1	Group Presentation: Impact of COVID-19 on Global Development
11	Current Policy Issues 2	Group Presentation: State Debt, Development and State Sovereignty
12	Current Policy Issues 3	Group Presentation: Belt and Road Initiative (BRI) and Development
13	Current Policy Issues 4	Group Presentation: Free and Open Indo-Pacific (FOIP) Strategy and Development
14	Final Exam & Wrap-up	In-class or take home. Review of the learnings.

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

Occasional reading and writing assignments. Group work for presentation. Preparatory study and review time for this class are expected about 2 hours each.

【Textbooks】

There is no assigned textbook for this course. Students are required to read handouts and suggested articles/chapters from the references.

【References】

Students are encouraged to read following references to further their understandings.

OECD (2006), *DAC in Dates: The History of OECD's Development Assistance Committee*

(available online at www.oecd.org/dac/1896808.pdf)

Lancaster, Carol (2007), *Foreign Aid: Diplomacy, Development, Domestic Politics*, University of Chicago Press

UN Document, A/RES/70/1, 21 October 2015 *Transforming our world: the 2030 Agenda for Sustainable Development* (available online at <http://www.un.org/sustainabledevelopment/sustainable-development-goals/>)

Sachs, Jeffrey D (2015), *The Age of Sustainable Development*, Columbia University Press

Wickstead, Myles A. (2015) *Aid and Development: A Brief Introduction*, Oxford University Press

Hynes, W. and S. Scott (2013), *The Evolution of Official Development Assistance: Achievements, Criticisms and a Way Forward*, OECD Development Co-operation Working Papers, No. 12, OECD Publishing

(available at <http://dx.doi.org/10.1787/5k3v1dv3f024-en>)

【Grading criteria】

Class Participation: 20%

Occasional Assignment Papers: 20%

Group Presentation: 20%

Final Exam: 40%

【Changes following student comments】

Constructive comments and feedback from students are always welcomed and will be taken into consideration.

【Equipment student needs to prepare】

None in the class.

But, access to PC/electric device and Wi-Fi may be required, when class is held on-line (e.g. first class).

【Others】

In order for students to successfully complete the class, basic understandings of the development thoughts as well as international relations are needed. Thus, GIS students wishing to register for this class are recommended to have taken “Introduction to Development Studies” and/or “Development Studies”. Also, knowledge of international relations, international organizations and foreign policy will be of benefit.

【Prerequisite】

None (see "Others" for recommended classes).

SES300ZA

International Environmental Policy

Gregory Toth

Credit(s) : 2 | Semester : 秋学期授業/Fall | Year : 3~4
Day/Period : 金 6/Fri.6

その他属性 : 〈優〉

【Outline and objectives】

The world continues to face global environmental challenges – climate change, deforestation, biodiversity loss and pollution, among others. As a response, different international initiatives are being implemented, resulting in a variety of agreements, laws, regulations and other policy mechanisms. This course focuses on international environmental policy (IEP), and explores the motivations, challenges and opportunities of IEP actions, taking into consideration the role of multilateral organizations (e.g. the United Nations), governments, corporations, NGOs and local communities. The course includes in-depth analysis of particularly relevant IEP arrangements in the areas of agriculture, forestry, biodiversity, climate, urbanization and trade.

【Goal】

The main goals of the course are to:

- provide a basic understanding of current global environmental problems
- develop critical thinking regarding international policy mechanisms to tackle environmental problems
- enhance students' ability to understand the risk, uncertainty and complexity embedded in IEP
- to cultivate students' capacity to critically assess the motivations, challenges and opportunities related to IEP actions
- learn to work collaboratively with other classmates in the elaboration and presentation of a group project.
- improve basic professional skills regarding self-organization, planning, time management, and respect for diversity in points of view.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain “DP 1”, “DP 2”, “DP 3” and “DP 4”.

【Method(s)】

The course consists of short lectures and interactive class discussions and presentations in which students address, from a critical perspective, the topics covered each week (prepared prior to class). At the end of the course, students have the opportunity to present their (group) project and discuss it in class. Feedback will be given through class discussion and in response to submitted assignments and individual requests.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり / Yes

【Fieldwork in class】

なし / No

【Schedule】 授業形態：オンライン/online

No.	Theme	Contents
1	Introduction	Introduction
2	Environment	Background of global environmental issues and efforts to curb them; local and indigenous communities
3	Environmentalism	History of environmental movement and significant milestones
4	Policy	What and how of policy analysis
5	Env. Policy -Government I	Role of global institutions, e.g., United Nations; WTO; etc.; Sustainable Development
6	Env. Policy -Government II	Deeper exploration of environmental treaties, agreements, conventions, etc., e.g., Convention on Biological Diversity, carbon credits
7	Env. Policy -Government III	International Environmental Law in action
8	Env. Policy - Private	Corporate Social Responsibility; Environment, Social, and Governance; Greenwashing
9	Env. Policy -Nongovernment	Importance of non-governmental organizations, e.g. CGIAR (Consultative Group on International Agricultural Research); Certification schemes
10	Agroforestry	Policy analysis of sustainable farming model and development impacts; carbon sequestration

11	Review	Preparations for presentations; question and answer
12	Student Presentations I	Students present their (group) project and discuss it with the class
13	Student Presentations II	Students present their (group) project and discuss it with the class
14	Conclusion	Reflections on the course and the way forward for int. env. policy

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

Reading of materials identified (and often provided) by the instructor; Preparation of discussion talking points and questions; Group report/presentation. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

【Textbooks】

Global Environmental Politics 8th Edition,
by Pamela S. Chasek (Author), David L. Downie (Author)
(available and recommended in electronic format)
ISBN 9780367227623 / ASIN : B08P63C8G3
Published by Routledge

【References】

Various references will be noted within the course materials.

【Grading criteria】

Students will be evaluated on the basis of class participation (40%) and a final review report/presentation (35/25%). Class participation will be judged based on attendance, preparation of questions/comments for discussion, and peer review during group work scenarios.

【Changes following student comments】

Students are encouraged to utilize the discussion time to speak in class.

【Equipment student needs to prepare】

Computer

【Others】

Instructor reserves the right to adapt this syllabus as they deem fit during the course of the semester.

【Prerequisite】

none

POL300ZA

Global Political Economy

Nathalie Cavasin

Credit(s) : 2 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 3~4

Day/Period : 水 1/Wed.1

その他属性 : 〈優〉

[Outline and objectives]

We will examine the structure of the contemporary global political economy. Students will be introduced to the theories, debates and paradigms using case studies to develop an understanding of the global political economy. Students will also debate on the new political economy landscape after the Covid-19 pandemic and its effect on the global supply chain, the consequences of the Russia-Ukraine war and its impacts in the global economy, among others topics. Specific attention will be put on the role of China and its increased participation in the global political economies, the geopolitical situation in the world and the recent trends regarding India's new enthusiasm in the new globalization regime.

[Goal]

Students through the assignments that are based on current events in the world (analysis with back-up from recent news) will be able to learn to express their opinions and develop their critical thinking skills.

[Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?]

Will be able to gain "DP 1", "DP 2", "DP 3", and "DP 4".

[Method(s)]

Each week, in addition to readings to be done, written assignments will be assigned. These written assignments are mandatory. Each student will also write a report every three weeks on a topic from the news in relation with the course contents topics. In addition, there will be an individual essay with a group presentation (topic to be decided later with the supervision of the professor) a book review project to be written and a take-home assignment for the final assignment. Students will receive written feedback (eventually oral feedback and mini-discussions with the professor in class) by the professor.

[Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)]

あり / Yes

[Fieldwork in class]

なし / No

[Schedule] 授業形態 : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction and Overview of the Course	Introduction and Overview of the Course
2	Understanding the evolution of the world economy	Evolution of the world economy from the industrial revolution (Chap.3&4)
3	Post-war global economy	The global economy: from 1945 to today (Chap.5)
4	International trade patterns	International trade (Chap.6)
5	- Transnational production systems - Discussion on the impact of transnational corporations	Transnational production (Chap.7)
6	How the global financial system operates Decision on the topics for the essay-presentation project	The global financial system (Chap. 8)
7	- International Division of Labor - Analyzing women in the world economy	The international division of labor (Chap.9)
8	Understanding the notion of development today	Economic development (Chap. 11)
9	Discussion and debate Essay - Submission (group 1)	Gender (Chap. 10)

10	What are the most challenging environmental issues today in the world? Essay-Presentation (group 1) Essay - Submission (group 2) Ideas on global political economies	Global environmental changes (Chap. 12)
11	Essay-Presentation (group 2) Looking at the security in political economy Essay - Submission (group 3)	Security (Chap. 14)
12	Essay-Presentation (group 3) How the domestic and international politics determine have an impact on the global economy is functioning Essay - Submission (group 4) Submission of the book review	Theoretical perspectives on global political economy (Chap. 13)
13	Essay-Presentation (group 4) Mini-Oral presentation of the book review	Governing the global political economy I (Chap. 15)
14	Discussion on how the domestic and international politics determine have an impact on the global economy is functioning Mini-Oral presentation of the book review Submission of the last assignment (critical review of an academic paper)	Governing the global political economy II (Chap. 15)

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]

Be always ready by preparing the pages of the readings given in advance before coming to the next class. Additional homework will be assigned such as preparing an update with a current affair in the world related to the discussion/class contents. It is expected to read newspapers and news magazines several times a week. Students will need to update themselves with current news to stay informed about key issues and debate both within Japan and in the world. Students should prepare the work for the essay and book review at the date defined in the course agenda table. Preparatory study and review time for this course are an average of 2 hours each week.

[Textbooks]

O'Brien R., and Williams M., *Global political economy: evolution and dynamics*, London, Red Globe Press, 2016.

Additional materials will be distributed in class by the professor.

[References]

Examples of on-line websites to access the news:

- The New York Times
- The Financial Times
- The Guardian
- The Economist
- Foreign Affairs
- The Wall Street Journal
- Time
- Nikkei Asia
- Foreign Policy

[Grading criteria]

Participation and attitude(15%)
Participation (news debriefing report and one news report presentation, book presentation) (20%)
Book Review (20%) (Submission on Class 12)
Essay (30%) (Submission from Class 9 to to 12(according to group number))
(Final: Written assignment- critical review of an academic paper) to be submitted during the class 14 (15%)

[Changes following student comments]

N/A

[Equipment student needs to prepare]

The professor may request that you use a computer, tablet or smartphone in order to access the Internet to prepare for the discussion or fact-check during the class. Otherwise such devices cannot be used.

[Others]

- Taking photos in class (the slides or notes on the board or in the class) is not allowed unless requested by Hosei University. Recording in class is not allowed.

- AI type of software is not allowed be used for the assignments for this course. Write all the assignments in your own words.

[Prerequisite]

N/A

POL300ZA
International Law
 Kiyoshi Adachi
 Credit(s) : 2 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 3~4
 Day/Period : 月 2/Mon.2
 その他属性 : 〈優〉

[Outline and objectives]
 This course aims to provide students with a basic understanding of international law, with a particular emphasis on the impact that international law instruments and practices have on national laws and policies. The course begins with an introduction to general principles of international treaty and customary law, examining important cases and doctrines that have developed over time. The first part of the course will conclude with a framework of analysis that students may consider in assessing both the respective merits and limitations of international law instruments. The second part of the course will look at how international law has attempted to shape the world we live in by examining selected areas where it has tried to influence human behavior, including security, human rights, the environment, health, trade/investment and other commercial issues, and the global commons.

[Goal]
 At the end of the course, students should have a basic understanding of international law instruments, with an emphasis on recognizing the impact and limitations of treaties in their historical, economic, social and political contexts.

[Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?]
 Will be able to gain “DP 1”, “DP 2”, “DP 3” and “DP 4”.

[Method(s)]
 The course will be conducted using lectures, group discussion and exercises, and one negotiation simulation exercise. At the beginning of class, feedback for the previous class is given using comments from submitted reaction papers. Students will need access to the Internet in order to retrieve the cases, treaties and articles. Writing assignments will include a case brief and a term paper.

[Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)]
 あり / Yes

[Fieldwork in class]
 なし / No

[Schedule] 授業形態 : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction to International Law	Introduction to International Law
2	Treaties	A Brief History of Treaties The Vienna Convention
3	Treaties	A Brief History of Treaties The Vienna Convention Assignment - Writing a Case Brief. What Constitutes a Treaty?
4	Treaties Related to Security Issues	Treaties and Wars – Versailles, Potsdam and San Francisco The UN Charter Treaties Limiting Arms (Nuclear Arms, Chemical/Biological Weapons, etc) Bilateral and Multilateral Approaches
5	Treaties Related to Humanitarian Issues	The Geneva Conventions The 1951 Refugee Convention and 1967 Protocol Group Exercise: Applying the Refugee Convention A Framework for Analyzing Treaties and Explanation of the Term Paper
6	Human Rights	Universal Declaration of Human Rights International Covenant on Civil and Political Rights International Covenant on Economic and Social Rights Convention on the Rights of the Child Convention on the Elimination of All forms of Discrimination against Women

7	Health-related Treaties	The UN Drug Control Conventions (1961, 1971 and 1988) Case Study - The Curious Case of Cannabis Framework Convention on Tobacco Control
8	Mid-Term Examination	In-Class Examination
9	Review Mid-Term Examination.	Policy Space and Developing Countries
	Treaties on Economic, Commercial and related Issues	The WTO Agreements Multilateral Agreement on Trade in Goods Agreement on Trade-related aspects of Intellectual Property Rights Bilateral and Plurilateral Preferential Trade and Investment Agreements US, Japanese and European Bilateral Agreements, CPTPP Interface between Commercial and other Issues
10	Treaties on Economic, Commercial and related Issues	Policy Space and Developing Countries The WTO Agreements Multilateral Agreement on Trade in Goods Agreement on Trade-related aspects of Intellectual Property Rights Bilateral and Plurilateral Preferential Trade and Investment Agreements US, Japanese and European Bilateral Agreements, CPTPP Interface between Commercial and other Issues
11	Group Simulation Exercise	Negotiating a Bilateral Trade Agreement
12	Environmental Treaties	CITES, Convention on Biological Diversity, UNFCCC
13	Global Commons	Law of the Sea - UNCLOS World Heritage, Antarctica
14	Wrap-Up and Presentations of Term Paper	Student Presentations The Possibilities and Limits of International Law

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]
 Students are expected to attend classes and read weekly assignments ahead of the session for which it is assigned.
 Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

[Textbooks]
 Klabbers, *International Law*, Cambridge University Press.
 case readings, treaty text, articles as assigned

[References]
 Additional reference material will be provided in class.

[Grading criteria]
 1 Case Brief Writing Assignment 10%
 1 Mid-Term Examination 35%
 1 Term Paper 35%
 Group Work and Participation 20%
 Class attendance will be reflected in the score for group work and participation.

[Changes following student comments]
 n/a

[Others]
 In delivering the course, the instructor will draw upon his experience as a legal officer with the United Nations.

[Prerequisite]
 None.

SOC300ZA

Law in a Globalizing World

Kelesha Nevers

Credit(s) : 2 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 3~4

Day/Period : 水 6/Wed.6

その他属性 : 〈優〉

【Outline and objectives】

As nations and peoples continue the trend of globalization, legal issues become increasingly more complex. This course provides an overview of this trend, investigating similarities, differences, changes, and challenges experienced by an array of stakeholders as new issues arise and views on existing issues converge in some ways and diverge in others. Specific discussion topics include, but are not limited to, human rights, crime, the environment, international institutions, and conflict of laws.

【Goal】

Upon completion of this course, students should be able to discuss and analyze the legal aspects of specific problems in a globalizing world. Through discussion and debate, students will develop their ability to grasp and analyze different opinions, as well as predict counter-arguments. Through the creation of a final report and related presentation, students will enhance their ability to develop and logically present their ideas, while reflecting on peer feedback.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain “DP 1”, “DP 2”, “DP 3” and “DP 4”.

【Method(s)】

This course will be taught through a combination of lecture- and seminar-style classes. Students are required to attend class prepared to participate in discussion. Students are also required to make one main and one or more smaller presentations and submit a final report on the topic of their main presentation, which should reflect class discussion and peer feedback. Instructor feedback will be given during class discussions, through commentary on errors and correct responses found in the assignments, and in response to individual requests. Assignments submitted on the online dashboard will receive individualized comments on the strengths and weaknesses of the submissions.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり / Yes

【Fieldwork in class】

なし / No

【Schedule】 授業形態：オンライン/online

No.	Theme	Contents
1	Introduction	Introduction
2	What is Law? What is Globalization?	Defining law and globalization; What are the causes and impacts of globalization? International organizations
3	How does globalization of the law affect national legal systems?	Hard law versus soft law; international organizations; reputational harm
4	Freedom of Expression and Religion	Comparative analysis of free speech and the right to worship (or not) as one chooses.
5	Right to Life	Comparative analysis -death penalty; International declarations
6	Gender Issues	How does globalization change/impact gender roles? Empowerment; disenfranchisement
7	Crime and Enforcement	Comparison of criminal justice systems; Are we more or less safe in a globalizing world?
8	Humanitarian Law	Crime and punishment in war time
9	Right to a Healthy Environment	Global treaties and other agreements protecting the environment; sustainable development
10	What does the future hold for globalization?	Fragmentation / Convergence; inevitability vs nationalization.
11	Outline of presentation	Meet to discuss and provide feedback on the presentation online
12	Presentations	Student presentation(s) and class discussion. Topics to be decided based on the interests of the students.

13 Presentations Student presentation(s) and class discussion. Topics to be decided based on the interests of the students.

14 Wrap-Up the semester Discussion and provide feedback

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】
Students are required to complete the reading assignments and prepare before class. Students are also required to do independent and collaborative work for their assignments. Preparatory study and review time for this class are two hours each.

【Textbooks】

No textbook will be used. The readings are available online.

【References】

Reading materials are available on the classroom dashboard.

【Grading criteria】

Detailed requirements concerning assignments will be given in class. The final grade is calculated based on preparation (20 %), participation (20 %), presentation (30 %), outline and final summary (30 %).

【Changes following student comments】

N/A.

【Equipment student needs to prepare】

Internet access (smartphone, tablet, laptop).

【Others】

Slight alterations might be made to this syllabus, taking into account the number and specific interests of students who decide to take this course.

【Prerequisite】

None

MAN300ZA

Advanced Accounting

Noriaki Okamoto

Credit(s) : 2 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 3~4

Day/Period : 金 5/Fri.5

その他属性 : 〈優〉

[Outline and objectives]

The main objective of this course is to theoretically and practically understand the new trends in accounting: accounting for sustainability and social impact. After taking this course, students will gain relevant knowledge about accounting for corporate sustainability and social impact. More specifically, students can learn the basics of how to recognize, measure, and report corporate sustainability and social impact.

[Goal]

This course consists of accounting for sustainability and social impact, both of which have recently gained prominence in corporations and attracted stakeholders' attention. By taking this course, students can understand theories and academic findings regarding accounting for sustainability and social impact. Moreover, students can discuss practical topics such as specific institutions (some frameworks to calculate sustainability and social impact) and real leading companies' practices.

[Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?]

Will be able to gain “DP 1”, “DP 2”, and “DP 4”.

[Method(s)]

This course is taught through lectures, discussions and exercises. At my discretion, I may assign one or more mini-projects to be completed during, or outside of, the class. Occasionally, students are required to submit reaction paper (mini-essay) at the end of the session. Students are also encouraged to ask questions and to request that particular points be explained if they remain confused or uncertain about items discussed during the class. Feedback on the students' performance in the assignments during the course will be given. At the end of the course, final exam and (individual or group) presentation will be assigned.

[Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)]

あり / Yes

[Fieldwork in class]

なし / No

[Schedule] 授業形態 : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Overview and introduction	General explanation of the course overview and structure
2	Accounting for Sustainability: Historical Development and Background ①	Review and discuss the historical development of accounting for sustainability (handouts/slides)
3	Accounting for Sustainability: Historical Development and Background ②	Understand global diffusion of accounting for sustainability (handouts/slides)
4	Accounting for Sustainability: Key Concepts and Theories ①	Learn the basic conceptual basis for accounting for sustainability (handouts/slides)

5	Accounting for Sustainability: Key Concepts and Theories ②	Discuss and analyze the theoretical framework for accounting for sustainability (handouts/slides)
6	Accounting for Sustainability: Sustainability Reporting ①	Learn the current state of accounting for sustainability (handouts/slides)
7	Accounting for Sustainability: Sustainability Reporting ②	Understand and discuss different types of accounting for sustainability (handouts/slides)
8	Accounting for Sustainability: Sustainability Reporting ③	Consider the structures and effects of accounting for sustainability (handouts/slides)
9	Accounting for Social Impact ①	Understand the significance of impact investment and accounting for social impact (handouts/slides)
10	Accounting for Social Impact ②	Understand the different types of accounting for social impact (handouts/slides)
11	Accounting for Social Impact ③	Consider and discuss the measurement of social impact (handouts/slides)
12	Accounting for Social Impact ④	Analyze and discuss some cases of social impact measurement (handouts/slides)
13	Review exam	Comprehensive review exam
14	Final presentation	Final presentations (individual/group) and Q&A

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]

Students are expected to read the assigned handouts (textbook chapters, etc.) before each class. Also, in addition to the preparation for presentations, there will be homework during the course. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

[Textbooks]

There is no specific textbook students should get. Necessary chapters from references will be given (will be uploaded on the course website).

[References]

Matias Laine, Helen Tregidga, and Jeffrey Unerman (2022), *Sustainability Accounting and Accountability* 3rd edition, Routledge.
Gunnar Rimmel (2020), *Accounting for Sustainability*, Routledge.
Stewart Jones, Helena de Anstiss, and Carman Garcia (2022), *Social Impact Investing: An Australian Perspective*, Routledge.
Ronald Cohen (2020), *Impact: Reshaping Capitalism to Drive Real Change*, Ebury Press.

[Grading criteria]

Projects / homework 20%,
Class participation / discussion 30%, Review exam 30%, and Final presentation 20%

[Changes following student comments]

None

[Equipment student needs to prepare]

A calculator

[Others]

Purchasing the textbook is not required.

[Prerequisite]

None.

LIN400ZA

Seminar: Diversity of English I

Yutai Watanabe

Credit(s) : 4 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 3~4

Day/Period : 金 3/Fri.3

その他属性 : 〈優〉

[Outline and objectives]

With estimated 2.3 billion users, the global dominance of the English language is in no dispute. However, the language has developed a wide range of variations, depending on the social and cultural contexts where it was transplanted and the other languages it exists alongside. This seminar is concerned with the phonetic features of English(es) both in the Inner and Expanding Circles, while also shedding light on the speakers' language attitudes and ideologies. We start the spring semester by reviewing Kachru's (1985) three-circle model and Schneider's (2007) 'Dynamic Model' of postcolonial English. Then we focus on New Zealand English (NZE), one of the youngest Inner Circle varieties, examining how it is distinguishable from UK, US and Australian English. The latter part of the semester is devoted to the features of L2-accented English and native-speakerism in the Expanding Circle.

[Goal]

By the end of the course, students will:

- (1) understand the evolution and diversity of the English language,
- (2) recognise the phonetic features of NZE and L2-accented English, and
- (3) get used to analysing sound recordings for research purposes.

[Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?]

Will be able to gain "DP 1", "DP 2", "DP 3", and "DP 4".

[Method(s)]

This seminar is presentation and discussion oriented: Students take turns to review a book chapter or journal article assigned by the instructor, noting key terms and concepts, which could be proactively studied by consulting reference materials. The other students in the class contribute to the discussion with their questions and observations. Detailed comments and suggestions for further study are provided at the end of each presentation.

[Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)]

あり / Yes

[Fieldwork in class]

なし / No

[Schedule] 授業形態 : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Course Overview	(1) Outlining the course contents and instructional methodologies (2) APA style: In-text citations and references (3) Hosen and GIS libraries, and online resources
2	Essential Phonetics	(1) IPA (2) Phonemes and allophones
3	Models of World Englishes (Part 1)	(1) The world's major languages (2) Indo-European language family (3) L1 and L2 English (4) Kachru's (1985) three-circle model of English
4	Models of World Englishes (Part 2)	(1) Limitations of Kachru's (1985) model (2) McArthur's (1987) model (3) Modiano's (1999) model (4) Svartvik & Leech's (2006) model
5	Dynamic Model of Postcolonial English	(1) Outline of the Dynamic Model (2) Brief review of the model (Buschfeld & Kautzsch, 2017)
6	Sound Change of NZE in Progress (Part 1)	(1) Rhoticity (2) /l/ vocalisation (3) TR-affrication (4) Flapping /t/
7	Sound Change of NZE in Progress (Part 2)	(1) TH-fronting (2) Short front vowels (3) The NEAR/SQUARE merger
8	NZ Accents in Films	Phonetic features observed in NZ films
9	English in the Expanding Circle	(1) Scandinavian-accented English and English in Scandinavia (2) Spanish-accented English and English in Spain/Latin America (3) Japanese-accented English

10	Attitudes towards L1 and L2 English	(1) Japanese students' attitudes (Sasayama, 2013) (2) Thai students' attitudes (McKenzie et al., 2016) (3) Norwegian students' attitudes (Rindal & Piercy, 2013)
11	Indexicality of L2 Accents	(1) Indexicality of Japanese-accented English in NZ (2) Identification of the provenance of speakers (McKenzie, 2015)
12	Native-speakerism and ELF	(1) Native-speakerism (Holliday, 2006) (2) Disadvantages of native-speakerism in ELT (Kirkpatrick, 2007) (3) EFL vs. ELF (Seidlhofer, 2011)
13	English in International Contexts	(1) Language policy of the Council of Europe (2) English in pop culture
14	Conclusion	(1) Review and final discussion (2) Preparation for seminar papers

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]

Students are required to read in advance the references posted on the course website and the handouts emailed by presenters. They also need to listen to and analyse sound recordings. Preparatory study and review time for this course are 4 hours each.

[Textbooks]

Hay, J., MacLagan, M., & Gordon, E. (2008). *New Zealand English*. Edinburgh University Press.

Swan, M., & Smith, B. (Eds.). (2001). *Learner English: A teacher's guide to interference and other problems* (2nd ed.). Cambridge University Press.

[References]

Detailed references are listed on the website, while the following books will be helpful as a general introduction.

Melchers, G., Shaw, P., & Sundkvist, P. (2019). *World Englishes* (3rd ed.). Routledge.

Trudgill, P., & Hannah, J. (2017). *International English: A guide to varieties of English around the World* (6th ed.). Routledge.

[Grading criteria]

Evaluation will be based on presentation (70%) and class discussion (30%). More than two unexcused absences per semester will result in failure of the course.

[Changes following student comments]

The schedule and contents may be modified based on students' interests and needs.

[Equipment student needs to prepare]

The presentations are delivered using PowerPoint slides and Internet resources. The handouts are downloadable in PDF format.

[Others]

Successful applicants must be knowledgeable and enthusiastic about the seminar theme. They are expected to have completed 200-level linguistics courses with a good understanding.

[Prerequisite]

No prerequisite is required.

LIN400ZA

Seminar: Diversity of English I

Yutai Watanabe

Credit(s) : 4 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 3~4

Day/Period : 金 4/Fri.4

その他属性 : <優>

[Outline and objectives]

With estimated 2.3 billion users, the global dominance of the English language is in no dispute. However, the language has developed a wide range of variations, depending on the social and cultural contexts where it was transplanted and the other languages it exists alongside. This seminar is concerned with the phonetic features of English(es) both in the Inner and Expanding Circles, while also shedding light on the speakers' language attitudes and ideologies. We start the spring semester by reviewing Kachru's (1985) three-circle model and Schneider's (2007) Dynamic Model of Postcolonial English. Then we focus on New Zealand English (NZE), one of the youngest Inner Circle varieties, examining how it is distinguishable from UK, US and Australian English. The latter part of the semester is devoted to the features of L2-accented English and native-speakerism in the Expanding Circle.

[Goal]

By the end of the course, students will:

- (1) understand the evolution and diversity of the English language,
- (2) recognise the phonetic features of NZE and L2-accented English, and
- (3) get used to analysing sound recordings for research purposes.

[Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?]

Will be able to gain "DP 1", "DP 2", "DP 3", and "DP 4".

[Method(s)]

This seminar is presentation and discussion oriented: Students take turns to review a book chapter or journal article assigned by the instructor, noting key terms and concepts, which could be proactively studied by consulting reference materials. The other students in the class contribute to the discussion with their questions and observations. Detailed comments and suggestions for further study are provided at the end of each presentation.

[Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)]

あり / Yes

[Fieldwork in class]

なし / No

[Schedule] 授業形態 : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Course Overview	Course Overview
2	Essential Phonetics	(1) IPA (2) Phonemes and allophones
3	Models of World Englishes (Part 1)	(1) The world's major languages (2) Indo-European language family (3) L1 and L2 English (4) Kachru's (1985) three-circle model of English
4	Models of World Englishes (Part 2)	(1) Limitations of Kachru's (1985) model (2) McArthur's (1987) model (3) Modiano's (1999) model (4) Svartvik & Leech's (2006) model
5	Dynamic Model of Postcolonial English	(1) Outline of the model (2) Brief review of the model (Buschfeld & Kautzsch, 2017)
6	Sound Change of NZE in Progress (Part 1)	(1) Rhoticity (2) /l/ vocalisation (3) TR-affrication (4) Flapping /t/
7	Sound Change of NZE in Progress (Part 2)	(1) TH-fronting (2) Short front vowels (3) The NEAR/SQUARE merger
8	NZ Accents in Films	Phonetic features observed in NZ films
9	English in the Expanding Circle	(1) Scandinavian-accented English and English in Scandinavia (2) Spanish-accented English and English in Spain/Latin America (3) Japanese-accented English

10	Attitudes towards L1 and L2 English	(1) Japanese students' attitudes (Sasayama, 2013) (2) Thai students' attitudes (McKenzie et al., 2016) (3) Norwegian students' attitudes (Rindal & Piercy, 2013)
11	Indexicality of L2 Accents	(1) Indexicality of Japanese-accented English in NZ (2) Identification of the provenance of speakers (McKenzie, 2015)
12	English in International Contexts	(1) English in international organisations (2) English in pop culture
13	Native-speakerism and ELF	(1) Native-speakerism (Holliday, 2006) (2) Disadvantages of native-speakerism in ELT (Kirkpatrick, 2007) (3) EFL vs. ELF (Seidlhofer, 2011)
14	Conclusion	(1) Review and final discussion (2) Preparation for seminar papers

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]

Students are required to read in advance the references posted on the course website and the handouts emailed by presenters. They also need to listen to and analyse sound recordings. Preparatory study and review time for this course are 4 hours each.

[Textbooks]

Hay, J., Maclagan, M., & Gordon, E. (2008). *New Zealand English*. Edinburgh University Press.

Swan, M., & Smith, B. (Eds.). (2001). *Learner English: A teacher's guide to interference and other problems* (2nd ed.). Cambridge University Press.

[References]

Detailed references are listed on the website, while the following books will be helpful as a general introduction.

Melchers, G., Shaw, P., & Sundkvist, P. (2019). *World Englishes* (3rd ed.). Routledge.

Trudgill, P., & Hannah, J. (2017). *International English: A guide to varieties of English around the World* (6th ed.). Routledge.

[Grading criteria]

Evaluation will be based on presentation (70%) and class discussion (30%). More than two unexcused absences per semester will result in failure of the course.

[Changes following student comments]

The schedule and contents may be modified based on students' interests and needs.

[Equipment student needs to prepare]

The presentations are delivered using PowerPoint slides and Internet resources. The handouts are downloadable in PDF format.

[Others]

Successful applicants must be knowledgeable and enthusiastic about the seminar theme. They are expected to have studied, or be currently studying, 200-level linguistics courses with a good understanding.

[Prerequisite]

No prerequisite is required.

LIN400ZA

Seminar: Diversity of English II

Yutai Watanabe

Credit(s) : 4 | Semester : 秋学期授業/Fall | Year : 3~4
Day/Period : 金 3/Fri.3

その他属性 : 〈優〉

【Outline and objectives】

English is the most common international language in business, education and mass media, and is used by more than one billion people in the world as L2 speakers alone. The fall semester focuses on the use of English in the Expanding Circle, particularly in mainland Europe and Japan. We compare the two regions in the users' ideologies and attitudes towards L1 English and English as a lingua franca (ELF). Through the process of individual or collaborative research, we also discuss a variety of sociolinguistic issues: societal multilingualism and individual plurilingualism, Euro-English, CEFR, linguistic landscapes, etc.

【Goal】

By the end of the course, students will:

- (1) learn the current use of English in the Expanding Circle,
- (2) understand the tenet of ELF,
- (3) develop a critical view of monolingualism as the norm, and
- (4) get used to collecting and analysing data for research purposes.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain “DP 1”, “DP 2”, “DP 3”, and “DP 4”.

【Method(s)】

This seminar is presentation and discussion oriented: Students take turns to review a book chapter or journal article assigned by the instructor, noting key terms and concepts, which could be proactively studied by consulting reference materials. The other students in the class contribute to the discussion with their questions and observations. Detailed comments and suggestions for further study are provided at the end of each presentation. All students are expected to write a short or extended essay on their chosen topic towards the end of the 3rd or 4th year, respectively.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり / Yes

【Fieldwork in class】

なし / No

【Schedule】 授業形態：対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Course Overview	Outlining the course contents and instructional methodologies
2	Project Introduction	Introducing each research project
3	Review	Review of previous studies
4	Euro-English and Attitudes towards English in Mainland Europe	(1) Euro-English (Jenkins et al., 2001) (2) Conceptualising English in Europe (Motschenbacher, 2016) (3) EU teachers' views on ELF (Groom, 2012) (4) German and Swedish teachers' attitudes (Mohr et al., 2019)
5	English Education in Japan	(1) <i>The Suggested Course of Study in English</i> (2) CEFR and private-sector English tests for university admission (3) Sample analysis of high school textbooks (4) English as a medium of instruction (EMI) in universities

6	Current Use of English in Japan	(1) Business and employment (2) Media and show business (3) Linguistic landscapes
7	Preparation for Seminar Papers	Questions and suggestions
8	Students' Presentation (Part 1)	Oral presentation and discussion
9	Students' Presentation (Part 2)	Oral presentation and discussion
10	Students' Presentation (Part 3)	Oral presentation and discussion
11	Editing (Part 1)	Support for writing papers
12	Editing (Part 2)	Support for writing papers
13	Editing (Part 3)	Support for writing papers
14	Conclusion	(1) Final discussion and future perspectives (2) Submission of the seminar papers

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

Students are required to read in advance the references posted on the course website and the handouts emailed by presenters. Preparatory study and review time for this course are 4 hours each.

【Textbooks】

No textbooks are used. All handouts are posted on the course website, while additional materials will be provided in the classroom.

【References】

Detailed references are listed on the website, while the following books will be helpful as a general introduction.

Galloway, N., & Rose, H. (2015). *Introducing global Englishes*. Routledge.

Jenkins, J. (2015). *Global Englishes: A resource book for students* (3rd ed.). Routledge.

【Grading criteria】

Evaluation will be based on class discussion (10%), presentation (30%) and a submitted essay (60%). More than two unexcused absences per semester will result in failure of the course.

【Changes following student comments】

The schedule and contents may be modified based on students' interests and needs.

【Equipment student needs to prepare】

The presentations are delivered using PowerPoint slides and Internet resources. The handouts are downloadable in PDF format.

【Others】

Successful applicants must be knowledgeable and enthusiastic about the seminar theme. They are expected to have completed 200-level linguistics courses with a good understanding.

【Prerequisite】

No prerequisite is required.

LIN400ZA

Seminar: Diversity of English II

Yutai Watanabe

Credit(s) : 4 | Semester : 秋学期授業/Fall | Year : 3~4
Day/Period : 金 4/Fri.4

その他属性 : 〈優〉

[Outline and objectives]

English is the most common international language in business, education and mass media, and is used by more than one billion people in the world as L2 speakers alone. The fall semester focuses on the use of English in the Expanding Circle, particularly in mainland Europe and Japan. We compare the two regions in the users' ideologies and attitudes towards L1 English as the target in teaching/learning and English as a lingua franca (ELF). Through the process of individual or collaborative research, we also discuss a variety of sociolinguistic issues: societal multilingualism and individual plurilingualism, Euro-English, CEFR and linguistic landscapes, etc.

[Goal]

By the end of the course, students will:

- (1) learn the current use of English in the Expanding Circle,
- (2) understand the tenet of English as a lingua franca,
- (3) develop a critical view of monolinguals as the norm, and
- (4) get used to collecting and analysing data for research purposes.

[Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?]

Will be able to gain "DP 1", "DP 2", "DP 3", and "DP 4".

[Method(s)]

This seminar is presentation and discussion oriented: Students take turns to review a book chapter or journal article assigned by the instructor, noting key terms and concepts, which could be proactively studied by consulting reference materials. The other students in the class contribute to the discussion with their questions and observations. Detailed comments and suggestions for further study are provided at the end of each presentation. All students are expected to write a short or extended essay on their chosen topic towards the end of the 3rd or 4th year, respectively.

[Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)]

あり / Yes

[Fieldwork in class]

なし / No

[Schedule] 授業形態 : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Course Overview	Course Overview
2	Project Introduction	Introducing each research project
3	Review	Review of previous studies
4	Euro-English and Attitudes towards English in Mainland Europe	(1) Euro-English (Jenkins et al., 2001) (2) Conceptualising English in Europe (Motschenbacher, 2016) (3) EU teachers' views on ELF (Groom, 2012) (4) German and Swedish teachers' attitudes (Mohr et al., 2019)
5	English Education in Japan	(1) <i>The Suggested Course of Study in English</i> (2) CEFR and private-sector English tests for university admission (3) Sample analysis of high school textbooks (4) English as a medium of instruction (EMI) in universities

6	Current Use of English in Japan	(1) Business and employment (2) Media and show business (3) Linguistic landscapes
7	Preparation for Seminar Papers	Questions and suggestions
8	Overview of Further Studies	Further studies and references
9	Students' Presentation (Part 1)	Oral presentation and discussion
10	Students' Presentation (Part 2)	Oral presentation and discussion
11	Students' Presentation (Part 3)	Oral presentation and discussion
12	Editing (Part 1)	Support for writing papers
13	Editing (Part 2)	Support for writing papers
14	Conclusion	(1) Final discussion and future perspectives (2) Submission of the seminar papers

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]

Students are required to read in advance the references posted on the course website and the handouts emailed by presenters. Preparatory study and review time for this course are 4 hours each.

[Textbooks]

No textbooks are used. All handouts are posted on the course website, while additional materials will be provided in the classroom.

[References]

Detailed references are listed on the website, while the following books will be helpful as a general introduction.

Galloway, N., & Rose, H. (2015). *Introducing global Englishes*. Routledge.

Jenkins, J. (2015). *Global Englishes: A resource book for students* (3rd ed.). Routledge.

[Grading criteria]

Evaluation will be based on class discussion (10%), presentation (30%) and a submitted essay (60%). More than two unexcused absences per semester will result in failure of the course.

[Changes following student comments]

The schedule and contents may be modified based on students' interests and needs.

[Equipment student needs to prepare]

The presentations are delivered using PowerPoint slides and Internet resources. The handouts are downloadable in PDF format.

[Others]

Successful applicants must be knowledgeable and enthusiastic about the seminar theme. They are expected to have studied, or be currently studying, 200-level linguistics courses with a good understanding.

[Prerequisite]

No prerequisite is required.

EDU400ZA

Seminar: Language Teaching and Learning I

Machiko Kobori

Credit(s) : 4 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 3~4

Day/Period : 火 5/Tue.5

その他属性 : 〈優〉

[Outline and objectives]

The course is for students wanting to explore effective language teaching and learning both face-to-face and online, targeting various types of second language (L2) learners inside and outside the school language classroom. It focuses on core issues affecting L2 education, such as L2 motivational strategies for successful achievement in learning L2s within the context of second language acquisition (SLA). Its purpose is to give an insight into the educational and second language learning (SLL) theory: issues on L2 learners, teaching methods and approaches, teaching materials, lesson planning for educators, and educational specific skills for explaining how to elicit and maintain L2 learners' motivation, etc. It also provides opportunities for developing practical techniques that motivate L2 learners, and examining, reflecting on and discussing significant aspects of successful language teaching and learning. It encourages the students to consider how they can contribute to learner achievement and to establish their own career paths in the related educational fields within the global context.

[Goal]

The course provides opportunities to:

1. Learn challenging issues of language teaching and learning within various contexts of L2 education.
2. Acquire theoretical knowledge of motivational strategies in L2 education.
3. Examine how L2 education is implemented effectively with the expertise of SLA.
4. Discuss how the L2 motivational strategies are connected to theoretical aspects of SLL.
5. Practice basic ideas for effective L2 teaching within the global context.

[Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?]

Will be able to gain "DP 1", "DP 2", and "DP 4".

[Method(s)]

Presentations, the related tasks and activities and fieldwork are required for the completion of this course; students are required to choose one of the course topics, make a presentation and complete a seminar paper on it. They are also required to plan their face-to-face and online language courses/lessons and implement them in educational organisations. Submission of the final requirements and feedback will be dealt with in seminar class and on the learning management systems (HOPPII, etc.).

[Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)]

あり / Yes

[Fieldwork in class]

あり / Yes

[Schedule] 授業形態 : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction	Introduction
2	Studies of SLA (1)	Issues in SLA and Bilingualism (1)
3	Studies of SLA (2)	Issues in SLA and Bilingualism (2)
4	Studies of SLA (3)	Issues in SLA and Bilingualism (3)
5	Studies of Effective Teaching (1)	Issues in the theory of teaching conditions (1)
6	Studies of Effective Teaching (2)	Issues in the theory of teaching conditions (2)
7	Studies of Effective Teaching (3)	Issues in the theory of motivational factors.
8	Studies of L2 Motivational Strategies (1)	Issues in the practice of L2 teaching methods and approaches (1)
9	Studies of L2 Motivational Strategies (2)	Issues in the practice of L2 teaching methods and approaches (2)
10	Studies of L2 Motivational Strategies (3)	Issues in the practice of creating teaching materials (1)
11	Studies of L2 Motivational Strategies (4)	Issues in the practice of creating teaching materials (2)
12	Studies of L2 Motivational Strategies (5)	Issues in the practice of planning lessons (1)

13	Studies of L2 Motivational Strategies (6)	Issues in the practice of planning lessons (2)
14	Consolidation of Seminar I	Reviews and discussion

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]

1. Every week before class, students are required to comprehend the assigned readings and be ready for making presentations and group discussions on related topics in class.
2. Preparatory study and review time for this class are 4 hours each.

[Textbooks]

1. Baker, C. (2021). *Foundation of Bilingual Education and Bilingualism*. Multilingual Matters.
2. Dörnyei, Z. (2001). *Motivational strategies in the language classroom*. Cambridge UP.
3. Kyriacou, C. (2009). *Effective teaching in schools: Theory and practice*. Oxford UP.
4. Mitchell, R., Myles, F., & Marsden, E. (2019). *Second language learning theories*. Hodder Education.

[References]

1. Dörnyei, Z., & Ushioda, E. (2009). *Motivation, language identity and the L2 self*. Multilingual Matters.
2. Dörnyei, Z., & Ushioda, E. (2011). *Teaching and researching motivation*. Cambridge UP.
3. Dörnyei, Z. (2020). *Innovations and challenges in language learning motivation*. Routledge.
4. Larsen-Freeman, D. & Anderson, M. (2011). *Techniques and principles in language teaching*. Oxford UP.
5. VanPatten, B., Smith, M., & Benati, A. (2020). *Key questions in second language acquisition*. Cambridge UP.
6. Walker, R. & Adelman, C. (1992). *A guide to classroom observation*. Routledge.
7. Schunk, D. H. (2016). *Handbook of self-regulation of learning and performance*. (2nd ed.). Routledge.

[Grading criteria]

Evaluation will be based on:

1. Class participation (10%)
2. Presentation (20%)
3. Writing assignment (40%)
4. Educational practices (30%)

[Changes following student comments]

More frequent and detailed notifications regarding class activities and tasks will be given in order to 1) avoid causing any difficulties in getting access to important information about the course, and 2) allow students to prepare for class discussions, final requirements, etc.

[Equipment student needs to prepare]

Use a laptop in class, get lecture materials, etc. in HOPPII.

[Others]

1. Students are expected to be actively involved in different types of seminar activities, including fieldwork for L2 education targeting different types of L2 learners in ages and proficiency levels for assuring the related studies examined in seminar class.
2. Information about schedules of the seminar activities is provided and discussed in class: visiting and running language courses/classes in schools, etc.
3. Students are recommended to have completed at least one of the courses presented below:

- i) English Teaching in Primary School advanced
- ii) Language Education in the Digital Era
- iii) Second Language Acquisition

[Prerequisites]

Required to complete at least one of the courses presented below (taught by the seminar instructor):

1. TESOL I, II, III, or IV
2. Comparative Education
3. English Teaching in Primary School

EDU400ZA

Seminar: Language Teaching and Learning I

Machiko Kobori

Credit(s) : 4 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 3~4

Day/Period : 火 6/Tue.6

その他属性 : 〈優〉

[Outline and objectives]

The course is for students wanting to explore effective teaching and learning within the context of the second language (L2) education. It focuses on issues affecting L2 education, especially in the language classroom, such as L2 motivation and different motivational strategies for fulfilling successful achievement in learning L2s. Its purpose is to give an insight into the educational theory, teaching methods and approaches, teaching materials, lesson planning for educators, and educational specific skills for explaining how to elicit and maintain L2 learners' motivation. It also provides opportunities for developing practical techniques that motivate language learners, and examining, reflecting on and discussing significant aspects of successful language teaching and learning. It encourages the students to consider how they can contribute to learner achievement and to establish their career paths in the related educational fields within the global context.

[Goal]

The course provides opportunities to:

1. acquire theoretical knowledge of motivational strategies in L2 education.
2. examine the connection between motivational strategies and L2 learning conditions.
3. learn the challenging issues in language teaching and learning
4. examine how the expertise of motivational strategies are effectively introduced to L2 education.
5. practice basic ideas for effective L2 teaching.

[Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?]
Will be able to gain "DP 1", "DP 2", and "DP 4".

[Method(s)]

The presentation, writing assignment, and the related tasks and activities are required for the completion of this course; students are to choose one of the course topics and are required to make a presentation and complete a seminar paper. They are also required to plan their language courses/lessons and implement them in educational organisations. Submission of the final requirements and feedback will be on the learning management systems (HOPPIL, etc.).

[Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)]

あり / Yes

[Fieldwork in class]

あり / Yes

[Schedule] 授業形態 : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction	Introduction
2	Studies of Effective Teaching (1)	Issues in the theory of L2 teachers
3	Studies of Effective Teaching (2)	Issues in teaching methodology
4	Studies of Effective Teaching (3)	Issues in the theory of creating teaching materials
5	Studies of Effective Teaching (4)	Issues in the theory of teaching conditions
6	Studies of Effective Teaching (5)	Issues in the theory of planning lessons
7	Studies of Effective Teaching (6)	Reviews and discussion (1)
8	Studies of L2 Motivational Strategies (1)	Issues in the practice of L2 teaching methods and approaches (1)
9	Studies of L2 Motivational Strategies (2)	Issues in the practice of L2 teaching methods and approaches (2)
10	Studies of L2 Motivational Strategies (3)	Issues in the practice of creating teaching materials (1)
11	Studies of L2 Motivational Strategies (4)	Issues in the practice of creating teaching materials (2)
12	Studies of L2 Motivational Strategies (5)	Issues in the practice of planning lessons

13 Studies of L2 Motivational Strategies (6) Reviews and discussion (2)

14 Consolidation of Seminar I Reviews and discussion (3)

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]

1. Every week before attending class, students are required to comprehend the assigned readings.
2. Preparatory study and review time for this class are 4 hours each.

[Textbooks]

1. Dörnyei, Z. (2001). *Motivational strategies in the language classroom*. Cambridge UP.
2. Kyriacou, C. (2009). *Effective teaching in schools: Theory and practice*. Oxford UP.

[References]

1. Dörnyei, Z., & Ushioda, E. (2009). *Motivation, language identity and the L2 self*. Multilingual Matters.
2. Dörnyei, Z., & Ushioda, E. (2011). *Teaching and researching motivation*. Cambridge UP.
3. Dörnyei, Z. (2020). *Innovations and challenges in language learning motivation*. Routledge.
4. Larsen-Freeman, D. & Anderson, M. (2011). *Techniques and principles in language teaching*. Oxford UP.
5. Walker, R. & Adelman, C. (1992). *A guide to classroom observation*. Routledge.
6. Schunk, D. H. (2016). *Handbook of self-regulation of learning and performance*. (2nd ed.). Routledge.

[Grading criteria]

Evaluation will be based on:

1. Class participation (10%)
2. Presentation (20%)
3. Writing assignment (40%)
4. Educational practices (30%)

More than 2 unexcused absences will result in failure of this course.

[Changes following student comments]

More advanced notice of assigned readings will be given in order to allow students to prepare for class discussions.

[Equipment student needs to prepare]

Use a laptop in class, get lecture materials, etc. in HOPPIL.

[Others]

1. Students are required to practice L2 teaching as seminar activities targeting L2 learners at different ages and levels for assuring L2 motivational theories and strategies.
2. Information about schedules of the seminar activities are provided and discussed in the class: visiting and running language courses/classes in schools, etc.
3. The courses presented below to be recommended to take:
 - a. Language Education in the Digital Era
 - b. Second Language Acquisition

[Prerequisite]

At least one of the courses presented below:

1. TESOL I, II, III, & IV
2. Comparative Education
3. English Teaching in Primary School
4. English Teaching in Primary School advanced

EDU400ZA

Seminar: Language Teaching and Learning II

Machiko Kobori

Credit(s) : 4 | Semester : 秋学期授業/Fall | Year : 3~4
Day/Period : 火 5/Tue.5

その他属性 : 〈優〉

【Outline and objectives】

The course is for students wanting to explore effective language teaching and learning both face-to-face and online, targeting various types of second language (L2) learners inside and outside the school language classroom. It focuses on core issues affecting L2 education within the context of second language acquisition (SLA). It gives an insight into the educational and second language learning (SLL) theory: issues on L2 learners, teaching methods and approaches, teaching materials, lesson planning for educators, and educational specific skills for explaining how to elicit and maintain L2 learners' motivation, etc. It also provides opportunities for developing practical techniques to examine and analyse significant aspects of language teaching and learning: students are encouraged to focus on the related topics of L2 education and design their own research studies. It encourages the students to consider how they can contribute to learner achievement and to establish their own career paths in the related educational fields within the global context.

【Goal】

The course provides opportunities to:

1. Learn challenging issues of language teaching and learning within various contexts of L2 education.
2. Acquire theoretical knowledge of various L2 educational studies.
3. Examine how L2 education is implemented effectively with the expertise of the L2 educational studies.
4. Discuss how the L2 educational studies are examined appropriately through different research approaches.
5. Practice basic ideas for conducting research studies on L2 education within the global context.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain “DP 1”, “DP 2”, and “DP 4”.

【Method(s)】

Presentations, the related tasks and activities and fieldwork are required for the completion of this course; students are required to choose one of the course topics, make a presentation and complete a seminar paper on it. They are also required to plan their face-to-face and online language courses/lessons and implement them in educational organisations. Submission of the final requirements and feedback will be dealt with in seminar class and on the learning management systems (HOPPII, etc.).

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり / Yes

【Fieldwork in class】

あり / Yes

【Schedule】 授業形態 : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction	Introduction
2	Exploring L2 Education Research Studies (1)	Review of second language learning theories (1)
3	Exploring L2 Education Research Studies (2)	Review of second language learning theories (2)
4	Exploring L2 Education Research Studies (3)	Review of the theoretical perspective of motivation and teaching (1)
5	Exploring L2 Education Research Studies (4)	Review of the theoretical perspective of motivation and teaching (2)
6	Exploring L2 Education Research Studies (5)	Reviews and discussion
7	Research Design (1)	Essay writing: topics and methods (1)
8	Research Design (2)	Essay writing: topics and methods (2)
9	Research Design (3)	Essay writing: topics and methods (3)
10	Research Design (4)	Essay writing: presentation and discussion (1)
11	Research Design (5)	Essay writing: presentation and discussion (2)

12	Research Design (6)	Essay writing: presentation and discussion (3)
13	Consolidation (1)	Theories and research studies in L2 education: review and discussion (1)
14	Consolidation (2)	Theories and research studies in L2 education: review and discussion (2)

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

1. Every week before class, students are required to comprehend the assigned readings and be ready for making presentations and group discussions on related topics in class.
2. Preparatory study and review time for this class are 4 hours each.

【Textbooks】

1. Creswell, W. J. & Creswell, J. D. (2018). *Research Design*. (5th ed). SAGE.
2. Dörnyei, Z., & Ushioda, E. (2009). *Motivation, language identity and the L2 self*. Multilingual Matters.

【References】

1. Dörnyei, Z., & Taguchi, T. (2009). *Questionnaires in second language research: construction, administration, and processing*. Routledge.
2. Larsen-Freeman, D. & Anderson, M. (2011). *Techniques and principles in language teaching*. Oxford UP.
3. Mitchell, R., Myles, F., & Marsden, E. (2019). *Second language learning theories*. Hodder Education.
4. VanPatten, B., Smith, M., & Benati, A. (2020). *Key questions in second language acquisition*. Cambridge UP.
5. Schunk, D. H. (2016). *Handbook of self-regulation of learning and performance*. (2nd ed.). Routledge.

【Grading criteria】

Evaluation will be based on:

1. Class participation (10%)
2. Presentation (20%)
3. Writing assignment (40%)
4. Educational practices (30%)

【Changes following student comments】

More frequent and detailed notifications regarding class activities and tasks will be given in order to 1) avoid causing any difficulties in getting access to important information about the course, and 2) allow students to prepare for class discussions, final requirements, etc.

【Equipment student needs to prepare】

Use a laptop in class, get lecture materials, etc. in HOPPII.

【Others】

1. Students are expected to be actively involved in different types of seminar activities, including fieldwork for L2 education targeting different types of L2 learners in ages and proficiency levels for assuring the related studies examined in seminar class.
2. Information about schedules of the seminar activities is provided and discussed in class: visiting and running language courses/classes in schools, etc.
3. Students are recommended to have completed at least one of the courses presented below:
 - i) English Teaching in Primary School advanced
 - ii) Language Education in the Digital Era
 - iii) Second Language Acquisition

【Prerequisites】

Required to complete:

Seminar: Language Teaching and Learning I

EDU400ZA

Seminar: Language Teaching and Learning II

Machiko Kobori

Credit(s) : 4 | Semester : 秋学期授業/Fall | Year : 3~4
Day/Period : 火 6/Tue.6

その他属性 : 〈優〉

[Outline and objectives]

The course is for students wanting to explore effective teaching and learning within the context of the second language (L2) education. It focuses on issues affecting L2 education, especially in the language classroom, such as L2 motivation and different motivational strategies for fulfilling successful achievement in learning L2s. Its purpose is to give an insight into the educational theory, teaching methods and approaches, teaching materials, lesson planning for educators, and educational specific skills for explaining how to elicit and maintain L2 learners' motivation. It also provides opportunities for developing practical techniques that motivate language learners, and examining, reflecting on and discussing significant aspects of successful language teaching and learning. It encourages the students to consider how they can contribute to learner achievement and to establish their career paths in the related educational fields within the global context.

[Goal]

The course provides opportunities to:

1. acquire theoretical knowledge of motivational strategies in L2 education.
2. examine the connection between motivational strategies and L2 learning conditions.
3. learn the challenging issues in language teaching and learning
4. examine how the expertise of motivational strategies are effectively introduced to L2 education.
5. practice basic ideas for effective L2 teaching.

[Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?]
Will be able to gain "DP 1", "DP 2", and "DP 4".

[Method(s)]

The presentation, writing assignment, and the related tasks and activities are required for the completion of this course; students are to choose one of the course topics and are required to make a presentation and complete a seminar paper. They are also required to plan their language courses/lessons and implement them in educational organisations. Submission of the final requirements and feedback will be on the learning management systems (HOPPIL, etc.).

[Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)]
あり / Yes

[Fieldwork in class]
あり / Yes

[Schedule] 授業形態 : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction	Introduction
2	Exploring L2 Education Research Studies (1)	Review of the theoretical perspective of motivation and learning (1)
3	Exploring L2 Education Research Studies (2)	Review of the theoretical perspective of motivation and learning (2)
4	Exploring L2 Education Research Studies (3)	Review of the theoretical perspective of motivation and teaching (1)
5	Exploring L2 Education Research Studies (4)	Review of the theoretical perspective of motivation and teaching (2)
6	Exploring L2 Education Research Studies (5)	Reviews and discussion
7	Research Design (1)	Essay writing: topics and methods (1)
8	Research Design (2)	Essay writing: topics and methods (2)
9	Research Design (3)	Essay writing: topics and methods (3)
10	Research Design (4)	Essay writing: presentation and discussion (1)
11	Research Design (5)	Essay writing: presentation and discussion (2)
12	Research Design (6)	Essay writing: presentation and discussion (3)
13	Consolidation (1)	Theories and research studies in L2 education: review and discussion (1)

14 Consolidation (2) Theories and research studies in L2 education: review and discussion (2)

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]

1. Every week before attending class, students are required to comprehend the assigned readings.
2. Preparatory study and review time for this class are 4 hours each.

[Textbooks]

1. Creswell, W. J. & Creswell, J. D. (2018). *Research Design*. (5th ed). SAGE.
2. Dörnyei, Z., & Ushioda, E. (2009). *Motivation, language identity and the L2 self*. Multilingual Matters.

[References]

1. Dörnyei, Z., & Taguchi, T. (2009). *Questionnaires in second language research: construction, administration, and processing*. Routledge.
2. Schunk, D. H. (2016). *Handbook of self-regulation of learning and performance*. (2nd ed.). Routledge.

[Grading criteria]

Evaluation will be based on:

1. Class participation (10%)
2. Presentation (20%)
3. Writing assignment (40%)
4. Educational practices (30%)

More than 2 unexcused absences will result in failure of this course.

[Changes following student comments]

More advanced notice of assigned readings will be given in order to allow students to prepare for class discussions.

[Equipment student needs to prepare]

Use a laptop in class, get lecture materials, etc. in HOPPIL.

[Others]

1. Students are required to conduct their own research investigation to complete their seminar paper.
2. Students are required to practice L2 teaching targeting L2 learners at different ages and levels for assuring L2 motivational theories and strategies.
3. The courses presented below to be recommended to take:
 - a. Language Education in the Digital Era
 - b. Second Language Acquisition

[Prerequisite]

1. Seminar: Language Teaching and Learning I
2. At least one of the courses presented below:
 - a. TESOL I, II, III, & IV
 - b. Comparative Education
 - c. English Teaching in Primary School
 - d. English Teaching in Primary School advanced

SOC400ZA

Seminar: Intersectionality: Multiple Inequalities I

Diana Khor

Credit(s) : 4 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 3~4

Day/Period : 月 4/Mon.4

その他属性 : 〈優〉〈S〉

[Outline and objectives]

Race, class, gender and sexuality, nation and so on constitute our identities, shape our experiences, and constrain as well as enrich our lives. Importantly, they constitute interconnecting sources of inequality in society and in the world today. In this seminar, students will read and critique social theories and research informed by an intersectional perspective that aims at understanding the complex, intersecting nature of social inequalities. In the process, they will acquire tools and develop perspectives to apply to their own research.

[Goal]

The main goal of this seminar is to develop students' sensitivity towards issues of inequality related to race, class, gender, sexuality, nationality and so on, and expose them to the cutting-edge theoretical and empirical works in the developing field of "intersectionality". Another goal is to develop students' skills in social research, discussion, presentation, and writing. Learning to evaluate and critique ideas and research is a particularly important goal in this seminar.

[Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?]

Will be able to gain "DP 1", "DP 2", "DP 3", and "DP 4".

[Method(s)]

Since this course is a seminar, it is taught primarily through student presentations and discussions. Students deliver presentations on selected readings as well as on their own research. Further, they also engage in discussions based on critical reading of extant research and theories, as well as on current relevant social issues. Feedback is given orally after each presentation and discussion, and comments are given to individual students on every assignment submitted.

[Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)]

あり / Yes

[Fieldwork in class]

なし / No

[Schedule] 授業形態 : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Overview	Overview
2	Doing Social Research Critiquing Academic Works	Overview of social research Learning to critique a journal article
3	Reading on Intersectionality (1)	Student presentation and discussion of a reading relevant to intersectionality
4	Reading on Intersectionality (2)	Student presentation and discussion of a reading relevant to intersectionality
5	Research Proposal	Student presentation of research interests and topics Learning to use library resources in research
6	Research Reading and Discussion (1)	Presentation and discussion of a reading related to students' research
7	Research Reading and Discussion (2)	Presentation and discussion of a reading related to students' research
8	Research Reading and Discussion (3)	Presentation and discussion of a reading related to students' research
9	Research Reading and Discussion (4)	Presentation and discussion of a reading related to students' research
10	Research Reading and Discussion (5)	Presentation and discussion of a reading related to students' research
11	Research Reading and Discussion (6)	Presentation and discussion of a reading related to students' research
12	Research Workshop and Consultation	Individual consultations on research project
13	Research Paper Presentations (1)	Student presentations and discussion of research
14	Research Paper Presentations (2)	Student presentations and discussion of research

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]

Every week, there is work to do: reading, preparation for presentation, and/or conducting research. Students are expected to keep up with all this work to make the seminar work for them and other students. Preparatory study and review time for this 4-credit class are at least 4 hours each.

[Textbooks]

No textbook will be used. Copies of journal articles and book chapters will be distributed in class and uploaded on the Hosei Learning Management System.

[References]

- Collins, P. (2019). *Intersectionality as critical theory*. Durham, N.C.: Duke University Press.
- Collins, P. H., & Bilge, S. (2016). *Intersectionality*. Cambridge: Polity Press.
- Grzanka, Patrick R. (ed.) (2014). *Intersectionality: A foundations and frontiers reader*. Boulder, CO: Westview Press.
- Berger, M. T., & Guidroz, K. (eds.) (2009). *The intersectional approach: Transforming the academy through race, class and gender*. Chapel Hill, NC: University of North Carolina Press.
- Dill, B. T., & Zambrana, R. E. (eds.) (2009). *Emerging intersections: Race, class, gender in theory, policy, and practice*. New Brunswick, NJ: Rutgers University Press.
- Lykke, Nina. 2012. *Feminist Studies: A Guide to Intersectional Theory, Methodology and Writing*. London: Routledge.
- Jónasdóttir, Anna G., Valerie Bryson, and Kathleen B. Jones (eds). 2011. *Sexuality, Gender and power: Intersectional and Transnational Perspectives*. London: Routledge.

[Grading criteria]

Clear instructions and goals are set for every assignment. The grade will be calculated as follows:

Participation in class discussion (8%)

Reading presentations and discussant presentation (18%)

Critiques on readings (20%)

Research topic presentation and research paper presentation (14%)

Research paper (40%)

[Changes following student comments]

Students have been fully satisfied with the course, saying that it was intense but worthwhile. However, the instructor will check constantly with students to keep the workload reasonable.

[Others]

Students are expected to have passed Race, Class and Gender I. However, this prerequisite may be waived if a student has the equivalent academic background.

Students are expected to take both Intersectionality I and Intersectionality II, and in principle, they are expected to continue for two years. Special arrangements will be made for students who study abroad for one or two semesters.

[Prerequisite]

See "Others".

SOC400ZA

Seminar: Intersectionality: Multiple Inequalities I

Diana Khor

Credit(s) : 4 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 3~4

Day/Period : 月 5/Mon.5

その他属性 : 〈優〉〈S〉

[Outline and objectives]

Race, class, gender and sexuality, nation and so on constitute our identities, shape our experiences, and constrain as well as enrich our lives. Importantly, they constitute interconnecting sources of inequality in society and in the world today. In this seminar, students will read and critique social theories and research informed by an intersectional perspective that aims at understanding the complex, intersecting nature of social inequalities. In the process, they will acquire tools and develop perspectives to apply to their own research.

[Goal]

The main goal of this seminar is to develop students' sensitivity towards issues of inequality related to race, class, gender, sexuality, nationality and so on, and expose them to the cutting-edge theoretical and empirical works in the developing field of "intersectionality". Another goal is to develop students' skills in social research, discussion, presentation, and writing. Learning to evaluate and critique ideas and research is a particularly important goal in this seminar.

[Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?]

Will be able to gain "DP 1", "DP 2", "DP 3", and "DP 4".

[Method(s)]

Since this course is a seminar, it is taught primarily through student presentations and discussions. Students deliver presentations on selected readings as well as on their own research. Further, they also engage in discussions based on critical reading of extant research and theories, as well as on current relevant social issues. Feedback is given orally after each presentation and discussion, and comments are given to individual students on every assignment submitted.

[Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)]

あり / Yes

[Fieldwork in class]

なし / No

[Schedule] 授業形態 : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Overview	Overview
2	Doing Social Research Critiquing Academic Works	Overview of social research Learning to critique a journal article
3	Reading on Intersectionality (1)	Student presentation and discussion of a reading relevant to intersectionality
4	Reading on Intersectionality (2)	Student presentation and discussion of a reading relevant to intersectionality
5	Research Proposal	Student presentation of research interests and topics Learning to use library resources in research
6	Research Reading and Discussion (1)	Presentation and discussion of a reading related to students' research
7	Research Reading and Discussion (2)	Presentation and discussion of a reading related to students' research
8	Research Reading and Discussion (3)	Presentation and discussion of a reading related to students' research
9	Research Reading and Discussion (4)	Presentation and discussion of a reading related to students' research
10	Research Reading and Discussion (5)	Presentation and discussion of a reading related to students' research
11	Research Reading and Discussion (6)	Presentation and discussion of a reading related to students' research
12	Research Workshop and Consultation	Individual consultations on research project
13	Research Paper Presentations (1)	Student presentations and discussion of research
14	Research Paper Presentations (2)	Student presentations and discussion of research

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]

Every week, there is work to do: reading, preparation for presentation, and/or conducting research. Students are expected to keep up with all this work to make the seminar work for them and other students. Preparatory study and review time for this 4-credit class are at least 4 hours each.

[Textbooks]

No textbook will be used. Copies of journal articles and book chapters will be distributed in class and uploaded on the Hosei Learning Management System.

[References]

Collins, P. (2019). *Intersectionality as critical theory*. Durham, N.C.: Duke University Press.
 Collins, P. H., & Bilge, S. (2016). *Intersectionality*. Cambridge: Polity Press.
 Grzanka, Patrick R. (ed.) (2014). *Intersectionality: A foundations and frontiers reader*. Boulder, CO: Westview Press.
 Berger, M. T., & Guidroz, K. (eds.) (2009). *The intersectional approach: Transforming the academy through race, class and gender*. Chapel Hill, NC: University of North Carolina Press.
 Dill, B. T., & Zambrana, R. E. (eds.) (2009). *Emerging intersections: Race, class, gender in theory, policy, and practice*. New Brunswick, NJ: Rutgers University Press.
 Lykke, Nina. 2012. *Feminist Studies: A Guide to Intersectional Theory, Methodology and Writing*. London: Routledge.
 Jónasdóttir, Anna G., Valerie Bryson, and Kathleen B. Jones (eds). 2011. *Sexuality, Gender and power: Intersectional and Transnational Perspectives*. London: Routledge.

[Grading criteria]

Clear instructions and goals are set for every assignment. The grade will be calculated as follows:

Participation in class discussion (8%)

Reading presentations and discussant presentation (18%)

Critiques on readings (20%)

Research topic presentation and research paper presentation (14%)

Research paper (40%)

[Changes following student comments]

Students have been fully satisfied with the course, saying that it was intense but worthwhile. However, the instructor will check constantly with students to keep the workload reasonable.

[Others]

Students are expected to have passed Race, Class and Gender I. However, this prerequisite may be waived if a student has the equivalent academic background.

Students are expected to take both Intersectionality I and Intersectionality II, and in principle, they are expected to continue for two years. Special arrangements will be made for students who study abroad for one or two semesters.

[Prerequisite]

See "Others".

SOC400ZA

Seminar: Intersectionality: Multiple Inequalities II

Diana Khor

Credit(s) : 4 | Semester : 秋学期授業/Fall | Year : 3~4
Day/Period : 月 4/Mon.4

その他属性 : 〈優〉〈S〉

[Outline and objectives]

Continuing with what they have learned in the spring semester in "Seminar: Intersectionality I", students will read and critique social theories and research informed by an intersectional perspective that aims at understanding the complex, intersecting nature of social inequalities. In the process, they will acquire tools and develop perspectives to apply to their own research.

[Goal]

The main goal of this seminar is to develop students' sensitivity towards issues of inequality related to race, class, gender, sexuality, nationality and so on, and expose them to the cutting-edge theoretical and empirical works in the developing field of "intersectionality".

Another goal is to develop students' skills in social research, discussion, presentation, and writing. Learning to evaluate and critique ideas and research is a particularly important goal in this seminar.

[Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?]

Will be able to gain "DP 1", "DP 2", "DP 3", and "DP 4".

[Method(s)]

This is a continuation of the seminar in the Spring semester, with the same emphasis but more time devoted to student research. The seminar research and readings, as much as possible, will be based on students' individual research interests. Feedback is given orally after each presentation and discussion, and comments are given to individual students on every assignment submitted. Talks by seminar alumni on their careers and connection of the seminar to their work will be scheduled in November and December. An updated schedule will be provided in class.

[Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)]

あり / Yes

[Fieldwork in class]

なし / No

[Schedule] 授業形態 : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Overview	Overview
2	Research Workshop (1)	Students will do in-class exercises and discuss published research to prepare them to conduct their own research
3	Research Workshop (2)	Students will do in-class exercises and discuss published research to prepare them to conduct their own research
4	Research Reading and Discussion (1)	Presentation and discussion of a reading related to students' research
5	Research Reading and Discussion (2)	Presentation and discussion of a reading related to students' research
6	Research in Progress	Research paper progress report and help session Decision on individual research readings in the second half of the seminar
7	Seminar Reading (1)	Student presentation and discussion on a reading relevant to intersectionality
8	Seminar Reading (2)	Student presentation and discussion on a reading relevant to intersectionality
9	Research Reading and Discussion (3)	Presentation and discussion of a reading related to students' research
10	Research Reading and Discussion (4)	Presentation and discussion of a reading related to students' research
11	Research Reading and Discussion (5)	Presentation and discussion of a reading related to students' research
12	Research Workshop and Consultation	Individual consultation and peer critique on research project
13	Research Paper Presentations (1)	Research paper presentations and discussions

14 Research Paper Presentations (2) Research paper presentations and discussions

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]

Every week, there is work to do: reading, preparation for presentation, and/or conducting research. Students are expected to keep up with all this work to make the seminar work for them. Preparatory study and review time for this 4-credit class are at least 4 hours each.

[Textbooks]

No textbook will be used. Copies of journal articles and book chapters will be distributed in class and uploaded on the Hosei Learning Management System.

[References]

Collins, P. (2019). *Intersectionality as critical theory*. Durham, N.C.: Duke University Press.

Collins, P. H., & Bilge, S. (2016). *Intersectionality*. Cambridge: Polity Press.

Grzanka, Patrick R. (ed.) (2014). *Intersectionality: A foundations and frontiers reader*. Boulder, CO: Westview Press.

Berger, M. T., & Guidroz, K.(eds.) (2009). *The intersectional approach: Transforming the academy through race, class and gender*. Chapel Hill, NC: University of North Carolina Press.

Dill, B. T., & Zambrana, R. E. (eds.) (2009). *Emerging intersections: Race, class, gender in theory, policy, and practice*. New Brunswick, NJ: Rutgers University Press.

Lykke, Nina. 2012. *Feminist Studies: A Guide to Intersectional Theory, Methodology and Writing*. London: Routledge.

Jónasdóttir, Anna G., Valerie Bryson, and Kathleen B. Jones (eds). 2011. *Sexuality, Gender and power: Intersectional and Transnational Perspectives*. London: Routledge.

[Grading criteria]

Clear instructions and goals are set for every assignment. The grade will be calculated as follows:

Participation in class discussion (8%)

Reading presentations and discussant presentation (18%)

Critiques on readings (20%)

Research-in-progress presentation, peer critique, and research paper presentation (14%)

Research paper (40%)

[Changes following student comments]

Students have been fully satisfied with the course, saying that it is intense but worthwhile. However, the instructor will check constantly with students to keep the workload reasonable.

[Others]

Students are expected to have passed Seminar: Intersectionality I.

Students are expected to take both Intersectionality I and Intersectionality II, and in principle, they are expected to continue for two years. Special arrangements will be made for students who study abroad for one or two semesters.

[Prerequisite]

See "Others".

SOC400ZA

Seminar: Intersectionality: Multiple Inequalities II

Diana Khor

Credit(s) : 4 | Semester : 秋学期授業/Fall | Year : 3~4
Day/Period : 月 5/Mon.5

その他属性 : 〈優〉〈S〉

【Outline and objectives】

Continuing with what they have learned in the spring semester in "Seminar: Intersectionality I", students will read and critique social theories and research informed by an intersectional perspective that aims at understanding the complex, intersecting nature of social inequalities. In the process, they will acquire tools and develop perspectives to apply to their own research.

【Goal】

The main goal of this seminar is to develop students' sensitivity towards issues of inequality related to race, class, gender, sexuality, nationality and so on, and expose them to the cutting-edge theoretical and empirical works in the developing field of "intersectionality".

Another goal is to develop students' skills in social research, discussion, presentation, and writing. Learning to evaluate and critique ideas and research is a particularly important goal in this seminar.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain "DP 1", "DP 2", "DP 3", and "DP 4".

【Method(s)】

This is a continuation of the seminar in the Spring semester, with the same emphasis but more time devoted to student research. The seminar research and readings, as much as possible, will be based on students' individual research interests. Feedback is given orally after each presentation and discussion, and comments are given to individual students on every assignment submitted.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり / Yes

【Fieldwork in class】

なし / No

【Schedule】 授業形態 : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Overview	Overview
2	Research Workshop (1)	Students will do in-class exercises and discuss published research to prepare them to conduct their own research
3	Research Workshop (2)	Students will do in-class exercises and discuss published research to prepare them to conduct their own research
4	Research Reading and Discussion (1)	Presentation and discussion of a reading related to students' research
5	Research Reading and Discussion (2)	Presentation and discussion of a reading related to students' research
6	Research in Progress	Research paper progress report and help session Decision on individual research readings in the second half of the seminar
7	Seminar Reading (1)	Student presentation and discussion on a reading relevant to intersectionality
8	Seminar Reading (2)	Student presentation and discussion on a reading relevant to intersectionality
9	Research Reading and Discussion (3)	Presentation and discussion of a reading related to students' research
10	Research Reading and Discussion (4)	Presentation and discussion of a reading related to students' research
11	Research Reading and Discussion (5)	Presentation and discussion of a reading related to students' research
12	Research Workshop and Consultation	Individual consultation and peer critique on research project
13	Research Paper Presentations (1)	Research paper presentations and discussions
14	Research Paper Presentations (2)	Research paper presentations and discussions

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

Every week, there is work to do: reading, preparation for presentation, and/or conducting research. Students are expected to keep up with all this work to make the seminar work for them. Preparatory study and review time for this 4-credit class are at least 4 hours each.

【Textbooks】

No textbook will be used. Copies of journal articles and book chapters will be distributed in class and uploaded on the Hosei Learning Management System.

【References】

Collins, P. (2019). *Intersectionality as critical theory*. Durham, N.C.: Duke University Press.
Collins, P. H., & Bilge, S. (2016). *Intersectionality*. Cambridge: Polity Press.
Grzanka, Patrick R. (ed.) (2014). *Intersectionality: A foundations and frontiers reader*. Boulder, CO: Westview Press.
Berger, M. T., & Guidroz, K.(eds.) (2009). *The intersectional approach: Transforming the academy through race, class and gender*. Chapel Hill, NC: University of North Carolina Press.
Dill, B. T., & Zambrana, R. E. (eds.) (2009). *Emerging intersections: Race, class, gender in theory, policy, and practice*. New Brunswick, NJ: Rutgers University Press.
Lykke, Nina. 2012. *Feminist Studies: A Guide to Intersectional Theory, Methodology and Writing*. London: Routledge.
Jónasdóttir, Anna G., Valerie Bryson, and Kathleen B. Jones (eds). 2011. *Sexuality, Gender and power: Intersectional and Transnational Perspectives*. London: Routledge.

【Grading criteria】

Clear instructions and goals are set for every assignment. The grade will be calculated as follows:

Participation in class discussion (8%)

Reading presentations and discussant presentation (18%)

Critiques on readings (20%)

Research-in-progress presentation, peer critique, and research paper presentation (14%)

Research paper (40%)

【Changes following student comments】

Students have been fully satisfied with the course, saying that it is intense but worthwhile. However, the instructor will check constantly with students to keep the workload reasonable.

【Others】

Students are expected to have passed Seminar: Intersectionality I.

Students are expected to take both Intersectionality I and Intersectionality II, and in principle, they are expected to continue for two years. Special arrangements will be made for students who study abroad for one or two semesters.

【Prerequisite】

See "Others".

PSY400ZA

Seminar: Self and Culture I

Yu Niiya

Credit(s) : 4 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 3~4

Day/Period : 月 3/Mon.3

その他属性 : 〈優〉

【Outline and objectives】

The focus of this seminar is on a deeper understanding and analysis of how the self and culture shape how we feel, think, and behave, by drawing on empirical literature in social and cultural psychology. In both the spring and fall semesters, the seminar will meet once a week for 2 periods. In the spring, class time will be devoted to group discussions on assigned readings that examine the impact of social media on our psychological well-being and interpersonal relationships. Students will discuss whether social media can create fulfilling social connections, whether dependence on social media is really problematic, how culture shapes social media usage and its influence on our well-being, and whether how social media could be used to promote online and offline prosocial behaviors. Through readings and discussions, students will go beyond the simple debate that social media helps or impedes human interactions. In addition, third year students will decide on the research questions, hypotheses, and theories of the research they will pursue in the seminar. Fourth year students will collect data, run an experiment or a survey, and will analyze them using a statistical package of their choice (JASP, HAD, SPSS, or R).

【Goal】

Upon completion of the course, students are expected to achieve the following goals:

- (a) To learn how social psychology can help understand our behaviors and decisions via literature review and in-depth discussion;
- (b) To develop a working knowledge of different approaches and methods of social and cultural psychology;
- (c) To develop a deeper understanding of our own lives, using knowledge and wisdom gained through the seminar;
- and
- (d) To develop research skills and knowledge to apply selected social psychological theories to a real-life context.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain “DP 1”, “DP 2”, “DP 3”, and “DP 4”.

【Method(s)】

This course combines several pedagogical strategies including student-led weekly class discussions and presentations. Students will receive oral and written feedback on their presentations and weekly reaction papers.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり / Yes

【Fieldwork in class】

なし / No

【Schedule】 授業形態 : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction and Overview	Share course overview, expectations, and requirements
2	Psychology of Social Media	Overview of psychological research on social media
3	Can Social Media Create Fulfilling Social Connections? (1)	What do humans need to flourish?
4	Proposing Research Ideas (1)	Discussing students' research proposals
5	Can Social Media Create Fulfilling Social Connections? (2)	What needs can be fulfilled through social media?
6	Are We Getting Too Dependent on Social Media? (1)	What are the negative consequences of using social media?
7	Proposing Research Ideas (2)	Discussing students' research proposals
8	Are We Getting Too Dependent on Social Media? (2)	Are the “negative” consequences really negative?
9	Cultural Differences in Social Media Behaviors (1)	How does culture shape social media use?
10	Proposing Research Ideas (3)	Discussing students' research proposals

11	Cultural Differences in Social Media Behaviors (2)	Does culture influence the way social media affects our psychology?
12	Prosocial Behaviors on Social Media	Can social media encourage prosocial behaviors?
13	Consequences of Online Prosocial Behaviors	Do online prosocial behaviors increase offline prosocial behaviors?
14	Final Synthesis	What have we learned and what are the next steps?

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

Students are expected to complete all the reading assignments, write bi-weekly reaction papers, and post them on the course website by the designated date. Those assigned to lead discussions will further prepare the summaries of the readings and discussion questions. Third year students will formulate research questions and hypotheses based on a comprehensive review of relevant literature on the topic. Fourth year students are expected to run their survey or experiment and collect data for their graduation thesis. Preparatory study and review time for this class are 4 hours each.

【Textbooks】

none

【References】

The weekly readings and other resources will be posted on the course website.

Hacker, D. & Sommers, N. (2020). *A pocket style manual*. (8th ed.). APA Version.

【Grading criteria】

Students are evaluated based on weekly reaction papers (30%), active participation in class discussion (20%), final synthesis paper (10%), and progress on their research project (30%). In addition, third year students are evaluated based on leading the discussion (10%) whereas fourth year students will be evaluated based on the research support they provide to third year students (10%).

【Changes following student comments】

Some students felt rushed during the discussion. We will meet 2 periods in a row to allow more time for in-depth discussion.

【Equipment student needs to prepare】

Students must get the login information for PyscINFO database from the library.

【Others】

Students are strongly encouraged to have successfully completed the following courses prior to joining this seminar: Statistics, Social Psychology I and II, and Quantitative Research Methods. If students have not taken these (or equivalent) courses, they are required to take them in conjunction with this seminar. Instructor's permission is required.

【Prerequisites】

none

PSY400ZA

Seminar: Self and Culture I

Yu Niiya

Credit(s) : 4 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 3~4

Day/Period : 月 4/Mon.4

その他属性 : 〈優〉

[Outline and objectives]

The focus of this seminar is on a deeper understanding and analysis of how the self and culture shape how we feel, think, and behave, by drawing on empirical literature in social and cultural psychology. In the spring, the seminar will meet once a week for 2 periods whereas in the fall, it will meet twice a week on two different days. In the spring, class time will be devoted to group discussions on assigned readings that examine the differing consequences of helping with a self- vs other-oriented motivation. Students will discuss what benefits and costs helping have to each of these motivations, whether these motivations help matters in the quantity and quality of help provided, and whether the cultural dimensions of independence vs. interdependence map onto the self- vs other-motivation for helping. Through readings and discussions, students will gain a deeper understanding of human psychology that governs prosocial interactions.

[Goal]

Upon completion of the course, students are expected to achieve the following goals:

- (a) to learn how social psychology can help understand our behaviors and decisions via literature review and in-depth discussion;
- (b) to develop a working knowledge of different approaches and methods of social and cultural psychology;
- (c) to develop a deeper understanding of our own lives, using knowledge and wisdom gained through the seminar; and
- (d) to develop research skills and knowledge to apply selected social psychological theories to a real-life context.

[Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?]

Will be able to gain “DP 1”, “DP 2”, “DP 3”, and “DP 4”.

[Method(s)]

This course combines several different kinds of pedagogical strategies including student-led weekly class discussions and presentations. Students will receive oral and written feedback on their presentations and weekly reaction papers.

[Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)]

あり / Yes

[Fieldwork in class]

なし / No

[Schedule] 授業形態：対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction and Overview	Introduction and Overview
2	Theories on compassionate goals	Discussing theories and research on two fundamental interpersonal goals
3	Self- versus other-oriented motivation	Discussing the theoretical framework of self- vs. other-oriented social motivation
4	Consequences of self- and other-oriented motivation	Identifying the consequences of self- and other-oriented motivation to help
5	Does the difference between self- and other-oriented motivation really matter?	Questioning the dichotomy between self- and other-oriented motivations
6	Impression management motives	Discussing the consequences of helping others with the motivation to appear good
7	Benefits of compassion to self	Understanding how helping others can benefit the self
8	Midterm synthesis	Group presentations on what students have learned so far
9	Benefits of compassion at work	Discussing how compassion can increase work productivity
10	Is interdependence associated with self- or other-oriented compassion?	Distinguishing the self- and other-oriented motivation from interdependent cultural construct

11	Is independence associated with self- or other-oriented compassion?	Distinguishing the self- and other-oriented motivation from independent cultural construct
12	How can we improve prosocial motivation? Part 1	Discussing ways to improve prosocial motivation 1
13	How can we improve prosocial motivation? Part 2	Discussing ways to improve prosocial motivation 2
14	Final Synthesis	What have we learned and what are the next steps?

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]

Students are expected to complete all the reading assignments, write weekly reaction papers, and post them on the course website by the designated date. Those assigned to lead discussions will further prepare the summaries of the readings and discussion questions. Fourth year students are expected to run their survey or experiment and collect data for their honor's thesis. Preparatory study and review time for this class are 4 hours each.

[Textbooks]

Zaki, J. (2021). *The war for kindness: Building empathy in a fractured world*. Robinson.

[References]

Harris, S. R. (2014). *How to critique journal articles in the social sciences*. Los Angeles, CA: Sage.

The weekly readings and other resources will be posted on the course website.

[Grading criteria]

Students are evaluated based on weekly reaction papers (25%), active participation in class discussion (25%), leading the discussion (20%), midterm presentation (10%), and a final research paper (20%).

[Changes following student comments]

Some students felt rushed during the discussion. We will meet 2 periods in a row to allow more time for in-depth discussion.

[Equipment student needs to prepare]

Students must get the login information for PsycINFO database from the library.

[Prerequisite]

Students must have successfully completed one or more from the following: Statistics, Social Psychology I or II, and Quantitative Research Methods (Social Research Methods). Instructor's permission is required.

PSY400ZA

Seminar: Self and Culture II

Yu Niiya

Credit(s) : 4 | Semester : 秋学期授業/Fall | Year : 3~4
Day/Period : 月 3/Mon.3

その他属性 : 〈優〉

【Outline and objectives】

The focus of this seminar is on a deeper understanding and analysis of how the self and culture shape how we feel, think, and behave, drawing on empirical literature in social and cultural psychology. In both the spring and fall semesters, the seminar will meet once a week for 2 periods. In the fall, class time will be devoted to group discussions on assigned readings related to students' research interest as well as to group discussions on student led research. Third year students will design and prepare an experiment or a survey to be conducted the following year; fourth year students will analyze their data and write a research paper in APA-style. Students will receive guidance on each step of research, from identifying and refining a research question, conducting a literature review, to creating a questionnaire, analyzing data, and reporting their results.

【Goal】

Upon completion of the course, students are expected to achieve the following goals:

- To learn how social psychology can help understand our behaviors and decisions via literature review and in-depth discussion;
- To develop a deeper understanding of our own lives, using knowledge and wisdom gained through the seminar;
- To design and implement a small-scale empirical study on the basis of previous research and skills;
- To analyze and interpret collected data using statistical software (e.g., JASP, SPSS, R, HAD); and
- To write up a research paper formatted in APA style (for fourth year students).

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】
Will be able to gain “DP 1”, “DP 2”, “DP 3”, and “DP 4”.

【Method(s)】

This course combines several different kinds of pedagogical strategies including student-led weekly class discussions and presentations. Students will receive oral and written feedback on their presentations and papers.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】
あり / Yes

【Fieldwork in class】
なし / No

【Schedule】 授業形態 : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction and Overview	Share course overview, expectations, & requirements
2	Seminar Reading and Discussion (1)	Discussion of readings relevant to students' research interest
3	Developing Research Procedure (1)	Shares and gets feedback on the progress of student research
4	Seminar Reading and Discussion (2)	Discussion of readings relevant to students' research interest
5	Developing Research Procedure (2)	Shares and gets feedback on the progress of student research
6	Seminar Reading and Discussion (3)	Discussion of readings relevant to students' research interest
7	Analyzing and Interpreting Data (1)	Shares and gets feedback on data analyses
8	Seminar Reading and Discussion (4)	Discussion of readings relevant to students' research interest
9	Analyzing and Interpreting Data (2)	Shares and gets feedback on data analyses
10	Seminar Reading and Discussion (5)	Discussion of readings relevant to students' research interest
11	Developing Research Materials (1)	Shares and gets feedback on research materials
12	Developing Research Materials (2)	Shares and gets feedback on research materials
13	Research Presentation (1)	Reviews the entire semester, and shares research findings
14	Research Presentation (2)	Reviews the entire semester, and shares research findings

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

Students are expected to complete all the reading assignments, write reaction papers, and post them on the course website by the designated date. Those assigned to lead discussions will further prepare the summaries of the readings and discussion questions. Third year students will design an experimental or survey study, prepare research materials, and write up a research proposal. Fourth year students will collect and analyze data, and write up their graduation thesis. Preparatory study and review time for this class are 4 hours each.

【Textbooks】
None.

【References】

Readings and other resources will be provided on the course website.

Additional references will be introduced in class.

Hacker, D. & Sommers, N. (2020). *A pocket style manual*. (8th ed.). APA Version.

【Grading criteria】

Students are evaluated based on weekly reaction papers (30%), active participation in class discussion (20%), and progress on their research project (50% total). Research progress is assessed in the following manner for third year students: weekly reports (30%) and final research proposal (20%). Fourth year students are required to go through at least three rounds of revisions in writing their graduation theses, graded as follows: punctually submitting and revising each sections (10%), punctually submitting their first draft (10%), and the quality of their final draft (30%).

【Changes following student comments】

The seminar meets 2 periods in a row to allow more time for discussion,

【Equipment student needs to prepare】

Students must get the login information for PyscINFO database from the library.

【Others】

Students are strongly encouraged to have successfully completed the following courses prior to joining this seminar: Statistics, Social Psychology I and II, and Quantitative Research Methods. If students have not taken these (or equivalent) courses, they are required to take them in conjunction with this seminar. Instructor's permission is required.

【Prerequisite】
None.

PSY400ZA

Seminar: Self and Culture II

Yu Niiya

Credit(s) : 4 | Semester : 秋学期授業/Fall | Year : 3~4
Day/Period : 月 4/Mon.4

その他属性 : 〈優〉

【Outline and objectives】

The focus of this seminar is on a deeper understanding and analysis of how the self and culture shape how we feel, think, and behave, drawing on the empirical literature in social and cultural psychology. In the fall, the seminar will meet twice a week. Both days will be devoted to group discussions on student led research. Third year students will design and prepare an experiment or a survey to be conducted the following year; fourth year students will analyze their data and write a research paper in APA-style. Students will receive guidance on each step of research, from identifying and refining a research question, conducting a literature review, to creating a questionnaire, analyzing data, and reporting the results.

【Goal】

Upon completion of the course, students are expected to achieve the following goals:

- (a) to design and implement a small-scale empirical study on the basis of previous research and skills learned during the spring term;
- (b) to analyze and interpret collected data using statistical software (e.g., JASP, SPSS, R, HAD); and
- (c) to write up a research paper formatted in APA style (for fourth year students).

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain “DP 1”, “DP 2”, “DP 3”, and “DP 4”.

【Method(s)】

This course combines several different kinds of pedagogical strategies including student-led weekly class discussion, presentations, and small group projects. Students will receive feedback on their research design in class, during the discussion. They will also receive written feedbacks on their papers.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり / Yes

【Fieldwork in class】

なし / No

【Schedule】 授業形態：対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction and Overview	Introduction and Overview
2	Developing a Research Proposal: A Review	Reviews the process of developing a research proposal
3	Refining Your Research Proposal (1)	Reviews and shares student research proposals
4	Refining Your Research Proposal (2)	Reviews and shares student research proposals
5	Preparing for Research Implementation	Discusses the procedural matters for implementing research
6	Research Debriefing & Feedback (1)	Shares and gets feedback on the progress of student research
7	Research Debriefing & Feedback (2)	Shares and gets feedback on the progress of student research
8	Analyzing and Interpreting Data (1)	Shares and gets feedback on data analyses
9	Analyzing and Interpreting Data (2)	Shares and gets feedback on data analyses
10	Analyzing and Interpreting Data (3)	Shares and gets feedback on data analyses
11	Writing and Presenting an APA Research Paper (1)	Reviews APA writing and engages in peer review
12	Writing and Presenting an APA Research paper (2)	Reviews APA writing and engages in peer review
13	Writing and Presenting an APA Research paper (3)	Reviews APA writing and engages in peer review
14	Research Presentation	Reviews the entire semester, and shares research findings

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

Students are expected to prepare their research outside class and bring materials to discuss in class. Third students will formulate research questions and hypotheses, review relevant literature on the topic, design an experimental study, prepare research materials, and write up a research proposal; fourth year students will collect and analyze data, and write up a research paper. Preparatory study and review time for this class are 4 hours each.

【Textbooks】

None.

【References】

Readings and other resources will be provided on the course website. Additional references will be introduced in class.

【Grading criteria】

Students are evaluated based on active participation in class discussion (30%), progress on their research project (30%), and a research proposal for third year students or a final research paper for fourth year students. For the latter, students are required to go through at least three rounds of revisions, graded as follows: 5% for the first draft, 10% for the second draft, 25% for the final draft.

【Changes following student comments】

The seminar meets twice a week to allow students to keep their full concentration and to show their peak performance throughout the 100 minutes.

【Equipment student needs to prepare】

Students must get the login information for PyscINFO database from the library.

【Prerequisite】

Students must have successfully completed one or more from the following: Statistics, Social Psychology I or II, and Quantitative Research Methods (Social Research Methods). Instructor's permission is required.

POL400ZA

Seminar: International Relations I

Takeshi Yuzawa

Credit(s) : 4 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 3~4

Day/Period : 木 4/Thu.4

その他属性 : 〈優〉

【Outline and objectives】

The first two decades of the 21st century have witnessed dramatic changes in international relations. It has become increasingly obvious that the relative power and influence of the United States over world politics is declining vis-à-vis rising states, most notably China. At the same time, the legitimacy of Western liberal norms and values (such as democracy, the rule of law, and human rights) that have constituted an important feature of an American-led order are being challenged by the rise of alternative norms and values, supported by rising states. This trend has been further reinforced by growing public distrust of existing political systems in many Western democracies, in particular the United States, mainly stemming from detrimental effects of economic globalization. In addition, the international political stage, which was previously dominated by states, has increasingly featured non-state actors, including multinational corporations, non-government organizations, and terrorist groups. The enormous growth of non-state actors poses serious challenges to the power and authority of the state. These drastic changes in the realm of IR pose the significant question: What will be the shape of the world order in the 21st century?

In order to address this question, this seminar will examine the following:

- 1) Shifts in power distribution among great powers (including the United States, China, Japan, India, and major European countries) and their strategic competitions.
- 2) Prospects for global governance (Pandemic, Climate Change, Financial Crisis)
- 3) New technology and geopolitics (US-China competitions, The roles of "Big-Tech" companies)
- 4) The political effects of economic globalization (The rise of populism and the decline of democracy in major countries)
- 5) Competition among differing norms and values: disputes over capitalism, democracy, human rights, and self-determination in the Middle East, Africa, and East Asia.

【Goal】

The course objectives are:

- 1) To provide students with a background for eventual careers in fields (including work in government, international organizations, business, and the media) which require articulate, clear-thinking individuals with a grasp of contemporary international relations (IR);
- 2) To enable students to establish a firm foundation for studying IR at graduate level;
- 3) To enable students to demonstrate mastery of the subject matter of the course through the expression of relevant factual knowledge and the comprehension of relevant theory, deployed with appropriate analytical skill, as evidenced in discussion, oral presentation and written work.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain "DP 1", "DP 2", "DP 3", and "DP 4".

【Method(s)】

The spring semester will have detailed discussion on topics relating to the main theme of this seminar. Extensive review of IR theories will also be conducted in the early weeks of the semester.

During the fall semester (and the summer camp), students will undertake their own research projects. Seminar members will also engage in some group work relating to their research topics, role-play, and simulation studies).

Students will be required to write several short essays (only in the spring semester) and one research paper during the course (submitting a research paper by the late January 2024). Students can choose any topics within the discipline of IR. Minimum length for the research paper is 4,000 words. Fourth-year students will concentrate on their dissertation projects during the year. Dissertation subjects can be on anything within the IR discipline. Minimum length is 8,000 words, excluding bibliography, but including notes, any appendices and tables. Comments for assignments are given during class and office hours.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり / Yes

【Fieldwork in class】

なし / No

【Schedule】 授業形態 : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction	Introduction

2	Review of IR Theories	Reviewing IR theories
3	Seminar Topic 1	Discussion on the assigned topic
4	Seminar Topic 2	Discussion on the assigned topic
5	Debate 1	Debate
6	Seminar Topic 3	Discussion on the assigned topic
7	Seminar Topic 4	Discussion on the assigned topic
8	Debate 2 and the Mid-term Presentation (4th year students)	Presenting preliminary research proposal
9	Seminar Topic 6	Discussion on the assigned topic
10	Seminar Topic 7	Discussion on the assigned topic
11	Debate 3	Debate
12	Seminar Topic 8	Discussion on the assigned topic
13	Seminar Topic 9	Discussion on the assigned topic.
14	Debate 4/Final Research Proposal Presentation (Fourth-year students)	Presenting a research proposal

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

Students are expected to engage in detailed independent and group study in order to achieve their seminar tasks. Preparatory study and review time for this class are 4 hours each.

【Textbooks】

Students are required to pore over assigned readings specified by the lecturer.

【References】

Information relating to references will be provided during the course.

【Grading criteria】

Third year students: Essays (45%), Presentations and Discussions (35%), Debate (20%). Fourth year students: Class Contributions (15%), Mid-Term and Final Presentations (25%), Research Proposals (60%).

【Changes following student comments】

Handouts to be provided in a timely manner.

【Equipment student needs to prepare】

Course materials will be delivered via the Hoppii.

【Prerequisite】

Students wishing to take this seminar are required to have completed "Introduction to International Relations" or "World Politics" .

POL400ZA

Seminar: International Relations I

Takeshi Yuzawa

Credit(s) : 4 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 3~4

Day/Period : 木 5/Thu.5

その他属性 : 〈優〉

[Outline and objectives]

The first two decades of the 21st century have witnessed dramatic changes in international relations. It has become increasingly obvious that the relative power and influence of the United States over world politics is declining vis-à-vis new rising stars, most notably China. At the same time, the legitimacy of Western liberal norms and values (such as democracy, the rule of law, and human rights) that have constituted an important feature of an American-led order are being challenged by the rise of alternative norms and values, supported by rising authoritarian states, most notably China. This trend has been further reinforced by rising public distrust of existing political systems in many Western democracies, in particular the United States, mainly stemming from detrimental effects of economic globalization. In addition, the international political stage, which was previously dominated by states, has increasingly featured non-state actors, including non-government organizations, multinational corporations, and terrorist groups. The enormous growth of non-state actors poses serious challenges to the power and authority of the state. These drastic changes in the realm of IR pose the significant question: What will be the shape of the world order in the 21st century?

In order to address this question, this seminar will examine the following:

- 1) Shifts in power distribution among great powers, including the United States, China, Japan, India, and the major European countries.
- 2) Prospects for global governance (Pandemic, Climate Change, Financial Crisis)
- 3) New technology and geopolitics (US-China competitions, The roles of "Big-Tech" companies)
- 4) The political effects of economic globalization (The rise of populism and the decline of democracy in major countries)
- 5) Competition among differing norms and values: disputes over capitalism, democracy, human rights, and self-determination in the Middle East, Africa, and East Asia.

Seminar participants will examine these critical issues by utilizing major theories of IR.

[Goal]

The course objectives are:

- 1) To provide students with a background for eventual careers in fields (including work in government, international organizations, business, and the media) which require articulate, clear-thinking individuals with a grasp of contemporary international relations (IR);
- 2) To enable students to establish a firm foundation for studying IR at graduate level;
- 3) To enable students to demonstrate mastery of the subject matter of the course through the expression of relevant factual knowledge and the comprehension of relevant theory, deployed with appropriate analytical skill, as evidenced in discussion, oral presentation and written work.

[Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?]

Will be able to gain "DP 1", "DP 2", "DP 3", and "DP 4".

[Method(s)]

The spring semester will have detailed discussion on topics relating to the main theme of this seminar. Extensive review of IR theories will also be conducted in the early weeks of the semester.

During the fall semester (and the summer camp), students will undertake their own research projects. Seminar members will also engage in some group work relating to their research topics, role-play, and simulation studies).

Students will be required to write several short essays (only in the spring semester) and one research paper during the course (submitting a research paper by the late January 2023). Students can choose any topics within the discipline of IR. Minimum length for the research paper is 4,000 words. Fourth-year students will concentrate on their dissertation projects during the year. Dissertation subjects can be on anything within the IR discipline. Minimum length is 8,000 words, excluding bibliography, but including notes, any appendices and tables. Comments for assignments are given during class and office hours.

[Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)]

あり / Yes

[Fieldwork in class]

なし / No

[Schedule] 授業形態 : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction	Introduction
2	Review of IR Theories	Reviewing IR theories
3	Seminar Topic 1	Discussion on the assigned topic
4	Seminar Topic 2	Discussion on the assigned topic
5	Debate 1	Debate
6	Seminar Topic 3	Discussion on the assigned topic
7	Seminar Topic 4	Discussion on the assigned topic
8	Debate 2 and the Mid-term Presentation (4th year students)	Presenting preliminary research proposal
9	Seminar Topic 6	Discussion on the assigned topic
10	Seminar Topic 7	Discussion on the assigned topic
11	Debate 3	Debate
12	Seminar Topic 8	Discussion on the assigned topic
13	Seminar Topic 9	Discussion on the assigned topic.
14	Debate 4/Final Research Proposal Presentation (Fourth-year students)	Presenting a research proposal

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]

Students are expected to engage in detailed independent and group study in order to achieve their seminar tasks. Preparatory study and review time for this class are 4 hours each.

[Textbooks]

Students are required to pore over assigned readings specified by the lecturer.

[References]

Information relating to references will be provided during the course.

[Grading criteria]

Third year students: Essays (45%), Presentations and Discussions (35%), Debate (20%). Fourth year students: Class Contributions (20%), Mid-Term and Final Presentations (35%), Research Proposals (45%).

[Changes following student comments]

Handouts to be provided in a timely manner.

[Equipment student needs to prepare]

Course materials will be delivered via the Hoppii.

[Prerequisite]

Students wishing to take this seminar are required to have completed "Introduction to International Relations" or "World Politics" .

POL400ZA

Seminar: International Relations II

Takeshi Yuzawa

Credit(s) : 4 | Semester : 秋学期授業/Fall | Year : 3~4
Day/Period : 木 4/Thu.4

その他属性 : 〈優〉

[Outline and objectives]

The first two decades of the 21st century have witnessed dramatic changes in international relations. It has become increasingly obvious that the relative power and influence of the United States over world politics is declining vis-à-vis rising states, most notably China. At the same time, the legitimacy of Western liberal norms and values (such as democracy, the rule of law, and human rights) that have constituted an important feature of an American-led order are being challenged by the rise of alternative norms and values, supported by rising states. This trend has been further reinforced by growing public distrust of existing political systems in many Western democracies, in particular the United States, mainly stemming from detrimental effects of economic globalization. In addition, the international political stage, which was previously dominated by states, has increasingly featured non-state actors, including multinational corporations, non-government organizations, and terrorist groups. The enormous growth of non-state actors poses serious challenges to the power and authority of the state. These drastic changes in the realm of IR pose the significant question: What will be the shape of the world order in the 21st century?

In order to address this question, this seminar will examine the following:

- 1) Shifts in power distribution among great powers (including the United States, China, Japan, India, and major European countries) and their strategic competitions.
- 2) Prospects for global governance (Pandemic, Climate Change, Financial Crisis)
- 3) New technology and geopolitics (US-China competitions, The roles of "Big-Tech" companies)
- 4) The political effects of economic globalization (The rise of populism and the decline of democracy in major countries)
- 5) Competition among differing norms and values: disputes over capitalism, democracy, human rights, and self-determination in the Middle East, Africa, and East Asia.

[Goal]

The course objectives are:

- 1) To provide students with a background for eventual careers in fields (including work in government, international organizations, business, and the media) which require articulate, clear-thinking individuals with a grasp of contemporary international relations (IR);
- 2) To enable students to establish a firm foundation for studying IR at graduate level;
- 3) To enable students to demonstrate mastery of the subject matter of the course through the expression of relevant factual knowledge and the comprehension of relevant theory, deployed with appropriate analytical skill, as evidenced in discussion, oral presentation and written work.

[Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?]

Will be able to gain "DP 1", "DP 2", "DP 3", and "DP 4".

[Method(s)]

The spring semester will have detailed discussion on topics relating to the main theme of this seminar. Extensive review of IR theories will also be conducted in the early weeks of the semester.

During the fall semester (and the summer camp), students will undertake their own research projects. Seminar members will also engage in some group work relating to their research topics and class simulation studies (role play game).

Students will be required to write several short essays (only in the spring semester) and one research paper during the course (submitting a research paper by the late January 2024). Minimum length for the research paper is 4,000 words. Fourth-year students will concentrate on their dissertation projects during the year. Minimum length is 8,000 words, excluding bibliography, but including notes, any appendices and tables.

Comments for assignments are given during class and office hours.

[Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)]

あり / Yes

[Fieldwork in class]

なし / No

[Schedule] 授業形態 : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Revised Research Proposal I	Revised Research Proposal I

2	Revised Research Proposal II	Presenting revised research proposals
3	Newspaper Content Analysis I	Analyzing contemporary topics by utilizing IR theories
4	Role play I	A simulation and role play exercise
5	Research Project Workshop	Individual consultation on research project
6	Mid-term Presentation on Research Papers (Third-year students)	Reporting progress on research papers
7	Mid-term Presentation on Dissertations (Fourth-year students)	Reporting progress on dissertations
8	Research Project Workshop	Individual consultation on research project
9	Role play II	A simulation and role play exercise
10	Newspaper Content Analysis II	Analyzing contemporary topics by utilizing IR theories
11	Research Project Workshop	Individual consultation on research project
12	Research Project Workshop	Individual consultation on research project
13	Final Presentation on Research Papers (Third-year students)	Presenting research papers
14	Final Presentation on Dissertations (Fourth-year students)	Presenting dissertations

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]

Students are expected to engage in detailed independent and group study in order to achieve their seminar tasks. For this reason, students are expected to organize study groups (sub-seminars) outside of class. This seminar will host a summer camp. Preparatory study and review time for this class are 4 hours each.

[Textbooks]

Students are required to pore over assigned readings specified by the lecturer.

[References]

Information relating to references will be provided during the course.

[Grading criteria]

Third year students: Research Papers (including Mid-Term and Final Presentations) (65%), Newspaper Content Analysis (20%), Role Play (15%).

Fourth year students: Role Play (10%), Newspaper Content Analysis (10%) Dissertations (including Mid-Term and Final Presentations (80%).

[Changes following student comments]

Handouts to be provided in a timely manner.

[Equipment student needs to prepare]

Course materials will be delivered via the Hoppii.

[Prerequisite]

Students wishing to take this seminar are required to have completed either "Introduction to International Relations " or "World Politics."

POL400ZA

Seminar: International Relations II

Takeshi Yuzawa

Credit(s) : 4 | Semester : 秋学期授業/Fall | Year : 3~4
Day/Period : 木 5/Thu.5

その他属性 : 〈優〉

[Outline and objectives]

The first two decades of the 21st century have witnessed dramatic changes in international relations. It has become increasingly obvious that the relative power and influence of the United States over world politics is declining vis-à-vis new rising stars, most notably China. At the same time, the legitimacy of Western liberal norms and values (such as democracy, the rule of law, and human rights) that have constituted an important feature of an American-led order are being challenged by the rise of alternative norms and values, supported by rising authoritarian states, most notably China. This trend has been further reinforced by rising public distrust of existing political systems in many Western democracies, in particular the United States, mainly stemming from detrimental effects of economic globalization. In addition, the international political stage, which was previously dominated by states, has increasingly featured non-state actors, including non-government organizations, multinational corporations, and terrorist groups. The enormous growth of non-state actors poses serious challenges to the power and authority of the state. These drastic changes in the realm of IR pose the significant question: What will be the shape of the world order in the 21st century?

In order to address this question, this seminar will examine the following:

- 1) Shifts in power distribution among great powers, including the United States, China, Japan, India, and the major European countries.
- 2) Prospects for global governance (Pandemic, Climate Change, Financial Crisis)
- 3) New technology and geopolitics (US-China competitions, The roles of "Big-Tech" companies)
- 4) The political effects of economic globalization (The rise of populism and the decline of democracy in major countries)
- 5) Competition among differing norms and values: disputes over capitalism, democracy, human rights, and self-determination in the Middle East, Africa, and East Asia.

Seminar participants will examine these critical issues by utilizing major theories of IR.

[Goal]

The course objectives are:

- 1) To provide students with a background for eventual careers in fields (including work in government, international organizations, business, and the media) which require articulate, clear-thinking individuals with a grasp of contemporary international relations (IR);
- 2) To enable students to establish a firm foundation for studying IR at graduate level;
- 3) To enable students to demonstrate mastery of the subject matter of the course through the expression of relevant factual knowledge and the comprehension of relevant theory, deployed with appropriate analytical skill, as evidenced in discussion, oral presentation and written work.

[Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?]
Will be able to gain "DP 1", "DP 2", "DP 3", and "DP 4".

[Method(s)]

The spring semester will have detailed discussion on topics relating to the main theme of this seminar. Extensive review of IR theories will also be conducted in the early weeks of the semester.

During the fall semester (and the summer camp), students will undertake their own research projects. Seminar members will also engage in some group work relating to their research topics and class simulation studies (role play game).

Students will be required to write several short essays (only in the spring semester) and one research paper during the course (submitting a research paper by the late January 2023). Minimum length for the research paper is 4,000 words. Fourth-year students will concentrate on their dissertation projects during the year. Minimum length is 8,000 words, excluding bibliography, but including notes, any appendices and tables.

Comments for assignments are given during class and office hours.

[Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)]
あり / Yes

[Fieldwork in class]
なし / No

[Schedule] 授業形態 : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Revised Research Proposal I	Revised Research Proposal I
2	Revised Research Proposal II	Presenting revised research proposals
3	Newspaper Content Analysis I	Analyzing contemporary topics by utilizing IR theories
4	Role play I	A simulation and role play exercise
5	Research Project Workshop	Individual consultation on research project
6	Mid-term Presentation on Research Papers (Third-year students)	Reporting progress on research papers
7	Mid-term Presentation on Dissertations (Fourth-year students)	Reporting progress on dissertations
8	Research Project Workshop	Individual consultation on research project
9	Role play II	A simulation and role play exercise
10	Newspaper Content Analysis II	Analyzing contemporary topics by utilizing IR theories
11	Research Project Workshop	Individual consultation on research project
12	Research Project Workshop	Individual consultation on research project
13	Final Presentation on Research Papers (Third-year students)	Presenting research papers
14	Final Presentation on Dissertations (Fourth-year students)	Presenting dissertations

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]

Students are expected to engage in detailed independent and group study in order to achieve their seminar tasks. For this reason, students are expected to organize study groups (sub-seminars) outside of class. This seminar will host a summer camp. Preparatory study and review time for this class are 4 hours each.

[Textbooks]

Students are required to pore over assigned readings specified by the lecturer.

[References]

Information relating to references will be provided during the course.

[Grading criteria]

Third year students: Research Papers (including Mid-Term and Final Presentations) (50%), Newspaper Content Analysis (25%), Role Play (25%).

Fourth year students: Role Play (10%), Dissertations (including Mid-Term and Final Presentations (90%).

[Changes following student comments]

Handouts to be provided in a timely manner.

[Equipment student needs to prepare]

Course materials will be delivered via the Hoppii.

[Prerequisite]

Students wishing to take this seminar are required to have completed either "Introduction to International Relations " or "World Politics."

TRS400ZA

Seminar: Tourism Management I

John Melvin

Credit(s) : 4 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 3~4

Day/Period : 火 4/Tue.4

その他属性 : 〈優〉〈実〉

[Outline and objectives]

While governments are quick to laud the economic benefits that tourists can bring, there are growing concerns about the impact of relentless growth of global tourism on the environment as well as the socio-cultural wellbeing of host communities. Driven largely by deregulation, globalisation and technological developments, the overarching focus on growth that has driven post-WW2 development is being increasingly challenged and questioned. From 2021, the gradual post-coronavirus recovery offers a rare chance for the tourism industry to consider revising hitherto unsustainable business practices.

Adopting a lens of sustainability, this semester considers the management and marketing of tourism. Combining analysis of seminal research with illustrative and up-to-date case studies from a range of domestic and international destinations, students will gain insights into the factors driving tourism development. Students will also be introduced to different research methods, and will acquire the tools to critically investigate tourism in a context of their choice. This will form the basis of an extended research paper that will be completed during the second year of the seminar.

[Goal]

The goal of this seminar is to provide students with academic and practical knowledge relating to management and marketing that can facilitate their progression into the world of work. This will include multiple aspects of tourism management including stakeholder management, tourism impacts, overtourism and niche tourism development.

Upon completion of this course, students will have acquired enhanced research and analytical skills. They will develop their ability to design, organise and manage an original tourism-related research project. Additionally, through in-class discussions and presentations, students will gain valuable experience in persuasively expressing and defending their opinions on a range of issues relating to business management and marketing.

[Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?]

Will be able to gain "DP 1", "DP 2", "DP 3", and "DP 4".

[Method(s)]

The seminar consists of in-depth analysis of various issues related to sustainable tourism management. In the spring semester, students are introduced to some core texts and research and are encouraged to start to consider which areas they intend to focus on. In the fall semester, students will begin to refine their topic and develop a firm research proposal.

In the second year of the seminar, students will research and write their extended research paper.

While some seminars will be instructor-led, students will play an increasing role in giving presentations & leading discussions on the Core Readings. As students' own research develops, they will give presentations on their research, and share their growing expertise with the other students.

Assignments will be submitted via Hoppii; insightful answers will be shared in class to facilitate discussion.

[Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)]

あり / Yes

[Fieldwork in class]

あり / Yes

[Schedule] 授業形態 : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction	Introduction
2	Seminar Reading 1	Considering first case study: tourism management
3	Seminar Reading 2	Considering second case study: destination management and marketing
4	Seminar Reading 3	Considering third case study: tourism impacts
5	Research Methods	Introduction to research methods in business
6	Seminar Reading 4	Considering fourth case study: the tourist experience
7	Seminar Reading 5	Considering fifth case study: destination management

8	Research Project	Discussion on students' topics and research questions
9	Seminar Reading 6	Considering sixth case study: destination management
10	Seminar Reading 7	Considering seventh case study: niche tourism and differentiation
11	Research Workshop and Consultation	Individual consultations on students' research projects
12	Presentations on Student Research Proposal 1	Presentations and discussions on students' own research
13	Presentations on Student Research Proposal 2	Presentations and discussions on students' own research
14	Final Discussion	Roundtable discussion on first-semester progress and expectations for the second semester

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]

Students must complete the assigned reading as preparation for classes. Preparatory study and review time for this class are 4 hours each.

[Textbooks]

Richards, G. (2018) *Small Cities with Big Dreams*. London: Routledge. Students may purchase the paperback version or the e-book from the publisher's website. Alternatively, the e-book version may be rented for a fixed time more cheaply. More details will be provided in class. Also weekly handouts and reading materials will be distributed in class and/or available on the course website.

[References]

Brotherton, B. (2015 2nd Edition) *Researching Hospitality and Tourism*. London: SAGE
 McCabe, S. (2014) *The Routledge Handbook of Tourism Marketing*. London: Routledge
 Pike, S. (2018) *Tourism Marketing for Small Businesses*. London: Goodfellow Publishers

[Grading criteria]

Third year students: Class Participation (30%), Assignments and Presentation (30%) and Research Proposal (40%).

Fourth year students: Class Participation (20%), Assignments and Presentation (30%) and Final Paper (50%).

[Changes following student comments]

Case studies will vary year to year depending on students' interests. Hopefully the situation in 2023 will allow us to take both a summer trip and undertake field work during the semester.

Students must submit weekly reports on the reading and self-assessing their seminar performance.

[Equipment student needs to prepare]

Students should bring a laptop or tablet PC to class.

[Others]

I can draw from my experience in organizing events and as marketing director of a tourism business in the UK to help provide students with examples and to illustrate issues.

Seminar students must concurrently enroll in Services Marketing and/or Cultural Tourism (300-level courses).

[Prerequisite]

Seminar students should have taken at least two of the following courses: Cultural Studies; Event Management; Hospitality Management in Japan; Introduction to Business; Introduction to Tourism Studies; Marketing in Japan; Marketing Management; Principles of Marketing; Tourism Development in Japan.

TRS400ZA

Seminar: Tourism Management I

John Melvin

Credit(s) : 4 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 3~4

Day/Period : 火 5/Tue.5

その他属性 : 〈優〉〈実〉

[Outline and objectives]

While governments are quick to laud the economic benefits that tourists can bring, there are growing concerns about the impact of relentless growth of global tourism on the environment as well as the socio-cultural wellbeing of host communities. Driven largely by deregulation, globalisation and technological developments, the overarching focus on growth that has driven post-WW2 development is being increasingly challenged and questioned. From 2021, the post-coronavirus recovery offers a rare chance for the tourism industry to consider revising hitherto unsustainable business practices.

Adopting a lens of sustainability, this semester considers the management and marketing of tourism. Combining analysis of seminal research with illustrative and up-to-date case studies from a range of domestic and international destinations, students will gain insights into the factors driving tourism development. Students will be introduced to different research methods, and will acquire the tools to critically investigate tourism in a context of their choice. This will form the basis of an extended research paper that will be completed during the second year of the seminar.

[Goal]

The goal of this seminar is to provide students with academic and practical knowledge relating to management and marketing that can facilitate their progression into the world of work.

Upon completion of this course, students will have acquired enhanced research and analytical skills. They will develop their ability to design, organise and manage an original tourism-related research project. Additionally, through in-class discussions and presentations, students will gain valuable experience in persuasively expressing and defending their opinions on a range of issues relating to business management and marketing.

[Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?]

Will be able to gain “DP 1”, “DP 2”, “DP 3”, and “DP 4”.

[Method(s)]

The seminar consists of in-depth analysis of various issues related to sustainable tourism management. In the spring semester, students are introduced to some core texts and research and are encouraged to start to consider which areas they intend to focus on. In the fall semester, students will begin to refine their topic and develop a firm research proposal.

In the second year of the seminar, students will research and write their extended research paper.

While some seminars will be instructor-led, students will play an increasing role in giving presentations & leading discussions on the Core Readings. As students' own research develops, they will give presentations on their research, and share their growing expertise with the other students.

Assignments will be submitted via Hoppii; insightful answers will be shared in class to facilitate discussion.

[Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)]

あり / Yes

[Fieldwork in class]

あり / Yes

[Schedule] 授業形態 : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction	Introduction
2	Seminar Reading 1	Considering first case study: tourism management
3	Seminar Reading 2	Considering second case study: destination management and marketing
4	Seminar Reading 3	Considering third case study: tourism marketing
5	Research Methods	Introduction to research methods in business
6	Seminar Reading 4	Considering fourth case study: the tourist experience
7	Seminar Reading 5	Considering fifth case study: destination management
8	Research Project	Discussion on students' topics and research questions

9	Seminar Reading 6	Considering sixth case study: destination management
10	Seminar Reading 7	Considering seventh case study: differentiation
11	Research Workshop and Consultation	Individual consultations on students' research projects
12	Presentations on Student Research Proposal 1	Presentations and discussions on students' own research
13	Presentations on Student Research Proposal 2	Presentations and discussions on students' own research
14	Final Discussion	Roundtable discussion on first-semester progress and expectations for the second semester

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]

Students must complete the assigned reading as preparation for classes. Preparatory study and review time for this class are 4 hours each.

[Textbooks]

Richards, G. (2018) *Small Cities with Big Dreams*. London: Routledge. Students may purchase the paperback version or the e-book from the publisher's website. Alternatively, the e-book version may be rented for a fixed time more cheaply. More details will be provided in class.

Also weekly handouts and reading materials will be distributed in class and/or available on the course website.

[References]

Brotherton, B. (2015 2nd Edition) *Researching Hospitality and Tourism*. London: SAGE

McCabe, S. (2014) *The Routledge Handbook of Tourism Marketing*. London: Routledge

Pike, S. (2018) *Tourism Marketing for Small Businesses*. London: Goodfellow Publishers

[Grading criteria]

Third year students: Class Participation (30%), Assignments and Presentation (30%) and Research Proposal (40%).

Fourth year students: Class Participation (20%), Assignments and Presentation (30%) and Final Paper (50%).

[Changes following student comments]

Case studies will vary year to year depending on students' interests. While our 2021 summer trip was cancelled, hopefully the situation in 2022 will improve and we will be able to take both a trip and undertake field work.

Students must submit weekly reports on the reading and self-assessing their seminar performance.

[Equipment student needs to prepare]

Students should bring a laptop or tablet PC to class.

[Others]

I can draw from my experience in organizing events and as marketing director of a tourism business in the UK to help provide students with examples and to illustrate issues.

[Prerequisite]

Seminar students should have taken some of the following Business & Economy courses: Introduction to Tourism Studies; Introduction to Business; Principles of Marketing; Marketing in Japan; Tourism Development in Japan; Event Management; Marketing Management. Seminar students must concurrently enroll in Services Marketing and/or Cultural Tourism (300-level courses).

TRS400ZA

Seminar: Tourism Management II

John Melvin

Credit(s) : 4 | Semester : 秋学期授業/Fall | Year : 3~4
Day/Period : 月 4/Mon.4

その他属性 : 〈優〉〈実〉

[Outline and objectives]

This seminar continues from the Tourism Management I seminar, though with a greater focus on students' independent research projects. In addition to a field trip, students are expected to conduct investigative research that will form the basis of an extended research paper to be completed during the second year of the seminar.

Building on knowledge acquired in the Spring semester on the management and marketing of tourism, the class content will continue to blend analysis of seminal research with illustrative and up-to-date case studies from a range of domestic and international destinations on tourism management. These will vary from year to year based on students' research interests and current affairs.

[Goal]

The goal of this seminar is to provide students with academic and practical knowledge relating to management and marketing that can facilitate their progression into the world of work.

Upon completion of this course, students will have acquired enhanced research and analytical skills. They will develop their ability to design, organise and manage an original tourism-related research project. Additionally, through in-class discussions and presentations, students will gain valuable experience in persuasively expressing and defending their opinions on a range of issues relating to business management and marketing.

[Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?]

Will be able to gain "DP 1", "DP 2", "DP 3", and "DP 4".

[Method(s)]

Following on from the Spring semester, the seminar will continue to feature in-depth analysis of various issues related to sustainable tourism management in the form of discussion, presentation and writing. In the Fall semester, junior students will begin to refine their topic and develop a firm research proposal.

In the second year of the seminar, senior students will research and write their extended research paper.

In order to get the most from each seminar, students must commit to undertake the reading assignments. Students will play an increasing role in leading discussions.

Assignments will be submitted via Hoppii; insightful answers will be shared in class to facilitate discussion.

[Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)]

あり / Yes

[Fieldwork in class]

あり / Yes

[Schedule] 授業形態 : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction	Introduction
2	Research Topic Presentation	Based on the research conducted in the Spring semester and over the summer break, students will present their research proposals (3rd year students) or research plans (4th year students) for this semester
3	Seminar Reading and Research Themes	Discussion on the focus of this semester's reading
4	Seminar Reading 1	Considering first case study: tourism management
5	Field Study Preparation	Preparation for the field study based on students' interests
6	Field Study (off-campus)	Conducting the field study at a tourism-related site
7	Field Study Feedback	Considering the field study findings
8	Research Workshop and Consultation	Individual consultations on students' research projects
9	Seminar Reading 2	Considering second case study: tourism management
10	Seminar Reading 3	Considering third case study: tourism management
11	Seminar Reading 4	Considering fourth case study: tourism management
12	Seminar Reading 5	Considering fifth case study: tourism management

13	Discussions on Students' Research Projects	Discussions on students' individual research projects
14	Presentations on Students' Research Projects 2 & Final Discussion	Presentations on students' individual research projects and expectations for the junior students' second year

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]
Students must complete the assigned reading as preparation for classes. Preparatory study and review time for this class are 4 hours each.

[Textbooks]

Richards, G. (2018) *Small Cities with Big Dreams*. London: Routledge. Students may purchase the paperback version or the e-book from the publisher's website. Alternatively, the e-book version may be rented for a fixed time more cheaply. More details will be provided in class. Also weekly handouts and reading materials will be distributed in class and/or available on the course website.

[References]

Brotherton, B. (2015 2nd Edition) *Researching Hospitality and Tourism*. London: SAGE
McCabe, S. (2014) *The Routledge Handbook of Tourism Marketing*. London: Routledge
Pike, S. (2018) *Tourism Marketing for Small Businesses*. London: Goodfellow Publishers

[Grading criteria]

Third year students: Class Participation (30%), Assignments and Presentation (30%) and Research Proposal (40%).

Fourth year students: Class Participation (20%), Assignments and Presentation (30%) and Final Paper (50%).

Students are expected to complete all the assigned reading and homework to get the most benefit from the seminar.

[Changes following student comments]

Case studies will vary year to year depending on students' interests. Hopefully the situation in 2023 will allow us to take both a summer trip and undertake field work during the semester.

Students must submit weekly reports on the reading and self-assessing their seminar performance.

[Equipment student needs to prepare]

Students should bring a laptop or tablet PC to class.

[Others]

I can draw from my experience in organizing events and as marketing director of a tourism business in the UK to help provide students with examples and to illustrate issues.

[Prerequisite]

Seminar students should have passed Seminar: Tourism Management I.

TRS400ZA

Seminar: Tourism Management II

John Melvin

Credit(s) : 4 | Semester : 秋学期授業/Fall | Year : 3~4
Day/Period : 月 5/Mon.5

その他属性 : 〈優〉〈実〉

【Outline and objectives】

This seminar continues from the Tourism Management I seminar, though with a greater focus on students' independent research projects. In addition to a field trip, students are expected to conduct investigative research that will form the basis of an extended research paper to be completed during the second year of the seminar.

Building on knowledge acquired in the Spring semester on the management and marketing of tourism, the class content will continue to blend analysis of seminal research with illustrative and up-to-date case studies from a range of domestic and international destinations on tourism management. These will vary from year to year based on students' research interests.

【Goal】

The goal of this seminar is to provide students with academic and practical knowledge relating to management and marketing that can facilitate their progression into the world of work.

Upon completion of this course, students will have acquired enhanced research and analytical skills. They will develop their ability to design, organise and manage an original tourism-related research project. Additionally, through in-class discussions and presentations, students will gain valuable experience in persuasively expressing and defending their opinions on a range of issues relating to business management and marketing.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain "DP 1", "DP 2", "DP 3", and "DP 4".

【Method(s)】

Following on from the Spring semester, the seminar will continue to feature in-depth analysis of various issues related to sustainable tourism management in the form of discussion, presentation and writing. In the Fall semester, students will begin to refine their topic and develop a firm research proposal.

In the second year of the seminar, students will research and write their extended research paper.

In order to get the most from each seminar, students must commit to undertake the reading assignments. Students will play an increasing role in leading discussions.

Assignments will be submitted via Hoppii; insightful answers will be shared in class to facilitate discussion.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり / Yes

【Fieldwork in class】

あり / Yes

【Schedule】 授業形態 : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction	Introduction
2	Research Topic Presentation	Based on the research conducted in the Spring semester and over the summer break, students will present their research proposals (3rd year students) or research plans (4th year students) for this semester
3	Seminar Reading and Research Themes	Discussion on the focus of this semester's reading
4	Seminar Reading 1	Considering first case study: tourism management
5	Field Study Preparation	Preparation for the field study based on students' interests
6	Field Study (off-campus)	Conducting the field study at a tourism-related site
7	Field Study Feedback	Considering the field study findings
8	Research Workshop and Consultation	Individual consultations on students' research projects
9	Seminar Reading 2	Considering second case study: tourism management
10	Seminar Reading 3	Considering third case study: tourism management
11	Seminar Reading 4	Considering fourth case study: tourism management
12	Seminar Reading 5	Considering fifth case study: tourism management

13	Presentations on Students' Research Projects 1	Presentations and discussions on students' individual research projects
14	Presentations on Students' Research Projects 2 & Final Discussion	Presentations and discussions on students' individual research projects and expectations for the junior students' second year

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】
Students must complete the assigned reading as preparation for classes. Preparatory study and review time for this class are 4 hours each.

【Textbooks】

Richards, G. (2018) *Small Cities with Big Dreams*. London: Routledge. Students may purchase the paperback version or the e-book from the publisher's website. Alternatively, the e-book version may be rented for a fixed time more cheaply. More details will be provided in class. Also weekly handouts and reading materials will be distributed in class and/or available on the course website.

【References】

Brotherton, B. (2015 2nd Edition) *Researching Hospitality and Tourism*. London: SAGE
McCabe, S. (2014) *The Routledge Handbook of Tourism Marketing*. London: Routledge
Pike, S. (2018) *Tourism Marketing for Small Businesses*. London: Goodfellow Publishers

【Grading criteria】

Third year students: Class Participation (30%), Assignments and Presentation (30%) and Research Proposal (40%).

Fourth year students: Class Participation (20%), Assignments and Presentation (30%) and Final Paper (50%).

Students are expected to complete all the assigned reading and homework to get the most benefit from the seminar.

【Changes following student comments】

Case studies will vary year to year depending on students' interests. While our 2021 summer trip was cancelled, hopefully the situation in 2022 will improve and we will be able to go on a trip and undertake field work.

Students must submit weekly reports on the reading and self-assessing their seminar performance.

【Equipment student needs to prepare】

Students should bring a laptop or tablet PC to class.

【Others】

I can draw from my experience in organizing events and as marketing director of a tourism business in the UK to help provide students with examples and to illustrate issues.

【Prerequisite】

Seminar students should have passed Seminar: Tourism Management I.

MAN400ZA

Seminar: Entrepreneurship & Innovation I

Shiaw Jia Eyo

Credit(s) : 4 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 3~4

Day/Period : 金 1/Fri.1

その他属性 : 〈優〉

【Outline and objectives】

In this seminar, students will learn theories, concepts and issues related to entrepreneurship and innovation.

【Goal】

The goal of this seminar is to provide students with fundamental theories, and contemporary practices of entrepreneurship and innovation. Students will learn the importance of entrepreneurship and innovation to a country's economic growth. In addition, through case studies, students will learn how firms use innovation to create new products, new markets, new organizations, new business model and new industries.

Spring Innovation Themes: Innovation Theories and Concepts, Open Innovation and Disruptive Innovation.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain "DP 1", "DP 2", "DP 3", and "DP 4".

【Method(s)】

This course is taught primarily through presentations and discussions. Feedback is given during class time, using tools such as HOPPII and email. Students give presentations on selected readings as well as on their own research.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり / Yes

【Fieldwork in class】

なし / No

【Schedule】 授業形態 : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction	Introduction
2	Innovation Theories, Dimensions and Innovation Models (1)	Schumpeter on innovation and entrepreneurship
3	Innovation Theories, Dimensions and Innovation Models (2)	History's best examples of business Transformation
4	Innovation Theories, Dimensions and Innovation Models (3)	Introduction to innovation management
5	Managing Innovation - Market Adoption and Technology Diffusion (1)	The dilemma of innovation management
6	Managing Innovation - Market Adoption and Technology Diffusion (2)	Organization structure and innovation
7	Managing Organizational Knowledge	Technology trajectories
8	Open Innovation and Technology Transfer	Open innovation
9	Open Innovation and Technology Transfer (2)	Technology transfer
10	Disruptive innovation (1)	What is disruptive innovation?
11	Disruptive innovation (2)	Disruptive innovation in various industries
12	Case studies (1)	Presentation and discussion
13	Case studies (2)	Presentation and discussion
14	Case studies (3)	Presentation and discussion

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

Every week, there is work to do: reading and preparation for discussion/presentation. Students are required to read the assigned readings and case studies adequately to be able to engage in active discussion in class. Preparatory study and review time for this class are 4 hours each.

【Textbooks】

No textbook will be used

【References】

Bessant, John and Tidd, Joe. *Innovation and Entrepreneurship*, 3rd edition. Wiley, 2015

Christensen, Clayton. *The Innovation Dilemma*, Harvard Business Review, 2013

Chesbrough, Henry. *Open Innovation: The New Imperative for Creating And Profiting from Technology*, Harvard Business Review, 2006

Grant, Robert. *Contemporary strategy analysis: text and cases*, 9th edition, Wiley, 2016

Other case studies from Harvard Business Publishing and journal articles.

【Grading criteria】

Students will be evaluated based on class participation (20%), case study presentations and discussions (50%) and a final paper (30%).

【Changes following student comments】

Not applicable

【Others】

Students who passed the interview process for the seminar.

【Prerequisite】

None

MAN400ZA

Seminar: Entrepreneurship & Innovation I

Shiaw Jia Eyo

Credit(s) : 4 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 3~4

Day/Period : 金 2/Fri.2

その他属性 : 〈優〉

[Outline and objectives]

In this seminar, students will learn theories, concepts and issues related to entrepreneurship and innovation.

[Goal]

The goal of this seminar is to provide students with fundamental theories, and contemporary practices of entrepreneurship and innovation. Students will learn the importance of entrepreneurship and innovation to a country's economic growth. In addition, through case studies, students will learn how firms use innovation to create new products, new markets, new organizations, new business model and new industries.

Spring Innovation Themes: Innovation Theories, Entrepreneurs and New Ventures, and Business Plan

[Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?]

Will be able to gain "DP 1", "DP 2", "DP 3", and "DP 4".

[Method(s)]

This course is taught primarily through presentations and discussions. Feedback is given during class time, using tools such as HOPPII and email. Students give presentations on selected readings as well as on their own research.

[Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)]

あり / Yes

[Fieldwork in class]

なし / No

[Schedule] 授業形態 : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction	Introduction
2	Innovation Theories, Dimensions and Innovation Models (1)	Schumpeter on innovation and entrepreneurship
3	Innovation Theories, Dimensions and Innovation Models (2)	Innovation and entrepreneurship in Japan
4	Managing Innovation - Market Adoption and Technology Diffusion (1)	Patterns of industry innovation Innovation diffusion theories
5	Managing Innovation - Market Adoption and Technology Diffusion (2)	Case studies
6	Entrepreneurs and New Ventures (1)	How to be an entrepreneur
7	Entrepreneurs and New Ventures (2)	Case studies
8	Entrepreneurs and New Ventures (3)	Launching your own venture
9	Business Ideas, Business Model and Business Plan (1)	Platforms for business plan
10	Business Ideas, Business Model and Business Plan (2)	Incubators
11	Business Ideas, Business Model and Business Plan (3)	Accelerators
12	Presentation of Business Plan (1)	Final presentation and discussion
13	Presentation of Business Plan (2)	Final presentation and discussion
14	Presentation of Business Plan (3)	Final presentation and discussion

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]

Every week, there is work to do: reading and preparation for discussion/presentation. Students are required to read the assigned readings and case studies adequately to be able to engage in active discussion in class. Preparatory study and review time for this class are 4 hours each.

[Textbooks]

No textbook will be used

[References]

Bessant, John and Tidd, Joe. *Innovation and Entrepreneurship*, 3rd edition. Wiley, 2015
 Christensen, Clayton. *The Innovation Dilemma*, Harvard Business Review, 2013
 Chesbrough, Henry. *Open Innovation: The New Imperative for Creating And Profiting from Technology*, Harvard Business Review, 2006
 Grant, Robert. *Contemporary strategy analysis: text and cases*, 9th edition, Wiley, 2016
 Other case studies from Harvard Business Publishing and journal articles.

[Grading criteria]

Students will be evaluated based on class participation (20%), case study presentations and discussions (50%) and a final paper (30%).

[Changes following student comments]

Not applicable

[Prerequisite]

Students who passed the interview process for the seminar.

MAN400ZA

Seminar: Entrepreneurship & Innovation II

May May Ho

Credit(s) : 4 | Semester : 秋学期授業/Fall | Year : 3~4
Day/Period : 水 4/Wed.4

その他属性 : 〈優〉

【Outline and objectives】

In this seminar, students will learn theories, concepts and issues related to entrepreneurship and innovation.

【Goal】

This is a continuation of the seminar from the Spring semester. We will continue to learn concepts and theories related to entrepreneurship and innovation but more emphasis will be placed on case studies. Students will refine their skills in discussion and presentation. Students will also conduct their own research related to a theme in this seminar.

Fall Innovation Theme: Business Model, Financing for Start-ups, Industry Analysis and Social Entrepreneurship,

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain “DP 1”, “DP 2”, “DP 3”, and “DP 4”.

【Method(s)】

Students will further examine the theories, concepts and issues related to entrepreneurship and innovation through case studies. Students will read and discuss papers and research conducted in this area. In the process, they will acquire tools and perspectives to formulate a research question and to apply what they have learnt to their own research. Feedback is given during class time, using tools such as HOPPII and email.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり / Yes

【Fieldwork in class】

なし / No

【Schedule】 授業形態 : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction	Introduction
2	Strategy Analysis	Industry analysis
3	Strategy Analysis (2)	Resources and capabilities
4	Strategy Analysis (3)	Case studies
5	Strategy Analysis (4)	Competitive advantage
6	Strategy Analysis (4)	External growth strategies
7	Strategy Analysis (4)	Case studies
8	Industry Analysis	Due diligence and auditing
9	Competitive Advantage	Business models and Charitable foundations
10	Competitive Advantage (2)	Corporate Social Responsibility
11	Final Presentation (1)	Book review and presentation
12	Final Presentation (2)	Industry analysis and presentation
13	Final Presentation (3)	Industry analysis and presentation
14	Recap	Open discussion

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

Every week, there is work to do: reading and preparation for discussion/presentation. Students are required to read the assigned readings adequately to be able to engage in active discussion in class. Preparatory study and review time for this class are 4 hours each.

【Textbooks】

No particular textbook.

【References】

Bessant, John and Tidd, Joe. *Innovation and Entrepreneurship*, 3rd edition. Wiley, 2015

Grant, Robert. *Contemporary strategy analysis: text and cases*, 9th edition, Wiley, 2016

Other case studies from Harvard Business Publishing and journal articles.

【Grading criteria】

Students will be evaluated based on class participation (20%), case study presentations and discussions (50%) and a term paper (30%).

【Changes following student comments】

Not applicable.

【Prerequisite】

Passed Seminar: Entrepreneurship and Innovation I

MAN400ZA

Seminar: Entrepreneurship & Innovation II

May May Ho

Credit(s) : 4 | Semester : 秋学期授業/Fall | Year : 3~4
Day/Period : 水 5/Wed.5

その他属性 : 〈優〉

[Prerequisite]
Passed Seminar: Entrepreneurship and Innovation I

[Outline and objectives]

In this seminar, students will learn theories, concepts and issues related to entrepreneurship and innovation.

[Goal]

This is a continuation of the seminar from the Spring semester. We will continue to learn concepts and theories related to entrepreneurship and innovation but more emphasis will be placed on case studies. Students will refine their skills in discussion and presentation. Students will also conduct their own research related to a theme in this seminar.

Fall Innovation Theme: Business Model, Financing for Start-ups, Industry Analysis and Social Entrepreneurship,

[Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?]

Will be able to gain “DP 1”, “DP 2”, “DP 3”, and “DP 4”.

[Method(s)]

Students will further examine the theories, concepts and issues related to entrepreneurship and innovation through case studies. Students will read and discuss papers and research conducted in this area. In the process, they will acquire tools and perspectives to formulate a research question and to apply what they have learnt to their own research. Feedback is given during class time, using tools such as HOPPII and email.

[Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)]

あり / Yes

[Fieldwork in class]

なし / No

[Schedule] 授業形態 : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction	Introduction
2	Business Model	Business model analysis for the entrepreneurs
3	Business Model Canvas	Case studies
4	Financing for Start-Ups (1)	Financing instruments for start-ups
5	Financing for Start-Ups (2)	Venture capital deal sourcing and screening
6	Financing for Start-Ups (3)	China's venture capital and tech startup landscape
7	Financing for Start-Ups (4)	Valuation for venture capital
8	Industry Analysis	Porter's Five Forces
9	Competitive Advantage	The sources and dimensions of competitive Advantage
10	Social Entrepreneurship (1)	Social innovation and social entrepreneurship
11	Social Entrepreneurship (2)	Case studies
12	Social Entrepreneurship (3)	Case studies
13	Final Presentation (1)	Presentations and discussion
14	Final Presentation (2)	Presentations and discussion

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]

Every week, there is work to do: reading and preparation for discussion/presentation. Students are required to read the assigned readings adequately to be able to engage in active discussion in class. Preparatory study and review time for this class are 4 hours each.

[Textbooks]

No particular textbook.

[References]

Bessant, John and Tidd, Joe. *Innovation and Entrepreneurship*, 3rd edition. Wiley, 2015

Grant, Robert. *Contemporary strategy analysis: text and cases*, 9th edition, Wiley. 2016

Other case studies from Harvard Business Publishing and journal articles.

[Grading criteria]

Students will be evaluated based on class participation (20%), case study presentations and discussions (50%) and a term paper (30%).

[Changes following student comments]

Not applicable.

MAN400ZA

Seminar: Global Strategic Management I

Takamasa Fukuoka

Credit(s) : 4 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 3~4

Day/Period : 金 3/Fri.3

その他属性 : 〈優〉〈実〉

【Outline and objectives】

This seminar is designed for students who are interested in international business. As described in the seminar title, students will mainly learn Global Strategic Management. Global Strategic Management includes many different academic aspects. In this seminar, we would like to focus on “Global Marketing Strategy”, including the following fields: Intercultural Communication, Negotiation, Brand Management, Advertisement, PR, Decision Making, and Organization.

【Goal】

By the end of the seminar, students will: (a) gain academic knowledge of international / global business (b) learn “practical wisdom” by pursuing the reality (c) learn the ability to see the entire picture and a wide variety of perspectives with strategic thinking (d) learn logical / critical thinking and effective presentation skills (e) develop and enhance strategic business planning skills.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】
Will be able to gain “DP 1”, “DP 2”, “DP 3”, and “DP 4”.

【Method(s)】

To achieve the goal, this seminar is mainly conducted through: (a) learning theoretical studies and case studies, (b) visiting companies and local areas, (c) doing joint research and collaboration with companies and local governments (product development, focus group, etc.), (d) conducting on-site survey (questionnaire, interview, etc.), (e) approaching from manager’s perspective, (f) making presentations and discussion based on “facts and data” and “experience”, (g) participating in business contests.

In addition, we sometimes use case methods being currently used by the MBA program in western countries. Feedback can be given verbally, non-verbally or in written form.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり / Yes

【Fieldwork in class】

あり / Yes

【Schedule】 授業形態 : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Overview	Overview
2	Research Method	Understanding of the Qualitative and Quantitative approach with various samples
3	Analysis of Management Strategy (1)	Understanding of the analysis methods for management strategy
4	Analysis of Management Strategy (2)	Understanding of the analysis methods for management strategy
5	Case Study (1)	Discussion on the case study from the strategic view point
6	Case Study (2)	Discussion on the case study from the strategic view point
7	Case Study (3)	Discussion on the case study from the strategic view point
8	Library Tour	Learning of how to use the library database
9	Prior Research (1)	Presentation and discussion on the prior research
10	Prior Research (2)	Presentation and discussion on the prior research
11	Prior Research (3)	Presentation and discussion on the prior research
12	Presentation for Research Proposal (1)	Presentations and discussion on the individual research proposal
13	Presentation for Research Proposal (2)	Presentations and discussion on the individual research proposal
14	Wrap-up	Wrap-up

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

- ・Students are expected to engage in sub-seminar to deepen understanding of the management strategy, analysis methods, business model, etc.
- ・Students need to make good preparations for individual / group study.
- ・Students are encouraged to join the summer training camp.
- ・Preparatory study and review time for this class are 4 hours each.

【Textbooks】

No textbook will be used in this class. Handouts (journal articles) will be provided by the instructor.

【References】

Harvard business school case studies (details will be provided by the instructor)

【Grading criteria】

Participation (presentation / discussion etc.) (40%)

Assignment (20%)

Individual Report (3rd year students) (40%)

Final Report (4th year student) (40%)

【Changes following student comments】

N/A

【Others】

This course is conducted based on academic knowledge and the lecturer’s global business experience.

【Prerequisite】

None.

MAN400ZA

Seminar: Global Strategic Management I

Takamasa Fukuoka

Credit(s) : 4 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 3~4

Day/Period : 金 4/Fri.4

その他属性 : 〈優〉〈実〉

[Outline and objectives]

This seminar is designed for students who are interested in international business. As described in the seminar title, students will mainly learn Global Strategic Management. Global Strategic Management includes many different academic aspects. In this seminar, we would like to focus on “Global Marketing Strategy”, including the following fields: Intercultural Communication, Negotiation, Brand Management, Advertisement, PR, Decision Making, and Organization.

[Goal]

By the end of the seminar, students will: (a) gain academic knowledge of international / global business (b) learn “practical wisdom” by pursuing the reality (c) learn the ability to see the entire picture and a wide variety of perspectives with strategic thinking (d) learn logical / critical thinking and effective presentation skills (e) develop and enhance strategic business planning skills.

[Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?]

Will be able to gain “DP 1”, “DP 2”, “DP 3”, and “DP 4”.

[Method(s)]

To achieve the goal, this seminar is mainly conducted through: (a) learning theoretical studies and case studies, (b) visiting companies and local areas, (c) doing joint research and collaboration with companies and local governments (product development, focus group, etc.), (d) conducting on-site survey (questionnaire, interview, etc.), (e) approaching from manager’s perspective, (f) making presentations and discussion based on “facts and data” and “experience”, (g) participating in business contests.

In addition, we sometimes use case methods being currently used by the MBA program in western countries. Feedback can be given verbally, non-verbally or in written form.

[Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)]

あり / Yes

[Fieldwork in class]

あり / Yes

[Schedule] 授業形態 : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Overview	Overview
2	Research Method	Understanding of the Qualitative and Quantitative approach with various samples
3	Analysis of Management Strategy (1)	Understanding of the analysis methods for management strategy
4	Analysis of Management Strategy (2)	Understanding of the analysis methods for management strategy
5	Case Study (1)	Discussion on the case study from the strategic view point
6	Case Study (2)	Discussion on the case study from the strategic view point
7	Case Study (3)	Discussion on the case study from the strategic view point
8	Library Tour	Learning of how to use the library database
9	Prior Research (1)	Presentation and discussion on the prior research
10	Prior Research (2)	Presentation and discussion on the prior research
11	Prior Research (3)	Presentation and discussion on the prior research
12	Presentation for Research Proposal (1)	Presentations and discussion on the individual research proposal
13	Presentation for Research Proposal (2)	Presentations and discussion on the individual research proposal
14	Wrap-up	Wrap-up

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]

- ・Students are expected to engage in sub-seminar to deepen understanding of the management strategy, analysis methods, business model, etc.
- ・Students need to make good preparations for individual / group study.
- ・Students are encouraged to join the summer training camp.
- ・Preparatory study and review time for this class are 4 hours each.

[Textbooks]

No textbook will be used in this class. Handouts (journal articles) will be provided by the instructor.

[References]

Harvard business school case studies (details will be provided by the instructor)

[Grading criteria]

Participation (presentation / discussion etc.) (40%)

Assignment (20%)

Individual Report (3rd year students) (40%)

Final Report (4th year student) (40%)

[Changes following student comments]

N/A

[Others]

This course is conducted based on academic knowledge and the lecturer’s global business experience.

[Prerequisite]

None.

MAN400ZA

Seminar: Global Strategic Management II

Takamasa Fukuoka

Credit(s) : 4 | Semester : 秋学期授業/Fall | Year : 3~4
Day/Period : 金 3/Fri.3

その他属性 : 〈優〉

【Outline and objectives】

Following Global Strategic Management I, Global Strategic Management II is designed for more group discussion and puts emphasis on planning and conducting independent research based on what students learn in the spring semester. Students are expected to participate in a business contest in this course, work with companies / local governments, and conduct a field study.

This seminar is designed for students who are interested in international business. As described in the seminar title, students will mainly learn Global Strategic Management. Global Strategic Management includes many different academic aspects. In this seminar, we would like to focus on Global Marketing Strategy, Cross-Culture Management, Intercultural Communication, Brand Management, Global Advertisement, Decision Making, and CSR Strategy.

【Goal】

By the end of the seminar, students will gain (1)academic knowledge about international / global business, (2) practical wisdom by pursuing the reality in business activities, (3) the ability to see the entire picture and a wide variety of perspectives with strategic thinking,(4) logical / critical thinking ability and effective presentation skills, (5) the ability to develop and enhance strategic business planning skills.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain “DP 1”, “DP 2”, “DP 3”, and “DP 4”.

【Method(s)】

To achieve the goal, this seminar is mainly conducted through (1) learning theoretical studies and case studies, (2) visiting companies and local areas, (3) doing joint research and collaboration with companies and local governments (product development, focus group, etc.), (4) conducting on-site survey (questionnaire, interview, etc.), (5) approaching from manager's perspective, (6) making presentations and discussions based on “facts and data” and “experience”, (7) participating business contests. Necessary feedback will be given for the diversified academic activities at the class meetings.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり / Yes

【Fieldwork in class】

あり / Yes

【Schedule】 授業形態 : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Orientation and Introduction	Orientation and Introduction
2	Preparation for the Field Study	Preparation for the field study based on students' interest
3	Field Study (Outside the Campus)	Conduct of field study based on students' interest
4	Presentation and Discussion	Presentation and Discussion based on the findings in the field study
5	Presentation of your field study	Findings and Management Issues for your field study
6	Preparation of Business Plan Competition (1) — Marketing Analysis	Marketing analysis (analysis of the status quo)
7	Preparation of Business Plan Competition (2) — Planning	Planning from a strategic view point
8	Preparation of Business Plan Competition (3) — Presentation and Discussion	Presentation and discussion
9	Preparation of Business Plan Competition (4) — Final Presentation and Discussion	Revised presentation and discussion
10	Case Study (1)	Discussion on the case study from the strategic viewpoint
11	Case Study (2)	Discussion on the case study from the strategic view point

12	Oral Presentation for Individual Research (1)	Presentation and discussion on the research conducted by each member of the seminar
13	Oral Presentation for Individual Research (2)	Presentation and discussion on the research conducted by each member of the seminar
14	Review for this course	Student will be asked to present for what they have learned in this course

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

- Students are expected to engage in this course to deepen their understanding about global management strategy, analysis methods, business model, etc.
- Students need to prepare for individual / group study and presentations.
- Students are encouraged to join the summer training camp.
- Preparatory study and review time for this class are 4 hours each.

【Textbooks】

No textbook will be used in this class. Handouts (journal articles) will be provided by the instructor if necessary.

【References】

Harvard business school case studies (details will be provided by the instructor)

【Grading criteria】

Participation (presentation / discussion etc.) — 40%

Assignment — 20%

Interim Report (3rd year students) — 40%

Final Report (4th year student) — 40%

【Changes following student comments】

N/A

【Prerequisite】

Global Strategic Management I

MAN400ZA

Seminar: Global Strategic Management II

Takamasa Fukuoka

Credit(s) : 4 | Semester : 秋学期授業/Fall | Year : 3~4
Day/Period : 金 4/Fri.4

その他属性 : 〈優〉

[Outline and objectives]

Following Global Strategic Management I, Global Strategic Management II is designed for more group discussion and puts emphasis on planning and conducting independent research based on what students learn in the spring semester. Students are expected to participate in a business contest in this course, work with companies / local governments, and conduct a field study.

This seminar is designed for students who are interested in international business. As described in the seminar title, students will mainly learn Global Strategic Management. Global Strategic Management includes many different academic aspects. In this seminar, we would like to focus on Global Marketing Strategy, Cross-Culture Management, Intercultural Communication, Brand Management, Global Advertisement, Decision Making, and CSR Strategy.

[Goal]

By the end of the seminar, students will gain (1)academic knowledge about international / global business, (2) practical wisdom by pursuing the reality in business activities, (3) the ability to see the entire picture and a wide variety of perspectives with strategic thinking,(4) logical / critical thinking ability and effective presentation skills, (5) the ability to develop and enhance strategic business planning skills.

[Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?]

Will be able to gain “DP 1”, “DP 2”, “DP 3”, and “DP 4”.

[Method(s)]

To achieve the goal, this seminar is mainly conducted through (1) learning theoretical studies and case studies, (2) visiting companies and local areas, (3) doing joint research and collaboration with companies and local governments (product development, focus group, etc.), (4) conducting on-site survey (questionnaire, interview, etc.), (5) approaching from manager's perspective, (6) making presentations and discussions based on “facts and data” and “experience”, (7) participating business contests. Necessary feedback will be given for the diversified academic activities at the class meetings.

[Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)]

あり / Yes

[Fieldwork in class]

あり / Yes

[Schedule] 授業形態 : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Orientation and Introduction	Orientation and Introduction
2	Preparation for the Field Study	Preparation for the field study based on students' interest
3	Field Study (Outside the Campus)	Conduct of field study based on students' interest
4	Presentation and Discussion	Presentation and Discussion based on the findings in the field study
5	Presentation of your field study	Findings and Management Issues for your field study
6	Preparation of Business Plan Competition (1) — Marketing Analysis	Marketing analysis (analysis of the status quo)
7	Preparation of Business Plan Competition (2) — Planning	Planning from a strategic view point
8	Preparation of Business Plan Competition (3) — Presentation and Discussion	Presentation and discussion
9	Preparation of Business Plan Competition (4) — Final Presentation and Discussion	Revised presentation and discussion
10	Case Study (1)	Discussion on the case study from the strategic viewpoint
11	Case Study (2)	Discussion on the case study from the strategic view point

12	Oral Presentation for Individual Research (1)	Presentation and discussion on the research conducted by each member of the seminar
13	Oral Presentation for Individual Research (2)	Presentation and discussion on the research conducted by each member of the seminar
14	Review for this course	Student will be asked to present for what they have learned in this course

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]

- Students are expected to engage in this course to deepen their understanding about global management strategy, analysis methods, business model, etc.
- Students need to prepare for individual / group study and presentations.
- Students are encouraged to join the summer training camp.
- Preparatory study and review time for this class are 4 hours each.

[Textbooks]

No textbook will be used in this class. Handouts (journal articles) will be provided by the instructor if necessary.

[References]

Harvard business school case studies (details will be provided by the instructor)

[Grading criteria]

Participation (presentation / discussion etc.) — 40%

Assignment — 20%

Interim Report (3rd year students) — 40%

Final Report (4th year student) — 40%

[Changes following student comments]

N/A

[Prerequisite]

Global Strategic Management I

LIT400ZA

Seminar: Literature in Theory and Practice I

Gregory Khejrnejat

Credit(s) : 4 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 3~4

Day/Period : 木 4/Thu.4

その他属性 : 〈優〉

Presentation: 25%

Final paper: 25%

【Changes following student comments】

Not applicable.

【Others】

Students who have previously taken literature courses in GIS – particularly Introduction to Literary Theory and/or Comparative Literature – will be given priority consideration.

【Prerequisite】

There are currently no prerequisites for this seminar.

【Outline and objectives】

This seminar is for students interested in literature, literary research, and composition. What separates a strong reading from a weak reading? How do critics and theorists evaluate and discuss a text? What tools and methods do researchers employ to deepen our understanding of a work of literature and its context? In this course, we will be exploring these questions through reading, researching, and discussing a selection of modern and contemporary pieces of short fiction.

【Goal】

Over the course of this seminar, students will:

- (1) develop advanced close reading skills
- (2) grasp the basic theory and methodology of literary research
- (3) develop the ability to discuss prose fiction in multiple technical and theoretical contexts

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain “DP 1”, “DP 2”, “DP 3”, and “DP 4”.

【Method(s)】

This seminar will be primarily based around reading short fiction and essays. Students will conduct independent research on assigned short stories, which they will then present in class. These presentations will be interspersed with lectures and guided readings by the instructor. Students will be assessed based on class participation, presentations, and written submissions. Feedback on presentations and written assignments will be provided in class.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり / Yes

【Fieldwork in class】

なし / No

【Schedule】 授業形態 : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction	Introduction
2	Research Methods	An introduction to methods and resources for literature research
3	Reading Literary Research (1)	Reading and critiquing secondary sources in literature research
4	Reading Literary Research (2)	Reading and critiquing secondary sources in literature research
5	Reading 1	Presentation and discussion related to student research
6	Reading 2	Presentation and discussion related to student research
7	Reading 3	Presentation and discussion related to student research
8	Reading 4	Presentation and discussion related to student research
9	Reading 5	Presentation and discussion related to student research
10	Reading 6	Presentation and discussion related to student research
11	Reading 7	Presentation and discussion related to student research
12	Reading 8	Presentation and discussion related to student research
13	Reading 9	Presentation and discussion related to student research
14	Synthesis	A review of the major themes and concepts of the course

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

Students are expected to perform close readings of each of the assigned texts outside of class. This seminar will also require the completion of an independent research project. Preparatory study and review time for this class are 4 hours each.

【Textbooks】

Texts will be provided through Hoppii.

【References】

Relevant references will be provided in class by the instructor.

【Grading criteria】

Class contribution: 20%

Written assignments: 30%

LIT400ZA

Seminar: Literature in Theory and Practice I

Gregory Kheyrnejat

Credit(s) : 4 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 3~4

Day/Period : 木 5/Thu.5

その他属性 : 〈優〉

Written assignments: 30%

Presentation: 25%

Final paper: 25%

[Changes following student comments]

Not applicable.

[Others]

Students who have previously taken literature courses in GIS – particularly Introduction to Literary Theory and/or Comparative Literature – will be given priority consideration.

[Prerequisite]

There are currently no prerequisites for this seminar.

[Outline and objectives]

This seminar is for students interested in literature, literary research, and composition. What separates a strong reading from a weak reading? How do critics and theorists evaluate and discuss a text? What tools and methods do researchers employ to deepen our understanding of a work of literature and its context? In this course, we will be exploring these questions through reading, researching, and discussing a selection of modern and contemporary pieces of short fiction.

[Goal]

Over the course of this seminar, students will:

- (1) develop advanced close reading skills
- (2) grasp the basic theory and methodology of literary research
- (3) develop the ability to discuss prose fiction in multiple technical and theoretical contexts

[Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?]

Will be able to gain “DP 1”, “DP 2”, “DP 3”, and “DP 4”.

[Method(s)]

This seminar will be primarily based around reading short fiction and essays. Students will conduct independent research on assigned short stories, which they will then present in class. These presentations will be interspersed with lectures and guided readings by the instructor. Students will be assessed based on class participation, presentations, and written submissions. Feedback on presentations and written assignments will be provided in class.

[Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)]

あり / Yes

[Fieldwork in class]

なし / No

[Schedule] 授業形態 : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction	Introduction
2	Research Methods	An introduction to methods and resources for literature research
3	Reading Literary Research (1)	Reading and critiquing secondary sources in literature research
4	Reading Literary Research (2)	Reading and critiquing secondary sources in literature research
5	Reading 1	Presentation and discussion related to student research
6	Reading 2	Presentation and discussion related to student research
7	Reading 3	Presentation and discussion related to student research
8	Reading 4	Presentation and discussion related to student research
9	Reading 5	Presentation and discussion related to student research
10	Reading 6	Presentation and discussion related to student research
11	Reading 7	Presentation and discussion related to student research
12	Reading 8	Presentation and discussion related to student research
13	Reading 9	Presentation and discussion related to student research
14	Synthesis	A review of the major themes and concepts of the course

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]

Students are expected to perform close readings of each of the assigned texts outside of class. This seminar will also require the completion of an independent research project. Preparatory study and review time for this class are 4 hours each.

[Textbooks]

Rubin, Jay, editor. *The Penguin Book of Japanese Short Stories*. Penguin Random House, 2018.

[References]

Relevant references will be provided in class by the instructor.

[Grading criteria]

Class contribution: 20%

LIT400ZA

Seminar: Literature in Theory and Practice II

Gregory Kheznajat

Credit(s) : 4 | Semester : 秋学期授業/Fall | Year : 3~4
Day/Period : 木 4/Thu.4

その他属性 : 〈優〉

【Outline and objectives】

This seminar is for students interested in literature, literary research, and composition. How do authors approach the composition of a text? How does a text change through the revision process? How does the act of writing transform how we read literature? In this seminar, students will put their research from the spring into practice by creating their own pieces of short fiction.

【Goal】

Over the course of this seminar, students will:

- (1) develop advanced close reading skills
- (2) practice planning, composing, revising, and workshopping prose fiction
- (3) develop the ability to discuss prose fiction in multiple technical and theoretical contexts

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain “DP 1”, “DP 2”, “DP 3”, and “DP 4”.

【Method(s)】

Students will utilize the theories and examples covered in the spring to write their own pieces of short fiction, which they will present, workshop, and revise. Students will also be responsible for providing constructive feedback to their classmates each week. These workshops will be interspersed with lectures and guided readings by the instructor. Students will be assessed based on class contributions, workshops, and written submissions. Feedback on workshops and written assignments will be provided in class.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり / Yes

【Fieldwork in class】

なし / No

【Schedule】 授業形態：対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction	Introduction
2	Theories of Writing 1	An introduction to various approaches to composing prose fiction
3	Theories of Writing 2	An introduction to various approaches to composing prose fiction
4	Practice Workshop	An introduction to the format and structure of fiction workshops
5	Workshop 1	Reading, discussing, and revising student compositions
6	Workshop 2	Reading, discussing, and revising student compositions
7	Workshop 3	Reading, discussing, and revising student compositions
8	Workshop 4	Reading, discussing, and revising student compositions
9	Workshop 5	Reading, discussing, and revising student compositions
10	Workshop 6	Reading, discussing, and revising student compositions
11	Workshop 7	Reading, discussing, and revising student compositions
12	Workshop 8	Reading, discussing, and revising student compositions
13	Workshop 9	Reading, discussing, and revising student compositions
14	Synthesis	A review of the major themes and concepts of the course

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

Students are expected to perform close readings of each of the assigned texts outside of class. This seminar will also require the completion of an independent composition assignment. Preparatory study and review time for this class are 4 hours each.

【Textbooks】

Readings will be provided in class by the instructor.

【References】

Relevant references will be provided in class by the instructor.

【Grading criteria】

Class contribution: 20%

Written assignments: 30%

Workshop draft: 25%

Final draft: 25%

【Changes following student comments】

Not applicable.

【Others】

Students who have previously taken literature courses in GIS – particularly Introduction to Literary Theory and/or Comparative Literature – will be given priority consideration.

【Prerequisite】

There are currently no prerequisites for this seminar.

LIT400ZA

Seminar: Literature in Theory and Practice II

Gregory Kheznajat

Credit(s) : 4 | Semester : 秋学期授業/Fall | Year : 3~4
Day/Period : 木 5/Thu.5

その他属性 : 〈優〉

[Outline and objectives]

This seminar is for students interested in literature, literary research, and composition. How do authors approach the composition of a text? How does a text change through the revision process? How does the act of writing transform how we read literature? In this seminar, students will put their research from the spring into practice by creating their own pieces of short fiction.

[Goal]

Over the course of this seminar, students will:

- (1) develop advanced close reading skills
- (2) practice planning, composing, revising, and workshopping prose fiction
- (3) develop the ability to discuss prose fiction in multiple technical and theoretical contexts

[Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?]

Will be able to gain “DP 1”, “DP 2”, “DP 3”, and “DP 4”.

[Method(s)]

Students will utilize the theories and examples covered in the spring to write their own pieces of short fiction, which they will present, workshop, and revise. Students will also be responsible for providing constructive feedback to their classmates each week. These workshops will be interspersed with lectures and guided readings by the instructor. Students will be assessed based on class contributions, workshops, and written submissions. Feedback on workshops and written assignments will be provided in class.

[Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)]

あり / Yes

[Fieldwork in class]

なし / No

[Schedule] 授業形態 : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction	Introduction
2	Theories of Writing 1	An introduction to various approaches to composing prose fiction
3	Theories of Writing 2	An introduction to various approaches to composing prose fiction
4	Practice Workshop	An introduction to the format and structure of fiction workshops
5	Workshop 1	Reading, discussing, and revising student compositions
6	Workshop 2	Reading, discussing, and revising student compositions
7	Workshop 3	Reading, discussing, and revising student compositions
8	Workshop 4	Reading, discussing, and revising student compositions
9	Workshop 5	Reading, discussing, and revising student compositions
10	Workshop 6	Reading, discussing, and revising student compositions
11	Workshop 7	Reading, discussing, and revising student compositions
12	Workshop 8	Reading, discussing, and revising student compositions
13	Workshop 9	Reading, discussing, and revising student compositions
14	Synthesis	A review of the major themes and concepts of the course

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]

Students are expected to perform close readings of each of the assigned texts outside of class. This seminar will also require the completion of an independent composition assignment. Preparatory study and review time for this class are 4 hours each.

[Textbooks]

Readings will be provided in class by the instructor.

[References]

Relevant references will be provided in class by the instructor.

[Grading criteria]

Class contribution: 20%
Written assignments: 30%
Workshop draft: 25%
Final draft: 25%

[Changes following student comments]

Not applicable.

[Others]

Students who have previously taken literature courses in GIS – particularly Introduction to Literary Theory and/or Comparative Literature – will be given priority consideration.

[Prerequisite]

There are currently no prerequisites for this seminar.

CUA400ZA

Seminar: Media Across Borders I

Stevie Suan

Credit(s) : 4 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 3~4

Day/Period : 金 3/Fri.3

その他属性 : 〈優〉

【Outline and objectives】

It has often been noted that animation is the dominant medium of the current era. For instance, Disney is the world's largest media company, anime is a globally popular media, and we even use animated LINE stamps to communicate with each other. Considering how our lives are now so "animated" as the point of departure, this seminar will explore ways of thinking about media broadly, including anime and films, manga and music, games, lifestyle, fashion, and SNS. Learning various theoretical and methodological approaches, this seminar will explore how different media are both affected by and affect the global societies we live in.

【Goal】

Throughout the seminar, students will learn how to engage with various media by examining relevant theories and research, exploring them through group work and discussion. They will also learn how to apply and critique the approaches examined in class. To do so, there will be presentations as well as smaller projects that work with specific theories and methods that focus on certain media. The students will have the opportunity to examine first-hand what media theorists and researchers are discussing about contemporary (and past) media and how such media reflect and affect society. Across the semester, students will also develop their own research project on a specific media of their choosing, applying the theories and methods we explored in class.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain "DP 1", "DP 2", "DP 3", and "DP 4".

【Method(s)】

As a seminar, these classes will primarily be discussion and presentation-based. Each week students will be provided with an academic reading relevant to the topic, engaging with methodological and theoretical concepts in ways that connect to their research interests. Students will have group and class discussions on certain themes and prepare group presentations and activities to better engage with that week's reading. Classes will also feature visual material such as images and clips of films and animation to better address, apply, and critique the readings. Students will also receive individual feedback and consultation at different points in the semester. Assessments of their work will be based on their understanding and application of the readings through their presentations, participation in discussion, and final papers.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり / Yes

【Fieldwork in class】

なし / No

【Schedule】 授業形態 : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction	Introduction
2	Theory and Methods I	Overview of some foundational theories and methodologies as a class
3	Theory and Methods II	In depth examination of important methods and theories as a class
4	Theory and Methods III	Focusing on applying and critiquing specific theories and methods as a class
5	Reading Research I	Student presentations and discussions of a reading relevant to media studies
6	Reading Research II	Student presentations and discussions of a reading relevant to media studies
7	Reading Research III	Student presentations and discussions of a reading relevant to media studies
8	Reading Research IV	Student presentations and discussions of a reading relevant to media studies
9	Research Project Workshop I	Individual consultation on each students' research project
10	Reading Research V	Student presentations and discussions of a reading relevant to media studies

11	Reading Research VI	Student presentations and discussions of a reading relevant to media studies
12	Reading Research VII	Student presentations and discussions of a reading relevant to media studies
13	Reading Research VIII	Student presentations and discussions of a reading relevant to media studies
14	Research Project Workshop II	Presentations and discussions on students' own research

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

Each week there will be articles/chapters to read, preparations for the discussion, presentation, and/or conducting research. All students are expected to be diligent and keep up with this workload to ensure that the seminar works for the class, the other students, and their own research interests. Reading, preparation, and review time for this class are at least 8 hours.

【Textbooks】

No textbook will be required as readings will be provided by the instructor.

【References】

Hansen, Mark B. N., and W. J. T. Mitchell. *Critical Terms for Media Studies*. Chicago and London: The University of Chicago Press, 2010.

Jin, Dal Yong. *Transmedia Storytelling in East Asia: The Age of Digital Media*. New York: Routledge, 2020.

Manovich, Lev. *The Language of New Media*. Cambridge: MIT Press, 2000.

Ngai, Sianne. *Ugly Feelings*. Cambridge, Mass.; London: Harvard University Press, 2007.

Santiago Iglesias, José Andrés, and Ana Soler Baena, eds. *Anime Studies: Media-Specific Approaches to Neon Genesis Evangelion*. Stockholm: Stockholm University Press, 2021.

Silvio, Teri. *Puppets, Gods, and Brands: Theorizing the Age of Animation from Taiwan*. Honolulu: University Press of Hawaii, 2019.

Storey, John. *Cultural Theory and Popular Culture: A Reader*. New York: Routledge, 2019.

【Grading criteria】

Class participation 20%, Comment/Question sheets 20%, Group activity I 15%, Group activity II 15%, Research plan 30%

【Changes following student comments】

This is a new class, but the professor will check constantly with students to make sure the workload and content are reasonable.

【Others】

It is not required but suggested that you have taken one or more of the following courses: Introduction to Media Theory, Performance Studies, Creative Industries.

Students are expected to take both Media Across Borders I and II and to continue for two years. However, special arrangements may be made for students who study abroad.

【Prerequisite】

None.

CUA400ZA

Seminar: Media Across Borders I

Stevie Suan

Credit(s) : 4 | Semester : 春学期授業/Spring | Year : 3~4

Day/Period : 金 4/Fri.4

その他属性 : 〈優〉

【Outline and objectives】

It has often been noted that animation is the dominant medium of the current era. For instance, Disney is the world's largest media company, anime is a globally popular media, and we even use animated LINE stamps to communicate with each other. Considering how our lives are now so "animated" as the point of departure, this seminar will explore ways of thinking about media broadly, including anime and films, manga and music, games, lifestyle, fashion, and SNS. Learning various theoretical and methodological approaches, this seminar will explore how different media are both affected by and affect the global societies we live in.

【Goal】

Throughout the seminar, students will learn how to engage with various media by examining relevant theories and research, exploring them through group work and discussion. They will also learn how to apply and critique the approaches examined in class. To do so, there will be presentations as well as smaller projects that work with specific theories and methods that focus on certain media. The students will have the opportunity to examine first-hand what media theorists and researchers are discussing about contemporary (and past) media and how such media reflect and affect society. Across the semester, students will also develop their own research project on a specific media of their choosing, applying the theories and methods we explored in class.

【Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?】

Will be able to gain "DP 1", "DP 2", "DP 3", and "DP 4".

【Method(s)】

As a seminar, these classes will primarily be discussion and presentation-based. Each week students will be provided with an academic reading relevant to the topic, engaging with methodological and theoretical concepts in ways that connect to their research interests. Students will have group and class discussions on certain themes and prepare group presentations and activities to better engage with that week's reading. Classes will also feature visual material such as images and clips of films and animation to better address, apply, and critique the readings. Students will also receive individual feedback and consultation at different points in the semester. Assessments of their work will be based on their understanding and application of the readings through their presentations, participation in discussion, and final papers.

【Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)】

あり / Yes

【Fieldwork in class】

なし / No

【Schedule】 授業形態 : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction	Introduction
2	Theory and Methods I	Overview of some foundational theories and methodologies as a class
3	Theory and Methods II	In depth examination of important methods and theories as a class
4	Theory and Methods III	Focusing on applying and critiquing specific theories and methods as a class
5	Reading Research I	Student presentations and discussions of a reading relevant to media studies
6	Reading Research II	Student presentations and discussions of a reading relevant to media studies
7	Reading Research III	Student presentations and discussions of a reading relevant to media studies
8	Reading Research IV	Student presentations and discussions of a reading relevant to media studies
9	Research Project Workshop I	Individual consultation on each students' research project
10	Reading Research V	Student presentations and discussions of a reading relevant to media studies

11	Reading Research VI	Student presentations and discussions of a reading relevant to media studies
12	Reading Research VII	Student presentations and discussions of a reading relevant to media studies
13	Reading Research VIII	Student presentations and discussions of a reading relevant to media studies
14	Research Project Workshop II	Presentations and discussions on students' own research

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

Each week there will be articles/chapters to read, preparations for the discussion, presentation, and/or conducting research. All students are expected to be diligent and keep up with this workload to ensure that the seminar works for the class, the other students, and their own research interests. Reading, preparation, and review time for this class are at least 8 hours.

【Textbooks】

No textbook will be required as readings will be provided by the instructor.

【References】

Hansen, Mark B. N., and W. J. T. Mitchell. *Critical Terms for Media Studies*. Chicago and London: The University of Chicago Press, 2010.

Jin, Dal Yong. *Transmedia Storytelling in East Asia: The Age of Digital Media*. New York: Routledge, 2020.

Manovich, Lev. *The Language of New Media*. Cambridge: MIT Press, 2000.

Ngai, Sianne. *Ugly Feelings*. Cambridge, Mass.; London: Harvard University Press, 2007.

Santiago Iglesias, José Andrés, and Ana Soler Baena, eds. *Anime Studies: Media-Specific Approaches to Neon Genesis Evangelion*. Stockholm: Stockholm University Press, 2021.

Silvio, Teri. *Puppets, Gods, and Brands: Theorizing the Age of Animation from Taiwan*. Honolulu: University Press of Hawaii, 2019.

Storey, John. *Cultural Theory and Popular Culture: A Reader*. New York: Routledge, 2019.

【Grading criteria】

Class participation 20%, Comment/Question sheets 20%, Group activity I 15%, Group activity II 15%, Research plan 30%

【Changes following student comments】

This is a new class, but the professor will check constantly with students to make sure the workload and content are reasonable.

【Others】

It is not required but suggested that you have taken one or more of the following courses: Introduction to Media Theory, Performance Studies, Creative Industries.

Students are expected to take both Media Across Borders I and II and to continue for two years. However, special arrangements may be made for students who study abroad.

【Prerequisite】

None.

CUA400ZA

Seminar: Media Across Borders II

Stevie Suan

Credit(s) : 4 | Semester : 秋学期授業/Fall | Year : 3~4
Day/Period : 金 3/Fri.3

その他属性 : 〈優〉

[Outline and objectives]

This class is the second semester in the Media Across Borders seminar. As such, it will build off of what the students learned in the spring semester. This semester will continue the exploration and examination of various theories and methods pertaining to media studies, and in particular, animation as broadly conceived. There will also be more focus on students' research projects, with the students presenting their research projects in a more extended form at the end of the semester and submitting their final written versions. There will also be the opportunity to get more feedback on their topics as it develops across the semester

[Goal]

Throughout the seminar, students will learn how to engage with various media by examining relevant theories and research, exploring them through group work and discussion. They will also learn how to apply and critique the approaches examined in class. To do so, there will be presentations as well as smaller projects that work with specific theories and methods that focus on certain media. The students will have the opportunity to examine first-hand what media theorists and researchers are discussing about contemporary (and past) media and how such media reflect and affect society. Across the semester, students will also develop their own research project on a specific media of their choosing, applying the theories and methods we explored in class.

[Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?]
Will be able to gain "DP 1", "DP 2", "DP 3", and "DP 4".

[Method(s)]

As a seminar, these classes will primarily be discussion and presentation-based. Each week students will be provided with an academic reading relevant to the topic, engaging with methodological and theoretical concepts in ways that connect to their research interests. Students will have group and class discussions on certain themes and prepare group presentations and activities to better engage with that week's reading. Classes will also feature visual material such as images and clips of films and animation to better address, apply, and critique the readings. Students will also receive individual feedback and consultation at different points in the semester. Assessments of their work will be based on their understanding and application of the readings through their presentations, participation in discussion, and final papers.

[Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)]
あり / Yes

[Fieldwork in class]
なし / No

[Schedule] 授業形態 : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction	Introduction
2	Theory and Methods I	Overview of some foundational theories and methodologies as a class
3	Theory and Methods II	In depth examination of important methods and theories as a class
4	Theory and Methods III	Focusing on applying and critiquing specific theories and methods as a class
5	Reading, Applying, Critiquing Research I	Student presentations and discussions of a reading relevant to media studies
6	Reading, Applying, Critiquing Research II	Student presentations and discussions of a reading relevant to media studies
7	Reading, Applying, Critiquing Research III	Student presentations and discussions of a reading relevant to media studies
8	Research Project Workshop I	Individual consultation on each students' research project
9	Reading, Applying, Critiquing Research IV	Student presentations and discussions of a reading relevant to media studies
10	Reading, Applying, Critiquing Research V	Student presentations and discussions of a reading relevant to media studies

11	Reading, Applying, Critiquing Research VI	Student presentations and discussions of a reading relevant to media studies
12	Research Project Workshop II	Research project presentations and feedback
13	Research Project Workshop III	Research project presentations and feedback
14	Research Project Workshop IV	Research project presentations and feedback

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]

Each week there will be articles/chapters to read, preparations for the discussion, presentation, and/or conducting research. All students are expected to be diligent and keep up with this workload to ensure that the seminar works for the class, the other students in their group, and their own research interests. Reading, preparation, and review time for this class are at least 8 hours.

[Textbooks]

No textbook will be required as readings will be provided by the instructor.

[References]

Chung, Hye Jean. *Media Heterotopias: Digital Effects and Material Labor in Global Film Production*. Durham: Duke University Press, 2018.

Durham, Meenakshi Gigi, and Douglas Kellner. *Media and Cultural Studies: Keywords*. Malden: Wiley-Blackwell, 2012.

Heise, Ursula. *The Routledge Companion to the Environmental Humanities*. New York: Routledge, 2017.

Heise, Ursula K. *Sense of Place and Sense of Planet: The Environmental Imagination of the Global*. Oxford, New York: Oxford University Press, 2008.

Morton, Timothy. *All Art Is Ecological*. London: Penguin Books, 2021.

Roudometof, Victor. *Glocalization: A Critical Introduction*. New York: Routledge, 2016.

[Grading criteria]

Class participation 20%, Comment/Question sheets 20%, Group activity I 10%, Group activity II 10%, Research Presentation 10%, Research Paper 30%

[Changes following student comments]

This is a new class, but the professor will check constantly with students to make sure the workload and content are reasonable.

[Others]

It is not required but suggested that you have taken one or more of the following courses: Introduction to Media Theory, Performance Studies, Creative Industries.

Students are expected to take both Media Across Borders I and II and to continue for two years. However, special arrangements may be made for students who study abroad.

[Prerequisite]

None.

CUA400ZA

Seminar: Media Across Borders II

Stevie Suan

Credit(s) : 4 | Semester : 秋学期授業/Fall | Year : 3~4
Day/Period : 金 4/Fri.4

その他属性 : 〈優〉

[Outline and objectives]

This class is the second semester in the Media Across Borders seminar. As such, it will build off of what the students learned in the spring semester. This semester will continue the exploration and examination of various theories and methods pertaining to media studies, and in particular, animation as broadly conceived. There will also be more focus on students' research projects, with the students presenting their research projects in a more extended form at the end of the semester and submitting their final written versions. There will also be the opportunity to get more feedback on their topics as it develops across the semester

[Goal]

Throughout the seminar, students will learn how to engage with various media by examining relevant theories and research, exploring them through group work and discussion. They will also learn how to apply and critique the approaches examined in class. To do so, there will be presentations as well as smaller projects that work with specific theories and methods that focus on certain media. The students will have the opportunity to examine first-hand what media theorists and researchers are discussing about contemporary (and past) media and how such media reflect and affect society. Across the semester, students will also develop their own research project on a specific media of their choosing, applying the theories and methods we explored in class.

[Which item of the diploma policy will be obtained by taking this class?]
Will be able to gain "DP 1", "DP 2", "DP 3", and "DP 4".

[Method(s)]

As a seminar, these classes will primarily be discussion and presentation-based. Each week students will be provided with an academic reading relevant to the topic, engaging with methodological and theoretical concepts in ways that connect to their research interests. Students will have group and class discussions on certain themes and prepare group presentations and activities to better engage with that week's reading. Classes will also feature visual material such as images and clips of films and animation to better address, apply, and critique the readings. Students will also receive individual feedback and consultation at different points in the semester. Assessments of their work will be based on their understanding and application of the readings through their presentations, participation in discussion, and final papers.

[Active learning in class (Group discussion, Debate.etc.)]
あり / Yes

[Fieldwork in class]
なし / No

[Schedule] 授業形態 : 対面/face to face

No.	Theme	Contents
1	Introduction	Introduction
2	Theory and Methods I	Overview of some foundational theories and methodologies as a class
3	Theory and Methods II	In depth examination of important methods and theories as a class
4	Theory and Methods III	Focusing on applying and critiquing specific theories and methods as a class
5	Reading, Applying, Critiquing Research I	Student presentations and discussions of a reading relevant to media studies
6	Reading, Applying, Critiquing Research II	Student presentations and discussions of a reading relevant to media studies
7	Reading, Applying, Critiquing Research III	Student presentations and discussions of a reading relevant to media studies
8	Research Project Workshop I	Individual consultation on each students' research project
9	Reading, Applying, Critiquing Research IV	Student presentations and discussions of a reading relevant to media studies
10	Reading, Applying, Critiquing Research V	Student presentations and discussions of a reading relevant to media studies

11	Reading, Applying, Critiquing Research VI	Student presentations and discussions of a reading relevant to media studies
12	Research Project Workshop II	Research project presentations and feedback
13	Research Project Workshop III	Research project presentations and feedback
14	Research Project Workshop IV	Research project presentations and feedback

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]

Each week there will be articles/chapters to read, preparations for the discussion, presentation, and/or conducting research. All students are expected to be diligent and keep up with this workload to ensure that the seminar works for the class, the other students in their group, and their own research interests. Reading, preparation, and review time for this class are at least 8 hours.

[Textbooks]

No textbook will be required as readings will be provided by the instructor.

[References]

Chung, Hye Jean. *Media Heterotopias: Digital Effects and Material Labor in Global Film Production*. Durham: Duke University Press, 2018.

Durham, Meenakshi Gigi, and Douglas Kellner. *Media and Cultural Studies: Keywords*. Malden: Wiley-Blackwell, 2012.

Heise, Ursula. *The Routledge Companion to the Environmental Humanities*. New York: Routledge, 2017.

Heise, Ursula K. *Sense of Place and Sense of Planet: The Environmental Imagination of the Global*. Oxford, New York: Oxford University Press, 2008.

Morton, Timothy. *All Art Is Ecological*. London: Penguin Books, 2021.

Roudometof, Victor. *Glocalization: A Critical Introduction*. New York: Routledge, 2016.

[Grading criteria]

Class participation 20%, Comment/Question sheets 20%, Group activity I 10%, Group activity II 10%, Research Presentation 10%, Research Paper 30%

[Changes following student comments]

This is a new class, but the professor will check constantly with students to make sure the workload and content are reasonable.

[Others]

It is not required but suggested that you have taken one or more of the following courses: Introduction to Media Theory, Performance Studies, Creative Industries.

Students are expected to take both Media Across Borders I and II and to continue for two years. However, special arrangements may be made for students who study abroad.

[Prerequisite]

None.

CAR100LG

キャリアデザイン応用

大八木 智一

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位
 曜日・時限：金 2/Fri.2 | キャンパス：市ヶ谷
 備考（履修条件等）：

その他属性：〈優〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、「組織活動と働き方・生き方」に焦点を当て、これからの企業等での組織活動の諸相の理解を通じて、自分自身のキャリアデザインのあり方を考えていくことを目的とします。

この授業を通じて、残された大学生活の時間を自分自身で有効にプロデュースしていくための素養を身につけていくことも大切な作業です。そのために、各自のキャリアをデザインしていくうえで考えておくべき多様な視点を提供し、それらを考慮に入れた各人の戦略的なキャリアデザインが構築できるように支援していきたいと思えます。

【到達目標】

この授業を通じて、これから長い人生となる皆さんが、自分たちの思い描く人生にできるだけ近づけるようになるための基本的な態度と構想力を身につけることが到達目標です。特にこの授業では、働き方・働き方と企業等での組織活動との接点に焦点を当てているので、本授業の受講を通じて、皆さんが自分自身の生き方や働き方に関して少しでも具体的にイメージできるようになり、それが皆さんなりのキャリアデザインを検討していくうえで活かせるようになることをめざします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

【この授業は教室での対面授業で実施します】

基本的には教室での対面で授業を実施しますが、新型コロナウイルスの感染状況等によって一部の授業回がオンラインに変更になる可能性があります。また、毎回の授業において各授業回に関連した課題を提示するので、一定期間内において指示された課題レポートの作成に取り組み、学習支援システムを利用して提出してください。（特に指示がない場合は、基本的に翌日までに提出）

教室での授業内では参加型の授業スタイルも可能な限り取り入れます。教員や学生同士のコミュニケーション機会を重視します（グループワーク、対話、フィードバック、リアクション・ペーパー等）。また、リアクションペーパー等におけるコメントや課題に関しては、授業内で紹介するなどしてフィードバックをします。

【その他の重要事項】の項目を必ず確認してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション 仕事研究① 「公務」	本講義の目的、達成目標、授業の進め方、成績評価方法の周知、授業に臨む姿勢、カリキュラムについての概要を説明する。併せて、この講義受講の意義について解説する。 ついで、公務の仕事について学んでいく。公務員は基本的には行政機関で働く人々を指すが、ここでは、公務員の仕事内容と役割、民間企業との働き方の違いに焦点をあてて学んでいく。
2	仕事研究② 「営業」	いくら良い商品やサービスが提供できて営業活動がないと企業はお金を得られない。ここではこの「営業」の仕事について実例をもとに作成した教材視聴を通じて理解を深めていく。
3	仕事研究③ 「企画」	企画の仕事は商品やサービスの企画だけでなく、会社の経営計画の分野におよぶ幅の広い仕事である。ここではこの「企画」の仕事について実例をもとに作成した教材視聴を通じて理解を深めていく。
4	仕事研究④ 「開発」	開発の仕事は一言でいうと企業において付加価値を創出していくための活動と言える。ここではこの「開発」の仕事について実例をもとに作成した教材視聴を通じて理解を深めていく。
5	仕事研究⑤ 「コンサルティング」	コンサルティングは、企業や団体が外部の頭脳（ノウハウ、専門知識、ネットワーク）を得たいときに活躍する仕事である。ここではこの「コンサルティング」の仕事について実例をもとに作成した教材視聴を通じて理解を深めていく。
6	仕事研究⑥ 「マーケティング」	マーケティングは、商品やサービスが効率的に売れるように、市場調査をはじめ製造、販売などの幅広い企業活動のプロセスに関与する仕事である。ここではこの「マーケティング」の仕事について実例をもとに作成した教材視聴を通じて理解を深めていく。
7	仕事研究⑦ 「海外市場でのビジネス」	現代における企業活動の領域は国内にとどまらず、多くの企業が海外の市場、顧客、企業とのかかわりあいの中でビジネスを展開している。ここではこの「海外市場でのビジネス」について実例をもとに作成した教材視聴を通じて理解を深めていく。
8	働き方研究① 「チームワーク」 【オンラインを予定】	組織が一定の成果を挙げるためには個々のメンバーが集団全体の目的をよく理解して、コミュニケーションをとりながら、必要に応じてお互いの考えや行動、態度などを調整しあうことが必要となる。ここでは、チームワークの特性を分析したうえで、優れたチームワークを育む方策を学ぶ。

- 9 働き方研究②
「リーダーシップ」
【オンラインを予定】
- 10 働き方研究③
「モチベーション」
- 11 働き方研究④
「メンタルヘルス」
- 12 キャリア戦略①
「キャリア選択の考え方」
- 13 キャリア戦略②
「人生の経営戦略」
- 14 キャリア戦略③
「自己実現に近づいたための行動様式変革戦略」
- リーダーシップとは、目的に向かって、あるいは目標達成のために構成メンバーやチームに対して働きかけて、具体的な行動を促す力のことである。ここではリーダーシップとそれを支えるフォロワーシップにも言及し、それらの特性や要素について整理するとともに、それぞれの育成方法について学んでいく。
- 自己実現を目指して生きていくためには、常に自分自身が成長し続け、自分自身を改革し続けることが重要な要素となる。ここでは、自分自身が成長していくために「強みの活かし方」「モチベーションの高め方」などの観点からの自分自身の考え方や行動を問い直していく。
- 仕事や生活を通じて生じるストレスによる心身への負荷や圧迫、あるいはものごとの捉え方によるネガティブな感情の形成は、自分自身のキャリア形成にマイナスに働くことが多い。そのため、ここでは心身の負荷を軽減するためのいくつかの方法を理論とともに学んでいく。
- キャリア選択の多様化が進む現代においては適職選びには正解はないが、これまでの調査や研究の活用によって、少なくともより「正解」に近い選択は可能である。ここでは職業選択において陥りがちな問題について、最近のキャリア選択理論を紹介しながら各自の正解に近づけるためのキャリア選択のあり方について検討を加える。
- 「自分自身のキャリア形成」＝「人生経営」と捉え、企業の経営理論で用いられる方法論の自分の人生経営戦略への応用を試みる。キャリア形成プロセスを通じて、各自が自分の望む人生の実現に少しでも近づいていくための考え方と行動について検討していきたい。
- これからの激動の社会を生き抜いていくためには、フレキシブルに自分自身を変化させ、チャンスを自分でお膳立てして、自分のキャリアの可能性を少しでも拡大していく行動が必要である。そのため、各自が行動様式を見直し、また行動様式を変革していく戦略を考えていく。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習・課題レポートの作成等に要する時間は、講義時間以外に4時間以上を標準とします。より深い理解のために有益な資料、参考図書、作業等は授業内で示します。授業後にそれらに目を通したり、作業したり、インターネットや文献等の活用による自発的学習によって自分自身の知識やスキルの向上を目指すことを期待します。

【テキスト（教科書）】

特に定めません。

【参考書】

授業内で都度紹介します。

【成績評価の方法と基準】

毎回の課題レポートの記述内容の評価を点数化し、それらを合計した総合点で評価（100%）します。記述内容の評価においては、記述内容のオリジナリティ、論理構成、表現法を重点に評価します。単位取得には特段の事情がない限り課題レポートの期限内提出率と教室授業の出席率がともに70%以上であることが必要です。また、課題レポートの総得点が満点の60%以上であることが必要です。やむを得ない事情で期限内のレポートの提出が難しい場合には、早めに担当教員（大八木智一）と相談してください。

【学生の意見等からの気づき】

本年度より課題レポートの記述内容において、みなさんの「オリジナリティのある考え方」に対する評価を重点評価項目に加えます。世間一般の考え、どこかの本やネットに書いてあったような考えでなく、みなさん自身が自分の頭でよく練った「考え」を評価します。一般的に「正しい」考えより、みなさんが「考え抜いた」内容を記述内容には期待します。

【学生が準備すべき機器他】

当日示す授業資料は、「学習支援システム」にもアップするので、各自パソコン、タブレット等を教室に持参することが可能です。同じ授業資料は授業中においても教室内で投影します。また、授業内容は一定期間学習支援システム上で公開する（課題を除く資料のみ）ので、復習等にも活用してください。学習用の使用機材は、できればスマートフォンではなく、PCやタブレットを用意されることをお勧めします。

【その他の重要事項】

【授業形態の変更の可能性】 新型コロナウイルス感染症の拡散状況によって、授業方法が秋学期の途中でも変更になる場合があります。その場合は、随時ご連絡します。

【質問の受付】 授業内容等に関する質問、問い合わせにはメールで受け付けます。必要に応じて対面での対応も可能です。コンタクト先（担当教員）については授業開始後に（初回授業において）お知らせします。

【受講制限】 本授業の第1回目授業開始前日時点において仮登録者が教室定員を上回った場合はハイフレックス授業になります（クラスを2つに分けて、1回おきに教室授業とオンライン授業を交互に受講）。なお、仮登録者が教室定員の2倍を超えた場合は抽選によって受講者を決定します。この場合、第1回目授業の前日までに履修の仮登録をしていなかった学生は抽選の対象とならないため、受講できません。

【Outline (in English)】

【Course Outline】

In this class provides a variety of perspective that you should consider as you design your career.

【Leaning Objectives】

The goal of this class is to develop a basic attitude and a conceptual ability to get as close as possible to the life that you envision.

【Leaning activities outside of classroom】

In addition to the lecture, this class requires at least four hours to prepare, review and create assignment report.

【Grading Criteria/Policy】

In the evaluation of the results, the content of each assignment report is evaluated as a total score. The on-time submission rate of the assignment report must be 70% or higher to earn credits. And also, the total score of the assignment report must be 60% or more of the perfect score.

CAR100LG

キャリアデザイン応用

大八木 智一

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位
 曜日・時限：水 3/Wed.3 | キャンパス：市ヶ谷
 備考（履修条件等）：
 その他属性：〈優〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、「組織活動と働き方・生き方」に焦点を当て、これからの企業等での組織活動の諸相の理解を通じて、自分自身のキャリアデザインのあり方を考えていくことを目的とします。
 この授業を通じて、残された大学生活の時間を自分自身で有効にプロデュースしていくための素養を身につけていくことも大切な作業です。そのために、各自のキャリアをデザインしていくうえで考えておくべき多様な視点を提供し、それらを考慮に入れた各人の戦略的なキャリアデザインが構築できるように支援していきたいと思えます。

【到達目標】

この授業を通じて、これから長い人生となる皆さんが、自分たちの思い描く人生にできるだけ近づけるようになるための基本的な態度と構想力を身につけることが到達目標です。特にこの授業では、働き方・働き方と企業等での組織活動との接点に焦点を当てているので、本授業の受講を通じて、皆さんが自分自身の生き方や働き方に関して少しでも具体的にイメージできるようになり、それが皆さんなりのキャリアデザインを検討していくうえで活かせるようになることをめざします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

【この授業は教室での対面授業で実施します】

基本的には教室での対面で授業を実施しますが、新型コロナウイルスの感染状況等によって一部の授業回がオンラインに変更になる可能性があります。また、毎回の授業において各授業回に関連した課題を提示するので、一定期間内において指示された課題レポートの作成に取り組み、学習支援システムを利用して提出してください。（特に指示がない場合は、基本的に翌日までに提出）

教室での授業内では参加型の授業スタイルも可能な限り取り入れます。教員や学生同士のコミュニケーション機会を重視します（グループワーク、対話、フィードバック、リアクション・ペーパー等）。また、リアクションペーパー等におけるコメントや課題に関しては、授業内で紹介するなどしてフィードバックをします。

【その他の重要事項】の項目を必ず確認してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション 仕事研究① 「公務」	本講義の目的、達成目標、授業の進め方、成績評価方法の周知、授業に臨む姿勢、カリキュラムについての概要を説明する。併せて、この講義受講の意義について解説する。 ついで、公務の仕事について学んでいく。公務員は基本的には行政機関で働く人々を指すが、ここでは、公務員の仕事内容と役割、民間企業との働き方の違いに焦点をあてて学んでいく。
2	仕事研究② 「営業」	いくら良い商品やサービスが提供できて営業活動がないと企業はお金を得られない。ここではこの「営業」の仕事について実例をもとに作成した教材視聴を通じて理解を深めていく。
3	仕事研究③ 「企画」	企画の仕事は商品やサービスの企画だけでなく、会社の経営計画の分野におよぶ幅の広い仕事である。ここではこの「企画」の仕事について実例をもとに作成した教材視聴を通じて理解を深めていく。
4	仕事研究④ 「開発」	開発の仕事は一言でいうと企業において付加価値を創出していくための活動と言える。ここではこの「開発」の仕事について実例をもとに作成した教材視聴を通じて理解を深めていく。
5	仕事研究⑤ 「コンサルティング」	コンサルティングは、企業や団体が外部の頭脳（ノウハウ、専門知識、ネットワーク）を得たいときに活躍する仕事である。ここではこの「コンサルティング」の仕事について実例をもとに作成した教材視聴を通じて理解を深めていく。
6	仕事研究⑥ 「マーケティング」	マーケティングは、商品やサービスが効率的に売れるように、市場調査をはじめ製造、販売などの幅広い企業活動のプロセスに関与する仕事である。ここではこの「マーケティング」の仕事について実例をもとに作成した教材視聴を通じて理解を深めていく。
7	仕事研究⑦ 「海外市場でのビジネス」	現代における企業活動の領域は国内にとどまらず、多くの企業が海外の市場、顧客、企業とのかかわりあいの中でビジネスを展開している。ここではこの「海外市場でのビジネス」について実例をもとに作成した教材視聴を通じて理解を深めていく。
8	働き方研究① 「チームワーク」 【オンラインを予定】	組織が一定の成果を挙げるためには個々のメンバーが集団全体の目的をよく理解して、コミュニケーションをとりながら、必要に応じてお互いの考えや行動、態度などを調整しあうことが必要となる。ここでは、チームワークの特性を分析したうえで、優れたチームワークを育む方策を学ぶ。

- 9 働き方研究②
「リーダーシップ」
【オンラインを予定】
- 10 働き方研究③
「モチベーション」
- 11 働き方研究④
「メンタルヘルス」
- 12 キャリア戦略①
「キャリア選択の考え方」
- 13 キャリア戦略②
「人生の経営戦略」
- 14 キャリア戦略③
「自己実現に近づくための行動様式変革戦略」
- リーダーシップとは、目的に向かって、あるいは目標達成のために構成メンバーやチームに対して働きかけて、具体的な行動を促す力のことである。ここではリーダーシップとそれを支えるフォロワーシップにも言及し、それらの特性や要素について整理するとともに、それぞれの育成方法について学んでいく。
- 自己実現を目指して生きていくためには、常に自分自身が成長し続け、自分自身を改革し続けることが重要な要素となる。ここでは、自分自身が成長していくために「強みの活かし方」「モチベーションの高め方」などの観点からの自分自身の考え方や行動を問い直していく。
- 仕事や生活を通じて生じるストレスによる心身への負荷や圧迫、あるいはものごとの捉え方によるネガティブな感情の形成は、自分自身のキャリア形成にマイナスに働くことが多い。そのため、ここでは心身の負荷を軽減するためのいくつかの方法を理論とともに学んでいく。
- キャリア選択の多様化が進む現代においては適職選びには正解はないが、これまでの調査や研究の活用によって、少なくともより「正解」に近い選択は可能である。ここでは職業選択において陥りがちな問題について、最近のキャリア選択理論を紹介しながら各自の正解に近づけるためのキャリア選択のあり方について検討を加える。
- 「自分自身のキャリア形成」＝「人生経営」と捉え、企業の経営理論で用いられる方法論の自分の人生経営戦略への応用を試みる。キャリア形成プロセスを通じて、各自が自分の望む人生の実現に少しでも近づいていくための考え方と行動について検討していきたい。
- これからの激動の社会を生き抜いていくためには、フレキシブルに自分自身を変化させ、チャンスを自分でお膳立てして、自分のキャリアの可能性を少しでも拡大していく行動が必要である。そのため、各自が行動様式を見直し、また行動様式を変革していく戦略を考えていく。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習・課題レポートの作成等に要する時間は、講義時間以外に4時間以上を標準とします。より深い理解のために有益な資料、参考図書、作業等は授業内で示します。授業後にそれらに目を通したり、作業したり、インターネットや文献等の活用による自発的学習によって自分自身の知識やスキルの向上を目指すことを期待します。

【テキスト（教科書）】

特に定めません。

【参考書】

授業内で都度紹介します。

【成績評価の方法と基準】

毎回の課題レポートの記述内容の評価を点数化し、それらを合計した総合点で評価（100%）します。記述内容の評価においては、記述内容のオリジナリティ、論理構成、表現法を重点に評価します。単位取得には特段の事情がない限り課題レポートの期限内提出率と教室授業の出席率がともに70%以上であることが必要です。また、課題レポートの総得点が満点の60%以上であることが必要です。やむを得ない事情で期限内のレポートの提出が難しい場合には、早めに担当教員（大八木智一）と相談してください。

【学生の意見等からの気づき】

本年度より課題レポートの記述内容において、みなさんの「オリジナリティのある考え方」に対する評価を重点評価項目に加えます。世間一般の考え、どこかの本やネットに書いてあったような考えでなく、みなさん自身が自分の頭でよく練った「考え」を評価します。一般的に「正しい」考えより、みなさんが「考え抜いた」内容を記述内容には期待します。

【学生が準備すべき機器他】

当日示す授業資料は、「学習支援システム」にもアップするので、各自パソコン、タブレット等を教室に持参することが可能です。同じ授業資料は授業中においても教室内で投影します。また、授業内容は一定期間学習支援システム上で公開する（課題を除く資料のみ）ので、復習等にも活用してください。学習用の使用機材は、できればスマートフォンではなく、PCやタブレットを用意されることをお勧めします。

【その他の重要事項】

【授業形態の変更の可能性】 新型コロナウイルス感染症の拡散状況によって、授業方法が秋学期の途中でも変更になる場合があります。その場合は、随時ご連絡します。

【質問の受付】 授業内容等に関する質問、問い合わせにはメールで受け付けます。必要に応じて対面での対応も可能です。コンタクト先（担当教員）については授業開始後に（初回授業において）お知らせします。

【受講制限】 本授業の第1回目授業開始前日時点において仮登録者が教室定員を上回った場合はハイフレックス授業になります（クラスを2つに分けて、1回おきに教室授業とオンライン授業を交互に受講）。なお、仮登録者が教室定員の2倍を超えた場合は抽選によって受講者を決定します。この場合、第1回目授業の前日までに履修の仮登録をしていなかった学生は抽選の対象とならないため、受講できません。

【Outline (in English)】

【Course Outline】

In this class provides a variety of perspective that you should consider as you design your career.

【Leaning Objectives】

The goal of this class is to develop a basic attitude and a conceptual ability to get as close as possible to the life that you envision.

【Leaning activities outside of classroom】

In addition to the lecture, this class requires at least four hours to prepare, review and create assignment report.

【Grading Criteria/Policy】

In the evaluation of the results, the content of each assignment report is evaluated as a total score. The on-time submission rate of the assignment report must be 70% or higher to earn credits. And also, the total score of the assignment report must be 60% or more of the perfect score.

CAR100LG

キャリアデザイン応用

大八木 智一

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位
 曜日・時限：水 4/Wed.4 | キャンパス：市ヶ谷
 備考（履修条件等）：
 その他属性：〈優〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、「組織活動と働き方・生き方」に焦点を当て、これからの企業等での組織活動の諸相の理解を通じて、自分自身のキャリアデザインのあり方を考えていくことを目的とします。

この授業を通じて、残された大学生活の時間を自分自身で有効にプロデュースしていくための素養を身につけていくことも大切な作業です。そのために、各自のキャリアをデザインしていくうえで考えておくべき多様な視点を提供し、それらを考慮に入れた各人の戦略的なキャリアデザインが構築できるように支援していきたいと思えます。

【到達目標】

この授業を通じて、これから長い人生となる皆さんが、自分たちの思い描く人生にできるだけ近づけるようになるための基本的な態度と構想力を身につけることが到達目標です。特にこの授業では、働き方・働き方と企業等での組織活動との接点に焦点を当てているので、本授業の受講を通じて、皆さんが自分自身の生き方や働き方に関して少しでも具体的にイメージできるようになり、それが皆さんなりのキャリアデザインを検討していくうえで活かせるようになることをめざします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

【この授業は教室での対面授業で実施します】

基本的には教室での対面で授業を実施しますが、新型コロナウイルスの感染状況等によって一部の授業回がオンラインに変更になる可能性があります。また、毎回の授業において各授業回に関連した課題を提示するので、一定期間内において指示された課題レポートの作成に取り組み、学習支援システムを利用して提出してください。（特に指示がない場合は、基本的に翌日までに提出）

教室での授業内では参加型の授業スタイルも可能な限り取り入れられます。教員や学生同士のコミュニケーション機会を重視します（グループワーク、対話、フィードバック、リアクション・ペーパー等）。また、リアクションペーパー等におけるコメントや課題に関しては、授業内で紹介するなどしてフィードバックをします。

【その他の重要事項】の項目を必ず確認してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション 仕事研究① 「公務」	本講義の目的、達成目標、授業の進め方、成績評価方法の周知、授業に臨む姿勢、カリキュラムについての概要を説明する。併せて、この講義受講の意義について解説する。 ついで、公務の仕事について学んでいく。公務員は基本的には行政機関で働く人々を指すが、ここでは、公務員の仕事内容と役割、民間企業との働き方の違いに焦点をあてて学んでいく。
2	仕事研究② 「営業」	いくら良い商品やサービスが提供できて営業活動がないと企業はお金を得られない。ここではこの「営業」の仕事について実例をもとに作成した教材視聴を通じて理解を深めていく。
3	仕事研究③ 「企画」	企画の仕事は商品やサービスの企画だけでなく、会社の経営計画の分野におよぶ幅の広い仕事である。ここではこの「企画」の仕事について実例をもとに作成した教材視聴を通じて理解を深めていく。
4	仕事研究④ 「開発」	開発の仕事は一言でいうと企業において付加価値を創出していくための活動と言える。ここではこの「開発」の仕事について実例をもとに作成した教材視聴を通じて理解を深めていく。
5	仕事研究⑤ 「コンサルティング」	コンサルティングは、企業や団体が外部の頭脳（ノウハウ、専門知識、ネットワーク）を得たいときに活躍する仕事である。ここではこの「コンサルティング」の仕事について実例をもとに作成した教材視聴を通じて理解を深めていく。
6	仕事研究⑥ 「マーケティング」	マーケティングは、商品やサービスが効率的に売れるように、市場調査をはじめ製造、販売などの幅広い企業活動のプロセスに関与する仕事である。ここではこの「マーケティング」の仕事について実例をもとに作成した教材視聴を通じて理解を深めていく。
7	仕事研究⑦ 「海外市場でのビジネス」	現代における企業活動の領域は国内にとどまらず、多くの企業が海外の市場、顧客、企業とのかかわりあいの中でビジネスを展開している。ここではこの「海外市場でのビジネス」について実例をもとに作成した教材視聴を通じて理解を深めていく。
8	働き方研究① 「チームワーク」 【オンラインを予定】	組織が一定の成果を挙げるためには個々のメンバーが集団全体の目的をよく理解して、コミュニケーションをとりながら、必要に応じてお互いの考えや行動、態度などを調整しあうことが必要となる。ここでは、チームワークの特性を分析したうえで、優れたチームワークを育む方策を学ぶ。

- 9 働き方研究②
「リーダーシップ」
【オンラインを予定】
- 10 働き方研究③
「モチベーション」
- 11 働き方研究④
「メンタルヘルス」
- 12 キャリア戦略①
「キャリア選択の考え方」
- 13 キャリア戦略②
「人生の経営戦略」
- 14 キャリア戦略③
「自己実現に近づくための行動様式変革戦略」
- リーダーシップとは、目的に向かって、あるいは目標達成のために構成メンバーやチームに対して働きかけて、具体的な行動を促す力のことである。ここではリーダーシップとそれを支えるフォロワーシップにも言及し、それらの特性や要素について整理するとともに、それぞれの育成方法について学んでいく。
- 自己実現を目指して生きていくためには、常に自分自身が成長し続け、自分自身を改革し続けることが重要な要素となる。ここでは、自分自身が成長していくために「強みの活かし方」「モチベーションの高め方」などの観点からの自分自身の考え方や行動を問い直していく。
- 仕事や生活を通じて生じるストレスによる心身への負荷や圧迫、あるいはものごとの捉え方によるネガティブな感情の形成は、自分自身のキャリア形成にマイナスに働くことが多い。そのため、ここでは心身の負荷を軽減するためのいくつかの方法を理論とともに学んでいく。
- キャリア選択の多様化が進む現代においては適職選びには正解はないが、これまでの調査や研究の活用によって、少なくともより「正解」に近い選択は可能である。ここでは職業選択において陥りがちな問題について、最近のキャリア選択理論を紹介しながら各自の正解に近づけるためのキャリア選択のあり方について検討を加える。
- 「自分自身のキャリア形成」＝「人生経営」と捉え、企業の経営理論で用いられる方法論の自分の人生経営戦略への応用を試みる。キャリア形成プロセスを通じて、各自が自分の望む人生の実現に少しでも近づいていくための考え方と行動について検討していきたい。
- これからの激動の社会を生き抜いていくためには、フレキシブルに自分自身を変化させ、チャンスを自分でお膳立てして、自分のキャリアの可能性を少しでも拡大していく行動が必要である。そのため、各自が行動様式を見直し、また行動様式を変革していく戦略を考えていく。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習・課題レポートの作成等に要する時間は、講義時間以外に4時間以上を標準とします。より深い理解のために有益な資料、参考図書、作業等は授業内で示します。授業後にそれらに目を通したり、作業したり、インターネットや文献等の活用による自発的学習によって自分自身の知識やスキルの向上を目指すことを期待します。

【テキスト（教科書）】

特に定めません。

【参考書】

授業内で都度紹介します。

【成績評価の方法と基準】

毎回の課題レポートの記述内容の評価を点数化し、それらを合計した総合点で評価（100%）します。記述内容の評価においては、記述内容のオリジナリティ、論理構成、表現法を重点に評価します。単位取得には特段の事情がない限り課題レポートの期限内提出率と教室授業の出席率がともに70%以上であることが必要です。また、課題レポートの総得点が満点の60%以上であることが必要です。やむを得ない事情で期限内のレポートの提出が難しい場合には、早めに担当教員（大八木智一）と相談してください。

【学生の意見等からの気づき】

本年度より課題レポートの記述内容において、みなさんの「オリジナリティのある考え方」に対する評価を重点評価項目に加えます。世間一般の考え、どこかの本やネットに書いてあったような考えでなく、みなさん自身が自分の頭でよく練った「考え」を評価します。一般的に「正しい」考えより、みなさんが「考え抜いた」内容を記述内容には期待します。

【学生が準備すべき機器他】

当日示す授業資料は、「学習支援システム」にもアップするので、各自パソコン、タブレット等を教室に持参することが可能です。同じ授業資料は授業中においても教室内で投影します。また、授業内容は一定期間学習支援システム上で公開する（課題を除く資料のみ）ので、復習等にも活用してください。学習用の使用機材は、できればスマートフォンではなく、PCやタブレットを用意されることをお勧めします。

【その他の重要事項】

【授業形態の変更の可能性】 新型コロナウイルス感染症の拡散状況によって、授業方法が秋学期の途中でも変更になる場合があります。その場合は、随時ご連絡します。

【質問の受付】 授業内容等に関する質問、問い合わせにはメールで受け付けます。必要に応じて対面での対応も可能です。コンタクト先（担当教員）については授業開始後に（初回授業において）お知らせします。

【受講制限】 本授業の第1回目授業開始前日時点において仮登録者が教室定員を上回った場合はハイフレックス授業になります（クラスを2つに分けて、1回おきに教室授業とオンライン授業を交互に受講）。なお、仮登録者が教室定員の2倍を超えた場合は抽選によって受講者を決定します。この場合、第1回目授業の前日までに履修の仮登録をしていなかった学生は抽選の対象とならないため、受講できません。

【Outline (in English)】

【Course Outline】

In this class provides a variety of perspective that you should consider as you design your career.

【Leaning Objectives】

The goal of this class is to develop a basic attitude and a conceptual ability to get as close as possible to the life that you envision.

【Leaning activities outside of classroom】

In addition to the lecture, this class requires at least four hours to prepare, review and create assignment report.

【Grading Criteria/Policy】

In the evaluation of the results, the content of each assignment report is evaluated as a total score. The on-time submission rate of the assignment report must be 70% or higher to earn credits. And also, the total score of the assignment report must be 60% or more of the perfect score.

CAR100LG

キャリアデザイン応用

大八木 智一

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位
 曜日・時限：金 1/Fri.1 | キャンパス：市ヶ谷
 備考（履修条件等）：

その他属性：〈優〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、「組織活動と働き方・生き方」に焦点を当て、これからの企業等での組織活動の諸相の理解を通じて、自分自身のキャリアデザインのあり方を考えていくことを目的とします。

この授業を通じて、残された大学生活の時間を自分自身で有効にプロデュースしていくための素養を身につけていくことも大切な作業です。そのために、各自のキャリアをデザインしていくうえで考えておくべき多様な視点を提供し、それらを考慮に入れた各人の戦略的なキャリアデザインが構築できるように支援していきたいと思えます。

【到達目標】

この授業を通じて、これから長い人生となる皆さんが、自分たちの思い描く人生にできるだけ近づけるようになるための基本的な態度と構想力を身につけることが到達目標です。特にこの授業では、働き方・働き方と企業等での組織活動との接点に焦点を当てているので、本授業の受講を通じて、皆さんが自分自身の生き方や働き方に関して少しでも具体的にイメージできるようになり、それが皆さんなりのキャリアデザインを検討していくうえで活かせるようになることをめざします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

【この授業は教室での対面授業で実施します】

基本的には教室での対面で授業を実施しますが、新型コロナウイルスの感染状況等によって一部の授業回がオンラインに変更になる可能性があります。また、毎回の授業において各授業回に関連した課題を提示するので、一定期間内において指示された課題レポートの作成に取り組み、学習支援システムを利用して提出してください。（特に指示がない場合は、基本的に翌日までに提出）

教室での授業内では参加型の授業スタイルも可能な限り取り入れます。教員や学生同士のコミュニケーション機会を重視します（グループワーク、対話、フィードバック、リアクション・ペーパー等）。また、リアクションペーパー等におけるコメントや課題に関しては、授業内で紹介するなどしてフィードバックをします。

【その他の重要事項】の項目を必ず確認してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション 仕事研究① 「公務」	本講義の目的、達成目標、授業の進め方、成績評価方法の周知、授業に臨む姿勢、カリキュラムについての概要を説明する。併せて、この講義受講の意義について解説する。 ついで、公務の仕事について学んでいく。公務員は基本的には行政機関で働く人々を指すが、ここでは、公務員の仕事内容と役割、民間企業との働き方の違いに焦点をあてて学んでいく。
2	仕事研究② 「営業」	いくら良い商品やサービスが提供できて営業活動がないと企業はお金を得られない。ここではこの「営業」の仕事について実例をもとに作成した教材視聴を通じて理解を深めていく。
3	仕事研究③ 「企画」	企画の仕事は商品やサービスの企画だけでなく、会社の経営計画の分野におよぶ幅の広い仕事である。ここではこの「企画」の仕事について実例をもとに作成した教材視聴を通じて理解を深めていく。
4	仕事研究④ 「開発」	開発の仕事は一言でいうと企業において付加価値を創出していくための活動と言える。ここではこの「開発」の仕事について実例をもとに作成した教材視聴を通じて理解を深めていく。
5	仕事研究⑤ 「コンサルティング」	コンサルティングは、企業や団体が外部の頭脳（ノウハウ、専門知識、ネットワーク）を得たいときに活躍する仕事である。ここではこの「コンサルティング」の仕事について実例をもとに作成した教材視聴を通じて理解を深めていく。
6	仕事研究⑥ 「マーケティング」	マーケティングは、商品やサービスが効率的に売れるように、市場調査をはじめ製造、販売などの幅広い企業活動のプロセスに関与する仕事である。ここではこの「マーケティング」の仕事について実例をもとに作成した教材視聴を通じて理解を深めていく。
7	仕事研究⑦ 「海外市場でのビジネス」	現代における企業活動の領域は国内にとどまらず、多くの企業が海外の市場、顧客、企業とのかかわりあいの中でビジネスを展開している。ここではこの「海外市場でのビジネス」について実例をもとに作成した教材視聴を通じて理解を深めていく。
8	働き方研究① 「チームワーク」 【オンラインを予定】	組織が一定の成果を挙げるためには個々のメンバーが集団全体の目的をよく理解して、コミュニケーションをとりながら、必要に応じてお互いの考えや行動、態度などを調整しあうことが必要となる。ここでは、チームワークの特性を分析したうえで、優れたチームワークを育む方策を学ぶ。

- 9 働き方研究②
「リーダーシップ」
【オンラインを予定】
- 10 働き方研究③
「モチベーション」
- 11 働き方研究④
「メンタルヘルス」
- 12 キャリア戦略①
「キャリア選択の考え方」
- 13 キャリア戦略②
「人生の経営戦略」
- 14 キャリア戦略③
「自己実現に近づくための行動様式変革戦略」
- リーダーシップとは、目的に向かって、あるいは目標達成のために構成メンバーやチームに対して働きかけて、具体的な行動を促す力のことである。ここではリーダーシップとそれを支えるフォロワーシップにも言及し、それらの特性や要素について整理するとともに、それぞれの育成方法について学んでいく。
- 自己実現を目指して生きていくためには、常に自分自身が成長し続け、自分自身を改革し続けることが重要な要素となる。ここでは、自分自身が成長していくために「強みの活かし方」「モチベーションの高め方」などの観点からの自分自身の考え方や行動を問い直していく。
- 仕事や生活を通じて生じるストレスによる心身への負荷や圧迫、あるいはものごとの捉え方によるネガティブな感情の形成は、自分自身のキャリア形成にマイナスに働くことが多い。そのため、ここでは心身の負荷を軽減するためのいくつかの方法を理論とともに学んでいく。
- キャリア選択の多様化が進む現代においては適職選びには正解はないが、これまでの調査や研究の活用によって、少なくともより「正解」に近い選択は可能である。ここでは職業選択において陥りがちな問題について、最近のキャリア選択理論を紹介しながら各自の正解に近づけるためのキャリア選択のあり方について検討を加える。
- 「自分自身のキャリア形成」＝「人生経営」と捉え、企業の経営理論で用いられる方法論の自分の人生経営戦略への応用を試みる。キャリア形成プロセスを通じて、各自が自分の望む人生の実現に少しでも近づいていくための考え方と行動について検討していきたい。
- これからの激動の社会を生き抜いていくためには、フレキシブルに自分自身を変化させ、チャンスを自分でお膳立てして、自分のキャリアの可能性を少しでも拡大していく行動が必要である。そのため、各自が行動様式を見直し、また行動様式を変革していく戦略を考えていく。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習・課題レポートの作成等に要する時間は、講義時間以外に4時間以上を標準とします。より深い理解のために有益な資料、参考図書、作業等は授業内で示します。授業後にそれらに目を通したり、作業したり、インターネットや文献等の活用による自発的学習によって自分自身の知識やスキルの向上を目指すことを期待します。

【テキスト（教科書）】

特に定めません。

【参考書】

授業内で都度紹介します。

【成績評価の方法と基準】

毎回の課題レポートの記述内容の評価を点数化し、それらを合計した総合点で評価(100%)します。記述内容の評価においては、記述内容のオリジナリティ、論理構成、表現法を重点に評価します。単位取得には特段の事情がない限り課題レポートの期限内提出率と教室授業の出席率がともに70%以上であることが必要です。また、課題レポートの総得点が満点の60%以上であることが必要です。やむを得ない事情で期限内のレポートの提出が難しい場合には、早めに担当教員(大八木智一)と相談してください。

【学生の意見等からの気づき】

本年度より課題レポートの記述内容において、みなさんの「オリジナリティのある考え方」に対する評価を重点評価項目に加えます。世間一般の考え、どこかの本やネットに書いてあったような考えでなく、みなさん自身が自分の頭でよく練った「考え」を評価します。一般的に「正しい」考えより、みなさんが「考え抜いた」内容を記述内容には期待します。

【学生が準備すべき機器他】

当日示す授業資料は、「学習支援システム」にもアップするので、各自パソコン、タブレット等を教室に持参することが可能です。同じ授業資料は授業中においても教室内で投影します。また、授業内容は一定期間学習支援システム上で公開する(課題を除く資料のみ)ので、復習等にも活用してください。学習用の使用機材は、できればスマートフォンではなく、PCやタブレットを用意されることをお勧めします。

【その他の重要事項】

【授業形態の変更の可能性】 新型コロナウイルス感染症の拡散状況によって、授業方法が秋学期の途中でも変更になる場合があります。その場合は、随時ご連絡します。

【質問の受付】 授業内容等に関する質問、問い合わせにはメールで受け付けます。必要に応じて対面での対応も可能です。コンタクト先(担当教員)については授業開始後に(初回授業において)お知らせします。

【受講制限】 本授業の第1回目授業開始前日時点において仮登録者が教室定員を上回った場合はハイフレックス授業になります(クラスを2つに分けて、1回おきに教室授業とオンライン授業を交互に受講)。なお、仮登録者が教室定員の2倍を超えた場合は抽選によって受講者を決定します。この場合、第1回目授業の前日までに履修の仮登録をしていなかった学生は抽選の対象とならないため、受講できません。

【Outline (in English)】

【Course Outline】

In this class provides a variety of perspective that you should consider as you design your career.

【Leaning Objectives】

The goal of this class is to develop a basic attitude and a conceptual ability to get as close as possible to the life that you envision.

【Leaning activities outside of classroom】

In addition to the lecture, this class requires at least four hours to prepare, review and create assignment report.

【Grading Criteria/Policy】

In the evaluation of the results, the content of each assignment report is evaluated as a total score. The on-time submission rate of the assignment report must be 70% or higher to earn credits. And also, the total score of the assignment report must be 60% or more of the perfect score.

POL100NA

開発と国際協力

浅川 英理子、小野澤 雅人

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：選択

その他属性：〈優〉〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

我が国が開発途上国に対して実施している国際協力の現状と課題について、制度・事例・生活体験・活動体験を紹介する。公的な国際協力（ODA）を中心として解説する。また、グループで国際協力機構（JICA）が作成した報告書を調査し、その調査結果を発表することにより、社会人基礎力を身に付けてながら、グローバルな視点を涵養する。

【到達目標】

1. 開発途上国の現状と我が国の政府開発援助（ODA）の実施機関である国際協力機構（JICA）の活動を理解すると共に、将来海外で仕事を行う場合のキャリア形成について学ぶ。
2. 海外留学の実態について理解する。
3. 6～8人でグループを組み、JICA 報告書を皆で調査してその内容及び内容に対する意見を発表する。このグループワークを通じて、社会人の基礎力である3つの力（前に踏み出す力・考え抜く力・チームで働く力）を養うとともに、ODA について理解を深めると共に、報告書作成能力・パワーポイント作成能力・発表能力の向上を図る。
4. グループワーク後、国際協力に関する自らの考えを課題レポートにまとめることにより、卒業後、広く海外にも目を向け、グローバルな視点に立つて学習の成果を活かせる能力を醸成する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連
デザイン工学部都市環境デザイン工学部ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連
デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

主な授業内容は、開発途上国の現状と課題、JICA の活動、国際協力の事例、MDGs、SDGs、海外での留学生生活体験である。さらに、JICA の活動事例を調査・討議し、各学生の国際協力のあり方に対する意見を発表する。授業の実施方法は、後半でグループにより JICA の活動事例を調査し、その内容・結果を取りまとめるので、早い時期からグループ分けを行い、グループ毎に着席し、意思疎通を図り、討論しやすい体制にする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第一回	ガイダンスと我が国の国際協力 (1) 小野澤	ガイダンスの他、世界と我が国の国際協力について、現状・制度・課題・問題点の概要を説明。また、発表事業におけるグループ分けを行う。
第二回	我が国の国際協力 浅川	世界と我が国の国際協力の現状・制度・課題の詳細を、MDGs を参考にしながら解説する。さらに、開発途上国の現状と課題について考える。
第三回	事例による説明 (1) 西宮	国際協力の実際のプロジェクトの事例について解説し、現状・制度・課題についての理解を深める。
第四回	事例による説明 (2) 浅川	ギリシャ・イギリスでの留学・生活体験を説明。海外生活体験の意義を考える。
第五回	事例による説明 (3) 浅川	ギリシャの文化遺産保護活動について説明。文化遺産保護のあり方について考える。
第六回	国際協力の世界における課題 西宮	国際的に課題として認識されている持続的開発と持続的開発目標（SDGs）について解説し、我が国の取り組みも紹介する。
第七回	JICA 報告書の事例研究と発表資料の作成 講師全員	グループ毎に JICA 報告書の事例を調査し、その結果をもとに、発表用パワーポイントを作成する。
第八回	事例による説明 (4) 小野澤	国際協力の主要な担い手である、開発コンサルタントの役割について、技術協力・開発調査等の事例を通じて説明。
第九回	事例による説明 (5) 小野澤	第八回の説明をもとに、近年重要度を増している参加型開発やキャンパティ・デベロップメントについて考える。
第十回	JICA 報告書の事例研究と発表資料の作成 講師全員	グループ毎に作成したパワーポイントドラフトについて、講師がコメントし修正する。

第十一回	グループ発表 講師全員 (1)	調査結果を全員の前でパワーポイントを用いて発表し、講師がそれを評価する。
第十二回	グループ発表 講師全員 (2)	調査結果を全員の前でパワーポイントを用いて発表し、講師がそれを評価する。
第十三回	グループ発表 講師全員 (3)	調査結果を全員の前でパワーポイントを用いて発表し、講師がそれを評価する。
第十四回	授業のまとめと講評 講師全員	各講師による授業のまとめと講評を行うとともに、今後の国際協力分野への参加や就職についても考える

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

JICA 報告書の調査とパワーポイント・レポートの作成。
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

資料を配布する。

【参考書】

授業中に紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点：20%。課題パワーポイント作成と発表課題 50%、課題レポート：30%。

【学生の意見等からの気づき】

報告書の読み方、パワーポイントを使用した発表資料の書き方、発表の仕方に関する指導を強化する。
2020 年は、コロナ禍のため Zoom を利用した遠隔での講義となった。この状況でも、ソフトウェアを駆使して、グループワークを実施した。本年は、状況をみて可能な限り対面での講義・グループワークが行えるようにしたいと考えている。

【学生が準備すべき機器他】

授業には Powerpoint を使用する。

【その他の重要事項】

講師は、海外における実際の国際協力プロジェクトの実施経験者と海外留学経験者で構成し、理論より国際協力の実態についてより詳細に解説する。世界の潮流である持続的開発と持続的開発目標（SDGs）についても、実務経験からの解説と SDGs 設定の背景の解説を主として行う。

【Outline (in English)】

This series of lectures presents the current state of Japanese-involved international cooperation for developing countries. It introduces the framework of international cooperation, examples and life experiences by looking at issues such as cultural differences. Focus is given to official development assistance (ODA) carried out by the government of Japan. A group project which reviews and presents a professional report prepared by the Japan International Cooperation Agency (JICA) of their choice is required on top of regular attendance. Through this group preparation, students will attain the basic skills, knowledge, and approach necessary for a professional career while strengthening his/her own global perspective.

POL100NA

開発と国際協力

浅川 英理子、小野澤 雅人

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：選択

その他属性：〈優〉〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

我が国が開発途上国に対して実施している国際協力の現状と課題について、制度・実例・生活体験・活動体験を紹介する。公的な国際協力（ODA）を中心として解説する。また、グループで国際協力機構（JICA）が作成した報告書を調査し、その調査結果を発表することにより、社会人基礎力を身に付けてながら、グローバルな視点を涵養する。

【到達目標】

1. 開発途上国の現状と我が国の政府開発援助（ODA）の実施機関である国際協力機構（JICA）の活動を理解すると共に、将来海外で仕事を行う場合のキャリア形成について学ぶ。
2. 海外留学の実態について理解する。
3. 6～8人でグループを組み、JICA報告書を皆で調査してその内容及び内容に対する意見を発表する。このグループワークを通じて、社会人の基礎力である3つの力（前に踏み出す力・考え抜く力・チームで働く力）を養うとともに、ODAについて理解を深めると共に、報告書作成能力・パワーポイント作成能力・発表能力の向上を図る。
4. グループワーク後、国際協力に関する自らの考えを課題レポートにまとめることにより、卒業後、広く海外にも目を向け、グローバルな視点に立つて学習の成果を活かせる能力を醸成する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連
デザイン工学部都市環境デザイン工学部ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連
デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

主な授業内容は、開発途上国の現状と課題、JICAの活動、国際協力の事例、MDGs、SDGs、海外での留学生生活体験である。さらに、JICAの活動事例を調査・討議し、各学生の国際協力のあり方に対する意見を発表する。授業の実施方法は、後半でグループによりJICAの活動事例を調査し、その内容・結果を取りまとめるので、早い時期からグループ分けを行い、グループ毎に着席し、意思疎通を図り、討論しやすい体制にする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第一回	ガイダンスと我が国の国際協力(1) 小野澤	ガイダンスの他、世界と我が国の国際協力について、現状・制度、課題・問題点の概要を説明。また、発表事業におけるグループ分けを行う。
第二回	我が国の国際協力 浅川	世界と我が国の国際協力の現状・制度・課題の詳細を、MDGsを参考にしながら解説する。さらに、開発途上国の現状と課題について考える。
第三回	事例による説明(1) 西宮	国際協力の実際のプロジェクトの事例について解説し、現状・制度・課題についての理解を深める。
第四回	事例による説明(2) 浅川	ギリシャ・イギリスでの留学・生活体験を説明。海外生活体験の意義を考える。
第五回	事例による説明(3) 浅川	ギリシャの文化遺産保護活動について説明。文化遺産保護のあり方について考える。
第六回	国際協力の世界における課題 西宮	国際的に課題として認識されている持続的開発と持続的開発目標（SDGs）について解説し、我が国の取り組みも紹介する。
第七回	JICA報告書の事例研究と発表資料の作成 講師全員	グループ毎にJICA報告書の事例を調査し、その結果をもとに、発表用パワーポイントを作成する。
第八回	事例による説明(4) 小野澤	国際協力の主要な担い手である、開発コンサルタントの役割について、技術協力・開発調査等の事例を通じて説明。
第九回	事例による説明(5) 小野澤	第八回の説明をもとに、近年重要度を増している参加型開発やキャンパティ・デベロップメントについて考える。
第十回	JICA報告書の事例研究と発表資料の作成 講師全員	グループ毎に作成したパワーポイントドラフトについて、講師がコメントし修正する。

第十一回	グループ発表 講師全員(1)	調査結果を全員の前でパワーポイントを用いて発表し、講師がそれを評価する。
第十二回	グループ発表 講師全員(2)	調査結果を全員の前でパワーポイントを用いて発表し、講師がそれを評価する。
第十三回	グループ発表 講師全員(3)	調査結果を全員の前でパワーポイントを用いて発表し、講師がそれを評価する。
第十四回	授業のまとめと講評 講師全員	各講師による授業のまとめと講評を行うとともに、今後の国際協力分野への参加や就職についても考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

JICA報告書の調査とパワーポイント・レポートの作成。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

資料を配布する。

【参考書】

授業中に紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点：20%。課題パワーポイント作成と発表課題50%、課題レポート：30%。

【学生の意見等からの気づき】

報告書の読み方、パワーポイントを使用した発表資料の書き方、発表の仕方に関する指導を強化する。
2020年は、コロナ禍のためZoomを利用した遠隔での講義となった。この状況でも、ソフトウェアを駆使して、グループワークを実施した。本年は、状況を見て可能な限り対面での講義・グループワークが行えるようにしたいと考えている。

【学生が準備すべき機器他】

授業にはPowerpointを使用する。

【その他の重要事項】

講師は、海外における実際の国際協力プロジェクトの実施経験者と海外留学経験者で構成し、理論より国際協力の実態についてより詳細に解説する。世界の潮流である持続的開発と持続的開発目標（SDGs）についても、実務経験からの解説とSDGs設定の背景の解説を主として行う。

【Outline (in English)】

This series of lectures presents the current state of Japanese-involved international cooperation for developing countries. It introduces the framework of international cooperation, examples and life experiences by looking at issues such as cultural differences. Focus is given to official development assistance (ODA) carried out by the government of Japan. A group project which reviews and presents a professional report prepared by the Japan International Cooperation Agency (JICA) of their choice is required on top of regular attendance. Through this group preparation, students will attain the basic skills, knowledge, and approach necessary for a professional career while strengthening his/her own global perspective.

POL100NA

開発と国際協力

浅川 英理子、小野澤 雅人

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：選択

その他属性：〈優〉〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

我が国が開発途上国に対して実施している国際協力の現状と課題について、制度・事例・生活体験・活動体験を紹介する。公的な国際協力（ODA）を中心として解説する。また、グループで国際協力機構（JICA）が作成した報告書を調査し、その調査結果を発表することにより、社会人基礎力を身に付けてながら、グローバルな視点を涵養する。

【到達目標】

1. 開発途上国の現状と我が国の政府開発援助（ODA）の実施機関である国際協力機構（JICA）の活動を理解すると共に、将来海外で仕事を行う場合のキャリア形成について学ぶ。
2. 海外留学の実態について理解する。
3. 6～8人でグループを組み、JICA 報告書を皆で調査してその内容及び内容に対する意見を発表する。このグループワークを通じて、社会人の基礎力である3つの力（前に踏み出す力・考え抜く力・チームで働く力）を養うとともに、ODA について理解を深めると共に、報告書作成能力・パワーポイント作成能力・発表能力の向上を図る。
4. グループワーク後、国際協力に関する自らの考えを課題レポートにまとめることにより、卒業後、広く海外にも目を向け、グローバルな視点に立つて学習の成果を活かせる能力を醸成する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連
デザイン工学部都市環境デザイン工学部ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連
デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

主な授業内容は、開発途上国の現状と課題、JICA の活動、国際協力の事例、MDGs、SDGs、海外での留学生生活体験である。さらに、JICA の活動事例を調査・討議し、各学生の国際協力のあり方に対する意見を発表する。授業の実施方法は、後半でグループにより JICA の活動事例を調査し、その内容・結果を取りまとめるので、早い時期からグループ分けを行い、グループ毎に着席し、意思疎通を図り、討論しやすい体制にする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第一回	ガイダンスと我が国の国際協力 (1) 小野澤	ガイダンスの他、世界と我が国の国際協力について、現状・制度・課題・問題点の概要を説明。また、発表事業におけるグループ分けを行う。
第二回	我が国の国際協力 浅川	世界と我が国の国際協力の現状・制度・課題の詳細を、MDGs を参考にしながら解説する。さらに、開発途上国の現状と課題について考える。
第三回	事例による説明 (1) 西宮	国際協力の実際のプロジェクトの事例について解説し、現状・制度・課題についての理解を深める。
第四回	事例による説明 (2) 浅川	ギリシャ・イギリスでの留学・生活体験を説明。海外生活体験の意義を考える。
第五回	事例による説明 (3) 浅川	ギリシャの文化遺産保護活動について説明。文化遺産保護のあり方について考える。
第六回	国際協力の世界における課題 西宮	国際的に課題として認識されている持続的開発と持続的開発目標（SDGs）について解説し、我が国の取り組みも紹介する。
第七回	JICA 報告書の事例研究と発表資料の作成 講師全員	グループ毎に JICA 報告書の事例を調査し、その結果をもとに、発表用パワーポイントを作成する。
第八回	事例による説明 (4) 小野澤	国際協力の主要な担い手である、開発コンサルタントの役割について、技術協力・開発調査等の事例を通じて説明。
第九回	事例による説明 (5) 小野澤	第八回の説明をもとに、近年重要度を増している参加型開発やキャンパティ・デベロップメントについて考える。
第十回	JICA 報告書の事例研究と発表資料の作成 講師全員	グループ毎に作成したパワーポイントドラフトについて、講師がコメントし修正する。

第十一回	グループ発表 講師全員 (1)	調査結果を全員の前でパワーポイントを用いて発表し、講師がそれを評価する。
第十二回	グループ発表 講師全員 (2)	調査結果を全員の前でパワーポイントを用いて発表し、講師がそれを評価する。
第十三回	グループ発表 講師全員 (3)	調査結果を全員の前でパワーポイントを用いて発表し、講師がそれを評価する。
第十四回	授業のまとめと講評 講師全員	各講師による授業のまとめと講評を行うとともに、今後の国際協力分野への参加や就職についても考える

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

JICA 報告書の調査とパワーポイント・レポートの作成。
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

資料を配布する。

【参考書】

授業中に紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点：20%。課題パワーポイント作成と発表課題 50%、課題レポート：30%。

【学生の意見等からの気づき】

報告書の読み方、パワーポイントを使用した発表資料の書き方、発表の仕方に関する指導を強化する。
2020 年は、コロナ禍のため Zoom を利用した遠隔での講義となった。この状況でも、ソフトウェアを駆使して、グループワークを実施した。本年は、状況をみて可能な限り対面での講義・グループワークが行えるようにしたいと考えている。

【学生が準備すべき機器他】

授業には Powerpoint を使用する。

【その他の重要事項】

講師は、海外における実際の国際協力プロジェクトの実施経験者と海外留学経験者で構成し、理論より国際協力の実態についてより詳細に解説する。世界の潮流である持続的開発と持続的開発目標（SDGs）についても、実務経験からの解説と SDGs 設定の背景の解説を主として行う。

【Outline (in English)】

This series of lectures presents the current state of Japanese-involved international cooperation for developing countries. It introduces the framework of international cooperation, examples and life experiences by looking at issues such as cultural differences. Focus is given to official development assistance (ODA) carried out by the government of Japan. A group project which reviews and presents a professional report prepared by the Japan International Cooperation Agency (JICA) of their choice is required on top of regular attendance. Through this group preparation, students will attain the basic skills, knowledge, and approach necessary for a professional career while strengthening his/her own global perspective.

ART100NA

文化と文明

小林 信也

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：選択

その他属性：〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身近な東京の都市社会を素材としてその歴史を学ぶ。それによって我々が生きる現代都市文明・都市文化を相対化して把握するための視座を獲得する。

【到達目標】

現代都市東京のあり方を大きく規定する近世都市江戸の実態を知る。その知識を前提にして、現代都市東京の特質を理解する。これらの学習によって、都市再開発や歴史的街区の保全などの現状を批評するための基礎知識を得る。

【修得できる能力】

総合デザ	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
インカ						
○	◎	◎	○	○	◎	◎

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

デザイン工学部都市環境デザイン工学部ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連

デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 01 回	都市を視る目	都市図を読解する。
第 02 回	都市景観論	都市景観を分析することで何が得られるのかを考察する。
第 03 回	都市性とは	都市を定義する。 日本近世における都市の成立過程を理解する。
第 04 回	江戸町方の空間構造	江戸の町人地の空間構造についての基礎知識を得る。
第 05 回	江戸町方の社会構造	江戸町方の社会構造とその歴史的変容についての基礎知識を得る。
第 06 回	江戸の民衆世界	江戸の民衆世界の特質について知る。
第 07 回	江戸の裏店屋	江戸の裏長屋に暮らす民衆生活の実態を知る。
第 08 回	江戸の広場	江戸の広場の利用実態を知る。
第 09 回	露店営業地	江戸の露店営業地の実態を知る。
第 10 回	民衆的市場	江戸の民衆的な市場社会の実態を知る。
第 11 回	都市民衆の居場所	民衆的市場社会の存在意義を理解する。
第 12 回	江戸の広場の行方	明治東京における都市空間の近代化過程について知る。
第 13 回	明治の新開町	明治東京において発生する新たな都市空間の実態を知る。
第 14 回	まとめ	全授業の総括と試験問題についての解説を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習として、資料プリントを熟読しておく。復習として、授業内容の要旨を各自で文章化する。また、授業で取り上げた都内各地域へ実際に行ってみる。

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。

【参考書】

小林信也『江戸の民衆世界と近代化』（山川出版社、2002 年）

【成績評価の方法と基準】

平常点 10 % と期末の論述試験 90 %。

なお、試験問題は前もって発表するので事前に答案の下書きを作成しておくことが望ましい。

【学生の意見等からの気づき】

授業時間外学習の指示をより具体的にします。

【Outline (in English)】

In this course we will learn about Japanese urban history closely examining society in Tokyo.

Relative viewpoints encompassing urban culture will be discussed.

ART100NA

文化と文明

小林 信也

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：選択

その他属性：〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身近な東京の都市社会を素材としてその歴史を学ぶ。それによって我々が生きる現代都市文明・都市文化を相対化して把握するための視座を獲得する。

【到達目標】

現代都市東京のあり方を大きく規定する近世都市江戸の実態を知る。その知識を前提にして、現代都市東京の特質を理解する。これらの学習によって、都市再開発や歴史的街区の保全などの現状を批評するための基礎知識を得る。

【修得できる能力】

(A) 歴史・文化・自然の理解・尊重	40%
(B) 技術者倫理	15%
(C) 工学基礎学力	5%
(D) 専門基礎学力	10%
(E) 専門知識の活用・応用力	5%
(F) 総合デザイン能力	5%
(G) コミュニケーション能力	10%
(H) 継続的学習能力	5%
(I) 業務遂行能力	5%

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連

デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 01 回	都市を視る目	都市図を読解する。
第 02 回	都市景観論	都市景観を分析することで何が得られるのかを考察する。
第 03 回	都市性とは	都市を定義する。 日本近世における都市の成立過程を理解する。
第 04 回	江戸町方の空間構造	江戸の町人地の空間構造についての基礎知識を得る。
第 05 回	江戸町方の社会構造	江戸町方の社会構造とその歴史の変容についての基礎知識を得る。
第 06 回	江戸の民衆世界	江戸の民衆世界の特質について知る。
第 07 回	江戸の裏店屋	江戸の裏長屋に暮らす民衆生活の実態を知る。
第 08 回	江戸の広場	江戸の広場の利用実態を知る。
第 09 回	露店営業地	江戸の露店営業地の実態を知る。
第 10 回	民衆的市場	江戸の民衆的な市場社会の実態を知る。
第 11 回	都市民衆の居場所	民衆的市場社会の存在意義を理解する。
第 12 回	江戸の広場の行方	明治東京における都市空間の近代化過程について知る。
第 13 回	明治の新開町	明治東京において発生する新たな都市空間の実態を知る。
第 14 回	まとめ	全授業の総括と試験問題についての解説を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習として、資料プリントを熟読しておく。復習として、授業内容の要旨を各自で文章化する。また、授業で取り上げた都内各地域へ実際に行ってみる。

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。

【参考書】

小林信也『江戸の民衆世界と近代化』（山川出版社、2002 年）

【成績評価の方法と基準】

平常点 10 % と期末の論述試験 90 %。

なお、試験問題は前もって発表するので事前に答案の下書きを作成しておくことが望ましい。

【学生の意見等からの気づき】

授業時間外学習の指示をより具体的にします。

【Outline (in English)】

In this course we will learn about Japanese urban history closely examining society in Tokyo.

Relative viewpoints encompassing urban culture will be discussed.

ART100NA

文化と文明

小林 信也

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：選択

その他属性：〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身近な東京の都市社会を素材としてその歴史を学ぶ。それによって我々が生きる現代都市文明・都市文化を相対化して把握するための視座を獲得する。

【到達目標】

現代都市東京のあり方を大きく規定する近世都市江戸の実態を知る。その知識を前提にして、現代都市東京の特質を理解する。これらの学習によって、都市再開発や歴史的街区の保全などの現状を批評するための基礎知識を得る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連

デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 01 回	都市を視る目	都市図を読解する。
第 02 回	都市景観論	都市景観を分析することで何が得られるのかを考察する。
第 03 回	都市性とは	都市を定義する。 日本近世における都市の成立過程を理解する。
第 04 回	江戸町方の空間構造	江戸の町人地の空間構造についての基礎知識を得る。
第 05 回	江戸町方の社会構造	江戸町方の社会構造とその歴史の変容についての基礎知識を得る。
第 06 回	江戸の民衆世界	江戸の民衆世界の特質について知る。
第 07 回	江戸の裏店層	江戸の裏長屋に暮らす民衆生活の実態を知る。
第 08 回	江戸の広場	江戸の広場の利用実態を知る。
第 09 回	露店営業地	江戸の露店営業地の実態を知る。
第 10 回	民衆的市場	江戸の民衆的な市場社会の実態を知る。
第 11 回	都市民衆の居場所	民衆的市場社会の存在意義を理解する。
第 12 回	江戸の広場の行方	明治東京における都市空間の近代化過程について知る。
第 13 回	明治の新開町	明治東京において発生する新たな都市空間の実態を知る。
第 14 回	まとめ	全授業の総括と試験問題についての解説を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習として、資料プリントを熟読しておく。復習として、授業内容の要旨を各自で文章化する。また、授業で取り上げた都内各地域へ実際に行ってみる。

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。

【参考書】

小林信也『江戸の民衆世界と近代化』（山川出版社、2002 年）

【成績評価の方法と基準】

平常点 10 % と期末の論述試験 90 %。

なお、試験問題は前もって発表するので事前に答案の下書きを作成しておくことが望ましい。

【学生の意見等からの気づき】

授業時間外学習の指示をより具体的にします。

【Outline (in English)】

In this course we will learn about Japanese urban history closely examining society in Tokyo.

Relative viewpoints encompassing urban culture will be discussed.

SES100NA

環境とエネルギー

下田 昭郎

開講時期：春学期授業/Spring | 選択・必修の別：選択

その他属性：〈優〉〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

地球が新たな地質学的時代に向かっていくことを意味するために「人新世」という言葉が提案されている。人間が「地球規模での変化」のおおきな駆動力の一つであるとの認識に由来する。産業革命に始まる人間活動（人口を含む、経済、資源利用、輸送、情報通信などの活動）は、特に 20 世紀後半以降、急速に増加・進展し、この現象は 21 世紀にはいっても継続している。人間活動の特徴づけるエネルギー・物質フローはグローバルに増加し続け、その環境への影響（大気環境変化、気候変化、生物多様性の変化など）は地球規模で顕現し、人類の持続可能性に問題を提起しています。

この授業では、エネルギー・環境に関する基礎的知識を学び、資源・エネルギー利用を核とする人間活動と環境との関わりを歴史的経緯を展望し、人間活動の環境インパクトを技術・豊かさ・文化の視点から分析し、エネルギー・環境問題を考える枠組み習得することを目的とします。

【到達目標】

人間活動とエネルギー・環境とに関わる問題に、自ら気づき、その背景/本質を理解し、解決策を考えるスキームを学ぶことを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連

デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

○原則対面授業。ただし、必要に応じてリモート授業も実施。

○資料の提供は、時間割表に沿った授業予定日（火曜日）の前日までに学習支援システムの「課題」フォルダにアップロードを予定

○授業に関する最新の情報は学習支援システムの「お知らせ」フォルダに提示

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	事業方法等やスケジュールの説明
2	環境問題の変遷	地域環境問題から地球環境問題へ変遷の解説
3	地球温暖化の科学	温暖化の仕組み等についての解説
4	地球温暖化への国内外の対応	気候変動枠組み条約等の説明
5	世界のエネルギー事情	化石燃料への依存状態の説明
6	国内のエネルギー事情	東日本大震災以降の化石燃料への依存度増加等の説明
7	原子力の科学	原子力の長所、短所、将来的な見通し等の解説
8	温暖化防止のための技術開発	二酸化炭素の排出削減を目指す革新的技術等の紹介
9	温暖化防止のための政策	炭素税などの解説
10	温暖化防止のための企業の取り組み	SDGs などの解説
11	エネルギー、環境問題と社会的受容性	リスクマネジメント等の重要性について
12	温暖化以外の地球環境問題	水問題など
13	予備日	進捗状況に対応
14	総合確認、小論文	講義全体を通してこの先我々が目指すべき方向性等を提案

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

国内外のエネルギー情勢及び環境変化の事象に興味を持つことを奨めます。例として、NASA（米国航空宇宙局）、UNFCCC（国連気候変動枠組条約）及び IEA（国際エネルギー機構）の WEB サイトでは、それぞれ最新の地球環境の現状に関するビジュアルデータ、重要な地球環境問題の取組み、及び世界エネルギー情勢に関する情報が提供されています。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

毎回分の資料を提供します。

【参考書】

特にありません。授業の中で適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

授業内容全般の総合的確認（80%）及びテーマ/内容ごとの受講状況（20%）により評価します。

【学生の意見等からの気づき】

授業では毎回、主要点をまとめることで、授業内容を理解しやすくわかりやすいものとします。

【その他の重要事項】

環境及びエネルギーに関する技術・問題の調査・研究の経験を活かし、環境及びエネルギーに関わる幅広い講義をする。

【Outline (in English)】

(Course outline)

In this class, students will learn about global warming and other global environmental issues from the perspective of human energy use.

Specifically, we will discuss the scientific background, countermeasure technologies, policies, and other aspects of global environmental problems.

(Learning Objectives)

The objective of this course is for students to become aware of problems related to human activities, energy, and the environment, to understand the background of these problems, and to learn schemes to think about solutions.

(Learning activities outside of classroom)

None.

(Grading Criteria/Policy)

Submission of assignments and attendance in each class.

SES100NA

環境とエネルギー

下田 昭郎

開講時期：春学期授業/Spring | 選択・必修の別：選択

その他属性：〈優〉〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

地球が新たな地質学的時代に向かっていくことを意味するために「人新世」という言葉が提案されている。人間が「地球規模での変化」のおおきな駆動力の一つであるとの認識に由来する。産業革命に始まる人間活動（人口を含む、経済、資源利用、輸送、情報通信などの活動）は、特に 20 世紀後半以降、急速に増加・進展し、この現象は 21 世紀にはいっても継続している。人間活動の特徴づけるエネルギー・物質フローはグローバルに増加し続け、その環境への影響（大気環境変化、気候変化、生物多様性の変化など）は地球規模で顕現し、人類の持続可能性に問題を提起しています。

この授業では、エネルギー・環境に関する基礎的知識を学び、資源・エネルギー利用を核とする人間活動と環境との関わりを歴史的経緯を展望し、人間活動の環境インパクトを技術・豊かさ・文化の視点から分析し、エネルギー・環境問題を考える枠組み習得することを目的とします。

【到達目標】

人間活動とエネルギー・環境とに関わる問題に、自ら気づき、その背景/本質を理解し、解決策を考えるスキームを学ぶことを目指します。

【修得できる能力】

総合デザ イン力	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
○	○	◎	○	○	◎	○

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連
デザイン工学部都市環境デザイン工学部ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連
デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

- 原則対面授業。ただし、必要に応じてリモート授業も実施。
- 資料の提供は、時間割表に沿った授業予定日（火曜日）の前日までに学習支援システムの「課題」フォルダにアップロードを予定
- 授業に関する最新の情報は学習支援システムの「お知らせ」フォルダに提示

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	事業方法等やスケジュールの説明
2	環境問題の変遷	地域環境問題から地球環境問題へ変遷の解説
3	地球温暖化の科学	温暖化の仕組み等についての解説
4	地球温暖化への国内外の対応	気候変動枠組み条約等の説明
5	世界のエネルギー事情	化石燃料への依存状態の説明
6	国内のエネルギー事情	東日本大震災以降の化石燃料への依存度増加等の説明
7	原子力の科学	原子力の長所、短所、将来的な見通し等の解説
8	温暖化防止のための技術開発	二酸化炭素の排出削減を目指す革新的技術等の紹介
9	温暖化防止のための政策	炭素税などの解説
10	温暖化防止のための企業の取り組み	SDGs などの解説
11	エネルギー、環境問題と社会的受容性	リスクマネジメント等の重要性について
12	温暖化以外の地球環境問題	水問題など
13	予備日	進捗状況に対応
14	総合確認、小論文	講義全体を通してこの先我々が目指すべき方向性等を提案

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

国内外のエネルギー情勢及び環境変化の事象に興味を持つことを奨めます。例として、NASA（米国防空宇宙局）、UNFCCC（国連気候変動枠組条約）及び IEA（国際エネルギー機構）の WEB サイトでは、それぞれ最新の地球環境の現状に関するビジュアルデータ、重要な地球環境問題の取組み、及び世界エネルギー情勢に関する情報が提供されています。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

毎回分の資料を提供します。

【参考書】

特にありません。授業の中で適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

授業内容全般の総合的確認（80%）及びテーマ/内容ごとの受講状況（20%）により評価します。

【学生の意見等からの気づき】

授業では毎回、主要点をまとめることで、授業内容を理解しやすくわかりやすいものとしています。

【その他の重要事項】

環境及びエネルギーに関する技術・問題の調査・研究の経験を活かし、環境及びエネルギーに関わる幅広い講義をする。

【Outline (in English)】

(Course outline)

In this class, students will learn about global warming and other global environmental issues from the perspective of human energy use.

Specifically, we will discuss the scientific background, countermeasure technologies, policies, and other aspects of global environmental problems.

(Learning Objectives)

The objective of this course is for students to become aware of problems related to human activities, energy, and the environment, to understand the background of these problems, and to learn schemes to think about solutions.

(Learning activities outside of classroom)

None.

(Grading Criteria/Policy)

Submission of assignments and attendance in each class.

SES100NA

環境とエネルギー

下田 昭郎

開講時期：春学期授業/Spring | 選択・必修の別：選択

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

地球が新たな地質学的時代に向かっていくことを意味するために「人新世」という言葉が提案されている。人間が「地球規模での変化」のおおきな駆動力の一つであるとの認識に由来する。産業革命に始まる人間活動（人口を含む、経済、資源利用、輸送、情報通信などの活動）は、特に 20 世紀後半以降、急速に増加・進展し、この現象は 21 世紀にはいっても継続している。人間活動の特徴づけるエネルギー・物質フローはグローバルに増加し続け、その環境への影響（大気環境変化、気候変化、生物多様性の変化など）は地球規模で顕現し、人類の持続可能性に問題を提起しています。

この授業では、エネルギー・環境に関する基礎的知識を学び、資源・エネルギー利用を核とする人間活動と環境との関わりを歴史的経緯を展望し、人間活動の環境インパクトを技術・豊かさ・文化の視点から分析し、エネルギー・環境問題を考える枠組み習得することを目的とします。

【到達目標】

人間活動とエネルギー・環境とに関わる問題に、自ら気づき、その背景/本質を理解し、解決策を考えるスキームを学ぶことを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連
デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」に関連
デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

○原則対面授業。ただし、必要に応じてリモート授業も実施。
○資料の提供は、時間割表に沿った授業予定日（火曜日）の前日までに学習支援システムの「課題」フォルダにアップロードを予定
○授業に関する最新の情報は学習支援システムの「お知らせ」フォルダに提示

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	事業方法等やスケジュールの説明
2	環境問題の変遷	地域環境問題から地球環境問題へ変遷の解説
3	地球温暖化の科学	温暖化の仕組み等についての解説
4	地球温暖化への国内外の対応	気候変動枠組み条約等の説明
5	世界のエネルギー事情	化石燃料への依存状態の説明
6	国内のエネルギー事情	東日本大震災以降の化石燃料への依存度増加等の説明
7	原子力の科学	原子力の長所、短所、将来的な見通し等の解説
8	温暖化防止のための技術開発	二酸化炭素の排出削減を目指す革新的技術等の紹介
9	温暖化防止のための政策	炭素税などの解説
10	温暖化防止のための企業の取り組み	SDGs などの解説
11	エネルギー、環境問題と社会的受容性	リスクマネジメント等の重要性について
12	温暖化以外の地球環境問題	水問題など
13	予備日	進捗状況に対応
14	総合確認、小論文	講義全体を通してこの先我々が目指すべき方向性等を提案

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

国内外のエネルギー情勢及び環境変化の事象に興味を持つことを奨めます。例として、NASA（米国航空宇宙局）、UNFCCC（国連気候変動枠組条約）及び IEA（国際エネルギー機構）の WEB サイトでは、それぞれ最新の地球環境の現状に関するビジュアルデータ、重要な地球環境問題の取組み、及び世界エネルギー情勢に関する情報が提供されています。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

毎回分の資料を提供します。

【参考書】

特にありません。授業の中で適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

授業内容全般の総合的確認（80%）及びテーマ/内容ごとの受講状況（20%）により評価します。

【学生の意見等からの気づき】

授業では毎回、主要点をまとめることで、授業内容を理解しやすくわかりやすいものとしします。

【その他の重要事項】

環境及びエネルギーに関する技術・問題の調査・研究の経験を活かし、環境及びエネルギーに関わる幅広い講義をする。

【Outline (in English)】

(Course outline)

In this class, students will learn about global warming and other global environmental issues from the perspective of human energy use.

Specifically, we will discuss the scientific background, countermeasure technologies, policies, and other aspects of global environmental problems.

(Learning Objectives)

The objective of this course is for students to become aware of problems related to human activities, energy, and the environment, to understand the background of these problems, and to learn schemes to think about solutions.

(Learning activities outside of classroom)

None.

(Grading Criteria/Policy)

Submission of assignments and attendance in each class.

CST100NC

ジオロジカルエンジニアリング

中谷 匡志

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：選択

その他属性：〈優〉〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ジオロジカルエンジニアリングは、地質学と工学の境界領域の学問と位置づけられる。本講座では、主として土木構造物に分類されるダムやトンネル・橋梁などの建設といった、とくに社会基盤事業にかかわる技術者に必要な地盤工学（あるいは地質工学）の基礎と、それを応用する知識を養うことを目的としている。

【到達目標】

1. 土木構造物の基礎となる地盤について、その見方・考え方を習得する。
2. 調査・設計・施工の各プロセスにおける地盤評価の重要性とその方法・内容を理解する。
3. 地盤に起因するトラブルについて、評論家の立場ではなく、一技術者として倫理感や問題意識を持てるような思考力を培う。
4. 基礎岩盤の支持力や斜面の安定対策の見識を深め、簡易な安定計算ができるようにする。
5. 講義中に行う演習などによって、技術者としての文章表現力の基礎を習得する。

【修得できる能力】

- (A) 歴史・文化・自然の理解・尊重
 (B) 技術者倫理
 (C) 工学基礎学力 60%
 (D) 専門基礎学力 40%
 (E) 専門知識の活用・応用能力
 (F) 総合デザイン能力
 (G) コミュニケーション能力
 (H) 継続的学習能力
 (I) 業務遂行能力

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

地質情報概論（0.5回）は、学問領域における位置づけと、社会基盤事業とのかかわりを考える。

地質の基礎知識（1.5回）は、岩盤の種類と成因、地質年代と特徴、岩種からの問題点のイメージを通じて、地質に対する理解を深める。

特別講義（2回）では、「地球の動き／地震」「原子力発電所の地震・津波対策」を通じて、ジオロジカルエンジニアリングの最近の動向・トピックを紹介する。

地質調査・試験（1回）では、ボーリング、弾性波探査、原位置岩盤試験、地盤の分類（1回）では岩盤の工学的分類法について理解を深める。

ダムと地質情報（2回）、トンネルと地質情報（2回）、構造物基礎と地質情報（1回）では、重要な社会基盤事業であるダム、トンネル、橋梁の種類や施工方法、地質情報との関係を講義するとともに、貴重な実際の建設記録をDVDなどで紹介し、理解を深める。

のり面と地質情報（2回）では、のり面の基本、設計方法、安定対策について理解を深めるとともに、実際に安定計算を試行する。

地すべりと地質情報（1回）では、近年、ゲリラ豪雨や台風などによる災害が多発している地すべり地形の特徴と見方について理解を深めるとともに、実際に安定計算を試行する。

最終の講義では、上記14回の講義内容、演習、小論文に対する講評、解説も行う。

授業形態は、原則スライドショーで行い、毎回演習を実施する。なお、演習解答の提出を出欠の確認とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	地質情報概論、地質の基礎知識(1)	ジオロジカルエンジニアリングの講義内容、社会基盤事業とジオロジカルエンジニアリングとの関係。岩盤の種類と成因、年代と特徴、岩種からの問題点のイメージ。
2	地質の基礎知識(2)	岩盤の風化・変質、地質構造。地質の基礎知識を習得する。
3	特別講義(1)	地震・活断層、津波、プレートテクトニクス、地震予知。

4	地質調査・試験	ボーリング、弾性波探査、原位置岩盤代表的な地質調査・試験方法について知識を深める。
5	地盤の分類（岩盤分類）	岩盤分類法、海外の岩盤分類。岩盤を定量的に区分する方法について理解する。
6	ダムと地質情報(1)	ダムの種類、ダムの基礎処理。日本で最も大きい黒部ダム施工事例。ダムの設計と施工方法を理解する。
7	ダムと地質情報(2)	ダムの歴史的発展、ダムの安定計算方法。ダムの設計と施工方法を理解する。
8	特別講義(2)	原子力発電所の地震対策、津波対策、「原子力発電所の地震・津波対策について」最新の現状を理解する。
9	トンネルと地質情報(1)	トンネル・地下空洞の種類、トンネル・地下空洞の種類と施工方法を理解する。
10	トンネルと地質情報(2)	日本で最も長い青函トンネルと大規模トンネル・地下空洞の種類と施工方法を理解する。
11	構造物基礎と地質情報	橋梁の歴史の変遷と橋梁基礎の安定性に関する考え方を理解する。
12	のり面と地質情報(1)	掘削のり面の基本、岩盤の異方性とのり面の安定性との関係。
13	のり面と地質情報(2)	掘削のり面の安定対策、直線すべりのり面の安定対策方法と設計方法を習得する。
14	地すべりと地質情報	地すべり地形の特徴と見方、円弧すべりの安定計算。講義全般のキーワードの確認。講義全般をまとめる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1. 教科書全体の通読、教科書1章地盤の地質の予習・復習
 2. 教科書1章地盤の地質の予習・復習
 3. 新聞や関連雑誌・ホームページなどの情報収集
 4. 教科書2章地盤の調査と試験・分類の予習・復習
 5. 教科書2章地盤の調査と試験・分類の予習・復習
 6. 教科書3章ダムと地質調査の予習・復習
 7. 教科書3章ダムと地質調査の予習・復習
 8. 新聞や関連雑誌・ホームページなどの情報収集
 9. 教科書4章トンネル・地下空洞と地盤地質の予習・復習
 10. 教科書4章トンネル・地下空洞と地盤地質の予習・復習
 11. 教科書6章基礎と地盤地質の予習・復習
 12. 教科書7章法面と地盤地質の予習・復習
 13. 教科書7章法面と地盤地質の予習・復習
 14. 教科書7章法面と地盤地質の予習・復習
- 本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

改訂新版「建設工事と地盤地質」著者：古部 浩・武藤 光・山本浩之・宇津木慎司、発行所：古今書院を使用する。

【参考書】

必要に応じて指示する。

【成績評価の方法と基準】

毎回の講義で実施する演習問題（記述・作図・計算など）の提出により習得度を評価し、その合計から評価点（100点満点）を算出する。

可否の基準は、100-90点をS、89-87点をA+、86-83点をA、82-80点をA-、79-77点をB+、76-73点をB、72-70点をB-、69-67点をC+、66-63点をC、62-60点をC-とし合格とする。59-0点または欠席4回以上をD、未受講、採点不能をEとし不合格とする。期末試験は実施しないが、演習の習得度によりレポート提出を求める場合がある。

【学生の意見等からの気づき】

演習については、十分な時間を確保する。

【学生が準備すべき機器他】

三角関数付き電卓、目盛り付き三角定規、分度器を必携とする。

【その他の重要事項】

現役の建設会社に勤務する博士（学術）、技術士（応用理学）の資格を有する教員が、その経験と知識に則した地形・地質の観点から建設工事の着目点を講義する。

【Outline (in English)】

Geological engineering is a discipline combining geology and civil engineering. In this course, we will introduce the fundamentals of geotechnics (or geotechnical engineering) necessary for engineers involved in projects of social infrastructure, such as construction of dams, tunnels and bridges, which are mainly classified as civil engineering structures, and the knowledge to apply them.

At the end of the course, students are expected that understand the importance of ground evaluation in each process of survey, design and construction, and its method and contents.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading will be decided based on evaluating by submitting exercises to be conducted in each lecture. No final exam will be held.

DES100NA

デザイン文化論

辻村 亮子

開講時期：春学期授業/Spring | 選択・必修の別：選択

その他属性：〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「手つかずの自然」とはよく聞く言葉ですが、実はその言葉は幻想に近く、現在地球上にはそのようなものはほとんど残されていません。我々人類は、自然と向きあい、土地を耕し、人間がつくったもっとも大きな人工物といわれる「都市」を地球上に生み出してきたのです。

地球上の人間の半分以上、日本に至っては9割の人が都市で生活しているという現在、私たちの目にふれるものはすべて人間が「デザインされたもの」といってよいでしょう。

この授業では、そうした自分たちの身のまわりの世界を、デザインという観点から見ていきます。

また「見る」だけではなく、「描く」と「書く」ということも授業で体験してもらう予定です。

【到達目標】

- 1) 「創造したい」という気持ちを育む。
- 2) 「創造」のために何が必要かということが認識でき、その方法を自分で探究することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP2」、都市環境デザイン工学部ディプロマポリシーのうち「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

Zoomによる遠隔講義。課題提出、発表もあり。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
4月13日	ガイダンス	授業登録人数の確認、授業の進め方と注意事項など。
4月20日	自己紹介	教員の経歴
4月27日	自宅制作のスタジオ・課題	自画像と似顔絵
5月11日	課題のプレゼンテーションと自己紹介1	自分の作品をプレゼンテーションする。
5月18日	課題のプレゼンテーションと自己紹介2	自分の作品をプレゼンテーションする。
5月25日	課題のプレゼンテーションと自己紹介3	自分の作品をプレゼンテーションする。
6月1日	レオナルド・ダ・ヴィンチとは何か? 前編	現在のレオナルド・ダ・ヴィンチを目指すというのはどういうことなのか? ダ・ヴィンチの功績をみる。
6月8日	レオナルド・ダ・ヴィンチとは何か? 後編	レオナルド・ダ・ヴィンチが現代に与えた影響について考察する。
6月15日	千田勝フランスからのレクチャー	法政大を卒業してブルターニュで設計事務所を主宰する千田勝氏。「生活様式の変化と持続可能な都市の模倣」を講義
6月22日	西洋文化の源流ギリシアの神殿とその美術1	ヨーロッパ文化の二大源流のひとつ、ギリシア文明を見る。パルテノン神殿が現代建築家に与えた影響。
6月29日	西洋文化の源流ギリシアの神殿とその美術2	ギリシア美術その他。シシリア、セリエンテの遺跡とその引用など。
7月6日	都市の観察1 ヤンゴン	政治的に不安定ではあるが、今アジアの都市として発展めまぐるしいミャンマー、ヤンゴン。都市化が進むということはどういうことかを具体的に考えてみる。
7月13日	都市の観察2 フィンランド	フィンランドの首都ヘルシンキを例に、ひとつの都市が持つ歴史的建造物から現代の建築家の作品、都市交通の現在までをみる。
7月14日	予備日	時間が足りなかった講義を

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

特になし

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

授業内で紹介

【成績評価の方法と基準】

レポート 40%、一部授業後の提出物 30%、平常点 30%

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

課題作成のときには、各自自分に合った画材を用意すること。また画像をスキャンして提出することがある。

【その他の重要事項】

履修希望者多数の場合は、抽選でクラスの人数を120名ほどに限定する可能性がある。

最新情報を授業で紹介することもあるので、講義内容はテーマと同じになるとは限らない。また場合によっては前後することもある。

フランス在住の千田勝氏、また場合によってはもう一人ゲスト講師を招待した講義を行う可能性がある。

【Outline (in English)】

We often use the word "Wild Nature". But that word is an illusion.

We humans have been cultivating nature and created the greatest artifact, the city on the earth.

In a sense, nowadays everything we see is "designed" by human beings.

We will see such the world around us from the perspective of design.

And not only "see", we will also experience "drawing" and "writing" in this class.

DES100NA

デザイン文化論

辻村 亮子

開講時期：春学期授業/Spring | 選択・必修の別：選択

その他属性：〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「手つかずの自然」とはよく聞く言葉です。しかし実はその言葉は幻想に近く、現在地球上にはそのようなものはほとんど残されていません。我々人類は、自然と向きあい、土地を耕し農業を興し、人間がつくったもつとも大きな人工物といわれる「都市」を地球上に生み出してきたのです。

地球上の人間の半分以上、日本に至っては 9 割の人が都市で生活しているという現在、私たちの目にふれるものはすべて人間によって「デザインされたもの」と言ってよいでしょう。

この授業では、こうした自分たちの身のまわりの世界を、デザインという観点から見ていきます。

また 3 学科が集まる人数の多い授業となりますが、「見る」だけではなく、「書く」と「書く」ということも授業で体験してもら予定です。

【到達目標】

- 1) 「創造したい」という気持ちを育む。
- 2) 「創造」のための目を養う。
- 3) 「創造」のための方法を自分で探究することができる。

【修得できる能力】

(A) 歴史・文化・自然の理解・尊重	20%
(B) 技術者倫理	20%
(C) 工学基礎学力	5%
(D) 専門基礎学力	5%
(E) 専門知識の活用・応用能力	20%
(F) 総合デザイン能力	5%
(G) コミュニケーション能力	15%
(H) 継続的学習能力	5%
(I) 業務遂行能力	5%

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP2」、都市環境デザイン工学部ディプロマポリシーのうち「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

講義。課題提出。各自のプレゼンテーション。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
4 月 12 日	ガイダンス	授業登録人数の確認（120 名を超える場合は抽選方式）、授業の進め方と注意事項など。
4 月 19 日	イントロダクション	教員の経歴
4 月 26 日	自宅制作のスタディ・課題	自画像と似顔絵 人はなぜ自画像を描くのか？
5 月 10 日	課題のプレゼンテーションと自己紹介 1	自分の作品をプレゼンテーションする。 人の作品を鑑賞する。
5 月 17 日	課題のプレゼンテーションと自己紹介 2	自分の作品をプレゼンテーションする。 人の作品を鑑賞する。
5 月 24 日	課題のプレゼンテーションと自己紹介 3	自分の作品をプレゼンテーションする。 人の作品を鑑賞する。
5 月 31 日	課題のプレゼンテーションと自己紹介 4	自分の作品をプレゼンテーションする。 人の作品を鑑賞する。
6 月 7 日	レオナルド・ダ・ヴィンチとは何か？	現在のレオナルド・ダ・ヴィンチを目指すというのはどういうことなのか？ ダ・ヴィンチの功績をみる。
6 月 14 日	千田勝フランスからのレクチャー	法政大を卒業してブルターニュで設計事務所を主宰する千田勝氏。本年度は「都市をアップデートする」をリモート講義する。
6 月 21 日	西洋文化の源流ギリシアの神殿とその美術	ヨーロッパ文化の二大源流のひとつ、ギリシア文明を見る。パルテノン神殿が現代建築家に与えた影響。
6 月 28 日	都市の観察 1 ヤンゴン	都市化が進むということはどういうことか。 アジアの一都市の発展を政治・文化・宗教的側面とともに考える。
7 月 5 日	都市の観察 2 ヘルシンキ	フィンランドの首都ヘルシンキを例に、ひとつの首都の、過去と現代の建築及び都市施設と交通を考察する。

7 月 12 日 都市の観察 3) 東京
高輪築堤という産業遺産から、鉄道・地下鉄といった都市施設を通して我が国のデザインを振り返り展望する。

7 月 14 日 都市の観察 4) または予備日
東京以外の都市の交通、または、図書館など今の都市施設のデザインの潮流を観察する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

課題作成 5 時間、レポート作成 8 時間

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

授業内で紹介

【成績評価の方法と基準】

レポート 40%、一部授業後の提出物 30%、平常点 30%

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

課題作成のときには、各自自分に合った画材を用意すること。また画像の提出については、スマートフォンの写真ではなくきちんとスキャンして提出すること。

【その他の重要事項】

履修希望者多数の場合は、抽選でクラスの人数を 120 名ほどに限定する可能性がある。

最新情報を授業で紹介することが多いので、講義内容はテーマと同じになるとは限らない。また履修人数によっても、講義内容に変更や、前後する可能性がある。

フランスからリモートで千田勝氏、また場合によってはもう一人ゲスト講師を招待した講義を行う。

【Outline (in English)】

We often use the word "Wild Nature". But that word is an illusion.

We humans have been cultivating nature and created the greatest artifact, the city on the earth.

In a sense, nowadays everything we see is "designed" by human beings.

We will see such the world around us from the perspective of design.

And not only "see", we will also experience "drawing" and "writing" in this class.

DES100NA

デザイン文化論

辻村 亮子

開講時期：春学期授業/Spring | 選択・必修の別：選択

その他属性：〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「手つかずの自然」とはよく聞く言葉です。しかし実はその言葉は幻想に近く、現在地球上にはそのようなものはほとんど残されていません。我々人類は、自然と向きあい、土地を耕し農業を興し、人間がつくったもっとも大きな人工物といわれる「都市」を地球上に生み出してきたのです。

地球上の人間の半分以上、日本に至っては 9 割の人が都市で生活しているという現在、私たちの目にふれるものはすべて人間によって「デザインされたもの」と言ってよいでしょう。

この授業では、こうした自分たちの身のまわりの世界を、デザインという観点から見ていきます。

また 3 学科が集まる人数の多い授業となりますが、「見る」だけではなく、「描く」と「書く」ということも授業で体験してもらう予定です。

【到達目標】

- 1) 「創造したい」という気持ちを育む。
- 2) 「創造」のための目を養う。
- 3) 「創造」のための方法を自分で探究することができる。

【修得できる能力】

総合デザ	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
インカ	◎	◎	○	○	◎	◎

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP2」、都市環境デザイン工学部ディプロマポリシーのうち「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

講義。課題提出。各自のプレゼンテーション。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
4 月 12 日	ガイダンス	授業登録人数の確認（120 名を超える場合は抽選方式）、授業の進め方と注意事項など。
4 月 19 日	イントロダクション	教員の経歴
4 月 26 日	自宅制作のスタディ・課題	自画像と似顔絵 人はなぜ自画像を描くのか？
5 月 10 日	課題のプレゼンテーションと自己紹介 1	自分の作品をプレゼンテーションする。 人の作品を鑑賞する。
5 月 17 日	課題のプレゼンテーションと自己紹介 2	自分の作品をプレゼンテーションする。 人の作品を鑑賞する。
5 月 24 日	課題のプレゼンテーションと自己紹介 3	自分の作品をプレゼンテーションする。 人の作品を鑑賞する。
5 月 31 日	課題のプレゼンテーションと自己紹介 4	自分の作品をプレゼンテーションする。 人の作品を鑑賞する。
6 月 7 日	レオナルド・ダ・ヴィンチとは何か？	現在のレオナルド・ダ・ヴィンチを目指すというのはどういうことなのか？ ダ・ヴィンチの功績をみる。
6 月 14 日	千田勝フランスからのレクチャー	法政大を卒業してブルターニュで設計事務所を主宰する千田勝氏。本年度は「都市をアップデートする」をリモート講義する。
6 月 21 日	西洋文化の源流ギリシアの神殿とその美術	ヨーロッパ文化の二大源流のひとつ、ギリシア文明を見る。パルテノン神殿が現代建築家に与えた影響。
6 月 28 日	都市の観察 1 ヤンゴン	都市化が進むということはどういうことか。 アジアの一都市の発展を政治・文化・宗教的側面とともに考える。
7 月 5 日	都市の観察 2 ヘルシンキ	フィンランドの首都ヘルシンキを例に、ひとつの首都の、過去と現代の建築及び都市施設と交通を考察する。
7 月 12 日	都市の観察 3) 東京	高輪築堤という産業遺産から、鉄道・地下鉄といった都市施設を通して我が国のデザインを振り返り展望する。
7 月 14 日	都市の観察 4) または予備日	東京以外の都市の交通、または、図書館など今の都市施設のデザインの潮流を観察する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

課題作成 5 時間、レポート作成 8 時間

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

授業内で紹介

【成績評価の方法と基準】

レポート 40%、一部授業後の提出物 30%、平常点 30%

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

課題作成のときには、各自自分に合った画材を用意すること。また画像の提出については、スマートフォンの写真ではなくきちんとスキャンして提出すること。

【その他の重要事項】

履修希望者多数の場合は、抽選でクラスの人数を 120 名ほどに限定する可能性がある。

最新情報を授業で紹介することが多いので、講義内容はテーマと同じになるとは限らない。また履修人数によっても、講義内容に変更や、前後する可能性がある。

フランスからリモートで千田勝氏、また場合によってはもう一人ゲスト講師を招待した講義を行う。

【Outline (in English)】

We often use the word "Wild Nature". But that word is an illusion.

We humans have been cultivating nature and created the greatest artifact, the city on the earth.

In a sense, nowadays everything we see is "designed" by human beings.

We will see such the world around us from the perspective of design.

And not only "see", we will also experience "drawing" and "writing" in this class.

DES100ND

色彩論

大高 知子

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：選択

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

人が受け取る情報の8割以上が五感の「視覚」に頼っている。人が1日に触れる色の数は1000万色とも言われる。光・場所・メディア・材質など、様々な要因で変化する「モノや色が見えるしくみ」から、色もたらす意味・効果・色彩情報・色彩計画表現に不可欠な「色彩の基礎」を学ぶ。

【到達目標】

講義から多角的な視点で色彩の概念・本質・知識を理解する。
講義をもとに課題制作を通して、微妙な色の識別判断や色の認知、色彩表現技術を体験し、習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

色彩の知識があることと色彩が使えることは異なるため、段階的に幅広く両者を習得できる手法で進める。
・各回のテーマに沿った講義形式を軸にした授業を行う。
・微妙な色彩の識別判断や色彩表現を学習しながら手作業による課題制作を実施する。
・各回のテーマにかかわる様々な色彩の現物サンプルを提示する。
・提出された課題の中からいくつかを取り上げ、全体に対して講評する。
・提出された発想練習、リアクションペーパー、アンケート等を集計し、全体に対してフィードバックする。
・随時、発想練習、リアクションペーパー、アンケート等を実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の概要と目的、進め方と方法についての説明と確認
2	色彩の始まりと色彩学の基本	自然から学ぶ色彩と古代の色彩 光の干渉・回折などの光学研究の分野を切り開いたニュートンの光学 色彩感情・心理を最初に論じたゲーテの色彩論
3	色の成り立ちと HVC 表現	光と色の三原色 色の三属性 HVC（色相・明度・彩度） 色相環
4	色彩の尺度	様々なカラーオーダーシステムと様々な業界のカラーチャートによる色の数値化表現
5	色の見え・1	色の認知と行動 色覚説モデル 様々な順応・対比 補色・残像 明るさ・色の対比
6	色の見え・2	光源による色の見え 色覚特性 安全と色彩
7	色彩文化・1	西洋文化におけるカラーコミュニケーションの歴史
8	色彩文化・2	日本文化におけるカラーコミュニケーションの歴史

9	情報と色彩	色彩心理 色彩戦略
10	風土と都市と色彩	環境色彩 スーパーグラフィック 景観法の色彩
11	モノとコトと色彩	流行色 イロモノ家電 色の常識 色の可能性
12	イメージの色彩・1	イメージからの色彩配色コンポジション・1
13	イメージの色彩・2	イメージからの色彩配色コンポジション・2
14	今期まとめ	全講義内容、課題の再確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・身の周りの色彩観察
・各回ごとの授業の復習
・手作業による課題制作
・発想練習、リアクションペーパー、アンケート等の作成
本授業の復習、課題制作時間、発想練習等の作成は各1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし。
講義時に必要に応じて別途指示を行う。

【参考書】

特になし。
講義時に必要に応じて別途指示を行う。

【成績評価の方法と基準】

積極的な授業参加と取り組みによる平常点（40%）、および各課題の完成度（60%）を考慮し総合的に評価する。
※未提出物がある学生、4回以上欠席した学生は評価の対象としない（D評価）。遅刻・早退は2回で欠席1回と換算する。（ただし正当な理由がある場合は遅刻・早退、欠席ともその限りではない）

【学生の意見等からの気づき】

講義では色彩の基礎のほか、学生に身近な話題についても多角的な視点から毎年豊富に導入・改善を試みている。
課題を通して色彩認識が深まるため、学生が興味を持ち達成感を得られる内容としている。

【学生が準備すべき機器他】

・課題制作は手作業のためハサミやカッター、定規、ノリなど紙を切り貼りするための道具を使用。
・提出物は学習支援システムを利用する。
・提出物の内容によりスキャンすることがある。

【その他の重要事項】

・初回ガイダンスで発想練習、アンケートを実施する。
・授業の進捗、学生の理解度に応じて、授業計画の内容や順序を変更することがある。
・プロダクトデザイナーとしてのメーカー勤務経験、デザインディレクターとしての現在の経験を活かし、多角的に幅広く色彩に関する講義を行う。

【Outline (in English)】

Over 80 percent of the information which humans receive rely on the perception known as "sight". It is said that everyday we encounter 10 million different colors.

From the sources of changing light and objects such as light, places, media and materials, students will learn the fundamental principles indispensable for describing the implications, effect, information and design of color.

DES300NA

英語表現技術

ベイカー ダンカン

開講時期：秋学期前半/Fall(1st half) | 選択・必修の別：選択

その他属性：〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This English-language presentation course shows you how to create a short PowerPoint presentation efficiently then communicate it effectively

【到達目標】

To understand how simplicity leads to sophistication through key principles of effective design and communication

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP2」、都市環境デザイン工学部ディプロマポリシーのうち「DP4」「DP5」、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP5」に関連。

【授業の進め方と方法】

A Process-based

B Medium = Message

[how to make and give presentations is taught through presentations]

C Preparation x Practice = PRESENCE

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
week 1	Stage 1: Choosing your Topic	Brainstorming & mind-mapping
week 2	Stage 2: Researching	The Rule of 3 The Number 5
week 3	Stage 3: Outlining	5-part structure
week 4	Stage 4: Drafting	The hand-brain connection Slide design
week 5	Stage 5: Refining	Editing: less > more Principles of Presence Presentation practice
week 6	Presentation Week	Class presentations
week 7	Course Review	Feedback The Rule of 3, Number 5, and Letter V

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1 Researching your topic

2 Preparing presentation slides and handout

3 Practicing your presentation

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

None

【参考書】

1. The Presentation Secrets of Steve Jobs, Carmine Gallo
2. The Elements of Typographic Style, Robert Bringhurst
3. The Non-designer's Design Book, Robin Williams

【成績評価の方法と基準】

32% Preparation: meeting deadlines

34% Presentation: content and style

34% Quality of presentation delivery

【学生の意見等からの気づき】

Before, students had to choose a topic related to their major

Now, you have freedom to choose any topic that you are interested in

【学生が準備すべき機器他】

1 notebook computer / tablet

【その他の重要事項】

N/A

DES300NA

英語表現技術

ベイカー ダンカン

開講時期：秋学期前半/Fall(1st half) | 選択・必修の別：選択

その他属性：〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This English-language presentation course shows you how to create a short PowerPoint presentation efficiently then communicate it effectively

【到達目標】

To understand how simplicity leads to sophistication through key principles of effective design and communication

【修得できる能力】

総合デザ イン力	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
◎	◎	○	○	◎	◎	◎

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP2」、都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち「DP4」「DP5」、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP5」に関連。

【授業の進め方と方法】

A Process-based

B Medium = Message

C Preparation x Practice = PRESENCE

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
week 1	Stage 1: Choosing your Topic	Brainstorming & mind-mapping
week 2	Stage 2: Researching	The Rule of 3 The Number 5
week 3	Stage 3: Outlining	5-part structure
week 4	Stage 4: Drafting	The elements of harmonious verbal and visual design: Typography P.A.R.C.
week 5	Stage 5: Refining	Editing: less > more Principles of Presence Presentation practice
week 6	Presentation Week	Class presentations
week 7	VforVendetta	Letter V : Number 5 Rule of 3

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1 Researching your topic

2 Preparing presentation slides and handout

3 Practicing your presentation

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

None

【参考書】

1. The Presentation Secrets of Steve Jobs, Carmine Gallo

2. The Elements of Typographic Style, Robert Bringhurst

3. The Non-designer's Design Book, Robin Williams

【成績評価の方法と基準】

32% Preparation: meeting deadlines

34% Presentation: content and style

34% Quality of presentation delivery

【学生の意見等からの気づき】

Before, students had to choose a topic related to their major area of study

Now, you have freedom to choose topics which you are interested in

【学生が準備すべき機器他】

1 notebook computer / tablet

DES300NA

英語表現技術

ベイカー ダンカン

開講時期：秋学期前半/Fall(1st half) | 選択・必修の別：選択

その他属性：〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This English-language presentation course shows you how to create a short PowerPoint presentation efficiently then communicate it effectively

【その他の重要事項】

N/A

【到達目標】

To understand how simplicity leads to sophistication through key principles of effective design and communication

【修得できる能力】

- (A) 歴史・文化・自然の理解・尊重
- (B) 技術者倫理
- (C) 工学基礎学力 10%
- (D) 専門基礎学力
- (E) 専門知識の活用・応用能力
- (F) 総合デザイン能力
- (G) コミュニケーション能力 90%
- (H) 継続的学習能力
- (I) 業務遂行能力

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP2」、都市環境デザイン工学部ディプロマポリシーのうち「DP4」「DP5」、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP5」に関連。

【授業の進め方と方法】

A Process-based

B Medium = Message

[how to make and give presentations is taught through presentations]

C Preparation x Practice = PRESENCE

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
week 1	Stage 1: Choosing your Topic	Brainstorming & mind-mapping
week 2	Stage 2: Researching	The Rule of 3 The Number 5
week 3	Stage 3: Outlining	5-part structure
week 4	Stage 4: Drafting	The elements of harmonious verbal and visual design: Typography P.A.R.C.
week 5	Stage 5: Refining	Editing: less > more Principles of Presence Presentation practice
week 6	Presentation Week	Class presentations
week 7	V for Vendetta	Letter V : Number 5 Rule of 3

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1. Researching your topic
 2. Preparing presentation slides and handout
 3. Practicing your presentation
- 本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

None

【参考書】

1. The Presentation Secrets of Steve Jobs, Carmine Gallo
2. The Elements of Typographic Style, Robert Bringhurst
3. The Non-designer's Design Book, Robin Williams

【成績評価の方法と基準】

- 32% Preparation: meeting deadlines
- 34% Presentation: content and style
- 34% Quality of presentation delivery

【学生の意見等からの気づき】

Before, students had to choose presentation topics related to their major area of study

Now, you have freedom to choose any topic which interests you

【学生が準備すべき機器他】

You will need in every class of this course:

- 1.notebook computer / tablet

ADE200NA

都市デザイン

高見 公雄

開講時期：春学期前半/Spring(1st half) | 選択・必修の別：選択
備考（履修条件等）：都市：建築士

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉〈S〉〈A〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

都市化の時代から市街地集約の時代に向かう中、都市の質の充実が求められている。都心居住への回帰、中心市街地の衰退、生活の質の変化など、都市に求められる機能や役割は多様化している。今後、既成市街地の質向上を図っていく場合、都市や空間のデザインは重要なキーワードとなる。人々の生き甲斐の充実、多様な魅力享受への欲求等に応え、魅力的な都市を造っていくための都市機能、都市基盤の適正なあり方、また気候風土や地勢を活かした快適空間の拡大や良好な都市景観形成など、都市のあるべき姿を探り、それをデザインし、実現していくための方法の総体を都市デザイン（アーバンデザイン）と捉え、その基礎的な考え方を総合的に学習する。

【到達目標】

都市デザインとは何か、その対象と判断の切り口を理解する。
都市デザインの歴史の概略を知る。
テーマに応じた都市デザインの視点を自ら整理し、形として表現する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP2」、都市環境デザイン工学科、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

第1回から第6回は都市デザインの切り口ごとに状況や考え方を講義し、各回ミニテストにより理解度を確認する。第7回以降は前半の講義を受け、都市デザインのテーマに沿った演習形式とし作図作業を行う。最終的にはスケッチのデジタル化としてドローソフトの使い方を学ぶ。第10回以降に1回程度の現地見学を折り返す。

作図作業に際しては、色鉛筆・マーカー・直定規・三角定規・コンパス・各種テンプレートなどを持参すること。第11回、第12回には貸与PCを持参すること。他学部の学生についてはPCを貸し出す予定としている。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり/Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス/都市デザインの仕事場	街づくり課題が変化していく中で、都市デザインの対象領域、分野、内容をどのように捉えるべきか講義する。
2	都市デザインの課題	多様化する街づくり課題に応える都市デザインを進める上での課題について、対象を類型化しつつ、事例を交えて紹介する。
3	代表的事例と着目点・その1/創造型都市デザイン	これまでの都市デザインの取り組みを見ていく。一つ目は国内で進められた創造型ともいえるべき類型について、方法と成果を紹介する。
4	代表的事例と着目点・その2/誘導型都市デザイン	同様に既存の環境の保全、活用などを基軸にした取り組みについて、方向と成果を紹介する。
5	代表的事例と着目点・その3/歴史、常識集	都市デザインの系譜と常識的に知っておくべき事柄、事例等を整理分類して紹介する。
6	代表的事例と着目点・その4/実行のための事業手法	都市デザインの実行に決定的な意味を持つ事業手法の観点から、手法説明と都市デザインとの相関について講義する。
7	都市デザインの演習・その1/都市または都市圏の概念図	都市や都市圏の構造や将来像の考え方について考え、課題に応じてそれを図化する技術を習得する。
8	都市デザインの演習・その2/空間、景観の解析	主として景観計画などで用いられる計画技法を学ぶとともに、景観誘導の内容とその図示の技術を習得する。
9	都市デザインの演習・その3/中心市街地のデザイン	全国的な課題である中心市街地における都市デザインの可能性や役割を考え、課題に応じてその展開方向を図化する技術を習得する。
10	フィールドワーク/都市再生の都市デザイン	都市デザインに関する留意点を現実の空間で確認するため、街に出る。
11	都市デザインの演習・その4/都市拠点の小空間	都市の重要な地区において進められる拠点整備における都市デザインについて、課題に応じて図をもって提案する技術を習得する。

12	スケッチのデジタル化	演習その1~4で描いたスケッチのいずれかをPCを用いてデジタル化する。イラストレーターの使い方を学ぶ。
13	スケッチのデジタル化、完成	ドローソフトを用いてスケッチをデジタル化するとともに、PC上で一層の書き込みを行いフィニッシュさせる。
14	都市デザインの作法	都市デザインの作法として、都市デザインの歴史、課題、状況そして今後の展望について講義する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義の投影資料は、Hoppiiにアップされる。前回分をHoppiiよりダウンロードし、確認して次回に望むことで理解が深まる。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

学芸出版社「日本の都市を美しくする」土田旭+都市景観研究会編著
鹿島出版会「北のセントラルステーション-アーバンデザインの四半世紀」加藤源+高見公雄+篠原修編著

【成績評価の方法と基準】

各回のミニテスト（50%）並びに作図課題（50%）による。欠席4回以上は単位取得を認めない（評価D）。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

第7回以降の作図課題について、定規や色鉛筆といった製図用器材が必要となる。

【その他の重要事項】

都市計画コンサルタントとして都市デザインや都市政策立案の実務に就いていた教員が、都市デザインの現場状況を含めて講義し、指導を行う。

【Outline (in English)】

This course consists of two components. Lectures will be given on examples of urban design of Japan, accompanied by a test on students' understanding. In addition, training will be held on regarding illustrations of urban problems.

[learning goal]

Understand what urban design is, its targets, and how it is judged.

Get an overview of the history of urban design.

Organize the perspective of urban design according to the theme and express it in a form.

[Learning activities outside the classroom]

Lecture projection materials will be uploaded to Hoppii. You can deepen your understanding by downloading the previous version from Hoppii, checking it, and asking for it next time.

The standard time for preparation and review for this class is 2 hours each.

[Evaluation Criteria/Policy]

Based on the mini-test (50%) and drawing task (50%) each time. Students who are absent 4 or more times will not receive credits (grade D).

ADE200NA

都市デザイン

高見 公雄

開講時期：春学期前半/Spring(1st half) | 選択・必修の別：選択
備考（履修条件等）：都市：建築士

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉〈S〉〈A〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

都市化の時代から市街地集約の時代に向かう中、都市の質の充実が求められている。都心居住への回帰、中心市街地の衰退、生活の質の変化など、都市に求められる機能や役割は多様化している。今後、既成市街地の質向上を図っていく場合、都市や空間のデザインは重要なキーワードとなる。人々の生き甲斐の充実、多様な魅力享受への欲求等に応え、魅力的な都市を造っていくための都市機能、都市基盤の適正なあり方、また気候風土や地勢を活かした快適空間の拡大や良好な都市景観形成など、都市のあるべき姿を探り、それをデザインし、実現していくための方法の総体を都市デザイン（アーバンデザイン）と捉え、その基礎的な考え方を総合的に学習する。

【到達目標】

都市デザインとは何か、その対象と判断の切り口を理解する。
都市デザインの歴史の概略を知る。
テーマに応じた都市デザインの視点を自ら整理し、形として表現する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP2」、都市環境デザイン工学科、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

第1回から第6回は都市デザインの切り口ごとに状況や考え方を講義し、各回ミニテストにより理解度を確認する。第7回以降は前半の講義を受け、都市デザインのテーマに沿った演習形式とし作図作業を行う。最終的にはスケッチのデジタル化としてドローソフトの使い方を学ぶ。第10回以降に1回程度の現地見学を折り返す。

作図作業に際しては、色鉛筆・マーカー・直定規・三角定規・コンパス・各種テンプレートなどを持参すること。第11回、第12回には貸与PCを持参すること。他学部の学生についてはPCを貸し出す予定としている。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり/Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス/都市デザインの仕事場	街づくり課題が変化していく中で、都市デザインの対象領域、分野、内容をどのように捉えるべきか講義する。
2	都市デザインの課題	多様化する街づくり課題に応える都市デザインを進める上での課題について、対象を類型化しつつ、事例を交えて紹介する。
3	代表的事例と着目点・その1/創造型都市デザイン	これまでの都市デザインの取り組みを見ていく。一つ目は国内で進められた創造型ともいえるべき類型について、方法と成果を紹介する。
4	代表的事例と着目点・その2/誘導型都市デザイン	同様に既存の環境の保全、活用などを基軸にした取り組みについて、方向と成果を紹介する。
5	代表的事例と着目点・その3/歴史、常識集	都市デザインの系譜と常識的に知っておくべき事柄、事例等を整理分類して紹介する。
6	代表的事例と着目点・その4/実行のための事業手法	都市デザインの実行に決定的な意味を持つ事業手法の観点から、手法説明と都市デザインとの相関について講義する。
7	都市デザインの演習・その1/都市または都市圏の概念図	都市や都市圏の構造や将来像の考え方について考え、課題に応じてそれを図化する技術を習得する。
8	都市デザインの演習・その2/空間、景観の解析	主として景観計画などで用いられる計画技法を学ぶとともに、景観誘導の内容とその図示の技術を習得する。
9	都市デザインの演習・その3/中心市街地のデザイン	全国的な課題である中心市街地における都市デザインの可能性や役割を考え、課題に応じてその展開方向を図化する技術を習得する。
10	フィールドワーク/都市再生の都市デザイン	都市デザインに関する留意点を現実の空間で確認するため、街に出る。
11	都市デザインの演習・その4/都市拠点の小空間	都市の重要な地区において進められる拠点整備における都市デザインについて、課題に応じて図をもって提案する技術を習得する。

12	スケッチのデジタル化	演習その1~4で描いたスケッチのいずれかをPCを用いてデジタル化する。イラストレーターの使い方を学ぶ。
13	スケッチのデジタル化、完成	ドローソフトを用いてスケッチをデジタル化するとともに、PC上で一層の書き込みを行いフィニッシュさせる。
14	都市デザインの作法	都市デザインの作法として、都市デザインの歴史、課題、状況そして今後の展望について講義する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義の投影資料は、Hoppiiにアップされる。前回分をHoppiiよりダウンロードし、確認して次回に望むことで理解が深まる。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

学芸出版社「日本の都市を美しくする」土田旭+都市景観研究会編著
鹿島出版会「北のセントラルステーション-アーバンデザインの四半世紀」加藤源+高見公雄+篠原修編著

【成績評価の方法と基準】

各回のミニテスト（50%）並びに作図課題（50%）による。欠席4回以上は単位取得を認めない（評価D）。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

第7回以降の作図課題について、定規や色鉛筆といった製図用器材が必要となる。

【その他の重要事項】

都市計画コンサルタントとして都市デザインや都市政策立案の実務に就いていた教員が、都市デザインの現場状況を含めて講義し、指導を行う。

【Outline (in English)】

This course consists of two components. Lectures will be given on examples of urban design of Japan, accompanied by a test on students' understanding. In addition, training will be held on regarding illustrations of urban problems.

【learning goal】

Understand what urban design is, its targets, and how it is judged.

Get an overview of the history of urban design.

Organize the perspective of urban design according to the theme and express it in a form.

【Learning activities outside the classroom】

Lecture projection materials will be uploaded to Hoppii. You can deepen your understanding by downloading the previous version from Hoppii, checking it, and asking for it next time.

The standard time for preparation and review for this class is 2 hours each.

【Evaluation Criteria/Policy】

Based on the mini-test (50%) and drawing task (50%) each time. Students who are absent 4 or more times will not receive credits (grade D).

ADE200NA

都市デザイン

高見 公雄

開講時期：春学期前半/Spring(1st half) | 選択・必修の別：選択
備考（履修条件等）：都市：建築士

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉〈S〉〈A〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

都市化の時代から市街地集約の時代に向かう中、都市の質の充実が求められている。都心居住への回帰、中心市街地の衰退、生活の質の変化など、都市に求められる機能や役割は多様化している。今後、既成市街地の質向上を図っていく場合、都市や空間のデザインは重要なキーワードとなる。人々の生き甲斐の充実、多様な魅力享受への欲求等に応え、魅力的な都市を造っていくための都市機能、都市基盤の適正なあり方、また気候風土や地勢を活かした快適空間の拡大や良好な都市景観形成など、都市のあるべき姿を探り、それをデザインし、実現していくための方法の総体を都市デザイン（アーバンデザイン）と捉え、その基礎的な考え方を総合的に学習する。

【到達目標】

都市デザインとは何か、その対象と判断の切り口を理解する。
都市デザインの歴史の概略を知る。
テーマに応じた都市デザインの視点を自ら整理し、形として表現する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP2」、都市環境デザイン工学科、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

第1回から第6回は都市デザインの切り口ごとに状況や考え方を講義し、各回ミニテストにより理解度を確認する。第7回以降は前半の講義を受け、都市デザインのテーマに沿った演習形式とし作図作業を行う。最終的にはスケッチのデジタル化としてドローソフトの使い方を学ぶ。第10回以降に1回程度の現地見学を折り返す。

作図作業に際しては、色鉛筆・マーカー・直定規・三角定規・コンパス・各種テンプレートなどを持参すること。第11回、第12回には貸与PCを持参すること。他学部の学生についてはPCを貸し出す予定としている。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり/Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス/都市デザインの仕事場	街づくり課題が変化していく中で、都市デザインの対象領域、分野、内容をどのように捉えるべきか講義する。
2	都市デザインの課題	多様化する街づくり課題に応える都市デザインを進める上での課題について、対象を類型化しつつ、事例を交えて紹介する。
3	代表的事例と着目点・その1/創造型都市デザイン	これまでの都市デザインの取り組みを見ていく。一つ目は国内で進められた創造型ともいえるべき類型について、方法と成果を紹介する。
4	代表的事例と着目点・その2/誘導型都市デザイン	同様に既存の環境の保全、活用などを基軸にした取り組みについて、方向と成果を紹介する。
5	代表的事例と着目点・その3/歴史、常識集	都市デザインの系譜と常識的に知っておくべき事柄、事例等を整理分類して紹介する。
6	代表的事例と着目点・その4/実行のための事業手法	都市デザインの実行に決定的な意味を持つ事業手法の観点から、手法説明と都市デザインとの相関について講義する。
7	都市デザインの演習・その1/都市または都市圏の概念図	都市や都市圏の構造や将来像の考え方について考え、課題に応じてそれを図化する技術を習得する。
8	都市デザインの演習・その2/空間、景観の解析	主として景観計画などで用いられる計画技法を学ぶとともに、景観誘導の内容とその図示の技術を習得する。
9	都市デザインの演習・その3/中心市街地のデザイン	全国的な課題である中心市街地における都市デザインの可能性や役割を考え、課題に応じてその展開方向を図化する技術を習得する。
10	フィールドワーク/都市再生の都市デザイン	都市デザインに関する留意点を現実の空間で確認するため、街に出る。
11	都市デザインの演習・その4/都市拠点の小空間	都市の重要な地区において進められる拠点整備における都市デザインについて、課題に応じて図をもって提案する技術を習得する。

12	スケッチのデジタル化	演習その1~4で描いたスケッチのいずれかをPCを用いてデジタル化する。イラストレーターの使い方を学ぶ。
13	スケッチのデジタル化、完成	ドローソフトを用いてスケッチをデジタル化するとともに、PC上で一層の書き込みを行いフィニッシュさせる。
14	都市デザインの作法	都市デザインの作法として、都市デザインの歴史、課題、状況そして今後の展望について講義する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義の投影資料は、Hoppiiにアップされる。前回分をHoppiiよりダウンロードし、確認して次回に望むことで理解が深まる。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

学芸出版社「日本の都市を美しくする」土田旭+都市景観研究会編著
鹿島出版会「北のセントラルステーション-アーバンデザインの四半世紀」加藤源+高見公雄+篠原修編著

【成績評価の方法と基準】

各回のミニテスト（50%）並びに作図課題（50%）による。欠席4回以上は単位取得を認めない（評価D）。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

第7回以降の作図課題について、定規や色鉛筆といった製図用器材が必要となる。

【その他の重要事項】

都市計画コンサルタントとして都市デザインや都市政策立案の実務に就いていた教員が、都市デザインの現場状況を含めて講義し、指導を行う。

【Outline (in English)】

This course consists of two components. Lectures will be given on examples of urban design of Japan, accompanied by a test on students' understanding. In addition, training will be held on regarding illustrations of urban problems.

[learning goal]

Understand what urban design is, its targets, and how it is judged.

Get an overview of the history of urban design.

Organize the perspective of urban design according to the theme and express it in a form.

[Learning activities outside the classroom]

Lecture projection materials will be uploaded to Hoppii. You can deepen your understanding by downloading the previous version from Hoppii, checking it, and asking for it next time.

The standard time for preparation and review for this class is 2 hours each.

[Evaluation Criteria/Policy]

Based on the mini-test (50%) and drawing task (50%) each time. Students who are absent 4 or more times will not receive credits (grade D).

GEO200NA

地図とGIS

丸山 智康、石田 恵一、今井 龍一

開講時期：春学期後半/Spring(2nd half) | 選択・必修の別：選択

その他属性：〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

地域・都市・地区などを計画するには、それぞれの空間のスケールに応じた各種の情報表現が不可欠である。これら空間情報の表現に必要なデータの種類にはどのようなものがあり、分析処理を通じてどのようなことが把握でき、結果をどのように用いることができるのか、地図および地理情報システムを通して学習する。

【到達目標】

空間情報の視覚表現を通したコミュニケーションの方法・基本技術を理解する。
【学習・教育到達目標との関連】

【修得できる能力】

総合デザ 文化性 倫理観 建築の公理 芸術性 教養力 表現力
インカ

◎

◎

○

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP2」「DP4」、都市環境デザイン工学部ディプロマポリシーのうち「DP4」、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP2」に関連。

【授業の進め方と方法】

地図およびGIS（空間（地理）情報システム）について簡単な演習を含み概要を学ぶ。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	全体構成の説明、さまざまな空間表現
2	物的国土とデジタル国土	デジタル国土の特徴、社会基盤整備と情報基盤整備
3	計画と情報	空間スケールと情報、国土・地域・都市の計画、主題図、オーバーレイ、地図情報のデジタル化
4	地理情報システム	空間情報科学、基本機能、データ、システム
5	国土・都市空間に関するデータの種類	紙地図類、デジタルデータ、国土空間データ基盤、データ検索とクリアリングハウス
6	空間情報の基本構造	空間データの構造化、空間の分節化、図形データ、属性データ、点・線・面の次元の相違、位相構造
7	データの取得・変換・蓄積	データ入力、データ変換、標準化、データベース
8	空間分析	空間関係、空間演算子、分析操作、ネットワーク分析、空間分割
9	データの視覚化	記号表現、視覚変数、階級区分と段階記号の設計
10	空間表現	地形モデル、主題図、空間コミュニケーション
11	国土の表現	調査・報告
12	地域・都市の表現	調査・報告
13	地区の表現	調査・報告
14	まとめ	総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内で適宜指示。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業内で適宜指示。

【参考書】

授業内で適宜指示。

【成績評価の方法と基準】

期末試験 70 %、ミニレポート 30 %

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

貸与PCを使用

【その他の重要事項】

コロナ禍等の状況によってはオンライン形態で開催することもある。

文部科学省「デジタルと専門分野の掛け合わせによる産業DXをけん引する高度専門人材育成事業」で導入した教材を活用する予定である。

【Outline (in English)】

To plan a district, city, or area, various kinds of data representation according to the scale of each space are indispensable. This course allows students to learn national spatial data, types and uses of maps, location reference systems, and geographic information systems.

Term end examination : 70 %, Short reports : 30%

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content

GEO200NA

地図とGIS

丸山 智康、石田 恵一、今井 龍一

開講時期：春学期後半/Spring(2nd half) | 選択・必修の別：選択

その他属性：〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

地域・都市・地区などを計画するには、それぞれの空間のスケールに応じた各種の情報表現が不可欠である。これら空間情報の表現に必要なデータの種類にはどのようなものがあり、分析処理を通じてどのようなことが把握でき、結果をどのように用いることができるのか、地図および地理情報システムを通して学習する。

【到達目標】

空間情報の視覚表現を通じたコミュニケーションの方法・基本技術を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP2」「DP4」、都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち「DP4」、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP2」に関連。

【授業の進め方と方法】

地図および GIS（空間（地理）情報システム）について簡単な演習を含み概要を学ぶ。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	全体構成の説明、さまざまな空間表現
2	物的国土とデジタル国土	デジタル国土の特徴、社会基盤整備と情報基盤整備
3	計画と情報	空間スケールと情報、国土・地域・都市の計画、主題図、オーバーレイ、地図情報のデジタル化
4	地理情報システム	空間情報科学、基本機能、データ、システム
5	国土・都市空間に関するデータの種類	紙地図類、デジタルデータ、国土空間データ基盤、データ検索とクリアリングハウス
6	空間情報の基本構造	空間データの構造化、空間の分節化、図形データ、属性データ、点・線・面の次元の相違、位相構造
7	データの取得・変換・蓄積	データ入力、データ変換、標準化、データベース
8	空間分析	空間関係、空間演算子、分析操作、ネットワーク分析、空間分割
9	データの視覚化	記号表現、視覚変数、階級区分と段階記号の設計
10	空間表現	地形モデル、主題図、空間コミュニケーション
11	国土の表現	調査・報告
12	地域・都市の表現	調査・報告
13	地区の表現	調査・報告
14	まとめ	総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内で適宜指示。

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業内で適宜指示。

【参考書】

授業内で適宜指示。

【成績評価の方法と基準】

期末試験 70 %、ミニレポート 30 %

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

貸与 PC を使用

【その他の重要事項】

コロナ禍等の状況によってはオンライン形態で開催することもある。

文部科学省「デジタルと専門分野の掛け合わせによる産業 DX をけん引する高度専門人材育成事業」で導入した教材を活用する予定である。

【Outline (in English)】

To plan a district, city, or area, various kinds of data representation according to the scale of each space are indispensable. This course allows students to learn national spatial data, types and uses of maps, location reference systems, and geographic information systems.

Term end examination : 70 %, Short reports : 30%

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content

GEO200NA

地図とGIS

丸山 智康、石田 恵一、今井 龍一

開講時期：春学期後半/Spring(2nd half) | 選択・必修の別：選択

その他属性：〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

地域・都市・地区などを計画するには、それぞれの空間のスケールに応じた各種の情報表現が不可欠である。これら空間情報の表現に必要なデータの種類にはどのようなものがあり、分析処理を通じてどのようなことが把握でき、結果をどのように用いることができるのか、地図および地理情報システムを通して学習する。

【到達目標】

空間情報の視覚表現を通じたコミュニケーションの方法・基本技術を理解する。

【修得できる能力】

- (A) 歴史・文化・自然の理解・尊重
 (B) 技術者倫理
 (C) 工学基礎学力 40%
 (D) 専門基礎学力 40%
 (E) 専門知識の活用・応用能力 20%
 (F) 総合デザイン能力
 (G) コミュニケーション能力
 (H) 継続的学習能力
 (I) 業務遂行能力

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP2」「DP4」、都市環境デザイン工学部ディプロマポリシーのうち「DP4」、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP2」に関連。

【授業の進め方と方法】

地図およびGIS（空間（地理）情報システム）について簡単な演習を含み概要を学ぶ。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	全体構成の説明、さまざまな空間表現
2	物的国土とデジタル国土	デジタル国土の特徴、社会基盤整備と情報基盤整備
3	計画と情報	空間スケールと情報、国土・地域・都市の計画、主題図、オーバーレイ、地図情報のデジタル化
4	地理情報システム	空間情報科学、基本機能、データ、システム
5	国土・都市空間に関するデータの種類	紙地図類、デジタルデータ、国土空間データ基盤、データ検索とクリアリングハウス
6	空間情報の基本構造	空間データの構造化、空間の分節化、図形データ、属性データ、点・線・面の次元の相違、位相構造
7	データの取得・変換・蓄積	データ入力、データ変換、標準化、データベース
8	空間分析	空間関係、空間演算子、分析操作、ネットワーク分析、空間分割
9	データの視覚化	記号表現、視覚変数、階級区分と段階記号の設計
10	空間表現	地形モデル、主題図、空間コミュニケーション
11	国土の表現	調査・報告
12	地域・都市の表現	調査・報告
13	地区の表現	調査・報告
14	まとめ	総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内で適宜指示。
 本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業内で適宜指示。

【参考書】

授業内で適宜指示。

【成績評価の方法と基準】

期末試験 70 %、ミニレポート 30 %

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

貸与 PC を使用

【その他の重要事項】

コロナ禍等の状況によってはオンライン形態で開催することもある。
 文部科学省「デジタルと専門分野の掛け合わせによる産業 DX をけん引する高度専門人材育成事業」で導入した教材を活用する予定である。

【Outline (in English)】

To plan a district, city, or area, various kinds of data representation according to the scale of each space are indispensable. This course allows students to learn national spatial data, types and uses of maps, location reference systems, and geographic information systems.

Term end examination : 70 %, Short reports : 30%

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content

CST200NA

都市・地域政策

土屋 愛自

開講時期：春学期前半/Spring(1st half) | 選択・必修の別：選択

その他属性：〈優〉〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は持続可能な都市を構築するための政策の有効性について学ぶことをねらいとする。そのために、都市を取り巻く社会状況の変化、全国で展開している様々なまちづくりの施策（諸外国の施策の比較を含む）について理解を深めつつその課題や評価手法を学ぶ。また、演習を通じて具体的な政策立案方法についても取り組む。詳しくは授業計画参照。

【到達目標】

政策の評価をどのように行うのか学ぶことは、社会人になってからも有用であると考えられる。本講義の到達目標は知識の習得はもちろんであるが、政策課題に対する関心を深め、政策判断の思考力・企画力を養うことである。

【修得できる能力】

総合デザ イン力	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
○	◎	○	○	○	◎	◎

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科、都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち「DP4」、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP2」に関連。

【授業の進め方と方法】

本講義は基本的に講義方式で行う。また、段階的な3つの課題に取り組むこと中で都市政策手法の基礎的な内容と流れについて学ぶ。実社会では、プレゼン力、説得力が強く求められているため、各3回の課題については、個別にプレゼンを実施し、コメントする。なお、課題の提出・フィードバックは、「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション、都市を取り巻く環境の変化等	授業計画、授業の進め方、課題レポートの説明、成績評価、少子高齢化、インフラの老朽化により何が問題となるか
2	国と地方の関係（地方分権の視点）	国と地方の関係（政令市、特別区、中核市）：地方分権の到達点と課題、平成の市町村合併の課題と評価
3	求められる都市の構造（コンパクトシティ政策）	コンパクトシティ政策とその具体的な内容・都市再生特別措置法の改正（立地適正化計画の概要）
4	中心市街地の再生方策（中心市街地活性化法）（1）	中心市街地活性化にかかる法律の変遷と施策の評価（静岡市、富山市他）
5	演習課題（1）検討地区の設定	検討地区の設定と理由、地区の現況分析
6	中心市街地の再生方策（構造改革特区制度等）（2）	構造改革特区、地域活性化総合特区の具体的な取り組み（柏市、神戸市、船橋市、さいたま市他）
7	中心市街地の再生方策（エリアマネジメント）（3）	エリアマネジメントの必要性和先進事例の評価（大阪市、鎌ヶ谷市、高松市、飯田市他）
8	地方中心都市の再生方策	新潟県長岡市の取り組みと評価
9	まちづくりの新たな潮流（健康・医療・福祉のまちづくり）	高齢化社会に向けた健康・医療・福祉に配慮したまちづくりの必要性和具体的な取り組み（岩手県紫波町の事例）
10	演習課題（2）	演習（1）で設定した地区の定量的な分析
11	都市計画制度の変遷	我が国の都市計画制度の変遷と課題解決の方法（長期未着手の基盤整備、都市施設等）
12	演習課題（2）についての中間発表	課題解決地区の定量評価についての発表
13	諸外国の都市政策（欧米・アジア）	諸外国の都市計画制度の特徴と具体事例（ニューヨーク、ドイツ、中国、韓国の都市計画制度の特徴）
14	演習課題（3）持続可能な都市づくりに向けての課題レポート	持続可能な都市づくりにおける政策提言レポートの発表

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

履修登録前にシラバスの確認をすること。授業内で示される課題については、発表するためプレゼンの準備をすること。本授業の準備学習・復習時間は、各4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。

【参考書】

コンパクトシティ実現のための都市計画制度～平成26年改正都市再生法・都市計画法の解説～（ぎょうせい）都市計画法制度研究会編集、まちづくり三法の見直し～改正都市計画法・中心市街地活性化法等の解説 Q & A（ぎょうせい）都市計画・中心市街地活性化法制研究会編集、都市のクオリティ・ストック～土地利用・緑地・交通の総合戦略～（鹿島出版会）林良嗣・土井健司・加藤博和

【成績評価の方法と基準】

成績評価の方法については、下記のとおりとする。

- ①課題レポート（1）：調査地区の設定と現状分析：30%
- ②課題レポート（2）：調査地区の定量評価：30%
- ③課題レポート（3）：調査地区での政策提案：40%

【学生の意見等からの気づき】

出来るだけ受講生の発言の機会をもつ。

【学生が準備すべき機器他】

成果物についての提出は、学習支援システムを使用する。

【その他の重要事項】

現在、政令市（さいたま市）に勤務し、都市計画部門を所掌している。自身の経験から地方自治体の抱えるまちづくりの課題等について講義する。

【Outline (in English)】

【Course outline】The aim of this course is to study the effectiveness of policy for the creation of sustainable cities. This course deals with basic concepts of change in social conditions surrounding the city, a concern and evaluation problem for domestic town planning policy (a comparative study on overseas cases will be made). It also aims to enhance existing methods of policy making. Please refer to the schedule for detailed information.

【Learning Objectives】

The goal of this class is not only knowledge acquisition, but also cultivating policy issues and feeding logical thinking and planning ability for policy judgment.

【Learning activities outside of classroom】

Confirm a syllabus before an entry of this class.

Presentation of the result of exercises need in this class.

This class needs 4hours of preparation and reviewing for each contents.

【Grading Criteria/Policy】

To be evaluated as below;

- report01 ; Setting model area and analyzing. 30%
- report02 ; Quantitative evaluation of model area. 30%
- report03 ; Policy proposal for model area. 40%

CST200NA

都市・地域政策

土屋 愛自

開講時期：春学期前半/Spring(1st half) | 選択・必修の別：選択

その他属性：〈優〉〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は持続可能な都市を構築するための政策の有効性について学ぶことをねらいとする。そのために、都市を取り巻く社会状況の変化、全国で展開している様々なまちづくりの施策（諸外国の施策の比較を含む）について理解を深めつつその課題や評価手法を学ぶ。また、演習を通じて具体的な政策立案方法についても取り組む。詳しくは授業計画参照。

【到達目標】

政策の評価をどのように行うのか学ぶことは、社会人になってからも有用であると考えられる。本講義の到達目標は知識の習得はもちろんであるが、政策課題に対する関心を深め、政策判断の思考力・企画力を養うことである。

【修得できる能力】

- (A) 歴史・文化・自然の理解・尊重
- (B) 技術者倫理
- (C) 工学基礎学力 40%
- (D) 専門基礎学力 40%
- (E) 専門知識の活用・応用能力 20%
- (F) 総合デザイン能力
- (G) コミュニケーション能力
- (H) 継続的学習能力
- (I) 業務遂行能力

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科、都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち「DP4」、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP2」に関連。

【授業の進め方と方法】

本講義は基本的に講義方式で行う。また、段階的な3つの課題に取り組むことの中で都市政策手法の基礎的な内容と流れについて学ぶ。実社会では、プレゼン力、説得力が強く求められているため、各3回の課題については、個別にプレゼンを実施し、コメントする。なお、課題の提出・フィードバックは、「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション、都市を取り巻く環境の変化等	授業計画、授業の進め方、課題レポートの説明、成績評価、少子高齢化、インフラの老朽化により何が問題となるか
2	国と地方の関係（地方分権の視点）	国と地方の関係（政令市、特別区、中核市）：地方分権の到達点と課題、平成の市町村合併の課題と評価
3	求められる都市の構造（コンパクトシティ政策）	コンパクトシティ政策とその具体的な内容・都市再生特別措置法の改正（立地適正化計画の概要）
4	中心市街地の再生方策（中心市街地活性化法）（1）	中心市街地活性化にかかる法律の変遷と施策の評価（静岡市、富山市他）
5	演習課題（1）検討地区の設定	検討地区の設定と理由、地区の現況分析
6	中心市街地の再生方策（構造改革特区制度等）（2）	構造改革特区、地域活性化総合特区の具体的な取り組み（柏市、神戸市、船橋市、さいたま市他）
7	中心市街地の再生方策（エリアマネジメント）（3）	エリアマネジメントの必要性和先進事例の評価（大阪市、鎌ヶ谷市、高松市、飯田市他）
8	地方中心都市の再生方策	新潟県長岡市の取り組みと評価
9	まちづくりの新たな潮流（健康・医療・福祉のまちづくり）	高齢化社会に向けた健康・医療・福祉に配慮したまちづくりの必要性和具体的な取り組み（岩手県紫波町の事例）
10	演習課題（2）	演習（1）で設定した地区の定量的な分析
11	都市計画制度の変遷	我が国の都市計画制度の変遷と課題解決の方法（長期未着手の基盤整備、都市施設等）
12	演習課題（2）についての中間発表	課題解決地区の定量的評価についての発表
13	諸外国の都市政策（欧米・アジア）	諸外国の都市計画制度の特徴と具体事例（ニューヨーク、ドイツ、中国、韓国の都市計画制度の特徴

14 演習課題（3）持続可能な都市づくりにおける政策提言レポートの発表
持続可能な都市づくりに向けての課題レポート

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

履修登録前にシラバスの確認をすること。授業内で示される課題については、発表するためプレゼンの準備をすること。本授業の準備学習・復習時間は、各4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。

【参考書】

コンパクトシティ実現のための都市計画制度～平成26年改正都市再生法・都市計画法の解説～（ぎょうせい）都市計画法制度研究会編集、まちづくり三法の見直し～改正都市計画法・中心市街地活性化法等の解説 Q & A（ぎょうせい）都市計画・中心市街地活性化法制研究会編集、都市のクオリティ・ストック～土地利用・緑地・交通の総合戦略～（鹿島出版会）林良嗣・土井健司・加藤博和

【成績評価の方法と基準】

成績評価方法は、下記のとおりとする。
①課題レポート（1）：調査地区の設定と現状分析：30%
②課題レポート（2）：調査地区の定量評価：30%
③課題レポート（3）：調査地区での政策提案：40%

【学生の意見等からの気づき】

出来るだけ受講生の発言の機会をもつ。

【学生が準備すべき機器他】

成果物についての提出は、学習支援システムを使用する。

【その他の重要事項】

現在、政令市（さいたま市）に勤務し、都市計画部門を所掌している。自身の経験から地方自治体の抱えるまちづくりの課題等について講義する。

【Outline (in English)】

【Course outline】 The aim of this course is to study the effectiveness of policy for the creation of sustainable cities. This course deals with basic concepts of change in social conditions surrounding the city, a concern and evaluation problem for domestic town planning policy (a comparative study on oversea cases will be made). It also aims to enhance existing methods of policy making. Please refer to the schedule for detailed information.

【Learning Objectives】

The goal of this class is not only knowledge acquisition, but also cultivating policy issues and feeding logical thinking and planning ability for policy judgment.

【Learning activities outside of classroom】

Confirm a syllabus before an entry of this class. Presentation of the result of exercises need in this class. This class needs 4hours of preparation and reviewing for each contents.

【Grading Criteria/Policy】

To be evaluated as below;
report01 ; Setting model area and analyzing. 30%
report02 ; Quantitative evaluation of model area. 30%
report03 ; Policy proposal for model area. 40%

CST200NA

都市・地域政策

土屋 愛自

開講時期：春学期前半/Spring(1st half) | 選択・必修の別：選択

その他属性：〈優〉〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は持続可能な都市を構築するための政策の有効性について学ぶことをねらいとする。そのために、都市を取り巻く社会状況の変化、全国で展開している様々なまちづくりの施策（諸外国の施策の比較を含む）について理解を深めつつその課題や評価手法を学ぶ。また、演習を通じて具体的な政策立案方法についても取り組む。詳しくは授業計画参照。

【到達目標】

政策の評価をどのように行うのか学ぶことは、社会人になってからも有用であると考える。本講義の到達目標は知識の習得はもちろんであるが、政策課題に対する関心を深め、政策判断の思考力・企画力を養うことである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科、都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち「DP4」、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP2」に関連。

【授業の進め方と方法】

本講義は基本的に講義方式で行う。また、段階的な3つの課題に取り組むことの中で都市政策手法の基礎的な内容と流れについて学ぶ。実社会では、プレゼン力、説得力が強く求められているため、各3回の課題については、個別にプレゼンを実施し、コメントする。なお、課題の提出・フィードバックは、「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション、都市を取り巻く環境の変化等	授業計画、授業の進め方、課題レポートの説明、成績評価、少子高齢化、インフラの老朽化により何が問題となるか
2	国と地方の関係（地方分権の視点）	国と地方の関係（政令市、特別区、中核市）：地方分権の到達点と課題、平成の市町村合併の課題と評価
3	求められる都市の構造（コンパクトシティ政策）	コンパクトシティ政策とその具体的な内容・都市再生特別措置法の改正（立地適正化計画の概要）
4	中心市街地の再生方策（中心市街地活性化法）（1）	中心市街地活性化にかかる法律の変遷と施策の評価（静岡市、富山市他）
5	演習課題（1）検討地区の設定	検討地区の設定と理由、地区の現況分析
6	中心市街地の再生方策（構造改革特区制度等）（2）	構造改革特区、地域活性化総合特区の具体的な取り組み（柏市、神戸市、船橋市、さいたま市他）
7	中心市街地の再生方策（エリアマネジメント）（3）	エリアマネジメントの必要性和先進事例の評価（大阪市、鎌ヶ谷市、高松市、飯田市他）
8	地方中心都市の再生方策	新潟県長岡市の取り組みと評価
9	まちづくりの新たな潮流（健康・医療・福祉のまちづくり）	高齢化社会に向けた健康・医療・福祉に配慮したまちづくりの必要性和具体的な取り組み（岩手県紫波町の事例）
10	演習課題（2）	演習（1）で設定した地区の定量的な分析
11	都市計画制度の変遷	我が国の都市計画制度の変遷と課題解決の方法（長期未着手の基盤整備、都市施設等）
12	演習課題についての中間発表	課題解決地区の定量評価についての発表
13	諸外国の都市政策（欧米・アジア）	諸外国の都市計画制度の特徴と具体事例（ニューヨーク、ドイツ、中国、韓国の都市計画制度の特徴）
14	演習課題（3）持続可能な都市づくりに向けての課題レポート	持続可能な都市づくりにおける政策提言レポートの発表

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

履修登録前にシラバスの確認をすること。授業内で示される課題については、発表するためプレゼンの準備をすること。本授業の準備学習・復習時間は、各4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。

【参考書】

コンパクトシティ実現のための都市計画制度～平成26年改正都市再生法・都市計画法の解説～（ぎょうせい）都市計画法制度研究会編集、まちづくり三法の見直し～改正都市計画法・中心市街地活性化法等の解説 Q & A（ぎょうせい）都市計画・中心市街地活性化法制研究会編集、都市のクオリティ・ストック～土地利用・緑地・交通の総合戦略～（鹿島出版会）林良嗣・土井健司・加藤博和

【成績評価の方法と基準】

成績評価の方法は以下の通り

- ①課題レポート（1）：調査地区の設定と現状分析：30%
 ②課題レポート（2）：調査地区の定量評価：30%
 ③課題レポート（3）：調査地区での政策提案：40%

【学生の意見等からの気づき】

出来るだけ受講生の発言の機会をもつ。

【学生が準備すべき機器他】

成果物についての提出は、学習支援システムを使用する。

【その他の重要事項】

現在、政令市（さいたま市）に勤務し、都市計画部門を所掌している。自身の経験から地方自治体の抱えるまちづくりの課題等について講義をする。

【Outline (in English)】

【Course outline】 The aim of this course is to study the effectiveness of policy for the creation of sustainable cities. This course deals with basic concepts of change in social conditions surrounding the city, a concern and evaluation problem for domestic town planning policy (a comparative study on overseas cases will be made). It also aims to enhance existing methods of policy making. Please refer to the schedule for detailed information.

【Learning Objectives】

The goal of this class is not only knowledge acquisition, but also cultivating policy issues and feeding logical thinking and planning ability for policy judgment.

【Learning activities outside of classroom】

Confirm a syllabus before an entry of this class.

Presentation of the result of exercises need in this class.

This class needs 4hours of preparation and reviewing for each contents.

【Grading Criteria/Policy】

To be evaluated as below;

- report01 ; Setting model area and analyzing. 30%
 report02 ; Quantitative evaluation of model area. 30%
 report03 ; Policy proposal for model area. 40%

DES300NA

公共空間デザイン及演習

竹内 豪、下吹越 武人、高見 公雄、杉浦 榮、伊藤 登

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：選択

備考（履修条件等）：都市：建築士

その他属性：〈優〉〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

3学科共通の学部科目であり、3学科の学生が協力して都市空間の計画・設計を行う。都市はその広域的な位置づけやその場の特性に応じて、都市基盤施設、建築物、様々な機器により構成されている。この科目ではこれらを総合的に計画、設計するための考え方や技法を学ぶ。

【到達目標】

与えられた場所の特性を読み、科学的、社会的背景に応じた街づくりの解答を得る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP2」、都市環境デザイン工学部ディプロマポリシーのうち「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

教員は基盤施設計画・土木デザイン、環境設計・ランドスケープデザイン、都市設計・まちづくり、建築設計、プロダクトデザインと多様な構成としており、都市空間の大から小までを対象に、計画設計を学ぶ。実践的経験を積むことを狙いとして、公益財団法人等が実施する計画コンペを題材に、参加登録し当授業の成果を当該コンペに提出する予定としている。

新型コロナウイルス対策を講じつつ、必要な範囲で対面型授業として実施予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり/Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	授業の進め方、小課題	授業内容、進め方の説明。希望者多数で選抜が必要な場合小課題を課し、その結果をもって受講継続の可否を判断する。
2	第一課題の説明、検討の視点、事例等の説明	第一課題は、公共空間単体かつその内部空間の計画・設計とし、各自で行う。これに向けた視点等を教員より説明する。
3	第一課題エスキス	第一課題のエスキスを基に、計画・設計の考え方について検討、議論する。
4	第一課題仕上げ	第一課題を仕上げ、提出直前の段階まで進める。
5	第一課題提出、講評	第一課題の提出を受け、優秀作について発表、講評を行う。
6	第二課題説明、グループ編成	第二課題は地区レベルの空間を扱うものとし、地区再編の考え方整理から具体的な小空間の設計までを行う。
7	グループ検討	方針検討、計画の全体企画、各者の役割などを検討する。
8	方針に関するエスキス	対象地区の再編方針についてのエスキスを持ち寄り指導を受ける。
9	グループ作業	次の段階の作業を行う。
10	計画レベルのエスキス	計画レベルのエスキスを持ち寄り指導を受ける。
11	各者作業	仕上げに向けた作業を行う。
12	仕上げレベルのエスキス	最終形が見えるレベルの図面により指導を受ける。
13	作品の仕上げ作業	仕上げ作業を行う。
14	発表、講評	完成品を持って発表を行い、講評を受ける。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

まちを歩きながら、対象となる公共空間を観察する。まちに興味を持つ。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

必要な資料を配布する。

【参考書】

建築資料研究社『日本の都市環境デザイン 1・2・3』都市環境デザイン会議著
日本の都市環境デザイン 85-95、日本の美しい町並み事例（都市づくりパブリックデザインセンター）など

【成績評価の方法と基準】

中間提出物、エスキス対応（30%）、最終成果物（70%）。欠席4回以上は単位取得を認めない（評価D）。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

図面の仕上げにおいて、貸与PCを用いてCADまたはドロー系ソフトにより作図する必要がある。三角定規、三角スケール、色鉛筆などの製図機器が必要となる。

【その他の重要事項】

都市計画コンサルタントとして都市デザインや都市政策立案の実務に就いていた教員が、都市デザインの現場状況を含めて講義し、指導を行う。

【Outline (in English)】

In this course, students will learn the concepts and techniques for comprehensive planning and designing of cities.

Intermediate deliverables, Esquisse correspondence (30%), Final deliverables (70%). Students who are absent 4 or more times will not be allowed to acquire credits (grade D).

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content

DES300NA

公共空間デザイン及演習

竹内 豪、下吹越 武人、高見 公雄、杉浦 榮、伊藤 登

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：選択

備考（履修条件等）：都市：建築士

その他属性：〈優〉〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

3学科共通の学部科目であり、3学科の学生が協力して都市空間の計画・設計を行う。都市はその広域的な位置づけやその場の特性に応じて、都市基盤施設、建築物、様々な機器により構成されている。この科目ではこれらを総合的に計画、設計するための考え方や技法を学ぶ。

【到達目標】

与えられた場所の特性を読み、科学的、社会的背景に応じた街づくりの解答を得る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP2」、都市環境デザイン工学部ディプロマポリシーのうち「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

教員は基盤施設計画・土木デザイン、環境設計・ランドスケープデザイン、都市設計・まちづくり、建築設計、プロダクトデザインと多様な構成としており、都市空間の大きから小までを対象に、計画設計を学ぶ。実践的経験を積むことを狙いとして、公益財団法人等が実施する計画コンペを題材に、参加登録し当授業の成果を当該コンペに提出する予定としている。

新型コロナウイルス対策を講じつつ、必要な範囲で対面型授業として実施予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり/Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	授業の進め方、小課題	授業内容、進め方の説明。希望者多数で選抜が必要な場合小課題を課し、その結果をもって受講継続の可否を判断する。
2	第一課題の説明、検討の視点、事例等の説明	第一課題は、公共空間単体かつその内部空間の計画・設計とし、各自で行う。これに向けた視点等を教員より説明する。
3	第一課題エスキス	第一課題のエスキスを基に、計画・設計の考え方について検討、議論する。
4	第一課題仕上げ	第一課題を仕上げ、提出直前の段階まで進める。
5	第一課題提出、講評	第一課題の提出を受け、優秀作について発表、講評を行う。
6	第二課題説明、グループ編成	第二課題は地区レベルの空間を扱うものとし、地区再編の考え方整理から具体的な小空間の設計までを行う。
7	グループ検討	方針検討、計画の全体企画、各者の役割などを検討する。
8	方針に関するエスキス	対象地区の再編方針についてのエスキスを持ち寄り指導を受ける。
9	グループ作業	次の段階の作業を行う。
10	計画レベルのエスキス	計画レベルのエスキスを持ち寄り指導を受ける。
11	各者作業	仕上げに向けた作業を行う。
12	仕上げレベルのエスキス	最終形が見えるレベルの図面により指導を受ける。
13	作品の仕上げ作業	仕上げ作業を行う。
14	発表、講評	完成品を持って発表を行い、講評を受ける。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

まちを歩きながら、対象となる公共空間を観察する。まちに興味を持つ。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

必要な資料を配布する。

【参考書】

建築資料研究社『日本の都市環境デザイン 1・2・3』都市環境デザイン会議著
日本の都市環境デザイン 85-95、日本の美しい町並み事例（都市づくりパブリックデザインセンター）など

【成績評価の方法と基準】

中間提出物、エスキス対応（30%）、最終成果物（70%）。欠席4回以上は単位取得を認めない（評価D）。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

図面の仕上げにおいて、貸与PCを用いてCADまたはドロー系ソフトにより作図する必要がある。三角定規、三角スケール、色鉛筆などの製図機器が必要となる。

【その他の重要事項】

都市計画コンサルタントとして都市デザインや都市政策立案の実務に就いていた教員が、都市デザインの現場状況を含めて講義し、指導を行う。

【Outline (in English)】

In this course, students will learn the concepts and techniques for comprehensive planning and designing of cities.

Intermediate deliverables, Esquisse correspondence (30%), Final deliverables (70%). Students who are absent 4 or more times will not be allowed to acquire credits (grade D).

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content

CST300NA

公共空間デザイン及演習

竹内 豪、下吹越 武人、高見 公雄、杉浦 榮、伊藤 登

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：選択

備考（履修条件等）：都市：建築士

その他属性：〈優〉〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

3学科共通の学部科目であり、3学科の学生が協力して都市空間の計画・設計を行う。都市はその広域的な位置づけやその場の特性に応じて、都市基盤施設、建築物、様々な機器により構成されている。この科目ではこれらを総合的に計画、設計するための考え方や技法を学ぶ。

【到達目標】

与えられた場所の特性を読み、科学的、社会的背景に応じた街づくりの解答を得る。

【修得できる能力】

(A) 歴史・文化・自然の理解・尊重	30%
(B) 技術者倫理	30%
(C) 工学基礎学力	20%
(D) 専門基礎学力	
(E) 専門知識の活用・応用力	
(F) 総合デザイン能力	20%
(G) コミュニケーション能力	
(H) 継続的学習能力	
(I) 業務遂行能力	

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP2」、都市環境デザイン工学部ディプロマポリシーのうち「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

教員は基盤施設計画・土木デザイン、環境設計・ランドスケープデザイン、都市設計・まちづくり、建築設計、プロダクトデザインと多様な構成としており、都市空間の大から小までを対象に、計画設計を学ぶ。実践的経験を積むことを狙いとして、公益財団法人等が実施する計画コンペを題材に、参加登録し当授業の成果を当該コンペに提出する予定としている。新型コロナウイルス対策を講じつつ、必要な範囲で対面型授業として実施予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり/Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	授業の進め方、小課題	授業内容、進め方の説明。希望者多数で選抜が必要な場合小課題を課し、その結果をもって受講継続の可否を判断する。
2	第一課題の説明、検討の視点、事例等の説明	第一課題は、公共空間単体かつその内部空間の計画・設計とし、各自で行う。これに向けた視点等を教員より説明する。
3	第一課題エスキス	第一課題のエスキスを基に、計画・設計の考え方について検討、議論する。
4	第一課題仕上げ	第一課題を仕上げ、提出直前の段階まで進める。
5	第一課題提出、講評	第一課題の提出を受け、優秀作について発表、講評を行う。
6	第二課題説明、グループ編成	第二課題は地区レベルの空間を扱うものとし、地区再編の考え方整理から具体的な小空間の設計までを行う。
7	グループ検討	方針検討、計画の全体企画、各者の役割などを検討する。
8	方針に関するエスキス	対象地区の再編方針についてのエスキスを持ち寄り指導を受ける。
9	グループ作業	次の段階の作業を行う。
10	計画レベルのエスキス	計画レベルのエスキスを持ち寄り指導を受ける。
11	各者作業	仕上げに向けた作業を行う。
12	仕上げレベルのエスキス	最終形が見えるレベルの図面により指導を受ける。
13	作品の仕上げ作業	仕上げ作業を行う。
14	発表、講評	完成品を持って発表を行い、講評を受ける。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

まちを歩きながら、対象となる公共空間を観察する。まちに興味を持つ。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

必要な資料を配布する。

【参考書】

建築資料研究社『日本の都市環境デザイン 1・2・3』都市環境デザイン会議著 日本の都市環境デザイン 85-95、日本の美しい町並み事例（都市づくりパブリックデザインセンター）など

【成績評価の方法と基準】

中間提出物、エスキス対応（30%）、最終成果物（70%）。欠席4回以上は単位取得を認めない（評価D）。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

図面の仕上げにおいて、貸与PCを用いてCADまたはドロー系ソフトにより作図する必要がある。三角定規、三角スケール、色鉛筆などの製図機器が必要となる。

【その他の重要事項】

都市計画コンサルタントとして都市デザインや都市政策立案の実務に就いていた教員が、都市デザインの現場状況を含めて講義し、指導を行う。

【Outline (in English)】

In this course, students will learn the concepts and techniques for comprehensive planning and designing of cities.

Intermediate deliverables, Esquisse correspondence (30%), Final deliverables (70%). Students who are absent 4 or more times will not be allowed to acquire credits (grade D).

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content

DES200NA

デザイン思想史概論（2019年度以降入学生）

高橋 美礼

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：選択

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

近代および現代デザインを主軸に、デザイン史における様々な思想を俯瞰する講義です。モダンデザインへ至るまでに近代社会が獲得してきた技術力や社会制度にも触れつつ、アートとの関わりなど文化的な背景にも広く目を向けて解説します。

国内外のデザイン思想を遡ることで、デザインには思想が不可欠であることを学び、将来へ役立つデザインリテラシーを身につける一助としてください。

【到達目標】

・さまざまなデザイン・ムーブメントの主要人物と作品を知り、その思想を学び、さらにそれぞれのムーブメントの関連性についての知識を高めることで、今の自分の価値観や美意識を形成するルーツを再認識する。
・それぞれのデザイン・ムーブメントの時代背景を学ぶことから、今という時代を考え、これからの時代におけるデザインの役割について、幅広い価値観を構築する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP1」、都市環境デザイン工学部ディプロマポリシーのうち「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

新型コロナウイルス感染防止対策に応じて、オンライン（遠隔授業）を併用します。

講義を聴講して、毎回ミニレポートを提出してください。ミニレポートで取り上げるテーマや課題は、授業中に発表しますので、聞き逃さないように注意しながら授業に集中してください。

授業の無断録画、無断スクリーンショットを禁止します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	モダンデザイン前史	産業革命までの社会と近代都市のはじまりを知る。ルネサンス時代以降、デザインという新しい概念が芽生えた時代背景まで遡る。
2	産業革命からアーツ・アンド・クラフツ-1	蒸気機関の発明による近代社会の変化と、その後数十年をかけて変化した欧州の人々の生活と思想を探る。
3	産業革命からアーツ・アンド・クラフツ-2	アーツ・アンド・クラフツ運動に見る、イギリスのゴシックリバイバルと、同時代の日本やアメリカについて考える。
4	モダンデザインの成立と19世紀末-1	消費という概念の誕生とモダンデザインの成立。アール・ヌーボーに代表される新表現への希求を各国の様相から知る。
5	モダンデザインの成立と19世紀末-2	ウィーン分離派の影響と日本への波及。ブルジョアジーの台頭による社会構造の変化を知る。
6	工業化と量産化へ向かう社会-1	ユーゲントシュティール、AEG社、バウハウスを実例に、芸術と産業の統合というモダンデザインの理念を読み解く。
7	工業化と量産化へ向かう社会-2	バウハウスと同時代の各国の動きを総覧しながら、2つの世界大戦間で揺らぎ、または登場した新興勢力について考える。
8	高度大量消費時代のはじまり	インダストリアルデザイナーが職業として成立したマシンエイジを中心に、大量消費時代の背景を読み解く。
9	工業デザインの確立-1	第二次世界大戦後のシャカ主義、ファシズム、デモクラシーといった価値観を通じてイデオロギーの時代に焦点を当てる。
10	工業デザインの確立-2	ミッドセンチュリーに代表される、科学技術とデザインの結びつきから興った動きを振り返る。
11	機能主義への傾倒	人間工学とデザインの結びつき、ラディカルデザインが強まる時代とアメリカの様式原理について。
12	ポストモダニズムへの動き	多元主義であり折衷主義、装飾性、多様性を取り戻した時代へ至る動きを知る。

13	ポストモダニズム	建築や装飾芸術分野におけるモダニズムの終焉と、その社会背景を探る。
14	ゼロ年代のデザインキーワード	1990年代から現在までのデザイン思想と潮流を、国内外の重要なキーワードとともに振り返る。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

一般的な世界史と日本史の知識を反復し、デザインの歴史について書かれた本（参考書参照）を読んでください。

本授業の準備学習・復習時間は、各1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教材はパワーポイントで用意します。

指定の教科書はありませんが、各講義内容に応じた資料がある場合は講義中に示します。

【参考書】

「日本デザイン史」 監修：竹原あき子+森山明子 美術出版社

「世界デザイン史」 監修：阿部公正 美術出版社

「ヨーロッパ思想入門」 岩田靖夫 岩波書店

「デザインの歴史」 暮沢剛巳、伊藤潤、山本政幸、天内大樹、高橋裕行 学芸出版社

その他の参考書は講義中に示します。

【成績評価の方法と基準】

最も重視するのは、毎回の授業後に提出してもらうミニレポートです。

ミニレポート：80%

—授業で取り上げたポイントへの理解度：80%のうちの2割

—各事象のつながり（デザイン史の理解度）：80%のうちの7割

—ミニレポートの読みやすさ、日本語の精度：80%のうちの1割

平常点：20%

—授業への出席（オンライン講義の聴講）はここで加点します。

【学生の意見等からの気づき】

オンラン授業の場合、講義動画（zoomの録画データ）は、概ね授業後1週間を目処に残しておきますので、必要に応じて速やかに再視聴してください。動画の無断録音、保存、再配布等は禁止します。

【学生が準備すべき機器他】

講義のスケジュール連絡、ミニレポート提出には学習支援システムを利用します。

ミニレポートはテキストデータでの提出を原則としますので、それに必要な機材・アプリを準備しておいてください。

【Outline (in English)】

This lecture provides an overview of various ideas in the history of design, with a focus on modern and contemporary design. While touching on the technical skills and social systems that modern society has acquired on the way to modern design, the lecture also looks broadly at the cultural background of design, including its relationship to art. By tracing back to domestic and international design philosophy, students will learn that philosophy is essential to design, and this will help them to acquire design literacy that will be useful to them in the future.

DES200NA

デザイン思想史概論（2019年度以降入学生）

高橋 美礼

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：選択

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

近代および現代デザインを主軸に、デザイン史における様々な思想を俯瞰する講義です。モダンデザインへ至るまでに近代社会が獲得してきた技術力や社会制度にも触れつつ、アートとの関わりなど文化的な背景にも広く目を向けて解説します。

国内外のデザイン思想を遡ることで、デザインには思想が不可欠であることを学び、将来へ役立つデザインリテラシーを身につける一助としてください。

【到達目標】

・さまざまなデザイン・ムーブメントの主要人物と作品を知り、その思想を学び、さらにそれぞれのムーブメントの関連性についての知識を高めることで、今の自分の価値観や美意識を形成するルーツを再認識する。
・それぞれのデザイン・ムーブメントの時代背景を学ぶことから、今という時代を考え、これからの時代におけるデザインの役割について、幅広い価値観を構築する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP1」、都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

新型コロナウイルス感染防止対策に応じて、オンライン（遠隔授業）を併用します。

講義を聴講して、毎回ミニレポートを提出してください。
ミニレポートで取り上げるテーマや課題は、授業中に発表しますので、聞き逃さないように注意しながら授業に集中してください。
授業の無断録画、無断スクリーンショットを禁止します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	モダンデザイン前史	産業革命までの社会と近代都市のはじまりを知る。ルネサンス時代以降、デザインという新しい概念が芽生えた時代背景まで遡る。
2	産業革命からアーツ・アンド・クラフツ-1	蒸気機関の発明による近代社会の変化と、その後数十年をかけて変化した欧州の人々の生活と思想を探る。
3	産業革命からアーツ・アンド・クラフツ-2	アーツ・アンド・クラフツ運動に見る、イギリスのゴシックリバイバルと、同時代の日本やアメリカについて考える。
4	モダンデザインの成立と19世紀末-1	消費という概念の誕生とモダンデザインの成立。アール・ヌーボーに代表される新表現への希求を各国の様相から知る。
5	モダンデザインの成立と19世紀末-2	ウィーン分離派の影響と日本への波及。ブルジョアジーの台頭による社会構造の変化を知る。
6	工業化と量産化へ向かう社会-1	ユーゲントシュティール、AEG社、バウハウスを実例に、芸術と産業の統合というモダンデザインの理念を読み解く。
7	工業化と量産化へ向かう社会-2	バウハウスと同時代の各国の動きを総覧しながら、2つの世界大戦間で揺らぎ、または登場した新興勢力について考える。
8	高度大量消費時代のはじまり	インダストリアルデザイナーが職業として成立したマシンエイジを中心に、大量消費時代の背景を読み解く。
9	工業デザインの確立-1	第二次世界大戦後のシャカ主義、ファシズム、デモクラシーといった価値観を通じてイデオロギーの時代に焦点を当てる。
10	工業デザインの確立-2	ミッドセンチュリーに代表される、科学技術とデザインの結びつきから興った動きを振り返る。
11	機能主義への傾倒	人間工学とデザインの結びつき、ラディカルデザインが強まる時代とアメリカの様式原理について。
12	ポストモダニズムへの動き	多元主義であり折衷主義、装飾性、多様性を取り戻した時代へ至る動きを知る。

13	ポストモダニズム	建築や装飾芸術分野におけるモダニズムの終焉と、その社会背景を探る。
14	ゼロ年代のデザインキーワード	1990年代から現在までのデザイン思想と潮流を、国内外の重要なキーワードとともに振り返る。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

一般的な世界史と日本史の知識を反復し、デザインの歴史について書かれた本（参考書参照）を読んでください。

本授業の準備学習・復習時間は、各1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教材はパワーポイントで用意します。

指定の教科書はありませんが、各講義内容に応じた資料がある場合は講義中に示します。

【参考書】

「日本デザイン史」 監修：竹原あき子+森山明子 美術出版社

「世界デザイン史」 監修：阿部公正 美術出版社

「ヨーロッパ思想入門」 岩田靖夫 岩波書店

「デザインの歴史」 暮沢剛巳、伊藤潤、山本政幸、天内大樹、高橋裕行 学芸出版社

その他の参考書は講義中に示します。

【成績評価の方法と基準】

最も重視するのは、毎回の授業後に提出してもらうミニレポートです。

ミニレポート：80%

—授業で取り上げたポイントへの理解度：80%のうちの2割

—各事象のつながり（デザイン史の理解度）：80%のうちの7割

—ミニレポートの読みやすさ、日本語の精度：80%のうちの1割

平常点：20%

—授業への出席（オンライン講義の聴講）はここで加点します。

【学生の意見等からの気づき】

オンラン授業の場合、講義動画（zoomの録画データ）は、概ね授業後1週間を目処に残しておきますので、必要に応じて速やかに再視聴してください。動画の無断録音、保存、再配布等は禁止します。

【学生が準備すべき機器他】

講義のスケジュール連絡、ミニレポート提出には学習支援システムを利用します。

ミニレポートはテキストデータでの提出を原則としますので、それに必要な機材・アプリを準備しておいてください。

【Outline (in English)】

This lecture provides an overview of various ideas in the history of design, with a focus on modern and contemporary design. While touching on the technical skills and social systems that modern society has acquired on the way to modern design, the lecture also looks broadly at the cultural background of design, including its relationship to art. By tracing back to domestic and international design philosophy, students will learn that philosophy is essential to design, and this will help them to acquire design literacy that will be useful to them in the future.

DES200NA

デザイン思想史概論（2019年度以降入学生）

高橋 美礼

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：選択必修

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

近代および現代デザインを主軸に、デザイン史における様々な思想を俯瞰する講義です。モダンデザインへ至るまでに近代社会が獲得してきた技術力や社会制度にも触れつつ、アートとの関わりなど文化的な背景にも広く目を向けて解説します。

国内外のデザイン思想を遡ることで、デザインには思想が不可欠であることを学び、将来へ役立つデザインリテラシーを身につける一助としてください。

【到達目標】

・さまざまなデザイン・ムーブメントの主要人物と作品を知り、その思想を学び、さらにそれぞれのムーブメントの関連性についての知識を高めることで、今の自分の価値観や美意識を形成するルーツを再認識する。
・それぞれのデザイン・ムーブメントの時代背景を学ぶことから、今という時代を考え、これからの時代におけるデザインの役割について、幅広い価値観を構築する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP1」、都市環境デザイン工学部ディプロマポリシーのうち「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

新型コロナウイルス感染防止対策に応じて、オンライン（遠隔授業）を併用します。

講義を聴講して、毎回ミニレポートを提出してください。
ミニレポートで取り上げるテーマや課題は、授業中に発表しますので、聞き逃さないように注意しながら授業に集中してください。
授業の無断録画、無断スクリーンショットを禁止します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	モダンデザイン前史	産業革命までの社会と近代都市のはじまりを知る。ルネサンス時代以降、デザインという新しい概念が芽生えた時代背景まで遡る。
2	産業革命からアーツ・アンド・クラフツ-1	蒸気機関の発明による近代社会の変化と、その後数十年をかけて変化した欧州の人々の生活と思想を探る。
3	産業革命からアーツ・アンド・クラフツ-2	アーツ・アンド・クラフツ運動に見る、イギリスのゴシックリバイバルと、同時代の日本やアメリカについて考える。
4	モダンデザインの成立と19世紀末-1	消費という概念の誕生とモダンデザインの成立。アール・ヌーボーに代表される新表現への希求を各国の様相から知る。
5	モダンデザインの成立と19世紀末-2	ウィーン分離派の影響と日本への波及。ブルジョアジーの台頭による社会構造の変化を知る。
6	工業化と量産化へ向かう社会-1	ユーゲントシュティール、AEG社、バウハウスを実例に、芸術と産業の統合というモダンデザインの理念を読み解く。
7	工業化と量産化へ向かう社会-2	バウハウスと同時代の各国の動きを総覧しながら、2つの世界大戦間で揺らぎ、または登場した新興勢力について考える。
8	高度大量消費時代のはじまり	インダストリアルデザイナーが職業として成立したマシンエイジを中心に、大量消費時代の背景を読み解く。
9	工業デザインの確立-1	第二次世界大戦後のシャカ主義、ファシズム、デモクラシーといった価値観を通じてイデオロギーの時代に焦点を当てる。
10	工業デザインの確立-2	ミッドセンチュリーに代表される、科学技術とデザインの結びつきから興った動きを振り返る。
11	機能主義への傾倒	人間工学とデザインの結びつき、ラディカルデザインが強まる時代とアメリカの様式原理について。
12	ポストモダニズムへの動き	多元主義であり折衷主義、装飾性、多様性を取り戻した時代へ至る動きを知る。

13	ポストモダニズム	建築や装飾芸術分野におけるモダニズムの終焉と、その社会背景を探る。
14	ゼロ年代のデザインキーワード	1990年代から現在までのデザイン思想と潮流を、国内外の重要なキーワードとともに振り返る。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

一般的な世界史と日本史の知識を反復し、デザインの歴史について書かれた本（参考書参照）を読んでください。
本授業の準備学習・復習時間は、各1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教材はパワーポイントで用意します。
指定の教科書はありませんが、各講義内容に応じた資料がある場合は講義中に示します。

【参考書】

「日本デザイン史」 監修：竹原あき子+森山明子 美術出版社
「世界デザイン史」 監修：阿部公正 美術出版社
「ヨーロッパ思想入門」 岩田靖夫 岩波書店
「デザインの歴史」 暮沢剛巳、伊藤潤、山本政幸、天内大樹、高橋裕行 学芸出版社
その他の参考書は講義中に示します。

【成績評価の方法と基準】

最も重視するのは、毎回の授業後に提出してもらうミニレポートです。

ミニレポート：80%
—授業で取り上げたポイントへの理解度：80%のうちの2割
—各事象のつながり（デザイン史の理解度）：80%のうちの7割
—ミニレポートの読みやすさ、日本語の精度：80%のうちの1割

平常点：20%

—授業への出席（オンライン講義の聴講）はここで加点します。

【学生の意見等からの気づき】

オンラン授業の場合、講義動画（zoomの録画データ）は、概ね授業後1週間を目処に残しておきますので、必要に応じて速やかに再視聴してください。
動画の無断録音、保存、再配布等は禁止します。

【学生が準備すべき機器他】

講義のスケジュール連絡、ミニレポート提出には学習支援システムを利用します。
ミニレポートはテキストデータでの提出を原則としますので、それに必要な機材・アプリを準備しておいてください。

【Outline (in English)】

This lecture provides an overview of various ideas in the history of design, with a focus on modern and contemporary design. While touching on the technical skills and social systems that modern society has acquired on the way to modern design, the lecture also looks broadly at the cultural background of design, including its relationship to art. By tracing back to domestic and international design philosophy, students will learn that philosophy is essential to design, and this will help them to acquire design literacy that will be useful to them in the future.

ADE100NB

建築のしくみ

安藤 直見

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：必修
備考（履修条件等）：建築：建築士

その他属性：〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は建築を学び始める学生が建築のしくみ（物的構成）の基本を知ることとを目的としています。「巨匠たちの住宅」（国内および海外の著名な建築）を題材として、その形態構成・空間構成と架構法・ディテールとの関係を理解しながら、建築の主要な架構形式である鉄筋コンクリート壁式構造、鉄筋コンクリートラーメン構造、木造軸組構造、鉄骨構造の基本的なしくみについて学びます。

（以下、教科書の「はじめに」より）

本書の2章以降では、「住吉の長屋」、「サヴォワ邸」、「ファンズワース邸」、「白の家」といった20世紀を代表する住宅を実例として取り上げ、その形態・空間がどのような建築のしくみによって成立しているかを解説している。取り上げた住宅は、それぞれ、鉄筋コンクリート壁構造、鉄筋コンクリートラーメン構造、鉄骨構造、木造軸組構造という異なった構造形式でつくられている。それらは現代においても（変更：現在の）建築の主要な構造形式であるから、これらの住宅を学ぶことで、建築の主要なしくみがどのように形態・空間を構成しえるかを理解することができると思う。

さて、しかし、取り上げた住宅が、主要な建築のしくみを学ぶために適した実例であるかどうかという点には疑問の余地があるかもしれない。これらの住宅が、後に続く建築に、決定的な影響を与えた建築であることに間違いはないのだが、これらの住宅は、研ぎ澄まされた形態と空間をもつがゆえに、建築の特殊解（変更：例）だといえなくもないからだ。街にあふれる多くの建築では、建築を物的に構成する柱や壁が見えない部分に隠されていることが多いのだが、これらの住宅は、そういった建築とはいささか異なっている。しかし、建築のしくみという視点（変更：観点）でいえば、4つの住宅が、街にあふれる多くの建築とまったく異なっているわけではない。現代の建築技術は、産業革命以降に発展した工業技術に根ざしているから、4つの住宅と街にあふれる多くの建築は同一の技術に基づいて成立している。両者が異なっているのは、4つの住宅では、建築のしくみが至高の形態と空間に昇華しているという点だけだ。本書で取り上げる4つの住宅は、建築を架構する壁や柱の構成が建築の形態・空間を決定づけているという意味において「裸の建築」と呼ぶこともできると思う。これらの住宅は、「裸」であるからこそ美しい。建築のしくみを形態・空間と関連づけ、すなわち、建築のしくみを建築の美しさに関連づけて学んで欲しいことも本書のねらいである。

【到達目標】

建築にしくみに関する以下の知識の習得が目標です。

1. 鉄筋とコンクリート
2. 壁構造とラーメン構造
3. 基礎・壁・床・屋根・開口部・その他の各部の構成
4. 鉄骨の形状と接合方法
5. ガラスの構成
6. 木造の基礎・床組・軸組・小屋組

（以下、教科書の「はじめに」より）

建築のしくみは建築の技術の一端である。一つの考え方として、建築のしくみは先行したデザインの後からついていくものであり、しくみの積み重ねによってデザインが生まれることはないという考え方があると思う。その考え方に従えば、しくみを表す図面・模型よりも、細部の構成にはこだわらない1枚のスケッチこそが建築デザインにとってもっとも重要だということになる。そのことに間違いはないと思うのだが、だからといって、建築のしくみを学ばなくてもいいということにはならない。この先に描かれるであろう1枚のスケッチがどのようなしくみによって成立するかは未知のことであっていいが、現在の建築が（現代に多大な影響を与えた建築が）どのようなしくみによって成立しているかを理解することは、建築を学び始める学生にとって重要であるはずだ。

【修得できる能力】

総合デザ	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
インカ						

◎ ○

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

毎回の授業では、各回のテーマに関する解説に続いて、hoppii（学習支援システム）の「テスト/アンケート」を利用して、授業内オンラインテストを実施します。解説は教科書に沿って進めるので、重要なポイントにマークをするなどして、教科書に書かれていることをよく理解してください。その上で、教科書を参照しながら、テストに解答し、重要なポイントを再確認してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	建築の主要な架構形式	ガイダンス
2	住吉の長屋(1)：鉄筋コンクリート壁構造による建築架構の概要	教科書2章1節～2節（住吉の長屋と壁構造の概要）
3	住吉の長屋(2)：コンクリート打放しと壁仕上げ、断熱材、建具の納まりなど	教科書2章3節（平面の構成）
4	住吉の長屋(3)：屋根の架構法など	教科書2章4節～5節（断面と基礎、壁、床、天井、立面の構成）
5	サヴォワ邸(1)：鉄筋コンクリートラーメン構造による建築架構の概要	教科書3章1節～3節（サヴォワ邸とラーメン構造の概要）
6	サヴォワ邸(2)：構造壁と間仕切り壁などについて学ぶ	教科書3章4節～6節（1階・2階・屋上の構成）
7	サヴォワ邸(3)：鉄筋コンクリートによる造作（開口部など）	教科書3章7節～9節（立面・断面・窓の構成）
8	これまでのまとめ：鉄筋コンクリート構造による建築の工事現場の事例	スライドレクチャー（予定）
9	ファンズワース邸(1)：鉄骨構造による建築架構の概要など	教科書4章1節～2節（ファンズワース邸と鉄骨構造の概要）
10	ファンズワース邸(2)：鉄骨フレームのしくみなどについて学ぶ	教科書4章3節～4節（鉄のフレームと床・屋根）
11	ファンズワース邸(3)：ガラスのディテール。カーテンウォールのディテールなど	教科書4章5節～7節（ガラスの壁・階段・設備コア）

- 12 白の家 (1) : 教科書 5 章 1 節～3 節 (白の家
木造軸組構造による建 土木造軸組構造の概要)
築架構の概要。ツーバ
イフォー構法、パネル
構法などの概要
- 13 白の家 (2) : 教科書 5 章 4 節～5 節 (基礎と
軸組、床組、軸組部材 床組)
の名称と役割
- 14 白の家 (3) : 教科書 5 章 6 節～8 節 (軸組・
小屋組、軸組構造の枠 小屋組・各部の構成)
廻り、壁、床、天井の
仕上げ

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

教科書該当部分の予習と復習が必要です。

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

「建築のしくみ／住吉の長屋、サヴォワ邸、ファンズワース邸、白の家」(安藤直見・柴田晃宏・比護結子著、丸善、2008 年) ※
※この教科書は 1 年次配当科目 (必修科目) である「デザインスタジオ 1 (建築)」でも使用します

【参考書】

- 安藤忠雄、安藤忠雄のディテール／原図集／六甲の集合住宅・住吉の長屋、彰国社、1984 年
- GA ディテール No.1 / ミース・ファン・デル・ローエ／ファンズワース邸 / 1945 - 50, A.D.A. EDITA Tokyo Co., Ltd., 1976 年
- 篠原一男、白の家・上原通りの住宅、世界建築設計図集、同朋舎、1984 年
- 篠原一男、住宅論、SD 選書 No.49、鹿島出版会、1970 年
- (5) エドワード・R・フォード、巨匠たちのディテール、八木幸二監訳、丸善、1999 年
- 安藤直見・石井翔大・浅古陽介・種田元晴、建築のカタチ: 3D モデリングで学ぶ建築の構成と図面表現、丸善、2020 年
- 内田祥哉他、建築構法 (第五版)、市ヶ谷出版社、2007 年
- 建築構造ポケットブック (第 4 版)、共立出版、2006 年
- 加藤道夫、建築における三次元空間の二次元表現／シヨワジー『建築史』における軸測図の使用について、図学研究、第 32 巻 3 号、日本図学会、1998 年 9 月
- 佐々木睦朗、私のベストディテール／接合部の痕跡を消す、日経アーキテクチュア No.709 (2002 年 1 月 7 日号)
- サヴォワ邸 / 1931 / フランス / ル・コルビュジエ、バナナブックス、2007 年
- Jacques Sbriglio, Le Corbusier: La Villa Savoye, Fondation Le Corbusier, Birkhäuser, 1999
- Werner Blaser, Mies van der Rohe, Farnsworth House: weekend house, Birkhäuser, 1999

▼参考ホームページ

○ファンズワース・ハウス (アメリカ・イリノイ州)

： <http://www.farnsworthhouse.org/>

○フランス国立モニュメントセンター：

<http://www.monuments-nationaux.fr/>

○ル・コルビュジエ財団 (パリ)：

<http://www.fondationlecorbusier.asso.fr/>

○ル・コルビュジエ アーカイブ (大成建設)：

<http://www.taisei.co.jp/galerie/archive.html>

▼教科書「建築のしくみ～」の中国語版

建筑构造—从轴测模型 3D 图解世界四大名宅安藤直見・柴田晃宏・比護結子・陶新中 (陶)・董新生 (校)、中国建筑工业出版社 (2016 年 1 月)

【成績評価の方法と基準】

毎回の授業にて実施する授業内テストにより評価します (100%)。

【学生の意見等からの気づき】

授業評価アンケートに「眠くなる」という回答がありました。「眠くならないような演出」として、何か手を動かすような演習を交えるようにします。なお、授業の前日には十分な睡眠をとってください。

【学生が準備すべき機器他】

毎回の授業で、学習支援システム (hoppii) を用いた「テスト」(演習) を実施します。「テスト」を受けるには、ノートパソコンまたはスマートフォンが必要となります。

また、授業時に、学習支援システムを通して、3D モデルの CG データ (スケッチアップのファイル) などの資料を配布します。CG データを参照すると、建築の構成がよくわかります。ノートパソコン等を用意して、CG データを参照してください。

【その他の重要事項】

この授業の題材とする 4 つの住宅のうちの「サヴォワ邸」(フランス・パリ近郊) と「ファンズワース邸」(アメリカ・シカゴ近郊) は文化財として一般に公開されているので、ぜひ実物を見に行ってください。

教科書では、4 つの住宅の図面・模型・CG (Computer Graphics) の製作方法について解説しています。ぜひ図面を描き、模型を作ってみてください。また、教室の中で建築の実物を工事することは不可能ですが、コンピュータ上でなら組み立てることができます。CG の制作にもチャレンジしてください。3 年次以上秋学期配当科目 (選択科目) である「デジタルスタジオ」は、実在の建築の CG を制作する演習を含んでいるので、ぜひ受講をしてください。

【Outline (in English)】

【Course outline】

This course aims to provide students, who have started architectural studies, with knowledge of fundamental building constructions.

【Learning objectives】

Through understanding the relationship between forms and spatial compositions as well as framework and details in construction, students will learn the basic structures, such as reinforced concrete wall structure, reinforced concrete frame structure, steel frame structure, and wooden frame structure.

【Learning activities outside of classroom】

Prepare and Review online tests

【Grading criteria/policy】

Grading is based on the evaluation of online tests (100%)

DES100ND

デザイン理論 (SD)

秋元 淳

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：選択

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は「デザインの現在地を知る基礎講座」です。デザインが対象とする領域と事象の幅、デザインに対する解釈の幅、それぞれが大きく拡がっている現在における2つのデザインの理論を理解します。一つは「デザインという営為の基礎を成す普遍としての考え方＝理論」であり、もう一つは「様々なデザインのそれぞれを成り立たせている個別解としての考え方＝理論」です。今日のデザインはそれら双方の理論の上に、私たちの日常のあらゆる場面で機能していると考えられます。

人間が誰でもより良く、希望をもって生きられる社会であるためにデザインが必要とされているいま、この授業では、「ものごとをデザインする」という姿勢で、受講者の皆さんがデザインと主体的に関われる姿勢を涵養することを目的としています。

【到達目標】

- ・今日の社会におけるデザインの基本的な位置づけ、デザインが社会の中でどのように理解されて機能しているかを理解します。
- ・具体的なデザインの実践内容と担い手の想いに触れ、理解します。
- ・これからの自らの活動にデザインの方法論を反映させていくための視野を養い、実践の素地をつくります。
- ・デザインに対する省察的な態度を身につけ、デザインの担い手としての意識を高めます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

- ・オンラインによる講義形式を基本とします。デザインがどのような目的意識と意図のもとで、どのような「社会システム」として構築され機能しているのか。社会において何が課題とされ、それに対してデザインとしてどういった提案ができるのか。デザインには何が期待されているのか。これらの考察を促すために、多様なデザインの事例紹介を軸とした講義を実施します。
- ・授業期間の前半では社会とデザインの間接関係理解するための基礎的な講義を実施、中盤での途中まとめを挟んで、後半に具体事例の紹介・解説を実施して、最後の総括へと至る予定です。
- ・事例は様々な分野のグッドデザイン賞の受賞事例を題材とします。そこから読み取れる目的性、意義、特色、可能性などについて掘り下げていきます。授業で取り上げるデザインの事例やテーマは、なるべくその時々での社会の状況に則したものを選択していきます。なお、事例の紹介においては、デザインの当事者を外部講師としてお招きしてオンライン講義を行う回も設ける予定です。
- ・成績評定は期間中に1回課すレポートの成果を主体に行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	ガイダンス/グッドデザイン賞の紹介	・講師自己紹介 ・本授業の内容展開のベースとなる「グッドデザイン賞」に関する説明（歴史および概念など）
2	社会の変化とデザインの変化	社会の変化と、デザインの対象及び目的の拡張との関係に関する考察
3	最新グッドデザイン賞から見るデザインの諸相	最新グッドデザイン賞受賞対象から見えてくること

4	産業構造の変化とデザイン	製造中心から情報化・サービス化への移行に伴うデザインの展開
5	デザインの本質	今日のデザインに期待されることの本質
6	最新グッドデザイン大賞	グッドデザイン大賞とその候補デザインを通じて見えてくるもの
7	事例：社会課題とデザイン	地域社会の活性を指向したデザイン
8	事例：社会課題とデザイン	福祉的な視点とアプローチを伴ったデザイン
9	事例：社会課題とデザイン	環境施策とデザイン
10	事例：社会課題とデザイン	サービス提供としてのデザイン
11	事例：社会課題とデザイン	社会改革とデザイン
12	デザインへの批判的省察	デザインと「ユーザー」との関係
13	デザインへの批判的省察	「人間中心」という今日のデザインにおける基礎的な考え方に対する批判的考察
14	最終まとめ	総括およびレポート提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・つねに社会の動向、人々の関心、情報の流れを意識して、デザインがそれらとどのように関わっているかに目を向けるようにしてください。「デザインは社会の変化と軌を一にする」「誰に対しても・どのようなことに対してもデザインが関わる」という認識のもと、自らが関心のある事象に対して「デザインの対象として捉えてみる／デザインがどのように関わるか探ってみる」という視点を持ち続けてください。そうした関心へ応えられる授業内容を目指したいと思います。
- ・授業内で紹介したデザインの事例について、積極的に追加情報を得て自らの関心事となるように心がけてください。
- ・2023年10月に東京都内で開催する予定の、最新グッドデザイン賞受賞作の紹介イベントを視察することを勧めます。様々な領域と分野に広がっているデザインの最新の実践例に触れることができます。本授業の準備学習・復習時間は、各1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし（授業時間内で指示することがあります）

【参考書】

特になし（授業時間内で指示することがあります）

【成績評価の方法と基準】

授業の期間中を通じて1回課すレポートの成果を主体に、授業への参加度も加えて総合的に判断して評定を実施します。レポートとして課す内容は、授業への参加度合いが著しく低い場合には対応が難しいテーマを想定しています。なお、テストは行わない予定です。出席度数が高くてもレポートの提出が行われなかったり、授業内容の理解度・解釈度が希薄なレポート内容であるとみなした場合（一度も授業に出席しなくても書けるような観念的な内容に終始している場合など）は合格評価をしません。

評価の内訳：

レポート提出（100%）

【学生の意見等からの気づき】

授業改善アンケートの回答を確認し、授業に活かすことに務めています。

【学生が準備すべき機器他】

オンラインでの実施を予定しているため、対応できる通信環境と情報端末を用意してください。

【その他の重要事項】

・担当講師がグッドデザイン賞の事業運営に携わっているため、本授業で扱う内容は、基本的にグッドデザイン賞という固有の制度を通じたことがベースになる点を、前提として予め承知しておいてください。なお、グッドデザイン賞はデザインのあり方や価値を定める絶対的な正解や正論ではありませんから、この授業で受講者の皆さんへ「正しいデザイン」を教えるといった意図はありません。あくまでもデザインについて理解し考えを深めていく上での、ひとつの相対的な見方と考え方が、グッドデザイン賞というフィルターを通じて提示されていると認識して、授業に臨んでもらえるのがよいでしょう。その上で、自分自身はどのようなデザインのあり方に対してどのように考えるか、受講者自らの思考を巡らせるきっかけとしてもらいたいと考えます。

逆に言うと、グッドデザイン賞という制度に対する根本的な疑問や不信感を持っていて、そもそもアレルギーを感じているような人だと、授業内容への関心が持てないことが予想されるため履修は薦めません。

・実技習得目的での、描写や造形や編集行為などに関する演習・ワークショップの類は実施しません。

・レポートを課す際は、原則的に提出締め切り日の一ヶ月前には予告を行います。またレポートは原則として授業支援システムを介してのデータでの提出・受取とします。

・当シラバスで記した「授業計画」に関して、取り上げる事例の順番やテーマはその時々々の社会情勢などを反映して、当初想定から変更することがあります。

【Outline (in English)】

This course provides a basic course in contemporary design. Participants will learn about the concepts that form the basis of design in this day and age, along with the individual principle components of design — that is, the “theory of design,” through various subjects of design, case studies, and more. In doing so, the goal is not master design-technic, but to foster within each participant the perspectives necessary to uncover social challenges and link them to solutions, as well as an awareness of design as a way to proactively build a more livable and hopeful society for all.

ADE200NB

建築生理心理 1

川久保 俊

開講時期：春学期授業/Spring | 選択・必修の別：必修

備考（履修条件等）：建築：建築士

その他属性：〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

建築物は我々にとって重要な生活基盤、社会インフラである。特に住宅建築物は、我々の安全を守り、休息する場を提供し、子孫を育む重要な生活の場である。建築に関わる全ての関係者は、建築物を利用する側の「人」の立場から建物との関わりを捉え、建築物に「住まう」ために要求される各種条件を本質的に理解しておくことが必要である。そこで、本授業では住環境の概念、住居の備えるべき各種条件、居住者としての身体特性、身体の各部位の役割などを紹介し、建築生理心理の基礎を学習する。

【到達目標】

- ・住居が備えるべき諸条件を学ぶ。
- ・我々の人体反応の基礎を習得する。
- ・住環境が様々な場面で人体に影響を及ぼすことを学ぶ。
- ・居住者の健康を維持増進する上で、住環境を適切に整備することが重要であることを理解する。

【修得できる能力】

総合デザ 文化性 倫理観 建築の公理 芸術性 教養力 表現力
インカ

◎ ◎ ○

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

本講義では建築環境工学のうち、生理心理に係る事項を学習する。講義はPowerpoint等で作成した資料を利用して進める。講義内容や課題に対する質問はHoppiiの掲示板等で回答する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	導入	講義の設置目的、到達目標、概要の紹介
2	環境の分類、住環境の概念	環境の分類と住環境の概念整理。住環境の構成要素
3	都市・地域環境とその評価	住宅を取り巻く周辺環境の整備の意義。都市・地域環境の評価
4	住居の備えるべき条件(0)	伝統的住居に施された生活の工夫。住居が備えるべき各種要件の概要の理解
5	住居の備えるべき条件(1) - 「安全性」	日常生活安全（防犯、交通安全、生活安全など）
6	住居の備えるべき条件(1) - 「安全性（続）」	災害安全（火災、風水害、地震など） 公害防止、伝染病防止、自然環境の担保（通風、採光など）
7	住居の備えるべき条件(2) - 「健康性」	WHOによる健康の定義、シックハウス問題、アスベスト問題、ヒートショック問題
8	住居の備えるべき条件(2) - 「健康性（続）」	自宅の健康性評価。各種疾病の有病割合。オッズ比
9	住居の備えるべき条件(3) - 「利便性」	日常生活利便性、施設利便性、交通利便性、社会サービス利便性
10	住居の備えるべき条件(4) - 「快適性」	適切な環境制御。光環境、音環境、空気環境、温熱環境
11	住居の備えるべき条件(4) - 「快適性（続）」	非定常汚染物質濃度、非定常室内温度の計算
12	住居の備えるべき条件(5) - 「持続可能性」	環境/社会/経済のトリプルボトムライン、世代間倫理、持続可能性の評価
13	住居の備えるべき条件(5) - 「持続可能性（続）」	環境配慮技術、サステナブルデザイン
14	住居の備えるべき条件(5) - 「持続可能性（続）」	持続可能な開発目標（SDGs）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回講義の中で膨大な数のキーワードに触れるため、帰宅後その内容を頭の中で整理、消化し、次回の講義までに復習をしていくこと。また、講義中に重要な部分については計算問題やレポートを課すので、期末テストに備えて十分に応用能力を養っておくこと。なお、本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。独自に作成した講義資料を講義中に配布する。

参考書を複数例示するので、自身に合う参考書を購入して適宜予習・復習することをお勧めする。

【参考書】

- 「住環境-評価方法と理論」浅見泰司他（東京大学出版会）。
- 「建築環境工学」加藤信介、土田義郎、大岡龍三（彰国社）。
- 「しくみがわかる建築環境工学:基礎から計画・制御まで」上野佳奈子、鍵直樹、白石靖幸、高口洋人、中野淳太、望月悦子。
- 「からだの地図帳」高橋長雄（講談社）。
- 「形と比例」岩中徳次郎（美術出版）。
- 「驚異の小宇宙・人体II、脳と心」NHK取材班（NHK出版）。
- 「見えない空間性能」荒木睦彦（彰国社）。
- 「やさしい美術解剖図」J・シェパード（マール社）。
- 「心理学雑学事典」渋谷昌三（日本実業出版社）。

【成績評価の方法と基準】

講義終了後の期末試験（50%）および講義中に課す演習課題（50%）によって判断する予定。なお、試験未受験、課題未提出の者の成績評価は実施しない。

【学生の意見等からの気づき】

オンライン講義ではなく、対面講義を希望する声の方が大きい。基本的には対面形式で講義を展開する予定である。ただし、オンライン形式を併用する可能性があるため、定期的にHoppii上のアナウンスを確認すること。

【Outline (in English)】

Course outline: Buildings are important infrastructure for us. Residential buildings, in particular, are important places of life that protect our safety, provide places to rest, and nurture our descendants. It is necessary for all parties involved in the construction to understand the relationship with the building from the standpoint of the people who use the building, and to have an essential understanding of the various conditions required to "live in" the building. Therefore, this class introduces the concept of the living environment, various conditions that a house should have, physical characteristics as a resident, roles of each part of the body, etc., and learns the basis of building physiological psychology.

Learning Objectives: 1) To study the conditions under which a dwelling house should be equipped, 2) To learn the basics of how the human body reacts to the environment, 3) To understand that the living environment affects the human body in various ways, 4) To understand the importance of an appropriate living environment in maintaining and improving the health of the residents.

Learning activities outside of classroom: The standard preparation and review time for this class is 2 hours each. In particular, students are encouraged to deepen their understanding before the next class if they do not have a sufficient understanding of the subject matter at the end of the class.

Grading Criteria /Policy: Grades will be determined by a final exam at the end of the lecture (50%) and exercises assigned during the lecture (50%). Grades will not be given to students who have not taken the examinations or submitted the assignments.

ADE200NB

Design Basics in English

ディン ポリバン

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：選択

備考（履修条件等）：建築：建築士

都市：建築士

その他属性：〈G〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

建築の分野について、多角的に学ぶ事ができる。また英語を聞き、話す機会を増やす事で実践的な英語力を身につける事ができる。

【到達目標】

This class should be viewed as a space for discussion and exchange about architecture. The objective is to encourage students to speak in English and to improve their conversational abilities.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP5」、都市環境デザイン工学部ディプロマポリシーのうち「DP4」「DP5」、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

For each of the 7 themes (over 14 classes), students will be required to prepare visual materials for presentation and discussion either within small groups or to the class. At the end of each theme, detailed instructions for the following assignment will be provided. All conversations must be conducted in English, and all presentation materials must be submitted in the form of a PPT or PDF binder.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
Class 1	Place-site-origin part 1	With the help of an analysis tool, students will give a presentation about their hometown and neighborhood. They will share their impressions of a remarkable building or space.
Class 2	Place-site-origin part 2	-
Class 3	Graphic representation part 1	Learn about the different graphic representations used by architects. Following on from Class 1, students will be asked to choose a building from an architect they are interested in and prepare or research graphic representations, including sketches, diagrams, axonometric views, perspectives, site plans, floor plans, sections, and details. One of the representations students need to create should illustrate a key feature of the building, and students will elaborate on their building choice.
Class 4	Graphic representation part 2	-
Class 5	Contemporary architecture part 1	Expanding on the previous class teachings, students will present a project from a selected list of architects. The project could be a building or a space. The students will need to explain why they chose the particular project, discuss the architectural style, and analyze the design features.
Class 6	Contemporary architecture part 2	-
Class 7	City roaming part 1	From a pre-selected route, students will share their impressions and feelings about the spaces they cross, using photographs or other visual aids to illustrate key moments.
Class 8	City roaming part 2	-

Class 9	Micro Architecture part 1	Students will be asked to find a micro-building that has been created in a leftover space within the city. They will need to prepare a PowerPoint presentation that includes photographs, a simple site plan (a hand sketch is acceptable), and an explanation of the building's particular features.
Class 10	Micro Architecture part 2	-
Class 11	Habitat part 1	After discussing the definition of habitat, students will search and investigate examples of housing that challenge the stereotype of the house. They will need to present at least two projects of housing (either single or collective) and explain how and why they reassess the concept of habitat.
Class 12	Habitat part 2	-
Class 13	Architecture and Literature part 1	Students will be given a short text (in English) from a prominent writer and poet. After reading the text at home, it will be discussed in class, and students will identify a clear program to use for the second part of the class. Using the previous class teachings, students will present their architectural translation of the text. Evaluation will be based on the quality of the presentation, the visuals, and the consistency of the approach.
Class 14	Architecture and Literature part 2	-
【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】		
The 7 themes will be covered in 14 classes. Students will have to prepare visuals and materials to present and discuss within small groups or to the class. Therefore, it will be necessary to submit 7 PPT/PDF files throughout the semester. 本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。		
【テキスト（教科書）】		
No specific textbook is necessary.		
【参考書】		
None.		
【成績評価の方法と基準】		
50%: Preparation of presentation materials 25%: Participation in discussions 25%: Diligence and enthusiasm		
【学生の意見等からの気づき】		
Comment on the 2022 semester: Following the success of the previous semester, it was observed that students found it more convenient to engage and converse in small groups of three. To sustain this effective approach, the professor will move among each group to facilitate discussions. This year, we will persist with this method to promote collaborative learning and augment student involvement.		
【その他の重要事項】		
国際的な建築設計事務所に携わる教員が、英語で建築分野を多角的に講義する。また、ディスカッションを通し、生徒が英語を話す機会を増やす。		

ADE200NB

Design Basics in English

ディン ポリバン

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：選択

備考（履修条件等）：建築：建築士

都市：建築士

その他属性：〈G〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

建築の分野について、多角的に学ぶ事ができる。また英語を聞き、話す機会を増やす事で実践的な英語力を身につける事ができる。

【到達目標】

This class should be viewed as a space for discussion and exchange about architecture. The objective is to encourage students to speak in English and to improve their conversational abilities.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP5」、都市環境デザイン工学部ディプロマポリシーのうち「DP4」「DP5」、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

For each of the 7 themes (over 14 classes), students will be required to prepare visual materials for presentation and discussion either within small groups or to the class. At the end of each theme, detailed instructions for the following assignment will be provided. All conversations must be conducted in English, and all presentation materials must be submitted in the form of a PPT or PDF binder.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
Class 1	Place-site-origin part 1	With the help of an analysis tool, students will give a presentation about their hometown and neighborhood. They will share their impressions of a remarkable building or space.
Class 2	Place-site-origin part 2	-
Class 3	Graphic representation part 1	Learn about the different graphic representations used by architects. Following on from Class 1, students will be asked to choose a building from an architect they are interested in and prepare or research graphic representations, including sketches, diagrams, axonometric views, perspectives, site plans, floor plans, sections, and details. One of the representations students need to create should illustrate a key feature of the building, and students will elaborate on their building choice.
Class 4	Graphic representation part 2	-
Class 5	Contemporary architecture part 1	Expanding on the previous class teachings, students will present a project from a selected list of architects. The project could be a building or a space. The students will need to explain why they chose the particular project, discuss the architectural style, and analyze the design features.
Class 6	Contemporary architecture part 2	-
Class 7	City roaming part 1	From a pre-selected route, students will share their impressions and feelings about the spaces they cross, using photographs or other visual aids to illustrate key moments.
Class 8	City roaming part 2	-

Class 9	Micro Architecture part 1	Students will be asked to find a micro-building that has been created in a leftover space within the city. They will need to prepare a PowerPoint presentation that includes photographs, a simple site plan (a hand sketch is acceptable), and an explanation of the building's particular features.
Class 10	Micro Architecture part 2	-
Class 11	Habitat part 1	After discussing the definition of habitat, students will search and investigate examples of housing that challenge the stereotype of the house. They will need to present at least two projects of housing (either single or collective) and explain how and why they reassess the concept of habitat.
Class 12	Habitat part 2	-
Class 13	Architecture and Literature part 1	Students will be given a short text (in English) from a prominent writer and poet. After reading the text at home, it will be discussed in class, and students will identify a clear program to use for the second part of the class. Using the previous class teachings, students will present their architectural translation of the text. Evaluation will be based on the quality of the presentation, the visuals, and the consistency of the approach.
Class 14	Architecture and Literature part 2	-

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
The 7 themes will be covered in 14 classes. Students will have to prepare visuals and materials to present and discuss within small groups or to the class. Therefore, it will be necessary to submit 7 PPT/PDF files throughout the semester.
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
No specific textbook is necessary.

【参考書】
None.

【成績評価の方法と基準】
50%: Preparation of presentation materials
25%: Participation in discussions
25%: Diligence and enthusiasm

【学生の意見等からの気づき】
Comment on the 2022 semester: Following the success of the previous semester, it was observed that students found it more convenient to engage and converse in small groups of three. To sustain this effective approach, the professor will move among each group to facilitate discussions. This year, we will persist with this method to promote collaborative learning and augment student involvement.

【その他の重要事項】
国際的な建築設計事務所に携わる教員が、英語で建築分野を多角的に講義する。また、ディスカッションを通し、生徒が英語を話す機会を増やす。

ADE200NB

Design Basics in English

ディン ポリバン

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：選択

備考（履修条件等）：建築：建築士

都市：建築士

その他属性：〈G〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

建築の分野について、多角的に学ぶ事ができる。また英語を聞き、話す機会を増やす事で実践的な英語力を身につける事ができる。

【到達目標】

This class should be viewed as a space for discussion and exchange about architecture. The objective is to encourage students to speak in English and to improve their conversational abilities.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP5」、都市環境デザイン工学部ディプロマポリシーのうち「DP4」「DP5」、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

For each of the 7 themes (over 14 classes), students will be required to prepare visual materials for presentation and discussion either within small groups or to the class. At the end of each theme, detailed instructions for the following assignment will be provided. All conversations must be conducted in English, and all presentation materials must be submitted in the form of a PPT or PDF binder.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
Class 1	Place-site-origin part 1	With the help of an analysis tool, students will give a presentation about their hometown and neighborhood. They will share their impressions of a remarkable building or space.
Class 2	Place-site-origin part 2	-
Class 3	Graphic representation part 1	Learn about the different graphic representations used by architects. Following on from Class 1, students will be asked to choose a building from an architect they are interested in and prepare or research graphic representations, including sketches, diagrams, axonometric views, perspectives, site plans, floor plans, sections, and details. One of the representations students need to create should illustrate a key feature of the building, and students will elaborate on their building choice.
Class 4	Graphic representation part 2	-
Class 5	Contemporary architecture part 1	Expanding on the previous class teachings, students will present a project from a selected list of architects. The project could be a building or a space. The students will need to explain why they chose the particular project, discuss the architectural style, and analyze the design features.
Class 6	Contemporary architecture part 2	-
Class 7	City roaming part 1	From a pre-selected route, students will share their impressions and feelings about the spaces they cross, using photographs or other visual aids to illustrate key moments.
Class 8	City roaming part 2	-

Class 9	Micro Architecture part 1	Students will be asked to find a micro-building that has been created in a leftover space within the city. They will need to prepare a PowerPoint presentation that includes photographs, a simple site plan (a hand sketch is acceptable), and an explanation of the building's particular features.
Class 10	Micro Architecture part 2	-
Class 11	Habitat part 1	After discussing the definition of habitat, students will search and investigate examples of housing that challenge the stereotype of the house. They will need to present at least two projects of housing (either single or collective) and explain how and why they reassess the concept of habitat.
Class 12	Habitat part 2	-
Class 13	Architecture and Literature part 1	Students will be given a short text (in English) from a prominent writer and poet. After reading the text at home, it will be discussed in class, and students will identify a clear program to use for the second part of the class. Using the previous class teachings, students will present their architectural translation of the text. Evaluation will be based on the quality of the presentation, the visuals, and the consistency of the approach.
Class 14	Architecture and Literature part 2	-
【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】		
The 7 themes will be covered in 14 classes. Students will have to prepare visuals and materials to present and discuss within small groups or to the class. Therefore, it will be necessary to submit 7 PPT/PDF files throughout the semester. 本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。		
【テキスト（教科書）】		
No specific textbook is necessary.		
【参考書】		
None.		
【成績評価の方法と基準】		
50%: Preparation of presentation materials 25%: Participation in discussions 25%: Diligence and enthusiasm		
【学生の意見等からの気づき】		
Comment on the 2022 semester: Following the success of the previous semester, it was observed that students found it more convenient to engage and converse in small groups of three. To sustain this effective approach, the professor will move among each group to facilitate discussions. This year, we will persist with this method to promote collaborative learning and augment student involvement.		
【その他の重要事項】		
国際的な建築設計事務所に携わる教員が、英語で建築分野を多角的に講義する。また、ディスカッションを通し、生徒が英語を話す機会を増やす。		

COS200NC

数値計算法

酒井 久和

開講時期：春学期授業/Spring | 選択・必修の別：選択

その他属性：〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

工学の分野において、数学を用いる場面は多岐にわたる。また、簡易な計算はプログラミングを習得することにより、計算ミス、作業時間の大幅な短縮が可能である。本講義では、基礎的な数値解析手法を学習するとともに、実務で必須となる Excel の高度利用として、マクロを利用したプログラミング技法を習得する。

【到達目標】

授業で紹介した数値解析手法を道具として活用し、Excel の効率的な使用方法とプログラミング技術を習得することで、様々な工学問題が解けるようになることと、研究や実務での効率向上可能な技術を得ることを目標とする。

【修得できる能力】

- | | |
|--------------------|-----|
| (A) 歴史・文化・自然の理解・尊重 | |
| (B) 技術者倫理 | |
| (C) 工学基礎学力 | 60% |
| (D) 専門基礎学力 | 40% |
| (E) 専門知識の活用・応用能力 | |
| (F) 総合デザイン能力 | |
| (G) コミュニケーション能力 | |
| (H) 継続的学習能力 | |
| (I) 業務遂行能力 | |

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

工学分野の基礎的な数値解析手法として、ベクトルと行列、連立一次方程式の解法、非線形方程式の解法、補間、数値積分、数値微分を紹介する。1 週講義の後、翌週は前週の講義内容に関する演習を行うことにより、知識としての定着を図る。解析ツールとして Excel を使用する。

授業は学年暦通り実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス、Excel の基本的な使い方、マクロ	講義内容の紹介。講義で使用する Excel の基本的な使い方とマクロの使用方法についての解説する。
第 2 回	数値解析の基礎	数値解析の基礎として、アナログとデジタルの違い、有効数字について解説する。
第 3 回	関数の近似と補間	テラー展開、補間について解説する。
第 4 回	演習	第 3 回講義内容に関する演習問題を解く。
第 5 回	微分	差分近似、3 点差分公式、5 点差分公式について説明する。
第 6 回	演習	第 5 回講義内容に関する演習問題を解く。
第 7 回	数値積分	長方形近似、台形近似、シンプソン公式について解説する。
第 8 回	演習	第 7 回講義内容に関する演習問題を解く。
第 9 回	非線形方程式	ニュートン-ラフソン法、2 分法、はさみうち法
第 10 回	演習	第 9 回講義内容に関する演習問題を解く。
第 11 回	ベクトルと行列	ベクトルの演算、行列の演算
第 12 回	演習	第 11 回講義内容に関する演習問題を解く。
第 13 回	連立一次方程式	ガウスの消去法、非線形連立方程式の解説
第 14 回	演習	第 13 回講義内容に関する演習問題を解く。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義中または講義後に演習課題の実施。数回の課題の提出を求める。本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

伊津野和行、酒井久和：Excel ではじめる数値解析、森北出版

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

演習課題の提出による評価 40%、期末試験 60% で総合的に評価する。4 回以上欠席したものは単位の取得を認めない。

期末試験は、自分で行った演習課題を参照、PC 持ち込み可。

【学生の意見等からの気づき】

学生の理解を確認しながら授業を進めた結果、授業評価は総じて好評であったが、プログラミングが難しいとの意見があった。プログラミング能力を向上させるためには、プログラミングを行う回数が重要と考えるため、演習を増加させたい。

【学生が準備すべき機器他】

貸与ノートパソコンを必ず持参すること。

【Outline (in English)】

The main objectives of the Numerical Calculation Method Program are the following:

- 1) Understanding of fundamental numerical calculation methods.
- 2) Utilization of Microsoft Excel.
- 3) Acquisition of skills for creating macros in Excel.

This class's standard preparation and review time is about 2 hours, respectively.

Grade evaluation: Periodic examination 60% + Report 40% = 100%, provided that no credit will be given for more than four absences; grade D.

HUI200ND

インタフェースデザイン

土屋 雅人

開講時期：秋学期前半/Fall(1st half) | 選択・必修の別：選択

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

近年、各種電子機器の操作は複雑なヒューマンインタフェース（以下インタフェース）を通して行なわれることが多いため、インタフェースデザインが製品の評価を決める重要な要素になっている。インタフェースデザインの各種事例を通して、デザインに必要なヒューマンファクターを理解し、その体系的なデザイン手法を学習する。

【到達目標】

インタフェースデザインに必要なヒューマンファクターを理解する。
インタフェースの設計方法を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

インタフェースデザインは、ひとつひとつの操作を積み重ねる時間軸を持つことが特徴である。そのため、一連の操作を通して問題点を把握し、新たなデザインを提案するプロセスの実験が重要である。本授業では、身近な機器を題材にして、インタフェース設計ガイドラインやユーザビリティ評価手法等を導入し、「身体的」「認知的」「感性的」側面から、インタフェースデザイン方法論を体感的に学習する。授業の中では、前半にインタフェースの問題抽出と解決方法を事例を通して解説し、後半で自ら実製品のインタフェースデザインを演習的に体験する。複数の演習課題に対して、その特徴的なレポートを抽出し、授業の中で講評する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	授業ガイダンス	授業の進め方、授業評価について説明する。
2	インタフェースデザインとは	インタフェースデザインの概論、歴史、手法等について解説する。
3	身の回りのインタフェース	事例を通してインタフェースデザインの重要性を解説する。
4	アンソロポメトリ	インタフェースに係わる人間工学的課題を解説する。
5	視覚・反応	視覚感覚の特性について解説する。
6	認知・判断1	人の認知について解説する。
7	知覚・認知・判断2	事例を通して人の情報処理の流れを解説する。
8	記憶・意思決定	記憶の特性と意思決定の特徴について解説する。
9	インタフェースデザインプロセス	インタフェースデザインのプロセスを解説する。
10	ユーザビリティ評価	事例を通してユーザビリティ評価を解説する。
11	ヒューマンエラー1	ヒューマンエラーの事例について解説する。
12	ヒューマンエラー2	ヒューマンエラーの構造について解説する。
13	インタフェースデザインの課題	課題の発表、評価を行う。
14	インタフェースデザインの将来	次世代の入出力デバイス等今後の方向性を解説する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

特別講義では、講師の指示する課題を授業時間外に対応すること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

必要に応じてテキストを配布する。

【参考書】

こんなデザインが使いやすさを生む、三菱電機デザイン研究所、工業調査会
ユーザビリティテスト、黒須正明、共立出版
デザインと感性、井上勝雄、土屋雅人他、海文堂出版
ユーザビリティハンドブック、共立出版

【成績評価の方法と基準】

各課題の達成度、および授業態度を総合して評価する。
授業中でのインタフェースデザイン技術に関する課題を課し、その内容を評価に加える。

平常点（20%）＋課題合計（40%）＋試験（40%）＝合計100%

【学生の意見等からの気づき】

指示した場合は除き、ノートパソコンによる講義録メモや、デジタルカメラによる授業資料撮影を禁止する。

【学生が準備すべき機器他】

課題によってノートパソコンを使用する（授業の中で指示する）。

【Outline (in English)】

Electronic devices need complicated human interfaces to perform high level functions in recent years, and interface design is becoming more important for the evaluation of products. Through various examples of interface design, we will study the human factors which are necessary for the design and learn systematic design methods.

MEC300ND

熱と流れのデザイン

田中 豊

開講時期：春学期前半/Spring(1st half) | 選択・必修の別：選択

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身のまわりの物体は、運動したり、変形したり、状態（温度、圧力、体積など）が変化したりする。また製品をデザインするためには、こうした物体の力学的な特性や状態変化を十分に理解しておくことが重要である。

本授業のテーマは、まず最初に、このような物体の運動や変形、状態の変化を、自然科学や技術の変遷の中で、「熱」や「流れ」の力学として考える。次に、熱と流れに関する課題を取り上げ、シミュレーション等により自ら解決したり、その結果を可視化手法等により表現したりする。さらに、具体的な実習課題を通して、熱や流れに関する性質を製品のデザインに活かすことを学ぶ。

【到達目標】

- ・物体の運動や変形、状態の変化を「熱」や「流れ」の力学として理解できること。
- ・熱と流れに関する課題を計算やシミュレーション等により自ら解決したり、その結果を可視化手法等により表現したり説明したりできること。
- ・熱や流れに関する性質を製品のデザインに活かすことができること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

到達目標を達成するため、授業の前半では、まず熱と流れの力学に関する自然科学や技術の変遷を紹介し、物体の変形にともなう力学的な諸問題を「流体」や「流れ」という概念でとらえ、流れの性質や数学的な表現を解説する。

次に授業の後半では、物体の熱の出入りにともない生じる状態変化を「熱学」という物体の巨視的な状態変化と仕事やエネルギーの概念でとらえ、熱の力学的な性質、熱力学の法則やパワーサイクルの考え方を概観する。

講義授業回毎に与えられたリアクションペーパーや演習問題を記入・作成し、提出する。また「流れ」と「熱」に関する理解度を確認するための2回の試験を行ない、途中までの理解度を評価する。

授業の最後では、熱と流れの可視化手法や測定手法を紹介し、数値シミュレーション結果の処理を行うための基礎事項を解説する。さらに具体的な実習課題や例題演習を通して理解を深める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	物体の運動と状態の変化	物体の運動や変形、状態の変化を「熱」や「流れ」の力学として理解する。熱や流れの力学を自然科学や技術の変遷の中で理解する。単位系とその考え方を理解する。 ・力学の学問体系 ・流れと熱の力学史 ・流体力学と熱力学 ・単位系とその考え方
2	流体の性質、静水力学	変形しながら運動する物体（流体）に特徴的な性質を理解する ・圧力 ・密度と比重 ・粘性と圧縮性 ・静水圧 ・バスカルの原理と力増幅装置 ・浮力
3	流れの基礎事項	流れの数学的な表現の中で重要となる連続の式と運動量保存則について、力学的な視点で理解する ・ニュートン力学 ・連続の式（質量保存則） ・オイラーの運動方程式
4	エネルギー保存則とベルヌーイの式	前回に引き続き、流れの数学的な表現の中で重要となるエネルギー保存則を理解する。さらに圧力の測定方法や流れの表現方法（可視化手法）についても理解する ・エネルギー保存則 ・ベルヌーイの定理 ・動圧と静圧 ・ピトー管と圧力の測定法 ・流れの可視化と表現法

5	流体の運動量・レイノルズの相似則	流体の運動量や特徴的な性質である粘性と圧縮性について、その役割や基礎事項について理解する ・流体の運動量と運動量理論 ・粘性の役割 ・非圧縮・粘性流れの基礎方程式 ・流れの相似則とレイノルズ数 ・層流と乱流 ・圧縮性流れの基礎方程式 工学的な流れの基本となる管路内流れについて、その基礎事項を理解する ・管路内流れ ・管摩擦損失 ・境界層
6	管路内流れと損失	
7	物体周りの流れ	流体中に置かれた物体に働く力や流れの様子についての基礎事項を理解する ・物体周りの流れ ・抗力と揚力 ・第1回～7回のまとめ ・理解度確認試験1
8	物質の熱力学的特性	物体の熱の出入りにともない生じる状態変化を「熱学」という物体の巨視的な状態変化と仕事やエネルギーの概念として理解する ・物体の状態変化 ・熱エネルギーと仕事 ・圧力と体積と温度
9	熱エネルギーの利用と熱の伝達	物体内の熱の伝わり方に関する基礎事項を熱の利用の観点から理解する ・伝熱 ・輻射 ・放射 ・伝導 ・対流 ・断熱
10	理想気体の状態変化と仕事	理想気体の状態変化と仕事に関する基礎事項を熱と仕事の等価性の関係で理解する ・理想気体の状態変化 ・熱と仕事
11	熱エネルギーの状態変化と仕事	熱と仕事とエントロピーに関する基礎事項を理解する ・熱と仕事とエントロピー ・熱力学の法則 ・準静的変化 ・可逆変化と不可逆変化
12	熱力学の法則とパワーサイクル	熱力学の法則と熱エネルギーを利用したパワーサイクルの考え方について理解する ・様々なプロセス ・熱力学の法則 ・熱機関の動作原理とパワーサイクル
13	様々な熱機関のパワーサイクル	身の周りの様々な熱機関をパワーサイクルの観点で理解する ・オットーサイクル ・ディーゼルサイクル ・スターリングサイクル ・ブレイトンサイクル ・ランキンサイクル ・ヒートポンプ
14	熱と流れの可視化・計測手法・画像処理まとめ	熱と流れの可視化や計測手法に関する基礎事項を例題と実習を通じて理解する ・熱と流れの可視化と例題実習 ・計測手法と例題実習 ・画像処理と例題実習 ・第8回～14回のまとめ ・理解度確認試験2 ・授業改善アンケートの記入

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

シラバス内容の事前確認
返却されたリアクションペーパーの復習
配布・回収・返却した演習問題の復習
講義資料の内容の事前の確認と事後の復習
理解度確認試験の自己採点と評価結果の見直し・復習
レポートの作成

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない、適宜、プリントや演習問題を配布する。
すべての教材や演習問題、リアクションペーパーは授業支援システムを用いて電子媒体で配布する。

【参考書】

細井：教養・流れの力学、東京電機大学出版局
日本機械学会編・JSME テキストシリーズ：流体力学
日本機械学会編・JSME テキストシリーズ：熱力学

【成績評価の方法と基準】

- ・リアクションペーパーや演習問題（40 %）
授業中に配布されたリアクションペーパーや演習課題を、教員からの指示に従い、記入・回収し、結果を確認して、次回に返却する。その提出状況と記入結果を各回 5 点満点で評価する。各回の授業内容の理解と記入状況が評価の基準である。
- ・理解度確認試験（60 %）
2 回の理解度確認試験の結果を、それぞれ、100 点満点で評価する。理解度確認試験 1 では、第 1 回～7 回で行われた授業内容の「流れ」に関する力学的な理解が評価の基準である。理解度確認試験 2 では、第 1 回と第 9 回～13 回で行われた授業内容の「熱」に関する力学的な理解が評価の基準である。
- ・レポート課題（必要に応じて加点する）
第 1 回～14 回のレポートの提出状況と内容を各 5 点満点で評価する。実習課題のレポートでは、第 1 回～13 回で得られた知識を活用し、自らシミュレーション結果を可視化できること、また得られた知見を製品のデザインに活かせるようになったかが評価の基準である。
- ・最終的な成績評価は、上記のすべての結果から総合的に判断評価する。

【学生の意見等からの気づき】

演習の解答例の詳細な解説を行ってほしい旨の意見があったので、時間の許す限り解答例の解説を行う。
リアクションペーパーへの記入例は、講義終了後、授業支援システムを使って電子的にアップする。

【学生が準備すべき機器他】

大学から配布されたノート PC を使用する。

【その他の重要事項】

2021 年度より開講学年が 2 年から 3 年に、開講期が秋学期前半（C 期）から春学期前半（A 期）に変更になった。

【Outline (in English)】

This course introduces fluid dynamics and thermodynamics to students taking this course. Liquids and gasses can both be classified as fluids. The first half of the lecture deals with fluid properties, fluid statics and fluid dynamics. The second half of the lecture deals with thermodynamics. Thermodynamics is the study of a substance's energy-related properties. The properties of a substance and the procedures used to determine those properties depends on the state and the phase of the substance. By the end of the course, students learn to utilize the properties related to fluid dynamics and thermodynamics to product design through practical tasks.

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than two hours for a class.

Your overall grade in the class will be decided based on the following,
Term-end examination: 60%、Short reports: 20%、In class contribution: 20%.

SSS200ND

オペレーションズリサーチ

野々部 宏司

開講時期：秋学期前半/Fall(1st half) | 選択・必修の別：選択

その他属性：〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

オペレーションズリサーチ（Operations Research, OR）とは、「実社会における問題解決や意思決定を支援するための数理的・科学的な方法論や技法」を対象とする研究分野である。OR の幾つかの代表的テーマについて基礎知識・技能を学ぶ。

【到達目標】

- ・ Microsoft Excel のソルバー機能（Excel ソルバー）を用いて最適化問題を解くことができる。
- ・ 安定マッチングを理解している。
- ・ Excel を用いて簡単なシミュレーションを行うことができる。
- ・ 待ち行列理論の基礎を理解している。
- ・ 不確実性下での意思決定について、代表的な意思決定原理を理解している。
- ・ リスクのもとでの多段階意思決定にディシジョンツリーを利用することができる。
- ・ AHP を利用した意思決定を行うことができる。
- ・ ゲーム理論の基礎を理解している。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

具体的なテーマとして、「数理最適化」「グラフ・ネットワーク」「シミュレーション」「待ち行列」「不確実性下での意思決定」「階層化意思決定法（AHP）」「ゲーム理論」を取り上げ、これらの基礎知識と代表的な手法について説明する。

理解度確認のための演習（テーマによってはノートパソコンを使用）や小テストを適宜授業時間内に行う。また、授業外に行うべき課題を各テーマごとに課す。課題の回収や小テストの実施には学習支援システムを用いる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の目的・進め方について説明した後、例題を示しながら授業で扱う内容の概説を行う。
2	数理最適化（線形計画法）	数理最適化とその代表的な手法である線形計画法について学ぶ。意思決定問題を最適化問題として定式化し、Excel ソルバーを用いてその問題を解く練習を行う。
3	数理最適化（整数計画法）	線形計画法よりも適用範囲が広い手法である整数計画法について、バイナリ変数の活用方法を合わせて学ぶ。Excel ソルバーを用いた演習を行う。
4	割当て問題	数理最適化の応用例として割当て問題を取り上げ、例題を用いた演習を行う。また、安定マッチングについて学ぶ。
5	グラフ・ネットワーク	代表的なグラフ・ネットワーク問題である最短路問題と最小費用流問題について、応用例とともに学ぶ。
6	シミュレーション（決定論的シミュレーション）	問題解決や意思決定のためのシミュレーションについて学ぶ。決定論的シミュレーションの演習を Excel を用いて行う。
7	シミュレーション（確率的シミュレーション）	確率的シミュレーションについて、モンテカルロシミュレーションを中心に学ぶ。Excel を用いた演習を行う。
8	待ち行列（シミュレーション）	数理モデルを通して混雑と待ちの現象を解析し問題解決に役立てる手法として、待ち行列理論の基礎を学ぶ。とくにシミュレーションを用いた分析を行う。
9	待ち行列（理論的解析）	待ち行列理論の基礎を学ぶ。とくに M/M/1 待ち行列システムを中心に理論的解析について学ぶ。

- | | | |
|----|---------------------------|---|
| 10 | 不確実性下での意思決定（意思決定原理） | 不確実性やリスクのもとでの意思決定原理について、代表的なもの（マクシミン原理、マクシマックス原理、ミニマックス後悔原理、ラプラスの原理、期待値原理、期待値・分散原理、最尤未来原理、要求水準原理）とそれらの性質について学ぶ。 |
| 11 | 不確実性下での意思決定（ディシジョンツリー・効用） | リスクのもとでの意思決定（とくに多段階の意思決定）に用いられる代表的なツールであるディシジョンツリー（決定木）、および人が感じる満足度を数値によって表す概念である効用について学ぶ。 |
| 12 | AHP（階層的意思想定法） | 評価基準が複数存在する中で、複数の代替案から 1 つ（もしくは幾つか）を選択したり代替案を順位づけたりするためのツールとして AHP（階層的意思想定法）について学ぶ。 |
| 13 | ゲーム理論（非協力ゲーム） | ゲーム理論（複数の意思決定者が合理的な行動をとる状況を論理的に取り扱うための方法論）の基礎知識として、非協力ゲームの初歩について学ぶ。 |
| 14 | ゲーム理論（混合戦略）
演習課題（最終課題） | 非協力ゲームの混合戦略について学ぶ。また、授業内容の復習を行い、各自で設定した問題に対して、OR の手法を適用する。 |

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・ 事前学習（基礎知識の習得）
 - ・ 授業内容の復習
 - ・ 演習課題の実施と提出
- 本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

指定しない。資料を配布する。

【参考書】

- ・ 藤澤克樹・後藤順哉・安井雄一郎：「Excel で学ぶ OR」, オーム社, 2011.
 - ・ 今野浩・後藤順哉：「意思決定のための数理モデル入門」, シリーズ〈オペレーションズ・リサーチ〉5, 朝倉書店, 2011.
 - ・ 森雅夫・松井知己：「オペレーションズ・リサーチ」, 朝倉書店, 2004.
 - ・ 松井泰子・根本俊男・宇野毅明：「入門オペレーションズ・リサーチ」, 東海大学出版会, 2008.
 - ・ 高橋幸雄・森村英典：「混雑と待ち」, 朝倉書店, 2001.
 - ・ 藤田忠・熊田聖：「意思決定科学」, 第 2 版, 泉文堂, 2001.
 - ・ 宮川公男：「意思決定論—基礎とアプローチ」, 中央経済社, 2005.
 - ・ 渡辺隆裕：「図解雑学ゲーム理論」, ナツメ社, 2004.
 - ・ 逢沢明：「ゲーム理論トレーニング」, かんき出版, 2003.
- など。その他、授業内に適宜提示する。

【成績評価の方法と基準】

演習課題の提出物により、以下の割合で評価する。

- ・ 演習課題：70%
- ・ 最終課題：30%

ただし、授業を 4 回以上欠席した場合は評価の対象外（E 判定）とする。特別な理由がない限り 30 分以上の遅刻は欠席とみなす。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

- ・ edu2020 貸与ノートパソコン：演習・小テスト等に利用する。毎回持参すること。
- ・ 学習支援システム：お知らせの配信・資料やスライドの配布・課題の提示や回収・授業内小テスト等に利用する。

【Outline (in English)】

This course introduces several topics in Operations Research (OR). OR provides mathematical tools for problem-solving and decision-making in real-world situations. The goal of this course is to gain fundamental knowledge and skills in OR.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content. Grading will be decided based on assignments in each class (70%) and the final report (30%).

DES300ND

デザインケーススタディ

土屋 雅人、大西 景太、SEONG YOUNG AH

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：選択必修

その他属性：〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

デザインケーススタディは、一部演習を交えた講義形式の授業となります。

授業は3部構成となり、3名の教員が交代で行います。

本授業では、複雑化するデザインの開発領域において、実際の製品やサービスの事例を挙げながら、市場ニーズの分析手法（デザインマーケティング）、技術と社会との関係（デザインインターセクション）、および今日のデザインの社会的意義（デザインファンクション）を学びます。

第一部:デザインマーケティング

第二部:デザインインターセクション

第三部:デザインファンクション

【到達目標】

デザインマーケティングおよびデザインインターセクション、デザインファンクションの開発手法、開発理念に関する知識と今後のデザインのあり方を考察する能力を習得できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

本講義は対面を基本に行います。

講義全体は三部構成となり、第一部は1回目より5回目、第二部は6回目から9回目、第三部は10回目から14回目の講義となります。1回目はガイダンスが含まれます。

それぞれの講義概要は次の通りです。

第一部:デザインマーケティングでは、デザイン開発に求められるユーザーニーズの分析手法として、多変量解析を用いた主観評価手法を事例を通して学習し、マーケット分析方法とコンセプトプランニングを学びます。

第二部:デザインインターセクションでは、技術変革と社会変動がデザインの創作/活用/評価にどのような影響を与え、議論を起こしながら相互発展してきたかについて解説し、その意義や使い方について学びます。

第三部:デザインファンクションでは、今日のデザインが社会に与える役割、働き、価値などを、様々なデザイン領域の事例を通して解説し、その意義を学びます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス、感性価値、ニーズ分析1 土屋教授	この授業の要点、注意事項の説明をします。 価値の多様性とユーザーニーズを学習します。
2	ニーズ分析2 土屋教授	身近な商品を題材としたニーズ分析、商品地図法を学びます。
3	ニーズ分析3 土屋教授	多変量解析（クラスター分析）を学びます。
4	ニーズ分析4 土屋教授	多変量解析（主成分分析）を学びます。
5	ニーズ分析5 土屋教授	多変量解析（クラスター分析、主成分分析）を組み合わせたニーズ分析を学びます。
6	デザインとテクノロジー1 ソン教授	AIが生成する創作物について最新事例を解説します。

7	デザインとテクノロジー2 ソン教授	インタフェースや分析ツールの変革が影響を与えたデザイン史について解説します。
8	デザインと社会1 ソン教授	Technocracy の概念を紹介し、Speculative Design など技術と未来社会との関係を問うデザイン分野について解説します。 持続可能性、共生社会に向けたデザインの事例を解説します。
9	デザインと社会2 ソン教授	広告、ブランディングなどのグラフィックデザインの実例を解説します。
10	グラフィックデザイン1 大西景太	新しいグラフィック表現の開発とその活用例を解説します。
11	グラフィックデザイン2 大西景太	CM、MV、TV コンテンツなど映像デザインの事例を解説します。
12	タイムベースドデザイン1 大西景太	AR、VR、MR に関するデザイン事例を解説します。
13	タイムベースドデザイン2 大西景太	web やアプリ、展示空間などノンリニア映像の事例を解説します。
14	タイムベースドデザイン3 大西景太	

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

「デザインマーケティング」「デザインインターセクション」「デザインファンクション」の講義の中核は、デザイン活動が社会に与える役割や創造活動への貢献であり、デザインシンキングの視点から多面的な学習を行ってください。

授業内容の理解を促す課題（レポート等）には、指示に従って提出してください。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業内で適宜指示します。

【参考書】

授業内で適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】

積極的な授業参加と授業態度を評価対象とします。5回以上欠席および連続3回欠席の受講生は成績評価対象外となります。

遅刻は2回で1回の欠席扱いとなります（ただし正当な理由がある場合は欠席・遅刻ともその限りではない）。

成績は平常点40%課題30%、試験30%です。

【学生の意見等からの気づき】

講義内容をよく理解するためにも、参考図書、資料等の紹介を行う。

【学生が準備すべき機器他】

「第一部:デザインマーケティング」(担当土屋)ではノートPCを使いますので、必ず持参してください。

その他、ノートPC (Windows10) を用いる箇所がありますので、教員の指示に従ってください。

【Outline (in English)】

In this class, we will study the analysis method of market needs (Design Marketing), the relationship between technology and society (Design Intersection) and the social significance of design (Design Function) while giving examples of actual products and services in the complicated design development.

Part 1: Design Marketing

Part 2: Design Intersection

Part 3: Design Function

MAN300ND

情報システムデザイン

田岡 賢輔

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：選択必修

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

授業の概要

企業活動で IT 利活用を推進して行くために、主として次のテーマについて考え、具体的な手法を習得する。

1. 情報システムを構成する要素とそれぞれの位置づけ、役割を理解する
2. 企業の実際のビジネスにおいて情報システムがどのように適用されているか？
3. 企業の実際の情報システムにおいてシステムデザインはどのように行われているか？
4. 効果的・効率的な情報システムの構築にはどのようにシステムデザインを行えばよいか？
5. AI, IoT, ビッグデータ等の新しい考えを情報システムにどう組み入れてゆくか？ また現在の社会の動向・課題にどう情報システムが応えてゆけるか？

【到達目標】

企業において情報システムデザインを行う一員として、企業の業務要件を正確に表現できるモデルを作成する。さらに作成したモデルを最新のテクノロジーを活用し、効果的・効果的な情報システムとして構築できる手法を習得する。また常に変化している IT 環境と社会のニーズに対して、課題を捉えて整理し、どう対応すべきか自ら方針を策定出来るようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連。

【授業の進め方と方法】

情報システムデザインを推進する方法を事例紹介・ケース演習・ケーススタディ等を通し、実務的な視点を加えながら検討する。また、DX の進展など IT の最新動向について新聞などの最新情報を活用しながら常に変化する情報システムへの理解を深めてゆく。受け身の講義だけではなく、出来るだけ自分で考えて双方向で議論し、演習やレポート提出は、個人単位とグループを組み合わせて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	情報システムデザインのための概念 業務をモデル化して理解する	・授業の進め方 ・情報システムデザインのための概念：モデル化 ・業務のデータモデルとプロセスモデルによる表現と理解
第 2 回	情報システムを構成する要素とその位置づけを理解する	情報システムを構成する要素と位置づけ ・ハードウェア ・ソフトウェア ・ミドルウェア ・アプリケーションソフトウェア
第 3 回	企業におけるビジネス活動と情報システムを理解する (1)	企業における種々のビジネス活動とそれのための情報システムを下記題材について理解する ・営業活動 ・顧客管理
第 4 回	企業におけるビジネス活動と情報システムを理解する (2)	企業における種々のビジネス活動とそれのための情報システムを下記題材について理解する ・生産管理 ・財務会計
第 5 回	情報システムデザインの概要	・要件定義 ・基本設計 ・詳細設計
第 6 回	業務要件の理解と整理 (1)	それぞれについての概要を理解する 営業活動支援に関しての業務要件を理解して整理する
第 7 回	業務要件の理解と整理 (2)	生産管理に関しての業務要件を理解して整理する
第 8 回	基本設計-機能編 (1)	整理した業務要件から必要となる機能を洗い出して整理する
第 9 回	基本設計-機能編 (2)	機能を処理とデータの流れという形で理解して整理する
第 10 回	基本設計-データ編	要件を満たし機能を実現するためのデータを洗い出してデータベース設計を行う

第 11 回	基本設計-UI 編	要件を満たし機能を実現するためのユーザーインターフェース設計を行う
第 12 回	情報システムの開発手法	開発手法について新しい考えも含め理解する ・ウォーターフォール型 ・アジャイル開発 ・プロトタイプ開発
第 13 回	AI 等の活用等、情報システム技術の最前線について	新しい IT が情報システムにどのようなかわるかを理解する ・AI ・IoT ・ビッグデータ
第 14 回	今日の社会環境における情報システムの課題	今日の社会環境において情報システムが抱える課題を理解する ・情報産業の現状と課題 ・新技術対応へ向けての IT 人材像 ・社会のニーズと情報システムの役割

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

別途授業で指示

本授業の準備学習・課題への対応時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

下記の組み合わせを予定

1. 授業でプリントを配布
2. 授業支援システムより教材パワーポイントをダウンロード

【参考書】

「高校数学でわかるディープラーニングの仕組み」(バレ出版 ISBN978-4-86064-602-8)

「BAM～可視化経営の実践～」(日経 BP 社、ISBN-4: 86130-227-7)

【成績評価の方法と基準】

下記により総合的に評価する。

1. 平常点（授業中の参加の度合、貢献度） 50%
2. 期末レポート 50%

【学生の意見等からの気づき】

アンケートを実施、グループワークの実施方法等について、学生からの意見等を活かすことに努めている。

【学生が準備すべき機器他】

パワーポイント、エクセル、その他インターネット上のツール等を活用するためノート PC 必須
情報共有と課題に授業支援システムを活用

【その他の重要事項】

本講義の講師は情報システムや IT 製品の設計・開発に長年従事しており、ここでの知見を活かして授業を行う。これにより、学生には情報システムデザインに関する知識・手法を理解するのみでなく、そこで実際に起きる問題・課題は何か、そしてどのように対応するかを考えられる人材を目指してもらおう。

【Outline (in English)】

In this course students will learn about the following system design methods, used to promote usage/effectiveness of information systems in enterprises.

1. Elements of information systems and their roles.
2. How information systems are applied to actual businesses.
3. How design is practiced in information systems at enterprises.
4. What is effective and efficient design for information systems.
5. How new technologies like AI, IoT and Big Data are introduced in information systems. And how information system responds to current social needs.

DES300ND

プロダクトデザイン理論

安積 伸

開講時期：春学期授業/Spring | 選択・必修の別：選択

その他属性：〈優〉〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

AB 期 14 回の授業で、オンラインによる開講を基本とする。(金曜日 5 限)
この授業では、プロダクトデザイン（以下 PD）の創造性にとって重点な要件の基礎理論を学ぶことが出来る。

人間の創造行為としての PD の歴史認識、社会的意義、デザインと機能の関係、PD と人間工学、PD に多く使用される素材と製造技術などを学習し、デザインと工学の関連性を理解することができる。

【到達目標】

インダストリアルデザインの近代～今日までの文化的文脈を理解する。
プロダクトデザイン開発プロセス概要の理解。PD 企画の理解。PD の形状・造形の理解。PD と素材、素材表面処理の理解。PD の量産、小ロット生産技術概要の理解を目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連。

【授業の進め方と方法】

AB 期 1 4 回でオンラインによる講義を基本とする。(金曜日 5 限)

講義ノートを必ずとする事。

プロダクトデザインと基礎技術：

PD 設計に必要な製品製造工法、素材、素材表面処理技術に関して学ぶ事が出来ます。

プロダクトデザインの基礎歴史的な文脈：

現代のプロダクデザインが成立するまでの近代デザインの歴史の文脈を学ぶことが出来ます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	プロダクトデザインとは何か
2	デザイン・建築・現代美術史 概論	デザインの黎明から現在までを俯瞰する
3	家具のデザイン ①	家具デザインの歴史
4	家具のデザイン ②	家具デザインを支える技術
5	生活機器のデザイン ①	生活のためのデザイン
6	生活機器のデザイン ②	地場産業・伝統技術とデザイン
7	工業製品のデザイン ①	工業デザインの歴史
8	工業製品のデザイン ②	工業生産の素材と技術
9	歴史文化の文脈とデザイン ①	地域のためのデザイン
10	歴史文化の文脈とデザイン ②	日本人のためのデザイン
11	人間とデザイン ①	人間のためのデザイン
12	人間とデザイン ②	デザインの価値・デザインの意味
13	プロダクトデザインの隣接領域 ①	工芸とデザイン
14	プロダクトデザインの隣接領域 ②	現代美術とデザイン

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各講義ノートを取り、内容について復習する
各回の講義ノートをまとめ講義ノートを充実させる。
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

講義進捗に合わせ適宜授業参考資料を配布する。

【参考書】

「もの」はどのようにつくられているのか？、Chris Lefteri 著、オライリージャパン

心を動かすデザインの秘密、荷方邦夫著、実務教育出版

プロダクトデザイン 101 のアイデア、ス・ジャン マシュー・フレデリック著、フィルムアート社

世界デザイン史、安倍公正監修、美術出版社

他

【成績評価の方法と基準】

講義全体で 4 回以上の欠席および連続 3 回欠席の受講生は成績評価対象外となります。

遅刻は 2 回で 1 回の欠席扱いとなります。欠席一回につき 4 点、遅刻 2 点（ただし正当な理由がある場合は欠席・遅刻ともその限りではない。）

評価： 出席（30%）筆記試験（70%）

【学生の意見等からの気づき】

説明をよりゆっくと進める

【その他の重要事項】

英国、日本でプロダクトデザイン実務経験のある教員が、その経験を生かしてプロダクトデザイン全般の文化的文脈基礎知識及び製造の基本技術を講義する。

【Outline (in English)】

In this course, students will learn basic theory behind fundamental requirements in product design (PD) creativity.

MEC200ND

メカニカルデザイン（2019年度以降入学生）

山田 泰之

開講時期：春学期後半/Spring(2nd half) | 選択・必修の別：選択必修

その他属性：〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

物体と物体の動きの関係性を定める機構（メカニズム）に焦点をあて、幾何学や一般力学の基本原則を元に学ぶ。さらに、それらのメカニズムを利用したメカニカルシステムを、材料特性、加工、生産性などの多角的視点により具体化させるための基礎的、応用的知識と実践方法を学ぶ。

【到達目標】

- 1) 基本的な機械の機構（メカニズム）が理解できる。
- 2) メカニカルデザインを具体化するために必要は材料、加工法等の実設計について理解できる。
- 3) 1) と 2) の学修を通じて、機械の機構を企画・設計（デザイン）する手法の基礎を理解し、応用できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

動きをとまなうあらゆる製品には「機構（メカニズム）」が存在する。機構は製品を企画・設計（デザイン）するにあたり、エンジニアはもちろん、デザイナーも理解しておかなければならない重要な要素である。本講義では、リンク機構、カム機構、伝動装置、歯車、流体駆動、ロボットなど、主なメカニズムの基礎と、その具体化にかかわる材料や加工法の選定などを含めたメカニカルデザイン全般について学ぶ。講義は対面を主体に実施するが、状況をみてオンラインやコンテンツ配信なども併用する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	はじめに 設計基礎	・機械設計とは何か、身近な機械機構、材料と加工法の事例紹介 ・図面と CAD を用いた機械設計と設計プロセス
第 2 回	機械要素	・機械要素や規格品の活用（締結要素や材料規格） ・構造と材料の選定について ・機械要素：ギヤ
第 3 回	伝達機構 カム機構	・柔軟伝達機構 ・カム機構
第 4 回	リンク機構 液体伝達機構 アクチュエータ	・リンク機構、緩衝装置 ・液体伝達要素 ・アクチュエータ ・中間課題
第 5 回	材料 構造	・様々な材料を利用したメカニカルデザイン ・機械の様々な構造
第 6 回	機械加工・工具 移動機構	・様々な部品の機械加工方法や道具の紹介 ・移動機構
第 7 回	応用的なメカニカルデザイン 期末課題	・応用的なメカニカルデザインについて紹介する。 ・期末課題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- 1) シラバスの内容を事前に確認する
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

必要な教材、資料は随時で紹介する。
参考図書は機構学（ISBN-13: 978-4627668911）は、学内あるいは VPN 接続により、電子書籍で閲覧可能です。
https://kinoden.kinokuniya.co.jp/hosei_u/bookdetail/p/KP00031635/
参考図書の基礎機械材料は図書館にあります。

【参考書】

- 1) 機構学 ISBN-13: 978-4627668911
- 2) 基礎機械材料 ISBN-13: 978-4563069216

【成績評価の方法と基準】

平常点・確認小テスト（30 %）
課題提出と期末テストにより（70 %）
により総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

学習内容が、「実際にどのような商品や製品に応用され活用されているのかが、イメージできない」との指摘があった。事例紹介を増やし、学習内容と実社会で利用されている技術の関連付けを明確にしながら説明するよう心がける。

【Outline (in English)】

The theme of this course is to apply basic principles of geometry and general mechanics to various mechanical problems. Students will solve problems by modeling motion phenomena using simulation software and visualization techniques. Through the above process, they will understand the basics of methods for designing highly functional mechanisms through lectures and practical training.

HUI300ND

スマートマシンデザイン（2019年度以降入学生）

梅舘 拓也

開講時期：秋学期前半/Fall(1st half) | 選択・必修の別：選択必修

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

IoT やロボットなどの先端工学を応用した次世代の機械であるスマートマシンの実践的な設計方法を学ぶ。具体的には、各種マイコン（Arduino, M5Stack, Mbed など）でのさまざまなセンサやアクチュエータ扱い方を、ウェブ教材と実際の電子部品を用いた実習形式で学ぶ。

【到達目標】

各種センサ、アクチュエータ、マイコンを使った電子回路設計、コーディングを習得し、生徒自らが今後の技術開発の展望を描けることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

解説と実習を交互に行う。また、解説の理解度をはかるために下記のもの提出を要求する：講義を基に作った電子工作作品のコードや回路などをまとめたレポート課題の提出（6回）、本授業使った課題提出（1回）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	授業の内容のご説明と電気回路・マイコンシミュレータ Tinkercad の使い方の説明	本授業の大まかな流れを説明します。また、電気回路・マイコンシミュレータ Tinkercad の使い方のログイン方法、使い方を解説します。
2	Tinkercad を使った演習	Tinkercad 上で、Arduino, N 型の MOSFET, 抵抗, 外部電源, 豆電球を使って、豆電球を 5 秒ごとに点滅させてみる演習を行います。
3	Tinkercad とマイコン実機使ったアクチュエータの駆動方法の解説	電気回路・マイコンシミュレータ Tinkercad を使ってアクチュエータの使い方を解説します。
4	Tinkercad とマイコン実機使ったアクチュエータの駆動する実習	電気回路・マイコンシミュレータ Tinkercad を使ってモータの使い方の実習を行います。
5	Arduino でアクチュエータ（つづき）とセンサの使い方の解説	マイコンアクチュエータの駆動方法（前回の続き）とマイコンでのセンサ値の読み取り方法を解説します。
6	Tinkercad 上で可変抵抗とスライドスイッチでモータの回転方向・速度を制御する実習	スイッチの状態と可変抵抗の抵抗値をマイコンで読み取り、その値を基にモータが正転逆転、回転速度が変わる回路を Tinkercad 上で作る実習を行います。
7	Arudino を使って割り込みとエンコーダ読み取り方法を解説	割り込みを使ってエンコーダの回転角度を読み取る方法を解説します。
8	実機マイコンを用いた L チカとシリアル通信を行う実習	実機マイコンを使って L チカとシリアル通信を行う実習を行います
9	Tinkercad, マイコン実機で PD 制御を実行の仕方についての解説	古典制御の最大の成果である PD 制御を、マイコン上でどのようにコーディングするかに関して学びます。
10	P 制御を Tinkercad で行う実習	Tinkercad 上で、エンコーダ付きモータを使って P 制御を実行する演習を行います。
11	対面授業「ソフトロボティクスとはなにか？」	講師が今まで行ってきた研究をケーススタディとして、ソフトロボティクスという今急成長している研究分野を紹介します。
12	最終課題「本授業を習ったことを使って作成する課題」の解説と、わからなかったことを聞く質問タイム	マイコン実機に関して、動かない、書き込みが上手く行かないなどのトラブルを対面で解決します。
13	マイコンから出力された値を Processing で描画の方法と PCB ボードの作り方	マイコン実機からシリアル通信経由で出力される値を基に、さまざまな図形を PC 上で描画する方法を学びます。
14	P 制御をマイコン実機を使ってやってみる実習	マイコン実機を使って P 制御を行っててもらいます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

2, 4, 6, 8, 10, 14 回の実習として出題する課題のレポートを提出すること。
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。加えて、それぞれ独自に取り組む課題（自分でなにか作ってたものを解説する動画 or IF2 以上の論文/IROS/ICRA 予稿を著者になったつもりで解説する動画など）の提出を求めます。

【テキスト（教科書）】

毎回の授業スライドを PDF として配布するので、特別テキストの購入の必要はありません。

【参考書】

Prototyping Lab 第 2 版 — 「作りながら考える」ための Arduino 実践レシピ (Make: PROJECTS)

【成績評価の方法と基準】

出席、課題提出に基づいて採点します。

【学生の意見等からの気づき】

授業改善アンケートの回答を確認し、授業に活かすことに努めている。

【学生が準備すべき機器他】

AtomLite, モータドライバ IC, LED, 可変抵抗など法政大学で配布したものを利用します。また、これとは別に Mbed マイコン, Arduino 互換マイコンも希望者に配布する予定です。

【その他の重要事項】

本講義の履修に際しては線形代数と微積分に関する知識が必要。

履修条件として、2 年次に「メカトロニクス」、「メカトロニクス演習」、「ロボットデザイン」、「機械の機構と設計」、「福祉工学」のうち少なくとも一つの科目を受講済みであること。

【Outline (in English)】

You can learn practical methods for designing and developing smart machines. Smart machines are next-generation devices that advanced engineering applies (e.g., IoT devices and robotics). Specifically, students will learn how to handle various sensors and actuators on microcontrollers (Arduino, M5Stack, Mbed, etc.). The lecture and hands-on experiments are provided using a web-based microcomputer and electric-circuit emulator (i.e., Tinkercad), and also hardwares.

FRI300ND

ゲームプログラミング（2019年度以降入学生）（2021年度開講）

岩月 正見

開講時期：春学期前半/Spring(1st half) | 選択・必修の別：選択必修

その他属性：〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、3次元コンピュータグラフィックス（3DCG）の技術がどのような原理によって実現され、いかにしてゲーム開発に応用されているかについて、ゲーム開発統合環境 Unity を用いて、実際に 3D シーンを構築し、プログラミングを行いながら具体的に理解していく。また、3D オブジェクトに物理属性を与えたり、インタラクティブな操作を行ったりする手法についても学ぶ。

【到達目標】

本授業は、3DCG 技術を用いて自分のアイデアに基づくゲームや 3D コンテンツを具体的に制作できるようになることを目標とする。特に、現在多くの開発者に利用されているゲーム開発統合環境 Unity を利用することにより、3D ゲームやインタラクティブな 3D コンテンツが容易に開発できることを実感する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連。

【授業の進め方と方法】

チュートリアルビデオを見ながら、ゲーム開発統合環境 Unity の操作方法を学び、3DCG ゲームを開発するための具体的に制作しながら学んでいく。また、各チュートリアルの詳細な解説と補足説明も行い、使われている素材の入手方法や作成方法についても詳しく解説する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ゲームプログラミングとは	ゲーム制作の要素 1. グラフィクス 2. サウンド 3. UI 4. プログラミング
2	ゲーム開発統合環境 Unity の基礎	ゲーム開発統合環境 Unity のインストールを行い、各パネルの役割や操作方法の基本を学ぶ。
3	オブジェクトの物理属性と衝突判定	オブジェクトを剛体として、質量や反発係数などの物理特性を与える方法を学ぶ。また、オブジェクト間の衝突を判定する方法を学ぶ。
4	外部入力検出とプレハブ	キーボード入力によってオブジェクトを操作する手法を学ぶ。また、プレハブと呼ばれる使いまわしのできるプロトタイプオブジェクトを利用する方法を学ぶ。
5	オブジェクトの生成と消滅およびタイマー	スクリプトによってオブジェクトを動的に生成・消滅させる方法を学ぶ。また、ゲームに欠かせないタイマーを利用する方法を学ぶ。
6	オブジェクトの基本的な移動と力の与え方	オブジェクトの 3 次元的な移動方法を学ぶ。また、オブジェクトに力を与える方法を学ぶ。
7	演習	これまでの知識を総合してボーリングゲームを作成する。
8	マテリアル属性とオーディオの基礎	オブジェクトにテクスチャを貼る方法を学ぶ。また、オーディオを生成する方法を学ぶ。
9	ジョイントと矢印キーによる入力	複数のオブジェクトを結合したり、関節でつなぎ合わせる方法を学ぶ。また、矢印キーによる入力方法について学ぶ。
10	トリガー衝突判定と GUI およびカウンター	オブジェクトが衝突したことを通知するトリガーを使う方法を学ぶ。グラフィカルユーザインタフェース (GUI) を作成する方法とカウンターの使い方を学ぶ。
11	スクリプトによるコンポーネントの追加とシーンの切り替え	スクリプトによって、オブジェクトの属性を与えるコンポーネントを動的に追加する方法を学ぶ。また、ゲームの終了時などのためのシーンの切り替え方法を学ぶ。

12	スクリプトによるコンポーネント属性の調整およびローカル・グローバル座標	スクリプトによって、コンポーネント属性の内容を調整する方法を学ぶ。また、シーン中のローカル・グローバル座標について学ぶ。
13	オブジェクトへの視線追跡と IF 条件節	主オブジェクトを追跡する LookAt() 関数の使い方について学ぶ。また、IF 条件節について学ぶ。
14	最終作品発表	これまで学んだ知識を駆使して、各自オリジナル作品を制作し、発表する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

プログラミング（C#, C++, Java 等）の基礎を理解しておくこと。

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書はとくに指定しない。

講義資料を配布する。

【参考書】

特に指定しない。

【成績評価の方法と基準】

授業への取り組み（20 %）+ 講義内での演習（40 %）+ 最終作品（40 %）で総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

学生の持ち込む PC によって動作に不具合や差が出るため、それらを配慮して演習を考える。

【学生が準備すべき機器他】

PC

【Outline (in English)】

The aim of this course is to understand how to create 3DCG game applications by using Unity, a cross platform game engine. Students will acquire game programming skills through exercises for creating various game scenes with a physics engine and interactive user interface.

HUI300ND

ARプログラミング（2019年度以降入学生）（2021年度開講）

岩月 正見

開講時期：春学期後半/Spring(2nd half) | 選択・必修の別：選択必修

その他属性：〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

拡張現実感（Augmented Reality: AR）と呼ばれる、現実世界とCGによる仮想世界を融合できる最先端技術を利用することにより、インタラクティブで直観的な3次元情報を提示したり、3D絵本やキャラクターなどをあたかも現実の物体であるかのように提示することが可能になる。本授業では、このようなAR技術を利用したコンテンツを実現する方法を実際に制作しながら学ぶ。

【到達目標】

本授業では、ゲーム開発統合環境「Unity」とARライブラリ「EasyAR SDK for Unity」を用いて、AR技術を利用したコンテンツを、実際にプログラミングしながら具体的に理解し、各自のアイデアに基づいてオリジナルのAR作品を制作する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

各自ノートPCを持参し、講義の中で、実際にプログラミングをしながら、拡張現実感の世界を理解し、様々な機能を実装できるようにする。理解度を把握するため、演習作品を提出し、最終成果物として各自のオリジナル作品を披露してもらう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	3D-CGと現実との融合	仮想現実感、複合現実感、拡張現実感とは？ アニメから現実へ。
第2回	ゲーム開発統合環境 Unity の基礎	ゲーム開発統合環境 Unity のインストールと操作方法について学ぶ。
第3回	Unity 入門 (1)	キューブ型の物理オブジェクトを積み上げて、3次元ブロックを作成する。
第4回	Unity 入門 (2)	ボールに力を与えて、ブロックを崩すプログラムを作成する。
第5回	Unity 入門 (3)	マウスクリックによりシューティングしてブロックを崩すプログラムを作成する。
第6回	Unity 入門 (4)	マウスクリックによりボールをつぎつぎに出現させ、カメラ（プレイヤー）視点からシューティングするプログラムを作成する。
第7回	Unity 入門 (5)	スクリプトによりオブジェクトを動的に生成して3次元ブロックを出現させるプログラムを作成する。
第8回	作品発表	これまで学んだことを使ってオリジナル作品を制作し、発表する。
第9回	EasyAR SDK for Unity 入門 (1)	Unity 状態で AR コンテンツを作成できる EasyAR SDK for Unity について概説し、サンプルプログラムを動作させてみる。
第10回	EasyAR SDK for Unity 入門 (2)	Unity 入門で作成した3次元ブロック崩しを AR コンテンツとして実装する。
第11回	EasyAR SDK for Unity 入門 (3)	Unity 入門で作成した3次元ブロック崩しを AR コンテンツとして実装する。
第12回	Mecanim 入門	Unity のキャラクターアニメーション作成ツール「Mecanim」の基礎について学ぶ。
第13回	MMD4Mecanim の AR コンテンツへの応用	MMD4Mecanim により作成したキャラクターアニメーションを AR コンテンツとして提示する方法を学ぶ。
第14回	最終作品発表	これまで学んだことの集大成として最終作品を発表する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

3DCG プログラミングの基礎を理解しておくこと。
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に使用しない。

【参考書】

Unity 入門書全般

【成績評価の方法と基準】

演習の提出状況 (60%) と最終作品 (40%) により評価する。

【学生の意見等からの気づき】

各種開発環境のインストール作業やその意義についてわかりやすく解説する必要がある。

【学生が準備すべき機器他】

ノート PC を持参すること。Web カメラが必須である。また、操作性を向上のため、マウスを持参した方がよい。

【Outline (in English)】

Augmented Reality(AR) technology with its ability to fuse real and virtual worlds through CG allows us to receive interactive and intuitive three-dimensional information from virtual objects in front of our eyes. In this class, students will understand how to create contents with AR technology by using the cross platform engine Unity and the AR SDK.

BME200NA

福祉工学（デザイン工）

川瀬 利弘

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：選択

その他属性：〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

医療福祉の分野で、機械工学や電子工学、情報工学がどのように応用されているのかを学ぶ。それによりこの分野の発展には工学技術とヒトの理解が必要不可欠であることを理解する。

【到達目標】

- 福祉工学の基本理念を理解する
- 様々な技術の基本原則と最新の状況を理解する
- 生理学や神経科学の大まかな理解に基づき、福祉機器や医療機器について考えられるようになる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP2」、都市環境デザイン工学部ディプロマポリシーのうち「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

福祉工学を学ぶ上で必要となる基本的な生理学や神経科学、それに基づいた生体計測や、関連する信号処理技術、治療工学、生活支援工学などを、最近の研究成果を踏まえつつわかりやすく講義する。
毎回授業支援システムより資料を配付し、講義の最後にその回のポイントについて小テストを行う。授業の初めに、前回の授業で提出された回答をもとに、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	福祉工学概論	ヒトの感覚・運動機能を機械で補助・代行する分野としての福祉工学について、歴史と現状を概説する。
2	生体計測 1：概論	福祉工学に関連する生体計測について、得られる信号の種類や特徴、基本的な取り扱い方を講義する。
3	生体計測 2：生体の電気的現象	ヒトの感覚・運動機能を支えている神経や筋肉の電気的現象について講義する。
4	生体計測 3：電気的計測	生体から電気的な信号を取り出すための電極のしくみや、これを用いた脳波計や筋電計などを、実際の計測の様子を示しつつ解説する。
5	生活支援工学 1：義肢・装具	義肢・装具について、基本的なものから、筋電義手など工学的技術を用いたものまで解説する。
6	生活支援工学 2：リハビリテーション・ロボティクス	リハビリテーション訓練や運動支援のためのロボット技術について講義する。
7	生活支援工学 3：人工感覚	五感の障害を取り除くための人工感覚技術について講義する。
8	生活支援工学 4：ブレイン・マシン・インタフェース	脳波などの生体信号計測を用いたインタフェース技術について講義する。生体信号によるインタフェース技術のデモも行う。
9	治療工学 1：医療用ロボット	手術支援ロボットなど、医療現場で使われるロボットについて解説する。
10	治療工学 2：医療画像	障害や疾患に関する生体内部の情報を得るための医用画像技術について講義する。
11	治療工学 3：医療のための情報技術	人工知能などの情報技術による、診断や医療ロボットの高度化について講義する。
12	治療工学 4：医療のためのメカトロニクス	医療用ロボットに必要な機械工学などの技術について講義する。
13	福祉工学と感性	障害を抱える当事者の主観的な感覚と福祉工学の関わりについて講義する。義手に関する身体錯覚実験のデモも行う。
14	福祉・医療機器のこれから	福祉・医療機器の現状をまとめ、残されている課題と、その解決に向けて行われている研究や活動を紹介する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

期末レポート課題では、文献などの調査をした結果と自分の考えを文章としてまとめる。

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業内に資料を配布するため不要

【参考書】

『福祉工学の挑戦：身体機能を支援する科学とビジネス』（中公新書）
『生まれながらのサイボーグ：心・テクノロジー・知能の未来』（春秋社）
『メカ屋のための脳科学入門：脳をリバースエンジニアリングする』（日刊工業新聞社）
『医用工学の基礎』（東京電機大学出版局）
『目の見えない人は世界をどう見ているのか』（光文社新書）

【成績評価の方法と基準】

評価方法：毎回の講義中における小テスト（50%）、および期末レポート課題（50%）で評価する

評価基準：本科目において設定した達成目標を 60%以上達成している学生を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

毎回の小テストの結果や前年度の授業改善アンケート結果を参考に、授業内容の改善に努めている。また期末レポートを通し現在の学生の関心を知ることで、内容の拡充を図っている。

2022 年度は全てオンラインで行ったが、対面の回を希望する声があった。今年度は対面の回を用意し、生体信号計測のデモなどを行う予定である。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムに講義資料をアップロードし、授業中は貸与パソコンでダウンロード・閲覧できるようにする。

【Outline (in English)】

Course outline:

In the context of health welfare, students will learn about the roles which mechanical/electrical engineering and software engineering play. Through this, they will understand how engineering technology and understanding of human are essential factors in the development of the field.

Learning objectives:

By the end of the course, students should be able to do the followings:

- To understand the basic principles of welfare engineering
- To understand the basic principles and the latest status of various technologies in this field
- To think about welfare and medical instruments based on a general understanding of physiology and neuroscience.

Learning activities outside of classroom:

For the report at the end of the term, students will survey a specific area of welfare engineering and summarize their thoughts about the area. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading criteria/policy:

Grading will be decided based on quizzes in each lecture (50%) and report at the end of the term (50%).

BME200NA

福祉工学（デザイン工）

川瀬 利弘

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：選択

その他属性：〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

医療福祉の分野で、機械工学や電子工学、情報工学がどのように応用されているのかを学ぶ。それによりこの分野の発展には工学技術とヒトの理解が必要不可欠であることを理解する。

【到達目標】

1. 福祉工学の基本理念を理解する
2. 様々な技術の基本原則と最新の状況を理解する
3. 生理学や神経科学の大まかな理解に基づき、福祉機器や医療機器について考えられるようになる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP2」、都市環境デザイン工学部ディプロマポリシーのうち「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

福祉工学を学ぶ上で必要となる基本的な生理学や神経科学、それに基づいた生体計測や、関連する信号処理技術、治療工学、生活支援工学などを、最近の研究成果を踏まえつつわかりやすく講義する。
毎回授業支援システムより資料を配付し、講義の最後にその回のポイントについて小テストを行う。授業の初めに、前回の授業で提出された回答をもとに、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	福祉工学概論	ヒトの感覚・運動機能を機械で補助・代行する分野としての福祉工学について、歴史と現状を概説する。
2	生体計測 1：概論	福祉工学に関連する生体計測について、得られる信号の種類や特徴、基本的な取り扱い方を講義する。
3	生体計測 2：生体の電気的現象	ヒトの感覚・運動機能を支えている神経や筋肉の電気的現象について講義する。
4	生体計測 3：電気的計測	生体から電気的な信号を取り出すための電極のしくみや、これを用いた脳波計や筋電計などを、実際の計測の様子を示しつつ解説する。
5	生活支援工学 1：義肢・装具	義肢・装具について、基本的なものから、筋電義手など工学的技術を用いたものまで解説する。
6	生活支援工学 2：リハビリテーション・ロボティクス	リハビリテーション訓練や運動支援のためのロボット技術について講義する。
7	生活支援工学 3：人工感覚	五感の障害を取り除くための人工感覚技術について講義する。
8	生活支援工学 4：ブレイン・マシン・インタフェース	脳波などの生体信号計測を用いたインタフェース技術について講義する。生体信号によるインタフェース技術のデモも行う。
9	治療工学 1：医療用ロボット	手術支援ロボットなど、医療現場で使われるロボットについて解説する。
10	治療工学 2：医療画像	障害や疾患に関する生体内部の情報を得るための医用画像技術について講義する。
11	治療工学 3：医療のための情報技術	人工知能などの情報技術による、診断や医療ロボットの高度化について講義する。
12	治療工学 4：医療のためのメカトロニクス	医療用ロボットに必要な機械工学などの技術について講義する。
13	福祉工学と感性	障害を抱える当事者の主観的な感覚と福祉工学の関わりについて講義する。義手に関する身体錯覚実験のデモも行う。
14	福祉・医療機器のこれから	福祉・医療機器の現状をまとめ、残されている課題と、その解決に向けて行われている研究や活動を紹介する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

期末レポート課題では、文献などの調査をした結果と自分の考えを文章としてまとめる。

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業内に資料を配布するため不要

【参考書】

『福祉工学の挑戦：身体機能を支援する科学とビジネス』（中公新書）
『生まれながらのサイボーグ：心・テクノロジー・知能の未来』（春秋社）
『メカ屋のための脳科学入門：脳をリバースエンジニアリングする』（日刊工業新聞社）
『医用工学の基礎』（東京電機大学出版局）
『目の見えない人は世界をどう見ているのか』（光文社新書）

【成績評価の方法と基準】

評価方法：毎回の講義中における小テスト（50%）、および期末レポート課題（50%）で評価する

評価基準：本科目において設定した達成目標を 60%以上達成している学生を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

毎回の小テストの結果や前年度の授業改善アンケート結果を参考に、授業内容の改善に努めている。また期末レポートを通し現在の学生の関心を知ることで、内容の拡充を図っている。

2022 年度は全てオンラインで行ったが、対面の回を希望する声があった。今年度は対面の回を用意し、生体信号計測のデモなどを行う予定である。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムに講義資料をアップロードし、授業中は貸与パソコンでダウンロード・閲覧できるようにする。

【Outline (in English)】

Course outline:

In the context of health welfare, students will learn about the roles which mechanical/electrical engineering and software engineering play. Through this, they will understand how engineering technology and understanding of human are essential factors in the development of the field.

Learning objectives:

By the end of the course, students should be able to do the followings:

- To understand the basic principles of welfare engineering
- To understand the basic principles and the latest status of various technologies in this field
- To think about welfare and medical instruments based on a general understanding of physiology and neuroscience.

Learning activities outside of classroom:

For the report at the end of the term, students will survey a specific area of welfare engineering and summarize their thoughts about the area.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading criteria/policy:

Grading will be decided based on quizzes in each lecture (50%) and report at the end of the term (50%).

BME200NA

福祉工学（デザイン工）

川瀬 利弘

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：選択

その他属性：〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

医療福祉の分野で、機械工学や電子工学、情報工学がどのように応用されているのかを学ぶ。それによりこの分野の発展には工学技術とヒトの理解が必要不可欠であることを理解する。

【到達目標】

1. 福祉工学の基本理念を理解する
2. 様々な技術の基本原則と最新の状況を理解する
3. 生理学や神経科学の大まかな理解に基づき、福祉機器や医療機器について考えられるようになる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP2」、都市環境デザイン工学部ディプロマポリシーのうち「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

福祉工学を学ぶ上で必要となる基本的な生理学や神経科学、それに基づいた生体計測や、関連する信号処理技術、治療工学、生活支援工学などを、最近の研究成果を踏まえつつわかりやすく講義する。

毎回授業支援システムより資料を配付し、講義の最後にその回のポイントについて小テストを行う。授業の初めに、前回の授業で提出された回答をもとに、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	福祉工学概論	ヒトの感覚・運動機能を機械で補助・代行する分野としての福祉工学について、歴史と現状を概説する。
2	生体計測 1：概論	福祉工学に関連する生体計測について、得られる信号の種類や特徴、基本的な取り扱い方を講義する。
3	生体計測 2：生体の電気的現象	ヒトの感覚・運動機能を支えている神経や筋肉の電気的現象について講義する。
4	生体計測 3：電気的計測	生体から電気的な信号を取り出すための電極のしくみや、これを用いた脳波計や筋電計などを、実際の計測の様子を示しつつ解説する。
5	生活支援工学 1：義肢・装具	義肢・装具について、基本的なものから、筋電義手など工学的技術を用いたものまで解説する。
6	生活支援工学 2：リハビリテーション・ロボティクス	リハビリテーション訓練や運動支援のためのロボット技術について講義する。
7	生活支援工学 3：人工感覚	五感の障害を取り除くための人工感覚技術について講義する。
8	生活支援工学 4：ブレイン・マシン・インタフェース	脳波などの生体信号計測を用いたインタフェース技術について講義する。生体信号によるインタフェース技術のデモも行う。
9	治療工学 1：医療用ロボット	手術支援ロボットなど、医療現場で使われるロボットについて解説する。
10	治療工学 2：医療画像	障害や疾患に関する生体内部の情報を得るための医用画像技術について講義する。
11	治療工学 3：医療のための情報技術	人工知能などの情報技術による、診断や医療ロボットの高度化について講義する。
12	治療工学 4：医療のためのメカトロニクス	医療用ロボットに必要な機械工学などの技術について講義する。
13	福祉工学と感性	障害を抱える当事者の主観的な感覚と福祉工学の関わりについて講義する。義手に関する身体錯覚実験のデモも行う。
14	福祉・医療機器のこれから	福祉・医療機器の現状をまとめ、残されている課題と、その解決に向けて行われている研究や活動を紹介する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

期末レポート課題では、文献などの調査をした結果と自分の考えを文章としてまとめる。

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業内に資料を配布するため不要

【参考書】

『福祉工学の挑戦：身体機能を支援する科学とビジネス』（中公新書）
『生まれながらのサイボーグ：心・テクノロジー・知能の未来』（春秋社）
『メカ屋のための脳科学入門：脳をリバースエンジニアリングする』（日刊工業新聞社）
『医用工学の基礎』（東京電機大学出版局）
『目の見えない人は世界をどう見ているのか』（光文社新書）

【成績評価の方法と基準】

評価方法：毎回の講義中における小テスト（50%）、および期末レポート課題（50%）で評価する

評価基準：本科目において設定した達成目標を 60%以上達成している学生を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

毎回の小テストの結果や前年度の授業改善アンケート結果を参考に、授業内容の改善に努めている。また期末レポートを通し現在の学生の関心を知ることで、内容の拡充を図っている。

2022 年度は全てオンラインで行ったが、対面の回を希望する声があった。今年度は対面の回を用意し、生体信号計測のデモなどを行う予定である。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムに講義資料をアップロードし、授業中は貸与パソコンでダウンロード・閲覧できるようにする。

【Outline (in English)】

Course outline:

In the context of health welfare, students will learn about the roles which mechanical/electrical engineering and software engineering play. Through this, they will understand how engineering technology and understanding of human are essential factors in the development of the field.

Learning objectives:

By the end of the course, students should be able to do the followings:

- To understand the basic principles of welfare engineering
- To understand the basic principles and the latest status of various technologies in this field
- To think about welfare and medical instruments based on a general understanding of physiology and neuroscience.

Learning activities outside of classroom:

For the report at the end of the term, students will survey a specific area of welfare engineering and summarize their thoughts about the area. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading criteria/policy:

Grading will be decided based on quizzes in each lecture (50%) and report at the end of the term (50%).

DES200NA

ランドスケープデザイン

小木曾 裕

開講時期：春学期授業/Spring | 選択・必修の別：選択
備考（履修条件等）：都市：建築士

その他属性：〈優〉〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

都市及び地域の空間は長い年月を経て、それぞれの土地の持つ自然資源や風土そして生態の状況の中で人の営みを経てできあがる。その空間は原生林以外については、ある段階で人の手が加わり再構築されている。都市空間の再構築は、その都市空間の規模にもよるが都市計画や土木的な基盤、建築計画を始め様々な技術が総合化されて構築される。この再構築の初期の段階で、ランドスケープの観点が組み込まれていることが出来上がりの善し悪しを左右すると言っても過言でない。ランドスケープは「景観」と訳される事もあるが、日本語では造園を意味し、人と自然の空間関係学である。地域固有の自然環境や生態環境、土地の基盤や歴史、人の意識や関わり合い、建築、土木との関係性について総合的に計画・設計等を行うことを指すことが肝要である。ランドスケープデザインは単なる形態のデザインではなく関係性をデザインすることを意味する。本講義では様々な具体的な先駆的事業・作品事例やランドスケープデザインに関する著書や論文等を通し、緑を中心としたこれからの社会に活かせるランドスケープの本質を学ぶ。さらに、ランドスケープデザインの基礎的な住宅の庭づくりの実際を習得する目的で、ランドスケープの設計の手法からも学ぶ。

【到達目標】

本講義の到達目標は、ランドスケープデザインを様々な事業や作品事例や論文等から多面的に学び、さらにランドスケープデザインの基礎的な住宅の庭づくり設計手法を学び、都市空間のランドスケープの意義と関係性を理解することである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP2」、都市環境デザイン工学部ディプロマポリシーのうち「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

授業は対面で講義と演習を行う予定ですが、状況によりオンライン（オンデマンド等）で行うこともあります。学習支援システムを使用し、講義関連 7 回、演習関連 7 回で構成します。

なお、講義時においても図化の演習も必要に応じ実施します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
(1)	ランドスケープデザイン概論	ランドスケープデザイン概論：学習目標についての説明をすると共に、ランドスケープデザインの授業と演習の進め方や方法の説明を行う。
(2)	都市と自然	公園緑地の計画と都市環境とランドスケープについて学ぶ。都市と自然の関係や緑の歴史性とまちづくり、都市化の中での緑の保全や公園・緑地計画や計画実現の制度について学ぶ。
(3)	日本と世界の造園空間・庭園様式	日本と世界で創出された庭園・造園の様式について概説し、ランドスケープデザインの知見を高める。
(4)	ランドスケープデザインガーデン設計①（利用・美学・種類）	ランドスケープデザイン設計の中のガーデン設計に関する概要とその利用・美学・種類について説明をして知見を高める。
(5)	ランドスケープデザインガーデン設計②（敷地・環境・地割）	ランドスケープデザイン設計の中のハウジングガーデン設計に関する分析として、敷地・環境・地割りに関して説明をして、知見を高める。

(6)	ランドスケープデザインガーデン設計③（植栽・施設）	ランドスケープデザインの設計の中のハウジングガーデン設計に関する重要な要素の植栽・施設に関して説明を行い、知見を高める。
(7)	ランドスケープデザインガーデン設計④（設計手法から）	ランドスケープデザインの設計の中のハウジングガーデン設計の中の主に平面図の全体的な設計手法を説明して、知見を高める。
(8)	ランドスケープデザインガーデン設計⑤（設計事例から）	ランドスケープデザインの設計の中のハウジングガーデン設計の事例から学び知見を高める。
(9)	ランドスケープデザインガーデン設計⑥（パース・材料から）	ランドスケープデザインガーデン設計の中のパースの技法を説明を行うと共に、造園材料の説明を行い、知見を高める
(10)	造園樹木の形状と特性	造園樹木の形状と特性について、樹木を分類し、具体の樹木を通じ特性を学ぶ。
(11)	屋上・壁面・室内緑化の技術の本質	屋上緑化の歴史、効果効用、断面構造、計画・設計・施工について学ぶ。屋上緑化は近年、都市緑地を創出する重要なアイテムであり、そのランドスケープ技術は建築物との関係や高所施工での特殊性もあり、様々な技術の検討が必要であり、日本と海外（シンガポール等）事例からも学ぶ。壁面・室内緑化の緑化技術を事例からも学ぶ。
(12)	樹木の重要性和価値	ランドスケープの原点は樹木であり、樹木を理解するとともに樹種の基礎知識、樹木医の仕事やランドスケープデザインの中での樹木の位置づけを学ぶ。
(13)	ドイツ集合住宅世界遺産	ベルリンにあるブリッツの集合住宅（世界遺産）のランドスケープはブルーノ・タウトの作品であるが、この設計思想と日本の事例との比較を論文から学ぶ。
(14)	ランドスケープデザインガーデン設計⑦（発表・講評）	ランドスケープデザインガーデン設計の作品の発表と講評を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

身近な公園、歴史的に有名な公園、近年話題になっている屋外空間のランドスケープ、集合住宅のヤ戸建て住宅のランドスケープ等を、授業で学んだ視点で視察して感じたことを常に記録することを望む。また、日本造園学会誌（作品選集）等を読まれることを勧めたい。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に無し

【参考書】

学習支援システムにアップした資料は講義前に必ず確認して講義を受けること。

【成績評価の方法と基準】

講義に関するレポート（30%）、ランドスケープデザインガーデンプラン（50%）、平常点（20%）による。欠席 4 回以上は原則として単位取得を認めない。

【学生の意見等からの気づき】

学生からの授業アンケートを丁寧に受け止め、今期の授業に活かし、豊富なランドスケープ技術や事例を講義・演習に取り入れる。

【その他の重要事項】

独立行政法人都市再生機構及びURリンケージの勤務経験がある教員が、その経験を活かして、ランドスケープデザインの専門技術と実務を講義する。また、登録ランドスケープ（RLA）の資格を取得している。

【Outline (in English)】

(Course outline) and regional spaces will expand years into the future, influencing natural resources, climate and ecology. The reconstruction of urban space results from the synthesis of various technologies such as urban planning, civil engineering, building planning, and the size of the urban space. Right or wrong, it is no exaggeration to say that the landscape is incorporated at the initial stage of this reconstruction. Landscape in Japanese sometimes extends to mean landscaping, the spatial relationship between man and nature. It is essential to comprehensively plan and design according to the natural and ecological environment specific to each area, along with the foundation and history of the land and human will. Landscape design means designing relationships, not merely forming designs. In this course, we will learn the essence of landscapes utilized for future societies, using books and papers related to various concrete pioneering projects / work examples and landscape design. In addition, we will learn from landscape design methods for the purpose of learning the basics of landscape design, the practice of gardening a house.

・ (Learning Objectives) goal of this lecture is to learn landscape design from various businesses, works examples, papers, etc., and also learn the basic landscape design method of the landscape design, and the significance and relationship of landscape in urban space. Is to understand.

・ (Learning activities outside of classroom) understand.

Always record what I visited and felt from the perspective I learned in the class of familiar parks, historical parks, outdoor spaces that have been talked about in recent years, landscape of apartment housing and detached houses, etc. from the class. I want. In addition, I would recommend that you read the Japanese Landscaping Society (selection of works). Preparation and review time for this class is standard for 2 hours each.

(Grading Criteria /Policy) According to reports on lectures (30 %), landscape design garden plan (50 %), normal points (20 %). In principle, units are not allowed for more than 4 times.

DES200NA

ランドスケープデザイン

小木曾 裕

開講時期：春学期授業/Spring | 選択・必修の別：選択
備考（履修条件等）：都市：建築士

その他属性：〈優〉〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

都市及び地域の空間は長い年月を経て、それぞれの土地の持つ自然資源や風土そして生態の状況の中で人の営みを経てできあがる。その空間は原生林以外については、ある段階で人の手が加わり再構築されている。都市空間の再構築は、その都市空間の規模にもよるが都市計画や土木的な基盤、建築計画を始め様々な技術が総合化されて構築される。この再構築の初期の段階で、ランドスケープの観点が組み込まれていることが出来上がりの善し悪しを左右すると言っても過言でない。ランドスケープは「景観」と訳される事もあるが、日本語では造園を意味し、人と自然の空間関係学である。地域固有の自然環境や生態環境、土地の基盤や歴史、人の意識や関わり合い、建築、土木との関係性について総合的に計画・設計等を行うことを指すことが肝要である。ランドスケープデザインは単なる形態のデザインではなく関係性をデザインすることを意味する。本講義では様々な具体的な先駆的事業・作品事例やランドスケープデザインに関する著書や論文等を通し、緑を中心としたこれからの社会に活かせるランドスケープの本質を学ぶ。さらに、ランドスケープデザインの基礎的な住宅の庭づくりの実際を習得する目的で、ランドスケープの設計の手法からも学ぶ。

【到達目標】

本講義の到達目標は、ランドスケープデザインを様々な事業や作品事例や論文等から多面的に学び、さらにランドスケープデザインの基礎的な住宅の庭づくり設計手法を学び、都市空間のランドスケープの意義と関係性を理解することである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP2」、都市環境デザイン工学部ディプロマポリシーのうち「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

授業は対面で講義と演習を行う予定ですが、状況によりオンライン（オンデマンド等）で行うこともあります。学習支援システムを使用し、講義関連 7 回、演習関連 7 回で構成します。

なお、講義時においても図化の演習も必要に応じ実施します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
(1)	ランドスケープデザイン概論	ランドスケープデザイン概論：学習目標についての説明をすると共に、ランドスケープデザインの授業と演習の進め方や方法の説明を行う。
(2)	都市と自然	公園緑地の計画と都市環境とランドスケープについて学ぶ。都市と自然の関係や緑の歴史性とまちづくり、都市化の中での緑の保全や公園・緑地計画や計画実現の制度について学ぶ。
(3)	日本と世界の造園空間・庭園様式	日本と世界で創出された庭園・造園の様式について概説し、ランドスケープデザインの知見を高める。
(4)	ランドスケープデザインガーデン設計①（利用・美学・種類）	ランドスケープデザインの設計の中のガーデン設計に関する概要とその利用・美学・種類について説明をして知見を高める。
(5)	ランドスケープデザインガーデン設計②（敷地・環境・地割）	ランドスケープデザインの設計の中のハウジングガーデン設計に関する分析として、敷地・環境・地割りに関して説明をして、知見を高める。

(6)	ランドスケープデザインガーデン設計③（植栽・施設）	ランドスケープデザインの設計の中のハウジングガーデン設計に関する重要な要素の植栽・施設に関して説明を行い、知見を高める。
(7)	ランドスケープデザインガーデン設計④（設計手法から）	ランドスケープデザインの設計の中のハウジングガーデン設計の中の主に平面図の全体的な設計手法を説明して、知見を高める。
(8)	ランドスケープデザインガーデン設計⑤（設計事例から）	ランドスケープデザインの設計の中のハウジングガーデン設計の事例から学び知見を高める。
(9)	ランドスケープデザインガーデン設計⑥（パース・材料から）	ランドスケープデザインガーデン設計の中のパースの技法を説明を行うと共に、造園材料の説明を行い、知見を高める
(10)	造園樹木の形状と特性	造園樹木の形状と特性について、樹木を分類し、具体の樹木を通じ特性を学ぶ。
(11)	屋上・壁面・室内緑化の技術の本質	屋上緑化の歴史、効果効用、断面構造、計画・設計・施工について学ぶ。屋上緑化は近年、都市緑地を創出する重要なアイテムであり、そのランドスケープ技術は建築物との関係や高所施工での特殊性もあり、様々な技術の検討が必要であり、日本と海外（シンガポール等）事例からも学ぶ。壁面・室内緑化の緑化技術を事例からも学ぶ。
(12)	樹木の重要性和価値	ランドスケープの原点は樹木であり、樹木を理解するとともに樹種の基礎知識、樹木医の仕事やランドスケープデザインの中での樹木の位置づけを学ぶ。
(13)	ドイツ集合住宅世界遺産	ベルリンにあるブリッツの集合住宅（世界遺産）のランドスケープはブルーノ・タウトの作品であるが、この設計思想と日本の事例との比較を論文から学ぶ。
(14)	ランドスケープデザインガーデン設計⑦（発表・講評）	ランドスケープデザインガーデン設計の作品の発表と講評を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

身近な公園、歴史的に有名な公園、近年話題になっている屋外空間のランドスケープ、集合住宅のヤ戸建て住宅のランドスケープ等を、授業で学んだ視点で視察して感じたことを常に記録することを望む。また、日本造園学会誌（作品選集）等を読まれることを勧めたい。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に無し

【参考書】

学習支援システムにアップした資料は講義前に必ず確認して講義を受けること。

【成績評価の方法と基準】

講義に関するレポート（30%）、ランドスケープデザインガーデンプラン（50%）、平常点（20%）による。欠席 4 回以上は原則として単位取得を認めない。

【学生の意見等からの気づき】

学生からの授業アンケートを丁寧に受け止め、今期の授業に活かし、豊富なランドスケープ技術や事例を講義・演習に取り入れる。

【その他の重要事項】

独立行政法人都市再生機構及びURリンケージの勤務経験がある教員が、その経験を活かして、ランドスケープデザインの専門技術と実務を講義する。また、登録ランドスケープ（RLA）の資格を取得している。

【Outline (in English)】

(Course outline) and regional spaces will expand years into the future, influencing natural resources, climate and ecology. The reconstruction of urban space results from the synthesis of various technologies such as urban planning, civil engineering, building planning, and the size of the urban space. Right or wrong, it is no exaggeration to say that the landscape is incorporated at the initial stage of this reconstruction. Landscape in Japanese sometimes extends to mean landscaping, the spatial relationship between man and nature. It is essential to comprehensively plan and design according to the natural and ecological environment specific to each area, along with the foundation and history of the land and human will. Landscape design means designing relationships, not merely forming designs. In this course, we will learn the essence of landscapes utilized for future societies, using books and papers related to various concrete pioneering projects / work examples and landscape design. In addition, we will learn from landscape design methods for the purpose of learning the basics of landscape design, the practice of gardening a house.

・ (Learning Objectives) goal of this lecture is to learn landscape design from various businesses, works examples, papers, etc., and also learn the basic landscape design method of the landscape design, and the significance and relationship of landscape in urban space. Is to understand.

・ (Learning activities outside of classroom) understand.

Always record what I visited and felt from the perspective I learned in the class of familiar parks, historical parks, outdoor spaces that have been talked about in recent years, landscape of apartment housing and detached houses, etc. from the class. I want. In addition, I would recommend that you read the Japanese Landscaping Society (selection of works). Preparation and review time for this class is standard for 2 hours each.

(Grading Criteria /Policy) According to reports on lectures (30 %), landscape design garden plan (50 %), normal points (20 %). In principle, units are not allowed for more than 4 times.

DES200NA

ランドスケープデザイン

小木曾 裕

開講時期：春学期授業/Spring | 選択・必修の別：選択
備考（履修条件等）：都市：建築士

その他属性：〈優〉〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

都市及び地域の空間は長い年月を経て、それぞれの土地の持つ自然資源や風土そして生態の状況の中で人の営みを経てできあがる。その空間は原生林以外については、ある段階で人の手が加わり再構築されている。都市空間の再構築は、その都市空間の規模にもよるが都市計画や土木的な基盤、建築計画を始め様々な技術が総合化されて構築される。この再構築の初期の段階で、ランドスケープの観点が組み込まれていることが出来上がりの善し悪しを左右すると言っても過言でない。ランドスケープは「景観」と訳される事もあるが、日本語では造園を意味し、人と自然の空間関係学である。地域固有の自然環境や生態環境、土地の基盤や歴史、人の意識や関わり合い、建築、土木との関係性について総合的に計画・設計等を行うことを指すことが肝要である。ランドスケープデザインは単なる形態のデザインではなく関係性をデザインすることを意味する。本講義では様々な具体的な先駆的事業・作品事例やランドスケープデザインに関する著書や論文等を通し、緑を中心としたこれからの社会に活かせるランドスケープの本質を学ぶ。さらに、ランドスケープデザインの基礎的な住宅の庭づくりの実際を習得する目的で、ランドスケープの設計の手法からも学ぶ。

【到達目標】

本講義の到達目標は、ランドスケープデザインを様々な事業や作品事例や論文等から多面的に学び、さらにランドスケープデザインの基礎的な住宅の庭づくり設計手法を学び、都市空間のランドスケープの意義と関係性を理解することである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP2」、都市環境デザイン工学部ディプロマポリシーのうち「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

授業は対面で講義と演習を行う予定ですが、状況によりオンライン（オンデマンド等）で行うこともあります。学習支援システムを使用し、講義関連 7 回、演習関連 7 回で構成します。

なお、講義時においても図化の演習も必要に応じ実施します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
(1)	ランドスケープデザイン概論	ランドスケープデザイン概論：学習目標についての説明をすると共に、ランドスケープデザインの授業と演習の進め方や方法の説明を行う。
(2)	都市と自然	公園緑地の計画と都市環境とランドスケープについて学ぶ。都市と自然の関係や緑の歴史性とまちづくり、都市化の中での緑の保全や公園・緑地計画や計画実現の制度について学ぶ。
(3)	日本と世界の造園空間・庭園様式	日本と世界で創出された庭園・造園の様式について概説し、ランドスケープデザインの知見を高める。
(4)	ランドスケープデザインガーデン設計①（利用・美学・種類）	ランドスケープデザインの設計の中のガーデン設計に関する概要とその利用・美学・種類について説明をして知見を高める。
(5)	ランドスケープデザインガーデン設計②（敷地・環境・地割）	ランドスケープデザインの設計の中のハウジングガーデン設計に関する分析として、敷地・環境・地割りに関して説明をして、知見を高める。

(6)	ランドスケープデザインガーデン設計③（植栽・施設）	ランドスケープデザインの設計の中のハウジングガーデン設計に関する重要な要素の植栽・施設に関して説明を行い、知見を高める。
(7)	ランドスケープデザインガーデン設計④（設計手法から）	ランドスケープデザインの設計の中のハウジングガーデン設計の中の主に平面図の全体的な設計手法を説明して、知見を高める。
(8)	ランドスケープデザインガーデン設計⑤（設計事例から）	ランドスケープデザインの設計の中のハウジングガーデン設計の事例から学び知見を高める。
(9)	ランドスケープデザインガーデン設計⑥（パース・材料から）	ランドスケープデザインガーデン設計の中のパースの技法を説明を行うと共に、造園材料の説明を行い、知見を高める
(10)	造園樹木の形状と特性	造園樹木の形状と特性について、樹木を分類し、特定の樹木を通じ特性を学ぶ。
(11)	屋上・壁面・室内緑化の技術の本質	屋上緑化の歴史、効果効用、断面構造、計画・設計・施工について学ぶ。屋上緑化は近年、都市緑地を創出する重要なアイテムであり、そのランドスケープ技術は建築物との関係や高所施工での特殊性もあり、様々な技術の検討が必要であり、日本と海外（シンガポール等）事例からも学ぶ。壁面・室内緑化の緑化技術を事例からも学ぶ。
(12)	樹木の重要性和価値	ランドスケープの原点は樹木であり、樹木を理解するとともに樹種の基礎知識、樹木医の仕事やランドスケープデザインの中での樹木の位置づけを学ぶ。
(13)	ドイツ集合住宅世界遺産	ベルリンにあるブリッツの集合住宅（世界遺産）のランドスケープはブルーノ・タウトの作品であるが、この設計思想と日本の事例との比較を論文から学ぶ。
(14)	ランドスケープデザインガーデン設計⑦（発表・講評）	ランドスケープデザインガーデン設計の作品の発表と講評を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

身近な公園、歴史的に有名な公園、近年話題になっている屋外空間のランドスケープ、集合住宅のヤ戸建て住宅のランドスケープ等を、授業で学んだ視点で視察して感じたことを常に記録することを望む。また、日本造園学会誌（作品選集）等を読まれることを勧めたい。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に無し

【参考書】

学習支援システムにアップした資料は講義前に必ず確認して講義を受けること。

【成績評価の方法と基準】

講義に関するレポート（30%）、ランドスケープデザインガーデンプラン（50%）、平常点（20%）による。欠席 4 回以上は原則として単位取得を認めない。

【学生の意見等からの気づき】

学生からの授業アンケートを丁寧に受け止め、今期の授業に活かし、豊富なランドスケープ技術や事例を講義・演習に取り入れる。

【その他の重要事項】

独立行政法人都市再生機構及びURリンケージの勤務経験がある教員が、その経験を活かして、ランドスケープデザインの専門技術と実務を講義する。また、登録ランドスケープ（RLA）の資格を取得している。

【Outline (in English)】

(Course outline) and regional spaces will expand years into the future, influencing natural resources, climate and ecology. The reconstruction of urban space results from the synthesis of various technologies such as urban planning, civil engineering, building planning, and the size of the urban space. Right or wrong, it is no exaggeration to say that the landscape is incorporated at the initial stage of this reconstruction. Landscape in Japanese sometimes extends to mean landscaping, the spatial relationship between man and nature. It is essential to comprehensively plan and design according to the natural and ecological environment specific to each area, along with the foundation and history of the land and human will. Landscape design means designing relationships, not merely forming designs. In this course, we will learn the essence of landscapes utilized for future societies, using books and papers related to various concrete pioneering projects / work examples and landscape design. In addition, we will learn from landscape design methods for the purpose of learning the basics of landscape design, the practice of gardening a house.

・ (Learning Objectives) goal of this lecture is to learn landscape design from various businesses, works examples, papers, etc., and also learn the basic landscape design method of the landscape design, and the significance and relationship of landscape in urban space. Is to understand.

・ (Learning activities outside of classroom) understand.

Always record what I visited and felt from the perspective I learned in the class of familiar parks, historical parks, outdoor spaces that have been talked about in recent years, landscape of apartment housing and detached houses, etc. from the class. I want. In addition, I would recommend that you read the Japanese Landscaping Society (selection of works). Preparation and review time for this class is standard for 2 hours each.

(Grading Criteria /Policy) According to reports on lectures (30 %), landscape design garden plan (50 %), normal points (20 %). In principle, units are not allowed for more than 4 times.

ADE300NB

建築フォーラム

下吹越 武人、赤松 佳珠子、小堀 哲夫、安積 伸、渡邊 竜一、山道 拓人

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：選択

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉〈S〉〈A〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本科目は毎年テーマを掲げた連続レクチャーを行う。デザイン工学部 3 学科の特徴を活かして、領域横断的なテーマも組み込んだレクチャー構成とする。毎回異なる講師を招いてデザインの最前線をレポートしてもらうことで、通常の大学の授業ではえられにくい、リアルなデザインの現場を実感してもらうことが目標である。

デザインという行為は何か？ デザインと社会の関係は？

ひとつのデザインを完成するためにはどのような努力の蓄積があるのか？

建築とプロダクトデザインの領域に境はあるのか？

建築でも土木でもない新しい分野とは？

アーバンデザインとは具体的にどのようなものなのか？

今日コミュニティはどのような意味をもっているのか？

こういったさまざまなテーマの講演に参加することは自らの視野を広げ、さらに重要なのは自分が共感できる分野にもめぐり合えるかもしれないということだ。

【到達目標】

以下の能力を習得する。

1) さまざまな講師による講演内容を理解し簡潔に文章化する。

2) 講演についての感想文、批評をレポートに書く。

3) 講演についてその場で質問やコメントを行なう

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

デザインフォーラムは講演会形式の授業であること、年度毎に共通テーマがあること、

学内および学外に公開される公開講座であるという特徴がある。第一線で活躍している講演者のパワーを感じたという授業参加者の意見はよく耳にするところだが、14 回の連続性が持ち味の通常の授業と 1 回性の講演の繰り返しの特徴のデザインフォーラムとの違いを感じてほしい。従って、単に講演会に出席するだけではこの授業に参加したことにはならない。講演記録の作成、講演者への質問、講演会のレポート作成などを通じて講演会の参加を多角的に学ぶこと、すなわち講演内容を批評的に理解する方法を 6 回の講演に参加することで徐々に身に着ける。初回のガイダンスでその年度の共通テーマについての説明があるので必ず出席すること。なお、フォーラムの講演会数が原則、隔週で 6 回となっているのは、フォーラムの翌週は講演記録およびレポート作成の自習時間とみなしているためである。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	建築フォーラム履修の基本事項および本年度のテーマと講演者の説明を行なう。
2	フォーラム 1	講演者および演題は基本テーマにより毎年異なる。 春学期末までに決定され、ポスターで開示される。
3	レポート作成 (1)	講演記録メモおよび講演レポートの作成。(1)
4	フォーラム 2	講演者および演題は基本テーマにより毎年異なる。 春学期末までに決定され、ポスターで開示される。
5	レポート作成 (2)	講演記録メモおよび講演レポートの作成。(2)
6	フォーラム 3	講演者および演題は基本テーマにより毎年異なる。 春学期末までに決定され、ポスターで開示される。
7	レポート作成 (3)	講演記録メモおよび講演レポートの作成。(3)
8	フォーラム 4	講演者および演題は基本テーマにより毎年異なる。 春学期末までに決定され、ポスターで開示される。
9	レポート作成 (4)	講演記録メモおよび講演レポートの作成。(4)

10	フォーラム 5	講演者および演題は基本テーマにより毎年異なる。 春学期末までに決定され、ポスターで開示される。
11	レポート作成 (5)	講演記録メモおよび講演レポートの作成。(5)
12	フォーラム 6	講演者および演題は基本テーマにより毎年異なる。 春学期末までに決定され、ポスターで開示される。
13	レポート作成 (6)	講演記録メモおよび講演レポートの作成。(6)
14	まとめ	本年度の建築フォーラムに参加した学生と授業担当教員で本年度の基本テーマと講演者について議論する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講演内容の理解を深めるために、事前に各回の講演者の作品や著作に目を通しておくことを勧める。講演では様々な話題に展開するので、講演後のフォローアップも必須である。

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業内で適宜指示。

【参考書】

講師から指示がある。

【成績評価の方法と基準】

講演メモとレポート内容による。

フォーラムの最後に行われる質問タイムへの参加は評価に加点される。

6 回のレポート（講演メモ+講演レポート）を担当教員が読み評価を行なうが、これが基本的な評価（90%）となる。質問タイムへの参加は TA が記録し、授業参加評価（10%）として加点される。合計 100 点満点中 60 点以上を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

デザインフォーラム（旧：建築フォーラム）はオムニバス形式の講演会授業だが、毎年明確な共通テーマを与えることで建築、都市、プロダクトに関わる局面をつまびらかにするように改善した。毎回、講演後に担当教員が交代で講演者と対談することで学生の講演内容理解を補う方法も数年前から導入したが、講演が分かりやすくなったと好評である。

【学生が準備すべき機器他】

聴講しながらその要旨をノート PC にメモするという方法も今日の会議では一般的になってきた。そのような面での情報機器の習熟もこの授業が副次的にめざすところである。

【その他の重要事項】

実務経験との関連：現役の建築家やデザイナーでもある複数の教員がデザインをとりまく諸問題の中から毎年共通テーマを選定し、そのテーマに従って 6 名の講師を選定し招聘している。2021 年度よりデザイン工学部 3 学科の教員が共同して担当している。

【Outline (in English)】

In the field of design many kinds of practices exist. This design forum each time invites different lecturers to report on the front-line of design, aiming to share real experiences with students which are difficult to obtain in normal university classes:

What is the act of design? What is the relationship between design and society?

What kind of accumulation of effort is there to complete one design?

Is there a boundary between the realms of architecture and product design?

Are there any new fields that fall outside of architecture or civil engineering?

What exactly is urban design?

What are the implications for today's community?

Participation in lectures featuring such a diversity of themes will, in addition to contributing to their perspective of the field, importantly provide opportunities for students to encounter areas that they strongly relate to.

【Learning Objectives】

Acquire the ability to

1) Understand the contents of lectures given by various lecturers and concisely write them down.

2) Write a report on your impressions and criticisms of the lecture.

3) Questions and comments about the lecture on the spot

【Learning activities outside of classroom】

In order to deepen your understanding of the content of the lectures, it is recommended that you read the works and writings of each lecturer in advance. Since various topics will be covered in the lecture, follow-up after the lecture is also essential.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

[Grading Criteria /Policy]

Your overall grade in the class will be decided based on the following
six reports: 90%、in class contribution: 10%

ADE200NA

環境工学

中野 淳太

開講時期：春学期授業/Spring | 選択・必修の別：選択

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

建築・都市をとりまく外界気象の特性を把握した上、快適な環境を創り出すための基礎理論と技術的手法について学習する。これにより持続可能な環境を創り出すための基礎理論と技術的手法を習得する。

【到達目標】

環境要素として、熱、空気、光、音、水の環境に関する基礎的な理論と応用力を身につけることを到達目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP2」「DP4」、都市環境デザイン工学科、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

各回の授業はテーマが設定されており、基礎理論の解説（講義）と演習により構成している。主体的に講義資料を理解し、演習を行い、提出する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1 回	外界気象	環境要因、気象要素、基本単位のしくみを理解する
2 回	空気環境：風力換気	大気の組成、室内環境基準、必要換気量、風力換気の理論を理解し、その応用を学ぶ
3 回	空気環境：温度差換気	温度差換気、換気効率の理論を理解し、その応用を学ぶ
4 回	熱環境：伝熱	伝熱の基礎理論をしっかりと理解し、その応用を学ぶ
5 回	熱環境：住宅の熱損失係数Q値	住宅からの総合的熱損失の理論を理解し、省エネルギーの指標であるQ値を求める
6 回	住宅の気密性能C値	住宅の内外圧力差と通風量との関係を理解し、C値を求める
7 回	結露	湿り空気と空気線図を理解し、壁体の結露を演習により習得する
8 回	総合温熱快適指標	総合的温熱快適指標であるPMV、ET*の理論を理解し、演習により評価手法を学習する
9 回	日照・日射	太陽放射の特性、年間を通じた太陽位置の動きを理解し、建物による日陰を演習により学習する
10 回	視環境：測光量、光理論、色彩	光に関する基礎の測光量と単位を理解し、光に関する法則を演習により学習する
11 回	視環境：光理論、色彩	表色系であるマンセル表色系、XYZ表色系などを理解し、その応用を学習する
12 回	音の理論	音の物理的レベル、騒音レベル、ラウドネスなどを理解し、その応用を演習により習得する
13 回	音響	遮音・吸音・残響の理論と適切な音響の理論を理解し、その応用手法を学ぶ
14 回	環境評価	環境性能評価手法を理解し、その応用手法を学習する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

まず、シラバスを見て該当するテキストの内容を予習しておくこと。時間内で行う演習問題で分からなかったことは、十分に復習すること。環境に関連する新聞記事などにも関心をもつこと。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

田中俊六ほか、『最新 建築環境工学 [改訂4版]』、井上書院

【参考書】

『理科年表』、丸善

【成績評価の方法と基準】

毎回の演習20%、期末試験80%で総合して評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】

内容が豊富で難しいと感じるようだが、基礎理論は建築、都市の他に応用できると考えられる。

【Outline (in English)】

Students will learn the basic theory and technical methods for creating a comfortable environment based on understanding the characteristics of the external climate surrounding buildings and cities. Through this course, students will be able to acquire the fundamental theories and technical methods to create a sustainable environment regarding heat, air, light, sound, and water.

Each lesson has a set theme and consists of lectures and exercises on fundamental theories. Students are expected to understand the lecture material proactively, perform the exercises, and submit them. First, students must prepare for the relevant textbook's contents by referring to the syllabus. Students are expected to thoroughly review what they need help understanding in the exercises to be performed during class time. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Evaluation will be made comprehensively by 20% for each exercise and 80% for the final examination.

ADE200NA

環境工学

中野 淳太

開講時期：春学期授業/Spring | 選択・必修の別：選択

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

建築・都市をとりまく外界気象の特性を把握した上、快適な環境を創り出すための基礎理論と技術的手法について学習する。これにより持続可能な環境を創り出すための基礎理論と技術的手法を習得する。

【到達目標】

環境要素として、熱、空気、光、音、水の環境に関する基礎的な理論と応用力を身につけることを到達目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP2」「DP4」、都市環境デザイン工学科、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

各回の授業はテーマが設定されており、基礎理論の解説（講義）と演習により構成している。主体的に講義資料を理解し、演習を行い、提出する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1 回	外界気象	環境要因、気象要素、基本単位のしくみを理解する
2 回	空気環境：風力換気	大気の組成、室内環境基準、必要換気量、風力換気の理論を理解し、その応用を学ぶ
3 回	空気環境：温度差換気	温度差換気、換気効率の理論を理解し、その応用を学ぶ
4 回	熱環境：伝熱	伝熱の基礎理論をしっかりと理解し、その応用を学ぶ
5 回	熱環境：住宅の熱損失係数Q値	住宅からの総合的熱損失の理論を理解し、省エネルギーの指標であるQ値を求める
6 回	住宅の気密性能C値	住宅の内外圧力差と通風量との関係を理解し、C値を求める
7 回	結露	湿り空気と空気線図を理解し、壁体の結露を演習により習得する
8 回	総合温熱快適指標	総合的温熱快適指標であるPMV、ET*の理論を理解し、演習により評価手法を学習する
9 回	日照・日射	太陽放射の特性、年間を通じた太陽位置の動きを理解し、建物による日陰を演習により学習する
10 回	視環境：測光量、光理論、色彩	光に関する基礎の測光量と単位を理解し、光に関する法則を演習により学習する
11 回	視環境：光理論、色彩	表色系であるマンセル表色系、XYZ表色系などを理解し、その応用を学習する
12 回	音の理論	音の物理的レベル、騒音レベル、ラウドネスなどを理解し、その応用を演習により習得する
13 回	音響	遮音・吸音・残響の理論と適切な音響の理論を理解し、その応用手法を学ぶ
14 回	環境評価	環境性能評価手法を理解し、その応用手法を学習する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

まず、シラバスを見て該当するテキストの内容を予習しておくこと。時間内で行う演習問題で分からなかったことは、十分に復習すること。環境に関連する新聞記事などにも関心をもつこと。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

田中俊六ほか、『最新 建築環境工学 [改訂4版]』、井上書院

【参考書】

『理科年表』、丸善

【成績評価の方法と基準】

毎回の演習20%、期末試験80%で総合して評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】

内容が豊富で難しいと感じるようだが、基礎理論は建築、都市の他に応用できると考えられる。

【Outline (in English)】

Students will learn the basic theory and technical methods for creating a comfortable environment based on understanding the characteristics of the external climate surrounding buildings and cities. Through this course, students will be able to acquire the fundamental theories and technical methods to create a sustainable environment regarding heat, air, light, sound, and water.

Each lesson has a set theme and consists of lectures and exercises on fundamental theories. Students are expected to understand the lecture material proactively, perform the exercises, and submit them. First, students must prepare for the relevant textbook's contents by referring to the syllabus. Students are expected to thoroughly review what they need help understanding in the exercises to be performed during class time. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Evaluation will be made comprehensively by 20% for each exercise and 80% for the final examination.

ADE200NA

環境工学

中野 淳太

開講時期：春学期授業/Spring | 選択・必修の別：選択

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

建築・都市をとりまく外界気象の特性を把握した上、快適な環境を創り出すための基礎理論と技術的手法について学習する。これにより持続可能な環境を創り出すための基礎理論と技術的手法を習得する。

【到達目標】

環境要素として、熱、空気、光、音、水の環境に関する基礎的な理論と応用力を身につけることを到達目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP2」「DP4」、都市環境デザイン工学科、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

各回の授業はテーマが設定されており、基礎理論の解説（講義）と演習により構成している。主体的に講義資料を理解し、演習を行い、提出する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1 回	外界気象	環境要因、気象要素、基本単位のしくみを理解する
2 回	空気環境：風力換気	大気の組成、室内環境基準、必要換気量、風力換気の理論を理解し、その応用を学ぶ
3 回	空気環境：温度差換気	温度差換気、換気効率の理論を理解し、その応用を学ぶ
4 回	熱環境：伝熱	伝熱の基礎理論をしっかりと理解し、その応用を学ぶ
5 回	熱環境：住宅の熱損失係数Q値	住宅からの総合的熱損失の理論を理解し、省エネルギーの指標であるQ値を求める
6 回	住宅の気密性能C値	住宅の内外圧力差と通風量との関係を理解し、C値を求める
7 回	結露	湿り空気と空気線図を理解し、壁体の結露を演習により習得する
8 回	総合温熱快適指標	総合的温熱快適指標であるPMV、ET*の理論を理解し、演習により評価手法を学習する
9 回	日照・日射	太陽放射の特性、年間を通じた太陽位置の動きを理解し、建物による日陰を演習により学習する
10 回	視環境：測光量、光理論、色彩	光に関する基礎の測光量と単位を理解し、光に関する法則を演習により学習する
11 回	視環境：光理論、色彩	表色系であるマンセル表色系、XYZ表色系などを理解し、その応用を学習する
12 回	音の理論	音の物理的レベル、騒音レベル、ラウドネスなどを理解し、その応用を演習により習得する
13 回	音響	遮音・吸音・残響の理論と適切な音響の理論を理解し、その応用手法を学ぶ
14 回	環境評価	環境性能評価手法を理解し、その応用手法を学習する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

まず、シラバスを見て該当するテキストの内容を予習しておくこと。時間内で行う演習問題で分からなかったことは、十分に復習すること。環境に関連する新聞記事などにも関心をもつこと。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

田中俊六ほか、『最新 建築環境工学 [改訂4版]』、井上書院

【参考書】

『理科年表』、丸善

【成績評価の方法と基準】

毎回の演習20%、期末試験80%で総合して評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】

内容が豊富で難しいと感じるようだが、基礎理論は建築、都市の他に応用できると考えられる。

【Outline (in English)】

Students will learn the basic theory and technical methods for creating a comfortable environment based on understanding the characteristics of the external climate surrounding buildings and cities. Through this course, students will be able to acquire the fundamental theories and technical methods to create a sustainable environment regarding heat, air, light, sound, and water.

Each lesson has a set theme and consists of lectures and exercises on fundamental theories. Students are expected to understand the lecture material proactively, perform the exercises, and submit them. First, students must prepare for the relevant textbook's contents by referring to the syllabus. Students are expected to thoroughly review what they need help understanding in the exercises to be performed during class time. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Evaluation will be made comprehensively by 20% for each exercise and 80% for the final examination.

PRI200NA

数理統計学

牧野 倫子

開講時期：春学期授業/Spring | 選択・必修の別：選択

その他属性：〈優〉〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

不確実性を有する現象を分析するのに必要な統計学の基礎を学習し、データ解析を行うことによって、現状の把握、推測、そして意思決定ができることを目的とする。

【到達目標】

- ・統計学の基本を習得でき、主な確率分布およびその統計量の求め方を理解できる。
- ・標本データの分析手法を習得し、実際に主な統計量を求め、分析をすることによって状況把握をすることができる。
- ・中心極限定理の内容を理解する。
- ・標本データの統計分析結果より母集団で想定される確率分布のパラメータの推定手法（点推定、区間推定、仮説検定）を習得し、実際のデータに対して分析を行うことによって意思決定を行うことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP2」「DP4」、都市環境デザイン工学部ディプロマポリシーのうち「DP4」、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

- 講義と学習支援システムの併用で行う。
- ※事前にオンデマンド教材と資料で予習を行う。
- ※授業中は学習内容のポイントの説明と演習を行う。
- ※授業中と学習支援システム上で諸連絡、講義教材揭示、課題提出等を行う。
- ※授業中およびメールや✓シートの提出によって質問等を行う。
- 配布資料の内容について演習を交えながら解説し、課題を通じて内容を具体的に把握する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	授業概論 データ分析（1）	・母集団と標本の関係やこれから学習する内容の全体の位置を理解・する。 ・データの種類とデータに対する統計量の意味と求め方を理解する。
2	データ分析（2）	実際のデータに対して分析演習を行い、理解する。
3	確率	集合と事象、確率と確率空間、確率の基本性質、加法定理など、もともとなる確率の基本を復習確認し、事象の独立性及び従属性、ベイズの定理について学習し、演習を行うことによって理解を深める。
4	確率変数と確率分布（1）	離散確率変数の代表的な確率分布（離散一様分布、二項分布、ポアソン分布）について理解する。
5	確率変数と確率分布（2）	連続確率変数の代表的な確率分布（離散一様分布、指数分布、正規分布）について理解する。
6	確率変数と確率分布（3）	2変数確率変数について理解する。
7	テスト1、まとめと解説	第1～6回の講義内容に関するテストを実施する。
8	中心極限定理	多次元正規分布について学習し、中心極限定理の内容を理解する。
9	点推定	確率分布のパラメータの点推定法であるモーメント法と最尤法について学習し、データに対して適切な推定量を求めることができる。
10	統計解析に必要な確率分布	正規分布より誘導される分布（カイ2乗分布、t分布、F分布）について理解する。
11	区間推定	確率分布のパラメータの信頼区間の構成方法を理解する。
12	仮説検定	統計的仮説検定の考え方を理解する。また、いくつかの有名な母数の検定方法について学ぶ。
13	統計数値実験	中心極限定理の内容を Excel で乱数を発生させる数値実験を行うことによって本講義の学習内容を確認する。
14	テスト2、まとめと解説	第8～13回の講義内容に関するテストを実施する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ★事前に公開した講義教材を読んで予習する。
- ★講義中に講義内容と確認演習を確認し、課題を行う。
- ★課題の解答を確認し、質問等があったら講義中あるいは✓シートにて連絡する。
- ★実際のデータに対してエクセルを用いて解析をし、考察の仕方を学習する。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

※学習支援システムに公開する教材を利用する。

【参考書】

- ・授業の内容を復習するのに使用するといいでしょう。お勧めの本は以下の通りです。
- ★統計学入門（東京大学教養学部統計学教室編 東京大学出版会 2004年）
- ★統計学演習（村上正康、安田正實 共著 培風館 2010年）
- ★統計学基礎（統計検定3級・2級対応）日本統計学会
- ★統計学の基礎（栗栖 忠 他 裳華房 2017年）

【成績評価の方法と基準】

- テスト1：40パーセント
- テスト2：40パーセント。
- 課題・レポート課題：20パーセント。

【学生の意見等からの気づき】

モチベーション維持に留意する。基礎事項をしっかりと習得し理解した上で、具体的な例での対応方法を身につける。

【学生が準備すべき機器他】

パソコンにてエクセルの関数計算ができ、統計解析（基本統計量）が使用できる状態にしておくのが望ましい。
講義連絡および資料配布・課題提出・質問等のやり取りに学習支援システムを利用する予定。オンデマンド教材の配布は、学習支援システムと Google ドライブを使用する予定。

【その他の重要事項】

今まで学習した確率統計および、微分積分の教科書等の復習をしておくことが望ましい。電力会社などと合同研究を行って、実際のデータ処理分析を行った経験がある教員が、その経験を活かし必要な基礎事項を講義する。

【Outline (in English)】

In this course we will learn the basics of statistics in order to analyze uncertain phenomena. The objectives are to be able to understand and hypothesize about the present condition and perform decision-making.

PRI200NA

数理統計学

牧野 倫子

開講時期：春学期授業/Spring | 選択・必修の別：選択

その他属性：〈優〉〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

不確実性を有する現象を分析するのに必要な統計学の基礎を学習し、データ解析を行うことによって、現状の把握、推測、そして意思決定ができることを目的とする。

【到達目標】

- ・統計学の基本を習得でき、主な確率分布およびその統計量の求め方を理解できる。
- ・標本データの分析手法を習得し、実際に主な統計量を求め、分析をすることによって状況把握をすることができる。
- ・中心極限定理の内容を理解する。
- ・標本データの統計分析結果より母集団で想定される確率分布のパラメータの推定手法（点推定、区間推定、仮説検定）を習得し、実際のデータに対して分析を行うことによって意思決定を行うことができる。

【修得できる能力】

- | | |
|--------------------|-----|
| (A) 歴史・文化・自然の理解・尊重 | |
| (B) 技術者倫理 | |
| (C) 工学基礎学力 | 30% |
| (D) 専門基礎学力 | 30% |
| (E) 専門知識の活用・応用能力 | 40% |
| (F) 総合デザイン能力 | |
| (G) コミュニケーション能力 | |
| (H) 継続的学習能力 | |
| (I) 業務遂行能力 | |

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP2」「DP4」、都市環境デザイン工学部ディプロマポリシーのうち「DP4」、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

講義と学習支援システムの併用で行う。
 ※事前にオンデマンド教材と資料で予習を行う。
 ※授業中は学習内容のポイントの説明と演習を行う。
 ※授業中と学習支援システム上で諸連絡、講義教材揭示、課題提出等を行う。
 ※授業中およびメールやプリントの提出によって質問等を行う。
 配布資料の内容について演習を交えながら解説し、課題を通じて内容を具体的に把握する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	授業概論 データ分析（1）	・母集団と標本の関係やこれから学習する内容の全体の位置を理解・する。 ・データの種類とデータに対する統計量の意味と求め方を理解する。
2	データ分析（2）	実際のデータに対して分析演習を行い、理解する。
3	確率	集合と事象、確率と確率空間、確率の基本性質、加法定理など、もともとなる確率の基本を復習確認し、事象の独立性及び従属性、ベイズの定理について学習し、演習を行うことによって理解を深める。
4	確率変数と確率分布（1）	離散確率変数の代表的な確率分布（離散一様分布、二項分布、ポアソン分布）について理解する。
5	確率変数と確率分布（2）	連続確率変数の代表的な確率分布（離散一様分布、指数分布、正規分布）について理解する。
6	確率変数と確率分布（3）	2変数確率変数について理解する。
7	テスト1、まとめと解説	第1～6回の講義内容に関するテストを実施する。
8	中心極限定理	多次元正規分布について学習し、中心極限定理の内容を理解する。
9	点推定	確率分布のパラメータの点推定法であるモーメント法と最尤法について学習し、データに対して適切な推定量を求めることができる。

10	統計解析に必要な確率分布	正規分布より誘導される分布（カイ2乗分布、t分布、F分布）について理解する。
11	区間推定	確率分布のパラメータの信頼区間の構成方法を理解する。
12	仮説検定	統計的仮説検定の考え方を理解する。また、いくつかの有名な母数の検定方法について学ぶ。
13	統計数値実験	中心極限定理の内容をExcelで乱数を発生させる数値実験を行うことによって本講義の学習内容を確認する。
14	テスト2、まとめと解説	第8～13回の講義内容に関するテストを実施する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ★事前に公開した講義教材を読んで予習する。
- ★講義中に講義内容と確認演習を確認し、課題を行う。
- ★課題の解答を確認し、質問等があったら講義中あるいはシートにて連絡する。
- ★実際のデータに対してエクセルを用いて解析をし、考察の仕方を学習する。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

※学習支援システムに公開する教材を利用する。

【参考書】

- ・授業の内容を復習するのに使用するといいでしょう。お勤めの本は以下の通りです。
- ★統計学入門（東京大学教養学部統計学教室編 東京大学出版会 2004年）
- ★統計学演習（村上正康、安田正實 共著 培風館 2010年）
- ★統計学基礎（統計検定3級・2級対応） 日本統計学会
- ★統計学の基礎（栗栖 忠 他 裳華房 2017年）

【成績評価の方法と基準】

テスト1：40パーセント
 テスト2：40パーセント。
 課題・レポート課題：20パーセント。

【学生の意見等からの気づき】

モチベーション維持に留意する。基礎事項をしっかりと習得し理解した上で、具体的な例での対応方法を身につける。

【学生が準備すべき機器他】

パソコンにてエクセルの関数計算ができ、統計解析（基本統計量）が使用できる状態にしておくのが望ましい。
 講義連絡および資料配布・課題提出・質問等のやり取りに学習支援システムを利用する予定。オンデマンド教材の配布は、学習支援システムとGoogleドライブを使用する予定。

【その他の重要事項】

今まで学習した確率統計および、微分積分の教科書等の復習をしておくことが望ましい。電力会社などと合同研究を行って、実際のデータ処理分析を行った経験がある教員が、その経験を活かし必要な基礎事項を講義する。

【Outline (in English)】

Course outline:
 In this course we will learn the basics of statistics in order to analyze uncertain phenomena. The objectives are to be able to understand and hypothesize about the present condition and perform decision-making.

Learning Objectives:

At the end of the course, students are expected to A and B.

Learning activities outside of classroom:

Before and after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.

Grading Criteria /Policies

Your overall grade in the class will be decided based on the following
 Mid-term examination:40%、Term-end examination: 40%、Short reports and in class contribution: 20%.

PRI200NA

数理統計学

牧野 倫子

開講時期：春学期授業/Spring | 選択・必修の別：選択

その他属性：〈優〉〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

不確実性を有する現象を分析するのに必要な統計学の基礎を学習し、データ解析を行うことによって、現状の把握、推測、そして意思決定ができることを目的とする。

【到達目標】

- ・統計学の基本を習得でき、主な確率分布およびその統計量の求め方を理解できる。
- ・標本データの分析手法を習得し、実際に主な統計量を求め、分析をすることによって状況把握をすることができる。
- ・中心極限定理の内容を理解する。
- ・標本データの統計分析結果より母集団で想定される確率分布のパラメータの推定手法（点推定、区間推定、仮説検定）を習得し、実際のデータに対して分析を行うことによって意思決定を行うことができる。

【修得できる能力】

総合デザ 文化性 倫理観 建築の公理 芸術性 教養力 表現力
イン力

◎

◎

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP2」「DP4」、都市環境デザイン工学部ディプロマポリシーのうち「DP4」、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

講義と学習支援システムの併用で行う。
※事前にオンデマンド教材と資料で予習を行う。
※授業中は学習内容のポイントの説明と演習を行う。
※授業中と学習支援システム上で諸連絡、講義教材揭示、課題提出等を行う。
※授業中およびメールやメシートの提出によって質問等を行う。
配布資料の内容について演習を交えながら解説し、課題を通じて内容を具体的に把握する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	授業概論 データ分析（1）	・母集団と標本の関係やこれから学習する内容の全体の位置を理解・する。 ・データの種類とデータに対する統計量の意味と求め方を理解する。
2	データ分析（2）	実際のデータに対して分析演習を行い、理解する。
3	確率	集合と事象、確率と確率空間、確率の基本性質、加法定理など、もともとなる確率の基本を復習確認し、事象の独立性及び従属性、ベイズの定理について学習し、演習を行うことによって理解を深める。
4	確率変数と確率分布（1）	離散確率変数の代表的な確率分布（離散一様分布、二項分布、ポアソン分布）について理解する。
5	確率変数と確率分布（2）	連続確率変数の代表的な確率分布（離散一様分布、指数分布、正規分布）について理解する。
6	確率変数と確率分布（3）	2変数確率変数について理解する。
7	テスト1、まとめと解説	第1～6回の講義内容に関するテストを実施する。
8	中心極限定理	多次元正規分布について学習し、中心極限定理の内容を理解する。
9	点推定	確率分布のパラメータの点推定法であるモーメント法と最尤法について学習し、データに対して適切な推定量を求めることができる。
10	統計解析に必要な確率分布	正規分布より誘導される分布（カイ2乗分布、t分布、F分布）について理解する。
11	区間推定	確率分布のパラメータの信頼区間の構成方法を理解する。

12	仮説検定	統計的仮説検定の考え方を理解する。また、いくつかの有名な母数の検定方法について学ぶ。
13	統計数値実験	中心極限定理の内容を Excel で乱数を発生させる数値実験を行うことによって本講義の学習内容を確認する。
14	テスト2、まとめと解説	第8～13回の講義内容に関するテストを実施する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ★事前に公開した講義教材を読んで予習する。
- ★講義中に講義内容と確認演習を確認し、課題を行う。
- ★課題の解答を確認し、質問等があったら講義中あるいはメシートの連絡する。
- ★実際のデータに対してエクセルを用いて解析をし、考察の仕方を学習する。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

※学習支援システムに公開する教材を利用する。

【参考書】

- ・授業の内容を復習するのに使用するといいでしょ。お勧めの本は以下の通りです。
- ★統計学入門（東京大学教養学部統計学教室編 東京大学出版会 2004年）
- ★統計学演習（村上正康、安田正實 共著 培風館 2010年）
- ★統計学基礎（統計検定3級・2級対応）日本統計学会
- ★統計学の基礎（栗栖 忠 他 裳華房 2017年）

【成績評価の方法と基準】

テスト1：40パーセント
テスト2：40パーセント。
課題・レポート課題：20パーセント。

【学生の意見等からの気づき】

モチベーション維持に留意する。基礎事項をしっかりと習得し理解した上で、具体的な例での対応方法を身につける。

【学生が準備すべき機器他】

パソコンにてエクセルの関数計算ができ、統計解析（基本統計量）が使用できる状態にしておくのが望ましい。
講義連絡および資料配布・課題提出・質問等のやり取りに学習支援システムを利用する予定。オンデマンド教材の配布は、学習支援システムと Google ドライブを使用する予定。

【その他の重要事項】

今まで学習した確率統計および、微分積分の教科書等の復習をしておくことが望ましい。電力会社などと合同研究を行って、実際のデータ処理分析を行った経験がある教員が、その経験を活かし必要な基礎事項を講義する。

【Outline (in English)】

In this course we will learn the basics of statistics in order to analyze uncertain phenomena. The objectives are to be able to understand and hypothesize about the present condition and perform decision-making.

DES300NA

タウンマネジメント

藤澤 浩子、土屋 愛自

開講時期：秋学期前半/Fall(1st half) | 選択・必修の別：選択
備考（履修条件等）：都市：建築士

その他属性：〈優〉〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は持続可能な都市を構築するための政策の1つであるタウンマネジメントについて学ぶことをねらいとする。そのために、タウンマネジメントを担うステークホルダー（NPO等）、全国で展開している様々なタウンマネジメントの事例について理解を深めつつその課題やまちづくり手法を学ぶ。また、演習を通じて具体的な政策立案方法についても取り組む。

【到達目標】

市民参加のまちづくりを実践するためのマネジメント手法を習得する。

【修得できる能力】

総合デザ	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
インカ						
○					◎	○

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP2」、都市環境デザイン工学部ディプロマポリシーのうち「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

本講義は実社会で活躍されている2人の講師を加えて進める。住民参加、NPO活動及び行政の視点からのタウンマネジメントの手法や問題点を明らかにし、住民参加によるまち育ての方向性を講義する。また、課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	タウンマネジメントの概念とその必須性について理解する。
2	タウンマネジメントについての概略	タウンマネジメントの発展経緯と基本的な考え方や仕組みについて理解する。
3	まちの価値を高めるタウンマネジメントについて	法的位置づけ（都市再生特別措置法）、P-PFI等によるマネジメント制度について理解する。
4	タウンマネジメントの演習	タウンマネジメントについて3つのケーススタディに取り組む
5	タウンマネジメントの管理形態（指定管理者）	グループワーク（指定管理者制度の運用実態を把握する）
6	NPO法人によるタウンマネジメントについて	NPO法人の活動のバリエーション、最新動向及び諸課題、今後の展望
7	自治体の視点からのタウンマネジメント概要	都市の魅力アップと都市マネジメントについての解説
8	タウンマネジメント事例	・都市施設のマネジメント ・都市インフラのマネジメント事例
9	タウンマネジメントの先進的な取り組み	・日本版 BID の概要 ・都市まるごとマネジメント事例（富山市）
10	タウンマネジメントの線的事例と課題について	・インフラとセットのマネジメント事例 ・神戸市、船橋市、長岡市の事例
11	プロジェクト対応型のタウンマネジメント事例（拠点開発型）	タウンマネジメントを補完する国の制度、拠点開発型タウンマネジメントの事例
12	プロジェクト対応型のタウンマネジメント事例（官民連携型）	タウンマネジメントの官民連携事例（横浜市・さいたま市）
13	提出課題の発表	・発表の進め方 ・提出課題の発表
14	タウンマネジメント講義の総括	講義の総括 ・提出課題の発表 ・課題の講評

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1. 復習
2. まち育てについて事例を把握しレポート作成
3. HPなどで事例検索
4. 演習課題をまとめる

本授業の準備学習・復習時間は、各4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

講義ごとに資料を配布する

【参考書】

- ・「まちの価値を高めるエリアマネジメント」小林重敬＋一般財団法人森記念財団（学芸出版社）
- ・「都市づくり戦略とプロジェクトマネジメント」岸田比呂志・卯月盛夫（学芸出版社）
- ・「縮小まちづくりー成功と失敗の分かれ目」米山秀隆（時事通信出版局）
- ・「エリアマネジメント・ケースメソッド」（官民連携による地域経営の教科書）学芸出版社

【成績評価の方法と基準】

2つのテーマに関する提出レポートにより評価する。演習課題未提出者は評価対象外となるので要注意

- ・レポート 85 %
- ・演習課題 15 %

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【その他の重要事項】

現在、政令市（さいたま市）に勤務し、都市計画部門を所掌している。自身の経験から自治体の取り組みまちづくりについて実践的な講義を行う。（土屋）
NPO 法成立以前から主に NPO 支援分野で活動を続け、現在も複数の NPO で役員を務めている経験を活かし、実践知と最新動向を踏まえた講義を行う。（藤澤）

【Outline (in English)】

【Course outline】 The aim of this course is to study on the town management, which is one of the policy for the creation of a sustainable city. This course deals with basic concepts of various domestic town management cases (including Nonprofit Organization as leaders), a problem and town planning method. It also enhances actual way of policy making through the course. Please refer to the schedule for detailed information.

【Learning Objectives】

To acquire management method of citizen participation for urban development.

【Learning activities outside of classroom】

1. Review what was learned in the class.
2. Learning example of urban growing, and preparing report.
3. Browsing web page for further learning.
4. Complete exercises.

This class needs 4hours of preparation and reviewing for each contents.

【Grading Criteria/Policy】

To be evaluated by a report and 3 exercises.

Report 85%

Exercises 15%

DES300NA

タウンマネジメント

藤澤 浩子、土屋 愛自

開講時期：秋学期前半/Fall(1st half) | 選択・必修の別：選択
備考（履修条件等）：都市：建築士

その他属性：〈優〉〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は、持続可能な都市を構築するための政策の1つであるタウンマネジメントについて学ぶことを狙いとする。そのために、タウンマネジメントを担うステークホルダー（NPO等）、全国で展開している様々なタウンマネジメントの事例について理解を深めつつその課題やまちづくり手法を学ぶ。また、演習を通じて具体的な政策立案方法についても取り組む。

【到達目標】

市民参加のまちづくりを実践するためのマネージメント手法を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP2」、都市環境デザイン工学部ディプロマポリシーのうち「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

本講義は実社会で活躍している2人の講師を加えて進める。住民参加、NPO活動及び行政の視点からのタウンマネージメントの手法や問題点を明らかにし、住民参加によるまち育ての方向性を講義する。また、課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス タウンマネジメントについて概略について	タウンマネジメントの概念とその必要性について理解する。
2	まちの価値を高めるタウンマネジメントについて	タウンマネジメントの発展経緯と基本的な考え方や仕組みについて理解する。
3	タウンマネジメントの新たな潮流について	法的位置づけ（都市再生特別措置法）、P-PFI等によるマネジメント制度を理解する。
4	タウンマネジメントの演習	タウンマネジメントについて3つのケーススタディに取り組む
5	タウンマネジメントの管理形態（指定管理者）について	指定管理者制度の変遷と課題等について理解する。
6	NPO法人によるタウンマネジメントについて	NPO法人の活動のバリエーション、最新動向及び諸課題、今後の展望
7	自治体の視点からのタウンマネジメントの概要	都市の魅力アップと都市マネジメントについての解説
8	タウンマネジメント事例（都市施設とインフラの視点）について	都市施設のマネジメント、都市インフラのマネジメントについて理解する。
9	タウンマネジメントの先進的な取り組みについて	日本版 BID の概要、都市まるごとマネジメント事例（富山市）
10	タウンマネジメントの先進的な取り組みとその課題について	インフラとセットのマネジメント事例（神戸市、船橋市、長岡市の事例）
11	プロジェクト対応型のタウンマネジメント事例（拠点開発型）について	タウンマネジメントを補完する国の制度、拠点開発型タウンマネジメントの事例
12	プロジェクト対応型のタウンマネジメント事例（官民連携型）について	タウンマネジメントの官民連携事例（横浜市・さいたま市）
13	提出課題の発表	発表の進め方 提出課題の発表
14	タウンマネジメント講義の総括	講義の総括 提出課題の発表 課題の講評

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1. 復習
2. まち育てについて事例を把握しレポート作成
3. HPなどで事例検索
4. 演習課題をまとめる

本授業の準備学習・復習時間は、各4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

講義ごとに資料を配布する

【参考書】

- ・「まちの価値を高めるエリアマネジメント」小林重敬＋一般財団法人森記念財団（学芸出版社）
- ・「都市づくり戦略とプロジェクトマネジメント」岸田比呂志・卯月盛夫（学芸出版社）
- ・「縮小まちづくり－成功と失敗の分かれ目」米山秀隆（時事通信出版局）
- ・「エリアマネジメント・ケースメソッド」（官民連携による地域経営の教科書）学芸出版社

【成績評価の方法と基準】

2つのテーマに関する提出レポート、発表により評価する。

- ・レポート 85 %
- ・演習課題 15 %

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【その他の重要事項】

現在、政令市（さいたま市）に勤務し、都市計画部門を所掌している。自身の経験から自治体の取り組みまちづくりについて実践的な講義を行う。（土屋）
NPO法成立以前から主にNPO支援分野で活動を続け、現在も複数のNPOで役員を務めている経験を活かし、実践知と最新動向を踏まえた講義を行う。（藤澤）

【Outline (in English)】

【Course outline】 The aim of this course is to study on the town management, which is one of the policy for the creation of a sustainable city. This course deals with basic concepts of various domestic town management cases (including Nonprofit Organization as leaders), a problem and town planning method. It also enhances actual way of policy making through the course. Please refer to the schedule for detailed information.

【Learning Objectives】

To acquire management method of citizen participation for urban development.

【Learning activities outside of classroom】

1. Review what was learned in the class.
2. Learning example of urban growing, and preparing report.
3. Browsing web page for further learning.
4. Complete exercises.

This class needs 4hours of preparation and reviewing for each contents.

【Grading Criteria/Policy】

To be evaluated by a report and 3 exercises.

Report 85%

Exercises 15%

DES300NA

タウンマネジメント

藤澤 浩子、土屋 愛自

開講時期：秋学期前半/Fall(1st half) | 選択・必修の別：選択
備考（履修条件等）：都市：建築士

その他属性：〈優〉〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は持続可能な都市を構築するための政策の1つであるタウンマネジメントについて学ぶことをねらいとする。そのために、タウンマネジメントを担うステークホルダー（NPO等）、全国で展開している様々なタウンマネジメントの事例について理解を深めつつその課題やまちづくり手法を学ぶ。また、演習を通じて具体的な政策立案方法についても取り組む。

【到達目標】

市民参加のまちづくりを実践するためのマネジメント手法を習得する。

【修得できる能力】

(A) 歴史・文化・自然の理解・尊重	30%
(B) 技術者倫理	30%
(C) 工学基礎学力	20%
(D) 専門基礎学力	
(E) 専門知識の活用・応用力	
(F) 総合デザイン能力	20%
(G) コミュニケーション能力	
(H) 継続的学習能力	
(I) 業務遂行能力	

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP2」、都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

本講義は実社会で活躍されている2名の講師を加えて進める。住民参加、NPO活動及び行政の視点からのタウンマネジメントの手法や問題点を明らかにし、住民参加によるまち育ての方向性を講義する。また、課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	タウンマネジメントの概念と必要性について理解する。
2	まちの価値を高めるタウンマネジメントについて	タウンマネジメントの発展経緯と基本的な考え方や仕組みについて理解する。
3	タウンマネジメントの新たな潮流について	法的位置づけ（都市再生特別措置法）、P-PFI等によるマネジメント制度を理解する。
4	タウンマネジメントの演習	タウンマネジメントについて、3つのケーススタディに取り組む。
5	タウンマネジメントの管理形態について	指定管理者制度の変遷と課題等について理解する。
6	NPO法人によるタウンマネジメント総括	NPO法人の活動のバリエーション、最新動向及び諸課題、今後の展望
7	自治体の視点からのタウンマネジメントの概要について	都市の魅力アップと都市マネジメントについての解説
8	自治体の視点からのマネジメント事例について	都市施設のマネジメント、都市インフラのマネジメント事例
9	タウンマネジメントの先進的な取り組み	日本版 BID の概要、都市まるごとマネジメント事例（富山市）
10	タウンマネジメントの先進的な取り組みと課題について	インフラとセットのマネジメント事例（神戸市、船橋市、長岡市）の事例
11	プロジェクト対応型のタウンマネジメント事例（拠点開発型）	タウンマネジメントを補完する国の制度、拠点開発型タウンマネジメントの事例
12	プロジェクト対応型のタウンマネジメント事例（官民連携型）	タウンマネジメントの官民連携事例（横浜市・さいたま市）
13	提出課題の発表	発表の進め方 提出課題の発表
14	タウンマネジメント講義の総括	タウンマネジメント講義の総括 提出課題の発表 課題の講評

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1. 復習

2. まち育てについて事例を把握しレポート作成

3. HPなどで事例検索

4. 演習課題をまとめる

本授業の準備学習・復習時間は、各4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

講義ごとに資料を配布する

【参考書】

・「まちの価値を高めるエリアマネジメント」小林重敬＋一般財団法人森記念財団（学芸出版社）

・「都市づくり戦略とプロジェクトマネジメント」岸田比呂志・卯月盛夫（学芸出版社）

・「縮小まちづくりー成功と失敗の分かれ目」米山秀隆（時事通信出版局）

・「エリアマネジメント・ケースメソッド」（官民連携による地域経営の教科書）学芸出版社

【成績評価の方法と基準】

2つのテーマに関する提出レポート・発表により評価する。演習課題未提出者は評価対象外となるので要注意

レポート 85 %

演習課題 15 %

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【その他の重要事項】

現在、政令市（さいたま市）に勤務し、都市計画部門を所掌している。自身の経験から自治体の取り組みまちづくりについて実践的な講義を行う。（土屋）
NPO法成立以前から主にNPO支援分野で活動を続け、現在も複数のNPOで役員を務めている経験を活かし、実践知と最新動向を踏まえた講義を行う。（藤澤）

【Outline (in English)】

【Course outline】 The aim of this course is to study on the town management, which is one of the policy for the creation of a sustainable city. This course deals with basic concepts of various domestic town management cases (including Nonprofit Organization as leaders), a problem and town planning method. It also enhances actual way of policy making through the course. Please refer to the schedule for detailed information.

【Learning Objectives】

To acquire management method of citizen participation for urban development.

【Learning activities outside of classroom】

1. Review what was learned in the class.

2. Learning example of urban growing, and preparing report.

3. Browsing web page for further learning.

4. Complete exercises.

This class needs 4hours of preparation and reviewing for each contents.

【Grading Criteria/Policy】

To be evaluated by a report and 3 exercises.

Report 85%

Exercises 15%

MTL200NA

マテリアルサイエンス

伊崎 健晴

開講時期：秋学期前半/Fall(1st half) | 選択・必修の別：選択

その他属性：〈優〉〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

産業活動や日常生活において、私たちは多くの素材に囲まれている。この 100 年で工業材料は長足の進歩を遂げてきている。何千年もの歴史のある銅や鉄も、要求事項に合わせて常に進化し続けている一方、それらと比較して歴史の浅いチタンやプラスチックも、社会の要求や地球環境への配慮から、あらたな挑戦が必要になってきている。プロジェクトに使用する材料や、今後の社会活動に必要と考えられる基礎的な材料について、歴史や、原料調達、リサイクルを含めて解説する。3 学科共通であることと、学生間の科学教育経験の差異が大きいので、広く浅く概観して、興味を持つことを主眼とする。

【到達目標】

身の回りにある材料を広く紹介してその特徴を学ぶ。
適材適所（right Material for the right place.）の材料選定、設計（強度・デザイン）が出来るようになるための材料の基礎知識を幅広く学び、情報を調査する力を身に付け、ものつくりを考えるスタート地点に立てるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP2」、都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

身近にある製品に使用される一般的な材料をその物性、特徴や加工方法、原産地、リサイクルを含めて個々に述べていく。

企業における研究開発はどのようなものか、書籍の教科書ではなく、主に学会誌や雑誌の文献を使用して、幅広い分野の材料や先端材料を自分で興味を持って調べてゆくにはどのようにすればよいかを体感する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	マテリアルサイエンスとは？	金属・非金属材料の材料科学から材料デザインまで、複数の分野を橋渡する学際的科学 授業の進め方、グループワークの方法を説明
2	工業材料の基礎	材料力学や分析・評価技術、加工技術など、興味あることを自分で調べて視野を広げよう。
3	鋼・鉄、合金	金属材料の強み、弱み、状態図と変態
4	金属材料の製造と加工、防食	製造方法と加工方法、防食に関して学ぶ
5	軽金属とその合金類、貴金属類	アルミニウム、マグネシウム、チタン、銅などについて学ぶ
6	セメント・コンクリート	歴史的背景から材料構成、硬化のメカニズム
7	木材	木材の組織構造から力学特性、居住特性
8	その他非金属材料	セラミックス・ガラスなど
9	高分子材料（汎用高分子、汎用エンブレ、生分解性プラスチック）	今、環境問題とも言われるプラスチックだが、有用な特性がたくさんある。
10	高分子材料（ゴム）	ゴム・エラストマーなど柔らかいもの
11	高分子成形加工法	押出成形、射出成形から 3 D プリントまで
12	複合材料	ガラス繊維や炭素繊維で強化された複合材料、その用途と成形加工法
13	グループワーク発表会（前半）	1 グループあたり 6～7 名で 10 グループに分けてグループ討議、討議結果の発表（前半）
14	グループワーク発表会（後半）	後半のグループ発表 最終レポート提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の授業前に WEB を確認すること。授業後にノートを作成してテーマごとに加筆していく。最新の情報、参考図書の概要など自分の言葉でまとめて今後の社会活動に生かしていく。
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキスト

J-Stage に掲載されている雑誌（金属表面技術、コンクリート工学、日本ゴム協会誌、材料、プラスチック成形加工学会誌、日本複合材料学会誌など）の文献を講義に使用する。第 1 回目の講義にて講義に使用する資料のリンクを掲載するので、各自ダウンロードして準備してください。

【参考書】

WEB 掲載資料内に記入。

【成績評価の方法と基準】

第 1 回目の講義で課題の内容を説明します。

1. プレゼンテーション（発表）

1 3, 1 4 回目の授業でグループワークの内容の発表を行います。全員に発表する機会があります。発表の内容、表現力を評価します。 50 %

2. レポート 50 %

グループワークの課題で、個人で調べた内容、調査結果をレポートにまとめ、第 14 回目の講義終了までに提出してください。

【学生の意見等からの気づき】

専門や学年の相違による基礎知識の差異や、化学や物理の基礎がないと理解しづらいとのアンケート回答あり。材料を広く概観することが目的の授業なので、多くの学生に基礎知識の理解が可能となることを念頭に授業を進める。

【学生が準備すべき機器他】

パソコン

【その他の重要事項】

担当講師は化学メーカーに在籍中。高分子材料、複合材料の評価、材料開発、成形加工プロセス開発の経験を活かし、材料科学全般について講義をする。

【Outline (in English)】

Industrial materials have made great strides in the last 100 years. The demand to the function of the product has been developed in a long time, and becomes complicated. This course will introduce basic examples and we discuss issues in this field.

MTL200NA

マテリアルサイエンス

伊崎 健晴

開講時期：秋学期前半/Fall(1st half) | 選択・必修の別：選択

その他属性：〈優〉〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

産業活動や日常生活において、私たちは多くの素材に囲まれている。この 100 年で工業材料は長足の進歩を遂げてきている。何千年もの歴史のある銅や鉄も、要求事項に合わせて常に進化し続けている一方、それらと比較して歴史の浅いチタンやプラスチックも、社会の要求や地球環境への配慮から、あらたな挑戦が必要になってきている。プロジェクトに使用する材料や、今後の社会活動に必要と考えられる基礎的な材料について、歴史や、原料調達、リサイクルを含めて解説する。3 学科共通であることと、学生間の科学教育経験の差異が大きいため、広く浅く概観して、興味を持つことを主眼とする。

【到達目標】

身の回りにある材料を広く紹介してその特徴を学ぶ。
適材適所（right Material for the right place.）の材料選定、設計（強度・デザイン）が出来るようになるための材料の基礎知識を幅広く学び、情報を調査する力を身に付け、ものつくりを考えるスタート地点に立てるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP2」、都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

身近にある製品に使用される一般的な材料をその物性、特徴や加工方法、原産地、リサイクルを含めて個々に述べていく。

企業における研究開発はどのようなものか、書籍の教科書ではなく、主に学会誌や雑誌の文献を使用して、幅広い分野の材料や先端材料を自分で興味を持って調べてゆくにはどのようにすればよいかを体感する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	マテリアルサイエンスとは？	金属・非金属材料の材料科学から材料デザインまで、複数の分野を橋渡しする学際的科学 授業の進め方、グループワークの方法を説明
2	工業材料の基礎	材料力学や分析・評価技術、加工技術など、興味あることを自分で調べて視野を広げよう。
3	鋼・鉄、合金	金属材料の強み、弱み、状態図と変態
4	金属材料の製造と加工、防食	製造方法と加工方法、防食に関して学ぶ
5	軽金属とその合金類、貴金属類	アルミニウム、マグネシウム、チタン、銅などについて学ぶ
6	セメント・コンクリート	歴史的背景から材料構成、硬化のメカニズム
7	木材	木材の組織構造から力学特性、居住特性
8	その他非金属材料	セラミックス・ガラスなど
9	高分子材料（汎用高分子、汎用エンブレ、生分解性プラスチック）	今、環境問題とも言われるプラスチックだが、有用な特性がたくさんある。
10	高分子材料（ゴム）	ゴム・エラストマーなど柔らかいもの
11	高分子成形加工法	押出成形、射出成形から 3D プリントまで
12	複合材料	ガラス繊維や炭素繊維で強化された複合材料、その用途と成形加工法
13	グループワーク発表会（前半）	1 グループあたり 6～7 名で 10 グループに分けてグループ討議、討議結果の発表（前半）
14	グループワーク発表会（後半）	後半のグループ発表 最終レポート提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の授業前に WEB を確認すること。授業後にノートを作成してテーマごとに加筆していく。最新の情報、参考図書の概要など自分の言葉でまとめて今後の社会活動に生かしていく。
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキスト

J-Stage に掲載されている雑誌（金属表面技術、コンクリート工学、日本ゴム協会誌、材料、プラスチック成形加工学会誌、日本複合材料学会誌など）の文献を講義に使用する。第 1 回目の講義にて講義に使用する資料のリンクを掲載するので、各自ダウンロードして準備してください。

【参考書】

WEB 掲載資料内に記入。

【成績評価の方法と基準】

第 1 回目の講義で課題の内容を説明します。

1. プレゼンテーション（発表）

1 3, 1 4 回目の授業でグループワークの内容の発表を行います。全員に発表する機会があります。発表の内容、表現力を評価します。 50 %

2. レポート 50 %

グループワークの課題で、個人で調べた内容、調査結果をレポートにまとめ、第 14 回目の講義終了までに提出してください。

【学生の意見等からの気づき】

専門や学年の相違による基礎知識の差異や、化学や物理の基礎がないと理解しづらいとのアンケート回答あり。材料を広く概観することが目的の授業なので、多くの学生に基礎知識の理解が可能となることを念頭に授業を進める。

【学生が準備すべき機器他】

パソコン

【その他の重要事項】

担当講師は化学メーカーに在籍中。高分子材料、複合材料の評価、材料開発、成形加工プロセス開発の経験を活かし、材料科学全般について講義をする。

【Outline (in English)】

Industrial materials have made great strides in the last 100 years. The demand to the function of the product has been developed in a long time, and becomes complicated. This course will introduce basic examples and we discuss issues in this field.

MTL200NA

マテリアルサイエンス

伊崎 健晴

開講時期：秋学期前半/Fall(1st half) | 選択・必修の別：選択

その他属性：〈優〉〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

産業活動や日常生活において、私たちは多くの素材に囲まれている。この 100 年で工業材料は長足の進歩を遂げてきている。何千年もの歴史のある銅や鉄も、要求事項に合わせて常に進化し続けている一方、それらと比較して歴史の浅いチタンやプラスチックも、社会の要求や地球環境への配慮から、あらたな挑戦が必要になってきている。プロジェクトに使用する材料や、今後の社会活動に必要と考えられる基礎的な材料について、歴史や、原料調達、リサイクルを含めて解説する。3 学科共通であることと、学生間の科学教育経験の差異が大きいので、広く浅く概観して、興味を持つことを主眼とする。

【到達目標】

身の回りにある材料を広く紹介してその特徴を学ぶ。
適材適所（right Material for the right place.）の材料選定、設計（強度・デザイン）が出来るようになるための材料の基礎知識を幅広く学び、情報を調査する力を身に付け、ものつくりを考えるスタート地点に立てるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP2」、都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

身近にある製品に使用される一般的な材料をその物性、特徴や加工方法、原産地、リサイクルを含めて個々に述べていく。

企業における研究開発はどのようなものか、書籍の教科書ではなく、主に学会誌や雑誌の文献を使用して、幅広い分野の材料や先端材料を自分で興味を持って調べてゆくにはどのようにすればよいかを体感する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	マテリアルサイエンスとは？	金属・非金属材料の材料科学から材料デザインまで、複数の分野を橋渡する学際的科学 授業の進め方、グループワークの方法を説明
2	工業材料の基礎	材料力学や分析・評価技術、加工技術など、興味あることを自分で調べて視野を広げよう。
3	鋼・鉄、合金	金属材料の強み、弱み、状態図と変態
4	金属材料の製造と加工、防食	製造方法と加工方法、防食に関して学ぶ
5	軽金属とその合金類、貴金属類	アルミニウム、マグネシウム、チタン、銅などについて学ぶ
6	セメント・コンクリート	歴史的背景から材料構成、硬化のメカニズム
7	木材	木材の組織構造から力学特性、居住特性
8	その他非金属材料	セラミックス・ガラスなど
9	高分子材料（汎用高分子、汎用エンブレ、生分解性プラスチック）	今、環境問題とも言われるプラスチックだが、有用な特性がたくさんある。
10	高分子材料（ゴム）	ゴム・エラストマーなど柔らかいもの
11	高分子成形加工法	押出成形、射出成形から 3 D プリントまで
12	複合材料	ガラス繊維や炭素繊維で強化された複合材料、その用途と成形加工法
13	グループワーク発表会（前半）	1 グループあたり 6～7 名で 10 グループに分けてグループ討議、討議結果の発表（前半）
14	グループワーク発表会（後半）	後半のグループ発表 最終レポート提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の授業前に WEB を確認すること。授業後にノートを作成してテーマごとに加筆していく。最新の情報、参考図書の概要など自分の言葉でまとめて今後の社会活動に生かしていく。
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキスト

J-Stage に掲載されている雑誌（金属表面技術、コンクリート工学、日本ゴム協会誌、材料、プラスチック成形加工学会誌、日本複合材料学会誌など）の文献を講義に使用する。第 1 回目の講義にて講義に使用する資料のリンクを掲載するので、各自ダウンロードして準備してください。

【参考書】

WEB 掲載資料内に記入。

【成績評価の方法と基準】

第 1 回目の講義で課題の内容を説明します。

1. プレゼンテーション（発表）

1 3, 1 4 回目の授業でグループワークの内容の発表を行います。全員に発表する機会があります。発表の内容、表現力を評価します。 50 %

2. レポート 50 %

グループワークの課題で、個人で調べた内容、調査結果をレポートにまとめ、第 14 回目の講義終了までに提出してください。

【学生の意見等からの気づき】

専門や学年の相違による基礎知識の差異や、化学や物理の基礎がないと理解しづらいとのアンケート回答あり。材料を広く概観することが目的の授業なので、多くの学生に基礎知識の理解が可能となることを念頭に授業を進める。

【学生が準備すべき機器他】

パソコン

【その他の重要事項】

担当講師は化学メーカーに在籍中。高分子材料、複合材料の評価、材料開発、成形加工プロセス開発の経験を活かし、材料科学全般について講義をする。

【Outline (in English)】

Industrial materials have made great strides in the last 100 years. The demand to the function of the product has been developed in a long time, and becomes complicated. This course will introduce basic examples and we discuss issues in this field.

ADE200NB

西洋建築史

稲益 祐太

開講時期：春学期授業/Spring | 選択・必修の別：選択

備考（履修条件等）：建築：建築士

その他属性：〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は、西洋の建築や都市の歴史に関するものです。建築はそれぞれの時代や地域における文化や社会のあり方を示しており、その発展・変容・多様化の歴史的背景と変遷を理解することは、建築に対する多面的な見方を養うことに繋がります。そして、先人たちの歩んできた道（過去）を学ぶことは、未来をつくることと言えます。

そこでこの授業では、時代を追って西洋建築の様式とその成立と変容の背景を学びます。

【到達目標】

西洋建築の様式を理解し、建てられた時代や地域が見分けられるようになります。また、その成立の背景についても理解できるようになります。

【修得できる能力】

総合デザ	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
インカ						

○

○

○

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は講義形式で行います。参考資料を配り、スライドで画像を投影しながら説明していきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業のねらい
2	古代ギリシア建築	西洋建築の原点、美の規範、オーダー、神殿、アクロポリスとアゴラ
3	古代ローマ建築	建設技術と材料の発達、建築空間の洗練、豊かな市民生活、人間のための空間、凱旋門、バシリカ、劇場、競技場、市場、浴場
4	古代地中海世界の都市	都市計画、広場、聖域、住宅、集合住宅、インフラ、ボンベイとオステリア
5	初期キリスト教建築とビザンチン建築	バシリカ形式、モザイク、集中式プラン、ドーム
6	イスラーム建築	モスク、ドーム、中庭建築、庭園、幾何学的構成、迷宮都市の構造、バザール、隊商宿
7	ロマネスク建築	修道院と巡礼路教会、ヴォールト天井、空間構成
8	ゴシック建築	大聖堂の象徴性、構造の美学、垂直性、ステンドグラス、光の演出
9	初期ルネサンス建築	フィレンツェ、ルネサンスの勃興とその背景、ブルネレスキの活躍、アルベルティ、パラッツォ、ヴィッラ、祝祭・演劇、パトロンと建築家
10	盛期ルネサンス建築と理想都市	万能の人、レオナルド・ダ・ヴィンチ、ブラマンテ、古典主義の確立、集中式プラン
11	マニエリスム建築	マニエリスム 形式の組み替え・手法、ヴィニョーラ、ジュリオ・ロマーノ、パラデーオ、ミケランジェロ
12	バロック建築 1	ローマ・バロック、バロックの背景、永遠の都ローマの都市改造、舞台としての都市空間、ベルニーニとポッロミーニ
13	バロック建築 2	他都市のバロック、多様なバロック、サヴォイア家トリノ、祝祭都市ヴェネツィア、レッツェ・バロック、シチリア南東部、ナポリ
14	新古典主義・歴史主義	理論、プロジェクト、実践、リヴァイヴァル、

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しません。

【参考書】

日本建築学会編『西洋建築史図集』彰国社【推薦図書】

陣内秀信他『図説 西洋建築史』彰国社

吉田銅市『西洋建築史』森北出版株式会社

ベグスナー『ヨーロッパ建築序説』彰国社

コストフ『建築全史』住まいの図書館

【成績評価の方法と基準】

レポート課題（30%）、期末試験（70%）の合計で評価し、60点以上を合格とします。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【Outline (in English)】

【Course outline】

In this course students will learn about historical European architecture and cities. Architecture is an expression of the culture and society of each period and region, and an understanding the historical background and transitional flow of developments/changes/diversification allows one to obtain a multifaceted point of view. Studying the (past) path travelled by our forerunners is how we build our future.

【Learning Objectives】

The goals of this course are to A, B.

-A. Students be able to understand Western architectural styles and identify the period and region in which they were built.

-B. Students will also be able to understand the background of the formation of the style.

【Learning activities outside of classroom】

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

【Grading Criteria /Policy】

Final grade will be calculated according to the following process Mid-term report (30%), term-end examination (70%).

ADE200NB

日本建築史

高村 雅彦

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：選択

備考（履修条件等）：建築：建築士

その他属性：〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は原則対面で行います。様々な情報は逐一「Hoppii」を利用し、履修者の大学メールアドレスに送信しますので確認するようにしてください。以下に概要と目的を示します。
日本の建築の歴史を神社、寺院、廟、住宅、都市から理解し、それらが成立した背景を重点に考える。テーマは、上記の内容を各回において詳細に解説する。

【到達目標】

日本建築全般の基礎学力を身に付けることが到達目標となる。

【修得できる能力】

総合デザ 文化性 倫理観 建築の公理 芸術性 教養力 表現力
インカ



【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

「建築史は、建築の歴史を学ぶためのものではなく、建築を学ぶために存在している」

本講では、日本の建築の歴史を見ながら、建築の歴史の大筋を把握するとともに、時代が超えても変わらない本質的なものが存在することを理解し、その様々な歴史的要素がいかに現代に受け継がれているかを論じてみたい。毎回、スライドを見ながら、視覚的に内容を把握し、次にその背景を捉えなおし本質的な意味を探る方法をとる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	日本建築史序説	建築史の意義と目的、日本とアジアの建築の関係、なぜ今建築史か？
2	日本建築の特質	「建物につくられた空間」と「空間につくられた建物」、羅列的、面的、洗練した？
3	古代の形式化	建築の誕生、神の社、神明、大社、遷宮、形式の確立、意味の継承、聖と俗、橋-柱-端-箸-梯。
4	外来文化の受容	仏教建築、法隆寺、薬師寺、東大寺、隋・唐の仏寺、雲中供養菩薩が語る意味、重力からの解放。
5	和様・大仏様・禅宗様	架構と空間、重源と陳和卿、組物、伽藍配置の世界観、宋の建築技術、構造美とは？
6	近世の靈廟と宗教建築	日光東照宮、善光寺、権現造り、生産力の進展、ブルーノ・タウト、歌舞伎座、仏壇、靈柩車、天海。
7	中間試験	ここまで内容による中間試験。
8	日本の都市	日本の都市の歴史を知る。藤原京から平城京、平安京、そして城下町へ
9	風水都市・江戸と聖地・日光	人がつくる風水、藤堂高虎、天海、見立ての富士山、宮内庁の陰謀。
10	都市の聖地	見えない都市、新たな都市解説の方法を探る、聖地の意味論、環境空間を浮かび上がらせる
11	日本住宅の源流	寝殿造り、空間の建築、宮殿との関係、中国建築との関係、対象から非対称へ、日本の変容へ。
12	住空間の変容と茶室	書院造り、装置の建築、より自由で日本的なものへ、装飾と区画、現代日本住宅への影響。

- | | | |
|----|-------------------|------------------------------------|
| 13 | 文化財建造物の保存と修復 | 保存の意義、移築保存、選定-解体-組立-再生へ。 |
| 14 | 文化財保存の制度や実情を理解する。 | |
| 14 | 総合質疑 | これまでの講義を総合的に考え、日本建築の歴史とは何だったのかを探る。 |

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1. 日本建築の歴史について興味を持つ。
 2. 参考文献などから、日本建築を調べてみる。
 3. 配布プリントの意味を再読する。
 4. 配布プリントの意味を再読する。
 5. 配布プリントの意味を再読する。
 6. 配布プリントの意味を再読する。
 7. これまでの配布プリントを再読する。
 8. 配布プリントの意味を再読する。
 9. 配布プリントの意味を再読する。
 10. 配布プリントの意味を再読する。
 11. 配布プリントの意味を再読する。
 12. 配布プリントの意味を再読する。
 13. 配布プリントの意味を再読する。
 14. 講義の内容を総合的に考え直してみる。
- 本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

毎回プリントを配布。

【参考書】

太田博太郎『日本建築史序説』彰国社、日本建築学会『日本建築史図集』彰国社。

【成績評価の方法と基準】

中間試験および期末記述試験の両方において 60 点以上を合格とする。
中間試験 50 %
期末試験 50 %

【学生の意見等からの気づき】

板書を適宜おこなう。
ゆっくり話すようにする。

【学生が準備すべき機器他】

毎回、教員は PC を使用するが、学生は用意する必要はない。

【Outline (in English)】

Course outline : In this course students will consider Japan's architectural history from the beginnings of its shrines, temples, houses and cities. Topics will involve the detailed understanding of each of these areas.

Learning Objectives : The goals of this course are to learn basic scholastic ability of the overall Japanese building.

Learning activities outside of classroom : Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course contents.

Grading Criteria /Policy : ill be decided based on the following, to be passed in the above 60 points of examinations to describe in the midterm examination and term-end examination.

ADE200NB

建築計画 1

岩佐 明彦

開講時期：春学期授業/Spring | 選択・必修の別：選択

備考（履修条件等）：建築：建築士

その他属性：〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

建築計画学とは建築設計において規範となる理論であり、人体寸法、動作特性、知覚、心理、文化的文脈、コミュニケーション、作業効率、社会制度など様々な決定根拠がその背景にある。

本講は建築設計初学者を対象とし、身近な事例を手がかりに建築空間とその決定原理の関係を理解するとともに、建築設計において適切に決定原理を適用するための基礎を学ぶ。

【到達目標】

- 設計事例からその空間の意図を読み取るとともに、そこで行われる活動を想定する技術を身につける。
- 建築空間を規定する原理や根拠を理解する。
- 建築設計において適切に決定原理を適用するための基礎を身につける。
- 設計根拠の導出を通して社会・文化と建築設計を接続して思考する視点を身につける。

【修得できる能力】

総合デザ 文化性 倫理観 建築の公理 芸術性 教養力 表現力
インカ

◎ ○ ◎

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

- 各回のテーマに従って解説と演習を行う。
- デザインスタジオと連携し、デザインスタジオで必要とされる知識や情報を適宜提供する。
- 講義内で演習を行う。
- 講義の内容（順序）は変更になる可能性がある。
- 「建築計画2」と併せて履修することが望ましい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス/建築設計と決定根拠	身近な場所に学ぶ空間の決定原理 DS3 課題の補足解説
第2回	住む1/住戸・住宅	環境の中の距離・寸法 用途や動作で規定される空間
第3回	住む2/住宅+α	図式化による空間の理解
第4回	働く1/オフィス・コワーキングスペース	用途や動作で規定される空間 室と場面
第5回	働く2/オフィス・コワーキングスペース	知的生産性と環境 ワーケーション
第6回	育てる1/幼稚園・保育園・こども園	目的・制度・ユーザー・行為から考える幼稚園 DS3 課題の補足解説
第7回	育てる2/幼稚園・保育園・こども園	子供環境を考える DS3 課題の事例解説
第8回	知る1/図書館	プログラムと建築 情報媒体の進化と建築の変化
第9回	知る2/図書館	蔵書の拡大と建築の変化
第10回	知る3/図書館	機能分化と平面計画
第11回	知る4/図書館	知の広場としての図書館 「本」の役割の変化
第12回	教える・学ぶ1/学校・ラーニングセンター	学びと環境
第13回	教える・学ぶ2/学校・ラーニングセンター	教育システムと建築
第14回	災害と建築/避難所	セーフティネットと建築

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で紹介したキーワードおよび建物事例についての理解を深めるために、授業後に各自で調べ、知識を整理・把握することが必要である。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

「建築計画のリベラルアーツ社会を読み解く 12章」朝倉書店

【参考書】

建築計画教科書（彰国社）
コンパクト建築設計資料集成（丸善）
住宅特集、新建築、GA HOUSE などの各建築雑誌

【成績評価の方法と基準】

- 講義内の演習課題（50%）
- レポート課題（50%）

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

オンライン形式のため、PCの使用は必須である。

資料配布は pdfで行うが、一部資料はプリントアウトが必要である。
講義内の演習で色鉛筆（12色程度）と細ペン（0.3～0.5mm）を使用するので準備すること。

【その他の重要事項】

- DS3に関連した項目を取り扱うため、DS3と併せて履修することが望ましい。
- 提出物に学籍番号・名前をきちんと記載すること。記載がない場合、評価不能（未提出扱い）となるので注意すること。
- IAEにレポート等を提出する際に、アップロード先（提出フォルダ）を間違える学生が散見されるので十分に注意すること。

【Outline (in English)】

【Course outline】

Architectural planning is a normative theory of architectural design, which is based on various decision-making principles such as human dimensions, motion characteristics, perception, psychology, cultural context, communication, work efficiency, and social systems.

This course is intended for beginning architectural designers to understand the relationship between architectural space and its decision-making principles using familiar examples, and to learn the basics of applying decision-making principles appropriately in architectural design.

【Learning Objectives】

To understand the intention of the space from design examples and to acquire the skills to envision the activities that will take place in the space.

To understand the principles and rationale that define architectural space.

To acquire the basis for applying the principles of decision making appropriately in architectural design.

To acquire the viewpoint to think about the connection between society and culture and architectural design through the derivation of design rationale.

【Learning activities outside of classroom】

In order to deepen your understanding of the keywords and building examples introduced in class, it is necessary to organize and grasp your knowledge by doing your own research after class.

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria/Policy】

Exercises in the lecture (50%)

Report assignment (50%)

ADE200NB

建築計画2

岩佐 明彦

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：選択

備考（履修条件等）：建築：建築士

その他属性：〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

建築計画学とは建築設計において規範となる理論であり、人体寸法、動作特性、知覚、心理、文化的文脈、コミュニケーション、作業効率、社会制度など様々な決定根拠がその背景にある。

本講は「建築計画学1」で学んだ知識を更に発展させ、より広範な社会の仕組みや制度と建築空間の関係を理解するとともに、建築設計を通して社会に貢献していくための手法を学ぶ。

【到達目標】

- ・建築空間を規定する原理や根拠の理解を通して、建築と社会・文化とのつながりを学ぶ。
- ・空間の意図やそこで行われる活動を建築設計にフィードバックする技術を身につける。
- ・社会の課題解決の手法としての建築設計の役割を理解する。

【修得できる能力】

総合デザ	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
インカ						



【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

- ・「建築計画1」が履修済みであることが望ましい。
- ・各回のテーマに従って解説と演習を行う。
- ・デザインスタジオと連携し、デザインスタジオで必要とされる知識や情報を適宜提供する。
- ・講義内で演習を行う。
- ・講義の内容（順序）は変更になる可能性がある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	社会と建築は合せ鏡である DS4 課題解説
2	集う1／集合住宅・住宅地	住宅供給と社会
3	集う2／集合住宅・住宅地	住戸配置の計画 住戸のアクセス形式
4	集う3／集合住宅・住宅地	住戸の平面計画 都市と集合住宅
5	鑑る1／美術館・博物館	美術館の歴史 DS4 課題解説
6	鑑る2／美術館・博物館	美術館の計画（展示室）
7	鑑る3／美術館・博物館	第4世代の美術館
8	住の多様性1	コーポラティブ住宅 シェアハウス
9	住の多様性2	暮らし方と住宅計画
10	住の多様性3	ポストコロナの建築計画
11	セーフティネット1／応急仮設	応急仮設住宅 危機的環境移行を支える建築
12	セーフティネット2／災害復興	復興公営住宅
13	セーフティネット3／高齢社会	グループホーム コレクティブハウス
14	演じる／劇場	演劇空間の計画

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で紹介したキーワードおよび建物事例についての理解を深めるために、授業後に各自で調べ、知識を整理・把握することが必要。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

「建築計画のリベラルアーツ社会を読み解く 12章」朝倉書店

【参考書】

建築計画教科書（彰国社）
コンパクト建築設計資料集成（丸善）
住宅特集、新建築、GA HOUSEなどの各建築雑誌
建築と都市のパブリックスペース（鹿島出版会）
アクティビティを設計せよ（彰国社）

【成績評価の方法と基準】

- ・講義内の演習課題（50%）
- ・レポート課題（50%）

【学生の意見等からの気づき】

なし

【学生が準備すべき機器他】

オンライン形式のため、PCの使用は必須である。
資料配布はpdfで行うが、一部資料はプリントアウトが必要である。
講義内の演習で色鉛筆（12色程度）と細ペン（0.3～0.5mm）を使用するので準備すること。

【その他の重要事項】

- ・DS4に関連した項目を取り扱うため、DS3と併せて履修することが望ましい。
- ・提出物に学籍番号・名前をきちんと記載すること。記載がない場合、評価不能（未提出扱い）となるので注意すること。
- ・IAEにレポート等を提出する際に、アップロード先（提出フォルダ）を間違える学生が散見されるので十分に注意すること。

【Outline (in English)】

【Course outline】

Architectural planning is a normative theory of architectural design, which is based on various determinants such as human dimensions, behavioral characteristics, perception, psychology, cultural context, communication, work efficiency, and social systems.

This course is designed to further develop the knowledge acquired in "Architectural Planning 1" to understand the relationship between architectural space and broader social systems and institutions, and to learn methods to contribute to society through architectural design.

【Learning Objectives】

To understand the connection between architecture and society and culture through an understanding of the principles and rationale that define architectural space.

To acquire the skills to feed back the intention of space and the activities that take place in it to architectural design.

To understand the role of architectural design as a method of solving social problems.

【Learning activities outside of classroom】

In order to deepen your understanding of the keywords and building examples introduced in class, it is necessary to organize and grasp the knowledge by doing your own research after class.

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria/Policy】

Exercises in the lecture (50%)

Report assignment (50%)

ADE300NB

木造建築の構法

網野 禎昭

開講時期：秋学期後半/Fall(2nd half) | 選択・必修の別：選択
備考（履修条件等）：建築：建築士

その他属性：〈優〉〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、多数の伝統建築や現代の先端事例を多角的に分析し、木造建築の設計や開発に必要な知識を得ることを目的とする。

【到達目標】

日本、欧州の伝統構法のしくみを理解する。さらに、これら伝統構法の発展形としての現代の諸構法や、さまざまな工業化木質材料を活用した構法についても理解する。

Understanding traditional wooden building constructions in Japan and in Europe. Understanding the evolution of constructions and contemporary varieties including industrialized building systems.

【修得できる能力】

総合デザ 文化性 倫理観 建築の公理 芸術性 教養力 表現力
インカ

○

◎

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

各回、実際の木造建築事例をとりあげ、これらを建築設計、構造設計、物理設計、生産施工計画等の諸側面から総合的に分析する。標準的な構法よりも、よりイノベティブな事例の解説に重きをおき、学生諸氏の創造力を刺激する考えである。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	民家 1	地域性と木造民家の形- 日本
2	民家 2	地域性と木造民家の形- 欧州
3	民家 3	地域性と木造民家の形- 欧州
4	歴史的木橋 1	グルーベンマン、バラードイオの橋 他、産業革命以前の木橋
5	歴史的木橋 2	グルーベンマン、バラードイオの橋 他、産業革命以前の木橋
6	現代の木橋 1	木造エンジニアによる木橋
7	現代の木橋 2	木造エンジニアによる木橋
8	現代の木橋 3	木造エンジニアによる木橋
9	塔	Gliwice, Pyramidenkogel, Sauvabelin, Korkeasaari の各塔他
10	大型スパン建築 1	梁架構、方杖架構、アーチ、トラス、 張弦梁等、様々なフレーム・システム
11	大型スパン建築 2	折板、吊屋根、シェル等、様々な面構 造システム
12	非戸建木造 1	木造集合住宅
13	非戸建木造 2	木造によるオフィス、学校建築などの 最新事例
14	木造研究	低質木材の活用 木質コンポジット材 非木材林産資源による建築

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

木造建築の挙動を実感するために、「壁- 1 グランプリ」の見学あるいは参加を勧める。

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

Observing "Kabe-1 grand prix" is recommended to understand the behavior of wooden structures. Preparation for the lecture and the review requires two hours respectively.

【テキスト（教科書）】

特に使用しない

【参考書】

Timber Construction Manual

【成績評価の方法と基準】

期末試験結果（100 %）による
Evaluate the final exam result.

【学生の意見等からの気づき】

写真や図版などの映像資料の質の充実
教員による実作の詳細解説

【学生が準備すべき機器他】

特に使用しない

【その他の重要事項】

建築設計に携わる教員が実務経験から得た最新の知見を織り交ぜた授業を行う

【Outline (in English)】

This course aims to provide the knowledge required for the designing of wooden structures, analyzing a range of diverse traditional and cutting-edge modern construction examples.

ADE300NB

空間の構造デザイン

浜田 英明

開講時期：春学期授業/Spring | 選択・必修の別：選択

備考（履修条件等）：建築：建築士

その他属性：〈優〉〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

構造は建築に力学的安全性を与えると同時に、建築の造形とも大きく関わっている。また、建築構造を理解するには、解析・計算によるアプローチの他に、構造を概念として把握する必要がある。この授業では、様々な構造システムの発想と歴史の変遷、力学的メカニズム、造形上の問題、具体的実現例などを解説し、建築空間における構造デザインの意味についての理解を促す。

【到達目標】

建築物の基本骨格となる様々な構造要素および構造システムの概念をスケッチや図式等を用いて具体的に記述・表現できる程度の、建築家としての基礎的な素養を身につけることを目標とする。

【修得できる能力】

総合デザ	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
インカ						
◎	◎		○			○

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

テキスト「建築構造のしくみ」に従い、基本的には数式を一切使用することなく、さまざまな建築構造要素・システムについての基本概念を段階的に述べ、それらを応用した構造デザイン例を紹介する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	梁と柱（1）	梁の発生、梁のメカニズム、梁の種類と諸形式
2	梁と柱（2）	梁と柱の構造、マグサ構造、ラーメン構造
3	トラス（1）概説	トラスの原始的発想と現代的発想、迫り持ちトラスと梁トラス
4	トラス（2）メカニズム	迫り持ちトラスのメカニズム、梁トラスのメカニズム、ヒンジ、2次応力、不静定トラス
5	トラス（3）諸形式	平行弦トラスと小屋組トラス、ハウ、プラット、ワーレン、タウン、キングポスト、橋梁トラス
6	アーチ（1）概説	アーチの出現、組積アーチ、ヴォールト、スラスト
7	アーチ（2）メカニズム、諸形式	荷重支持のメカニズム、アーチの形状と荷重、静定・不静定アーチ、アーチの安定
8	ドーム（1）概説	アーチとドーム、パンテオン、組積ドームの発展
9	ドーム（2）メカニズム	球殻、経線応力、緯線応力、古代ドームと近代ドーム、テンションリング
10	シェル構造	曲面の分類、EP シェル、HP シェル、シェルのメカニズム、膜応力、応力攪乱
11	スペースフレーム	スペースフレームの定義、大量生産、骨組パターンの構成、ジオデシックドーム、B. フラー、均質立体骨組、ジョイント
12	ケーブル構造	ケーブル構造の原理、1 方向、2 方向、放射方向、吊りケーブル、押えケーブル、コンプレッションリング
13	膜構造	膜構造、空気膜構造の原理、エアドームとエアアーチ、サスペンション膜、骨組膜
14	タワーと超高層建築 耐震・免震・制振	タワーの変遷と構造システム、超高層建築の変遷と構造システム、耐震、免震、制振

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で紹介された模範的構造デザイン例の見学あるいは建築雑誌等からの資料収集を行う。

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

川口衛 他：建築構造のしくみ 力の流れとかたち 第 2 版（建築の絵本）、彰国社

【参考書】

授業内で適宜指示をする。

【成績評価の方法と基準】

評価項目：配分（評価基準等）

演習課題：40%（A～Dの4段階評価で、未提出はD評価）

定期試験：60%（試験の際、各自 A4 用紙 1 枚にまとめた直筆メモの持ち込みを許可する）

なお、5 回以上欠席したものは成績評価しない

【学生の意見等からの気づき】

模型を使用した説明の割合を増やす。

【その他の重要事項】

構造設計一級建築士である教員が、自身のこれまでの設計経験を活かした講義を行う。

【Outline (in English)】

Course outline:

At the same time as lending mechanical stability, structure is strongly related to a building's form. In order to understand building structure, in addition to approaches through analysis and calculation, comprehending structure as a concept is important. This course will develop understanding of the meaning of structural design in construction space through elucidating the concepts and historical transitions of various structural systems, mechanisms, problems related to form and solutions of real world problems.

Learning Objectives:

The goal of this course is to provide students with the basic architectural knowledge to the extent that they can describe and express the various structural elements and structural system concepts that form the basic framework of buildings using sketches, diagrams, etc.

Learning activities outside of classroom:

Students will observe exemplary structural design examples introduced in class or collect materials from architectural journals.

Standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Grading Criteria/Policy:

Grading will be based on the results of exercises and periodic examinations. Students who are absent three times in a row or five times or more in total will not be graded.

ADE200NB

建築生理心理2

川久保 俊

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：選択

備考（履修条件等）：建築：建築士

その他属性：〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

物理事象と身体との係わり、身体と建築物、建築空間、建築環境との係わりを深く理解する。特に、温熱環境、空気環境、音環境、光環境などの住環境が人体生理心理に及ぼす影響について学習する。

【到達目標】

・環境物理要素（建築物、建築空間、建築環境）とそれらに対する人体反応を明確に理解する
・建築士試験問題に関わる内容も多分に含まれることから、実務に役立つ知識・情報を習得する

【修得できる能力】

総合デザ 文化性 倫理観 建築の公理 芸術性 教養力 表現力
インカ

◎

◎

○

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

本講義では建築環境工学のうち、生理心理に係る事項を学習する。講義はPowerpoint等で作成した資料を利用して進める。講義内容や課題に対する質問は Hoppii の掲示板等で回答する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	導入	講義の設置目的、到達目標、概要の紹介
2	データの取得、取扱い方法	実測、実験、シミュレーション、質問紙調査、サンプル数、バイアス、欠損値の取扱い
3	データの分析方法の基礎	欠損値処理、単純集計、クロス集計、各種帰帰分析、主成分分析、因子分析、検定
4	健康維持増進に資する住環境（1）	健康維持増進の意義、ゼロ次予防、一次予防、住環境要素との係り
5	健康維持増進に資する住環境（2）	エビデンスに基づく健康阻害要因の把握
6	健康維持増進住宅の設計方法	住まいの健康診断、健康維持増進住宅設計ガイドライン
7	人体寸法とモジュール	各種人体寸法、モジュール、モジュラー・コーディネーション
8	生体電気とその計測・応用	生体電気、EEG、ECG、EMG、センサーによる信号測定と建築環境への応用
9	温熱・空気環境の基礎	環境側四要素と人体側二要素、各種温熱快適性指標（SET*、PMV など）の原理
10	音・振動環境の基礎	人の聴覚の機構、音の原理、音の三要素、音の生理的・心理的作用、騒音・振動防止計画、快適音響空間
11	光・視環境の基礎	人の視覚の機構、色の原理、色の三要素、色の生理的・心理的作用、効果色、安全色、建築における色彩計画
12	対象と空間の知覚、印象評価	心理学に基づく対象知覚と空間知覚、奥行知覚、錯視現象、建築物における錯視利用の実例
13	快適空間設計	間取りの設計、廊下、寝室、ダイニングキッチン、水廻りの
14	サステナブルデザイン	環境品質、環境負荷、環境効率、CASBEE、持続可能な開発目標（SDGs）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義中に配布した資料にしっかりとノートをとっておき、帰宅後にその内容を毎回復習してからその次の講義に臨むこと。講義の内容で特に重要な部分については理解を深めるために適宜講義中に演習を課すので、当該部分については期末試験までしっかりと理解し、前提条件等が変わっても対応できるような応用力を身につけておくこと。なお、本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。独自に作成した講義資料を講義中に配布する。

【参考書】

「住環境-評価方法と理論」浅見泰司他（東京大学出版会）
「建築環境工学」加藤信介、土田義郎、大岡龍三（彰国社）
「生活環境学」岩田利枝他（井上書院）
「しくみがわかる建築環境工学:基礎から計画・制御まで」上野佳奈子、鍵直樹、白石靖幸、高口洋人、中野淳太、望月悦子。

【成績評価の方法と基準】

講義終了後の期末試験（50%）および講義中に課す演習課題（50%）によって判断する予定。なお、試験未受験、課題未提出の者の成績評価は実施しない。

【学生の意見等からの気づき】

オンライン講義ではなく、対面講義を希望する声の方が大きい。基本的には対面形式で講義を展開する予定である。ただし、オンライン形式を併用する可能性があるため、定期的に Hoppii 上のアナウンスを確認すること。

【学生が準備すべき機器他】

講義はプロジェクターにより関連情報を映写しながら進める予定。講義前までは貸与パソコンを用いた演習も予定している。

【Outline (in English)】

Course outline: To deeply understand the relationship between physical phenomena and the body, and between the body and buildings, building spaces, and building environments. In particular, the effects of living environments such as the thermal environment, the air environment, the sound environment, and the light environment on human physiological psychology are studied.

Learning Objectives: 1) To understand clearly the physical elements of the environment (buildings, built spaces and the built environment) and how the human body reacts to them, 2) To acquire knowledge and information that is useful in practice, as it is often relevant to issues in the architectural examinations.

Learning activities outside of classroom: The standard preparation and review time for this class is 2 hours each. In particular, students are encouraged to deepen their understanding before the next class if they do not have a sufficient understanding of the subject matter at the end of the class.

Grading Criteria /Policy: Grades will be determined by a final exam at the end of the lecture (50%) and exercises assigned during the lecture (50%). Grades will not be given to students who have not taken the examinations or submitted the assignments.

ADE300NB

光・視環境

中野 淳太

開講時期：春学期授業/Spring | 選択・必修の別：選択

備考（履修条件等）：建築：建築士

その他属性：〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

建築における光環境として日照・日射、採光・色彩を対象とし、光や色に対する理論を学習し、人間の視覚特性を理解しながら、建築デザインに生かす手法を習得する。

【到達目標】

到達目標は下記の通り。

- 1) 太陽位置を把握して、日影や日照時間、日射熱量、建築の日射受熱量などの算定方法を習得する。
- 2) 測光量と単位、採光・照明の基礎理論を理解し、表色系を把握して色彩心理を基にした色彩計画などの応用手法を習得する。

【修得できる能力】

総合デザ イン力	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
○		◎			○	

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

1回の授業はテーマを明確にし、基礎理論の解説（講義）と演習により構成している。予め、テキストの該当部分を予習し、主体的に講義を受けて理解し、限られた時間内で演習を行い、そのテーマを習得する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回	光環境と地球環境	建築環境における光環境・視環境、地球環境との関係、地球熱バランス、温室効果
2回	太陽位置算定に必要な時刻表現	地方真太陽時、地方平均太陽時、中央標準時均時差
3回	太陽位置の算定方法	太陽方位角、太陽高度、太陽赤緯
4回	日影図	日影図、日影曲線、日影時間曲線
5回	日差し曲線	日差し曲線、日照図表
6回	各平面への日影	水平面・鉛直面への影、バルコニーなどの日影
7回	日射量	直達日射、天空日射、全天日射、ブリーズソーレユ、日射遮蔽手法。ガラス、日射受熱量
8回	光の物理表記と単位	光束、照度、光束発散度、光度、輝度
9回	点光源による照度・均等拡散面の性質	入射の余弦定理、完全拡散面、反射、吸収、透過、拡散
10回	光束法	光束法を用いた照明計画
11回	マンセル表色系	色彩の基礎、マンセル表色系、オストワルト表色系、NCS表色系
12回	XYZ表色系	RGB表色系、XYZ表色系、xy色度図
13回	色彩調和理論	視覚心理、視認性・誘目性、色調、色彩調和理論、色彩計画
14回	総復習	光環境・視環境の総復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内での演習問題の復習を十分行っておくこと。さらに、身近な例を学習関連する新聞記事を読むこと。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

田中俊六他著『最新 建築環境工学』、井上書院

【参考書】

『理科年表』、丸善

【成績評価の方法と基準】

毎回の演習点：20%、期末試験点：80%の割合で評価

【学生の意見等からの気づき】

- ・太陽光は地球環境と密接に関係しているので、そのつもりで履修すること。
- ・光環境は、熱環境とも関連しているので、建築気候の熱環境の分野も復習すること。
- ・授業は遅刻をしないこと。学生証カードによる出欠は参照していない。
- ・日影図は、単純な幾何なのに従来から理解していない学生が多いので、注意すること。

【学生が準備すべき機器他】

関数の付いた電卓は必ず持参すること。

【Outline (in English)】

This course focuses on sunlight, solar radiation, lighting, and color as light environments in architecture. Students will learn theories of light and color, understand human visual characteristics, and acquire methods to apply them to architectural design.

Through this class, students will be able to:

(1) Understand the position of the sun and learn how to calculate shading, hours of sunlight, solar heat capacity, and the amount of heat received by buildings by solar radiation.

(2) To understand the basic theory of photometric quantities and units, lighting, and illumination, and to master applied methods such as color planning based on color psychology by understanding the color system.

The course comprises a lecture on fundamental theory and exercises with a clear theme. Students are expected to prepare the relevant part of the textbook in advance, attend and understand the lecture independently, and master the theme by doing exercises within a limited time. Students are expected to review the exercises in the class sufficiently. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Evaluation will be based on the following ratios: 20% for the exercises in each class and 80% for the final examination.

ADE300NB

音・振動環境

川久保 俊

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：選択
備考（履修条件等）：建築：建築士

その他属性：〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

外部からの騒音に悩まされない住宅、響きが良いコンサートホール、声がよく通る教室等、建築物の設計に際して内部で実現される音環境への配慮は大変重要である。音は、人々に快感から不快感まで幅広い感覚刺激を呼び起こす。従って、機能、用途毎に音質が的確に対応していなければならない。そのためには音とは何かという基本的理解が必要である。また、音の取り扱いと振動の取り扱いに関しては類似する点も多いことから、講義の後半では振動現象に関する基礎についても学ぶ。本講義では、音・振動環境に関する基礎的な知識を習得し、その後空間形態、建築用途に対応する理想的設計要件を学ぶことを目的とする。

【到達目標】

- ・音が物体の中を伝わる振動現象であるという物理現象を理解する。
- ・音、振動に関わる特徴的な単位、演算方法を習得する。
- ・吸音、遮音のための物性、構法などを基礎知識として理解する。
- ・建築設計の際に音・振動を考慮することが重要であることを認識する。

【修得できる能力】

総合デザ	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
インカ						

○

◎

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

建築物の用途ごとに相応しい音環境を形成しなければならない。そこで本講義では「音」の基本から学び、吸音、遮音の原理などを通して目的の空間用途への適応手法を理解する。また、近代文明の発達に伴って増加した公害（騒音、振動）などの評価法などを学ぶ。講義内容や課題に対する質問は Hoppii の掲示板等で回答する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	講義の設置目的、到達目標、概要の紹介
2	音波の定義と成立	振動の物理、音の物理、音波、波の表し方
3	音波のエネルギー的取り扱いと dB 尺度	音の強さ、音圧、dB 尺度、エネルギー密度、音の種類、スペクトル、ホワイトノイズ
4	dB 尺度の運用	dB の合成、分解、対数の基礎、対数公式の運用、レベルの合成・分解、レベルの計算方法および演習
5	音の伝搬と距離減衰	空間における音の伝搬および減衰過程
6	各種の音源からの距離減衰	点音源、線音源、面音源から放射される音の減衰
7	音の回折・屈折	障壁による減衰、防音手法、障壁による音の回折減衰、空気吸取による音の減衰
8	音を知覚する構造（1）	聴覚器官としての耳の機構、特性、外耳、中耳、内耳
9	音を知覚する構造（2）	音の三要素、ウェーバー・フェヒナーの法則、等ラウドネス曲線、心理音響効果
10	騒音	騒音の定義、種類、分類、測定方法、等価騒音レベル
11	騒音防止計画	音源対策、配置計画、遮音計画、吸音計画、吸音と遮音の違い
12	吸音の機構	吸音の特性、吸音率、吸音機構の種類と特性、施工上の注意、多孔質の吸音機構とその材料・構法、板状吸音機構とその材料・構法。ヘルムホルツの共鳴吸音機構とその材料・構法
13	遮音の機構	透過損失、質量則、二重壁の意味、コインデンス効果、パネルの遮音効果
14	振動現象	振動の発生と伝搬のメカニズム、代表的な振動測定方法、振動加速度レベル、振動レベル、レベル計、周波数分析

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本講義は暗記内容、計算問題ともに多いので講義終了後に知識定着のために各自帰宅後に内容を復習すること。建築士試験の問題として出題される内容も多く取り扱うことから、ここで知識を体系的に定着させておくことが望ましい。なお、本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。独自に作成した講義資料を講義中に配布する。

【参考書】

「生活環境学」岩田利枝他（井上書院）
「建築の音環境設計」日本建築学会設計計画パンフレット 4（彰国社）
「建築・環境音響学」前川純一著（共立出版）
「建築と環境の音響設計」前川純一訳（丸善）
「わかりやすい環境振動の知識」後藤剛史、濱本卓司（鹿島出版会）

【成績評価の方法と基準】

講義終了後の期末試験（50%）および講義中に課す演習課題（50%）によって判断する予定。なお、試験未受験、課題未提出の者の成績評価は実施しない。

【学生の意見等からの気づき】

オンライン講義ではなく、対面講義を希望する声の方が大きいため、基本的には対面形式で講義を展開する予定である。ただし、オンライン形式を併用する可能性があるため、定期的に Hoppii 上のアナウンスを確認すること。

【Outline (in English)】

Course outline: It is very important to consider the sound environment that is realized in the design of buildings, such as houses that do not suffer from external noise, concert halls with good sound, and classrooms with a good voice. Sound evokes a wide range of sensory stimuli, from pleasure to discomfort. Therefore, the sound quality must accurately correspond to each function and application. This requires a basic understanding of what sound is. In addition, since there are many similarities in the handling of sound and vibration, students learn the basics of vibration phenomena in the latter half of the lecture. The purpose of this course is to acquire basic knowledge about sound and vibration environments and then to learn ideal design requirements corresponding to spatial form and architectural use.

Learning Objectives: 1) To understand the physical phenomenon that sound is a vibrational phenomenon transmitted through an object, 2) To understand the physics of sound and vibration, 3) To understand the basic knowledge of physical properties and building methods for sound absorption and sound insulation, 4) To understand the importance of taking sound and vibration into account when designing buildings. Learning activities outside of classroom: The standard preparation and review time for this class is 2 hours each. In particular, students are encouraged to deepen their understanding before the next class if they do not have a sufficient understanding of the subject matter at the end of the class.

Grading Criteria /Policy: Grades will be determined by a final exam at the end of the lecture (50%) and exercises assigned during the lecture (50%). Grades will not be given to students who have not taken the examinations or submitted the assignments.

ADE300NB

都市建築史（2019年度以降入学生）

高村 雅彦

開講時期：春学期授業/Spring | 選択・必修の別：選択

備考（履修条件等）：建築：建築士

その他属性：〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は原則、対面とします。お知らせ等は「Hoppii」で周知するので確認するようにしてください。

なお、新カリ「都市建築史」と旧カリ「近現代建築史」は読替の授業であり、授業内容も同じで、春学期開講期となります。

以下に概要と目的を記述します。

日本を含むアジアも近現代の都市と建築を対象に、それらがつくられた背景を理解する。また、現代建築のデザインに見られる歴史の稀薄性について、ディズニーランドなどを例に解説していく。テーマは、各回において、上記の内容ごとに見ていく。

【到達目標】

こうした講義を通じて、見た目だけではなく、都市や建築の本質を見ようとする姿勢を身に付けることが到達目標となる。

【修得できる能力】

総合デザ	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
インカ						

◎

○

○

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

「建築史は、建築の歴史を学ぶためのものではなく、建築を学ぶために存在している」

本講では、日本を含めたアジアに注目しながら、劇場、庭園、商業施設、遊園地の成り立ちについて、比較の視点を持ちながら見ていきたい。また、失われた都市と建築の歴史を知るために、絵巻物に描かれた世界の解説も行う。さらに、現代の日本の都市と建築が、いかに歴史的なつながりの中で成立しているのか、近代都市や娯楽施設の歴史を通して考えていく。各回、スライドを見ながら視覚的に把握し、その背景にある本質を解説する方法をとる。授業は三つのステージからなり、古代から近世の世界観、宇宙観、自然観、近代の建築と都市の象徴性、現代の排除の構造がテーマとなる。

授業は三つのステージからなり、古代から近世の世界観、宇宙観、自然観、近代の建築と都市の象徴性、現代の排除の構造がテーマとなる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス この授業では何を学ぶのかを理解する。	近現代のアジアにおける都市と建築の歴史をいかに考えるか？
2	アジアの劇場建築 近世以前の建築について、劇場を考える。	能舞台、歌舞伎の演劇空間、世界の演劇空間比較、演出効果、宇宙観
3	日本の能舞台 能舞台と劇場空間の歴史を解説する。	中世から近世への都市変容、洛中洛外 図屏風、江戸図屏風、都市と自然
4	庭園文化の空間史 近世以前の建築について、庭園を考える。	ゆがめられた空間、日中欧庭園比較 論、エロスと誕生、庭園の持つ意味、 宇宙観。
5	絵巻物から読む都市世界 I 近世以前の都市について、絵巻物から比較する。	幕末の「弘化勸進能図」を解説しながら、劇場に秘められた世界観を見ていく。
6	絵巻物から読む都市世界 II 近世以前の都市について、絵巻物を読む。	『清明上河図』を読む、閉鎖型社会からの開放、中世都市の空間と人々の暮らし
7	東京の古代地形と文化的景観	神田明神から見えたもの、どこから江戸城は見えたのか、地形を読み込んで成立する江戸東京の聖地
8	疾走する城塞都市－香港 近代の都市とは建築の本質とは何かを学ぶ。	植民都市としての香港、ネオバロックとアールデコの対決、摩天楼対決、田園と都市、近代の理想
9	享楽のアジア近代－新世界 近代における民間側の都市と建築の理念を学ぶ。	理想としての近代、欲望の象徴としての塔、大阪新世界から浅草・上海を経て北京へ！

10	山下啓次郎と明治の刑務所 近代日本のアジアの関係を刑務所を通して知る。	明治の建築世界、薩長と出身地、明治に課せられた課題、文明国としての日本の誇示、近代デザイン
11	東京－都市美の戦後 現代に結びつく戦後の東京の都市美に課せられた役割を建築的に解説する。	戦後復興に夢見た「都市美」、失われゆく水辺空間、露店収容建築、水上居住者、時計塔、街路照明
12	広がる虚像の世界 現代のデザイン論についてディズニーを通して考える。	ディズニーランド、ラブホテル、マクドナルド、パチンコ、サティアン、ビーナズフォート
13	講義再読 古代から近世	世界観、宇宙観、自然観。
14	講義再読 近代から現代	建築と都市の象徴性とは。排除の構造。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1. 古代から近現代の都市と建築の歴史について興味を持つ。

2. 配布プリントの意味を再読する。

3. 配布プリントの意味を再読する。

4. 配布プリントの意味を再読する。

5. 配布プリントの意味を再読する。

6. 配布プリントの意味を再読する。

7. 配布プリントの意味を再読する。

8. これまでの配布プリントを再読する。

9. 配布プリントの意味を再読する。

10. 配布プリントの意味を再読する。

11. 配布プリントの意味を再読する。

12. 自分自身で都市と建築の歴史を再読する。

13. 自分自身で都市と建築の歴史を再読する。

14. 講義以外のテーマについて自分で解説してみる。

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

毎回プリントを配布する。

【参考書】

高村雅彦編『アジアの都市住宅』（勉誠出版）、『清明上河図』を読む』（勉誠出版）

【成績評価の方法と基準】

期末記述試験 60 %。

【学生の意見等からの気づき】

板書を適宜おこなう。

ゆっくり話すようにする。

【学生が準備すべき機器他】

教員は毎回 PC を使用するが、学生は用意する必要はない。

【Outline (in English)】

Course outline : In this course students will understand the background behind Japan and Asia's modern cities and architecture. In addition, in regards to the sparse design history of modern architecture, examples such as Disneyland will be examined. Topics will be assigned according to each of these areas.

Learning Objectives : The goals of this course are to learn the posture that is going to watch a city and the essence of the building.

Learning activities outside of classroom : Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course contents.

Grading Criteria /Policy : Your overall grade in the class will be decided based on the following, to be passed in the above 60 points of examinations to describe in the term end.

CST100NC

生態学概論（2023年度以降入学生）SD

山田 由美

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：選択必修

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

インフラ整備、都市計画、防災・減災対策などにおいて、工学的な視点だけでなく、その場にある自然環境を理解し、活かす視点をもてるように、基礎生態学、保全生態学に関する基礎知識を習得する。

【到達目標】

生態学の基礎的な知識を習得する。また、その応用として人間社会と自然環境とのかかわり、持続可能な社会の形成のために必要とされる自然環境に関する知識や視点を学び、都市環境デザイン工学分野に関する課題解決に資する思考方法を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連
デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連
デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

基礎的な知識を獲得するための講義を中心に進める。
一方的に聞くだけにならないよう、自身で考えて書きだしてみるなどの学習方法も交える。

また、各回授業時には学習内容に関する意見や数字などを提出してもらう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション、生態学の基礎概念	生態学のあゆみ、種・群集・生態系、ハビタットとニッチ、バイオーム
2	自然選択による進化	適応の自然史、自然選択と適応進化
3	生活史戦略	生活史におけるトレードオフ、生活史戦略のシンドローム
4	生物間相互作用	共生関係、被食適応、拮抗的生物間相互作用
5	人類の歩みと持続可能性	人類史と地球環境、現代につながる人間活動と地球環境
6	保全生態学と生物多様性	生物多様性の概念、生物多様性と生態系サービス、絶滅リスクと多様性
7	外来種問題	生物学的侵入、侵略的外来種の生態系への影響、外来種対策
8	人の暮らしとともにある自然	里山や草原の利用と生物多様性、多様性と中程度攪乱説
9	自然再生と生態系管理	自然再生の歴史と考え方、自然再生事業の実践例
10	生態系の動態と気候変動	気候変動と生物多様性、適応策の考え方、緩和策と生態系、炭素循環
11	グリーンインフラストラクチャ	大規模攪乱と災害リスク、生態系を活用した防災・減災
12	都市生態系と都市グリーンインフラ	都市における緑地の機能、人の暮らしの中にある自然
13	ディスカッション	グループディスカッション（受講人数等により具体的な方法は開講後に検討します）
14	プレゼンテーション	グループディスカッションの内容のプレゼンと質疑応答

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の復習時間は1時間を標準とする。

その他、小テスト、レポート作成のための学習が必要となる。

【テキスト（教科書）】

鷺谷いづみ.(2016). 生態学-基礎から保全へ. (税込 3,025 円) をベースに講義を進める。手元があれば予習・復習しやすいが、必ずしも購入する必要はない。(必要箇所は資料配布する)

【参考書】

鷺谷いづみ.(2017). 大学1年生のなっとく!生態学 (税込 2,420 円)

【成績評価の方法と基準】

平常点 30 % 小テスト 30 %、期末レポート 40 %

上記 3 項目の合計点で評価し、60 点以上を合格とする。

平常点：授業後の提出物、ディスカッションの発表、発言など、授業への参加度で評価する。

小テスト：学期の半ばに理解度を確認するテストの点数で評価する。

期末レポート：内容・形式の面から評価する。

【学生の意見等からの気づき】

・授業資料の提供や参考書の紹介を随時行う

【学生が準備すべき機器他】

鉛筆やペンなど、紙に書けるもの（紙に書いてみる学習も交えるため）。ノートパソコンがあった方が便利（授業中にも Hoppii の資料取得や提出ができるため）。

【Outline (in English)】

Course outline:

This course introduces fundamental knowledge on ecology. Ecology is the study of the interactions between living organisms and their environment. Understanding ecology allows us to understand how ecosystems function, how species coexist and compete with each other.

Learning Objectives:

The goals of this course are to understand how organisms interact with each other and with their environment, and to apply the knowledge into city planning, infrastructure design, disaster risk reduction etc.

Learning activities outside of classroom:

Your required study time is at least one hour for each class.

Grading Criteria /Policies:

Your overall grade in the class will be decided based on Mid-term examination: 30%, Term-end report : 40%, and in class contribution: 30%.

CST100NC

生態学概論（2023年度以降入学生）建築

山田 由美

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：選択

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

インフラ整備、都市計画、防災・減災対策などにおいて、工学的な視点だけでなく、その場にある自然環境を理解し、活かす視点をもてるように、基礎生態学、保全生態学に関する基礎知識を習得する。

【到達目標】

生態学の基礎的な知識を習得する。また、その応用として人間社会と自然環境とのかかわり、持続可能な社会の形成のために必要とされる自然環境に関する知識や視点を学び、都市環境デザイン工学分野に関する課題解決に資する思考方法を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連
デザイン工学部都市環境デザイン工学部ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連
デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

基礎的な知識を獲得するための講義を中心に進める。
一方的に聞くだけにならないよう、自身で考えて書きだしてみるなどの学習方法も交える。

また、各回授業時には学習内容に関する意見や数字などを提出してもらう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション、生態学の基礎概念	生態学のあゆみ、種・群集・生態系、ハビタットとニッチ、バイオーム
2	自然選択による進化	適応の自然史、自然選択と適応進化
3	生活史戦略	生活史におけるトレードオフ、生活史戦略のシンδροーム
4	生物間相互作用	共生関係、被食適応、拮抗的生物間相互作用
5	人類の歩みと持続可能性	人類史と地球環境、現代につながる人間活動と地球環境
6	保全生態学と生物多様性	生物多様性の概念、生物多様性と生態系サービス、絶滅リスクと多様性
7	外来種問題	生物学的侵入、侵略的外来種の生態系への影響、外来種対策
8	人の暮らしとともにある自然	里山や草原の利用と生物多様性、多様性と中程度攪乱説
9	自然再生と生態系管理	自然再生の歴史と考え方、自然再生事業の実践例
10	生態系の動態と気候変動	気候変動と生物多様性、適応策の考え方、緩和策と生態系、炭素循環
11	グリーンインフラストラクチャー	大規模攪乱と災害リスク、生態系を活用した防災・減災
12	都市生態系と都市グリーンインフラ	都市における緑地の機能、人の暮らしの中にある自然
13	ディスカッション	グループディスカッション（受講人数等により具体的な方法は開講後に検討します）
14	プレゼンテーション	グループディスカッションの内容のプレゼンと質疑応答

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の復習時間は1時間を標準とする。

その他、小テスト、レポート作成のための学習が必要となる。

【テキスト（教科書）】

鷲谷いづみ.(2016). 生態学-基礎から保全へ。(税込 3,025 円) をベースに講義を進める。手元があれば予習・復習しやすいが、必ずしも購入する必要はない。(必要箇所は資料配布する)

【参考書】

鷲谷いづみ.(2017). 大学1年生のなっとく!生態学 (税込 2,420 円)

【成績評価の方法と基準】

平常点 30 % 小テスト 30 %、期末レポート 40 %

上記 3 項目の合計点で評価し、60 点以上を合格とする。

平常点：授業後の提出物、ディスカッションの発表、発言など、授業への参加度で評価する。

小テスト：学期の半ばに理解度を確認するテストの点数で評価する。

期末レポート：内容・形式の面から評価する。

【学生の意見等からの気づき】

・授業資料の提供や参考書の紹介を随時行う

【学生が準備すべき機器他】

鉛筆やペンなど、紙に書けるもの（紙に書いてみる学習も交えるため）。ノートパソコンがあった方が便利（授業中にも Hoppii の資料取得や提出ができるため）。

【Outline (in English)】

Course outline:

This course introduces fundamental knowledge on ecology. Ecology is the study of the interactions between living organisms and their environment. Understanding ecology allows us to understand how ecosystems function, how species coexist and compete with each other.

Learning Objectives:

The goals of this course are to understand how organisms interact with each other and with their environment, and to apply the knowledge into city planning, infrastructure design, disaster risk reduction etc.

Learning activities outside of classroom:

Your required study time is at least one hour for each class.

Grading Criteria /Policies:

Your overall grade in the class will be decided based on Mid-term examination: 30%, Term-end report : 40%, and in class contribution: 30%.

NAS100NC

バイオ・ケミカルエンジニアリング（2019年度以降入学生）

山田 由美

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：選択

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

インフラ整備、都市計画、防災・減災対策などにおいて、工学的な視点だけでなく、その場にある自然環境を理解し、活かす視点をもてるように、基礎生態学、保全生態学に関する基礎知識を習得する。

【到達目標】

生態学の基礎的な知識を習得する。また、その応用として人間社会と自然環境とのかかわり、持続可能な社会の形成のために必要とされる自然環境に関する知識や視点を学び、都市環境デザイン工学分野に関する課題解決に資する思考方法を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連
デザイン工学部都市環境デザイン工学部ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連
デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

基礎的な知識を獲得するための講義を中心に進める。
一方的に聞くだけにならないよう、自身で考えて書きだしてみるなどの学習方法も交える。

また、各回授業時には学習内容に関する意見や数字などを提出してもらう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション、生態学の基礎概念	生態学のあゆみ、種・群集・生態系、ハビタットとニッチ、バイオーム
2	自然選択による進化	適応の自然史、自然選択と適応進化
3	生活史戦略	生活史におけるトレードオフ、生活史戦略のシンドローム
4	生物間相互作用	共生関係、被食適応、拮抗的生物間相互作用
5	人類の歩みと持続可能性	人類史と地球環境、現代につながる人間活動と地球環境
6	保全生態学と生物多様性	生物多様性の概念、生物多様性と生態系サービス、絶滅リスクと多様性
7	外来種問題	生物学的侵入、侵略的外来種の生態系への影響、外来種対策
8	人の暮らしとともにある自然	里山や草原の利用と生物多様性、多様性と中程度攪乱説
9	自然再生と生態系管理	自然再生の歴史と考え方、自然再生事業の実践例
10	生態系の動態と気候変動	気候変動と生物多様性、適応策の考え方、緩和策と生態系、炭素循環
11	グリーンインフラストラクチャー	大規模攪乱と災害リスク、生態系を活用した防災・減災
12	都市生態系と都市グリーンインフラ	都市における緑地の機能、人の暮らしの中にある自然
13	ディスカッション	グループディスカッション（受講人数等により具体的な方法は開講後に検討します）
14	プレゼンテーション	グループディスカッションの内容のプレゼンと質疑応答

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の復習時間は1時間を標準とする。

その他、小テスト、レポート作成のための学習が必要となる。

【テキスト（教科書）】

鷺谷いづみ.(2016). 生態学-基礎から保全へ. (税込 3,025 円) をベースに講義を進める。手元があれば予習・復習しやすいが、必ずしも購入する必要はない。(必要箇所は資料配布する)

【参考書】

鷺谷いづみ.(2017). 大学1年生のなっとく!生態学 (税込 2,420 円)

【成績評価の方法と基準】

平常点 30 % 小テスト 30 %、期末レポート 40 %

上記 3 項目の合計点で評価し、60 点以上を合格とする。

平常点：授業後の提出物、ディスカッションの発表、発言など、授業への参加度で評価する。

小テスト：学期の半ばに理解度を確認するテストの点数で評価する。

期末レポート：内容・形式の面から評価する。

【学生の意見等からの気づき】

・授業資料の提供や参考書の紹介を随時行う

【学生が準備すべき機器他】

鉛筆やペンなど、紙に書けるもの（紙に書いてみる学習も交えるため）。ノートパソコンがあった方が便利（授業中にも Hoppii の資料取得や提出ができるため）。

【Outline (in English)】

Course outline:

This course introduces fundamental knowledge on ecology. Ecology is the study of the interactions between living organisms and their environment. Understanding ecology allows us to understand how ecosystems function, how species coexist and compete with each other.

Learning Objectives:

The goals of this course are to understand how organisms interact with each other and with their environment, and to apply the knowledge into city planning, infrastructure design, disaster risk reduction etc.

Learning activities outside of classroom:

Your required study time is at least one hour for each class.

Grading Criteria /Policies:

Your overall grade in the class will be decided based on Mid-term examination: 30%, Term-end report : 40%, and in class contribution: 30%.

NAS100NC

バイオ・ケミカルエンジニアリング（2019年度以降入学生）

山田 由美

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：選択

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

インフラ整備、都市計画、防災・減災対策などにおいて、工学的な視点だけでなく、その場にある自然環境を理解し、活かす視点をもてるように、基礎生態学、保全生態学に関する基礎知識を習得する。

【到達目標】

生態学の基礎的な知識を習得する。また、その応用として人間社会と自然環境とのかかわり、持続可能な社会の形成のために必要とされる自然環境に関する知識や視点を学び、都市環境デザイン工学分野に関する課題解決に資する思考方法を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連
デザイン工学部都市環境デザイン工学部ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連
デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

基礎的な知識を獲得するための講義を中心に進める。
一方的に聞くだけにならないよう、自身で考えて書きだしてみるなどの学習方法も交える。

また、各回授業時には学習内容に関する意見や数字などを提出してもらう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション、生態学の基礎概念	生態学のあゆみ、種・群集・生態系、ハビタットとニッチ、バイオーム
2	自然選択による進化	適応の自然史、自然選択と適応進化
3	生活史戦略	生活史におけるトレードオフ、生活史戦略のシンドローム
4	生物間相互作用	共生関係、被食適応、拮抗的生物間相互作用
5	人類の歩みと持続可能性	人類史と地球環境、現代につながる人間活動と地球環境
6	保全生態学と生物多様性	生物多様性の概念、生物多様性と生態系サービス、絶滅リスクと多様性
7	外来種問題	生物学的侵入、侵略的外来種の生態系への影響、外来種対策
8	人の暮らしとともにある自然	里山や草原の利用と生物多様性、多様性と中程度攪乱説
9	自然再生と生態系管理	自然再生の歴史と考え方、自然再生事業の実践例
10	生態系の動態と気候変動	気候変動と生物多様性、適応策の考え方、緩和策と生態系、炭素循環
11	グリーンインフラストラクチャー	大規模攪乱と災害リスク、生態系を活用した防災・減災
12	都市生態系と都市グリーンインフラ	都市における緑地の機能、人の暮らしの中にある自然
13	ディスカッション	グループディスカッション（受講人数等により具体的な方法は開講後に検討します）
14	プレゼンテーション	グループディスカッションの内容のプレゼンと質疑応答

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の復習時間は1時間を標準とする。

その他、小テスト、レポート作成のための学習が必要となる。

【テキスト（教科書）】

鷲谷いづみ.(2016). 生態学-基礎から保全へ。(税込 3,025 円) をベースに講義を進める。手元があれば予習・復習しやすいが、必ずしも購入する必要はない。(必要箇所は資料配布する)

【参考書】

鷲谷いづみ.(2017). 大学1年生のなっとく!生態学 (税込 2,420 円)

【成績評価の方法と基準】

平常点 30 % 小テスト 30 %、期末レポート 40 %

上記 3 項目の合計点で評価し、60 点以上を合格とする。

平常点：授業後の提出物、ディスカッションの発表、発言など、授業への参加度で評価する。

小テスト：学期の半ばに理解度を確認するテストの点数で評価する。

期末レポート：内容・形式の面から評価する。

【学生の意見等からの気づき】

・授業資料の提供や参考書の紹介を随時行う

【学生が準備すべき機器他】

鉛筆やペンなど、紙に書けるもの（紙に書いてみる学習も交えるため）。ノートパソコンがあった方が便利（授業中にも Hoppii の資料取得や提出ができるため）。

【Outline (in English)】

Course outline:

This course introduces fundamental knowledge on ecology. Ecology is the study of the interactions between living organisms and their environment. Understanding ecology allows us to understand how ecosystems function, how species coexist and compete with each other.

Learning Objectives:

The goals of this course are to understand how organisms interact with each other and with their environment, and to apply the knowledge into city planning, infrastructure design, disaster risk reduction etc.

Learning activities outside of classroom:

Your required study time is at least one hour for each class.

Grading Criteria /Policies:

Your overall grade in the class will be decided based on Mid-term examination: 30%, Term-end report : 40%, and in class contribution: 30%.

CST100NC

生態学概論（2019年度以降入学生）

山田 由美

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：選択

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

インフラ整備、都市計画、防災・減災対策などにおいて、工学的な視点だけでなく、その場にある自然環境を理解し、活かす視点をもてるように、基礎生態学、保全生態学に関する基礎知識を習得する。

【到達目標】

生態学の基礎的な知識を習得する。また、その応用として人間社会と自然環境とのかかわり、持続可能な社会の形成のために必要とされる自然環境に関する知識や視点を学び、都市環境デザイン工学分野に関する課題解決に資する思考方法を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部都市環境デザイン工学科ディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

基礎的な知識を獲得するための講義を中心に進める。一方的に聞くだけにならないよう、自身で考えて書きだしてみるなどの学習方法も交える。

また、各回授業時には学習内容に関する意見や数字などを提出してもらう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション、生態学の基礎概念	生態学のあゆみ、種・群集・生態系、ハビタットとニッチ、バイオーム
2	自然選択による進化	適応の自然史、自然選択と適応進化
3	生活史戦略	生活史におけるトレードオフ、生活史戦略のシンドローム
4	生物間相互作用	共生関係、被食適応、拮抗的生物間相互作用
5	人類の歩みと持続可能性	人類史と地球環境、現代につながる人間活動と地球環境
6	保全生態学と生物多様性	生物多様性の概念、生物多様性と生態系サービス、絶滅リスクと多様性
7	外来種問題	生物学的侵入、侵略的外来種の生態系への影響、外来種対策
8	人の暮らしとともにある自然	里山や草原の利用と生物多様性、多様性と中程度攪乱説
9	自然再生と生態系管理	自然再生の歴史と考え方、自然再生事業の実践例
10	生態系の動態と気候変動	気候変動と生物多様性、適応策の考え方、緩和策と生態系、炭素循環
11	グリーンインフラストラクチャー	大規模攪乱と災害リスク、生態系を活用した防災・減災
12	都市生態系と都市グリーンインフラ	都市における緑地の機能、人の暮らしの中にある自然
13	ディスカッション	グループディスカッション（受講人数等により具体的な方法は開講後に検討します）
14	プレゼンテーション	グループディスカッションの内容のプレゼンと質疑応答

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の復習時間は1時間を標準とする。

その他、小テスト、レポート作成のための学習が必要となる。

【テキスト（教科書）】

鷲谷いづみ.(2016). 生態学-基礎から保全へ。(税込 3,025 円) をベースに講義を進める。手元があれば予習・復習しやすいが、必ずしも購入する必要はない。(必要箇所は資料配布する)

【参考書】

鷲谷いづみ.(2017). 大学1年生のなっとく!生態学 (税込 2,420 円)

【成績評価の方法と基準】

平常点 30 % 小テスト 30 %、期末レポート 40 %

上記 3 項目の合計点で評価し、60 点以上を合格とする。

平常点：授業後の提出物、ディスカッションの発表、発言など、授業への参加度で評価する。

小テスト：学期の半ばに理解度を確認するテストの点数で評価する。

期末レポート：内容・形式の面から評価する。

【学生の意見等からの気づき】

・授業資料の提供や参考書の紹介を随時行う

【学生が準備すべき機器他】

鉛筆やペンなど、紙に書けるもの（紙に書いてみる学習も交えるため）。ノートパソコンがあった方が便利（授業中にも Hoppii の資料取得や提出ができるため）。

【Outline (in English)】

Course outline:

This course introduces fundamental knowledge on ecology. Ecology is the study of the interactions between living organisms and their environment. Understanding ecology allows us to understand how ecosystems function, how species coexist and compete with each other.

Learning Objectives:

The goals of this course are to understand how organisms interact with each other and with their environment, and to apply the knowledge into city planning, infrastructure design, disaster risk reduction etc.

Learning activities outside of classroom:

Your required study time is at least one hour for each class.

Grading Criteria /Policies:

Your overall grade in the class will be decided based on Mid-term examination: 30%, Term-end report : 40%, and in class contribution: 30%.

MEC200ND

メカトロニクス

木村 文信

開講時期：秋学期後半/Fall(2nd half) | 選択・必修の別：選択

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

メカトロニクスとは、機械工学（メカニクス）と電気電子工学（エレクトロニクス）の合成語で、機械を電気回路で賢く制御するシステムのことである。メカトロニクスを修学するにあたり、機械のしくみ、電気回路の動作だけでなく、ソフトウェアによる制御やシステム全体としての設計や運用など、広い専門知識が必要とされる。本授業では、メカトロニクスの各要素技術に関して、その概念を理解し、分野全体のイメージを把握することを目的とする。

【到達目標】

授業終了時点で以下のことを理解することを目標とする。

- 1) メカトロニクスシステムの構成を把握する方法。
- 2) 機械要素の種類と用途。
- 3) 電気・電子回路部品の種類と用途。
- 4) アクチュエータ・センサの原理。
- 5) コンピュータ上での信号処理と計算。
- 6) 制御工学の基礎。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

本授業は、対面式・オンラインのどちらかで実施する。

【対面式の場合】授業はスライドを使ったプレゼンテーション、板書および口述によって進められる。授業の内容が理解できているかを確認するため、各回で小テストの実施もしくは課題の出題がある。

【オンラインの場合】授業はオンラインツールを用いてプレゼンテーション（スライド）によって進められる。授業内容の理解度の確認のため、各回で課題が出される。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	メカトロニクスの概要	メカトロニクスの基本概念とその意義を解説し、それを踏まえ、メカトロニクスを支える基本技術とその体系について説明する。
第 2 回	メカトロニクスで必要となる数学・物理	メカトロニクスの各要素を理解する上で必要となる数学や物理（力学・電磁気学）を解説する。
第 3 回	アナログ電子回路－受動素子	アナログ電子回路を設計する上で必要となる知識・技術を解説する。主に受動素子を用いた直流および交流回路を対象とする。
第 4 回	アナログ電子回路－能動素子	能動素子を用いた、特定の機能を持った回路について解説する。各種能動素子がどのような原理で機能を発現しているかを含めて解説する。
第 5 回	アクチュエータの概要	メカトロニクスシステムで用いられるアクチュエータの概要と分類を解説する。また、システムを構成する際の選定基準について説明する。
第 6 回	アクチュエータの原理	主に電磁アクチュエータを対象として、動作原理について解説する。加えて、駆動に必要な信号などの計算方法を述べる。
第 7 回	センサの概要	メカトロニクスシステムを構成するために必要なセンサについて、概要と分類を説明し、システム構築のためのセンサの選定方法について述べる。

第 8 回	各種センサの計測原理	様々なセンサの紹介を行い、どのような原理で計測を行っているかを、出力信号の処理方法とともに解説する。
第 9 回	デジタル回路とコンピュータ	デジタル回路とコンピュータの基本的な構成と仕組みについて解説する。また、デジタル信号の通信方法を説明する。
第 10 回	アナログ信号とデジタル信号の相互変換	センサ・アクチュエータで使われるアナログ信号と、コンピュータが扱うデジタル信号がどのように変換されるかについて解説する。
第 11 回	機構の基礎	機械を構成する要素部品（機構部品）について、その種類と仕組み、用途について説明する。
第 12 回	機械の設計	機構部品を組み合わせ、機械的なシステムを構築する手法について説明し、そのシステムの運動伝達の計算方法を解説する。
第 13 回	制御工学の基礎	制御の基本概念、フィードバック制御の意味、古典制御理論と現代制御理論の違いと特徴等を説明する。
第 14 回	システム設計と開発の事例 まとめ	各種メカトロニクスシステムの応用事例・最先端の研究例などを紹介する。また総まとめとして、学習範囲の要点を再確認する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

高校レベルの物理学（特に力学、電磁気学分野）を復習して望むとよい。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

使用しない。

【参考書】

- ・三浦宏文（監修）「ハンディブック メカトロニクス」オーム社
- ・渋谷恒司「メカトロニクスの基礎」森北出版
- ・松本潔「設計者に必要なメカトロニクスの基礎知識」日刊工業新聞社

【成績評価の方法と基準】

平常点および授業中の小テストもしくは課題の評価を40%、期末試験もしくは最終課題の評価を60%として総合評価点を算出して評価する。総合評価点を100点満点とし、60点以上を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

講義の進行（板書等）が速いために理解が追いつけなくなることが無いよう、説明などの時間を多く取るとともに、講義外の時間でも質問を受け付けることができるようにする。

【学生が準備すべき機器他】

筆記具とノート
パソコン

【その他の重要事項】

メカトロニクスに関する研究に従事している教員が、実際にメカトロニクスシステムを構築するために必要な技術を紹介しながら講義を進める。

【Outline (in English)】

"Mechatronics" is a multidisciplinary engineering field that includes mechanical engineering and electrical engineering to produce intelligent systems that control machines via electronic and information technologies. To understand mechatronics, a wide range of disciplines are required. In this lecture, students will acquire knowledge of each of the fundamental technologies of mechatronic systems and skills to apply it to real systems.

ELC300ND

システム工学

森 健一郎

開講時期：春学期後半/Spring(2nd half) | 選択・必修の別：選択必修

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

システム工学は、システムを成功裏に実現するための複数の分野にまたがるアプローチおよび手段である。1つのシステムは様々な要素と要素間の関係によって構成され、異なる工学分野の集合体といえる。現代では、情報通信、生産、流通、電力、ガス、水道、航空、宇宙、鉄道、金融、会社組織などの大規模システムなしでは、私達は到底生きていくことができない。

これらのシステムを実際に設計・構築するためには、要求定義に始まり、ハードウェア設計、ソフトウェア設計、構築、検証などのステップを踏んでいき、ようやくシステム運用の段階となる。いくつものステップをシステムチェックを進めていくためには、そのシステムのモデルを作成し、科学的手法を活用できる高度な能力が求められる。学術・産業界の両方で求められているのは、日本の Society5.0、ドイツの Industrie4.0, Digital Transformation, Digital Twins, Cyber Physical Systems などの System of Systems を、一から設計し構築できる柔軟な能力である。これからの社会的要求に応え、それらの課題の解決のために、システム工学の習得は必須のアイテムと言えよう。

本授業では、システムを設計構築するための手順を理解し、いくつかの手法を体験することで、実社会においてシステム工学を活用するための基本を習得することを目的とする。

【到達目標】

- システムを設計、構築、実施・検証するための基礎的な手法を理解している。
- ダイナミックシステムや確率システムの数理モデルが説明できる。
- 図やモデリングの手法を使って、システムの構造、機能、性能などを把握できる。
- 実社会で使われるシステム構築のための基本的な考え方ができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」に関連。

【授業の進め方と方法】

主に講義形式で実施するが、授業時間内に演習も行う。システム工学の理論は、数学や物理学を応用・展開することが多い。そこで、理解を深めるため、できるだけ具体的なシステム事例を紹介する。基礎的な手法については、演習課題を与え、簡易な実際のモデル化を体験する。演習課題を通じて、理論と実際の両面からシステムの本質をつかみ、システムを考える力を養うことができる。

システム工学では、問題を発見し、課題を設定し解決するスキルが重要である。しかし、問題に対する「正解」がないこともある。具体的な境界条件や制約条件を明らかにして、代替案を考え出し「最適解」を求めていくような基本的な演習を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	システム工学とは何か	複雑な人工システムを最適に設計し、構築するためには、問題を発見、課題を設定し、解決するプロセスが必要となる。それらのプロセスは、イノベーションの基本となる。なぜ、システムの視点や考え方が重要なかを理解しよう。
2	システムの計画と評価	システム設計・構築を行うための手順、ライフサイクルマネジメントについて概要を理解する。プロジェクト計画とシステムの評価の各手法について学ぶ。 < 課題演習 (1) >
3	システムの要求定義	利害関係者の要求からシステム要求を作成し、システムの機能を分析する。システム要求では、システムが提供すべき機能と、システムが備えるべき性能、コストなどを定めることを事例で理解する。
4	システムアーキテクチャの構築	システムの機能・構造の考え方を学ぶ。目的に応じて、システムの図的な表現によってモデルを作成する。挙動については、状態遷移図を作成することにより理解を深める。 < 課題演習 (2) >

5	システムの安定性	システムを安定にする制御の基本となる考え方がフィードバック制御である。システム制御を表現するためにブロック線図とシステムの伝達関数を導入し、フィードバック制御によるシステムの安定性を解析する。
6	システム制御のモデリング	フィードバック制御器の1つとしてPIDコントローラのモデルを学ぶ。実際の倒立振り装置のシステム制御をモデリングしてみる。 < 課題演習 (3) >
7	システムの安全性	システムの安全性の概念の1つであるフェールセーフについて理解し、これを論理的・物理的なシーケンス制御システムとして設計・実装する。
8	システムの最適化	システム設計・構築において、プロジェクトリダーは、常に問題解決を迫られる。その合理的な意思決定を支援するのが数理解最適化である。その手法として連続最適化と離散最適化の計算モデルの初歩を学ぶ。 < 課題演習 (4) >
9	確率システム	様々な事象に対して、確率的なルールを定義することでモデリングする手法を学ぶ。正規分布、ポアソン分布、指数分布など各種分布の特徴や確率過程の基本について理解する。
10	統計的データ解析	Internet of Things によるデータ解析では、統計解析モデルが使われる。相関関係と因果関係の違いなどの基本的な考え方を学ぶ。機械学習による異常検知のモデルを事例で理解する。 < 課題演習 (5) >
11	システムの信頼性	信頼度や故障率を確率モデルで表現し、評価することを学ぶ。部品やサブシステムの構成により、信頼性を向上させる方法を理解する。
12	信頼性解析	システムの故障の原因やその影響を、システマチックに追及する方法として、FMEA, FTA, およびリスク分析の手法を理解する。 < 課題演習 (6) >
13	ネットワークの性質	ネットワークとは、ノードとリンクによって構成されるシステムのモデルである。大規模なネットワークの特徴量を抽出することで、システム全体に現れる性質が把握できる。
14	ネットワークの構造	ネットワークの局所的な性質に着目し、構造がどのように構成されているかを学ぶ。ネットワークの様々なモデルについて概観し、実社会のネットワークがどのような特徴を持つかについて理解する。 < 課題演習 (7) >

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の中でいくつかの課題演習が出されるので、自分の手で書き、自分の頭で考えることで、簡単なモデルを設計したり計算してみる。授業時間内では完成しないので、提出期日までの宿題とする。（次週の授業開始時に提出。期日厳守。）

将来、皆さんが社会人となったときに、手と頭を使って考えたことは、簡単に思い出すことができるので、とても役立つ。提出された課題レポートは講師が採点評価し、フィードバックを行うことで学習をさらに深めることができる。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教科書は使わない。授業に必要な資料は配布する。

【参考書】

木村英紀著「現代システム科学概論」（2021年）東京大学出版会
橋本、石井、小林、大山共著「Scilabで学ぶシステム制御の基礎」（2007年）オーム社
室津、大場、米澤、藤井、小木曾共著「システム工学 第2版」（2006年）森北出版
大橋、鳥海、白山共著「システム理論Ⅱ」（2016年）丸善出版

【成績評価の方法と基準】

1. 授業に対する意欲・態度などの平常点を重視する。平常点は、授業への取り組み姿勢や質問票の提出を反映する。

2. どのくらい理解できたのか、課題演習の得点を総合評価する。(期末試験は無し)
3. 決められた提出日までに課題を提出すること。
4. 成績評価は 100 点満点とし、平常点と課題演習の得点は各 50 % の配点とする。

【学生の意見等からの気づき】

モデリングのために数式を使うこともあるが、丁寧に、かつ、できるだけ学生にとってわかりやすいように講義をすすめていく。

【学生が準備すべき機器他】

1. パソコンで Excel やシミュレーションソフトを使うので、授業に持参すること。
2. 講義に使用するプレゼンテーション資料は、授業支援システムからダウンロードすること。
3. 課題演習は、授業支援システムからダウンロードすること。

【その他の重要事項】

メーカーの研究開発・商品開発部門に、35 年を超える勤務経験のある教員が、実社会での多数のシステム設計および開発プロジェクト遂行の経験に基づき、システム工学の基礎を講義する。

【Outline (in English)】

Systems engineering is a multi-disciplinary approach towards the successful creation of systems. A system consists of various related elements and combines different engineering fields. In modern society, we cannot survive without large-scale systems such as information communication, production, distribution, electricity, gas, water supply, aviation, space, railroad, finance, corporate organization, etc.

In order to actually design and construct these systems, we start with the requirement definition and follow the stages of hardware design, software design, construction, verification, etc. before finally arriving at system operation. In order to systematically advance through multiple stages, it is necessary to have advanced abilities at developing a model of the system and utilizing scientific methods. Both academia and industry need flexible capabilities to design and build a system of systems such as Society5.0 in Japan, Industrie4.0 in Germany, Digital Transformation, Digital Twins and Cyber Physical Systems from scratch. Now, it can be said that the acquisition of system engineering is an indispensable item in order to meet the social demands of the future and solve those problems.

In this course, we aim to understand the procedure for designing and constructing the systems, and learn basic techniques to utilize systems engineering in the real world by practicing various methods.

The goals of this course are to A,B,C and D:

- A. Students understand the basic methods for designing, building, implementing and validating systems.
- B. Students can explain mathematical models of dynamic systems and stochastic systems.
- C. Students can use diagrams and modeling techniques to understand the structure, function and performance of the system.
- D. Students will be able to develop basic ideas for building systems used in the real world.

Final grade will be calculated according to the following process: Assignments or short reports (50%) and in class contribution (50%).

MTL300ND

素材と機能

堀井 辰衛

開講時期：春学期後半/Spring(2nd half) | 選択・必修の別：選択必修

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日常生活において視界に入るモノ、実際に身体に触れあうモノを構成する材料として高分子材料は多くの割合を占め、我々の生活と切り離せない素材の一つです。広い視点で見れば私たちの身体を構成するタンパク質や、植物を構成する多糖類も高分子ですし、繊維や飲料水ボトルに使われるポリエチレンテレフタレート（PET）や蓋などのパッキンに使われるゴムも高分子です。たんぱく質や多糖から成る高分子は天然高分子の一種であり、PETやゴム（天然ゴムを除く）は合成高分子の一種です。このように、一口に「高分子」と言っても様々な種類があり、それぞれに個性があります。

本講義では、高分子材料の分類と基礎的な物性について概説します。次に、様々な高分子材料（主に合成高分子）の、「実際に身の回りに使われている（実用例）」側面と、「工夫次第で使えるかもしれない（研究例）」側面について解説する予定です。

【到達目標】

素材を活用するための基礎となる工学的な知識を身につけます。どのような高分子材料が存在し、どのような物性を持ち、どのように利用されているのかを理解できるようにします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

基本的に座学で高分子材料に関する知識を深めていただきたいと思います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	高分子と社会との繋がり・高分子の分類と構造	高分子の簡単な歴史をひも解き、高分子の基本的な分類と構造について説明します。
2	高分子の物性	熱的、力学的な性質について説明します。
3	汎用プラスチック	ガス管、水道管、ポリタンクなど身の回りで頻繁に用いられている汎用プラスチックについて紹介し、それぞれの特徴について説明します。
4	エンジニアリングプラスチック	自動車や家電など、より高い耐久性、耐熱性が求められる用途に用いられる高分子について紹介し、それぞれの特徴について説明します。
5	電気を流す高分子（その1）	導電性高分子とは何か？ そのメカニズムについて実用例を踏まえて説明します。
6	電気を流す高分子（その2）	導電性高分子の先端技術・研究について紹介します。
7	光学技術に貢献する高分子（その1）	液晶ディスプレイや光学レンズなどに用いられる高分子について紹介します。
8	光学技術に貢献する高分子（その2）	感光性高分子の種類や用途、研究例について紹介します。
9	高分子ゲル（その1）	高分子ゲルの特徴と、その実用例について説明します。

10	高分子ゲル（その2）	高分子ゲルの先端技術・研究例について紹介します。
11	生化学・医療へ貢献する高分子（その1）	生体適合性を有する高分子材料について、実用例と共に説明します。
12	生化学・医療へ貢献する高分子（その2）	生体適合性を有する高分子材料について、研究例について説明します。
13	環境にやさしい高分子・関連技術（その1）	生分解性高分子など、環境保全に貢献しうる高分子やそれらにかかわる技術について、2週に分けて説明します。
14	環境にやさしい高分子・関連技術（その2）	生分解性高分子など、環境保全に貢献しうる高分子やそれらにかかわる技術について、2週目について説明します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業後に課題を出すので、翌週の授業開始時間前までに電子媒体で提出していただく予定です。

【テキスト（教科書）】

教科書は基本的には授業用のスライドを用います。

【参考書】

松浦和夫、尾崎邦弘、「高分子材料が一番わかる」、技術評論社、2011。

井上和人、清水秀信、岡部勝、「基礎からわかる高分子材料」、森北出版株式会社、2015。

東信行、松本章一、西野孝、「高分子科学 合成から物性まで」、講談社、2016。

【成績評価の方法と基準】

1. 授業参加への貢献度 20%
2. 各講義での課題 80%

【学生の意見等からの気づき】

担当講師は本講義が初回講義であるため、なし。

【学生が準備すべき機器他】

現在のところ予定していません。

【その他の重要事項】

担当講師は、導電性高分子インクの合成と高導電化に関する内容で学位を取得後、電気化学、人工筋肉（ポリマーアクチュエータ、アシストウェア開発）、フレキシブルセンサなどの分野で研究を進めてまいりました。そのため、前年度と比較して高分子材料の基礎に偏った内容となることが予想されます。

【Outline (in English)】

Among the materials used in various ways when handling products and services, we will learn about smart materials, which change their properties in response to external physical stimuli. Students will also learn how to use the physical properties of materials in combination with microcomputers and how to design interactions using these materials.

Students will acquire the basics to present products and services attractively using materials as a designer through practical training.

The goals of this course are to acquire basic engineering knowledge for utilizing materials, learn tools for understanding the functions of materials, learn the basics of interaction using physical properties, and learn the basics of prototyping and presentation skill.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course contents.

Final grade will be calculated according to the following process, Mid-term reports (20%), term-end report (80%).

MAN200ND

コストマネジメント

北山 一真

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：選択

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

企業において、コストは重要な存在です。しかし、多くの人はコストに対して苦手意識があり、専門分野のため自分には関係ないと思い、思考停止に陥っています。

本講義では、難しい専門用語や専門的な計算手法の習得ではなく、いかにコストを活用し良い製品開発を行うか、よいマネジメントを行うかについて学びます。

様々な企業改革を担当している現役コンサルタントの立場から、「理論」だけでなく、実際の企業での活用方法や悩みを交えた「現実」の両側面を解説し、社会で活かすことができる実践的な学びができます。

また、コストを理解することは、ものづくりプロセスやテクノロジーについて理解することにもなり、「現場×経営」「プロセス×テクノロジー」「データ×マネジメント」の総合的な理解を深めることにも繋がります。

- ・人はなぜコストを嫌うのか？
 - ・コストは、イノベーションを阻害するのか？
 - ・なぜ理論どおりに活用できないのか？
 - ・専門家の難しい言葉に言いくるめられないために必要最低限な知識とは？
- 製造業、IT、コンサル、起業家など、どのような立場になったとしても必要なコストの知識を、理論と現実の両方の側面から総合的に習得することを目的とします

【到達目標】

- <基礎知識>
- ・コストの基本用語・基礎理論を説明できる
- ・コストを理解する前提となる、ものづくりプロセスとテクノロジーについて説明できる
- ・コスト分析に必要な基礎的な統計理論を説明できる
- <応用技能>
- ・コストの視点で企業を分析し、基本的な課題抽出と対応仮説を整理することができる
- ・コストマネジメント手法と、ビジネス実務における阻害要因を説明できる
- ・コストに対して苦手意識を持たず、コストについて自ら調べることができ、コストの専門家と最低限の会話ができるようになる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

学生はビジネス実務の経験はないですが、コストを意識しイメージできることは身近に存在します。それらを例題にしながら、講義で得た知識の定着を促し、今後社会に出た際に、知識や問題解決能力を活かすことができるように進めます。

授業は、各回テーマを決め、講義とグループディスカッションで構成します。毎回簡単な課題を出し、学生の理解度を確認します。

<講義構成>

全 14 回の講義の構成は、以下の 3 部で構成されます。

①基礎：ものづくりとコストの概要（第 1 回～5 回）
コストとは何か？ものづくりのプロセスは？どんなコストが発生しているか？演習やグループ討議を通じて、基礎的な部分の学習を進めます。また、ものづくり企業の IT/テクノロジーの実態や、ものづくり DX についても学びます

②基本：コストマネジメントの基本（第 6 回～9 回）
原価計算の基本的な知識を学びます。また、ケーススタディを通じて、コストマネジメントの基本的な考え方や活用方法について理解を深めます。

③実践：コストマネジメントの実践（第 11 回～14 回）
人はなぜコストを嫌うのか？
なぜ理論どおりに実務では活用されていないのか？
コストの活用として重要な、「予算」と「原価企画」について、ケーススタディを通じて、コスト活用方法とその難しさと学びます
(補足)「コストと財務分析」(第 10 回)

補足講義として、コストから少し大きな概念となりますが、Apple のキャッシュフロー戦略などを例題にし、関連する「財務分析」の基礎的な部分も学びます。

<キーワード解説>

実務ではほとんど使わないが、知っておいたほうが良い理論も学び、概念だけは理解できるようにします。

- ・品質原価計算
- ・環境コストマネジメント
- ・ライフサイクル・コスト
- ・MFCA
- ・ABC/ABM
- ・埋没費用/機会原価

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	基礎 1： コストの基礎	本講義の目的やコストを学ぶ意義を確認します。またコストにおける一般的な基礎知識を理解します ・コストはなぜ嫌われるのか ・コストは、イノベーションを阻害するのか ・コストはなぜ重要か ・コストは組織の行動を変えてしまう ・専門家以外でも、身につけるべきコストの知識とは
2	基礎 2： ものづくりの形態 (企画量産型のバリューチェーン)	コストを理解することは、ものづくり企業活動（バリューチェーン）を理解する必要があります。 スマホや自動車のような一般消費者向け商品を提供する企業（BtoC、MTS、企画量産型企業）を例にとり、ものづくりの活動の全体を理解します <グループワーク> ・マーケティング・企画～開発～生産準備～調達～製造～検査～販売・出荷などのバリューチェーンを考える ・開発プロセスの特徴を考える ・生産プロセスの特徴を考える <キーワード解説 1> ・品質原価計算
3	基礎 3： ものづくりの形態 (個別受注型のバリューチェーン)	バリューチェーン解説の 2 回目は、一般消費者には馴染みのない、半導体製造装置や造船などの企業（BtoB、ETO、個別受注企業）を例にとりものづくりの活動の全体を理解します。 個別受注企業は一般には馴染みがないですが、世の中の多くはこの個別受注企業となります。 <グループワーク> ・引合・見積～仕様確定～設計～調達～製造～検査～立会～出荷～据付～試運転などのバリューチェーンを考える ・設計プロセスの特徴を考える ・生産プロセスの特徴を考える <キーワード解説 2> ・環境コストマネジメント
4	基礎 4： バリューチェーンとコスト	第 2 回、第 3 回で学んだバリューチェーンに対して、どのようなコストが発生するかを理解します。 <グループワーク> ・各プロセスで発生するコストを考える ・企画量産型と個別受注型で、コスト発生の違いを考える <キーワード解説 3> ・ライフサイクル・コスト
5	基礎 5： ものづくりと DX (テクノロジーを知る)	ものづくりで使われている IT を理解します。IT の理解は、問題点の把握や今後の生産性の向上を考える上で必要な知識です。 ものづくり企業における一般的なシステムの基礎を理解します。 ・ものづくりと DX ・CRM-PLM-ERP ・CAD/BOM/PDM

6	基本 1 : 原価計算の基本	<p>コストを考える上で、「原価計算」の方法の理解が必要です。ただし、詳細な計算は、専門家(経理部や原価管理部など)に任せればよいです。そのため、基本的な用語の理解と、ざっくりとどんな計算をしているのかの概念の理解が重要となります。用語と概念を知っておけば、問題点の把握と専門家とある程度会話をすることができます。</p> <p><グループワーク></p> <ul style="list-style-type: none"> ・総合原価計算を理解する(家電のような大量生産品) ・等級別総合原価計算を理解する(食品のような大量生産品) ・個別原価計算を理解する(造船・大型構造物の一品生産) <p><キーワード解説 4 ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・MFCA 	12	実践 2 : 原価企画 (概要とプロセス)	<p>製品開発段階で、コストをコントロールする手法として重要な「原価企画」について触れます。実際にものを作る前にコストを計算の難しさや、製品競争力を高めるために必要な手法を理解します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・原価企画のプロセスと運用の難しさ ・原価企画に必要なデータや手法 ・原価企画と採算判断 <p><グループワーク></p> <p>新商品開発を題材にし、原価企画のプロセスを考える</p>
7	基本 2 : コストマネジメント (原価維持・改善)	<p>コストを用いて組織やプロジェクトをマネジメントしていく必要性を理解します。</p> <p>企画量産型は、生産前のマネジメント(原価企画)と、生産後のマネジメント(原価維持/改善)の2つに分けられます。それらの特徴やマネジメントの概要を理解します</p> <p><グループワーク></p> <ul style="list-style-type: none"> ・コストマネジメントの3つの基本プロセスを考える ・生産後のコストマネジメント(原価維持/改善活動)を考える <p><キーワード解説 5 ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ABC/ABM 	13	実践 3 : 原価企画 (コストテーブル)	<p>原価企画の中でも重要なデータの1つである「コストテーブル」について解説します。重回帰分析などを用いたコストテーブルの作成方法や活用方法を理解します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コストテーブルとは何か? ・重回帰分析を用いたコストテーブルの概要 <p><グループワーク></p> <p>重回帰分析に基づいたコストテーブルを考える</p>
8	基本 3 : コストマネジメント (原価企画)	<p>前回に続き、コストマネジメントの理解を深めます。</p> <p><グループワーク></p> <ul style="list-style-type: none"> ・生産前のコストマネジメント(原価企画活動)を考える <p><キーワード解説 6 ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・埋没費用/機会原価 	14	実践 4 : 開発におけるコストマネジメントと意思決定	<p>これまで学習した「予算」「原価企画」「コストテーブル」「標準原価」「CVP」「ライフサイクルコスト」などの内容を加味しながら、開発におけるコストマネジメントの全体を理解する</p> <p><グループワーク></p> <p>新商品開発を題材にし、コストシミュレーション・コストマネジメント・意思決定の考える</p>
9	基本 4 : ライフサイクルコスト (期間損益とプロダクト損益)	<p>製品出荷後の保守・サービスで儲ける時代において、ライフサイクルコストを理解します</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ライフサイクルコスト ・固定費マネジメント <p><グループワーク></p> <ul style="list-style-type: none"> ・身近な家庭用プリンタを例にとり、ライフサイクルコストを考える 			<p>【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】</p> <p>基礎的な部分から学習を進めるため、コストに関しての予備知識は不要です。講義が、「基礎 → 基本 → 実践」と、学習内容が積み重なっていきます。復習は必ず行ってください。(グループワークにおいて調査や講義内容を宿題として課します)</p> <p>また、次の授業につながる簡単な課題を準備学習として出します。準備学習・復習は、各 2 時間を標準とします。</p> <p>【テキスト(教科書)】</p> <p>毎回の講義資料を授業支援システムを通じて事前配布します</p> <p>【参考書】</p> <p>必要に応じて参考図書を指定します</p> <p>【成績評価の方法と基準】</p> <p>授業中への積極的な参加(リアクションペーパー含む) 40 % グループワークのレポート 20 % テスト(2 回実施予定) 40 %</p> <p>【学生の意見等からの気づき】</p> <p>本年度新規科目につきアンケートを実施していません</p> <p>【学生が準備すべき機器他】</p> <p>講義テキストのダウンロードや、レポート作成など行いますので、パソコンを持参してください。</p> <p>【Outline (in English)】</p> <p>Cost management is important for businesses. In this lecture, you will learn how to use costs effectively for good product development. You can learn basic terminology and basic theory about cost. You will also learn various cost management methods such as target-costing and lifecycle cost management.</p>
10	補足: コストと財務分析 (企業のコスト構造)	<p>製品出荷後の保守・サービスで儲ける時代において、ライフサイクルコストを理解します</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ライフサイクルコスト ・固定費マネジメント <p><グループワーク></p> <ul style="list-style-type: none"> ・身近な家庭用プリンタを例にとり、ライフサイクルコストを考える <p>補足的な講義として、コストが最終的にどのような財務に影響するのか? コストが最終的にどのような企業収益や財務に影響を及ぼすか企業全体の視点を持てるように理解を深めます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・なぜ黒字倒産が起きるのか? ・債務超過とは? ・安全性・収益性とは? <p><グループワーク></p> <p>Apple のキャッシュフロー戦略を参考にした財務分析を行う</p>			
11	実践 1 : 予算と採算判断	<p>予算は、それを達成できるか/できないかで、自分の評価に直結するため、非常に重要な仕事の1つとなります。予算の算出方法、納得性の高い予算のあり方などについて理解します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・期間別の予算と、製品開発段階で考える予算 ・予算の計算ロジックからくる歪み ・予算と標準原価 ・CVP 分析と直接原価計算 ・製品別予算と開発の意思決定 <p><グループワーク></p> <p>トヨタ自動車の予算(目標原価割付)を参考にした、平等感をもった予算のあり方を考える</p>			

MEC300NA

品質マネジメント

池庄司 雅臣

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：選択

その他属性：〈優〉〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

科学は自然界の現象を解釈し、物理法則として定式化することを目指している。一方、技術は、自然界にないもの、人間が欲するものを設計し、作り出すことを目指す。技術においては、科学の成果を利用するが、必ずしも理想的には実現できないのが現実である。技術にとっての品質はどれだけ理想に近いかを表現し、その完成度を表す。この授業の中では、品質評価をベースに理想に近いものを実現する方法論を、共通技術として学ぶ。この共通技術は、世界的には **Taguchi Methods** として知られており、国内では「品質工学」と呼ばれている。

一般に、品質は技術品質と商品品質に分けられる。商品品質には、機能そのもの、製品の色、形状、デザインなどがある。これらは、使用者の用途・嗜好に左右されることが多く、その良否に客観的に評価することは難しい。一方、技術品質とは、「システムが、技術的に望ましくない項目によって社会に与える損失」で表現される。損失の中には、機能のばらつき（機能性）による損失や弊害項目による損失が含まれるが、技術品質の評価には客観性があり、技術の対象とすることができる。技術品質を評価する場合、理想からのばらつき及び使用状況の中で製品の機能のばらつきとして **SN 比** で評価することができる。**SN 比** を手がかりに、製品を設計し、生産するプロセスを最適化する方法が品質工学の方法である。これを正しく理解することにより、最適なシステムを設計し、運用していく共通技術を獲得することができる。

【到達目標】

技術の基本である機能と機能性の考え方を知り、自分自身の技術に関しての適用を考えられるようにする。

特に、製品の使用者のいろいろな条件の中で、製品がきちんと機能することを定量化したロバストネスの指標である **SN 比** の考え方と計算方法、効率的な実験の進め方を習得し、製品や技術を設計するに当たって検討すべき事項を学ぶ。

本講義は「品質工学」をベースとしているが、異なるスタンスである「品質管理」についても触れることで、品質マネジメントの総合的な理解を得ることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP2」、都市環境デザイン工学部ディプロマポリシーのうち「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP2」に関連。

【授業の進め方と方法】

品質工学の考え方と方法を、講義、事例研究、演習を通して学ぶ。品質工学を進めるのに必要な、実験計画法、分散分析の計算法など簡単な統計計算法を織り込みながら、授業を進める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	講義全体の流れ、品質工学の考え方を紹介する。
2	品質とは：機能と機能性	品質の考え方、設計においてロバストネス評価が重要であることを述べる。
3	分散分析入門	SN 比 の前段として分散分析について述べる。
4	SN 比 の導入：理想関数からのばらつき	ロバストネスの評価方法について述べる。
5	直交表入門	多くの因子を取り上げた効率的な実験の方法を述べる。
6	損失関数	社会的損失を定量化し、使いやすくなる損失関数の考え方を知る。
7	オンライン品質工学：プロセスの運用	損失関数を用いた、システムの運用方法を考える。
8	計測技術における SN 比 と評価	実験で重要な測定の信頼性を SN 比 で評価する。
9	実験による設計技術の開発（1）	いろいろな分野の評価の事例を学ぶ。
10	実験による設計技術の開発（2）	応用事例を知る。
11	許容差設計	ばらつきの低減化の成果をもとに、コストと品質のバランスを取る。
12	品質管理の考え方（1）	品質管理の考え方や、 QC 7つ道具 に代表される手法について説明する。
13	品質管理の考え方（2）	管理図やその背景にある統計的な考え方について説明する。
14	本講義のまとめ	まとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

演習、計算、レポートなどの宿題あり。
課題については次回講義のレジュメで詳細な解説を付けるので、その内容については十分に復習されたい。
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。
(毎回配布するレジュメに基づいて授業を進める)

【参考書】

- 1) 矢野宏：品質工学概論、日本規格協会、2009
- 2) 田口玄一、横山巖子：ベーシック品質工学へのとびら、日本規格協会、2007
- 3) 田口伸也：タグチメソッド入門、日本規格協会、2016
- 4) 矢野耕也、水谷淳之介、山本桂一郎：初学者のための品質工学、コロナ社、2013

【成績評価の方法と基準】

授業への取り組みや理解度、および演習レポートをもとに評価する。
(平常点：40%、演習レポート：60%)

【学生の意見等からの気づき】

なるべく平易な解説を心がけます。解らない事は適宜質問して下さい。

【その他の重要事項】

データ分析の豊富な業務経験を持つ教員が、品質マネジメントで必要となるデータの扱い方や分析手法、統計的な考え方について講義する。

【Outline (in English)】

The goal of science is to interpret natural phenomena, representing physical principles via formulae. On the other hand, the goal of technology is to design things which don't exist in the natural world that are desirable to humans and produce them. While technology uses the results of science, in the real world it is not always possible to succeed in creating ideal applications for them. Quality is an expression of how close technology comes to the ideal, and representing its scale of completion. In this course we will learn common methods for determining how technologies can be produced at close to ideal levels through the use of quality indicators as a base. These methods are known throughout the world as the Taguchi Methods, and in Japan as "quality engineering".

In general, quality can be divided into technological quality and product quality. Product quality includes function, color, shape, design etc. On the other hand, technological quality is a representation of the negative effects of undesirable technological flaws of a system on society. While the negative effects include those from overfunctionality, abusive practice etc., objective aspects of quality evaluation also exist, linking it the application of technology. When measuring technological quality, the signal to noise ratio of how it diverges from the ideal in both principle and practice can be calculated. Using this hint is one of the methods of quality engineering to design products and optimize the processes of production. By properly understanding these principles, it is possible to form common technologies for optimal system design and management.

MEC300NA

品質マネジメント

池庄司 雅臣

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：選択

その他属性：〈優〉〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

科学は自然界の現象を解釈し、物理法則として定式化することを目指している。一方、技術は、自然界にないもの、人間が欲するものを設計し、作り出すことを目指す。技術においては、科学の成果を利用するが、必ずしも理想的には実現できないのが現実である。技術にとっての品質はどれだけ理想に近いかを表現し、その完成度を表す。この授業の中では、品質評価をベースに理想に近いものを実現する方法論を、共通技術として学ぶ。この共通技術は、世界的には **Taguchi Methods** として知られており、国内では「品質工学」と呼ばれている。

一般に、品質は技術品質と商品品質に分けられる。商品品質には、機能そのもの、製品の色、形状、デザインなどがある。これらは、使用者の用途・嗜好に左右されることが多く、その良否に客観的に評価することは難しい。一方、技術品質とは、「システムが、技術的に望ましくない項目によって社会に与える損失」で表現される。損失の中には、機能のばらつき（機能性）による損失や弊害項目による損失が含まれるが、技術品質の評価には客観性があり、技術の対象とすることができる。技術品質を評価する場合、理想からのばらつき及び使用状況の中での製品の機能のばらつきとして **SN 比** で評価することができる。**SN 比** が手がかかりに、製品を設計し、生産するプロセスを最適化する方法が品質工学の方法である。これを正しく理解することにより、最適なシステムを設計し、運用していく共通技術を獲得することができる。

【到達目標】

技術の基本である機能と機能性の考え方を知り、自分自身の技術に関しての適用を考えられるようにする。

特に、製品の使用者のいろいろな条件の中で、製品がきちんと機能することを定量化したロバストネスの指標である **SN 比** の考え方と計算方法、効率的な実験の進め方を習得し、製品や技術を設計するに当たって検討すべき事項を学ぶ。

本講義は「品質工学」をベースとしているが、異なるスタンスである「品質管理」についても触れることで、品質マネジメントの総合的な理解を得ることを目標とする。

【修得できる能力】

総合デザ	文化性	倫理観	建築の公理	芸術性	教養力	表現力
インカ						
○	○			◎		

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP2」、都市環境デザイン工学部ディプロマポリシーのうち「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP2」に関連。

【授業の進め方と方法】

品質工学の考え方と方法を、講義、事例研究、演習を通して学ぶ。品質工学を進めるのに必要な、実験計画法、分散分析の計算法など簡単な統計計算法を織り込みながら、授業を進める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	講義全体の流れ、品質工学の考え方を紹介する。
2	品質とは：機能と機能性	品質の考え方、設計においてロバストネス評価が重要であることを述べる。
3	分散分析入門	SN 比 の前段として分散分析について述べる。
4	SN 比 の導入：理想関数からのばらつき	ロバストネスの評価方法について述べる。
5	直交表入門	多くの因子を取り上げた効率的な実験の方法を述べる。
6	損失関数	社会的損失を定量化し、使いやすくする損失関数の考え方を知る。
7	オンライン品質工学：プロセスの運用	損失関数を用いた、システムの運用方法を考える。
8	計測技術における SN 比 と評価	実験で重要な測定の信頼性を SN 比 で評価する。
9	実験による設計技術の開発（1）	いろいろな分野の評価の事例を学ぶ。
10	実験による設計技術の開発（2）	応用事例を知る。
11	許容差設計	ばらつきの低減化の成果をもとに、コストと品質のバランスを取る。

- | | | |
|----|-------------|------------------------------------|
| 12 | 品質管理の考え方（1） | 品質管理の考え方や、QC 7つ道具に代表される手法について説明する。 |
| 13 | 品質管理の考え方（2） | 管理図やその背景にある統計的な考え方について説明する。 |
| 14 | 本講義のまとめ | まとめを行う。 |

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

演習、計算、レポートなどの課題あり。課題については次回講義のレジュメで詳細な解説を付けるので、その内容については十分に復習されたい。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。
(毎回配布するレジュメに基づいて授業を進める)

【参考書】

- 1) 矢野宏：品質工学概論、日本規格協会、2009
- 2) 田口玄一、横山巽子：ベーシック品質工学へのとびら、日本規格協会、2007
- 3) 田口伸：タグチメソッド入門、日本規格協会、2016
- 4) 矢野耕也、水谷淳之介、山本桂一郎：初学者のための品質工学、コロナ社、2013

【成績評価の方法と基準】

授業への取り組みや理解度、および演習レポートをもとに評価する。
(平常点：40%、演習レポート：60%)

【学生の意見等からの気づき】

なるべく平易な解説を心がけます。解らない事は適宜質問して下さい。

【その他の重要事項】

データ分析の豊富な業務経験を持つ教員が、品質マネジメントで必要となるデータの扱い方や分析手法、統計的な考え方について講義する。

【Outline (in English)】

The goal of science is to interpret natural phenomena, representing physical principles via formulae. On the other hand, the goal of technology is to design things which don't exist in the natural world that are desirable to humans and produce them. While technology uses the results of science, in the real world it is not always possible to succeed in creating ideal applications for them. Quality is an expression of how close technology comes to the ideal, and representing its scale of completion. In this course we will learn common methods for determining how technologies can be produced at close to ideal levels through the use of quality indicators as a base. These methods are known throughout the world as the Taguchi Methods, and in Japan as "quality engineering".

In general, quality can be divided into technological quality and product quality. Product quality includes function, color, shape, design etc. On the other hand, technological quality is a representation of the negative effects of undesirable technological flaws of a system on society. While the negative effects include those from overfunctionality, abusive practice etc., objective aspects of quality evaluation also exist, linking it the application of technology. When measuring technological quality, the signal to noise ratio of how it diverges from the ideal in both principle and practice can be calculated. Using this hint is one of the methods of quality engineering to design products and optimize the processes of production. By properly understanding these principles, it is possible to form common technologies for optimal system design and management.

MEC300NA

品質マネジメント

池庄司 雅臣

開講時期：秋学期授業/Fall | 選択・必修の別：選択

その他属性：〈優〉〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

科学は自然界の現象を解釈し、物理法則として定式化することを目指している。一方、技術は、自然界にないもの、人間が欲するものを設計し、作り出すことを目指す。技術においては、科学の成果を利用するが、必ずしも理想的には実現できないのが現実である。技術にとっての品質はどれだけ理想に近いかを表現し、その完成度を表す。この授業の中では、品質評価をベースに理想に近いものを実現する方法論を、共通技術として学ぶ。この共通技術は、世界的には **Taguchi Methods** として知られており、国内では「品質工学」と呼ばれている。

一般に、品質は技術品質と商品品質に分けられる。商品品質には、機能そのものの、製品の色、形状、デザインなどがある。これらは、使用者の用途・嗜好に左右されることが多く、その良否に客観的に評価することは難しい。一方、技術品質とは、「システムが、技術的に望ましくない項目によって社会に与える損失」で表現される。損失の中には、機能のばらつき（機能性）による損失や弊害項目による損失が含まれるが、技術品質の評価には客観性があり、技術の対象とすることができる。技術品質を評価する場合、理想からのばらつき及び使用状況の中での製品の機能のばらつきとして **SN 比** で評価することができる。**SN 比** が手がかりに、製品を設計し、生産するプロセスを最適化する方法が品質工学の方法である。これを正しく理解することにより、最適なシステムを設計し、運用していく共通技術を獲得することができる。

【到達目標】

技術の基本である機能と機能性の考え方を知り、自分自身の技術に関しての適用を考えられるようにする。

特に、製品の使用者のいろいろな条件の中で、製品がきちんと機能することを定量化したロバストネスの指標である **SN 比** の考え方と計算方法、効率的な実験の進め方を習得し、製品や技術を設計するに当たって検討すべき事項を学ぶ。

本講義は「品質工学」をベースとしているが、異なるスタンスである「品質管理」についても触れることで、品質マネジメントの総合的な理解を得ることを目標とする。

【修得できる能力】

(A) 歴史・文化・自然の理解・尊重	10%
(B) 技術者倫理	20%
(C) 工学基礎学力	30%
(D) 専門基礎学力	20%
(E) 専門知識の活用・応用能力	10%
(F) 総合デザイン能力	10%
(G) コミュニケーション能力	
(H) 継続的学習能力	
(I) 業務遂行能力	

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

デザイン工学部建築学科ディプロマポリシーのうち「DP2」、都市環境デザイン工学部ディプロマポリシーのうち「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」、システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち「DP2」に関連。

【授業の進め方と方法】

品質工学の考え方と方法を、講義、事例研究、演習、討論を通して学ぶ。品質工学を進めるのに必要な、実験計画法、分散分析の計算方法など簡単な統計計算法を織り込みながら、授業を進める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	講義全体の流れ、品質工学の考え方を紹介する。
2	品質とは：機能と機能性	品質の考え方、設計においてロバストネス評価が重要であることを述べる。
3	分散分析入門	SN 比 の前段として分散分析について述べる。
4	SN 比 の導入：理想関数からのばらつき	ロバストネスの評価方法について述べる。
5	直交表入門	多くの因子を取り上げた効率的な実験の方法を述べる。
6	損失関数	社会的損失を定量化し、使いやすくする損失関数の考え方を述べる。
7	オンライン品質工学：プロセスの運用	損失関数を用いた、システムの運用方法を考える。
8	計測技術における SN 比 と評価	実験で重要な測定の信頼性を SN 比 で評価する。

9	実験による設計技術の開発 (1)	いろいろな分野の評価の事例を学ぶ。
10	実験による設計技術の開発 (2)	応用事例を知る。
11	許容差設計	ばらつきの低減化の成果をもとに、コストと品質のバランスを取る。
12	品質管理の考え方 (1)	品質管理の考え方や、 QC 7つ道具 に代表される手法について説明する。
13	品質管理の考え方 (2)	管理図やその背景にある統計的な考え方について説明する。
14	本講義のまとめ	まとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

演習、計算、レポートなどの宿題あり。課題については次回講義のレジュメで詳細な解説を付けるので、その内容については十分に復習されたい。

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。

(毎回配布するレジュメに基づいて授業を進める)

【参考書】

- 1) 矢野宏：品質工学概論、日本規格協会、2009
- 2) 田口玄一、横山隼子：ベーシック品質工学へのとびら、日本規格協会、2007
- 3) 田口伸：タグチメソッド入門、日本規格協会、2016
- 4) 矢野耕也、水谷淳之介、山本桂一郎：初学者のための品質工学、コロナ社、2013

【成績評価の方法と基準】

授業への取り組みや理解度、および演習レポートをもとに評価する。

(平常点：40%、演習レポート：60%)

【学生の意見等からの気づき】

なるべく平易な解説を心がけます。解らない事は適宜質問して下さい。

【その他の重要事項】

データ分析の豊富な業務経験を持つ教員が、品質マネジメントで必要となるデータの扱い方や分析手法、統計的な考え方について講義する。

【Outline (in English)】

The goal of science is to interpret natural phenomena, representing physical principles via formulae. On the other hand, the goal of technology is to design things which don't exist in the natural world that are desirable to humans and produce them. While technology uses the results of science, in the real world it is not always possible to succeed in creating ideal applications for them. Quality is an expression of how close technology comes to the ideal, and representing its scale of completion. In this course we will learn common methods for determining how technologies can be produced at close to ideal levels through the use of quality indicators as a base. These methods are known throughout the world as the Taguchi Methods, and in Japan as "quality engineering".

In general, quality can be divided into technological quality and product quality. Product quality includes function, color, shape, design etc. On the other hand, technological quality is a representation of the negative effects of undesirable technological flaws of a system on society. While the negative effects include those from overfunctionality, abusive practice etc., objective aspects of quality evaluation also exist, linking it to the application of technology. When measuring technological quality, the signal to noise ratio of how it diverges from the ideal in both principle and practice can be calculated. Using this hint is one of the methods of quality engineering to design products and optimize the processes of production. By properly understanding these principles, it is possible to form common technologies for optimal system design and management.

SSS300ND

プロジェクトマネジメント (SD)

村上 季史、永田 義昭

開講時期：春学期授業/Spring | 選択・必修の別：選択必修

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

システムデザイン学科では「新しい価値を備えたシステムを創造しデザインする工学」を学びます。「創造」には、共通のゴールに向かって、複数の人間が協力し合って未知の分野に挑戦する行為が必要です。これが「プロジェクト」です。この授業では、そうしたプロジェクトの計画立案と遂行・コントロールについて、また繰返し行われる日常業務の進め方との違いについて、演習を交えて理解していきます。

【到達目標】

プロジェクト・マネジメントの基本概念と、コミュニケーション・ファシリテーションなどの基本スキル、ならびに Activity List・WBS・CPM・EVM などの技法について初歩を理解し、自分なりにプロジェクトを組み立てりリードしていきける能力を身につけます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

デザイン工学部システムデザイン学科ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連。

【授業の進め方と方法】

この授業は全部で 14 回で構成します。

第 1 回～第 2 回 プロジェクト・マネジメントの概要について解説します
 第 3 回～第 6 回 プロジェクトを遂行するヒューマンスキルを学びます
 第 7 回～第 13 回 プロジェクト計画の立案方法と実行・監視・コントロールの仕方を理解します
 第 14 回 グループ課題の発表と相互評価を行います
 なお、授業には演習を取り入れます。また、授業と並行してグループを組み、課題「プロジェクト計画演習」を 7 週間かけて進める宿題の形とします。授業を通して、クラスメイトと協力しながら、プロジェクト・マネジメントの手法を身につけ、演習とグループ課題で実践に結びつけて、本当に「使える」スキルとして身につけてもらいたいと期待しています。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション (プロジェクトとは何か)	この授業の目標と全体のプロセスを理解します ・プロジェクトとは何か ・プロジェクトの進め方の全体像
2	ゴール・目的・目標	プロジェクトのゴール設定と「プロジェクト CHARTER」を学びます ・プロジェクトの成功と失敗 ・ゴール、目的、目標の違い ・演習 プロジェクト CHARTER をつくる
3	リーダーシップとマネジメント	リーダーシップとマネジメントの違い、また、プロジェクトマネージャーについて学びます ・リーダーシップとマネジメント ・プロジェクトマネージャーに求められるもの
4	コミュニケーション	日常生活の中でも実践できる、コミュニケーション力を上げるためのポイントを学びます。 ・プロジェクト遂行上のコミュニケーション ・コミュニケーションの目的とは？ ・コミュニケーション力の高い人とは？ ・コミュニケーション上手になるためには？ ・演習
5	ファシリテーション	ファシリテーションは話す力、聴く力、論理的思考力などのヒューマンスキルの総合技術であり、チームの成果を最大限引き出すことができます。グループ演習を通じてファシリテーションを活用した議論、意思決定を体験します。 ・ファシリテーションとは ・演習

6	モチベーション	他者と協働し、意欲を持って動いてもらうための動機づけについて理解します。 ・動機づけ理論 ・人は何で動くか
7	スコープ・WBS	プロジェクト・マネジメントの基礎であるスコープと WBS 作成について学びます。 ・スコープとは何か ・WBS の作成手順 ・演習 Activity List と WBS をつくる
8	組織と要員	複数の人間が協力し合うために必要な組織のデザインを学びます。 ・企業の組織とは ・プロジェクト組織の分類 ・チームと役割
9	スケジュールプランニング	プロジェクトの納期を守るためのタイム・マネジメントの基礎を学びます。 ・ロジックネットワークスケジュールの基礎 ・演習 納期短縮アイデアを考えよう
10	リスク	プロジェクト・マネジメントにとって最も難しい課題であるリスクについて考えます。 ・リスクとは何か ・リスクへの対応戦略
11	コスト	予算を守るためのコスト計画とコントロールについて学びます。 ・予算とはそもそも何か ・人のコスト ・見積の方法 ・演習 入札ゲーム
12	品質	顧客のニーズや期待に応える商品・サービスを提供するために、品質という観点で重要なポイントを学びます。 ・品質とは ・品質目標を実現するための 3 つのポイント
13	進捗管理とアクション	プロジェクトの進捗管理と必要なアクションについて、実践的なテクニックを学びます ・プロジェクトの進捗管理 ・EVM ・変更管理
14	グループ課題発表	「プロジェクト計画演習」課題のグループ発表 ・動画・パワーポイントによる課題のグループ発表会 ・各グループによる相互評価

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

復習に重点を置いてください。個人課題は 1 時間程度要する内容を基準とします。また、グループで取り組む「プロジェクト計画演習」の際に時間外の準備が必要となります。なお、それ以外にも、研究でもサークル活動でも、あるいはバイトでもかまいませんから、人と共同して何かを達成する経験をなるべく積んでおくことをお勧めします。これは本授業のみならず、卒業後にも必ず役に立つことです。

【テキスト (教科書)】

指定の教科書はありませんが、講義資料は PDF で授業支援システムに事前にアップします。

【参考書】

- 「世界を動かすプロジェクトマネジメントの教科書」佐藤知一・著 (技術評論社)
若手エンジニアを主人公に、プロジェクトマネジメントの基本を解説しています。
- 「改訂 3 版 P2M プログラム&プロジェクトマネジメント標準ガイドブック」日本プロジェクトマネジメント協会・著 (日本能率協会マネジメントセンター)
日本の団体が中心となり、プロジェクトとプログラムのマネジメントについて解説した書です。
- 「プロジェクトマネジメント知識体系ガイド第 6 版」Project Management Institute 著 (PMI 東京支部)
現在最も世界的に影響力のある標準体系の解説書です。PMP (Project Management Professional) 資格受験のための必須の教科書です。

【成績評価の方法と基準】**(1) 授業課題と演習 (60%)**

授業の課題提出や教室内・オンラインでのグループ演習を行います。プロジェクト・マネジメントは演習なしで理解することはほとんど不可能です。講義と演習への積極的な参加を成績評価の対象とします。

また、講義に関する質問やコメントを記したリアクションペーパーの提出も講義への貢献として成績評価の対象とします。

(2) グループ課題の発表 (40%)

この授業で学んだことをもとに、グループを作成し、各グループでプロジェクト構想を作り、その内容と遂行計画について発表してもらいます。実現可能性それ自体は問いませんが、実行手順についてはできるだけ具体的にイメージして作成してください。

「プロジェクト成果物の構想説明」、「プロジェクト計画書作成」、「プレゼンテーション」に合計 40 点を配点します。グループ課題は受講生全員が相互に採点する方式で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

講義への積極的な参加と講義内容への質問・意見により、理解を深め、「考える力」を成長させることを目標にしています。授業内容をきっかけに、自分の意見を持つようにしてください。

授業の初めに、前回の授業で受講生から提出されたりアクションペーパーの質問や意見を取り上げ、フィードバックします。

【学生が準備すべき機器他】

講義資料は PDF の形で授業支援システムに事前にアップします。閲覧可能な機器を授業に持ってきてください。

【その他の重要事項】

種々のプラント建設プロジェクトを経験したエンジニアが、基本知識の説明と自身の経験に基づいた解説や演習を行います。

【Outline (in English)】

In this course on system design, students will learn the engineering involved in creating and designing new innovative systems. Creating involves challenging undiscovered areas by facing common problems and collaborating with people. Students will understand how to plan, execute, and control such creating projects as well as how they differ from real world duties through classes and practice.

BSP200GA

国際文化情報学の展開

和泉 順子

配当年次／単位：2～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
人数制限・選抜・抽選：人数制限あり

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本科目は、1年次の「国際文化情報学入門」に続くものとして開設されたものである（ただし必修ではない）。本学部の4つの科目群「情報文化・表象文化・言語文化・国際社会」の垣根を超えた共通テーマのもとで、ゲスト講師を含む複数教員によるオムニバス授業を行い、学際的かつ分野横断的な知識を身につける。今年度のテーマは「異文化」とその境界・文化を分かつ境界の再考」。今年度のコーディネーターは国際文化学部教員の和泉順子が担当する。

【到達目標】

1. 本学部の四つの柱「情報文化」「表象文化」「言語文化」「国際社会」にまたがった、学際的な視座を得ることができるようになる。
2. SA、SJ、ゼミ活動、卒業論文・卒業制作などで必要となる国際文化情報学のより発展的な知識や考え方を身につける。
3. 諸問題により異文化交流が困難な状況であっても、国際文化情報学（intercultural communication）を多角的に捉えることによって、国際文化学部の学びの意義を改めて考え直し説明できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

■本授業は一部「オンデマンド」形式となるが、基本的には「対面」形式で行う。ただしコロナウイルスの感染状況が悪化するなどした場合はZoomによる授業に切りかえることがある。

■フィードバック：質問に対しては、学習支援システムの掲示板を通じて可能なかぎり回答する。あわせて、次回授業のなかでもフィードバックを行なう予定。ただし、履修人数が多いことが予想されるため、個別にフィードバックすることはしない。

■オムニバス授業：本科目は、毎回異なる教員（本学部教員とゲスト講師）が、それぞれの専門分野から講義をするオムニバス方式で進める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	4/13 和泉順子（国際文化学部教員・本科目コーディネーター）この授業で何を学ぶか	この授業の狙い、進め方、主な内容、課題などについて説明する。
2	4/20 北岡元（元駐エストニア日本国特命全権大使）エストニアの文化に学ぶ「デジタルをもってデジタルを制す！」	デジタル化の結果過剰になったインフォメーションに溺れて、人や組織が判断・行動出来なくなりつつある現代を乗り切るには、インフォメーションが一瞬で縦横に共有されるデジタル化が逆に特効薬になる点を、「デジタル最先進国」を可能にしたエストニアの文化を参考にしつつ学ぶ。
3	4/27 今泉裕美子（国際文化学部教員）太平洋島嶼の人びとの歴史経験から考える“文化”と“境界”	太平洋のとある島嶼国の憲法前文には、“The seas bring us together, they do not separate us”と謳われています。日本は島国と言われますが、海との関係、そこに育まれる文化に、太平洋島嶼の人びとと同じような認識を持っているのでしょうか。とある島嶼国ってどこ？ から出発し、太平洋島嶼の人びとの歴史経験から“文化”と“境界”を考えます。
4	5/11 佐藤千登勢（国際文化学部教員）東西冷戦そしてソ連崩壊：東西陣営と民族の分断は映画でどう描かれてきたか	東西陣営の壁やソ連崩壊に伴う民族間の分断の表象やモチーフは、ときにドラマを動かす原動力となる。複数の映画作品を例に、「社会体制、文化、民族」の分断についてともに考えていきたいと思う。

5 5/18 佐藤雅明（東海大学観光学部准教授）インターネットが実現する移動の自由 - グローバル・ツーリズム -

我々の生活に欠かすことができない移動=モビリティは、人間がもつ能力（アビリティ）の一つであり、社会を支える基盤でもある。歴史的に旅行や自由な移動は「贅沢」だったが、技術発展と幾多の苦難を乗り越え手に入れた社会の安定により、現在では誰もが移動の自由を享受できる。COVID-19によって社会全体のDXが加速する今、これからも移動の自由やグローバルな社会を健全に発展させるために重要なポイントについて広く議論する。

6 5/25 竹内晶子（国際文化学部教員）

7 6/1 林志津江（国際文化学部教員）

8 6/8 島野智之（国際文化学部教員）

9 6/15 中和彩子（国際文化学部教員）

10 6/22 石森大知（国際文化学部教員）

11 6/29 佐々木直美（国際文化学部教員）

12 7/6 松本悟（国際文化学部教員）

13 7/13 村井純（慶應義塾大学教授）

14 7/20 和泉順子（国際文化学部教員・本科目コーディネーター）国際文化学部で学ぶ意義を改めて考える

欧米における日本人論の古典、『菊と刀』を取り上げ、この書が描く「他者」（=日本人）像と自己（=アメリカ人）幻想の相互補完的な関係を分析する。ふたつの共和国と「ベルリンの壁」、闘争と連帯の大通り、ドイツ再統一と「オスタルギー」、本物の連帯と統合に向けて。

地球には総計約870万種の生物が生息していると推定されているが、およそ86%の地球上の生物種には未だに学名がついていない。学名のない生物は地球上にまだ約750万種も残されていることになる。しかし、現在の生物の絶滅速度からすると、その870万種のうち100万種が絶滅危惧種である。生物多様性の現在の論点と、絶滅していく動物の現状について動物分類学の立場から説明する。

現代においてもなお、文明から遠く離れた「楽園」のイメージで語られることの多い、ハワイや南太平洋の島々であるが、実は19世紀中に急速に欧米化が進んでいた。世紀末の欧米の作家たちは、南海を旅し、すみかとし、あるいは引用と想像により、南海の人々と文化をさまざまに描き出した。本講義では、イギリスの作家、R. L. Stevenson, Somerset Maugham, Sylvia Townsend Warnerの南海小説における「文明」と「野蛮」のせめぎあいを考察する。

人間はどのように自己と他者を認識してきたのか。また、自文化と異文化を分かつ境界はどのように創られ、争われてきたのかなどについて人類学的に考察します。

異文化理解の障壁だと考えられがちなくことばの壁>について取りあげる。スペイン語に加えて先住民の言語を公用語としている南米ペルーの歴史的出来事や現在の教育政策、さらには文化的現象を紹介しながら、<文化としての言語>や<文化を翻訳する>ことについて再考する。

開発援助では様々な線引きが行なわれます。土地の境界、貧しさや豊かさの境界、民族の境界・・・そうした線引きは開発援助とどんな関係にあるのか、人々をどのように仕向けるのかを考えます。

国の関係で構成される「国際空間」に加えて、インターネット前提とする「グローバル空間」の2つの空間がインターネットの発展とともに両立しはじめた。Covid-19やウクライナ侵襲という歴史的な経験を経て、極めて急速にこの二つの空間の融合は誰にとっても現実となった。インターネットの役割と関連する技術を踏まえ、その未来への責任について議論する。

国際文化学部の学びの本質とは何か、この授業全体の講義を振り返りながら考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・担当講師によっては事前課題を前提に授業を進めるので、その場合は必ず事前課題の文献講読や映像視聴を行う。
- ・授業後課題を毎回課す。授業日当日を締め切りとし、短い文章で提出する。
- ・本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しないが、国際文化学部のホームページの以下の記述は必ず読んでおくこと。

●理念・目的

<https://www.hosei.ac.jp/kokusai/shokai/rinen/>

●ディプロマポリシー

<https://www.hosei.ac.jp/kokusai/shokai/policy/diploma/>

【参考書】

・事前に学習支援システムに掲載するか、授業の中で各講師が紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業後課題の提出 60%、最終レポート 40%。授業後課題は、設問に適切に答えていない場合や極端に分量が少ない場合は減点する。最終レポートは、14回の講義について論じるものである。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

・学習支援システムを用いるので初回授業の 3 日前には登録すること。
・講義内容の入替や変更等の可能性があるため、毎回授業前に「お知らせ」などを確認すること。
・コロナウイルス感染状況により、Zoom による授業に切りかえる場合があるため、パソコン等のインターネット環境が必要。

【その他の重要事項】

本授業の一部は、外部講師がその専門分野に応じて講義を行う。講義内容は、それぞれの担当回の内容を参照のこと。

【Outline (in English)】

This course aims at enabling students to acquire a broad range of perspectives about intercultural communication. By the end of this course, students will develop a deeper and critical understanding of intercultural communication through a series of lectures. The theme of this course is for this year 'Interculturality' and its boundaries - Reconsideration the boundaries that divide cultures -.

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than two hours for a class.

Your overall grade in the class will be decided based on the following;

Short reports : 60 %、term-end reports 40%

PRI200GA

統計処理法

吉田 一星

配当年次／単位：1～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

人数制限・選抜・抽選：

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

みなさんは、新聞、テレビ、インターネットなどを通してデータに日々接しています。これらの、大量で多様なデータの中から、必要なものを情報として抽出し、適切な解釈を与えることは決して容易なことではありません。統計学はデータを数値化し、客観的に分析・評価することで、本質を捉えようとするための方法論です。この科目ではそのような統計学の基本的な考え方について学んでいきます。具体的には、統計を学ぶために最低限必要な確率の知識、データを数値化する方法、数値を可視化する方法、数値を最終的に評価・解釈する方法等を習得していきます。

【到達目標】

- ・ 確率の計算方法を理解し、具体的な計算を実施できる
- ・ データの可視化（グラフ化）の方法を身につける
- ・ 基本統計量（平均、分散、相関等）の算出方法を理解する
- ・ データを解釈する方法を身につける
- ・ 確率分布の概念と、その実世界への応用の方法を理解する

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

授業では、統計学の基本的な考え方を学んでいきます。統計を直感でなくデータに基づいて議論するための、最低限必要な確率の定義やその使い方を丁寧に解説します。その確率の言葉を使って、観測したい現象を数値データとして表現し分析するための統計的な道具を、多くの具体例に適用します。

数学に興味がある人はもちろん、そうではない人でも、統計的な考え方が楽しめるようにしたいと思いますので、履修される方には授業への積極的な参加を期待します。

授業は講義と演習から成ります。学んだ内容を具体的な問題に適用して解く計算の時間が、ほぼ毎回あります。授業の終わりには、その回の授業内容の理解を確認するための宿題を出します。次の回の始めの時間で、その宿題の解説を行い、理解度を確認します。

また、小テスト・期末試験（「成績評価の方法と基準」を参照）の採点について、単なる答え合わせでない内容の解説を行うために、小テストに関しては授業中に詳しい解説の時間を確保します。期末試験に関しては、学習支援システム上に解説資料を掲載します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンスと確率の基礎1	授業の進め方についての説明・組合せ論的確率の意味
第2回	確率の基礎2	場合の数
第3回	確率の基礎3	場合の数の応用
第4回	確率1	確率の定義と例
第5回	確率2	確率の計算
第6回	統計の基礎1	数値データの表現方法
第7回	統計の基礎2	データの代表値とその性質
第8回	統計の基礎3	分散と標準偏差
第9回	2次元データの分析1	散布図と相関係数
第10回	2次元データの分析2	回帰分析
第11回	確率分布1	確率変数と期待値
第12回	確率分布2	二項分布
第13回	確率分布3	正規分布
第14回	期末試験・まとめ	期末試験と全体のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。毎回の授業の終わりに、その回の授業内容の理解を確認するための宿題を出します。宿題は成績評価には使用しませんが、1回の分量を少なめにしますので次の授業までに必ず自分で解いてきて下さい。

【テキスト（教科書）】

教科書を使用しません。講師が作成した資料を使って授業を行います。

【参考書】

以下の参考書をお勧めします。

"経営・商学のための統計学入門 直感的な例題で学ぶ", 竹内広宜著, 講談社, 2021.

この他に参考となる資料は、授業の中で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

授業中に行う小テストと期末試験の結果を元に総合的に評価します。配点の目安としては、小テスト 30%、期末試験 70%となります。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60%以上を達成した者を合格とします。

【学生の意見等からの気づき】

その授業で学んだ内容に関連する現実世界のトピックを紹介する「コラム」が毎回好評です。到達目標のための学習時間を確保しながらできるだけコラムを継続したいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

講義時間で演習を行います。演習では計算を行いますので電卓などを持参するようにしてください。

【その他の重要事項】

担当教員は、情報科学技術の研究開発を行う企業に所属しており、自然言語処理・機械学習分野に関して新技術の開発や製品化の実務経験を有しています。これらの技術分野では確率統計の知識が必須です。本授業で学ぶ内容がどのように役立てられるのか、授業内で紹介したいと思います。

【Outline (in English)】**【Course Outline】**

In our daily life, we find a large amount of data available through the internet and social media. It is often difficult to extract only necessary information from the various kind of massive data and interpret the information. Statistics is a methodology for quantifying and objectively analyzing data.

【Learning Objectives】

Students should be able to do the followings at the end of this course:

- Understand basic knowledge of combinatorics and probability, and apply it to concrete calculation
- Master basics of data visualization
- Understand basic statistics
- Understand some ways of interpret results of data analytics
- Understand the notion of probability distribution and its application to real world problems

【Learning activities outside of classroom】

Students will be expected to complete homework after each class meeting. A typical time for the homework and to understand the course content after a class meeting is two hours.

【Grading Criteria/Policies】

Final grade will be calculated according to the following process: Mid-term examination (30%) and Term-end examination (70%).

HUI200GA

システム論

甲 洋介

サブタイトル：文化と人間の営みを鋭く捉える、システムという考え方

配当年次／単位：1～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

人数制限・選抜・抽選：

その他属性：〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

● あなたの身近な「システム」たち

コンピュータや SNS ばかりがシステムではない。私たちの生活はたくさんの「システム」に囲まれている。電子マネーやオンラインショップがシステムという説明は頷けるとしても、家族や社会、国際食糧支援、チームスポーツ、コンビニもシステム、と云われたらどうだろうか。

● 「家族」もシステム？

暮らしや社会の意外な仕組みが、広い意味でのシステムとして、私たちの文化の中に様々な形態で組み込まれている。交通にしても、家族にしても、多国籍関係にしても、うまく機能している間は人々は気にしない。その仕組みがシステムとしてうまくはたらかなくなった時に問題は顕在化する。

● 「システムという考え方」を学ぶ

本講義を通じて、最初は複雑すぎて捉えられない事柄も、「システムという考え方」を用いて整理し、自分で系統立てて捉えることができるようになる。

システムとは何か。文化の中の様々な物事をシステムとして捉えることによって、考え方が変わる。

本講義では、暮らしの中の身近な例や、システムとして意識したことがない意外な例を取り上げながら、それがどのような意味でシステムなのか、解きほぐしていく。複雑な事柄も複数の構成要素が巧みに関係し合った現象として、理解が進む。対象の本質を浮かび上がらせ、改善策の考案へとつなげる。これを練習する。

● システムから世の中を見ると、いろいろな事が見えてくる

人が作ったモノだけでなく、「家族」や「社会」も一種のシステムである。たとえば「家族」とは何か、家族が家族でいようとする目的は何か、なぜ現在の形態になっているのか、一度は考えたことがあるかもしれない。あるいは、差別や階層など、他と区別するための概念が新たに生まれたり、消滅すると何がかわるのか。システムとして捉え直すと、それが社会の営みに対する *questions* を整理し、明確化することにもつながる。

社会にはさまざまな形でシステムが埋め込まれている。その様態は常に変化している。そして、そこにはシステムとしての役割の変化がある。それらを発見する作業は面白い。なぜならその変化は、人間が暮らし方を変革してきた足跡そのものだから。

【到達目標】

- ・まずシステムの基本的な考え方を学び、要点を理解できるようにになる。
- ・次に、簡単な事例であれば、「システムの考え方」を用いて、問題を解きほぐしながら複数の視点から分析し、自分なりの答えを「系統立てて」導く方法を組み立てられるようになる。
- ・本講義を終える頃には、社会の、またはあなたが着目する一見複雑に見える問題に対し、その問題を捉えやすく整理し直し、システムの考え方を用いて、自分なりの答えを系統立てて考えられるようになる、ことを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

概ねつぎの流れに沿って各回の授業を構成する。

- (1) 前回のコメントシートを踏まえた解説、ディスカッション（約 15 分）
- (2) 講義形式で、題材を提示し、考え方・いくつかの視点を解説（65 分）
- (3) 小課題を演習し、質問応答、コメントシート作成（20 分）

講義と小課題の演習を組み合わせる。授業冒頭 (1) で前回をおさらいし、受講生のコメントシートを踏まえた解説で理解の深化を促し、各回の講義 (2) につなぐ。各自の内容理解を小演習 (3) で確認し、コメントシートとして提出する。この対話サイクルで授業を進める。

授業中の討議を通じて、他の意見を認めつつ自分のオリジナルな考えをまとめ、他者が理解できるよう論理的な説明を練習する。その成果を期末レポートで確認する。

※新型コロナウイルス感染状況によって進め方を変更することがある。大学の行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。変更がある場合は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	はじめに	システムは難しくない。本講義の狙いと、進め方
第 2 回	システムは、あなたの身近にある	システムとはどのようなものか
第 3 回	暮らしの中のシステム	暮らしの中にある、様々なシステム
第 4 回	システム、という考え方	システム思考の基礎。複雑そうな事を、要素の間の関係性として捉え直してみる
第 5 回	大きな視野から、システムの要素を整理し、働きを分析する	システムの成果物、インプット・資源、環境条件、環境への副次的影響、の整理
第 6 回	人間の行為を、システムの視点から理解する	気まぐれに見える人間の行為も、システムから捉えると
第 7 回	システムの信頼性、可用性を高める	故障しないモノはない。しかしシステムのデザインを工夫すれば、信頼性、可用性を高められる
第 8 回	人と道具のシステム論 - 文房具から宇宙旅行まで	人が何か目的をもって道具を使う、その状況をシステムとして捉えてみよう
第 9 回	社会というシステム ~ 個人から社会へ（パーソナルの理論）	社会は複雑に見える。社会をシステムとしてどう捉えるか
第 10 回	社会のシステム論 (1) - ルーマンの理論	オートポイエーシス概念を用いて、社会システム論を説明する
第 11 回	社会のシステム論 (2) - コミュニケーションの連鎖	ルーマンは、社会の複雑さや「分化」をどのように捉えるか
第 12 回	社会や文化に埋め込まれたシステムたち	人の住まう都市、地域コミュニティの生活を、システムとして再検討する
第 13 回	システムダイナミクス	システムダイナミクスを用いて、複雑な社会現象を、多様な見方から捉える
第 14 回	まとめ：暮らしから社会へ、人間社会から環境へ	まとめ、課題について、ディスカッション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・授業の復習を兼ねて、小課題に取り組む。提出は主に学習支援システムを用いる。
・本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。社会システムの理解には、ニュースにある社会問題の背景について、自分で考える日頃の習慣が役に立つ。

【テキスト（教科書）】

講義資料を提示し、テキストは使用しません。

【参考書】

・知恵の樹 ― 生きている世界はどのようにして生まれるのか（マトゥラーナ著、ちくま学芸文庫）1998

【成績評価の方法と基準】

- ・レスポンスシートや、授業・討議における積極的な貢献度合い（60 %）、
- ・期末レポートまたは期末試験（40 %）

で総合的に評価します。

この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60%以上を達成した者を合格とする。基本事項の理解、記述の明確さ、答えを導くまでの論理性、必要に応じて多角的な視点から考察すること、が重要です。

【学生の意見等からの気づき】

「込み入った話になると難しい」との意見がありました。例示を増やし、分かりやすく解きほぐすことを心がけようと思います。

【関連科目】

「道具のデザイン」「文化情報空間論」と直接的に関連しています。また国際社会、表象文化の専門科目の基礎としても役立つように工夫されています。

【Outline (in English)】

This class allows you to learn basic principles of "System" theory.

By the end of the course, students should be able to practice basic principles of "Systems Thinking," and to re-examine some selected social issues by applying the methods of "Systems Thinking".

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Final grade will be decided based on (1) final report/exam (40%) and (2) short reports and the quality of the student's in-class contribution (60%).

COT200GA

デジタル情報学概論

重定 如彦

サブタイトル：デジタル社会を生き抜くための基礎知識

配当年次／単位：1～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

IT を過大評価しても過小評価してもいけない。ムードに流されることなく、正しく理解することが重要である。

デジタル情報化社会、それを支えるデジタル技術全体を広く正しく理解するために、文科系の学生、情報学に関心を持つ人を対象に、広い視野のもとに IT の本質を明確にし、わかりやすく述べる。

この科目は本学部で展開する情報科目ならびに情報デザイン・メディア表現科目群の関連専攻科目の根幹であり、受講者が現代の情報化社会に対する明快な理解と広い視野形成を得ることを目指す。

情報学と聞くと数学の知識などが必要な難解なものであるというイメージがあるかもしれないが、本講義では複雑な数学の知識などがなくても理解できるようにわかりやすく説明する予定であるので、コンピュータや情報学に興味がある方は積極的に受講してほしい。

【到達目標】

デジタルとは何かについて理解する。

デジタル情報を用いた様々な要素技術について理解する。

デジタル情報化社会及び、それを支えるデジタル技術全体を広く正しく理解する。

現代の情報化社会に対する明快な理解と広い視野形成を得る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

大学の行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

上記の到達目標を達成するため、教科書である「デジタル情報学概論」の内容をもとにデジタル情報学に関する様々なテーマについての講義を行う。

授業の前半ではデジタルとは何かについて、基本的な所からわかりやすく解説を行い、基礎知識がついた中盤以降から教科書の各項目に沿って解説するという手順で行う。

具体的にはまず「デジタルとは何か」から始まり、デジタル情報の性質、利点、欠点、応用などについて学び、デジタル情報技術を利用するとどのようなことが実現可能になるかについて理解する。

次に、それらの知識を元に、現実世界の様々な分野において実際に使われていたり、将来において実現するであろうデジタル技術について解説する。

各回の講義は PowerPoint と教科書を用いて行う。PowerPoint の資料は授業が行われる週の頭までに学習支援システムにアップロードするので各自予習を行うこと。

おそらく資料や教科書で予習しただけではわからないことが多数でくると思われる。わからない点を予習によってあらかじめ明確にしておき、授業での説明を聞いてもなお理解できない場合はそのままにせず、積極的に質問すること。

学習支援システムのアンケートの機能を使って、毎回授業のリアクションペーパーに相当するものを実施する。各回の授業の冒頭で、必要に応じてその中からいくつかを取り上げてコメントを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1 回	授業の導入とデジタル	デジタルとは何か 情報の符号化 デジタルの利点と欠点
2 回	情報の伝達	インターネットにおける情報の伝達 データの圧縮。誤りの検出と訂正
3 回	情報通信	有線通信と無線通信 人工衛星を使った通信
4 回	安全な通信と暗号その 1	安全な通信の要件（機密性と安全性） 暗号の概要 共通鍵暗号と公開鍵暗号
5 回	安全な通信と暗号その 2	安全な通信の要件（認証と否認防止） 電子署名 認証局と公証局

6 回	デジタルデータと著作権	著作権と不正コピーの影響 著作権保護技術 HTML と XML
7 回	高度情報通信社会	高度情報通信社会の光と影 行政の情報化 ネットワークコミュニティ
8 回	医療情報システム、福祉情報システム	医療情報システム 福祉情報システム
9 回	交通情報システム、気象・環境システム、防災情報システム	交通情報システム 気象・環境情報システム 防災情報システム
10 回	デジタルコンテンツ	パッケージメディア ネットワーク型デジタルコンテンツ 電子出版
11 回	電子報道、電子図書館、デジタルアーカイブ	電子報道 電子図書館 デジタルアーカイブ
12 回	3 次元 CG、デジタルマップと GIS	3 次元 GC デジタルマップと GIS
13 回	サイバービジネス、ユビキタスコンピューティング	電子商取引 電子マネー・電子商取引のセキュリティ ユビキタスコンピューティング RFID ユビキタス ID
14 回	人工知能、データサイエンス	人工知能、データサイエンス

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学習支援システムにある資料を各自ダウンロードし、予習・復習しておくこと。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業で使用する Power Point の資料（学習支援システムで配布する）

【参考書】

奥川峻史、桜井哲真、『デジタル情報学概論』、共立出版（2000）、ISBN4-320-02994-1

<http://www.edu.i.hosei.ac.jp/~sigesada/>

いくつかこの授業の参考となるような教材を用意したので必要に応じて参照すること。

【成績評価の方法と基準】

「配分」

平常点 10 %、期末試験 50 %、レポート 40 %

「評価基準」

平常点は授業での質問など、授業への積極的な参加態度などを評価する。

レポートは冬休みの前の授業にテーマを説明するので、締め切り（冬休み明けの最初の授業の日）までに提出すること。

期末試験は筆記試験で持ち込み不可とする。試験範囲は授業の範囲とする。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

「リンクなどを使って実例をみせてもらえるとうわかりやすい」という指摘があったので、なるべく最新の情報をのせたウェブページなどの情報を提示するように心がける予定である。

また、2013 年度から授業に関連するような教材をいくつか作成し、ウェブから参照できるようにした。

【学生が準備すべき機器他】

PowerPoint を使って資料を提示しながら授業を行う。

【Outline (in English)】

Objectives of this class are to acquire broad knowledge of digital information society, and digital information technologies which support the digital information society.

Students are expected to download the materials in the learning support system and prepare for and review them. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Distribution.

Normal score: 10%, Final exam: 50%, Report: 40%.

Grading Criteria

Normal scores will be based on your active participation in class, including questions.

Reports are to be submitted by the deadline (the first class day after the winter break), as the theme will be explained in the class before the winter break.

The final exam will be a written exam. The scope of the exam will be the scope of the class. Students who achieve at least 60% of the objectives of this class based on this grading method will be considered to have passed the class.

FRI200GA

文化情報学概論

森村 修

配当年次／単位：1～4年／2単位

旧科目名：情報倫理学

旧科目との重複履修：○

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

人数制限・選抜・抽選：

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

《授業の概要》

本科目は、国際文化学部が提唱する「文化情報学」という新しい学問の「入門（introduction）」にあたる科目です。「文化情報学」とは、様々な文化現象を「文化情報」として捉え直し考察する学問です。そして、それぞれ固有の文化現象のなかに共通する新しい〈意味〉や〈価値〉を見出したり、文化現象を「文化情報」という角度から解釈し直したり、「文化情報」としての〈新しい意味〉や〈新しい価値〉を創出したりすることを目指します。

そこで、2023年度の本授業では、「カルチュラル・アナリティクス（文化分析学）とは何か?」という問いを巡って、文化情報学のあり方を考えていきます。「カルチュラル・アナリティクス（文化分析学）」とは、アメリカ合衆国で活躍しているロシア人のニューメディアのアーティスト・理論家・批評家レフ・マノヴィッチ（Lev Manovich, 1960-, ニューヨーク市立大学大学院センター・コンピュータ・サイエンス教授）が提唱している学問です。

本授業では、マノヴィッチ氏の『Instagram and Contemporary Image』（2017）を中心に、彼の「カルチュラル・アナリティクス」が、現代視覚文化の状況をどのように把握しているかを考えていきます。マノヴィッチ氏は、現代視覚文化の状況を捉えるために、Instagramを用います。彼は同書で、現代文化に大きな影響力を持っていながら、これまでの写真論ではほとんど議論されてこなかったInstagramを対象にします。彼は、2012年から2015年までにInstagramにアップロードされた約1500万枚の画像をデータ分析にかけて、新しい写真論を構築しました。さらに2020年には、その成果を発展させ『カルチュラル・アナリティクス（Cultural Analytics）』（2020）という著作を上梓しています。そこで提唱されているのは、「ニューメディアからモアメディアへ（From New Media to More Media）」ということです。

そこで本授業では、マノヴィッチ氏のInstagram論を取り上げ、『カルチュラル・アナリティクス』までの経緯を辿ることで、私たちの「文化情報学」のひとつのあり方を考えていきたいと思っています。

《授業の目的》

本科目では、レフ・マノヴィッチ氏と日本人研究者の共著『Instagramと現代視覚文化——カルチュラル・アナリティクスをめぐって』（2017）をテキストにして、マノヴィッチ氏の「カルチュラル・アナリティクス」について考えていきます。

【授業の意義】

本科目の意義は、「文化情報学」を構築するにあたって、マノヴィッチ氏の「カルチュラル・アナリティクスとは何か」という問いを検討していくことで、現代に生きる私たちがいかに視覚情報を重視しているか、また、わたしたちの文化が、ニューメディアに依存しているかを反省的に考察することにあります。

【到達目標】

(1) 本科目の到達目標は、レフ・マノヴィッチ氏の「カルチュラル・アナリティクス」の思想を学ぶことで、現代の視覚文化を、メディア論や画像分析から解析する超域的思考を身につけることを目指します。

(2) 「カルチュラル・アナリティクス」を学ぶことによって、視覚文化を含む情報文化や表象文化の領域への新しいアプローチができるようになることです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

本授業は、基本的に講義形式で行います。ただ、テーマに応じて、受講生の意見や考えを積極的に聞くことを試みたいと考えています。

(1) テキストの読解力を確認するために、ほぼ毎回「レジュメ」としてテキストの要約や考察を含む小レポートの提出を義務化しています。

(2) 受講生各自の授業内容に関する理解を確認するために、リアクションペーパーを用います。またリアクションペーパーの内容について、ディスカッションすることも考えています。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	・授業を受ける上でのガイダンスと注意点 ・授業概要説明
第2回	レフ・マノヴィッチとは誰か？(1)	・マノヴィッチ紹介 ・マノヴィッチの取り組み
第3回	レフ・マノヴィッチとは誰か(2)——『ニューメディアの言語』読解(1)	・「ニューメディア」とは何か？
第4回	レフ・マノヴィッチとは誰か(3)——『ニューメディアの言語』読解(2)	・デジタル時代のアート、デザイン、映画
第5回	レフ・マノヴィッチとは誰か(4)——『ニューメディアの言語』読解(3)	・マノヴィッチ批判としての「ニューメディアのための新しい哲学」(Mark B.N.Hansen)
第6回	『Instagramと現代視覚文化論』読解(1)	・レフ・マノヴィッチのInstagram美学
第7回	『Instagramと現代視覚文化論』読解(2)	・なぜInstagramなのか
第8回	『Instagramと現代視覚文化論』読解(3)	・カルチュラル・アナリティクスとは何か
第9回	レフ・マノヴィッチ「Instagramと現代イメージ」(1)	・メディアムとしてのInstagram
第10回	レフ・マノヴィッチ「Instagramと現代イメージ」(2)	・カジュアル写真
第11回	レフ・マノヴィッチ「Instagramと現代イメージ」(3)	・プロフェッショナル写真とデザイン写真
第12回	レフ・マノヴィッチ「Instagramと現代イメージ」(4)	・Instagramミズム
第13回	レフ・マノヴィッチ「Instagramと現代イメージ」(5)	・美的社会と顔／身体の美学
第14回	まとめ	・Instagramの行方

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・各回のテーマによって、各自に意見を聞くことがあるので、頭を柔軟にしておいてください。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

・久保田晃弘／きりとりめでの共訳・編著『Instagramと現代視覚文化——レフ・マノヴィッチのカルチュラル・アナリティクスをめぐって』、BNN、2017年

※ 受講生は、本書は授業で用いるので、各自が必ず用意すること。

・マノヴィッチ氏の論文「Instagramと現代のイメージ」(英文)は、マノヴィッチのサイトでダウンロードできる(http://manovich.net/content/04-projects/161-instagram-and-contemporary-image/instagram_book_manovich_2017.pdf)。

【参考書】

- (1) レフ・マノヴィッチ『ニューメディアの言語』堀潤之訳、みすず書房、2013年
- (2) Lev Manovich, *The Language of New Media*, The MIT Press, 2001.
- (3) Lev Manovich, *Software Takes Command*, Bloomsbury, 2013.
- (4) Lev Manovich, *Cultural Analytics*, The MIT Press, 2020.
- (5) Mark B.N. Hansen, *New Philosophy for New Media*, The MIT Press, 2004.

(6) W.J.T. Mitchell and Mark B.N. Hansen, *Critical Terms for Media Studies*, The University of Chicago Press, 2010.

【成績評価の方法と基準】

(1) 小テスト（テキストのレジュメ）などを行うことで授業の理解度を確認する。

(2) 学期末に試験（レポート）を課すことで、授業における達成度を測る。

(3) リアクションペーパーによって、授業に対する姿勢を問う。

※ 両者の結果から総合的に判断する。

ちなみに、三者の配分は、下記の通り。

(1) 小テスト（30 %）

(2) 期末試験（30 %）

(3) リアクションペーパーによる平常点（40 %）。

※この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とします

※要注意

リアルタイム・オンライン授業の場合は成績評価の方法と基準も変更します。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【その他の重要事項】

【注意点】

(1) 「文化情報学」とは、狭い意味での「情報学 (informatics)」や「情報科学 (information science)」ではありません。。

・「文化情報学」は、文化の「情報学」ではなく、「文化情報」の「学」を意味しています。したがって、「情報科学」のつもりで「情報学」を理解しないように。

(2) 私たちは、他の国の文化や他の国の人たちから学ぶだけでなく、動物や植物、地球環境から多くのものを学ぶ必要があります。こうした視点を確保するためにも「文化情報学」という考えは重要だと思います。

【注意点】

・概論としては内容も含めて授業は極めて難しいです。それゆえ、大人数にはならないとは思いますが、「カルチュラル・アナリティクス」を真剣に考え学びたい人以外は、なるべく参加をご遠慮ください。

・受講生数が多い場合は、教室のキャパシティーとは無関係に初回に選抜テストを実施しますので、受講希望者は、初回の授業に必ず出席してください。

・議論は大いに推奨しますが、仲間同士の「私語」は厳禁です。居眠りは「受講拒否」として考えますので、ご退室願います。

【Outline (in English)】

【Outline and objectives】

This class is an "introduction" of a new academic term "informatics of culture" advocated by the Faculty of Intercultural communication.

In 2023, we will examine the question of what cultural analytics is. Cultural Analytics is a discipline proposed by Lev Manovich (1960-, Professor of Computer Science at the Graduate Center of the City University of New York), a Russian artist, theorist, and critic of new media. In this class, we will consider Manovich's **Instagram and Contemporary Image**(2017), using his "**Cultural Analytics**" method to consider the state of contemporary visual culture.

【Learning Objectives】

At the end of the course, students are expected to examine a theory of visual culture.

【Learning activities outside of classroom】

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

【Grading Criteria /Policy】

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination: 30%, Short reports : 30%, in class contribution: 40%

FRI200GA

情報産業論

今和泉 仁

配当年次/単位：1～4年 / 2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

人数制限・選抜・抽選：

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

【授業の概要】

現代生活において、情報産業やメディア産業は非常に重要な役割を担っている。また情報産業は、高度に技術革新することにより、常に変化し続けている。これらの構造や課題、将来を理解することは、消費者やビジネスマンとして、技術や市場トレンドの動向に対応して、より良い判断をするために重要である。本講座では、メディアを中心とする情報産業における産業構造、ビジネスモデル、問題点、未来の展望などを理解することを目指す。授業の中では、業界トレンド、テクノロジーの進化、市場動向、企業戦略などについて学習することができる。

【授業の目的 (何を学ぶか)】

1. メディア産業の変遷と現状: 過去から現在までのメディア産業の変遷を追い、現在のメディア産業の状況を理解する。
2. メディア技術の変革: 情報技術の進歩によって、メディア産業にもたらされた影響と、それによって変革されたメディア技術、その光と影について理解する。
3. メディアビジネスモデル: 新たなメディア技術に伴い、メディアビジネスモデルが変革していることを理解する。また、有料・無料・広告収入などのメディアビジネスモデルの種類と特徴について学ぶ。
4. メディア業界のグローバル化: メディア産業はグローバルな市場を持つようになっており、欧米におけるメディア産業の状況と、国内市場に与える影響、各国間でのメディアの共有・流通に関連する課題について理解する。

【到達目標】

- ・ デジタル技術がもたらしたメディア産業への変化への理解
- ・ 4K/8K、HDR、VoIP、Cloud Production などの放送を変革する技術動向への理解
- ・ CES、MWC、NAB、IBC などのメディア関連見本市の動向についての理解
- ・ OTT、SVOD、AVOD、FAST、D2C などの新しいメディアビジネスモデルの理解
- ・ Netflix や Disney+などの欧米のメジャープレイヤーと TVer や Abema など国内の事業者の現状への理解
- ・ インターネットによるメディア産業への負の影響としての違法配信とその対策についての理解
- ・ 地球温暖化対策が求められる中でのメディア産業の対応の状況と将来の課題への理解
- ・ 放送事業者にとっての digital-first とは何か、放送の将来像への理解

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

授業については対面授業を基本とし、基本的に、コロナ禍対策（消毒およびソーシャルディスタンスの確保等）を講じた上で、プロジェクターを使用してPCでのスライドや動画を活用します。題材は、国内外の最新情報を元に、適宜、インターネットの外部サイトに接続して具体的な事例を紹介し、講師が参加する CES (米国ラスベガスで1月開催)、Mobile World Congress (スペイン・バルセロナで2月開催)、NAB (米国ラスベガスで4月開催)、IBC (オランダ・アムステルダムで9月開催) などのメディア系海外見本市で取材した最新動向、海外のスタートアップ企業への取材結果など、他では得られない生の情報を紹介します。一方的に情報を伝えるだけでなくできるだけリアクティブな授業としたいので、毎回、授業後に感想や質問をメモで提出してもらい、それについて次回の授業冒頭で答えていく形を基本とします。また、例年5月末に開催されている NHK 放送技術研究所 (世田谷区砧) の一般公開に各自参加してもらい、持ち出し授業とします。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	デジタル技術とメディアの変遷	自己紹介を兼ね、講師が担当した様々な放送・メディア関連事業からメディアの変遷やトレンドの全体像について触れる

第2回	放送事業を変革する最新技術の理解	4K/8K、HDR、VoIP (Video over IP)、クラウド・プロダクション等、今日の放送事業に大きな影響を与えている技術動向を紹介
第3回	海外のメディア関連見本市から①	CES、MWC、NAB、IBC などのメディア関連見本市で取材した最新の技術やサービス動向について紹介
第4回	海外のメディア関連見本市から②	CES、MWC、NAB、IBC などのメディア関連見本市で取材した最新の技術やサービス動向について紹介
第5回	コンテンツ販売ビジネスについて知っておくべきこと	放送コンテンツの二次利用としてのコンテンツ販売における著作権処理、メディア素材の管理、デリバリー方法などについて知る
第6回	Netflix と VOD 事業の構造	Netflix、Amazon Prime Video 等の VOD 事業の構造、変遷、トレンドなどについて理解する
第7回	NHK 技研公開持ち出し授業	5月下旬に開催される NHK 技研公開に各自参加し、そこで見たものについてレポートを提出
第8回	Connected TV と FAST チャンネル	インターネット接続ができる CTV (Connected TV) の普及と急拡大する FAST (広告付き無料配信) チャンネル事業について紹介
第9回	AI が変えるメディアビジネス+ 講義前半の Q&A とまとめ	ChatGPT や Bard、DALL-E などの AI がメディアビジネスに与える影響+ 講義前半の内容に寄せられた質問に対する Q&A とまとめ
第10回	BBC の digital-first 戦略と放送の将来	英国 BBC の戦略を中心とした、欧米の放送事業者たちの Netflix への対抗戦略、放送の将来像の模索について学ぶ
第11回	ストリーミングによる負の影響・違法配信の実態と対策	日本の放送が海外でも視聴できてしまう・著作権を無視した違法配信の実態と、それに対する対策について紹介。
第12回	メディア産業のネットゼロ対策	コンテンツ制作時における温暖化ガス排出量削減を図るための諸外国の取り組みと日本の現状について紹介。
第13回	バーチャルプロダクションの世界	撮影時の CO ₂ 排出量削減に寄与するバーチャルプロダクションとは? その背景技術とトレンドを紹介。
第14回	前期授業のまとめとレポート課題の説明	半期を通して行った講義のまとめ、レポート用課題説明

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

新聞やテレビ、ネット情報などに常に興味を持ち、直接触れることと合わせ、国内の各メディア・サービスの状況について、実際に利用し、日常的に理解を深めておく事。授業内で答えた質問や配布する資料について復習を通して理解を深めておく事。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

特にありません。毎回パワーポイントのスライドや動画を活用します。

【参考書】

テレビ番組、新聞、雑誌、書籍、インターネット上に流れている情報。TVer、Abema TV など国内で提供されているメディア関連サービスを実際に体験しておくこと。

【成績評価の方法と基準】

出席率 (40%)、毎回の講義の後に提出してもらった質問や感想文 (10%)、NHK 技研公開持ち出し授業のレポート (10%)、期末のレポート (40%) によって成績を評価します。レポート提出は必須です。期末レポート内容については、授業を通して得られた知識や情報をどのように理解し自分の考えにまとめているかと共に、なぜ、そのような結果になったかが分かりやすく伝わるように整理されて記載されているかを見て評価します。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60%以上を達成したと判断した者を合格とします。

【学生の意見等からの気づき】

毎回、講義終了後に、メモで授業の感想と質問を提出してもらいます。感想や質問については、一部や次の授業冒頭に引き上げ、質問内容に答えますが、第9回でそれまでに受けた質問や感想を紹介し、理解の促進を図ります。

【学生が準備すべき機器他】

特にありませんが、Netflix や Amazon Prime Video などの有料サービスに体験加入して見ることをオススメします。

【その他の重要事項】

パワーポイントのスライドや動画を多用し、出来るだけ分かりやすくビジュアル化した授業とする予定です。

【Outline (in English)】

[Course outline]

The information and media industries play a very important role in modern life. In addition, the information industry is constantly changing due to high levels of technological innovation. Understanding their structure, challenges and future is important for making better decisions as consumers and business people in response to technological and market trends. This course aims to provide students with an understanding of the industrial structure, business models, issues and future prospects in the media and other information industries. During the course, students will learn about industry trends, technology evolution, market trends and corporate strategies.

Objectives of the class (what you will learn).

1.The evolution and current state of the media industry: to follow the evolution of the media industry from the past to the present and to understand the current state of the media industry.

2.Understanding the impact of advances in information technology on the media industry, and the ways in which media technology has been transformed by these advances, its lights and shadows.

3.Media business models: understand how media business models are being transformed by new media technologies. Also, learn about the types and characteristics of media business models such as paid, free and advertising revenue.

4.Globalisation of the media industry: the media industry has become a global marketplace, and students will understand the state of the media industry in Europe and the US, its impact on domestic markets, and issues related to the sharing and distribution of media between countries.

[Learning activities outside the classroom].

To deepen your understanding of the current development of media services on a daily basis by always being interested in newspaper, television and internet news sites. To deepen your understanding by revising the questions answered in class and the materials distributed. The standard study and revision time for each lesson is 2 hours.

[Grading Criteria / Guidelines]

Grades are determined by class attendance (40%), number of questions submitted per class session (10%), a short report on the NHK Science & Technology Lab Open House (10%), and an end-of-term report (40%).

FRI200GA

ネット文化論

神戸 雅一

配当年次／単位：1～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：初回講義のミニレポート提出者から抽選で履修者を決定します。抽選の結果は秋学期の履修登録期間までに学習支援システムのお知らせで通知します。

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

インターネットがスマートフォン等のデバイスとともに発展し、我々の生活スタイルは大きく変化しています。このような社会を「ネット社会」と呼びます。ネット社会の特性とその本質を理解することは、現代社会の動向に対して主体的に活動するために重要です。

本講義では通信ネットワークやコンピュータスマートフォンを基盤とするインターネットの仕組みや歴史、その特性について扱います。また、ネット社会における、価値観、経済活動、合意形成、それを支える情報システムの重要性、知的財産権、プライバシー、倫理、技術について講義します。こうした内容を理解し、ネット社会を構築する文化についての多面的な思考を深めていきたいと思います。

本講義が対象とする領域は、極めて変化が激しいものです。社会的・技術的な課題も日々発生します。こうした課題に対する正解は必ずしも存在するわけではありません。したがって本講義は単なる知識の獲得のみを目的としません。社会で生じている事象の本質を捉え、自らの視点で解釈し、日常生活に対する思慮を深めることを主な目的とします。

【到達目標】

日々変化をするネット社会のなかで合理的な行動を行うために、自らにとって重要な情報の選択基準を持続的に構築する考え方の習得を目標とします。また、講義で扱われるネット社会の事例に対し、受講者自らの意見を論理的に説明することや課題を設定し解決案を検討することも目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

本講義は、リアルタイムオンラインおよび対面で実施します。ネット文化に関する話題をプレゼンテーション形式で紹介し、プレゼンテーション形式での実施ですが、講義で紹介した話題に対し、受講者が問題意識を持つ主体的に考えることを期待します。受講者からの質問については、随時受け付けます。また各回の講義の最後にも時間を設けますので疑問点や詳細に知りたい事項があれば、積極的に質問してください。

毎回の講義の開始時に、講義の内容に関連するミニレポートの題目を提示しますので、講義終了後に提出してください。講義の初めに、前回のミニレポートの内容を取りまとめ、受講者の方にフィードバックします。

期末に、ネット文化に関し、自らの意見を論じるレポートの提出を課します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	ネットワークと文化の概要	ネットワークの基礎、ネットワーク構造と組織構造等の社会事象や文化の関係について講義します。
2	インターネットとパーソナルコンピュータの歴史	現代の情報化社会を支えるインターネット技術と応用の歴史とパーソナルコンピュータの歴史について講義します。
3	無線通信とコンピュータの歴史	情報化社会の新たな発展の契機となった携帯電話を中心とした無線通信とその応用事例について講義します。
4	ネットワークによる社会的価値の変化	携帯電話の普及によるネットワークの拡大のメカニズムとそれに伴う社会的価値の変化について講義します。
5	ネットワークと経済活動	インターネットの普及による経済活動の変化について、ECなどのビジネスの事例を中心に講義します。
6	ネットワーク時代の情報サービス	ネットワーク化し高度化する情報サービスの概念とその効果や課題について多面的な事例を扱い講義します。
7	ネットワークとグローバル化	ネットワークの普及がもたらすグローバル化という変化について講義します。
8	ネットワークによるグローバル化の影響	グローバル化した社会およびグローバル化後の社会における人工知能等の技術の進展の影響について講義します。

9	ネットワークによる合意形成	ネットワークによる合意形成とイノベーションについて、政策決定や、企業内の合意形成の事例を交え講義します。
10	ネットワーク時代の知的財産権	特許、実用新案等の産業財産権ならびに著作権の概要とネットワークとの関係について日常生活における事例を交え講義します。
11	ネットワークとプライバシー	プライバシー保護の制度や運用事例を紹介し、ネットワークの普及に伴い新たに生じるプライバシー問題、対策について講義します。
12	ネットワークと情報倫理	ネット社会の情報倫理の概念と、制度、技術、運用による社会秩序について、身近な事例を提示し講義します。
13	ネット文化論のまとめ	12回までの講義のエッセンスをまとめて補足説明します。
14	ネットワーク時代の金融サービス	ネットワークやAIが金融サービスに与えた影響について講義します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

初回講義の際に本講義が対象とする領域および各回の講義テーマを紹介いたします。各回の講義テーマに関連する事象に日常的に関心を持ち、準備・復習をしてください。本授業の準備・復習時間は各2時間を標準とします。ネット文化に関するニュースやWebサイト等を日頃から関心を持って読み・聞き、そして考え、各回の講義終了時に提出するミニレポート、期末の課題に反映させてください。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しません。各回の講義に対して資料を配布します。

【参考書】

講義で紹介した内容についてさらに理解を深めたいという受講者のために各回の講義ごとに参考図書を紹介いたします。

【成績評価の方法と基準】

期末の試験の受験あるいはレポートの提出のいずれかを単位取得の条件とします。成績の評価基準は下記の比率に基づいて行います。

1. 期末試験または期末レポート：70%
講義を通じてネット文化論に関するテーマについて、自らの意見を論理的に記述してください。試験、レポートのどちらの方法にするかは、講義中にお知らせします。
2. 平常点：15%
講義への関心、参加度を評価し平常点とします。
3. ミニレポート15%
毎回の講義内容を理解し、講義内容に即した設問に対して、自分の意見をミニレポートに記述し提出してください。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とします。

【学生の意見等からの気づき】

講義後に提出いただくミニレポートの内容を、次回の講義の冒頭に受講者の方にフィードバックします。これにより講師と受講者のインタラクションを図るようにしています。これ以外にも講義時に質問など議論したいことがあれば可能な限り応じます。積極的にチャット等を利用し声をかけてください。

【学生が準備すべき機器他】

対面のほかリアルタイムオンライン講義で実施するため、Zoom等で講義を視聴できる受講環境をご用意ください。

【その他の重要事項】

本講義はリアルタイムオンラインおよび対面で実施します。リアルタイムオンライン講義の内容の録画の公開はしません。リアルタイムで受講環境が確保できない場合は、各回の講義で使用するプレゼンテーション資料の大半をPDFで配布しますので、それをもとに講義の内容を学習してください。また、リアルタイムで講義を受講できない場合であっても、各回のミニレポートの期限内（講義日の当日）の提出をもって受講の履歴として確認することとします。

【Outline (in English)】

-Course outline

This course introduces a way of thinking to make appropriate decisions dealing with ever changing world. The goal of this course is to explain effects, problems and solutions for these problems of "information network society."

-Learning Objectives

In order to act rationally in the ever-changing Internet society, the goal of this course is to acquire the way of thinking to continuously construct criteria for selecting information that is important to oneself. The course also aims to enable students to logically explain their own opinions on the cases of the Internet society dealt with in the lecture, and to set up issues and consider solutions.

-Learning activities outside of classroom

In the first lecture, I will introduce the areas covered in this course and the lecture themes for each session. Students are expected to pay attention to events related to each lecture theme on a daily basis, and to prepare and review for the class. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each. Please read, listen to, and think about news and websites related to Internet culture with interest on a daily basis, and reflect them in the mini-report to be submitted at the end of each lecture and in the final assignment.

-Grading Criteria/Policy

Students will be required to take a final exam or submit a report to receive credit. Grades will be based on the following ratio:

1. Final exam or report: 70%.

Students are required to logically describe their own opinions on topics related to Internet culture through lectures. You will be informed during the lecture whether you will be given an exam or a report.

2. Ordinary points: 15%.

Students will be evaluated on their interest and participation in the lecture.

3. Mini-report: 15%.

Students are expected to understand the content of each lecture, and submit a mini-report describing their opinions on questions related to the lecture content.

Students who have achieved at least 60% of the objectives of this class will be graded on the basis of this grading system.

ART200GA

表象文化概論

稲垣 立男、大嶋 良明、島田 雅彦、林 志津江

配当年次／単位：1～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

人数制限・選抜・抽選：初回の授業に出席すること

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「表象文化」とは人間が様々なメディアや方法によって創造する行為、またその行為を通じて生み出されたものを指します。各講義では、文学、美術、演劇、音楽、映像芸術、漫画などの領域を扱いますが、特定の分野にとらわれず芸術や文化、社会について横断的に検証していきます。それらの表現手法、歴史的変遷などを辿りながら、内包している意味、欲望、人々に与える影響などを解き明かしてゆくことを目指すのが「表象文化概論」です。

4人の教員による4分野の表象を扱いつつ、表象文化論の基本について学ぶことを目的とします。

【到達目標】

この講義は、入門科目「国際文化情報学入門・表象文化コース」からつながる学びのプロセスとなります。この講義を通じて表象文化に関する多様な考え方を理解し、各専門科目でさらに踏み込んだ研究を継続することが望ましいと考えます。各講義を通じて各自の関心のある領域で今後の専門研究が進められるように導きます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

大学の行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

初回は対面で、担当教員が各自の講義について詳しく解説します。第2回～第13回までは、各担当教員が3回ずつ対面（一部リアルタイム・オンライン）で講義を行います。課題は各教員から出され、フィードバックも各教員から行います。

第14回は対面で、講義のまとめを行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス 担当：全員	「表象文化概論」の4名の担当者全員がそれぞれの授業計画の概略と履修上の諸注意について説明します。
第2回	欲望の音楽（1）：「私が主人公」 担当：林志津江	合唱とフランス革命と「第九」、市民階級と啓蒙の世紀、「私の思いを音楽に託す」作曲家
第3回	欲望の音楽（2）：「国民的」音楽？ 担当：林志津江	音楽学校は何のため？、作曲家と演奏家の分離、「『美しい』芸術が私の人生を充実させる」？
第4回	欲望の音楽（3）：アイデンティティあるいはプロパガンダ 担当：林志津江	音楽の「一体感」、録音術が音楽について決定的に変えたもの、戦争と近代オリンピックと音楽のゆくえ
第5回	フィールドワークと表現（1） カメラを持って旅に出よう。 担当：稲垣立男	・カメラやスマートフォンで記録。 ・記録としての写真について、多様なテーマを通じて体験的に学びます。

第6回	フィールドワークと表現（2） 担当：稲垣立男	・スケッチブックの使い方 ・スケッチブックに、様々な現象や感情などを記録をしていきます。 す。
第7回	フィールドワークと表現（3） 音や動きを拾うことから。 担当：稲垣立男	・音や動きを追いかけることをきっかけとして、何かを始めてみます。 ・お互いの行為や作品についてディスカッションしてみます。
第8回	電子音楽とコンピュータ（1）担当：大嶋良明	電子音楽の発展史を概観し、電子楽器やコンピュータとの関連性を学ぶ。
第9回	電子音楽とコンピュータ（2）担当：大嶋良明	テルミン（Theremin）、 Hammondオルガン、モータースンセサイザなど電子楽器の系譜を学ぶ。
第10回	電子音楽とコンピュータ（3）担当：大嶋良明	電子音楽の学際的研究拠点 CCRMA が及ぼした影響とその功績を、デジタルシンセサイザーの開発研究とコンピュータ音楽の制作環境を中心に学ぶ。
第11回	形式論 担当：島田雅彦	音楽、文学、哲学における形式について 起承転結、ソナタ形式と弁証法
第12回	空間論 担当：島田雅彦	想像上の空間についての考察 あの世、パラレルワールド ニッチ論
第13回	時間論 担当：島田雅彦	時制、多元宇宙論 1日はいつから始まるか？ 時間は存在しない？
第14回	表象文化概論発展編 担当：全員	四人の教員が、それぞれの研究分野について紹介します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各担当教員が指示します。

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業全体を通して用いるテキストはありません。

各担当教員が初回の講義時に指示します。

【参考書】

参考書については各担当教員が指示します。

【成績評価の方法と基準】

各担当者が担当回の成績を25点満点で示し、合計で100点満点で成績をつける。

平常点、課題、試験の割合や評価方法については、各教員が授業開始前までに伝える。

この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

担当者交代のため、該当しません。

【学生が準備すべき機器他】

・学習支援システムを利用します。

・スマートフォン、鉛筆、シャープペンシル、ペンなどを持ってきて下さい。カラーの鉛筆やペンがあればよりよいと思います。（稲垣）

【その他の重要事項】

・初回のガイダンスにかならず出席してください。初回の授業の課題提出が選抜試験を兼ねるので、受講希望者の初回授業の出席は必須です（受講者数上限は今年度授業実施教室の収容可能人数と同数）。

・初回と最終回の授業は、今の時点では「対面」で実施の予定ですが、新型コロナウイルス感染症の状況次第ではオンラインでの実施となります。実施形態については事前に授業支援システムで通知します。

【Outline (in English)】

・Course Outline: This is an introductory course of the studies of culture and representation, structured around four major units taught by four different instructors: theater, photography, art, and music. It thus aims at fostering students' awareness of the wide range of the field, as well as introducing some of the basic concepts and approaches in the discipline.

· Learning Objectives: On the basis of the skills and perspectives acquired in the 'Introduction to Intercultural Communication', students will be expected to understand various ideas of representational culture to use for further study in the advanced courses. Four instructors will help students find interesting subjects they can explore in a more specific field.

· Learning activities outside of the classroom: Follow the instructions provided by each instructor.

· Grading Criteria/Policy: Four instructors will give students marks in their own way, and the sum of the marks will be the final. For a detailed scoring policy, ask each instructor.

DES200GA

メディアと情報

君塚 洋一

配当年次／単位：1～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
人数制限・選抜・抽選：

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代社会におけるコミュニケーションを成り立たせるメディアと情報の特性とはたらきをさまざまな分野の考察を通して理解し、生活者として、また社会や市場への幅広い発信に携わる職業人として、メディアに対する姿勢とその活用の基礎を習得する。

【到達目標】

以下3点を目標とする。

- 1) 身の回りで起こるメディアを介したコミュニケーションのメカニズム、メディアのはたらきを自覚する。
- 2) 環境の監視、事業や制度の運営、文化の共有など、社会においてさまざまな目的のために行われるメディア・コミュニケーションの必要性と問題性の両面を学習する。
- 3) メディア・リテラシーの視点を身につけ、メディアと情報のもたらす現象について客観的な評価を行えるようにする。あわせて、あらゆる社会的活動に不可欠となる他者からの理解と支持を得るための情報発信（PR＝パブリック・リレーションズ）の視点を持てるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

この科目は、7回の「対面」授業と7回の講義動画の配信（オンデマンド）の組み合わせによりすすめる。下述のとおり、教室の収容人数を超え、教室変更が不可能である場合は、選抜を行う。

おおむね2回の授業で1つのテーマを扱い、各テーマについて対面授業とオンラインの組み合わせで、説明や解題、質疑、受講生のコメント紹介などを行う。対面授業は第2回よりほぼ1回おきに行う（第8回はふりかえりレポート課題のためオンライン、11回テーマは1回のみで対面など、イレギュラーな回もあることに注意してください）。

授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパー（小課題）からいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

*

メディア史やメディア論の基礎をふまえ、映像、ニュース、広告、SNSなどの具体的な題材を通して、情報テクノロジーと社会・文化のあり方、生活者のメディア利用行動やリアリティ意識の変容、市場情報システム、IT化の進むメディア産業の帰趨など、情報化社会とメディア・人間をめぐるさまざまな問題を考える。

また、著作権をはじめとした知的財産権の取扱いや、個人情報やプライバシーの保護、インターネット等メディアの活用において求められるモラルなど、情報倫理の問題についてもあわせて考えていく。

テーマに関連した資料映像を適宜鑑賞しながら学習する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	講義のテーマと履修上の注意
第2回	メディアとは何か-1	メディアとは何か？ 何がメディアになるのか？

第3回	メディアとは何か-2	何がメディアになるのか？ メディアの種類（タイプ）
第4回	コミュニケーションとは何か-1	コミュニケーションのさまざまなモデル、その成否を決める要因（1）
第5回	コミュニケーションとは何か-2	コミュニケーションのさまざまなモデル、その成否を決める要因（2）
第6回	情報（ニュース）-1	情報とは何か？ どんな要件を満たせばニュースになるのか？ 社会におけるニュースの役割・機能
第7回	情報（ニュース）-2	マス・メディアの報道におけるニュースの要件
第8回	ふりかえりレポート-1	第1回～第7回のふりかえりレポート
第9回	パブリック・メディア-1	プロパガンダ（宣伝）と広報（PR） ／近年の推奨コミュニケーションの問題
第10回	パブリック・メディア-2	環境の監視とジャーナリズム
第11回	ソーシャル・メディア	ソーシャル・メディアのはたらきと問題
第12回	メディア・リテラシー-1	共感をシェアするコミュニケーションとは？
第13回	メディア・リテラシー-2	社会をより適切に理解するコミュニケーションとは？ ・ポスト真実／フェイクニュースの拡散と影響など
第14回	まとめ ふりかえりレポート-2	1. 情報源＝メディアを識別して扱う 2. 「ファクトチェック」を行う 3. メディアと感情 4. メディアのはたらきをどう考えるか？

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- 1) インターネット、マスメディア、都市空間などにおいてさまざまなメディア表現にふれ、そのねらいや影響について考える習慣を身につける。
- 2) あるメディア表現について、オーディエンス、送り手・作り手（媒体社、広告会社等）の双方の立場からとらえる視点・発想の転換を行えるよう心がける。
- 3) 前半の1回では、自分が注目したマス・メディアのニュース、まわりの人と話題にしたニュースをピックアップして提出し、授業の題材とする。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

原則として使用しない。

【参考書】

- ・石田英敬『大人のためのメディア論講義』ちくま新書、筑摩書房、2016年
- ・法政大学大学院メディア環境設計研究所編『アフターソーシャルメディア 多すぎる情報といかに付き合うか』日経BP、2020年
- ・ダニエル・ブーニユー『コミュニケーション学講義——メディアロジーから情報社会へ』書籍工房早山、2010年
- ・鈴木みどり編『Study Guide メディア・リテラシー 入門編』リベルタ出版、2000年
- ・竹内郁郎・児島和人・橋元良明編著『新版メディア・コミュニケーション論1』北樹出版、2005年
- ・笠原和俊『フェイクニュースを科学する——拡散するデマ、陰謀論、プロパガンダのしくみ』化学同人、2018年
- ・カリン・ウォール＝ヨルゲンセン『メディアと感情の政治学』勁草書房、2020年
- ・立岩陽一郎、揚井人文『ファクトチェックとは何か』岩波ブックレット No.982、岩波書店、2018年

【成績評価の方法と基準】

毎回の小課題の提出（約 40 %）、ふりかえりレポート（2 回：約 60 %）を課す。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60 %以上を達成した者を合格とする。ただし、7～8 割以上の小課題の提出、2 回のふりかえりレポートの提出を単位要件とする。

【学生の意見等からの気づき】

メディアと情報について理論と実際の双方を扱うため、とりわけ前者はこの分野の基礎を習得した人でないとやや理解しにくいところがあるかと思う。より平易に伝える努力をする。

毎回、テーマに関わる映像資料、配布資料を用意しており、これらは理解の助けになっているようである。

また、メディア業界における実務について映像を中心に具体的に理解する回を設けているが、業界に関心がある人には好評のようである。

【学生が準備すべき機器他】

とくになし。

【その他の重要事項】

メディアやさまざまな作品表現に興味を持つ学生の受講を希望する。メディア論についての基礎的知識を持っていることを前提とした中級者向けの講義を行う。

【受講上の留意点】

本科目は、対面授業、講義動画、授業内課題、ふりかえりレポートの 4 つで成り立つ。テーマについて高い関心を持ち、積極的なレスポンスと活動を行う意欲のある受講者を求める。

【受講者の選抜】

初回授業は対面授業を実施しない。学習支援システム等で資料を掲示する。受講者数が定員を超過する場合は教室変更を行うが、それが困難な場合は初回授業の課題をもとに選抜を行う。

【Outline (in English)】

Students are advised to understand the characteristics and functions of media and information that make communication in modern society through consideration of various fields. And also they should learn the attitude towards media and the basis of their use as consumers, as future professionals engaged in broad dissemination to society and markets.

*

Learning Objectives

- (1) To become aware of the mechanisms of communication through the media that occur in our daily lives and the functions of the media.
- (2) Learn about both the necessity and problems of media communication, which is used for various purposes in society, such as monitoring the environment, managing businesses and institutions, and sharing culture.
- (3) Students need to acquire the perspective of media literacy and be able to objectively evaluate the phenomena brought about by media and information. At the same time, students need to be able to take the perspective of public relations (PR) to gain the understanding and support of others, which is essential for all social activities.

*

Learning activities outside of classroom

- (1) Acquire the habit of thinking about the aims and effects of various media expressions on television, the Internet, and in urban spaces.
- (2) Students will try to change their perspective and ideas about a certain media expression from the standpoint of both the audience and the sender/producer (media company, advertising company, etc.).
- (3) In the first half of the class, students will be asked to pick up news about mass media that they have paid attention to, or that they have talked about with others, and submit them to the class. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

*

Grading Criteria/Policy

Students will be required to submit small assignments each time (approx. 40%) and to write a review report (twice: approx. 60%). Based on this grading method, students who have achieved at least 60% of the achievement goals of this class will pass the class. However, students are required to submit at least 70-80% of the small assignments and two retrospective reports for credit.

ART200GA

社会と美術

稲垣 立男

配当年次／単位：1～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

人数制限・選抜・抽選：

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈ダ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国際文化学部基幹科目「社会と美術」は、みなさんが普段接する機会の少ない新しい表現の世界についての見方や考え方のきっかけとなる入門的な内容の講義となります。特に、21世紀以降に注目されている社会と芸術との関係を扱ったアートの世界に焦点を当てていきます。また、演劇などのパフォーマンス・アーツ、音楽、建築などの表象の世界に関する様々な事例を参照し、社会と芸術との接点やその関係性について学びます。

「近現代美術の歴史と理論」と「現代社会の課題と美術」の2つのテーマを軸として、各領域のキーワードからそれぞれの課題や問題を検討、議論します。

第一部

「近現代の芸術史と理論」では、芸術について学ぶ上での基礎となる18世紀から21世紀の近現代の芸術の歴史と理論について学びます。

第二部

「現代社会の課題と美術」では、社会や時代を映す鏡としての芸術表現と現代社会との関係について具体例を交えながら学びます。21世紀以降に注目されている社会と芸術との関係を扱ったアートの世界に焦点を当てていきます。

【到達目標】

過去から現在に至る美術史と現代社会と美術に関する身近な事例を紹介していきます。美術史の営みを理解すること、私たちの周辺にある身近な問題から普遍的、社会的な課題を見いだすことがこの講義の目標となります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

講義映像や資料をウェブサイトに授業コンテンツを全て掲載して一定期間公開し、それをみながら授業を受講してもらうオンデマンド方式にします。PC、スマートフォンどちらでも受講可能ですが、PCでの学習を推奨します。

授業当日の流れ（重要）

1. 指定された公開日に、Google Classroom にその日の学習内容を掲載したウェブサイト（Google site）のリンクを掲載する。
2. ウェブサイトを見ながら学習を進める。（当日であれば、授業時間外に学習しても構いません。）
3. Google Classroom に授業に関連した小テストや授業内レポートのリンク（Google Form）が掲載されているので、回答して提出する。
4. 授業内容に関する質問については、Google Form に書き込んでおくと回答します。

授業の方法

授業時間になると Google Classroom を通じて必要なリンク先や課題の提出について公開します。公開したウェブサイトに関連したテキストや授業概要の映像（YouTube、40 - 60分程度）、必要な画像やウェブサイトのリンク先などが掲載されていますので、そのサイトを見て学習を進めてください。ウェブサイトは年度末まで公開しておきます。

対面授業とオンライン授業内容の違い

学ぶ内容については同一です。シラバスで授業の内容を確認してください。

課題

受講後、Google Form で小テスト、もしくは簡単なレポートを提出してもらいます。提出期間は授業終了後数日程度です。

評価

実習課題とレポートの提出をもって出席とし、採点を行います。

質問・相談

一般的な質問や相談については Google Classroom を使ってください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	社会と美術について 講義内容について、進め方と方法、評価方法と基準
第2回	近現代美術の歴史と理論 1 近代美術の誕生（古典主義、ロマン派、写実主義、印象派）	近代の始まりと芸術運動に関する講義を行います。近代は、市民革命と産業革命によってその幕が落とされました。その頃に起こった古典主義、ロマン主義、写実主義、印象派の芸術は、近代というコンセプトを徐々に体現していきます。授業では近代社会の変化を参照しながら、これらの芸術運動について学んでいきます。
第3回	近現代美術の歴史と理論 2 アバンギャルドの時代 I（フォービズム、表現主義、キュビズム）	印象派以降のフォービズム、表現主義、キュビズムを中心に、第一次世界大戦前の芸術運動の流れについて学びます。画家たちはより自由な表現を求めて様々な実験を始めます。ポスト印象派と呼ばれた画家のゴッホ、ゴッホ、セザンヌは、印象派以降の20世紀の前衛芸術運動に大きな影響を与えました。
第4回	近現代美術の歴史と理論 3 アバンギャルドの時代 II（未来派、ダダイズム、シュルレアリズム、ロシア構成主義、バウハウス）	ロシア革命前後のロシア構成主義とシュプレマティズムについて、また第一次世界大戦前後のアバンギャルド芸術運動（前衛芸術）である未来派、ダダイズム、シュルレアリズムについて学びます。この時代には現代アートの基となるコンセプチュアルな発想や、パフォーマンスやインスタレーションの原型となるようなアイデアが登場します。
第5回	ワークショップ 1 遠近法	近代美術の誕生、アバンギャルドの時代 I、アバンギャルドの時代 II の講義内容の確認をします。
第6回	近現代美術の歴史と理論 4 戦後アメリカ美術（抽象表現主義、ネオダダ、ポップアート）	第二次世界大戦で大きなダメージを受けたヨーロッパに代わり、経済力を背景にアメリカが現代芸術の中心地となりました。抽象表現主義、ネオダダ、ポップアート、ミニマル、コンセプチュアルアートなど、アメリカを中心として登場した芸術運動に加え、アンフォルメル、ヌーボー・リアリズム、アルテポーベラなどヨーロッパの動向についても学びます。
第7回	近現代美術の歴史と理論 5 1960年代 市民運動と新しい動向（ミニマル、コンセプチュアルアート、ハプニング、パフォーマンスアート）	1960年代になるとアフリカ系アメリカ人公民権運動、ベトナム反戦運動、女性解放運動、LSDを使った平和を訴えるフラワーパワージェネレーションなどの市民運動が盛んになります。この時代には絵画や彫刻ではない表現が多く登場します。概念的なアートや、ハプニング、パフォーマンスアート、社会関与などの動向が多く登場します。

- 第 8 回 近現代美術の歴史と理論 6
多文化の時代（ポストミニマリズム、新表現主義、関係性の美術、ソーシャリー・エンゲージドアート）
- 第 9 回 ワークショップ 2
新しい時代の芸術表現
- 第 10 回 現代社会の課題と美術 1
政治への課題
- 第 11 回 現代社会の課題と美術 2
ジェンダーとアート
- 第 12 回 現代社会の課題と美術 3
環境問題と美術
- 第 13 回 現代社会の課題と美術 4
感染症パンデミックの時代
- 第 14 回 ワークショップ 3
現代社会と芸術表現

1980 年代に、アメリカのコマーシャル・ギャラリーから生まれたムーブメントである新表現主義について学びます。また、ミレニアム前夜にイギリスとヨーロッパで発生した二つのムーブメント（Young British Artist / リレーショナルアート）についての理解を深めます。21 世紀に入り、ソーシャリー・エンゲージド・アートやソーシャル・プラクティスという社会に関与する芸術運動が盛んになっています。

戦後アメリカ美術、60 年代／市民運動と新しい動向、多文化の時代の講義内容に関する確認をします。

第二次世界大戦前には社会主義国のソビエト連邦が国家となり、ドイツにはナチス党が台頭しました。戦争に至る思想統制の中、これらの国々の自由な芸術の精神は、弾圧を受けることとなります。ベルリンの壁崩壊以降のアートの動きや近年の表現の自由をめぐる論争など、プロパガンダ、社会主義リアリズム、戦時中から現在までの文化政策の変化など政治課題と美術について学びます。

社会的・文化的な性区別を指す「ジェンダー」、性的マイノリティ（性的少数者）を表す総称である「LGBTQ」についての言及は一般的になってきていますが、現在でもジェンダーフリーや性的マイノリティの自由は十分に実現されていません。こうした課題に芸術が関与し、社会が自由を獲得するためのプロセスについて考えます。私たちは古くから自然を観察して芸術作品の主題としてきました。また自然主義の考え方やランドアートの試みなど、自然から多くのヒントを得ています。近年、地球の温暖化などの環境問題を身近な出来事と捉え始めています。アートを起点とした環境問題へのアップ・ローチを考察します。

2020 年以降、私たちは新型コロナウイルス感染症拡大の中で生活をしています。私たちにとってパンデミックは現在最も関心のあるテーマですが、過去にも天然痘、ペスト、スペイン風邪、エイズなどが世界中に大きな打撃を与えました。感染症の起こす社会的課題と各時代のアートが感染症をどのように表してきたのかを関連づけて学びます。

14 回の講義について振り返り、芸術と社会の問題についてディスカッションをします。

【テキスト（教科書）】

Google site を通じて授業に必要な資料を配布します。いくつか参考書を紹介しますので、それらのうち少なくとも一冊を選んで購読することを勧めます。また各分野の研究に関して必要となる資料についてはその都度紹介します。

【参考書】

山本浩貴『現代美術史-欧米、日本、トランスナショナル』中央公論新社、2019 年
デイヴィッド・コッティントン（著者）、松井 裕美（翻訳）『現代アート入門』名古屋大学出版会、2020 年
『改訂版 西洋・日本美術史の基本 美術検定 1・2・3 級公式テキスト』美術出版社、2014 年
『続 西洋・日本美術史の基本』美術出版社、2016 年
『新・アートの裏側を知るキーワード』美術出版社、2022 年

【成績評価の方法と基準】

成績評価については、平常点（授業への取り組み）、課題とレポートの合計で行います。取り組みの実験性、積極性を重視します。採点比率は以下の通りです。

1. 平常点（50%）
2. 課題とレポート（50%）

この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60%以上を達成した者を合格とします。

【学生の意見等からの気づき】

ワークショップではスケッチによるプランや写真作品など簡単な実践に取り組みますが、受講される皆さんは例年課題について積極的に取り組まれているようです。楽しく解りやすい授業を心がけたいと思います。

【Outline (in English)】

Course outline

"Society and Art" is an introductory lecture that will allow you to see and think about the new world of expression that you rarely come into contact with. In particular, we will focus on the world of art, which deals with the relationship between society and art, which has been attracting attention since the 21st century. You will also learn about the points of contact between society and art and their relationships by referring to various examples of performing arts such as theatre, music, and the world of representations such as architecture. Focusing on the two themes of "art history and theory" (first half) and "society and art" (second half), we will examine and discuss each issue and problem from the keywords of each area.

1. Art history and theory Learn about the history and theory of modern and contemporary art from the 18th to 21st centuries, which is the basis for learning about society and art.

2. Society and art Learn about the relationship between media as a mirror that reflects society and the times and artistic expression, with concrete examples.

Learning Objectives

Introducing familiar examples of art history, contemporary society and art from the past to the present. This lecture aims to understand the workings of art history and to find universal and social issues from familiar problems.

Learning activities outside of the classroom

The content delivered on the Google site contains many website links to deepen your learning, so we recommend browsing the ones that interest you. There are also many museums and galleries near the university. If possible, depending on the infection status of the new coronavirus, please watch exhibitions.

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Grading Criteria /Policy

Grades will be evaluated based on the total of class activities, assignments and reports. We emphasize the experimentality and positiveness of our efforts. The scoring ratio is as follows.

1. Initiatives for classes (50%)
2. Issues and reports (50%)

See rubrics for specific assessment guidelines.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Google site で配信する授業コンテンツには、学習を深めるためのウェブサイトのリンクが多く紹介されていますので、興味のあるものについては閲覧することをおすすめします。また、大学の近くには美術館やギャラリーが多くあります。新型コロナウイルスの感染状況にもよりますが、可能であれば企画展、常設展などの展覧会などを多く鑑賞してください。

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

Based on this grade evaluation method, those who have achieved 60% or more of the achievement target of this class will be accepted.

ART200GA

身体表象論

深谷 公宣

配当年次／単位：1～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：定員 60 名。それを超えたら選抜

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

視覚芸術・文化に表現された身体を手がかりに、身体を見る／見せるとはどういうことかについて学ぶ。身体と社会の境界が歴史的・文化的に規定されていることを確認し、人間の身体を社会的にどのように位置付ければよいのか、受講生が自分なりの考えを構築できるようにする。

【到達目標】

- ・芸術、文化における身体運動の表象形式を理解することができる。
- ・身体表象の特徴を、歴史的、社会的に位置付けることができる。
- ・作品に表現された身体に関する自分なりの見方を構築し、作品を批評・分析・記述することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

- ・資料を元に講義する。受講生は授業の最後、または授業後に、リアクション・ペーパーを執筆して提出する。
- ・リアクション・ペーパーに対しては、必要に応じてコメントを付し、毎回、提出者全員に返信する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス 絵画における身体（1）	授業で考察する問題点の紹介。基本となる概念や用語の説明。参考文献の紹介。遠近法、聖母子像について考える。ジョット、ラファエロなど。
2	絵画における身体（2）	ヴィーナスの表象について考える：ポッティチェリ、ティツツィアーノ、ジョルジョーネ、マネなど。
3	彫刻における身体（1）	ルネサンス期から近代までの彫刻の身体表現について考える。ミケランジェロ、ベルニーニなど。
4	彫刻における身体（2）	日本における仏像の歴史と特徴的な姿勢について紹介する。
5	演劇における身体（1）	俳優という存在のあり方について考える。スタニスラフスキー・システム、鈴木メソッドなど。
6	演劇における身体（2）	パフォーマンスにおける身体と性のあり方について考える。シェイクスピア、宝塚、ダムタイプなど。
7	写真における身体（1）	肖像写真における顔、表情と「自己」について考える。アウグスト・ザンダー、ダイアン・アーバス、シンディ・シャーマンなど。
8	写真における身体（2）	写真における身体の位置と構図との関係について考える。アンリ＝カルティエ・ブレッソン、ロバート・フランクなど。
9	映像における身体（1）	映画における身体表象の形式と内容について、ショットとアングル、光と音の効果について。
10	映像における身体（2）	日本人の身体を映像に写すということについて具体例を用いながら考える。小津安二郎、溝口健二など。
11	服飾と身体（1）	西洋近世以降の服飾の歴史の変遷を振り返る。
12	服飾と身体（2）	日本の服飾の歴史の変遷を振り返る。
13	漫画と身体	日本の漫画の身体表象の特徴の事例を考察する。手塚治虫、萩尾望都、大友克洋など。
14	事例研究：映像と舞踊	舞踊を映像で見せるとはどういうことかについて、理論的に考え、具体例を検証する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

下記【参考書】に記載の資料を出来るだけ読むように努める。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。毎回、資料を配布する。

【参考書】

小林康夫『表象文化論講義 絵画の冒険』（東京大学出版会）
 諸川春樹他『彫刻の解剖学—ドナテッロからカノーヴァへ』（ありな書房）
 清水真澄『仏像の顔』（岩波新書）
 飯沢耕太郎『写真美術館へようこそ』（講談社現代新書）
 西村清和『視線の物語—写真の哲学』（講談社メチエ）
 森村泰昌『美術の解剖学講義』（ちくま学芸文庫）
 ウォーレン・バックランド『フィルムスタディーズ入門』（晃洋書房）
 蓮實重彦『監督 小津安二郎 [増補決定版]』（ちくま学芸文庫）
 ジル・ドゥルーズ『シネマ』（1・2）（法政大学出版局）
 矢田部英正『たまたまの美学』（中公文庫）
 スーザン・ソントグ『反解釈』（ちくま学芸文庫）
 四方田犬彦『漫画原論』（ちくま学芸文庫）
 鷲田清一『モードの迷宮』（ちくま学芸文庫）
 ジョン・バージャー『イメージ』（PARCO 出版）
 ダムタイプ『メモランダム 古橋徳二』（リトルモア）

【成績評価の方法と基準】

平常点 50%：当日の講義内容を把握し、自分なりに解釈することができるかを評価。
 学期末レポート 50%：身体表象に関するトピックについて分析的に考察し、考察の結果を丁寧に記述することができるかを評価。
 この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline (in English)】

・ Course Outline: Through examining a form of body representation in visual art and culture, this course aims to introduce students to the way of viewing or showing the human body. With the idea of a historically or culturally defined boundary between the body and society, students will develop their own way of viewing the human body from a social perspective.

・ Learning Objectives: By the end of this course, students will be able to understand the various styles in body representation seen in the field of art and culture and connect such styles with historical and social background. As a result, they will be able to provide a critical insight into the bodies in the work of art.

・ Learning activities outside of the classroom: read the recommended books in the 'References'.

・ Grading Criteria/Policy: Class participation 50%, Final paper 50%.

LIT200GA

比較文化

岩下 弘史

配当年次／単位：1～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

人数制限・選抜・抽選：

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

オリエンリズム、ジェンダー論、構造主義、文化人類学などの「理論」にも目くばせをしながら、比較文学・比較文化に必要な基礎を学ぶとともに、それらの理論を文学や映像作品など実際の芸術作品の比較分析に応用していきます。

【到達目標】

比較文化にあたって、単なる相違の指摘に留まらず、より深い社会的・文化的な背景の考察へと思考を深めていくときに役にたつのが、様々な「理論」です。この授業では、文化について考えるにあたって我々を助けてくれるいくつかの理論をとりあげ、具体的な作品分析への応用を通じてその理解を深めます。授業での学びを通じて、学生は、ジャンル・時代・言語等を異にする文化の作品間の比較文化的な分析ができるようになるとともに、様々な「理論」を理解し、作品分析に応用できるようになることを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

毎週、課題を読み、講義を聞いて講義についての課題を提出することが必須です。

次の授業冒頭では皆さんが提出した回答をとりあげて、様々な視点をまとめていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	初回説明	授業の概要を説明する。
2	比較文学・比較文化研究の歴史・概要	比較文学・比較文化研究の歴史・概要について理解する
3	比較文学研究と関わる「理論」について	比較文学研究と関わる「理論」について学ぶ
4	比較文学①——夏目漱石の『吾輩は猫である』と英国の心霊研究との関わり	夏目漱石の『吾輩は猫である』と英国の心霊研究との関わりについて学ぶ
5	比較文学②——夏目漱石の『吾輩は猫である』と英国の退化論との関わり	夏目漱石の『吾輩は猫である』と「退化論」との関わりについて学ぶ
6	国境を越える映像作品①——作品の概要	映像作品を実際に見る
7	国境を越える映像作品②——作品の比較研究	映像作品同士の比較の実践を見る
8	ジャンルの比較①（文学から映画へ）——アダブテーション理論について	翻案研究や理論の概要を学ぶ
9	ジャンルの比較②（文学から映画へ）——実際の研究を見る	翻案研究の実際の例を見て学ぶ
10	国境を越える文学（翻訳について）①——翻訳理論について	翻訳研究や理論の概要を学ぶ
11	国境を越える文学（翻訳について）②——実際の研究を見る	翻訳研究の実際の例を見て学ぶ
12	比較文化研究①——文化を比較する意義について学ぶ	比較文化研究や理論の概要を学ぶ
13	比較文化研究②——比較文化研究の実践に学ぶ	比較文化研究の実際の例を見て学ぶ
14	まとめ	授業のまとめをおこないつつ、期末レポートの書き方を指導する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・講義内容に関する毎週の課題を Hoppii に提出する。
- ・4回以上課題を出さなかった場合、単位修得の権利を失います。
- ・本授業の準備・復習時間は、約4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

資料は学習支援システムを通じて配布します。

【参考書】

松村昌家編『比較文学を学ぶ人のために』（世界思想社、1995）、佐々木英昭編『異文化への視線—新しい比較文学のために』（名古屋大学出版会、1996）、Ben Hutchinson, Comparative Literature: A Very Short Introduction (Oxford UP, 2018) など。その他適宜授業中に紹介する。

【成績評価の方法と基準】

- ・毎週の課題ならびに授業への参加（平常点）：35%
- ・期末レポート：65%
- ・100点満点で60点以上を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

毎回授業内に HOPPII にて課題を提出してもらうので、スマートフォン、タブレット、パソコンなどを持参してください。

【その他の重要事項】

受講者の人数や進度によって扱う題材に若干の変更があるかもしれません。あらかじめご了承ください。

【Outline (in English)】

【Course Outline】

In this course, students will learn the basics of the comparative literature and culture and finally how to analyze literary works and movies.

【Learning Objectives】

Students will learn how to compare and analyze literary works and movies in various viewpoints.

【Learning Activities outside of Classroom】

Students are expected to submit their answers to weekly study questions by due date.

【Grading Criteria/Policy】

Assignments and active participation in class discussion: 35%

Term paper: 65%

LIT200GA

言語文化概論

中和 彩子

配当年次／単位：1～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

文学に限らず、あらゆる文化事象をテキストとして捉え、批評的に読み解くための道具である「文学理論 (literary theory)」を学ぶ。

【到達目標】

- 20世紀以降現在までの「文学理論」がどのような問題をどう扱ってきたかを学ぶ。
- 「文学理論」を応用して現代の文化・芸術・社会を分析できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

受講者がテキスト（教科書）等の指定箇所を読み、ワークシートに沿って準備学習をしていることを前提として講義をおこなう。適宜ペア／グループでのディスカッションの時間とする。

授業の最後に、リフレクションペーパー（授業内容のまとめとコメント、感想、質問などを含む）を課す。

提出されたワークシートやリフレクションペーパーの解答、コメントや質問については次回の授業でとりあげてフィードバックをおこなう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業についての説明。
2	理論とはなにか？ (テキスト第1章, pp.1-p.13.)	理論 (theory) という言葉／ジャンルとしての理論／理論の効果／フーコーと性／理論の打つ手とは
3	理論とはなにか？ (テキスト第1章, pp.13-25.)	デリダと書くこと (エクリチュール)／二つの例は何を示すのか／
4	文学とはなにか？ 文学は重要か？ (テキスト第2章, pp. 26-42)	文学の外にある文学性／どういいう問いか？／歴史的な変化／テキストを文学として扱う／文学の約束事
5	文学とはなにか？ 文学は重要か？ (テキスト第2章, pp. 43-62)	文学の性質／属性 対 結果／文学の機能／文学のパラドックス
6	文学とカルチュラル・スタディーズ (テキスト第3章)	カルチュラル・スタディーズの出現／さまざまな緊張関係／目標／区別
7	言語、意味、解釈 (テキスト第4章)	文学における意味／ソシュールの言語理論／言語と思想／言語の分析／詩学対 解釈学／読者と意味／解釈／意味、意図、コンテキスト／
8	レトリック、詩学、詩 (テキスト第5章)	修辞的形象 (レトリカル・フィギュア)／ジャンル／言葉と行為としての詩／抒情詩の突飛さ／リズムをもつ単語／詩の解釈
9	物語 (ナラティヴ) (テキスト第6章)	プロット／提示／焦点化／ストーリーは何をするか
10	物語 (ナラティヴ)	第6章で学んだことを用いて、文学作品を分析する。
11	行為遂行的な (パフォーマティヴな) 言語 (テキスト第7章)	オースティンのパフォーマティヴ／パフォーマティヴと文学／デリダのパフォーマティヴ／パフォーマティヴとコンスタティヴとの関係／パトラーのパフォーマティヴ／重要点と暗示
12	アイデンティティ、同一化、主体 (テキスト第8章)	主体 (サブジェクト)／文学とアイデンティティ／表象か、生産か／精神分析学／集団としてのアイデンティティ／支配的な構造／理論
13	補遺 諸理論の流派と運動 (テキスト pp. 180-195)	20世紀初頭から現在に至るまでの理論的な運動を概観する。
14	まとめ	復習／復習試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回の準備学習として、テキスト（教科書）の指定箇所等を精読し、ワークシートの問題に解答し、提出すること。

本授業の準備・復習時間は計4時間を標準とする。受講者それぞれのテキストや講義の理解度にもよるが、なるべく準備学習に重点を置くことが望ましい。

【テキスト（教科書）】

ジョナサン・カラー『1冊でわかる 文学理論』荒木映子・富山太佳夫訳、岩波書店、2003。

*テキスト以外にも随時プリントを配付する。

*英語資料を補足的に用いることもある。

【参考書】

随時指示する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（ワークシート、リフレクションペーパーなどの提出物を含む）60%と復習試験 40%の総合評価とする。評価にあたっては以下の3点の達成度に基づいて判断します。

- 準備学習が十分におこなわれているか。
- 準備学習と講義を通じ、テキストを十分に理解できているか。
- 学んだ理論の応用ができているか。

※この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%を達成した者を合格とします。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

資料の配付や課題提出、授業に関する連絡などのため、学期を通じて学習支援システムを利用します。

毎回の授業に端末デバイス（PC やタブレット）を持参してください。

授業がオンライン実施されるときに大学の教室で受講する場合は、ハウリング防止のためヘッドセットが必要です。

【その他の重要事項】

・初回授業について

初回授業はリアルタイムオンライン (Zoom 利用) で実施します。Zoom の URL や講師への連絡方法については、事前に、学習支援システムの「お知らせ」で知らせます。

受講者数が教室定員を超過する場合は、初回授業の課題にもとづいて選抜を行いますので、受講希望者は必ず出席すること。

【Outline (in English)】

This course aims to introduce students to basic literary theory. As Jonathan Culler, the author of the textbook of the course, explains in his preface, literary theory challenges common sense, and it explores “how meaning is created and human identities take shape.” By the end of the course, students should understand what topics scholars have debated using literary theory, and learn to apply it to contemporary literary and artistic works, as well as cultural and social phenomena.

Students are expected to come to each class meeting well prepared by reading the assigned part of the textbook and doing the worksheet, given online, in advance. At the end of each class meeting, students are required to write a reflection paper.

The required study time is about four hours per class.

The overall grade will be decided based on worksheets and reflection papers (60%) and the end-term examination (40%).

PHL200GA

現代思想

森村 修

サブタイトル：Bullshit Jobs・くそどうでもいい仕事の理論——デ
ヴィッド・グレーバー「アナキスト人類学」研究

配当年次／単位：1～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

【授業の概要】

本授業は「現代思想（contemporary thought）」という科目名がついているが、ただ単に「現代の流行の思想」を学ぶだけが目的ではない。私たちが生きている「同時代（contemporary）」で起こる出来事や物事の、「起源」や「本質」について「哲学的に考えること（philosophical thinking）」が「現代思想」という科目の目的である。

2023年度は、アナキズム人類学者デヴィッド・グレーバー（1961-2020）の『ブルシット・ジョブ くそどうでもいい仕事の理論』（2018/邦訳 2019）を基本的なテキストに用いて、21世紀の資本主義における仕事/労働について哲学的に考察する。

【到達目標】

(1)「哲学的に考えること（philosophical thinking）」ができるようになる。
(2) 本当の「哲学の問い」を探り、その問いに答える努力のなかで、生き方をもう一度捉え直し、自分が何をなすべきかを、ひとり一人考える力を身につけていくことができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

【授業の方法】

基本的には講義形式で授業を行う。必要に応じて、学生との議論を行う。また、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション——	・授業の概要説明 ・デヴィッド・グレーバーとは誰か？
2	アナキスト人類学とは何か①	・アナキスト人類学とは何か
3	アナキスト人類学とは何か②	・マルセル・モース『贈与論』 ・資本主義批判
4	ブルシット・ジョブ①	序章 ブルシット・ジョブ現象について①
5	ブルシット・ジョブ②	第一章 ブルシット・ジョブとはなにか？
6	ブルシット・ジョブ③	第二章 どんな種類のブルシット・ジョブがあるのか？
7	ブルシット・ジョブ④	第三章 なぜ、ブルシット・ジョブをしている人間は、きまって自分が不幸だと述べるのか？（精神的暴力について、第一部）
8	ブルシット・ジョブ⑤	第四章 ブルシット・ジョブに就いているとはどのようなことか？（精神的暴力について、第二部）
9	ブルシット・ジョブ⑥	第五章 なぜブルシット・ジョブが増殖しているのか？
10	ブルシット・ジョブ⑦	第六章 なぜ、ひとつの社会としてのわたしたちは、無意味な雇用の増大に反対しないのか？
11	ブルシット・ジョブ⑧	第七章 ブルシット・ジョブの政治的影響とはどのようなものか、そしてこの状況に対してなにをなしうるのか
12	グレーバー価値論①	・新しいアナキズムとは何か
13	グレーバー価値論②	・人類学的価値理論
14	デヴィッド・グレーバー思想の継承	・新しいアナキズムの哲学

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・授業前に、基本的なテキストを必ず読んでおくこと。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

- (1) デヴィッド・グレーバー『ブルシット・ジョブ——くそどうでもいい仕事の理論』、岩波書店、2020年
- (2) デヴィッド・グレーバー『負債論——貨幣と暴力の5000年』、岩波書店、2020年
- (3) デヴィッド・グレーバー『価値論——人類学からの総合的視座の構築』、人文社、2022年

【参考書】

- (1) David Graeber, *Bullshit Jobs: A Theory*, Penguin Books, 2018.
- (2) David Graeber, *Debt: The First 5000 Years*, Melville House, 2011.
- (3) David Graeber, *Toward an Anthropological Theory of Value: The False Coin on Our Own Dreams*, Palgrave, 2001.

※ テキスト以外の参考書については、授業内で指示する。

【成績評価の方法と基準】

①期末試験・レポート（30%）、授業内レポート・レジュメ（30%）、平常点（40%）

この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。

※ 成績評価の方法と基準については、あくまで対面式授業の場合であり、リアルタイム・オンライン授業の場合は、成績評価の方法ならびに基準が変更されるので注意が必要。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

※ リアルタイム・オンライン授業に際しては、インターネット環境が整っていること、そのための機材が用意されていることが必須である。

【その他の重要事項】

1. 本科目は、「基幹科目」として、表象文化コースに配置されているが、コースの分類に関わらず興味のある学生に積極的に参加してもらいたい。
2. テキストが比較的高価であったり、テキストが英語を含む外国語を用いる場合、授業に参加する学生が激減する傾向にある。何が自分にとって必要かつ重要であるか、根本的に問い直してもらいたい。
3. テキストの選定や興味については学生の要望に応えることもありうるので、第1回目の授業には必ず参加すること。

【Outline (in English)】

The purpose of the subject "modern thought" is to acquire the philosophical thinking about origin and essence of events and things occurring in the contemporary society where we live in. Therefore, although this class has the subject name "contemporary thought", it does not have the only purpose of learning the thought of modern trends. The aim of this course is to help students philosophically examine the relationship between our lives and works/labors in 21st century capitalism, using "Bullshit Jobs" written by anarchist anthropologist David Graeber.

【Learning Objectives】

At the end of the course, students are expected to think philosophically.

【Learning activities outside of classroom】

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

【Grading Criteria /Policy】

Your overall grade in the class will be decided based on the following Term-end examination: 30%, Short reports : 30%, in class contribution: 60%.

GDR200GA

ジェンダー論

高内 悠貴

配当年次／単位：1～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

人数制限・選抜・抽選：

その他属性：〈優〉〈S〉〈ダ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

多様性に富むグローバルな文化・社会を理解する上で、ジェンダーとセクシュアリティは重要な視点です。この授業では、アメリカの歴史を具体例として、いかに法律や医療、宗教、科学において性にまつわる言説が形成されたのか？ それに対して普通の人たちは性をどのように理解、経験していたのか？ いかに人種や階級などの考え方が、性にまつわる言説と絡み合ってきたのだろうか？ といった問いを考察していきます。

【到達目標】

1. ジェンダー研究における基礎的概念を理解できるようになる。
2. 一次資料の読解を通じ、批判的な思考力と読解力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

HOPPII（授業支援システム）で授業を進めていきます。

●受講を希望する人は4月7日（金）までにHOPPIIに登録してください。受講希望者が多数の場合は抽選を行います。第2回目からの授業は抽選に合格した人のみ受講できます。

●HOPPIIの「教材」にアップロードされた授業録画、レジュメ、参考資料、文献をダウンロードして学習してください。

●HOPPIIの「テスト/アンケート」にアップロードされた問いについて、序・本論・結論がある文章のリアクション・ペーパーを書き、期日までに提出してください。教員より再提出のお願いがあった場合は、指摘されたコメントに従い、書き直しをして再提出してください。

●提出されたリアクション・ペーパーについては、翌週の授業で複数紹介しながら講評します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	ジェンダー、セクシュアリティなどキー概念を理解する。
2	ジェンダー史の登場	①フェミニズム運動の歴史を概観する。 ②フェミニズムと連動しながら登場したジェンダー、セクシュアリティの歴史という領域の問題意識を理解する。
3	北米入植とセクシュアリティ	①ヨーロッパ人の北米入植の歴史をジェンダーとセクシュアリティの観点から考える。 ②ジェンダー、セクシュアリティの言説の形成における宗教の役割を考える。
4	奴隷制度におけるジェンダー	①北米の奴隷制度の歴史をジェンダーとセクシュアリティの観点から考える。 ②奴隷制度の歴史と人種差別が、いかにジェンダーとセクシュアリティの言説に支えられていたかを理解する。
5	結婚と国家	①19世紀アメリカの結婚のあり方とそこでの女性の地位を概観する。 ②国家制度の一部として結婚制度を位置付けて理解する。
6	移民行政とセクシュアリティ	①アメリカの移民法と移民制度の歴史をジェンダー、セクシュアリティの観点から概観する。 ②いかに国家による望ましい移民の選別が、ジェンダー、セクシュアリティの言説に支えられていたかを理解する。
7	避妊と優生学	①20世紀に広がった避妊や家族計画の歴史を、ジェンダーと人種の交差の観点から概観する。 ②優生学というイデオロギーの歴史とその遺産を理解する。

8	ゲイ・アイデンティティの起源	①近代的なゲイ・アイデンティティが登場した歴史的背景を概観する。 ②科学や医療の言説がいかに人々の振る舞いやアイデンティティを形成してきたかを理解する。
9	ホモファイル運動の誕生	①アメリカの最初のゲイの権利運動であるホモファイル運動の歴史を概観する。 ②性にまつわる権利運動がいかに冷戦後のアメリカの政治的・社会的背景から生じたかを理解する。
10	公民権運動とジェンダー	①黒人女性の活動家に着目し、公民権運動の歴史をジェンダーとセクシュアリティの視点から概観する。 ②人種とジェンダーの交差した地点で経験される抑圧や支配のあり方について、黒人女性フェミニズムがどのように批評してきたかを知る。
11	ストーンウォール以降のゲイ解放運動	①1969年のストーンウォール事件以降に広がったゲイ解放運動の歴史と特徴を概観する。 ②ゲイ解放運動に影響を与えた1960年代の社会運動の横のつながりを知る。
12	トランスジェンダーの権利	①トランスジェンダーと呼ばれる人々の歴史を概観する。 ②トランスジェンダーの権利運動と、フェミニズムやゲイ解放運動との関係を考察する。
13	同性婚以降のアメリカ	これまで学んできた歴史的背景を踏まえ、21世紀のアメリカのジェンダーや性にまつわる社会問題にどんなものがあるか、概観する。
14	総括	今学期の授業のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

次週の授業に関連する基礎概念について調べておくこと。授業内容の復習を行い、課題を作成すること。なお、本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しません。

【参考書】

遠藤泰生、小田悠生編『はじめて学ぶアメリカの歴史と文化』ミネルヴァ書房、2023年。

カイラ・シュラー著、飯野由里子監訳、川副智子訳『ホワイト・フェミニズムを解体する』明石書店、2023年。

【成績評価の方法と基準】

リアクション・ペーパー 40%

期末レポート 60%

この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とします。

【学生の意見等からの気づき】

授業録画をもっと見やすいものにしていきます。

【学生が準備すべき機器他】

パソコン等情報機器ならびにインターネットの通信環境が必要です。

【その他の重要事項】

●受講を希望する人は4月7日（金）までにHOPPIIに登録してください。受講希望者が多数の場合は抽選を行います。

●第2回目からの授業は抽選に合格した人のみ受講できます。

【Outline (in English)】

This course is designed to facilitate an understanding of culture and society from the perspective of gender and sexuality. It uses US history as an example to ask questions such as: How have laws, medicine, religion, and science shaped the discourse of gender and sexuality? How have ordinary people understood their own gender and sexuality? How have the ideas of race and class intersected with the discourse of gender and sexuality?

By the end of the course, students are expected to be able to: 1) understand the basic concepts in gender studies, and 2) acquire critical thinking and reading skills through reading primary sources.

Students will be expected to 1) check the basic concepts related to the next class lecture, and 2) review the content of the class and work on the assignments.

Final grades will be decided by reaction paper (40%) and the final assignment (60%).

LIN200GA

異文化間コミュニケーション

副島 健作

配当年次／単位：1～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

文化背景の異なる個人同士が出会い、互いに理解しあえる関係を築くというのは、人や情報の往来が加速度的に増す今日、もはや特別なことではない。

異文化者が出会ったとき、それぞれの背景の文化が異なることが原因でどうということが起こってくるのか。最悪のコミュニケーション・ブレイクに陥らないためには、どのような知識や心構えが必要だろうか。事例に基づくケーススタディを通して、この問いをコミュニケーションの観点から考えていく。

【到達目標】

1. コミュニケーション分野の主要な理論や概念を学び、文化が私たちのコミュニケーションに及ぼす影響について理解を深める
2. 実際の異文化接触場面で活用していきけるような知識を修得する。
3. 多角的な視点を獲得し、「相手」とのインターアクションを通じて関係を改善する能力を養う

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

日本人と外国人がコミュニケーションをする上で、また、性別や年齢、地域性や社会的役割などの文化差が起因となる諸問題について、ケーススタディに取り組んでいく。学期末には、授業のまとめの活動として受講生自身で身近な異文化摩擦や誤解のケースを収集し、討論や考察をすすめていく。

・課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の進め方について解説する 「文化とコミュニケーション」について
2	判断保留・多面的思考の重要性について	現代社会を概観し、文化、コミュニケーション、異文化コミュニケーションの概念を整理する
3	事例研究① 海外旅行に関するケース	海外旅行で起きるすれ違いや摩擦に関するケース
4	事例研究② 海外留学に関するケース	海外留学で起きるすれ違いや摩擦に関するケース
5	事例研究③ 海外赴任に関するケース	海外赴任で起きるすれ違いや摩擦に関するケース
6	事例研究④ 帰国日本人に関するケース	帰国日本人が経験する摩擦
7	事例研究⑤ 日本在住外国人に関するケース	日本在住外国人が経験する摩擦
8	事例研究⑥ 共文化に関するケース	共文化の違いによって起きるさまざまな問題
9	事例研究⑦ 国際協力に関するケース	国際協力における交流の諸相
10	事例研究⑧ 国際交渉に関するケース	国際交流における交流の諸相

- | | | |
|----|---------------------------------------|--|
| 11 | 事例研究⑨ マスメディア報道における交流の諸相に関するケース | メディア報道における交流の諸相に関するケース |
| 12 | 受講生による事例報告① | 文化の体現者であるということと、異文化を理解するということにおける問題点を考得ながら報告する |
| 13 | 受講生による事例報告② | 文化の体現者であるということと、異文化を理解するということにおける問題点を考得ながら報告する |
| 14 | 討論・議論（授業内でこのまでの学びを踏まえて提示されたテーマを扱う性あり） | これまでの学びを踏まえて提示されたテーマを扱う |

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

必ず教材の該当箇所を読んだ上で授業に参加し、その内容に関する疑問点や関連して討論してほしい内容、コメント等を用意すること。また、設定されたテーマに関して、自分なりの意見が披歴できるように普段から情報収集を行うこと。

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

決まったテキストを使う予定はありません。

【参考書】

石井敏・久米昭元（他）（2013）『はじめて学ぶ異文化コミュニケーション—多文化共生と平和構築に向けて』有斐閣選書
久米昭元・長谷川典子（2007）『ケースで学ぶ異文化コミュニケーション』有斐閣選書
八代京子ほか（2001）『異文化コミュニケーション・ワークブック』三修社

【成績評価の方法と基準】

平常点 20 %

提出物 20 %

事例報告 20 %

期末試験またはレポート 40 % で評価します。

・この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とします。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【その他の重要事項】

この授業は「コミュニケーション」の授業なので、学生への質問も活発に行い、グループワークも適宜取り入れます。コミュニケーションが苦手な学生でも積極的に参加しようとする姿勢を評価します。一方、コミュニケーションを最初から拒否する姿勢が少しでも見られれば、その受講生は教室内に存在していないとみなします。

【Outline (in English)】

【Course outline】

In today's world, where the traffic of people and information is increasing at an accelerating pace, it is no longer unusual for individuals with different cultural backgrounds to meet and build mutually understandable relationships.

When people from different cultures meet, what happens because of the different cultures in their backgrounds? What kind of knowledge and preparation is necessary to avoid the worst communication break? Through case studies based on actual examples, we will consider these questions from the perspective of communication.

【Learning Objectives】

By the end of the course, students should be able to do the followings:

1. To learn the major theories and concepts in the field of communication and gain an understanding of how culture affects our communication
2. To acquire knowledge that can be applied in actual cross-cultural contact situations
3. To gain multiple perspectives and develop the ability to improve relationships through inter-action with the "others".

【Learning activities outside of classroom】

Be sure to read the relevant parts of the study materials before participating in the class, and be prepared to raise questions about the content, discuss related topics, and make comments. In addition, students are expected to collect information so that they can express their own opinions on the set topics.

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria /Policy】

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Term-end report: 20%, Case study report: 20%, Assignments: 20, in class contribution: 40%

SOS200GA

国際関係学概論 I

今泉 裕美子

配当年次／単位：1～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
人数制限・選抜・抽選：教室定員を超えた場合には抽選・選抜

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「国際」を掲げた学部や講義は多様にあり、国境を越えた動きには Global, Transnational, International などの表現もあります。これらの違いは何でしょうか。「国際関係」とは何であり、どのように研究されてきた/するのでしょうか。この問いを念頭に置きながら、「国際関係」が人（及びその集団）のいかなる“つながり”によって形成、展開してきた/いるか、と同時に、その「国際関係」がどう認識、分析されてきた/いるかを理解することで、国際関係学の視点と方法を学び、現代世界へのアプローチ、国際文化情報学の学びにつなげます。

対象時期は近代国際関係の成立から第一次世界大戦までとし、「国際関係学概論Ⅱ」の前提となる内容となります。

【到達目標】

1. 国際関係の構造と動態、これを分析するうえで用いられる概念や理論について基礎的な知識をもつことができる。
2. 現代国際関係の事象、問題が、複雑に絡み合った要素からできていることを認識し、しかし複雑だと等閑視するのではなく、それらが生み出された歴史的過程（通時的な視点）、同時代に起きているほかの問題や事象との関係性（共時的な視点。学際的な捉え方）から分析できる。
3. 上記を踏まえ、国際関係学の方法、国際関係に関する諸情報を批判的に考察する視点を習得し、今日生起する事象、問題について自身の意見、解決への手がかりや手立てを示すことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

1. 受講者数を教室収容定員内に調整するため、初回授業はオンラインライブで実施する。受講を希望する学生は、1回目授業のリアクションペーパーを定められた期限までに提出する。教室収容定員数を超えた場合は抽選を行い、受講可能者に通知する。詳細は初回授業時に説明する。
2. 授業計画はテキストの目次通りの構成ではないが、授業で言及する関連箇所、それ以外の部分も読んでおくことを前提に進める。
3. 毎回レジュメや資料を配布し、これに基づいて進める。
4. 毎回リアクションペーパーを提出してもらおう。授業内でクイズやテスト、意見を聞く機会を設けることがある。授業の予習、復習のために課題を出すことがある。
5. 提出物に注目すべき意見や質問があれば紹介、フィードバックし、受講生のさらなる学びにつなげる。学生の関心、理解度、国際情勢の変化に応じて、授業計画を変更する場合がある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	本授業の目的、授業の進め方、注意事項の説明。
2	「国際関係」とは	近代国際関係の成立、Western State System の特徴を理解し、現代国際関係との異同を学ぶ。

3	市民革命、国民国家の登場と国際関係①	国民国家（nation state）の成立をもたらした市民革命、「市民」、「階級」の登場による国際関係の変化と特徴を学ぶ。
4	市民革命、国民国家の登場と国際関係②	国民国家（nation state）及び nation という actor の登場による国際関係の変化と特徴を学ぶ。ヨーロッパの資本主義発展を原動力とする世界分割、植民地支配、人の移動がもたらした世界の一体化の特徴を学ぶ。
5	帝国主義と国際関係①「つながる/つなげられる」	ヨーロッパの資本主義発展を原動力とする世界分割、植民地支配、人の移動がもたらした世界の一体化の特徴を学ぶ。
6	帝国主義と国際関係②「へだてる/へだてられる」	世界の一体化が進んだゆえの「分断」を学び、現代世界のグローバル化との関係を理解する。
7	帝国主義と国際関係③国際関係研究への視座	当時行われた「植民地」、「帝国主義」を対象とする研究やから、国際関係認識や分析の特徴を学び、現代世界でのそれらとの関係を考える。
8	近代国際関係と「民族」- 実態と概念①	主権国家形成との関わりから「民族」の実態と概念を学ぶ。
9	帝国主義と「民族」- 実態と概念②	帝国主義時代を基点とする国際関係の変化のなかで「民族」の実態と概念を学ぶ。
10	帝国主義と「民族」- 実態と概念③	現代世界の「民族」をめぐる諸問題を踏まえて、実態と概念を整理する。
11	第一次世界大戦と国際関係①近代国際関係の再編	人類初の「総力戦」がもたらした国際関係の変化を、民族運動、社会主義運動、社会の変化を中心に学ぶ。
12	第一次世界大戦と国際関係②国際組織と安全保障	国際連盟の成立、戦争の違法化、安全保障を中心に学ぶ。
13	第一次世界大戦と国際関係③植民地支配体制の再編	委任統治制度を中心に学ぶ。
14	総括および国際関係学の視点と方法の確認	春学期の授業を総括し国際関係学概論Ⅱにつなげる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1. 配布するレジュメや資料を読み、テキストや参考文献で予習、復習を行うこと。
2. 関心があることを1つ持って授業に準備をする（SA先や卒業研究に関連すること、ゼミの専門分野など）。
3. 予習、復習それぞれ2時間程度を標準とする。

【テキスト（教科書）】

百瀬宏『国際関係学』東京大学出版会、1993年。

【参考書】

百瀬宏『国際関係学原論』岩波書店、2003年。
岩田一政他編『国際関係研究入門【増補版】』東京大学出版会、2003年。
梅棹忠夫監修、松原正毅他編『世界民族問題事典 新訂増補版』平凡社、2002年。
川田侃他編『国際政治経済辞典 改定版』東京書籍、2003年。
その他、授業時に提示する。

【成績評価の方法と基準】

1. 毎回提出を求めるリアクションペーパー、授業内で適宜実施するクイズ、課題への提出物の内容を総合して50%。セメスター末のレポートもしくは試験（いずれかを実施。予告したうえで詳細を説明する）50%。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。
2. 提出物について、指示した期限、提出先を守らない場合、やむを得ない事情（対象となる事情や証明資料の提出は定期試験のルールに則る）がない限り未提出として扱う。

【学生の意見等からの気づき】

リアクションペーパーに示された受講生の関心や質問を丁寧に紹介して、予定された授業内容に反映させたり、これら関心、質問や国際情勢に応じて授業計画を若干変更したことが好評であったため、本年度も継続する。

【学生が準備すべき機器他】

オンライン授業には、パソコンかタブレットを準備することが望ましい。

【その他の重要事項】

1. 授業で言及することに加え、学期中や期末にテキストから課題を出すことがあるので、テキストは常に手元に置くこと。
2. 授業の2回目以後は基本的に対面授業を行うが、感染予防などの理由でオンラインになる可能性もある。各自で安定的な接続環境、通信容量に制限がない状態で受講できる環境を準備すること。
3. Hoppii の授業情報、お知らせ欄等を通じた通知は必ず確認して下さい。

【Outline (in English)】

This is an introductory course to understand and analyze the issues and problems of international relations. This course deals with major concepts, theoretical frameworks, dynamics, and structure of international relations in historical context. This course also introduce how International Study has been conducted based on people's perspectives on international relations. The focus is on from the Peace of Westphalia to World War I.

It is strongly recommended that this course be taken before taking "Introduction to International Study II".

【Learning Objectives】

Students will be able to

1. Understand the origins and evolution of the international relations with key concepts and theories of International Studies.
2. Develop a critical thinking about some issues in contemporary world and analyzing them thorough understanding of International Studies as an academic discipline.

【Learning activities outside of classroom】

The standard time required for preparatory study and review for this class are 2 hours each.

【Grading Criteria /Policy】

1. Reaction Papers, Quizzes and Small Assignments during the semester:50%
- 2.Term-end Examination or Report (The details will be informed later) :50%

SOS200GA

国際関係学概論Ⅱ

今泉 裕美子

配当年次／単位：1～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：教室定員を超えた場合には抽選・選抜

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「国際」を掲げた学部や講義は多様にあり、国境を越えた動きには Global, Transnational, International などの表現もあります。これらの違いは何でしょうか。「国際関係」とは何であり、どのように研究されてきた/するのでしょうか。この問いを念頭に置きながら、「国際関係」が人（及びその集団）のいかなる“つながり”によって形成、展開してきた/いるか、と同時に、その「国際関係」がどう認識、分析されてきた/いるかを理解することで、国際関係学の視点と方法を学び、現代世界へのアプローチ、国際文化情報学の学びにつなげます。

対象時期は第二次世界大戦から現在までとし、「国際関係学概論Ⅰ」の内容を前提に進めます。

【到達目標】

1. 国際関係の構造と動態、これを分析するうえで用いられる概念や理論について基礎的な知識をもつことができる。
2. 現代国際関係の事象、問題が、複雑に絡み合った要素からできていることを認識し、しかし複雑だと等閑視するのではなく、それらが生み出された歴史的過程（通時的な視点、学際的な捉え方）、同時代に起きているほかの問題や事象との関係性（共時的な視点。学際的な捉え方）から分析できる。
3. 上記を踏まえ、国際関係学の方法、国際関係に関する諸情報を批判的に考察する視点を習得し、今日生起する事象、問題について自身の意見、解決への手がかりや手立てを示すことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

1. 授業計画はテキストの目次通りの構成ではないが、授業で言及する関連箇所、それ以外の部分も読んでおくことを前提に進める。
2. 毎回レジュメや資料を配布し、これに基づいて進める。
3. 毎回リアクションペーパーを提出してもらおう。授業内でクイズやテスト、意見を聞く機会を設けることがある。授業の予習、復習のために課題を出すことがある。
4. 提出物に注目すべき意見や質問があれば紹介、フィードバックし、受講生のさらなる学びにつなげる。学生の関心、理解度、国際情勢の変化に応じて、授業計画を変更する場合がある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	本授業の目的、授業の進め方、注意事項の説明。「国際関係学概論Ⅰ」との関連を説明。
2	第二次世界大戦と国際関係①	ヴェルサイユ・ワシントン体制の崩壊から第二次世界大戦に至る過程、第二次世界大戦の特徴を学ぶ。
3	第二次世界大戦の終結と国際関係①	国際連合、人権を重視する諸政策、戦争責任をめぐる国際法の変化を中心に、国際関係の特徴を学ぶ。

4	第二次世界大戦の終結と国際関係②	信託統治制度の創設、新植民地主義につながる国際関係の特徴を学ぶ。
5	冷戦と国際関係①—冷戦の始まり	冷戦の定義、IMF・GATT体制、冷戦的思考など冷戦体制の特徴、これらを対象とする戦後国際関係研究の特徴を学ぶ。
6	冷戦と国際関係②—核開発と管理	核管理をめぐる東西両陣営の対応、核抑止力を機能させた核実験の実態を学び、現在に続く核と「平和」の関係を考える。
7	冷戦と国際関係③—植民地独立への介入と「熱戦」	中華人民共和国の成立、植民地独立の動きに米ソが介入した「熱戦」を中心に、国際関係の特徴を学ぶ。
8	冷戦体制の浸蝕と国際関係①—第三世界の台頭と南北問題	A・A会議、非同盟運動、新国際経済秩序など第三世界の動き、南北問題をめぐる「開発」と「発展」の問い直しを中心に、国際関係の特徴を学ぶ。
9	冷戦体制の浸蝕と国際関係②—南北問題の“解決”をめぐる	「南」から提起された「開発」、「発展」の問い直しと「平和」概念の変化を学び、現代国際関係にて多用されるようになった「グローバルサウス」概念との関係を学ぶ。
10	冷戦体制の浸蝕と国際関係③—核軍縮、東西両陣営内の変動	キューバ危機を契機とする核軍縮への動き、東西両陣営内の亀裂を中心に国際関係の特徴を学ぶ。
11	冷戦体制の崩壊と国際関係	冷戦体制の崩壊過程と崩壊後に持ち越された問題を中心に学ぶ。
12	ポスト冷戦体制とグローバル化	ポスト冷戦体制の国際関係を、新自由主義に基づく市場経済の拡大、世界各地で激化したかにみえる「紛争」、「9.11」と以後続くいくつもの「戦争」、安全保障体制の変化を事例に、現代国際関係の特徴を学ぶ。
13	グローバル化の下で「国際関係」を問う	受講生の関心に基づきトピックスを定める。
14	総括および国際関係学の視点と方法の確認	秋学期の授業のまとめ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1. 配布するレジュメや資料を読み込み、テキストや参考文献で予習、復習を行うこと。
2. 関心があることを1つ持って授業に臨む（SA先や卒業研究に関連すること、ゼミの専門分野など）。
3. 予習、復習それぞれ2時間程度を標準とする。

【テキスト（教科書）】

百瀬宏『国際関係学』東京大学出版会、1993年。

【参考書】

百瀬宏『国際関係学原論』岩波書店、2003年。
 岩田一政他編『国際関係研究入門【増補版】』東京大学出版会、2003年。
 梅棹忠夫監修、松原正毅他編『世界民族問題事典 新訂増補版』平凡社、2002年。
 川田侃他編『国際政治経済辞典 改定版』東京書籍(株)、2003年。
 その他、授業時に提示する。

【成績評価の方法と基準】

1. 毎回提出を求められるリアクションペーパー、授業内で適宜実施するクイズ、課題への提出物の内容を総合して50%。セメスター末のレポートもしくは試験（いずれかを実施。予告したうえで詳細を説明する）50%。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。
2. 提出物について、指示した期限、提出先を守らない場合、やむを得ない事情（対象となる事情や証明資料の提出は定期試験のルールに則る）がない限り未提出として扱う。

【学生の意見等からの気づき】

リアクションペーパーに示された受講生の関心や質問を丁寧に紹介して、予定された授業内容に反映させたり、これら関心、質問や国際情勢に応じて授業計画を若干変更したことが好評であったため、本年度も継続する。

【学生が準備すべき機器他】

オンライン授業の場合は、パソコンかタブレットを準備する。

【その他の重要事項】

1. 授業で言及することに加え、学期中や期末にテキストから課題を出すことがあるので、テキストは常に手元に置くこと。
2. Hoppii の授業情報、お知らせ欄等を通じた通知は必ず確認して下さい。
3. 「国際関係学概論Ⅰ」未受講生も受講可能であるが、Ⅰのシラバスを参照し、テキストの関係箇所を読むことを強く推奨する。

【Outline (in English)】

This is an introductory course to understand and analyze the issues and problems of international relations. This course deals with major concepts, theoretical frameworks, dynamics, and structure of international relations in historical context. This course also introduce how International Studies has been conducted based on people's perspectives on international relations. The focus is on from World War II to today. "Introduction to International Studies I" is highly recommended for those who take this course.

【Learning Objectives】

Students will be able to

1. Understand the origins and evolution of the international relations with key concepts and theories of International Studies.
2. Develop a critical thinking about some issues in contemporary world and analyzing them thorough understanding of International Studies as an academic discipline.

【Learning activities outside of classroom】

The standard time required for preparatory study and review for this class are 2 hours each.

【Grading Criteria /Policy】

1. Reaction Papers, Quizzes and Small Assignments during the semester:50%
- 2.Term-end Examination or Report (The details will be informed later) :50%

SOC200GA

国家と民族

石森 大知

配当年次／単位：1～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

人数制限・選抜・抽選：

その他属性：〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本人（あるいはご自身のルーツを踏まえて考えてみてください）とは何だろうか。今日、私たちはそれほど意識することなく、国家や民族の枠組みを受け入れているかもしれない。とはいえ、これらは近代西洋で発明された後、「普遍的」な枠組みとしてグローバルに浸透ないし強要されたものでもある。本授業では、日本を含むアジア太平洋地域の事例に基づき、主に国家と民族の枠組みが人びとの自己意識や社会関係をどのように変化させてきたのかを考察する。

【到達目標】

- ・人種、民族や国民、エスニシティ、ナショナリズムなどの概念内容およびそれらが歴史的に構築されてきた過程を習得する。
- ・ものごとを相対的に捉えることによって得られる自己／他者の理解に関する洞察力を身に付ける。
- ・アジア太平洋地域における脱植民地化過程を学ぶとともに、現代のナショナリズムの動向を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

- ・授業の理解度や平常の取り組みを評価するため、随時、授業コメントや質問・疑問を求めるリアクションペーパーを課します。
- ・リアクションペーパー等における興味深いコメントや質問等を授業内で取り上げ、全体に対してフィードバックを行うとともに、さらなる議論に活かします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の概要、成績評価方法の説明
第2回	人種と民族	近代における「人種」の生成
第3回	民族・エスニシティ・国家	その基本的な理論と概念を学ぶ
第4回	近代日本の国家形成	天皇主権と国家神道
第5回	国家のなかの家族	日本型「近代家族」の変遷
第6回	先住民としての権利	アジア太平洋の先住民運動
第7回	民族紛争を読み解く	ポスト植民地国家の新たな戦争
第8回	多文化主義と「多文化共生」	多文化主義の比較検討
第9回	王、チーフ、ビッグマン	多様なリーダーシップのあり方
第10回	植民地からの独立	太平洋の脱植民地化
第11回	国家から逃避する人びと	ゾミア（東南アジア山間地帯）への視点
第12回	観光・国家・先住民	ハワイにおける「楽園」の創造
第13回	開発・国家・先住民	グローバル化のなかの森林資源
第14回	総括	授業のまとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・授業内で紹介する文化人類学や地域研究の関連文献を読み、授業内容の理解を深める。
- ・図書館などで関連文献を調べ、自らの興味関心を広げる。
- ・本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教科書はとくに指定せず、必要に応じて関連資料を配布する。

【参考書】

授業中に適宜紹介するが、以下のものを挙げておく。

篠田謙一『日本人になった祖先たち—DNAが解明する多元主義』NHK出版、2021年。

丹羽典生・石森大知編『現代オセアニアの〈紛争〉—脱植民地期以降のフィールドから』昭和堂、2013年。

ジェームズ・C・スコット『ゾミア—脱国家の世界史』佐藤仁監訳、みすず書房、2013年。

ベネディクト・アンダーソン『定本 想像の共同体—ナショナリズムの起源と流行』白石隆・白石さや訳、書籍工房早山、2007年。

小熊英二『単一民族神話の起源—「日本人」の自画像の系譜』新曜社、1995年。

【成績評価の方法と基準】

学期末レポート:40%、平常点（リアクションペーパー、出席状況等）:60%として総合的に評価する。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする（ただし、平常点だけでは合格とはなりません。学期末レポートを提出しなかった場合、E評価になります）。

【学生の意見等からの気づき】

文字や音声などの情報だけではなく、できるだけ多くの写真や映像資料を用いることで授業内容の理解を促すようにする。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布・課題提出等のために学習支援システムを利用します。

【その他の重要事項】

- ・第1回目授業で教室定員を超過する履修者がいた場合、定員を超過して入室はできません。そのような事態が発生した場合に限り、入室できなかった履修者を対象に追って授業内容を動画で配信致しますので、学習支援システムをご確認ください。
- ・学期末レポートを提出しなかった場合、原則 E 評価となります。
- ・対面をオンラインで同時配信するハイフレックス型授業は実施しません。
- ・シラバス内容や授業計画に変更が生じた場合は授業内もしくは学習支援システムで周知します。
- ・文部科学省研究振興局において学術調査官（人文学）として職務経験を有する教員が、国家と民族について文化人類学的視点から講義を行います。

【Outline (in English)】

This course introduces the basic concepts and theories of nation, ethnicity and nationalism from the perspective of cultural anthropology. We will examine the theoretical perspectives with abundant empirical studies from Asia-Pacific regions, including Japan. At the end of the course, students are expected to understand how nation is defined and how people use this concept for nation-building, economic development and welfare policy. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Grading will be decided based on term-end report (40%) and in class contribution (60%).

HUM200GA

国際文化協力

松本 悟

配当年次/単位：1～4年 / 2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
人数制限・選抜・抽選：100名前後が望ましい

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉〈S〉〈ダ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では国際文化論の観点から国際協力の基礎を学ぶものである。具体的には国際協力の歴史や仕組み、国際協力が文化に及ぼす影響、文化面の国際協力のあり方について知識を習得するとともに、それらを用いて論理的に考える力を養うことを目的とする。基幹科目なので、1、2年生には、専攻科目や演習で更に深めたい学問領域やテーマを見つける機会にして欲しい。

【到達目標】

- (1) 国際文化論および国際協力についての基礎的な知識を身につける。
- (2) 国際協力と文化を結びつけて論理的に事象を分析できる。
- (3) 「技術と文化」「開発コミュニケーション」「文化遺産保護」「難民」「パブリックディプロマシー」などに授業で扱うテーマについて説明できる。
- (4) 基幹科目としてアカデミックスキルを身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

■基本方針：法政大学の教育活動における行動方針がレベル1以下の場合には対面で実施する。なおレベル2以上の場合にはリアルタイムオンライン授業への変更を予定しているが、詳しくは学習支援システムの掲示板で連絡する。

■割り当て教室が広いため、初回授業から対面で授業を行う。

■フィードバック：講義への質問は、学習支援システムの掲示板に質疑応答コーナーを設けて、そこでやり取りする。

■授業後課題：毎回課す。思考を促す課題で、200字～800字程度で書いてもらう。基幹科目なのでアカデミックスキルを高めることも目的としている。提出期限は授業日から3日以内。毎回の授業冒頭で課題への全体コメントを行う。

■履修者人数の確認：初回授業後、履修希望人数を把握し、万が一教室定員を超える場合は1-2年生を優先する形で抽選を実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクションー国際文化協力とはー	この授業の狙い、進め方、国際文化協力の概論。リアルタイムオンライン授業で行い、履修希望者数を確認する。
2	技術と文化	川の水を煮沸せずに飲む行為を通して技術と文化について考える
3	普及とコミュニケーション	受け入れ「させる」ことをどう考えるか
4	協力される側だった日本	明治時代のお雇い外国人と「抵抗」を考える
5	日本への技術移転	贈与・交換・支配・互酬と国際協力
6	文化の受容と抵抗	文化接触（アカルチュレーション）から文化の受容を考える
7	文化財を守るとは	明治時代の日本で文化財をなぜ守るようになったのかを考える
8	国際的な文化財保護までの道のり	戦利品としての略奪と返還運動から文化財の国際的な捉え方の変化を考える
9	人類の遺産	世界遺産という発想はどこからきたのかを考える
10	政府開発援助（ODA）と文化協力	パブリックディプロマシーやソフトウェアについて考える
11	国際協力と想像力ー期末レポートに向けて	期末レポートの課題文献とこの授業の繋がりを講義する
12	国際人権	文化要素としての人権について難民を例に「民権」との違いから考える
13	市民としての国際文化協力	日本の地域での難民受け入れを通して同化と社会的統合について考える
14	私と国際文化協力	担当教員の実務経験を踏まえて国際文化協力の授業での学びを再構成する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・最初の授業で具体的に指示する。
- ・本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

以下の本は、複数回の授業の参考文献であるとともに、期末レポートの課題文献となる。到達目標4に関連している。各自入手すること。

松本悟・佐藤仁編著（2021）『国際協力と想像力ーイメージと「現場」のせめぎ合い』日本評論社。

【参考書】

毎回の講義に関連する参考文献はその都度紹介する。

【成績評価の方法と基準】

- ・授業後課題への回答などの平常点 50%、期末レポート 50%
- ・授業後課題は毎回設問に 200 字～800 字程度で答えるもので、カッコ内の場合は減点となる（例：設問や指示に的確に答えていない、極端に短い、文章として辻褃が合わない）
- ・期末レポートは、授業で学んだ内容を踏まえて、課題文献を分析するもので、知識を問うものではない
- ・この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60%以上を達成した者を合格とする

【学生の意見等からの気づき】

- ・短い文章や期末レポートの書き方の説明が役に立ったという声が多いので継続する。
- ・毎回グループ討議と発表を取り入れる。

【学生が準備すべき機器他】

- ・法政大学の教育活動における行動方針レベル2以上の場合にはリアルタイムオンライン授業を行うため、パソコン及び動画を視聴できる程度のネット環境を整えること
- ・教科書は春学期の前半（5月末頃）までには入手しておくこと

【その他の重要事項】

NHK 記者や、開発協力分野の NGO として実務に関わってきた教員が、その経験を事例として取り上げながら講義やコメントをする。

【Outline (in English)】

【Course outline】

What is international cooperation from the perspectives of intercultural studies? It should covers impacts of inter-national cooperation in cultures, inter-cultural cooperation or inter-national cooperation in cultural fields. By the end of this course, students will understand those aspects of cooperation beyond the national borders and will be able to analyze them logically.

【Learning Objectives】

- 1) acquire the basic knowledge on intercultural studies and international cooperation.
- 2) be able to analyze the issues in associating international cooperation and culture.
- 3) understand the key concepts of "technology and culture", "development communication", "protection of cultural heritage", "refugees" or "public diplomacy".
- 4) acquire and be able to apply the academic skills to write a short or term paper.

【Learning activities outside of classroom】

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content or to write a short essay on a given topic.

【Grading Criteria /Policy】

Grading will be decided based on a short essay at each class meeting (50%) and a term-end report (50%).

SOC200GA

宗教と社会

田中 浩喜

配当年次／単位：1～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
人数制限・選抜・抽選：150名（超えた場合は、選抜の可能性あり）

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈ダ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

宗教に関する知識は、現代社会を生きるうえで必要不可欠です。この授業では、世俗化、ポスト世俗化、情報化、国際化、政治、カルトなどの観点から、宗教と社会の関係を体系的に学習します。宗教と社会に関する学問的な視座を身につけることで、世界の文化や価値観をよりよく理解するだけでなく、現代の世界が直面しているさまざまな課題について、主体的に思考できるようになることを目指します。

【到達目標】

1. 宗教と社会の関係を考えるために必要な、基本的な概念や理論を理解できるようにする。
2. 宗教と社会の関係について、基本的な分析概念や理論を用いて、基礎的な事例分析ができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

●受講を希望する人は4月7日（金）までに HOPPII に登録してください。200名を超える場合は抽選を行います。4月10日（月）に抽選結果を発表します。第2回目からの授業は抽選に合格した人のみ受講できます。

●レジュメ、参考資料、文献は、HOPPII の「教材」からダウンロードしてください。

●毎回提出するリアクション・ペーパーは、HOPPII の「テスト/アンケート」にアップロードされた問いに関して、序・本論・結論がある文章を書き、期日までに提出してください。教員より再提出のお願いがあった場合は、指摘されたコメントに従い、書き直しをして再提出してください。

●提出されたリアクション・ペーパーについては、翌週の授業で複数紹介しながら講評します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	なぜいま宗教なのか	この授業の目的や概略について説明する。
2	宗教へのアプローチ	近代宗教学の成立と歴史意識について概観した後、宗教を捉えるための学問が、何を問題とし、どのように体系化されていったかを検討する。
3	宗教社会学の諸理論	宗教社会学の基礎的な知識や理論を学び、宗教と社会についての事例を学問的に分析する視座を養う。
4	宗教と日本社会	日本社会における宗教のあり方について、初詣や結婚式などの儀礼、無宗教の増加などの事例を取り上げながら理解を深める。
5	宗教と世俗社会	世俗化に関する宗教社会学の理論を学んだあと、近代の西洋と日本における宗教のあり方について事例を交えて検討する。
6	宗教とポスト世俗社会	ポスト世俗化に関する宗教社会学の理論を学んだあと、現代の西洋と日本における宗教のあり方について事例を交えて検討する。
7	宗教と情報社会	世俗化とポスト世俗化に関する議論を踏まえ、アニメやマンガなどのポップカルチャーを事例に、情報化の観点から現代宗教のあり方を考える。
8	宗教とグローバル社会	世俗化とポスト世俗化に関する議論を踏まえ、宗教の海外布教を事例に、グローバル化の観点から現代宗教のあり方を考える。
9	宗教と政治：戦後日本編	戦後日本の政教関係の歴史を学ぶことで、日本社会における「政教分離」の意味と変化について検討する。

10	宗教と政治：フランス編	フランスの政教関係の歴史を学ぶことで、フランス社会における「ライシテ」の意味と変化について検討する。
11	宗教と政治：アメリカ編	アメリカの政教関係の歴史を学ぶことで、アメリカ社会における「良心の自由」の意味と変化について検討する。
12	カルト問題を考える	現代におけるカルト問題について、基礎的な知識を身につけるとともに、宗教社会学の視座を培う。
13	今学期の授業に関する質疑応答	質問やコメントに答える。
14	総括	今学期の授業のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回の授業の復習を行い、リアクション・ペーパーで書いた問題点や疑問点などについて各自掘り下げて検討して下さい。
なお、本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。

【参考書】

- 伊原木大祐、竹内綱史、古荘匡義編『3STEP シリーズ 宗教学』（昭和堂、2023年）。
- 井上順孝『宗教学を学ぶ人のために』（ミネルヴァ書房、2016年）。
- 櫻井義秀、三木英『よくわかる宗教学』（ミネルヴァ書房、2007年）。
- 望月哲也『社会理論としての宗教学』（北樹出版、2009年）。
- 棚次正和、山中弘編『宗教学入門』（ミネルヴァ書房、2005年）。
- 島蘭進、葛西賢太、福嶋信吉、藤原聖子編『宗教学キーワード』（有斐閣、2006年）。
- 田中雅一、川橋範子編『ジェンダーで学ぶ宗教学』（世界思想社、2007年）。
- 中野毅『宗教の復権：グローバリゼーション・カルト論争・ナショナリズム』（東京堂出版、2002年）。
- 磯前順一、タラル・アサド編『宗教を語りなおす：近代のカテゴリーの再考』（みすず書房、2006年）。
- 『岩波講座 宗教（全10巻）』（岩波書店、2004年）。

【成績評価の方法と基準】

リアクション・ペーパー 40%
期末レポート 60%

この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とします。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更のため特になし。

【その他の重要事項】

- 受講を希望する人は4月7日（金）までに HOPPII に登録してください。
- 200名を超える場合は抽選を行います。4月10日（月）に抽選結果を発表します。
- 第2回目からの授業は抽選に合格した人のみ受講できます。
- 7月7日（金）の授業は休講とし、別日に補講を実施します。

【Outline (in English)】

The course explores the relationship between religions and societies by taking up issues ranging from secularization, post-secular, informatization, globalization, to "cult" so that students can acquire an academic perspective on these topics and deepen their reflections on various issues related to religions.

By the end of the course, students are expected to be able to:
1) understand the basic concepts and theories that are important to examine the relationship between religion and society, and 2) use analytical concepts and theories to analyze case studies of the relationship between religion and society.

Students will be expected to review each class and explore the problems and questions that they wrote in their reaction papers.

The final grade will be decided by reaction paper (40%) and the final assignment (60%).

SOC200GA

Religion and Society

立田 由紀恵

配当年次／単位：1～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
人数制限・選抜・抽選：25人程度。希望者多数の場合には、入学
時以降の TOEFL や TOEIC など標準的なテストの結果と初回授業
へのコメントを総合的に評価して選考します。

その他属性：〈グ〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Religion is often associated with violent conflicts and wars, but how exactly does religion contribute to conflicts? Does it also play a part in building peace and reconciliation? This course focuses on the aspects of conflicts and peace in religion, exploring general theories as well as examining individual case studies such as Western Europe, African Americans, and the Russo-Ukrainian War. After reviewing such cases, we will also review religion's roles in Japanese society, focusing on its potential to bring conflicts and peace.

【到達目標】

Upon successful completion, students will:

- Understand the roles of religion in conflict and peace
- Acquire knowledge of conflicts with religious aspects around the world
- Broaden their view of religion in general

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示された
どの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針
に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」
に関連。

【授業の進め方と方法】

Classes consist of lectures and group discussions. Students are required to read the materials and submit a short writing assignment before the class. At the end of the class, students write reaction papers, on which the instructor gives feedback. The last two classes are dedicated to the students' oral presentations of their final papers.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Introduction	The outline of the course
2	Religion and Society: An Overview	Various roles of religion in society
3	Religion and Violence	Religion's roles in violent conflicts around the world
4	Religion, Peace, and Reconciliation	Religion's roles in peacebuilding around the world
5	Northern Ireland	History of the conflict between the Protestants and the Catholics in Northern Ireland
6	African Americans	Religion in the struggle of the African Americans from the time of slavery through Black Lives Matter movement
7	United States	Issues around the Christian conservatives in today's American society and politics

8	Israel and Palestine	Religion's roles in the Israeli-Palestinian conflict
9	Western Europe	Issues around the Muslim immigrants in Western Europe today
10	Bosnia and Herzegovina	Religion's roles in the Bosnian War and post-war Bosnian society
11	Russia and Ukraine	Religion's roles in the Russo-Ukrainian War
12	History of Religion, Violence, and Peace in Japan	Historical overview of religion, violence, wars, and peacebuilding in Japanese society
13	Presentation 1	Students' oral presentations on the final papers
14	Presentation 2	Students' oral presentations on the final papers

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students are expected to spend approximately four hours reading the class materials and writing the short assignment for each class.

【テキスト（教科書）】

No textbook is required. Reading materials will be distributed in class or online.

【参考書】

Omer, Atalia et al. 2019. The Oxford Handbook of Religion, Conflict, and Peacebuilding. Oxford: Oxford University Press.
Marsden, Lee ed. 2012. The Ashgate Research Companion to Religion and Conflict Resolution. London: Routledge.

【成績評価の方法と基準】

Pre-class short writing assignment 20%

Group discussion 20%

Reaction paper 20%

Final paper 40%

The cutoff score for passing is 60%.

【学生の意見等からの気づき】

Not applicable

LIN300GA

世界の言語 I

興石 哲哉

配当年次／単位：2～4 年／2 単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：隔年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

人数制限・選抜・抽選：

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

世界の数多くの言語のうち、この授業では、インド・ヨーロッパ語族（印欧語族）の言語について考察していきます。この語族の言語は世界中に広がっている、今では全ての大陸で話されています。この語族がどのようにしてできたのか、どのようにこの語族の言語が変化してきたのか、特徴はどのようなものか、世界の言語の中でどのような位置にあるのかについて知ることが、本科目のテーマです。

【到達目標】

具体的には、以下の5つです。

- 1) インド・ヨーロッパ語族の言語について、その全体像を把握すること。
- 2) インド・ヨーロッパ語族について、その歴史を知ること。
- 3) インド・ヨーロッパ語族の言語の研究の方法や背景について知ること。
- 4) 他の語族とインド・ヨーロッパ語族の関係について知ること。
- 5) 一般的に、言語の歴史・構造について、知識を得ること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連。

【授業の進め方と方法】

・授業は、基本的にシラバスに基づき、リアルタイム・オンラインの講義形式で進めていきます。履修者数、履修者の知識等により、内容には修正を加えることがあることを予めご了解ください。

・授業は全て事前に用意したスライドを用いたプレゼン形式で行います。同スライドは予めダウンロード可能です。さらに、背景が白いものを事前に用意しそれを事前にプリントアウトした上で授業に持参して書き込みを作れば、自分だけのノートとしての機能をもたせることも可能です。

・「学習支援システム」を多用し、事前、事後の学習も可能な限り支援していきます。

・課題等に対するフィードバックは、基本的に「学習支援システム」を用いますが、状況に応じて、個人メール等で行うこともあります。

・各回に可能な限り前回のフィードバックを行い、さらに最終回では、それまでの授業のまとめ、復習を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	・はじめに ・ヨーロッパとは？ ・最近のヨーロッパの傾向 ・比較の視点	授業のやり方について、概略を説明し、ヨーロッパについて学び、比較することの意味について学びます。
2	・地球単位で言語を考える ・英語で-a で終わる語 ・ある童話から ・欧米と日本	地球単位で言語を考えることを実際の例をいくつか見ながら考えます。
3	・Parallel text の意味	言語を比較する際の材料として、parallel text と呼ばれるものを使用することがあります。様々な例を使い、実際に言語の比較を行っていきます。印欧学という学問がどのように発達してきたか、歴史的な背景を見ながら考えていきます。
4	・印欧学の発達 ・印欧祖語 ・歴史的な背景	言語観の類似をどのように説明するか考えていきます。印欧語族の語派について見ていきます。初回は、Indo-Iranian, Armenian, Albanian についてお話しします。
5	・言語間の類似 ・音対応 ・貨幣と切手 ・個々の語派	言語観の類似をどのように説明するか考えていきます。印欧語族の語派についてお話しします。
6	・個々の語派（続き）	印欧語族の個々の語派について、引き続き見ていきます。今回は、Baltic, Slavic, Hittite, Tocharian, Hellenic, Italic の各語派についてお話しします。

7	・英語へのラテン語の影響 ・個々の語派（続き） ・非印欧諸語 ・Grimm's Law	最初、英語へのラテン語の影響を見た後、語派の話が続きます。今回は Celtic, Germanic について見ます。さらに、印欧語族でない言語についても学びます。その後、Grimm's Law について話し始めます。
8	・Grimm's Law（続き） ・Verner's Law ・Centum vs. Satem ・音対応と言語再建	Grimm's Law と Verner's Law について学び、さらに印欧語族を2分すると言われる Centum-Satem Split についてお話しします。それから音対応と言語再建について学びます。
9	・言語の語彙 ・歯擦音化 ・The letter C in English	言語の語彙の成り立ちについて見た後、自然な音変化の例として歯擦音化について考察します。英語の C という文字の歴史を例に取り、歯擦音化を例証します。
10	・ヨーロッパの地勢 ・印欧祖語はいつ話されていたか？	印欧語族の発達に、ヨーロッパの地勢が及ぼした影響について考察し、その後、印欧祖語の「いつ」問題について考察します。
11	・印欧祖語はどこで話されていたか？	印欧祖語の「どこ」問題について、最近の印欧学の成果を解説しながら考察します。
12	・印欧祖語はどこで話されていたか？（続き） ・印欧祖語の史的発達	前回に引き続き、印欧祖語の「どこ」問題について、最近の印欧学の成果を解説しながら考察しますその後、印欧祖語の発達の経緯を見ていきます。
13	・印欧祖語の史的発達（続き） ヨーロッパ早わかり 現在の欧州言語事情	印欧祖語がどのように発達を遂げたか、引き続きお話しします。ヨーロッパの言語文化事情をまとめ、最後に現在の欧州言語事情に触れます。
14	・まとめ	これまでの授業を総括します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回、前回の内容を復習しながら、新しい内容に進みます。基本的な用語を習得し、方法論を理解しながら、参考文献等を読んで授業に臨んでください。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特定のものを考えてはいません。適宜、プリントなどを配布、提供いたします。

【参考書】

授業中、随時指定いたしますが、とりあえず以下のものを挙げておきます。泉井久之助(1968).『ヨーロッパの言語』。東京：岩波書店。【古いですが大丈夫です。基本的にこの本の内容は、かなり本科目の内容と重なります。】

風間喜代三(1978).『言語学の誕生』。東京：岩波書店。

マルティネ、アンドレ、神山孝夫訳(2003).『「印欧人」のことは誌—比較言語学概説—』。東京：ひつじ書房。

Chapters 1 & 2 from Denning, K, B. Kessler, and William R. Leben (2007). *English Vocabulary Elements*. Oxford: Oxford University Press.

Chapters 2 & 3 from Stockwell, Robert & Donka Minkova (2001). *English Words: History and Structure*. Cambridge: Cambridge University Press.

Diamond, Jared (1997). *Guns, Germs and Steel*. London: Caggo & Windus.

【成績評価の方法と基準】

試験の結果(100%)に基づき成績を出します。人数が多すぎる場合、授業への参加度を見ることは現実的ではないため、現段階では平常点は設定していませんが、人数を見て場合によっては平常点を加味します。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とします。

【学生の意見等からの気づき】

隔年開講のため、特にありません。

【学生が準備すべき機器他】

パソコン、スクリーン等を用います。

【その他の重要事項】

高校の時に用いた、いわゆる学習者用英和辞書ではなく、語源欄が充実している英語の辞書を用意して、関連の語などについて調べるようにしてください。授業でもお話ししますが、英語は西欧の諸言語を知る上で、非常に重要な言語です。何かと授業でも話す機会が多くなります。

●授業形態については、「オンライン」となっていますが、可能であれば周知の上、「対面」も採り入れていきたいと思っております。したがって、その点を考慮の上、履修をお願いします。

【カリキュラム上の位置づけ】

本科目は、学部専門教育科目の(4)言語科目に属し、ことばを成り立たせているさまざまな要素について学ぶものです。「世界の言語 II」と交替で隔年開講され、2年生以上が履修できます。

【Outline (in English)】

【Course Outline】 【Learning Objectives】

The objective of this course is to get a general idea of Indo-European languages. Specifically, by the end of the course, you should:

- become acquainted with the European languages in general,
- have enough knowledge about their historical background,
- become acquainted with the basic knowledge about Indo-European studies and the backdrops of its development.
- have general knowledge about the relationship between Indo-European languages and other language families.

- begin to develop a general knowledge of linguistic history and structure.

[Learning Activities Outside of Classroom]

Each class session starts by reviewing the previous class session before new contents are introduced. Try to understand the basic facts and concepts before coming to the class session.

[Grading Criteria /Policy]

Grades are given according to the result of the one big final exam.

LIN300GA

世界の英語

小中原 麻友

配当年次／単位：2～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
人数制限・選抜・抽選：選抜

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

グローバル社会の現在、「英語」ほど広範に使用されている言語はありません。しかし、その「英語」とは一体どのようなものなのでしょうか。World Englishes や English as a lingua franca という言葉を聞いたことがありますか。英語の国際的普及は、地域の社会的要因に関連して多様化した様々な英語変種を生み出しました。英・米・カナダ・オーストラリア・ニュージーランドの各英語だけでなく、インド、シンガポール、タイ、マレーシア等のアジア諸国でも多様な「英語変種」が存在し、これらは World Englishes (世界の英語たち) と複数形で呼ばれています。また、グローバル化の進展はビジネスや教育上の国際交流・協力の急速な拡大をもたらし、そのような現場で英語は言語文化の異なる者同士のコミュニケーションにおいて「共通語 (a lingua franca)」として幅広く使用されています。本講義では、これら World Englishes と English as a lingua franca という2つの視点から、一見自明とも思われる世界における「英語」の実態について迫っていきます。

学期前半では、社会及び言語使用へのグローバル化の影響と英語の国際的普及の過程を概観した後、特に英米などの英語を母語とする国々とアジア諸国において多様化した英語変種の言語的特徴について、その歴史及び文化的背景にも触れながら学んでいきます。その後、学期後半では、標準語イデオロギー、英語母語話者信仰等の概念や現象についての学習を通して、英語を取り巻く問題について理解を深めます。更にはヨーロッパやアジア諸国での実際の事例研究を取り入れながら、ビジネスや高等教育等の国際的な場において言語文化を異にする者同士が、英語を共通語として使用してどのようにコミュニケーションを図っているのかについて、特にコミュニケーション・ストラテジーの使用を中心にその特徴を学んでいきます。最終的には、学習内容に基づき、グローバル社会における英語の役割と求められる英語コミュニケーション能力について批判的に考察できるようになることを目指します。

【到達目標】

1. 国際的普及によって多様化した英語変種の地域的特徴（音声の仕組み、および文法等）とその歴史の変遷の背景について理解し、まとめることができる。
2. 国際共通語としての英語でのコミュニケーションの実態や特徴についてまとめることができる。
3. 標準語イデオロギーや英語母語話者信仰などの「英語」を取り巻く問題とその重要性について説明することができる。
4. 上記 1-3 を踏まえた上で、グローバル社会における英語の役割と求められる英語コミュニケーション能力について批判的に考察することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

【重要1：授業形態、初回授業、受講者の選抜について】

- ・本授業は、基本、すべて対面で実施します。
- ・本授業の教室定員は81名の予定です。これまで、履修者が教室定員を超過したことはないため、【初回より対面で実施する予定】です。
- ・履修希望者数の把握のため、受講希望者は、初回授業開始の【前日まで】に、学習支援システムで当該授業を必ず【仮登録】をしておいてください。万が一、履修希望者が教室定員を超えそうになった場合は、対応について学習支援システムより連絡をします。
- ・また、もし受講希望者数が、例年より多くなった場合は、初回授業で選抜を実施します。よって、受講を希望する学生は、必ず初回授業に参加し、選抜・導入アンケートを提出してください。選抜を実施した場合、その結果は初回授業終了後、速やかに、各学生にメール等で通知します。

【重要2：Google Classroom の使用について】

- ・課題の提示や提出、フィードバックなどには、「学習支援システム」ではなく、「Google Classroom」を使用します。法政大学の Gmail アカウントで使用が可能です。
- ・Google Classroom のクラスページへのアクセス方法は、学期開始前までに学習支援システムでお知らせします。
- ・履修を希望する場合は、授業開始前までに「Google Classroom」上で当該クラスへの【参加を済ませておく】ようにしてください（一度登録しても、後から参加を取り消すことが可能ですので、履修を逃している場合でも参加登録して問題ありません）。

【その他】

- ・授業は、PPT とオンライン上で配布するワークシートを使用した講義の他、グループ・ディスカッション、フィールドワーク、プレゼンテーション、リスニング等の活動も取り入れて進めます。
- ・授業毎に提出するコメントに、個別にフィードバックを行います。良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり/Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の紹介・履修条件、導入（選抜）アンケート
第2回	講義・ディスカッション (1)	The influence of globalization: Linguistic diversity and English users (グローバル化の影響：言語的多様性と英語使用者)
第3回	講義・ディスカッション (2)	The global spread of English (英語の地球規模の普及)
第4回	講義・ディスカッション (3)	Diversification of English and preparation for group presentations (英語の多様化、グループプレゼン準備)
第5回	グループ・プレゼンテーション (1)	Varieties of English (1): Englishes in the UK, the US, and Canada (英語変種 (1)：イギリス、アメリカ、カナダの英語)
第6回	グループ・プレゼンテーション (2)	Varieties of English (2): Englishes in Australia, New Zealand, India, and Thailand (英語変種 (2)：オーストラリア、ニュージーランド、インド、タイの英語)
第7回	グループ・プレゼンテーション (3)	Varieties of English (3): Englishes in Vietnam, Malaysia, Singapore, and Indonesia (英語変種 (3)：ベトナム、マレーシア、シンガポール、インドネシアの英語)
第8回	グループ・プレゼンテーション (4)	Varieties of English (4): Englishes in the Philippines, China, Hong Kong, and Korea (英語変種 (4)：フィリピン、中国、香港、韓国の英語)
第9回	講義・ディスカッション (4)	The legacy of colonialism, native speakerism and standard language ideology (植民地化の遺産、英語母語話者、標準語イデオロギー)
第10回	講義・ディスカッション (5)	English as a lingua franca (ELF) communication (1): Introduction (共通語としての英語 (ELF) でのコミュニケーション (1)：導入)
第11回	講義・ディスカッション (6)	ELF communication (2): Communication strategies (CS) for supporting meaning-making (ELF でのコミュニケーション (2)：話し手の発話を支援するコミュニケーション方略)
第12回	講義・ディスカッション (7)	ELF communication (3): CS for coping with communication problems (ELF でのコミュニケーション (3)：コミュニケーション上の問題に対処する方略)
第13回	講義・ディスカッション (8)	ELF communication (4): CS for facilitating communication (ELF でのコミュニケーション (4)：コミュニケーション上を促進する方略)
第14回	期末試験 (あるいは期末レポート)、および総括	期末試験の実施 (あるいは期末レポートの提出) とまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

<準備学習>

1. リーディング課題（第3回、10回授業開始時まで：全2回予定）：指定の資料を読み内容を把握し、まとめる。
2. フィールドワーク（第2回、10回、13回授業開始時まで：全3回予定）：授業前までにインストラクションに沿って簡単なデータ収集・分析を行い、それに基づき考察を書く。ただし、第3回のフィールドワークは感染症の状況によっては実施しない可能性あり。
3. グループ・プレゼンテーション準備（第5～8回授業開始時まで）：グループごとのプレゼンテーションの準備を行う。プレゼンの準備には、原則、学術的な図書や論文、あるいはウェブサイトを使用し、学術的根拠に基づいていない個人の作成したウェブサイトやブログ等は使用しないこと。

<復習>

1. 授業毎振り返りコメント（第2～14回：全13回予定）：第2回以降、授業毎に学習内容を振り返るコメントを書き、次回授業開始前までに Google Classroom の指定のフォームから提出する。

2. その他、期末試験（あるいは期末レポート）に向け、適宜、復習する。

【テキスト（教科書）】

・教科書指定なし。ただし、以下の新書の一部を第2回のリーディング課題として使用予定。図書館にも所蔵はありますが、図書館へのアクセスが難しい学生については購入することを推奨します。

→久保田竜子, 2018. 『英語教育幻想』. 筑摩書房, 東京. (参考: アマゾンにて新書 902 円、Kindle 770 円)

・その他、テーマごとに参考文献を紹介し、配布資料やスライドは、原則英語です。

・授業の PPT は、授業終了後に、オンライン上で公開します。

【参考書】

< World Englishes と English as a lingua franca についての背景知識 >

1. Crystal, D. (2003). English as a global language (2nd ed.). Cambridge: Cambridge University Press.

2. Galloway, N., & Rose, H. (2015). Introducing global Englishes. London; New York, NY: Routledge.

3. Jenkins, J. (2015). Global Englishes: A resource book for students (3rd ed.). London; New York: Routledge. (Companion website: <http://www.routledgetextbooks.com/textbooks/9780415638449/default.php>)

4. Jenkins, J., Cogo, A., & Dewey, M. (2011). Review of developments in research into English as a lingua franca. Language Teaching, 44(03), 281-315.

5. Kirkpatrick, A. (2007). World Englishes paperback with audio CD: Implications for international communication and English language teaching. Cambridge, UK; New York: Cambridge University Press.

6. Murata, K. (2015). Exploring ELF in Japanese academic and business contexts: Conceptualisation, research and pedagogic implications: Routledge.

7. Murata, K., & Jenkins, J. (2009). Global Englishes in Asian contexts: Current and future debates. Houndmills; New York: Palgrave Macmillan.

8. Seidlhofer, B. (2011). Understanding English as a lingua franca. Oxford: Oxford University Press.

9. Trudgill, P. & Hannah, J. (2002). International English: A Guide to the Varieties of Standard English (4th ed.). London: Arnold.

10. 唐澤一友. (2016). 『世界の英語ができるまで』. 東京: 亜紀書房.

11. 未延岑生. (2010). 『ニホン英語は世界で通じる』. 東京: 平凡社.

12. 田中春美, 田中幸子 (2012). 『World Englishes - 世界の英語への招待』. 京都: 昭和堂.

13. 鳥飼玖美子 (2011). 『国際共通語としての英語』. 東京: 講談社.

14. 本名信行 (2002). 『事典アジアの最新英語事情』. 東京: 大修館.

15. 本名信行 (2003). 『世界の英語を歩く』. 東京: 集英社新書.

<リスニング教材>

1. 榎木園鉄也 (2012). 『インド英語のリスニング』. 東京: 研究社.

2. 榎木園鉄也. (2016). 『インド英語のツボ: 必ず聞き取れる 5 つのコツ』. 東京: アルク.

3. 柴田真一. (2016). 『アジアの英語』. 東京: コスモビア.

4. ジョセフ・コールマン著、渡辺順子訳 (2008). 『いろいろな英語をリスニング』 東京: 研究社.

5. 鶴田知佳子、柴田真一 (2008). 『ダボス会議で聞く世界の英語』. 東京: コスモビア.

6. 平本照磨 (2010). 『究極の英語リスニング Worldwide』. 東京: アルク.

7. 里井久輝 (2019). 『世界の英語リスニング』. 東京: アルク

<参考ウェブサイト>

1. ACE. (2013). The Asian Corpus of English. Retrieved 23rd September 2014 <http://corpus.ied.edu.hk/ace/index.html>

2. IDEA (2017). International Dialects of English Archive. Accessed 20th September 2017 from <http://www.dialectsarchive.com/dialects-accent>

3. Sekiya, Yasushi, Kawaguchi, Yuji, Saito, Hiroko, Yoshitomi, Asako, Yazu, Norie, & Marphey, Phillip. (2006). World Englishes: English modules dialog based on research into sociolinguistic variation [Shakai gengogakuteki heni kenkyuu ni motoduita eigo mojuru] Retrieved 16th August 2016, from <http://labo.kuis.ac.jp/module/index.html>

4. VOICE. (2013). The Vienna-Oxford International Corpus of English (version 2.0 Online). Retrieved 23rd January 2013 from <https://www.univie.ac.at/voice/>

【成績評価の方法と基準】

<平常点: 5%>

・「平常点」とは、出席率でなく、授業内活動や質疑応答などへの積極的な貢献度を意味します。ディスカッションに積極的に貢献して下さい。

・遅刻2回（ただし、電車遅延は除く）で、欠席1回とみなします。

<試験: 50%>

学期末（第14週）に試験（あるいは期末レポート提出）を行い、学習内容の理解度や考察・意見内容を総合的に判断します。

<その他授業内外課題: 45%>

・授業毎振り返りコメントやリーディング課題、フィールドワーク、グループ・プレゼンテーションでの学習内容の理解度と考察内容を総合的に評価します。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

音声データ、録画データ等を使用して、実際に多様な英語、そのような英語での実際のコミュニケーションを聞く機会を設けます。

【学生が準備すべき機器他】

・グループ・プレゼンテーションの際は、各自で持参した PC を使用することが望ましいですが、それが難しい場合は、こちらで共有 PC を用意します。

【その他の重要事項】

授業中は、適宜ノートを取って下さい。ただし、ノートをとることよりも講義の内容に集中して、そのテーマについて自ら考えるようにしてください。「覚える」のではなく、「考える」ことが重要です。皆さんの意見を聞いて回りたいと思います。答えに正解・不正解はありませんので、積極的に意見交換することを期待します。

【Outline (in English)】

[Course Outline]

In the era of globalization, English is one of the dominant tools of intercultural communication among people from diverse linguistic and cultural backgrounds. What does such a communication look like? The aim of this course is to reconsider 'English' from the perspective of World Englishes and English as a lingua franca. Through this course, you will have the opportunity to understand features of varieties of English particularly in Asian countries as well as features of intercultural communication in English as a lingua franca settings. On the basis of the knowledge you acquired, you will then reconsider the role of English in the globalized world and English communication ability necessary for surviving in such a world.

[Learning Objectives]

1. Students can understand and summarize characteristic features of varieties of English (phonological and grammatical features, etc.).

2. They can understand and summarize how people from multilingual backgrounds communicate with one another in English as a lingua franca.

3. They can understand and explain the problematic nature of standard language ideology and native-speakerism.

4. On the basis of their understanding of the above points, they can make a critical observation of the role of "English" in the globalized world and "English" communication abilities necessary in such a world.

[Learning Activities outside of Classroom]

< Preparation >

1. Reading Assignment (by the beginning of Sessions 3 & 10): Read the assigned reading materials.

2. Fieldwork and Report (by the beginning of Sessions 2, 10 & 13): Carry out fieldwork three times.

3. Digital record your conversation in ELF, transcribe part of the recording, and analyze the use of communication strategies observed in the conversation (this activity may be cancelled depending on the COVID situation).

4. Preparation for a Group Presentation (by the beginning of Session 5/6/7/8): Prepare presentation slides for your group presentation about varieties of English.

< Revision >

1. Weekly comments (Sessions 2-14): Reflect on what you've learned in each session, and write comments in a designated form on Google Classroom. Submit the comment by the beginning of the next session each week.

2. Preparation for final exam (or term-end paper): Prepare for the final exam (or term-end paper) by reviewing what you've learned in each of the sessions.

[Grading Criteria / Policy]

1. Class contribution (5%): Active contribution to class will be evaluated. Students are expected to contribute to discussion actively.

2. Final exam/term-end paper (50%): Exam answers (or term-end paper) will be evaluated in their contents.

3. Other tasks (45%): Weekly comments, reading assignment, fieldwork reports, group presentations will be evaluated in their contents.

COT200GA

メディア表現法

大嶋 良明

配当年次／単位：2～4 年／2 単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：特になし、希望者多数の場合のみ選抜にします。初回の授業に出席すること。

備考（履修条件等）：情報関連科目を履修済みであることが望ましい

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Photoshop の応用テクニックをいろいろ学ぼう

PC を使ったマルチメディア制作とデザインの基礎を講義と実習を交えて学習する。とくにコンピュータ上でのメディアデータの特性とコンピュータによる画像処理、図形処理について表現・変換などの知識を身につける。Photoshop を基本ツールとして画像レタッチの諸技法を学ぶ。自ら写真を撮影し、いくつかの課題制作に取り組み。見やすい作品づくりを目指して、配置、コントラスト、整列などデザインの基礎知識を習得し、実習作品の表現に応用する。これらを通じて情報メディアの活用とメディアデータの処理技法を学習し、Web やパッケージメディアの視覚面をどのように活かすことができるのかも学ぶ。セメスタ中の課題をクラス全体で合評することでお互いの作品の良いところを学び、質の高い制作を目指す。

【到達目標】

Photoshop の応用技法を習得し、デザイン、配色の基礎を修得し、PC 上の画像処理とデジカメ、プリンタ等の周辺機器との関係を理解することで、デジタルマルチメディアの特性を活かした中級以上の作品制作ができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

情報実習室において講義と実習を行う。

●作品制作の理論と技法（講義と実習）

・デザインの基礎と Photoshop の応用技法

- 画像のメリハリ、色のバランス、カラーチャンネル活用

- レイヤー、マスク、フィルタの技法

- コラージュ、モンタージュの技法：遠近感、光の表現、Photo-realistic な作品作りに必要な写真理論

- DTP に向けてのスキヤナ、プリンタの利用法

●クリティーク（合評）と制作メモの提出

各自の作品を全員が批評し、作品表現の精神と批評の言語を学ぶ。

●ePortfolio による学習成果の公開

総合的な情報公開の場として活用する。

●課題

・デジタル写真のリタッチ

・ポスター作り（Photobam + 大判プリンタ・Web）

・写真表現の作品化（アルバム・Web）

・自由なテーマによる最終課題（Photoshop + 大判プリンタ・Web）

●大事にしたいこと

・誰もが自分だけの something を持っている。みんなで学ぼう。

・マルチメディアデータとリアルなモノの関係性を常に考えよう。

・「コンピュータに簡単に取り込めない世界」を大事にしよう。

・感性だけでは作品は作れない。知識、技法、批評精神を持つとう。

なお、毎回の授業で小テストを実施し、質問を受け付ける。次回授業の初めに前回の小テストの答え合わせと質問に関する回答の時間を設ける

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	メディアデータと情報活用	メディアデータの特性（音声、音響、文書・画像・映像）、コミュニケーションのデザイン、制作環境について学ぶ。
2	デザインの基本原則	CRAP の原理（近接、反復、整列、コントラスト）を学ぶ。
3	デザインの基本原則の応用	前2回の講義内容と既存の Photoshop の基礎知識を活用して、自由課題で制作したポスター作品を持ち寄り、クリティーク（合評）をおこなう。
4	タイポグラフィの原理	欧文・和文フォントの特性を歴史の変遷を通じて学びレイアウトの基礎を理解する。

5	メディア処理ソフトウェアの実際－画像レタッチソフト（Adobe Photoshop CC）	サービスプリントをスキャンしたイメージデータを素材に基本的なレタッチ技法と必要なツールを復習する。
6	Web のためのデジタルイメージ、写真帳制作の課題と合評	ヒストグラムデータの活用法に慣れる。Web アルバム制作に必要な知識と技法を作品制作に活かす。
7	デジカメ写真、スキャン画像、フレームキャプチャ、PC 画面コピーなど元画像の特性の違いに応じたイメージ素材の取り扱いを学ぶ。	レイヤーを多用した作品実習を通じて素材どうしのなじませ方、立体感、奥行き感の作り込みを学ぶ。
8	レイヤーの技法	写真の断片と描画の組み合わせによるコラージュ作品の制作実習を通じて、選択範囲のさまざまな調整、コントラスト、焼き込みとレイヤーの技法を学ぶ。
9	画質の調整、シェーディングとブレンディング（前編）	第 9 回に引き続き、制作実習の後半。
10	画質の調整、シェーディングとブレンディング（後編）	
11	コラージュ、モンタージュのための技法	さまざまな遠近法、解像度と粒状性、輪郭や色味の変化、光の方向性などコラージュ、モンタージュ作品のための技法を学ぶ。
12	色の扱い：カラー、モノクロ、DuoTone	RGB、HSB、CMYK などカラー表色系の関係、セピア系、シアン系などのモノクローム調色、スポットカラー、DuoTone などの表現技法を学ぶ。
13	色の扱い：制作編	モノクロ基調のポスターに少ない色数でアクセントをつける制作課題と画面、印刷出力の品質の比較。
14	最終課題とまとめ	自由課題による最終課題を制作しクラス全員による合評。全作品、制作メモ、クラス全員による作品合評をまとめたポートフォリオの作成。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の授業の中で習得した制作知識と実習課題を各自の作品制作に活かすためには十分な練習が必要となる。カフェテリアでのマルチメディア PC を活用してテクニックを「手に覚えさせる」時間外の予習復習を励行します。自由課題による制作には、オリジナルの写真を含めることを求めるのでデジタルカメラやスマートフォンを携帯し、作品作りのアイデアとなる素材さがしを常日頃から心がけましょう。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

制作テキスト（必要部分の和訳プリント配布）：Adobe Photoshop 5.5 and Illustrator 8.0 Classroom Book, Adobe Press(2000), ISBN 0-201-65900-X
制作テキスト（必要部分のみをプリント配布）：Gregory Haun, "Photoshop Collage Techniques", Hayden(1997), ISBN 978-1568303499

デザイン論テキスト（初版を参照するため、必要部分のみをプリント配布）：R・ウィリアムズ「ノンデザイナーズ・デザインブック」、毎日コミュニケーションズ（1998）、ISBN 4895630072

【参考書】

必要に応じて授業内で紹介する。ほかにマルチメディア検定ベーシック対応の参考書として、CG-ARTS 協会、「第三版 入門マルチメディア IT で変わるライフスタイル」、ISBN 978-4-903474-45-8 を挙げておく。撮影技法については、キョート タケナガ（著）東京写真学園（監修）、「デジタル写真の学校」、雷鳥社（2005）、ISBN 978-4-8441-3434-3 が理解に役立つ。

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業参加の積極性,30%）、クリティーク（課題作品の相互批評,15%）、課題ならびにマルチメディア作品制作（35%）、ePortfolio(個人の作品集づくり,20%)を総合的に評価する。平常点の評価ポイントは、積極的な授業参加。すなわち表現意欲をコンピュータ上で形にする「やる気と努力」、作品作りの背後にある仕組みへの技術的関心度、作品に添付する制作メモ、合評に参加しお互いの作品から学び一人ひとりが自らを高めようとする向上心などが、授業参加の平常点として参入される。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

実習課題の内容とバラエティを検討し、中級テクニックの訓練単元を増やした。作品集は個人ポートフォリオだけではなく、クラス全体のギャラリーとしても公開を目指す。作品作りのテクニックだけではなく作品性の追求や作品批評を言語化することの重要性をさらに意識できるような授業運営を心がける。2022 年度は PC 実習において処理落ちが頻発した。実習機の設定変更により問題解消に努めている。

【学生が準備すべき機器他】

情報実習室にて授業を行う。
素材撮影のためにデジタルカメラが必要。（デジタルカメラは学部資料室、情報カフェテリアにて貸出可能）
光学性能では遜色ないスマートフォンの使用も認めるが、できれば絞り、シャッター速度、露出補正など撮影条件を細かく設定できるデジタルカメラによる撮影を心掛けて欲しい。
制作のためのフォトプリント用紙、CD-R など、課題に応じて若干のメディアが必要。ポスター印刷出力の校正と確認のためにプリンタを使用する。

提出作品は ePortfolio にて保存公開する。

【その他の重要事項】

受講希望者は初回授業に出席すること。受講希望者が教室定員を超える場合には抽選を実施することがある。

情報系教員によるクラス授業とマルチメディア制作実習を通じて本科目では学生の就業力育成を支援する。

【資格を目指す人のために】 本講義の参考書はマルチメディア検定ベーシック対応の標準テキストであり、すぐれた独習書である。

【前提科目】

前提科目：「情報リテラシーⅠ」、「情報リテラシーⅡ」、情報系基礎科目（「情報システム概論」、「メディア情報基礎」、「ネットワーク基礎」）。未修者の履修希望については担当教員の判断による。

写真の技法については「マルチメディア表現法」の履修をお薦めする。Photoshop の応用技法については本科目にて扱う。

関連科目：基幹科目「デジタル情報学概論」など。

【実務経験のある教員による授業】

担当教員は IT 企業での研究所勤務において 15 年間のデジタル信号処理、マルチメディア処理分野の研究とシステム開発の経験がある。

【Outline (in English)】

This is an intermediate level workshop on Adobe Photoshop retouch and creative techniques for any students who has acquired basic knowledge and techniques in Photoshop. The course is organized of class workshops, weekly or biweekly assignments, and mutual critique.

Grading policy is as follows:

In-class contribution: 30%

Critique and review: 15%

Homework and in-class assignment: 35%

Individual e-Portfolio: 20%

You must achieve at least 60% in the overall grade to pass for academic credit.

The average study time outside of class per week would be approximately 4 hours.

COT200GA

プログラミング言語基礎

和泉 順子

配当年次/単位：2～4年 / 2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

人数制限・選抜・抽選：人数制限あり

備考（履修条件等）：情報関連科目を履修済みであることが望ましい

その他属性：〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

情報システムを構築する上で必要なプログラミングには様々な言語が用いられている。本講義ではオンライン併用環境であることを考慮し、使用言語を JavaScript とする。ただし、基本的なプログラミング言語とも云える C 言語についても、データ型の概念、配列、関数、ポインタ、ファイル操作などのプログラミングに関する基本事項を学ぶために適宜補足として取り入れる。JavaScript や C 言語を実際に使いながら基礎的な概念を学び、簡単なプログラムを作成する能力を修得する。

【到達目標】

プログラミングの基本構成として記述/実行方法や基本的な文法を理解し、簡単なプログラムを作成する能力を修得する。
具体的には、プログラミングで用いる用語や概念を理解し、独力でプログラミングに関する本を読んで理解できるようになること、かつ簡単なアルゴリズムを学習することで簡単なプログラムを実装できることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

授業では、(1) プログラミング言語仕様や構造の理解、(2) 具体的な文法の学習、(3) プログラムの実装とデバッグ、というプログラミングの段階的な学習を行う。すべて計算機を使用した実習形式で行い、課題作成をとおして学習結果を確認する。

情報実習室での対面授業を基本とするが、状況に応じてオンライン授業に切り替える場合もある。学期途中での授業形態の変更やそれともなう各回の授業計画の修正については、学習支援システムでその都度提示する。履修予定者は、必ず初回授業前日までに学習支援システムで本科目を仮登録し、初回授業に参加、または初回授業資料を当日確認すること。課題等の提出・フィードバックは、基本的には学習支援システムを通じて行うが、補助的に Google Classroom 等も用いる場合もある。授業に関する質疑応答については学習支援システムの掲示板機能を活用する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	授業の説明	授業の進め方、目的などを確認する
2	JavaScript 概説	JavaScript のプログラム（ソースコード）を記述するための環境（実装環境）および実行環境を確認する
3	変数、データ型	使用できる変数の使い方、使用できるデータの型、宣言の仕方について学習する
4	演算子と式	代入式、算術演算子、インクリメント/デクリメント演算子、代入演算子、関係演算子の用法を学ぶ
5	文とブロック	文とブロック、局所変数と大域変数の用法を理解して、使用する
6	条件分岐	if 文用法を学習し、具体的問題を作成してみる
7	繰り返し	for 文、while 文の構造を学習し、問題に適用する
8	基本的なアルゴリズム (1)	並べ替えを例に、同じ問題であっても対応するアルゴリズムが複数あることを学ぶ
9	基本的なアルゴリズム (2)	アルゴリズムを学んだ上で、それをコードとしてどう表現するのかを学習し、試す
10	アルゴリズムの実装	データの並べ替えを行う簡単なプログラムを実装する
11	関数 (1)	関数の概念と文法（形式）を学ぶ
12	関数 (2)	実際に自分で関数を作ったり、すでに用意されている関数を使ったりして、目的を達成するコード作成を目指す

13	標準入出力、外部ファイル	JavaScript ではあまり扱わないが、他言語で一般的に利用される標準入出力や外部ファイル入出力の概念を学習する
14	テストと授業のまとめ	授業での学習内容について、理解度を確認するためのテストを行う。また、テストの解説を行うことで授業をまとめる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内容を復習し、課題を提出する。

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて講義内で適宜連絡する。

【参考書】

必要に応じて講義内で適宜連絡する。

【成績評価の方法と基準】

成績評価は、平常点（授業に対する貢献など）20%、課題30%、期末テスト50%、で行う。

この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。

対面での期末テストの実施が困難であればオンライン試験を代替として行う。この場合は、期末テストの配分を下げ、小テスト・課題・レポート、授業内掲示板のコメントや情報共有を平常点を相対的に上げる予定である。詳細は初回授業時に説明する。

【学生の意見等からの気づき】

理解を深めるため、授業進度を適宜調整する。

【学生が準備すべき機器他】

情報実習室のパソコンを使用した実習型の授業である。情報実習室で対面授業を行う場合は、教卓機パソコン画面上のテキストや資料を使用して進める。オンライン併用の場合は、各自で学習環境を整える必要がある。基本的には Windows でも macOS でも構わないが、テキストエディタを用いることを前提としている。

オンライン併用の場合は、実習の質問対応も含めて適宜 Zoom あるいは Webex を用いる可能性がある。また、毎回の授業資料と課題は学習支援システムを利用して配布・提示する。

授業時間内にこれらに接続可能なネットワーク環境も必要である。

【その他の重要事項】

初回授業に必ず出席・または当日中に資料等を閲覧・確認すること。

情報リテラシーⅠ、情報リテラシーⅡを前提科目とする。

受講者が多数の場合は、抽選で選抜する。

【前提科目】

情報リテラシーⅠ、情報リテラシーⅡを前提科目とする。

【Outline (in English)】

(Course outline)

We will focus on the programming language specification and syntax of JavaScript and C language, which is one of the most famous programming languages, and learn the basics concepts related to programming.

(Learning Objectives)

To understand how to write and execute basic programming constructs and basic grammar, and to acquire the ability to create simple programs. (Learning activities outside of classroom)

You will need to do some independent study (revision) to make up for any difficulties you have in understanding the lecture content.

(Grading Criteria /Policy)

Grading will be decided based on Assignments and mid-term reports (30%), in-class contribution(20%), and term-end report (50%).

HUI200GA

仮想世界研究

甲 洋介

サブタイトル：**あなたは人間ですか、と問うー仮想世界とAIが
出会う時**

配当年次/単位：2~4年/2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：**毎年開講** | 開講セメスター：**春学期授業/Spring**

人数制限・選抜・抽選：**初回の授業に出席すること**

備考(履修条件等)：**情報関連科目を履修済みであることが望ましい**

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的(何を学ぶか)】

社会の重要なテーマとして「仮想世界」を取り上げる。仮想世界が人工知能と融合して新たな世界観が生まれつつある、と感じている人もいるだろう。本講義は「仮想世界」の問題に対して、受講生が主体となって具体的な視点をを用いて検討できるよう、工夫されている科目である。

● 手ごたえのない「現実」vs.リアルな「仮想世界」

ヒトはかつて仮想世界を作り出した。気がつく、現実と仮想との境界はますます曖昧になってきたと感じられる。しかしその2つが理想的にスムーズに接続された状態では未だない。AR/XRやメタバースなど、それらを繋ぐさまざまな接合方法が生み出され試行されている段階とみるのが適切であろう。

一方で、私たちの生活のさまざまな場面で、「手ごたえ」=リアリティ(現実感)が薄れつつある、とも指摘される。私たちの日常生活は、仮想世界が浸透することによって何が「変化」し、どのように「拡張」されたのか。そして、それは問題なのか。

● つながっているフリは寂しい? でも親密なのはもっと怖い

「情報」を軸とする変革の波は、社会だけでなく私たちの考え方に対して、深く影響を与え続けている。しかし、私たちはこの変化の意味を十分に把握しているとは言えない。仮想世界がもたらす意味を問い直す。

仮想世界の問題は、物語ではない。私たちの生活に現実に起きている現象である。本講義を通じて受講生は、『ヒトは原初から巧みに仮想(バーチャル)な世界を作り出し、つぎつぎに自分の限界を超えてきた動物である』ことに気づく。この現象の論点を見究め、洞察することを目指している。

【到達目標】

本科目の履修を終えると、次の基本主題とそれに対する考えを具体的な視点を駆使して説明できるようになる

- 人間は原初から巧みに仮想(バーチャル)な世界を作り出し、自らを拡張させてきた動物であること
- 仮想世界における「私」、それはもう一つの「私」なのか
- 「仮想現実感」(VR)の基本要素とその根拠をなす考え方
- 仮想世界の社会のさまざまな側面への浸透と影響

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

国際化学部部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

授業の各回では、具体的なトピックが取り上げられ、自分たちの身の回りに起きている現象を例に取りながら、仮想世界の問題を捉える具体的な視点が提示される。

● 現実世界における生きにくさの実感が増していく中、なぜか仮想世界は「生きやすい」。現実世界のリアリティの希薄化が指摘される一方で、仮想世界のリアリティは増していくように感じられる。

仮想世界は、技術者が勝手に作り出した世界ではない。仮想世界の構築は、あなた自身の欲望が関与している。そうだとしたら、私たちは**仮想世界に何を求め、私たちの何を変化させ、仮想世界と共にこれからをどう生きようとしているのか**。問い直す必要がある。

● 各回の授業は冒頭で前回のおさらいと受講生のコメントを踏まえた解説を加えながら、その回のトピックにつなぐ。授業後半では受講生どうしの討議を促しながら解説を加え、問題に切り込む論点を提示し、受講生がさらに問題意識を育てる工夫をする。その成果を最終レポートまたは期末試験において、総合的にまとめる。

※新型コロナ感染状況によって進め方を変更することがある。大学の行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。変更がある場合は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	仮想世界は、不思議と生きやすいーそれはなぜだろう
2	仮想世界への誘い	ネットでつながり、戸惑うーなぜか寂しい
3	仮想世界における「私」	仮想世界の私、それは仮面の私。それともホントの私?

4	仮想世界における「こころ」	現実より、仮想世界のほうに手ごたえを感じるパラドックス
5	仮想世界における「こころ」ーところで、君はヒトですか、と問う時代	戸惑いから受容へーヴァーチャルで恋した相手、それは〇〇だった
6	【グループ討議】仮想世界と付き合う	「没入」と、仮想世界とのアイロニカルな距離感について
7	現実を、仮想空間に取り込む方法	コンピュータグラフィックスの基礎
8	仮想現実とは何か	バーチャルリアリティ(VR)の基本概念
9	仮想現実とは何か:その根拠をなす理論	仮想現実(VR)の構成要素、その根拠をなす基本理論
10	仮想現実とは何か	仮想現実(VR/XR)技術の様々な分野への応用
11	仮想現実の応用:方向性	仮想現実(VR/XR)の様々な分野への応用
12	仮想現実の応用:社会が変わる	手ごたえのない経済、手ごたえのない戦争
13	【グループ討議】ヒトの欲望と仮想世界	ヒトの欲望を吸収し、膨張しつつける仮想世界
14	まとめ、総括討議、多層化する世界	リアルへの帰帰か、それとも世界は「多層化」に向かうのか

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

コメントシートも含め、本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト(教科書)】

- ・「接続された心」"Life on the Screen" (S. タークル、早川書房)
- ・国際会議 ACM SIGGRAPH DVD (Association for Computing Machinery)
- ・「2001年宇宙の旅」(A.C. クラーク、S. キューブリック脚本、ワーナー社配給)
- 他、M・ミンスキーのインタビュー記録など、講義で適宜指示をする。

【参考書】

- ・アニメ:「攻殻機動隊-GHOST IN THE SHELL」
- ・映画:「惑星ソラリス」(アンドレイ・タルコフスキー)
- ・"Alone Together" (S.Turkle, Basic Books 出版)
- 担当教員の研究プロジェクトや国際学会の資料など、タイムリーなトピックを紹介することがある。 他は、開講時に指示する。

【成績評価の方法と基準】

- ・期末レポートまたは試験(50%)
 - ・授業・討議における積極的な貢献度合い(発表、コメントシートを含む)(50%)
- を総合して評価する。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

「仮想世界におけるこころ」の問題に、受講生の関心が高いことが分かった。その主題を始め、受講生どうしの討議の時間を十分に取れるように図りたい。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布、リアクションペーパー・課題提出等に学習支援システムを利用するので授業前後にアクセスし確認すること。

【その他の重要事項】

いわゆるコンピュータの授業ではないので、注意のこと。

本講義では、討議に積極的に参画し、参加者の協同作業を通じて自らの問題意識を育てる姿勢が重要になる。

【履修条件】

「情報リテラシーⅠ・Ⅱ」を単位取得済みであること。

【関連科目】

- ・「道具のデザイン学」「道具による感覚・体験のデザイン」「文化情報空間論」「こころの科学」と組み合わせると、理解が深まり面白くなる仕組みになっている。
- ・「メディア情報基礎」を履修済みであることが望ましいが必須ではない。

【Outline (in English)】

This class addresses the enlargement of "Virtual World," as one of the essential issues of our modern society. By the end of the course, students understand and should be able to explain a set of its key concepts: (1) the virtuality vs. the reality, (2) the issue of "self and identity" within cyber spaces, and (3) how to cultivate this society which integrates real world and virtual worlds.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Final grade will be decided based on (1) final report/exam (50%) and (2) short reports and the quality of the student's in-class contribution (50%).

FR1200GA

社会とデータサイエンス

和泉 順子

配当年次／単位：2～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：

備考（履修条件等）：情報関連科目を履修済みであることが望ましい

その他属性：〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

情報化社会が発展・普及していく中で、様々なものがデジタル化されインターネットに接続されつつある。この授業ではIoT（Internet of Things）やビッグデータ等に関連するデータサイエンスというキーワードから、パソコンで作成するデータだけでなくセンサや人の行動、公的機関からの公開情報等から得られるデータがどこでどのように利活用されているのかを学ぶ。また、データサイエンティストとはどんな人材なのかを議論しながら、様々なデータの性質や扱い方、可視化等を統計学等の観点から学び、実践する。

【到達目標】

ビッグデータ、IoT、オープンデータ、といった言葉で表現される膨大なデータの利活用としてデータサイエンスのいくつかの事例と、そこから作られる情報や価値について学ぶ。個々のデータの具体的な内容ではなく、異なる内容や形式を持ったデータに共通する性質や、データを正しく扱うために情報科学だけでなく社会科学分野にも重要な統計学などを学ぶ。また、同じデータでも可視化の方法によって伝わり方が違う事を学び、実践する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

講義はPCを使用した実習形式で行い、授業内のプレゼンテーション、課題・小テストおよびレポートにより学習結果を確認する。

情報実習室での対面授業を基本とするが、状況に応じてオンライン授業に切り替える場合もある。学期途中での授業形態の変更やそれにもなう各回の授業計画の修正については、学習支援システムでその都度提示する。履修予定者は、必ず初回授業日の前日までに学習支援システムで本科目を仮登録し、初回授業に参加、または初回授業資料を当日確認すること。

課題等の提出・フィードバックは、基本的には学習支援システムを通じて行うが、補助的にGoogle Classroom等も用いる可能性がある。

授業に関する質疑応答については学習支援システムの掲示板機能を活用する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の説明、社会におけるデータサイエンスの重要性について
2	IoTとビッグデータ	IoT（Internet of Things）とは何か、ビッグデータの利活用事例を学ぶ
3	オープンデータの活用	公開されているオープンデータがどのように活用されているかを学び、自ら調べる
4	仮想空間のプライバシー	デジタルな空間、あるいはインターネット上におけるプライバシー確保に必要な技法の一部を学ぶ
5	統計処理の意味	データを抽出して価値を創出するために、どのような統計手法があるのかを学ぶ
6	統計分析の意味	統計処理したデータの分析から何が分かるのか、それが何に役立つのかを学ぶ
7	データの種類と尺度	4つの尺度と利用可能な測定値、および相関について学ぶ
8	統計の基本と実践（1）	平均値と中央値、正規分布、分散、標準偏差の意味について学ぶ
9	統計の基本と実践（2）	正規分布と確率について学ぶ
10	統計の基本と実践（3）	仮説検定の種類と考え方を学ぶ
11	データの可視化	同じデータでも可視化の違いによって印象や伝わり方が異なることを学ぶ。また、データを説明するために適切なグラフは何かを学ぶ
12	データサイエンスの実践	自分の興味のあるオープンデータから適切な統計手法を用いてデータを読み取り表現する
13	プレゼンテーション	自分が調べ、読み取り、表現したことを授業内で発表する

14 議論と考察、授業のまとめ 授業内で扱ったデータについて質問を通して改善の余地を議論・考察する。また授業のまとめを行い、授業内に簡単なレポートを作成、提出する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

統計学をはじめ数学の知識を多少使うため、各自の理解度に応じて適宜予習復習をすること。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

授業内で適宜指定する。

【参考書】

授業内で適宜指定する。

【成績評価の方法と基準】

成績評価は、平常点 20%、小テスト 20%、プレゼンテーション 30%、レポート 30%で総合的に行う。

この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

情報実習室のパソコンを使用した実習型の授業である。情報実習室で対面授業を行う場合は、教卓機パソコン画面上のテキストや資料を使用して進める。オンライン併用の場合は、各自で学習環境を整える必要がある。基本的にはWindowsでもmacOSでも構わないが、Excelでデータ分析ができる環境を前提としている。

オンライン併用の場合は、最終課題となるプレゼンテーションはZoomあるいはWebexを用いる。また、毎回の授業資料と課題は学習支援システムを利用して配布・提示する。

授業時間内にこれらに接続可能なネットワーク環境も必要である。

【その他の重要事項】

受講者数が定員を超過する場合は初回授業の課題をもとに選抜を行う。初回授業はZoomを用いたオンライン授業となるが、受講者数把握のため、受講希望者は初回授業日の前日までに学習支援システムに仮登録すること。詳細は学習支援システムを参照し、授業資料や「お知らせ」を必ず確認すること。

授業内容は、「情報リテラシーⅠ」、「情報リテラシーⅡ」の内容を概ね理解していることを前提に進みます。

【Outline (in English)】

(Course outline)

In this class, you will learn how data, which may be obtained not only from data created by computers, but also from various sensors, human behavior, and information released by public institutions as "open data", is used in social activities. The keywords are "data science", "Internet of Things (IoT)", "open data" and "big data". Students will learn and practice the handling and visualisation of various types of data.

(Learning Objectives)

- Learn about some examples of data science as a way to make use of the vast amounts of data described by terms such as Big Data, IoT and Open Data.

- We will learn about the common properties of data with different contents and formats, and statistics.

- Learn and practice how the same data can be communicated in different ways depending on how it is visualised.

(Learning activities outside of classroom)

You will need to do some independent study (revision) to make up for any difficulties you have in understanding the lecture content.

(Grading Criteria/Policy)

Grading will be decided based on the mid-term exam (20%), in-class contribution(20%), and the term-end presentation (30%) and report (30%).

HUI200GA

道具による感覚・体験のデザイン

甲 洋介

サブタイトル：カラダの『体験』から空間をデザインする

配当年次／単位：1～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

人数制限・選抜・抽選：教室の収容人数を超えた場合は選抜を行う。

その他属性：〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「体験」という個人的な出来事を、受講生がアタマとカラダを使って「体験し直す」ことを目指す科目である。

● 日常の体験こそ奥が深い

体験という言葉からあなたが思い浮かべるのは、忘れられない事、驚いたこと、可笑しい体験、つらかったことなど、ほとんどが「非日常的な」体験ではないだろうか。しかし体験の本質に迫りたいなら、むしろ、日常の体験の豊かさこそ目を向けるべきである。本講義によって受講生は、一見些細に思える日常の体験においてさえ、身体のださまざまな感覚は研ぎ澄まされ、わずかな世界の変化を感じ取り、豊かに感情が湧き起こり、体験が生み出されていくさまを理解できるようにする。

● 【体験】から、空間をデザインする

今年度は、「空間の体験」を取り上げる。本講義を通じて受講生は、人間は他人との間にある距離・空間を絶妙にコントロールしながら、互いに巧みな空間行動をしていることを理解できるようにする。たとえばキャンパス、カフェ、エレベーターなど、多くの人々が行き交う場は、人間の空間行動の特性を観察し、解析するには格好の空間である。

身体は空間を感じ、体験を生み出す。空間のデザインによって、そこでの体験はどのように変化するのか。この理解をベースにし、日常の空間をデザインし直すことに取り組む。たとえばもっと快適に安らげるように、あるいはもっと自然な集中ができるように。

● 体験をデザインする、ということ

「経験」「体験（*experience*）」が今ほど注目される時代はない。一方で「経験の危機」も指摘される。仮想世界の浸透も手伝って、私たちの「体験」はかつてない速度で変化が進み、どこまでが体験なのか、その境界はますます曖昧になりつつある。例えば、自分の身体と感覚を使って実際に体験していない出来事であっても、「あたかも体験したかのように」受け入れていることに気づく。本講義を通じて、この現象を、デザインの視点から批判的に問い直すことになる。

【到達目標】

受講生はつぎの3つについて、基本用語を使って簡潔な説明ができるようになる。

- 1) 体験するとはどのようなことか
- 2) 人間は、どのように空間を身体で感じ、感情を働かせながら、人との距離や空間を互いに調節し、巧みな空間行動をしているか
- 3) 空間の体験は、その空間のデザインによってどのように変化するのか。そして、これらの知識を用いて具体的対象に対して基本を実践できるようにする。これらを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

講義と、実際に手を動かすデザイン・ワークショップを組み合わせて展開させる。講義で取り上げる3つのテーマ、およびワークショップの概要は次の通りである。各回において受講生のコメントシートを踏まえながら前回内容のおさらいと解説をし、理解の深化を促す。

● 【講義の3つのテーマ】

- (a) 身体と感覚、体験すること
- (b) 空間を体験する。道具によって空間の体験を作る
- (c) 身体の観点から、感覚・体験装置を再考する

● 【デザインワークショップ】

さらに上記テーマのうち (b) 空間体験に焦点を絞って、街角のカフェ、店、学校、オフィス空間、住宅内のリビングルームなど具体的な空間を例にとり、デザインワークショップによる実践を通じて理解する。
※新型コロナウイルス感染状況によって進め方を変更することがある。大学の行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。変更については学習支援システムで伝達する。その場合も制作など実践の効果が得られるよう工夫する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり/Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	講義の狙い、構成、進め方のガイダンス
第2回	[A] 身体、感覚、体験	体験と身体。自然との境界としての身体・感覚
第3回	感覚と体験	感覚を体験する。直接体験と間接体験
第4回	感情の科学：感情をともなう体験	感情を体験する。感情を伴う体験のメカニズム
第5回	[B] 人間の空間行動と空間体験のデザイン	カラダで空間を感じる（視・聴・多感覚）
第6回	人間の空間行動	観察しよう。人間が見せる面白い空間行動
第7回	人間の空間行動～パーソナルスペース	空間行動は、文化の中に組み込まれている
第8回	デザインワークショップ1	からだが『空間を体験する』
第9回	[C] 身体から、感覚・体験装置を問い直す	体験 <i>experience</i> から、空間をデザインする
第10回	空間の体験 ～道具によって空間の体験を作る	学校という空間、カフェという場所。空間体験から考え直す
第11回	身体からみた『日本庭園』～日本庭園のふしぎ	身体を覚醒させる装置としての日本庭園。時間的な連続性
第12回	デザインワークショップ2	カフェ、オフィス、学校、[場所]のデザイン、発表と討議
第13回	空間体験の仮想化	現実と仮想体験の融合。スヌーズレン。仮想現実 VR、拡張現実 AR、ミックストリアリティ MR、代替現実 SR
第14回	まとめ：身体、感覚、体験 -revisit-	生きた空間。経験としての芸術。経験の危機

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・デザイン課題、発表のための資料づくりがあります。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

初回時に指示をする。

【参考書】

- ・「経験としての芸術」(J. デューイ) 講談社学術文庫, 2004
- ・「かくれた次元」(E.T. ホール) みすず書房, 1970
- ・「空間の経験—身体から都市へ」(Y.F. トゥアン) ちくま学芸文庫, 1993

【成績評価の方法と基準】

- ・レポート、作品制作 (50%)
 - ・コメントシート、発表、討議への積極的な参画、平常点 (50%)
- この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

履修者からの要望が多い、建築空間での事例研究を増やそうと思う。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布、コメントシート・課題提出等に学習支援システムを利用する。授業前後にアクセスし確認すること。

【その他の重要事項】

講義を言葉で理解するだけでなく、日常のあらゆる機会をとらえて、身体と感性を駆使して理解しよう。面白い建築を訪ねたり、街の人々の空間行動を新しい視点からウォッチングしたり、日本庭園に仕掛けられた身体体験を批評的に味わったり、間の中で海辺の波音にじっと耳をすます体験が役に立つ。教室の収容人数を超えた場合は選抜を行う。

【重要な関連科目】

「道具のデザイン学」「こころの科学」「仮想世界研究」と組合せ受講することが望ましい。それらで学んだ知識を用いて、この講義および実習をより深い理解に基づいて進めることができるようになる。

【情報機器・視聴覚設備の活用】

PCおよび、DVDデッキ、プロジェクター等の視聴覚設備を活用し、講義形式とワークショップを組み合わせた授業を展開する。

【Outline (in English)】

This class allows you to learn (a) the basic concepts of experience, emotion, feeling and embodiment, and (b) the “design of experience”. This year, we will focus on human spatial experience and the design of spatial experience.

By the end of the course, students should be able to (a) explain the relationship between experience, emotion, feeling and embodiment, and (b) practice basic principles of “experience-based design” based on the understanding of the above basic concepts.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Final grade will be decided based on (1) final report/work product (50%) and (2) short reports and the quality of the student's in-class contribution (50%).

COT300GA

メディアアートの世界

大嶋 良明

配当年次/単位: 2~4年 / 2単位

旧科目名:

旧科目との重複履修:

毎年・隔年: 毎年開講 | 開講セメスター: 春学期授業/Spring

人数制限・選抜・抽選:

その他属性: 〈他〉〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

メディアアートの作品世界を知り、自作のプログラムでメディアアートの作品制作を体験しよう

本講義では芸術表現のためのプログラミング言語 Processing のプログラム(スケッチ)基礎を学ぶ。またメディアアート作品の芸術論集を手がかりに、様々な作品例とそれらの構成手法を並行して学ぶことにより、メディアアートのためのビジュアルな表現手法を習得する。また現代的な潮流となりつつある p5.js 環境での Processing 流プログラムの Web 環境での実装についても学ぶ。

【到達目標】

メディアアート作品の鑑賞のための技術的な枠組みと批評言語を理解できる。Processing の制作環境での描画や対話機能を身に付け、メディアアートのための表現手法の基礎を習得する。

IoT や Maker ムーブメントなど Web と現実世界が交差する今日的な環境、身の回りにある生活の道具がネットにつながるこれからの生活環境について理解し視野を広げる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

情報実習室において講義と実習を行う。

●講義と実習(マルチメディア対応の情報実習室)

Processing プログラミング環境を活用して、入門書の単元に沿った実習課題に取り組む。習得知識をすぐに応用して理解度確認のための作品作りに取り組む。成果物を自分のスマートフォンなどでも動かしてみる。

●ePortfolio による学習成果の公開

総合的な情報公開の場として活用する。

なお、毎回の授業で小テストを実施し、質問を受け付ける。次回授業の初めに前回の小テストの答え合わせと質問に関する回答の時間を設ける。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション: Processing 入門	Processing とは何か、その開発の経緯と現在の動向を学ぶ。
2	Processing の基礎 (1) : 簡単な実例	基本図形の描画など単純な例題から Processing プログラミングの基礎を習得する。
3	Processing の基礎 (2) : 基本描画	描画順序を理解する。描画スタイルを学ぶ。
4	Processing の基礎 (3) : 変数と制御構造	変数の概念を理解し、繰り返し演算などスケッチの制御構造と使用方法を学ぶ。
5	ユーザーインター フェース 【制作課題 1】	マウス追従、キーボード入力などユーザの GUI 操作をスケッチに利用する技法を学ぶ。 【課題 1】 習得した技法を総合して写真コンテンツの Web を制作する。
6	描画の操作: 移動、回転、 拡大縮小	移動、回転、拡大縮小など描画内容の操作方法、およびそれらの操作を部品化してまとめる技法を習得する。
7	メディアデータの扱い	イメージやムービーなど外部メディアデータの読み込みとスケッチでの利用法を学ぶ。
8	アニメーション: 動きの 演出 【制作課題 2 : 学習成果 のまとめと Web 化の検 討】	動画のトゥイーン技法、ランダム化、時間構造の処理、周期的運動など動画演出の技法を学ぶ。 【課題】 学習成果を活用して Processing 作品を制作する。p5.js による Web 化を試みる。
9	関数	関数の仕組みを理解し、各種描画処理や再利用される機能の部品化を学ぶ。

10	オブジェクト 【学期末課題の構想】	オブジェクトの概念を理解し、スケッチ内容の概念的な構造化の考え方を学ぶ。 【課題】 学期末の制作物について構想を開始する。
11	配列	配列の概念を理解し、オブジェクトへの適用などスケッチでの使用を学ぶ。
12	外部データ、ビッグデータ	表データ、JSON 形式の外部データ、API 経由でのインターネットの各種サービスデータの利用技法を学ぶ。 【課題】 制作物の実装方法の構想発表。マイク音声などリアルタイムデータの取り込み、Arduino マイコンとの連携方法、物理世界との接続を学ぶ。
13	リアルタイムデータ、デバイス連携	学習内容をまとめ、可能な限り網羅的に盛り込んだ作品を制作し、授業内で発表、相互批評する。
14	まとめ: 最終課題の発表 と相互批評	

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

メディアアートの制作には多くの技術的なポイントがある。これらの問題を乗り越えて作品の構成技法を習得するには場数を踏むことが重要です。また授業内で単元として学習する各種の技法を実際のコンテンツ制作に応用する場面ではさまざまな可能性があるため、受講生はかならず授業時間外に自らのアイデアを Processing 作品に応用する練習を行って欲しい。同時に学習成果の表示環境として各自の端末を積極的に検証に活用すること。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト(教科書)】

Casey Reas (著)、Ben Fry (著)、船田 巧(翻訳)、「Processing をはじめよう 第2版 (Make: PROJECTS)」, オライリー・ジャパン (2016)、ISBN-13: 978-4873117737

【参考書】

【Processing】

Daniel Shiffman (著)、尼岡 利崇(翻訳)、「初めての Processing」、オライリー・ジャパン (2018)、ISBN-13: 978-4873118611

【p5.js プログラミング】

Benedikt Gross (著)、Hartmut Bohnacker (著)、Julia Laub (著)、深津貴之(監修)「Generative Design with p5.js — ウェブでのクリエイティブ・コーディング」、ビー・エヌ・エヌ新社 (2018)、ISBN-13: 978-4802510974

【メディアアートのためのプログラミング】

Hartmut Bohnacker (著)、Benedikt Gross (著)、Julia Laub (著) 他、「Generative Design — Processing で切り拓く、デザインの新たな地平」、ビー・エヌ・エヌ新社 (2016)、ISBN:978-4802510134

【ジェネラティブ・アート】

マット・ピアソン(著)、Matt Pearson (著)、久保田 晃弘(監修)、沖 啓介(翻訳)、「[普及版] ジェネラティブ・アートの Processing による実践ガイド」、ビー・エヌ・エヌ新社 (2014)、ISBN-13: 978-4861009631

【成績評価の方法と基準】

平常点(授業参加の積極性、20%)、中間課題(30%)、最終課題(40%)、相互批評(10%)を目安にすべてを総合的に評価する。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

プログラミング初心者にも活用できるよう演習課題を設定し Processing の可能性を理解してもらえよう優れた作品の紹介に努める。身近に利用できる PC と Web 環境で、学習成果の理解に役立つような授業を目指したい。メディアアートの動向にも触れる機会としたい。

【学生が準備すべき機器他】

情報実習室において授業を行う。各自の PC や携帯端末を実習の検証に活用する。

ePortfolio(HOPS) に学習成果を蓄積する。

【その他の重要事項】

自分でさまざまな工夫をこらして動きのあるメディア作品を制作するのは楽しいものです。コンピュータとインターネットを自己表現の仕掛けとして使いこなそう。

情報系教員によるクラス授業であり、Web を基盤とする ICT の活用実習、ならびに発見型学習を通じて本科目では学生の就業力育成を支援する。

【前提科目】

前提科目: 「情報リテラシーⅠ」、「情報リテラシーⅡ」を履修していることを前提とする。

関連科目: 「デジタル情報学概論」、「プログラミング言語基礎」

【実務経験のある教員による授業】

担当教員は IT 企業での研究所勤務において 15 年間のデジタル信号処理、マルチメディア処理分野での研究とシステム開発の経験がある。

【Outline (in English)】

This course deals with introduction to creative coding with Processing programming language. In addition, p5.js is practiced to extend presentation and interaction in contemporary web-based context. Students will learn media art in contemporary environment and learn art of programming for creativity as well as creativity through programming.

Grading policy is as follows:

In-class contribution: 20%

Homework and in-class assignment: 30%

Final assignment: 40%

Critique: 10%

Your must achieve at least 60% in the overall grade to pass for academic credit.

The average study time outside of class per week would be approximately 4 hours.

LANe300GA

英語アプリケーションⅥ

ラスカイル L. ハウザー

配当年次／単位：3～4年／2単位

旧科目名：英語アプリケーション

旧科目との重複履修：○

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
 人数制限・選抜・抽選：初回の授業に出席し担当教員の受講許可を得ること

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

English Application is an integrated 4 skills communication skills course with a focus on an English for Academic Purposes (EAP) or English for Specific Purposes (ESP) content area. Though Canada is the second largest country geographically in the world, it has a comparatively small population. This disparity makes Canada's size both an asset and its challenge. In the Canadian Life course, we will look at those features that make Canada unique. Study topics will include First Nation/Aboriginal Peoples, Canadian Arts, Multiculturalism and English/French Culture.

【到達目標】

The goal of English Application is to give Post-SA students a forum to continue to use and enhance their English Communication skills. The Canadian Life course explores Canadian culture and lifestyle and Canada's development as a nation. Each class period will be divided into four parts: (a) a short lecture introducing the week's topic, (b) Canadian fact sheet questions and answers, (c) a guided topical conversation, and (d) short readings and presentations. This course is designed for students to be actively involved in all in-class activities.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

When the university's Action Policy (Conduct Guideline) Level is 2, this class will be conducted online in principle. Details will be communicated via the Learning Managing System.

Though Canada is the second largest country in the world geographically, it has a comparatively small population. This disparity makes Canada's size both an asset and its challenge. During the course of the semester, we will look at those features that make Canada unique. Study topics will include First Nation/Aboriginal peoples, Canadian arts, multiculturalism and English/French culture. Each class period will be divided into four parts: (a) a short lecture introducing the week's topic, (b) Canadian fact sheet questions and answers, (c) a guided topical conversation, and (d) short readings and presentations. This course is designed for students to be actively involved in all in-class activities. Students will receive feedback and comments on homework assignments and in class activities throughout the term.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
Week 1	Class Orientation: Student Selection & Class Overview	Brief English lecture on course content, students' responsibilities, and grading criteria.
Week 2	Canadian Geography	Conversation: 'I'm good at Canadian facts!' Question & Answer Session - Canada Fact Sheet: Week #1 Discussion Topic and Presentation
Week 3	Regions of Canada - The Maritimes Slideshow	Conversation: 'I'm a new immigrant to Canada!' Question & Answer Session - Canada Fact Sheet: Week #2 Discussion Topic and Presentation
Week 4	Regions of Canada - Quebec/Ontario Slideshow	Conversation: 'The Polar Bear Dip' Question & Answer Session - Canada Fact Sheet: Week #3 Discussion Topic and Presentation
Week 5	Regions of Canada - The Prairies Slideshow	Conversation: 'Canoeing the Nahanni!' Question & Answer Session - Canada Fact Sheet: Week #4 Discussion Topic and Presentation

Week 6	Regions of Canada - Western Canada Slideshow	Conversation: 'This weather is amazing!' Question & Answer Session - Canada Fact Sheet: Week #5 Discussion Topic and Presentation
Week 7	Canadian Art - The Group of Seven	Conversation: 'Canada's National Sport?' Canada Fact Sheet: Week #6 Discussion Topic and Presentation
Week 8	Canadian Art - Norval Morrisseau	Conversation: 'What's your favourite Canadian city?' Question & Answer Session - Canada Fact Sheet: Week #7 Discussion Topic and Presentation
Week 9	Canadian Music - Celtic Music	Conversation: 'Nova Scotia Bound!' Question & Answer Session - Canada Fact Sheet: Week #8 Discussion Topic and Presentation
Week 10	Canadian Music - Leonard Cohen, Buffy Saint-Marie	Conversation: 'Trudeaumania!' Question & Answer Session - Canada Fact Sheet: Week #9 Discussion Topic and Presentation
Week 11	First Nations People	Conversation: 'Canadian exports: I need some help!' Question & Answer Session - Canada Fact Sheet: Week #10 Discussion Topic and Presentation
Week 12	First Nations People	Skiing Mt. Whistler' Question & Answer Session - Canada Fact Sheet: Week #11 Discussion Topic and Presentation
Week 13	Multiculturalism	Conversation: 'Quebec City Winter Carnival!' Question & Answer Session - Canada Fact Sheet: Week #12 Discussion Topic and Presentation
Week 14	Quebec	Conversation: 'Toronto has really changed!' Question & Answer Session - Canada Fact Sheet: Week #13 Discussion Topic and Presentation

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Presentation topics are to be researched outside class. A visual component is required for all presentations. Weekly conversations and Fact Sheet questions and answers are to be studied and practiced before class for fluency. The standard preparation and review time for this class is four hours per week: 2 hours preparation and 2 hours review.

【テキスト（教科書）】

There is no required textbook for this course.

【参考書】

References will vary depending on the subject matter of the students' presentations. Research suggestions will be made by the instructor prior to research. This course will also use some online English News and Study Materials.

【成績評価の方法と基準】

Students will be graded on their
 1. Bi-weekly presentations - 70%
 2. Weekly quizzes - 30%

Based on the grading criteria set by the instructor, students that successfully achieve 60% or more of course goals will be able to earn a passing grade for the course.

【学生の意見等からの気づき】

N/A

【学生が準備すべき機器他】

None

【その他の重要事項】

None

LANd300GA

ドイツ語アプリケーション

熊田 泰章

配当年次/単位：3～4年 / 2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：隔年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：初回の授業に出席し担当教員の受講許可を得ること

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

これまでに身に付けたドイツ語の運用能力をさらに高めるためのトレーニングを行います。授業では、簡潔に文意を捉える力を養うために、また、ドイツ語の構文を正しく理解し内容を精緻に把握する力を養うために、読解の訓練をしていきます。必要に応じて会話や聞き取りの練習も行います。ドイツ語圏の生活、文化、社会、政治、経済、歴史、現在の問題など多様なテーマに関する資料を用い、内容を把握します。

【到達目標】

ドイツ語圏の生活、文化、社会、政治、経済、歴史、現在の問題など多様なテーマに関する理解を深める。ドイツ語の文章を正確に読み解く。迅速に文章の大意を把握できるようになる。ドイツ語の仕組みや、ドイツ語圏の人々の考え方を学ぶ。様々な文化との対比を通して、異文化性を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、に関連。

【授業の進め方と方法】

ドイツ語圏の生活、文化、社会、政治、経済、歴史、現在の問題など多様なテーマに関する資料を用います。授業では、テキストを読み、理解を得ていく練習をします。内容を正確に読み解くとともに、そこで取り上げられているトピックについての議論も行います。教材資料は学習支援システムで提示します。

セメスターの後半では、準備したテーマに加えて、受講者の提案によって取り上げるテーマを選定し、テキストを追加していきます。

春学期ドイツ語アプリケーション（熊田泰章）のバージョンアップとなる授業です。重要なテーマを取り上げて、学習内容を深化させます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス AKW Nein	授業の進め方について決定、受講者の自己紹介とドイツ語レベル確認。 AKW Nein の理解
2	Armut bei den Studierenden	Armut bei den Studierenden の理解
3	Brennholz	Brennholz の理解
4	Curry-Wurst	Curry-Wurst の理解
5	Du hast den Farbfilm vergessen	Du hast den Farbfilm vergessen の理解
6	Gedanken ist frei	Gedanken ist frei の理解
7	Kachelofen	Kachelofen の理解
8	Kassel-Dokumenta	Kassel-Dokumenta の理解
9	Rauchfangkehrer	Rauchfangkehrer の理解
10	Skulptur Projekte Münster	Skulptur Projekte Münster の理解
11	Sonderzug nach Pankow 受講者選定テーマ 1	Sonderzug nach Pankow の理解 受講者選定テーマ 1 の理解
12	Torf 受講者選定テーマ 2	Torf の理解 受講者選定テーマ 2 の理解
13	Guten Rutsch ins neue Jahr Wiener Philharmoniker Neujahrskonzert 受講者選定テーマ 3	Guten Rutsch ins neue Jahr Wiener Philharmoniker Neujahrskonzert の理解 受講者選定テーマ 3 の理解
14	このセメスターのまとめ	学んだことを整理する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の授業の教材資料は、学習支援システムで事前に配布しますので、適宜予習してください。

本授業の準備学習・復習時間は各 4 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用せず、適宜、教材資料を学習支援システムで提示します。

【参考書】

中島悠爾・朝倉巧・平尾浩三『ドイツ文法総まとめ』白水社、2003 年
注冊季『もやもやを解消！ ドイツ語文法ドリル』三修社、2015 年

【成績評価の方法と基準】

授業での発言と参加 40 %、課題への取り組み 40 %、小テスト 20 %。
この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60%以上を達成した者を合格とします。

【学生の意見等からの気づき】

受講者が自ら発言する授業運営とするように努めています。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムで教材資料の提示と課題の提出を行います。

【Outline (in English)】

【Course outline】

The aim of this course is to make progress of German language skills acquired by staying and studying in Germany, in Austria or in Switzerland and so on. The course is especially focused on reading German texts. On one hand we'll practice to read various types of texts rapidly without using dictionaries in order to be able to grasp the main points of the text. On the other hand we read more complicated texts precisely by paying attention to the structures of sentences as well as cases (nominative, genitive, dative and accusative).

【Learning Objectives】

The goals of this course are to make progress of German language skills acquired by staying and studying in Germany, Austria, Switzerland or so, and to gain broad cultural understanding.

【Learning activities outside of classroom】

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

【Grading Criteria /Policy】

Your overall grade in the class will be decided based on the following:
contribution to each class meeting: 40%, short reports : 40%,
examinations: 20%

LANs300GA

スペイン語アプリケーション

OSNO I DE SASAKUBO H

配当年次／単位：3～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
 人数制限・選抜・抽選：初回の授業に出席し担当教員の受講許可を得ること

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

The objective of this course is to raise the level of the Spanish language of each student, through reading and analysis of written and oral texts, etc.

【到達目標】

Improve your communication skills through the Spanish language.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

Para conseguir los objetivos arriba mencionados, semana tras semana iremos avanzando haciendo uso del material que yo iré elaborando y repartiendo a los alumnos.

Al comienzo de cada lección se dará comentarios y las respuestas de las tareas dadas.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Aplicación	Planteamiento del curso. Exposición sobre la experiencia con el español.
2	Aplicación	La migración. Latinos en Japón
3	Aplicación	Países muy diferentes. Vida, costumbres, cultura. Debate.
4	Aplicación	Cuentos tradicionales de terror del mundo hispano
5	Aplicación	Proyección de una película.
6	Aplicación	Bromas y equivocaciones graciosas, refranes, etc.
7	Aplicación	Comida peruana. Receta de cocina.
8	Aplicación	El sistema educativo. Debate.
9	Aplicación	Fiestas populares de Japón (obon) y del mundo hispano
10	Aplicación	La coca no es cocaína.
11	Aplicación	Canciones. Letra de algunas.
12	Aplicación	Cantantes de música popular de España e Hispanoamérica.
13	Aplicación	La Navidad El Año Nuevo y sus celebraciones. Tradiciones y costumbres.
14	Aplicación	Examen.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

The standard preparation and review time for this class are 4 hours each.

【テキスト（教科書）】

プリント使用

【参考書】

SHOGAKUKAN DICCIONARIO ESPAÑOL-JAPONÉS Segunda edición

【成績評価の方法と基準】

-Exams (50%)

-The active class participation of students (50%)

【学生の意見等からの気づき】

Seguir mejorando en la elaboración de materiales originales del gusto e interés de los alumnos.

【Outline (in English)】

【Course outline】

Application course.

【Learning Objectives】

The objective of this course is to maintain and raise the level of the Spanish language that students have reached during their learning either in Japan or in a Spanish-speaking country. Fields that we are going to deal with and skills that we are going to try to reinforce as far as possible: oral and written comprehension, grammar, and vocabulary. At the end of this course, students will be able to communicate in Spanish, both written and orally, in specific and daily life situations.

【Learning activities outside of classroom】

Before each class, it is mandatory to review the topics covered.

It is necessary to put into practice and experience what has been learned in each class to achieve the stated objective.

The standard preparation and review time for this class is 4 hour.

【Grading Criteria /Policy】

Grading will be calculated based on exams (50%) and the class contribution of students (50%).

LANs300GA

スペイン語アプリケーション

OSNO I DE SASAKUBO H

配当年次／単位：3～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
人数制限・選抜・抽選：初回の授業に出席し担当教員の受講許可を得ること

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

In this course, students will be able to write narrative texts applying their previous and new knowledge.

【到達目標】

At the end of the course, students will be able to write a short narrative text and improve their communication skills in the Spanish language.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

Para conseguir los objetivos trazados, semana tras semana iremos avanzando haciendo uso de los cuentos propuestos en el libro de texto. Además, al comienzo de cada lección se dará comentarios y las respuestas de las tareas dadas.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Presentación del curso	Presentación del curso y la explicación de método de evaluación. Exposición de los estudiantes sobre su experiencia con el idioma español.
2	Aplicación "El padre el hijo y el burro"	Pretérito imperfecto. Lectura y análisis del cuento
3	Aplicación "El padre el hijo y el burro"	Pretérito imperfecto. Hablar del club al que integra.
4	Aplicación "El padre el hijo y el burro"	Pretérito imperfecto Redacción de cuando era estudiante de instituto
5	Aplicación "Mis galletas"	Pretérito indefinido Lectura y análisis del cuento
6	Aplicación "Mis galletas"	Hablar sobre lo que se hizo la semana pasada. Escribir un texto usando el pretérito indefinido.
7	Aplicación "El billete de 50 dólares"	Pretérito perfecto y pluscuamperfecto. Lectura y análisis del cuento
8	Aplicación "El billete de 50 dólares"	Hablar de lo que se hizo esta semana.
9	Aplicación "El billete de 50 dólares"	Redacción de un usando el pretérito pluscuamperfecto.
10	Aplicación "El último trabajo"	Lectura y análisis del cuento. Pretéritos de indicativo
11	Aplicación "El último trabajo"	El relativo "que" y "que"
12	Aplicación "Una magnífica cosecha"	Lectura y análisis del cuento.El reflexivo "se"
13	Aplicación "Una magnífica cosecha"	Hablar de la comida favorita. Escribir una receta
14	Examen final	Examen (Presentación del cuento redactado por ellos mismos)

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

The standard preparation and review time for this class are 4 hours each.

【テキスト（教科書）】

CUÉNTAME 8 cuentos para disfrutar aprendiendo español.

Nivel intermedio

Editorial Asahi

【参考書】

SHOGAKUKAN DICCIONARIO ESPAÑOL-JAPONÉS Segunda edición

【成績評価の方法と基準】

-Exams (50%)

-The active class participation of students (50%)

【学生の意見等からの気づき】

Seguir mejorando en la elaboración de materiales originales del gusto e interés de los alumnos.

【Outline (in English)】

【Course outline】

Application course.

【Learning Objectives】

This course is aimed at those students who have sufficiently acquired basic Spanish grammar and conversation skills. Applying their previous and new knowledge they will be able to write narrative texts. Fields that we are going to deal with and skills that we are going to try to reinforce as much as possible are below: comprehension and expression, oral and written, grammar and vocabulary.

At the end of the course, students will be able to write a short narrative text and improve their communication skills in the Spanish language.

【Learning activities outside of classroom】

Before each class, it is mandatory to review the topics covered.

It is necessary to put into practice and experience what has been learned in each class to achieve the stated objective.

The standard preparation and review time for this class is 4 hour.

【Grading Criteria /Policy】

Grading will be calculated based on exams (50%) and the class contribution of students (50%).

LANs300GA

スペイン語アプリケーション

OSNO I DE SASAKUBO H

配当年次／単位：3～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：隔年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
 人数制限・選抜・抽選：初回の授業に出席し担当教員の受講許可を得ること

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

In this course, students will be able to write narrative texts applying their previous and new knowledge.

【到達目標】

At the end of the course, students will be able to write a short narrative text and improve their communication skills in the Spanish language.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

Para conseguir los objetivos trazados, semana tras semana iremos avanzando haciendo uso de los cuentos propuestos en el libro de texto. Además, al comienzo de cada lección se dará comentarios y las respuestas de las tareas dadas.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Aplicación	Presentación del curso y la explicación de método de evaluación. Exposición de los estudiantes sobre su experiencia con el idioma español.
2	Aplicación "Una magnífica cosecha"	Lectura y análisis del cuento. El reflexivo "se"
3	Aplicación "Una magnífica cosecha"	Hablar sobre la comida favorita. Receta de cocina
4	Aplicación "La morcilla"	Lectura y análisis de cuento Introducción al presente del subjuntivo
5	Aplicación "La morcilla"	Hablar sobre deseos y anhelos.
6	Aplicación "La morcilla"	Opiniones sobre diversos temas de la actualidad
7	Aplicación "La morcilla"	Escribir una carta a un amigo.
8	Aplicación "El pintor Nocha"	Lectura y análisis del cuento Futuro/condicional
9	Aplicación "El pintor Nocha"	Hablar sobre su futuro
10	Aplicación "El pintor Nocha"	Hacer suposiciones del futuro.
11	Aplicación "El rabino"	Lectura y análisis del cuento
12	Aplicación "El rabino"	Pretéritos imperfecto y pluscuamperfecto de subjuntivo.
13	Aplicación "El rabino"	Hablar sobre lo que harán con el español aprendido
14	Aplicación	Examen final (Presentación del cuento redactado por los mismos alumnos)

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

The standard preparation and review time for this class are 4 hours each.

【テキスト（教科書）】

CUENTAME 8 cuentos para disfrutar aprendiendo español.

Nivel intermedio

Editorial Asahi

【参考書】

SHOGAKUKAN DICCIONARIO ESPAÑOL-JAPONÉS Segunda edición

【成績評価の方法と基準】

-Exams (50%)

-The active class participation of students (50%)

【学生の意見等からの気づき】

Seguir mejorando en la elaboración de materiales originales del gusto e interés de los alumnos.

【Outline (in English)】

【Course outline】

Application course.

【Learning Objectives】

This course is aimed at those students who have sufficiently acquired basic Spanish grammar and conversation skills. Applying their previous and new knowledge they will be able to write narrative texts. Fields that we are going to deal with and skills that we are going to try to reinforce as much as possible are below: comprehension and expression, oral and written, grammar and vocabulary.

At the end of the course, students will be able to write a short narrative text and improve their communication skills in the Spanish language.

【Learning activities outside of classroom】

Before each class, it is mandatory to review the topics covered.

It is necessary to put into practice and experience what has been learned in each class to achieve the stated objective.

The standard preparation and review time for this class is 4 hour.

【Grading Criteria /Policy】

Grading will be calculated based on exams (50%) and the class contribution of students (50%).

LANs300GA

スペイン語アプリケーション

OSNO I DE SASAKUBO H

配当年次／単位：3～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：初回の授業に出席し担当教員の受講許可を得ること

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

The objective of this course is to raise the level of the Spanish language of each student, through reading and analysis of written and oral texts, etc.

【到達目標】

Improve your communication skills through the Spanish language.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

大学の行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

Para conseguir los objetivos arriba mencionados, semana tras semana iremos avanzando haciendo uso del material que yo iré elaborando y repartiendo a los alumnos.

Al comienzo de cada lección se dará comentarios y las respuestas de las tareas dadas.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Aplicación	Planteamiento del curso. Exposición sobre la experiencia con el español.
2	Aplicación	EL español en el mundo.
3	Aplicación	Países muy diferentes. Vida, costumbres, cultura. Debate.
4	Aplicación	Música y danzas del mundo hispano: flamenco, música y danza de los andes, etc.
5	Aplicación	Proyección de una película.
6	Aplicación	La gastronomía del mundo hispano
7	Aplicación	Comida peruana. Receta de cocina.
8	Aplicación	Patrimonio de la Humanidad
9	Aplicación	El Camino de Santiago
10	Aplicación	Fiestas populares de Japón y del mundo hispano
11	Aplicación	Canciones. Letra de algunas.
12	Aplicación	Cantantes de música popular de España e Hispanoamérica.
13	Aplicación	La Navidad El Año Nuevo y sus celebraciones. Tradiciones y costumbres.
14	Aplicación	Examen.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

The standard preparation and review time for this class are 4 hours each.

【テキスト（教科書）】

プリント使用

【参考書】

SHOGAKUKAN DICCIONARIO ESPAÑOL-JAPONÉS Segunda edición

【成績評価の方法と基準】

-Exams (50%)

-The active class participation of students (50%)

【学生の意見等からの気づき】

Seguir mejorando en la elaboración de materiales originales del gusto e interés de los alumnos.

【Outline (in English)】

【Course outline】

Application course.

【Learning Objectives】

The objective of this course is to maintain and raise the level of the Spanish language that students have reached during their learning either in Japan or in a Spanish-speaking country. Fields that we are going to deal with and skills that we are going to try to reinforce as far as possible: oral and written comprehension, grammar, and vocabulary. At the end of this course, students will be able to communicate in Spanish, both written and orally, in specific and daily life situations.

【Learning activities outside of classroom】

Before each class, it is mandatory to review the topics covered.

It is necessary to put into practice and experience what has been learned in each class to achieve the stated objective.

The standard preparation and review time for this class is 4 hour.

【Grading Criteria /Policy】

Grading will be calculated based on exams (50%) and the class contribution of students (50%).

HUI200GA

文化情報のデザインワークショップ

甲 洋介

サブタイトル: ユーザの体験を考え、デザインする実践ワークショップ

配当年次/単位: 1~4年 / 2単位

旧科目名: 情報コミュニケーション I

旧科目との重複履修:

毎年・隔年: 毎年開講 | 開講セメスター: 春学期授業/Spring
人数制限・選抜・抽選: 受講状況により選抜することがあります
備考(履修条件等): 情報関連科目を履修済みであることが望ましい

その他属性: 〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的(何を学ぶか)】

ユーザーの体験をデザインする「面白さ」と「奥深さ」を、実践的に学ぶ科目
わたしたちの日常生活はたくさんの道具であふれている。日常生活で出会う
道具には文房具のような小さなモノからアミューズメントパークのような大
きなモノまである。それらの道具が魅力的で使いやすいと日常生活も豊かで
楽しくなる。

このワークショップでは、「道具を使いやすいデザインする方法論」と「新
しい近未来の道具のデザイン」という2つのテーマに取り組む。道具をデ
ザインするという一見難しく思える課題を、手法の習得と実践の両方をバ
ランスよく配置して、実践的に学べる科目である。

● ユーザー調査を行い、特性を理解し、道具を使いやすいデザインする

講義の前半では、「道具の使いやすさ」に着目する。

私たちの日常を様々な側面で支えてくれる道具たちを、使いやすい魅力あ
るのにはどうすればよいか? その鍵は、ユーザーの特性と、ユーザに
起こっている出来事の的確な理解にある。道具のデザインを改良する具体
的な方法論を、実習を通じて学ぶ。

● 新しい、近未来の道具をデザインする

講義の後半では、「新しい近未来の道具のデザイン」に着目する。

まだ存在しない未来の道具をデザインするにはどのようにすればよいか?
その手掛かりはユーザーの潜在的なニーズの把握にある。利用者の生活
が豊かになるような近未来の道具を考案し、コンセプトをデザインするた
めの方法論を、実習を通じて学ぶ。

【到達目標】

「道具をもっと使いやすくデザインすること」と「新しい近未来の道具をデ
ザインすること」の2つをテーマとして、デザイン手法を実践的に学ぶ。

● 2つのテーマは学習内容が異なる。各テーマの基礎となる基本的な考え
方、理論、調査計画の立て方、評価方法、データ収集方法、分析方法を学び、
実践できるようにする。

● グループワークの進め方、結果のまとめ方、成果発表の工夫を学び、実
践できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力
を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習
成果との関連)】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に
関連。

【授業の進め方と方法】

「道具を使いやすいデザインする方法論」と「新しい近未来の道具のデザイン」
この2つのテーマについて、具体的なデザイン手法の基礎を学び、実践する。
授業は、講義とワークショップを組み合わせる。また受講者の学習状況や実
践力をコメントシート等によって把握し、進め方に反映する。

● 前半では、身近で気になる道具を1つ取り上げ、利用者にとってより使い
やすい道具に改良するための方法論を、実験実習によって実践的に学ぶ。道具
の使いにくさの問題現象を分析・整理し、システム改良を行うための認知工
学的方法論とその考え方を、グループワークによる実験実習を通じて習得する。

● 後半では、具体的な利用者の日常生活のある場面に着目し、利用者の生活
をさまざまな角度から分析することにより、利用者の生活を豊かにする具体
的な道具を1つ考案し、コンセプトを明確化させていく作業をグループ
ワークを通じて行う。

● 各テーマごとに、受講生またはグループによる成果発表の機会を設ける。
グループワークや成果発表では、受講生どうしの討議を促すとともに解説を
行い、さらに改良アイデアを深められるように工夫する。

※新型コロナウイルス状況によって進め方を変更することがある。大学の行動方
針レベルが2となった場合、原則としてオンラインで行う。変更については
学習支援システムで伝達する。実習やグループワークの実践的な効果が得ら
れるよう工夫する。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

あり/Yes

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	「道具の使いやすさ」とユーザー中心のデザイン
2	道具の使いやすさ	道具の使いやすさ評価の基本を学ぶ(理論編)

3	道具の使いやすさ評価(実験計画編)	使いやすさ評価実験の計画を立てる
4	道具の使いやすさ評価(準備編)	「道具の使いやすさ評価」に用いる実験手法の実習と、実験準備
5	道具の使いやすさ評価(実験編)	「道具の使いやすさ評価」を実験実習する
6	道具の使いやすさ改良(分析・考察編)	実験データを分析し、それに基づいて道具の具体的な設計改良を考案する
7	道具の使いやすさ改良(提言編)	道具を改良する具体的な提案と資料を準備する
8	成果発表とクラス討議	発表と討議を通じて、道具を使いやすいとする改良事例を互いに学ぶ
9	デモンストレーション	ヒューマンインタフェースの新しい潮流
10	新しい近未来の道具(ブレインストーミング)	ある具体的な人物の、具体的な生活場面を切り出す
11	新しい道具のデザイン(分析編)	利用者特性と具体的なニーズを分析する
12	新しい道具のデザイン(アイデア編)	要求分析から、道具を発想する
13	新しい道具のデザイン(提言編)	要求分析から、新しい道具の提言を練る
14	成果発表とクラス討議	発表と討議を通じて、近未来の道具の発想例を互いに学ぶ

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。授業時間外に観察や調査の実施、レポート作成などの活動が含まれる。

【テキスト(教科書)】

・「人間計測ハンドブック」第3章(認知心理過程の計測)(朝倉書店、産業技術総合研究所編)2013.

・ユーザーインタフェースと認知モデル(甲洋介、人工知能学会論文誌)

【参考書】

・International Encyclopedia of Human Factors and Ergonomics. W. Karwowski (Ed.) 2nd Edition, (Taylor & Francis) 2006.

・「ユーザーインタビューをはじめよう」(ポーチガル著、ビー・エヌ・エヌ新社)2017

・「デザイン思考が世界を変える[アップデート版]」(ティム・ブラウン著、早川書房)2019

・「プロダクトデザインの基礎 スマートな生活を実現する」(JIDA 編、ワークスコーポレーション)2014.

他については講義開始時に指示する。

【成績評価の方法と基準】

・レスポンスシート、討議、発表、グループワークにおける貢献度合い(50%)

・課題レポート、プロトタイプなど制作物(50%)

この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。課題レポートの未提出者は単位認定できない。

【学生の意見等からの気づき】

グループディスカッションが有益とのコメントを踏まえ、講義と実習を効果的に組み合わせ、理解がより深まるように工夫する。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布、レスポンスシート・課題提出等に学習支援システム等を利用する。授業前後にはアクセスし確認すること。

【その他の重要事項】

本科目では、グループワーク中心の発見型学習を通じて学生の就業力育成を支援する。

【文化情報学の実践】科目群【共通のテーマ】

「文化情報学の実践」科目群では、文化情報学における重要な主題を選び、その基本となる考え方、課題解決の手法、実践に必要な知識を実習を通して学ぶ。情報実習室の機材・設備を活用した実験・実習を通じ、ICT活用スキルに加えて、実験の計画、分析、専門文献調査、考察、報告などを実践的に学ぶ。

【前提科目と関連科目】

・「道具のデザイン学」「道具による感覚・体験のデザイン」「こころの科学」を合わせて履修することで、知識と実践の相乗効果が得られる。

・「文化情報学の実践」科目群の姉妹科目と合わせて履修する事で多面的な学習効果が得られるよう工夫されている。

【情報機器・視聴覚設備の活用】

情報実習室で開講する場合は、PCおよび、DVDデッキ、プロジェクター等の視聴覚設備を使用する。

【Outline (in English)】

This class provides you with an unique "Design Workshop". This class allows you to actively learn: (1) how to re-design everyday artifacts by the "User Experience (UX) Design" methodology, and (2) how to create ideas of conceptual designs of a near-future artifact.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Final grade will be decided based on (1) final report/exam (50%) and (2) short reports and the quality of the student's in-class contribution (50%).

COT200GA

文化情報のためのネットワーク技法

和泉 順子

配当年次／単位：2～4年／2単位

旧科目名：情報コミュニケーションⅡ

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
人数制限・選抜・抽選：実習設備の許容人数を超えた場合に行う
備考（履修条件等）：情報関連科目を履修済みであることが望ましい

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

文化研究と成果発表の方法を身に着ける（旧科目：情報コミュニケーションⅡ）

【旧科目：情報コミュニケーションⅠ～Ⅲ共通テーマ】

文化情報学のいくつかのテーマについて情報スキルの重点的訓練を行う。コンピュータ設備を用いた実験・実習を通じて実験計画・結果分析・専門文献調査・考察・報告など方法論的訓練を行う。

【本科目の学習の目的】

本講義の前半において、Study Abroad 環境すなわち在外環境におけるネットワークの実践的スキルと問題解決の方法を学ぶ。本講義の後半では、文化情報編集のツールを取り上げる。Weblog や Web サイト構築、小冊子の編集を例に、SA 等の在外環境も含めた総合的な情報発信の有効性を学び、Web 環境での有機的な情報共有を体験することを目的とする。

【到達目標】

SA や卒業研究などのフィールドワークにおける異文化研究を成功させるために、文化情報の調査研究の方法論を身に着ける。インターネット環境を十全に活用し、学習成果を公開し蓄積する。現地調査で得られた知見や体験をリアルタイムに共有することでネット社会にフィードバックできる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

前半に在外環境におけるインターネットの実践スキル、調査研究の方法論を学び、その上で情報機器を用いた文化研究成果の発信と共有を試すことになる。全体を通して SA 等で収集したデータや研究成果の取りまとめを念頭に、何を文化研究するかを考え続けるクラスとして機能させることを目指す。在外環境での活動を想定した課題実習や協働学習を取り入れる。課題等の提出・フィードバックは、基本的には学習支援システムを通じて行うが、補助的に Google Classroom 等も用いる可能性がある。授業に関する質疑応答については学習支援システムの掲示板機能を活用する。情報実習室での対面授業を基本とするが、状況に応じてオンライン授業に切り替える場合もある。学期途中での授業形態の変更やそれにとまなう各回の授業計画の修正については、学習支援システムでその都度提示する。履修予定者は、必ず初回授業日の前日までに学習支援システムで本科目を仮登録し、初回授業に参加、または初回授業資料を当日確認すること。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション（全体） インターネットの仕組み	科目内容のガイダンス（全体） インターネットの仕組みを復習し、現状の使われ方（IP アドレス枯渇とその対応技術、無線 LAN の利欠点等）を学ぶ。
2	ネット社会の情報構造	IP アドレスの種類やドメイン名との関係、名前解決の仕組みを理解し、ドメイン情報を実習により確認する。
3	情報活用のための実践知識（1）	インターネットに接続できない状態になった場合の問題を考える。
4	情報活用のための実践知識（2）	インターネットに接続できない状態になった場合の問題と対処法を学ぶ。
5	ネットワークスキルのまとめ	ネットワークスキルの学習成果をクラス討議を通じて総括し、外国での快適な情報活用のポイントと問題点を理解する。
6	フィールドワーク入門	現地での文化研究とは何か、在外環境での調査法について理解を深める。研究計画の立て方を学ぶ。
7	文化研究にむけての準備	各受講者による文化研究の個人テーマを持ち寄りクラス討議によりアイデア出しを行う。以後の授業では調査テーマや方法論についてのブラッシュアップを継続する。

8	学習成果の蓄積・共有方法の検討	在外環境での Web ベースの情報活用の有用性を認識する。SA での研究活動の検討着手。
9	学習成果の公開方法の検討	研究テーマに沿った調査計画とその中間報告を行う。SA 個人研究テーマのクラス討議。
10	学習成果の公開とその対応	調査研究の結果は、誰を対象にどのように公開するのかを検討し、準備する。
11	情報共有の手法	調査研究途中での各研究テーマのデータ蓄積やコメントの共有手法を確認する。SA 個人研究の問題点把握とグループワークの検討。事前調査事項の洗い出し。
12	情報活用の応用と具体的な制作	具体的な成果物（研究成果の公開）制作に取り組む。SA 研究計画の事前検討結果と問題点の報告。
13	研究計画の確認と成果の公開	事前に立てていた研究計画の確認と同時に調査研究成果を公開し、互いに議論する準備を行う。SA 研究計画の詳細化と最終的な検討。学習成果の発表。事前学習成果と SA 研究計画との接続。
14	全体のまとめ	

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

「実験実習科目」として、いずれの担当においても教室外での課題活動が含まれる。具体的には以下のような課題を通して、適宜学習することが求められる。

1. (SA 準備として) 個人研究テーマの構想着手、在外インターネット環境の事前調査
 2. 学外、学内でのインターネット接続、Web アクセス
 3. 各種トラブルシューティング、レポート作成
 4. 個人研究テーマの検討
 5. 学外からの学内サービス（図書館の文献検索を含む）の確認
 6. 授業内の未了実習項目の完了、個人研究の計画書、携行 AV 機器の準備着手
 7. 個人研究、グループワークの実施計画の検討ミーティングと報告書作成
 8. 学外における調査研究データの蓄積・管理・共有の確認、研究課題検討ミーティングの続行と報告書作成、検討結果にもとづく事前調査
- 本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

開講時に指示する。

【参考書】

佐藤郁哉、「フィールドワーク一書を持って街へ出よう」、新曜社；増訂版（2006/12/20）ISBN 978-4788510302
水谷正大、「インターネット時代のコンピュータリテラシー」共立出版（1996）、ISBN4-320-02842-2

【成績評価の方法と基準】

授業参加（30%）、コンテンツ作成（40%）、実習課題（20%）、発表（10%）を目安とする。
この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

情報機器やネットワーク環境など、実際の在外学習環境は年々変化する。これらの変化に対応して実習や事前学習の内容の改良を続ける。

【学生が準備すべき機器他】

情報実習室のパソコンを使用した実習型の授業である。情報実習室で対面授業を行う場合は、教卓機パソコン画面上の資料を使用して進める。オンライン併用の場合は、各自で学習環境を整える必要がある。基本的には Windows でも macOS でも構わないが、PC を用いて作業することを前提とする。

最終課題となる発表や授業の補足は Zoom あるいは Webex を用いる。また、毎回の授業資料と課題は学習支援システムを利用して配布・提示する。したがって、授業時間内にこれらに接続可能なネットワーク環境も必要である。

【その他の重要事項】

SA をはじめ、フィールドワークとしての研究課題は文化情報の実践的研究の場であり、本講義はその有効な事前準備としても役立つものです。Web を基盤とする高度な ICT の活用実習ならびにグループワーク中心の発見型学習を通じて、本科目では学生の就業力育成を支援します。

【前提科目】

「情報リテラシーⅠ」、「情報リテラシーⅡ」を前提とする。
SA 環境での実習内容と密接に関連するので「ネットワーク基礎」を前提、あるいは並行履修すること。

【Outline (in English)】

(Course outline)

In the first half of this class, you will learn practical skills and troubleshooting tips of digital network communications.

The second half of this class will cover how to use some tools for editing cultural information.

(Learning Objectives)

- To acquire a methodology for research and study of cultural information.

- To make full use of the internet environment to publish and accumulate the results of their studies.

(Learning activities outside of classroom)

You will need to do some independent study (revision) to make up for any difficulties you have in understanding the lecture content.

(Grading Criteria / Policy)

Grading will be decided based on the practical assignments (20%), in-class contribution(30%), and term-end presentation (10%) and content creation(40%).

FRI300GA

情報アプリケーション I

重定 如彦

配当年次／単位：3～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：初回の授業に出席すること

備考（履修条件等）：情報関連科目を履修済みであることが望ましい

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

インターネットの発達により、ウェブページを取り巻く技術は近年ますます発展しており、その重要性も増している。近年では、どのような職業であれ、ウェブページの技術と無縁の職業はありえないと言っても過言ではないだろう。ウェブページを記述する HTML は近年新しいバージョンが作られ、その表現力が増している。本授業では最新の HTML5 をベースに、CSS や Javascript などを用いて表現力の高いウェブページを作るための技法について学ぶ。Javascript や CSS の技術を使えば、アニメーションを表示することも簡単にできるようになっている。最終的には HTML5 を使って簡単な 3D グラフィックスを表現する方法を学び、迷路のウェブページを構築できることをめざす（完成例としては <http://www.edu.i.hosei.ac.jp/~sigesada/software/maze/maze.html> を参照のこと。3D の迷路を見るにはページの「webgl を使って描画する」をチェックする。

【到達目標】

ウェブページを記述する言語である HTML について理解し、自分でウェブページを作成できるようになる。
CSS を使って表現力の高いウェブページを作成できるようになる。
Javascript を使って動きのあるウェブページを作成できるようになる。
Three.js を使って 3D グラフィックスを使ったウェブページを作成できるようになる。
インターネット環境で応用力のある豊かな情報発信能力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

大学の行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。
授業の前半で HTML などに関する説明の講義を行い、授業の後半でテキストエディタとウェブブラウザを用いて実際にウェブページを作成する実習を行う。

学習支援システムのアンケートの機能を使って、毎回授業のリアクションペーパーに相当するものを実施する。各回の授業の冒頭で、必要に応じてその中からいくつかを取り上げてコメントを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	HTML5	HTML5 とはどのようなものかについて学ぶ HTML の基礎知識について学ぶ
2	タグその 1	見出し、段落、箇条書きなどの HTML の基本的なタグについて学ぶ
3	タグその 2	その他の HTML の代表的なタグについて学ぶ
4	CSS	スタイルシートについて学ぶ
5	Javascript	Javascript の基礎について学ぶ
6	Javascript を使ったグラフィックス	HTML の Canvas タグと Javascript を使ったグラフィックスについて学ぶ
7	Three.js	Javascript の 3D グラフィックスのライブラリである Three.js について学ぶ
8	3D グラフィックスの基礎	3D グラフィックスの基礎について学ぶ
9	3D グラフィックスアニメーション	3D グラフィックスのアニメーションについて学ぶ
10	迷路の表現方法	コンピューターで迷路をどのように表現するかについて学ぶ
11	迷路の 2D グラフィックス	コンピューターで表現した迷路を 2D グラフィックスで表現する方法について学ぶ
12	迷路の 3D グラフィックス	コンピューターで表現した迷路を 3D グラフィックスで表現する方法について学ぶ

13	迷路の自動生成	ランダムな迷路をコンピューターに自動生成させる方法について学ぶ
14	迷路の中を動き回る	コンピューターが作成した迷路内を動き回る方法について学ぶ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各自、授業が終わった後に復習を行うこと。
また、課題として自分のオリジナルのウェブページと迷路のページを作成する課題を課すので、各自締切までに制作を行うこと。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業中に指示する。

【参考書】

授業中に指示する。

【成績評価の方法と基準】

平常点 10% 課題 90%

課題は授業内で適宜指示する。

2つの課題をもって定期試験の代わりとするので、試験は行わない。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

情報実習室で各自1台のコンピューターを使って授業を行う。

【その他の重要事項】

プログラミングやウェブページ関連の授業を受講していることが望ましいが、やる気があればプログラミングの経験が無くても歓迎する。

【Outline (in English)】

Objectives of this class are to acquire skills and knowledge about web technology such as HTML5, CSS and Javascript.

At first, this class learns about HTML5 and CSS, and create simple web page. Next, this class learns about javascript and create a interactive web page of 2D maze game. Finally, this class learns about webgl technology and create web page of 3D maze game.

Each student is required to review his or her work after the class.

In addition, you are required to create your own original maze page as a final project. Please do so by the deadline (one week after the last class).

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each. Ordinary points 10%, Assignments 40%, Final assignment (maze assignment) 50%.

Assignments will be given in class as needed.

The final assignment will be used as a substitute for the regular exam, so no exam will be given. Students who have achieved at least 60% of the objectives of this class based on this grading method are considered to have passed the class.

COT300GA

情報アプリケーションⅡ

大嶋 良明

配当年次／単位：3～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：初回の授業に出席すること

備考（履修条件等）：情報関連科目を履修済みであることが望ましい

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

誰でも参加できる自由なモノづくりの世界的潮流、Makerムーブメントについて親しむ。実習形式でオリジナル電子楽器の製作を学ぶ。光、温度、圧力などの変化を検知してスピーカー、ディスプレイ、モーターなどの反応を制御する方法（意外と簡単！）を学び、自分のアイデアを作品として実現させる。

【到達目標】

Makerムーブメントの背景と現状について理解する。楽器音の基本的理解にもとづく電子楽器の構成法を知る。Arduinoマイコンによるセンサー入力の処理方法が理解できる。オーディオ信号を中心とした出力の制御方法が理解できる。課題実習と作品制作を通じて、アイデアを成果物に実現する方法を構想できる。作りながら考える、考えながら作る自由闊達なモノづくりの精神を身に着ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際化学部等のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

授業はすべて、情報実習室の機材・設備を活用した講義および実習形式で行い、参加者の学習状況や実践力を確かめながら進める方法で進めます。実習の内容はPBLの考え方にもとづき、ワークショップ形式でのモノづくりを体験します。作りながら考える、考えながら作るをモットーにワークショップを運営します。マイコン、配線材など必要な実習機材は用意します。ほかに各自の作品構想に必要な部品は、既製品を分解する、100均で手に入れる、自作する…などの方法でクリエイティブな試行錯誤を楽しみながら調達しましょう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業内容の説明と導入、Makerムーブメントとは何か、モノづくりの実例に学ぶ。
2	Arduino入門	Arduinoとは何か、MakerムーブメントにおけるArduinoの役割を学ぶ。開発環境ArduinoIDEの使い方を学ぶ。音楽に特化したArduino互換機や周辺機器について学ぶ。
3	Arduinoライブラリから音を出す: Mozzi	電子楽器製作の準備としてArduinoから音を出力する方法を学ぶ。音を扱うためのライブラリMozziとその機能を学ぶ。
4	各種センサーの使用法を学ぶ	音の強弱、高低を変化させる方法を学ぶ。センサーの使い方を学ぶ。これらを組み合わせてセンサーからの信号に応じた音が変化する仕組みを学び、実装する。
5	打楽器の製作(1)：音を生成する仕組み	ドラムスなど打楽器音の性質を学び、Arduinoで打楽器音を鳴らす。
6	打楽器の製作(2)：楽器としての特色作り	サンプル音を再生する方法を学び、圧電センサーに反応してドラム音のサンプルを再生する電子ドラムを作成する。さまざまな日用品にセンサーを装着して演奏可能な電子打楽器を自作する。
7	日用品を打楽器に	自動演奏の仕組みを理解する。インターフェースを追加し演奏機能を拡張する。
8	シークエンサーの製作(1)	自動演奏の実行を視覚化する方法を学ぶ。楽器として完成させる。
9	シークエンサーの製作(2)	MIDIによる電子楽器の相互接続と制御の仕組みを理解する。
10	電子楽器の相互接続：MIDI	【課題製作】課題作品の構想発表
11	表示の高機能化(1)	LCDディスプレイの活用とその実現方法を学ぶ。 【課題製作】課題作品の製作、進捗状況の記録化

12	表示の高機能化(2)	LEDディスプレイの活用とその実現方法を学ぶ。 【課題製作】課題作品の進捗状況と問題解決の共有、記録化
13	多様な出力：さらに多彩なモノづくりにむけて	フィジカル・コンピューティングの概念を理解し、Arduinoによるモーターやサーボなどの制御を学ぶ。 【課題製作】課題作品の製作、進捗状況の記録化
14	まとめ	学習成果のまとめとして制作物の発表と相互批評、講評を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【手を動かすことを大事にしよう】

Arduinoマイコンの開発環境はフリーソフトでWindows、Mac、Linuxいずれの環境でも利用可能です。また実習で使うArduinoは互換機であれば安価に入手できます。興味のある人はどんどん使ってみて応用力を身につけてください。

【感性を磨こう】

「Make:」の関連書籍は図書館にも整備されつつあります。また作品発表の多くはオンラインでも閲覧可能なので、授業内でも折に触れてご紹介いたします。ぜひそれらの作品にふれることでアタマを柔らかくしてモノづくりの豊かな楽しさを感じ取ってください。
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて講義中に紹介します。

【参考書】

必要に応じて講義中に紹介します。Makerムーブメント（モノづくりの世界）を楽しむ学べる2冊と電子楽器の自作やプロトタイプングについての参考書を以下に紹介します。ぜひチェックしてください。

【何か作りたい！でも何を作ろう…？】

Karen Wilkinson(著)、Mike Petrich(著)、金井哲夫(訳)、「ティンカリングをはじめようーアート、サイエンス、テクノロジーの交差点で作って遊ぶ」、オライリージャパン(2015)、ISBN:978-4873117263

【Arduino＋音楽】

中西宜人、「Arduinoではじめる手作り電子楽器」、工学社(2015)、ISBN:ISBN978-4-7775-1916-3

【モノづくり＋デバイスアート】

青木直史(著)、「ArduinoとProcessingではじめるプロトタイプング入門」、講談社(2017)、ISBN:978-4061565692

小林茂(著)、「Prototyping Lab第2版ー「作りながら考える」ためのArduino実践レシピ」、オライリージャパン(2017)、ISBN:978-4873117898

【成績評価の方法と基準】

平常点(30%)、課題(30%)、学期末に提出する作品発表(30%)、合評(10%)により評価します。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

多くの学生に興味を持ってもらえるよう、単元や実習内容にいろいろ工夫を盛り込みました。受講者のスキルやモノづくりへの好みの違いをお互いの刺激として各自が成長できるよう、課題演習や理解度チェックのバリエーションを用意しました。2020年度からは実機のArduinoとクラウド上のシミュレーターTinkercadを併用することで自宅での学習環境も整備されています。

【学生が準備すべき機器他】

情報実習室を使用し、実習に必要なPC、Arduinoなど共通の電子部品と配線材は用意します。課題作成時および提出時には貸与PCまたは個人PCが必要になります。

【その他の重要事項】

情報アプリケーション科目は情報学の総合力を育む科目であり、本科目ではモノづくりのための発想、知識、スキルの全てを身につけることを目指して欲しい。受講希望者は初回授業に出席すること。受講希望者が教室定員を超える場合には抽選を実施することがある。

【実務経験のある教員による授業】

担当教員はIT企業での研究所勤務において15年間のデジタル信号処理、マルチメディア処理分野での研究とシステム開発の経験がある。

【Outline (in English)】

This course deals with the creative development of original digital gadgets such as electronic percussion and sensory lights by using various sensor devices, interactive human interface devices and display devices enabled by Arduino micro-controllers. Students will become well familiar with the Arduino IDE (Integrated Development Environment) in a small classroom workshop environment.

Grading policy is as follows:

In-class contribution: 30%

Homework and in-class assignment: 30%

Final assignment: 30%

Critique: 10%

Your must achieve at least 60% in the overall grade to pass for academic credit.

The average study time outside of class per week would be approximately 4 hours.

HUI200GA

こころの科学

甲 洋介

サブタイトル：こころが生み出す「体験のリアリティ」

配当年次／単位：1～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

人数制限・選抜・抽選：

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

● 感動の想い出は、なぜかスローモーション

あなたが日々体験している「私のこころがはたらいている」という実感を手掛かりにして、「こころ」という不思議なものはたらきと、その面白さを様々な角度から理解することを目指す科目である。

● 「こころ」がはたらいている、と実感するのはどんな時？

「こころ」とはいったい何だろう。「こころ」についてよく知っているつもりなのに、いざ説明しようとするとうまく説明できない。なぜなら、ふだん私たちは、自分の「こころがはたらいている」ことをあまりにも当然に考えているから。

しかし、「こころ」がうまくはたらかない時や、あなたにとって初めての事、思いもよらない事に出会った時、その「存在」に気づかされる。よく観察すると、世の中は「こころ」にとって予想外の現象が実に多く発生している。

● 「こころ」とはいったい何だろう

「こころ」のしくみを理解する上で基本となる「感情がわく」「気づく」「覚える」「わかる」「誤る」「問題を解く」に着目し、解説を加える。学術的な説明の前に、一人ひとりの「リアルなこころの体験」を整理することから出発しよう。大切なのは、こころがうまく機能している状態だけでなく、上手くはたらかない現象にも光をあてる、ことである。

ロボットや人工知能の分野では「こころを作ってみる」試みが急速に進む。一方で、「こころ」の探求は、単一の学問領域だけで本質に迫るのは難しい。心理学に加え、脳科学、人類学や言語学など様々な角度からアプローチが試みられ成果を上げている。「こころの科学」では、関連領域の知見を踏まえ、学際的な視点から「こころの科学」の基礎を学ぶ。

【到達目標】

・感情がわく、気づく、わかる、覚える、誤る、問題を解く等、「こころ」のしくみを理解する上で基本となる事柄について、その要点を説明できるようになる

・感情の役割、アフォーダンス概念など、講義で解説される基本主題について、それらが「こころの理解」にどのような新たな視点を与えるのか、その意義を簡潔に述べるができるようになる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

「こころ」のはたらきとして、感情がわく、気づく、覚える、わかる、誤る、問題を解く、に着目し、関連分野の知見を整理して一つ一つ解説を加える。学術的な説明だけでなく、一人ひとりの「リアルなこころの体験」を整理することにも力点を置く。

こころがうまく機能している状態だけでなく、こころが上手くはたらかない現象にも着目する。たとえば、「記憶する」だけでなく「忘れる」重要性、「わかる」だけでなく「間違える」プロセスにも着目する。それによって「こころ」の理解は面白くなるし、奥深さを学べる。

各講義の最初に、受講生のコメントシートを踏まえながら前回のおさらいと解説を行い、また後半はできる限り受講生どうしの討議の機会を設け、受講生の理解がさらに深まるように工夫する。

※今年度の授業は原則としてオンラインで行い、一部対面を組合せる方法で計画している。新型コロナ感染状況によって授業の進め方を変更することがある。詳細や変更は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	はじめに	講義のアウトラインと進め方
2	こころについて、どのような理解を目指すのか	「こころのはたらき」を理解するための枠組みを、準備する
3	気づく、対象を捉える、気づいていないのに分かっている	感覚から知覚、知覚から認知へ、意識、潜在認知
4	間違える、「間違え」から分かるこころ	誤りの心理学

5	覚える、忘れる、わたしが「私」であり続ける不思議	記憶のしくみ、誤って覚える、忘却する
6	わかる、知らない、わからない	概念の形成、知識獲得と学習、言語の役割
7	考える、問題を解く	「問題」とは何か、問題解決する、推論する
8	感情が生まれる、感情をはたらかせる ～感情の役割の発見へ	感情の彩り、人類に共通する感情、感情を生み出す仕組み
9	感情に促される、影響される、感情があふれる、生まれにくい	感情の果たす役割、感情の障害
10	脳からみた、こころ	ニューラルネットワークと、人工知能人工物ではたらく、こころ
11	環境に広がる、こころ	生態学的視覚論（ギブソン）の基本的な考え方
12	生態学的知覚論という挑戦	アフォーダンス、生態学的視覚論からの問題提起
13	社会・文化に埋め込まれた、こころ ～個人から社会の視点へ	状況に埋め込まれた学習、正統的周辺参加、社会的実践としての学習
14	「こころ」について再考する	総合討議と、まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

コメントシート作成を含め、準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

開講時に指示する。

【参考書】

・日常と非日常からみる こころと脳の科学（宮崎真ほか著、コロナ社）2018
・環境に広がる心～生態学的哲学の展望（河野哲也著、勁草書房）2005

【成績評価の方法と基準】

・コメントシート 討議への参画、小レポートを含む平常点 50%

・課題レポートまた期末試験 50%

を総合的に評価し、評定を決める。

この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

実際の現象を理解しやすいように、できる限り実験例や具体例の提示を心がける。

【学生が準備すべき機器他】

コメントシート、課題提出等に学習支援システム等を利用する。授業前後に確認すること。

【関連科目】

・「道具のデザイン学」「道具による感覚・体験のデザイン」「文化情報空間論」「文化情報のデザインワークショップ」と組み合わせると、理解が多角的になり面白くなる仕組みになっている。

・「こころとからだの現象学」は姉妹科目である。合わせて履修することを推奨する。どちらが先でも良い。「こころ」について多角的な捉え方を学ぶことは人間について理解を深める基礎となる。

【Outline (in English)】

This class allows you to learn basics of science of the mind. It also aims to provide you with a new perspective of the mind by re-examining your real-world experiences in your "mind".

By the end of the course, students should be able to explain overview of fundamental elements of science of the mind including attention, emotion, concept learning, problem solving, mistake, and affordance.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Final grade will be decided based on (1) final report/exam (50%) and (2) short reports and the quality of the student's in-class contribution (50%).

FRI300GA

ゲーム構築論

重定 如彦

配当年次／単位：3～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

人数制限・選抜・抽選：

備考（履修条件等）：情報関連科目を履修済みであることが望ましい

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この科目では、情報学を適用したモノづくりの面白さと難しさをコンピュータゲームのモノづくりを通して学ぶ。コンピュータにはウェブプロ、メールソフト、ウェブブラウザ、ゲームなどありとあらゆるソフトウェアがあり、我々は日々それらの他人が作成したソフトウェアを利用しているが、これらのソフトウェアが実際にどのようにして作られているかについて知っている人はあまりいないのが現状である。そのためコンピュータで何かを行う場合、他人の作成したソフトウェアを探して利用する必要があるが、そのようなソフトウェアが見つからなければあきらめるしかない。

実際にはプログラミングを学ぶことで、簡単なソフトウェアであれば必要に応じて自分で作るようになる。つまり、コンピュータのソフトウェアの消費者から、コンピュータのソフトウェアの生産者になることができるようになる。

日常にあふれるコンピュータのソフトウェアはどのようにして作られているのか？本授業ではソフトウェアの中でも親しみやすいコンピュータゲームのプログラミングの観点から具体的な方法論を、実験実習を通じて学ぶ。

コンピュータゲームの題材としては主に、古い数当てゲームなどの初歩的なものからはじめ、最終的にはマインスイーパーやテトリスなどの知名度の高いゲームを扱う予定である。

【到達目標】

コンピュータゲームのモノづくりを通じてコンピュータのソフトウェアがどのようにして動いているかを理解し、自分の力で簡単なソフトウェアを作り出すことができるような実践的な能力を身につけることを目指す。

2015年度の本授業の学生の作品をeポートフォリオにまとめておいたので、以下のアドレスから参考にしてほしい（TABS→ページの順でクリックすると一覧を見ることが出来る。学外からアクセスするためには、VPNの接続が必要です。VPNの接続については利用ガイド（<https://hic.ws.hosei.ac.jp/cms/wp-content/uploads/guide.pdf>）を参照してください。http://vp.fic.i.hosei.ac.jp/mahara/group/view.php?id=188

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

大学の行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

授業ではコンピュータプログラミングの入門用言語として Javascript を用いたソフトウェア制作の実習を行う。様々なソフトウェアの制作を通じてプログラミングの基本となる考え方、課題、解決の手法、実践に必要な知識を実習を通して学ぶ。

前半では、「古い」、「数当てゲーム」といった簡単なゲームを扱うことによりプログラミングの基礎を学ぶ。

後半では「マインスイーパー」や誰もが知っている「テトリス」などといった複雑なゲームを扱うことでコンピュータのソフトがどのような考え方によって作られているかについて学ぶ。

実際に取り上げるゲームの題材は学生の興味と理解に合わせて臨機応変に取り上げる予定であり、学生の要望によっては他の題材を取り上げる可能性もある。下記の授業計画は上記の題材を取り上げた場合の計画である。

授業はすべて、情報実習室の機材・設備を活用した実習形式で行い、参加者の学習状況や実践力を確かめながら進める方法をとる。

学習支援システムのアンケートの機能を使って、毎回授業のリアクションペーパーに相当するものを実施する。各回の授業の冒頭で、必要に応じてその中からいくつかを取り上げてコメントを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	プログラミングとはどういうものかについて学ぶ。JavaScriptの基礎について学ぶ
2	古い	変数、乱数、条件分岐について学び、古いゲームを作成する
3	数当てゲームその1	変数を使って回数を数える方法について学び、数当てゲームを作成する
4	数当てゲームその2	数当てゲームを完成させる

5	マインスイーパーその1	配列変数について学び、マインスイーパーの盤面をどのように表現するかについて学ぶ
6	マインスイーパーその2	グラフィックスについて学び、マインスイーパーの画面の表示方法について学ぶ
7	マインスイーパーその3	マウスイベントについて学び、画面上をクリックすることによってマインスイーパーのマスを開く方法について学ぶ
8	マインスイーパーその4	マスを開いた際の処理、旗の処理、ゲームのクリアの判定方法について学ぶ
9	マインスイーパーその5	マインスイーパーを完成させる
10	テトリスその1	テトリスの盤面を表現する方法、様々な種類のブロックをどのように表現するかについて学ぶ
11	テトリスその2	ブロックの移動、回転の方法について学ぶ
12	テトリスその3	ブロックがくっついた時の処理、ブロックを消す方法について学ぶ
13	テトリスその4	ブロックを時間経過によって移動させるというアニメーションの手法を学ぶ
14	テトリスその5	その他、点数、ゲームオーバーなどテトリスに必要な機能を実現する方法について学び、ゲームを完成させる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書を予習復習し、各自制作の実習を行う。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

学生のための JavaScript 重定 如彦 著 東京電機大学出版局
授業で使用するので、受講する場合は必ず各自で入手する事

【参考書】

必要に応じて授業内で説明する

【成績評価の方法と基準】

平常点 10% 課題 90%

課題は授業内で適宜指示する。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

進め方が早すぎてわからなくなることがあったという意見があったので、早くなりすぎないように注意したい。

【学生が準備すべき機器他】

情報実習室のパソコンを使用した実習型の授業である。授業は、教卓機パソコン画面上のテキストを使用し、各種ソフトウェア等を用いて進める。

【その他の重要事項】

熱意があればプログラミングの未経験者でもテトリスを完成させることが可能です。プログラミングやコンピューターゲームに興味がある方はぜひ受講してみてください。

【Outline (in English)】

Objectives of this class are to learn the enjoyment and difficulty of creating computer software by applying informatics.

The theme of computer software is entertainment. Starting from simple fortune telling software, this class deals with number guessing game, minesweeper, and tetris.

Students will prepare and review the textbook and practice their own work. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Ordinary points 10%, Assignments 90%.

Assignments will be given in class as appropriate. Students who have achieved at least 60% of the objectives of this class will be graded on the basis of this grading system.

PHL300GA

こころとからだの現象学

森村 修

配当年次／単位：3～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

こころとからだの関係を考える

あなたたちには「こころ」が「あります」か？多くの人が「こころがある」と答えると思います。それでは、次の質問です。「それでは、あなたが言うように「こころがある」ならば、それは「どこにあります」か？。ほとんどの人が「頭にある」、より正確には「脳にある」と答えるかもしれません。それでは、「こころが頭（脳）にある」ならば、こころと脳とは、どのように関係していますか？。「こころがある」と答えた人に質問します。それでは、「こころは見えたり触れたり、知覚できたりしますか？」。もしも「こころ」が見えたり触れたりできないのに、あなたはどのようにして「ある」と言えるのでしょうか？あなたは「自分で体験しているから」と答えるかもしれません。それでは、「自分で体験するから、「こころはある」のですか？それでは尋ねますが、「あなたの体験は、あなたの「どこで」するのでしょうか？こころで体験するのですか？からだで体験するのですか？」

私たちは、「こころがからだにある」とか「こころを持っている」と日常生活の中で疑問を持たずに漠然と信じています。ただ、哲学はこうした常識を徹底的に疑います。何も前提にしないこと、それが哲学的立場としての「現象学」のモットーです。そこで「こころとからだの現象学」という科目は、「こころとからだ」を考え、それらがどのように結びついているのか（結びついていないのか）について徹底的に追求していきます。

「無意識」とは何か

私たちは夢を見ることがあります。それでは夢はわたしたちが見たいときに、いつも見ることができるのでしょうか？ なかなかそうはいきません。また、どうして言い聞かないなどが起きるのでしょうか？ 正しいことを言おうとしたのに、変なことを言うってしまうのは、なぜでしょうか？ 食欲や睡眠欲のような生理的な欲求は別にして、思わずしてしまうことや、嫌いだと思う前に避けてしまうのはなぜでしょうか？ これらは「無意識」のせいだと、精神分析学の創始者ジークムント・フロイト（1856-1939）と言います。

2023年度は、「ニューロサイコアナリシス（神経精神分析学）」という新しい「こころの科学」から、「こころとからだ」の関係を哲学的に考えていきます。「こころ」については、20世紀初頭にフロイトが創始した精神分析学によって、「こころ」の深層に潜む「無意識」が発見されました。その一方で、フロイトは神経科学者として「からだ」の一部である「脳」や「神経」がどのように「こころ」に関わっているかを「科学的に」解明しようとしていました。

そして、精神分析学が新しい段階に入ったのは、20世紀後半にフランスの精神科医・精神分析学者ジャック・ラカン（1901-1981）が「構造主義的精神分析学」を展開したことに端を発します。しかも、20世紀末から21世紀にかけて、脳科学・神経科学とラカンの精神分析学をつなぐ試みとして、「ニューロサイコアナリシス」が登場してきました。そこで、本授業では、ラカンの学説を取り上げながら、脳神経と無意識との関係を「ニューロサイコアナリシス」の手法を通じて哲学的に分析していきます。

【到達目標】

・精神分析学を学ぶことによって、意識と無意識の関係の基礎を学ぶことができる。

・無意識の構造について、哲学的に説明できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

【授業の進め方】

本科目は、原則的には講義形式で行いますが、人数が多くない場合は演習形式も取り入れていきます。必要に応じて受講生たちから積極的に意見を聞くなどして、受講生1人ひとりが自分の「意識と無意識/からだの関係」に対して自覚的になるように、授業を進めます。というのも、現象学という哲学の立場は、主観的体験を重視し、自らの体験に基づいて哲学的な問いを立てていく哲学の立場だからです。

【授業の方法】

授業は、基本的には、『ラカンの仕事』の解説に即して授業する予定です。事前に必要な箇所を読んで、授業の準備をしてくださると理解が進みます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション 講義の概略と進め方	・精神分析学前史 ・ジークムント・フロイトは何をしたか？ ・フロイトによる無意識の発見
2	精神分析学とは何か①	・『夢判断』
3	精神分析学とは何か②	・『精神分析学入門』 ・初期の著作
4	ラカンの精神分析学①	(1926-33) ・鏡像段階 (1936) ・現実原則の彼岸 (1936) ・ローマ講演 (1953)
5	ラカンの精神分析学②	・「盗まれた手紙」 (1956) ・「文字（手紙）という審級」 (1957)
7	ラカンの精神分析学④	・エディプス・コンプレックス ・精神病 ・「主体の転覆」 (1960)
8	ラカンの精神分析学⑤	・『アンコール』 (1972-73)
9	ニューロサイコアナリシス①	・ラカン精神分析学から、ニューロサイコアナリシスへ
10	ニューロサイコアナリシス②	・ニューロサイコアナリシスからみたフロイト理論
11	ニューロサイコアナリシス③	・ニューロサイコアナリシスからみた「ヒステリー」
12	ニューロサイコアナリシス④	・ニューロサイコアナリシスにおける「トラウマ」
13	ニューロサイコアナリシス⑤	・ニューロラカン①——死の欲動論 (1)「革新される精神分析」
14	ニューロサイコアナリシスの展開	・ニューロラカン②——死の欲動論 (2)「自我・無意識・脳」

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・資料として提示しているテキストを事前に読んで、レジュメを書いて、提出できるように準備しておいてください。レジュメの形式などについての諸注意は、最初の回にアナウンスします。
・本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

- 岸本寛史編著『ニューロサイコアナリシスへの招待』、誠信書房、2015年
- 久保田泰孝『ニューロラカン——脳とフロイトの無意識のリアル』、誠信書房、2017年
- ビチュエ・ベンヴェヌート『ラカンの仕事』、青土社、1994年
〔古本でしか手に入らないので、必要に応じて、配布する〕
- Bice Benvenuto & Roger Kennedy, *The Works of Jacques Lacan: An Introduction*, Free Association Books, 1986.

【参考書】

- 新宮一成『ラカンの精神分析』、講談社現代新書、1995年
- 向井雅明『ラカン入門』、ちくま学芸文庫、2016年
- マーク・ソームズ他『神経精神分析入門——深層神経心理学への招待』、青土社、2022年
- マーク・ソームズ他『脳と心的世界——主観的経験のニューロサイエンスへの招待』、星和書店、2007年
※ その他については、授業内で指示する。

【成績評価の方法と基準】

・討議への参加（30%）・授業内発表レジュメ（30%）・期末課題レポート（40%）。以上を総合的に評価し、評定を決める。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。
※ リアルタイム・オンライン授業の場合は、成績評価の方法と基準に変更がある。

【学生の意見等からの気づき】

「こころとからだ」の関係について考えることは、簡単なようでとても難しいので、なるべく具体的な経験をもとに議論を進めるようにする。

【学生が準備すべき機器他】

リアクションペーパー、課題提出等に授業支援システムを利用することがある。授業前後に確認すること。

【関連科目】

・「こころの科学」は姉妹科目である。合わせて履修することを推奨する。どちらが先でも良い。「こころ」について多角的な捉え方を学ぶことは人間について理解を深める基礎となる（甲先生）。
・「文化情報概論」や「文化情報の哲学」などと基本的なモチーフは共有しているため、これらとともに受講することが望ましいです。「概論」はこころとコミュニケーションの関係をテーマにしています。

【Outline (in English)】

【Course outline】 What is the "unconscious"?

We all have dreams. But do we always see them when we want to? It's not so easy. And why do we say things wrong? Why do we have desires and needs? These are the result of the "unconscious," according to Sigmund Freud (1856-1939), the founder of psychoanalysis.

In 2023, we will philosophically consider the unconscious discovered by psychoanalysis. Psychoanalysis, founded by Freud, was succeeded by the French structuralist Jacques Lacan (1901-1981) in the latter half of the 20th century. Moreover, from the end of the 20th century to the 21st century, "neuropsychanalysis" emerged as an attempt to connect brain science and neuroscience with Lacan's psychoanalysis.

Therefore, in this class, while taking up Lacan's theories, we will philosophically analyze the relationship between cranial nerves and the unconscious through the "neuropsychanalysis" method.

[Learning Objectives]

At the end of the course, students are expected to learn the basics of the relationship between consciousness and the unconscious and to be able to explain the structure of the unconscious philosophically.

[Learning activities outside of classroom]

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

[Grading Criteria /Policy]

Your overall grade in the class will be decided based on the following
Term-end examination: 30%, Short reports : 30%、 in class contribution:
40%

HUI200GA

道具のデザイン学

甲 洋介

サブタイトル：ユーザーの体験を魅力あるものにする、という考え方

配当年次／単位：2～4年／2単位

旧科目名：ヒューマンインターフェイス論

旧科目との重複履修：×

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

人数制限・選抜・抽選：初回の授業に出席すること

備考（履修条件等）：情報関連科目を履修済みであることが望ましい

旧：ヒューマンインターフェイス論の修得者は履修不可

その他属性：〈優〉〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

● デザイナーだけではなく、利用者の視点でデザインに役立つ！

日常生活はたくさんの道具やサービスであふれている。日常生活で出会う道具にはコンタクトレンズのような小さなモノから建築物やアミューズメントパークのような大きなモノまである。それらの道具が魅力的で使いやすいと日常生活も豊かで楽しくなる。

利用者としてのあなたの体験に目を向けよう。お気に入りの道具を楽しむこともあれば、公共サービス等の面倒な利用手順で不快になった体験もあることだろう。

● うまくデザインすると、暮らしはもっと快適になる

暮らしの道具やサービスを使いやすく魅力的にデザインすることは、その道具の利用者の生活をもっと豊かで快適なものにすることに直結している。道具のデザインは重要である。そのデザインに、ユーザーからの視点が非常に役立つことが分かってきた。

● ユーザーの体験（エクスペリエンス）をデザインする、という考え方

ではどうデザインするか。本講義では、利用者にとって使いやすい、魅力的なものをデザインすることを目指す方法論「ユーザーエクスペリエンス・デザイン」の基本から、デザイン手順までを実践的に学べる。それは、デザインする際の主役である「ユーザー」について深く理解し、特性を分析する作業から始まる。

「モノづくり」、特に道具・家具・文具のデザインに興味のある皆さんの参加を期待する。

文化や特性が異なるために摩擦が生じるのは人種や民族間だけではなく。ロボットを始め、人が造った人工物と人間も、材質や見かけだけでなく、知的能力、言語コミュニケーション能力、感覚、情動などさまざまな側面において異なっている。このため、人工物と人間の間でも様々な摩擦が生じる。このことを学ぶことは、これからの社会に重要な、人と人工物が共生する社会について考える際の基礎となる。

【到達目標】

UX デザインの基礎が身につく

・使いやすい魅力的な道具やサービスをデザインするための方法論、「ユーザーエクスペリエンス・デザイン」の基本的な考え方を説明できるようになる。
・デザインの基本原則から、ユーザー特性の分析方法、デザイン手順まで、実践的に説明できるようになる。

・最終課題に取り組むことで、道具・商品・サービスのデザイン案を、利用者のエクスペリエンス（experience=体験）の観点からデザインし、企画を提案できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

日常生活を豊かで暮らしやすくする「ユーザーエクスペリエンス・デザイン」を、基本から実践までを体系的に学ぶことができる。

●各回において受講生のコメントシートを踏まえながら前回のおさらいと解説をし、理解の深化を促す。受講生どうしの討議・意見交換の機会を適宜促すとともに解説を行う。改良アイデアがさらに得られるように工夫する。

● 「ユーザーエクスペリエンス・デザイン」の手法を学び、実践する

特に後半では、具体的なデザイン方法論の基本から実践手順までを学ぶ。講義での説明に基づいて、各自が練習課題に取り組む。その成果を蓄積していくとレポートが仕上がるように工夫されている。

※大学の行動方針レベルが2となった場合は原則としてオンラインで行います。新型コロナウイルス感染状況により進め方を変更する場合があります。その際も学習効果が得られるように工夫します。変更は学習支援システムで伝達します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり/Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	「暮らし」をシナリオに書いてみよう	日常生活の道具に着目し、「暮らしのシナリオ」を描く

2	なぜ使いにくいモノが暮らしにあふれるのか	デザイナーだって、利用者に喜んでほしい
3	使いやすい道具は生活を快適にする	決め手は、ヒトと道具のコミュニケーションのデザインだ
4	ユーザーの心理学	ユーザーの認知過程：道具の「使いにくさ」を科学的に解析する
5	ヒューマンエラー	ヒトは間違えやすく、思い込みが強く、新しい事をなかなか覚えない動物である
6	道具の使いやすさ	「使いやすさ」を定義する。ユーザーリティの国際規格
7	「ユーザーエクスペリエンス・デザイン」① User Experience (UX) Design	ユーザーの特性を理解し、体験 (experience) をデザインする、という考え方
8	「ユーザーエクスペリエンス・デザイン」②理論	UX Design の考え方の基礎と基本原則を学ぶ
9	「ユーザーエクスペリエンス・デザイン」③手順	デザインの流れと、具体的な手順
10	道具のデザイン実習①商品の企画	魅力ある商品の企画書を作るために
11	道具のデザイン実習②ユーザー分析	ユーザー・ニーズとシナリオに基づくデザイン
12	道具のデザイン実習③デザインプロセス	ユーザーの快適な体験 (experience) をデザインする
13	道具のデザイン実習④評価技法の例	道具の使いやすさの評価技法
14	デザイン案の発表会	受講生によるデザイン案の発表、ディスカッション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の復習を兼ねて、課題練習を少しずつ積み重ねる。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

・「誰のためのデザイン」（D.A. ノーマン、新曜社）2015

・「人間計測ハンドブック」（甲ほか、朝川書店）2013

他については適宜指示する。

【参考書】

・「ユーザーインタビューをはじめよう」（ポーチガル著、ビー・エヌ・エヌ新社）2017

・「ユーザーリティエンジニアリング」（樽本徹也、オーム社）2014

・「UX デザインの教科書」（安藤昌也著、丸善出版）2016

・NPO 人間中心設計推進機構：<http://www.hcdnet.org/>

【成績評価の方法と基準】

・レクボンスシート、授業・討議における積極的な貢献度合い (50%)

・発表とレポート (50%)

この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

受講生による互いのデザイン企画案の発表会が、大いに刺激になる、との感想が寄せられる。私もそれを楽しみにしている。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布、レクボンスシート・課題提出等に学習支援システム等を利用する。授業前後にアクセスし確認すること。

【その他の重要事項】

いわゆるコンピュータの授業ではないので、注意のこと。

【履修条件】

・「情報リテラシーⅠ・Ⅱ」を単位取得済みであること。

【関連科目】

・姉妹科目の「文化情報のデザインワークショップ」は、ユーザーエクスペリエンス・デザイン手法の実践ワークショップになっている。これと併行履修することで知識と実践の相乗効果が得られる。

・「こころの科学」「道具による感覚・体験のデザイン」「システム論」と組み合わせると、知識が関連し合って面白くなる仕組みになっている。
・本科目の主題は、「文化情報空間論」においてさらに発展される。

【情報機器・視聴覚設備の活用】

PC、プロジェクター等の視聴覚設備を活用する。

【Outline (in English)】

This class allows you to learn the "User Experience (UX) Design". By the end of the course, student understands the basic principles of the "UX Design" and should be able to understand how to apply some basic methods.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Final grade will be decided based on (1) final report/exam (50%) and (2) short reports and the quality of the student's in-class contribution (50%).

COT200GA

情報セキュリティとプライバシー

和泉 順子

配当年次／単位：2～4 年／2 単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

人数制限・選抜・抽選：

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

PC や携帯電話などのようにネットワーク接続する情報機器を使用する際、ウィルスなど意図しないプログラムを引き込んで、被害にあうことがある。情報技術が社会基盤となり、広く一般に利活用される一方で、セキュリティや個人情報保護等の問題も広く認識されるようになってきた。この授業では、身近に利用している情報サービスに対するリスクや脅威を学習し、情報セキュリティやプライバシー、および匿名性に関する議論を行い、有効にネットワークを使用するため、ネットワークユーザー個人として、あるいは組織のネットワーク管理者としての基本的な知識と情報管理技術を身につけることを目標とする。

ネットワーク上のウィルス等の脅威から身を守るためには、ファイアウォールやアンチウイルスソフト等に代表される情報システムの手法と、ルールや法律によりそれを抑止する手法がある。両者を解説する。

【到達目標】

- ・ PC 等、個人用情報機器を利用する上で、必要な情報セキュリティ知識を身につける。
- ・ より高いセキュリティを実現する方策を立案できる。
- ・ セキュリティを守るためにどのような社会制度があるかを理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

情報実習室での対面授業を基本とするが、状況に応じてオンライン授業に切り替える場合もある。学期途中での授業形態の変更やそれともなう各回の授業計画の修正については、学習支援システムでその都度提示する。履修予定者は、必ず初回授業日の前日までに学習支援システムで本科目を仮登録し、初回授業に参加、または初回授業資料を当日確認すること。講義中心に進めるが、一部で情報端末による実習を取り入れる。課題等の提出・フィードバックは、基本的には学習支援システムを通じて行うが、補助的に Google Classroom 等も用いる可能性がある。授業に関する質疑応答については学習支援システムの掲示板機能を活用する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	この授業の構成と進め方、および学習環境について説明し、スケジュール、テキスト等の紹介する。
2	自分の PC を守る	アンチウイルスソフト、ファイアウォール、アップデート。
3	アタックのパターン (1)	個人 PC を狙う攻撃。「強い」パスワードとは。コンピューターウイルスやパスワードクラッキング。
4	アタックのパターン (2)	WEB を使う攻撃。クロスサイト・スクリプティング、DNS キャッシュポイズニング。
5	仮想世界の「名前」	情報サービス上で用いている「名前」とプライバシー、匿名。
6	アクセス制限と効果	ファイアウォールとは。データアクセスの制限の必要性とその手法。
7	暗号とは (1)	暗号の歴史と基礎理論。ハッシュ、電子署名などその応用。
8	暗号とは (2)	公開鍵暗号法の原理と実践。
9	電子署名と認証	電子署名とは。SSH によるネットショッピング。
10	コンテンツ配信と著作権	著作権者の利益保護。
11	組織としてのセキュリティ対策 (1)	情報漏洩の事例紹介。
12	組織としてのセキュリティ対策 (2)	CSIRT の必要性とその適応範囲。
13	法制度による情報安全対策	国際的なサイバー犯罪に関する法規・法律。
14	期末試験、授業のまとめ	授業内容の理解度を確認するための試験を実施。情報セキュリティの考えかたの確認。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

社会生活を送る上で、情報セキュリティとしてどんなリスクや脅威があり、そのためにどんな対策があるのか意識する。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特に必要としない。

【参考書】

授業内で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点 (20%) と課題（またはレポート）(30%)、期末テストの成績 (50%) を併用した評価を行う。

この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60% 以上を達成した者を合格とする。

対面での期末テスト実施が困難な場合は、オンライン試験に切り替えた上で、小テスト・課題・レポートの配点を若干上げる可能性がある、また掲示板などでのコメントや情報共有を平常点として加点する。詳細は初回授業時に説明する。

【学生の意見等からの気づき】

学生の習熟度に応じて、授業の進度や課題の難易度は適宜調整しながら進める。

【学生が準備すべき機器他】

情報実習室のパソコンを使用した実習型の授業である。情報実習室で対面授業を行う場合は、教卓機パソコン画面の上のテキストや資料を使用して進める。オンライン併用の場合は、各自で学習環境を整える必要がある。

基本的には Windows でも macOS でも構わないが、CUI コマンドによる基本的なファイル操作ができる環境（コマンドプロンプト、ターミナルなどの各種 shell が利用できる環境）を前提としている。

毎回の授業資料と課題は学習支援システムを利用して配布・提示する。

授業時間内にこれらに接続可能なネットワーク環境も必要である。

【その他の重要事項】

受講者数が定員を超過する場合は初回授業の課題をもとに選抜を行う。初回授業は Zoom を用いたオンライン授業となるが、受講者数把握のため、受講希望者は初回授業日の前日までに学習支援システムに仮登録すること。詳細は学習支援システムを参照し、授業資料や「お知らせ」を必ず確認すること。

授業は「情報リテラシーⅠ」、「情報リテラシーⅡ」の内容を概ね理解していることを前提に進めます。また、授業内容に関連するので「ネットワーク基礎」の履修、あるいは並行履修を推奨します。

【Outline (in English)】

(Course outline)

In this class, we learn the risks and threats to the information services that we are using closely. We will also discuss information security, privacy, and anonymity, with the goal of acquiring basic knowledge and skills for information management.

(Learning Objectives)

- To acquire the necessary information security knowledge for the use of personal information devices such as PCs.

- To be able to plan measures to achieve higher security.

- Understand what social systems are in place to protect security.

ks and related information technologies.

(Learning activities outside of classroom)

You will need to do some independent study (revision) to make up for any difficulties you have in understanding the lecture content.

(Grading Criteria /Policy)

Grading will be decided based on Assignments and mid-term reports (30%), in-class contribution(20%), and term-end exam (50%).

BIO200GA

文化と生物

島野 智之、川上 裕司、黒沼 真由美、松崎 素道、鈴木 忠、富川 光

サブタイトル：生活にいかす生物との関わり

配当年次／単位：2～4年／2単位

旧科目名：バイオインフォマティクス

旧科目との重複履修：×

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：

備考（履修条件等）：旧：バイオインフォマティクスの修得者は履修不可

その他属性：〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

文化という視点からみた生命の実像を学ぶ。内容は大きく2つに分けて、(I-II)「ヒトを取り巻く文化と生物」と、(III-V)「生物それ自体とその進化」について講義を行う。分野は衛生学、美術、生物学、農業にわたり、生物情報をどのようにヒトが利用しているのかを学ぶ。

【到達目標】

ヒトの生活と生物にまつわる歴史、文化そして、現代的な問題を解決する方法について、考え理解する。生物の多様性や進化について、考え理解する。現代の生物学は情報科学的側面を強く持っている。ここでは、生命活動における情報（主に遺伝情報）の特徴とその役割について、現代生物学の手法を体験し、現状を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

大学の行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。講義はわかりやすく、文系学生にも分かりやすい内容や説明を行う。講義はオムニバス形式で、それぞれの分野の専門家に最新の知識を示してもらいます。11回までは、講義が中心ですが、特に、5-8回は、討議など多岐にわたるアクティブラーニングの手法ももちまいます。随時、ビデオやスライドを用いてわかりやすく紹介します。最後の実習（12回以降）は、実際にパソコンのソフトを用いて、外部の生物学専門機関が公開している種々のサービスを利用して行います。メールの添付などの方法で課題等に対するフィードバックをおこないます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	講義ガイダンス (I) ヒトの生活環境と生物 (1) 食文化と微生物 担当教員：川上	講義内容のあらすじ ①善玉菌と悪玉菌とは何か（細菌・真菌・ウイルスの違い）、②食中毒とは何か、③発酵食品に利用される微生物と食文化の発展について
2	(I) ヒトの生活環境と生物 (2) 健康的な食生活と微生物 担当教員：川上	①プロバイオティクスとは何か、②食同源は健康的な食生活の基本、③人類の食糧難を引き起こす昆虫と救う昆虫（農業・食品害虫と昆虫食）について
3	(I) ヒトの生活環境と生物 (3) 住まいと害虫 担当教員：川上	①主な衛生害虫・衣類害虫・家屋害虫とその生態、②ダニ・昆虫アレルギーについて、③殺虫剤と害虫対策法
4	(I) ヒトの生活環境と生物 (4) 住まいと微生物 担当教員：川上	①病原体としての細菌・真菌（カビ）、②真菌アレルギーについて、③殺菌剤と IPM（総合的有害生物管理）による対策法
5	(I) ヒトの生活環境と生物 (5) 文化財を害虫やカビから守るためには 担当教員：川上	①文化財の保存科学現状と問題点、②カビ被害の実際と対策、③害虫被害の実際と対策
6	(I) ヒトの生活環境と生物 (6) 地球環境と微生物～歴史を作る影の立役者～ 担当教員：川上	①感染症と人類の歴史、②ハンセン病と日本の歴史、③地球環境と農業分野への活用
7	(II) 生物と生態系 (1) 生物と生態系 担当教員：松崎	生態系とは、共生による生物進化、地球環境の改変、ヒトと生態系
8	(II) 生物と生態系 (2) 生態系における寄生と共生 担当教員：松崎	寄生生物が生態系で占める位置、生態系改変、宿主操作、食文化との関わり

9	(III) 動物とは？ (1) 生き物のなかでの動物の位置 担当教員：鈴木	生き物の体系と、私達人間が含まれる「動物」とは何か？を考える。①生き物とは何か、②動物とは、③生態系の中の動物の食物連鎖における位置、④新たな動物学の研究。
10	(III) 動物とは？ (2) 新種の発見 担当教員：富川	①生き物に名前をつけるということ、②生き物を名前をつけて認識する、③分類学とは何か。
11	(III) 動物とは？ (3) 新種に名前をつけるということ 担当教員：富川	①名前とはなにか、②学名とは何か、③新種はいつみつかるか、④どの様にして新種に名前をつけるか
12	(III) 動物とは？ (4) 未発見の生物を発見するために、冒険に出よう。 担当教員：鈴木	①船で海で未知な生物を捕獲する、②深海で未知な生物を捕獲する、
13	(IV) 生物の進化を推定する (1) 塩基配列情報によって進化を推定する。 担当教員：島野	生物の塩基配列情報から、実際に系統樹を作成する（生物進化の推定を行う）DNA 情報をテキスト配列として、操作して、様々な生物の塩基配列情報を扱う
14	(V) 無脊椎動物解剖学 (1) 無脊椎動物の体の仕組み 担当教員：黒沼	地球上で繁栄している無脊椎動物である節足動物の定義をおさらいし、様々な形態や筋肉のつき方、動きを比較する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本講義は、生物学だけでなく、情報科学、人文・社会科学などとの関連も含めて学ぶので、学生自身も普段から情報という視点で、様々な知識を相互に関連させて理解し、柔軟な思考ができるように努めてもらいたい。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

講義テーマに合致する市販のテキストはない。個人的に作成した講義資料を使用する。

【参考書】

講義資料の最後に参考書のリストが掲げられている。教材をよく読んでレポートの作成に取り組んでください。

【成績評価の方法と基準】

基本は講義・実習の最後に提出してもらうレポート（60%）だが、この他に講義内で提出してもらう様々な文書（ビデオ等の感想、小テストなど）(40%) も加え、総合的に評価する。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

今年度、カリキュラムを大幅に改訂し、国際文化学部の学生にも興味と応用的知識を提供するようにつとめている。引き続き、改善につとめている途中である。受講生の数にもよるが、少数の場合は、個別に希望・要望等を聞いて講義内容・方法の改善に努めたい。

【学生が準備すべき機器他】

情報機器を使用します。パソコンにインストールされているソフトを元に、実習します。遺伝子データベース <http://www.ddbj.nig.ac.jp/searches-j.html> を使います。

【その他の重要事項】

情報実習室で行うことに注意してください。

【Outline (in English)】

In this course, students will be introduced to how humans use biological information for culture through hygiene, art, biology, agriculture, etc., and the real image of life from the perspective of culture. The content is divided into two major sections: (I-II) "Culture and organisms surrounding humans" and (III-V) "Organisms themselves and their evolution. The fields of study include hygiene, art, biology, and agriculture, and we will learn how humans use biological information. Students are expected to complete the required assignments (class tests, assignment reports) at the end of each class. Your study time will be more than four hours for a class. The basic grade is the report to be submitted at the end of the lecture/practice (60%). In addition to this, various documents to be submitted in the lecture (impressions of videos, etc., quizzes, etc.) (40%) will also be added, and students will be evaluated comprehensively. Students who have achieved at least 60% of the objectives of the class will be graded on the basis of this grading system.

BIO200GA

文化と環境情報

島野 智之、佐々木 美貴、中西 由季子、忽那 賢志、塚田 訓久、島田 瑞穂

サブタイトル：人間社会や文化が、生態系とどのように関わっているのか

配当年次／単位：2～4 年／ 2 単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：

その他属性：〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

生物は、それぞれの生活環境に適した結果、多様性に富んだ進化の道を進んできている。多様な環境条件下で生活しているヒトは、環境に適応するためにさまざまな技術や思考を創造してきた。人間の活動と環境の相互作用によって構築される文化に着目し、自然科学及び人文社会科学の多面的な視点から、ヒトを取り巻く環境から得られる情報と文化の成り立ちや持続可能な社会について学ぶ。

【到達目標】

人間社会や文化が、生態系とどのように関わっているのかについて考え理解する。現代の生物学は情報科学的側面を強く持っている。ここでは、生態系、地球環境と、人間生活、食文化、病気などについて、現代生物学、栄養学、医学、保全生態学の観点から現状を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

大学の行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

講義はやわらかく、文系学生にも分かりやすい内容や説明を行う。講義はオムニバス形式で、それぞれの分野の専門家に最新の知識を示してもらいます。講義が中心ですが、討議なども入れたアクティブラーニングの手法ももちます。随時、ビデオやスライドを用いてわかりやすく紹介します。メールの添付などの方法をもちて課題等に対するフィードバックをおこないます。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	講義ガイダンス (I) 持続可能な社会づくりと食文化 (1) 2020 SDGs 担当教員：中西	講義内容のあらすじ 「2030 SDGs (ニイゼロサンゼロ エス デイジーズ)」を通じて、17の大きな目標を我々の世界が達成していく、現在から2030年までの道のりを体験し、SDGsの本質を体感する。 ① 2030SDGs カードゲーム、② 17の目標、③ 196のターゲット、④ 232のインジケーター、⑤ SDGsの本質
2	(I) 持続可能な社会づくりと食文化 (2) ワークショップ 担当教員：中西	なぜ、私たちの世界にとってSDGsが必要であるのか、SDGsがあることでどのような可能性が広がるのかについて、ダイアログを活用したワークショップを通して理解を深める ① 2030SDGs、② SDGsの必要性、③ SDGsの可能性、④見える化、⑤ SDGsの本質
3	(I) 持続可能な社会づくりと食文化 (3) SDGs de 地方創生 担当教員：中西	「SDGs de 地方創生」を通じて、SDGsを「まちづくり」や「地方創生」の身近なプロジェクトに引き寄せながら「自分事として体感」する。地域で暮らす市民、事業者、NPO、自治体など地域の様々なステークスホルダーが、持続可能なまちづくり【地方創生×SDGs】の目標実現に向けたプロセスを疑似体験する。 ① 「SDGs de 地方創生」、② まちづくり、③ 地方創生、④ 人口減少

4 (I) 持続可能な社会づくりと食文化
(4) 連鎖関係や地球の限界、その他
担当教員：島野

世界や日本で起こっている様々なできごとの連鎖関係や地球の限界(プラネタリーバウンダリー)、エコロジカルフットプリント、バイオキャパシティー、アースオーバーシュートデーなどとの関連について理解を深める。
①連鎖、②プラネタリーバウンダリー、③エコロジカルフットプリント、④バイオキャパシティー、⑤アースオーバーシュートデー

5 (I) 持続可能な社会づくりと食文化
(5) SDGsを題材にしたイノベーション
担当教員：中西

金沢工業大学が開発した THE SDGs Action card-game「X(クロス)」を通して、SDGsを題材にイノベーションを体験する。トレードオフカードはSDGsの17個の各ゴールにおけるトレードオフの問題が描かれており、トレードオフを手持ちのリソースカードを使って解決していく。
① X(クロス)、②トレードオフ、③社会問題解決、④イノベーション

6 (I) 持続可能な社会づくりと食文化
(6) SDGsと食の視点
担当教員：中西

SDGsの目標の一つに「3. すべての人に健康と福祉を -健康的な生活に不可欠な栄養-」がある。生産から流通、製造、加工、教育、消費まで幅広い分野にかかわり、我々の生命活動を支える食の視点から、持続可能な社会について理解を深める。
①フードマイレージ、②食品ロス、③栄養、④健康、⑤安全

7 (II) 感染症と日本社会
(1) エイズと社会
担当教員：塚田

①「エイズ」ってなんだろう ②「エイズ」と向き合うことでみえてくるもの

8 (II) 感染症と日本社会
(2) 新興感染症
担当教員：忽那

①新型コロナウイルス感染症とは？
②新型コロナウイルス感染症とリスクコミュニケーション ③新型コロナウイルス感染症が社会に与えた影響

9 (II) 感染症と日本社会
(3) 野生動物とヒトの間の感染症
担当教員：島田

日本の原風景である里山では、人々の生活様式の変化に伴う荒廃が進み、野生動物が増加している。イノシシやシカを用いたジビエ料理の文化も交え、野生動物とヒトの間を行き来する人獣共通感染症について考える。
①世界における微量栄養素欠乏症、②栄養改善の手法-栄養補給、栄養強化、食の多様性、③栄養強化食品の開発 (1) 生物多様性条約、(3) 食文化(乳製品)と生物多様性 (2) 分類学と生物多様性

10 (III) 食環境と文化
(1) 食生活の変遷
担当教員：中西

①世界における微量栄養素欠乏症、②栄養改善の手法-栄養補給、栄養強化、食の多様性、③栄養強化食品の開発

11 (IV) 生物多様性と持続可能性
(1) 生物多様性はなぜ必要なのか。
担当教員：島野

12 (V) 自然環境と文化
(1) 保全・再生
担当教員：佐々木

水辺の環境である湿地とその保全や利活用を推進するラムサール条約について学ぶ。
さらに、新潟市佐渡の「潟湯請」、習志野市谷津干潟の「アオサ対策」などの事例に即して、湿地の保全や再生にかかわる文化について考える。

13 (V) 自然環境と文化
(2) wise use (ワイズユース)
担当教員：佐々木

ラムサール条約が推進するワイズユース(賢明な利用)について学ぶ。さらに、大崎市の「ふゆみずたんぼ米」、檜枝岐村の尾瀬や温泉による観光、豊岡市の「環境経済戦略」などの事例に即して、ワイズユースにかかわる文化を考える。

14 (V) 自然環境と文化
(3) CEPA
担当教員：佐々木

ラムサール条約が進めるCEPA(コミュニケーション、力量形成、学習・教育、普及活動)について学ぶ。
さらに、高島市の「ふるさと絵屏風」、ラムサール条約登録湿地関係市町村会議の「学習・交流会」、日本湿地学会の活動などの事例に即して、CEPAにかかわる文化を考える。

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

本講義は、生物学だけでなく、情報科学、人文・社会科学などとの関連も含めて学ぶので、学生自身も普段から情報という視点で、様々な知識を相互に関連させて理解し、柔軟な思考ができるように努めてもらいたい。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト(教科書)】

講義テーマに合致する市販のテキストはない。作成した講義資料を使用する。

【参考書】

講義資料の最後に参考書のリストが掲げている。

【成績評価の方法と基準】

基本は講義・実習の最後に提出してもらうレポート(60%)だが、この他に講義内で提出してもらう様々な文書(ビデオ等の感想、小テストなど)(40%)も加え、総合的に評価する。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

国際文化学部の学生にも興味と応用的知識を提供するようにつとめている。引き続き、改善につとめている途中である。受講生の数にもよるが、少数の場合は、個別に希望・要望等を聞いて講義内容・方法の改善に努めたい。

【学生が準備すべき機器他】

Hoppii 学習支援システムを利用するので、情報機器（パソコンやタブレット）などを準備して下さい。

【Outline (in English)】

In this course, students will be introduced that living organisms have evolved in biological diversity as a result of their suitability to their respective living environments. Humans, living under diverse environmental conditions, have created a variety of technologies and thoughts to adapt to their environment.

The goal of this course is to understand the origins of culture and sustainable society with information obtained from the environment surrounding humans from multiple perspectives in the natural sciences and humanities and social sciences, with a particular focus on culture constructed through the interaction between human activities and the environment.

Students are expected to complete the required assignments (class tests, assignment reports) at the end of each class. Your study time will be more than four hours for a class.

The basic grade is the report to be submitted at the end of the lecture/practice (60%). In addition to this, various documents to be submitted in the lecture (impressions of videos, etc., quizzes, etc.) (40%) will also be added, and students will be evaluated comprehensively.

Students who have achieved at least 60% of the objectives of the class will be graded on the basis of this grading system.

HUI300GA

文化情報空間論

甲 洋介

サブタイトル：『拡張された人間』『超える人工物』『仮想の空間』

配当年次／単位：2～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：

備考（履修条件等）：情報関連科目を履修済みであることが望ましい

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は現代社会の重要な主題の一つとして、『知を変えよう人工物』『人間と社会の拡張』の問題を取り上げる。

● 人工物を次々に生み出すことで自らの限界を超える

人間は自然界で非力な存在である。人工物を次々に生み出すことで、自分の身体的・感覚的・知的な限界を超えてきた。その結果、この世界は自然の世界と言えなくなりつつある。むしろヒトが作り出した人工的世界の中で生きている、と考えるほうが自然だろう。

● 人工物が姿を変える Society 5.0 の後、どこに向かう？

人工物は、文具や玩具のように人間から独立した分りやすいモノだけではない。身体に装着する義足やコンピュータを埋込んだ衣服、脳波で作動させる道具やクルマなど、ヒトの身体や能力と一体化して機能する人工物もある。暮らしの至るところに埋め込まれた知的人工物に、やがて気がつかなくなると思われる。またスマート住宅のように人々を包む環境として存在する人工物もある。

● 人間の拡張、という方向性

受講生は本講義を通じて、「人間と人工物の一体化と拡張」という一見矛盾する2つの現象と、今後発展する方向性を、まず「人工物の科学」(H.A. サイモン)を理解することから始め、それをベースとして「知的人工物との暮らしのデザイン」について学ぶ。講義の終わりには、「都市」や「社会」もある意味で空間化した知的人工物として捉えることができるようになる。また、人間の拡張と「持続可能な社会」の両立は今日的な検討課題となりうるだろう。

【到達目標】

- ・人工物とは何か、それはどのように登場し、人間のもつ制約をどのように拡張してきたのか、「人工物の科学」の基礎を理解する。
- ・知的人工物が変化を感じ取り環境に適応するための技法として、知識表現、ニューラルネットワーク、遺伝的アルゴリズムの基礎を理解する。
- ・人間と人工物の共生を捉える幾つかの分析視点を学び、ある具体的な場面を切り出して、人工物によって拡張された暮らしのデザインに取り組む。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

本講義は、まず「現在」を人間と知的な人工物との共生社会として捉えることから始まる。そして、私たちの生活空間のさまざまな局面に人工物が浸透する様態に着目し、

- ①人間と独立したモノとして存在するいまの人工物、
- ②人間の身体や能力と一体化して作動し、人間を拡張する人工物、
- ③空間化し人間を包み込む環境として存在する人工物、

の3つの存在形態について検討を加える。これらの人工物が日常生活に埋め込まれることによって、私たちの生活習慣や文化はどのように変容し、生活空間はいかに拡張されるのか。幾つかの生活場面を取り上げ、人間と社会の拡張を具体的にデザインすることに取り組む。

※新型コロナウイルス感染状況によって進め方を変更することがある。大学の行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。変更については学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	知的人工物との暮らし ～サイバーパンクSFを超えて
2	暮らしの人工物のサイエンス	日常生活を構成する人工物
3	暮らしの人工物のサイエンス②	人工物を科学する、とはどのようなことか
4	人間のもつ制約を超える	人間の身体・感覚・認知の諸特性を拡張する人工物と、その方向性
5	変化に適応する人工物	環境を感じとり、身体を持つ知能としてのロボット

6	環境を感じ取り適応する知的な人工物	ニューラルネットワーク（神経回路網）モデル
7	環境を感じ取り適応する知的な人工物②	自然淘汰と遺伝的アルゴリズム
8	人間と一体化する人工物	身体と人工物の境界はすでにあいまいである
9	人間と一体化する人工物②	人間の知覚、感覚的諸能力との一体化
10	人間と協調する知的人工物	人間の認知的諸能力と一体化する
11	人間と協調する知的人工物②	人工物に感情は必要か
12	空間化する知的人工物	情報化する空間と、空間化する情報
13	人工物との暮らしのデザイン	具体的な場面を切り出して、人工物との暮らしをデザインする
14	まとめ	人間拡張学に向けて

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義後に、講義と討議を通じて各自で考えた事柄をまとめ、授業支援システムに蓄積する。受講生からのコメントは講義で活かされる。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

・システムの科学 第3版 (H. サイモン著、パーソナルメディア) 1999. 可能なら、The Sciences of the Artificial (The MIT Press, English Edition) 2019 が良い。J.E.Laird による序文が追加された。
他については、講義の進行に応じて指示する。

【参考書】

・Society 5.0 (内閣府・科学技術政策) https://www8.cao.go.jp/cstp/society5_0/index.html
・「複雑さと共に暮らす」(D.A. ノーマン、新曜社)2011.
・「深層学習：ディープラーニング」(麻生英樹他、近代科学社)2015.
・「攻殻機動隊」(監督：押井守、ワーナー) 他一連の作品群
他については、講義の進行に応じて指示する。

【成績評価の方法と基準】

・期末レポートまたは試験 (50%)、
・授業・討議における積極的な貢献度合い (発表、レスポンスシートを含む) (50%)
を総合して評価する。
期末レポート未提出者／試験未受験者の単位は認定しない。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

具体例を増やし、分かりやすい説明を試みる。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布、レスポンスシート・課題提出等に学習支援システムを利用するので授業前後にアクセス確認すること。

【その他の重要事項】

こころ、空間デザイン、人工知能、ロボットに興味のある皆さんに参画を期待する。

【履修条件】

・「情報リテラシーⅠ・Ⅱ」を単位取得済みであること。

【関連科目】

・「道具のデザイン学」「仮想世界研究」「こころの科学」「システム論」と組み合わせ受講することにより、履修効果が高まるようにデザインされている。

【Outline (in English)】

This class addresses the "Augmented Human", "Virtual Society" and "Intelligent Artifacts", as one of the essential issues of our modern society. It allows you to learn basic principles for designing the symbiosis and augmentation of human, society, and artifacts. By the end of the course, students should be able to (a) explain basic concepts and framework of the augmentation of human and the intelligence of artifacts, and (b) discuss the design of the symbiosis of the "Augmented Human/Society" and "Intelligent Artifacts". Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Final grade will be decided based on (1) final report/exam (50%) and (2) short reports and the quality of the student's in-class contribution (50%).

COT300GA

コンピュータ音楽と音声情報処理

大嶋 良明

配当年次/単位：2~4年 / 2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

人数制限・選抜・抽選：

備考(履修条件等)：情報関連科目を履修済みであることが望ましい

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

PCでシンセサイザやエフェクタを自作する。音楽や音声を扱うプログラムを作る。本講義では、音を扱うためのビジュアルプログラミング言語であるPure Data(Pd)を使って、さまざまな音の表現方法を学び作品を制作する。人間の表現行為を工学的に扱うことで、人間と機械のよりよい協調をマルチメディア、特に音楽や音声などオーディオメディアにより実現したい。同時にMIDIやOSCによる他の機器との連携、ネットワーク環境での利用、IoTなど現代的な利用のあり方を学ぶ。

【到達目標】

コンピュータ上で、音を生成する方法や、音の大きさ、長さ、音色、発音タイミングなどを制御する方法を習得し、サウンドプログラミングの基礎が理解できるようになる。Pure Data(Pd)に習熟しビジュアルプログラミングの考え方やコンピュータ音楽への応用が身につく。オープンソースソフトウェアとしてのPdの利点を認識し、Windows、MacなどOSや機器の違いに影響されない作品作り、電子楽器とコンピュータとの連携を構想できるようにする。音響モデリングの実現例が切り開く先端的な音響処理の分野を理解できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

ビジュアルプログラミング言語 Pd を使用して、情報教室でデモと実習を中心に学習を進め、音楽や電子楽器の自作を目指す。学期末を含めてセメスター内に数回の課題を課す。講義・実習と平行して、Pdによる音響モデリングの先端的な実現例を Andy Farnell のサンプルプログラムから学ぶ。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンスおよび PureData(Pd) の概要	【講義と実習】 PureData(Pd) とは何かを知り、基本的な操作方法を学ぶ。 【音響モデリング】 DTMF トーン(ブッシュホン) や家電話の呼出し音のモデル化を学ぶ。
2	Pd の基礎	【講義と実習】 パッチ (Pd のプログラム) を作成する方法を学び、簡単な例題演習でパッチ作成の基本を習得する。 【音響モデリング】 ボールが地面で跳ね返る音のモデル化を学ぶ。
3	音を出す	【講義と実習】 音とは何か、コンピュータでの音響現象の扱いを理解し、音を出すパッチを作成する。 【音響モデリング】 雷鳴の轟きのモデル化を学ぶ。
4	メトロノームを作る	【講義と実習】 音出しのタイミング制御、音の繰り返し、テンポ設定の方法を学び、メトロノーム機能を実現する。パッチのテスト方法について学ぶ。 【音響モデリング】 時を刻む柱時計のモデル化を学ぶ。
5	サンプラー機能を作る	【講義と実習】 オーディオサンプルの再生や録音した音を Pd で使う方法を学ぶ。 【音響モデリングの世界】 ジェット・エンジン音のモデル化を学ぶ。
6	リズムマシン (1)	【講義と実習】 サンプラーで録音した音をさまざまなリズムで演奏するリズムマシンの基本形を作成する。 【音響モデリング】 ヘリコプター飛行音のモデル化を学ぶ。

7	リズムマシン (2)	【講義と実習】 リズムマシン基本形を發展させ、各ドラムパート音源を増やしモジュール化することで自動演奏楽器として完成させる。 【音響モデリング】 人間の歌声のモデル化を学。
8	シンセサイザーと MIDI(1)	【講義と実習】 波形合成によるシンセサイザーを作成する。MIDI による電子楽器の制御方法を理解する。 【音響モデリング】 ロボット (スターウォーズ R2D2) の応答のモデル化を学ぶ。
9	シンセサイザーと MIDI(2)	【講義と実習】 シンセサイザーの出力音にボルタメントやビブラートなどの効果を加える方法について学ぶ。 MIDI 信号による制御を付加する。
10	インタラクティブ・アート：音と時間構造	【講義と実習】 ルーパー、ランダム再生など音響再生と時間構造の関係を理解し、インタラクティブな制御に組み込む。 【課題制作】 課題のガイダンス。最終課題を構想する。
11	インタラクティブ・アート：音と映像の連携	【講義と実習】 音に映像を連携させる手法を学ぶ。 Web カメラから信号を Pd で加工する方法や Pd で映像を制御する方法を学ぶ。 【課題制作】 進捗状況と問題点の共有。技法面での個々の問題点をクラス内で共有し、有効な解決を図る。
12	ネットワーク環境への拡張	【講義と実習】 OSC プロトコルを理解し、ネットワーク環境下で複数の Pd パッチや外部制御を連動させる方法を学ぶ。 【課題制作】 進捗状況と問題点の共有。技法面での個々の問題点をクラス内で共有し、有効な解決を図る。
13	フィジカル・コンピューティングとの連携	【講義と実習】 Arduino、Raspberry Pi、Kinect、Leap Motion などフィジカル・コンピューティングと関連デバイスを学ぶ。Pduino による Pd と Arduino の連携方法を学ぶ。
14	まとめ	学習成果の総まとめを行う。課題作品の発表と相互批評、講評を行う。

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

情報リテラシー、メディア情報基礎、デジタル情報学概論等の関連科目を前提知識として挙げておく。Pd はオープンソースのソフトウェアであり Windows でも Mac でもフリーで配布されており、情報カフェテリアの PC にもインストールされている。スマホ用にも Pd の実行環境は提供されている。授業時間外での Pd の実行環境を自分用に整備し、学習内容を十分に予習復習すること。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト(教科書)】

実習内容を記したプリントを配布する。

【参考書】

参考書・参考資料等

【Pure Data】

美山千香士、『Pure Data チュートリアル&リファレンス』、ワークスコーポレーション (2013) ISBN: 978-4862671424

松村誠一郎、『Pd Recipe Book -Pure Data 』ではじめるサウンドプログラミング』、ビー・エヌ・エヌ新社 (2012) ISBN: 978-4861007804

中村隆之、『PureData』ではじめるサウンド・プログラミング―「音」「映像」のための「ビジュアル・プログラミング」言語』、工学社 (2015) ISBN: 978-4777518821

【音響モデリング】

Andy Farnell, "Designing Sound," MIT Press(2010), ISBN:978-0262014410

【成績評価の方法と基準】

平常点 (30%)、課題 (30%)、最終課題の評点 (40%) で成績を評価する。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

講義だけではなく、実習を通して技術を体験できる授業にする。しかし、サウンドプログラミングの習得には毎回の授業だけではなく、課題の発展的応用を通じてコンピュータ音楽や音響現象への理解を深めることが同時に役に立つ。ぜひ情報実習室や個人の PC を利用して、授業時間以外にもプログラミングの復習時間を確保してほしい。また Web 公開されているさまざまな音響イベントやメディアアートの記録も積極的に参考にしたい。楽器屋で電子楽器に触れてみるのも良い体験となる。専門的な音楽の知識は必要としないが、音楽や音響への興味を大事にして授業に取り組んでほしい。期中アンケートにおいて音楽知識に関する意見を貰ったので改めて明記するが、普通科での音楽の知識や簡単なボイジャー音楽用語のみで受講には十分であり、高度な音楽知識は前提としていない。

【学生が準備すべき機器他】

情報実習室のデスクトップ PC を使用する。Pd はフリーにダウンロードできるので個人 PC (Mac 版、Linux 版もある) にインストールすれば教室と同じ環境で作業できる。実習機器は担当教員が用意するので、受講のために購入する必要はない。

【その他の重要事項】

受講希望者は初回授業に出席すること。受講希望者が教室定員を超える場合には抽選を実施することがある。

実務経験のある教員による授業：

担当教員は IT 企業での研究所勤務において 15 年間のデジタル信号処理 (特にデジタル音響、音声合成、統計モデルによる音声認識)、マルチメディア処理 (音楽音響、電子透かし) 分野の経験がある。

【Outline (in English)】

This course deals with electronic music and audio design and implementation by use of Pure Data, a visual programming language in a workshop-type classroom environment. The typical in-semester projects include drum machines, sequencers, studio audio effects, and music synthesizers. Advanced learners are encouraged to pursue MIDI/OSC enabled applications in collaborative environments, integration with sensor-enabled control interface, and small Arduino projects for interactivity.

Grading policy is as follows:

In-class contribution: 30%

Homework and in-class assignment: 30%

Final assignment: 40%

Your must achieve at least 60% in the overall grade to pass for academic credit.

The average study time outside of class per week would be approximately 4 hours.

FRI300GA

コネクション・デザイン

川村 たつる

配当年次／単位：3～4年／2単位

旧科目名：ハイパーテキスト論

旧科目との重複履修：×

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：定員35名 定員を超えた場合は選抜を行います。詳細は学習支援システムで通知します。

備考（履修条件等）：旧：ハイパーテキスト論の修得者は履修不可

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、現代の家族関係や公共施設の在り方、シェアリング・エコノミー、ソーシャルネットワーク等の事例を見ていながら、1989年にアメリカの社会学者によって提唱された「第三の居場所（サードプレイス）」のような機能は、現代においてはどのように形を変え、どのような役割を持つことができるのかを考察し、これからの人と人の繋がりを考えていきます。

【到達目標】

これからの「第三の居場所（サードプレイス）」を考えていくことで、現代社会における人と人、人と社会の繋がりを受講者それぞれが再考察できることを目標としています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

■人数制限・選抜

提出されたレポートの講評会を行いますので、本授業は受講生の定員を35名とします。この人数を超える場合は、初回の授業の前に選抜を行います。※選抜を行う場合は、事前に学習支援システムで登録者に連絡を行います。

■授業の進め方

- ①授業は、対面を基本とした講義形式で行います。
- ②授業ごとに授業内容に関するリアクションペーパーの提出が必須です。提出されたリアクションは、提出者の名前を伏せた上で全員分の内容を翌週に全受講者に配布します。そのリアクション集の中でフィードバックが必要な内容にはコメントを付記し、全体で議論が必要リアクションに関しては、授業内で時間を設けて行うようにします。
- ③課題として、中間と最終の計2回のレポート提出を行ってまいります。提出されたレポートは、講評会の形で発表と講評を行います。

※注意事項：何らかの事情でオンラインでの受講を希望される方は、必ず事務に相談をしてオンライン受講の許可を大学から受けるようにしてください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	現代における人と人の繋がりを考える
第2回	考察1「サードプレイス」	「サードプレイス」とは？
第3回	考察2「家族の在り方」	日本の住宅の変遷から「家族の在り方」を考える
第4回	考察3「パブリックスベース」	公共施設の事例から「パブリックスベース」を考える
第5回	考察4「共有する時代」	シェアリングエコノミーの事例から「共有する時代」を考える
第6回	考察5「所有しない時代」	サブスクリプションの事例から「所有しない時代」を考える
第7回	グループディスカッション1	中間レポートのためのグループディスカッション
第8回	中間レポート講評会	他の受講生の中間レポートを読み、意見交換
第9回	考察6「ネットワーク」	複雑ネットワークの視点から「ネットワーク」を考える
第10回	考察7「ソーシャルネットワーク」	インターネット心理学の視点から「ソーシャルネットワーク」を考える
第11回	考察8「人と人との繋がりの方」	発達心理学の視点から「人と人との繋がりの方」を考える
第12回	考察9「ダイアログとモノログ」	オープンダイアログの事例から「ダイアログとモノログ」を考える
第13回	グループディスカッション2	最終レポートのためのグループディスカッション
第14回	最終レポート講評会	他の受講生の最終レポートを読み、意見交換

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- 授業リアクションの提出は、授業内容を振り返り、授業後に授業支援システムで提出を行うこととします。
- 課題は、各自が授業外で行うこととします。
- 映像資料（20～30分）がある場合は、授業時間外に各自でオンライン視聴してもらいます。
- 本授業の準備・復習時間は、各4時間を標準とします。

※上記以外に準備学習や復習が必要なことは、随時授業内で設定します。

【テキスト（教科書）】

特定の教科書は使用しません。

【参考書】

『インターネットの心理学』パトリシア・ウォレス（NTT出版/2018年）、『ネットワーク思考』アルバート＝ラズロ・バラバシ著（NHK出版/2002年）、『複雑な世界、単純な法則』マーク・ブキャナン著（草思社/2005年）、『つながっているのに孤独』シェリー・タークル著（ダイヤモンド社/2018年）、『サードプレイスーコミュニティの核になる「とびきり居心地よい場所」』レイ・オルデンバーグ著（みすず書房/2013年）、『オープンダイアログとは何か』斎藤環著＋訳（医学書院/2015年）等。

【成績評価の方法と基準】

成績評価は、出席率と各授業毎に提出される「授業に対するリアクション」の内容から、授業の理解度を平常点として評価（70%）。また、課題（中間・最終レポート）に対して受講者自身がどのようなアプローチができたかを評価（30%）。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とします。※成績評価を行うためには、すべての課題提出を必須とします。

【学生の意見等からの気づき】

受講者各自がテーマを自身に引き寄せて考察できるように、扱う事例の選択や授業の進め方を工夫していきたい。

【Outline (in English)】

In this class, we will examine how people are connecting with each other, which is changing in various ways in the modern age, and consider what form and role a "third place" will take in the future, which is needed by people apart from home and work. The goal of the class is to examine the "third place" in today's world.

The goal of the class is to enable students to reconsider how to connect people with each other and with society, while considering the "third place" in the modern age.

Reactions to the class content will be submitted online after class.

The standard preparation and review time for this class is 4 hours each. Grading will be based on 70% regular marks and 30% assignments.

DES200GA

情報の編集論

川村 たつる

配当年次／単位：3～4年／2単位

旧科目名：情報編集論

旧科目との重複履修：×

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
 人数制限・選抜・抽選：定員 35 名 定員を超えた場合は選抜を行います。詳細は学習支援システムで通知します。

備考（履修条件等）：旧：情報編集論の修得者は履修不可

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、“情報”を収集・分析し、効果的な表現を行う“デザイン”という方法論を手掛かりに、普段何気なく見ている広告（ポスターや新聞、雑誌等の広告）やコマース（映像広告）、商品パッケージ（商品をパッケージしている箱や袋）を題材に、「情報の意味」を考え、「情報の編集」がどのように行われているのかを学んでいきます。

【到達目標】

受講者それぞれが、何気なく見ているものの中にも「情報」が編集され存在していることを認識し、自身でその意味を考察できるようになることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際化学部部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

■人数制限・選抜

提出されたレポートの講評会を行いますので、本授業は受講生の定員を 35 名とします。この人数を超える場合は、初回の授業の前に選抜を行います。
 ※選抜を行う場合は、事前に学習支援システムで登録者に連絡を行います。

■授業の進め方

- ①授業は、対面を基本とした講義形式で行います。
- ②授業ごとに授業内容に関するリアクションペーパーの提出が必須です。提出されたリアクションは、提出者の名前を伏せた上で全員分の内容を翌週に全受講者に配布します。そのリアクション集の中でフィードバックが必要な内容にはコメントを付記し、全体で議論が必要リアクションに関しては、授業内で時間を設けて行うようにします。
- ③課題は提出後、発表会を行い、講評を行います。

※注意事項：何らかの事情でオンラインでの受講を希望される方は、必ず事務に相談をしてオンライン受講の許可を大学から受けるようにしてください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	「情報」とは何か？
第 2 回	デザイン	「デザイン」とは何か？
第 3 回	情報の編集	「情報の編集」を考える
第 4 回	広告と情報 1	「最近気になる広告」を持ち寄って考える
第 5 回	広告と情報 2	「広告」とは何か？
第 6 回	広告と情報 3	「広告」の中の情報
第 7 回	映像広告と情報 1	「最近気になる映像広告」を持ち寄って考える
第 8 回	映像広告と情報 2	「映像広告」とは何か？
第 9 回	映像広告と情報 3	「映像広告」の中の情報
第 10 回	商品パッケージと情報 1	「最近気になる商品パッケージ」を持ち寄って考えてみる
第 11 回	商品パッケージと情報 2	「商品パッケージ」とは何か？
第 12 回	商品パッケージと情報 3	「商品パッケージ」に現れる情報
第 13 回	芸術と情報	「芸術」に表出する情報
第 14 回	まとめ	「情報の編集」をもう一度考えてみる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

●授業リアクションの提出は、授業内容を振り返り、授業後に授業支援システムで提出を行うこととします。

●課題は、各自が授業外で行うこととします。

●本授業の準備・復習時間は、各 4 時間を標準とします。

※上記以外に準備学習や復習が必要なことは、随時授業内で設定します。

【テキスト（教科書）】

特定の教科書は使用しません。

【参考書】

「デザイン思考が世界を変える」ティム・ブラウン著（早川書房/2010 年）、「知の編集工学」松岡正剛著（朝日文庫/2001 年）、「Design Rule Index ーデザイン、新・100 の法則」ウィリアム・リドウエル/クリスティーナ・ホールデン/ジル・バトラー共著（BNN/2004 年）等。

【成績評価の方法と基準】

成績評価は、出席率と各授業毎に提出される「授業に対するリアクション」の内容から、授業の理解度を平常点として評価（70%）。

また、課題に対して受講者自身がどのようにアプローチができたかを評価（30%）。

この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60%以上を達成した者を合格とします。

※成績評価を行うためには、すべての課題提出を必須とします。

【学生の意見等からの気づき】

新たな知識を得たことで満足するのではなく、受講生各自がそれらを自身で応用できるように授業の進め方、振り返り方法を受講生の反応に応じて考えていきたい。

【学生が準備すべき機器他】

なし

【その他の重要事項】

現役デザイナーが、専門分野における経験から講義を行う。

【Outline (in English)】

In this class, students will study "information editing" by examining advertisements and product packages that they usually see without thinking, using the methodology of design to collect, analyze, and express "information" as a clue.

The goal of the class is for students to be able to recognize that information is edited and exists in the things they casually see, and to be able to think about the meaning of such information.

As learning outside of class, students are required to submit their reactions to the class content online after class.

Assignments are to be done outside of class by each student.

The standard preparation and review time for this class is 4 hours each. Grading will be based on 70% regular marks and 30% assignments.

FRI200GA

文化情報の哲学

森村 修

サブタイトル：ジュディス・バトラーの思想——性的マイノリティの挑戦

配当年次／単位：2～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

人数制限・選抜・抽選：

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

【授業の概要】

本科目は、国際文化学部が提唱する「文化情報学」という新しい学問を哲学的に基礎づけるための科目です。そもそも「文化情報学」とは、様々な文化現象を「文化情報」として捉え直し考察する学問として新しく構築するために考案された学問です。この学問では、それぞれ固有の文化現象のなかに共通する新しい〈意味〉や〈価値〉を見出し、「文化情報」として編集しなおして解釈し、「文化情報」としての〈新しい意味〉や〈新しい価値〉を創出したり、さらにそれらの〈意味〉や〈価値〉を付加して新しく発信することを目指します。

それでは、なぜ「文化情報学」を学ぶ必要があるのでしょうか。私たちは動機をもって物事に取り組むことで、手に入れたい「文化情報」を取捨選択できます。そうすることで不必要な情報を誤って手に入れることが減ったり、害悪になる情報を鵜呑みすることを少しでも減らしたりすることができるようになります。

しかしそのためには、取捨選択するための「自己=自分 (self)」としての「主体性=主観性 (subjectivity)」が確立している必要があります。それでは、そもそも「私 (自分)」とは何でしょうか。「私」はどのような存在で、どうして存在しているのでしょうか。あるいは、「私」はどのようにして「他者 (the other)」とは異なるのでしょうか。これらは哲学的な難問です。「私」とか「主観」とかを問うと、これらの根本的で哲学的な問いが立ちはだかってきます。

そこで、本授業では、まずは「私」あるいは「自己」を根底で支えている「人生・生・生命 (Life)」に焦点を当てて考えてみます。その際に、私たちが日常生活を営むとき、自分が「生きていること」に、それほど意識を向けていません。

でも、突然、病気になったり怪我をしたりすると、自分が「生きている」という当たり前のことがとても重要なことであることに気づきます。私たちの「生活 (Life)」も「無事に生きている」からこそ営めるのです。

【授業の目的】

そこで、本授業では、ジュディス・バトラー (1956-) の思想を取り上げ、性的マイノリティを通じて、私たちの「生」と「性」、さらには社会のあり方について哲学的に考えてみることを試みます。

【到達目標】

- (1) 21世紀を生きる私たちにあって、「哲学する」ことがいかに重要であるかを学ぶことができる。
- (2) 哲学的思考を身につけることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

【授業の方法】

テキストの読解を基本にする。さらに教員による解説を行ない、受講生と討議していく。また、リアクションペーパーなどを使用することも考えている。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	・本科目の意図の説明など ・ジュディス・バトラーとは誰か
2	序 なぜバトラーなのか？	・バトラー思想のキーワード (弁証法・パフォーマンス・ヴィヴィティ)
3	第一章 主体①	・ヘーゲル哲学とコジェーヴ
4	第一章 主体②	・構造主義とポスト構造主義
5	第二章 ジェンダー①	・女性性という問題
6	第二章 ジェンダー②	・メランコリーとしてのジェンダー
7	第三章 セックス①	・物質としての身体
8	第三章 セックス②	・ラカン精神分析における女
9	第三章 セックス③	・ファルス「である」こと、ファルスを「もつ」こと
10	第四章 言語①	・傷つける言葉
11	第四章 言語②	・呼びかけとしての言葉
12	第五章 精神①	・権力と精神

- 13 第五章 精神② ・バトラー以降
14 バトラー思想のまとめと ・バトラーの残したものの批判

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・必要に応じて配布された資料に基づいて、レジュメを作成する。
- ・本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

- ・サラ・サリー『ジュディス・バトラー』竹村和子他訳、青土社、2005年
- 【テキストが手に入りにくい場合は、必要に応じてこちらで準備する】
- ・ジュディス・バトラー『欲望の主体——ヘーゲルと20世紀フランスにおけるポスト・ヘーゲル主義』大河内泰樹ほか訳、堀之内出版、2019年
- ・Sara Salih, *Judith Butler*, Routledge, 2002.
- ・Judith Butler, *Subject of Desire: Hegelian Reflections in Twentieth-Century France*, Columbia University Press, 1987/2012.

【参考書】

- ・ジュディス・バトラー『ジェンダー・トラブル』竹内和子訳、青土社、1999年
- ・ジュディス・バトラー『問題=物質となる身体』佐藤喜幸ほか訳、以文社、2021年
- ・Judith Butler, *Gender Trouble*, Routledge, 1990.
- ・Judith Butler, *Bodies That Matter: On the Discursive Limits of "Sex"*, Routledge, 1993.

【成績評価の方法と基準】

- ・期末レポート (30%)、授業内レジュメ (30%)、平常点 (40%)
- ※ この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする

※要注意【変更】

リアルタイム・オンライン授業の場合には、成績評価の方法と基準も変更する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

- ・リアルタイムオンライン授業の場合には、インターネットなど授業に関係する機材を用意しておいてください。

【その他の重要事項】

- ・本科目は、哲学的思考の訓練の場であることを銘記すること。自分でいろいろと考えることが哲学の初歩である。

【哲学することの姿勢について】

- ・本授業は、テキストを一文一文読解していく原書講読のスタイルをとる哲学の授業である。

- ・哲学の鍛錬で最も重要なことは、第一にテキストを正確に読めること、第二に、正確なテキスト理解の上に、自らの解釈を組み立てること、第三に、自らの解釈が何を根拠にしているかを明らかにできること、である。

【Outline (in English)】

【Course outline】

This class aims to examine various aspects of various cultures as philosophical problems from the viewpoint of the "informatics of culture". Therefore, we will first focus on "Life", which underlies "I" or "self". When we go about our daily lives, we do not pay much attention to the fact that we are alive.

However, when we suddenly get sick or injured, we realize that the fact that we are alive is very important. Our life is possible because we are "alive". So what is life? At the end of the course, students are expected to think about our life, and between philosophically.

In this class, we will focus on **the philosophy of Judith Butler** (1956-). From the standpoint of sexual minorities, she philosophizes about the relationship between our lives and sexuality, as well as about society and politics.

【Learning Objectives】

By the end of the course, students should be able to do the followings:

- A. to learn how important it is for us to philosophize.
- B. to learn to think philosophically.

【Learning activities outside of classroom】

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than two hours for a class.

【Grading Criteria /Policies】

Final grade will be calculated according to the following process term-end examination (50%), and in-class contribution (50%).

ART300GA

パフォーマンスの美学

森村 修

サブタイトル：〈からだ〉の美学—写される〈からだ〉・加工される〈自己〉・構築される〈セクシュアリティ〉

配当年次／単位：2～4年／2単位

旧科目名：パフォーマンス・スタディーズ

旧科目との重複履修：×

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：人数制限あり・選抜試験

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業の目的は、「美学=感性学 (aesthetics)」の立場から、文化的・政治的・社会的な文脈で身体を用いて表現された「パフォーマンス (performance)」の「美しさ」を追求することです。

2023年度では、私たちの〈からだの美しさ〉に着目しながら、〈からだ〉がどのように表現されてきたかを「ボディ・スタディーズ (Body Studies)」の観点からアプローチすることを試みます。その際に、特に「セクシュアリティとパフォーマンス」というテーマで、特定のアーティストが「パフォーマンス・アート」の手法を用いて、積極的に自らの性／アイデンティティーを問題にしていることを考察します。

【到達目標】

- 1) アートについて、既成の価値観・マスメディアの流す価値観に対する、批判的視点を身につけることができる。
- 2) 自らの価値観を問い直し、新たに刷新するための表現手段を具体的に説明することができる。
- 3) 高校までの芸術教育や制度的なアート認識を新たに問い直し、自らの視点で「パフォーマンス」や、パフォーマンスを用いたアートについての鑑賞方法や参加方法について、説明できる。
- 4) アートの領域の内部で生じた、20世紀以降のさまざまな変遷を辿ることで、「前衛芸術」のあり方について、現在のパフォーマンス・アートのあり方を予測することができる。
- 5) 「パフォーマンス・スタディーズ」の基本について学ぶことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

【授業の方法】

- ①基本的には、「講義形式」で行うが、受講生との積極的な対話や討議を行います。
- ②パフォーマンス・スタディーズに関わる代表的な映像作品（実験映像・映画・演劇の記録など）を上映する。そこで、諸作品について、さまざまな解釈をしながら、授業参加者と討議していきます。
- ③必要に応じて、課外活動としてフィールド・ワークも考えています（自由参加）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	・講義の目的と概要についての解説を行う。
2	Body Studies の基礎①	・Body Studies と Performance との関係について概観する
3	Body Studies の基礎②	・被写体としての〈からだ〉について考察する。
4	Body Studies の応用① —フェミニズムとパフォーマンス①	・表現される〈からだ〉をセクシュアリティから考える
5	Body Studies の応用② —フェミニズムとパフォーマンス②	・〈からだ〉を痛めつけることから見えてくるもの
6	Body Studies の現在①	・〈からだ〉に映し出されるアイデンティティーを考える
7	Body Studies の現在②	・〈からだ〉に刻まれた記憶と痛み

8	現代写真論からみた〈からだ〉の美しさ①	・〈自分〉を映し出すこと——セルフ・ポートレート
9	現代写真論からみた〈からだ〉の美しさ②	・〈日常〉を切り取ること——スナップ写真の〈顔〉
10	現代写真論からみた〈からだ〉の美しさ③	・〈はだか〉は、アートか猥褻か
11	現代写真論からみた〈からだ〉の美しさ④	・〈はだか〉をめぐるアートと検閲
12	浮世絵・春画からみた〈からだ〉①	・春画はアートかポルノグラフィか？
13	浮世絵・春画からみた〈からだ〉②	・春画における身体表現
14	まとめ	・これからの Body Studies と Aesthetics of performance

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

パフォーマンス・スタディーズは、1980年代に登場した新しい研究です。日常性の中に潜む様々なパフォーマンス（言語的な物語に始まり、演劇やダンスなどの身体表現や、祭祀や儀礼などの文化的儀式など）に注意を向け、概念化し、言語表現にもたらしすることで、パフォーマンス・スタディーズそのものの裾野の広がりを注視してもらいたいです。また、〈からだ〉に特化した Body Studies は、Performance Studies のひとつの方向性を示しています。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に、特定のテキストは用いません。

授業内で配布するテキストの抜粋などを用いて、事前に読んできてもらうことを考えています。

【参考書】

- (1) Margo DeMello, *Body Studies: An Introduction*, Routledge, 2014. (マargo・デメロ『ボディ・スタディーズ——性、人種、エイジング、健康／病の身体学への招待』、見洋書房、2017年)
- (2) 早川開多『春画』、角川ソフィア文庫、2019年
- (3) タイモン・スクリーチ『春画——片手で読む江戸の絵』、講談社学術文庫、2010年

【成績評価の方法と基準】

【成績評価】

- ①授業内での積極的な議論参加、発言・質問など（25%）
- ②期末レポート（75%）

【評価基準】

- ①作品を読んだり、見たりする際に、積極的に自らの意見を表明すること。表現することが、本講義にとって重要な評価基準になっている。
- ②期末レポートは、あくまで「批評 (critique)」が求められている。単なる感想・意見では評価できない。「批評文」には、一定の「規準 (criterion)」が前提されている必要がある。
 - (1) 自分自身の「評価規準」が明確であること。
 - (2) 自らの「評価規準」に照らして、自分の意見・主張が明確に述べられていること
 - (3) 自分の意見・主張を読み手に説得的に表現できていること
 - (4) 自分の表現が自分勝手な思い込みによる羅列ではなく、きちんと論理的に紐立てられて述べられていることこの成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【その他の重要事項】

・本講義がめざしているのは、Performance Studies や Body studies を学ぶことによって、受講生自らが自分の美意識や価値観を問い直すことである。それゆえ、パフォーマンスという概念の検討を通じて、参加者全員に、既成の価値観やマスメディアが大量に流す情報に対する批判的な姿勢が求められている。それゆえ、本講義では、自らの価値観を積極的に打ち破る勇気をもつ学生の参加を望む。
・インターネットやマスメディアに毒された価値観をいったん破壊して、新しい美意識や価値観を構築するきっかけを掴むことが本講義の真の目的である。
・本科目は「表象文化」の科目群に位置づけられているが、本科目が重視する「現前性 (presentation)」は「表象 (representation)」概念の批判を含んでいることに注意すべきだろう。「現前性」にとって重要なのは、「[現場性]・[直接性]・[現在性]」に特化した「パフォーマンス性 (performativity)」であり、「いま・ここ」を最大限重視するアート作品に積極的に関与し、参加する態度であることを明記しておきたい。

【受講上の注意】

・授業に積極的に参加し、自らの価値観を問う実践（パフォーマンス）を行わない学生の参加は遠慮してもらいたい。

・受講生多数の場合は、初回の授業で選抜することも考えているので、初回の授業には必ず出席すること。初回の授業に参加しないものは、受講を認めない場合もあるので、要注意。

【Outline (in English)】

【Course outline】

The aim of this course is to help students acquire to pursue the "beauty of performance" expressed in the cultural, political and social context from the standpoint of aesthetics. In 2023, we will try to approach from the viewpoint of Body Studies how Body has been expressed while paying attention to the beauty of the body.

【Learning Objectives】

At the end of the course, students are expected to learn about the basics of "performance studies."

【Learning activities outside of classroom】

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

【Grading Criteria /Policy】

Final grade will be calculated according to the following process
Mid-term report (30%), term-end examination (30%), and in-class contribution (40%).

ART300GA

サブカルチャー論

島田 雅彦

配当年次／単位：2～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

人数制限・選抜・抽選：教室定員を超過した場合は選抜

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

サブカルチャーは新興の文化流行として、大衆文化や通俗趣味に分類されるが、表現者たちにより洗練が加えられ、いつしかメインカルチャーとなってゆく。文学、美術、音楽、漫画、映画、旅行、衣食文化、政治、科学あらゆるジャンルを横断し、文化流行全般の考察を通じ、コミュニケーション能力の土台にもなる雑多な教養を身につける。とりわけ、技術論に焦点を当て、文化の様態の変容を時代ごとに考察する。

【到達目標】

イデオロギーや哲学の代わりにキャラクターやコピーがものをいう現代、政治も文化も素人が担い手になってゆく風潮を踏まえ、柔軟な批評精神を獲得し、サブカル全般に関する教養の底上げを図ると同時に、先人の斬新な発想の秘密に迫る。講義内容のまとめや復習は各自が行うが、授業内で行った小レポート等、課題に対する講評や解説は授業の最後にまとめて行う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

原則的に講義形式で進めるが、質疑応答や議論にも時間を割き、履修者のコメントや発表も取り入れながら、対話的に行いたい。文化流行全般に興味のある学生、「オタク」や「マニア」の参加も歓迎する。豊富な画像、映像をサンプルとして、見せつつ、歴史的な背景を踏まえることで、各ジャンルの未来に対する提言を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	サブカルチャーの定義	概論
2	モダニズム	モダニズムの定義。テクノロジーとの関わり。モダニズム時代の芸術運動の展開とその検証。
3	複製技術	黎明期の映画と産業としての発展の歴史。複製技術の進化とオーラの消滅
4	江戸町人文化	日本のサブカルチャーの原点としての江戸。好色一台男に見る江戸風俗。
5	アマチュアリズム	素人の手習い。趣味とサブカル。日曜画家。若者バカ者よそ者の力。素人の乱。
6	エロ・グロ・ナンセンス	コミックス、ヤクザ、風俗産業の揺籃としての戦後の焼跡闇市。
7	カウンターカルチャー	1960年代のアメリカのカウンターカルチャーの研究。ヒッピー、サイケデリック、ゲイ・レボリューションなど。
8	漫画史	漫画独特の表現について。コミック進化論、多様性獲得に向けて。
9	徘徊・巡礼・観光	遊歩の思想。物見遊山の哲学。もてなしの文化。接待の流儀。テーマパークとしての都市、京都、ヴェネチア。
10	都市空間と仮想空間	住まいの変容。空間論。パラレルワールド。生息域（ニッチ）研究。
11	食文化の多様性	グルメという思想。越境する胃袋。
12	科学と迷信	マッドサイエンス。自然科学のサブカル化。スピリチュアル。文化流行。都市伝説。不老不死。AI。
13	メディアと政治	ポピュリズム 政党政治、代表制のゆくえ。デマ、陰謀説。ナショナリズム
14	まとめと質疑	まとめと全テーマに基づく質疑応答

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内での議論に参加すべく、質問を用意したり、得意分野での鑑賞を個人的に熱心に行うことが望ましい。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教室で指示する。

【参考書】

教室で指示する。

【成績評価の方法と基準】

授業時間に予告して、筆記試験を行うが、議論への積極的参加も評価される。評価基準は平常点20%、選択式試験の結果80%とする。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

質疑応答、議論への積極的参加を促す。

【Outline (in English)】

Subculture is classified as popular culture and popular hobby as an emerging culture epidemic, but it becomes somewhat mainstream culture as sophistication is added by expressers. Crossing all genres across literature, art, music, cartoons, movies, travel, fashion and food culture, politics, and science, we acquire miscellaneous culture that will also serve as the foundation of communication skills through consideration of cultural epidemics in general. Especially focusing on technology theory, we consider the transformation of the form of culture by the age. The goals of this course are to acquire new awareness of subcultures, comprehensive understanding of subculture genres, and knowledge of historical background. A written test will be given but active participation in the discussion will also be appreciated. Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter(s) from the text. Your required study time is at least 4 hours for each class meeting. The evaluation criteria are 20% for normal points and 80% for multiple-choice test. Based on this grade evaluation method, those who have achieved 60% or more of the achievement target of this class will be accepted.

ART300GA

現代美術論

稲垣 立男

配当年次/単位：2～4年 / 2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈ダ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

今日の現代美術の世界は、様々な分野の最先端の芸術（美術、建築、音楽、パフォーマンス、映像、詩など）が複雑に交差しながら形成されています。

この講義では、現代美術に関する理論と実践について講義します。現代美術のコンテキストを社会学、人類学や科学と比較参照し、多文化・関係性・コミュニケーションなどをキーワードに読み解いていきます。

【到達目標】

講義では、現代美術と関連のある芸術分野についても扱い、様々な芸術の分野における実験的なアプローチを検証し俯瞰することで、それらの考え方、アイデアについての理解を深めます。

みなさんには馴染みの薄い分野であると思いますので、最初に美術史や美術理論の基本的な知識を確認します。また、講義の間にワークショップ（感覚的、体験的に学ぶこと）を行い、より理解を深めていきます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

講義映像や資料をウェブサイトに授業コンテンツを全て掲載して一定期間公開し、それをみながら授業を受講してもらうオンデマンド方式にします。PC、スマートフォンどちらでも受講可能ですが、PCでの学習を推奨します。

授業当日の流れ（重要）

1. 指定された公開日に、Google Classroom にその日の学習内容を掲載したウェブサイト（Google site）のリンクを掲載する。
2. ウェブサイトを見ながら学習を進める。（当日であれば、授業時間外に学習しても構いません。）
3. Google Classroom に授業に関連した小テストや授業内レポートのリンク（Google Form）が掲載されているので、回答して提出する。
4. 授業内容に関する質問については、Google Form に書き込んでおくと回答します。

授業の方法

授業時間になると Google Classroom を通じて必要なリンク先や課題の提出について公開します。公開したウェブサイトには授業に関連したテキストや授業概要の映像（YouTube、40 - 60分程度）、必要な画像やウェブサイトのリンク先などが掲載されていますので、そのサイトを見て学習を進めてください。ウェブサイトは年度末まで公開しておきます。

対面授業とオンライン授業内容の違い

学ぶ内容については同一です。シラバスで授業の内容を確認してください。

課題

受講後、Google Form で小テスト、もしくは簡単なレポートを提出してもらいます。提出期間は授業終了後数日程度です。

評価

実習課題とレポートの提出をもって出席とし、採点を行います。

質問・相談

一般的な質問や相談については Google Classroom を使ってください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	講義内容について 授業計画について 評価方法と基準
第2回	現代美術の基礎知識 1 メディアとアート	美術の様々な技法やメディアについて確認してみましょう。この授業ではメディアの歴史の変遷と共に、アバンギャルドの時代から現代までの現代美術について学んでいきます。
第3回	現代美術の基礎知識 2 20世紀の美術	第一次世界大戦前後のアバンギャルド芸術運動（前衛芸術）である未来派・ダダ、シュルレアリスム、アクシオン、ハプニング、ポップアート、コンセプチュアル・ミニマルアート
第4回	現代美術の基礎知識 3 21世紀の美術	1980年代に、アメリカの商業・ギャラリートから生まれたムーブメント、「新表現主義」に関係性の美術、ソーシャリー・エンゲージドアート
第5回	ワークショップ 1	「現代美術の基礎知識」の講義内容の確認をします。
第6回	身体とパフォーマンス 1	ワークショップ・ドローイングパフォーマンス・アートは身体を用いて時間的な経過と共に行われる表現行為です。1960年代にアラン・カプローが「ハプニング」、また前衛音楽家のジョン・ケージは「イベント」という言葉を使って芸術の常識を破ろうとしました。70年代からは主にパフォーマンスアートと呼ばれるようになります。
第7回	身体とパフォーマンス 2	パフォーマンス・アーツは視覚芸術であるファインアーツに対して演劇やダンスなどの舞台芸術、行為・アクションによって成立する芸術という意味で使われています。バレエに始まる近代ダンスの変遷、また現代演劇についても触れます。
第8回	身体とパフォーマンス 3	シェーンベルクに始まり、ミュージック・コンクレート、ジョン・ケージの偶然性の音楽、ミニマルミュージックを経て現代に至る現代音楽の流れを美術の世界と比較しながら学んでいきます。

第9回	身体とパフォーマンス4 言葉とパフォーマンス ビート・ゼネレーション、スポークン・ワード、ラップ・ミュージック	シュルレアリスムやコンセプチュアルアートなどのテキストによる美術表現や言葉を使ったパフォーマンスアートと、ポエトリーリーディング/スポークンワードなどの現代詩の世界を比較します。
第10回	ワークショップ2 単元のまとめ・ワークショップ	「身体とパフォーマンス」の講義内容の確認をします。 ワークショップ・音と言葉のパフォーマンス
第11回	社会と関わるアート1 スライス・オブ・ライフー日常を描くー	スライス・オブ・ライフは、映画や小説、演劇の世界でありふれた日常を描くことを指しますが、日常を切り取る手法は絵画や映像などの美術作品にも存在します。この講義では、日常をテーマとしてフィールドワークを重ねて作品化するアーティストの手法について考察します。
第12回	社会と関わるアート2 アートと文化研究	文化研究（カルチュラル・スタディーズ）やパフォーマンス研究（パフォーマンス・スタディーズ）は人種や民族、ジェンダーなどの社会的な課題や日常、アイデンティティなど様々なテーマとした学際的研究アプローチについての理解を深めます。
第13回	社会と関わるアート3 社会と関わるアート	ソーシャリー・エンゲージド・アートのような社会に対する直接的なアプローチのみならず、どのような時代の芸術作品もその作品が作られた社会と深く結びついています。各時代の社会と関わるアートに関する事例について学んでいきます。
第14回	ワークショップ3 単元のまとめ・ワークショップ	「社会と関わるアート」の授業内容の確認をします。 ワークショップ・コラボレーションワーク

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Google site で配信する授業コンテンツには、学習を深めるためのウェブサイトのリンクが多く紹介されていますので、興味のあるものについては閲覧することをおすすめします。また、大学の近くには美術館やギャラリーが多くあります。新型コロナウイルスの感染状況にもよりますが、可能であれば企画展、常設展などの展覧会などを多く鑑賞してください。

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

Google site を通じて授業に必要な資料を配布します。いくつか参考書を紹介しますので、それらのうち少なくとも一冊を選んで購読することを勧めます。また各分野の研究に関して必要となる資料についてはその都度紹介します。

【参考書】

山本浩貴『現代美術史-欧米、日本、トランスナショナル』中央公論新社、2019年

デイヴィッド・コッティントン（著者）、松井 裕美（翻訳）『現代アート入門』名古屋大学出版会、2020

小崎哲哉『現代アートとは何か』河出書房新社、2018年

『改訂版 西洋・日本美術史の基本 美術検定1・2・3級公式テキスト』美術出版社、2014年

『続 西洋・日本美術史の基本』美術出版社、2016年

『新・アートの裏側を知るキーワード』美術出版社、2022年

【成績評価の方法と基準】

成績評価については、平常点（授業への取り組み）、課題とレポートの合計で行います。取り組みの実験性、積極性を重視します。採点比率は以下の通りです。

1. 平常点（50%）
2. 課題とレポート（50%）

この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とします。

【学生の意見等からの気づき】

普段触れることの少ない現代芸術に関する専門的な内容の講義やワークショップになりますので、とてもやりがいがあると思います。ワークショップではスケッチによるプランや写真作品など簡単な実践に取り組みますが、受講される皆さんは例年課題について積極的に取り組まれているようです。楽しく解りやすい授業を心がけたいと思います。

【Outline (in English)】

Course outline

This course is about contemporary art theory and practice.

Today's contemporary art world is formed by the complex intersection of state-of-the-art (e.g. art, architecture, music, performing arts, images, poetry,) in various fields.

The context of contemporary art will be interpreted using keywords such as multiculturalism, relationships and communication as keywords.

Learning Objectives

The lecture will also deal with art fields related to contemporary art, and by examining and taking a bird's-eye view of experimental approaches in various art fields, we will deepen our understanding of those ideas.

It seems unfamiliar to everyone, so check the introductory art history and art theory knowledge. In addition, we will hold workshops (learning sensuously and experientially) between lectures to deepen understanding.

Learning activities outside of the classroom

The content delivered on the Google site contains many website links to deepen your learning, so we recommend browsing the ones that interest you. There are also many museums and galleries near the university. If possible, depending on the infection status of the new coronavirus, please watch exhibitions.

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Grading Criteria /Policy

Grades will be evaluated based on the total of class activities, assignments and reports. We emphasize the experimentality and positiveness of our efforts. The scoring ratio is as follows.

1. Initiatives for classes (50%)
2. Issues and reports (50%)

See rubrics for specific assessment guidelines.

Based on this grade evaluation method, those who have achieved 60% or more of the achievement target of this class will be accepted.

ART300GA

マルチメディア表現法

大嶋 良明

配当年次／単位：2～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
人数制限・選抜・抽選：人数制限あり(15名)。希望者多数の場合
は選抜します。初回授業に出席すること。

備考(履修条件等)：情報関連科目を履修済みであることが望ましい

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的(何を学ぶか)】

本科目は、少人数ワークショップによるマルチメディア作品制作の実習です。わかりやすく統合的に提示する手法を少人数ワークショップで学習する。画像、映像、音声など個々の編集技法の基本は既習のものとし、ここでの講義ではそれらの統合をコミュニケーションデザインの観点から学び、アイデアや表現意欲をコンテンツ制作に活かす効果的なオーサリングの戦略について学ぶ。またワークショップにおいては学習成果の体得をさらに確実にするために、ビデオ、Web、マルチメディア、DTPなどの領域から練習課題を適宜設定する。受講者には各人の嗜好にもとづき映像作品、音楽作品やDTP作品などの個人プロジェクトを提案してもらい、セメスタを通じて制作する。

【到達目標】

写真表現、ポスター作り、DTP、レーザー加工、映像制作などのマルチメディア実習を通じて、自らの発想を人に伝わるマルチメディア作品の形にすること、同じ課題で制作したお互いの作品を相互批評してセンスを磨くこと、作品をプレゼンテーションすること、これら課題制作の訓練を通じて作品作りの一貫したプロセスを身に着ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

少人数での演習設備を備えた教室においてワークショップ形式で講義と実習を行う。

●作品制作の理論と技法(講義と実習)

- ・デザインの基礎
- ・ポスター作り(Photoshop・Web)
- ・多様な出力形態(大判プリンタ、レーザーカッター)
- ・写真技法：ライティング、構図、光の読み方
- ・写真表現の作品化(アルバム・Web)
- ・映像制作技法：Jingle、絵コンテ、ショートフィルム

●クリティーク

各自の作品を全員が批評することで、作品表現の精神と批評の言語を学ぶ。

●ePortfolioによる学習成果の公開

総合的な情報公開の場として活用する。

●課題

- ・ポスター作り(Photoshop+大判プリンタ・Web)
- ・レーザーカッターによるアクリル板彫刻
- ・写真表現の作品化(アルバム・Web)
- ・Jingle(短い15秒程度のCMの映像)
- ・最終課題はショートムービー完成を標準メニューとするが、独自のチャレンジを大歓迎する。電子出版、メディアアート、デザイン、ゲーム、音楽制作などでも良い。

●大事にしたいこと

- ・コンピュータ上でのメディアデータの特性とtangibleなモノの世界でのパッケージの関係性をいつも考えよう。
- ・デジタル機器をとことん使ってみて初めて「コンピュータに簡単に取り込めない世界」があることがわかる。
- ・ノンデザイナーである我々だって、いい作品作りが可能だ。こわがらずにどんどん挑戦しよう。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	コミュニケーションのデザイン	コミュニケーションのデザインについて学ぶ。CRAPの原則を学ぶ。 【写真課題：line, pattern, texture】
2	メディアコンテンツのデザイン	マルチメディアデータの性質を理解する。 クリティーク：line, pattern, texture 各自の写真作品を合評する。 【写真課題：モノクロ、ライティング】

3	コミュニケーションデザインの手法-視覚・サウンド 実習：期末課題の提案	コミュニケーションデザインの手法を学ぶ。 クリティーク：モノクロ、ライティング 【写真課題：人物ポートレート、ライティング】
4	コミュニケーションデザインの手法-Web	Webの特性とデザインについて理解する。 【写真課題(承前)：人物ポートレート、ライティング】
5	情報デザインとコンテンツ制作-パッケージメディア	パッケージメディア(CD, DVDなど)の構成法を理解する。 クリティーク：人物ポートレート、ライティング 実習：Premiereによる短いビデオ 【課題：Premiere オンライン教材の学習】 【学期末課題：ショートムービー】
6	情報デザインとコンテンツ制作-サイバースペース	情報デザインの基本原則を理解する。 クリティーク：人物ポートレート、ライティング 実習：Preziによるオンライン・プレゼンテーション 【課題：Web 写真アルバム】
7	タイポグラフィの基礎	タイポグラフィの基礎を学ぶ。 クリティーク：各自のWebポートフォリオを相互観賞し、お互いの技法と作品性を合評する。 【課題：紙の写真アルバム】
8	メディア環境とデザイン	メディア環境とデザインを学ぶ。 クリティーク：Webアルバム 【課題：ポスターのデザイン】 【学期末課題：企画書・絵コンテ提出】
9	多様な出力形態(1): DTP	印刷についての知識を学、DTP作業のワークフローを理解する。 クリティーク：ポスター 【課題：広告のデザイン】
10	モノづくりとマルチメディア	Makerムーブメントを題材とするモノづくりとマルチメディアの関係を学ぶ。 クリティーク：広告 【学期末課題：予告編ジングル仮提出】
11	多様な出力形態(2): レーザー加工	レーザー加工機による 【実習】簡単な版下の作成とレーザーカッターによるアクリル板加工 【課題】アクリル板切り出しと表面彫刻のためのレーザーカッター版下の作成
12	コンテンツプラットフォームとしてのインターネット環境	インターネットにおけるマルチメディアコンテンツの配信を学ぶ。 【実習】各自デザインによるアクリル板のレーザー加工
13	コンテンツの流通、管理、知的所有権とメディア表現	コンテンツの流通、管理の仕組みとクリエイティブ・ commonsの考え方を学び、オンラインメディアの知的所有権の扱いを理解する。
14	まとめ：学期末課題のクリティーク	学習内容を総括する。各自の映像作品を相互観賞し、お互いの技法と作品性を合評する。

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

毎週のように課題が出るので作品制作には十分に計画的に取り組むこと。また課題の多くは印刷出力やWeb上での公開を求めており、単に作品を完成させるだけではなく観賞可能な形式で相互批評に堪えるレベルものを準備するにはDTPやWeb制作の基礎知識と最低限の経験が求められる。これらについては授業内では特に触れないので各自が時間外に必要な知識を得ること。長尺プリンタを用いて制作物を大型の判型で出力し、セメスタ後半に制作展の開催を目指す。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト(教科書)】

必要に応じて紹介する。

【参考書】

【マルチメディア全般】

参考書(1) CG-ARTS 協会、「第三版 入門マルチメディア IT で変わるライフスタイル」、ISBN 978-4-903474-45-8

参考書(2) CG-ARTS 協会、「実践マルチメディア」、ISBN 978-4-903474-44-1

※上記2冊は資格取得を目指す人にも最適な参考書である。

【デザイン技法】

Robin Williams(著)、吉川 典秀(翻訳)、「ノンデザイナーズ・デザインブック」、毎日コミュニケーションズ(1998)、ISBN-13: 978-4895630078

【写真技法】

キット タケナガ(著) 東京写真学園(監修)、「デジタル写真の学校」、雷鳥社(2005)、ISBN 978-4-8441-3434-3

【ショートムービー制作】

ヒルマン・カーティス、「ウェブ時代のショート・ムービー」、フィルムアート社(2006)、ISBN:978-4845906956

【DTP、印刷】

松田 哲夫(著)、内澤 旬子(イラスト)、「印刷に恋して」、晶文社(2002)、ISBN: 978-4794965011

【オンライン・プレゼンテーション】

吉藤 智広(著)、「あなたのプレゼンが劇的に変わる！ Prezi デザインブック」、日経 BP(2018)、ISBN-13: 978-4822254520

【成績評価の方法と基準】

平常点(授業参加の積極性を含む、30%)、クリティークなど授業参加による平常点(20%)、中間課題(30%)ならびに最終課題(20%)を総合的に評価する。平常点の評価ポイントは積極的な授業参加、すなわち映像や音響作品への表現意欲をコンピュータ上で形にする「やる気と努力」、作品作りの背後にある仕組みへの技術的関心度、制作メモの提出、合評形式の相互批評への参加など。これらすべてが、お互いの作品から学び一人ひとりが自らを高めようとする向上心として評価される。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

2011年度までは3~4年次の科目だったが、受講希望者、履修者の要望を採り入れ、また教学上の配慮も含め、2012年度より2年次より履修可能とした。2017年度は他学部生が参加したことで作品制作も合評もこれまで以上に刺激的な学びとなった。作品制作のテクニックの重要性のみならず作品性の追求や批評のための言語化の作業の重要性を気づいてもらえるよう努める。作品集は個人ポートフォリオだけではなく、クラス全体のギャラリーとしても公開を目指す。

【学生が準備すべき機器他】

本科目は国際文化学部・情報セミナー室(BT#0704)にて授業を行う。制作にはデジカメ、ハンディカム、PCを必要とする。長尺プリンタを用いて制作物を大型の判型で出力し、セメスタ後半に制作展を開催する。Web、メディア媒体ならびにePortfolioに提出作品を保存公開する。

【その他の重要事項】

学生へのメッセージ：Premiere、Photoshopなどを駆使して制作とデザインに関するかなりの課題をこなしてもらいます。PCやソフトの操作を教える授業ではないので、作品作りを通じて自ら習得することを目指します。演習設備に限りがあるため20名程度の定員を設けており、受講者多数の場合には選抜することがあります。作品作りが好きでたまらない人、とにかく何か作ってみたい人を歓迎します。

情報系教員によるワークショップ形式の授業、マルチメディア実習、高度なICTの活用実習、ならびに作品制作を通じて本科目では学生の就業力育成を支援します。

受講希望者は初回授業に出席すること。少人数ワークショップなので受講希望者が受入可能な上限人数を超える場合には抽選を実施することがある。

【前提科目】

前提科目：「情報リテラシーⅠ」、「情報リテラシーⅡ」、情報系基礎科目(「情報システム概論」、「メディア情報基礎」、「ネットワーク基礎」)

Photoshopの応用技法については「メディア表現法」の履修をお薦めする。写真の技法については、本科目にて扱う。

関連科目：基幹科目「デジタル情報学概論」、情報科目「仮想世界研究」など。

【教員の実務経験】

担当教員はIT企業での研究所勤務において15年間のデジタル信号処理、マルチメディア処理分野での研究とシステム開発の経験がある。

【Outline (in English)】

This course is a multimedia workshop for any advanced students with creative minds. The class is typically organized for 10-15 students so that everyone can work comfortably on weekly or biweekly assignments as well as on mutual critique starting from fundamentals in photography, large-format poster design, advertisement flyer design, laser engraving, web portfolio, to short film movie. All the creative efforts should eventually take the forms of individual artist portfolios to be presented at the public end-of-semester exhibition on campus.

Grading policy is as follows:

In-class contribution: 30%

Critique: 20%

Homework and in-class assignment: 30%

Final assignment: 20%

Your must achieve at least 60% in the overall grade to pass for academic credit.

The average study time outside of class per week would be approximately 4 hours.

ART300GA

クリエイティブ・ライティング

島田 雅彦

配当年次／単位：2～4年／2単位

旧科目名：メディア表現ワークショップ2

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

書くことと読むことは表裏一体だが、書く技術の研究を通じ、読み巧者になる手もある。実例を挙げつつ、実作者の立場から小説、エッセイ等の書き方ABCを伝授する。メールから企画書、報告書、論文、創作、これら全ては特定のセオリーに基づいているので、これらを踏まえつつ、説得力や感動を与える手法に触れ、実作を通じて、文章表現の向上を図る。

【到達目標】

半期の授業を通じ、受講生は表現意欲や批評意識を刺激されるだろう。自己を語るコトバ、他者とのコミュニケーション能力を磨き上げるには、創作を実践することがショートカットになる。創作のエクササイズを重ねれば、説得力のある企画書の書き方、他者の関心を誘うプレゼンテーションの仕方も自ずと身につけられる。学生はそのスキルの獲得を目指し、課題をこなすこと。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

原則として講義形式を取るが、折々の課題に対する講評を交え、履修者との対話形式も随時とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	執筆のエンジン	人はなぜ書かすにはいられないのか？
2	日記の書き方	日常の研究
3	物語の構成	起承転結のマジック
4	キャラクター作り	無個性 奇怪な普通人、気弱な英雄
5	メメント・モリ	死のデザイン 人はいかに死を受け入れ、解釈してきたか？
6	旅と文学	ロード・ノベル 放蕩息子の帰還
7	時間の処理	文学における独自の時間軸について
8	語り手は誰か？	私、吾輩、彼、伯爵夫人？
9	お金の話	信用制度、借金、フィクションとしての通貨
10	メタファーの戦略	模倣、置換、象徴、スイートハート
11	小説のトポロジー	現代小説の8割は東京が舞台
12	恋するものの普遍性	求愛のもっとも洗練された手段としての詩
13	素材の考察	想像力の源泉としてのマテリアル
14	まとめ、質疑応答、レポート提出	学んだことの集大成としての創作の完成指導

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

随時、テーマに沿った短文を書き、その講評を受ける。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『小説作法 ABC』 島田雅彦 新潮選書2009

【参考書】

『深読み日本文学』 島田雅彦 集英社インターナショナル新書2018

『小説作法 ABC』 島田雅彦 新潮選書 2008

『小説作法 XYZ』 島田雅彦 新潮選書 2022

【成績評価の方法と基準】

折々のレポートと期末の創作70%、平常点30%この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

ワークショップにふさわしい実践的指導に呼応する履修者の積極参加。より活発な対話を心がける。

【Outline (in English)】

Writing and reading are inseparable, but there are also people who become good readers through training of writing skills. Touching several examples, Students can acquire the ABC of how to write novels, essays etc, from the real author's standpoint. Based on a specific theory which is common to all of the projects, reports, papers, creative writings and e-mails, we will touch on effective methods that give persuasive power and sympathy, and improve the expression of sentences through actual work. The goals of this course are to learn the basic theory of creation, the mechanism of speech, how to approach various themes of creation, etc. Evaluate active participation in the workshop and each report submission. The evaluation criteria are 20% for normal points and 80% for reports. Based on this grade evaluation method, those who have achieved 60% or more of the achievement target of this class will be accepted. Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter(s) from the text. Your required study time is at least 4 hours for each class meeting.

ART300GA

五感共生論

川村 たつる

配当年次／単位：2～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：隔年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
 人数制限・選抜・抽選：定員 35 名 定員を超えた場合は選抜を行います。詳細は学習支援システムで通知します。

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、視覚・聴覚・触覚・味覚・嗅覚という人間の五感の機能と役割を見ていながら、それらが相互にどのように関係しているのかを考察し、人は世界をどのように認識しているのかを学んでいきます。

【到達目標】

受講者それぞれが、講義と課題制作を通して、自身の感覚を再認識できることを目指している。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】**■人数制限・選抜**

提出されたレポートの講評会を行いますので、本授業は受講生の定員を35名とします。この人数を超える場合は、初回の授業の前に選抜を行います。

※選抜を行う場合は、事前に学習支援システムで登録者に連絡を行います。

■授業の進め方

①授業は、対面を基本とした講義形式で行います。

②授業ごとに授業内容に関するリアクションペーパーの提出が必須です。提出されたリアクションは、提出者の名前を伏せた上で全員分の内容を翌週に全受講者に配布します。そのリアクション集の中でフィードバックが必要な内容にはコメントを付記し、全体で議論が必要なリアクションに関しては、授業内で時間を設けて行うようにします。

③課題は、「視覚」「聴覚」「触覚」を中心に、それぞれの感覚にかかわる講義や簡単な実験等を通して、受講生各自がその感覚の再確認を行い、用意されたテーマで課題制作を行い、発表をするという流れで行います。※課題は、身近な材料を使った簡単な工作のようなものをイメージしてください。

※課題制作に関しては、表現技術の出来・不出来を評価するものではなく、設定されたテーマをどのように理解し、考え、表現しようとしたのかに重点を置いて評価します。

※注意事項：何らかの事情でオンラインでの受講を希望される方は、必ず事務に相談をしてオンライン受講の許可を大学から受けるようにしてください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	人の感覚とは？
第2回	視覚1	視覚とは？
第3回	視覚2	視覚に関する事例から考える
第4回	視覚3	「みる・みえる」ということを考える
第5回	作品講評会1	課題1で提出された作品を全員で鑑賞
第6回	聴覚1	聴覚とは？
第7回	聴覚2	聴覚に関する事例から考える
第8回	聴覚3	「きく・きこえる」ということを考える
第9回	作品講評会2	課題2で提出された作品を全員で鑑賞
第10回	触覚1	触覚とは？

第11回	触覚2	「さわる・ふれる」ということを考える
第12回	作品講評会3	課題3で提出された作品を全員で鑑賞
第13回	嗅覚	嗅覚を考える
第14回	味覚とまとめ	味覚を考える

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

●授業リアクションの提出は、授業内容を振り返り、授業後に授業支援システムで提出を行うこととします。

●課題は、各自が授業外で行うこととします。

●本授業の準備・復習時間は、各4時間を標準とします。

※上記以外に準備学習や復習が必要なことは、随時授業内で設定します。

【テキスト（教科書）】

特定の教科書は使用しません。

【参考書】

『錯覚の世界』ジャック・ニニオ著（新曜社/2004年）、『顔を科学する』山口直美・柿木隆介編（東京大学出版会/2013年）、『触覚の心理学』ダーヴィット・カッツ著（新曜社/2003年）、『触覚の心理学』田崎権一著（ナカニシヤ出版/2017年）、『味臭覚の科学』斉藤幸子・小早川達著（朝倉書店/2018年）、『「おいしさ」の錯覚』チャールズ・スペンサー著（角川書店/2018年）等。

【成績評価の方法と基準】

成績評価は、出席率と各授業毎に提出される「授業に対するリアクション」の内容から、授業の理解度を平常点として評価（70%）。

また、課題に対して受講者自身がどのようなアプローチができたかを評価（30%）。

この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とします。

※成績評価を行うためには、すべての課題提出を必須とします。

【学生の意見等からの気づき】

新たな知識を得たことで満足するのではなく、受講生各自がそれらを自身で再考察できるように授業の進め方、振り返り方法を受講生の反応に応じて考えていきたい。

【学生が準備すべき機器他】

なし

【その他の重要事項】

視覚障害者が関わる NPO 法人で実務経験のある教員が、その経験から感覚について講義を行う。

【Outline (in English)】

The course will consider how people perceive things/things by examining the interrelationships among the five senses.

The goal of the class is to enable each participant to reacquaint himself/herself with his/her own senses.

As learning outside of class hours, reactions to the class content will be submitted online after class.

Each student is expected to watch the video materials and complete assignments outside of class.

The standard preparation and review time for this class is 4 hours each.

Grading will be based on 70% regular marks and 30% assignments.

ART200GA

映像文化論

岡村 民夫

配当年次／単位：1～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：定員 60 名。それを超えたら選抜

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

高畑勲・宮崎駿の作品を、欧米のアニメ映画と比較しながら、主に彼らの作品のスタイルや映画史・アニメーション史上の位置を学習する。

【到達目標】

1950年代～1990年代前半の日本のアニメの映画の・アニメの特徴や制作体制について学び、現代のアニメ状況がどのように生まれたのかを知ることができる。またアニメや映画のスタイルを分析できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連。

【授業の進め方と方法】

大学の行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

毎週、アニメ映画の制作体制、表現技術、スタッフ、制作体制などについての講義と、実作の抜粋の鑑賞を行う。そして鑑賞した映画について気づいたことをコメントシートないし宿題に書いてもらう。それらのフィードバックは授業および hoppii を通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンスおよび選抜	授業の内容、進め方について説明後、アニメを15分ほど鑑賞してもらい映像的分析を提出し、それをもとに受講資格者を選抜する。
第2回	初期東映動画と高畑勲の初監督映画	『白蛇伝』 『太陽の王子ホルスの大冒険』
第3回	宮崎駿のアクション・コメディ	『長靴をはいた猫』 東映動画退社
第4回	高畑勲・宮崎駿に影響を与えたアニメ映画	ウォルト・ディズニー ポール・グリモー レフ・アタマーノフ
第5回	エブリデイ・マジック	『パンダコパンダ』 『パンダコパンダ 雨ふりサーカスの巻』
第6回	日常生活と心象の表現 海外ロケーション	『アルプスの少女ハイジ』 『赤毛のアン』
第7回	宮崎駿の独立	『未来少年コナン』 『カリオストロの城』
第8回	高畑勲・宮崎駿に影響を与えた実写映画	オーソン・ウェルズ 溝口健二 ジョン・フォード アルフレッド・ヒッチコック
第9回	高畑勲・宮崎駿の日本 帰郷	『じゃりン子チエ』 『さらば愛しきルパンよ』
第10回	アニメから離れて	漫画『風の谷のナウシカ』 記録映画『柳川掘割物語』
第11回	スタジオ・ジブリの誕生	『風の谷のナウシカ』 『天空の城ラピュタ』

第12回	高畑勲 vs 宮崎駿	『火垂るの墓』 『となりのトトロ』
第13回	東京西郊の表象	『平成狸合戦ぽんぽこ』 『耳をすませば』
第14回	まとめ	レポート返却 補習：その他関連作品

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。授業で部分的に観た映画を、できるかぎり自主的に鑑賞することが望ましい。

【テキスト（教科書）】

随時、プリントを配布します。

【参考書】

高畑勲『映画を作りながら考えたこと』岩波文庫
宮崎駿『出発点』徳間書店
叶精二『宮崎駿全書』フィルムアート社
ステファヌ・ルルー（岡村訳）『シネアスト宮崎駿 奇異なものポエジー』みすず書房
ステファヌ・ルルー（岡村訳）『シネアスト高畑勲 アニメの現代性』みすず書房

【成績評価の方法と基準】

平常点（50%）とレポート（50%）。平常点は出席だけでなく、コメントシートや宿題を通して評価する。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。なおコメントシートや宿題のフィードバックは、hoppii や授業を通じて行う。

【学生の意見等からの気づき】

授業時に積極的に意見を求める。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

遅刻・早退厳禁。就活による欠席も原則として認めない。初回に選抜テストを実施するので、必ず出席し試験を受けること。

【旧科目との重複履修】

なし。

【Outline (in English)】

In this class, we study Isao Takahata and Hayao Miyazaki's work, through their style and their position in the history of animation and movie.

【Learning Objectives】 At the end of course, students are expected to understand the history and style of the Japanese animation from the 50's to 90's.

【Learning activities outside of classroom】 After each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.

【Grading Criteria /Policies】 Term-end report : 50%, in class contribution: 50%

ART200GA

写真論

丹羽 晴美

配当年次／単位：1～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：隔年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現在、デジタルが主体となった写真について 19 世紀中頃の発明前後の歴史的背景から見直し、人間の知覚を拡張したメディアとして検証する。具体的に作品や作家論にも触れ、写真表現の可能性を考察すると共に、あたりまえになっている「見る」という行為を再考する。

【到達目標】

写真について、メディアと技術の両側面から基礎的な論点を把握し、歴史や他分野との関係について考察できるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

主にプロジェクションによる講義を実施。19 世紀から現在まで、発達する写真メディアと他分野へ与えた影響などを個々の状況をみながら考える。実際に展覧会を予習・鑑賞して、レポートを提出する回も設ける。課題に対するフィードバックは講義内に行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり/Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	写真というメディア：写真メディアを見直す	今、あまりにも身近になっている「写真」というメディアを再考する。
第 2 回	写真誕生前夜：19 世紀の状況を見直す	様々なメディアが発明された 19 世紀を再考し、写真が発明される前の知覚を考える。
第 3 回	写真誕生：写真発明によって何が変わったか	19 世紀半ば、写真発明に伴い何が起り、社会状況にどのような影響があったかを考察する。
第 4 回	作家論 1：現在と異なる写真技法を使った作家について	19 世紀半ば、当時の最先端メディアを使った作品、作家は何を工夫し、何を獲得したか。
第 5 回	写真メディア史 1：写真発達史とその背景	写真の発展に伴い、情報伝達にどのような影響があったか。
第 6 回	写真メディア史 2：写真技術史とその影響	写真技術が発達するとは、社会的にどのようなことなのか。現代への影響も考える。
第 7 回	写真と絵画：表現としての写真	写真の登場は美術史に多大な影響を与えた。その様子写真表現を考察する。
第 8 回	作家論 2：写真独自の表現とは何か	表現として独立した写真は何を目指したか、具体的な作品を観て考える。
第 9 回	ドキュメンタリー 1：ドキュメンタリーの中で果たした役割	写真の大きな特性である記録性は歴史の中で大きな役割を果たした。その変遷の考察。
第 10 回	ドキュメンタリー 2：ドキュメンタリー写真の反省点と可能性	撮る者と観る者の意識によっては、写真は功罪となる。その反省点と今後の可能性。
第 11 回	作家論 3：記録と表現の狭間	記録すること、自分の意思を表すことの狭間で作家達が何を表現しているかを考察。
第 12 回	現代の写真：写真でしかできない表現を目指す現代の写真	写真の特性を生かした様々な表現は、時に特異に見える。その中に隠された意図とは何か。
第 13 回	見えないもの：『見えるものと見えないもの』	メルロ＝ポンティの視覚論を引用しながら、写真がもたらした知覚を考察。
第 14 回	写真がもたらした知覚	全講義のまとめ。写真論、作家論、作品論などから様々な視覚効果を考察。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

「作家論」講義には、実際に展覧会を観てレポートをまとめる回が含まれている。講義内に課題展覧会の予習を行い、レポート提出までは約 2～3 週間の猶予を設ける。「作家論」講義時期は現時点での予定。詳細は講義内で指示する。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

なし

【参考書】

講義内に指示

【成績評価の方法と基準】

レポート提出 2 割、期末試験 8 割この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

実際に行われている展覧会やイベントなどの情報照会が好評であったため、積極的に講義内で紹介していく予定。

【その他の重要事項】

講義の進行状況により、内容変更あり。

【Outline (in English)】

This course studies how photography widened human perception while rethinking the history of development of the media from the mid-19th century. As we see various photographic works, we examine the way of seeing.

ART300GA

演劇論

竹内 晶子

配当年次／単位：3～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：隔年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

人数制限・選抜・抽選：

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ミュージカルも、テレビドラマも、映画も、オペラも、人形劇も、能も、歌舞伎も、宝塚も、演劇の一つです。音楽・美術・文学・舞踏を含む総合メディアである演劇は、古今東西の人間達の娯楽の中心に常にありました。この授業では日本の古典演劇と近代西洋演劇との比較を軸に、演劇を構成する様々な要素、演劇を取り巻く様々な問題について考察します。その中で世界の演劇の多様なあり方や、基本的な演劇理論の応用を学ぶことにもなるでしょう。「なぜ我々／自分は演劇を見るのか」。様々な切り口から演劇を分析しながら、学生の一人一人がこの問への答えを探っていくことになります。

【到達目標】

- ・近代西洋演劇と対比した、日本古典演劇の特徴を理解する。
- ・基本的な演劇理論を理解し、実作品の分析に応用できるようになる。
- ・時代や文化、ジャンルを異にする多様な演劇作品の比較分析ができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

(a) 様々な演劇形態の説明、(b) 基本的演劇理論の解説、(c) 台本読解や DVD 鑑賞とその分析、を交互に行っていきます。自分の頭で分析しながら観る・読む・聞く態度が、受講者には求められますので、毎週の課題 (SQ) を期日までに提出することが必須です。単に DVD を漫然と観て講義を聞くだけの授業ではありません。

授業では皆さんの課題への回答を紹介し、様々な視点を共有していきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第一回	イントロダクション	授業説明
第二回	演出が可能にすること I	鑑賞と分析
	：	
	ゼッフィレリ版、映画版演の「蝶々夫人」	
第三回	演出が可能にすること II	鑑賞
	：映画版、浅利圭太版の「蝶々夫人」	
第四回	演出が可能にすること III	議論、分析
	：映画版、浅利圭太版の「蝶々夫人」	
第五回	演出が可能にすること IV	鑑賞、議論、分析
	：モンティ版、ウィルソン版の「蝶々夫人」	
第六回	日本の古典演劇 I	文楽、歌舞伎の歴史、
第七回	日本の古典演劇 II	能の歴史、二層のコミュニケーション
第八回	日本の古典演劇 III	能、文楽、歌舞伎の「所作」
第九回	能と西洋演劇	モダニズム運動と能
第十回	異性装 I	シェークスピア他、西洋演劇史における異性装
第十一回	異性装 II	歌舞伎など、日本芸能史にみる異性装
第十二回	異性装 III	宝塚の「男役」が可能にするもの
第十三回	古典演劇と現代の舞台	『王女メディア』『ジーザス・クライスト・スーパースター』他
第十四回	学生発表	新作能・新作歌舞伎・新作宝塚

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎週の SQ (Study Questions) への回答を、期限内に提出すること。

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

配布資料を用いる。

【参考書】

毛利三彌『演劇の詩学 劇上演の構造分析』相田書房、2007年。

【成績評価の方法と基準】

- ・課題 (SQ) : 40%。締切厳守。
- ・積極的な授業参加 : 30%
- ・期末試験 : 30%

・この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60%以上を達成した者を合格とする。

・4回以上欠席した場合は、単位修得の権利を失います。

【学生の意見等からの気づき】

学生の課題への回答を授業で紹介します。

【その他の重要事項】

・必ず初回授業に参加すること。履修を希望する学生が極端に多い場合には、選抜を実施します。

【Outline (in English)】

【Course Outline and Learning Objectives】 Students will learn some basic theater theories and analyze Japanese traditional theater in comparison with modern Western theater. **【Learning Activities Outside of Classroom】** Students are required to submit weekly assignments. **【Grading Criteria/Policy】** weekly assignment (40%), active participation in class discussion (30%), final exam (30%)

ART300GA

空間デザイン論

前田 尚武

配当年次／単位：2～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：隔年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：選抜 定員 20名

備考（履修条件等）：2023年9月に履修希望者の受付を行う。定員超過の場合は選抜を実施する。詳細は、学習支援システムのお知らせを参照すること（2023年8月以降に掲載予定）。

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「空間」は、都市、建築、アート、グラフィック、映像などさまざまなデザイン手法が駆使されたメディアである。各々の領域で論じられている「空間」を講義と体験を通して多角的に理解し、空間デザインを表現・伝達する理論的かつ実践的な方法論を学ぶ。

【到達目標】

本講座は、デザインの制作技術を習得するのではなく、空間デザインを操るリテラシーを高めるとともに、空間が背負う社会的・文化的背景や文脈を理解する力を養うことが目標である。講義を通して理論を学び、フィールドワークでは講師とともに建築を巡り、空間を読み解き、その魅力を感じ取る力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

本講座は、一級建築士であり学芸員である講師がこれまで企画、設計、デザインを手がけた都市開発、建築、展覧会等を主たる題材に、舞台裏での経験と実例を基に空間デザインの理論と実務を講義する。また、講義に連動してフィールドワークを積極的に実施。訪問先との調整を行った上で下記各講座を再編し、日時、場所を決定し事前に周知する。講義の進行状況、登録人数等により、講義内容、フィールドワーク先、日程等は変更になる可能性があり、オンラインで実施することもある。授業の初めに、前回授業で提出されたリアクションペーパーからのコメントを紹介し、受講者に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	講義	講義全体のガイダンス。テーマ、目標、スケジュールなど。
第2回	ガイダンス 講義	いま、美術館に求められる空間とは何か。企画、展示、運営など多角的な視点から美術館・博物館を考察するとともに、現代美術における空間表現：インスタレーション作品の制作過程から様々な展覧会での空間構成や照明デザインまで舞台裏を解説。
第3回	フィールドワーク アート・都市・空間：六本木ヒルズのパブリックアートと森美術館	講師が設計を担当した六本木ヒルズを巡り、都市の成り立ちや空間構成、都市とアートの関係を学ぶ。
第4回	フィールドワーク アート・都市・空間：六本木ヒルズのパブリックアートと森美術館	第2回で学んだ美術館の展示空間を美術館で観察し、現代美術の展示手法、展示空間のデザインなどの理解を深める。
第5回	講義 都市と空間：都市デザインの萌芽から未来へ	戦後復興都市計画から、建築運動メタボリズム、70年大阪万博、六本木ヒルズなど現代日本の都市デザインの実験的試みを俯瞰し、都市空間の将来像を考える。
第6回	講義 アートと空間：エリアマネジメントとアート	近現代における環境芸術としてのアートが都市において果たしてきた役割といま求められているものは何かを解説。
第7回	講義&フィールドワーク アートと空間：京都市京セラ美術館	国内最古の美術館建築で、2020年にリニューアル開館した京都市京セラ美術館。改修から現在まで携わっている講師が対面とオンラインのハイブリッドでその革新的なりノベーションについて解説。

第8回	講義&フィールドワーク アートと空間：京都市京セラ美術館	京都市京セラ美術館の空間を対面とオンラインのハイブリッドでツアーを実施し、第2回で学んだ理論を実践しているアートのための空間を観察する。
第9回	フィールドワーク 建築鑑賞：上野公園	重要文化財や世界遺産など明治から現代に至る数多くの大規模建築が集積する上野公園を講師の解説で巡り、日本の近現代建築史を実空間で体感し、理解を深める。
第10回	フィールドワーク 建築鑑賞：新橋・銀座	戦前のモダン建築からメタボリズム建築、ハイブランドの現代建築まで世界的建築家が競演する新橋・銀座エリアの建築を講師の解説で巡り、日本の近現代建築史を実空間で体感し、理解を深める。
第11回	講義 伝統と空間：日本建築の発見	日本建築の魅力を再発見し、国際的に伝えようとした明治の建築家・建築史家の軌跡を紹介し、伝統継承の問題を考える。
第12回	講義 伝統と空間：日本建築のグローバリズムと多様性	日本建築の影響がみられる国内外の近現代の建築作品の数々を読み解き、木組の構成美、民家、茶室まで多様な日本建築の特質を継承している現代建築を紹介し、空間デザインの未来を考える。
第13回	フィールドワーク 建築鑑賞：江戸東京たてもの園	講義で学んだ建築の理論を実空間を通して体験し理解を深める。
第14回	フィールドワーク 建築鑑賞：江戸東京たてもの園	講義で学んだ建築の理論を実空間を通して体験し理解を深める。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習としてフィールドワークの訪問先について、事前に公式 HP 等で十分に理解しておくこと。また、復習として各回コメントシートを提出すること。本授業の準備学習・復習時間は各1時間程度を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。

【参考書】

・『モダン建築の京都100』石田潤一郎・前田尚武編著 発行：Echelle-1 2021年
・その他必要に応じて授業時に随時紹介。

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業への積極的な参加、コメント・シートの記述内容）と、レポートの合計。講義期間中の講義およびフィールドワークを通してテーマを設定し、レポートを提出する。評価基準は平常点50%、レポート50%とする。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

フィールドワーク先的美術館、博物館等の入館料が必要。

【その他の重要事項】

●講義日程

土曜日3-4限2コマ連続開講（原則隔週）を予定。詳細日程は、2022年夏に、学習支援システムで周知する。

●講師略歴

前田尚武（まえだ なおたけ）
一級建築士／学芸員。1994年、早稲田大学大学院修了。2003年から15年間、森美術館に在籍し、「メタボリズムの未来年展」（2011年）、「建築の日本展」（2018年）など建築展を企画。現在、京都市京セラ美術館企画推進ディレクター、「モダン建築の京都」（2021年）を企画。国内外の美術館・博物館の建築設計、展示企画やデザインに携わっている。一連の建築展企画で2019年度日本建築学会文化賞ほか受賞多数。2022年より建築公開イベント「京都モダン建築祭」実行委員を務める。

【Outline (in English)】

【Course outline】

“Space” is a media in which various design methods such as city, architecture, art, graphic, image etc. are utilized.

Understand the meaning of “Space” discussed diversely in each area through lectures and experiences and learn the theoretical and practical methodology of how to present and transmit space design.

【Learning Objectives】

The goal of this course is not to master design production techniques, but to enhance literacy in manipulating spatial design and to develop the ability to understand the social and cultural background and context that a space bears. Students will learn theory through lectures, and in fieldwork, they will tour architecture with the instructor to acquire the ability to read spaces and sense their appeal.

【Learning activities outside of classroom】

As preparatory study, students are required to fully understand the fieldwork destinations in advance through official websites, etc. In addition, students are required to submit a comment sheet for each session as a review. The standard preparation and review time for this class is about 1 hour each.

[Grading Criteria /Policy]

The sum of regular marks (active participation in class, written comments and sheets) and reports. Students will be required to submit a report on a theme developed through lectures and fieldwork during the lecture period. Evaluation will be based on 50% of regular points and 50% of reports. Based on this grading system, students who have achieved at least 60% of the achievement objectives of this class will be considered to have passed the course.

GDR300GA

Gender and Japanese Culture

LETIZIA GUARINI

配当年次／単位：2～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：

その他属性：〈グ〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

In this course, we will analyze how gender and sexuality issues manifest throughout culture in Japan. Why do we need to discuss gender and sexuality in relation to Japanese contemporary culture? Who do we talk about when we discuss such issues? We will approach these questions from different perspectives and disciplines, such as history, literature, media, etc. While the main focus of this course is the representation of gender and sexuality in contemporary Japanese society, we will also address these issues in a global context.

【到達目標】

1. To become familiar with historical sources and social and political elements in regard to the construction of gender within contemporary Japanese society.
2. To develop critical thinking strategies and apply them in order to understand how gender and sexuality are represented within contemporary Japanese media.
3. To incorporate a gender perspective while participating in academic discussions, presenting on a selected topic, and writing analytical papers.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

I will lecture to situate our readings and discussions or to clarify concepts, but in general, students should come prepared to contribute seriously to the learning community by actively joining the discussion.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	Orientation	Introduction to the course, syllabus, and course expectations
第2回	Introduction to gender studies	Lecture on the basic concepts in gender studies
第3回	Japanese feminisms	Lecture on the debates in Japanese feminism and the politics of backlash in twenty-first-century Japan
第4回	Gender, media, and misogyny in Japan	Lecture on the #MeToo Movement in Japan
第5回	Gender-based violence in literature	Lecture on the representation of gender-based violence in three stories by Kaoruko Himeno, Aoko Matsuda and Mieko Kawakami
第6回	Masculinity studies	Lecture on masculinities in contemporary Japan
第7回	Gender and the family	Lecture on work-life balance in contemporary Japan
第8回	Heteronormativity in contemporary Japan	Lecture on the reproduction of heteronormative models in Japanese society and the media
第9回	Queering the family	Lecture on the representation of queer fatherhood in three stories by Hiroto Kawabata, Nao-cola Yamazaki and Hirota Ototake
第10回	Food and gender	Lecture on the representation of food and gender in contemporary culture
第11回	Idol culture	Lecture on the reproduction and subversion of gender models within the idol culture
第12回	Asexuality and intersexuality	Lecture on the representation of asexuality and intersexuality in contemporary Japanese culture

第13回 Queer Japan

Screening: "Queer Japan" (directed by Graham Kolbeins, 2019)

第14回 Summary

Conclusions and future questions

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students are required to read the reference material (in English) by the next session, submit comment sheets, and work on their midterm and final papers (one to three hours for every session).

【テキスト（教科書）】

Photocopies of readings will be distributed by the instructor.

【参考書】

Coates, Jennifer, Fraser Lucy, and Pendleton Mark (eds.), *The Routledge Companion to Gender and Japanese Culture*, Routledge, 2020
 Copeland, Rebecca (ed.), *Handbook of Modern and Contemporary Japanese Women Writers*, Amsterdam University Press, 2023
 Steger, Brigitte, Koch, Angelika (eds.), *Manga Girl Seeks Herbivore Boy. Studying Japanese Gender at Cambridge*, LIT Verlag, 2013
 Steger, Brigitte, Koch, Angelika (eds.), *Cool Japanese Men. Studying New Masculinities at Cambridge*, LIT Verlag, 2017
 Steger, Brigitte, Koch, Angelika, Tso, Christopher (eds.), *Beyond Kawaii: Studying Japanese Feminities at Cambridge*, LIT Verlag, 2021

【成績評価の方法と基準】

Discussion and participation (comment sheets, involvement during discussion): 20%

Active participation in class is required. Submit your comments via Hoppii at the end of each session.

Attendance will be taken every time. You will not receive credit for the course if you miss more than four classes.

Midterm paper (2000 words): 35%

Final paper (3000-4000 words): 45%

【学生の意見等からの気づき】

Student comments are not available.

【学生が準備すべき機器他】

Laptop to write their papers.

【Outline (in English)】

In this course, we will analyze how gender and sexuality issues manifest throughout culture in Japan. Why do we need to discuss gender and sexuality in relation to Japanese contemporary culture? Who do we talk about when we discuss such issues? We will approach these questions from different perspectives and disciplines, such as anthropology, history, literature, media, etc. While the main focus of this course is the representation of gender and sexuality in contemporary Japanese society, we will also address these issues in a global context.

Learning goals

1. To become familiar with historical sources and social and political elements in regard to the construction of gender within contemporary Japanese society.
2. To develop critical thinking strategies and apply them in order to understand how gender and sexuality are represented within contemporary Japanese media.
3. To incorporate a gender perspective while participating in academic discussions, presenting on a selected topic, and writing analytical papers.

Grading policy

Discussion and participation (comment sheets, involvement during discussion): 20%

Active participation in class is required. Submit your comments via Hoppii at the end of each session.

Attendance will be taken every time. You will not receive credit for the course if you miss more than four classes.

Midterm paper (2000 words): 35%

Final paper (3000-4000 words): 45%

LIT300GA

世界の中の日本文学

LETIZIA GUARINI

配当年次／単位：2～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

人数制限・選抜・抽選：

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、一つの国、一つの言語、一つの文化に限定されない国境を越えた文学について学びます。さまざまな作家・作品を読みながら、日本文学における世界/世界文学における日本について考えます。とりわけ、1) 移動する日本文学、2) 文学における震災、3) 文学に見るコロナ禍、三つの視点から世界における日本文学の位置付けについて考えながら、現代社会を考察するための視座を身につけます。

【到達目標】

- 1) 現代日本文学についての基礎的な知識を身につける。
- 2) 日本文学のテキストを分析できるようになる。
- 3) 文学と社会の関連性について学び、世界から見た日本/日本から見た世界について自分の考えをまとめられるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

講義形式で進めます。グループディスカッションやプレゼンテーションも行います。フィードバックは、寄せられた課題やコメントに対して授業内で回答します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業計画について説明を行う。
第2回	移動する文学	バイリンガルな文学について考える。
第3回	バイリンガルな文学：多和田葉子	多和田葉子の作品を取り上げる。
第4回	バイリンガルな文学：水村美苗	水村美苗の作品を取り上げる。
第5回	移動する女性作家たち	関口涼子や李良枝の作品を取り上げる。
第6回	温又柔を読む	温又柔の作品を読んで、ディスカッションを行う。
第7回	文学における震災	震災文学論について考える。
第8回	多和田葉子と川上弘美の震災文学	多和田葉子、川上弘美の作品を取り上げる。
第9回	小林エリカ、川上未映子の震災文学	小林エリカ、川上未映子の作品を取り上げる。
第10回	世界から見た震災	ラウラ・今井・メッシーナの作品について考える。
第11回	日本文学におけるパンデミック	コロナ文学について考える。
第12回	世界から見たコロナ禍	パオロ・ジョルダノ『コロナの時代の僕ら』と綿矢りさ『あのころにしていた?』を読んで、ディスカッションを行う。
第13回	日本のコロナ文学（1）	松田青子「誰のものでもない帽子」を読んで、ディスカッションを行う。
第14回	日本のコロナ文学（2）	金原ひとみ「腹を空かせた勇者ども」を読んで、ディスカッションを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

文献を事前に読む、授業内で示される課題（リアクション・ペーパー、レポート）対応など、準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

必要に応じてPDFでテキストを配布します。

【参考書】

郭南燕（編）『バイリンガルな日本語文学—多言語多文化のあいだ』（三元社、2013年）
 山出裕子『移動する女性たちの文学—多文化時代のジェンダーとエスニシティ』（御茶の水書房、2010年）
 木村朗子『震災後文学論—あたらしい日本文学のために』（青土社、2013年）
 木村朗子『その後の震災後文学論』（青土社、2018年）
 木村朗子、アンヌ・バヤール＝坂井（編）『世界文学としての〈震災後文学〉』（明石書店、2021年）

新・フェミニズム批評の会編『〈パンデミック〉とフェミニズム—新・フェミニズム批評の会創立30周年記念論集』（翰林書房、2022年）

高橋源一郎、斎藤美奈子『この30年の小説、ぜんぶ一読んでしゃべって社会が見えた』（河出新書、2021年）

【成績評価の方法と基準】

グループワークとディスカッション 10%

小レポート（1）：バイリンガル文学について的小レポート（800-1,200文字程度） 25%

小レポート（2）：震災後文学について的小レポート（800-1,200文字程度） 25%

小レポート（3）具体的な文学テキストを取り上げた小レポート（2,000文字程度） 40%

小レポートについて授業内で詳しく説明します。

3つの小レポートの提出が必要です。

毎回出欠を取ります。4回以上欠席があると失格になり、単位不認定になります。

15分以上遅れる場合、欠席扱いとなります。

【学生の意見等からの気づき】

授業資料はもう少しシンプルにする必要があることに気づいた。

【学生が準備すべき機器他】

レポート作成を行うためのパソコンなど。

【その他の重要事項】

基本的に教授言語は日本語ですが、英語の参考文献を読むこともあります。

【Outline (in English)】

This course is designed to enhance students' understanding of contemporary society through literature. In this class, we will learn about literature that transcends national borders and is not limited to one country, one language, or one culture. While reading various authors and their works, we will consider the world in Japanese literature and Japanese literature in the world. In particular, we will consider the position of Japanese literature in world literature from three perspectives: 1) border-crossing literature, 2) post-disaster literature, and 3) the COVID-19 pandemic in literature.

Learning objectives:

By the end of the course, students should be able to do the followings:

a) Have basic knowledge of contemporary Japanese literature.

b) Analyze texts of Japanese literature.

c) Understand the relationship between literature and society.

Learning activities outside of the classroom:

Students are required to submit three essays and to read the reference material by the next session (one to three hours for every session).

Grading criteria/Policy:

The final grade will be decided based on the following:

Involvement during discussion and presentation: 10%

Short essay (1): 25%

Short essay (2): 25%

Short essay (3): 40%

ARSx200GA

世界とつながる地域の歴史と文化

高柳 俊男

配当年次／単位：2～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

人数制限・選抜・抽選：選抜

その他属性：〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は、2012年度から夏休みに長野県南部の飯田・下伊那地域で実施している「S J 国内研修」(S J = Study Japan)に参加する留学生・ボランティア補助員および希望する一般学生を主対象に、その事前学習用として開講されるものである。

「S J 国内研修」とは、一般学生のSAに相当するもので、地方の中山間地域での諸活動を経験することで、留学生にとってのSAとも言えるこの日本を、東京からの発想とは別に、地方の視点でも考える目を養うことを趣旨としている。

したがって、この授業の目標も、飯田・下伊那地域の歴史・社会・文化・民俗・自然などについて、一通りの前提知識を身につけることで、8日程度の「S J 国内研修」を有意義に送れるようにすることにある。国際文化学部の研修であることに鑑み、とりわけこの地域における国際化や異民族との関係、および文化に重点を置きながらみていく。

【到達目標】

授業の進展につれ、南信州の中山間地域の飯田・下伊那にも、東京とはまた異なる歴史・文化・自然があり、固有の国際関係があることが理解できるであろう。最終的には、「S J 国内研修」に際して探求すべき自分なりのテーマを見つけ、夏休み中の自己学習を経て、研修本番につなげられるようにすることが目標である。

「S J 国内研修」に参加せず、単なる一授業として受講することも可能だが、そうした受講者にとっては、飯田・下伊那を例に、日本のなかに存在する多様性や多文化を考える視点を獲得することが到達目標となる。そこで得られた視点やアプローチは、日本の他地域を考える際にも有効に機能するであろう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

大学の行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

教員による講義が中心だが、受講生に随時発問しながら進める。関連する映像の上映も、適宜織り交ぜる。

特定の地域の細かな事実にとことんこだわるが、それは「個別を極めることを通して普遍に至る」こと、すなわちこの授業のタイトルのように、「飯田・下伊那から日本がみえる、世界とつながる」ことを具体的に知るためである。そのためには最低限、理解すべき事項は理解し、覚えるべき固有名詞（地名、人名など）は覚えていただく。

毎回、授業の最後に、感想や疑問・質問などをリアクションペーパーに書いてもらい、それを次回の授業冒頭で活用するなど、双方向的な授業になるよう心がけたい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	導入	本授業と「S J 国内研修」の概要を説明する。受講希望者数によっては、選抜を実施することもあるので、初回の授業に必ず出席すること。
第2回	飯田・下伊那の概況①	飯田・下伊那地域にある1市3町10村について、行政区分、地形、気候、交通、物産などの概況をみていく。天竜川の果たした役割や、愛知県東部・静岡県西部との県境を越えたネットワーク（三遠南信）についても考える。
第3回	飯田・下伊那の概況②	前回到続いて、飯田市の成り立ちを考える。1937年に成立した当初の市域に、1950年代以降、周辺の15の自治体が合併していまの飯田市が形成されていることの意味、言い換えれば飯田市の統一性と多様性を具体的に考察する。

第4回	飯田・下伊那の歴史	飯田・下伊那地域が経てきた歴史の概要を、古代から現代まで通史的に学ぶ。中心的に扱う戦後史部分では、飯田市のアイデンティティの根幹にも関わる飯田大火、りんご並木、三六災害について知る。
第5回	飯田線建設史①	現在のJR飯田線、とくに旧三信鉄道の建設史を、アイヌの測量士カネトや朝鮮人労働者に焦点を当ててみていく。飯田駅前に記念碑が建つ伊原五郎兵衛についても知る。
第6回	飯田線建設史②	前回学んだカネトについて、近年、住民自身により飯田線沿線各地で上演されている合唱劇「カネト」の映像を鑑賞しながら、再度考える。
第7回	満州移民の歴史①	1930年代以降、この地域から多数渡って行った満蒙開拓団や満蒙開拓青少年義勇軍について、その史実と背景を学ぶ。
第8回	満州移民の歴史②	前回学んだ満蒙開拓青少年義勇軍について、そのテーマでつくられたアニメ「蒼い記憶」を鑑賞しながら、再度考える。
第9回	満州移民の歴史③	現在、この地域の人々が、満州移民の歴史やその結果として生まれたいわゆる中国残留孤児・中国帰国者のことを、どう後世に伝えようとしているかを、阿智村に開館した満蒙開拓平和記念館などを例に探る。また、「残留孤児の父」と称される阿智村の長岳寺住職、山本悠昭についても知る。
第10回	飯田・下伊那の多民族共生の現在	外国人が増え、市として外国人集住都市会議に参加している飯田市における外国人の実態や、国際化・多文化共生の取り組みについて考察する。平岡ダム建設における外国人強制労働の歴史を、後世に正しく伝えようと努める天龍村の姿勢についても、あわせて考察する。
第11回	飯田・下伊那の文化①	人形浄瑠璃や歌舞伎など、この地域に残る各種の伝統民俗芸能や、それをもとにした現在の文化イベントについて知る。とりわけ、飯田市内で活動する黒田人形・今田人形について、映像で確認する。
第12回	飯田・下伊那の文化②	この地域の特色ある文化活動として、通巻1000号超の歴史を誇る郷土雑誌「伊那」の刊行や、活発な公民館活動について知る。あわせて、写真や童画で庶民の生活を記録してきた阿智村の熊谷元一についてもみていく。
第13回	飯田・下伊那の文化③	この地域ゆかりの文化人のうち、法政大学で学んだり教えたりした経験をもつ掠嶋十・西尾実・森田草平3人の文化人について、自校教育の観点も含めて取り上げる。
第14回	まちづくりや自然との共生	早くからグリーンツーリズム、エコツーリズム、都市農村交流などを唱え、実践してきた飯田市の取り組みについて知る。山村留学がこの地域に果たしている役割や、1970年に廃村となった大平宿の保存活用運動についても探る。地域おこし協力隊など、若者による地域活性化の活動にも触れる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回配付するプリントに、「自習課題」を載せる。同じ内容は、ネット上の学習支援システムにも掲載する。これは自習であって、必ずしも提出義務はないが、提出すれば、就職活動などによる欠席を補う参考資料として加味する。可能な限りチャレンジして、学んだことをより深く考察し、定着させることを推奨する（提出期限：ネットへのアップから2週間後）。

従来は授業期間中に、この授業と関連した学部イベントを実施してきたが、コロナの状況を見ながら実施可否を判断したい。

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用せず、学習内容に即したプリントを毎回、A3で1枚程度配付する。各回のプリントはファイルないし合冊にしておいて、実際の研修の場にも持参して活用すること。

かつては留学生の自習用として、しんきん南信州地域研究所「いいだ・南信州大好き」（2010年）を当方で用意していたが、絶版で入手が難しくなっている。資料室に複数冊あるので、そちらで適宜利用してほしい。

【参考書】

授業の中で適宜指示する。それらの大半は、BT 20階の国際文化学部資料室および書庫に配架された「飯田・下伊那文庫」（書籍2,000冊以上、映像DVD約350点所蔵）に収められている。コロナの状況も見ながら、可能な限りに利用してほしい。

【成績評価の方法と基準】

毎回提出するリアクションペーパーに反映された授業に取り組む姿勢 40 %、途中での中間課題 20 %、学期末のレポート 40 %を目安とする。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

とくに S J 国内研修に参加せず、1つの授業として受ける人には、「一地域のことをなんでこんなに細かく学ぶのか？」という疑問があるかもしれない。ただし、特定の一地域へアプローチや、「個別を極めることを通して普遍に至る」という学び方は、他の分野にも応用が利くと思われる。

また、自国のことを知り、外国人にも伝えられることは、真の国際人にとって重要な要素であろう。

【学生が準備すべき機器他】

上述のように、学習支援システムをもう一つの教室として活用する。コロナ感染の状況により、対面授業が不可になった場合は、zoom を使用する。

【その他の重要事項】

「S J 国内研修」に参加する人は、どのような形であれ、この事前学習授業の履修が前提条件になる。研修の参加経費や単位の有無は、参加資格によって異なるので、詳細は「履修の手引き」の該当頁を参照のこと。

6 月末から 7 月上旬までには今年度の S J の実施可否を判断する。可能となった場合は、ボランティア補助員や一般参加者の募集を開始する。

ちなみに、コロナ禍が始まって以降の S J は、2020 年度と 21 年度が中止、22 年度が希望者のみを対象とした、5 泊 6 日の短縮バージョンで実施した。

【選抜の有無】

留学生、および S J 参加への強い意欲を有する一般学生を優先し、教室の収容人員を超えた場合は初回授業で選抜を行なうことがある。

【Outline (in English)】

This course is primarily designed for students who participate in the SJ(Study Japan) program in summer session. Therefore this class aims to gain a basic understanding of history, culture, and ethnic issues of South Nagano, where the SJ program is implemented.

Students who will not participate in the SJ program are also able to take this class. For those students, the goal is to develop an eye for perceiving Japan from multiple perspectives.

Self-study assignments will be given in the handouts distributed in each class. Please try each time if possible to deepen what you have learned.

Final grade will be calculated according to the following process. Reaction papers for each class 40%, mid-semester report 20%, and term-end report 40%.

PHL200GA

フランス語圏の文化 I (思想)

大中 一彌

配当年次/単位：1～4年 / 2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：隔年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈A〉〈ダ〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

[授業の目的] この授業では、17世紀を中心とするフランスの思想や文化をめぐり、いくつかの作品を概観します。この時代は、その後、グローバルに広がっていく近代社会の基本的な枠組が—よくも悪くも—西ヨーロッパにおいて形づくられた時代です。この時代についての知識を得て、考えを深めることは、受講者自身がさまざまな文化に関して抱いている価値観を、より奥行きのある、洗練されたものにしていくのに役立ちます。

【授業の概要】

※世界史以外を受験のさいに選んだ人を念頭に置きつつ、基礎知識を補う意味で、やや長めに「授業の概要」を以下に記述します。

・デュビイ&マンドルー『フランス文化史』IIによれば、17世紀前半のフランスは、ひとりの人間にたとえるなら「青春時代」のような状態にあった。ジャック・カルティエが「カナダ」と呼び、16世紀に探検した北アメリカの土地へは、17世紀に入ると交易やフランスからの入植が進められた。同じ頃、活版印刷と結びついて西ヨーロッパに広がった宗教改革は、伝統的なカトリック教国のフランスへも、プロテスタントの信仰を浸透させた。この浸透の結果もたらされた悲惨な宗教戦争を、ナントの勅令(1598年)により収拾したのはブルボン朝の創始者アンリ4世である。これに続く17世紀前半は、若々しさを連想させる経済社会の成長を基調としながらも、成長ゆえにカトリック教会を含む従来の秩序がゆらいだ時代でもあった。同時代の哲学者ルネ・デカルトは、迷信や思い込みで囚われた人間の意識のあり方を疑い、知識の確実な基礎を、数学や自然科学を支える合理精神のなかに、むしろ見いだした。同じく17世紀の哲学者パスカルの「人間は一本の葦に過ぎない、だがそれは考える葦である」という言葉は、環境に左右されやすく傷つきやすい弱さと、無限の宇宙をも分析しうる知性もつ尊敬のあいだで、揺れ動く人間の姿をよく特徴づけている。

・17世紀から18世紀前半にまたがるルイ14世の治世は、フランス史において「偉大な世紀」と呼ばれる。政治面においてはいわゆる絶対王政、文化面においてはいわゆる古典主義をつうじて、それぞれの領域における秩序の完成が目指された。ナントの勅令の廃止(1685年)によりカトリック教国としての純化を図り、宗教的寛容で知られた当時随一の商業大国ネーデルラント(オランダ)を屈服させようとしたルイ14世の力の基盤となっていたのは、フランスの人口の多さ(約2000万人)にくわえ、国内における強力な徴兵・徴税制度といった、リシュリューやマザラン、コルベールら、王権に仕えた実務家たちが積みあげた成果のうえにできた、集権的な世俗の国家であった。また、文化面における古典主義は、こうした国家から庇護を受け、ルイ14世という君主の栄光を讃美する(現代でいう)プロパガンダの面を確かにもっていたが、ヨーロッパの多くの宮廷が模倣するような影響力も実際に有していた。

・イギリスやオランダとともに、いわゆる啓蒙思想の震源地であったこの時代のフランスの哲学者たちは、国境を越えた「文芸の共和国」のなかで活動しており、ルイ14世により確立された集権的な専制政治や、宗教における純化志向がもたらしがちな狂信に対して、しばしば批判的であった。

【到達目標】

1. 各回のテキストの講読をつうじて、16世紀から17世紀にかけてのフランスにおける思想や文化を代表する作品に関する概要をつかむ。
2. 各回のテキストに登場する人物や作品から、そのなかに含まれている主題を、ステレオタイプに陥らずに、見いだす力を養う。
3. 権力と正義、そして宗教的狂信と暴力の関係について、受講する学生それぞれがみずからの考えを練り上げる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

・この授業は基本的に「対面」です。

・学生からの書き込み等に対するフィードバックは、基本的に授業時間内に行いますが、学習支援システムやGoogle Classroomを利用する場合があります。

・授業内容の録画や録音の一部、ならびに授業時間内に扱いきれなかった内容を補足する動画を、受講者のみが視聴できる形で共有する場合があります。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】あり/Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】なし/No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	導入①：なぜこの科目？ 高校2年生の視点から	映画「アデル、ブルーは熱い色」
第2回	導入②：17世紀の前には16世紀が(フランスにおけるルネサンス)	ラブレール『ガルガンチュワとパンタグリユエル』 モンテーニュ『随想録(エッセー)』
第3回	「フランスの」思想？	石井洋二郎『フランス的思考』 アンドレ・シエグフリート『西欧の精神』 バラエティアートワークス『デカルト 方法序説—まんがで読破—』
第4回	情念と理性 ～秩序 vs 破壊的な混沌～	赤木昭三・赤木富美子『サロンの思想史』 ボワロー『詩法』 ラシヌ『フェードル』
第5回	遠近法と劇のなかの劇 ～距離と情念～①	バルトルシャイティス『アナモルフーズ』 タビエ『バロック芸術』 コルネイユ『舞台は夢』
第6回	遠近法と劇のなかの劇 ～距離と情念～②	バラトン『庭師が語るヴェルサイユ』 ポーサン『ヴェルサイユの詩学』 フーコー『言葉と物』
第7回	「隠れた神」を読みとる	カッシーラー『デカルト、コルネイユ、スウェーデン女王クリスティナ』 拙稿「自発的隷従とは何か」 高階秀爾(たかしな しゅうじ)『フランス絵画史』
第8回	「宮廷社会」と感情のゆくえ	エリアス『宮廷社会』 モリエール『町人貴族』『人間嫌い』 ラファイエット夫人『クレヴの奥方』
第9回	中間ふりかえり	映画「王は踊る」
第10回	ヴァニタスと神の恩寵	フィリップ・ド・シャンペーニュ「ヴァニテ、あるいは人生の寓意(アレゴリー)」 「1662年の奉納画」 ルイ・コニュ『ジャンセニズム』 パスカル『田舎人への手紙(プロヴァンシャル)』

- 第11回 モラリストと仮面① ラ・フォンテーヌ『寓話』から「セミとアリ」「寓話の力」「M・L・D・D・L・Rへ」ファフ・ララージュ（ラッパー）「オオカミと仔ヒツジ」マリアヌ・ヴルシュ（ラジオ番組）「ジャン・ド・ラ・フォンテーヌまたは反抗する詩人」
- 第12回 モラリストと仮面② ラ・ロシュフォーコー『箴言（しんげん）集』箴言 266 番「怠惰はまったく柔弱ではあるが、にもかかわらず、しばしば他の情念の支配者にならずにはいない」他
- 第13回 パスカルの賭け
Pari pascalien 映画「モード家の一夜」パスカル『パンセ』『デュラス × ミッテラン対談集 パリ6区デュパン街の郵便局』アントワヌ・コンパニオン『パスカルと過ごす夏』から「パスカルとマルクス主義者」（ラジオ番組）
- 第14回 まとめ あなたにはどの箴言が刺さりましたか？

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- (ア) 予習は必要ありません。
(イ) 授業にたいするコメントを書いてもらう場合があります。
(ウ) (イ) 以外で、希望する受講者が授業内容にかんする話題提供を行った場合、積極的な参加態度として加点します。指定する LMS (学習支援システム-Hoppi) の掲示板か Google Classroom のストリームコメントに、文章やリンクを貼り付けてください。
(エ) この授業の準備や復習に必要な学習時間は、提示された資料や映像を検討したり、上記 (イ) (ウ) を行ったりするのに必要な時間とします。日本語やその他の言語の習熟度が異なる多様な学生が履修するため、一律の時間の長さは掲載しませんが、大学設置基準に鑑みた場合、2単位の講義及び演習の準備・復習時間は1回につき4時間以上とされています。

【テキスト（教科書）】

- ・教科書を買う必要はありません。
- ・シラバスの【授業計画】に示されている内容にかんする資料を毎回配布します。

【参考書】

- 参考となる映像作品：
パトリス・シェロー監督『王妃マルゴ』1994年。
ジェラルド・コルビオ監督『王は踊る』2000年。
エリック・ロメール監督『モード家の一夜』1969年。
リュック・ベッソン監督『狼（シャネル No.5 の広告）』1998年。
ロジェ・ヴァディム監督『ドンファン』1973年。
参考となる音楽作品：
夜の王のコンサート（夜の王のバレエに基づく）※原題"Le Ballet Royal de la Nuit"で検索してみてください。

【成績評価の方法と基準】

- (ア) 期末試験：実施しません (0%)
(イ) 期末レポート：実施しません (0%)
(ウ) 授業への参加 (50%)
(エ) 担当範囲外における発言など積極的な参加 (40%)
(オ) その他（運営協力や講師のミスの指摘）(10%)
※この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

- ・過剰な学習負担とならないよう配慮しています。
- ・わからないことは、気兼ねなく、お問合せください。
- ・問い合わせ先や、この授業で扱う範囲（17世紀のヨーロッパ）に関する画像たちを、次のリンク先に置いておきましたので、ぜひご覧ください【学内生のみ、要統合認証】<https://docs.google.com/document/d/1k6QWm-Hdj6ozZfzcQw4EuUyJKC3mlQxIx1yG2uBVc8/edit?usp=sharing>

【学生が準備すべき機器他】

資料の配布や学生側からの情報の提示など、さまざまな連絡は、基本的にすべてウェブ上（学習支援システム-Hoppi 等）で行ないます。そのため、こうしたサイトを使うのに必要な情報環境はあったほうが良いでしょう。

【その他の重要事項】

- ①法政大学市ヶ谷キャンパスの各学部の学生だけでなく、社会学部・経済学部・現代福祉学部など多摩キャンパスの学生、また外国人留学生や社会人学生、千代田コンソーシアムの近隣大学の学生の履修を歓迎します。
②学外の方でこの科目への参加を希望される方は、科目等履修生としてご参加下さい。詳しくは法政大学の事務窓口までお問合せ下さい。
③履修にあたりフランス語の能力は要求していません。
(※) この「フランス語圏の文化 I（思想）」における使用言語は日本語ですが、文化や社会にかんする内容を扱い、かつ、フランス語を授業内の使用言語とする科目に「時事フランス語 I」「時事フランス語 II」があります。語学の面も含めて学習したい方は、「時事フランス語」の履修をご検討ください。

【Outline (in English)】

[Course outline]

This course offers students an introduction to 17th century French thought, highlighting links with literature, theater, architecture, and science. Students will read excerpts of texts and view films and paintings to get an idea of this historical period that the French often call "The Great Century" (Grand siècle). The 17th century was "great" not only because the Kingdom of France was at the peak of its power under the reign of Louis XIV, but also because philosophers like Blaise Pascal made insightful observations about the tragic nature of the human condition ("Man is only a reed, the weakest in nature; but he is a reed that thinks."). Proficiency in French is not required for this course but written assignments and oral participations in Japanese will be required.

[Learning Objectives]

1. Gain an overview of representative works of French thought and culture of the 16th and 17th centuries through the reading of the texts in each session.
2. Foster the ability to identify, without stereotyping, the themes contained in the characters and works of each text.
3. Develop each student's own ideas about the relationship between power and justice, and between religious fanaticism and violence.

[Learning activities outside of classroom]

- (a) No preparation is required.
(b) Students may be asked to write comments on the class.
(c) Students who wish to contribute topics related to the class content other than (b) will receive points for their active participation. Please paste the text or link to the designated LMS (Learning Support System-Hoppi's Discussion Board or Google Classroom's Stream > Comments).
(d) The study time required for preparation and review of this class will be the time needed to study the materials and videos presented and to do (b) and (c) above. Since this is a class for diverse students with different proficiency levels in Japanese and other languages, a uniform length of time will not be specified, but in accordance with the Standards for the Establishment of Universities, the preparation and review time for each 2 credit lecture and seminar should be at least 4 hours per session.

[Grading Criteria]

- (a) Class participation (50%)
(b) Active participation such as speaking outside the scope of the course (40%)
(c) Others (cooperation in administration and pointing out mistakes of the instructor) (10%)

* Based on this grading method, those who have achieved at least 60% of the achievement objectives for this class will be considered to have passed the class.

ARSA300GA

スペイン語圏の文化 I

久木 正雄

配当年次/単位：2～4年 / 2単位

旧科目名：スペイン語圏の文化 I (多言語国家スペイン)

旧科目との重複履修：×

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
人数制限・選抜・抽選：人数枠を30名とし、それを超えた場合は抽選とする

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

この授業では、スペインの歴史と、そこに生きる人々が織り成す社会、そして彼らが生み出した有形・無形の文化遺産について学ぶ。とりわけ、スペインを構成する諸地域と言語・民族の多様性と、それらの歴史的層性への理解を得ることを目的とする。また、バルセロナ大学へのSAに参加する2年生は、バルセロナとカタルーニャへの理解と関心を、空間的にも時間的にも広い視野の中で深めてもらいたい。

【到達目標】

スペインの歴史・文化・社会が放つ多彩な魅力と、そこに付随する諸問題への理解と関心を深め、各自の考えをプレゼンテーション、ディスカッション、学期末レポートにおいて精確に言語化することができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

この授業は、受講生の中から予め定めた担当者を主体として、各回のテーマに関するプレゼンテーションとディスカッションを中心にを行う。課題等に対するフィードバックは授業内で行い、必要に応じて「学習支援システム」も活用する。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】
なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の進め方を確認した上で、受講生と教員との間で問題関心を共有する。
2	スペイン史概説 (先史時代～中世)	スペインの自然環境 (地勢と気候) と、先史時代から古代・中世までのスペイン史 (イベリア史) への理解を得る。
3	スペイン史概説 (近世・近代)	国家と地域との関係に留意しながら、近世と近代のスペインに関する通史的な理解を得る。
4	スペイン史概説 (現代)	内戦とフランコ体制期を中心として、自治州国家体制へと至るスペイン現代史 (20世紀) に関する理解を得る。
5	スペインの諸言語	スペインで用いられている諸言語と、それらの歴史的・政治的位置への理解を深める。
6	宗教と人々 (前近代)	「三宗教の共存」と称される中世スペインの宗教的・民族的多様性と、近世以降の展開への理解を深める。
7	宗教と人々 (近現代)	カトリック教会と国家、社会、そして人々との関係について、近現代を中心に考察する。

8	祝祭	いわゆる三大祭りを題材として、地域ごとに趣を異にするスペインの祝祭への理解を深める。
9	伝統芸能	フラメンコと闘牛を題材として、それらの地域性と「国民的」な伝統芸能としての側面について考える。
10	都市と建築	バルセロナに焦点を当てて、都市計画とアントーニ・ガウディの建築に代表される文化とその背景への理解を深める。
11	内戦と芸術	内戦とその記憶の問題について、文学、絵画、映画といった芸術作品との関係の中で考える。
12	サッカー	スペインの国民的なスポーツと言えるサッカーの、娯楽としての側面と政治的な側面について考える。
13	スペインと日本	今日でも官・民のさまざまなレベルにおいて密接な係わりをもつ、スペインと日本との関係への理解を深める。
14	世界の中のスペイン	ヨーロッパの一国としての、そしてスペイン語圏の一国としての、現在のスペインの姿について考える。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

準備学習として、事前に指示したテキストの範囲または配布した資料を読んでおくこと。復習として、各回の内容を各自の問題関心に照らしながら咀嚼し直し、学期末レポートに備えること。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト (教科書)】

立石博高 (編著) 『概説 近代スペイン文化史—18世紀から現代まで』ミネルヴァ書房、2015年、本体価格3,200円、ISBN9784623066759。

【参考書】

- 田澤耕 『カタルーニャを知る事典』平凡社新書、2013年、本体価格860円、ISBN9784582856743。
- 田澤耕 『物語 カタルーニャの歴史—知られざる地中海帝国の興亡増補版』中公新書、2019年、本体価格920円、ISBN9784121915641。
- 立石博高 『スペインにおける国家と地域—ナショナリズムの相克』国際書院、2002年、本体価格3,200円、ISBN9784877911140。
- 立石博高 『歴史のなかのカタルーニャ—史実化していく「神話」の背景』山川出版社、2020年、本体価格2,750円、ISBN9784634151628。
- 立石博高・内村俊太 (編著) 『スペインの歴史を知るための50章』明石書店、2016年、本体価格2,000円、ISBN9784750344157。
- エドゥアルド・メンドサ (立石博高訳) 『カタルーニャでいま起きていること—古くて新しい、独立をめぐる葛藤』明石書店、2018年、本体価格1,600円、ISBN9784750347578。
その他、教場で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

プレゼンテーション：30%、ディスカッションへの参加度：30%、学期末レポート：40%。

【学生の意見等からの気づき】

各受講生の問題関心を尊重し、柔軟な議論が展開されるように努める。

【学生が準備すべき機器他】

プレゼンテーションでプロジェクターを使用する場合には、接続用のPC (本体) は各自が用意すること。ケーブルやアダプターといった周辺機器は教員が用意する。

【その他の重要事項】

- 履修予定者は、初回授業の前々日までに「学習支援システム」で仮登録を行っておくこと。仮登録者数が教室定員を超過した場合は、初回授業はオンラインで実施して選抜を行うこととし、その旨を前日のうちに同システムで通知する。
- この授業は春学期で完結し、秋学期開講の「スペイン語圏の文化II」との直接の連続性はない。

【Outline (in English)】

《Course outline》

This course is designed to provide students with a basic understanding of various aspects of Spain and its regions: histories, societies and cultures.

《Learning Objectives》

Students will gain the basic knowledge of histories, societies and cultures of Spain and its regions, and the ability of express your ideas accurately in presentation, discussion and term-end report.

《Learning activities outside of classroom》

Students will be expected to have completed the required assignments before and after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

《Grading Criteria / Policy》

Your overall grade in the class will be decided based on the following: Assigned presentation (30%), in-class contribution (30%), and term-end report (40%).

LIT300GA

英語圏の文化Ⅳ（文学と社会 A）

須藤 祐二

配当年次／単位：2～4 年／2 単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：教室定員数を超える受講希望者がいる場合には抽選を行う。

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

アメリカ文学をアメリカの社会や文化のさまざまな諸相と関連づけて考察する。各時代の文学作品に明示的に示されている問題意識を考察するだけでなく、なにげない描写から読み取れるアメリカの社会や時代の特異性を検討する。また、文学作品が、時には時代を超えながら、絵画、映画、音楽などどのような影響を相互に及ぼしているのかを考えることで、アメリカ文学だけでなくアメリカ文化の奥深さを味わってもらいたい。

【到達目標】

受講生は、アメリカ文学についての基礎的な知識を身につける。また、代表的な作品の内容を知るとともに、そこで描かれているアメリカの社会、文化、宗教、エスニシティ等の諸相を歴史的な視座から考察するための素地を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連。

【授業の進め方と方法】

講義形式で行う。

第1回授業で、いくつかのテーマを提示する。そして、そのテーマごとの説明に後続の授業を数回ずつ割り当て、そのテーマから、アメリカの文学が文化や社会環境とどのように関連づけられるのかを解説する。そのため、ある時代を切り取ってそれを考察するというプロセスが繰り返されるだろう。時間的な制約から、時系列に沿ったアメリカ史全体の説明はできない。受講生はアメリカの歴史について基礎的な知識を身につけておくと、より深く、そして、より容易に理解できるかもしれない。最終授業でそれまでの講義内容のまとめや復習だけでなく、それまでに回答した質問等についてももう一度解説をする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	テーマの設定	全体のテーマを設定する。
第2回	アメリカの神話創造	植民地建設時や独立戦争時の理念がアメリカ社会を支える神話としてどのように受け継がれているかを考える。
第3回	怖いものはなに	アメリカのゴシック小説の特徴をヨーロッパのゴシック小説と比較して、前者における恐怖の描き方から「アメリカ的な素材」をめぐるアメリカ人作家のジレンマを検討する。
第4回	ウィルダネス	ウィルダネス（荒野）を舞台にした小説を紹介したうえで、この「アメリカ的な風景」がその後の絵画や映画などでどのように利用されてきたかを歴史的に考察する。
第5回	東や西へ	アメリカがフロンティア消滅以後の東部と西部にどのような価値を与え、19世紀から20世紀の文学がその価値をどのように活用してきたかを考察する。
第6回	海とアメリカ文学	アメリカを超えて海を舞台にしたアメリカ文学作品を紹介する。これらの作品が当時のアメリカの拡大志向やエスニシティへの意識をどのように反映しているのかを考察する。
第7回	時間、都市、産業化	19世紀後半以降のアメリカの都市化や産業化の進展、そして、社会における時間表象や都市表象がどのように変化したのかを紹介し、それらがモダニズムの文学作品にどのように反映されているのかを考察する。
第8回	「白人」と「アメリカ人」という概念	多様な移民が混在するアメリカにおいて、「白人」という概念がどのように変容してきたのかを確認し、アメリカ文学でこの「白さ」がどのように表象されているのかを考察する。

第9回	「黒人」というステレオタイプ	白人作家によるアフリカ系アメリカ人の表象を論じ、それらのステレオタイプ化されたイメージに白人側のどのような願望が透けて見えるのかを考える。また、映画においてそうしたイメージがどの程度踏襲されているのか、また反対にどのように変容しているのかを、文学作品との比較から考える。
第10回	観念としての「黒人」は誰のものか	20世紀前半のハーレム・ルネッサンスやそれ以降のアフリカ系アメリカ人の文学作品が自分たちの文化をどのように位置づけようとするか、また、ジャズがたどった受容の歴史の解説を加える。
第11回	メディアと消費文化の拡張	アメリカ文学が消費文化をどのように表現してきたかを紹介する。時代背景の理解のため、消費文化とメディアの関係の変容についての説明を加える。
第12回	アフリカ系アメリカ人の文学と音楽、スペクタクル	第11回で考察した消費文化の考察をアフリカ系アメリカ人に絞る。音楽を中心に「黒人」文化と消費文化の関係を考察し、その後、消費文化における「黒人」イメージから取り残された現実を、現代の黒人作家がどのように描いているかを検討する。
第13回	ジェンダー観の変容	アメリカにおける女性の権利拡大運動の推移を解説する。ジェンダー観の変化のなかで、20世紀の女性作家が何を描き、何を描けなかったのかを考察する。併せて、彼女たちの作品と20世紀以降の映画などにおける女性表象を比較検討する。
第14回	まとめ	講義内容のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の授業で資料（英文）を配布するので、その資料を読み込むこと。また、アメリカの歴史について基礎的な知識を得ておくこと。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。復習が重要である。

【テキスト（教科書）】

使用しない。各回で必要になる資料は配布する。

【参考書】

有賀夏紀（編）油井大三郎（編）『アメリカの歴史——テーマで読む多文化社会の夢と現実』有斐閣アルマ、2003年
 亀井俊介（編）『アメリカ文化史入門——植民地時代から現代まで』昭和堂、2006年
 板橋好枝、高田賢一『はじめて学ぶアメリカ文学史』ミネルヴァ書房、1991年

【成績評価の方法と基準】

学期末レポートを70%、中間レポートを30%とする。両方のレポートを提出してはじめて成績評価対象となる。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

講義内容を補足するうえで映像資料が役立ったという意見が多かったため、今年度も同様に用いる。例年、「静かに受講できた」という感想が聞かれるので、同様の授業になるように工夫をするつもりでいる。学生にもそのつもりで受講してもらいたい。

【その他の重要事項】

受講希望者は必ず第1回目の授業に出席すること。教室定員を超える受講希望者がいる場合には抽選を行う。基本的に、授業は対面で行う。しかし、感染症対策として、授業をZoomを使ったリアルタイム・オンラインに切り替えることがある。連絡は授業支援システム（Hoppii）の「お知らせ」で行う。授業実施方法に変更がないかを毎週授業前に必ず確認すること。なお、Zoomに切り替えても問題なく受講できるように、あらかじめ各自で通信環境を整えてください。

【Outline (in English)】

This course is designed for students to learn a brief history of American literature and, through it, to gain insight into various aspects of American culture and society. Not only will students be able to probe into the authors' critical minds evidently articulated in their works, but also into the characteristics of American society during particular periods which are illustrated in the minor themes of their writings. It is expected that students' interest in American literature will grow by learning the impact that American literary works have had on pictures, films, and music of different periods.

At the end of this course, students should be able to explain some characteristics of American literature and culture. Before/after each class meeting, students will be expected to spend 2 hours to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

The 1st report (30%) and the 2nd report (70%)

LIT300GA

英語圏の文化V（文学と社会B）

北 文美子

配当年次／単位：2～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：人数制限・選抜あり

その他属性：〈優〉

【Outline (in English)】

(Course Outline) This course aims to deepen the understanding of British and Irish Literature from the 18th century to the 20th century, and to examine social, cultural and historical backgrounds of each literary work.

(Learning Objective) By the end of the semester, students are expected to make themselves familiar with the history of British and Irish Literature and to acquire an understanding about the relation between social, cultural and historical backgrounds and literary works.

(Learning activities outside of classroom) Students should read the relevant literary material beforehand, and spend more than one hour preparing for each class.

(Grading Criteria/Policy)

Assignments 40% Exam 60%

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

18世紀から20世紀にかけての英語圏（イギリスとアイルランド）の文学作品を取り上げ、各作品の社会的・文化的・歴史的背景を考察しながら、文学を理解するうえでの知的視野を広げることをめざします。

【到達目標】

それぞれの文学作品にうかがえる文体・人物造型・風景描写などを仔細に検討することで、時代の思想を読み解き、近代・現代における文学と社会のつながりについて理解を深めます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

講義形式で授業を行います。対面授業です。毎回講義内容に対する各自の理解を確認するため、授業で扱った作品の引用をテキスト分析し、リアクション・ペーパー（課題）としてまとめ、提出してもらいます。レビュー・ウィークにリアクション・ペーパーをもとにしながら内容の復習をします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回	イントロダクション	コース概要について説明します。
2回	デフォーと近代資本主義	『ロビンソン・クルーソー』と資本主義社会の合理精神について考察します。
3回	メアリー・シェリーと近代ロマン主義	『フランケンシュタイン』とロマン派の興隆について考察します。
4回	マックファーソンとケルティシズム	『オシアン』とケルティシズム、オリエンタリズムとの関係を考察します。
5回	マシュー・アーノルドと帝国主義	『ケルト文学研究』とビクトリア朝時代の帝国主義、社会ダーウィン主義について考察します。
6回	バーナード・ショーと地方主義	『ビゲマリオン』とビクトリア朝の標準英語化の動きについて考察します。
7回	レビュー	リアクション・ペーパーを返却し、前半のまとめをします。
8回	イェイツと民族主義	『ケルトの薄明』と民話蒐集の政治的意図について考察します。
9回	ジョイスとモダニズム	『ユリシーズ』とモダニズム運動について考察します。
10回	ベケットとポストモダニズム	『モロイ』とポストモダニズム思想について考察します。
11回	アンジェラ・カーターとフェミニズム	『血染めの部屋』とフェミニズム思想、童話の脱構築について考察します。
12回	ブライアン・フリールとポストコロニアリズム	『トランスレーションズ』とアイルランドの植民地経験について考察します。
13回	レビュー	リアクション・ペーパーを返却し、後半のまとめをします。
14回	学期末試験、まとめ	学期末試験、まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回取り上げる作品を原書あるいは翻訳で事前に読んでおいてください。本授業の準備学習・復習時間は各1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

各回、プリントを配布します。

【参考書】

適宜、授業内で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点、リアクション・ペーパー（30%）

試験（70%）

この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

参考文献の紹介に加えて、内容についての簡潔な解説も付け加えます。

LIT300GA

英語圏の文化Ⅵ（文学と社会 C）

中和 彩子

配当年次／単位：2～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
人数制限・選抜・抽選：人数制限・選抜あり

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

名譽革命後の18世紀イギリスで発展した小説という文学ジャンルは、進歩と科学の世紀でもあった19世紀、とりわけヴィクトリア時代(1837-1901)の間に作品も媒体も、そして読者も多様化し、影響力のある一大文化産業となる。この授業では、19世紀末のイギリス小説に焦点を当て、さまざまな不安——ダーウィニズムが生み出した先祖返りの不安、退化幻想、そして植民地から本国、野蛮から文明への逆侵略の恐怖——を描いた代表的な作品を読むことを通じて、イギリス文学・文化・歴史への理解を深める。

【到達目標】

イギリス小説の代表的な作品を読み、テキスト（構造と細部）とその背景（文化・歴史）を理解する。

作品と作者の文学史における位置づけを理解する。

イギリス小説を原語でも読めるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連。

【授業の進め方と方法】

受講者が、小説の指定箇所や資料を読み、ワークシートに沿って準備学習をしていることを前提として授業を進める。グループ・ディスカッションを行ったあと、講師がディスカッションの結果を整理し解説を加えるというのが授業の基本的な進め方であるが、講義を中心とする回もある。

各授業の終わりには、理解の確認のためのリフレクションペーパーを課す。提出されたワークシートやリフレクションペーパーへのフィードバックは、翌週の授業内に行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス イントロダクション (1) イギリス文学・文化概説	授業に関する説明。受講希望者多数の場合は選抜。 18～20世紀の小説を中心としたイギリス文学、およびその文化・社会的背景についての概説
2	イントロダクション (2) 19世紀後半のイギリス文学・文化	授業で扱う作品、作家、その背景についての概説
3	ロバート・ルイス・スティーヴンソン『ジキル博士とハイド氏』（1886年）小説前半	演習（原文抜粋の分析）
4	『ジキル博士とハイド氏』（1886年）小説後半	演習（原文抜粋の分析）・講義
5	アーサー・コナン・ドイル『四つの署名』（1890年）小説前半	演習（小説前半の分析）
6	『四つの署名』小説後半	演習（小説後半の分析）
7	『四つの署名』全体	演習（原文抜粋の分析）・講義
8	H.G. ウェルズ『タイムマシン』（1895年）	演習（原文抜粋の分析）
9	H.G. ウェルズ『モロー博士の島』（1896年）	演習（原文抜粋の分析）
10	H.G. ウェルズ まとめ	演習・講義
11	ジョゼフ・コンラッド『闇の奥』（1902年）小説前半	演習（小説前半の分析）
12	『闇の奥』小説後半	演習（小説後半の分析）
13	『闇の奥』全体	演習（原文抜粋の分析）・講義
14	まとめ	試験、解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の準備学習として、小説の指定箇所や資料を読み、ワークシートの問題に解答し、提出すること。

本授業の準備・復習時間は計4時間を標準とする。なるべく準備学習に重点を置くことが望ましい。

【テキスト（教科書）】

(1) 2作品については、次の邦訳を使用する。

①アーサー・コナン・ドイル、日暮雅通訳『四つの署名』新訳シャーロック・ホームズ全集、光文社文庫、2007。

②コンラッド、黒原敏行訳『闇の奥』光文社古典新訳文庫、2009。

(2) その他の作品については抜粋を配布する。

【参考書】

石塚久郎責任編集『イギリス文学入門』三修社、2014。

※そのほか随時紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（ワークシート 40%、リフレクションペーパー 20%）と、試験の成績（40%）の総合評価。

【学生の意見等からの気づき】

・互いのワークシートの内容を共有することで、より多角的にテキストを理解できるので、グループワークの時間を長めにとる。

・購入が必要な本を4冊から2冊に減らした。

【学生が準備すべき機器他】

・毎回の授業内で、学習支援システムを利用する（「教材」配布、「課題」配布・提出、等）ため、PC等の端末（デバイス）を持参してください。

・オンライン授業を教室で受講する際には、ハウリング防止のためマイク付きヘッドセットを持参してください。

【その他の重要事項】

・授業に関する連絡は、学習支援システムの「お知らせ」を用いておこないます。

・初回授業について

受講希望者が教室定員を上回った場合、授業の最後に作成・提出してもらうペーパーをもとに、選抜をおこないます。

初回授業をやむを得ず欠席した受講希望者は、当日中に出される「お知らせ」の指示にしたがってください。

【Outline (in English)】

Course Outline: "Culture and Society of the English Speaking World VI (Literature and Society C)" aims to introduce students to British literature in the context of British culture, society and history. Students will analytically and critically read some representative British literary works, published around the turn of the 20th century, that are obsessed with Victorian fin-de-siècle anxieties, and be introduced to their social and cultural contexts.

Learning Objectives: By the end of the course, students should be able to do the following: 1) understand the details of each novella/novel, and its cultural and historical context. 2) understand these works and their authors in the context of British literary history. 3) read and understand parts of each work, in English.

Learning activities outside of classroom: Students are expected to come to each class meeting well prepared by reading the assigned part of the text and doing the worksheet, given online, in advance. The required study time is about 4 hours per class.

Grading Policies: Grading will be decided based on worksheets (40%), reflection papers (20%), and the end-term examination (40%)

PSY200GA

異文化適応論

浅川 希洋志

配当年次／単位：1～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国際社会で生きるとき、われわれは様々な文化的背景を持つ人々との相互理解を通して責任のある判断と行動を期待される。ところが、異文化理解ということを考えるとき、われわれは異文化に見られる行動様式や思想を理解することが国際社会における他者理解のすべてであると考えられる傾向にあるように思われる。では、心の働きは文化と関係のない普遍的なものなのだろうか。本講義では、文化心理学における比較文化的実証研究を取り上げながら、心の働きと文化の関連性について学んでいくとともに、世界という視点で捉えたとき、われわれが普段普遍的と考えている人間観、発達観、家族観、そしてそれらと深い関わりを持つ心理的機能がいかに特殊な文化に根ざしたものであるかを学んでいく。また、講義で扱う様々なトピックを通して、異文化社会における適応とはどういうことなのかを併せて考えていく。

【到達目標】

しつけや教育の仕方、あるいは教育システムといったものが、いかにその社会で適応的に生きる人々、つまりその社会にあった行動パターンや感情の働き方を身につけた人々を育てるために作り上げられてきたものであるかを、授業で扱う様々なテーマを通して理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

本授業は「対面形式」で実施する予定であるが、状況に応じて Zoom 等によるリアルタイム・オンライン授業を実施する可能性もある。

授業は講義を中心に行う。また、心と文化の関係を描き出すようなビデオ、DVD 等があれば適宜紹介する。

第1回の授業は、2023年度国際文化学部授業方針により、リアルタイム・オンライン（Zoom）で実施する。ZoomURL は事前に学習支援システムで周知する。すでに大教室（400人収容可）が確保できているので、受講者の選抜試験は実施しない。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	講義の概要を説明する。
第2回	文化心理学とは何か	文化心理学という分野がどのような理由から展開されるに至ったのかを、研究者の文化的盲点という観点から解説していく。
第3回	文化による自己認識の違い	文化による自己の捉え方の違いが、人々の認知や思考、行動にどのような影響をもたらすかを解説していく。
第4回	意欲構造の文化的差異	意欲の構造が文化によってどのように異なるかを、日米の実証的研究を紹介しながら解説していく。
第5回	日本人の努力帰属傾向	日本人が努力に価値をおく傾向が強いことを、日米の実証研究を概観しながら解説していく。また、その理由を考察する。
第6回	いい子アイデンティティの早期形成と自己規制のメカニズム	日本人の子どもが早期にいい子アイデンティティを形成し、それによって、いかに社会生活で自己規制を働かせるのかを解説していく。
第7回	日本のいい子、米国のいい子	日米のいい子像はそれぞれの社会で求められる人間像を反映するものであり、学校教育がいかにそれらを促進していくかを、解説していく。
第8回	日本人の気持ち主義	日本人がいかに人の気持ちを重視し、気持ちを知らう、読もうとする傾向が強いのか、またなぜ日本人がそういった傾向を身につけてきたのかを、解説していく。
第9回	気持ち志向のしつけ	気持ち志向を促進する日本のしつけの方法を、欧米のしつけの方法と比較しながら、解説していく。

第10回	日本人の道徳意識と道徳的判断	日本人の道徳意識と道徳判断が、欧米人のそれに比べ、人間関係的、感情的なところに強く影響されることを、実証研究をもとに解説していく。
第11回	道徳判断に必要とされる情報の日米比較	道徳判断において、日本人は人間関係的、感情的情報を求め、米国人に比べ、善悪の判断が厳しくない傾向にあるが、その理由について、実証研究を交えながら考察していく。
第12回	大きなピクチャーを捉えるために	さまざまな事件の原因推測に関する実証研究を紹介しながら、そこに、文化による自己観の違いが、いかに鮮明に反映されているかを確認していく。
第13回	生態環境から認知にいたる流れ	人々の生きる環境が、人々の行動や思考のパターン、そして認知のプロセスにどのように影響してきたのかを、歴史という大きな流れの中で捉え、ひとつのモデルとしてそれを解説していく。
第14回	授業の総括	授業のまとめ、期末試験の解説を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で扱うテーマを常に頭の片隅におきながら日常生活を送ること。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

テキストは特に指定しない。適宜プリントを配付する。授業で配布するプリントはすべて学習支援システムにアップする。

【参考書】

東洋著『日本人のしつけと教育：発達の日米比較にもとづいて』（東京大学出版会、1994年）、北山忍著『自己と感情：文化心理学による問いかけ』（共立出版、1998年）、恒吉僚子著『人間形成の日米比較：かくれたカリキュラム』（中公新書、1992年）、箕浦康子著『文化のなかの子ども』（東京大学出版会、1990年）、リチャード・E・ニスベット著『木を見る西洋人森を見る東洋人：思考の違いはいかにして生まれるか』（ダイヤモンド社、2004年）等。また、必要に応じて適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

期末試験により評価する。したがって、成績評価の「配分（%）」は期末試験100%となる。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

できるだけ身近で、具体的な例を用いて授業を展開していく。

【学生が準備すべき機器他】

授業で使うプリントは授業中に配布するが、授業支援システムにもアップする。配布するプリントに沿って授業を進めるので、欠席などによりプリントが手元にない場合は、必ず学習支援システムからダウンロードして授業に臨むこと。

【Outline (in English)】

(1) Course Outline

This is an introductory course in cultural psychology. By being introduced to the theories and empirical findings in the field, students learn how culture shapes psychological processes of people.

(2) Learning Objectives

By the end of the course, students are expected to understand (a) how cultural settings shape people's emotion, cognition, motivation, and relationships, and (b) what adjustment and psychological well-being mean to people who reside in culturally different societies from their own as well as in multicultural societies.

(3) Learning Activities Outside of Classroom

Students will be expected to spend 4 hours to understand the course content (2 hours each for before/after class meeting). Besides, students will be expected to spend their daily lives having course topics in the back of their mind.

(4) Grading Criteria/Policy

Final grade will be decided based on the term-end examination (100%).

ART200GA

異文化と身体表現

深谷 公宣

配当年次／単位：1～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
 人数制限・選抜・抽選：受講希望者数が教室の収容人数を超えたら選抜

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

いくつかの舞踊の発生の経緯、発展のプロセス、文化的意義について学ぶ。身体運動のメカニズムや表現技法を細かく分析するのではなく、宗教、性、習俗、観光化といった身体にまつわる社会的な問題を、舞踊を通して、異文化という視点から理解する。

【到達目標】

・舞踊の歴史的・文化的背景を叙述することができる。
 ・諸地域ごとの舞踊の知識を踏まえつつ、日本の能、歌舞伎、文楽等の特徴を、日本文化を知らない人に対して説明することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

・資料を元に講義する。受講者は授業の最後に、または授業後に、リアクション・ペーパーを執筆し、提出する。
 ・リアクション・ペーパーに対しては、必要に応じてコメントを付し、毎回、提出者全員に返信する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の概要、進め方、基本的な概念や用語等の紹介。
2	ポリネシア	フラの歴史・文化的背景について。
3	南米・ヨーロッパ	タンゴの歴史・文化的背景について
4	ヨーロッパ（2）	フラメンコの歴史・文化的背景について
5	ヨーロッパ（3）	ワルツの歴史・文化的背景について
6	アジア（1）	インド舞踊の歴史・文化的背景について
7	アジア（2）	京劇の歴史・文化的背景について
8	アジア（3）	インドネシア、特にバリ島舞踊の歴史・文化的背景について
9	日本（1）	能と狂言の歴史・文化的背景について
10	日本（2）	歌舞伎の歴史・文化的背景について
11	日本（3）	芸妓・舞妓～文楽の歴史・文化的背景について
12	ケーススタディ（1）アメリカ合衆国	ムラータの表象について学び、『フラッシュダンス』と『ダンス・レボリューション』の映像クリップを見る。
13	ケーススタディ（2）ベトナム	ベトナムの歴史を概観し、『ミス・サイゴン』の映像クリップを見る。
14	ケーススタディ（3）タイ/授業のまとめ	タイの歴史を外観し、『王様と私』の映像クリップを見る。授業のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

下記【参考書】に記載の書籍を読むように努める。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。毎回、資料を配布する。

【参考書】

ジェラルド・ジョナス『世界のダンス—民族の踊り、その歴史と文化』（大修館書店）
 邦正美『舞踊の文化史』（岩波新書）
 渡辺保『日本の舞踊』（岩波新書）
 渡辺保『身体は幻』（幻戯書房）
 三隅治雄『踊りの宇宙—日本の民族芸能』（吉川弘文館）
 舞踊教育研究会『舞踊学講義』（大修館書店）
 矢口祐人『ハワイとフラの歴史物語』（イカロス出版）
 生明俊雄『タンゴと日本人』（集英社新書）
 有本紀明『フラメンコのすべて』（講談社）
 加藤雅彦『ウィンナ・ワルツ—ハプスブルグ帝国の遺産』（NHK ブックス）
 宮尾慈良『舞踊の民族誌—アジア・ダンスノート』（彩流社）

宮尾慈良『これだけは知っておきたい 世界の民族舞踊』（新書館）
 皆川厚一『インドネシア芸能への招待—音楽・舞踊・演劇の世界』（東京堂出版）
 魯大鳴『京劇入門』（音楽之友社）
 白洲正子『能の物語』（講談社文芸文庫）
 『野村萬斎 What is 狂言?』（檜書店）
 Patricial Leigh Beam, World Dance Cultures: From Ritual to Spectacle. Routledge.

【成績評価の方法と基準】

平常点 50 %：当日の講義内容を把握し、自分なりに解釈することができるかを評価。

学期末レポート 50 %：異文化と舞踊に関するトピックについて分析し、丁寧に記述することができるかを評価。

この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【その他の重要事項】

・初回の授業はリアルタイム・オンラインで実施する。

・初回の時点で、仮登録者数が教室定員（255名）を超えている場合は、抽選または選抜を行い、2回目の授業までに学習支援システムにて、履修許可者（学籍番号）を発表する。

【Outline (in English)】

・Course outline: A survey course that studies a wide range of dance across cultures and time periods. We will explore the process of its development and the cultural values. Instead of analyzing the details of body mechanics, this course will focus on the social dimensions of dance in terms of religion, sex, habits, tourism and try to elicit its intercultural aspects.

・Learning Objectives: By the end of this course, students will be able to understand and describe dance history and culture. They will also be able to explain about traditional Japanese performances to those who do not know them.

・Learning activities outside of the classroom: read the recommended books in the 'References'.

・Grading Criteria/Policy: Class participation 50%, Final paper 50%.

HIS300GA

宗教社会論Ⅱ

田中 浩喜

配当年次／単位：3～4 年／2 単位

旧科目名：宗教社会論Ⅱ（キリスト教と社会運動）

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈ダ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

キリスト教は様々な社会思想と結びつきながら、近現代社会における諸問題に対する改革運動を、世界各地で展開してきました。この授業を通じて、学生は19世紀以降におけるキリスト教を基盤とする社会運動が、どのように近現代社会における諸問題（労働問題・人種差別・貧困・ジェンダー問題・植民地主義など）を捉えたのか、また新たな社会思想（進化論、社会主義、フェミニズム、など）とどのように関わりをもっていたのかを、社会思想史・社会運動史の立場から分析し議論していきます。

【到達目標】

1. 近現代のキリスト教に基づく社会運動を考える上で、重要な基本概念や理論について理解できるようになる。
2. 宗教と社会運動の関係を、社会思想や歴史意識の視点から分析できるようになる。
3. キリスト教に基づく社会運動に関する簡単な史料分析を行えるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

・受講を希望する人は9月21日（木）までにHOPPIIに登録してください。100名を超える場合は抽選を行います。9月25日（月）に抽選結果を発表します。第2回目からの授業は抽選に合格した人のみ受講できます。
 ・各回ごとに、取り上げる運動と関連する聖書の箇所、運動を理解するための社会理論や分析概念、運動の具体的な内容を主に講義形式で説明していきます。
 ・各回ごとに、関連する一次史料の分析を、リアクション・ペーパーにまとめて学習支援システム（HOPPII）で提出してもらいます。
 ・授業の中で、各界のリアクション・ペーパーに関するフィードバックやコメントを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	キリスト教という宗教の成り立ち、そして世界史の中におけるキリスト教を概観する。
2	千年王国論と救済・終末・ユートピアニズム	キリスト教の終末思想を概観する。千年王国論や救済史について議論し、それが近現代の思想と運動にどのように結びついていったかを考える。
3	アメリカとヨーロッパの世俗神学	20世紀後半のアメリカとヨーロッパにおける世俗神学と神の死の神学を取り上げ、それが当時の世俗化論において有した意味を検討する。
4	アメリカにおける黒人運動と出エジプト記	出エジプト記・ヨシュア記が、被抑圧者に与えた解放に向かう想像力について理解する。そこから、19世紀半ば以降のアメリカにおける黒人の社会運動の展開について議論する。
5	ラテンアメリカにおける解放の神学	ラテン・アメリカにおいて、解放の神学が興隆してきた歴史的背景を概観するとともに、その思想と活動実践について議論する。
6	アメリカにおけるフェミニスト神学	20世紀後半以降のフェミニスト神学の展開と多様性を、アメリカでの議論に焦点をあてながら検討する。
7	戦前の日本におけるキリスト教の社会運動	戦前の日本におけるキリスト教の歩みを、とりわけキリスト教社会主義に焦点を当てながら検討する。
8	戦後の日本におけるキリスト教の社会運動	戦後の日本におけるキリスト教の歩みを、靖国問題に関する社会運動に焦点を当てながら検討する。
9	近代のフランスにおけるキリスト教とライシテ	革命以降のフランスにおけるライシテ（世俗主義）の形成過程において、キリスト教が果たした役割を検討する。

10	現代のフランスにおけるキリスト教とライシテ	20世紀後半以降のフランスにおけるライシテの変容とともに、キリスト教と国家の関係がいかに変化したのかを論じる。
11	キリスト教とセクシュアリティ	フランスにおけるカトリック教会の変容を、同性婚や生殖補助医療、性的スキャンダルをめぐる近年の議論を概観しながら検討する。
12	キリスト教とファンダメンタリズム	アメリカにおけるファンダメンタリズムの思想を概観するとともに、その教義・運動がアメリカ社会に与えている政治的・文化的インパクトについて議論する。
13	ポスト世俗社会のキリスト教	現代の宗教研究で「ポスト世俗」が重要なテーマになっていることを確認したのち、その議論におけるキリスト教の位置付けと、その議論に神学が与えている影響について検討する。
14	総括	今学期の授業のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の授業の復習をしっかりと行い、重要な概念や理論、また社会運動の特徴について把握しておいて下さい。毎回のリアクション・ペーパーでは、別の回の授業で取り上げた運動やそれに関連する概念や理論を結び付けて議論することもあります。復習を通じて、概念・理論・用語を分析のツールとして使えるようにしておいて下さい。
 本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しません。

【参考書】

- 栗林輝夫『現代神学の最前線—「バルト以後」の半世紀を読む』（新教出版社、2004年）。
- 土肥昭夫『日本プロテスタント・キリスト教史』（新教出版社、2004年）。
- 森本あんり『アメリカ・キリスト教史—理念によって建てられた国の軌跡』（新教出版社、2006年）。
- Motoe Sasaki, *Redemption and Revolution: American and Chinese New Women in the Early Twentieth Century* (Cornell University Press, 2016).
- 芦名定道『現代神学の冒険—新しい海図を求めて』（新教出版社、2020年）。

【成績評価の方法と基準】

1. リアクションペーパー（30%）
2. 期末試験（70%）

この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とします。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更のため特になし。

【学生が準備すべき機器他】

パソコン等情報機器ならびにインターネットへの接続環境が必要です。

【Outline (in English)】

The course provides historical background on the relationship between religion and social movements by paying special attention to the Christian religion. It explores the ways that Christianity, along with the other modern ideas and practices such as the Enlightenment, romanticism, social Darwinism, utopianism, socialism, and nationalism, influenced the development of abolitionism, feminism, colonialism/imperialism, labor movements, decolonization movements, and civil rights movements.

By the end of the course, students are expected to be able to: 1) understand the basic concepts and theories that are important in examining the relationship between social movements and Christianity, 2) analyze the relationship between religion and social movements from the perspective of historical consciousness, and 3) conduct a basic historical analysis of social movements based on the ideas of Christianity.

Students will be expected to review each class to: 1) understand the important concepts, theories, and characteristics of social movements, and 2) be able to use the concepts and theories as tools for analysis. In each reaction paper, students may be required to analyze the connection between the movements and the theories that were covered in previous classes.

Students are expected to spend 4 hours per week working on homework, revision, and assignments.

The final grade will be decided by reaction paper (30%) and the final assignment (70%).

POL200GA

国際関係研究 I

松本 悟

配当年次/単位：1～4年 / 2単位

旧科目名：国際関係研究 I (アクターに着目した理論の捉え方)

旧科目との重複履修：×

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

人数制限・選抜・抽選：

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

本授業ではアクター (行為の主体) に着目して「国際関係」を学ぶ。「国際関係」を国家の関係のみで語ることは困難であり、特にNGOや企業などの民間アクターの存在は重要である。本授業ではそのために必要な理論を習得するとともに、それを通して国際社会の諸問題を多角的に分析する力を養う。

【到達目標】

- (1) 授業で扱う非国家アクターが「国際関係」にどのような影響を及ぼしているかを説明できる。
- (2) 「国際関係」に関わる事件や問題が生じたとき、理論的に現象を説明することができる。
- (3) 関連する文献の趣旨を正しく読み取ることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

■基本方針：法政大学の教育活動における行動方針がレベル1以下の場合には対面で実施する。なおレベル2以上の場合にはリアルタイムオンライン授業への変更を予定しているが、詳しくは学習支援システムの掲示板で連絡する。

■割り当て教室が広い場合、初回授業から対面で授業を行う。

■フィードバック：講義への質問は、学習支援システムの掲示板に質疑応答コーナーを設けて、そこでやり取りする。

■授業後課題：毎回課す。思考を促す課題で、200字～800字程度で書いてもらう。アカデミックスキルを維持・向上することも目的としている。提出期限は授業日から3日以内。毎回の授業冒頭で課題への全体コメントを行う。

■履修者人数の確認：初回授業後、履修希望人数を把握し、万が一教室定員を超える場合は2-4年生を優先する形で抽選を実施する。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	国際関係研究の概要及び本授業の狙いと全体像を講義する。
2	理論とは何か	国際問題を考える際に無意識に使っている「理論」を自覚する。
3	リアリズム	具体例を通して国際関係の基本的パラダイムであるリアリズムを理解する。
4	リベラリズム	具体例を通して国際関係の基本的パラダイムであるリベラリズムを理解する。
5	コンストラクティヴィズムとマルキシズム	具体例を通して国際関係の基本的パラダイム (アプローチ) であるコンストラクティヴィズムとマルキシズムを理解する。
6	演習	ここまで学んだ4つのパラダイムを使って、国際社会の具体的な問題を複数の角度から分析する演習を行う。
7	NGOとは何か	NGOの定義、歴史、特徴などについて学ぶ。
8	規範起業家としてのNGO	国際社会におけるNGOの役割として重視されている規範起業家について具体的な事例に基づいて考える。
9	国家補完と脱国家	NGOは国家を補完しているのか、国家を「脱している」(trans) のか、国際人道支援を通して考える。
10	ガバナメンタリティ	国家に操られずにNGOが国家に影響を与えることは可能なのか、具体例を通して考える。
11	民間助成団体	世界中のNGO活動に資金を提供する民間の助成団体の機能を国際関係学の枠組みで考えてみる。
12	民間企業と国際関係	民間企業が国際社会に及ぼしている影響について具体例を通じて考える。
13	ビジネスと人権	私的企業は何をしてもいいのか、「国連ビジネスと人権に関する指導原則」を例に考える。

- 14 まとめ (プライベートレ ジーム) 「非国家アクターが作る国際関係と責任の所在」という視点から授業全体を振り返る。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

毎回の授業後課題は、法政大学の図書館 HP のデータベース等から文献を検索して論じるなど、思考を促すものである。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト (教科書)】

【期末レポートの課題として使う】松本悟・大芝亮編 (2013) 『NGO から見た世界銀行—市民社会と国際機構のはざま—』ミネルヴァ書房。

【参考書】

毛利聡子 (2011) 『NGO から見る国際関係：グローバル市民社会への視座』法律文化社。

【成績評価の方法と基準】

平常点 (毎回の授業後課題) 50%、期末レポート 50%。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

・学部長職にあった過去2年間は代講を立てていたため特になし。

【学生が準備すべき機器他】

授業コードを使って学習支援システムに自己登録すること。

【その他の重要事項】

・長年NGOとして国際開発の分野に携わってきた教員が、経験に基づくNGOの現状を交えて講義する。

・2021年度と22年度は代講の教員が担当した。3年ぶりに松本が担当するため、授業の内容や進め方は大きく変化する。

【Outline (in English)】

【Course outline】

This course focuses on "actors" in global society, which are not only nation-states but also NGOs and private companies. It enables students to analyze the global issues from various perspectives and to recognize the significance of "actor-oriented" and theoretical approach in international studies.

【Learning Objectives】

By the end of the course, students should be able to do the followings:

- 1) explaining the influences exerted by non-state actors in "international relations".
- 2) explaining the incidents or problems relevant to "international relations" from theoretical viewpoints.
- 3) being able to read the relevant literatures critically and analytically.

【Learning activities outside of classroom】

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content or to write a short essay on a given topic.

【Grading Criteria /Policy】

Grading will be decided based on a short essay at each class meeting (50%) and a term-end report (50%).

ARSF200GA

国際関係研究Ⅱ

松本 悟

配当年次／単位：1～4年／2単位

旧科目名：国際関係研究Ⅱ（メコン流域国の開発と環境（社会と自然））

旧科目との重複履修：×

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では東南アジア半島部のメコン地域／メコン河流域国／大メコン圏という「地域」に着目して「国際関係」を学ぶ。「開発」をテーマにし、特にその社会的・環境的側面を多角的に見る視点を養う。

【到達目標】

- (1) 「地域研究」の視点からメコン河流域の自然環境やそれに依拠する社会について学び、日本とは異なる生活様式や社会への理解を深める。
- (2) メコン河流域の環境・社会問題と日本との関係について学ぶ。
- (3) 反転学習を通して、「地域」を分析するための多角的な視点を身に付ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

■基本方針：法政大学の教育活動における行動方針がレベル1以下の場合是对面で実施する。なおレベル2以上の場合にはリアルタイムオンライン授業への変更を予定しているが、詳しくは学習支援システムの掲示板で連絡する。

■割り当て教室が広いため、初回授業から対面で行う。

■発表とグループ討議：演習スタイルで授業を運営する。第3回授業以降は、課題文献を読んできていることを前提にした発表とグループ討議及び教員の補足授業という構成で行う。分析的な文献講読、討議、発表といったアカデミックスキルを高めることを目的としている。詳細は第1回授業で説明する。

■授業後課題：毎回の課題文献と授業をもとに200字～400字で書く。授業後3日以内に学習支援システムに投稿。

■発表担当者：履修人数にもよるが複数の履修者で毎回担当してもらう予定。事前に準備し共同で発表する。なお、発表用のパワーポイントもしくはレジュメは授業前日までに教員にメールで提出すること。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	本授業の狙い、進め方を説明する。グループと発表者を決める。
2	「地域」とは何か（メコン全体）	メコン地域、メコン河流域国、大メコン圏などの用語をもとに、国際文化学部で学ぶ「地域」の射程について考える。
3	越境環境問題（中国、ラオス、タイ）	国を越える環境問題をどう考えるのか、因果関係やレジューム論などを参照軸に議論する。
4	小さな村から見えるもの（ラオス、タイ）	ラオスの小さな村の30年間の歩みから「開発と環境」を捉えるマクロな視点とミクロな視点について議論する。
5	森林「減少」と森林「破壊」（メコン全体）	環境問題が抱える広義の政治性について、ポリティカルエコロジーの視点を参照軸に議論する。
6	影響予測の人文学（タイ、ラオス）	開発の社会・環境影響を調査すればいいという問題解決策について、国際文化や地域研究の視点から議論する。
7	資金から見た人権・環境問題（ミャンマー）	環境破壊や人権侵害につながりやすい開発を進める資金源について議論する。
8	財と資源（カンボジア）	カンボジアのトンレサップ湖の漁業を事例に、財として見た魚について議論する。
9	洪水と水害（カンボジア、ベトナム）	メコンデルタの洪水を事例に、「水が溢れる」という現象について、国際文化の視点から議論する。
10	人身取引（タイ、ミャンマー）	不法滞在者への人権侵害を通じて、法律では解決できない問題を国際文化の視点から議論する。
11	境界（メコン全体）	メコン地域の呼び方は、政治的な背景によって異なる。何かに境界線を引くことの意味と危うさを議論する。

- 12 重複の機能（メコン全体） メコン地域を含む国際協力の枠組みは複数存在し、一見すると重複している。そこから重複することの働きについて国際文化の視点から議論する。
- 13 歴史から考えるメコン開発（メコン全体） 系譜学、考古学の視点から振り返り、歴史「から」ではなく歴史「を」学ぶ意義について議論する。
- 14 開発と責任（メコン全体） 開発が環境破壊や人権侵害に繋がる時、その「責任」を問いたくなるが、責任とは何だろうか。この授業全体を「責任」から問い直し議論する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

発表担当にあたっていない場合でも、必ず事前課題を行ってこよう。反転学習なのでそうでないと授業についていけない。また、授業後課題は授業後3日以内に学習支援システム（Hoppii）に投稿する。本授業の準備学習・復習時間は各1-2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

授業の中で紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業への参加度（授業直後のリアクションペーパー 10%、授業後課題 20%）30%、発表 10%、グループ討議への参加度 20%、期末レポート 40%。期末レポートでは、授業で取り上げた概念、理論、事象を繋げて論理的な文章を書くことを求める。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

学部長職にあった過去2年間は代講を立てていたため特になし。

【学生が準備すべき機器他】

課題文献や授業後課題があるので、授業コードを使って必ず学習支援システム（Hoppii）に自己登録すること。

【その他の重要事項】

■第1回授業授業後に発表担当者とグループを決めるので、履修を検討している学生は必ず第1回授業に出席すること。どうしても出席できない場合は、事前に履修の意思を担当教員にメールで連絡すること（smatsumoto[at]atmarkihosei.ac.jp）。

■学部や学年を超えて演習スタイルの授業を行うので、通常の演習（ゼミ）とは異なる学びがある。

■メコン河流域国で30年以上にわたってNGO活動に従事してきた教員が、その活動経験を事例に組み込みながら授業を運営する。

【Outline (in English)】

【Course outline】

This course focuses on "Mekong region" or "Mekong basin countries" or "Greater Mekong Subregion" of the mainland Southeast Asia and covers "development," in particular its social and environmental aspects in order to learn the multidisciplinary approach.

【Learning Objectives】

By the end of the course, students should be able to do the followings:

- 1) taking reflective views of area studies, in particular implications of society-natural environment nexus in the Mekong region.
- 2) explaining the relations between the social environmental issues in the Mekong region and Japan.
- 3) understanding multi-disciplinary approach for analyzing "area" through flipped classroom method.

【Learning activities outside of classroom】

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content or to write a short essay on a given topic.

【Grading Criteria /Policy】

Your overall grade in the class will be decided based on the following: presentation: 10%, group discussion: 20%, in-class contribution: 30%, term-end report : 40%.

ARSk300GA

人の移動と国際関係Ⅲ

水谷 明子

配当年次／単位：2～4年／2単位

旧科目名：人の移動と国際関係Ⅲ（アジア・太平洋）

旧科目との重複履修：×

毎年・隔年：隔年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：

備考（履修条件等）：旧：移民研究Ⅲ（アジア・太平洋）の修得者は履修不可

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

近代以降の国際関係は、地域・国家における政治・経済・社会の変動から、人・モノ・情報の交換範囲を拡大し、国境を超えた移動・相互関係を増大させてきた。植民地支配や労働市場の拡大、戦争などの歴史的経緯や政策によって、個人や集団同士は「他者」への認識および「他者」との関係を構築し、現在にも様々な影響を与えている。本講義では、東アジア国際関係における人々の移動の歴史やそれを引き起こした要因・政策を押さえた上で、現在の日本・アジアの現状を検討する。また、移動の実態に即して考えるために、近現代アジアにおける女性・家族の移動の特徴を考え、グローバル化と同時に進行する多文化化の中で、「他者」の理解や歴史・文化の対話による衝突と交流の可能性の理解を「自らの関わり」として深められるような議論を行いたい。今後、現実には「他者」との摩擦に直面した場合にも、歴史認識に鍛えられた批判精神を葆てる能力を養うことを目的とする。

【到達目標】

1) 近現代国際関係におけるヒトの移動の背景・要因についての理論を確認し、2) それらが近現代東アジアにおいてどのような歴史・政策を辿ってきたのか、具体的に検討する。更に、3) 実態的な移動がどのように生じ、地域や移動するヒトに具現化しているのか「女性の移動」の特徴を捉え、4) 現在そして今後の日本の政策の課題を検討する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連。

【授業の進め方と方法】

・本年度は教室で対面型の授業を行う。
・事前に授業資料を掲示し、授業内で予習・復習の課題を課す。
・資料を読み、特に現代日本の事例について受講生の関心に基づいてグループワーク、ディスカッションを行い、それについて発表の時間を設ける。
・講義の感想や質問事項をコメントシートに記入し、次回にそれについても議論する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	国際関係学における人々の移動についての議論を紹介する。 * 初回授業は対面授業を実施しない。 学習支援システム等で資料を掲示する。 受講者数が定員を超過する場合は初回授業の課題をもとに選抜を行う。
2	東アジアにおける近代国際関係と人々の移動 (1)	東アジアにおける近代国際関係の歴史を人々の移動から捉え直し、政治・経済・社会の変動と移民、出稼ぎの関係を検討する。近現代東アジア国際関係史を人々の移動から捉える研究史を整理する。
3	東アジアにおける近代国際関係と人々の移動 (2)	日本近代の経済発展と植民地支配を人々の移動から検討する。 グループワークのテーマを検討する。
4	東アジアにおける近代国際関係と人々の移動 (3)	第二次世界大戦期の軍事を伴う人々の移動について検討する。
5	冷戦期東アジアと人々の移動 (1)	太平洋戦争後、および冷戦初期の体制が人々の移動とどのように関わっていたか、朝鮮半島・中国・台湾の戦後を事例として検討する。
6	冷戦期東アジアと人々の移動 (2)	太平洋戦争後、および冷戦初期の体制が人々の移動とどのように関わっていたか、日本・沖縄の戦後を事例として検討する。
7	現代日本における国際関係と人々の移動 (1)	経済成長後の日本における人々の移動の経験および「他者」意識について、「難民条約」締結と人権の視点から検討する。

8	現代日本における国際関係と人々の移動 (2)	バブル崩壊やリーマンショックなど、1990年代以降の日本の断続的な経済不況とその中での労働力不足に伴う外国人労働者導入の議論から、人々の移動を検討する。
9	現代日本における国際関係と人々の移動 (3)	戦前・戦後における女性の移動および「移動の女性化」と言われる現象について、ジェンダーの視点から考える。
10	現代日本における国際関係と人々の移動 (4)	移動後の家族、および子どもたち、または家族離散など、家族の視点から人々の移動を考える。
11	グループ発表 (1)	授業に関するテーマの中から、受講生が関心のあるものを選び、チームで調査・ディスカッションした上でグループワークの発表を行う。
12	グループ発表 (2)	授業に関するテーマの中から、受講生が関心のあるものを選び、チームで調査・ディスカッションした上でグループワークの発表を行う。
13	グループ発表 (3)	授業に関するテーマの中から、受講生が関心のあるものを選び、チームで調査・ディスカッションした上でグループワークの発表を行う。
14	振り返りとまとめ	振り返り全体を通してのディスカッションを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・配布資料などを参考に予習・復習し、受講コメントを提出する (30分)。
・授業の展開に応じて、指定された文献や参考書を読み、問題点や疑問点を事前にまとめる。
・予定では第11回目以降、グループごとに報告を行うので、これに向けてグループで資料を検討し、発表用資料の作成・事前練習などに取り組む。
・学期末レポートの準備をする。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しないが、各回に資料を指示する。

【参考書】

カースルズ&ミラー『国際移民の時代 第4版』関根政美ほか訳、名古屋大学出版会、2011年。
蘭信三『日本帝国をめぐる人口移動の国際社会学』不二出版、2008年。
清水睦美ほか『日本社会の移民第二世代』明石書店、2021年。
田中宏『在日外国人——法の壁、心の溝 第三版』岩波新書、2013年。
サスキア・サッセン『グローバル・シティ：ニューヨーク・ロンドン・東京から世界を読む』筑摩書房（ちくま学芸文庫）、2018年。

【成績評価の方法と基準】

・毎回のコメントシート提出 30%。
・グループワーク 30%
・学期末レポート 40%
この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

本年度が初めての担当なので記載すべき情報がない。

【Outline (in English)】

This course introduces the history of immigration in east Asia and discusses political, economic, social, cultural effects. The goal of this course is to understand and communicate with “others” based on the historical perspective. Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than two hours for a class. Grading will be decided according to the following process short-comment-sheet every after class (30%), group work(30%), and term-end report (40%).

ARs400GA

地域協力・統合

大中 一彌

配当年次／単位：2～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈A〉〈ダ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「ヨーロッパとは何か」という問いに、自分なりの答えを言えるようになるのがこの授業の目的です。授業を紹介する動画（約10秒）をご覧ください <https://youtube.com/shorts/Ro6Mhc34ck8> この授業を適切に位置づけるために、法政大学 Web シラバスの検索結果（2022年度）を参考にしながら、ヨーロッパの問題を扱うさいに、どのような切り口がありうるかを以下簡単に紹介させていただきます。まず、法学部なら、第2次世界大戦後の統合をめぐる政治史や EU の諸機構に焦点をあてるやり方があります（「EU の政治と社会」）。経済学や経営学を学ぶ立場からは、同じく第2次世界大戦後のヨーロッパ経済史に焦点をあてるやり方があるでしょう（「ヨーロッパ経済論」）。農業経済学の観点から EU の共通農業政策（CAP）を扱う授業も開設されています（「農業経済論A」）。グローバル教養学部（GIS）には、中世ないし近代以降のヨーロッパ史に注目した授業があります（「European History」, 「History of Modern Europe」）。これらの授業と比較した時の、本授業「地域協力・統合」の特色は、高校までの世界史の知識を確かめながら、思想史や文化史に軸足をおきつつ、これからの国際社会で活躍する人材が身に付けておくべき基礎教養として、「ヨーロッパとは何か」について学ぶ点にあります。過去と現在を往復しながら、とくにヨーロッパと、その外部とされるものの境界（ボーダー）に焦点をあてつつ、認識をほりさげていきます。

【到達目標】

- ①「ヨーロッパ」の地理的広がりについて、みずからの考えを述べるができる。
- ②古代ギリシア、ヘレニズム、古代ローマの文化的・政治的・哲学的遺産と「ヨーロッパ」を関連付けて（専門家としてではなく）学部学生にふさわしいレベルで論じることができる。
- ③西ローマ帝国崩壊前後以降、10世紀にいたるゲルマン人、ノルマン人、スラブ人の民族大移動と「ヨーロッパ」の形成を、各国史との関係で（専門家としてではなく）学部学生にふさわしいレベルで論じることができる。
- ④カトリシズムを軸として形成される中世のヨーロッパと、正教を軸として形成される東ヨーロッパや、イスラームの拡大を関係づけつつ（専門家としてではなく）学部学生にふさわしいレベルで論じることができる。
- ⑤ルネサンス期を特徴づけるユダニズムの人間論上の意義、大航海時代における非ヨーロッパ地域への影響、宗教改革もたらした信仰と政治の関係性について、（専門家としてではなく）学部学生にふさわしいレベルで論じることができる。
- ⑥中央集権化やヨーロッパ外における植民地をめぐる争い、「文芸の共和国」の出現など、一連の政治的文化的な変化を背景としつつ、商業の発展をつうじて発生した「ヨーロッパ中心主義」的な意識に関し、肯定・否定の両面から論じることができる。
- ⑦イギリス、アメリカ、フランスや他のヨーロッパ諸国にみられる市民的権利にもとづく思想・制度の発達について、（専門家としてではなく）学部学生にふさわしいレベルで論じることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

- ・この科目「地域協力・統合」は、教室での「対面」授業が基本です。ただし、就職活動や体調など、ひとりひとりの学生の事情により、Zoom を活用した授業参加も積極的にみとめています。
- ・授業時間（100分）の前半 80分程度は、受講者全体へのフィードバック（15-20分）と講義（50-60分）にあてています。
- ・授業時間（100分）の後半 20分程度を、グループディスカッションにあてています。
- ・毎回の授業資料は Google Classroom や学習支援システム-Hoppii をつうじて事前に配布しています。
- ・学習支援システム-Hoppii を利用し、小テストを受験してもらう場合があります。
- ・授業内容の録画を、受講者の個人情報保護に留意しつつ、受講者のみが視聴できる形で共有する場合があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	受講上の約束事	授業内容の紹介、注意事項の説明

2	ヨーロッパの地理的定義	ユーラシア大陸から突き出した「半島」としてのヨーロッパ：東の境界は？
3	人の移動と石器・青銅器・鉄器時代 考古学的定義 神話と政治	ヨーロッパ各地に広がるケルトの文化 ギリシア世界 「ヨーロッパ」の語源とされる諸神話や、「アジア」と対比した際のギリシア世界の特質とされるものについて学ぶ 「ギリシア文明」の地理的拡大 ローマの盛衰と遺産としての法制度や建築
4		
5		
6	ヘレニズムと地中海世界	
7	古代ローマ	
8	西ローマの崩壊と民族大移動	統一的な地中海世界の終わり＝「文明」の崩壊のイメージ及びアジア諸民族の侵入 いわゆるノルマン人の全ヨーロッパへの進出、スラブ人の中東欧への進出 西ヨーロッパにおけるカトリシズムを軸とした中世的秩序の形成
9	「周縁」としてのヨーロッパ	
10	フランク王国と「12世紀のルネサンス」	
11	大航海時代とルネサンス、宗教改革	ポルトガルによるアフリカ大陸西岸の航海、ユダニズム的な「人間の尊厳」の観念、プロテスタント主義の発生によるカトリック圏としての西ヨーロッパの分裂 ハプスブルク家、オスマン・トルコ、テューダー朝のイギリス、ユグノー戦争、三十年戦争。西ヨーロッパ諸国間の紛争の新大陸やアジアにおける展開 ジャック・カロ「戦争の悲惨」。クリュセ、コメニウス、ベンラに芽生えた統合の思想
12	16世紀-17世紀のヨーロッパ政治史	
13	「主権」の発動たる戦争、その悲惨を目の当たりにした人々による平和の希求	
14	啓蒙思想と革命	君主を含めた主権者同士の連合から、民主主義、ナショナリズムの時代への移行

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1. とても簡単な小テストが、学習支援システム-Hoppii 上で宿題として出される場合があります。
2. 大学設置基準によると、講義や演習で2単位を得るのに必要な予習・復習の時間は1回につき4時間以上とされているそうです。

【テキスト（教科書）】

教科書を買う必要はありません。学習支援システム-Hoppii や Google Classroom 上で PDF ファイル等のかたちで資料を配布します。

【参考書】

授業内で指示します。

【成績評価の方法と基準】

- 下記の成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格（レターグレードでCマイナス以上）とします。
- ・期末テストは行いません 0%
 - ・出席はとりません 0%
 - ・小テストの受験【Hoppii を使うため、体育会や就職活動中の学生、所属キャンパスを問わずすべての学生がオンラインで受験できます】60%
 - ・運営への協力【協力してくれた方に加点しています；配布資料の誤字や、内容の誤りの指摘。オンライン授業の受講に必要なスキルを学生間で共有するなどのかたちの運営協力を含む】5%
 - ・グループディスカッション&学生間の共働【グループディスカッションへの参加や、Google Classroom 上での意見のとりまとめ、とりまとめた結果の教員への送信、等】5%
 - ・期末レポート【あくまで希望者のみ提出です】30%

【学生の意見等からの気づき】

- ・ヨーロッパの文化史や政治史、経済史についての学びは、大人の教養として経験しておいたほうが良さそうではあるけれど、わかりづらそうで敬遠したくなるという方もいるようです。
- ・この科目「地域協力・統合」は、高校までの学習内容を確認しながら、大学の学部レベル以上の内容に深めていくという組み立てとすることにより、参加のハードルを下げ、そうした方が、必要な学びにアクセスできる場となることを目指しています。

【学生が準備すべき機器他】

資料の共有などに、Google Classroom や Hoppii を使いますので、必要な機器や情報環境はお持ちであったほうが良いでしょう。

【その他の重要事項】

- ・わからないことは、気兼ねなく、お問合せください。
- ・留学や大学院進学、就職などの相談も OK です。
- ・問い合わせ先や、授業内容のイメージについては、次のリンク先をご覧ください【学内生のみ、要統合認証】 <https://docs.google.com/document/d/1N26CUUJJPX-y1xfITeM4eYo7XOVtLF8b0Y3BVZ71I1I/edit?usp=sharing>

【Outline (in English)】

【授業の概要（Course outline）】

What is Europe? This question, which many present-day Europeans ask themselves, is the main theme of this course. In this class, students will examine the question with an emphasis on the history of ideas and culture. Starting with the geographical notion of Europe as a "continent", students will familiarize themselves with its basic archaeological, ethnic, religious, philosophical, and historical aspects. Students will be encouraged to explore these areas to reflect on the modern idea of Europe as a haven of peace and the possibility or impossibility of a single European identity. She or he will move back and forth between the past and the present, focusing in particular on the ambivalence of the boundaries between Europe and its "others", in order to deepen her or his understanding of the question.

【到達目標 (Learning Objectives)】

By the end of the course, students should be able to do the following:

- 1) Expressing her or his own views about the geographical spread of "Europe".
- 2) Relating the notion of "Europe" to the cultural, political, and philosophical legacies of ancient Greece, Hellenism, and Rome, and making an argument at a level appropriate for an undergraduate student.
- 3) Discussing, at a level appropriate for undergraduate students, the Great Migration of Germanic, Norman, and Slavic peoples and the formation of "Europe", in relation to the history of each country from the time of the collapse of the Western Roman Empire to the 10th century.
- 4) Explaining the relationship between Western Europe in the Middle Ages, which was formed around Catholicism, and Eastern Europe, which was formed around Orthodoxy, and the expansion of Islam, at a level appropriate for undergraduate students.
- 5) Describing, at a level appropriate for undergraduate students, the significance of humanism, which characterized the Renaissance, the impact of the so-called "Age of Discovery" on non-European countries, and the redefinition of the relationship between faith and politics resulting from the Reformation.
- 6) Arguing, both positively and negatively, about the "Eurocentric" consciousness that emerged through the development of commerce under a series of political and cultural changes, including the centralization of power, wars in colonies outside Europe, and the emergence of the "Republic of Letters".
- 7) Illustrating the significance for modern societies of the development of civil rights-based ideas and institutions with historical events in the United Kingdom, the United States, France, and other European countries at a level appropriate for undergraduate students.

【授業時間外の学習 (Learning activities outside of classroom)】

- 1) A simple quiz will be given almost every week as homework. Participation in this quiz is mandatory for all students taking the course. In order to answer this quiz, students need to use the learning support system - Hoppii (on the Internet).
- 2) According to the Standards for the Establishment of Universities, the minimum time of preparation and review required to earn two credits for a lecture or seminar is four hours per session.

【成績評価の方法と基準 (Grading Criteria /Policy)】

Your overall grade in this course will be decided based on the following:

- Quizzes on LMS-Hoppii - 60%
- Discussion / Active contribution (Participating in class discussions via Zoom) - 5%
- Other kinds of contribution (Cooperation in class management to facilitate the discussion, etc.) - 5%
- Term paper (optional) - 30%

SOS200GA

実践国際協力

松本 悟

配当年次／単位：1～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

大学教育で「実践」から学ぶことには2つの意義があると考えます。1つは体系立った学習の応用として、もう1つは新たに学習すべき領域を見つけるためです。この授業では後者を主たる目的とする。テーマは「国際開発協力」を中心に取り上げます。国際開発協力の実践例を通して、国際社会の理解につながる思いもよらぬ学問分野の大切さを発見し、更なる学習と探究の端緒となるようにします。

【到達目標】

- (1) 国際開発協力の理解に必要な概念や用語を理解し説明できるようになる。
- (2) 国際開発協力の実践課題を抽象化し他に応用できるようになる。
- (3) 実践的な学習におけるグループ討議の意義を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

■基本方針：法政大学の教育活動における行動方針がレベル1以下の場合には対面で実施する。なおレベル2以上の場合にはリアルタイムオンライン授業への変更を予定しているが、詳しくは学習支援システムの掲示板で連絡する。

■割り当て教室が広いため、初回授業から対面で行う。万が一教室定員を超えた場合は、2-4年生の履修を優先して抽選する。

■フィードバック：毎回の発表に対しては授業内にコメントする。また授業への質問は、学習支援システムの掲示板に質疑応答コーナーを設けて、そこでやり取りする。

■授業の方法：具体的な国際開発協力のケース（事例）をもとにグループ討議を行う「ケースメソッド」を準用する。ケース文書は毎回事前課題の宿題として課す。①受講者をグループに分けての討議、②グループ発表を含む全クラス討議、③担当教員によるコメント・補足講義、の3つの要素を組み入れる。なお、本授業のケースメソッドはビジネススクールなどで使われる問題解決の手法としてではなく、視点の抽出方法として活用する。

■授業後課題：毎回の課題文献と授業をもとに書く。授業後3日以内に学習支援システムに投稿。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業のねらい、ケースメソッド、各ケースの特徴、グループ分け。履修者人数の確認。
2	国際開発協力概論	国際開発協力がどのような組織によって、いかなる分野で行われているかを概観する。
3	ケース1 保健衛生プロジェクト	あらかじめ示した質問にしたがってグループ討議。ケースの理解を深める。
4	ケース1を受けたグループ発表・討議	ケース1に関するグループ発表、その後全体討議。
5	ケース2 少数民族プロジェクト	あらかじめ示した質問にしたがってグループ討議。ケースの理解を深める。
6	ケース2を受けたグループ発表・討議	ケース2に関するグループ発表、その後全体討議。
7	ケース3 参加型開発プロジェクト	あらかじめ示した質問にしたがってグループ討議。ケースの理解を深める。
8	ケース3を受けたグループ発表・討議	ケース3に関するグループ発表、その後全体討議。
9	ケース4 緊急援助プロジェクト	あらかじめ示した質問にしたがってグループ討議。ケースの理解を深める。
10	ケース4を受けたグループ発表・討議	ケース4に関するグループ発表、その後全体討議。
11	事前事業評価表を読み解く	開発援助事業の事前事業評価をその場で読んで疑問点をあげ、その妥当性をグループで討議する。
12	事前調査報告書を読み解く	開発援助事業の事前調査報告書を事前に読み、そこから導かれる実務的に重要な点をグループで討議する。

13	実際のケースから	担当教員もしくは外部のゲストの実体験をもとに、実践上の課題を議論する。
14	授業内試験	13回の授業をもとにした授業内試験を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

全員、授業前にケース（事例）文章を必ず「精読」して来なければならない。「精読」とは、わからない用語を自分で調べ、事実関係を理解できるように読むことを指す。通学電車の中でざっと目を通すような読み方では授業に参加できないと考えて欲しい。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

山口しのぶ・毛利勝彦編（2011）『ケースで学ぶ国際開発』東信堂。

【参考書】

W. エレット（2010）『入門ケース・メソッド学習法』ダイヤモンド社。その他、授業の中で示す。必要に応じてコピーを配布する。

【成績評価の方法と基準】

毎回の授業後課題 20%、事前課題文献に基づいたグループ討議への参加度 40%、授業内試験 40%。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

■遅刻や欠席によって固定したグループでの討議が困難になることがあるので、そうした問題が生じないような工夫をする。

■100分では討議と発表が終わらないという声が多いので、最初の2～3ケースは1つのケースに授業2回分を充てることを検討する。

【学生が準備すべき機器他】

授業コードを使って必ず授業支援システムに自己登録すること。課題文献の提示や課題の提出に学習支援システム（Hoppii）を使う。

【その他の重要事項】

■国際開発協力 NGO での実務経験を有する教員が、自ら関わった具体的な開発事例を議論のためのケースとして取り上げる。

■グループ討議を軸とする授業であり、遅刻や欠席はグループ討議を困難にするため、必ず出席すること。

■グループは第3回授業から事前に固定して作る。グループ替えは3回行う。第1回授業に出席できないものの履修を希望する学生は、必ず第1回授業終了後3日以内に履修の意思を担当教員までメールで連絡すること（smatsumoto[at]atmark[hosei.ac.jp]）。

【Outline (in English)】

【Course outline】

This course aims to motivate students to find out specific topics or fields which they want to study more to understand international development cooperation. The Case Method is applied for this course.

【Learning Objectives】

By the end of the course, students should be able to do the followings:

- 1) Understanding the key concepts and the technical terms relevant to international development cooperation.
- 2) Turning abstract the lessons learned from the case method discussion and applying it for other cases.
- 3) Understanding benefits and usefulness of the group discussion in practical learning.

【Learning activities outside of classroom】

-Students will be expected to have read and analyze the assigned case documents based on the instruction before each class meeting.

-Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting.

-Totally, your study time will be at least four hours for a class.

【Grading Criteria /Policy】

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Term-end examination: 40%, assignments after a class meeting: 20%, in-class contribution: 40%.

SOC300GA

実践社会調査法

松本 悟

配当年次／単位：2～4 年／2 単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
人数制限・選抜・抽選：

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

質的社会調査の実践と量的社会調査のリテラシーを学ぶことで、卒業研究などで活かせるような研究方法を身に付けることを目指す。なお、量的社会調査についてはリテラシーを学ぶに留め実践は行わない。

【到達目標】

- (1) 統計的な社会調査データの読み取りができる。
- (2) 質的調査（観察、ドキュメント分析、ライフストーリー分析など）を実践できる。
- (3) 卒業研究などに必要な、問いの構想、妥当な調査、収集したデータを適切に使った短い論文執筆ができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

■基本方針：法政大学の教育活動における行動方針がレベル1以下の場合には対面で実施する。なおレベル2以上の場合にはリアルタイムオンライン授業への変更を予定しているが、詳しくは学習支援システムの掲示板で連絡する。

■割り当て教室が過去の履修者数と比べて十分広いため、初回授業から対面で行う。万が一教室定員を超えそうな場合は選抜を行う。

■フィードバック：毎回の発表に対しては授業内にコメントする。また授業への質問は、学習支援システムの掲示板に質疑応答コーナーを設けて、そこでやり取りする。

■授業の方法：①事前課題をもとに議論と講義を行う反転授業、②学生が提出した原稿などを全員で事前に読んできてコメントし合う方法、③教員が用意した課題をもとにしたグループ討議・発表などアクティブラーニングをフルに導入する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクションと課題	本授業の内容を説明し、人数が多い場合は選抜のための課題に取り組む。
2	社会調査とは何か？	事前課題文献を読んだ上で、今まで思っていた社会調査との違いを議論する。
3	問いについて考える	社会調査はただ何かを調べることではない。必ず問いが必要である。調査をする際のよい問いとは何かを議論する。
4	ドキュメント分析班の問い	ドキュメント分析を選択した学生たちによる問いの発表とグループ討議。
5	ライフストーリーインタビュー班の問い	ライフストーリーインタビューを選択した学生たちによる問いの発表とグループ討議。
6	ドキュメント分析班の問いの修正と研究・調査計画	2週間前の議論をもとにドキュメント分析を選択した学生たちが問いを修正し研究・調査計画を発表し、それをもとにグループ討議を行う。
7	ライフストーリーインタビュー班の問いの修正と研究・調査計画	2週間前の議論をもとにライフストーリーインタビューを選択した学生たちが問いを修正し研究・調査計画を発表し、それをもとにグループ討議を行う。
8	インタビューとプレゼンテーション	インタビューのやり方と口頭発表の際に留意すべきことを演習形式で学ぶ。
9	論文作法・量的リテラシー	チュートリアルの復習を兼ねて論文のルールを演習する。また、量的調査のリテラシーを演習で向上させる。
10	ドキュメント分析の初稿	ドキュメント分析班の論文初稿を事前に共有して、グループでコメントし合う。
11	ライフストーリーインタビューの初稿	ライフストーリーインタビュー班の論文初稿を事前に共有して、グループでコメントし合う。
12	ドキュメント分析班の口頭発表	ドキュメント分析班の調査結果を口頭発表し、全員で議論する。

13	ライフストーリーインタビュー班の口頭発表	ライフストーリーインタビュー班の調査結果を口頭発表し、全員で議論する。（ドキュメント分析班の最終稿提出）
14	国際文化学部生にとっての社会調査法	授業で学んだことをKJ法を用いて整理する。（ライフストーリーインタビュー班の最終稿提出）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

課題は多いが、その分まちがいがなく実践の力が身につく。履修人数によって時間配分はシラバスと異なる可能性がある。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

大谷他（2005）『社会調査へのアプローチ—論理と方法〔第2版〕』ミネルヴァ書房。
鹿島茂（2003）『勝つための論文の書き方』文春新書。
その他適宜授業で提示する。

【成績評価の方法と基準】

事前・事後課題を通じた平常点40%、ライフストーリーインタビュー論文もしくはドキュメント分析論文の最終稿が60%。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

卒業論文を書く意思のある2、3年生を主な対象とした授業だが、学生の負担が大きいため。2023年度は、各自が取り組む調査はドキュメント分析かライフストーリーインタビューのどちらかを選択してもらうことにする。他の履修者の発表や原稿を通じて、自分が取り組まない調査への理解を補って欲しい。

【学生が準備すべき機器他】

授業コードを使って必ず授業支援システムに自己登録すること。発表の際にはレジュメを人数分用意し事前に配布すること。

【その他の重要事項】

1. 調査のハウツーを学ぶ授業ではない。論文を目的とした調査法の授業である。
2. 教室定員の42名を履修者の上限とする。過去この上限を超えたことはない。初回から対面で実施する。なお、履修の意思があるものの初回授業に出席できない場合は、必ず初回授業より前に担当教員にその旨を伝えること（smatsumoto[at]attマーク[hosei.ac.jp]）万が一、事前連絡者を含めて教室定員を超える履修希望者がいた場合は、選抜のための課題に取り組んでもらい、その結果をもとに履修許可者を決定する。履修許可者は最初の授業から3日以内に学習支援システム（Hoppii）の「掲示板」で学生証番号を発表する。
3. 事前に統計の知識がなくても履修に問題はない。
4. 選抜の基準は知識の有無や学力とは関係ない。
5. 課題は比較的多いが、その分学びも大きい。
6. 遅刻は授業の進行の大きな妨げとなるので始業時には教室に入っていること。
7. 担当教員は社会調査士の資格を持ち、海外での質的社会調査を実践してきた。

【Outline (in English)】

【Course outline】

This course contains lecture / practice of qualitative research, and literacy of quantitative research, but not includes practice of quantitative research. It enable students to apply the qualitative research methodologies such as life-story interview and document analysis and to use quantitative data for their graduation dissertations in proper manners.

【Learning Objectives】

By the end of the course, students should be able to do the followings:

- 1) develop their literacy skills to understand the quantitative data.
- 2) practice the qualitative research (life-story interview and/or document analysis).
- 3) acquire the academic skills to develop a research question, an appropriate research method and write a short paper in academic manner.

【Learning activities outside of classroom】

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to read the assigned book chapter, to write a draft paper or to have completed the required assignments and so on.

【Grading Criteria / Policy】

Your overall grade in the class will be decided based on the following one research paper: 60%, short assignment reports: 40%

HIS300GA

Approaches to Transnational History

北田 依利

配当年次／単位：1～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：

その他属性：〈グ〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This course is designed for students who are interested in learning about the production of historical narratives on different scales: national, global, and in particular, transnational. By exploring various kinds of cross-cultural encounters facilitated by the movement of people, ideas, goods, services, capital, and technology in the Americas and Asia-Pacific regions, students will be introduced to the basic concepts and methods of transnational history. Students will discuss how diverse approaches to transnational history are connected to the issues of colonialism, the development of capitalism, and the formation and spread of the nation-state, thus ultimately to the idea of modernity.

* This syllabus can be updated.

【到達目標】

By the end of this course, students will be able to

- To understand critically and broadly the concepts of and methods to national, global, and transnational histories and modernity.
- To historicize seemingly universal ideas.
- To express their own opinions by analyzing both primary and secondary sources as evidence.
- To acquire knowledge and skills beyond class contents.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

The class consists of lectures, class discussions, and student presentations.

In case enrollment exceeds the classroom capacity, students will be selected by Week 1 through the course website (Hoppii - student information management system). The details of selection will be uploaded to Hoppii.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
Week1	Introduction	An overview of national, global, and transnational history
Week2	National History	How and why are nation-states and history co-constitutive?
Week3	Global History 1	Indigenous settlements in the Americas
Week4	Global History 2	Atlantic slavery
Week5	Transnational History 1	European migration in the United States
Week6	Transnational History 2	Latinx migration in the United States
Week7	Transnational History 3	Asian migration in the United States
Week8	Transnational History 4	American missionaries in China
Week9	Mid-Term Paper Transnational History 5	Japan's internal colonialism
Week10	Group Project Kick-off Transnational History 6	Japan's overseas expansion
Week11	Film Screening Group Project Proposal	Film: "Abandoned: The Stories of Japanese War Orphans in the Philippines and China." (dir. Hiroyasu Obara, 2020)
Week12	Film Screening: Discussion	WWII, U.S. and Japanese empires, Japanese diaspora, and Philippine colonial history
Week13	Group Project Presentation	Presentation and Q&A

Class14 Wrap Up

Summary of the course, Refugees

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students are required to read all the assignments and be ready for class discussions and presentations.

Students will write 4 responses, contribute to 6 discussion forums, and submit 1 mid-term paper, all based on class materials.

【テキスト（教科書）】

Weekly reading assignments are uploaded to the course website (Hoppii - student information management system).

【参考書】

● Akira Iyrie, *Global and Transnational History: The Past, Present and Future* (Basingstoke, UK: Palgrave Macmillan, 2013).

● Pierre-Yves Saunier, *Transnational History* (Basingstoke, U.K.: Palgrave Macmillan, 2013).

● Motoe Sasaki, *Redemption and Revolution: American and Chinese New Women in the Early Twentieth Century* (Cornell University Press, 2016).

【成績評価の方法と基準】

● Preparation for and participation in class discussions 22%

● Daily Assignment 28%: 4 Responses (4*4 points=16), 6 Discussion Forums (6*2points=12)

● Mid-term paper 20%

(4-page analysis of topics discussed from 9/27 to 11/8 by using primary and secondary sources that are assigned as homework or in the classroom. The paper must be submitted electronically via Hoppii - Student Information Management System by Nov. 14.)

● Group Presentation 30%: Proposal 10%, Presentation 20% (10-15 min presentation scheduled on Dec. 20)

【学生の意見等からの気づき】

Group members will be shuffled several times in the semester to allow for more interaction.

【学生が準備すべき機器他】

ITC devices such as laptops and tablets.

OTR200GA

インターンシップ事前学習

岩下 弘史

配当年次／単位：2～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

人数制限・選抜・抽選：

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業の目的は、学生が「国際文化学部で親和性のある企業・団体の第一人者によるプロフェッショナルな仕事」を理解し、今後の就職活動などに活かすことにあります。複数の外部講師ら登壇する「オムニバス授業」です。

本学部学生の中には、卒業後どのような仕事に就くのか、就けるのかという点について不安に思っている学生もいるかもしれません。本授業を通じて、学生は幾つかの業界は国際文化学部との親和性が大きいものであることを理解するでしょう。

本授業では、そうした業界の第一線で働く経験豊富な講師による授業を見聞きすることで、学生はそれぞれの業界・企業・団体の仕事の内容と将来の展望を知ることができます。

【到達目標】

- 1) 国際文化学部に関連する企業・団体の第一線で活躍される外部講師らによる講義を通じて、学生は各職種の特徴・問題などを学ぶことができる。
- 2) 実社会で生きるとはどういうことかを、最新のデータや体験談を交えて学ぶことができる。
- 3) 国際文化学部と親和性の高い企業・機関に関する生の情報を収集することで、「インターンシップ」という就業体験や就職活動などの準備にも活かすことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

国際文化学部のディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

- ・本授業は、初回を除いて外部講師によるオムニバス授業となります。各回ではパワーポイントなどを用いながら、各企業・機関・団体の活動やインターンシップ制度などについて講演して頂きます。毎回、授業時間内にコメントシートに記載してもらいます。
- ・各授業の最後に質疑応答時間を設け、履修者からの質問を受け付けます。その場で外部講師の方にフィードバックをして頂きます。
- ・もし質疑応答時間後に質問が生じた場合（あるいは時間の都合で質疑応答時間中に質問できなかった場合）は学習支援システムの授業内掲示板に質問を書き込んでください。できる限り外部講師の方にご回答いただき、履修者にフィードバックするようにします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	・本授業の目的・方法の説明 ・成績評価の詳細
第2回	シムカート・ピヨルン氏（アムネスティ・インターナショナル日本、キャンベナー）	世界を変える力を見つける
第3回	榎本裕洋氏（丸紅株式会社、所長代理）	総合商社とは何か
第4回	山崎はずむ氏（株式会社 Empath、代表取締役）	スタートアップと Empath：科学と人文知で「共感」に基づくテクノロジーを創造する

- | | | |
|------|--|---------------------------------------|
| 第5回 | 三木陽介氏（毎日新聞 記者の仕事について
社、人事本部、採用研修担当部長） | |
| 第6回 | 田中義樹氏（株式会社 テレビを取り巻く環境の変化、そこに生まれるビジネスチャンス
お客様フロント部、部長） | |
| 第7回 | 松山匡延氏（M-wing 国際協力事業における教育分野での活動について
合同会社、代表） | |
| 第8回 | 代島裕世（サラヤ株式会社、コミュニケーション本部、本部長） | SARAYA のSDGs ビジネス |
| 第9回 | 畑中晴雄氏（花王株式会社、ESG 部門 ESG 戦略部、ESG 戦略スペシャリスト） | Kirei Lifestyle Plan：花王の ESG 戦略と具体的取組 |
| 第10回 | 藤下超氏（NHK、国際放送局、専任局長） | テレビの未来 |
| 第11回 | 水野義弘氏（株式会社 ANA 総合研究所、執行役員 産学連携事業部長） | ポストコロナの航空業界 |
| 第12回 | 神野育氏（株式会社明石書店、編集部、部長） | 出版の今——縮む世界と広がる世界 |
| 第13回 | 片貝悠氏（株式会社インターネットイニシアティブ、プロフェッショナルサービス第一本部、リードエンジニア） | ネット社会を支えるネットワークエンジニアのお話 |
| 第14回 | 大城勝浩氏（株式会社朝日広告社、DXメディア本部長） | 広告業界研究会『広告のホンシ』 |

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・毎回の配布資料については、しっかりと再読すること。
- ・興味のある講師のテーマや職種については、図書館などで関連する文献を調べ、できるだけ視野を広げること。
- ・本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

- ・教科書はとくにありません。授業内において関連資料を配布します。

【参考書】

- ・随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】

- ・「平常点（出席&コメントシート）60%」と「期末レポート40%」による総合評価。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。
- ・第14回目授業後に期末レポートの提出。締切期日・分量・提出方法など詳細については授業時に説明します。

【学生の意見等からの気づき】

- ・例年、各授業の最後には質疑応答の時間をとっている。しかし、必ずしも毎回意見や質問が出るわけではない。そのため、もしも質問が出ない場合には、改めて補足説明をお願いしたり、適宜学生に当てたりするなど、今後も授業運営を工夫する。

【学生が準備すべき機器他】

- 資料配布・課題提出・質疑応答等のために学習支援システムを利用することがあります。

【その他の重要事項】

- ・「インターンシップ事前学習」という授業名称ではありますが、本授業は各業界におけるインターンシップに直結したものではありません。
- ・本授業は「実務経験のある教員による授業」となります。企業・団体の勤務実績があり、第一線で活躍されている外部講師らが業界分析・企業研究などを行います。

【Outline (in English)】

This course aims to introduce professional works which have affinity with educations and researches in the Faculty of Intercultural Communication. In this course, each lecture will be given in omnibus format, mainly by lecturers who work in some Japanese company or international organization. The goals of this course are to understand the difference of activities in each company or international organization. In doing so, they will know what and how to prepare for participating to internship programs or job hunting in the future. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Grading will be decided based on term-end report (40%) and in class contribution (60%).

COT200GA

デジタル情報学概論

重定 如彦

サブタイトル：デジタル社会を生き抜くための基礎知識

配当年次／単位：3～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

人数制限・選抜・抽選：

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

IT を過大評価しても過小評価してもいけない。ムードに流されることなく、正しく理解することが重要である。

デジタル情報化社会、それを支えるデジタル技術全体を広く正しく理解するために、文科系の学生、情報学に関心を持つ人を対象に、広い視野のもとに IT の本質を明確にし、わかりやすく述べる。

この科目は本学部で展開する情報科目ならびに情報デザイン・メディア表現科目群の関連専攻科目の根幹であり、受講者が現代の情報化社会に対する明快な理解と広い視野形成を得ることを目指す。

情報学と聞くと数学の知識などが必要な難解なものであるというイメージがあるかもしれないが、本講義では複雑な数学の知識などがなくても理解できるようにわかりやすく説明する予定であるので、コンピュータや情報学に興味がある方は積極的に受講してほしい。

【到達目標】

デジタルとは何かについて理解する。

デジタル情報を用いた様々な要素技術について理解する。

デジタル情報化社会及び、それを支えるデジタル技術全体を広く正しく理解する。

現代の情報化社会に対する明快な理解と広い視野形成を得る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

大学の行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

上記の到達目標を達成するため、教科書である「デジタル情報学概論」の内容をもとにデジタル情報学に関する様々なテーマについての講義を行う。

授業の前半ではデジタルとは何かについて、基本的な所からわかりやすく解説を行い、基礎知識がついた中盤以降から教科書の各項目に沿って解説するという手順で行う。

具体的にはまず「デジタルとは何か」から始まり、デジタル情報の性質、利点、欠点、応用などについて学び、デジタル情報技術を利用するとどのようなことが実現可能になるかについて理解する。

次に、それらの知識を元に、現実世界の様々な分野において実際に使われていたり、将来において実現するであろうデジタル技術について解説する。

各回の講義は PowerPoint と教科書を用いて行う。PowerPoint の資料は授業が行われる週の頭までに学習支援システムにアップロードするので各自予習を行うこと。

おそらく資料や教科書で予習しただけではわからないことが多数でくると思われる。わからない点を予習によってあらかじめ明確にしておき、授業での説明を聞いてもなお理解できない場合はそのままにせず、積極的に質問すること。

学習支援システムのアンケートの機能を使って、毎回授業のリアクションペーパーに相当するものを実施する。各回の授業の冒頭で、必要に応じてその中からいくつかを取り上げてコメントを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1 回	授業の導入とデジタル	デジタルとは何か 情報の符号化 デジタルの利点と欠点
2 回	情報の伝達	インターネットにおける情報の伝達 データの圧縮。誤りの検出と訂正
3 回	情報通信	有線通信と無線通信 人工衛星を使った通信
4 回	安全な通信と暗号その 1	安全な通信の要件（機密性と安全性） 暗号の概要 共通鍵暗号と公開鍵暗号
5 回	安全な通信と暗号その 2	安全な通信の要件（認証と否認防止） 電子署名 認証局と公証局

6 回	デジタルデータと著作権	著作権と不正コピーの影響 著作権保護技術 HTML と XML
7 回	高度情報通信社会	高度情報通信社会の光と影 行政の情報化 ネットワークコミュニティ
8 回	医療情報システム、福祉情報システム	医療情報システム 福祉情報システム
9 回	交通情報システム、気象・環境システム、防災情報システム	交通情報システム 気象・環境情報システム 防災情報システム
10 回	デジタルコンテンツ	パッケージメディア ネットワーク型デジタルコンテンツ 電子出版
11 回	電子報道、電子図書館、デジタルアーカイブ	電子報道 電子図書館 デジタルアーカイブ
12 回	3 次元 CG、デジタルマップと GIS	3 次元 GC デジタルマップと GIS
13 回	サイバービジネス、ユビキタスコンピューティング	電子商取引 電子マネー・電子商取引のセキュリティ ユビキタスコンピューティング RFID ユビキタス ID
14 回	人工知能、データサイエンス	人工知能、データサイエンス

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学習支援システムにある資料を各自ダウンロードし、予習・復習しておくこと。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業で使用する Power Point の資料（学習支援システムで配布する）

【参考書】

奥川峻史、桜井哲真、『デジタル情報学概論』、共立出版（2000）、ISBN4-320-02994-1

<http://www.edu.i.hosei.ac.jp/~sigesada/>

いくつかこの授業の参考となるような教材を用意したので必要に応じて参照すること。

【成績評価の方法と基準】

「配分」

平常点 10 %、期末試験 50 %、レポート 40 %

「評価基準」

平常点は授業での質問など、授業への積極的な参加態度などを評価する。レポートは冬休みの前の授業にテーマを説明するので、締め切り（冬休み明けの最初の授業の日）までに提出すること。

期末試験は筆記試験で持ち込み不可とする。試験範囲は授業の範囲とする。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

「リンクなどを使って実例をみせてもらえる」とわかりやすい」という指摘があったので、なるべく最新の情報をのせたウェブページなどの情報を提示するように心がける予定である。

また、2013 年度から授業に関連するような教材をいくつか作成し、ウェブから参照できるようにした。

【学生が準備すべき機器他】

PowerPoint を使って資料を提示しながら授業を行う。

【Outline (in English)】

Objectives of this class are to acquire broad knowledge of digital information society, and digital information technologies which support the digital information society.

Students are expected to download the materials in the learning support system and prepare for and review them. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Distribution.

Normal score: 10%, Final exam: 50%, Report: 40%.

Grading Criteria

Normal scores will be based on your active participation in class, including questions.

Reports are to be submitted by the deadline (the first class day after the winter break), as the theme will be explained in the class before the winter break.

The final exam will be a written exam. The scope of the exam will be the scope of the class. Students who achieve at least 60% of the objectives of this class based on this grading method will be considered to have passed the class.

HUI200GA

仮想世界研究

甲 洋介

サブタイトル：

配当年次／単位：3～4年／2単位

旧科目名：

旧科目との重複履修：

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

人数制限・選抜・抽選：初回の授業に出席すること

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

社会の重要なテーマとして「仮想世界」を取り上げる。仮想世界が人工知能と融合して新たな世界観が生まれつつある、と感じている人もいるだろう。本講義は「仮想世界」の問題に対して、受講生が主体となって具体的な視点をを用いて検討できるよう、工夫されている科目である。

● 手ごたえのない「現実」 vs. リアルな「仮想世界」

ヒトはかつて仮想世界を作り出した。気がつくと、現実と仮想との境界はますます曖昧になってきたと感じられる。しかしその2つが理想的にスムーズに接続された状態では未だない。AR/XR やメタバースなど、それらを繋ぐさまざまな接合方法が生み出され試行されている段階とみるのが適切であろう。

一方で、私たちの生活のさまざまな場面で、「手ごたえ」＝リアリティ（現実感）が薄れつつある、とも指摘される。私たちの日常生活は、仮想世界が浸透することによって何が「変化」し、どのように「拡張」されたのか。そして、それは問題なのか。

● つながっているフリは寂しい？ でも親密なのはもっと怖い

「情報」を軸とする変革の波は、社会だけでなく私たちの考え方に対して、深く影響を与え続けている。しかし、私たちはこの変化の意味を十分に把握しているとは言えない。仮想世界がもたらす意味を問い直す。

仮想世界の問題は、物語ではない。私たちの生活に現実に起きている現象である。本講義を通じて受講生は、『ヒトは原初から巧みに仮想（バーチャル）な世界を作り出し、つぎつぎに自分の限界を超えてきた動物である』ことに気づく。この現象の論点を見究め、洞察することを目指す。

【到達目標】

本科目の履修を終えると、次の基本主題とそれに対する考えを具体的な視点を駆使して説明できるようになる

- 人間は原初から巧みに仮想（バーチャル）な世界を作り出し、自らを拡張させてきた動物であること
- 仮想世界における「私」、それはもう一つの「私」なのか
- 「仮想現実感」（VR）の基本要素とその根底をなす考え方
- 仮想世界の社会のさまざまな側面への浸透と影響

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

授業の各回では、具体的なトピックが取り上げられ、自分たちの身の回りに起きている現象を例に取りながら、仮想世界の問題を捉える具体的な視点が提示される。

● 現実世界における生きにくさの実感が増していく中、なぜか仮想世界は「生きやすい」。現実世界のリアリティの希薄化が指摘される一方で、仮想世界のリアリティは増していくように感じられる。

仮想世界は、技術者が勝手に作り出した世界ではない。仮想世界の構築は、あなた自身の欲望が関与している。そうだとしたら、私たちは**仮想世界に何を求め、私たちの何を変化させ、仮想世界と共にこれからをどう生きようとしているのか**。問い直す必要がある。

● 各回の授業は冒頭で前回のおさらいと受講生のコメントを踏まえた解説を加えながら、その回のトピックにつなぐ。授業後半では受講生どうしの討議を促しながら解説を加え、問題に切り込む論点を提示し、受講生がさらに問題意識を育てる工夫をする。その成果を最終レポートまたは期末試験において、総合的にまとめる。

※新型コロナウイルス感染状況によって進め方を変更することがある。大学の行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。変更がある場合は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	仮想世界は、不思議と生きやすい – それはなぜだろう
2	仮想世界への誘い	ネットがつながり、戸惑う – なぜか寂しい
3	仮想世界における「私」	仮想世界の私、それは仮面の私。それともホントの私？
4	仮想世界における「こころ」	現実より、仮想世界のほうに手ごたえを感じるパラドックス

5	仮想世界における「こころ」 – ところで、君はヒトですか、と問う時代	戸惑いから受容へ – ヴァーチャル恋愛した相手、それは〇〇だった
6	【グループ討議】 仮想世界と付き合う	「没入」と、仮想世界とのアイロニカルな距離感について
7	現実を、仮想空間に取り込む方法	コンピュータグラフィックスの基礎
8	仮想現実とは何か	バーチャルリアリティ（VR）の基本概念
9	仮想現実とは何か：その根底をなす理論	仮想現実（VR）の構成要素、その根底をなす基本理論
10	仮想現実とは何か	仮想現実（VR/XR）技術の様々な分野への応用
11	仮想現実の応用：方向性	仮想現実（VR/XR）の様々な分野への応用
12	仮想現実の応用：社会が変わる	手ごたえのない経済、手ごたえのない戦争
13	【グループ討議】 ヒトの欲望と仮想世界	ヒトの欲望を吸収し、膨張しつづける仮想世界
14	まとめ、総括討議、多層化する世界	リアルへの回帰か、それとも世界は「多層化」に向かうのか

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

コメントシートも含め、本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

- ・「接続された心」"Life on the Screen" (S. タークル、早川書房)
- ・国際会議 ACM SIGGRAPH DVD (Association for Computing Machinery)
- ・「2001 年宇宙の旅」(A.C. クラーク, S. キューブリック脚本, ワーナー社配給)
- 他、M・ミンスキーのインタビュー記録など、講義で適宜指示をする。

【参考書】

- ・アニメ：「攻殻機動隊～GHOST IN THE SHELL」
 - ・映画：「惑星ソラリス」(アンドレイ・タルコフスキー)
 - ・"Alone Together" (S.Turkle, Basic Books 出版)
- 担当教員の研究プロジェクトや国際学会の資料など、タイムリーなトピックを紹介することがある。 他は、開講時に指示する。

【成績評価の方法と基準】

- ・期末レポートまたは試験 (50%)
 - ・授業・討議における積極的な貢献度合い（発表、コメントシートを含む）(50%)
- を総合して評価する。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

『仮想世界におけるこころ』の問題に、受講生の関心が高いことが分かった。その主題を始め、受講生どうしの討議の時間を十分に取れるように図りたい。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布、リアクションペーパー・課題提出等に学習支援システムを利用するので授業前後にアクセスを確認すること。

【その他の重要事項】

いわゆるコンピュータの授業ではないので、注意のこと。本講義では、討議に積極的に参画し、参加者の協同作業を通じて自らの問題意識を育てる姿勢が重要になる。

【履修条件】

「情報リテラシーⅠ・Ⅱ」を単位取得済みであること。

【関連科目】

- ・「道具のデザイン学」「道具による感覚・体験のデザイン」「文化情報空間論」「こころの科学」と組み合わせると、理解が深まり面白くなる仕組みになっている。
- ・「メディア情報基礎」を履修済みであることが望ましいが必須ではない。

【Outline (in English)】

This class addresses the enlargement of "Virtual World," as one of the essential issues of our modern society. By the end of the course, students understand and should be able to explain a set of its key concepts: (1) the virtuality vs. the reality, (2) the issue of "self and identity" within cyber spaces, and (3) how to cultivate this society which integrates real world and virtual worlds.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Final grade will be decided based on (1) final report/exam (50%) and (2) short reports and the quality of the student's in-class contribution (50%).

FRI200GA

文化情報学概論

森村 修

配当年次／単位：3～4年／2単位

旧科目名：情報倫理学

旧科目との重複履修：○

毎年・隔年：毎年開講 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

人数制限・選抜・抽選：

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

《授業の概要》

本科目は、国際化学部が提唱する「文化情報学」という新しい学問の「入門（introduction）」にあたる科目です。「文化情報学」とは、様々な文化現象を「文化情報」として捉え直し考察する学問です。そして、それぞれ固有の文化現象のなかに共通する新しい〈意味〉や〈価値〉を見出し、文化現象を「文化情報」という角度から解釈し直したり、「文化情報」としての〈新しい意味〉や〈新しい価値〉を創出したりすることを目指します。

そこで、2023年度の本授業では、「カルチュラル・アナリティクス（文化分析学）とは何か?」という問いを巡って、文化情報学のあり方を考えていきます。「カルチュラル・アナリティクス（文化分析学）」とは、アメリカ合衆国で活躍しているロシア人のニューメディアのアーティスト・理論家・批評家レフ・マノヴィッチ（Lev Manovich, 1960-、ニューヨーク市立大学大学院センター・コンピュータ・サイエンス教授）が提唱している学問です。

本授業では、マノヴィッチ氏の『Instagram and Contemporary Image』（2017）を中心に、彼の「カルチュラル・アナリティクス」が、現代視覚文化の状況をどのように把握しているかを考えていきます。マノヴィッチ氏は、現代視覚文化の状況を捉えるために、Instagramを用います。彼は同書で、現代文化に大きな影響力を持っていながら、これまでの写真論ではほとんど議論されてこなかったInstagramを対象にします。彼は、2012年から2015年までにInstagramにアップロードされた約1500万枚の画像をデータ分析にかけて、新しい写真論を構築しました。さらに2020年には、その成果を発展させ『カルチュラル・アナリティクス（Cultural Analytics）』（2020）という著作を上梓しています。そこで提唱されているのは、「ニューメディアからモアメディアへ（From New Media to More Media）」ということです。

そこで本授業では、マノヴィッチ氏のInstagram論を取り上げ、『カルチュラル・アナリティクス』までの経緯を辿ることで、私たちの「文化情報学」のひとつのあり方を考えていきたいと思います。

《授業の目的》

本科目では、レフ・マノヴィッチ氏と日本人研究者の共著『Instagramと現代視覚文化——カルチュラル・アナリティクスをめぐって』（2017）をテキストにして、マノヴィッチ氏の「カルチュラル・アナリティクス」について考えていきます。

《授業の意義》

本科目の意義は、「文化情報学」を構築するにあたって、マノヴィッチ氏の「カルチュラル・アナリティクスとは何か」という問いを検討していくことで、現代に生きる私たちがいかに視覚情報を重視しているか、また、わたしたちの文化が、ニューメディアに依存しているかを反省的に考察することにあります。

【到達目標】

- 本科目の到達目標は、レフ・マノヴィッチ氏の「カルチュラル・アナリティクス」の思想を学ぶことで、現代の視覚文化を、メディア論や画像分析から解析する超域的思考を身につけることを目指します。
- 「カルチュラル・アナリティクス」を学ぶことによって、視覚文化を含む情報文化や表象文化の領域への新しいアプローチができるようになることです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

本授業は、基本的に講義形式で行います。ただ、テーマに応じて、受講生の意見や考えを積極的に聞くことを試みたいと考えています。

(1) テキストの読解力を確認するために、ほぼ毎回「レジュメ」としてテキストの要約や考察を含む小レポートの提出を義務化しています。

(2) 受講生各自の授業内容に関する理解を確認するために、リアクションペーパーを用います。またリアクションペーパーの内容について、ディスカッションすることも考えています。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	・授業を受ける上でのガイダンスと注意点 ・授業概要説明
第2回	レフ・マノヴィッチとは誰か？(1)	・マノヴィッチ紹介 ・マノヴィッチの取り組み
第3回	レフ・マノヴィッチとは誰か(2)——『ニューメディアの言語』読解(1)	・「ニューメディア」とは何か？
第4回	レフ・マノヴィッチとは誰か(3)——『ニューメディアの言語』読解(2)	・デジタル時代のアート、デザイン、映画
第5回	レフ・マノヴィッチとは誰か(4)——『ニューメディアの言語』読解(3)	・マノヴィッチ批判としての「ニューメディアのための新しい哲学」(Mark B.N.Hansen)
第6回	『Instagramと現代視覚文化論』読解(1)	・レフ・マノヴィッチのInstagram美学
第7回	『Instagramと現代視覚文化論』読解(2)	・なぜInstagramなのか
第8回	『Instagramと現代視覚文化論』読解(3)	・カルチュラル・アナリティクスとは何か
第9回	レフ・マノヴィッチ「Instagramと現代イメージ」(1)	・メディアムとしてのInstagram
第10回	レフ・マノヴィッチ「Instagramと現代イメージ」(2)	・カジュアル写真
第11回	レフ・マノヴィッチ「Instagramと現代イメージ」(3)	・プロフェッショナル写真とデザイン写真
第12回	レフ・マノヴィッチ「Instagramと現代イメージ」(4)	・Instagramリズム
第13回	レフ・マノヴィッチ「Instagramと現代イメージ」(5)	・美的社会と顔／身体美学
第14回	まとめ	・Instagramの行方

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・各回のテーマによって、各自に意見を聞くことがあるので、頭を柔軟にしておいてください。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

・久保田晃弘／きりとりめでの共訳・編著『Instagramと現代視覚文化——レフ・マノヴィッチのカルチュラル・アナリティクスをめぐって』、BNN、2017年

※ 受講生は、本書は授業で用いるので、各自が必ず用意すること。

・マノヴィッチ氏の論文「Instagramと現代のイメージ」(英文)は、マノヴィッチのサイトでダウンロードできる (http://manovich.net/content/04-projects/161-instagram-and-contemporary-image/instagram_book_manovich_2017.pdf)。

【参考書】

- レフ・マノヴィッチ『ニューメディアの言語』堀潤之訳、みすず書房、2013年
- Lev Manovich, *The Language of New Media*, The MIT Press, 2001.
- Lev Manovich, *Software Takes Command*, Bloomsbury, 2013.
- Lev Manovich, *Cultural Analytics*, The MIT Press, 2020.
- Mark B.N. Hansen, *New Philosophy for New Media*, The MIT Press, 2004.
- W.J.T. Mitchell and Mark B.N. Hansen, *Critical Terms for Media Studies*, The University of Chicago Press, 2010.

【成績評価の方法と基準】

- (1) 小テスト（テキストのレジュメ）などを行うことで授業の理解度を確認する。
- (2) 学期末に試験（レポート）を課すことで、授業における達成度を測る。
- (3) リアクションペーパーによって、授業に対する姿勢を問う。
※ 両者の結果から総合的に判断する。
ちなみに、三者の配分は、下記の通り。
 - (1) 小テスト（30 %）
 - (2) 期末試験（30 %）
 - (3) リアクションペーパーによる平常点（40 %）。※この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とします

※要注意

リアルタイム・オンライン授業の場合は成績評価の方法と基準も変更します。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【その他の重要事項】

【注意点】

- (1) 「文化情報学」とは、狭い意味での「情報学 (informatics)」や「情報科学 (information science)」ではありません。
・「文化情報学」は、文化の「情報学」ではなく、「文化情報」の「学」を意味しています。したがって、「情報科学」のつもりで「情報学」を理解しないように。
- (2) 私たちは、他の国の文化や他の国の人たちから学ぶだけでなく、動物や植物、地球環境から多くのものを学ぶ必要があります。こうした視点を確保するためにも「文化情報学」という考えは重要だと思います。

【注意点】

- ・概論としては内容も含めて授業は極めて難しいです。それゆえ、大人数にはならないとは思いますが、「カルチュラル・アナリティクス」を真剣に考え学びたい人以外は、なるべく参加をご遠慮ください。
- ・受講生数が多い場合は、教室のキャパシティーとは無関係に初回に選抜テストを実施しますので、受講希望者は、初回の授業に必ず出席してください。
- ・議論は大いに推奨しますが、仲間同士の「私語」は厳禁です。居眠りは「受講拒否」として考えますので、ご退室願います。

【Outline (in English)】

【Outline and objectives】

This class is an "introduction" of a new academic term "informatics of culture" advocated by the Faculty of Intercultural communication.

In 2023, we will examine the question of what cultural analytics is. Cultural Analytics is a discipline proposed by Lev Manovich (1960-, Professor of Computer Science at the Graduate Center of the City University of New York), a Russian artist, theorist, and critic of new media. In this class, we will consider Manovich's **Instagram and Contemporary Image**(2017), using his "**Cultural Analytics**" method to consider the state of contemporary visual culture.

【Learning Objectives】

At the end of the course, students are expected to examine a theory of visual culture.

【Learning activities outside of classroom】

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

【Grading Criteria /Policy】

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination: 30%、Short reports : 30%、in class contribution: 40%

LAW200HA

民事法 I

中川 義宏

配当年次/単位：1~4年 / 2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 5/Thu.5

備考（履修条件等）：環コア：経、口

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

私法の一般法について定めた法律である「民法」（その中でも主に契約法と不法行為法）の学習を通じて、法的なものの考え方（リーガルマインド）を身に付ける。適宜、裁判実務についても学習する。

【到達目標】

我が国は法治国家であり、紛争が生じた場合、最終的には、司法権を行使する裁判所が、法律に従って、終局的な解決を図る。本講では、民事紛争を解決する際の拠り所となる民法について、主に契約法と不法行為法を中心に、裁判実務を交えて学習し、その学習を通じて、学生たちは、法的なものの考え方（リーガルマインド）を身に付けることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス・法律学入門	法律学とは何か、何のために法律を学ぶのかについて考える。
第2回	民法入門	民法の全体構造を概観し、民法の体系的な理解を図る。
第3回	民法総則(1)	民法の総則規定である、権利の主体（自然人・法人）、物、意思表示による権利変動について学習する。
第4回	民法総則(2)	民法の総則規定である、意思表示の瑕疵（心裡留保、通謀虚偽表示、錯誤、詐欺・強迫）、契約の不当性について学習する。
第5回	民法総則(3)	民法の総則規定である、無効と取消し、代理、時効について学習する。
第6回	物権	民法の「物権法」と呼ばれる領域に関し、物権の意義と種類、物権変動、占有権・所有権について学習する。
第7回	担保物権	民法の「担保物権法」と呼ばれる領域に関し、担保物権の意義と種類、抵当権について学習する。
第8回	債権総論	民法の「債権法」と呼ばれる領域に関し、債権関係とその内容、債務の不履行、弁済、相殺、債権譲渡、保証債務について学習する。
第9回	契約(1)	民法を理解するうえで大切な「契約法」と呼ばれる領域に関し、契約の意義と種類、契約の成立、契約の解除について学習する。

第10回 契約(2) 民法に規定された「典型契約」のうち、贈与、売買、消費貸借、使用貸借、賃貸借、雇用について学習する。

第11回 事務管理・不当利得 民法の「事務管理」、「不当利得」と呼ばれる領域に関し、その制度趣旨について学習する。

第12回 不法行為(1) 民法の「不法行為法」と呼ばれる領域に関し、その制度趣旨、要件について学習するとともに、プライバシー侵害、名誉棄損に関する裁判例を概観する。

第13回 不法行為(2) 民法の「不法行為」の一類型である、使用者責任、工作物責任、製造物責任について学習する。

第14回 試験及び解説 試験を実施し、その解説をしながら、民事法Iの総括、社会生活における法律の役割について考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

民法(全)【第2版】(著者：潮見佳男、発行所：有斐閣、定価：4600円+税)。

【参考書】

六法。

【成績評価の方法と基準】

講義の第14回目に期末試験を行い、成績評価はこの期末試験と平常点（中間レポート及び学習状況等）を基準に評価する。期末試験50点、平常点50点の100点満点のうち60点以上を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline (in English)】

This course introduces civil code(mainly contract law and tort law) to students taking this course.

The goals of this course are to get the legal mindset.

Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapters from the text. Your required study time is at least two hours for each class meeting.

Final grade will be calculated according to the following process mid term report and in class contribution (50%), term end examination (50%).

LAW200HA

民法法Ⅱ

中川 義宏

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 5/Thu.5

備考（履修条件等）：環コア：経、口

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

私法の一般法について定めた法律である「民法」（その中でも主に親族法と相続法）の学習を通じて、法的なものの考え方（リーガルマインド）を身に付ける。適宜、裁判実務についても学習する。

【到達目標】

我が国は法治国家であり、紛争が生じた場合、最終的には、司法権を行使する裁判所が、法律に従って、終局的な解決を図る。本講では、民事紛争・家事紛争を解決する際の拠り所となる民法の中の親族法と相続法を中心に、裁判実務を交えて学習し、その学習を通じて、学生たちは、法的なものの考え方（リーガルマインド）を身に付けることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

授業内では適宜質問して答えてもらうなど双方向の参加型授業を目指します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス・法律学入門	法律学とは何か、何のために法律を学ぶのかについて考える。
第2回	民法・家族法入門	民法の全体構造を概観し、その中の家族法（親族法と相続法）の基礎を学習する。
第3回	親族・戸籍と氏	民法の「親族法」と呼ばれる領域に関し、その基本的概念となる親族、戸籍と氏の考え方について学習する。
第4回	婚姻(1)	民法が規定する親族法のうち、婚姻の意義、婚姻の成立要件、婚姻の効果について学習するとともに、婚姻に関する裁判例を概観する。
第5回	婚姻(2)	民法が規定する親族法のうち、婚姻の無効と取消し、夫婦財産制について学習するとともに、婚姻に関する裁判例を概観する。
第6回	離婚、内縁・事実婚	民法が規定する親族法のうち、離婚の方法（協議離婚、調停離婚等）、内縁・事実婚の意義について学習するとともに、離婚に関する裁判例を概観する。
第7回	親子（実親子関係）(1)	民法が規定する親族法のうち、実親子関係（母子関係、父子関係）について学習するとともに、親子に関する裁判例を概観する。

第8回 親子（実親子関係）(2) 民法が規定する親族法のうち、嫡出子、婚外子（非嫡出子）について学習するとともに、親子に関する裁判例を概観する。

第9回 養子 民法が規定する親族法のうち、養子の種類（普通養子、特別養子）、養子縁組の要件と効果、離縁について学習する。

第10回 親権、後見・保佐・補助、扶養 民法が規定する親族法のうち、親権の内容、制限行為能力（未成年・後見・保佐・補助）の制度、扶養について学習する。

第11回 相続の開始と相続人、相続の効力 民法が規定する相続法のうち、相続の開始と相続人、相続の効力（相続財産の包括承継、遺産共有、相続分、遺産分割）について学習する。

第12回 遺言、遺贈 民法が規定する相続法のうち、遺言制度と遺言の方式（自筆証書遺言、公正証書遺言、秘密証書遺言）、遺言の執行、遺贈について学習するとともに、遺言に関する裁判例を概観する。

第13回 配偶者居住権、遺留分 民法が規定する相続法のうち、配偶者居住権、遺留分の意義について学習するとともに、遺留分に関する裁判例を概観する。

第14回 試験及び解説 試験を実施し、その解説をしながら、民法Ⅱの総括、社会生活における法律の役割について考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。授業時間外の準備学習として、授業内で取り上げる裁判例を事前に読んで検討してもらうことがあります。また、家族法に関する記事は新聞で取り上げられることが多いですので、普段から新聞に目を通すようにしてください。

【テキスト（教科書）】

民法(全)【第2版】(著者：潮見佳男、発行所：有斐閣、定価：4600円+税)。

【参考書】

六法。

【成績評価の方法と基準】

講義の第14回目に期末試験を行い、成績評価はこの期末試験と平常点（中間レポート及び学習状況等）を基準に評価する。期末試験50点、平常点50点の100点満点のうち60点以上を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline (in English)】

This course introduces civil code(mainly family law and inheritance law) to students taking this course.

The goals of this course are to get the legal mindset.

Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapters from the text. Your required study time is at least two hours for each class meeting.

Final grade will be calculated according to the following process mid term report and in class contribution (50%), term end examination (50%).

LAW200HA

刑法の基礎

渡辺 靖明

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月2/Mon.2

備考（履修条件等）：環ア：経、口

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「刑法」とは、「犯罪」と「刑罰」とを定めた法律（公的ルール）のことです。それでは、どのような行為が「犯罪」として処罰の対象となるのでしょうか。また、その前提となる刑法の原則とはどのようなものなのでしょうか。この授業では、これらについて具体的な事例をつづじて、刑法のわたしたちの社会における意義と役割とをまなびます。

現在、わたしたちの社会では、国内外の多方面で、意見や価値観をめぐる深刻な「対立」が生じて、「分断」に直面しています。対立する相手を「敵」とみて、徹底的にはげしく罵倒したり、排除しようとしたりする動きが SNS 等でもみられます。こうした「対立」・「分断」は、場合によっては大きな紛争にも発展し、大勢の人々の心身に大きな被害をも生じさせかねません。こうした「対立」・「分断」を解消するには、対立する相手とは絶対に分かりあえないとあきらめるのではなく、相手の立場も尊重し、その意見にも耳をかたむけて、その価値観を理解しようとして、対話を重ねることが必要なのではないでしょうか。

犯罪の加害者と、その被害者（遺族含む）及び被害者に同情・共感する多くの人々との間でも、深刻な「対立」・「分断」が生じているように思えます。加害者は、ルールに反し、被害者を生み出した以上、ともかく、重く厳しく罰するべきだ。それにもかかわらず、法では、加害者をさばけなかったり、軽い処罰しかなされなかったりするときがある。法は加害者に甘すぎる！ このように考える人も少なくないのではないのでしょうか。

犯罪の被害者に同情・共感することは、もちろん大切です。しかし、だからといって、その加害者を「敵」として、とにかく重く厳しく罰しさえすれば、社会はよくなるのでしょうか。加害者の立場・境遇にも思いをはせ、その言い分にも耳をかたむけることも必要なのではないのでしょうか。また、法が加害者に「甘い」ようにみえるとしても、それはなぜなのでしょう。そして、それは本当に不当な「甘さ」なのでしょうか。

これらのことを冷静に考えるためには、刑法の意義・役割、またその原則の下で、どのような場合に「犯罪」が成立し、また「刑罰」が科されるのか。このことをきちんと理解する必要があります。その理解をせずに、ともかく加害者がわるいのだ、として、これを徹底的に攻撃して社会から排除し、また加害者に「甘い」法には「不備」があるとして、犯罪の重罰・厳罰化を一方的に主張しようとするのが、はたして正義・公正でしょうか。むしろ、社会における「対立」と「分断」の1つを一層深めるだけではないのでしょうか。

この意味で、刑法の概要をまなぶことは、様々な「対立」と「分断」を乗り越え、他の人と仲良く共存しながら、わたしたちの誰もが幸せに生きていく社会を築くためのヒントになるかもしれません。

【到達目標】

法と倫理・道徳との異同、刑法の意義・役割・限界、刑罰の目的や刑法と他の法律との関係をふまえて、刑法の一般原則および犯罪の一般的・個別的な成立要件等や、さらにこれに関する判例（裁判所の判断）および学説の議論を理解し、これらの基礎知識を修得することが、この授業の到達目標です。

レジュメには、〔確認問題〕・〔検討問題〕を適宜もうけます。基礎知識修得の目安は、その各問題の解答と理由とを理解し、それを文章（言語）できちんと説明できるようにすることです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

本授業は、原則として、対面授業となります。レジュメ中の具体的事例を検討しながら、各回のテーマごとの理解をはかります。

小テスト（4回予定）については、回答期限後の授業ないし学習支援システムをつづじて、簡易な解説を行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	「刑法」とは何か。	法（律）の意義、法の体系および「刑法」の意義をまなぶ。
第2回	殺人罪①－犯罪の一般的成立要件	犯罪の一般的成立要件および刑法における人の「生」と「死」をめぐる議論などをまなぶ。
第3回	殺人罪②－犯罪の故意・過失	犯罪の故意と過失、故意犯処罰の原則、責任主義などについてまなぶ。
第4回	殺人罪③－罪刑法定主義	胎児性致死傷と罪刑法定主義との関係などをまなぶ。
第5回	傷害罪	傷害の意義および傷害と傷害致死との関係（刑法の因果関係）などをまなぶ。
第6回	自殺関与・同意殺人罪	刑法における被害者の同意の意義および同意の有効性と刑法の最終手段性の原則との関係などをまなぶ。
第7回	安楽死・尊厳死	終末期医療における安楽死・尊厳死と刑法との関係などをまなぶ。
第8回	刑罰論	刑法の刑罰と民法の損害賠償・行政法の行政処分との違いや、国家が市民に刑罰を科すことの正当な根拠をめぐる議論などについてまなぶ（Google ドライブで共有した録音を聴いてもらう形式にする予定）。
第9回	脅迫罪・強要罪・禁罪、強制わいせつ罪・強制性交等罪	意思決定の自由、性的自由に対する罪の基礎をまなぶ。
第10回	住居侵入罪	住居権・住居の平穩に対する罪の基礎をまなぶ。
第11回	名誉毀損罪・侮辱罪 真実性の証明による免責	名誉に対する罪の基礎および刑法における名誉の保護と表現の自由の保障との関係をまなぶ。
第12回	財産に対する罪	財産に対する罪の共通原則および個別の犯罪の基礎をまなぶ。
第13回	放火罪・偽造罪	放火罪（公共危険犯）、偽造罪（取引の安全に対する罪）の基礎をまなぶ。
第14回	賄賂罪	汚職の罪（国家の作用に対する罪）の基礎をまなぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配布レジュメや刑法の参考書等で予習・復習をしてください。とくに復習時には配布レジュメ中の各事例や〔確認問題〕・〔検討問題〕を中心に理解を深めてください。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間が標準となります。

【テキスト（教科書）】

なし。配布レジュメを使用します。

【参考書】

とくに指定はしません。おすすめの参考書は、開講時に説明します。

【成績評価の方法と基準】

成績評価は、授業であつかった基礎知識を問う定期試験 80 %、支援システム上での小テスト 20 %の総合評価でおこなう予定です。

なお、コロナウイルスの感染状況等により、定期試験からオンライン試験等に変更される可能性があります。

【学生の意見等からの気づき】

授業改善アンケートでは、レジュメと説明がとても丁寧でわかりやすく、興味深い内容が多かったため集中して取り組めた、などの好意的な意見もありましたが、原則ほぼ対面授業となる本年度は、講義中にも、支援システムを使って、事例等に関するアンケートを実施するなどして、一層関心をもってできるだけ楽しく受講できるような工夫をしていきたいと思えます。

【学生が準備すべき機器他】

コロナウィルスの感染予防の観点から、レジュメを印刷して直接配布をすることはしません。支援システムで事前にレジュメをアップするので、自身でプリントアウトをして持参するか、または電子機器で閲覧、書き込み等ができるように準備をしてください。

また、第1回は対面・オンライン同時配信の併用、第8回は Google ドライブで共有した録音を聴いてもらう形式にする予定です。これらの点を含めて通信環境等の準備をお願いします。

【その他の重要事項】

「憲法の基礎」、「行政法の基礎」、「民法法 I・II」等の他の法律系科目もあわせて履修しておくこと、「刑法の基礎」の授業内容の理解が一層深まるでしょう。また、「環境法」の各科目についても、「刑法の基礎」を履修しておけば、その授業の内容をより深く理解できると思えます。

なお、刑法にかぎらず、法律学は、条文、判例、学説の理解が基本です。これらを十分に理解せずに、自分のこれまでの断片的な知識・経験による見解だけを一方的に主張しても、法律をまなんだことにはなりません。受講にあたり、また定期試験受験時には、このことをよく理解しておいてもらいたいと思えます。

【Outline (in English)】

【Course outline】 What kind of action is subject to punishment as a crime? What is the basic principle of criminal law to consider crime and punishment? We will learn it through concrete examples. And we will think the meaning and role of criminal law in society.

Learning criminal law may be a hint to overcome various divisions and build a society where everyone can live happily while coexisting with others.

【Learning Objectives】 Acquiring basic knowledge of criminal law is the goal of this class. [Confirmation question] and [Examination question] are described in the resume. At the end of this course, students are expected to understand answer and its reason for each question and to be able to explain them correctly in sentences.

【Learning activities outside of classroom】

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

【Grading Criteria /Policy】 Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination:80%,mini exam:20%

LAW300HA

環境法Ⅳ

今井 康介

配当年次／単位：2～4 年／2 単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 1/Mon.1

備考（履修条件等）：環Ⅳ：経、口

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

環境問題について法律的なアプローチを行う場合、3つのアプローチがあります。民法的なアプローチ、行政法的なアプローチ、そして刑法的なアプローチです。各アプローチには、それぞれの原則や理論、メリット・デメリットがあります。

環境法Ⅳの授業では、刑法的なアプローチ、特に刑事罰の独自性、特殊性、有効性、そしてその限界を扱います。

環境刑法の基本的な問題や現在の制度の問題点等を学ぶことにより、自らが将来、会社や企業で環境犯罪を行わないようにするだけでなく、多角的な視点から環境問題や環境法制を考えられるようになることが、最終的な目的です。

【到達目標】

例えば、山の中にいらなくなったパソコンを捨ててくるのは、不法投棄（廃棄物処理法違反）です。それでは、自分の敷地の一角に放置しておくのは、犯罪なのでしょうか？ 燃えるゴミと燃えないゴミを分別しないで捨てたら捕まるのでしょうか？ コンビニのゴミ箱に家のゴミを捨てたら犯罪なのでしょうか？ 従業員が環境犯罪を犯した場合、会社や会社の社長は処罰されるのでしょうか？

この授業を受講すると、これらの場合にどのように考えるべきかが分かるようになります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式での授業になります。授業では、適宜、身近な問題を例にして、考えながら講義を受けてもらえるようにします。

教科書や参考書については、第1回の講義で詳しく案内します。講義で配る配付資料は、授業支援システムで公開しています。多くの法律が登場するので、適宜、六法やインターネットで法律の条文を参照してください。

学生の質問対応、フィードバックもメール等で対応します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス スタート環境刑法	授業の進め方、評価方法についての説明します。 環境刑法はどのような学問か、どのような特色があるか、なぜ環境刑法を学ぶのか、環境刑法を学ぶと将来どのような場合に役に立つかについて説明します。
第2回	環境刑法の基礎理論	法律とはどういうものか、法律に違反するとどうなるのかを学びます。また、刑罰はなぜ科されるのか、どのような環境を保護するために刑罰は利用されるのかを学びます。
第3回	動物の保護	2019年に改正のあった、動物愛護法を中心に、なぜ動物を保護するのか、人間が作る法律は、本当に動物を保護しているのかという点を学びます。

第4回	水の保護	我々の飲料水や、川の水質はどのように保護されているのかを学びます。また浦安事件などの、水質汚濁事件も学びます。
第5回	大気汚染の保護	大気汚染とは、どのようなものか、大気汚染に対し法律はどのような対応をしているか、アスベストによる大気汚染規制を学びます。
第6回	土壌汚染	土壌汚染とは、どのようなものか、農用地の汚染と市街地の汚染は何が違うか、豊洲市場の移転で問題となった土壌汚染とはどのようなものかを中心に、土壌汚染対策法の罰則を学びます。
第7回	廃棄物の処理①	廃棄物の処理を規制しなければいけない理由を、廃棄物関連の事件から学びます。また、行政対象暴力事件についても学びます。
第8回	廃棄物の処理②	廃棄物処理法が規制している「廃棄物」とは何かについて学びます。
第9回	廃棄物の処理③ + 会社の罰則（法人処罰）	廃棄物の不法投棄や焼却は、いつから禁止されているのか、どのような行為が禁止されているかを学びます。また、会社をどのように処罰するのか、会社はどれくらい重く処罰されるのかを学びます。
第10回	廃棄物の処理④ + 現代社会における環境犯罪対策	工場や企業が注意すべき、廃棄物を受け渡す際の罰則について取り扱います。 また、環境保護法制をサポートする組織犯罪処罰法や課税通報を学びます。
第11回	環境犯罪の捜査と刑事裁判の仕組み	誰が環境犯罪を捜査するのか？ どのタイミングで捜査するのか？ 逮捕とは？ 被疑者となった場合に何が出来るか？ 刑事裁判はどのように進むかを学びます。
第12回	有罪判決と有罪判決後の問題	裁判で有罪判決を受けた場合、さらに争うことが出来るか、有罪判決を受けるとどのような影響があるか、さらに廃棄物再審事件を題材として、環境犯罪の司法実務の問題を探ります。
第13回	総復習と補足	12回の講義までで終わらなかつた箇所や補足が必要な箇所を取り上げます。 また2022年に発生した事件を取り上げて、環境刑法の視点から、実際の事件を分析します。
第14回	質問と試験	学生からの質問に回答した後、評価のための試験を行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義の前あるいは講義の後に、テキストの該当部分を読むと理解が深まります。環境問題は、よくニュースになります。そのため、報道された環境問題をテーマにして、何が法律的に問題なのか考えると、この講義がよりいっそう実り豊かなものになります。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を目安とします。

【テキスト（教科書）】

今井康介『ニュースから読み解く環境刑法 入門編』（大日本法規、2019年）、ISBN:978-4991111600 を使用します。

【参考書】

環境刑法の重要問題を取り上げた参考書として、長井圓編『未来世代の環境刑法1 Textbook 基礎編』（信山社、2019年）、4200円（税抜）、ISBN:978-4797286748をおすすめします。講義の後に同書を読むと、より一層深い理解をすることが出来ます。その他の参考文献については、初回の授業時に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

原則として講義の最後に行う授業内試験で評価します（100 %）。授業への出席は単位修得の前提ですので、出席それ自体を成績評価に加えることは行いません。成績評価は100点満点とし、60点以上で合格となります。

【学生の意見等からの気づき】

反響が強かった、身近な環境問題を取り上げられるように心がけたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

特にありません。

【その他の重要事項】

環境刑法を理解するためには、刑法の基礎知識が必要になります。それゆえ、本講座の受講生には、春学期に開講される「刑法の基礎」の履修をおすすめしています。

【Outline (in English)】

There are three legal approaches.

In this lesson, we deal with the peculiarity of the criminal approach, identity and its limitations.

The goal of this lesson is to learn the basics of the environmental criminal law and to think about environmental problems from the perspective of penalties.

The lecture requires 2 hours preparation and review.

Grades are evaluated by examinations.

LAW300HA

労働環境法

藤木 貴史

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講semester：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 2/Fri.2

備考（履修条件等）：環コア：経

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

私たちの社会では、多くの人が雇用されて労働し、賃金を得ることで生活しています。将来を見据えた、持続可能な社会生活を送ることができるようになるためには、適切な就業環境の整備が必要となります。しかし、労働者は使用者よりも力が弱いので、適切な法規制がなされないと、さまざまな困難に直面することになります。労働法は、こうした困難を防ぎ、人間が人間らしく生きられるようにさまざまな規制を行う、法学の一分野です。

この授業では、法律学に触れたことのない学生が、①法律学の基礎知識を習得し、②その知識に基づいて、労働環境をめぐる最近の問題を説明できるようになることを目指します。

【到達目標】

- ①労働環境に関する基礎的な法的知識を身につけ、ワークルール検定初級に相当する問題に解答できるようになる。
- ②基礎知識に基づいて、労働環境をめぐる最近の問題を説明できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

- ・第1回はオンライン授業です。（人間環境学部共通）
- ・第2回以降対面での講義を実施します。
- ・授業は、教科書の一部をまとめたレジュメを配布し、スライド等で板書しながら進めます。
- ・講義中詳細に触れられない点につき、教科書で学習するよう指示することがあります。
- ・進度は学生の理解に応じて調整されることがあります。授業計画の変更については、学習支援システム等で必要に応じて提示します。確認を怠らないようにお願いします。
- ・毎回授業ごとに、小テストを課すことを予定しています。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	労働「法」の基礎知識と労働環境
2	労働契約と就業規則	・働くことと「契約」 ・就業規則とは何か
3	労働契約と損害賠償	・労働者の責任の制限 ・業務費用の負担
4	労働時間・休憩・休日	労働基準法上の規制を学ぶ
5	時間外労働とその是正	・36協定 ・残業代規制
6	過労死をめぐる法的対応	・固定残業代規制 ・過労死防止の政策
7	労災保険	・無過失責任主義を学ぶ ・労災の給付と条件
8	労働組合の保障	・労働組合法の検討 ・団体交渉の意義
9	配置転換とワークライフバランス	同じ場所で働き続けることができるか
10	ハラスメントの法的規制	日本のハラスメントの現状を学ぶ
11	解雇からの保護	どのような場合に解雇が許されるか

- 12 非正規労働者 正社員と何が違うのか
- 13 労働法は適用されるのか 新しい働き方と法規制を学ぶか
- 14 紛争解決制度とまとめ 労働環境の改善のために

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

[予習]（1時間程度）

- ・LMS上からレジュメを印刷しましょう。
- ・レジュメに指示された部分の教科書を読みましょう。
- ・内容を忘れた場合、前回の講義音声聞きなおし（オンライン授業時）。

[復習]（3時間程度）

- ・LMS上の小テストを解きましょう。
- ・その回の内容を友人・家族に説明できるか試してみましょう。
- ・その回で取り扱われた判例について、(i) どのような事件だったか、(ii) 裁判所はどのようなルールを設定したか、(iii) 裁判所はそのルールをどう使ったのか、説明してみましょう。

【テキスト（教科書）】

藤本茂ほか『ファーストステップ労働法』エイデル出版（2020年）

【参考書】

佐々木亮・大久保修一著『ブラック企業とのたたかい方』旬報社（2018年）

【成績評価の方法と基準】

到達目標①の計測のために小テストを、到達目標②の計測のために期末テストを、それぞれ実施します。

- ・[小テスト] 3割（穴埋め問題／選択式問題により、基礎知識の定着度を測る）
- ・[期末テスト] 7割（説明問題により、労働法の仕組みを説明できるかを測る）

【学生の意見等からの気づき】

初年度のため特になし

【学生が準備すべき機器他】

オンライン授業時に備えてパソコン等を準備しておいてください。

【その他の重要事項】

[関連科目]

本講義は、労働環境論Ⅰ・Ⅱと関係しています。

[授業を受ける姿勢]

- ・休まないで出席することは理解の前提となるので、その旨心がけてください。
- ・試験の際には、原則、教科書のみ持ち込みを認めます。
- ・講義中は、適切にノートをとるなど、講義に集中することが求められます。
- ・ゲームや私事を見つけた場合には止めるよう注意をします。

[コロナ対応]

- ・新型コロナウイルス感染症の状況に照らし、オンライン授業となる場合があります。
- ・対面授業においては、感染防止の観点から、①飲食を控え、②マスクを必ず着用してください。守れない場合には退室を命じざるを得ない場合があります。

【関連の深いコース】

履修の手引き「専門科目一覧・コース関連科目表」を参照してください。

【Outline (in English)】**Course outline**

In our society, many people live by working and earning wages through employment. In order to be able to live a sustainable social life with an eye on the future, it is necessary to create an appropriate working environment.

However, since workers have less power than employers, they face a variety of difficulties if appropriate laws and regulations are not in place. Labor law is a branch of jurisprudence that prevents such difficulties and imposes various regulations so that human beings can live like human beings.

In this class, students who have never been exposed to jurisprudence are expected to (1) acquire basic knowledge of jurisprudence and (2) be able to explain recent issues surrounding the working environment based on this knowledge.

Learning Objectives

(1) Acquire basic legal knowledge of the working environment and be able to answer questions equivalent to the beginner's level of the Work Rule Examination.

(2) To be able to explain recent issues surrounding the working environment based on the basic knowledge.

Learning activities outside of classroom

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Grading Criteria /Policy

A quiz will be given to measure the achievement goal (1), and a final exam will be given to measure the achievement goal (2).

Quiz: 30% (fill-in-the-blank questions/choice-type questions to measure the level of retention of basic knowledge)

Final exam: 70% (to assess whether students can explain the structure of labor law through explanatory questions)

POL300HA

自治体環境政策論 I

小島 聡

配当年次/単位：2～4年 / 2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 4/Thu.4

備考（履修条件等）：環コア：口

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

公共政策学の視点で、都市空間における緑や水辺などの自然環境の保全、都市農業政策、ヒートアイランド対策、下水道政策、都市公園政策など、自治体環境政策に関する多様なテーマについて検討する。さらに地域の未来を考えるために、第2次大戦後から現代までの自治体環境政策史について検討する。トピックとして、公害規制、廃棄物処理、都市の開発コントロール、景観政策、アーバンデザインなどを取り上げる予定である。この授業の目的は、学生が自治体環境政策の基礎知識や政策型思考について学ぶことである。

【到達目標】

学生の到達目標は以下のとおりである。

- ・自治体による地域環境政策に関する知識を習得する。
- ・地域課題に関する政策思考を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

授業形態は、配布資料、パワーポイント、映像等に基づく講義を中心として、適宜、授業内において、学生とのコミュニケーションを図る。リアクションペーパーやミニレポートの提出と応答・講評については、学習支援システムの機能（「お知らせ」「課題」「掲示板」）を活用し、授業でもフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション～そもそも「政策」とは何だろうか？	イントロダクションとして、自治体環境政策が公共政策であることをふまえて、「政策」の概念とその基本構造を確認する。
第2回	自治体政策の風景	環境政策を含む自治体政策を風景に喩えて、体系的と総合性という視点から構図を確認する。
第3回	都市の緑を守る	都市空間における緑地保全について、里山、宗教空間などの地域資源と政策対応について検討する。
第4回	都市の緑を活かす	都市農業・農地の多面的機能の視点から、生産緑地や農地の市民的利用などについて検討する。
第5回	都市の緑を創る	都市空間における公共施設や民間施設の緑化について検討した後、現代都市の緑戦略の方向性について総括する。
第6回	水と緑の総合政策と自治体の役割	水辺環境の保全、水と緑を一体的にとらえる総合的な都市環境政策と自治体の役割について検討する。また斜面緑地の保全の意義とともに、「遅れたきた公害」ともいわれる、かつて開発した住宅地の崩壊リスクにも言及する。
第7回	自治体政策のドラマと問題構造	自治体政策をドラマに喩えて、政策過程のモデルと、政策が対象とする公共問題の構造について確認する。

第8回	ヒートアイランドの問題構造と都市環境政策	ヒートアイランドの問題構造と、グリーン・インフラストラクチャーの導入をはじめとする総合政策による都市構造の転換について検討する。
第9回	自治体環境政策と社会資本整備～下水道	自治体環境政策における社会資本整備として、下水道の今日的課題と地域資源としての可能性などについて検討する。
第10回	自治体環境政策と社会資本整備～都市公園	自治体環境政策における社会資本整備として、都市公園の多面的機能や政策課題、パークマネジメントなどについて検討する。
第11回	第1世代の自治体環境政策～高度経済成長期の政策革新	高度経済成長期において都市の「生活環境の防衛」を目的として登場した第1世代の自治体環境政策について、当時の社会情勢とともに検討する。
第12回	地域の「環境再生」への挑戦	環境破壊の世紀であった20世紀に対して、21世紀の課題である地域の「環境再生」政策について検討する。
第13回	第2世代の自治体環境政策～歴史的町並み保全から現代の景観政策へ	1960年代後半から80年代において、地域空間の質の高めるために登場した第2世代の自治体環境政策について、歴史的町並み保全を中心について検討し、さらに現代の景観政策に言及する。
第14回	アーバンデザインから考える都市の未来	第2世代の自治体環境政策の時代から始まったアーバンデザインについて、横浜の政策実践を回顧しながら、都市の未来について検討する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学生は、配布資料及びその他の参照資料に基づき、授業時間外の学習を行い、ミニレポートなどの課題に取り組むことが必要である（この授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする）。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。

【参考書】

参考文献は、授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

成績は、論述試験（85%）+積極的な参加姿勢（5%）+ミニレポート（10%）で評価する。

※2022年度春学期における授業の実施形態に即して、レポート試験への切り替え等の変更の可能性もある。

【学生の意見等からの気づき】

- ・最新の地域社会の動きや自治体の政策情報の提供を通して、現代社会を理解する機会になることを期待しています。
- ・授業全体の構成、内容と分量、進行スピード、配布資料、パワーポイントなどの活用については、再考しながら継続的に改善を図っていきたいと思います。
- ・学習支援システムを活用し、学生の思考を促す工夫をしていきたいと思っています。

【その他の重要事項】

- ・基幹科目の「地方自治論」はこの講義の導入的な位置にありますので、合わせて履修することを強く推奨します。
- ・ローカル・サステナビリティコースの他のコースコア科目を合わせて履修することを推奨します。
- ・ローカル・サステナビリティコースで履修する学生はもちろんです。他のコースで履修する学生にとっても、地域社会に関連するテーマや「持続可能な地域社会」を理解するためには、自治体政策に関する基礎知識は必須です。
- ・「自治体環境政策論I」と「自治体環境政策論II」は連続しており、両方を受講することを強く推奨します。

【関連の深いコース】

上記の【その他の重要事項】の説明、および履修の手引きを参照してください。

【Outline (in English)】

In this class, from the viewpoint of public policy studies, we will examine the various themes about the environmental policy of local government, such as preservation of the natural environment in urban space, urban agriculture policy, control of “Heat island”, sewer policy, city park policy. Furthermore, in order to consider the future of the community, we will explore the history of local environmental policy from after the Second World War to the present age. The topic to take up will be pollution regulatory, waste administration, control of urban development, local scene preservation policy, urban design, etc. The purpose of this class is for students to learn about the basic knowledge of regional environmental policy and the method of policy thinking.

The goals of this course are to acquire knowledge about regional environmental policy of local government, and to gain the ability of think about regional policy issues.

Students need to prepare and review each session by using distributed materials and other references, and to work on short writing assignments. Preparatory and review time for this class are 2 hours each.

Your overall grade in this class will be decided based on the following:

Term-end examination:85%,Active class participation:5%,Sort reports:10%

POL300HA

自治体環境政策論Ⅱ

小島 聡

配当年次/単位：2～4年 / 2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 4/Tue.4

備考（履修条件等）：環コア：口

その他属性：〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「持続可能な地域社会」に向けた自治体政策について総合的に検討する。特にグローバルな政策や再生可能エネルギー政策、環境政策統合、SDGs、交通政策、都市の持続可能性リスク、縮小都市やコンパクトシティ、都市と過疎地域の政策連携など、近年の重要なテーマに焦点を合わせる。この授業の目的は、学生が、「持続可能な地域社会」の創造への自治体の役割や政策型思考などについて学ぶことである。

【到達目標】

学生の到達目標は以下のとおりである。

- ・持続可能な自治体政策に関する知識を習得する。
- ・持続可能な地域社会の創造に向けた政策価値、政策規範、政策論理、地域課題に関する政策型思考を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

授業形態は、配布資料、パワーポイントに基づく講義を中心として、適宜、授業内において、学生とのコミュニケーションを図る。リアクションペーパーやミニレポートの提出と応答・講評については、学習支援システムの機能（「お知らせ」「課題」「掲示版」）を活用し、授業でもフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション～「持続可能な地域社会」とは？	イントロダクションとして「持続可能性・持続可能な発展」という概念を確認しながら、「持続可能な地域社会」という政策理念について検討する。
第2回	「持続可能な地域社会」の多様性～都市の「変容」と過疎地域の「存続」	「持続可能な地域社会」の社会像の多様性を確認しながら、「変容」と「存続」という2つの方向性を提示する。
第3回	「グローバル」言説を再考する	「グローバルに考え、ローカルに行動する」という政策言説を再考しながら、政策規範として再構成する。
第4回	第3世代の自治体環境政策～地球温暖化の「緩和策」	グローバルな時代における第3世代の自治体環境政策として、地球温暖化の「緩和策」について検討する。
第5回	第3世代の自治体環境政策～地球温暖化への「適応策」	グローバルな時代における第3世代の自治体環境政策として、地球温暖化への「適応策」について検討する。
第6回	再生可能エネルギー革命と自治体政策	自治体の再生可能エネルギー政策の動向と課題・展望について検討する。

第7回	責任共有の政策論理とローカル・ガバナンス	「環境ガバナンス」にかかわる多面的な主体（自治体、市民、企業、NPOなど）による責任共有とマルチステークホルダー・プロセス、地域間の責任共有と自治体間の政策協調・政策連携について検討する。
第8回	持続可能性の多面的構成・包括性・統合性と自治体政策のイメージ	持続可能性の環境的側面、経済的側面、社会的側面などの多面的構成やそれらの包括性・統合性を確認しながら、自治体政策のイメージを描く。
第9回	「環境政策統合」と自治体政策のイノベーション	「持続可能な地域社会」に向けて多様な政策領域を視野に入れる「環境政策統合」の考え方と、具体的な政策実践について検討する。
第10回	SDGsと自治体政策	SDGsの自治体政策における意義・動向・課題について検討し、地域循環共生圏についても言及する。
第11回	「持続可能な都市」をめぐる政策動向と地域交通政策	「持続可能な都市」をめぐるヨーロッパや日本の政策動向を確認した後、政策実践のケースとして、地域交通政策などについて検討する。
第12回	21世紀における都市の持続可能性リスク	災害や感染症などの発作的危機、人口減少社会や地球温暖化などの長期的なリスクを、21世紀の都市が直面する脆弱性＝都市の持続可能性リスクととらえ、その回避やレジリエンスについて検討する。
第13回	縮小都市時代の自治体政策	人口減少社会における「縮小都市」問題を確立し、空き家・空き家対策やコンパクトシティ政策などについて検討する。
第14回	都市と農山漁村の地域間連帯への政策的展望	過疎地域の持続可能性問題を再確認し、都市－農山漁村の地域間連帯の動向とともに、生態系サービスや地域間の相互依存関係をふまえて、今後の政策のありかたについて展望する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学生は、配布資料及びその他の参照資料に基づき、授業時間外の学習を行い、ミニレポートなどの課題に取り組むことが必要である（この授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする）。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。

【参考書】

この科目において取り上げる政策価値、政策規範、政策論理などの理論的なアプローチについては、以下の文献でおおよそ説明しているので、受講とあわせて一読し理解を深めてほしい。
小島聡「グローバルな時代における持続可能な地域社会の創造と政策構想」（小島・西城戸・辻編著『フィールドから考える地域環境 持続可能な地域社会をめざして 第2版』ミネルヴァ書房、2021年。その他の参考文献は授業中に紹介する。

【成績評価の方法と基準】

成績は、論述試験（85%）＋積極的な参加姿勢（5%）＋ミニレポート（10%）で評価する。
※2023年度秋学期における授業の実施形態に即して、レポート試験への切り替え等の変更の可能性もある。

【学生の意見等からの気づき】

・各地の事例について、地方紙の記事をまとめて配布し紹介していますが、最新動向を理解するためにも可能なかぎり政策情報を提供します。
・日々の情勢を知るだけではなく、現在を読み解き未来を展望するために、政策価値や政策規範、政策論理など、理論的思考を身につけることも重視します。

・授業全体の構成、内容と分量、進行スピード、配布資料、パワーポイントの活用については、再考しながら継続的に改善を図っていきたいと思います。

・学習支援システムを活用し、学生の思考を促す工夫をしていきたいと思っています。

【その他の重要事項】

・基幹科目の「地方自治論」はこの講義の導入的な位置にありますので、合わせて履修することを推奨します。

・ローカル・サステイナビリティコースの他のコースコア科目を合わせて履修することを推奨します。

・ローカル・サステイナビリティコースで履修する学生はもちろんですが、他のコースで学ぶ学生にとっても、地域社会に関するテーマや「持続可能な地域社会」について理解するためには、自治体政策に関する知識は必須です。

・「自治体環境政策論Ⅰ」と「自治体環境政策論Ⅱ」は連続しており、両方を受講することを強く推奨します。

【関連の深いコース】

上記の【その他の重要事項】の説明、および履修の手引きを参照してください。

【Outline (in English)】

In this class, we will examine public policy of local government comprehensively towards “Sustainable community”. Especially, we will focus on some important themes in recent years, such as “Glocal policy”, renewable energy policy, environmental policy integration, “SDGs”, traffic policy, urban sustainability risk, shrinking city and compact city, cooperation policy between urban and rural areas, etc. The purpose of this class is for students to learn about the role of local government for creating “Sustainable community, and the method of policy thinking.

The goals of this course are to acquire knowledge about sustainable policy of local government, and to gain the ability to think about policy value, policy norms, policy logic, regional policy issues for creating “Sustainable community”.

Students need to prepare and review each session by using distributed materials and other references, and to work on short writing assignments. Preparatory and review time for this class are 2 hours each.

Your overall grade in this class will be decided based on the following:

Term-end examination:85%, Active class participation:5%, Short reports:10%

POL300HA

地球環境政治論

横田 匡紀

配当年次/単位：2~4 年 / 2 単位

開講semester：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 2/Mon.2

備考（履修条件等）：環コア：G, サ

その他属性：〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

授業の概要

パリ協定、気候変動問題の事例にも示されるように、なぜ地球環境問題をめぐるグローバルな合意形成は困難に直面するのでしょうか？地球環境問題への解決やSDGsに向けて国際社会が合意し、持続可能な世界を構築するためには、合意形成のメカニズムを理解することが必要となります。

この講義は地球環境問題をめぐるグローバルな合意形成のメカニズムを対象とし、パリ協定、気候変動問題、SDGs、バイデン政権などの事例をとりあげるとともに、国際関係論、グローバル・ガバナンス論の理論枠組みを理解していくことを目的とする。学生には、地球環境政治をめぐる様々な問題を考え、グローバル市民社会の一員としてSDGsや持続可能な世界のあり方を考える視座を獲得してもらうことをめざす。

【到達目標】

- ・パリ協定、気候変動問題、SDGsなどを事例に、地球環境問題をめぐる合意形成のメカニズムを国際関係論の視点から理解できるようになる。
- ・地球環境問題をめぐる国際機構や環境NGO、企業といった様々なアクターの活動が理解できるようになる。
- ・SDGsやプラスチック汚染など近年の地球環境ガバナンスの課題を理解できるようになる。
- ・日本やアメリカの地球環境外交を理解できるようになる。
- ・ヨーロッパやアジアなど地域レベルごとの多様な環境ガバナンスの現状を理解できるようになる。
- ・グローバル・ガバナンス、地球環境ガバナンスといった国際関係論の視点を理解できるようになる。
- ・トランプ政権やバイデン政権による地球環境政策への影響を理解できるようになる。
- ・貿易と環境、環境と安全保障といった複合的な問題をめぐる合意形成のメカニズムを理解できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

この講義では、国際関係論やグローバル・ガバナンスの視点からこの問題にアプローチし、どのようなアクター（国際機構、NGO、企業など）がどのような手段（国際レジームなど）で、どのような問題（気候変動問題やSDGsなど）に取り組み、どのような成果と課題があるのかを確認していく。また講義の各論点とSDGsとの関連についても言及し、SDGsに対する理解を深めることができるように配慮する。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。小課題などに対するフィードバックは授業支援システムを通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	なぜ地球環境政治論を学ぶのか：人類世、地球の限界
第2回	地球環境ガバナンスの展開	地球環境政治の歴史的展開：国連人間環境会議からSDGsまで
第3回	気候変動ガバナンス(1)	パリ協定などの気候変動ガバナンスの概要

第4回	気候変動ガバナンス(2)	気候変動ガバナンスの新たな展開：気候正義、気候安全保障、ダイベストメント
第5回	地球環境ガバナンスの課題(1)：生物多様性と化学物質管理の問題をめぐるグローバル・ガバナンス	名古屋議定書などの生物多様性や水俣条約などの化学物質管理をめぐるグローバル・ガバナンスの概要
第6回	地球環境ガバナンスの課題(2)：SDGs、プラスチック	SDGsやプラスチック汚染など近年の地球環境ガバナンスの課題を学ぶ
第7回	欧州の環境ガバナンス	先進的な環境政策をとる欧州での環境ガバナンスの展開：規範パワー、排出量取引、再生可能エネルギー、REACH
第8回	アジアの環境ガバナンス	アジア地域の環境ガバナンスの動向：黄砂、酸性雨、PM2.5、煙霧(Haze)
第9回	地球環境ガバナンスにおけるアメリカ	アメリカの地球環境外交：オバマ政権、トランプ政権、バイデン政権、エネルギー政策、環境正義
第10回	トランスナショナルな地球環境ガバナンス(1)	NGOや企業などの非国家アクターの役割：地球環境条約に関わる活動
第11回	トランスナショナルな地球環境ガバナンス(2)	NGOや企業などの非国家アクターの活動の新たな展開：CSR、FSC、MSC、ESG投資など
第12回	地球環境ガバナンスにおける日本の役割	日本の地球環境外交：持続可能な発展、地球サミット、京都議定書、名古屋議定書、水俣条約
第13回	地球環境政治の見方(1)	リアリズムとリベラリズム
第14回	地球環境政治の見方(2)	コンストラクティヴィズム、グローバル・ガバナンス論、パワー・トランジション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。講義の各項目について理解できるようにしておく。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

佐渡友哲・信夫隆司・柑本英雄編『国際関係論（第3版）』弘文堂、2018年

【参考書】

環境経済・政策学会編『環境経済・政策学事典』丸善出版、2018年
 高橋洋『エネルギー転換の国際政治経済学』日本評論社、2021年
 亀山康子『新・地球環境政策』昭和堂、2010年
 角倉一郎『ポスト京都議定書を巡る多国間交渉』法律文化社、2015年
 小西雅子『地球温暖化を解決したい』岩波書店、2021年
 小西雅子『気候変動政策をメディア議題に』ミネルヴァ書房、2022年
 太田宏『主要国の環境とエネルギーをめぐる比較政治』東信堂、2016年
 宇治梓紗『環境条約交渉の政治学』有斐閣、2019年
 蟹江憲史『持続可能な開発目標とは何か』ミネルヴァ書房、2017年
 蟹江憲史『SDGs（持続可能な開発目標）』中公新書、2020年
 渡邊理絵『日本とドイツの気候エネルギー政策転換』有信堂高文社、2015年
 鄭方婷『重複レジームと気候変動交渉』現代図書、2017年
 服部崇『気候変動規範と国際レジーム』文眞堂、2021年
 平田仁子『気候変動と政治』成文堂、2021年
 舛方周一郎『つながりと選択の環境政治学』晃洋書房、2022年
 ナオミ・クライン『これがすべてを変える 上・下』岩波書店、2017年
 明日香壽川『グリーン・ニューディール』岩波新書、2021年
 齊藤幸平『「人新世」の資本論』講談社現代新書、2021年
 村田晃嗣ほか『国際政治学をつかむ3版』有斐閣、2023年
 中西寛・石田淳・田所昌幸『国際政治学』有斐閣、2013年
 大矢根聡編『コンストラクティヴィズムの国際関係論』有斐閣、2013年
 三船恵美『基礎から学ぶ国際関係論（改訂版）』泉文社、2015年
 大芝亮『国際政治理論』ミネルヴァ書房、2016年
 西谷真規子・山田高敬編『新時代のグローバル・ガバナンス論』ミネルヴァ書房、2021年。
 今井宏平『国際政治理論の射程と限界』中央大学出版部、2017年

山本吉宣『国際レジームとガバナンス』有斐閣、2008年
リチャード・ハース『The world (ザ・ワールド):世界のしくみ』日本経済新聞出版、2021年
スティーヴン・D. クラズナー編『国際レジーム』勁草書房、2020年
南山淳、前田幸男編『批判的安全保障論』法律文化社、2022年
白鳥潤一郎ほか『現代の国際政治』放送大学教育振興会、2022年

【成績評価の方法と基準】

課題類の提出を前提として、期末試験 90 %、平常点 10 % で評価する。期末試験についてはレポートテストになる。平常点については、毎回の小課題の提出とその内容について判断する。小課題のフィードバックについては、学生からのリクエストに応じて授業サイト上で行う。

毎回の小課題の提出が不十分だと成績評価の対象となりませんので注意してください。

【学生の意見等からの気づき】

学生のペースに配慮すること。

【その他の重要事項】

講義内容に関わるドキュメンタリービデオを随時用いていきます。進度により講義内容を変更することがあります。課題提出と資料配布は学習支援システムを通じて行う。感染症対策には十分な配慮をします。半数以上の授業回を対面で実施します。前半を対面、後半以降はオンラインとする予定です。

【Outline (in English)】

【授業の概要 (Course outline)】

For better understandings of sustainable world society, this course aim to provide a wide range of knowledge about global environmental politics from viewpoints of discipline of the International Relations

Course topics.

- ・ History of global environmental governance.
- ・ Global climate governance(The Kyoto Protocol, The Paris Agreements).
- ・ Global biodiversity governance.
- ・ Global chemical governance.
- ・ Global environmental governance of SDGs and Plastic issue
- ・ Environmental governance of the European Union.
- ・ Environmental governance in Asia
- ・ Environmental policy in the U.S.
- ・ Transnational environmental governance (Non-state actors, NGOs, Business and local actors).
- ・ Japan's global environmental diplomacy.
- ・ Theories of global governance (Realism, Liberalism, Constructivism and Global governance)

【到達目標 (Learning Objectives)】

- ・ Students will be able to understand the mechanisms of consensus building on global environmental issues from the perspective of international relations, using the Paris Agreement, climate change issues, and SDGs as examples.
- ・ To be able to understand the activities of various actors such as international organizations, environmental NGOs, and corporations in relation to global environmental issues.
- ・ To be able to understand recent global environmental governance issues such as SDGs and plastic pollution.
- ・ Understand the global environmental diplomacy of Japan and the United States
- ・ To be able to understand the current status of various environmental governance systems at the regional level in Europe and Asia.
- ・ To be able to understand the perspectives of international relations theory, such as global governance and global environmental governance.
- ・ Students will be able to understand the impact of the Trump and Biden administrations on global environmental policy.
- ・ To be able to understand the mechanism of consensus building on complex issues such as trade and environment, environment and security.

【授業時間外の学習 (Learning activities outside of classroom)】

Be sure to prepare and review the materials introduced in each lecture.

Students should be able to understand each item in the lecture. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【成績評価の方法と基準 (Grading Criteria /Policy)】

Assessments will be made on the basis of a final exam (90%) and a normal score (10%). The final exam will be a report test. Ordinary points will be based on the submission of small assignments and their contents. Feedback on small assignments will be provided on the class website upon request from students.

MAN200HA

経営学入門

金藤 正直

配当年次/単位：1～4年 / 2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 4/Thu.4

備考（履修条件等）：環コア：経

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

経営学は、企業の実践的課題に対する解決策を理論的に明らかにすることが中心となる。しかし、その課題や解決策は、企業外部の経済環境の変化によって比較的短いスパンで様変わりしやすく、また、多様に存在する。そこで、本講義では、内容のポイントを絞って、体系的に学習することを目的とする。

【到達目標】

本講義では、理論的な内容だけではなく、企業の実践的取組みについても触れるために、企業が実際にどのような方針（戦略）を立て、その方針に基づいてどのような仕組み（組織）を作り、その仕組みの中でどのように運営（管理）しているのか、という一連の経営活動の基礎基本（本質）を理解することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

- ・本講義は対面で実施する。
- ・毎回講義は配布資料をもとに進めていくが、各講義の内容に関連する映像資料や新聞・雑誌記事も活用し、その中で取り上げられている企業のビジネスモデルの特徴やその課題について履修者と一緒に検討していくとともに、その解説も行う。
- ・課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は、学習支援システムの「お知らせ」を通じて連絡する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	講義の内容・進め方とともに、企業と経営－経営学とは何か－
第2回	企業の種類－企業と何か－	企業概念とその種類を説明する。
第3回	経営戦略－概念と特徴－	経営戦略の概念や特徴を説明する。
第4回	経営戦略－種類と策定方法－	経営戦略の種類とその策定方法を説明する。
第5回	経営戦略－新たな企業戦略の意義と内容－	現在企業に求められている新たな経営戦略（環境戦略、サステナビリティ戦略、地域戦略）を説明する。
第6回	経営組織－概念と種類－	経営組織の概念とその種類（形態）を説明する。
第7回	経営組織－形態と特徴－	経営戦略の形態（基本と応用）とその特徴を説明する。
第8回	経営組織－新たな組織の展開－	第5回の経営戦略を実現していくための新たな経営組織（サプライチェーン、産業クラスター、コラボレーション）を説明する。
第9回	経営管理－機能と仕組み－	経営管理の2つの機能（経営機能と管理機能）とともに、企業経営の管理技法を説明する。

第10回	経営管理－経営資源の管理①－	企業の人的資源である「ヒト」、材料や仕掛品などの「モノ」の管理方法を説明する。
第11回	経営管理－経営資源の管理②－	企業経営をうまく実施するうえで重要な役割を果たす会計（「カネ」）や「情報」の管理方法を説明する。
第12回	経営管理－新たな経営管理の方法－	第5回と第8回の講義内容も踏まえ、新たな経営管理の方法（環境マネジメント、マネジメント・コントロール）を説明する。
第13回	ケーススタディ	第12回までの講義内容をもとに全員で検討し、新たなビジネスモデルを提案する。
第14回	講義のまとめ	講義のポイントを整理する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本講義は、企業経営の知識や考え方だけではなく、今後の活動（例えば、ゼミナール活動）において必要とされる研究・調査の方法の基礎基本も身に付けてもらうために、配布資料を論理的に説明し、解説するだけではなく、参加型（双方向型）形式も取り入れて進めていきます。そのために、毎回の講義で紹介される資料（配布資料だけではなく、その内容に関連する他の著書や新聞・雑誌記事など）を使用して予習・復習してください。なお、本講義の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

担当教員が作成した印刷物を配布します。

【参考書】

講義中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

本講義の成績は以下の2点に基づいて評価します。

- ①理解度テスト、事例分析・検討ペーパーの提出（50％）
- ②期末レポート（50％）

【学生の意見等からの気づき】

毎年、受講生からの意見や要望などを考慮に入れ、講義内容の改善に努めています。

【学生が準備すべき機器他】

学生の皆さんに準備してもらう機器は特にありませんが、配布資料に関連する内容を口頭で説明してもらう場合もありますので、メモできるもの（付箋など）も持ってきてください。

【その他の重要事項】

- ①配付資料や映像資料を用いて授業を進めていきます。
- ②必要に応じて新聞・雑誌記事などのコピーも配布します。
- ③質問などは電子メールで連絡ください。なお、電子メールのアドレスは講義の最初にアナウンスします。

【Outline (in English)】

① Course Outline

The purpose of this lecture is to systematically learn the management method in companies.

② Learning Objectives

Though this lecture, students are able to logically understand the basis of business management system.

③ Learning Activities outside of Classroom

Students are required to study before and after the lecture, using the materials introduced in lecture. Preparatory study and review time for this lecture are 2 hours each.

④ Grading Criteria /Policy

The grade for this lecture will be decided on the basis of the following.

- 1) Submission of comprehension test, case analysis, and discussion paper: 50%
- 2) Final report: 50%

MAN200HA

環境経営と会計

金藤 正直

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 4/Thu.4

備考（履修条件等）：環コア：経

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

会計は、企業などの組織が行った経済活動の状況を定量的に測定し、この結果を情報利用者（企業内外のステークホルダー）に伝達するための情報システムである。その領域は、マイクロ会計（家計、企業、政府を対象とした会計）、メゾ会計（地域を対象とした会計）、マクロ会計（国を対象とした会計）の3つに分類される。そこで本講義では、マイクロ会計のうち、企業（大企業または中小企業）を対象とした会計とともに、それをもとにした環境会計の基礎基本（本質）について学習することを目的とする。

【到達目標】

本講義では、企業会計の基礎的なフレームワークを学習した後、環境経営やサステナビリティ経営の財務的・非財務的内容を理解し、分析できる能力を身に付けることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

・本講義は対面で実施する。

・本講義では、企業会計（主に財務諸表の仕組みや経営分析の技法）、環境会計の機能や構造を、環境省やGRI (Global Reporting Initiative) などで公表されているガイドラインや、有価証券報告書、環境報告書、サステナビリティ報告書、統合報告書を利用しながら理解することを目指す。また、必要に応じて関連する新聞や雑誌記事などを配布し、会計の仕組みをより詳細に理解していく。

・課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は、学習支援システムの「お知らせ」を通じて連絡する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	講義の内容・進め方とともに、企業経営と会計－会計学とは何か－
第2回	会計の基礎概念と基本的技法	会計の基礎概念と基本的技法を説明する。
第3回	会計の仕組み①－貸借対照表の特徴と仕組み－	貸借対照表の特徴と構成要素（資産、負債、純資産）を説明する。
第4回	会計の仕組み②－損益計算書の特徴と仕組み－	損益計算書の特徴と構成要素（収益、費用）を説明する。
第5回	経営分析の方法	経営分析の必要性と、分析方法（実数分析と比率分析）を説明する。
第6回	ケーススタディ①	第2回から第5回までの講義内容をもとに、企業の会計情報を分析し、その結果を説明する。
第7回	環境経営と環境会計	環境会計の概念と基本的機能、また、第5回までの講義内容との関係を説明する。
第8回	環境会計情報①	環境保全コストの定義、内容、測定方法を説明する。

第9回	環境会計情報②	環境保全効果と経済効果の定義、内容、測定方法を説明する。
第10回	環境経営分析	環境会計情報を活用した経営分析の方法を説明する。
第11回	ケーススタディ②	第7回から第10回までの講義内容をもとに、企業の環境会計情報を分析し、その結果を説明する。
第12回	環境会計情報の開示方法	環境会計の情報開示の意義とその方法（開示媒体）を説明する。
第13回	新たな環境会計	新たな環境会計（マテリアルフロー・コスト会計など）の概念とその仕組みを説明する。
第14回	講義のまとめ	講義のポイントを整理する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本講義は、配布資料を用いて、会計学の専門的で難解な用語、概念、技法を平易に説明し、解説していきます。また、参加型（双方向型）形式も取り入れて進めていきますので、毎回の講義で紹介される資料（配布資料だけでなく、その内容に関連する他の著書や新聞・雑誌記事など）を使用して予習・復習してください。なお、本講義の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。こうした講義を通じて、受講者には、今後の活動（ゼミナール活動や資格獲得など）で必要とされる基礎的な能力が身に付きます。

【テキスト（教科書）】

担当教員が作成した印刷物を配布します。

【参考書】

講義中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

本講義の成績は以下の2点に基づいて評価します。

- ①理解度テスト、事例分析・検討ペーパーの提出（50％）
- ②期末レポート（50％）

【学生の意見等からの気づき】

毎年、受講生からの意見や要望などを考慮に入れ、講義内容の改善に努めています。

【学生が準備すべき機器他】

学生の皆さんに準備してもらおう機器は特にありませんが、配布資料に関連する内容を口頭で説明する場合がありますので、メモできるもの（付箋など）を持ってきてください。

【その他の重要事項】

- ・配布資料や映像資料を用いて授業を進めていきます。
- ・必要に応じて新聞・雑誌記事なども配布します。
- ・質問等は電子メールで連絡ください。なお、電子メールのアドレスは講義の最初にアナウンスします。

【Outline (in English)】**① Course Outline**

The purpose of this lecture is to learn environmental accounting and sustainability accounting based on the framework of corporate accounting.

② Learning Objectives

Thought this lecture, students are able to logically understand the basis of corporate accounting, environmental accounting, and sustainability accounting.

③ Learning Activities outside of Classroom

Students are required to study before and after the lecture, using the materials introduced in lecture. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

④ Grading Criteria /Policy

The grade for this lecture will be decided on the basis of the following.

- 1) Submission of comprehension test, case analysis, and discussion paper: 50%
- 2) Final report: 50%

MAN300HA

環境ビジネス論

竹ヶ原 啓介

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 2/Wed.2

備考（履修条件等）：環コア：経

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

環境問題と経済との関わりを考える題材として「環境ビジネス」を取り上げる。再生可能エネルギー、省エネ、資源リサイクル、環境リスク管理など、様々な分野で展開される企業活動の分析を通じて環境問題を捉え直すことにより、環境と経済の関わりについて複眼的な考察出来るようになることを目標とする。授業では、主要分野の環境ビジネスについて、内外の具体例を素材にファイナンスの基本的な考え方を交えて検討すると共に、実際に企業分析を体験することで理解を深めていく。

【到達目標】

環境ビジネスの視点から多様な企業活動を観察することで、環境問題に関する総合的な理解を深めるとともに、企業のビジネスモデルを分析し、その成長性やリスクについて具体的に議論が出来るようになる。様々な企業情報に触れつつ、汎用性の高いツールとしてファイナンスや経営学の基本的な視点を学ぶことで、「企業を見る目」を養い、様々なビジネスモデルを検討する際に、自然にファイナンス的な見方が出来るようになる。また、企業分析と発表・フィードバックを経験することで、プレゼンテーション能力の向上を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

環境ビジネスについて、市場規模や構成、雇用などを巨視的な視点から理解すると共に、エネルギー、資源リサイクル、リスク管理、水、自然資本保全など主要なテーマ毎に、ケーススタディ等を通じて具体的に分析しつつ学習する。併せて、ファイナンスの基本的な考え方、基礎的な分析ツールを知ることにより、汎用性のある知識の習得を目指す。また、個別企業分析とプレゼンを担当することで、実際の企業を素材に環境ビジネスの実像に触れるとともに、教員からのフィードバックを通じてプレゼンテーション能力の涵養を図る。課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	本授業で取り上げていくテーマを紹介し、受講後の到達点イメージを共有する。
第2回	環境ビジネス概論／	環境ビジネスの基本的な性格と市場規模など全体像の把握を行うと共に、分析のフレームワークについての知識を整理する。
第3回	環境と金融①	近時注目を集める ESG 金融の考え方を理解するとともに、ファイナンスの基本的な考え方やツールについて学ぶことにより、各論以降の検討に向けた基礎を構築する。
第4回	環境と金融②	前回の続き。NPV、IRRなどの考え方、キャッシュフロー表の構成などの基本を理解する。

第5回	環境と金融③／プレゼンチーム分けと事前ミーティング	前回の続き。また、講義後半で行う企業分析のチーム分けを確定し、チームメンバーの顔合わせを行う。
第6回	ケース1：再生可能エネルギービジネス	太陽光発電や風力、バイオマスを素材に、再生可能エネルギービジネスについて、その事業性や普及に向けた課題等を考える。
第7回	ケース2：省エネビジネス	再生可能エネルギーと並ぶ温暖化対策ビジネスである省エネについて考える。ESCOなどを通じて、省エネがビジネスとして成立するポイントについて考える。
第8回	ケース3 3Rビジネス1／企業分析プレゼン①	規制が作り出した巨大産業であるリサイクルビジネスの基本構造を理解し、3Rからサーキュラーエコノミーに至るビジネス環境の変化を学ぶ。なお、今回から講義の後半に企業分析・プレゼンを実施する予定。
第9回	ケース3 3Rビジネス2／企業分析プレゼン②	前回の続きとして、容器包装リサイクル、食品リサイクル、金属リサイクル等の各論を観察する。
第10回	ケース4：環境リスク管理ビジネス／企業分析プレゼン③	法規制導入を機に拡大が期待されながら、予想とは異なるパスを辿った土壌・地下水汚染対策ビジネスの基本構造を理解し、成功モデル・戦略を探る。
第11回	ケース5：水ビジネス／企業分析プレゼン④	希少化する淡水資源と人口増加をバランスさせる切り札として期待される水ビジネス。国内では上下水道インフラの更新、海外では新興国への進出による成長が期待されているビジネスの現状と展望を考える。
第12回	ケース6：自然資本・生物多様性保全ビジネス／企業分析プレゼン⑤	自然資本／生物多様性という概念と、これをビジネスと接続する視点を確認しつつ、幾つかの優れた事例を通じて、関連ビジネスについて考える。
第13回	ケース7：ESG投資と環境ビジネス1／企業分析プレゼン⑥	欧米の長期投資家を嚆矢に、現在我が国でも影響力を強めているESG投資など「環境金融」の機能について考える。
第14回	まとめ	前回の続きと全体の振り返り。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

ファイナンスを含めて予備知識は一切不要です。復習による定着を重視して下さい。自分が関心を持つ業界／企業が環境問題にどう関わっているか、という問題意識をもって講義に臨めば得るものが多いでしょう。

講義が大企業等を素材にすることが多い分、毎回ベンチャー企業等を素材とするミニレポートを課題として課します（翌週までに提出）。また、チーム又は個人で企業分析・プレゼンしてもらいます。質疑、講師や他の受講生からのフィードバックを含め、過去の受講生の多くが、この経験が有用だったと振り返っています。毎回の準備学習・復習と宿題対応で2時間程度を標準としますが、これとは別にプレゼン準備には相応の時間が必要です。こうした分析・プレゼン資料作成作りへの積極的な参加が必要です。

【テキスト（教科書）】

特定の教科書は使用せず、担当教員が作成したレジュメや参考資料を授業支援システム等を通じて配布します。講義は、基本的にこのレジュメを参照しながら行われるので、受講する学生は忘れずに持参するようにして下さい。また、毎回課す課題は、当日教室で配布します。

【参考書】

環境省 環境経済情報ポータルサイト

http://www.env.go.jp/policy/keizai_portal/index.html

このほか、講義において適宜紹介していきます。

【成績評価の方法と基準】

この講義では、一方通行の座学ではなく、ディスカッション等を通じた知識の定着を重視しており、授業に出席することが評価の大前提となります。そのうえで、企業分析・プレゼンテーション（50%）、毎回課すベンチャー企業などの環境ビジネスを素材とする課題（30%）、講義でのディスカッションへの貢献度（20%）などに基づき、総合的に判断します。なお、プレゼンテーション等に関して個別に指導を行う関係上、受講希望者が多い場合には人数調整を行うことがあります。

【学生の意見等からの気づき】

プレゼン後の振り返りなど、ディスカッションや対話の時間をより充実させる。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布、課題提出には原則として授業支援システムを利用する。プレゼンテーション作成にパワーポイントを使用する。

【その他の重要事項】

講義の性格上、対面式を原則とします。個別の事情がある場合には別途相談して下さい。分析・プレゼンの件数や対象は受講生数に応じて増減します。受講者が多い年はチームを編成して、最大6～7件程度になり、少ない場合は、受講者一人で1社を担当してもらいます。

教員は現役の銀行職員であり、環境ビジネスの調査企画、ESG評価等に関する実務経験を有しているほか、数多くの政府委員会に委員として参加しています。本講義は、こうした経験を基に構成されたプログラムです。

【Outline (in English)】

【Course Outline】

The purpose of this course is to consider the relationship between environmental issues and the economy from the aspect of "environmental business." By rethinking environmental issues through analysis of corporate activities conducted in various fields such as renewable energy, energy saving, resource management, environmental risk management, etc., we aim to provide a multi-faceted view of the relationship between the environment and the economy.

【Learning Objectives】

By observing environmental businesses, you will be able to deepen a comprehensive understanding of environmental issues, analyze a company's business model, and discuss its growth potential and risks in detail. Develop corporate analysis skills by experiencing various corporate activities and learning the basic perspectives of finance and business administration. Improve presentation ability through company analysis and presentation.

【Methods】

First, understand the overall picture of the environmental business, such as market size, composition, and employment. Next, you will learn through case studies on themes such as energy, resource recycling, risk management, water, and natural capital conservation. At the same time, learn the basic idea of finance and basic analysis tools. In addition, by being in charge of individual company analysis and presentations, you will be able to experience the real image of environmental business using actual companies as materials, and to develop his presentation ability through feedback from faculty members.

【Learning Activities Outside of Classroom】

No prior knowledge is required, including finance. Emphasis is placed on fixing by review. There are many things you can get by attending a lecture with an awareness of how the industry / company you are interested in is involved in environmental issues.

Since lectures are often made from large companies, we will impose a mini-report on venture companies as an issue every time (submit by the next week). In addition, we will ask you to analyze and present the company as a team or as an individual. Many past students recall that this experience was useful, including questions and feedback from teachers and other students. The standard for each preparatory study / review and homework is about 1 hour, but apart from this, it takes a considerable amount of time to prepare for the presentation. It is necessary to actively participate in the creation of such analysis and presentation materials.

【Grading Criteria/Policy】

This lecture emphasizes the establishment of knowledge through discussions, etc., rather than one-way classroom lectures, and attending classes is a major premise for evaluation. After that, make a comprehensive judgment based on company analysis / presentation (50%), issues related to environmental businesses such as venture companies imposed each time (30%), and contribution to discussions in lectures (20%). increase. Due to individual guidance regarding presentations, etc., the number of participants may be adjusted if there are many applicants.

SOC200HA

NPO・ボランティア論

新田 英理子

配当年次/単位：1～4年/2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 5/Wed.5

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

自分がより良くありたいと願うように、社会をより良くしたいと願うときに、ボランティア、NPO（Nonprofit Organization）について、多面的、多角的に理解していることで、社会との向き合い方の幅を広げることができます。

日本において、NPOが一般的になってきたのは、ここ20年ほどです。

ボランティアは、「奉仕」を越えて、現代社会においてますます重要性を増しています。また、NPO・ボランティアと親和性の近い言葉として、市民社会・市民という言葉があります。

この授業では、NPOやボランティアを多角的、多様に理解すると同時に、SDGs達成に向けて活動する、NPOの実践者、ボランティアの実践者からの情報提供も受けます。それらを通じて、ひとりひとりが、市民として、社会とどのように向き合い、関わっていくのか、理解を深め、考える機会とします。

【到達目標】

・NPOの意味、役割、これまでの歴史、運営や財源、行政や企業との関係などについて理解を深めるとともに、現代社会の持続可能性と持続可能性について考えます。

・ボランティアの意味、役割、これまでの歴史、NPOとの関係について理解するとともに、SDGsとボランティア、SDGsと市民について、考えます。

・NPO・ボランティアが取り組んできた課題への理解を通して、社会の変化や現代社会の課題について問題意識をもち、自分たちひとりひとりができることについて考えます。

・今後のより良い社会のあり様を、どのように考えていけばよいのか。市民一人ひとりが、社会とどのように向き合い、関わるべきか、学生自身も含めて考えます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

・原則として各回ごとに、テーマにそった講義を行います。

・毎回、小グループで話し合い、グループの意見をグループスプレッドシートに書き、授業中のディスカッションします。

・毎回、リアクションペーパー（感想・質問・意見）を提出してもらいます。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

・リアクションペーパーの質問については、次々回の授業の冒頭でコメントします。感想や意見は、次々回の授業で、共有することがあります。毎回、授業の振り返りの時間をとります。また、リアクションペーパーの意見等をもとに、学生からも意見を出してもらい、学生間で様々な視点や考えを学びあいます。授業では、ノートパソコン、タブレットなどを使って記入していただく時間がありますので、準備して参加してください。

・履修人数によって、12回、13回、14回の授業の持ち方は変更します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	・授業の目標、内容、進め方について ボランティア、NPO、SDGsに関する基礎知識
		・私たちの生活と、持続可能性

第2回	NPOの基礎知識～NPOとは何か	・NPO歴史的背景 ・NPOの意味と意義 ・日本社会におけるNPO種類（NPO、NGO、CSOなど）
第3回	SDGsの基礎知識～SDGsとは何か	・SDGsの歴史的背景 ・SDGsの意味と意義 ・SDGsの担い手としてのNPO、ボランティアの意味
第4回	ボランティア・ボランティア活動とは何か？	・ボランティアの歴史的背景 ・ボランティアの意味と意義 ・個人、組織や法人格とは
第5回	NPO・ボランティアの実践～事例を通して①	差別/格差の問題と向き合う、NPO・ボランティアの実践事例を通して、持続可能性について考える
第6回	課題設定	5回の授業を通して、グループもしくは自身が解決したい、社会課題を設定します。
第7回	NPO・ボランティアの実践～事例を通して②	環境問題（プラスチックごみ問題）と向き合う、NPO・ボランティアの実践事例（クリーンアップ等）を通して、持続可能性について考える
第8回	NPO・ボランティアの実践～事例を通して③	生物多様性と向き合う NPO・ボランティアの実践事例（希少種保全等）を通して、持続可能性について考える
第9回	市民社会とは何か	・市民社会とは ・行政組織や企業組織との違い ・マルチステークホルダーの重要性
第10回	NPO・ボランティアの実践～事例を通して④	外国にルーツをもつ人たちが抱える問題と向き合う NPO・ボランティアの実践事例（学習支援等）を通して、持続可能性について考える
第11回	NPO・ボランティアの実践～事例を通して⑤	貧困/格差の問題と向き合う、NPO・ボランティアの実践事例（路上生活者支援）を通して、持続可能性について考える
第12回	授業の振り返りと発表①と補足	・半期を通じて、調べてきたNPO・ボランティア活動の発表①
第13回	授業の振り返りと発表②	・半期を通じて、調べてきたNPO・ボランティア活動の発表②
第14回	パートナーシップ	・パートナーシップによって課題を解決するとは ・NPO・ボランティアにとってのパートナーシップの概念を理解する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします

・毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。

・各回のレジュメ（パワーポイント資料）配布するので、授業後、各自授業内容を振り返り内容をよく理解し、自分なりの考えを整理してみる。疑問点等があれば、次回授業のリアクションペーパーで提出してください。

・欠席した場合も授業支援システムからレジュメをダウンロードして授業内容を把握しておくこと。

・参考書等で授業内容と関連する内容を読み、考察を深めること。

・各自で、関心のある分野のNPOの事例をインターネット等で調べたり、NPO支援センターなどで情報収集したり、実際にボランティア参加してみることをお勧めします。

【テキスト（教科書）】

テキストは指定しません。

【参考書】

「基本解説。そうだったのかSDGs」SDGs 市民社会ネットワーク 発行 1000円

「知っておきたいNPOのこと基本編」日本NPOセンター発行 500円

その他、授業内でも紹介します。授業で聞くだけでなく、参考書のいずれかを購入するか、各自でNPOに関する本や小冊子を入手し、授業とあわせて理解や考察を深めるようにしてください。

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業中の発言、リアクションペーパーの提出、参加姿勢、グループワークへの参加など）：40%

テスト・レポート：60%

なお、原則として、自分都合で4回以上欠席した者は、成績評価を行わない。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

特にありません。

【その他の重要事項】

- ・現在もSDGsを達成するために活動しているCSOのネットワーク組織で活動をしています。
- ・また、20年間、NPOとしてNPOを支援し、活動を行ってきた経験をもとに、具体的な事例や体験談を交えて授業を行います。
- ・学生による発表を随時取り入れたいと思いますので、授業計画を一部変更することもあります。
- ・履修人数により、グループワークの発表方法などを変更します。

【Outline (in English)】

In this class, we will receive reports from NPO/volunteer practitioners, who understand NPOs and volunteer work from multiple points of view. Through such experiences, students in this class will have opportunities to deepen their understanding of such work and consider how they want to engage with society as citizens.

Work to be done outside of class (preparation, etc.)

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

The lecturers are required to prepare for and review the lectures by using the materials introduced in the lectures.

After the class, each student should review the lecture content, understand the content well, and organize his/her own ideas. If you have any questions, please submit them in the reaction paper for the next class.

If you are absent from class, download the resumes from the class support system to grasp the contents of the class.

Students are expected to deepen their understanding of the contents of the class by reading the related contents in reference books, etc.

It is recommended that you research NPOs in your field of interest on the Internet, gather information at NPO support centers, etc., and actually participate in volunteer activities.

Grading criteria

Ordinary points (in-class comments, submission of reaction papers, participation attitude, etc.): 40

Tests and reports: 60

As a general rule, students who are absent four or more times will not be graded.

SOC300HA

地域福祉論

宮脇 文恵

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講semester：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水3/Wed.3

備考（履修条件等）：環コア：口、文

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

1. 地域には、様々な人が存在していることを知り、お互いにその存在を認め合い、共存するあり方について、主に福祉的な観点から学ぶ。
2. 自分が暮らそうと思う地域を、だれもが自分らしく「暮らしたい場所」とするために、どうすればよいか。福祉的な観点から学ぶ。
3. 地域において、誰もが仲間はずれにされないためにどうすればよいか、その技法について学ぶ。

【到達目標】

人は誰もが、幸せでありたいと漠然と願っている。それは、自分が暮らしたい場所で、豊かな人間関係に囲まれ、他者から必要とされ、充実した毎日を送り、「生きていてよかった」と思えるようになることであろう。その一方で、「幸せになれなくても仕方がない」とされるマイノリティが存在する。

地域福祉は、地域に暮らす一人一人が「幸せだ」「生きていてよかった」と思えることであり、そのためには、住民自身が「我が町を、住んで都にする」という意識を持ち、自分ができることを働きかけていくことが求められる。

本講義では、そのための基礎的な知識として、福祉的なニーズを抱える人々に対する理解と、地域に存在する社会資源、助け合う方法などについて理解を深めていく。そのことをもって、自らが地域社会に働きかけていく意識を醸成し、実践していく力を身に着ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

地域福祉とは、「地域に暮らす一人一人が幸せになることであり、そのためのしくみをつくり、お互いに働きかけ合っていくこと」である。では、どんな人が大変な思いをしているのか、どうすれば自分らしく暮らしていくことができるのか。子ども・障害のある人・高齢者・貧困など生活困窮者・制度のはざまにあってサービスを使えない人（ゴミ屋敷、ひきこもり、LGBT、外国人移住者など）などへの理解を深め、地域で支え合うための技法と、地域社会を変革していく福祉教育実践や地域福祉計画について学ぶ。授業はすべて講義形式で行い、毎回リアクションペーパーの提出を伴う。リアクションペーパーに記述された学生の問題意識をもとにして、授業内容を再構成して実施したり、課題を再設定する回もあるため、積極的な記述をしてほしい。代表的な問題意識や感想などは、授業の冒頭で教員から受講生に共有する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス「地域福祉」とは～講義の概要とポイント～	講義の概要・予定と授業におけるルールの確認 地域福祉の理念を学び、国際生活機能分類（ICF）に基づいて、「本人と他者（地域社会）との関わり」を考える。
第2回	優生思想・差別・偏見と私たち	ナチスによる障害者虐殺、日本におけるハンセン病患者隔離政策などから、地域における差別の歴史を学ぶ。

第3回 ノーマライゼーションとソーシャルインクルージョン 「どんな人でも社会から仲間はずれにしないで、社会の方を変えていく」というノーマライゼーションと、お互いを地域社会の中で認め合って共存していく「ソーシャルインクルージョン」についてまなぶ。

第4回 認知症と地域福祉 認知症高齢者、若年性認知症当事者の事例から、認知症への理解と地域社会の関わりを考える。

第5回 高齢者と地域福祉 介護保険と高齢者を取り巻く現状をとりあげ、地域社会の関わりを考える。

第6回 子ども・家庭と地域福祉① 児童虐待を中心としてとりあげ、地域社会の関わりを考える。

第7回 子ども・家庭と地域福祉② 子どもの愛着形成・社会的養護とそのアフターフォロー、子ども・家庭の貧困をとりあげ、地域社会との関わりを考える。

第8回 障害のある人たちと地域福祉① これまで差別されてきた障害のある人について、身体障害・知的障害を中心に地域社会との関わりを考える。

第9回 障害のある人たちと地域社会②～ これまで差別されてきた障害のある人について、精神障害（各種依存症を含む）・発達障害を中心に地域社会との関わりを考える。

第10回 社会的孤立・生活困窮者と地域福祉 野宿生活者の現状と社会の偏見、地域における支援の取り組みについて学ぶ。

第11回 多様な性と地域福祉 13人に1人と言われるLGBTへの理解と、地域社会で共に生きる方策を探る。

第12回 外国人と地域福祉 日本に暮らす外国にルーツを持つ人の置かれている現状と、私たちが地域で共に生きるあり方について学ぶ。

第13回 地域福祉の推進主体）～社会福祉協議会、社会福祉法人、NPO、民生委員・児童委員、保護司 住民の福祉意識、在宅福祉サービスの構造、地域福祉の主体形成、福祉教育と教育福祉、福祉教育の展開における留意点地域福祉を推進する中心的な団体について、学ぶ地域福祉を推進するNPO、地域の期待される人材について学ぶ地域福祉の主体形成、見通しを立てて地域を作る計画のあり方を学ぶ。

第14回 地域福祉推進における住民参画～福祉教育、地域福祉計画、ソーシャルサポートネットワーク 住民参画の方法として、福祉教育と地域福祉計画をとりあげ、住民の福祉意識の醸成と、見通しを立てて地域を作る計画のあり方を学ぶ留意点を学ぶ。また、地域住民の身近な支え合いとして、ソーシャルサポートネットワークについて学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。

授業時間内、また、課題において視聴覚教材を多用します。
高齢者、子ども連れの親子、障害のある人などを始めとして、野宿者、ひきこもり、性的マイノリティ、外国人など、社会の中で居づらさを感じる人たちが実はたくさんいます。通学、生活の中で、関心を抱いて、目を向けてみてください。メディアの中の話題もチェックしましょう。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

使用しない。適宜資料を紹介していく。

【参考書】

くさか里樹『ヘルプマン！』1～27巻（講談社）、『ヘルプマン！！』1～10巻（朝日新聞）

さかたのり子・穂実あゆこ『児童福祉司一貫田逸子』(青泉社)
柏木ハルコ『健康で文化的な最低限度の生活』(小学館) 他
随時、授業内で紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点(授業映像の視聴と課題)が40%、途中に取り入れる小レポート(主に映像に関するもの)が10%、学期末レポート50%とします。

【学生の意見等からの気づき】

視聴覚教材については、古典的な教材と、さらに新しい視聴覚教材を合わせて活用する。

【学生が準備すべき機器他】

配布した資料は、その時間だけではなく、その後の授業でも振り返りながら使うので、地域福祉論用のファイルを用意して、必ず日付を明記して綴じておいてください(あとからいただく「いつ配布されたか教えてほしい」という声には答えられません)。

レポートの提出は、かなり早いうちから授業支援システムを使用しますので、使えるようにしておいてください。

【その他の重要事項】

授業についてのご意見を反映して授業を展開することもあります。そのため、シラバスの順番が入れ替わったり、新たな項目が加わることもあります。

授業は、映像を視聴し、それと共に課題に取り組み、その双方を持って出席とします。

【Outline (in English)】

【Course outline】

Learn about people who need some kind of help and people who need help but are unable to receive services due to the gap between systems, and learn about how they can live in their own way in the community.

Classes are conducted in a lecture format, and students have the opportunity to present what they have learned as necessary. Study using many audiovisual materials, and submit a small report each time about your impressions. At the end of each class, submit a reaction paper. Based on the student's problem awareness written in the reaction paper, there are times when the class content is reorganized and implemented, and the assignment is set again, so I would like you to write positively. At the beginning of the class, teachers share their thoughts and impressions about typical problems with students.

【Learning Objectives】

Learn about people with various attributes, deepen your understanding of "social inclusion" in which people live while accepting and including each other in society, think about what you can do, and put it into practice become able to.

【Learning activities outside of classroom】

Please collect information about welfare, such as newspapers and news, and attend classes with more interest. In addition, we will give you a pre-work assignment, so please work on it.

【Grading Criteria /Policy】

40% for regular grades (watching class videos and assignments), 10% for short reports (mainly about videos), and 50% for term papers.

SOC300HA

地域コモンズ論

船戸 修一

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 4/Fri.4

備考（履修条件等）：環ア：口、文

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「草原・森林・牧草地・漁場などの資源を共同で利用・管理する仕組み」または「共同で利用・管理する資源そのもの」は「コモンズ」と呼ばれる。この授業では具体的な事例から、このような資源がどのように利用・管理されてきたのか、そして現在どのような利用・管理状況にあるのかを説明する。そのうえで今後の地域社会における自然環境や資源の共同利用・共同管理のあり方について考える。

【到達目標】

まずコモンズ研究がどのような背景で成立し、どのように発展してきたのかを理解する。次に、様々な地域資源やそれに関する実践活動から資源の持続可能な利用や地域社会の持続可能性について理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は講義形式で進める。毎回授業後には、授業内容を踏まえた課題を課し、そのレポートを次回の授業までに提出してもらう。次回の授業、または学習支援システムにおいて課題への解答からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	コモンズとは何か？ (1)	コモンズの定義について説明する。
第2回	コモンズとは何か？ (2)	コモンズ研究がどのような実践的課題を背景に進められてきたのかを説明する。
第3回	地域社会と資源	日本の農山村と地域資源との関係性について説明する。
第4回	日本のコモンズ (1) 入会地	入会地の利用・管理の歴史的経緯ならびにその現状について説明する。
第5回	日本のコモンズ (2) 農業用水	農業用水の利用・管理の歴史的経緯ならびにその現状について説明する。
第6回	日本のコモンズ (3) 棚田	棚田の利用・管理の歴史的経緯ならびにその現状について説明する。
第7回	日本のコモンズ (4) 里山	里山の利用・管理の歴史的経緯ならびにその現状について説明する。
第8回	人と野生動物 (1) マタギ	狩猟を生業とするマタギの自然観を踏まえ、人間と自然のかかわりについて説明する。
第9回	人と野生動物 (2) 獣害と狩猟	野生動物による農業被害問題を踏まえ、狩猟による動物資源の利用・管理について説明する。
第10回	限界集落と集落維持	「他出子」という人的資源も「コモンズ」に位置づけたうえで、その資源による農山村維持の可能性について説明する。

第11回	グローバルなコモンズとその利用・管理 (1)	グローバル化による食料の不平等分配を踏まえ、食料の生産・消費について説明する。
第12回	グローバルなコモンズとその利用・管理 (2)	資源枯渇が危惧されるウナギ・マグロ・クジラなどの現状を踏まえ、漁業資源の利用・管理について説明する。
第13回	コモンズ研究の整理	今後のコモンズ研究の可能性と課題について説明する。
第14回	「コモンズ論」のまとめと振り返り	これまでの授業内容を振り返り、それを再確認する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業後は授業内容や配布プリントの内容について復習しておくこと。そのうえで授業において紹介した参考書や授業内容に関する文献を読むなど自主的な学習を望む。授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

テキストは指定しない。毎回プリントを配布する。

【参考書】

授業で随時紹介する。

【成績評価の方法と基準】

毎回授業後に課す課題レポートの内容を70%として評価する。さらに学期末に課すレポート（4千字以上）の内容を30%として評価する。なお受講者の人数次第では評価方法を変更することがある。

【学生の意見等からの気づき】

積極的な授業参加と授業理解を促すために、毎回授業終了後にリアクションペーパーを課したい。

【Outline (in English)】

This class engages with studies on “local commons.” The goal of the lesson is to understand the content of the local commons and their sustainable use. As learning outside of class hours, I would like to review the class and read the literature introduced in the class. Regarding the method and criteria for grade evaluation, the content of the report submitted at the end of the semester will be evaluated as 60%, and the content of the reaction paper imposed after class will be evaluated as 40%.

SOC300HA

NGO活動論

小野 行雄

配当年次/単位：2～4年 / 2単位

開講semester：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 4/Fri.4

備考（履修条件等）：環コA：G

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

世界が直面する問題を理解し、NGOの活動する場と方法を確認した上で、日本のNGO、国際NGO、「途上国」NGO等の現状を把握し、市民社会におけるNGOの役割、市民としての自分の役割について考える。

【到達目標】

- 1 世界の人々が直面している問題とそれら相互のつながりについて体験的に理解する
- 2 NGOと市民社会に関する歴史と現状を理解し、広い視野で世界の人々のつながりを考えられるようになる
- 3 NGO活動を通して自ら世界に関わろうとする積極性と市民性を身につける

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

ワークショップとディスカッションによるグループワークを中心に進める。自ら学び、自ら主体的に関わり、自ら進み行きを決める「参加」があらゆる場面の大きな柱となる。毎回積極的に体験し、意見を交換し、調査し発表する姿勢が求められるため、受動的な意識態度では受講できない。映像資料も多用する。毎回授業後は学習システムを利用してふりかえりレポートを提出することを必須とする。次の授業では、それをめぐる意見交換を行いながら先に進める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	グループづくりワークショップ NGOの基礎
第2回	市民社会1	社会における市民社会の位置と役割に関するワークショップと講義
第3回	NGOの支援方法	インド山岳民族支援をめぐるワークショップ「ドンゴリアコンドの人々」
第4回	開発と近代	インド山岳民族支援をめぐる介入と近代化についてグループ討議
第5回	NGO ケーススタディ1	児童労働とフェアトレードに関わるNGOの取り組みに関するワークショップ「ミッション・チョコレート」
第6回	NGO ケーススタディ2	児童労働とフェアトレードに関わるNGOの取り組みに関するグループ討議
第7回	NGOの資金	フィリピン支援事例についてシミュレーションワークショップとグループ討議
第8回	市民社会2	ボランティアと寄付について講義とグループ討議
第9回	日本のNGO 1	日本NGO史について講義と日本のNGOについてのグループ調査
第10回	日本のNGO 2	日本NGOについてグループ調査発表と講義

第11回	世界のNGO 1	世界NGO史について講義と世界のNGOについてのグループ調査
第12回	世界のNGO 2	世界のNGOについてのグループ調査発表と講義
第13回	ゲスト講義	NGOで活動してきた方をゲストに迎えて講義と討論
第14回	NGOの役割	NGOの社会的役割および社会との関わりについて講義とグループ討議

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して予習・復習をすること。ふりかえりシートを重視するので、自身のそれまでの知識・経験を学んだことと結びつけていぬいなふりかえりを時間をかけて行い学習システムにて提出すること
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

使用しない。

【参考書】

授業内で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

グループワークへの参加度および毎時間のレポートを重視する。ふりかえりシートによるレポート80%、期末レポート20%

【学生の意見等からの気づき】

ふりかえりシート作成にあたり毎回ポイントを提示する

【学生が準備すべき機器他】

授業時間内でインターネットを使った事例調査を行うため、ネットにつながるパソコンまたはスマートホン持参が必須となる。

【その他の重要事項】

グループワークを中心とするので、主体的学習意欲があること、積極的にコミュニケーションをとる意志があることが必須条件である。

【Outline (in English)】

【授業の概要（Course outline）】 Understanding modern issues of the world and situations of NGOs. Thinking of roles of NGOs and our own in the civil society, and developing the positive attitude toward the participation.

【到達目標（Learning Objectives）】

- 1 To understand modern issues of the world and the their relations.
- 2 To understand the past and present of the NGOs and civil society and acquire broad view of the world citizens.
- 3 To acquire a strong sense of citizenship and positive attitude to get involved in the society.

【授業時間外の学習（Learning activities outside of classroom）】

Prepare the class by skimming through the materials provided. After the class, take time to write a reflection paper. Try relating what you learned in the class to your previous knowledge and experiences.

【成績評価の方法と基準（Grading Criteria /Policy）】

Active participation to the class and thoughtful reflection is important.

Reflection report after every class 80%

Term-end report 20%

SOC300HA

社会開発論

新村 恵美

配当年次/単位：2～4年 / 2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 4/Mon.4

備考（履修条件等）：環コ：グ

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国際社会においても日本においても、経済優先の開発の反省から「社会開発」の重要性がたびたび再確認されてきた。開発、国際協力分野における社会的側面の重要性はSDGsの随所に見られる。しかし、「社会開発」は「経済開発」と対立するものではなく、広い定義で捉えることができるだろう。本科目では、SDGsを意識しつつ、世界の現状、社会開発の枠組みを学び、先進国の私たちの役割を考察する。

【到達目標】

下記の3点を到達目標とする。

- 1、SDGsに関連づけながら、社会開発の概念、扱うテーマについて、理論と実践の両方を往復することで基本的な知識を習得する。
- 2、途上国と先進国、当事者と支援者、というような二項対立ではなく、また自分と違う立場にある人びとを他者化することなく、「貧困」を理解することを目指す。
- 3、想像力を駆使して、社会開発が人間に変化をもたらすものであることを、実感する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

大きく3セクションに分ける。第1に、社会開発の概要として、様々な理論や国連・政府の枠組みから社会開発を概観する。第2に、社会開発で取り上げられる課題を分野別に理解し、最後に社会開発とそれによる社会変容の事例を取り上げて検討する。各回で、SDGsの関連する目標に照らし合わせ、それぞれの指標も確認する。授業計画の内容欄に、該当するSDGsの目標番号【 】で記す。学生自身の主体的な考察を促すため、提出した課題レポートをグループワークで共有し、全体発表なども行うほか、シミュレーションゲームや簡単なワークショップなども取り入れる。課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	導入 社会開発の概要1 定義と背景	本講義の全体像の紹介、オリエンテーションを行い、「社会開発」の概念を整理する。【SDGs全体】
第2回	社会開発の概要2 国連とSDGs	国連のSDGsの枠組み、内容と指標を概観する。【SDGs全体】
第3回	社会開発の概要3 国連と人間開発	国連の「人間開発」の概念を学び、人間開発指数(HDI)、ジェンダー開発指数(GDI)などの主な国際指標を理解する。【SDGs目標1, 2, 3, 4 & 5】
第4回	社会開発の概要4 日本政府による社会開発	社会開発を行う主体としての、国際機関、各国政府の活動について概観する。【SDGs目標17】
第5回	社会開発の概要5 市民、NGO	NGOの活動について、その種類・形態・財政・人材などを検討する。【SDGs目標16】

第6回	社会開発の分野1 途上国の貧困	バングラデシュのストリートチルドレンの「ことば」を手掛かりに貧困を想像し理解し、NGOの取り組みから社会開発の役割を検討する。【SDGs目標1 & 11】
第7回	社会開発の分野2 日本の貧困	日本を含めて先進国における貧困について、OECDやILOのデータを検証し現状と要因を考察すると同時に、途上国の貧困との相対化を図る。【SDGs目標1】
第8回	社会開発の分野3 格差を体験する	なぜ社会開発が必要なのか。ゲームを通して格差を体験し、考察する。【SDGs目標10】
第9回	社会開発の分野4 フェアトレード	「不公正な」貿易は途上国において何をもたらしているのか。ファストファッションを題材に考える。【SDGs目標8 & 10】
第10回	社会開発の分野5 人口問題と国際協力	高齢社会においても途上国においてもそれぞれ喫緊の課題である人口問題の概観し検討する。【SDGs目標3 & 5】
第11回	社会開発と社会変容1 教育・識字の役割	貧困の悪循環を断ち切る一つの方法として、「識字」を足がかりに、人びとが力をつけることの意味を確認することを通して、社会開発がもたらす変化を学ぶ。【SDGs目標4】
第12回	【グループ発表】 課題レポートの発表	課題で取り組んだ内容について、グループに別れて話し合い、発表する。
第13回	社会開発と社会変容2 ネパールの債務労働者	ネパールの債務労働者の解放の事例を取り上げ、当事者による社会運動とNGO等による社会開発の役割について考える。【SDGs目標8】
第14回	期末のまとめ	全体の内容のまとめを行い、授業内試験を実施する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して復習します。各回の配布資料に、テーマに関連する参考図書や参考文献一覧を掲載するので、関心のあるテーマについて、クリティカル（批判的）な読解を試み、理解を深めます。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは定めず、授業ごとに内容に沿って教員が作成した資料を配布します。授業内容が依拠する引用文献は、各回で配布する資料にリスト化します。

【参考書】

新村恵美（2023）「SDGsとは何か：起源と概要、達成状況」、佐藤龍三郎・松浦司編『SDGsの人口学』人口学ライブラリー No.23、第2章。
佐藤寛ら編（2007）『テキスト社会開発—貧困削減への新たな道筋』日本評論者
高柳彰夫・大橋正明編（2018）「SDGsを学ぶ-国際開発・国際協力入門」法律文化社
南博・稲場雅紀（2020）「SDGs-危機の時代の羅針盤」、岩波書店

【成績評価の方法と基準】

中間レポート：30%
期末試験：40%
毎回の授業での記述：30%

【学生の意見等からの気づき】

2016年度より担当しています。SDGsに関連付けたことが、学びやすさにつながった、提出したレポートを互いに発表し合いコメントし合う機会が学びにつながったとのコメントがみられました。今後も履修学生との対話をとおして、授業を作ってゆきたいと考えます。

【学生が準備すべき機器他】

レポート提出などでパソコンを使用し、学習支援システムを利用します。

【Outline (in English)】

【Course outline】

This course is to learn the theory and practice of social development.

It is structured as follows:

1. Students will review the definition and the history of social development, the theories that influenced social development, as well as the actors of social development such as government, international agencies, NGOs, etc.
2. Specific issues on social development are examined according to the Sustainable Development Goals (SDGs).
3. Several case studies are introduced so that students can discuss the practice of social development.

Students are expected to be cooperative and active during group discussions and presentations.

【Learning Objectives】

1. To acquire basic knowledge of the concept of social development;
2. To understand "poverty" not in terms of dichotomies, such as developing countries and developed countries, people concerned and supporters, and without othering people who are in different positions from oneself; and
3. Use your imagination to realize that social development is something that brings about human change.

【Learning activities outside of classroom】

not applicable

【Grading Criteria/Policy】

Grading will be decided based on

1. Mid-term report(30%),
2. Final exam(40%), and
3. submission of feedback paper in each class(30%).

LIT200HA

日本詩歌の伝統

日原 傳

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 3/Fri.3

備考（履修条件等）：環コア：文

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

定型詩の実作を指導する授業である。実作に関しては「俳句」を主とするが、「短歌」を実作する機会も設ける予定である。実作の手助けになるように、なるべく多くの先人の名作を紹介し、鑑賞したい。

【到達目標】

- ・「俳句」の定型詩としての規則を理解する。
- ・定型詩の創作を通して言葉に関する感覚を磨く。
- ・「切字」「取り合わせ」といった俳句に関する技法について理解し、実作に応用する。
- ・日本の詩歌の伝統のなかではぐくまれてきた季語の豊かさを認識する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式。毎回テーマを設けて、日本の詩歌作品を紹介し、鑑賞する。同時に参加者にほぼ毎回俳句の実作を提出してもらう。提出してもらった作品のなかの秀作、問題作も鑑賞の対象とする。また、「色」「数字」「食べ物」といった切り口から先人の作品を鑑賞する機会も設け、実作の参考に供したい。

※第1回目の授業はオンラインで行ないます。

※第2回目以降は対面授業の予定ですが、状況によってオンライン授業に移行する可能性もあります。授業方法を変更する場合は、学習支援システムでその都度提示します。

※提出課題等へのフィードバックは授業時間または「学習支援システム」を通じて行ないます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	俳句の三要素 俳句形式の特質	俳句の約束事～定型・季語・切れ 俳句の片言性
第2回	季語の重層性	俳句のみなもと（和歌・連歌・俳諧）、俳諧の発句、季題と季語、歳時記の世界／実作（俳句）
第3回	切れについて	切字のはたらき、「一物仕立て」と「取り合わせ」／実作（俳句）
第4回	座の文学Ⅰ	松尾芭蕉の場合／実作（俳句）
第5回	座の文学Ⅱ	正岡子規の場合／実作（俳句）
第6回	子規の俳句革新	子規の生涯、子規山脈、「写生」について、吟行という作句法／実作（俳句）
第7回	短歌と俳句	短歌と俳句の違い／実作（短歌・俳句）
第8回	子規の後継者（碧梧桐と虚子）	碧梧桐と虚子、新傾向俳句・自由律俳句、「ホトトギス」黎明期／実作（俳句）
第9回	虚子とその弟子たち	「ホトトギス」黄金期、4S、秋桜子の「ホトトギス」批判、連作、新興俳句運動／実作（俳句）
第10回	戦後の俳句	社会性俳句・前衛俳句・伝統回帰・文人俳句・青春俳句／実作（俳句）

第11回	現代俳句	鑑賞（平成・令和に詠まれた俳句）（俳句甲子園）／実作（俳句）
第12回	国際俳句／海外俳句	外国の歳時記、鑑賞（国際俳句）、鑑賞（海外俳句）／実作（俳句）
第13回	俳句の文体／俳句の推敲	松尾芭蕉の場合／実作（俳句）
第14回	授業の総まとめと期末試験	筆記試験、まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・講義で紹介された資料を導きに自分の好きな作家を見つけ、その作品を読む。
- ・自作の俳句（毎回2～3句ほど）を作って提出する。
- ・本授業の準備・復習時間は、前後2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

担当者が作成した資料を配布する。

【参考書】

- 小林恭二『俳句という遊び』『俳句という愉しみ』（以上、岩波新書）
山本健吉『新版 現代俳句（上・下）』（角川選書）
『合本 俳句歳時記 第五版』（角川書店）
平井照敏編『現代の俳句』（講談社学術文庫）
藤田湘子『実作俳句入門』（立風書房）
片山由美子ほか『俳句教養講座』第1～3巻（角川学芸出版）
日原傳『365日入門シリーズ⑦ 素十の一句』（ふらんす堂）
岸本尚毅『文豪と俳句』（集英社新書）
佐藤和夫『海を越えた俳句』（丸善ライブラリー）
Hiroaki Sato『One Hundred Frogs』（Weatherhill）
馬場あき子・黒田杏子監修『短歌・俳句同時入門』（東洋経済新報社）
岡井隆『短歌の世界』（岩波新書）

【成績評価の方法と基準】

- 平常点（授業への参加姿勢・提出作品）40 %
自信作10句（春学期に作った自作10句）10 %
期末試験またはそれに代わる最終レポート 50 %

【学生の意見等からの気づき】

提出された実作について解説する時間を多くとりたい。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire the necessary skills and knowledge needed to write haiku poems. Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content. Your overall grade in the class will be decided based on the following
Term-end examination (or Term-end report) : 50%, Short reports: 10%, in class contribution: 40%

CUA200HA

環境人類学 I

高橋 五月

配当年次/単位：1~4年 / 2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 4/Tue.4

備考（履修条件等）：環コア：G, 文

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

環境人類学 I では、人間と自然の関係について探求してきた人類学者たちによる民族誌や理論を参照しながら、様々な文化的背景をもとに多様に存在する人間と環境の関係について学びます。本授業の目的は、環境人類学的アプローチを用いて身近な環境問題について議論し、文化的側面を理解することの重要性についての理解を深めることです。

【到達目標】

本授業では、身近な環境問題について文化人類学的アプローチを利用しながら再考することで、人間と環境の関係についての知識とグローバルな視点を深めることに加え、クリティカルシンキングを養うことを目的にします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

講義は映像資料を随時活用しながら行います。また、講義では毎回講義内容に関連した「お題」を通して学生にクリティカルシンキングを育てる機会を与えます。具体的には、学生は「お題」に対する自らの考えを述べるだけでなく、次回講義で紹介される回答例を通して他学生の多様な視点・意見に触れることで自らの思考をさらに深める機会を得ることができます。課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	本講義の問題意識と成績評価の方法について説明します。
第 2 回	環境人類学とは？	環境人類学とはどんな分野なのかについて紹介します。
第 3 回	文化生態学とは？	環境人類学の「父」であるジュリアン・シュチュワードの研究を紹介します。
第 4 回	民族生態学とは？	人間と環境の関係を民族学的に考察する研究を紹介します。
第 5 回	生態人類学とは？	ロイ・ラパポートによる宗教儀式と生態との関係についての研究を紹介します。
第 6 回	狩猟採集文化	狩猟や採集という文化を通して人間と環境の関係について講義します。
第 7 回	中間試験	試験・まとめと解説
第 8 回	複合社会	文化的変容が人間と環境の関係に与える影響について講義します。
第 9 回	地下環境	鉱物採取（石炭、ウラン、石油、ダイヤモンド）と環境問題との接点を講義します。
第 10 回	地球温暖化	気候変動が人間と環境に与える影響について講義します。

第 11 回 人口と環境

人口の増減が人間と環境の関係に与える影響について講義します。

第 12 回 生物の多様性

生物多様性が人間と環境の関係に与える影響について講義します。

第 13 回 消費者文化

大量消費社会が生み出す環境問題について講義します。

第 14 回 期末試験

試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。（準備学習）詳しい授業計画を授業第 1 回目に配布するので、毎週それを参照し、各講義で使用する文献がある場合は授業前までに読んでおきましょう。

（復習）中間・期末試験の問題は講義で使用する文献および講義内容から出題します。講義中はノートを取り、講義後は文献と講義ノートを読み返し復習しましょう。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業内に紹介します

【参考書】

パトリシア・K. タウンゼンド著、岸上 伸啓・佐藤 吉文訳『環境人類学を学ぶ人のために』世界思想社

【成績評価の方法と基準】

講義中にリアクションペーパーの提出（30%）、中間・期末筆記試験（70%）。

【学生の意見等からの気づき】

講義で使用するスライドをもとにした「レジュメ」を支援システムにて公開しています。ただ、これは講義の要点が書かれているだけのものですので、学生各自で授業メモをとり、自分なりのレジュメを完成させてください。

映像資料も利用しながらの授業が好評だったので、今後も同様のスタイルで授業を進めたいと思います。

リアクションペーパーの回答例紹介コーナーは他学生や教員の意見を聞くことができるので楽しく、より深く考える機会になるという意見をたくさんいただいたので、今後も続けていきたいと思っています。

【学生が準備すべき機器他】

環境人類学 I では、資料配布、お知らせ配信、リアクションペーパー提出は全て Hoppii（学習支援システム）と Google クラウドルームを通して行うため、各学生はネット環境およびパソコン等の端末の準備をお願いします。

【関連の深いコース】

履修の手引き「D.6 専門科目一覧・コース関連科目表」を参照してください。

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline (in English)】

"Environmental Anthropology I" is an introductory course to learn environmental anthropology and related discussions on human-environment relations. The main goal of this course is to help students to obtain basic knowledge of environmental anthropology and also to develop critical thinking skills by asking questions which require them to apply course materials and lectures for their own thoughts on human-environment relations and logically explain them to others.

Students will be expected to take two exams in addition to submit weekly commentaries by the deadline. A study time for a class on average is four hours. A final grade will be based on mid-term and final exams (70%) and weekly commentaries (30%).

CUA300HA

環境人類学Ⅱ

高橋 五月

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 4/Tue.4

備考（履修条件等）：環コア：G, 文

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

環境人類学Ⅱは、「サステナビリティ」をキーワードに、持続可能性とは何か、持続可能社会の実現のために過去にどのような方策が取られ、現在どのような課題が生じているのか、事例と文化人類学的アプローチをもとに講義し、議論します。本授業の目的は、講義で紹介する文化人類学的アプローチを参考にしながら、学生たちが自ら「サステナビリティ」とは何かという問いに向き合い、理解を深めることです。

【到達目標】

本講義の目的は、持続可能な社会の「作り方」を教えることではありません。本講義は、様々な事例や理論をもとに、クライスメイトと議論しながら、学生が自分なりに「サステナビリティ」のあり方について考え、探求するためのツールを身につけることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

関連文献と映像資料を随時活用しながら講義を行います。また、講義では毎回講義内容に関連した「お題」を通して学生にクリティカルシンキングの機会を与えます。具体的には、学生は「お題」に対する自らの考えを述べるだけでなく、次回講義で紹介される回答例を通して他学生の多様な視点・意見に触れることで自らの思考をさらに深める機会を得ることができます。課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	本講義の問題意識と成績評価の方法について説明します
第2回	サステナビリティとは？（1）	サステナビリティの概念の誕生とその歴史的背景について講義します
第3回	サステナビリティとは？（2）	持続可能な社会とは何か？ これまで実行された方策とその課題について講義します
第4回	コモンズ（1）	ガレット・ハーディンの「コモンズの悲劇」について講義・議論します
第5回	コモンズ（2）	ガレット・ハーディンの「コモンズの悲劇」と関連した文化人類学的議論について講義・議論します
第6回	持続可能な農業	農業技術発展と環境変化の関係、遺伝子組み換え作物の生態的影響について講義・議論します
第7回	中間試験	中間試験を行います
第8回	持続可能な水産業	水産資源の枯渇や海洋汚染などの問題と持続的な水産業について講義・議論します

第9回	生物多様性とは？	気候変動に関する文化・政治的問題、自然エネルギーにまつわる文化人類学的議論について講義・議論します
第10回	里山・里海	里山・里海が目指すサステナビリティの意味やあり方について講義・議論します
第11回	災害	災害とサステナビリティの関係について講義・議論します
第12回	エネルギー	エネルギー問題をもとにサステナビリティの意味やあり方について講義・議論します
第13回	アンソロポシオン	アンソロポシオンとは何か、地球環境にもたらした人類の影響について探求する最新の人類学的研究について講義・議論します
第14回	期末試験	期末試験を行います

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

（準備学習）詳しい授業計画を授業第1回目に配布するので、毎週それを参照し、各講義で使用する文献を授業前までに読んでおきましょう。

（復習）中間・期末試験の問題は講義で使用する文献および講義内容から出題します。講義中はノートを取り、講義後は文献と講義ノートを読み返し復習しましょう。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

資料を配付します

【参考書】

授業中に提示します

【成績評価の方法と基準】

講義中にリアクションペーパーの提出（30%）、中間・期末筆記試験（70%）。

【学生の意見等からの気づき】

大教室の授業なのですが、リアクションペーパーなどを活用して学生同士の意見交換ができるように工夫しています。自分の考えをまとめたり、他学生の意見を知ることを楽しんでくれた学生が多かったのは嬉しいです。今後できるだけ意見交換ができる時間を授業中に設ける予定です。

【学生が準備すべき機器他】

環境人類学Ⅱでは、資料配布、お知らせ配信、リアクションペーパー提出は全て Hoppii(学習支援システム)と Google クラウドスループームを通して行うため、各学生はネット環境およびパソコン等の端末の準備をお願いします。

【関連の深いコース】

履修の手引き「D.6 専門科目一覧・コース関連科目表」を参照してください。

【実務経験のある教員による授業】

本科目は、「実務経験のある教員による授業」に該当しません。

【Outline (in English)】

This lecture course is designed to introduce a variety of cases that people are intended to promote sustainability, and provide opportunities for students to think critically about socio-cultural dimensions of "sustainability." The main goal of this course is to help students to obtain basic knowledge of environmental anthropology and also to develop critical thinking skills by asking questions which require them to apply course materials and lectures for their own thoughts on sustainability and logically explain them to others.

Students will be expected to take two exams in addition to submit weekly commentaries by the deadline. A study time for a class on average is four hours. A final grade will be based on mid-term and final exams (70%) and weekly commentaries (30%).

TRS200HA

環境表象論 I

梶 裕史

配当年次/単位：1～4年 / 2 単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 3/Tue.3

備考（履修条件等）：環コア：口、文

その他属性：〈優〉〈ア〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講義は、「文化」の視点からの環境共生型の地域形成・人間形成のとりくみの一例を紹介するものです。「表象」は、心の中に結ばれる像のこと。環境表象とは、人間が自分達をとりまく環境を心にとりかえらるか、ということであると思うとよいでしょう。授業では、その好個のテーマとして「文化的景観」という考え方をとりあげ、国内を中心とした具体的な事例を紹介し、その豊かな可能性について考察します。

「文化的景観」は、地域の特色ある地理的・歴史的環境と密接に関わる生業・生活文化の「表象」です。ユネスコが世界遺産の幅を広げるために 1992 年に登録基準として追加して以降、新しい文化遺産の考え方として普及が始まった概念で、わが国も 2005 年に新文化財として文化財保護法に採り入れています。「自然と人間の共同作品」とユネスコが定義するこの概念は、地域固有の風土・歴史に適応して形成された伝統的な生活・生業（農林水産業や鉱工業）を表わす景観の持続可能性を尊びます。有形を支える無形要素や「五感」で感受される要素も重視し、過去の一点の姿に捉われず「有機的に進化する」見通しを前提に、地域の特色ある生活文化資産を今後にどのように活かし、継承するかという将来像まで視野に入れた、環境共生志向の持続可能な地域形成・人間形成に寄与する考え方であるといえます。授業では主として国内の事例を紹介し、関連する取り組みとして日本型エコツーリズム・グリーンツーリズム・エコミュージアム等もとりあげます。

【到達目標】

・「文化的景観」が、従来の文化財の考え方とは一線を画する、「環境」の世紀にふさわしい新しい概念であることが理解できる。

・「景観」は見た目だけではなくことや、一見「環境」と関わりが薄そうな事柄も大いにエコにつながる人が多いということに気付ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

教室での対面授業を基本とする、ふつうの講義形式です。テーマの性格上、PPT を使って現地の写真や関連する絵画などを見てもらうことも多くなりますが、上記のように、可視の有形物は「景観」のほんの表面を伝えるにすぎないので、画像をみることにメインではないと思って下さい。

一定の気軽な質疑応答タイムを設け、質問や感想コメントを歓迎します。また毎回、授業後一週間以内に、学習支援システムに掲載する簡単な「小テスト」を受けて提出してもらいます。（小テストは時間制限なし、参照可）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	「景観」とは何か 導入的説明
第 2 回	ユネスコの「世界遺産」事業概説（「文化的景観」導入の経緯）	併せて国内の世界遺産を紹介
第 3 回	ユネスコの「世界遺産」概説 その 2	前回の補充（授業テーマに関連する海外の世界遺産紹介など）
第 4 回	文化財保護法の既存の文化財との比較（1）	日本の文化財の種類、内容

第 5 回	文化財保護法の既存の文化財との比較（2）	「環境」、持続可能性重視の潮流のなかで
第 6 回	文化的景観の多面的効用（1）	国土の自然環境保全、食料自給率の改善、生態系保全等
第 7 回	文化的景観の多面的効用（2）	エコツーリズム、グリーンツーリズム、エコミュージアムの素材／「原風景」
第 8 回	近江八幡の文化的景観とまちづくり（1）	重要文化的景観第 1 号のまちの市民活動の歴史、特色
第 9 回	近江八幡の文化的景観とまちづくり（2）	六次産業創出ほか、新たなとりくみと「有機的に進化する景観」
第 10 回	精神文化と一体の景観（1）	熊野三山（世界文化遺産「紀伊半島の霊場と参詣道」）
第 11 回	精神文化と一体の景観（2）	沖繩の御嶽、富士山
第 12 回	精神文化と一体の景観（3）	童話・映画・アニメの名作の舞台：「フィルムツーリズム」との関連
第 13 回	精神文化と一体の景観（4）	古典文芸が創った名所の例として、松島・鞆の浦
第 14 回	総集編	初回～13 回の授業のふりかえり

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。また、授業の刺激で近場のフィールドを实地訪問することも奨励します。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

不要。学習支援システムに掲載する毎回のスライド教材をもって替えます。

【参考書】

梶裕史『「文化的景観」の特質と可能性』（小島聡・西城戸誠・辻英史編『フィールドから考える地域環境』（第 2 版）第 1 部第 6 章、ミネルヴァ書房、2021）ほか、授業のなかで紹介いたします。

【成績評価の方法と基準】

期末試験 55 %、毎回の小テスト 45 %。小テストを 1 回も受けていないと、期末試験を受けても 60 点に達しないため、単位取得はできません。

【学生の意見等からの気づき】

オンデマンドにも対応した、文章の説明つきのスライド教材を使用するため、体調不良で対面授業に出られない時でも自宅で自習することへの評価や、画像が豊富で親しみやすく、興味を惹かれる（実際に行ってみたくなる）といった感想が少なくありませんでした。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

・日本の伝統文化をサステイナビリティの視点から見直すことや、エコツーリズム・グリーンツーリズム・エコミュージアム等に関心を持っている人には良い参考になると思います。

【関連の深いコース】

人間・文化コース、ローカル・サステイナビリティコースと深く関連します。履修の手引きの「コース関連科目表」を参照してください。

【Outline (in English)】

This lecture will introduce an example of the environmental symbiosis type of regional initiatives and human character building, from "cultural" viewpoint. "Representation" is an image that is tied in the mind. It would be good to think that environmental representation is how humans grasp the environment surrounding them in their minds. In the lesson, I will take up the idea of "cultural landscape" as its own theme, introduce concrete examples mainly in Japan, and consider the rich possibilities.

Goal

・ This lecture aims to help students to understand that "cultural landscape" is a new concept suitable for the century of "environment", which is different from the conventional way of thinking of cultural properties.

・ This lecture also aims to help students to realize that "landscape" is not just about appearance, and that things that seem to have little to do with "environment" often lead to ecological issues.

Work to be done outside of class

Be sure to prepare and review using the materials introduced in each lecture.

We also encourage you to visit nearby fields in the stimulus of your lessons. The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each.

Grading criteria

Final exam 55%, each quiz 45%

TRS300HA

環境表象論Ⅱ

梶 裕史

配当年次/単位：1～4年 / 2単位

開講semester：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 3/Tue.3

備考（履修条件等）：環コア：口、文

その他属性：〈優〉〈ア〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テーマ：「生きて変化する文化財」/「五感」が形づくる表象・風景

「環境表象論Ⅰ」の「文化的景観」論の補充を目的として、まずその最大の特徴ともいえる「有機的に進化する景観」の意味を、具体例とともに考察します。続いて、おもに「五感」の融合的なはたらきにより形づくられる、個人を超えた地域の集団的表象（＝心の中に結ばれる像）の諸相と、それらが環境共生型の人間形成・地域形成に資する可能性について考察します。

【到達目標】

- ・「有機的に進化する景観」の意味を理解できる
- ・「五感」をばらばらに区別するのではなく、相互作用の融合感覚として捉えることが有効なこと（言い換えれば、「視覚偏重社会」のなかで、現場の実体験の大切さ）を理解できる。
- ・「五感豊か」とは快適なものだけを指すのではないこと（快適、便利ではない要素もかなり重要であること）を理解できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

教室での対面授業を基本とする、ふつうの講義形式です。テーマの性格上、PPTを使って現地の写真や関連する絵画などを見てもらうことも多くなりますが、上記のように、可視の有形物は「景観」のほんの表面を伝えるにすぎないので、画像をみるのがメインではないと思って下さい。

一定の気軽な質疑応答タイムを設け、質問や感想コメントを歓迎します。また毎回、授業後一週間以内に、学習支援システムに掲載する簡単な「小テスト」を受けて提出してもらいます。（小テストは時間制限なし、参照可）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション／	「環境表象論Ⅰ」の概要／循環する季節の周期変化と文化的景観
第2回	有機的に進化する景観（1）	ユネスコの定義の意味／、「観光文化」／四万十川の事例
第3回	有機的に進化する景観（2） 一つつぐみの島・竹富島（前編）	景観の有形部分の真正性
第4回	有機的に進化する景観（3） 一つつぐみの島・竹富島（前編）	景観の有形部分を支える無形文化の厚み（伝統祭事等）
第5回	有機的に進化する景観（4） 一つつぐみの島・竹富島（後編）	島の子供からみる文化継承、持続可能な「観光」のとりくみと課題
第6回	伝統継承の階層的発流	「文化財」概念の進化に関する日本人の好適性
第7回	「五感」のエコロジーと文化的景観（前）	「五感」の視点の概説、視覚・聴覚・嗅覚の事例
第8回	「五感」のエコロジーと文化的景観（後）	触覚、味覚の事例

第9回	光と影・闇（前）	「光環境」という視点、夜の灯りに関するとりくみ事例
第10回	光と影・闇（後）	伝統文化における「闇・影」、星空、エコの視点からの重要性
第11回	音風景とは何か	サウンドスケープの概念、日本人の「風景を聴く」伝統
第12回	「残したい日本の音風景 100選」から（1）	「自然・生き物」の音風景と伝統文化
第13回	「残したい日本の音風景 100選」から（2）	伝統的な生業に関わる音風景 その他
第14回	総括一人間の「身体性」（内なる環境）重視と感覚環境のまちづくり	環境表象論Ⅰのポイントも含めたまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。また、授業の刺激で近場のフィールドを実地訪問することも奨励します。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

不要。学習支援システムに毎回アップするスライド教材をもって替えます。

【参考書】

梶裕史『「文化的景観」の特質と可能性』（小島聡・西城戸誠・辻英史編『フィールドから考える地域環境』（第2版）第1部第6章、ミネルヴァ書房、2021）ほか、授業のなかで紹介いたします。

【成績評価の方法と基準】

期末試験 55%、毎回の小テスト 45%。小テストを1回も受けていないと、期末試験を受けても60点未満となるため、単位取得はできません。

【学生の意見等からの気づき】

環境表象論Ⅰとはほぼ同様で、オンデマンドにも対応した、文章の説明つきのスライド教材を使用するため、体調不良で対面授業に出られない時でも自宅で自習できることへの評価や、画像が豊富で親しみやすく、紹介された場所実際に実際に行ってみたくなる、といった感想が少なくありませんでした。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

・コースとの関連や皆さんの興味・関心との適性は、「環境表象論Ⅰ」同様と思います。表象論Ⅰの単位取得を履修の条件とはしませんが、履修済みであるほうが理解しやすいでしょう。

【関連の深いコース】

環境表象論Ⅰと同様、人間・文化コースおよびローカル・サステイナビリティコースに深く関連します。

【Outline (in English)】

Theme: "Cultural assets that live and change" / Representations and landscapes formed by the "five senses"

For the purpose of supplementing the "cultural landscape" theory of "environmental representation theory I", we will first consider the meaning of "organically evolving landscape", which can be said to be its greatest feature, with concrete examples. Next, various aspects of the collective representation of the region beyond the individual (= the image connected in the heart), which is mainly formed by the fusion of the "five senses", and the human formation and regional formation of the environmental symbiosis type. We will consider the possibility of contributing to.

Goal

・ This lecture aims to help students to understand the meaning of "organically evolving landscape"

・ This lecture also aims to help students to understand that it is effective not to distinguish the "five senses" separately, but to regard them as a sense of fusion of interactions (in other words, the importance of actual experience in the field in a "visually-oriented society").

・ It is understandable that "rich senses" does not mean only comfortable things (comfortable and inconvenient elements are also quite important).

Work to be done outside of class

Be sure to prepare and review using the materials introduced in each lecture.

We also encourage you to visit nearby fields in the stimulus of your lessons. The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each.

Grading criteria

Final exam 75%, each quiz 25%

BSC200HA

サイエンスカフェ I

石井 利典

配当年次/単位：1~4年 / 2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：土 2/Sat.2

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

環境の科学を正しく理解するためには化学の基礎知識が不可欠です。今後の環境の学習に役立てられるように、高校の「化学基礎」と「化学」の復習にまず取り組みます。さらに、よりクオリティーの高い日常生活を得るために役立つ身近な化学についてもできるだけ理解を深めていきます。

【到達目標】

高等学校で履修する「化学基礎」と「化学」を大学受験科目にしていなかった受講者が、「環境科学Ⅰ」「環境科学Ⅱ」「環境科学Ⅲ」などの科目を履修するときに必要とする、基礎化学理論を習得することを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

化学の基本的な理論、必要な数値計算法、知っておくべき物質の構造と性質を問題演習を中心に解説します。

提出された課題（確認テストなど）からいくつかのポイントを取り上げ、課題提出後の授業、または学習支援システム、Google classroom において、全体に対してフィードバックを行います。

2023年度の授業は、すべて対面での開講を予定しています。ただし、第1回講義は、そのときの Covid-19 感染状況に応じた大学の行動方針レベルでの授業形態で実施します。第1回講義のみはオンライン授業を予定していますが、事前に授業形態（対面 or オンライン）を学習支援システムや Google classroom で予告しますので、必ず確認してください。また、春学期開講後にも、第2回以降の授業形態（対面を予定）を変更する可能性があります。この変更も授業内、学習支援システム、Google classroom で事前に予告します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	第1章 原子とは何か	原子の構造と性質、化学結合と分子間力
第2回	第2章 化学変化と量的関係	物質質量、化学反応式
第3回	第3章 酸と塩基	溶液 pH の計算、酸と塩基の反応、中和滴定
第4回	第4章 酸化と還元(1)	酸化剤と還元剤の反応、酸化還元滴定
第5回	第4章 酸化と還元(2)	COD (化学的酸素要求量) 値および DO (溶存酸素量) 値の測定原理
第6回	第5章 有機化学の基礎(1)	有機化合物の命名法、異性体、有機化合物の構造と性質
第7回	第5章 有機化学の基礎(2)	炭化水素の反応、アルコールの反応、エステル・アミドの構造
第8回	第6章 身近な有機化合物(1)	脂肪酸の種類、脂肪と脂肪油
第9回	第6章 身近な有機化合物(2)	単糖類、二糖類、多糖類の構造と性質
第10回	第6章 身近な有機化合物(3)	アミノ酸、タンパク質の種類と立体構造
第11回	第6章 身近な有機化合物(4)	合成繊維、合成樹脂、合成ゴム

第12回	第7章 酵素	酵素、補酵素、補欠分子族のはたらき
第13回	第8章 核酸	DNAとRNAの構造、遺伝子発現のしくみ
第14回	期末テスト、まとめ	第1回講義～第13回講義の内容に関する筆記テスト、およびまとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。毎回の授業で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をしてください。授業終了後に10分間程度で解答できる確認テストをオンラインで実施します。提出は必須ではありませんが、提出されたものについては採点し、成績評価時に加算します。

【テキスト（教科書）】

担当教員が作成したプリントを使用します。授業で取り扱うすべてのプリント類は、学習支援システムまたは Google classroom から各自ダウンロードしてください。

【参考書】

高等学校で使用している『化学基礎』と『化学』の教科書（出版社は問わない）を入手することが望ましい。

入手先は、<http://www.textkyoukyuu.or.jp/kaiin/tokuyaku13.html>

【成績評価の方法と基準】

講義内で実施する確認テスト（10分間程度で解答×13回）：20%、期末テスト（60分間で解答×1回）：60%、課題レポート（800字程度×2）：20%の合計点で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

環境科学に関連するテーマとともに、日常生活で体験する身近な科学に関するテーマもさらに多く取り扱ってゆきます。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムと Google classroom とにアクセスできる情報機器と通信環境が必要です。

受講予定者は、Google classroom のメンバーへの登録が必須になりますので、第1回講義がスタートする前にメンバー登録をお願いします。メンバー登録方法・登録可能期間は学習支援システムで予告します。

【Outline (in English)】

< Course outline >

This course provides an interdisciplinary introduction to environmental science in a chemical perspective. Central theme is the interaction between life and the environment. The course is suitable for students who plan further study in this field, also suitable for students without basic knowledge of environmental chemistry.

< Learning Objectives >

At the end of the course, students are expected to understand basic theory of chemistry and biochemistry for "Environmental chemistry I", "Environmental chemistry II" and "Environmental chemistry III".

< Learning activities outside of classroom >

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

< Grading Criteria /Policies >

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination:60%, Short reports:20%, in class contribution:20%

BLS200HA

サイエンスカフェⅡ

宮川 路子

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 1/Thu.1

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、学生は高校の生物学の知識を基本として、主として人間の身体の構造と生体のメカニズムを学ぶことにより、組織学、解剖学、生理学の範囲の幅広い知識を身につけることを目的としている。

【到達目標】

学生は、自分自身の身体の構造、仕組みを理解し、健康をはぐくむうえで必要となる組織学、生理学などの幅広い知識を習得する。学生がこれから生きていく上で重要な健康の保持増進、疾病の予防を最終目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

細胞、血液、筋・骨格系、呼吸器、循環器、消化器など、身体の構造別にそれらの構造、機能、さらには病気などについても学んでいく。講義のテーマにそったビデオを鑑賞することにより、より深く知識を定着させる。

対面講義とオンデマンド講義により授業を行う。なお、各回の講義形態については変更の可能性があるため、適宜 Hoppi で周知する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	講義ガイダンス	科目テーマ・授業の進め方・テキスト・評価方法の解説
第2回	細胞と個体の成り立ち	生命の単位、細胞のはたらき。細胞の分化と分裂、組織。ビデオ鑑賞
第3回	血液について	血液の働き 免疫について ビデオ鑑賞
第4回	呼吸器	呼吸器を構成する器官。肺の構造と機能。呼吸運動のメカニズム。呼吸器の病気。
第5回	循環器	循環器系の構造と働き。心臓について。血管について。循環器系の病気。
第6回	消化器（1）	消化器を構成する器官。口腔、食道、胃、腸 消化器系の働きと病気 ビデオ鑑賞
第7回	消化器（2）	肝臓の構造と機能 ビデオ鑑賞
第8回	骨・筋肉	筋骨格系の構造と機能 関節の仕組みと働き 筋収縮について ビデオ鑑賞
第9回	泌尿器	腎臓の構造と機能 尿について ビデオ鑑賞
第10回	生殖	生殖の仕組み ビデオ鑑賞

第11回	神経	神経の仕組みと働き 中枢神経系と末梢神経系 神経伝達のメカニズム 神経の病気 ビデオ鑑賞
第12回	感覚・知覚	聴覚・平衡感覚 嗅覚、味覚、皮膚感覚 内臓感覚 ビデオ鑑賞
第13回	発達	発達の成り立ち 赤ちゃんの発達 ビデオ鑑賞・
第14回	まとめ（授業内試験またはレポート提出）	講義のまとめ、授業内試験またはレポート提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。日頃から自分の身体について興味を持ち、観察を行うこと。関連の話題についての知識を収集する。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

毎回授業内にてテーマに沿ったプリントを配布する。

【参考書】

参考図書は授業内にて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

最終講義における授業内試験、または学期末に提出を求めるレポートにより評価を行う（100%）。

【学生の意見等からの気づき】

多人数の講義の場合には、騒がしいことがあったが、適宜注意を促し、静粛な環境で講義を進めるよう努力する（対面の場合）。オンデマンドの講義の場合には、学生が理解しやすいような動画及び資料の作成を心がける。

【学生が準備すべき機器他】

パソコン

【Outline (in English)】

This course is designed to help students acquire extensive knowledge of histology, anatomy, and physiology by learning the morphology and mechanisms of the human body and applying the foundation of high school-level biology.

This course provides students with the knowledge required to comprehend the mechanisms and function of their own bodies and to enhance their health.

Learning Objectives

Students will acquire a broad knowledge of histology and physiology necessary to understand the structure and mechanisms of their own bodies and to nurture good health.

The ultimate goal is to maintain and improve health and prevent diseases, which are important for students to live in the future.

Learning activities outside of classroom

Be curious about and observe your own body on a daily basis. Collect knowledge on related topics. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Grading Policy

Evaluation will be based on the report to be submitted at the end of the semester (100%).

BAB200HA

サイエンスカフェⅢ

高田 雅之

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 3/Thu.3

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

生態学とは、生物の暮らし方や、生物と環境との関係、さらには人間との関わりを含めて理解する学問です。生態学の基礎をわかりやすく学ぶことで、人間の生存基盤である自然環境との向き合い方を考え、ひいては持続的な社会を築く方策を探る能力を養うことにつながっていきます。本講義では、主に日本における生き物を中心とした自然の仕組みと、地球における生物の進化と適応、生物多様性について、基本的な知識と俯瞰的な視点を身に付けます。

【到達目標】

以下の3点について知識と理解を深め、その要点を説明できることを目標とします。

- ①野生生物の生活と生存戦略
- ②生物の進化と適応
- ③生物多様性の意義

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

「動植物の生態」、「生物と環境との相互作用」、「進化と適応」、「動物の行動生態」、「生物多様性」について学びます。国内外の研究実例やエピソードを交えたプレゼンテーションにより、生態学と生物多様性に関する基礎的な知識と理解を積み重ねていきます。また、課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンスと序論	講義の進め方、生態学とは何か、地球の視点から捉える
第2回	鳥類の生態 1	鳥類の生態と特徴、身近な鳥たち、環境との関係、取り巻く問題
第3回	鳥類の生態 2	渡り鳥、日本の鳥類相、特徴的な鳥の紹介
第4回	植物の生存戦略	種子の散布、身近な植物、環境に対する生存戦略
第5回	昆虫の世界	昆虫の特徴、素数ゼミ、水生昆虫、社会性昆虫
第6回	日本の哺乳類	シカとカモシカ、クマとブナ、イノシシと人の関係
第7回	生物の進化 1	古生代までの生物進化の歴史、大絶滅と大進化
第8回	生物の進化 2	恐竜の誕生と絶滅、哺乳類と人間の登場、大進化はなぜ起こるか
第9回	自然選択と適応	適応とは、自然選択とは、適応のための様々な生存戦略
第10回	動物の行動生態	なわばり行動、社会行動、個体数の変動、群集生態
第11回	海洋と沿岸の生物 1	クジラとイルカの生態
第12回	海洋と沿岸の生物 2	海から陸への物質輸送、海鳥、サケと海洋環境、サンゴ礁
第13回	生物多様性 1	3つの生物多様性、レジリエンスとは

第14回 生物多様性 2

日本が世界の生物多様性ホットスポットとなっている理由

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をします。毎回のテーマに関わる基礎知識について予習するとともに、講義で抱いた疑問について毎回の講義後に自主学習によって解決します。また日頃接するメディアでの自然環境に関する話題や、身の回りで目にする生き物に関心を払うよう努めます。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特定のものはありません。講義において適宜資料を配布します。

【参考書】

講義において随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】

毎回提出するリアクションペーパー（50%）と期末試験（50%）により評価します。詳しくは学習支援システムでお知らせします。

【学生の意見等からの気づき】

知識の羅列と詰め込みにならないよう、重要な点を強調し、具体的な事例や挿話を交えながら、できる限り丁寧に説明し理解を促していきます。

【その他の重要事項】

人間との関わりや保全のための政策について学習したい人には自然環境政策論Ⅰ（春期）及びⅡ（秋期）を受講することを勧めます。さらに理解を深めたい場合は自然環境論Ⅳ（秋期）の受講を勧めます。「自然環境科学の基礎（生態学）」を修得済の場合、本科目の履修はできません。

【関連の深いコース】

履修の手引き「D.6 専門科目一覧・コース関連科目表」を参照してください。

【実務経験のある教員による授業】

担当教員は、公務員（国家・地方）、独立行政法人（研究機関）、民間企業で環境分野特に生態系に関わる実務及び研究経験があります。本講義ではそれらを通して得た具体的な事例や知見、フィールド経験等が活用されています。

【Outline (in English)】

In this lecture, students will explore the sustainable relationship between humans and nature through learning the basic ecology such as wildlife and ecosystems in Japan, biological evolution, biodiversity.

The goals of this lecture are to deepen the understanding and acquire knowledge of the above-mentioned matters.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the lecture content.

Grading will be decided based on every time reaction paper:50%, term-end examination:50%.

PLN200HA

気候変動論 I

松本 倫明

配当年次/単位：1～4年/2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月1/Mon.1

備考（履修条件等）：環コ：G, サ

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では気候変動の自然科学的な知見をわかりやすく解説する。

春学期では、まず現在進行中の気候変動である地球温暖化を概観する。つぎに気候変動のベースとなる気候システムの基礎的なことから深く学ぶ。

【到達目標】

この授業を通じて、気候変動の科学的なリテラシーを身につけることができる。具体的には（1）気候変動科学のこれまでの経緯、（2）温室効果、太陽放射、アルベド等の気候システムの基礎、（3）温暖化予測の概要、（4）大気と海洋の循環と熱収支、（5）炭素循環、（6）簡単な温室効果モデルについて学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式で授業を進める。スライドを用いて最新の観測結果を紹介し、わかりやすい授業にする予定である。またビデオ教材を用いる。この授業を受講するにあたり特別な予備知識を必要としない。課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業計画のロードマップを示す。受講の方法を示す。
第2回	地球温暖化の概要(1)	いくつかの観測結果を概観する。世界平均気温、海面水温、温室効果ガス濃度の変化など。
第3回	地球温暖化の概要(2)	地球温暖化の科学の入門。太陽放射、放射強制力、アルベドについて学ぶ。
第4回	地球温暖化の概要(3)	地球温暖化の予測について概観する。予測の方法、気候モデルの概要、予測の結果など。
第5回	地球温暖化の概要(4)	将来取り得る選択肢についての議論
第6回	大気の構造	大気に焦点をあてる。対流圏、成層圏、中間圏、熱圏、オゾン層、分子組成など。
第7回	放射と熱	電磁波、黒体放射、熱力学の基礎を学ぶ。
第8回	循環と気象	水平方向のエネルギー収支を学ぶ。温帯低気圧、熱帯低気圧、ジェット気流、ハドレー循環など。
第9回	海洋の循環	海洋による熱の循環について学ぶ。風成循環、熱塩循環など。
第10回	エネルギー収支	鉛直方向のエネルギー収支を学ぶ。大気の窓、アルベド、温室効果など。

第11回 温室効果

温室効果の基礎を学ぶ。温室効果ガスによる赤外線吸収と放射など。

第12回 放射平衡

大気が多層モデルによって温室効果の理解を深める。

第13回 炭素循環

二酸化炭素と炭素循環の概念の理解。大気・海洋・植生・土壌における炭素のフラックスと貯蓄量など。

第14回 まとめ

授業をまとめる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストを使用せず、資料を授業中や Hoppii を用いて随時配布する。

【参考書】

なし。

【成績評価の方法と基準】

期末試験を行う。また授業中に携帯電話を用いて、クイズ形式のミニテストを行う。評価の割合は、期末試験が70%、ミニテストが30%である。

【学生の意見等からの気づき】

授業改善アンケートは概ね好評であった。とくに携帯電話を用いたミニテストが好評であったので、今年度も同様に実施する。

【学生が準備すべき機器他】

各自の携帯電話やスマートフォンを使う。

【その他の重要事項】

本科目は「環境科学入門」の代替科目として再履修可能です。ただし、本科目を修得済の場合、「環境科学入門」の代替として履修することはできません。

【関連の深いコース】

履修の手引き「専門科目一覧・コース関連科目表」を参照してください。

【Outline (in English)】

Course outline: Basic knowledge of climate change.

Learning objectives: Students learn scientific knowledge about climate change. In the spring semester, we focus on the introduction of climate change and the basic knowledge of the climate system.

Learning activities outside of classroom: The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Grading criteria/policy: Mini-tests (30%), a term exam (70%).

EAE200HA

気候変動論Ⅱ

松本 倫明

配当年次/単位：1～4年 / 2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 1/Mon.1

備考（履修条件等）：環コア：G, S

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では気候変動の自然科学的な知見を学ぶ。

秋学期では、地球温暖化の実際と影響について深く学ぶ。さらに、地球誕生から現在までの気候変動について学び、地球温暖化の理解を深める。また、昨今の地球温暖化をめぐる動向についても学習する。

【到達目標】

この授業を通じて、気候変動の科学的なリテラシーを身につけることができる。具体には（1）気温の変化とその測定方法、（2）温室効果ガスの増加とその原因、（3）エアロゾルの影響、（4）降水・積雪への影響、（5）海洋への影響、（6）気候変動の予測と不確実性、（7）適応策・緩和策、（8）古気候学について学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式で授業を進める。最新の研究や観測の結果を紹介し、わかりやすい授業にする予定である。

気候変動論Ⅰを履修した後にこの授業を履修することを推奨する。課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業計画のロードマップを示す。受講の方法を示す。
第2回	平均気温の変化（1）	温度の測定方法を紹介する。気温分布の季節変化と長期傾向を理解する。
第3回	平均気温の変化（2）	長期傾向を抽出するための統計処理の方法を理解する。ヒートアイランドについても補説する。
第4回	温室効果ガス（1）	温室効果ガス濃度分布と季節変化、長期傾向を理解する。
第5回	温室効果ガス（2）	排出量の推移、排出源、吸収源、海洋との交換を理解する。
第6回	エアロゾル	火山とエアロゾルの排出、人為的なエアロゾルの排出、アルベドと気候への影響。
第7回	降水量	降水量と水蒸気量の変化を世界平均と日本の場合について学ぶ。
第8回	雪氷	氷河の後退、北極海と南極の海水、気候への影響について学ぶ。
第9回	海洋・海面水位	気候システムにおける海洋の役割、海面水位変化の分布について学ぶ。
第10回	予測の方法	地球温暖化予測の方法について学ぶ。気候システムの概要、アンサンブル平均など。
第11回	予測の結果	地球温暖化予測の結果（気温、海面水位、降水量、異常気象、日本への影響など）を概観する。

第12回 緩和策・適応策

地球温暖化に対する緩和策と適応策を紹介する。

第13回 古気候学

様々なスケールにおける気候変動を考える。小氷期、中世の温暖期、氷期、間氷期、氷河期など。

第14回 まとめ

講義をまとめる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストを使用せず、資料を授業中や Hoppii を用いて随時配布する。

【参考書】

なし。

【成績評価の方法と基準】

期末試験を行う。また授業中に携帯電話を用いて、クイズ形式のミニテストを行う。評価の割合は、期末試験が70%、ミニテストが30%を予定しているが、途中で簡単なレポート課題を課すことがある。履修者数が多い場合には、グループによるディスカッションを行い、ディスカッションの内容を成績に反映する。

【学生の意見等からの気づき】

授業改善アンケートは概ね好評であった。とくに携帯電話を用いたミニテストが好評であったので、今年度も同様に実施する。

【学生が準備すべき機器他】

ミニテストでは携帯電話やスマートフォンを用いる。

【関連の深いコース】

履修の手引き「専門科目一覧・コース関連科目表」を参照してください。

【Outline (in English)】

Course outline: Advanced knowledge of climate change.

Learning objectives: Students learn scientific knowledge about global warming. In the fall semester, we lean on the detail of climate change.

Learning activities outside of classroom: The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Grading criteria/policy: Mini-tests (30%), a term exam (70%).

DES300HA

自然環境政策論 I

高田 雅之

配当年次/単位：2～4年 / 2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 2/Fri.2

備考（履修条件等）：環ア：口、サ

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

自然環境と人間との調和・共生を実現するためには、社会の様々な取り組みが互いに効果を及ぼし合いながら、望ましい状態を目指していけるような環境政策を進めなければなりません。自然環境政策論Ⅰ（春期）では、対象となる自然環境の理解と、人間活動との軋轢に対する基盤的な政策を中心に、また自然環境政策論Ⅱ（秋期）では、様々な課題に対する社会的・国際的な手立てと、今後の新たな政策の可能性について考究します。

【到達目標】

以下の2点について知識と理解を深め、その要点を説明できる力を身に付けます。

- ①保全対象となる自然環境の特性と、人間活動によって引き起こされた問題の現状と課題
- ②人間による影響を減らすために取り組まれている主な自然環境保全対策

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

「保全の対象となる生態系の特徴」、「人間活動によって引き起こされる諸問題」、「外来種や種の絶滅という難題」、「日本における主な自然環境保全制度」、「新たな課題である里山・生物多様性・自然再生」について学びます。国内外の実例やエピソードを交えたプレゼンテーションにより、知識と問題意識を積み重ね到達目標に向かいます。また、課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンスと序論	講義の進め方、環境問題の難しさ、自然環境の保全とは
第2回	森林をめぐる諸課題	森林の構造と機能、森林の管理、森林保護をめぐる事例
第3回	草原をめぐる諸課題	半自然草原・高山草原・海岸草原の特徴と取り巻く課題
第4回	湿地をめぐる諸課題	湿原・水田・干潟の特徴と取り巻く課題
第5回	陸水域をめぐる諸課題	河川・湖沼生態系の特性、水生生物、富栄養化と水質問題
第6回	島嶼をめぐる諸課題	海洋島と大陸島、固有の生物相、ガラパゴスや小笠原諸島などの事例
第7回	自然環境をめぐる難題：貴重種1	レッドリストによるリスク評価、希少動物・希少植物の取り組み事例
第8回	自然環境をめぐる難題：貴重種2	種の保存法に関する事例、種の再導入など
第9回	自然環境をめぐる難題：外来種1	様々な導入経路と影響、外来生物対策、国内外の事例
第10回	自然環境をめぐる難題：外来種2	最近の動向、根絶事例、淡水における外来種問題など

第11回 日本の自然環境保全政策 ワイルドライフマネジメント策1

第12回 日本の自然環境保全政策 自然公園、自然環境保全地域など策2

第13回 自然の再生 自然再生とは、近自然河川工法、自然再生事業など

第14回 里山と生物多様性 里山の特徴と変貌、生物多様性とは、生態系サービス

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をします。毎回のテーマに関わる基礎知識について予習するとともに、講義で抱いた疑問について毎回の講義後に自主学習によって解決します。また日頃接するメディアや、時折訪ねる自然地や公園などで、自然環境に対する関心を払うよう努めます。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特定のものはありません。講義において適宜資料を配布します。

【参考書】

講義において随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】

毎回提出するリアクションペーパー（50%）と期末試験（50%）により評価します。詳しくは学習支援システムでお知らせします。

【学生の意見等からの気づき】

知識の羅列と詰め込みにならないよう、重要な点を強調し、具体的な事例や挿話を交えながら、できる限り丁寧に説明し理解を促していきます。

【その他の重要事項】

自然環境政策論Ⅰ（春期）とⅡ（秋期）は内容と視点が異なり、両方で自然環境政策を網羅するものとしてしていますので、併せて受講することが望ましいです。自然についてより詳しく学習したい人にはサイエンスカフェⅢ（生態学）（春期）と自然環境論Ⅳ（秋期）の受講を勧めます。

旧科目名称「自然環境政策論」を修得済の場合、本科目の履修はできません。

【関連の深いコース】

履修の手引き「D.6 専門科目一覧・コース関連科目表」を参照してください。

【実務経験のある教員による授業】

担当教員は、公務員（国家・地方）、独立行政法人（研究機関）、民間企業で環境分野特に生態系に関わる実務及び研究経験があります。本講義ではそれらを通して得た具体的な事例や知見、フィールド経験等が活用されています。

【Outline (in English)】

In this lecture, students will understand the current conditions of the natural environment and learn issues of biodiversity such as endangered species and alien species, and basic nature conservation policy in Japan.

The goals of this lecture are to deepen the understanding and acquire knowledge of the above-mentioned matters.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the lecture content.

Grading will be decided based on every time reaction paper:50%, term-end examination:50%.

DES300HA

自然環境政策論 II

高田 雅之

配当年次/単位：2～4年 / 2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 2/Fri.2

備考（履修条件等）：環コア：G, サ

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

自然環境と人間との調和・共生を実現するためには、社会の様々な取り組みが互いに効果を及ぼし合いながら、望ましい状態を目指していけるような環境政策を進めなければなりません。自然環境政策論Ⅰ（春期）では、対象となる自然環境の理解と、人間活動との軋轢に対する基盤的な政策を中心に、また自然環境政策論Ⅱ（秋期）では、様々な課題に対する社会的・国際的な手立てと、今後の新たな政策の可能性について考究します。

【到達目標】

以下の3点について知識と理解を深め、その要点を説明できる力を身に付けます。

- ①日本における自然環境保全へ向けた誘導的・社会的・経済的な取り組みの考え方とその実際
- ②諸外国における取り組みの事例とその仕組み
- ③国際条約など国際的な枠組みによる保全

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

「環境影響評価や環境計画などの誘導的・計画的なアプローチ」、「法によらない保全事例」、「諸外国における特徴的な保全とその仕組み」、「国際的な枠組みによる保全」、「経済的なアプローチ」、「地域の自然資源の活用とエコツーリズム」について学びます。国内外の実例やエピソードを交えたプレゼンテーションにより、知識と解決意識を積み重ね到達目標に向かいます。

また、課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンスと序論	講義の進め方、文明の盛衰と自然環境、人を動かす概念の進化など
第2回	自然との共生と軋轢	日本における動物・水と人との関わり、開発と自然保護の対立
第3回	環境影響評価 1	環境アセスメントの特徴と手続き、日本における制度構築の経過
第4回	環境影響評価 2	特徴的な仕組みと事例、戦略的環境アセスメント
第5回	法によらない保全メカニズム	生態学と環境計画、自然環境保全指針などの地域ビジョン、NPOによる取組事例、協定等の自発的手法
第6回	海外の自然環境政策に学ぶ 1	フランスの地方自然公園とエコミュゼ、ドイツのビオトープ
第7回	海外の自然環境政策に学ぶ 2	イギリスのナショナルトラスト・グラウンドワーク、日本のトラスト活動
第8回	海外の自然環境政策に学ぶ 3	欧州の農業環境政策、環境支払い
第9回	国際的な取り組み 1	ラムサール条約、世界遺産条約
第10回	国際的な取り組み 2	ワシントン条約と象牙問題の事例

第11回	国際的な取り組み 3	世界農業遺産、ジオパーク
第12回	生物多様性と経済	企業活動とリスク、認証制度、生態系サービスへの支払い、自然資本
第13回	生物多様性と政策	生物多様性条約、生物多様性オフセット、ビオトープ
第14回	地域資源の活用とエコツーリズム	エコツーリズムとは、管理型観光と自主型観光、自然の価値を高める経済的な循環事例、地域づくりを生かす試み

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をします。毎回のテーマに関わる基礎知識について予習するとともに、講義で抱いた疑問について毎回の講義後に自主学習によって解決します。また日頃接するメディアや、時折訪ねる自然地や公園などで、自然環境に対する関心を払うよう努めます。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特定のものはありません。講義において適宜資料を配布します。

【参考書】

講義において随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】

毎回提出するリアクションペーパー（50%）と期末試験（50%）により評価します。詳しくは学習支援システムでお知らせします。

【学生の意見等からの気づき】

知識の羅列と詰め込みにならないよう、重要な点を強調し、具体的な事例や挿話を交えながら、できる限り丁寧に説明し理解を促していきます。

【その他の重要事項】

自然環境政策論Ⅰ（春期）とⅡ（秋期）は内容と視点が異なり、両方で自然環境政策を網羅するものとしていきますので、併せて受講することが望ましいです。自然についてより詳しく学習したい人にはサイエンスカフェⅢ（生態学）（春期）と自然環境論Ⅳ（秋期）の受講を勧めます。

【実務経験のある教員による授業】

担当教員は、公務員（国家・地方）、独立行政法人（研究機関）、民間企業で環境分野特に生態系に関わる実務及び研究経験があります。本講義ではそれらを通して得た具体的な事例や知見、フィールド経験等が活用されています。

【Outline (in English)】

In this lecture, students will learn social, international and economic measures and possibilities of future new policies for nature conservation and sustainable use of the natural resources.

The goals of this lecture are to deepen the understanding and acquire knowledge of the above-mentioned matters.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the lecture content.

Grading will be decided based on every time reaction paper:50%, term-end examination:50%.

SOM300HA

衛生・公衆衛生学 I

宮川 路子

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 1/Thu.1

備考（履修条件等）：環ア：文、サ

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

衛生・公衆衛生学は予防医学であり、疾病の予防、健康の保持増進をはかる科学技術の探究である。歴史的には伝染病の予防に始まり、現在では循環器疾患、心疾患、がん、糖尿病などの生活習慣病の予防から環境と疾病の関係を追及し、さらに健康の疫学へと進み、健康の保持増進をはかるための方策を探索するところまで進んでいる。本講座において学生は、予防医学の基礎となる考え方を学ぶとともに、現代社会に潜むさまざまな健康関連問題を取り上げる。健康意識の提起を行い、個人として自己健康管理を行ううえで必要な知識を習得することを目的としている。

【到達目標】

学生は、各種の健康問題の実情を学び、必要とされる健康行動について考えていく。

たとえば、学生生活においてしばしば問題となる飲酒行動について、アルコール摂取により体に何が起こるのかを知り、飲酒に関わる問題を引き起こさないためにどのような健康行動を身に着けていくべきかについて具体的にその方法を考えることができるようになる。これらの学びの積み重ねによって、学生は、将来の疾病を予防し、健康寿命を延長していくことが可能となる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

少子化、超高齢化社会において問題となっている医療関連の話題について学ぶ。また、シラバス上のテーマ以外でも、優先順位を考慮し、重要と思われる話題について、積極的に取り上げていく。衛生・公衆衛生学 I～Ⅲの内容は若干重複することがある。

対面とオンライン（オンデマンド）を組み合わせて講義を行う。なお、各回の講義形態については変更の可能性があるため、適宜 Hoppi で周知する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	講義を受けるにあたっての心構え、予防医学の基本的概念予防医学の基礎について
第 2 回	ライフスタイルと生活習慣病①	生活習慣病の概念、病気の種類
第 3 回	ライフスタイルと生活習慣病②	主要死因とその関連疾患、生活習慣病の予防について
第 4 回	ライフスタイルと生活習慣病③	生活習慣病各論
第 5 回	ライフスタイルと生活習慣病④	生活習慣病各論
第 6 回	喫煙の健康影響①	タバコの害、法的規制、社会の取り組み
第 7 回	喫煙の健康影響②	喫煙による疾病、禁煙について
第 8 回	アルコールの健康影響①	アルコールの健康被害について
第 9 回	アルコールの健康影響②	アルコール依存症について
第 10 回	少子・高齢社会における健康問題①	少子・高齢化社会の健康問題

第 11 回 少子・高齢社会における介護問題、高齢者虐待に関する健康問題②

第 12 回 児童虐待

児童虐待の現状と対策

第 13 回 感染症

性感染症・食中毒

第 14 回 まとめ

まとめ、レポート提出、または授業内試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。講義後に復習をする。関連の話題について、常に意識をして新聞を読むこと。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは指定しない。参考資料を適宜学習支援システムにアップする。

【参考書】

人生 100 年の健康づくりに医師がすすめる最強の水素術 宮川路子

【成績評価の方法と基準】

評価は期末に提出するレポート、または授業内試験で行う（100%）。

【学生の意見等からの気づき】

多人数の講義の場合には、騒がしいことがあったが、適宜注意を促し、静粛な環境で講義を進めるよう努力する（対面の場合）。オンデマンドの講義の場合には、学生が理解しやすいような動画及び資料の作成を心がける。

【学生が準備すべき機器他】

パソコン

【Outline (in English)】

Public health is the science and art of preventing disease and promoting human health. The history of public health began with the prevention of infectious diseases and developed into the prevention of lifestyle-related diseases, and establishing the relationship between causation and one's living environment. Moreover, the science of public health has extended into the epidemiology of health, and studies to establish the policies that encourage health maintenance and improvement. In this course, students will learn the basic concepts of preventive medicine and will acquire the knowledge on various health-related issues that are latent in modern society. The aim of the course is to raise health awareness and to acquire the skills necessary for individuals to manage their own health.

Learning Objectives

Students will learn about the realities of various health problems and think about the health behaviors required from younger age. For example, students will learn what happens to their bodies when they consume alcohol, which is often a problem in their daily lives, and will be able to think about specific ways to develop healthy behaviors to prevent problems related to drinking. By accumulating these lessons, students will be able to prevent future diseases and extend their healthy life expectancy.

Learning activities outside of classroom

Review after the lecture. Students are expected to read newspapers with an awareness of related topics. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Grading Policy

Evaluation will be based on the report to be submitted at the end of the term (100%).

SOM300HA

衛生・公衆衛生学Ⅱ

宮川 路子

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 4/Thu.4

備考（履修条件等）：環コア：文、サ

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

衛生・公衆衛生学の目的は、人々を疾病から守り、健康を保持増進し、人々に十分な発育をとげさせて肉体的、精神的能力を完全に発揮させることである。これは、医学から発達した社会学であり、保健、医療、福祉がその3本柱となっている。公衆衛生の実践活動のためには、絶え間ない教育と組織化された地域社会の努力が必要である。本講義で学生は、健康に生きていくための公衆衛生についての重要な知識を身に付けることが可能となる。

学生は疫学の知識を身に付けることにより、ヘルスリテラシーを高める。また、生命倫理について深く学び、いかに健康に生きるかということを考えることを目標とする。

【到達目標】

本講座では、学生は疫学、保健衛生統計学的手法、社会学的手法を用いて問題調査、提起を行い、対策を講じていく過程を学習する。これにより、学生は日々の生活の中で触れる健康情報を評価し、取捨選択を行い、適切な健康行動を取ることが可能となる。また、学生は日本の医療の現状について学び、患者としての適切な受療行動を考える。さらに学生は生命倫理の諸問題について学び、いかに生き、いかに死ぬかについて考えていく。特に終末期医療についての知識を身につけることによって、将来家族や自分が終末期を迎えたときにどのような医療を受け、いかに死を迎えるかを話し合い、決定する機会を持ち、実施することを目的とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

衛生・公衆衛生学Ⅰに引き続き、各種健康問題について学習する。さらに、疫学の基礎、疫学調査、スクリーニングについての知識を得る。実際にスクリーニングプログラムの評価法を学び、健康診断の意味を考える。また、シラバス上のテーマ以外でも、優先順位を考慮し、重要と思われる話題について、積極的に取り上げていく。映画の視聴に際し、感想文の提出を求めた際には講義の中でコメントを行う。衛生・公衆衛生学Ⅰ～Ⅲの内容は若干重複することがある。対面と、オンライン（オンデマンド）を組み合わせる講義を行う。なお、各回の講義形態については変更の可能性があるため、適宜 Hoppi で周知する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	衛生・公衆衛生学概論	衛生・公衆衛生学Ⅱで学ぶ内容を紹介し、学ぶ意義について考える。
第2回	疫学の基礎①	疫学の歴史、各種指標
第3回	疫学の基礎②	バイアス・因果関係
第4回	疫学演習	肺がんと喫煙について、因果関係を考える。 計算問題
第5回	水俣病について	ビデオ鑑賞・感想文提出
第6回	スクリーニング プログラム①	スクリーニングプログラムの条件
第7回	スクリーニング プログラム②	スクリーニングにおける問題点、バイアス
第8回	環境保健	環境と健康

第9回	社会保障	日本の医療制度について
第10回	生命倫理①	医の倫理 医療崩壊 患者と医師の権利と義務
第11回	生命倫理②	安楽死・尊厳死 医療訴訟
第12回	生命倫理③	遺伝子関連問題 遺伝病、色覚異常
第13回	生命倫理④	終末期について 映画鑑賞（死について考える） 感想文提出
第14回	まとめ	講義のまとめ、授業内試験、またはレポート提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。授業後に復習を行う。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは指定しない。参考資料を適宜配布する。

【参考書】

必要な場合には開講時に指定する

【成績評価の方法と基準】

評価は期末に提出するレポート、または授業内試験で行う（100%）。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

パソコン

【その他の重要事項】

衛生・公衆衛生学Ⅰをあらかじめ受講していることが望ましい。

【Outline (in English)】

The aim of public health is health promotion and disease prevention by fully developing the physical and mental abilities of people to protect them from diseases. This is sociology developed from medicine. Health, medical care, and welfare are the three pillars of public health. Practical activities of public health require continuous education and organizational community efforts. In this lecture, students will have the opportunity to learn important knowledge on public health to live a healthy life.

Learning Objectives

In this course, students will learn the process of using epidemiology, health statistical methods, and sociological methods to investigate and raise issues, as well as to take further action. This will enable students to evaluate and discard health information that they come into contact with in their daily lives, and to take appropriate health actions.

In addition, students will learn about the current state of medical care in Japan and consider appropriate treatment behavior as a patient. Students will also learn about bioethical issues and consider how to live and how to die.

Learning activities outside of classroom

Review after the lecture. Students are expected to read newspapers with an awareness of related topics. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Grading Policy

Evaluation will be based on the report to be submitted at the end of the term (100%).

SOM300HA

衛生・公衆衛生学Ⅲ

宮川 路子

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講semester：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 4/Thu.4

備考（履修条件等）：環コア：文、サ

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

衛生・公衆衛生学の目的は、人々を疾病から守り、健康を保持増進し、人々に十分な発育をとげさせて肉体的、精神的な能力を完全に発揮させることである。公衆衛生の実践活動のためには、人間の教育および社会の努力が必要である。

現在、我が国においては、年間の自殺者数が1998年から14年間連続して3万人を超えていた。その後減少傾向となり、2019年には2万人を切ったが、2020年には再び上昇した。いまだ若者の自殺は横ばい傾向となっており、対策が求められている。また、精神的な問題を抱える人の数は大幅に増加しているといわれている。しかし、これらの人が適切に精神科を受診できていないことが問題視されている。

本講座では産業保健の現場におけるメンタルヘルス事例および心療内科のクリニックでの症例について紹介しながら講義を行う。学生は精神疾患について学び、自分のメンタルへするケアを適切に行えるようになることを目的とする。

【到達目標】

精神疾患についての知識を身につけることにより、学生が自分自身の精神的な安定を保ち、また自分自身のみならず、家族や同僚、友人など、周りの人の状態にも敏感に気づくことができるようになる。ものの考え方を考えることによって、精神を健康に保つ方法を身につける。

栄養療法によって精神疾患を防ぎ、改善する知識を身につける。精神疾患の予防（予防、早期発見・早期治療、社会復帰）を目指し、日本社会にはびこっている偏見を取り除くことも目的としている。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

対面講義とオンラインによる講義を行う。必要な資料は学習支援システムにアップする。課題を課した場合には、講義の中でコメントをするなどのフィードバックを行う。なお、各回の講義形態については変更の可能性があるため、適宜 Hoppi で周知する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	衛生公衆衛生学概論	ガイダンス
第2回	精神保健 メンタルヘルスケア①	生涯にわたる精神保健の必要性について 精神保健福祉とその対策 自殺について
第3回	メンタルヘルスケア②	産業保健におけるメンタルヘルスケア 職場におけるメンタルヘルス事例について紹介。過重労働、過労自殺、過労死
第4回	メンタルヘルスケア③	ストレスについて 快適職場について 実際の就労現場の取り組みと課題について
第5回	精神障害①	睡眠障害 よい睡眠をとるために大切なこと

第6回	精神障害②	気分障害について うつ病、双極性障害
第7回	精神障害③	新型うつ病について 職域において増加している回避性うつについて学ぶ 摂食障害について
第8回	精神障害④	不安障害
第9回	精神障害⑤	統合失調症
第10回	精神障害⑥	発達障害と就労問題
第11回	精神障害⑦	精神障害に対する栄養療法の実践について（有効な疾患）
第12回	精神障害の栄養療法①	精神障害に対する栄養療法の実践について（サプリメント）
第13回	精神障害の栄養療法②	精神障害に対する栄養療法の実践について（サプリメント）
第14回	まとめ、レポート提出	講義のまとめを行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。講義後に復習をする。関連の話題について、常に意識をして新聞を読むこと。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

こころの「超」整理法 宮川路子 中央経済社 2012年
参考資料を適宜配布する。

【参考書】

適宜紹介する

【成績評価の方法と基準】

評価は期末に提出するレポートまたは授業内試験で行う（100％）。

【学生の意見等からの気づき】

多人数の講義の場合には、騒がしいことがあったが、適宜注意を促し、静かな環境で講義を進めるよう努力する（対面の場合）。オンデマンドの講義の場合には、学生が理解しやすいような動画及び資料の作成を心がける。

【実務経験のある教員による授業】

産業医として就労者の健康管理、特にメンタルヘルスケアに力を入れて職場の環境管理に携わる一方、クリニックで栄養療法を中心とした統合医療の診療を行っている。

【Outline (in English)】

The purpose of public health is to protect people from disease, to preserve and promote health, and to enable people to develop fully and to reach their full physical and mental health status. In this course, students will learn about mental illness and be able to take appropriate care of their own mental health.

Learning Objectives: Students will learn about mental illnesses so that they can maintain their own mental stability and be sensitive to the condition of not only themselves but also those around them, such as family, colleagues, and friends. Through learning about the symptoms, students will be able to recognize mental illnesses at an early stage.

Students will learn how to change their mindset in order to maintain mental health.

Students will gain knowledge on how to prevent and improve mental illness through nutritional therapy.

Through the lectures, students will aim to prevent mental illness (prevention, early detection and treatment, and reintegration into society), as well as to remove prejudices prevalent in Japanese society.

Learning activities outside of classroom: Review after the lecture. Students are expected to read newspapers with an awareness of related topics. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Grading Policy: Evaluation will be based on the report to be submitted at the end of the term (100%).

GEO200HA

自然災害論

杉戸 信彦

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 2/Mon.2

その他属性：〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

災害をもたらす自然現象をなくすことはできない。リスクに配慮した防災力の高い持続可能な地域社会の構築に向け、多角的なアプローチが求められる。「いつ」「どこで」「何が」起こり得てその地がどうなるのか。人間社会は「その時」にどう備えるか。実例やメカニズム、リスクを検証し、災害の自然的・社会的背景をさぐる。

【到達目標】

自然災害リスクを決定づける要因を説明できる。
災害リスクを低減させる取り組みについて自然・社会の両面から具体的に記述できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式。前半は主に自然界のもたらすハザードを扱い、後半はそれを踏まえて人間社会のあり方を見つめなおす。
課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。
大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	自然災害と防災	自然災害とは、自然災害リスク、防災とは
第2回	土地条件評価	地形、表層地盤、活断層
第3回	地震発生予測	地震とは、地震の起こる場所、地震発生繰り返しモデル、長期評価
第4回	地震災害の諸相（1）	地殻変動、地震動、液状化
第5回	地震災害の諸相（2）	地震火災、津波、津波火災
第6回	火山災害の諸相	活火山の分布、火山噴火とは、火砕流、山体崩壊、溶岩流、噴石、火山灰
第7回	気象災害の諸相	降水量とその季節性・地域性、豪雨と積乱雲、台風、高潮、大雪
第8回	土砂災害の諸相	斜面崩壊（表層崩壊・深層崩壊）、地すべり、土石流
第9回	土地利用と社会基盤（1）	災害危険区域、津波災害警戒区域、防潮堤、かさ上げ、高台移転、流域治水
第10回	土地利用と社会基盤（2）	耐震基準と耐震等級、活断層の直上と近傍
第11回	防災気象情報	災害種と予測可能性、伝達手段、特別警報、気象警報・注意報、緊急地震速報、津波警報・注意報、噴火警報・注意報
第12回	避難	避難情報、避難場所、避難所、警戒レベル
第13回	災害の歴史・災害経験の継承	記録と記憶、災害史、碑、災害遺構、活断層の保存
第14回	ハザードマップと防災教育	ハザードマップ、災害図上訓練（DIG）、津波と避難、学校、地域

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して予習・復習をする。
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

指定なし

【参考書】

授業中に紹介

【成績評価の方法と基準】

平常点（30%）・期末試験または期末レポート（70%）

【学生の意見等からの気づき】

知識と基礎力に加え、応用力や思考力をより涵養すべく、詳しく具体的な説明を心がける。

【関連の深いコース】

履修の手引き「専門科目一覧・コース関連科目表」を参照してください。

【Outline (in English)】

Natural phenomena that cause disasters have occurred repeatedly, and will also occur in the future. We have to improve our approaches in all aspects for building resilient and sustainable society. We examine sciences of natural disasters caused by earthquakes, tsunamis, volcanic eruption, heavy rain, and slope failures, and then discuss land use, social infrastructures, use of disaster information, evacuation, hazard map, and education, for reducing natural-disaster risk. Students should be able to do the followings by the end of the course: (1) to explain what determine the risk of natural disasters, and (2) to explain efforts to mitigate natural-disaster risk from the perspective of the natural environment and human society. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Grading will be decided based on short reports (30%) and a final exam or report (70%).

DES300HA

自然環境論Ⅳ

高田 雅之

配当年次／単位：1～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 3/Thu.3

備考（履修条件等）：環コア：G, サ

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉〈ダ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

自然環境と人間活動との持続的な調和を探究するためには、地球規模から私たちの身近なところまでズームの効いた視点で自然環境を理解することが欠かせません。本講義では、地理的視点と生態系の違いの視点から、地球上の各地の自然環境及び野生生物について理解を深めるとともに、人間活動による影響とツーリズムなどを通じた共生の可能性について学び、今後の人と自然との望ましい関係を考究することを目的とします。

【到達目標】

以下の4点について知識と理解を深め、その要点を説明できることを目標とします。

- ①生物地理とバイオーム（生物群の違い）の理解
- ②世界の各地域ごとの野生生物と生態系の特徴
- ③世界の各地域ごとの野生生物と生態系を取り巻く問題と人間との軋轢・共生
- ④生物や自然を対象としたツーリズムとその課題

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

「生物地理とバイオーム」、「世界の各地域における生物多様性」、「世界の各地域における自然と人間との軋轢と共生」、「自然を対象としたツーリズムの可能性」などについて学びます。最近の話題やエピソードを交えたプレゼンテーションにより、科学的な理解とそれに基づく生物多様性保全のあり方を考える能力を高めていきます。また、課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンスと序論	講義のねらいと進め方、地球視点でみる自然、生物地理とバイオーム
第2回	南米の自然	南米の生物と生態系の特徴、人間活動との関わり
第3回	中米の自然	中米の生物と生態系の特徴、人間活動との関わり
第4回	北米の自然 1	北米の生物と生態系の特徴、人間活動との関わり
第5回	北米の自然 2	北米の国立公園と生態系
第6回	ニュージーランドの自然	ニュージーランドの生物と生態系の特徴、人間活動との関わり
第7回	オーストラリアの自然	オーストラリアの生物と生態系の特徴、人間活動との関わり
第8回	アフリカの自然	アフリカの生物と生態系の特徴、人間活動との関わり
第9回	ヨーロッパの自然	ヨーロッパの生物と生態系の特徴、人間活動との関わり
第10回	ロシア・中国・朝鮮半島の自然	ロシア・中国・朝鮮半島の生物と生態系の特徴、人間活動との関わり

第11回	南～東南アジアの自然	南～東南アジアの生物と生態系の特徴、人間活動との関わり
第12回	極地の自然	極地の生物と生態系の特徴、人間活動との関わり
第13回	その他の世界の自然	これまでの補足、海洋島の生物と生態系の特徴、人間活動との関わりなど
第14回	まとめ	生物や自然を対象としたツーリズムの可能性と課題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をします。毎回のテーマに関わる基礎知識について予習するとともに、講義で抱いた疑問について毎回の講義後に自主学習によって解決します。また日頃接するメディアでの自然環境に関する話題や、身の回りで目にする生き物に関心を払うよう努めます。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特定のものはありません。講義において適宜資料を配布します。

【参考書】

講義において随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】

毎回提出するリアクションペーパー（50%）と期末試験（50%）により評価します。詳しくは学習支援システムでお知らせします。

【学生の意見等からの気づき】

知識の羅列と詰め込みにならないよう、重要な点を強調し、具体的な事例や挿話を交えながら、できる限り丁寧に説明し理解を促していきます。

【その他の重要事項】

基礎的な知識や理解としてサイエンスカフェⅢ（生態学）（春期）を受講しておくことが望ましいです。人間との関わりや保全のための政策について学習したい人には自然環境政策論Ⅰ（春期）及びⅡ（秋期）を受講することを勧めます。

【実務経験のある教員による授業】

担当教員は、公務員（国家・地方）、独立行政法人（研究機関）、民間企業で環境分野特に生態系に関わる実務及び研究経験があります。本講義ではそれらを通して得た具体的な事例や知見、フィールド経験等が活用されています。

【Outline (in English)】

The purpose of this lecture is to understand the wildlife and ecosystems on the earth from the viewpoint of geography and biome, and to learn about the impact to nature by human activities and the harmonization between human and nature in future.

The goals of this lecture are to deepen the understanding and acquire knowledge of the above-mentioned matters.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the lecture content.

Grading will be decided based on every time reaction paper:50%, term-end examination:50%.

ASS300HA

食と農の環境学 I

西川 邦夫

配当年次/単位：2～4 年 / 2 単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 5/Thu.5

備考（履修条件等）：環ア：経、口、グ

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、学生が現代日本の農業及び農業政策について、農業経済学・農政学の立場から理解することを目的とする。理論・実態・国際比較の視点から、多面的に日本農業・農政を理解することを試みる。経済発展段階が先進国段階に到達するとともに、メガ FTA の締結等による貿易自由化が進む中で、農業という産業が国民・地域経済にどのような意義を持つのか、学生は学修する。

【到達目標】

学生が、①農業経済学・農政学の基本的な知識を身につけるとともに、②日本農業が抱える問題点、今後日本農業が向かうべき進路について自分の考えを持ち、③論理的に表現することができることを到達目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

対面形式による講義を実施する。不定期にリアクションペーパーの提出を求める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	プロローグ：農業問題と農業政策	経済発展が先進国段階に到達するとともに、貿易自由化が進む中で、日本農業が直面している問題と取るべき政策について理論的に解説する。
第 2 回	国際農産物貿易交渉の展開過程	1980 年代の GATT ウルグアイ・ラウンドから近年の FTA に至る過程を、世界経済の構造転換に注目しながら解説する。
第 3 回	TPP・日米貿易協定と日本農業	日本も参加した TPP 及び日米貿易協定の交渉過程において、国内・国際的にどのような政治経済学的特質が見られたのか検証する。
第 4 回	アメリカ農業の歴史と現状①	日本にとって政治的・経済的につながりが強いアメリカの農業について、歴史と現状を多面的に概説する。
第 5 回	アメリカ及びカリフォルニアの稲作	日本の稲作にとって潜在的な競争相手であるカリフォルニア州の稲作の実態と課題について、水問題への対応に注意を払いながら検討する。
第 6 回	アメリカ農業の歴史と現状②	アメリカの食料・農業問題を扱った DVD を鑑賞し、第 4～5 回授業の理解を深める。
第 7 回	国際農産物市場の現局面と日本の食料安全保障	国際農産物市場の現局面と日本の農産物貿易の状況を開設するとともに、食料自給率と食料自給力に示される食料安全保障のあり方について考察する。

第 8 回	日本経済の構造転換と食料消費	日本経済の構造転換、及び家族関係の変化の影響を受けた家計と食料消費の関係を、主食であるコメを中心に考察する。
第 9 回	日本農業の構造変動と多様な担い手	農業構造変動の到達点と新たに登場してきた集落営農組織、農外企業の企業参入等の農業の担い手について、地域的多様性や農地制度改革に注目して検討する。
第 10 回	農業労働力の脆弱化と確保の課題	農業労働力が昭和一代や団塊世代の高齢化・引退によって枯渇していること、新規就農者や外国人労働者等によって確保が試みられていることを説明する。
第 11 回	農業の多面的機能と生態系サービス	農業が発揮する経済的機能以外の様々な機能やサービスを、環境経済学の理論的フレームワークや実例を用いて解説する。
第 12 回	条件不利地域農業と農山村政策	農業の多面的機能を多く担いながらも、衰退と再生の動きが交錯する日本の農山村再生のために求められる政策について、近年の田園回帰の動向に注意を払いながら検討する。
第 13 回	食品安全問題の理論と政策	消費者の食への安心・安全意識への高まりと対応する政策の枠組みを、流行している家畜疾病や、生協産直の動向にも注意を払いながら解説する。
第 14 回	エビローク：現代日本の農業政策	これまでの講義の内容を総括するとともに、求められる政策について展望する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。学生は、授業の前に学習支援システムにアップされる講義資料を予め読んでおく、また授業後に見返しておく。また、授業中に紹介される参考書を読むことも推奨される。興味関心を養うために、学生は新聞で農業関係の記事があったら読んでおくことも望ましい。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。資料を事前に学習支援システムにアップするので、各自プリントアウト等をして授業に臨むこと。授業内では配布しない。

【参考書】

- ①田代洋一『農業・食料問題』、大月書店、2012 年（本体 2,600 円＋税）。
- ②速水佑次郎・神門善久『農業経済論 新版』、岩波書店、2002 年（4,200 円＋税）。
- ④農林水産省『食料・農業・農村白書』（各年版）（www.maff.go.jp/j/wpaper/）。

【成績評価の方法と基準】

期末試験：100 %（実施方法は授業内で指示する）

【学生の意見等からの気づき】

リアクションペーパーを適宜導入する等、学生との双方向の授業を心がけたい。

【学生が準備すべき機器他】

資料や連絡事項を学習支援システムにアップするので、定期的にチェックをすること。また、公開期限を過ぎた資料は再度アップしないので注意されたい。

【Outline (in English)】

[Course outline]

This class aims that students become to understand the agriculture and agricultural policy of contemporary Japan which has arrived at the stage of developed countries from the perspectives of agricultural economics and agricultural politics. This class tries to understand various aspects of the agriculture and agricultural policy in terms of theory, history, current status and international comparison. Students can finally understand significances agriculture have as an industry under the stage of developed country and the progress of trade liberalization caused by mega FTAs.

[Learning objectives]

Students will be expected to 1) have basic knowledge of agricultural economics and politics, 2) have thoughts about issues and future directions of Japan's agriculture, and 3) be able to express them logically.

[Learning activities outside of classroom]

Students will be expected to study for two hours outside of classroom through reading class materials uploaded on the Hoppii.

[Grading criteria/policy]

Grading will be given based on term-end examination (100%).

ASS300HA

食と農の環境学Ⅱ

湯澤 規子

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 2/Fri.2

備考（履修条件等）：環7：経、口

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

歴史という縦軸、地域という横軸にもとづいて、地域の「食べものがたり」を知り、考える。「食」と「農」の関係を考える視座を共有し、持続可能な「環境」やこれからの社会について議論する。

【到達目標】

受講生は「食」と「農」をつなげて「環境」や「地域」の魅力を理解し、説明し、発想・構想・実践できる知識と能力を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

映像資料や受講者からのリアクションペーパーを活用し対話型の講義を進めます。課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	食と農の「今」に関わるトピックを紹介する。
第2回	地域の「食べものがたり」	知っている、経験したことがある地域の「食べものがたり」について話し合う。
第3回	「食べものがたり」の風土学	歴史・自然・技術を複合的に理解し、地域の産業を論じる視座を紹介する。
第4回	三澤勝衛の「風土産業論」	風土産業論を提唱した地理学者の視点と今日的意義について論じる。
第5回	事例研究1	ぶどうとワインの Local Food Story を紹介する。
第6回	事例研究1	勝沼の歴史・自然・技術を読み解く。
第7回	事例研究1	Local Food Story 実践プランを作成する。
第8回	地域固有性への評価と地理的表示保護制度	地理的表示保護制度（GI）について学ぶ
第9回	地域固有性が食と農の魅力を引き出す	食文化創造都市について学ぶ。
第10回	事例研究2	長野県の Local Food Story を紹介する。
第11回	事例研究2	「味」は文化財になり得るか？ という問いについて考える。
第12回	事例研究2	食と農とコミュニティについて考える。
第13回	旅と物語	Local Food Story の旅プランを作成する。
第14回	まとめ	食と農と環境をつなぐ物語を考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。

「食」や「農」に関わる新聞記事、雑誌、小説、映画、ニュースなどに関心を持ち、可能であれば実際に足を運んだり、食べたり、五感を通して体験してみてください。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

講義で配布する資料を用います。

【参考書】

・湯澤規子『7袋のポテトチップス—食べるを語る胃袋の戦後史』晶文社、2019年

その他、随時紹介します。

・湯澤規子『胃袋の近代—食と人びとの日常史』名古屋大学出版会、2018年

・金田章裕『和食の地理学—あの美味を生むのはどんな土地なのか』平凡社新書、2020年

・池上俊一『パスタでたどるイタリア史』岩波ジュニア新書、2011年

【成績評価の方法と基準】

平常点 40%、中間レポート 30%、期末レポート 30%によって評価します。

【学生の意見等からの気づき】

食と農に関する身近な話題を入口にして、農村社会を考えるいくつかの基本的な理論を紹介します。やや難しい理論も分かりやすく伝えるようにしたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

特にありません。

【その他の重要事項】

特にありません。

【Outline (in English)】**◆ Course outline**

In this lecture, students will learn and think about the "food story" of the region based on the vertical axis of "history" and the horizontal axis of "region". We will share the perspective of thinking about the relationship between "food" and "agriculture" and discuss sustainable "environment" and future society.

◆ Learning Objectives

Students will acquire the knowledge and ability to understand, explain, conceive, conceptualize, and practice the appeal of "environment" and "region" by connecting "food" and "agriculture".

◆ Learning activities outside of classroom

Be sure to prepare and review the materials introduced in each lecture.

Be interested in newspaper articles, magazines, novels, movies, news, etc. related to "food" and "agriculture", and if possible, actually visit, eat, and experience them through the five senses. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

◆ Grading Criteria /Policy

Evaluation will be based on the following criteria: normal score: 40%, mid-term report: 30%, final report: 30%.

ASS300HA

食と農の環境学Ⅱ

湯澤 規子

配当年次／単位：2～4年／2単位

開講セメスター：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 2/Fri.2

備考（履修条件等）：環コア：サ

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義で受講生は「食」と「農」からみた社会と経済の歴史を検討し、現代社会と未来を考える視座を得ることを目的とします。

【到達目標】

受講生はフィールドワークにもとづいた地域経済学の研究を中軸に据え、地理学、歴史学、人類学、社会学、民俗学などの知見と成果を加えた、多面的かつ複眼的な視点から、食と農の問題を考えることを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

受講者からのリアクションペーパーを活用し、可能な限り、対話型の講義を進めます。課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクションー1番身近なSDGs	地球と人類の課題として「幸せ」と「豊かさ」を実現する社会について考える。
第2回	食と農の現代的課題ーアフリカとインドと日本の現場から	身近な現代的課題から食と農とSDGsについて考えるきっかけを得る。
第3回	環境を考える「環」の視点ー私たちは何者なのか	食べるという行為をみつめると、どのような社会の様相が見えてくるのかを考える。
第4回	近世日本の食と農と環境ー下肥の世界	近世日本の人びと、食と農と環境の関係について考える。
第5回	近代日本における循環構造の再編ー都市化と疫病と衛生観	都市化と疫病と衛生観について考える。
第6回	戦後日本の環境行政ー清掃事業をめぐって	戦後日本の食と農と環境の関係を清掃事業から考える。
第7回	講義前半についてのオープンダイアログ	簡単なワークショップを実施する予定。
第8回	現代日本の食と農と環境ー「環」の世界は今	現代日本の現状を再考する。
第9回	食べものはどこから来たのかー「種子」から考える	現代の食と農について考える。
第10回	食べものとは何か（1）ー胃袋と社会	地域社会事業と食と農の関係について考える。
第11回	食べものとは何か（2）ー土と農業	山形県山形市の米農家の戦後史を事例に、戦後農政と農村について考える。
第12回	食べものはどこへ行くのか（1）ー食の再考	食べもの、食べること関わる現代社会の状況を把握する。
第13回	食べものはどこへ行くのか（2）ー食の可能性	食と農と環境の今後の展望を考える。

第14回 私たちはどこへ行くの 講義内容を総括し、今後の課題を議論する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で紹介される資料等を使用して必ず予習・復習をすること。講義内容に関連する新聞記事、雑誌、小説、映画、ニュースなどに関心を持ち考察を深めて下さい。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

講義で配布する資料を用います。

【参考書】

・湯澤規子『胃袋の近代ー食と人びとの日常史』名古屋大学出版会、2018年
 ・湯澤規子『7袋のポテトチップスー食べるを語る胃袋の戦後史』晶文社、2019年
 その他、随時紹介します。
 ・湯澤規子『ウンコはどこから来てどこへ行くのかー人糞地理学こととはじめ』ちくま新書、2020年
 ・佐藤大介『13億人のトイレー下から見た経済大国インド』角川新書、2020年

【成績評価の方法と基準】

毎回のリアクションペーパー（50%）、期末レポート（50%）によって評価します。

【学生の意見等からの気づき】

具体的な資料を用いた講義が好評でしたので、引き続き活用したいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

特にありません。

【その他の重要事項】

11月10（金）は前半の内容を振り返るワークショップを実施する予定です。詳細は初回のガイダンスで説明します。

【Outline (in English)】

◆ Course outline

In this lecture, students will examine the history of society and economy from the perspective of "food" and "agriculture," with the aim of gaining a perspective on contemporary society and its future.

◆ Learning Objectives

Students are expected to think about food and agriculture issues from a multifaceted and multifaceted perspective, based on fieldwork-based research in regional economics, as well as knowledge and results from geography, history, anthropology, sociology, and ethnography.

◆ Learning activities outside of classroom

Be sure to prepare and review the materials introduced in each lecture.

Please pay attention to newspaper articles, magazines, novels, movies, news, etc. related to the lecture content and deepen your consideration. The standard preparation and review time for this class is 30 minutes each.

◆ Grading Criteria /Policy

Evaluation will be based on reaction papers (50%) and final report (50%).

CAR100MA

労働法

基幹科目

砂押 以久子

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
曜日・時限：木 3/Thu.3 | 配当年次：1～4 年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、雇用をめぐるさまざまな問題を法制度の観点から考察し、社会で働く上で必要な知識を習得することを目的とします。

【到達目標】

現在、就労をめぐる問題が山積しています。中でも、長時間労働に関しては、近年、過労によるうつ病自殺の事件が大きく報道されるに至り、長時間労働が社会的問題として広く認識されるようになりました。このような状況下において「働き方改革」が推し進められています。

また、正社員と非正規社員の労働条件の格差が問題とされてきました。しかし、非正規雇用に関しては、さまざまな法規制がなされ、現在、改善が図られてつつあるといえます。これに対し、近似、問題とされているのが、非雇用型の就労形態です。非雇用型の就労形態では、労働者とされないで、置かれている立場が弱いものであるにもかかわらず、労働法の保護を受けることができません。このような人々をいかに保護するか、議論がなされ始めています。

このほか、雇用におけるジェンダーギャップの問題も完全に解決されたわけではありません。

また、わが国の生産性が国際的にどんどん低下する中、雇用の流動性なども図られるべきではないか等の議論もなされています。

この授業では、労働法が労働者保護の観点からどのような制度を用意しているのかについて学び、上記のような雇用をめぐる現代の問題をも検討しつつ、実施の就労の現場で、働く者として不利益を被らないために必要となる知識の習得を目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

授業形態としては、講義形式を用います。授業の具体的内容については、授業計画に示します。

テーマによっては、授業内にリアクションペーパーの提出を求めます。提出してもらったリアクションペーパーに関しては、次回の授業において可能な限りすべて取り上げ、全体に対してフィードバックを行い、さらに議論を深めることとします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	授業ガイダンス及び労働法の概要	授業をどのように行うかについての詳細を示します。雇用に関するルールの概要を学びます。
2	労働法の新たな基本理念	労働環境の変化、そして現状への対処について検討します。
3	労働契約の成立	採用内定取消などの問題を取り上げ、採用内定等の法的性質を学びます。
4	賃金	賃金保障がどのようになされているか学びます。
5	労働時間規制	労働時間規制がどのようになされているにもかかわらず、長時間労働が生じてしまう現状について検討します。
6	長時間労働への対策	長時間労働を防ぐために国はどのような制度を用意したか、その内容と問題点を指摘します。
7	残業代不払をめぐる問題	労基法の労働時間規制を免れるための脱法行為をいかに防ぐかについて、検討します。
8	ワーキングライフとプライベートライフ	仕事と生活の調和を図るため、どのような制度が設計されているのかについて学びます。
9	人事制度	人事制度をめぐるさまざまなルールを学びます。
10	懲戒制度	懲戒制度に関し具体的な問題を取り上げ、検討します。
11	雇用の終了	雇用の終了の仕方には、解雇・合意解約・退職があります。それぞれの問題について考えます。
12	正規雇用と非正規雇用	正社員と有非正規社員の違い及びその問題について検討します。
13	雇用差別	男女差別のない職場とはどのようにしたら構築できるかについて考えます。

14 試験・まとめと解説 授業の内容が理解できたかについて確認します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で学んだことを現実の問題として受け止め、雇用社会はいかにあるべきか常に考えることを心掛けてください。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

浅倉むつ子・島田陽一・盛誠吾『労働法〔第6版〕』有斐閣アルマ

【参考書】

菅野和夫『労働法〔第12版〕』弘文堂
別冊ジュリスト『労働判例百選〔第9版〕』有斐閣
『労働法の争点』有斐閣

【成績評価の方法と基準】

学期末に授業内試験を実施します。
平常点（リアクション・ペーパーなど）（10％）と試験の点数（90％）によって成績評価を行います。

【学生の意見等からの気づき】

教科書を用いるとともに、内容をより理解しやすいようにプリント等の資料を配布するなどして、授業を進めていきます。あまりテーマが多岐にわたりにすぎないよう、中心的テーマに絞って授業を展開したいと考えています。取り上げるテーマに関して、具体的に生じている問題を指摘したうえで、法的に何が問題なのか、どのように解決が図られるべきかについて検討します。

【学生が準備すべき機器他】

必要に応じ DVD・ビデオ教材を用います。

【その他の重要事項】

授業の進行状況により取り上げるテーマの順序が多少前後したり、その時々雇用情勢により取り上げるテーマが変更になる場合があることを予め承ていただきました上で、受講するようお願いします。

【Outline (in English)】

【Course outline】

The aim of this course is to help students acquire getting the fundamental legal knowledges - especially labor law related mattes.

【Learning Objectives】

The goal of this course is to acquire the correct legal knowledge of labor law to avoid suffering disadvantage as a worker in real business world.

【Learning activities outside of classroom】

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

【Grading Criteria /Policies】

Your overall grade in the class will be decided based on the following.

Term-end examination: 90%, Short reports : 10%

BSP100MA

ファシリテーション論

基幹科目

鈴木 まり子

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

曜日・時限：火 6/Tue.6 | 配当年次：1～4 年

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

人が何か目的をもって集ったとき、お互いの違いを厄介な問題としてではなく、新たな創造のための豊かさとして活かすには、皆が安心して参加できる場づくりが必要です。人は自ら関わっていく中で、他人事だった課題も自分事となり、主体性を発揮し始めます。この授業では、様々な課題が山積みの現代において、会議やワークショップや組織変革の現場で、対話を育み共創や協働を促進する参加型の場づくりのためのコミュニケーション技法「ファシリテーション」を取り上げます。

【到達目標】

この授業では、会議、話し合いなど参加型の場におけるファシリテーションに対する知識と手法を身につけることを目的とします。ファシリテーションの定義や効果が理解でき、会議、ワークショップ、話し合いを有意義に進めることができる対話や議論のスキルを身につけることができます。また、話し合いのファシリテーションにとどまらず、社会的課題の解決に向けた事業や組織の支援・促進において、どのような知恵と技術が必要となるのか事例を通して理解することができます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

対面での授業となる。指定した教科書に従って、講義と演習を組み合わせる。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である。リアクションペーパー等における気づきや問いかけは授業内で共有し、お互いから学べるプロセスをつくる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オンラインでの参加型授業の進め方	オリエンテーション（授業の進め方） 【講義】 オンラインで参加型の場が求められる背景。ファシリテーションとは。 【演習】 チェックイン
2	「ともに社会をつくる関係」を育むソーシャル・ファシリテーションとは	【講義】 ソーシャル・ファシリテーションについて。 【演習】
3	話し合いのファシリテーション「話し合いの場をつくる」空間のデザイン：「しつらえ」を意識し、工夫する	ファシリテートされた体験を振り返る 【講義】 空間のデザイン：フォーメーション、グループサイズ 【演習】
4	話し合いのファシリテーション「話し合いの場をつくる」オリエンテーション、チェックイン	多様な場づくりから学ぶ 【講義】 オリエンテーション：話し合いを方向づける 【演習】
5	話し合いのファシリテーション「話し合いの場をホールドする」発問	事例をもとに、オリエンテーションを考える 【講義】 発問：「答え」ではなく「問い」を考える 【演習】
6	話し合いのファシリテーション「話し合いの場をホールドする」可視化	考えを深める/広める「問いかけ」をし合う 【講義】 可視化：書きながら、見ながら話し合う 【演習】
7	話し合いのファシリテーション「話し合いの場をホールドする」意見の吟味を促す	何をどう可視化するのか 【講義】 議論を可視化する 【演習】
8	話し合いのファシリテーション：オンライン・ファシリテーター体験	議論を可視化する 【講義】 意見の吟味：合意形成に向けての基本的な働きかけ 【演習】
9	話し合いを組み立てる：プログラムデザイン① プログラムデザインの手法を学ぶ	グループでの合意形成を体験 【講義】 オンラインならではの特徴を理解したうえでスキルとは 【演習】 オンライン・ファシリテーター体験 【講義】 プログラムデザインとは【演習】 プログラムデザインを考えるワーク①

10	話し合いを組み立てる：プログラムデザイン② ワークショップを企画する	【演習】 プログラムデザインを考えるワーク② グループに分かれてワークショップのテーマを話し合う
11	話し合いを組み立てる：プログラムデザイン③ ワークショップを開催する	【演習】 プログラムデザインを考えるワーク③ グループで考えたワークショップを実践する
12	ソーシャル・ファシリテーションに必要な働きかけ	【講義】 ソーシャル・ファシリテーションに必要な「話し合いのファシリテーション」以外の働きかけとは
13	キャリア・デザインとファシリテーション：実践事例から学ぶ	【講演と質疑応答】 ソーシャル・ファシリテーターからリアルに実践事例を学ぶ
14	試験・まとめと解説	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

今、現在、身近にある話し合い（サークル、ゼミなど）や参加したワークショップは、どのような場になっているか意識してきてください（楽しい、有意義、つまらないなど）また、授業で学んだファシリテーションのスキルと考え方を実践し、その気づきや疑問を次の授業に持ってきてください。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

ソーシャル・ファシリテーション「ともに社会をつくる関係」を育む技法 共著：徳田太郎、鈴木まり子
北樹出版
2021 年
1600 円（消費税別）

【参考書】

「ファシリテーション～実践から学ぶスキルとこころ」 共著鈴木まり子他 岩波書店
「深い学びを促進する：ファシリテーションを学校に！」青木将幸 ほんの森出版、2018 年
「はじめてのファシリテーション」鈴木康久他、昭和堂、2019 年
「オンライン会議の教科書：意思決定のスピードをあげるファシリテーション・スキル」朝日新聞出版、2020 年

【成績評価の方法と基準】

演習への参加度・振り返りシート・レポート・期末試験によって総合的に評価します。前者は、態度だけではなく、振り返りシートに意見・感想を記入してもらい、これも評価対象とします。
演習への参加度 30 %、振り返りシート 10 %、レポート 20 %、期末試験 40 %

【学生の意見等からの気づき】

実際にゼミやサークル活動、就職活動などでのファシリテーションの実践から生まれた疑問にもテキストと照らし合わせながら解決策を探る時間も確保する予定です。

【学生が準備すべき機器他】

リアルタイムのオンライン事業を予定しているので、通信環境が良いことが望ましい。また、グループでの話し合いが多いため、講義以外はカメラ on、マイク on を求めるため、PC の場合もカメラ（外付けウェブカメラなど）機能が必要である。

【その他の重要事項】

◎演習を中心にした授業です。オンラインでリアルタイムに開催します。
◎鈴木まり子ファシリテーター事務所代表。企業・自治体・NPO 等において、会議、ワークショップ等のファシリテーターの実務経験あり。それに関連して、多様な分野の事例をもとに、ファシリテーションに対して具体的なイメージをもつことができる授業を行う。

【Outline (in English)】

Today, where various issues are piled up, when people gather for the purpose of solving the problem, we need to consider place-making where everyone can participate safely and comfortably in order to respect the differences between each other and make use of it as the wealth for new idea and creation.as people are involved in themselves, the issues that are other people's affairs become their own things, and people start to demonstrate their initiative.in this course, we will learn the "facilitation," as communication skills and mind for creating participatory place-making which can encourage dialogue and promote collaboration at conferences, workshops and organizational development process.

Learning Objectives

The purpose of this class is to acquire knowledge and techniques for facilitation in meetings, discussions, and other participatory settings. Students will become to understand the definition and effects of facilitation, and acquire skills in dialogue and discussion that will enable meetings, workshops, and discussions to proceed in a meaningful way. In addition, students are expected to understand, through case studies, what kind of wisdom and skills are necessary not only in facilitating discussions, but also in supporting and promoting projects and organizations to solve social issues.

The class will be conducted face to face. The class will proceed through a combination of lectures and exercises according to the designated textbook. Assignments will be submitted and feedback will be provided through the "Learning Support System". The students will share their findings and questions in reaction papers and other materials in the class to create a process where they can learn from each other. Learning activities outside of classroom

Please be aware of how the kinds of discussions (in club activities, seminars, etc.) and workshops you are currently involved in (fun, meaningful, boring, etc.) are conducted. Also, practice the facilitation skills and ideas you learned in class, and bring your insights and questions to the next class. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Grading Criteria/Policy

The evaluation will be based on the overall evaluation of participation in the exercises, review sheets, reports, and final examinations. In the former case, students will be asked to write their opinions and impressions on the review sheet as well as their attitude, which will also be evaluated.

Participation in the exercise: 30%, review sheet: 10%, report: 20%, final exam: 40%

BSP100MA

若者の自立支援

基幹科目

大山 宏

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

曜日・時限：火 5/Tue.5 | 配当年次：1～4 年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

子ども・若者の貧困への注目や、若者の就労支援の社会的課題としての位置づけ等、近年は若者支援に対する社会的関心が高まっている。その背景には現代日本の社会構造により引き起こされる若者の困難状況があり、そうした状況下にある若者がどのように社会と関わっていくことを想定するかが問われている。しかし一方で、自立した若者のあるべき姿については、個人の努力で達成すべきものとみなされがちでもあるが、若者支援の実践では若者に対しては経済的な観点のみにとどまらない、包括的な支援が求められているといえる。この講座では、若者が陥っている困難状況について具体的な事例を用いながら知り、若者が社会とどのように関わっていくべきかを考えることを通し、若者に対してどのような支援が必要なのかを検討する。

【到達目標】

1. 若者の社会的な困難状況の実態と、その社会構造的背景について理解する。
2. 若者支援のあり方に対する、同時代を生きる若者としての自らの視点を獲得する。
3. 若者支援の具体的なプログラムを試作することを通して、若者支援の実践について知り、その現状と課題について理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

授業形態については基本的に対面の講義形式で行う。ただし授業の進行度に応じてアクティブラーニング（ディスカッション等）を実施する可能性がある。また、授業の最後に毎回アクションペーパーの課題を出すこととする。提出されたアクションペーパーからいくつか取り上げ、次の授業のはじめに全体に対してフィードバックを行う。この他、授業の進め方については適宜変更を行う場合がある。その場合、授業内での告知の他、学習支援システム等を活用して周知するので、連絡はこまめに確認しておくことを求める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	講義の内容や進め方について
第 2 回	若者支援の目的	若者支援の目的と各種政策・実践のキーワード
第 3 回	若者の生きづらさ	若者の生きづらさの諸相
第 4 回	生きづらさの構造	日本型青年期・関係性の貧困・居場所
第 5 回	生きづらさの根幹	生きづらさについての具体的検討
第 6 回	支援対象の設定	支援の対象をどのように設定するか
第 7 回	支援の双方向性	支援という行為の構造について
第 8 回	若者との対話	支援時の具体的な諸相
第 9 回	若者による支援	若者自身による取り組みの位置づけ
第 10 回	社会への参画	若者と社会の関係性について
第 11 回	若者と社会をつなぐ取り組み	若者と社会の関係性を取り持つ支援のあり方について
第 12 回	若者支援事業の広がり	対応すべき課題の多様さについて
第 13 回	支援の構想	具体的な支援手法の検討
第 14 回	総括	自立の要件
	若者の自立支援とは	若者支援の課題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

自己の経験に照らし合わせながら、若者に必要な支援について考える。参考書としてあげた文献を読んでおく。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。

【参考書】

『〈学校から仕事へ〉変容と若者たち』乾彰夫・青木書店
『二極化する若者と自立支援』宮本みち子・小杉礼子編著・明石書店
『若者の居場所と参加』田中治彦・荻原建次郎編著・東洋館出版社
『子ども・若者の参画』子どもの参画情報センター編・萌文社
『若者と社会変容』アンディ・ファーロン/フレッド・カートメル・大月書店など。

【成績評価の方法と基準】

平常点（リアクションペーパー・オンライン授業での様子）：40%

レポート：60%

【学生の意見等からの気づき】

具体的な事例について触れることが、理解度の向上につながるという意見が多数寄せられており、今年度もできるだけ具体的に現場の様子等が伝えられるように授業を行っていく。

また、前年度は毎回の授業で提出してもらいアクションペーパーに対する返しを重点的に行い、授業のやる気につながったという声が多く寄せられたため、今年度も継続していく。

【学生が準備すべき機器他】

特に無し。

【Outline (in English)】

【Course outline】

The difficult situation of young people is at the core of a social issue "young people's independence".

In this lecture, you can study about the difficult situation of young people from specific case, and can consider the method of youth support.

【Learning Objectives】

The goals of this course are to understand why young people face socially difficult situations, and understand how to create a program to support young people.

【Learning activities outside of classroom】

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

【Grading Criteria /Policy】

Your overall grade in the class will be decided based on the following

reports : 60%、in class contribution: 40%

CAR100MA

職業選択論 I

基幹科目

上西 充子

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

曜日・時限：木 4/Thu.4 | 配当年次：1～4 年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では働くこと・職に就くことを、アルバイト、就職活動、初期キャリアにわたって考えます。

なぜ日本では職種を限定しない就職が一般的なのか。企業は経験者ではない新卒者に何を期待しているのか。アルバイトの劣悪な処遇や、正社員の長時間労働が、なぜ起きてしまうのか、どう対処できるのか。そういった問題を考えていくことを通して、若者の学校から職業への移行過程を、若者と企業、双方の視点から理解し検討できるようになることが、本授業の目的です。

【到達目標】

個人のキャリアにおける大きな節目となる「学校から職業への移行期」の意義と課題を、一歩引いた俯瞰的な視点で多面的に捉えられるようになる。大学生の就職と初期キャリアに関する論点を適切に理解し、自らの就職にも生かしていくことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

授業ではレジュメに沿って解説や問題提起を行った後に、授業内容に沿ったミニ・レポートを授業内外で書きます。書くことを通して自分の考えを整理してください。ミニ・レポートの主な内容は今回の授業でフィードバックし、多面的なものを見方を促すと共に理解を深めます。中間と期末、2回のレポート課題を出します。

初回の授業はオンラインで実施します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	授業ガイダンス	講義のテーマ、到達目標、受講上の注意、評価方法、文献紹介
2	大卒労働市場を考える	卒業生の進路状況と早期離職状況
3	各自の問題意識の共有	就職と初期キャリアをめぐる各自の問題意識の共有
4	新規学卒採用における評価	中途採用と異なる新規学卒採用における評価基準
5	ジョブ型雇用とメンバーシップ型雇用	ジョブ型雇用・メンバーシップ型雇用の特徴と日本の現状
6	インターンシップを考える	インターンシップの目的・現状・課題
7	職業興味と職業適性	職業興味、職業適性と能力の関係
8	アルバイトから働き方を考える	アルバイトと労働法
9	アルバイトの働き方を改善するには	アルバイト就労の現状と問題
10	職場の問題への向き合い方	職場のトラブルと労働組合の役割
11	就職プロセスと労働条件	就職プロセスと就職支援会社の役割、労働条件への着目の必要性
12	就職活動における客観情報の活用の重要性	「就職四季報」など各種データベースの活用
13	就職・内定をめぐるトラブル	労働契約としての就職・内定・就職をめぐるトラブルと関係法令、対処法
14	初期キャリアとリアリティ・ショック／セーフティネットと転職	初期キャリアの課題／社会保障／転職状況

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

社会情勢の変動とそれを踏まえた論考に常日頃からアンテナを張り、読み解く習慣をつけること。新聞の購読（WEB版の有料購読を含む）を強く勧める。授業で紹介する記事や文献なども積極的に参照すること。

課題レポート執筆に向けては、早めに課題文献や関連文献を読み、問題意識を深め、適切な準備を行うこと。

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

毎回の授業時に学習支援システムの教材欄にレジュメを掲示する。

【参考書】

さしあたり下記を挙げておきます。

・濱口桂一郎（2013）『若者と労働』中公新書ラクレ

・厚生労働省「知って役立つ労働法」http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/koyou_roudou/roudouzenpan/roudouhou/

・石田眞・浅倉むつ子・上西充子（2017）『大学生のためのアルバイト・就職トラブル Q & A』旬報社

・東洋経済新報社編『就職四季報 総合版』東洋経済新報社

【成績評価の方法と基準】

授業内外で6回実施するミニ・レポート（配点 40 点）と中間レポート（配点 20 点）、期末レポート（配点 40 点）により評価する。なお、ミニ・レポートの提出が 0～2 回の学生や、ミニ・レポートまたは課題レポートの代筆・盗用が判明した学生には、単位を付与しない（E 評価とする）。詳しくは初回の授業で説明するので、必ず確認すること。

【学生の意見等からの気づき】

受講者からは、就職活動に役立った、アルバイトの働き方を見直すきっかけとなった、といった感想がみられる。今後もタイムリーな話題をとりあげていきたいと考えている。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを通じてレジュメの配布や課題の提出を行う。

オンラインの授業は zoom で行う。

【その他の重要事項】

初回の授業で授業の進め方や評価の方法、課題などの説明を行うため、必ず確認すること。なお、初回の授業はオンラインで実施する。zoom の URL は学習支援システムの「お知らせ」にて連絡する。

【Outline (in English)】

【Course outline】

This course is designed to provide students with a basic understanding of the transition from school to work. The main topics include characteristics of the transition from school to work in Japan, career decisions, labor issues, and labor laws.

【Learning Objectives】

At the end of the course, students are expected to understand various issues related to employment and early careers, and apply them to their own employment.

【Learning activities outside of classroom】

Students will be expected to read newspaper articles and recommended books. Your study time will be more than four hours for a class.

【Grading Criteria/Policies】

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Short reports: 40%, Mid-term report: 20%, Term-end report: 40%

CAR100MA

ライフコース論

基幹科目

武石 恵美子

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

曜日・時限：水 3/Wed.3 | 配当年次：1～4 年

その他属性：〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

キャリアをデザインしようとする上で、個人が人生の各段階でどのような課題を担っているのか、それに対して社会にはどのようなリソースがあるのかについて、基礎的な知識を獲得します。特に、従来「ライフサイクル＝人生の周期」という言葉で人生がとらえられてきましたが、人生は一人ひとりユニークなものであり、あるパターンが繰り返されるわけではないことから、「ライフコース」が注目されるようになってきた背景を踏まえ、「ライフコース」の意味や概念についての基礎を理解しましょう。その上で、出生から高齢期にいたるまでの重要なライフイベントに着目し、その時代的な変化、国際比較等によるライフコースの多様性についての思考力を深めるとともに、ライフコースに関わる様々なデータの見方や解釈の仕方についても学ぶことで、実証的なアプローチの方法についても理解し活用できるようにします。

【到達目標】

この授業は、個人と社会の相互作用の中で生じるキャリアのパターンの多様性を理解し、個人の生き方や社会システムを検討することを目的とします。ライフコースの時代的な変化とその背景、国際比較を通じた社会構造とライフコースの関係性について理解を深め、少子化、雇用不安、格差問題といった現代社会の問題が、どのような社会的状況から生じているのか、その解決のために今何が求められているのか、といった課題設定を行い、それに「ライフコース」の視点からアプローチができるようになることが到達目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は講義を中心に進めます。

適宜ミニレポート等を書いてもらい、それによって出席を確認します。

この授業で使用する資料等は、法政大学の web サイト上にある「学習支援システム」において受講登録者に授業の前に提供します。授業に出席する際には、この資料をプリントアウトしていただくことが必須となります。また、欠席した場合などは、ここで必ず資料を確認してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション ライフコースとは何か？	授業のオリエンテーション、ライフコースの概念
2	なぜ今ライフコース・アプローチなのか？	ライフサイクルとライフコースの違い、ライフコースの考え方の背景
3	ライフコース論の基礎的な概念	ライフコース論をとらえる視点、ライフコースへのアプローチの方法
4	児童期から青年期へ	児童期の変化、国際比較、ポスト青年期の登場
5	青年期から成人期へ	学校から職業への移行期の変化
6	成人期	家族の形成（結婚）、結婚をめぐる変化、国際比較
7	出産をめぐる変化、少子化の背景	出産行動の変化とその背景、課題
8	ジェンダーとライフコース	ジェンダー概念、ジェンダーによるライフコースの特徴
9	雇用システムと働き方	雇用システムの特徴、働き方との関わり、働き方の課題
10	女性の就業	女性の就業選択とその背景、課題
11	男性の働き方	男性の働き方の現状、課題
12	就業形態とライフコース	正規・非正規といった就業形態の違いによるライフコースの特徴
13	高齢期	就業から引退へ、高齢期の就業、引退後の生活構造
14	まとめ	授業の総括、まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で使う資料は学習支援システムを通じて事前に提供するので、それを必ずプリントアウトして、全体を読んでから授業に出席してください。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは指定しません。授業で適宜紹介します。

【参考書】

武石恵美子『キャリア開発論－自律性と多様性に向き合う（改訂版）』中央経済社。

その他、授業の中でテーマに沿った参考文献を紹介します。

【成績評価の方法と基準】

評価は、期末試験結果と授業出席内容で行います。期末試験を重視し、出席内容（ミニレポート形式、内容も重視する）を加味して評価します。期末試験 60 %、平常点 40 %。

【学生の意見等からの気づき】

様々なデータを紹介して、データの見方、解釈の仕方も学ぶようにします。

【Outline (in English)】

【Course outline】 This course is intended that students acquire the knowledge about the theme that an individual faces at each life stage, the understanding about the resource included the social system. Conventionally, the life has been caught by the word "life cycle", but the life is unique individually, and the same pattern is not repeated. Students will be able to understand the background where "life course" came to attract attention of and understand the basics about the concept of "life course". In addition, they will learn about the way of a viewpoint and the interpretation of various data about life course.

【Learning Objectives】 The goal of this course is to understand the diversity of career patterns that arise in the interaction between individuals and society, and to examine individual lifestyles and social systems.

【Learning activities outside of classroom】 Before/after each class, students will be expected to spend 2 hours to understand the course content.

【Grading Criteria /Policy】 Final grade will be calculated according to the following process

Term-end examination (60%) and in-class contribution(40%)

CAR100MA

生活設計論 I (社会保障) 基幹科目

上田 将史

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

曜日・時限：火 5/Tue.5 | 配当年次：1～4 年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

人生には“想定外”がつきものであり、これがスバイスとなり、人生がより豊かなものとなることも珍しくありません。しかしながら、病気や怪我・ハイリスク妊娠・障害・老化・失業・死別などの生活上のリスクについては、一定の知識や備えが必要となります。

我が国の社会保障は、生活の安心や安定のために、各種制度等でリスクを相互に分散し(共助)、さらに対応困難な困窮などの状況に対して受給要件を定め生活保障を行う(公助)ことで、個人の努力(自助)を補完する仕組みを持っています。

昨今の災害や新型コロナの感染拡大等により、日常がリスクと隣り合わせであることをあらためて感じている方も多いのではないでしょうか。本講義では、代表的な社会保障についての基本的な知識を身に着けるとともに、事例等を踏まえながら、困難な問題を抱える方々への支援を行うソーシャルワークやコミュニティ心理学の価値や方法論について学びます。

とりわけ心の問題については、社会的認知こそ広がってきたものの、偏見や差別等も背景にあり、他の障害等と比べ福祉施策が遅れていると言われます。この精神保健の課題についても理解を深めるとともに、少子高齢化による社会保障費の増大を抑制し、複雑化・多様化する福祉ニーズに対応するために国が進める地域包括ケアシステムの構築についてもふれ、誰もが暮らしやすい社会について考えます。

【到達目標】

- ・リスクに耐え得る生活設計を立てるための手がかりを得る。
- ・社会保障制度の目的や機能を理解し、人に説明できるようになる。
- ・ソーシャルワークやコミュニティ心理学の基本的な価値や方法を学び、困難な問題への対処方法の幅を広げる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

- ・この授業は講義形式と演習形式を組み合わせて実施する。
- ・講義形式での情報提供と問題提起などを行い、これを踏まえ、グループディスカッション等を行う。講義内容の理解を深め、実際の生活に関連付けて考えられるよう、適宜ワークや動画視聴の時間なども設ける予定である。
- ・リアクションペーパー等における示唆に富んだコメントや質問については、授業の冒頭等で、適宜、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業概要、授業の進め方、成績評価等に関する説明を行う。
第 2 回	社会構造とライフスタイルの変化	少子高齢化、情報化等を背景にした社会構造とライフスタイルの変化について考察する。
第 3 回	社会保障制度の概要	社会保障制度の概要、民間保険との違い等を確認し、本講義のテーマを概観する。
第 4 回	生活保護	最低限度の生活を維持できなくなった場合の扶助について理解する。
第 5 回	生活困窮者自立支援制度	生活保護に至る前段階の自立支援策の意義と課題を考察する。
第 6 回	障害者福祉①	障害者総合支援法、障害福祉サービスの概要を理解する。
第 7 回	障害者福祉②	自立支援医療、障害年金、障害者手帳など、心身の不調により障害を抱えた場合の制度を理解する。
第 8 回	介護保険制度①	介護保険制度の概要と、介護保険サービスの概要を理解する。
第 9 回	介護保険制度②	育児・介護休業法で定められた仕事と介護の両立のための制度等を理解する。
第 10 回	医療保険制度	医療保険制度の概要、高額療養費制度、保険外併用療養費制度など、医療費の負担軽減に関する制度を理解する。
第 11 回	年金制度	「高齢」、あるいは「死亡」「障害」など万が一に備える年金制度の概要を理解する。
第 12 回	雇用保険制度、労働者災害補償保険	失業・雇用継続等に関する保険制度について理解する。

第 13 回 権利擁護

高齢者・障害者虐待、悪徳商法・特殊詐欺等にかかる制度、成年後見制度など、主に社会的弱者の権利を擁護するための制度を理解する。

第 14 回 地域包括ケア、地域共生社会

「4つの助(自助・互助・共助・公助)」の基本的な考え方とそれぞれの関係性を理解し、誰もが暮らしやすい社会について考察する。

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

事前学習：シラバスで次のテーマを確認し、そのテーマに関する最近の話題を調べる。

事後学習：講義で学んだことが、社会の中でどのように位置づけられ、どのような課題を持っているかについて考察する。また、提示された参考文献等に目を通す。

【テキスト(教科書)】

パワーポイント等で作成した資料を配布する。

【参考書】

適宜、授業時に提示する。

【成績評価の方法と基準】

中間レポート(30%)、期末レポート(30%)、各回の課題への取り組み(40%)を総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

学生の感想・要望、社会情勢を見ながら講義内容を調整していく予定です。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

講義形式については、新型コロナ感染予防対策等を踏まえ、調整していきます(ディスカッションは行わない、ソーシャルディスタンスを保ち、最低限のやり取りにする等)。

【Outline (in English)】

This course introduces representative social security systems, welfare measures for mental disorders and comprehensive community care system to students taking this course.

The goals of this course are to understand the purpose and function of social security, learn about the values and methodologies of social work and community psychology to support people with problems, and make life plan that can deal with risks.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on the following
Term-end examination: 30%, Mid-term report: 30%, in class contribution: 40%

CAR100MA

生活設計論Ⅱ（生活設計） 基幹科目

林 奈生子

単位数：2単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
曜日・時限：水3/Wed.3 | 配当年次：1～4年

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

人生100年時代、もし、「お金」の知識がなかったらどのような人生になるのでしょうか。長い人生の道で重要なことは、経済的な裏付けをどのように築けるかということです。経済的な裏付けがあれば、思いを行動に移すことができ、そのことにより自身の想像する未来に近づくことができます。ここでいう経済的な裏付けとは「お金」のことであり、「お金」は「仕事」によって得られます。そして、「お金」の使い方も「仕事」の選び方も自身の「価値観」によるところが大きい。そのように考えていくと、「お金」「仕事」「価値観」とは、自身がどのように社会と向き合っていくかという問題でもあります。本授業では、「お金」「仕事」「価値観」をキーワードにして、それらがどのようにライフデザイン、ライフプラン、キャリアプランにかかわっているのかを考えます。

【到達目標】

本授業では、「お金」「仕事」「価値観」の関係性を理解したうえで、自身の生活設計を立案できることを目標とします。そのために、①ライフデザイン、ライフプラン、キャリアプランの意義 ②それらと「お金」の関係性 ③生活するうえで知っておきたい金融商品の知識 ④仕事を選ぶ際の留意事項 ⑤未来社会の予測 などについて考え学びます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

授業目標を達成するために、講義、ケーススタディ、事例紹介、研究課題や意見発表により進めます。

*授業運営などにかかわる情報は学習支援システム【お知らせ】に掲示します。
*授業で使用する教材などがある場合は学習支援システム【教材】に掲示します。教材は各自で授業に持参してください。

*学習支援システム【授業内掲示板】に受講生の質問を掲示できるトピックを設ける予定です。なお、質問が、受講生が共有すべき内容の場合は【お知らせ】でも回答します。

*オンライン授業の場合は授業運営などにかかわる情報と zoom の URL・ID・パスワードを学習支援システム【お知らせ】に掲示します。

*授業での資料の閲覧、プレゼンテーションには zoom の共有画面を使用します。

*授業計画の回、日程は変更になる場合があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	イントロダクション ～未来の自身を想像してみる～	授業内容・進め方・ルール、到達目標と成績評価基準などを説明する。また、将来のなりたい自身の姿を考えてみる。
2	生活設計の考え方と必要性 ～自分らしく、納得できる人生を歩む～	人生は思い通りにいくのか？「仕事・お金・生活」の関係性を知り、生活設計の考え方と必要性を学ぶ。
3	ライフプランとファイナンシャルプランの関係 ～人生にも計画が必要な理由～	人生にはどの位のお金がかかるのか。自身のライフプランを考え、生涯について学ぶ。
4	ライフイベントとお金 ～人生設計図を作る～	自身のライフプランから実際にどのくらいのお金が必要になるのかを算出する。
5	お金の使い方と価値観の関係性 ～今の自分を映す家計簿～	家計分析を通し、その特ちょうから現在の自身が何を大切にしているのか、価値観がどのようにお金の使い方へ反映されるのかを知る。
6	予算の立て方とお金の基本知識 ～何もしなければお金は奔放（ほんぼう）に動く～	予算を立てることの重要性について学ぶ。お金にかかわる基本用語とその意味を学び、金融商品を選ぶ際の留意事項を知る。
7	貯蓄型金融商品 ～お金管理のスタートライン～	最も身近で代表的な元本保証の金融商品について、その特ちょうと使い方を調べる。
8	リスクとリターン ～損得の分かれ道～	具体的な金融商品を使って自身で計算し考えることを通してリスクとリターンの基礎知識を学ぶ。

9	自身を守る金融知識 ～後悔しないためのポイント～	金融商品の組み合わせ方や借入金の返済方法、トラブルに合わないために知っておきたいことなど、自身を守るための金融知識を学ぶ。
10	仕事選びと幸福感 ～自身と仕事のマッチングはどこで見えるのか～	仕事と幸福感の関係性やどのように仕事を選べば自身の幸福感が増すのかを「組織と組織目標」の観点から考える。
11	企業活動と消費者 ～わたしたちはなぜ衝動買いをするのか～	企業目的とわたしたちの消費の関係を消費者購買行動の観点から学ぶ。
12	研究課題「未来予測2040」	過去、どのように私たちは未来社会を予測してきたのか。いくつかの事例を紹介した後、自身で未来予測を考える。
13	研究課題のプレゼンテーション	第12回の研究結果を発表し意見交換をする。
14	「未来予測2040」と自身のライフプラン、まとめとレポート提出の説明	「未来予測2040」のプレゼンテーションを通して自身が目指すべきライフプランとは何かを再考し本授業全体のまとめとする。また、レポート提出について説明する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

インターネットなどで発信される情報を、自身の生活に関連づけて考える習慣を身につけてください。なお、大学より『大学設置基準に鑑みた場合、準備・復習時間は講義及び演習（2単位）では1回につき4時間以上』とのことですので、準備学習・復習各2時間とします。

【テキスト（教科書）】

特になし。必要な場合は授業で紹介いたします。

【参考書】

必要な場合は授業内で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

成績評価はレポート提出：70%、平常点（学習状況、参加度、意見発表など）：30%とします。

レポート提出の詳細は次の通りです。

1. レポートのテーマ：学習支援システム【課題】にて告知します。
2. 言語：日本語
3. 字数、フォント、ポイント：400字以上600字以内、フォント指定なし、ポイント10.5
4. 提出期間：第14回授業日の14時50分から翌週木曜日の14時50分まで。なお、変更がある場合は学習支援システム【お知らせ】に掲示します。
5. 提出方法：学習支援システム【課題】に掲示される添付ファイルのフォーマットを用いて、学習支援システムを通して提出。
6. 留意事項
 - (1) レポート提出は、学習支援システムを用い指示された方法で行ってください。例えば、「特別なアプリを使用するもの」「指示以外の方法で提出されたもの」「学内のシステムとの互換性がない機器を使用したもの」などを用い、通常の学習支援システムの操作でレポートを開けないものについては評価対象外になります。
 - (2) レポート提出は、提出期間内に提出が完了するように日程管理・機器管理をしてください。
 - (3) なお、大学の設定している時間と自身の機器の設定時間が同一とは限らないので十分に注意してください。
 - (4) テキストボックスでの提出（投稿）は、レポート提出とはみなしません。必ず、添付ファイルの所定のフォーマットを用いて提出してください。
 - (5) レポート提出の際は、添付ファイルが添付されたことを示すクリップマークを確認してください。

【学生の意見等からの気づき】

受講生の本授業への率直な意見をまとめた結果が以下です。

<講義や演習について>

* ゴザ・キャリアデザイン学部の講義"という感じだった。

* 本当に必要なものが何かを考えるようになった。

* お金の知識はリスクや問題から自分を守ることにつながり大切だと感じた。

* 自分の価値観と企業目的の関係を考えたことは就職に対し新しい観点を得られた。

* 就職活動で自分の5年後、10年後のキャリアを考える機会が増えたので、未来予測の課題がとても身近に感じた。

<授業運営について>

* ストレスのない授業だった。

* オンライン授業でも前のめりで受講できた。

* 他人の意見を聴くことで自分だけでは気づかないような発見があった。

本結果より、受講生が大変真摯な態度で受講していたことが改めてわかりました。今後も、受講生の期待にそような授業内容、運営にしたいと考えています。加えて引き続き受講生の積極性、気づき、潜在能力の顕在化を促す授業を目指したいと思っています。

【学生が準備すべき機器他】

zoomの共有画面を使用できる機器を用意してください。

【その他の重要事項】

<講師について>

修士（経営学）、博士（公共政策学）

金融機関系コンサルティング会社にて経営コンサルティング、人材育成コンサルティング、ファイナンシャルプランナーの実務経験をもつ教員が、わかりやすく実践的に講義を行います。

【Outline (in English)】

【Course outline】

In this lecture, you will learn "work", "money" and "life design". The first half of the lecture focuses on the significance of modern life design, the money spent on life, how to budget and manage money, basic knowledge of financial products, risks and returns. The second half of the lecture focuses on work. It covers issues of job selection, teamwork and communication. This course will deepen your understanding through lectures, group discussions and presentations, writing reports, and creating a life plan chart.

In addition, since the Hosei university says, "In view of the university establishment standards, the preparation / review time is 4 hours or more for each lecture and practice (2 credits)", so the preparation / review time is 2 hours each.

【Learning Objectives】

In this class, the goal is to formulate your own life plan after understanding the relationship between "money," "work," and "values."

【Learning activities outside of classroom】

After each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.

【Grading Criteria/policy】

70% for report submission, 30% for normal scores (participation, opinion presentation, etc.).

CAR100MA

キャリアモデル・ケーススタディ 基幹科目

梅崎 修

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

曜日・時限：木 2/Thu.2 | 配当年次：1～4 年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

自分のキャリアをデザインするにあたって、模範となるべき人の生き方、働き方の事例を学び、そこから自分のモデルを作ることは有効な方法である。本講義では、様々な職場で実際に働く職業人の方々に教壇にお呼びして、仕事経験（キャリアヒストリー）を聞く。具体的な仕事の経験から、学生がどのようなキャリアを選び、そのためにどのような努力を行うべきかを学ぶ。

【到達目標】

ビジネス、地域活動などで活躍する社会人と対話することで、社会人経験を間接的に理解する。また、そのような社会人の経験を引き出す話の聴き方やインタビュー術について理解を深める、

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

最初に、この授業を受ける上で必要なヒアリング術とインタビュー術を講義する。インタビュー術を使ってゲスト講師のキャリア経験を聞き出す。この授業は、春学期に二つの授業が開講されるが、ゲスト講師は異なる。課題等の配布は「学習支援システム」、提出は授業内で行う予定です。リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かしたいと思います。現在、対面での授業を予定していますが、コロナの感染状況やゲスト講師の方の基礎疾患などを踏まえてオンラインで講義することもあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業の進め方、この授業の目的を説明する。
第 2 回	聴く力とは？	キャリアの語りを聴き出すには聴く力と共感する力が必要である。その必要性を理論的に説明し、体験する。
第 3 回	下調べの方法	キャリアに関する下調べ文献を説明する。自伝、伝記、オーラルヒストリーなどの文献資料を紹介する。
第 4 回	インタビュー術	インタビュー時における身体的スキルを説明する。インタビュー映像も見る。
第 5 回	ゲスト講師①	NPO 分野のゲスト講師の講演、質疑応答を行う。
第 6 回	ゲスト講師②	民間企業のゲスト講師の講演、質疑応答を行う。
第 7 回	ゲスト講師①②の振り返り	ゲスト講師の語りを振り返り、その語りをどのように解釈可能かを検討する。特に組織論の観点から検討を行う。
第 8 回	ゲスト講師③	プロフェッショナル職種のゲスト講師の講演、質疑応答を行う。
第 9 回	ゲスト講師④	官庁分野のゲスト講師の講演、質疑応答を行う。
第 10 回	ゲスト講師③④の振り返りとキャリアモデルレポートの書き方	ゲスト講師の語りを振り返り、その語りをどのように解釈可能かを検討する。民間企業以外のキャリアを議論する。またこれまでのキャリアトークの解釈を前提に、キャリアモデルレポートを作成する方法を講義する。
第 11 回	ゲスト講師⑤	民間企業のゲスト講師の講演、質疑応答を行う。
第 12 回	ゲスト講師⑥	起業家のゲスト講師の講演、質疑応答を行う。
第 13 回	ゲスト講師⑤⑥の振り返り	ゲスト講師の語りを振り返り、その語りをどのように解釈可能かを検討する。これまでの多様なゲスト講師も振り返りながら、キャリアの多様性を議論する。
第 14 回	キャリア研究への展望	これまでのまとめと、キャリアインタビューを使った研究を紹介する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

ゲスト講師について事前下調べを必ず行うこと。下調べ → インタビュー → 解釈という一連の流れのなかで学習する。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし。レジュメを配布する。

【参考書】

永江朗『インタビュー術！』（講談社現代新書）
阿川佐和子『聞く力 心をひらく 35 のヒント』（文藝春秋）

【成績評価の方法と基準】

授業への参加度（50 %）と最終講義日に提出するレポート（50 %）で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

振り返りなど、業界や職業知識の解説を適宜行い、理解を深められるようにする。ゲスト間の仕事観の違いなどを説明する。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。PC の持ち込みは可能です。

【その他の重要事項】

。

【Outline (in English)】

To designing our career, we learn examples of how to live and work for model people.

Making an image of your career is an effective way to career design.

In this lecture, we invite people who actually work in various workplaces to the teacher and listen to work experience (career history).

From specific work experience, students learn what kind of career to choose and what kind of effort can be done for that.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.

Final grade will be calculated according to the following process Term-end report(50%) and in-class contribution(50%).

EDU200MA

外書講読A（発達・教育） 展開科目

福田 紀子

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

曜日・時限：月 3/Mon.3 | 配当年次：2～4 年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

人権に基づいた社会のより良い変化（開発）に取り組むための活動は、課題を抱えた人々の間で実践が重ねられてきました。人権の基本的な概念理解や人道支援の国際基準（スフィア基準／Sphere Standards）のテキストから人類共通の課題意識や試行錯誤の中で獲得した人権尊重を理解します。

また欧州協議会の人権教材 **Compasito** を通して、人権に関わる市民社会の基本的な概念をどう伝えようとしているのかについてテキストとアクティビティから理解し、自分たちの社会にある人権問題への理解につなげていきます。

【到達目標】

- 1) 国際社会で積み上げられてきた合意文書、教材から、ジェンダーをはじめとする脆弱性の理解、パワーの所在、気づきにくい差別、参加とエンパワーメントなど市民社会と人権に関わるに関する基本概念と歴史や経緯を理解する。
- 2) 人権尊重の思考と行動枠組、社会の公正な運営方法に必要な思考と行動のスキルを自分と社会の現実と関連させながら理解し実践する。
- 3) 参加型学習の学び方（手法、概念、進行）を経験し、人々をエンパワーメントする学習について理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

基本的に読んでおく英文資料、授業内で配布の資料（英・日）、ワークシートを元に進めます。資料の翻訳あるいは解説を分担する機会があります。授業はレジュメを中心に配布資料の翻訳や概説、ワークシートによる自分の感覚や考えを示し、そこから考える活動を行いながら進めていきます。毎回提出いただくフィードバックシートの中からも、議論を展開したり、関連情報について取り上げていきます。その中のディスカッション、フィードバックは日本語で行います。課題提示・提出はメール、学習支援システムを使用します。大学行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Orientation Sphere Handbook as Humanitarian Standards and background	〈この授業の進め方〉この授業の進め方、評価について。人道支援の国際基準から「人権」に基づく考え方、その背景を概説します。
2	Humanitarian Response with Rights Base Approach ～ a case of the Shelter for affected people on Disaster	日本の避難所の場面から人権に基づく課題と対応を考えます
3	Compasito- Manual on Human Rights Education for Children Intorduction	欧州協議会の人権教育テキストとアクティビティを紹介し、翻訳を分担します

4	Compasito- Manual on Human Rights Education for Children Preparation for the group presentation	欧州協議会の人権教育テキストとアクティビティを紹介し、分担箇所の打ち合わせを行います
5	1) Citizenship 2) Democracy 3) Discrimination	テーマに沿った概説と問いかけ、ワークなどを行います
6	* Activity1	参加型アクティビティを経験しながらテーマを深めていきます。
7	4)Family and Alternative Care 5)Gender Equality 6)Health & Welfare *Activity2	テーマに沿った概説と問いかけ、ワークなどを行います
8	*Gender & Sexuality 7)Media & Internet *Activity 3	テーマに沿った概説と問いかけ、参加型アクティビティを経験しながらテーマを深めていきます。
9	*Activitey 4	参加型アクティビティを経験しながらテーマを深めていきます。
10	7)Education & Leisure 8)Environment 9)Participation	テーマに沿った概説と問いかけ、ワークなどを行います
11	8)Peace 9)Poverty & Social Exclusion 10)Violence	テーマに沿った概説と問いかけ、ワークなどを行います
12	Intersectionality, Microaggressions, Unconscious Bias, Tone Policing, Outing,etc	現在の人権問題を理解するための必要な概念の整理を身近に描きながら行います。
13	Conflict Management/ Resolution in Japanese Context ①	市民社会を活性化するために必要な知識・スキル・姿勢と参加を阻害する要因について考えます
14	Conflict Management/ Resolution in Japanese Context ②	日本における参加を阻害する文化価値観を超えるため変化の要因やアドボカシーについて考えます

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に紹介された Web 上での資料、配布された資料は必ず読んでおいてください。特に事前に分担した箇所については必要に応じた翻訳・整理と小グループ/パートナーとの発表の準備が必要となります。国際的な出来事、国際協力活動、身近な社会の課題に関心をもち、自分の関心と行動傾向を考えながら、授業の理解につなげて下さい。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に購入の必要はありません。教材は配布または Web 上の所在を伝えます。

【参考書】

The Sphere Handbook
Sphere-Handbook-2018-EN.pdf
(参考) Sphere-Handbook-2018-Japanese.pdf
Compasito - Manual on Human Rights Education for Children
<http://www.eycb.coe.int/compasito/>
Microaggressions in Everyday Life /
Derald Wing Sue, Lisa Beth Spanierman
Participatory Learning & Action-a trainer's guide(IIED)
Participation Handbook for Humanitarian Filed Workers;
http://www.urd.org/wp-content/uploads/2018/09/ParticipationHandbook_CHAPTER4.pdf
『2030 年未来への選択』（西川潤）
『ワールドスタディーズ-教え方学び方ハンドブック』『参加型で考える 1 2 のもの見方、考え方』（以上、国際理解教育センター発行）
『参加型ワークショップ入門』（ロバート・チェンバース著）

【成績評価の方法と基準】

授業への参加度、各回授業のふりかえりシート 5 0 %
翻訳課題、発表、成果（対面授業の場合模造紙作業、オンラインの場合の記録など）2 5 %
最終レポート 2 5 %

【学生の意見等からの気づき】

参加型学習の体験は積極的な評価を受けています。ただ話し合いやアクティビティが楽しいだけでなく、そこで伝えられる概念やメッセージを読み解き、進行・手法・思考の枠組・問いかけについての意味を自分で掴むことが必要です。不消化感を感じる時もあると思いますが、その感覚も経験として自分の中で保持し、他者に問いかける力に変え、共有から生まれる学びがあればと思います。

【その他の重要事項】

国際合意の文書は完成された概念やタテマエではありません。多くの人々の困難から学ぼうと世界中の人々が積み上げ、練り直し、現実の反映させようと格闘している文脈がひとつひとつあります。災害時の支援としての国際基準には人権感覚の基本とも言える考え方と現実の対応が示されています。慣れないコンセプトもあるかもしれませんが、身近なコミュニティでも、国際的な合意の文脈を理解する為にも必要かつ応用可能なものとして学んでいきましょう。

また「参加型」を中心とした対立解決のプロセスも世界の差別や緊張関係を平和的な手段で正していくために用いられる基本的な手法です。全体に分担したテキストのプレゼンテーションやフィードバックなど授業への関与を重視します。授業の進行によって分担の発表日を変更することもあります。

なお、担当教員は人道支援団体、参加型人権教育ファシリテーター、複数の自治体の男女共同参画センターを経て、現在スフィアトレーナーとして、また大阪西成区釜ヶ崎の支援団体の職員として活動するものです。様々な課題を抱える現場に共通して求められる「人権」「人権尊重」の実践力につながる学びについて取り組んでいます。

【Outline (in English)】

The objective of this class would be getting the Basic Concepts for understanding Citizen's Activism on Rights Base Approach for Social Justice with International Standard, Agreements and Methods.

Students are expected to read the materials/assignments to translate/summary/analyze/apply into your own situation.

Main text would be the Sphere Standards- Chapter of WHAT'S SPHERE & CORE HUMANITARIAN STANDARD, COMPASITO - A MANUAL ON HUMAN RIGHTS EDUCATION FOR CHILDREN. Students are required to read the distribution documents in the classroom, and prepare the group presentation.

Grading Criteria:

Participation in class, the feedback sheet for each class 50%

Assigned Translation & Group Presentation 25%

Final Report 25%

EDU200MA

外書講読B（発達・教育） 展開科目

長岡 智寿子

単位数：2単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

曜日・時限：月 2/Mon.2 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、今日の国際教育開発の現状と課題について、私たち人間の生涯に渡る学びの様相を把握することを念頭に、社会的な視点から検討するものである。具体的には、本授業の内容に即した英文資料の他、関連する文献資料、映像資料なども活用しながら、理解を深めていく。

【到達目標】

本授業では、英文資料を中心に、広く国際社会における教育活動の動向を把握するとともに、子どもからおとなまであらゆる人々を対象とする生涯学習活動について、その今日的課題を問直すことを目的とする。とりわけ、成人期の学習の必要性について、開発途上諸国の事例をもとにジェンダーの視点から事例検討を行う。

授業の到達目標としては、下記のとおり。

- ・生涯学習の理念について、国際的な観点から説明することができるようになること。
- ・成人期の学びの必要性を説明できるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

- ・授業の初めに前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。
- ・リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介するとともに、さらなる議論に活かします。
- ・授業内で求めた課題に対する講評や解説も行います。
- *大学行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	講義全体の概要説明をオンラインにて行います。
第2回	Background : data and development	生涯学習に関する歴史的経緯の把握、内容理解
第3回	Literacy is the human rights	人権の観点から理解する
第4回	Literacy learning & development	読み書きの学びの重要性を社会的視点から理解
第5回	Stories of imagination (1) Social participation	Raising voices; peaking up for participation
第6回	Stories of imagination (2) Life skill	Literacy and Life skills
第7回	Stories of imagination (3) human rights	About employment rights with literacy for poor women
第8回	Stories of imagination (4) Minority	Women and Literacy in post-conflict
第9回	Stories of imagination (5) Knowledge for safe	Children's nutrition and literacy learning

第10回	Stories of imagination (6) Learning for life	Literacy and learning for young women
第11回	Stories of imagination (7) Learning for health	Learning reading, writing and health
第12回	Stories of imagination (8) Social empowerment	Community Empowerment
第13回	Challenges and solutions	Share and discussion for future
第14回	まとめ（試験、解説）	本講義全体を振り返って

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業で使用する英文資料について、事前に準備学習として必要な箇所を目を通しておくことを求めます。また、授業後は、内容の整理、把握を行うことを求めます。各2時間を標準としますが、詳細は各回にて説明いたします。

【テキスト（教科書）】

指定テキストは無し。

【参考書】

- 本授業で使用する英文資料は、下記のとおりです。
- ・『Literacy and Women's Empowerment: Stories of Success and Inspiration』, UNESCO Institute for Lifelong Learning, 2013
 - ・『Quality Assurance Toolkit for Open and Distance Non-formal Education』, Commonwealth of Learning, 2012
- いずれも Web サイトから入手可能な資料です。(未販売)
詳細については、初回のオリエンテーションの際に説明します。

【成績評価の方法と基準】

本授業の成績評価は、授業態度や平常点(40%)、期末レポート(60%)により、総合的に評価します。
積極的に授業に参画されることを求めます。

【学生の意見等からの気づき】

毎回、授業の際に、質問、意見等を記載してもらい、フィードバックを行える体制を整えていく。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

積極的に理解を深めていけるように、質問や意見等を望みます。

【Outline (in English)】

In this lecture, we aim at grasping the issue of lifelong learning from a sociological point of view, taking as examples the current situation and problems of international education development today. Specifically, we will deepen our understanding by utilizing related literature materials as well as English textbooks that conform to the contents of this lecture. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Final grade will be calculated according to the following process report (60%) and in-class contribution(40%).

PSY200MA

生涯発達心理学 I

展開科目

松浦 千春

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

曜日・時限：水 1/Wed.1 | 配当年次：2～4 年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、人は生まれてから死ぬまで生涯発達していくことを踏まえて、乳児期、幼児期、児童期、思春期、それぞれの発達特性について学ぶ。また、これまでの知見を、子育てや教育を含めた生活の中で、どのように活用していくことができるのか、事例を通して考える。

【到達目標】

- (1) 乳児期から思春期までの発達特性について、心理学的な視点から述べるができる。
- (2) 乳児期から思春期までの発達特性をもとに、子育てや教育上の事例への対応を考えることができる。
- (3) 自己理解、他者理解を含め、日常生活にどのように活用することができるかを意識しながら学び続ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

- ・授業形態は原則対面です。変更がある場合は事前に連絡をします。
- ・資料は学習支援システムを通して配布します。
- ・課題へのフィードバックは、提出された回答の中から複数取り上げ、全体へ行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	発達とは	心理学よりみた人間の発達を概観する
第 2 回	新生児期・乳児期の発達①	新生児期・乳児期の発達特性について学ぶ。
第 3 回	新生児期・乳児期の発達②	新生児期・乳児期の発達特性をもとに、生活の中での対応を考える。
第 4 回	幼児期の発達①	幼児期の発達特性について学ぶ。
第 5 回	幼児期の発達②	幼児期の発達特性をもとに、生活の中での対応を考える。
第 6 回	児童期の発達①	児童期の発達特性について学ぶ。
第 7 回	児童期の発達②	児童期の発達特性をもとに、生活の中での対応を考える。
第 8 回	思春期の発達①	思春期の発達特性について学ぶ。
第 9 回	思春期の発達②	思春期の発達特性をもとに、生活の中での対応を考える。
第 10 回	発達障害①	発達障害の概念について学ぶ。
第 11 回	発達障害②	合理的配慮を含めて生活の中での対応を考える。
第 12 回	幼児期・児童期の事例	第 11 回目までに学んだことなどをもとに、幼児期・児童期の事例について、背景や対応を考える。
第 13 回	思春期・青年期の事例	第 11 回目までに学んだことなどをもとに、思春期・青年期の事例について、背景や対応を考える。
第 14 回	まとめ・試験	授業内試験の実施

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の内容、配付された資料、紹介された資料と、自分自身の興味関心とを繋げながら、理解を深めてください。授業の内容を理解するための準備・復習の時間は、4 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

指定のテキスト（教科書）はありません。

【参考書】

必要な資料、参考になる資料などは、授業の中で配布したり、紹介したりします。可能な限り学習支援システムを通して配付可能なもの、ウェブ上で閲覧可能なものを選択します。

【成績評価の方法と基準】

レポート（50%）・試験（50%）

【学生の意見等からの気づき】

昨年度同様、動画、音声などの視聴覚教材を用います。

【学生が準備すべき機器他】

授業で使用する資料の配布、課題の提出には、学習支援システムを活用します。

【その他の重要事項】

- ・授業を受けるにあたり、情報保障をはじめ、何らかの支援が必要な場合には、適宜申し出てください。事前に記録してある動画には字幕あるいは書き起こしを添える予定です。
- ・授業者は発達支援の臨床が専門のフリーランスです。私設の支援室を設け、0 歳から 15 歳の子どもたちに携わっています。また、都内の小中学校を訪問し、支援者への助言をしたり保護者向の方向への講演会などで家庭内での具体的な関わり方について提案したりしています。
- ・授業がどのような形態で実施されても、この授業の到達目標に変更はありません。理解を深め、知識の活用の幅を広げてください。

【Outline (in English)】

Course outline : In this class, we will learn about the developmental characteristics of infancy, early childhood, childhood, and adolescence, based on the fact that people develop throughout their lives from birth to death.

Learning Objectives : We will also consider through case studies how we can apply the knowledge we have gained so far in our daily lives, including child rearing and education.

Learning activities outside of classroom : Before/after each class, you will be expected to spend four hours to understand the content.

Grading Criteria /Policy : Final grade will be calculated according to the following process Short report (50%), term-end report (50%).

PSY200MA

生涯発達心理学Ⅱ

展開科目

廣川 進

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
曜日・時限：水 4/Wed.4 | 配当年次：2～4 年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

人間は生（誕生）から死に至るまでどのように発達し変化するか、それぞれの人間の発達段階に沿っての発達課題とその発達特性を心理学的な視点より研究する。また同時に人間の発達とキャリア発達の観点からも研究することによって、キャリア発達は人間の生涯を通してどのように変化し発達するかについても研究する。

秋学期は成人期から老年期、人間の人生の終末の死までの発達を取り上げ、それぞれの発達課題を研究し、発達課題が達成できない場合にはどのような発達上の問題が発生するかについても研究する。学生自身が自己、家族、他者との関係を発達の軸から振り返り、課題を明らかにすることでさらなる成長発達をすることができる。

【到達目標】

学生がその青年期から死に至るまでの生涯発達、その特性を深く理解し、自分の今後のライフキャリアを展望するための気づきを得ることができる。生涯発達心理学で使われるキーワードとその概念、具体例についての知識理解ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

春学期と秋学期の通年を通して、人間発達の道筋とそれぞれの発達ステージにおける発達特性と発達課題について理解する。

授業は基本的にはリアルに教室で対面で行うがコロナの状況次第ではオンライン（ZOOM）を取り入れる可能性がある。毎回、授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	発達段階と発達課題について考える	各発達段階の発達特性とその発達課題について概論的に学ぶ
第 2 回	アイデンティティとは	エリクソンのライフサイクル（心理社会的発達）理論やモラトリアムについて、具体例とともに学ぶ
第 3 回	思春期青年期の課題	フロイトの精神分析、心の構造論、プロセスの分離個体化などを学ぶ
第 4 回	ひきこもりについて	ひきこもりの実態をデータから把握し、事例からその要因についてさまざまな観点から検討する
第 5 回	精神分析と心理テスト	心理テスト エゴグラムを自らやって自己理解を深める
第 6 回	男性の発達、父性の観点	「鬼滅の刃」から父性について考える
第 7 回	中年期危機と発達課題	小説『最後の家族』（村上龍）から中年危機が家族全員にあたえる影響、崩壊から再生について考える
第 8 回	女性の発達、母性の観点	アイデンティティの2つの軸、個としての達成/関係性における他者のケア、自己実現の援助を学ぶ
第 9 回	「語り」と発達	自己の人生を語る「自己物語」がアイデンティティをつくり、傷つきからの回復を支えることを事例から学ぶ
第 10 回	成人期の発達とキャリア発達	成人期以降のキャリア発達の特性、キャリアの転機、危機について学ぶ
第 11 回	初期～中期キャリア発達	中年期のキャリアの転機、危機、役職定年、定年と生涯キャリアについて考える
第 12 回	老年期の発達課題	「老年的超越」について学ぶ
第 13 回	生涯キャリア発達	死をめぐるさまざまな課題について学ぶ、人間にとって死とは何か、その意味を考える
第 14 回	人間の死とその心理学的特性 死の意味	発達段階ごとの課題とストレスを理解し、適切に対処する方法を学ぶ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

関連図書の予習、本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しません。参考文献はその都度紹介します。

【参考書】

- ・発達心理学入門Ⅰ（乳児・幼児・児童）無藤隆編 東京大学出版会
- ・発達心理学入門Ⅱ（青年・成人・老人）無藤隆編 東京大学出版会
- ・アニメに学ぶ心理学「千と千尋の神隠し」を読む（愛甲修子）言視舎
- ・父滅の刃～消えた父親はどこへ アニメ・映画の心理分析～（樺沢紫苑）みらいパブリッシング
- ・エヴァンゲリオン心理学（樺沢紫苑）
- ・〈ほんとうの自分〉のつくり方（榎本博明）講談社現代新書
- ・私とは何か 個人から分人へ（平野啓一郎）講談社現代新書

【成績評価の方法と基準】

毎回の感想レポート（60 %）
期末レポート（40 %）

【学生の意見等からの気づき】

臨床的な具体例の紹介や映画、ドラマ、物語などを適宜使って、生涯発達心理学の概念が理解しやすくなるように工夫する

【学生が準備すべき機器他】

オンライン利用の場合は、ZOOM 形式の授業を受講できる環境、端末

【その他の重要事項】

青年期から死に至る発達過程を心理学的側面から研究することを通して、自分自身がどのように今まで発達してきたのかについて自己理解をすると同時に、人間の発達、成長にはどのような因子が大きな影響を与えているのかについて、深く考えるきっかけにし、人間理解、キャリア発達理解をさらに深めてください。

【Outline (in English)】

This course will help you to understand human development across the life span, comprehensive view of the individual at each stage of growth, from the point of biological, cognitive, social and emotional aspects of growth .

We will study about adolescence(12-20), young adulthood(20-40), middle adulthood(40-65), late adulthood(65-) in the fall semester.

We also study what developmental problems occur if developmental tasks can not be achieved. Students will be able to reflect on their own relationships with themselves, their families, and others from a developmental perspective. By doing so, Students themselves can do growth and development.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content. Before each class meeting, students will be expected to have read the Related Books.

Grading will be decided based on report on every class(60%), and team-end report (40%).

PSY200MA

臨床教育相談論 I

展開科目

土屋 弥生

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

曜日・時限：月 3/Mon.3 | 配当年次：2~4 年

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

教育相談をおこなう上で必要となる基本的な知識、児童生徒理解の手法を学ぶ。また、教育現場における問題、課題について理解を深め、現場での教育相談のあり方について考える。

【到達目標】

- (1) 教育相談をおこなう上で必要な基本的知識を習得する。
- (2) 教育相談をおこなう上で基盤となる児童生徒理解の手法を習得する。
- (3) 教育現場における問題・課題について理解し、主体的に考える。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は講義形式でおこないます。小テストや課題の提出は「学習支援システム」を通じて行う予定です。最終授業で、13 回までの講義内容のまとめや復習だけでなく、授業内で実施した小テスト、課題に対する講評や解説をおこないます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	講義の概要、到達目標、授業の進め方について確認する。
2	人間の発達と課題①：乳幼児期から児童期	乳幼児期・児童期の発達と課題について学ぶ。
3	人間の発達と課題②：青年期から成人期以降	青年期から成人期以降の発達と課題について学ぶ。
4	教育相談とは何か	教育相談の対象、位置づけ、目的について学ぶ。
5	教育相談における児童生徒理解の手法①：心理学的理解と現象学的理解	教育相談の現場で用いられる心理学的手法・現象学的手法について学ぶ。
6	教育相談における児童生徒理解の手法②：人間学的理解	教育相談の現場で用いられる人間学的理解の方法について学ぶ。
7	教育相談における児童生徒とのコミュニケーション	教育相談の現場でのコミュニケーションについて、心理学的立場・現象学的立場について学ぶ。
8	教育現場の諸問題と教育相談①：発達障害の理解	教育相談の臨床で必要となる発達障害についての基礎的知識を身に付ける。
9	教育現場の諸問題と教育相談②：発達障害の児童生徒の現状	教育現場における発達障害の児童生徒の現状を理解する。
10	教育現場の諸問題と教育相談③：不登校の児童生徒の現状	教育現場における不登校の児童生徒の現状を理解する。
11	教育現場の諸問題と教育相談④：メンタルヘルスの問題を抱える児童生徒の現状	教育現場におけるメンタルヘルスの問題を抱える児童生徒の現状を理解する。
12	教育現場の諸問題と教育相談⑤：いじめ問題	教育現場におけるいじめ問題について理解する。
13	教育相談における連携の重要性：児童虐待、家庭の諸問題、保護者との連携	家庭の諸問題、児童虐待などについて学び、教育相談において重要となる保護者との連携について考える。

- 14 まとめ・振り返り：教 13 回までの学習を振り返り、課題の育相談のあり方について 解説を通して学習のまとめとする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前学習（2 時間）として、教科書で各回のテーマに該当する部分を読み、予習しておく。また、事後学習（2 時間）として、各回の授業内容について授業資料や教科書を用いて振り返りをする。振り返りにおいては、各回の授業で用いた具体的な事例について、自分が臨床の現場で教育相談を行うことになった場合のことを想定して、主体的に考えるようにする。

【テキスト（教科書）】

土屋弥生著『教師と保護者のための子ども理解の現象学』2023 年、八千代出版

【参考書】

文部科学省 HP <https://www.mext.go.jp/>

厚生労働省 HP「発達障害の理解のために」<https://www.mhlw.go.jp/seisaku/17.html>

内閣府「子供・若者白書」<https://www8.cao.go.jp/youth/suisin/hakusho.html>

【成績評価の方法と基準】

小テスト（40 %）、期末レポート（50 %）、平常点（10 %）とします。小テスト、期末レポートは「学習支援システム」上でおこないます。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

授業で使用する資料、プリント等は PDF で学習支援システムに掲載する予定です。各回とも授業前に各自入手するようにしてください。また、小テスト・課題提出についても学習支援システムを利用しますので、必要な機器等を準備しておいてください。

【その他の重要事項】

担当者は、学校教育現場で学校心理士資格を持つ教員として心理教育的支援をおこなった実務経験をもつ。この経験を基に、実際の教育相談のあり方や進め方についてできる限り具体的に講義をおこなう。

【Outline (in English)】

【Course outline】 This course deals with the basic knowledge and methods of understanding students that are necessary for educational consultation.

The aim of this course is understanding of problems and issues in the field of education and to think about practical educational consultation.

【Learning Objectives】 By the end of the course, students should be able to the followings:

-A, To acquire the basic knowledge necessary for providing educational consultation.

-B, To acquire the methods of understanding students which are the basis of educational consultation.

-C, Understand and think independently about problems and issues in the educational field.

【Learning activities outside of classroom】 Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Lecture/Exercise (two-credits)

【Grading Criteria /Policies】 Your overall grade in the class will be decided based on the following

Mini tests: 40%, Term-end report : 50%, in class contribution: 10%

PSY200MA

臨床教育相談論Ⅱ

展開科目

土屋 弥生

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

曜日・時限：月 3/Mon.3 | 配当年次：2～4 年

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

実際に現場で教育相談をおこなうことを想定して、実践的な内容を学ぶ。児童生徒、保護者との教育相談において留意すべきことを習得し、教育相談のケーススタディを通して具体的な実践について理解する。

【到達目標】

- (1) 児童生徒理解に基づく教育相談について主体的に考え、実践に役立つ態度を身につける。
- (2) 保護者との教育相談について主体的に考え、実践に役立つ態度を身につける。
- (3) ケーススタディを通して教育相談の実践について具体的にイメージし、理解を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は講義形式でおこないます。小テストや課題の提出は「学習支援システム」を通じて行う予定です。最終授業で、13 回までの講義内容のまとめや復習だけでなく、授業内で実施した小テスト、課題に対する講評や解説をおこないます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	講義の概要、到達目標、授業の進め方について確認する。
2	教育相談におけるアセスメントと倫理	教育相談におけるアセスメント、プライバシーの保護、守秘義務について学ぶ。
3	児童生徒理解に基づく教育相談①：児童生徒を「見る」（観察）	教育相談の基盤をなす児童生徒理解、特に児童生徒を「見る」ことについて学ぶ。
4	児童生徒理解に基づく教育相談②：児童生徒との対話	教育相談の基盤をなす児童生徒理解、特に児童生徒との対話について学ぶ。
5	保護者の理解：保護者とはどのような存在か	教育相談の基盤をなす保護者理解について学ぶ。
6	保護者との教育相談：児童生徒の成長のための協働を目指す	教育相談において重要な保護者との協働について学ぶ。
7	学校教育現場における諸問題・課題と教育相談	学校教育現場における教育相談の重要性について学ぶ。
8	特別支援教育の現状：通級指導と教育相談	特別支援教育の現状について、おもに通級指導学級と教育相談の関係について学ぶ。
9	現象学的児童生徒理解と教育相談	教育相談の実践において重要な現象学的児童生徒理解について学ぶ。
10	教育相談のケーススタディ①：不登校の児童生徒の理解と対応	不登校の児童生徒の教育相談の実践について事例から学ぶ。
11	教育相談のケーススタディ②：発達障害の児童生徒の理解と対応	発達障害の児童生徒の教育相談の実践について事例から学ぶ。
12	教育相談のケーススタディ③：緘黙傾向の児童生徒の理解と対応	緘黙傾向の児童生徒の教育相談の実践について事例から学ぶ。

- 13 教育相談のケーススタディ④：いじめについての教育相談
- 14 まとめ・振り返り：教育相談の実践について

いじめに関する教育相談の実践について事例から学ぶ。
13 回までの学習を振り返り、課題の解説を通して学習のまとめとする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前学習（2 時間）として、教科書で各回のテーマに該当する部分を読み、予習しておく。また、事後学習（2 時間）として、各回の授業内容について授業資料や教科書を用いて振り返りをする。振り返りにおいては、各回の授業で用いた具体的な事例について、自分が臨床の現場で教育相談を行うことになった場合のことを想定して、主体的に考えるようにする。

【テキスト（教科書）】

土屋弥生著『教師と保護者のための子ども理解の現象学』2023 年、八千代出版

【参考書】

文部科学省 HP <https://www.mext.go.jp/>
厚生労働省 HP「発達障害の理解のために」<https://www.mhlw.go.jp/seisaku/17.html>
内閣府「子供・若者白書」<https://www8.cao.go.jp/youth/suisin/hakusho.html>

【成績評価の方法と基準】

小テスト（40 %）、期末レポート（50 %）、平常点（10 %）とします。小テスト、期末レポートは「学習支援システム」上でおこないます。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

授業で使用する資料、プリント等は PDF で学習支援システムに掲載する予定です。各回とも授業前に各自入手するようにしてください。また、小テスト・課題提出についても学習支援システムを利用しますので、必要な機器等を準備しておいてください。

【その他の重要事項】

担当者は、学校教育現場で学校心理士資格を持つ教員として心理教育的支援をおこなった実務経験をもつ。この経験を基に、実際の教育相談のあり方や進め方についてできる限り具体的に講義をおこなう。

【Outline (in English)】

【Course outline】 This course deals with practical contents assuming that they actually conduct educational consultation in the field. The aim of this course is to learn what to keep in mind in educational consultation with students and parents, and to understand specific practices through case studies of educational consultation.

【Learning Objectives】 By the end of the course, students should be able to do the followings:

- A, To think independently about educational consultation based on understanding children and to acquire an attitude that is useful in practice.
- B, To think independently about educational consultation with parents and acquire an attitude that is useful in practice.
- C, Through case studies, to deepen understanding of the practice of educational consultation by imagining it concretely.

【Learning activities outside of classroom】 Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Lecture/Exercise (two-credits)

【Grading Criteria /Policies】 Your overall grade in the class will be decided based on the following

Mini tests: 40%, Term-end report : 50%, in class contribution: 10%

PSY200MA

キャリアカウンセリングⅠ 展開科目

廣川 進

単位数：2単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

曜日・時限：月2/Mon.2 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

キャリアカウンセリングはキャリア開発、キャリア形成において、問題を抱える人達を支援する大切なカウンセリングです。キャリアカウンセリングは、カウンセリングの中でも、「育てる、開発するカウンセリング」として位置づけられます。キャリア教育の中での生徒、学生達の相談、未就業者の相談、再就職の支援、組織・企業内でのキャリア形成の相談など、多様な場面で求められている大切なカウンセリングです。この授業を受講することによって、学生はまず、キャリアカウンセリングとは何かを理解し、そのためには、どのような支援を行うか、キャリアカウンセリングの進めかたの具体的なステップ、傾聴技法などについて理解することを授業の到達目標とします。

【到達目標】

学生はキャリアカウンセリングとは何かを理解し、その歴史、キャリアの理論、キャリアカウンセリングの担当者に求められる要件などに対する理解ができるようになることを達成目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は基本的には教室でリアル対面で行いますが、コロナの状況次第ではオンライン（ZOOM）を利用する可能性もあります。HOPPII をチェックしてください。

毎回、授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

キャリアに関する問題解決を効果的に支援するためには、その背景となるキャリア理論、カウンセリング理論などを理解した上で、相談者のキャリア開発やキャリア形成の支援のために情報提供、助言指導などが必要になります。相談者がどのようなキャリア上の問題を抱えているのか、傾聴しながら、相談者を理解し、支援することが欠かせません。そのためには、キャリアカウンセリングは、具体的にどのように展開をしたらよいか、そのステップはどのような過程をたどるのか、事例を取り上げて研究し、具体的な支援の方法を理解します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	コロナ禍という変化とキャリア転機	コロナ禍という変化の時代において、キャリア発達とは何か、キャリア支援とは何か、キャリアサポートはなぜ必要なのかについて学ぶ
第2回	キャリア理論では変化への適応をどう捉えるか	変化対応力からみたクランボルト、ジェラット、シュロスバーク等の理論の紹介
第3回	なぜ今キャリアカウンセリングなのか	ワークシートに記入しながら見つけた自分のキーワードを仕事につなぐ考え方を取り入れる
第4回	あらためてキャリアカウンセリングとは何か	キャリアガイダンス、キャリアカウンセリング、キャリア形成支援等の違いについて検討する
第5回	来談者中心療法	ロジャースの来談者中心療法、傾聴、受容共感、無条件の肯定的配慮などについて
第6回	ゲスト講師	企業の人事部で採用責任者を担当していた経験と事例の紹介
第7回	キャリアカウンセリングのプロセス	キャリアカウンセリングのプロセスを逐語録により具体的に検討する
第8回	ゲスト講師	ヤングハローワークでの経験からの事例紹介
第9回	自律型キャリア、嫌われる勇氣、同調圧力	日本において自律型キャリアを根付かせていくために必要なマインドとスキルと行動について考える
第10回	キャリア自律を阻むもの	キャリア自律の阻害要因について考える
第11回	ゲスト講師	大学のキャリア相談員から大学生に多く見受けられる事例の検討課題を提示しレポートを課す
第12回	ゲスト講師	前回の事例検討課題に対する解説を行う
第13回	キャリア転機とストレスマネジメント	転機にはストレスが掛かりやすいのでうまく対処する方法を解説する

第14回 まとめ

期末レポートの課題のポイントの説明

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

参考文献を紹介する本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しません。

【参考書】

宮城まり子著「心理学を学ぶ人のためのキャリアデザイン」2007、東京図書
木村周著「キャリアカウンセリング」1997、雇用問題研究会
平野光俊「キャリア・ディベロップメント」1994、文真堂

【成績評価の方法と基準】

毎回のレポート（60%）

期末レポート（40%）

【学生の意見等からの気づき】

授業の展開、スピードを学生理解に合わせて調整する

【学生が準備すべき機器他】

オンライン利用の場合は ZOOM が利用できる環境と端末

【その他の重要事項】

なし

【Outline (in English)】

After taking this course, you will be able to understand career counseling and development theories, including the following:

- ・interrelationships among and between work, family, and other life roles and factors,
- ・career counseling processes, techniques, and resources
- ・Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.
- ・Before each class meeting, students will be expected to have read the Related Books.
- ・Grading will be decided based on report on every class(60%), and team-end report (40%).

PSY200MA

キャリアカウンセリングⅡ 展開科目

高橋 浩

単位数：2単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

曜日・時限：月2/Mon.2 | 配当年次：2~4年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、カウンセリングの理論とその支援原理、そしてキャリアカウンセリングの現場での事例紹介を行いキャリア支援への応用について学習する。仕事は人生において大きな割合を占めるため、そこでの困難や障害を克服するための理論と技法はキャリア形成上不可欠といえる。

【到達目標】

- ・カウンセリングの理論とその技法について論理的に説明できる
- ・キャリア上の問題に対するカウンセリング理論の適用方法を説明できる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

対面授業です。

事前に、提示した資料でカウンセリング理論を学習してもらいます。

授業当日はキャリアカウンセリングの事例を題材にして、カウンセリング理論に基づいたアプローチについて学びます。この時、グループディスカッションや発表などを行う場合があります。

授業後はミニレポートを提出してもらいます。また授業の冒頭では、前回の授業で提出されたミニレポートをいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	キャリアカウンセリングとは何か	カウンセリング、キャリアガイダンス等との比較からキャリアカウンセリングの概念を理解する
第2回	キャリアカウンセリングの進め方	キャリアカウンセリング6ステップ、および対面でのプロセスについて、複数の理論から学ぶ
第3回	カウンセリング理論① 来談者中心療法	来談者中心療法について学ぶ。特に、傾聴、受容、共感、自己一致について学ぶ
第4回	カウンセリング理論② 認知行動療法	認知行動療法の、認知の変容、学習理論に基づいた行動変容について学ぶ
第5回	カウンセリング理論③ 精神分析	精神分析について学ぶ。特に、無意識の意識化について学ぶ。
第6回	カウンセリング理論④ アドラー心理学	アドラー心理学について学ぶ。特に、共同体感覚、責任の分離、目的論について学ぶ
第7回	カウンセリング理論⑤ ブリーフセラピー	ブリーフセラピーの歴史と解決志向アプローチについて学ぶ。特に、解決像を明確化し行動促進する方法について学ぶ
第8回	カウンセリング理論⑥ マイクロカウンセリング	マイクロ技法の階層表をもとに包括的・折衷的カウンセリングについて学ぶ
第9回	カウンセリング理論⑦ ナラティブ・アプローチ	ナラティブ・アプローチにおける外在化、ストーリーの変容、働く意味の形成について学ぶ
第10回	カウンセリング理論⑧ グループ・アプローチ	グループワークの考え方、原則、効果、ファシリテーションについて学ぶ
第11回	キャリアカウンセリングの活用分野①-学校領域	学校におけるキャリアカウンセリングの実情について実践者から事例を紹介してもらい、支援のあり方を学ぶ。
第12回	キャリアカウンセリングの活用分野②-企業領域	企業におけるキャリアカウンセリングの実情について実践者から事例を紹介してもらい、支援のあり方を学ぶ。
第13回	キャリアカウンセリングの活用分野③-ダイバーシティ	病氣、障害者、性的マイノリティなど、ダイバーシティ支援の実践者から事例を紹介してもらい、支援のあり方を学ぶ。
第14回	試験・まとめと解説	キャリア支援に用いられるカウンセリング理論とその活用方法についてまとめ、その理解度を確認する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に提示した各種カウンセリング理論の資料を学習してもらいます。授業後は学習したことについてのミニレポートを提出してもらいます。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業支援システムにて事前に資料をダウンロードして取得できるようにする。

【参考書】

- ・「キャリアカウンセリング」宮城まり子 駿河台出版社
- ・「キャリア・コンサルティング 理論と実際 カウンセリング、ガイダンス、コンサルティングの一体化を目指して」木村周 社団法人 雇用問題研究会
- ・「新時代のキャリアコンサルティング キャリア理論・カウンセリング理論の現在と未来」労働政策研究・研修機構（編）独立行政法人 労働政策研究・研修機構

【成績評価の方法と基準】

各授業でのミニレポート 40 % 期末テスト 60 %
(オンライン授業ではミニレポートの提出をもって出席とする)

【学生の意見等からの気づき】

学習支援システムでの質疑についてもリアルタイムで取り上げ補足を行ったり、事前学習を応用して深く検討できるような双方向の授業を心がける。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

特になし

【Outline (in English)】

(Course outline) This course deals with the counseling theory and its application to career support.

(Learning Objectives) By the end of the course, students should be able to do the followings:

- A. Be able to explain the theory and technique of counseling logically.
 - B. Be able to explain how to apply counseling theory to career problems.
- (Learning activities outside of classroom) Students are expected to understand counseling theories in text before each class meeting, and also to submit a short report on their lessons and questions after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class. (Grading Criteria /Policy) Your overall grade in the class will be decided based on the following;

Term-end examination: 60%, Short reports : 60%

PSY200MA

キャリアカウンセリングⅢ 展開科目
(ケーススタディ)

宮脇 優子

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

曜日・時限：金 3/Fri.3 | 配当年次：2~4 年

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

キャリアカウンセリングの様々な事例（ケース）を学習することによってキャリアカウンセリングの実践について学び、キャリアカウンセリングの意義や方法について理解することを目的とする。

まずは、キャリアカウンセリングの基礎的な事項—その独自性や起源・発展の経緯、社会においてキャリアカウンセリングが求められてきた背景・ニーズを学ぶ。次に、キャリアカウンセラーに必要とされる能力（技能）や要件、キャリアカウンセリングの具体的な進め方、心理アセスメントや心理学理論の応用を学ぶ。それらを踏まえた上で、様々なケースについて考察・学習し、実践への理解を深めることとする。

【到達目標】

- ・キャリアカウンセリングの基礎的な事項について理解できる
- ・キャリアカウンセリングのケーススタディを通して

- ①現代の産業組織の様相や働く人々が抱える心理的問題、キャリアカウンセリングへのニーズを理解できる
- ②キャリアカウンセリングのケースの見立て方、援助方法の理解・習得ができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

・講義を中心として適宜グループワークをおりまぜて進め、ケーススタディ（事例検討）ではケースの見立てのワーク、グループでの意見交換、グループ発表を行います。

・授業終了後にリアクション・ペーパーの提出を求め、次週の授業の初めに前回の授業で提出されたリアクション・ペーパーからいくつか取り上げ全体共有します。また、質問に対するフィードバックも行います。

・第 10 回の講義内容（心理アセスメント）に関連して、希望者はアセスメントツール（キャリア・インサイト）をキャリア情報ルームにて体験していただきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション キャリアカウンセリングとは何か	カウンセリング、キャリアカウンセリングの定義、他の隣接領域との違いを学ぶ。
第 2 回	カウンセリングの起源と発展	カウンセリングの誕生の背景、キャリアカウンセリングの発展の経緯を学び、キャリアカウンセリングの特質を理解する。
第 3 回	働く人を取り巻く環境変化とキャリア支援	社会経済・雇用環境の変化の経緯を知り、なぜキャリア支援が必要とされているのか、支援者であるキャリアカウンセラーの果たせる役割について学ぶ。
第 4 回	キャリアカウンセラーに必要とされる能力	キャリアカウンセラーに必要とされる能力（技能）・要件について学ぶ。
第 5 回	キャリアカウンセリングの具体的な展開	キャリアカウンセリングはどのように行われるのか、具体的な進め方（プロセス）、実践方法を学ぶ。
第 6 回	キャリアカウンセリングのケーススタディ①	キャリアカウンセリングのケースの読み取り方・見立て方を学ぶ。
第 7 回	キャリアカウンセリングのケーススタディ②	C.R. ロジャーズの理論を学び、若者への就職支援のケースを検討する。
第 8 回	キャリアカウンセリングのケーススタディ③	転職に纏わる支援のケース、職場の人間関係問題への支援のケースを検討。心理学理論を応用したアプローチを学ぶ。
第 9 回	子育てしながら働く女性へのキャリア支援④	子育てしながら働く女性のキャリアの現状とキャリア支援のあり方について学ぶ。
第 10 回	キャリアカウンセリングにおける心理アセスメント/ケーススタディ⑤	キャリアカウンセリングにおける心理アセスメントの意義・心理検査の効果的な活用方法、職業選択理論を学ぶ。心理検査を用いたケースを検討し、それらへの理解を深める。
第 11 回	キャリアカウンセリングのケーススタディ⑥	職業性ストレスモデルを学び、職場不適応のケースを検討する。

第 12 回 キャリアカウンセリングのケーススタディ⑦ ストレス、ストレス・コーピングを学び、職場不適応のケース（管理職編）を検討する。

第 13 回 キャリアカウンセリングのケーススタディ⑧ 職場におけるメンタルヘルス問題への対応、組織開発とキャリアカウンセリングについてケースを通して学ぶ。

第 14 回 まとめと振り返り これまでの授業の振り返り及び総括のフィードバックを行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回の講義に該当するテキスト部分の予習・講義の復習等、本授業の準備・復習時間は、各回計 4 時間以上を標準とします。

【テキスト（教科書）】

「働く人へのキャリア支援—働く人の悩みに応える 27 のヒント」

宮脇優子編著 金剛出版 2015

【参考書】

「入門キャリアカウンセリングとメンタルヘルス—基礎知識と実践」宮脇優子・廣 尚典著 金子書房 2021

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業での学習状況及び参加度）50%

期末レポート課題 50%

【学生の意見等からの気づき】

リアルの双方向コミュニケーション等、対面授業の利点を活かし、授業内容へのより深い理解を目指した授業を展開します。

【その他の重要事項】

担当教員は、人事・教育関連を生業とする民間企業での勤務を経て、民間企業、公的機関において働く人を支援するカウンセラーとして活動をしている。キャリアカウンセラーとしての 20 年の経験で支援してきた人は 5,000 人を超える。

これまでの経験をふまえて、今、現実社会で発生している働く人の様々な心理的問題、そしてキャリアカウンセラーの援助の実際について、授業の中で紹介しながら進めていきます。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students learn about career counseling practices and understand the significance and methods of career counseling by studying various cases of career counseling.

The first phase is to understand the basics of career counseling.

The second phase will focus on the requirements for being a career counselor and the counseling procedures as well as the psychological assessment and the application of psychological theories in this field. Lastly, you will examine its practical usage by looking into various cases. By the end of the course, students should be able to do followings:

- Understand the basics of career counseling, i.e.its origin, development history, uniqueness of career counseling and the reason why career counseling is required in today's society.

- Through case studies of career counseling,

① Understand aspects of modern industrial organizations, especially the psychological problems of working people and the social needs for career counselling.

② Understand and learn how to examine of career counseling cases and help working people.

Students will be expected to have completed the required assignments before/after each class meeting, Your study time will be more than four hours for a class.

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Learning state in class and in-class contribution:50%,Term-end examination:50%

EDU200MA

学校論 I (キャリア形成) 展開科目

松尾 知明

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

曜日・時限：水 2/Wed.2 | 配当年次：2~4 年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

学校とはどのような場所か、学校で私たちは何を学ぶのか、教師とはいかなる仕事かなど、本授業ではキャリアを形成する場・仕事の場としての学校について考えたい。社会が大きく変化し、教育課題が山積する中で、ライフコースと学校、特別なニーズと学校の視点から、学校とキャリアについて考察する。

【到達目標】

キャリアを形成する場、仕事の場としての学校についての基礎的な知識を得るとともに、自分自身の学校体験を振り返るとともに、理想の学校の企画書を効果的に作成することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

学校というものをキャリア形成の場及び仕事の場という 2 つの側面から捉え、ライフコースと学校、特別なニーズと学校といったテーマに従って追究していく。本授業では、文献や動画などをもとに、グループで意見交換するとともに、テーマの内容について講義を行う。また、学校と私についての発表レジュメ、理想の学校についての企画書を作成し、発表する。授業のなかで課題についての記述をいくつか取り上げフィードバックを行う。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の進め方
2	学びとは何か	学びの場としての学校
3	ライフコースと学校(1)就学前	就学前の学校・施設での学びとは
4	ライフコースと学校(2)小学校	小学校での学びとは
5	ライフコースと学校(3)中学校	中学校での学びとは
6	ライフコースと学校(4)高等学校	高等学校での学びとは
7	学校と私	学びの履歴
8	理想の学校を構想する	枠組みと構想
9	特別なニーズと学校(1)多様なニーズ	多様なニーズと夜間学校
10	特別なニーズと学校(2)グローバル化	グローバル化と学校
11	特別なニーズと学校(3)不登校	不登校とフリースクール
12	特別なニーズと学校(4)問題行動	問題行動と学校
13	理想の学校を提案する	発表と質疑
14	授業のまとめ	授業の振り返りとテスト

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

授業の準備として、指定された文献や資料などを読んでくる。また、担当のテーマについて調べ、課題に答えたり、パワーポイントスライドを作成したりする。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト (教科書)】

文献、資料などは指定または配布する。

【参考書】

文部科学省「学習指導要領」。
 荻谷恒彦『学校って何だろうー教育の社会学入門』ちくま文庫、2005 年。

【成績評価の方法と基準】

授業への主体的な参加の姿勢 (30%)、課題 (50%)、テスト (20%) をもとに総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

話し合いの問いや発表の進め方について工夫する。

【学生が準備すべき機器他】

パソコン

【その他の重要事項】

1 回 オリエンテーション、7 回 「学校と私」発表、13 回 「理想の学校」発表はオンラインで行うので留意すること。

【Outline (in English)】

【授業の概要 (Course outline)】

What is a school? What do we learn at the school? What kind of work does the teacher engage at a school? This class explores the school as a place for career formation as well as occupation. As society changes dramatically and educational issues pile up, various themes around the school and careers are examined from the viewpoints of life courses as well as special needs.

【到達目標 (Learning Objectives)】

Students are able to acquire basic knowledge of a school as a place for career formation and as occupation, reflect their own school experiences, and write a proposal of an ideal school effectively.

【授業時間外の学習 (Learning activities outside of classroom)】

Students will be expected to read materials, conduct research and study, reflect on their learning, prepare materials on the subject, and prepare a presentation.

【成績評価の方法と基準 (Grading Criteria/Policy)】

Grading will be decided based on in class contribution (30%), assignments and presentations (50%) and term-end examination (20%).

EDU200MA

学校論Ⅱ（キャリア形成） 展開科目

遠藤 野ゆり

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
曜日・時限：火 3/Tue.3 | 配当年次：2～4 年

その他属性：〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

人生の初期の大部分を学校で過ごす、という現代社会を生きる以上、キャリア形成に対する学校生活の影響は非常に大きい。学校教育の意味と課題もそこには含まれている。そこで本授業では、本講義は「学校に行くこと／行かないこと」がキャリア形成に及ぼす影響を、一般論だけではなく、個々の生徒一人ひとりの具体的なエピソードを分析するなかで考える。また、教育を「学問」として探求するための手法として、データをつなぎ合わせ、教育問題が具体的に人間のキャリア形成に及ぼす影響について考えることを目指す。

【到達目標】

学校生活のキャリア形成に関する文科省、厚労省の示すデータを読み取れるようになることを目指す。
それらのデータが学術的な先行研究においてどのように位置づいているのかを理解すると共に、諸外国や日本国内の学校状況に関する知識を習得する。実際の学校生活に関する事例を読み、自分の意見を表現できるようにすることを目指す。
以上の目標を実現することで、学校教育および学校生活がキャリア形成においてどのような影響を与えているのかを多様な観点から理解することを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

講義科目であるが、毎回グループワークがある。またグループワークのために事前に講読課題を課すことがある。
毎回、授業後に課題（リアクションペーパー）を提出してもらう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション 授業実施の方法	授業の概要と進め方についての説明 「学校の機能」に関する検討
2	〈学校に入ることをめぐって〉①オランダ「自由な教育」のしくみ	子どもの幸福度が世界1の国はオランダという調査結果があります。この事例をとおして、外国との比較から日本の教育を考える力を身につけ、と同時に、学校を社会の中に位置づけて考える必要性を考えます。
3	〈学校に入ることをめぐって〉②中学受験の功罪	現在日本では地域によっては4人に1人が中学受験をします。中学受験がもつ機能や、人のキャリアに与える影響から、その功罪を考えます。
4	〈学校に入ることをめぐって〉③「地元化」の時代の地方と都市の違い	地元化の時代といわれ、若者の移動が減っている社会の中で、地方と都市部では、学校の選択肢の数に大きな違いがあります。地方と都市部でのキャリア形成の違いを考えます。
5	〈学校に入ることをめぐって〉④修学支援制度は十分か？	近年、子育て・教育費用の公費増大の目玉として現在大学でも「修学支援制度」が実施されています。こうした支援は経済格差がキャリア形成にもたらす悪影響を本当に小さくできているのかを考えます。
6	〈学校に入ることをめぐって〉⑤ヤングケアラーからはく奪されるもの	幼いころから家族のケアに時間を割き学校に十分に通えない子どもたち。彼らのキャリア形成の困難のもとを考えます。
7	学校の中で身につけるもの①ステレオタイプ・偏見	学校の中ではヒドゥンカリキュラムとして様々なものが機能しています。学校に通っているうちに無意識のうちに身につけるステレオタイプや偏見を再検討します。
8	〈学校の中で身につけるもの〉②日本の障害児教育に対する世界的批判	日本の障害児教育は世界のトレンドとはかなり異なるものになっています。その実態やプロセス、世界からの見方を学び、共生社会の中でのキャリア形成について考えます。

9	〈学校の中で身につけるもの〉③道徳心は学校で涵養されるか？	日本の学校教育は「道徳」という科目設定があり、世界的に見てこれは珍しいことです。道徳の授業は本当に人々の道徳心を涵養するのか、具体的なケースに沿って考えます。
10	〈学校の中で身につけるもの〉④能力主義は平等か？	学校教育では「能力」を育むスタンスと「能力以外」とを重視するスタンスとが混ざっています。能力で人を評価することは本当に妥当なのか、具体的に検討していきます。
11	〈学校から出ていくときの課題〉①「学歴」「労働市場にのること」	「日本は学歴社会」という一般通年は正しいでしょうか。学歴は人のキャリアにどのような影響をしているでしょうか。日本の学歴社会の特徴を捉え、学歴がキャリアに及ぼす影響を検討します。
12	〈学校から出ていくときの課題〉②卒業時の能力保証と文系学部批判	国立大学文系学部廃止論争をきっかけに、文系学部の役割について議論されるようになりました。文系学部で学ぶことの意味とは？ キャリアデザイン学部の授業を通して身につける学びをもとに考えます。
13	〈学校から出ていくときの課題〉③「良い子」的な価値観からの脱却の困難	社会に出ると学校とは異なる価値観に沿って生きていくことが求められます。学校的な「良い子」価値観の功罪を考え、そこから脱却していくために必要な教育を考えます。
14	総括・ふりかえり	本講義で考えたことを整理し、理解度を確認します。初回の授業で検討した「学校の機能」は、12回のケーススタディを通してどう変わったのか考えます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

グループワークで読む事例は事前に課題とともに指示しますので、必ず予習をして臨んでください。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
なし

【参考書】

大塚類・遠藤野ゆり共編著（2014）『エピソード教育臨床 生きづらさを描く』創元社
その他は適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】

授業時の貢献度 50 %、期末試験 50 % （受講生と相談のうえ変更する可能性あり）

【学生の意見等からの気づき】

事後課題は Hoppii を利用してほしいという要望がありましたので、Hoppii を用いることにします。

【学生が準備すべき機器他】

パソコンを持参してください。

【その他の重要事項】

受講生の興味関心に応じて授業の内容等は若干の調整をおこないます。

【Outline (in English)】

Course outline : As we spend most of our early life at school, the influence of school life on our career development is very great. The significance and problems of school education are included therein. Therefore, in this class, in this classes we think about the influence of "going to school / not going" on career formation not only in the general theory but also in analyzing each concrete episode of each individual student. As a method to explore education as "academics", we aim to think about the influence of educational problems on human career formation concretely by joining data.

Learning Objectives : Students are required to get skill to read the culture, sports, science and technology data regarding career development in school life. presented by the Ministry of Education and the Ministry of Health, Labor, and Welfare. They are also required to understand how these data are positioned in academic precedent research and to acquire knowledge about school conditions in other countries and Japan. These requires are for students to be able to express their own opinions by reading case studies related to actual school life. By realizing the above goals, we aim to understand from various perspectives how school education and school life affect career development.

earning activities outside of classroom :

You will be instructed in advance about the examples to be read in the group work along with the assignments, so please be sure to prepare for the lessons. The standard time for preparation and review for this class is 2 hours each.

Grading Criteria /Policy : 50% contribution during class, 50% final exam (This policy might be changed after consultation with students)

EDU200MA

学校論Ⅲ（キャリア教育） 展開科目

児美川 孝一郎

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

曜日・時限：火 3/Tue.3 | 配当年次：2～4 年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本におけるキャリア教育の現状と課題

【到達目標】

- ① キャリア教育とはなにか、その教育方法はどこにあるべきか、なぜキャリア教育が必要なのか等について、基本的な概念や考え方を理解する。
- ② 日本におけるキャリア教育の登場と展開の経緯について、基本的な事実、データ、社会的背景等を知るとともに、現状における問題点や課題を適切に理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

※ 2021 年度の本授業は、学習支援システムを活用した資料配信を軸にしながら、Zoom によるリアルタイム・オンライン授業を補助的に組み合わせて実施する。

講義形式の授業であるが、可能な範囲で、受講者からの質疑や意見を求めたり、小課題の提出を求めたりする。

諸外国におけるキャリア教育の展開について、比較研究的な視点を持つことは重要であるが、本授業の対象は、主に日本の学校教育におけるキャリア教育である。諸外国の事例については、日本との対比において参考になる点を示唆するとともに、

本授業の守備範囲は、日本におけるキャリア教育の歴史、理論、政策、学校レベルにおける施策である。

提出されたリアクションペーパーや課題等へのフィードバックは、次回の授業の最初にまとめて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業計画について概説するとともに、基本概念である「キャリア教育」について、本講義における共通理解の前提を確かめる。
2	職業教育からキャリア教育へ	内外のキャリア教育の成立史を概説し、職業教育とキャリア教育との異動について解説する。
3	権利としてのキャリア教育	いま、なぜキャリア教育が必要なのかという点とかわかって、権利としてのキャリア教育について解説する。
4	日本における職業指導と進路指導	戦前・戦後の日本における職業指導・進路指導の歴史について概説し、それぞれの時期における特徴や問題点について考察する。
5	進路指導改革としてのキャリア教育	現在のキャリア教育の源流のひとつとして、1990 年代前半の進路指導改革の動きについて概説する。
6	若年就労支援策としてのキャリア教育	現在のキャリア教育の源流のもうひとつとして、政府レベルでの若年就労支援策の展開について概説する。
7	日本のキャリア教育の現状と課題	キャリア教育の登場以降の学校現場における取り組みを概観し、その特徴と問題点について考察する。
8	職場体験・インターンシップ	キャリア教育への取り組みとしての職場体験・インターンシップについて、現状と課題を考察する。
9	進路指導としてのキャリア教育	キャリア教育への取り組みとしての進路指導について、現状と課題を考察する。
10	教科教育を通じたキャリア教育	キャリア教育への取り組みとしての教科を通じてのキャリア教育について、現状と課題を考察する。
11	キャリア教育を志向した教育課程づくり	キャリア教育を志向した教育課程づくりについて、学校の事例等も示しつつ、考察する。
12	キャリア教育の担い手と組織体制	キャリア教育の担い手と学校内の組織体制のあり方について、現状と課題を考察する。

- 13 外部との連携 キャリア教育をすすめていくうえで不可欠な外部との連携について、いくつかの事例を踏まえて、考察する。
- 14 これからのキャリア教育 諸外国におけるキャリア教育への取り組みを紹介しつつ、日本のキャリア教育の現時点での到達点を確認し、今後の課題について考察する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

今回の授業内容については、前回授業時に予告されるので、自分なりの問題関心を深め、事前に資料・データ等を調べたうえで、授業にのぞむこと。それぞれの授業時に紹介される参考文献については、自主的に読んでおくこと。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特に定めない。

【参考書】

児美川孝一郎『権利としてのキャリア教育』明石書店
 児美川孝一郎『若者はなぜ「就職」できなくなったのか』日本図書センター
 児美川孝一郎『キャリア教育のウソ』ちくまプリマー新書
 児美川孝一郎『夢があふれる社会に未来はあるか』ベスト新書
 授業時にも、随時、紹介していく。

【成績評価の方法と基準】

平常点（40 %）

レポート提出（60 %）

【学生の意見等からの気づき】

受講者に対するフィードバックを大切に授業運営をすすめる。

【その他の重要事項】

この授業は、情報の読解・分析力、課題発見・解決力の養成につながる諸課題を、授業運営の中に組み込んでおり、広い意味での受講生の就業力育成に資する。

【Outline (in English)】

This course introduces the current condition and issues of career education in Japan.

The goal of this course is to understand the theory and practice of career education.

Students will be expected to work on the indicated task after each class meeting.

Your overall grade in the class will be decided based on in-class contribution (40%) and term-end report (60%).

EDU200MA

学校論Ⅳ（キャリア教育） 展開科目

池田 佳代

単位数：2単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

曜日・時限：水 3/Wed.3 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代の社会的事業（社会課題を積極的に解決しようとする取り組み）の担い手は、行政・企業そして市民という3つのセクターに分類でき、各セクターは単独で事業を行うだけでなく、協働・助成・委託といった枠組みによってつながり合うことで、より丁寧に社会のニーズに応えようとする実態がある。それは、市民的権利に基づく相互扶助の実践であり、共生社会の実現を目指す営みでもある。そこで、本授業では、地域福祉、環境、平和などの分野で活動する市民セクターを対象に、その成果や課題について座学や体験を通して学び、それら活動の意義や可能性について検討する。

関連するキーワード：コミュニティ論、社会運動論、学習論

【到達目標】

1. 市民セクターにかかわる用語の意味、活動内容や形態及びメンバーシップ、社会問題への取り組みについて理解を増やす。それにより、多様なアクター・組織・イデオロギーのもとで社会が動いていることを洞察する力を育む。
2. 与えられた情報をもとに、より深く調べ、話し合い、発表し合うことで、より深い理解に到達する力（アカデミック・スキル）を高める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

レジュメや映像資料等を示しながら講義を行うほか、フィールドワークやグループワーク及び、そのための準備活動といった主体的な学びの方法（アクティブラーニング）を取り入れる。学生はそれらの成果物としてレポートなどの提出が求められる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション～NPO・NGO・市民活動？	1, 市民セクターの種類・制度・多様性・意義及び行政や企業との協働・助成・委託 2, フィールドワークについて
第2回	地域福祉の市民セクター（1）	住む家がない、借りられない～市民セクターによる居住支援活動
第3回	地域福祉の市民セクター（2）	地域社会で生きる～精神障害の当事者による活動
第4回	地域福祉の市民セクター（3）	地域力で貧困の連鎖を断ち切る～多様なニーズに寄り添う学習支援活動
第5回	グループワーク	地域福祉分野の市民セクターの可能性（自主・助成・委託・連携・協業）～報告、討論、発表
第6回	環境分野の市民セクター（1）	地球温暖化防止京都会議が起爆剤？：未来へのアジェンダ
第7回	環境分野の市民セクター（2）	こんな事業に投資？：大学生の疑問から始まった脱炭素運動
第8回	環境分野の市民セクター（3）	開発の闇を照らす：グローバルな天然資源保護運動
第9回	環境分野の市民セクター（4）	民間が担う政府の仕事：地域NPOによる環境活動支援事業
第10回	グループワーク	気候正義に向けて私たちにできること～報告、討論、発表

第11回	平和分野の市民セクター（1）	市民グループがなければどうなった？：米軍基地と住民そして日本政府
第12回	平和分野の市民セクター（2）	核兵器と地域安全保障：国際的なNGOの連携による成果
第13回	平和分野の市民セクター（3）	生活者の視点が果たす重要な役割：生活協同組合の平和活動
第14回	グループワーク（最終）	平和な未来社会をどう創る？市民セクターの課題と可能性：報告、討論、発表

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。文献を読む・レポートを書く、フィールドワークに出かけるなどの個人活動及びグループ単位での学習活動を想定しています。

【テキスト（教科書）】

授業用レジュメ冊子を使用する可能性があります。グループワークの進め方については参考書に示した『環境メディア・リテラシー―持続可能な社会に向かって』p.48-70までの記述を参照してください。

【参考書】

ハード・ガブリエレ著、2016、『環境メディア・リテラシー―持続可能な社会に向かって』、関西学院大学出版会、ほか、必要な文献については授業の中で適宜提示します。

【成績評価の方法と基準】

授業への積極的な参加と運営への貢献、レポート等の提出：70%
最終レポート：30%

【学生の意見等からの気づき】

新任なのでまだありません。

【学生が準備すべき機器他】

必要に応じて、情報機器（貸与パソコン等）、施設（マルチメディア室等）や資料配布・課題提出等のために学習支援システム等を利用します。

【その他の重要事項】

状況の変化に応じて、上記の授業計画に変更が生じる場合があります。授業期間中の変更や連絡事項は学習支援システムの「お知らせ」で随時連絡します。

【Outline (in English)】

(Course outline) This class will focus on the civil society sector, which is active in community welfare, the environment, and peace-building. Learn how the three sectors of government, business and citizens complement each other in order to meet the needs of society. Furthermore, understand that these activities lead to mutual assistance and joint growth in civil society.

(Goal)

1, Increase understanding of the meaning of terms, and develop the ability to gain insight into how society operates under the influence of diverse actors, organizations, and ideologies.

2. Based on the given information, deepen the ability to reach a deeper understanding (academic skills) by investigating more deeply, discussing, and making presentations.

(Learning activities outside of classroom) Lecture :Before/after each class meeting, students will be expected to spend more than two hours to understand the course content or to read, research, write and go to field.

(Grading Criteria /Policy)

Active participation and contribution, submission of reports: 70%

Final Report: 30%

EDU200MA

メディア教育論 I

展開科目

村上 郷子

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

曜日・時限：木 4/Thu.4 | 配当年次：2~4 年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

授業では、ユネスコの「メディア情報リテラシー」のカリキュラムに基づく理論を学び、メディア分析を行う。具体的には、授業前半で、メディア情報リテラシー教育の重要な概念（シチズンシップ、メディア・情報言語、リプレゼンテーションなど）に関する理論的背景を学ぶ。授業後半では、グループで特定テーマに関するメディア分析を行い、ディベートのかたちでグループのプレゼンを行うことにより、メディア情報リテラシーの知識やスキルを包括的に習得する。

【到達目標】

多様なメディアの分析を通じて、メディア情報リテラシー教育における 4 つの能力、批判的思考能力、メディアの制作、コミュニケーション能力、コラボレーション能力を身につけることができる。

グループ活動では、プレゼン資料やおしゃべり原稿（シナリオ）などを作成することにより、実践的なメディア情報リテラシーのスキルを習得することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

シチズンシップ、メディア倫理、メディア・情報のリプレゼンテーションなど、メディア情報リテラシー教育の重要な概念に関する理論的背景を、演習を通じて学ぶ。授業の後半では、グループでテーマに関するメディア分析を行い、ディベートのかたちでプレゼンテーションを行う。なお、グループとテーマについては、履修者が確定した時点でアンケート調査・調整を行い、決定する。

アンケート調査、プレゼンテーション、グループディスカッションの感想等については、授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。大学行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業及び授業用グループウェア利用ガイダンス、私のメディア史
2	メディア研究の方法	メディア情報リテラシー教育（MILE）の基本概念と分析モデル
3	MILE とシチズンシップ①	メディアの機能と多様性（メディア・リテラシー、図書館リテラシー、コンピュータ・リテラシー、他）
4	MILE とシチズンシップ②	表現の自由と情報の自由、情報へのアクセス
5	メディア倫理①	ジャーナリズムと社会（言論の自由の歴史、プロパガンダ、新聞統制）
6	メディア倫理②	ニュースの価値、報道の価値（なにがニュースになるのか）
7	メディア・情報のリプレゼンテーション①	ニュース報道とイメージの力（ビジュアルの力）
8	メディア・情報のリプレゼンテーション②	多様性とリプレゼンテーションにおけるメディア・コード
9	課題 グループ活動①	グループごとに、各自がテーマについてメディア別に分析した内容をつきあわせる作業を行う。
10	グループ活動②	グループごとに多様性、シチズンシップ、プロパガンダについて、ディベートの内容を整理し、パワポにおおざっぱにまとめる。
11	グループ活動③	グループごとに、プレゼンテーションに関する最終打ち合わせをする。プレゼン資料、おしゃべり原稿の確認など。
12	研究発表① 多様性	多様性に関するテーマのメディア分析グループ発表（1）、全体討論、振り返り
13	研究発表② 若者とシチズンシップ	若者とシチズンシップに関するテーマのメディア分析グループ発表（2）、全体討論、振り返り

14 研究発表③ プロパガンダ プロパガンダに関するテーマのメディア分析グループ発表（3）、全体討論、振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

状況によって、グループによる授業外の活動が入ってくることを了承すること。また、授業・グループ活動への積極的な参加が求められる。

パートナー校の状況が許せば、海外の学生との交流もあり得るため、簡単な英語の読み書きが要求される場合もある。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

なし。授業のレジュメ、参考文献等は、その都度授業用グループウェア上にアップロードする。

【参考書】

必要に応じて提示する。

【成績評価の方法と基準】

個人の課題（分析）提出物（30%）、グループによる課題制作物、プレゼン（プレゼン資料、班活動報告など含む）、授業の出席・参加貢献度（20%）、個人レポート（50%）によって総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

グループ学習でのコミュニケーションツールとして、Hoppii のグループウェアを用意したが、気軽には使えないとのこと。簡単なコミュニケーションには、LINE の活用も推奨する。

【学生が準備すべき機器他】

基礎的なパソコンスキルを習得していることが望ましい。

【その他の重要事項】

本授業を受講する際は、「メディア教育論Ⅱ（メディアと教育Ⅱ）」をセットで履修することが望ましい。

本授業では、グループ活動がしやすい情報実習室 H を使用している。定員は 26 名のため、人数が多いときは、最初の授業で、上級生から受講者を確定する。下級生は、最初の授業で選抜が行われる場合がある。

最初の授業で選抜による履修者が確定した場合、確定後の履修（授業 2 回目以降）は、いかなる理由も認めない。そのため、最初の授業には必ず出席すること。

最初の選抜で受講者の権利を得たが、本授業を履修しないと決めた者は、速やかに教員に連絡すること。

状況によっては海外の学生との交流もあり得るため、簡単な英語の読み書きが要求される場合もある。

【Outline (in English)】

(Course outline) : Students will learn the theory and practices of "Media and information literacy" that are based on the curriculum of the UNESCO, analyze real media and information contents, and lead presentations/discussions/debates in a group. Examples include the theoretical background of media and information literacy concerning citizenship, media, information language, representation, and so on.

(Learning Objectives) : Through analysis of diverse media, students can develop the following four competencies of media and information literacy education: critical thinking skills, media production, communication skills, and collaboration skills.

(Learning activities outside of classroom) : Students should be aware that group activities outside of class may be required depending on the situation. Active participation in class and group activities is expected.

(Grading Criteria /Policy) : Comprehensive evaluation will be based on individual assignment (analysis) (30%), group work and presentations (including presentation materials, group activity reports, etc.), class attendance and participation contribution (20%), and individual reports (50%).

EDU200MA

メディア教育論Ⅱ

展開科目

村上 郷子

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

曜日・時限：木 4/Thu.4 | 配当年次：2～4 年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

マルチメディアを活用したグループによる協働活動を通じて、様々なメディア文化の様式を理解し、メディアの読み解きや映像制作に関する基礎的なスキルを学ぶ。特に、デジタルストーリーテリングの動画制作を通じてメディアの批判的分析と創造を目指す。

【到達目標】

デジタルストーリーリングの制作を通じて、メディア情報リテラシー教育における4つの能力、批判的思考能力、メディアの制作、コミュニケーション能力、コラボレーション能力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

メディア情報リテラシー教育の重要な概念に関する理論的背景及び実際に学びながら、グループで決定したテーマについて各自がメディア制作（デジタルストーリーリング等の動画）を行い、プレゼンを行う。毎回講義とグループワークを組み合わせる。テーマについては、2・3 回目の授業でアンケート調査を行う。アンケート調査、プレゼンテーション、グループディスカッションの感想等については、授業の初めに、前回の授業で提出されたりアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。大学行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	授業ガイダンス	授業及び授業用グループウェア利用ガイダンス、メディア情報リテラシー教育（MILE）とは何か
2	メディア情報言語①	多様なメディア情動的テキストのなかのコードとときまり
3	メディア情報言語②	海外の動画、HP、ポスターで使われるコードの分析と評価
4	広告①	広告規制の分析と適用、収益モデルとしての広告
5	広告②	パブリック・サービス・アナウンスメント（PSA）とはなにか（分析と企画）
6	新旧のメディア①	メディアの歴史、新旧メディアの違い、グループ活動（絵コンテ、ストーリー展開）
7	新旧のメディア②	民主主義社会におけるニュー・メディアの可能性と弊害、グループワーク（ストーリー展開）
8	課題制作①	グループによる素材集め（ビデオ・写真撮影等）
9	課題制作②	グループによるプレゼン資料（パワポ）の作成および動画やデジスタ等の制作
10	課題制作③	グループ発表の最終確認（パワポ・動画やデジスタ等の最終確認）
11	課題発表①	課題のグループ発表（1）、全体討論（何を伝えたいのか、各自のテーマを明確にする）
12	課題発表②	課題のグループ発表（2）、全体討論
13	課題発表③	課題のグループ発表（3）、全体討論
14	メディアと教育に関する総まとめ	振り返り・総合ディスカッション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

グループによる授業外の活動が入ってくることを了承すること。また、授業・グループ活動への積極的な参加が求められる。

パートナー校の状況が許せば、海外の学生との交流もあり得るため、簡単な英語の読み書きが要求される場合もある。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

なし、適時参考資料・レジメを授業用グループウェア上にアップロードする。

【参考書】

必要に応じて提示する。

【成績評価の方法と基準】

個人による課題制作物（個人のデジスタ・動画作品、他授業での課題）（30%）、グループによる課題制作物、プレゼン（プレゼン資料、班活動報告など含む）、授業への参加・出席（30%）、個人レポート（40%）によって総合的に評価する。

授業の性質上、授業への出席とグループ活動への参加が重視され、出席は80%を目安とする。欠席は3回までは不問とする。正当な理由がなく出席不良（14回中4回以上の欠席）のものは、「グループによる課題制作物、プレゼン、授業への参加・出席（30%）」の部分は0とする。正当な理由があるため4回以上欠席するものは、欠席理由を記した証明書を持参すること。トータルで5回以上無断欠席する・したものの成績は、理由の如何を問わず原則として0とする。本授業は「必修」ではないため、欠席が多くなると予想される者は、他の授業を検討されたい。

全ての班活動のプロセス、毎回の宿題・決定事項、共有ファイル（文書・パワポ・画像・他）提出物等はグループ活動の記録として共有するため、必ず授業用グループウェア（Hoppii）上にアップロードすることを原則とする。また、授業での全ての提出物は、授業用グループウェア上にアップロードすることを原則とする。よって、アップロードが不完全であったり、なされていない場合は成績の評価はできないため、0になる。ファイルをアップロードする際、必ずリンクの確認をすること。

【学生の意見等からの気づき】

シラバス原稿作成時アンケート結果集計中

【学生が準備すべき機器他】

基礎的なパソコン・動画作成スキルを習得していることが望ましい。

【その他の重要事項】

・授業では授業用グループウェアを教員及び学生同士（海外の学生も含む）のコミュニケーションツールとして活用する。

本授業では、グループ活動がしやすい情報実習室 H を使用している。定員は26名のため、人数が多いときは、最初の授業で、上級生から受講者を確定する。下級生は、最初の授業で選抜が行われる場合がある。

最初の授業で選抜による履修者が確定した場合、確定後の履修（授業2回目以降）は、いかなる理由も認めない。そのため、最初の授業には必ず出席すること。

最初の選抜で受講者の権利を得たが、本授業を履修しないと決めた者は、速やかに教員に連絡すること。

状況によっては海外の学生との交流もあり得るため、簡単な英語の読み書きが要求される場合もある。

【Outline (in English)】

(Course outline): Students will analyze media and information contents and create digital-story telling (DST) videos.

(Learning Objectives): Through the production of digital storytelling, students will acquire four skills in media and information literacy education: critical thinking skills, media production, communication skills, and collaboration skills.

(Learning activities outside of classroom): Students should be aware that group activities outside of class will be included. In addition, active participation in class and group activities is expected.

(Grading Criteria /Policy): Comprehensive evaluation will be made based on individual project work (individual digital and video works, assignments) (30%), group project work, presentations (including presentation materials, group activity reports, etc.), class participation (30%), and individual reports (40%).

EDU200MA

教育マネジメント I

展開科目

仲田 康一

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

曜日・時限：水 2/Wed.2 | 配当年次：2~4 年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、政府・自治体・学校・民間団体などが取り組む「教育改革」についての講義と議論を行う。

授業の目的は、次の3つである。

- (1) 教育改革の俯瞰的・構造的な理解を得ることで、教育時事を知るとともに、教育学を学び進めるための知的な土台を獲得すること。
- (2) 教育問題を、「教室」「学校」「家庭」の中だけでなく、システムやマネジメントといった要素とつなげて捉える発想を持てるようになること。
- (3) 教育改革を研究するための様々な問題設定に触れ、教育研究の幅広さを知るとともに、教育改革を研究するための資料やデータの在り処を探すスキルと、それらを分析する視点を手にすることで、卒業論文等につながる知的スキルを獲得すること。

【到達目標】

受講者に到達してほしい目標は次の4つである。

- (1) どのような問題が、どのように教育改革の【イシュー】となっている（いない）のかを説明できるようになる。
- (2) 教育改革に関わる多様な【アクター】が、どのように改革に参加しているかを説明できるようになる。
- (3) 教育改革が、課題解決のために行われる【仕組み】の創造・変革であることを前提に、どのような【イシュー】の背後に、どのような【仕組み】の論点があるのかを説明できるようになる。
- (4) 【仕組み】の改革が、利害や思惑の交錯する政治的議論の対象であることを前提に、どのような【アリーナ】で、どのような議論がなされている（いない）のかを調査するスキルと、分析する視点を持てるようになる。

===== 以下はキーワードの例 =====

【イシュー】

キャリア教育、不登校・いじめ、教職の高度化と魅力化、グローバル化、教育 DX、子どもの貧困や格差など、解決されるべき課題のこと

【アクター】

学校、教育委員会、文科省はもとより、政府（内閣府、経産省等々）、政治（与野党の動き）、超国家機関（UNESCO、OECD、条約の影響）、民間セクター（NPO、株式会社等）を含む

【仕組み】

制度、組織、予算など

【アリーナ】

審議会、国会、地方議会、等々

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

授業の進め方については、次の7点を把握されたい。

- (1) 基本的には講義であり、教育改革の【イシュー】【アクター】【仕組み】【アリーナ】について扱う。グループディスカッションを取り入れることがある。
- (2) 第2回から第12回までは、【アクター】を軸とした3部構成で進める。
 - ・第1部（全3回相当）は学校
 - ・第2部（全3回相当）は中央政府（政府や国会）
 - ・第3部（全5回相当）はその他の多様なアクター（株式会社、NPO、地域社会、教育委員会、超国家機関等）
- (3) 教育改革にとって最も重要な「学校」の現状について理解を深めるとともに、個々の受講者が自らの学びのキャリアを辿る意味で、全員が「母校研究」を行い、共同吟味をする（5月頃に実施し、受講生相互の交流の場ともしたい）。

- (4) 教育改革を分析するための資料やデータについて、特に、政府審議会、国会などの資料分析をデモンストレーションし、実習してもらう回を設ける。
- (5) 特徴的な教育改革を進めている事例（企業、NPO、学校、教育委員会）について、学生有志のプレゼンテーションを行う回を設ける（都合が合えばゲストスピーカー等の招聘もしたい）。7月頃を予定。
- (6) 最終レポートは、7月頃に授業内で受講者による相互吟味の回を設け、クラスメイト並びに教員から受けたフィードバックを反映させたものを最終提出する。
- (7) 毎時、アテンダンスチェックという形で、コメント提出を求める。主な質問や、紹介に値するコメントは、次回に全体にフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の方法・内容・予定・学ぶ意義・成績評価等について
第2回	■第1部・学校①： 教育を受ける権利の保障	憲法、子どもの権利条約
第3回	■第1部・学校②： 学校制度の意義と課題	カリキュラム、教育費、教育格差、教師の多忙化
第4回	■第1部・学校③： 母校研究の交流	各自の「母校」について、その教育や運営の特徴をまとめ、内容を共有する。
第5回	●第2部・中央政府①： 文科省における教育改革の力学	文科省による教育改革の作られ方
第6回	●第2部・中央政府②： 国会における教育論議	立法や、質疑を通じた国会の教育改革への関与の在り方（こども基本法を例に）
第7回	●第2部・中央政府③： 省庁間の連携と競合	複数象徴にまたがる教育政策の動向について（キャリア教育、教育 DX、子どもの貧困等を例に）
第8回	▲第3部・その他のアクター①： 超国家機関	OECD や UNESCO の影響、条約の役割（PISA、Learning Compass、子どもの権利条約を例に）
第9回	▲第3部・その他のアクター②： 株式会社	株式会社の参入、教育産業の動向（GIGA スクール、教育 DX、キャリア教育等を例に）
第10回	▲第3部・その他のアクター③： NPO	地域における行政と非営利団体の連携（子どもの貧困問題、不登校、ダイバーシティに関する教育課題を例に）
第11回	▲第3部・その他のアクター④： 地域社会	学校と地域の連携（探究学習、キャリア教育等を例に）
第12回	▲第3部・その他のアクター⑤： 教育委員会	自治体独自の教育改革の動き（地域カリキュラム、独自教育予算等を例に）
第13回	最終レポート草案のシェアリング	最終レポート草案を持ち寄り、シェアリングを行う。
第14回	総括ディスカッション	授業全体のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

指定のあった課題を授業前後の所定の時までには実施する。

- ・レジメの再読、まとめ
- ・ワークシートの準備
- ・アテンダンスチェック課題の提出
- ・母校研究の実施
- ・最終レポートの作成

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

テキストは特に指定せず、参照すべき文献・資料については、その都度示す。

【参考書】

参照すべき文献・資料については、その都度示す。

【成績評価の方法と基準】

毎回の参加度（主にアテンダンスチェック課題やディスカッションへの参加状況にて把握）を 40%、母校研究の成果を 20%、最終レポートを 40%として評価する。

【学生の意見等からの気づき】

母校研究は思いのほか盛り上がったので、今年度も実施予定とした。

【その他の重要事項】

教員をどれだけ活用するかが大学での学びの質を大きく左右します。教員への質問・相談は学生の権利であり、教員にとってもやりがいの源泉ですので、どうぞお気軽に。

【Outline (in English)】

【授業の概要（Course outline）】

This class aims to develop students' broad understandings on educational change, through dealing with the education system (especially schooling system), and through co-analysing distinctive initiatives, in addition to through conducting a case study on the school students graduated from.

【到達目標（Learning Objectives）】

At the end of this class, students are expected to be able to

- 1) gain basic and broad knowledge of what issues are (or are not) on the education reform agenda.
- 2) acquire the understandings on how the various actors involved in the policy process of education reform.
- 3) explain how various reform agendas are being systemised.
- 4) develop the skills to research what arguments are (and are not) being made in different political arenas and to have a perspective to analyse them.

【授業時間外の学習（Learning activities outside of classroom）】

Before and/or after each class meeting, students are required to have completed the required assignments such as

- Rereading and summarising the material handed out in class
- Submitting Attendance Check Assignment.
- Conducting case study

The standard preparation and review time for this class is two hours each.

【成績評価の方法と基準（Grading Criteria /Policy）】

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Attendance Check: 40%, Case study report: 20%, End of semester report: 40%

EDU200MA

教育マネジメントⅡ

展開科目

櫻井 直輝

単位数：2単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

曜日・時限：月2/Mon.2 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、地方自治体において学校教育を取り巻く様々な教育課題に対し、どのような改革・政策が実施されているのか、具体的な政策やその形成過程を取り上げながら学習する。履修者は、教育政策・行政の形成・実施過程について学習した上（講義）で、具体的な事例を取り上げて調査・報告を行う（ミニ事例研究とディスカッション）。

【到達目標】

講義を通して、次の力を身につけることを目標とする。

- 1 地方自治体における教育政策・行政の仕組みを理解する
- 2 法令・政策文書、会議録の検索・分析することができる
- 3 各種公的統計データを検索・利用することができる
- 4 教育政策・行政に関して、具体的なデータや調べた事実に基づいて自身の見解を説得的に展開することができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

事前に指定された資料・文献等を読んだ上で講義に参加する。講義（あるいはオンデマンド学習用の動画配信）では地方教育政策・行政の仕組みと政策リサーチの方法について解説する。

講義の後半ではグループによる政策リサーチ（事例調査）の実施、共同分析の結果報告と報告内容に関するディスカッションを行う。なお、政策リサーチについては講義内で一定の時間を設けるが、原則として講義時間外での調査・分析が必要となる。履修者は予め作業時間を確保しておくことが望ましい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり/Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の方法・内容・予定・学ぶ意義・成績評価等について
第2回	国レベルの教育行政システム	国の教育行政機関と政策形成の仕組み
第3回	地方レベルの教育行政システム	都道府県・市町村の教育行政機関と政策形成の仕組み
第4回	政策リサーチの進め方：公文書・データベースの活用	論文、政策文書、法令・会議録データベースの検索と利用 ※ PC 持参
第5回	政策リサーチの進め方：公的統計データの活用	公的統計データの検索と利用 ※ PC 持参
第6回	ミニ事例研究についての説明	方法、まとめ方、提出方法、グループ分けと協議
第7回	事例解説：学校再編	人口減少地域で行われる学校再編政策について解説する
第8回	事例解説：働き方改革	学校の働き方改革・労働安全衛生について解説する
第9回	事例解説：自治体発カリキュラム改革	自治体独自の教科導入に関わる改革について解説する
第10回	事例解説：小中一貫教育	小中一貫教育の導入に関わる改革について解説する
第11回	政策リサーチ：グループワーク	グループワーク（発表予定の内容）について教員に報告・意見交換

第12回 政策リサーチ：グループ内でのディスカッション
グループディスカッション

第13回 政策リサーチ報告：成果報告（前半）
各グループの調査結果報告とディスカッション

第14回 政策リサーチ報告：成果報告（後半）
各グループの調査結果報告とディスカッション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義資料等を web 配信するので各自準備して講義に望むこと。必ずしも印刷する必要はないが、PC やタブレット等を持参して閲覧や作業に支障がないようにすること（スマートフォンでの閲覧は非推奨）。

後半の政策リサーチについては、講義時間外の学習や作業が必須となる。グループの運営によって異なるが、資料収集やレジュメ作成等で4時間程度は確保することが望ましい。他の講義や学内・学外活動によって支障がでないよう予め注意してほしい。また、グループ活動になるので他のメンバーに迷惑をかけないように心がけてほしい。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。

【参考書】

青木栄一・川上泰彦『教育の行政・政治・経営 [改訂版]』放送大学学術振興会、2023年。

村上祐介・橋野晶寛『教育政策・行政の考え方』有斐閣、2020年。

伊藤藤一郎『政策リサーチ入門（増補版）』東京大学出版会、2022年。

【成績評価の方法と基準】

評価は以下の点について、グループ活動及び成果報告の結果を通じて評価します。

観点1：地方自治体における教育政策・行政の仕組みを理解する

観点2：法令・政策文書、会議録の検索・分析することができる

観点3：各種公的統計データを検索・利用することができる

観点4：教育政策・行政に関して、具体的なデータや調べた事実に基づいて自身の見解を説得的に展開することができる

すべての観点について、発表資料の記載内容と発表（配点：50点）

と個人で作成する最終レポート（発表内容や質疑応答への回答をふまえたものとする。配点：40点）で評価します。なお、最終レポート

と併せて、自身がグループワークにどのような貢献をしたか（どのようなアイデアを提示したのか、どのような作業を担当したか等）を記載してペーパー（配点：10点）を提出していただきます。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません

【学生が準備すべき機器他】

「※ PC 持参」の回はパソコンを持参してください。それ以外にも必要に応じて PC やタブレットを活用することを推奨します。

【その他の重要事項】

講義回を欠席する際は、教員に予め連絡のこと。連絡先は初回講義資料で提示する。またグループ活動回を欠席する場合は教員及びグループのメンバーに予め連絡すること

【Outline (in English)】

Course outline

In this lecture, students will learn what kind of reforms and policies are being implemented in local governments to address various educational issues surrounding school education, taking up specific policies and their formation process. Students will learn about the formation and implementation process of educational policy and administration, and then research and report on specific cases.

Learning Objectives

Through the lectures, the course aims to develop the following skills.

students should...

1 Understand the structure of education policy and administration in local governments

2 be able to search and analyze laws, policy documents, and meeting minutes

3 be able to search and use various official statistical data

4 be able to persuasively develop one's own views on education policy and administration based on concrete data and researched facts

Learning activities outside of classroom

Lecture materials and other materials will be distributed via the web, so please prepare for the lecture by yourself. Although it is not necessary to print the lecture materials, students are encouraged to bring their own PCs, tablets, etc. so that there are no obstacles to viewing or working with them (viewing with smartphones is not recommended).

For the policy research in the second half of the course, study and work outside of lecture time will be required. It is desirable to secure about 4 hours for collecting materials and creating a resume, so please adjust your schedule in advance so that you will not be unable to work due to other lectures or on-campus/off-campus activities.

This will be a group activity, so please be mindful not to inconvenience other members.

Grading Criteria /Policy

Grading will be based on the perspectives indicated in the achievement objectives through the results of group activities and reports.

Content and presentation of presentation materials: 50%

Final report to be prepared by each individual: 40%

In addition to the final report, students will be required to submit a document with their own contribution to the group work (10%).

EDU200MA

教育政策

展開科目

村上 純一

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

曜日・時限：月 1/Mon.1 | 配当年次：2～4 年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「教育」と「政策」とを結びつけて考える機会は、日常ではあまり多くないかもしれませんが、しかし、実際にはほとんどの教育活動は「政策」として策定され、それに則って実施されています。この授業では、教育に関する今日の「政策」を俯瞰し、そこに込められた目的や実施上の課題、今後の政策展望などを考えていきます。人のライフキャリアの視点も踏まえ、保育・就学前教育に関する政策から生涯学習政策までの段階に沿いながら今日の教育政策を考察したのち、今日における教育に関する諸問題をそれに関連する政策の観点から考え、理解を深めていきます。

【到達目標】

以下の各点について、当事者の視点で考え、理解できるようになることが目標です。

- 1) 今日の教育政策における課題・問題点
- 2) 公教育をめぐる諸政策の望ましい在り方
- 3) 個々人のライフキャリアにおける各学校段階の意義・役割

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は主に対面での講義形式で実施します。講義形式中心ではありますが、授業時間中の質疑応答も随時取り入れ、教員の講話一辺倒ではなく双方向のやり取りもある授業となるように努めていきます。また映像資料等も適宜ご紹介し、視聴覚教材を通じた理解の深化も図っていきます。各回、授業の最後にはリアクションペーパーの提出を求めます。いただいたリアクションペーパーは翌週の授業でご紹介することでフィードバックし、受講生間でも共有して更なる理解の深化に繋げていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	「政策とは何か」を、教育と関連づけて考える。
第 2 回	国と地方の教育行政のしくみ	教育政策の実施主体としての教育行政について、国レベルおよび地方自治体レベルそれぞれの構造および政府間関係を、近年の改革動向も含めて理解する。
第 3 回	保育・就学前教育政策	幼保一元化等の近年の政策動向とも絡めて、保育・就学前教育をめぐる政策を理解する。
第 4 回	初等中等教育政策	初等中等教育（小中高）段階における政策を、教育課程・教員・財政などの視点から理解する。
第 5 回	高等教育政策	大学入試改革など近年の諸改革も含め、高等教育をめぐる政策の変遷を理解する。
第 6 回	社会教育・生涯学習政策	学校外での学び、大人の学びをめぐる政策の動向を理解する。
第 7 回	今日のカリキュラム改革	最新の学習指導要領改訂や道徳教科化、外国語教育の拡充など、教育課程・カリキュラムに関する最新の政策動向を理解する。
第 8 回	学力テスト政策	国や自治体の学力調査や国際学力調査の結果や、その教育課程への反映状況などを理解する。
第 9 回	学校の「安心・安全」に関する政策	教育現場の「安心・安全」を守るための政策上の工夫や課題を考える。
第 10 回	いじめ問題に関する政策	「いじめ防止対策推進法」など、いじめ問題をめぐる政策の動向を理解する。
第 11 回	不登校・「子どもの貧困」をめぐる政策	不登校や「子どもの貧困」対策として策定・実施されている諸政策を理解する。
第 12 回	学校の「働き方改革」	教員の過酷な勤務実態と、その改善方策として考案されている政策について理解する。
第 13 回	少子化に関する教育政策	学校統廃合など、少子化に関連する教育政策について理解する。
第 14 回	授業のまとめ	授業全体をふりかえり、今日の教育政策のポイントを整理する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回、次の回の内容に関する予習課題を提示します。それに取り組んだ上で授業に参加するようにしてください。また各回の資料の末尾には関連する参考文献リストを添付します。1冊以上は必ず目を通すようにしてください。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しません。各回、資料を配布します。

【参考書】

資料の末尾に、各回の内容に即した参考文献リストを添付します。

【成績評価の方法と基準】

成績評価は授業各回のリアクションペーパーと学期末レポートを総合して行います。比率は中間レポート 40%、期末レポート 60%です。

【学生の意見等からの気づき】

2020 年度～2022 年度はオンデマンドでのオンライン形式で授業を実施していましたが、資料の内容には概ねご好評をいただけておりましたので、対面授業でも変わらぬ質量のものを提供できるように工夫していきます。2019 年度に対面授業を実施した際には、教員からの一方通行の講義もしくは教員－学生間でのやり取りが多く、受講生同士での討論・意見交換の時間ももっと欲しかったというご意見をいただけておりました。受講者数に拠る部分もありますが、今年度は受講生間でのコミュニケーションの機会も増やせるよう意識して授業を行ってまいりたいと考えております。

【Outline (in English)】

【Course Outline】

It seems to be unusual to think about education as a content of public policies. However, almost all of the educational activities are planned as 'policy', and are implemented as such. In this lesson, we overview the educational policies of contemporary Japan and think of their purposes and issues. First, we treat the policy about nursing and pre-school education. Second, we treat the policy about school education. And, at last, we treat the policy about lifelong education. From the viewpoint of life stages, we consider the public policies of Japanese education.

【Learning Objectives】

Understanding three points below.

- i) Issues of today's education policy
- ii) Ideals of education policy
- iii) The importance and roles of each school stages

【Learning Activities outside of Classroom】

It takes two hours to make a preparation of one lesson, and it also takes two hours to review one lesson.

【Grading Criteria / Policy】

Comments of each lessons (40%) & Terminal Report (60%)

EDU200MA

現代教育思想

展開科目

岩本 俊一

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

曜日・時限：火 3/Tue.3 | 配当年次：2～4 年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代社会における教育的諸問題ならびに諸課題を教育の論理に即して分析し、これを通じて教育的なものの見方・考え方ができる力を培うことができるようになることを本講義の概要・目的とする。

【到達目標】

一億総教育評論家と言われるほどに現代社会に流布する常識的な教育論から脱し、現代社会が抱える教育的諸問題を教育の論理に即して理解する手がかりを得ること、そしてさらにそうした諸問題を教育独自の視点の下に考えることができるようになることを到達目標とする。

The goal is to understand the problems of education in modern society according to the logic of education.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式によって行うことを基本とするが、質疑応答の機会を適宜設ける。課題等を課した場合には、その提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	はじめに ー 本講義の概要とねらい	本講義の到達目標や概要ならびに評価基準について説明する。
第 2 回	序論 ー 教育的なものの見方と考え方について	教育的なものの見方・考え方とはどのようなことか、またその基礎となる教育の論理とはどのようなことかについて論じる。
第 3 回	教育の思想と教育学	人権思想の発展と教育学の成立について
第 4 回	現代社会における教育の諸問題 (1) ー 「ゆとり教育」と「学力」の問題	あるべき「ゆとり教育」について論じる。
第 5 回	現代社会における教育の諸問題 (2) ー 公教育における道徳教育の問題	近代公教育における世俗性（ライシテ）の原則と道徳教育の可能性について論じる。
第 6 回	現代社会における教育の諸問題 (3) ー 「特別の教科 道徳」の問題	上記5を踏まえ、「特別の教科 道徳」（「道徳」の教科化）の問題について論じる。
第 7 回	現代社会における教育の諸問題 (4) ー 教員養成の問題	教師の「資質」向上をめぐる問題ー日本における教員養成政策の変質について論じる。
第 8 回	教育におけるヒューマンイズムの探究 (1) ー 近代教育思想の展開	近代教育思想の本質とその史的発展について論じる。
第 9 回	教育におけるヒューマンイズムの探究 (2) 子どもの発見	ルソーにおける「子どもの発見」の意味について論じる。
第 10 回	教育におけるヒューマンイズムの探究 (3) ルソーの教育思想の継承と課題	ルソーの教育思想の現代的継承の在り方について論じる。
第 11 回	教育における体罰の問題 (1) 体罰肯定の思想の問題	体罰肯定論ー体罰は教育的情熱の発露であるーの本質的問題点について論じる。
第 12 回	教育における体罰の問題 (2) 体罰克服の論理	体罰批判の思想を手がかりにして体罰克服の論理を論じる。
第 13 回	本講義を振り返って（質疑応答）	本講義の内容などについて質疑応答を適宜交えてまとめをする。
第 14 回	まとめと試験	授業のまとめと試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義の後に内容をまとめるなど、復習を通じて理解を深めること。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は特に使用しない。

【参考書】

参考文献については必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

期末に行われる試験 100 % で評価する。

平常点は加味しない。

【学生の意見等からの気づき】

指摘された点については、予測された点多々あり、可能な限り真摯に改善に努める予定である。

ただし、正反対の意見があるものも散見されるため、その部分については慎重に検討したいと考えている。

【Outline (in English)】

Outline:

In this class we will examine the issues and challenges surrounding education in present-day society using a pedagogical framework.

The purpose of this examination will be to cultivate the students' ability to conceptualize and think from a pedagogical standpoint.

Goal:

The goal is to understand the problems of education in modern society according to the logic of education.

Learning activities outside of classroom:

After the lecture, try to understand the contents.

Grading Criteria /Policy:

Grade only in the final exam.

Emphasis is placed on whether the lecture content is understood accurately.

EDU200MA

生涯学習論Ⅲ（成人教育論Ⅰ） 展開科目

森本 扶

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

曜日・時限：木 4/Thu.4 | 配当年次：2~4 年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代において、人々の学びの場や機会は大きく広がっている。生涯学習という概念も注目され、子ども、青年、親、女性、高齢者、障害をもつ人など、各ライフステージや置かれている立場によって、様々な学習課題が生じている。こうした中で社会教育・生涯学習のもつ可能性について考えられるようになることを目的とする。

【到達目標】

- ・社会教育・生涯学習にまつわる問題群の理解と解釈
- ・社会教育・生涯学習行政の理解と解釈
- ・現行のさまざまな社会教育・生涯学習実践の理解と解釈

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

基本的には毎回教官が用意するレジュメデータをもとに講義形式で進めていく。適宜メモが必要であればとること。時折映像学習を取り入れる。終盤にはワークショップも取り入れる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業の目標・方法・計画を説明
第 2 回	地域社会における子ども の生活と居場所づくり	青少年団体と子ども、子どもの居場所づくり、放課後対策、子どもの社会参画など
第 3 回	青年の自立と社会参画	青年教育の歴史、現代青年の自立・社会参画の課題、自立を育む社会参画論など
第 4 回	子ども・若者に関わる生涯学習の実践（映像学習）	「居場所づくり」や「社会参画」の実際
第 5 回	子育て不安と子育ての共同化	子育ての共同運動の歴史、子育て不安の構造、子育てグループ・ネットワークの形成など
第 6 回	成人女性の教育と男女共同参画社会	婦人解放と学習、国際的なジェンダー問題学習、女性関連施策など
第 7 回	子育て・ジェンダーに関わる生涯学習の実践（映像学習）	子育て支援、共同保育所、LGBT 問題学習など
第 8 回	高齢者の学習活動と生きがいづくり	高齢期学習、高齢期準備教育、高齢化理解教育、生活支援学習など
第 9 回	障害者の学習文化活動と社会的排除に挑む学び	障害者の権利保障と学習文化活動、社会的排除の構造と学習課題など
第 10 回	高齢者・障害者に関わる生涯学習の実践（映像学習）	高齢者学級・大学、共生ケアと地域づくり、障害者の自立と学習の取り組みなど
第 11 回	地域における社会教育・生涯学習施設の役割	多様化する学習施設の現状
第 12 回	学校の再生と地域の教育力	公民館・図書館・博物館の歴史・役割 学校と地域の関係、開かれた学校づくりの流れ、学校支援の今日的展開と課題など
第 13 回	生涯学習に関わるワークショップ：意見表明スケール	対話型授業：これまでの授業内容をふまえて論点を抽出し、より深く議論する
第 14 回	授業内テストと全体のまとめ	授業内テストの実施後、全体のまとめ、テスト内容のふりかえりを行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・下記参考書や新聞等において扱われる社会教育・生涯学習の関連記事に関心をもち、記事等を収集し感想や意見をまとめておくこと。取り組み時間の目安は、基本的には人それぞれだが、120 分程度。
- ・社会教育・生涯学習の用語についての理解を深めるよう、復習に努めること。取り組み時間の目安は、基本的には人それぞれだが、120 分程度。
- ・講義の内容を参照しながら、自分自身の自己実現のために自らの生き方を考えること。取り組み時間の目安は、基本的には人それぞれだが、どれだけ取り組みんでも構わない。

【テキスト（教科書）】

特に使用しない。

【参考書】

佐藤一子編（1998）『生涯学習と社会参加』東京大学出版会

川野辺敏・山本慶裕編著（1999）『生涯学習論』福村出版
鈴木真理編（2003）『シリーズ 生涯学習社会における社会教育 1～7』学文社
佐藤一子編（2003）『生涯学習がつくる公共空間』柏書房
佐藤一子（2006）『現代社会教育学』東洋館出版社
上田幸夫・辻浩編著（2009）『現代の貧困と社会教育』国土社
鈴木真理・梨本雄太郎・永井健夫編著（2011）『生涯学習の基礎』学文社
社会教育・生涯学習辞典編集委員会編（2012）『社会教育・生涯学習辞典』朝倉書店
佐藤一子編（2015）『地域学習の創造』東京大学出版会
手打明敏・上田孝典（2017）『〈つながり〉の社会教育・生涯学習』東洋館出版社

【成績評価の方法と基準】

映像学習時の感想文（10 点 × 3 = 30 点）、期末テスト（70 点）およびリアクションペーパーの内容（+ a）による総合評価を予定している。

【学生の意見等からの気づき】

学校以外の実社会における教育・学習の多様性に気づいたとの意見をふまえ、教育・学習の具体例を示し、新聞やビデオ等の教材なども使いながら、履修者自らの今後の自己実現に資するような授業を展開していく。

【学生が準備すべき機器他】

紙プリントは基本的に配布しないので、学習支援システムでレジュメや資料を確認するために PC・タブレットなどの端末が必要。準備できない場合は教官に相談する。

【Outline (in English)】

[Course outline]

The number of places and opportunities for people to learn is currently expanding. The concept of lifelong learning is gathering attention, and children, adolescents, parents, women, elderly people, and people with disabilities have various learning issues according to their life stage and position. This course aims to examine possibilities for social education and lifelong learning in the above situations.

[Learning Objectives]

- To understand and interpret issues associated with social education and lifelong learning
- To understand and interpret the public administration of social education and lifelong learning
- To understand and interpret various existing systems for impl

[Learning activities outside of classroom]

- ・ Be interested in articles related to adult education and lifelong learning that are dealt with in reference books and newspapers, collect articles, and summarize your impressions and opinions. The standard time for each person is basically about 120 minutes.
- ・ Try to review so that you can deepen your understanding of the terms of adult education and lifelong learning. The standard time for each person is basically about 120 minutes.
- ・ While referring to the contents of the lecture, think about your own way of life for your own self-actualization. The guideline for the time to work is basically different for each person, but it doesn't matter how much you work on it.

[Grading Criteria /Policy]

Impressions during video learning (10 points x 3 = 30 points), term-end exam (70 points) and statements in the workshop (+ a)

EDU200MA

生涯学習論Ⅳ（成人教育論Ⅱ） 展開科目

朝岡 幸彦

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
曜日・時限：月 3/Mon.3 | 配当年次：2～4 年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

生涯学習は多様な担い手によってとりまれている。学習機会の供給側（組織者・学習機会の提供者）の内容編成や展開の方法を中心に、歴史的、実践的、システムの理解を深め、学習支援の専門性を理解することをねらいとする。

【到達目標】

成人教育をプログラム編成する学習支援者としての専門性を理解し、実際にプログラムを作成する方法・技術を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

生涯学習の分野では、大学や公共機関とともに、民間の担い手が幅広く活動している実態をふまえ、生涯学習を推進・支援する課題に焦点をあてて考える。これらを通じて学習支援とは何かを考え、実際に学習プログラムを作成し、学習支援の専門性について理解を深める。毎時間の提出課題はフィードバックとして原則的に次の時間に共有し、優れたものを授業内で紹介して公表や解説を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	社会教育・生涯学習の講座	生涯学習において学習講座とは何か、本授業のねらいと授業計画の概要及び評価について説明する。
2	講座のつくりかた①	学習テーマの設定、学びを深めるプログラムの構成について考える。
3	講座のつくりかた②	講座の準備と運営のポイント、講師や職員の役割について考える。
4	水辺に向き合う社会教育・生涯学習①	「水辺を活かす」とはどのようなことなのかを考える
5	水辺に向き合う社会教育・生涯学習②	「湿地を活用した地域経済の振興」についてか k んがえることで、社会教育・生涯学習が水辺の活用にとどのように取り組むのかを考える。
6	水辺に向き合う社会教育・生涯学習③	「湿地とビジネスの関係性」を題材に、社会教育・生涯学習が水辺の活用にとどのように取り組むのかを考える。
7	水辺に向き合う社会教育・生涯学習④	「湿地・水と地域文化/現代文化」を題材に、社会教育・生涯学習が水辺の活用にとどのように取り組むのかを考える。
8	水辺に向き合う社会教育・生涯学習⑤	「湿地を活用した健康増進・社会福祉の充実」を題材に、社会教育・生涯学習が水辺の活用にとどのように取り組むのかを考える。
9	水辺に向き合う社会教育・生涯学習⑥	「湿地の保全・利用を支える CEPA」を題材に、社会教育・生涯学習が水辺の活用にとどのように取り組むのかを考える。
10	水辺に向き合う社会教育・生涯学習⑦	「すべての人の水辺のために」を題材に、社会教育・生涯学習が水辺の活用にとどのように取り組むのかを考える。
11	水辺に向き合う社会教育・生涯学習⑧	湿地の保全・活用と教育との関係性という視点から、これまでのレポートクリニックを行う。
12	講座のつくりかた③	幅広く伝える広報・宣伝の方法について考える。
13	講座のつくりかた④	講座終了後の支援、学びを拓く事業評価の視点について考える。受講者が作成した講座企画案について、発表・講評しながら「よい講座」について考える。
14	教室内期末レポート作成	授業の振り返りをふまえて、課題に即してレポートを作成する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストの講読。

授業時ごとに簡単な課題レポート（ワークシート）を作成する。

授業後半に地域課題や学習ニーズについて、データを収集し、各自が講座企画案を作成する。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

シリーズ 水辺に暮らす〈SDGs〉第 2 巻 高田・朝岡他編著『水辺を活かす』朝倉書店 2023 年

【参考書】

朝岡・飯塚・井口・谷口編『講座づくりのコツとワザ』国土社 2013 年
社会教育推進全国協議会『社会教育の“しごと”』2005 年
日本社会教育学会編『学びあうコミュニティを培う』東洋館出版社 2009 年
佐藤一子著『現代社会教育学』東洋館出版社 2006 年

【成績評価の方法と基準】

課題のうち①及び④は授業実施日より 5 日以内に提出し、②及び③は課題発題日から提出指定日までに提出してください。

- ①テキストから課題レポート（ワークシート） 60 %
②学習プログラム作成 20 %
③学習プログラムのポスター作成 10 %
④期末レポート 10 %

【学生の意見等からの気づき】

実際に生涯学習の事業計画を作成する作業をつうじて、単にアイデアだけではなく実際に学習を支援する専門性とは何か、実態に即した気づきがある。グループワークを導入して事業計画のポイントを共有することが重要である。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを使用するため、（できれば）携帯以外でのインターネット接続環境を各自で確保していることが望ましい。

【その他の重要事項】

学習プログラムを必ず作成して提出してください。

【その他】

授業中に出题される課題を提出すること。

【Outline (in English)】

Lifelong learning is engaged by various stakeholders. This class will cover subjects mainly related to the content organization and the development process. Participants of this class will understand the expertise of learning support in a historical, practical and systematic way.

By the end of the course, students should be able to do the followings: the expertise of learning support in a historical, practical and systematic way.

Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapters from the text and plan a learning program. Your required study time is at least two hours for each class meeting.

Your overall grade in the class will be decided based on the following Short reports : 60%, learning program : 20%, poster : 10%, final report : 10%.

HIS200MA

学習の社会史 A

展開科目

山口 真里

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

曜日・時限：火 2/Tue.2 | 配当年次：2~4 年

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

子どもはいつの時代にも存在しますが、子どもへのまなざしや社会における位置づけは、時代や地域により異なります。同様に、子どもが何を学ぶべきか、その学びがどのように行われるかも一様ではありません。たとえば、私たちの社会では、すべての子どもが学校に通って一定の内容を学ぶことが制度化されていますが、こうした学校中心の教育が始まったのは近代になってからのことです。

この授業では、西洋教育史をベースに、子どもにどのようなまなざしが向けられ学びがどう遂行されてきたのか、また、子どもの学習機関としての学校がいかに成立し発展してきたのかを検討します。そして、私たちの社会で当たり前になっている子ども観や教育、およびそれが抱える問題と、それらの歴史がどのように関わっているのか、深く掘り下げて考えていきます。そうした考察を重ねることで、各自が現在の教育を多角的にとらえ、これからの学びを構想する視点を獲得することを目指します。

【到達目標】

- ・西洋における子ども観や学びの変遷を、背景にある歴史事象と共に説明できるようにします。
- ・授業で学んだことを生かし、広い視野で現在の教育問題を考察できるようにします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

- ・講義形式の授業を予定しています。
- ・授業資料を提示しながら授業を進めます。
- ・必要に応じて、オンラインの授業を併用します。
- ・授業内容の理解を深めるため、リアクションペーパーを実施します。
- ・授業に関わるテーマをグループでディスカッションし、他の受講生がどのように考察したのかを共有する機会を設けます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	講義概要や評価の方法の説明 基礎的な概念の説明
第 2 回	近代以前の子育てと徒弟制	中世の共同体における子育て 徒弟制による世代間伝達
第 3 回	中世ヨーロッパの教育	キリスト教教育と大学の誕生 中世における子どもの生活
第 4 回	近代における子どもの発見	近代以前の子ども観とその転換 人口変動と子どもへのまなざしの変化
第 5 回	近代教育思想の形成	ルソー『エミール』の子ども観 コメニウス、ロックの教育思想
第 6 回	近代家族の出現	前近代の家族と子ども 近代家族と子どもの教育
第 7 回	家庭、主婦の誕生と子どもの教育	家庭における女性の位置づけと教育の変容
第 8 回	子どもと労働	工業化以前の子どもの労働 産業革命と子どもの労働
第 9 回	近代学校の成立と子どもの学び	近代以前の学校 産業革命と近代学校の出現
第 10 回	民衆学校の進展と義務教育	国民教育の成立過程 労働者階級の子ども期の成立

第 11 回	子どもの福祉と教育	保護の対象としての子どもと救済事業 権利主体としての子どもと「子どもの権利条約」
第 12 回	子どもの世紀	「子ども中心主義」と新教育運動 エレン・ケイ『子どもの世紀』
第 13 回	現代の子ども	多様化する家族と学校 子どもの学習における諸問題
第 14 回	振り返りとまとめ	これまでの復習とまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・提示資料を用いて授業を復習し、知識の定着を図ります。
- ・リアクションペーパーを通して授業内容の理解と発展的な考察を深めます。
- ・本授業の学習準備・復習時間は各 2 時間程度を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用せず、適宜、授業資料を提示します。

【参考書】

適宜、授業内で提示します。

【成績評価の方法と基準】

レポート課題 60 %、リアクションペーパー 30 %、授業への貢献・平常点 10 % を基準に総合的に評価します。
なお、総授業回数の 2/3 以上の出席を単位取得の要件とします。

【学生の意見等からの気づき】

受講生からのフィードバックを重視し、引き続き授業運営を工夫していきます。

【学生が準備すべき機器他】

- ・リアルタイム型のオンライン授業（Zoom 使用）を受講するためのパソコン等、情報機器を準備してください。
- ・オンラインの授業およびグループ・ディスカッションは、カメラおよびマイクを ON にできる環境で受講してください。
- ・授業についてのお知らせや資料配布・課題提出等に、学習支援システム等を利用します。

【Outline (in English)】

Views on child depend on time or region, and therefore what kind of learning is encouraged to children and how to do it is also diverse. For example, in the West and Japan, it is modern time that the school began to play a central role in education.

In this class, based on the history of Western education, we will examine childhood and the education of children, and how the school as a child's learning institution has been established and developed.

Then, we will consider the relations between these histories and childhood, the education and problems they have in our society.

And it is the goal that each of us makes their meanings relative and to gain a perspective to conceive of the future.

After each class, students will be expected to have completed the reaction paper. Your study time will be about four hours for a class.

Your overall grade in the class will be decided based on the following.

Reports: 60%, Reaction papers: 30%, in class contribution: 10%

HIS200MA

学習の社会史 B

展開科目

原 葉子

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

曜日・時限：水 2/Wed.2 | 配当年次：2～4 年

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本における教育や学習のあり方は、近代化以降どのような経路をたどって形作られてきたのだろうか。この授業では、日本近現代において展開されてきた教育や学習に焦点を当て、ライフコース、家族、ジェンダー等の変容と関連させて理解するとともに、現代の問題につなげて考察することを目的とする。

【到達目標】

- ・教育や学習の社会史に関わる基礎的な知識を獲得する。
- ・歴史を学ぶことを通じて、現在の社会的事象を考察する力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

対面とオンラインの両方で授業を行う。講義中心だが、対面授業においては、受講人数によってグループワークを採り入れることがある。また、授業のテーマについての考察を深めるため、原則として毎回の授業後にリアクションペーパー等の提出を求める。場合によっては事前課題や小テストを課すことがある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	この授業で何を学ぶか、社会史とは何か
第 2 回	社会の近代化と教育	おもに西洋における近代化の諸相と、それに伴う教育や家族の変容
第 3 回	学校の近代	日本社会の近代化と学校制度
第 4 回	「教育する家族」の誕生	「教育する家族」としての近代家族の生成とその特徴
第 5 回	子ども観の変容	近代における「子ども中心主義」の展開とその影響
第 6 回	「教育する家族」の社会史	戦後の結婚観と配偶者選択方法の変化
	①配偶者選択の変容	
第 7 回	「教育する家族」の社会史	性別役割分業に基づいたジェンダー別
	②ライフコースの変容	ライフコースの形成とその影響
第 8 回	「教育する家族」の社会史	長期にわたる三歳児神話の影響と、母
	③母親役割の変容	親観の変容
第 9 回	「教育する家族」の社会史	家族規範の変容にともなう祖父母役割
	④祖父母役割の変化	の変化
第 10 回	「教育する家族」の社会史	「権威者」から「ケアする男性性」へ
	⑤父親役割の変容	
第 11 回	女子教育の展開	近代の女子高等教育から、戦後の家庭科必修まで
第 12 回	スポーツと身体の社会史	近代スポーツとジェンダーの関係
第 13 回	教育とセクシュアリティの社会史	性的身体の管理と性教育の歴史
第 14 回	まとめ	授業の振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業を理解するにあたり歴史についての知識を必要とするため、高校レベルの日本近現代史の概要を学習しておくこと。授業後は、参考文献等にあたり知識を深めるとともに、新聞等を読み現代社会の問題に関心を開いておくことを推奨する。予習時間・復習時間ともに各 1 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。

【参考書】

必要に応じて指示する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（課題提出など）50 %、期末試験 50 %

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックなし。

【Outline (in English)】

In what ways have modern education and learning been shaped since modernization? This course will help students understand issues related to education and learning in modern and contemporary Japan in the context of changes in the life course, family, gender, etc., and relate them to current issues.

It is desirable for students to have studied Japanese modern and contemporary history at the high school level and to read newspapers on a regular basis. Students are expected to spend approximately one hour before and after each class to understand the class content. Grading will be based on the final exam (50%) and submission of assignments (50%).

EDU200MA

教育社会学 I

展開科目

筒井 美紀

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

曜日・時限：木 3/Thu.3 | 配当年次：2～4 年

その他属性：〈優〉

【Outline (in English)】

How does (school) education function in our society and influence our way of thinking and our values? How should we evaluate such thoughts and values? In this class the students are to learn the sociological way of thinking with its basic concepts. Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter(s) from the text and answer some questions of "preparation resume." Your total study time will be four hours for a class. Your overall grade in the class will be decided based on the following: mid-term paper 30% and final exam 70%.

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

(学校)教育は社会においてどのような機能を果たしており、私たちの考え方や価値観にどのような影響を与えているだろうか。そうした機能や影響はどのように評価したらよいだろうか。このクラスでは、教育社会学の思考方法を基礎概念とともに学びます。

【到達目標】

・「教育のべき論」に飛びつかない——社会的現実を質的/量的データで捉える「ディテール力」の基礎を磨きます。
・「社会」のパーツを掘り下げる——「社会」とは天下国家とは限らない。家族、友人関係、バイト先、大学、将来の職場・職業・産業、家族・世帯・地域、AI 化・・・社会学的な知識と理解を徐々に習得し、教育と結びつけて考える力を養います。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

原則として対面授業を行ないます。ただし新型コロナの感染拡大状況によっては、zoom によるリアルタイム型授業に変更する回もありえます。

この授業は反転授業方式です。指定テキストを読み、この予習レジュメの Question を毎回こなして「授業に参加」のこと。授業は、指定テキストに書かれていることをなぞるのではなく、それを発展させ深めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	「森全体」を見渡す
第 2 回	中学校長「二人以上産む最も大切」-どう思う？	社会科学の表現作法（テキスト第 1 章）、学校の諸機能
第 3 回	大人が言う「失敗を恐れるな」を信じられる？	社会化、自己愛、ゆるし（テキスト第 3 章）
第 4 回	愛嬌たっぷり先生ロボットは有能か？	社会化と AI のインパクト（テキスト第 6 章）
第 5 回	どうしても働かなきゃダメ？	社会統制と「労働の道德化」（テキスト第 5 章）
第 6 回	大学と大学生、どのように増えてきた？	グラフの作成・記述・考察
第 7 回	大学と大学生、なぜこんなに増えてきた？	機能主義、アクター理論
第 8 回	男女別学高校、なぜ・どのように減ってきた？	第 6、7 回で得たスキルと知識の応用エクササイズ
第 9 回	経済と労働と教育、どう変わってきた？	近過去に関する基礎知識習得（テキスト第 1,4 章）
第 10 回	大学生の進路、なぜ・どのように変わってきた？	「能力」の構築主義的理解
第 11 回	やっぱり男性のほうが女性より仕事ができる？	統計的差別、ジェンダー化された能力、葛藤理論
第 12 回	給料 2 割減、週 20 時間労働を選ぶ？	ライフコース展望の男女差とその変化（テキスト第 4 章）
第 13 回	扶けてくれる人はどこにいる？	社会関係資本の脆弱化・偏在と包括支援政策（テキスト第 7 章）
第 14 回	まとめ	基礎概念の再確認、期末試験に向けて

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

私の授業は反転授業方式です。予習レジュメの Question をこなして授業参加のこと。本授業の準備学習・復習時間は計 4 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

筒井美紀（2016）『自分の殻を突き破るキャリアデザイン——就活・将来の思い込みを解いて自由に生きる』有斐閣

【参考書】

筒井美紀（2014）『大学選びより 100 倍大切なこと』ジャパンマニスト社

【成績評価の方法と基準】

中間レポートが 30 %、期末試験が 70 %

【学生の意見等からの気づき】

みなさん、授業と一緒に楽しみましょう。

【学生が準備すべき機器他】

パソコンやタブレットを持ってきてください。ない人はスマホでも構いませんが、画面が小さくて見にくいです。

EDU200MA

教育社会学Ⅱ

展開科目

筒井 美紀

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

曜日・時限：木 3/Thu.3 | 配当年次：2~4 年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本では、労働・福祉・生活・教育などさまざまな領域で歪み・軋みが続いています（リスク社会）。では、どのように再創造していけばよいのでしょうか。自治体や地域が現在、生活・就労困難者に対してどのような包括支援や教育訓練を展開しているのかを、社会的な視点から具体的に学ぶなかで、より善い社会をデザインしてゆきます。

【到達目標】

生活・就労困難者への包括支援や教育訓練という、「どう接したら／教えたらいかが」という対人関係の次元が浮かぶことが多いでしょう。これと同時に理解すべきなのは、人・モノ・カネ・情報といった諸資源のネットワーク化のありよう、教育の意義や機能や形態の変化、実現されるべき諸価値、といった点です。このクラスでは、ミクロな次元から、ビジネスや NPO や地域社会、組織や制度へと社会的な視野を広げます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

原則対面で実施します。ただし、コロナ感染状況によっては、zoom によるリアルタイム授業に切り替える回もありえます。

毎回、最初の 1/5 が前回リアベへのリプライ・解説、真ん中の 2/5 が班での議論、最後の 2/5 がミニ発表と筒井の発展的解説、というスタイルです。毎回、ざっくりとした予習課題があり、それをやったうえで身体を教室に運ぶこと。すると班での議論のレベルが上がって盛り上がり、充実感が得られ、実力がつきます。

レポートはコメントを入れて返却します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	「リスク社会」がもたらしたものと社会の反応・対応
2	自治体による就労・生活支援とは何か	自治体の新たな役割と求められる支援の包括性（テキスト序章）
3	国の福祉政策・労働政策はなぜ・どう変わってきたか	労働市場と福祉供給の劣化とそれへの対応（テキスト第2章）
4	シングルマザーを支援する飲食店	ビジネスは福祉を代替するか？（テキスト第9章）
5	横浜市の生活保護受給者への就労支援	行政セクターにおける就労支援の展開と課題（テキスト3章第3節）
6	社会調査と分析のコツ	調査で得たデータがどのように分析・加工され論文となるか（レポート作成のコツ）
7	就労・生活支援の営利組織への委託	行政と民間の「パートナーシップ」が孕む課題（テキスト第4章）
8	豊中市の就労・生活困者への支援	スモールステップを踏んだ支援と教育訓練、自治体の福祉・労政部門の連携の難しさ（テキスト第8章）
9	就労・生活支援の「出口」をどう創るか	中小企業支援の福祉的性質（テキスト第7章）
10	支援／教育と銘打たない支援／教育	「支援／教育」という「強制」へのアンチテーゼとしての「共生」（テキスト第11章）
11	高齢者と生きづらいつ若者をつなぐ	協同労働の可能性と課題（テキスト第5章）
12	中間的就労／社会的就労、半福祉・半就労とは何か	より善い社会（とくに労働と福祉と教育の領域）に向けた諸価値（テキスト序章）
13	誰もが働き、生きていける社会とは	より善い社会をデザインする（テキスト終章）
14	期末レポートに向けて	データ提示に基づく考察展開の書き方を習得する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

私の授業は反転授業方式です。テキストを毎回1章読み、予習レジュメの「問い」を解くという準備をして授業に臨むこと。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

筒井美紀・櫻井純理・本田由紀編著（2014）『就労支援を問い直す——自治体と地域の取り組み——』勁草書房。

【参考書】

授業中適宜指示

【成績評価の方法と基準】

中間レポート 30 %、期末レポート 70 %

【学生の意見等からの気づき】

毎年この授業の履修者は、将来、教育や支援に関わる仕事に就きたい人、自治体職員を目指す人、教師になりたい人、どんな社会で生きてゆきたいか自分なりのビジョンを確立したい人——などが多いです。

【Outline (in English)】

The Japanese society has been dysfunctioning in the various areas such as education, welfare, labour and life(risk society). Then, how should we recreate it? The students are to learn how to design better societies through reading and discussing the efforts by some municipalities and local organizations for comprehensive support of the people with difficulties in work and life. The goal is to widen your sociological perspective and to design a better society. Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter(s) from the text and answer some questions of "preparation resume." Your study time will four hours for a class. Your overall grade in the class will be decided based on the following: mid-term paper 30% and term paper 70%.

EDU200MA

教育経済学

展開科目

荒木 宏子

単位数：2単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
曜日・時限：木 5/Thu.5 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は、経済学の基礎的な考え方や分析手法を用いて、教育に係る諸問題、とりわけ、皆さんにとって身近な学校や大学での教育の役割や効果について考察を深めることを目的とする。皆さんはなぜ大学へ進学したのでしょうか？なぜ政府は学校や教育政策の運営、皆さんの学費の補助に税金を用いるのでしょうか？皆さん自身や、さらに次の世代の学び方に関するこれら問いに対し、論理的な考察を深めるための道具として、経済学の基礎的な概念や手法を学びましょう。

【到達目標】

本講義の主な到達目標は2つあります。ひとつは、皆さんにとって身近な学校教育や大学教育に係る諸問題に対する考察を深めることで、自分の大学生生活をとらえなおすきっかけを得ること。もうひとつは、経済学的なものの見方、分析の仕方を身につけ、教育のみでなく広く社会問題を論理的に考察し、選択する力を身に付けることです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

座学（インプット）に限らず、皆さんからのコメント発表などを、受講人数に応じて取り入れます。座学形式の講義の回も、演習問題やリアクションペーパーなどの課題があります。講義への積極的な参加が求められることを念頭に、履修を決定してください。また、講義期間における、新型コロナウイルス感染症にかかる様々な状況と講師の健康問題等を踏まえ、原則オンラインでの講義実施（講義時間リアルタイムでの zoom 配信の予定）となります。講義形式については、都度、学習支援システムや講義内にてご説明します。課題等に対するフィードバック方法：受講人数にもよりますが、基本的に、レポート等の課題の提出・フィードバックは学習支援システムを通じて行う予定です。受講人数が多くなった場合などには、授業時間内やオフィス・アワーを別途設けるなどして、適宜、課題等に関する講評や解説をまとめて行うこともあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	「経済学」を用いて教育を捉えるとは。本講義全般のテーマや問題意識の紹介。受講希望理由書の提出。
第2回	教育投資の基礎理論（1）	なぜ人は教育を受けるのか？なぜあなたは大学へ進学したのか？教育の効果、需要の目的を経済学的に考える（「消費」と「投資」）。人的資本理論の紹介。
第3回	教育投資の基礎理論（2）	人的資本理論をベースに教育があなたや社会にもたらす効果を考える。教育投資の収益率の計測方法を学ぶ。
第4回	教育投資の基礎理論（3）	学歴による賃金格差を説明するその他の理論・考え方の紹介。
第5回	教育投資の基礎理論（4）	教育投資の基礎理論のまとめ。講義内レポートについての説明。
第6回	教育の効果に係る経済学的実証分析	世界・国内における教育経済学実証研究の系譜と紹介。
第7回	中間レポート発表、討論	講義前半の論点、トピックに係るレポートの提出、発表など。
第8回	教育政策の経済学的評価（1）	二つの評価基準：効率性と公平性。教育効果を定量的に「測る」という考え方。教育生産関数。
第9回	教育政策の経済学的評価（2）	教育生産関数。政策評価手法の基礎、相関分析の紹介。
第10回	教育政策の経済学的評価（3）	教育の効果、学力の伸びをどのように測るのか？実験的手法等の紹介。
第11回	教育政策の経済学的評価（4）	日本、世界における教育経済学実証研究における政策評価手法。費用対効果分析の基本的な考え方。
第12回	教育政策の選択（1）	一つの教育政策を選ぶことの、総合的な経済学的効果を考える。金融教育などを例に。
第13回	補足及び復習、質疑応答など	12回までの講義内容の復習、時間内に説明できなかった論点の補足、質問の多かった論点の解説など。

第14回 教育のもたらすもの。講義全体を振り返り、教育への公費支出の意義、教育が社会の効率・公平にもたらす影響などを整理する。期末レポートの提出に係る質問時間を設ける。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

受講人数に応じ講義の形式が変わるため、あくまで想定ですが、下記のような予習、復習を求める可能性があります。

・講義で取り上げた内容に関わる論文、調査、学術雑誌などでの論考を探し、筆者の主張をまとめた上で、講義で身に着けた観点から自身の考察を述べるレポートの作成。

・講義内容に係る演習問題の回答や、自身の考察をまとめたレポートの提出。
・講義内で上記の発表を行う可能性もあります。

・自主的に課題に取り組む姿勢が求められます。
本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

とくに用いられません。

【参考書】

授業の中で、適宜紹介し、必要に応じて参考資料を作成し配布します。

【成績評価の方法と基準】

平常点：50%程度（中間レポートや講義内での演習問題・リアクションペーパーへの回答。講義での意見などの積極的な参加。）

期末レポート：50%程度

【学生の意見等からの気づき】

中間レポートや期末レポートの出題時期、分量、質問への対応の仕方については、前年度以前の学生の皆さんからの感想や意見を取り入れつつ、講義内での学習成果をより公平に評価できるよう、変更を加えさせて頂いています。また、リアルタイムのオンライン講義のため、接続トラブルなどによって講義参加に問題が生じたといったことについても、複数の報告が寄せられました。ネットワーク環境については、基本的には受講生の皆さんが、授業日時に講義に参加できる環境をご自身で整えて頂くことが、受講の前提となります。しかし、ご自身の責任ではない問題が生じる場合もありますので、皆さんからの状況を伺いつつ、適切な対処と公正な評価への配慮をすべく、その都度、意見を交換させて頂きます。

【学生が準備すべき機器他】

基本的に、講義時間リアルタイムにオンライン（zoom）での講義を行います。講義中は、質問にチャットまたは音声での回答を求めることがあるため、講義参加が可能なネットワーク環境を整えてください。不明なこと、心配なことがある場合には、受講前に荒木までメールで（hiroko.araki.45@hosei.ac.jp）問い合わせいただくか、あるいは初回の講義で質問をしてください。

【その他の重要事項】

この講義では、経済学の基礎的な概念や分析手法を学習しますが、高校数学以上を用いた解説などを行う予定はありません。よって、予備的な数学の学習などは特に必要ありません。受講人数や参加者の希望により講義内容や形式を一部変更する可能性があります。このため、履修希望者は、必ず第1回の講義に出席し、ガイダンスを聴くとともに、受講希望理由書（200～400字）を学習支援システムより提出していただきます。提出方法は、講義開始の一週間ほど前に学習支援システムよりアナウンスいたします。第1回の講義に出席できない方で履修を希望する方は、事前にメール（hiroko.araki.45@hosei.ac.jp）にて連絡をください。

【Outline (in English)】

In this course we'll learn to employ basic methods in Economics to analyze several subjects on education, with a special focus on topics that are familiar to everyone, such as the role of education and its impact on society and the individual. Why did you decide to enter the University? Why does the government fund the management of school and educational programs with tax? And why does the government subsidize your school fees?

Economics provides a set of tools for answering to these and many other related questions in a logical way, so let's learn about them.

Learning Objectives:

There are two main goals of this lecture. The first is to deepen the capability to consider various issues related to school education and university education, and to gain an opportunity to reconsider one's own university life. The other is to acquire an economic way of looking at and analyzing things, and to acquire the ability to logically consider not only education but also a wide range of social issues.

Learning activities outside of classroom:

The following preparation and review may be required.

・ Find articles and other materials related to the issues discussed in the lecture, summarize the author's arguments, and write a report in which you express your own thoughts.

・ Submit reports summarizing your own opinions and answers to the exercises related to the lecture content.

・ There is a possibility that you will make a presentation of the above in the lecture.

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each. Grading criteria:

Usual performance points: about 45% (mid-term report, answers to exercises and reaction papers in the lecture. Active participation such as opinions in lectures.)

Final report: about 55%.

MAN200MA

外書講読A (ビジネス)

展開科目

相澤 鈴之助

単位数：2単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

曜日・時限：木2/Thu.2 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

論文やレポートを執筆する際など、私たちはいろいろな文献を読みます。その際、日本語で書かれた文献だけでなく、英語で書かれた文献まで自由に読めると、私たちが獲得できる知識の範囲は大幅に広がります。この授業では、当初、平易な英字新聞記事を取り上げた後、経営学に関する古典的な研究論文に挑戦していきます。経営学の代表的な英語論文に実際に触れ、学問の意義や楽しさを体験してもらいたいと考えています。

【到達目標】

英語で書かれた専門的な文献（ジャーナルの文献）を、一人で読めるようになることが目標です。受講者のレベルに合わせて授業内容を編成しますので、英語に苦手意識を持っている人もぜひ受講してください。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

本授業は、受講者を指名して、英語文献の解釈または要約を発表してもらいながら進めていきます。取り上げる英文は平易です。科目の性格上、履修可能者数を30名に制限します。当該制限数を超過した場合には選抜を行うので、履修を希望する人は必ず第1回目の授業に必ず出席してください。なお、受講者の発言に対して教員が随時コメントし、それらのフィードバックを通じて英文解釈能力の向上および専門知識の獲得を目指していきます。大学行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の全体像と目標、講義内容の紹介を行います。
2	英字新聞記事 (1)	英字新聞の記事の抜粋を読みます。
3	英字新聞記事 (2)	英字新聞の記事の抜粋を読みます。
4	英字新聞記事 (3)	英字新聞の記事の抜粋を読みます。
5	英字新聞記事 (4)	英字新聞の記事の抜粋を読みます。
6	研究論文を読む (1)	英語文献 Abell(1980)Defining the Business の導入を読みます。
7	研究論文を読む (2)	英語文献 Abell(1980)Defining the Business の導入の続きを読みます。
8	研究論文を読む (3)	英語文献 Abell(1980)Defining the Business の導入の続きを読みます。
9	研究論文を読む (4)	英語文献 Barney(2001) の抜粋を読みます。
10	研究論文を読む (5)	Barney(2001) の抜粋の続きを読みます。
11	研究論文を読む (6)	英語文献 Porter(2003) Competitive Strategy の導入を読みます。
12	研究論文を読む (7)	Porter(2003) Competitive Strategy の導入の続きを読みます。
13	研究論文を読む (8)	Porter(2003) Competitive Strategy の導入の続きを読みます。
14	本講義のレビュー	これまでの講義内容のまとめを行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

英語に親しむ機会を増やしてください。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

開講時に指示します。

【参考書】

開講時に指示します。

【成績評価の方法と基準】

成績評価は、次のとおりです。

- ①授業における発言、提出物 70%
- ②平常点 30%

【学生の意見等からの気づき】

英語を深く読むことができたという意見が多かったため、これまでの方針を継続していきます。受講者はやる気のある人が多いので、教員としてもやりがいのある授業です。

【その他の重要事項】

- ・英文による学術文献を地道に読んでいく授業ですので、授業に先立つ予習は必須です。当初、文法の解説も行いながら逐語訳を行っていますが、軌道に乗ってきたら、論旨をおさえる形態に変更し、進度を速めます。これらは、受講者の発表によって行うので、積極的に参加してください。
- ・日本語の世界は「狭い」、海外には「広い」世界が広がっていることを、海外の文献を読むことによって知る機会になれば幸いです。
- ・受講希望者が30名を超えた場合には、受講者の選抜を行います。このため、初回の講義には必ず出席してください。

【Outline (in English)】

【Course outline】

If we can read not only Japanese but also literature written in English, the range of knowledge that we can acquire will be greatly expanded. In this lesson, initially, we will focus on plain English newspaper articles, before moving on to classic research papers on business administration. We would like students to experience the significance and enjoyment of learning by actually touching representative English papers on business administration.

【Learning Objectives】

By the end of the course, students should be able to do the followings:

- A.Understand the concepts and backgrounds necessary for business in English.
- B.Able to read academic literature written in English.

【Learning activities outside of classroom】

Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.

【Grading Criteria /Policy】

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Short reports : 70%、in class contribution: 30%

MAN200MA

外書講読 B (ビジネス) 展開科目

杉原 弘恭

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

曜日・時限：金 3/Fri.3 | 配当年次：2~4 年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

ビジネスに必要な知識の基礎を学びつつ、世界標準化してきている英米のビジネス様式の背景を探ります。

Steve Jobs が「アップルは Technology と Liberal Arts の交差点にしようとする」と述べたとき、どれだけの方が理解できたでしょうか？ 翻訳では異訳されてしまいました。また英文契約書が似た意味の動詞を 2 つ並べて使う意味は？ 原文で理解する意味がそこにあります。また、アメリカでは民間企業でありながら、環境や社会分野での公益提供する Bene fit Corporation という新しい会社制度が成立しています。この制度による会社では、そのような企業の役割を社員の内発的動機づけ Drive や Caring 概念と同期させようとしている傾向が見受けられます。企業をとりまく国際的なマクロ情勢から人間のありようまでを立体的に理解すべく、原典を参照しながら進んでいきます。

【到達目標】

ビジネスに必要な概念と背景を英語と共にマスターします。ビジネスに必要な概念をその背景と共にマスターし、キャリアデザインの基本に位置するモチベーション 3.0 などの考え方を理解することを目標とします。これらが capable communication, ひいてはのちの経営 (生涯学習とキャリア形成) の参考になれば幸いです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

出典や詳細な解説を行った資料を毎回支援システムの「教材」で配布します。講義ではそれを用いてポイントを説明していきます。

毎回、講義後に資料をあらためて音読しながら目を通し、Reaction Paper (下記、以下 RP という) を提出してください (学習支援システムの「テスト/アンケート」を使用)。なぜ音読しながら目を読むことが大事かは第 1 回目と 2 回目の講義でわかります。

講義に出席できない回は、オンデマンドで資料を読んで RP を提出してください。それに対する feedback は主に次の回の冒頭で行います。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

なし/No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション (オンデマンド)	講義のパーパスベクティブとネットワークの理解
第 2 回	国際ビジネスの背景にある違いは何から？	国際ビジネスでの日本との違いを知る。Common law と大陸法の理解が必要
第 3 回	英語と日本語の communication 構造	3 層構造を意識する、英文契約書の世界観を知る
第 4 回	日米欧の経営目的の違いと責任	Liberal Arts と Servile Arts の反映を知る
第 5 回	責任を表す言葉とその源流	ビジネス、アダム・スミスと聖書にみる Accountability
第 6 回	日米雇用システム比較	雇用慣行の違いと変化、経済情勢、国際法との関係
第 7 回	AI,DX と雇用	情報、AI の基礎知識と DX と雇用を知る
第 8 回	Druker の Management	MBO-S, SWOT, PDCA など理解する
第 9 回	Management by commitment	commitment の重要性、経営の語源、Innovation, Value chain, Co-creation など理解する
第 10 回	組織のアーキテクチャ	アメリカと日本の違い、ほか
第 11 回	組織と 4 つの失敗	市場・政府・ボランティアの失敗、統計の歴史を知る
第 12 回	21 世紀の会社	アメリカと日本の会社の基礎知識と Bene fit Corporation を知る
第 13 回	21 世紀の会計	財務諸表の基礎知識と現在行われている未来志向の会計を知る
第 14 回	Work Motivation 3.0 と Transformation	内発的動機づけと内発的発展

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

講義後に資料をあらためて音読しながら目を通し、Reaction Paper を提出してください。

日本語では専門用語らしい翻訳語が、原語では日常用語であったりすることがあります。日頃から他に意味はないのか？ Why? What if? (もし〜としたらどうなるだろうか) などと考えるクセをつけるようにしてください。授業の準備学習・復習時間は本来 4 時間が標準です。

【テキスト (教科書)】

支援システムの「教材」で、毎回講義録を配布します。

【参考書】

適宜紹介します。関連の国家試験「IT パスポート」には、(本講義を含めて) 辞書代わりに使える『よくわかるマスター IT パスポート試験対策テキスト』(FOM 出版) がおすすめです。

【成績評価の方法と基準】

Reaction Paper 80%、最終回の Test 20%を予定。

ただし、Test は講義内容の確認の意味がありますので、Reaction Paper と Test の片方場合は、E (未受験・採点不能) となります。

Reaction Paper は白紙提出は未提出扱いで、下記片方に記載がないものは 1/2 評価。積極的な考察や情報提供には加点があります。最終回の Test は 2~4 肢択一式と論述を予定。

Reaction Paper の項目:

- 1) 今回の講義で重要だと思われたことは何ですか？ (箇条書き)
- 2) 1) に関する考察・質問・感想・要望など (引用して意見を述べたり質問されるときは、出典を示してください。)

【学生の意見等からの気づき】

毎回配布の講義資料は、出典や詳細な解説を行っていますので講義に出られない回も読むことで Reaction Paper の提出は可能です。

【学生が準備すべき機器他】

なし

【その他の重要事項】

関連資格：IT パスポート (一番取得しやすい国家試験で、毎月 PC 受験可能) IT 化した社会で働く社会人に必要な情報・経営・財務分析の基礎知識を持っているかを、国が認定するもので、エントリーシートの項目に取得の有無を入れる企業が増えてきています。本授業で得た知識が活かれます！

【Outline (in English)】

(Course outline)

The aim of this course is to learn the basics of business knowledge and explore the background of English business styles, which are becoming the international standard.

How many people understood when Steve Jobs said, "Apple tries to be at the intersection of technology and the liberal arts"? The Japanese translation has been mistranslated. And what is the point of using two similar meaning verbs in an English contract? This is the point of understanding in the original English text.

In the U.S., there is a new corporate system called Bene fit Corporation, which is a private company that creates public benefit in the environmental and social fields. These companies tend to try to synchronize such external roles with employees' intrinsic motivational, Drive and Caring concepts.

This course is designed to provide a three-dimensional understanding of the international macroeconomic situation surrounding corporations as well as the human condition, with reference to the original English sources.

(Learning Objectives)

Students are expected to master the concepts and background necessary for business with English, and to understand concepts such as Motivation 3.0, which is the basis of career design. We hope that this will be helpful for you to understand the concept of "Capable Communication" and "Management of Lifelong Learning and Career Development".

(Method and Learning activities outside of classroom)

The materials with sources and detailed explanations will be distributed in the "Resources" section of the Learning Support System each time. The lecture will use these materials to explain the main points of the course.

After the classroom lecture, please read through the materials again while reading aloud and submit a Reaction Paper (hereinafter referred to as "RP") (using the "Test/Questionnaire" in the Learning Support System).

You will see in the first and second lectures why it is important to read aloud while reading with your eyes.

If you cannot attend the lecture, please read the materials on demand and submit the RP. Feedback will be given mainly at the beginning of the next class.

Translated words that seem to be technical terms in Japanese often turn out to be everyday terms in the original language. You should always ask yourself, "Is there any other meaning? Why? What if?" The standard preparation and review time for the class is 4 hours.

(Grading Criteria /Policies)

Final grade will be calculated according to the following process:

Reaction Papers on each lecture (80%), term-end examination (20%), Reaction Paper:

- 1) What did you think was important in this lecture? (Bullet points)
- 2) Discussions, questions, opinions, requests, et cetera about 1).

MAN200MA

職業選択論Ⅱ

展開科目

上西 充子

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

曜日・時限：木 2/Thu.2 | 配当年次：2～4 年

その他属性：〈優〉〈ダ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、多様な雇用形態の現状と課題、男女の働き方の現状と課題を考えます。これらは相互に関係しています。働き方の変化は、特に若い世代に大きな影響を与えます。20 代に直面するかもしれない労働問題への理解を深め、現実的な職業選択のあり方をみずから考えられるようになること、さらに、多様な働き方の改善に社会人として自らかかわっていきけるようになることが、本授業の目的です。

【到達目標】

雇用形態の多様化および、それが若年期のキャリアに及ぼす影響を理解する。男女の働き方の現状と課題を歴史的な経緯を踏まえて理解する。〈まともな働き方〉を志向し、実現していくことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

秋学期の授業では若年労働市場や働き方の現状と問題点、課題の理解をより一層重視します。春学期と同様に、授業ではレジュメに沿って解説や問題提起を行った後に、授業内容に沿ったミニ・レポートを適宜書きます。雇用をめぐる現状を理解した上での考察であることを春学期以上に重視します。ミニ・レポートの主な内容は次回の授業でフィードバックします。中間レポートと期末レポートの執筆を求めます。初回の授業はオンラインで実施します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	授業ガイダンス	講義のテーマ、到達目標、受講上の注意、評価方法、文献紹介
2	男女雇用機会均等法とコース別雇用管理	男女雇用機会均等法の歴史とコース別雇用管理の実態
3	企業による女性活用の現在	正社員女性の戦力化
4	派遣労働を考える	派遣労働の歴史的推移と問題点
5	雇用ポートフォリオと非正規労働	雇用ポートフォリオ／多企業と労働者の双方から見る非正規雇用
6	非正規雇用の処遇改善	無期転換と同一労働・同一賃金
7	雇用によらない働き方	雇用によらない働き方の特徴と課題
8	中間レポート振り返り	中間レポートの解説
9	男女の働き方とワークライフバランス	ケアレスマン・モデルと夫婦の生活時間・仕事時間
10	長時間労働とワーク・ライフ・バランス	残業の法的根拠と長時間労働の実態
11	長時間労働の規制と労働時間管理	働き方改革と勤務間インターバル規制
12	女性の管理職登用	女性の管理職登用とクリティカル・マウス
13	転職を考える	転職をめぐる課題と企業の対応
14	雇用の保障とキャリアの保障	キャリア権、仕事の限定と無限定

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

社会情勢の変動とそれを踏まえた論考に常日頃からアンテナを張り、読み解く習慣をつけること。新聞の購読（WEB 版の有料購読を含む）を強く勧める。授業で紹介する記事や文献なども積極的に参照すること。課題レポート執筆に向けては、早めに課題文献や関連文献を読み、問題意識を深め、適切な準備を行うこと。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

毎回の授業時に学習支援システムの教材欄にレジュメを掲示する。

【参考書】

さしあたり下記を挙げておきます。

- ・濱口桂一郎（2009）『新しい労働社会』岩波新書
- ・濱口桂一郎（2013）『若者と労働』中公新書ラクレ
- ・濱口桂一郎（2015）『働く女子の運命』文春新書
- ・川人博（2014）『過労自殺 第二版』岩波新書
- ・厚生労働省「知って役立つ労働法」http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/koyou_roudou/roudouzenpan/roudouhou/
- ・石田真・浅倉むつ子・上西充子（2017）『大学生のためのアルバイト・就活トラブル Q & A』旬報社

【成績評価の方法と基準】

随時、計 6 回実施するミニ・レポート（配点 40 点）と中間レポート（配点 20 点）、期末レポート（配点 40 点）により評価する。なお、ミニ・レポートの提出が 0～1 回の学生や、いずれかのレポートに代筆や剽窃などの不正行為が判明した学生には、単位を付与しない（E 評価とする）。詳しくは初回の授業で説明するので、必ず確認すること。

【学生の意見等からの気づき】

受講者からは、キャリア形成について考えさせられた、身近な問題を考えさせられた、といった感想が見られる。働き方をめぐる現在の変化と皆さんの働き方との関係を、より理解できるように、努めていきたい。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを通じてレジュメの配布や課題の提出を行う。オンラインの授業は zoom で行う。

【その他の重要事項】

初回の授業で授業の進め方や評価の方法、課題などの説明を行うため、必ず出席すること。なお、初回の授業はオンラインで実施する。zoom の URL は学習支援システムの「お知らせ」にて連絡する。「職業選択論Ⅰ」を受講した上での受講が望まれる。

【Outline (in English)】

【Course outline】

This course is designed to provide students with a basic understanding of changes in the labor market and working styles. The main themes include diversification of employment patterns, long working hours, work-life balance, and gender equality.

【Learning Objectives】

At the end of the course, students are expected to understand issues related to changing labor market and work styles, and to apply the knowledge to realize decent work.

【Learning activities outside of classroom】

Students will be expected to read newspaper articles and recommended books. Your study time will be more than four hours for a class.

【Grading Criteria/Policies】

Your overall grade in the class will be decided based on the following Short reports: 40%, Mid-term report: 20%, Term-end report: 40%

MAN200MA

人材育成論 I

展開科目

佐藤 厚

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

曜日・時限：水 3/Wed.3 | 配当年次：2~4 年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

人材育成論 I では、ヒトが企業社会の中で多様なキャリア形成を通じて多様な職業能力を獲得することの意義と方法、課題などについて学びます。現代産業社会では、組織は人的資源の活用と育成抜きには活動が成り立ちません。他方大半の現代人は組織に関わって働くことで生計を維持しています。そこで重要となるのは、ヒトが人材として育成され、また成長していく環境です。その環境の中で人材がキャリア形成を通じて職業能力を形成する現状と課題を学ぶのがこの授業の到達目標及びテーマとなります。

【到達目標】

この授業の学習目標は以下のようです。

- (1) 日本の人材育成のしくみと特徴及びその得失を理解する。
- (2) 日本の組織における職業教育訓練の方法と特徴について説明することができるようになる。
- (3) 職業教育訓練がスキル形成やキャリア形成に及ぼす影響を理解し、あわせて労働市場とキャリア形成が多様化している現状及び政策課題についての認識を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

人材育成論 I の概要と方法は、人材育成 = ①<狭義：職業能力の訓練 = OJT + OFF-JT + 自己啓発> + ②<広義：組織内でヒトが育つ環境 = 人的資源管理 + 組織> + ③<最広義：ヒトが育つ社会環境：家庭 + 学校 + 地域全体社会 + 労働市場> という枠組みの中で、①と②を中心にその基礎を学びつつ、③への視野の拡大をはかってもらうことにあります。

なお、春学期の少なくとも前半はオンラインでの開講となります。それにもなう各回の授業計画については、学習支援システムでその都度提示します。初回授業実施日は、4 月 22 日（水曜）3 時限としますが、時間非限定形式の開講とします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	なぜ人材育成について学ぶか。講義の進め方。参考文献の指示など
第 2 回	日本の人材育成システムの特徴——国際比較の視点から	1 日本の人材育成システムの特徴：職業教育訓練への公的関与が低く、初期職業教育訓練への企業の関与が高い 2 学校教育システムの特徴：入学試験難、進級・卒業容易、職業教育より一般教育重視 3 教育システムと雇用システムの補完性
第 3 回	能力開発とキャリア——これからのキャリア形成	1 これまでの雇用慣行と能力開発の基本パターン：新卒採用、異動・昇進というキャリア形成： 2 能力開発の方法：OJT、Off-JT、自己啓発 3 企業主導型能力開発と個人のキャリア形成との関係
第 4 回	技術革新と技能の変化	1 学説：高度化説と単純化説：技術決定論と社会決定論 2 戦後日本の技術革新と仕事・職場の変化：オートメーション化、ME 化段階、IT 化段階、AI 段階 3 情報技術の進展とホワイトカラーの仕事・職場の変化 4 情報技術の進展と新しい働き方——テレワーク
第 5 回	女性の職域とキャリア形成	1 性別職域分離とその理論：統計的差別理論 2 国際比較でみた性別分離：水平分離と垂直分離 3 職域統合へ向けて：M 字型就労カーブ、男女雇用機会均等法、ポジティブアクション

第 6 回	失業・転職とキャリア形成	1 失業について：失業者の定義 2 失業とセーフティネットのしくみ：失業のダメージ緩和のための雇用保険 3 転職について：入職経路としてのソーシャルネットワーク、「友人・知人」の重要さ
第 7 回	若者のキャリア形成——学校から職場へ	1 「就社」社会とその得失 2 初期キャリア問題の諸レベル：早期離職問題；正社員への移行困難問題；就業形態間の賃金格差問題；学校から職場への移行困難な者の階層格差問題 3 若者のキャリア形成問題への対応の方向性
第 8 回	非典型労働者のキャリア形成	1 非典型雇用の様々な働き方 2 企業の視点からみた非典型雇用：賃金節約；仕事の繁閑への対応 3 働く側からみた非典型雇用：家計の補助；都合のよい時間に働ける 4 問題への対応の方向性：非正規雇用に関わる法的規制と正社員への転換
第 9 回	高齢化とキャリア形成	1 高齢化と仕事からの引退過程：日本の特徴 2 定年制とライフスタイルの変化：就労・非就労の規定要因 3 安定した高齢期生活を支える政策課題：高齢者雇用安定法の改正
第 10 回	事務系ホワイトカラーのキャリア形成	1 「ホワイトカラー」とは：職業大分類の 4 つの職種の総称 2 企業内キャリアをみる視点：キャリアのタテ（昇進）とヨコ（異動） 3 国際比較からみた日本の特質：「遅い」昇進選抜と「幅広い」異動 4 人材育成からみたポイントと課題
第 11 回	技術系ホワイトカラーのキャリア形成	1 専門的・技術的職業従事者の増加 2 技術系ホワイトカラーの初期キャリア管理の重要性 3 研究・開発技術者のキャリア形成面での国際比較：日本の特徴 4 日本の技術者のキャリア形成上の特徴と課題
第 12 回	中小企業労働者のキャリア形成	1 中小企業の労働市場の特徴 2 中小企業の人事管理、人材育成の取組みの特徴 3 中小企業従業員の仕事意識：組織との関係認識、職場の雰囲気 4 事業主からみた望ましい能力開発の方法、職業キャリア及び職業資格
第 13 回	ワーク・ライフ・バランスとキャリア形成	1 いまなぜワーク・ライフ・バランス（WLB）か 2 仕事と生活が両立しにくい現実 3 WLB を支える制度及び現状と目標 4 WLB 施策実現にむけての課題——仕事の進め方の効率化と長時間労働の抑制
第 14 回	講義のまとめと試験について	1 講義全体の振り返りとまとめを行う 2 定期試験の傾向と対策 3 受講生との質疑応答

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業時に指示する参考文献に目を通す努力をすること。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

講義内容のかなりの部分は、佐藤博樹・佐藤厚編著『仕事の社会学（改訂版）』有斐閣（2014 年）に準拠しているので、各自購入の上、受講と合わせて読むことが望ましい。

【参考書】

佐藤厚『キャリア社会学序説』泉文堂（2011 年）、佐藤厚『組織のなかで人を育てる』有斐閣（2016 年）を購入し、併読することが望ましい。

【成績評価の方法と基準】

・現時点での成績評価の方法と基準は以下のようである。
出席点 30 点。中間レポート 20 点。期末レポート（もしくは試験）50 点。
なお、大きな変更がある場合は、学習支援システムで連絡する。

【学生の意見等からの気づき】

前回の講義の質問や感想について紹介し、簡単な振り返りを行う。毎回の講義のねらいを授業開始時に明示する。

【学生が準備すべき機器他】

特にありません。

【その他の重要事項】

人材育成論 I と人材育成論 II をあわせて受講することが望ましい。

【Outline (in English)】

【Course outline】

In this class, students can learn the importance and the way how employees work with firm develop their vocational skills and abilities in each organisations. In industrial society in modern society, human resource development may be indispensable for business activities of firms, on the other hand, working employees also depend on firms that employ them. Main purpose of this class is to learn about environment in which firm train employees and employees develop their skill.

[Learning Objectives]

(1) Understand the mechanism and characteristics of human resource development in Japan and their advantages and disadvantages.

(2) Be able to explain the methods and characteristics of vocational education and training in Japanese organizations.

(3) Understand the impact of vocational education and training on skill formation and career development, and deepen awareness of the current situation and policy issues in which the labor market and career development are diversifying.

[Learning activities outside classroom]

Make an effort to read the references instructed during class. The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each.

[Grading Criteria/Policy]

Attendance points 30 points. 20 interim reports. Final report (or exam) 50 points.

If there are major changes, we will contact you via the learning support system.

<p>MAN200MA 人材育成論Ⅱ 佐藤 厚</p>	<p>展開科目</p>	<p>6 タレントマネジメントとリーダー人材育成—これまでの人材育成の課題 7 雇用制度と職業教育訓練制度の国際比較—日本の位置と特徴 8 企業コミュニティの変化とキャリア形成・キャリア自律 9 企業コミュニティと人事方針及び人材育成—実証データによる英独日比較 10 ホワイトカラーのキャリア形成とキャリア自律に関する英独日比較—大企業管理職を中心に 11 職業資格の日本の特質—独英との比較を中心に 12 職業教育訓練と労働市場との関係の最近の変化—ドイツとの比較を中心に 13 日本の特徴と歴史的背景。生涯学習（リカレント教育）に対する含意 14 人材育成論Ⅱのまとめ</p>
<p>単位数：2 単位 開講セメスター：秋学期授業/Fall 曜日・時限：水 3/Wed.3 配当年次：2～4 年 その他属性：〈優〉</p>		<p>第6回では、これまでの人材育成の課題としてのタレントマネジメントとリーダー人材育成について学びます。第7回から第13回までが後半となります。国際比較による日本の人材育成とキャリア形成の特徴を様々な角度から学びます。第7回は以下のことを学びます。 1 スキル形成、雇用制度の国際比較研究 2 職業教育訓練（VET）の国際比較研究 3 日本の位置と特徴 第8回では以下のことを学びます。 1 企業コミュニティと個人のキャリア 2 内部労働市場の生成と衰退 3 キャリア形成と人材育成を考える三つの視点 4 企業コミュニティの変化と初期キャリア 5 企業コミュニティの変化と中期キャリア 6 企業コミュニティの変化と後期キャリア 7 「新しい」コミュニティとキャリア形成 第9回では以下のことを学びます。 1 労働者の意識についての国際比較研究（一覧） 2 人事管理の方針・個人と組織の関係認識・職場の雰囲気についての英独日比較 3 「人事管理による勤労意欲引き出し」仮説はイギリスやドイツでもあてはまるか？ 4 人事管理方針や人材育成の取組は勤労意欲（会社の発展のために自身の最善を尽くしたい）に影響を及ぼすか？—英独日比較 5 考察とまとめ—日本と英独との差異の背景にあるものは何か？ 第10回では以下のことを学びます。 1 ホワイトカラーのキャリア形成の国際比較研究 2 ホワイトカラー及び大企業管理職の組織内キャリア 3 リーダーシップの特定と開発—イギリス、ドイツ、日本のホワイトカラーのキャリア観 5 望ましいキャリアコース 第11回では以下のことを学びます。 1 日本の職業資格制度の理念と概要 2 職業資格制度と教育制度及び労働市場との関連—ドイツの特徴と日本の特徴 3 職業資格制度と労働市場との関係についての研究 4 教育制度と職業資格との関連—日独比較、日英比較の視点から 5 まとめ—教育システムと雇用システムの補完性の意義。雇用システムと職業資格の共振可能性 第12回では以下のことを学びます。 1 今回のフレームワーク—ドイツと日本の職業教育訓練システムと労働市場システム 2 ドイツにおける職業教育訓練システムと労働市場システムの変化 3 日本における職業教育訓練システムと労働市場システムの変化 4 まとめ 第13回では以下のことを学びます。 1 後半の講義（日本の特徴）の主な事実発見 2 日本の特徴の意味するもの—生涯学習（リカレント教育）に対する含意 3 日本の特徴の歴史的背景—徒弟制の歴史にみる英独日の差異 4 最後に—日本の課題 講義全体の振り返りとまとめを行います。 定期試験（もしくは最終レポートの課題）について説明します。 学生との質疑応答を行います。</p>
<p>【授業の概要と目的（何を学ぶか）】 人材育成論Ⅱでは、人々が企業社会の中で職業能力を形成することの意義と方法、課題などについて学びます。講義の前半では、日本企業の人材育成とキャリア形成の方法と課題についての基礎を学びます。また講義の後半では、国際比較を通じて、日本の人材育成とキャリア形成の特徴を学びます。</p>		
<p>【到達目標】 この授業の学習目標は以下のようです。</p>		
<p>(1) 日本の人材育成のしくみと特徴及びその得失を理解する。(2) 日本における職業教育訓練の方法とその特徴について説明することができるようになる。 (3) 職業教育訓練がスキル形成やキャリア形成に及ぼす影響を理解する。 (4) あわせて人材が育成されていくプロセスであるキャリア形成過程と労働市場が多様化している現状について、国際比較を通じて日本の特徴についての認識を深める。</p>		
<p>【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】 ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連</p>		
<p>【授業の進め方と方法】 人材育成論Ⅱでは、日本の人材育成とキャリア形成について概論及び特徴を学びます。講義の前半では、日本企業の人材育成とキャリア形成の概論について学びます。講義の後半では、日本の人材育成とキャリア形成の特徴について国際比較を通じて理解することに努めます。</p>		
<p>【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】 なし/No</p>		
<p>【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】 なし/No</p>		
<p>【授業計画】 授業形態：対面/face to face</p>		
<p>回 テーマ</p>	<p>内容</p>	
<p>1 オリエンテーション—人材育成論Ⅱの進め方</p>	<p>講義の進め方、概要、成績評価の仕方などを説明します。 なお、この講義の前半とは、第1回から第6回までを、また後半とは第7回から第13回までを指します。</p>	
<p>2 組織のなかで人を育てること</p>	<p>第2回では、以下のことを学びます。 1 組織内人材育成の要点。人材育成に関連する用語 2 人材育成を考えるための枠組み 3 人材開発の実践モデル 4 人材開発の二つの視点 5 企業の実践事例にみる実践モデルと二つの視点 6 日本の人材育成研究の蓄積にみる二つの視点の意義と課題</p>	
<p>3 日本企業の人材育成の特徴とは—OJT、Off-JTと人事制度の関係</p>	<p>第3回では以下のことを学びます。 1 職業能力開発システムの国際比較と日本の特徴 2 日本の企業内能力開発のしくみ：OJT、Off-JTの意義と課題 3 企業主導型キャリア管理と個人主導型キャリア開発 4 マネージャーやリーダーの育成（ブレインゲーマネージャー）</p>	
<p>4 大企業の人材育成の事例</p>	<p>第4回では以下のことを学びます。 1 人事制度と教育訓練体系の事例 2 教育訓練体系の概要：フォーマルなOJTとインフォーマルなOJT 3 インフォーマルなOJTとしての職場学習：仕事管理のPDCAサイクル 4 インフォーマルなOJTとしてのキャリア：大企業部長のキャリア事例</p>	
<p>5 大企業マネージャーのキャリア形成</p>	<p>第5回では以下のことを学びます。 1 インフォーマルなOJTとしてのキャリアを見る意義及び成長・発達・学習する側の視点 3 インタビュー調査の対象と調査項目 4 マネージャーの育成に必要なもの</p>	

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業時に指示する参考文献に目を通す努力をすること。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

講義前半のテキストとして佐藤厚『組織のなかで人を育てる』有斐閣（2016 年）を使用する。また講義後半のテキストとして佐藤厚『日本の人材育成とキャリア形成：英独日比較』中央経済社、2022 年を使用する。なお、毎回、講義の骨子および統計データや調査結果を要約した p p t レジメを配布（配信）する。また人材育成論 I の内容を知りたい方には、佐藤博樹・佐藤厚編著『仕事の社会学』有斐閣 2004 年、佐藤厚『キャリア社会学序説』泉文堂 2011 年を併読をお勧めする。

【参考書】

人材育成論 I の内容を知りたい方には、佐藤博樹・佐藤厚編著『仕事の社会学』有斐閣 2004 年、佐藤厚『キャリア社会学序説』泉文堂 2011 年を併読をお勧めする。

【成績評価の方法と基準】

- 1 毎回の授業への参加が 30 点です。
- 2 授業の前半が終わるころに中間レポートを課します。授業前半の振り返りが目的です。基準は 20 点です。
- 3 期末に定期試験を実施する。授業で取り上げた内容の理解度を問うのがねらいです。基準は 50 点です。

【学生の意見等からの気づき】

各論について出来る限り調査データや海外の事例等を織り交ぜて解説します。

【授業中に求められる学習活動】

C,D

【Outline (in English)】**【Course outline】**

In Human Resources Development Theory II, you will learn the significance, methods, and challenges of people forming vocational abilities in corporate society. In the first half of the lecture, you will learn the basics of human resource development and career development methods and issues for Japanese companies. In the latter half of the lecture, we will learn the characteristics of human resource development and career development in Japan through international comparison.

【Learning Objectives】

The learning goals of this class are as follows.

- (1) Understand the mechanism and characteristics of human resource development in Japan and their advantages and disadvantages. (2) Be able to explain the methods and characteristics of vocational education and training in Japanese organizations.
- (3) Understand the effects of vocational education and training on skill development and career development.
- (4) To deepen awareness of the characteristics of Japan through international comparisons regarding the career development process, which is the process of developing human resources, and the current situation of the diversified labor market.

【Learning activities outside of classroom】

Make an effort to read the references instructed during class. The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria /Policy】

- 1 Participation in each class is 30 points.
- 2 An interim report will be imposed at the end of the first half of the class. The purpose is to look back on the first half of the class. The standard is 20 points.

We plan to conduct a regular test at the end of the term, but it may be a term-end report depending on the infection status of the new corona. The aim is to ask the degree of understanding of the content taken up in the class. The standard is 50 points.

MAN200MA

産業・組織心理学 I

展開科目

坂爪 洋美

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

曜日・時限：木 2/Thu.2 | 配当年次：2～4 年

その他属性：〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

産業・組織心理学は、人が働くことを通じて経験する現象について心理学的視点から明らかにしようとするものです。本授業では、講義を通じて産業・組織心理学の主要概念について理解すること、理解を通じて働く人々や自らのキャリアをより良いものとする視点を獲得することを目的とします。

【到達目標】

本授業の到達目的は以下の2点です。

- (1) 産業・組織心理学の主要概念について理解し、日常の現象についてそれらの概念を用いて説明できるようになること。
- (2) 産業・組織心理学の知見を用いて、自らのキャリアについて展望を持つようになること。
- (3) 産業・組織心理学の視点から、職場のマネジメントの問題点とその改善策を考えられるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は講義形式で行われます。各回のテーマに則したテーマに関するリアクションペーパーの提出が求められることがあります。また、各回の授業終了後に提出された感想並びに質問に対するフィードバックを、翌授業回の冒頭に、全体に対して行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	授業オリエンテーション	授業の概要や進め方、ならびに履修上の注意事項について説明します。
第2回	モチベーション①	モチベーションの内容理論：何がモチベーションを高めるのか
第3回	モチベーション②	モチベーションの過程理論：
第4回	リーダーシップ①	古典的リーダーシップ理論
第5回	リーダーシップ②	今日的なリーダーシップ理論：個別的な関係性の重視
第6回	公平性	公平性の諸理論：人が「公平さ」を感じる仕組み
第7回	職場のコミュニケーション①	コミュニケーション・職場とは何か
第8回	職場のコミュニケーション②	職場のコミュニケーションがもたらす功罪
第9回	個人と組織の関係性①組織社会化	組織への適応としての組織社会化
第10回	個人と組織の関係性②組織コミットメント	個人の組織に対する関与：人が組織にとどまる理由
第11回	個人と組織の関係性③組織エンゲージメント	組織と個人双方が高めあう関係
第12回	個人と組織の関係性④心理的契約	組織と個人との暗黙の関係
第13回	個人差を理解する	違いをもたらす要因としてのパーソナリティ
第14回	働きがいと働きやすさ	働きがい・働きやすさを高める仕組み

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

新聞や雑誌記事に目を通し、働く人々にとって現在どのようなことが問題になっているかについて知識を獲得するようにしましょう。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しません。

【参考書】

山口裕幸・金井篤子編
『よくわかる産業・組織心理学』2007年、ミネルヴァ書房

【成績評価の方法と基準】

期末テスト 90%
授業内で実施するリアクションペーパー 10%

【学生の意見等からの気づき】

昨年度授業を担当していないため特になし

【学生が準備すべき機器他】

授業で用いる資料を事前に授業支援システムにアップするので、必要に応じて各自でダウンロードして、持参すること

【その他の重要事項】

授業計画は予定となります。1-2 回外部講師による講演が入る可能性ならびに進捗状況による変更の可能性がります。

【Outline (in English)】

This course introduces basic topics/theories covered in industrial and organizational psychology, that studies human behavior in the workplace, specifically focusing on managing, supporting employees and aligning employee efforts with business needs.

The goal of this course to engage students in thinking critically about the needs of workplaces and understand how the science of I-O Psychology helps address those needs. Students will also develop skills for analyzing and integrating social phenomena from the perspective of industrial and organizational psychology.

Students are expected to gather information on issues arising in the current Japanese corporate workplace through reading newspapers and other sources. Self-study time will be two hours per class.

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination: 90%、Short reports :10%

MAN200MA

産業・組織心理学Ⅱ

展開科目

坂爪 洋美

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

曜日・時限：木 2/Thu.2 | 配当年次：2～4 年

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈ダ〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

産業・組織心理学Ⅰに続き、産業・組織心理学の主要なトピックスについて学んでいきます。産業・組織心理学Ⅱでは、特にキャリアに関連する領域、ならびに産業・組織心理学と隣接する人材マネジメントにフォーカスをあてます。組織は働き手の思いと雇用側の思いが時には調和し、時には対立するフィールドです。そこではどのようなことが問題となるのか見ていきます。

【到達目標】

本授業の到達目標は以下の3点です。

- (1) 産業・組織心理学の主要な概念を理解し、それらを用いて組織の諸問題を説明できるようになること
- (2) 組織の様々な取り組みが、個人に対して与える影響について理解できるようになること
- (3) 自らのキャリアを考える上で重視する人材マネジメントについて語れるようになること

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は講義形式で行われます。各回のテーマに則したテーマに関するリアクションペーパーの提出が求められることがあります。また、各回の授業終了後に提出された感想並びに質問に対するフィードバックを、翌授業回の冒頭に、全体に対して行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	授業オリエンテーション	授業の概要ならびに進め方について紹介します。
第2回	キャリアを理解する①	初期キャリアにおいて重要になる職業興味
第3回	キャリアを理解する②	発達段階から捉えるキャリア
第4回	キャリアを理解する③	内的キャリアと外的キャリア
第5回	キャリアを理解する④	キャリアの転機をマネジメントする
第6回	キャリアを理解する⑤	キャリアをサポートする仕組み
第7回	能力を高める①	仕事経験を通じた学習
第8回	能力を高める②	仕事もたらす一皮むけた経験
第9回	能力を高める③	斜め上の関係：先輩が後輩を支援するメンタリング
第10回	能力を高める④	チームとして機能する職場の力
第11回	健康に働く①	仕事を通じたストレスを理解する
第12回	健康に働く②	企業におけるメンタルヘルスに関する取り組み
第13回	今日のトピックス①	ワーク・ライフ・バランスの実現に向けて
第14回	今日のトピックス②	ダイバーシティとしての女性活用の現状と課題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

私達のキャリアを取り巻く環境に興味を持ちましょう。キャリアや「働く」こと、「人事管理」「人材マネジメント」に関する新聞記事・雑誌記事等に広く目を通して下さい。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない

【参考書】

金井壽宏 働くひとのためのキャリア・デザイン 2002年 PHP 新書
守島基博 人材マネジメント入門 2004年 日経文庫

【成績評価の方法と基準】

期末テスト 90 %

授業内で実施するリアクションペーパー 10 %

【学生の意見等からの気づき】

zoomでの授業実施時に、これまで授業内容に関する質問を適宜チャットに書き込むようにしていましたが、質問を書き込む時間を取るようになります。

【学生が準備すべき機器他】

授業で用いる PPT を事前に授業支援システムにアップするので、必要に応じて各自でダウンロードして、持参すること

【その他の重要事項】

1-2 回外部講師による講演を実施する可能性があります。

【Outline (in English)】

This course introduces basic topics/theories covered in industrial and organizational psychology, especially career development, mental health and diversity management. These are very important topics to future human Resource Management.

The goal of this course to engage students in thinking critically about the needs of workplaces and understand how the science of I-O Psychology helps address those needs. Students will also develop skills for analyzing and integrating social phenomena from the perspective of industrial and organizational psychology.

Students are expected to gather information on issues arising in the current Japanese corporate workplace through reading newspapers and other sources. Self-study time will be two hours per class.

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination: 90%, Short reports :10%

MAN200MA

キャリア開発論

展開科目

武石 恵美子

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

曜日・時限：木 3/Thu.3 | 配当年次：2～4 年

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈ダ〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、経済社会や企業の雇用システムの構造変化の下で、個人のビジネスキャリアがどのように開発・形成されているのかを考察していきます。今、社会は大きく変化しています。「人生 100 年時代」というように長寿化によりキャリアを考える期間は長期化し、同時に、人口構造の変化、デジタル化など社会の変動は大きく予測が難しくなっており、職業キャリアのあり方も変化しています。個人のビジネスキャリア開発を社会構造、雇用システムとの関連においてとらえ直す必然性が高まっているといえます。

本授業では、キャリア開発にかかわる理論的な枠組みを踏まえ、キャリア開発の現状や課題をとらえる視点、方法論を学びます。近年話題のトピックである、「キャリア自律」、「ダイバーシティマネジメント」、「ワークキャリアとライフキャリアのバランス」などを重点的に取り上げます。

【到達目標】

本授業では、①ビジネスキャリア開発に関する基礎的な理論や知識の習得と、②キャリア開発が経済社会および企業の人事管理と関連し変化することの理解を目標としています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は、ビジネスキャリア開発に関連して、理論等の概説や講義を中心に進めます。

適宜ミニレポート等を書いてもらい、それによって出席を確認します。この授業で使用する資料等は、法政大学の web サイト上にある「学習支援システム」において受講登録者に授業の前に提供します。授業に出席する際には、この資料をプリントアウトしていただくことが必須要件です。また、欠席した場合などは、ここで必ず資料を確認してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション、キャリア開発概論	授業のオリエンテーション、キャリア開発概論
2	キャリア開発とは何か	ビジネスキャリア開発の現状
3	キャリア開発の主体	キャリア開発の主体は企業か個人か、キャリア開発の主体についての考え方を整理する
4	経営環境とキャリア開発の変化	日本のキャリア開発や働き方の現状、その背景にある日本的雇用システムとその変化の動向
5	キャリア自律	キャリア自律の考え方とキャリア政策の概要
6	ダイバーシティ経営	キャリア開発を取り巻く重要な経営動向であるダイバーシティ・マネジメント
7	正社員の多元化とキャリア開発	正社員の働き方の現状、多元化の動向、勤務地政策の現状
8	ワーク・ライフ・バランスと働き方改革	ワークキャリアとライフキャリアの調和の問題、働き方改革の現状や課題
9	女性のキャリア開発	女性のキャリアをめぐる課題、政策
10	育児期のキャリア開発	育児と仕事の両立、育児期の男女のキャリア開発の課題
11	介護責任とキャリア開発	介護と仕事の両立、育児との違い、病氣治療との両立も含めて議論
12	非正規労働者のキャリア開発	パート、派遣などの非正規労働者のキャリア開発の現状と課題
13	職場の問題への対処	ブラック企業、ハラスメントなど職場の問題への対処のあり方
14	総括	講義の総括、まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業では、テキストに加えて、パワーポイント資料を使います。資料は学習支援システムを通じて事前に提供するので、それを必ずプリントアウトして出席してください。そうしないと授業のスライドについてこれません。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は、武石恵美子『キャリア開発論－自律性と多様性に向き合う（改訂版）』（中央経済社、2023 年 4 月出版予定）です。テキストに沿って授業を進めます。

【参考書】

それぞれの授業で取り上げるテーマに関連して、適宜参考文献を紹介します。関心のあるテーマがあれば、是非読んでください。

【成績評価の方法と基準】

評価は、期末試験結果と授業出席内容で行います。期末試験を重視し、出席内容（ミニレポート形式、内容も重視する）を加味して評価します。期末試験 60 %、平常点 40 %。

【学生の意見等からの気づき】

受講者の人数にもよりますが、受講者が主体的に参加できるように討議等の時間を取りたいと思います。また、受講者からの質問は歓迎しますので、積極的に質問してください。

【学生が準備すべき機器他】

なし

【その他の重要事項】

なし

【Outline (in English)】

【Course outline】 This course is intended that students understand how a personal business carrier is developed under the structural change of the economic society and the employment system. Students will learn how the circumstances surrounding careers are changing amid changes in the economy and society. This course covers such topics as career self-reliance, the diversity management, and work/life balance.

【Learning Objectives】 The goal of this course is to acquire basic theories and knowledge about business career development, and to understand how career development changes in relation to economic society and corporate personnel management.

【Learning activities outside of classroom】 Before/after each class, students will be expected to spend 2 hours to understand the course content.

【Grading Criteria /Policy】 Final grade will be calculated according to the following process
Term-end examination(60%) and in-class contribution(40%).

MAN200MA

リーダーシップ論

展開科目

佐野 達

単位数：2単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

曜日・時限：水 2/Wed.2 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

リーダーシップに関しては、これまで多くの研究が蓄積されておりリーダーシップ・セオリー・ジャンクルとよばれている。また現代社会において組織・集団などさまざまな場面でのリーダーシップの発揮が期待されており、リーダーシップを有する人材が求められている。

本講義では、リーダーシップ研究の多様なアプローチを紹介し、リーダーシップの基本的な知識を習得してもらう。また、個人と集団の相互影響やリーダーとフォロワーの関係性について講義・演習を通じて考える。本講義を通じて今後どのように自分自身のリーダーシップを開発していくかについて考えてほしい。

【到達目標】

- ・リーダーシップ研究の基礎を理解できる。
- ・グループ・ダイナミクス研究の基礎を理解できる。
- ・リーダーシップやグループ・ダイナミクスの知識を実践する方法について考えることができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

- ・講義形式を基本とする。
- ・一部の講義では、可能な範囲で演習（グループディスカッションやグループワーク）を行う予定である。なお、演習ではワークシートを記入し提出する。
- ・課題のフィードバックとして、全体的な概要について講義で解説する。
- ・受講者数等によって変更することがある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	講義の進め方や評価方法などについて説明する
第2回	リーダーシップとは	あなたが考えるリーダーシップとは？リーダーシップの定義を紹介する
第3回	リーダーシップ研究①特性論	特性アプローチによる研究を紹介する
第4回	リーダーシップ研究②行動論	行動アプローチによる研究を紹介する
第5回	リーダーシップ研究③条件適合理論	条件適合アプローチによる研究を紹介する
第6回	新たなリーダーシップ研究④	対流的アプローチによる研究を紹介する
第7回	新たなリーダーシップ研究⑤	組織文化とリーダーシップ、変革型リーダーシップ研究を紹介する
第8回	新たなリーダーシップ研究⑥	組織文化とリーダーシップ、変革型リーダーシップ研究を紹介する
第9回	新たなリーダーシップ研究⑦	サーバント・リーダーシップ研究を紹介する
第10回	メンタリング	リーダーシップとメンタリング、多様性とリーダーシップについて紹介する
第11回	グループダイナミクス	個人と集団の相互影響について紹介する。
第12回	リーダーシップ演習①	ケーススタディ・グループワーク等を行う
第13回	リーダーシップ演習②	ケーススタディ・グループワーク等を行う
第14回	講義のまとめ	講義のまとめを行う。なお、この回に期末試験を実施することがある

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の理解を深めるため事前に参考書等を読んで参加すること。授業時間内課題のふりかえり、授業時間外の課題に取り組み提出すること。（本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。）

【テキスト（教科書）】

【新版】グロービス MBA リーダーシップ, グロービス経営大学院,(ダイヤモンド社 ;2014)

【参考書】

最強のリーダーシップ理論集中講義, 小野善生, (日本実業出版社)
リーダーシップ入門, 金井壽宏, (日本経済新聞社)
M.M. チェーマーズ, リーダーシップの統合理論 (北大路書房)

【成績評価の方法と基準】

- ・期末試験 (50%)
- ・授業内課題ワークシート・レポート等 および 授業活動への貢献度 (50%)

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

- ・情報機器（パソコンもしくは大型のタブレットを推奨）
- ・資料の事前配布および課題提出のために学習支援システムを使用することがある。

ただし、授業中は情報機器の使用を前提としない。

【その他の重要事項】

- ・授業中の私語は厳禁する。違反した場合退場を命ずることがある。
- ・授業内容により、講義をインタラクティブに進めることがある。皆さんの積極的な授業参加を期待する。

【Outline (in English)】

Leadership is the ability to influence a group of people towards a goal. This Leadership class, focuses on understanding seminal and contemporary leadership theories and principles, and also group dynamics.

In this class students will be aware of their own leadership capacities through worksheet, groupwork and reflection. So, active participation in your own leadership growth will be needed.

(Learning Objectives)

By the end of the course, students should be able to do the followings:

- A. Understanding the foundation of leadership theories.
- B. Understanding the foundation of group dynamics.
- C. Deepening the understanding of and developing one's Leadership Styles.

(Learning activities outside of classroom)

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting and to have read the relevant chapter(s) from the text before each class meeting. Your study time will be more than two hours for a class.

(Grading Criteria /Policies)

Your overall grade in the class will be decided based on the following Term-end examination: 50%, Short reports(Worksheets) and in-class contribution: 50%

MAN200MA

経営統計論 A (心理データ) 展開科目

片岡 亜紀子

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

曜日・時限：月 3/Mon.3 | 配当年次：2~4 年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

この授業では、産業場面をはじめとする様々な場面の実態把握に重要な役割を果たす統計スキルについて学びます。これは各種職業の適性検査、心理テスト、ストレスチェックなどの個人差の把握や安全対策の効果測定、意識調査など職場全体の傾向把握等で活用されるスキルです。実際には、調査対象者の行動データや質問紙等の回答データを集約し、得られたデータに対する統計処理を通じて、仮説の検証や傾向の把握を行っています。このプロセスや、得られた結果の解釈方法等を、講義や実習 (excel 等のソフトを使用する) を通じて習得します。

【到達目標】

統計データ・統計調査に関する知識を獲得する。
質問紙の作成・データ収集・統計処理など、調査に必要な手続きができるようになる。

代表的な統計分析手法のねらいや仕組みを理解する。
目的やデータに応じた、適切な統計手法を選択できるようになる。
分析結果を正確に記述 (解釈) できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

(学期の途中で変更になる場合には、別途提示します。 /If the Method(s) is changed, we will announce the details of any changes.)

この授業では、質問紙調査とは何かについて事例を用いながら学習します。その後、質問紙調査のプロセスを統計処理のスキルを含め獲得していきます。まず、調査のデザイン・調査票の作成・データ取得・集計に関する手順を学び、次に、得られたデータの集計方法 (例：サンプル数、平均値、標準偏差) のスキルを、実習を通じて獲得し、そこから得られる情報とその解釈を学習します。その後、目的に応じたデータ分析手法を紹介し、質問紙調査でよく用いられる分析手法として、集団間の比較のための分散分析、変数間の因果関係を把握するための回帰分析、回答者を分類するためのクラスター分析、質問項目を集約するための因子分析等が用いられており、これら分析手法を学びます。また分析結果の解釈スキルの獲得を通じ、信頼性と妥当性の考え方について学習します。毎回、授業の理解度を確認するためのミニテストを課します。ミニテストの解説や回答に対するフィードバックは、次回の授業の冒頭で行います。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	本授業の目的、授業の進め方等についての説明
第 2 回	質問紙調査	質問紙調査の目的や方法・プロセス・データ整理について、事例を用いた説明
第 3 回	相関と因果	二つのデータの関係性についての解説と実習
第 4 回	回帰分析	データの関連性をモデル化する回帰分析を学習
第 5 回	重回帰分析	複数変数を用いた重回帰分析についての実習
第 6 回	平均の比較 (1)	回答者集団の差を見出す分散分析を実習
第 7 回	平均の比較 (2)	複数の集団間の差を見出す多重比較の方法を実習
第 8 回	因子分析 (1)	心理尺度などで用いられる因子分析の解説
第 9 回	因子分析 (2)	データを用いた因子分析の具体的な手続きの実習
第 10 回	因子分析 (3)	分析のコツや信頼性・妥当性の検証方法の解説
第 11 回	信頼性と妥当性	調査手法や分析結果の質の解説
第 12 回	クラスター分析	回答者の分類方法であるクラスター分析の解説と実習
第 13 回	データの解釈	得られたデータの解釈に関する解説
第 14 回	まとめと今後の展望	本授業で学習した内容の振り返り

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

実習が時間内に終了しなかった場合、次回の授業までに取り組みおく必要があります。本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

特定の教科書は使用しません。

【参考書】

田尾雅夫・若林直樹「組織調査ガイドブック」
L.G. グリム & P.R. ヤーノルド編 小杉孝司監訳「研究論文を読み解くための多変量解析入門 基礎編：重回帰分析からメタ分析まで」
L.G. グリム & P.R. ヤーノルド編 小杉孝司監訳「研究論文を読み解くための多変量解析入門 応用編：SEM から生存分析まで」
小塩真司「SPSS と Amos による心理・調査データ解析 [第 3 版]」

【成績評価の方法と基準】

・授業への積極的な貢献度とミニテスト：60 %
・学期末のレポート課題：40 %

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

本授業を円滑に進行するために授業支援システムを利用しますので、操作に慣れておいてください。

【その他の重要事項】

クラス (教室) の収容人数を超える履修希望がみこまれる場合には、初回に抽選等の方法によって選抜を行います。そのため、必ず初回授業に出席してください。

【Outline (in English)】

< Course outline >

This course is designed to deepen students' knowledge of statistical surveys while acquainting them with survey procedures, analytical methods, and methods for interpreting results.

< Learning Objectives >

Acquire knowledge of statistical data and statistical surveys.

To be able to perform the procedures necessary for surveys, such as questionnaire design, data collection, and statistical processing.

Understand the aims and mechanisms of typical statistical analysis methods.

To be able to select appropriate statistical methods according to the purpose and data.

To be able to accurately describe (interpret) the results of analysis.

< Learning activities outside of classroom >

If the practical training is not completed in time, it must be worked on before the next class. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

< Grading Criteria /Policy >

Positive contribution to class and mini-test: 60%.

End of semester report assignment: 40%.

MAN200MA

企業会計論

展開科目

松本 徹

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

曜日・時限：月 4/Mon.4 | 配当年次：2～4 年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「黒字決算」「売上」「利益」などの用語を聞いたことがあるでしょうか。これらは、就職活動の際に企業の業績・現状を調べたり、あるいは、企業で働く際には必須の知識です。ビジネスキャリアを企業で積んでいく人たちにとっては、これらは一生付き合っていく知識です。この授業では、こうした企業会計の基礎知識を、広く学んでいきます。

【到達目標】

この授業の目標は、企業会計の全領域について、広く浅く学ぶことです。企業会計は、①財務会計（企業の成績を外部に報告すること）、②管理会計（社内で従業員の業績を測ったり、経営戦略を練ったりするために会計を用いること）、③監査（企業の不正を防ぐこと）、④税務会計（企業が法人税を支払うしくみ）および⑤財務分析（企業の成績表を分析し経営戦略に用いること）等に分けられます。これらのすべての領域を学ぶことによって、この授業が終了するときには、企業の活動がはっきりと理解できるようになります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

最新の事例を盛り込みながら、主に講義形式で行っていきます。まずは各章のウォーミングアップで講義内容の概略を示し、本文およびパワーポイント資料で基本的な会計用語・時事問題などを学びます。その際は各自で事前に会計用語や日本経済新聞などのデータを調べることも必要となります。次に各章のグループワークで総括を行い、各講義の最後に行う授業内ミニテストを解いて講義内容の確認と応用力を養ってもらいます。その際に出題される内容は、就職の際にも威力を発揮する現実的な役立ちを意識した問題も含まれます。なおこの講義は、対面で実施します。また授業内ミニテストの総評等については、適宜授業内で紹介します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス (オンデマンド授業)	本講義の主題と到達目標を説明します。 資料をポータルサイトの教材に添付しておきますので確認してください。
第 2 回	会計の守備範囲 会計を支える技法	企業会計の対象と簿記一巡について学びます。
第 3 回	損益計算書 (1)	損益計算書の表示方法について学びます。
第 4 回	損益計算書 (2)	収益、費用の測定方法について学びます。
第 5 回	貸借対照表 (1)	貸借対照表の表示方法について学びます。
第 6 回	貸借対照表 (2)	資産、負債、純資産の評価方法について学びます。
第 7 回	会計を取り巻くルール	金融商品取引法、会社法および法人税について学びます。
第 8 回	会計の開国	会計基準について学びます。
第 9 回	会社で生じるコスト	原価計算の基礎を学びます。
第 10 回	経営者を助ける会計	予算管理や意思決定をはじめ、管理会計の基礎を学びます。
第 11 回	不正防止と会計	公認会計士による監査などについて学びます。
第 12 回	会社の支払う税金	法人税の計算について学びます。
第 13 回	就職活動を意識した企業分析	就職活動を意識した企業分析について学びます。
第 14 回	期末試験・解説および本講義のまとめ	期末試験を実施し、解説します。また本講義の学習内容について要約・整理します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習として各章のウォーミングアップを読んでください。わからない用語は各自で調べてください。復習・宿題等として授業内ミニテストの見直し等を行ってください。本授業の準備学習・復習時間は1回につき4時間を標準とします。また、日本経済新聞をはじめ、企業の決算に関する記事に注目すると、企業会計に対する理解が進展しますので、授業の進行に合わせて各自が興味のある企業について調べてください。

【テキスト（教科書）】

鈴木一道『会計学はじめの一步』第2版 中央経済社 2,000円

その他、必要に応じて講義プリントなどを配付します。

【参考書】

黒川保美『会計学を面白く学ぶ』中央経済社

【成績評価の方法と基準】

授業内に実施する期末試験 70 %、ミニテスト（またはレポート）30 %により評価します。授業をしっかりと聞くとともに、積極的に授業参加することが必要です。なお各自に論じてもらうような設問の場合、他の人とほぼ同じ答案とみなされる場合やテキスト・ネットなどの丸写しは不正行為などとみなし得点を与えませんので、自分で調べたものを自分の言葉で書きましょう。

【学生の意見等からの気づき】

さまざまな会計を学習するため、項目によっては初めて聞く言葉も多いとの意見がありました。そのため、よりわかりやすく身近な事例を取り上げるよう心がけます。

【Outline (in English)】

Basic knowledge of business accounting of the sales and the benefit will be learned at this session. This tuition's purpose is to learn about the reach of the financial accounting and all of wide business accounting as well as a management accounting.

It'll be also useful in case of job hunting.

The aim of this course is to help students acquire knowledge of corporate accounting.

This goals of this course is to understanding of various accounting.

Before/after each class meeting, students will be to spend two hours to understand to the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination (in-class):70% Small tests(reports):30%

MAN200MA

経営統計論 B (企業データ) 展開科目

長瀬 毅

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
曜日・時限：金 2/Fri.2 | 配当年次：2~4 年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

本講義では、大量の経営・企業データを用いて、整理、集約および分析する方法を学びます。Excel の基本操作から開始し、最終的には、統計学における基本的な検定方法および回帰分析まで学びます。使用するデータは、主に利益および売上等の経済・企業データですが、本演習で獲得できる分析方法は、分野に拘わらず、広く役立ちます。

【到達目標】

統計学の基礎知識を身に付けるとともに、実践の場で使いこなすことができるようになることが到達目標です。具体的な到達目標は、学生が様々なレポートや卒業論文を執筆するにあたり、統計分析を用いた専門的な学術論文を精読する際に、論文中の統計分析を追跡・解釈し論文の妥当性を検証し論文の成果と課題を認識できるようにようになることです。また、学生が講義で取り扱う売上高等の企業財務データや、物価等のマクロ経済データの取り扱いに習熟し、自身のレポート・論文作成、職業の場でのデータ分析に活かすことができるようになることです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

情報実習室にて、演習形式にて行います。パソコンを用いた分析ですので、統計分析の楽しさを体験しながら、自然に分析手法が身についていくと思います。また、経済・経営のデータに精通できるようになります。また、レポートの提出を求めています。受講者の意見等は授業内で紹介し、さらなる議論に活用します。

大学行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	本講義の主題と到達目標を説明する。
2	エクセルの基本操作	企業データの処理の基礎として、MS-Excel、統計ソフト R の基本操作について学びます。
3	記述統計 (1)	中心的尺度 (平均、中位数、最頻値) について、企業データを用いて学びます。
4	記述統計 (2)	ちらばりの尺度 (レンジ、分散、標準偏差) について企業データを用いて学びます。
5	記述統計 (3)	標準化 (Z 値) について学びます。企業データの大小を相対的に理解できるようになります。
6	記述統計 (4)	2 変量の相関について学びます。企業データの関連性について理解できるようになります。
7	回帰分析 (1)	単回帰について学びます。企業データを一次関数により理解できるようになります。
8	回帰分析 (2)	重回帰について学びます。企業データの決定要因を大変量により理解できるようになります。
9	回帰分析 (3)	タミー変数、交互作用項について学びます。企業データの決定要因をより詳しく理解できるようになります。
10	回帰分析 (4)	回帰診断について学びます。企業データの回帰結果を正しく診断できるようになります。
11	回帰分析 (5)	回帰分析を用いた、研究論文を読みます。企業データを用いた論文を正確に読めるようになります。
12	各種検定 (1)	平均値、平均差の検定等について学びます。企業データが有意に異なるかどうかについて理解できるようになります。
13	各種検定 (2)	分散比の検定、カイ二乗検定等について学びます。企業データの分散や比率が異なるかどうかについて理解できるようになります。

14 各種検定 (3)

回帰係数の検定について学びます。企業データの回帰の検定について理解できるようになります。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

さまざまな授業で統計データが取り扱われることが多いと思いますので、それらに関心をもちつつ本講義を受けると、一層効果が高まるでしょう。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

開講時に指示します。

【参考書】

開講時に指示します。

【成績評価の方法と基準】

- ①授業における発言、取り組み: 30%
- ②授業内および期末レポート: 70%

【学生の意見等からの気づき】

今年度は初めての担当ですが、前任の講師の先生からは、「統計学を理解できてよかったという意見が多いので、引き続き受講者に有用な授業を行っていきます。」と聞いています。今年度の講義についても、実際のデータを用いた実践的な内容を講義することに努めるとともに、基礎的な科目である「キャリア研究調査法 (量的調査)」との関連を意識した内容の講義を実施していきたいと思ひます。

【学生が準備すべき機器他】

情報実習室で行い、パソコンを用いた演習を行いながら分析手法を身につけていきます。

【その他の重要事項】

- ・本講義は、「キャリア研究調査法 (量的調査)」の実践編という位置づけにあります。新しい上級の知識を獲得するというよりは、基礎を十分に復習し、実践を積んで実際に自分で分析できるようになることが目的です。
- ・統計の基礎からはじめていくので、「キャリア研究調査法 (量的調査)」を履修していない人でも大丈夫です。
- ・なお、本講義は情報実習室で行うため、履修人数に制限があります。初回の講義には必ず出席してください。履修制限を超えた場合には抽選を行います。

【Outline (in English)】

***Course outline**

The aim of this course is to master the basics of statistics. No prior basic knowledge is required.

***Learning Objectives**

The goal of this class is to enable students to analyze and interpret large quantitative data on their own. This class will cover descriptive statistics, statistical tests and regression analysis.

***Learning activities outside of classroom**

If you are interested in how statistical data is used in the media, it will be useful for your studies. Your required study time is at least 4 hours for each class meeting.

***Grading Criteria**

Your overall grade in the class will be decided based on the following. in class contribution: 30%, short and long reports: 70%.

MAN200MA

経営組織論 I

展開科目

梅木 眞

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

曜日・時限：月 1/Mon.1 | 配当年次：2～4 年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

我々の生活は企業を中心としたさまざまな組織に支えられている。また、我々自身も組織の一員として働き、キャリアを形成している。春学期はミクロな視点＝組織の中の個人及び小集団に焦点を当てて学んでいく。

【到達目標】

組織理論の基礎・応用、および実践について、体系的に理解することを目標とする。将来企業組織などの一員として、働く人々の生産性を高めるために必要な知識を身に付ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

教科書及び参考図書に基づき、通常の講義形式で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	講義内容、講義の進め方、評価方法などについての説明
2	個人行動の基礎	企業で働く人々の価値観や態度についての理解を深める
3	個人行動	従業員のものの見方（認知システム）や学習について理解を深める
4	働く人のパーソナリティ	パーソナリティの類型化と人間の感情
5	働く人の感情	パーソナリティや感情を、職務との関連で理解する
6	動機付けの基礎	初期の動機付け理論
7	動機付け理論（1）	現代の動機付け理論/マクレランド理論他
8	動機付け理論（2）	現代の動機付け理論/職務設計理論他
9	動機付けの実践（1）	動機付けの実践/MBO（目標による管理）他
10	動機付けの実践（2）	動機付けの実践/職務設計理論他
11	個人意思決定（1）	意思決定のメカニズム：合理的意思決定と現実の意思決定
12	個人意思決定（2）	意思決定の改善のためのツール：どうすれば生産性の高い意思決定を行うことができるか
13	集団行動（1）	集団に関する基礎、グループ・ダイナミクス
14	集団行動（2）	集団による意思決定のメカニズム、どうすれば組織的に良い意思決定を行うことができるか

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストに沿って講義を進めていくので、指示された部分は事前に読んでおくこと。

皆さんが所属している集団や、これから就職するであろう組織をイメージしながら受講すると、理解が深まります。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

スティーブン P. ロビンズ（高木晴夫訳）『組織行動のマネジメント』ダイヤモンド社

【参考書】

Robbins and Judge(2021) Essentials of Organizational Behaviour, Global Edition. Pearson Education Limited.

(講義で用いるテキストの global version です)

それ以外は必要に応じて講義中に適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】

期末試験で 100% 評価します。期末試験は対面あるいはオンラインのいずれかで行います（決定次第、授業支援システムで告知します）。また、授業中の小課題で若干の加点を行います。成績評価基準は以下の通りです。

A+

組織理論の基礎・応用、および実践について、事例などを用いて十分に理論的に説明することができる

A-以上

組織理論の基礎・応用、および実践について、事例などを用いて理論的に説明することができる

B-以上

組織理論の基礎・応用、および実践について、不十分ではあるが理論的に説明することができる。

C 以上

組織理論の基礎・応用、および実践について、不十分ながらも説明することができる。

D 以下

組織理論の基礎・応用、および実践について、正確に説明することができない。

【学生の意見等からの気づき】

本年度から基本的に対面で授業を行います。久しぶりで慣れないことも多いですが、授業支援システムを併用しながら講義を実施していきます。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを通じて参考資料を配布する場合がありますので、指示に従ってください。

【Outline (in English)】

Our lives are supported by various organizations. We work as a member of the organization and form a career. In spring term, we focuses on individuals within the organization.

Learning objectives are to systematically understand the basics, applications, and practices of organizational theory. As a member of a corporate organization, acquire the knowledge necessary to increase the productivity of working people.

Outside of classroom, deepen your understanding if you take the course while imagining the group to which you belong and the organization that you will find employment in the future. The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each.

Lecture will proceed according to the textbook, so read the instructed part in advance.

Report assignments will be assigned twice and will be evaluated. The grade evaluation criteria are as follows.

A +

Be able to explain the basics, applications, and practices of organizational theory sufficiently theoretically using examples.

A-below

Be able to theoretically explain the basics, applications, and practices of organizational theory using examples.

B-or higher

Be able to explain the basics, applications, and practices of organizational theory, albeit inadequately, theoretically.

C or above

Be able to explain the basics, applications, and practices of organizational theory, albeit inadequately.

D or less

It is not possible to accurately explain the basics, applications, and practices of organizational theory.

MAN200MA

経営組織論Ⅱ

展開科目

梅木 眞

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

曜日・時限：月 1/Mon.1 | 配当年次：2～4 年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ヒトを動かし、組織を動かし、成果を出していくためにはどうすれば良いか。機能不全に陥った組織をどうすれば良いか。秋学期は集団、組織、組織間レベルの分析に焦点を当てていきます。

【到達目標】

組織理論の基礎・応用、および実践について、体系的に理解することを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

教科書及び参考図書に基づき、通常の講義形式で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	講義内容、講義の進め方、評価方法などについての説明
2	チーム	チームを理解する
3	コミュニケーション（1）	コミュニケーションのメカニズム
4	コミュニケーション（2）	コミュニケーションの阻害要因と改善メカニズム
5	リーダーシップ（1）	初期のリーダーシップ理論
6	リーダーシップ（2）	現代のリーダーシップ理論
7	パワーと組織内政治	組織内で行使される力
8	コンフリクト	コンフリクトの定義・分類・活用
9	交渉	組織内外における交渉のメカニズム
10	組織構造	組織構造の基礎と組織デザイン
11	組織文化	組織文化の類型化・文化の形成と業績との関連
12	人材管理	採用・育成・業績評価
13	組織変革と組織開発（1）	組織変革の基本
14	組織変革と組織開発（2）	変革のマネジメントと組織開発の具体的手法

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストに沿って講義を進めていくので、指示された部分は事前に読んでおくこと。自分だったらどのように考え、行動するか、常に自身に置き換えて考えながら講義に臨んでください。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

スティーブン P. ロビンズ（高木晴夫訳）『組織行動のマネジメント』ダイヤモンド社

【参考書】

Robbins and Judge(2021) Essentials of Organizational Behaviour, Global Edition. Pearson Education Limited.

(講義で用いるテキストの global version です)

それ以外は必要に応じて講義中に適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】

期末試験で 100% 評価します。期末試験は対面あるいはオンラインのいずれかでいきます（決定次第、授業支援システムで告知します）。また、授業中の小課題で若干の加点を行います。

成績評価基準は以下の通りです。成績評価基準は以下の通りである。

A+

組織理論の基礎・応用、および実践について、事例などを用いて十分に理論的に説明することができる

A-以上

組織理論の基礎・応用、および実践について、事例などを用いて理論的に説明することができる

B-以上

組織理論の基礎・応用、および実践について、不十分ではあるが理論的に説明することができる。

C 以上

組織理論の基礎・応用、および実践について、不十分ながらも説明することができる。

D 以下

組織理論の基礎・応用、および実践について、正確に説明することができない。

【学生の意見等からの気づき】

本年度から基本的に対面で授業を行います。久しぶりで慣れないことも多いでしょうが、授業支援システムを併用しながら講義を実施していきます。

【学生が準備すべき機器他】

参考資料を学習支援システムを用いて配布する場合があります。指示に従ってください。

【Outline (in English)】

In this lecture, we study how to influence people, manage organization, and achieve its goal. We focus on group, and organizational, and inter-organizational level.

Learning objectives are to systematically understand the basics, applications, and practices of organizational theory.

The lecture will proceed according to the text, so read the instructed part in advance. Please attend the lecture while always thinking about how to think and act if you are yourself. The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each.

Report assignments will be assigned twice and will be evaluated. The grade evaluation criteria are as follows.

A+

Be able to explain the basics, applications, and practices of organizational theory sufficiently theoretically using examples.

A-below

Be able to theoretically explain the basics, applications, and practices of organizational theory using examples.

B-or higher

Be able to explain the basics, applications, and practices of organizational theory, albeit inadequately, theoretically.

C or above

Be able to explain the basics, applications, and practices of organizational theory, albeit inadequately.

D or less

It is not possible to accurately explain the basics, applications, and practices of organizational theory.

MAN200MA

戦略経営論 I

展開科目

木村 琢磨

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

曜日・時限：火 4/Tue.4 | 配当年次：2～4 年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

概要

戦略経営論の基礎として経営戦略に関する主な理論を学ぶ。また、デジタル・トランスフォーメーションが戦略形成に与える影響に関する最近のトピックおよび研究結果を学ぶ。

到達目標

- 経営戦略に関する基礎的な概念、理論を正確に説明できる
- デジタル・トランスフォーメーションに関する基礎用語を説明できる。
- 企業のビジネスモデルを分析できる

【到達目標】

以下の能力を習得することにより、戦略経営に関する仮説構築力、データの収集力および分析力を養う。

- 経営戦略の立案に関する主な理論的フレームワークを理解し、説明できる。
- 経営戦略の基本的な概念を学術的定義に基づいて説明できる。
- 経営戦略の理論に基づいて実際の事例を説明できる。
- 企業の戦略に関連するデジタル・トランスフォーメーションと人工知能技術に関する基礎的な用語を説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

講義、リアクションペーパーによる個人ワーク、グループディスカッション

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	本講義の概要・目的・成績評価方法
第 2 回	戦略的経営とは	戦略的経営の全体的フレームワーク
第 3 回	外部環境分析	P E S T L E 分析、ファイブフォース分析
第 4 回	内部環境分析	資源ベース視点。V R I O フレームワークによる分析法
第 5 回	SWOT 分析	SWOT 分析の方法と実践
第 6 回	事業戦略（1）	差別化戦略
第 7 回	事業戦略（2）	コスト・リーダーシップ戦略
第 8 回	企業戦略	多角化戦略。アンゾフマトリクスを用いた分析法
第 9 回	ビジネスモデル（1）	ビジネスモデルの定義と主なタイプ
第 10 回	ビジネスモデル（2）	ビジネスモデル・キャンパスを用いた分析法
第 11 回	デジタル・トランスフォーメーション（DX）	DX の定義・特徴とビジネスへの応用例
第 12 回	ダイナミック・ケイパビリティ	ダイナミック・ケイパビリティの定義、DX への応用
第 13 回	戦略形成の現代的課題	DX がもたらす戦略形成上の課題
第 14 回	まとめ	総括と理解度確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- 講義スライドによる事前学習（各回の授業はこれらの事前学習をしている前提で行う）。
- 講義内容の復習（各回。授業は前回までの内容を復習しているものとして行う）。
- 各回の授業の準備学習・復習時間は各2時間、計4時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

講義スライド（学習支援システム上にて配付）

【参考書】

講義スライドの参考文献一覧にて提示する

【成績評価の方法と基準】

授業内課題（配点 20 %）

期末試験（配点 80 %）

実施形式：選択式。参照不可

評価基準：

- 経営戦略の立案に関する主な理論的フレームワークを理解し、説明できる。
- 経営戦略の基本的な概念を学術的定義に基づいて説明できる。
- 経営戦略の理論に基づいて実際の事例を説明できる。
- 企業の戦略に関連するデジタル・トランスフォーメーションに関する基礎的な用語を説明できる。

【学生の意見等からの気づき】

最初の課題を忘れる学生が多いため、課題で一定の点数に達しなかった者への再チャレンジ課題を廃止。試験を参照不可に変更。

【学生が準備すべき機器他】

授業に関する諸連絡や参考資料の配付は学習支援システムにより行う。

【その他の重要事項】

期末試験の回答内容において他の学生と著しい類似性が見られたときは、該当する学生に対して別途、口述試験により理解度の確認をする場合がある。

【Outline (in English)】

Course outline

This course covers basic constructs and theories of corporate strategy and business strategy, focusing on strategy formation. It also covers the impact of digital transformation on strategy formation.

Learning objectives

Can explain basic constructs and theories of corporate and business strategy.

Can explain basis terms of digital transformation.

Can analyze a firm's business model.

Learning activities outside of classroom

Summarize the key issues in the lectures

Analyze real business cases using the perspectives explained in the lectures

Grading Criteria

In-class Assignment: 20%

Final exam: 80%

Assess whether learners can

1. Explain the basic constructs and theories of strategy formation

2. Explain the basic terms of digital transformation

3. Interpret business cases using the framework learned in this course focuses on some of the essential issues in strategic management. It will cover basic analytical approaches and some practical examples of firms. It is consciously designed with a technological and global outlook since this orientation in many ways highlights the significant emerging trends in strategic management. The course aims to provide the students with fundamental theoretical frameworks and pragmatic analytical methods that can work as guides to formulate and implement strategies on corporate, business, and functional levels.

MAN200MA

戦略経営論Ⅱ

展開科目

木村 琢磨

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

曜日・時限：火 4/Tue.4 | 配当年次：2～4 年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

概要

戦略経営論の基礎として意思決定、戦略実行に関する主な理論を学ぶ。

到達目標

- ・組織内意思決定に関する基礎的な概念、理論を正確に説明できる。
- ・組織内パワーに関する基礎的な概念・理論を正確に説明できる。
- ・組織内の政治的ダイナミズムに関する基礎的な概念・理論を正確に説明できる。

【到達目標】

以下の能力を習得することにより、戦略実行に関する仮説構築力、データの収集力および分析力を養う。

- ・組織内意思決定に関する基礎的な概念、理論を正確に説明できる。
- ・組織内パワーに関する基礎的な概念・理論を正確に説明できる。
- ・組織内の政治的ダイナミズムに関する基礎的な概念・理論を正確に説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

講義、リアクションペーパーによる個人ワーク、グループディスカッション

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	本講義の概要・目的・成績評価方法
第 2 回	意思決定（1）	意思決定のプロセス、意思決定のモデル
第 3 回	意思決定（2）	意思決定におけるバイアス
第 4 回	意思決定（3）	意思決定における倫理
第 5 回	組織内パワー（1）	パワーの定義、5つのパワー
第 6 回	組織内パワー（2）	パワーの社会学理論、心理学理論
第 7 回	組織内パワー（3）	リーダーとの関係性と組織内パワー
第 8 回	組織内政治（1）	組織の政治的性質、政治行動のタイプ
第 9 回	組織内政治（2）	組織内政治知覚モデル
第 10 回	組織内政治（3）	政治スキルとその効果
第 11 回	イシュー・セリング（1）	注目ベースの組織理論、イシューセリングモデル
第 12 回	イシュー・セリング（2）	組織内での提案の方法
第 13 回	戦略実行の現代的課題	意思決定、パワー、組織内政治の要点
第 14 回	まとめ	総括、理解度確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・講義スライドによる事前学習（各回の授業はこれらの事前学習をしている前提で行う）。

- ・講義内容の復習（各回。授業は前回までの内容を復習しているものとして行う）。

- ・各回の授業の準備学習・復習時間は各2時間、計4時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

講義スライド（学習支援システム上にて配信）

【参考書】

講義スライドの参考文献一覧にて提示する

【成績評価の方法と基準】

【成績評価の方法と基準】

授業内課題（配点 20 %）

期末試験（配点 100 %）

実施形式：選択式、参照不可

評価基準：

- ・組織内意思決定に関する基礎的な概念、理論を正確に説明できる。
- ・組織内パワーに関する基礎的な概念・理論を正確に説明できる。
- ・組織内の政治的ダイナミズムに関する基礎的な概念・理論を正確に説明できる。

【学生の意見等からの気づき】

- ・戦略経営論Ⅰと同様に、課題の再チャレンジ制度を廃止。試験を参照不可に変更。

【Outline (in English)】

Course outline

This course covers basic constructs and theories of strategic decision making and strategy implementation. It also covers power and politics within an organization.

Learning objectives

Can explain basic constructs and theories of strategic decision making, power and politics within organizations.

Learning activities outside of classroom

Summarize the key issues in the lectures

Analyze real business cases using the perspectives explained in the lectures

Grading Criteria

In-class Assignment: 20%

Final exam: 80%

Assess whether learners can explain the basic constructs and theories of decision making, power and politics within organizations.

MAN200MA

経営分析論Ⅰ

展開科目

平井 裕久

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

曜日・時限：月 4/Mon.4 | 配当年次：2～4 年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、財務諸表（貸借対照表、損益計算書、キャッシュ・フロー計算書など）から得られる情報を利用して、そこから算定される経営指標などによって、企業の経営状態の実像や課題を観察する眼を養うことを目標とする。財務諸表分析における、企業の収益性、安全性、効率性、成長性などに関する伝統的な分析方法を中心とし、また近年話題のテーマである企業価値評価についても、設例や上場企業のデータを用いて講義していく。

【到達目標】

具体的な到達目標は以下である。

- ①基本的な財務諸表（貸借対照表、損益計算書、キャッシュフロー計算書）を読むことができる。
- ②財務数値の意味を理解する。
- ③企業の財務数値を用いて分析を行える。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

本講義では、プレゼンテーションソフトを用いて説明する。講義内では、補足説明のためのプリントなどを配布し、より具体的な事例を確認する。また講義内において、数回の課題を行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	講義の進め方や、経営分析を学ぶ意義について説明する。
第 2 回	第 1 章 財務諸表分析の基礎	・財務諸表分析の意義 ・財務諸表分析の方法 ・財務諸表分析と実証会計研究
第 3 回	第 2 章 財務諸表の見方	・連結財務諸表について ・連結財務諸表の相互関係
第 4 回	第 3 章 貸借対照表データによる安全性分析	・貸借対照表データによる基本分析 ・短期財務安全性の分析 ・長期財務安全性の分析 ・有利子負債の分析
第 5 回	第 4 章 損益計算書データによる収益性分析	・損益計算書データによる基本分析 ・段階別売上高利益率の算定 ・プロフォーマ利益 ・セグメント情報の分析
第 6 回	第 5 章 相互関係比分析による収益性分析	・相互関係比と収益性分析について
第 7 回	第 5 章 相互関係比分析による収益性分析	・投下資本利益率の算定 ・投下資本利益率の分解 ・ROA と ROE の関係
第 8 回	第 6 章 効率性分析	・使用総資本回転率 ・回転期間の分析 ・増加運転資本
第 9 回	第 6 章 効率性分析	・増加運転資本
第 10 回	中間テスト	中間テストの実施および解説
第 11 回	第 7 章 キャッシュ・フロー・データによる分析	・キャッシュ・フローと会計利益 ・活動区分別キャッシュ・フロー
第 12 回	第 7 章 キャッシュ・フロー・データによる分析	・キャッシュ・フロー・データによる分析
第 13 回	第 7 章 キャッシュ・フロー・データによる分析	・フリー・キャッシュ・フローの算定
第 14 回	試験・まとめと解説	まとめと試験実施および解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストの該当章を事前によく読んで予習しておくこと。
講義終了後には、内容の理解を確実なものとするためにも復習をすること。
本授業の準備・復習時間は、各 4 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

乙政正太 著『財務諸表分析（第 6 版）』同文館出版、2019

【参考書】

青木茂男『要説 経営分析（三訂版）』森山書店、2008
桜井久勝『財務諸表分析（第 5 版）』中央経済社、2012
佐藤裕一『ビジュアル経営分析の基本（第 5 版）』日本経済新聞出版社、2012
森田松太郎『経営分析入門（第 4 版）』日本経済新聞出版社、2009

バレブ他、齊藤静樹監訳、筒井知彦他訳『企業分析入門（第 2 版）』東京大学出版会、2001

平松一夫他『事例でわかる企業分析』東京経済情報出版、2009

ペンマン、杉本徳栄他訳『財務諸表分析と証券評価』白桃書房、2005

【成績評価の方法と基準】

定期試験（60％）・中間テスト（30％）・平常点（10％）による総合評価

【学生の意見等からの気づき】

前年度はオンデマンド授業でした。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布や課題提出等のために学習支援システム等を利用する

【その他の重要事項】

受講に際して、簿記の基礎的な知識（日商簿記 3 級程度）はあることが望ましい。

授業および試験においては、“電卓”を準備すること。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire Business Analysis. The goals of this course is to use financial statement information to understand the business conditions of companies based on management indicators and other information.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on the following Term-end examination: 60%、Short reports : 30%、in class contribution: 10%.

MAN200MA

経営分析論Ⅱ

展開科目

平井 裕久

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
曜日・時限：月 4/Mon.4 | 配当年次：2～4 年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、財務諸表（貸借対照表、損益計算書、キャッシュ・フロー計算書など）から得られる情報を利用し、そこから算定される経営指標などによって、企業の経営状態の実像や課題を観察する眼を養うことを目標とする。財務諸表分析における、企業の収益性、安全性、効率性、成長性などに関する伝統的な分析方法を中心とし、また近年話題のテーマである企業価値評価についても、設例や上場企業のデータを用いて講義していく。

【到達目標】

具体的な到達目標は以下である。
①基本的な財務諸表（貸借対照表、損益計算書、キャッシュフロー計算書）を読むことができる。
②財務数値の意味を理解する。
③企業の財務数値を用いて分析を行える。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

本講義では、プレゼンテーションソフトを用いて説明する。講義内では、補足説明のためのプリントなどを配布し、より具体的な事例を確認する。また講義内において、数回の課題を行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	講義の進め方や、経営分析を学ぶ意義について説明する。
第 2 回	第 8 章 損益分岐点分析	・損益分岐点分析の意味 ・限界利益と損益分岐点 ・利益図表
第 3 回	第 8 章 損益分岐点分析	・営業レバレッジ ・変動費と固定費
第 4 回	第 9 章 成長性分析	・業績の推移 ・業績予想との比較 ・上場企業の成長性
第 5 回	第 10 章 付加価値分析	・付加価値の意味 ・労働生産性の分析 ・労働分配率 ・経済的付加価値
第 6 回	第 13 章 利益マネジメントと財務諸表分析	・会計利益の操作性 ・利益マネジメントの方法
第 7 回	第 13 章 利益マネジメントと財務諸表分析	・利益マネジメントの行使パターン ・利益マネジメント行動の検出
第 8 回	中間テスト	中間テストの実施および解説
第 9 回	補章 貨幣の時間的価値と割引計算	・貨幣の時間的価値 ・年金の現在価値 ・年金型投資商品の現在価値
第 10 回	第 11 章 倍率指標とキャッシュ・フローに基づく価値評価	・ファンダメンタル分析 ・企業価値評価の間便法
第 11 回	第 11 章 倍率指標とキャッシュ・フローに基づく価値評価	・配当割引モデル ・割引キャッシュ・フローモデルと企業価値評価
第 12 回	第 12 章 会計利益に基づく価値評価	・会計利益と株式価値評価 ・残余利益と株式価値評価モデル
第 13 回	第 12 章 会計利益に基づく価値評価	・価値関連性分析 ・株価説明力に影響を及ぼす要因
第 14 回	試験・まとめと解説	まとめと試験実施および解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストの該当章を事前によく読んで予習しておくこと。
講義終了後には、内容の理解を確実なものとするためにも復習をすること。
本授業の準備・復習時間は、各 4 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

乙政正太 著『財務諸表分析（第版）』同文館出版、2019

【参考書】

青木茂男『要説 経営分析（三訂版）』森山書店、2008
桜井久勝『財務諸表分析（第 5 版）』中央経済社、2012
佐藤裕一『ビジュアル経営分析の基本（第 5 版）』日本経済新聞出版社、2012
森田松太郎『経営分析入門（第 4 版）』日本経済新聞出版社、2009

バレブ他、斉藤静樹監訳、筒井知彦他訳『企業分析入門（第 2 版）』東京大学出版会、2001

平松一夫他『事例でわかる企業分析』東京経済情報出版、2009
ベンマン、杉本徳栄他訳『財務諸表分析と証券評価』白桃書房、2005

【成績評価の方法と基準】

定期試験（60％）・中間テスト（30％）・平常点（10％）による総合評価

【学生の意見等からの気づき】

前年度はオンデマンド授業でした。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布や課題提出等のために学習支援システム等を利用する

【その他の重要事項】

受講に際して、簿記の基礎的な知識（日商簿記 3 級程度）はあることが望ましい。

授業および試験においては、“電卓”を準備すること。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire Business Analysis. The goals of this course is to use financial statement information to understand the business conditions of companies based on management indicators and other information.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on the following Term-end examination: 60%, Short reports: 30%, in class contribution: 10%.

MAN200MA

アントレプレナーシップ論 I 展開科目

松本 真尚

単位数: 2 単位 | 開講セメスター: 春学期授業/Spring

曜日・時限: 火 5/Tue.5 | 配当年次: 2~4 年

その他属性: 〈他〉〈優〉〈実〉〈未〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

この授業ではアントレプレナーシップをもった人材(大手企業などで新規事業の立ち上げを担う人材や起業家など)の育成を目指している。大手企業の新規事業創出やスタートアップ起業家から提供されるテーマ(課題)を通じて、アントレプレナーとして求められる資質を理解するとともに、複数回のグループワークを通じて、実際に事業アイデア立案に取り組んでみることで、スキルやマインドセットを養う。

※本授業は ZOOM などを活用した完全オンラインでの授業運営を予定しています。

※前期/後期は講義内容が一部重複することがあるが、ケースを提供頂く参加企業やスタートアップ起業家は異なる。

【過去授業にご参加頂いた参加企業】

■ 2019 年度(前期/後期)

・株式会社 Blue Lab(みずほフィナンシャルグループ)、株式会社 Smiloops、株式会社静岡新聞社、第一生命保険株式会社 (D-LAB)、ANA セールズ株式会社、株式会社空色

■ 2020 年度(前期/後期)

・株式会社コーセー、株式会社セブン- イレブン・ジャパン、株式会社 Amadeus Code、株式会社博報堂 DY メディアパートナーズ

■ 2021 年度(前期/後期)

・江崎グリコ株式会社、株式会社 Hosty、株式会社セブン- イレブン・ジャパン、ambie 株式会社(ソニーグループ発スタートアップ企業)、SPACECOOL 株式会社(大阪ガス発スタートアップ企業)、株式会社 Stepdays(博報堂グループ発スタートアップ企業)

■ 2022 年度(前期/後期)

・株式会社メルカリ、株式会社 CONNECT(大和証券発スタートアップ企業)、全日本空輸株式会社、株式会社オープンエイト、株式会社博報堂/博報堂 DY メディアパートナーズ、パナソニック ホールディングス株式会社

【到達目標】

- ①起業や新規事業の創造に必要なスキルやマインドセット(アントレプレナーシップ)を理解し、体験する。
- ②産業界の変化や業界トレンドに触れ、何を学び続けるべきか考えると共に、キャリアの目標を立てる。
- ③グループワーク時に、自分で考え、見解を述べることができる。
- ④自分で考えたプランをプレゼンテーションできる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

(2023 年度は完全オンラインでの授業の実施となります。変更は学習支援システム等で提示します)

授業は、1つのパートが、1) ゲストスピーカーの講演及び講義、2) 2回のグループディスカッション、3) 最後のプレゼンテーションにより構成され、それを3パート実施する。

テーマ(課題)を提供頂くゲストスピーカーには、大手企業の新規事業担当者やスタートアップ企業の経営者などを招く。企業の講演を聞き、ディスカッションを行うことで、新規事業の立ち上げや起業家としての物事の捉え方、考え方について理解する。

講演・講義の中には皆さんが卒業する頃に訪れる社会・産業界の変化を見据え、業界トレンドに関する情報なども提供する。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

あり/Yes

【授業計画】 授業形態: オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業オリエンテーション・アントレプレナーのスキルセット、マインドセットについて
第 2 回	講義	産業変化と、日本における大企業の動向、これからの社会に求められることについてのレクチャー(予定)
第 3 回	講義(テーマ1)	大手企業の新規事業担当者またはスタートアップ起業家による講義とテーマ(課題)の提供1
第 4 回	グループワーク1-1	グループでのディスカッションで個人のアイデア・考えを共有する
第 5 回	グループワーク1-2	グループでのディスカッションで個人のアイデアをブラッシュアップする

第 6 回	発表・振り返り(テーマ1)	大手企業の新規事業担当者・スタートアップ起業家に対してアイデアを発表する(プレゼンテーション)
第 7 回	講義(テーマ2)	大手企業の新規事業担当者またはスタートアップ起業家による講義・テーマ(課題)の提供2
第 8 回	グループワーク2-1	グループでのディスカッションで個人のアイデア・考えを共有する
第 9 回	グループワーク2-2	グループでのディスカッションで個人のアイデア・考えをブラッシュアップする
第 10 回	発表・振り返り(テーマ2)	大手企業の新規事業担当者・スタートアップ起業家に対してアイデアを発表する(プレゼンテーション)
第 11 回	講義(テーマ3)	大手企業の新規事業担当者またはスタートアップ起業家による講義・テーマ(課題)の提供3
第 12 回	グループワーク3-1	グループでのディスカッションで個人のアイデア・企画を共有する
第 13 回	グループワーク3-2	グループでのディスカッションで個人のアイデア・企画をブラッシュアップする
第 14 回	発表・振り返り(テーマ3)	大手企業の新規事業担当者・スタートアップ起業家に対してアイデアを発表する(プレゼンテーション) アントレプレナーシップ論授業全体の総括

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

登壇される大手企業の新規事業についてや、スタートアップ起業家の著書や会社の HP、インタビュー記事、関連 News などを事前に読んでおくこと。

実際にグループで事業アイデアやビジネスプランを策定するために、フィールドワーク※、グループでのディスカッション、資料作成などを行うことを想定。

※フィールドワークについては ZOOM などのオンライン会議システムの活用も想定。

【テキスト(教科書)】

教科書は使用しない。

【参考書】

初回授業、オリエンテーション時に参考図書を提示する。

【成績評価の方法と基準】

- ①出席と議論への参加状況 60 %
- ②ミニレポート 20 %
- ③ビジネスプラン(発表・資料) 20 %

【学生の意見等からの気づき】

授業日程などの変更については、状況に応じて臨機応変に対応

【学生が準備すべき機器他】

- 1: 自分用 PC を持っていること
～スマホではなく PC での操作が必要となります。自分の PC を準備してください。
- 2: 自宅等で WiFi 環境があること
～動画配信、オンラインディスカッションができる環境が必須です。
- 3: Google アカウントを作成すること
～授業の課題として、Google スプレッドシートや Google ドキュメント上での作業があります。

【その他の重要事項】

履修希望者が予定人数を越す場合は、選抜の可能性あり。初回授業に必ず参加すること。授業を履修希望される方には、事前に Google フォームからアンケートに回答頂きます。起業や新規事業の創出経験のある社会人・起業家が教員やアシスタントとして授業運営に関わり、実践的に事業創造のプロセスを学べるような授業を実施する。

※協力企業のプレスリリースなどで本授業が取り上げられる場合があります。

【Outline (in English)】

This course aims to develop human resources with entrepreneurial skills (e.g. people who are responsible for setting up new businesses in major companies, entrepreneurs, etc.). Through themes (tasks) provided by start-up entrepreneurs and the creation of new businesses at major companies, students gain an understanding of the qualities required of entrepreneurs and develop skills and mind-set by actually working on business idea formulation through group work over several sessions.

*This class will be run completely online using ZOOM, etc.

*Part of the lecture content may overlap in the first/second semester, but the participating companies and start-up entrepreneurs who will provide cases will differ.

[Participating companies that have attended classes in the past]

■ FY2019 (1st/ 2nd semester)

Blue Lab (Mizuho Financial Group), Smiloops, The Shizuoka Shimbun and Shizuoka Broadcasting System, The Dai-ichi Life Insurance Company, Limited (D-LAB), ANA Sales, SOLAIRO, Inc.

■ FY2020 (1st/ 2nd semester)

KOSÉ Corporation, Seven-Eleven Japan, Amadeus Code, Hakuhodo DY Media Partners Inc.

■ FY2021 (1st/ 2nd semester)

Ezaki Glico Co., Ltd., Hosty inc., Seven-Eleven Japan, ambie inc. (start-up company from Sony Group), SPACECOOL inc.(start-up company from Osaka Gas), Stepdays inc.(start-up company from Hakuodo Group).

■ FY2022 (1st/ 2nd semester)

Mercari, inc., CONNECT Co.Ltd. (start-up company from Daiwa Securities), All Nippon Airways Co., Ltd., OPENS Inc. , Hakuodo/Hakuodo DY Media Partners Inc., Panasonic Holdings Corporation.

【Learning Objectives】

- (i) Understand and experience the skills and mind-set (entrepreneurship) required to start a business or create a new business.
- (ii) To be exposed to changes in the industry and industry trends, to think about what they should continue to learn and to set career goals.
- (iii) Be able to think and express their own views during group work.
- (iv) Be able to present their own plans.

【Learning activities outside of classroom】

Read in advance about the new businesses of the major companies who will be speaking, as well as books, company websites, interview articles and related News from start-up entrepreneurs.

Assume that fieldwork*, group discussions and preparation of documents will be conducted in order to actually formulate business ideas and business plans in groups.

For fieldwork, it is assumed that online conference systems such as ZOOM will be used.

【Grading Criteria /Policy】

- (i) Attendance and participation in discussions 60%
- (ii) Mini-report 20%
- (iii) Business plan (presentation and documents) 20%.

Ezaki Glico Co., Ltd., Hosty inc., Seven-Eleven Japan, ambie inc. (start-up company from Sony Group), SPACECOOL inc.(start-up company from Osaka Gas), Stepdays inc.(start-up company from Hakuhold Group).

■ FY2022 (1st/ 2nd semester)

Mercari, inc., CONNECT Co.Ltd. (start-up company from Daiwa Securities), All Nippon Airways Co., Ltd., OPENS Inc. , Hakuhold/Hakuhold DY Media Partners Inc., Panasonic Holdings Corporation.

【Learning Objectives】

- (i) Understand and experience the skills and mind-set (entrepreneurship) required to start a business or create a new business.
- (ii) To be exposed to changes in the industry and industry trends, to think about what they should continue to learn and to set career goals.
- (iii) Be able to think and express their own views during group work.
- (iv) Be able to present their own plans.

【Learning activities outside of classroom】

Read in advance about the new businesses of the major companies who will be speaking, as well as books, company websites, interview articles and related News from start-up entrepreneurs.

Assume that fieldwork*, group discussions and preparation of documents will be conducted in order to actually formulate business ideas and business plans in groups.

For fieldwork, it is assumed that online conference systems such as ZOOM will be used.

【Grading Criteria /Policy】

- (i) Attendance and participation in discussions 60%
- (ii) Mini-report 20%
- (iii) Business plan (presentation and documents) 20%.

MAN200MA

職業キャリア論

展開科目

松浦 民恵

単位数：2単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

曜日・時限：水 4/Wed.4 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業の目的は、職業に関する基礎的な知識を身につけ、職業と社会・労働市場・企業・個人との関係について理解した上で、個別の職業に関する情報収集や意見交換を通じて、今後の職業キャリアについて考えることです。

【到達目標】

- 以下を到達目標とします。
①「職業」に関する基礎的な知識や考え方を理解すること
②「職業」と社会・労働市場・企業・個人との関係を理解すること
③個別の「職業」や「職業キャリア」に関する検討を通じて、今後の職業キャリアに向けての気付きや示唆を得ること

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

- ①初回とゲスト招聘の回（全体のなかで2～5回程度）は対面もしくはオンラインの同時双方向型、それ以外は原則として対面方式の授業を予定しています。
②毎回学習支援システムに授業の資料（PDF ファイル）を、授業の週の月曜日にアップします。資料をご覧いただきながら授業を受講してください（資料は投影しますが、紙では配布しませんので、ご自身で打ち出してください。当日ノートパソコン上でご覧いただけるようにご準備ください）。
③オンラインの同時双方向型の回については、Zoom の URL を学習支援システムでご案内しますので、事前にご確認ください。当日は授業時間の5分前に接続可能な状況としますので、時間までにオンラインでご入室ください。
④原則として毎回の授業で、確認テスト・リアクションペーパーもしくは課題レポートの提出を求めます。課題レポートは3回程度の提出を予定しています。
⑤確認テスト・リアクションペーパーや課題レポートに対して、授業の中でフィードバックを行います。
⑥受講の状況やゲストのスケジュールなどによって、授業計画を一部変更することがあります（特に実施方式が対面からオンラインに変更になる可能性があります）。学習支援システムで告知しますので、ご確認いただきますよう、よろしくご申し上げます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

Table with 3 columns: 回数, テーマ, 内容. Rows include topics like 'Orientation', 'Social environment and career', 'Digital transformation and career', etc.

- 第 12 回 人事の仕事 ①人事の職業観 ②人事の仕事とキャリア
第 13 回 公共的な仕事～公務員を事例として ①公務員の職業観 ②公務員の仕事とキャリア
第 14 回 授業の振り返り ①課題レポートに関するフィードバック ②これまでの授業の補足とポイントの振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

原則として毎回の授業で、確認テスト・リアクションペーパーもしくは課題レポート（3回提出を想定、各1000～1500字程度）を求めます。課題レポートについては、授業時間外で作成いただくことになります。本授業の準備・復習時間は、参考文献等の購読も含めれば4時間程度となります。

【テキスト（教科書）】

テキストは指定しません。授業の資料は授業の週の月曜日に学習支援システムにアップします。

【参考書】

授業のなかで必要に応じて紹介します。

【成績評価の方法と基準】

課題レポート（60%）、確認テスト・リアクションペーパー及びゲスト招聘時等の質問・意見交換（40%）で評価します。課題レポートに関しては、分析・考察の深さ、論理的な説明力、理解の正しさ、着眼点等のオリジナリティ、を評価します。参考文献などから引用いただく場合は、引用部分と自身の考えについて記述した部分が、峻別できるように記述してください（それができているかどうかは評価対象とします）。課題レポートは必ず期限までにご提出頂きますようよろしくお願い申し上げます（アクセス集中などの危険がありますので、リスクマネジメントとして、遅くとも締切前日までにはご提出ください）。また、課題レポートは配点60点の範囲で評価・採点しますので、課題レポートの提出のみでは不可になる可能性が高いことにご留意ください。確認テスト・リアクションペーパー及びゲスト招聘時等の質疑・意見交換に積極的にご参加いただきますよう、どうぞよろしくお願い申し上げます。

【学生の意見等からの気づき】

職業の内容が体系的に理解できるように、授業の構成を検討したいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

スマートフォン、パソコン等の情報機器。オンライン接続環境。

【Outline (in English)】

< Course outline >

In this class, students learn about the relationship between jobs and society, the labor market, companies, and individuals.

< Learning Objectives >

The goal is to have a basic knowledge of the profession and to be able to think about your future career.

< Learning activities outside of classroom >

The standard time for preparatory study and review for this class is 2 hours each.

< Grading Criteria /Policy >

Grading will be decided based on reports (60%), and verification tests and reaction papers (40%).

ECN200MA

労働経済学

展開科目

梅崎 修

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

曜日・時限：水 2/Wed.2 | 配当年次：2～4 年

その他属性：〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

自分を取り巻く社会環境、特に労働市場の状況を理解することは、キャリアを形成する上で非常に重要となります。そこで、この講義では労働経済に関するテキストを利用しながら、現在の日本の労働市場の状況と歴史を理論と現実の双方から学んでいきます。なお、授業の中ではキャリア形成を研究するうえで有効な統計データの内容や労働問題の時代背景についても学習し、理解を深めていきます。

【到達目標】

ビジネスキャリアに関連する経済理論や社会環境を読みこなす能力を身につける。データを理解し、分析事例、労働問題を読み解くことはもちろんであるが、同時に労働経済学の主要な概念を理解し、人間が、どのような社会環境の中で、どのようにキャリア選択を行っているかを説明できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

本授業は、(1) テキストを使用し、一つのトピックスに関して、仕事映画の紹介します。(2) その解説を前提に続いて、経済理論や時代背景、社会問題を解説します。(1) はオンライン、(2) はオンデマンドでの授業を考えております。労働問題を参加学生と一緒に考察することを目指します。なお、課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かしたいと思っております。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業の進め方と経済学を学ぶ意味、仕事映画について説明。
第 2 回	新規学卒労働市場の事例	仕事映画「何者」を紹介し、自分を「売る」とは何かを解説する。
第 3 回	新規学卒労働市場の理論と実証	前回の講義を続けて、新規学卒市場に関する研究を説明する。
第 4 回	現場主義の改善活動の事例	仕事映画「スーパーの女」と「県庁の星」を紹介し、企業の競争力を支える人材マネジメントを解説する。
第 5 回	現場主義の改善活動の理論と実証	第 4 回に続いて、企業の競争力と人材マネジメントに関する研究を説明する。
第 6 回	仕事配分と昇進システムの事例	仕事映画「ワーキング・ガール」と「9時から5時まで」を紹介し、昇進と昇格のメカニズムを解説する。
第 7 回	仕事配分と昇進システムの理論と実証	第 6 回に続いて、仕事配分と昇進システムに関する研究を説明する。
第 8 回	ワークライフバランスの事例	仕事映画「下町の太陽」を紹介し、女性のキャリアデザインやワークライフバランスについて解説する。
第 9 回	ワークライフバランスの理論と実証	女性のキャリアデザインやワークライフバランスに関する研究を説明する。
第 10 回	雇用社会の誕生の事例	仕事映画「スーダラ節 わかっちゃいるけどやめられねえ」を紹介し、雇用社会の形成を解説する。
第 11 回	雇用社会形成の理論と実証	雇用社会形成の歴史研究を説明する。
第 12 回	自己投資と転職の事例	仕事映画「マイレージマイライフ」を紹介し、自己投資と転職に関して解説する。
第 13 回	自己投資と転職の理論と実証	自己投資と転職に関する研究を説明する。
第 14 回	様々なキャリア	これまでの授業を振り返り、今後の雇用社会を展望する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前準備は特にありませんが、授業後にテキストを読み直してください。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

梅崎修・松繁寿和・脇坂明『「仕事映画」に学ぶキャリアデザイン』（有斐閣）

【参考書】

特になし

【成績評価の方法と基準】

授業内作業（40%）と学期末のレポート（60%）で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

企業事例も授業の進捗に合わせて紹介する。仕事経験が少ない学生に対して、職場の現実を伝えつつ、労働経済学の理論を学んでもらう。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布や課題提出等で学習支援システムを利用します。

【その他の重要事項】

この講義では、労働経済学者による仕事映画解説を学びながら、労働市場、企業組織、人事労務管理の仕組みについて学びます。毎回出席し、労働問題を把握しつつ、学問の考え方を身につけて下さい。

【Outline (in English)】

It is very important to understand the social conditions surrounding us and the labor market in building our careers. The purpose of this lecture is to understand the current Japanese labor market from both theory and reality by using text in this field. In the lecture, although the economic models are used, it assumes mathematics at junior high school level. In addition, we learn contents of statistical data which is related with career development and methods to use it, and the historical background of labor issues.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.

Final grade will be calculated according to the following process Term-end report(60%) and in-class contribution(40%).

MAN200MA

シティズンシップ論

展開科目

榎並 利博

単位数：2単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

曜日・時限：水 4/Wed.4 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

●授業概要

IT/ICT から AI/IoT の時代へ、技術革新はグローバル化やスーパー資本主義をますます加速し、GAF A などの巨大 IT 企業が世界を支配し始め、政治は米国や Brexit に見られるように保護主義的色彩を濃くしている。国家という枠組みが揺らぐ中で、市民はどのような問題意識を持ち、自律した個人として地域や社会をどのように変革していくべきか、日本や米国における事例・行動理論、現場での実践や技術革新がもたらす新たな動きなどを含め、相互の議論を通じてシティズンシップとは何かを追求していく。

●目的・意義

シティズンシップとは何かを理解し、地域や社会における課題の発見のしかた、ビジョンの作り方、行動の方法などを学ぶことにより、地域や社会の変革を実践できる人材になる。

【到達目標】

- ・シティズンシップについて自分なりの考え方を持つ
- ・地域や社会における課題の発見方法を身につける
- ・地域や社会を変革するための行動原理を理解し、実際の行動・実践へと結実させる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

・本学の指針に従い、対面による講義・討論中心の授業を行います。ただし、新型コロナウイルスの影響によって指針に変更があった場合はそれに従います。

・なお第1回のみ、本学の指示によりオンライン授業となっていますのでご注意ください。具体的にはオンデマンド型で、教材をダウンロードして学習していただきます。

・多人数の受講が予想されるため、出席確認は学習支援システムの課題レポート提出機能を使って行います。そのため授業で PC（またはタブレット端末やスマホ）を使うことになりますのでご留意ください。具体的には授業内で提示した課題についてコメントを記入してもらおう（授業終了後 30 分まで）かたちを考えています。

・また、学習支援システムについては、教材の提供や課題レポートの提出など補助的なツールとして使っていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	自律した個人と世の中を取り巻く動向	授業全体の流れを説明するとともに、地域や社会の変革実現のために、世の中を取り巻く動向を把握する。グローバル化、技術革新、地域ガバナンス、人間の行動原理、現代の理念など。
第2回	シリコンバレーとその本質を探る	シリコンバレーの再生、本質はハイテクではない、市民中心のエクイティ文化とは何か、エクイティ文化を醸成するもの
第3回	社会変革の行動原理を米国事例から学ぶ①	背景としてのサステイナブル・コミュニティ、スチュワードシップという概念、対立が価値を生み出すという考え方（価値の相克）

第4回	社会変革の行動原理を米国事例から学ぶ②	価値を生み出す個人とコミュニティの対立および信頼と説明責任の対立。その事例と行動原理。
第5回	社会変革の行動原理を米国事例から学ぶ③	価値を生み出す経済と地域社会の対立および人と地域の対立。その事例と行動原理。
第6回	社会変革の行動原理を米国事例から学ぶ④	価値を生み出す保守と変革の対立および理想主義と現実主義の対立。その事例と行動原理。
第7回	地域を変革するツールとしての情報技術	地域産業政策の現状とその限界、社会・地域を変革するツールとしての IT、技術革新（IT）の可能性と課題
第8回	地域を変革する有効な IT モデルとエクイティ文化	3つの成功事例と2つの失敗事例から探る IT による活性化の条件、地域経済活性化5段階モデルとエクイティ文化の関係
第9回	地域資源とイノベーション・創造性、エクイティ文化	地域資源とイノベーション事例（第一次産業、新エネルギー、健康福祉分野）、イノベーション・創造性の本質とエクイティ文化
第10回	地域・社会を動かす：地方活性化レストラン	地方活性化レストランを作る、コンセプトや仲間づくりなど地域を動かす行動の実践とそこで起きた問題
第11回	地域・社会を動かす：マイナンバー	マイナンバーを実現する、ビジョン・情報発信・仲間づくりなど社会を動かす行動の実践とその現状
第12回	新しい動き：地域課題を発見するツール（RESAS）	地域・社会の課題を発見するツールの登場とその活用方法 技術革新がもたらすデータやツールのオープン化と強化された市民
第13回	新しい動き：シビックテック	技術革新で力を持った市民の登場、個人および団体としての市民の新たな動きとシティズンシップ
第14回	新しい動き：AI/IoT や Society5.0、スマートシティ、web3・メタバースなど	AI/IoT や Society5.0 など技術革新は新たなフェーズへ、人権における自由権と社会権の対立とシティズンシップの役割

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・本授業の学習時間は準備・復習を含め、各回 2 時間を標準とします。
・なお、第3回から第6回は『社会変革する地域市民—スチュワードシップとリージョナル・ガバナンス』、第8回から第10回は『地域イノベーション成功の本質』のテキストを提供する予定ですので、これを使って予習してください。

【テキスト（教科書）】

※できれば下記を入手することが望ましいのですが、絶版等で入手できない可能性があるため、別途資料を提供する方法で授業を進めます。

・『社会変革する地域市民—スチュワードシップとリージョナル・ガバナンス』著者：D. ヘントン、K. ウォレシユ、J. メルビル、監修：小門裕幸、翻訳：榎並利博、今井/路子、第一法規 2005年1月
・『地域イノベーション成功の本質』著者：榎並利博、第一法規 2014年8月

【参考書】

・『サステイナブル・コミュニティ—持続可能な都市のあり方を求めて』著者：川村健一、小門裕幸、学芸出版 1995年
・『エンジェル・ネットワーク—ベンチャーを育むアメリカ文化』著者：小門裕幸、中央公論社 1996年
・『クリエイティブ・クラスの世紀』著者：リチャード・フロリダ、翻訳：井口典夫、ダイヤモンド社 2007年
・『フラット化する世界』著者：トーマス・フリードマン、翻訳：伏見威蕃、日本経済新聞社 2006年
・『勝者の代償』著者：ロバート・ライシユ、翻訳：清家篤、東洋経済新報社 2002年
・『アジアの都市間競争』著者：小森正彦、日本評論社、2008年
・『都市の経済学』著者：ジェーン・ジェイコブズ、翻訳：中村達也、谷口文子、TBS プリタニカ 1986年
そのほか、授業の中で適宜参考となる書籍や URL を紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業での学習状況）40 %、最終レポート 60 %を目途に評価します。100 点満点で、60 点以上が合格。

※平常点（授業での学習状況）は出席点で評価します。出席をカウントするため、授業内で課題レポート提出機能を使ってコメントを記入してもらいますので、PC 等の準備をお願いします。

※最終レポートは講義の最後に提出してもらいます。最終レポートは最後の講義で指示しますが、配分が 60 点なのでこれを提出しないと合格点に達しませんので、注意してください。（最終レポートの提出は、同じく課題レポート提出機能を使って行います）

【学生の意見等からの気づき】

最終レポートの提出は、学習支援システムから課題レポート提出機能を使って行います。レポートの形式はインライン（「テキスト入力」のみです。形式の不備等が生じるため、ファイル添付による提出は認めません。そのため、あらかじめ Word 等で文書を作成したうえで、それをコピー＆ペーストでテキストボックスに入力するようにしてください。

【学生が準備すべき機器他】

課題レポート提出機能を使って授業の出席をカウントするため、授業内で PC（またはタブレット端末やスマホ）を使うことに留意してください。また、資料等のダウンロード、最終レポートの提出等で PC を使用します。

【その他の重要事項】

シティズンシップの行動原理の研究や理論のモデル化のほか、「地域を動かす」・「社会を動かす」という実践や実務の経験を踏まえ、シティズンシップとは何かを追求していきます。特に後半の部分では、講師が実務において理論を実践していった経験を交えてお話しします。皆さん方が社会に出て自ら実践を行う場合、必ず役に立つ内容だと確信しています。

【Outline (in English)】

【Course outline】 In the era of AI/IoT from IT/ICT, technology accelerates the globalization and the super capitalism, big IT companies like GAFA begin to govern the world, and politics is more economically protectionist trend like U.S. and Brexit. Now, while the framework of nation is more ambiguous, we must pursue to think what kind of awareness we should have, how we should change the world as a citizen, and what the citizenship is during mutual discussion, learning the samples or theories of Japan and U.S., the actual practices, and the new trends by technology evolution.

【Learning Objectives】 The objectives of this course are the followings.

- ・ To understand the citizenship
- ・ To learn how to find agenda of the society, how to make a vision, and how to act
- ・ To be the person who can change the neighborhood, the society, and the world

【Learning activities outside of classroom】 This course requires 2-hour learning at each class which includes preparation, review, submitting a short report. You need to learn the text book.

【Grading Criteria /Policy】 The evaluation consists of 40 % learning attitude and 60 % term-end report. The criteria is more than 60%. ※ Learning attitude is evaluated by a short report at each class. And you must submit a term-end report on the last of this course.

MAN200MA

生産システム論

展開科目

北原 成憲

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
曜日・時限：木 4/Thu.4 | 配当年次：2～4 年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

かつて日本はものづくり大国と呼ばれ、世界が驚くイノベティブな製品を数多く生んできました。しかし、現在の日本は主要先進国と比べて労働生産性が低く、かつての面影は失われつつあります。そこで本講義では、さまざまな企業と共に多くの斬新な新製品・新サービスの誕生に携わってきた Makuake の R&D プロデューサーが講師となり、一般的な商品開発のプロセスやそこに潜む課題を解説した上で、ヒット商品の共通項やヒット商品を企画する際のコツ、また前例のない商品案であってもその必要性を証明しビジネス化への足掛かりを作る手法を体験形式で学びます。

【到達目標】

本講義は、「イノベティブな商品をいかにスピーディーに生み出しビジネスに育てるか」そのプロセスやポイントについて理解することを目的とします。①一般的な商品開発のプロセスとイノベーションを阻む課題を理解すること、②その課題を解決しイノベティブな商品の創出を促す手法について理解すること、③学んだことを元に自ら商品アイデアを考えテスト販売のイメージを立てることができること、の 3 点を到達目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

本講義は、大きく 3 つのパートに分かれます。①商品が生まれるプロセスとイノベーションを阻む課題を理解する「課題理解パート」、②その課題を解決しイノベティブな商品の創出手法を学ぶ「課題解決手法パート」、③自ら商品アイデアを考えテスト販売のイメージを立てる「アイデア発想・テスト販売パート」です。講義には、実際にメーカーで新商品開発に携わるゲストもお呼びし、ものづくりの現場で生まれている課題や課題を乗り越えたエピソード、ヒット商品事例の裏側についてお話いただくことで、より深い学びが得られる機会も用意します。受講者には商品開発の知識がないことを前提としていますので、商品が生まれる生産プロセスの基礎から学び、イノベティブな商品を創出するためのポイントや方法が理解できるように進めます。また、講義は体験形式とし、楽しみながらより実践につなげやすい学びが得られるように工夫していきたいと思えます。わからないことなどを相談する機会を設けて、みなさんと伴走しながら進めていくことを心がけ、学生同士でも意見を交わせる機会を設けていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業全体の解説と授業の進め方、評価の方法などを解説します。さらに、日本で生まれたイノベティブな商品事例を元に、日本のものづくりが辿ってきた変遷や現在の状況について解説します。
第 2 回	イノベーションを阻む商品開発プロセス	日本における一般的な商品開発プロセスを解説します。また、その商品開発プロセスに潜む「イノベーションを阻む課題」について触れ、どうやったらその課題が解決できるかを考えます。
第 3 回	イノベーションを促す商品開発プロセス	イノベーションを阻む課題やその課題を解決する突破口をおさらいした上で、具体的な課題解決手法について解説します。また、その手法によって生まれたイノベティブな商品事例について、その商品を実際に企画したゲストをお呼びし対談形式で解説します。
第 4 回	商品アイデアの創出	ヒット商品の共通項を解説した上で、自分の好きなことから学生の皆さんにも商品アイデアを企画してもらいます。また、自分の好きなことからヒット商品を生んだゲストをお呼びし、その開発背景やヒットを生むポイントを事例から学びます。

第 5 回	商品アイデアのブラッシュアップ①	課題の途中経過をみながいづつかのアイデアを取り上げてアドバイスをを行います。また、学生がお互いに協力しながら自分の商品アイデアをブラッシュアップしていきます。そのためのグループディスカッションを行います。
第 6 回	商品アイデアのブラッシュアップ②	いくつかのアイデアについて、起案した学生に発表を行ってもらいアドバイスをを行います。また、学生がお互いに協力しながら再度自分の商品アイデアをブラッシュアップしていきます。そのためのグループディスカッションを行います。
第 7 回	N1 インタビューについて理解する	考えたアイデアを「売れる」アイデアにブラッシュアップするために、「買いたい」と言ってくれる人を見つげるための N1 インタビュー手法を解説します。
第 8 回	N1 インタビューを行う①	N1 インタビューのやり方についておさらいした後、学生同士でペアを組んでもらいお互いに N1 インタビューを行います。また、そのインタビュー結果をもとにアイデアをブラッシュアップしていきます。
第 9 回	N1 インタビューを行う②	ブラッシュアップしたアイデアを発表してもらいます。また、再度学生同士でペアを組んでもらいお互いに N1 インタビューを行います。また、そのインタビュー結果をもとにアイデアをブラッシュアップしていきます。
第 10 回	テストマーケティングについて理解する	考えたアイデアが世の中に受け入れられるものなのか検証するためのテストマーケティング手法について解説します。また、自分のアイデアをテストマーケティングするための Makuake ページの作成方法について解説します。
第 11 回	テストマーケティングプランのブラッシュアップ①	自分のアイデアをテストマーケティングするために、Makuake ページを作成し学生がお互いに協力しながら自分の Makuake ページをブラッシュアップしていきます。そのためのグループディスカッションを行います。
第 12 回	テストマーケティングプランのブラッシュアップ②	作成してもらったいくつかの Makuake ページについて、起案した学生に発表を行ってもらいアドバイスをを行います。また、学生がお互いに協力しながら自分の Makuake ページをブラッシュアップしていきます。そのためのグループディスカッションを行います。
第 13 回	商品アイデア・テストマーケティングプランの講評	ここまでブラッシュアップしてきた商品アイデアとそのアイデアをテストマーケティングするために作成した Makuake ページに対して講評を行います。提出された最終課題の評価できる点、改善点などの解説を行います。
第 14 回	Web 試験・まとめと解説	ここまでの総括として Web 試験を行います。選択式で知識を問う内容の試験を予定しています。まとめと解説をします。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日頃から新聞や雑誌、インターネットに目を通して、どんな商品がどんな人にな気なのか？ その商品ほどの企業がどのような意図やプロセスで生んだものなのか？ なぜその商品はヒットしているのか？ など、商品が生まれるプロセスやヒットの裏側について深く考える練習をしてください。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。

【参考書】

坊垣佳奈「Makuake 式『売れる』の新法則」
クレイトン・クリステンセン「イノベーションのジレンマ」
エリック・リース「リーンスタートアップ」
その他、授業の参考資料として示すものを参照してください。

【成績評価の方法と基準】

①一般的な商品開発のプロセスとイノベーションを阻む課題を理解できたか
②その課題を解決しイノベティブな商品の創出を促す手法について理解できたか
③学んだことを元に自ら商品アイデアを考えテスト販売（テストマーケティング）のイメージを立てることができたか
以上 3 点を Web 試験、商品アイデア課題、商品テスト販売課題によって評価します。
Web 定期試験 60%、商品アイデア課題 20%、商品テスト販売課題 20%の割合で評価します。
成績評価は合計で 100 点満点とし、60 点以上が合格となります。

【学生の意見等からの気づき】

学生の理解度を勘案しながら対話の機会を積極的に用意します。

【学生が準備すべき機器他】

資料のアップロード、毎回の質問への回答などに授業支援システム Hoppii を使用します。

Web での小テストを行いますのでスマートフォン、タブレット、PC などインターネットにアクセスできる環境を各自で確保してください。

【その他の重要事項】

これまで 28,000 件（2022 年 9 月末時点）以上の新製品・新サービスの誕生をサポートしてきた株式会社マクアケの専門性執行役員/R&D プロデューサーによる授業です。

【Outline (in English)】

【Course outline】

In this lecture, a research and development producer of Makuake, who has been involved in the birth of many innovative new products and services together with various companies, will be the lecturer. He will explain the general product development process and challenges that may arise. The course will mainly cover the common elements of successful products, tips for marketing such products, and methods showing the demand for unprecedented product ideas and how to gain a foothold in the business world through hands-on experience.

【Learning Objectives】

The objective of this lecture is to understand the process and key points of how to produce innovative products and efficiently develop them into a business.

【Learning activities outside of classroom】

Students are encouraged to read newspapers, magazines, and use the Internet on a regular basis. This will help make connections about the process of creating successful products, and understanding what happens behind-the-scenes. Also, please spend two hours before every lecture preparing and reviewing ahead.

【Grading Criteria /Policy】

The grading will be based on the following percentage: Web-based periodic exam (60%), Product idea assignment (20%), Product test sales assignment (20%).

The total score for the grading is 100 points, and a score of 60 points or higher is considered passing.

MAN200MA

国際経営論

展開科目

森 直子

単位数：2単位 | 開講semester：春学期授業/Spring

曜日・時限：火5/Tue.5 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業の受講生は、ダイナミックにグローバル展開されている国際経営とは何かを理解するための背景と基礎知識を得ることができます。

また、代表的な経営分析モデル・手法を学びます。

こうした基本的な知識の理解度は、短い授業のまとめの提出を通して評価されます。

さらに授業で学んだ知識をもとに、国際的な企業経営が持つ意味を理解するための視角、考え方を学ぶことができます。

最終的には、グローバル時代の現代社会そのものを広い視野で捉える訓練をします。

【到達目標】

企業活動のグローバル化の基本的な歴史や現状、捉え方を理解するとともに、国際ビジネスを形成する多様な要素、背景を知ること、国際人としての視野・視点を獲得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

この授業は、基本的に対面授業形式で進められる予定です。ただし、第1回はオンラインで実施します（Zoomによるリアルタイム型オンライン授業の予定）。全授業を通して決まったテキストを使わず、毎回の授業で教材レジュメを配布し、その回のテーマについて、事例をなるべく多く使った説明をします。そのうち1回は国際人材についての特別講義をおこなう予定です。この回で、簡単なグループディスカッションをしたいと思います。また、月に1～2回は課題（テスト）の代わりに短い授業のまとめの提出を課します。さらに学期末レポートを課す予定です。学期末レポートの提出は「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	国際経営論を学ぶということーグローバル社会に生きるためにー	授業の概要説明
第2回	国際経営論の基礎知識	多国籍企業論から始まった国際経営論を学ぶ
第3回	企業活動の国際化の歴史	貿易と海外直接投資、製造業からサービス産業の国際展開へ、IT化社会以降のグローバルな企業活動
第4回	生産システムの国際展開	プロダクトサイクル理論、生産クラスター、国際分業
第5回	国際マーケティング	競争優位の考え方、市場のグローバル化と現地市場への適応化
第6回	国際人的資源管理	グローバル展開する組織構造、人材・制度の多様性・異文化経営
第7回	国際M&A	「時間を買う」国際戦略提携、国際的な企業買収の動向と課題
第8回	研究開発と国際経営	R&Dと立地問題、国際標準化戦略、知的財産権の国際管理
第9回	日本企業による国際経営の展開	世界のなかでの日本企業、日本的経営・生産システムの海外移転、グローバルネットワークと中小企業
第10回	ベンチャーと国際ビジネス	情報ネットワーク時代の「最初から世界を狙う」起業
第11回	国際協力と国際ビジネス	ODA事業と国際ビジネスの関係、BOPビジネス、ソーシャルビジネス
第12回	アジアと国際ビジネス	新興国における国際ビジネスの変遷、地域経済統合の影響
第13回	【特別講義】「国際人」とは何か	“使える”人材に留まらない、真に国際社会で活躍する人になるために
第14回	激動の時代のグローバルビジネスを考える	視野を広げるためのさらなるヒント

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

月1～2回提出が要求される授業のまとめの準備をするため、復習は必須です。また、企業活動のグローバル化に関する知識を高めるため、参考文献について図書館等を活用して読んだり、新聞・雑誌（オンライン配信含む）等で国際ビジネスのニュースに目を通してください。可能であれば、関連の学術論文にも目を通すことが望ましいです。本授業の準備学習・復習時間は4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は特にもちかず、担当教員が作成した教材レジュメを配布する。

【参考書】

吉原英樹（2021）『国際経営〔第5版〕』有斐閣アルマ
大石芳裕（2017）『実践的グローバル・マーケティング』シリーズ・ケースで読み解く経営学2、ミネルバ書房
吉原英樹・白木三秀・新宅純二郎・浅川和編（2013）『ケースに学ぶ国際経営』有斐閣

【成績評価の方法と基準】

(1) 授業への積極的な貢献 60%

(2) 学期末レポート 40%

※学期末レポートだけでは、単位はもらえません。

※(1)の内訳：

各回の授業後にクイズへの回答提出 19%

計4回提出する「授業のまとめ」 32%

授業への積極的なフィードバックなど貢献点 9%

【学生の意見等からの気づき】

可能な限り、事例を挙げて授業を進めます。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

事前に経済学や経営学の知識がない学生でも履行できるような内容です。しかし、授業で得た情報を元に、自分で知識を深める努力が必要です

【Outline (in English)】

(Course outline)

Students in this class will gain background and basic knowledge to understand what international management is all about in a dynamic global setting.

Students will also learn about typical business analysis models and methods.

Comprehension of such basic knowledge will be assessed through short class summaries required to submit 4 times in the course.

Furthermore, based on the knowledge studies in class, students will gain perspectives and viewpoint to understand the implications of international business management.

Ultimately, students will be trained to take a broad view of contemporary society in the global era.

(Learning Objectives)

By the end of the course, students are expected (A) to acquire abilities to grasp the current state of the international market, business and society from a broad perspective, and (B) to obtain important viewpoint as the internationally minded person by learning basic business management theories and methods as well as history and present conditions of the globalization and complicated factors forming an international business. (Learning activities outside of classroom)

Students will be expected to prepare for short essays which should be submitted total 4 times in the course. Your study time will be about one hour for each class meeting.

(Grading Policies)

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Term-end report: 40%, Short essays: 32%, in class contribution: 28%

ECN200MA

日本経済論

展開科目

長谷部 弘道

単位数：2単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

曜日・時限：月5/Mon.5 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

授業概要：1990年代末以降、日本経済はその凋落が頻繁に叫ばれ、「失われた20年」といった言葉がメディアを賑わせた。こうした議論は、あたかもそれまでの日本経済が一貫して順調な経済発展を遂げてきたかのような歴史理解を前提としているようにもとれる。しかしながら、戦後日本経済の歴史を辿ると、高度経済成長以降、常に日本経済の危機という問題意識は繰り返し登場してきた。では実際のところ、そうした歴史的な経路をたどり、この国の経済の動向をみたときに直面する、この国の課題は何なのだろうか。本授業では、これらの日本経済の歴史を戦後復興期、高度成長期、石油危機後の安定成長期、バブル成長期とその崩壊の時期、長期不況期、現代の6つの時期区分に分けて解説する。

授業の目的・意義：本講義では、戦後日本経済の変化の文脈を理解することで、地に足を付けて今日の日本経済を観察しつづけることができるようになることを目指す。

【到達目標】

- ・私たちが生きる日本社会における経済のありようを、歴史的な文脈の延長上に位置付けて理解することができるようになる。
- ・戦後日本経済の時代ごとの特徴を明確に説明できるようになる。
- ・現代日本経済をめぐる様々な論評や通説に対して、自分なりの考えを論理的にまとめることができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

授業前半20分を前回講義のフィードバックとし、後半70分は教員による講義、最後の10分間は学生間でのディスカッション、質疑応答に充てる。2日前を目処に、翌週の講義スライドを所定のwebスペースにアップロードしておくので、受講者は指定された教科書の該当箇所とあわせて、授業準備に活用してほしい。授業終了後、毎回コメントペーパーを提出してもらう。大学行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の進め方と全体の講義概要について説明をおこなったうえで、戦後日本経済を歴史的に振り返る意義について講義する。
第2回	戦後改革と復興	戦時の変化と戦後改革のインパクト、経済改革、労働改革、経済復興の流れについて解説する。
第3回	高度成長のメカニズム1	高度成長の概要と、産業政策の効果について解説する。
第4回	高度成長のメカニズム2	メインバンクシステム、および大企業のカパナス構造の確立（安定株主化）について解説する。
第5回	高度成長のメカニズム3	同時期に輸出世界一となった鉄鋼業について解説する。あわせて、同時期に日本社会に現出した大量消費社会の到来、およびエネルギー革命について解説する。
第6回	石油危機と安定成長への転換1	石油危機が日本経済にもたらしたインパクトについて概説し、赤字国債の問題と、同時期にこれと並行して生産台数世界一となった自動車産業について解説する。
第7回	石油危機と安定成長への転換2	製造業、そして日本経済を下支えした下請制のしくみについてふれ、当時の日本企業の国際競争力について解説する。 ※中間課題の出題あり
第8回	振り返り#1	1970年代までの日本経済の論点について振り返りながら、重要概念・用語について解説する。また、中間課題の講評もおこなう。

第9回	バブルの形成と崩壊1	バブル経済と同時期に進展した産業構造の転換について触れ、債券大国化していく日本を概観し、特に金融自由化・金融ビッグバンを中心にとりあげる。
第10回	バブルの形成と崩壊2	トヨタ生産システム、流通革命について解説する。
第11回	長期停滞と日本型企業システムの転換1	1990年代以降の日本経済の長期停滞と、日本型企業システムの転換についてその概要を解説し、そうしたなかにあっても新たなビジネスモデルを探索する日本の企業経営者や、流通再編と情報化のインパクト、そして企業制度改革と企業組織の変化などについて解説する。
第12回	長期停滞と日本型企業システムの転換2	日本企業の対外進出、日本型企業システムの転換、そしてアベノミクスの制作的評価について検討を行う。
第13回	振り返り#2	1990年代以降の日本経済の論点について振り返りながら、重要概念・用語について解説する。
第14回	まとめ	これまでの授業の内容を振り返り、あわせて期末課題について解説を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回で予定している講義内容は下記のテキストに沿って行われる。受講生は、以下のような予習・復習を行ってほしい。

【授業前】事前に該当ページに目を通し、分からない用語についてもインターネットや使用書（テキスト）内で示される参考文献などを用いて調べておく（時間配分目安：約3時間）。

【授業後】もう一度使用書（テキスト）を読み直し、各自が興味をもった内容に関して授業中に紹介した文献等から理解を深める。その際、大学図書館を活用することが望ましい。なお、授業では視聴覚教材を使用することもある（時間配分目安：約1時間）。

【各回の教科書該当ページ】

第1回：「イントロダクション」（序章+第1章、P1-32）

第2回：「戦後改革と復興」（第2章、P33-50）

第3回：「高度成長のメカニズム1」（第3章～第4章、P51-85）

第4回：「高度成長のメカニズム2」（第5章～第6章、P86-109）

第5回：「高度成長のメカニズム3」（第7章～第9章、P110-135）

第6回：「石油危機と安定成長への転換1」（第10章～第11章、P142-184）

第7回：「石油危機と安定成長への転換2」（第12章～第14章、P185-221）

第8回：第7回までのすべての範囲

第9回：「バブルの形成と崩壊1」（第15章～第17章、P226-273）

第10回：「バブルの形成と崩壊2」（第19章、P274-296）

第11回：「長期停滞と日本型企業システムの転換1」（第20章～第25章、P302-413）

第12回：「長期停滞と日本型企業システムの転換2」（第26章～終章、P414-488）

第13回：第9回から第12回までのすべての範囲

第14回：上記すべての範囲

【テキスト（教科書）】

橋本寿朗・長谷川信・宮島英昭・齊藤直『現代日本経済【第4版】』（有斐閣アルマ、2019年、2,800円+税）

【参考書】

沢井実・谷本雅之『日本経済史 近世から現代まで』（有斐閣、2016年、3,700円+税）

宮本又郎・阿部武司・宇多川勝・沢井実・橋川武郎著『日本経営史 江戸時代から21世紀へ』（有斐閣、2007年）

【成績評価の方法と基準】

期末レポート：戦後日本経済の歴史的な変遷について史実に基づいて論理的に記述できるかどうか、およびそれらの経緯を踏まえた上で日本経済の課題について考察できるかどうかを筆記試験を通じて評価する（50%）。

中間レポート：講義内容前半の理解度をチェックする。（20%）

平常点：授業における発言、コメントペーパーの提出を評価する（30%）。

【学生の意見等からの気づき】

コメントペーパーへのレスポンスを授業冒頭に行い、フィードバックとする。

【学生が準備すべき機器他】

各自、大学で付与される Google アカウントおよび関連アプリを利用できるようにしておくこと。

【その他の重要事項】

特になし。

【Outline (in English)】

Course outline: Since the end of the 1990s, the decline of the Japanese economy has been a frequent topic of discussion in the media, with terms such as "the lost 20 years" being bandied about. Such discussions seem to be based on an understanding of history as if the Japanese economy had consistently achieved steady economic development up to that point. However, tracing the history of the postwar Japanese economy, the issue of a crisis in the Japanese economy has always appeared repeatedly since the high economic growth. So, what are the actual issues that Japan faces when it traces this historical path and looks at the economic trends of the country? In this class, the history of the Japanese economy will be divided into six periods: the postwar reconstruction period, the high growth period, the stable growth period after the oil crisis, the bubble growth period and its collapse, the long-term recession period, and the present day.

Learning Objectives: This lecture aims to help students understand the context of changes in the postwar Japanese economy, so that they can continue to observe the Japanese economy today with their feet on the ground.

Learning activities outside of classroom

The lecture content scheduled for each session will follow the textbook. Students are expected to prepare for and review the following.

[Before class] Read through the relevant pages in advance, and look up unfamiliar terms on the Internet or in the references provided in the textbook (approximate time allocation: 3 hours).

[After class] Re-read the textbook and deepen your understanding of the contents of interest to you, using the references introduced in class. It is advisable to use the university library for this purpose. Audiovisual materials may be used in class (approx. 1 hour).

[Textbook pages for each session]

Session 1: "Introduction" (Introduction + Chapter 1, p. 1-32)

Session 2: "Postwar Reform and Reconstruction" (Chapter 2, p. 33-50)

Part 3: "Mechanisms of High Growth 1" (Chapters 3-4, p. 51-85)

Session 4: "Mechanisms of High Growth 2" (Chapters 5-6, P86-109)

Part 5: "Mechanisms of Rapid Growth 3" (Chapters 7-9, P110-135)

Part 6: "Oil Crisis and the Transition to Stable Growth 1" (Chapters 10-11, P142-184)

Session 7: "Oil Crisis and the Transition to Stable Growth 2" (Chapters 12-14, P185-221)

Session 8: "The Formation and Collapse of Bubble 1" (Chapters 15-16, p. 226-263)

Part 9: "Bubble Formation and Collapse 2" (Chapters 17-18, p. 264-283)

Part 10: "Bubble Formation and Collapse 3" (Chapter 19, P284-296)

Part 11: "Long-term Stagnation and the Transformation of the Japanese Corporate System 1" (Chapters 20-23, P302-381)

Part 12: "Long-term Stagnation and the Transformation of the Japanese Corporate System 2" (Chapters 24-26, P359-427)

Session 13: "Long-term Stagnation and the Transformation of the Japanese Corporate System 3" (Chapters 27 to the end, P428-486)

Session 14: "Summary" (last chapter, p. 461-486)

Grading Criteria / Policy:

Final exam: Students will be evaluated on whether they can logically describe the historical transition of the postwar Japanese economy based on historical facts, and whether they can consider the issues of the Japanese economy based on these circumstances through a written exam (50%).

Mid-term exam: To check the level of understanding of the first half of the lecture content. (20%)

Commitment to the class: Students will be evaluated on their comments in class and submission of comment papers (30%).

ECN200MA

産業論

展開科目

青木 成樹

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

曜日・時限：金 2/Fri.2 | 配当年次：2~4 年

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

皆さんが大学を卒業し、働くことには大きく 2 つの意味があると思います。一つは、自分の労働力を供給し、その対価としての賃金・給与を得て、生活の手段とすることです。もう一つは、自分の労働力が企業などの活動を通して社会に新たな価値を創出することです。働くことは、個人にとって、企業にとって、そして社会にとって意味のあることです。

本授業では、皆さんの労働力が新たな価値を生み出す土俵である日本の産業について、①産業構造の全体像と変化、②主要産業の特徴・変化や③主要企業の特徴等、多様な観点から学びます。

【到達目標】

本授業を通して、以下の 5 点について理解を高めることを目標とする。

- ①我が国の産業構造の変化について定量的に理解できる
- ②我が国の産業構造に大きな影響を与える要因が理解できる
- ③「主要産業」について産業全体の動向と主要企業の動向というマクロとミクロの視点からの理解ができる
- ④我が国産業におけるモノづくり（製造業）とサービスの相互依存性に関する理解ができる
- ⑤イノベーションの意味と意義の理解ができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

産業論は、マクロ経済（一国の経済動向）とミクロ経済（企業や消費者の経済行動）の中間に位置する学問領域である。授業については、毎回のテーマに沿って、パワーポイント資料で説明する。全 14 回の講義内容は大きく 4 つに分けて行う。最初の 3 回（第 1 回～第 3 回）では、戦後の我が国産業構造の変遷や今後の産業構造に影響を与えるソーシャルトレンドについて学ぶ。次の 3 回（第 4 回～第 6 回）では、世界的な分析ルーツである「産業連関表」を用いて日本及び地域の産業構造を定量的に把握・分析する。次の 4 回（第 7 回～第 10 回）では、我が国の主要な産業分野について、当該分野の動向や主要企業の動向について学ぶ。次の 3 回（第 11 回～第 13 回）は、イノベーションについて学ぶ。そして最後の 14 回は全体のまとめとする。

なお、学生からの質問に対しては、授業各回の最後に時間を設け Q&A に充てる（対面型の場合）、もしくはメールでの出席確認の際、質問も取り入れ、メールで返答する形（オンラインの場合）とし、学生との対話に努める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス、我が国の産業構造の特徴	我が国の産業の見方について学ぶ。また、戦後の我が国の産業の変化について概観する。 なお、第 1 回の授業はオンラインで実施する。
2	少子高齢化、情報化	我が国の産業に影響を与える諸要因のうち、人口構造（少子高齢化）と情報化を取り上げ、その意味や我が国産業構造への具体的な影響について学ぶ。

3	グローバル化	我が国の産業に影響を与えるもう一つの大きな要素であるグローバル化を取り上げ、その意味や我が国産業構造への具体的な影響について学ぶ。
4	産業連関分析の概要	産業についての国際的な分析ツールである産業連関表（Input-Output Tables）について学ぶ。
5	産業連関表から地域の特徴ある産業の抽出	令和元年に公表された「平成 27 年産業連関表」の概要を学ぶとともに、都道府県表を活用し、地域の比較優位産業の抽出方法について学ぶ。
6	経済波及効果の分析	産業連関表の応用として最も代表的な「経済波及効果」について、理論と実践、及び具体例を学ぶ。
7	主要産業の動向（農業）	グローバル化の進展の中で、再び脚光を浴びている農業について、戦後の推移と最近の動向（農業の 6 次産業化、等）について学ぶ。
8	主要産業の動向（自動車産業）	戦後のリーディング産業である自動車製造業について、国際事業展開の動向、環境問題への取組、EV 化の動きや競争力向上に向けた取り組み等を学ぶ。
9	主要産業の動向（電気機械産業）	自動車産業とともに戦後の我が国産業社会をけん引してきた電器産業について、20 世紀末からの低迷と最近の復活の動向について学ぶ。
10	主要産業の動向（商業）	生活に密着した産業として商業、とりわけコンビニ業界の成長・発展と最近の動向について学ぶ。
11	イノベーションの概要	研究開発の成果やノウハウを製品化・商品化し、社会的課題の解決や生活の利便性を向上するという意味でのイノベーションの考え方や類型について学ぶ。
12	イノベーションの担い手	イノベーションの担い手として、特徴ある中小企業群やベンチャー企業を取り上げ、具体的な事例を学ぶ。
13	身近にあるイノベーション	我々の身の回りにあるイノベーションの代表的な事例として、AED を取り上げ、多様な観点からその特徴を学ぶ。
14	まとめ	第 1 回から 13 回の各回における皆さんからの意見等も踏まえ、各テーマのポイントについて学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本講義を効果的に学ぶためには、経済の仕組みについて関心をもって頂くと理解が早いと思います。また、本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

毎回レジュメ（PPT）を配布致します。

【参考書】

以下、順不同（五十音順）

- ① 入山章栄『世界標準の経営理論』ダイヤモンド社（2019 年）
- ② 岩井克人『経済学の宇宙』日本経済新聞社（2015 年）
- ③ 大竹文雄『行動経済学の使い方』岩波新書（2019 年）
- ④ 経済産業省中小企業庁編『中小企業白書』各年版
- ⑤ 経済産業省・厚生労働省・文部科学省編『ものづくり白書』各年版
- ⑥ 小峰隆夫『人口負荷社会』日本経済新聞社（2010 年）
- ⑦ 小室直樹『危機の構造』ダイヤモンド社（1982 年）
- ⑧ H. チェスブロウ『オープンイノベーション』産業能率大学出版部（2004 年）
- ⑨ 富山和彦『なぜローカル経済から日本は魅惑のか』PHP 新書（2014 年）

- ⑩中沢孝夫・藤本隆宏・新宅二郎『ものづくりの反撃』ちくま新書（2016年）
 ⑪中村良平『まちづくり構造改革』日本加除出版（2014年）
 ⑫中室・津川『原因と結果』の経済学』ダイヤモンド社（2017年）
 ⑬西山圭太『DXの思考法』文芸春秋（2021年）
 ⑭日本経済新聞社編『日経業界地図』（毎年8月発刊）
 ⑮原文人『「公益」資本主義』文春新書（2017年）
 ⑯牧兼充『イノベーターのためのサイエンスとテクノロジーの経営学』東洋経済新報社（2022年）
 ⑰宮川努『生産性とは何かー日本経済の活力を問なおす』ちくま新書（2018年）
 ⑱三宅秀道『新しい市場のつくりかた』東洋経済新報社（2012年）
 ⑲宮沢健一、編『産業連関分析入門』日本経済新聞社（1979年）
 ⑳吉川洋、『いまこそ、ケインズとシュンペーターに学べ』ダイヤモンド社（2009年）

【成績評価の方法と基準】

平常点 50%、定期試験 50%

【学生の意見等からの気づき】

今年で本講義は12年目である。昨年度の授業改善アンケート（有効回答18人）において「この授業を履修してよかったと思いますか」に対する評価（5段階）の平均は4.22であり、学部の全科目の平均（4.29）を若干下回っている。授業の工夫についての評価は4.39で学部平均（4.21）を上回る一方、授業内容の理解（3.94）は学部平均（4.29）を下回る。

また、授業の最終回に実施した「自分にとって最も役に立った授業テーマ」については（有効回答42人）、意見はかなり分散した。このようなことから、1回1回の授業（テーマ）をより分かりやすく説明し、授業の最後には質疑応答の機会を設けるとともに、第14回の授業テーマを「まとめ」とし、全体の内容を俯瞰できる工夫をしていきたい。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

私は1985年に長銀経営研究所に入社して以降、民間のシンクタンクで約35年に渡り国や地方の産業政策の調査に係ってきております。その体験をベースに皆さんと一緒に学んでいきたいと思っています。現時点でアドバイスすることがあるとすれば以下です。

- ①「論点」を把握することの重要性。本講義では、社会における現象をやさしく説明するとともに、現象の背景にある問題の構造を多角的な視点で捉える事が出来るような講義にしていきたいと考えています。
- ②産業社会の現象を見る際、常に「需要」と「供給」の観点から見る癖を身に付けていただきたい。
- ③本講義でも難しい用語や概念が多く出てくると思います。その際、是非、「自分の」言葉で友人に話しかけて（議論して）下さい。やさしいことをやさしく説明するのは簡単です。難しいことを難しい言葉で説明することも、それほど難しくありません。しかし、難しいことをやさしい言葉で説明することは、非常に難しく、かつ重要なことだと思います。
- ④与えられた問題を解くことは、もちろん重要であるが、みなさんが社会人になってより求められるのは、問題を自分なりに設定・設計する能力、いわゆる企画設計力＝デザイン力だと思います。

【Outline (in English)】

< Course outline >

I think there are two main meanings for you to graduate from university and work. One is to supply one's own labor force, get wages and salaries as compensation, and use it as a means of living. The other is that one's labor creates new value in society through activities such as companies. Working is meaningful to individuals, businesses, and society.

In this class, you will learn about Japanese industry, which is the foundation where your labor force creates new value, from various perspectives such as (1) the overall picture and changes in the industrial structure, (2) the characteristics and changes of major industries, and (3) the characteristics of major companies.

< Learning Objectives >

Through this class, we aim to improve understanding of the following five points.

- ① Quantitative understanding of changes in Japan's industrial structure
- ② Understand the factors that have a great impact on Japan's industrial structure
- ③ Understand "major industries" from macro and micro perspectives, such as trends in the entire industry and trends in major companies.
- ④ Understand the interdependence between manufacturing (manufacturing) and services in Japanese industry.
- ⑤ Understand the meaning and significance of innovation
< Learning activities outside of classroom >

In order to study this lecture effectively, I think it will be quick to understand if you are interested in the mechanism of the economy. In addition, the standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

< Grading Criteria/Policy >

Normal point 50%, Term-end examination 50%

MAN200MA
マーケティング論 展開科目
 小川 浩孝
 単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
 曜日・時限：月 5/Mon.5 | 配当年度：2～4 年
 その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「マーケティング」という概念は 1900 年代初頭にアメリカで生まれ、1950 年代から順次体系化・学習され実務に利用されてきた。日本でも 60 年代ごろから徐々に浸透を始め、今では企業や組織で働く人々にとって必須の知識・ツールと理解されるようになってきた。しかしながら、「マーケティングとは何か?」「どんな要素が含まれているのか?」と聞かれても明確に答えられる人は意外と少ない。販売や広告活動、あるいは経営陣が決定する（一社員である自分とは無関係な）企業戦略だと混同している人たちもまだまだ多い。また、マーケティングは営利企業が「儲ける」ための概念・ツールであって、非営利組織や政府機関には関係ないと思っている人たちも多い。大学卒業後に皆さんが進む道は様々だろうが、この授業が、誰にとっても必須の知識・ツールとしての「マーケティング」への入口となり、変化の激しい社会にあっても活かせる原理として習得されることを目指す。さらに、秋学期に実施される「流通・マーケティング戦略論」と有機的に接続することで、SDGs 活動や IT と深く関わる現代マーケティングの先端領域までカバーすることを目指す。

【到達目標】

1. マーケティングに関する基本的な用語を理解し説明できるようになる
2. マーケティングに関する一般的な知識を習得し、その役割と基本的な理論を理解する
3. 社会のなかで実践されているマーケティング活動を理論と結びつけながら理解する
4. 最先端のマーケティング分野（SDGs、ソーシャルマーケティング、IT を用いたマーケティング、DIY マーケティングなど）の一旦に触れる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は、テキストを用いた講義、グループディスカッション、グループワーク、課題提出を併用する。講義にあたってはできる限り事例を用いてわかりやすく説明する。事例には、実務家による講演や実務家の登場するビデオの鑑賞などを予定する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	第 1 回：マーケティングという考え方	授業の中心的概念であるマーケティングというものが、どのような活動なのかを理解する。マーケティングをとりまく価値交換、顧客価値について理解する。
第 2 回	第 2 回：セグメンテーションとターゲティング	マーケティングにおける基本的概念である STP のうち、セグメンテーション（市場細分化）とターゲティングの重要性について考察する。セグメンテーションという考え方、有効なセグメンテーションとは何かを理解する。

第 3 回	第 3 回：ポジショニング	STP のうち、競争していくにあたって自分の立ち位置を決めるプロセスであるポジショニングを理解する。マーケティング戦略の基本となる差別化を決定づけるポジショニングの重要性を理解する。
第 4 回	第 4 回：マーケティング・ミックス	マッカーシーの 4 P といわれる近代マーケティングを支える概念を理解する。マーケティング・ミックスとそれらを統合的にマネジメントしていくことが求められる現代の経営について理解する。
第 5 回	第 5 回：プロダクト	製品コンセプトや顧客のベネフィットについて理解する。またアイデア発想のグループワークを行います。ブレインライティング、デザイン思考、オズボーンのチェックリストなどのアイデア発想のメソッドも取り入れながらグループに分かれて取り組む。
第 6 回	第 6 回：コミュニケーション（プロモーション）	企業のプロモーション、広告について理解する。営業などのセールスも含め幅広くプロモーションについて理解する。
第 7 回	第 7 回：プライシング	いろいろな価格決定のアプローチを理解する。消費者視点、企業視点、競争視点などから価格決定プロセスを理解する。
第 8 回	第 8 回：チャネル（プレイス）	チャネルの種類、どのような製品であればどのような店舗で売った方がいいのか、どのようなチャネルが有効なのか等の概要を理解する。チャネルの構成など詳細は秋学期の流通・マーケティング戦略論にて深く理解する。
第 9 回	第 9 回：消費者心理と消費者行動	消費者行動理論とマーケティングとの関わりについて理解する。多属性態度モデル、刺激反応モデルなどの代表的な消費者モデルを取り上げて消費者がどのように購買行動をおこなうかの理論を理解する。
第 10 回	第 10 回：顧客リレーションシップ	顧客満足と顧客価値はどう違うのか、顧客満足の向上はなぜ大切なのかを理解する。
第 11 回	第 11 回：マーケティング・リサーチの実際	マーケティングリサーチの種類や特徴について理解する。
第 12 回	第 12 回：ブランドマネジメント	ブランド、信頼がいかにマーケティングに影響を与えるかを事例をもとに理解する。
第 13 回	第 13 回：今日のマーケティング	ソーシャルマーケティング、SDGs に関わるマーケティング、SNS や IT 技術を用いたマーケティング、DIY マーケティングなど、マーケティングの先端領域について理解する。
第 14 回	第 14 回：試験・まとめと解説	web でテストを実施。ここまでの話を総括し、これからのマーケティングを展望する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に教科書を読み質問等をまとめておいてください。日頃から新聞やニュースに目を通し、日々の社会・経済の動きに注意を払ってください。本授業の準備・復習時間は各 2 時間を標準とします。2 回に 1 回、A4 で 1 ページほどの簡単な提出物があります。また、グループに分かれて課題に関するディスカッションを行い、協力して提出物にまとめてもらう場合もあります。

【テキスト（教科書）】

恩蔵直人『マーケティング 第 2 版』日本経済新聞出版、2019/2/1 990 円

【参考書】

和田充夫他『マーケティング戦略 第6版(有斐閣アルマ)』2022、有斐閣。

Kotler, P., Armstrong, G., Opresnik, M.O., Principles of MARKETING 18e GLOBAL EDITION, Pearson Education, 2020

【成績評価の方法と基準】

成績評価は、

1. マーケティングに関する一般的知識を習得したか
2. マーケティング理論を十分理解し、説明することができるか
3. 社会におけるマーケティングの役割を理解し、実際のマーケティング活動を理論に関連付けて説明することができるか
4. 最先端のマーケティング分野を理解したか

の4点を試験によって評価する方法で行います。

成績評価は、平常点 60%、最終試験 40%の割合で行います。平常点は出席率、授業参加態度 (Class Participation)、課題提出率、課題提出内容で判断します。グループ課題の場合は課題そのものの評価と、グループメンバー相互の評価をミックスして行います。

成績評価は合計で 100 点満点とし、60 点以上が合格となります。

【学生の意見等からの気づき】

グループに分かれて課題を行う場合は、一部の学生だけに負荷がかからないよう配慮したグループ分けを行います。また、学生同士相互に連絡が取りやすいよう連絡網の共有などを行います。

【学生が準備すべき機器他】

資料のアップロード、毎回の質問への回答などに学習支援システム Hoppii、googleclassroom を使用します。web でテストを実施しますので、スマートフォン、タブレット、PCなどで、インターネットにアクセスできる環境を各自確保してください。

【Outline (in English)】

Marketing was born in the U.S. around 1900 and developed and used gradually from 1950. In Japan, it started to penetrate into the business arena from 1960's and is now conceived as a necessity among business and public organizations.

However, many people don't fully understand "what the marketing is" or its various aspects. It can be perceived as sales or advertising activities, or something only related to top business executives, not for ordinary employees. Also, Marketing is a concept/tool to earn profit, not relating to NGO or public sectors.

This lecture aims to give students an opportunity to overview and understand basic marketing concept that can help guide them to work and live effectively in their various career paths in the future. Also, it is designed to synergize with "Distribution and Marketing Strategies" class in Fall Semester to overview latest marketing trends relating to social marketing, SDGs activities, and marketing with IT.

Goals of this Class are:

- 1) Understand/be able to explain basic terminologies of marketing
- 2) Acquire/understand general knowledge and concepts of marketing
- 3) Connect empirical/practical marketing activities with concepts
- 4) Broadly understand latest marketing elements such as SDGs, Social Marketing, Marketing with IT, and DIY Marketing

Before attending the class, please read the textbook and prepare for questions. Read newspaper etc. and pay attention to daily social/economic happenings. 2 hours each for preparation/review for the class are necessary. A4 one page homework will be assigned roughly once in 2 classes. Also, group discussion/work/report will be provided.

Evaluation will be given based on combination of examination (60%) and class contribution and participation (40%). When group work is assigned, team members' contribution evaluation is used. 60 points out of 100 evaluation points will be needed to pass for credit.

MAN200MA

流通・マーケティング戦略論 展開科目

小川 浩孝

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
曜日・時限：火 2/Tue.2 | 配当年次：2～4 年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

これまで、グローバリゼーション、IT 革命、働き方改革、多様性、社会持続性への注目などが、流通・販売・マーケティングのあり方に大きな変化をもたらしてきた。さらに今回のパンデミック、ウクライナ侵攻、地政学的リスク、近年の自然災害多発などは、全ての個人・企業・組織にそれまでとは全く異なる次元の変化をもたらし、存在や活動のあり方を根本的に見直すべき状況を作り出している。そして、それらの変化のうねりはさらに加速しているように見える。そのような状況の中、どのような業種・業態・職業・地位であっても必須となる IT ネイティブな考え方を軸とし、新しい流通・販売・マーケティングを共に考えることによって、変化を先取り変化とともに前に進める視点や考え方を身につける。さらに、将来実務で成果を出すのに役立つ流通やチャネルマネジメントに関連した基本概念と知識・経験を習得する。

特に 2023 年度は春学期に開講する「マーケティング論」での学習知識をさらに深め、ソーシャルマーケティングや IT を用いたマーケティング、DIY マーケティング、スタートアップ/SME 組織でのマーケティングなど新分野への視野を広げることも目的とする。

【到達目標】

- 1 国内外の流通・販売業の成り立ち、付随する流通戦略、B2B/B2C マーケティングの基本概念・進化の歴史を理解する。
- 2 流通業・販売業（あるいは企業経営）に起きている劇的な変化を、消費者としてのこれまでの経験や社会人として目指す方向と照らし理解し、将来を見通す視点と考え方を獲得する。
- 3 起業家、流通サービスやそれに付随するマーケティングの経験豊富な実務者を登壇者として招いたり、ビデオを鑑賞することで、実務の世界で役立つ知識や事例に触れ、将来の実務家・起業家として理解しておくべき基礎的な知識と経験を身につける。また、理論と関連付けた理解が十分にできるよう、都度質問に答える。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

テキストや資料を用いた講義と、実務家・起業家の講演・質疑応答、ビデオを鑑賞し、グループに分かれて討議・発表するなどの授業を交互に行なう。

またグループごとに店舗を訪問し、観察を行うなどのプロジェクトも計画する。

なお、実務家の招聘予定等は変更される場合があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	流通・販売チャンネルとは	国内外における流通・販売チャンネルの進化過程を歴史に沿って概観する。
第 2 回	流通戦略とマーケティング（1）	流通戦略と流通におけるマーケティング活動を理解する。
第 3 回	流通戦略とマーケティング（2）	B2B と B2C マーケティングの共通点と相違点を理解する。
第 4 回	流通・販売における国内・海外の成長業態・企業と、衰退業態・企業（1）	同じ業界にあっても、成長している業態・企業と、衰退している業態・企業はどこかを幅広い業種の中から取り出し、分類する。

第 5 回	流通・販売における国内・海外の成長業態・企業と、衰退業態・企業（2）	成長企業と衰退企業の流通戦略やマーケティング戦略における共通点と相違点を見出す。
第 6 回	店舗訪問の準備	店舗を訪問し観察するためのグループ分け、観察ポイントなどを共有する。
第 7 回	立地戦略と店舗設計	実店舗の立地と店舗の設計について理解をする。
第 8 回	流通とマーケティングの新潮流（1）	SDGs、IT・SNS を使用したマーケティング、DIY マーケティングなど、流通・マーケティングで起こっている新潮流を確認し、社会に対してどのようなインプリケーションがあるかを理解する。必要に応じて実務家に登壇してもらう。
第 9 回	流通とマーケティングの新潮流（2）	SDGs、IT・SNS を使用したマーケティング、DIY マーケティングなど、流通・マーケティングで起こっている新潮流を確認し、社会に対してどのようなインプリケーションがあるかを理解する。必要に応じて実務家に登壇してもらう。
第 10 回	流通とマーケティングの新潮流（3）	SDGs、IT・SNS を使用したマーケティング、DIY マーケティングなど、流通・マーケティングで起こっている新潮流を確認し、社会に対してどのようなインプリケーションがあるかを理解する。必要に応じて実務家に登壇してもらう。
第 11 回	店舗運営の実務家による講演と質疑応答（店舗づくり）（1）	グループに分かれて店舗を訪問し、観察したことをまとめ、提言を作る。提言を発表し、実務家からのフィードバックをもらう。第 11 回と第 12 回は 2 コマ連続した授業とする（予定）。
第 12 回	店舗運営の実務家による講演と質疑応答（店舗づくり）（2）とまとめ	グループに分かれて店舗を訪問し、観察したことをまとめ、提言を作る。提言を発表し、実務家からのフィードバックをもらう。第 11 回と第 12 回は 2 コマ連続した授業とする（予定）。
第 13 回	流通運営における人事評価やチームづくり	テキストを基に、効果的で生産性の高いチームづくりについて理解する。
第 14 回	まとめと質疑応答	全授業のまとめを行い知識・理解が深まり定着したかを確認する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

復習と課題提出に重点を置いた学習になります。A4 で 1 ページくらいの短い提出物が 2 回に 1 回ほどあります。また、グループに分かれて課題に関するディスカッションを行い、協力して提出物にまとめてもらう場合もあります。

前回の授業の資料を確認し、次回の授業に備えます。時間外に店舗見学を行う外出があります。数名のグループに分かれ指定された店舗の見学に出かけることを予定しています。

【テキスト（教科書）】

なし。

【参考書】

Levy, M., Weitz, B.A., Grewal, D., Retailing Management 9th Ed., McGraw-Hill Higher Education, 2014
『流通チャンネルの転換戦略』V. カストゥーリ・ランガン著、小川孔輔監訳、小川浩孝訳、ダイヤモンド社、2011
『1 からのリテール・マネジメント』清水信年、坂田隆文、碩学舎、2012

【成績評価の方法と基準】

成績評価は、平常点 70%、課題 30%の割合で行います。平常点は出席率、授業参加態度 (Class Participation)、課題提出率、課題提出内容で判断します。グループ課題の場合は課題そのものの評価と、グループメンバー相互の評価をミックスして行います。

【学生の意見等からの気づき】

グループに分かれて課題を行う場合は、一部の学生だけに負荷がかからないよう配慮したグループ分けを行います。また、学生同士相互に連絡が取りやすいよう連絡網の共有などを行います。

【学生が準備すべき機器他】

資料のアップロード、毎回の質問への回答などに学習支援システム Hoppii、googleclassroom を使用します。web でテストを実施しますので、スマートフォン、タブレット、PC などで、インターネットにアクセスできる環境を各自確保してください。

【その他の重要事項】

東京周辺の店舗に見学に行くグループ課題があります。交通費等は自己負担となります。また、訪問日程などは、店舗側やグループメンバーと調整し決定することになります。

【Outline (in English)】

Until now, things like Globalization, IT revolution, Work Style reform, Diversity, Sustainability have brought significant changes in Distribution/Sales and Marketing.

Pandemic, Ukraine War, Geopolitical Issues and Natural disasters resulting in significant inflation and instabilities across globe have brought even more substantial changes to each person/corporation/organization and forced us to change ourselves and the way we act. These changes also seem further accelerating right now.

Under such environment, no matter where to work at any position, all students are invited to think together about new way of Distribution/Sales/Marketing and acquire broader perspective to cope with the current changes and lead the changes. Furthermore, they will need to acquire skills and knowledges that would be useful for them in the future.

In particular in 2023, we will synergize with and deepen the learnings from Marketing Class in spring semester by highlighting new areas of Social Marketing, Marketing with IT, DIY Marketing and Marketing at startups and SMEs.

< Goals for this class >

- 1) Understand development of retail industry in Japan/global and relating basic B2B/B2C marketing concepts
- 2) Understand significant changes and those implications in retail industry
- 3) Listen experiences/examples from industry practitioners and develop basic understanding of real business

< Activities outside of the classroom >

Pre and post studies (2 hours each) are required. A4 one page short assignment will be given once in 2 classes. Visit real retail shops around Tokyo area by assigned team and project paper will need to turn in as a team. Transportation costs will be paid by the student.

< Grading Criteria >

Class participation 70%, Assignment submission and contents 30%. If team assignment, team members evaluate other members' contribution and cooperations each other.

MAN200MA

流通・サービスビジネス論 展開科目

村田 茂

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

曜日・時限：木 5/Thu.5 | 配当年次：2~4 年

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

インターネットの急速な普及により、世界のビジネスは大きなパラダイムシフトを迎えることになりましたが、今も日々激しく変容を遂げています。このインターネットを軸としたデジタルシフト（DX 化）の影響で、新しく生まれた産業もあれば、減りゆく産業もあります。本講義では、デジタルシフトの影響を受けた産業の中で、メディア産業と流通産業を取り上げ、変遷の経緯を学び、これからのビジネスを考察していきます。

【到達目標】

本講の目的は、「ビジネスの過去と現在を本質的に理解することで、未来を予測する力を養うこと」です。そのために必要な基礎的な戦略と様々なアイデア（ビジネスモデル）の事例を学び、ビジネス感覚を高めることを到達目標とします。

- ①流通・サービスビジネスに関する一般的知識、基本的用語を説明できるか
- ②流通・サービスビジネスの仕組みを理解し、説明できるか
- ③流通・サービスビジネスの課題を解決するクリエイティブな発想を持つことができていくか

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

インターネットの普及について、その発展とそれにとまなう社会（ビジネス）への影響を学びます。なぜ、GAFAM が巨大企業に成長し得たのか？ あらゆるビジネスに影響を与えている構造的な変化を理解し、メディアと流通の 2 つの産業の事例をもとに学んでいきます。出版業界、新聞業界、放送業界、e コマース業界、インターネット広告業界を解説します。具体的なビジネスモデルや重要な用語解説などを理解し、ビジネスマインド、リテラシーの向上を目指します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	流通・サービスビジネス研究の進め方	流通・サービスビジネスについて、研究課題の進め方を解説します。①情報収集・整理力 ②本質を見抜く力 ③問題意識を持つ力 ④未来を予想する力
第 2 回	流通・サービスビジネス業界研究①	第 1 回目は、出版業界（雑誌、コミック、電子書籍）
第 3 回	流通・サービスビジネス業界研究②	第 2 回目は、新聞業界。
第 4 回	流通・サービスビジネス業界研究③	第 3 回目は、放送業界（テレビ、ラジオ）
第 5 回	web1.0、web2.0、web3.0 の理解	流通・サービスビジネスを大きく変容させている最大要因であるインターネットの普及について理解を深めます。そのはじまりから NFT、メタバースなど次世代ビジネスの可能性まで。SNS の普及による個人発信の時代が到来。UGC サイトの隆盛、クリエイターの誕生、推し活などを解説。
第 6 回	クリエイターエコノミー＝個人発信（SNS）	ZOZO、メルカリなど成功の秘密は？ ゲストスピーカーとともに、流通・サービス企業のビジネスモデルについて探求します。
第 7 回	新しいビジネスモデルの発明（ゲストスピーカー）	第 4 回目は、e コマース業界。
第 8 回	流通・サービスビジネス業界研究④	第 5 回目は、インターネット広告業界。
第 9 回	流通・サービスビジネス業界研究⑤	デジタル技術が発展していく中で、新しい機能や仕組みが生まれます。ビジネスのトレンドを「ビジネス用語」を使って、理解していきます。その中で、すべてのデジタルビジネスに不可欠なデジタルマーケティングの理解を深めます。
第 10 回	デジタルマーケティング	ワークショップの前に、これまでの学習について総括します。
第 11 回	流通・サービスビジネス研究のまとめ（ワークショップの前に）	

- 第 12 回 ワークショップ（小課題） それぞれの課題をシェアしながら相互にアドバイスしてブラッシュアップするミーティングを開催します。
- 第 13 回 研究成果のプレゼンテーションと講評 研究の成果を全体で共有し、講評します。
- 第 14 回 試験・課題レポートとまとめ 試験と課題レポートを実施します。授業全体のまとめを行いません。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日頃から情報メディア（ビジネスニュースサイトや新聞、雑誌）に目を通して、日々の社会の動きに注意を払ってください。そして、問題意識を持ってください。流通・サービスビジネスの多くは身近に利用しているものばかりです。自分は何で、このアプリを活用しているのか？ このビジネスはどのように成り立っているのか？ を考えてみてください。特に、新しいネットサービスなどは実際に試してみるのが良いでしょう。準備時間、復習時間ともに 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しません。
毎回、参考資料を用意します。

【参考書】

毎回、参考資料を用意します。
さらに探求したい場合の参考書は授業で紹介いたします。

【成績評価の方法と基準】

成績評価は、以下の 3 点を評価します。
①流通・サービスビジネスに関する一般的知識、基本的用語を説明できるか
②流通・サービスビジネスの仕組みを理解し、説明できるか
③流通・サービスビジネスの課題を解決するクリエイティブな発想を持つことができていくか
授業でおこなう小課題 10%
試験 40%
課題 50%
成績評価は 100 点満点とし 60 点以上が合格となります。

【学生の意見等からの気づき】

本年度新規科目につきアンケートを実施していません。

【学生が準備すべき機器他】

主に対面の授業になりますが、リモート授業も開催します。
資料のアップロード、質問への回答などに学習支援システムを使用します。スマートフォン、タブレット、PC などインターネットにアクセスできる環境を各自で確保してください。

【その他の重要事項】

<実務経験のある教員による授業>
出版・放送メディアや各種コンテンツ制作などのエンタテインメントビジネスと、e コマース、UGC、アプリシステム開発などのデジタルビジネスに関して、現場からマネジメントまで、また、大企業とベンチャー企業の両方を経験してきた現役のビジネスマンによる授業になります。

【Outline (in English)】

【Course outline】
The rapid spread of the Internet has brought about a major paradigm shift in business around the world, and even today, the world is undergoing dramatic changes every day. Due to the influence of this digital shift (DX) centered on the Internet, there are new industries that have been born, and there are industries that will perish. In this lecture, among the industries affected by the digital shift, through the media industry and the distribution industry, we will learn the background of the transition and consider the future business.

【Learning Objectives】

The purpose of this course is to develop the ability to foresee the future by fundamentally understanding the past and present of business. The goal is to improve business sense by learning the basic strategies and examples of various ideas (business models) necessary for that purpose.
① Can you explain general knowledge and basic terms related to the distribution and service business
② Can you understand and explain the structure of the distribution/service business?
③ Do you have creative ideas to solve the problems of the distribution and service business?

【Learning activities outside of classroom】

Please read the information media (business news sites, newspapers, magazines) on a daily basis and pay attention to daily social movements. And be aware of the issues. Many of the distribution and service businesses are all about familiar things. Why am I using this app? "How does this business work?" "Please think about it." In particular, it is a good idea to actually try new Internet services. Standard time for both preparation and review is 2 hours.

【Grading Criteria / Policy】

Grading will be based on the following three points.
① Can you explain general knowledge and basic terms related to the distribution and service business
② Can you understand and explain the structure of the distribution/service business?
③ Do you have creative ideas to solve the problems of the distribution and service business?
Small assignments in class 10%
Test 40%
Issue 50%

The grade evaluation is based on 100 points, and 60 points or more is considered passing.

MAN200MA

就業機会発見実務

展開科目

今井 道子

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

曜日・時限：月 4/Mon.4 | 配当年次：2～4 年

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「就業機会を増やす人、そうでない人の違いは何か」「ビジネス機会を作れる人とは」を考え、自らのエンプロイアビリティやアントレプレナーシップを高める機会をつくります。

【到達目標】

労働市場や時代の理解を深める手法、自己理解を促進したり点検したりする手法について理解し、自己の社会的役割認識やエンプロイアビリティを高める機会をつくります。また、キャリアデザイン学部出身者として何より強みとなる「人のエキスパート」とは何か、について思索する時間を目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

エンプロイアビリティやアントレプレナーシップの認識を高めるため、①職場、職業等の概念を理解します②演習を通じてキャリア理論で学んだ自己理解手法を確認し、自らのキャリア形成につながる体験をします③演習を通じて多様なジョブ、これから注目される業界について理解します。④演習を通じて実社会で生きていくためのさまざまなスキルトレーニングを行います。グループ演習が多いので出席をお願いします。試験（オープンブック方式:電子機器を除いて持ち込み可）を実施します。試験問題のテーマは、授業の中で案内します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業の進め方、第 2 回目以降の授業内容、成績評価方法についてお話しします。また、本授業で取り上げるテーマについて、概要を紹介します。
第 2 回	総論	エンプロイアビリティとは何か、キャリア開発の重要性について理解します。演習を通じて興味がある企業のエンプロイアビリティについて考えます。
第 3 回	自己理解 1 (特性因子理論より)	演習を通じて RIASEC の理論 (ホランド) を体感し、自己理解・自己開示への啓発的体験を得ます。
第 4 回	自己理解 2 (発達理論より)	職場やチームにおいてなぜコミュニケーションが重要かを理解し、演習を通じて自分の中に形成しているキャリアドライバーを見つめ、自己理解への啓発的体験を得ます。
第 5 回	自己理解 3 (トランジションへの対応として)	4S 理論 (シュロスバーク) を背景に、具体的事例を用いて、キャリアの節目に対応する手法を学び、自己理解と自己肯定感を高める啓発的体験を得ます。

第 6 回 職業理解 1 (採用)

採用に際して重要視されていることを理解します。また、「仕事とキャリア」に関する多様な経験談を聞き、実社会での職業について理解を深める機会にします。演習を通してインターン先企業の決め方について考えます。

第 7 回 職業理解 2 (職務)

ジョブ (職務) の概念を会得し、ジョブ (職務) を中心として人事制度ができあがっていることを把握します。また、企業で導入が進むジョブ型人事制度での働き方について考えます。

第 8 回 職業理解 3 (職場コミュニケーション)

職務遂行でコミュニケーションを円滑にするにはどのようなことに気をつけたらよいかを理解します。また、多様なジョブについて学び、演習を通じてジョブごとの課題解決手法について考えます。

第 9 回 職業理解 4 (起業)

起業を志す人の特性について思索します。また、「起業とキャリア」に関する経験談を聞き、実社会での職業について理解を深める機会にします。演習を通して、興味がある起業分野のビジネスモデルについて考えます。

第 10 回 成長できる仕事選び 1 (やりたいジョブ)

自分のやりたいジョブについて思索し、演習を通じてジョブごとの課題解決手法について考えます。

第 11 回 成長できる仕事選び 2 (業界理解)

業界の構造を知り、各業界の特徴、これから注目される業界について考えます。演習を通して、興味がある業界について理解を深めます。

第 12 回 成長できる仕事選び 3 (就活のプロセス)

就活のプロセスについて理解し、相手に伝わる ES (エントリーシート) の文章の書き方、直前対策について学びます。

第 13 回 成長できる仕事選び 4 (面接の意義)

自己理解を踏まえた「自分らしさ」を伝え、相互理解を図るという面接の意義、そこでの対応について理解します。

第 14 回 振り返り

13 回のセッションを通じて自己のエンプロイアビリティが高まったか、興味をもつ業界、ジョブについて振り返ります。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

ときどき簡単なレポートを出します。本授業の準備学習・復習時間は計 4 時間程度を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『キャリア開発論（改訂版）』（武石恵美子著:中央経済社、2023 年 4 月発行予定）

【参考書】

適宜提示します。

【成績評価の方法と基準】

試験 (25)、レポート (25)、リアクションペーパーのコメント (50) を基準とします。質問・発表などによる積極的な授業参加を重視します。期末試験はオープンブック方式 (電子機器以外は持ち込み可) で、到達目標に達しているかを見る設問を出題します。

【学生の意見等からの気づき】

「就活で、グループディスカッションの経験が少ないことが不安です」というフィードバックを多数いただきましたので、グループ全体で議論をまとめる力、それを元に時間内でプレゼンを行う力が自然に身に付くように授業内で訓練します。ディスカッション力は、就活のみならず、就職後、日々の仕事の中で生きてきます。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを通じて資料等を配布します。

【その他の重要事項】

ビジネス雑誌を編集する仕事を通して、長年にわたってビジネス社会を取材し見つけてきました。その実務経験を生かして、多様なキャリアと多様な仕事に携わる経験者の言葉や実感をお伝えします。それを踏まえてエンプロイアビリティやアントレプレナーシップを高める方法について考察し、今後のキャリアについて思索する機会をつくります。その上で、いま起きている変化に対応し、今後実社会で生きていくためのさまざまな力を身に付けます。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to create opportunities to enhance your own employability and entrepreneurship by considering "what makes the difference between those who increase employment opportunities and those who do not" and "who can create business opportunities."

By the end of the course, students should be able to do the followings:

- 1.Creating an opportunity to understand methods to deepen your understanding of the labour market and the times.
- 2.Promoting and checking your self-understanding, and increasing your awareness of social role and employability.
- 3.Providing time for contemplation on what it means to be a 'people expert', which is one of the greatest strengths of being a career design graduate.

Occasionally a brief report will be given. Your study time will be more than 4 hours for a class.

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Term-end examination(25%), Reports(25%), Comments on reaction papers(50%),and in-class contribution. The final examination will be open-book (students may bring in all but electronic equipment) and will include questions to see whether the achievement objectives have been met.

SOC200MA
外書講読A (ライフ) 展開科目
 門脇 仁
 単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
 曜日・時限：火 2/Tue.2 | 配当年次：2~4 年
 その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)
 世界の情報をいかに読み解き、研究やビジネスに活用するか。それにはまず、外国語の資料を正確かつ効率的に読みこなすスキルが必要となる。この講義では、海外ニュース、インターネットサイト、報告書、映像、広告、ルポルターージュなどの英文を毎回1本ずつ取り上げ、その訳読を通して、外国語による情報分析や調査の基礎的ノウハウを習得する。また、音声教材の使用によってリスニング能力も高め、耳から得られる海外情報の活用にも慣れる。なお、この授業は後期科目「外書講読B」のテーマと一部重複するが、取り上げる情報(課題文)は同一でなく、バリエーションを加える。

【到達目標】
 外国語のパッケージを理解し、地球規模の情報を手際よく収集できる能力を養成する。またそれを習慣化することで、受講者が今後も国際的視野を持ち続け、キャリアデザインと社会生活の質的向上に役立てていくことを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】
 ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】
 毎回、パワーポイント資料によるレジュメを使って授業を行う。オンライン授業の期間は、レジュメの各ページ下のノート欄に、通常の授業で話すことを要約して記載しておく。それをよく読み、各頁の要点や図表も理解しながら読み進め、練習問題も解いてみる。また、A4版1枚程度の平易な英文資料を次回授業までの課題文とする。翌週の授業でその資料の訳読を示し、英語による情報の収集と理解についての解説も加える。以上2種類の教材は、学習支援ツールの「教材」のボックスに毎回アップしておく。また、情報を耳から吸収することにも重点を置き、インターネットで入手できる音声テキストも随時紹介する。さらに外国語学習法も併せて指導するので、文法や語彙の復習・再強化を目的とする学生も受講可能。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】
 なし/No

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】
 なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の進め方と、英語の効果的な学習法を紹介。また海外の情報ソースを利用して情報検索する際の手順をアロウダイアグラムつきで解説。
2	世界の最新情報を英語で入手	現在、世界的に注目されている GAFAM 関連の書「Post Corona」の読み解きを通じて、英語による国際情勢へのアプローチを実践。
3	海外の情報ソース	メディアで入手した情報ではなく、グローバルな調査・統計に基づく一次情報のソースを知り、活用する方法を身につける。
4	グローバルイシューの読み解き方	気候変動、砂漠化、人口問題など、地球規模の問題へのアプローチについて考察した文章を読み解く。
5	ルポルターージュの英語	National Geographic 誌のルポルターージュを参考に、科学的視点から構成された読み物の多様なあり方を見る。
6	字幕の英語	映画やニュースの字幕を活用し、音声と文字を同時に活用しながら情報収集をするコツをつかむ。
7	ラジオの英語	VOA Special English や CNN Student News をテキストに、音声情報の活用方法を身につける。
8	語彙・読解力・リスニング力の相乗効果	音声の導入で語彙を増やし、同時に速読力も高めるためのトレーニング方法を解説。
9	ガイドブック&マニユアルの英語	旅行ガイドブックや製品取扱説明書など、実用的な英語に触れ、こうした情報を効率的に使いこなす方法を学ぶ。
10	広告媒体の英語	商品広告、求人広告、テレビCMなどの英語を速く正確に読みこなすため、多種多様な海外広告に触れ、情報のエッセンスを抽出する。

- 11 TOEIC/TOEFL の活用方法 ETS (Educational Testing Service) が行なう英語試験 TOEFL iBT や TOEIC L&R を参考に、英語による情報伝達の基本を学ぶ。
- 12 海外に紹介された日本 日本の伝統文化が英語でどのように紹介されているかを見ることにより、海外における異文化理解の現状と課題を展望する。
- 13 個人発表① これまでの授業で最も参考になった知識を発展させ、これから試してみたい英語学習法や、英語で調査研究をしてみたい分野などについて発表。
- 14 個人発表② これまでの授業で最も参考になった知識を発展させ、これから試してみたい英語学習法や、英語で調査研究をしてみたい分野などについて発表。

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】
 本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。毎週、次回の授業で使用するコピー資料を配布するので、受講者は前もってそれに目を通し、考察を進めておくこと。授業支援システムに課題文を掲載することもあるが、毎回ではないので、授業には必ず出席すること。

【テキスト(教科書)】
 各回の授業で資料を配布。

【参考書】
 『エコカルチャーから見た世界—思考・伝統・アートで読み解く』(門脇仁著、ミネルヴァ書房)
 Tree Thieves — Crime and Survival in North America's Woods (Lyndsie Bourgon, Little, Brown Spark)

【成績評価の方法と基準】
 筆記試験 50%、平常点 50%。特にリアクションペーパーの内容を重視。

【学生の意見等からの気づき】
 リスニングの方法についての分析的な解説が参考になるという学生が多いので、今年度も取り入れる。また、映像のナレーションやラジオ番組といった英語音声も併せて活用して行く。

【学生が準備すべき機器他】
 PC(教室への持参は不要)

【その他の重要事項】
 背景知識や参考事例をなるべく多く用いて、分かりやすい説明に努めるので、受講者も積極的に授業に参加すること。

【Outline (in English)】
 How can we understand information around the world and make use of it for our study or business? The most important process for that is to acquire ability to read foreign documents correctly and efficiently. In this lecture, we will pick up an English passage to read each week, and learn how to research or analyze information in foreign language. In addition, we will introduce audio materials in order to improve our listening skill and be used to thinking, understanding or learning through spoken English.
 By the end of this course, students are expected to do followings:
 -Collecting information in the world effectively through reading and listening to English passages.
 -Keeping themselves sensitive to international matters so as to draw their career and social life.
 -Achieve a numeric target set by themselves concerning their reading speed, TOEIC score, etc.
 Before/ after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.
 Material for each session will be distributed in advance. Students should look it through and consider how to translate its English passages into Japanese.
 Term-end examination: 50%, in-class contribution: 50%
 Reaction paper will be regarded as important.

SOC200MA

外書講読 B (ライブ)

展開科目

門脇 仁

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

曜日・時限：火 2/Tue.2 | 配当年次：2~4 年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

世界を動かす情報はいかに発信され、伝達されていくのか。海外の情報にどうアプローチすれば、自分の研究やビジネスに役立てることができるのか。それにはまず、外国語によるさまざまな情報を吸収し、速く正確に処理するスキルが必要となる。この講義では、インタビュー、ルポルタージュ、講演、報告書、宣伝広告などの多様な英文を取り上げ、その訳読を通して英語による情報収集や調査の基礎的ノウハウを習得する(なお、この授業は前期科目「外書講読 A」のテーマと一部重複するが、取り上げる情報(課題文)は同一でなく、バリエーションを加える)。

【到達目標】

英語の文章を読み、音声を聴き取ることで、地球規模の情報を手際よくキャッチする能力を養成する。またそれを習慣化することで、受講者が今後も国際的視野を持ち続け、キャリアデザインと社会生活の質的向上に役立てていくことを目標とする。履修者は、読解・聴解の目安となる数値目標(速読スピード、TOEIC スコアなど)を自分で定め、半年間の授業でそれをクリアできるようにしていくことが推奨される。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

毎回 A 4 版 1~2 枚程度の平易な英文資料を配布し、翌週までにそれを読んでおくことを課題とする。講義では、課題文で取り上げる分野の背景や情報収集法、構文の読み解き、語彙と音声についてのアドバイスなどと併せて訳読を実践する。外国語の効果的な学習法や、リスニングの実技訓練も指導するので、文法や語彙を復習・再強化する必要のある学生も受講可能。大学行動方針レベルが 2 となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

あり/Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の進め方と、英語の効果的な学習法を紹介。また、海外の情報ソースから情報検索する際の手順をアロウダイアグラムつきで解説。
第 2 回	エッセー・伝記の読解	平易に書かれたオートバイオグラフィー(自伝)の一部を課題文とし、英文の情報構造を踏まえて内容を速く正確に読む方法を実践する。
第 3 回	海外ニュースの核心	メディアで入手した情報ではなく、グローバルな調査・統計にもとづく情報ソースにさかのぼり、一次情報を活用する方法を身につける。
第 4 回	インタビューの聴解・読解	英文雑誌のインタビュー記事を通じて、話者の強調する論点のつかみ方、口語英語のニュアンスなどを学ぶ。
第 5 回	字幕英語の活用	洋画の一部を視聴し、英語字幕を活用したリスニングと読解の相乗的な強化法を学ぶ。
第 6 回	グローバルイシューの読解き方	気候変動、砂漠化、人口問題など、地球規模の問題へのアプローチを探究。ここでは英字新聞の記事の読み方を学ぶ。
第 7 回	個人発表①	この時点までの授業で最も参考になった知識にもとづき、これから試してみたい英語学習法や、英語で調査研究をしてみたい分野などについて発表。
第 8 回	ルポルタージュの視点	National Geographic 誌のルポルタージュを参考に、科学的・歴史的視点から構成された読み物の多様なあり方を見る。
第 9 回	ラジオの英語	平易な海外ラジオ番組をディクテーションし、音声の導入で語彙を増やしながら速読力も高めるトレーニング法を実践する。

第 10 回	プレゼンテーションの聴き方とシャドーイング	TED Conference で行われている各種の講演を題材に、英語でのプレゼンテーションを聴き取る方法や、シャドーイングによる英語イントネーションの実践方法などを学ぶ。
第 11 回	TOEIC の活用法	TOEIC の各パートで出題される問題文を取り上げ、英語のリスニング力と読解力とともに向上させる日常的なトレーニング方法を習得する。
第 12 回	メッセージを読み解く	2016 年にノーベル文学賞を受賞したボブ・ディランをはじめ、海外ポップアーティストの歌詞を重視した音楽に注目し、表現や伝達メカニズムを探る。
第 13 回	広告の英語	海外の商品広告、求人広告、テレビ CM などの英語を速く正確に読みこなすため、多種多様な海外広告に触れ、情報のエッセンスを抽出する。
第 14 回	個人発表②	これまでの授業で最も参考になった知識を発展させ、これから試してみたい英語学習法や、英語で調査研究をしてみたい分野などについて発表。

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。毎週、次回の授業で使用するコピー資料を配布するので、受講者は前もってそれに目を通し、考察を進めておくこと。

【テキスト(教科書)】

授業で配布するレジюмеと課題文がテキストとなる。

【参考書】

Tree Thieves --- Crime and Survival In North America's Woods (Lyndsie Bourgon, Little, Brown Spark)
『エコカルチャーから見た世界』(門脇仁著、ミネルヴァ書房刊)

【成績評価の方法と基準】

筆記試験(50%)、平常点(50%)
リアクションペーパーの内容を特に重視する。

【学生の意見等からの気づき】

この授業を受講して読解力とリスニング能力が相乗的に高まったという学生の声が多い。今年度もこの点を一層重視し、できるだけ多様な情報を目と耳の両方から取り入れることができるようトレーニングする。またリアルタイムに進行している出来事や、時流に即したテーマを盛り込むことが履修者のモチベーション向上につながるため、これまでもより一層現代的な視点を強化し、新鮮な情報を迅速に処理するノウハウに主眼を置く。さらに、受講者の英語力と要望に合わせてカリキュラム内容や指導レベルを微調整し、最適な授業を目指す。

【学生が準備すべき機器他】

教室設置の PC、プロジェクター、DVD プレーヤー、音響機器等を使用するので、個人発表者以外は機器の準備は不要。

【その他の重要事項】

全てのコースのベースとなる科目です。

【その他】

課題文の全訳を自分の解釈と照らし合わせ、理解度の向上に役立てる。ディクテーションもできるだけ毎回行うので、リスニング能力のアップをその都度チェックする。

【Outline (in English)】

How is information sent and shared to move our society? How can we access it to make use of them for study or business? To make it possible, we need some skills for collecting various information in foreign language and dealing with it quickly and properly. In this class, through reading various types of English writing such as essay, interview, reportage, presentation, bulletin, advertisement, etc., you would acquire fundamental knowledge to collect information and use it for your research.

By the end of this course, students are expected to do followings:

- Collecting information in the world effectively through reading and listening to English passages.
 - Keeping themselves sensitive to international matters so as to draw their career and social life.
 - Achieve a numeric target set by themselves concerning their reading speed, TOEIC score, etc.
- Before/ after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.
- Material for each session will be distributed in advance. Students should look it through and consider how to translate its English passages into Japanese.
- Term-end examination: 50%, in-class contribution: 50%
- Reaction paper will be regarded as important.

SOC200MA

コミュニティ社会論 I

展開科目

佐藤 恵

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

曜日・時限：月 3/Mon.3 | 配当年次：2～4 年

その他属性：〈他〉〈優〉〈ア〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

人間は、どんな時代・どんな地域であっても、コミュニティを形成しつづらしてきました。現代に生きる私たちの日常的な人間関係や社会現象は、別の時代・地域のそれと、どのように共通しまた異なっているのでしょうか。本講義では、社会学の基本的な視点・発想を学んだうえで、比較社会学の手法を通じ、各テーマについて歴史比較や地域比較を行い、その理解を深めていきます。

【到達目標】

- (1) 社会学の基本的視点・発想を説明でき、具体的事例に応用することができる。
- (2) コミュニティにおけるさまざまな人間関係や社会現象の歴史的・地域的展開について理解を深め、他の時代・他の文化との比較を通じて、現代コミュニティと日常生活の現状・課題を説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

対面授業を基本としますが、新型コロナウイルス感染症対策として、オンライン授業を行う回もあります。

オンライン授業における Zoom へのアクセス方法については、当日授業開始時刻までに、学習支援システムにてお伝えします。

講義形式の授業です。1 つのテーマが数回分の授業に該当しますが、テーマごとの授業時間数は下記「授業計画」から変更する場合があります。また、状況に応じて、テーマの順番の入れ替え、テーマの差し替えの可能性もあります。関連事項も含め各テーマを深く掘り下げることで、地域社会の現状と課題についての理解を図ります。

毎回、授業での学びに対する、各自の気づきやコメントを、リアクションペーパー（小レポート）としてまとめ提出してもらいます。次回の授業時間中に、提出されたリアクションペーパーからいくつかを取り上げ、全体に対して講評・解説のフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション／前近代・近代・現代における家族と絆	授業の到達目標・テーマ、概要・方法 揺／生計をともにする者＝家族と見なしていた時代について知り、現代家族を相対化する
第 2 回	前近代・近代・現代における結婚と<子ども>の誕生	恋愛結婚は現代の産物であること、<子ども>へのまなごしの変容を知り、結婚と子どもを相対化する
第 3 回	性別役割分業の歴史の変遷および西欧／非西欧の相違	時代と地域とで、ジェンダーと社会構造の関係性が異なることを理解する
第 4 回	宗教から見た西欧の歴史の変遷	ルターの宗教改革とカルバンの予定説に焦点をあて、人びとの世界観と生活がどのように変化したかを理解する
第 5 回	近代資本主義に対する世俗内禁欲の影響	人びとの宗教的態度の変化が近代資本主義の発展を促したことを理解する
第 6 回	19 世紀西欧経済の発展と自殺の増加	農業から商工業経済へと西欧が変貌することの意味を、自殺の増加から理解する
第 7 回	近代国民国家の発展と自殺の質的変容	近代国民国家の発展の意味を、アノミー的自殺と自己本位的自殺という概念から理解する
第 8 回	官僚制の歴史の変遷と西欧／非西欧の相違	王制・君主制時代から近代にかけて官僚制がどのように変化したかを、日欧中を比較しつつ理解する
第 9 回	地理的世界の拡大とネットワーキングの変遷	交通・通信手段の変遷を通史的に整理し、コミュニティや生活の変化に与えた影響を理解する
第 10 回	時代の変化と少年犯罪のまなごし方の変化	第 3 回の<子ども>の誕生も復習しつつ、少年犯罪と社会の変化の関係を理解する
第 11 回	歴史と社会を見る目 (1)	コミュニティの健全性に関するデュルケムの理論を参照し、歴史と社会を見る目を養う

第 12 回	歴史と社会を見る目 (2)	伝統的逸脱論とラベリング論を参照し、潜在的機能と予言の自己成就という視点を獲得する
第 13 回	歴史と社会を見る目 (3)	ラベリング効果をキーワードに人間行動について理解し、歴史と社会を見る目を養う
第 14 回	まとめ・総括	歴史的比較社会学の視点に基づき通史的にまとめをする

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習として重要なことは、1 回 1 回の授業からコミュニティに活用可能な歴史的比較社会学の視点・発想を学び、考え方の筋道を把握した上で、それをしっかりと消化し、次回以降の授業のペースをつくることです。

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。

【参考書】

授業中に随時、紹介します。

【成績評価の方法と基準】

期末レポート（70%）、平常点（30%）。

期末レポートについては、社会学の基本的な視点・発想の理解度をふまえた上で、レポートの達成度の状況を基準とします。

平常点については、リアクションペーパー（小レポート）、受講態度の状況を基準とします。

欠席時間数が授業時間数の 3 分の 1 を超えた場合、もしくは、受講態度があまりにも悪い場合、不合格となります。

なお、欠席時間数については、自己管理でお願いします（個別の問い合わせには応じられません）。

【学生の意見等からの気づき】

身近な具体的事例を多く取り入れることで理解を促進するというスタイルを継続していきたいと思っています。

【Outline (in English)】

(Course outline)

Humans always form communities whenever they are, wherever they go. How our today's life, our daily interactions and social phenomena, are similar to, or unique from, community dynamics in other ages and regions? This class covers the basic viewpoints and ideas on sociology and then utilizes comparative sociology techniques to deepen understandings on given themes through historical and regional comparisons.

(Learning Objectives)

At the end of the course, you are expected to A and B.

– A. Explaining the basic viewpoints and ideas on sociology and applying them to the particular cases.

– B. Explaining the problems and present situation of the modern communities and daily livings through the historical and regional comparisons by the deep understandings of communities.

(Learning activities outside of classroom)

You will be expected to prepare the next lecture through the deep understandings of sociological viewpoints after each class meeting. Your study time will be more than two hours each for before and after the classes.

【Grading Criteria /Policy】

Your overall grade in the class will be decided based on the following.

Term-end report: 70% ,in class contribution and short reports after each class meeting : 30%

SOC200MA

コミュニティ社会論Ⅱ

展開科目

佐藤 恵

単位数：2単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

曜日・時限：月3/Mon.3 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈他〉〈優〉〈ア〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

人間の内面・行動と社会の存続・歴史とは、どのように相互に影響し合っているのでしょうか。本講義では、コミュニティ社会論Ⅰに引き続き、比較社会学の手法を通し、各テーマについて歴史比較や地域比較を行い、コミュニティと人間の日常生活に関する理解を深めます。コミュニティ社会論Ⅰでは、より大きな歴史の流れを把握しましたが、本講義では、より現代に近い時代を合わせ鏡にしていきます。

【到達目標】

- (1) 社会学の基本的視点・発想を説明でき、具体的事例に応用することができる。
 (2) コミュニティにおけるさまざまな人間関係や社会現象の歴史的・地域的展開について理解を深め、他の時代・他の文化との比較を通じて、現代コミュニティと日常生活の現状・課題を説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

対面授業を基本としますが、新型コロナウイルス感染症対策として、オンライン授業を行う回もあります。

オンライン授業における Zoom へのアクセス方法については、当日授業開始時刻までに、学習支援システムにてお伝えします。

講義形式の授業です。1つのテーマが数回分の授業に該当しますが、テーマごとの授業時間数は下記「授業計画」から変更する場合があります。また、状況に応じて、テーマの順番の入れ替え、テーマの差し替えの可能性もあります。関連事項も含め各テーマを深く掘り下げることで、地域社会の現状と課題についての理解を図ります。

毎回、授業での学びに対する、各自の気づきやコメントを、リアクションペーパー（小レポート）としてまとめ提出してもらいます。次回の授業時間中に、提出されたリアクションペーパーからいくつかを取り上げ、全体に対して講評・解説のフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション／子ども問題の歴史	授業の到達目標・テーマ、概要・方法／「最近の子どもは〇〇が問題だ」というまなざし方（社会病的見方）の歴史を把握する
第2回	近代社会とアイデンティティ	アイデンティティ概念が常識化し、歴史理解もこの概念抜きにはできなくなっていることを理解する
第3回	権力支配の歴史と庶民の反動形成	ルサンチマンの概念を手がかりに、人間心理のアイロニーと歴史の関係を理解する
第4回	西欧における前近代・近代・現代の社会的性格	「社会とパーソナリティ構造」の理論に基づき西欧を通史的に理解する
第5回	第一次世界大戦後のドイツにおける「自由からの逃走」	第4回の知識を踏まえて、戦争・社会・人間心理の関係を深く理解する
第6回	資本主義の展開と欲望の模倣	資本主義が機能するには欲望の模倣が起動する社会的装置が必要であることを理解する
第7回	近代社会とエディプス・コンプレックス論	第6回の知識を踏まえて、近代社会とは何かをエディプス・コンプレックス論から理解する
第8回	コミュニティの存続と準拠集団	コミュニティ存続の条件を、比較的準拠集団と規範的準拠集団という概念から理解する
第9回	社会史的視点（1）	19世紀末から20世紀初頭の流行現象を取り上げ、制度史では着目しない、人びとの生活について理解する
第10回	社会史的視点（2）	20世紀中盤以降の流行現象を取り上げ、大衆社会の拡大について理解する
第11回	社会史的視点（3）	戦後の流行歌を取り上げ、大衆の生活の様相について理解する
第12回	社会史的視点（4）	血液型性格判別というステレオタイプの習俗を取り上げつつ、社会史理論をまとめる

第13回 歴史と社会の再生産

第12回の知識を踏まえて、社会的ステレオタイプが予言の自己成就として機能し、第5回で学んだ「社会とパーソナリティ構造」を再生産することを理解する

第14回 まとめ・総括

比較社会学の理論・概念を歴史理解に応用することについてまとめをする

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習として重要なことは、1回1回の授業からコミュニティに応用可能な歴史的比較社会学の視点・発想を学び、考え方の筋道を把握した上で、それをしっかりと消化し、次回以降の授業のペースをつくることです。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。

【参考書】

授業中に随時、紹介します。

【成績評価の方法と基準】

期末レポート（70%）、平常点（30%）。

期末レポートについては、社会学の基本的な視点・発想の理解度をふまえた上で、レポートの達成度の状況を基準とします。

平常点については、リアクションペーパー（小レポート）、受講態度の状況を基準とします。

欠席時間数が授業時間数の3分の1を超えた場合、もしくは、受講態度があまりにも悪い場合、不合格となります。

なお、欠席時間数については、自己管理をお願いします（個別の問い合わせには応じられません）。

【学生の意見等からの気づき】

身近な具体的事例を多く取り入れることで理解を促進するというスタイルを継続していきたいと思っています。

【Outline (in English)】

(Course outline)

How our internal aspects and external behaviors affect, and at the same time are influenced by, the survival of society and history? This class follows the comparative sociology methodologies introduced in Community & Society I to further explore communities and people's daily life through historical and regional comparisons. In Community & Society I, we looked at the overall flow of human history. In this class, we focus on ages closer to our time as the subject of comparison. (Learning Objectives)

At the end of the course, you are expected to A and B.

– A. Explaining the basic viewpoints and ideas on sociology and applying them to the particular cases.

– B. Explaining the problems and present situation of the modern communities and daily livings through the historical and regional comparisons by the deep understandings of communities. (Learning activities outside of classroom)

You will be expected to prepare the next lecture through the deep understandings of sociological viewpoints after each class meeting. Your study time will be more than two hours each for before and after the classes.

【Grading Criteria /Policy】

Your overall grade in the class will be decided based on the following.

Term-end report: 70% ,in class contribution and short reports after each class meeting : 30%

SOC200MA

家族論

展開科目

齋藤 嘉孝

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

曜日・時限：水 4/Wed.4 | 配当年次：2～4 年

その他属性：〈優〉

【Outline (in English)】

This course deals with contemporary families in Japan, especially, in terms of such keywords as "diversity." We think of how the families work for individuals and the society. Learning objectives of this course are to understand variation of contemporary family issues and to get ideas about career design of students themselves. Learning activities outside of classroom are homework and preparation (about 2 hours per class). Grading criteria are composed of class participation 40%, reports 10% and final exam 50%.

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代日本における家族を扱い、その中でもキーワードを『多様性／多様化』とする。また『多様性／多様化』の是非について考え、個人と社会にとっての家族のあり方について考える。

【到達目標】

本講義の目標は、2つである。①家族という問題を、常識や自らの経験の中での理解を超え、家族社会学を基盤として、統計的実態・事例・政策／制度・研究知見などを題材に『多様性／多様化』の内実を理解する。②家族とは個人のキャリアが発展するフィールドであり、家族を知ることは自らのキャリアをデザインすることに役立つと思われるため、職場や地域コミュニティとの関係も視野に入れつつ、受講者が自らのキャリアをデザインするためのヒントを得る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

本授業では、就労・結婚・出産・子育て・離婚・介護などの典型的なライフイベントに注目し、受講者自身がこれまでの家族生活を整理したり、今後の家族生活をデザインしたりするための題材を提供する。また応用的論点として、男女の差異や平等性をめぐるジェンダー、家族を取り巻く地域コミュニティ、欧米や発展途上国あるいは前近代社会との比較、家族の機能不全としての虐待や諸問題に対応する政策・制度や支援職に言及する。必要に応じて、視聴覚資料・DVD・ビデオ教材などを使用する。リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かす予定である。初回から学習支援システムを確認すること。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	講義の概要、進め方等
2	親子関係①	児童虐待の現状
3	親子関係②	文化的再生産、子どもへの親の影響
4	親子関係③	今どきの親の抱える問題
5	男女と結婚生活①	パートナーの選定、結婚事情
6	男女と結婚生活②	家事・育児、就労、専業主婦
7	男女と結婚生活③	夫婦関係
8	“ふつうの人生”から外れること①	未婚・晩婚
9	“ふつうの人生”から外れること②	無子夫婦、不妊
10	離婚や一人親家庭①	離婚の現状・社会的背景、その影響
11	離婚や一人親家庭②	一人親家庭の現状、関連諸制度
12	高齢者と家族	独居・同居、介護、虐待
13	国際比較	他社会や歴史性、現代日本の客観視
14	まとめ	家族生活のキャリアデザインに向けて

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

適宜、指定された課題を遂行すること。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『親になれない親たち』（齋藤嘉孝、2009 年、新曜社）

【参考書】

・『よくわかる現代家族』（神原文子・杉井潤子・竹田美和編著、2009 年、ミネルヴァ書房）
 ・『論点ハンドブック 家族社会学』（野々山久也編、2009 年、世界思想社）
 ・他は随時紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業への貢献度（40%）・小レポート（10%）・期末試験（50%）と総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

引き続き、学生の視線に立った家族論を展開したい。

【その他の重要事項】

受講者の希望等によって、上記の予定が若干変更される可能性がある。

SOC200MA

若者文化論

展開科目

玉川 博章

単位数：2単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

曜日・時限：金2/Fri.2 | 配当年次：2~4年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現在社会において、エンタテインメントメディアは政治、経済的な側面を持ちながら、多くの人に受容され若者文化を創り上げてきました。本講義では、メディアの送り手の産業的側面（産業構造やビジネスモデル）と、その受容者の消費の両面に焦点を当てます。日本の1960年代以後の若者文化を、雑誌やテレビなどのマスメディアと、そこにかかわる広告や消費なども視野に入れ、分析していく。その際には、ポストフォーディズムやリキッドモダニティなど社会学にて議論されている現代社会の変化を前提に、我々を取り巻く日本の音楽・出版、映画などのエンタテインメント、キャラクター、アイドルを事例としたメディアの消費社会論から若者文化を考えます。

【到達目標】

日本の1960年代以後の若者文化を中心に、その特徴と背後で深く関係するメディアと政治、経済、文化の関係性を理解し、社会学や社会批評、文化批評などの学説を身につけることで、作品そのものやメディア産業のみにとらわれない社会に対する批判的思考ができるようになることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

本年度は対面授業のため（初回など一部授業回を除く）、基本的に講義形式となり、資料配付をした上で、視聴覚資料も織り交ぜながら、事例や学術的な分析・理論などを紹介していく。なお、オンラインの場合は、動画視聴と配付資料によるオンデマンド方式を前提とします。なお、簡単なレポート、感想などの課題を適宜実施したい。提出課題については、いくつか代表的な内容を次回・次々に紹介しコメント等も付加してフィードバックとします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション メディアと若者文化（サブカルチャー）	授業概要説明と若者文化・サブカルチャーとは何なのかを先行研究も踏まえ紹介
第2回	文化と消費Ⅰ消費社会論の基礎	若者文化分析の基盤となる文化と消費の関係性についての顕示的消費や文化資本の概念を紹介
第3回	物語消費論	大塚英志による1980年代若者文化を分析した物語消費論を紹介
第4回	80年代のバブル・消費文化	1970~80年代の若者文化の象徴的事例である「新人類」などバブル文化と雑誌やメディアとの関係性
第5回	80年代における「オタク」と消費文化	1980年代における「新人類」と「オタク」という対照的サブカルチャーの対比的分析と鳥宇宙化・若者文化の細分化について
第6回	現代社会における文化とブランド、キャラクタービジネス	消費社会論とここまでの事例分析を踏まえて、ブランドや権利ビジネスとメディアや文化との関係を考察
第7回	後期近代の概論 ポストフォーディズム、リキッドモダニティ	現代社会の変化を捉える学説であるポストフォーディズムやリキッドモダニティの議論について学ぶ
第8回	メディアミックス① 手塚など	マーク・スタインバーグの著作をベースに、1960年代の子供向けアニメと広告・消費、文化との関係を分析
第9回	メディアミックス② 角川商法（映画と出版）	マーク・スタインバーグの著作をベースに、1970-80年代の映画と出版、音楽との関係を分析
第10回	メディアミックス③ 角川（アニメ・ゲーム・コミック）とネットによる参加型モデル	マーク・スタインバーグの著作をベースに、1980年代~2000年代のアニメ・マンガについて
第11回	アイドルとメディア	アイドル文化が戦後~現在の社会状況においてどのように考えられるのかを分析
第12回	アイドルと「消費者」（オタク）	アイドル文化が趣味集団、そして消費とどう関係しているのかを分析
第13回	コミュニケーションと消費：ブランド、ネット文化、アイドル	モノから体験、コミュニケーションへと変化する消費と若者文化について

第14回 まとめ サブカルチャーと これまでの授業内容の整理と発展的議論ならびに授業の理解度確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業後に配付資料や受講時にとったメモ・ノート等を利用して復習し、授業で紹介した視聴覚資料や事例などについてインターネットなどで調べ確認、視聴すること。また、授業で取り上げた映像作品を鑑賞してみるとよいと思います。本授業の準備・復習時間は、各2時間（計4時間）を標準とします。また、指示をした場合には予習として事前に資料等を閲覧・視聴する、課題の指示をした場合には自宅で作業し提出すること。

【テキスト（教科書）】

なし。原則的に資料を配布する予定。

【参考書】

大塚英志『物語消費論』、マーク・スタインバーグ『なぜ日本は（メディアミックスする国）なのか』、北田暁大・解体研編著『社会にとって趣味とは何か』、宮台真司『制服少女たちの選択』など。他にも講義内で適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

授業参加・提出物（小テストや感想、小レポート等提出課題）50%+試験（または期末レポート）50%

試験・期末レポートは授業で説明した社会学や文化研究の概念を理解した上で若者文化を分析できるかどうかを評価します。

【学生の意見等からの気づき】

一昨年、昨年とオンデマンドで実施のため、今年度の対面授業はある程度試行錯誤することもあるかもしれませんが。大人数講義が予想されるが、オンライン授業よりは一方通行とならないように、課題のフィードバックや授業時のアンケートなどでインタラクションを取るようにしたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布・課題提出等のために学習支援システム等を利用

【Outline (in English)】

Entertainment media and youth culture has a political and economic side, and has been accepted by many people. This lecture will focus on both the industrial side (industrial structure and business model) and the consumption of its audience. We will analyze Japanese youth culture since the 1960s, including mass media industry such as magazines and television, as well as advertising and consumption.

In this lecture, referring to modern society theories such as Post-Fordism and liquid modernity, we think about youth culture and entertainment such as movies, anime characters, and idols from the theory of consumer society.

Students will be expected to search and watch websites and audiovisual materials introduced in class, after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

Exams(or reports) assess your ability to analyze youth culture with an understanding of the theory of sociology and cultural studies.

Grading will be decided based on Term-end exams(or term-end reports)50% and in class contribution(Quizzes or comment tasks) 50%

SOC200MA

世代間交流論

展開科目

安田 節之

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

曜日・時限：月 4/Mon.4 | 配当年次：2～4 年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

世代間交流の考え方や役割と取り組みについて学び、地域課題の解決策としての世代間交流プログラムのあり方について考える。

【到達目標】

- ①地域や社会の課題と連動した世代間交流の意義が分かる。
- ②世代間交流プログラムの開発と評価方法が分かる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

社会的なつながりの目的と方法が変化し続ける現代社会において、これまで個人と家族あるいは地域とのつながりを形成するうえで主な役割を担ってきた世代間交流のあり方も変化してきている。この授業では、世代間交流の背景にある考え方をまず学び、それがどのような肯定的な効果をもたらすことが可能なのかについて検討する。そして、新たな世代間交流の活動を創造する意義と方法について世代間交流プログラムという視点から考える。演習としてグループワークを行いますので、他の学生との積極的なコミュニケーションが必要となります。リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。この授業はオンライン（リアルタイム型）での実施を予定しています。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業内容の説明、評価方法の説明など。
第 2 回	理論的背景①	学際的視点から世代間交流を学ぶ①（事例：駄菓子屋）。
第 3 回	理論的背景②	学際的視点から世代間交流を学ぶ②（文献：コミュニティ心理学の応用）。
第 4 回	理論的背景③	世代間交流におけるソーシャルキャピタルの役割を検討する。
第 5 回	理論的背景④	多様な交流のあり方とアイデンティティ（事例：シェアハウス）。
第 6 回	理論的背景⑤	高齢者のサクセスフルエイジングの視点から捉えた世代間交流についてを学ぶ。
第 7 回	実践的課題	世代間交流の視点から社会課題を検討する（演習：問題分析ワーク）。
第 8 回	世代間交流プログラムの開発①	プログラムの実施背景と活動方針の検討（演習：ゴール設定）。
第 9 回	世代間交流プログラムの開発②	ロジックモデルの枠組みから世代間交流プログラムを捉える（演習：ロジックモデル開発①）。
第 10 回	世代間交流プログラムの開発③	ロジックモデルを完成し運営方法を検討する（演習：ロジックモデル開発②）。
第 11 回	世代間交流プログラムの評価①	世代間交流のプロセスと成果・効果を検討する（演習：アウトカムとデータ収集計画の計画）。
第 12 回	世代間交流プログラムの評価②	効果検証を行うための評価クエスチョンおよび評価デザインを考案する（演習：評価クエスチョンの設定）。
第 13 回	プログラム評価計画の発表	プログラムの開発および評価計画についての発表を行う。
第 14 回	まとめ	授業全体を振り返り、各課題を提出する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配布資料の指定箇所を必ず読んだうえで授業に参加してください。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

配布資料等を使用する。

【参考書】

「プログラム評価：対人・コミュニティ援助の質を高めるために（ワードマップ）」（安田節之、2011、新曜社）

【成績評価の方法と基準】

学期末レポート（50 %）、グループワーク（演習参加・発表・レポート作成）（30 %）、授業への積極的な貢献（20 %）を総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

大教室における授業でも、コメント票作成などを通して学生の能動的参加を促すようにする。グループワークではより効率的な運営を行う。

【Outline (in English)】

This class focuses attention on understanding intergenerational theory and methods of developing programs related to intergenerational issues in the communities that we live.

Learning Objectives:

- ・ Understand social and cultural issues relating to intergenerational programs
- ・ Develop skills to design and evaluation intergenerational programs

Learning activities outside of classroom:

Students are expected not only to actively participate in class but also engage in academic activities outside of the classroom.

Grading Criteria /Policy:

50 points (%) for final report

30 points (%) for group assignments

20 points (%) for active participation in classroom activities

SOC200MA

身体表現論

展開科目

叶 雄大

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

曜日・時限：火 2/Tue.2 | 配当年次：2～4 年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

演劇的手法のエクササイズを通して、自己の感性を磨き、自己の表現を再発見する。また様々な表現方法を体験することで、コミュニケーションについて考える。

【到達目標】

感性と感覚を磨き、自己発見・他者理解・想像・コミュニケーションの力を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

身体を動かすエクササイズの中で、感覚や身体に集中し自分自身の能力を再確認する「自己発見」を第一期として、想像の活動を通じて他者との表現の違いや考え方を知る「他者理解」を第二期。グループディスカッションやインプロヴィゼーションの活動からのグループ創作から「共感・共有・伝え合う」事と「コミュニケーション」について考える第三期。第四期ではそれらのまとめとして、「多様性」や「生きる力」について考え、テーマを定めた「創作創造」を体験する。フィードバック方法として、毎回の授業後に、フィードバックペーパーを作成し提出する。また、最終日にまとめのレポートを提出する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の進め方と全体の概要を説明。
第 2 回	ウォーミングアップ	表現をするための身体と心を整えるためのエクササイズを体験・考察。
第 3 回	身体・感覚 1	身体を使ったエクササイズを体験・考察。
第 4 回	身体・感覚 2	感覚の一つを遮断する事で、他の感覚に集中するエクササイズを体験・考察。
第 5 回	身体・感覚 3	リズムや音・音楽を使ったエクササイズを体験し、グループでの創作を行う。
第 6 回	表現力を高める為には	感覚・感性を磨き表現力を高めるエクササイズの概要と考え方の講義。
第 7 回	コミュニケーション	コミュニケーションのエクササイズを体験・考察。
第 8 回	声・距離	他者との違いを楽しみながら、自分の特性を知るエクササイズを体験・考察。
第 9 回	インプロヴィゼーション 1 基礎	創作創造活動の基本をインプロヴィゼーションのエクササイズを通して体験・考察。
第 10 回	インプロヴィゼーション 2 言語	言語表現と劇作法の基礎のエクササイズと講義
第 11 回	インプロヴィゼーション 3 非言語	言語を使わない表現を体験し、グループでの創作創造活動を行う。

第 12 回	グループ創作	グループで創作テーマを話し合い、短いパフォーマンスを創作する
第 13 回	グループ創作と発表	創作したパフォーマンスを見せ合い、話し合う。
第 14 回	まとめと試験	全体のまとめと試験課題 (30 分程で課題に対して自由筆記のレポート)

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回の授業内にミニレポートを提出。ミニレポートの返却は行わないので、提出前に写真を撮るなど記録を残しておく事。本授業の復習・予習時間は、各 2 時間を標準とする。授業の記録を元に、復習として 2 時間、授業で学んだ事を普段の生活に応用し、身体や感覚を意識して生活する事。また、予習として 2 時間、次の授業のテーマについて、現時点での自身の考えや自身の表現方法の傾向を考えて、まとめておく事。その経験を含めたレポートを最終回の課題をふまえて作成・提出。また学期の途中で授業に関連した課題からレポートを提出。

【テキスト（教科書）】

特に使用しない。必要に応じて資料を配布。

【参考書】

特になし。必要に応じて授業内で紹介。

【成績評価の方法と基準】

実技中心の授業のため、原則として 1/5 以上欠席すると単位取得は不可とする。平常点として授業への参加姿勢 70% レポート 30%

【学生の意見等からの気づき】

昨年度の授業内で好評だった身体を動かすエクササイズは今年も同様に行う。また、感染症対策も昨年と同様に行う。今年度は、体験を重視はするが、理論についてのガイダンスも適宜入れながら、授業後の復習時間の充実を目指す。

【学生が準備すべき機器他】

筆記用具。水分補給用の飲み物など

【その他の重要事項】

動きやすい服装で参加のこと（体操着・レオタード等の着用は必要はない）。授業後にミニレポートがあるため筆記具を持参してください。頭で考えるよりも体験を通して気がついた事、感じた事を元に自分自身の表現方法を発見していきましょう。なお、教室のサイズにより、受講者数を制限（選抜）することがあります。履修希望者は初回のガイダンスに必ず出席してください。

【Outline (in English)】

【Course outline】 Drama In Education :beginner's class.Classes will be held in a workshop style. 【Learning Objectives】 Improving communication skills from consideration of self and others' expressions 【Learning activities outside of classroom】 Find out what you did in the 2-hour class in real life. Use 2 hours to summarize your thoughts on the subject of the lesson 【Grading Criteria /Policy】 Class attitude and attendance 70%.In-class report and Last day free writing report 30%

SOC200MA

地域文化論

展開科目

古屋 星斗

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

曜日・時限：水 5/Wed.5 | 配当年度：2～4 年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

近い将来極めて厳しい状況が推定される地域社会の人口動態や労働需給見通しなどをもとに、2040 年の地域での生活を実際の・具体的に想像し、いま打つことができる手を探っていきます。特に「その地域でのひとづくり」の観点で、行政・地域企業としてできることを考えていきます。授業に参加される方には、それぞれ深める対象にする都道府県や市区町村を選んで頂き、発言やグループワークを行っていただきます。グループワークは全体のうち 3 回となります。

【到達目標】

選んだ地域における人材政策を起点に、その地域ならではの人材育成・キャリア形成の可能性を整理し、地方の現場で提言・実践できるような構想力の獲得を目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

受講生は、自身が選んだ地域について講義におけるインプットをもとに、ワークショップを通じて最終的にレポートをまとめ授業に参加いただきます。インプットを中心とする回でも双方向で行うため、小規模なグループワークを行うことがあります。すべての分析や検討について、一般論に留まらない今後の地域社会・地域文化のリアルを反映させた意見が求められます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	本講義は地域のひとづくり政策の当事者になって参加をすることが前提であることを中心にガイダンスを行います。
第 2 回	地域文化におけるひとづくりの歴史	近代以前からの日本各地における多様なひとづくりの歴史を確認し、その多様性がどう変化してきたか整理します。
第 3 回	地域の近未来のリアル	地域別の労働需給シミュレーションを用いて、各地域に生きる人々の生活がどう変化していくのか具体的に推計・シーン別でイメージし、グループに分かれて話し合います。
第 4 回	地域課題の現実（地域の人づくり）	地方における若者・女性活躍支援や人材育成等に取り組む当事者（行政官・非営利団体等）の話を聞いたうえで、課題のポイントを確認・共有します。
第 5 回	地域課題の現実②（地方創生・地域の魅力）	地方自治体の地方創生、地域文化発信等を担当する行政官の話を聞いたうえで、課題のポイントを確認・共有します。
第 6 回	地域課題の現実③（産業・企業）	地域ごとの産業構造の差異や、地域の中小企業が抱える問題や課題感を知り、課題のポイントを確認・共有します。
第 7 回	地域文化を担う人づくりの課題を整理する	地域における人づくりの課題を、ルールメイカー・雇用者・個人の 3 つの視点から整理するとともに、その課題を放置した場合に何が起こるか、1 枚の絵にして表現します。

第 8 回 地域とキャリア教育

キャリア教育の基礎をインプットしたうえで、地域の人づくりの分野でどのように活用されているか学びます。

第 9 回 人づくりのボトルネックを知る

財源、法制度など、地域での人づくりの前提・ボトルネックになっている諸要素を学びます。

第 10 回 地域の未来の芽①

地域文化の振興を行うために人材育成を行っている企業事例をケーススタディとして聞き、地域課題の解決策について話し合います。

第 11 回 地域の未来の芽②

地域文化に根差した新たな若者づくりを実践している事例をケーススタディとして聞き、地域課題の解決策について話し合います。

第 12 回 解決策の視点を広げる

フィッシュボウル形式の意見交換を行うことで、各自が地域文化の担い手づくりの解決策として構想する施策を共有し、相互に聞くことで自身の解決に向けたアイデアの視点を拡張します。

第 13 回 解決策を表現する

解決策として想定する施策が実現した場合に、どのような地域文化が形成されるのか、グループで 1 枚の絵に表現します。

第 14 回 期末・まとめ

対象とした地域のひとづくりについて提言をレポートにして提出します。レポートは、対象となる地域の分析精度・課題設定の妥当性・解決策の構想力・解決策の実現可能性の 4 点について評価を行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

自分が選んだ都道府県・市区町村の施策やデータを事前に調べて参加します。

そのため、ワークショップの回は毎回宿題が課されます。期末のタイミングは特に分量が増えます。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて、資料を配布いたします。

【参考書】

必要に応じて、資料を配布いたします。

【成績評価の方法と基準】

講義への参加および期末試験とワークショップ提出物の内容で評価します。

レポートは、対象となる地域の分析精度・課題設定の妥当性・解決策の構想力・解決策の実現可能性の 4 点について評価を行います。

・出席点：30%

・ワークショップ：30%

・期末試験：40%（期末試験はなく、プレゼンテーション形式のレポート提出となります）

【学生の意見等からの気づき】

講師は、リクルートワークス研究所で地域ごとの労働需給シミュレーションや人材政策のアドバイザーに携わってきました。過去には経済産業省において産業人材政策、福島復興支援、政府成長戦略立案などを行っており、本講義でも検索して出てくる情報だけでなく現場で奮闘する当事者の声を聞きながら、新しい地域文化創出に貢献できる人材を生み出す提案を考えていきます。

【学生が準備すべき機器他】

情報機器（パソコン）の使用を前提とし、パワーポイントや Keynote といったプレゼンテーションソフトが必須となります。

【その他の重要事項】

考える力を養いますので、毎度の宿題と講義への出席が必須となります。

【Outline (in English)】

Course outline:

Rethinking community-initiated people development.

Based on demographic trends and labor supply and demand forecasts, it is estimated that local communities will face extremely difficult conditions in the near future. In this lecture, we will imagine life in the region in 2040 and explore solutions. In particular, we will consider what the government and local businesses can do from the perspective of human resource development in the region.

Learning Objectives:

Each student will choose a prefecture or city to research, and will make comments and do group work. Group work will be three times out of the whole course.

Learning activities outside of classroom:

Preparation takes about 2 hours per session. Students are required to research the policies and data of their chosen prefecture or municipality. Therefore, homework will be assigned for each workshop session.

Grading Criteria /Policy:

The evaluation is based on participation in lectures and the content of the final report and workshop submissions.

The report is evaluated on the following four points: accuracy of analysis of the target area, appropriateness of the problem setting, conceptual ability of the solution, and feasibility of the solution.

Points are allocated as follows

Attendance: 30%.

Workshop: 30%.

Final exam: 40% (There will be no final exam, but a report in the form of a presentation)

SOC200MA

アイデンティティ論

展開科目

熊谷 智博

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

曜日・時限：水 2/Wed.2 | 配当年次：2~4 年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

人生における「アイデンティティ」とは何か、どのように発達し、人生にどのような影響をあたえるのかを理解する事が本講義の目的である。個人的アイデンティティと社会的アイデンティティの両面からアイデンティティをどのように形成・獲得し、またそれから意識的・無意識的にどのような影響を受けるのかを学び、将来のキャリアデザインに活用できる知識の獲得を目指す。

【到達目標】

受講者が自分や他人のキャリアデザインを行う際に、アイデンティティの影響を考慮に入れて検討し、それを活用出来るようになる事を目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

授業内課題は Hoppii を利用してを提出するという形式で行う予定。尚、課題の範囲は複数回の授業内容をまたがる事もある。リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に生かす予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション及び基礎知識の解説	授業のスケジュール、内容、形式、評価方法及びアイデンティティについて学ぶ事の意義について説明する。
第 2 回	自己とはなにか：心理学から見たアイデンティティ	自己に関する諸理論からアイデンティティについて議論する。
第 3 回	自己とはなにか：社会心理学的アプローチ	社会心理学の観点から自己とアイデンティティの研究を解説する。
第 4 回	社会的アイデンティティの理論と代表的研究	社会心理学における自己及び社会的アイデンティティに関する代表的理論とその研究成果をレビューする。
第 5 回	社会的アイデンティティ（集団間関係）	集団成員となることで他の集団と対立的になる心理過程に関する研究成果を解説する。
第 6 回	社会的アイデンティティ（集団間葛藤）	集団成員となることで生じる集団間葛藤について、特に解決の観点から解説する。
第 7 回	社会的アイデンティティ（集団内過程）	集団成員となることで他の集団と対立的になる心理過程について、主に集団内に対する影響について解説する。
第 8 回	グループダイナミクス	社会的促進と社会的手抜ききの心理、及びその解決方法について解説する。
第 9 回	アイデンティティと意思決定	集団の一員としてのアイデンティティが、集団内での意思決定に与える影響について、共有バイアスや集団極性化などを取り上げて解説する。
第 10 回	社会的公正とアイデンティティ	アイデンティティの獲得が不正感に与える影響について解説する。
第 11 回	差別とアイデンティティ	性別、人種、年齢（例えば世代論）等に関する偏見や差別とアイデンティティの関係について解説する。
第 12 回	差別の正当化とアイデンティティ	自我脅威と差別の正当化の関係について、先行研究を元に解説する。
第 13 回	過激化とアイデンティティ	人々の過激な行動に対するアイデンティティの影響について解説する。
第 14 回	まとめと総括	講義内容についての振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業用資料を学習支援システムにアップロードする。それを元に授業内容を事前に確認した上で、次の授業に臨むこと。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

授業開始時点では特定の教科書の指定は行わない。授業の進行によって必要な場合は適宜テキストを紹介する。

【参考書】

脇本竜太郎編著/熊谷智博・竹橋洋毅・下田俊介共著『基礎からまなぶ社会心理学』サイエンス社 2014

【成績評価の方法と基準】

学期末試験の結果に加えて、課題の提出と授業に対する積極的な質問を中心に成績評価を行う。具体的には課題+質問で 40 %、学期末試験（試験期間に実施予定。場合によってはレポート課題）60 %の配分とする。課題や質問の具体的なやり方については授業開始時に学習支援システムに記載する。

【学生の意見等からの気づき】

学習支援システムを通じて学生のからのフィードバックを受け、授業方法に反映させる。

【学生が準備すべき機器他】

一部課題は windows PC を利用する場合があるので、利用環境を整えておくこと。

【その他の重要事項】

担当教員が出張等の場合、google classroom を利用したオンデマンド形式で授業を代替実施することもある。その場合は授業内や Hoppii 等で告知するので各自確認の上、期限内に受講すること。詳細については初回授業に説明する。

【Outline (in English)】

Students will learn theories concerning "identity" from social psychology perspective. Especially, it is focused on social identity theory and group dynamics.

Goals of this course are when students try to design their own career, they are able to think about the effects of identity and use it for better designing.

Your overall grade in the class will be decided based on the following:
Term-end examination: 40%, Short reports and in class contribution (e.g. asking questions): 60% Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

SOC200MA

余暇集団論

展開科目

熊谷 智博

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

曜日・時限：月 2/Mon.2 | 配当年次：2～4 年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

私たちの日常生活、そして人生において「余暇」とはどのような意味や機能があるのかについて、単なる個人的経験としてだけではなく、社会的活動としての側面も交えて解説する。更には余暇に対する心理学的研究法を紹介し、心理的メカニズムからの理解を深め、特に観光旅行に焦点をあて、余暇研究の具体的な応用方法について解説する。

【到達目標】

人生における「余暇」について、日本における活動の現状、考え方の変遷について学ぶ。更には日常生活における余暇活動の理論と方法について解説し、将来における余暇活動の発展に利用可能な知識の獲得を目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

授業内課題は Hoppii を利用して提出するという形式で行う予定。尚、課題の範囲は複数回の授業内容をまたがる事もある。リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に生かす予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	講義全体の内容や到達目標について説明する。
第 2 回	余暇とはなにか	余暇の種類と現状について解説する。
第 3 回	余暇と社会	人々の社会生活における余暇の意義について解説する。
第 4 回	産業としての余暇	余暇が与える経済的影響について、統計データを用いて解説する。
第 5 回	日常生活における余暇の心理：動機について	余暇に関する心理のうち、動機に関する知見を解説する。
第 6 回	日常生活における余暇の心理：心理的報酬について	余暇活動が持つ心理的報酬としての側面と、その逆機能について解説する。
第 7 回	日常生活における余暇の心理：欲求と満足	余暇活動に対する満足度の測定方法について解説する。
第 8 回	日常生活における余暇の心理：発達と社会化	発達過程における余暇活動の影響について解説する。
第 9 回	日常生活における余暇の心理：損と得	余暇活動に伴う、損失と利得の計算の心理を解説する。
第 10 回	余暇活動としての観光旅行	余暇活動のうち、観光旅行に焦点をあて、どのように研究可能であるかを解説する。
第 11 回	観光旅行の動機	観光旅行を行う人は、どのような動機を持っているのか、研究結果に基づいて解説する。
第 12 回	観光旅行の意思決定	観光旅行の計画・実施の際にはどのような意思決定が行われているのか、研究結果に基づいて解説する。
第 13 回	観光旅行での活動と経験	観光旅行ではどのような活動が行われ、それが人々に同様な経験して記憶されるのか、研究結果に基づいて解説する。
第 14 回	まとめ	講義内容についての振り返り、総括する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業用資料を学習支援システムにアップロードする。それを元に授業内容を事前に確認した上で、次の授業に臨むように。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

授業開始時点では特定の教科書の指定は行わない。授業の進行によって必要な場合は適宜テキストを紹介する。

【参考書】

瀬沼克彰・園田碩哉（編）日本余暇学会（監修）「余暇学を学ぶ人のために」世界思想社、2004

【成績評価の方法と基準】

学期末試験結果に加えて、課題の提出と授業に対する積極的な質問を中心に成績評価を行う。具体的には課題＋質問で 40 %、学期末試験（試験期間に実施予定。場合によってはレポート課題）60 %の配分とする。課題や質問の具体的なやり方については授業開始時に学習支援システムに記載する。

【学生の意見等からの気づき】

学習支援システムを通じて学生のからのフィードバックを受け、授業方法に反映させる。

【学生が準備すべき機器他】

一部課題は PC が必要となるので、利用できる環境を整えておくように。

【その他の重要事項】

担当教員が出張等の場合、google classroom を利用したオンデマンド形式で授業を代替実施することもある。その場合は授業内や Hoppii 等で告知するので各自確認の上、期限内に受講すること。詳細については初回授業に説明する。

【Outline (in English)】

Students will learn theories concerning "leisure" from social psychology and sociology perspective. Especially, it is focused on theories, history, and methods of the leisure study.

Goals of this course are that students understand leisure activity in Japan theoretically, and learn how to use those knowledge for their future career.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Term-end examination: 40%, Short reports and in class contribution (e.g. asking questions): 60%

SOC200MA

NPO論

展開科目

山口 佳子

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

曜日・時限：木 2/Thu.2 | 配当年次：2～4 年

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

NPOは地域社会のニーズに応える社会サービスの創り手として、社会的課題の解決と組織が掲げたミッション（使命）の実現に向けて大きな役割を果たすことが期待されています。しかし、現状として、多くのNPOが「人材・資金・事業・情報等」のマネジメントに課題を抱えています。本講義では具体的な事例を通して、NPO活動を発展させるためのマネジメントの向上について、そのあり方や課題を考察します。

【到達目標】

NPO／非営利組織についての基本的な知識を習得することに合わせて、その現状と社会的意義について理解を深めることを目標とします。また授業で得られた知識に基づいてグループワークを実施し、NPOの事業を考え、事業計画書の作成までを行えるようにします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

毎回、テーマを決めた講義を実施する予定です。講義では、テーマについての感想・意見を書いてもらったりするほか、グループでのディスカッションやプレゼンテーションを行ってもらうこともあります。なお、初回アンケートにより、授業テーマや授業形態に一部変更があり得るほか、大学外でのフィールドワークも予定しています。今期より対面での講義に戻りますが、引き続き授業支援システムを使用します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	本授業全体の概要確認。参加者の関心事項についてのミニアンケートも行うので、受講希望者は必ず出席のこと。
第 2 回	NPOの基礎知識	NPOの意味や意義、NPOとNGOの違い、非営利の意味などについて理解する。
第 3 回	NPOの社会的役割	日本における市民社会の歴史を知り、日本におけるNPOの社会的役割について理解する。
第 4 回	NPOの具体的事例①	NPOの実態についての資料を利用し、その具体的な活動について理解する。
第 5 回	NPOの具体的事例②	実際にNPOで活動するゲストを招き、具体的な活動事例をもとに、NPOの社会的役割を考える。
第 6 回	NPOの組織と運営について	NPOの組織運営について学び、その課題について理解する。
第 7 回	NPOと行政との協働	NPOと行政の関係を学ぶとともに、「協働」の具体的事例を紹介する。
第 8 回	市民活動やNPOの現在	市民活動やNPO、またコミュニティビジネス、ソーシャルビジネスの最新事例の紹介する。
第 9 回	NPOと雇用	NPOの雇用・就労の場としての可能性と課題について、データを基にその問題点と可能性を考える。
第 10 回	中間振り返り	前半の知識の整理、質疑応答、ディスカッションなど。
第 11 回	グループワーク①	講義を踏まえてテーマを設定し、それに基づいたグループワークを実施する。
第 12 回	グループワーク②	グループワークのまとめ。アウトプットを完成させる。
第 13 回	グループワーク③	グループごとにプレゼンテーションをおこなう。
第 14 回	まとめ	全体のまとめ、レポート課題についてなど。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回、授業の復習をすること。また、授業に関連する新聞記事や文献などに関心をもつとともに、日々の生活のさまざまなもの／ことを、授業との関連で捉え直していくように心掛けること。さらには、授業であつかう事例に関わるイベントなどには積極的に参加することが望ましい。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。

【参考書】

参考文献は、授業で随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】

最終試験（50%）と、小レポート（10%）、授業への積極的貢献（20%）、グループワークとプレゼンテーション等への参加度・貢献度（20%）によって成績を評価します。

【学生の意見等からの気づき】

この3年間オンデマンド型の講義となってしまうため、リアルタイムでゲストを呼ぶ機会が持ちにくかったのですが、久しぶりの対面での実施になりますので、ゲストを招いての講義も行いたいと考えています。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

2009年に特定非営利活動法人アルファルファを設立し、以降代表理事をつとめています。組織の運営、および様々な行政・民間企業等との協働について具体的な事例を通して、学生の皆さんと共にこれからのNPOの在り方について考えていきたいと思ひます。

【Outline (in English)】

・Course outline : In this course, we will examine how and how to improve management to develop NPO activities through concrete examples. ・ Learning Objectives : The goal is to an in-depth understanding of the current status and social significance of nonprofit organizations, in addition to acquiring basic knowledge about them. ・ Learning activities outside of the classroom : Students will be expected to be interested in newspaper articles and literature related to the class and try to reconsider various things in their daily lives in relation to the class. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each. ・ Grading Criteria /Policies : Your overall grade in the class will be decided based on the following Term-end examination: 50%、Short reports : 10 %、 in-class contribution: 20%、 Group work and presentations contribution : 20 %

SOC200MA

公共サービス論

展開科目

前浦 穂高

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

曜日・時限：火 5/Tue.5 | 配当年次：2～4 年

その他属性：〈優〉

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

特になし。

【Outline (in English)】

In this class, I would like to think about the future of public service with the students. The goals of this course are to deepen your understanding of public service and enable students to have clear ideas of what public service should be in the future. Preparations for class and the review are necessary for two hours each. Grading will be decided based on term-end report (100%).

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

公共サービスとは何か？と問いかげられたら、皆さんはどのようなサービスを思い浮かべるだろうか。詳しくは授業で説明するが、公共サービスは、皆さんが思い浮かべる以上に多種多様であり、また、私たちの日常生活及び社会生活に欠くことのできないものである。しかし、私たちは公共サービスについて知らないことが多いのではないだろうか。公共サービス論の授業では、受講者の皆さんと今後の公共サービスのあり方について考えたい。

【到達目標】

公共サービスに対する理解を深め、今後の公共サービスのあり方について、受講者が明確な考えを持てるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

対面式の授業（講義形式）を行う。授業は、教員が作成する資料を基に進めていく。授業で使用する資料は、前日までに教育支援システム上にアップする。授業では、資料を配布しないため、受講者は資料を持参すること。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	講義の概要説明、公共サービスの定義
第 2 回	公共サービスの提供と評価 (1)	公共サービスと公共政策の手段、公共サービスを提供する仕組み
第 3 回	公共サービスの提供と評価 (2)	公共サービスを評価する仕組み
第 4 回	政府と市場の役割分担 (1)	民間委託の歴史・現状・課題
第 5 回	政府と市場の役割分担 (2)	指定管理者制度の背景・現状・課題
第 6 回	政府と市場の役割分担 (3)	独立行政法人制度の現状と課題
第 7 回	政府と市場の役割分担 (4)	民営化の歴史と現状 (3 社の民営化、郵民営化等)
第 8 回	働く環境の変化と人事行政 (1)	地方公務員を取り囲む環境の変化、人事管理制度とその実態
第 9 回	働く環境の変化と人事行政 (2)	給与構造改革、能力・実績主義の浸透：人事処遇の個別化の進展
第 10 回	働く環境の変化と人事行政 (3)	非常勤職員の活用と課題、正規職員と非常勤職員との均衡処遇
第 11 回	公共サービスの現状 (1)	資金交付行政
第 12 回	公共サービスの現状 (2)	子育て行政
第 13 回	公共サービスの現状 (3)	水道行政
第 14 回	これまでの授業内容の整理とまとめ	これまでの授業内容の振り返り、質疑応答

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で取り扱うテーマには、時事問題が含まれる。ニュースを見たり、新聞を読んだりしておく和良好的。授業後は講義内容を復習することが望ましい。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

本授業では、テキストは指定しない。

【参考書】

- ・秋吉貴雄・伊藤修一郎・北山俊哉（2017）『公共政策学の基礎 新版』有斐閣ブックス。
- ・井上雅雄+立教大学キャリアセンター編（2008）『講義 仕事と人生』新曜社。
- ・外山公美他著（2014）『日本の公共経営』北樹出版。
- ・磯崎初仁・金井利之・伊藤正次（2014）『ホーンブック 地方自治 [第 3 版]』北樹出版。
- ・岩崎馨・田口和雄編著（2012）『賃金・人事制度改革の軌跡—再編過程とその影響の実態分析』ミネルヴァ書房。
- ・大谷基道・河合晃一編著（2019）『現代日本の公務員人事—政治・行政改革は人事システムをどう変えたか』第一法規。

【成績評価の方法と基準】

成績は期末レポートで決定する（100 %）。

【学生の意見等からの気づき】

授業の進め方や内容に関する質問等は、授業後に受け付けるほか、メールでも受け付ける。教員のメールアドレスは、最初の授業で知らせる。

SOC200MA

アート・マネジメント論 展開科目

山口 佳子

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

曜日・時限：水 2/Wed.2 | 配当年次：2～4 年

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

社会のシステムや価値観が大きく変化しつつある今日、わたしたちの生き方や考え、働き方などにおいて、「創造性（クリエイティビティ）」が強く求められるようになってきています。そのようななかで、自由な発想や表現にのっとって生み出されるアート、もしくはアートの要素が、かつてないほど注目を集めています。この授業では、アートのもつ美的価値に加えて、近年重視されているその社会的・経済的価値についても多角的に分析し、現代社会におけるアートの位置づけや意義を明らかにしていきます。

【到達目標】

わたしたちの生活をより豊かなものにしてくれるアートは、どのように生産（創造）され、流通（普及）し、消費（鑑賞）されているのでしょうか。この授業では、現代社会におけるアートのしくみを学びます。特に、アートを「する人」（アーティスト）と、アートを「見る人」（観客、愛好家、市民など）のあいだに立ち、アートと一般の人々を「つなぐ人」（サポーター、マネージャー、プランナーなど）に焦点を当て、彼ら「つなぎ手」たちが、地域や企業のなかでどのような活動を展開しているのかを探ります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

毎回、テーマを決めた講義を実施する予定です。講義ではテーマについての感想・意見を書いてもらったりするほか、授業の理解についてや社会的な問題意識についての参加者の意識を確認しながら進めます。久しぶりの対面での講義となりますので、個別の質問等にもできるだけ対応しながら進めたいと思います。

他、初回アンケートにより、授業テーマや授業形態に若干の変更があり得るほか、フィールドワークやゲスト講師による講義を行います。基本的に、講義資料の配布、課題の提出、フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の目的と進め方について説明と第 2 回目以降の授業内容に必要なアンケートを行う。
第 2 回	コロナ禍におけるアートの現状と変化	コロナ禍における文化芸術の現状と変化について知り、マネジメントの役割への理解を深める。
第 3 回	アート・マネジメントとは何か	アート・マネジメントの成り立ちについて概説する。
第 4 回	アートと国家	日本の文化政策の経緯をたどり、現状の課題について探る。
第 5 回	アートと地方自治体	アートを活用したまちづくりや地域活性化について学ぶ。
第 6 回	アートと社会	アートが社会のなかに定着していく過程をたどる。
第 7 回	アートと企業①	企業活動のなかにアートがどのように取り入れられてきたか、歴史的事例を学ぶ。
第 8 回	アートと企業②	企業活動のなかにアートがどのように取り入れられているのかを具体的に探る。
第 9 回	フィールドワーク	劇場や美術館などのアートの現場に実際に足を運び、現場の課題や問題点について調査・検討を行う。場合により、オンラインでのフィールドワークも可とする。
第 10 回	アートの現場と市場	芸術文化の組織経営の実践について学ぶ。
第 11 回	アートにおける様々なキャリア①	芸術文化施設での仕事にとどまらないアートやコミュニティに関わる職業のキャリア形成について、具体的な事例を学ぶ。
第 12 回	アートにおける様々なキャリア②	実際にアートに関わる職業に携わるゲストを招き、具体的な活動やそこでの課題や問題点を学ぶ。
第 13 回	アートと法・制度	日本における文化芸術を取り巻く法律や制度について概説する。

第 14 回 授業のまとめ・最終課題 これまでの講義のまとめと最終課題についての解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

美術館や劇場、ライブハウス、音楽フェスティバル、地域のアート・プロジェクトなど、アートの現場についてリサーチし、現代の日本におけるアートの諸相やその課題についてフィールド調査を行い、その成果をレポートにまとめたりすることが求められます。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは特に指定しませんが、授業中に資料を配布やリンク先の指示を行います。

【参考書】

『アーツ・マネジメント概論 三訂版』小林真理・片山泰輔・伊藤裕夫・中川幾郎・山崎稔恵、水曜社（2009）

『文化政策の現在』小林真理編、東京大学出版会（2018）

※このほか、授業中に適宜提示します。

【成績評価の方法と基準】

授業内の小レポートや課題レポートなどの平常点（50%）と最終課題（50%）から総合的に評価を行います。

【学生の意見等からの気づき】

この3年間オンデマンド型での講義となってしまったため、リアルタイムでゲストを呼ぶ機会が持ちにくかったのですが、久しぶりの対面での実施になりますので、ゲストを招いての参加型の授業なども実施したいと考えています。

【学生が準備すべき機器他】

対面に講義は戻りますが、課題提出等に授業支援システムを使用するので、必ず登録を行ってください。

【Outline (in English)】

Today, social systems and values are changing fast and drastically, so "creativity" or creative thinking is strongly required in our way of life, way of thinking and way of working. In such circumstances, the art or anything artistic created from free thinking and expression is attracting more attention than ever. In this class, in addition to the aesthetic value of art, we will analyze its social and economic value which has been emphasized in recent years in a multilateral way and will clarify the position and significance of art in our society.

SOC200MA

文化経営論

展開科目

武田 知也

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring
曜日・時限：月 4/Mon.4 | 配当年次：2～4 年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

2020 年 2 月 26 日、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から芸術文化事業は「不要不急」のものとして、スポーツイベントなどと共に開催や活動の自粛を政府から要請されました。一方で、芸術文化を希求する多くの人たちからも声があがり、これを機に日本社会における芸術文化の立ち位置が改めて可視化されたとも言えます。

本授業では、この状況で起きたいいくつかの事例を参照しながら日本における芸術文化の現在地を紐解くところからはじめ、芸術と社会の関わりを考察していきます。

【到達目標】

芸術文化を担う様々な主体（創り手・企業・行政・NPO等）の現状、取り組み事例、その背景や歴史を概観した上で、芸術と社会をつなぐマネジメント・プロデュースの視点から学修します。芸術そのもの、クリエイティブ産業、まちづくり、福祉、教育など芸術文化と学生自身の生活との多岐にわたる関わりに新たな気づきを獲得することを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

対面での講義とオンデマンドでの講義を予定しています。毎回リアクションペーパー（小レポート）の提出を求め、授業の理解度、社会的な問題意識や関心を把握しながら進みます。また、毎回の授業の際に、その前の回のリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。

初回は授業概要の説明と意識調査を主としたアンケートを行います。前期期間中のフィールドワーク課題も出します。

具体的には、授業支援システム内で随時指示します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業の目的と進め方について説明する。
第 2 回	コロナ禍と芸術文化	新型コロナウイルスによって様々な影響を受けた芸術文化事業の状況を概観する
第 3 回	芸術文化と文化政策①	芸術文化と文化政策の関わりを知る。文化政策の成り立ち、歴史を概説。
第 4 回	芸術文化と文化政策②	オリンピックを軸として振興を目指してきた 2020 年までの最新の文化政策の動向を探る。
第 5 回	芸術文化と行政（地方自治体）	都市と芸術文化（創造都市）、まちづくり、地域活性化との関わりを学ぶ。
第 6 回	フィールドワーク	ここまでの学びを通じた、フィールドワーク課題を出します。（フィールドワークの具体的内容については授業内で指示）
第 7 回	芸術文化と企業	産業としての芸術文化、また企業メセナを中心とした企業による芸術文化支援、関係を学ぶ。
第 8 回	芸術文化と NPO、ソーシャルアクション	芸術文化を通じた NPO の多彩な活動を学ぶ
第 9 回	アーティストとは何か①	そもそもアーティストとは誰か？ なにをする人たちなのか？ アーティストという存在を考える
第 10 回	アーティストとは何か②	舞台芸術を中心とした多彩なアーティストの作品群を通して、社会との関わりを考察する
第 11 回	芸術文化とマネジメント・プロデュース①	マネジメント、プロデュースの実践を知る（主に舞台芸術）
第 12 回	芸術文化とマネジメント・プロデュース②	アートマネージャーの役割、アートマネジメントに関するまとめを行う
第 13 回	芸術文化とキャリア形成	芸術文化と関わる多様なキャリア形成と課題を知る。
第 14 回	授業内試験	授業内試験を実施し、ここまでの学びを振り返る。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内で紹介した事例について実際の展開を調べたり、芸術文化事業（劇場、美術館、ライブ、フェスティバル等）の現場に足を運び、フィールド調査を行い、レポートにまとめてもらいます。

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しないが、授業中に資料の送付、読むべきリンク先の指示をします。

【参考書】

授業内で適宜紹介

【成績評価の方法と基準】

最終試験（70%）と授業内の小レポート（リアクションペーパー）、課題レポートなどの平常点（30%）から総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

授業で使用する資料から更に調査・研究に繋がる資料をなるべく数多く提示したいと考えています。

【学生が準備すべき機器他】

パソコンやタブレット、授業システムへの登録

【その他の重要事項】

新卒時は法政大学からアート NPO に就職し、その後フェスティバル/トーキョー（国際舞台芸術祭）、ロームシアター京都（公立劇場）、さいたま国際芸術祭 2020（国際芸術祭）などで企画・制作、キュレーターなどを担い、2021 年に自身が代表を務める法人を設立し現在に至っています。

そのような経験を元に、現在の文化芸術を取り巻く状況と学生諸君の生活との接点を見出すような授業を展開できればと考えています。

【Outline (in English)】

On 26 February 2020, in order to prevent the spread of the new coronavirus, the Japanese government requested that arts and cultural activities, along with sporting events, be refrained from being held as "unnecessary". On the other hand, many people who are interested in art and culture have also voiced their opinions, and it can be said that this occasion has made the position of art and culture in Japanese society visible again.

In this class, we will begin by unravelling the current state of arts and culture in Japan by referring to some of the cases that occurred in this situation, and examine the relationship between art and society.

【Learning Objectives】

Students will study from the perspective of management and production that links the arts and society, based on an overview of the current status of the various actors (creators, companies, government, NPOs, etc.) responsible for arts and culture, examples of their initiatives, and their background and history. Students will gain new insights into the diverse relationships between arts and culture and their own lives, including the arts themselves, creative industries, community development, welfare, and education.

【Learning activities outside of classroom】

Students will be asked to research the actual development of the case studies introduced in the class, visit the sites of arts and culture projects (theaters, museums, live performances, festivals, etc.), conduct field research, and summarize their findings in a report.

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each. (Grading Criteria / Policy)

Comprehensive evaluation will be made based on the final examination (70%) and regular marks (30%) such as in-class small reports (reaction papers) and assignment reports.

SOC200MA

メディア文化論

展開科目

堤 信子

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

曜日・時限：水 2/Wed.2 | 配当年次：2～4 年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、テレビ、ラジオ、雑誌などによるメディア文化の歴史と現状について各メディアの具体的な事例をもとに紐解いていく。今日、メディアは、作り手と受け手の相互コミュニケーションを大事にしていく傾向にあり、メディアの受け手もメディア文化形成の一端を担っているといえる。また、ソーシャルメディアの隆盛により、メディアを創り出し、様々な日常を発信していくことができる。そこで本講義では、メディア文化の展開を学ぶだけでなく、アナウンサーなどの表現者としての技術や、多種多様なメディアを創り出していく手法も実践的に学んでいく。

【到達目標】

各種メディアの中身を理解することにより、今後ますます多種多様になっていく各種メディアとの関わり方を学ぶことができる。また、オンラインを通してのプロのアナウンサーの指導により、各自の表現力、コミュニケーション力の向上をも目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

対面授業を予定しています。表現力を磨くための演習をも取り入れます。授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション：メディア文化とは？	われわれのまわりに存在する主要メディアに着目し、メディア文化を捉える視座を確立する。全講義内容の解説や、アンケートの実施も。
第 2 回	メディア文化の源流：雑誌、ラジオ、テレビ	雑誌、ラジオ、テレビの主要メディアの歴史的経緯を理解する。
第 3 回	雑誌メディアの文化論	週刊誌、月刊誌何例かを取りあげ、雑誌の成り立ちや紙面構成などを分析していくことで、雑誌によるメディア文化形成を読み解く。
第 4 回	ラジオメディアの文化論	ラジオ番組の何例かを取り上げ、その歴史的経緯を分析し、またラジオに関する DVD 視聴などを通して、ラジオによるメディア文化形成を読み解く。
第 5 回	テレビメディアの文化論①	朝のレギュラー番組を取り上げ、番組に携わるスタッフ、出演者などの役割、生放送の仕組み、そして視聴率の裏側を知ることで、メディアにおけるテレビの立場を紐解く。
第 6 回	テレビメディアの文化論②	人気バラエティー番組を取り上げ、その内容や裏側を分析していくことで、テレビによるメディア文化形成を読み解く。

第 7 回	メディアを作る：ビジネス本やエッセイ本の事例	『ありがとう上手の習慣』や「旅靴いっぱいシリーズ」の制作秘話を交え、取材や執筆のルール、出版までの流れを知ることを通し、書籍メディアを理解する。
第 8 回	メディアの現場と裏側を知るためのゲスト対談 1	雑誌や新聞、通信社などの現場で働くプロをゲストにお迎えし、メディアのあり方、現場での仕事の内容などについて理解する。
第 9 回	メディアの現場と裏側を知るためのゲスト対談 2	雑誌や新聞、通信社などの現場で働くプロをゲストにお迎えし、メディアのあり方、現場での仕事の内容などについて理解する。
第 10 回	ウェブメディアの文化論	ウェブメディアの特徴や今後の可能性を洞察し個人の関わり方を考える。編集長をゲストに迎えることも。
第 11 回	アナウンサー対談	現役アナウンサーをゲストに迎え、その仕事の裏側、心構えなどについて、同じくアナウンサーである講師と対談する。
第 12 回	メディアの現場と裏側を知るゲスト対談 3	テレビ、ラジオ番組の制作者をゲストに招いて対談、番組の成り立ち、仕事の現場などについて理解する。
第 13 回	メディアの現場と裏側を知るゲスト対談 4	テレビ、ラジオ番組の制作者をゲストに招いて対談、番組の成り立ち、仕事の現場などについて理解する。
第 14 回	アナウンサーに学ぶ情報の伝え方	アナウンサーなどのメディアにおける出演者が身につける技術の一つ、発声やプレゼン方法などの基礎を学ぶことで、表現力を身につける。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

時々、レポート提出もあります。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は、使用しない予定です。パワーポイント中心です。

【参考書】

堤信子著「100人中99人に好かれるありがとう上手の習慣」デイスカヴァー 21
堤信子著「旅靴いっぱいのパリ・ミラノ」本の泉社
「旅靴いっぱいの京都・奈良」エイ出版社
「旅靴いっぱいのパリふたたび」実業之日本社
「旅靴いっぱいの京都ふたたび」実業之日本社
「東京文具雑貨散歩～旅靴いっぱいの東京」辰巳出版
「14歳からの情報学」晶文社（2023年出版予定）

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業のコメントカードや授業態度）50%と 課題レポート 50%

【学生の意見等からの気づき】

学生とのやりとりを重視した授業にしていきたいと思っています。メディア各方面から多彩なゲストをお迎えする対談を通し、キャリア形成に役立つ知識や考え方を学ぶ内容が、毎年好評ですので、2023年度も引き続きそのような内容についても充実させていく予定です。

【学生が準備すべき機器他】

パワーポイントや DVD 映像などを見せたりするので、スクリーンを使用します。

【Outline (in English)】

In this lecture, we will understand the history and current status of media culture by television, radio, magazines etc. based on concrete examples of each media. Today, the media tends to cherish mutual communication between creators and recipients, and it can be said that media recipients also play a part in media culture formation. Also, with the rise of social media, it is possible to create media and transmit various daily life. Therefore, in this lecture, in addition to learning the development of media culture, we will also practice the techniques as an announcer and other expressors, as well as the methods to create a wide variety of media.

· By understanding the contents of various media, you can learn how to interact with various media, which will become more diverse in the future.

In addition, we aim to improve each person's expressiveness and communication skills through the guidance of professional announcers .

· Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content

· Grading will be decided based on term-end report (50%), and the quality of the students' experimental performance in the lab & lab reports (50%).

SOC200MA

文化マーケティング論

展開科目

横石 崇

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

曜日・時限：金 3/Fri.3 | 配当年次：2~4 年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

文化志向のマーケティングの考え方と方法について学ぶ。
文化化する産業と、産業化する文化。社会の変化にともない、消費者の価値観や消費動向が急速に変化する現代において、文化と産業が重なる領域は、企業が消費者と良好な関係を築く上で、今後益々重要視されることが予測される。今後さらに複雑化するマーケティング領域においては、事業性検討、戦略策定や製品開発などの具体的なアプローチの検討はもちろん重要だが、それ以前にある社会的意義などの部分を深く考察する、コンセプト開発の能力が求められる。この授業では、現代の社会背景を踏まえ、なぜ文化志向のプロダクトやプロジェクトが世の中に必要とされるのかを考える力と実行できる力が身につく授業としたい。

【到達目標】

キャリアデザイン、コミュニケーションデザインの視点から、文化マーケティングを考察し、近い将来にこの分野で生き、働く上で有意義な考え方と方法を身につけることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

マーケティング、文化を全体的・動的にとらえるとともに、相互の結合を図る。マーケティングの基礎知識に加え、講師の事例紹介や、文化とマーケティングが重なる領域で活躍する実践者をゲストに迎えた講義およびディスカッションを授業にて行なう。授業ごとに授業内レポートや課題の提出を指示し、良いコメントや内容は授業内で紹介し、さらなる議論に活かします

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業全体の説明（第 1 回のみオンライン授業）
第 2 回	文化マーケティングとは	文化マーケティングが重視される背景と基礎概論
第 3 回	文化マーケティング基礎の理解①	マーケティングの考え方（ポジショニング戦略）
第 4 回	文化マーケティング基礎の理解②	マーケティングの考え方（ブランディング戦略）
第 5 回	文化マーケティング基礎の理解③	マーケティングの考え方（エンゲージメント戦略）
第 6 回	文化マーケティング事例紹介①	講師が実践するマーケティングと文化が重なる領域の事例紹介（コミュニティ領域）
第 7 回	文化マーケティング事例紹介②	講師が実践するマーケティングと文化が重なる領域の事例紹介（広告・メディア領域）
第 8 回	文化マーケティング事例紹介③	講師が実践するマーケティングと文化が重なる領域の事例紹介（アート・エンタテインメント領域）
第 9 回	職業・仕事としての文化マーケティング①	マーケティングと文化が重なる領域の実践者による事例紹介（コミュニティ領域）
第 10 回	職業・仕事としての文化マーケティング②	マーケティングと文化が重なる領域の実践者による事例紹介（広告・メディア領域）
第 11 回	職業・仕事としての文化マーケティング③	マーケティングと文化が重なる領域の実践者による事例紹介（アート・エンタテインメント領域）
第 12 回	文化マーケティングを実践するためのキャリアプランニング	企業や地域との関わり方や就労方法について
第 13 回	振り返り、授業内レポートの事前解説	授業内レポートのポイント解説、解答事例の紹介
第 14 回	授業内レポートの実施及び解説	授業内レポートの解説、授業内レポートの実施（参考資料持ち込み可）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内で紹介した事例について実際の展開を調べ、可能な範囲でフィールド調査を行う。授業内で紹介した参考文献を読む。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

授業内で適宜紹介

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業への積極的な参加 70%、授業内レポートの提出 30%）

【学生の意見等からの気づき】

一方的な講義形式に限らず、実際に記述作業を行いながら双方向性を重視し、文化マーケティング論の習得を目指します。

【学生が準備すべき機器他】

パソコンやタブレット

【Outline (in English)】

① 【Course outline】

In today's world where consumer values and consumption trends are rapidly changing due to social changes, the area where culture and industry overlap is to be emphasized more and more in the future as companies build good relationships with consumers. Is predicted. In the field of marketing, which will become even more complex in the future, it is important to consider business approaches, concrete approaches such as strategy formulation and product development, but of course the ability of concept development to deeply consider social significance etc. Is required.

In this class, why is it based on the modern social background? For what? for whom? I would like the class to have the power to think whether culture oriented marketing is needed in the world.

② 【Learning Objectives】

The goals of this course are Learning about culture-oriented marketing thinking and methods.

③ 【Learning activities outside of classroom】

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than two hours for a class.

④ 【Grading Criteria /Policy】

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Short reports : 30%、in class contribution: 70%

SOC200MA

ブランド創造論

展開科目

石原 篤

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

曜日・時限：木 3/Thu.3 | 配当年次：2～4 年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

物や情報が溢れる時代に、人は何を基準に買い物をしたり、情報を取捨選択していくか。ブランドは人の気持ちを動かしたり、行動を生み出していく上で大きな役割を果たしています。

かつてブランド創造は、対象となるブランドに対する良質なイメージをつくること、表面を装うことだと誤解されていました。例えば、ブランドロゴやビジュアルづくりだけがブランド創造だとされていたのもその現れです。一方で、いま皆さんがブランドに触れる時にどこに目を向けるか。おそらくブランドの態度や行動ではないでしょうか。ブランドの表面だけではなく内面に目が向けられているわけです。このようにブランド創造の形はここ数十年で大きく変化し、現在も進化を続けています。この講義では、ブランドとは何か、ブランドをどうつくるか、などを論理的な観点だけでなく、ブランドづくりの現場の実態や実情なども踏まえながら学んでいきます。

また、企業のマーケティング活動におけるブランドのあり方・つくり方を理解するだけでなく、受講生が一人の人間として自分自身のブランドをどのように作り上げていくかを学ぶことも目的とします。

【到達目標】

- (1) ブランドとは何かを理解し、説明できる。
- (2) ブランド創造のアプローチを理解し、実践する。
- (3) ブランド創造に必要な合意形成ツール「企画書」の作成方法を、身につける。
- (4) 正解のない多様性の時代の中で、セルフブランディングの重要性を理解し、実践してみる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

・講義は、博報堂出身で現在もクリエイティブディレクターとして活動する教員が勤めます。

・前半の授業は、論理と事例紹介を行う講義を中心に進めますが、理解を深めるためのアンケートや授業内課題を併用します。

・中盤から後半の授業は、リアリティのあるブランドづくりを学ぶために、広告業界・エンタメ業界・飲食業界でブランド創造に従事する方や、クリエイター・アーティストとして活動される方をゲストに招き、お話を伺います。（ゲストは変更になる可能性があります）

・後半の授業では、授業全体の振り返りを兼ねて「演習課題」を出題し取り組んでいただきます。

・課題等の提出・フィードバックは学習支援システムを通じて行う予定です。

・授業後には適宜アンケートの回答をお願いします。アンケートでいただいたコメントは次回以降の授業内で紹介し、講義内容の品質向上に役立ちます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	教員自己紹介、講義の狙いと授業計画の説明、講義に期待するアンケートの回答
第 2 回	ブランド創造概論	ブランディング、マーケティング、コミュニケーションなどのキーワードの実践的な分類と関係性
第 3 回	ブランド創造史	1980 年から 2020 年まで 40 年間にわたる日本のブランディングの変遷

第 4 回	ブランド創造とアートディレクション	ブランドづくりにおけるアートディレクションという方法論 （ゲスト）株式会社アンドディ アートディレクター小栗卓巳氏
第 5 回	ブランド創造とコピーライティング	言葉を起点にブランドをつくり出す方法論 （ゲスト）Tang コピーライター／クリエイティブディレクター尾形真理子氏
第 6 回	ブランド創造の新しい潮流①	地球環境・社会環境の変化に伴うサステナブルなブランド創造
第 7 回	ブランド創造の新しい潮流②	WEB3.0 時代におけるリアルとデジタルの境界線のないブランド創造
第 8 回	社会と接続するブランド創造	ブランドづくりにおける PR（パブリックリレーションズ）という方法論 （ゲスト）株式会社 H A S H I クリエイティブディレクター橋田和明
第 9 回	ブランド戦略とアイデアのつくり方	ブランドづくりをしていくための戦略構築とアイデアのつくり方 「ブランド創造実習」課題発表
第 10 回	商品とブランド創造	わたしが欲しい！を、みんなが欲しい！に昇華させるブランドづくり （ゲスト）株式会社 ISHI プランナー板谷晴子氏
第 11 回	地域とブランド創造	本社移転に伴う地域と共創するブランドづくり （ゲスト）株式会社アミューズ 鈴木智華氏
第 12 回	人とブランド創造	アーティストと出会い、共にどうブランドを創造したか？ （ゲスト）and tokyo inc. 代表 谷崎豊樹氏
第 13 回	ブランド創造実習講評	実習課題で提出された企画書を紹介しながら講評
第 14 回	セルフブランディングのススメ	ブランド創造に関わる働き方と受講生自身のセルフブランディングの方法論 （ゲスト）株式会社電通 ビジネスプロデュース局所属 桑原卓也氏（法政大学経済学部卒業生）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

(1) 通常講義では適宜事前課題の出題、授業前後のアンケートを行います。

(2) また、本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

(3) 実習においては、授業時間外の個人ワークとして、リサーチ、アイデア出し、企画書制作などを行なっていただきます。

(4) 実習に際して「アイデアの出し方」「企画書の書き方」などの補講を行う予定です。

【テキスト（教科書）】

使用しません。

【参考書】

・これからの「売れるしくみ」のつくり方 石原篤
・手書きの戦略論 「人を動かす」7つのコミュニケーション戦略 磯部光毅

・私とは何か 「個人」から「分人」へ 平野啓一郎

・なめらかなお金がめぐる社会。あるいは、なぜあなたは小さな経済圏で生きるべきなのか、ということ。 家入一真

【成績評価の方法と基準】

平常点 50%

実習課題の提出物 50%

【学生の意見等からの気づき】

演習課題にかけられる時間がもう少し欲しかったという意見をいただきましたので、22 年度よりも課題発表を前倒しした授業スケジュールに変更しています。

【Outline (in English)】

■ Course outline

In this age of overflowing goods and information, what do people base their shopping and information choices on? Brands play a big role in moving people's minds and creating behavior.

There used to be a misconception that brand creation was about creating a good image of the target brand, that is, creating a surface. For example, the fact that only brand logos and visuals were considered brand creation is a manifestation of this. On the other hand, where do you pay attention when you look at brands today? Perhaps it is the attitude and behavior of the brand to which you direct your attention? In other words, you are looking inside the brand, not just on the surface. Thus, the nature of brand creation has changed dramatically in recent decades and continues to evolve.

In this course, students will learn what a brand is and how to create a brand, not only from a logical point of view, but also by taking into account the actual situation and realities in the field of brand creation.

In addition to understanding how brands work in corporate marketing and how to create them, this course also aims to help students learn how to build their own brand as a person.

■ Learning Objectives

- (1) To be able to understand and explain what a brand is.
- (2) Understand and practice the brand creation approach.
- (3) Learn how to create a "project proposal," a consensus-building tool needed to create a brand.
- (4) In an age of diversity without a right answer, understand the importance of self-branding and practice it.

■ Learning activities outside of classroom

- (1) In regular lectures, assignments will be made in advance and questionnaires will be given before and after each class, as appropriate.
- (2) The standard preparation and review time for the class is two hours each.
- (3) During the practical training, students will be asked to conduct research, come up with ideas, and create project proposals as individual work outside of school hours.
- (4) In connection with the practical training, there will be supplementary lectures on "how to come up with ideas" and "how to write a project proposal."

■ Grading Criteria /Policy

Regular marks: 50%

Submissions for practical training assignments: 50%

SOC200MA

産業文化論

展開科目

上原 義子

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

曜日・時限：水 3/Wed.3 | 配当年次：2～4 年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は、文化と産業の関係を色々な角度から見ていくものである。文化は長い人類の歴史の中で、様々な地域で、多方面から育まれてきた。また、人の暮らしは基本的に高度に分業化された経済的諸活動の結び付きによって成り立っており、そこに産業が育まれてきた。本講義では、こうした人々の関りから生まれてきた観知と個性である産業と文化が、これまでどのようなものを織り成してきたのかについて多方面から検討する。

そのため、講義の各回だけをピンポイントで見ると毎回全く関連性がないように思ってしまうこともあるが、それは多文化という言葉が示すように、文化というものが実に様々な特色を持っているからこそである。本講義では、こうした多種多様な文化を産業ベースで見ていくことで一定の枠組みを考えていくことを狙いとしている。なお、授業内で扱える分野には限りがある。学生諸君には是非この講義を興味関心のきっかけとして、より発展的な学習へと進んでもらいたい。

【到達目標】

- 1、文化を通して産業を考える
- 2、産業を通して文化を考える
- 3、日本の文化と産業の関係性について知識を得る

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

授業はスライドを示しながら、そのスライドについて解説をしていく形で進めます。適宜リアクションペーパー等を活用し、良いコメントは授業内で紹介するなどします。コロナ対応として変則的な授業が必要な場合が起り合えます。学習支援システムや授業内の連絡を聞くようにしてください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業の全体像と狙い、授業の進め方、試験制度、レポート課題、評価の仕方
第 2 回	様々な文化と産業	日本の文化と産業や海外の文化と産業について、基礎的な知識を得る。
第 3 回	日本の産業文化（1）	日本を代表する観光地・京都の舞妓の育成制度を事例に、日本の観光産業と文化的背景を考える
第 4 回	日本の産業文化（2）	雇用者と従業員を取り巻く組織文化ーサービス・マーケティングの視点から
第 5 回	日本の産業文化（3）	日本のモノ作り文化と産業
第 6 回	日本の産業文化（4）	日本の伝統産業の成り立ちと現在一藩の殖産から産業集積へ
第 7 回	日本の産業文化（5）	これまでの日本の産業を支えてきた組織文化と日本的経営
第 8 回	日本の産業文化（6）	伝統的工芸品に関する産業論と芸術論
第 9 回	日本の近代産業（1）	日本の経済成長を支えた風土ー流通チャンネルの視点から
第 10 回	日本の近代産業（2）	環境問題と文化、産業
第 11 回	日本の近代産業（3）	観光産業と文化
第 12 回	日本の将来的産業文化	グローバル化と日本の文化ー観光立国としての日本を事例に
第 13 回	ヒトの進化と文化	協力と罰の生物学ー流通チャンネル構造と機会主義ーネットワーク
第 14 回	今学期のまとめ	この授業を踏まえてこれから修得してもらいたいこと

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本講義は文化という複雑で多面的なことを産業という側面から切り込むものである。そのため多分野を横断的に扱うので、受講生自らも自発的に関連領域を調べる必要がある。信頼のおける情報源から多くの知識を得て考えを深めてほしい。なお、本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content

【テキスト（教科書）】

講義内で適宜紹介する。

【参考書】

講義内で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

レポート課題 100 %

Grading will be decided based on reports (100%),

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

パワーポイントが見られる機器

【その他の重要事項】

対面とオンラインのタイミングに関しては、その時の内容や状況で適宜調整します。授業内での告示を聞くようにしてください。

【Outline (in English)】

This lecture studies the relationship between culture and the industry from various viewpoints. The culture has been brought up in various areas and from numerous aspects for a long period of human history. The human life basically consists of highly decentralized economic activities and in such a place the industry has been brought up. In this lecture, we consider what the wisdom that was born from the entanglement among people and characteristic industry and culture make from numerous aspects.

Therefore, one may miss the relevance completely when each lecture is seen separately. However, as is seen in the term 'multi-culture', the reason is that the culture has indeed a wide variety of aspects. In this lecture, we focus on such a culture that has many kinds of viewpoints from the basis of wide variety of industries. Notice that there exists a limit of the number of fields we can treat in this lecture. We expect students to further progress and possess the interest in this occasion.

① This course introduces culture and industry to students taking this course.

② The goals of this course are to acquire knowledge about culture.

③ Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

④ Your overall grade in the class will be decided based on the reports.

SOC200MA

多文化社会論 I

展開科目

小田 昌教

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

曜日・時限：金 5/Fri.5 | 配当年次：2~4 年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

いわゆる「グローバル人材」について書かれた本をみると、「異文化理解」は、グローバル人材に求められる「グローバル・マインドセット」であり、かつまた、グローバル人材に欠かすことのできない「ビジネススキル」いわれ、その重要性が指摘されています。なぜなら、2010 年代の現在でもなお、多くの国と地域では、異文化に対するさまざまな偏見や差別があり、そうした文化の摩擦や衝突が、しばしば紛争やテロリズム、ヘイトスピーチを生み出し、人種差別や排外主義などの問題をひきおこしているからです。とりわけ複数の異文化が混在する「多文化社会」ではそれが顕著にみられます。しかし、それはなにも外国だけの話ではありません。多文化社会化が進んでいる日本も決して例外ではなく、いまや異文化理解は、誰にとっても必要なマインドセットであり、現代を生きるために欠かすことのできないスキルです。

【到達目標】

この授業では、「異文化理解」だけでなく、多文化社会で生きてゆく上で知っておきたい教養として、「ステレオタイプ」「ヘイトスピーチ」「ヘイトクライム」「文化表象」「レイシズム」「オリエンタリズム」「文化相対主義」「多文化共生」といったことばの意味とその実例を、さまざまな映画や映像を通して学び、それを通して、多文化コミュニケーションのできる能力とリテラシーを身につけることを到達目標としています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

今学期は Zoom を使った「双方向型リアルタイムのオンライン授業」を行います。URL とパスワードは以下のとおりです。

<https://hosei-ac-jp.zoom.us/j/2042206226>

556628

この授業の目的は、次の5つです。①オーセンティック・ラーニング ②クロスカルチュラル・ラーニング ③アンチバイアス・ラーニング ④メディアコンピテンシーラーニング ⑤エビデンス・ベースド・ラーニング

この授業の内容は4つのパートに分かれています。

【A：異文化誤解のメディア史～ニッポン篇】

最初のパートでは「異文化理解」のむずかしさを、それとは逆の「異文化誤解」の実例をみることで学びます。具体的には、みなさんにとってなじみのある日本文化が、二〇世紀から現在までの映画や、様々なメディアの中でどのように表象されてきたかを見てゆき、文化がいかに誤解されやすいものであるかを学びます。

【B：さまざまな視点からみた日本の文化】

このパートでは、日本の作家や表現者たちをはじめ、インバウンドや日本在住の外国人など、さまざまな視点からの日本文化の表象のされ方、語られ方を学びます。また近年、日本政府が海外にむけて展開している「国策としてのクールジャパン」についても考えます。

【C：レイシズムの過去と現在】

異文化に対する偏見や差別の多くは、レイシズムやエスノセントリズム、ステレオタイプや排外意識などから生まれます。このパートでは、多文化社会アメリカにおけるレイシズムの過去と現在、そして、日本におけるヘイトスピーチを通して、それらにどのように向かいあえばよいのかを学びます。

【D：「文化相対主義」と「多文化共生」～多文化社会のいまと未来】

多文化社会のリテラシーとして最も重要なものに、「文化相対主義」と「多文化共生」という概念があります。高校の教科書では「文化相対主義」は「文化の多様性や異質性、価値観の相対性を前提とすること」と説明され、「多文化共生」は「たがいをあるがままに受け入れ、違いを認め、人間として尊重しあいながらともに生きてゆくこと」と説明されています（第一学習社「高等学校 倫理」）。これを記号学者のツヴェタン・トドロフは「平等のもとで差異を生きたること」ということばで表現し、また、詩人の金子みすずの「みんなちがって、みんないい。」にもその考えをみてとることができます。このパートでは、文化相対主義を概念ではなく、現実として生きている人たちの存在を知るとともに、すでにさまざまなメディアやジャンルではじまっている多文化共生の具体的なとりくみと未来のヴィジョンを学びます。

授業で使用する教材は「学習支援システム」で配布します。授業では毎回、リアクションペーパーを使用します。授業内での質問は Padlet で行います。

<https://padlet.com/illcommonzoo/f5dfkcup0vhc8jn>

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	【ガイダンス】多文化リテラシーチェックとアクティヴ・ラーニング	・Airbnb 事件 (2017 年) ・全日空「羽田国際線大増便CM」(2014 年) ・浦和レッズサポーター・ヘイトスピーチ横断幕事件 (2014 年) ・ユナイテッド航空事件 (2017 年) ・ザイン制作「ラマダーン月のほんとうの意味 2017 年」
2	A-1：異文化誤解のメディア史～ニッポン篇1 映画のなかのニッポン文化	・映画「チート」(1917 年) ・映画「ティファニーで朝食を」(1961 年) ・映画「007は二度死ぬ」(1961 年) ・映画「東京画」(1985 年) ・映画「ブラックレイン」(1989 年) ・映画「ミスターベースボール」(1992 年) ・映画「ロスト・イン・トランスレーション」(2003 年) ・映画「キルビル」(2003 年)
3	A-2：異文化誤解のメディア史～ニッポン篇2	海外のTVCMやMVに見るニッポン文化 サムライ、ニンジャ、ゲイシャ、キモノ、ヤクザ、寿司、蕎麦、相撲、ネオン、カワイイ、カタカナ
4	A-3：異文化誤解のメディア史～ニッポン篇3	プロパガンダアニメとSF映画に見るニッポン文化 ・ダン・ゴードン「ボパイ～ばかなジャップ」(1942 年) ・レオン・シュレジンガー「ルーニー・チューンズ～トキオ、ジョッキオ」(1943 年) ・NHK「憎しみはこうして激化した～戦争とプロパガンダ」(2015 年) ・エレクトリック・アーツ社「コマンド&コンカー レッドアラート3」(2008 年) ・ジェームズ・マンゴールド「ウルヴァリン SAMURAI」(2013 年)
5	B-1：日本人が海外に向けて語る日本文化の形と謎とその精神	・マシオカ「HEROES」(2006 年) ・小島淳二「日本の形」(2006 年) ・田中健一「ジャパン ストレンジャーな国」(2010 年) ・村上春樹「カタルーニャ文学賞受賞記念スピーチ」(2011 年) ・ジョージ・タケイ「GAMAN」(2011 年)

- 6 B-2：「クールジャパン」と「セルフ・オリエンタリズム」「テクノオリエンタリズム」
 ・国土交通省「ビジット・ジャパン・キャンペーン」(2003年)
 ・日本オリンピック委員会「IOC総会プレゼンテーション」(2013年)
 ・きゃりーぱみゅぱみゅ「にんじやりばんばん」(2013年)
 ・日清食品「SAMURAI」(2014年)
 ・「ゴースト・イン・ザ・シェル」(2017年)
- 7 B-3：インバウンドの視点から見た日本の文化
 ・地味「外国人が日本に来て撮ったwktk 動画集」(2008年)
 ・sknb「スーベニアオブジャパン」(2012年)
 ・マカロン・チャンネル「外国人の視点で捉えた日本映像が秀逸すぎる」(2014年)
 ・アダム・マイヤー「ステンレス」(2013年)
- 8 B-4：日本で暮らす「ガイジン」の視点から見た日本の文化
 ・ベトリ・ストロベリ「ア・ライフ・イン・ジャパン」(2010年)
 ・ロコハマ「在日黒人男性から日本人へのオープンレター」(2015年)
- 9 C-1：多文化社会アメリカにおける人種差別とヘイトクライム
 ・カメル・アメット「ゴッド・イン・ニューヨーク」(2007年)
 ・マイケル・ブラウン射殺事件(2014年)
 ・フレディ・グレイ死亡事件(2015年)
 ・チャールストン米黒人教会銃乱射事件(2015年)
 ・大統領候補ドナルド・トランプ問題発言(2015年)
- 10 C-2：人種差別の起源とその歴史
 ・ユネスコ「人種の本質と人種の違いに関する声明」(1951年)
 ・山口敏「『人種』は虚構か」
 ・ベルトラン・ジョルダン『人種は存在しない』(2013年)
 ・世界人権宣言ポルトガル事務局「世界人権宣言 50周年記念CM」
 ・アンジェリカ・ダス「ヒューマン」(2008年)
 ・映画「アミスタッド」(1997年)
 ・映画「ホテル・ルワンダ」(2004年)
 ・映画「リンカーン」(2012年)
 ・映画「ジャンゴ 繋がれざる者」(2012年)
 ・映画「マンデラ 自由への長い道」(2013年)
 ・映画「グローリー 明日への行進」(2014年)
- 11 C-3：いま・そこにあるレイシズムと向かいあう
 ・日本テレビ「21世紀への伝言 キング牧師」(2000年)
 ・PBS制作「分断されたクラス」(1985年)
 ・ABC制作「あなたならどうする～人種差別の実験」(2003年-)
 ・NYタイムズ「ザ・パブリック・スクエア」(2012年)
- 12 D-1：同時代のメディア表現にみる日本のリアルと多文化状況
 ・映画「スワロウテイル」(1996年)
 ・映画「サウダーヂ」(2011年)
 ・ブラッド・ブラッドフォード「ハーブじゃないんだ」(2012年)
 ・kanadajin3「WHITE JAPANESE PEOPLE - 白人系日本人」(2013年)
 ・リンダ三世「愛犬アンソニー」(2013年)
 ・ボンジュノ「シェイキング東京」(2008年)

- 13 D-2：「HAFU」の視点から見た日本の多文化状況とその未来
 ・映画「HAFU」(2013年)
 ・西倉めぐみ「私は「半分日本人」ではなく「半分外国人」とみなされる」
 ・ヒリス&ブル研究所「生命の樹」(2005年)
 ・NYタイムズ「ザ・パブリック・スクエア」(2012年)
 モ・モンド社「The DNA Journey」(2016年)
 ・アシユラ・K・ルグイン「ゲド戦記を観て」
 ・マックルモア&ライアン・ルイス「セイルラヴ」(2013年)
 アド・カウンシル「Love Has No Labels」(2015年-2017年)
 アップル社「プライド」(2014年)
 ・ハイネケン社「Worlds Apart OpenYour World」(2017年)
- 14 D-3：平等のなかで差異を生きること、多文化社会と民主主義の精神

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内で指定した PDF や動画を授業時間外にみてください。予習と復習はそれぞれ2時間程度です。

【テキスト（教科書）】

教科書は使いません。授業ごとに、PDF を配布します。

【参考書】

参考書は使いません。授業ごとに、必要な資料をプリント配布します。

【成績評価の方法と基準】

成績は、学期末に実施する「アクティヴ・ラーニング方式」のテスト課題で評価します(100%)。リアクションペーパーへのフィードバックは、授業内におこないます。テストの方法については授業内で詳しく説明します。

評価の基準は次の5つです。

- ①オーセンティック・ラーニング
- ②クロスカルチュラル・ラーニング
- ③アンチバイアス・ラーニング
- ④メディアコンピテンシーラーニング
- ⑤エビデンス・ベースド・ラーニング

【学生の意見等からの気づき】

授業改善アンケートで「とてもわかりやすい」と好評だった映像資料や映像教材をさらに充実させます。授業は、シラバスのスケジュールに沿って進めますが、開講中、この授業と関係する事件や出来事が起きた場合などには、それに対応して、リアルタイムのニュースやトピックをとりあげながら、臨機応変に授業を進めてゆきます。

【学生が準備すべき機器他】

パソコン、スマートフォン、WIFI ルーター、ネット回線 (WEB カメラとマイクは不要です)

【その他の重要事項】

この授業では、教材として、たくさんの映画や映像作品を紹介しますが、授業時間の制約があるため、作品を全編通して見る事があまりできません。したがって、授業で紹介した映像のなかで興味を持った作品があれば、図書館や Amazon、YouTube などを積極的に活用して、各自で全編を通して見るように心がけてください。

【授業中に求められる学習活動について】

A、C、D、E、F

【Outline (in English)】

The purpose of this class is to acquire multicultural literacy skills. In this class, you will learn the meanings of words such as "Micro aggression," "Stereotype," "Hate speech," "Hate crime," "Cultural representation," "Racism," "Orientalism," "Cultural relativism," and "Multicultural conviviality,".

1.Course outline

This semester, we will have an "interactive, real-time online class" using Zoom.The URL and passcode are as follows
<https://hosei-ac-jp.zoom.us/j/2042206226>
 556628

2.Learning Objectives

The goal of this course is to acquire the ability and literacy to communicate multiculturally as an education that one should know in order to live in a multicultural society.

3.Learning activities outside of classroom

Use the PDF files uploaded to Hoppi as learning materials according to your own interests and concerns.

4.Grading Criteria /Policy

Evaluated by a final exam using an active learning method.The following five points are to be evaluated.

- a.Authentic Learning
- b.Cross-Cultural Learning
- c.Anti-Bias Learning
- d.Media Competency Learning
- e.Evidence-Based Learning

In-class questions will be answered via Padlet.

<https://padlet.com/illcommonzoo/f5dfkcupo0vhc8jn>

*This class will cover current issues, so the content of the class may be subject to change.

SOC200MA

多文化社会論Ⅱ

展開科目

金 泰植

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

曜日・時限：月 2/Mon.2 | 配当年次：2～4 年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

今日の日本社会は新たな労働力としての外国籍住人の増加により、多文化社会としての側面をより一層強めている。しかし日本の多文化状況がどのように作られたかに対する省察は少なく、多文化社会に対する排外主義的な動きも起きている。本講義は、戦後日本の最大の「外国人」集団であった在日コリアンを中心としながらもその他のルーツを持つ人たちも射程としながら、日本の多文化社会がどのように作られ、どのような課題を抱えているかについて考える。

【到達目標】

日本の多文化状況がどのように作られたかについて日本と東アジアの近現代史の中で捉え、日本社会の中にある多様なルーツを持つマイノリティたちが直面している問題を知り、日本社会の問題として考え、受講生が全ての人々が尊重される社会の形成のためのアイデアを持つようになることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は対面で行う。授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業ガイダンスおよび「帝国の拡張と多文化状況の出現」について
第 2 回	日本の朝鮮植民地統治と在日コリアンの誕生	日本の「外国人」問題の起源とも言える在日コリアンについて
第 3 回	戦後日本の外国人政策について	サンフランシスコ講和条約。包摂と追放の対象としての外国人
第 4 回	日韓条約	在日コリアンの法的地位問題及び、今日のヘイトスピーチの燃料となっている日韓の歴史問題について
第 5 回	在日コリアンの教育	民族学校の誕生と学校閉鎖令、民族学級と朝鮮学校、韓国学校への整備
第 6 回	多文化共生と市民社会	川崎を中心とした市民社会における多文化共生のための取り組みについて
第 7 回	日本の入管制度について	成り立ちと、現在入国管理施設に収容されている外国人たちの人権問題について
第 8 回	日系ブラジル人	渡航、日本での生活、教育について
第 9 回	ホームレスと排除アート	社会的排除について
第 10 回	LGTBQ	日本におけるセクシャルマイノリティをめぐる状況について
第 11 回	韓流と嫌韓流の狭間で	韓国ブームと排外主義が在日コリアンに与えている影響について
第 12 回	ヘイト・スピーチ	外国人に対するヘイト・スピーチと、これを規制するための運動と条例について

第 13 回 技能実習生制度について 外国人技能実習生制度の問題点について

第 14 回 マイクロアグレッションについて マイクロアグレッションについて学ぶ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の授業時に次の授業の内容について告知するので、事前にそのトピックについて調べて、授業後にリアクションペーパーに授業での気づきや持つに至った質問などを書けるように準備すること。なお本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

指定のテキストはない。毎回資料を配布する。

【参考書】

田中宏『在日外国人第三版』（岩波新書）、師岡康子『ヘイト・スピーチとは何か』、月刊『イオ』編集部『日本の中の外国人学校』

【成績評価の方法と基準】

期末試験はレポートの作成とし 70%、授業のリアクションペーパー（メールなどで提出）を特に重視した平常点 30% の配分とする。レポートは論理の整合性を重視する。不適切なデータの引用などは厳しく採点する。また独創的な意見や着眼点は高く評価する。

【学生の意見等からの気づき】

昨年度の授業においてマイクロアグレッションの概念や排除アートについて関心の高い学生が多かった。在日コリアンの問題とこれらとの問題をうまく接続させて講義を行えるようにする。

【その他の重要事項】

初回の授業時にアンケートを行い、その結果を元に講義の計画の一部を柔軟に変更することがある。

【Outline (in English)】

【授業の概要（Course outline）】 In today's Japanese society, the aspect of a multicultural society has been further strengthened by the increase in foreign residents as a new workforce. On the other hand, there are also extrinsic movements against foreigners. This lecture will examine how Japanese multicultural situations were created, focusing on Korean residents in Japan. The purpose of this lecture is to consider the issues facing Japanese society.

【到達目標（Learning Objectives）】 Learn how the multicultural situation in Japan was created. And have ideas for forming a society where everyone is respected.

【授業時間外の学習（Learning activities outside of classroom）】 Prepare to write on the reaction paper after the lesson what you noticed in the lesson and the questions that led to you. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【成績評価の方法と基準（Grading Criteria /Policy）】 Year-end report 70%

Class assignments (reaction paper, etc.) 30%

SOC200MA

多文化社会論Ⅲ

展開科目

挽地 康彦

単位数：2単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

曜日・時限：火3/Tue.3 | 配当年次：2～4年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、かつて多民族・多文化社会の指針として位置づけられた「多文化主義」(multiculturalism) について批判的に検討し、その後提起された「間文化主義」や「多自然主義」などの新たな知見を吟味することを目的とする。文化の多様性と価値の平等を認め、互いのアイデンティティの尊重を唱える多文化主義は、民主主義国家における統合政策の精神であったが、西洋社会では他者への不寛容と排斥が蔓延し、多文化主義は失敗したと認識された。多文化主義はなぜ行き詰まったのか。多文化主義による社会統合を後退させた要因は何だったのか。そして多文化主義を乗り越えるために、今日どのような考え方が提起されているのか。授業では、上記の観点をもぐって議論しながら、日本版多文化主義でもある「多文化共生」についても、あわせて論議する。

【到達目標】

多文化主義の盛衰をめぐる歴史的・社会的な背景を踏まえながら、まずは、①多文化主義とそれに関連する諸概念との関係性を理解し、つぎに②多民族・多文化社会において多文化主義が失速するに至ったメカニズムと要因を多角的に捉えられるようになることが求められる。そのうえで、③ポスト多文化主義の思想的潮流についての知見を習得することをめざす。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

授業形態は同時双方向型のオンライン授業（Zoom）となり、授業資料をデータ（PDF）で配信しながら進める。

ZoomのURLとパスワードは、以下のとおりです。

https://hosei-ac.jp.zoom.us/j/81573922985?pwd=VmpkemtZWVZlLlJmV0ZlZlRUT09

ミーティングID: 815 7392 2985

パスワード: 004025

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業方針の確認と問題提起
第2回	欧州移民政策の変遷①	20世紀後半以降におけるヨーロッパの移民政策を概観し、多民族・多文化が浸透していく社会的背景について学ぶ。
第3回	欧州移民政策の変遷②	20世紀後半以降におけるヨーロッパの移民政策を概観し、多民族・多文化が浸透していく社会的背景について学ぶ。
第4回	エスニック・リバイバル①	移民国アメリカの公民権運動以降の人種やエスニシティをめぐる議論と政策の展開について、ヨーロッパの経験と比較する。
第5回	エスニック・リバイバル②	移民国アメリカの公民権運動以降の人種やエスニシティをめぐる議論と政策の展開について、ヨーロッパの経験と比較する。
第6回	多文化主義の盛衰	多文化主義の諸特徴と意義、その台頭から後退までの経緯について共有する。
第7回	多文化社会の構成原理	同化主義、文化多元主義、文化相対主義などの諸概念を多文化社会の構成原理として分類しながら、多文化主義との関係を整理する。
第8回	多文化主義論争①	多文化主義に内在する困難性を、文化的固有性と普遍的価値の間のジレンマ（多文化主義と普遍主義の対立）の観点から概説する。
第9回	多文化主義論争②	多文化主義に内在する困難性を、文化的差異と分離・分裂の間のジレンマ（多文化主義と分離主義の対立）の観点から概説する。
第10回	多文化主義論争③	多文化主義に内在する困難性を、文化的共同体と個人の自由の間のジレンマ（多文化主義と個人主義の対立）の観点から概説する。

第11回 日本における多文化共生①

日本が移民国家へ転換するなかで、いかなる目的で「多文化共生」が唱導されたのかを、欧米社会の多文化主義と比較しながら確認する。

第12回 日本における多文化共生②

日本の多文化共生が空虚なスローガンで終始している問題点を、90年代以降の入管行政や日本型排外主義との関係から考察する。

第13回 ポスト多文化主義

多文化主義を批判的に乗り越えるための契機として、間文化主義、ノマディズム、コスモポリタニズム、多自然主義などの思潮を検討する。

第14回 まとめ

「要塞化」するホスト社会と「破局」に直面する難民との間にある諸問題について示唆する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内容を理解するために、各授業回のテーマに関する情報収集などの準備学習に2時間、授業後に関連文献の読解など復習時間に2時間を必要とする。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。授業回に応じてレジュメや資料を配信する。

【参考書】

参考・参照すべき文献は複数に上るため、授業の中で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業内容の理解度を測るために学期半ばで行う小テスト（30%）と、学期末に提出する課題レポートの内容で評価する（70%）。

学期末レポートの課題は、提出期限の約1カ月前に指示する。レポート評価の基準は、以下の3つに設定する（①授業内容を踏まえているか、②習得した知見について正しく理解しているか、③独断的な論理展開でなく他者理解の観点から論述されているか）。

【学生の意見等からの気づき】

授業内容の理解に不安を覚える学生がいることから、今年度の授業では学期半ばに小テストを実施して理解度を確認する。

【学生が準備すべき機器他】

- ・パソコン（カメラ付き）
- ・インターネット接続が可能な環境
- ・パソコンがどうしても用意できない場合は、スマートフォンにzoomのアプリをインストールしておくこと。

【その他の重要事項】

- ・本授業はZoomを用いたオンライン形式で行う。
- ・初回の授業は、4月11日（火）3限（13:10～14:50）となる。
- ・各授業のなかで質疑応答の時間を設ける予定である。

【Outline (in English)】

The purpose of this course is to critically examine multiculturalism, which was once positioned as a guideline for a multiethnic and multicultural society, and to examine new findings such as "interculturalism" and "multinaturalism" that have been raised since then. Multiculturalism, which recognizes cultural diversity and equality of values, and advocates respect for each other's identity, was the spirit of integration policies in democratic countries, but intolerance and exclusion of others became widespread in Western society, and multiculturalism was recognized as a failure. Why has multiculturalism stalled? What were the factors that led to the regression of social integration through multiculturalism? And what ideas are being proposed today to overcome multiculturalism? In this course, we will discuss the above perspectives, and also consider "multicultural conviviality," which is the Japanese version of multiculturalism.

Learning Objectives :

Based on the historical and social background of the rise and fall of multiculturalism, students will first understand the relationship between (1) multiculturalism and related concepts, and then (2) the mechanisms and factors that led to the failure of multiculturalism in multi-ethnic and multicultural societies from multiple perspectives. In addition, the course aims to provide students with an understanding of (3) the ideological trends of post-multiculturalism.

Learning activities outside of classroom :

Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.

Grading Criteria /Policies :

Final grade will be calculated according to the following process Mid-term examination(30%) and term-end report(70%).

The term-end report assignment will be given approximately one month before the due date. The following three criteria will be used in the evaluation of the report (1) whether it is based on the contents of the class, (2) whether the student has a correct understanding of the knowledge acquired, and (3) whether the report is written from the perspective of understanding others, rather than from a self-righteous logical perspective.

ARSx200MA

アジア社会論 I

展開科目

日下部 尚徳

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

曜日・時限：月 1/Mon.1 | 配当年次：2～4 年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、南アジア地域の社会構造と経済動向に関する理解を深めることを通じて、文化の根底にある価値観の多様性を学びます。

南アジアは、アフガニスタン、バングラデシュ、ブータン、インド、モルディブ、ネパール、パキスタン、スリランカの 8 つの国家群によって構成される地域を指します。南アジアの人口は 15 億人を超過しており、世界人口の 5 分の 1 以上がこの地域で暮らしています。

講義では、南アジア地域がかかえる貧困や紛争などの社会的課題とともに、今後日本との関係が深まっていくことが予想される同地域に住む人びとが置かれている社会的状況について学びます。

講義は、講義形式の授業を通じて南アジア社会経済への理解を深めると同時に、南アジア社会と我々の社会の関連性を自ら考える力を養うことを目的としています。

【到達目標】

1. 南アジア地域の社会構造と経済動向に関する理解を深める
2. 南アジアにおける貧困や紛争などの社会的課題を構造的に理解する
3. 南アジア社会と日本社会の関わりを自らの言葉で具体的に論じられるようになる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

対面講義とオンデマンド方式を活用した反転授業を併用する。学習支援システムで本授業の開講日までに具体的なオンデマンド型授業の方法等、各回の授業の前に授業計画や課題等を指示する。フィードバックは対面および学習支援システム上で行なう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	4 月 10 日：南アジア社会の学び方	異文化理解とは何か：異なる社会の学び方
第 2 回	4 月 17 日：世界の中の南アジア	日本と世界と南アジア
第 3 回	4 月 24 日：南アジアの社会構造	宗教・民族の視点から
第 4 回	5 月 8 日：南アジアの経済事情	インド・バングラデシュの経済状況
第 5 回	5 月 15 日：南アジアの政治構造	インド・バングラデシュの選挙制度
第 6 回	5 月 22 日：映像から考える南アジア①宗教	映像にみる南アジアの宗教
第 7 回	5 月 29 日：映像から考える南アジア②貧困・紛争	映像にみる南アジアの貧困・紛争
第 8 回	6 月 5 日：南アジアの紛争課題	バングラデシュの民族紛争から考える平和構築
第 9 回	6 月 12 日：グローバリゼーションのなかの南アジア	船舶解体産業を事例に
第 10 回	6 月 19 日：南アジア社会各論①歴史と文化	バングラデシュの歴史と文化
第 11 回	6 月 26 日：南アジア社会各論②経済発展	バングラデシュの経済発展
第 12 回	7 月 3 日：南アジア社会各論③貧困	南アジアの農村事例から考える貧困
第 13 回	7 月 10 日：南アジアと開発援助	南アジア社会とわたしたちのつながり
第 14 回	7 月 17 日：まとめとレポート解説	まとめとレポート解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1. 授業内で指示した教科書の該当箇所を事前に読んでおくこと
 2. 講義に関連する新聞記事のスクラップをおこなうこと
 3. 授業終了時に示す課題についてリアクションペーパーを作成すること
 4. 次回の授業範囲を予習し、わからない用語の意味等の理解をしておくこと
- 本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする

【テキスト（教科書）】

①大橋正明・村山真弓・日下部尚徳・安達淳哉編『バングラデシュを知るための 66 章』（明石書店、2017 年）

【参考書】

①石坂晋哉・宇根義巳・舟橋健太編『ようこそ南アジア世界へ（シリーズ地域研究のすすめ）』（昭和堂、2020 年）

②白田雅之・佐藤宏・谷口晋吉（編）『もっと知りたいバングラデシュ』（弘文堂、1993 年）

【成績評価の方法と基準】

リアクションペーパー / Reaction paper/in-class assignments (56%)
レポート課題 / Report assignments, mid-term/final paper (44%)

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【Outline (in English)】

The course aims to deepen students' comprehensive understanding of the politics, economy, diplomacy, and culture of South Asia. On this basis, students will learn about social situations faced by people in South Asia, mainly social challenges such as poverty, conflicts, and environmental issues.

Learning Objectives

1. To be able to understand basic words relating to the politics, economy, diplomacy, and culture of South Asia.
2. To understand the modern history of South Asia.
3. To be able to discuss social issues in South Asia.

Learning activities outside of classroom

Participants are requested to read the text before each class.

1. To read the literature and audiovisual references instructed in the class in advance.
2. To make clippings of newspaper articles relevant to the course.
3. To submit reports on the topics shown at the end of each class.

Grading Criteria / Policy

Reaction paper/in-class assignments (56%)
Report assignments, mid-term/final paper (44%)

ARSx200MA

アジア社会論Ⅱ

展開科目

日下部 尚徳

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

曜日・時限：月 1/Mon.1 | 配当年度：2～4 年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

南アジアの国々の事例を通じて、日本も含めたアジアの貧困問題や災害被害、紛争問題に関する理解を深めます。同時に、それぞれの問題に対して、どのような対策がとられているのかについても学びます。本年度は特に災害としての新型コロナウイルスがアジアの国々の社会問題にあたえた影響についても議論を深めます。

【到達目標】

1. 南アジアの国々における社会的課題を具体的に論じられるようになる
2. アジアの社会的課題に対して自身がどのようにかわるべきかを考えられるようになる
3. 南アジアの社会、文化に対する理解を深める

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

対面講義とオンデマンド方式を活用した反転授業を併用する。学習支援システムで本授業の開講日までに具体的なオンデマンド型授業の方法等、各回の授業の前に授業計画や課題等を指示する。フィードバックは対面および学習支援システム上で行なう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	南アジア地域の特徴と学び方
9/25		
第 2 回	南アジアの地域概要	政治と経済（インド・バングラデシュを中心に）
10/2		
第 3 回	南アジアと新型コロナウイルス：インドを中心に	インドの新型コロナウイルス対応
10/9		
第 4 回	南アジアと新型コロナウイルス：バングラデシュを中心に	バングラデシュの新型コロナウイルス対応
10/16		
第 5 回	南アジアの貧困とその背景	貧困課題と児童労働
10/23		
第 6 回	南アジアの貧困とその対策	女子児童労働の課題
10/30		
第 7 回	南アジアの貧困と世界の貧困	南アジアと世界の児童労働
11/6		
第 8 回	南アジアの災害とその背景	サイクロン災害を事例に
11/13		
第 9 回	南アジアの災害とその対策	バングラデシュにおけるサイクロン対策を事例に
11/20		
第 10 回	南アジアの紛争とその背景	チッタゴン丘陵問題を事例に
11/27		
第 11 回	南アジアの難民問題とその背景	ロヒンギャ難民問題を事例に、難民問題がおきる背景を学びます。
12/4		
第 12 回	南アジアの難民問題への対応	ロヒンギャ難民問題を事例に、難民対応の現状と課題を学びます。
12/11		
第 13 回	南アジアの難民問題のこれから	ロヒンギャ難民問題を事例に、今後われわれがアジアの難民問題とどう向き合っていくべきか、議論を深めます。
12/18		
第 14 回	南アジアの社会問題のまとめとレポート解説	アジアの社会的課題に対して自身がどのようにかわるべきかを考える。
1/15		

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1. 授業内で指示した教科書の該当箇所を事前に読んでおくこと
 2. 講義に関連する新聞記事のスクラップをおこなうこと
 3. 授業終了時に示す課題についてリアクションペーパーを作成すること
 4. 次回の授業範囲を予習し、わからない用語の意味等の理解をしておくこと
- 本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする

【テキスト（教科書）】

- ①日下部尚徳『わたし 8 歳、職業、家事使用人。－世界の児童労働者 1 億 5200 万人の 1 人』（合同出版、2018 年）
- ②日下部尚徳・石川和雅『ロヒンギャ問題とは何か－難民になれない難民』（明石書店、2019 年）

【参考書】

- ①粟屋利江・井上貴子編『インドジェンダー研究ハンドブック』（東京外国語大学出版会、2018）

②大橋正明・村山真弓・日下部尚徳・安達淳哉編『バングラデシュを知るための 66 章』（明石書店、2017 年）

【成績評価の方法と基準】

リアクションペーパー／ Reaction paper/in-class assignments (56 %) レポート／ Report assignments, mid-term/final paper (44 %)

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【Outline (in English)】

This course aims to deepen understanding of issues affecting the world, including Japan, such as poverty, disaster damage, and conflict through the cases of those in South Asia. It also looks at what kinds of countermeasures are taken to tackle each problem.

Learning Objectives

1 To be able to concretely discuss social issues of so-called developing countries in South Asia.

2 To be able to consider how to get involved with social issues of so-called developing countries in South Asia.

Learning activities outside of classroom

Participants are requested to read the text before each class.

1. To read the literature and audiovisual references instructed in the class in advance.

2. To make clippings of newspaper articles relevant to the course.

3. To submit reports on the topics shown at the end of each class.

Grading Criteria /Policy

Reaction paper/in-class assignments (56 %)

Report assignments, mid-term/final paper (44 %)

ARSx200MA

国際関係論 I

展開科目

熊谷 智博

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

曜日・時限：水 2/Wed.2 | 配当年次：2~4 年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代の国際関係を理解する為に必要となる理論的枠組みについて概説し、どのような問題が現在進行中なのかに関して、データを交えて解説する。合わせて国際関係が私達に与える影響について、心理学の観点から解説する。

【到達目標】

現代の国際情勢を学術的に考えるための視点、知識、スキルの獲得を目指す。更にはそれらを用いる事で現代社会での国際問題に対して学生自身で考え、心理学的視点を応用してそれらに対する問題解決について議論出来るようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

授業内課題は Hoppii を利用してを提出するという形式で行う予定。尚、課題の範囲は複数回の授業内容をまたがる事もある。リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に生かす予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	国際関係論とは	授業全体の概略を説明し、国際関係論の基本的な考え方について解説する。
第 2 回	20 世紀の国際関係と今日の国際関係	20 世紀から現在に至る歴史に焦点を当て、国際関係の変化について解説する。
第 3 回	グローバリゼーション	グローバリゼーションについての理論的分析を解説する。
第 4 回	安全保障	国際社会における安全保障とは何か、地域、伝統的問題と関連づけて解説する。
第 5 回	国際関係の理論	国際関係に関する代表的な理論について解説する。
第 6 回	国際レジーム論とグローバル・ガバナンス論	国際レジーム論とは何か、グローバル・ガバナンスの問題点は何かについて、平和実現の問題と関連づけて解説する。
第 7 回	リージョナリズムと EU	リージョナリズム、特に EU の特徴について解説する。
第 8 回	非国家アクターの台頭	国際関係における非国家アクターの影響について解説する。
第 9 回	紛争解決	現代の国際紛争解決について、理論と実践の点から解説する。
第 10 回	国際関係と集団間関係の心理	国際関係の内、特に集団間関係に対する人々の反応について心理学の観点から解説する。
第 11 回	国際関係と集団内関係の心理	国際関係が人々の所属する集団内部に対して与える影響について、心理学の観点から解説する。
第 12 回	国際関係における第三者の影響	国際関係における第三者の影響について、心理学の観点から解説する。
第 13 回	国際関係と個人の心理	国際関係に対する人々の反応について、個人内での心理的反応に焦点を当てて解説する。
第 14 回	まとめと総括	授業全体の振り返り。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業用資料を学習支援システムにアップロードする。それを元に授業内容を事前に確認した上で次の授業に臨むように。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

授業開始時点では特定の教科書の指定は行わない。授業の進行によって必要な場合は適宜テキストを紹介する。

【参考書】

特に無し。

【成績評価の方法と基準】

学期末試験の結果に加えて、課題の提出と授業に対する積極的な質問、期末の試験の成績に基づき成績評価を行う。具体的には課題+質問で 40 %、学期末試験（試験期間に実施予定。場合によってはレポート課題）60 % の配分とする。課題や質問の具体的なやり方については授業開始時に学習支援システムに記載する。

【学生の意見等からの気づき】

学習支援システムを通じて学生からのフィードバックを受け、授業方法に反映させる。

【学生が準備すべき機器他】

一部課題は PC が必要となるので、利用可能環境を整えておくように。

【その他の重要事項】

担当教員が出張等の場合、google classroom を利用したオンデマンド形式で授業を代替実施することもある。その場合は授業内や Hoppii 等で告知するので各自確認の上、期限内に受講すること。詳細については初回授業に説明する。

【Outline (in English)】

Students will learn theories concerning international relationship, from political and social psychological perspective. Especially, it is focused on theories, history, and methods by using the statistical data.

Goals of this course are understanding and acquiring perspective knowledge and skills concerning international relationship, and thinking how to use those knowledge for problem solution.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Term-end examination: 40%, Short reports and in class contribution (e.g. asking questions): 60%

ARSx200MA

国際関係論Ⅱ

展開科目

塩田 潤

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
曜日・時限：木 3/Thu.3 | 配当年次：2～4 年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ジェンダー/フェミニズムの視座から国際関係・国際政治を学ぶ。授業前半では、国際関係論におけるジェンダー分析について説明し、それをふまえて安全保障、戦争と性暴力、グローバリゼーション、移民、環境問題などの具体的なイシューについて検討する。

【到達目標】

・国際関係論におけるフェミニスト・アプローチの基礎を理解する。
・国際政治および国際社会の動向をフェミニズムの視座から捉える。
・ジェンダーの視座をふまえて、より公正なグローバル社会を考える力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

・受講者には毎回の授業後、hoppii を通してコメントペーパーの提出を求める。コメントペーパーにおいて出された質問等へのフィードバックは次回授業時に行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の進め方の説明
第 2 回	ジェンダー/フェミニズム	ジェンダー概念およびフェミニズムとはなにか
第 3 回	フェミニズム理論と国際関係論	ジェンダーから見た国際関係論
第 4 回	「安全保障」とは何か	「国家安全保障」から「人間の安全保障」へ
第 5 回	「安全保障」を問い直す	批判的安全保障論とケアの倫理
第 6 回	戦争システムと家長長制	軍事主義、軍事化とジェンダー
第 7 回	軍隊と女性	女性の軍事化、軍隊内の女性
第 8 回	戦争と性暴力	戦時性暴力、「暴力連続体」
第 9 回	難民問題	ジェンダーから見る難民・強制移動
第 10 回	グローバリゼーションとジェンダー	グローバリゼーション、新国際分業
第 11 回	ケア労働の越境化	ケア労働と女性移民
第 12 回	環境問題とフェミニズム	気候危機に抗するエコフェミニズム
第 13 回	「ジェンダー平等」の国々の実像	北欧諸国におけるジェンダー平等の歴史と実態
第 14 回	まとめ	講義のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。
準備学習：日頃から新聞の国際面などを通して、国際政治や国際社会の動きに関心を持ってください。海外メディアのチェックなども役立ちます。
復習：授業内でわからなかった用語を自身で調べたり、授業中に紹介する文献に目を通したりするとより理解が深まります。
宿題など：適宜、指示を出します。

【テキスト（教科書）】

テキストは指定しません。適宜、資料を配布します。

【参考書】

・大澤真理編『公正なグローバル・コミュニティを』岩波書店、2011 年。
・岡野八代『戦争に抗する—ケアの倫理と平和の構想』岩波書店、2015 年。
・J. アン・ティックナー『国際関係論とジェンダー』進藤久美子・進藤榮一訳、岩波書店、2005 年。
・シンシア・エンロー『策略』上野千鶴子監訳、岩波書店、2006 年。
・土佐弘之『グローバル/ジェンダー・ポリティクス—国際関係論とフェミニズム』世界思想社、2000 年。
その他、授業内で紹介する。

【成績評価の方法と基準】

30 %・・・毎回のコメント・ペーパー

70 %・・・学期末試験

※学期末試験について、新型コロナウイルスの感染状況によってはレポートやオンライン形式の試験に変更する可能性もあります。

【学生の意見等からの気づき】

・スライドの見やすさ、レジュメの情報など、情報保障をより向上させる。
・本年度は完全対面の予定なので、それに対応したアクティブラーニングの手法を実施する。

【学生が準備すべき機器他】

講義資料の配布やコメント・ペーパーの提出は基本的に hoppii 通して行う予定です。したがって、受講者には授業にノート PC、ipad、スマホなどの電子機器を持ち込むことを推奨します。

【その他の重要事項】

・質問などに関しては、授業の前後、コメントペーパーまたはメールで対応します。初回の授業時に連絡先を伝えます。
・シラバスで記載している授業計画は時間の都合などで若干変更される可能性があります。

【Outline (in English)】

【Course outline】

This course introduces feminist works in International Relations (IR) and explores global issues with gender perspective. After a review of integration of gender analysis into IR theory, this course examines specific current global topics including (national) security, war and sexual violence, globalization, migration, and environmental issues etc.

【Learning Objectives】

・ Understand the basics of feminist approach to IR
・ Acquire feminist perspective on international politics and social trends
・ Develop ability to think about more just global society with gender perspective

【Learning activities outside of classroom】

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Preparation - Students are encouraged to keep abreast of international politics and society through the international pages of domestic newspaper. It is also useful to check the international media.

Review - Students are encouraged to look up terms they didn't understand in class and to refer to the literature introduced in class to deepen their understanding.

Others - Instructions will be given as appropriate.

【Grading Criteria /Policy】

Your overall grade in the class will be decided based on the following

30% - Short reports for each session

70% - Final examination

※ In this class, the examination may be changed to an online format depending on the situation of the Covid-19 pandemic.

ARSx200MA

国際地域研究 I

展開科目

福井 令恵

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

曜日・時限：木 1/Thu.1 | 配当年次：2～4 年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

近年、従来の国家の枠組みだけでなく「地域」という枠組みの重要性が増している。本コースでは、グレートブリテン島およびアイルランド島にある社会を対象に、「地域」という概念の理解を深め、さらに地域間の関係性を学ぶ。具体的には、イングランド・スコットランド・ウェールズ・北アイルランド・アイルランドの社会を、それぞれの関係性に着目しつつ、理解する。これらの社会を自分とはまったく無関係の社会としてではなく、私たちがつながりがある、同時代の社会である点を実感できるよう授業を行う。

【到達目標】

授業を通じて「地域」「国家」の概念について検討し、多様性をもつ社会を理解できるようになることを目標にする。具体的には、アイルランド島とグレートブリテン島の諸地域について、それぞれの関係性に注目しながら、歴史・社会構造をふまえて理解することを目指す。加えて、対象社会や人々について多面的な理解が可能となることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は対面を基本としますが、オンラインで実施する回があります。受講者数が未定のため、第 2 回まではオンラインで授業を行います。

第 3 回以降は、基本的には対面で授業を行います。ただし、授業 2 回分をあてている地域・国（第 4 回・第 5 回のイングランド社会・文化、第 7 回・第 8 回スコットランド社会・文化、第 10 回・第 11 回のアイルランド社会・文化）については、②はオンライン（オンデマンド）での授業となります。授業が 1 回分のみの地域（ウェールズと北アイルランド）は対面になります。

また、まとめの回についても対面です。具体的には、以下の授業計画の各回の授業形態を参照してください。

対面授業の際には、映像などを用いて、より具体的にイメージできるように進めます。

毎回授業後にはリアクションペーパー等の提出をしてもらう予定です。リアクションペーパー等における良いコメントや重要な質問は授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。

なお、以下の授業計画は受講者数や進捗状況によって一部変更する場合があります。変更がある場合は、学習支援システムで連絡をします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	授業の進め方・方針について	地域研究とはどのような学問なのか、また授業の方針と各回の内容を説明する。日本に住む私たちにとって、他の国・地域を学ぶ重要性について考える。
第 2 回	地域とヨーロッパ	「国家」の絶対的な地位が揺らぎ、国家を超える組織や機構、運動の果たす役割の重要性とともに、下位レベルの「地域」の重要性が増してきた。ここでは、ヨーロッパと地域について、多層化と再編をキーワードに考える。
第 3 回	イギリスを構成する諸地域	「地域」という概念をもとにイギリス（UK）の諸地域を捉えることの意義を考える。イングランド、ウェールズ、スコットランド、アイルランド、北アイルランドについて、それぞれの地域について私たちが知っている事やイメージについて、それらがどこから得られているのか考える。
第 4 回	イングランド社会・文化①	イギリス（UK）内の「地域」の独自性・独立性について検討する。中心的な位置づけにあるイングランドについて学ぶ。
第 5 回	イングランド社会・文化②	グレートブリテン島の他の諸地域およびアイルランド島の地域などとの関係からイングランド問題を考える。
第 6 回	ウェールズ社会・文化	ウェールズ社会・文化は、他の諸地域と比較して、私たちの意識の中でその存在感がやや薄いかもしれない。その理由を歴史背景に言及しつつ考える。また、言語に注目し、ウェールズ社会と文化について考察する。

第 7 回	スコットランド社会・文化①	スコットランド社会の現在を考える。特にイングランドとの関係性から検討する。
第 8 回	スコットランド社会・文化②	近年の独立機運の高まりや EU との関係性について考える。
第 9 回	イギリスのまとめ	地域という観点から、イギリス社会が抱える課題について考える。
第 10 回	アイルランド社会・文化①	アイルランドの国としての成り立ちについて、学ぶ。イギリスとの関係、文化とナショナリズムの関係について解説する。
第 11 回	アイルランド社会・文化②	アイルランドとアメリカとの関係について、歴史的なつながり、現在の関係について考える。
第 12 回	アイルランドの二つの国	北アイルランドの成立期である 1920 年代のアイルランドの独立と南北分断から、第二次世界大戦までの歴史・社会状況を説明する。なぜ、現在アイルランド島に二つの国があるのか理解する。
第 13 回	アイルランドのまとめ	イギリス、EU との関係から、考える。
第 14 回	まとめ	まとめ・試験。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配布した資料、関連文献を読む。

授業後にはリアクションペーパーの提出をする。また、2 回程度ミニレポートの提出があるので、授業内容を復習をし、自分の言葉で説明できるようにすること。

課題レポート執筆に向けては、関連文献を読み、適切な準備を行うこと。

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

講義に関連した資料を配布するため、テキストは指定しない。

【参考書】

長谷川貴彦、『イギリス現代史』、2017 年 岩波新書。

井野瀬久美子編、『イギリス文化史』、2010 年、昭和堂。

その他、授業内で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（ミニレポート・リアクションペーパーの内容、期限を守った提出等）：50%

期末試験（論述式）：50%

* 欠席が授業時間数の 3 分の 1 を超えた場合、単位取得の資格を失う。

【学生の意見等からの気づき】

身近な例を使って理解を促進するという方法を継続していく。

【その他の重要事項】

* 受講者数に応じて授業の内容は多少変更する可能性がある。

* 初回の授業で授業の進め方や評価の方法、課題などの説明を行うので、履修を検討している人は必ず参加すること。

【Outline (in English)】

The purpose of this course is to reconsider the concepts of “region”(or “sub-nation”) and “nation state” by examining the cases of the UK and Ireland. The course will also focus on the relationship between these sub-nations (England, Wales, Scotland, and Northern Ireland). At the end of the course, students are expected to understand the societies in the UK and Ireland from various perspectives.

Grading criteria: 1) Term-end examination 50%, 2) Short reports and in class contribution 50%.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

ARSx200MA

国際地域研究 II

展開科目

福井 令恵

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

曜日・時限：木 1/Thu.1 | 配当年次：2~4 年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

異なる文化、ナショナル・アイデンティティ、歴史観をもつ住民集団の「共生」のあり方について考える。具体的にはイギリスとアイルランドという地域のなかの、「ひとつの国」・独自の地域である北アイルランドを事例として中心的にとりあげる。〈異文化と異なる〉国家帰属意識を持つ住民集団が対立しつつも、ともに生きるという現代的な課題について考察する（北アイルランドの事例以外の地域の例も言及する予定である）。

【到達目標】

現代社会において私たちは、多様な文化的・社会的バックグラウンドを持つ人々とともに同じ場所で暮らしている。異なる文化や歴史観をもつ人々と「共に暮らす」というのは、往々にして緊張関係や対立を伴う。主として北アイルランドの紛争後社会を事例にし、長年の対立関係のなかで暮らす人々がどのように困難な取り組みに向き合っているのか、またそこでのあらたな課題について、社会構造を踏まえ理解する。コースの最後には、他者への理解を深め、より良い関係を構築するためにどのような点が重要なのか、自分の考えをまとめ、説明できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は対面を基本としますが、オンラインで実施する回があります（以下の授業計画の各回の授業形態を参照してください）。

受講者数が未定のため、第 2 回まではオンラインで授業を行います。第 3 回目からは対面で授業実施予定です（第 7 回はオンラインの予定）。

授業は、パワーポイントと配布資料による講義を中心とします。ただし、授業内でグループワークをすることがあります。また、毎回リアクションペーパーの提出をしてもらう予定です。リアクションペーパーにおける良いコメントや質問は授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。なお、以下の授業計画は受講者数や進捗状況によって一部変更する場合があります。変更がある場合は、学習支援システムで連絡をします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	授業の進め方・方針	授業のねらいと具体的な進め方、評価方法・また対象地域の概要について説明する。
第 2 回	北アイルランドの成り立ちと歴史	エスニック集団関係について考える（アイルランド島にある二つの国の歴史背景を理解する）。
第 3 回	〈異なる〉住民集団間関係と紛争	対立してきた住民集団間の関係と紛争の背景にある歴史・社会構造について理解する。
第 4 回	国家の境界とその間	アイルランド、イギリス、北アイルランドの関係を考える。
第 5 回	和平合意と集会的アイデンティティ	どのような仕組みで和平が可能になったのか。国籍と帰属意識について考える。
第 6 回	レビュー	前半のまとめを行う。
第 7 回	文化とナショナリズム	文化とナショナリズムの関係について、具体的な例をもとに考える。
第 8 回	階級・文化・紛争経験の関係	どんな人が紛争の影響をより強く受けるのか考える。
第 9 回	北アイルランド社会と紛争経験の表象	「当事者」は何を考えているのだろうか。「壁画」というコミュニティメディアから考える。
第 10 回	学校教育制度と教育の分断	北アイルランドの教育制度から、分断状況の現状について学ぶと同時に、分断社会を超えるための試みと課題について考える。
第 11 回	学校教育と〈歴史〉	学校で学ぶ歴史教育について検討し、現状と課題について学ぶ。
第 12 回	観光と紛争後社会	和平合意後に急速に進んだ観光から、観光地のイメージの形成を考える。また「戦争や災害などの悲劇の記憶を辿る旅」の意味についても検討する。

第 13 回 北アイルランドと EU、イギリスの EU 離脱において、鍵となるアイルランド国境問題から、歴史背景・社会構造を学ぶことの重要性を理解する。

第 14 回 まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配布した資料、関連文献を読む。

授業後には毎回リアクションペーパーの提出をする。また、ミニレポートの提出がある場合は、授業内容を復習をし、自分の言葉で説明できるようにすること。

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは特に指定しませんが、授業ではほぼ毎回プリント資料を配布します。

【参考書】

・尹 慧瑛 『暴力と和解のあいだ 北アイルランド紛争を生きる人びと』 2007 年 法政大学出版局。

・福井令恵、『紛争の記憶と生きる：北アイルランドの壁画とコミュニティの変容』、2015 年、青弓社。

その他、授業内で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業への積極的参加、リアクションペーパーの内容）およびミニレポート等課題：40%

期末試験（論述式）：60%

*なお、原則として欠席数が授業時間数の 3 分の 1 を超えた場合、単位取得の資格を失う。

【学生の意見等からの気づき】

身近な例を使って理解を促進するという方法を継続していく。

【その他の重要事項】

*受講者数に応じて授業の内容は多少変更する可能性がある。

*初回の授業で授業の進め方や評価の方法、課題などの説明を行うので、履修希望者は必ず当日確認すること。

*本コースは、春学期とは別個の独立した科目だが、春学期の授業内容と関連する点があるため、国際地域研究 I を受講していることが望ましい。

【Outline (in English)】

In this course, students consider how people with different cultures and ethnic backgrounds in society live side by side, by exploring the case of Northern Ireland. After 30 years of conflict between two groups (Protestant/Catholic, Unionist/Nationalist), the momentous peace agreement was reached. The society has been tackling important issues to eliminate social, economic, and cultural segregation. At the end of the course, students will be able to explain their thoughts on what is important for understanding others and building better relationships. Grading criteria: 1) Term-end examination 60%, 2) Short reports and in class contribution 40%.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

LANe100MA

**国際コミュニケーション語学
(英語 I)**

Robert Durham

単位数：1 単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

曜日・時限：金 2/Fri.2 | 配当年次：1~4 年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

The goal of this class is to assist students to communicate Internationally (and smoothly), in English, to improve their career opportunities.

英語でのオーラル・コミュニケーションを、よりスムーズに取れるようになることを目指します。こうした技能の向上は、みなさんの将来やキャリアに役立つでしょう (詳細は以下の英文の記載を読んでください)。

During this SPRING Semester, we might need to use 'ONLINE Learning' to study together, via Skype/Zoom.

Therefore, please prepare your computer/FAST HOME Wi-Fi/headset/microphone/ FREE Skype/ FREE Zoom/ FREE 'Romaji' gmail account; & please test them WELL, long before we meet.

Cameras might not be used, to protect privacy...and to save Internet Bandwidth/speed.

【到達目標】

The goal of this Spring course is to get students to speak, listen, read, write, & COMMUNICATE in smooth, modern English. Some grammar-correction of assignments/submissions will be necessary. Assignment-revising will also be necessary, during Online Learning.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

Students will be challenged with a variety of English-listening activities, English video activities, and English 'conversation' activities. Pair English-speaking activities will often be used, for practice.

Feedback about student answers will be given by the teacher, DURING classes. If students would like additional feedback: please ASK the teacher, during class time.

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	[All SCHEDULE items are tentative...& might change, depending on class level(s); student abilities; and recent world events.]	Introduction vocabulary; & 'EQ' responses thereto.
第 2 回	Introducing yourself, in smoothly, natural, friendly English.	Speaking pairwork, using introduction vocabulary; & 'EQ' responses thereto.
第 3 回	Introducing yourself, part 2...using fictional identities & occupations.	Speaking pairwork: explaining plans for Golden Week, using polite English.
第 4 回	"What are your plans for Golden Week?" [Future tense practice, in polite 'EQ' English.]	Many adjectives will be introduced & practiced in pairs, to describe vacations/ events/ etc.
第 5 回	"How was your Golden Week?"	Pairwork will be used to practice many, various ways to reply dynamically in English, to questions such as "How's it going?"
第 6 回	"How are you?" / "How are you doing?"	More spoken English pairwork practice, re: "How are you doing?"
第 7 回	Video documentary or News clips, with questions about it.	Students will learn how to express opinions in English, about a video Current Affairs topic.
第 8 回	"How often do you _____?"	Pair practice in spoken English, to explain FREQUENCY of doing things such as eating some kinds of food; buying certain items; exercising; and so on.
第 9 回	Asking & giving street directions, in spoken English.	Pair practice about how to get from one place to another in a city, in smooth, natural English.

第 10 回	Further practice, re: asking for/giving street directions.	Pair practice, part 2: how to ask/tell about how to get from one place to another in a city, in smooth, natural English.
第 11 回	Video/ News activity, with questions about that video clip. "What are your hobbies?"	Students will watch a News or documentary video clip...and will be asked to discuss (& give opinions about) that video, in smooth, spoken English. / Students will write down, and then pair-practice, culturally-acceptable answers about their hobbies, in smooth spoken English.
第 12 回	Review & practice of all topics studied and practiced during the semester.	Review & practice for the Spring Speaking Exam.
第 13 回	Speaking examination about all of the topics we studied during the semester.	Speaking examination, re: all of the topics studied during the semester.
第 14 回	"What are your plans for the Summer Break?"	Pairwork, to ask & answer about students' plans, re: Summer Break.

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

Please do homework well before the deadline [NOT "ichiyazuke]; please learn to wake up early, and to arrive in class ON TIME [not late]; please don't work at part-time jobs excessively; and please keep a weekly notebook/binder for this class, using pen. 本授業の準備学習・復習時間は各 1 時間を標準とします。/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト (教科書)】

A textbook might be chosen, depending on students levels & requirements. Also, some handouts will be distributed to students.

【参考書】

-

【成績評価の方法と基準】

Tentatively, grading may depend on in-class responses (approximately 35%); speaking exams spoken replies (approximately 25%); class participation/motivation (20%); and homework (20%).

IMPORTANT: A MAXIMUM OF THREE ABSENCES IS ALLOWED...& ONE 'LATE' IS EQUIVALENT TO HALF AN ABSENCE. MORE THAN THREE ABSENCES MAY RESULT IN FAILURE TO OBTAIN A CREDIT(S) FOR THIS CLASS.

【学生の意見等からの気づき】

-

【学生が準備すべき機器他】

Students might need 'ONLINE Learning' equipment: a computer; fast HOME Wi-Fi (NOT cafe Internet); FREE downloads of Skype & Zoom; computer microphone; AND headphones/earphones. [Cameras might not be used, to protect privacy...and to save Internet Bandwidth/speed.] Please prepare your computer/ FAST HOME Wi-Fi/ headphones/ microphone/ FREE Skype account/ FREE Zoom account/FREE 'Romaji' gmail account; & please test them WELL, long before we meet. Please set up your FREE gmail address with a 'Romaji' name such as 'KenTanaka@gmail.com', so that we can use Google Classroom. [Yes, you CAN set up a SECOND, free, 'Romaji' gmail address: it's easy.] Please e-mail your teacher, LONG before our class starts, at TonyDur2020@gmail.com.

【その他の重要事項】

Please participate ACTIVELY in class; and please speak together with your classmates, using lots of 'small talk' & good 'EQ' ['kokoro no chinoshisu'].

If you're not sure about how to answer, please speak up and GUESS...instead of reflexively answering "I don't know".

* A MAXIMUM OF THREE ABSENCES IS ALLOWED...& ONE 'LATE' IS EQUIVALENT TO HALF AN ABSENCE. MORE THAN THREE ABSENCES MAY RESULT IN FAILURE TO OBTAIN COURSE CREDIT.*

【キャリアデザイン学部より】

2014 年度~2016 年度入学者のみ、市ヶ谷基礎科目 4 群 (必修外国語<英語>に充当も可能です)。

【Outline (in English)】

This SPRING course will assist students to more speedily & smoothly communicate in English that will be useful in their futures...and in their careers.

'Just in case' Online Learning might be needed, please prepare your computer/FAST HOME Wi-Fi/headset/microphone/FREE Skype/FREE Zoom/FREE 'Romaji' gmail accounts; & please test them WELL, long before we meet.

Cameras might not be used, to protect privacy...and to save Internet Bandwidth/speed.

LANe100MA

**国際コミュニケーション語学
(英語Ⅱ)**

Robert Durham

単位数：1 単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall
曜日・時限：金 2/Fri.2 | 配当年次：1～4 年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

The goal of this class is to assist students to communicate Internationally (and smoothly), in English, to improve their career opportunities.

英語でのオーラル・コミュニケーションを、よりスムーズに取れるようになることを目指します。こうした技能の向上は、みなさんの将来やキャリアに役立つでしょう（詳細は以下の英文の記事を読んでください）。

During this Fall Semester/Pandemic, we might have to do 'ONLINE Learning' to study together, via Skype/Zoom. Please prepare your computer, FAST HOME Wi-Fi/headset/microphone/ FREE Skype/ FREE Zoom/ FREE 'Romaji' gmail account; & please test them WELL, long before we meet.

Cameras might not be used, to protect privacy...and to save Internet Bandwidth/speed.

【到達目標】

The goal of this course is to get students to speak, listen, read, write, & COMMUNICATE in smooth, modern English. Some grammar-correction of assignments/submissions will be necessary. Assignment-revising will also be necessary, during Online Learning.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

Students will be challenged to integrate their skills in English listening, speaking, reading, & writing in an advanced manner, via exposure to authentic English materials such as English News videos & audio, and inspirational video/audio talks (including TED Talks). Students will then be required to practice their English communication skills via pair practice conversations with their classmates & professor.

Feedback about student answers will be given by the teacher, DURING classes; and sometimes via e-mail. If students would like additional feedback: please ASK the teacher, during class time.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	*[All SCHEDULE items are tentative...& might change, depending on class level(s); student abilities; and recent world events.]* "How was your Summer Break?"	Pair-practice, re: a range of adjectives about students' five Summer Break activities/ Past Tense, in smooth, spoken English.
第 2 回	Introducing yourself, in spoken English. Pricing items in English; & answering questions about prices in English. PLUS: "Students will introduce themselves to each other in modern English, via Online video/audio 'chat'.	Students will be asked about prices of common items, in English; and will be asked to verbally answer such questions in spoken English.
第 3 回	Asking & answering about subway/train directions, in English.	Students will learn and practice how to reply to requests for subway/train directions, in spoken English.
第 4 回	Hallowe'en, part 1: what are Hallowe'en customs; and in what countries has Hallowe'en traditionally been celebrated?	Students will be asked to investigate, write down, and discuss Hallowe'en traditions, in English.

第 5 回	Hallowe'en, part 2: Using 'would' & 'will'.	Students will pair-practice correct use of 'would' + past tense, & 'will' + future tense, to describe possible Hallowe'en costumes & activities.
第 6 回	"The Seven W's": (Who...?/What...?/When...?/Where...?/Why...?/How...?)	Students will learn how to verbally answer 3/Why...?/reply in smooth English, to questions about "the 7 W's".
第 7 回	"What would you do, if _____?"	Students will learn how to reply verbally to questions about what they would do, in a variety of situations, in spoken English.
第 8 回	"What time is it?"; & "Could you please tell me what time it is...?"	Students will practice how to verbally use polite ways of asking, in English; AND about telling time(s).
第 9 回	Thanksgiving customs (& discussion in English), re: Thanksgiving customs in the U.S./Canada.	Students will be asked to suss out traditional Thanksgiving customs...& to explain them in spoken English.
第 10 回	"What are five things that YOU are thankful for?"	Students will be asked to write down, and then to pair-practice in spoken English, five things that they are thankful for.
第 11 回	Christmas customs & video/listening exercises, in English.	Students will watch/listen to an English video/song about Christmas; and will be asked to answer questions in written/spoken English.
第 12 回	"What are your plans for Christmas/ OhShoGatsu?"	Pair practice: students will be asked to write down & then practice verbally (in English) their Future plans for Christmas/ OhShoGatsu.
第 13 回	Exam, re: all topics that students learned and practiced during the Fall 2022 semester.	Speaking exam: students will be asked to reply, in detail (& in smooth, spoken English) about a variety of topics which were learned in Fall 2022.
第 14 回	"How was your Christmas/ OhShoGatsu Break?"	Students will be asked to write down adjectives and explanations about their five OhShoGatsu/Christmas activities.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Please do homework well before the deadline [NOT "ichiyazuke]; please learn to wake up early, and to arrive in [ONLINE] class ON TIME (not late); please don't work at part-time jobs excessively; and please keep a weekly notebook/binder for this class, using pen. 本授業の準備学習・復習時間は各 1 時間を標準とします。/ University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】

A textbook might be chosen, depending on students' levels & requirements. Also, some handouts will be distributed to students. In addition, some News videos & TED Talks may be assigned as in-class or at-home viewing (with questions about those videos).

【参考書】

-

【成績評価の方法と基準】

Tentatively, grading may depend on in-class responses (approximately 35%); speaking exams spoken replies (approximately 25%); class participation/motivation (20%); and homework (20%).

IMPORTANT: A MAXIMUM OF THREE ABSENCES IS ALLOWED...& ONE 'LATE' IS EQUIVALENT TO HALF AN ABSENCE. MORE THAN THREE ABSENCES MAY RESULT IN FAILURE TO OBTAIN A CREDIT(S) FOR THIS CLASS.

【学生の意見等からの気づき】

-

【学生が準備すべき機器他】

"Just in case": students might need 'ONLINE Learning' equipment: a computer; fast HOME Wi-Fi (NOT cafe Internet); FREE downloads of Skype & Zoom; computer microphone; AND headphones/earphones. [Cameras might not be used, to protect privacy...and to save Internet Bandwidth/speed.]

Please prepare your computer/ FAST HOME Wi-Fi/ headphones/ microphone/ FREE Skype account/ FREE Zoom account/FREE 'Romaji' gmail account; & please test them WELL, long before we meet.

Please set up your FREE gmail address with a 'Romaji' name such as 'KenTanaka@gmail.com', so that we can use Google Classroom. [Yes, you CAN set up a SECOND, free, 'Romaji' gmail address: it's easy.]

Please e-mail your teacher, LONG before our class starts, at TonyDur2020@gmail.com.

【その他の重要事項】

Please participate ACTIVELY in class; and please speak together with your classmates, using lots of 'small talk'.

If you're not sure about how to answer, please speak up and GUESS...instead of reflexively answering "I don't know".

* A MAXIMUM OF THREE ABSENCES IS ALLOWED...& ONE LATE IS EQUIVALENT TO HALF AN ABSENCE. *

【キャリアデザイン学部より】

2014 年度～2016 年度入学者のみ、市ヶ谷基礎科目 4 群（必修外国語＜英語＞に充当も可能です。

【Outline (in English)】

This Fall course will assist students to more speedily & smoothly communicate in English that will be useful in their futures...and in their careers.

Please prepare your computer/FAST HOME Wi-Fi/headset/microphone/FREE Skype/FREE Zoom/FREE 'Romaji' gmail accounts; & please test them WELL, long before we meet.

Cameras might not be used, to protect privacy...and to save Internet Bandwidth/speed.

LANe100MA

**国際コミュニケーション語学
(英語Ⅲ)**

Kregg Johnston

単位数：1 単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

曜日・時限：金 3/Fri.3 | 配当年次：1~4 年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

様々なトピックについて、短いながらも、効果的・説得力のあるプレゼンテーションができるようになることを目指します。スピーチの方法を基礎から学び、自信をもってプレゼンテーションを行うことができるようにしましょう (詳細は以下の英文の記事を読んでください)。

To learn how to deliver short, effective speeches in English on a variety of topics.

【到達目標】

This course is designed primarily to improve students' presentation skills and thereby to develop their integrative English language proficiency. The goal is to acquire basic presentations skills, including how to organize a presentation, supporting arguments with evidence, effective use of visual aids, and aspects of delivery such as eye contact or gesture.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

The students will learn about the 3 messages involved in making effective speeches & presentations: The physical message, the visual message, and the story message. The students will view and discuss model speeches and make their own speeches based on the demonstrations. The students will develop confidence in delivering effective speeches and presentations.

Feedback on submitted assignments and quizzes will be given at the beginning of the following class.

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
Week 1	Course Intro & level check Extemporaneous speeches	Ice breakers Course objectives Vocabulary management
Week 2	The Physical Message Unit 1 Posture & Eye contact	Having good posture Making eye contact Model presentation 1 Prepare to give informative speech Prepare quadrant
Week 3	The Physical Message Unit 2 Gestures Unit 1 quiz Give informative speech	Using gestures in speech Model presentation 2 Prepare layout speech grid Prepare to give layout speech
Week 4	The Physical Message Unit 3 Voice Inflection Unit 2 quiz Give layout speech	Using voice inflection Model presentation 3 Prepare storyboard & visuals
Week 5	The Visual Message Unit 4 Effective Visuals Unit 3 quiz Give demonstration speech	Preparing visuals for speech Model presentation 4 Prepare 2-country comparison charts
Week 6	The Visual Message Unit 5 Explaining Visuals Unit 4 quiz Explain 2-country comparison charts	Using visuals during presentation Model presentation 5 Prepare explanations & visual aids for 2-country speech
Week 7	Unit 5 quiz Give 2-country comparison speech & Peer Review	Review Units 1-5 Compare/ contrast 2 countries
Week 8	The Story Message Organization of a speech	Presentation organization Components of presentation script

Week 9	The Story Message Introduction Unit 6 quiz	Effective presentation introductions Model introductions: Episode 6 Prepare storyboard for 2 product presentation
Week 10	The Story Message The Body: evidence & transitions Unit 7 quiz Explain introduction for product speech	Body of presentation Including evidence Using transitions & sequencers Prepare storyboard and charts for product speech
Week 11	The Story Message The Conclusion Unit 8 quiz Explain body of product speech	Conclusion of presentation Including evidence Using transitions & sequencers Model presentation body Prepare conclusion for product speech
Week 12	Watch full Presentation & Peer Review Unit 9-10 quiz	Review presentation components Prepare for final presentations
Week 13	Final Presentations (Day 1): Product comparison (5-6 minutes)	Final Presentations (Day 1): Product comparison (5-6 minutes)
Week 14	Final Presentations (Day 2): Product comparison (5-6 minutes) Course review & wrap up	Final Presentations (Day 2): Product comparison (5-6 minutes)

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

Students are expected to complete weekly assignments, review for regular quizzes, and prepare presentations to give in class. 本授業の準備学習・復習時間は各 1 時間を標準とします。/ University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト (教科書)】

Speaking of Speech: New Edition, Basic Presentation Skills for Beginners
New edition 2009, Harrington, LeBeau
ISBN 978-4-7773-6271-4

【参考書】

Speaking of Speech: New Edition, Basic Presentation Skills for Beginners
New edition 2009, Harrington, LeBeau
ISBN 978-4-7773-6271-4

【成績評価の方法と基準】

Quizzes-20%
Homework-15%,
Participation 20%
Presentations 45%
*In principle, no more than three absences per term are allowed

【学生の意見等からの気づき】

Increased emphasis on eye contact and speaking fluency.

【学生が準備すべき機器他】

OHC & projector, DVD & CD player in classroom

【その他の重要事項】

Class size is limited to 20 students. Students who wish to take the course need to attend the first class in order to ensure that they can register for the course. In the event that the number of students wishing to take the class exceeds 20, the students will be selected based on a listening and vocabulary test.

【キャリアデザイン学部より】

2014 年度～2016 年度入学者のみ、市ヶ谷基礎科目 4 群 (必修外国語<英語>に充当も可能です。

【Outline (in English)】

Learn how to organize and deliver effective speeches and presentations, Listen to and take notes on other students' speeches and model speeches, Evaluate and offer peer feedback on classmates' speeches,

LANe100MA

国際コミュニケーション語学
(英語Ⅳ)

Kregg Johnston

単位数：1 単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

曜日・時限：金 3/Fri.3 | 配当年次：1～4 年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

アカデミック・スキル（ディスカッションの仕方、聞き方、ノートの取り方、話のまとめ方など）を学び、伸ばします。講義などで使われる言葉も学びますので語彙力の向上にも役立ちます（詳細は以下の英文の記載を読んでください）。

Discussion skills, listening & note-taking, presenting, building vocabulary

【到達目標】

In this course, students will learn key vocabulary related to each topic covered, develop listening and note taking skills by listening to academic lectures. Additionally, students will develop their speaking skills in expressing opinions, agreeing/disagreeing, confirming/clarifying. Students will also work on expressions for leading and participating in discussions as well as presenting on topics researched.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

The students will discuss the topics for each unit in groups or pairs and then study some of the related vocabulary. Then students will take notes while listening to a short academic lecture on the topics. The students will then review, discuss, and summarize the points mentioned in the lecture. At the conclusion of each unit, there will be a review test, and research assignments on the topics introduced in the lecture for discussion or to present later.

Feedback on speeches, homework assignments, and quizzes will be given at the beginning of the following class.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
Week 1	Course Intro & level check Vocabulary assessment	Ice Breakers Introduce course & assess vocabulary level Introduction to note-taking strategies Preview unit 1
Week 2	Unit 7: Media Studies Introduction of topic & Preview of key AWL vocabulary	Introduction of topic & Preview of key AWL vocabulary Evidence & support Unit 7 lecture preview
Week 3	Unit 7: Media Studies Review lecture contents & discussion	Review lecture notes Comprehension check questions Discussion: paraphrase, clarification, & confirmation
Week 4	Unit 7 Quiz Unit 8: GM food Preview key AWL vocabulary & lecture structure	Unit 7 quiz Unit 8 introduction of topic & AWL Vocabulary Lecture: Key terms
Week 5	Unit 8: GM food Lecture notes & comprehension	Review lecture notes Check comprehension questions Discussion: agree, change topic, reach consensus Quiz on Unit 8
Week 6	Unit 8 Quiz Unit 9 Design thinking Preview key AWL vocabulary & lecture structure	Unit 9: Introduction of topic & AWL vocabulary Lecture: Process description
Week 7	Unit 9 Design thinking Lecture notes & comprehension	Review Lecture notes Check comprehension questions Discussion: Agree, express opinion, interrupt
Week 8	Unit 9 quiz Unit 10: Shackleton Preview key AWL vocabulary & lecture structure	Quiz on Unit 9 Unit 10: Introduction of topic & AWL vocabulary Lecture: Numbers, dates, periods of time

Week 9	Unit 10: Shackleton Lecture notes & comprehension	Review Lecture notes Check comprehension questions Discussion: Asking opinions, giving opinions, staying on topic Quiz on Unit 10 Unit 11: Introduction of topic & AWL vocabulary Lecture: Real-world examples
Week 10	Unit 10 quiz Unit 11: Ethics Preview key AWL vocabulary & lecture structure	Unit 11: Introduction of topic & AWL vocabulary Lecture: Real-world examples
Week 11	Unit 11: Ethics Lecture notes & comprehension	Review Lecture notes Check comprehension questions Discussion: Offering fact or example Quiz on Unit 11
Week 12	Unit 11 quiz Unit 12: Big Data Preview key AWL vocabulary & lecture structure	Unit 12: Introduction of topic & AWL vocabulary Lecture: Personal stories
Week 13	Unit 12: Big Data Lecture notes & comprehension	Review Lecture notes Check comprehension questions Discussion: Keeping discussion going Unit 12 quiz
Week 14	Unit 12 quiz Vocabulary quiz U 7-12	Course Review & wrap-up

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Review vocabulary, Prepare for end of chapter tests, Further research on topic, Plan to present findings to class or small groups. 本授業の準備学習・復習時間は各 1 時間を標準とします。/ University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】

Contemporary Topics 1 4th edition: 21st Century skills for Academic Success. Solórzano, Frazier, & Rost
ISBN: 9780134400648

【参考書】

Contemporary Topics 1 4th edition: 21st Century skills for Academic Success. Solórzano, Frazier, & Rost
ISBN: 9780134400648

【成績評価の方法と基準】

Quizzes-60%
Homework-20%
Participation 10%
Presentations/ Discussion activities 10%

【学生の意見等からの気づき】

Increased focus on development of vocabulary and discussion skills

【学生が準備すべき機器他】

【教室必要備品】 OHC & projector, DVD & CD player in classroom

【その他の重要事項】

This class is suitable for students having a TOEIC score between 480 and 660

【キャリアデザイン学部より】

2014 年度～2016 年度入学者のみ、市ヶ谷基礎科目 4 群（必修外国語<英語>に充当も可能です。

【Outline (in English)】

In this course, students learn and practice note taking strategies by listening to lectures. They also will discuss the topics introduced in each lecture and conduct further research on the topics to present in class.

LANe100MA

**国際コミュニケーション語学
(英語V)**

Kregg Johnston

単位数：1 単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

曜日・時限：木 3/Thu.3 | 配当年次：1~4 年

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

自分の伝えたいことをより正確に表現し、相手に伝わる英文を書くことができることを目指します。伝わる書き方にはコツがあるので、そのコツも学んでいきます (詳細は以下の英文の記事を読んでください)。

The objective of the course is to consolidate the knowledge of English language and grammar learned in secondary school and develop their ability to express themselves more freely in writing

【到達目標】

After taking this course, the students should have learned the following:

1. the concept of the paragraph with reference to its unity, coherence, and structure, including topic sentences, various types of supporting sentences, and concluding sentences
2. the mechanics of typing and formatting a composition
3. how to edit one's own and others' compositions
4. how to effectively complete a timed writing task

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

Students in this course will work individually on writing preparation activities and actually writing their own descriptive and persuasive paragraphs.

Student will also collaborate with students in pairs or groups to compare ideas and peer review each other's writing in terms of grammar, unity and cohesion of writing.

Students will also be tested on the material taught in the course, including two timed writing exams.

Feedback on submitted assignments and quizzes will be given at the beginning of the next class.

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	Sentences & Paragraphs	Components of sentences and paragraphs
第 2 回	Topic sentences Descriptive paragraphs	Preparation to write a descriptive paragraph
第 3 回	Concluding sentences Adjectives Conjunctions	Components of effective concluding sentences Using adjectives and conjunctions in sentences
第 4 回	Feedback on 1st draft of descriptive paragraph	Review and recommendations on 1st draft Preparation for peer review
第 5 回	Homework test 1 Using "although" Submit 2nd draft of descriptive paragraph	Test on homework exercises How to use "although" in sentence
第 6 回	Writing test Feedback on 2nd draft	In-class timed writing test
第 7 回	Test feedback Paragraph development Persuasive paragraphs	Pre-writing for 3rd writing assignment How to develop paragraphs
第 8 回	Benefits and consequences Outlines	Including benefits, consequences, and results in paragraphs Using outlines to organize ideas
第 9 回	Cause & effect	Including causes and effects in paragraphs Prepare outline for 3rd writing assignment
第 10 回	Paraphrasing Supporting sentences outside sources	Practice paraphrasing Including outside sources in writing Citing sources correctly in paragraphs

第 11 回	3rd writing assignment Using conditional sentences Making comments	Submit 3rd writing assignment Practice using conditionals as support Commenting on ideas in writing
第 12 回	Homework test 2 Thesis statements Introductions	Structure of thesis statements Structure of introductory paragraphs Peer review of 3rd writing assignment
第 13 回	Review and feedback writing 3	Review and feedback on 3rd writing assignment Prepare for final writing assignment
第 14 回	Final In-Class writing test	Timed writing: 2 Persuasive paragraphs

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

Homework exercises contained in the course handouts

Assigned writing drafts (typed, correctly formatted, and printed out for submission in class) 本授業の準備学習・復習時間は各 1 時間を標準とします。/ University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト (教科書)】

Handouts and reading material will be provided by the lecturer and will be distributed through Google Classroom for this course

【参考書】

<http://my.vocabularysize.com/>

<http://quizlet.com>

www.englishgrammar.org

Google Classroom: Registration details will be provided on the Hosei LMS and at the first class meeting

【成績評価の方法と基準】

Participation in class: 10%

Two in-class quizzes on the homework: 20%

Three submitted writing assignments: 50%

Final in-class writing test: 20%

In principle, no more than 3 absences per term are allowed.

【学生の意見等からの気づき】

Increased emphasis on sentence unity within paragraphs and organizing information logically.

【学生が準備すべき機器他】

Submitted writing assignments must be typed, formatted correctly, printed out and ready for submission at the beginning of class. Points will be deducted for late submissions.

【その他の重要事項】

Class size is limited to 20 students. Students who wish to take the course need to attend the first class in order to ensure that they can register for the course. In the event that the number of students wishing to take the class exceeds 20, the students will be selected based on a writing and vocabulary test.

【キャリアデザイン学部より】

2014 年度~2016 年度入学者のみ、市ヶ谷基礎科目 4 群 (必修外国語<英語>に充当も可能です。

【Outline (in English)】

Develop the skills necessary to write and correctly format effective paragraphs and to write multi-paragraph essays within a set time frame

CAR200MA

就業機会とキャリア特講 E-働くことと労働組合-

佐藤 厚、武石 恵美子

単位数：2 単位 | 開講セメスター：秋学期授業/Fall

曜日・時限：火 4/Tue.4 | 配当年次：2～4 年

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈ダ〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、連合（日本労働組合総連合会）と教育文化協会が主催する寄付講座です。毎回、職場の最前線で活躍するユニオンリーダーをゲスト講師としてお招きし、働くことに伴う様々な課題や課題解決のための労働組合の活動などについて、働く側の目線で事例を交えながら講義していただき、受講者からの質疑により理解を深めます。

講義は、働く意味を見つけること、働く環境や労働条件をより良くすること、職場の仲間を作っていくことなど、具体的な企業情報や業界情報を交えながら行います。変動する職場環境の中で、働く人たちのキャリアデザインも揺らいでいます。その中で働く人々はどうの困難を抱え、労働組合はどのような役割を果たしているのでしょうか。様々な立場にある労働組合関係者のお話を聞きながら、一緒に考えていきます。

学生の間に、働く現場リアルで最新の情報を聞けるのはとても貴重な機会です。

【到達目標】

働く現場の変化や、安心して働く上での問題について、深く理解している。企業や業界の実務知識や労働法制、社会的支援などの知識を身につけている。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

本授業は、ゲスト講師に自らの経験に基づいて講義していただき、その後質疑応答を行います。質疑にあたっては、適宜、グループワークを取り入れる予定です。

授業の進め方やレポートに関する説明は第 1 回目の授業で行いますので、受講を考えている学生は、第 1 回目授業を必ず受講してください。

ゲスト講師からは、労働組合の活動について説明していただくだけでなく、様々な業界や企業の最新の情報についても講義してもらいます。学生からの主体的な参加により理解が深まりますので、積極的に質問などをしてください。なお、ゲスト講師との調整により、計画に変更が生じる可能性がありますので、定期的に学習支援システムで予定を確認してください。

授業で使用する資料等は、学習支援システムにおいて、受講登録者に当該授業の前に提供します。資料内容を確認してから授業を受講してください。各回の授業では質問の時間を多めに確保しますので、積極的に質問をおこなってください。そのことが、皆さんの疑問や問題意識に対するフィードバックとなり、また、毎回のゲスト講師の方の論点の深掘りにも寄与することとなります。なお、若手組合員とのグループディスカッションも可能な範囲で組み込む予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	【オリエンテーション】	担当教員から授業の導入、「労働組合とは何か」を理解する
2	【開講の辞】 連合寄付講座で法政大学の皆さんに学んでほしいこと 【課題提起①】 「働くこと」について考える～労働組合の役割と意義～	【開講の辞】 連合寄付講座の開講の趣旨を伝えることで、本講座を通じて学んでほしいことは何かを理解してもらう。 【課題提起①】 「働くこと」について考えてもらうとともに、労働者を取り巻く現状と課題を明確化する。また、労働組合の役割や意義について学ぶ。2022 年度実績は教育文化協会。
3	【課題提起②】 いま働く現場で何が起きているのか～労働相談からみた若者雇用の現状～	労働相談事例の中から、若者の声を中心に紹介することで、現在職場で起きている問題を身近なものとして捉えてもらうとともに、それらの解決に向けた労働組合の役割について理解してもらう。2022 年度実績は連合事務局。
4	【ケーススタディ①】 労働組合の役割と組合員の活動 ～現場の意見集約から職場の課題改善をめざす～	労働組合は、仕事や働き方に関する組合員の不満・要望にどのように対応しているのか。どのような方法で現場の意見集約を行い、職場の課題改善に努めているのか。労働組合の苦情処理・日常活動の取り組み事例を通して、「職場こそ原点」といわれる労働組合の果たす役割と意義について考える。2022 年度実績は明治安田生命労組。

5	【ケーススタディ②】 非正規労働者の組織化と処遇改善に向けた取り組み	なぜ、非正規労働者の組織化や処遇改善が必要なのか。流通産業を事例に、非正規労働者の課題を考える。2022 年度実績は伊藤ハム労組。
6	【ケーススタディ③】 労働時間の短縮に向けた取り組み	働く人が健康で安心して暮らすための課題は何か。長時間労働の是正や休暇取得の促進など、労働時間の短縮に向けた取り組み事例から考える。2022 年度実績は安川電機労組。
7	【ケーススタディ④】男女がともに働きやすい職場づくりに向けた取り組み	男女がともに生き活きと働き続けるための課題や具体策とは何か。職場の環境改善や当該課題の解決に取り組む労働組合役員から話を聴き、考えてもらう。2022 年度実績は通建連合。
8	【ケーススタディ⑤】 公務労働の現状と公共サービスの役割	「安定した職場」と言われる公務員の働き方の現状はどうなっているのか。公務職場の現状・課題と良質な公共サービス（新しい公共）の実現に向けた取り組み事例から考える。2022 年度実績は自治労。
9	【ケーススタディ⑥】 雇用と生活を守る取り組み	技術革新やグローバル化が進む中、労働組合はどのように働く者の雇用と生活を守るのか。企業組織再編や倒産時などにおける中小企業労組の取り組み事例、ものづくり産業における熟練技能継承支援の取り組み事例、外国人労働者を取り巻く実情等を聴き、理解してもらう。2022 年度実績は JAM。
10	【課題への対応①】 国際労働運動の役割 ～グローバル化への対応	進行するグローバル化に労働組合はどのように対応しているのか。国際労働機関との関わり、多国籍企業問題に対する取り組み事例、労働分野の開発協力活動などの事例を聴き、国内だけでは解決できない課題に対する労働組合の国際的な役割について考える。
11	【課題への対応②】 労働者保護ルールの堅持・強化に向けた取り組み	働く者を守るために、労働組合は働き方に関わる法改正にどのように関わっているのか。健康・安全確保のための労働時間制度の見直しや、雇用形態に関わらないすべての働く者の雇用安定・処遇改善に向けた取り組みから考える。
12	【課題への対応③】 労働諸条件の維持・向上に向けた取り組み	労働組合は、働く者の労働条件の維持・向上に向けて、どのように取り組んでいるのか。なかでも代表的な取り組みとして挙げられる「春闘」は、なぜ同時期に全国一斉に行うのか。連合の取り組みを聴き、学生に理解してもらう。
13	【修了講義】 連合運動の現在と未来～これから社会へ出る皆さんへ～	すべての働く者が安心して働くことができる社会の実現に向けて、連合・労働組合は何をすべきか。連合の課題認識を聴いて、これからの社会や働き方、連合運動の役割について具体的に考える。
14	【論点整理】 「働くということ」と労働組合	ケーススタディーを振り返り、それぞれの課題と労働組合の役割の確認を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

初回授業時に全 14 回分の講義概要を配布します。それをもとに、会社、業界、労働組合について下調べをしておいてください。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特にありません。

【参考書】

授業内で随時、紹介します。

【成績評価の方法と基準】

出席（コメント内容含む）が 50%、レポートが 50%。出席を重視する。

【学生の意見等からの気づき】

労働用語、組合関連用語も随時説明していきます。

【授業中に求められる学習活動について】

C,D,F

【Outline (in English)】

【Course outline】

This class is a donation course sponsored by the Union (Japan Trade Union Confederation) and the Education and Culture Association. Each time, we invite labor union officials who are active on the front lines of the workplace as guest lecturers to give lectures on the activities of the labor union with examples. Lectures will be given with company information and industry information, such as finding the meaning of work, improving the working environment and working conditions, and making colleagues in the workplace. In the changing work environment, the career design of workers is also shaking. What difficulties do the people working in it have, and what role does the union play? We will think together while listening to the stories of labor union officials from various positions.

【Learning Objectives】

I have a deep understanding of changes in the workplace and problems in working with peace of mind.

He has practical knowledge of companies and industries, labor law, and social support.

【Learning activities outside of classroom】

A total of 14 lecture outlines will be distributed at the time of the first class. Use it to do some preliminary research on your company, industry, and trade unions. The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria /Policy】

Attendance (including comment content) is 50%, and report is 50%.

Focus on attendance.

CAR300MA

就業応用力養成 I

鈴木 美伸

単位数：2 単位 | 開講セメスター：春学期授業/Spring

曜日・時限：水 3/Wed.3 | 配当年次：3~4 年

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

大学後期は社会へのトランジション（移行）期であり、大学で修得すべき必須の知見（アカデミックスキル）を認識し、社会への応用力に発展させる時期です。

この授業では、様々な産業の企業事例のビデオ教材、社会人ゲストの講話、ビジネス事例・統計等を題材に、社会課題の発見とそれに取り組むための実践知の修得・発揮を目指します。

企業や社会人から持ち込まれたキャリアではなく、どんな問題に直面しても、なんとかできる強い意志、思考方法、対応力、それが『大学生のキャリア』であり、それこそが社会でも立派に通用する、就業応用力の養成です。

*「就業応用力」は「就職力」ではありませんが、就職活動を学生の未知の課題と捉え、アカデミックスキルで効率よく対処できるようになります。つまり、就職力は就業応用力の一部（発揮）ともいえます。

【到達目標】

修得すべき7つのチカラ

1. 社会常識・ビジネスマナー・コンプライアンス
 - ⇒ 組織を効率よく運営参画するスキル
 - ⇒ 社会規範となる倫理観
2. 他者を説得できるロジカルシンキング
 - ⇒ データの収集（質問票調査）を行い定量調査スキル
 - ⇒ フィールドワークによる定性調査スキル
 - ⇒ 定量・定性データの分析技術による論理的な提案作成力
3. 他者を動かすコミュニケーション力
 - ⇒ 共感・質問・提言する個別対人スキル
 - ⇒ カウンセリング・コーチング・コンサルティング
4. 組織を動かすコミュニケーション力
 - ⇒ 社会人（企業）に対して説得的な提言（プレゼンテーション力）
 - ⇒ チームビルディングとイノベーション（ファシリテーション力）
5. 組織を活性化するリーダーシップ
 - ⇒ モチベーション・マネジメント
 - ⇒ 4つの状況対応型リーダーシップ
6. 社会で未知の道を拓くチカラ
 - ⇒ キャリアモデルの発見（文献調査、フィールドワーク等）
 - ⇒ 自分自身の20代のキャリアプランの作成
7. 社会を生き抜くための実践知
 - ⇒ 暗黙知（体験）を形式知（言語）化するメタ認知能力
 - ⇒ メタ認知を社会の中で発揮するベタ認知能力

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

この授業は、大学・企業に対して、学生による企画・提案を行います。PBL（プロジェクトベースラーニング）型の運営です。履修人数によりますが、グループワークを中心に行い、最終的には大学・企業に対しての提言（プレゼンテーション&レポート）を行います。公開授業（全学部対象）の特長を活かし、他学部学生との知見の交換を重視します。

授業では毎回リアクションペーパーを提出し、次回授業でフィードバックを行います。

大学行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	大学とは何か 大学で学ぶべきアカデミックスキルの理解 大学を使い倒す	大学の歴史と構造 各学部のアイデンティティ 就業力とは 学生と企業の認識差 社会で求められる力
2	大学と企業のミスマッチ研究 社会の求める人材とは メタ認知とバラ認知の理解	グループディスカッション データの見方 討議の手法 ブレインストーミング

3	ロジカルシンキング・ライティング・プレゼンテーション 企業採用選考を論理的に解析し、対処するためには	論理的な文章 作文と論文の違い ビジネス文書作成 エントリーシート解析
4	旅行業界事例研究 新入社員の課題と魅力 上司を動かす力とは	ビジネスマナー 報道相の重要点 トラブル対処力 顧客満足向上とは
5	商社事例研究-1 半導体業界 世界を制した経営者	起業家精神 ベンチャー企業経営 株主重視経営 資金調達力
6	商社事例研究-2 化学製品業界 世界企業と渡り合うには	大企業経営 グローバル企業経営 提案力の構造 世界で通用する力
7	社会人ケーススタディー-1 就社・就職・就場の時代 ホテル、出版業界 全ての経験をキャリアにするには	働き方の進化 大学と仕事の関係 企業と個人の関係 コンサルティング
8	食品関連業界事例研究 世界に通用する BtoB 技術 知られざる世界一の優良企業	企業進化論 百年企業 最先端技術力 ビジネスプレゼンテーション
9	文房具旅行用品業界事例研究 モノヅクリの魅力 企業提案ワークショップ	中小企業経営 大企業との差別化 商品企画力 プレゼンテーション
10	プロジェクトベースラーニング（PBL）-1 企業からの課題提示	市場調査 新商品開発（マーケティング） チーム別ワークショップ
11	社会人ケーススタディー-2 資格と大学生のキャリア エンタメ音楽業界 経営企画の仕事とは	社会で通用する人材 米国公認会計士講話 採用担当者の視点 求められる人材像 状況対応型キャリア
12	プロジェクトベースラーニング（PBL）-2 課題討議	授業協力企業からの課題 ビジネスマナー ヒアリングスキル 課題発見力
13	金融業界事例研究 地方創生事業の実際 六次産業への挑戦	金融機関の底力 起業家行動の支援 全国ネットワークの活用 中小企業診断士の力
14	プロジェクトベースラーニング（PBL）-3 課題発表	企業へのプレゼンテーション 課題解決力 プレゼンテーション力 ゲスト企業からの講評

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

グループ別に授業外での活動があります。定量調査（質問票調査）、定性調査（企業訪問調査）では相当量の作業を求めます。

統計学や社会調査の素養があると有効です。
*事前知識がなくとも、高い目標に挑戦する意欲があれば全力で指導します。但、他者と協働して自分を成長させたい強い意志とクラスメートへの配慮（チームワークへの貢献）は必須です。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定はありません。必要な資料は毎回教員が配布します。

【参考書】

授業のなかで紹介します。

【成績評価の方法と基準】

成績配点

・受講態度（発言数・発言内容）	⇒ 30点
・毎回の小レポート（リアクションペーパー）	⇒ 30点
・グループワークでの貢献度	⇒ 30点
・期末レポート	⇒ 10点

上記配点は原則として加点方式で行います。

授業ルール（初回授業で配付）違反は減点または即時評価外となります。

この他に、1000~2000字程度のレポートを課す場合がありますが、その内容は上記配点にプラスアルファとして加点します。

総合評価が60点以上を合格とします。

（欠席が3回以上の者は成績評価対象外）

*遅刻厳禁、私語、居眠りは退席を命じます。

【学生の意見等からの気づき】

他学部学生とのディスカッションから学ぶことが多いとのことで、グループワークを重視します。

特に公開授業のメリットを最大限に活かし、学生所属の各学部の知見をレポート&プレゼンで他学生に説明する方式は、他科目のリアクションペーパー、レポート、論文、更に就職活動のエントリーシートの書き方にも役立つとのこと。

【学生が準備すべき機器他】

特にありませんが、授業支援システムを活用します。
レポート&プレゼンがあるので、ワードとパワーポイントは必須スキルです。
PCは大学貸出のもので大丈夫です。

【その他の重要事項】

法政大学オリジナルの「実践知育成授業」を目指します。
文化部・運動部等、大学公式活動に関わる者には事前にヒアリングして配慮します。

*全学部対象なので、様々な学部の学生を歓迎します。
楽単ではありませんし、甘い採点もしませんが、社会で必ず役立つ力を教えます。

▼実務経験のある教員による授業
担当教員は、日米企業での人事採用能力開発経験者であり、授業における行動基準は社会で求められるビジネスマナーを重視、レポートの評価基準も社会で通用する論理的な文章を指導します。

【Outline (in English)】

The university latter period is a transition (shift) period to society and is the time to recognize the indispensable knowledge which should be acquired at a university (academic skills) and make application ability to society develop.

I aim at learning and a show of video teaching materials of various industrial enterprise cases, a talk of a member of society guest and practical wisdom to work on discovery and that of a social problem by using a business case and the statistics, etc. as a base material at this session.

・ There are activities outside the class for each group. Quantitative surveys (questionnaire surveys) and qualitative surveys (company visit surveys) require a considerable amount of work.

・ It is effective if you have a background in statistics and social research.

* Even if you do not have prior knowledge, if you are willing to challenge high goals, we will do our best to guide you.

However, a strong will to collaborate with others and give consideration to classmates (contribution to teamwork) is essential. The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each.

Grade score

・ Attendance attitude (number of remarks / content of remarks) ⇒ 30 points

・ Every small report (reaction paper) ⇒ 30 points

・ Contribution in group work ⇒ 30 points

・ Term-end report ⇒ 10 points

As a general rule, the above points will be added.

Violations of class rules (distributed in the first class) will not be deducted or evaluated immediately.

In addition to this, we may impose a report of about 1000 to 2000 characters, but the content will be added as a plus alpha to the above points.

A passing score of 60 or higher is considered as a pass.

(People who are absent 3 times or more are not eligible for grade evaluation)

* Strictly forbidden to be late, private language, and dozing will order you to leave.

CAR300MA

就業応用力養成Ⅱ

鈴木 美伸

単位数：2単位 | 開講 Semester：秋学期授業/Fall
曜日・時限：水 3/Wed.3 | 配当年次：3～4年

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

大学での学びの集大成として「自由を生き抜く実践知」の発揮に取り組みます。未知の社会課題を理解・分析し、提言する力を身につけます。同時にこれからの社会に必要な新しい働き方とライフスタイルを学びます。アカデミックスキルの実践として、社会課題（特に人口少子化社会における社会変動への対応、大学が求められる変革能力）を抽出して具体的な提言を行います。

*「就業応用力」は「就職力」ではありませんが、就職活動を学生の未知の課題と捉え、アカデミックスキルで効率よく対処できるようになります。つまり、就職力は就業応用力の一部もしくは発揮といえます。

【到達目標】

どんな問題に直面しても、なんとかできる強い意志、思考方法、対応力、を就業応用力として考え、具体的に以下の8つの力を修得します。

1. 事実をベースに語る提言力（事実と意見を峻別する）
2. 3つの分析手法力（時間・空間・実験分析）
3. 知恵の生成プロセスを経た改革力（データから情報へ）
4. 問題解決の視点力（What? Why? How?）
5. 構造分析の要素考察力
6. マクロとミクロの視点を統合力（定量と定性調査力）
7. 一次情報に触れる取材力（但、百聞一見を盲信しない）
8. 上記のスキルを統合・応用力

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

この授業は、大学・企業に対して、学生による企画・提案を行ないます。PBL（プロジェクトベースラーニング）型の運営です。履修人数により、グループワークを中心に行い、最終的には大学・企業に対しての提言（プレゼンテーション&レポート）を行います。公開授業（全学部対象）の特長を活かし、他学部学生との知見の交換を重視します。授業では毎回アクションペーパーを提出し、次回授業でフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	アカデミックスキル 大学生で学ぶべきチカラ 大学を使い倒すために	8つのアカデミックスキルの具体例と演習 ・大学生の就職活動をアカデミックスキルで分析する
2	社会で通用する高度なコミュニケーションスキル 企業目線を理解する	社会が求める人材要件と大学で学ぶ力の比較検討 ・統計の見方と誤解 ・課題発見力
3	法政大学と実践知 自由を生き抜くとはどういう意味か？ 組織を動かすには（ビデオ教材使用）	実践知の学問別理解 ・哲学的理解 ・心理学的理解 ・経営学的理解
4	ライフスタイル研究-1 就社・就職・就場の時代 企業特殊能力から起業家へ	社会人講話と質疑応答 ・20代、30代、40代のキャリア形成 ・質問力 ・ファシリテーション力
5	21世紀の生き方へ ライフスタイル研究-2 パラレルキャリア 社会人の能力開発力 社会を楽しく生き抜くために	副業・兼業の現在 ・ワークライフバランス ・フリーランスの生き方 ・大学生の兼業とは
6	情報分析力グループワーク マスコミ情報の分析理解 ロジカルシンキング 情報に惑わされないために	新聞記事の分析 ・防衛費の分析 ・交通事故判例 ・サンクコストの理解

7	課題レポート&プレゼンテーション-1 学部固有の知見とは 法政と各学部のアイデンティティ	構造化レポートの書き方 ・因果律型エッセイ ・プレゼンテーションの構造 ・質疑応答手法
8	ライフスタイル研究-3 社会課題解決のキャリアモデル 夢を形にして社会課題に取り組んだ人々	実践知偉人伝 ・官僚のケース ・社会企業家のケース ・世界に誇れる日本人
9	マーケティングスキルによる構造分析 グローバルビジネス企画 語学力と提案力（ビデオ教材）	市場調査と企画力 ・定量定性調査の注意点 ・ブランド商品の販売例 ・卒論への応用
10	プロジェクトベースラーニング（PBL）-1 広告代理店の事例 大学をプロデュースするには	社会人講話 ・広告業界の現状 ・傾聴スキル ・課題発見力
11	プロジェクトベースラーニング（PBL）-2 学生日線が採用担当者を変える	社会人講話 ・企業人事部の課題 ・採用市場と戦略の分析 ・学生視点の問題提起
12	チームビルディング 企業研修型ワークショップ（一部英語で実施）	事例研究 ・女性総合職の問題 ・女性のキャリア事例 ・リーダーの役割
13	課題レポート&プレゼンテーション-2 法政大学の実践知とは 総長への提言	良いレポートの事例紹介 ・文学的表現力 ・社会的表現力 ・真の個性あるレポートとは
14	プロジェクトベースラーニング（PBL）-3 課題発表 社会への発信	企業へのプレゼンテーション ・課題解決力 ・プレゼンテーション力 ・ゲスト企業からの講評

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・グループ別に授業外での活動があります。定量調査（質問票調査）、定性調査（企業訪問調査）では相当量の作業を求めます。
・統計学や社会調査の素養があると有効です。

*春学期「就業応用力養成Ⅰ」の履修が望ましいですが、事前知識がなくとも、高い目標に挑戦する意欲があれば全力で指導します。但し、他者と協働して自分を成長させたい強い意志とクラスメートへの配慮（チームワークへの貢献）は必須です。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定はありません。必要な資料は毎回教員が配布します。

【参考書】

授業のなかで紹介します。

【成績評価の方法と基準】

成績配点
・受講態度（発言数・発言内容） ⇒ 30点
・毎回の小レポート（リアクション・ペーパー） ⇒ 30点
・グループワークでの貢献度 ⇒ 30点
・期末レポート ⇒ 10点

上記配点は原則として加点方式で行います。

授業ルール（初回授業で配付）違反は減点または即時評価外となります。この他に、1000～2000字程度のレポートを課す場合がありますが、その内容は上記配点にプラスアルファとして加点します。

総合評点が60点以上を合格とします。（欠席が3回以上の者は成績評価対象外）
*遅刻厳禁、私語、居眠りは退席を命じます。

【学生の意見等からの気づき】

他学部学生とのディスカッションから学ぶことが多いとのことで、グループワークを重視します。

特に公開授業のメリットを最大限に活かし、学生所属の各学部の知見をレポート&プレゼンで他学生に説明する方式は、他科目のリアクションペーパー、レポート、論文、更に就職活動のエントリーシートへの書き方にも役立つとのことです。

*全学部対象なので、様々な学部の学生を歓迎します。

楽単ではありませんし、甘い採点もしませんが、社会で必ず役立つ力を教えます。

【学生が準備すべき機器他】

特にありませんが、授業支援システムを活用します。レポート&プレゼンがあるので、ワード、パワーポイントは必須スキルです。大学用意のPCを理由すれば結構です。

【その他の重要事項】

法政大学オリジナルの「実践知育成授業」を目指します。文化部・運動部等、大学公式活動に関わる者には事前にヒアリングして配慮します。

*全学部対象なので、様々な学部の学生を歓迎します。

楽単ではありませんし、甘い採点もしませんが、社会で必ず役立つ力を教えます。

▼実務経験のある教員による授業

担当教員は、日米企業での人事採用能力開発経験者であり、授業における行動基準は社会で求められるビジネスマナーを重視、レポートの評価基準も社会で通用する論理的な文章を指導します。

【Outline (in English)】

"Practical Wisdom for Freedom" Hosei University advocates which survives freedom is mastered at this session.

Everyone understands a social problem and learns new how to work and lifestyle necessary to future society through the practice which is analyzed and proposed.

I pick a social problem (the transformation ability from which handle to social change and a university in population low birthrate society are asked in particular) out and propose specifically as practice of an academic skills.

・ There are activities outside the class for each group. Quantitative surveys (questionnaire surveys) and qualitative surveys (company visit surveys) require a considerable amount of work.

・ It is effective if you have a background in statistics and social research.

* Even if you do not have prior knowledge, if you are willing to challenge high goals, we will do our best to guide you.

However, a strong will to collaborate with others and give consideration to classmates (contribution to teamwork) is essential. The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each.

Grade score

・ Attendance attitude (number of remarks / content of remarks) ⇒ 30 points

・ Every small report (reaction paper) ⇒ 30 points

・ Contribution in group work ⇒ 30 points

・ Term-end report ⇒ 10 points

As a general rule, the above points will be added.

Violations of class rules (distributed in the first class) will not be deducted or evaluated immediately.

In addition to this, we may impose a report of about 1000 to 2000 characters, but the content will be added as a plus alpha to the above points.

A passing score of 60 or higher is considered as a pass.

(People who are absent 3 times or more are not eligible for grade evaluation)

* Strictly forbidden to be late, private language, and dozing will order you to leave.

LANk200LA

朝鮮語 4 C - I

2017 年度以降入学者

富所 明秀

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 2/Mon.2

単位数：1 単位

定員制 (30 名) /2022 年度までに「朝鮮語 3 C - I」の単位を修得済みの場合、履修不可

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

朝鮮語 1・2 で学んだ文法の知識を生かして、自分の言いたいことを朝鮮語で口頭発表できるようにすることがこの授業の目的です。そのために語彙を増やし、教科書にある会話を正確な発音で言えるようにします。

【到達目標】

まず教科書にある会話を文法的に理解したうえで、これを正確な発音で話すことができ、また自分の言いたいことに置き換えることができるようにすることが目標となります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

【授業の進め方と方法】

授業開始時に筆記と口述の小テストを実施します。それから教科書の文法事項と語句を学び、次回的小テストに備えて会話文の発音の練習を行います。

オンライン授業は録画をしますので、繰り返し視聴することが可能です。

またオンライン授業終了後に個別に質問する時間を設けますので、わからないところがあれば遠慮なく質問してください。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】
なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	第 1 課	理由を表す語尾①
2	第 2 課	形容詞・指定詞の連体形
3	第 3 課	動詞・存在詞の連体形
4	第 4 課	逆接を表す語尾
5	第 5 課	未来連体形
6	第 1 課～第 5 課の復習	第 1 課～第 5 課の復習
7	第 6 課	「～したことがある」 「～することにする」
8	第 7 課	理由を表す語尾②
9	第 8 課	婉曲を表す語尾
10	第 9 課	「～し始める」 「～するなり」
11	第 10 課	「～しましょうか」
12	第 6 課～第 10 課の復習	第 6 課～第 10 課の復習
13	期末試験	筆記試験
14	期末試験	口述試験

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

授業では毎回筆記と口述の小テストを実施しますので、必ず復習してください。

授業の復習に要する時間は 40 分を標準としていますが、期末試験の口述試験のための原稿作成、筆記試験の準備には別途時間を要します。

【テキスト (教科書)】

『基礎から学ぶ韓国語講座中級改訂版』木内明著、国書刊行会、2015 年

【参考書】

『しくみで学ぶ初級朝鮮語改訂版』、内山政春著、白水社

【成績評価の方法と基準】

小テスト 30%

期末試験 70%

※小テスト、期末試験共に口述試験だけでは緊張してしまう人もいることを考慮し、それぞれ筆記試験も実施します。

【学生の意見等からの気づき】

音声教材の活用

【その他の重要事項】

・第 1 回の授業までに Hoppii に登録してください。お知らせやプリントを配布しますので、Hoppii はこまめにチェックしてください。
・感染症や忌引きで小テストを受けられない場合は欠席した翌週に追試を受けられます。登校時 (欠席した翌週) の授業開始前に証明書を提出のうえ追試を申し出てください。

・5 回の欠席で評価対象外とします。3 回の遅刻で 1 回欠席としてカウントします。

・感染症などの公欠はこれに該当しません。

・シラバスは進捗状況によって変更される場合があります。

【Outline (in English)】

The purpose of this class is to make use of the knowledge of grammar learned in Korean 1 and 2 to be able to verbally present what you want to say in Korean. For that purpose, we will increase our vocabulary so that we can say the conversational sentences in the textbook with accurate pronunciation.

【Learning Objectives】

The goal is to first understand the grammar of the conversations in the textbook, then to be able to speak them with correct pronunciation and to be able to replace them with what you want to say.

【Learning activities outside of classroom】

There will be written and oral quizzes every class, so be sure to review them.

The standard time required for reviewing classes is 40 minutes, but extra time is required to prepare manuscripts for the oral examination of the final exam and to prepare for the written examination.

【Grading Criteria /Policy】

Quiz 30%

Final exam 70%

* Considering that some students may get nervous just by taking the oral exam for both the quiz and the final exam, we will also conduct a written exam for each.

LANk200LA

朝鮮語 4 C - II

2017 年度以降入学者

富所 明秀

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 2/Mon.2
 単位数：1 単位
 定員制（30 名）/2022 年度までに「朝鮮語 3 C - II」の単位を修得済みの場合、履修不可
 その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

春学期に引き続き、朝鮮語 1・2 で学んだ文法の知識を生かして、自分の言いたいことを朝鮮語で口頭発表できるようにすることがこの授業の目的です。そのために語彙を増やし、教科書にある会話を正確な発音で言えるようにします。

【到達目標】

まず教科書にある会話を文法的に理解したうえで、これを正確な発音で話すことができ、また自分の言いたいことに置き換えることができるようにすることが目標となります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

授業開始時に筆記と口述の小テストを実施します。それから教科書の文法事項と語句を学び、次回的小テストに備えて会話文の発音の練習を行います。

オンライン授業は録画をしますので、繰り返し視聴することが可能です。

またオンライン授業終了後に個別に質問する時間を設けますので、わからないところがあれば遠慮なく質問してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	第 11 課	「～したらいいんだけど」 「～のために」
2	第 12 課	「～するとき」 「～したとき」
3	第 13 課	「～したと」 「～するように」
4	第 14 課	「～くなる」 「～すれば～するほど」
5	第 15 課	「～して以来」 「～なんですよ」
6	第 11 課～第 15 課の復習	復習
7	第 16 課	「～ように見える」「～するようだ」
8	第 17 課	「～なのか」 「～そうです」
9	第 18 課	「～してから」 「～しておく」
10	第 19 課	「～しろと言う」 「～するなと言う」
11	第 20 課	「～するなりすぐ」 「～するつもりだから」
12	第 16 課～第 20 課の復習	復習
13	期末試験 筆記	期末試験 筆記
14	期末試験 口述	期末試験 口述

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業では毎回筆記と口述の小テストを実施しますので、必ず復習してください。

授業の復習に要する時間は 40 分を標準としていますが、期末試験の口述試験のための原稿作成、筆記試験の準備には別途時間を要します。

【テキスト（教科書）】

『基礎から学ぶ韓国語講座中級改訂版』木内明著、国書刊行会、2015 年

【参考書】

『しくみで学ぶ初級朝鮮語改訂版』、内山政春著、白水社

【成績評価の方法と基準】

小テスト 30%
 期末試験 70%
 ※小テスト、期末試験共に口述試験だけでは緊張してしまう人もいることを考慮し、それぞれ筆記試験も実施します。

【学生の意見等からの気づき】

音声教材の活用

【その他の重要事項】

- ・第 1 回の授業までに Hoppii に登録してください。お知らせやプリントを配布しますので、Hoppii はこまめにチェックしてください。
- ・感染症や忌引きで小テストを受けられない場合は欠席した翌週に追試を受けられます。登校時（欠席した翌週）の授業開始前に証明書を提出のうえ追試を申し出てください。
- ・5 回の欠席で評価対象外とします。3 回の遅刻で 1 回欠席としてカウントします。
- ・感染症などの公欠はこれに該当しません。
- ・シラバスは進捗状況によって変更される場合があります。

【Outline (in English)】

Continuing from the spring semester, the purpose of this class is to make use of the knowledge of grammar learned in Korean 1 and 2 to be able to verbally present what you want to say in Korean. For that purpose, we will increase our vocabulary so that we can say the conversational sentences in the textbook with accurate pronunciation.

【Learning Objectives】

The goal is to first understand the grammar of the conversations in the textbook, then to be able to speak them with correct pronunciation and to be able to replace them with what you want to say.

【Learning activities outside of classroom】

There will be written and oral quizzes every class, so be sure to review them.

The standard time required for reviewing classes is 40 minutes, but extra time is required to prepare manuscripts for the oral examination of the final exam and to prepare for the written examination.

【Grading Criteria /Policy】

Quiz 30%
 Final exam 70%

* Considering that some students may get nervous just by taking the oral exam for both the quiz and the final exam, we will also conduct a written exam for each.

MAT200XE

数論

安田 幹

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業のテーマは整数論です。到達目標は、1. 初等整数論として整数の基本的な性質を理解する、2. 初等整数論の一般化としてガウス整数や多項式環の基本的な性質を理解する、です。これらを通して、抽象的な数学概念を具体的な対象に適用する能力を修得します。また初等整数論の情報工学（情報セキュリティ）への応用としてRSA暗号を学びます。

【到達目標】

前半の授業では、初等整数論として、倍数と約数、ユークリッドの互除法、一次不定方程式、素因数分解、合同と剰余類、一次合同式、オイラーの定理、フェルマーの小定理、RSA暗号への応用を学びます。後半の授業では、初等整数論の一般化のための抽象代数学への入門として、ガウス整数や多項式などの可換環を学びます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

対面授業を基本としますが、新型コロナウイルスの感染状況および皆さんの希望を考慮しながら、必要に応じて、オンライン授業やオンライン学習を取り入れる予定です。オンライン学習の回は「学習支援システム」を通じて行う予定です。オンライン学習は講義資料の配布による自習形式を予定しています。
・適宜、小レポートを出題します。
・毎回、リアクションペーパー（形式自由の感想文）を提出して下さい。
・質問やコメント、その他リアクションペーパーに書かれた良い意見等は、問題の無い範囲で紹介し（誤記や誤問などの指摘は速やかに公開して訂正します）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	初等整数論の基礎	初等整数論の概要、約数、倍数、公約数、公倍数について学びます。
2	ユークリッドの互除法	ユークリッドの互除法について学びます。
3	一次不定方程式	一次不定方程式とその解法について学びます。
4	合同と剰余類	合同と剰余類、一次合同式とその解法について学びます。
5	連立一次合同式と中国剰余定理	連立一次合同式とその解法、中国剰余定理について学びます。
6	オイラーφ関数とオイラーの定理	オイラーφ関数とオイラーの定理について学びます。
7	素数と素因数分解	素数とその性質、素因数分解について学びます。
8	フェルマーの小定理の一般化とRSA暗号	フェルマーの小定理の一般化とRSA暗号について学びます。
9	ガウス整数の割り算	ガウス整数の定義と割り算について学びます。
10	ガウス整数の素因数分解	ガウス整数の素因数分解について学びます。
11	多項式の割り算と因数分解	一変数有理係数多項式の割り算と因数分解について学びます。
12	可換環	可換環の定義と例について学びます。
13	演習	演習を行います。
14	授業のまとめ	講義内容の復習とまとめを行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とします】前回までの講義内容を復習し理解しておいて下さい。適宜、演習問題を中心とした小レポート課題を実施します。小レポートの答えは次回の授業までに提出して下さい。クラスの到達度を見ながら、必要に応じて応用問題を中心とした追加レポートを実施します。また必要に応じて応用問題を中心とした最終レポートを実施します。

【テキスト（教科書）】

テキストは特に指定しません。担当教員が作成した印刷物を配布します。

【参考書】

代数学Ⅰ 群と環、桂利行、東京大学出版会
群論への30講、志賀浩二、朝倉書店

【成績評価の方法と基準】

小レポートの得点（50%）および期末試験の得点（50%）を基本として合格・不合格の評価を行います。必要に応じて実施する追加レポートおよび最終レポートは、合格者を対象に、小レポートおよび期末試験それぞれの満点を越えない範囲でそれぞれ加点します。

【学生の意見等からの気づき】

定義・定理・証明もきちんと行いますが、学生の皆さんが実際に問題が解けるようになり情報工学に活用できるスキルが身に付くような授業内容となるよう努めます。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

特になし。

【Outline (in English)】

(Course outline)

This class is on number theory. The goals are: 1) to learn basic properties of integers, which are usually taught as "elementary number theory," and 2) to learn definitions and properties of Gaussian integers and the ring of polynomials, which are usually taught as the generalization of elementary number theory. We improve our skills on how to apply abstract, mathematical concepts to concrete contents. Also, as an application of elementary number theory to engineering (information security) we learn RSA encryption algorithm.

(Specific goals)

In the first half of the course, from the perspective of elementary number theory, we learn multiples, divisors, Euclidean algorithm, linear Diophantine equations, integer factorization, congruence and remainders, linear congruence equations, Euler's theorem, Fermat's little theorem, and application to RSA encryption.

In the second half, we learn an introduction to abstract algebra, focusing on commutative rings such as the ring of Gaussian integers and that of polynomials as the generalization of elementary number theory.

(Work to be done outside class)

One should expect about 4 hours for preparation for the next class and review of the previous one. Please review thoroughly and understand fully the contents of previous lectures. When considering appropriate, we shall carry out assignments (which we call "small reports") consisting of exercises. Please submit your reports (papers) by the next class. Depending on the achievement of the class, if needed, we may carry out additional reports (optional) focusing on more applied (advanced) problems. In addition, if necessary, we may carry out a final report (again, optional) consisting of applied problems.

(Grading criteria/policy)

Pass / fail shall be determined based on the scores of the small reports (50%) and the score of the final exam (50%). The additional and final reports, which may be conducted as needed, shall be added to the scores of those who have passed, within the ranges that do not exceed the full marks of the small reports and the final exam.

COT200XE

プログラミング言語 J A V A

藤浦 豊徳

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

このクラスでは、Web アプリケーションから組み込みアプリケーションまで幅広く使用されている、オブジェクト指向プログラミング言語である Java 言語について学習します。今日用いられるほとんどのプログラミング言語はオブジェクト指向です。したがって、本講義から得られた知識は、多くのプログラミング言語の学習や、プログラムの理解に活用できます。

【到達目標】

- ・オブジェクト指向に基づいた基礎的な Java アプリケーションのソースコードを理解・修正できる
- ・新たな Java アプリケーションを独力で設計およびソースコードを記述できる
- ・Java を用いてインターネット上のデータを扱うことができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

講義は、大きく、前半と後半の二つに分けられます。前半では、プログラムの作成に必要なオブジェクト指向の概念、および文字列処理や日付処理などの Java 言語固有の内容 (JavaSE API) を学びます。

Java の言語仕様を、教科書に沿ったいくつかのテーマに分けて学びます。その上でテーマを踏まえた演習プログラムの完成を目指すことにより、理解を深めます。

後半では、前半で学んだ知識を活用し、インターネット上にあるデータを題材とし、Java を用いて取得・加工する方法を学びます。

まず、インターネット上にある REST API を活用したデータの取得方法を理解します。次にそのデータの構造を理解するとともに、Java における取り扱い方法を学びます。その後、必要なデータを取得するアプリケーションの完成を目指します。アプリケーションの完成に必要な各構成要素を講義内の演習や課題として作成し、その解説を行うことで講義を進めていきます。

各講義の終わりには復習のための宿題を課します。次回までに提出してください。

フィードバックは学習支援システムなどを通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	授業の概説・開発環境の準備・システムの利用ガイド	授業内容の説明、各自 PC の開発環境の整備、学習支援システムの使い方、簡単な演習を実施
第 2 回	基本的な書き方	Java の基本的な記法、および、クラスとメソッドの概要を理解するとともに、その書き方を習得
第 3 回	型	型として、プリミティブ型と参照型があることを理解する。クラスの作り方と、クラスの性質を理解することで、その使い方を習得
第 4 回	配列とコレクション	複数のデータを扱う方法として、配列、List、Map 等を理解することで、その使い方を習得
第 5 回	ストリーム処理	大量データを逐次処理するストリーム処理を効率的に記述する方法について、理解を深める

第 6 回 例外

例外として、検査例外、実行時例外、エラーがあることを理解することで、try-catch 構文を理解し適切に補足する方法を習得

第 7 回 文字列

文字列の操作方法と文字コードの概要を理解することで、文字列操作方法を習得

第 8 回 日付処理

日付の扱い方を理解・習得

第 9 回 ファイル操作とデータ形式

ディスクにあるテキストファイルの読み込み方を理解する。また、テキストファイルのデータ形式について理解する

第 10 回 構造化データ JSON によるネットワークからの情報取得

JSON の各ファイル形式の概要を理解する。その上で、JSON ファイルの読み込み方を習得する。外部から HTTP で取得したデータを jackson(databind) を用いて取得する方法を理解し、習得する

第 11 回 構造化データとオブジェクト

市中にある JSON API の構造を理解するとともに、構造とクラスの対応付けを理解する。市中にある JSON API からデータを取得するとともに、必要な情報を抽出するアプリケーションを作る

第 12 回 構造化データとオブジェクト

Java オブジェクトのシリアライズについて理解し、JSON データとの関係を理解する

第 13 回 これまでの復習

ここまで学習した内容の復習

第 14 回 さまざまなプログラミング言語と、その歴史・特徴。

プログラミング言語の歴史と、現在用いられることが多いプログラミング言語の概要

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】
毎回の授業で課される宿題を提出すること。

【テキスト（教科書）】

「Java 本格入門」 谷本心、阪本雄一郎、岡田拓也、秋葉誠、村田賢一郎 著、Acroquest Technology 株式会社 監修 技術評論社発行 2980 円

【参考書】

指定しない

【成績評価の方法と基準】

期末試験を実施できる場合

・授業の内容を理解していることを確認するための期末試験 (50%)
・ソースコードの修正・独力で作成を確認するための授業後のレポート課題 (50%)

期末試験を実施できない場合

・ソースコードの修正・独力で作成を確認するための授業後のレポート課題 (100%)

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

本講義および演習では、Eclipse という統合開発環境を用いて、プログラムを作成します。大学から貸与されているノート PC を必ず毎回各自持参してください。なお、他学科からの履修などの理由で、PC に Eclipse がインストールされていない場合があります。第一回の授業でフォローする予定ですが、できれば授業開始までに Eclipse をインストールしておくことをお勧めします。

<https://mergedoc.osdn.jp/>

<https://www.eclipse.org/>

Eclipse が動く PC であれば、大学から貸与されたノート PC でなくともかまいません。また、この場合には Windows でなくともかまいません。

演習と宿題の提出には授業支援システムを利用します。

【その他の重要事項】

本講義では、C 言語などで手続き型言語を学んだことがあり、C++ 言語などでオブジェクト指向の概要を理解していることを前提とします。

企業において、社内のソフトウェア開発業務を支援している研究者が、開発現場で用いられている Java 言語の基礎について講義するとともに、簡単なプログラミングを行います。講義の終盤では、近年よく用いられている他の言語について、概要を講義する予定です。オンライン授業の方法や授業計画の変更、成績評価方法の変更などについては、学習支援システムでその都度提示する。担当教員から学習支援システムを通じた連絡がないか、日ごろからよく確認するようにしてください。

【Outline (in English)】

【授業の概要 (Course outline)】

In this class, you learn about the Java language, an object-oriented programming language that is widely used from Web applications to embedded applications.

Most programming languages today are object-oriented. Therefore, the knowledge gained from this lecture can be applied to learning other programming languages.

【到達目標 (Learning Objectives)】

- ・ Understand and modify the source code of basic Java applications based on object oriented.
- ・ You can design new Java applications and write source code by yourself.
- ・ Data on the Internet can be handled using Java.

【授業時間外の学習 (Learning activities outside of classroom)】

You must submit the homework required for each class.

【成績評価の方法と基準 (Grading Criteria /Policy)】

When taking a final exam

- ・ Final exam to confirm that you understand the lesson. (50%)
- ・ Post-class report assignment to confirm the correction and the creation of the source code by yourself.(50%)

If we do not or cannot take the final exam

- ・ Post-class report assignment to confirm the correction and the creation of the source code by yourself.(100%)

COT200XE

プログラミング言語 J A V A

藤浦 豊徳

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

このクラスでは、Web アプリケーションから組み込みアプリケーションまで幅広く使用されている、オブジェクト指向プログラミング言語である Java 言語について学習します。今日用いられるほとんどのプログラミング言語はオブジェクト指向です。したがって、本講義から得られた知識は、多くのプログラミング言語の学習や、プログラムの理解に活用できます。

【到達目標】

- ・オブジェクト指向に基づいた基礎的な Java アプリケーションのソースコードを理解・修正できる
- ・新たな Java アプリケーションを独力で設計およびソースコードを記述できる
- ・Java を用いてインターネット上のデータを扱うことができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

講義は、大きく、前半と後半の二つに分けられます。前半では、プログラムの作成に必要なオブジェクト指向の概念、および文字列処理や日付処理などの Java 言語固有の内容 (JavaSE API) を学びます。

Java の言語仕様を、教科書に沿ったいくつかのテーマに分けて学びます。その上でテーマを踏まえた演習プログラムの完成を目指すことにより、理解を深めます。

後半では、前半で学んだ知識を活用し、インターネット上にあるデータを題材とし、Java を用いて取得・加工する方法を学びます。

まず、インターネット上にある REST API を活用したデータの取得方法を理解します。次にそのデータの構造を理解するとともに、Java における取り扱い方法を学びます。その後、必要なデータを取得するアプリケーションの完成を目指します。アプリケーションの完成に必要な各構成要素を講義内の演習や課題として作成し、その解説を行うことで講義を進めていきます。

各講義の終わりには復習のための宿題を課します。次回までに提出してください。

フィードバックは学習支援システムなどを通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	授業の概説・開発環境の準備・システムの利用ガイド	授業内容の説明、各自 PC の開発環境の整備、学習支援システムの使い方、簡単な演習を実施
第 2 回	基本的な書き方	Java の基本的な記法、および、クラスとメソッドの概要を理解するとともに、その書き方を習得
第 3 回	型	型として、プリミティブ型と参照型があることを理解する。クラスの作り方と、クラスの性質を理解することで、その使い方を習得
第 4 回	配列とコレクション	複数のデータを扱う方法として、配列、List、Map 等を理解することで、その使い方を習得
第 5 回	ストリーム処理	大量データを逐次処理するストリーム処理を効率的に記述する方法について、理解を深める

第 6 回 例外

例外として、検査例外、実行時例外、エラーがあることを理解することで、try-catch 構文を理解し適切に補足する方法を習得

第 7 回 文字列

文字列の操作方法と文字コードの概要を理解することで、文字列操作方法を習得

第 8 回 日付処理

日付の扱い方を理解・習得

第 9 回 ファイル操作とデータ形式

ディスクにあるテキストファイルの読み込み方を理解する。また、テキストファイルのデータ形式について理解する

第 10 回 構造化データ JSON によるネットワークからの情報取得

JSON の各ファイル形式の概要を理解する。その上で、JSON ファイルの読み込み方を習得する。外部から HTTP で取得したデータを jackson(databind) を用いて取得する方法を理解し、習得する

第 11 回 構造化データとオブジェクト

市中にある JSON API の構造を理解するとともに、構造とクラスの対応付けを理解する。市中にある JSON API からデータを取得するとともに、必要な情報を抽出するアプリケーションを作る

第 12 回 構造化データとオブジェクト

Java オブジェクトのシリアライズについて理解し、JSON データとの関係を理解する

第 13 回 これまでの復習

ここまで学習した内容の復習

第 14 回 さまざまなプログラミング言語と、その歴史・特徴。

プログラミング言語の歴史と、現在用いられることが多いプログラミング言語の概要

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】毎回の授業で課される宿題を提出すること。

【テキスト（教科書）】

「Java 本格入門」 谷本心、阪本雄一郎、岡田拓也、秋葉誠、村田賢一郎 著、Acroquest Technology 株式会社 監修 技術評論社発行 2980 円

【参考書】

指定しない

【成績評価の方法と基準】

期末試験を実施できる場合

・授業の内容を理解していることを確認するための期末試験 (50%)
・ソースコードの修正・独力での作成を確認するための授業後のレポート課題 (50%)

期末試験を実施できない場合

・ソースコードの修正・独力での作成を確認するための授業後のレポート課題 (100%)

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

本講義および演習では、Eclipse という統合開発環境を用いて、プログラムを作成します。大学から貸与されているノート PC を必ず毎回各自持参してください。なお、他学科からの履修などの理由で、PC に Eclipse がインストールされていない場合があります。第一回の授業でフォローする予定ですが、できれば授業開始までに Eclipse をインストールしておくことをお勧めします。

<https://mergedoc.osdn.jp/>

<https://www.eclipse.org/>

Eclipse が動く PC であれば、大学から貸与されたノート PC でなくともかまいません。また、この場合には Windows でなくともかまいません。

演習と宿題の提出には授業支援システムを利用します。

【その他の重要事項】

本講義では、C 言語などで手続き型言語を学んだことがあり、C++ 言語などでオブジェクト指向の概要を理解していることを前提とします。

企業において、社内のソフトウェア開発業務を支援している研究者が、開発現場で用いられている Java 言語の基礎について講義するとともに、簡単なプログラミングを行います。講義の終盤では、近年よく用いられている他の言語について、概要を講義する予定です。オンライン授業の方法や授業計画の変更、成績評価方法の変更などについては、学習支援システムでその都度提示する。担当教員から学習支援システムを通じた連絡がないか、日ごろからよく確認するようにしてください。

【Outline (in English)】

【授業の概要 (Course outline)】

In this class, you learn about the Java language, an object-oriented programming language that is widely used from Web applications to embedded applications.

Most programming languages today are object-oriented. Therefore, the knowledge gained from this lecture can be applied to learning other programming languages.

【到達目標 (Learning Objectives)】

- ・ Understand and modify the source code of basic Java applications based on object oriented.
- ・ You can design new Java applications and write source code by yourself.
- ・ Data on the Internet can be handled using Java.

【授業時間外の学習 (Learning activities outside of classroom)】

You must submit the homework required for each class.

【成績評価の方法と基準 (Grading Criteria /Policy)】

When taking a final exam

- ・ Final exam to confirm that you understand the lesson. (50%)
- ・ Post-class report assignment to confirm the correction and the creation of the source code by yourself.(50%)

If we do not or cannot take the final exam

- ・ Post-class report assignment to confirm the correction and the creation of the source code by yourself.(100%)

MAT200XG

複素関数論

西村 滋人

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

微積分で学んだ実変数の三角関数、指数関数等を複素変数に拡張するところから始めて、複素関数の微分や積分について学ぶ。とくに応用上大切な有理関数の積分について、負冪を許して冪級数に展開し、閉曲線に沿って項別積分することによって、積分の計算が留数の計算に帰着されることを示す。

【到達目標】

- (1) 複素初等関数の取り扱いに習熟する。
- (2) 留数を計算して複素関数の積分を求めることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

講義

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	複素数の定義と四則演算	複素数の取り扱いについての簡単な復習。
2	複素指数関数	指数関数の複素変数への拡張。
3	複素三角関数	三角関数の複素変数への拡張。
4	対数関数と無理関数	対数関数の複素変数への拡張。
5	Cauchy-Riemann の方程式	複素微分可能性が複素関数の実部と虚部に課す制約の説明。
6	複素積分	複素関数の積分が複素平面上の線積分として導入されることの説明。
7	コーシーの積分定理	閉曲線に沿った積分が零になるための条件の考察。
8	コーシーの積分表示	積分定理から導かれる正則関数およびその導関数の積分表示式の説明。
9	整級数展開	正則関数のテイラー級数展開、ならびに負冪を許したローラン級数の導入。
10	一致の定理	整級数展開についての補足。関数関係不変の原理。
11	特異点	ローラン級数の主要部の考察。除去可能特異点、極、真性特異点の特徴づけ。
12	留数定理	留数の求め方と複素積分の計算。
13	複素積分の応用	有理関数の無限積分など実積分の計算への応用。
14	期末試験・まとめと解説	講義内容の理解の評価。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】計算練習は十分な量を各自でこなしておくこと。

【テキスト（教科書）】

使用しない。

【参考書】

指定しない。

【成績評価の方法と基準】

学力試験 100 %

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【Outline (in English)】

(Course outline)

In this course we will learn differentiation and integration of functions in one complex variable.

(Learning Objectives)

By the end of the course, students should be able to do the followings:

- (1) to be capable of performing basic operations on complex functions, and
- (2) to master the method of residues.

(Learning activities outside of classroom)

After each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

(Grading Criteria)

Term-end examination:100%.

MAT200XB

応用数学（機械）

平野 利幸

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

理工学で基本的な常微分方程式を解くときに必要になる変数分離・変数変換・ラプラス変換・ヘビサイドの演算法・ミクシンスキーの演算法などによる方法の導出・計算を、例題を使って講義する。授業内小テストをおこない、学生に解の計算、並びに、解法の導出をさせて、自らの解の計算力、解法の導出力を吟味させることによって、習得の程度を把握させて、常微分方程式に関する解法のテクニックを習得させる。

【到達目標】

学生が、理工学で基本的な微分方程式を解くための計算を容易にできるようにする。学生が理工学で基本的な微分方程式の解法の導出をできるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

理工学で基本的な微分方程式の解法の導出並びに計算方法を例題を使って講義する。基本的な微分方程式の計算問題、解法の導出問題を授業内小テストとして解かせて提出させる。適時、提出された課題に対してフィードバックを行う。適時、学習等の実施内容に対してフィードバックを行う。適時、質疑によって受講生の疑問にフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	微分方程式とその解	微分方程式の解の分類と与えられた関数の満たす常微分方程式を求めることについて講義する
第 2 回	変数分離形・同次形	変数分離形・同次形の微分方程式の求積解法について講義する
第 3 回	完全微分方程式	微分形式の微分方程式が完全である条件と求積解法について講義する
第 4 回	1 階線形微分方程式	ベルヌイの微分方程式の求積解法リッカチの微分方程式の求積解法について講義する
第 5 回	1 階線形微分方程式	ダランベールの微分方程式の求積解法クレローの微分方程式の求積解法について講義する
第 6 回	2 階線形微分方程式	同次形の求積解法について講義する
第 7 回	2 階線形微分方程式	非同次形の求積解法について講義する
第 8 回	ラプラス変換の計算法則・ラプラス変換の線形性、相似性、移動法則	ラプラス変換の線形性、相似性、移動法則について、講義する
第 9 回	ラプラス変換の計算法則・ラプラス変換に関する微分法則、積分法則	ラプラス変換に関する微分法則、積分法則について講義する
第 10 回	ラプラス変換の計算法則・合成積、不連続関数のラプラス変換	合成積、不連続関数のラプラス変換について講義する

第 11 回	ラプラス変換の計算法則・逆ラプラス変換並びに部分分数	逆ラプラス変換並びに部分分数について講義する
第 12 回	ラプラス変換の計算法則・ヘビサイドの展開	ヘビサイドの展開について講義する
第 13 回	ヘビサイドの演算子	ヘビサイドの演算子の算術について講義する
第 14 回	ヘビサイドの演算子法	ヘビサイドの演算子法の微分方程式への応用 式への応用について講義する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】
授業、テキスト、配布したプリントの内容で、わからないことがあったならば、紹介した参考書・その他も援用して、次週の授業までに質問事項などとしてまとめておくこと。

【テキスト（教科書）】

・応用微分方程式 平松豊一・長坂建二 共著 日新出版（2000年）
本体 2600円

【参考書】

・初等応用解析 安藤四郎・長坂建二・平野鉄太郎 日新出版（1991年）

【成績評価の方法と基準】

期末テスト 90%、授業内演習 10%で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

授業内小テストの時間を十分とりたい。

【Outline (in English)】

The aim of our course is to help students acquire the necessary knowledge and skills to solve ordinary differential equations, by the methods of separation of variables, changing of variables, power series and so on. In our course, we give participants the mathematical exercises to calculate the solutions by hand. And our course also deal with the ordinary differential equations in the introduction to mathematical physics. The goals of this course are to deduce the general solution formula of ordinary differential equations and to be able to solve exercises of ordinary differential equation problems easily. Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than two hours for a class experiment. Your overall grade in the class decided based on the following
Term-end examination: 90%, Short reports 10%.

MAT200XB

応用解析（機械）

未定

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

理工学で基本的な偏微分方程式の境界値・初期値問題の解法を数学サイドから講義する。解くために必要になる数学的な方法の導出、例題を使っての問題の解の算出法について講義する。特にフーリエ級数による解法を重点的に扱う。授業内小テストをおこない、学生に自分の解の計算力、解法の導出力を自ら吟味させることによって、習得の程度を把握させて、理工学における基本的な偏微分方程式の境界値・初期値問題に関する解法のテクニックを習得させる。

非対面授業について。Zoomによる講義、並びに、授業教材を授業支援システムにアップロードすることで、本学期的授業は始まる。テキストと授業教材（レジメ）を参考に第一回演習問題を解いてレポート提出して下さい。質問はレポートに記して下さい。レポートはpdfヘイメーjisキャナー、スマートフォンで写真をjpgなど手書きのものをデジタル化したファイルで提出して下さい。

【到達目標】

学生が、自ら、フーリエ級数に関する計算力・応用力を向上させることができるようにする。学生が、理工学にあらわれる基本的な偏微分方程式の境界値・初期値問題を容易に解くことができるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

フーリエ級数に関する方法の導出、例題を使った計算方法等を講義する。学生にフーリエ級数についての計算、応用、解法の導出についての問題を授業内小テストで解かせて提出させる。適時、提出された課題に対してフィードバックを行う。適時、学習等の実施内容に対してフィードバックを行う。適時、質疑によって受講生の疑問にフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	周期関数	区分的に滑らかな周期 2π の関数のなす内積空間について講義する。
第2回	フーリエ係数	フーリエ係数の定義・計算、奇関数、偶関数の場合のフーリエ係数の計算について講義する。
第3回	フーリエ級数	フーリエ級数の定義、性質について講義する。
第4回	有限三角級数、ベッセルの不等式、パーセヴァルの等式	フーリエ級数の有限和の性質、ベッセルの不等式、パーセヴァルの等式について講義する。
第5回	フーリエ級数の収束	フーリエ級数の基本定理について講義する。
第6回	関数項関数	フーリエ級数などの関数項級数の一般的性質について講義する。
第7回	フーリエ級数と項別微分、項別積分	フーリエ級数の項別微分、項別積分について講義する。
第8回	一般の周期関数のフーリエ展開	一般の周期関数に関するフーリエ級数について講義する。
第9回	フーリエ余弦級数、フーリエ正弦級数	フーリエ余弦級数、フーリエ正弦級数について講義する。
第10回	波動方程式の混合問題	波動方程式の混合問題について講義する。

第11回	波動方程式の解法	波動方程式を変数分離法ならびにフーリエ級数で解くことについて講義する。
第12回	熱方程式の混合問題	熱方程式の混合問題について講義する。
第13回	熱方程式の解法	熱方程式を変数分離法ならびにフーリエ級数で解くことについて講義する。
第14回	ラプラス方程式	ラプラス方程式を変数分離法ならびにフーリエ級数で解くことについて講義する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】授業、テキスト、配布したプリントの内容で、わからないことがあったならば、紹介した参考書・その他で、次週の授業までに質問事項等としてまとめておくこと。

【テキスト（教科書）】

・応用微分方程式 平松豊一・長坂建二 共著 日新出版（2000年）
本体 2600円

【参考書】

・初等応用解析 安藤四郎・長坂建二・平野鉄太郎 共著 日新出版（1991年）

【成績評価の方法と基準】

期末テスト 90%、授業演習 10%で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

授業内小テストの時間を十分とりたい。

【Outline (in English)】

The aim of our course is to help students acquire the necessary knowledge and skills to solve the partial differential equations with the significance in the introduction to the elementary mathematical physics. In our course, we give participants the mathematical exercises to calculate the solutions by hand. Our course mainly deal with Fourier series with the applications in the introduction to mathematical physics. The goals of this course are to deduce the general solution formula of partial differential equations and to be able to solve exercises of partial differential equation problems easily. Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than two hours for a class experiment. Your overall grade in the class decided based on the following

Term-end examination: 90%, Short reports 10%.

MAT200XD

複素関数論（電気）

塚田 和美

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

変数の範囲を複素数に拡張した関数を扱う複素関数論の初歩を学ぶ。

【到達目標】

複素数の性質、複素関数、複素微分、複素積分、コーシーの積分定理と積分公式、留数定理など複素関数論の基礎的な概念や事実を理解し、基本的な計算を行えること、並びに自身の専門分野に応用できる力を身につけることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

講義と演習を組み合わせを行い、基本的な概念の理解を深めるとともに具体的な問題に応用できる能力を養う。

課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	複素数と四則演算	複素数の四則演算、共役複素数、絶対値、偏角について知る。
第 2 回	複素平面	複素数の代数的性質と複素平面の幾何的性質との対応を理解するとともに図形への応用力を養う。合わせて複素平面の領域に関する基本概念を学ぶ。
第 3 回	複素関数	多項式関数、分数関数などについて複素関数としての性質を理解し、複素関数の扱いに慣れる。
第 4 回	正則関数	複素関数の連続性や微分の定義を学ぶ。正則関数の判定条件として、コーシー・リーマンの方程式を導く。
第 5 回	基本関数の性質 (1)	指数関数、三角関数、双曲線関数について複素関数としての定義、性質を知り、正則関数であることを確認する。
第 6 回	基本関数の性質 (2)	対数関数、一般のべき関数、逆三角関数について複素関数としての定義、性質を知り、正則関数であることを確認する。
第 7 回	複素積分	複素積分の定義を理解し、計算方法を習得する。
第 8 回	コーシーの定理とその応用	正則関数に関するコーシーの積分定理を理解し、この定理を利用した積分の計算方法を習得する。
第 9 回	コーシーの積分公式	コーシーの積分公式とその拡張を学び、具体例を通じて理解を深める。
第 10 回	コーシーの積分公式の応用	コーシーの積分公式とその拡張を利用した複素積分の計算例を学び、計算方法を習得する。
第 11 回	べき級数、テイラー展開	べき級数の収束条件、正則関数のテイラー展開について知り、基本関数のテイラー展開を求める。
第 12 回	ローラン展開	孤立特異点でのローラン展開について知る。具体的な関数のローラン展開の求め方を習得する。
第 13 回	特異点と留数定理	特異点の分類、留数の導入、留数定理を知る。留数定理の応用例を学ぶ。
第 14 回	総合演習	講義の要点の復習と演習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】授業を受ける前に、教科書の対応する部分に目を通すこと。授業の復習として、授業で学んだ基本的な概念や事実について自分が納得できるように理解すること、また演習問題を実際に解いてみて理解を確認することも大切である。

【テキスト（教科書）】

複素関数論
辻良平、柳原二郎他共著
森北出版

【参考書】

授業内容に応じて、適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

複素数の性質、複素関数、複素微分、複素積分、コーシーの積分定理と積分公式、留数定理を理解し、基本的な計算方法や応用する力が身についたかどうかを期末試験で判断する。

期末試験の結果を 60 %、演習、小テスト等の平常点を 40 %程度とし、総合的に判断して評価する。

【学生の意見等からの気づき】

問題演習とその解説を効果的に実施する。

スライド、板書を効果的に使い、学生がより効率的に分かり易く理解できるよう工夫する。

【その他の重要事項】

以下のように学習支援システムを利用するので、毎回チェックすること。

- ・オンライン配信を実施する場合は、受講に必要な情報の提供
- ・授業資料の配布
- ・課題の出題および提出

【Outline (in English)】

(Course outline)

Learn the basics of the complex function theory.

(Learning Objectives)

By the end of the course, students should be able to do the followings:

- 1) Acquiring the differentiation and integration of complex functions
- 2) Understanding (complex) exponential, triangular, and logarithmic functions and their calculation
- 3) Understanding Cauchy integral formula and residue theorem, and their applications

(Learning activities outside of classroom)

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Students are encouraged to prepare for the textbook and solve the exercises (or assignments) corresponding to the previous lesson.

(Grading Criteria/Policy)

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Short reports 40%, Term-end examination 60%.

MAT200XD

応用数学（電気）

鳥飼 弘幸

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

理工系の多くの分野の基礎となる微分方程式の解法を学ぶとともに、簡単な物理現象を微分方程式を使って解析する方法について学ぶ。

【到達目標】

1. 典型的な1階微分方程式の解法を理解し、物理現象の解析への応用を理解する。
2. 定数係数線形微分方程式の解法を理解し、具体的な問題を解くことができる。
3. ラプラス変換を用いて微分方程式を解くことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

講義は座学形式で実施され、講義中に演習にも取り組む。レポートの提出も複数回ある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	微分方程式とは何か	微分方程式の導出の例や微分方程式からわかることの例を知る
第2回	1階線形微分方程式(1)	変数分離形微分方程式の解法を理解するとともにその応用を知る
第3回	1階線形微分方程式(2)	1階線形微分方程式の解の公式を導く
第4回	1階線形微分方程式(3)	完全微分方程式の解法を理解するとともにその応用を知る
第5回	定数係数2階線形微分方程式(1)	同次方程式と非同次方程式、定数係数2階線形微分方程式の解空間の構造を理解し解法的一般論を知る
第6回	定数係数2階線形微分方程式(2)	定数係数線形同次微分方程式の解法を理解する
第7回	定数係数2階線形微分方程式(3)	消去法を用いて定数係数2階微分方程式の解法を理解する
第8回	定数係数2階線形微分方程式(4)	定数変化法による定数係数2階微分方程式の解法を理解する
第9回	線形微分方程式の応用	線形微分方程式の応用を知る
第10回	ラプラス変換(1)	ラプラス変換の定義および基本性質を知る
第11回	ラプラス変換(2)	基本的な関数のラプラス変換の求め方を理解する
第12回	ラプラス変換の応用	ラプラス変換を応用した初期値問題の解法を理解する
第13回	定数係数連立線形微分方程式	定数係数連立線形微分方程式の解法に触れる
第14回	微分方程式の応用	様々な微分方程式の応用を知る

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】授業中に小テストを行う場合がある。その準備として事前に解いておくべき問題を指定するので解いておくこと。

【テキスト（教科書）】

矢野・石原共著、新装版 解析学概論、裳華房
(黄色い表紙の古い版の「矢野・石原共著、解析学概論(新版)、裳華房」も内容は同一なので使用可能)

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

期末試験(70%)と、講義中に出题されるレポート(30%)で評価を行う。単位の取得のためには、全てのレポートを提出する必要がある。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline (in English)】

(Course outline)

Differential equations are used in various fields of science and engineering. The aim of this course is to help students acquire an understanding of solving methods of differential equations and analysis methods of simple physical systems by differential equations.

(Learning objectives)

By the end of the course, students are expected to acquire following skills

- Understanding of solutions of ordinary differential equation
- Understanding of Laplace transform and its inverse

(Learning activities outside of classroom)

Before each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Moreover, additional work is expected in case the report is assigned as homework.

(Grading Criteria)

Term-end examination: 60%, In class contributions including mini exams: 40%

MAT200XD

確率統計（電気）

齊藤 利通

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

電気電子工学における各種データ処理やその理解のために、確率統計の基礎力を養成する。

【到達目標】

講義、例題、演習。

対面授業の場合は、各自の演習問題や例題への直接コメントします。オンライン授業の場合は、各自が提出した演習問題へのコメント（フィードバック）を学習支援システム（Hoppii）を通じて行います。詳細は Hoppii の記載事項を熟読してください。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

基本事項の講義、基礎問題の演習、質疑応答、節目での復習、総復習等を、学生の理解のレベルに応じて適用する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	確率関数	イントロ、ヒストグラム、基本統計量
2	確率関数	二項分布
3	確率関数	ポアソン分布
4	情報理論入門	エントロピー、ハフマンコード
5	確率密度関数	平均、分散、累積分布関数
6	確率密度関数	正規分布、中心極限定理
7	推定-検定	母集団比率、標準正規分布
8	推定-検定	母分散、 χ^2 乗分布
9	推定-検定	母平均、t 分布
10	神経回路	ニューロンモデルと学習、神経統計力学
11	相関	相関係数
12	相関	回帰直線
13	相関	主成分分析
14	総復習	重要事項のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】教科書の復習

【テキスト（教科書）】

和達、十河：キーポイント確率統計、岩波書店、ISBN4-00-007866-6

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

定期試験

【学生の意見等からの気づき】

重要な基礎事項は、学力不足の学生にも理解できるように説明する。

【Outline (in English)】

Course outline: In order to understand data processing technique and feature extracting technique in electrical and electronica engineering, this lecture studies basic concepts of probability and statistics.

Learning Objectives: Mastering basic concepts in probability and statistics.

Learning activities outside of classroom: Consideration of key concepts in probability and statistics.

Grading Criteria /Policy: Academic/technical skills evaluated in term examination.

MAT200XE

応用数学 (情報)

陸名 雄一

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

自然科学や社会科学における多くの現象が微分方程式によって表現されており、微分方程式に関する知識・解法の修得は現代科学を学ぶ者にとって欠かせないものになっている。当科目では、基本的な常微分方程式の解法を修得する。

【到達目標】

1. 常微分方程式の基本的な解法を身に付ける。
2. その実行に必要な計算力を身に付ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

講義と演習を組み合わせで行う。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	常微分方程式	常微分方程式を定義し、その意義について解説する。
第 2 回	常微分方程式の解	常微分方程式の解の存在定理について解説する。
第 3 回	変数分離形	変数分離形の解法について解説する。
第 4 回	同次形	同次形の解法について解説する。
第 5 回	一階線形	一階線形の解法について解説する。
第 6 回	完全微分形	完全微分形の解法について解説する。
第 7 回	一階微分方程式のまとめと演習	第 1 回から第 6 回までのまとめを行い、演習を実施する。
第 8 回	関数の一次独立性、線形微分方程式	関数の一次独立性について復習し、線形微分方程式を定義する。
第 9 回	定数係数齊次形の解法、線形微分方程式の解空間	定数係数齊次形の解法を解説する。線形写像のファイバーの構造定理について復習し、線形常微分方程式の解空間の構造について解説する。
第 10 回	微分演算子	微分演算子を導入し、線形微分方程式への応用について解説する。
第 11 回	逆演算子	逆演算子を導入し、線形微分方程式への応用について解説する。
第 12 回	定数変化法	定数変化法による線形常微分方程式の解法について解説する。
第 13 回	連立微分方程式・高階微分方程式・級数解法	これまでに学んだ解法を連立微分方程式や高階の微分方程式へ応用する。微分方程式の級数解法を紹介する。
第 14 回	線形微分方程式のまとめと演習	第 8 回から第 13 回までのまとめを行い、演習を実施する。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする。】一度聞いただけで数学の知識が定着することはない。講義後は復習し、さらには講義中に指示された演習問題を解く等して、計算の技術を身に付けて貰いたい。

【テキスト (教科書)】

「ドリルと演習シリーズ 応用数学」日本数学教育学会高専・大学部会教材研究グループ TAMS 編 電気書院 (2015 年, 1500 円+税)

【参考書】

相談に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

常微分方程式の基本的な解法の理解度・実践力を期末試験の成績 (60%) と提出課題 (40%) によって評価する。出席率や提出課題の提出率が低い者には、期末試験の受験を認めない。

【学生の意見等からの気づき】

学習の習慣化を促す為、演習書形式の教科書を指定することにした。

【学生が準備すべき機器他】

「学習支援システム」へのアクセスが可能な情報機器 (対面講義中の使用は想定していない)。

【その他の重要事項】

通知・資料提供等の手段として「学習支援システム」を使用し、これらの定期的確認を受講者の義務とする。確認を怠ったことによって生じる不利益については、それがどんなに深刻なものであったとしても、一切関知しない。担当教員への連絡方法を含め、授業運営の詳細については初回授業にて通知する。

【Outline (in English)】

Many phenomena in the natural and social sciences are expressed by differential equations. The acquisition of knowledge related to them is indispensable for those who study modern science.

(Goal)

By the end of the course, students should be able to do the followings:

- 1) Understanding the fundamental concepts of ordinary differential equations
- 2) Solving basic ordinary differential equations, such as variables separable, homogeneous, exact, and linear ones.

(Learning activities outside of classroom)

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

(Grading Criteria)

Your overall grade in the class will be decided based on the following: Short reports 40%, Term-end examination 60%. Those with a low attendance or report-submission rate cannot take the exam.

MAT200XE

応用解析 (情報)

陸名 雄一

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

ラプラス変換・フーリエ級数・フーリエ変換の基礎事項を概説する。基本理論の理解と併せて、微分方程式・積分方程式への応用に必要な計算力を修得する。

【到達目標】

1. ラプラス変換の基礎理論を理解し、その計算法を身に付ける。
2. フーリエ級数の基礎理論を理解し、その計算法を身に付ける。
3. フーリエ変換の基礎理論を理解し、その計算法を身に付ける。
4. これらの微分方程式・積分方程式への応用について理解し、実践できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

講義と演習を組み合わせて行う。
課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ラプラス変換の定義と性質	ラプラス変換の定義と性質について解説し、基本的な関数のラプラス変換を計算する。
第 2 回	ラプラス変換の計算	階段関数・デルタ関数・周期関数のラプラス変換を計算する。
第 3 回	ラプラス逆変換の定義と性質	ラプラス逆変換の定義と性質について解説し、基本的な関数のラプラス変換を計算する。
第 4 回	ラプラス逆変換の計算	有理関数のラプラス逆変換を計算する。
第 5 回	ラプラス変換の応用	微分方程式・積分方程式のラプラス変換による解法を解説する。
第 6 回	ラプラス変換のまとめ	第 1 回から第 5 回の内容についてまとめ、演習を実施する。
第 7 回	正規直交系	線形空間の正規直交基底について復習し、関数の正規直交系について解説する。
第 8 回	フーリエ級数の定義	フーリエ係数・フーリエ級数を定義し、基本的な関数のフーリエ級数を計算する。
第 9 回	フーリエ正弦・余弦級数、複素フーリエ級数	奇関数・偶関数のフーリエ級数を計算する。複素フーリエ級数を定義し、基本的な関数のフーリエ級数を計算する。
第 10 回	フーリエ級数の収束定理・パーセバルの等式とその応用	フーリエ級数の収束とパーセバルの等式について解説し、無限級数の計算に応用する。
第 11 回	フーリエ変換の定義	フーリエ積分・フーリエ変換を定義し、基本的な関数のフーリエ変換を計算する。
第 12 回	フーリエ変換の性質	フーリエ変換の性質について解説し、計算へ応用する。
第 13 回	フーリエ変換の収束定理・プランシュレルの等式とその応用	フーリエ級数の収束とパーセバルの等式について解説し、積分計算に応用する。フーリエ変換による偏微分方程式の解法を解説する。
第 14 回	フーリエ級数・フーリエ変換のまとめと演習	第 7 回から第 13 回の内容についてまとめ、演習を実施する。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする。】一度聞いただけで数学の知識が定着することはない。講義後は復習し、さらには講義中に指示された演習問題を解く等して、計算の技術を身に付けて貰いたい。

【テキスト (教科書)】

「ドリルと演習シリーズ 応用数学」日本数学教育学会高専・大学部会教材研究グループ TAMS 編 電気書院 (2015 年, 1500 円+税)

【参考書】

相談に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

ラプラス変換・フーリエ級数・フーリエ変換の理解度・計算力・応用力を期末試験の成績 (60%) と提出課題 (40%) によって評価する。出席率や提出課題の提出率が低い者には、期末試験の受験を認めない。

【学生の意見等からの気づき】

学習の習慣化を促す為、演習書形式の教科書を指定することにした。

【学生が準備すべき機器他】

「学習支援システム」へのアクセスが可能な情報機器 (対面講義中の使用は想定していない)。

【その他の重要事項】

通知・資料提供等の手段として「学習支援システム」を使用し、これらの定期的確認を受講者の義務とする。確認を怠ったことによって生じる不利益については、それがどんなに深刻なものであったとしても、一切関知しない。担当教員への連絡方法を含め、授業運営の詳細については初回授業にて通知する。

【Outline (in English)】

This course deals with the basic concepts of Laplace transformations, Fourier series, and Fourier transformations.

(Goal)

By the end of the course, students should be able to do the followings:

- 1) Understanding the fundamental concepts of Laplace transformations, Fourier series, and Fourier transformations.
- 2) Calculating Laplace transformations, Fourier series, and Fourier transformations for basic functions.
- 3) Applying those techniques to solve differential or integral equations. (Learning activities outside of classroom)

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

(Grading Criteria)

Your overall grade in the class will be decided based on the following: Short reports 40%, Term-end examination 60%. Those with a low attendance or report-submission rate cannot take the exam.

MAT200XF

複素関数論（経営）

中國 信孝

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

複素関数とは、複素数を変数とし、複素数値を返す関数のことである。複素関数に対しても極限を用いて微分可能性が定義されるが、特に各点で微分可能である複素関数を正則関数と呼ぶ。正則性は「各点で微分可能である」というだけの性質であるが、実数の場合と異なり実はとても強い条件であり、例えば、正則関数は各点でべき級数に展開できたり、領域の一点の近くの関数の値だけで、全体での振る舞いが決まってしまう。関数の定義域を複素数の世界にまで広げることにより、実数の世界でだけ考えていたときよりも関数の特性が明確になることも多い。例えば、煩雑であったり技巧的であったりした実関数の定積分の積分も、複素領域における特異点の情報を利用することにより、驚くほど簡単に計算できたりする。この講義では、上に述べた性質を含む複素関数の基本的かつ重要な性質を学び、複素数の一変数関数の微分積分を理解し計算できるようになりたい。

【到達目標】

- (1) 複素数の表し方と計算規則を理解する。
- (2) 有理関数、三角関数、指数関数をはじめ、基本的な複素関数の値や極限を計算できる。
- (3) 正則性、複素解析性、複素線積分、孤立特異点、留数など、基本的な用語の定義を理解する。
- (4) 講義で扱う、正則性と関係する重要な性質（コーシー・リーマンの関係式、コーシーの積分定理、コーシーの積分公式、留数定理など）を理解し、具体的な設定のもとで利用できる。
- (5) 留数定理の利用により、実関数の積分を行える。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

複素数の性質、複素関数、複素関数の微分（指数関数、三角関数、対数関数）、コーシーの積分定理と積分公式、整級数展開（テーラー展開）、ローラン展開、留数定理とその応用を主に講義する。授業は講義と演習を組み合わせる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	複素数のおさらい	高校で学んだ複素数についての復習、および、関数論の基礎を学ぶ。
第 2 回	複素数の極形式、複素数における極限	複素数の極形式、偏角の性質、ド・モアブルの定理を説明する。また、複素数における極限概念を導入する。
第 3 回	複素関数の導入、複素微分と正則性	複素関数の微分を定義し、コーシー・リーマンの方程式を導く。
第 4 回	基本的な正則関数とオイラーの公式	複素関数としての指数関数や三角関数を定義し、それらを含むいくつかの複素関数について、コーシー・リーマンの関係式を用いてその正則性を調べる。
第 5 回	複素関数の積分	線積分、複素関数の積分を定義しその計算を行う。次の回のコーシーの積分定理についての導入も行う。
第 6 回	コーシーの積分定理	正則関数の複素積分が積分路に依らないことを説明し、その応用についても説明する。
第 7 回	コーシーの積分公式	コーシーの積分公式を学び、積分路変形の原理を用いて様々な複素積分を計算できるようになったことを学ぶ。

第 8 回	べき級数と複素解析関数	べき級数の収束半径について説明し、収束円板における正則性と項別微分定理を導く。
第 9 回	複素解析関数の性質	複素解析関数について学ぶ。
第 10 回	ローラン展開	孤立特異点をもつ複素関数のローラン展開を述べ、その計算例を与える。
第 11 回	留数定理	留数定理について学ぶ。
第 12 回	留数定理の応用例（簡単な適用、有理関数の積分）	留数定理の適用例を考察する。その中で、有理関数の広義積分を扱う。
第 13 回	留数定理の応用例	有理関数に限らないいくつかの実関数の広義積分を学ぶ。
第 14 回	まとめ	これまで学んだ複素関数論の全体像を確認する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする。大学ですでに学んだ微分積分学を復習しておく。特に、マクローリン展開は、関数が与えられたときにスムーズに行えることが望ましい。 $e^x, \sin x, 1/(1-x)$ のマクローリン展開は（何度か自身で導いた結果として）覚えていることが望ましい。各回の復習は、以下の要領で行う。

- (1) 講義で学んだ用語の定義を説明できるようにする。
- (2) 講義で扱った命題・定理の主張を説明できるようにする。定理の適用例を挙げてみる。
- (3) 講義資料に記載の演習問題に取り組む。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。

【参考書】

川平友規「入門複素関数」(裳華房)

【成績評価の方法と基準】

平常点30%、期末試験70%を基本に成績評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません

【Outline (in English)】

(Course outline)

A complex function is a function that takes a complex number as a variable and returns a complex number. Differentiability is also defined for complex functions using limits, and in particular, complex functions that are differentiable at each point are called regular functions. For example, a regular function can be expanded into a power series at each point, and the behavior of the function as a whole can be determined by the value of the function near a point in the domain.

By extending the domain of a function to the world of complex numbers, the properties of the function often become clearer than if it were considered only in the world of real numbers. For example, the integrals of definite integrals of real functions, which used to be complicated and technical, can be calculated surprisingly easily by using the information of singularities in the complex domain.

In this lecture, we would like to learn the basic and important properties of complex functions, including the properties mentioned above, and to be able to understand and calculate the differential and integral of complex univariate functions.

(Learning Objectives)

- (1) Understand the representation and calculation rules of complex numbers.
- (2) To be able to calculate the values and limits of basic complex functions including rational, trigonometric, and exponential functions.
- (3) Understand the definitions of basic terms such as regularity, complex analyticity, complex line integral, isolated singularity, and residue.

(4) Understand important properties related to regularity (Cauchy-Riemann relation, Cauchy's integral theorem, Cauchy's integral formula, residue theorem, etc.) and be able to use them in specific settings.

(5) To be able to integrate real functions by using the residue theorem.

(Learning activities outside of classroom)

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four

hours to understand the course content.

Students are encouraged to prepare for the textbook and solve the exercises (or assignments) corresponding to the previous lesson.

(Grading Criteria)

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Short reports 30%, Term-end examination 70%.

MAT200XF

数値解析（経営）

土屋 卓也

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代においてコンピュータシミュレーションは、自然科学や工学、社会科学から医療に至るまで様々な分野で用いられ、我々の生活を基礎から支えている。授業では、コンピュータシミュレーションを行う際、現象を記述する方程式をどのようにして計算機上で計算すればよいのか、また、元の問題の解と計算機で計算した解にはどのような関係があるのか等、数値計算にまつわる諸問題について説明する。一つの単元が終わるごとに演習を行い、実際にコンピュータプログラムを作成する。

【到達目標】

さまざまな方程式の数値解法を理解し、さらに実際に計算機上でプログラムを組み、数値計算結果を得ることができるようになることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

講義とプログラミングの演習を交互に行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	数値解析の概要、計算環境などの紹介
第2回	連立一次方程式1	行列とベクトル、連立一次方程式の復習、ガウスの消去法の原理の概要
第3回	連立一次方程式2	行列やベクトルのノルム、ヤコビ法の収束について
第4回	プログラミング演習1	連立一次方程式に関する数値計算演習
第5回	非線形方程式	二分法、ニュートン法の原理
第6回	プログラミング演習2	非線形方程式に関する数値計算演習
第7回	数値積分	中点則、台形則、シンプソン則の誤差評価、周期関数に対する台形則
第8回	プログラミング演習3	数値積分に関する数値計算演習
第9回	常微分方程式1	常微分方程式の解説
第10回	常微分方程式2	オイラー法、修正オイラー法、ルンゲクッタ法の紹介、オイラー法の収束証明
第11回	プログラミング演習4	常微分方程式に関する数値計算演習
第12回	偏微分方程式1	熱方程式の紹介
第13回	偏微分方程式2	熱方程式に対する陽解法、陰解法、クランク・ニコルソン法
第14回	プログラミング演習5	偏微分方程式に関する数値計算演習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】
線形代数、微積分、微分方程式、プログラミングなど、いずれも大学初年度程度の知識を仮定する。

【テキスト（教科書）】

テキストは特に指定せず、講義資料を電子媒体で配布する。

【参考書】

数値解析について詳しく知りたい場合は以下を参考にすること
森正武「数値解析」（共立出版）
山本哲朗「数値解析入門」（サイエンス社）
齊藤宣一「数値解析入門」（東京大学出版会）
皆本晃弥「C言語による数値計算入門」（サイエンス社）

【成績評価の方法と基準】

- (1) 4～6回程度のレポート課題（50%）
 - (2) 期末試験（50%）
- を総合して評価する。

【学生の意見等からの気づき】

学生にとって理解が難しい箇所は資料を改善したり等の対処を行った。

【学生が準備すべき機器他】

自己のPCや大学の共同設備などプログラミング（C言語、python等）をできる環境の準備。

【その他の重要事項】

授業における演習ではプログラミング言語としてpythonを用いるが、レポート課題については好きな言語を用いてよい。ただし、あまりに特殊な言語では評価できない場合があるので、特殊な言語を使いたい場合は、あらかじめ相談してください。

【Outline (in English)】

This course introduces Numerical Analysis to students.

The goal of this course is to learn the computational and theoretical methods to solve mathematical problems in natural sciences, engineering, social sciences.

Before/after each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter(s) from the text, understood the content, and completed the required assignments.

Your overall grade in the class will be decided based on the following.

Term-end examination: 50%, Reports (5 to 7 times): 50%

MAT200XF

応用数学（経営）

磯島 伸

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

常微分方程式とは、1変数の未知関数とその導関数が満たす方程式であり、理工学の様々な場面で登場する。この授業では、基本的な常微分方程式の解法と、応用例を学ぶ。

【到達目標】

基本的な常微分方程式の解法を理解し、その実行に必要な計算力を身につける。

具体的には次の通りである。

- 1) 種々の1階常微分方程式を解けるようになる。
- 2) 定数係数2階線形微分方程式を解けるようになる。
- 3) 微分方程式の応用例を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

基本的な常微分方程式の解法を講義形式で解説する。講義内容に対応する演習課題をほぼ毎回出題してその理解と定着を図る。

レポート課題1回分を予定している。

課題の出題やそのフィードバックは、学習支援システムを通して行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	導入	微分方程式の基礎用語
2	1階微分方程式(1)	変数分離形および同次形方程式の解法
3	1階微分方程式(2)	1階線形方程式およびベルヌーイの方程式の解法
4	1階微分方程式(3)	全微分方程式の解法
5	2階線形斉次方程式(1)	線形方程式の基礎事項、特性解が相異なる2実数の場合の解法
6	2階線形斉次方程式(2)	複素数、特性解が共役な複素数の場合の解法
7	2階線形斉次方程式(3)	特性解が実2重解の場合の解法、 n 階方程式
8	線形方程式の一般論	解空間の線形性、解の重ね合わせ
9	2階線形非斉次方程式(1)	未定係数法による解法(非同次項が基本解でない場合)
10	2階線形非斉次方程式(2)	未定係数法による解法(非同次項が基本解の場合)
11	現象解析への応用(1)	感染症モデルの導入
12	現象解析への応用(2)	感染症モデルの解析と種々の拡張
13	現象解析への応用(3)	常微分方程式の数値解法と感染症モデルへの適用
14	総括	総合演習または課題の講評

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の課題に取り組む。

必要に応じて微分積分学・線形代数の復習を行う。

本授業の準備・復習時間は、各4時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

磯島伸、村田実貴生、安田和弘 共著『常微分・偏微分方程式の基礎』（培風館）2020年、2420円。

【参考書】

泉英明 著『コア・テキスト 微分方程式』（サイエンス社）

バージェス、ポリリー 共著『微分方程式で数学モデルを作ろう』（日本評論社）

寺田、坂田、曾布川 共著『演習と応用 微分方程式』（サイエンス社）

【成績評価の方法と基準】

毎回の課題の成果20%、レポート10%、期末試験70%の割合を基本とし、種々の常微分方程式の解法を習得したか評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

以下のように学習支援システムを利用する。

・授業資料の配布

・課題の出題および提出（ただし、内容により紙媒体で提出する課題もあり）

【Outline (in English)】

(Course outline)

An ordinary differential equation is an equation that one unknown function and its derivatives satisfy, and appears in various science and engineering scenes. In this lesson, you learn the solution of basic ordinary differential equations and examples of their application.

(Learning Objectives)

By the end of the course, students should be able to solve the following differential equations:

- 1) Various 1st order ordinary equations
- 2) 2nd order linear equations with constant coefficients

Moreover, they have understood an application of ordinary differential equations.

(Learning activities outside of classroom)

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Students are encouraged to work on the assignments.

(Grading Criteria)

Your overall grade in the class will be decided based on the followings:

Short report (20%), Term report (10%), Term-end examination (70%).

APC100YC

グリーンケミストリ

渡邊 雄二郎

開講時期：春学期授業/Spring

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部公開科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要（オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする）

その他属性：〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

グリーンケミストリとは“環境にやさしいものづくりを目指す化学”である。現在の経済発展による豊かさを追求する社会経済システムには限界があり、今後は持続可能な循環型社会経済システムへ変革していく必要がある。資源・エネルギーは可能な限り循環させ、環境負荷をできる限り小さくすることが望まれている。ものづくりにおいては、優れた材料特性を持つとともに、低環境負荷な設計や合成プロセス、廃棄物の再資源化などが求められている。本授業ではグリーンケミストリの12箇条の概念を具体的な例を挙げて解説するとともに、過去と現在の環境問題、省エネを含めた定量的な取り扱い、廃水の再生法、廃棄物の再資源化方法、個々の環境物質の測定法、及びエコマテリアルについて解説する。

【到達目標】

この授業では、グリーンケミストリの概念を理解するとともに、これまでの環境汚染や公害問題の歴史、汚染化学物質の性質について学ぶ。さらに省エネルギー、省資源を含め再生可能なシステム、メカニズムを理解することで、身近な具体的な環境問題について化学的知見に基づき応用可能な能力を身に付けることを目標としている。

以下に達成目標を記す。

1. グリーンケミストリの概念について例を挙げて説明できる。
2. これまでの環境汚染および公害の歴史を説明できる。
3. 環境の現状と対策について説明できる。
4. 環境汚染物質の種類やそれらの特性および省エネを含めた定量的な取り扱いができる。
5. 廃水の再生法、廃棄物の再資源化方法について説明できる。
6. 個々の環境物質の測定法を説明できる。
7. エコマテリアルについて例を挙げて説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【授業の進め方と方法】

主にパワーポイント資料を用いた講義を行い、5回以上のアクティブラーニング（演習または発表）を実施する。アクティブラーニングで実施した演習問題を含む聴講ノートを提出してもらおう。小テストは2回実施し、レポートも2回課す。定期試験を行う。なお、予習・復習の内容については、配布資料や授業で指示する。予習・復習を行うことを前提に授業を進めるので、予習・復習に十分な時間を費やすこと。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	本講義の全体的な説明、グリーンケミストリとは	本講義の全体的な説明とグリーンケミストリの概念（12箇条）について説明する。
2	環境問題の歴史	これまでの環境問題および公害の歴史について4大公害病を中心に説明する。
3	環境保全に関する法律	環境基準について説明する（アクティブラーニング（演習））。
4	環境における化学物質の挙動（1）	大気圏における化学物質の挙動について説明する。
5	環境における化学物質の挙動（2）	土壌圏、水圏における化学物質の挙動について説明する。（アクティブラーニング（演習））
6	環境の現状と対策について（1）	大気環境の現状と対策について説明する。
7	環境の現状と対策について（2）	水環境と土壌環境の現状と対策について説明する。（アクティブラーニング（演習））
8	廃棄物の再資源化	都市資源としての廃乾電池などやバイオマスについて、それらの再資源化について説明する。
9	環境汚染物質の測定法－大気、水質、土壌中の汚染物質の測定法	主な環境測定法について説明する（アクティブラーニング（演習））。
10	グリーンケミストリの12箇条について例を挙げて解説（1）－1～6条	グリーンケミストリの12箇条の中の1～6条に関係するものについて例を挙げて解説する。（アクティブラーニング（発表））

11	グリーンケミストリの12箇条について例を挙げて解説（2）－7～12条	グリーンケミストリの12箇条の中の7～12条に関係するものについて例を挙げて解説する。（アクティブラーニング（発表））
12	環境とエネルギー省エネも含めた定量的な取り扱い	原子力エネルギー、新エネルギー（太陽光、太陽熱、風力、バイオマス、地熱）、燃料電池について説明する。
13	エコマテリアル－環境負荷の少ない機能性材料について	エコマテリアルについて、光分解性、生分解性プラスチック、多孔質材料について説明する。（アクティブラーニング（演習））。
14	まとめ	本講義全体のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】環境を化学の視点から捉えることから、化学の基礎を十分理解しておく必要がある。そのためには、基礎となる高校の化学の習得および大学1年での化学を並行して学習しておく必要がある。

【テキスト（教科書）】

資料を配布する。

【参考書】

J. E. Andrews et al. “An Introduction to Environmental Chemistry” Blackwell Pub., “環境化学概論” 田中稔ら、丸善, “環境と化学 グリーンケミストリー入門” 萩野和子ら、東京化学同人, “陸水環境化学” 藤永薫ら、共立出版, “環境白書” 環境省編。

【成績評価の方法と基準】

演習問題を含む聴講ノートの提出（10%）、小テスト（20%）、レポート（20%）、期末テスト（50%）で評価

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline (in English)】

Green chemistry is the study of chemical products and processes that reduce or eliminate the generation of substances hazardous to humans, animals, plants, and the environment. This course covers basic fundamentals of green chemistry, through the 12 design principles of green chemistry, and explores relevant examples of their practical use in commercial applications.

The goals of this course are to

- (1) be able to explain the 12 design principles of green chemistry,
- (2) be able to explain relevant examples of their practical use in commercial applications.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on the following.

Term-end examination: 50%, Quiz: 20%, Short reports : 20%, in class contribution: 10%.

BOA100YD

環境と人間

越智 英輔、街 勝憲

開講時期：秋学期授業/Fall

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部公開科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要（オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする）

その他属性：〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代社会で問題となっている環境がもたらすヒト生体への影響について学ぶ。現在、人類をとりまく生活環境、社会環境の変化が著しい。そこで、様々な環境の変化のうち特に運動・身体活動の観点から考察し、生体への影響をマクロ・ミクロの視点から学習する。

【到達目標】

様々な環境やその変化がヒト生体に及ぼす影響について理解することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【授業の進め方と方法】

本講義では、生体に関する基礎的な内容を解説する一方で、環境と人間との関係の具体例を概説する。最新時事の話題を取り上げる場合があるため、講義内容の一部変更があり得る。但し、新型コロナウイルスの感染状況によってオンライン・オンデマンド型授業となる場合は、詳細について「学習支援システム」にて周知する。また、授業中に出された質問等に対するフィードバックは、次回授業の冒頭に解説することで行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	はじめに、講義の概要	環境と人間との関連性を概観する
2	環境が人間に及ぼす影響	不活動、加齢、無重力
3	1 環境が人間に及ぼす影響	運動不足
4	2 環境が人間に及ぼす影響	トレーニング環境
5	3 環境が人間に及ぼす影響	暑熱、寒冷、低酸素環境
6	4 環境が人間に及ぼす影響	食栄養環境
7	5 運動・身体活動と環境 1	運動時におけるエネルギー供給機構
8	運動・身体活動と環境 2	運動と呼吸調節
9	運動・身体活動と環境 3	運動と循環調節
10	運動・身体活動と環境 4	運動と内分泌系の働き
11	身近な環境を考える 1	グループ討議
12	身近な環境を考える 2	プレゼン準備
13	身近な環境を考える 3	プレゼンテーション、解決法について
14	試験	配布資料、参考図書から出題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】講義内容に関連する参考書などを読み、関連事項の概要の把握に努める。また、講義中に紹介される参考図書は、関心の深い図書を選択して、内容の理解に努める。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。必要に応じて授業支援システム、または授業中に資料を配付する。

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

- 1) 平常点およびレポートやプレゼンなど: 50%
- 2) 学期末レポート: 50%

オンライン・オンデマンド授業に変更になった場合は、成績評価の方法と基準も変更します。具体的には、授業開始日に学習支援システム上に提示します。

【学生の意見等からの気づき】

資料調査やプレゼンなど自主的な学習を重視する。

【学生が準備すべき機器他】

プレゼン授業時には貸与パソコンを持参すること。

【Outline (in English)】

Course outline: This course introduce the relationship between human body and environmental condition to students taking this course.

Learning Objectives: The end of the course, students should be able to explain physical response to different environmental situations.

Learning activities outside of classroom: Before each class meeting, students will be expected to spend 2 hours to understand the course content.

Grading Criteria /Policies: Grading will be decided based in class contribution (50%), and the quality of the students' term end examination (50%).

PPE100YA

植物薬理学

鈴木 聡

開講時期：秋学期授業/Fall

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部公開科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要（オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする）

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

食糧増産に貢献している植物薬理剤（農薬）について、その開発の歴史、農薬の種類、作用機構、製剤技術、法的規制、農薬の安全性評価、環境評価と規制等について学び、農薬に関する幅広い専門知識を学ぶ。

【到達目標】

農薬に関する専門知識を学び、環境に対する影響、食の安全に関する項目を学習して、植物保護における農薬の必要性和役割を理解する。実現場で正しく農薬を使用できることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【授業の進め方と方法】

初回講義で、農薬の役割、安全性、規制法の概要を解説する。各論として、農薬の種類と作用機構、製剤の種類についての講義を行う。また、農薬の使用による薬剤抵抗性・耐性菌の出現とその対応策についての講義を行う。更に、環境影響や生態毒性に関する概論を説明して、環境と調和した使用方法について講義する。フィードバックとして、授業の初めに前回の授業内容の再確認を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	農薬の必要性	農薬の歴史、役割、種類、使用方法
第 2 回	農薬の法制度および安全性評価	農薬取締法等の解説、農薬登録の仕組みおよび食品農薬残留に係わる農薬の安全性評価と法規制
第 3 回	生物農薬の開発	タロラマイセスフラバス水和剤の開発経緯
第 4 回	法政大学オリジナル新規防除剤の開発	ミョウバン、ラウリン酸カリウムによる病害防除
第 5 回	殺菌剤の種類	殺菌剤の作用機構、分類
第 6 回	殺虫剤の種類	殺虫剤の作用機構、分類
第 7 回	除草剤の種類	除草剤の作用機構、分類
第 8 回	植物生育調節剤の種類	植物生育調節剤の作用機構、分類
第 9 回	農薬の製剤および農薬抵抗性害虫・耐性菌	農薬製剤の種類、使用方法および農薬使用に伴う抵抗性害虫・耐性菌の発生物理的防除、生物的防除、天敵利用による防除、有機農法
第 10 回	植物保護の新技术	遺伝子組換え植物と農薬の役割
第 11 回	農薬と組換え植物	農薬の土壌、大気、水系における挙動と規制
第 12 回	農薬の環境動態	
第 13 回	農薬の生態影響	農薬の生態に対する影響と規制
第 14 回	新規農薬の開発	探索研究、開発手順、知的財産権

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】

授業終了後に講義内容の復習を行い、理解を深める。本授業の復習時間は 4 時間とする。

【テキスト（教科書）】

配布する資料を用いて授業を行うので、教科書は特に指定しない。

【参考書】

難波成任監修「植物医科学」（養賢堂）
梅津憲治著 「農薬と食の安全・信頼」（日本植物防疫協会）
佐藤仁彦、宮本徹編「農薬学」（朝倉書店）

【成績評価の方法と基準】

レポート課題（70 %）および平常点（30 %）により総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

講義内容が理解しやすいように、配布する資料の記載を工夫する。講義で使用した専門用語を平易に解説して、講義全体の理解が深まるようにする。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

第 3 回、第 4 回の授業は外部講師（石川成寿：元法政大学生命科学部教授）が担当する。

【Outline (in English)】**【Course outline】**

In the Plant Pharmacology class, students will learn a wide range of basic knowledge about pesticides that contribute to food production. Students will learn about the following aspects related to pesticides. History of pesticide development, types of pesticides, and mechanisms of action of pesticides, formulation technology, laws and regulations, safety assessment, environmental assessment, etc.

【Learning Objectives】

In the Plant Pharmacology class, students will learn the expertise of pesticides and aim to reach a level where they can play an active role in the field of agriculture.

【Learning activities outside of classroom】

After each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

【Grading criteria /policy】

Your overall grade in the class will be decided based on report assignment (70%) and learning attitude (30%)

PHY100YC

物理学概論 | |

金沢 育三

開講時期：秋学期授業/Fall

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要（オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする）

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、光学と電磁気学について学ぶ。光学は、光の学問であり我々の身の回りにおけるレーザーや画像処理技術などの基礎となっている。講義では、光の反射、屈折、干渉など光の波としての様々な性質を説明する。電磁気学は、電気・磁気現象に関する学問であり、携帯電話や非接触 IC カードの基礎となっている。講義では、電磁気現象の基本である電場、電位、静電容量や電場のエネルギー、電流と磁場の働き、電磁誘導および電磁波の発生について説明する。

【到達目標】

生命現象や化学現象を含むあらゆる自然現象は、起源を辿れば物理学の法則に支配されている。本講義では、自然現象の基礎である物理学を数式により定式化し、それを数理的に処理することに慣れ、得られた結果を定性的に理解する物理的思考能力を身につけることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【授業の進め方と方法】

講義と演習により進める。レポートや宿題により講義や演習で扱えなかった問題を解き、理解を深める。レポート課題や宿題については、提出期限後の授業で解説する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	光学 (1)	光の性質について学ぶ
2	光学 (2)	光の反射と屈折について学ぶ
3	光学 (3)	光の干渉について学ぶ
4	電場 (1)	クーロンの法則について学ぶ
5	電場 (2)	電場と電位について学ぶ
6	電場 (3)	静電容量と電場のエネルギーについて学ぶ
7	電流 (1)	オームの法則について学ぶ
8	電流 (2)	キルヒホッフの法則について学ぶ
9	電流 (3)	電流と磁場について学ぶ
10	電流 (4)	電流に働く力について学ぶ
11	電磁誘導	ファラデーの法則について学ぶ
12	電磁波	マクスウェル方程式について学ぶ
13	演習	電磁気学の演習について学ぶ
14	量子力学	光量子仮説と量子力学の誕生について学ぶ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】 毎回授業後に授業内容を復習する。

【テキスト（教科書）】

特定の教科書は特に定めない。

【参考書】

「基礎からの物理学」山本貴博 裳華房。

「物理学」小出昭一郎 裳華房。

【成績評価の方法と基準】

期末テスト (50%)、レポート点 (30%)、授業への積極的な貢献度 (出席など)(20%) を目安として総合的に成績評価を行う。

評価するポイントは、

- ・物理法則を正確に理解しているか
 - ・物理現象を数学的に正確に扱えるか
- である。

【学生の意見等からの気づき】

演習が少ないとの意見があったので、演習問題とその解答を作成し、学習支援システムで配布する。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

特になし。

【Outline (in English)】

Introduction to electromagnetism, which includes; Coulomb's law, Gauss's law, Biot-Savart' law, Faraday's law.

APC100YB

グリーンケミストリ

利谷 翔平

開講時期：春学期授業/Spring

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部公開科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要（オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする）

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

グリーンケミストリは「環境にやさしいものづくりの化学」であり、グリーン・サステナブル・ケミストリとも呼ばれている。地球は誕生から 46 億年かけて生命が快適に住めるような自然環境を築いてきた。人類は約 6,500 万年前に誕生したと考えられているが、人間は産業革命以後わずか 250 年で地球環境を大きく変化させた。またそこには化学反応が大きく関わっている。目的物質だけに目がいて、その結果放出された副生成物は環境汚染物質として公害の原因物質となった。グリーンケミストリでは、化学の観点から環境を捉え、人体や生態系に対するリスクの低減と環境負荷の少ない化学反応の開発やエネルギー問題などについて学ぶ。それを理解するためには、地球がどのように誕生したかを知ることは重要であり、現在地球を取り巻いている様々な環境問題について十分理解することが必要である。

【到達目標】

過去の公害問題を知り、現代の環境問題についてそのメカニズムを化学的に説明でき、解決するための知識を習得できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【授業の進め方と方法】

日常的に何らかの環境問題が話題となっていることから、見聞きする機会が多い事項である。個々人がもっている環境に対する基礎知識をより深め、化学の観点から環境問題が理解できるように学習する。毎回講義資料をプリントにして配布する。また自学自習が行えるように適宜演習問題や課題を与え、初回の講義で前回の問題の解説や課題についてフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	環境問題の歴史	公害とは、何故起こったのか、過去・現代の環境問題について解説
第 2 回	グリーンケミストリ	グリーンケミストリとは、グリーンケミストリにおける 12 原則について解説
第 3 回	大気汚染	大気汚染物質とは、それに関係する環境問題について解説
第 4 回	酸性雨	酸性雨のメカニズム、その影響と現状について解説
第 5 回	オゾン層の破壊	発生のメカニズム、光化学反応、生体に及ぼす紫外線の影響について解説
第 6 回	地球温暖化	地球温暖化のメカニズム、温室効果ガス、地球温暖化の影響について解説
第 7 回	森林の減少・砂漠化	森林減少および砂漠化の原因、人間生活への影響について解説
第 8 回	有害化学物質	POPs（残留性有機汚染物質）とは何か、汚染の現状と生物への影響について解説
第 9 回	放射線	放射線とは、放射線被曝、半減期について解説
第 10 回	水環境	水について知る、水質汚濁の現状と対策、環境基準と排水基準について解説
第 11 回	環境問題における微生物の役割	環境問題に関わる微生物やそれらが担う反応について解説
第 12 回	エネルギー問題	エネルギー問題を理解し、現状と未来のエネルギーについて解説
第 13 回	資源問題	鉱物資源や廃棄物のリサイクルについて解説
第 14 回	期末試験	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】毎回の授業内容の理解度を確認するために、授業内容に則した演習問題を解く。また理解が不十分であったところは、復習として配布資料を見直し、再度演習問題を解くようにする。

【テキスト（教科書）】

講義内容が一冊の教科書で対応できないため教科書は使用しない。毎回講義に則した資料を配布するので、各自必要に応じて参考書を参照する。

【参考書】

- ①「グリーンケミストリー 社会と化学の良い関係のために」共立出版、日本化学会編、御園生 誠著
- ②「環境化学（エキスパート応用化学テキストシリーズ）」講談社サイエンティフィック、坂田昌弘 編著

【成績評価の方法と基準】

小テスト 20%
期末テスト 40%
レポート 30%
上記に授業平常点 10%を考慮し評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

関数電卓

【Outline (in English)】

(Course outline)

The aim of this course is to learn the global environmental problems and to consider how to establish the sustainable environment and energy from the standpoint of chemistry.

(Learning Objectives)

By the end of the course, students should be able to learn past pollution problems, explain chemically the mechanisms of modern environmental problems, and acquire the fundamental knowledge to solve those problems.

(Learning activities)

In order to confirm how well you understand the course content, you should try to solve the practice problems given in the handouts. If some problems are difficult to solve, you should review the handouts so that you can get correct answers for all the problems. You are expected to spend four hours for a class.

(Grading Criteria)

Final grade will be decided based on midterm examination (20%), term-end examination (40%), reports (30%), and in-class contribution (10%).

BOA100YB

環境と人間

平塚 二郎、長谷川 敬洋

開講時期：春学期授業/Spring

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部公開科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要（オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする）

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

環境はすべての生命の生存基盤であり、私たち人類はその恵みに支えられてこそ健康で文化的な生活を送ることができます。しかし、人類が与える負荷によって限りある地球環境が損なわれつつあり、現在の社会経済活動やライフスタイルを続けると、取り返しのつかない影響を及ぼすことは明白です。こうした状況に対処するには、人間と環境との相互作用について正しく認識し、実際の行動に生かしていく必要があります。

明治中期以降の近代産業の発展に伴い悪化していた私たちの身近な環境は、先人たちの努力によりかなり改善しました。このため、環境問題といっても、遠い世界で起きていること、または自分が扱うには大きすぎる問題であり自分以外の誰かによって解決されるべきものと思いがちです。しかし、私たち一人一人の行動が世界中の環境問題に大きな影響を与えている事実を認識し、自分たちの目が届く範囲のみならず、他国や将来世代の影響を想像できるようになる必要があります。

この講義では、主要な環境問題を知識として学ぶことはもちろん、それらをテーマとして科学的・論理的な思考過程を経て自らの考えをまとめられるようになることを目指します。

【到達目標】

本講義では、次の3つの目標を達成することを目指します。

1. 主要な環境問題について学ぶこと。
2. 課題に直面した時に、科学的知見に基づき是非を判断し、解決策を多角的に模索し、説明できるようになること
3. 自分とは異なる集団（年代、国、過去・将来世代）の立場を想像できるようになること

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【授業の進め方と方法】

・最初と2回目の講義は、講義全体の概説と環境問題全般について説明します。これらの講義は履修登録前ですので、成績評価には反映しません。

・その後は、6つの環境問題を取り上げます。それぞれのテーマについて、(a) そのテーマに関する知識を講義により学び、(b) 数名の学生でグループを作り、そのテーマに沿った課題を題材に、グループごとに議論と発表を行います（グループワーク）。

・新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、オンライン（zoom）と対面の併用により授業を行います。なお、グループワークの回は対面授業を基本とします。

・課題やレポート等の提出は、原則として、メールで行います（メールアドレスは、別途、学習支援システムを通じてお知らせします）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	はじめに	講義の概要や進め方を紹介する。
2	環境問題の俯瞰	過去から現在に至るまでの環境問題について俯瞰する。
3	問題の解決方法	問題解決に活用可能な思考過程や議論の進め方（グループワークの進め方）について学ぶ。
4	テーマ別課題1：公害	日本が経験した激甚な公害について学ぶ。

5	テーマ別課題1：公害（グループワーク）	グループワークを通じて、公害問題をなぜ防ぐことができなかったのかを考える。
6	テーマ別課題2：廃棄物・リサイクル	我々自身が出すごみが、どのような問題を生じさせているか学ぶ
7	テーマ別課題2：廃棄物・リサイクル（グループワーク）	グループワークを通じて、廃棄物・リサイクルが引き起こす問題を考える。
8	テーマ別課題3：気候変動	気候変動問題について、科学的知見や国際交渉について学ぶ。
9	テーマ別課題3：気候変動（グループワーク）	グループワークを通じて、脱炭素社会の実現に向けて何をすべきかを考える。
10	テーマ別課題4：生物多様性	生物多様性保全の重要性について学ぶ。
11	テーマ別課題5：原発事故	福島原発事故の影響について学ぶ。
12	テーマ別課題6：持続可能な開発	持続可能な開発に関する国内外の取組を学ぶ。
13	テーマ別課題6：持続可能な開発（グループワーク）	グループワークを通じて、持続可能な開発に向けた取組を考える。
14	まとめ	全体のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、各4時間を標準とします。

・課題図書については、あらかじめ、購読してください（電子書籍可）。
・グループワークは、前週の講義内容を基に行いますので、講義資料を手元に用意してください。

【テキスト（教科書）】

書名：FACTFULNESS(ファクトフルネス) 10の思い込みを乗り越え、データを基に世界を正しく見る習慣
著者名：ハンス・ロスリング他
出版社：日経 BP
出版年：2019年

【参考書】

指定しません（必要に応じて、講義において示します）

【成績評価の方法と基準】

本講義の成績評価は、①講義への貢献50%、②グループワークへの貢献20%、③レポート30%の割合で評価します。

①講義への貢献：講義やグループワークの発表時などにおいて、クラス全体に大きな貢献をする発言（新たな問題を提起するもの、視点を転換するもの、交通整理をするもの、意見集約するものなど）を評価します。なお、オンライン講義における「チャット機能」による発言は、「講義への貢献」になりえることは少ないため、基本的には評価対象外です。

②グループワークへの貢献：グループワーク作業において、グループワーク内での議論への貢献を評価します。

③レポート：レポート課題に対する内容を評価します。

※この他、ボーナスポイントとして、レジュメ発表者には1回につき10ポイントを加点します（レジュメに対する質問等は、上記①「講義への貢献」の一環として評価します。

※なお、最初の2講義は履修登録前ですので、それらの講義の内容は成績評価には反映しません。

【学生の意見等からの気づき】

昨年度までの講義アンケート結果を踏まえて、引き続き、グループワークを重要視するとともに、課題図書を設定してより充実した学習効果を目指します。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【Outline (in English)】

[Outline and objectives]

The environment is the fundamental platform of all lives, and our healthy and cultural lives are fully supported by their grace. The capacity of the environment, however, is being undermined by the burdens of mankind, and continuing socio-economic activities and lifestyles will have irreversible effects on the environment. To cope with this situation, it is necessary to correctly understand the interaction between humans and the environment and apply it to actual actions.

Thanks to the efforts of the past, the environment around us has improved considerably. For this reason, you may feel that environmental problems occur somewhere else in distance, and be solved by someone else other than yourself as issues are too big to deal with. But we need to recognize that each of our actions has a significant impact on the environment around the world. With the recognition, we also have the imagination not only for the environment around us but also for other countries and future generations.

In this lecture, you will not only learn about various environmental issues, rather you will acquire the ability to summarize your ideas with logical thinking and scientific knowledge, and improve your ability of imagination which is important to deal with environmental issues.

[Learning activities outside of classroom]

Before and/or after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

[Grading Criteria]

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Contribution to lectures 50%, Contribution to group works 20%, Reporting assignment 30%.

Additionally, students are able to obtain 10 points per presentation summarizing a chapter of the textbook when he or she presents it at the beginning of each lecture.

MAC300YC

高分子化学

渡辺 敏行

開講時期：秋学期授業/Fall

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要（オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする）

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

高分子の特徴を理解し、その利用方法を学習する。
様々な高分子の合成法について学ぶ。

【到達目標】

高分子の定義を理解しているか。
高分子の原料と化学構造の関係を理解しているか。
立体規則性を理解しているか。
平均分子量を理解しているか。
重縮合を理解しているか。
重付加、付加縮合を理解しているか。
ラジカル重合を理解しているか。
ラジカル共重合を理解しているか。
イオン重合を理解しているか。
開環重合を理解しているか。
生体高分子の特徴を理解しているか。
立体規則性重合を理解しているか。
生体高分子の特徴を理解しているか。
新しいラジカル重合法を理解しているか。
導電性高分子の電気伝導の原理を理解しているか。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【授業の進め方と方法】

教科書および授業支援システムの資料をベースにすすめる。授業中ではレポートを課す。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	高分子の利用方法	高分子がどのように世の中で活用されているかを解説する。
2	高分子とは	高分子（ポリマー）とは何か？ その特徴を学ぶ。高分子の定義、高分子の化学構造と高分子の用途を知る。
3	高分子化学の歴史	高分子の歴史を伝え、学問としての確立過程と有機材料として日常生活との関りを広く理解する。高分子の原料と化学構造を学ぶ。
4	立体特異性	五大汎用高分子、エンジニアリングプラスチックについて学ぶ。立体配置、立体配座とは、高分子特有の立体規則性（iso,syndio,atact）を実例に基づき説明する。
5	高分子の特性・分子量	高分子の特性と平均分子量（Mn,Mw）の考え方を説明し、高分子の分子量測定法を示す。
6	結晶性と結晶構造	結晶、非晶、液晶の違いについて解説する。高分子の結晶構造がどのようにして決まるかを解説する。高分子の密度を結晶構造から求める。
7	熱的性質	高分子のガラス転移温度、融解現象について解説する。耐熱性高分子の分子設計法を熱力学的に理解する。
8	まとめ 1	前半の授業のまとめを行う。
9	重縮合、重付加、付加縮合	反応度と分子量の関係、化学平衡、重縮合の速度論、分子量分布、重縮合高分子の具体例について学習する。重付加および付加縮合について学習する。
10	ラジカル重合	付加重合（連鎖重合）について学習する。ラジカル重合の素反応、速度論、重合度と連鎖移動について学習する。
11	イオン重合	アニオン重合、カチオン重合、イオン重合の速度論について学習する。
12	遷移金属触媒重合、開環重合	チーグラー・ナッタ重合、開環重合の特徴、開環重合性、について学習する。

13	ラジカル共重合	ラジカル共重合の速度論的取り扱い、共重合組成式と Q-e スキームについて学習する。 共重合によって得られる構造についても学習する。
14	生体高分子&新しいラジカル重合法&導電性高分子	生体高分子の化学構造と特徴を学習する。新しいラジカル重合法の原理および導電性高分子の電気伝導の原理を学習する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】授業中に指定された課題を次回の授業までにレポートとして提出すること。

【テキスト（教科書）】

基礎高分子科学 第 2 版
高分子学会編 東京化学同人
ISBN 9784807909629

【参考書】

高分子化学 合成編 中條善樹、中健介 著
丸善株式会社 ISBN978-4-621-08259-1
液晶・高分子入門 竹添秀男、渡辺順次著、裳華房（2004）

【成績評価の方法と基準】

試験とテストおよびレポートの合計点より総合的に判断する。
（中間試験+期末試験）80 点満点、（レポート）10 点満点、（平常点）10 点満点

【学生の意見等からの気づき】

必要に応じて演習問題を課す。

【その他の重要事項】

ビデオ教材、Power point、講義実験などにより、理解を深める。

【Outline (in English)】

Understand the characteristics of polymers and learn how to use them.
Learn about synthetic methods of various polymers.

MAC200YC

環境安全化学

大波 英幸、福島 由美子

開講時期：春学期授業/Spring

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部公開科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要（オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする）

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

地球規模で直面している様々な環境問題の原因と影響を把握すると共に、環境汚染と化学物質との関わりを理解してもらう。また、身近に存在する化学物質等のヒトの健康や環境に及ぼすリスクやその評価手法を理解することにより、環境汚染問題の解決・防止のための基礎的知識を得ようとするものである。さらに、菌や黴などが関係する環境衛生学の基礎知識を習得することを目標とする。

【到達目標】

環境問題の現状と課題を把握するとともに、環境衛生について考える知識を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【授業の進め方と方法】

2人の教員で授業は行う。また、1～5回の5週は環境衛生学で微生物による水汚染対策について学習し、その期末試験がB評価以上で、且つ全体の成績評価がC以上の場合、「水利用設備環境衛生士」の資格取得優待となる。6～14回の9週は、様々な環境問題の原因と影響を把握すると共に、環境汚染と化学物質との関わりを学習する。課題に対するフィードバックは学習支援システムで行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	環境衛生序論	微生物が起因する諸問題について解説
第2回	環境微生物（1）	生活環境で問題になる菌について解説
第3回	環境微生物（2）	生活環境で問題になる菌について解説
第4回	設備	設備の具体的な汚染と対策について解説
第5回	まとめ	その汚染と対策
第6回	環境安全化学の関連法令など	授業の概要と進め方、および環境安全化学の関連法令等について
第7回	環境汚染（公害問題）と化学物質	日本の公害問題の歴史（原因と影響など）
第8回	地球温暖化（ヒートアイランド）とオゾン層破壊	・地球温暖化などの気温上昇に関連する環境問題の原因と影響 ・オゾン層破壊の原因と影響
第9回	様々な大気汚染	PM2.5、NO _x 、SO _x 、酸性雨などの大気汚染の原因と影響
第10回	土壌環境汚染	土壌汚染の原因と影響
第11回	水環境問題	水質汚染・汚濁の原因と影響
第12回	廃棄物問題	廃棄物と残留性有機汚染物質の原因と影響
第13回	エネルギー資源	エネルギー資源と環境問題について
第14回	まとめ	6～13回の講義のまとめなど

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】化学と環境について現在各自が問題意識としている点を考えておくこと。

【テキスト（教科書）】

パワーポイント資料等を必要に応じて電子媒体などで配布する。またテキストに準ずるものについては、授業中に適宜紹介する。

【参考書】

参考となる書籍等は授業中に適宜紹介する。

・環境社会検定試験（eco検定）の公式テキスト：環境に係る問題等が網羅的に示されており入門書としておすすめ。

【成績評価の方法と基準】

1～5回（5週）については、期末テスト等を統合して全体の1/3で成績評価する。

6-14回（9週）については、出席と毎回の演習問題等を総合して全体の2/3で成績評価する。

最終的に両評価を合計して成績判定を行う。

【学生の意見等からの気づき】

膨大な内容をできるだけ分かり易く解説したい。

【その他の重要事項】

講義全体の内容は変わらないが、進行状況によっては講義内容の順番などを変更する可能性がある。

【Outline (in English)】

Understand the cause and effect of various environmental problems occurring on a global scale. Understand the relationship between environmental pollution and chemical substances. Obtain basic knowledge for solving and preventing environmental pollution problems. In addition, acquire the basic knowledge of water environment hygiene related to bacteria and fungus.

MAC200YB

環境安全化学

吉原 利一

開講時期：春学期授業/Spring

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部公開科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要（オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする）

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

かつて「公害」と呼ばれた様々な環境問題があった。「公害」の特徴は、原因と結果のつながり、および被害者と加害者が明かなことである。しかし、現在我々が直面する温室効果ガスや PM2.5、マイクロプラスチックなどの問題では、一人一人が被害者であると共に問題を生じさせる加害者となっている。また、これらは国境を越えて広がるため、従来とは異なるアプローチが求められている。このため、これらの問題は単一の因果論としての自然科学ではなく、エネルギー論から地球物理学や遺伝学を含めた総合的な自然科学、そして経済・政治から個人のライフスタイルといった社会科学の知見との統合によってようやく解決できるものとなっている。

そこで、「環境科学」という学問がある。本講義では、まず人類の発展と共に変遷してきた環境問題を題材に基礎を学ぶ。そして環境を安全に保つこととは何か、我々が現在直面している、あるいは子孫が直面するかもしれない環境問題について解決・回避のために何が必要なのかなどについて考える。一方、近年 SDGs と呼ばれる国際的な取り組みの一環として様々な分野において環境保全への関心が高まっている。あるいは ESG として、国、企業活動、個人の活動の正当性、継続性を担保するために必須の取り組みとなっている。本講義では、このような近年の環境問題を取り巻く変化に対応しながら、関連した「情報」の収集と分析、および発信のための基礎を習得することを旨とする。

【到達目標】

1. 種々の環境問題に関する基礎的な知識を身につける、2. 社会的、科学的視点の双方から問題の本質を理解する、3. 他人の考えとのギャップを知ることにより、独善を排して問題解決のための方向性を見出す術を身につける、以上を総合することによって自らの社会的価値を高めるとともに、リーダーとしての襟標を得ることにつながる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【授業の進め方と方法】

講義（第 1～11 回）本シラバスに示した内容に沿って進めていく。予・復習のために、グループディスカッションを除く第 11 回までの講義内容の概要を記した資料を、学習支援システムにアップロードする。

グループディスカッション（第 12～14 回）数人の小グループに分かれて、与えるテーマについて学生同士意見を交わしてもらい、情報の収集・分析・発信の方法を身につける。また、テーマに関して収集した情報の違いや、同じ情報に接したときでも他我のとらえ方の違いなどを知る。さらに、グループごとに結論をまとめて発表を行う。基本的に対面での講義を行う。

レポーター

受講生は、課題についてレポートを提出して成績評価を受ける（成績評価の項を参照）。講義回ごとに迅速に評価し、個別にフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンスと概要	授業の概要と進め方、成績評価などについて概説する。また、環境とは何かについて考える。
2	環境を形作るもの	元素、化合物、計量単位、化学の基礎などについて今後の授業において必要な知識を思い出す。特に近年話題となっているレアアースについて、環境への懸念と政治的な思惑（資源ナショナリズム）の中で製造されていることについて考える。
3	環境と生態系 I	生態系とは何かについて学ぶ。特に、土地の生産性とは何かを地理的な気候区分や具体的な農業生産の例などを通して考える。
4	環境と生態系 II	なぜ多様性が生じたのか、多様性を守る価値とは何か、種の進化と絶滅はなぜ生じるのかなどを学ぶ。特に多様性を守る価値については経済的な視点などを交えた多面的な考察を試みる。また、近年環境を語るキーワードとしてよく目にする“SDGs”と“ESG”、およびこれに関連した“LCA”について概説する。

5	大気汚染 I	大気の構造、構成要素と循環、公害と呼ばれたかつての大気汚染について学ぶ。
6	大気汚染 II	オゾン層の破壊、および温室効果ガスと地球温暖化についてそのメカニズムを学び、種々の情報の真偽を考える。また、エネルギー問題、食糧問題（フードマイレージ）など我々の暮らしとの関わりを知る。
7	水の汚染 I	水の物理・化学的性質と生命の発生について学ぶ。また、大気を介した水の循環、水質とは何か、および水の利用にかかわる問題（水権、仮想水）について考える。
8	水の汚染 II	水の汚染や水質を守るための取り組みについて学ぶ。特に富栄養化、生物濃縮、環境ホルモンなど、これまで問題となった個々の事例について身近な浄水場や浄化槽の仕組みなどを通じて理解を深める。
9	水の汚染 III	生物濃縮の問題について、かつて大問題となり現在でも尾を引く水俣病やイタイイタイ病、および原発事故で拡散した放射性セシウムなどの事例について学ぶ。また、酸性雨の問題について、森林の役割、衰退と環境への影響について学ぶ。
10	土の汚染 I	土とは何か、土の構成成分と構造・機能、土の汚染について学ぶ。特に農業による汚染について、および近年深刻化している砂漠化、土壌劣化、塩類集積などの問題について知見を深める。
11	土の汚染 II	植物における養分の吸収・蓄積とカドミウム・セシウム等の有害元素の吸収と蓄積・耐性について、およびこれらに関する分子機構について学ぶ。また、植物を使って土をきれいにする方法＝ファイトレメディエーションについて知る。
12	グループディスカッション I	グループディスカッションへの導入（ディスカッション手法＝KJ法についての説明、例示など）、ディスカッションの開始。
13	グループディスカッション II	ディスカッションの継続、発展（新たな視点の追加と活性化）。
14	グループディスカッション III	グループごとのディスカッションのまとめと要旨の発表、④成績の基礎となるレポートについての説明。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】

毎回のテーマについて、予習として WEB でキーワード検索を行ったり、講義資料や参考書を読んだりする。また、復習としてレポートを書いて提出する。さらに、講義で得られた知識の確認・深化のために参考書・参考文献を読む。

【テキスト（教科書）】

講義において常時使用する教材としてのテキストは指定しない。

【参考書】

吉原利一編 地球環境テキストブック 環境科学 オーム社 ¥3300 に準拠した形で講義を進める（講義はこの情報を更新する形で進める）。また、各回講義資料に加えて参考となる様々な文献を PDF などとして配布する。

【成績評価の方法と基準】

成績評価は、講義回ごとに課すものと学期の終わりに課すものの 2 種類のレポートの提出によって行う。期末の試験は実施しない。講義回ごとに課すレポートは講義資料末尾の演習問題として示すテーマから一つ選択し、指定された内容・字数を守って記述する。学期の終わりに課すものは、グループディスカッションの内容の要約、テーマに関するグループ員同士の意見の違い、総合的な考察などを基本骨格として記述する。字数は問わない。いずれも期限内に提出されないものは受け付けない。レポートの採点においては、①正確な情報と分析に基づくこと（主な出典の明記等）、②テーマに回答した論旨の明確さ・一貫性・新奇性、③文章の読みやすさ（誤字脱字等がないこと、表現力）、の 3 項目をそれぞれ 5 段階で評価し、レポート別にその点数を合計する（最大 15 点）。科目としての成績評価では、講義回ごとのレポートの平均点と学期末のレポートの点数を 50 : 50 として総合する。

【学生の意見等からの気づき】

前年度講義におけるアンケート結果は全体的に好評だった。今期は特に評価の高かったレポートの個別フィードバック、グループディスカッションに重点を置く。

【学生が準備すべき機器他】

パソコン等の情報機器。資料配布等に学習支援システムを使用。グループディスカッションの発表ではパワーファイルを作成してもらう。

【その他の重要事項】

本講義を担当する教員は、電力中央研究所等において 30 年以上にわたり研究業務に携わっているほか、樹木医としての活動を行っている。これらの経験を活かし、東京電力福島原子力発電所事故における帰還困難区域でのフィールドワークや天然記念物の保護活動など、研究者や樹木医を目指す学生の参考となる事例を随所で取り上げる。また、投稿論文等に掲載された「自らが得たデータ」を多く引用する。

【Outline (in English)】

[Course outline]

Even in developed countries, they had caused many environmental problems so called “pollutions” in their economically/idealistically immature eras. These experiences are now commonly utilized not only to keep their domestic environments, but also to solve similar problems in developing countries. A common issue of such “pollutions” is understandable as a clear relationship between the cause and the result and/or between the perpetrator and the victim. However, such a clear relationship would be disappeared, and at the present time, all humankind is simultaneously a perpetrator and a victim when we face to newly happening environmental problems, such as greenhouse gas problems, PM2.5, and micro-plastics. Thus, we are still seeking for the way to solve them, which may stand on a different approach than ever. Studying the environmental sciences could lead us to the answer. It is not a sole but a total natural science, and sometimes, it includes social sciences like economy, politics, and cultural anthropology. Here, this lecture provides you a basis of “the environmental sciences” (e.g., history of pollutions and how mankind solve the problems). In addition, the lecture may promote you to deepen your mind, what is the safety in environment and how to solve environmental problems at the present time and/or in future we will face in a mean of SDGs.

The learning schedule is showing below.

1. Guidance and Introduction
2. What makes the environment
- 3-4. The environment and the Ecosystem
- 5-6. The pollution of the air
- 7-9. The pollution of the water
- 10-11. The pollution of the soil
- 12-14. Group Discussion (or debate)

[Learning Objectives]

1. To have basic knowledge for the past and the present problems
2. To understand the nature of the problems from the social and the scientific background
3. To know methodology to solve the problems without self-righteousness

[Grading Criteria /Policy]

The grading is based on reports after each lecture. The semester test is not conducted. The reports are graded by following three points of views;

1. Analyzed with a correct data/information (indicate the reference), 2, Witten in clear, consistent, and original sentences in response to the theme, 3. Easy to read without wrong character.

MAC200YC

分析化学

渡邊 雄二郎

開講時期：春学期授業/Spring

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要（オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする）

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「分析化学」とは化学的な現象や物理的な現象を利用して、物質の組成や状態を探索する方法を学ぶ科目である。それらの現象がどのように分析に生かされているかを勉強してもらいたい。授業では、大学で学ぶ必要のある範囲の基礎分析化学を中心に講義・演習を行い、高級技術者、研究者としての基礎的な分析化学の知識を習得する事を目標とする。さらに環境分析に必要な重要な機器の一部を取り上げて機器分析化学の基礎を習得することも目標とする。

【到達目標】

1. 酸塩基反応と中和滴定について理解し計算することができる。
2. 沈殿形成について、溶解度積の観点から理解でき、計算することができる。
3. 錯形成反応を酸塩基反応として理解でき、滴定の計算をすることができる。
4. 酸化還元反応と滴定について、化学反応を理解し計算することができる。
5. 環境分析に用いる機器の原理と特徴を理解できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【授業の進め方と方法】

主にパワーポイント資料を用いた講義を行い、5回以上のアクティブラーニング（演習または発表）を実施する。小テストは2回実施し、レポートも2回課す。定期試験を行う。なお、予習・復習の内容については、配布資料や授業で指示する。予習・復習を行うことを前提に授業を進めるので、予習・復習に十分な時間を費やすこと。授業中に実施する演習や発表について、学習支援システムを用いてフィードバックすると共に教員が学生に問いかけを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	この科目の授業概要	授業の進め方、予習と復習、評価方法について解説する。 化学における分析化学の役割（化学分析は、社会で何に役立っているかを考える。）について解説する。
2	測定値の精度および正確度、化学式量とモル、溶液と濃度、電解質の溶液とイオンの活量	化学分析における測定値の正しい取り扱い方（精度、正確度、標準偏差など）、分析化学で用いる単位、イオンと活量について学ぶ。
3	酸塩基反応と酸塩基滴定（1）	酸塩基の定義とその内容、電離平衡について学ぶ。
4	酸塩基反応と酸塩基滴定（2）	強塩基と弱酸の中和滴定および強酸と弱塩基の中和滴定曲線について学ぶ。
5	酸塩基反応と酸塩基滴定（3）	塩の加水分解、電解質溶液のpH計算法、指示薬の働きについて学ぶ。アクティブラーニング（演習）を実施する。
6	第1回小テスト 沈殿と重量分析（1）	第1回小テストを実施する。 沈殿の生成機構、溶解度積について学ぶ。
7	沈殿と重量分析（2）	水酸化物の沈殿と硫化物の沈殿生成をpHの面から考える。アクティブラーニング（演習）を実施する。
8	錯化合物とキレート滴定（1）	配位結合を酸塩基反応ととらえる。キレートの種類を学ぶ。
9	錯化合物とキレート滴定（2）	EDTAのキレート滴定の条件および金属指示薬の働きについて学ぶ。アクティブラーニング（演習）を実施する。
10	第2回小テスト 酸化還元反応と酸化還元滴定（1）	第2回小テストを実施する。電極電位とネルンストの式、酸化還元滴定の条件について学ぶ。
11	酸化還元反応と酸化還元滴定（2）	酸化還元電位（大小）の理解とその活用について学ぶ。アクティブラーニング（演習）を実施する。
12	機器分析（1）	クロマトグラフィーの原理と特徴について学ぶ。アクティブラーニング（演習または発表）を実施する。
13	機器分析（2）	紫外可視分光光度法、原子吸光分析法及び発光分光分析法の原理と特徴について学ぶ。検量線による濃度計算を行う。アクティブラーニング（演習または発表）を実施する。

14 まとめ

本授業を振り返り、まとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】分析化学は基礎学問であり、無機化学、有機化学、物理化学の基礎知識が必要となるので高校化学の知識をしっかり身につけておくことが重要である。

【テキスト（教科書）】

分析化学の基礎 木村優、中島理一郎 共著、裳華房

【参考書】

クリスチャン分析化学 I 基礎編

【成績評価の方法と基準】

講義記録（10%）、レポート（20%）、小テスト（30%）、定期試験（40%）。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システム

【Outline (in English)】

Analytical chemistry is the study of methods of separation, identification and quantification of the chemical composition and structure of materials through chemical and physical phenomena. This course covers the basis of fundamental analytical chemistry, through the study of treatment of experimental error, acid-base equilibria, solubility equilibria, complexation equilibria, and oxidation-reduction equilibria. It also enhances the development of students' skill in carrying out an analytical chemical experiment. Other topics addressed include the basis of fundamental instrumental analytical chemistry, the basic principles of UV visible spectroscopy and different kinds of chromatography.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on the following.

Term-end examination: 40%, Quiz: 30%, Short reports : 20%, in class contribution: 10%.

APC200YC

バイオエンジニアリング

稲本 進

開講時期：秋学期授業/Fall

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部公開科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要（オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする）

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

バイオプロセスに関する基礎知識を習得し、定量的な解析および設計を行うための基礎能力を養うとともに、実例を通じてバイオ技術の現状を学習する。特に、食品や医薬品の製造に関連したプロセスを生物化学工学的立場から論ずる。

【到達目標】

- 1) 酵素や微生物など生体触媒の特徴について理解する
- 2) 生体触媒の応用について具体例を知る
- 3) 生体触媒を利用する反応の速度論の基礎を理解する
- 4) 生体触媒を利用するための反応器および操作法の基礎を理解する
- 5) 生体触媒を改良するためのバイオ技術について習得する

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【授業の進め方と方法】

酵素や微生物など生体触媒の特徴や応用例、反応速度論、反応器の形式や操作論、生体触媒の改良に用いられるバイオ技術など、バイオプロセスに関する基礎知識を講述する。講義は基本的に対面で行い、毎回課題を出します。課題の提出は「学習支援システム」を通じて行い、その答え合わせは次回の講義の中で行う予定です。なお、感染状況が悪化すればオンライン授業を行うこともある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	序論／食品や医薬品の製造に見るバイオプロセス	食品や医薬品の製造に関わるバイオプロセスを紹介する
2	バイオサイエンスの化学的基礎（1）	生体を構成する主な物質群、特に糖、アミノ酸、タンパク質、脂質などについて講述する
3	バイオサイエンスの化学的基礎（2）	生体を構成する主な物質、特にDNAやRNAの性質、それらからタンパク質が合成される過程について講述する
4	生体触媒の特徴（1） 酵素	生体触媒としての酵素の特徴について講述する
5	生体触媒の特徴（2） 微生物、動物細胞、植物細胞、ウイルス	生体触媒としての微生物と動物細胞と植物細胞とウイルスの特徴について講述する
6	酵素・微生物を利用するバイオプロセス：エネルギー関連のプロセスを例として	酵素を利用するバイオプロセスの具体例として、バイオエタノール製造、藻類バイオ燃料、バイオ電池について紹介する
7	酵素反応速度論（1） ミカエリス・メンテンの式	ミカエリス・メンテンの式を中心として、酵素反応速度論の基礎を講述する
8	酵素反応速度論（2） 酵素反応の阻害	酵素反応の阻害について、各種の様式とその速度論を講述する
9	細胞に関連する生化学反応速度論	微生物の増殖速度とその影響因子について講述する
10	バイオリアクターの形式と操作設計	(1) 酵素反応リアクターの各種形式とその特徴、形式別の操作設計の基礎および、(2) 生体触媒の固定化法について講述する

- 11 生体触媒の制御と改良技術（1）代謝制御発酵
バイオインダストリーで重要な代謝制御発酵とそこで用いられる育種技術について講述する
- 12 生体触媒の制御と改良技術（2）遺伝子組換え技術
生体触媒の改良に使われる遺伝子組換え技術の基礎を講述する
- 13 生体触媒の制御と改良技術（3）ゲノム科学の進歩
ゲノム編集や次世代DNAシーケンサーなど最新のゲノム科学で用いられる技術の基礎を講述する
- 14 まとめ
今までの講義内容の補足と復習を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】
準備学習は必須ではないが、復習は必ず行うこと。各回の授業内容に応じて、別途課題を与える。本授業の復習時間は、4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。授業前に授業支援システムに講義資料をアップするのでダウンロードしてください。

【参考書】

Essential 細胞生物学 原書第4版（中村 桂子, 松原 謙一・翻訳）
南江堂
新版生物化学工学（海野肇／中西一弘／白神直弘／丹治保典・著）
講談社サイエンティフィク
生物反応工学（山根恒夫・著）産業図書
新生物化学工学 第3版（岸本通雅／堀内淳一／藤原伸介／熊田陽一・著）三共出版

【成績評価の方法と基準】

成績評価は各回の課題（約40%）、レポート（約10%）および期末試験（約50%）を総合して評価する。但し、出席が半分以下の場合、成績評価の対象外とする。

【学生の意見等からの気づき】

課題の答え合わせをもう少し時間をかけてやることにする。声が聞き取りにくいと言う人もいたので、前の方に座るようにアナウンスする。

【学生が準備すべき機器他】

貸与パソコン

【Outline (in English)】

The aim of this course is to learn the basic knowledge about bioprocesses. To this end, students will learn examples of various bioprocesses as well as methods for their quantitative analysis. The course focuses especially on processes for the production of food and medicine from the aspect of biochemical industry.

MAC200YC

物質構造化学

緒方 啓典

開講時期：秋学期授業/Fall

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部公開科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要（オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする）

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、物質の様々な性質を理解するうえで必要とされる結晶構造学の基礎を理解し、結晶構造を記述する上で必要な事項について学ぶとともに、X線回折法による結晶構造解析の測定法と原理を理解し、実際の測定・解析方法について学ぶ。

【到達目標】

授業の到達目標

- 1) 結晶構造を理解する上で必要な事項、用語を理解し、それらを用いて結晶構造を記述することができる。
- 2) 結晶中に存在する対称性および対称操作について理解し、32結晶点群の対称性を分別する。また、空間群を理解し、結晶構造の表記法について学ぶとともに、結晶学パラメータに基づいて回折強度を計算する方法を学ぶ。
- 3) X線回折法による結晶構造解析の測定法と原理を理解し、実際の測定・解析に応用できる知識を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【授業の進め方と方法】

物質の結晶構造は、物質のさまざまな性質と密接に関連している。物質の持つ様々な機能を理解し、新規物質開発等、材料化学の研究を行う際には、自ら合成した物質の結晶構造を解析する能力が必要とされる。本講義では結晶構造の基礎を系統的に学び、X線回折法に代表されるいくつかの構造解析法の基礎理論および応用例について学ぶ。

具体的な授業の実施方法については、学習支援システムを通して適宜提示します。

本講義は環境応用化学科の主要専門科目および「物質創成化学コース」の推奨科目です。（本講義の内容を理解するためには、有機化学、無機化学、物理化学に関する講義を受講しているか、それらの内容を理解していることが必要です。）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	本講義の概要説明、結晶構造解析の重要性について述べる。
2	結晶学の歴史	結晶学の歴史、有理指数の法則、晶帯則、対称性の発見、X線結晶学の歴史について学ぶ。
3	結晶格子と単位格子	結晶の要素、対称性と対称操作、対称要素、単純格子と複合格子、晶系、ブラベ格子、結晶の面指数および方向指数について学ぶ。
4	結晶の対称性と結晶構造の記述方法-01	結晶中で許される対称操作と表記方法、非対称単位、対称操作の組み合わせと点群、空間群について学ぶ。
5	結晶の対称性と結晶構造の記述方法-02	対称操作の組み合わせと点群、結晶系との関係、表記方法、図示の方法について学ぶ。
6	結晶の対称性と結晶構造の記述方法-03	対称操作の組み合わせと空間群、結晶系との関係、表記方法、図示の方法について学ぶ。
7	結晶の対称性と結晶構造の記述方法-04	分率座標、占有率、Z値について学び、具体的な物質について結晶構造の表記法について学ぶ。
8	結晶の対称性と結晶構造の記述方法-05	International Tables for Crystallographyの見方について学ぶ。
9	回折現象を理解するための数学	ベクトルの内積、外積、三重積、フーリエ級数とフーリエ変換、関数の畳み込み等について学ぶ。
10	X線の散乱と回折-01	原子によるX線の散乱、原子散乱因子、結晶によるX線の回折、結晶構造因子について学ぶ。
11	X線の散乱と回折-02	ブラッグの条件、逆格子の概念とエワルド球の関係について学ぶ。
12	X線回折法による結晶構造解析の原理-01	回折強度と結晶構造因子の関係、消滅則、熱振動の表し方（温度因子）等について学ぶ。

- | | | |
|----|----------------------|--|
| 13 | X線回折法による結晶構造解析の原理-02 | 位相問題、フーリエ合成、構造精密化等、実際の結晶構造解析の手順に沿った基礎事項について学ぶ。 |
| 14 | X線回折法による結晶構造解析の実際 | 単結晶試料および粉末試料について実際の結晶構造解析の流れの実例を示す。 |

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】授業で使用する資料（ppt）は事前に授業支援システムを通じて受講者に配布を行う。受講者は事前にそのファイルをダウンロードし、目を通すとともに、参考書の関連ページを読んでおくこと。授業には資料をプリントアウトして持参すること。

【テキスト（教科書）】

特定の教科書は使用せず、項目ごとに資料を配布する。

【参考書】

- ・「X線構造解析」、早稲田嘉夫・松原英一郎著、内田老鶴園
- ・「X線結晶構造解析」大橋裕二著、裳華房
- ・「結晶化学」基礎から最先端まで 大橋裕二著 裳華房

【成績評価の方法と基準】

授業内に対面で実施する小テストおよび最終試験の結果を元に総合的に判断する。

【学生の意見等からの気づき】

学生の理解の度合いを見ながら授業を進める。理解できないことは放置せず、こまめに質問に来ること。

【学生が準備すべき機器他】

授業で用いる資料は事前に授業支援システムを通じて配布する。関数電卓は準備すること。

【その他の重要事項】

講義のキーワード：結晶構造、対称性、単位格子、ブラベ格子、点群、空間群、X線、回折、実格子、逆格子、構造因子、フーリエ変換、電子密度分布
自然科学分野の国立研究機関で勤務経験を持つ教員が、その経験を生かして結晶化学の基礎的知識について講義を行う。

【Outline (in English)】

The objective of this course is to present the basic concepts needed to understand the crystal structure of materials. Fundamental concepts including lattices, symmetries, point groups, and space groups will be discussed and the relationship between crystal symmetries and physical properties will be addressed. The theory of X-ray diffraction by crystalline matter along with the experimental x-ray methods used to determine the crystal structure of materials will be covered.

・ Achievement goal of class

1) To be able to understand the matters and terms necessary for understanding the crystal structure and to describe the crystal structure using them.

2) Understand the symmetries and symmetry operations that exist in crystals and discriminate the symmetries of the 32 crystal point group. You will also understand space groups, learn notations for crystal structures, and learn how to calculate diffraction intensities based on crystallographic parameters.

3) Understand the measurement methods and principles of crystal structure analysis by X-ray diffraction, and acquire knowledge that can be applied to actual measurements and analyses.

・ Learning outside of class

Materials (ppt) used in class will be distributed to students in advance through the class support system. Participants should download the file in advance, read through it, and read the relevant pages of the reference book. Print out the materials and bring them with you to class.

・ Class evaluation methods and standards

Comprehensive judgment will be made based on the results of quizzes and final exams conducted face-to-face in class.

APC200YC

機器分析学

高橋 純一

開講時期：秋学期授業/Fall

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要（オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする）

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

機器分析学は、分析装置を用いて試料中の化学種および元素の状態、濃度を把握することを目的とする。分析化学の一部であり、この授業では主として原子スペクトル分析装置による実際の微量金属分析を例にとり、分析法の原理・装置の構成と共に、サンプリングから結果の考察に到るまでの過程を学ぶ。授業の前半は各種の機器分析法について原理・装置構成・用語を学び、後半は現場での分析に焦点を当て、分析化学と現場分析の目指すゴールの違いを理解する。また分析の失敗例から試料とは何か、正しい分析値とは何を意味するのか、そしてなぜ分析に失敗するのかを考察し、結果の解釈におけるリスクについて学ぶ。

【到達目標】

試料前処理から結果の解釈に到るまでの流れを把握し、分析設計を自分で組み立てられるようになること。分析者として機器分析における用語について誤解のないように誰にでも説明できること。分析装置の原理、構成をなぜ知る必要があるのかを説明できるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【授業の進め方と方法】

プロジェクターを使う講義形式をとる。毎回、短い課題を与える。課題回答に対しては、基本的には個別にコメントをつけてフィードバックするが、授業前に前回の説明を行うこともある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	機器分析の考え方・ガイダンス	分析を実際に行っている現場について概略説明し、なぜ分析しなくてはいけないのかについて講義する。
2	機器の概要：放射線を使う分析法と生体関連分析法	シンクロトロン、原子炉のような大型放射線設備を利用する元素分析法について説明する。方向を変えてタンパク質のアミノ酸構成、DNA 配列分析に使用する前処理装置について講義する。
3	分析の基本用語	機器分析で使用する基本用語のうち単位、純度、感度、検量線、検出限界、不確かさなどについて講義する。
4	X 線分析	X 線について説明し、これを使う主たる分析法である X 線回折と蛍光 X 線をとりあげる。
5	原子吸光法・水銀およびヒ素	分析装置の各論として原子吸光分析をとりあげる。特殊な応用例として水銀およびヒ素の分析を紹介する。
6	ICP 分析法	原子スペクトル分析の発展形として誘導結合プラズマ (ICP) 発光分析および質量分析をとりあげる。

7	顕微鏡・小テスト	試料の「形態を見る」という点から、顕微鏡について説明する。各種顕微鏡の構造、光学顕微鏡から電子顕微鏡、トンネル顕微鏡へと進展していった経緯について講義する。課題提示の代わりに小テストを実施する。レポートとして提出すること。
8	分析設計	実際に分析を行う際のプロセスを組み立てる、という分析設計について説明する。その流れに従って実試料のサンプリングについて述べる。分析から離れて、対象試料としての硫酸について講義する。
9	試料前処理および容器について	分析装置にかける前の試料処理について講義する。原子スペクトル分析法は原則的に液体試料を導入するものであり、固体試料を液化する必要がある。特に極低濃度を扱う際には容器の選択・洗浄についても注意が必要となる。
10	実試料分析	工場排水の分析、太陽電池に用いるシリコンの不純物分析、鉄鋼、食品等についての分析例を紹介する。
11	環境汚染の問題	身近な環境汚染の例を紹介する。分析化学の知識を応用する。授業後半の時間を使って 2 回目の小テストを実施する。その場で回答を仕上げる。
12	危険行為・カドミウムと亜鉛の分析例	分析実験を実施するときの危険行為や危険な対象試料について説明する。原子吸光法の特殊な応用例としてカドミウムと亜鉛の分析例についても紹介する。前回の小テストについて解説することも予定している。
13	分析の失敗例	毛髪分析、天然水晶の分析、鉄鋼中のリン分析などについて紹介する。なぜ失敗したかに焦点をあてる。
14	分析結果を考える	社会問題を取りあげながら分析結果の重みについて考える。最終課題を提示する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】授業後に毎回の課題を解いて提出すること。授業に使用するファイルを事前に提示するので目を通しておくこと。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。

【参考書】

G. D. クリスチャン 分析化学Ⅱ機器分析編など

【成績評価の方法と基準】

毎回の課題, 小テスト, 最終課題ともにレポート形式で行う。レポートとしての体裁, 文章の出来不出来も内容と共に評価する。誤字脱字, 意味不明の文章, 期限後の提出などは厳しく減点する。覚えているかより考えているかを重点的にみる。授業参画度：出席点 (10%) および毎回の小課題に対する解答を授業参画度としても評価する (10%)。小テスト (各 20%)。最終課題 (40%)。

【学生の意見等からの気づき】

毎回の課題回答提出時に, 授業に対する意見などを記してもらう。随時, 質疑応答の時間を設ける予定でいる。

【学生が準備すべき機器他】

なし

【Outline (in English)】

The main objective of this course is to understand the whole process of instrumental analysis, from the sample preparation to the evaluation of analytical results. The theory of trace elemental analysis will mainly be described through the example of atomic spectrochemical techniques. The different goals between practical analysis in the field and theoretical analytical chemistry in the lab are discussed. Furthermore, adequately understanding the meaning of basic terms of instrumental analysis will allow analysts to avoid confusion during data evaluation.

APC200YB

機器分析学

猿渡 茂、野口 恵一、加藤 敏代

開講時期：秋学期授業/Fall

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要（オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする）

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

講義では、核磁気共鳴分光法（NMR）、円偏光2色性、X線結晶構造解析、電子顕微鏡観察などの計測法及びそれら生体高分子への応用について解説する。

【到達目標】

機器分析法の原理と生物試料への応用の基本的な考えを理解することを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【授業の進め方と方法】

パワーポイントと板書を使用する。パワーポイントファイルを配布し、説明をする。説明に基づいてメモを取ることが期待されている。質問は、授業中及び授業後に受け付ける。オムニバス形式。授業時間の最後に小テストを行い、次回の授業のはじめに解説や授業の補足説明を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	蛋白質構造の基礎と計測法	アミノ酸、2次構造、3次構造など（野口）
第2回	核磁気共鳴（NMR）の基礎	歴史、原理、装置の構成、試料の調製（加藤）
第3回	NMR スペクトル	NMR スペクトルから読み取る情報（加藤）
第4回	NMR スペクトル解析	低分子有機化合物の構造解析演習（加藤）
第5回	NMR の応用例	定量分析、混合物分析、固体 NMR など（加藤）
第6回	蛋白質への応用	2次元NMR（加藤）
第7回	蛋白質立体構造のための分光学	円偏光2色性（CD）、2次構造に固有なCD（野口）
第8回	X線結晶構造解析の基本原理	X線の発生、結晶によるX線の回折（野口）
第9回	X線結晶構造解析の実例（1）	X線回折測定の流れ（野口）
第10回	X線結晶構造解析の実例（2）	結晶構造解析の方法（野口）
第11回	X線結晶構造解析の応用	蛋白質の構造解析の実例紹介（野口）
第12回	透過電子顕微鏡の基礎	電子顕微鏡の原理と試料調製（野口）
第13回	透過電子顕微鏡の応用	電子顕微鏡観察の実例紹介（野口）
第14回	最近の研究課題から及び後半テスト	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】授業支援システムで配布したプリント資料を受講後に復習する。宿題・レポートの提出は成績評価に使用する。

【テキスト（教科書）】

プリントを配布する。

【参考書】

- 1) 「いきなりはじめる構造生物学」（神田大輔著、学研メディカル秀潤社）
- 2) 「分析化学実技シリーズ 機器分析編3 NMR」（田代充・加藤敏代著、共立出版）

【成績評価の方法と基準】

出席点（25%）、小テストとレポート及び宿題（25%）、前半と後半のテスト（50%、再試験なし）

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【Outline (in English)】

The objectives of this class are to learn the basic principles of structure determination of biomacromolecules by NMR spectroscopy, X-ray diffraction method and electron microscopy. It is important for all students to have an understanding of the basis, strengths, precision and limitations of these technique.

APC200YB

バイオエンジニアリング

萩原 知明

開講時期：秋学期授業/Fall

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要（オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする）

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

バイオプロセスに関する基礎知識を習得し、定量的な解析および設計を行うための基礎能力を養うとともに、実例を通じてバイオ技術の現状を学習する。特に、食品や医薬品の製造に関連したプロセスを生物化学工学的立場から理解する。

【到達目標】

- 1) 酵素や微生物など生体触媒の特徴について理解する
- 2) 生体触媒の応用について具体例を知る
- 3) 生体触媒を利用する反応の速度論の基礎を理解する
- 4) 生体触媒を利用するための反応器および操作法の基礎を理解する

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【授業の進め方と方法】

酵素や微生物など生体触媒の特徴や応用例、反応速度論、反応器の形式や操作論など、バイオプロセスに関する基礎知識を講述する。毎回の授業の最後に小テスト（クイズ）を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	序論／食品や医薬品の製造に見るバイオプロセス	食品や医薬品の製造に関わるバイオプロセスを紹介する
2	バイオサイエンスの化学的基礎	生体を構成する物質の化学的性質について講述する
3	生体触媒の特性（1）酵素	生体触媒としての酵素の特徴について講述する
4	生体触媒の特性（2）微生物・動物細胞	生体触媒としての微生物や動物細胞の特徴について講述する
5	酵素を利用するバイオプロセス（1）異性化糖の製造を例として	酵素を利用するバイオプロセスの具体例として異性化糖の製造を紹介する
6	酵素を利用するバイオプロセス（2）固定化酵素・非水系における酵素反応	固定化酵素や非水系における酵素反応を利用するバイオプロセスの例を紹介する
7	微生物を利用するバイオプロセス	微生物を利用するバイオプロセスについて、具体例を紹介する
8	酵素反応速度論（1）カエリス-メンテンの式	ミカエリス-メンテンの式を中心として、酵素反応速度論の基礎を講述する
9	酵素反応速度論（2）少し複雑な酵素反応の速度論	二基質反応など、少し複雑な酵素反応系の速度論を講述する
10	酵素反応速度論（3）酵素反応の阻害	酵素反応の阻害について、各種の様式とその速度論を講述する
11	細胞が関連する生化学反応速度	微生物の増殖速度とその影響因子ならに基質と生産物の変化速度の基本的考え方について講述する
12	バイオリアクターの形式と反応操作設計の基礎	酵素反応リアクターの各種形式とその特徴について講述する
13	微生物を利用するバイオリアクターの設計と操作	微生物を利用するリアクターの形式と操作について、特に廃水処理に利用される活性汚泥法を例として、連続培養法の基礎を講述する
14	バイオセンサー	バイオセンサーの原理・特徴とその具体例について講述する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】準備学習は必須ではないが、復習は必ず行うこと。特に、授業時に実施した小テストの内容については十分に理解しておくことが、単位取得のためには必要である。各回の授業内容に応じて、別途課題を与えることがある。

【テキスト（教科書）】

授業時に資料を配布する。

【参考書】

新版生物化学工学（海野肇／中西一弘／白神直弘／丹治保典・著）講談社サイエンティフィク
生物反応工学（山根恒夫・著）産業図書

【成績評価の方法と基準】

期末試験（80%）と小テスト（20%）を総合して評価する。30分を超える遅刻をした授業日の小テストの点は評価に加えない。
期末試験を受験するためには3分の2以上の出席が必要である。3分の2以上の出席が認められない場合は、仮に期末試験を受験しても、不可とする。出席の確認は、カードリーダー（出席管理システム）と小テストへの回答の両方で行う。両方で出席が確認できた場合のみ、出席したものと判定する。

【学生の意見等からの気づき】

小テストに加えて課題を出す、動画を積極的に使用することにより、理解をより深化できるように配慮する。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

・交通機関の遅延等で授業の出席が遅れた場合は、交通機関の発行する遅延証明書を授業終了時に必ず提出すること。
・3分の2以上の出席が認められない場合は、仮に期末試験を受験しても、不可とする。
・「学生証を忘れたのでカードリーダーでのチェックができません。」「カードリーダーと小テストの両方での出席確認が必要だということはありませんでした。」「小テストへの回答だけで大丈夫だと思っていました。」「出席管理システムのチェックだけで大丈夫だと思っていました。」等の言い訳は一切考慮しない。

【Outline (in English)】

The aims of this class are:

- (1) To learn the fundamentals of bioprocess for quantitative analysis and design of the process.
- (2) To understand the current status of biotechnology application for practical production.
- (3) To understand the bioprocess in food and pharmaceutical industries from the view point of biochemical engineering

MAC200YB

分析化学

宮村 一夫

開講時期：秋学期授業/Fall

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部公開科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要（オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする）

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

生命物質や環境物質を正しく評価するために必要な分析化学の基礎を学習する。

【到達目標】

各分析手順について、その原理や要点をマスターすることを目指す。具体的には、実験計画法、試料採取法、試料調製法、分離、検出と計測、データ処理法、化学診断法に関する系統的な知識の習得を到達目標とする。特に、データの取り扱い方、化学平衡、抽出分離など、生命科学研究に用いる分析手法の原理を学び、将来的に研究を遂行していくために必要な知識の習得を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【授業の進め方と方法】

- (1) 生命科学や環境科学をはじめ、様々な分野の基礎となる分析化学の基礎を学習する。
- (2) 必要に応じてプリントを配布するとともに、スライドによる講義を行う。
- (3) 課題に対するフィードバックは学習支援システムで行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の進め方解説
第2回	データ処理	平均値、標準偏差、誤差とガウス関数、有効数字
第3回	化学診断	真度と精度、過誤、リスク管理、バリデーション
第4回	試料採取と試料調製	均一試料と不均一試料、溶液と化学平衡
第5回	電解質溶液	化学ポテンシャル、イオン強度、
第6回	有機物試料の試料調製	酸と塩基、酸塩基平衡、pH、緩衝溶液、
第7回	錯イオン平衡	金属イオンと配位子、錯形成反応、安定度定数
第8回	沈殿分離	溶解度曲線と沈殿曲線、溶解度積、金属イオンの分属、重量分析
第9回	電解分離	電気化学、電子の移動と酸化還元、標準酸化還元電位
第10回	抽出分離	分配平衡、キレート抽出、マスキング、協同効果
第11回	クロマトグラフィー	スラブ型とカラム型、移動相と固定相による分類、
第12回	電気泳動法	ゾーン電気泳動、キャピラリー電気泳動、等速電気泳動
第13回	分光法の基礎	光子エネルギーと物質への作用、ランバートベールの法則
第14回	分光法	X線分析、原子分光、ほか

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】各回テーマが変わるので、授業後の復習により知識を確実にすることが望まれる。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

分析化学 黒田六郎ほか 裳華房
分析化学 II 北森武彦ほか 丸善

【成績評価の方法と基準】

期末試験（80%）、平常点（20%）、試験ではA 5判のメモ1枚持ち込み可。（対面式による期末試験を行わない場合、レポート課題により成績評価を行う。）

【学生の意見等からの気づき】

プリントを必要に応じて配る。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

生命機能学科および応用植物学科および環境応用化学科を対象とする。

【Outline (in English)】

This class is learned about a basis of analytical chemistry, for understanding about bioscience and applied chemistry.

MAC300YC

物質機能化学

緒方 啓典

開講時期：春学期授業/Spring

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部公開科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要（オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする）

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

物質の持つ様々な物性や機能は、物質の電子状態、結晶構造、凝集状態等と密接に関連している。物質の持つ様々な機能を理解し、新規物質開発等、材料化学の研究を行う際には、それらの機能がどのようなメカニズムで生じているか基礎的な知識が必要とされる。本講義では物質を構成する原子・分子・電子の状態、エネルギーの観点から物質の持つ様々な機能の発現メカニズムと具体的な機能性物質への応用例について学ぶ。本講義は環境応用化学科の「物質創成化学コース」の推奨科目です。本講義の内容を理解するためには、物理化学、有機化学、無機化学等、化学の専門科目を受講しているか、それらの内容に関する基礎知識を持っていることが必要です。

【到達目標】

物質のもつ様々な性質（物性）について理解する。
物質の電子状態について理解する。
物質の構造、電子状態と物性の関係を理解する。
新規機能性物質開発の基礎を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【授業の進め方と方法】

授業の進め方については、学習支援システムを通して適宜提示します。授業の資料は各自ダウンロードし、印刷したものを見て自習してください。さらに、参考書等を用いて自分で調べたことなど適宜書き込みを行い、自分のノートを作成してください。授業内容について不明な点がありましたら、いつでもメールで質問を受け付けています。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス-講義概要	ガイダンスにて講義概要の説明を行う。
2	物質の階層性と機能性-電子-原子-結合-凝縮状態が生み出す機能性	電子-原子-結合-分子間相互作用の観点から、凝縮状態が生み出す機能性について学ぶ。
3	機能性から見た物質-物質の力学的性質-01-	物質の硬度の起源、力学的性質の表記方法、弾性変形と塑性変形について学ぶ。
4	機能性から見た物質-物質の力学的性質-02-	弾性変形および塑性変形の微視的メカニズム、マルテンサイト変態と超弾性等について学ぶ。
5	機能性から見た物質-物質の熱的性質-01-	ミクロから見た熱と温度、固体の熱的性質を支配する因子、固体の熱容量と熱伝導率の微視的機構について学ぶ。
6	機能性から見た物質-物質の熱的性質-02-	固体の熱膨張と融点の関係、低熱膨張合金等、応用例について学ぶ。
7	機能性から見た物質-物質の電気的性質-01-	物質の電気的性質とバンド構造について学ぶ。
8	機能性から見た物質-物質の電気的性質-02-	金属および超伝導体の性質およびメカニズムについて学ぶ。
9	機能性から見た物質-物質の電気的性質-03-	半導体の電子的性質について学ぶ。
10	機能性から見た物質-物質の電気的性質-04-	半導体の応用例について学ぶ。
11	機能性から見た物質-物質の光学的性質-01-	物質のさまざまな光学的特性の現象論について学ぶ。
12	機能性から見た物質-物質の光学的性質-02-	ミクロな観点から見た光学的特性のメカニズムについて学ぶ。
13	機能性から見た物質-物質の磁気的性質-01-	物質のさまざまな光学的特性の現象論について学ぶ。
14	機能性から見た物質-物質の磁気的性質-02-	前回は引き続き、ミクロな観点から見た磁性のメカニズムと磁気的相互作用について学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】事前に学習支援システムを通して配布されるプリントおよび下記参考書等を用いて準備学習および復習を行うこと。

【テキスト（教科書）】

特定の教科書は使用せず、項目ごとに資料を配布する。

【参考書】

「物性化学」：松永義夫著 裳華房
「固体の電子状態と化学」：P.A.COX 著（魚崎浩平他訳） 技報堂出版
「分子結晶」：J.D.Wright 著 化学同人
「物性論入門」：石井晃著 共立出版
「現代物性化学の基礎-化学結合論によるアプローチ-」：小島憲道編 講談社
「化学者のための電気伝導入門」：小林浩一著 裳華房
「実験化学講座第5版 27巻 機能性物質」
「固体有機化学」小林啓二、林直人著 化学同人 等

【成績評価の方法と基準】

授業中に対面で実施する小テストおよび最終試験の結果を元に総合的に判断する。

【学生の意見等からの気づき】

学生の理解の度合いを見ながら授業を進める。

【学生が準備すべき機器他】

講義に必要な資料は全て学習支援システムを利用して配布を行う。

【その他の重要事項】

本講義は環境応用化学科の「物質創成化学コース」の推奨科目となっています。将来、新物質の開発や材料化学に関する研究開発に興味がある学生は履修することをお勧めします。

【Outline (in English)】

This course is designated in the order of firstly studying important fundamental theories for understanding materials. This course offers a description of how the mechanical, thermal, electronic, optical and magnetic properties of materials originate from their electronic and molecular structure and how these properties can be designed for particular applications.

・ Attainment target

- 1) Understand various properties (physical properties) of materials.
- 2) Understand the electronic states of materials.
- 3) Understand the relationship between the structure of materials, electronic state, and physical properties.
- 4) Understand the basics of developing new functional substances.

・ Learning outside of class

Use the handouts distributed in advance through the learning support system and the following reference books to prepare for and review.

・ Grading methods and standards

Comprehensive judgment will be made based on the results of quizzes and final exams.

MAC300YC

物質変換化学

奥村 和

開講時期：春学期授業/Spring

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部公開科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要（オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする）

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現在のような物質文明に生きる私たちにとって、化学反応を利用した物質変換技術は必要不可欠な技術である。地球温暖化抑制や資源枯渇対策が急務となっている現代社会にとって、効率的に化学物質を製造する技術こそ、地球環境保全に必要な不可欠な技術といえる。実用化されている化学反応のほとんどは触媒反応が採用されている。触媒には反応速度の加速・減速を通して、目的とする特定の反応のみを効率的に促進させる機能がある。従って触媒技術は人間生活に必要なさまざまな化学物質の効率的な製造技術として重要な位置を占めてきた。一方、環境に悪影響を及ぼす化学物質を分解除去する目的にも大いに用いられている。本講義では、実用化されているものから将来の実用化が期待されているものまで、いくつかの化学工業や環境浄化に用いられる触媒技術を取り上げながら解説し、現在社会における触媒を用いた物質変換技術の重要性やその内容を学生が理解することを目的とする。

【到達目標】

触媒を用いた反応プロセスを例に挙げ、触媒の性能（活性、選択性）や反応機構に関する知識や考え方を学生が習得する。触媒の定義、種類、理論、役割、評価法など触媒に関する基礎的な知識や考え方を学生が習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【授業の進め方と方法】

授業計画に従い、教室における講義を主体として進行する。授業時間内にレポート等の課題を求める。授業の初めに、前回の授業で提出されたレポートからいくつかの解答例を取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	触媒の種類と歴史	触媒の分類および歴史に関する解説
2	不均一系触媒の概要と解説	アンモニア合成を例にした不均一系触媒の概要と特徴に関する解説
3	触媒反応の方法	触媒反応の方法と触媒活性の評価方法に関する解説
4	吸着 1	吸着のメカニズム、物理吸着と化学吸着の違いと特徴に関する解説
5	吸着 2	吸着等温式、吸着熱、比表面積の計算に関する解説
6	反応速度	速度定数、反応次数、活性化エネルギーなどの求め方に関する解説
7	触媒調製	触媒の調製方法に関する解説
8	キャラクターゼーション技術	触媒の組成や構造などを決定する方法に関する解説
9	石油精製	原油から化学品にいたる石油の分離および反応プロセスに関する解説
10	接触分解と脱硫	石油の接触分解と脱硫における反応、触媒、機構に関する解説
11	金属触媒	金属触媒の特徴と触媒作用に関する解説
12	酸化物触媒	酸化物触媒の活性、生成熱と触媒活性に関する解説
13	環境触媒	自動車排ガス浄化触媒の種類と触媒作用に関する解説
14	均一系触媒	均一系触媒の代表例と反応メカニズムに関する解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学生が参考書や講義ノートを利用した予習・復習をおこなう。本授業の準備・復習時間は、各 4 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

『新しい触媒化学<新版>』、菊地英一ら著、三共出版、3,080 円

【参考書】

『触媒化学（化学マスター講座）』、江口浩一ら著、丸善出版、3,740 円
『触媒化学 ―基礎から応用まで―』（エキスパート応用化学テキストシリーズ）田中庸裕ら著、講談社、3,300 円

【成績評価の方法と基準】

試験の結果（70 %）を主とし、これに平常点（30 %）を加味して評価する。

【学生の意見等からの気づき】

講義内容の理解を深めるための復習の機会を充実する。

【学生が準備すべき機器他】

関数電卓

【Outline (in English)】**Course outline:**

For us living in substance civilization like present, material conversion technology using chemical reaction is indispensable technology. For modern society in which global warming prevention and resource depletion countermeasures are an urgent task, technologies for efficiently manufacturing chemical substances are indispensable technologies for protecting the global environment. Most of the chemical reactions that have been put to practical use are catalytic reactions. The catalyst has a function of efficiently promoting only a specific reaction of interest through acceleration / deceleration of the reaction rate. Therefore, catalyst technology has occupied an important position as an efficient manufacturing technology of various chemical substances necessary for human life. On the other hand, it is also used for the purpose of decomposing and removing chemical substances which adversely affect the environment. In this lecture, we will explain from practical use to what is expected to be put to practical use in the future, taking up some chemical industry and catalyst technology used for environmental purification, Understand the importance of conversion technology and its contents.

Learning Objectives:

Taking the reaction process using a catalyst as an example, students will acquire knowledge and ideas about catalyst performance (activity, selectivity) and reaction mechanism. Students acquire basic knowledge and ideas about catalysts such as catalyst definitions, types, theories, roles, and evaluation methods.

Learning activities outside of classroom:

Students will prepare and review using reference books and lecture notes. The standard preparation and review time for this class is 4 hours each.

Grading Criteria /Policy:

The test results (70%) are the main factors, and the normal score (30%) is added to the evaluation.

MAC300YC

物質循環化学

明石 孝也

開講時期：秋学期授業/Fall

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部公開科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要（オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする）

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

地球上においては様々な物質が変質を起こしながら循環をしている。本授業では、主に鉱物資源循環の観点から、物質循環学を学ぶ。本授業で得られる知識が、環境に配慮した循環型社会の理解や構築に役立つことを望む。

【到達目標】

無機工業化学と化学工学を軸に、地球上における鉱物資源の物質循環を学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【授業の進め方と方法】

教科書を中心として、板書とスライドを用いた講義を行う。基本的に毎回の授業中に演習を行い、授業内容の理解度を確認する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	序論（地球と人類、経済）、放射性炭素年代測定法	地球と人類との関わりについて講義する。環境経済学に関しても触れる。また、放射性炭素年代測定法を理解する。
2	地球の放射年代測定（アイソクロン法）	地球の年代測定のためのアイソクロン法を学ぶ。
3	固体地球の構成	固体地球の構成とともに、どのようにしてその構成を明らかにしたかを紹介する。
4	鉱物の構造 (1)	鉱物の種類と鉱物結晶の対称性について学ぶ。
5	鉱物の構造 (2)	鉱物の結晶構造について学ぶ。
6	火成岩	火成岩とその生成機構について学ぶ。
7	変成岩	変成岩とその生成機構について学ぶ。
8	堆積岩	堆積岩とその生成機構について学ぶ。
9	地球の変動	地球の変動、主にプレートテクトニクスについて学ぶ。
10	地球の誕生と進化	地球の誕生と進化について学ぶ。
11	生命の誕生と進化	生命の誕生と進化および大量絶滅事変について学ぶ。
12	鉱物・エネルギー資源	地球における鉱物・エネルギー資源の生成過程について学ぶ。
13	流体シミュレーション（1次元）の基礎	1次元の流体シミュレーションを行う。
14	流体シミュレーション（2次元）への導入	2次元の流体シミュレーションの導入を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】

前回までの講義内容を復習して、理解を深めておくこと。また、授業の進捗状況に合わせて、次回の演習で出題される範囲を予習しておくこと。

【テキスト（教科書）】

「地球・環境・資源—地球と人類の共生をめざして— 第2版」

内田 悦生・高木 秀雄編 高木 秀雄・山崎 淳司・円城寺 守・小笠原 義秀・太田 亨・守屋 和佳・内田 悦生・大河内 博・香村 一夫著、ISBN:978-4-320-04734-1

【参考書】

現代地球科学入門シリーズ 9 巻「地球のテクトニクス I 堆積学・変動地形学」共立出版

現代地球科学入門シリーズ 11 巻「結晶学・鉱物学」共立出版

現代地球科学入門シリーズ 12 巻「地球化学」共立出版

現代地球科学入門シリーズ 15 巻「地球と生命—地球環境と生物圏進化—」共立出版

現代地球科学入門シリーズ 16 巻「岩石学」共立出版

【成績評価の方法と基準】

試験 (80%) と演習問題 (20%) と授業へ取り組み姿勢により、総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

学生の理解度を把握するために、対面授業を実施する。

【学生が準備すべき機器他】

関数電卓

【その他の重要事項】

無機工業化学と化学工学を軸にした物質循環化学の講義を行っている。また、鉄鋼業界の企業にてプロセス開発研究を行っていた教員が、その経験を活かして、資源や化学工学の観点からの講義も行う。

【Outline (in English)】

(Course outline) During various materials are circulating on the earth, the character of the materials, such as shape, microstructure, phases, and crystal structure, are changing. This class mainly focuses on the circulation of mineral resources on the earth. The knowledge will help us to understand and create recycling-oriented and sustainable society.

(Learning Objectives) Students are expected to understand the chemical reaction and mechanical changes on the earth, and fundamental of introduction of computational fluid dynamics.

(Learning activities outside of classroom) Student must understand the content of the previous class.

(Grading Criteria /Policy) Final grade will be calculated according to quizzes in classes (20%), term-end examination (80%), and in-class contribution.

APC300YA

バイオマテリアル

湯田坂 雅子

開講時期：秋学期授業/Fall

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部公開科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要（オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする）

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

バイオマテリアルは材料科学と生物学の融合領域を扱うため、材料と細胞や組織との相互作用などを理解することが重要である。この授業では、バイオマテリアルの化学・物理、バイオマテリアルに対する生体応答、さらに実用化の現状に関して広く学ぶことによりバイオマテリアル研究開発に役立つ知識を得ることを目的とする。

【到達目標】

バイオマテリアルサイエンスでは、人工心臓のようなマクロサイズなものから、薬剤送達システムといったマイクロサイズのものまでを対象として研究・開発が進められている。そこで使われている材料は、金属などの無機物、高分子などの有機物、細胞など多種類に及んでいる。本授業では、こうした現状を理解すること、バイオマテリアルに関する基礎知識を獲得すること、それにより医療の発展に貢献できる能力を獲得することを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【授業の進め方と方法】

講義は主にパワーポイントを使って行い、内容は教科書に沿って進める。リアクションペーパーあるいは課題解答を提出してもらい、それらのフィードバックを次回授業または学習支援システムで行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス、生体の仕組み	バイオマテリアルサイエンスの概観：分子から細胞、組織、臓器まで。
第 2 回	バイオマテリアル	金属・セラミックス・炭素材料（物理化学的基礎、生体応用に適した特徴）
第 3 回	バイオマテリアル	高分子材料（合成と構造、生体応用に適した高分子）
第 4 回	生体由来バイオマテリアル	細胞外マトリックス、機能的タンパク質からみた細胞と組織の機能
第 5 回	バイオマテリアルの性質	バイオマテリアルの物理的特性（力学、熱、表面）と生体応答
第 6 回	バイオマテリアル形状	バイオマテリアルの成型加工や微粒子作製と生体適合性。
第 7 回	生体応答	生体適合性、炎症反応、免疫応答。
第 8 回	医療機器	人工臓器、医療機器と材料
第 9 回	ドラッグデリバリーシステム	薬物送達システム（DDS）の必要性、DDS 作製、体内動態、薬剤徐放、ターゲティング
第 10 回	再生医療	再生医療の現状
第 11 回	免疫系	免疫細胞の種類と役割。（参考書「図解 免疫学入門」）
第 12 回	バイオマテリアルに必要な解析技術	生物学的解析技術
第 13 回	診断とバイオマテリアル	生化学検査とイメージング
第 14 回	期末試験	授業全般の内容に関して試験を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、1 時間を標準とする。バイオマテリアルと生体の相互作用では免疫応答がカギとなるので「図解 免疫学入門」にも目を通しておくこと。

【テキスト（教科書）】

「バイオマテリアルサイエンス 基礎から臨床まで 第 2 版」東京化学同人（山岡哲二、他、2018 年、価格 2600 円+税）をテキストとして使用し、このテキストにそって授業を行う。

【参考書】

「図解 免疫学入門」東京化学同人（David Male 著、山本和夫訳）、2018 年、価格 2300 円+税）

【成績評価の方法と基準】

主に記述式の試験によって成績評価する。小テスト 5 回と期末試験を 1 回行う予定である。点数配分は、小テストと期末試験（80%）、平常点（20%）の子定である。

【学生の意見等からの気づき】

授業はテキストに沿って行うが、免疫系については適宜解説を追加する。

【学生が準備すべき機器他】

講義に関連した補助プリントがある場合には、授業支援システムを通じて事前あるいは事後に配布する。

【その他の重要事項】

特になし

【Outline (in English)】

Since bio-material deals with the interdisciplinary area of material science and biology, it is important to understand the interaction between materials and cells or tissues. In this class, students will learn chemistry and physics of bio-materials, response of biological systems to the bio-materials, and recent advances of bio-materials application to medical science. The knowledge obtained from these learning will be useful to develop the research and application of new bio-materials.

MAC300YB

分子エレクトロニクス

照井 通文

開講時期：春学期集中/Intensive(Spring)

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部公開科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要（オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする）

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

分子エレクトロニクスデバイスの基礎：

有機分子の基礎概念、有機機能物質の概観を把握し、具体的なデバイス例にもとづき、構造化技術、有機ナノデバイスの基礎と応用を理解する。

【到達目標】

分子エレクトロニクスデバイス実装例から、「材料としての機能性分子開発」と「デバイスとしての機能発現」、そして「デバイスを実現するための技術開発」を総合的に把握し、関連する物理、化学を理解することを目標とする。具体的には前期量子論、電磁気学、固体電子論等の基礎を復習するとともに分子エレクトロニクスという実応用例においてどのような意味があるのかを理解する。大学での基礎物理を履修済みであることが望ましい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【授業の進め方と方法】

有機物質の多様な物性を理解し、機能性物質としての応用、有機分子デバイスの開発の背景、特に有機分子エレクトロニクスの例を講述する。

分子エレクトロニクスに関連する分野（物理、化学、光学、ナノテクノロジー等）の理解のために適宜演習を行なう。また最近のホットトピックスも交えて講述する。

課題に対するフィードバックは学習支援システムで行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	序論	教師自己紹介、授業の到達目標およびテーマ、キーワード、授業についての注意。
2	有機デバイスの歴史と概観	導電性有機分子の発見から現在の有機エレクトロニクス機器までの有機機能材料と研究開発の歴史と概観。
3	有機機能物質の構造と性質	物質（分子）の構造と機能の関係。単分子から高分子、生体分子、超分子までの概観。
4	ナノテクノロジー I	ナノテクノロジー概観。ナノテクノロジーの発展と有機分子デバイス研究。
5	ナノテクノロジー II	分子エレクトロニクスとナノテクノロジー。
6	分子観測、計測	走査型探針顕微鏡。
7	ナノ構造作製	分子設計、自己組織化、薄膜作製、ナノ加工技術。
8	単一電子トンネリングデバイス (SET) I	単分子エレクトロニクス概観。クーロンブロックイド。ナノ電極作製。金属ナノ粒子。
9	SET II	スイッチング素子、フォトクロミック分子。
10	SET III	ワイヤー分子、励起状態とトンネリング。
11	光デバイス I	光物性、液晶、偏光。
11	光デバイス II	電気光学効果とデバイス開発。光変調器。
12	ナノバイオデバイス	新規デバイスアーキテクチャ、バイオ分子。
14	試験	まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】授業後の復習だけでなく、これまでに履修している科目の復習をしておくことが重要。これまでの物理、化学等の復習。特に量子力学、電磁気学、固体物理等の入門書などに目を通しておく。

【テキスト（教科書）】

特定の教科書は特に定めない。

【参考書】

量子力学（前期量子論）、電磁気学に関するもの。基礎部分の理解が求められるので、流通しているものであれば良い。その他については必要があれば講義中に紹介する。

【成績評価の方法と基準】

試験により評価する。講義中に例題、演習を適宜行う。試験はそれに準じた内容とする。演習そのものは評価に加味せず、試験 100%の配分とする。詳細は導入ガイダンスにおいて説明する。

【学生の意見等からの気づき】

理解を深めるために演習の時間を設ける。書き取りの時間を適切にする。

【学生が準備すべき機器他】

講義形式で授業を進める。プレゼンテーションツール（パワーポイント等）を使用する。

【その他の重要事項】

授業中の質問は随時可能。質問はメールでも受け付ける。授業中の私語は厳禁であるが、演習等においては周りの受講生と議論することを許している。

【Outline (in English)】

Molecular Electronics Device:

Basic concept of an organic molecule, Overview of Organic functional materials, device fabrication techniques, application of an organic nano-device.

BLS300YB

蛋白工学

常重 アントニオ

開講時期：秋学期授業/Fall

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要（オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする）

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This course is designed to give students a succinct, yet solid knowledge of protein structure, and the many techniques to alter and produce them. Special emphasis will be given to theoretical basis for the design of protein structures from scratch. The course will also emphasize on the various techniques applied, ranging from chemical modification in already known proteins to the design and creation of new protein motifs.

【到達目標】

The enrolled student will learn first the basic physico-chemical properties and functions of proteins, starting from those of amino acids and peptides. Later, the student will learn the different goals of protein engineering, more specifically, protein design and its basic techniques and applications.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【授業の進め方と方法】

Classes will be conducted in the form of presential lectures. Handouts will be available in electronic format through the Hoppii system. The use of a personal computer is greatly advised.

As assessment of learning, quizzes and homework will be assigned periodically, and their solutions with commentaries will be explained in following sessions.

Submission of reports will be requested and use as feedback.

Active participation of students is encouraged.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Introduction.	Proteins. Scope of this course.
2	Structure of proteins (I).	From amino acids, to peptides, proteins, and protein macro-complexes.
2	Structure of proteins (II).	Basic concepts in protein structure. Physicochemical properties of proteins. Stabilization forces of protein structures.
4	Structural analysis of proteins. Chemical modifications of proteins.	The hydrophobic collapse. Learning from nature. Use of databases. Visualization of protein structures. Use of chemical labels.
5	Protein purification	Qualitative and quantitative techniques employed in protein purification and characterization
6	The core of this course: Protein Design	How to design and create proteins <i>de novo</i> (from scratch). Taming the destabilizing forces in protein constructs.
7	<i>De novo</i> Design of Proteins (I).	Analyzing examples from nature. The alpha helix. How to use the helical wheel. Alternative devices.
8	<i>De novo</i> Design of Proteins (II).	Design of tertiary structures in proteins.
9	<i>De novo</i> Design of Proteins (III).	The Merrifield method of protein synthesis.
10	Protein Denaturation.	Protein production without an organism. Thermodynamic aspects of protein denaturation.
11	Protein Refolding.	The still unsolved problem of protein refolding.
12	Monoclonal Antibodies.	Basic immunology. How this technique lead to a Nobel Prize.
13	Proteins in Bio-Medicine.	Introduction of engineered proteins with applications in Medicine.

14 The Future of Protein Beyond the helix bundle motif Engineering

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】

Prior classes, handouts and references will be distributed through the system Hoppii. The enrolled student is encouraged to read the provided material before classes.

Quizzes and problems to be solved as homework will be distributed periodically, and their responses scored accordingly. Solution to these will be given in following classes.

【テキスト（教科書）】

The textbook shown below can be used as a textbook, although this does not cover all the topics presented in class.

改訂「酵素－科学と工学」虎屋哲夫等，講談社（2012）

【参考書】

Handouts and references will be available in digital form from the system Hoppii.

【成績評価の方法と基準】

Final exam (or equivalent): 60%; assignments and reports: 20%; active participation in class: 20%.

【学生の意見等からの気づき】

The syllabus for the current year has been updated to focus on selected points that required more emphasis.

【学生が準備すべき機器他】

Personal computer to access the Hoppii systems. All references will be made available in digital format.

APC300YA

生物有機化学

芝 清隆

開講時期：春学期授業/Spring

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部公開科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要（オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする）

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

生物を構成する「有機化合物」の構造と特徴について学習し、同時にこれら生体高分子の相互作用の織りなす生命システム、生物進化そのものを学んでいく。特徴としては「横」と「縦」、すなわち「進化」と「多様性」をキーワードとして講義を進める。すなわち、宇宙の誕生、生物の誕生の歴史の中で、なぜいまのような有機化合物が形成されてきたのかに思いを巡らせながら、多彩な有機化合物から生み出される「生命システム」そのものを理解していく。同時に、近代科学の進化やいろいろな科学アプローチといった「自然科学」の変遷も取り上げた講義とする。さらに、生命科学の最先端の研究を体感するために、各種公共データベースを授業中に実際に利用する演習も何回か予定している。授業計画にあるように、タンパク質、脂質、糖などの細胞を作る物質、遺伝情報伝達の仕組み、生体膜、代謝や酵素反応などをトピックとして、教科書に沿って講義を進め、学習支援システムを活用しながら、受講者からのフィードバックも取り入れていく。

【到達目標】

現在の地球上の存在する生物、あるいは細胞が、どのような有機化合物で構成されており、それがどのように合成され、またどのような働きをするかを十分に理解する。加えて、長い宇宙・生物の進化において、なぜこれらの有機化合物が今の姿になっているのかに興味をもち、「物質」の相互作用が創り出す「システム」の創発の重要性を理解する。また、近代科学における実験の重要性についても理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【授業の進め方と方法】

教科書に沿った授業をおこなうが、該当する教科書の章はあらかじめ予習していることを前提として進める。教科書とは違って視点での説明をおこなう、関連したトピックを紹介するなどの、理解を深めるための工夫をした授業内容を予定している。授業の初めに、前回の授業で提出された質問票からいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。授業には各自 PC を持参すること。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	細胞から構成される生命 (1)	教科書の第 1 章相当部分。 生物の構成単位としての細胞について考える。細胞とは何か？ 細胞はどのように観察・発見されたのか？ などを、近代科学の誕生と展開の歴史とからめながら学んでいく。
2	細胞から構成される生命 (2)	教科書の第 1 章相当部分。 細胞の連続性と多様性、すなわち「横」と「縦」について学びながら、「進化」と「分化」について考えていく。
3	細胞を構成する化学化合物 (1)	教科書の第 2 章相当部分。 細胞を構成する分子の分類と構造・特徴を学んでいく。宇宙の誕生とともに生成する元素が、どのように有機化合物に利用されているかに注目する。
4	細胞を構成する化学化合物 (2)	教科書の第 2 章相当部分。 細胞を構成する分子がどのように分類できるか？ どのような特徴をもつか？ どのように機能分担しているかを学ぶ。
5	生命情報とは何か (1)	教科書の第 3 章相当部分。 「遺伝」のしくみが、どのように理解、解明されてきたかを学ぶ。
6	生命情報とは何か (2)	教科書の第 3 章相当部分。 「遺伝情報担体物質」としての「DNA」の発見の経緯を紹介しながら、DNA による遺伝のしくみを学ぶ。
7	生命情報とは何か (3)	教科書の第 3 章相当部分。 遺伝情報の複製・転写・翻訳を復習しながら、生命システムの大きな特徴である「階層性」について学ぶ。

8	生体膜構造	教科書の第 4 章相当部分。 細胞、あるいは細胞内の微細構造を形成する「脂質二重膜」の構造と構成分子を学ぶ。生命にとっての「区切る」ことの意味を考えていく。
9	宇宙と生命システムの進化	ここまで学んできたことをベースとして、宇宙の歴史の中での生命の誕生と進化について考えていく。
10	生命とエネルギー	教科書の第 5 章相当部分。 細胞、あるいは生物のエネルギーの収支について、エネルギー代謝系の復習と共に学ぶ。
11	生体高分子の相互作用	教科書の第 6 章相当部分。 生物活動と酵素反応との関係を学び、生命システムにおける「特異性」の意味を考える。
12	疾患の診断、治療、予防と生体高分子	生命システムの破綻がどのように各種疾患につながるか、また、それをどう理解し、どう制御（治療）しているのかの現状を紹介する。
13	生物理解とサイバネティクス	生命システムを理解しようとする学問の歴史を紹介し、現在進行形のシステム研究を、各種データベースを実際に使いながら、体験してみる。
14	まとめテスト	これまでの小テスト 70%：まとめテスト 30% の比率で合計したものを最終成績とする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】受講者はあらかじめ、教科書の相当する章を、十分に予習していることを前提に授業をおこなう。

【テキスト（教科書）】

入門 生化学（裳華房）著者 佐藤健
プリント版：2,640 円
電子版：2,508 円
(2023 調べ)

【参考書】

細胞の分子生物学（ニュートンプレス）（翻訳版）
遺伝子の分子生物学（東京電機大学出版局）（翻訳版）
ただし、いずれも高価なものなので特に買わなくてもよい。図書室などで必要部分を読めばよい。また、各回の授業に関連した図書・サイトの情報をその都度紹介するので、視野を深めたい学生は参考にとよい。

【成績評価の方法と基準】

第 2 回～第 13 回の授業中に学習支援システムを利用しておこなう小テストの合計を 70 点、また、最終授業でおこなうまとめテストの成績を 30 点とし、これらの合計を最終的な成績とする。

【学生の意見等からの気づき】

毎回の授業中におこなう小テストの結果をふまえながら、学生の理解度を把握し、その後の授業内容に反映させる。また、学生からの「これが知りたい」といったリクエストに可能な限り対応して、興味のある事項を紹介していく予定である。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを利用した授業中での小テストをおこなうので、必ず学習支援システムが利用できる環境で出席してください。

【Outline (in English)】

Biochemistry enhances the molecular-based understanding of biological systems and phenomena. Knowledges of biochemistry is necessary to understand the recent advanced-biological science. The aim of this course is to gain knowledges of bio-molecules such as proteins, lipids, sugars, and genetic transcription, bio membrane, metabolism, and enzyme reaction. By the end of the course, students are expected to learn how biomolecules have emerged and been evolving. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Your overall grade in the class will be decided based on the following: 70 % mini-tests and 30 % final test.

AGC300YA

食品科学

三浦 豊

開講時期：春学期授業/Spring

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部公開科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要（オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする）

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

我々が生きていくうえで不可欠である食品について、化学的・生物学的側面から学習することで、生命にとって食品とは如何なるものであるかを理解する。また講義で得られた知識をもとに学生諸君の食生活を見直し、健康な生活を送るための指針とすることを目標とする。さらに食品を取り巻く法的、社会的、産業的な動向についても理解を深めることを目標とする。

【到達目標】

日常摂取している食品がどのような成分から構成されており、我々の健康維持とどのように関わっているか、という点に関して理解し、考える機会を持つようになることが目標である。具体的には、我々は何のために食品を摂取するのか、食品はどのような成分から構成されているのか、食品成分はどのような化学的性質を有しているのか、食品成分が生体にどのような影響を及ぼすのか、を理解し、食品と生体とのかかわりを総合的に理解することも目標とする。また最終的には講義で学習した内容を日々の食生活に生かしていけるようになってもらいたい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【授業の進め方と方法】

講義の前半では食品に含まれる成分について、その分類、化学構造、生物機能を順次学習する。食品中には栄養素と非栄養素が含まれているため、5大栄養素と非栄養素について順次解説を行う。中間テストを挟み、講義後半では、食品と健康との関わりについて学習する。具体的には食品と病気（メタボリックシンドローム、糖尿病、癌）との関連を学習する。講義は配布するプリントに基づき実施する。課題等の提出やそのフィードバックは「学習支援システム」を通じて行う。さらに最終授業で、13回までの講義内容のまとめや復習だけでなく、授業内で行った試験や小レポート等、課題に対する講評や解説を行い、最終試験に向けた学習の指針も解説する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	講義の概要を解説し、食品と生命の関わりについてオーバービューすると同時に最新のトピックスを紹介する。
第2回	食品成分の化学1	食品成分中の糖質について化学的な側面と生物機能を講義する。
第3回	食品成分の化学2	食品成分中のアミノ酸、ペプチド、タンパク質について化学的な側面と生物機能を講義する。
第4回	食品成分の化学3	食品成分中の脂質について化学的な側面と生物機能を講義する。
第5回	食品成分の化学4	食品成分中のミネラルと水溶性ビタミンについて化学的な側面と生物機能を講義する。
第6回	食品成分の化学5	食品成分中の脂溶性ビタミンと非栄養素について化学的な側面と生物機能を講義する。
第7回	食品成分の生物学1	食品成分の消化・吸収について講義する。
第8回	食品成分の生物学2	食品成分の代謝とその調節機構について講義する。
第9回	中間テスト	前半の講義内容に関して中間テストを行う。
第10回	食情報について	食品と健康の関係を食品が含有する食情報という観点から講義する。
第11回	食品とメタボリックシンドローム	メタボリックシンドロームと食品の関わりについて講義する。
第12回	食品と糖尿病	糖尿病と食品の関わりについて講義する。
第13回	食品と癌	癌と食品の関わりを講義する。
第14回	これからの食品科学	個人の体質に合った食習慣や食品を利用した先制医療など食品科学の将来を論じる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】特に予習を行う必要はないが、講義で学習したことの復習を行い、質問等があれば、翌週の講義時に聞くこと。また食品という日常生活に関連するものを対象とする講義であるため、毎日の食生活に学習した内容をフィードバックすることを常に意識してもらいたい。

【テキスト（教科書）】

講義はパワーポイントを用いて行うが、スライドを印刷したプリントを毎回配布する。

【参考書】

「食品の科学」上野川修一、田之倉優編、東京化学同人
「健康栄養学」－健康科学としての栄養生理化学－ 小田裕昭、加藤久典、関泰一郎編、共立出版

【成績評価の方法と基準】

平常点（10%）、中間テスト（30%）、期末テスト（60%）とする。中間テスト、期末テストともに講義内容の理解度を判定する。

【学生の意見等からの気づき】

講義内容が多岐にわたり、情報量が多くなる傾向があるため、大事な個所には時間を十分に掛けるなど、講義のメリハリをよりはっきりとつけるように努めたい。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

目標にも記載しましたが、食品は毎日摂取する身近なものであると同時に皆の生命を支える根幹です。講義内容をよく理解し、自らの食生活を見直すきっかけとなることを期待します。

【Outline (in English)】

Food is well known to be important for our life. In this lecture, the chemical and biological properties of foods are lectured. From this lecture, students will be able to get some knowledge for living better and healthy. The legal, social and industrial aspects of food development and food industry will be also lectured.

BLS300YA

遺伝子工学

佐藤 勉

開講時期：秋学期授業/Fall

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要（オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする）

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

生物を応用する技術である遺伝子工学は、医療、福祉、食糧生産などの発展に大きく貢献している。生命分野を目指す学生にとって、これらの技術の理解は欠かせない。遺伝子操作技術の基礎はもちろん、最新の技術まで理解し、応用する能力を養う。

【到達目標】

本講義は、分子生物学を基軸とする基礎から最先端までの遺伝子工学の幅広い理解を目指す。また、この講義で学んだ知識を日々の研究活動で実践するに至るまで深化させることを最終目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【授業の進め方と方法】

遺伝子工学の基礎となる分子生物学が十分に理解されていることを前提に講義を行う。従って、分子生物学または関連する講義を既に履修していることが望ましい。パワーポイントを用いて説明する。リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かす。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	序論	授業の進め方・概要
第 2 回	歴史	遺伝子工学発展の歴史
第 3 回	DNA 取扱いの基本	制限酵素・リガーゼ・電気泳動
第 4 回	プラスミド	プラスミドの構造
第 5 回	遺伝子のクローニング	プラスミドベクター
第 6 回	新しいクローニング法	PCR を使ったシームレスクローニング
第 7 回	PCR の応用と真核生物へのクローニング	PCR を用いた DNA 定量方法、酵母へのクローニング
第 8 回	中間試験と解説	前半の学習内容の試験と解説
第 9 回	相同組換え	相同組換えによるゲノムへの遺伝子導入
第 10 回	塩基配列決定法	サンガー法、次世代シーケンシング
第 11 回	ハイブリダイゼーション	サザン・ノーザンハイブリダイゼーション、マイクロアレイ
第 12 回	ライブラリーの利用	ライブラリーを用いたクローニング法
第 13 回	タンパク質発現系	異種タンパク質発現に用いる宿主・ベクター
第 14 回	医療への応用	医療への応用、レポーターアッセイ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】 テーマ・内容のキーワードをもとに予め概要を理解して授業に臨むこと。体系的に講義を進めるため、復習は大事である。遺伝子工学の本質を理解し、論理性を高める自己教育を期待する。

【テキスト（教科書）】

特定の教科書は指定しない。

【参考書】

授業の進行に沿い、また学生個人個人の知識水準、知的欲求に応じた参考書を紹介する。

バイオ実験の原理（羊土社）

遺伝子工学（講談社）

遺伝子工学の原理（三共出版）

【成績評価の方法と基準】

平常点 (20%)、中間 (40%) 及び期末 (40%) 試験の結果を成績として評価する。

【学生の意見等からの気づき】

学生のノートを取るスピードに配慮して講義を進める。

【学生が準備すべき機器他】

パワーポイントを用いて講義を行う。

【Outline (in English)】

This course introduces genetic engineering to students taking this course. The overall goal of this lecture is to make students understand the basic and latest techniques of gene recombination. Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class. Final grade will be calculated according to the following process: Mid-term examination (40%), term-end examination (40%), and in-class contribution.

BLS300YB

生体超分子

曾和 義幸

開講時期：春学期授業/Spring

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部公開科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要（オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする）

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

酵素反応・エネルギー変換・情報伝達などの多くの機能を内包する生体分子モーターに着目し、生体内で機能するタンパク質複合体について学ぶ。また、生体分子モーターの研究とともに発展した1分子計測技術の基本を学ぶ。

【到達目標】

細胞内における分子の動きに注目し、その動きを捉えるために必要な知識を得る。近年発展している生物学とナノテクノロジーの融合分野について知識を得る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【授業の進め方と方法】

板書とスライドを併用した講義とする。講義内では演習問題を解いてもらうことで、定量的に生命現象を理解することを目指す。レポート・演習のあとの解説でフィードバックをおこなう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	講義の概要	講義の進め方を説明する。生体超分子について概説する。
2	生体を構成する分子の特徴とスケール	生物にみられる階層性とそのスケールについて概説する。
3	生体分子モーターの基本	生体分子モーターの種類・エネルギー源・構造などの基本情報を概説する。
4	細胞内における分子のブラウン運動(1)	分子の動きについて流体力学的観点から概説する。
5	細胞内における分子のブラウン運動(2)	分子の動きについて理解するために、1次元ランダムウォークを導入する。
6	細胞内における分子のブラウン運動(3)	演習をおこなう。表計算ソフトを利用して、1次元ランダムウォークを発生させる。その計算結果を検討し、分子運動への理解を深める。
7	細胞内における分子のブラウン運動(4)	細胞内でランダムウォークする分子の具体例をあげて、その動きを計算する。
8	中間試験	講義の前半についての理解度をチェックする。
9	生体分子モーターの計測手法	生体分子モーターの動きを計測する手法について概説する。
10	蛍光観察法	蛍光観察法の利点・生物学への応用例について解説する。
11	分子イメージング	1分子の蛍光分子を見る手法について解説する。超解像顕微鏡について概説する。
12	分子操作・ナノ計測	分子を操作する技術、分子の動きをナノメートルの精度で計測する技術の解説をおこなう。
13	生体分子モーターの研究	生体分子モーターの機能解析の歴史について概説する。

14 総括

講義全体を通じて、理解してもらいたいポイントをまとめた課題を与える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】
本講義では、物理的な視点で生体分子の動きをとらえるために、簡単な計算を演習問題として紹介する。ただし、時間の制約上、計算過程を省かざるをえない場合があるので、各講義の終了後に各自で計算をおこなう。また、各講義で取り扱うトピックに関連して紹介した論文を読む。

【テキスト（教科書）】

特定の教科書は指定しない。講義では視覚的教材やプリントを利用する。

【参考書】

大沢文夫「講座：生物物理学」丸善
石渡信一編「生体分子モーターの仕組み」共立出版
など

【成績評価の方法と基準】

中間試験(50%)・期末試験(50%)の合計点数によって評価する。ただし、オンライン授業になった場合は、適宜課す予定のレポート・演習で評価する(100%)。

【学生の意見等からの気づき】

講義でおこなう演習の例数を増やし、できる限り丁寧に紹介したい。また、PCを使った演習も引き続きおこなう。

【学生が準備すべき機器他】

貸与PCを用いることがある。

【その他の重要事項】

元学術調査官（文科省）で科研費・新学術領域を担当した経験から、生物学と物理学の異分野融合に重点をおいた講義をおこなう。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire an understanding of the fundamental principles of single molecule biology.

MAC100YC

基礎有機化学 I

河内 敦

開講時期：春学期授業/Spring

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部公開科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要（オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする）

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

基礎有機化学 I および II を通して有機化学の基本事項について学ぶ。

2022 年度から新しい教科書になりました。それにともない講義の方法も変えました。

これまで、教科書の要点を資料（パワーポイント）にまとめてそれを講義で説明するという方式をとってきました。パワーポイントはあくまで要点をまとめたもので、受講生は講義後に教科書の該当箇所を読んで復習することを前提としていました。しかしいつのまにか、パワーポイントに書いてあることだけを勉強すればいいのだという風潮が出てきました。ことあるごとに教科書を読むようにと訴えてきましたがあまり通じなかったようです。そこで 2022 年度から、基本的には資料（パワーポイント）を用いずに、教科書をもとに講義を進めていきます。教科書をスクリーンに投影しての授業になりますので、教科書を持っていることが前提になります。受講生には「教科書をよく読む」という姿勢を身につけてもらいたいです。それにより有機化学の体系化を目指します。

【到達目標】

- (1) 有機化合物の種類と性質について基本的な事項を理解する。
 - (2) 有機化合物の構造、反応および合成についての基本事項を学ぶ。
- 個々の事項を暗記するのではなく、有機化学全体を貫く考え方を身につけることを目標にしたい。そのために、教科書を繰り返し読んで、有機化学の論理体系（考え方の筋道）を身につけてもらいたい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【授業の進め方と方法】

スクリーンへ教科書を投影する、及び黒板へ板書することを中心に、適宜、補助プリントの配布をおこなう。状況によってはオンライン、動画配信なども活用する。

授業の理解度をチェックするために「確認テスト」をその日のうちに学習支援システムで行う。また「演習シート」を用いて基本事項の徹底を図る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	序論	有機化学の歴史
第 2 回	化学結合と混成軌道 (1)	原子と原子軌道, 電子配置
第 3 回	化学結合と混成軌道 (2)	化学結合と原子価, 分子の極性, Lewis 構造式
第 4 回	化学結合と混成軌道 (3)	分子の形と軌道 (混成軌道)
第 5 回	有機化合物に関する基礎知識	表記法, 構造異性体, 参加数, 化学反応の基礎知識
第 6 回	酸と塩基	定義, 強さの尺度, 酸性度, 塩基性度, pKa
第 7 回	アルカンとシクロアルカン (1)	アルカンの命名法, 立体配座
第 8 回	アルカンとシクロアルカン (2)	シクロアルカンの形, 立体配座, 異性体
第 9 回	有機立体化学 (1)	キラリティー, CIP 則, エナンチオマー, Fischer 投影式
第 10 回	有機立体化学 (2)	キラリティー, CIP 則, エナンチオマー, Fischer 投影式
第 11 回	有機ハロゲン化物 (1) : 置換反応	命名法, 合成法, SN2 置換反応, SN1 置換反応
第 12 回	有機ハロゲン化物 (2) : 置換反応	SN2 置換反応, SN1 置換反応
第 13 回	有機ハロゲン化物 (3) : 脱離反応	E1 反応, E2 反応, Zaitsev 則
第 14 回	これまでのまとめと理解度確認	まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】

教科書, 板書ノート, 配布プリントを復習する。特に教科書は繰り返し読んで、自分の中に有機化学の一本の筋道を作ること。

【テキスト（教科書）】

・松島芳隆, 渡邊総一郎, 古荘義雄著「基礎講座 有機化学」化学同人

【参考書】

サブテキストとして:

・赤染元浩, 河内敦, 松本祥治, 三野孝著「スパイラル有機化学」筑波出版会

【成績評価の方法と基準】

授業への出席および課題への取り組みは単位取得の前提条件である。出席率およびチェックテスト・課題提出率が 6 割に満たない場合は成績評価の対象としない。

成績評価の目安は以下の通り。状況に応じて適宜変更する。

期末試験 (80%) + 確認テスト・課題シート (20%)

【学生の意見等からの気づき】

基本事項を確実に理解させることに努める。

【Outline (in English)】

(Course outline)

You learn basic organic chemistry through "Basic Organic Chemistry I"(spring term) and "Basic Organic Chemistry II"(fall term).

In "Basic Organic Chemistry I"(spring term), you can learn the basic concepts of organic chemistry including bonding in organic molecules, nomenclature of organic compounds, stereochemistry, acids and bases, nature and reactions of alkanes, alkenes, and alkynes.

(Goal)

(1) Students will understand basic types and nature of organic compounds.

(2) Students will learn structures, reactions, and synthesis of organic compounds.

Students should read the textbook repeatedly to learn the concept of organic chemistry consistently.

(Work to be done outside of class)

Students should review the textbook, note, and printed matter.

(Grading criteria)

Students must attend the class (60%) and submit the assignment

Term-end examination: 80%; Assignments: 20%

(Schedule)

1. Introduction
2. Chemical Bonding and Hybrid Orbitals(1)
3. Chemical Bonding and Hybrid Orbitals(2)
4. Chemical Bonding and Hybrid Orbitals(3)
5. Basic Knowledge of Organic Compounds
6. Acids and Bases
7. Alkane and Cycloalkane(1)
8. Alkane and Cycloalkane(2)
9. Organic Stereochemistry(1)
10. Organic Stereochemistry(2)
11. Organohalides(1): Substitution Reactions
12. Organohalides(2): Substitution Reactions
13. Organohalides(2): Substitution Reactions
14. Summary and Comprehension Check

MAC100YC

基礎有機化学 I I

河内 敦

開講時期：秋学期授業/Fall

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部公開科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要（オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする）

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

基礎有機化学 I に続いて有機化学の基本事項について学びます。そのため、春学期の基礎有機化学 I を受講していることが前提になります（基礎有機化学 I 未受講者に対する特別な配慮はございません）。

2022 度から新しい教科書になりました。それにともない講義の方法も変えました。これまで、教科書の要点を資料（パワーポイント）にまとめてそれを講義で説明するという方式をとってきました。パワーポイントはあくまで要点をまとめたもので、受講生は講義後に教科書の該当箇所を読んで復習することを前提としていました。しかしいつのまにか、パワーポイントに書いてあることだけを勉強すればいいのだという風潮が出てきました。ことあるごとに教科書を読むようにと訴えてきましたがあまり通じなかったようです。そこで 2022 度から基本的には資料（パワーポイント）を用いずに、教科書をもとに講義を進めていきます。教科書をスクリーンに投影しての授業になりますので、教科書をもっていることが前提になります。受講生には「教科書をよく読む」という姿勢を身につけてもらいたいです。それにより有機化学の体系化を目指します。

【到達目標】

- (1) 有機化合物の種類と性質について基本的な事項を理解する。
- (2) 有機化合物の構造、反応および合成についての基本事項を学ぶ。個々の事項を暗記するのではなく、有機化学全体を貫く考え方を身につけることを目標にしたい。そのために、教科書を繰り返し読んで、有機化学の論理体系（考え方の筋道）を身につけてもらいたい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【授業の進め方と方法】

スクリーンへ教科書を投影する、及び黒板への板書することを中心に、適宜、補助プリントの配布をおこなう。状況によってはオンライン、動画配信なども活用する。

授業の理解度をチェックするために「確認テスト」をその日のうちに学習支援システムで行う。また「演習シート」を用いて基本事項の徹底を図る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	有機ハロゲン化合物の復習	置換反応と脱離反応
第 2 回	アルコールとフェノール (1)	アルコールおよびフェノールの構造と命名、物理的性質、合成、反応
第 3 回	アルコールとフェノール (2)	アルコールおよびフェノールの構造と命名、物理的性質、合成、反応
第 4 回	エーテルとエポキシド (1)	エーテルの構造と命名、合成、反応
第 5 回	エーテルとエポキシド (2)	エポキシドの構造と命名、合成、反応
第 6 回	アルケンとアルキン (1)	アルケンの立体配置、求電子付加反応、酸化反応、合成
第 7 回	アルケンとアルキン (2)	アルキンの反応、アルキンの合成
第 8 回	芳香族化合物 (1)	ベンゼン、共鳴、芳香族性
第 9 回	芳香族化合物 (2)	芳香族求電子置換反応、置換基効果
第 10 回	芳香族化合物 (3)	芳香族求電子置換反応、置換基効果
第 11 回	アルデヒドとケトン (1)	構造と命名、カルボニル基の構造と性質
第 12 回	アルデヒドとケトン (2)	求核付加反応
第 13 回	カルボン酸とその誘導体	カルボン酸の構造と命名、カルボン酸の合成、カルボン酸誘導体の合成
第 14 回	これまでのまとめと確認	第 8 回から 13 回までのまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】

教科書、板書ノート、配布プリントを復習する。特に教科書は繰り返し読んで、自分の中に有機化学の一本の筋道を作ること。

【テキスト（教科書）】

・松島芳隆、渡邊総一郎、古荘義雄著「基礎講座 有機化学」

【参考書】

サブテキストとして：

・赤染元浩、河内敦、松本祥治、三野孝著「スパイラル有機化学」筑波出版会

【成績評価の方法と基準】

授業への出席および課題への取り組みは単位取得の前提条件である。出席率およびチェックテスト・課題提出率が 6 割に満たない場合は成績評価の対象としない。

成績評価の目安は以下の通り。状況に応じて適宜変更する。

期末試験 (80%) + 確認テスト・課題シート (20%)

【学生の意見等からの気づき】

基本事項の理解に努める。

【Outline (in English)】

(Course outline)

You learn basic organic chemistry through "Basic Organic Chemistry I"(spring term) and "Basic Organic Chemistry II"(fall term).

In "Basic Organic Chemistry II"(fall term), you can learn the basic concepts of organic chemistry including synthesis, reactions, structures, and natures of aromatic compounds, alcohols, ethers, epoxides, ketones, aldehydes, carboxylic acids, carboxylic acid derivatives, and amines.

(Goal)

- (1) Students will understand basic types and nature of organic compounds.
- (2) Students will learn structures, reactions, and synthesis of organic compounds.

Students should read the textbook repeatedly to learn the concept of organic chemistry consistently.

(Work to be done outside of class)

Students should review the textbook, note, and printed matter.

(Grading criteria)

Students must attend the class (60%) and submit the assignment

Term-end examination: 80%; Assignments: 20%

(Schedule)

1. Review of Organic Halides
2. Alcohols and Phenols(1)
3. Alcohols and Phenols(2)
4. Ethers and Epoxides(1)
5. Ethers and Epoxides(2)
6. Alkenes and Alkynes(1)
7. Alkenes and Alkynes(2)
8. Aromatic Compounds(1)
9. Aromatic Compounds(2)
10. Aromatic Compounds(3)
11. Aldehydes and Ketones(1)
12. Aldehydes and Ketones(2)
13. Carboxylic Acids and Their Derivatives
14. Summary

APC200YC

応用環境化学

渡邊 雄二郎

開講時期：秋学期授業/Fall

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要（オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする）

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

環境問題で、汚染物質（化学物質）が環境中に放出された場合の汚染物質の挙動、正確な分析法や処理法について学ぶ。また汚染状況を事前に推定するために必要な汚染物質の定量的な取り扱いと、問題解決のためのモデルの立て方について学ぶ。

【到達目標】

環境中での汚染物質の挙動を理解できる。
汚染物質の正確な分析法と処理法を理解できる。
汚染物質の定量的な取り扱いができる。
環境問題解決のためのモデルの立て方とその解析法を理解できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【授業の進め方と方法】

主にパワーポイント資料を用いた講義を行い、毎時間アクティブラーニング（演習または発表）を実施する。小テストは2回実施し、レポートも2回課す。定期試験を行う。なお、予習・復習の内容については、配布資料や授業で指示する。予習・復習を行うことを前提に授業を進めるので、予習・復習に十分な時間を費やすこと。授業中におこなう演習について、学習支援システム等を利用してフィードバックすると共に教員が学生に問いかけをおこなう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回	序論	授業の概要、進め方について説明する。
2回	汚染物質の水環境中での挙動	汚染物質の水環境中での挙動を反応式等を用いて説明する。
3回	汚染物質の大気環境中での挙動	汚染物質の大気環境中での挙動を反応式等を用いて説明する。
4回	汚染物質の土壌環境中での挙動	汚染物質の土壌環境中での挙動を反応式等を用いて説明する。（アクティブラーニング（演習））
5回	大気、水、土壌のサンプリング	大気、水、土壌のサンプリング手法について説明する。（アクティブラーニング（演習））
6回	水質分析①	BOD、COD、DO等の水質分析法について化学式を用いて説明する。
7回	水質分析②、大気分析、土壌分析	湖沼等の富栄養化の主因である窒素、リンの水質分析法、大気、土壌の分析法について化学式を用いて説明する。（アクティブラーニング（演習））
8回	水質汚染物質の基本的処理法①	凝集沈殿、ろ過、イオン交換について説明する。
9回	水質汚染物質の基本的処理法②	吸着、触媒、酸化還元、抽出について説明する。（アクティブラーニング（演習）：エクセルを用いた吸着等温式の作成）
10回	水質汚染物質の基本的処理法③	電解、蒸発、晶析、脱水（汚泥処理）について説明する。
11回	水質データの処理法	ヘキサダイアグラム等水質データの処理方法について学ぶ。（演習：エクセルを用いたヘキサダイアグラムの作成）
12回	排水モデル	都市や工場から排出された汚染物質の処理効率と河川・湖の汚染状況を解析する。
13回	地球環境モデル	地球を大気、水、生物、土壌相を含む地球環境モデルを想定し、それら環境中での汚染物質の濃度を、各種条件下で解析する。（アクティブラーニング（演習））
14回	まとめ	本授業を振り返りまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】化学反応速度、吸着、物質移動係数などの化学的基礎を学習しておく必要がある。

【テキスト（教科書）】

教科書は特に使用しない。資料がある場合、適宜配布する。

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

講義記録（10%）、レポート（20%）、小テスト（20%）、定期試験（50%）。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline (in English)】

Environmental chemistry is the study of chemical and biochemical phenomena that occur in natural places. Applied environmental chemistry is the study of how chemistry is applied to measuring, estimating and predicting chemical phenomena in air, soil, and water environments. This course covers basic applied environmental chemistry, through the study of, behaviors of pollutants, quantitative analytical methods of pollutants and environment evaluation models.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on the following.

Term-end examination: 50%, Quiz: 20%, Short reports : 20%, in class contribution: 10%.

BLS100YB

分子生物学 I

佐藤 勉

開講時期：春学期授業/Spring

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部公開科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要（オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする）

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

生命の情報はゲノムに組み込まれている。全ての生物は、遺伝情報を利用してタンパク質を合成し、生命活動を営んでいる。この生命活動を理解するためには、遺伝情報に従った分子構築機構を学ぶ必要がある。本講義は、生命活動をゲノムを中心とした分子レベルで理解することを目的とする。

【到達目標】

分子生物学 I では、遺伝情報伝達機構の全体をカバーするとともに、特に DNA の構造、複製の解説に力点を置き、遺伝情報伝達物質としての DNA の理解を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【授業の進め方と方法】

本講義は、分子生物学の概要を講義するとともに、DNA 塩基配列情報の理解を深化させるために、講義中に遺伝情報伝達機構についての演習をおこなう。また、分子生物学関連の最新の話題についても解説・討論する。学生の自己学習を奨励する。パワーポイントを用いて説明する。良いコメントや質問は授業内で紹介し、さらなる議論に活かす。具体的な授業の進め方については、学習支援システムの「お知らせ」にて案内する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	分子生物学の概要	分子生物学における生命の捉え方について解説する。
第 2 回	分子生物学の歴史	遺伝子の本体としての DNA の発見と構造決定、遺伝情報の流れの解明についての歴史について解説する。
第 3 回	核酸の化学と構造	情報伝達分子である DNA と RNA の化学構造について解説する。
第 4 回	遺伝情報の流れの基本	DNA の塩基配列からみた遺伝子の基本構造について解説する。
第 5 回	転写・翻訳機構	DNA の塩基配列からみた転写・翻訳の仕組みと装置について解説する。
第 6 回	遺伝子発現調節機構	DNA の塩基配列からみた遺伝子発現調節機構について解説する。
第 7 回	中間テスト・解説	分子生物学の歴史・核酸の分子構造・遺伝情報の流れについて理解度を確認し、解説する。
第 8 回	DNA 複製（開始・伸長・終結）	DNA 複製の全体の流れの理解と DNA 複製を担う酵素の役割と構造について解説する。
第 9 回	DNA 複製（開始の調節機構）	DNA 複製開始点の構造と複製開始に関わるタンパク質について解説する。
第 10 回	突然変異と修復	DNA に生じる突然変異の要因と影響およびその修復機構について解説する。
第 11 回	プラスミドとトランスポゾン	プラスミドとトランスポゾンの構造と役割について解説する。
第 12 回	ウイルス	ウイルスの構造と増殖の仕組みについて解説する。
第 13 回	DNA を扱う技術	DNA を扱う上での基本操作と原理について解説する。
第 14 回	最新の分子生物学	これまでの講義のまとめと最新の分子生物学を紹介する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】テーマ・内容のキーワードをもとに予め概要を理解して授業に臨むこと。体系的に講義を進めるため、復習は大事である。分子生物学の本質を理解し、論理性を高める自己教育を期待する。

【テキスト（教科書）】

特定の教科書は指定しない。

【参考書】

授業の進行に沿い、また学生個人個人の知識水準、知的欲求に応じた参考書を紹介する。

細胞の分子生物学（ニュートンプレス）

分子生物学（講談社）

生命科学のコンセプト 分子生物学（化学同人）

分子生物学イラストレイテッド（羊土社）

【成績評価の方法と基準】

中間試験 40%、期末試験 40%、平常点 20 点として評価する。

【学生の意見等からの気づき】

学生のノートを取るスピードに配慮して講義を進める。

【学生が準備すべき機器他】

パワーポイントを用いて講義を進める。資料は予め学習支援システムにアップロードする。

【Outline (in English)】

All living things have a secret code inside of them called genomic DNA. This course introduces molecular biology to students taking this course. The overall goal of this lecture is to make students understand basic information of molecular biology. Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class. Final grade will be calculated according to the following process: Mid-term examination (40%), term-end examination (40%), and in-class contribution.

BLS100YD

分子生物学 I

片山 映, 山中 幸

開講時期：春学期授業/Spring

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部公開科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要（オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする）

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

生命の情報は全てゲノムに組み込まれている。生物は、ゲノムの遺伝情報を利用して蛋白質を合成し、蛋白質が多種多様な生体分子を合成することで、生命活動が営まれる。これら遺伝情報や生体分子の概要と、細胞機能との関連について解説する。

【到達目標】

遺伝子の構造と発現調節機能について、さらに生物を構成する基本物質の構造と機能について概説し、ゲノムから多種多様な生体分子が合成され細胞が構築される過程を統合的に理解することを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【授業の進め方と方法】

生体の分子構成の全体像を概観し、構成成分それぞれの構造と機能の特性を解説する。生体構成分子に関する授業内容に関連した自己学習を奨励する。また、分子生物学関連の最新の話題についても背景や原理、解析技術について解説・討論する。講義で実施する確認問題、演習、アンケートの内容に応じて、解説等のフィードバックを学習支援システムとオンライン講義にて行う。感染状況に伴う講義計画の変更については、学習支援システムで提示する。本授業の開始日は4月7日（木）とし、この日までに具体的なオンライン講義の方法などを、学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	生命分子の原理	生命分子の起源と進化、細胞の構成成分
第2回	生体高分子	生体を構成する高分子の特性
第3回	核酸の分子生物学	DNA・RNAの構造と機能
第4回	蛋白質の分子生物学	蛋白質の構造と合成と機能
第5回	遺伝情報(1)	ゲノムの構造
第6回	遺伝情報(2)	ゲノムの機能
第7回	遺伝情報(3)	遺伝子発現の制御
第8回	糖質の分子生物学(1)	糖質の構造と機能
第9回	糖質の分子生物学(2)	糖質の代謝
第10回	脂質の分子生物学(1)	脂質の構造と機能
第11回	脂質の分子生物学(2)	脂質の代謝
第12回	細胞の構造と機能(1)	原核生物・古細菌
第13回	細胞の構造と機能(2)	真核生物
第14回	ゲノミクスとプロテオミクス、他	分子生物学的解析法

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】本講義で扱う種々の分子の複雑な構造と機能は、いずれもその構成要素の科学的性質によってもたらされるものである。したがってそれらのはたらきを理解するために、生物学と化学の基本的な知識をもつことが必須である。一般教養の関連科目を習得しているレベルが必要である。

【テキスト（教科書）】

＜教科書＞特定の教科書は指定しない。

＜具体的教育方法＞ 視覚的教材を多用して理解を深める方策を導入する。生命現象の本質を理解し、論理性を高める自己教育を期待する。

【参考書】

＜参考書＞

授業の進行に沿い、また学生個人個人の知識水準、知的欲求に応じた参考書を紹介する。可能な限り、英語教科書に慣れることを推奨する。

【成績評価の方法と基準】

＜評価方法＞

講義後の演習問題（50%）と、期末試験（50%）の結果から総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

より基礎的な内容や関連した分野の説明も交えて、バックグラウンドから理解できるようにする。

【Outline (in English)】

The genome contains all biological information of an organisms. In life activities, diverse biochemical reactions are caused by synthesized proteins based on genetic information. This lecture will provide the outline of genetic information and biomolecules, and the relation with intracellular biochemical reaction.

BLS100YB

分子生物学 I

木口 悠也

開講時期：秋学期授業/Fall

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部公開科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要（オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする）

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

生物の設計図であるゲノムには生物の機能や表現型の違いを反映する遺伝情報が記述されている。本講義ではこれまでに解き明かされた遺伝情報の構造と機能の根拠となる科学的発見とそれに関連する手法論を紹介する。本講義の履修者はゲノムに関連する分子生物学の基礎知識を学び、最先端のゲノム科学を理解し発展させる素養を身につけることを目的とする。

【到達目標】

メンデル遺伝に端を発する「遺伝子の構造と機能」について、主要な科学的発見の背景と実証、用いられた技術および考察を通して、正確に理解する。これらを踏まえ、生物ゲノムの主な機能「遺伝情報の維持」と「遺伝情報の発見」のしくみを分子レベルで理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【授業の進め方と方法】

授業の連絡や課題は学習支援システムを介して行う。授業はアクティブラーニングを用いた講義形式で行う。対面授業を基本とする（社会情勢によってはZoomによるリアルタイムオンライン授業を実施予定）。特定の教科書は用いない。授業は「学習支援システム」を活用する。各授業は、それぞれで配布する資料（ノート資料とスライド資料）を用い、授業内で演習を行いながら、進行させる。各授業では宿題を設定する。提出された宿題については、必要に応じて授業でフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	分子生物学の勃興	メンデルの発見から
第2回	遺伝子の構造と機能（1）	メンデル遺伝
第3回	遺伝子の構造と機能（2）	染色体説
第4回	遺伝子の構造と機能（3）	二重らせん構造
第5回	遺伝情報の維持（1）	レプリコン説
第6回	遺伝情報の維持（2）	複製フォーク
第7回	まとめ（1）	「遺伝子の構造と機能」と「遺伝情報の維持」のまとめ
第8回	遺伝情報の発見（1）	一遺伝子一酵素説
第9回	遺伝情報の発見（2）	ウイルス合成の調節
第10回	遺伝情報の発見（3）	オペロン説と転写反応
第11回	遺伝情報の発見（4）	リボソームと mRNA
第12回	遺伝情報の発見（5）	遺伝暗号とアダプター分子
第13回	遺伝情報の発見（6）	コドン
第14回	まとめ（2）	「遺伝情報の発見」のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】各授業で提示する宿題により、それぞれの内容を復習する。また、本科目を受講するには、専門科目「分子生物学 I」を修得し、事前にその内容を十分に理解していることが必要である。また、「生物化学 I」、「細胞生物学 I」、「生物物理学 I」も修得し、本講義と関連する内容を理解していることを想定している。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

「Essential 細胞生物学 原書第4版」（著者：B. アルバート等 監訳：中村桂子・松原謙一 南江堂）

「エッセンシャル 遺伝学」（著者：D.L. ハートル・E.W. ジョーンズ 監訳：布山喜章・石和貞男 培風館）

「第7版 ワトソン遺伝子の分子生物学」（著者：J.W. ワトソン等 監訳：中村桂子 東京電機大学出版局）

【成績評価の方法と基準】

分子生物学に関する重要な発見の内容を理解した上で、「遺伝子の構造と機能」および生物ゲノムの主な機能「遺伝情報の維持」と「遺伝情報の発見」のしくみを正しく捉えることができているかを基準に、授業の取り組みや宿題を「取り組み度」（30%）、「達成度」（30%）、「理解度」（40%）としてまとめ、総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

学習支援システム活用に関して、「課題」機能は利用せず、「テスト/アンケート」機能のみを利用する。授業のグループワーク活用と宿題のラーニングサポーター活用を推進する。

【その他の重要事項】

最先端のゲノム解析技術（高速シーケンサー）を活用した細菌叢（マイクロバイオーム）解析を専門とする研究者としての経験と知識に基づき、技術論にも言及する授業を行う。

【Outline (in English)】

[Course outline] The genome is the blueprint of living organisms and contains genetic information contributing to differences in biological functions and phenotypes. This course introduces the scientific discoveries related to the basic structure and functions of genetic information and the methodologies associated with these discoveries.

[Learning Objectives] The objective of this course is to learn basic knowledge of molecular biology related to genomics and train to understand not only state-of-the-art genomic science but also develop this field of science.

[Learning activities outside of classroom] Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

[Grading criteria] Final grade will be calculated with your work (30%), achievement (30%), and understanding (40%) in class assignments.

BLS100YD

分子生物学 | |

小見 美央

開講時期：秋学期授業/Fall

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部公開科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要（オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする）

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

生物がみな共通の分子基盤を持っていることを理解し、そのことが可能にした様々な技術を知る。特に遺伝子編集技術に関して、その意義や是非について様々な視点から議論できるようになるために必要な知識の獲得を目指す。

【到達目標】

分子遺伝学/分子生物学の基礎事項について学び、自分の言葉で説明ができるまで理解を深める。学習事項をもとにして、現在世界に大きなインパクトを与えているウイルス性感染症をはじめとした身近な生命現象や昨今の生命技術について科学的な見地から解釈・判断・評価できるようにする。

また、科学の世界では最新の研究成果はほぼ全て英語で公開されるため、科学を正しく理解するためには英語で書かれた情報源を進んで探索し理解する力が不可欠であることから、講義内および宿題で英語のリソースを読む機会を設ける。

学生がインプットした知識を問題解決に向けてアウトプットすること、ひいては問題解決のために必要な知識を自力で見極め、探索し、アウトプットできるようにすることを到達目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【授業の進め方と方法】

スライドを使用した講義を中心に進める。プレゼン課題を3つ課す予定。うち2つについては教員による評価だけでなく、学生同士でもフィードバックしてもらう。毎回授業後にレスポンスペーパーを提出してもらい、翌週フィードバックする。毎回授業内で全5問程度の復習クイズを実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第一回	ガイダンス	カード仕分けアクティビティ プレゼン課題の紹介
第二回	分子生物学の歴史	遺伝学・分子生物学の歴史
第三回	核酸	DNA・RNAの構造 セントラルドグマ ゲノムサイズの比較 ゲノムの内訳
第四回	複製	メセルソンとスタール DNAポリメラーゼ テロメア
第五回	転写	RNAポリメラーゼ 転写後修飾
第六回	学生発表1	課題1の発表
第七回	翻訳 DNA修復	ニーレンバーグ アミノアシル tRNA 合成酵素 複製エラーと DNA 損傷 校正と修復
第八回	発現制御	アクチベーター リプレッサー オパロン モルフォゲン
第九回	細胞分化 細胞死	ES細胞 iPS細胞 Bcl ミトコンドリア
第十回	エピジェネティクス	X染色体 インプリンティング
第十一回	学生発表2	課題2の発表
第十二回	遺伝子工学の歴史 ゲノム編集	制限酵素 PCR CRISPR-Cas9
第十三回	遺伝	メンデルの法則 Dominant, recessive アレル 多型 保因者頻度
第十四回	集団遺伝学	ハーディー・ワインバーグ平衡

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】授業後に1問クイズを出すので、次回授業までにテキストの中から答えを探してくる。授業スライドや関連動画・文献等を Hoppii にアップロードするので適宜復習する。また、プレゼンテーション課題作成のため、セメスターを通して様々なリソースを用いて調べ物をしたり文献を読んだりすることになる。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しないが、宿題では Cell Biology by the Numbers を参照する必要がある。オンラインで全文無料公開されている（参考書を参照）。英語で書かれているが授業内では日本語で解説する。

【参考書】

- 1) 講談社ブルーバックス カラー図解 アメリカ版 新・大学生物学の教科書 第1巻~第3巻
- 2) 理系総合のための生命科学 第4版 東京大学生命科学教科書編集委員会
- 3) Cell Biology by the Numbers (<http://book.bionumbers.org/>)
ハードカバーを購入することも可能だが、上記ウェブサイトから全文無料で利用可能。PDF も無料でダウンロード可能。

【成績評価の方法と基準】

プレゼン課題 (20%×2 + 最終 30%)、平常点 30%。平常点にはレスポンスペーパーの提出状況、宿題の提出状況、復習クイズの結果が含まれる。

【学生の意見等からの気づき】

プレゼンテーション課題の相互フィードバックが好評だったので、引き続き今年度も実施します。

【学生が準備すべき機器他】

対面授業においても、スマートフォン、パソコンやタブレットがあると便利ですが、必須ではありません。

【その他の重要事項】

14回の講義は基本的に対面授業の予定ですが、オンラインを希望する学生が多ければ7回を上限としてオンラインで実施します。初回は対面で実施し、以降は履修生と相談しながら決定することとします。

【Outline (in English)】

This course presents some of the basic concepts of molecular biology with an emphasis on the state-of-the-art technologies based on gene editing. Upon completing this course, students will be able to explain and describe the basic concepts of genetic inheritance, classical and molecular genetics, and recent advances in DNA technologies. We will also look at the arms race between viruses and us from the genetics point of view. Students will be able to develop hypotheses to interpret biological phenomena that they encounter in real-life, as well as to critically evaluate and appraise technological developments in this field.

BLS100YB

生物化学 I

金丸 周司

開講時期：春学期授業/Spring

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部公開科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要（オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする）

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

主要な生体物質であるタンパク質、糖、低分子有機酸などの構造と、それらの生体内における機能発現のしくみ、エネルギー代謝、物質代謝経路における役割について概説する。エネルギー代謝、物質代謝については例として呼吸を取り上げ、エネルギー通貨産生のための共役反応、電子伝達系の概念について重点的に解説する。

【到達目標】

主な生体構成物質の構造と機能を学び、それらを基盤として細胞・個体レベルの生命現象が成り立つしくみを化学の視点から理解する。生物化学 I では特にタンパク質の機能発現、エネルギー代謝と物質代謝の概念を理解することを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【授業の進め方と方法】

対面またはオンラインで講義する。講義後に、授業内容に関するごく簡単なクイズへの回答と、講義内容への質問があれば同時に提出する。すべての質問は一覧にして回答とともに授業支援システムに数日以内にアップロードする。授業方法は、大学の行動指針に基づき変更する可能性があり、その場合は学習支援システムで通知する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	Introduction	生物化学とは、生体物質に見られる主な官能基
第 2 回	細胞の構造と主な構成物質	細胞説、生体膜、真核細胞の構造
第 3 回	タンパク質の構造と機能（1）	標準アミノ酸の構造とペプチド結合
第 4 回	タンパク質の構造と機能（2）	アミノ酸配列とフォールディング
第 5 回	タンパク質の構造と機能（3）	タンパク質の階層的な立体構造・タンパク質の解析法
第 6 回	中間試験	中間試験
第 7 回	酵素（1）	触媒機能の特性と調節
第 8 回	酵素（2）	反応速度論
第 9 回	単糖と多糖	単糖の構造と異性体、単糖の反応性、多糖の構造
第 10 回	呼吸（1）	代謝反応とエネルギー通貨
第 11 回	呼吸（2）	嫌気条件の糖代謝
第 12 回	呼吸（3）	好気条件の糖代謝
第 13 回	呼吸（4）	解糖系と糖新生
第 14 回	期末試験	期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】講義後にノートとプリントを読み返し、参考書を読むなどして復習をすること。講義内容へのすべての質問に対して回答の一覧を授業支援システムに数日以内にアップロードするので、復習する際には他の受講生が出した質問とその回答もよく読んで理解を深めること。

【テキスト（教科書）】

適宜プリントを配布する。

【参考書】

Albert Lehninger：「レーニンジャーの生化学 第 7 版」（廣川書店）

成田 央, 山口 雄輝：「基礎からしっかり学ぶ生化学」（羊土社）

【成績評価の方法と基準】

授業ごとに提出する課題 10%、中間試験 40%、期末試験 50%を目安として総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

毎回プリントを配布するので、復習時に役立ててほしい

【Outline (in English)】

Biochemistry is a study of chemical processes and macromolecules associated with various activities in living organisms. Topics covered in this course include structure and function of proteins, catalytic activity of enzymes, and glucose metabolism as an organized process for energy transduction.

BLS100YD

生物化学 I

田島 寛隆

開講時期：春学期授業/Spring

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要（オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする）

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

生物は膨大な数の化学反応の集合体である。生物が「生きている」状態を可能にする仕組みを、分子レベルの化学反応、および、細胞レベルの化学反応回路として理解し、生物に関する理解を深める。

【到達目標】

生命の物質的な成り立ちを理解し、生体構成分子の構造と機能から、細胞、組織、器官、個体の各階層で高次の生命機能が発現される仕組みを解析できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【授業の進め方と方法】

最初の数回でアミノ酸などの生体分子の基本的性質について学習する。その後、タンパク質の性質等、応用的な内容について学習する。学生側からの質問は講義中に随時受け付ける。また、指名して質問することもある。質問に対しては、その場でディスカッションするか、または関連事項を含めた解説を行うことによりフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	生命を構成する物質
2	生命と水	水分子の性質と生命現象での影響
3	アミノ酸とタンパク質	アミノ酸とタンパク質の性質と働き
4	酸と塩基	pH とアミノ酸分子の荷電状態、等電点
5	脂質・糖	脂質および糖の生体での役割
6	核酸 1	核酸の性質、DNA 複製機構
7	核酸 2	DNA の複製、転写、翻訳
8	反応速度論	ミカエリスメンテンの式
9	生体高分子の分析	タンパク質の精製、SDS-PAGE、PCR
10	細胞膜 1	細胞膜の構造、電気化学的勾配と膜輸送
11	細胞膜 2	膜タンパク質とシグナル伝達
12	呼吸 1	解糖系とクエン酸回路
13	呼吸 2	電子伝達系
14	光合成	光合成

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習等の授業時間外学習は 4 時間程度を標準とする。配付資料と授業ノートをよく読み返し、内容を十分に理解すること。書籍等を読み、理解をより深めるのが望ましい。

【テキスト（教科書）】

資料を配布する。

【参考書】

講義中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

基本的に学期末に行う試験で評価する。授業の実施状況に伴い評価方法は変更することがある。

【学生の意見等からの気づき】

板書の内容について改善する。

【Outline (in English)】

【Outline】

Living organisms are aggregates of vast numbers of chemical reactions. In this course, students will understand the mechanisms that make living organisms possible as chemical reactions at the molecular level and chemical reaction circuits at the cellular level, and deepen their understanding of living organisms.

【Objectives】

To understand the material origin of life and the mechanisms by which higher life functions are expressed through the structure and function of the molecules that constitute life at the cellular, tissue, organ, and individual levels.

【Learning activities outside of classroom】

Preparation and review for this class should take about several hours. Read the handouts and class notes carefully to fully understand the content. It is recommended to read to deepen your understanding.

【Grading Criteria /Policy】

Basically, the evaluation is done by the examination at the end of the term. The evaluation method is subject to change depending on the status of the class.

BLS200YB

蛋白質構造機能学 I

廣野 雅文

開講時期：春学期授業/Spring

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部公開科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要（オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする）

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

生命現象の担い手である蛋白質について、その立体構造と基本的な構造構築原理、および蛋白質の構造と機能との相関について概要を理解する。

【到達目標】

以下の項目について学び、深く理解することを目標とする：アミノ酸の構造と性質、蛋白質の生化学的解析法、一次構造と機能の相関、三次元構造の階層性、コンフォメーションに寄与する化学結合、二次構造の構造的特徴、繊維状蛋白質と球状タンパク質の三次元構造の特徴、蛋白質のフォールディング、抗体分子の構造と機能、酵素の構造と機能、アクチン分子の構造と機能。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【授業の進め方と方法】

対面またはオンラインで講義する。講義後に、授業内容に関するごく簡単なクイズへの回答と、講義内容への質問があれば同時に提出する。すべての質問は一覧にして回答とともに授業支援システムに数日以内にアップロードしてフィードバックする。各回の授業方法の変更については、学習支援システムでその都度提示する。本授業の開始日は4月8日とし、この日までに具体的な授業方法などを、学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	序論	タンパク質とは、無細胞実験系
第2回	アミノ酸とペプチド	発見と研究の歴史、アミノ酸の化学構造、ペプチド結合、生理活性ペプチド
第3回	蛋白質の生化学的分析法	タンパク質の粗分画法、カラムクロマトグラフィー、電気泳動
第4回	蛋白質の一次構造	タンパク質の機能と一次構造、アミノ酸配列の決定法、細胞内局在と一次構造、系統解析
第5回	蛋白質の立体構造と化学結合	コンフォメーション、水素結合、疎水性相互作用、イオン性相互作用、ファンデルワールス力、ジスルフィド結合
第6回	タンパク質の二次構造-1	α ヘリックスの構造的特徴、アミノ酸配列と α ヘリックス
第7回	タンパク質の二次構造-2	β シート、 β バレル、 β ターンの構造的特徴
第8回	繊維状蛋白質の三次構造	コイルドコイル、ケラチン、コラーゲン、絹繊維
第9回	球状蛋白質の三次構造	構造モチーフ、ドメイン、構造に基づく球状タンパク質の分類
第10回	蛋白質の四次構造、天然変性蛋白質	サブユニット、天然変性領域
第11回	タンパク質のフォールディングと変性	アンフィンゼンのドグマ、フォールディングの速さと経路、シャペロン、ミスフォールディング
第12回	免疫グロブリン	免疫を担う細胞、免疫に働く分子の多様性、抗原-抗体結合、抗体の利用
第13回	酵素の触媒作用機構	発見と研究の歴史、活性化エネルギーと触媒作用、酵素-基質の結合エネルギー、誘導適合、脱溶媒和
第14回	アクチン	ミオシン、アクチン、アクチンの重合、アクチン-ミオシンの力発生機構、アクチン-ミオシン相互作用の調節

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】講義後にノートとプリントを読み返し、参考書を読むなどして復習をすること。講義内容へのすべての質問に対して回答の一覧を授業支援システムに数日以内にアップロードするので、復習する際には他の受講生が出した質問とその回答もよく読んで理解を深めること。

【テキスト（教科書）】

適宜プリントを配布する。

【参考書】

「レーニンジャーの生化学 第5版」(廣川書店)

【成績評価の方法と基準】

授業ごとに提出する課題 20%、中間試験 40%、期末試験 40%を目安として総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

授業後の課題とともに質問を受け付け、数日以内にその回答をフィードバックしている。理解の助けになったという声も多いので、今後も継続する。大いに利用してほしい。

【その他の重要事項】

実務経験：理化学研究所基礎科学特別研究員。このときから行っている先端的研究の成果を授業内で説明している。

【Outline (in English)】

This course provides an introduction to structure and function of proteins. Topics covered in this course include: structure and chemical properties of amino acids, relationships between primary structures and functions of proteins, chemical interactions for protein folding, hierarchical structure of proteins, globular proteins and fibrous proteins, structure and catalytic function of enzymes, and structure and function of antibodies.

BLS200YB

蛋白質構造機能学 | |

曾和 義幸

開講時期：秋学期授業/Fall

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要（オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする）

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

タンパク質は、生命機能を発現するために必要な構成要素である。個々のタンパク質は独自の立体構造を持ち、機能と密接に関連している。タンパク質の構造と機能の関係を、具体的な例を挙げつつ講義する。

【到達目標】

本講義全体を通して、タンパク質の特徴・構造・機能について学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【授業の進め方と方法】

板書とスライドを併用した講義とする。講義内では演習問題を解いてもらうことで、タンパク質の構造・機能について理解することを目指す。レポート・演習のあとの解説でフィードバックをおこなう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	講義の概要	タンパク質が様々な生命現象に関わる重要な生体高分子である事を紹介する。
2	タンパク質の基本	タンパク質を理解するための基本的な情報について概説する。
3	タンパク質の構造	タンパク質構造について概説する。
4	タンパク質構造の決定法	タンパク質構造解析について概説するとともに、構造予測についても触れる。
5	生体エネルギー論	生体熱力学の全体像を概説する。
6	リガンド結合 1	タンパク質のリガンド結合について概説する。
7	リガンド結合 2	結合サイトが複数あるタンパク質-リガンド結合について概説する。
8	協同性	ヘモグロビンを例にとり、協同性について概説し、協同性のモデルについて議論する。
9	中間試験	講義の前半についての理解度をチェックする。
10	酵素	生化学反応を触媒する酵素について概説する。
11	速度論	化学反応の速度論の基本を概説する。
12	酵素反応	酵素反応速度論について概説する。
13	タンパク質機能の解析法	タンパク質機能を解析する手法について、基本的な原理を概説する。
14	総括	講義全体を通じて、理解してもらいたいポイントをまとめた課題を与える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】本講義では、講義内容の理解を助けるための簡単な計算を演習問題として紹介する。ただし、時間の制約上、計算過程を省かざるをえない場合があるので、各講義の終了後に各自で計算をおこなう。

【テキスト（教科書）】

特定の教科書は指定しない。講義では視覚的教材やプリントを利用する。

【参考書】

一般的な生化学の教科書（レーニンジャーの新生化学など）

【成績評価の方法と基準】

中間試験（50%）・期末試験（50%）の合計点数によって評価する。ただし、オンライン授業になった場合は、適宜課予定のレポート・演習で評価する（100%）。

【学生の意見等からの気づき】

演習問題を増やし、解説を丁寧におこなう。

【学生が準備すべき機器他】

貸与 PC を用いることがある。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire an understanding of the fundamental relationship between protein structure and function.

PHA300YC

分子薬理学

小藤 智史

開講時期：春学期授業/Spring

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部公開科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要（オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする）

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

薬理学とは薬が作用するメカニズムを解明する学問である。初めに、生理機能の概要を学ぶ。次に、これまでに学習してきた生物化学・分子生物学等の知識を基礎として、「薬」が私たちの体でどのように働き、生理機能の恒常性の維持に寄与するのかについて、分子レベルのミクロな視点と個体レベルのマクロな視点で学び、生命現象を総合的に理解することをめざす。

【到達目標】

体の仕組みおよび薬が作用するメカニズムを分子・個体レベルで正しく理解し、人に説明できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【授業の進め方と方法】

授業は講義形式で行い、PC 制御プロジェクターと配布資料を用いる。理解度を確認したり、わからなかった点、気づいた点などを記載するリアクションペーパーを提出してもらう。授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	薬理学総論	薬理学とは何か、薬物と受容体との関係および濃度-反応曲線を学ぶ
2	自律神経・体性神経系に作用する薬	自律神経系の形態と機能について理解し、自律神経系と体性神経系に作用する薬物について学ぶ
3	中枢神経系に作用する薬（統合失調症、うつ）	中枢神経系に作用する薬物の基礎と統合失調症やうつ病に対する薬について学ぶ
4	中枢神経系に作用する薬（睡眠、てんかん、鎮痛）	中枢神経系に作用する薬物（睡眠、てんかん、鎮痛）について学ぶ
5	循環器系に作用する薬	循環器系に作用する薬物について学ぶ
6	消化器に作用する薬	消化器に作用する薬物について学ぶ
7	中間試験・まとめと解説	範囲:第 1 回から第 6 回。教科書・資料等の持ち込み不可
8	利尿薬と泌尿器・生殖器系に作用する薬	利尿薬と生殖器系に作用する薬物について学ぶ
9	呼吸器系・血液に作用する薬	呼吸器系と血液に作用する薬物について学ぶ
10	代謝性疾患とその治療の治療薬	糖尿病・脂質異常症治療薬の作用機序を学ぶ
11	抗炎症薬・抗リウマチ薬・抗アレルギー薬	抗炎症薬・抗リウマチ薬・抗アレルギー薬の作用機序を学ぶ
12	感覚器・感染症治療薬	感覚器に作用する薬物と感染症治療薬の作用機序を学ぶ
13	抗癌薬	抗癌薬の作用機序を学ぶ
14	期末試験・まとめと解説	範囲:全講義の内容。教科書・資料等の持ち込み不可

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】受講前にシラバスや教科書の該当する章を読み講義内容を把握しておいて下さい。受講後は講義時に配布された資料や自筆ノートを見直したり、教科書等を使用して復習して下さい。

【テキスト（教科書）】

はじめの一步の薬理学 第 2 版 石井邦雄・坂本謙司著（羊土社、2020 年 01 月 14 日発行、本体 2,900 円＋税）

【参考書】

人体の正常構造と機能（日本医事新報社）

【成績評価の方法と基準】

中間試験（6月に実施。30点満点。）

期末試験（7月に実施。60点満点。）

平常点（リアクションペーパーの提出等。10点満点。）

で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

毎回授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ解説をしたところ、好評だったので、本年度も継続して行う。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

特になし

【Outline (in English)】

Pharmacology is the study to learn the mechanisms by which drugs work. First, we will overview the physiological functions. Next, students will learn how drugs work in our bodies and contribute to the maintenance of homeostasis of physiological functions based on the molecular level and the whole body level. In this class, we aim to understand the biological responses against drugs in our bodies by using basic knowledges of biochemistry, molecular biology and so on.

BLS300YB

構造生物学

金丸 周司

開講時期：春学期授業/Spring

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部公開科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要（オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする）

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

生体高分子、特に蛋白質や核酸の高次立体構造の研究における X 線結晶構造解析、NMR 解析、クライオ電顕解析による構造解析法を中心に概説する。さらに立体構造情報に基づいた構造の推定や分子間相互作用などの応用研究、そして、これらの方法論に加えて、構造を解くことで何が分かるかを学ぶ。

【到達目標】

本講義全体を通して、生体高分子、特に蛋白質の高次構造から、特徴・機能・性状について学び、その構造解析法を理解する。それをふまえて、構造生物学から得られた知見をどのように解釈し利用していくかを学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【授業の進め方と方法】

対面またはオンラインで講義する。講義後に、授業内容に関するごく簡単なクイズへの回答と、講義内容への質問があれば同時に提出する。すべての質問は一覧にして回答とともに授業支援システムに数日以内にアップロードする。毎回、授業のはじめに前回の授業の課題の講評と解説を行う。授業方法は、大学の行動指針に基づき変更する可能性があり、その場合は学習支援システムで通知する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	蛋白質が様々な生命現象に関わる重要な生体高分子である事を紹介し、蛋白質研究の歴史を紹介する。
2	蛋白質の一次構造と二次構造	蛋白質を理解するための最も基本的な情報として、一次構造と二次構造の知識を得る。
3	蛋白質の二次構造のモデル作成	分子模型を用いて二次構造モデルを実際に作成し、二次構造の理解を深める。
4	蛋白質の高次構造	蛋白質の実体を理解するために不可欠となる高次構造について紹介する。
5	構造解析法 1	X 線結晶構造解析法による解析法について紹介する。
6	構造解析法 2	NMR 解析法について紹介する。
7	構造解析法 3	電子顕微鏡による解析法やその他の構造解析法について紹介する。
8	核酸の構造	核酸（主に DNA）の構造とそれに結合する蛋白質について紹介する。
9	酵素	酵素の構造生物学的知見を紹介する。
10	膜蛋白質	膜蛋白質の構造生物学的知見を紹介する。
11	電子密度マップへの蛋白質モデル構築	各自のパソコンを用いて、結晶構造解析より得られた電子密度マップに原子モデルを構築する。
12	立体構造情報の利用 1	立体構造情報、主に PDB ファイルの詳細を解説し立体構造の可視化方法（ソフトウェア）を紹介する。
13	立体構造情報の利用 2	立体構造情報を利用したデータベースを紹介する。
14	期末試験	期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】指定した参考書などを参照し、毎回配布するプリントと小テストを復習してください。

【テキスト（教科書）】

毎回プリントを配布する

【参考書】

有坂文雄著「バイオサイエンスのための蛋白質科学入門」（裳華房，2006）

神田大輔著「いきなりはじめる構造生物学」（秀潤社，2011）

田中勲・三木邦夫訳「構造生物学」（化学同人，2012）

【成績評価の方法と基準】

生体高分子の立体構造とその構造解析法について理解し、構造生物学から得られる知見と生命現象とを結びつけて理解しているかを評価する。

【学生の意見等からの気づき】

毎回プリントを配布するので、復習時に役立ててほしい

【学生が準備すべき機器他】

貸与パソコン（第 11 回で使用）

【Outline (in English)】

I will outline the structure determination methods by X-ray crystal structure analysis, NMR analysis and cryo-electron microscopic analysis in the analysis of higher order tertiary structures of biopolymers, especially proteins and nucleic acids.

Furthermore, you learn applied research such as structure prediction based on three-dimensional structure information and intermolecular interaction, and learn what you can understand by solving the structure with these methodologies.

PPE100YD

植物医科学概論

鍵和田 聡、津田 新哉、廣岡 裕吏、池田 健太郎、舟木 康郎

開講時期：春学期授業/Spring

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部公開科目履修制度で履修する学生

生：教員の受講許可が必要（オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする）

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

植物医科学の考え方や技術、食の安全や環境保全・社会経済との関わりを学び、植物保護の原点を探る。

【到達目標】

植物医科学という新しい学問分野の概要を把握し、植物医科学分野の専門科目を学ぶための基礎を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【授業の進め方と方法】

植物病とその歴史、植物医科学の意義、植物病の種類、病気の診断技術、植物病害の治療・防除・予防技術などについて最新の成果も交えながら広く解説する。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	植物医科学とその重要性	食料・環境問題と植物医科学、その重要性
第2回	植物の生育障害と症状の特徴	植物の生育障害の種類、原因、症状、病名
第3回	菌類病	微生物病の種類、菌類の分類、生活環、菌類病の種類と特徴
第4回	細菌病	細菌の分類、細菌病の種類と特徴、ファイトプラズマ病
第5回	ウイルス病、線虫害	ウイルスの分類、ウイルス病の種類と特徴、ウイロイド病、線虫害の種類と特徴
第6回	発生病態と被害解析	発病の条件、伝染方法、発病動態とその環境、被害解析
第7回	生理障害	生理障害の種類、肥料に関わる障害、薬害、環境条件、管理作業
第8回	害虫と雑草	害虫の種類、生態的特徴、被害とその解析、加害様式、雑草の種類、特徴、防除対策
第9回	診断の意義と工程	診断の意義と重要性、診断の工程、問診と診断の実際
第10回	分離と接種による診断	微生物の分離と維持、接種、微生物の同定技術
第11回	血清診断、遺伝子診断	血清診断の種類と各技術の特徴、遺伝子診断の種類と各技術の特徴
第12回	薬剤防除	農薬の種類、選択、製剤化、使用方法、安全性評価、関連法令
第13回	IPM	植物の病虫害と防除法、総合的病虫害管理（IPM）
第14回	植物医科学の社会的役割	植物防疫に関わる法令、病虫害の発生予察、植物検疫、食の安全

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】
教科書に沿って講義を進める。講義内容に該当する部分をよく読むことにより予習、復習する。

【テキスト（教科書）】

植物医科学の世界（大誠社）

【参考書】

植物医科学（第2版）（養賢堂）

その他適宜講義中に紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（約30%）、試験（約70%）により総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

教科書に沿って丁寧に説明を行う。

【その他の重要事項】

応用植物科学科必修科目。

樹木医補資格関係専門科目。

植物病診断・防除の現場の実務経験のある教員により、その経験を踏まえた技術の詳細を紹介する。

質問など不明点あれば、鍵和田まで問い合わせること。オフィスアワーは履修の手引きを参照。

【Outline (in English)】

This course introduces the concepts and technologies of 'clinical plant science', and its relationship with food safety, environmental conservation and social economy. Participants understand the outline of a new discipline field, 'clinical plant science', and acquire the foundation for learning special subjects in the field of clinical plant science. It explains plant disease science and its history, significance of clinical plant science, kinds of plant diseases, diagnostic technology of diseases, treatment, control and prevention technology of plant diseases. The standard study time for this class is four hours to understand the course content. Your overall grade in the class will be decided based on Term-end examination (70%) and in-class contribution (30%).

PPE200YD

植物病理学概論

濱本 宏

開講時期：秋学期授業/Fall

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要（オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする）

その他属性：〈優〉〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では主として微生物による植物病について、病原性のメカニズムや伝染様式、さらに、それら病原に対して植物の持つ病害抵抗性の機構等を学ぶ。

【到達目標】

ウイルス、細菌、菌類など植物病原微生物の分類とその特徴、それらが引き起こす病徴について基礎的な知識を得る。また、それら微生物がどのように植物に病気を起こすのか、それに対して植物はどのように抵抗性を示すのかを理解する。さらに、これらの知見を病害の診断や防除にどのように活かすのか考える能力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【授業の進め方と方法】

<<授業実施方法の詳細等は学習支援システムを通じてお知らせします>> パワーポイントを用いて解説することを基本とする。トピック的に原著論文を紹介したり TED などのビデオをみることで、理解を深めたり最新の知見を得たりする。授業中にオンラインのアンケート機能等を用いて、理解度の把握に努め、授業進行に役立てる。授業内の最後に行う「テスト/アンケート」あるいは「課題提出」のフィードバックは翌週授業の冒頭で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	植物病と微生物	植物病を引き起こす微生物と、基本的な用語について
第 2 回	ウイルス・ウイロイド病 (1)	ウイルス・ウイロイドの分類と進化
第 3 回	ウイルス・ウイロイド病 (2)	ウイルス・ウイロイド病の性状・病徴と伝染様式
第 4 回	細菌・ファイトプラズマ病 (1)	植物病原細菌・ファイトプラズマの分類と性状
第 5 回	細菌・ファイトプラズマ病 (2)	植物細菌病・ファイトプラズマ病の病徴と伝染様式
第 6 回	菌類病 (1)	植物病原菌類の分類・性状
第 7 回	菌類病 (2)	植物菌類病の病徴と伝染様式
第 8 回	線虫病と生理病	植物寄生線虫の分類、性状と病徴、植物生理病の種類と病徴
第 9 回	中間まとめ	植物病を引き起こす病因について振り返り、質疑応答
第 10 回	植物感染生理 (1)	病原性：病原微生物の植物侵入の機構と病原性発現の機構
第 11 回	植物感染生理 (2)	抵抗性：原微生物に対する宿主の抵抗性の機構
第 12 回	植物感染生理 (3)	植物感染生理とゲノミクス・バイオテクノロジー
第 13 回	植物病の診断と防除	植物病の診断、防除に活かされる植物病理学の知見
第 14 回	植物病理学の最新トピックと総合まとめ	植物病理学に関する最新のトピックの紹介・授業をふりかえり総合まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】授業で強調する専門用語や病名について、他の授業・実習内容の復習や自習によって知識を深めてほしい。

【テキスト（教科書）】

新刊書を予定している（授業開始前に連絡する）

【参考書】

植物病理学（眞山滋志、難波成任編），文永堂出版，2010。
Plant Pathology, 5th edition (G.N. Agrios), Elsevier, 2005.
Essential Plant Pathology (G.L. Schumann, C.J. D'Arcy), APS Press, 2010

【成績評価の方法と基準】

期末試験：80%、平常点 20%を目安として総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特に、配布プリントを見やすくすることと、授業支援システムへのタイミング良いアップを心がける。クイズ形式のアンケートなどをできるだけ取り入れ、授業の進行に役立てる。

【その他の重要事項】

化学業界に勤務経験のある教員が、特に農薬の開発や使用に関して具体的な説明を加える。

【Outline (in English)】**【Course outline】**

In this course, we mainly learn the mechanisms of pathogenicity, the mode of transmission, and the mechanisms of disease resistance of plants against pathogenic diseases of microorganisms.

【Learning Objectives】

The goal of this course is to obtain basic knowledge of the plant pathogens, how they cause plant disease and how the plants resist to the attack of the pathogens.

【Learning activities outside of classroom】

In this course, to know the scientific terms are important and review the meanings of the terms that you didn't know.

【Grading Criteria /Policy】

Final evaluation will be decided according to; term-end examination (80%) and in-class contribution (20%).

PPE100YD

植物分子細胞生物学

鍵和田 聡

開講時期：秋学期授業/Fall

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部公開科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要（オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする）

その他属性：〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

植物は光合成を行って二酸化炭素を固定するなど、動物など他の生物とは異なった生理機能をもって生活している。こうした植物の持つ様々な生理機能について、細胞レベル・分子レベルでのメカニズムを理解することによって、植物の健全な育成を行うための基礎的な考え方を習得する。現在、植物の生理的变化や、形態形成のメカニズム、さらには植物の環境応答のしくみを明らかにするための研究が進んでおり、本講義でもこれらの最先端の知見を紹介する。これらの内容は植物の生理的障害の分子機構、あるいは病原体に対する植物の防御応答のメカニズムなど、幅広い分野を理解するための基礎となる。

【到達目標】

植物を構成する細胞の役割や機能、また植物の代謝や環境応答などの生理について、基本的な分子レベル・細胞レベルから理解できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【授業の進め方と方法】

授業計画に従い講義を行う。適宜ノートをとり、毎回振り返って復習し、深く理解したい点は適宜参考書を調べる。また内容について理解が進んでいるか、数回行う確認テストで検討すること。レポート課題、および講義を理解する上で前提となる内容の補習問題を行う。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて、あるいは講義内で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	植物の構造 (1)	植物組織の特徴
第2回	植物の構造 (2)	植物の細胞
第3回	植物の代謝経路 (1)	光合成と物質移行
第4回	植物の代謝経路 (2)	糖、脂質
第5回	植物の代謝経路 (3)	窒素、リン酸の代謝と共生微生物
第6回	二次代謝産物	代謝経路と機能
第7回	遺伝子発現	核酸、タンパク質と遺伝子発現調節機構
第8回	シグナル伝達の分子機構	植物のシグナル伝達系、およびその制御の分子機構
第9回	植物の遺伝子組換え	植物の全能性、および遺伝子組換え植物の作成法
第10回	受精と初期発生	植物の受精と初期発生のメカニズム
第11回	形態形成の遺伝子	花器等の形態形成に関わる遺伝子と発現制御
第12回	植物ホルモン	植物ホルモンの作用
第13回	非生物ストレス	環境ストレスに対する応答機構
第14回	生物ストレス	抵抗性、過敏感反応

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】
毎回ノートを復習し、深く理解したい点は適宜参考書を調べる。内容について理解が進んでいるか数回行う確認テストで振り返ること。レポート課題（1題）、および講義を理解する上で前提となる内容の補習問題（1題）を行う。

【テキスト（教科書）】

授業支援システムにて参考資料を配布する。

【参考書】

「植物生理学—分子から個体へ—」幸田ら、三共出版

「植物生理学概論」桜井ら、培風館

その他、適宜内容に応じて講義中に紹介する。

【成績評価の方法と基準】

確認テストを含む平常点（約 15%）、レポート課題と補習問題（約 15%）、期末試験（約 70%）の結果を総合して評価する。

【学生の意見等からの気づき】

基礎的な点から丁寧に説明する。

【その他の重要事項】

オフィスアワーは履修の手引きを参照。

【Outline (in English)】

Plants have physiological functions different from animals, such as carbon dioxide assimilation by photosynthesis. By understanding the mechanisms at the cellular level and molecular level of various physiological functions of plants, students learn the fundamental idea for growing healthy plants. The contents of this class form the basis for understanding physiological phenomenon of plants such as the molecular mechanism of physiological disorders of plants and the defense response of plants against pathogens. The standard study time for this class is four hours to understand the course content. Your overall grade in the class will be decided based on Term-end examination (70%), reports (15%) and in-class contribution (15%).

BLS100YB

生物学概論 I

清水 隆

開講時期：春学期授業/Spring

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部公開科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要（オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする）

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

近年、生物学研究は急速に進歩し、社会にも大きな影響を与えています。本講義では、複雑な生命活動を理解するための基礎知識を身につけ、今後の研究や社会活動に生かしていくことを目的とします。また、生物学の発展に尽力した人物を取り上げ、その功績を振り返ります。

【到達目標】

本講義は高校で生物学を履修してこなかった学生や、生物学が苦手だった学生を主な対象とします。今後の他講義を理解したり、卒業研究を遂行する上で必要な基礎知識を身につけます。そのために、毎回の小テストでは基本語句を習得し、講義内の演習や提出課題では、講義内容をより深く理解し自分の言葉で記述する力を獲得します。期間内に2回実施するまとめ試験で到達度を確認します。講義中は内容をノートにまとめることが要求されます。前期（生物学概論I）では生物学の基本、生物学史、細胞学、遺伝学を中心に進めていきます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【授業の進め方と方法】

「生物学概論I」と「生物学概論II」を通年で受講することが望ましいです。毎回の講義開始時に、前回の講義内容に関する用語チェックを実施します。講義中には、適宜演習時間を設け、提出課題が課せられます。さらに2回のまとめ試験を加えて成績を評価します。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	生命とは何か（序章） 生物学の基本（1章）	授業内容の説明および評価方法 生物学の歴史と方法 生物の多様性・共通性・階層性 遺伝学の基礎
2	細胞：生物の基本単位（2章）	細胞を見る技術 細胞を構成する物質
3	オルガネラ（2章）	細胞小器官の機能 細胞膜の構造と機能
4	恒常性（2章）	生体の内部環境を安定に保つしくみ
5	生体を構成する分子1（3章）	核酸の種類と構造
6	生体を構成する分子2（3章）	タンパク質の構造と機能
7	生体を構成する分子3（3章）	糖の種類と構造
8	生体を構成する分子4（3章）	脂質の構造 前期前半の理解到達度判定
9	中間試験 遺伝1（5章）	中間試験の解説と講評 遺伝子としての DNA
10	遺伝2（5章）	遺伝情報の転写と翻訳
11	遺伝3（5章）	遺伝子発現制御 細胞の形態維持と運動
12	代謝1（4章）	触媒としての酵素 エネルギーの循環
13	代謝2（4章）	呼吸 エネルギー産生
14	代謝3（4章） 現代生物学の最前線1	光合成 代謝経路のネットワーク ゲノム編集作物の現在

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】

- ① 予習：教科書の指示された部分を読んでおくこと
最近の科学ニュースについて自分の意見をまとめておくこと
- ② 復習：重要用語をまとめ、次回小テストの準備をすること
- ③ 提出課題

【テキスト（教科書）】

「基礎から学ぶ生物学・細胞生物学 第4版」和田勝 羊土社 2020 3200円

【参考書】

授業中に適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

- ① 用語チェック（10%）
- ② 提出課題（10%）
- ③ まとめ試験（2回で80%）

【学生の意見等からの気づき】

授業の難易度、レジュメの見やすさなどについては、学生からの意見を適宜取り入れて改善してきました。また、「基礎事項の復習に役立った」「生物学に対する興味が深まった」との評価がありました。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【Outline (in English)】

In recent years, biological research has advanced rapidly and has great influence on society as well. In this lecture, we aim to acquire basic knowledge to understand complicated life activities, and make use of it in future research and social activities. Also, the person who contributed to the development of biology will be taken up and we will learn about their achievements.

BLS100YB

生物学概論 I I

清水 隆

開講時期：秋学期授業/Fall

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部公開科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要（オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする）

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

近年、生物学研究は急速に進歩し、社会にも大きな影響を与えています。本講義では、複雑な生命活動を理解するための基礎知識を身につけ、今後の研究や社会活動に生かしていくことを目的とします。また、生物学の発展に尽力した人物を取り上げ、その功績を振り返ります。

【到達目標】

本講義は高校で生物学を履修してこなかった学生や、生物学が苦手だった学生を主な対象とします。今後の他講義を理解したり、卒業研究を遂行する上で必要な基礎知識を身につけます。そのために、毎回の小テストでは基本語句を習得し、講義内の演習や提出課題では、講義内容をより深く理解し自分の言葉で記述する力を獲得します。期間内に2回実施するまとめ試験で到達度を確認します。講義中は内容をノートにまとめることが要求されます。後期（生物学概論Ⅱ）では発生学、免疫学、生態学を中心に進めていきます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【授業の進め方と方法】

「生物学概論Ⅰ」と「生物学概論Ⅱ」を通年で受講することが望ましいです。毎回の講義開始時に、前回の講義内容に関する用語集の作成をします。講義中には、適宜演習時間を設け、提出課題が課せられます。さらに2回のまとめ試験を加えて成績を評価します。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション 多細胞生物への道（6章）	授業内容の説明および評価方法
2	細胞（6章）	原核生物と真核生物 細胞間の結合様式と役割
3	遺伝子1（6章）	細胞間の情報交換ホルモンの受容と遺伝子発現
4	遺伝子2（7章）	DNAの複製 突然変異
5	遺伝子3（7章）	原核生物における遺伝子発現制御
6	遺伝子4（8章）	真核生物における遺伝子発現制御
7	細胞分裂	細胞周期 がん治療の最前線
8	中間試験	後期前半の理解到達度判定
9	生殖と発生1（8章）	生殖細胞の形成 受精と卵割
10	生殖と発生2（8章）	オーガナイザーと胚葉分化、形態形成
11	個体を守る免疫1（9章）	非特異的体防御 特異的体防御
11	個体を守る免疫2（9章）	体液性免疫 細胞性免疫 性感染症の予防と対策
12	さまざまな疾病（10章） 個体としてのまとめ（11章）	細胞の老化と再生 早老症 寿命と遺伝子 血友病 コレラ がん
13	進化（12章）	古生物学概論 進化のしくみ 生物多様性はなぜ重要か
14	遺伝子工学・細胞工学	再生医療の最前線

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】

- ① 予習：教科書の指示された部分を読んでおくこと
最近の科学ニュースについて自分の意見をまとめておくこと
- ② 復習：重要用語をまとめること
- ③ 提出課題

【テキスト（教科書）】

「基礎から学ぶ生物学・細胞生物学 第3版」和田勝 羊土社 2015 3200円

【参考書】

授業中に適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

- ① 提出課題（20%）
- ② まとめ試験（2回で80%）

【学生の意見等からの気づき】

授業の難易度、レジュメの見やすさなどについては、学生からの意見を適宜取り入れて改善してきました。また、「基礎事項の復習に役立った」「生物学に対する興味が深まった」との評価がありました。

【Outline (in English)】

In recent years, biological research has advanced rapidly and has great influence on society as well. In this lecture, we aim to acquire basic knowledge to understand complicated life activities, and make use of it in future research and social activities. Also, the person who contributed to the development of biology will be taken up and we will learn about their achievements.

COT100YB

計算機科学概論 I

豊田 太郎

開講時期：春学期授業/Spring

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部公開科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要（オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする）

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現在、研究や学術活動において、コンピュータとインターネットは、情報の収集および処理の必須ツールです。秋期の計算機科学概論 II と合わせて、コンピュータとインターネットの仕組みから、主要なアプリ、プログラミング（Python 3）の扱い方まで理解し身に付けるのが当授業の大きな目的です。

【到達目標】

秋期の計算機科学概論 II と合わせて、コンピュータとインターネットに関する基礎知識および基本操作、プログラミングを学びます。受講者が、進学後に研究室配属されてこれらを自在に扱えるようになる準備を完了するのが目標です。本講義では、主要なアプリとプログラミング（Python3）を実際に使って身に付けることが主体となります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【授業の進め方と方法】

貸与ノート PC を用いた演習を主体とする授業です。キーボード操作によってコンピュータとインターネットを扱うことを体験します。基本操作、応用操作の組み合わせが授業の標準形態となり、その演習結果を提出します。

課題の提出・フィードバック等は学習支援システムを通じて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	導入	勉強と研究の違い、PC とは何か、貸与 PC で何ができるのか
第 2 回	インターネットと情報ベース	学術資料と文献の調べ方、“論文”とは何か
第 3 回	主要アプリの使い方 (1)	Word,Excel を使ってやりとりゲームをしよう
第 4 回	主要アプリの使い方 (2)	Word,Excel を使ってやりとりゲームを予想しよう
第 5 回	主要アプリの使い方 (3)	Word,Excel を使ってやりとりゲームを発展させよう
第 6 回	Python3 の紹介と導入	Python3 の説明、環境設定、簡単な使い方
第 7 回	Python3 の簡単な使い方	エディタを用いた文字表示
第 8 回	Python3 による計算	関数電卓としての使い方を説明する
第 9 回	Python3 によるプログラムの基本	変数、順次、分岐、反復というプログラミングの基本を説明する
第 10 回	Python3 でデータをまとめる	平均、標準偏差、直線回帰を説明する
第 11 回	Python3 でグラフを表示する	グラフ表示のやり方を説明する
第 12 回	Python3 で対話的プログラムをつくる	対話的プログラムの基本を説明する
第 13 回	Python3 による演習 (1)	Python3 でゲームプログラミングを行う
第 14 回	Python3 による演習 (2)	Python3 でアニメーション作成を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】学習順を考慮した内容が多い授業です。前回の授業を前提として次の学習（演習）があります。遅刻（授業途中からの参加）や欠席が不理解の原因となる場合があります。不明・不理解あるいは操作が追いつかないなどの場合は、助けを求めるなど、後回しにせずその時点で要求してください。

【テキスト（教科書）】

なし

【参考書】

授業の教材として必要に応じて資料を配布します。

【成績評価の方法と基準】

各授業における演習結果をレポートとして提出してもらい、評価の対象とします。

最終の総合試験は行いません。評価基準：演習レポート 70%、平常点 30%。

【学生の意見等からの気づき】

理解度の個人差が大きくなります。理解/操作不能となった場合には理解/操作不能のままにせず、自身で調査したり質問をしてください。

【学生が準備すべき機器他】

貸与 PC または貸与 PC 相当の PC

【その他の重要事項】

演習が主体の講義ですので、実際に自身の手を動かして積極的に操作してください。

【Outline (in English)】

For utilizing computer and internet, students are expected to understand and learn them and used to them practically by softwares and programing training through this course. The goals of this course are to understand fundamentals of computer and internet, to practice major softwares of Microsoft windows, and to learn the elementary skills of programming using Python 3. Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be four hours or more for a class. Your overall grade in the class will be decided based on the following: Short reports : 70%, in class contribution: 30%.

COT100YB

計算機科学概論 I I

豊田 太郎

開講時期：秋学期授業/Fall

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部公開科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要（オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする）

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

春期の計算機科学概論 I と合わせて、コンピュータを自在に扱って研究や学術活動を進めることができるようになる準備を完了するのが当授業の大きな目的です。特に、画像解析を中心にした簡単なプログラミングについて理解しプログラムを作成します。

【到達目標】

春期の計算機科学概論 I と合わせて、コンピュータとインターネットに関する基礎知識および基本操作を学びます。受講者が、進学後に研究室配属された際にこれらを自在に使えるようになる準備を完了するのが目標です。特に、画像解析の基本操作など、および関連するプログラミングの基礎の習得が主体となります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【授業の進め方と方法】

貸与ノート PC を用いた演習が主体の授業です。生命科学部学生にとっての実用を目的とした基本的スキルの学習が中心となります。プログラミングによる画像データ処理を体験します。基本操作、応用操作の組み合わせが授業の標準形態となり、その演習結果を提出します。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	導入	コンピュータとインターネット、画像情報の基本、Fiji-Image J のインストール
第 2 回	Fiji-ImageJ の静止画解析 (1)	イメージ（静止画）の解析の手順を説明する。前処理のやり方を説明する
第 3 回	Fiji-ImageJ の静止画解析 (2)	イメージ（静止画）の解析としてマスク作成（二値化）を説明する
第 4 回	Fiji-ImageJ の静止画解析 (3)	イメージ（静止画）の解析として後処理を説明する
第 5 回	Fiji-ImageJ の静止画解析 (4)	スケールバーおよび粒子解析などを説明する
第 6 回	Fiji-ImageJ の動画解析	動画解析（トレース機能）を説明する
第 7 回	Python3 の導入と簡単な使い方	Python3 の導入、プログラミングの基本。
第 8 回	Python3 による静止画解析 (1)	イメージ（静止画）の解析として、前処理、マスク作成を説明する。
第 9 回	Python3 による静止画解析 (2)	イメージ（静止画）の解析として、後処理を説明する。
第 10 回	Python3 でグラフ表示する	グラフ表示および統計処理の基本を説明し、機械学習の基本についても扱う
第 11 回	総合演習 (1)	Fiji-ImageJ と Python3 を併用して動画解析する
第 12 回	総合演習 (2)	Fiji-ImageJ と Python3 を併用して動画解析する
第 13 回	総合演習 (3)	Fiji-ImageJ と Python3 を併用して動画解析する

第 14 回 総合演習 (4)

Fiji-ImageJ と Python3 を併用して動画解析する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】春期授業を前提としていますが、講義の途中など必要な際に、春期の復習も行います。したがって春期の計算機科学概論 I を未受講の人でも、学習できるように配慮します。

【テキスト（教科書）】

なし

【参考書】

授業の教材として必要に応じて資料を配布します。

【成績評価の方法と基準】

各授業における演習結果をレポートとして提出してもらい、評価の対象とします。

最終の総合試験は行いません。評価基準：演習レポート 70%、平常点 30%。

【学生の意見等からの気づき】

理解度の個人差が大きくなりやすいです。理解/操作不能となった場合には講義中に挙手して、TA の支援も仰いでください。理解/操作不能のままにしておかないこと。

【学生が準備すべき機器他】

貸与 PC または貸与 PC 相当の PC

【その他の重要事項】

演習が主体の講座ですので、遅刻による講義途中からの参加は学習の進行に大きな障害となる場合があります。

【Outline (in English)】

For utilizing computer, students are expected to perform image analysis through using Fiji-Image J and Python 3. The goals of this course are to understand fundamentals of digital data of images and to practice image analysis software, Fiji-Image J, and related programming skills by Python 3. Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be four hours or more for a class. Your overall grade in the class will be decided based on the following: Short reports : 70%, in class contribution: 30%.

BLS200YB

発生生物学

小林 麻己人、川岸 万紀子

開講時期：秋学期集中/Intensive(Fall)

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部公開科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要（オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする）

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

発生生物学は、古代ギリシアにルーツをもち、古来より生物学者の興味をそそる学問分野である。しかし、20世紀末の分子生物学ツールの導入により、個体発生のメカニズムが分子レベルで明らかになるにつれ、その制御システムはヒトの疾患・癌・老化などに密接に関連することがわかり、単に学問的だけでなく、医療や農業などの産業にも重大な情報をもたらすものになった。本授業では、発生生物学の概要を、分子レベルの切り口も含め紹介し、再生・進化・医学・農学など他分野とのつながりにも言及する。

【到達目標】

近年における発生生物学の全容と発展、さらには他分野、特に医学と農学とのつながりの理解を目指す。具体的には、1) 受精から老化に至る、発生生物学の全体像をイメージできる、2) その中で特に、体軸形成・細胞分化・誘導シグナル・ゲノム遺伝子の発現、の重要性をそれぞれで活躍する代表的な遺伝子・タンパク質の名前を習得しながら理解する、3) 発生工学的及び実験胚発生の手法が、現在の生命科学の発展にいかんにか貢献してきたか、を理解する、4) 医学・薬学・農学において、発生生物学に関連する知識や技術がいかに重要であるかを理解し、自身のキャリアに活かす、ことを到達目標とする。その上で、受講後も継続して自主学習する受講生がでてくることを期待する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【授業の進め方と方法】

大枠としては、発生の基本概念、分子レベルでの理解、他分野への応用、の順で授業を進めるが、きっちりとは分けず、それぞれを織り交ぜる。方法は、プリント配付とPCプロジェクター映写の併用を考えているが、板書も含め、状況や内容に応じて、工夫を施す。受講者とのやりとりを期待する。前半の動物の発生および医学との関連性を小林が担当し、後半の植物の発生および農学との関連性を川岸が担当する。

各授業の進め方であるが、いずれの授業においても最後に小テストを行い、学生の理解度を確認する。その解答解説は、次の授業の初めに行う。また、3日間の集中形式で行うものであるが、各日の最終授業で中間試験を行い、その1日全体における理解度を確認する。その解答解説は翌日の最初の授業で行う。なお、中間試験の際にリアクションペーパー提出も同時に課する予定である。解答解説時に合わせて紹介したい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	動物の発生と体軸形成	ヒトの発生、ゼブラフィッシュの発生、植体軸形成
第2回	体軸形成のしくみ	受精、βカテニン、Wnt経路、がん、Nodal、中胚葉誘導、ニューコープセンター、抗BMP4、オーガナイザー、神経誘導
第3回	細胞運命と遺伝子破壊	着床前診断、体外受精、細胞運命、原腸形成期、細胞分化、分化万能性、転写因子、ノックアウトマウス、ノックダウン
第4回	遺伝子機能とモデル動物	遺伝子機能、発生工学、ヒト突然変異、モデル動物、オルガノイド
第5回	中間試験1	前半の学習内容
第6回	トランスジェニック動物と遺伝子発現	トランスジェニック動物、過剰発現解析、異所的発現解析、診断、創薬、進化、レポーター動物、コンディショナルノックアウトマウス、イメージング
第7回	再生と老化と今後の医療	再生、再生医療、老化、カロリー制限、健康寿命、機能性食品、早老症、Nrf2経路
第8回	植物の発生と進化	植物の進化系譜、被子植物、植物の遺伝情報
第9回	植物の細胞と成長	被子植物の受精、胚発生、後胚発生、栄養成長と生殖成長
第10回	中間試験2	中盤の学習内容
第11回	植物遺伝子工学	緑の革命、植物の遺伝子組換えとゲノム編集、農作物の品種開発1
第12回	植物の環境応答と農作物の改良	植物の環境応答、よりよい植物をつくる、農作物の品種開発2
第13回	まとめ	全体の学習内容の復習

第14回 最終試験

全体の学習内容

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】特に準備学習は必要としない。分子生物学や細胞生物学の基礎的理解があれば十分。膨大な範囲からの抜粋になるため、授業では全てを詳細に説明することはできない。したがって、興味をもった箇所に関しては、授業後の自主学習を期待する。

【テキスト（教科書）】

指定せず

【参考書】

ギルバート発生生物学第10版（阿形・高橋訳）
メディカルサイエンスインターナショナル社
ウォルバート発生生物学第4版（武田・田村訳）
メディカルサイエンスインターナショナル社
老化生物学（McDonald著・近藤訳）
メディカルサイエンスインターナショナル社
新・生命科学シリーズ 植物の成長（西谷著）
裳華房社

【成績評価の方法と基準】

最終試験の成績で評価する。加えて、小テスト、及び、中間試験、の結果も加味する。要素毎の配分は、最終テスト（70%）、小テスト（10回、2%ずつ）、中間テスト（2回、5%ずつ）である。各テストは「到達目標」に合わせ、発生生物学の基礎的事項に加え、他分野、特に医学と農学とのつながり、に関わる問題を授業で教えた内容から出題する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

講師は筑波大学医学医療系の教員及び農業・食品産業技術総合研究機構の研究員であり、本科目は夏休み中（9月7日-9日）に集中講義として開講される。3日間連続5限（4限）の講義となるため、集中して学習できるメリットと逆にデメリットもある。その点を十分理解した上での受講を望む。

【Outline (in English)】

Developmental biology is an academic field that arouses the interest of a number of biologists from ancient days. At the end of the 20th century, the mechanisms of individual occurrences in developmental biology become clear at the molecular level and are understood to be closely related to human diseases, cancer, aging, and so forth. Therefore, studying developmental biology brings valuable information for medical and agricultural application. In this lecture, we introduce the outline of developmental biology and refer to connections with other fields such as regeneration, evolution, medicine and agriculture.

MAC200YB

物理化学概論 I

見附 孝一郎

開講時期：春学期授業/Spring

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部公開科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要（オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする）

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

基本的な米国の教科書を用いて物理化学の初歩を学ぶ。一見、各論的な化学の背後には普遍的な原理や法則が存在することを知り、それらによって原子や分子の性質が合理的に説明されることを理解する。とくに、原子、単体、化合物中の電子の運動や安定性が、元素の周期律および化学結合の本質と深く関わっていることを納得する。一方で、あらゆる原理や法則は、定量的実験によってその真偽が確かめられてきたことにも注意する。また、物理化学に関する例題、とくに計算問題に対して、単位や有効数字を意識しながら解答に到達できるまで習熟することも大事な目標である。

【到達目標】

原子、分子、物質（モル）の概念に慣れ親しむ。元素の性質とその周期律が原子中の電子の運動に関わっていること（原子の電子構造）、とくに最外殻の原子価電子の配置が鍵となることを知る。化学結合にはイオン結合と共有結合があり、オクテット則に基づいたルイス構造を描くことで、精密な理論がなくても、結合の性質、共鳴、電子の偏りを議論できること、それらは物質の物理的性質にも密接に結びついていることをしっかりと把握する。さらに、電子対反発理論から分子やイオンの構造を予言でき、この理論が原子価結合理論での混成軌道による化学結合の説明と相補性を持つことを理解し、いくつかの実例でそのことを検証する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【授業の進め方と方法】

授業は講義形式です。ブラディ・ジェスパーセン 一般化学（上）を教科書として使用します。毎回、授業が終わってから、自宅等で Hoppii のテスト課題を解いて提出します。テスト課題の送付までに授業日から数日かかることがあります。

テスト課題の提出後に、得点とコメントが Hoppii 上で自動フィードバックされます。テスト課題の正解は、後日、授業中または定期試験前に知ることができます。

オンデマンド配信の 6 月 8 日を除く 13 回は通常の対面授業です。希望すれば、講義録画を YouTube でのストリーム配信で視聴できます。主にパワーポイントを使って説明を聴き、式変形の詳細などは黒板書きで説明を受けます。パワーポイントの全内容を 4 スライド分 1 ページにまとめた資料が Hoppii に掲示されます。人数にもよりますが、ときどき質問を投げかけられ、答えや解答方針を口頭で説明するよう指示を受けます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	授業を始めるに当たり、測定と単位	1.4~1.6 節、アンケート、教科書の説明、13 回分の講義の紹介、SI 単位系、SI 接頭語、単位の変換
2	元素と周期表、分子と化学式、化学反応式	2.1~2.4 節、周期表に基づいて元素を分類する、化学反応式の両辺で原子を釣り合わせる
3	モルと物質質量、実験式と分子式、化学反応式の化学量論計算	3.1~3.7 節、モルと物質質量の概念、分子量、化合物の組成を決める、限定物質を見定める

4	原子模型と原子スペクトル	7.1~7.3 節、水素原子のスペクトルおよび光の波長と振動数、ボーアのモデルから遷移エネルギーを計算する
5	物質波、波動力学、量子数	7.4~7.5 節、物質波の考え方と電子の波動性を理解する、離散的な電子エネルギー、電子の軌道を量子数で識別する
6	原子中の軌道、原子の電子配置、周期表	7.6~7.8 節、電子スピンによって原子の磁性が生ずる、主殻と副殻に電子を詰めていく、周期表の周期と族、電子配置を予測する
7	電子の空間分布、化学結合、周期表と元素の特性	7.9~7.10 節、原子軌道の密度分布、原子核の正電荷が内殻電子によって遮蔽される、イオン化エネルギーと電子親和力の定義
8	化学結合の種類、ルイス記号（6 月 8 日は学会参加のためオンデマンド配信の予定）	8.1~8.4 節、イオン結合と共有結合、価電子をルイス記号で表す、オクテット則とは？
9	共有結合とルイス構造	8.5, 8.7 節、オクテット則に基づきルイス構造を描く、結合の性質と結合次数を関連付ける
10	極性分子、電気陰性度、共鳴	8.6, 8.8, 8.9 節、原子が共有結合電子を引き付ける力、双極子モーメントの定義、ルイス構造による共鳴構造を図解する
11	共有結合と分子の形、VSEPR 理論	9.1, 9.2 節、分子の形を分類分けする、電子群の数と取りうる分子構造との関連性、VSEPR 理論で分子やイオンの形を予言する
12	分子の極性、原子価結合法	9.3~9.5 節、分子の極性を予言する、化学結合は原子軌道同士の重なりで形成される、軌道準位図
13	混成軌道、多重結合、共鳴	9.6 節、混成軌道と VSEPR 理論、 σ 結合と π 結合を区別する、多重結合を説明する、分子内の各原子が利用する混成軌道を判別する
14	分子軌道論、全講義の振り返り	9.7 節、分子軌道論の概念を学ぶ、二原子分子の結合と軌道相互作用を説明する、後半の講義のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】Hoppii にアップロードされている教材の該当箇所を読んで予習・復習をして、さらに、授業後には課題テストに解答して提出する。

【テキスト（教科書）】

「ブラディ・ジェスパーセン 一般化学（上）」、小島憲道 監訳、東京化学同人、税抜 3200 円 できるだけ早めに購入してください。購入方法は専任の先生方の方針や指示に準じます。

【参考書】

「P. Atkins・J. Paula 物理化学（上）」、千原・中村訳、第 8 版、東京化学同人

【成績評価の方法と基準】

期末試験（40%）、授業後の課題テスト（40%）、授業中の質疑応答（20%）に基づいて成績を評価します。期末試験では電卓のみ持ち込み可能です。

【学生の意見等からの気づき】

2015 年度後期に上記内容の講義を行ったところ、「もっと前に習いたかった」という意見が出たので、「物理化学概論Ⅰ」と「同Ⅱ」でお互いの内容を交換することとした。続いて、2016、2017 年度は本質的な改善を求める意見は見当たらなかった。ブラディの教科書は概して好評であった。2018 年度の途中で、期末試験での主評価だけでは試験範囲が広すぎて平均点が極めて低くなる恐れがあると懸念し、急遽、中間試験を「持ち込みなし」に変え、期末試験と中間試験の二つで成績を等配分で評価することとした。2019 年度は特段の意見はなかった。2021 年度と 2022 年度は好評だった（高校で学習した化合物について様々な観点で知ることができた。暗記していた事柄の理屈を知ることができ、興味をもって受講できた、質問しやすい雰囲気だし教員も丁寧に答えてくれた、など）。課題テストのフィードバックでは、正解であっても復習用に解説を付けて欲しいとの意見があったので、2023 年度は全問は無理としても、適宜ピックアップして受講者の希望に答えたい。

【学生が準備すべき機器他】

Hoppii に登録し、メールでの「お知らせ」や新たな教材があった際には、それに対応してください。

【その他の重要事項】

授業に遅刻したり、授業中に中座したりしないでください。忘れずに電子出席登録を行ってください。

【Outline (in English)】

Students will receive education about the basic fields of chemistry. You can develop not only study skills required in university-level science courses but critical thinking skills enabling them to solve chemistry problems with incorporating their accumulated knowledge. Topics to be covered in this course are the periodic table, stoichiometry, introductory quantum theory, atomic structure, and the basics of chemical bonding.

Students will be expected to have completed the required assignment tests after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

Your overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end examination 40 %; Required assignment tests 40 %; In-class contribution 20 %. You can confirm your scores you have acquired so far in the corresponding course at Hoppii.

MAC200YB

物理化学概論 | |

見附 孝一郎

開講時期：秋学期授業/Fall

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部公開科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要（オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする）

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

平衡状態の熱力学は化学の根本理論の一つであり、19世紀末、その基本概念については現代の姿にまでおよそ達していた。アボガドロ数に近い個数の粒子の集団が演ずる自然現象を、たった8個の状態関数だけで定量的に記述できるということが、平衡熱力学の特質であり、学ぶ者にとっての醍醐味であるとも言える。この授業では、内部エネルギー、エンタルピー、エントロピー、ギブズ自由エネルギーといった状態関数およびエネルギーの移動形態である仕事と熱に焦点を当てて、それら諸量の本質の意味と実用性（有用性）を認識し、付随した練習問題を通して相転移や化学平衡現象への応用力を養う。

【到達目標】

(1) 熱力学の基本概念である系と外界を設定し、それらの間のエネルギー移動の形態を知る。(2) 熱力学第一法則と第二法則に慣れ親しみ、熱機関の発達や永久機関の不合理性と関連付ける。(3) 孤立系のエントロピー増加則と熱力学第二法則に関する数学的表現を、微分形・積分形の両方で使いこなせるよう習熟する。(4) 熱化学を様々な実例に応用できるよう、標準生成エンタルピー、絶対標準エントロピー、標準生成ギブズ自由エネルギーの運用手順を把握する。(5) 8つの状態関数とそれらの変化量に関わる数学的表現を学ぶ。(6) 化学反応や状態変化に関わる自然現象を追究するに当たり、ギブズ自由エネルギーの変化量を評価することの有用性を実感し、気相化学反応や相転移現象を例にして開放系の熱力学理論の初歩を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【授業の進め方と方法】

授業は講義形式です。毎回、授業が終わってから、自宅等で Hoppii のテスト課題を解いて提出します。テスト課題の送付までには授業日から数日かかることがあります。テスト課題の提出後に、得点とコメントが Hoppii 上で自動フィードバックされます。テスト課題の正解は、後日、授業中または定期試験前に知ることができます。14回とも通常の対面授業を予定しています。主にパワーポイントを使って説明を聞き、式変形の詳細などは黒板書きで説明を受けます。パワーポイントの全内容を、4スライド分1ページにまとめた資料が Hoppii 上に掲示されます。人数にもよりますが、ときどき質問を投げかけられ、答えや解答方針を口頭で説明するよう指示を受けます。希望すれば、YouTube のストリーム配信で講義ムービーを視聴できます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	授業の紹介、熱力学の歴史と必要性、その意義や恩恵	2回目以降の授業内容の紹介、熱力学を学ぶ理由、熱力学の系譜
2	熱力学の基本概念、系の種類と状態関数	系と外界、8つの状態関数、可逆過程と不可逆過程、相転移、等温変化、断熱変化
3	エネルギー保存則、熱力学第一法則	内部エネルギー、熱と仕事、体積の膨張と収縮、PV仕事の表現、状態関数の微小変化

4	化学反応とエンタルピー	標準生成エンタルピー、標準反応エンタルピー、定圧過程下のエンタルピー変化と熱、物性表の見方、熱測定、発熱と吸熱
5	温度とエントロピー、熱力学第二法則の分子論的説明	量子単位への粒子配分、ボルツマン分布、熱力学的宇宙のエントロピー増加、自由膨張
6	熱力学第二法則の基礎と応用	クラウジウスの記述、ケルビン卿の記述、循環過程と熱機関、熱容量の定義、定積熱容量と定圧熱容量
7	熱機関とカルノーサイクル	蒸気機関、ヒートポンプ、カルノーサイクルの4ステップ、断熱膨張
8	化学反応とエントロピー	化学反応のエントロピー変化と自発性、等温定圧過程でのギブズ自由エネルギー変化、熱力学の基本方程式
9	化学反応とギブズ自由エネルギー	自由エネルギーの圧力依存性と温度依存性（理想気体）、標準生成ギブズ自由エネルギー、PV仕事と有効仕事
10	化学反応に関する諸量、化学ポテンシャル	化学量論係数、反応進行度、反応エンタルピーと反応エントロピーと反応ギブズ自由エネルギー、化学ポテンシャル
11	化学平衡の法則（1）	反応の自発性、理想溶液の定義、モル分率と反応商、化学平衡の法則、平衡定数、混合によるエントロピー増加
12	化学平衡の法則（2）	気相化学反応、圧平衡定数と標準反応ギブズ自由エネルギー、ドルトンの法則、アンモニアの合成反応
13	相転移と化学ポテンシャル（1）	状態図、気液平衡線、クラペイロン・クラウジウスの法則
14	相転移と化学ポテンシャル（2）	1成分系の化学ポテンシャルの温度依存性、同じく圧力依存性、蒸気圧の計算

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】式変形や具体的計算に必要な高校生レベルの数学、とくに指数・対数関数と微分・積分を復習しておきます。前週のプリントの内容を授業前に見て、記憶を呼び覚ましておきます。

【テキスト（教科書）】

とくに指定しません。熱化学や化学平衡の最終式や事例に関しては、高等学校の「化学」の教科書に載っていることが多いので、高校時代の教科書や問題集を見返すことには意義があります。

【参考書】

「ブラディ・ジェスパーセン 一般化学（上・下）」、小島 監訳、東京化学同人

「P.Atkins・J.Paula 物理化学（上）」、千原・中村訳、第8版、東京化学同人

【成績評価の方法と基準】

期末試験（40%）、授業後の課題テスト（40%）、授業中の質疑応答（20%）に基づいて成績を評価します。期末試験では、電卓のみが持込み可能です。

【学生の意見等からの気づき】

2016年度には、「抽象的な法則の説明が多いのもっと実例をあげて欲しい」との意見が出された。試験答案をみると、繰り返し言及したことについても抜け落ちている学生が多いので、内容を少し平易にし、要点を集中的に学んでいただくのがよいと考えた。ここ数年は、そういった対策が実を結びつつあると感じている。

2017年度以降の3年間は特段のコメントはなかった。2021年度はハイフレックス授業になったが、総じて好評だった。コメント例は次の通り。

・内容は難しかったが、授業の録画が公開されているので、復習するときは何度も見直して勉強できてとても良かった。

・対面で授業を行っている数少ない講義の一つで、毎週水曜日がとても楽しみだった。

2022年度はアンケート回答数こそ少なかったが、授業は十分に双方向的であり、90分間を通して学生からの活発な質問や意見が多く投げかけられた。

【学生が準備すべき機器他】

Hoppiiに登録し、メールでの「お知らせ」や新たな教材があった際には、それらに対応してください。

【その他の重要事項】

忘れずに電子出席登録をしてください。関数電卓は必需品なので準備してください（期末試験時に必要です）。前期の物理化学概論Ⅰを履修していなくても問題ありません。

【Outline (in English)】

Equilibrium thermodynamics is the basic theory of chemistry, the fundamental concepts of which had reached their present form at the end of the 19th century. Any system containing the vast number of particles can be satisfactorily described by eight state functions alone. This aspect of thermodynamics has been fascinating many scientists for more than 150 years. A request will be made to pay particular attention to the state functions called internal energy, enthalpy, entropy, and free energies, as well as the energy transferred between the systems as heat and work. The main objective of this class is to acquire the knowledge of these quantities and learn the problem-solving skills on phase transitions and chemical equilibrium.

Students will be expected to have completed the required assignment tests after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

Your overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end examination 40 %; Required assignment tests 40 %; In-class contribution 20 %. You can confirm your scores you have acquired so far in the corresponding course at Hoppii.

BAM200YB

生理病理学

丸井 朱里

開講時期：秋学期授業/Fall

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部公開科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要（オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする）

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「生理学」とは、主に生体の機能や作用についての学問であり、さまざまな病理・病態を理解する上での基礎となる学問である。「生理学的」という言葉は、生体内での正常な過程を意味し、しばしば「病理学的」という言葉の対語として用いられる。本講義では、生理学の基礎的な内容について幅広く取り扱い、生理機能についての体系的な理解を目指す。また、生活習慣病などの、身近な疾病に関する病理・病態についても取り上げる。

【到達目標】

生理学の基礎的な内容について体系的に理解すること。また、生理機能の異常により生じるさまざまな疾患の病理・病態について理解できること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【授業の進め方と方法】

神経系、骨格系、循環・呼吸系、内分泌系などの生理機能について、基礎的な内容を解説する。それぞれの生理機能の異常により生じる疾患の病理・病態についても紹介していく。授業終盤に、講義の理解度を把握するために小テストもしくはミニレポートを各回実施する。また講義後には質問や感想を提出してもらい、学生の理解度を考慮しながら講義を進めていく。適宜、課題に対する講評や解説について全体にフィードバックをおこなう。なお、講師の学会出張等の関係で、一部の回をオンデマンド実施に変更する可能性があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	生理学、病理学の基礎	恒常性の維持
2	血液と体液	体液区分、血液細胞
3	循環系	心臓の循環調節
4	呼吸系	ガス交換と呼吸運動の調節
5	消化系	消化器の運動・吸収
6	神経系	神経系の基礎、自律神経系
7	脳	ヒトの脳、睡眠
8	尿の生成、排泄	腎機能、体液調節
9	代謝	基礎代謝、代謝測定
10	内分泌系	ホルモンの種類と作用
11	体温調節	熱収支、概日リズム、性周期
12	感覚系	視覚・聴覚などの感覚器
13	筋収縮	骨格筋、心筋、平滑筋
14	まとめ	これまでの講義内容の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】各講義の内容は互いに関連しているため、しっかりと復習を行い、各講義の内容を理解しておくこと。各回的小テストやミニレポートは成績評価に用いません。内容理解・復習に役立ててください。

【テキスト（教科書）】

特になし。講義内容に関連する資料を適宜配布する。

【参考書】

やさしい生理学 彼末一之・能勢博 編 南江堂
はじめの一步のイラスト病理学 深山正久 編 羊土社

【成績評価の方法と基準】

中間レポート（30%）、期末レポート（60%）、平常点（10%）の成績により評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】

講義内容の量やスピードに注意する。

【Outline (in English)】

Physiology is an academic discipline for understanding of function of organisms, is a basis for understanding of various pathologies. The term “physiological” means a normal body condition, and is often used as a term opposite to the term “pathological”. In this lecture, we deal with fundamental contents of physiology broadly and aim at systematic understand of physiological functions. We will also cover the pathology related to familiar diseases.

BLS300YB

細胞情報学

川岸 郁郎

開講時期：春学期

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要（オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする）

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

全ての細胞は、自らをとりまく環境や細胞内の環境変化を感知し、それに対して適切な応答を引き起こす「シグナル伝達」という能力を備えている。本講義では、細胞生物学 I, II, 生物化学 I, II, 分子生物学 I, II, 生物物理学 I, II, および細胞構造機能学 I, II, 蛋白質構造機能学 I, II, ゲノム構造機能学 I, II で学んだ内容を踏まえ、真核細胞・原核細胞における細胞外刺激受容と細胞内シグナル伝達の分子機構およびその研究方法について、具体例（とくに感覚応答系）とともに学ぶ。

【到達目標】

細胞内シグナル伝達の基礎的概念および基本的な研究方法について理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【授業の進め方と方法】

あらゆる細胞は細胞外からのシグナルを受け取りそれに応答する。その仕組みを理解することは、生命機能の研究に必須である。本講義では、シグナル伝達の原理について概説し、真核細胞および原核細胞におけるシグナル伝達の分子機構について解説する。とくに感覚応答系については詳述する。

講義は対面で行う予定であるが、状況によってはオンライン（Zoomリアルタイム）、または対面とオンラインの併用となる可能性もある。いずれの授業方法にするかについては、授業支援システムにて提示する。いずれの場合でも、スライドと板書（オンラインではスライドへの書き込み）を用いて進める。各回終了後にリアクションペーパーの提出を求め、適宜フィードバックを行うことで、双方向性を確保する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	導入	受容体と細胞内シグナル伝達系
第2回	受容体-序論	受容体の分類と構造・機能
第3回	受容体-1	イオンチャネル共役型受容体
第4回	受容体-2	Gタンパク質共役型受容体
第5回	受容体-3	酵素共役型受容体
第6回	中間テスト-1	ここまでの講義内容に関するテスト
第7回	受容体下流の経路-1	二次メッセンジャー
第8回	受容体下流の経路-2	蛋白質キナーゼカスケード
第9回	受容体下流の経路-3	アダプター、足場タンパク質など
第10回	中間テスト-2	ここまでの講義内容に関するテスト
第11回	真核細胞の感覚応答系-1	視覚
第12回	真核細胞の感覚応答系-2	嗅覚・味覚
第13回	真核細胞の感覚応答系-3	その他の感覚
第14回	原核細胞の環境応答系	二成分制御系等

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】授業中に指示する内容について、参考書や原著論文等で復習し、理解を深める。

【テキスト（教科書）】

とくになし。

【参考書】

エッセンシャル 細胞生物学 原書第2版 B. Alberts 他著 南江堂

ストライヤー 生化学 第7版 東京化学同人

その他、授業内で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

＜評価方法＞中間テスト（20%）・期末テスト（70%）の成績を総合し、平常点（10%）を加味して評価する。

＜評価基準＞細胞内シグナル伝達機構の基本概念を理解しているか。その知識を具体的な事例の解釈に適用できるか。

【学生の意見等からの気づき】

スライドと板書のバランスに留意する。適宜資料を配付する。ノートを取る時間に配慮する。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを利用する。

【その他の重要事項】

随時小テストを行い、理解度をモニタする。また、講義内容に関する質問・感想・要望を随時受け付けるとともに、教員からも質問を投げかけるなどして双方向的な授業を目指す。授業の進め方は、理解度等をもとに調整する。

【Outline (in English)】

Signal transduction in a cell or between cells is essential for any biological phenomena. The aim of this lecture is to learn general mechanisms underlying cellular signal transduction, with considerable emphasis on animal and bacterial environmental sensory systems, and approaches to study them, based on the knowledge gained from the lectures, Cell Biology I, II, Biological Chemistry I, II, Molecular Biology I, II, Biophysics I, II as well as Cell Structure and Function I, II, Protein Structure and Function I, II, and Genome Structure and Function I, II.

BLS300YB

神経科学

高田 耕司

開講時期：秋学期授業/Fall

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部公開科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要（オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする）

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ヒトを含む動物の中枢・末梢の神経系は、個体と外界をつなぐ情報処理システムです。神経系によって、環境の変化を感知し、生理機能が調節されます。生命維持の機構や種を存続させるための行動も神経系の働きによるものであり、記憶・学習・情動・意思決定等の認知・精神機能も神経系によって営まれます。この授業では、まず、神経系の「組織学的成り立ち」と「生理学的機能」および神経細胞が有する「情報伝達の機構」について解説します。次にこれらの基礎知識にもとづき、記憶のメカニズム、危険薬物の作用、神経変性疾患、精神疾患等の成り立ちを学び、生物学と医学の両面から、神経系が司る身体および精神の活動への理解を深めていきます。

【到達目標】

- 1：脳・神経系の全体像が説明できる。
- 2：神経系の細胞群の特徴と機能が説明できる。
- 3：神経の伝導と膜電位の関係を説明できる。
- 4：シナプスにおける神経伝達の分子機序が説明できる。
- 5：神経伝達物質とその受容体の種類と特性について説明できる。
- 6：神経系への危険薬物の作用と精神疾患との関連について説明できる。
- 7：記憶や学習のなりたちや機序について説明できる。
- 8：うつ病、双極性障害、神経変性疾患と神経系の関係について説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【授業の進め方と方法】

特別な指示が無い限り、授業は登校で行います。授業は開始時に配付する資料に沿って進め、パワーポイントと板書で解説します。配布資料は、随時、学習支援システムにアップロードし、やむを得ず欠席した履修者への便宜をはかります。授業の最後の10分間はリアクションペーパーの時間に充て、予告した課題の回答と質問や要望を記述することで能動的な学習を進めます。また、その際、グループディスカッションによるブラッシュアップの機会を設けます。寄せられた質問には次週必ず答え、要望にも可能な限り応えます。提出された課題は取り組み方を評価・確認後、期末試験の前に返却し、要望に応じて課題の解説等のフィードバックを行います。オンデマンド型の遠隔授業を行う場合は、定期的に配信するパワーポイント動画と資料を使って学習を進めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	神経系1	中枢神経系の構成と構造
2	神経系2	末梢神経系の構成と構造
3	神経系の細胞群	神経細胞とグリア細胞
4	生体膜の役割1	伝導・伝達と静止電位の形成機序
5	生体膜の役割2	等価回路による膜電位の表現
6	生体膜の役割3	活動電位による興奮の伝導
7	シナプス伝達1	シナプス伝達概論：神経伝達物質
8	シナプス伝達2	イオンチャンネル型受容体による伝達
9	シナプス伝達3	代謝調節型受容体による伝達
10	シナプス伝達4	報酬回路-危険薬物と精神疾患
11	脳の高次機能1	学習と記憶のなりたち
12	脳の高次機能2	学習と記憶のメカニズム
13	脳の高次機能3	気分障害と不安障害
14	脳の高次機能4	神経変性疾患とプロテオスタシス

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とします。授業時には次週に向けた予習および復習用の課題を発表します。受講者は自習によって解答を用意し、次回授業時のリアクションペーパーに記述して提出します。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しません。参考書欄を参照ください。

【参考書】

授業で使う配付資料の大半の図表は下記の書籍から引用します。同書は図書館に蔵書されており、予習・復習に役立ちます。
カンデル神経科学 Sixth Edition 日本語版 第2版 宮下監修（メディカル・サイエンス・インターナショナル社）

【成績評価の方法と基準】

到達目標への達成度（授業内容の理解度）は筆記による期末試験で、学習意欲は授業時の態度（平常点）と提出された課題の内容で評価します。成績は、定期試験 70%、平常点・課題 30% で算出します。

【学生の意見等からの気づき】

授業改善アンケートでは、6名の受講生（約2割）から、「質問への回答の仕方」や「最新の事例などの話題」について概ね良好な意見を受け取りました。より多くの受講生の期待に沿えるよう、授業内容と資料・スライドの更新と洗練に努めます。

【学生が準備すべき機器他】

登校授業ではノート、筆記具に加え、毎回の資料を整理・保持するA4判のホルダーが必要です。オンデマンド授業の場合は、学習支援システムとGoogle driveを利用するため、インターネット環境と資料印刷用のプリンターが必要です。

【Outline (in English)】

Central and peripheral nervous systems are the information processors to connect an individual animal with outside world. Animals sense environmental changes and regulate their physiological functions by the nervous systems, resulting that animals survive for prosperity of the species. Cognitive functions such as memory and learning, as well as mental activity, are driven by the central nervous system of human. The aim of the course "Neuroscience" is to help students acquire an understanding of the fundamental structure and function of the nervous system including the molecular mechanism of neuronal signal transduction. After the students have studied these basic themes, this course deals with several scientific topics including neuronal actions of dangerous drugs, mechanisms of memory, and pathogenesis of neurodegenerative and mental diseases.

BAM300YB

分子免疫学

金山 剛士

開講時期：秋学期授業/Fall

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部公開科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要（オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする）

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

自然免疫と獲得免疫について概要を学び、免疫系全体の仕組みと個別の分子機構を理解する。また、免疫細胞の種類とその役割、分化経路を学ぶ。免疫に関連する疾患の発症メカニズムと免疫系を標的とした治療法について学ぶと同時に、フローサイトメトリーやオミックス解析といった免疫研究の技術原理を基礎から最新のものまで幅広く学ぶことで、免疫学・血液学・医学における一般的な素養を身につけることを本授業の目的とする。

【到達目標】

基本的な免疫系の機構と、個別の免疫細胞の役割や分化機構についておおまかに理解する。様々な疾患やその治療法における免疫の関わり、あるいは免疫系を解析するための技術原理について学ぶことで、免疫学や医学における基礎的な素養を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【授業の進め方と方法】

主にパワーポイントで作成された資料および配布資料にて内容を説明する。授業中に行う10～20分程度の小テスト、あるいはA4用紙1枚程度のレポートを出題することで授業の理解を深める。中間試験及び、最後の授業で期末試験を行い、下記基準に沿って成績評価を行う。中間・期末試験：40%、小テスト/レポート：40%、出席・授業態度・発現内容など：20%。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	免疫学概説	免疫系の概要と免疫学の歴史
2	免疫系と造血系	獲得免疫と自然免疫の違い、免疫細胞の産生機構
3	自然免疫（1）	単球、マクロファージ、顆粒球
4	自然免疫（2）	NK細胞、自然リンパ球
5	自然免疫（3）	樹状細胞
6	中間試験	中間試験
7	獲得免疫（1）	T細胞、NKT細胞
8	獲得免疫（2）	B細胞、形質細胞
9	免疫関連疾患とその治療（1）	感染症とワクチン
10	免疫関連疾患とその治療（2）	炎症と生物製剤、アレルギーと抗アレルギー薬
11	免疫関連疾患とその治療（3）	癌・免疫不全と骨髄移植、癌とCAR-T細胞療法・免疫チェックポイント阻害薬
12	免疫学の基本的な研究手法（1）	文献検索、遺伝子改変マウス、動物モデル、抗体作製など
13	免疫学の基本的な研究手法（2）	フローサイトメトリー、オミックス解析技術など
14	期末試験	期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業に必要な準備・復習のための授業時間外学習は4時間程度を基本とする。A4用紙1枚程度で表現可能なレポート、あるいは前回授業内容に関する小テストを授業中に課す。作成するレポートは文献検索や、個人のアイデア創出が求められる内容となる。レポートは原則、出題された2週後の授業終了時までに提出。小テストやレポートの評価を通じて理解度の確認を行う。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

免疫ペディア（羊土社）他、授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

理解度、表現力、発想力を重視し、レポート・小テスト（約40%）、中間・期末試験（約40%）、出席および授業中の発言・質問などの授業への貢献（20%）にて評価する。

【学生の意見等からの気づき】

授業スライドのハンドアウトの配布と、授業の要点を記したまとめページは好評でしたので継続します。また、質問や要望を常に募集し、授業へフィードバックしたところ、理解が容易になったなどの好意的な意見を多く頂きました（要望・質問は「授業への貢献」として成績に反映させました）。中間・期末テストや小テストは採点后に返却することで、学生の理解と意欲に繋がると感じました。

【学生が準備すべき機器他】

PC、スマートフォン等、Web検索及びオンライン時授業時に必要なデバイス。

【その他の重要事項】

期末テストはメールで返却します。

【Outline (in English)】

【Course outline】

This course aims to foster the fundamental knowledge of immunology. You will learn the molecular mechanisms of innate and adaptive immunity and the role and differentiation pathway of immune cells. You will also learn the pathogenesis of immune-related disorders, the mechanisms of therapies targeting immune system and basic principles of techniques for researches in immunology and medical science.

【Learning objectives】

The goals of this course are to learn history of immunology and to understand the molecular and cellular mechanisms of immune system and the relationship of immune system in diseases and therapies.

【Learning activities outside of classroom】

After each class meeting, students will be expected to spend 4 hours to understand the course content.

【Grading criteria/policies】

Your overall grade in the class will be decided as follows.

Term end examination: 40%, Short test or reports: 40%, in class contribution: 20%

BLS300YB

バイオイメージング

荒田 幸信, 梅木 伸久, 岡本 憲二, 山本 明弘

開講時期：春学期授業/Spring

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要（オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする）

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

小さな生物試料を見る顕微鏡技術は古い歴史を持ちつつ発展し、様々な展開を見せています。生物顕微鏡技術の基礎から最先端まで、原理と応用例を紹介いたします。

【到達目標】

生物学の広い分野において必須の研究機器となっている光学顕微鏡の原理と、最新の発展・応用例を学ぶことによって、自身の研究で顕微鏡を使うとき、あるいは顕微鏡を使った先端研究論文を読むときに、正しい判断ができるようになることを目指します。生物試料を見ることに、どんな意義と技術的な限界があるのか、“Seeing is believing.”を越えた理解を身につけてください。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【授業の進め方と方法】

講義

期末試験の他に、中間レポートを課します。レポート問題や講義に関する質問はメールで受け付けます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	はじめに	講義の概要と目的について、光学顕微鏡技術の歴史など。
第 2 回	光学顕微鏡概説 1	位相差顕微鏡、微分干渉顕微鏡、蛍光顕微鏡など基本的な光学顕微鏡技術の解説。
第 3 回	光学顕微鏡概説 2	各種レーザー顕微鏡など、あたらしい顕微鏡技術の概説。
第 4 回	超解像顕微鏡 1	顕微鏡の分解能はどのように決まるか。普通の顕微鏡では達成できない高分解能を達成する技術の紹介。
第 5 回	超解像顕微鏡 2 光ピンセット	超解像顕微鏡の続き。光を使って顕微鏡下で粒子を操る方法について。
第 6 回	分子薬理学とイメージング	多くの薬は細胞膜上の受容体に作用することで機能する。本講義では、Gタンパク質共役型受容体を例に、薬の作用メカニズムについて概説し、イメージングを用いた最近の研究について解説する。
第 7 回	膜受容体の動態・機能解析	1分子計測法によって、細胞膜蛋白質の反応や構造のダイナミクスを追跡する方法。
第 8 回	フォトンカウンティング計測 I	フォトンカウンティング検出器を用いたイメージングと計測法（FCS、FLIM等）について
第 9 回	フォトンカウンティング計測 II	フォトンカウンティング計測で蛋白質の構造ダイナミクスを計測する方法
第 10 回	発生生物学におけるバイオイメージング I	動物の身体は、頭—尾、背—腹、左—右の軸に非対称な構造を持っている。この非対称性がどのように形成・維持されるのか、分子、細胞、胚のスケールで概観する。
第 11 回	発生生物学におけるバイオイメージング II	バイオイメージングが、どのように古典的実験手法を補い発生現象の理解に貢献してきたか、特に近年発展がめざましい発生動態の定量計測を基礎とした研究を概観し、新しい研究分野の発展の方向性を探る
第 12 回	蛋白質分子モーターのバイオイメージング I	アクチンミオシン系を中心に、タンパク質分子モーターの分子の特性と機能を概説し、動作原理解明研究の為に1分子イメージング技術について紹介する。
第 13 回	蛋白質分子モーターのバイオイメージング II	タンパク質分子モーター1に引き続き、動作原理解明研究に関する1分子イメージング技術を紹介する。
第 14 回	蛋白質分子モーターのバイオイメージング III	分子モーターの産業利用への試みについて紹介する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】もしも、自分の研究課題で、顕微鏡を使ったらと想像し、講義に望んでください。概説部分については中間レポートを課します。また、授業中に参考文献を提示することがありますので、読んで理解してください。

【テキスト（教科書）】

使用しません。

【参考書】

【参考書】

1. 限界を超える生物顕微鏡（見えないものを見る）宝谷敏一・木下一彦編 日本分光学会・学会出版センター
2. 改訂顕微鏡の使い方ノート 野島博編 羊土社
3. 光と色の 100 不思議 左巻健男監修 桑島幹・川口幸人編著 東京書籍
4. 新・生細胞蛍光イメージング 原口徳子・木村宏・平岡泰福 共立出版

【成績評価の方法と基準】

中間レポート (20%)、期末テスト (80%) の合計で判定します。

【学生の意見等からの気づき】

現場の若手研究者との双方向なやりとりを通じて、バイオイメージングの実際を学んでもらいます。

【学生が準備すべき機器他】

ありません。

【その他の重要事項】

分子生物学、細胞生物学、生化学などの基本知識、また、高校生レベルの光学・数学の知識を前提にしています。

【Outline (in English)】

The technology of optical microscopy to see small biological things has developed with an old history, and is continuously developing with various innovative ideas. We will introduce principles and application examples of biological optical microscopies from the fundamentals to the cutting edge.

BLS100YB

生物化学 I I

西川正俊

開講時期：秋学期授業/Fall

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要（オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする）

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

生命現象の根幹をなす代謝の生物化学的理解を通じて、複雑な生命科学の専門的な内容を理解するための基礎知識を習得する。

【到達目標】

主な生体構成物質の構造と機能を学び、それらを基盤として細胞・個体レベルの生命現象が成り立つしくみを化学の視点から理解する。生物化学 II では多種の酵素による反応過程が集積して実現される代謝経路について、制御機構と反応様式を理解することを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【授業の進め方と方法】

板書を基本とする。講義に必要な図等についてはプロジェクターを用いる。用いたファイルは授業支援システムにアップロードし、履修者が閲覧できるようにする。講義後に出た質問やコメントからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	導入	生物化学における基本概念の確認
2	基本概念 1	代謝経路の反応が示す不可逆性と自発性について
3	基本概念 2	代謝経路に現れる反応モチーフについて
4	生体のエネルギー変換機構	酸化的リン酸化とエネルギー変換
5	糖代謝 1	解糖系について
6	糖代謝 2	糖新生について
7	糖代謝 3	解糖系と糖新生の制御機構について
8	TCA サイクル	TCA サイクルで生じる反応の不可逆性とその制御
9	まとめと演習	好気呼吸の制御と収支について
10	脂質代謝 1	脂肪酸分解
11	脂質代謝 2	脂質の合成
12	代謝制御	代謝経路のホルモン制御
13	光合成 1	明反応
14	光合成 2	暗反応

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】ノートや参考書を用いた復習をすること。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

ストライヤー生化学, J. M. Berg 他

レーニンジャーの新生化学, David L. Nelson 他

【成績評価の方法と基準】

成績評価法：期末テスト：60%，レポートや中間テスト：40%

評価基準：細胞内で起こっている糖、脂質の代謝反応がどのように起こっているかの理解度

【学生の意見等からの気づき】

できるだけ学生の質問を引き出せるような授業にする。

【その他の重要事項】

実務経験：理化学研究所 発生・再生総合科学研究センター 研究員。この経験を通じて得た最先端の生化学的知見について紹介する。

【Outline (in English)】

This course is an introduction to biochemistry of metabolism, with the aim of understanding how a cell establishes its living states through chemical reactions mediated by enzymes.

BLS100YB

生物物理学 I

西川正俊

開講時期：春学期授業/Spring

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部公開科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要（オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする）

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は生命システムの研究において必要となる物理の基礎を学ぶ。前半で力学について基本から解説し、巨視的なスケールのバイオメカニクスについて学ぶ。後半ではニューロンの生物物理学について解説し、活動電位発生の物理を理解する。

【到達目標】

この授業では、さまざまな生命現象を物理学的な視点から理解するために必要な力学を基本から学ぶ。細胞内における分子の動きやエネルギー共役を定量的に議論する基盤を身につけることを到達目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【授業の進め方と方法】

板書を基本とする。講義に必要な図等についてはプロジェクターを用いる。用いたファイルは授業支援システムにアップロードし、履修者が閲覧できるようにする。講義後に出た質問やコメントからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	序論	生物物理学とは何か？ について解説する。
第 2 回	運動について	分子・細胞・個体のスケールで見る運動の違いについて解説する。
第 3 回	力学 1	単位系について解説する。
第 4 回	力学 2	運動について解説する。
第 5 回	力学 3	力と運動方程式について解説する。
第 6 回	力学 4	運動量とエネルギーの保存法則について解説する。
第 7 回	力学 5	過減衰系の運動について解説する。
第 8 回	まとめと演習 1	バイオメカニクスについてのまとめと演習テストをおこなう。
第 9 回	力学 6	粘性流体の流れについて解説する。
第 10 回	力学 7	レイノルズ数による流れの特徴づけについて解説する。
第 11 回	ニューロンの生物物理 1	膜電位について解説する。
第 12 回	ニューロンの生物物理 2	イオンチャネルの物理について解説する。
第 13 回	ニューロンの生物物理 3	活動電位について解説する。
第 14 回	まとめと演習 2	ニューロンの生物物理学についてのまとめと演習テストをおこなう。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】生物現象に見られる力学についての演習問題を講義の中で取り扱う。ただし、時間の制約上、計算過程を省かざるを得ないので、各自で確認をおこなう。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

ゼロからの力学 I, II, 岩波書店,
Essential 細胞生物学 原書第 2 版, 南江堂

【成績評価の方法と基準】

レポートや中間テスト (40%) と期末試験 (60%) の結果を元に総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

演習問題を通じて具体的な理解をめざす。

【その他の重要事項】

実務経験: 理化学研究所 発生・再生総合科学研究センター 研究員。この経験を通じて得た最先端の生化学的知見について紹介する。

【Outline (in English)】

This course is an introduction to the physics of biological systems. We will establish an understanding of the basic concepts of mechanics at macroscopic scale and then will build the understanding of underlying physics of action potential.

BLS100YB

生物物理学 | |

曾和義幸

開講時期：秋学期授業/Fall

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要（オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする）

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

生物物理学は、物理学的な考え方や手法を用いて生命現象を理解しようとする学問である。講義の前半では、生体分子（主にタンパク質）の立体構造形成や、タンパク質のエネルギー変換機構について概説する。後半では、生体内で起こる数多くの化学反応についてエネルギー共役を中心とした物理学的な視点で理解するために、生体エネルギー論を基本から解説する。また、基本的な考え方や手法を解説するとともに、最先端の技術についてもトピックスとして紹介する。

【到達目標】

この授業では、タンパク質の立体構造形成やエネルギー共役について知識を深めること、生体エネルギー論の基本を学び、生体内における化学反応について物理学的な視点から理解することを到達目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【授業の進め方と方法】

講義の前半では、生体分子（主にタンパク質）の立体構造形成について概説し、生体内で起こるエネルギー変換の例を紹介する。後半では、生体内で起こる数多くの化学反応についてエネルギー共役を中心とした物理学的な視点で理解するために、生体熱力学を基本から解説する。基本的な考え方や手法を解説するとともに、最先端の技術についてもトピックスとして紹介する。講義内では授業内またはレポートとして演習をおこなうが、提出後に解説をおこなってフィードバックをおこなう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	講義の概要	講義の進め方を説明する。生体内の化学反応について概説する。
2	タンパク質の構造 1	アミノ酸の性質とタンパク質構造の階層性について復習する。
3	タンパク質の構造 2	タンパク質の構造についての基礎について復習する。
4	タンパク質の構造 3	タンパク質の構造解析について概説する。
5	生体熱力学の基礎 1	熱力学の法則について概説する。
6	生体熱力学の基礎 2	熱力学第一法則を概説する。
7	まとめと演習 1	タンパク質と生体熱力学の基礎のまとめと演習テストをおこなう。
8	生体熱力学の基礎 3	熱力学第二法則を概説する。
9	生体熱力学の基礎 4	ギブスの自由エネルギーについて概説する。
10	生体熱力学の基礎 5	化学ポテンシャルについて概説する。
11	生体熱力学の基礎 6	反応ギブズエネルギーについて概説する。
12	細胞内の代謝	細胞内の代謝について熱力学の観点から概説する。
13	細胞のエネルギー通貨	ATP の構造と加水分解エネルギーとほかの過程のエネルギー共役について解説する。
14	まとめと演習 2	生体熱力学のまとめと演習テストをおこなう。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】生体エネルギーについての演習問題を講義の中で取り扱う。ただし、時間の制約上、計算過程を省かざるを得ないので、各自で確認をおこなう。

【テキスト（教科書）】

特定の教科書は指定しない。講義では、視覚的教材やプリントを使用する。

【参考書】

Essential 細胞生物学 第 2 版, 南江堂

細胞の分子生物学 第 5 版, ニュートンプレス

物理化学や化学熱力学の一般的な参考書

【成績評価の方法と基準】

中間試験 (50%)・期末試験 (50%) の合計点数によって評価する。ただし、オンライン授業になった場合は、適宜課す予定のレポート・演習で評価する (100%)。

【学生の意見等からの気づき】

マイクの音が小さいことがあったとのコメントがあったので注意する。

【学生が準備すべき機器他】

貸与 PC を利用することがある。

【Outline (in English)】

The course deals with the basis of biophysics, with fundamental thermodynamics in biology.

BLS100YB

細胞生物学 I

金子 智行

開講時期：春学期授業/Spring

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部公開科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要（オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする）

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

遺伝情報の収納庫としての「核」を中心とした細胞の構造と機能について学ぶ。

【到達目標】

生物の基礎単位である細胞の物質的基盤・分子構成と、細胞としての反応性や細胞単位の生命機能を論理的に理解し、その基盤である生命機能が発現する過程を統合的に理解すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【授業の進め方と方法】

生命体の最小基本単位である細胞を構成する小器官の構造と機能や生体反応の仕組みを学ぶことによって、生命機能発現の仕組みと制御機構の基礎を理解することを目指す。授業中に適宜課題を与えレポート提出を求め、2回の中間試験で理解到達度を測り、理解度を鑑みながら授業を進める。大学の行動方針レベルに応じてオンライン（Zoom）でも開講し、具体的な方法については学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	核の構造と機能	核の基本構造と特徴
2	細胞の進化	原始地球における生命の誕生から多細胞生物への進化の過程
3	原核生物と真核生物	原核生物と真核生物の違い
4	真核生物の染色体	染色体の構造と機能
5	ミトコンドリア・葉緑体のDNA	細胞内小器官に独自に存在する遺伝情報
6	核輸送、小胞輸送	核膜を通じた核輸送やゴルジ・小胞体による輸送
7	中間試験-1	ここまでの理解到達度確認と試験の解説および補足
8	細胞表層や核内の受容体	細胞表層や核内にある受容体の構造や機能
9	細胞分裂や生殖と減数分裂	有糸分裂の機構や減数分裂の意義や仕組み
10	細胞周期	細胞周期の分類や制御機構
11	細胞間コミュニケーション	間接的、直接的な細胞間コミュニケーションの方法
12	細胞から個体へ	多細胞生物の成り立ちと細胞集合と識別
13	中間試験-2	中間試験-1以降の理解到達度確認と試験の解説および補足
14	まとめと解説	全体の理解度確認と解説および補足

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】

1. 予習と復習
2. 授業中適宜与えられた課題についてのレポート作成

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

石崎・丸山 監訳・翻訳 「アメリカ版 大学生物学の教科書 第1巻 細胞生物学」 講談社
エッセンシャル 細胞生物学 原書第5版 B. Alberts 他著 南江堂
他は授業中に適宜紹介する

【成績評価の方法と基準】

＜評価方法＞期末試験 50 % ・ 中間試験 (1 と 2) 20 % ・ レポート課題 15 % ・ 平常点 15 % の成績を総合して評価する。

【学生の意見等からの気づき】

PowerPoint 図の印刷体配布要望があったが、授業中に紹介した参考書を紐解けば見つかる図表が大部分であるので、自主的学習能力を充進させる為には望ましくないと判断しました。

【学生が準備すべき機器他】

レポート課題提出には学習支援システムを使用する。

【その他の重要事項】

授業内での質問を随時受け付ける。
財団法人の研究員の経験を活かし、先端研究の紹介等を含めて授業を行う。

【Outline (in English)】

This course deals with the structure and function of the cell mainly on "the nucleus" as the storage of the genetic information.

The goals of this course are to understand the process of expression of biological functions.

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

Final grade will be calculated according to the following process
Term-end examination (50%), mid-term report (20%), short reports (15%), and in class contribution (15%).

BLS100YD

細胞生物学 I

小見 美央

開講時期：春学期授業/Spring

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部公開科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要（オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする）

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

細胞とは何か、生命とは何か、全ての生物に共通しているものは何なのか。細胞の構造、細胞内小器官の機能、生体膜と膜タンパク質といった基本事項を学び、現在世界に大きなインパクトを与えている、ウイルスと人類の戦いを細胞生物学の視点から理解する。

【到達目標】

細胞の構成を学び、生命が機能する仕組み、生命体とウイルスとの違いを統合的に理解する。本講義では主に動物細胞を扱う。私たちに最も身近な生物であるヒトを例にとり、ウイルスが体内で増殖する機構や体の防御機構について細胞生物学の視点から理解を深めていく。

また、科学の世界では最新の研究成果はほぼ全て英語で公開されるため、科学を正しく理解するためには英語で書かれた情報源を進んで探索し理解する力が不可欠であることから、講義内および宿題で英語のリソースを読む機会を設ける。

学生がインプットした知識を問題解決に向けてアウトプットすること、ひいては問題解決のために必要な知識を自力で見極め、探索し、アウトプットできるようにすることを到達目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【授業の進め方と方法】

講義を中心に行う。適宜、参考資料として動画や外部ウェブサイトを紹介しながら講義を進める。プレゼン作成課題を3つ課す予定（履修生数によって一つは他の課題に変更する可能性もある）。プレゼンは教員だけでなく学生同士でも共有し、フィードバックしあう。毎回の講義の後にレスポンスペーパーを提出してもらい、翌週フィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	なぜ生物学を学ぶのか プレゼン課題のテーマ 生物とは何か 細胞発見の歴史
第2回	細胞小器官	各オルガネラの機能 細胞内共生説
第3回	細胞膜	両親媒性
第4回	エネルギー産生に関わるオルガネラ1	解糖系 クエン酸回路
第5回	エネルギー産生に関わるオルガネラ2	酸化的リン酸化 糖新生
第6回	学生発表1	課題1の発表
第7回	細胞骨格 メンブレントラフィック	細胞骨格の種類 細胞間接着 モータータンパク質と積み荷
第8回	細胞周期	体細胞分裂 減数分裂
第9回	細胞間シグナル伝達	神経 初期発生
第10回	細胞内シグナル伝達	イオンチャネル Gタンパク質
第11回	学生発表2	課題2の発表
第12回	獲得免疫	細胞性免疫と液性免疫
第13回	自然免疫	自己と非自己の識別 拒絶反応
第14回	まとめ	総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】

授業の最後に1問クイズを出すので、次回授業までにオンラインテキストの中から答えを探してきてもらう。また、授業で用いたスライドおよび授業内で紹介する参考動画、オンライン授業の場合は講義の動画を Hoppii にアップロードするので適宜必要に応じて利用する。さらに、セメスターを通してプレゼン作成のため様々なリソースを使い調査することが求められる。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しないが、宿題をやる際 Cell Biology by the Numbers を読むことが必須となる。ただしこのテキストは全文オンラインで無料公開されているので購入する必要はない（参考書の項を参照）。

【参考書】

1) ブルーバックス カラー図解 新・大学生物学の教科書 第1～3巻（「Life: The Science of Biology Twelfth Edition」の抜粋和訳版）

2) 理系総合のための生命科学第4版 東京大学生命科学教科書編集委員会／編

Essential 細胞生物学 原書第3版 Bruce Alberts

3) Cell Biology by the Numbers (<http://book.bionumbers.org/>)

（宿題用。ハードカバーを購入することも可能だが、上記ウェブサイトにて全文無料（英語）で公開されており、PDF が無料でダウンロード可能。授業では日本語で解説する。）

【成績評価の方法と基準】

プレゼン課題（20%×2 + 最終 30%）、平常点 30%。平常点にはレスポンスペーパーの提出状況、宿題の提出状況、復習クイズの結果が含まれる。

履修学生数に応じて、プレゼン課題のうち1つを別形態の課題に変更する可能性あり。

【学生の意見等からの気づき】

授業後に配布するスライド資料について解像度が低く見づらい場合があったようなので改善します。

【学生が準備すべき機器他】

対面授業においてもスマートフォンとパソコンまたはタブレット端末があると便利ですが、必須ではありません。資料配布や課題提出には Hoppii を使用します。

【その他の重要事項】

全14回の講義は基本的には対面授業とする予定ですが、オンラインのほうが良い場合は履修生と相談しながら決定することとします。

【Outline (in English)】

This course provides a firm foundation in basic cellular biology with an emphasis on eukaryotic cell structures. Topics include organelles, membranes, membrane proteins, and cytoskeletons. Upon completing this course, students will be able to diagram the structure of eukaryotic cells, describe structures and functions of organelles, understand concepts such as signal transduction, intracellular transport, and function of the cytoskeleton. We will also discuss the arms race between viruses and us, and in the end, students will be able to comprehend the current situation of COVID-19 pandemic from cellular biology-point of view.

BLS100YB

細胞生物学 | |

川岸 郁朗

開講時期：秋学期授業/Fall

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部公開科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要（オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする）

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

生物の基本単位である細胞の構造を理解する。とくに、生体膜と細胞骨格の構造と性質およびそれらが関与する細胞機能について理解する。

【到達目標】

生物の基礎単位である細胞の物質的基盤・分子構成、および細胞としての反応性や細胞単位の生命機能を論理的に理解し、その基盤である生命機能が発現する過程を統合的に理解すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【授業の進め方と方法】

細胞は生物の基本単位であり、その構造と機能を理解することは、生命機能の研究に必須である。本講義では、おもに真核生物の細胞の構造について、とくに生体膜と細胞骨格に重点を置いて概説する。さらに、生体膜と細胞骨格が関与する代表的な細胞機能として、細胞のシグナル伝達や細胞運動のメカニズムについて概説する。

講義は対面で行う予定であるが、状況によってはオンライン（Zoomリアルタイム）、または対面とオンラインの併用となる可能性もある。いずれの授業方法にするかについては、授業支援システムにて提示する。いずれの場合でも、スライドと板書（オンラインではスライドへの書き込み）を用いて進める。各回終了後にリアクションペーパーの提出を求め、適宜フィードバックを行うことで、双方向性を確保する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	はじめに	生命の階層性、細胞とは（大きさ、形）、細胞小器官の構造、細胞内区画化の意義
第2回	生体膜-1	脂質二重層
第3回	生体膜-2	脂質二重層の流動性
第4回	生体膜-3	膜蛋白質
第5回	これまでの復習-1	中間テスト
第6回	膜輸送-1	生体膜の透過性
第7回	膜輸送-2	受動輸送、イオンチャネル
第8回	膜輸送-3	能動輸送
第9回	細胞のシグナル伝達-1	受容体
第10回	細胞のシグナル伝達-2	細胞内シグナル伝達因子
第11回	これまでの復習-2	中間テスト
第12回	細胞骨格-1	微小管
第13回	細胞骨格-2	ミクロフィラメント、中間径フィラメント
第14回	細胞骨格-3	細胞骨格の動態、モータータンパク質

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】
授業中に指示する内容について、参考書や原著論文等で復習し、理解を深める。

【テキスト（教科書）】

とくになし。

【参考書】

Essential 細胞生物学 原書第3版 Bruce Alberts 他 南江堂
基礎から学ぶ生物学・細胞生物学 和田勝 羊土社
その他、授業内で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

＜評価基準＞中間テスト（20%）・期末テスト（70%）の成績を総合し、平常点（10%）を加味して評価する。

＜評価基準＞細胞の構造、とくに生体膜と細胞骨格の構造と機能について理解しているか。その知識を具体的な事例の解釈に適用できるか。よく分からない点について自ら積極的に調べ、考察できるか。

【学生の意見等からの気づき】

スライドと板書のバランスに留意する。適宜資料を配付する。ノートを取る時間に配慮する。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを利用する。

【その他の重要事項】

随時小テストを行い、理解度をモニタできるようにする。ただし、小テストの点数は成績評価には含めない。また、講義内容に関する質問・感想・要望を随時受け付けるとともに、教員からも質問を投げかけるなどして双方向性を確保する。授業の進め方は、理解度等をもとに調整する。

【Outline (in English)】

The aim of this lecture is to understand basic structural features of the cell, a smallest unit of any organisms, with much emphasis on structures and functions of biomembrane and cytoskeleton.

PRI100YB

生物統計学

谷合 弘行

開講時期：秋学期授業/Fall

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要（オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする）

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

統計的推測の基本的な考え方を理解し、データ分析における標準的な手法を習得します。

【到達目標】

まず、記述統計の手法を習得し、得られたデータの傾向などを読み取る操作ができるようになります。

そして、統計的推測の仕組みを理解することで、データを生成しているであろう構造についての推定や検定について考えられるようになります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【授業の進め方と方法】

統計学とは得られたデータへ我々が与える解釈に関する方法論のことで、統計的手法は多岐にわたります。本講義ではそれら手法を多く紹介して慣れることよりも、それらの基礎にある考え方の理解を目指します。

授業はスライドの提示とその PDF ファイルを配布して行います。試験は資料持ち込み可ですが、問題としては基本的なものを予定しています。

また、課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	準備としての確率論 (1)	確率の意味、積分
2	準備としての確率論 (2)	分布、期待値、分散
3	準備としての確率論 (3)	二項分布、正規分布
4	準備としての確率論 (4)	条件付き確率、共分散
5	準備としての確率論 (5)	正規分布の意味
6	統計モデルと統計量	母集団と標本、最小二乗法
7	統計的推定 (1)	推定量の良さ、最尤推定量
8	統計的推定 (2)	信頼区間、母平均の区間推定、標本数の決定
9	統計的推定 (3)	カイ二乗分布、t 分布、母分散未知での推測
10	仮説検定 (1)	検定の考え方、検定の良さ
11	仮説検定 (2)	母平均に関する検定（母分散既知/未知）
12	回帰分析 (1)	線形回帰、重回帰
13	回帰分析 (2)	線形回帰の応用
14	その他の話題	その他の話題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】講義で話されたことで興味を持ったことがあれば、参考書などを参照して復習しながら理解を深めてください。

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。

【参考書】

藤澤洋徳（2006）『確率と統計』、現代基礎数学 13、朝倉書店。

宮田庸一（2012）『統計学がよくわかる本』、アイケイコーポレーション。

Bruce et al. (2020) 『データサイエンスのための統計学入門 第 2 版』、オライリージャパン。

【成績評価の方法と基準】

期末に行う筆記試験（資料持込可）の結果のみで評価します。

【学生の意見等からの気づき】

理解を深めてもらうための例題をさらに増やし、かつ時間も割いて丁寧に解いて見せるように改善する予定です。難易度も若干下げる予定です。Excel だけでなく、Python あるいは R によるデータの扱い方についても触れる予定です。

【Outline (in English)】

We will learn the basic idea of statistical inferences and master standard methods in data analysis.

BLS200YB

ゲノム構造機能学 I

佐藤 勉

開講時期：春学期授業/Spring

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部公開科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要（オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする）

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

生命情報はゲノムに刻み込まれている。生命活動を分子レベルで理解するためには、ゲノムを構成する遺伝子の働きとネットワークを理解することが不可欠である。本講義は、生命活動をゲノムの構造と機能の面から理解することを目的とする。

【到達目標】

本講義では生物がもつゲノムの遺伝子構成とそれぞれの機能についての包括的な理解を目指す。また、この講義で学んだ知識を日々の研究活動で実践するに至るまで深化させることを最終目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【授業の進め方と方法】

本講義は、ゲノム構造と機能について、特にゲノムの構造に力点を置き、生物がもつゲノムの遺伝子構成から、細胞形成まで解説する。パワーポイントを用いて説明する。良いコメントや質問は授業内で紹介し、さらなる議論に活かす。具体的な授業の進め方については、学習支援システムの「お知らせ」にて案内する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ゲノムの捉え方	ゲノム構造機能学 I の概要・授業の進め方について解説する。
第 2 回	原核生物の遺伝子構造	原核生物の遺伝子を構造という視点から解説する。
第 3 回	真核生物の遺伝子構造	真核生物の遺伝子を構造という視点から解説する。
第 4 回	オペロンの構造 1（転写制御）	ラクトースオペロンの発現制御機構を中心に解説する。
第 5 回	オペロンの構造 2（転写翻訳装置による制御）	トリプトファンオペロンの発現制御機構を中心に解説する。
第 6 回	遺伝子ネットワーク	ストレス応答機構を中心に遺伝子ネットワークについて解説する。
第 7 回	ウイルスの構造と増殖	主に溶菌性ファージの構造とその増殖メカニズムについて解説する。
第 8 回	中間テスト・解説	遺伝子・オペロンの構造、転写ネットワーク・ウイルスについての理解度の確認と解説。
第 9 回	宿主ゲノムとウイルス DNA	溶原性ファージの溶菌・溶原決定機構について解説する。
第 10 回	ファージの誘発と宿主の感染防御機構	プロファージの誘発機構と宿主のウイルス感染防御機構について解説する。
第 11 回	プラスミド	プラスミドの構造と機能について解説する。
第 12 回	レトロウイルス・トランスポゾン	レトロウイルスやトランスポゾンなど可動性遺伝子因子の機能について解説する。
第 13 回	DNA 組換え機構	DNA 組換え（相同組換えと部位特異的組換え）機構について解説する。
第 14 回	癌化・老化・寿命とゲノム	癌化・老化・寿命に関係する遺伝子について解説する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】

テーマ・内容のキーワードをもとに予め概要を理解して授業に臨むこと。体系的に講義を進めるため、復習は大事である。ゲノム構造と機能の本質を理解し、論理性を高める自己教育を期待する。

【テキスト（教科書）】

特定の教科書は指定しない。

【参考書】

授業の進行に沿い、また学生個人個人の知識水準、知的欲求に応じた参考書を紹介する。

細胞の分子生物学（ニュートンプレス）

生命科学のコンセプト 分子生物学（化学同人）

組換え DNA の分子生物学 遺伝子とゲノム（丸善）

分子生物学イラストレイテッド（羊土社）

【成績評価の方法と基準】

中間試験 40%、期末試験 40%、平常点 20 点として評価する。

【学生の意見等からの気づき】

学生のノートを取るスピードに配慮して講義を進める。

【学生が準備すべき機器他】

パワーポイントを用いて講義を進める。資料は予め学習支援システムにアップロードする。

【Outline (in English)】

A genome is the complete set of genetic information in an organism. This course introduces genomic science to students taking this course. The overall goal of this lecture is to make students understand the function and structure of the genomes in organisms. Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class. Final grade will be calculated according to the following process: Mid-term examination (40%), term-end examination (40%), and in-class contribution.

BLS200YB

ゲノム構造機能学 I I

皆川 周

開講時期：秋学期授業/Fall

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部公開科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要（オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする）

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

生命現象に関わる全ての遺伝情報はゲノムに搭載される。本講義では、ゲノムの構造と機能、および機能発現制御について解説します。分子生物学の基本概念に基づき、「ゲノムの構造機能」について「遺伝子の構造機能」とともに紹介します。さらに、全ゲノム情報から展開される「ポストゲノム」について展望していきます。

【到達目標】

ゲノムの構造について、染色体からゲノム上の塩基配列までを統合的に理解する。加えて、ゲノムの機能について、ゲノム複製とゲノム情報発現を分子レベルで理解する。これらのゲノムの知識から、ヒトを含めた多種生物ゲノムの全遺伝情報解説からゲノム構造解析、さらなるゲノム機能解析への変遷について正しく理解する。その上で、現在展開されている新しいゲノム生物学の学術的意義や応用的展望を正しく考察できる能力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【授業の進め方と方法】

基本的に資料配信型オンラインで授業を進めます。各回の授業資料の配布は学習支援システムでその都度提示します。また、毎回の授業に対して、学習ノートで授業内容の理解度を深め、演習問題により学習到達度を確認していきます。

課題等の提出は「学習支援システム」を通じて行い、多くあった疑問点や課題点については全体に対してフィードバックを行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	ゲノム生物学の勃興	分子生物学からゲノム生物学へ
第2回	遺伝子の構造機能（1）	DNA複製
第3回	遺伝子の構造機能（2）	DNA情報発現
第4回	ゲノム情報（1）	分子生物学のゲノムへの挑戦
第5回	ゲノム情報（2）	DNA構造の解説
第6回	ゲノム情報（3）	ゲノム情報の解説
第7回	ゲノム情報（4）	ゲノムの全遺伝情報
第8回	ポストゲノム（1）	オミクス解析
第9回	ゲノムの構造機能（1）	機能的RNAとENCODE
第10回	ゲノムの構造機能（2）	エピジェネティックスの概要
第11回	ゲノムの構造機能（3）	真核生物染色体の階層構造
	ゲノムの構造機能（4）	原核生物の核様体
第12回	ゲノムの構造機能（5）	エピジェネティックスの分子機構
第13回	ポストゲノム（2）	ゲノム解読の超高速化
第14回	まとめ	全体のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】各授業の学習は、学習ノートによる復習と演習問題で確認します。また、本科目を受講するには、専門科目「ゲノム構造機能学I」「生体分子分析学I」を修得し、事前にその内容を十分に理解していることを想定しています。また、「細胞構造機能学I」「蛋白質構造機能学I」も修得し、本講義と関連する内容も理解していることを想定します。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

「ゲノム4」（著者：T.A. ブラウン 監訳：石川冬木・中山潤一 メディカルサイエンスインターナショナル）

「細胞の分子生物学 第6版」（著者：B. アルバート・A. ジョンソン・J. レービン・D. モーガン・M. ラフ・K. ロバーツ・P. ウォルター 監訳：中村桂子・松原謙一 ニュートンプレス）

【成績評価の方法と基準】

成績評価は、授業毎の学習の取り組み（65%）と期末テスト（35%）を基に総合的に行います。具体的な方法と基準は、始めの授業で提示します。

【学生の意見等からの気づき】

講義用配布資料を動画資料へ改訂。復習用の配布資料の改訂。

【Outline (in English)】

[Course outline] Genome is defined as the complete sequence of nucleotides in an organism and includes both genes and the noncoding sequences. This course introduces the structure and function of genome and the regulation of genome expression, based on the basis for molecular biology. The latter looks at a view of epigenomics followed by genomics.

[Learning Objectives] The goals is to understand molecular mechanism of genomic replication and expression.

[Learning activities outside of classroom] Students will be expected to have completed the short examinations after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

[Grading criteria] Final grade will be calculated with in-class contribution (65%) and term-end examination (35%).

BLS200YB

細胞構造機能学 I

川岸 郁朗

開講時期：春学期授業/Spring

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部公開科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要（オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする）

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

細胞は生物の基本単位であり、タンパク質や脂質、糖など様々な物質が複雑に入り混じり維持されている。よって、細胞の構造と機能を学び、生命現象を理解することは生命科学研究に必須である。本講義では、細胞・細胞膜の構造（真核生物、細菌、ウイルス）、タンパク質による物質の輸送、タンパク質の選別とその輸送、細胞運動、細胞骨格、それらに関連した疾病・生命現象や生命科学研究の手法について学ぶ。

【到達目標】

生命の基本となる細胞の構造と機能、特に細胞膜と細胞における空間的な自己組織化について、タンパク質の選別と輸送、動態の面から理解する。具体的には下記に記す内容について理解を深める。

- 1) 細胞膜における脂質の性質と境界としての役割
 - 2) タンパク質による物質輸送が担う生体維持の仕組み
 - 3) 合成されたタンパク質の適切な輸送と局在、内部構造の配置・再編の仕組み
 - 4) これらに関連した疾病とその機序
 - 5) 様々な研究手法がどのように生命科学研究の発展に寄与したか
- また、知識の詰め込みのみにならないよう、授業で得た知識を元に様々な視点から科学的に考える力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【授業の進め方と方法】

特定の教科書は用いず、毎回配布する資料を元に講義として授業を行う。各講義では理解度確認のために簡単な演習を行い、次回の講義で解説する。

基本的には各回ごとに系統立てて講義を進めるが、完全には分けていない。特に関連疾病や研究手法などはまとめずに各講義回に織り交ぜ解説していく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	細胞膜と生体エネルギー	細胞膜の構造とエネルギー代謝に関する概説、細胞の物理化学的解釈
2	タンパク質による物質輸送-1	境界としての細胞膜、膜を横断する物質の輸送、一次性・二次性能動輸送
3	タンパク質による物質輸送-2	物質の輸送体としてのタンパク質の役割、ポンプと細菌の薬剤耐性化
4	タンパク質の選別とその輸送-1	細胞のコンパートメント、タンパク質の選別シグナルと輸送の仕組み
5	タンパク質の選別とその輸送-2	ウイルスの膜構造、ミトコンドリアのタンパク質輸送と膜への挿入
6	中間テスト	これまでの講義内容の理解度の確認
7	中間テストおよび講義の復習	中間テストの解説、重要ポイントの確認・復習（細胞膜、タンパク質の選別と輸送の総括）

8	タンパク質の選別とその輸送-3	分子シャペロンと品質管理機構、小胞体におけるタンパク質輸送、エンドサイトーシス
9	タンパク質の選別とその輸送-4	小胞輸送と膜融合、ゴルジ体におけるタンパク質輸送、糖鎖修飾、オートファジー
10	真核生物の細胞骨格と運動-1	細胞骨格と運動：アクチンフィラメント、微小管、中間径フィラメント
11	真核生物の細胞骨格と運動-2	分子モーター：ミオシン、キネシン、ダイニン、鞭毛と繊毛
12	バクテリアの細胞骨格と運動	原核生物の細胞構造（細胞膜・細胞壁・骨格）と運動、細胞内寄生体と新興再感染症
13	タンパク質の動態とヒトの疾病	タンパク質輸送や細胞骨格・運動に関連した疾病とその機序
14	細胞研究手法	細胞生物学的、生物物理学的、生化学的、分子生物学的、疫学的な研究手法・アプローチ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

大学設置基準に鑑みた本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする。

授業中に指示する内容について、参考書や原著論文等で復習し理解を深める。

【テキスト（教科書）】

教科書使用なし。

【参考書】

- ・THE CELL 細胞の分子生物学 第6版
- ・細胞の物理生物学 第3版
- ・リッピンコット イラストレイテッド生化学 第7版
- ・数でとらえる細胞生物学

【成績評価の方法と基準】

＜評価方法＞

中間テスト（45%）、期末テスト（45%）、平常点（10%）を元に総合的に評価する。

＜評価基準＞

到達目標に記載した内容について理解し考えることができるか。また、答えのない科学的疑問について自ら積極的に学び、考察することができるか。

【学生の意見等からの気づき】

適宜資料を配付する。ノートを取る時間に配慮する。

【学生が準備すべき機器他】

授業に関係する連絡などに授業支援システムを利用する。

【その他の重要事項】

講義内容に関する質問・感想・要望を随時受け付けるとともに、教員からも質問を投げかけるなどして双方向的な授業を目指す。授業の進め方は、理解度等を元に調整する。

細胞構造機能学 I、蛋白質構造機能学 I、ゲノム構造機能学 I で学んだ内容を踏まえ、講義を進行する。大学、民間企業、国立研究所における研究経験を活かし、身近な生活やキャリアに役立つ講義を行う。

【Outline (in English)】

【Course outline】

The cell is the basic unit of living organisms and is maintained by a complex mixture of various substances such as proteins, lipids, and sugars. Therefore, learning the structure and function of cells is essential for life science research. In this lecture, students learn about the structure of cells and cell membranes (eukaryotes, bacteria, and viruses), transport of substances by proteins, sorting and transport of proteins, cell motility, cytoskeleton, diseases and life phenomena related to these structures and functions of the cell, and methods of life science research.

[Learning objectives]

The goals of this course is to understand the structure and function of the cell, which is the basis of life, especially the cell membrane and spatial self-organization in the cell, in terms of protein sorting, transport and dynamics. Specifically, students will deepen their understanding of the following topics.

- (1) The nature of lipids in cell membranes and their role as boundaries.
- (2) The mechanism of biological maintenance by the transport of substances by proteins.
- (3) Mechanism of proper transport and localization of synthesized proteins, and arrangement and reorganization of their internal structures.
- (4) Diseases related to the above and their mechanisms.
- (5) How various research methods have contributed to the development of life sciences.

In addition, students will acquire the ability to think scientifically about things from various perspectives based on the knowledge gained in the class, so that they do not just cram knowledge into their minds.

[Learning activities outside of classroom]

In this course, students are expected to study for 4 hours outside of class time in preparation.

Students are expected to review by lecture materials, reference books, original papers, etc. to deepen their understanding of the contents instructed in the class.

[Grading criteria /Policies]

< Evaluation method >

Overall evaluation based on mid-term test (45%), final test (45%), and in-class contribution (10%).

< Evaluation criteria >

Students have to understand and think about the contents described in the learning objectives.

In this class, we also emphasize the importance of being able to actively learn and think for oneself about scientific questions that have no answers.

BLS200YB

細胞構造機能学 | |

金子 智行

開講時期：秋学期授業/Fall

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要（オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする）

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

細胞は生物の基本単位であり、その構造を理解することは、生命機能の研究に必須である。本講義では、原核生物および真核生物の細胞の構造、構造を維持するための仕組み、細胞周期や幹細胞および細胞研究方法について学ぶ。その際、生物の階層構造に留意し、複合的な視点から生命現象を捉えることを目指す。

【到達目標】

生物の基本単位である細胞の構造や機能を理解する。とくに、細胞の構造を維持する仕組みや細胞の機能発現および細胞研究方法について理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【授業の進め方と方法】

まず細胞の基本構造について概説する。次に、細胞周期や減数分裂について解説する。さらに、細胞の構造を維持するための細胞骨格や細胞外マトリクスに関して解説する。最後に幹細胞や細胞研究方法について最新の知見をまじえて概説する。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行い、試験やレポート等の詳細な講評はオフィス・アワーを活用する。大学の行動方針レベルに応じてオンライン（Zoom）でも開講し、具体的な方法については学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	細胞とは	生物の階層性および細胞の基本機能／原核細胞と真核細胞の基本構造の比較
2	核の構造と機能	真核細胞の核の構造や核膜、核輸送
3	細胞周期-1	細胞周期のチェックポイント
4	細胞周期-2	がん、アポトーシス
5	減数分裂	有性生殖や減数分裂の仕組みや役割
6	細胞接着	細胞間接着因子や細胞外マトリックス
7	中間テスト	これまでの講義内容の復習
8	中間テストの復習	中間テストのポイントと重要点について解説
9	細胞間シグナル伝達	細胞間にシグナルを伝達する仕組み
10	細胞極性と非対称性	細胞に極性ができる仕組みとその役割
11	体細胞、生殖細胞、幹細胞	体細胞と生殖細胞、幹細胞の違いと細胞の全能性、多能性
12	iPS細胞	人工多能性幹細胞の発見、作製法、応用例
13	細胞研究法-1	細胞分画、トレーサー実験
14	細胞研究法-2	光学顕微鏡、電子顕微鏡

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】授業中に指示する内容について、参考書等で復習し、理解を深める。授業中に不定期に出される課題に対して、指定の期日までにまとめてレポートとして提出する。

【テキスト（教科書）】

とくになし

【参考書】

エッセンシャル 細胞生物学 原書第5版 B. Alberts 他著 南江堂

細胞の分子生物学 第6版 B. Alberts 他著 ニュートンプレス
その他、授業内で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

＜評価方法＞期末試験 50％・中間試験 20％・レポート課題 15％・平常点 15％の成績を総合して評価する。

＜評価基準＞原核細胞と真核細胞の構造や細胞構造を維持するための機構や細胞研究法について理解しているか。よく分からない点について自ら積極的に調べ、考察できるか。

【学生の意見等からの気づき】

スライドと板書のバランスに留意する。

【学生が準備すべき機器他】

レポート課題提出には学習支援システムを使用する。

【その他の重要事項】

講義内容に関する質問・感想・要望を随時受け付けるとともに、教員からも質問を投げかけるなどして双方向的な授業を目指す。財団法人の研究員の経験を活かし、先端研究の紹介等を含めて授業を行う。

【Outline (in English)】

This course deals with the structure of a prokaryotic and eukaryotic cell, a cell cycle, a stem cell, and a method of a cell study.

The goals of this course are to understand the structure and function of the cell.

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

Final grade will be calculated according to the following process
Term-end examination (50%), mid-term report (20%), short reports (15%), and in class contribution (15%).

BLS200YB

生体分子分析学 I

今村 大輔

開講時期：春学期授業/Spring

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要（オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする）

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

生体を構成する高分子の中で、特に核酸に関する分析法を学ぶ。核酸の分離精製、電気泳動、塩基配列解析法などの基本的分析法を中心に、その手法、用途、原理、応用などを学習する。一連の講義を通じて、核酸研究の基礎力を身につけることを目的とする。

【到達目標】

核酸分析法の原理や基本を理解することにより、自身で実験データから情報を読み取り、実験計画を立てられる思考力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【授業の進め方と方法】

授業は原則として教室で対面で行うが、やむを得ない理由により登校できない学生に対してはハイフレックス授業を実施する。毎回、授業の初めに、前回の授業の演習問題の解説を行い、質問やコメントがあればそこで全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	核酸の分子特性	核酸の構造と分子特性
第2回	核酸の抽出	ゲノム DNA とプラスミドの抽出法
第3回	核酸の分離	アガロースゲル電気泳動、パルスフィールドゲル電気泳動
第4回	塩基配列の解説	サンガー法、マクサム・ギルバート法
第5回	転写開始点の決定	プライマーエクステンション法や S1 マッピングなど
第6回	PCR の基礎	PCR の原理、 T_m 値、Wallace 法、酵素の種類
第7回	PCR の応用	変異導入、qPCR
第8回	中間テスト	ここまでの理解到達度の確認
第9回	遺伝子多型の解析	RFLP など遺伝子多型解析法
第10回	ハイブリダイゼーション法	サザンハイブリダイゼーション法など
第11回	転写解析	ノーザン解析やレポーターアッセイ
第12回	核酸とタンパク質の相互作用	FISH 法やゲルシフトアッセイ
第13回	タンパク質結合配列の解析	フットプリント法など
第14回	ゲノム解析	ショットガン法による全ゲノム配列の解析

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】
毎回、授業後に演習問題を解いて提出する他、講義で話した内容について復習し、理解を深める。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて PDF ファイルを配布する。

【参考書】

授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

期末試験を 70%、毎週行う演習問題や中間テストの採点を 30%として成績を評価する。

成績評価の方法と基準が変更になった場合には、学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】

講義内の演習により理解度を確認しながら進める。

【Outline (in English)】

Course outline

This course introduces analysis methods of DNA and RNA. The aim of this course is to help students understand the fundamental principles of methods frequently used in biological research.

Learning Objectives

At the end of the course, students are expected to be able to interpret raw data of the biological analyses and plan the research strategies.

Learning activities outside of classroom

Students will be expected to have completed the required assignments after each class. Your study time will be about two hours for a class.

Grading Criteria /Policy

Final grade will be calculated according to the following process. Short reports of each class (30 %) and term-end examination (70 %)

BLS200YB

生体分子分析学 I I

林 勇樹

開講時期：秋学期授業/Fall

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部公開科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要（オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする）

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

生体高分子、特に蛋白質にフォーカスを当てた分析学を学ぶ。まずは蛋白質の構造、性質に関して基本的なことを学習する。それを踏まえて、蛋白質の分離精製、定量、電気泳動法など基本的な分析法、そして蛋白質の構造解析、可視化、質量分析、蛋白質間相互作用解析など、最先端の装置を用いた分析法について学ぶ。一連の講義を通じて、蛋白質研究の基礎力を身につけることを目的とする。

【到達目標】

背景の生化学、物理化学、熱力学を理解し、蛋白質に関する基礎を身につけた上で、蛋白質を扱った実験の内容を理解できるようになる。そして、実際に実験をするときに、どのようにして実験を進めるか、自分で立案、計画できることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【授業の進め方と方法】

講義の形式は基本的にはすべて zoom で行う予定であるが、一部オンデマンドになる可能性もある。講義の形式に変更がある場合は連絡するので hoppii を毎週確認すること。

パワーポイントスライドなどのプレゼンテーションを行う。適宜、演習やレポート課題などを課す。講義情報を随時、学習支援システムで周知する。基本的には授業計画に則って授業を進行するが、学習状況、理解度、進捗状況に応じて、内容を変更することもある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	本講義の概要説明 蛋白質に関する基本的な用語、性質、特徴について概説する。
第 2 回	蛋白質の物理化学的な性質について	蛋白質を構成するアミノ酸残基間に働く相互作用について説明する。 続いて、蛋白質特有の性質である、フォールディングと変性について説明する。
第 3 回	蛋白質の電気泳動	蛋白質研究において基本的な実験手法である SDS-PAGE、Native-PAGE、Blue-Native PAGE、二次元電気泳動について説明する。
第 4 回	蛋白質の検出技術	代表的な蛋白質検出手法である Western blotting について説明する。。
第 5 回	蛋白質の精製	さまざまな蛋白質の精製方法について説明する。
第 6 回	蛋白質の定量方法	さまざまな蛋白質の定量方法について説明する。
第 7 回	蛋白質間相互作用解析	Two-hybrid, SPR, FRET, ITC 等、蛋白質間相互作用解析法について述べる。
第 8 回	酵素反応速度論	触媒活性を持つ蛋白質「酵素」の活性測定方法について説明する。
第 9 回	蛋白質の構造解析その 1	蛋白質の一次構造、二次構造の解析方法について説明する。
第 10 回	蛋白質の質量分析	蛋白質の質量を調べる方法について説明する。
第 11 回	蛋白質の立体構造解析	蛋白質の三次構造、四次構造を解析する方法について説明する。
第 12 回	脂質分析	生体を構成する脂質について概説する。 食品分野、医療分野における脂質分析の解説を行う。
第 13 回	糖鎖分析	「第 3 のバイオポリマー」である糖鎖について概説する。
第 14 回	まとめ	本講義をまとめる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】 紹介するテキストや参考書による学習。講義で用いたプリントによる復習など。

【テキスト（教科書）】

特になし。プリントやプレゼンテーションスライドの簡易版を授業支援システムで配布する。または、授業中に適宜紹介する。

【参考書】

授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業中に行う練習問題や、各回の課題、課題の提出状況、学習状況、参加度）と、レポート課題などで総合的に評価する。

平常点【50 点】+レポート点【50 点】=合計【100 点】として成績評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】

講義中のディスカッション、小テスト、レポートなどで学生からの意見や要望を集める。

【学生が準備すべき機器他】

授業で使うスライド資料の簡易版を学習支援システムにアップロードする。印刷して持参したり、各自の端末（PC、タブレット、スマートフォン等）で閲覧するなど、利用して頂きたい。

【その他の重要事項】

最先端の蛋白質研究情報なども提供する。

【Outline (in English)】

This course will show you how to analyze biopolymers, especially proteins. This course covers protein properties and structure, protein purification, protein quantitative analysis, electrophoresis, protein structural analysis, mass spectrometry, protein-protein interaction analysis. The course aims to enable students to get a basic knowledge and understanding about protein research.

BLS200YB

分子微生物学

皆川 周

開講時期：春学期授業/Spring

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部公開科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要（オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする）

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

微生物は生命科学の理解に大きな影響を及ぼしている。分子微生物学では、人類が「微生物を認知」し、発見された「微生物の多様な機能」に対する「遺伝的な分子構造機能」「生理的な分子構造機能」を通し、近年明らかとされている「ゲノム機能」を紹介する。それぞれを契機とした生命科学へのインパクトも具体的に紹介する。

【到達目標】

「コッホの原則」に基づいた微生物の認識から、「ドメイン説」「コアゲノム/パンゲノム」を介した現代生物学における微生物の位置付けを正確に認識する。さらに、講義中に紹介するウイルス、細菌、古細菌、真菌の多様な遺伝機能と生理機能について分子レベルで理解する。その上で、微生物間相互作用や環境ゲノムを正しく考察する能力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【授業の進め方と方法】

基本的に資料配信型オンラインで授業を進めます。各回の授業資料の配布は学習支援システムでその都度提示します。また、毎回の授業に対して学習ノートで授業内容の理解度を深め、演習問題により学習到達度を確認していきます。課題等の提出は「学習支援システム」を通じて行い、多くあった疑問点や課題点については全体に対してフィードバックを行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	認知（1）	微生物の発見
第2回	認知（2）	微生物の分類
第3回	多様性（1）	多様な微生物
第4回	多様性（2）	元素循環
第5回	多様性（3）	抗生物質
第6回	遺伝機能（1）	ドメイン説
第7回	遺伝機能（2）	微生物の分子遺伝学
第8回	遺伝機能（3）	微生物の遺伝機能
第9回	生理機能（1）	微生物の環境応答
第10回	生理機能（2）	微生物の分子機能の応用
第11回	ゲノム機能（1）	微生物のゲノム全塩基配列の決定
第12回	ゲノム機能（2）	微生物の水平伝播
第13回	ゲノム機能（3）	環境ゲノム
第14回	まとめ	全体のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】各授業で取り組む学習ノートで、それぞれの講義内容の復習を推奨します。各授業の復習は、各授業の演習問題で到達度を確認していきます。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

「ブラック微生物学 第2版」（著者：J.G. ブラック 監訳：林英生・岩本愛吉・神谷茂・高橋秀実 丸善）

「微生物学 第5版」（著者：R.Y. スタニエ・J.L. イングラム・M.L. ウィーリス・P.R. バインター 共訳：高橋甫・斎藤日向・手塚泰彦・水島昭二・山口英世 培風館）

「微生物の地球化学」（著者：T. フェンチェル・G.M. キング・T.H. ブラックバーン 訳：太田寛行・難波謙二・諏訪裕一・片山葉子 東海大学出版部）

「培養できない微生物たち」（著者：R.R. コールウェル・D.J. グリメス 監訳：清水潮）

【成績評価の方法と基準】

成績評価は、授業毎の学習の取り組み（65%）と期末テスト（35%）を基に総合的に行います。具体的な方法と基準は、始めの授業で提示します。

【学生の意見等からの気づき】

配布資料を見直し、動画資料への変更。各講義のポイントの明確化。

【Outline (in English)】

[Course outline] Microbe are major group in living organism on the earth. This course introduces you to the research findings and experiments, representing the discovery of diverse microbes, the molecular function of genetic and physiological mechanisms in microbes, and the structure and function of microbial genomes.

[Learning Objectives] The goals is to understand molecular mechanism of genetic and physiological functions in bacteria, archaea, fungi.

[Learning activities outside of classroom] Students will be expected to have completed the short examinations after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

[Grading criteria] Final grade will be calculated with in-class contribution (65%) and term-end examination (35%).

BLS300YB

バイオインフォマティクス

今村 大輔

開講時期：秋学期授業/Fall

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要（オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする）

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

近年、情報学的手法は、あらゆる分野で活用されており、生命科学でも欠かせない技術となっている。また、この技術発展に伴い、以前はできなかった様々な解析が可能となった。本講義は、生命科学分野における情報処理技術の活用とその生物学的な原理、そして、これによりどのようなことができるのかを解説する。

【到達目標】

バイオインフォマティクスの発展により、生命科学がどのように変わったのか、また、これにより何が可能になり、現在、広く用いられている手法にはどのようなものがあるのかを理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【授業の進め方と方法】

本講義ではまず、分子進化の基礎について解説する。その後、系統解析や相同性解析など、様々な情報学的手法について説明する。原則として授業は教室で対面で行うが、やむを得ない理由により登校できない学生に対しては、ハイフレックス授業を実施する。毎回、授業の初めに、前回の授業の演習問題の解説を行い、質問やコメントがあればそこで全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	バイオインフォマティクスの形成、歴史、意義等の概論
2	分子進化	遺伝子やタンパク質の分子進化と分子時計
3	系統解析	系統解析の原理や方法
4	系統樹の種類	系統樹の種類や特徴
5	相同性解析	BLAST や ClustalW を用いた相同性の解析
6	集団の進化①	生物集団に含まれる遺伝子頻度の解析法
7	集団の進化②	生物集団における遺伝子頻度と適応度の関係
8	集団の進化③	生物集団の進化による遺伝子頻度の変化
9	ゲノム解析	次世代シーケンサーの原理と方法
10	アノテーション	塩基配列からの遺伝子予測や機能予測
11	ゲノム配列からの特徴抽出	GC 含量、GC Skew など、ゲノム配列から得られる様々な情報
12	ゲノム構造比較	ドットプロット法
13	様々なゲノム	メタゲノムやパンゲノムなど、様々なゲノム解析法
14	トランスクリプトーム	マイクロアレイや RNA-Seq など、網羅的な転写解析

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】
毎回、授業後に演習問題を解いて提出する他、講義で話した内容について参考書等で復習し、理解を深める。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

- 1「バイオインフォマティクス入門」日本バイオインフォマティクス学会編（慶應義塾大学出版会）
- 2「よくわかるバイオインフォマティクス入門」藤博幸編（講談社）
- 3「はじめてのバイオインフォマティクス」藤博幸編（講談社サイエンスエンティフィク）
- 4「進化で読み解くバイオインフォマティクス 入門」長田直樹著（森北出版）

【成績評価の方法と基準】

期末試験 70%、毎週の演習問題の採点を 30%として理解度を総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

講義内の演習により理解度を確認しながら進める。

【Outline (in English)】

Course outline

Bioinformatics is a combined field of biology, computer science and mathematics. It is necessary and useful method in current biological research. The aim of this course is to help students understand the fundamental principles of bioinformatics and what can be done by using it.

Learning Objectives

At the end of the course, students are expected to be able to interpret on what biological basis bioinformatic analyses are performed and what do the data indicate.

Learning activities outside of classroom

Students will be expected to have completed the required assignments after each class. Your study time will be about two hours for a class.

Grading Criteria /Policy

Final grade will be calculated according to the following process. Short reports of each class (30 %) and term-end examination (70 %)

BMS300YB

ケミカルバイオロジー

影近 弘之

開講時期：秋学期授業/Fall

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部公開科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要（オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする）

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ケミカルバイオロジーは、化学、特に人工的な化合物を用いた生命科学であり、化学、生物学、医学、薬学など他分野にまたがる学際研究分野である。本講義では、ケミカルバイオロジー分野の研究手法を理解するための有機化学、分光学の基礎を学んだ上で、ケミカルバイオロジーの研究手法やその応用分野である創薬を志向した医薬化学研究について学ぶ。

【到達目標】

ケミカルバイオロジー研究に必要な有機化学、分光学などの基礎的な知識を習得するとともに、ケミカルバイオロジー研究や創薬を志向した医薬化学研究の基本を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【授業の進め方と方法】

本講義では、ケミカルバイオロジー研究に必要な有機化学（構造、反応、合成）、分光学（光物性）などの基礎知識を講義する。ついで、これらの化学的知識と技術が、生命科学研究にどのように生かされているか、また、その応用研究としての創薬を志向した医薬化学研究についても概説する。なお、講義中の演習などで理解度を確認し、それを勘案して授業計画を変更することがある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	分子の構造と機能 1	授業説明と有機化合物の構造と性質
2	分子の構造と機能 2	有機化合物の異性体と機能、有機反応と生体内反応
3	光と物性	蛍光とその応用
4	蛍光ラベル化法 1	蛍光ラベル化法の先端研究の論文を読む
5	蛍光ラベル化法 2	蛍光ラベル化法概論
6	バイオイメーキング 1	蛍光センサーの基礎
7	バイオイメーキング 2	蛍光センサーの構造と機能
8	バイオイメーキング 3	Bioorthogonal な反応の基礎とその応用
9	中間試験	1 回～ 8 回の理解到達度判定
10	ケミカルバイオロジーと創薬 1	化合物ライブラリー
11	ケミカルバイオロジーと創薬 2	医薬品開発とメデイシナルケミストリー
12	ケミカルバイオロジーと創薬 3	Activity-based protein profiling の基礎と応用
13	ケミカルバイオロジーと創薬 4	メデイシナルケミストリーの基礎
14	ケミカルバイオロジーと創薬 5	生理活性物質の設計と合成・創薬最先端研究紹介

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】与えた課題についてのレポートを作成する。

【テキスト（教科書）】

特定の教科書は使用しない。

【参考書】

「入門ケミカルバイオロジー」（オーム社）

蛋白質核酸酵素増刊「ケミカルバイオロジー」長野哲雄他編（共立出版）

「ケミカルバイオロジー:成功事例から学ぶ研究戦略」長野哲雄・萩原正敏監訳（丸善出版）

「創薬化学」野崎正勝、長瀬博（化学同人）

「ライフサイエンスのための基礎化学」影近弘之、平野智也訳（東京化学同人）

【成績評価の方法と基準】

平常点（20%）、レポート及び中間試験（20%）、期末試験（60%）を基準として総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

化学の苦手な人にも理解できるように心がける。

【Outline (in English)】

The purpose of this course is to understand the basic and application about chemical biology field. Chemical biology is a new and significant field of bioscience. This field includes the research to solve the biological problems at the molecular level or to regulate the biological systems by using the techniques, knowledge and ideas of chemistry. This course deals with the overview of the chemical biology and medicinal chemistry including some topics of recent research.

BLS300YB

バイオエナジェティクス

常重 アントニオ

開講時期：春学期授業/Spring

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学生

生：教員の受講許可が必要（オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする）

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

In concrete terms, what is "energy" within a living organism? How is energy conveyed, stored, and transformed within our bodies? Is it all about ATP? These interesting questions and many more will be addressed throughout this course. At the end, the student is expected to master the basic elements of biothermodynamics, and have a clear idea about the process of life.

(本科目は、グローバル対応科目である)。

【到達目標】

The enrolled student should be able to understand how the process of energy capture, and its storage and conversion into active processes is carried out within living organisms. Basic concepts of thermodynamics will be explained.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【授業の進め方と方法】

This course is delivered in the form of sequential lectures. Students are encouraged to participate actively in discussion. Inquiries and comments are welcomed at any time when concepts are not clear. Most part of the didactic materials will be made available through the support system Hoppii.

To assess the adequate understanding of classes, reports and responses to quizzes will be requested periodically, and scored appropriately, and their solutions will be discussed in following classes. Should any topic still remain unclear, appropriate discussions can be scheduled using office hours.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Introduction	What is bioenergetics about? A rather new branch of science with concepts not so easy to understand.
2	Basic Thermodynamics (1).	Basic concepts in chemistry. Reaction rates, Systems in equilibrium. Why chemical reactions proceed.
3	Basic Thermodynamics (2).	The concepts of free energy, enthalpy, and entropy. The misconception of entropy.
4	Redox reactions (1)	The simplest case: carbon in all oxidation states. Reduction-oxidation (redox) potential.
5	Redox reactions (3)	Chemical reactions involving reduction and oxidation in biological systems. Spontaneity of chemical reactions. Enzyme reactions.
6	Mid-term recap. Thermodynamics and Spontaneity of Chemical Reactions.	Consolidation of concepts expressed in previous classes.
7	The "mysterious" ATP.	The pending question: Where in ATP is the energy "stored"? And how it is released. Other "energetic" compounds.
8	Bioenergetics (1)	Glycolysis. Why glucose?
9	Bioenergetics (2)	Krebs (TCA) cycle. Electron and proton transporters. This is the core of life sustenance at molecular level.
10	Bioenergetics (3)	Inside the mitochondrion. Electron transport chain. ATP production. Chemiosmotic theory.

11	Bioenergetics (4)	Photosynthesis. Similarities and differences with animal metabolism.
12	Bioenergetics (5)	How do we know the electron transport systems work? The use of inhibitors of the electron transport chain. P/O ratio.
13	Role of ATP. Recap of concepts of Lecture 7.	Endergonic and exergonic reactions. Coupled reactions. Typical misconceptions about ATP (revisited).
14	Recapitulation of previous lectures. About spontaneity in bioprocesses	Bioenergetics and the sustenance of life. Closing remarks.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】 Periodically, quizzes and homework will be assigned to students, and these will be presented as reports. All will be solved and explained in following classes to consolidate learned concepts.

【テキスト（教科書）】

The textbooks mentioned below can be used partially, although its purchase is not necessary.

"Biological Thermodynamics", Donald T. Haynie, Cambridge, 2001.

「生体とエネルギーの物理－生命力のみなもと」, 日本物理学会集（2000）の一部を利用する。

【参考書】

Prior to classes, appropriate handouts or other materials will be made available electronically through the support system Hoppii.

【成績評価の方法と基準】

In principle, assistance to classes is required. Active participation will be graded accordingly (20%). Grading will be also based on periodic short tests, some of which will take the form of homework (20%). Final test or its equivalent (60%).

【学生の意見等からの気づき】

Quizzes and short test will be assigned and later discussed in class to consolidate learned concepts.

【学生が準備すべき機器他】

Laptops or personal computers with audiovisual capabilities and reliable internet connection are required to access the system Hoppii. Also this equipment will be necessary for the submission of electronic reports.

BME300YB

医用生体工学

金子 智行

開講時期：秋学期授業/Fall

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要（オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする）

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

生体分子、細胞、組織の各レベルにおける実験的再構成法の基礎、及び医療応用の先端研究について学ぶ。

【到達目標】

生体分子、細胞、組織に関する生化学、分子細胞生物学、生物物理学の基礎を学ぶ。生体計測・バイオイメージング技術の原理についても習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【授業の進め方と方法】

講義はスライド映写を中心に行い、問題提示や対話形式での講義を行う。学生自ら各テーマについて調べ、授業内での発表を行う。大学の行動方針レベルに応じてオンライン（Zoom）でも開講し、具体的な方法については学習支援システムで提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	概要説明・生命の再構成	講義の意義、評価方法について、分子から組織までの階層構造と再構成、生体計測の概論
第 2 回	顕微鏡と顕微操作	解像度や回折限界、超解像技術、暗視野顕微鏡の原理
第 3 回	脂質とリボソーム	脂質膜やリボソームの形成法、安定性
第 4 回	リボソームの応用技術	リボソームを使用した医療技術や最近のトピックス
第 5 回	細胞の再構築	リボソーム内タンパク質発現や機能性リボソーム
第 6 回	中間テスト-1	ここまでの理解到達度確認
第 7 回	中間テストの解説	中間テスト-1 の解説と結果に基づいた補足
第 8 回	微細加工技術	光リソグラフィ、マイクロプリンティング、アガロース微細加工技術
第 9 回	ES 細胞・iPS 細胞	ES 細胞や iPS 細胞を中心とした幹細胞や Muse 細胞などの最新のトピックス
第 10 回	創薬・薬剤スクリーニング	新薬をつくるプロセス、毒性検査技術
第 11 回	組織工学	細胞培養、細胞凍結、細胞配置、組織構築
第 12 回	再生医療	最新の再生医療技術について
第 13 回	中間テスト-2	中間テスト-1 以降の理解到達度確認
第 14 回	中間テストの解説	中間テスト-2 の解説と結果に基づいた補足

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】講義中の話題に対する予習・復習の必要がある。学生自ら発表する内容について調べパワーポイント等にまとめる必要がある。また、レポート課題に対して数週間以内にまとめて提出する必要がある。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

＜評価方法＞期末試験 30 %・中間試験（1 と 2）20 %・発表点 30 %・平常点 20 % の成績を総合して評価する。

【学生の意見等からの気づき】

学生自ら調べて発表することは、発表する本人のみならず、聞いている学生にもプラスになるとのことから、学生の授業内発表を増加させる。

【学生が準備すべき機器他】

授業内での発表があるので、貸与パソコン等のプレゼンテーションが可能な機器。

【その他の重要事項】

学生との双方向的な授業のため、活発な発言や議論を行います。財団法人の研究員の経験を活かし、先端研究の紹介等を含めて授業を行う。

【Outline (in English)】

This course deals with a basic research of reconstruction of a cell or tissue, and an advanced research of tissue engineering and regenerative medicine.

The goals of this course are to understand the basics of biochemistry, molecular cell biology, and biophysics.

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

Final grade will be calculated according to the following process: Term-end examination (30%), mid-term report (20%), short presentation (30%), and in class contribution (20%).

PPE100YD

栽培植物学

佐野 俊夫

開講時期：春学期授業/Spring

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部公開科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要（オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする）

その他属性：〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

われわれの食料となる作物（穀物、野菜類、果実類）にはどのような種類があるのか、そしてそれぞれの作物の生育特性を学ぶ。また、これらの作物が世界と日本国内とでどのように栽培されているのかを知り、栽培上の問題点を学ぶ。

【到達目標】

食料・資源として利用されている栽培植物の栽培特性を理解する。そしてこれらの作物栽培にはどのような配慮が必要であり、どのような問題があり、今後どのような変化が予想されるかについて理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【授業の進め方と方法】

講義形式の授業形態ですが、穴埋め式テキストを配布し、ヒントを出しながらみなさんに穴埋め部分を回答してもらっています。

また、授業終わりに小テストを行い、その授業のポイントの復習に充てているので、小テストを学習支援システム課題欄に提出してください。翌週の授業時に小テストの解説をします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	栽培植物学とは	栽培植物学とはどのような学問か、主要栽培植物を紹介する
第2回	イネの来た道	日本で栽培されるイネの起源、世界のイネ、コメの性質、これからの稲作について説明する
第3回	コムギ、オオムギの栽培と利用	コムギ、オオムギの日本、世界での栽培、利用、性質を説明する
第4回	マメ科植物の栽培と利用	日本と世界のマメ科植物栽培、およびその加工利用方法について説明する
第5回	トウモロコシの栽培と利用	世界のトウモロコシ栽培、日本での利用、これからの栽培について説明する
第6回	いも類の栽培と利用	主にジャガイモ、サツマイモの栽培と利用について説明する
第7回	油料作物、嗜好料作物の栽培と利用	植物油に加工される油料作物、および、嗜好料作物として主にチャ、コーヒーについて説明する
第8回	世界で栽培されている野菜類	世界で栽培されている野菜類について説明する
第9回	アブラナ科野菜の栽培と利用	主要なアブラナ科野菜であるダイコン、キャベツ、カラシナの栽培と利用について説明する
第10回	ナス科野菜の栽培と利用	主要なナス科野菜である、トマト、ナス、ピーマンの栽培と利用について説明する
第11回	果実栽培と利用（1）	主要な果実である、リンゴ、かんきつ類、ブドウの栽培と利用について説明する
第12回	果実栽培と利用（2）	果樹の生育、果実の成熟と老化、その保存方法について説明する
第13回	花きの栽培と利用（1）	花きの園芸的分類、および主要な花きである、キク、カーネーションについて説明する
第14回	花きの栽培と利用（2）	球根類、花木類、ランの栽培と利用について説明する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】授業毎に行われる小テストの内容はその回の重要事項であり、小テスト問題を中心に授業内容を復習することが望ましい。また、家の周りや通学途中で見かける畑地、果樹園等には本講義で紹介する作物が栽培されていると思われる、休日や大学への行き帰り等に観察するとよい。

【テキスト（教科書）】

講義時に資料を配布する。定められた教科書は使用しない。

【参考書】

・「作物学概論」第2版 朝倉書店
・「図説園芸学」第2版 朝倉書店

【成績評価の方法と基準】

期末試験 72%、毎回の講義時に行う小テスト 28%、で評価する

【学生の意見等からの気づき】

穴埋め式のテキストを用いて授業中に学生に回答させること、毎回の小テスト結果を翌週に講評することは授業内容の理解が深まる、と好評であったため、今年度も継続する予定である。

【学生が準備すべき機器他】

講義資料をPDFで配布するので、パソコンやスマホを持参して講義中に資料を参照してください。また、穴埋め部分の解答を記載するために、配布資料のコピーやノート等があると便利です。

【Outline (in English)】

In this lecture, we learn the types of food crops (grains, vegetables, fruits) and the growth characteristics of each crop. Also, we learn about the cultivation styles and problems of these crops both in the world and in Japan.

Your study time will be more than four hours for a class.

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Term-end examination: 72 %, Short reports given during each lecture: 28%

PPE100YD

植物病原菌類学

廣岡 裕史

開講時期：春学期授業/Spring

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要（オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする）

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

植物病原菌類の基礎知識（形態、生態、生理的特徴や分類体系等）を修得する。「樹木医補」資格取得のメニュー科目でもある。

【到達目標】

植物病原菌の植物への寄生能力を知ることで、植物医科学の応用技術を修得できる。あわせて、樹木医補等の資格に適応する技術を身につけることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【授業の進め方と方法】

本講義では、まず、菌類とヒトや文化との関わり、菌類の働きを学び、次いで、植物医師（技術士、樹木医）の基礎となる植物病原菌類の分類・形態・生態等を学習する。また、本講義を植物医科学基礎実験・応用実験の内容に反映できるように、様々な植物菌類病の症状や病原菌類の観察方法などについても理解を深める。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」や授業内で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	科目の概要と授業の進め方
第2回	菌類とは(1)	菌類とヒトや文化とのかかわり
第3回	菌類とは(2)	自然界での菌類の働き（森林を例として）
第4回	菌類の分類	生物界の中での菌類の位置とその特徴
第5回	原生動物界の菌類	変形菌・根こぶ病菌の特徴とその病害
第6回	クロミスタ界の菌類	水を泳ぐ卵菌類の特徴とその病害
第7回	菌界の菌類(1)	ツボカビ・接合菌の特徴とその病害
第8回	菌界の菌類(2)	子囊菌類の特徴とその病害
第9回	菌界の菌類(3)	担子菌類の特徴とその病害
第10回	菌界の菌類(4)	不完全菌類（分生子果不完全菌類）の特徴とその病害
第11回	菌界の菌類(5)	不完全菌類（不完全糸状菌類）の特徴とその病害
第12回	菌類の多様性(1)	植物内生菌について
第13回	菌類の多様性(2)	培養法に基づいた菌類の解析
第14回	菌類の多様性(3)	非培養法に基づいた菌類の解析

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】講義のポイントを提示するのでまとめておくこと。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて資料を配付する。

【参考書】

菌類のふしぎ（東海大学出版会）、植物病原菌類の見分け方（大誠社）、植物医科学実験マニュアル（大誠社）、菌類の生物学（共立出版）など、必要に応じて講義中に紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（約 20%）、課題や試験（約 80%）により総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

満足、ほぼ満足するとの結果が大半を占める。菌類の形態的多様性に魅せられたとのアンケートも多く寄せられており、菌類の恩恵（利用場面）も含めて講義を広げる。

【学生が準備すべき機器他】

主にパワーポイント画面で講義を進める。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire knowledge for study of the plant pathogenic fungi. The goals are to obtain the basic knowledge of plant pathogenic fungi such as morphology, ecology, physiological characteristics, classification system, etc. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination・Short reports: 80%、in class contribution: 20%.

PPE100YD

植物病防除学

池田 健太郎

開講時期：秋学期授業/Fall

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部公開科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要（オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする）

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

植物病を防除することの重要性を認識し、どのような手法で植物病が防除できるのかを知る。また、様々な防除技術の特徴や、植物病の病原菌や害虫の発生生態に基づいた防除対策の策定および社会的ニーズに基づいた防除技術開発とその事例を学ぶ。

【到達目標】

植物病の防除技術の種類と特徴を知り、植物病の発生生態を踏まえて、農業生産者のニーズを満たした防除方法を提案できる。また、植物病の防除技術開発に携わることのできる基礎的な知識を習得している。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【授業の進め方と方法】

生産現場で実際に発生した植物病の事例を紹介し、防除対策導入のポイントを解説する。その際に、これまでの研究成果などから推察される植物病の発生生態を踏まえ、どのような防除対策が有効かを考察する。授業を復習する課題・レポートの提出は「学習支援システム」を通して行い、質問などの回答やフィードバックは授業内で共有する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	防除のはじまりと意義・重要性
第2回	防除技術の種類と選択・導入	病原菌の生活環を考慮した防除方法と対策の導入
第3回	化学的防除法1（農薬一般）	農薬の一般知識、防除器具の種類、耐性菌の発生
第4回	化学的防除法2（防除の実例）	化学農薬を使った植物病の防除事例
第5回	法政大オリジナル万能防除剤の開発	本学科で行なっている新たな防除技術研究について
第6回	耕種的防除法1	圃場衛生と抵抗性品種の活用
第7回	耕種的防除法2	輪作による植物病の防除
第8回	物理的防除法1	熱や光質を活用した植物病の防除
第9回	生物的防除法	微生物を活用した植物病の防除
第10回	生物農薬開発の実例	実用化された生物農薬の開発経緯と社会への貢献について
第11回	植物病の伝染環と拡大様式	モノサイクリック病害とポリサイクリック病害の防除対策
第12回	防除技術開発のための研究計画とデータ解析	On-farm research と防除技術の評価に必要な解析
第13回	持続的な防除技術	総合的病害虫・雑草管理（IPM）と重要性と事例の紹介
第14回	防除に関わる最新技術	AI（人工知能）による診断・対策支援や新しい農薬について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】重要な専門用語について、複数のソース（書籍、事典、websiteなど）を用いて復習する。また、実験実習科目とも関連付けて、本授業内容の理解に努めること。

【テキスト（教科書）】

授業で使用する資料は学習支援システムに掲載する。

【参考書】

米山伸吾・根本久・上田康郎・都築司幸著『図説野菜の病気と害虫伝染環・生活環と防除法』（農山漁村文化協会）

Gail L. Schumann・Cleora J. D'Arcy『Hungry Planet: Stories of Plant Diseases』（APS PRESS）
難波成任監修『植物医科学』（養賢堂）

【成績評価の方法と基準】

期末試験（50%）、課題・レポート（30%）、平常点（20%）で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

実際の農業生産現場で発生する植物病害を授業の対象として、植物病を防除するために植物医師として必要不可欠な知識や技術を習得できる授業となるように工夫する。

【学生が準備すべき機器他】

主にパワーポイント画面で講義を進める。

【その他の重要事項】

国内外の農業生産現場で植物保護の研究・指導に携わった教員が、植物病の診断や防除対策の策定を行う上で、特に重要と考えられる知識・技術を講義する。

【Outline (in English)】

Students will recognize the importance of controlling plant diseases and learn what methods are used to control plant diseases. They will also learn the characteristics of various control techniques and the formulation of control measures based on the life cycle of plant disease pathogens and pests, as well as the development of control technologies for social needs. It is important to know the types and characteristics of plant disease control techniques and to propose control methods that meet the needs of farmers based on the life cycle of plant disease pathogens. In this course, cases of plant diseases that have occurred in agricultural production will be introduced and key points for the introduction of control measures will be explained. Students can learn what kind of control measures are effective, based on the life cycle of plant disease. Grades will be based on the final exam (50%), assignments and reports (30%), and regular marks (20%).

AGC100YD

土壌科学

亀和田 國彦

開講時期：秋学期授業/Fall

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部公開科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要（オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする）

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

土壌は、「地球の皮膚」とも称され、地球の陸域にごく薄く分布します。陸上の植物は、直接に、また、人類を含めて動物は、植物を介してその生命の維持を土壌中の養分に依存し、この点で、我々はミミズと同じく土壌の生き物と言えます。

植物の必須元素として 17 元素が知られ、炭素、水素および酸素以外の 14 元素は根を介して土壌から吸収されます。本科目では、土壌の基本的な構造と機能ならびに植物への養分供給能力や環境との関わりをとおして、土壌の役割を学びます。

【到達目標】

まず、土壌の構造と機能を学び、それら性質が、地理的分布と生成因子に関連づけられていることを理解します。つづいて、それら性質が、植物への養水分供給能力と植物の生育に大きく影響することを理解します。そのような植物と土壌との関わりをなかで、植物の健全な生育を支えるために、土壌の性質がどうあるべきかを学び、不良土壌の判断と改良対策を示すことができ、植物医科学分野に有効な知識を習得します。

さらに、土壌をケミカルリアクターまたはバイオリアクターとして捉え、植物の健全な生育を実現しながら、地域生態系と地球環境を長期的に維持するための土壌の役割と、それを実現するための管理手法のあり方を考えます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【授業の進め方と方法】

パワーポイントと板書による基本的な講義。

対面授業とオンデマンドを組み合わせる。

学習支援システムにより資料を提供する。

対面授業では、リアクションペーパーを、オンデマンドでは授業レポートの作成と提出を求める。

課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	地球と土壌	土と土壌 土壌機能概観 土壌と文明
第 2 回	土壌の材料	一次鉱物と二次鉱物 風化と二次鉱物の生成 粒形組成
第 3 回	土壌の物理性	腐植の生成と性質 三相分布 土壌空気 水の保持と水分張力
第 4 回	土壌の化学性	化学性を構成する各種性質 pH 酸化と還元 イオン吸着
第 5 回	土壌の荷電特性	定荷電と変位荷電 リンの特異吸着
第 6 回	土壌の生物性	土壌生物の種類と機能 土壌生物を介する物質循環 微生物バイオマス
第 7 回	土壌の生成と分類	風化と土壌生成 土壌の生成因子 土壌の種類 分類体系
第 8 回	水田土壌	酸化還元に伴う物質の形態変化 水田土壌の生成分類と特徴
第 9 回	森林土壌と畑地土壌	腐植の集積と分解 炭素循環 養分の流亡 畑地の層位分化 土壌類型区分と利用形態の違いによる特徴付け

第 10 回 土壌中養分の可給性

pH の変化に伴う各種養分の可給性の変化

リンの難溶化

窒素の無機化と有機化

土壌の緩衝能力

第 11 回 土壌診断

土壌分析

分析値の評価と対策

土壌溶液

容量因子と強度因子

第 12 回 土壌診断演習

土壌改良

改良資材の特徴と選択

事例と演習

第 13 回 物質循環

窒素の有機化と無機化

窒素循環

リンの循環

カリウムの循環

原始地球と石灰

第 14 回 環境と土壌

環境容量

我が国の農耕地土壌の実態と変化の趨勢

土壌調査

地球環境の変動が土壌に与える影響

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】講義ノートや参考書をもとに、講義内容を復習。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

土壌サイエンス入門 第 2 版 木村直人・南條正巳編, 2018, 文永堂出版

土壌学概論 犬伏和之編, 2020 年, 朝倉書店

土壌学の基礎 松中照夫, 2012 年, 農文協

【成績評価の方法と基準】

期末試験 50%, リアクションペーパーおよび授業レポートによる平常点 50% による総合評価とする。

【学生の意見等からの気づき】

リアクションペーパーで質問や提案を受け、できる限り次の授業で回答し反映する。

【その他の重要事項】

春学期開講の植物栄養学を併せて受講することにより、理解が深まる。

【Outline (in English)】

[Course Outline]

The soil called "The skin of the Earth" exists as the surface of Planet Earth. This thin veneer of living material is only 18 centi-meters thick in average of the earth, but it has critical influence on what happens on the surface of the Earth. Soil is our life-support system. It provides anchorage for roots; holds water long enough for plants to make use of it; and holds nutrients, making them accessible to support life. Our life is "Soil animal" as same as "earthworm". There exist myriad micro-organisms, that accomplish suites of biochemical transformations from fixing atmospheric nitrogen to the decomposition of organic matter, other organisms and organic matter. Most biodiversity is in the soil, not above ground. You study a number of soil function and capability of the soil.

[Learning Objective]

First, you will learn the structure and function of soil and understand that its properties are related to geographical distribution and growth factors.

Next, you understand that these properties have a great influence on the ability of supplying nutrients and water of plants. In such a relationship between soil and plants, you will learn what the properties of soil should be in order to support the healthy growth of plants. Based on such knowledge, you will show the judgment of soil quality and improvement. These knowledge and judgment are effective abilities in botanical science.

Furthermore, you think about the role of soil to maintain the regional ecosystem and global environment over the long term while realizing the healthy growth of plants by regarding the soil as a chemical reactor or bioreactor, and how it should be the management method for realizing it.

[Learning activities outside of classroom]

Review the lecture contents based on the lecture notes and reference books. 4 hours is the standard for out-of-class learning such as preparation and review of this class.

[Grading criteria / policy]

The grading is by a comprehensive method based on 60% of the final exam and 40% of the normal score including the reaction paper submitted each time.

PPE200YD

診断技術論

大井田 寛、濱本 宏、廣岡 裕吏、平田 賢司

開講時期：春学期授業/Spring

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要（オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする）

その他属性：〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

植物病（微生物病、害虫による被害、生理障害等）が発生したとき、あるいは発生前に予防手段を取る際に欠かせないのが植物病の正確な診断である。診断法には症状の目視のみならず、様々な方法が開発されてきており、実際の診断は迅速性、確実性などの必要に応じていくつかの方法を組み合わせる診断することになる。それら様々な診断法と診断の流れを理解するとともに、植物病の診断法の今後について考察する。

【到達目標】

植物医学の基礎としての植物病の病原（菌類、細菌、ウイルス、昆虫、ダニ、線虫など）の観察・同定法を修得する。あわせて、樹木医補、自然再生士補等の資格取得の基礎となる能力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP3

【授業の進め方と方法】

圃場診断、問診のあらましを学び、次いで、症状により原因の目安を付け、微生物病、害虫や線虫およびその被害の診断ポイントなど基本的な方法や手順を修得する。さらに、電子顕微鏡観察、化学的診断、血清学的診断や遺伝子診断など、より詳細な診断技術を学習する。また、伝統的診断技術と先端的診断技術の融合や今後の診断連携等を論議する。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」や授業内で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	序論	植物医学における診断の重要性と診断の流れ
第 2 回	診断の手順	問診、病原微生物の検査法
第 3 回	微生物病の診断	病気ごとの診断・コホの原則
第 4 回	害虫の診断 (1)	診断と同定、害虫診断法
第 5 回	害虫の診断 (2)	画像による害虫診断法、診断・同定依頼法
第 6 回	主要害虫の診断	主要害虫の形態、分類、生態、植物被害等の特徴
第 7 回	植物ダニ類の診断	形態、分類、生態、植物被害等の特徴
第 8 回	線虫概論	分類・形態・生態等、検診技術（土壌・植物体の調査法）
第 9 回	主要な植物寄生性線虫 (1)	主要線虫の形態、生態、作物被害等の特徴
第 10 回	主要な植物寄生性線虫 (2)	主要線虫の形態、生態、作物被害等の特徴
第 11 回	顕微鏡の仕組みと観察	光学顕微鏡と電子顕微鏡による観察・診断
第 12 回	血清学的診断法	ELISA 法など
第 13 回	遺伝子診断法	PCR 法など
第 14 回	診断システムの概要	診断のシステム化、ネットワーク化、遠隔診断システム

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】講義のポイントをまとめておくこと。課題に関して自己学習を行うこと。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて資料を配布する。

【参考書】

「植物医学 (上)」（養賢堂）；植物医学実験マニュアル（大誠社）等、必要に応じて講義中に紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（約 20%）、課題や試験（約 80%）により総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

植物医学の基礎となる診断技術に特化した科目であり、詳細な技術を把握できるとの回答が多くある。今後は具体例などをさらに充実させたい。

【学生が準備すべき機器他】

主にパワーポイント画面で講義を進める。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire knowledge for the diagnostic methods of the plant diseases. The goals are to receive the knowledge of the various diagnoses. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination・Short reports: 80%、in class contribution: 20%

PPE200YD

植物生理生態学

佐野 俊夫

開講時期：秋学期授業/Fall

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部公開科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要（オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする）

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講義では植物の発生・成長・分化といった植物の基本的生理機能を理解し、そして、環境変化に対応して生育する植物の生態機能を学ぶ。これらの植物の正常な生理生態を理解して初めて植物の病害、生理障害等の植物の異常状況が理解できる。特に、移動することができない植物には、環境変化に対応して応答する機構が発達しており、その機構を理解するため、植物ホルモンの作用機構を中心に学ぶ。

【到達目標】

植物が様々な環境変化（水、光、接触、乾燥など）に対応して、どのような生理的变化を示すかを理解し、その変化の背景には植物ホルモンなどの働きがあることが理解する。これはまた、環境刺激から植物成長に至る信号伝達の基本についても知ることもある。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【授業の進め方と方法】

講義形式の授業形態ですが、穴埋め式テキストを配布し、ヒントを出しながらみなさんに穴埋め部分を回答してもらっています。また、授業終わりに小テストを行い、その授業のポイントの復習に充てているので、小テストを学習支援システム課題欄に提出してください。翌週の授業時に小テストの解説をします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	植物細胞の特徴	植物細胞の特徴と細胞観察のための顕微鏡技術について説明する
第 2 回	植物細胞の成長と植物成長	植物細胞がどのように成長することで、植物個体が成長するのかを説明する
第 3 回	植物細胞の分裂	植物細胞分裂と分裂にかかわる細胞骨格、微小管の機能を説明する
第 4 回	組織、個体における物質輸送	水、イオン、生体高分子の細胞間の移動、および組織間の移動のしくみを説明する
第 5 回	光合成と地球環境	光合成しくみ、光合成様式の違いによる植物の生存戦略を説明する
第 6 回	中間試験	第 5 回目内容までの中間試験、まとめと解説
第 7 回	植物ホルモン（1）、オーキシンの作用	植物ホルモンであるオーキシンの化学的性質、および植物での作用機作を説明する
第 8 回	植物ホルモン（2）、サイトカイニンの作用	サイトカイニンの生理作用と信号伝達経路を説明する
第 9 回	植物ホルモン（3）、ジベレリンの作用	ジベレリンの生理作用と信号伝達経路を説明する
第 10 回	植物ホルモン（4）、エチレンの作用	エチレンの生理作用と信号伝達経路を説明する。
第 11 回	植物ホルモン（5）、アブシジン酸の作用	アブシジン酸の生理作用と信号伝達経路を説明する。
第 12 回	花成とフロリゲン	花成をもたらす環境刺激とその植物内での信号伝達経路を説明する
第 13 回	形質転換と遺伝子組換え作物	植物の形質転換に用いられる Ti プラスミドと、作出された遺伝子組換え作物について説明する
第 14 回	植物の環境応答	植物生育のストレスとなりうる環境要因とそれに対する植物の応答を説明する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】 授業毎に行われる小テストの内容はその回の重要事項であり、小テスト問題を中心に授業内容を復習することが望ましい。また、家の周りや通学途中で見かける道端、庭等に生育する植物は常に環境に対応しながら成長しているので、休日や大学への行き帰り等に観察するとよい。

【テキスト（教科書）】

特に使用しない。毎回、講義資料を配布する。

【参考書】

・「植物の成長」裳華房

・「植物の生態－生理機能を中心に－」裳華房
 ・「植物生理学」第 2 版 三村徹郎 化学同人
 ・「テイツ ザイガー 植物生理学・発生学」培風館

【成績評価の方法と基準】

期末試験 72%、毎回の講義時に行う小テスト 28%で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

毎回の小テストはその日の授業のポイントがわかると好評であることから続けている。また、穴埋め式のテキストを用いて授業中に学生に回答させること、毎回の小テスト結果を翌週に講評することは授業内容の理解が深まる、と好評であったため、今年度も継続する予定である。

【学生が準備すべき機器他】

講義資料を PDF で配布するので、パソコンやスマホを持参して講義中に資料を参照してください。また、穴埋め部分の解答を記載するために、配布資料のコピーやノート等があると便利です。

【Outline (in English)】

In this lecture, we first understand the basic physiological functions of plants such as development, growth and differentiation, and learn the ecological functions of plants that grow in response to environmental changes. In particular, as plants can not move, they have developed mechanisms that respond to environmental changes. In order to understand its mechanism, we learn about the action mechanism of phytohormones.

Your study time will be more than four hours for a class.

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Term-end examination: 72 %, Short reports given during each lecture: 28%

PPE300YD

雑草学

佐野 俊夫、横山 昌雄

開講時期：秋学期授業/Fall

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部公開科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要（オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする）

その他属性：〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

雑草は作物生育を阻害したり、景観を損ねる植物の総称である。本講義ではまず、どのような植物が雑草と呼ばれ、どのような成育特性により、作物の成育に打ち勝ち、作物生育を阻害するかを学ぶ。そして、これらの雑草を防除するためにはどのような方法があるのか、化学的方法、生態学的方法について学ぶ。

【到達目標】

雑草学では雑草の生育特性を植物生態学的に理解し、そしてその特性を理解したうえで、雑草防除方法を生化学、分子生物学的に理解する。また、除草剤を使う際の安全性への配慮、環境への影響に対して配慮すべきことを学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【授業の進め方と方法】

雑草生育と除草剤作用機作の生理生態学的部分を佐野が、雑草防除の現状、具体的な防除例を横山が説明します。
講義形式の授業形態ですが、穴埋め式テキストを配布し、ヒントを出しながらみなさんに穴埋め部分を回答してもらっています。
また、授業終わりに小テストを行い、その授業のポイントの復習に充てているので、小テストを学習支援システム課題欄に提出してください。翌週の授業時に小テストの解説をします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	雑草とはなんだろう	雑草とはどのような植物なのか、また、雑草学とはどのような学問であるかを概説する
第2回	身近な雑草の生き方	身近に存在する雑草がどのような生存戦略をとっているのかを説明する
第3回	水田雑草の生理生態学	水田に生える雑草の特徴を植物生理生態学面から説明する
第4回	畑地雑草の生理生態学	畑地に生える雑草の特徴を植物生理生態学面から説明する
第5回	除草剤作用の生理学	一般的に用いられる除草剤の作用機作を説明する
第6回	形質転換と除草剤耐性作物	除草剤耐性作物の作出方法とその原理について説明する
第7回	雑草防除と有機農業	一般的な雑草防除法と除草剤を使わない有機農業法の違いを説明する
第8回	雑草防除の歴史	かつては人力で行われていた雑草防除の変遷を説明する
第9回	雑草になる植物（1）畑地・果樹園	農地により雑草の種類は異なり、畑地、果樹園での例を紹介する
第10回	雑草になる植物（2）水田	水田の雑草は他とは異なる特徴を有するのでその概要を説明する
第11回	雑草の防除手法	現在行われている雑草の除去の具体的方法を説明する
第12回	雑草の化学的防除法（1）	農薬として最初に使われた2,4-Dと、除草剤の変遷を説明する
第13回	雑草の化学的防除法（2）	前回の続きであるが、特に環境への配慮について触れる。
第14回	雑草の総合的防除法	環境に配慮した、生態学的防除法とその工夫を説明する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】授業毎に行われる小テストの内容はその回の重要事項であり、小テスト問題を中心に授業内容を復習することが望ましい。また、家の周りや通学途中には本講義で紹介する雑草と呼ばれる植物が多く生育していると思われ、休日や大学への行き帰り等に観察するとよい。

【テキスト（教科書）】

特に用いない。毎回講義資料を配布する。

【参考書】

松中昭一、きらわれものの草の話、岩波ジュニア新書
山口裕文、雑草学入門、講談社
浅井元朗、植調 雑草図鑑、全国農村教育協会

【成績評価の方法と基準】

期末試験 72%、毎回の講義時に行う小テスト 28%、で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

穴埋め式のテキストを用いて授業中に学生に回答させること、毎回の小テスト結果を翌週に講評することは授業内容の理解が深まる、と好評であったため、今年度も継続する予定である。

【学生が準備すべき機器他】

講義資料をPDFで配布するので、パソコンやスマホを持参して講義中に資料を参照してください。また、穴埋め部分の解答を記載するために、配布資料のコピーやノート等があると便利です。

【Outline (in English)】

Weeds are a generic term for plants that hamper crop growth and damage the landscape. In this lecture, we first learn what kind of plants is called weeds and what kind of its growth characteristics inhibit crop growth. Then, we will learn about methods to manage these weeds chemically and ecologically.

Your study time will be more than four hours for a class.

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Term-end examination: 72 %, Short reports given during each lecture: 28%

PPE200YD

植物医科ビジネス論

宮内 陽介、川名 祥史、小倉 里江子

開講時期：秋学期授業/Fall

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部公開科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要（オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする）

その他属性：〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、植物医科学に関連するビジネス概況の理解を目標とする。講義テーマは、主に農業、園芸、食品、環境に関するものとし、実際のビジネスの現場で活躍する人材を講師として呼び、今後の発展を議論する。

【到達目標】

植物医科学に関連するビジネス分野を知り、それぞれの事業分野の要諦を知る。講義終了時にはレポートをまとめ、学生ひとりひとりが将来の自分のキャリアについて考える。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【授業の進め方と方法】

植物は食料生産のみならず、公園など屋外公共空間の景観形成や事業所ビル内外の装飾、あるいは家庭における園芸など現代社会のあらゆる場面で利用されている。その際、植物が健康に生育していることが必要であり、植物が利用されるあらゆるビジネスで植物医科学が必要とされる。植物医学が活用できる業界の具体的な動向や今後の戦略などを民間からの講師を交えて論じる。また、新たなビジネスの創造についても論議する。なお、課題等の提出・フィードバックは学習支援システムを通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	植物医科学に関連するビジネス全般を解説し、講師が行っている事業についても紹介する。
第 2 回	種苗ビジネス	種苗系ビジネスの概要を紹介し、キーとなる技術を解説する。
第 3 回	農業ビジネス	近年増加する農業法人による生産活動の概略を解説し、その中で植物医科学が果たす役割について学ぶ。
第 4 回	肥料ビジネス	健全な土壌を維持するために必要な技術を学び、実際のビジネス現場についても解説する。
第 5 回	農業ビジネス	農業ビジネスの実際を解説し、農業に関連する法規についても理解する。
第 6 回	アグリベンチャービジネス	アグリ系のベンチャーの取り組みについて学ぶ。
第 7 回	まとめ	これまでの学んだ内容を踏まえて 10 年後の農業についてグループディスカッションと発表を行う。
第 8 回	食品ビジネス	食品産業において原料としての植物の重要性を学び、ビジネスとして成立させるために重要なポイントを解説する。
第 9 回	農業機器ビジネス	農業における IoT、ICT を活用について解説する。
第 10 回	機能的食品ビジネス	植物由来の機能的食品ビジネスについて解説する。
第 11 回	植物工場ビジネス	植物工場の仕組みおよび活用について解説する。
第 12 回	バイテクビジネス	農業における遺伝子組み換え技術とその活用について解説する。
第 13 回	農業計測ビジネス	農業現場へのドローンやセンシングを活用した取り組みについて学ぶ。
第 14 回	まとめ	これまでの講義を通じて学んだ内容を踏まえて未来の農業についてグループディスカッションと発表を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】特に予習は必要としないが、日頃から新聞やインターネット等で植物に関連するビジネスについての情報に触れておくことを推奨する。

【テキスト（教科書）】

なし。適宜、資料を配布する。

【参考書】

適宜、紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点、質疑およびレポートにより総合的に評価する（100%）。

【学生の意見等からの気づき】

講義内での質問の時間を設ける。

【学生が準備すべき機器他】

全ての回で PC が必要である。また、カメラをオンにできる通信環境を整えて参加すること。

【その他の重要事項】

本講義の教員は全員植物医科ビジネスの実務経験を有する。実際のビジネスの現場について紹介するとともに、将来について受講者とディスカッションする。

【Outline (in English)】

In this lecture, we aim to understand business overview related to plant medicine science. Lecture themes mainly relate to agriculture, horticulture, food and environment, and we will talk about the company who conducts plant related business. Grading will be comprehensively decided based on the reports and in-class contribution (100%).

AGC200YD

フードセーフティ論

川本 伸一、八戸 真弓

開講時期：秋学期授業/Fall

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要（オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする）

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

食品の安全性確保に重要な危害要因（化学物質、自然毒、微生物、放射能など）の特性とリスク低減対策の概要について学ぶ。また、対策の基本となるリスク分析の考え方を理解する。これらの知識をもとに、食品安全や食料安全保障についての理解を深める。

【到達目標】

食品安全は単に食品衛生上の技術問題の解決だけでは達成できないことを理解する。行政とフードチェーン（生産・加工・流通・販売・消費）に係わる全ての関係者（ステーキホルダー）の意思疎通および連携・協力が食品安全問題の解決には必要不可欠であることを理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【授業の進め方と方法】

農作物の残留農薬、カビ毒汚染問題や有害微生物による大規模食中毒事件の発生など食品安全問題は消費者の関心が高い。食品安全を確保するためには、従来の食品衛生上の品質管理手法に加え、国際的な取組としてのリスク分析導入によるリスク評価、リスク管理およびリスクコミュニケーションが重要である。政策上も重要な課題となっている食品安全について、その背景と現状、将来の方向性について論議する。

課題等の提出・フィードバックは学習支援システムを通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	食品安全総論 (1)	食品安全に関する国際認識と国際機関、日本の食品安全行政（関連法令・関連省庁）
第 2 回	食品安全総論 (2)	危害要因とリスク、リスク分析
第 3 回	食品安全各論 (1)	食中毒の発生状況、微生物性食中毒 (1)
第 4 回	食品安全各論 (2)	微生物性食中毒 (2)、寄生虫食中毒
第 5 回	食品安全各論 (3)	食品の微生物制御と衛生管理
第 6 回	食品安全各論 (4)	自然毒（植物性・動物性）、有害化学物質（かび毒、アクリルアミド等）
第 7 回	食品安全各論 (5)	農薬
第 8 回	食品安全各論 (6)	食品添加物、食物アレルギー、放射線照射食品、遺伝子組み換え食品
第 9 回	食品安全各論 (7)	食品表示、JAS 規格
第 10 回	食品安全各論 (8)	放射能の基礎知識
第 11 回	食品安全各論 (9)	食品の放射能汚染 1（農業における汚染）
第 12 回	食品安全各論 (10)	食品の放射能汚染 2（加工食品の汚染）
第 13 回	食品安全各論 (11)	原発事故後の農産物放射能汚染への緊急対応
第 14 回	食品安全各論 (12)	食品安全行政とレギュラトリーサイエンス

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】マスコミに取り上げられる食品安全問題に関してはその内容、背景などの理解に努める。

【テキスト（教科書）】

その都度、必要に応じて資料を配布する。

【参考書】

食品衛生学 補訂版（新スタンダード栄養・食物シリーズ 8）

ISBN コード（ハイフンなし）：9784807916795

出版社：東京化学同人

【成績評価の方法と基準】

受講姿勢（講義ごとの小テスト等 20%、平常点 40%）及び最終総合レポート（各教官からの複数課題に関するレポート作成、40%）により総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【Outline (in English)】

This course introduces an overview of the measures and characteristics of hazards (chemical substances, natural poisons, microorganisms, radioactivity etc.), and also the concept of risk analysis important for securing food safety. The aim of this course is to help students deepen the understanding of food safety and food security, based on these knowledge.

Final grade will be calculated according to the following process. Each lecture's short report (20%), Attendance rate for all lectures (40%) and a final comprehensive report (40%).

PPE200YD

植物バイオテクノロジー概論

川合 伸也

開講時期：春学期授業/Spring

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部公開科目履修制度で履修する

生：教員の受講許可が必要（オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする）

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

植物バイオテクノロジーは、最先端の生命科学を基盤として、21世紀における人類の食料の確保、燃料や薬品などの有用物質の生産、木材や繊維の生産、地球環境の保全と改善などに幅広く役立つ画期的な生物工学技術である。本授業では、植物バイオテクノロジーの背景、基礎、応用についての専門基礎的な知識を広く身につける。

【到達目標】

1 細胞融合・遺伝子組換え植物の作製法の原理を理解できる。
2 個別の遺伝子組換え作物が開発された背景、導入された遺伝子と新たな形質との関係を理解できる。

3 New Plant Biotechnology として、植物のゲノム編集、ウイルス・ベクターの利用の利点を理解できる。

4 食品の安心と安全の違いと科学的な安全性評価を理解できる。

Learners who successfully complete this course will be able to:

・ Recognize breeding methods of transgenic plants and cell fusants
・ Recognize down- and up-regulations of plant genes and gene disruption methods

・ Recognize genome editing methods and application of virus vectors
・ Recognize principles and mechanisms of genetically modified foods and phytoremediation

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【授業の進め方と方法】

この授業は対面授業形式で行う。ただし、オンラインでライブ配信と録画のオンデマンド配信も予定している。

リアクションペーパー提出や課題等の提出は「学習支援システム」と Google classroom を通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	導入編 Introduction	遺伝子組換え作物の栽培の現状と、遺伝子組換え作物と慣行栽培や有機栽培との比較 Statistics of genetically modified foods, comparison to non-genetically modified foods, and regulations.
第 2 回	基礎編 1 Basics 1	組織培養と細胞融合と遺伝子導入系（パーティクルガン法） Structure of plant cell, totipotency of plant cell, dedifferentiation and redifferentiation, tissue culture and plant hormones, cell fusion and cybrid, principles of plant genetic engineering, and particle gun.
第 3 回	基礎編 2 Basics 2	遺伝子導入系（アグロバクテリウム法）と導入された遺伝子の選択系と複製系とカルスからの個体再生系 Transformation methods with binary vectors of Agrobacterium, including the selection and regeneration systems.
第 4 回	基礎編 3 Basics 3	アグロバクテリウム法とパーティクルガン法の比較、マーカーフリー組換え体の作出法 comparison between Agrobacterium and Particle gun methods, and Selective marker-free transgenic plants.

第 5 回 基礎編 4
Basics 4

ゲノム編集 (ZFN と CRISPR-Cas9) と遺伝子発現抑制法 (遺伝子破壊法と RNAi) と CRES-T 法による遺伝子発現抑制、T-DNA tagging とその利点
Principles and applications of reverse genetics and genome editing, and T-DNA tagging method.

第 6 回 応用編 1-1
Application 1-1

第一世代組換え食品：エチレン生合成制御による果実の成熟制御と Bt などによる害虫抵抗性

Control of fruit riping by down-regulation of ethylene synthesis, insect tolerance.

第 7 回 応用編 1-2
Application 1-2

第一世代組換え食品：除草剤耐性作物 1・・・耐性化機構の分類とグリフォセート耐性、グルフォシネート耐性、スルフォニルウレア系除草剤耐性と選択的遺伝子置換、プロモキシル耐性、2,4-D 耐性、イソキサフルトール耐性
Herbicide tolerance (glyphosate, glufosinate, sulfonylurea, 2,4-D).

第 8 回 応用編 1-3
Application 1-3

第一世代組換え食品：ウイルス抵抗性及びディフェンシン生産作物、barstar と barnase を用いた雄性不稔作物
Pest tolerance (over-production of viral coat protein, RNA degradation by PTGS, R gene, chitinase, plant defensin) and Pest tolerance (over-production of viral coat protein, RNA degradation by PTGS)

第 9 回 応用編 1-4
Application 1-4

第二世代組換え食品：ゴールデンライス、ビタミン E 強化ダイズ、油脂の改変、デンプンの改質、スギ花粉症緩和米、経口ワクチン含有作物

The second generation of genetically modified foods (Golden Rice, oleate rich soy bean, tryptophan rich rice, ferritin-containing rice, rice to repress cholesterol, low allergen-containing rice,

第 10 回 応用編 2-1
Application 2-1

花色と改変 1・・・植物色素の種類と青色の発現機構とデルフィニジン生合成による花色改変

Alternation of flower color (pigments of flower, pH theory, metal chelete theory, copigment theory, anthocyanidin biosynthetic pathway, delphinidin, F3'5'H, blue carnation and rose).

第 11 回 応用編 2-2
Application 2-2

花色と花型の改変 2・・・オーロン生合成による花色の改変と花の ABC モデルと花型の改変、FT と TFL による開花制御

Control of flowering (leafy, FT, TFL, and ALSV) and flower shapes (leafy, needly, ABC model, superman)

第 12 回 応用編 3
Application 3

ストレス耐性植物（低温耐性）・・・ホスファチジルグリセロールの改変と脂肪酸の改変と適合溶質と活性酸素除去、(乾燥・浸透圧耐性、重金属耐性)・・・適合溶質と活性酸素除去、鉄欠乏耐性、亜硫酸ガス耐性植物
Stress tolerance 1(cold, drought, freezing, salinity, high temperature, inhibition of photosynthesis, compatible solutes, GPAT, phosphatidyl glycerol, light

第 13 回	応用編 4 Application 4	植物による環境浄化・・・水銀浄化と 重金属超蓄積植物、ファイトケラチ ン、ハロゲン置換炭化水素や芳香族化 合物浄化作物、排気ガス浄化作物 Air pollution tolerant plants, tolerance to iron-deficiency (mugineic acids) and Phytoremediation (phytochelatin, mercury tolerance, arsenic tolerance, heavy metal tolerance, volatile enviro
第 14 回	総括 Conclusion	全体の復習と練習問題の解説 Conclusion

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】参考書などによる予習および復習が必要である。授業のパワーポイント資料を授業支援システムにアップロードしておくので各自ダウンロードして予習するとともに、授業にはダウンロードした PC を持参する。分子生物学や遺伝子工学の基礎を既に理解しているという前提で授業内容を組んでいるので、授業中に簡単には説明するが、それらの分野の知識が足りないと自覚したら、自習する。
In addition to the class, students are recommended to prepare for the class using pre-distributed Power Point files.

【テキスト（教科書）】

教科書を使用しない。パワーポイント資料が実質的な教科書である。パワーポイントのファイル自体を授業支援システムから各自ダウンロードして勉強する。なお、授業の終盤には、出題する可能性の高い問題をアップロードしておく。

None

【参考書】

*植物の生化学・分子生物学 (Buchanan, B.B. ら 編, 杉山 達夫 監修), 学会出版センター, 2005.

*Wikipedia 遺伝子組み換え作物 (川合が大部分を書き込み編集したので、授業内容の理解に役立つ。(http://ja.wikipedia.org/wiki/%E9%81%BA%E4%BC%9D%E5%AD%90%E7%B5%84%E3%81%BF%E6%8F%9B%E3%81%88%E4%BD%9C%E7%89%A9)

【成績評価の方法と基準】

試験 100%。配布のプリント、参考書など、ノート、プリントアウト等の紙類及び通信機能のない電子辞書の持ち込み可。また、授業最終回には、試験の傾向と対策についての説明を行う。

test (100%). At the exam, you can bring and read books, printouts and notes.

【学生の意見等からの気づき】

- ・ゆっくり話すようにする。
- ・アンケートでは授業レベルはこのままで良いという意見と高度すぎるという意見に分かれているので、解説を増やすとともに授業内容の厳選を行う。
- ・量が多過ぎる (範囲が広すぎる) という批判があるが、この授業は概論であり、所々内容を深く講義することはあっても、広く浅く講義せざるを得ない。予習復習したり発展的に勉強したりする上で書籍をできるだけ購入しなくてもすむように関連情報も載せているし、リンク先もパワーポイントファイルに埋め込んである。
- ・特に重要なスライドについては、授業中に注意喚起

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムに授業用のパワーポイント資料をアップロードしているの
で、パワーポイントまたは互換性のあるソフトウェアをインストールしてあ
るパソコンを持参すること。

【その他の重要事項】

講義内容は必要に応じて変更することがある。質問等は授業中や授業終了後に
行うことが望ましいが、メール (skawai@cc.tuat.ac.jp) でも受け付ける。そ
の際、用件と所属をタイトルに記入すること。

【Outline (in English)】

This course provides students with basics and applications of plant biotechnology and plant molecular biology. The topics covered are both principles of plant transfoemation and cell fusion methods and their applications. Students will learn to recognize the statistics of genetically modified foods in Japan and the world, stress tolerance, pytoremediation, and flower color alternation.

GNM300YD

植物メディカルゲノム学

大島研郎、濱本宏

開講時期：秋学期授業/Fall

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要（オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする）

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

近年、シーケンス技術の向上に伴い、植物や植物病原体のゲノム情報が急速に蓄積されつつある。本授業では、ゲノム解読・ポストゲノム解析の手法や、ゲノムデータベースの利用法を学ぶとともに、ゲノム情報が様々な分野に応用されていることを理解することを目的とする。

【到達目標】

ゲノム解読の手法やゲノムの構造的特徴を理解するとともに、ゲノムデータベース等を活用するためのスキルを身につける。また、トランスクリプトーム解析など、ゲノム情報を利用した網羅的解析の手法を理解する。植物病の防除・診断技術へゲノム情報を活用するための知識・技術の習得を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【授業の進め方と方法】

対面授業と Zoom を併用した「ハイフレックス形式」で講義を行う。各回の授業の終わりに課題を掲示し、提出された解答で理解度を確認しながら進める。また、授業内に前回の課題について講評・解説する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	はじめに	講義全体の説明
第 2 回	ゲノム配列の解析法 (1)	塩基配列決定の原理と手法
第 3 回	ゲノム配列の解析法 (2)	ショットガンシーケンス
第 4 回	ゲノム配列の解析法 (3)	次世代シーケンサー
第 5 回	ゲノム配列の解析法 (4)	ゲノムデータベース
第 6 回	ゲノム解析の実例 (1)	植物細菌のゲノム解析
第 7 回	ゲノム解析の実例 (2)	真核生物のゲノム解析
第 8 回	ポストゲノム解析 (1)	遺伝子発現解析 ～ マイクロアレイ
第 9 回	ポストゲノム解析 (2)	遺伝子発現解析 ～ プロテオーム
第 10 回	ポストゲノム解析 (3)	ゲノム進化・遺伝子診断
第 11 回	ゲノム情報の利用 (1)	後天的ゲノム修飾のメカニズム
第 12 回	ゲノム情報の利用 (2)	遺伝子組換え作物
第 13 回	ゲノム情報の利用 (3)	ゲノム編集技術
第 14 回	総括	講義内容の復習・確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】
授業内で掲示された課題を解き、解答を提出する。また、講義資料、例題などを復習し、良く理解しておく。

【テキスト（教科書）】

毎回、資料を配布する。

【参考書】

植物医科学 第 2 版（養賢堂）

【成績評価の方法と基準】

期末試験 (50%)、レポート課題 (36%)、平常点 (14%) により総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

情報機器（貸与パソコン）を活用した演習を取り入れるとともに、講義資料を穴埋め式にするなど、効率的に学習できるように工夫している。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムを利用して、課題の掲示や講義資料の配布を行う。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire an understanding of the genomics associated to plants and plant pathogenic bacteria. This course deals with the principles of sequencing of genomes. It also enhances the development of students' skill in the applied biology by using genomic data. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Final grade will be decided based on short examinations after each class meeting (36%), term-end examination (50%), and in-class contribution (14%).

PPE200YD

植物細菌学

大島 研郎

開講時期：春学期授業/Spring

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要（オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする）

その他属性：〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

植物を病気から守るためには、病原体が植物に感染するメカニズムを分子レベルで明らかにすることが重要である。本講義では、微生物の中でも特に細菌に焦点を当て、細菌が植物に感染するために進化させてきた巧みな寄生戦略を理解することを目的とする。

【到達目標】

植物に病気を引き起こす細菌や、植物と共生する細菌について、形態、分類、病徴、宿主範囲、検出診断法、防除法など、基本的な知識を身につける。また、細菌が植物に感染するために用いる分子装置や、植物が細菌から身を守るために進化させてきた防御システムを学習することで、細菌と植物が繰りひろげる攻防を分子レベルで理解することを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【授業の進め方と方法】

- ・対面授業と Zoom を併用したハイフレックス形式で講義を行う（URL など詳細については学習支援システム・植物細菌学のページを確認してください）。
- ・各回の終わりに穴埋め問題などの課題を提示し、学習支援システムを通して回答してもらう。
- ・授業の初めに前回の課題の答えを解説する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	はじめに	講義全体のガイダンス、細菌とはどのような生物か？
第 2 回	細菌の培養と代謝	細菌の培養法と、おもな代謝経路
第 3 回	細菌の分子生物学	細菌の DNA 複製、転写・翻訳など遺伝子発現の特徴
第 4 回	細菌の分類、系統	細菌の分類法、細菌の分子進化学
第 5 回	植物細菌 1	野菜を溶かす微生物：ベクトバクテリウム属細菌
第 6 回	植物細菌 2	タンパク質を注射して植物に感染する微生物：シュードモナス属細菌
第 7 回	植物細菌 3	道管を詰まらせて植物を病気にする微生物：ラルストニア属細菌
第 8 回	共生細菌	植物と共生して生きる微生物：リゾビウム属細菌
第 9 回	難培養性の植物細菌 1	花を葉に変える微生物：ファイトプラズマ属細菌
第 10 回	難培養性の植物細菌 2	昆虫によって媒介される微生物：グリーニング病細菌
第 11 回	植物細菌の同定・診断	植物細菌の同定法、免疫学的診断法、遺伝子診断法
第 12 回	植物細菌病の予防技術	植物を病気から守るためのさまざまな予防技術
第 13 回	植物の防御システム	植物免疫：植物はどうやって病気から自らの身を守るのか？
第 14 回	細菌と植物の分子攻防	植物と病原細菌のはてしなき軍拡競争

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする。
- ・課題を解くことで授業内容を復習する。

【テキスト（教科書）】

毎回、資料を配布する。

【参考書】

植物医科学 第 2 版（養賢堂）
植物医科学の世界（大誠社）
植物医科学実験マニュアル（大誠社）
植物病理学 第 2 版（文永堂出版）
植物たちの戦争 病原体との 5 億年サバイバルレース（講談社 ブルーバックス）

【成績評価の方法と基準】

期末試験（50%）、課題（36%）、平常点（14%）により総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

講義資料を穴埋め式にするなど、効率的に学習できるように工夫している。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire an understanding of the bacteriology associated to plant pathogenic bacteria. This course deals with the principles of culture method, classification, pathogenicity, diagnosis, and pest control. This course also enhances an understanding of the plant-microbe interaction at molecular level. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Final grade will be decided based on short examinations after each class meeting (36%), term-end examination (50%), and in-class contribution (14%).

PPE200YD

植物ウイルス学

津田 新哉

開講時期：秋学期授業/Fall

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部公開科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要（オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする）

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、植物病理学・植物医科学分野の中で、農作物の重要病原の一種である植物ウイルス等の歴史、分類、病気の種類、診断法、防除法さらに最新の分子生物学に至るまでの基礎・応用・実用研究の最前線を解説する。さらに、ウイルス等の生物学的特徴を説明するとともに、生命科学をリードするウイルス等研究の役割について講義する。

【到達目標】

植物ウイルス病研究の歴史、現在のウイルス等の分類、分子構造、生物学的特徴、発生生態、媒介様式、さらに防除方法等について理解する。さらに、ウイルス遺伝子とその産物であるタンパク質の機能、それら高分子と植物遺伝子等との相互作用を通じて生命現象の仕組みを学習する。また、ウイルス感染から発病に至るまでの経緯を連続的に捉え、ウイルス病防除の技術的課題の抽出と農作物の安定生産に向けた対策を考察する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【授業の進め方と方法】

本授業は、パワーポイントによるスライド映写と配布資料を用いて、講義を行う。また、適度にグループディスカッションや小テストなども交え知識の醸成を図る。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	植物ウイルス病とウイルス学の歴史	植物ウイルス病とウイルス等研究の歴史について概説する。
2	植物ウイルスの分類	植物ウイルス等の分類方法の変遷と分類基準についてグループディスカッションで理解を深める。
3	植物ウイルスの構造	ウイルス粒子の形態、ウイルス粒子の化学組成、ウイルスゲノムの遺伝子構造について解説する。
4	植物ウイルスの遺伝と変異	ゲノムの異なるウイルスの遺伝子発現様式、ゲノム上で起こる遺伝子変異について解説する。
5	植物ウイルスの精製と定量	植物ウイルスの精製方法と定量方法について具体的な実験事例を示しながら解説する。
6	植物ウイルスの感染と増殖（1）	植物ウイルス等の植物細胞への感染・増殖・移行過程の現象を生物学的に解説する。
7	植物ウイルスの感染と増殖（2）	引き続き、植物ウイルス等の植物細胞への感染・増殖・移行過程の現象を生物学的に解説する。
8	植物ウイルスの病徴	植物ウイルスが感染することによって表れる様々な病徴を理解し、その病徴発現の仕組みについてグループディスカッションで理解を深める。

9	植物ウイルスの伝染	植物ウイルスの自然界における伝染実態を紹介するとともに、異なる生き物により媒介されるその様式の多様性を説明する。
10	植物ウイルスの干渉	植物ウイルス間で起こる干渉作用を理解する。
11	植物の抵抗性と植物ウイルス病の疫学	植物遺伝子が引き起こす抵抗性反応を解説する。また、植物ウイルスの自然界における生活環と流行、さらに調査方法を解説する。
12	植物ウイルス病の診断と防除	植物ウイルスの病原体としての診断法と、その伝染環に基づく総合防除体系について説明する。
13	植物ウイルスの生物学	生命科学におけるウイルス学の果たすべき役割と生物学研究での社会モラルについて解説する。
14	総括	授業のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】受講生は、特に予習を必要としないが、専門用語などについては、参考書などでしっかり復習する。特に、遺伝子や複製、翻訳などについては、生化学や分子生物学に関する本を読み、基本的知識を理解するように努める。なお、毎回の授業の最後に質問する時間を設けるので、すでに終了した授業の内容も含めて積極的に応答することを期待する。また、授業後に配布する資料で復習すること。

【テキスト（教科書）】

特になし。毎回の授業終了後に資料を配付する。

【参考書】

開講時に紹介する。

【成績評価の方法と基準】

期末試験の成績で50%、小テスト・レポートで30%、平常点20%で評価する。期末試験は、毎回の講義の理解度と、総合的な理解度を問う。

【学生の意見等からの気づき】

講義資料の参考資料等については、授業支援システムを活用する。

【学生が準備すべき機器他】

なし。

【その他の重要事項】

民間企業、公設試、国立研究機関における植物ウイルス病の診断・防除に関する研究・技術開発に携わった教員が、生産現場における問題点の抽出、それを解決するための技術体系の構築、開発した技術体系の社会実装に至るまでの経緯を講義する。

【Outline (in English)】

This course will provide a comparative overview of plant virus life cycles and strategies viruses use to infect and replicate in host plants. We will discuss virus structure and classification and the molecular basis of viral reproduction, evolution, assembly, virus-host interactions, epidemiology and protection of viral diseases. The standard study time for this class is 4 hours, including preparation and review. Students do not need to prepare for the lecture, but they should review technical terms in reference books. In particular, students are expected to read books on biochemistry and molecular biology to gain a basic understanding of genes, replication, and translation. There will be time for questions at the end of each class, and students are expected to respond positively, including to questions from classes that have already been completed. Evaluation will be based on 50% on the final exam, 30% on quizzes and reports, and 20% on attendance. The final exam will test your comprehension of each lecture and your overall understanding of the course.

AGC200YD

微生物生態学

堀 知行

開講時期：春学期授業/Spring

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部公開科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要（オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする）

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

土壌や水界などのあらゆる環境に多種多様な微生物が生息している。これらの微生物は主要元素の循環に重要な役割を担っており、地球環境の恒常性の維持に不可欠である。加えて、微生物は植物や動物の生存にさまざまな影響を及ぼしている。本授業では、微生物と地球環境との関係性、微生物と高等生物との相互作用を研究する微生物生態学について、微生物の性質と分類、微生物と高等生物との共生、極限環境での微生物の生存戦略、環境微生物解析手法、微生物利用の可能性を中心に講義し、SDGs への貢献など今後の研究展開について考える。

【到達目標】

微生物の基礎的知識を得るとともに、自然・工学的環境に生息する多種多様な微生物の特徴を理解する。環境微生物解析手法について理解を深めるとともに、地球環境の恒常性や保全に果たす微生物の役割について学び、今後の微生物利用の展開を考える力をつける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
DP2

【授業の進め方と方法】

スライドを使った通常の講義（対話形式）とする。オンラインでの開講を基本とするが、詳細は開講前に学習支援システムを参照のこと。フィードバックは、授業時間内に実施する小テストの分析と解説、授業時間外に受ける質問への回答と解説を通して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	微生物生態学とは	微生物とは？ 生命の 3 ドメイン 栄養と代謝
第 2 回	微生物細胞の構造と機能	生体高分子 細胞膜と輸送 細胞壁の特徴
第 3 回	微生物の生息環境	水界、土壌、極限環境 バイオフィーム環境
第 4 回	微生物群集の構造と機能	微生物の系統学 培養できない微生物とその解析法
第 5 回	微生物の一次生産	一次生産と光栄養 植物プランクトンとブルーム
第 6 回	微生物の有機物分解	有機物分解と炭素循環 高分子有機化合物の分解
第 7 回	嫌気環境の微生物呼吸	いろいろな電子受容体 メタンと微生物
第 8 回	窒素循環と微生物	硝化と脱窒 アノモックス 窒素固定
第 9 回	硫黄循環と微生物	硫酸酸化と硫酸還元 海底堆積物の微生物
第 10 回	金属と微生物	鉄酸化と鉄還元 バクテリアリーチング
第 11 回	植物・動物と微生物の共生	菌根菌 根粒菌
第 12 回	微生物を用いた環境浄化	微生物と動物・昆虫 バイオレメディエーション
第 13 回	微生物利用の将来	水処理・浄化 地球環境と微生物活性 循環型社会に向けた微生物利用
第 14 回	理解度確認	授業内容の理解度確認 レポート課題説明または試験実施

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする。専門用語などについて、配布する授業資料や参考書などを用いて復習する。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

・Block 微生物学 Michael T. Madigan 他著 室伏きみ子他監訳 オーム社 2003 年 18000 円

・微生物の地球化学 元素循環をめぐる微生物学 T.Fenchel 他著 太田寛行他訳 東海大学出版部 2015 年 3200 円
・授業の際に、それぞれの話題に則した学術論文などを紹介する。

【成績評価の方法と基準】

毎回の授業時に実施する小テストによる平常点（40%）ならびにレポート課題または期末試験（60%）をもとに、総合的に判断する。

【学生の意見等からの気づき】

フィードバックは、授業時間内に実施する小テストの分析と解説、授業時間外に受ける質問への回答と解説を通して行う。

【学生が準備すべき機器他】

オンライン授業を受講するためのパソコンまたはタブレット等。

【その他の重要事項】

特になし

【Outline (in English)】

A variety of microbes co-exist in natural environments, such as soil and water ecosystems. These microbes play important roles in the key element cycles in the environments, being indispensable to maintain the homeostasis of the earth. In addition, they have various influences on the existence of plants and animals. In this class, I lecture on microbial ecology, including the character and classification of microbes, the symbiosis of microbes with plants and animals, the microbial behavior in extreme environments, the microbial community analyses, the possible use of microbes for the global issues, e.g., SDGs. The learning objectives are (i) to gain the fundamental knowledge about microbes, (ii) to understand the distinctive characters of various microbes in natural and engineered environments, (iii) to expand an understanding of analytical tools in environmental microbiology and (iv) to learn the roles of microbes in maintenance of the homeostasis and environment of the earth. The standard learning activities outside of classroom are assumed to be 4 hours of the preparation and review for one class. Reviewing important information, such as technical term, using the textbook and references is necessary. The grading criteria/policy is to comprehensively evaluate the achievements based on the quiz performed in each class (40%) and the final examination and/or term paper (60%).

BOA300YD

環境昆虫学

安田 耕司

開講時期：春学期授業/Spring

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要（オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする）

その他属性：〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

昆虫は、原生自然から農地、都市環境などさまざまな環境に生息している。このように多様な環境で進化した昆虫がどのような形態的・生態的特徴をもち、どのような生活を送っているかその概要を学ぶ。多様な環境で進化した昆虫の形態や生態を知ること、私たち人間の生活にとっても健全な環境や生態系が不可欠であること、そして、昆虫もそのような環境を構成する重要な要素であることを理解する。

【到達目標】

さまざまな環境に生息する昆虫の種類や目（もく）レベルのおおまかな分類群を識別できるようになり、身近な昆虫にも親しみを持つようになる。また昆虫の特徴的な行動や生活史を知ることによって生態系の中の昆虫の位置づけを理解し、人間にとって最も重要な環境について考える切っ掛けを得る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【授業の進め方と方法】

授業は要点をまとめた資料を配布した上でパワーポイントを使って進めます。また数回の授業ごとに小テストを実施します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	自己紹介、授業計画、学生の昆虫に対するイメージの確認
第2回	昆虫の系統分類	昆虫の系統進化と各分類群の特徴について
第3回	身近な環境に生息する昆虫	庭や街路樹、家屋内など身近な環境にみられる昆虫や人間の生活に深く関わる昆虫について
第4回	農作物や果樹等の害虫	作物や野菜、果樹等の主要害虫の種類と生態について
第5回	外来昆虫	海外から日本に侵入した昆虫や侵入が警戒される昆虫の種類と生態について
第6回	昆虫の発育・生理	発育速度や休眠など、昆虫の基本的な発育生理について
第7回	環境が昆虫の生態に及ぼす影響	特に昆虫の多型現象や相変異について
第8回	昆虫にみられる擬態	昆虫にみられる様々な擬態とその進化について
第9回	昆虫における遺伝と進化	昆虫にみられる進化や適応の遺伝的基礎について
第10回	地球温暖化と昆虫	地球温暖化が昆虫の分布や生態に及ぼす影響について
第11回	昆虫による生態系サービス	近年劣化が懸念されている生態系サービス（花粉媒介）について
第12回	外来生物が生態系に及ぼす影響	侵入昆虫をはじめとする外来生物が生態系に及ぼす影響について
第13回	農業生態系に生息する昆虫について	農業生態系の特徴とそこに適応した昆虫の生態について
第14回	講義内容の補足と期末試験	講義内容についての補足説明、および講義内容の理解度を確認するための試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】庭や街路樹、屋内など身近にいる昆虫に興味を持ち、それらの名前を図鑑やインターネット等を用いて調べる経験をもつ。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

1. 応用昆虫学の基礎、後藤哲雄・上遠野富士夫、農山漁村文化協会、2019
2. 外来種ハンドブック、日本生態学会編、地人書館、2002
3. 地球温暖化と昆虫、桐谷圭治・湯川淳一編、全国農村教育協会、2010
4. 「ただの虫」を無視しない農業、桐谷圭治、築地書館、2004

【成績評価の方法と基準】

期末試験（60%）、小テスト（20%）、平常点（20%）

ただし今後、状況が変わった場合は変更の可能性があります。

【学生の意見等からの気づき】

講義内容を基本的なところで誤解している例も見受けられたことから、簡単な内容でも丁寧に説明するよう心がける。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

特になし

【Outline (in English)】

Insects inhabit a variety of environments, from native nature to agricultural land and urban environments. Students learn what kind of morphological and ecological traits insects have evolved in diverse environments and how they live their lives there. By learning about the characteristics of insects, students understand that healthy environments and ecosystems are essential for insects and our human lives, and also that insects are an important component of such an environment.

Final grade will be calculated according to the following process: Mid-term examination(20%), term-end examination(60%), in class contribution(20%).

PPE300YD

媒介システム学

津田 新哉

開講時期：春学期授業/Spring

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部公開科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要（オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする）

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、植物病原微生物が植物から植物へと自然界において媒介される実態を解説する。特に、植物病の主たる媒介者である昆虫の分類を事例として、媒介生物と植物病原微生物、さらに植物との三者間の伝染環に基づく相互作用を説明し、植物を病気から保護する技術的対策について論説する。

【到達目標】

植物病の主たる媒介生物である昆虫とそれに媒介される病原微生物の自然界における相互作用を理解し、それらの媒介に関連する生体高分子間の反応の実態を学習する。また、植物、病原微生物、媒介生物の三者間の連鎖により成立する伝染環を把握し、媒介様式に着目した病害制御対策を考察する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【授業の進め方と方法】

本授業は、パワーポイントによるスライド映写と配布資料を用いて、講義を行う。また、適度にグループディスカッションや小テスト等も交え知識の醸成を図る。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	植物病害における伝染環研究の歴史	植物病害伝染環の研究史と病原微生物の伝播の基礎知識を概説する。
2	植物病原微生物の伝染様式	植物病原微生物の自然界における伝染様式についてグループディスカッションで理解を深める。
3	植物病原微生物の媒介様式	植物病原微生物の媒介生物による伝染経路を説明する。
4	植物病原微生物の媒介生物（1）	植物病原微生物を媒介する昆虫などについて具体的事例を説明する。
5	植物病原微生物の媒介生物（2）	引き続き、植物病原微生物を媒介する昆虫などについて具体的事例を説明する。
6	昆虫などによる植物病原微生物の媒介様式（1）	媒介昆虫などの体内における植物病原微生物の動態について具体的事例を説明する。
7	昆虫などによる植物病原微生物の媒介様式（2）	引き続き、媒介昆虫などの体内における植物病原微生物の動態について具体的事例を説明する。
8	昆虫などによる植物病原微生物の媒介様式（3）	引き続き、媒介昆虫などの体内における植物病原微生物の動態について具体的事例を説明する。
9	生物によるウイルス媒介の分子機構	媒介生物体内におけるウイルス等の局在、増殖、移動などについての分子機構を説明する。
10	植物病原体の種子伝染機構	植物種子により伝染する病害を解説するとともに、ウイルス等を事例にした種子伝染の分子機構を説明する。

- | | | |
|----|-------------------------|--|
| 11 | 媒介昆虫の生態と植物病害発生との相互関係 | 媒介昆虫の生活環の変転に伴う植物病害の発生の変化についてグループディスカッションで理解を深める。 |
| 12 | 植物病原体-媒介生物-宿主植物の相互作用の解析 | 三者間の相互作用により発生する植物体の生物反応について解説する。 |
| 13 | 植物病原体の薬剤耐性とその対処法 | 植物病原微生物の薬剤耐性能の発達とその対処法を説明する。 |
| 14 | 総括 | 授業のまとめを行う。 |

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】受講生は、特に予習を必要としないが、専門用語などについては、参考書などでしっかり復習する。特に、遺伝子、タンパク質などの生体高分子の機能については、生化学や分子生物学に関する本を読み、基本的知識を理解するように努める。なお、毎回の授業の最後に質問する時間を設けるので、すでに終了した授業の内容も含めて積極的に応答することを期待する。また、授業後に配布する資料で復習すること。

【テキスト（教科書）】

特になし。毎回の授業終了後に資料を配付する。

【参考書】

開講時に紹介する。

【成績評価の方法と基準】

期末試験の成績で50%、小テスト・レポートで30%、平常点20%で評価する。期末試験は、毎回の講義の理解度と、総合的な理解度を問う。

【学生の意見等からの気づき】

講義資料の参考資料等については、授業支援システムを活用する。

【学生が準備すべき機器他】

なし。

【その他の重要事項】

民間企業、公設試、国立研究機関において植物病の伝染環制御に関する研究・技術開発に携わった教員が、生産現場における問題点の抽出、それを解決するための技術体系の構築、開発した技術体系の社会実装に至るまでの経緯を講義する。

【Outline (in English)】

The primary objective of this course is to introduce the student to the subject of transmission for plant microorganisms occurring diseases. The course will emphasize an interaction between plant virus and insect vector as they apply to plants and discuss plant protection measures considering their ecological relationships to their physical environment and to other organisms, including other plants, microorganisms. The standard study time for this class is 4 hours, including preparation and review. Students are not required to prepare for the lecture, but are required to review technical terms in reference books. In particular, students are expected to read books on biochemistry and molecular biology to gain a basic understanding of the functions of biological macromolecules such as genes and proteins. There will be time for questions at the end of each class, and students are expected to respond positively, including to questions from classes that have already been completed. Evaluation will be based on 50% on the final exam, 30% on quizzes and reports, and 20% on attendance. The final exam will test your comprehension of each lecture and your overall understanding of the course.

BOA300YD

植物メディカルシステム学

濱本 宏

開講時期：春学期授業/Spring

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要（オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする）

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

情報通信技術（ICT）の活用は、今後の農業の発展に不可欠である。農林水産省の食料・農業・農村白書にはロボット技術や ICT を活用したスマート農業などが紹介されてきた。本授業では、農業の中でも植物医科学分野に関わる ICT 技術として、フィールドサーバーやドローンなど農業データの取得にかかわるハード面と、データ処理技術、機械学習、人工知能（AI）などデータの利用にかかわるソフト面とについて、これら農業に革命をもたらす技術の基礎を学ぶ。

【到達目標】

農業や植物医科学における ICT の利用例をもとに実務的な知識を身につける。また、その基盤をなす情報科学の基礎知識を得る。特に、関連する情報の検索とその活用、ゲノム情報の活用、画像解析技術の活用について具体的な例を学びながら最新の知識を得る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【授業の進め方と方法】

<<授業実施方法の詳細等は学習支援システムを通じてお知らせします>>
情報科学の基礎と、画像解析技術の応用、農業や植物医科学における情報取得とその活用、遺伝子情報の植物医科学への応用などを順次学ぶ。授業の内容によって、コンピュータを持参し実際の作業を行う回も設定する。さらに、情報科学を活用することで、どのようなことが実現可能なのか、何がメリットで何が問題点なのか、今後農業や植物医科学にどのように活用できるのかを考える。また、データ解析の手法について簡単な演習を交えて解説する。区切りごとに課題を設定し提出させ、次の授業冒頭に解説を加えることでフィードバックをおこなう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	はじめに	授業の進め方、授業概要の解説などガイダンス
第 2 回	現代社会と情報科学	現代社会・特に農業関係で使われている情報技術・情報通信技術の概説
第 3 回	情報技術の発達史	コンピュータの歴史やインターネットの普及など情報技術発達の歴史
第 4 回	農業 ICT に必要な情報を取得する技術	フィールドサーバーやドローンなど現場からデータを取得する技術
第 5 回	農業 ICT で実際に現場作業する技術	無人トラクター、自動収穫機など
第 6 回	そのほか農業/植物医科学関連 ICT 利用	トレーサビリティなど
第 7 回	農業 ICT/植物医科学で用いるデータベース	病名目録、農業登録情報、その他オープンデータ紹介
第 8 回	植物医科学に用いられる遺伝子情報	ゲノム関連データベースの利用、AI 育種の紹介など
第 9 回	植物医科学で有用な website 等の紹介と活用	今昔の関連 website/商品等紹介、簡単な実際の検索/解析演習
第 10 回	植物医科学におけるデータベースの活用演習	PC/インターネットを用いて実際に植物医科学関連データベースを調査する
第 11 回	データ解析の手法（1）	データ解析の基礎となる統計処理
第 12 回	データ解析の手法（2）	統計処理に用いるソフトウェア
第 13 回	データ解析の手法（3）	画像解析技術の基礎と手法
第 14 回	総合討論	ICT と植物医科学の接点に位置する最新 Topics の解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】授業中に紹介したデータベースやシステム等を、復習の際に実際に使用し、利用するとともに、他の授業や実習の予習、復習の際に利活用することを心がける。

【テキスト（教科書）】

資料配布を基本とする。

【参考書】

授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

期末試験とレポート課題：80%、平常点 20%で総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

授業内容の理解を深めるために、実際に PC を利用した実習を活用する。

【学生が準備すべき機器他】

必要に応じて指示するので、PC を持参する。

【その他の重要事項】

民間企業に勤務した教員が、開発された新技術に関してビジネス的な観点も取り入れいち早く説明する。

【Outline (in English)】

【Course outline】

In this class, students study the technologies for data acquisition (field server, multirotor, next-generation sequencer, etc) and data processing (including the utilization of AI).

【Learning Objectives】

To obtain the ICT skills that can be used in the research works of clinical plant science and the clinical applications for the agriculture.

【Learning activities outside of classroom】

Browse the websites introduced in the class, try to find appropriate website for further information, and analyze the data obtained from the database.

【Grading Criteria /Policy】

Final evaluation will be decided according to; term-end examination and reports (80%) and in-class contribution (20%).

PPE300YD

植物感染生理学

鍵和田 聡

開講時期：春学期授業/Spring

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部公開科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要（オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする）

その他属性：〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

植物と病原体は様々な相互作用を行っており、病原体の感染戦略と植物の抵抗性の攻防の結果として植物病害が引き起こされる。その発生メカニズムを分子レベルで理解するとともに、植物の防御機構を利用した防除法についても学ぶ。

【到達目標】

植物の抵抗性と植物を加害する病原体の感染生理を分子レベルから理解する。これを通じて植物と病原体の攻防についての理解を深め、防除のための基礎的な知識とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【授業の進め方と方法】

授業計画に従って講義を行う。まず植物と微生物の関係について概説し、植物の抵抗性について述べる。次いで種々の病原体の感染戦略とそれに対する植物の防御応答について解説する。また、これを踏まえた上で防除戦略についてもいくつかの事例を紹介して考察する。内容について理解が進んでいるか数回行う確認テストで振り返ること。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて、あるいは授業内にて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	序論	植物感染生理学とは
第2回	植物と病原体	抵抗性と罹病性
第3回	植物の静的抵抗性	物理的、化学的抵抗性
第4回	植物の動的抵抗性（1）	抵抗性遺伝子、過敏感細胞死
第5回	植物の動的抵抗性（2）	抗菌性物質
第6回	菌類病の感染生理（1）	細胞壁分解酵素
第7回	菌類病の感染生理（2）	宿主特異的毒素
第8回	細菌病の感染生理（1）	侵入、認識、増殖
第9回	細菌病の感染生理（2）	発病因子、病原性遺伝子
第10回	ウイルス病の感染生理（1）	侵入、複製
第11回	ウイルス病の感染生理（2）	移行、ジーンサイレンシング
第12回	線虫病と害虫	適応、三者系、抵抗性
第13回	防除戦略（1）	プラントアクチベーター、生物防除
第14回	防除戦略（2）	分子育種

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】

毎回資料・ノートを復習し、深く理解したい点は適宜参考書を調べる。内容について理解が進んでいるか数回行う確認テストを活用して振り返ること。

【テキスト（教科書）】

授業支援システムにて参考資料を配布する。

【参考書】

「分子レベルからみた植物の耐病性」島本ら、秀潤社
その他、適宜内容に応じて講義中に紹介する。

【成績評価の方法と基準】

確認テストを含む平常点（約20%）、期末試験（約80%）により総合的に評価。

【学生の意見等からの気づき】

基礎的な点から丁寧に説明する。

【その他の重要事項】

オフィスアワーは履修の手引きを参照。

【Outline (in English)】

Plants and their pathogens are interacting in various ways, causing plant diseases as a result of battle between infection strategies of pathogens and plant resistance. Students understand their mechanisms at the molecular level and learn about the disease control method using the defense mechanism of plants. By understanding the resistance of plants and the infection physiology of pathogens at the molecular level, students deepen the basic knowledge to prevent the plant diseases. The standard study time for this class is four hours to understand the course content. Your overall grade in the class will be decided based on Term-end examination (80%) and in-class contribution (20%).

PPE300YD

植物臨床医科学

池田 健太郎

開講時期：春学期授業/Spring

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要（オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする）

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

植物病の実践的な診断および防除の事例、最先端の防除技術を学び、植物医師として問題解決に必要な不可欠な知識と技術を修得する。

【到達目標】

農業生産の現場で発生する頻度の高い植物病の診断方法、およびその発生生態に関する知識を身につける。また適切な防除対策を策定し、生産者へ提案、実践する技術を修得することを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【授業の進め方と方法】

生産現場で実際に発生した植物病の症例を写真で示し、診断のポイントを解説する。加えて、これまでの研究成果などから推察される発生生態を、図やイラストを用いて説明した後に、どのような防除対策が有効かを考察する。授業を復習する課題・レポートの提出は「学習支援システム」を通して行い、質問などの回答やフィードバックは授業内で共有する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	植物臨床医科学とは？	診断・防除対策の提案に必要な知識と技術
第2回	植物病の診断	圃場診断・植物体診断、問診や情報の活用
第3回	葉に発生する植物病（菌類）	灰色かび病、うどんこ病の診断・防除対策
第4回	葉に発生する植物病（細菌）	斑点性の細菌病、黒腐病の診断・防除対策
第5回	葉に発生する植物病（ウイルス）	葉に発生するウイルス病の診断・防除対策
第6回	法政大オリジナル万能防除剤の開発	本学科で行なっている新たな防除技術研究について
第7回	導管閉塞を伴う植物病（菌類1）	バーティシリウム属菌による土壌病害の診断・防除対策
第8回	導管閉塞を伴う植物病（菌類2）	フザリウム属菌による土壌病害の診断・防除対策
第9回	導管閉塞を伴う植物病（細菌）	土壌伝染する病原細菌による植物病の診断・防除対策
第10回	生物農薬開発の実際	実用化された生物農薬の開発経緯と社会への貢献について
第11回	菌核で伝染する植物病（菌類）	白絹病、菌核病などの診断・防除対策
第12回	根および地際部の植物病（菌類）	ピシウム属菌やリゾクトニア属菌による植物病の診断・防除対策
第13回	地上部に発生する植物病（生理障害・葉害）	気象要因や施肥に起因する生理障害、葉害の診断・対策
第14回	最新の診断技術の活用	AI（人工知能）やドローンによる診断技術研究について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】各講義の重要なポイントをまとめること。関連の課題に関して自己学習を行う。

【テキスト（教科書）】

講義ごとに資料を学習支援システムにアップする。

【参考書】

米山伸吾・根本久・上田康郎・都築司幸著『図説野菜の病気と害虫 伝染環・生活環と防除法』（農山漁村文化協会）

Gail L. Schumann・Cleora J. D'Arcy『Hungry Planet: Stories of Plant Diseases』（APS PRESS）

難波成任監修『植物医科学』（養賢堂）

【成績評価の方法と基準】

期末試験（50%）、課題・レポート（30%）、平常点（20%）で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

実際の農業生産現場で発生する植物病を授業の対象として、「植物臨床医科学」が単なる学問に終わらず、社会で役立つ知識や技術を習得できる授業となるように工夫する。

【学生が準備すべき機器他】

主にパワーポイント画面で講義を進める。

【その他の重要事項】

国内外の農業生産現場で植物保護の研究・指導に携わった教員が、植物病の診断や防除対策の策定を行う上で、特に重要と考えられる知識・技術を講義する。

【Outline (in English)】

Students will learn practical cases of diagnosis and control of plant diseases, and study skills essential for problem-solving as plant doctors. The goal of this course is to acquire diagnostic methods and knowledge of the life cycle of plant diseases that frequently occur in agricultural production. In addition, the objectives are to gain the ability to choose and determine the best disease control measures based on the life cycle of plant diseases and to acquire the skills to propose and implement such measures to growers.

Grades will be based on the final exam (50%), assignments and reports (30%), and regular marks (20%).

PPE300YD

生物制御化学

中牟田 潔

開講時期：秋学期授業/Fall

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部公開科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要（オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする）

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

昆虫はさまざまな化学物質を用いて、体内環境を維持するとともに、同種個体間や異種個体間のコミュニケーションを行っている。本授業では昆虫をおもな対象として、ホルモンなどが体内環境をどのように維持するのか、さらに信号化学物質（セミアケミカル）がコミュニケーションをどのように仲介しているのか、また、それらの物質を利用した害虫管理について理解する。

【到達目標】

到達目標を以下の4つにおく。①昆虫のイメージを正しく把握して昆虫に親しみを持てるようにする。②昆虫の摂食、成長、繁殖、休眠など基本的な生物現象が、ホルモンやセミアケミカルによる化学的制御によって成り立っていることを知る。③昆虫の種内・種間コミュニケーションに関わるセミアケミカルの化学と働きを理解する。④セミアケミカルの利用による害虫制御を理解し、持続可能な農業に寄与していることを知る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【授業の進め方と方法】

昆虫をおもな対象として、「到達目標」を達成できることを念頭においた講義を主体とする。

理解の助けとして、多様性の高い昆虫のイメージ造りに役立つスライド画像や動画などをできるだけ活用する。また、研究の実際をイメージできるように、授業に関連して教員自身が直接・間接に経験した研究事例を随時織り込んでわかりやすく紹介する。

課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	序論	本授業で扱う「生物制御化学」とは何かを、制御主体（生物およびヒト）から考える。
第2回	化学物質による生理・生態の制御	昆虫に限らず、生物には細胞間、個体間、異種個体間など、さまざまなレベルで化学コミュニケーションが存在することを知る。
第3回	セミアケミカル(1)：フェロモンとアレロケミカル	セミアケミカルは個体間の化学コミュニケーション言語であり、①同種個体間で作用するフェロモン②異種間で作用するアレロケミカルよりなることを知る。
第4回	セミアケミカル(2)：方法論	セミアケミカルの機能や化学構造を明らかにするための、生物学的的手法および有機化学的手法、さらに両者を組み合わせた手法を知る。
第5回	植食性昆虫の寄主探索におけるセミアケミカル	植物を餌とする昆虫が寄主植物を探索・発見する過程には様々なセミアケミカルが関与していることを知る。

第6回 種間関係を仲介する炭水素

昆虫の体表にある脂質は乾燥や病原菌の感染を防ぐ働きをもつが、体表炭水素が共生者の認識や捕食者を避けるためのカムフラージュなど種間関係を仲介していることを知る。

第7回 中間まとめ

ここまでの授業の理解度をテストする

第8回 フェロモン(1)：機能によるフェロモンの分類

フェロモンは受容後の情報伝達経路によって①「プライマーフェロモン」：ホルモ的な経路（階級分化など）②「リリーサーフェロモン」：神経的な経路（性誘引、警報、集合など）に分けられることを知る。

第9回 フェロモン(2)：合成フェロモンの利用

合成性フェロモンの害虫防除への利用には、①モニタリング、②大量誘殺、③誘引・殺虫、④交信かく乱があることを知る。

第10回 フェロモン(3)：「フェロモン剤抵抗性」の出現

交信かく乱法において最も注目すべき課題：静岡県下で茶樹害虫「チャノコカクモンハマキ」で確認された「フェロモン剤抵抗性」は世界で唯一の事例であり、解決策も見いだされたことを知る。

第11回 フェロモン(4)：侵略的外来アリの制御化学

わが国で問題のアルゼンチンアリ、ヒアリ、アシジロヒラフシアリの3種を取りあげ、生態とアリ用ベイト剤による防除、ならびにアルゼンチンアリにおける道しるべフェロモン剤によるユニークな交信かく乱防除の試みを紹介する。

第12回 アレロケミカル(1)：シノモン植物-植食者-天敵の三者間相互作用

信号を発する種、それを受け取る種の双方にとって有利な相互作用を仲介するシノモンを、植物-植食者-天敵の関係を例に知る。

第13回 アレロケミカル(2)：アロモンとカイロモン

昆虫は化学物質を用いて自己の防衛を行っている。これらの物質はアロモン的一种である。また、昆虫の中には他の生物が出す化学物質を感知し、自己に有利な物質として利用している（カイロモン）。ここではアロモンとカイロモンの例を紹介する。

第14回 期末まとめ

授業の理解度をテストする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】
1. 受講前および受講期間中に教科書などで次の分野の基礎を学んでおく：「有機化学」、「昆虫学」、「植物学」

【テキスト（教科書）】

教科書は不使用：毎回の講義時に用いる資料は学習支援システムにアップロードする。

【参考書】

- 「最新応用昆虫学」田付・河野編著、朝倉書店、2009
- 「昆虫生理生態学」河野・田付編著、朝倉書店、2007
- 「化学生態学への招待」古前恒監修、三共出版、1996
- その他、講義において随時紹介する。

【成績評価の方法と基準】

中間まとめ、期末まとめにて実施する試験によって「到達目標」に掲げた3つの項目ごとに基本的な事項の理解ができているかどうかを評価する

要素ごとの配分と評価基準

- ・ 中間試験、期末試験 (それぞれ 45%): 得点による
- ・ 平常点 (10%): 授業への参加姿勢

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

資料配布・課題提出等のために学習支援システム等を利用する。

【Outline (in English)】

The lectures for this course will encompass concepts of insect physiology and chemical ecology and their application for insect pest management. Students will understand the function and chemical structure of hormones that regulate the condition of the body. And they also understand “pheromones” which mediate intraspecific communication and “allelochemicals” mediating interspecific communication. Furthermore, students will understand the application of semiochemicals in insect pest management.

Your study time will be more than four hours for a class. Your overall grade in the class will be decided based on the following: Mid-term examination: (45 %) Term-end examination: 45 %, and in-class contribution (10%).

PPE300YD

植物医科学法論

福盛田 共義

開講時期：春学期授業/Spring

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部公開科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要（オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする）

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

- 1 植物医科学、植物防疫の考え方を理解し、関連の法制度について知る。
- 2 植物医科学、植物防疫をめぐる国際的な動きを理解する。
- 3 病害虫および鳥獣による被害とその防除について知る。
- 4 農業に関する行政制度、安全性確保対策について知る。
- 5 植物検疫制度とその実施について知る。

【到達目標】

植物医科学、植物防疫に関する基本的な考え方及び知識を身につける。植物防疫制度、農業取締制度及びリスクアナリシスの基礎的な概念について理解し、説明できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【授業の進め方と方法】

講義（対面授業）を中心とし、機会に応じ DVD など視聴覚機材を使用する。授業の中で2回的小レポート課題を実施する。

講義資料及び小レポート課題は学習支援システムにも掲載する。

第14回目の授業において、まとめと試験を行う。

なお、フィードバック方法として、第14回目の授業において、それまでの授業の中で行った小レポート課題に対する講評・解説を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1 回目	植物医科学と植物防疫	植物医科学と植物防疫の基本的な考え方、植物防疫を支える組織、関係法令、国際条約。
2 回目	植物医科学と関係法令	植物防疫法、農業取締法の概要。
3 回目	植物医科学とリスクアナリシス	SPS 協定、リスクアナリシスの概念、食品安全分野及び植物防疫分野への適用。
4 回目	総合防除と発生予察	防除を巡る現状と課題、総合防除（基本方針・計画）、発生予察、指定有害動物植物、発生予察情報の種類と実際。
5 回目	有害動物植物の防除 1	都道府県の防除（防除基準、防除暦、要防除水準）、最近の病害虫の発生動向、多様な防除手法。
6 回目	有害動物植物の防除 2	総合的病害虫・雑草管理（IPM）、農林航空事業、薬剤抵抗性対策。
7 回目	有害動物植物の防除 3 及び小レポート課題①	マイナー作物向け防除対策、農産物輸出促進のための防除対策、野生鳥獣被害防除対策。 あわせて、総合防除、発生予察等の防除に関するレポート課題①の提示。
8 回目	農業	農業の歴史、農業の生産・開発の動向、農業取締制度の歴史、農業取締法の規定のポイント。
9 回目	農業の安全性 1	リスクアナリシスの農業安全性への適用、ポジティブリスト制度。
10 回目	農業の安全性 2	農業の登録審査、登録拒否の基準、表示制度、使用規制、適正使用に係る各種施策。
11 回目	植物検疫 1	植物検疫の歴史、輸入植物検疫。
12 回目	植物検疫 2 及び小レポート課題②	輸出検疫、国内検疫（種苗の検査、移動規制、侵入調査）、緊急防除。 あわせて、農業安全性及び検疫に関するレポート課題②の提示。
13 回目	植物検疫 3	輸出入木材梱包材の検査、船舶の検査、車両の検査等多様な植物検疫、植物検疫リスク管理情報の収集・分析。
14 回目	植物医科学法論のまとめ、小レポート課題の解説 及び 期末試験	講義全体の総括、2 回的小レポート課題の講評・解説、及び、期末試験の実施。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】

次回講義のテーマに関連する農林水産省、厚生労働省、食品安全委員会等のホームページや、参考資料の該当部分のみておくこと。

また、毎回の授業後、教材を十分に復習しておくこと。関連する新聞報道等に注意を払って調べてみる。2 回的小レポート課題に対応すること。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。

毎回、教材プリントを配布する。

あわせて、教材を学習支援システムにも掲載する。

【参考書】

農業概説 2022（日本植物防疫協会）

【成績評価の方法と基準】

2 回的小レポート課題で 40%、試験で 60% の評価配分とする。

【学生の意見等からの気づき】

「社会で活かせる植物医科学」の観点から、適宜、病害虫防除、農業安全性確保及び植物検疫に関する現場での実例、国の政策の動き、国際的な動向等を紹介して、理解を深めてもらえるよう工夫する。

【Outline (in English)】

【Course outline】

This course deals with the basis of Plant Protection Act, Agricultural Chemical Regulation Law, Food Sanitation Act and Food Safety Basic Law.

Also, this course introduces the concept of Risk Analysis about Food Safety and Pest Risk Analysis to students.

【Learning Objectives】

At the end of the course, students are expected to be able to explain the system of Plant Protection, Agricultural Chemical Regulation and Risk Analysis.

【Learning activities outside of classroom】

Before/after each class meeting, students will be expected spend four hours to master the course content.

【Grading Criteria/Policy】

Final grade will be decided based on term-end examination (60%) and short reports (40%).

PPE300YD

ポストハーベスト論

廣岡 裕吏、宮ノ下 明大

開講時期：秋学期授業/Fall

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要（オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする）

その他属性：〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

青果物の生理的品質劣化やカビ・害虫による被害について理解し、品質を維持するための流通、貯蔵、防除技術を学ぶことを目的とする。

Term-end examination: 80%、in class contribution: 20%

【到達目標】

青果物の生理的品質劣化やカビ・害虫による被害の現状を理解する。そして、その予防、防除に関する技術、方法を学ぶ。また、青果物の商品価値とそのコストとのバランス、穀物病害虫を中心とした植物検疫の現状を踏まえて理解し、食品安全に関わる考え方を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【授業の進め方と方法】

授業は主に小テストやリアクションペーパー等を用いながら、パワーポイントを使って行う。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」や授業内で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス/青果物の品質と機能	青果物の品質と機能
第 2 回	ポストハーベストと害虫①	ポストハーベストと害虫：植物検疫の目的としくみ
第 3 回	ポストハーベスト害虫②	米の害虫と防除法
第 4 回	ポストハーベスト害虫③	貯蔵害虫の新しい殺虫技術：高圧炭酸ガス・低エネルギー電子線
第 5 回	ポストハーベスト害虫④	チョコレート・カップ麺製品の害虫と侵入防止法
第 6 回	ポストハーベスト害虫⑤	香辛料の害虫と侵入防止法
第 7 回	食品に対する異物混入⑥	粉体食品の害虫とアレルギー
第 8 回	植物検疫の現場と害虫問題	中国への精米輸出とカツオブシムシ、ペルー産マンゴウの輸入解禁
第 9 回	青果物の品質変化①	生理的な 4 つの要因
第 10 回	青果物の品質変化②	青果物の輸送・貯蔵方法
第 11 回	青果物の品質変化③	品質保持能力の高い青果物の作出と青果物の品質を保つ加工
第 12 回	ポストハーベストとカビ①	カビによる腐敗
第 13 回	ポストハーベストとカビ②	カビ毒
第 14 回	ポストハーベストとカビ③	カビとその診断・予防・防除

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】授業で行われる小テストの内容はその回の重要事項であり、小テスト問題を中心に授業内容を復習することが望ましい。また、スーパーマーケット等に陳列されている青果物やその包装形態は、本講義で紹介する身近な品質保持のための実例であり、買い物の際などに観察するとよい。

【テキスト（教科書）】

講義時に資料を配布する。定められた教科書は使用しない。

【参考書】

開講時に紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（約 20%）、課題や試験（約 80%）により総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

毎回の小テストはその日の授業のポイントがわかると好評である。また、授業の前に前回の復習の時間を確保することで、授業内容の理解が深まるとのコメントが多い。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire knowledge for the distribution, storage and control technique to maintain good quality of harvested fruits, vegetables and crops from physiological deterioration, fungi and pests. The goals are to receive the knowledge of these studies. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Your overall grade in the class will be decided based on the following

PPE300YD

植物生理病学

佐野 俊夫、亀和田 國彦

開講時期：春学期授業/Spring

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要（オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする）

その他属性：〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

植物生理病（生理障害）の具体例とそれを引き起こす環境要因を学ぶ。そして、植物生理病の診断方法およびその対処方法に関する知識を習得する。植物病には菌類などの伝染性病原体による病気のほかに、不適切な生育環境（土壌、大気、水分、農業など）を原因とする生理障害（生理病）がある。本講義では、植物栄養学、肥料学の内容をベースに、過不足により生理障害の原因となる土壌無機栄養素の性質と植物体内での利用について主に佐野が、これらの障害を引き起こす環境要因（土壌汚染、水質汚染、大気汚染）について主に亀和田が解説する。

【到達目標】

各肥料要素の過不足による植物生理障害症状を理解する。また、各肥料要素が植物にどのように取り込まれ、利用されるかを学ぶことで、肥料バランス感覚を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【授業の進め方と方法】

講義形式の授業形態ですが、穴埋め式テキストを配布し、ヒントを出しながらみなさんに穴埋め部分を回答してもらっています。

また、授業終わりに小テストを行い、その授業のポイントの復習に充てているので、小テストを学習支援システム課題欄に提出してください。翌週の授業時に小テストの解説をします。

課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」や授業内でおこないます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	生体を構成する元素	必須元素と必須微量元素
第2回	生体膜の性質	膜輸送タンパク質の構造と機能
第3回	土壌無機栄養素（1）	窒素の吸収と代謝
第4回	土壌無機栄養素（2）	リンの吸収と代謝
第5回	土壌無機栄養素（3）	カリウムの吸収と利用
第6回	土壌無機栄養素（4）	カルシウムの吸収と利用
第7回	土壌無機栄養素（5）	マグネシウムの吸収と利用
第8回	植物生理障害を引き起こす環境要因（1）	土壌汚染と生理障害
第9回	植物生理障害を引き起こす環境要因（2）	水質汚染と生理障害
第10回	植物生理障害を引き起こす環境要因（3）	大気汚染と生理障害
第11回	土壌無機栄養素（6）	イオウ、鉄の吸収と利用
第12回	土壌無機栄養素（7）	微量元素の欠乏・過剰と生理障害
第13回	土壌無機栄養素（8）	ホウ素、ケイ素の利用とアクアポリン
第14回	土壌無機栄養素（9）	アルミニウムと塩ストレス

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】

授業毎に行われる小テストの内容はその回の重要事項であり、小テスト問題を中心に授業内容を復習することが望ましい。また、家の周りや通学途中で見かける畑等の作物には本講義で紹介する生理障害が生じている可能性があり、休日や大学への行き帰り等に観察するとよい。

【テキスト（教科書）】

講義時に資料を配布する。定められた教科書は使用しない。

【参考書】

原色 野菜の要素欠乏・過剰症 渡邊和彦 農文協

植物生理学 第2版 三村徹郎 化学同人

【成績評価の方法と基準】

期末試験 72%、毎回の講義時に行う小テスト 28%、で評価する

【学生の意見等からの気づき】

穴埋め式のテキストを用いて授業中に学生に回答させること、毎回の小テスト結果を翌週に講評することは授業内容の理解が深まる、と好評であったため、今年度も継続する予定である。

【学生が準備すべき機器他】

講義資料をPDFで配布するので、パソコンやスマホを持参して講義中に資料を参照してください。また、穴埋め部分の解答を記載するために、配布資料のコピーやノート等があると便利です。

【Outline (in English)】

In this lecture, we first learn environmental factors causing plant physiological diseases (physiological disorders), and then, diagnostic methods for these disorders.

Your study time will be more than four hours for a class.

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Term-end examination: 72 %, Short reports given during each class: 28%.

ASS100YD

国際食料需給論

鶴岡 康夫

開講時期：春学期授業/Spring

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要（オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする）

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

食料は、生命維持のためだけでなく、健康的で文化的な生活を営むうえで欠かせない要素である。しかし、世界の食料需給は不均衡状態にあり、食料の分配も偏在的である。そこで本講座では、日本を含む世界の食料需給の動向を概観した後、農産物や食品の流通や貿易、今日の食料をめぐる課題について検討し、理解を深めていく。

【到達目標】

- ①統計資料をもとに、日本および世界の食料問題について自ら考察し、論理的に説明できるようになる。
- ②日本を含む世界全体における食料問題の現状について理解を深め、問題点を指摘できるようになる。
- ③食料需給とそれに影響を及ぼす要因の因果関係を説明できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【授業の進め方と方法】

担当者による講義形式で進める。授業では、適宜資料を配布する。また、授業内で適宜、質問を受け付けるほか、課題やレポートの解説・講評を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の目的、フードシステム、複合的食料危機
第2回	食料需要 ①人口	人口の変化と予測
第3回	食料需要 ②経済、所得	経済成長、消費構造の変化、南北問題
第4回	食料供給 ①農地面積	農地面積の変化と予測
第5回	食料供給 ②作物収量	技術革新、育種、緑の革命、気候変動
第6回	三大穀物の需給状況	国別・地域別需給状況、エネルギーへの転換、将来予測
第7回	食料貿易	食料貿易の規模・影響力、不均衡問題
第8回	不確実性と食料需給 ①気候変動、環境資源	気候変動の影響、土壌・水環境・エネルギー資源の影響
第9回	不確実性と食料需給 ②世界情勢変動	世界情勢変動の影響
第10回	安全保障と食料生産	食料政策
第11回	日本の食料需給 ①生産の変化	食料自給率低下の過程と要因
第12回	日本の食料需給 ②消費の変化	家計消費の変化、食の外部化
第13回	日本の食料需給 ③政策の変化	国内政策と自給率、安全保障
第14回	まとめ	講義内容の振り返り、食料需給の課題と新たな動向

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習に2時間、復習に2時間を目安とし、

1. 参考書等で講義内容に該当する部分を読み返し、基礎知識を理解する。

2. 新聞、ニュース、文献を参照し、現実の問題や社会の動向を理解する。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

初回講義時に詳細を紹介するが、以下に一例を挙げる。

- ・高橋正郎・清水みゆき（2016）『食料経済（第5版）』オーム社
- ・業師寺哲郎・中川隆（2019）『フードシステム入門』健帛社
- ・時子山ひろみ・荏開津典生・中嶋康博（2019）『フードシステムの経済学（第6版）』医歯薬出版

【成績評価の方法と基準】

小テスト数回（30％）と、期末試験（70％）を総合し、評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

特になし。

【Outline (in English)】

Food is essential not only to sustain life but also to allow us to have a healthy and cultural life. However, the supply and demand for food remain unbalanced, and food distribution is uneven. In this class, we will survey the trends in food supply and demand in different countries, including Japan. We will then examine food issues, especially focusing on food distribution and international trade in agricultural products. Students in this class will be graded based on the following sum: several mini-tests (30%) and a final exam (70%). To earn credits, students are required to read a newspaper or watch TV programs, have an interest in real issues and social trends about global food demand and supply before each meeting, and also to review contents of each class with the use of reference books to promote understanding basic knowledge after each class.

PPE100YD

植物管理技術論

松崎 守夫、山口 弘道

開講時期：春学期授業/Spring

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部公開科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要（オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする）

その他属性：〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、普通作物の栽培を中心とした農学の基礎的な知識を学ぶ。一般的な知識として、作物の生活史、収量形成過程等について学ぶ。その後、各作物の栽培、利用等について学ぶ。

【到達目標】

作物生産、収量形成等に共通する知識を学ぶ。さらに、イネ、麦類、豆類等の作物の特性、栽培法や、それらと関連した品質、機械、土壌肥料等の知識についても学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【授業の進め方と方法】

講義により授業を行ない、毎回授業後に小テストを行なう。小テストの提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う。評価は、平常点、学期末テストにより行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	全体の構成説明
2	序論・作物生産概論	栽培学的重要性と、作物の種類、形態、生活史等の生理的側面
3	収量形成概論	収量形成過程の考え方と調査方法
4	イネの生理生態	イネの形態、生活史、生理的特性等
5	イネの栽培1	イネの栽培管理等
6	イネの栽培2	米の品質・利用、その他（飼料用イネ、直播栽培等）
7	耕地利用概論	環境、作付体系が作物生産に及ぼす影響
8	麦類	麦類の種類、品種、生理と栽培・利用
9	豆類	豆類の種類、品種、生理と栽培・利用
10	イモ類	イモ類の種類、品種、生理と栽培・利用
11	工芸作物	主要な工芸作物の種類と特徴、栽培法等
12	雑穀・飼料作物	トウモロコシを中心とした雑穀、飼料作物について
13	総合まとめ	講義全体のまとめ
14	まとめ	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】授業と関連する知識の習得に努めること。

【テキスト（教科書）】

講義ごとに資料を配布する。

【参考書】

農学基礎セミナー 新版作物栽培の基礎(堀江武編著), 農文協

【成績評価の方法と基準】

平常点 40 %、学期末テスト 60 %として総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

毎回の授業で小テストを行うようにする。

【Outline (in English)】

We learn agricultural knowledge mainly on the cultivation of common crop. As general knowledge, we learn about the crop's life cycle, yield formation and etc. For each crop, we learn about cultivation, use and etc.

Your study time will be more than four hours for a class.

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Short reports given during each lecture: 40 % and Term-end examination: 60 %.

BOA100YD

基礎植物害虫学

大井田 寛

開講時期：秋学期授業/Fall

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部公開科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要（オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする）

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

農耕地に栽培される農作物や森林、都市空間などに植栽される樹木、草花に被害を引き起こす害虫の分類、生理、生態などについて学習し、植物医科学が目指す植物病の診断と防除に携わる者や、技術士、樹木医、自然再生士に必要とされる、害虫に関する基礎的な知識を習得する。

【到達目標】

植物病の診断と防除に携わる者や、技術士、樹木医、自然再生士としての活動する者に不可欠な、害虫に関する幅広い知識を身につける。診断の基礎となる害虫の形態や分類学的位置を理解できるほか、各種防除技術の根拠となっている害虫や天敵の生理・生態に関する基礎知識を習得できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【授業の進め方と方法】

内容を理解しやすいよう、写真や図表を多く提示しながらスライドを用いて解説する。適宜関連資料を配布し、講義終了後も確認できるようにする。課題や質問等へのフィードバックは、主に今回の授業の冒頭に全員が確認・共有できる形で実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンスおよび植物害虫の概説	科目の内容や進め方を紹介。また、植物害虫全般について概説
第2回	昆虫類の進化と繁栄	昆虫がどのように進化してきたか、今日の繁栄をもたらした原因
第3回	昆虫類の外部形態	分類の基礎となる昆虫の外部形態
第4回	昆虫類の内部形態	昆虫の生理等に関連する内部形態
第5回	昆虫類の分類	有害・有益動物（線虫、ハダニ等も含めた害虫の分類学的位置）
第6回	昆虫類の擬態、昆虫類の発育	昆虫の擬態、昆虫の発育（脱皮、変態）、呼吸、神経
第7回	昆虫類の生殖	昆虫の生殖様式、生殖戦略
第8回	昆虫類の食性	昆虫の植生の多様性、摂食、栄養
第9回	昆虫類の生理	昆虫の感覚、情報伝達物質（ホルモン、フェロモン）
第10回	昆虫類の生理	昆虫の環境適応、休眠
第11回	昆虫類の行動	昆虫の日周性、習性
第12回	昆虫類の個体群動態	昆虫の個体群密度の増殖、変動、密度効果
第13回	昆虫類の相互作用	生態系における昆虫群集、生物間相互作用（寄生、捕食、競争）
第14回	まとめ、試験	全体のまとめ、確認試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】
特に予習は必要としないが、専門用語などについては、参考書、配布資料などを用いてしっかり復習する。課題に関しては図書館にある関連図書やwebサイトで調べ、授業中に学んだことを十分理解できるように心がける。

【テキスト（教科書）】

最新の知識を伝えるため、必要に応じて資料を配布する。

【参考書】

石川幸男・野村昌史編 応用昆虫学（朝倉書店）
後藤哲雄・上遠野富士夫編 農学基礎シリーズ 応用昆虫学の基礎（農山漁村文化協会）

【成績評価の方法と基準】

期末試験の成績で50%、レポートなどで40%、平常点10%（対面授業において）で評価する。期末試験は、毎回の講義の理解度と、総合的な理解度を問う。ただし、オンライン授業となった場合には、別途評価方法と基準を周知する。オンラインでのリアルタイム配信の場合、参考としてチャット機能で欠確認する。

【学生の意見等からの気づき】

写真や図表を取り入れた授業スライドが概ね好評であるため、今年度も同様に実施する。

【その他の重要事項】

植物病の診断に携わる者は病気と害虫についての幅広い知識を習得しておくことが重要であるため、多くの学生が履修することを期待する。また、害虫防除について解説する応用植物害虫学を理解するために、履修することを推奨する。なお、自然再生士補の資格を得たい学生は、できるだけ履修されたい。

【Outline (in English)】

This course deals with classification, physiology and ecology of agricultural pests. It also enhances the development of students' skill in diagnosis of plant damages caused by pests as plant clinical scientists.

The goal of this course is to acquire knowledge about pests, which is essential for those who are involved in the diagnosis and control of plant diseases and those who work as engineers, arborists, and natural regeneration specialists. Through this class, students will understand the morphology and taxonomic position of pests, which are the basis for diagnosis, and acquire basic knowledge of the physiology and ecology of pests and natural enemies, which are the basis for various control techniques.

Students are not required to prepare for the class, but are expected to review technical terms using reference books and handouts. For assignments, refer to the relevant books in the library and websites, and try to fully understand what you have learned in the class. Your study time will be more than four hours for a class.

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination: 50%, Short reports : 30%, attend classes: 20%

ASS100YD

グリーン経済学

鶴岡 康夫

開講時期：秋学期授業/Fall

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部公開科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要（オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする）

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

環境問題はますます深刻さを増し、私たちの生活の様々な部分に影響を落としている。特に、食料生産は自然環境に影響される部分も多く、喫緊の課題と言える。そこで本講義は、環境経済学の視点から、その基礎理論を講義後、代表的な個別問題を取り上げ、原因・現状・施策等を概観していくことで、環境問題への理解を深めていくことを目的とする。

【到達目標】

1. 環境経済学の基礎理論を理解し、それをを用いて個別の問題を考察できるようになる。
2. 環境問題に関する最新情報や施策などを知り、自然科学および社会科学の両視点から考察し、自らの見解を述べられるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【授業の進め方と方法】

担当者による講義形式で進める。授業では、適宜資料を配布する。また、授業内で適宜、質問を受け付けるほか、課題やレポートの解説・講評を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の目的、生活と環境、グリーン経済
第2回	環境問題 ①環境問題の歴史	環境問題の歴史的経過と動向
第3回	環境問題 ②環境問題の現状	資源循環、地球温暖化問題、再生可能エネルギー
第4回	環境問題発生メカニズム ①環境と経済	環境経済学について
第5回	環境問題発生メカニズム ②外部経済と市場の失敗	外部経済について、市場の失敗について
第6回	環境問題の経済的手段 ①損害賠償責任、直接規制	汚染者の責任、直接規制について
第7回	環境問題の経済的手段 ②環境税と補助金	環境税について、補助金について
第8回	環境問題の経済的手段 ③排出権取引	排出権取引について
第9回	環境問題と企業	企業のSDGs、社会的責任、ESG
第10回	環境政策	ポリシーミックス、グリーン経済への移行
第11回	環境問題と農業 ①農業生産と食料と環境	Green feeding・エコラベル
第12回	環境問題と農業 ②環境保全型農業	環境保全型農業の現状と課題
第13回	環境問題と農業 ③農業の多面的機能	農業の多面的機能とその評価事例
第14回	まとめ、今後の動向	グリーンイノベーション、グリーン成長戦略

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】
予習に2時間、復習に2時間を目安とし、

1. 参考書等で講義内容に該当する部分を読み返し、基礎知識を理解する。
2. 新聞、ニュース、関連する文献を参照して、現実の問題や社会の動向を考える。

【テキスト（教科書）】

指定なし。

【参考書】

初回講義時に詳細を紹介するが、以下に一例を挙げる。
・三橋規宏（2013）『環境経済入門（第4版）』日本経済新聞出版
・日引聡・有村俊秀（2002）『入門 環境経済学』中公新書
・栗山浩一・馬奈木俊介（2020）『環境経済学をつかむ（第4版）』有斐閣

【成績評価の方法と基準】

平常点（10%）の取得を前提とし、小テスト数回（20%）、及び期末試験（70%）を総合し評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

特になし。

【Outline (in English)】

We face today global environmental problems such as global warming that cannot be addressed by one country alone; international cooperation is necessary. The purpose of this course is to therefore survey the history of environmental issues and their current status and to understand the international measures to tackle them, with a focus on global conventions.

As such, students are required to read a newspaper or watch TV programs and have an interest in real issues and social trends about global food demand and supply before each meeting, and also to review contents of each class with the use of reference books to promote understanding basic knowledge after each class. In addition, Some of the material in this class will be explained using high school level mathematics, therefore students who are terrible at the subject should revise beforehand.

Finally, Students in this class will be graded based on the following sum: several mini-tests (30%) and a final exam (70%).

AGC100YD

植物栄養学

亀和田 國彦

開講時期：春学期授業/Spring

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部公開科目履修制度で履修する学生

生：教員の受講許可が必要（オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする）

その他属性：〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

人類を含めて動物は、エネルギーの獲得およびその他の栄養素の多くを食料として植物に依存しています。植物が必要とする栄養素「植物栄養」は、植物の健全な生育を確保するため、最も基本的な環境要因です。

植物の必須元素として 17 元素が知られ、炭素、水素および酸素以外の 14 元素は根を介して土壌から吸収されます。本科目では、それら元素の植物体内での機能や根による吸収過程について学びます。その上で、植物栄養面から植物生育を評価し、またはコントロールするため、植物生育と植物栄養との関わりと管理手法を学びます。

【到達目標】

植物が生育するために必要な 17 種の必須元素の機能を光合成や体内代謝の植物生理的現象と関連づけて学び、理解します。また、植物根による養水分吸収機作と各種養分の土壌中での動態を学び、植物生育のコントロールのための、養水分管理の考え方や方法を理解します。

栄養成分の欠乏や過剰による植物生育の障害は植物病と同程度に重要です。それら障害の発生を土壌中での各養分の挙動に関連づけて理解し、植物医科学分野に必要な知識を習得します。

さらに、植物を中心とした地域生態系での物質循環を学び、植物の生育と環境保全の両面を維持するための地力保全のあり方を考えます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【授業の進め方と方法】

パワーポイントと板書による基本的な講義。

対面授業とオンデマンド授業を組み合わせる。

学習支援システムにより、資料を提供する。

対面授業ではリアクションペーパー、オンデマンドでは授業レポートの提出を求める。

課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	植物と植物栄養	植物栄養学の発展 植物の構造の概観 無機栄養概観
第 2 回	植物による水の吸収	植物根の構造 根による水分吸収と体内での輸送 水と植物細胞 植物の水収支 土壌-植物-大気連続体
第 3 回	植物による養分吸収と物質輸送	根と土壌 根圏 受動的および能動的輸送 養分の膜を介したイオン輸送 篩部転流 ソースからシンクへの輸送様式 光合成産物の分配
第 4 回	窒素とイオウ	土壌および環境中の窒素 窒素の生理機能 硝酸とアンモニウムイオンの同化 タンパク質の分解と合成 共生窒素固定 硫酸イオウの吸収と同化 イオウの生理機能 窒素の過剰と欠乏 イオウの過剰と欠乏
第 5 回	リン	土壌中のリン リンの吸収と輸送 リンの同化と生理機能 体内代謝と移行 ミコリザ リンの過剰と欠乏
第 6 回	カリウムとナトリウム	カリウムの吸収と生理機能 カリウムの過剰と欠乏 ナトリウムの吸収と生理機能

第 7 回	カルシウムとマグネシウム	カルシウムの吸収と生理機能 カルシウムの過剰と欠乏 マグネシウムの吸収と生理機能 マグネシウムの過剰と欠乏
第 8 回	微量元素 1	鉄の吸収と移行 鉄の生理機能 ホウ素の吸収と移行 ホウ素の生理機能 マンガン モリブデン
第 9 回	微量元素 2	ニッケル 亜鉛 銅および塩素の吸収と生理的機能 微量元素の過剰と欠乏
第 10 回	有用元素	ケイ素の吸収と移行 ケイ素の生理機能 ケイ素集積 酸性土壌とアルミニウム毒性 植物のアルミニウム耐性
第 11 回	土壌溶液と養液栽培	土壌溶液イオン組成 溶液栽培のイオン組成 栄養診断 土壌診断
第 12 回	肥料	化学肥料の種類と性質 有機質肥料 肥料取締法
第 13 回	施肥	植物による養分吸収速度 施肥法
第 14 回	物質循環と環境	地域環境 農業環境 地球環境における植物栄養を中心とした物質循環（炭素、窒素、リン、カリウム） 塩類集積や重金属汚染に対する植物の反応

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】講義ノートと参考書をもとに、講義内容を復習。

【テキスト（教科書）】

なし

【参考書】

植物栄養学 第 2 版 間藤・馬・藤原編、文永堂出版、2011
新植物栄養・肥料学 米山・長谷川・関本・牧野・間藤・河合著、朝倉書店、2012
植物生理学・発生学 リンカーン・テイツ、エドゥアルド・ザイガー、イアン・M・モラー、ガス・マーフィー編集、講談社、2017

【成績評価の方法と基準】

期末試験 50%、リアクションペーパーおよび授業レポートによる平常点 50% による総合評価とする。

【学生の意見等からの気づき】

毎回提出の小レポートで質問や提案を受け、できる限り次の授業までに回答し、次の授業に反映する。

【その他の重要事項】

秋学期開講の土壌科学を併せて受講するとより、理解が深まる

【Outline (in English)】

【Course Outline】

Animals as well as human rely on plants for food for energy and many other nutrients. The "plant nutrition" required by plants is the most basic environmental factor to ensure the healthy growth of plants.

As a plant nutrition, 17 essential elements are known, and 14 elements other than carbon, hydrogen and oxygen are absorbed from soil through roots.

You understand the functions of the 17 essential elements required for plant growth in relation to plant physiologic phenomena such as photosynthesis and metabolism in the body. You will learn the mechanism of nutrient absorption by plant roots and the dynamics of nutrients in soil, and understand the concept and method of nutrient water management for plant growth control.

【Learning Objectives】

The disorders of plant growth due to deficiency or excess of nutrients is as important as plant disease. Understand the occurrence of these disorders in relation to the behavior of each nutrient in the soil, and acquire the knowledge necessary for the field of botanical science.

Furthermore, you will study the nutrient cycle in the regional ecosystem centered on plants, and consider the ideal way of soil conservation to maintain both the growth of plants and environmental conservation.

[Learning activities outside of classroom]

Review the lecture contents based on the lecture notes and reference books. 4 hours is the standard for out-of-class learning such as preparation and review of this class.

[Grading criteria / policy]

The grading is by a comprehensive method based on 60% of the final exam and 40% of the normal score including the reaction paper submitted each time.

BOA200YD

応用植物害虫学

大井田 寛

開講時期：春学期授業/Spring

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要（オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする）

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

植物医科学として必要なことは、的確な診断と防除である。防除には農業や天敵など色々な手段が用いられるが、近年は、環境負荷の小さい方法として、複数の手段を合理的に組み合わせた総合的病害虫・雑草管理（IPM）、さらには生物多様性保全を含めた総合的生物多様性管理（IBM）の実践が多く場面求められる。本授業では、IPM や IBM を構築する各種の害虫防除法について体系的に学ぶ。

【到達目標】

植物医科学における基幹技術の一つである農林害虫および緑化植物害虫の防除に関する基本事項を習得する。各種防除法を的確に理解することにより、農業生産現場や緑化管理に関係する業務に携わる際に、実践的な指導を行えるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【授業の進め方と方法】

内容を理解しやすいよう、写真や図表を多く取り入れながらスライドを用いて解説する。適宜関連資料を学習支援システム等で配布し、講義終了後も確認できるようにする。課題や質問等へのフィードバックは、主に次回の授業の冒頭に全員が確認・共有できる形で実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス、害虫とは	授業の主旨、進め方、害虫と益虫、植物保護と日本の環境
第2回	防除の歴史、被害と損害	害虫防除の歴史、被害と損害の関係
第3回	化学的防除 1	薬剤の特性、作用機作など
第4回	化学的防除 2	薬剤抵抗性、リサージェンス、残留毒性など
第5回	生物的防除 1	生物的防除の原理と歴史、伝統的生物的防除
第6回	生物的防除 2	放飼増強法（生物農薬の利用）
第7回	生物的防除 3	保全的生物的防除（土着天敵の保護・強化）など
第8回	物理的防除 1	遮断法、光などの手段による防除
第9回	物理的防除 2	熱、音などの手段による防除
第10回	耕種の防除	被害回避、輪作、抵抗性品種の利用など
第11回	総合的病害虫・雑草管理（IPM）と総合的生物多様性管理（IBM）	IPM、IBM の概念と方法
第12回	グループディスカッション	IPM の実践について
第13回	発生予察	発生予察の方法と利用
第14回	まとめ、試験	授業の理解度をテストする

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・学習時間は、各4時間を標準とする。特に予習は必要としないが、専門用語などについては、参考書、配布資料などを用いてしっかり復習する。課題に関しては図書館にある関連図書やwebサイトで調べ、授業中に学んだことを十分理解するように心がける。

【テキスト（教科書）】

最新の知識を伝えるため、必要に応じて資料を配布する。

【参考書】

石川幸男・野村昌史編 応用昆虫学（朝倉書店）
後藤哲雄・上遠野富士夫編 農学基礎シリーズ 応用昆虫学の基礎（農山漁村文化協会）
仲井まどか・日本典秀編 バイオロジカル・コントロール 第2版（朝倉書店）

【成績評価の方法と基準】

期末試験の成績で50%、レポートなどで40%、平常点10%（対面授業において）で評価する。期末試験は、毎回の講義の理解度と、総合的な理解度を問う。ただし、オンライン授業となった場合には、別途評価方法と基準を周知する。オンラインでのリアルタイム配信の場合、参考としてチャット機能で出欠確認する。

【学生の意見等からの気づき】

写真や図表を取り入れた授業スライドが概ね好評であるため、今年度も同様に実施する。

【Outline (in English)】

A accurate diagnosis and control of crop pests is important for plant clinic. There are various pest control methods such as using pesticides, using natural enemy and so on. Recently, IPM (Integrated Pest Management) and IBM (Integrated Biodiversity Management) are focused as pest control methods in agriculture of environmental conservation type. The aim of this course is to help students acquire knowledges about various pest control methods consisted for IPM or IBM systematically.

The objective of the class is to acquire basic information on the control of agricultural and forestry pests and greening plant pests, which is one of the core technologies in plant clinical science. Through this course, students are expect to gain understanding of various pest control methods and will be able to provide practical guidance when working in agricultural production and greening management.

Students are not required to prepare for the class, but are expected to review technical terms using reference books and handouts. For assignments, refer to the relevant books in the library and websites, and try to fully understand what you have learned in the class.

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination: 50%, Short reports : 30%, attend classes: 20%

ASS200YD

食料・地域政策論

鶴岡 康夫

開講時期：秋学期授業/Fall

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部公開科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要（オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする）

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

食料生産を担う日本の農業は現在、農業者人口の減少や耕作放棄地の増加など、様々な困難に直面している。このままでは、人が生活していくうえで必要とされる「衣・食・住」の「食」が危うい。そこで本講座では、主として農業経営学の観点から、農業・農村に関わる諸問題およびそれらに対する各種政策や取組み事例について概観することで、日本の農業が直面する様々な問題について理解を深めることとする。

【到達目標】

- ①日本の農業が直面する種々の問題を理解し、問題の本質を説明できるようになる。
- ②農業経営学の基本的な概念や枠組みを用いて、問題を考察できるようになる。
- ③日本の農業農村が直面する様々な問題に対し、自らの見解を構築できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【授業の進め方と方法】

担当者による講義形式で進める。授業では、適宜資料を配布する。また、授業内で適宜、質問を受け付けるほか、課題やレポートの解説・講評を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の目的、食料・農業・農村の現状認識
第2回	農業政策	日本の農業政策の歴史的経過、食料・農業・農村基本計画
第3回	農業・農村問題 ①農業の担い手	担い手問題、農業経営体・農業従事者の動向
第4回	農業・農村問題 ②生産基盤	農地の減少、耕作放棄地、基盤整備事業
第5回	農業・農村問題 ③条件不利地域	中山間地域農業の現状、政策の対応
第6回	農業・農村問題 ④都市農業	都市農業の特徴
第7回	農業・農村と環境 ①多面的機能	農業の多面的機能、都市農村交流
第8回	農業・農村と環境 ②環境保全型農業	環境保全型農業技術、有機栽培
第9回	新しい農業経営の担い手 ①先進的な経営事例	規模拡大、複合化、多角化
第10回	新しい農業経営の担い手 ②課題	生産基盤の整備、技術革新、雇用・人材の育成
第11回	農業技術の革新 ①スマート農業、バイオテクノロジー	情報通信技術、人工知能、ロボット技術、品種育成
第12回	農業技術の革新 ②技術体系の在り方、課題	技術体系の変革、土地利用の再編

第13回 地域における食料問題 農業と食品産業、食の外部化と業務・加工需要、フードロス

第14回 まとめ 講義内容の振り返り、今後の農業政策と課題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習に2時間、復習に2時間を目安とし、

1. 参考書等で講義内容に該当する部分を読み返し、基礎知識を拡充する。
2. 新聞や関連する文献を参照し、現実の問題や社会の動向に関心を持つ。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

初回講義時に詳細を紹介するが、以下に一例を挙げる。

- ・藤田・内藤・細野・岸上（2018）『現代の食料・農業・農村を考える』ミネルヴァ書房
- ・荏開津典生・鈴木宣弘（2020）『農業経済学（第5版）』岩波書店
- ・檜原正澄・江尻彰（2006）『現代の食と農をむすぶ』大月書店

【成績評価の方法と基準】

小テスト数回（30％）と、期末レポート（70％）を総合し、評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

特になし。

【Outline (in English)】

Agriculture, essential to food production in Japan, currently faces difficulties such as a decrease in the number of farmers and an increase in abandoned arable land. Such a state will make it difficult to ensure that there is enough food to sustain human life. This course will give students an overview of the issues related to agriculture, rural areas, and agricultural policy in Japan, from the perspective of agricultural economics and agricultural policy.

Students in this class will be graded based on the following sum: several mini-tests (30%) and a final exam (70%). To earn credits, students are required to read a newspaper or watch TV programs, have an interest in real issues and social trends about global food demand and supply before each meeting, and also to review contents of each class with the use of reference books to promote understanding basic knowledge after each class.

BOA200YD

自然再生学概論

大井田 寛、安田 耕司、橋本 智美、鶴岡 康夫

開講時期：秋学期授業/Fall

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要（オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする）

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

自然は人間が生きていくために欠かせない存在である。しかし、開発などによって自然生態系が破壊されている。それゆえ、良好な自然を次世代へ継承するためには、自然環境の保全・再生・創出など、生態系を人為的に復元する必要がある。そこで本科目は、自然再生の背景や理念、自然環境の評価方法や再生技術など、自然再生士補として必要な知識を学ぶ。

【到達目標】

自然再生の意義や理念を理解し、自然再生士合格に必要な最低限の知識や技術を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【授業の進め方と方法】

各方面における専門分野の担当者によるオムニバス講義形式で進める。授業では、適宜資料を配布する。また、授業内で適宜、質問を受け付けるほか、課題やレポートの解説・講評を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス（鶴岡）	科目の内容や進め方の紹介、自然再生士の資格取得に関する説明
第2回	自然再生の背景と理念（鶴岡）	自然再生推進法、自然再生の理念と基本原則
第3回	自然再生事業における取組み（鶴岡）	釧路湿原・自然再生事業でみる自然再生の取組み
第4回	生物多様性と生態系サービス、指標生物（大井田）	生物多様性と生態系サービスの関係、指標生物を用いた評価
第5回	環境・生態系に対する人間活動の影響（安田）	環境に対する人間活動の影響と二次的自然
第6回	農業生態系とその特徴（安田）	二次的自然としての農業生態系の成り立ち、特徴、変遷
第7回	農業生態系の保全（安田）	農業生態系の保全に向けた様々な取組みや農法
第8回	自然再生技術（橋本）	自然再生における計画・設計、施行・管理
第9回	生活環境の保全（柴田）	都市環境の現状から見た快適な暮らしの基盤の構築
第10回	人間の暮らしに及ぼす植物の癒し効果（柴田）	ガーデニング、寄植え等の作業や香り等の直接的な効果
第11回	里山の恵みと災い（小林）	丘陵地二次林の再生と気候変動適応
第12回	企業による生態系サービス活用事例（大井田）	農地における在来植物や土着天敵の活用
第13回	行政主導による国内外の自然再生（鶴岡）	行政による取組み事例
第14回	民間主導による国内外の自然再生（鶴岡）	民間企業やNPOによる自然再生の取組み

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】各回で配布される資料をもとに、講義のポイントをまとめておく（1時間）。図書館で関連図書を探したり、WEBサイトで関連情報を調べ、講義内容の更なる理解に努める（3時間）。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて資料を配布する。

【参考書】

最新の知識を伝えるために、必要に応じて資料を配布する。各回の参考書は各担当者が紹介する。参考までに、自然再生士に関する文献として以下を挙げる。

- ・亀山章・倉本宣・日置佳之（2013）『自然再生の手引き』一般財団法人日本緑化センター
- ・一般財団法人日本緑化センター（2013）『自然再生ガイドライン（改訂2版）』一般財団法人日本緑化センター
- ・一般財団法人日本緑化センター（2012）『自然再生副読本 自然再生事例集1』一般財団法人日本緑化センター

【成績評価の方法と基準】

「講義内容が理解できているか」「自然再生士補として必要とされる基礎知識を修得しているか」の2つの観点から、各担当者がレポートや小テストにより評価し、それらを総合し100%として評価する。オンライン授業となった場合には、別途評価方法と基準を周知する。オンラインでのリアルタイム配信の場合、参考としてチャット機能で出欠確認する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

特になし

【Outline (in English)】

Nature is indispensable for human survival; yet, natural ecosystems are being destroyed in the name of development. In order to regain ground and pass down a healthy ecosystem to future generations, we must actively conserve, regenerate, and create what is being depleted. In this course, students will study the background and philosophy of nature restoration, and learn about assessment methods and the technology of nature restoration. They will gain knowledge indispensable to become nature restoration promoters.

Students are expected to summarise the contents of the lecture with the handout distributed in advance. Students are also needed to search for reference books at Hosei university library and to find out the related information about the lecture content on the WEB, into achieving further their understanding.

Each instructor will grade reports or mini-tests of students who take the course. Then final grade will be evaluated twofold: whether you can understand the contents of the lesson and whether you can obtain the essential knowledge for passing the examination of assistant nature restoration.

PPE200YD

ホーティカルチャー論

津田 新哉、紺野 祥平、鈴木 栄、彦坂 晶子

開講時期：春学期授業/Spring

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部公開科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要（オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする）

その他属性：〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

園芸作物である果樹、野菜、花きは、人々に健康や豊かな生活をもたらすものとして、古くから栽培・利用されてきた。これら園芸作物の生産と消費にとって重要な局面、特に育種・栽培・流通に関する研究と技術開発を行うのがホーティカルチャーサイエンス（園芸学）である。本授業では、園芸作物に特徴的な成長と発育の仕組みと、それに基づく栽培管理技術、さらに、収穫物の品質に関係する重要形質とその制御技術について、基礎的な知識を学ぶ。

【到達目標】

果樹、野菜、花きは、幅広い種から構成されており、品目ごとに様々な成長と発育の特性を持つ。そのため、栽培体系、育種技術も非常に多岐にわたっている。しかし、その背景には共通のいくつかの要素があり、それらの組み合わせで技術体系が成り立っていることを理解できるように努める。この理解により、園芸作物が示す多種多様な現象に対して応用できる基礎的な知識と考え方の習得を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【授業の進め方と方法】

本授業は、パワーポイントによるスライド映写と配布資料等を用いて、講義を行う。また、適度にグループディスカッション等も交え知識の醸成を図る。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ホーティカルチャーの定義と野菜の分類	ホーティカルチャーおよび農業に関する基本的な定義と、利用部位による野菜の分類、成長ステージ別の特徴などを解説する。
2	品種開発から流通までのプロセスと要素技術	野菜の品種開発から流通に関する現状と、各要素技術などを解説する。
3	野菜生産1（施設栽培および養液栽培）	野菜の生産方法に関して、露地と施設の比較から、それらの目的と環境制御の特徴を解説する。
4	野菜生産2（植物工場）	究極の施設園芸である植物工場の特徴を解説し、野菜生産の現状と最新の研究開発のトピックを紹介する。
5	果樹栽培と生理特性 1	果樹の種類や主産地などについて触れた後、果樹の休眠、開花、結実の生理特性と栽培管理について解説する。
6	果樹栽培と生理特性 2	果実の肥大や成熟の生理特性とそれらに対する光合成の影響、および果実の収穫指標について解説する。
7	果樹生産と温暖化	地球温暖化の概要について触れた後、温暖化の果樹への影響と対策について解説する。
8	果樹の育種	果樹における各樹種のプロダクトや育種の歴史について触れると共に、育種方法や繁殖方法について解説する。
9	花き園芸学序論	花きにはどのような種類があり、どのような歴史を経て発展してきたかについて解説する。
10	花きの生育と開花	花き類に特徴的な成長と発育の仕組みと、それに基づく、実際の品目の栽培体系について解説する。
11	花きの品質と観賞性 1	花きの品質を構成する3大要素である形、色、香りがどのような仕組みで発現し、観賞性にどのように貢献するのかについて解説する。
12	花きの品質と観賞性 2	前回の授業に引き続き、花きの品質の基礎について各品目ごとに解説する。
13	花きの観賞性 3	前回の授業に引き続き、花きの品質の基礎に加え、花き生産の将来についても解説する。
14	まとめ	これまでの授業内容の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】授業内容を適宜復習するとともに、興味を惹かれる内容に関しては、関連する文献を調べるなど積極的に理解を深める。もしも状況が許せば、果樹、野菜、花きのうち、どれかひとつでもよいので自分で栽培してみる。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて資料を配布する。教科書は使用しない。

【参考書】

作物の生育と環境（西尾道徳 著）農山漁村文化協会
施設園芸学 植物環境工学入門（後藤英司／編）朝倉書店
農学基礎シリーズ 果樹園芸学の基礎（伴野 潔，山田 寿，平 智編著），農文協，2013
農学基礎シリーズ 野菜園芸学の基礎（篠原温編著），農文協，2014
農学基礎シリーズ 花卉園芸学の基礎（腰岡政二編著），農文協，2014
このほか、より深く知りたい内容がある場合には、文献を紹介するので、お問い合わせください。

【成績評価の方法と基準】

定期テスト（各分野 30 点、計 90 点）と平常点 10 点の合計により評価する。

【学生の意見等からの気づき】

本授業で扱う園芸植物は、果樹、野菜、花きの非常に広い範囲にわたりますが、限られた授業時間の中で、これらの植物の生産の基礎が理解できるように努めたいと思います。

【その他の重要事項】

「授業計画」の開講順は変動することがある

【Outline (in English)】

Horticultural crops, i.e. fruit trees, vegetables and flowers, have been cultivated and used for a long time as they bring healthy and rich lives to people. Horticultural science is the research and technology development concerning important aspects of production and consumption of horticultural crops, especially breeding, cultivation, and distribution. The aim of this course is to help students acquire fundamental understandings about the mechanism of growth and development of horticultural crops, cultivation management technology, and control of important traits related to harvest quality. The standard preparation and study time for this class is 4 hours each. In addition to reviewing the contents of the class as necessary, students are expected to actively research related literature to deepen their understanding of the content of interest. If the situation permits, try to grow one of the fruit trees, vegetables, or flowering plants by yourself. Evaluation will be based on a total of 25 points for attendance and a regular test (25 points for each field, 75 points in total).

BAB200YD

教職生物学

齋藤 理佳

開講時期：秋学期授業/Fall

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部公開科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要（オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする）

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義の概要としては、「授業者・受講者・受講内容」が密接につながった授業を展開することにより「生きた授業」を実践する。目的としては、この授業によって生物学の基本的な概念や原理をもとに育成された科学的自然観を、新たな自分の知識として広げていくこと。

【到達目標】

講義の前半は、細胞、DNA、遺伝子を中心とした「ミクロ」分野を学び、後半については、神経系や感覚系を中心とした「マクロ」分野を学び、それら全般を理解できることを目的とする。なお、専門的な理解の他にも、再生医療や NIPT（出生前診断）などの最新の情報、および歴史的な背景までも幅広く理解できる。加えて身近な話も盛り込むことにより、身近で面白い学問であることを学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【授業の進め方と方法】

講義形式で授業を進める。パワーポイントと書画/黒板を使用し、必要であれば講義内容のさらなる理解度アップのための授業も取り入れる。また、講義によっては学習支援システムを通じて行うこともある。その場合には小テストを提出してもらい、提出翌週の講義の冒頭において正解を提示するとともに解説も併せることによるフィードバックを行うことにより、さらに理解を深めてもらう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス、ヒトの誕生から死まで	全ての生物は細胞からできていることを理解する
2	細胞の種類と構造	再生できる細胞とできない細胞
3	再生医療、及び幹細胞のはたらき	ES 細胞、iPS 細胞およびがん細胞
4	遺伝学の基礎	なぜ正確に遺伝情報は伝わるのか
5	遺伝子とそのはたらき	遺伝の正体である遺伝子について学ぶ
6	遺伝に関わる疾患	遺伝子疾患は、遺伝子の異常が原因になって起きる疾患であるが実際にどのような疾患がありその原因遺伝子はそこにあるかを学ぶ。
7	癌とは？	癌細胞の定義を説明したのち、医療現場での癌治療法を学ぶ
8	染色体の構造と機能	真核生物では遺伝子情報は DNA に保存され、DNA は染色体に含まれている。その染色体の構造と機能を学ぶ。
9	染色体に関する疾患について	染色体の数的異常と構造異常について
10	刺激の受容と反応 I	神経系と感覚系の一般的な性質
11	刺激の受容と反応 II	時に五感（体性感覚、視覚、聴覚、味覚、嗅覚）に関して学ぶ。
12	個体の制御 I	脳の構造と機能を学ぶとともに、脳を形成している神経細胞とグリア細胞と特徴についても学ぶ。
13	薬理学	薬の作用/副作用、及び薬と受容体の関係、競合阻害など薬理学の基礎を学ぶ。
14	睡眠について及び試験・まとめと解説	睡眠を学ぶと共に試験・まとめと解説を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】各時間の講義の予習として、毎時間ごとの講義テーマに関する項目を予め参考書類などで調べておくこと。また復習としては、毎時間ごとに授業中に配布したプリント、power point とともに重要ポイントをまとめるので、それらについて理解を深めておくこと。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。

必要に応じて資料を配布する。

【参考書】

1) ケイン生物学

M.Cain/H.Damman/R.Lue/C.Yoon 原著 石川統監訳 東京化学同人

2) Essential 細胞分子生物学原著第 3 版

B.Alberts et al.(著)、中村桂子/松原謙一（翻訳）南江堂

3) Essential Cell Biology 4th edition 原著第 4 版

B.Alberts et al.(著)、Garland Science

4) The cell 細胞の分子生物学原著第 5 版

B.Alberts et al.(著)、中村桂子/松原謙一（翻訳）ニュ

【成績評価の方法と基準】

授業評価アンケートの指摘に応じ講義内容や講義レベル、講義形式および配布資料などを適宜修正する

成績評価については、「ミクロ」「マクロ」の両側面及び最新の生物学において講義中に話した内容を十分に理解できたかどうか、さらに自分自身の知識としてどれだけ身に着的いたかを評価基準とする。具体的には授業にどれだけ熱意を持って取り組んでいるかを含む平常点及び授業内課題併せて 40%、期末試験 60%とする。

【学生の意見等からの気づき】

全体的に授業の進行スピードが速めなので、その度ごとにみなさんの様子をみながらひとつひとつ理解できているか否かを確認しつつ、きめ細かい授業を展開したいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

特になし

【Outline (in English)】

【Course outline】

Biology is the study of all living things — from bacteria to plants to animals — and their relationship to their environments. This class study the structure and function of cells, organ systems, and tissues in animals and plants.

【Learning Objectives】

You learn about physiology, behavior, genetics and heredity, pharmacology. This class provides a foundation of understanding in the basic biological sciences.

【Learning activities outside of classroom】

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

【Grading Criteria /Policy】

Final grade will be calculated according to the following process Mid-term report and in-class contribution(40%), term-end examination (60%).

PPE200YD

実践植物遺伝学

柳澤 貴司、黒羽 剛

開講時期：春学期授業/Spring

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部公開科目履修制度で履修する学生

生：教員の受講許可が必要（オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする）

その他属性：〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、品種改良を目的とした農作物の育種学（1～7回）や分子遺伝学（8～14回）の基礎的な知識と方法を学ぶ。

【到達目標】

水稲、麦類等の農作物の品種改良の基礎となる手法や実際の方法について知る。

これにより育成された品種の農業への貢献を知る。

また、分子生物学的知見を活用した育種法について理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【授業の進め方と方法】

対面事業を予定しており、授業では主に資料を配布してそれに基づいて進める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	育種とは	育種の歴史、農作物の品種改良の意義、古典的な遺伝学、遺伝子型と表現型について学習する。
第2回	遺伝資源	遺伝資源の重要性と農作物の栽培化、組織的な品種改良を行う以前の作物の歴史について学習する。
第3回	育種組織と育種目標	公的機関の組織的な品種改良の歴史と現況および実施されてきた品種改良について学習する。特に農作物に求められる収量性、耐病性、ストレス耐性、品質成分の改良について学習する。
第4回	育種操作	育種機関で実施されてきた人工交配、組織培養、突然変異、遺伝子組換え等の遺伝変異作出方法について学習する。
第5回	圃場での選抜手法	生産力検定試験、特性検定試験、地域適応性試験、現地試験について、生産現場での選抜や試験の意味や必要性について学習する。
第6回	室内での選抜手法	遺伝子 (DNA) の変異を検出するマーカー、種子成分の分析、品質分析、加工試験、食味試験についての意味や必要性について学習する。
第7回	品種登録と品種の普及	品種登録の意義や制度、種苗の増殖、生産者や加工業者への普及、流通制度、消費者に届くまでについて学習する。
第8回	DNA、遺伝子、染色体、ゲノムの構造	育種・遺伝の基礎となる遺伝子やゲノムの概念と構造について学習する。
第9回	作物の遺伝子解析手法	DNAシーケンシング、ハイブリダイゼーション、PCRなど、分子生物学的解析法の歴史と原理について学習する。

第10回 DNAマーカー

連鎖解析に用いるDNAマーカーの歴史と原理、応用例について学習する。

第11回 遺伝子の機能解析

「突然変異型の遺伝解析から原因遺伝子を同定する手法（フォワードジェネティクス）」と「対象遺伝子の変異体を探索・作成し、その機能を同定する手法（リバースジェネティクス）」について学習する。また、研究対象となる遺伝子の機能解析手法についても紹介する。

第12回 遺伝子組換え作物およびゲノム編集技術

遺伝子組換え作物の作成手法について学習する。また、より新しいアプローチとして注目されているゲノム編集技術について学習する。

第13回 ゲノム解析の新技術

マイクロアレイや次世代シーケンサーを用いた新しいゲノム解析技術について学習する。

第14回 ゲノム研究における新知見

サイレンシング、クロマチン修飾等のエピジェネティクス、RNAやタンパク質の安定性制御など、ゲノム科学における新知見について学習する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】授業と関連する知識の習得に努める。

【テキスト（教科書）】

講義ごとに資料を配布する。

【参考書】

特に指定しない。

【成績評価の方法と基準】

平常点（50%）と期末試験（50%）により総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

引き続き、授業支援システムも活用しつつ、学生の理解を促進したい。また、ポイントを把握できるように、専門用語をていねいに解説するとともに、板書の明確さやマイク音量、平易な言葉遣い等にも配慮する。

【その他の重要事項】

小テストを行い、重要なポイントの確認に役立てる。また講義内容に関する質問・感想・要望を随時受け付ける。

【Outline (in English)】

In this class, we aim to study basic knowledge and methods in breeding (#1 - #7) and molecular genetics (#8 - #14) for crop improvement. Students will be expected to study the relevant knowledge of this class. Grading will be decided based on term-end examination (50%) and short reports (50%).

MAC100YC

化学熱力学 I

森 隆昌

開講時期：秋学期授業/Fall

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要（オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする）

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

化学熱力学はあらゆる工学の基礎であるとともに、近年のエネルギー、環境、資源問題との関わりも深く、非常に重要な基礎科目である。しかし多くの学生にとって難解で取つきにくい学問でもある。本講義では化学熱力学の基礎重要事項を集中して丁寧に講義し、さらに演習問題を数多くこなすことで、化学熱力学の重要概念を理解できるようにする。

【到達目標】

熱力学第 1, 第 2, 第 3 法則を理解する。
様々な熱力学量の定義、求め方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【授業の進め方と方法】

化学熱力学を学ぶ上で最低限必要な基本事項について学習した後に、化学熱力学の基礎事項である熱力学第 1, 第 2, 第 3 法則、エンタルピー、エントロピーの基本概念について丁寧に解説する。授業毎に課題を設定し、演習問題に取り組むことで、化学熱力学に慣れ、重要概念を理解できるようにする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回目	イントロ、基本用語、単位換算	熱力学の概要、基本用語を学び、単位換算の演習を行う。
第 2 回目	熱力学第一法則と閉じた系のエネルギー収支	熱力学第一法則、閉じた系でのエネルギー収支式を学ぶ。
第 3 回目	流れ系のエネルギー収支	流れ系でのエネルギー収支式を学ぶ。
第 4 回目	機械的エネルギー収支式とバルヌーイの法則	機械的エネルギー収支式、バルヌーイの法則を学ぶ。
第 5 回目	熱容量	熱容量とは何か、及び、定容熱容量、定圧熱容量の定義を学ぶ。
第 6 回目	顕熱、潜熱、反応熱	顕熱、潜熱、反応熱について学ぶ。
第 7 回目	反応プロセスのエネルギー収支	反応プロセスのエネルギー収支式について学ぶ。
第 8 回目	これまでのまとめ	これまでの授業のまとめと中間試験を行う。
第 9 回目	理想気体の法則	理想気体の法則について学ぶ。
第 10 回目	理想気体のエネルギー目	理想気体の等温変化、断熱変化について学ぶ。
第 11 回目	実在気体	実在気体の圧力-体積-温度の関係、及び、フガシティーについて学ぶ。
第 12 回目	カルノーサイクルと熱機関の効率	カルノーサイクルと熱機関の効率について学ぶ。
第 13 回目	エントロピー	エントロピーについて学ぶ。
第 14 回目	熱力学第二法則	熱力学第二法則について学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】授業では、入門的なことを丁寧に述べるため教科書の一部のみを講ずる。そのほかの部分についても学ぶこと。

【テキスト（教科書）】

「第 2 版 演習 化学工学熱力学」大竹伝雄、平田光穂共著、丸善出版

【参考書】

物理化学のテキスト（例えば アトキンス 物理化学（上）東京化学同人）
化学熱力学のテキスト（例えば 原田義也 化学熱力学 裳華房）

【成績評価の方法と基準】

課題（30%）、中間試験（30%）、期末試験（40%）の結果を総合して評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

授業の終わりには演習（計算問題）を行うため電卓を持参すること。

【Outline (in English)】

(Course outline) Chemical thermodynamics can be defined as the science of energy. This course will introduce students to the basics of chemical thermodynamics, such as the first law of thermodynamics, the second law of thermodynamics, and entropy.

(Learning Objectives) Students are expected to understand the following subjects; the first, the second, and the third laws of thermodynamics, and the definitions of various thermodynamic quantities.

(Learning activities outside of classroom) Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter(s) from the text. Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be four hours for a class.

(Grading Criteria /Policies) Final grade will be calculated according to the following process; the mid-term examination (30%) and term-end examination (40%) and the required assignments (30%).

MAC100YC

化学熱力学 I

山下 明泰

開講時期：春学期授業/Spring

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部公開科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要（オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする）

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

- ①熱力学関数を用いて、熱力学的諸性質を記述する。
- ②理想的なサイクルを組み立てている熱力学的諸過程について学ぶ。
- ③化学平衡（反応平衡）を数学的に記述する方法を理解する。

【到達目標】

化学熱力学 I で学んだ 3 つの基本法則（第 1、第 2、第 3）をベースに、熱力学をより理論的に取り扱うことができるようになること。種々の熱力学関数を導出し、熱力学の概念を一般化するとともに、現実的な課題を取り扱う方法を思考することができるようになること。具体的には、化学プロセスおよび化学装置の設計や最適運転法について、その基となる考え方を提案できるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【授業の進め方と方法】

化学熱力学 I で学んだ「自由エネルギーが最小で平衡となる」という考え方を相分離、溶液の性質や、化学反応に適用し、実用的なレベルで計算を行う。無味乾燥な数式の羅列にならぬように、演習問題を抱負に取り入れながら、理論の具体的な活用法について学ぶ。

本講義は、教室での対面式、またはハイフレックス（対面式＋オンラインライブ配信）方式での実施を原則とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	化学熱力学 I の復習 (I)	教科書第 1 章：速度論と平衡論の違いを中心に、熱力学の存在意義を考える。
第 2 回	化学熱力学 I の復習 (II)	教科書第 2、3 章：例題を使って、熱力学の第 1 法則を復習する。
第 3 回	化学熱力学 I の復習 (III)	教科書第 4、5 章：P-V-T 関係の例題を解く。
第 4 回	化学熱力学 I の復習 (IV)	教科書第 6 章：例題を使って、熱力学の第 2 法則を復習する。
第 5 回	エンタルピーとエントロピーの計算および自由エネルギーと内部エネルギーの計算	教科書第 7 章：エンタルピー、エントロピー、自由エネルギー、内部エネルギーについて、熱力学関数間の関係を明らかにする。
第 6 回	水蒸気表と熱力学線図	教科書第 7 章：水蒸気表と熱力学線図の利用法について、例題で学ぶ。
第 7 回	定圧比熱と定容比熱	教科書第 7 章：定圧比熱と定容比熱を含め、状態量の相互関係について学ぶ。
第 8 回	理想的なサイクルを組み立てている過程	教科書第 8 章：3 つの過程（等温圧縮（膨張）、断熱圧縮（膨張）、等圧変化）の違いについて学ぶ。
第 9 回	サイクル	教科書第 8 章：理想的なサイクル、クリアランスのあるサイクル、多段圧縮（膨張）、Joule-Thomson 膨張について学ぶ。

第 10 回	流れ過程	教科書第 8 章：流れ過程の圧縮膨張に続いて、ヒートポンプの計算を行う
第 11 回	相平衡の条件と相律	教科書第 9 章：相の概念と平衡の概念を理解し、相間に成り立つ関係式（相律）を学ぶ。
第 12 回	フガシチー、活量、活量係数	教科書第 9 章：実在気体の取り扱いについて学ぶ。
第 13 回	化学平衡と平衡定数	教科書第 10 章：化学反応系での平衡を平衡定数を導入して、定量的に取り扱う。
第 14 回	平衡組成の計算	教科書第 10 章：系が平衡に到達した後の組成を取り扱う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】授業中に課題を科す他、適宜、演習問題のレポートを科す。

【テキスト（教科書）】

化学熱力学 I で用いた

大竹伝雄、平田光穂共著：第 2 版演習 化学工学熱力学、丸善を教科書として用いる（第 7 章～第 10 章）。

【参考書】

1. アトキンス：物理化学（上）第 10 版、東京化学同人
2. 相良紘：化学工学のための熱力学、日刊工業新聞社
3. 原田義也：化学熱力学、裳華房

【成績評価の方法と基準】

期末試験の実施の有無により、以下の 2 つの場合のいずれにより総合的に評価する。

1. 期末試験が実施できる場合：課題レポート（50%）と試験（50%）
2. 期末試験の実施が困難な場合：課題レポート（100%）

【学生の意見等からの気づき】

講義内容を振り返るために、不定期にミニレポートの提出を求める。このミニレポートに寄せられた意見を参考に、毎週の講義を改善していく。

【学生が準備すべき機器他】

演習問題を解くために、必ず毎回の講義に電卓を持参すること。

【その他の重要事項】

熱力学では多くの抽象的な概念が定義されている。その理解のために行う問題の演習は、受講者にとって極めて重要であり、積極的に参加する必要がある。

【Outline (in English)】

1.Outline and objectives

- ① To state the properties of thermodynamics by using the thermodynamic functions.
- ② To learn various thermodynamic processes by constructing ideal thermodynamic cycles.
- ③ To understand how to state chemical (reaction) equilibria mathematically.

2.Learning Objectives

Students are required to handle thermodynamic problems more theoretically using three basic principles (1-st, 2-nd, and 3-rd laws). Students are also requested to derive various thermodynamic functions to understand the basic concept, through which they can solve realistic engineering problems on chemical thermodynamics. Eventually, students must be able to design and operate chemical apparatus in chemical plants and factories.

3.Learning activities outside of classroom

All the students must submit their papers on homework problems given in class or through HOPPII system.

4.Grading Criteria /Policy

A grading system depends on infection situation of the COVID-19;

1. when we have the final exam: Final exam 50% + HW problems 50%.
2. when we do NOT have the final exam: HW problems 100%.

MAC100YC

応用化学基礎

明石 孝也

開講時期：春学期授業/Spring

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部公開科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要（オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする）

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

初年度教育の一環として、レポートの書き方、プレゼンテーション等多くの実践を繰り返すことにより大学生に必要な能動的学習法を身につける。

【到達目標】

高等教育を学ぶ上で必要な基礎知識の習得、調査研究能力、およびプレゼンテーション技術を身につける。少人数によるセミナー形式の授業を体験させることにより、高校までの受動的な学習方法から大学での能動的かつ自律的な学習方法へと意識を切り替えることを到達目標としている。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【授業の進め方と方法】

研究室所属後に行われる研究成果報告、英文教材輪読、英文雑誌紹介の準備として、実験データ解析・発表、英文化学教科書輪読、英字記事等紹介を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	本授業の進め方を説明し、化学に関する英文教材を指定する。
第2回	不純物添加によるセラミックスの着色(1)：準備	セラミックスの着色のために添加する物質やその混合比を決める。
第3回	不純物添加によるセラミックスの着色(2)：合成	セラミックスに酸化物を添加・混合し、成型する。
第4回	カウンセラー講習	カウンセラーによる講習を行う。
第5回	不純物添加によるセラミックスの着色(3)：評価	焼成によって得られる着色セラミックスの評価を行う。
第6回	セラミックスの着色実験の発表(1)：前半	PowerPointのスライドを用いた口頭発表と討論を行う。
第7回	セラミックスの着色実験の発表(1)：後半	PowerPointのスライドを用いた口頭発表と討論を行う。
第8回	英字記事調査、和文要約作成	科学技術に関する英文記事を選び、それを読解し、和文要約（A4用紙1枚程度）を作成する。
第9回	英字記事紹介(1)：前半	科学技術に関する英文記事の内容を口頭で発表し、討論を行う。
第10回	英字記事紹介(2)：後半	科学技術に関する英文記事の内容を口頭で発表し、討論を行う。
第11回	英文教材輪読(1)	化学に関する英文教材の音読と和訳をローテーションを組んで行う。
第12回	英文教材輪読(2)	化学に関する英文教材の音読と和訳をローテーションを組んで行う。
第13回	キャリア教育(1)	キャリア教育を行う。
第14回	キャリア教育(2)	キャリア教育を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】環境問題に関する一般的な知識の習得、文献等の調査およびPowerPointのスライド作成は授業外に行う。また、英文教材中の不明な単語の発音と意味を調べておき、内容を理解し、授業内に音読と和訳をできるように準備しておく。英文新聞記事の内容理解・関連情報の調査・英文新聞記事の和文要約作成も授業外に行う。

【テキスト（教科書）】

化学に関する英文教材は第1回目の授業時に指定する。英文記事は法政大学図書館 HP 等からダウンロードする。

【参考書】

無機化学や物理化学に関する教科書、酸化物材料（またはセラミックス材料）の応用に関する文献。

【成績評価の方法と基準】

実験結果の発表と討論内容(40%)、英文記事の和文要約と発表と討論内容(40%)、英文教材の音読と和訳(20%)と授業へ取り組み姿勢により、総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

研究室で行っている研究に関連した内容にも触れる。

【学生が準備すべき機器他】

ノートパソコン（PowerPoint 使用）。

【Outline (in English)】

(Course outline) This course is a first-year education program aiming to provide active learning activities for students by training the academic writing and presentation.

(Learning Objectives) At the end of the course, students are expected to acquire active learning method in University.

(Learning activities outside of classroom) Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

(Grading Criteria /Policy) Final grade will be calculated according to presentation and discussion of experimental results (40%), understanding of an article in Nature Chemistry (40%), and Japanese translation of a chemistry textbook written in English (20%) and in-class contribution.

MAC100YC

応用化学基礎

渡邊 雄二郎

開講時期：春学期授業/Spring

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要（オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする）

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

初年度教育の一環として、レポートの書き方、プレゼンテーション等多くの実践を繰り返すことにより大学生に必要な能動的学習法を身につける。

【到達目標】

高等教育を学ぶ上で必要な基礎知識の習得、調査研究能力、およびプレゼンテーション技術を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【授業の進め方と方法】

新入生であることから、少人数グループによる共通のテーマに対して、共同作業によるグループプレゼンテーションを通じて学生間での信頼感を深めること。さらには、各自興味あるテーマについて個々にプレゼンテーションを行なうことで、大学では自らが積極的に自己啓発しなければならないことを学ぶ。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	はじめに	全体の概要と自己紹介
2	研究室紹介1	研究室の見学および研究内容の紹介
3	研究室紹介2	研究内容の紹介
4	キャリア教育 1	キャリア教育を行う。
5	研究室紹介3	研究内容の紹介。
6	論文購読	化学系論文の購読を行う。
7	パワーポイント使用法2	人前での発表手段のパワーポイントの使用方法を習得する。
8	パワーポイント使用法2	人前での発表手段のパワーポイントの使用方法を習得する。
9	テーマ設定	グループ毎のテーマ設定を行う。
10	プレゼンテーション	グループのテーマについて発表を行う。
11	テーマ設定	各自興味あるテーマの設定を行う。
12	プレゼンテーション	各自興味あるテーマについて、パワーポイントで発表およびディスカッションを行う。
13	キャリア教育2	キャリア教育を行う。
14	キャリア教育3	キャリア教育を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】高校化学の基礎を十分理解する必要がある。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて配布する。

【参考書】

必要に応じて指示する。

【成績評価の方法と基準】

2回のプレゼンテーション内容、および的確なディスカッション内容を総合して決める

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【Outline (in English)】

This course is a first-year education program aiming to provide active learning activities for students by training the academic writing and presentation.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

MAC100YC

応用化学基礎

石垣 隆正

開講時期：春学期授業/Spring

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部公開科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要（オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする）

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

初年度教育の一環として、レポートの書き方、プレゼンテーション等多くの実践を繰り返すことにより大学生に必要な能動的学習法を身につける。

【到達目標】

高等教育を学ぶ上で必要な基礎知識の習得、調査研究能力、およびプレゼンテーション技術を身につける。

Acquire basic knowledge, investigative research skills, and presentation skills necessary for learning higher education.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【授業の進め方と方法】

エネルギー関連教材を用いて課題調査法、発表資料の作成法、発表方法を学ぶ。自己紹介を例としたプレゼン、実験レポートの書き方および簡単な英語文献の読み方の指導を受けた後、配布された文献を読んで内容について、それぞれプレゼンを行い、その内容についてグループで質疑応答を行う事を繰り返す。それらの実践により大学生として基本的に必要な能力を高める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	講義の進め方、目的の説明、履修講義に関する提案
第2回	大学における生活指導	学生相談室の心理カウンセラーによる講話
第3回	代替エネルギー	風力エネルギー、太陽光発電など代替エネルギーに関する話題提供
第4回	太陽光発電に関する資源問題	・代替エネルギーに関する調査発表 ・太陽光発電に関する資源問題に関する話題提供と調査分担
第5回	課題調査の発表（1）	太陽電池材料の調査内容の発表（シリコン系材料、13-15族系化合物半導体）
第6回	調査結果の発表（2）	太陽電池材料の調査内容の発表（化合物半導体、色素増感）
第7回	資料講読（1）	環境関連材料に関する配付テキストの分担部分の内容説明
第8回	資料講読（2）	環境関連材料に関する配付テキストの分担部分の内容説明
第9回	資料講読（3）	環境関連材料に関する配付テキストの分担部分の内容説明
第10回	資料講読（4）	機能性無機材料に関する配付テキストの分担部分の内容説明
第11回	資料講読（5）	エネルギーに関する配付テキストの分担部分の内容説明
第12回	資料講読（6）	エネルギーに関する配付テキストの分担部分の内容説明
第13回	キャリア教育（1）	大学卒業後のキャリア育成準備
第14回	キャリア教育（2）	大学卒業後のキャリア育成準備

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】エネルギー関連課題の調査、大気・エネルギーに関する配付テキストの事前調査、プレゼン資料の作成

[Standard time for out-of-class study such as preparation and review of this class is 4 hours] Investigation of energy-related issues, preliminary investigation of distributed texts related to atmosphere and energy, preparation of presentation materials.

【テキスト（教科書）】

独自のテキストを配付する。

【参考書】

実感する化学、上巻・地球感動編、廣瀬千秋訳、NTS.

【成績評価の方法と基準】

課題報告の内容、レポートの提出、平常点をもとに総合的に評価する。（100%）
A comprehensive evaluation will be made based on the content of the assignment report, the submission of the report, and the average score. (100%)

【学生の意見等からの気づき】

授業内容に関して学生同士で討論する時間を取り入れる。

【学生が準備すべき機器他】

貸与パソコン

【その他の重要事項】

国立研究開発法人研究所における業務経験を活かした話題を含めて講義を行う。

【Outline (in English)】

This course is a first-year education program aiming to provide active learning activities for students by training the academic writing and presentation.

The goals of this course are to acquire basic knowledge, research ability, and presentation skills necessary for learning university education.

Final grade will be evaluated according to the in-class contribution of research presentation, and the submission of research reports.

MAC100YC

応用化学基礎

森 隆昌

開講時期：春学期授業/Spring

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要（オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする）

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

初年度教育の一環として、レポートの書き方、プレゼンテーション等多くの実践を繰り返すことにより大学生に必要な能動的学習法を身につける。

【到達目標】

高等教育を学ぶ上で必要な基礎知識の習得、調査研究能力、およびプレゼンテーション技術を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【授業の進め方と方法】

課題ごとに学生自身によるプレゼンテーション及びディスカッションを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回目	イントロダクション	授業の進め方に関する説明。
第2回目	キャリア教育	キャリア教育を行う
第3回目	英文教材輪読 1	粉体工学に関する英文教材の和訳と内容の説明を輪番制で行う。
第4回目	英文教材輪読 2	粉体工学に関する英文教材の和訳と内容の説明を輪番制で行う。
第5回目	英文教材輪読 3	粉体工学に関する英文教材の和訳と内容の説明を輪番制で行う。
第6回目	英文教材輪読 4	粉体工学に関する英文教材の和訳と内容の説明を輪番制で行う。
第7回目	英文教材輪読 5	粉体工学に関する英文教材の和訳と内容の説明を輪番制で行う。
第8回目	英語文献調査・要約	与えられた課題に合致する英語文献を自ら調査し、その内容を要約する。
第9回目	文献紹介 1	調査した文献の要約をプレゼンし、その内容についてディスカッションする。
第10回目	文献紹介 2	調査した文献の要約をプレゼンし、その内容についてディスカッションする。
第11回目	文献紹介 3	調査した文献の要約をプレゼンし、その内容についてディスカッションする。
第12回目	文献紹介 4	調査した文献の要約をプレゼンし、その内容についてディスカッションする。
第13回目	キャリア教育 2	キャリア教育を実施する。
第14回目	キャリア教育 3	キャリア教育を実施する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】 輪読の準備・予習。
英語文献の要約・プレゼン資料の作成。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

プレゼンテーション（資料の内容、発表の内容）50%、ディスカッション（質問の数、内容、回答の内容）40%、課題 10%により評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline (in English)】

(Course outline) This course is a first-year education program aiming to provide active learning activities for students by training the academic writing and presentation.

(Learning Objectives) At the end of the course, students are expected to understand fundamental knowledges for higher education and master basic skill for presentations.

(Learning activities outside of classroom) Before each class meeting, students will be expected to have complete the required assignments and prepare the presentation. Your study time will be four hours for a class.

(Grading Criteria /Policies) Grading will be decided based on the term-end presentation (50%), the in-class contribution (40%) and the assignments (10%).

MAC100YC

応用化学基礎

高井 和之

開講時期：春学期授業/Spring

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部公開科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要（オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする）

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

初年度教育の一環として、レポートの書き方、プレゼンテーション等多くの実践を繰り返すことにより大学生に必要な能動的学習法を身につける。

【到達目標】

高等教育を学ぶ上で必要な基礎知識の習得、調査研究能力、およびプレゼンテーション技術を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【授業の進め方と方法】

学生が少人数に分かれセミナー形式で現代化学に関連したテキストの精読を行い、自ら参考文献を調べたりグループ調査などにより自分が理解した内容について powerpoint を用いたプレゼンテーションにより発表すると同時に他の参加者を交えた討論を行う。授業の初めに、前回の授業の議論内容からいくつか取り上げて全体へフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	単位制に関する説明、担当教員の紹介、自己紹介、授業の進め方に関するガイダンス。
第 2 回	プレゼンテーション演習 (1)	履修学生が順次化学との関わりについての自己プレゼンテーションを行い他者との意見交換を行うことにより、プレゼンテーション技法について学ぶ。
第 3 回	プレゼンテーション演習 (2)	履修学生が順次化学との関わりについての自己プレゼンテーションを行い他者との意見交換を行うことにより、プレゼンテーション技法について学ぶ。
第 4 回	総合的な学修指導	心身両面から健康的に学修を進めるための指導を専門家からのガイダンスも交えて行う。
第 5 回	文献検索演習	化学や周辺学問領域に関する学術情報検索方法としてオンラインデータベースなどへのアクセス方法などを専門家の講習なども交えながら学ぶ。
第 6 回	現代化学に関するディスカッション (1)	履修学生が順次、現代化学に関連したテキストに関するプレゼンテーションを行い、その内容について全員で議論する。
第 7 回	現代化学に関するディスカッション (2)	履修学生が順次、現代化学に関連したテキストに関するプレゼンテーションを行い、その内容について全員で議論する。
第 8 回	現代化学に関するディスカッション (3)	履修学生が順次、現代化学に関連したテキストに関するプレゼンテーションを行い、その内容について全員で議論する。
第 9 回	現代化学に関するディスカッション (4)	履修学生が順次、現代化学に関連したテキストに関するプレゼンテーションを行い、その内容について全員で議論する。
第 10 回	現代化学に関するディスカッション (5)	履修学生が順次、現代化学に関連したテキストに関するプレゼンテーションを行い、その内容について全員で議論する。
第 11 回	現代化学に関するディスカッション (6)	履修学生が順次、現代化学に関連したテキストに関するプレゼンテーションを行い、その内容について全員で議論する。
第 12 回	現代化学に関するディスカッション (7)	履修学生が順次、現代化学に関連したテキストに関するプレゼンテーションを行い、その内容について全員で議論する。
第 13 回	キャリア教育 (1)	化学を学んだことをベースにどのように自己のキャリア形成を考えていくかを専門家の講習も交えて学ぶ。

第 14 回 キャリア教育 (2)

化学を学んだことをベースにどのように自己のキャリア形成を考えていくかを専門家の講習も交えて学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】指定したテキストを十分精読し、関連した参考文献を調べて、その内容を理解し、理解した内容についての確にプレゼンテーションを行うために配布印刷物、powerpoint などによる資料作成を行う。

【テキスト（教科書）】

授業中に適宜指定する。

【参考書】

必要に応じ、オンラインジャーナルの指定および学習支援システムを通じて補助資料の配布を行う。

【成績評価の方法と基準】

各授業回におけるプレゼンテーションの内容、質疑応答の内容を基準として評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】

好評であったため、引き続き英語文献の内容理解に重点をおく

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムによる資料の配布、課題の提出を行うため、履修者はシステムの利用に習熟しておく必要がある

【Outline (in English)】

(Course outline)

This course is a first-year education program aiming to provide active learning activities for students by training the academic writing and presentation.

(Grading Criteria /Policy)

Grading will be decided by comprehensive evaluation based on Quality of discussions and presentations in each lesson.

MAC100YC

応用化学基礎

河内 敦

開講時期：春学期授業/Spring

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要（オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする）

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

初年度教育の一環として、レポートの書き方、プレゼンテーション等多くの実践を繰り返すことにより大学生に必要な能動的学習法を身につける。

(Grading criteria)

attending class (80%); assignments (20%)

【到達目標】

高等教育を学ぶ上で必要な基礎知識の習得、調査研究能力、化学ツールの活用、およびプレゼンテーション技術を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【授業の進め方と方法】

- (1) 化学情報の取り方について学ぶ
- (2) 化学関連のソフトウェアの使い方を習得する。
- (3) プレゼンテーションの基礎技術を習得する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	自己紹介、本授業の進め方
第2回	化学文献、情報検索、図書館	化学に関する情報の集め方
第3回	化学ツールを使いこなす(1)	ChemDraw の使い方をマスターする
第4回	大学カウンセラーによる講演会	大学生活について
第5回	化学ツールを使いこなす(2)	PowerPoint によるビジュアルデザイン
第6回	化学ツールを使いこなす(3)	Pov-Ray の使い方をマスターする(1)
第7回	化学ツールを使いこなす(4)	Pov-Ray の使い方をマスターする(2)
第8回	化学ツールを使いこなす(5)	Pov-Ray の使い方をマスターする(3)
第9回	化学ツールを使いこなす(6)	Pov-Ray の使い方をマスターする(4)
第10回	化学ツールを使いこなす(7)	Pov-Ray の使い方をマスターする(5)
第11回	化学ツールを使いこなす(8)	Pov-Ray の使い方をマスターする(6)
第12回	化学ツールを使いこなす(9)	Pov-Ray の使い方をマスターする(7)
第13回	キャリア教育(1)	キャリア教育に関する講演
第14回	キャリア教育(2)	キャリア教育に関する講演

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】配布資料を事前に読む。課題に取り組む。

【テキスト（教科書）】

配付資料

【参考書】

授業中に指示する。

【成績評価の方法と基準】

授業への参加度（80%）、課題・制作物（20%）で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

学生が積極的に授業へ参加できるための工夫をおこなう。

【学生が準備すべき機器他】

ノート PC（必要なときは持参することを事前に指示する）

【Outline (in English)】

(Outline)

This course is a first-year education program aiming to provide active learning activities for students by training the academic writing and presentation.

(Goal)

Students will learn basic knowledge, ability for research, tools for chemistry, skills for presentation in higher education.

(Work to be done outside of class)

Students should learn printed matter.

MAC100YC

応用化学基礎

杉山 賢次

開講時期：春学期授業/Spring

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要（オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする）

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

初年度教育の一環として、レポートの書き方、プレゼンテーション等多くの実践を繰り返すことにより大学生に必要な能動的学習法を身につける。

(Grading Criteria /Policies) Grading will be decided based on the term-end presentation (50%) and the in-class contribution (50%).

【到達目標】

高等教育を学ぶ上で必要な基礎知識の習得、調査研究能力、およびプレゼンテーション技術を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【授業の進め方と方法】

化学論文の読解力を養うため、与えられた論文の内容を一人ずつ発表する。化学に関するテーマに沿って各自が調査研究を行い発表する。課題に対するフィードバックは授業内で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業内容の説明・自己紹介
2	メンタルヘルスケア	心理カウンセラーによるメンタルヘルスケアの講義。
3	高分子化学入門	身近な高分子化合物について学ぶ。
4	実験	高分子化合物に関する基礎的な化学実験を体験する。
5	化学論文の読み方（1）	化学論文の構成について学ぶ。
6	化学論文の読み方（2）	化学論文で使われる専門用語や表現について学ぶ。
7	論文検索	学術論文の検索法について学ぶ。
8	プレゼンテーション資料の作成法	PowerPoint の基本的な使用方法について学ぶ。
9	プレゼンテーション（1）	各自がまとめた調査研究の内容を発表する（第1組1回目）
10	プレゼンテーション（2）	各自がまとめた調査研究の内容を発表する（第2組1回目）
11	プレゼンテーション（3）	1回目の講評を踏まえ、改訂版を発表する（第1組2回目）
12	プレゼンテーション（4）	1回目の講評を踏まえ、改訂版を発表する（第2組2回目）
13	キャリア教育（1）	キャリア形成の意義について学ぶ。
14	キャリア教育（2）	キャリア形成の具体例を示す。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】

配布資料を読み、与えられた課題を調べ、プレゼン資料を作成する。

【テキスト（教科書）】

配布資料

【参考書】

配布資料

【成績評価の方法と基準】

授業への貢献度（50%）、プレゼンテーション（50%）に基づき、本学の定める基準に従い、S～Eの12段階で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

配付資料の充実

【学生が準備すべき機器他】

貸与ノート PC

【Outline (in English)】

(Course outline) This course is a first-year education program aiming to provide active learning activities for students by training the academic writing and presentation.

(Learning Objectives) At the end of the course, students are expected to understand fundamental knowledges for higher education and master basic skill for presentations.

(Learning activities outside of classroom) Before each class meeting, students will be expected to have complete the required assignments and prepare the presentation. Your study time will be four hours for a class.

MAC100YC

応用化学基礎

山下 明泰

開講時期：春学期授業/Spring

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要（オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする）

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

初年次教育の一環として、レポートの書き方、文献検索の方法、プレゼンテーションの準備、など多くの実践を繰り返すことにより、大学生に必要な能動的学習法を身につける。

【到達目標】

高等教育を学ぶ上で必要な基礎知識の習得、調査研究能力、およびプレゼンテーション技術を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【授業の進め方と方法】

学生と信頼関係を築くために、できるだけ対話形式で講義を行う。学生に文献検索の方法を伝授するとともに、プレゼンテーションの技術を教授し、そのスキルを磨くように配慮する。

本講義は、教室での対面式、またはハイフレックス（対面式+オンラインライブ配信）方式での実施を原則とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	科目登録と履修の方法 エンジニアの役割 研究倫理教育	入学後直ちに行う必要がある科目登録の重要性を議論する。また、資格取得、文系と理系の役割分担、起業などについて議論する。技術者・研究者として備えるべき、倫理観について学ぶ。
第 2 回	化学英語。 最終報告課題の公表。	化学の基礎的な事項を、英語を通して理解する。また、第 11～12 週で行う最終プレゼンテーションの課題を公表する。
第 3 回	Nature Chemistry 誌を用いた文献検索の 演習、および報告課題 の公表。	Nature Chemistry 誌へのアクセス方法、文献の検索方法を教授する。最終プレゼンテーション用の課題を公表する。
第 4 回	化学基礎の演習（1）	英語で書かれた平易な計算問題の解法を考える。数式や化学式の英語での読み方を教授する。
第 5 回	化学基礎の演習（2）	英語で書かれた平易な計算問題の解法を考える。数式や化学式の英語での読み方を教授する。
第 6 回	化学基礎の演習（3）	英語で書かれた平易な計算問題の解法を考える。数式や化学式の英語での読み方を教授する。
第 7 回	Nature Chemistry 誌掲載論文の紹介：学 生による発表（1）	Nature Chemistry 誌に掲載された論文の内容を、パワーポイントで紹介する。
第 8 回	Nature Chemistry 誌掲載論文の紹介：学 生による発表（2）	Nature Chemistry 誌に掲載された論文の内容を、パワーポイントで紹介する。
第 9 回	単位の換算・次元解析 （1）	工学的に重要な量である長さ、質量、力、エネルギーなどの単位の換算を確実に進めるようにする。一般化された概念としての次元について考える。

第 10 回 単位の換算・次元解析
（2）

工学的に重要な量である長さ、質量、力、エネルギーなどの単位の換算を確実に進めるようにする。一般化された概念としての次元について考える。

第 11 回 課題報告（1）

与えられた課題について、調査した結果をパワーポイントで発表する。

第 12 回 課題報告（2）

与えられた課題について、調査した結果をパワーポイントで発表する。

第 13 回 キャリア教育（1）

学部外または学外から専門講師を招聘し、職業選択についての講義を行う。

第 14 回 キャリア教育（2）

学部外または学外から専門講師を招聘し、職業選択についての講義を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】

事前に配布する英語、計算問題などのプリントを学習しておくこと。

後半のプレゼンテーション課題では、パワーポイントの利用が必須なので、その利用方法について習熟しておくこと。1 回目のプレゼンテーションでは、化学に関する最新の原著論文の紹介、2 回目のプレゼンテーションでは選択課題の中から自由研究に基づく成果を報告する。

課題に対するフィードバックは学習支援システムで行う。

【テキスト（教科書）】

講義資料は配布する。

【参考書】

特に必要ない。

【成績評価の方法と基準】

講義への取り組み態度（50%）と2回のプレゼンテーションを含む演習問題の出来（50%）で総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

この科目は少人数のゼミ形式の講義であり、今後の学生生活に確実に役に立つスキルが身につくように配慮する。

【学生が準備すべき機器他】

後半の講義では、ノート型パソコンを用いたプレゼンテーションが大きなウェイトを占めるので、パソコンの基本的な使用法の理解が前提となる。

【その他の重要事項】

受講者全員が、パワーポイントを使った発表を少なくとも2回経験するので、パワーポイントを含むソフトウェアに習熟していることが望ましい。

本講義は日米の民間研究所で実務経験を持つ講師が、豊富な実例を交えて講義することで、日米の文化の違い、あるいは大学の違いなどを実感できるように配慮している。また、技術者・研究者として必要な倫理観についても、実例を交えて解説する。

【Outline (in English)】

1.Course outline

This course is a first-year education program, aiming to provide learning skills for students by training academic writings, searching technique of appropriate literatures and preparation of oral presentations.

2.Learning Objectives

Students learn basic skills in the university, including how to obtain necessary information, how to register classes, and how to make scientific presentations.

3.Learning activities outside of classroom

All the students must make two presentations, the one on a new article from Nature Chemistry and the one on his/her current interest. Students must prepare presentation files outside the class. Students are also required to answer many questions from the instructor in class.

4.Grading Criteria /Policy

Two presentations 50 %

Positiveness in class 50 %

MAC100YC

応用化学基礎

緒方 啓典

開講時期：春学期授業/Spring

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要（オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする）

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代化学は、基礎分野では生物学、物理学との境界・融合領域で著しい進展を達成しており、応用分野では環境、エネルギー問題の解決に欠くことの出来ない存在となっている。本講義では、少人数のセミナー形式で、応用化学の基礎になる学問の体系を理解し、応用化学に関する関心を深め、専門科目に対応できる基礎学力の準備を整えるための教育を行う。また、初年度教育の一環として、レポートの書き方、プレゼンテーション等多くの実践を繰り返すことにより大学生に必要な能動的学習法を身につける。

【到達目標】

高等教育を学ぶ上で必要な基礎知識の習得、調査研究能力、およびプレゼンテーション技術を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【授業の進め方と方法】

この講義では、学生が少人数に分かれセミナー形式で現代化学に関連した文献の精読を行い、自ら参考文献を調べ、自分が理解した内容を powerpoint を用いたプレゼンテーションおよび討論を行うことにより、プレゼンテーション技術を習得するとともに、大学での学習の基本姿勢を身につける。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	単位制に関する説明。自己紹介。集合写真の撮影。授業の進め方に関するガイダンス。
第 2 回	化学研究成果の社会発信	化学研究成果の社会発信としての学術論文、特許、学会発表について学ぶ。
第 3 回	現代化学に関連した文献に関するプレゼンテーション	履修学生が順次、現代化学に関連した英語文献に関するプレゼンテーションを行い、その内容について全員で議論する。
第 4 回	メンタルヘルスケア	学生相談室主任心理カウンセラーによる、メンタルヘルスケアに関する講義。
第 5 回	現代化学に関連した文献に関するプレゼンテーション	履修学生が順次、現代化学に関連した英語文献に関するプレゼンテーションを行い、その内容について全員で議論する。
第 6 回	現代化学に関連した文献に関するプレゼンテーション	履修学生が順次、現代化学に関連した英語文献に関するプレゼンテーションを行い、その内容について全員で議論する。
第 7 回	現代化学に関連した文献に関するプレゼンテーション	履修学生が順次、現代化学に関連した英語文献に関するプレゼンテーションを行い、その内容について全員で議論する。
第 8 回	現代化学に関連した文献に関するプレゼンテーション	履修学生が順次、現代化学に関連した英語文献に関するプレゼンテーションを行い、その内容について全員で議論する。
第 9 回	現代化学に関連した文献に関するプレゼンテーション	履修学生が順次、現代化学に関連した英語文献に関するプレゼンテーションを行い、その内容について全員で議論する。
第 10 回	現代化学に関連した文献に関するプレゼンテーション	履修学生が順次、現代化学に関連した英語文献に関するプレゼンテーションを行い、その内容について全員で議論する。
第 11 回	現代化学に関連した文献に関するプレゼンテーション	履修学生が順次、現代化学に関連した英語文献に関するプレゼンテーションを行い、その内容について全員で議論する。
第 12 回	現代化学に関連した文献に関するプレゼンテーション	履修学生が順次、現代化学に関連した英語文献に関するプレゼンテーションを行い、その内容について全員で議論する。
第 13 回	キャリア教育（1）	キャリア形成の意義について学ぶ。

第 14 回 キャリア教育（2）

キャリア形成の具体例を示す。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】指定したテキストおよび資料を十分精読し、関連した参考文献を調べて、その内容を理解し、理解した内容についての確にプレゼンテーションを行うために powerpoint による資料作成を行う。

【テキスト（教科書）】

授業中に適宜指定する。

【参考書】

必要に応じ、授業支援システムを通じて補助資料の配布を行う。

【成績評価の方法と基準】

出席回数、プレゼンテーションの内容、質疑応答の内容を基準として評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】

学生の発表能力の養成を心がけます。

【学生が準備すべき機器他】

授業に必要な補助資料は、授業支援システムを通して配布を行う。また、プレゼンテーションに当たっては貸与パソコンを用いて資料作成を行う。

【その他の重要事項】

本講義では、少人数のセミナー形式で、応用化学の基礎になる学問の体系を理解し、応用化学に関する関心を深め、専門科目に対応できる基礎学力の準備を整えるための教育を行います。

【Outline (in English)】

・ Course description

Modern chemistry has achieved remarkable progress in the boundary and fusion areas with biology and physics, and has become indispensable in solving environmental and energy problems in applied fields. In this lecture, in a seminar format with a small number of students, we will provide education to understand the academic system that forms the basis of applied chemistry, deepen interest in applied chemistry, and prepare basic academic skills for specialized subjects. In addition, as part of the first-year education, students acquire the active learning methods necessary for university students by repeating many practices such as how to write reports and give presentations.

・ Attainment target

Acquire basic knowledge, investigative research skills, and presentation skills necessary for learning higher education.

・ Learning outside of class

Read the specified text and materials carefully, research related references, understand the content, and create materials using powerpoint in order to give an accurate presentation on the content you have understood.

・ Grading methods and standards

Evaluation will be based on the number of times attended, the content of presentations, and the content of questions and answers.

MAC100YC

無機化学概論

明石 孝也

開講時期：秋学期授業/Fall

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部公開科目履修制度で履修する学生

生：教員の受講許可が必要（オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする）

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

原子構造、電子配置、二原子分子、イオン性結晶に関する基本的な内容を深く理解することを到達目標とする。

物質を構成する基本単位である原子の構造を理解し、各原子が持つ性質が原子核を取りまく電子の振る舞いによることを理解すると共に、それらの原子の組み合わせから成る様々な無機化合物の構造および性質について学ぶ。また、多様な化学結合様式（イオン結合、共有結合など）が物質の性質と密接に関係していることを理解する。

【到達目標】

原子構造、電子配置、二原子分子、イオン性結晶に関して基本的なことを十分に理解することを到達目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【授業の進め方と方法】

量子化学を基礎として、原子の構造や電子軌道についての理論的な講義を行う。すなわち、ボーアの原子モデルに基づく電子軌道から、シュレーディンガーの方程式から導かれる電子軌道に発展するまでの過程を、板書とスライドを用いて時系列的に説明する。また、共有結合に関しては、オクテット則に基づく理解から、分子軌道法による解釈へと発展させる。イオン結合に関しては、結晶性固体中におけるイオン結合の理論について講義する。さらに、二原子分子の結合に関しては、分子軌道の模式図とエネルギー準位図に基づいて、定性的な講義を行う。

な

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	序論、原子（1）	原子の構造、原子核の崩壊
第2回	原子（2）	水素の発光スペクトル
第3回	原子（3）	ボーアの原子モデル
第4回	電子（1）	シュレーディンガーの波動方程式、一次元の箱の中の粒子（1回目）
第5回	電子（2）	一次元の箱の中の粒子（2回目）、複素数による波動の理解
第6回	原子軌道（1）	水素原子の中の電子、動径波動関数、球面調和関数
第7回	原子軌道（2）	電子の軌道（s軌道、p軌道、d軌道、f軌道）
第8回	原子軌道（3）	電子スピン、パウリの排他原理、構成原理、フントの規則
第9回	中間テスト	原子と電子と原子軌道に関する理解度を確認する。
第10回	イオン結合（1）	イオン化エネルギー、遮蔽、電子親和力、格子エネルギー
第11回	イオン結合（2）	ボルン-ハーバーサイクル、有効核電荷
第12回	電子配置	電子配置、構成原理
第13回	共有結合（1）	等核二原子原子、
第14回	共有結合（2）	異核二原子分子

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】

前回までの講義内容を復習し、理解を深めておくこと。特に、講義中で解けなかった演習問題は、ノート・テキスト・参考書を参照して解けるようにしておくこと。

【テキスト（教科書）】

基礎無機化学－構造と結合を理論から学ぶ、山田・秋津著、(株)化学同人、ISBN:9784759815306。

【参考書】

・無機化学－その現代的アプローチ：平尾一之、中平敦、田中勝久著、東京化学人。

・アトキンス物理化学第10版（上）：千原秀昭・中村亘男訳、東京化学同人。

・ヒューイ無機化学（上）：小玉剛二・中沢浩訳。

【成績評価の方法と基準】

中間試験（35%）、期末試験（60%）、演習問題（5%）、授業への取り組み姿勢により、総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

球面調和関数の理解を深めるための実験を継続する。共有結合の授業を2回に増やす。

【学生が準備すべき機器他】

関数電卓使用。

【その他の重要事項】

鉄鋼業界の企業にてプロセス開発研究を行っていた教員が、無機化学の基礎について講義する。

【Outline (in English)】

(Course outline) The objective of this class is to understand the structure of atom, atomic orbitals, orbital interaction for the formation of diatomic molecules, and crystal structure of ionic compounds.

(Learning Objectives) Students are expected to understand atomic structure, electron configuration, diatomic molecules, and ionic crystals.

(Learning activities outside of classroom) Student must understand the content of the previous class.

(Grading Criteria /Policy) Final grade will be calculated according to quizzes in classes (5%), mid-term examination (35%), term-end examination (60%), and in-class contribution.

MAC100YC

応用化学入門

高井 和之

開講時期：春学期授業/Spring

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要（オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする）

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

環境応用化学科の専門科目を理解する上で必要な数学と物理・物理化学・情報処理の基礎について焦点を絞り学ぶ。

【到達目標】

数学の式と物理・化学の式の関係、物理・化学における単位とその換算、物理量の次元、化学におけるグラフの描き方、微分の考え方、座標変換、自然法則と微分方程式の関係を理解し、化学に現れる様々な現象を定量的に理解し、厳密に記述するための前提となる能力を身に付ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【授業の進め方と方法】

大学での化学の専門科目を学ぶために必要な物理・数学・物理化学、情報処理の基本的な事項をPC上での数値計算を中心とした実習形式で学ぶ。また演習問題を解き、学習支援システム上にレポートを提出する。さらに関連事項についての宿題も課す。授業の初めに、前回の授業で提示した課題へのレポート提出内容からいくつか取り上げて全体へフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	科学的視点の文書作成	科学的文書の作成、情報機器、計算機器の使用法
2	数値の取り扱い	科学的な数値の取り扱い
3	化学における式	数学の式と物理・化学の式、物理量の単位と次元、単位換算の方法
4	化学における変数と関数	データおよび化学構造の視覚化、定量的な化学の問題の解き方
5	統計による考え方	基本統計量の計算
6	数値的微分法	速度・加速度・1次元における運動方程式、差分、二階微分
7	小テスト	前半の復習・総合演習
8	小テスト講評・科学的プレゼンテーションの技法	小テストの結果を題材とした統計処理の復習に関する解説・スライド作成の解説と実習
9	関数の局所近似	テイラー展開と近似式
10	非線形方程式の解法	二分法、割線法、ニュートン法の原理
11	偏微分と化学への応用	熱力学な量の変化、偏微分を用いた表現法
12	相関係数と最小二乗法	相関係数、最小二乗法
13	非線形方程式への最適化	ゴールシーク、ソルバーの利用した非線形方程式への最適化、高度なデータ処理と既習の原理との関係
14	総合演習	全ての授業回の内容に関する復習と総合演習を実施

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】前回の内容を復習する。

授業中に解説された例題の続きと宿題を解く。

【テキスト（教科書）】

オリジナルテキストを毎回、学習支援システムを通じて配布する

【参考書】

化学系学生のための Excel/VBA 入門 - Office 2007 対応 -, 寺坂宏一, コロナ社

アトキンス物理化学〈上〉 P.W. Atkins, Julio de Paula(著), 千原秀昭, 中村亘男(訳), 東京化学同人

【成績評価の方法と基準】

毎回の授業内容の達成度を測定するために課す授業内演習課題と宿題（60%）、小テストと最終回の総合演習の成績（40%）を統合して判断する。

【学生の意見等からの気づき】

毎回事前に配布するオリジナル教材による授業実施が好評であるため、引き続き実施する。

【学生が準備すべき機器他】

毎回、各学生が大学貸与のノートPCを使用して授業に参加する。学習支援システムで説明のファイルを事前配布し、レポートを学習支援システムに提出する。

【Outline (in English)】

(Course outline)

The aim of this course is to help students acquire an understanding of selected topics about basic knowledge on Mathematics, Physics, Physical Chemistry, and Information Technology required for understanding other classes in the Department of Chemical Science and Technology.

(Grading Criteria /Policy)

Grading will be decided by comprehensive evaluation based on Exercise given in each lesson: 60%, Midterm and Final examinations: 40%.

MAC200YC

物理化学 I

緒方 啓典

開講時期：春学期授業/Spring

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部公開科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要（オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする）

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

原子や分子が関与する物理的/化学的性質および諸現象を理解するために必須の学問である量子物理化学の基本事項について解説する。まず、量子力学の基本原則がどのような考え方に基づいているかを詳述し、波動方程式、波動関数の概念とその使い方を説明する。さらに量子力学を粒子の並進運動、分子の振動および回転運動に適用し、そのエネルギー状態について学ぶ。

【到達目標】

量子論の根幹をなす主要な概念を理解する。

量子力学を粒子の並進運動、分子の振動および回転運動に適用し、その状態を正しく理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【授業の進め方と方法】

基本的にアトキンスの教科書（物理化学（上）第10版）の内容に沿って行う。授業開始前に必ず教科書を入手しておくこと。1ヵ月に1回程度理解度を確認するための小テストを実施する。実際の授業の進め方については、学習支援システムを通じて適宜アナウンスする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	量子論:序論と原理 1	古典物理学の復習から入り、古典物理学が破綻する実験事実について講義を行う。
第2回	量子論:序論と原理 2	第1回に引き続き、古典物理学の破綻と量子論が生まれる過程について講義を行う。
第3回	量子論:序論と原理 3	第2回に引き続き、量子論の必要性、古典論と量子論との定性的、定量的比較を行う。
第4回	量子論:原理 1	波動および波動方程式についての復習、量子力学の基本方程式である Schrodinger 方程式の導出を行う。
第5回	量子論:原理 2	波動関数の物理的意味、波動関数から具体的な物理量をいかにして導き出すことができるか等に関する講義を行う。
第6回	量子論:原理 3	量子力学の原理（固有値、固有関数、演算子、不確定性原理）などについて講義を行う。
第7回	量子論:手法と応用 (1-1)	自由空間および有限の空間に粒子が閉じ込められた際の粒子の並進運動の量子力学的取り扱いについて、Schrodinger 方程式を具体的に解くことにより学ぶ。
第8回	量子論:手法と応用 (1-2)	粒子の量子力学的トンネル効果について、Schrodinger 方程式を具体的に解くことにより学ぶ。
第9回	量子論:手法と応用 (1-3)	2次元および3次元空間における粒子の並進運動の問題における Schrodinger 方程式の解法および縮退について学ぶ。
第10回	量子論:手法と応用 (2-1)	粒子の並進運動の問題における Schrodinger 方程式の解法およびトンネル現象について学ぶ。
第11回	量子論:手法と応用 (2-2)	粒振動運動についての古典力学の復習および量子力学による取扱いの基礎について学ぶ。
第12回	量子論:手法と応用 (2-3)	粒子の振動速度を Schrodinger 方程式に適用し、その解の波動関数、振動エネルギー、振動量子数の導出とその意味について学ぶ。
第13回	まとめおよび復習	これまでの授業での学習内容の復習および総括を行う。
第14回	まとめおよび質疑応答	これまでの授業内容に関する質疑応答を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】教科書アトキンス「物理化学（上）第10版」の練習問題を用いて各自予習および復習を行うこと。講義に関連した補助プリントを授業支援システムを通じて事前に配布を行うので各自、プリントアウトして事前に目を通し、講義に臨むこと。毎回の講義の最後に講義内容に関連した課題を出すので、提出期限までに学習支援システムを通じて提出すること。

【テキスト（教科書）】

＜教科書＞ P. W. Atkins 著、(千原・中村 訳)「物理化学（上）」 第10版、東京化学同人。

【参考書】

＜参考書＞ 原田 義也著、「量子化学」 裳華房

【成績評価の方法と基準】

基本的概念を理解し、それに基づいて問題解決ができるかどうかを課題、小テストおよび最終試験の結果によって総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

物理化学 I の内容は、単に授業を受動的な立場で受講しているだけでは理解することは困難です。授業外での予習・復習は必要不可欠です。

【学生が準備すべき機器他】

講義に関連した補助資料を学習支援システムを通じて事前に配布を行う。

【その他の重要事項】

＜具体的教育方法＞毎回の授業の理解度を確保するために課題を出し、理解度を確認しながら授業を進める。

＜継続的改善＞質問は随時電子メールで受け付ける。質問受付のメールアドレスは第1回目の講義資料に記載します。物理化学 I の授業内容をよく理解するためには、関連した演習科目「物理化学演習」を履修することを推奨します。

【Outline (in English)】

This course will provide the fundamentals of quantum physics, which is an essential learning to understand the physical and chemical properties and phenomena involving atoms and molecules. First, you will learn in detail what the basic principle of quantum mechanics and the Schrodinger equation, the concept of wave function and its physical meaning. Furthermore, you will learn the application of quantum mechanics to translational motion, molecular vibration and rotational motion and learn about their energy states.

・ Attainment target

- 1) Understand the key concepts underlying quantum theory.
- 2) Applying quantum mechanics to the translational motion of particles, the vibrational and rotational motions of molecules, and gaining a proper understanding of their states.

・ Learning outside of class

Prepare and review on your own using exercises from the textbook Atkins "Physical Chemistry (Part 1) 10th Edition". Supplementary printouts related to the lecture will be distributed in advance through the class support system. At the end of each lecture, assignments related to the content of the lecture will be given, so please submit them through the learning support system by the submission deadline.

・ Grading methods and standards

Comprehensively evaluate whether students can understand the basic concepts and solve problems based on them based on the results of assignments, quizzes, and final exams.

MAC200YC

物理化学 I I

高井 和之

開講時期：秋学期授業/Fall

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要（オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする）

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

2 年次春学期の物理化学 I での既習事項にもとづいて、量子物理学の応用事項の解説を行う。

【到達目標】

量子物理学の基礎を理解し、水素原子の電子状態が記述できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【授業の進め方と方法】

アトキンス物理学を教科書にして使用する。この本に沿って板書で基本事項を説明する。その後、講義内容に対応した演習問題を解いてもらう。原則として授業時間内に提出のこと。また、学習内容を定着させるために、宿題も課すが内容はその日の講義内容を理解していれば解ける問題である。課題は学習支援システムに提出する。授業の初めに、前回の授業で提示した課題へのレポート提出内容からいくつか取り上げて全体へフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	物理化学の復習	量子力学の基本原則および並進運動についての復習を行う。
第 2 回	量子論：手法と応用 (1)	振動運動に対する量子力学の適用を行う。
第 3 回	量子論：手法と応用 (2)	量子力学的振動子のエネルギー・波動関数などについての性質を学ぶ。
第 4 回	量子論：手法と応用 (3)	2 次元の円周上の粒子の回転運動について古典的取扱いの復習と量子論的考察を行う。
第 5 回	量子論：手法と応用 (4)	量子力学的回転運動のエネルギー・角運動量について学ぶ。
第 6 回	量子論：手法と応用 (5)	3 次元球面上の粒子の回転運動の量子力学的取り扱いおよび必要な数学的知識について学ぶ。
第 7 回	量子論：手法と応用 (6)	3 次元の回転運動についての波動関数・エネルギーの性質について学ぶ。
第 8 回	量子論：手法と応用 (7)	粒子の回転運動に基づく角運動量について詳述し、スピン角運動量の概念について導入する。
第 9 回	原子構造と原子スペクトル (1)	原子スペクトルに観察に関する歴史的背景とボーア模型にもとづく水素型原子軌道の古典的な取り扱いについて学ぶ。
第 10 回	原子構造と原子スペクトル (2)	水素型原子の電子構造について波動方程式を解いて波動関数と固有エネルギーを導出する。
第 11 回	原子構造と原子スペクトル (3)	水素原子中の電子の波動関数エネルギーおよび原子スペクトルとの対応について説明する。
第 12 回	原子構造と原子スペクトル (4)	水素原子軌道における動径関数の性質を学ぶ。
第 13 回	原子構造と原子スペクトル (5)	原子オービタルの概念を導入し、s,p,d,f 軌道の性質について紹介する。
第 14 回	原子構造と原子スペクトル (6)	多電子系の量子力学の初歩を導入するとともに多電子原子の性質について考察する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、各回 4 時間を標準とする】

- 1 教科書・配布資料を読んで予習する。
- 2 前回の範囲のノート・配布資料・教科書を読んで復習する。
- 3 宿題および中間課題を解いて締切までに学習支援システムに提出する。

【テキスト（教科書）】

P. W. Atkins, 「Physical Chemistry」9th ed., Oxford University Press.

【参考書】

物理化学演習 片岡・山田 三共出版

【成績評価の方法と基準】

演習・宿題・中間課題（40%）および期末試験の結果（60%）を総合評価する。

【学生の意見等からの気づき】

原理だけではなく、具体的な実験手法や現象との対応の紹介も取り入れた。

【学生が準備すべき機器他】

講義資料は学習支援システムで配布する。

【その他の重要事項】

予備知識と講義内容の理解度を確認するため日常的に演習問題と宿題を出す。これらは自分で解けない時は教員や教務助手、TA に質問して、理解してから解答すること。

【Outline (in English)】

(Course outline)

The aim of this course is to help students acquire an understanding of principles of advanced issues on quantum physical chemistry based on the contents of Physical Chemistry I opened during the spring semester in the second grade year.

(Grading Criteria /Policy)

Grading will be decided by comprehensive evaluation based on Exercise in each lesson and Midterm homework: 40%, and Final examination: 60%.

MAC200YC

無機化学 I

石垣 隆正

開講時期：春学期授業/Spring

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部公開科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要（オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする）

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

20世紀、特に量子力学の発見と成立は人類の物質観を一変し、物質の本質的な理解に基づく発明・発見が、現在に続く爆発的な物質文明の進展をもたらした。しかし、その利得と負債の双方が21世紀のわれわれの肩に重くのしかかっているのも事実である。21世紀の物質科学という観点から無機化学を洗い直し、清新な視点から、物質文明の来し方行く末を遠望し、かつ学生諸氏が今後社会人として活力ある未来を築くための基礎になるような授業にしたいと思っている。無素化学Iでは、特に基礎的な物質理解に重点を置き、はじめに周期律に現れる各元素の性質の美的な振る舞いを示し、結晶の周期構造と物性・無機化合物の一見複雑な構造を理解するための強力な考え方などを中心に講義する予定である。

【到達目標】

構成元素の周期表における位置を見て、その無機化合物の特性が推定できる化学的感覚を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【授業の進め方と方法】

講義資料を配付し、その内容に即して講義を進める。適宜教科書を参照する。講義の最初に前回学習した重要事項に関する小問を行う。小問は提出の次の週に解説する。また、重要な事柄に関しての課題をレポートとして課す。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	無機化学工業、無機化学の学習範囲
第2回	結合と構造	結合の分類と物質構造の関係
第3回	原子のボーアモデル	ボーアモデルによる原子の電子構造、エネルギー量子化の理解
第4回	シュレディンガー方程式と水素原子	水素原子のシュレディンガー方程式を各量子数が導入される
第5回	多電子系原子の電子構造	多電子系元素原子における電子構造の構成原理
第6回	分子の電子構造	分子軌道法、等核分子の電子構造
第7回	分子の電子構造	異核分子の電子構造
第8回	周期律表と元素の性質1	原子の電子構造に基づく周期律表、元素特性の理解
第9回	周期律表と元素の性質2	原子の電子構造に基づく周期律表、元素特性の理解
第10回	周期律表と元素の性質3	原子の電子構造に基づく周期律表、元素特性の理解
第11回	酸・塩基1	アクア酸・オキソ酸
第12回	酸・塩基2	ブレンステッド酸・塩基
第13回	酸・塩基3	ルイス酸・塩基、かたい酸・塩基、やわらかい酸・塩基
第14回	酸化・還元	酸化電位、電池

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】1年秋学期に履修する「無機化学概論」の内容を把握しておくこと。次回の配付資料を事前にアップロードするので、講義範囲を教科書で予習しておくこと。講義資料、小問は講義後にアップロードする。

【テキスト（教科書）】

「無機化学-その現代のアプローチ-」平尾、田中、中平著、東京化学同人。

オリジナルテキストを配付する。

【参考書】

<参考書>

「演習で学ぶ無機化学」伊藤・石垣・佐々木・野田著、三共出版。

「アトキンス・無機化学 第6版(上)・(下)」田中他訳、東京化学同人。

「コットン・ウィルキンソン・ガウス基礎無機化学」中原訳、培風館。

【成績評価の方法と基準】

中間テスト・期末試験（85%）。平常点、講義中に行う小問、適宜課するレポートの提出（15%）。

【学生の意見等からの気づき】

配付資料中に設けた空白部分を講義中に学生間で討論する時間をとる。

【その他の重要事項】

質問は、授業中、メールなど。

国立研究開発法人研究所における業務経験を活かした話題を含めて講義を行う。

【Outline (in English)】

This course aims at acquiring basic knowledge for understanding characteristics of elements in the periodic table, such as ideas on chemical bonding, acid-and base, and redox reactions. By the end of the course, students should be able to acquire a chemical sense that can estimate the characteristics of the inorganic compound, on looking at the positions of the constituent elements in the periodic table.

Final grade will be evaluated according to the following process: mid-term and term-end examination (85%), and in-class contribution(15%).

MAC200YC

無機化学 I I

石垣 隆正

開講時期：秋学期授業/Fall

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要（オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする）

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

無機化学 I で導入された物質科学的観点を発展させ、無機固体物質の材料科学的応用の基礎事項を原理から学んで行く一方、持続可能な社会の形成に重要な環境・エネルギー関連のトピックも取り上げて行きたい。

【到達目標】

持続可能な可能な社会形成に重要な環境とエネルギーは表裏一体の関係にある。環境にやさしいエネルギー材料、環境を保全する無機材料に関する基礎科学を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【授業の進め方と方法】

講義資料を配付し、その内容に即して講義を進める。適宜教科書を参照する。講義の最初に前回学習した重要事項に関する小問を行う。小問は提出の次の週に解説する。また、重要な事柄についての課題をレポートとして課す。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	溶液化学から固体化学へのいざない、無機材料への応用
第 2 回	固体の周期的構造	結晶の周期性がもたらす孤立原子との劇的な違いとは
第 3 回	固体物質の結晶構造 1	結晶構造の構成原理と代表的な結晶構造
第 4 回	固体物質の結晶構造 2	2成分固体物質の代表的な結晶構造
第 5 回	固体物質の結晶構造 3	複合固体物質の代表的な結晶構造
第 6 回	格子欠陥と非化学量論性 1	欠陥の分類と熱力学
第 7 回	格子欠陥と非化学量論性 2	格子欠陥と電子伝導特性
第 8 回	格子欠陥と非化学量論特性 3	固体中の原子の拡散
第 9 回	固体電解質	イオン伝導性の基礎と固体電解質の構造
第 10 回	化学電池、燃料電池	電池の原理・材料
第 11 回	固体の電子物性 1	バンド構造と固体の物性
第 12 回	固体の電子物性 2	固体の電気伝導性、半導体の種類
第 13 回	半導体の特性	光伝導、熱電特性、ホール効果
第 14 回	半導体の接合	電子デバイスの基礎原理

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】前期に履修する「無機化学 I」の内容を理解して受講することを望む。次回の配付資料を事前にアップロードするので、講義範囲を教科書で予習しておくこと。講義資料、小問は講義後にアップロードする。

【テキスト（教科書）】

「無機化学 -その現代的アプローチ-」平尾、田中、中平著、東京化学同人。
オリジナルテキストを配付する。

【参考書】

「演習で学ぶ無機化学」伊藤、石垣、佐々木、野田著。
「アトキンス・無機化学 第 6 版（上）・（下）」田中他訳、東京化学同人。
「固体化学 第 2 版」田中著、東京化学同人。

【成績評価の方法と基準】

中間テスト・期末試験（85 %）。平常点、講義中に行う小問、適宜課するレポートの提出（15 %）。

【学生の意見等からの気づき】

配付資料中に設けた空白部分を講義中に学生間で討論する時間をとる。

【その他の重要事項】

質問は、授業中、メールなど。
国立研究開発法人研究所における業務経験を活かした話題を含めて講義を行う。

【Outline (in English)】

Perspective of materials science acquired through learning “Inorganic Chemistry: I” is intended to improve. Basic principles of inorganic solid-state chemistry is learned to understand applications on energy-related and environmental materials, which are indispensable for establishing sustainable society.

The environment and energy that are important for the formation of a sustainable society are two sides of the same coin. By the end of the course, students should be able to acquire basic science on environment-friendly energy materials and inorganic materials that protect the environment.

Final grade will be evaluated according to the following process: mid-term and term-end examination (85%), and in-class contribution(15%).

MAC200YC

有機化学 I

杉山 賢次

開講時期：春学期授業/Spring

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部公開科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要（オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする）

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

新規有機化合物の合成や新しい有機合成法開発の鍵となる有機化合物の物理的・化学的性質を理解する。

【到達目標】

- (1) 有機化合物を形成している化学結合について理解している。
- (2) 有機化合物の化学的性質を理解している。
- (3) 化学反応式を用いて様々な有機化合物の反応を記述できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【授業の進め方と方法】

「基礎有機化学 I・II」が既習であることを前提とする。

テーマとする有機化合物の物理的性質や特徴的な化学反応（化学的性質）について学ぶ。特に、化学反応式を用いた記述が重要である。

資料を学習支援システムの「教材」にアップロードするので、予習に役立てること。

確認問題（学習支援システムの「テスト／アンケート」機能を利用）を解き、授業内容の理解度を確認する。課題に対するフィードバックは学習支援システムで行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	アルケン（1）	アルケンの構造と性質、反応を学ぶ（5、6章）
2	アルケン（2）	アルケンの反応の詳細を学ぶ（6章）
3	アルキン	アルキンの構造と性質、反応を学ぶ（7章）
4	ハロゲン化アルキルの置換反応	S_N1 反応および S_N2 反応を学ぶ（9章）
5	ハロゲン化アルキルの脱離反応	$E1$ 反応および $E2$ 反応を学ぶ（10章）
6	試験・まとめと解説	授業時間内に試験を行う
7	アルコール	アルコールの構造と性質、反応を学ぶ（11章）
8	エーテル・エポキシド	エーテル・エポキシドの構造と性質、反応を学ぶ（11章）
9	アミン	アミンの構造と性質、反応を学ぶ（11、20章）
10	有機金属化合物	有機リチウム試薬、有機マグネシウム試薬を用いた反応を学ぶ（12章）
11	芳香族化合物（1）	芳香族性および芳香族求電子置換反応の基礎を学ぶ（8、19章）
12	芳香族化合物（2）	芳香族求電子置換反応の詳細を学ぶ（19章）
13	芳香族化合物（3）	多置換ベンゼンの合成を学ぶ（19章）
14	まとめ	全体のまとめと補足

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

（準備学習）教科書の対応ページを読む。授業支援システムに用意されている資料を参照すること。本文中の例題を解くことが望ましい。

（復習）講義ノート、参考資料を見ながら、教科書の重要ポイントにマークを入れる。教科書の章末問題を解くことが望ましい。

（宿題）確認問題（学習支援システムの「テスト／アンケート」機能を利用）を解き、期限までに提出する。

【テキスト（教科書）】

Paula Y. Bruice（著）、ブルース有機化学（第7版）〔上〕〔下〕、化学同人

【参考書】

・赤松元浩・河内敦・松本祥治・三野孝（著）、スパイラル有機化学、筑波出版会

・J. McMurry（著）、マクマリー有機化学 第9版、東京化学同人

・山口泰史（著）、大学生のための有機反応問題集、三共出版

・畔田博文・鈴木秋弘・高木幸治・川淵浩之（著）、これでわかる基礎有機化学演習、三共出版

【成績評価の方法と基準】

確認問題（20%）、中間試験（30%）、期末試験（50%）に基づき、本学の定める基準に従い、S～Eの12段階で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

自宅学習課題の充実。

【Outline (in English)】

(Course outline) This course provides students with the foundations for the Organic Chemistry. It will address the basic knowledges of organic chemistry and recent advances as well. Students will learn to recognize such organic reactions in relation to the chemical structures of the molecules.

(Learning Objectives) At the end of the course, students are expected to understand the chemical structure of organic compounds and describe the organic reactions.

(Learning activities outside of classroom) Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter(s) from the text. Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be four hours for a class.

(Grading Criteria /Policies) Final grade will be calculated according to the following process; the mid-term examination and term-end examination (80%) and the required assignments (20%).

MAC200YC

有機化学 I I

杉山 賢次

開講時期：秋学期授業/Fall

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部公開科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要（オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする）

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

新規有機化合物の合成や新しい有機合成法開発の鍵となる有機化合物の物理的・化学的性質を理解する。

【到達目標】

- (1) 有機化合物を形成している化学結合について理解している。
- (2) 有機化合物の化学的性質を理解している。
- (3) 化学反応式を用いて様々な有機化合物の反応を記述できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【授業の進め方と方法】

「基礎有機化学 I・II」、[有機化学 I] が既習であることを前提とする。テーマとする有機化合物の物理的性質や特徴的な化学反応（化学的性質）について学ぶ。特に、化学反応式を用いた記述が重要である。

資料を学習支援システムの「教材」にアップロードするので、予習・復習に役立てること。

確認問題（学習支援システムの「テスト／アンケート」機能を利用）を解き、授業内容の理解度を確認する。課題に対するフィードバックは学習支援システムで行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	アルデヒドとケトン (1)	アルデヒド・ケトンと求核試薬との反応を学ぶ (17章)
2	アルデヒドとケトン (2)	イミン、エナミン、アセタールの生成反応を学ぶ (17章)
3	アルデヒドとケトン (3)	アルデヒド・ケトンの様々な反応を学ぶ (17章)
4	カルボン酸とその誘導体 (1)	カルボン酸およびニトリルの反応を学ぶ (16章)
5	カルボン酸とその誘導体 (2)	酸ハロゲン化物および酸無水物の反応を学ぶ (16章)
6	カルボン酸とその誘導体 (3)	エステルおよびアミドの反応を学ぶ (16章)
7	試験・まとめと解説	授業時間内に試験を行う
8	カルボニル化合物の α 炭素の反応 (1)	ケト・エノール互変異性、 α 炭素の修飾反応を学ぶ (18章)
9	カルボニル化合物の α 炭素の反応 (2)	カルボニル縮合反応を学ぶ (18章)
10	カルボニル化合物の α 炭素の反応 (3)	エノールを経由した種々の反応を学ぶ (18章)
11	ペリ環状反応 (1)	分子軌道法の基礎と電子環状反応を学ぶ (28章)
12	ペリ環状反応 (2)	付加環化反応とシグマトロピー転位を学ぶ (28章)
13	合成高分子	重合反応を学ぶ (27章)
14	まとめ	全体のまとめと補足

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

(準備学習) 教科書の対応ページを読む。授業支援システムに用意されている資料を参照すること。本文中の例題を解くことが望ましい。

(復習) 講義ノート、参考資料を見ながら、教科書の重要ポイントにマークを入れる。教科書の章末問題を解くことが望ましい。

(宿題) 確認問題（学習支援システムの「テスト／アンケート」機能を利用）を解き、期限までに提出する。

【テキスト（教科書）】

Paula Y. Bruice (著)、ブルース有機化学 (第7版) [上] [下]、化学同人

【参考書】

・赤松元浩・河内敦・松本祥治・三野孝 (著)、スパイラル有機化学、筑波出版会

・J. McMurry (著)、マクマリー有機化学 第9版、東京化学同人

・山口泰史 (著)、大学生のための有機反応問題集、三共出版

・畔田博文・鈴木秋弘・高木幸治・川淵浩之 (著)、これでわかる基礎有機化学演習、三共出版

【成績評価の方法と基準】

確認問題 (20%)、中間試験 (30%)、期末試験 (50%) に基づき、本学の定める基準に従い、S ~ E の12段階で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

自宅学習課題の充実。

【Outline (in English)】

(Course outline) This course provides students with the foundations for the Organic Chemistry. It will address the basic knowledges of organic chemistry and recent advances as well. Students will learn to recognize such organic reactions in relation to the chemical structures of the molecules.

(Learning Objectives) At the end of the course, students are expected to understand the chemical structure of organic compounds and describe the organic reactions.

(Learning activities outside of classroom) Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter(s) from the text. Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be four hours for a class.

(Grading Criteria /Policies) Final grade will be calculated according to the following process; the mid-term examination and term-end examination (80%) and the required assignments (20%).

MAC200YC

コンピュータ利用化学

小鍋 哲

開講時期：春学期授業/Spring

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要（オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする）

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

化学を学び、研究する上で必要なコンピュータ技術を学ぶことを目的とする。
特に、コンピュータシミュレーションにより化学現象を理解する方法を学ぶ。

【到達目標】

- ・化学におけるコンピュータシミュレーションの重要性・有用性を理解する。
- ・コンピュータシミュレーションの基本的な方法を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【授業の進め方と方法】

各自の PC を用いて、実習形式により授業を進める。レポート課題や宿題については、提出期限後の授業で解説する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	化学におけるコンピュータ利用の重要性について紹介する。
第 2 回	量子力学の基礎	量子力学の基礎を復習する。
第 3 回	分子軌道法の基礎	分子軌道法の基礎を復習する。
第 4 回	量子化学計算用アプリのインストール	シミュレーションに必要なアプリを各自の PC にインストールする。
第 5 回	分子のモデリング	様々な分子をコンピュータ上に作成する方法を学ぶ。
第 6 回	シミュレーション演習	分子のモデリングに関する演習。
第 7 回	分子の構造最適化	分子の自然な構造をシミュレーションにより求める方法を学ぶ。
第 8 回	シミュレーション演習	分子の構造最適化に関する演習。
第 9 回	分子振動	分子振動をシミュレーションする方法と結果の可視化について学ぶ。
第 10 回	シミュレーション演習	分子振動のシミュレーションに関する演習。
第 11 回	分子軌道のエネルギーと波動関数	分子のエネルギー準位と波動関数をシミュレーションにより求める方法を学ぶ。
第 12 回	シミュレーション演習	分子軌道のエネルギーと波動関数のシミュレーションに関する演習。
第 13 回	発展的内容	量子化学の発展的内容に関するシミュレーションについて学ぶ。
第 14 回	総合演習	授業内容に関する総合演習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】授業後、その日のうちに授業内容を必ず復習する。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。

【参考書】

はじめの授業で紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点 (40%) とレポート課題や宿題 (60%) により総合的に評価する。評価する際のポイントは

- ・学んだことをきちんと再現できる
 - ・学んだことを応用することができる
- である。

【学生の意見等からの気づき】

好評につき、これまで同様教員と一緒に実習形式で進める。

【学生が準備すべき機器他】

貸与 PC、あるいは同等のスペックを有する PC。

【その他の重要事項】

特になし。

【Outline (in English)】

(Course outline)

The aim of this course is to learn the computer technology necessary for studying and researching chemistry. In particular, students will learn how to understand chemical phenomena through computer simulations. (Learning Objectives)

At the end of the course, students are expected to understand the basics of computer simulations described above.

(Learning activities outside of classroom)

After each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

(Grading Criteria /Policy)

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Short reports : 60%、in class contribution: 40%.

MAC200YC

電気化学

片山 英樹

開講時期：春学期授業/Spring

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要（オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする）

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

電気化学は、電子移動反応を通じた化学エネルギーと電気エネルギーの相互変換や化学情報と電気信号の相互変換を扱う学問です。電気化学は様々な分野で重要な役割を担っており、酸化還元反応、電気分解、電池、センサーなどのほか、生体系では代謝、光合成、神経伝達などにも応用されている。これらを理解するためには電気化学的な考え方や方法論を身につけることが不可欠である。本講義では、電位が熱力学量（平衡論）、電流が反応速度（速度論）を表すパラメーターとなる電気化学の基礎を身につけることを狙いとする。

【到達目標】

電気化学における平衡論と速度論を十分に理解するとともに、電気化学測定に必要な基礎知識、電気化学の応用分野について理解を深めることを到達目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【授業の進め方と方法】

オンラインでの開講を基本とし、教科書に沿って進めます。内容の理解を深めるため、教科書に掲載されている演習問題を授業内で適宜行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回	電気化学の概要	講義を始めるに当たり、電気化学が用いられる分野を紹介する。
2回	電気化学系の姿1	電気分解を例に挙げ、固体と液体の界面での挙動について概説する。
3回	電気化学系の姿2	電気分解の進み方とそれに伴う固体と液体の界面での挙動の変化について説明する。
4回	物質のエネルギーと平衡1	化学変化とエネルギーの関係について説明する。
5回	物質のエネルギーと平衡2	化学平衡とエネルギーの関係について説明する。
6回	標準電極電位1	電位と電位差の違い、標準電極電位が持つ意味を説明する。
7回	標準電極電位2	ネルンストの式を導出するとともに、式の持つ意味を説明する。
8回	電解電流1	電位によって決定される電流について説明する。
9回	電解電流2	物質輸送によって変化する電流について説明する。
10回	電解液1	物質や電解液の導電性について説明する。
11回	電解液2	イオンの移動度と電解液の導電性の関係について説明する。
12回	電気化学測定	電気化学測定に必要な基礎知識について説明する。
13回	腐食電気化学1	腐食科学における電気化学について概説する。
14回	まとめ・試験	電気化学の基礎知識に対する到達度試験を実施する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】
 予習ではテキストを事前に読み、授業内で行う演習問題について復習することで授業内容を確認・理解する。

【テキスト（教科書）】

渡辺 正・金村聖志・益田秀樹・渡辺正義共著「電気化学」（丸善）および配布資料（web 添付）

【参考書】

特に指定しない

【成績評価の方法と基準】

平常点（30%）、レポート課題（10%）、期末試験（60%）

【学生の意見等からの気づき】

教科書を中心とし、重要な部分やわかりにくい部分はPPT資料での説明も行います。また、詳細な計算などについては必要に応じて板書も併用します。

【学生が準備すべき機器他】

授業中で演習問題を解くため、計算機が必要です。

【Outline (in English)】

Electrochemistry deals with the interconversion of chemical and electrical energy through electron transfer reactions and the interconversion of chemical information and electrical signals. Electrochemistry, which plays an important role in various fields, is applied to redox reactions, electrolysis, batteries, and sensors, as well as metabolism, photosynthesis, and neurotransmission in biological systems. To understand these applications, it is essential to acquire electrochemical concepts and methodologies. The aim of this lecture is to learn the basics of electrochemistry, in which a potential is a parameter that represents thermodynamic quantities (equilibrium theory) and a current is a parameter that represents reaction rates (kinetics).

MAC300YC

反応工学

小堀 深

開講時期：春学期授業/Spring

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部公開科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要（オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする）

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

化学工学は化学工業における装置設計やプロセス構築を行う学問である。そこには様々な単位操作が存在するが、なかでも反応装置は化学プロセスの中心に位置する、いわば化学プラントの心臓部に当たる重要な部分である。この反応装置を設計するための工学分野が「反応工学」である。受講生は化学工学の基礎（収支・平衡・速度）を十分理解し、装置設計に対して「数値データ」として明確に表現できなければならない。本講では反応装置を中心に述べるが、見方を変えれば同一手法で大気（地球）環境や生体科学分野等に発展させることが可能である。

【到達目標】

- (1) 反応装置に関する物質収支、熱収支が計算できる
- (2) 装置のスケールアップを理解し、その解析手法が理解できる。
- (3) 場面に則した反応装置の設計が出来る。
- (4) 反応工学手法を用いることで、大気環境、海洋環境あるいは地球環境等、いわゆるグリーンケミストリー分野への展開ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【授業の進め方と方法】

授業は講義形式とする。

- (1) 基本的な考え方や基礎方程式の誘導について授業中に行う
- (2) 適宜、簡単な練習問題を解く
- (3) 毎回講義の最後に理解度確認テスト（小テスト）を実施する
- (4) 授業の初めに、前回の小テストの結果からいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	化学工学入門	化学工学の基本概念である収支・平衡・速度の初歩を実例を通して学ぶ。
第 2 回	流れ、バルヌーイの定理	身の回りや生体に見られる流れ現象を例として、流れについての基本的な原理や法則を理解する。
第 3 回	流れ、層流と乱流、摩擦損失	流れの状態を表す無次元数の導入と、摩擦によるエネルギー損失の計算を学ぶ。
第 4 回	熱の移動	熱移動は、伝導、対流、放射によるが、その物理的プロセスに関する基本を理解する。
第 5 回	熱交換器	熱の移動で得た知識を応用し、熱交換器の解析を数式を用いて定量的に理解する。
第 6 回	反応工学とは	反応工学の基礎概念を確認し、応用への基礎を固める。
第 7 回	反応速度の定義、温度依存性	反応速度の表現法を学び、定常状態と非定常状態、さらに反応速度の温度依存性について理解する。
第 8 回	反応速度の導出法	積分法や微分法など、反応速度を導出する方法を学ぶ。
第 9 回	反応器設計の基礎式	様々な反応器を設計する前提としての基礎式の導出と応用を理解する。
第 10 回	回分反応器の設計	回分反応器の物質収支から、設計方程式の導出を試みる。
第 11 回	連続槽型反応器の設計、管型反応器の設計	連続槽型反応器と管型反応器の物質収支から、設計方程式の導出を試みる。
第 12 回	複雑な反応器の取り扱い	反応器の多段化、リサイクル反応器などを定量的に理解する。
第 13 回	物質移動を伴う化学反応工学～拡散と反応が逐次的に起こる場合	発汗による体温調整と、化学反応で促進される物質移動について理解する。
第 14 回	物質移動を伴う化学反応工学～拡散と反応が同時に起こる場合	生体肺における酸素移動の解析を試みる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】

- 第 1 回 予習:教科書の「化学工学入門」を通読 復習:テストの見直し
第 2 回 予習:教科書の「流れ」を通読 復習:テストの見直し

- 第 3 回 予習:教科書の「流れ」を通読 復習:テストの見直し
第 4 回 予習:教科書の「熱の移動」を通読 復習:テストの見直し
第 5 回 予習:教科書の「熱の移動」を通読 復習:テストの見直し
第 6 回 予習:教科書の「化学反応工学」を通読 復習:テストの見直し
第 7 回 予習:教科書の「化学反応工学」を通読 復習:テストの見直し
第 8 回 予習:教科書の「化学反応工学」を通読 復習:テストの見直し
第 9 回 予習:教科書の「化学反応工学」を通読 復習:テストの見直し
第 10 回 予習:教科書の「化学反応工学」を通読 復習:テストの見直し
第 11 回 予習:教科書の「化学反応工学」を通読 復習:テストの見直し
第 12 回 予習:教科書の「化学反応工学」を通読 復習:テストの見直し
第 13 回 予習:教科書の「物質移動を伴う化学反応工学」を通読 復習:テストの見直し
第 14 回 予習:教科書の「物質移動を伴う化学反応工学」を通読 復習:テストの見直し

【テキスト（教科書）】

化学工学、酒井清孝、朝倉書店、2005 年、3600 円＋税

【参考書】

反応工学、橋本健治、培風館、1993 年、2900 円＋税

【成績評価の方法と基準】

授業後理解度確認テスト (100)

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

関数電卓またはそれに類するもの

【Outline (in English)】

【Course outline】

Overall rate of chemical reactions is affected not only by individual reactions but also by mass and heat transfer. This lecture will cover reaction engineering, which are essential for the design of chemical processes and the determination of reaction rates.

【Learning Objectives】

By the end of the course, students should be able to grasp the overall phenomena occurring in reactors, analyze individual processes quantitatively, select reactor type suitable for the target, and make simple design quantitatively.

【Learning activities outside of classroom】

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

【Grading Criteria /Policies】

A comprehension test will be given at the end of each lecture, and the final grade will be calculated based on the total of these scores.

MAC300YC

量子化学

野口 真理子

開講時期：春学期授業/Spring

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部公開科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要（オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする）

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

量子力学の原理を用いて、水素型原子および多電子原子の電子構造を記述し、それぞれの原子スペクトルを理解する。さらに、二原子分子、多原子分子の電子構造の量子力学的取り扱いについて演習を交えながら学習する。この講義により、学生は、これまでに学んだ量子力学の原理が、化学において原子や分子の構造や反応を理解するために重要な役割を果たしていることを学ぶ。

【到達目標】

量子力学の考え方をを用いて、原子および分子の電子構造を記述できる。関連する演習問題を正しく解くことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【授業の進め方と方法】

教科書 9 章「原子の構造とスペクトル」と 10 章「分子構造」（第 8 版ではそれぞれ第 10 章、11 章）を取り扱う。対面での開講となる。授業計画の変更がある場合には、学習支援システムでその都度提示する。

開講方法は、以下の通りである。講義では、黒板での板書または PowerPoint で作成したスライド資料を用いて、量子化学について解説する。授業内容と関連した演習問題を講義内で解く時間を設け、解答してもらい、その場で解説を行う。

必要に応じて、課題や内容についての質問は、授業時間内に随時受け付けるとともに、学習支援システムの掲示板を活用して質問できるようにする。当日または後日授業内で解説やさらなる質問の機会を設けることでフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス、水素原子スペクトル（教科書 9 章）	この講義の進め方について説明する。水素の原子スペクトルとスペクトル系列について学ぶ。（教科書 9 章、9A）
第 2 回	水素型原子の電子構造	水素型原子のシュレディンガー方程式の解法について学ぶ。（教科書 9 章、9A・1）
第 3 回	原子軌道関数とそのエネルギー	水素型原子の波動関数（原子軌道関数）の特徴について学ぶ。（教科書 9 章、9A・2）
第 4 回	ヘリウム原子の電子構造	最も単純な多電子原子であるヘリウム原子のシュレディンガー方程式とその近似的解法について学ぶ。（教科書 9 章、9B・1）
第 5 回	多電子原子の電子構造	電子のスピン、パウリの原理、フントの規則について学び、多電子原子の電子配置について理解する。（教科書 9 章、9B・1、9B・2）
第 6 回	多電子原子の化学的性質の周期性	多電子原子の電子配置と、原子の化学的性質（イオン化エネルギーおよび電子親和力）の周期性の関係を理解する。（教科書 9 章、9B・2、9B・3）
第 7 回	原子のスペクトル	水素型原子および多電子原子のスペクトルと、原子の電子配置とエネルギーの関係を理解する。（教科書 9 章、9C・1、9C・2）
第 8 回	9 章のまとめ	教科書 9 章「原子の構造とスペクトル」において重要な問題の解説を行う。
第 9 回	原子価結合法	原子価結合法の概要を二原子分子と多原子分子を例に理解する。（教科書 10 章、10A・1、10A・2）
第 10 回	分子軌道法の原理	電子を一つ含む最も単純な分子である水素分子イオンを例にとり、分子軌道法の原理について理解する。（教科書 10 章、10B・1、10B・2）
第 11 回	等核二原子分子の構造	多電子分子の中で最も単純な等核二原子分子を分子軌道法で取り扱い、その電子配置を理解する。（教科書 10 章、10C・1）

第 12 回 異核二原子分子の構造

異核二原子分子として HF 分子を例に、極性結合を分子軌道法で記述し、分子軌道エネルギーの近似解を得る方法を理解する。（教科書 10 章、10D・1、10D・2）

第 13 回 多原子分子の構造

ヒュッケル近似を用いて、多原子分子の分子軌道のエネルギー準位図を求める手順を学ぶ。さらに、ヒュッケル法を応用すれば、共役ポリエンのいくつかの性質を説明できることを理解する。（教科書 10 章、10E・1、10E・2）教科書 10 章「分子構造」において重要な問題の解説を行う。

第 14 回 10 章のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】事前に教科書を読み、掲載されている問題は可能な限り解いておく。

【テキスト（教科書）】

Peter Atkins・Julio de Paula 著、中野元裕・上田貴洋・奥村光隆・北河康隆訳、アトキンス物理化学（上）第 10 版、東京化学同人

【参考書】

D. A. McQuarrie・J. D. Simon 著、千原秀昭・江口太郎・齋藤一弥訳、マッカーリ・サイモン物理化学 上 分子論的アプローチ、東京化学同人

【成績評価の方法と基準】

講義での学習状況および参加度（30%）、試験またはその代わりにレポート課題（70%）で成績を評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

資料配布および課題提出のために、学習支援システムを活用する機会がある。そのため、学習支援システムにアクセス可能な情報機器（パソコンまたはスマートフォンなど）を準備する必要がある。

【その他の重要事項】

質問は、学習支援システム上で随時受け付ける。

【Outline (in English)】

You will be able to understand about quantum mechanics for chemistry after you take all these lectures. I will explain about the hydrogen-like atom, multi-electron atoms, and their molecular structures.

MAC300YC

錯体化学

田所 誠

開講時期：春学期授業/Spring

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部公開科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要（オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする）

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

錯体化学は、分子を取り扱う無機化学の中で最先端の分野であり、有機金属化学・生物無機化学・錯体物性科学に分けられる。本講義では、「錯体がなぜきれいな色をしているのか」「磁石はなぜくっつくのか」など、皆さんの基礎的な疑問に基づいて、錯体化学の基礎を知ることができる。そのために、配位立体化学・配位子場理論・分子磁性・錯体分光についての考え方や理解を深めることを目標とする。また、トピックスとして錯体がどのように生体系と関係づけられるのか、応用面ではどのように用いられているのかなど、「生物無機化学」や「錯体物性科学」の最新情報も紹介したい。

【到達目標】

錯体化学を学ぶことによって、化学分野ではなじみの薄い金属を含む固体物性科学の基礎や考え方を学ぶことができる。分子レベルの配位子場理論による考え方は、錯体による色の変化の起源、磁石としての相互作用のあり方、触媒反応のメカニズム、生体金属酵素の反応の基礎、場合によっては電子伝導性の基礎なども学ぶことができる。本授業ではこのような物性化学の詳細までの講義は行わないが、その考え方の基礎を錯体を通して学ぶことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【授業の進め方と方法】

授業は出席と講義にて行う。板書の量が多いのでノートを必ず用意しておくこと。また、より高学年における無機化学であることを念頭におき、できるだけ自発的な学習と、授業外での知識の吸収・興味の発展を期待する。授業中にできればトピックスとしてはじめの15分ぐらい最先端な話をしたいが、前回授業の復習問題なども踏まえて基礎的な授業にするつもりである。配布する資料のとおりに進んでいくので、授業を休んで資料がもらえなかったときは、友達に借りてコピーしてもらおうこと。また、かならず出席はしておくこと。出席率に応じてテストの時に加点する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	錯体化学とは	・配位化学 ・分析化学と錯体 ・金属イオンの効果
2	Werner 型錯体	・配位説 ・配位化合物の異性体（溶媒異性・イオン化異性・配位異性・連結異性）
3	Werner 型錯体	・配位化合物の異性体（立体効果・共生理論・Pearson の法則） ・連結異性の応用
4	Werner 型錯体	・立体異性（平面4角形・6配位8面体・鏡像異性体） ・光学分割
5	原子価結合モデル	・原子価結合法 ・混成軌道と軌道の占有
6	結晶場理論	・結晶場の理論とスピン磁性 ・高スピンと低スピン ・磁化率とスピン軌道相互作用
7	結晶場理論	・配位子場安定化エネルギー（水和エンタルピー・イオン半径） ・分光化学系列 ・各種配位構造と結晶場の分裂
8	結晶場理論	・Jahn-Teller 効果 ・配位子のπ結合性 ・分光化学系列の理論
9	配位子場理論	・分子軌道での取り扱い ・配位子場理論でのπ結合
10	錯体の電子スペクトル	・配位子場遷移 ・項という考え方 ・スピン軌道相互作用とスペクトル
11	錯体の電子スペクトル	・微視的状態の分離 ・基底状態のエネルギー項
12	錯体の電子スペクトル	・Hund の規則の定量的な解釈 ・選択律 ・弱い場と強い場（相関図）
13	錯体の電子スペクトル	・分裂エネルギー準位図（Orgel 図） ・田辺-菅野の図

14 錯体の反応

- ・置換不活性
- ・トランス効果

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】通常、テストは自筆ノート持込可にしてあるので、授業中に黒板に書いてあることを、先生の説明をよく聞いて、口頭の内容もメモをすることを進める。復習を重点的に行い、ノートに書いてあることを中心に勉強し、さらに参考書などで知識を確認して、重要点をメモしておくことが望ましい。テストは必ず説明問題で答えさせるので、解答の文章を予めノートに自分で用意しておくこと時間に余裕ができる。通常、授業では演習問題も含めるため、配位子場理論までで終えることが多い。

【テキスト（教科書）】

主に授業中配られるプリント中心に行う。

一部の授業は、「現代無機化学」（裳華房）田所誠著 p67-p88 にて行う。

【参考書】

「基礎無機化学」F.A. コットン・G. ウィルキンソン・P.L. ガウス（培風館）

「無機化学（下）」シュライバー・アトキンス第4版（東京化学同人）「無機化学（下）」ダグラス・マクダニエル第3版（東京化学同人）

【成績評価の方法と基準】

期末試験の成績（60%）と平常点（40%）で評価する。授業中に行った小テストからも試験を出すので復習しておくこと。試験に出るポイントを指摘して、説明させる文章問題のみ出題する。必ず、最終回あるいは最終回前の講義には出席すること。テスト問題に関する重要なアドバイスを。解答は皆さんが同じような解答ばかりだと、暗記しただけと見なし、減点がある。自分のオリジナルな解答を書くこと。図だけであったり、ノートの丸写しは×必ず説明や理由について文章で書くこと。

【学生の意見等からの気づき】

アンケートでは、錯体化学をこれまで習ってこなかったため、理解することが難しいという意見が多く聞かれた。そのため、より簡単に要点を絞って、皆さんに錯体とは何かを伝えていきたいと考えている。また、授業中に演習問題を行うことで、教えた知識を完全なものを目指す。そのため、錯体スペクトルまでは進まないことが多いので、配位子場理論までしっかり勉強させることを目指す。

【学生が準備すべき機器他】

通常、対面型で授業を行うが、オンライン授業の場合には、ipad を黒板代わりに授業を行う。

【その他の重要事項】

平常点だけで単位がもらえると考えるようであるが、試験問題も解かないと落ちることがある。期末試験の1発勝負なので必ず、試験では解答を日本語文章で書けることが要求される。

【Outline (in English)】

Course outline:

This course introduces Coordination Chemistry to students taking this course.

Learning Objectives:

The goals of this course are to understand Coordination stereochemistry, Ligand field theory, Molecular magnet and Coordination spectroscopy.

Learning activities outside of classroom:

Students will be expected to have completed the required assignments after the lecture. Your study time will be more than two hours for the lecture.

Grading Criteria/Policy:

Your overall grade in the class will be decided based on the following in the class contribution 40%, and term-end examination 60%.

MAC300YC

化学統計力学

藤森 裕基

開講時期：秋学期授業/Fall

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要（オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする）

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

物質を構成する原子、分子、電子等の量子力学的エネルギー状態を基に、統計学的手法を用いて物質の熱力学的性質、巨視的物性をミクロな立場から説明する学問体系である統計力学の基礎について講義および演習を通じて学習する。

【到達目標】

ボルツマン分布と分配関数について理解する。

分配関数と各種熱力学関数の関係を理解する。

具体的な各種熱力学関数を自ら計算する能力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【授業の進め方と方法】

授業は原則として対面授業で行うが、場合によっては zoom 等を用いたオンライン授業やオンデマンド授業で行う場合もある。詳細は学習支援システムで連絡する。

演習や小テスト（またはアクションペーパー）に関しては、授業時間内または翌週の授業の際に取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション・ボルツマン分布 1	統計的ものの見方、配置と重み
2	ボルツマン分布 2	ボルツマン分布の導出
3	分子分配関数 1	分配関数の重要性
4	分子分配関数 2	並進運動・回転運動からの寄与
5	分子分配関数 3	振動・電子状態からの寄与
6	分子のエネルギー 1	エネルギーの基本式
7	分子のエネルギー 2	並進運動・回転運動からの寄与
8	分子のエネルギー 3	振動・電子状態・スピンからの寄与
9	正準アンサンブル 1	アンサンブルの概念
10	正準アンサンブル 2	平均エネルギーの導出
11	内部エネルギー	内部エネルギーの計算と熱容量の導出
12	エントロピー	エントロピーと分配関数
13	熱力学関数	熱力学関数の導出
14	演習・テスト	演習およびテストによりこれまでの理解度の確認を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする。教科書および参考書を基に準備学習、復習等を行うこと。学習支援システムを通じて、小テスト等を行う場合もある。

【テキスト（教科書）】

<教科書> アトキンス「物理化学（第 10 版）」下 東京化学同人

【参考書】

マッカーリ化学数学 Donald A. McQuarrie (著), 藤森裕基 (訳), 松澤秀則 (訳), 筑紫格 (訳) (丸善)

【成績評価の方法と基準】

到達度目標をクリアできているかどうかを演習や小テスト及び期末テスト（またはレポート）により確認する。成績は授業内の演習や小テスト（40%）及び期末テスト（またはレポート）（60%）により評価する。

【学生の意見等からの気づき】

演習や小テスト（またはアクションペーパー）の解答を見ながら授業を進めていく。

【その他の重要事項】

統計力学は、量子力学とともに物質のマクロな性質および分光学の基礎を学ぶうえでも必要不可欠な学問分野である。質問は授業時随時受け付ける。

【Outline (in English)】

This course deals with the basic concepts and principles of statistical mechanics used in chemistry. It also enhances the development of students' skill in simple numerical method.

MAC300YC

物質設計化学

高井 和之

開講時期：秋学期授業/Fall

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要（オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする）

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

物質設計を考えるうえで必要となる基本的な概念・知識を習得し、さまざまな物質の性質の発現原理についての理解を深める。

【到達目標】

物質の性質についての諸原理についてこれまで必修の授業で学んだ内容との関連性を見出す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【授業の進め方と方法】

教科書などに沿ってスライドおよび板書にて物質の性質に関する背景について解説する。宿題を解き提出する。授業の初めに、前回の授業での議論内容および提示した課題へのレポート提出内容からいくつか取り上げて全体へフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	物質設計化学の導入	これまで受講した基礎分野の必修科目との対応づけから物質設計の概念について学ぶ
2	物質の結合	原子間の結合の種類
3	金属結合	自由電子モデル、ドゥルーデモデル
4	金属の性質	電気伝導
5	金属の性質	フェルミ分布・状態密度
6	金属の性質	熱容量
7	金属の性質	熱伝導・熱電変換材料との対応
8	半導体の性質	光吸収・発光と電子デバイスとの対応
9	イオン結合	電気陰性度・イオン結合
10	分子間力	ファンデルワールス力、水素結合
11	多電子原子の電子状態	一般の原子の性質、周期律、可視紫外分光、変分法、摂動法、XPS との対応
12	分子の電子状態	ボルンオッペンハイマー近似、分子の電子構造、赤外吸収・Raman 分光との対応
13	共有結合	分子・高分子の電子状態と結合
14	物質と磁場	磁性の基礎・核磁気共鳴、電子スピン共鳴の原理

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】物理化学 I,II、無機化学 I,II、化学熱力学 I・II、有機化学 I、II の復習
中間課題への解答と学習支援システムを通じた締め切りまでのレポート提出

【テキスト（教科書）】

P. W. Atkins 著、(千原・中村訳)「物理化学」(上/下) 第 8 版、東京化学同人

【参考書】

溝口正著、「物質科学の基礎 物性物理学」、裳華房

【成績評価の方法と基準】

中間課題の評価（66%）を中心に期末試験の採点結果（34%）にもとづき評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】

3 年春学期までの必修の授業内容の復習を中心に物質の性質との対応づけを行っていく。

【学生が準備すべき機器他】

必要に応じて、授業支援システムで資料を配布する。

【Outline (in English)】

(Course outline)

The aim of this course is to help students acquire an understanding of basic concept and knowledge required for Material Design, including deep understanding of a principle of emerging various materials properties.

(Grading Criteria /Policy)

Grading will be decided by comprehensive evaluation based on Midterm homework: 66%, Final examination: 34%.

MAC300YC

エネルギー環境化学

打越 哲郎

開講時期：秋学期授業/Fall

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要（オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする）

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

エネルギー資源の供給や地球環境の破壊といった課題に焦点を当てつつ、環境化学におけるエネルギー面の問題を広く議論する。また、これらの問題の背景や各種エネルギー資源の長所や短所を知り、現代社会におけるエネルギーの重要性の理解を促す。さらに化学の知識に立脚した技術的対応法や社会システム上の検討課題についても学び、今後のエネルギー社会のあるべき姿を考える機会とする。

【到達目標】

地球環境問題やエネルギー資源問題の歴史的背景および自然界が人間圏に課す制約、そしてエネルギー利用に関わる様々な物理化学的技術の現状について理解を深めることにより、地球環境とエネルギー資源の諸問題への対応を、幅広い視点から考察できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【授業の進め方と方法】

講義資料を配布しその内容に沿って講義を進める。学生からの疑問、質問は、翌週の授業で取り上げ解説する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 週 /100 分	人間活動と環境のかかり	環境化学とは、人間の活動と環境変動、公害・環境問題の歴史
第 2 週 /100 分	地球上の資源	各種エネルギー資源、鉱物資源、生物資源
第 3 週 /100 分	資源エネルギー問題	資源・エネルギーと経済・産業の関係、日本の資源事情、世界の電力供給とエネルギー問題、省エネルギー
第 4 週 /100 分	地球大気の変異	大気汚染、地球温暖化、異常気象
第 5 週 /100 分	水質汚染と土壌汚濁	地球の水事情、河川や湖沼の汚染、海洋汚染、土壌汚染の要因、土壌汚染の対策及び浄化技術
第 6 週 /100 分	飲料水と食品と環境	地球における水問題、食料供給の危機、バイオテクノロジーと食料問題、食品汚染
第 7 週 /100 分	化学物質による汚染	重金属、農薬、界面活性剤、製品に使用されている化学物質
第 8 週 /100 分	放射能汚染	原子力発電の仕組み、放射線が人体に及ぼす影響、原発事故
第 9 週 /100 分	プラスチックの利用と環境	世界のプラスチック生産量と廃棄量、海洋プラスチックごみ問題
第 10 週 /100 分	ごみ・廃棄物問題とリサイクル	廃棄物の分類と処理、食品ロス、廃棄物の減量・再利用・リサイクル
第 11 週 /100 分	汚染物質の毒性と生体内での代謝	重金属の毒性、化学物質の免疫毒性、毒性評価法
第 12 週 /100 分	内分泌攪乱物質	内分泌攪乱現象、内分泌攪乱物質問題に関する国内外の取り組み
第 13 週 /100 分	経済と環境	経済活動による環境への負荷、法律の整備、環境修復と環境アセスメント、企業の取り組み

第 14 週 全体のまとめ
/100 分

地球環境とエネルギー資源問題の解決に寄与する化学の重要性

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は各 1 時間を標準とします。配布する資料を参考に講義の内容をよく復習し、分からなかった点を次回の講義で質問すること。

【テキスト（教科書）】

なし。関連資料を毎回配布（学習支援システムにアップロード）する。

【参考書】

適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

出席チェックを兼ねた毎週の簡単な課題テスト（30%）と期末試験（70%）の合計点で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【Outline (in English)】

Energy issues in environmental chemistry will be widely discussed with a focus on issues such as the supply of energy resources and the destruction of the global environment. In addition, we will learn the background of these problems and the advantages and disadvantages of various energy resources, and deepen our understanding of the importance of energy in modern society. It will also be an opportunity to learn chemistry knowledge and technical measures based on issues to be considered in the social system, and to think about the ideal future energy society.

MAC300YC

触媒化学

石垣 隆正

開講時期：春学期授業/Spring

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部公開科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要（オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする）

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

触媒は、化学反応を効率的に進めるために不可欠の物質であり、われわれの生活環境の中で、物質生産と環境対策に幅広く利用されている。本講では、工業的に使われている触媒、環境対策用触媒を中心に、触媒の特徴と機能、触媒反応、触媒調製法について基礎から説明する。

【到達目標】

①触媒とプロセスの関連を習得すること、②触媒機能・触媒反応を理解すること、③環境問題に対して触媒が果たしている役割を理解することを期待する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【授業の進め方と方法】

教科書に沿って説明する。講義の理解度を確認するため、適宜小問を行う。小問は提出の次の週に解説する。トピックに関して、適宜レポートを課す。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	導入、触媒とはなにか	科目内容の説明、触媒の化学工業、環境対策における重要性、触媒の分類など
2	触媒の歴史と役割	触媒化学の科学と技術、その発展、日本における利用
3	固体触媒の表面	固体触媒の形態、表面科学（表面構造・電子状態）
4	固体触媒反応の素過程と反応速度論：その1	固体表面での素過程、吸着とその速度論
5	固体触媒反応の素過程と反応速度論：その2	脱離とその速度式、吸着脱離平衡
6	固体触媒反応の素過程と反応速度論：その3	固体触媒反応の反応速度論：定常状態近似・律速過程
7	触媒反応機構	素反応の組立、反応機能決定法、メカニズムと速度式
8	固体反応場の構造と物性：その1	触媒機能を支配する因子、反応場の構造
9	固体反応場の構造と物性：その2	反応場の構造とそのキャラクターゼーション：化学的方法、機器分析
10	中間テスト	前半部の復習と理解の確認
11	触媒の調整と機能評価：その1	触媒調製法とその原理
12	触媒の調整と機能評価：その2	触媒反応活性の評価法
13	環境・エネルギー関連触媒	環境触媒（自動車触媒、脱硫触媒、二酸化酸素固定触媒、光触媒）、エネルギー関連触媒（燃料電池、水素製造、光触媒、色素増感太陽電池）
14	光触媒反応	半導体光触媒の科学と応用

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】・触媒化学を理解するには、2年次までに履修するさまざまな基礎科目の内容を身につけておく必要があります。「無機化学概論」、「化学熱力学Ⅰ・Ⅱ」、「物理化学Ⅰ・Ⅱ」、「無機化学Ⅰ・Ⅱ」の内容を理解して受講することを望みます。

・各回に勉強する内容を、教科書で予習して講義に臨んで下さい。
・重要な内容を小問で演習します。講義後にアップロードするので復習しておいてください。

【テキスト（教科書）】

「触媒化学」（応用化学シリーズ6）上松、中村、内藤、三浦、工藤共著、朝倉書店（2004）。

【参考書】

「新版 新しい触媒化学」菊地、射水、瀬川、多田、服部 共著、三共出版。

「触媒・光触媒の科学入門」山下、田中、三宅、西山、古南、窪田、玉置 共著、講談社。

「触媒化学」田中ら 共著、講談社。

【成績評価の方法と基準】

定期試験（80%）、小問（10%）、レポート（10%）により評価。

【学生の意見等からの気づき】

配付資料中に関して講義中に学生間で討論する時間をとる。

【その他の重要事項】

独立行政法人研究所における業務経験を活かした話題を含めて講義を行う。

【Outline (in English)】

Catalysts are indispensable for accelerating chemical reactions, have been widely used and utilized in our life, both in materials production and environmental issues. This course aims at acquiring basic knowledge for understanding characteristics and functions of catalysts, surface catalytic reactions on solid-state catalysts, and fabrication methods, especially of solid-state catalysts, such as industrially utilized catalysts and environmentally-related catalysts.

At the end of the course, students are expected (1) to learn the relationship between catalysts and processes, (2) to understand catalytic functions and catalytic reactions, and (3) to understand the role that catalysts play in environmental problems.

Final grade will be evaluated according to the following process: mid-term and term-end examination (80%), and in-class contribution(20%).

MAC200YC

環境化学工学概論

森 隆昌

開講時期：秋学期授業/Fall

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部科目履修制度で履修する学

生：教員の受講許可が必要（オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする）

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

化学工学は工業製品を製造するために必要な基礎知識、理論を学ぶ学問である。本講義では化学工学の基本となる 1. 物性、2. 収支、3. 流動、4. 熱の考え方を理解し、各単位操作の基礎について学ぶことを目的とする。

【到達目標】

物質収支、エネルギー収支を理解する。
 流動の基礎理論を理解する。
 伝熱の基礎理論を理解する。
 蒸留の基礎理論を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【授業の進め方と方法】

本講義では、物性、収支、流動、熱の基礎理論について講義するとともに、各単位操作の基礎について演習を交えて講義する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回目	イントロ、化学工学を学ぶための基礎知識	化学工学とは 化学工学に必要な物理量と単位、単位換算
第 2 回目	物質収支	定常状態（物理プロセス）の物質収支
第 3 回目	物質収支	定常状態（反応プロセス）の物質収支
第 4 回目	物質収支	非定常状態の物質収支
第 5 回目	流体輸送	輸送機器、物質収支
第 6 回目	流体輸送	エネルギー収支、ベルヌーイの定理
第 7 回目	流体輸送	ハーゲン・ポアズイユの式
第 8 回目	これまでの授業のまとめ	習熟度・理解度のチェック、試験
第 9 回目	熱の移動	伝導伝熱
第 10 回目	熱の移動	対流伝熱
第 11 回目	熱の移動	熱交換器
第 12 回目	物質移動	単蒸留
第 13 回目	物質移動	連続精留
第 14 回目	物質移動	蒸留塔の設計

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】レポート課題を解いて授業時に提出する。

【テキスト（教科書）】

ビギナーズ化学工学 林順一・堀河俊英著 化学同人

【参考書】

化学工学のテキスト
 移動現象（輸送現象）に関する参考書
 伝熱に関する参考書

【成績評価の方法と基準】

課題（30%）、中間試験（35%）、期末試験（35%）の結果を総合して評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

授業では計算問題を解くため電卓を持参すること。

【Outline (in English)】

(Course outline) Chemical engineering has to do with industrial processes in which raw materials are changed or separated into useful products. In this course students will learn the basic principles of chemical engineering, such as material balance, fluid flow, heat transfer, and mass transfer.

(Learning Objectives) Students are expected to formulate and solve material and energy balances on chemical process systems. Students are also expected to understand the basic theories for transport phenomena, heat conduction and distillation.

(Learning activities outside of classroom) Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter(s) from the text. Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be four hours for a class.

(Grading Criteria /Policies) Final grade will be calculated according to the following process; the mid-term examination (35%) and term-end examination (35%) and the required assignments (30%).

MAC300YC

環境化学工学応用

山下 明泰

開講時期：春学期授業/Spring

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部公開科目履修制度で履修する学生

生：教員の受講許可が必要（オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする）

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

化学工学の基礎理論は、輸送現象論、反応工学、化学熱力学に集約される。この講義では、輸送現象論のうち特に、流動と伝熱について取り上げ、基礎理論から実装置の設計・解析の手法までを学ぶ。

【到達目標】

管内の流れを運動量輸送の観点で捉え、流れに層流、遷移流、乱流の区別があること、速度分布があること、を知ることを通じて流れの特性について理解する。また、伝熱に関しては、伝導、対流、輻射の3つのメカニズムの数学的な取り扱いを理解し、最終的には熱交換器など、実装置の設計ができるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【授業の進め方と方法】

解析に必要な系は、図としてスクリーンに表示することで、まず全体像を明らかにする。板書による講義が主体となるが、数式の導出過程は極力丁寧に示すことで対応する。内容の理解のために、問題演習が大きなウェイトを占める。

本講義は対面式、またはハイフレックス（同時双方向方式のライブ配信）で実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	化学工学と輸送現象論 輸送現象論の中の流動 および伝熱	化学工学の基礎理論を概説し、その中で輸送現象論が果たす役割について述べる。
第2回	流動（1）：流れの分類、力と運動量	流動は運動量輸送、伝熱はエネルギー輸送として捉える。そのための基本法則について考える。
第3回	流動（2）：平板上の流れ	平板上の流れについて、速度分布を求め、最終的には体積流量を導出する。
第4回	流動（3）：円管内流動	円管内流動について、速度分布を求め、最終的には体積流量（ハーゲン・ポアズイユの法則）を導出する。
第5回	流動（4）：乱流、ベルヌーイの定理	。乱流を含む、やや複雑な流れ系について考える。ベルヌーイの定理を導出する。
第6回	流動（5）：ベルヌーイの定理（続き）	ベルヌーイの定理を用いる例題を解く。さらに、充填層の圧力計算について言及する。
第7回	流動（6）：運動量輸送方程式	運動量輸送方程式の一般形として、Navier-Stokes の方程式について概説する。
第8回	伝熱（1）：伝熱メカニズム	伝熱の3つのメカニズムについて、基本法則を復習する。
第9回	伝熱（2）：伝導伝熱	電流による発熱を伴う伝導伝熱について、温度分布を考える。
第10回	伝熱（3）：伝導伝熱の例題	伝導伝熱に関する複数の例題を学ぶ。
第11回	伝熱（4）：対流伝熱	対流伝熱のメカニズムおよび熱伝達係数の推算について学ぶ。

第12回 伝熱（5）：熱交換器 熱交換器の設計方程式を導出する。

第13回 伝熱（6）：輻射伝熱 輻射伝熱のメカニズムについて考える。対流と輻射の同時進行形について考える。エネルギー方程式を用いて例題の別解を考える。

第14回 伝熱（7）：対流と輻射による伝熱 複合伝熱および複合伝熱係数について学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】
内容の理解には、レポート課題の遂行が必須である。したがって、履修者は全員、全課題について、解答の義務を負うものとする。
課題に対するフィードバックは学習支援システムで行う。

【テキスト（教科書）】

相良 紘著：よくわかる 化学工学計算の基礎（日刊工業新聞社）

【参考書】

Bird, Stewart, Lightfoot: Transport Phenomena 2-nd edition, Wiley

藤田重文著：化学工学演習、東京化学同人

藤田重文著：化学工学 I （第2版）、岩波全書（絶版）

【成績評価の方法と基準】

レポート課題 50%

定期試験 50%

但し、定期試験が実施できない場合には、レポート課題100%で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

科目の性格上、着目している系の数学的取り扱いには避けられないが、無味乾燥な数式の導出にならぬよう、現実に近い系で、得られた数式の有用性を確認できるように配慮する。

【学生が準備すべき機器他】

パソコンによる着目系の表示と、板書またはパワーポイントによる。

【その他の重要事項】

演習問題を遂行するために、関数電卓の携帯は必須である。

本講義は日米の民間研究所で実務経験を持つ講師が、豊富な実例を交えて講義することで、基礎理論の応用例を身近に実感できるように配慮している。

【Outline (in English)】

1.Course outline

Basic principles in chemical engineering include transport phenomena, chemical reaction engineering, and chemical thermodynamics. This course teaches the fluid flow dynamics and heat transfer usually categorized in transport phenomena. Students will learn basic theories as well as designing and analyzing procedures of real industrial devices used in chemical plants and factories.

2.Learning Objectives

Students understand the behavior of the fluid from the viewpoint of momentum transport and understand also that there is a velocity distribution in the fluid for the first half period. About the energy transport in the second half, students must learn mathematical treatment of three mechanisms of heat transfer in order to design real chemical plant devices, including heat exchangers.

3.Learning activities outside of classroom

Students must solve all the homework problems outside the class and hand in their papers before the due.

4. Grading Criteria / Policy

It depends on the COVID-19 infection situation, i.e.,

- a. when we have the final exam: Final exam 50% + Homework 50%
- b. when we do not have the final exam: Homework 100%

MAC300YC

無機素材反応化学

明石 孝也

開講時期：春学期授業/Spring

備考（履修条件等）：成績優秀者の他学部公開科目履修制度で履修する学生

生：教員の受講許可が必要（オンライン授業の場合は、学習支援システムで許可を得るようにする）

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

無機素材を取り扱う技術者・研究者として必要な状態図と熱力学の基礎を学び、演習により理解を深める。

【到達目標】

状態図を駆使して無機素材のプロセッシングや評価を行える能力を身に付けることを到達目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

DP2

【授業の進め方と方法】

擬一元系状態図から擬三元系状態図までの演習を段階的に行い、状態図に関する理解を深める。解説の後に演習を行い、学生の解答状況に合わせて適宜解説を加える。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	相律	相の数え方、示強変数と示量変数の違い、Gibbs の相律、Gibbs の相律の使い方を、演習を通して学ぶ。
第 2 回	擬一元系状態図 (1)	ファンデルワールスの状態方程式を用いて、CO ₂ の p (圧力)- V (体積) 図を作成し、擬一元系状態図の読み方を、演習を通して学ぶ。
第 3 回	擬一元系状態図 (2)	CO ₂ の p (圧力)- V (体積) 図と CO ₂ の T (温度)- p (圧力) 図の関係を、演習問題を解くことで理解を深める。
第 4 回	二元系状態図 (1) :	二元系の正則溶液の混合ギブズエネルギー曲線を作図し、モル分率と温度の状態図を作製する。
第 5 回	二元系状態図 (2) : 酸化還元	金属の酸化反応のギブズエネルギー変化の計算し、自発的な反応が進む方向を決定する。
第 6 回	二元系状態図 (3) : エリンガム図	金属と酸化物共存状態における平衡酸素分圧を計算するとともに、エリンガム図の使い方を演習する。
第 7 回	中間テスト	前半の演習の理解度をチェックする。
第 8 回	二元系状態図 (4) : てこの原理	モル分率 vs. 温度の状態図を読み、温度が変化した場合の状態変化を理解する。また、状態図のてこの原理も理解する。
第 9 回	二元系状態図 (5) : 昇温および冷却過程における状態の変化	モル分率 vs. 温度の状態図を読み、温度が変化した場合の状態変化を理解する。
第 10 回	二元系状態図 (6) : 昇温および冷却過程における状態の変化	モル分率 vs. 温度の状態図を読み、温度が変化した場合の状態変化に関する理解を深める。
第 11 回	擬三元系状態図 : 昇温および冷却過程における状態の変化	三角図の読み方を演習を通して学び、酸化物の擬三元系状態図の液相面を解読する。

第 12 回 熱力学計算の実際 (1) 蒸気種の平衡蒸気圧を計算して、気相を介したレアメタルの分離・回収

第 13 回 熱力学計算の実際 (2) 水素-水蒸気混合雰囲気における平衡酸素分圧を計算し、酸素濃淡電池の起電力を計算する。

熱力学計算の実際 (3) 固体微粒子の熱力学的安定性 固体微粒子の界面エネルギーを計算し、熱力学的安定性を考察する。

第 14 回 熱力学計算の実際 (4) 非酸化物/酸化物界面における蒸気種の平衡蒸気圧を計算して、高温酸化

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】

毎回の授業中に課題する演習問題による評価が大部分を占める。したがって、前回までの講義内容を復習して理解を深めておくこと、講義の進捗状況に合わせて次回に課題される範囲を予習しておくことが重要である。

【テキスト（教科書）】

特に使用しない。

【参考書】

・アトキンス 物理化学（上）第 10 版：中野元裕、上田貴洋、奥村光隆、北河康隆 訳、東京化学同人
・見方・考え方 合金状態図：三浦憲司・小野寺秀博・福富 洋志 著、オーム社
・プログラム学習 相平衡状態図の見方・使い方：山口明良 著、講談社サイエンティフィク

【成績評価の方法と基準】

毎回の授業中に課題する演習問題 (10%)、中間試験 (40%)、期末試験 (50%)、授業への取組み姿勢により、総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

学生の理解度を把握するために、対面授業を実施する。

【学生が準備すべき機器他】

関数電卓。テスト以外ではノートパソコンを持ち込んでも良い。

【その他の重要事項】

鉄鋼業界の企業にてプロセス開発研究を行っていた教員が、その経験を活かして、材料開発のために必要となる状態図の読み方や熱力学の基礎について講義する。

【Outline (in English)】

(Course outline) The objective of this class is to learn thermodynamics and phase diagrams for engineer and researcher to fabricate and handle inorganic materials. For deep understanding, many exercises will be used.

(Learning Objectives) Students are expected to understand thermodynamics and phase diagrams,

(Learning activities outside of classroom) Student must understand the content of the previous class.

(Grading Criteria /Policy) Final grade will be calculated according to quizzes in classes (10%), mid-term examination (40%), term-end examination (50%), and in-class contribution.

MAT200XG

フーリエ変換

西村 滋人

開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

フーリエ解析とは、周期関数を三角関数を用いて表現する理論で、波動現象全般を解析する基本的な手法として多方面で活用される。この授業では、フーリエ級数、フーリエ変換、およびラプラス変換の基礎とその基本的な応用例を学ぶ。

【到達目標】

1. 周期関数をフーリエ級数に展開することができるようになる。
2. フーリエ変換の仕組みと工学的な意味を理解する。
3. ラプラス変換を計算して微分方程式を解けるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

板書による講義。演習も適宜実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	周期関数	三角関数の周期についての復習
2	フーリエ級数	三角関数の直交性および周期関数の三角関数による表示
3	フーリエ級数の計算例	フーリエ係数の計算についての例題の解説
4	正弦展開と余弦展開	奇関数ないし偶関数のフーリエ展開
5	Gibbs 現象	不連続点付近でのフーリエ級数の挙動についての注意
6	フーリエ級数の収束	Dirichlet 積分核、パーセバルの等式など
7	演習 1	講義前半のまとめ
8	複素フーリエ級数	周期関数の複素指数関数による冪級数表示
9	フーリエ変換	周期的でない関数の取り扱い
10	フーリエ変換の性質	フーリエ変換の様々な公式の紹介
11	ラプラス変換	定義および初等関数のラプラス変換の計算
12	逆ラプラス変換	原関数の復元と微分方程式への応用
13	演習 2	講義後半のまとめ
14	期末試験・まとめと解説	講義内容の理解の評価

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】フーリエ級数、フーリエ変換、およびラプラス変換はいずれも関数を積分変換して自然現象を解析する手法である。そのため、毎回の授業後には、その回の講義内容について、簡単な計算問題を解いて積分の計算に十分に習熟しておくことが望ましい。

【テキスト（教科書）】

指定しない。

【参考書】

大石進一「フーリエ解析」（理工系の数学入門コース新装版）（岩波書店）
 国分雅敏「ラプラス変換」（数学のかんどころ 13）（共立出版）

【成績評価の方法と基準】

学力試験 80 % レポート課題 20 %

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【Outline (in English)】

(Course outline)

This course introduces Fourier series and Fourier transforms.

(Learning Objectives)

By the end of the course, students should be able to do the followings:

- (1) to calculate Fourier series expansion of periodic functions,
- (2) to apply methods of Fourier transform in engineering, and
- (3) to solve ordinary differential equations by using Laplace transform.

(Learning activities outside of classroom)

After each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

(Grading Criteria)

Term-end examination:80%, Short reports:20%.

MAT200XG

空間の幾何

中村 真帆

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は数学教職科目「幾何」を念頭におく測地天文系の専門科目である。授業では立体の数学と測地を中心に、衛星測位や特殊相対論で使用する幾何数学を学ぶ。

【到達目標】

本授業が、空間の幾何学を通して現代科学で駆使される科学観測や物理学の理解への橋渡しとなることを目指す。修了後に速やかに様々な科学観測や衛星測位、特殊相対論などを学ぶようになっていくことを目指す。そのため、主に衛星測位の原理を理解すること、特殊相対論などを学ぶための幾何の基礎知識の獲得を到達目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

講義では宇宙や地球観測の事例を幅広く紹介し、様々な分野において共通に使われる幾何の知識を有用な道具として学べるようにする。具体的には現代において地球や宇宙がどのように観測されているかを、測地と空間幾何の観点から学ぶ。

可能な限り基礎的な幾何の練習問題を用意し、これを確実に身に付けていくことで学習を進める。

毎回授業アンケートや感想を出席の確認に提出してもらっており、授業の進め方の希望や特に興味のある話題などを書いてもらい、授業に取り入れるようにしている。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	地球・宇宙の数学的記述	地球や宇宙の観測において必要となる数学について概観する
第 2 回	三角関数とベクトル	測地で用いる三角関数とベクトルについての復習
第 3 回	三角測量と基準	三角測量における基準について学ぶ
第 4 回	三角形と多角形	測地における三角形や多角形の用い方を学ぶ
第 5 回	球面幾何と緯度経度	球面幾何による緯度経度の表し方を学ぶ
第 6 回	地球座標系と地球楕円体	地球上のある地点を表す様々な方法を学ぶ
第 7 回	幾何変換	様々な幾何変換とその方法を学ぶ
第 8 回	地図の投影	地図の投影方法について学ぶ
第 9 回	球面幾何と天球座標	天球座標の表し方について学ぶ
第 10 回	天体の位置決定と天文航法	宇宙空間での天体の位置決定の方法と天文航法について学ぶ
第 11 回	天体の距離決定	宇宙空間で天体の距離をどのように測定しているかについて学ぶ
第 12 回	衛星測位と GPS	衛星測位の考え方と GPS システムの原理について学ぶ
第 13 回	衛星測位と GPS	衛星測位の考え方と GPS システムの原理について学ぶ
第 14 回	まとめ	各回の課題から出題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4 時間を標準とする】課題として幾何数学の前提となる基礎知識を確認してもらうことがある。準備としてこれまでに高校や一般教養科目で学んできた数学を、目的をもって復習することで、授業内容の理解が深まるように進めたい。

【テキスト（教科書）】

日本測地学会のテキストを中心とする

<http://www.geod.jpn.org/web-text/index.html#gsc.tab=0>

【参考書】

必要に応じて講義で示す

【成績評価の方法と基準】

課題として出す練習問題を確実に解けるようになること。

まとめではこれから出題する。

評価基準は課題が 40% 期末試験が 60% とし、期末試験の合格点は 60 点以上とする。

課題の提出、発表状況に応じて成績をプラス a する。

【学生の意見等からの気づき】

練習問題を可能な限り提供したい。

【学生が準備すべき機器他】

ノートと計算用紙は必須

【その他の重要事項】

数学的な厳密さより、数学の実践的な使用方法を学ぶ。講義は時間に限りがあり、すべての重要事項を盛り込むことは難しい。授業内容は変更になることもある。

【Outline (in English)】

In this class, we learn space geometry by understanding the practical geodesy and elements of global navigation satellite system (GNSS).

This class aims to be a bridge to the understanding of scientific observation and physics used in modern science.

In the lecture, we will introduce a wide range of cases of space and earth observation so that we can learn the knowledge of geometry commonly used in various fields as a useful tool. Specifically, we will learn how the earth and the universe are observed in modern times from the viewpoint of geodesy and spatial geometry.

Being able to solve the exercises that are given as assignments, and questions will be asked from these in final exam.

The evaluation criteria are 30% for assignments and 70% for final exams, and the passing score for final exams is 60 points or higher.

MAT200XG

対称性と構造

長谷 正司

開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

2016年度のノーベル物理学賞の受賞者の1人であるホールデンは、1次元格子の格子点に、電子（のスピン）を奇数個づつ置く場合と偶数個づつ置く場合で、性質が大きく異なることを示した（ホールデン予想）。多くの人が疑問を抱いたが、その後の研究の進展により、その予想が正しいことが証明された。実は、対称性を考慮すると、その予想が妥当であることが容易に理解できることも分かった。

対称性は色々な分野で重要な概念である。対称性を理解するためには、群論という数学を理解することが重要である。本授業では、できるだけ例を挙げながら、群論に関して学ぶ。

【到達目標】

本授業を履修し理解することで、学生は、群の定義に始まり、どのような群が存在し、どのような性質を持つかを理解することができる。対称性の概念は、多くの人が特に意識せずに使っている。例えば、正三角形は重心まわりで120度回転させると元の正三角形と重なるなどである。群論を理解すれば、対称性を体系立てて理解することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は講義を中心とする。原則的には対面授業である。課題等については翌週の授業の中で講評する。講義期間中に節目での小テストも行う。授業計画の変更等があれば、学習支援システム（Hoppii）でその都度提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	対称性が重要な役割を果たす物理について紹介する。また、正四面体などを例に挙げて、どのような対称性があるかを示して、対称性という概念に慣れてもらう。
2	群の公理、数の集合	群の公理を学ぶ。また、実数全体の集合などを使って、群の公理の理解を深める。
3	2面体群	2面体群について学ぶ。また、2面体群を用いて、可換ではない対称性の群について学ぶ。
4	部分群と生成元	ある群では、その部分集合も群（部分群）になることがある。部分群について学ぶ。また、部分群に関する幾つかの定理を学ぶ。
5	置換	置換の集合も群となることを学ぶ。また、偶置換と奇置換の概念について学ぶ。
6	同型写像	見た目では異なる2つの群も、群の性質としては同じであることがある（同型）。同型と同型写像について学ぶ。また、同型写像に関する幾つかの定理を学ぶ。
7	中間まとめ	今までに学んだことをまとめる。
8	プラトンの立体とケイリーの定理	5つの凸な正多面体（プラトンの立体）の回転対称性のなす群がどの群と同型かを学ぶ。また、関連する定理を学ぶ。
9	行列群	行列の集合も群になり得ること、どのような行列群が存在するかを学ぶ。
10	群の直積	群の直積の概念と関連する定理を学ぶ。
11	ラグランジュの定理	ラグランジュの定理と関連する定理を学ぶ。
12	分割	分割の概念と関連する定理を学ぶ。
13	コーシーの定理	小さな位数（8まで）の群は、どのような群と同型になるかを学ぶ。
14	まとめ	授業内容をまとめる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、4時間を標準とする】講義内容の理解を深めるため、授業ノートと配布資料を勉強することが望ましい。

【テキスト（教科書）】

対称性からの群論入門、M.A. アームストロング（著）、佐藤信哉（訳）、丸善出版。

【参考書】

特にありません。

【成績評価の方法と基準】

期末試験得点75%、講義期間中の小テストを含む平常点25%。

【学生の意見等からの気づき】

例を多用しながら、分かり易い授業になるように心がけます。

【学生が準備すべき機器他】

ありません。

【Outline (in English)】

The concept of symmetry is important in various fields. It is important to study group theory in order to understand symmetry. In the lectures, I will explain group theory using various examples. The goals of this course are to understand group theory and symmetry. Students will be expected to study a lecture notebook and documents distributed in lectures. Your overall grade in the class will be decided based on the term-end examination (75%) and mid-term examination (25%).

COT111KA-CS-100

情報科学入門

日高 宗一郎

必選区分： | 配当年次/単位：1～4 年次 / 2 単位 | 開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

情報科学における最も基本的な概念である、アルゴリズム、計算、モデル化について学ぶ。

【到達目標】

情報科学の分野でアルゴリズムおよび計算をどのように取り扱っているかを理解する。また、実世界の様々な問題をコンピュータで扱う上で不可欠となるモデル化の概念と方法論を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

情報科学部ディプロマポリシーのうち「DP2」と「DP3-1」に関連

【授業の進め方と方法】

情報科学の分野において実世界の様々な問題を解くためには、情報科学特有の概念をまず初めに理解する必要がある。本講義は、情報科学の理論に初めて触れる学生を対象とし、今後、情報科学を学んでいくために不可欠となる、プログラミングの基礎であるアルゴリズムの記述法、情報科学における計算の取り扱い方、実世界を対象とした問題を情報科学で扱うためのモデル化の手法を初学者が身に付けられるように講義を進める。また、講義で示した手法を学生が実感できるように、アルゴリズム、計算、モデル化のそれぞれにおいて演習を行う。授業で課した課題（小テストやレポート）等を取り上げ、授業内で全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	情報科学とは	ガイダンス、講義に必要な環境整備を行う。
2	アルゴリズム基礎 (1)	アルゴリズムとは何かを理解するとともに、簡単なアルゴリズムの例を学ぶ。
3	アルゴリズム基礎 (2)	フローチャートによってアルゴリズムを記述する方法を理解する。
4	Scratch によるアルゴリズム学習	簡単なアルゴリズムを Scratch でプログラミングする。
5	計算とは (1)	情報科学分野における計算の概念を学ぶとともにチューリングマシンの定義を学ぶ。
6	計算とは (2)	計算の理解に重要な再帰の概念と、チューリングマシンによる再帰の実現法について学ぶ。
7	チューリングマシンによるアルゴリズム記述の例	幾つかの具体的なアルゴリズムのチューリングマシンによる記述法を理解する。
8	チューリングマシンの記述演習	簡単なアルゴリズムをチューリングマシンで記述することにより、チューリングマシンに関する理解を深める。
9	チューリングマシンの限界の理解	チューリングマシンの停止性判定問題を通して、チューリングマシンの計算可能性の限界を理解する。
10	情報科学における問題の解き方	情報科学分野においてモデル化を行うことの重要性を理解する。
11	情報科学におけるモデル化の実例	物理現象のモデル化など、情報科学分野におけるモデル化の実例を学ぶ。

- | | | |
|----|---|--|
| 12 | 実世界の問題をモデル化する演習 | 簡単な実世界の現象のモデル化を通して、モデルの概念に関する理解を深める。 |
| 13 | モデル化に関する演習課題の発表会 | 第 12 回の講義で行った演習課題の発表会を行う。 |
| 14 | 情報科学分野における計算、アルゴリズム、モデル化に関する最新の課題およびまとめ | 情報科学分野における計算、アルゴリズム、モデル化に関する最新のトピックを学ぶ。本講義で学んだ内容を総括する。 |

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義の内容を復習する。講義内で出される課題を解き、レポートを作成する。

本授業の準備・学習時間は、各週 4 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

担当教員が作成した講義資料をウェブ上で配布する。

【参考書】

L. ゴールドシュレーガー, A. リスター (著), 武市正人, 角田博保, 小川貴英 (訳), 計算機科学入門, 近代科学社, 2000. ISBN 4-7649-0284-2
川合慧 (編), 情報, 東京大学出版会, 2006. ISBN 978-4-13-062451-0
山口和紀 (編), 情報 第 2 版, 東京大学出版会, 2016. ISBN 978-4-13-062457-2

和達三樹, 物理のための数学 (物理入門コース 新装版), 岩波書店, 2017. ISBN 978-4000298704

デヴィッド・バージェス モラグ・ボリー (著), 垣田 高夫 (翻訳), 大町比佐栄 (翻訳), 微分方程式で数学モデルを作ろう, 日本評論社, 1990. ISBN 978-4535781733

阿部 彩芽 (著), 笠井 琢美 (著), チューリングの考えるキカイ, 技術評論社, 2018, ISBN 978-4-7741-9689-3

猪股 俊光 (著), 山田 敬三 (著), 計算モデルとプログラミング, 森北出版, 2019, ISBN 978-4627854710

John MacCormick (著), 松崎 公紀 (監修), 長尾高弘 (翻訳), 計算できるもの、計算できないもの, オライリージャパン, 2020, ISBN 978-4873119335

【成績評価の方法と基準】

期末試験を 90%以上とし、レポート、授業中の参加の度合、貢献度を最大 10%考慮して総合的に判断する。

【学生の意見等からの気づき】

高度な内容については適宜補足を加える。

【学生が準備すべき機器他】

演習では貸与ノート PC を利用する。

【Outline (in English)】

In this course the notions of algorithm, computation and modeling that are most fundamental to information sciences are covered.

The goal of this course is to understand

- how the notions of algorithm and computation are treated in the field of information science.

- notion and methodology of modeling that are indispensable to treat real-world problems in computers.

Besides attending the class, students are expected to review the content of the course, complete assignments and submit reports.

Students will be studying four hours for a class.

Final grade will be calculated based on, but not limited to, term-end exam (more than 90%), reports and in class contribution (up to 10%).

COT111KA-CS-100

情報科学入門

坂本 寛

必修区分： | 配当年次/単位：1～4 年次 / 2 単位 | 開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

情報科学における最も基本的な概念である、アルゴリズム、計算、モデル化について学ぶ。

【到達目標】

情報科学の分野でアルゴリズムおよび計算をどのように取り扱っているかを理解する。また、実世界の様々な問題をコンピュータで扱う上で不可欠となるモデル化の概念と方法論を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

情報科学部ディプロマポリシーのうち「DP2」と「DP3-1」に関連

【授業の進め方と方法】

情報科学の分野において実世界の様々な問題を解くためには、情報科学特有の概念をまず初めに理解する必要がある。本講義は、情報科学の理論に初めて触れる学生を対象とし、今後、情報科学を学んでいくために不可欠となる、プログラミングの基礎であるアルゴリズムの記述法、情報科学における計算の取り扱い方、実世界を対象とした問題を情報科学で扱うためのモデル化の手法を初学者が身に付けられるように講義を進める。また、講義で示した手法を学生が実感できるように、アルゴリズム、計算、モデル化のそれぞれにおいて演習を行う。授業で課した課題（小テストやレポート）等を取り上げ、授業内で全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	情報科学とは	ガイダンス、講義に必要な環境整備を行う。
2	アルゴリズム基礎 (1)	アルゴリズムとは何かを理解するとともに、簡単なアルゴリズムの例を学ぶ。
3	アルゴリズム基礎 (2)	フローチャートによってアルゴリズムを記述する方法を理解する。
4	Scratch によるアルゴリズム学習	簡単なアルゴリズムを Scratch でプログラミングする。
5	計算とは (1)	情報科学分野における計算の概念を学ぶとともにチューリングマシンの定義を学ぶ。
6	計算とは (2)	計算の理解に重要な再帰の概念と、チューリングマシンによる再帰の実現法について学ぶ。
7	チューリングマシンによるアルゴリズム記述の例	幾つかの具体的なアルゴリズムのチューリングマシンによる記述法を理解する。
8	チューリングマシンの記述演習	簡単なアルゴリズムをチューリングマシンで記述することにより、チューリングマシンに関する理解を深める。
9	チューリングマシンの限界の理解	チューリングマシンの停止性判定問題を通して、チューリングマシンの計算可能性の限界を理解する。
10	情報科学における問題の解き方	情報科学分野においてモデル化を行うことの重要性を理解する。
11	情報科学におけるモデル化の実例	物理現象のモデル化など、情報科学分野におけるモデル化の実例を学ぶ。

12	実世界の問題をモデル化する演習	簡単な実世界の現象のモデル化を通して、モデルの概念に関する理解を深める。
13	モデル化に関する演習課題の発表会	第 12 回の講義で行った演習課題の発表会を行う。
14	情報科学分野における計算、アルゴリズム、モデル化に関する最新のトピックを学ぶ。	情報科学分野における計算、アルゴリズム、モデル化に関する最新のトピックを学ぶ。本講義で学んだ内容を総括する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義の内容を復習する。講義内で出される課題を解き、レポートを作成する。

本授業の準備・学習時間は、各週 4 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

担当教員が作成した講義資料をウェブ上で配布する。

【参考書】

L. ゴールドシュレーガー, A. リスター (著), 武市正人, 角田博保, 小川貴英 (訳), 計算機科学入門, 近代科学社, 2000. ISBN 4-7649-0284-2
 川合慧 (編), 情報, 東京大学出版会, 2006. ISBN 978-4-13-062451-0
 山口和紀 (編), 情報 第 2 版, 東京大学出版会, 2016. ISBN 978-4-13-062457-2
 和達三樹, 物理のための数学 (物理入門コース 新装版), 岩波書店, 2017. ISBN 978-4000298704
 デヴィッド・バージェス モラグ・ボリー (著), 垣田 高夫 (翻訳), 大町比佐栄 (翻訳), 微分方程式で数学モデルを作ろう, 日本評論社, 1990. ISBN 978-4535781733
 阿部 彩芽 (著), 笠井 琢美 (著), チューリングの考えるキカイ, 技術評論社, 2018, ISBN 978-4-7741-9689-3
 猪股 俊光 (著), 山田 敬三 (著), 計算モデルとプログラミング, 森北出版, 2019, ISBN 978-4627854710
 John MacCormick (著), 松崎 公紀 (監修), 長尾高弘 (翻訳), 計算できるもの、計算できないもの, オライリージャパン, 2020, ISBN 978-4873119335

【成績評価の方法と基準】

期末試験を 90%以上とし、レポート、授業中の参加の度合、貢献度を最大 10%考慮して総合的に判断する。

【学生の意見等からの気づき】

高度な内容については適宜補足を加える。

【学生が準備すべき機器他】

演習では貸与ノート PC を利用する。

【Outline (in English)】

In this course the notions of algorithm, computation and modeling that are most fundamental to information sciences are covered.

The goal of this course is to understand

- how the notions of algorithm and computation are treated in the field of information science.

- notion and methodology of modeling that are indispensable to treat real-world problems in computers.

Besides attending the class, students are expected to review the content of the course, complete assignments and submit reports.

Students will be studying four hours for a class.

Final grade will be calculated based on, but not limited to, term-end exam (more than 90%), reports and in class contribution (up to 10%).

COT111KA-CS-102

コンピュータシステム入門 1

首藤 裕一

必選区分： | 配当年次/単位：1~4 年次 / 2 単位 | 開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

情報科学を学ぶに当たって技術的側面の入門を学ぶ。後続の科目全般の基盤となる最も基礎的な内容として、コンピュータやインターネットといった現在の情報基盤を使いこなす上で必要となる基本的な知識を養う。まず、全ての土台となるコンピュータのハードウェアについて、これまでの発展の歴史とその基本的な仕組みを学ぶ。また、現在の情報処理に欠かせない通信の概念や、コンピュータ上で様々な情報を表現するメディアデータの仕組みと構造を理解する。

【到達目標】

- ・コンピュータの基本的な仕組みを理解する
- ・コンピュータで計算ができる仕組みを理解する
- ・コンピュータにおける通信の基礎を理解する
- ・コンピュータ上での様々な情報の表現方法について理解する

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

情報科学部ディプロマポリシーのうち「DP2」と「DP3-1」に関連

【授業の進め方と方法】

講義を中心として、演習や課題を交えながら進める。課題等の提出・フィードバックは hoppii およびその他教員が指定するツールを通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	導入：コンピュータと情報処理	コンピュータと情報処理分野の社会における位置づけなど一般的な概念を理解する。
2	コンピュータの歴史	現在に至るまでのコンピュータの歴史を概観し、現在の情報基盤を支えるコンピュータの発展を理解する。
3	コンピュータにおける計算の概念	コンピュータがなぜ計算ができるのかを学ぶ。
4	コンピュータのしくみ	コンピュータの仕組みを中心に、コンピュータの基本を学ぶ。
5	コンピュータの構成要素	コンピュータを構成する個々の装置について、構造や仕組みを学ぶ。
6	デジタル回路	コンピュータを構成する基本要素であるデジタル回路の基礎を概観する。
7	基本演算の仕組み 1	コンピューターが行う基本演算とその実現法を学ぶ（加算・減算・2の補数表現）
8	基本演算の仕組み 2	コンピューターが行う基本演算とその実現法を学ぶ（乗算・浮動小数点）
9	振り返り（前半）	演習問題を解くなどして本講義前半部分の理解度を確認する。
10	情報の表現：テキスト	文字コードやフォント、符号化等のテキスト処理について学ぶ。
11	情報の表現：音・音声	聴覚や音声処理、音声合成、音声認識といった音に関わるメディア処理について学ぶ。
12	情報の表現：画像・動画	視覚や色に関する基本知識、および、画像・動画のフォーマットについて学ぶ。

- | | | |
|----|----------|--|
| 13 | 通信の仕組み | 無線 LAN や Ethernet などの実際のネットワークに接続する際の基礎技術について学ぶ。 |
| 14 | 振り返り（後半） | 演習問題を解くなどして本講義後半部分の理解度を確認する。 |

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義中に課題が課された場合は、それを解くこと。
本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、各週につき 4 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

配付資料による

【参考書】

必要に応じて講義中に紹介

【成績評価の方法と基準】

試験 (90%) , 講義における積極性などの参加度 (10%) を総合して評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

貸与 Note PC を使用する場合があります。講義回毎の使用の可否は教員の指示に従うこと。

【Outline (in English)】

This course provides an integrated introduction to computer systems. Our goal is for you to learn about the hierarchy of abstractions and implementations that comprise a modern computer system. This will provide a conceptual framework that you can then flesh out with courses such as compiler, operating systems, networks, and others.

Students will be expected to study the topic given in the class around four hours in each week. Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Term-end examination: 90%, in class contribution: 10%

COT111KA-CS-102

コンピュータシステム入門 1

坂本 寛

必選区分： | 配当年次/単位：1~4 年次 / 2 単位 | 開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

情報科学を学ぶに当たって技術的側面の入門を学ぶ。後続の科目全般の基盤となる最も基礎的な内容として、コンピュータやインターネットといった現在の情報基盤を使いこなす上で必要となる基本的な知識を養う。まず、全ての土台となるコンピュータのハードウェアについて、これまでの発展の歴史とその基本的な仕組みを学ぶ。また、現在の情報処理に欠かせない通信の概念や、コンピュータ上で様々な情報を表現するメディアデータの仕組みと構造を理解する。

【到達目標】

- ・コンピュータの基本的な仕組みを理解する
- ・コンピュータで計算ができる仕組みを理解する
- ・コンピュータにおける通信の基礎を理解する
- ・コンピュータ上での様々な情報の表現方法について理解する

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

情報科学部ディプロマポリシーのうち「DP2」と「DP3-1」に関連

【授業の進め方と方法】

講義を中心として、演習や課題を交えながら進める。課題等の提出・フィードバックは hoppii およびその他教員が指定するツールを通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	導入：コンピュータと情報処理	コンピュータと情報処理分野の社会における位置づけなど一般的な概念を理解する。
2	コンピュータの歴史	現在に至るまでのコンピュータの歴史を概観し、現在の情報基盤を支えるコンピュータの発展を理解する。
3	コンピュータにおける計算の概念	コンピュータがなぜ計算ができるのかを学ぶ。
4	コンピュータのしくみ	コンピュータの仕組みを中心に、コンピュータの基本を学ぶ。
5	コンピュータの構成要素	コンピュータを構成する個々の装置について、構造や仕組みを学ぶ。
6	デジタル回路	コンピュータを構成する基本要素であるデジタル回路の基礎を概観する。
7	基本演算の仕組み 1	コンピューターが行う基本演算とその実現法を学ぶ（加算・減算・2の補数表現）
8	基本演算の仕組み 2	コンピューターが行う基本演算とその実現法を学ぶ（乗算・浮動小数点）
9	振り返り（前半）	演習問題を解くなどして本講義前半部分の理解度を確認する。
10	情報の表現：テキスト	文字コードやフォント、符号化等のテキスト処理について学ぶ。
11	情報の表現：音・音声	聴覚や音声処理、音声合成、音声認識といった音に関わるメディア処理について学ぶ。
12	情報の表現：画像・動画	視覚や色に関する基本知識、および、画像・動画のフォーマットについて学ぶ。

- | | | |
|----|----------|--|
| 13 | 通信の仕組み | 無線 LAN や Ethernet などの実際のネットワークに接続する際の基礎技術について学ぶ。 |
| 14 | 振り返り（後半） | 演習問題を解くなどして本講義後半部分の理解度を確認する。 |

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義中に課題が課された場合は、それを解くこと。

本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、各週につき 4 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

配付資料による

【参考書】

必要に応じて講義中に紹介

【成績評価の方法と基準】

試験 (90%) , 講義における積極性などの参加度 (10%) を総合して評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

貸与 Note PC を使用する場合がある。講義回毎の使用の可否は教員の指示に従うこと。

【Outline (in English)】

This course provides an integrated introduction to computer systems. Our goal is for you to learn about the hierarchy of abstractions and implementations that comprise a modern computer system. This will provide a conceptual framework that you can then flesh out with courses such as compiler, operating systems, networks, and others.

Students will be expected to study the topic given in the class around four hours in each week. Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Term-end examination: 90%, in class contribution: 10%

COT111KA-CS-200

コンピュータシステム入門 2

村上 健一郎

必選区分： | 配当年次/単位：1~4 年次 / 2 単位 | 開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

コンピュータやインターネットといった現在の情報基盤を使いこなす上で必要となる基本的な知識を学ぶ。

【到達目標】

OS やインターネットを中心に現在の情報技術の基礎を理解するとともに、ウェブ、音声、画像といった身近な話題を通してコンピュータシステムの全体像の理解を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

情報科学部ディプロマポリシーのうち「DP2」と「DP3-1」に関連

【授業の進め方と方法】

まず、実際の OS の例を見ながら、OS の役割の概要を理解する。また、多くの OS が備えているファイルシステムなどの基本機能の理解を深める。さらに、インターネット、ウェブ、クラウド等、現在の情報通信技術の基盤となる仕組みを学ぶ。また、情報を人間が理解できる様々な形で表現し処理する技術であるマルチメディアを体系的に理解する。授業で課した課題（小テストやレポート）等を取り上げ、授業内で全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス・OS とは何か	この講義の全体像を説明するとともに、ユーザやプロセスといった基本的な概念を理解する。
2	OS の仮想化・抽象化	OS の主要な役割である仮想化・抽象化機能を理解する。
3	システムコール・ファイルシステム	OS による機能提供の仕組みとファイルの管理を理解する。
4	OS 演習	OS の使用に関する演習を行う。
5	データベース	情報保存のしくみとしてのデータベースを理解する。
6	データベース演習	データベースの作成と使用に関する演習を行う。
7	インターネットの基礎	インターネットの歴史とその基本的な仕組みを理解する。
8	ウェブ	ネットワーク越しに情報を管理・交換する仕組みを理解する。
9	ウェブにおける情報表現	ウェブにおける情報表現やデータの取り扱いを理解する。
10	セキュリティ	インターネットやウェブの通信セキュリティを理解する。
11	音声符号化	音をコンピュータ上で表現し圧縮する方法を理解する。
12	画像符号化	画像をコンピュータ上で表現し圧縮する方法を理解する。
13	クラウドコンピューティング	クラウドコンピューティングの概念と技術を理解する。
14	ユビキタスコンピューティング・IoT	ユビキタスコンピューティングやIoT の概念と技術を理解する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義の内容を復習する。講義内で出される課題を解き、レポートを作成する。
本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、各週につき 4 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

担当教員が作成した講義資料をウェブ上で配布する。

【参考書】

入門マルチメディア [第二版], CG-ARTS 協会, 2023. ISBN978-4-903474-67-0

【成績評価の方法と基準】

定期試験（80%）、および、レポートや講義への貢献などの平常点（20%）で評価。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

演習では貸与ノート PC を利用する。

【その他の重要事項】

本講義は担当教員の企業での様々な情報科学技術に関する研究開発の知見を元に実務に必要なコンピュータシステムに関する講義を行う。

【Outline (in English)】

You will learn basic knowledge for making use of information technologies such as computer, the internet, etc.

Students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading will be decided based on exercises (20%) and term-end examination (80%).

COT111KA-CS-200

コンピュータシステム入門 2

小池 崇文

必選区分： | 配当年次/単位：1～4 年次 / 2 単位 | 開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：〈優〉〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

コンピュータやインターネットといった現在の情報基盤を使いこなす上で必要となる基本的な知識を学ぶ。

【到達目標】

OS やインターネットを中心に現在の情報技術の基礎を理解するとともに、ウェブ、音声、画像といった身近な話題を通してコンピュータシステムの全体像の理解を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

情報科学部ディプロマポリシーのうち「DP2」と「DP3-1」に関連

【授業の進め方と方法】

まず、実際の OS の例を見ながら、OS の役割の概要を理解する。また、多くの OS が備えているファイルシステムなどの基本機能の理解を深める。さらに、インターネット、ウェブ、クラウド等、現在の情報通信技術の基盤となる仕組みを学ぶ。また、情報を人間が理解できる様々な形で表現し処理する技術であるマルチメディアを体系的に理解する。授業で課した課題（小テストやレポート）等を取り上げ、授業内で全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス・OS とは何か	この講義の全体像を説明するとともに、ユーザやプロセスといった基本的な概念を理解する。
2	OS の仮想化・抽象化	OS の主要な役割である仮想化・抽象化機能を理解する。
3	システムコール・ファイルシステム	OS による機能提供の仕組みとファイルの管理を理解する。
4	OS 演習	OS の使用に関する演習を行う。
5	データベース	情報保存のしくみとしてのデータベースを理解する。
6	データベース演習	データベースの作成と使用に関する演習を行う。
7	インターネットの基礎	インターネットの歴史とその基本的な仕組みを理解する。
8	ウェブ	ネットワーク越しに情報を管理・交換する仕組みを理解する。
9	ウェブにおける情報表現	ウェブにおける情報表現やデータの取り扱いを理解する。
10	セキュリティ	インターネットやウェブの通信セキュリティを理解する。
11	音声符号化	音をコンピュータ上で表現し圧縮する方法を理解する。
12	画像符号化	画像をコンピュータ上で表現し圧縮する方法を理解する。
13	クラウドコンピューティング	クラウドコンピューティングの概念と技術を理解する。
14	ユビキタスコンピューティング・IoT	ユビキタスコンピューティングやIoT の概念と技術を理解する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義の内容を復習する。講義内で出される課題を解き、レポートを作成する。
本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、各週につき 4 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

担当教員が作成した講義資料をウェブ上で配布する。

【参考書】

入門マルチメディア [第二版], CG-ARTS 協会, 2023. ISBN978-4-903474-67-0

【成績評価の方法と基準】

定期試験（80%）、および、レポートや講義への貢献などの平常点（20%）で評価。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

演習では貸与ノート PC を利用する。

【その他の重要事項】

本講義は担当教員の企業での様々な情報科学技術に関する研究開発の知見を元に実務に必要なコンピュータシステムに関する講義を行う。

【Outline (in English)】

You will learn basic knowledge for making use of information technologies such as computer, the internet, etc.

Students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading will be decided based on exercises (20%) and term-end examination (80%).

PRI110KA-CS-103

離散構造 1

尾花 賢

必選区分： | 配当年次/単位：1~4 年次 / 2 単位 | 開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

情報科学を学ぶ活用するために必要となる数学的な基礎として、集合、数え上げ、離散型確率を学ぶ。

【到達目標】

集合、数え上げ、離散型確率の基本を理解する。特に記号的、形式的な表現と考え方を習得する。さらに具体的な問題を数学的に捉えて解決する方法論を身に付ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

情報科学部ディプロマポリシーのうち「DP2」と「DP3-1」、「DP4-1」、「DP4-2」に関連

【授業の進め方と方法】

最初に集合に関して、基礎概念、集合演算、関係、順序、関数を扱う。次に数え上げに関して、基礎概念、順列、組合せ、数列、漸化式等を扱う。最後に離散型確率に関して、基礎概念、ベイズの定理、離散型確率分布等を扱う。授業では予習課題、復習課題を課す。学期の途中に認定試験を行う。授業で課した課題（小テストやレポート）等を取り上げ、授業内で全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	集合の基礎 (1)	集合、要素、数の集合、外延の原理、抽象の原理、外延的定義、内包的定義
2	集合の基礎 (2)	普遍集合、空集合、部分集合、真部分集合、部分集合の性質、ベン図、ベン図による論証
3	集合演算	和、共通部分、互いに素、差、補集合、集合演算の基本的性質、集合代数、双対原理、集合族、べき集合、分割
4	関係 (1)	組、順序対、直積、n 項関係、2 項関係、同等関係、図式表現、逆、合成
5	関係 (2)	反射的、対称的、反対称的、推移的、同値関係、同値類、閉包
6	順序	半順序、擬順序、比較可能、全順序、辞書式順序、直前、直後
7	関数	関数、定義域、値域、恒等関数、制限写像、グラフ、合成、合成関数の結合律、単射、全射、可逆、逆関数、全単射、単射・全射・逆関数に関する基本的定理
8	数え上げ (1)	有限集合、要素数、包除原理、樹形図、和の法則、積の法則、順列、組合せ、パスカルの 3 角形、2 項定理
9	数え上げ (2)	等差数列、等比数列、漸化式、合同算術、鳩の巣原理
10	認定試験解説	認定試験の問題・解答の解説と要点の確認
11	離散型確率 (1)	離散型確率空間、事象、確率の公理、確率測度
12	離散型確率 (2)	条件付き確率、ベイズの定理、独立性、条件付き独立性

13	離散型確率 (3)	離散型確率分布、期待値、分散
14	まとめ	授業内容のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書と講義資料の予習、復習を行い、課題に対するレポートの作成を行うこと。授業時間外学習は、各週につき 4 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

担当教員が作成した講義資料をウェブ上で配布する。

【参考書】

S. Lipschutz (著), 成嶋弘監 (訳), 離散数学—コンピュータサイエンスの基礎数学, マグロウヒル大学演習, オーム社, 2022. ISBN 978-4-274-22820-9

【成績評価の方法と基準】

レポート課題 20%, 試験 (中間, 期末)60%, 平常点 20%で総合評価する。

【学生の意見等からの気づき】

質問時間を十分に取る。

【Outline (in English)】

Course outline: This course introduce mathematical foundations need to study and utilize computer and information sciences.

Learning Objectives: Students will learn sets, counting, and discrete probability

Learning activities outside of classroom: Students are expected to study more than four hours for a class.

Grading criteria: Short report: 20%, Final exam: 60%, Contribution to the class: 20%

PRI110KA-CS-103

離散構造 1

佐藤 裕二

必修区分： | 配当年次/単位：1～4 年次 / 2 単位 | 開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

情報科学を学ぶ活用するために必要となる数学的な基礎として、集合、数え上げ、離散型確率を学ぶ。

【到達目標】

集合、数え上げ、離散型確率の基本を理解する。特に記号的、形式的な表現と考え方を習得する。さらに具体的な問題を数学的に捉えて解決する方法論を身に付ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

情報科学部ディプロマポリシーのうち「DP2」と「DP3-1」、「DP4-1」、「DP4-2」に関連

【授業の進め方と方法】

最初に集合に関して、基礎概念、集合演算、関係、順序、関数を扱う。次に数え上げに関して、基礎概念、順列、組合せ、数列、漸化式等を扱う。最後に離散型確率に関して、基礎概念、ベイズの定理、離散型確率分布等を扱う。授業では予習課題、復習課題を課す。学期の途中に認定試験を行う。授業で課した課題（小テストやレポート）等を取り上げ、授業内で全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	集合の基礎 (1)	集合、要素、数の集合、外延の原理、抽象の原理、外延的定義、内包的定義
2	集合の基礎 (2)	普遍集合、空集合、部分集合、真部分集合、部分集合の性質、ベン図、ベン図による論証
3	集合演算	和、共通部分、互いに素、差、補集合、集合演算の基本的性質、集合代数、双対原理、集合族、べき集合、分割
4	関係 (1)	組、順序対、直積、 n 項関係、2 項関係、同等関係、図式表現、逆、合成
5	関係 (2)	反射的、対称的、反対称的、推移的、同値関係、同値類、閉包
6	順序	半順序、擬順序、比較可能、全順序、辞書式順序、直前、直後
7	関数	関数、定義域、値域、恒等関数、制限写像、グラフ、合成、合成関数の結合律、単射、全射、可逆、逆関数、全単射、単射・全射・逆関数に関する基本的定理
8	数え上げ (1)	有限集合、要素数、包除原理、樹形図、和の法則、積の法則、順列、組合せ、パスカルの 3 角形、2 項定理
9	数え上げ (2)	等差数列、等比数列、漸化式、合同算術、鳩の巣原理
10	認定試験解説	認定試験の問題・解答の解説と要点の確認
11	離散型確率 (1)	離散型確率空間、事象、確率の公理、確率測度
12	離散型確率 (2)	条件付き確率、ベイズの定理、独立性、条件付き独立性

13 離散型確率 (3) 離散型確率分布、期待値、分散
14 まとめ 授業内容のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書と講義資料の予習、復習を行い、課題に対するレポートの作成を行うこと。

授業時間外学習は、各週につき 4 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

担当教員が作成した講義資料をウェブ上で配布する。

【参考書】

S. Lipschutz (著), 成嶋弘監 (訳), 離散数学—コンピュータサイエンスの基礎数学, マグロウヒル大学演習, オーム社, 2022. ISBN 978-4-274-22820-9

【成績評価の方法と基準】

レポート課題 20%, 試験 (中間, 期末)60%, 平常点 20% で総合評価する。

【学生の意見等からの気づき】

質問時間を十分に取る。

【Outline (in English)】

Course outline: This course introduce mathematical foundations need to study and utilize computer and information sciences.

Learning Objectives: Students will learn sets, counting, and discrete probability

Learning activities outside of classroom: Students are expected to study more than four hours for a class.

Grading criteria: Short report: 20%, Final exam: 60%, Contribution to the class: 20%

PRI110KA-CS-104

離散構造 2

佐々木 晃

必選区分： | 配当年次/単位：1～4 年次 / 2 単位 | 開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

情報科学を裏打ちする離散的な構造のうち、特に重要な「グラフ」「論理学」の基本概念の理解を深める。

【到達目標】

グラフ、論理学の基本を理解する。特に記号、式、図表の扱いに慣れる。現実問題の抽象化・一般化という考え方を身につけるとともに、プログラミングとの関わりを理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

情報科学部ディプロマポリシーのうち「DP2」と「DP4-1」、「DP4-2」に関連

【授業の進め方と方法】

離散構造 1 の続きである。グラフの基礎概念、命題論理、述語論理、証明法など情報科学の数学的ツールの導入部について学ぶ。授業中に出题する例題、演習課題を通して、概念の理解を深める。課題等の提出は「CIS moodle」を通じて行う。授業中に課題に対するフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	命題論理 (1)	命題、命題論理、論理式、真理値、真理値表
第 2 回	命題論理 (2)	恒真命題、恒真式、矛盾命題、矛盾式
第 3 回	命題論理 (3)	含意、必要条件、十分条件
第 4 回	述語論理 (1)	述語論理の構文論
第 5 回	述語論理 (2)	述語論理の意味論、恒真、充足可能、充足不可能
第 6 回	証明法 (1)	証明法、構成的証明、直接証明、反例、対偶法
第 7 回	証明法 (2)	場合分け、背理法、数学的帰納法、鳩の巣原理
第 8 回	グラフ (1)	グラフの基礎概念
第 9 回	グラフ (2)	オイラー路、ハミルトン路、閉路
第 10 回	グラフ (3)	平面的グラフ
第 11 回	グラフ (4)	木グラフ
第 12 回	グラフ (5)	有向グラフ
第 13 回	グラフ (6)	有限状態機械
第 14 回	総括	論理学、グラフのまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で出题する演習課題に取り組むこと。
本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、各週につき 4 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教員が配布するオンライン資料

【参考書】

S. Lipschutz, M. Lipson 著, 渡邊均訳：マグローヒル大学演習「離散数学－コンピュータサイエンスの基礎数学－（改訂 2 版）」、オーム社、2022 年。

C. L. Liu 著, 成嶋弘/秋山仁共訳：「コンピュータサイエンスのための離散数学入門」、オーム社

【成績評価の方法と基準】

中間試験および定期試験による (100%)。ただし、平常授業における参加度を一部加味する。

【学生の意見等からの気づき】

練習問題の解説の時間を増やす。

【学生が準備すべき機器他】

貸与パソコン

【その他の重要事項】

ノートをとる。

【Outline (in English)】

・ In this course, students will learn basic concepts of graph theory and logic.

・ At the end of the course, you are expected to understand basic concepts of graph theory and logic, and get accustomed to handle symbols, expressions and diagrams that are essential in those concepts.

・ Before each class meeting, students will be expected to solve exercises assigned as homework.

・ Grading will be decided based on mid-term and term-end examinations (100%).

PRI110KA-CS-104

離散構造 2

首藤 裕一

必修区分： | 配当年次/単位：1～4 年次 / 2 単位 | 開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

情報科学を裏打ちする離散的な構造のうち、特に重要な「グラフ」「論理学」の基本概念の理解を深める。

【到達目標】

グラフ、論理学の基本を理解する。特に記号、式、図表の扱いに慣れる。現実問題の抽象化・一般化という考え方を身につけるとともに、プログラミングとの関わりを理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

情報科学部ディプロマポリシーのうち「DP2」と「DP4-1」、「DP4-2」に関連

【授業の進め方と方法】

離散構造 1 の続きである。グラフの基礎概念、命題論理、述語論理、証明法など情報科学の数学的ツールの導入部について学ぶ。授業中に出题する例題、演習課題を通して、概念の理解を深める。課題等の提出は「CIS moodle」を通じて行う。授業中に課題に対するフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	命題論理 (1)	命題、命題論理、論理式、真理値、真理値表
第 2 回	命題論理 (2)	恒真命題、恒真式、矛盾命題、矛盾式
第 3 回	命題論理 (3)	含意、必要条件、十分条件
第 4 回	述語論理 (1)	述語論理の構文論
第 5 回	述語論理 (2)	述語論理の意味論、恒真、充足可能、充足不可能
第 6 回	証明法 (1)	証明法、構成的証明、直接証明、反例、対偶法
第 7 回	証明法 (2)	場合分け、背理法、数学的帰納法、鳩の巣原理
第 8 回	グラフ (1)	グラフの基礎概念
第 9 回	グラフ (2)	オイラー路、ハミルトン路、閉路
第 10 回	グラフ (3)	平面的グラフ
第 11 回	グラフ (4)	木グラフ
第 12 回	グラフ (5)	有向グラフ
第 13 回	グラフ (6)	有限状態機械
第 14 回	総括	論理学、グラフのまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で出题する演習課題に取り組むこと。
本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、各週につき 4 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教員が配布するオンライン資料

【参考書】

S. Lipschutz, M. Lipson 著, 渡邊均訳：マグローヒル大学演習「離散数学－コンピュータサイエンスの基礎数学－（改訂 2 版）」、オーム社、2022 年。

C. L. Liu 著, 成嶋弘／秋山仁共訳：「コンピュータサイエンスのための離散数学入門」、オーム社

【成績評価の方法と基準】

中間試験および定期試験による (100%)。ただし、平常授業における参加度を一部加味する。

【学生の意見等からの気づき】

練習問題の解説の時間を増やす。

【学生が準備すべき機器他】

貸与パソコン

【その他の重要事項】

ノートをとる。

【Outline (in English)】

- In this course, students will learn basic concepts of graph theory and logic.
- At the end of the course, you are expected to understand basic concepts of graph theory and logic, and get accustomed to handle symbols, expressions and diagrams that are essential in those concepts.
- Before each class meeting, students will be expected to solve exercises assigned as homework.
- Grading will be decided based on mid-term and term-end examinations (100%).

COT111KA-CS-111

論理回路入門

李 亜民

必選区分： | 配当年次/単位：1～4 年次 / 2 単位 | 開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、組み合わせ回路と順序回路を含む論理回路の設計に必要な論理ゲートやブール代数、ド・モルガンの法則、カルノー図、フリップフロップ、有限状態機械などを用いた論理回路の設計方法を学びます。

【到達目標】

すべてのデジタルデバイス装置の基礎となる論理回路について学びます。また、組み合わせ回路と順序回路を含む論理回路の設計に必要なブール代数を理解します。さらに三つの論理ゲート（AND、OR、NOT）のみを用いて、全加算器、乗算器、マルチプレクサ、デコーダ、エンコーダ、N進カウンタや交通信号制御システムなど様々なデジタル回路を設計します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

情報科学部ディプロマポリシーのうち「DP2」と「DP4-1」に関連

【授業の進め方と方法】

AND ゲートや OR ゲート、NOT ゲート、ブール代数、全加算器、乗算器、マルチプレクサ、デコーダ、エンコーダなどの簡単なデジタル回路設計から始まり、N進カウンタや交通信号制御システムなどの複雑な回路設計も行います。また、論理回路の設計と動作検証の方法についても学びます。講義の冒頭で、前回の宿題の答えを説明・フィードバックします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	論理回路、論理演算と論理ゲート	0と1の表現、論理演算とAND、OR、NOTゲート、真理値表、論理式と論理回路
2	論理ゲートのCMOSトランジスタ構成	NOT、NAND、NORのCMOS型構成、およびNANDのトランジスタ型とNMOS型構成
3	ブール代数、完全系、NANDのみ回路	ブール代数の定理とド・モルガンの法則、完全系、NANDゲートのみで構成した回路
4	論理式の積和標準形と和積標準形	最小項と最大項、論理式の積和形と和積形、積和形と和積形の変換
5	カルノー図と論理式の単純化、全加算器	カルノー図、グレイコード、2進数、半加算器と全加算器の回路
6	マルチビット加算回路、CLA加算器	リップルキャリアダーとキャリールックアヘッドアダーの回路
7	加算器を利用した減算器と加減算回路	負の整数、2の補数で表現する方法、加算器を利用した減算と加減算回路
8	符号なし数と2の補数の乗算回路	符号なし数と2の補数の乗算、CSAによる乗算器、ウォレスツリー乗算器の回路
9	マルチプレクサ、バレル・シフタとALU	マルチプレクサ、バレル・シフタ、7セグメントLED点灯回路、ALUの回路
10	デコーダとエンコーダ	イネーブル付きデコーダとデマルチプレクサ、プライオリティエンコーダの回路
11	ラッチとフリップフロップ（FF）	記憶できるRSラッチ、Dラッチ、DFF、JKFF、TFFとレジスタ・ファイルの回路

12	Mealy型とMoore型順序回路	順序回路の構成、有限状態機械、状態遷移図と交通信号制御システムの回路
13	N進カウンタと7セグメントLED	N進カウンタ、DFF、JKFF、TFFを用いた計数器と7セグメントLED点灯回路
14	まとめとクイズ	論理回路（組み合わせ回路と順序回路）のまとめとクイズ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各週につき4時間。講義資料を事前に目を通します。また、レポート（宿題）を完成します。

【テキスト（教科書）】

担当教員 Website に掲載。

【参考書】

デジタル回路設計とコンピュータアーキテクチャ 第2版 2017。

【成績評価の方法と基準】

課題レポート成績* 60% + 期末試験成績* 40%（期末試験：参照不可）。

【学生の意見等からの気づき】

課題のヒントを調整します。

課題の量を調整します。

サンプルレポートを用意します。

【学生が準備すべき機器他】

貸与ノートPCをクラスに持ち込みます。

【Outline (in English)】

1. Course outline:

We will teach the fundamentals of logic operations, Boolean Algebra, Gray Code, Karnaugh Map, logic gates, flip-flops, finite state machine, and their use in implementing digital circuits.

2. Learning Objectives:

Students will learn how to use AND gates, OR gates, and NOT gates to design combinational circuits and sequential circuits. The combinational circuits include the full adder, subtracter, carry-lookahead adder, multiplier, Wallace Tree, multiplexer, demultiplexer, barrel shifter, ALU (Arithmetic Logic Unit), decoder, and priority encoder. The sequential circuits include latches, flip-flops, register files, counters, and a traffic light system.

3. Learning activities outside of the classroom:

Students will be expected to spend more than four hours studying each theme per week.

4. Grading Criteria/Policy:

Grades are calculated based on homework (60%) and the final exam (40%).

COT111KA-CS-101

プログラミング入門 1

赤石 美奈

必選区分： | 配当年次/単位：1~4 年次/ 2 単位 | 開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

コンピュータやコンピュータソフトウェアは様々な場面で我々に深く関わっていて、これらの技術なしには現代の情報化社会は成り立ちません。本授業ではコンピュータソフトウェアを実際を作るために必要となるプログラミング技術の基本を学びます。その中でも「コンピュータが行う情報処理の基本型」を学ぶことが重要なテーマとなります。

【到達目標】

本講義の目標は、情報科学を学ぶ上で欠かせない「プログラミング」技術の基礎（前半）を習得することです。プログラミングとは、プログラミング言語（本講義では「プログラミング言語 Python」という言葉を使って、コンピュータに行わせたい作業の内容を伝える技術です。従って、この「プログラミング言語」という新しい言葉をマスターして「コンピュータと自由に会話ができる」「思い通りに作業を指示できるようになる」ことが大きな目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

情報科学部ディプロマポリシーのうち「DP3-1」と「DP4-3」に関連

【授業の進め方と方法】

プログラミング技術の基礎の習得は、プログラミング言語という新しい言語を習得することでもあります。したがって、必要となる学習の方法は、新しい外国語を学習していくプロセスに似ています。そこで、各講義は、「説明」「演習」「課題」に分かれます。

各講義の前半では主に、

(A) 新しく学ぶ文法や機能などの知識の「説明」をします。さらに、(B) (A) で学んだことを利用して、実際にプログラミングを「演習」として行ってもらいます。プログラミングは、プログラム（文章）を書くことでもありますが、「このようなプログラムの書き方で、コンピュータがどのように動いてくれる」ということを体感します。

各講義の後半では、

(C) 「課題」として出題されるプログラムを実際に作ってもらうことで、プログラミング技術の体得を目指します。課題によっては、レポートとして提出してもらうものもあります。なお、課題はいくつかのテーマごとにコースに分かれて用意されているので、各自興味をもったテーマを選択し取り組むことができます。

課題に対するフィードバックとして、教員や TA からのレビューや学生の相互レビューにより課題の理解を深めるものとする。また、提出課題の内容が基準に満たない場合には再提出を促す等により、確実に理解を深めて基礎的な知識を積み上げていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	導入、入出力処理	プログラミングとは何かを学ぶ。 また、プログラミングを行うための基本的な道具の使い方を学ぶ。
2	値と変数	コンピュータが扱うデータの最も基本的な扱い方を学ぶ。
3	条件分岐	状況によって異なる作業を切り替えて実行させる方法を学ぶ。
4	第 1 回から 3 回の総括	各回で学んだ内容をより深めるとともに、それらを組み合わせたプログラミングを学ぶ。
5	繰り返し	似た作業を何度も繰り返して実行させる方法を学ぶ。
6	関数	まとまった作業を、一つの単位の仕事としてまとめる方法を学ぶ。

7 講義の総括と試験 各回で学んだ内容をより深めるとともに、それらを組み合わせたプログラミングを学ぶ。
授業内で、試験を実施する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前学習として、オンライン資料を熟読し、予習課題に取り組む。講義後は、プログラミング課題に取り組み完成させる。本授業の準備・復習時間は、計 8 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

たのしいプログラミング Python ではじめよう!

Jason R. Briggs (著), 磯 蘭水 (翻訳), 藤永 奈保子 (翻訳), 鈴木 悠 (翻訳)
オーム社、2014

【参考書】

みんなの Python 第 3 版

柴田 淳 (著)

ソフトバンククリエイティブ、2012

【成績評価の方法と基準】

全課題を提出することを単位の必要条件とする。

期末試験を実施し、理解度を評価する。

成績は、試験 (90 %)、および、授業へ貢献度 (10 %) により、総合的に判断する。

また、本科目は P/F 評価科目である。

【学生の意見等からの気づき】

各回での内容が理解できたかどうか不安であるとの声がありました。そこで理解度確認のミニ課題を各授業ごとに行います。

【学生が準備すべき機器他】

あり：予習、復習、講義中に取り組む課題などについては、各自貸与ノート PC を利用し取り組むことを前提とします。

【その他の重要事項】

1 年生の段階では、コンピュータを自由に操ること = プログラミングと考えるとよいでしょう。コンピュータに操られるのではなく、コンピュータを自由に操ることを目標にしましょう。プログラミングは、言葉を扱うことに似ています。したがって使うことが一番重要となります。つまりがかったら講師や TA に相談してください。本学部で学ぶ全講義は「プログラミング」が全ての基礎であるといっても過言ではなく、本講義の内容を深く理解し習得することはとても重要です。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to learn the fundamentals of computing in Python. Python is a dynamic object-oriented programming language that is easy to learn and has been used for web development, software development and so on.

At the end of the course, students are expected to be able to write small programs in Python that use variables, basic operators, conditional execution, loops, and list processing.

Before/after each lecture, students will be expected to spend eight hours to understand the course content and write program for exercises.

Pass/Fail will be decided based on the term-end examination (90%) and in class contribution (10%).

COT111KA-CS-101

プログラミング入門 1

久東 義典

必選区分： | 配当年次/単位：1～4 年次/ 2 単位 | 開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

コンピュータやコンピュータソフトウェアは様々な場面で我々に深く関わっていて、これらの技術なしには現代の情報化社会は成り立ちません。本授業ではコンピュータソフトウェアを実際を作るために必要となるプログラミング技術の基本を学びます。その中でも「コンピュータが行う情報処理の基本型」を学ぶことが重要なテーマとなります。

【到達目標】

本講義の目標は、情報科学を学ぶ上で欠かせない「プログラミング」技術の基礎（前半）を習得することです。プログラミングとは、プログラミング言語（本講義では「プログラミング言語 Python」という言葉を使って、コンピュータに行わせたい作業の内容を伝える技術です。従って、この「プログラミング言語」という新しい言葉をマスターして「コンピュータと自由に会話ができる」「思い通りに作業を指示できるようになる」ことが大きな目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

情報科学部ディプロマポリシーのうち「DP3-1」と「DP4-3」に関連

【授業の進め方と方法】

プログラミング技術の基礎の習得は、プログラミング言語という新しい言語を習得することでもあります。したがって、必要となる学習の方法は、新しい外国語を学習していくプロセスに似ています。そこで、各講義は、「説明」「演習」「課題」に分かれます。

各講義の前半では主に、

(A) 新しく学ぶ文法や機能などの知識の「説明」をします。さらに、(B) (A) で学んだことを利用して、実際にプログラミングを「演習」として行ってもらいます。プログラミングは、プログラム（文章）を書くことでもありますが、「このようなプログラムの書き方で、コンピュータがどのように動いてくれる」ということを体感します。

各講義の後半では、

(C) 「課題」として出題されるプログラムを実際に作ってもらうことで、プログラミング技術の体得を目指します。課題によっては、レポートとして提出してもらいものもあります。なお、課題はいくつかのテーマごとにコースに分かれて用意されているので、各自興味をもったテーマを選択し取り組むことができます。

課題に対するフィードバックとして、教員や TA からのレビューや学生の相互レビューにより課題の理解を深めるものとする。また、提出課題の内容が基準に満たない場合には再提出を促す等により、確実に理解を深めて基礎的な知識を積み上げていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	導入、入出力処理	プログラミングとは何かを学ぶ。 また、プログラミングを行うための基本的な道具の使い方を学ぶ。
2	値と変数	コンピュータが扱うデータの最も基本的な扱い方を学ぶ。
3	条件分岐	状況によって異なる作業を切り替えて実行させる方法を学ぶ。
4	第 1 回から 3 回の総括	各回で学んだ内容をより深めるとともに、それらを組み合わせたプログラミングを学ぶ。
5	繰り返し	似た作業を何度も繰り返して実行させる方法を学ぶ。
6	関数	まとまった作業を、一つの単位の仕事としてまとめる方法を学ぶ。

7 講義の総括と試験 各回で学んだ内容をより深めるとともに、それらを組み合わせたプログラミングを学ぶ。
授業内で、試験を実施する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前学習として、オンライン資料を熟読し、予習課題に取り組む。講義後は、プログラミング課題に取り組み完成させる。本授業の準備・復習時間は、計 8 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

たのしいプログラミング Python ではじめよう!

Jason R. Briggs (著), 磯 蘭水 (翻訳), 藤永 奈保子 (翻訳), 鈴木 悠 (翻訳)
オーム社、2014

【参考書】

みんなの Python 第 3 版

柴田 淳 (著)

ソフトバンククリエイティブ、2012

【成績評価の方法と基準】

全課題を提出することを単位の必要条件とする。

期末試験を実施し、理解度を評価する。

成績は、試験 (90 %)、および、授業へ貢献度 (10 %) により、総合的に判断する。

また、本科目は P/F 評価科目である。

【学生の意見等からの気づき】

各回での内容が理解できたかどうか不安であるとの声がありました。そこで理解度確認のミニ課題を各授業ごとに行います。

【学生が準備すべき機器他】

あり：予習、復習、講義中に取り組む課題などについては、各自貸与ノート PC を利用し取り組むことを前提とします。

【その他の重要事項】

1 年生の段階では、コンピュータを自由に操ること＝プログラミングと考えてよいでしょう。コンピュータに操られるのではなく、コンピュータを自由に操ることを目標にしましょう。プログラミングは、言葉を扱うことに似ています。したがって使うことが一番重要となります。つまりがかったら講師や TA に相談してください。本学部で学ぶ全講義は「プログラミング」が全ての基礎であるといっても過言ではなく、本講義の内容を深く理解し習得することはとても重要です。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to learn the fundamentals of computing in Python. Python is a dynamic object-oriented programming language that is easy to learn and has been used for web development, software development and so on.

At the end of the course, students are expected to be able to write small programs in Python that use variables, basic operators, conditional execution, loops, and list processing.

Before/after each lecture, students will be expected to spend eight hours to understand the course content and write program for exercises.

Pass/Fail will be decided based on the term-end examination (90%) and in class contribution (10%).

COT111KA-CS-101

プログラミング入門 1

波多野 大督

必選区分： | 配当年次/単位：1～4 年次 / 2 単位 | 開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

コンピュータやコンピュータソフトウェアは様々な場面で我々に深く関わっていて、これらの技術なしには現代の情報化社会は成り立ちません。本授業ではコンピュータソフトウェアを実際を作るために必要となるプログラミング技術の基本を学びます。その中でも「コンピュータが行う情報処理の基本型」を学ぶことが重要なテーマとなります。

【到達目標】

本講義の目標は、情報科学を学ぶ上で欠かせない「プログラミング」技術の基礎（前半）を習得することです。プログラミングとは、プログラミング言語（本講義では「プログラミング言語 Python」という言葉を使って、コンピュータに行わせたい作業の内容を伝える技術です。従って、この「プログラミング言語」という新しい言葉をマスターして「コンピュータと自由に会話ができる」「思い通りに作業を指示できるようになる」ことが大きな目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

情報科学部ディプロマポリシーのうち「DP3-1」と「DP4-3」に関連

【授業の進め方と方法】

プログラミング技術の基礎の習得は、プログラミング言語という新しい言語を習得することでもあります。したがって、必要となる学習の方法は、新しい外国語を学習していくプロセスに似ています。そこで、各講義は、「説明」「演習」「課題」に分かれます。

各講義の前半では主に、

(A) 新しく学ぶ文法や機能などの知識の「説明」をします。さらに、(B) (A) で学んだことを利用して、実際にプログラミングを「演習」として行ってもらいます。プログラミングは、プログラム（文章）を書くことでもありますが、「このようなプログラムの書き方で、コンピュータがどのように動いてくれる」ということを体感します。

各講義の後半では、

(C) 「課題」として出題されるプログラムを実際に作ってもらうことで、プログラミング技術の体得を目指します。課題によっては、レポートとして提出してもらうものもあります。なお、課題はいくつかのテーマごとにコースに分かれて用意されているので、各自興味をもったテーマを選択し取り組むことができます。

課題に対するフィードバックとして、教員や TA からのレビューや学生の相互レビューにより課題の理解を深めるものとする。また、提出課題の内容が基準に満たない場合には再提出を促す等により、確実に理解を深めて基礎的な知識を積み上げていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	導入、入出力処理	プログラミングとは何かを学ぶ。 また、プログラミングを行うための基本的な道具の使い方を学ぶ。
2	値と変数	コンピュータが扱うデータの最も基本的な扱い方を学ぶ。
3	条件分岐	状況によって異なる作業を切り替えて実行させる方法を学ぶ。
4	第 1 回から 3 回の総括	各回で学んだ内容をより深めるとともに、それらを組み合わせたプログラミングを学ぶ。
5	繰り返し	似た作業を何度も繰り返して実行させる方法を学ぶ。
6	関数	まとまった作業を、一つの単位の仕事としてまとめる方法を学ぶ。

7 講義の総括と試験 各回で学んだ内容をより深めるとともに、それらを組み合わせたプログラミングを学ぶ。
授業内で、試験を実施する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前学習として、オンライン資料を熟読し、予習課題に取り組む。講義後は、プログラミング課題に取り組み完成させる。本授業の準備・復習時間は、計 8 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

たのしいプログラミング Python ではじめよう!
Jason R. Briggs (著), 磯 蘭水 (翻訳), 藤永 奈保子 (翻訳), 鈴木 悠 (翻訳)
オーム社、2014

【参考書】

みんなの Python 第 3 版
柴田 淳 (著)
ソフトバンククリエイティブ、2012

【成績評価の方法と基準】

全課題を提出することを単位の必要条件とする。
期末試験を実施し、理解度を評価する。
成績は、試験 (90 %)、および、授業へ貢献度 (10 %) により、総合的に判断する。
また、本科目は P/F 評価科目である。

【学生の意見等からの気づき】

各回での内容が理解できたかどうか不安であるとの声がありました。そこで理解度確認のミニ課題を各授業ごとに行います。

【学生が準備すべき機器他】

あり：予習、復習、講義中に取り組む課題などについては、各自貸与ノート PC を利用し取り組むことを前提とします。

【その他の重要事項】

1 年生の段階では、コンピュータを自由に操ること＝プログラミングと考えてよいでしょう。コンピュータに操られるのではなく、コンピュータを自由に操ることを目標にしましょう。プログラミングは、言葉を扱うことに似ています。したがって使うことが一番重要となります。つまりがかったら講師や TA に相談してください。本学部で学ぶ全講義は「プログラミング」が全ての基礎であるといっても過言ではなく、本講義の内容を深く理解し習得することはとても重要です。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to learn the fundamentals of computing in Python. Python is a dynamic object-oriented programming language that is easy to learn and has been used for web development, software development and so on.

At the end of the course, students are expected to be able to write small programs in Python that use variables, basic operators, conditional execution, loops, and list processing.

Before/after each lecture, students will be expected to spend eight hours to understand the course content and write program for exercises.

Pass/Fail will be decided based on the term-end examination (90%) and in class contribution (10%).

COT111KA-CS-101

プログラミング入門 1

佐藤 周平

必選区分： | 配当年次/単位：1～4 年次 / 2 単位 | 開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

コンピュータやコンピュータソフトウェアは様々な場面で我々に深く関わっていて、これらの技術なしには現代の情報化社会は成り立ちません。本授業ではコンピュータソフトウェアを実際を作るために必要となるプログラミング技術の基本を学びます。その中でも「コンピュータが行う情報処理の基本型」を学ぶことが重要なテーマとなります。

【到達目標】

本講義の目標は、情報科学を学ぶ上で欠かせない「プログラミング」技術の基礎（前半）を習得することです。プログラミングとは、プログラミング言語（本講義では「プログラミング言語 Python」という言葉を使って、コンピュータに行わせたい作業の内容を伝える技術です。従って、この「プログラミング言語」という新しい言葉をマスターして「コンピュータと自由に会話ができる」「思い通りに作業を指示できるようになる」ことが大きな目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

情報科学部ディプロマポリシーのうち「DP3-1」と「DP4-3」に関連

【授業の進め方と方法】

プログラミング技術の基礎の習得は、プログラミング言語という新しい言語を習得することでもあります。したがって、必要となる学習の方法は、新しい外国語を学習していくプロセスに似ています。そこで、各講義は、「説明」「演習」「課題」に分かれます。

各講義の前半では主に、

(A) 新しく学ぶ文法や機能などの知識の「説明」をします。さらに、(B) (A) で学んだことを利用して、実際にプログラミングを「演習」として行ってもらいます。プログラミングは、プログラム（文章）を書くことでもありますが、「このようなプログラムの書き方で、コンピュータがどのように動いてくれる」ということを体感します。

各講義の後半では、

(C) 「課題」として出題されるプログラムを実際に作ってもらうことで、プログラミング技術の体得を目指します。課題によっては、レポートとして提出してもらうものもあります。なお、課題はいくつかのテーマごとにコースに分かれて用意されているので、各自興味をもったテーマを選択し取り組むことができます。

課題に対するフィードバックとして、教員や TA からのレビューや学生の相互レビューにより課題の理解を深めるものとする。また、提出課題の内容が基準に満たない場合には再提出を促す等により、確実に理解を深めて基礎的な知識を積み上げていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	導入、入出力処理	プログラミングとは何かを学ぶ。 また、プログラミングを行うための基本的な道具の使い方を学ぶ。
2	値と変数	コンピュータが扱うデータの最も基本的な扱い方を学ぶ。
3	条件分岐	状況によって異なる作業を切り替えて実行させる方法を学ぶ。
4	第 1 回から 3 回の総括	各回で学んだ内容をより深めるとともに、それらを組み合わせたプログラミングを学ぶ。
5	繰り返し	似た作業を何度も繰り返して実行させる方法を学ぶ。
6	関数	まとまった作業を、一つの単位の仕事としてまとめる方法を学ぶ。

7 講義の総括と試験 各回で学んだ内容をより深めるとともに、それらを組み合わせたプログラミングを学ぶ。
授業内で、試験を実施する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前学習として、オンライン資料を熟読し、予習課題に取り組む。講義後は、プログラミング課題に取り組み完成させる。本授業の準備・復習時間は、計 8 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

たのしいプログラミング Python ではじめよう!

Jason R. Briggs (著), 磯 蘭水 (翻訳), 藤永 奈保子 (翻訳), 鈴木 悠 (翻訳)
オーム社、2014

【参考書】

みんなの Python 第 3 版

柴田 淳 (著)

ソフトバンククリエイティブ、2012

【成績評価の方法と基準】

全課題を提出することを単位の必要条件とする。

期末試験を実施し、理解度を評価する。

成績は、試験 (90 %)、および、授業へ貢献度 (10 %) により、総合的に判断する。

また、本科目は P/F 評価科目である。

【学生の意見等からの気づき】

各回での内容が理解できたかどうか不安であるとの声がありました。そこで理解度確認のミニ課題を各授業ごとに行います。

【学生が準備すべき機器他】

あり：予習、復習、講義中に取り組む課題などについては、各自貸与ノート PC を利用し取り組むことを前提とします。

【その他の重要事項】

1 年生の段階では、コンピュータを自由に操ること＝プログラミングと考えてよいでしょう。コンピュータに操られるのではなく、コンピュータを自由に操ることを目標にしましょう。プログラミングは、言葉を扱うことに似ています。したがって使うことが一番重要となります。つまりがかったら講師や TA に相談してください。本学部で学ぶ全講義は「プログラミング」が全ての基礎であるといっても過言ではなく、本講義の内容を深く理解し習得することはとても重要です。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to learn the fundamentals of computing in Python. Python is a dynamic object-oriented programming language that is easy to learn and has been used for web development, software development and so on.

At the end of the course, students are expected to be able to write small programs in Python that use variables, basic operators, conditional execution, loops, and list processing.

Before/after each lecture, students will be expected to spend eight hours to understand the course content and write program for exercises.

Pass/Fail will be decided based on the term-end examination (90%) and in class contribution (10%).

COT111KA-CS-101a

プログラミング入門2

赤石 美奈

必選区分： | 配当年次/単位：1～4 年次 / 2 単位 | 開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

コンピュータやコンピュータソフトウェアは様々な場面で我々に深く関わっていて、これらの技術なしには現代の情報化社会は成り立ちません。本授業ではコンピュータソフトウェアを実際を作るために必要となるプログラミング技術の基本を学びます。その中でも「コンピュータが行う情報処理の基本型」を学ぶことが重要なテーマとなります。

【到達目標】

本講義の目標は、情報科学を学ぶ上で欠かせない「プログラミング」技術の基礎（後半）を習得することです。プログラミングとは、プログラミング言語（本講義では「プログラミング言語 Python」）という言葉を使って、コンピュータに行わせたい作業の内容を伝える技術です。従って、この「プログラミング言語」という新しい言葉をマスターして「コンピュータと自由に会話ができる」「思い通りに作業を指示できるようになる」ことが大きな目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

情報科学部ディプロマポリシーのうち「DP3-1」と「DP4-3」に関連

【授業の進め方と方法】

プログラミング技術の基礎の習得は、プログラミング言語という新しい言語を習得することでもあります。したがって、必要となる学習の方法は、新しい外国語を学習していくプロセスに似ています。そこで、各講義は、「説明」「演習」「課題」に分かれます。

各講義の前半では主に、

(A) 新しく学ぶ文法や機能などの知識の「説明」をします。さらに、(B) (A) で学んだことを利用して、実際にプログラミングを「演習」として行ってもらいます。プログラミングは、プログラム（文章）を書くことでもありますが、「このようなプログラムの書き方で、コンピュータがこのように動いてくれる」ということを体感します。

各講義の後半では、

(C) 「課題」として出題されるプログラムを実際に作ってもらうことで、プログラミング技術の体得を目指します。課題によっては、レポートとして提出してもらうものもあります。なお、課題はいくつかのテーマごとにコースに分かれて用意されているので、各自興味をもったテーマを選択し取り組むことができます。

課題に対するフィードバックとして、教員や TA からのレビューや学生の相互レビューにより課題の理解を深めるものとする。また、提出課題の内容が基準に満たない場合には再提出を促す等により、確実に理解を深めて基礎的な知識を積み上げていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ファイル操作	プログラム内で利用するための、ファイルの作成、読み込み方法を学ぶ。
2	複合データ	複数のデータをひとかたまりの形で扱うための機構について学ぶ。データを統一的に処理する際に必要となる。
3	第1回から2回の総括	各回で学んだ内容をより深めるとともに、それらを組み合わせたプログラミングを学ぶ。
4	応用(1)一タートルグ模様	幾何学模様を描くプログラムをクラフィックスで幾何学模様

5	対話ループ	対話型プログラムについて学ぶ。
6	応用(2)一Tkを利用したレンダリング	初歩的なレンダリングのプログラムを作成してみる。
7	総括一内容の復習と実際のプログラムの作成	これまで学んできた内容の復習を行う。また、これらを用いた実際のプログラムの作成にチャレンジする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前学習として、オンライン資料を熟読し、予習課題に取り組む。講義後は、プログラミング課題に取り組み完成させる。本授業の準備・復習時間は、計8時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

たのしいプログラミング Python ではじめよう!

Jason R. Briggs (著), 磯 蘭水 (翻訳), 藤永 奈保子 (翻訳), 鈴木 悠 (翻訳)

オーム社、2014

【参考書】

みんなの Python 第3版

柴田 淳(著)

ソフトバンククリエイティブ、2012

【成績評価の方法と基準】

全課題を提出することを単位の必要条件とする。

期末試験を実施し、理解度を評価する。

成績は、期末(90%)試験と課題の取組/提出状況(10%)により、総合的に判断する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

あり：講義は情報教室での実施になります。また、予習、復習、講義中に終了しない課題などについては、各自貸与ノート PC を利用し取り組むことを前提とします。

【その他の重要事項】

1年生の段階では、コンピュータを自由に操ること＝プログラミングと考えてよいでしょう。コンピュータに操られるのではなく、コンピュータを自由に操ることを目標にしましょう。プログラミングは、言葉を扱うことに似ています。したがって使うことが一番重要となります。つまづきがあったら講師や TA に相談してください。本学部で学ぶ全講義は「プログラミング」が全ての基礎であるといっても過言ではなく、本講義の内容を深く理解し習得することはとても重要です。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to learn the fundamentals of computing in Python. Python is a dynamic object-oriented programming language that is easy to learn and has been used for web development, software development and so on.

At the end of the course, students are expected to be able to write small programs in Python that use file Handling, data modeling, graphics and interactive systems.

Before/after each lecture, students will be expected to spend eight hours to understand the course content and write program for exercises.

Final grade will be calculated according to the term-end examination (90%) and in class contribution (10%).

COT111KA-CS-101a

プログラミング入門2

久東 義典

必選区分： | 配当年次/単位：1~4 年次 / 2 単位 | 開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

コンピュータやコンピュータソフトウェアは様々な場面で我々に深く関わっていて、これらの技術なしには現代の情報化社会は成り立ちません。本授業ではコンピュータソフトウェアを実際を作るために必要となるプログラミング技術の基本を学びます。その中でも「コンピュータが行う情報処理の基本型」を学ぶことが重要なテーマとなります。

【到達目標】

本講義の目標は、情報科学を学ぶ上で欠かせない「プログラミング」技術の基礎（後半）を習得することです。プログラミングとは、プログラミング言語（本講義では「プログラミング言語 Python」）という言葉を使って、コンピュータに行わせたい作業の内容を伝える技術です。従って、この「プログラミング言語」という新しい言葉をマスターして「コンピュータと自由に会話ができる」「思い通りに作業を指示できるようになる」ことが大きな目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

情報科学部ディプロマポリシーのうち「DP3-1」と「DP4-3」に関連

【授業の進め方と方法】

プログラミング技術の基礎の習得は、プログラミング言語という新しい言葉を習得することでもあります。したがって、必要となる学習の方法は、新しい外国語を学習していくプロセスに似ています。そこで、各講義は、「説明」「演習」「課題」に分かれます。

各講義の前半では主に、

(A) 新しく学ぶ文法や機能などの知識の「説明」をします。さらに、(B) (A) で学んだことを利用して、実際にプログラミングを「演習」として行ってもらいます。プログラミングは、プログラム（文章）を書くことでもありますが、「このようなプログラムの書き方で、コンピュータがどのように動いてくれる」ということを体感します。

各講義の後半では、

(C) 「課題」として出題されるプログラムを実際に作ってもらうことで、プログラミング技術の体得を目指します。課題によっては、レポートとして提出してもらうものもあります。なお、課題はいくつかのテーマごとにコースに分かれて用意されているので、各自興味をもったテーマを選択し取り組むことができます。

課題に対するフィードバックとして、教員や TA からのレビューや学生の相互レビューにより課題の理解を深めるものとする。また、提出課題の内容が基準に満たない場合には再提出を促す等により、確実に理解を深めて基礎的な知識を積み上げていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ファイル操作	プログラム内で利用するための、ファイルの作成、読み込み方法を学ぶ。
2	複合データ	複数のデータをひとかたまりの形で扱うための機構について学ぶ。データを統一的に処理する際に必要となる。
3	第1回から2回の総括	各回で学んだ内容をより深めるとともに、それらを組み合わせたプログラミングを学ぶ。
4	応用(1)一タートルグ模様	幾何学模様を描くプログラムをクラフィックスで幾何学模様

5	対話ループ	対話型プログラムについて学ぶ。
6	応用(2)一Tkを利用したレンダリング	初歩的なレンダリングのプログラムを作成してみる。
7	総括一内容の復習と実際的なプログラムの作成	これまで学んできた内容の復習を行う。また、これらを用いた実際的なプログラムの作成にチャレンジする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前学習として、オンライン資料を熟読し、予習課題に取り組む。講義後は、プログラミング課題に取り組み完成させる。本授業の準備・復習時間は、計8時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

たのしいプログラミング Python ではじめよう!

Jason R.Briggs (著), 磯 蘭水 (翻訳), 藤永 奈保子 (翻訳), 鈴木 悠 (翻訳)

オーム社、2014

【参考書】

みんなの Python 第3版

柴田 淳(著)

ソフトバンククリエイティブ、2012

【成績評価の方法と基準】

全課題を提出することを単位の必要条件とする。

期末試験を実施し、理解度を評価する。

成績は、期末(90%)試験と課題の取組/提出状況(10%)により、総合的に判断する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

あり：講義は情報教室での実施になります。また、予習、復習、講義中に終了しない課題などについては、各自貸与ノート PC を利用し取り組むことを前提とします。

【その他の重要事項】

1年生の段階では、コンピュータを自由に操ること＝プログラミングと考えてよいでしょう。コンピュータに操られるのではなく、コンピュータを自由に操ることを目標にしましょう。プログラミングは、言葉を扱うことに似ています。したがって使うことが一番重要となります。つまづきがあったら講師や TA に相談してください。本学部で学ぶ全講義は「プログラミング」が全ての基礎であるといっても過言ではなく、本講義の内容を深く理解し習得することはとても重要です。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to learn the fundamentals of computing in Python. Python is a dynamic object-oriented programming language that is easy to learn and has been used for web development, software development and so on.

At the end of the course, students are expected to be able to write small programs in Python that use file Handling, data modeling, graphics and interactive systems.

Before/after each lecture, students will be expected to spend eight hours to understand the course content and write program for exercises.

Final grade will be calculated according to the term-end examination (90%) and in class contribution (10%).

COT111KA-CS-101a

プログラミング入門2

波多野 大督

必選区分： | 配当年次/単位：1～4 年次 / 2 単位 | 開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

コンピュータやコンピュータソフトウェアは様々な場面で我々に深く関わっていて、これらの技術なしには現代の情報化社会は成り立ちません。本授業ではコンピュータソフトウェアを実際を作るために必要となるプログラミング技術の基本を学びます。その中でも「コンピュータが行う情報処理の基本型」を学ぶことが重要なテーマとなります。

【到達目標】

本講義の目標は、情報科学を学ぶ上で欠かせない「プログラミング」技術の基礎（後半）を習得することです。プログラミングとは、プログラミング言語（本講義では「プログラミング言語 Python」）という言葉を使って、コンピュータに行わせたい作業の内容を伝える技術です。従って、この「プログラミング言語」という新しい言葉をマスターして「コンピュータと自由に会話ができる」「思い通りに作業を指示できるようになる」ことが大きな目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

情報科学部ディプロマポリシーのうち「DP3-1」と「DP4-3」に関連

【授業の進め方と方法】

プログラミング技術の基礎の習得は、プログラミング言語という新しい言語を習得することでもあります。したがって、必要となる学習の方法は、新しい外国語を学習していくプロセスに似ています。そこで、各講義は、「説明」「演習」「課題」に分かれます。

各講義の前半では主に、

(A) 新しく学ぶ文法や機能などの知識の「説明」をします。さらに、(B) (A) で学んだことを利用して、実際にプログラミングを「演習」として行ってもらいます。プログラミングは、プログラム（文章）を書くことでもありますが、「このようなプログラムの書き方で、コンピュータがどのように動いてくれる」ということを体感します。

各講義の後半では、

(C) 「課題」として出題されるプログラムを実際に作ってもらうことで、プログラミング技術の体得を目指します。課題によっては、レポートとして提出してもらうものもあります。なお、課題はいくつかのテーマごとにコースに分かれて用意されているので、各自興味をもったテーマを選択し取り組むことができます。

課題に対するフィードバックとして、教員や TA からのレビューや学生の相互レビューにより課題の理解を深めるものとする。また、提出課題の内容が基準に満たない場合には再提出を促す等により、確実に理解を深めて基礎的な知識を積み上げていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ファイル操作	プログラム内で利用するための、ファイルの作成、読み込み方法を学ぶ。
2	複合データ	複数のデータをひとかたまりの形で扱うための機構について学ぶ。データを統一的に処理する際に必要となる。
3	第 1 回から 2 回の総括	各回で学んだ内容をより深めるとともに、それらを組み合わせたプログラミングを学ぶ。
4	応用 (1) 一タートルグ模様	幾何学模様を描くプログラムをクラフィックスで幾何学模様成してみる。

5	対話ループ	対話型プログラムについて学ぶ。
6	応用 (2) 一 Tk を利用したレンダリング	初歩的なレンダリングのプログラムを作成してみる。
7	総括一内容の復習と実際のプログラムの作成	これまで学んできた内容の復習を行う。また、これらを用いた実際のプログラムの作成にチャレンジする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前学習として、オンライン資料を熟読し、予習課題に取り組む。講義後は、プログラミング課題に取り組み完成させる。本授業の準備・復習時間は、計 8 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

たのしいプログラミング Python ではじめよう!

Jason R. Briggs (著), 磯 蘭水 (翻訳), 藤永 奈保子 (翻訳), 鈴木 悠 (翻訳)

オーム社、2014

【参考書】

みんなの Python 第 3 版

柴田 淳 (著)

ソフトバンククリエイティブ、2012

【成績評価の方法と基準】

全課題を提出することを単位の必要条件とする。

期末試験を実施し、理解度を評価する。

成績は、期末 (90%) 試験と課題の取組/提出状況 (10 %) により、総合的に判断する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

あり：講義は情報教室での実施になります。また、予習、復習、講義中に終了しない課題などについては、各自貸与ノート PC を利用し取り組むことを前提とします。

【その他の重要事項】

1 年生の段階では、コンピュータを自由に操ること＝プログラミングと考えてよいでしょう。コンピュータに操られるのではなく、コンピュータを自由に操ることを目標にしましょう。プログラミングは、言葉を扱うことに似ています。したがって使うことが一番重要となります。つまづきがあったら講師や TA に相談してください。本学部で学ぶ全講義は「プログラミング」が全ての基礎であるといっても過言ではなく、本講義の内容を深く理解し習得することはとても重要です。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to learn the fundamentals of computing in Python. Python is a dynamic object-oriented programming language that is easy to learn and has been used for web development, software development and so on.

At the end of the course, students are expected to be able to write small programs in Python that use file Handling, data modeling, graphics and interactive systems.

Before/after each lecture, students will be expected to spend eight hours to understand the course content and write program for exercises.

Final grade will be calculated according to the term-end examination (90%) and in class contribution (10%).

COT111KA-CS-101a

プログラミング入門2

佐藤 周平

必選区分： | 配当年次/単位：1～4 年次 / 2 単位 | 開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

コンピュータやコンピュータソフトウェアは様々な場面で我々に深く関わっていて、これらの技術なしには現代の情報化社会は成り立ちません。本授業ではコンピュータソフトウェアを実際を作るために必要となるプログラミング技術の基本を学びます。その中でも「コンピュータが行う情報処理の基本型」を学ぶことが重要なテーマとなります。

【到達目標】

本講義の目標は、情報科学を学ぶ上で欠かせない「プログラミング」技術の基礎（後半）を習得することです。プログラミングとは、プログラミング言語（本講義では「プログラミング言語 Python」）という言葉を使って、コンピュータに行わせたい作業の内容を伝える技術です。従って、この「プログラミング言語」という新しい言葉をマスターして「コンピュータと自由に会話ができる」「思い通りに作業を指示できるようになる」ことが大きな目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

情報科学部ディプロマポリシーのうち「DP3-1」と「DP4-3」に関連

【授業の進め方と方法】

プログラミング技術の基礎の習得は、プログラミング言語という新しい言語を習得することでもあります。したがって、必要となる学習の方法は、新しい外国語を学習していくプロセスに似ています。そこで、各講義は、「説明」「演習」「課題」に分かれます。

各講義の前半では主に、

(A) 新しく学ぶ文法や機能などの知識の「説明」をします。さらに、(B) (A) で学んだことを利用して、実際にプログラミングを「演習」として行ってもらいます。プログラミングは、プログラム（文章）を書くことでもありますが、「このようなプログラムの書き方で、コンピュータがどのように動いてくれる」ということを体感します。

各講義の後半では、

(C) 「課題」として出題されるプログラムを実際に作ってもらうことで、プログラミング技術の体得を目指します。課題によっては、レポートとして提出してもらうものもあります。なお、課題はいくつかのテーマごとにコースに分かれて用意されているので、各自興味をもったテーマを選択し取り組むことができます。

課題に対するフィードバックとして、教員や TA からのレビューや学生の相互レビューにより課題の理解を深めるものとする。また、提出課題の内容が基準に満たない場合には再提出を促す等により、確実に理解を深めて基礎的な知識を積み上げていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ファイル操作	プログラム内で利用するための、ファイルの作成、読み込み方法を学ぶ。
2	複合データ	複数のデータをひとかたまりの形で扱うための機構について学ぶ。データを統一的に処理する際に必要となる。
3	第1回から2回の総括	各回で学んだ内容をより深めるとともに、それらを組み合わせたプログラミングを学ぶ。
4	応用(1)一タートルグ模様	幾何学模様を描くプログラムをクラフィックスで幾何学模様

5	対話ループ	対話型プログラムについて学ぶ。
6	応用(2)一Tkを利用したレンダリング	初歩的なレンダリングのプログラムを作成してみる。
7	総括一内容の復習と実際のプログラムの作成	これまで学んできた内容の復習を行う。また、これらを用いた実際のプログラムの作成にチャレンジする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前学習として、オンライン資料を熟読し、予習課題に取り組む。講義後は、プログラミング課題に取り組み完成させる。本授業の準備・復習時間は、計8時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

たのしいプログラミング Python ではじめよう!

Jason R. Briggs (著), 磯 蘭水 (翻訳), 藤永 奈保子 (翻訳), 鈴木 悠 (翻訳)

オーム社、2014

【参考書】

みんなの Python 第3版

柴田 淳(著)

ソフトバンククリエイティブ、2012

【成績評価の方法と基準】

全課題を提出することを単位の必要条件とする。

期末試験を実施し、理解度を評価する。

成績は、期末(90%)試験と課題の取組/提出状況(10%)により、総合的に判断する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

あり：講義は情報教室での実施になります。また、予習、復習、講義中に終了しない課題などについては、各自貸与ノート PC を利用し取り組むことを前提とします。

【その他の重要事項】

1年生の段階では、コンピュータを自由に操ること＝プログラミングと考えてよいでしょう。コンピュータに操られるのではなく、コンピュータを自由に操ることを目標にしましょう。プログラミングは、言葉を扱うことに似ています。したがって使うことが一番重要となります。つまづきがあったら講師や TA に相談してください。本学部で学ぶ全講義は「プログラミング」が全ての基礎であるといっても過言ではなく、本講義の内容を深く理解し習得することはとても重要です。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to learn the fundamentals of computing in Python. Python is a dynamic object-oriented programming language that is easy to learn and has been used for web development, software development and so on.

At the end of the course, students are expected to be able to write small programs in Python that use file Handling, data modeling, graphics and interactive systems.

Before/after each lecture, students will be expected to spend eight hours to understand the course content and write program for exercises.

Final grade will be calculated according to the term-end examination (90%) and in class contribution (10%).

COT111KA-CS-101b

プログラミング入門3

佐々木 晃

必選区分： | 配当年次/単位：1~4 年次 / 2 単位 | 開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

プログラミング入門 1,2 で学んだ項目を基本として、さらに進んだプログラミング機構を学ぶとともに、データサイエンス・AI のための基礎的なプログラミングを体験する。

【到達目標】

- ・オブジェクト指向機構などの進んだプログラミング言語機構を利用できる。
- ・データサイエンスで必須となる諸技法の基礎を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

情報科学部ディプロマポリシーのうち「DP3-1」と「DP4-3」に関連

【授業の進め方と方法】

- ・プログラミング言語として Python を用いて授業を進める。
- ・前半は、オブジェクト指向機構を中心に最近のプログラミング言語で多く用いられる言語機構を扱う。
- ・後半は、データサイエンスで必須となる諸技法の基礎を学ぶ。
- ・授業の各回では、プログラミングの課題が提示されるので、授業時間外に取り組む。

課題等の提出は「CIS moodle」を通じて行う。授業中に課題に対するフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	導入	プログラム 1,2 の復習を行う。 とくに関数、リスト、複合データ構造、再帰呼び出しについて学ぶ
2	オブジェクト指向 (1)(モデリング)	クラスを利用してオブジェクトを表現する方法を学ぶ。 クラス、インスタンス、メソッドなどのオブジェクト指向機構の基本を学ぶ。
3	オブジェクト指向 (2) (オブジェクトコンポジション/ポリモर्फイズム)	オブジェクトを組み合わせる複雑なオブジェクトを表現する方法を学ぶ また、オブジェクトの参照と実体について学ぶ
4	オブジェクト指向 (3) (継承)	コード再利用の効果的な手法である継承機構によって、複数の種類のオブジェクトを統一的に表現する手法を学ぶ。
5	ファイル処理と例外機構	ファイル処理の記述法および、実行中に起こる例外を扱う例外機構を学ぶ
6	高度な言語機構	効果的にプログラミングを進めるうえで欠かせない言語機構を紹介する
7	復習 (1)	1~6 の内容の復習を行う
8	データサイエンス基礎 (1)	データサイエンスに有用なモジュールの紹介と、導入を行う
9	データサイエンス基礎 (2)	オープンデータを利用したデータ分析の基礎を扱う
10	データサイエンス基礎 (3)	データの可視化手法を学ぶ
11	データサイエンス基礎 (4)	代表的な統計量の算出法について学ぶ

- 12 データサイエンス基礎 基本的な仮説検定を扱う (5)
- 13 データサイエンス基礎 回帰分析の処理について学ぶ (6)
- 14 復習 (2) 8~13 の内容の復習を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習として、前期のプログラミング入門 1,2 の内容を復習し、十分に理解を深めておくこと。授業後の学習では、各回で出題されるプログラミング問題およびレポート作成に取り組むこと。本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、各週につき 4 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

オンライン資料あるいは講義配布資料。

【参考書】

Python によるプログラミング、小林 郁夫、佐々木 晃著、オーム社、ISBN:9784274223570

たのしいプログラミング Python ではじめよう!

Jason R.Briggs (著)、磯 蘭水 (翻訳)、藤永 奈保子 (翻訳)、鈴木 悠 (翻訳)

オーム社、2014

【成績評価の方法と基準】

成績は下記を総合して判断する

- 試験（中間、期末）40%
- 課題の取り組み 60%

【学生の意見等からの気づき】

演習問題の解説時間をとる。

【学生が準備すべき機器他】

貸与 PC を利用する

【その他の重要事項】

特になし

【Outline (in English)】

・ In this course, students will learn advanced mechanisms in modern programming languages, such as mechanisms for object orientation, and also will experience data science programming.

・ At the end of the course, students will understand basic usages for object orientation and other advanced language mechanisms in programming languages and also will experience programming required for data science and AI.

・ Before each class meeting, students will be expected to solve exercises assigned as homework. Your required study time is at least four hours for each class meeting.

・ Your overall grade will be decided based on the followings.

- mid- and end-term examinations (40%)
- assignments (60%)

COT111KA-CS-101b

プログラミング入門3

小林 郁夫

必選区分： | 配当年次/単位：1~4 年次 / 2 単位 | 開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

プログラミング入門 1,2 で学んだ項目を基本として、さらに進んだプログラミング機構を学ぶとともに、データサイエンス・AI のための基礎的なプログラミングを体験する。

【到達目標】

・オブジェクト指向機構などの進んだプログラミング言語機構を利用できる。
・データサイエンスで必須となる諸技法の基礎を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

情報科学部ディプロマポリシーのうち「DP3-1」と「DP4-3」に関連

【授業の進め方と方法】

・プログラミング言語として Python を用いて授業を進める。
・前半は、オブジェクト指向機構を中心に最近のプログラミング言語で多く用いられる言語機構を扱う。
・後半は、データサイエンスで必須となる諸技法の基礎を学ぶ。
・授業の各回では、プログラミングの課題が提示されるので、授業時間外に取り組む。
課題等の提出は「CIS moodle」を通じて行う。授業中に課題に対するフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	導入	プログラム 1,2 の復習を行う。 とくに関数、リスト、複合データ構造、再帰呼び出しについて学ぶ
2	オブジェクト指向 (1)(モデリング)	ラスを利用してオブジェクトを表現する方法を学ぶ。 クラス、インスタンス、メソッドなどのオブジェクト指向機構の基本を学ぶ。
3	オブジェクト指向 (2) (オブジェクトコンポジション/ポリモर्फイズム)	オブジェクトを組み合わせる複雑なオブジェクトを表現する方法を学ぶ また、オブジェクトの参照と実体について学ぶ
4	オブジェクト指向 (3) (継承)	コード再利用の効果的な手法である継承機構によって、複数の種類のオブジェクトを統一的に表現する手法を学ぶ。
5	ファイル処理と例外機構	ファイル処理の記述法および、実行中に起こる例外を扱う例外機構を学ぶ
6	高度な言語機構	効果的にプログラミングを進めるうえで欠かせない言語機構を紹介する
7	復習 (1)	1~6 の内容の復習を行う
8	データサイエンス基礎 (1)	データサイエンスに有用なモジュールの紹介と、導入を行う
9	データサイエンス基礎 (2)	オープンデータを利用したデータ分析の基礎を扱う
10	データサイエンス基礎 (3)	データの可視化手法を学ぶ
11	データサイエンス基礎 (4)	代表的な統計量の算出法について学ぶ

- 12 データサイエンス基礎 基本的な仮説検定を扱う (5)
13 データサイエンス基礎 回帰分析の処理について学ぶ (6)
14 復習 (2) 8~13 の内容の復習を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習として、前期のプログラミング入門 1,2 の内容を復習し、十分に理解を深めておくこと。授業後の学習では、各回で出題されるプログラミング問題およびレポート作成に取り組むこと。本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、各週につき 4 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

オンライン資料あるいは講義配布資料。

【参考書】

Python によるプログラミング、小林 郁夫、佐々木 晃著、オーム社、ISBN:9784274223570

たのしいプログラミング Python ではじめよう!

Jason R.Briggs (著), 磯 蘭水 (翻訳), 藤永 奈保子 (翻訳), 鈴木 悠 (翻訳)

オーム社、2014

【成績評価の方法と基準】

成績は下記を総合して判断する

- 試験（中間、期末）40%
- 課題の取り組み 60%

【学生の意見等からの気づき】

演習問題の解説時間をとる。

【学生が準備すべき機器他】

貸与 PC を利用する

【その他の重要事項】

特になし

【Outline (in English)】

・ In this course, students will learn advanced mechanisms in modern programming languages, such as mechanisms for object orientation, and also will experience data science programming.

・ At the end of the course, students will understand basic usages for object orientation and other advanced language mechanisms in programming languages and also will experience programming required for data science and AI.

・ Before each class meeting, students will be expected to solve exercises assigned as homework. Your required study time is at least four hours for each class meeting.

・ Your overall grade will be decided based on the followings.

- mid- and end-term examinations (40%)
- assignments (60%)

COT111KA-CS-101b

プログラミング入門3

馬 建華

必選区分： | 配当年次/単位：1～4 年次 / 2 単位 | 開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

プログラミング入門 1,2 で学んだ項目を基本として、さらに進んだプログラミング機構を学ぶとともに、データサイエンス・AI のための基礎的なプログラミングを体験する。

【到達目標】

・オブジェクト指向機構などの進んだプログラミング言語機構を利用できる。
・データサイエンスで必須となる諸技法の基礎を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

情報科学部ディプロマポリシーのうち「DP3-1」と「DP4-3」に関連

【授業の進め方と方法】

・プログラミング言語として Python を用いて授業を進める。
・前半は、オブジェクト指向機構を中心に最近のプログラミング言語で多く用いられる言語機構を扱う。
・後半は、データサイエンスで必須となる諸技法の基礎を学ぶ。
・授業の各回では、プログラミングの課題が提示されるので、授業時間外に取り組む。
課題等の提出は「CIS moodle」を通じて行う。授業中に課題に対するフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	導入	プログラム 1,2 の復習を行う。 とくに関数、リスト、複合データ構造、再帰呼び出しについて学ぶ
2	オブジェクト指向 (1)(モデリング)	ラスを利用してオブジェクトを表現する方法を学ぶ。 クラス、インスタンス、メソッドなどのオブジェクト指向機構の基本を学ぶ。
3	オブジェクト指向 (2) (オブジェクトコンポジション/ポリモर्फイズム)	オブジェクトを組み合わせる複雑なオブジェクトを表現する方法を学ぶ また、オブジェクトの参照と実体について学ぶ
4	オブジェクト指向 (3) (継承)	コード再利用の効果的な手法である継承機構によって、複数の種類のオブジェクトを統一的に表現する手法を学ぶ。
5	ファイル処理と例外機構	ファイル処理の記述法および、実行中に起こる例外を扱う例外機構を学ぶ
6	高度な言語機構	効果的にプログラミングを進めるうえで欠かせない言語機構を紹介する
7	復習 (1)	1～6 の内容の復習を行う
8	データサイエンス基礎 (1)	データサイエンスに有用なモジュールの紹介と、導入を行う
9	データサイエンス基礎 (2)	オープンデータを利用したデータ分析の基礎を扱う
10	データサイエンス基礎 (3)	データの可視化手法を学ぶ
11	データサイエンス基礎 (4)	代表的な統計量の算出法について学ぶ

- 12 データサイエンス基礎 基本的な仮説検定を扱う (5)
13 データサイエンス基礎 回帰分析の処理について学ぶ (6)
14 復習 (2) 8～13 の内容の復習を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習として、前期のプログラミング入門 1,2 の内容を復習し、十分に理解を深めておくこと。授業後の学習では、各回で出題されるプログラミング問題およびレポート作成に取り組むこと。本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、各週につき 4 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

オンライン資料あるいは講義配布資料。

【参考書】

Python によるプログラミング、小林 郁夫、佐々木 晃著、オーム社、ISBN:9784274223570

たのしいプログラミング Python ではじめよう!

Jason R.Briggs (著)、磯 蘭水 (翻訳)、藤永 奈保子 (翻訳)、鈴木 悠 (翻訳)

オーム社、2014

【成績評価の方法と基準】

成績は下記を総合して判断する

- 試験（中間、期末）40%
- 課題の取り組み 60%

【学生の意見等からの気づき】

演習問題の解説時間をとる。

【学生が準備すべき機器他】

貸与 PC を利用する

【その他の重要事項】

特になし

【Outline (in English)】

・ In this course, students will learn advanced mechanisms in modern programming languages, such as mechanisms for object orientation, and also will experience data science programming.

・ At the end of the course, students will understand basic usages for object orientation and other advanced language mechanisms in programming languages and also will experience programming required for data science and AI.

・ Before each class meeting, students will be expected to solve exercises assigned as homework. Your required study time is at least four hours for each class meeting.

・ Your overall grade will be decided based on the followings.

- mid- and end-term examinations (40%)
- assignments (60%)

COT111KA-CS-101b

プログラミング入門3

高村 誠之

必選区分： | 配当年次/単位：1~4 年次 / 2 単位 | 開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

プログラミング入門 1,2 で学んだ項目を基本として、さらに進んだプログラミング機構を学ぶとともに、データサイエンス・AI のための基礎的なプログラミングを体験する。

【到達目標】

・オブジェクト指向機構などの進んだプログラミング言語機構を利用できる。
・データサイエンスで必須となる諸技法の基礎を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

情報科学部ディプロマポリシーのうち「DP3-1」と「DP4-3」に関連

【授業の進め方と方法】

・プログラミング言語として Python を用いて授業を進める。
・前半は、オブジェクト指向機構を中心に最近のプログラミング言語で多く用いられる言語機構を扱う。
・後半は、データサイエンスで必須となる諸技法の基礎を学ぶ。
・授業の各回では、プログラミングの課題が提示されるので、授業時間外に取り組む。
課題等の提出は「CIS moodle」を通じて行う。授業中に課題に対するフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	導入	プログラム 1,2 の復習を行う。 とくに関数、リスト、複合データ構造、再帰呼び出しについて学ぶ
2	オブジェクト指向 (1)(モデリング)	クラスを利用してオブジェクトを表現する方法を学ぶ。 クラス、インスタンス、メソッドなどのオブジェクト指向機構の基本を学ぶ。
3	オブジェクト指向 (2) (オブジェクトコンポジション/ポリモर्फイズム)	オブジェクトを組み合わせる複雑なオブジェクトを表現する方法を学ぶ また、オブジェクトの参照と実体について学ぶ
4	オブジェクト指向 (3) (継承)	コード再利用の効果的な手法である継承機構によって、複数の種類のオブジェクトを統一的に表現する手法を学ぶ。
5	ファイル処理と例外機構	ファイル処理の記述法および、実行中に起こる例外を扱う例外機構を学ぶ
6	高度な言語機構	効果的にプログラミングを進めるうえで欠かせない言語機構を紹介する
7	復習 (1)	1~6 の内容の復習を行う
8	データサイエンス基礎 (1)	データサイエンスに有用なモジュールの紹介と、導入を行う
9	データサイエンス基礎 (2)	オープンデータを利用したデータ分析の基礎を扱う
10	データサイエンス基礎 (3)	データの可視化手法を学ぶ
11	データサイエンス基礎 (4)	代表的な統計量の算出法について学ぶ

- 12 データサイエンス基礎 基本的な仮説検定を扱う (5)
13 データサイエンス基礎 回帰分析の処理について学ぶ (6)
14 復習 (2) 8~13 の内容の復習を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習として、前期のプログラミング入門 1,2 の内容を復習し、十分に理解を深めておくこと。授業後の学習では、各回で出題されるプログラミング問題およびレポート作成に取り組むこと。本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、各週につき 4 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

オンライン資料あるいは講義配布資料。

【参考書】

Python によるプログラミング、小林 郁夫、佐々木 晃著、オーム社、ISBN:9784274223570

たのしいプログラミング Python ではじめよう!

Jason R.Briggs (著), 磯 蘭水 (翻訳), 藤永 奈保子 (翻訳), 鈴木 悠 (翻訳)

オーム社、2014

【成績評価の方法と基準】

成績は下記を総合して判断する

- 試験（中間、期末）40%
- 課題の取り組み 60%

【学生の意見等からの気づき】

演習問題の解説時間をとる。

【学生が準備すべき機器他】

貸与 PC を利用する

【その他の重要事項】

特になし

【Outline (in English)】

・ In this course, students will learn advanced mechanisms in modern programming languages, such as mechanisms for object orientation, and also will experience data science programming.

・ At the end of the course, students will understand basic usages for object orientation and other advanced language mechanisms in programming languages and also will experience programming required for data science and AI.

・ Before each class meeting, students will be expected to solve exercises assigned as homework. Your required study time is at least four hours for each class meeting.

・ Your overall grade will be decided based on the followings.

- mid- and end-term examinations (40%)
- assignments (60%)

PRI210KA-CS-161

データ構造とアルゴリズム 1

首藤 裕一

必修区分： | 配当年次/単位：2~4 年次 / 2 単位 | 開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

高度なプログラミングには、用途にあった「定石」を使いこなすことが不可欠である。この講義では、その「定石」であるアルゴリズムをつかひこなす第一歩を学ぶ。具体的には、様々な分野の代表的なアルゴリズムを紹介し、プログラム化する方法を学ぶ。アルゴリズムが用途にあうかどうかを判断する最も重要な基準の一つである計算量についても学ぶ。また、アルゴリズムをプログラム化するために不可欠なデータ構造についても学ぶ。

【到達目標】

情報科学を学ぶ上で最低限必要な「アルゴリズムとデータ構造の基礎」を理解し、プログラム化できる能力を身に付けることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

情報科学部ディプロマポリシーのうち「DP2」と「DP3-1」、「DP4-1」に関連

【授業の進め方と方法】

本授業は、いわゆる講義が主体の授業である。講義中、ときおりクイズ形式の問題を出すことで本質の理解を促す。また、アルゴリズムはプログラムとして実装することで理解が大きく促進されるので、いくつかのアルゴリズムについてはこれらの実装に取り組む。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	アルゴリズムとは何か、データ構造とは何かを理解する。
2	挿入ソートと実行時間評価	基本的なソートアルゴリズムである挿入ソートを学ぶとともに、実行時間の解析を行う。
3	漸近的表記	アルゴリズムの計算量解析に頻用される関数の漸近的表記（ランダウの記号）を学ぶ。
4	マージソート	マージソートを学ぶとともに、実行時間の解析を行う。
5	ヒープソート	ヒープソートを学ぶとともに、実行時間の解析を行う。
6	クイックソート	クイックソートを学ぶとともに、実行時間の解析を行う。
7	4 種類のソートの実装	これまでに学んだ 4 種類の整列アルゴリズムを実装し、実行時間を比較する。
8	優先度付きキュー・スタック・キュー	基本的なデータ構造である優先度付きキュー、スタック、キューを学ぶ。
9	連結リスト・二分探索木	基本的なデータ構造である連結リストと二分探索木を学ぶ。
10	辞書 1	重要なデータ構造のひとつである辞書の概念を理解する。
11	辞書 2	辞書を実現する手法としてチェーン法およびオープンアドレス指定法を学ぶ。
12	グラフの表現	グラフを表現するための様々なデータ構造を理解する。

- 13 単一始点最短経路問題 グラフに関する代表的なアルゴリズムである単一最短経路問題とベルマン・フォード法、ダイクストラ法について学ぶ。
- 14 ダイクストラ法のプログラミング ダイクストラ法の実装を通してグラフアルゴリズムへの理解を深める。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎週、必要に応じて課題を出す。本授業の復習等の授業時間外学習は、各週につき 4 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

書名: アルゴリズムイントロダクション 第 1 巻 基礎・ソート・データ構造・数学 第 3 版
著者: Thomas H. Cormen 他
翻訳: 浅野他
出版社: 近代科学者
出版年: 平成 24 年

【参考書】

書名: アルゴリズムとデータ構造
著者: 大槻兼資・秋葉拓哉
出版社: 講談社
出版年: 令和 2 年

【成績評価の方法と基準】

定期試験（80%）および演習課題の提出状況や講義への貢献などの平常点（20%）で評価

【学生の意見等からの気づき】

板書時には極力教室前方の電気をつけるように留意する。

【学生が準備すべき機器他】

演習にはノート PC を利用する。

【Outline (in English)】

When you write a "good" program, you must learn and make use of standard and well-established techniques. In the course, you will learn algorithm — well-established techniques for programming. More concretely, you will learn popular algorithms (such as sorting) and learn how to evaluate the computational complexity of algorithms. You will also learn data structures for implementing algorithms with programming languages.

Students will be expected to study the topic given in the class around four hours in each week. Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Term-end examination: 80%, short reports and in-class contribution: 20%

PRI210KA-CS-161

データ構造とアルゴリズム 1

坂本 寛

必修区分： | 配当年次/単位：2~4 年次 / 2 単位 | 開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

高度なプログラミングには、用途にあった「定石」を使いこなすことが不可欠である。この講義では、その「定石」であるアルゴリズムをつかひこなす第一歩を学ぶ。具体的には、様々な分野の代表的なアルゴリズムを紹介し、プログラム化する方法を学ぶ。アルゴリズムが用途にあうかどうかを判断する最も重要な基準の一つである計算量についても学ぶ。また、アルゴリズムをプログラム化するために不可欠なデータ構造についても学ぶ。

【到達目標】

情報科学を学ぶ上で最低限必要な「アルゴリズムとデータ構造の基礎」を理解し、プログラム化できる能力を身に付けることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

情報科学部ディプロマポリシーのうち「DP2」と「DP3-1」、「DP4-1」に関連

【授業の進め方と方法】

本授業は、いわゆる講義が主体の授業である。講義中、ときおりクイズ形式の問題を出すことで本質の理解を促す。また、アルゴリズムはプログラムとして実装することで理解が大きく促進されるので、いくつかのアルゴリズムについてはこれらの実装に取り組む。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	アルゴリズムとは何か、データ構造とは何かを理解する。
2	挿入ソートと実行時間評価	基本的なソートアルゴリズムである挿入ソートを学ぶとともに、実行時間の解析を行う。
3	漸近的表記	アルゴリズムの計算量解析に頻用される関数の漸近的表記（ランダウの記号）を学ぶ。
4	マージソート	マージソートを学ぶとともに、実行時間の解析を行う。
5	ヒープソート	ヒープソートを学ぶとともに、実行時間の解析を行う。
6	クイックソート	クイックソートを学ぶとともに、実行時間の解析を行う。
7	4 種類のソートの実装	これまでに学んだ 4 種類の整列アルゴリズムを実装し、実行時間を比較する。
8	優先度付きキュー・スタック・キュー	基本的なデータ構造である優先度付きキュー、スタック、キューを学ぶ。
9	連結リスト・二分探索木	基本的なデータ構造である連結リストと二分探索木を学ぶ。
10	辞書 1	重要なデータ構造のひとつである辞書の概念を理解する。
11	辞書 2	辞書を実現する手法としてチェーン法およびオープンアドレス指定法を学ぶ。
12	グラフの表現	グラフを表現するための様々なデータ構造を理解する。

13 単一始点最短経路問題 グラフに関する代表的なアルゴリズムである単一最短経路問題とベルマン・フォード法、ダイクストラ法について学ぶ。

14 ダイクストラ法のプログラミング ダイクストラ法の実装を通してグラフアルゴリズムへの理解を深める。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎週、必要に応じて課題を出す。本授業の復習等の授業時間外学習は、各週につき 4 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

書名：アルゴリズムイントロダクション 第 1 巻 基礎・ソート・データ構造・数学 第 3 版

著者：Thomas H. Cormen 他

翻訳：浅野他

出版社：近代科学者

出版年：平成 24 年

【参考書】

書名：アルゴリズムとデータ構造

著者：大槻兼資・秋葉拓哉

出版社：講談社

出版年：令和 2 年

【成績評価の方法と基準】

定期試験（80%）および演習課題の提出状況や講義への貢献などの平常点（20%）で評価

【学生の意見等からの気づき】

板書時には極力教室前方の電気をつけるように留意する。

【学生が準備すべき機器他】

演習にはノート PC を利用する。

【Outline (in English)】

When you write a "good" program, you must learn and make use of standard and well-established techniques. In the course, you will learn algorithm — well-established techniques for programming. More concretely, you will learn popular algorithms (such as sorting) and learn how to evaluate the computational complexity of algorithms. You will also learn data structures for implementing algorithms with programming languages.

Students will be expected to study the topic given in the class around four hours in each week. Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Term-end examination: 80%, short reports and in-class contribution: 20%

PRI210KA-CS-251

最適化

佐藤 裕二

必選区分： | 配当年次/単位：2～4 年次 / 2 単位 | 開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講座では、情報科学のさまざまな場面で遭遇する最適化問題を数学的に処理するための基本的な手法について解説します。最適化問題の基本を理解し、さまざまな応用に役立てるための基礎力を身に着けることを目的とします。

【到達目標】

最適化問題を数学的に処理するための基本的な手法について学ぶことにより、より専門的な知識が必要とされるパターン認識や人工知能などの理解を容易にするための基礎的なスキルを身につけることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

情報科学部ディプロマポリシーのうち「DP2」と「DP4-1」、「DP4-2」に関連

【授業の進め方と方法】

最初に、最適化問題を扱うために必要となる数学的知識を学んだ後、制約の無い関数の最適化問題として勾配法とニュートン法を学びます。次に、制約がある場合の最適化問題としてラグランジュの未定乗数法を学び、さらに誤差のあるデータに関数を当てはめる手法である最小二乗法と最尤法を学びます。最後に一次式の最適化問題である線形計画法と複数の競合する目的関数を扱う多目的最適化を学びます。

授業は、理解を容易にするために例題を中心に解説を行い、講義に対応した演習を授業の最後で行います。また、次の講義の最初で解答例紹介を行うことで課題のフィードバックを学生に行い、理解が深められるようにしながら授業を進めています。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	最適化問題とは	オリエンテーション
2	数学的準備	行列、固有ベクトル、偏微分、曲線・曲面の方程式、接線と法線の解説
3	一次形式と二次形式	一次形式と二次形式、二次形式の微分、二次形式の標準化の解説
4	関数の極値	関数の勾配、停留点、関数の極値の解説
5	一次元最適化問題	三分割法、黄金分割法、ニュートン法、放物線補間の解説
6	勾配法	勾配法の解説
7	ニュートン法	ニュートン法の解説
8	ラグランジュの未定乗数法	ラグランジュの未定乗数法の解説
9	最適化の使い方	例題を使った最適化手法の使い方の解説
10	最小二乗法	最小二乗法、式の当てはめの解説
11	最尤法 1	最尤推定、直線当てはめの解説
12	最尤法 2	データの分類の解説
13	線形計画法	線形計画の標準形、可能領域、線形計画の基本定理、シンプレックス法
14	多目的最適化、まとめ	多目的最適化とは、パレート解、多目的最適化の解法、全体的なまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1. 授業の予習または復習を毎回必ず行うこと。本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、各週につき 4 時間を標準とします
2. 授業中に理解できなかった例題や演習課題は必ず復習して理解すること

【テキスト（教科書）】

配布資料（学習支援システムに掲載）

【参考書】

金谷健一、「これなら分かる最適化数学」、共立出版、2005 年

【成績評価の方法と基準】

期末テスト（60%）+演習課題（20%）+授業への参加度（20%）で採点します。
参加度は授業中の態度（積極的に演習の解答例紹介を行うかなど）で計算します。

【学生の意見等からの気づき】

学生の理解度を把握するために、講義に対応した演習を授業の最後で行い、また、次の講義の最初で解答例紹介を行いながら授業を進めています。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

本講義は複数クラスで内容を統一し、講義内容・教材を担当教員で共同で作成している。また、その内容は担当教員が企業で研究・開発業務に携わった経験を基に、実社会で有効となる最適化技術およびその数学的手法の基本に関する講義を行う

【Outline (in English)】

This lecture will explain the basic method for mathematically processing the optimization problem. It aims to understand the fundamentals of optimization problems and to acquire the fundamental power to use for various application problems.

The standard for outside study such as preparation and review of this class is 4 hours per week.

Grades will be judged comprehensively from the final exam (60%) + exercises (20%) + class participation attitude (20%).

PRI210KA-CS-251

最適化

佐川 浩彦

必選区分： | 配当年次/単位：2～4 年次 / 2 単位 | 開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講座では、情報科学のさまざまな場面で遭遇する最適化問題を数学的に処理するための基本的な手法について解説します。最適化問題の基本を理解し、さまざまな応用に役立てるための基礎力を身に着けることを目的とします。

【到達目標】

最適化問題を数学的に処理するための基本的な手法について学ぶことにより、より専門的な知識が必要とされるパターン認識や人工知能などの理解を容易にするための基礎的なスキルを身につけることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

情報科学部ディプロマポリシーのうち「DP2」と「DP4-1」、「DP4-2」に関連

【授業の進め方と方法】

最初に、最適化問題を扱うために必要となる数学的知識を学んだ後、制約の無い関数の最適化問題として勾配法とニュートン法を学びます。次に、制約がある場合の最適化問題としてラグランジュの未定乗数法を学び、さらに誤差のあるデータに関数を当てはめる手法である最小二乗法と最尤法を学びます。最後に一次式の最適化問題である線形計画法と複数の競合する目的関数を扱う多目的最適化を学びます。

授業は、理解を容易にするために例題を中心に解説を行い、講義に対応した演習を授業の最後で行います。また、次の講義の最初で解答例紹介を行うことで課題のフィードバックを学生に行い、理解が深められるようにしながら授業を進めています。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	最適化問題とは	オリエンテーション
2	数学的準備	行列、固有ベクトル、偏微分、曲線・曲面の方程式、接線と法線の解説
3	一次形式と二次形式	一次形式と二次形式、二次形式の微分、二次形式の標準化の解説
4	関数の極値	関数の勾配、停留点、関数の極値の解説
5	一次元最適化問題	三分割法、黄金分割法、ニュートン法、放物線補間の解説
6	勾配法	勾配法の解説
7	ニュートン法	ニュートン法の解説
8	ラグランジュの未定乗数法	ラグランジュの未定乗数法の解説
9	最適化の使い方	例題を使った最適化手法の使い方の解説
10	最小二乗法	最小二乗法、式の当てはめの解説
11	最尤法 1	最尤推定、直線当てはめの解説
12	最尤法 2	データの分類の解説
13	線形計画法	線形計画の標準形、可能領域、線形計画の基本定理、シンプレックス法
14	多目的最適化、まとめ	多目的最適化とは、パレート解、多目的最適化の解法、全体的なまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1. 授業の予習または復習を毎回必ず行うこと。本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、各週につき 4 時間を標準とします
2. 授業中に理解できなかった例題や演習課題は必ず復習して理解すること

【テキスト（教科書）】

配布資料（学習支援システムに掲載）

【参考書】

金谷健一、「これなら分かる最適化数学」、共立出版、2005 年

【成績評価の方法と基準】

期末テスト（60%）+ 演習課題（20%）+ 授業への参加度（20%）で採点します。
参加度は授業中の態度（積極的に演習の解答例紹介を行うかなど）で計算します。

【学生の意見等からの気づき】

学生の理解度を把握するために、講義に対応した演習を授業の最後で行い、また、次の講義の最初で解答例紹介を行いながら授業を進めています。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

本講義は複数クラスで内容を統一し、講義内容・教材を担当教員で共同で作成している。また、その内容は担当教員が企業で研究・開発業務に携わった経験を基に、実社会で有効となる最適化技術およびその数学的手法の基本に関する講義を行う

【Outline (in English)】

This lecture will explain the basic method for mathematically processing the optimization problem. It aims to understand the fundamentals of optimization problems and to acquire the fundamental power to use for various application problems.

The standard for outside study such as preparation and review of this class is 4 hours per week.

Grades will be judged comprehensively from the final exam (60%) + exercises (20%) + class participation attitude (20%).

PRI310KA-CS-261

アルゴリズムの設計と解析

黄 潤和

必修区分： | 配当年次/単位：3~4 年次 / 2 単位 | 開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

このコースの目標は、データ構造に関する学生の知識と関連するアルゴリズムを適用するスキルを向上させることです。このコースでは、学習したデータ構造とアルゴリズムに関連する木構造とグラフ構造の内容を復習し、およびアルゴリズムの分析と設計手法について説明します。

【到達目標】

The objectives of this course are to make students firmly laying good foundation of data structures and algorithms, and one-step further comprehensively understanding of algorithm analysis, and having design skills and techniques as general problem solving strategies.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

情報科学部ディプロマポリシーのうち「DP2」と「DP4-1」に関連

【授業の進め方と方法】

This course is conducted in the following steps:

- Review data structures and algorithms learned previously
- Introduce some contents on algorithm analysis techniques
- Learn some design techniques for problem solving

[Feedback] Students are given questions to think about and answer in-class and exercises to do as home work. Solutions to the questions and the exercises will be explained in the next class, and students will do self-checking and evaluation of their exercises and make corrections or re-do to the exercises if they make mistakes.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Fundamentals of the Analysis of Efficiency	- what is an algorithm? - how to design? - how to analyze?
2	Basic algorithm analyses (1): Divide and Conquer	- Merge sort - quick sort
3	Basic algorithm analyses (2): Dynamic Programming	- Fibonacci numbers - Coin exchange
4	Trees structure and analysis (1)	- Binary Trees - Tree traversal - Arithmetic expressions
5	Trees structure and analysis (2)	- AVL Tree
6	Trees structure and analysis (3)	- 2-3-4 Tree
7	Trees structure and analysis (4)	- red-black trees
8	Mid-term exercises	- Work in class (1) do exercises (2) explain solutions
9	Fundamentals of Graph	DFS (Depth-first searching algorithm) and BFS (Breadth-first searching algorithm)

10	Weighted Graph	Shortest path algorithms
11	Single source shortest paths	Dijkstra Algorithm
12	Minimal spanning trees	- Prim's algorithm - Kruskal's algorithm
13	All-pairs shortest paths	- Matrix production - Floyd-warshall algorithm
14	Review	- The contents of L1-L13

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Read related contents and topics from the Internet or specified references.

本授業の準備・復習・課題の時間は、計 4 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

"Introduction to the Design and Analysis of Algorithms", Anany Levitin, Publisher: Pearson, ISBN-13: 978-0-13-231681-1

【参考書】

書名: Introduction to Algorithms, Third Edition
著者: Thomas H. Cormen, Charles E. Leiserson, Ronald L. Rivest and Clifford Stein
出版社: The MIT Press
出版年: 2009 年

【成績評価の方法と基準】

The grade evaluation is based on student's participation in class (14%) and final examination (86%).

成績評価の方法と基準は平常点 (14%) と期末テスト (86%) です。

【学生の意見等からの気づき】

Interested in students' requirements and put efforts accordingly

【その他の重要事項】

授業中は主に英語を使用し、日本語も一部併用して使用する。

【Outline (in English)】

The goal of this course is to enhance students' knowledge of data structure and skill of applying associated algorithms. This course will cover the content review of learned data structures and algorithms related tree and graph, and plus algorithm analysis and design techniques.

The objectives of this course are to make students firmly laying good foundation of data structures and algorithms, and one-step further comprehensively understanding of algorithm analysis, and having design skills and techniques as general problem solving strategies.

This course is conducted in the following steps:

- Review data structures and algorithms learned previously
- Introduce some contents on algorithm analysis techniques
- Learn some design techniques for problem solving

[Feedback] Students are given questions to think about and answer in-class and exercises to do as home work. Solutions to the questions and the exercises will be explained in the next class, and students will do self-checking and evaluation of their exercises and make corrections or re-do to the exercises if they make mistakes.

The grade evaluation is based on the participation in class (14%) and the final examination (86%).

COT211KA-CS-201

プログラミング 1(C/C++)

廣津 登志夫、佐藤 周平

必選区分： | 配当年次/単位：2~4 年次 / 4 単位 | 開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業ではプログラミング言語 C/C++を学び、これらを用いて簡単なプログラム作成を行う。ここでは単にプログラムを書くことだけが目的ではなく、C/C++によるプログラミングで重要となるプログラム実行時にどのようにメモリが利用されているかを理解することを重視する。コンピュータの仕組みを考えながら、プログラムがどのように動作しているのかを考え、正しく動作するプログラムとは何かを判断できるようになることをめざす。

【到達目標】

- ・ インタープリタ言語とコンパイラ言語の違いを説明できる。
- ・ C/C++ のソースコードとコンパイルの関係を説明できる。
- ・ if 文、for 文を使った C/C++プログラムを作成することができる。
- ・ 関数を使った C/C++ プログラムを作成することができる。
- ・ 構造体を使った C/C++ プログラムを作成することができる。
- ・ 変数とポインタ、メモリアドレスの関係を説明することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

情報科学部ディプロマポリシーのうち「DP4-1」と「DP4-3」に関連

【授業の進め方と方法】

講義は反転学習の形態を取るため、事前学習資料の内容を理解した上で、講義までに演習のプログラムについては各自で動かして動作を確認しておく。講義の最初に事前学習内容の理解度や課題の理解度のアンケートを実施し、事前学習及び課題のフィードバックを行う。講義中は主に課題のプログラミングを行い、TA 及び教員により質問等への個別対応を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	C/C++言語の導入	コンパイラとインタープリタの違いを学ぶ C/C++の開発環境を理解する 最初のプログラムを作成し、実行させる
第 2 回	C/C++言語の基本形	インクルードファイルの書き方を学ぶ main 関数の書き方を学ぶ 変数宣言について学ぶ
第 3 回	標準入出力	C 言語の出力方法である printf の使い方を学ぶ C++言語の標準入出力である cin, cout の使い方を学ぶ
第 4 回	算術演算子	C/C++における加減乗除の方法を学ぶ 演算子の優先順位について理解する
第 5 回	条件分岐	if else を用いた条件分岐のあるプログラムの書き方を学ぶ switch 文について学ぶ
第 6 回	繰り返し制御	for, while を使った繰り返し方法を学ぶ break, continue により繰り返しの中断や継続を行う方法を学ぶ

第 7 回 文字列と配列

配列の宣言と利用方法を学ぶ
配列とメモリマップの関係について学ぶ

第 8 回 変数とメモリ

配列と文字列の関係を学ぶ
変数とメモリの関係について学ぶ
&演算子によりメモリアドレスを確認する方法を学ぶ

第 9 回 関数

sizeof 演算子により変数領域の大きさを求める方法を学ぶ
関数定義と関数呼び出しの方法を学ぶ

第 10 回 変数のスコープ

プロトタイプ宣言について学ぶ
変数のスコープについて学ぶ
ローカル変数、グローバル変数について学ぶ
変数のメモリ割り当て方法の違いについて学ぶ

第 11 回 構造体

構造体の定義方法と参照方法を学ぶ

第 12 回 ポインタ

構造体とメモリの関係を学ぶ
ポインタとメモリアドレスの関係を学ぶ
ポインタ変数の使い方を学ぶ
ポインタと配列の関係を学ぶ
ポインタを使った構造体の参照方法を学ぶ

第 13 回 ポインタ演算

ポインタの加算について学ぶ
ポインタを引数にした call by reference による関数呼び出しの方法を学ぶ

第 14 回 ファイル入出力

ファイルのオープンとクローズ方法を学ぶ
ファイルへの値の書き出し方法を学ぶ
ファイルからの値の読出し方法を学ぶ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、各週につき 8 時間を標準とする。

事前学習資料（映像・演習プログラム）について、必ず、講義前に各自で予習した上で演習プログラムを全て動かしておくこと。講義中に完了しなかった課題は次週までの宿題となる。

【テキスト（教科書）】

柴田望洋, “新 明解 C++ 入門”, ソフトバンククリエイティブ. 2017. ISBN: 978-4-7973-9463-4

【参考書】

柴田望洋, “新・明解 C 言語 入門編”, ソフトバンククリエイティブ. 2014. ISBN: 978-4-7973-7702-6

【成績評価の方法と基準】

講義への出席と全ての必須課題の提出は成績評価の前提条件となる。期末試験を実施し、理解度を評価する。
成績は、期末試験を 70%、課題提出を 30%で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

2020 年度から実施している反転学習（事前に説明・演習を行い、講義の多くを課題プログラミングに充てる方式）について、学習効率や理解の面で良好な反応であったので、対面・オンラインに関わらずひきつづき同じ形態で講義を進める。予習、講義中・GBC の質問をフルに活用して、効果的に学習を進めて欲しい。

【学生が準備すべき機器他】

貸与 PC を利用してプログラミングを行う

対面・オンラインにかかわらず、質問対応には **Zoom** による画面共有を使用するので、講義での指示に従い **Zoom** に接続すること

【その他の重要事項】

本講義の内容は、担当教員の企業研究所での実務経験により得た知見に基づき構成している

【Outline (in English)】

[Course outline]

Students learn the basic skills for writing programs in Programming Language C/C++. They not only study the grammar of Programming Language C/C++, but also study the memory management and program execution architecture of current computer system.

[Learning Objectives]

Students expected to understand core concepts and functionality of C and C++. They also expected to build program using C-level core functionalities, such as control flow, function call, data structure and pointer.

[Learning activities outside of classroom]

Students will be expected to spend eight hours to pre/post study of the course including programming the homework and next week's pre-studying contents.

[Grading Criteria /Policy]

Attending the class and submission of mandatory exams are prerequisite for the evaluation.

Final grade will be calculated according to the following process; term-end examination (70%), and homework (30%).

COT211KA-CS-202

プログラミング 2(C/C++)

相島 健助、廣津 登志夫

必選区分： | 配当年次/単位：2~4 年次 / 4 単位 | 開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業はプログラミング 1(C/C++) の後続科目として、C++用いたオブジェクト指向プログラミングにより小規模のプログラムを作成できるようにすることを目的とする。学習においてはオブジェクト指向プログラミングの基本概念を意識し、コンピュータの仕組みと結びつけて、プログラムの動作を理解する視点を獲得することめざす。

【到達目標】

- ・オブジェクト指向の基本的な考え方を説明できる。
- ・C++を用いて、オブジェクト指向に沿ったクラス設計を行うことができる。
- ・オブジェクトのポインタを用いたプログラムを作成・理解できる。
- ・オブジェクトの継承を理解し、プログラムを作成できる。
- ・カプセル化を意識したプログラムを作成できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

情報科学部ディプロマポリシーのうち「DP4-1」と「DP4-3」に関連

【授業の進め方と方法】

講義は本科目の前段科目であるプログラミング 1(C/C++) と同様に、反転学習の形態を取る。事前学習資料の内容を理解した上で、講義までに演習のプログラムについては各自で動かして動作を確認しておく。講義の最初に事前学習内容の理解度や課題の理解度のアンケートを実施し、事前学習及び課題のフィードバックを行う。講義中は主に課題のプログラミングを行い、TA 及び教員により質問等への個別対応を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オブジェクト指向の基本	オブジェクト指向の考え方を理解し、メンバ変数、メンバ関数を持ったクラスを作成し、オブジェクトを生成する。
第 2 回	コンストラクタ	オブジェクトの初期化手順として、デフォルトコンストラクタ、コピーコンストラクタ、変換コンストラクタの作成方法を学ぶ。
第 3 回	カプセル化、演算子関数	クラスのカプセル化について public と private の使い分け、ヘッダファイルとソースファイルの分割について学ぶ。
第 4 回	静的メンバ、コンストラクタ初期化子	静的メンバと動的メンバの違いを理解する。代入演算子 (operator=)、入れ子のクラス構造とコンストラクタ初期化子について理解する。
第 5 回	定値オブジェクト、friend 関数	定値オブジェクトを有効に扱うためのメンバ関数定義法を学ぶ。friend 関数も紹介する。また、変換関数、演算子関数を学ぶ。
第 6 回	クラスの継承	派生クラスへの継承について学ぶ。継承の本質、継承の仕組み、および継承の表現し方などを理解する。

第 7 回	仮想関数とポリモーフィズム	virtual 関数を作成して、動的な型情報によるプログラミング手法を学ぶ。ポリモーフィズムを理解する。
第 8 回	抽象クラス	純粋仮想関数を理解し、抽象クラスの設計と使い方を学ぶ。
第 9 回	ヒープメモリとポインタ	ヒープメモリとポインタを使ったオブジェクト管理を学ぶ。new 演算子を使って生成されたオブジェクトはヒープメモリに管理する仕組みを理解し、メモリの解放方法も学ぶ。
第 10 回	例外処理	例外処理の書き方について学び、標準の例外クラスを使えるようになる。
第 11 回	クラステンプレート	クラステンプレートと関数テンプレートを活用したプログラミング手法を学ぶ。
第 12 回	ベクトルライブラリ	可変長配列などのベクトルライブラリの使い方を学ぶ。
第 13 回	ベクトル以外のコンテナ	リストやスタックマップなどデータ構造の設計と使い方を学ぶ。
第 14 回	関数ポインタ	関数ポインタによる関数の入れ替え手法を学ぶ。文字列クラスの使い方も学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、各週につき 8 時間を標準とする。

事前学習資料（映像・演習プログラム）について、必ず、講義前に各自で予習した上で演習プログラムを全て動かしておくこと。講義中に完了しなかった課題は次週までの宿題となる。

【テキスト（教科書）】

柴田望洋, "新・明解 C++ で学ぶオブジェクト指向プログラミング", ソフトバンククリエイティブ, 2018. ISBN : 978-4-7973-9716-1

【参考書】

柴田望洋, "新版 明解 C++ 入門", ソフトバンククリエイティブ, 2017. ISBN : 978-4-7973-9463-4 (1 年秋に使用したもの)

【成績評価の方法と基準】

講義への出席と全ての必須課題の提出は成績評価の前提条件となる。期末試験を実施し、理解度を評価する。成績は、期末試験を 70%、課題提出を 30% で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

貸与 PC を利用してプログラミングを行う。対面・オンラインにかかわらず、質問対応には Zoom による画面共有を使用するので、講義での指示に従い Zoom に接続すること。

【その他の重要事項】

プログラミング 1(C/C++) の講義内容を理解していることを前提とする。本講義の内容は、担当教員の企業研究所での実務経験により得た知見に基づき構成している。

【Outline (in English)】

【Course outline】

This course aims to learn general principle and techniques of object-oriented programming in C++, as the advanced course of Programming1(C/C++). In the lectures of the course, the computer structure and its relation to programming in C++ are also explained and discussed. The students are expected to learn the basic concepts and mechanisms of C++ and to gain sufficient ability to construct simple programs in C++. They are also expected to build up their ability for understanding the behaviors of programs in C++.

[Learning Objectives]

Students expected to understand the basic concepts and functionality of object-oriented programming using C and C++. They also expected to build program using object-oriented manner, such as class, inheritance and encapsulation.

[Learning activities outside of classroom]

Students will be expected to spend eight hours to pre/post study of the course including programming the homework and next week's pre-studying contents.

[Grading Criteria /Policy]

Attending the class and submission of mandatory exams are prerequisite for the evaluation.

Final grade will be calculated according to the following process; term-end examination (70%), and homework (30%).

COT311KA-CS-201e

プログラミング演習 1(C/C++)

廣津 登志夫

必選区分： | 配当年次/単位：2～4 年次 / 2 単位 | 開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ある程度規模の大きいプログラムを書くことを通じて、高度なソフトウェアをプログラミングすることに対する理解を深める。プログラミング言語の文法だけではなく、実行環境や開発環境を含めた汎用的なプログラミング環境に慣れ、実際のプログラミングを学ぶ。

【到達目標】

前段科目である「プログラミング 2(C/C++)」で学んだプログラミング技術を用いて、目的に応じた中規模のソフトウェア（アプリケーション）が作成できるようになること。ソフトウェア開発の考え方や手順を理解ができるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

情報科学部ディプロマポリシーのうち「DP4-3」に関連

【授業の進め方と方法】

前半は、文書処理のプログラムを通じて、既に使用として定まったフォーマットのデータの処理方法を学ぶと同時に、基本的な文書処理の手順についてのプログラミングを行う。後半は、ユーザ操作によりパズルを解くアプリケーションの作成を通じて、問題に対応したデータ構造の作り方やソフトウェアのモジュール化について学ぶ。課題についての質問状況に応じて、内容の補足説明などのフィードバックを随時行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	導入	開発環境 (Cygwin, Linux) の理解
2	文書処理プログラミング (1)	「人工無能」の基本インタラクションルーチンとマルチバイト文字の処理
3	文書処理プログラミング (2)	汎用アルゴリズムライブラリによるソートの実現
4	文書処理プログラミング (3)	n-gram の実現
5	文書処理プログラミング (4)	マルコフ連鎖を用いた文生成
6	文書処理プログラミング (5)	形態素解析を用いた文生成
7	文書処理プログラミング (6)	実装による実効性能の検討
8	パズルアプリケーションの実装 (1)	基本的なユーザ操作と表示の実装
9	パズルアプリケーションの実装 (2)	段階的な機能拡張 エラー処理やサイズ等の制約の緩和の実現
10	パズルアプリケーションの実装 (3)	ソフトウェアの部品化による再実装
11	パズルアプリケーションの実装 (4)	ライブラリを利用したソフトウェアの改良
12	パズルアプリケーションの実装 (5)	自動解法とアニメーション表示による高度化
13	パズルアプリケーションの実装 (6)	Wrapper クラスの設計と実装による発展的改良
14	まとめ	講義の演習全体の総括と質問への対応

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、各週につき 4 時間を標準とする。
準備学習として、前段科目であるプログラミング 2(C/C++) の内容を復習し、十分に理解を深めておくこと。授業後の学習では、講義中に完了しなかったプログラミング課題およびレポート作成に取り組むこと。

【テキスト（教科書）】

説明資料をオンライン配布する

【参考書】

柴田望洋, "新・明解 C++入門", ソフトバンククリエイティブ, 2017. ISBN: 978-4-7973-9463-4. (1 年秋科目教科書)

柴田望洋, "新・明解 C++で学ぶオブジェクト指向プログラミング", ソフトバンククリエイティブ, 2018. ISBN: 978-4-7973-9716-1. (2 年春科目教科書)

富永和人, 権藤克彦, "例解 UNIX/Linux プログラミング教室: システムコールを使いこなすための 12 講", オーム社, 2018. ISBN: 978-4-274-22210-8.

【成績評価の方法と基準】

講義への出席と全ての必須課題の提出は成績評価の前提条件となる。各回で出題するプログラム課題に対する取り組み (40%)、およびレポート課題 (60%) から総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

貸与 PC を利用してプログラミングを行う。

対面・オンラインにかかわらず、質問対応には Zoom による画面共有を使用するので、講義での指示に従い Zoom に接続すること。

【その他の重要事項】

プログラミング 1(C/C++)、プログラミング 2(C/C++) の講義内容を理解していることを前提とする。

本講義の内容は、担当教員の企業研究所での実務経験により得た知見に基づき構成している。

【Outline (in English)】

[Course outline]

This is an introductory course to understand C/C++ programming language. With writing middle-scale software using actual development environment, students will deepen their understanding for the scheme and processes of the software development.

[Learning Objectives]

Students expected to build middle-scale program using object-oriented manner.

[Learning activities outside of classroom]

Students will be expected to spend four hours to program the exams.

[Grading Criteria /Policy]

Attending the class and submission of mandatory exams are prerequisite for the evaluation.

Final grade will be calculated according to the following process; final report (60%), and homework (40%).

PRI210KA-CS-151

形式言語とオートマトン

藤田 悟

必選区分： | 配当年次/単位：2～4 年次 / 2 単位 | 開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

- ・オートマトンとは何かを理解する
- ・有限オートマトンと正規言語の関係を理解する
- ・文脈自由言語についてその特徴・性質を理解する
- ・プッシュダウンオートマトンとは何かを理解する
- ・チューリングマシンについて理解する

【到達目標】

オートマトン、形式言語の基本的な枠組みについて理解する。具体的には、

- 1) 有限状態オートマトン・プッシュダウンオートマトンの時点表示・構成ができること
- 2) 文脈自由文法が生成する言語・文法を説明・構成できること

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

情報科学部ディプロマポリシーのうち「DP2」と「DP4-1」に関連

【授業の進め方と方法】

この講義は情報科学の様々な側面の基礎をなすオートマトンと形式言語について学ぶ。オートマトンはハードウェアからソフトウェアに至るまでの情報科学の全ての側面において、動作のモデルを定義・表現・設計するために使われる非常に重要な概念である。講義の前半では、このオートマトンの理解を目標において講義を進める。講義の後半では、そのオートマトンの入力として与えられる形式言語について学ぶ。形式言語の知識はプログラミング言語やその処理系の理解のために必須のものである。

なお、毎回の講義では、説明のなかで 30 分程度を小テストに充てる。授業で課した課題（小テストやレポート）等を取り上げ、授業内で全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	序論	1. オートマトンとは計算機のモデル 2. 形式言語は言語のモデル 3. オートマトンと形式言語の関係 4. チョムスキー階層 5. オートマトンの応用
第 2 回	有限オートマトン (1)	1. オートマトンの状態遷移図表現 2. 集合 3. 五字組表現
第 3 回	有限オートマトン (2)	1. 有限オートマトンの例 2. 様相、受理・拒否
第 4 回	有限オートマトン (3)	1. 有限オートマトン演習
第 5 回	非決定性有限オートマトン (1)	1. 決定性オートマトンと非決定性オートマトン 2. 非決定性オートマトンの状態遷移図 3. 非決定性オートマトンの五字組表現

第 6 回	非決定性有限オートマトン (2)	1. 空動作を伴うオートマトン 2. 空動作を伴うオートマトンの状態遷移図 3. 空動作を伴うオートマトンの五字組表現 4. 決定性オートマトンと非決定性オートマトンの同等性 5. 正規表現から非決定性オートマトンに 6. 決定性オートマトンの最簡形有限オートマトンのまとめ 主にオートマトンの部分について試験を行う
第 7 回	中間試験	
第 8 回	プッシュダウンオートマトン	1. 決定性プッシュダウンオートマトン 2. 決定性プッシュダウンオートマトンの七字組表現 3. 決定性プッシュダウンオートマトンの動作 4. 決定性プッシュダウンオートマトンの状態遷移図 5. 非決定性プッシュダウンオートマトン 6. 非決定性プッシュダウンオートマトンの七字組表現 7. 非決定性プッシュダウンオートマトンの動作 8. 非決定性プッシュダウンオートマトンの状態遷移図
第 9 回	チューリングマシン (1)	1. 決定性チューリングマシン
第 10 回	チューリングマシン (2)	1. 非決定性チューリングマシン
第 11 回	文法 (1)	1. 正規文法 2. 言語の生成装置としての形式文法 3. オートマトンと文法の対比・階層性 4. 文脈自由文法
第 12 回	文法 (2)	1. 文法の種類 2. 文脈自由文法の例 3. 文脈自由文法と木構造 4.2 分木からチョムスキー標準形に 5. 文脈依存文法
第 13 回	文法 (3)	1. 文法演習
第 14 回	オートマトンと形式言語の関係およびまとめ	正規文法と有限オートマトンの関係 1. 正規表現による正規言語の表現 2. 有限オートマトンで表現できない文脈自由文法 3. 閉包性 4. チョムスキー標準形 5. グライバッハ標準形 1 - 14 回の講義のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書の内容をよく読んでおくこと。講義では、正しく理解しているかどうか確認を行うようにする。

本授業の準備・復習時間は、計週 4 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

米田、広瀬、大里、大川著「オートマトン・言語理論の基礎」近代科学社

【参考書】

J. ホップクロフト他著「オートマトン 言語理論 計算論 I」サイエンス社

富田、横森著「オートマトン・言語理論」森北出版

【成績評価の方法と基準】

授業内諸テスト、課題で 40 %。期末試験で 60%。

【学生の意見等からの気づき】

演習を豊富に実施する

【その他の重要事項】

本講義は複数クラスで内容を統一し、講義内容・教材を担当教員で共同で用意している。また、その内容は担当教員の一人の企業でのプログラミング言語の研究開発の経験に基づく形式言語とオートマトンに関する講義である。

【Outline (in English)】

This course covers fundamental notions in formal language theory, including automata, relationship between finite automata and regular languages, characteristics and properties of context-free languages, pushdown automata and Turing machines.

The goal of this course is to understand fundamental notions in formal language theory. Namely, students will be able to

1. construct and show configurations of finite state automata, pushdown automata and Turing machines
2. explain and construct languages generated by regular and context-free grammars

Before each class, students will be expected to have read relevant chapter(s) from the text. During the class, students are expected to confirm their understandings.

Students will be studying four hours for a class.

Grading will be decided based on term-end exam (60%) and in class tests including mid-term exam (40%).

PRI210KA-CS-151

形式言語とオートマトン

日高 宗一郎

必修区分： | 配当年次/単位：2～4 年次 / 2 単位 | 開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

- ・オートマトンとは何かを理解する
- ・有限オートマトンと正規言語の関係を理解する
- ・文脈自由言語についてその特徴・性質を理解する
- ・プッシュダウンオートマトンとは何かを理解する
- ・チューリングマシンについて理解する

【到達目標】

オートマトン、形式言語の基本的な枠組みについて理解する。具体的には、

- 1) 有限状態オートマトン・プッシュダウンオートマトンの時点表示・構成ができること
- 2) 文脈自由文法が生成する言語・文法を説明・構成できること

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

情報科学部ディプロマポリシーのうち「DP2」と「DP4-1」に関連

【授業の進め方と方法】

この講義は情報科学の様々な側面の基礎をなすオートマトンと形式言語について学ぶ。オートマトンはハードウェアからソフトウェアに至るまでの情報科学の全ての側面において、動作のモデルを定義・表現・設計するために使われる非常に重要な概念である。講義の前半では、このオートマトンの理解を目標において講義を進める。講義の後半では、そのオートマトンの入力として与えられる形式言語について学ぶ。形式言語の知識はプログラミング言語やその処理系の理解のために必須のものである。

なお、毎回の講義では、説明のなかで 30 分程度を小テストに充てる。授業で課した課題（小テストやレポート）等を取り上げ、授業内で全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	序論	1. オートマトンとは計算機のモデル 2. 形式言語は言語のモデル 3. オートマトンと形式言語の関係 4. チョムスキー階層 5. オートマトンの応用
第 2 回	有限オートマトン (1)	1. オートマトンの状態遷移図表現 2. 集合 3. 五字組表現
第 3 回	有限オートマトン (2)	1. 有限オートマトンの例 2. 様相、受理・拒否
第 4 回	有限オートマトン (3)	1. 有限オートマトン演習
第 5 回	非決定性有限オートマトン (1)	1. 決定性オートマトンと非決定性オートマトン 2. 非決定性オートマトンの状態遷移図 3. 非決定性オートマトンの五字組表現

第 6 回	非決定性有限オートマトン (2)	1. 空動作を伴うオートマトン 2. 空動作を伴うオートマトンの状態遷移図 3. 空動作を伴うオートマトンの五字組表現 4. 決定性オートマトンと非決定性オートマトンの同等性 5. 正規表現から非決定性オートマトンに 6. 決定性オートマトンの最簡形有限オートマトンのまとめ 主にオートマトンの部分について試験を行う
第 7 回	中間試験	
第 8 回	プッシュダウンオートマトン	1. 決定性プッシュダウンオートマトン 2. 決定性プッシュダウンオートマトンの七字組表現 3. 決定性プッシュダウンオートマトンの動作 4. 決定性プッシュダウンオートマトンの状態遷移図 5. 非決定性プッシュダウンオートマトン 6. 非決定性プッシュダウンオートマトンの七字組表現 7. 非決定性プッシュダウンオートマトンの動作 8. 非決定性プッシュダウンオートマトンの状態遷移図
第 9 回	チューリングマシン (1)	1. 決定性チューリングマシン
第 10 回	チューリングマシン (2)	1. 非決定性チューリングマシン
第 11 回	文法 (1)	1. 正規文法 2. 言語の生成装置としての形式文法 3. オートマトンと文法の対比・階層性 4. 文脈自由文法
第 12 回	文法 (2)	1. 文法の種類 2. 文脈自由文法の例 3. 文脈自由文法と木構造 4.2 分木からチョムスキー標準形に 5. 文脈依存文法
第 13 回	文法 (3)	1. 文法演習
第 14 回	オートマトンと形式言語の関係およびまとめ	正規文法と有限オートマトンの関係 1. 正規表現による正規言語の表現 2. 有限オートマトンで表現できない文脈自由文法 3. 閉包性 4. チョムスキー標準形 5. グライバッハ標準形 1 - 14 回の講義のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書の内容をよく読んでおくこと。講義では、正しく理解しているかどうか確認を行うようにする。

本授業の準備・復習時間は、計週 4 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

米田、広瀬、大里、大川著「オートマトン・言語理論の基礎」近代科学社

【参考書】

J. ホップクロフト他著「オートマトン 言語理論 計算論 I」サイエンス社

富田、横森著「オートマトン・言語理論」森北出版

【成績評価の方法と基準】

授業内諸テスト、課題で 40 %。期末試験で 60%。

【学生の意見等からの気づき】

演習を豊富に実施する

【その他の重要事項】

本講義は複数クラスで内容を統一し、講義内容・教材を担当教員で共同で用意している。また、その内容は担当教員の一人の企業でのプログラミング言語の研究開発の経験に基づく形式言語とオートマトンに関する講義である。

【Outline (in English)】

This course covers fundamental notions in formal language theory, including automata, relationship between finite automata and regular languages, characteristics and properties of context-free languages, pushdown automata and Turing machines.

The goal of this course is to understand fundamental notions in formal language theory. Namely, students will be able to

1. construct and show configurations of finite state automata, pushdown automata and Turing machines
2. explain and construct languages generated by regular and context-free grammars

Before each class, students will be expected to have read relevant chapter(s) from the text. During the class, students are expected to confirm their understandings.

Students will be studying four hours for a class.

Grading will be decided based on term-end exam (60%) and in class tests including mid-term exam (40%).

COT211KA-CS-211

コンピュータ構成と設計入門

八巻 隼人

必選区分： | 配当年次/単位：2~4 年次 / 2 単位 | 開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

計算機の基本構成要素であるプロセッサ (CPU)、メモリ、入出力装置の機能と動作、またそれぞれの要素間の相互関係をソフトウェア、ハードウェアの両観点から理解する。特に、計算機がプログラムを実行する際の各要素の役割、プログラムの実行を高速化する技術について理解することを目的とする。

【到達目標】

本講義では、大きく分けて 2 つのテーマを扱う。まず、前半の授業では、計算機内部におけるデジタルデータの取り扱いについて学ぶ。これはすなわち、計算機が数値表現や数値同士の計算をどのように扱っているのか、“2 進数”や“浮動小数点数”、“加算器”といったキーワードを基に学習し、計算機が扱うデータについて理解できるようになることを目標とする。次に、授業後半では、計算機の構成要素である CPU、メモリ、入出力装置について計算機全体の中でのそれぞれの役割を学ぶ。最終的には、これらの理解を併せ、我々が作成したプログラムが計算機でどのように実行されるのか、各自が説明できるようになることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

情報科学部ディプロマポリシーのうち「DP2」と「DP4-1」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は、配布資料を基にした講義が主となる。特に前半の進数変換や数値の計算は、手を動かさなければ理解が進まないと思うので、適宜、演習問題の配布やレポート課題等も予定している。授業で課した課題（小テストやレポート）等を取り上げ、授業内で全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション、データの表現、位取り記数法	本講義の概要とその進め方、評価法、演習との関係など / 2 進数と 10 進数 / N 進数への変換法
第 2 回	整数の計算機内部表現	符号絶対値表現 / 補数表現 / 嵩上げ表現
第 3 回	加減算器、論理演算、シフト	論理回路の復習 / 符号付き整数の加減算 / 演算のオーバーフロー / 論理演算とシフト
第 4 回	算術論理演算回路 (ALU)	ALU の構成 / 正負判定、0 判定など
第 5 回	実数の計算機内部表現	浮動小数点表現 / 表現出来る値とエラー検出
第 6 回	計算機の構成と動作原理	CPU の構造 / バスの構造 / 命令サイクルとパイプライン
第 7 回	中間試験	中間試験実施予定
第 8 回	計算機の命令	具体的な計算機の機械語命令
第 9 回	基本命令セット 1	命令形式 / 基本的な命令 / 簡単なプログラム
第 10 回	基本命令セット 2	算術論理演算命令 / 分岐命令 / アセンブリ言語
第 11 回	機械語命令形式と機械語の実行	アドレッシングモードの実現 / サブルーチンの実現
第 12 回	割り込み	割り込みの概念 / 割り込み要因・動作 / OS の役割・機能 / 割り込み用命令と割り込みベクトル
第 13 回	メモリ	メモリ階層 / キャッシュの動作 / キャッシュアルゴリズム

第 14 回 マルチコア/プロセッサ 並列処理 / ネットワーク / キャッシュとネットワーク シュコヒーレンス

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

前回までの講義内容に疑問点を残さないよう復習をすること。授業の理解を深めるため、適宜、演習問題やレポート課題等の配布を行なう。各回の講義は前回までの内容が理解できていないとついて行けなくなるので、疑問点を残さないよう努力すること。本授業の準備・復習時間は、計 4 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しないが、毎回授業資料を Hoppii 上で配布する。

【参考書】

「コンピュータの構成と設計」、パターンソン・ヘネシー著、日経 BP 「コンピュータアーキテクチャ」、馬場敬信、オーム社、「プロセッサを支える技術」、Hisa Ando、技術評論社など

【成績評価の方法と基準】

不定期な講義内レポート課題 30%、中間試験 30%、期末試験 40%

【学生の意見等からの気づき】

質疑はいつでも受け付けますので気軽にメールしてください。

【Outline (in English)】

【Course outline】

This course introduces the operation of CPUs, memories, and I/O devices and interrelationship among them from the viewpoints of the hardware and software.

【Learning Objectives】

The goals of this course are to help students acquire an understanding of the roles of each computer element when a program is executed and methods for accelerating program execution.

【Learning activities outside of classroom】

After each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

【Grading Criteria /Policies】

Final grade will be calculated according to the following process
Mid-term examination (30%), term-end examination (40%), and in-class contribution (30%).

COT311KA-CS-341

コンパイラ

佐々木 晃

必選区分： | 配当年次/単位：3～4 年次 / 2 単位 | 開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

コンパイラをはじめとする計算機言語処理系は、情報科学の分野でもっとも重要なソフトウェアの一つである。本講義では、コンパイラの基本概念について説明するとともに、コンパイラの各構成要素における理論と技法について説明する。また、簡単な言語に対するコンパイラの実現を例題として、コンパイラの全体像の理解を深める。

【到達目標】

- (1) コンパイラの基本概念を説明できる。
- (2) 与えられた字句定義および構文定義から、対応するプログラミング言語の構文を説明できる。
- (3) 字句、構文定義からそれぞれ字句解析および構文解析プログラムを作成できる。
- (4) プログラムの構文要素に対するコードの生成方法が理解できる。
- (5) 簡単な言語に対するコンパイラを実現できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

情報科学部ディプロマポリシーのうち「DP2」と「DP4-1」に関連

【授業の進め方と方法】

コンパイル処理は、いくつかのフェーズ (Phase) と呼ばれるプロセスで構成される。各フェーズの実装方法は、オートマトンをはじめとする言語の理論によって裏付けられている。講義前半（第1～9回）では、各フェーズに対して、(1) フェーズを裏付ける理論の学習、(2) 理論に対するプロセスの実装方法（アルゴリズム）の学習、というステップで理解を深めていく。講義後半では、前半で学んだそれぞれのフェーズを統合することで、一つのコンパイラを構成できることを学ぶ。

課題等の提出・フィードバックは「CIS moodle」を通じて行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	導入	コンパイラと計算機言語処理系の概要
2	言語と文法	文脈自由文法と解析木
3	字句解析	正規表現とオートマトンによる字句解析の定式化
4	字句解析器の実装	字句解析プログラムの導出
5	構文解析	下向き構文解析
6	構文解析器の実装	再帰降下構文解析器の導出
7	意味解析	名前の解決処理、型、静的意味検査
8	中間コード生成	中間コードの種類と生成の基礎
9	実行時環境	実行時記憶、活性レコード（関数フレーム）、手続き呼び出しのプロセス
10	通訳系（インタプリタ）	VM(Virtual Machine)
11	コンパイラの実装 (1)	式のコンパイル
12	コンパイラの実装 (2)	変数機能の実現
13	コンパイラの実装 (3)	制御構造のコンパイルと関数機能の実現
14	まとめ	総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回では配布する資料を読み授業に備える。また、資料内の例題プログラムは事前に入力し実行すること。授業後は、課題のプログラミングおよびレポート作成に取り組む。本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、各週につき4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

担当教員が作成したオンラインテキストおよび配布する印刷物

【参考書】

中田育男、コンパイラの構成と最適化、(2 版、2009)、朝倉書店
佐々政孝、プログラミング言語処理系、(1989)、岩波書店

【成績評価の方法と基準】

試験 (60%)、レポート課題 (30%)、講義における積極性などの参加度 (10%) を総合して評価する。

【学生の意見等からの気づき】

レポート問題の解説時間を多めにとる

【学生が準備すべき機器他】

貸与ノート PC、ネットワーク接続、学習支援システム利用

【Outline (in English)】

- ・ In this course, students will learn compilers and compilation process.
- ・ At the end of the course students will understand the overall structure of a compiler as a system through realizing a simple language,
- ・ Before each class meeting, students will be expected to solve exercises assigned as homework.
- ・ Grading will be decided based on mid- and term-examinations (60%), reports (30%), and in-class contribution(10%)

COT311KA-CS-202e

プログラミング演習 2(C/C++)

小池 崇文

必選区分： | 配当年次/単位：3~4 年次 / 2 単位 | 開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

C/C++を活用できるように、大きく 2 つのテーマについてプログラミング演習を行う。まず、実際のデータ処理としてクラスタリングを題材にする。続いて、コンピュータを自在に制御するのに必要なシェルを題材にする。

学生は、本演習を通して、実データを扱うための技術とコンピュータを適切に制御する技術の習得を学ぶ。

【到達目標】

クラスタリングにおける階層的手法と分割的的手法について、そのアルゴリズムと適用法の違いを理解し、プログラミングで実装できる。また、シェルの仕組みを理解して、簡単なシェルであれば実装できる。C 言語におけるデータ型、演算子、式、制御の流れ、関数、ポインタと配列、構造体、入出力などの理解が深まり、規模も大きく複雑なプログラミングに耐えうる実践的スキルを獲得できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

情報科学部ディプロマポリシーのうち「DP4-3」に関連

【授業の進め方と方法】

2 次元点集合のクラスタリングを題材とし、階層のおよび分割的クラスタリング手法の様々なアルゴリズムを順に学び、C 言語プログラミングにより実装していく。また、簡単なシェルを実装する。その過程で、C 言語の理解を深め、実践的プログラミングスキルを獲得する。原則として、週単位で小課題が出され、授業時間外に取り組む。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	はじめに	Linux 上の C 言語プログラミング開発環境の設定、クラスタリングの対象となる 2 次元点集合の生成
第 2 回	階層的クラスタリング (1)	Single linkage 法の理解と実装
第 3 回	階層的クラスタリング (2)	Complete linkage 法の理解と実装
第 4 回	階層的クラスタリング (3)	Group average 法の理解と実装
第 5 回	階層的クラスタリング (4)	重心法の理解と実装
第 6 回	分割的クラスタリング (1)	k-means 法の理解と実装
第 7 回	分割的クラスタリング (2)	Multi-start 探索法の理解と実装
第 8 回	シェルの実装 (1)	シェル
第 9 回	シェルの実装 (2)	システムコール
第 10 回	シェルの実装 (3)	プロセス
第 11 回	シェルの実装 (4)	字句・構文解析
第 12 回	シェルの実装 (5)	シェルの実装
第 13 回	最終課題 (1)	最終課題レポートの作成
第 14 回	最終課題 (2)	最終課題レポートの作成

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

[1] C 言語の復習

[2] データ構造とアルゴリズムの復習

[3] 週単位の小課題および最終課題への取り組み

[4] 本授業の準備・復習時間は、計 4 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて教員が電子的に配布する。

【参考書】

[1] カーニハン、リッチー著：「プログラミング言語 C」, 第 2 版, 共立出版, 1989 年.

[2] 柴田望洋著：「新・明解 C 言語 入門編」, ソフトバンククリエイティブ, 2014 年.

【成績評価の方法と基準】

小課題 50%, 最終課題レポート 50%で総合評価する。

【学生の意見等からの気づき】

資料に従事する。

【その他の重要事項】

本講義は担当教員の企業での様々な情報科学技術に関する研究開発の知見を元に実務に必要なプログラミングに関する講義を行う。

【Outline (in English)】

In order to make use of C/C++, programming exercises will be given on two major topics. First, clustering will be used as a subject for actual data processing. Secondly, we will discuss shells, which are necessary to control a computer freely. Through these exercises, students will learn the skills to handle real data and to control computers appropriately.

The goal of this course is to understand the differences in algorithms and applications of hierarchical and partitioned clustering methods to be able to implement them and to understand the mechanism of shells, and be able to implement simple shells.

Students will be expected to spend four hours to implement exercises.

Grading will be decided based on small assignments (50%) and the final report (50%).

PRI210KA-CS-261

データ構造とアルゴリズム 2

首藤 裕一

必選区分： | 配当年次/単位：2~4 年次 / 2 単位 | 開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

データ構造とアルゴリズムの基礎を身につけることは計算機科学を深く理解するための必要条件である。本講では、春学期開講の「データ構造とアルゴリズム 1」でアルゴリズムや計算量に関する基本的な概念を習得していることを前提として、アルゴリズムの基本的な設計技法や、計算機科学を学ぶ者なら誰もが知っておくべき著名なアルゴリズム群を学ぶ。

【到達目標】

計算機科学を学ぶ上で必須となるデータ構造とアルゴリズムの基礎を理解するとともに、典型的なアルゴリズム設計技法を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

情報科学部ディプロマポリシーのうち「DP2」と「DP4-1」に関連

【授業の進め方と方法】

本授業は、いわゆる講義が主体の授業である。講義中、ときおりクイズ形式の問題を出すことで本質の理解を促す。また、アルゴリズムはプログラムとして実装することで理解が大きく促進されるので、いくつかのアルゴリズムについてはこれらの実装に取り組む。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス・振り返り	本授業のガイダンスを行うとともに、「データ構造とアルゴリズム 1」の内容を振り返る。
2	二分探索	頻用技法である二分探索を学ぶ。
3	演習（二分探索）	例題を通して二分探索に慣れ親しむ。
4	動的計画法	頻用技法である動的計画法を学ぶ。
5	貪欲法	頻用技法である貪欲法を学ぶ。
6	演習（動的計画法・貪欲法）	例題を通して動的計画法・貪欲法に慣れ親しむ。
7	素集合データ構造	有用なデータ構造である素集合データ構造（Union-Find）を学ぶ。
8	演習（素集合データ構造）	例題を通して素集合データ構造の活用を学ぶ。
9	最大流問題	最大流問題と関連する諸問題について学ぶ。
10	演習（最大流問題）	例題を通して最大流問題を解くアルゴリズムとその活用に慣れ親しむ。
11	平衡二分探索木	有用なデータ構造である平衡二分探索木について学ぶ。
12	演習（平衡二分探索木）	例題を通して平衡二分探索木の活用を学ぶ。
13	発展的内容（近似アルゴリズムおよび NP 困難性）	近似アルゴリズムや NP 困難性などの発展的な内容に触れる。
14	振り返り	本授業で学んだことを振り返り、アルゴリズムへの理解を定着させる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

復習等の授業時間外学習は各週につき 4 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

書名: アルゴリズムとデータ構造
著者: 大槻兼資・秋葉拓哉
出版社: 講談社
出版年: 令和 2 年

【参考書】

特になし

【成績評価の方法と基準】

定期試験（90%）、および、課題の提出状況や講義への貢献などの平常点（10%）で評価。

【学生の意見等からの気づき】

板書時には極力教室前方の電気をつけるように留意する。

【学生が準備すべき機器他】

演習にはノート PC を利用する。

【Outline (in English)】

Mastering the basics of data structures and algorithms is a prerequisite for a deep understanding of computer science. In this course, students will learn basic design techniques of algorithms and well-known algorithms that every student of computer science should know, assuming that they have already mastered the basic concepts of algorithms and computational complexity in "Data Structures and Algorithms 1," a course of the spring semester. Students will be expected to study the topic given in the class for four hours each week. Your overall grade in the class will be decided based on the following:
Term-end examination: 90%, short reports and in-class contribution: 10%

MAT247KA-CS-252

統計学 2

高村 誠之

必修区分： | 配当年次/単位：2~4 年次 / 2 単位 | 開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

確率・統計の基礎を復習した上で、統計的推測ないし統計的決定の考え方を確実に身につけることを目標とし、線形モデルと最小二乗法、最尤推定法、ベイズ推定法についてそれぞれの狙い、考え方、応用の違いを理解しながら具体的技法を習得する。

【到達目標】

線形モデルと最小二乗法、最尤推定法、ベイズ推定法についてそれぞれの狙い、考え方、応用の違いを説明できる。各技法をプログラミングにより実装して具体的に適用できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

情報科学部ディプロマポリシーのうち「DP1」と「DP4-1」、「DP4-2」に関連

【授業の進め方と方法】

まず、確率・統計の基礎として、様々な確率分布、多次元の確率分布、大数の法則と中心極限定理を復習する。次いで、統計的推測ないし統計的決定の手法として線形モデルと最小二乗法、最尤推定法、ベイズ推定法を順に紹介する。その際、応用例としてパターン認識を取り上げ、具体的な適用法を学ぶ。確率・統計では数式が多く現れるが、数式の理解とともに各手法の振る舞いを数値的に理解することが重要である。このため、計算問題を解くことと合わせて、数値解析を目的としたプログラミング言語 **MATLAB** を用いてプログラミング課題に取り組み、計算処理結果を視覚的に表示して理解を深める。

提出されたレポート課題は、授業中の解説によってフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の目標、レベル、進め方および MATLAB の使い方の説明
第 2 回	確率分布	離散型および連続型のおもな確率分布の復習
第 3 回	多次元の確率分布	同時確率分布、条件付確率分布、無相関、独立の考え方
第 4 回	大数の法則と中心極限定理	理論の理解とコンピュータシミュレーション、中心極限定理の応用
第 5 回	線形モデルと最小二乗法 (1)	直線、多項式、関数のあてはめによるデータの表現
第 6 回	線形モデルと最小二乗法 (2)	関数の最小二乗近似、動径基底関数法
第 7 回	線形モデルと最小二乗法 (3)	直交関数系、フーリエ級数展開
第 8 回	最尤推定法 (1)	ガウスモデル、事後確率の計算
第 9 回	最尤推定法 (2)	線形判別分析
第 10 回	線形判別分析の応用 (1)	手書き数字の 2 カテゴリー分類
第 11 回	線形判別分析の応用 (2)	手書き数字の多カテゴリー分類
第 12 回	ベイズ推定法	ベイズ推定法と最尤推定法の違い、最大事後確率推定法
第 13 回	ノンパラメトリックな確率密度関数の推定法	カーネル密度推定法と手書き数字認識への応用
第 14 回	まとめ	学習内容のまとめと重要ポイントの確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- [1] 確率と統計の基礎（平均、分散共分散、確率密度関数）の復習
- [2] 線形代数の基礎（ベクトル、行列）の復習
- [3] オンラインマニュアルを用いた **MATLAB** プログラミングの習得
- [4] 計算問題や **MATLAB** プログラミングなどの課題への取り組み
- [5] 本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、各週につき 4 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

担当教員が作成した講義資料を学内 Web サイトに公開。

【参考書】

- [1] 東京大学教養学部統計学教室編：「統計学入門」、東京大学出版会、1991 年。
- [2] 杉山将著：「統計的機械学習－生成モデルに基づくパターン認識」、オーム社、2009 年。
- [3] 小西貞則著：「多変量解析入門－線形から非線形へ」、岩波書店、2009 年。
- [4] 上坂吉則著：「**MATLAB** プログラミング入門」改訂版、牧野書店、2011 年。

【成績評価の方法と基準】

レポート課題 40 %、期末試験 60 % で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

- [1] **MATLAB** を使ったプログラミングの導入をより丁寧に行う。
- [2] 講義が一方通行にならぬように質問時間を十分に取る。
- [3] 課題の説明を丁寧に行う。

【学生が準備すべき機器他】

電子メールや学内 Web サイトへのアクセス等ネットワークを利用。**MATLAB** プログラミングのための貸与パソコン。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire the necessary skills and knowledge of the statistics. By the end of the course, students should understand the following:

1. linear model and least squares method
2. maximum likelihood estimation method
3. Bayesian estimation

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination: 60%, Short reports : 40%

MAT247KA-CS-252

統計学 2

小西 克巳

必選区分： | 配当年次/単位：2~4 年次 / 2 単位 | 開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

確率・統計の基礎を復習した上で、統計的推測ないし統計的決定の考え方を確実に身につけることを目標とし、線形モデルと最小二乗法、最尤推定法、ベイズ推定法についてそれぞれの狙い、考え方、応用の違いを理解しながら具体的技法を習得する。

【到達目標】

線形モデルと最小二乗法、最尤推定法、ベイズ推定法についてそれぞれの狙い、考え方、応用の違いを説明できる。各技法をプログラミングにより実装して具体的に適用できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

情報科学部ディプロマポリシーのうち「DP1」と「DP4-1」、「DP4-2」に関連

【授業の進め方と方法】

まず、確率・統計の基礎として、様々な確率分布、多次元の確率分布、大数の法則と中心極限定理を復習する。次いで、統計的推測ないし統計的決定の手法として線形モデルと最小二乗法、最尤推定法、ベイズ推定法を順に紹介する。その際、応用例としてパターン認識を取り上げ、具体的な適用法を学ぶ。確率・統計では数式が多く現れるが、数式の理解とともに各手法の振る舞いを数値的に理解することが重要である。このため、計算問題を解くことと合わせて、数値解析を目的としたプログラミング言語 **MATLAB** を用いてプログラミング課題に取り組み、計算処理結果を視覚的に表示して理解を深める。

提出されたレポート課題は、授業中の解説によってフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の目標、レベル、進め方および MATLAB の使い方の説明
第 2 回	確率分布	離散型および連続型のおもな確率分布の復習
第 3 回	多次元の確率分布	同時確率分布、条件付確率分布、無相関、独立の考え方
第 4 回	大数の法則と中心極限定理	理論的理解とコンピュータシミュレーション、中心極限定理の応用
第 5 回	線形モデルと最小二乗法 (1)	直線、多項式、関数のあてはめによるデータの表現
第 6 回	線形モデルと最小二乗法 (2)	関数の最小二乗近似、動径基底関数法
第 7 回	線形モデルと最小二乗法 (3)	直交関数系、フーリエ級数展開
第 8 回	最尤推定法 (1)	ガウスモデル、事後確率の計算
第 9 回	最尤推定法 (2)	線形判別分析
第 10 回	線形判別分析の応用 (1)	手書き数字の 2 カテゴリー分類
第 11 回	線形判別分析の応用 (2)	手書き数字の多カテゴリー分類
第 12 回	ベイズ推定法	ベイズ推定法と最尤推定法の違い、最大事後確率推定法
第 13 回	ノンパラメトリックな確率密度関数の推定法	カーネル密度推定法と手書き数字認識への応用
第 14 回	まとめ	学習内容のまとめと重要ポイントの確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- [1] 確率と統計の基礎（平均、分散共分散、確率密度関数）の復習
- [2] 線形代数の基礎（ベクトル、行列）の復習
- [3] オンラインマニュアルを用いた **MATLAB** プログラミングの習得
- [4] 計算問題や **MATLAB** プログラミングなどの課題への取り組み
- [5] 本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、各週につき 4 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

担当教員が作成した講義資料を学内 Web サイトに公開。

【参考書】

- [1] 東京大学教養学部統計学教室編：「統計学入門」、東京大学出版会、1991 年。
- [2] 杉山将著：「統計的機械学習－生成モデルに基づくパターン認識」、オーム社、2009 年。
- [3] 小西貞則著：「多変量解析入門－線形から非線形へ」、岩波書店、2009 年。
- [4] 上坂吉則著：「**MATLAB** プログラミング入門」改訂版、牧野書店、2011 年。

【成績評価の方法と基準】

レポート課題 40 %、期末試験 60 % で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

- [1] **MATLAB** を使ったプログラミングの導入をより丁寧に行う。
- [2] 講義が一方通行にならぬように質問時間を十分に取る。
- [3] 課題の説明を丁寧に行う。

【学生が準備すべき機器他】

電子メールや学内 Web サイトへのアクセス等ネットワークを利用。**MATLAB** プログラミングのための貸与パソコン。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire the necessary skills and knowledge of the statistics. By the end of the course, students should understand the following:

1. linear model and least squares method
2. maximum likelihood estimation method
3. Bayesian estimation

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination: 60%, Short reports : 40%

PRI210KA-CS-207

情報基礎学 A

尾花 賢

必選区分： | 配当年次/単位：2~4 年次 / 2 単位 | 開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講義では、情報科学の基礎的な理論を理解するために必須となる計算の複雑さの理論を学ぶ。

【到達目標】

計算の複雑さの理論における基本的な概念である時間計算量、領域計算量、多項式時間帰着などを学ぶとともに、P, NP, PSPACE, EXP などの重要な計算量のクラスを理解する。また、SAT の NP 完全性の証明などを通じて P vs NP 問題に対する解決のアプローチの歴史を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

情報科学部ディプロマポリシーのうち「DP2」と「DP4-1」に関連

【授業の進め方と方法】

基本的には講義を通して、計算の複雑さの理論の基本を理解してもらい、重要なポイントでは演習を行い、講義で学習した内容を実感することで理解を深める。授業で課した課題（小テストやレポート）等を取り上げ、授業内で全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	この講義で学ぶことがらを説明する
2	計算とは何か	情報科学における計算の理論的扱いについて学び、チューリングマシン、万能チューリングマシンの概念を理解する。
3	計算可能性の理論と対角線論法	チューリングマシンの停止性判定問題を例に計算可能性の理論と対角線論法について学ぶ。
4	計算の複雑さ	計算の複雑さがチューリングマシンの実行ステップ数などによって定義されることを理解する。
5	計算の複雑さ演習	演習を通じて、具体的なアルゴリズムの計算の複雑さを評価する手法を学ぶ。
6	計算にまつわる諸概念	時間計算量、領域計算量など、計算の複雑さを理解する上で重要な概念について学ぶ。
7	階層定理	時間階層定理、領域階層定理の証明とその意味を理解する。
8	時間計算量のクラス、領域計算量のクラス	P, NP, EXP, NEXP など時間計算量を理解する上で重要となるクラスについて学ぶ。
9	P 対 NP 問題	P 対 NP 問題と、関連の深い概念である NP 完全性、NP 困難性について学ぶ。
10	多項式時間帰着	二つの問題を解く困難さを比較する指標となる多項式時間帰着について学ぶ。
11	多項式時間帰着に関する演習	具体的な問題の多項式時間帰着可能性を考えることにより、多項式時間帰着に対する理解を深める。
12	計算の複雑さに関する命題の証明手法	演習問題を例に計算の複雑さに関する命題を証明する手法を学ぶ。

13 Cook-Levin の定理と論理式の充足可能性問題 (SAT) が NP 完全問題であることを理解する。

14 計算の複雑さと暗号理論 計算の複雑さの理論と公開鍵暗号の関係について学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

前回までの学習内容を完全に把握しておくことは必須。また、講義期間中に複数回出す課題を提出すること。本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、各週につき 4 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

学習支援システムから配布する。

【参考書】

Michael Sipser 著, 太田 和夫, 田中 圭介, 阿部 正幸 訳, 計算理論の基礎 [原著第 2 版] 3. 複雑さの理論, 共立出版 ISBN 978-4-320-12209-3

【成績評価の方法と基準】

講義への貢献度, レポート 20%, 定期試験 80%により評価する。

【学生の意見等からの気づき】

学生の理解を深めるため、計算の複雑さの理論における命題の証明法に関する回を追加した。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを利用する。また、チューリングマシンの演習等においては貸与 PC を利用する。

【Outline (in English)】

Course outline: This course introduces basic concept of complexity theory for understanding theoretical computer science.

Learning objectives: Students will learn time complexity, space complexity, complexity classes (such as P, NP, PSPACE, EXPTIME, etc.), polynomial-time reduction, etc.

Learning activities outside of classroom: Students are expected to study more than four hours for a class.

Grading criteria: Short report & Contribution to the class: 20%, Final exam: 80%

PRI310KA-CS-208

情報基礎学 B

雪田 修一

必選区分： | 配当年次/単位：3~4 年次 / 2 単位 | 開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

計算と論理の基礎をプログラミングを通じて学ぶ。また、近年の発展が著しいトピックを具体的な言語や処理系で体験する。

【到達目標】

命題論理、述語論理、計算可能性などの基本知識を習得し、SAT ソルバーなどの近年の発展分野の動向を知る。Lisp、Minisat、Prolog などの基本的なプログラミングができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

情報科学部ディプロマポリシーのうち「DP2」と「DP4-1」に関連

【授業の進め方と方法】

体系的な知識を伝えると同時に適宜プログラミングにより抽象概念を実装する演習を行う。授業で課した課題（小テストやレポート）等を取り上げ、授業内で全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	この科目の目的と目標	講義の目指すもの、想定される受講者の興味・関心を明確にし、科目選択のための情報を提供する。
第 2 回	計算可能性	計算の概念、計算不可能な問題の存在を実例を通して理解する。
第 3 回	ラムダ計算	計算の重要なモデルであるラムダ計算の基本を知る。
第 4 回	Lisp	ラムダ計算をプログラミング言語として実現している Lisp に触れる。
第 5 回	Lisp 演習	Lisp が得意とする典型的な問題を取り上げ、演習を行う。
第 6 回	命題論理と SAT	命題論理の基本を学び、SAT (Satisfiability Problem、充足可能性問題) の困難性について理解する。
第 7 回	SAT ソルバー	近年の発展著しい SAT ソルバーの概要を理解する。
第 8 回	SAT ソルバー演習	SAT ソルバーで具体的な問題を扱う演習を行う。
第 9 回	述語論理の意味論	述語論理の基礎を理解し、意味論の代表的な方法とその意義を学ぶ。
第 10 回	証明論	証明とは何か、代表的な理論を理解する。
第 11 回	不完全性定理	ゲーデルの不完全性定理について大掴みな理解をする。
第 12 回	Prolog	1 階述語論理を扱うプログラミング言語 Prolog の基本を理解する。
第 13 回	Prolog 演習	Prolog が得意とする問題を演習する。
第 14 回	まとめ	期末試験で取り上げる題材を用いて、全トピックの復習を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

オンライン教材の毎回の予習。

本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、各週につき 4 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

オンライン教材を使用する。情報科学部 moodle にて配布する。

【参考書】

まとまった参考図書はない。各回のキーワードで検索にかかる URL はいずれも重要な最新の情報源である。

【成績評価の方法と基準】

テーマごとの課題 50%、期末試験 50%

【学生の意見等からの気づき】

レポート作成の手引きを提示する必要がある。

【学生が準備すべき機器他】

貸与パソコン

【Outline (in English)】

We study fundamental theory of computation with concrete examples. The series of lectures covers natural deduction, lambda calculus with lambda calculator, SAT solvers with mini-sat, and logic programming with Prolog. Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination: 50%, Short reports : 50%.

COT211KA-CS-212

コンピュータ構成と設計

李 亜民

必選区分： | 配当年次/単位：2～4 年次 / 2 単位 | 開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では RISC-V 命令セットアーキテクチャ、アセンブリ言語プログラム、シングル・マルチサイクル CPU のデータパスと制御ユニット設計、パイプライン CPU のデータパスと制御ユニット設計（内部フォワーディングとパイプラインストール）、整数乗除回路、浮動小数点演算装置 FPU、メモリ、キャッシュ、仮想メモリ、TLB、入出力システム、コンピュータの性能評価と高性能コンピューティング（スーパースカラ、マルチスレッド、マルチコア、インターコネクションネットワーク、スーパーコンピュータ）について学びます。この講義では、MIPS ISA と MIPS CPU の設計についても説明します。

【到達目標】

コンピュータの物理的な仕組みと設計方法の理解。ハードウェアレベルのプログラミング言語であるアセンブリプログラミングについても学び、プロセッサの基本動作を理解します。さらに、シングルサイクル CPU、マルチサイクル CPU、パイプライン CPU、FPU、キャッシュ、TLB、マルチスレッド CPU、マルチコア CPU などを設計します。そして、現代のコンピュータにおいて高速化の鍵となっている記憶階層についての理解、外部記憶その他の周辺装置や高性能コンピュータ構成と設計についても理解することを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

情報科学部ディプロマポリシーのうち「DP2」と「DP4-1」に関連

【授業の進め方と方法】

RISC-V シミュレータ Rivasim (<https://yamin.cis.k.hosei.ac.jp/rivasim/>) と MIPS シミュレータ AsmSim (<https://yamin.cis.k.hosei.ac.jp/asm/>) を使用して、アセンブリプログラムを開発します。コンピュータを構成するプロセッサ内部のデータの流れ（データパス）とその制御ユニットに関して、具体的な構成方法と設計の原理を理解します。さらに Intel Altera Quartus II と ModelSim という実際のハードウェア設計にも使われている EDA ツールを使用して RISC-V および MIPS プロセッサを設計し動作検証シミュレーションを行います。講義の冒頭で、前回の課題について説明・フィードバックします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	RISC-V 命令セットアーキテクチャ (1)	RISC-V 命令セットアーキテクチャとアセンブリ言語（算術、論理、シフト演算命令）及び Rivasim シミュレーターの使い方
2	RISC-V 命令セットアーキテクチャ (2)	RISC-V 命令セットアーキテクチャとアセンブリ言語（関数の呼び出し、条件分岐、無条件ジャンプ、メモリ load、store 命令）
3	コンピュータの基本的な回路設計	回路図と Verilog HDL を用いた基本的な回路（パレルシフトや ALU など）設計
4	RISC-V シングルサイクル CPU 設計 (1)	RISC-V シングルサイクル CPU の構成とレジスタファイルの設計とシミュレーション
5	RISC-V シングルサイクル CPU 設計 (2)	RISC-V シングルサイクル CPU のデータパスと制御ユニットの設計とシミュレーション

6	RISC-V シングルサイクル CPU 設計 (3)	RISC-V シングルサイクル CPU + メモリ + テストプログラム、整数乗除/剰余回路 (RV32M)
7	RISC-V マルチサイクル CPU 設計 (1)	RISC-V マルチサイクル CPU のデータパスの設計とシミュレーション
8	RISC-V マルチサイクル CPU 設計 (2)	RISC-V マルチサイクル CPU の制御構造とコンピュータの設計とシミュレーション
9	RISC-V パイプライン CPU 設計	RISC-V パイプライン CPU (内部フォワーディングとパイプラインストール) の設計とシミュレーション
10	浮動小数点数と FPU 設計	IEEE 754 浮動小数点数と FPU (浮動小数点数の加減乗除と平方根の回路) の設計とシミュレーション
11	メモリ階層とその管理	メモリ階層 (SRAM、DRAM、キャッシュ、仮想記憶、MMU、TLB) の設計とシミュレーション
12	入出力システム	入出力システム (入出力割込み、キーボードと VGA のインターフェースコントローラ) の設計とシミュレーション
13	性能評価と高性能コンピューティング	性能評価と高性能コンピューティング (スーパースカラ、マルチスレッド、マルチコア、インターコネクションネットワーク、スーパーコンピュータ)
14	MIPS CPU 設計とまとめ	MIPS 命令セットアーキテクチャ及び AsmSim シミュレーターの使い方と MIPS CPUs 設計とまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、計 4 時間を標準とします。講義資料を事前に目を通すこと。また、レポート（宿題）を完成させて提出すること。

【テキスト（教科書）】

担当教員 Website に掲載

【参考書】

1. コンピュータの構成と設計：ハードウェアとソフトウェアのインタフェース RISC-V 版, Morgan Kaufmann, 2017.
2. Computer Principles and Design in Verilog HDL, Wiley, 2015.

【成績評価の方法と基準】

課題レポート 70 % + プロジェクトレポート 30 %

【学生の意見等からの気づき】

課題の難易度を調整します。設計サンプルを追加します。

【学生が準備すべき機器他】

ノート PC をクラスに持参してください。

【Outline (in English)】

The objective of this lecture is to understand the fundamentals of the computer system and its design method. The contents of the lecture contain RISC-V instruction set architecture, assembly language programming, datapath and control unit design of single-cycle and multiple-cycle CPUs, design of pipelined CPU with internal forwarding and pipeline stall mechanism, memory, caches, virtual memory management, TLB (Translation lookaside buffer), input/output interface controller, interrupt, computer performance evaluation, superscalar, multithreading, multicore, interconnection network, and supercomputers. The CPUs will be designed in schematic and/or Verilog HDL and simulated with EDA tools. The MIPS ISA and MIPS CPUs design will be also taught in this lecture. Students will be expected to spend more than four hours to study each theme per week. Grading will be decided based on the homework (70%) and a project (30%).

PRI210KA-CS-351

情報理論

尾花 賢

必選区分： | 配当年次/単位：2~4 年次 / 2 単位 | 開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

情報の数学的定義および、エントロピーの概念、情報の圧縮の方法、通信路における誤り訂正の方法等を理解する。

【到達目標】

エントロピーの概念、および、情報理論における基本的な定理である情報源符号化定理、通信路符号化定理を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

情報科学部ディプロマポリシーのうち「DP2」と「DP4-1」に関連

【授業の進め方と方法】

情報とは何か、情報はどのように数学的に定義されるかを学ぶとともに、情報の符号化、情報通信の基礎理論を理解する。授業の理解を深めるため、講義の後半に適宜課題を解く時間を設ける。授業で課した課題（小テストやレポート）等を取り上げ、授業内で全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	情報の概念とエントロピー	情報量の定式化、エントロピーの概念を理解する。
2	条件付きエントロピー・相互情報量	確率の基本的な性質の復習を行った後、条件付きエントロピー、相互情報量の概念を理解する。
3	エントロピー、条件付きエントロピー、相互情報量の復習	重要な概念である各種エントロピーに関する理解を深める。
4	クラフトの不等式	符号の瞬時復号可能性、一意復号可能性とクラフトの不等式について理解する。
5	情報源符号化定理	情報理論における最も重要な定理のひとつである情報源符号化定理を理解する。
6	情報源符号化法	具体的な情報源符号化法であるシャノン符号、ファノ符号、ハフマン符号を理解する。
7	ハフマン符号のコンパクト性、Elias 符号	ハフマン符号のコンパクト性、および算術符号の一種である Elias 符号を理解する。
8	符号構成法の復習	いくつかの重要な情報源符号化法に関する理解を深める。
9	通信路符号化のモデル	通信路符号化のモデルについて理解する。
10	通信路符号化定理	情報理論における最も重要な定理のひとつである通信路符号化定理を理解する。
11	誤り訂正符号の基礎	通信路符号化定理と関連の深い、誤り訂正符号の概念を理解する。
12	謝り訂正符号の例	ハミング符号、拡大ハミング符号の構成法と、その符号化法、復号法を理解する。
13	情報理論と暗号	暗号通信のモデルと、完全秘匿性を有する暗号方式について理解する。

14 公開鍵暗号

公開鍵暗号の概念と、RSA 暗号について理解する。また、暗号を利用したプロトコルについて理解する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

前回までの学習内容を完全に把握しておくこと。授業時間外学習は、各週につき 4 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

Web からの配布による。

【参考書】

情報理論 —基礎から応用まで—、中川聖一著（近代科学社）

【成績評価の方法と基準】

講義への貢献度、課題の出来 20%、定期試験 80%によって評価する

【学生の意見等からの気づき】

講義中に演習問題を提示することで理解を高める。

【学生が準備すべき機器他】

Hoppii を利用する。

【その他の重要事項】

講義後半に学ぶ暗号の講義においては、筆者が企業在籍中に行った暗号の実システムにおける暗号導入の経験等を交えて講義を実施する。

【Outline (in English)】

Course outline: This course introduce basic concepts of information theory.

Learning objectives: You will learn mathematical definitions of information, the concept of entropy, methods of data compression, and error correction etc.

Learning activities outside of classroom: Students are expected to study more than four hours for a class.

Grading Criteria: Short report & contribution to the class: 20%, Final exam: 80%

COT311KA-CS-242

オペレーティングシステム

山田 浩史

必修区分： | 配当年次/単位：3~4 年次 / 2 単位 | 開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

オペレーティングシステム (OS) の基本概念と実装技術、およびその内部構造についての基礎知識を学ぶ。OS は、裸のままでは扱いにくいハードウェアを抽象化し、より扱いやすい仮想的なコンピュータをユーザに見せるソフトウェアである。Linux や Windows 8 がその代表格である。OS はハードウェアとアプリケーションを繋ぐ要のような役割を担っており、コンピュータが動作する仕組みを知るには OS の理解が必須である。

【到達目標】

OS の概念、実装技術、および内部構造についての基礎知識を身につけることを目標とする。また、OS の理解を通じて、コンピュータの動作原理についての理解も深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

情報科学部ディプロマポリシーのうち「DP2」と「DP4-1」に関連

【授業の進め方と方法】

OS の基本概念を講義していく。具体的には、プロセスやスレッド、スケジューリング、同期、仮想記憶、割り込み処理、ファイルシステムといった内容について講義を行う。また、進捗を見つつ、理解を深めるために適宜プログラミング演習を行ってレポートを課す。授業で課した課題（小テストやレポート）等を取り上げ、授業内で全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	OS の基本概念について学ぶ。
2	I/O デバイスと割り込み	I/O デバイスや割り込みを OS がどのように制御するかについて学ぶ。
3	ファイルシステム (1)	OS のディスク管理方法について学ぶ。ファイルという考え方やファイルの管理方法について学ぶ。
4	ファイルシステム (2)	前回の続き。
5	システムコールと保護	システムコールの基本概念、OS によって達成される保護について学ぶ。
6	プロセスとスレッド	プロセスとスレッドの基本概念、違いについて学ぶ。
7	演習 (1)	これまでの講義で扱った内容の理解を深めるプログラミング演習を行う。
8	スケジューリング	OS の CPU 管理方法について学ぶ。スケジューリングの基本概念について学ぶ。
9	相互排除と同期 (1)	相互排除の基礎を学ぶ。クリティカルセクション、ロック等の考え方を学ぶ。
10	相互排除と同期 (2)	前回の続き。
11	演習 (2)	これまでの講義で扱った内容の理解を深めるプログラミング演習を行う。
12	仮想記憶 (1)	OS のメモリ管理方法について学ぶ。仮想/物理アドレス、ページング、スワッピングについて学ぶ。

13 仮想記憶 (2)

前回の続き。

14 演習 (3)

これまでの講義で扱った内容の理解を深めるプログラミング演習を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

演習時に課されたレポートを行う。本授業の準備・復習時間は、計 4 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

資料を配布する。

【参考書】

河野健二著、オペレーティングシステムの仕組み、朝倉書店
Abraham Silberschatz 著、Operating System Concepts 9th Edition.

詳解 Linux カーネル 第 3 版、オライリージャパン

【成績評価の方法と基準】

試験 100 % で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

演習課題の解説分量を増やすようにする。

【その他の重要事項】

C 言語を用いたプログラミングをこなせること、および計算機アーキテクチャの基礎知識を必須とする。

【Outline (in English)】

【Course outline】

This course introduces basics of operating systems, such as their concepts, designs, and implementation. The operating system is a fundamental software layer that controls applications and underlying hardware. It abstracts bare-metal hardware and provides intelligent interfaces to applications.

【Learning Objectives】

You will learn basics of 1). concept of the operating system, 2). its abstraction of the hardware such as CPU, memory, and storages, 3). its policies and mechanisms for assigning hardware resources to applications. See the Curriculum maps.

【Grading Criteria/Policy】

Paper test(100%).

COT311KA-CS-243

型システムと関数型言語

雪田 修一

必選区分： | 配当年次/単位：3~4 年次 / 2 単位 | 開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

型システムと関数型プログラミングの諸概念を代表的な言語である Haskell を用いて学ぶ。Functor, Applicative, Monad, Monoid などの概念を多数の具体例の計算を通して理解する。

【到達目標】

学生は関数型言語の型システムとその上で実行される入出力や状態をもつ計算の仕組みを理解し、副作用のない純粋な関数型の計算から副作用を隔離する機構である Monad を適切に使えるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

情報科学部ディプロマポリシーのうち「DP2」と「DP4-1」に関連

【授業の進め方と方法】

Haskell によるプログラミング体験を通じて型システムの実際を知る。型推論の意義と問題点を理解する。授業中にプログラミングを行うため PC を持参する必要がある。授業中の議論に受講生の積極的な参加を求める。授業で課した課題（小テストやレポート）等を取り上げ、授業内で全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業の目的と方法を説明する。履修すると判断した場合は次回までに Haskell の開発環境を構築しておく。 教科書 chapter 1.
第 2 回	Believe the Type	Type variable, type class を学ぶ。
第 3 回	Syntax in Functions	Pattern matching, guards, where, let, case などの用法を学ぶ。
第 4 回	Hello Recursion!	Recursion に親しむ。Quick sort を例にとる。
第 5 回	Higher Order Functions	Curried function, lambda expression, fold, (\$) などについて学ぶ。
第 6 回	Modules	Module の扱いと作成方法を学ぶ。
第 7 回	Making Our Own Types and Type classes	新しい type や type class の作成方法を学ぶ。Functor という type class に触れる。型の型である Kind を理解する。
第 8 回	Input and Output	Pure な世界と副作用のある世界の分離を monad 機構で実現する。
第 9 回	More Input and More Output	乱数の扱いに触れる。簡単なゲームを作成する。
第 10 回	Functionally Solving Problems	逆ポーランド電卓、経路探索などへの簡単な応用。
第 11 回	Applicative Functors	Functor をさらに強化する機構について学ぶ。
第 12 回	Monoids	Monoid は様々な場面で登場する計算パターンであることを学ぶ。
第 13 回	A Fistful of Monads	Monad 則について学ぶ。
第 14 回	まとめ	期末試験で取り上げる題材をもとに全てのトピックのまとめをする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎週の課題への取り組み。
本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、各週につき 4 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

Learn You a Haskell for Great Good!,
Miran Lipovaca,
No Starch Press.
Kindle 版もある。PDF is freely available.

【参考書】

Haskell - the craft of functional programming (3rd edition)
Simon Thompson
Addison Wesley

【成績評価の方法と基準】

期内レポート (50%), 期末試験 (50%)

【学生の意見等からの気づき】

授業に必要なソフトウェアをうまく使えない学生がいた。躓きの主な原因は OS、ファイルシステム、シェルなどの基本が分かっていない所にあることを発見した。これらについては別の基礎科目で扱われているが適宜補足が必要であることを痛感した。

【学生が準備すべき機器他】

貸与 PC を授業中に使用する

【Outline (in English)】

We study a type system and functional programming with Haskell. The concepts of functor, applicative, monad, and monoid are treated with concrete examples. Students will be able to write their own functors and monads. They will also be able to trace recursive calls typical in the "fold" design pattern. All these abilities are checked by the term examination (50%) and the weekly assignments (50%), in each of which an average student spends four hours.

COT311KA-CS-244

ソフトウェア工学

栗田 太郎

必選区分： | 配当年次/単位：3~4 年次 / 2 単位 | 開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ソフトウェア工学の基本概念とその重要性を理解した上で、ソフトウェア開発プロセス、アジャイル開発とスクラム、要求の獲得と分析、要求の仕様化、仕様書の記述、形式手法と形式仕様記述、検証と妥当性確認、プログラムの設計と実装、レビューとテスト、プロジェクトと品質のマネジメント等について学び、実践的なソフトウェア開発やシステム開発、他者と協働するチーム開発に向けた基礎的な力を養成する。

【到達目標】

本授業を受講すると、ソフトウェア工学の基本事項、様々な開発プロセス、開発の各工程における様々な技法、背景にある考え方等について理解し、その重要性も含めて他者に説明できるようになる。そして、受講後のソフトウェア開発において、様々な有機的な知識に基づいた、開発の特性に合わせた技法の組み合わせや開発計画の立案、実践等を行いはじめることができるようになる。さらに、ソフトウェア工学やシステム工学に関する発展的な事項に関する独習を行うことができるようになる。

また、基本情報技術者試験と応用情報技術者試験のシラバスの中でソフトウェア工学に関係する事項を学ぶことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

情報科学部ディプロマポリシーのうち「DP4-1」と「DP4-3」に関連

【授業の進め方と方法】

本授業では、ソフトウェア工学についての基本的な知識や発展的な事項、とくに複数人で行う実開発の理想と現実について学ぶ。さらに、授業時間や授業時間外における演習、演習課題、授業時間における受講生同士の議論・対話により、設計に関する知識への理解を有機的に深くしながら、様々な技法の実践、仕様書をはじめとする文書の品質、品質やプロジェクトのマネジメント、様々なトレードオフ等について考えていく。

また、受講生が課題やリアクションペーパーに書いた質問や意見を、講師が授業時間において受講生のプライバシーに配慮しつつ紹介・回答することで、疑問点を解消したり、クラス全体で学びを深めたりする。

授業は、基本的にはオンラインで行うが、第3回、第8回、第13回は対面で実施する予定である。対面授業の実施に関する最終的な決定は初回の授業までに行い、受講生に伝える。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	ソフトウェア工学の概要	オリエンテーションの後、ソフトウェア工学の概要と歴史、技術者と倫理、2回目以降で取り扱う事項の紹介を行う。
2	ソフトウェア開発プロセス 1	ソフトウェア開発プロセスの概要、その種類と特性について解説する。
3	ソフトウェア開発プロセス 2	プロセスの開発と改善に関する演習を行う。各自がデザインしたプロセスモデルを、グループでレビューし合ったり、議論したりする。
4	アジャイル開発プロセス 1	アジャイル開発とスクラムの基礎について解説する。

5	アジャイル開発プロセス 2	スクラムに関する演習を行う。振り返り等の関連事項についても紹介する。
6	要求工学 1	要求工学の概要を紹介するとともに、システムおよびソフトウェアの開発の全体像と要求工程との関係性について解説する。
7	要求工学 2	要求を抽出・分析するための様々な技法について説明する。関連して、人間中心設計についても紹介する。
8	ワークショップ 1	第7回までの講義内容を用いる演習を行う。グループで討議し、要求工程における課題を整理していく。
9	仕様書の記述と検証	要求の仕様化と仕様の記述・検証について解説する。検証と妥当性確認の違いについても述べる。
10	形式手法と形式仕様記述	厳密な仕様を記述するための形式手法、形式仕様記述言語等について事例を交えて解説する。
11	ソフトウェアの設計、実現とテスト	ソフトウェアの実現とテストに関する技法や課題について説明する。レビューについても触れる。
12	プロジェクトと品質のマネジメント	プロジェクトマネジメントとシステムの品質について説明する。セーフティーやセキュリティについても触れる。
13	ワークショップ 2	第12回までの講義内容を用いる演習を行う。グループで討議し、仕様書等の記述と品質の課題を整理していく。
14	まとめ	発展的な内容について紹介するとともに、授業全体の振り返りとまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1回目開始以降、授業資料を用いて、授業後の復習、他受講生との議論・対話の内容の整理、授業前の準備学習、演習課題への取り組み等を行う。本授業の予習・復習等の時間は、1回につき、4時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特定の教科書は使用しない。授業にて資料を提示する。

【参考書】

Ian Sommerville: Software Engineering (10th Edition), Pearson (2015).

玉井 哲雄: ソフトウェア工学の基礎 改訂新版, 岩波書店 (2022).

Roger S. Pressman, Bruce R. Maxim: 実践ソフトウェアエンジニアリング (第9版), オーム社 (2021).

中谷 多哉子, 中島 震: ソフトウェア工学, 放送大学教育振興会 (2019).

荒木 啓二郎, 張 漢明: プログラム仕様記述論, オーム社 (2002).

マイケル・ジャクソン: ソフトウェア要求と仕様 - 実践, 原理, 偏見の辞典 -, エスアイビー・アクセス (2014).

SQuBOK 策定部会: ソフトウェア品質知識体系ガイド (第3版) - SQuBOK Guide V3 -, 日科技連出版社 (2020).

【成績評価の方法と基準】

平常点: 30%

レポート課題: 30%, 最終課題: 40%

【学生の意見等からの気づき】

オンライン授業、対面授業のいずれの場合においても閲覧しやすい、また、授業の後に復習や参照がしやすい配付資料を作成する。

【学生が準備すべき機器他】

筆記用具およびノート PC 等

【その他の重要事項】

正しい知識と基礎的な実践力を身につけると同時に、正解がないことに関して、他受講生との対話を通して、考察を深めていくことが重要である。

【Outline (in English)】

[Course Outline]

This course introduces the basic concepts and various techniques for software engineering, including software development process, agile development and scrum, requirements elicitation and analysis, description of specification, formal method and formal specification, verification and validation, program design and implementation, review and testing, project management, and quality management. Students are expected to learn the basics of these issues and techniques, and to build up their ability to apply them in practice.

[Learning Objectives]

By the end of the course, students should be able to do the followings:

1. Explain what is written in the course outline.
2. Plan and use software engineering methods in small projects.

[Learning Activities Outside of Classroom]

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

[Grading Criteria/Policy]

Overall grade in the class will be decided based on the following:

Term-end report: 40%

Short reports: 30%

In-class contribution: 30%

COT311KA-CS-311

並列分散処理

八巻 隼人

必選区分： | 配当年次/単位：3~4 年次 / 2 単位 | 開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現在、そして今後の情報基盤アーキテクチャの根幹を成す「並列処理」と「分散処理」についてその基礎から学ぶ。

スマートフォンや携帯ゲーム機からパソコン・スーパーコンピュータに至るまで、現在使われている殆どの計算機システムは、複数の処理列を同時に実行させて処理を進める並列分散処理の構成になっている。本講義では、並列・分散システムの基盤技術を俯瞰することにより、ハードウェアから OS・アプリケーションに至るまでの様々なレイヤにおける並列・分散処理について学ぶ。

【到達目標】

本講義では、並列分散処理に関わるハードウェアやソフトウェアがいかにして並列化を実現しているか、またそれに伴う諸問題についても理解することを最終的な目標とする。その過程で、プロセス・スレッドレベルでの簡単な並列プログラミング手法についても修得する。学生は本講義を通じて、OS やプロセッサ、またよりスケールの大きいクラスタレベルの並列化技術について知識を得るだけでなく、プロセス・スレッドのプログラミング技術を身につけることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

情報科学部ディプロマポリシーのうち「DP4-1」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は主に配布資料を用いた講義形式により行う。授業で課した課題（小テストやレポート）等を取り上げ、授業内で全体に対してフィードバックを行う。

進み具合に応じて数回の理解度チェック課題を課す。

また中間課題として課す演習においては、並列分散処理ライブラリ等を利用したプログラミングを行うことから、C/C++の基本的なプログラミング知識を有することを前提とする。

試験は期末のみを予定している。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	並列分散処理の目的と歴史的経緯	並列分散処理についてのイントロダクション。 それらの歴史的な技術の変遷を辿り技術領域を明らかにする。
第 2 回	OS レベルの並列化1（プロセス、スレッド、仮想メモリ）	OS が行う並列処理技術として、プロセス・スレッドを用いたマルチタスク実行が挙げられる。まずプロセスとスレッドの概念について学ぶ。
第 3 回	OS レベルの並列化2（プロセス、スレッド、仮想メモリ）	第 2 回に引き続き、プロセスとスレッドを理解する上で欠かせない、OS の仮想メモリ技術について学ぶ。
第 4 回	OS レベルの並列化3（プロセス、スレッド、仮想メモリ）	プロセスとスレッドをユーザが生成するためのプログラミング技術について学ぶ。
際 5 回	命令レベルの並列化1（命令依存、スーパースカラ）	プログラム実行を高速化する技術として、CPU が命令レベルで実行を並列化するスーパースカラ等の技術がある。まず、命令の並列実行と命令依存の関係について学ぶ。

第 6 回	命令レベルの並列化2（命令依存、スーパースカラ）	スーパースカラや VLIW といった複数命令を同時実行する技術、またそれらを効率化するコンパイラ技術等について学ぶ。
第 7 回	プロセッサレベルの並列化1（メモリコンシステンシ、キャッシュコヒーレンシ）	複数のプロセッサを用いて並列処理するマルチプロセッサ環境における問題点として、メモリコンシステンシおよびキャッシュコヒーレンシの概念について学ぶ。
第 8 回	プロセッサレベルの並列化2（メモリコンシステンシ、キャッシュコヒーレンシ）	マルチプロセッサ環境における同時メモリアクセスの問題を解決する、同期やセマフォといった技術について学ぶ。
第 9 回	プロセッサレベルの並列化3（メモリコンシステンシ、キャッシュコヒーレンシ）	マルチプロセッサ環境における複数キャッシュのコヒーレンシ問題を解決するスヌープキャッシュ等の技術について学ぶ。
第 10 回	ネットワークと通信プロトコル1	分散システムで欠くことのできないネットワークとその通信プロトコルについて学ぶ。本回では主にネットワークのトポロジと、それによる性能差について学ぶ。
第 11 回	ネットワークと通信プロトコル2	分散システムで欠くことのできないネットワークとその通信プロトコルについて学ぶ。本回では主に通信プロトコルについて学ぶ。
第 12 回	高信頼化・高性能化技術（RAID）	よりスケールの大きい分散システムとしてストレージ機器の並列分散化である RAID を例に挙げ、システムの信頼性について学ぶ。
第 13 回	時刻同期（時計、スナップショット）	分散システムにおける時刻同期の難しさと、それによる問題、解決策について学ぶ。
第 14 回	まとめ	これまでの講義内容を振り返り、並列分散処理に関する様々な技術をまとめる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義資料は講義前に Web 配布するので、必要に応じて予習しておくこと。

前述したように数回のレポート課題を課す予定なので、その場合にはしっかりとレポートを作成すること。本授業の準備・復習時間は、計 4 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特にテキスト、参考書は指定しない。講義資料は講義前に Hoppin 上にアップロードする。

【参考書】

参考書は必要があれば講義中に紹介する。

【成績評価の方法と基準】

期末テストを 60%、中間レポート・出席レポートを含む平常の学習状態や授業への積極性を 40% の配点とし、60 点以上を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

質疑はいつでも受け付けるので 気軽にメールすること。

【Outline (in English)】

【Course outline】

In recent years, most computer systems, such as mobile phones, PCs, and supercomputers, use technique of parallel and distributed processing for high-speed and multi-task processing. This course introduces the basic techniques of "parallel processing" and "distributed processing" for various layers (from a hardware layer to an OS/application layer).

[Learning Objectives]

The goals of this course are to understand how parallel and distributed systems are realized and performed and to be able to point out problems in these systems.

[Learning activities outside of classroom]

After each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

[Grading Criteria /Policies]

Final grade will be calculated according to the following process

Mid-term report and in-class contribution (40%), term-end examination (60%).

HUI312KA-CS-321

新ネットワーク理論

廣津 登志夫

必選区分： | 配当年次/単位：3~4 年次 / 2 単位 | 開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義ではネットワーク科学と呼ばれる情報科学の分野としては比較的新しいテーマを取り扱う。現在の科学技術の多くの部分は 19 世紀から 20 世紀にかけて還元要素法に基づいて築き上げられてきた学問に基づくが、ネットワーク科学では離散構造（離散数学）で学ぶグラフに対して複雑系という概念を導入し、これまでは説明が難しかった自然現象や生命現象を新たなアプローチで解き明かそうとするものである。具体的には、それぞれの動作は単純だが、それらが集団となって行動するときに創発的な複雑な振舞いを見せるような系について、新たな科学での方法論について学ぶ。

【到達目標】

複雑系は比較的新しい学問分野であり、単純な動きをする多数のエージェントによる少ない資源をめぐる競争において、フィードバックにより相互に影響を及ぼし合いながら形成される複雑な系（ネットワーク）としてシステムを捉える。複雑系の中にどのような普遍性があるのかを理解することを一つの目標とする。さらに発展的な目標として、現実あるいは仮想的な世界にどのように応用できるかについても考える力をつけることが挙げられる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

情報科学部ディプロマポリシーのうち「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

講義はニール・ジョンソンの「複雑で単純な世界」とバラバシの「新ネットワーク思考 世界のしくみを読み解く」を用いて複雑系に見られる事象や基礎的な概念を理解する。講義が中心とするが、複雑系に関するトピックを NetLogo を用いたマルチエージェントプログラムにより実現することで、理解を深める。

最新の科学技術に関する話を聞き、補足的な情報を自分で調べ、全体的な理解を深めることが求められるため、話からノートを作成し自分で資料化する力をつけること。一部講義はオンデマンドを併用する場合もあるが、これについては講義中に個別に指示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 週	複雑な要素・複雑な現象	1. 複雑性の意味 2. 創発現象の予測 3. 複雑性だらけの毎日 4. 八つの条件
第 2 週	NetLogo 紹介	1. NetLogo とは？ 2. NetLogo の世界 3. NetLogo の GUI 4. NetLogo プログラミング
第 3 週	秩序ポケットの出現	1. 秩序と無秩序の間 2. 情報のフィードバック 3. 宇宙と乱雑さ 4. 乱雑さと偏り
第 4 週	カオスとフラクタル	1. 複雑系のダイナミクス 2. 時系列の規則性とランダムネス 3. 複雑系のモデル化
第 5 週	群衆の行動の予測	1. 「二者択一」問題 2. 週末の夜の過ごし方 3. 意思決定の科学 4. 群衆と反群衆

第 6 週	金融市場の動向の予測	1. 金融市場とフィードバック 2. 標準モデルの限界 3. 株式市場の類似挙動 4. 暴落の分類学 5. 予測可能ポケット
第 7 週	複雑性とネットワーク	1. 動的ネットワーク 2. ネットワークの生態学 3. 栄養取り回しモデル 4. 不変な構造 5. 公平さと効率のバランス
第 8 週	最適ネットワーク	1. ルート選びのジレンマ 2. 輸送・供給・経営・人体 3. 渋滞税による制御 4. スーパーハブ 5. ハブの適正限界
第 9 週	六次の隔たり	1. 六次の隔たり 2. ミルグラムの実験 3. 社会的ネットワークの大きさ
第 10 週	弱い絆の強さ	1. 強い絆と弱い絆 2. 弱い絆の強さ 3. ランダムネットワーク
第 11 週	ネットワーク構造	1. 構造の定量化 2. クラスタリング係数 3. エルディッシュ数 4. ワッツ=ストロガッツのモデル
第 12 週	スケールフリーネットワーク	1. ハブとコネクター 2. 80 対 20 の法則 3. べき乗則 4. スケールフリー性
第 13 週	無秩序と秩序の相転移	1. 相転移 2. 自己組織化 3. 成長するネットワーク 4. 優先的選択 5. 適応度モデル
第 14 週	感染症とネットワーク科学	1. 感染とネットワーク構造 2. コミュニティの相互作用 3. 感染症流行解析 4. 癌成長のモデル化と対策

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、各週につき 4 時間を標準とする。

講義後に配布する講義資料を元に、講義中にとったノートとその内容の双方を確認し、補足的な調査を行う、という基本的な理解の手順を復習として行うこと。

課題やレポートが出たものについては必ずメ切までに提出すること。

【テキスト（教科書）】

講義内容はスライドで提示し、講義を進めるので各自でノートを取る。講義後にスライドを元にした参考資料を CIS Moodle から提供する。

【参考書】

以下の参考文献は講義初回でも紹介する

「複雑で単純な世界」 ニール・ジョンソン (著), 阪本 芳久 (翻訳)
「新ネットワーク思考 世界のしくみを読み解く」 アルバート・ラズロ・バラバシ (著), 青木 薫 (翻訳)

Wilensky, Uri; Rand, William. An Introduction to Agent-Based Modeling: Modeling Natural, Social, and Engineered Complex Systems with NetLogo (MIT Press)

「ガイドツアー 複雑系の世界」メラニー・ミッチェル
「つながり 社会的ネットワークの驚くべき力」ニコラス・A・クリスタキス/著 ジェイムズ・H・ファウラー/著 鬼澤忍/訳

「スモールワールド・ネットワーク 世界を知るための新科学的思考法」ダンカン ワッツ (著), Duncan J. Watts (原著), 辻 竜平 (翻訳), 友知 政樹 (翻訳)

「スモールワールド ネットワークの構造とダイナミクス」ダンカン ワッツ (著), Duncan J. Watts (原著), 栗原 聡 (翻訳), 福田 健介 (翻訳), 佐藤 進也 (翻訳)

「複雑な世界, 単純な法則 ネットワーク科学の最前線」マーク・ブキャナン, 阪本 芳久

「複雑ネットワークの科学」増田 直紀 (著), 今野 紀雄 (著)

「複雑ネットワークとは何か複雑な関係を読み解く新しいアプローチ」増田 直紀 (著), 今野 紀雄 (著)

「SYNC」ステイーヴン・ストロガッツ

【成績評価の方法と基準】

期末試験を 80%, 課題レポートを含む平常の学習状態や授業への積極性を 20%の配分で総合的に判断する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

貸与 Note PC を使用する場合があります。講義回毎の使用の可否は教員の指示に従うこと。

【その他の重要事項】

本講義で取り扱うのはグラフに基づく理論的なネットワークで、インターネットやイントラネットなどの実際に稼働しているネットワークの制御・運用等の技術に触れるものではないので、科目選択においては注意すること。

本講義は担当教員の企業での情報科学・ネットワーク科学に関する研究・開発の経験を元に複雑系やネットワーク科学に関する講義を行う。

【Outline (in English)】

[Course outline]

This course introduces a knowledge and technologies related network science. Network science is a new research area based on the graph theory, that is used to express the problems of complex systems. Students are expected to expand their knowledge and to understand new area of the computer science topics during this lecture.

[Learning Objectives]

Students expected to understand the basic concepts of complex systems and universality found in it.

[Learning activities outside of classroom]

Students will be expected to spend four hours to understand the contents of that week's contents.

[Grading Criteria /Policy]

Final grade will be calculated according to the following process; final exam (80%), and report and in-class contribution (20%).

COT211KA-CS-206

情報・ネットワークセキュリティ入門

上田 浩

必選区分： | 配当年次/単位：2~4 年次 / 2 単位 | 開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、情報システムやネットワークシステムおよびそれらを通じて提供される様々のサービスに存在する脆弱性やリスク、それらに対応するための情報セキュリティ対策の基礎を解説する。

【到達目標】

高度化する情報化社会で、安全で快適な生活をおくるための、また社会人として情報システムやネットワークシステムを安全にかつ効果的に駆使し活動できるための、基本的知識の習得と対策方法の理解を目標とする。

更に、主要なマルウェアや攻撃手法などの特徴を説明でき、それらの被害にあわないための対策や留意点について説明できることを、目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

情報科学部ディプロマポリシーのうち「DP2」と「DP4-1」に関連

【授業の進め方と方法】

まずは、情報化時代に生きる学生、社会人として必要な情報セキュリティに関する知識、被害にあわないための情報セキュリティ対策の基本について、(独)情報処理推進機構がまとめたテキストをベースに説明する。

次に、情報セキュリティ対策を構成する主要な情報セキュリティ要素技術の基本的メカニズムを説明する。

最後に、実際の情報サービスを構成する、サーバ、ネットワーク、クライアントのそれぞれが、実際に直面する脅威の説明とその対策技術の概要について説明する。

授業で課した課題(小テストやレポート)等を取り上げ、授業内で全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	情報セキュリティリテラシー（1）	(1) 本授業の概要・目的・目標や、本授業の進め方、レポート、試験の扱いなどの説明 (2) 情報セキュリティ読本を使用し、第1章「今日のセキュリティリスク」、第2章「情報セキュリティの基礎」の説明
2	情報セキュリティリテラシー（2）	情報セキュリティ読本を使用し、第3章「見えない脅威とその対策」を説明 * マルウェア-見えない化が進む * 共通の対策 * 標的型攻撃と誘導型攻撃への対策 * フィッシング詐欺への対策 * ワンクリック不正請求への対策 * 無線 LAN に潜む脅威とその対策
3	情報セキュリティリテラシー（3）	情報セキュリティ読本を利用し、第4章「組織の一員としての情報セキュリティ対策」を説明 * 組織のセキュリティ対策 * 従業員としての心得 * 気を付けたい情報漏洩 * 終わりの無いプロセス

4	情報セキュリティリテラシー（4）	情報セキュリティ読本を使用し、第5章「もっと知りたいセキュリティ技術」を説明 * アカウント、ID、パスワード * 攻撃手法 * 脆弱性を悪用する攻撃 * ファイアウォール * 暗号とデジタル署名
5	情報セキュリティリテラシー（5）	情報セキュリティ読本を使用し、第6章「情報セキュリティ関連の法規と制度」を説明 * 情報セキュリティの国際標準 * 情報セキュリティに関する法律 * 知的財産を守る法律 * 迷惑メール関連法 * 情報セキュリティ関連制度
6	セキュリティ要素技術（1）	「暗号技術体系、AES などの共通鍵暗号、RSA などの公開鍵暗号」の説明 * 暗号とは * 共通鍵暗号 ブロック暗号とストリーム暗号 * 公開鍵暗号 RSA 暗号 * ハッシュ関数 * デジタル署名 * 暗号の分類、特徴のまとめ * 日本政府の暗号技術に対する体制 * 暗号の利用場面
7	セキュリティ要素技術（2）	「公開鍵基盤（PKI）とその応用」の説明 * 暗号技術の再確認 * PKI（公開鍵基盤）が提供する機能、サービス、効果 * PKI を支える技術 * PKI を構成するコンポーネント * PKI の例 * PKI 応用システム
8	セキュリティ要素技術（3）	「バイオメトリクス認証技術」の説明 * バयोメトリクス認証とは * 本人確認におけるバイオメトリクス認証の位置づけ * 各種バイオメトリクス認証方式の概要紹介 * バयोメトリクス認証プロセス * バयोメトリクス認証の将来動向
9	セキュリティ要素技術（4）	「耐タンパー性、情報ハイディング技術」の説明 * 暗号技術の再確認 * 暗号機能が適切に機能するには * 耐タンパー性とは * 暗号モジュールの安全性評価 * 秘密分散技術 * 情報ハイディング技術（ステガノグラフィ、電子透かし）

10	サーバのセキュリティ (1)	<p>「サーバ側の技術的対策、物理的対策」の説明</p> <ul style="list-style-type: none"> * 情報サービスシステムの基本モデル * サーバの適切なアクセス制御のために * サーバの情報漏えい防止のために * サーバの情報の完全性保証のために * 物理的アクセス制御 (入退室管理)
11	サーバのセキュリティ (2)	<p>「Web アプリケーションのセキュリティ」の説明</p> <ul style="list-style-type: none"> * Web アプリケーション * Web アプリケーション開発と情報セキュリティ <ul style="list-style-type: none"> ①バッファオーバーフロー ②クロスサイトスクリプティング ③ SQL インジェクション * フィッシング * ファーミング * 安全な Web サイトをつくるために
12	ネットワークのセキュリティ (1)	<p>「SSL、VPN などのネットワークサービスのセキュリティ技術」の説明</p> <ul style="list-style-type: none"> * インターネットの歴史 * IP v 4 概要とそのセキュリティ * IP v 6 概要とそのセキュリティ * SSL(Secure Socket Layer) * VPN (Virtual Private Network) * 無線 LAN 概要とそのセキュリティ
13	ネットワークのセキュリティ (2)	<p>「不正アクセスと対策技術」の説明</p> <ul style="list-style-type: none"> * 不正アクセスとは * 技術的対策 <ul style="list-style-type: none"> ・ FireWall ・ Intrusion Detection System * サービス妨害とその対策 <ul style="list-style-type: none"> ・ Denial of Service ・ Distributed Denial of Service
14	クライアントのセキュリティ	<p>「クライアント (PC) の脅威と対策技術」の説明</p> <ul style="list-style-type: none"> * クライアント PC の課題 * クライアント PC 向けマルウェア <ul style="list-style-type: none"> ・ ウイルス ・ ワーム ・ トロイの木馬 ・ 悪意のモバイルコード ・ 混合攻撃 ・ スパイウェアとしての追跡クッキー ・ データロガーなどの攻撃ツール * クライアント PC における情報漏えい <ul style="list-style-type: none"> * シンクライアント

② TV、新聞等で報道される情報セキュリティに関する事件・事故・課題などについても関心を持ち、現社会の状況を理解しておいていただきたい。

③本授業の準備・復習時間は、計 4 時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

①情報セキュリティ読本 六訂版: IT 時代の危機管理入門 (独) 情報処理推進機構編 実教出版発行
 ②講義で使用する資料 (各回の講義前にネット経由配布)

【参考書】

①情報セキュリティ教本 -組織の情報セキュリティ対策実践の手引き- (独) 情報処理推進機構編 実教出版発行

【成績評価の方法と基準】

課題 (50%)、テスト/アンケート (50%) で総合評価する。

【学生の意見等からの気づき】

リアルタイムオンライン授業を望む声が出たため、課題に対するフィードバックを強化する。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システム等を利用する。

【その他の重要事項】

本講義は担当教員の大学における全学レベルの情報システム・情報セキュリティに関する研究開発の経験に基づき実践的なセキュリティ技術に関する講義を行う。

実務経験

- ・大学の情報システム・ネットワークの管理運用
- ・ネットワークトラフィックの計測と分析
- ・クラウドシステムの企画と運用
- ・情報セキュリティポリシーの策定と運用・普及

【Outline (in English)】

Course outline:

In this course, you will learn basic knowledge about information security. More precisely, you will learn vulnerability and risk of the computer system, and learn countermeasures against cyber attacks.

Learning Objectives:

The goals of this course are to obtain basic knowledge to use information systems effectively and safely, understand concrete actions against cyber attacks including malware.

Learning activities outside of classroom:

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading Criteria /Policy:

Final grade will be calculated according to the following process
 Assignment (50%), Online test/quiz (50%).

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

①テキストに指定した「情報セキュリティ読本 六訂版: IT 時代の危機管理入門」の内容は、社会人には必須の情報セキュリティの常識、是非熟読していただきたい。

COT211KA-CS-203a

プログラミング 2(Java)

細部 博史

必選区分： | 配当年次/単位：2～4 年次 / 4 単位 | 開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

情報システムの構築を目的として、プログラミング 1 (Java) の発展的観点から、Java 言語によるプログラミングを学ぶ。

【到達目標】

プログラミング 1 (Java) の発展的観点から、Java 言語によるプログラミングを理解する。特に Java 言語の発展的機能とオブジェクト指向プログラミングの発展的知識を修得する。さらに具体的な情報システムを構築する発展的なプログラミング技術を身に付ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

情報科学部ディプロマポリシーのうち「DP4-1」と「DP4-3」に関連

【授業の進め方と方法】

Java 言語の発展的機能、オブジェクト指向プログラミングの発展的知識として、型推論、レコード、ジェネリクス、ラムダ式、ストリーム等を扱う。これらに並行して、人工知能等に関連する情報システムを構築する課題を課す。授業で課した課題等を取り上げ、授業内で全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Java の基礎再説	授業のガイダンス、Java 言語の基礎の再説
2	型推論	型推論の利用
3	カプセル化とレコード	カプセル化とレコードの利用
4	復習 (1)	復習と発展課題 (1)
5	再帰 (1)	再帰の利用 (1)
6	再帰 (2)	再帰の利用 (2)
7	ジェネリクス (1)	ジェネリクスの利用 (1)
8	復習 (2)	復習と発展課題 (2)
9	復習 (2) (続き)	発展課題 (2) の続き
10	ジェネリクス (2)	ジェネリクスの利用 (2)
11	ラムダ式とストリーム	ラムダ式とストリームの利用
12	正規表現	正規表現の利用
13	復習 (3)	復習と発展課題 (3)
14	まとめ・成果発表	授業内容のまとめと発展課題の成果発表

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義資料の予習、復習を行い、課題のプログラムを作成すること。準備・復習等の授業時間外学習は、各週につき 8 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

担当教員が作成した講義資料をウェブ上で配布する。

【参考書】

高橋麻奈, やさしい Java 第 7 版, SB クリエイティブ, 2019. ISBN 978-4815600846

他にも必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

課題 (30%) と試験 (60%) に加え、平常点 (10%) を考慮し、総合的に判断する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

貸与ノート PC を使用する。

【その他の重要事項】

プログラミング 1 (Java) の講義内容を理解していることを前提とする。

【Outline (in English)】

Students will learn programming in the Java language with the view of constructing information systems. The goal of this course as the successor of Programming 1 (Java) especially includes acquiring advanced knowledge of Java, advanced knowledge of object-oriented programming, and advanced technology for constructing concrete information systems. The students are expected to spend typically 8 hours for preparation, review, and assignments for each class meeting. Grading will be decided based on assignments (30%), the final examination (60%), and in-class contribution (10%).

HUI212KA-CS-231

ヒューマンコンピュータインタラクション

細部 博史

必選区分： | 配当年次/単位：2~4 年次 / 2 単位 | 開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

人とコンピュータの対話とその媒介手段についての理解を目的として、ヒューマンコンピュータインタラクション (HCI) とユーザインタフェース (UI) を学ぶ。

【到達目標】

UI の設計・開発・評価に必要な考え方を身に付け、実際にグラフィカルユーザインタフェース (GUI) のプログラミングと評価ができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

情報科学部ディプロマポリシーのうち「DP4-1」と「DP4-2」に関連

【授業の進め方と方法】

人とコンピュータの対話を意味する HCI とその媒介手段である UI について学ぶ。最初に HCI の基本として、その概要と歴史、人のインタフェース特性、人と人工物のインタフェースを学ぶ。次に具体的な UI に関して、現在一般的な UI のデバイスとハードウェア、代表的 UI である GUI の概要を学んだ後、イベント駆動とオブジェクト指向の考えに基づく GUI のプログラミングに関する演習を行う。GUI のプログラミングには Python 言語を用いる。さらに UI の使いやすさの評価方法を学んだ後、先の演習で作成した GUI の評価に関する演習を行う。最後に GUI に限らない HCI の様々な手法と今後の HCI について学ぶ。授業で課した課題 (小テストやレポート) 等を取り上げ、授業内で全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	HCI とは？	授業のガイダンス、HCI の概要と歴史
2	人のインタフェース特性	人の感覚、言語能力、記憶、情報処理
3	人と人工物のインタフェース	アフォーダンス、ユーザモデル、デザインモデル
4	UI のデバイス	キーボード、マウス、ディスプレイ等のデバイス
5	UI のハードウェア	1 ビット・多ビットの入出力、シリアルフィン多フェース、デバイスドライバ、入出力サブシステム
6	GUI	GUI の画面、特徴、短所と対策
7	GUI プログラミング	イベント駆動とオブジェクト指向による GUI のプログラミング
8	GUI プログラミング演習	GUI プログラミングの演習
9	UI 評価	UI の使いやすさの評価方法
10	UI 評価演習 (1)	先の演習で作成した GUI の評価
11	UI 評価演習 (2)	先の演習で作成した GUI の評価 (続き)
12	HCI の手法	GUI に限らない HCI の手法
13	次世代 UI	GUI に限らない今後の HCI
14	まとめ・成果発表	授業内容のまとめと課題の成果発表

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書・講義資料の予習、復習を行い、課題のプログラムとレポートを作成すること。

準備・復習等の授業時間外学習は、各週につき 4 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

椎尾一郎, ヒューマンコンピュータインタラクション入門, サイエンス社, 2010. ISBN 978-4781912608

他に担当教員が作成した講義資料をウェブ上で配布する。

【参考書】

必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

課題 (30%) と試験 (60%) に加え、平常点 (10%) を考慮し、総合的に判断する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

貸与ノート PC を使用する。

【Outline (in English)】

Students will learn human-computer interaction (HCI) and user interfaces (UIs) with the view of understanding how and by what means humans and computers interact. The goals of this course especially include acquiring the knowledge and skill of the design, development, and evaluation of UIs and becoming able to actually develop and evaluate graphical user interfaces (GUIs). The students are expected to spend typically 4 hours for preparation, review, and assignments for each class meeting. Grading will be decided based on assignments (30%), the final examination (60%), and in-class contribution (10%).

COT211KA-CS-241

データベース

日高 宗一郎

必選区分： | 配当年次/単位：2～4 年次 / 2 単位 | 開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：〈優〉〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

データを組織化してデータベース管理システムのもとに一括管理し、多数のユーザの共有資源とするデータベースの考え方を理解する。

【到達目標】

現実問題に即したデータベースの設計ができる技能を身に付ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

情報科学部ディプロマポリシーのうち「DP4-1」と「DP4-2」に関連

【授業の進め方と方法】

大規模で高度に複雑な情報システム技術であるデータベースについて理解するため、データモデル、データベース設計、データ操作言語、データベース管理システム等について学ぶ。課題については締切後解説・フィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	データベースとは？	ガイダンス、及び、概論。
2	リレーショナルデータモデル -構造記述-	集合論に基づいたリレーショナルデータベースの構造記述について学ぶ。
3	リレーショナルデータモデル -意味記述-	リレーションという構造的枠組みではとらえられない実世界の制約の扱いについて学ぶ。
4	リレーショナル代数	リレーション群に格納されるデータを操作するデータ操作言語について学ぶ。
5	SQL	リレーショナルデータベース言語 SQL の問合せに関して学ぶ。
6	リレーショナルデータベース設計	実世界の情報構造を把握し、的確に表現するための、実体-関連モデルを用いたリレーショナルデータベース設計について学ぶ。
7	正規化理論 -更新時異状と情報無損失分解-	リレーション更新時の異状と、それを解消するための情報無損失分解の理論を理解する。
8	正規化理論 -関数従属性-	正規形を規定するために重要な、関数従属性について理解する。
9	正規化理論 -高次の正規化-	リレーションの正規化理論について学ぶ。
10	データベース管理システム	データベース管理システムの標準アーキテクチャと 3 層スキーマ構造について学ぶ。
11	質問処理の最適化	質問処理とは何かを理解し、その最適化について学ぶ。
12	トランザクション	トランザクションの概念を理解し、データベースの一貫性を保証する仕組みについて学ぶ。
13	同時実行制御	トランザクションの同時実行制御の仕組みについて学ぶ。
14	ビッグデータと NoSQL およびまとめ	ビッグデータと NoSQL について学ぶ。 本講義を通じて学んだ知識やスキルを整理し、今後の学習に活かせるようにする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書の予習・復習。
課題が指示された場合は、課題レポート提出。
本授業の準備・復習時間は、計週 4 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

データベース入門【第 2 版】
増永良文著
サイエンス社
(2021)

【参考書】

増永良文, リレーショナルデータベース入門-データモデル・SQL・管理システム 新訂版, サイエンス社 (2003)
増永良文, リレーショナルデータベース入門-データモデル・SQL・管理システム・NoSQL 第 3 版, サイエンス社 (2017)
IT Text データベースの基礎 オーム社 (2019)
その他、適宜、講義中に指示する。

【成績評価の方法と基準】

平常点、課題レポートおよび授業内試験 (30%)、定期試験 (70%)

【学生の意見等からの気づき】

演習の機会を設ける。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを利用する。

【その他の重要事項】

本講義は複数クラスで内容を統一し、講義内容・教材を担当教員で共同で用意している。また、その内容は担当教員の一人の大学共同利用機関法人研究所でのデータベースプログラミング言語に関する研究の経験を反映している。

【Outline (in English)】

This course covers the fundamental roles of databases to organize and uniformly manage data through database management systems and to serve as shared resources for many users.

By the end of this course, students should be able to design databases based on real world problems.

Besides attending this course, students are expected to read the relevant chapter(s) of the text.

After each class, students are expected to review the class referring to the relevant chapter(s) of the text, submit reports if assigned.

Students will be studying four hours for a class.

Grading will be decided based on term-end exam (70%), in class tests and assignments as well as in-class contributions (30%).

COT211KA-CS-241

データベース

坂本 寛

必選区分： | 配当年次/単位：2～4 年次 / 2 単位 | 開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

データを組織化してデータベース管理システムのもとに一括管理し、多数のユーザの共有資源とするデータベースの考え方を理解する。

【到達目標】

現実問題に即したデータベースの設計ができる技能を身に付ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

情報科学部ディプロマポリシーのうち「DP4-1」と「DP4-2」に関連

【授業の進め方と方法】

大規模で高度に複雑な情報システム技術であるデータベースについて理解するため、データモデル、データベース設計、データ操作言語、データベース管理システム等について学ぶ。課題については締切後解説・フィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	データベースとは？	ガイダンス、及び、概論。
2	リレーショナルデータモデル -構造記述-	集合論に基づいたリレーショナルデータベースの構造記述について学ぶ。
3	リレーショナルデータモデル -意味記述-	リレーションという構造的枠組みではとらえられない実世界の制約の扱いについて学ぶ。
4	リレーショナル代数	リレーション群に格納されるデータを操作するデータ操作言語について学ぶ。
5	SQL	リレーショナルデータベース言語 SQL の問合せに関して学ぶ。
6	リレーショナルデータベース設計	実世界の情報構造を把握し、的確に表現するための、実体-関連モデルを用いたリレーショナルデータベース設計について学ぶ。
7	正規化理論 -更新時異状と情報無損失分解-	リレーション更新時の異状と、それを解消するための情報無損失分解の理論を理解する。
8	正規化理論 -関数従属性-	正規形を規定するために重要な、関数従属性について理解する。
9	正規化理論 -高次の正規化-	リレーションの正規化理論について学ぶ。
10	データベース管理システム	データベース管理システムの標準アーキテクチャと 3 層スキーマ構造について学ぶ。
11	質問処理の最適化	質問処理とは何かを理解し、その最適化について学ぶ。
12	トランザクション	トランザクションの概念を理解し、データベースの一貫性を保証する仕組みについて学ぶ。
13	同時実行制御	トランザクションの同時実行制御の仕組みについて学ぶ。
14	ビッグデータと NoSQL およびまとめ	ビッグデータと NoSQL について学ぶ。 本講義を通じて学んだ知識やスキルを整理し、今後の学習に活かせるようにする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書の予習・復習。

課題が指示された場合は、課題レポート提出。

本授業の準備・復習時間は、計週 4 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

データベース入門【第 2 版】

増永良文著

サイエンス社

(2021)

【参考書】

増永良文, リレーショナルデータベース入門-データモデル・SQL・管理システム 新訂版, サイエンス社 (2003)

増永良文, リレーショナルデータベース入門-データモデル・SQL・管理システム・NoSQL 第 3 版, サイエンス社 (2017)

IT Text データベースの基礎 オーム社 (2019)

その他、適宜、講義中に指示する。

【成績評価の方法と基準】

平常点、課題レポートおよび授業内試験 (30%)、定期試験 (70%)

【学生の意見等からの気づき】

演習の機会を設ける。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを利用する。

【その他の重要事項】

本講義は複数クラスで内容を統一し、講義内容・教材を担当教員で共同で用意している。また、その内容は担当教員の一人の大学共同利用機関法人研究所でのデータベースプログラミング言語に関する研究の経験を反映している。

【Outline (in English)】

This course covers the fundamental roles of databases to organize and uniformly manage data through database management systems and to serve as shared resources for many users.

By the end of this course, students should be able to design databases based on real world problems.

Besides attending this course, students are expected to read the relevant chapter(s) of the text.

After each class, students are expected to review the class referring to the relevant chapter(s) of the text, submit reports if assigned.

Students will be studying four hours for a class.

Grading will be decided based on term-end exam (70%), in class tests and assignments as well as in-class contributions (30%).

HUI213KA-CS-221

人工知能

赤石 美奈

必選区分： | 配当年次/単位：2～4 年次 / 2 単位 | 開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

人工知能という学問分野について、基礎知識を修得します。人工知能は、計算機により、知的な振る舞いの再現を目指した学問分野です。

計算機上で知的行動を再現するための基盤技術として、様々な知識表現、推論手法、探索手法、学習手法が研究されてきました。本講義では、人工知能の基礎を理解することをテーマに、汎用な基盤技術に焦点を当てて解説と演習を行います。

【到達目標】

人工知能という技術分野について、他の人に十分な説明を行うことができるようになります。特に、論理的な知識表現の方法、知識を用いた推論方法、探索木を用いた探索手法、新しい知識を得るための学習手法について、基礎的な考え方や、古典的な実現手法を学びます。

例題を通して、上記の手法について、具体的な操作手順を身に付けることができます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

情報科学部ディプロマポリシーのうち「DP3-1」と「DP4-1」、「DP4-2」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は、講義形式を基本としています。講義の中では、概念を教えるだけでなく、例題を用いて振る舞いを説明します。そして、例題の一部の形を変えた演習問題に取り組んでもらいます。また、より深い理解をするために、課題が提出されます。課題は、自宅にて復習として問題を解き、解答をレポート形式にまとめて提出してもらいます。演習や課題の正解解答について、授業時間内に説明・フィードバックすることで、理解を深めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	人工知能とは何か/人工知能の歴史	本講義全体で学ぶ概要について説明します。人工知能の歴史を学び、人工知能研究の背景、汎用 AI・特化型 AI 等についての知識を学びます。
第 2 回	状態空間と探索	探索問題の基礎を学びます。深さ優先探索、幅優先探索などの探索手法の基本となるアルゴリズムを理解します。
第 3 回	探索プログラム	探索手法を実際プログラムで実現し、オープンリストの大きさの変化を体験します。
第 4 回	最適探索手法	探索を効率化するための手法として、最適探索、最良解優先探索、A*アルゴリズムを学びます。
第 5 回	ゲームの理論	ゲーム理論の基本として、利得行列による戦略決定法を学びます。さらに、対戦ゲームの探索木に対する最良解を探索するミニマックス法や α β 枝刈り法などについて学びます。

第 6 回	確率とバイズの定理	確率について復習した後、条件付確率やバイズの定理を学びます。さらに、状態の確率的遷移もである確率システムについて学びます。
第 7 回	中間試験	本講義の前半で学んだことについて、確認テストを実施します。
第 8 回	強化学習	世界の状態を報酬の形で徐々に学習する強化学習という概念と、Q 学習について学びます。また、教師あり/なし学習と強化学習の関係を学びます。
第 9 回	分類木	複数属性を持つものを、情報エントロピーによって効率的に分類する手法を学びます。
第 10 回	ニューラルネットワークの基礎	ニューラルネットワーク/深層学習の基本原理を学びます。順伝搬と逆伝搬による学習モデルを理解します。
第 11 回	ニューラルネットワークのプログラミング	ニューラルネットワークの簡単なプログラム構造を学び、人工知能システム構築の基礎を理解します。
第 12 回	自然言語処理	形態素解析、構文解析、意味解析、文脈解析などの自然言語処理の基本を学びます。
第 13 回	命題論理、述語論理	命題論理値や述語論理に基づく論理的な推論手法について学びます。
第 14 回	まとめ	人工知能についての最近の話題や、倫理やプライバシー保護の問題も含めて、人工知能に関連する研究動向・社会動向を学びます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、各週につき 4 時間を標準とします。

教科書として指定したテキスト、Web 上の資料を事前に学習します。課題が与えられた場合には、解を導き、レポートにまとめて提出します。レポートは、解だけでなく、解を導き出した過程についても十分な説明を行うことが求められます。課題の解答については、翌週の授業内で解説します。

【テキスト（教科書）】

イラストで学ぶ人工知能概論 改訂第 2 版
谷口忠大
講談社、2020 年

【参考書】

エージェントアプローチ 人工知能 第 2 版
Stuart Russel, Peter Norvig
共立出版、2008 年

【成績評価の方法と基準】

中間テストの成績を 40%、期末試験の成績を 60%とし、成績評価する。演習の取組状況、課題の提出状況について、加点することがあります。

【学生の意見等からの気づき】

学生の理解を深めるために、演習を行います。

【学生が準備すべき機器他】

情報機器使用(任意項目)
ネットワークを利用
演習にはノート PC を利用

【その他の重要事項】

本講義は複数クラスで内容を統一し、講義内容・教材を担当教員で共同で作成している。また、その内容は担当教員の企業での人工知能システムの研究開発に関する経験に基づく人工知能に関する講義である。

【Outline (in English)】

[Course outline]

Students learn the basic knowledge of artificial intelligence. Artificial intelligence is an area for studying intelligent behaviors and thoughts by computer. Knowledge representation, inference, search and learning are important basic issues in artificial intelligence. This lecture introduces the brief history and the base of artificial intelligence and take practices for using the technologies.

[Learning objective]

Artificial intelligence is one of the most attracting areas of computer science. This course present the knowledge of the artificial intelligence necessary for students who learn science.

[Learning activities outside of classroom]

Students will be expected to have completed the required assignments after each class. Your study time at home will be more than four hours for a class.

[Grading criteria / policy]

Your overall grade in the class will be decided based on the following

interim examination (40%)

final examination (60%)

We may give additional points for questions at class and homework.

HUI213KA-CS-221

人工知能

藤田 悟

必選区分： | 配当年次/単位：2～4 年次 / 2 単位 | 開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：〈優〉〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

人工知能という学問分野について、基礎知識を修得します。人工知能は、計算機により、知的な振る舞いの再現を目指した学問分野です。

計算機上で知的行動を再現するための基盤技術として、様々な知識表現、推論手法、探索手法、学習手法が研究されてきました。本講義では、人工知能の基礎を理解することをテーマに、汎用な基盤技術に焦点を当てて解説と演習を行います。

【到達目標】

人工知能という技術分野について、他の人に十分な説明を行うことができるようになります。特に、論理的な知識表現の方法、知識を用いた推論方法、探索木を用いた探索手法、新しい知識を得るための学習手法について、基礎的な考え方や、古典的な実現手法を学びます。

例題を通して、上記の手法について、具体的な操作手順を身に付けることができます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

情報科学部ディプロマポリシーのうち「DP3-1」と「DP4-1」、「DP4-2」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は、講義形式を基本としています。講義の中では、概念を教えるだけでなく、例題を用いて振る舞いを説明します。そして、例題の一部の形を変えた演習問題に取り組んでもらいます。また、より深い理解をするために、課題が提出されます。課題は、自宅にて復習として問題を解き、解答をレポート形式にまとめて提出してもらいます。演習や課題の正解解答について、授業時間内に説明・フィードバックすることで、理解を深めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	人工知能とは何か/人工知能の歴史	本講義全体で学ぶ概要について説明します。人工知能の歴史を学び、人工知能研究の背景、汎用 AI・特化型 AI 等についての知識を学びます。
第 2 回	状態空間と探索	探索問題の基礎を学びます。深さ優先探索、幅優先探索などの探索手法の基本となるアルゴリズムを理解します。
第 3 回	探索プログラム	探索手法を実際のプログラムで実現し、オープンリストの大きさの変化を体験します。
第 4 回	最適探索手法	探索を効率化するための手法として、最適探索、最良解優先探索、A*アルゴリズムを学びます。
第 5 回	ゲームの理論	ゲーム理論の基本として、利得行列による戦略決定法を学びます。さらに、対戦ゲームの探索木に対する最良解を探索するミニマックス法や α β 枝刈り法などについて学びます。

第 6 回	確率とバイズの定理	確率について復習した後、条件付確率やバイズの定理を学びます。さらに、状態の確率的遷移もである確率システムについて学びます。
第 7 回	中間試験	本講義の前半で学んだことについて、確認テストを実施します。
第 8 回	強化学習	世界の状態を報酬の形で徐々に学習する強化学習という概念と、Q 学習について学びます。また、教師あり/なし学習と強化学習の関係を学びます。
第 9 回	分類木	複数属性を持つものを、情報エントロピーによって効率的に分類する手法を学びます。
第 10 回	ニューラルネットワークの基礎	ニューラルネットワーク/深層学習の基本原理を学びます。順伝搬と逆伝搬による学習モデルを理解します。
第 11 回	ニューラルネットワークのプログラミング	ニューラルネットワークの簡単なプログラム構造を学び、人工知能システム構築の基礎を理解します。
第 12 回	自然言語処理	形態素解析、構文解析、意味解析、文脈解析などの自然言語処理の基本を学びます。
第 13 回	命題論理、述語論理	命題論理値や述語論理に基づく論理的な推論手法について学びます。
第 14 回	まとめ	人工知能についての最近の話題や、倫理やプライバシー保護の問題も含めて、人工知能に関連する研究動向・社会動向を学びます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、各週につき 4 時間を標準とします。

教科書として指定したテキスト、Web 上の資料を事前に学習します。課題が与えられた場合には、解を導き、レポートにまとめて提出します。レポートは、解だけでなく、解を導き出した過程についても十分な説明を行うことが求められます。課題の解答については、翌週の授業内で解説します。

【テキスト（教科書）】

イラストで学ぶ人工知能概論 改訂第 2 版
谷口忠大
講談社、2020 年

【参考書】

エージェントアプローチ 人工知能 第 2 版
Stuart Russel, Peter Norvig
共立出版、2008 年

【成績評価の方法と基準】

中間テストの成績を 40%、期末試験の成績を 60%とし、成績評価する。演習の取組状況、課題の提出状況について、加点することがあります。

【学生の意見等からの気づき】

学生の理解を深めるために、演習を行います。

【学生が準備すべき機器他】

情報機器使用(任意項目)
ネットワークを利用
演習にはノート PC を利用

【その他の重要事項】

本講義は複数クラスで内容を統一し、講義内容・教材を担当教員で共同で作成している。また、その内容は担当教員の企業での人工知能システムの研究開発に関する経験に基づく人工知能に関する講義である。

【Outline (in English)】

[Course outline]

Students learn the basic knowledge of artificial intelligence. Artificial intelligence is an area for studying intelligent behaviors and thoughts by computer. Knowledge representation, inference, search and learning are important basic issues in artificial intelligence. This lecture introduces the brief history and the base of artificial intelligence and take practices for using the technologies.

[Learning objective]

Artificial intelligence is one of the most attracting areas of computer science. This course present the knowledge of the artificial intelligence necessary for students who learn science.

[Learning activities outside of classroom]

Students will be expected to have completed the required assignments after each class. Your study time at home will be more than four hours for a class.

[Grading criteria / policy]

Your overall grade in the class will be decided based on the following

interim examination (40%)

final examination (60%)

We may give additional points for questions at class and homework.

COT311KA-CS-204

プログラミング 4(Java)

馬 建華

必選区分： | 配当年次/単位：3~4 年次 / 4 単位 | 開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

To learn important programming techniques for making practical information systems using Java APIs of GUI, file operations, multi threads, socket-based communications, and Web server-client programming.

【到達目標】

Students should master basic knowledge and skills for practical GUI implementation, file I/O programming, file text programming, thread programming, typical animation control, basic server-client network programming, and typical Web programming techniques.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

情報科学部ディプロマポリシーのうち「DP4-3」に関連

【授業の進め方と方法】

The course will start from GUI programming using Java Swing and JavaFX, then file I/O operations and network programming using sockets and threads, to Web programming using Java Servlet and JSP. When learning the associated programming knowledge, students will do related programming drills, and complete many programming exercises. In each class, students are requested to make practice of given programs and then complete homework within a week. Students are encouraged to ask questions and inform their problems encountered in doing programming drills in class, and send their questions after class.

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Introduction	Basic Java programming review and course teaching guidance
2	GUI Basic	Simple GUI by Swing and AWT
3	GUI Event	Java event handling and graphic panels
4	GUI Component and Layout	Various Java Swing components and layouts
5	GUI by JavaFX (I)	JavaFX components and layouts
6	GUI by JavaFX (II)	JavaFX controls and events
7	GUI and Animation	GUI review, and GUI-based animation programs
8	File Operations	File I/O, streams, read and write
9	Multi-Thread Programming	Thread, multi threads, thread programming, and animations
10	Basic Network Programming	HTTP, Web server access APIs, and socket communications
11	Threaded Network Programming	Server-client sockets programmed using threads
12	Web Programming - Servlet	HTML, HTTP, servlet APIs, session, and program
13	Web Programming - JSP	Java sever pages, JSP APIs, and JSP programming

14 General Review Review of GUI, file, thread, and network programming

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

Students will do preview before class and do review and assignment after class. Eight hours will be necessary to do the preview, review and assignment/homework in each week.

【テキスト (教科書)】

Lecture notes and programs made by this instructor.

【参考書】

高橋麻奈, やさしい Java 活用編 第 5 版, 2016.

【成績評価の方法と基準】

Overall evaluation (100%) will be based on

- learning performance
- programming homework
- term exam

【学生の意見等からの気づき】

Give more explanations and hints in doing homework.

【学生が準備すべき機器他】

Bring Note PC to the class.

【その他の重要事項】

Submit homework before the deadline.

Ask the teacher and TAs when having any questions in teaching content and programming.

【Outline (in English)】

In this course, students will learn programming knowledge and techniques covering GUI with Swing and JavaFX, basic animation programming, file operations, thread usage, socket programming for file transfer and group communications, and Web programming with servlet and JSP. In each class, this instructor will first teach necessary programming techniques together with related programs, and then students will do programming drills. Students will be requested to complete the program assignment after each class.

COT211KA-CS-342

コンピュータネットワーク

廣津 登志夫

必選区分： | 配当年次/単位：2~4 年次 / 2 単位 | 開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代社会を支える重要なインフラストラクチャの一つであるインターネットについて、その仕組みと構成を学ぶ。ネットワークは独立したシステムが相互に情報をやり取りすることから、ハードウェアからアプリケーションに至るまで様々なところで取り決め（プロトコル）がある。ここでは、その個々の機能を理解すると同時に、取り決めとなるプロトコルとの関係にも触れる。

【到達目標】

現在のインターネット社会を支える TCP/IP を中心に、その仕組みとアプリケーションとの関わりを理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

情報科学部ディプロマポリシーのうち「DP4-1」に関連

【授業の進め方と方法】

この講義では Internet の仕組みについて、まず、アプリケーション側から理解をすすめる、socket API などのアプリケーションプログラミングの観点から見たネットワークを理解する。さらに、Ethernet, WiFi, 5G といったネットワークを構成するハードウェアについても学び、特定のハードウェアに依存しない、インターネット層の IP やトランスポート層プロトコルの中心である TCP へと学習を進めていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ネットワークとは何か？	通信とその目的を考え、ネットワークの基本的な考え方を学ぶ
2	インターネットの概観	要素技術を理解する前提として、インターネット技術を概観する
3	Web	アプリケーションの挙動の典型例として Web 技術を学ぶ
4	DNS, Mail, Secure 通信	DNS による名前解消など通信の基本となるアプリケーションを知る。また他のアプリケーション通信についても触れる。
5	Socket API	プログラムからみたネットワークインタフェースである socket を知る
6	Socket Programming	Socket を使ったプログラミングを学ぶ
7	通信を支えるメディア	通信の基盤となるメタル線・光ファイバ・電波などの通信メディアについて知る。
8	有線ネットワーク：Ethernet	広く使われている有線ネットワークである Ethernet について学ぶ
9	無線ネットワーク：WiFi/5G	WiFi や 5G といった無線通信技術について学ぶ
10	ネットワーク層プロトコル：IP	インターネットの通信の核をなす IP の基礎を学ぶ
11	ネットワーク層プロトコル：IPv6	現在移行が進みつつある IPv6 について学ぶ
12	トランスポート層プロトコル：TCP	端末間の通信環境を提供するトランスポートプロトコルの代表である TCP について学ぶ
13	トランスポート層プロトコル：UDP	様々な場面で活用される UDP について学ぶ

14 まとめ 全体を概観してまとめの話をする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、各週につき 4 時間を標準とする。
課題を課した週についてはメ切までに終わらせて提出すること。

【テキスト（教科書）】

特定の教科書は用いず、講義資料を投影する。
CIS Moodle から講義後に必要と考えられる部分は提供するが、基本的にノートを取って内容を把握すること。

【参考書】

講義中にも適宜紹介するが、必要と思う場合は以下のものを薦める。
・J.Kurose,K.Ross, "Computer Networking –Top-Down Approach–", Addison Wesley

【成績評価の方法と基準】

講義への出席と全ての必須課題の提出は成績評価の前提条件となる。
期末試験を実施し、理解度を評価する。
成績は、期末試験を 70%、課題提出を 30%で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【その他の重要事項】

本講義の内容は担当教員の企業でのネットワーク技術に関する研究・開発の経験を元にしている。

【Outline (in English)】

[Course outline]

Students learn about the Internet, one of the key infrastructures in the current society, its structure and configuration. Computer networks exchanges information between independent systems, thus there are some specific protocols in various layers of the system from hardware to applications. This lecture is designed to understand their individual functions and the relationship with the protocols for each.

[Learning Objectives]

Students expected to understand core concepts of Internet, its mechanism and relation ship between application and protocol layers.

[Learning activities outside of classroom]

Students will be expected to spend four hours to pre/post study of the course including programming the homework and next week's pre-studying contents.

[Grading Criteria /Policy]

Attending the class and submission of exams and reports are prerequisite for the evaluation.

Final grade will be calculated according to the following process; term-end examination (70%), and homework (30%).

COT311KA-CS-343

サービスコンピューティング

佐治 信之

必選区分： | 配当年次/単位：3~4 年次 / 2 単位 | 開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

インターネット上に展開される様々なサービスと、それを支える Web システムについての各種の基本技術を学び、実サービス構築で求められるセキュリティ技術、脆弱性対策、セッション管理、データ表現方式について理解する。

手元の PC 上で簡単な Web サイトを動作させながら個々の Web 技術の理解を深める。

さらに、最近のサービス事例を通じて、サービス改善やサービス創出の課題理解に役立つ、顧客体験の視点、社会的受容性、情報技術の考え方の基礎を身につける。

【到達目標】

Web システムの基本技術について理解し、HTTP、HTML、CSS などの役割を説明できる。

Web システムにおけるブラウザと Web サーバの役割、サーバ構築方法、ブラウザ操作言語、Web セキュリティ等の主要な技術について説明できる。

Web システムにおけるサービス構成方法について説明できる。クラウドコンピューティングに代表される最新のサービスコンピューティング技術について基本部分を説明できる。

様々なサービスの実情、課題、サービスモデルについて基本部分を説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

情報科学部ディプロマポリシーのうち「DP4-1」に関連

【授業の進め方と方法】

Web システムの仕組みを、HTML やプログラミング言語を用いて実装を交えて説明する。また、実際にオープンソースのさまざまなツールを用いて簡易の Web システムの動作確認による演習を行う。様々なサービス事例の紹介を通じて、その背景（課題等）と技術の関係を知ってもらう。

各自の理解度を知るために、授業内の小テスト等を活用する。授業で課した課題（小テストやレポート）等を取り上げ、授業内で全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	サービスとは何か	サービス視点、顧客体験視点の重要性、およびサービス産業の動向や IT(情報技術) との関係について紹介する。
第 2 回	Web の基本技術 1	Web を支える基本技術として、Web サーバから Web ブラウザに情報が表示されるまでの仕組みについて学ぶ。
第 3 回	Web の基本技術 2	Web サーバの基本的なアーキテクチャについて学ぶ。また、オープンソースの Web サーバを立ち上げる。
第 4 回	Web の基本技術 3	簡単な Web サイト構築と動作確認を行う。
第 5 回	Web セキュリティ 1	共通鍵・公開鍵方式等の暗号技術の基礎と、Web を支える暗号通信について学ぶ。
第 6 回	Web の状態管理	Cookie、Session を用いて状態を保持した Web システムの構築手法を学ぶ。

第 7 回	データベースと Web サーバ	データベースと Web サーバを使って、動的な Web ページを作成する技術について学ぶ。
第 8 回	Web セキュリティ 2	Web 構築の際に考慮すべきセキュリティ事項を明らかにする。そのための対処法も学ぶ。
第 9 回	DOM と AJAX	Web 文書のオブジェクトモデルと非同期通信を用いた Web ページの更新方式として AJAX を学ぶ。
第 10 回	データ表現	さまざまなデータ表現の方法を学ぶとともに、XML の基礎と文書のスキーマ定義等について理解する。
第 11 回	サービスコンピューティング基盤技術	インタフェースの重要性、クラウドコンピューティングと NoSQL 等の様々な最新技術について学ぶ。
第 12 回	サービスイノベーション 1	サービス事例（決済、物流、店舗、交通等）を通じて、サービスイノベーション、今後の方向性と課題、技術との関わりについて知る。
第 13 回	サービスイノベーション 2	サービス事例（続）、各種サービスモデル、サービスドミナントロジックに代表されるサービスサイエンスについて学ぶ。
第 14 回	総復習	全講義を通じて重要事項の総復習を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内の小テスト等を利用して自己の理解度を把握すること。講義資料を活用して理解を深めること。本授業の準備・復習時間は、計 4 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

オンライン資料を用いる。特定の教科書は使用しない。

【参考書】

講義内で紹介する（書籍、Web リンク他）。

【成績評価の方法と基準】

- ・期末試験の成績 (50%程度)
- ・レポート (20%程度、内容未定)
- ・講義出席 (30%程度、平常点、講義内小テスト、講義貢献度)

【学生の意見等からの気づき】

実際の Web サイトを使った動作確認により、理解を助ける工夫をする。

講義の冒頭で必要に応じて前週の復習と確認を行う。講義中の小テスト等により、内容の理解度の確認を行う。

【学生が準備すべき機器他】

ネットワークを利用

Web サイト使用には各自のノート PC を用いる

【Outline (in English)】

* Course outline

This course provides an overview of the basic technologies of various services on the Internet and the Web systems, as well as web security, vulnerability management, session management, and data representation methods expected in the building of actual services.

Students will also learn about Web technologies by running a simple website on their own PC.

Furthermore, through recent service trends and case studies, students will learn about the fundamentals of the user experience perspectives, social acceptability, and the information technology, useful for understanding issues in service improvement and service creation.

* Learning Objectives

Learn about the basic technologies of Web systems.

Acquire the knowledge to explain the roles of browsers and Web servers, server architecture, browser manipulation methods, Web security, and other major Web technologies.

Understand the basics of various service practices, issues, and service models.

* Learning activities outside of classroom

Use in-class tests to assess your comprehension level.

Use the lecture materials to improve your understanding. The standard preparation and review time is 4 hours every week.

* Grading Criteria / Policy

Examination scores (about 50%)

Report scores (about 20%)

Attendance at class, including online sessions (about 30%, active involvement, in-class tests)

COT310KA-CS-253

オペレーションズリサーチ

小西 克巳

必選区分： | 配当年次/単位：3~4 年次 / 2 単位 | 開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

様々な意思決定問題に対する数理モデルの構築やその解決を扱うオペレーションズリサーチについて学ぶ。問題を定式化するための知識、および、それらを解くための最適化手法や機械学習手法について学び、意思決定問題の抽象化や既存の解法から適切なものを選び求解し、その妥当性を吟味することができることを目標とする。

【到達目標】

様々な意思決定問題の抽象化ができ、既存の解法から適切なものを選び求解し、その妥当性を吟味することができることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

情報科学部ディプロマポリシーのうち「DP4-1」と「DP4-2」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式を基本とし、必要に応じて演習も行う。

提出されたレポート課題は、授業中の解説によってフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	講義の構成と進め方に関するガイダンスおよびオペレーションズリサーチの概説
2	モデル化と数理計画問題	オペレーションズリサーチにおけるモデル化と数理計画問題の概要
3	線形計画法	線形計画法の概要、シンプレックス法の原理とシンプレックス法による線形計画問題の解法
4	整数計画法	双対問題、相補性条件
5	多変量解析	多変量解析の基礎と応用
6	主成分分析	主成分分析の基礎、教師なし学習としての主成分分析
7	クラスタリング	データのクラスタリング手法、教師なし学習とクラスタリング
8	これまでの復習と演習	第1回～7回までの復習と演習
9	ネットワーク最適化	最短経路問題などのネットワーク最適化問題と解法
10	ゲーム理論 (1)	ゲーム理論の概要
11	ゲーム理論 (2)	単純な問題とその解法、安定結婚問題
12	マルコフモデル	マルコフモデルの基礎
13	待ち行列理論 (2)	待ち行列モデルの理論
14	総復習と演習	第1回～13回までの復習と演習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

参考資料の予習、復習、課題への取り組み。

本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、各週につき4時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

なし

【参考書】

講義にて指示。

【成績評価の方法と基準】

到達目標への達成状況を確認する期末試験の成績を100%として評価する。

【学生の意見等からの気づき】

なし。

【学生が準備すべき機器他】

貸与パソコン（適宜指示する）

【Outline (in English)】

This course introduces the foundations of operations research to students and aims to help students acquire an understanding of mathematical formulation of the problem and methods to solve these problems. Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class. Your overall grade in the class will be decided based on the following Term-end examination: 100%

COT311KA-CS-301

オブジェクト指向プログラミング

雪田 修一

必修区分： | 配当年次/単位：3~4 年次 / 2 単位 | 開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

オブジェクト指向開発におけるデザインパターンを Java 言語を通じて学ぶ。

【到達目標】

GOF の 23 のパターンのうち特に多く使われている 12 のパターンに習熟し、オブジェクト指向開発でパターンを意識した設計やプログラミングができるようになる。デザインパターンの言葉を設計者・プログラマーの間のコミュニケーションツールとして使いこなせるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

情報科学部ディプロマポリシーのうち「DP4-1」と「DP4-3」に関連

【授業の進め方と方法】

毎回、1つのパターンを取り上げ、解説する。適宜、適用例をめぐって討論を行う。毎回、授業外で行うべき課題が出される。授業で課した課題（小テストやレポート）等を取り上げ、授業内で全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	Iterator パターンと Adapter パターン	最も優しい 2 つのパターンを取り上げ、講義の目的と方法を説明し、履修すべきか判断するための材料を提供する。教科書の Introduction に相当。
第 2 回	Template Method パターンと Factory Method パターン	抽象化の重要性を 2 つのパターンを通じて意識化する。
第 3 回	Singleton パターンと Prototype パターン	インスタンス生成の仮想化、抽象化について学ぶ。
第 4 回	Builder パターンと Abstract Factory パターン	オブジェクトの生成を抽象化するための Factory パターンについて学ぶ。
第 5 回	Bridge パターンと Strategy パターン	直交する抽象化階層を理解する。
第 6 回	Composite パターンと Decorator パターン	入れ子の構造の定石を学ぶ。
第 7 回	Visitor パターンと Chain of Responsibility パターン	Double dispatch の手法を体験する。
第 8 回	Facade パターンと Mediator パターン	異なるインターフェースを結合するパターンと様々なインターフェースの集まりに単純なインターフェースを提供するパターンについて学ぶ。
第 9 回	Observer パターンと Memento パターン	GUI ライブラリーで基本となるパターンを学ぶ。
第 10 回	State パターンと Flyweight パターン	有限状態マシンに対して、状態の追加がストレスなくできるパターンについて学ぶ。
第 11 回	Proxy パターンと Command パターン	メソッド呼び出しを抽象化してローカル、リモートの区別をクライアントプログラムから隠すためのパターンを学ぶ。

第 12 回 Interpreter パターン 簡易プログラミング言語の作成パターンについて学ぶ。

第 13 回 オブジェクト指向の一般原理 (1) Liskov substitution, Open closed, Dependency inversion などの原理を学ぶ。

第 14 回 オブジェクト指向の一般原理 (2) Composition over inheritance, Interface segregation, Least knowledge などの原理を学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎週の課題に取り組む。

本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、各週につき 4 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

増補改訂版 Java 言語で学ぶデザインパターン入門, 結城浩, SoftBank Kindle 版もある。

【参考書】

Head First Design Patterns, E. Freeman, free online version is available.

【成績評価の方法と基準】

期内レポート (50%), 期末試験 (50%)

【学生の意見等からの気づき】

レポートの採点基準を事前に公示し、授業時間内で実例を交えて説明する必要がある。

【学生が準備すべき機器他】

貸与パソコン。

【Outline (in English)】

We study design patterns in object oriented software developments using the Java language. We focus on GOF's famous 23 patterns.

Students will be able to write OOP systems using the patterns. They will also be able to explain the effects of abstraction that are at the core of the patterns. All these abilities are checked by the term examination (50%) and the weekly assignments (50%),

in each of which an average student spends four hours.

COT311KA-CS-262

情報検索

相島 健助

必選区分： | 配当年次/単位：3~4 年次 / 2 単位 | 開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

情報検索の基盤となるアルゴリズム、手法、評価方法を理解することを目標とする。情報検索とは、google などの検索サービスの根幹となる技術であり、現在の情報アプリケーションの中で最も重要な技術の一つである。この技術は、全文検索と呼ばれる技術を基盤とし、様々な技術を加えて進歩してきた。本講義では、それらのうち中心的な技術の数理的な意味を理解することを目標とする。また、リコメンデーションなどの応用的な話題も紹介する。

【到達目標】

単に google などのしくみを理解するだけでなく、大量のテキスト情報を扱うアプリケーションを扱うための基本スキルを身に付ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

情報科学部ディプロマポリシーのうち「DP4-1」と「DP4-2」に関連

【授業の進め方と方法】

卒業研究などで実践的に役立つ技能の習得のために、取り上げる手法は、実際のデータが処理できる簡単なプログラミング例と関連付けて学びます。紹介する手法を簡単に実行するために、MATLAB などのプラットフォームや java のライブラリなどを利用します。演習課題を通して、処理手法の基礎を身に付けることを目標とします。課題（試験やレポート等）に対するフィードバック方法として、授業の初めに、前回の授業内で行った試験や小レポート等、課題からいくつか取り上げ、全体に対して講評や解説を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	この講義の意義とどのような内容をカバーするかを説明します。
2	情報検索概論	情報検索とは何かについて学びます。
3	検索キーワードと索引付け	情報検索に利用する検索キーワードの選定方法と、それを用いて、文書を索引付けする方法を学びます。
4	キーワードのスコア	検索キーワードのスコア付けの方法として TF/IDF 法などを学びます。
5	検索結果の改善法	検索結果の改善方法として、関連性フィードバックやクエリ拡張について学びます。
6	文書の信頼性尺度	文書の信頼性尺度として Pagerank について学びます。
7	簡単な検索演習	これまでに学んだことを実際にプログラミングする演習を行います。
8	画像の検索	画像検索の現状について説明します。残念ながら、純粋に画像の性質を使った検索ではなく、周囲の文字情報が用いられているようです。講義では、画像それ自体の情報を用いて検索をする場合に、利用可能な特徴量について説明します。それにより、画像間の類似度を定義します。
9	検索結果の評価	検索結果の評価尺度や評価方法について学びます。

10	商品の類似性、利用者の類似性	利用者の嗜好情報、購買履歴などのデータから、商品の類似性、利用者の類似性を計算する方法を理解します。
11	リコメンデーション	商品や利用者の類似性に基づき、利用者にリコメンデーションの商品を決定する方法を学びます。
12	クラスタリング	大量の多次元のベクトルであらわされた利用者の嗜好情報から、似た嗜好をもつグループをクラスタ化する方法を学びます。
13	XML ストリームデータ検索	インターネット情報を連続的に流れる XML データから、必要なデータだけを抽出する方法について学びます。
14	まとめ	課題の講評などを行います

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内容に関する課題を復習として出題する。本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、各週につき 4 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

なし。

【参考書】

書名: Introduction to Information Retrieval
著者名: Christopher D. Manning/Prabhakar Raghavan/Hinrich Schütze
出版社: Cambridge University Press
出版年: 2008

備考: <http://nlp.stanford.edu/IR-book/information-retrieval-book.html> で内容を確認することができる。

日本語版は「情報検索の基礎」（共立出版）

書名: 集合知プログラミング

著者名: Toby Segaran

出版社: オライリー・ジャパン

出版年: 2008

【成績評価の方法と基準】

定期試験の点数（60%）と課題（40%）を総合して決定する。いずれかを行わなかったものは不合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

難しい概念が多いため、説明のための具体例や演習の例題を多く示すことにする。

【学生が準備すべき機器他】

ノート PC を用いて演習を行う。学習支援システムを利用する。

【その他の重要事項】

「統計学 1」、「線形代数の応用 2」を履修しておくこと。

【Outline (in English)】

This course covers algorithms, techniques, and evaluation methods for information retrieval. The information retrieval is a fundamental technique to search engines such as google, which is one of the most important techniques in current information applications. Since this kind of technique is based on full-text search, it is now successfully applied to other content-based searching. The purpose of this course is to understand mathematical aspects of the information retrieval. In addition, this course covers more advanced contents such as recommender systems.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading will be decided based on term-end examination (60%) and lab reports (40%).

HUI311KA-CS-322

ユビキタスコンピューティング

馬 建華

必修区分： | 配当年次/単位：4 年次 / 2 単位 | 開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：〈グ〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This course covers ubiquitous computers, devices, networks, applications and key technologies in ubiquitous systems and services. Students are expected to learn a systematic knowledge on ubiquitous computing as well as various ubiquitous applications.

【到達目標】

This course attempts to provide a unified overview of the broad field of ubiquitous computing. Students are expected to understand ubiquitous devices from RFID, sensors, wearables, various ubiquitous networks, as well as key technologies including context-awareness, smart u-things, IoT, security, privacy, etc.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

情報科学部ディプロマポリシーのうち「DP4-2」に関連

【授業の進め方と方法】

This course will first give general introductions of ubiquitous computing, essential devices, important networks and representative services, and then check various ubiquitous devices including RFID, e-tag, sensors, handhelds, wearable devices, robots, IoT, etc. as well as their typical applications. The context as a special kind of information in ubiquitous computing will be described in details and related context-aware computing technologies, systems and application will be presented. Various key issues in ubiquitous computing smartness, intelligence, security, safety, trust and related social issues will be discussed. In each class, a student is requested to write a summary of main content learnt in the the class. Students are also requested to write four reports corresponding to the four parts of this course. Students are encouraged to ask questions in class and via email after class. All questions will be answered and feedback promptly in class or after class.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Introduction to Ubiquitous Computing	What is ubiquitous computing? History & features of ubiquitous computing related visions & technologies
2	Introduction to Ubiquitous Computers, Networks and Services	Various ubiquitous computers devices, pervasive networks and smart services
3	RFID Technologies and Applications	RFID categories, working mechanisms, standards, technologies, systems and applications
4	Sensors and Sensor Networks	Various sensors, their features, interconnections and applications
5	Handheld Devices, Wearables and Robots	Handheld devices, wearable devices, and robots in UbiComp

6	Context and Context-Aware Computing	Context classifications, features and models, and context-aware computing
7	Context-Aware Technologies, Systems and Applications	Architectures of context-aware systems, and context-aware applications
8	Smart u-Things and Ubiquitous Intelligence	Classifications of smart things, and their techniques and intelligence
9	Internet of Things (IoT)	Characteristics of IoT, their system models, typical applications, and technical challenges
10	Security, Safety and Trust in Ubiquitous Computing	Features and technologies of ubiquitous security, safety and trust
11	Social Issues in Ubiquitous Computing	Privacy, green/eco, social issues and ethic problems in ubiquitous computing
12	Ubiquitous Activity Recognition	Activity categories of human and animal, data collection using ubiquitous devices, activity recognition algorithms and applications
13	Ubiquitous Emotion Recognition	Affective computing, sentiment analysis, vital sign sensors, emotion recognition
14	Emerging Ubiquitous Technologies	New ubiquitous technologies and applications

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Read the corresponding lecture note before each class, review the content after each class, well prepare the requested report after class, and submit each report before its deadline. Students will be expected to spend four hours to preview the lecture notes and review the content learnt and complete assignment in each class according to grading policy.

【テキスト（教科書）】

Online course materials provided by this teacher.

【参考書】

・ Related materials on the Internet

【成績評価の方法と基準】

Overall evaluation (100%) will be based on
- online class reports (10%)
- four reports about ubiquitous technologies (40%)
- term exam (50%)

【学生の意見等からの気づき】

Provide more representative ubiquitous research.

【学生が準備すべき機器他】

Bring a PC.

【Outline (in English)】

The course consists of four parts, ubiquitous devices, ubiquitous networks, ubiquitous technologies, and ubiquitous applications in IoT, smart things and daily life assistance. The students are expected to have a comprehensive understanding on various aspects in ubiquitous computing. Students will be expected to spend four hours to preview the lecture notes and review the content learnt and complete assignment in each class according to grading policy. Overall evaluation (100%) will be based on online class reports (10%), four reports about ubiquitous technologies (40%), and term exam (50%).

FRI13KA-CS-232

コンピュータグラフィックス

佐藤 周平

必選区分： | 配当年次/単位：3~4 年次 / 2 単位 | 開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

コンピュータグラフィックス (CG) は、代表的なゲームや映画、テレビ番組などの身近なところから、建築物の設計や医療機器など幅広く必要とされるようになっている。このように様々な分野で利用されている CG 技術について、その基礎技術と最新技術について理解を深めること、また基本的なアルゴリズムを実装出来るようになることを目標とする。

【到達目標】

CG の基本的な要素であるモデリング、レンダリング、アニメーションについて理解し、簡単なプログラムの作成を通して実際に CG を生成できるようになることを目標とする。本講義を通して CG 技術の全体像を理解し、実際に実装もすることで、より深く理解できるようになることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

情報科学部ディプロマポリシーのうち「DP4-1」と「DP4-2」に関連

【授業の進め方と方法】

講義とプログラミングの演習を行う。プログラミング言語として主に C/C++ を用いる。レンダリングソフトウェアとして Mitsuba (Python を使用) および POV-Ray を用いる。必要に応じて他の CG 関連言語・ツールを用いる。

課題の提出は Google フォームで行い、質疑応答および提出された課題の解説・フィードバックは適宜授業内および Slack で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス, 導入	CG の概要
2	カメラモデル	透視投影, 平行投影, 射影変換
3	2 次元座標	2 次元座標系, アフィン変換, 同次座標
4	3 次元座標	3 次元座標系, 同次座標
5	ビューイングパイプライン	モデリング変換, 視野変換, 投影変換, クリッピング
6	形状モデル	ワイヤーフレーム, サーフェス, ソリッドモデル
7	曲線・曲面	2 次曲線, パラメトリック曲線 / 曲面
8	ボリュウム表現	ボクセル, メタボール
9	隠面消去	スキャンライン法, Z バッファ法, レイトレーシング法
10	シェーディング, 影付け	シェーディング, 影付け
11	大域照明計算, マッピング	大域照明計算, テクスチャマッピング, バンプマッピング
12	アニメーション	キーフレーム, 手続き型アニメーション
13	シミュレーション	剛体, 弾性体, 流体
14	最新研究の紹介	CG の最新研究の紹介

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストや講義資料の復習と課題に取り組む必要がある。必要に応じて PC でのプログラミングも行う。本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、各週につき 4 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

コンピュータグラフィックス 改訂新版, CG-ARTS 協会, 2015, 税抜 3,600 円 (電子版あり)

【参考書】

必要に応じて授業内で紹介する。

【成績評価の方法と基準】

演習・課題 (70%), 試験 (30%)

※ CG-ARTS が実施する CG エンジニア検定 エキスパートを受験し合格した場合には、その証明の写しを提示することで試験評価を満点として免除する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

貸与ノート PC を使用する。必要に応じて、関連ツールやソフトウェアのインストールを各自で行ってもらう。

【その他の重要事項】

事前に、CG のための幾何学を履修していることが望ましい。

また、C/C++ の講義を受講していることが望ましい。

【Outline (in English)】

【授業の概要 (Course outline)】

Techniques of computer graphics (CG) are widely used in various fields, such as, Movies, Video games, CAD, medical devices, and so on. In this course, students will study basic knowledge and techniques of CG, and will acquire programming techniques for implementing basic algorithms.

【到達目標 (Learning Objectives)】

Goals of this course are to understand three fundamental elements of CG (modeling, rendering, and animation), and to acquire programming techniques for implementing basic algorithms.

【授業時間外の学習 (Learning activities outside of classroom)】
Students should spend at least 4 hours preparing and reviewing this course.

【成績評価の方法と基準 (Grading Criteria /Policy)】

Practices and Tasks (70%), Examinations (30%)

HUI312KA-CS-332

パターン認識と機械学習

伊藤 克亘、佐藤 裕二

必選区分： | 配当年次/単位：3~4 年次 / 2 単位 | 開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

コンピュータによるパターン認識の理解を目的として、機械学習の基礎、Deep Learning の考え方とその適用法、パターン認識の基礎および機械学習に基づくパターン認識を学ぶ。

【到達目標】

機械学習の基礎、Deep Learning の基本的な考え方を理解し、具体的実装法を修得する。
パターン認識の基礎を理解し、機械学習を用いた具体的実装法を修得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

情報科学部ディプロマポリシーのうち「DP4-1」と「DP4-2」に関連

【授業の進め方と方法】

まず、機械学習の基礎を理解する。具体的には、機械学習と人工知能の関係、機械学習の分類（教師付き学習、教師なし学習、強化学習）を学び、機械学習技術をパターン認識や時系列予測問題に適用した事例紹介を行う。次に、パターン認識と最も関連性の高い、ニューラルネットワークを用いた教師付き学習を学ぶ。具体的には、単層パーセプトロン、多層パーセプトロンの紹介から始めて、Deep Learning の基本的な理論を学びながら、演習を通して、畳み込みニューラルネットワークの実装と実験を行いながら理解を深める。授業後半では、パターン認識の分類を学び、特にデータに基づくパターン認識法を学ぶ。一般的な手法として、統計的パターン認識の考え方を学ぶ。画像や音声など具体的なデータを対象に Python や MATLAB を用いてパターン認識の理解を深める。最後に、パターン認識技術を応用したデータ生成などの技法について学ぶ。演習や実験を通して講義内容の理解を深める。

課題は、主要なものを発表させ、解説する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	機械学習とは	ガイダンス、人工知能と機械学習、機械学習の分類
第 2 回	教師なし学習	統計的最適化、代表的なクラスタリング技術
第 3 回	教師付き学習 (1)	回帰分析、Support Vector Machine (SVM)
第 4 回	教師付き学習 (2)	単層パーセプトロン、多層パーセプトロン
第 5 回	教師付き学習 (3)	誤差逆伝播法
第 6 回	教師付き学習 (4)	畳み込みニューラルネットワーク、リカレントニューラルネットワーク
第 7 回	強化学習	Q-Learning、進化計算
第 8 回	パターン認識	パターン、認識、識別、特徴量、k-NN 法、認識性能の評価
第 9 回	データに基づく識別	k-NN 法、GMM、線型判別分析、パーセプトロンによる識別
第 10 回	統計的パターン認識	ベイズの定理、GMM、事後確率最大化基準による識別、決定境界
第 11 回	空間的パターン認識	次元の呪い、PCA、文字認識、キーワード認識、DNN、CNN
第 12 回	時系列パターン認識	文字認識、キーワード認識、CNN、RNN、embedding
第 13 回	深層学習によるパターン認識	特徴量空間、前処理、DNN、CNN、過学習

第 14 回 まとめ、パターン認識 事前学習済みモデルの関連技術

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- [1] 確率と統計の基礎（平均、分散共分散、確率密度関数）の復習
- [2] 線形代数の基礎（ベクトル、行列の演算）の復習
- [3] プログラミング (Python, MATLAB) の復習
- [4] 統計学 1、統計学 2、最適化を履修していることが望ましい
- [5] 本授業の準備・復習時間は、計 4 時間を標準とする

【テキスト（教科書）】

担当教員が作成した講義資料を moodle など学内 Web サイトに公開する。

【参考書】

- [1] 石井健一郎・上田修功・前田英作・村瀬洋著：「わかりやすいパターン認識」、第 2 版、オーム社、2019 年。
- [2] 斎藤康毅著：「ゼロから作る Deep Learning」、オライリー・ジャパン、2016 年。
- [3] F. Chollet 著、巢籠悠捕監訳、「Python と Keras によるディープラーニング」、マイナビ出版 2018 年。

【成績評価の方法と基準】

レポート課題 20%、定期試験 80%で総合評価する。さらに、受講態度も 20%程度加味して評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

貸与 PC、電子メールや moodle へのアクセス等ネットワークを利用する。

【Outline (in English)】

This course deals with pattern recognition and machine learning by computer. First, students learn two major approaches based on generative model and discriminative model, respectively, from the viewpoint of statistical pattern recognition. Second, the new and powerful concept of "Deep Learning" is introduced and explained in detail. Students learn how to apply deep learning techniques to practical pattern recognition problems by means of Python programming. The standard for outside study such as preparation and review of this class is 4 hours per week.

Grades will be judged comprehensively from the final exam (60%) + exercises (20%) + class participation attitude (20%).

COT211KA-CS-205

プログラミング (MATLAB)

伊藤 克亘

必選区分： | 配当年次/単位：2～4 年次 / 4 単位 | 開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

デジタルメディアの代表的データである画像や音声をコンピュータで扱うための基本的な手法を知り、実際に各自が様々な処理をできるようにすることを目標とする。これらの手法は、数学的な理論に基づくものが大半である。本講義では、まず、数学的なアルゴリズムをプログラミングすることに慣れてもらうために、数学的な詳細には余り深入りせずに、個々の手法が、音声や画像のどのような特徴に関係するのか、など、具体的な応用を中心に学ぶ。これらの手法の理解は、「パターン認識と機械学習」「デジタル信号処理」「画像処理」「音声情報処理」などを履修するのに非常に役立つ。

【到達目標】

3 年次や卒業研究で、デジタル信号処理が必要になったときに MATLAB で問題解決できる基礎を身に付ける。具体的には、MATLAB でデータを表示できる。fft や filter 関数を使って加工できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

情報科学部ディプロマポリシーのうち「DP4-2」と「DP4-3」に関連

【授業の進め方と方法】

各授業の前半は、処理内容の説明、後半は、課題を解決するためのプログラミングを行う。どちらも必要に応じて受講生による発表を交えながら進める。

課題は、後半の授業で主要なものを発表させ、解説する。最終課題のテーマに関しては、事前に提出させ、要件を満たさないものに関しては、その旨、授業で告知する。

また、最終課題のレポートに関しては、第 1 版に関して、書き方に問題がある点を授業で解説する。最終課題に関しては、優秀なものを発表会で発表させる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス/MATLAB 入門	授業の目的の説明、および MATLAB の紹介
2	簡単な音声処理（音声の時間領域処理）	音声データの入出力、重ね合わせ、連結、再生
3	簡単な画像処理	画像データの入出力と簡単な補正、加工
4	音声のフーリエ変換	FFT の使用方法と音声の周波数処理
5	フィルタ（音声の時間領域処理）	FIR フィルタ、IIR フィルタ
6	画像の周波数領域処理	FFT を用いたフィルタリング
7	画像の空間領域処理	畳み込みを用いたフィルタリング
8	音声データの相関	自己相関と信号の類似性
9	画像データの類似度	空間的な相関とそれを用いた複数画像の対応
10	複素信号	音声信号の複素数表現とそれを用いた周波数変調
11	画像の幾何学的処理	画像を空間的に変形させる手法
12	音声・画像の分類	教師つき分類
13	音声・画像処理の応用	これまで学んだことを応用してできる処理
14	まとめと最終課題の発表会	授業全体の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、各週につき 8 時間を標準とする。

準備学習として、テキストを読み予習課題に取り組む。演習時間に解けなかった課題をいくつか選び、宿題として完成させる。また、最終課題である自主課題は授業外も含めて取り組みレポートを作成する。

【テキスト（教科書）】

書名: MATLAB で学ぶ実践画像・音声処理入門

著者名: 伊藤克亘、小泉悠馬、花泉弘

出版社: コロナ社

出版年: 2019

【参考書】

書名: デジタル・サウンド処理入門

著者名: 青木直史

出版社: CQ 出版社

出版年: 2006

書名: Digital Signal Processing First, Global Edition

著者名: James H. McClellan, Ronald W. Schafer, Mark A. Yoder

出版社: Prentice Hall

出版年: 2016

書名: はじめての画像処理技術

著者名: 岡崎

出版社: 工業調査会

出版年: 2000

【成績評価の方法と基準】

定期試験 (50%) および最終課題 (50%) で評価する。ただし、最大 20% 程度、予習課題や演習課題の取り組み状況および授業での発表などの平常点を加味する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

予習、宿題、教室での説明部分では、貸与ノート PC を利用することを前提とする。演習は貸与 PC を利用することを想定する。資料配布や課題提出、定期試験に学習支援システムを利用する。

【その他の重要事項】

FFT の知識が必要なので「微積分法の応用」を履修していることを前提とする。また本講義で学ぶ技術の応用分野として「統計学 2」を並行して履修することを勧める。

また、受講希望者は、第 1 回の講義の前に、MATLAB をインストールすること。インストール方法は、情報センターの edu のページを参照すること。R2022b (もしくは R2023a) をインストールすること。

<http://software.k.hosei.ac.jp/others/>

https://software.k.hosei.ac.jp/MATLAB_manual.pdf

この授業に必要な Toolbox は、

Image Processing Toolbox

Signal Processing Toolbox

Statistics and Machine Learning Toolbox

である。

本講義の内容は担当教員の通商産業省工業技術員電子技術総合研究所での音声・知能情報処理に関する研究の経験を反映している。

【Outline (in English)】

In this lecture, you will learn basic techniques for processing images and sounds, which are representative types of digital media. Also, we aim to be able to exercise various processes by ourselves. Most of these methods are based on mathematics. As an introduction, to getting used to programming using mathematical algorithms, this lecture is not too deeply into mathematical details, how individual methods relate to features of sound and images, and so on, focusing on practical exercises. Understanding these methods is useful for taking courses such as pattern recognition and machine learning, digital signal processing, image processing, and speech processing.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend eight hours.

Final grade will be calculated according to the following process: final project (50%), term-end examination (50%), and in-class contribution.

COT211KA-CS-106

プログラミング演習 1(python)

伊藤 克亘

必選区分： | 配当年次/単位：2～4 年次 / 2 単位 | 開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

応用的なソフトウェアアプリケーションの設計方法を学ぶとともに、プログラミング言語 Python を用いてシステムの実装を行う。演習を通して、思考を具現化する道具としての実際のコンピュータの利用法を体験する。

【到達目標】

1. 応用的なプログラミング言語の機構（オブジェクト指向機能、ライブラリ機構など）を利用できる。
2. 代表的なソフトウェア構成を応用してシステムを実装できる。
3. プログラミング言語の問題解決の道具としての側面を理解できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

情報科学部ディプロマポリシーのうち「DP4-1」と「DP4-2」、「DP4-3」に関連

【授業の進め方と方法】

応用的なソフトウェア開発課題を 3 テーマ与える。各テーマに対して与えられる段階的な課題を通して最終的な実装を得る。必要となる新しい概念やプログラミング言語の知識等は都度講義を行う。

授業中に、TA に指定した回数だけ課題の確認を行うことを義務とする。

課題の進み具合によっては、GBC の TA に質問・相談することを義務とする。

課題は、授業で主要なものを発表させ、解説する。TA に対する質問などで重要なものは授業で解説する。

最終課題のテーマに関しては、事前に提出させ、要件を満たさないものに関しては、その旨、授業で告知する。

また、レポートに関しては、第 1 版に関して、書き方に問題がある点を授業で解説する。

最終課題に関しては、優秀なものを発表会で発表させる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	復習/オブジェクト指向 (1)	Python と Tkinter により、プログラミングの基本を復習する。マッシュルームハントを題材に、Python によるオブジェクト指向の基本を学ぶ。クラスを用いたオブジェクトの実現方法 (1) を学ぶ。
2	オブジェクト指向 (2)	クラスを用いたオブジェクトの実現方法 (2)、オブジェクトを組み合わせる方法を学ぶ。
3	オブジェクト指向 (復習)	前回扱ったここまで扱った Python のオブジェクト指向機構について復習する。
4	オブジェクト指向 (継承)	機能拡張や抽象化の重要な仕組みである継承を学ぶ。
5	復習	これまで扱った題材の機能を拡張する課題に取り組む。

6	状態機械	State Machine を Python のオブジェクト指向機構を用いて実装する例を示す。この実装を応用して、レポート課題のハンターの思考・行動ルーチンを分かりやすく表現する方法についても紹介する。
7	Web アプリケーションの作成 (1)	ブラウザ上で、ユーザーから入力を得てサーバーで計算した結果をブラウザ上で表示するなど、CGI による動的コンテンツの方法を学ぶ。
8	相互レビュー	レポート課題を題材に、相互レビューの方法を学ぶ。
9	Web アプリケーションの作成 (2)	Form と呼ばれる CGI のユーザー入力部分を簡便に実現する仕組みを学ぶ。
10	Web アプリケーションの作成 (復習)	データを収集し、加工してブラウザに返す課題に挑戦する。Collection の扱いについて復習する。
11	データベース	Python に標準で備わっている DBMS である sqlite3 を用いて、単語帳データベースを構築する。データベースと CGI に関する課題に取り組む。
12	復習	
13	Document Object Model	DOM の考え方を理解し、document の論理構造と rendering の分離を CSS で行う方法を学ぶ。
14	相互レビュー (2)	レポート課題を題材に、相互レビューの方法を学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、各週につき 4 時間を標準とする。

プログラム課題は授業時間外に各自で取り組む。

講義時間は、主に新しい概念や知識の説明および確認、質問の時間とする。

【テキスト（教科書）】

オンライン資料

【参考書】

書名: たのしいプログラミング Python ではじめよう!

著者名: Jason R. Briggs (著), 磯 蘭水 (翻訳), 藤永 奈保子 (翻訳), 鈴木 悠 (翻訳)

出版社: オーム社

出版年: 2014

書名: Python で学ぶ実践画像・音声処理入門

著者名: 伊藤克亘、小泉悠馬、花泉弘

出版社: コロナ社

出版年: 2018

そのほか必要に応じて講義中に指示する。

【成績評価の方法と基準】

各テーマのレポート課題 (30%,30%) および最終課題 (40%) で評価する。

ただし、各回で出題するプログラム課題を授業で発表した場合には加点する。また、それらの課題の取り組みを考慮する場合がある。指定された回数だけ授業中に TA に課題の確認をしなかった場合は減点する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

貸与 PC を持参すること。

【Outline (in English)】

In this lecture, you will learn how to design software applications. In addition, students use the programming language Python to implement the system. Through the exercise, students experience practical computer programming as a tool to embody thinking.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

The overall grade in the class will be decided based on the three projects' reports.

MAT247KA-GMP-351

フーリエ級数と変換

秋野 喜彦

必選区分： | 配当年次/単位：2~4 年次 / 2 単位 | 開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

音声や画像の信号を振動数ごとに分解・再構築する手法の基本となるフーリエ級数やフーリエ変換を学びます。応用上で重要な離散フーリエ変換についても基本を理解します。

【到達目標】

フーリエ級数とフーリエ変換に親しみ、さらに離散フーリエ変換の特徴を理解することを目的とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

情報科学部ディプロマポリシーのうち「DP1」と「DP4-2」に関連

【授業の進め方と方法】

現象を数式を用いて扱う能力を養うため、講義だけでなく自ら問題を解くようにしてもらいます。さらに、毎回課題を解き・提出してもらいます。課題等の提出は「学習支援システム」を通じて行う予定です。また課題や試験問題の中から、理解度や重要性に応じて適宜解説・フィードバックしていきます。

「微積分法の基礎」の単位取得が前提となります。数学の道具立てを使いこなせるようになるため、出される課題に正面から取り組むことが重要です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
No.1	【周期現象と三角関数】	周期現象を表すための基本である三角関数の性質を復習します。とくにサイン・コサインの直交性と呼ばれる関係が重要です。
No.2	【フーリエ三角級数の定義と基本的な性質】	サインとコサインの重ね合わせで表され周期関数のバラエティに注目します。逆に、周期関数をサインとコサインに展開するフーリエ三角級数を定義します。 サインとコサインを使う意味を考えます。
No.3	【フーリエ三角級数の計算例】	フーリエ三角級数の具体例を見ます。振動数スペクトルについて理解します。
No.4	【複素指数関数と複素フーリエ級数の定義】	複素平面の使いかた、複素指数関数の定義と基本的な性質（直交性、微積分）、サイン・コサインとの関係を復習します。フーリエ三角級数と複素フーリエ級数の関係を理解します。
No.5	【複素フーリエ級数の計算例】	複素フーリエ級数の計算例を見ていきます。
No.6	【複素フーリエ級数の性質】	パーセバルの等式、ギプス現象、一様収束と平均収束など。
No.7	【フーリエ変換の定義】	周期が無限大の極限でフーリエ係数がどのように変化するかを観察し、フーリエ変換と逆変換を定義します。フーリエ変換の意味を理解します。
No.8	【フーリエ変換の例】	サイン・コサイン、単一パルス、指数関数、ガウス関数のフーリエ変換を計算します。

No.9	【フーリエ変換の性質】	実部と虚部の意味、変数をシフトした影響、導関数のフーリエ変換など。 δ 関数や階段関数にも注意します。
No.10	【フーリエ変換の応用】	微分方程式の解法と畳み込み積分の計算を学びます。
No.11	【系の応答特性】	線形系と時不変系のインパルス応答と周波数応答
No.12	【離散フーリエ変換の定義】	波形のサンプリングとデータから復元できる波形について学びます。DFTの定義を導入します。
No.13	【離散フーリエ変換の性質】	周期、対称性、直交性など、実際に計算して理解します。
No.14	【離散フーリエ変換とフーリエ変換】	DFTをフーリエ変換によりシミュレートし、DFTについて理解を深めます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

課題は、学習支援システムあるいは講義時間中に指示します。なお、本授業の準備・復習・課題等の授業時間外学習は、各週につき4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

指定教科書はありません。
学習支援システムを通じて、必要に応じて資料を配布します。

【参考書】

フーリエ解析に関する一般的な書籍であれば参考になります。入門書の例として以下を挙げておきます。
・ フーリエ解析（理工系の数学入門）大石進一著 岩波書店
・ すぐわかるフーリエ解析 石村園子著 東京図書

【成績評価の方法と基準】

課題（15%）・授業内ミニテスト（10%）・中間試験（25%）、および期末試験（50%）の総合点で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

音声・画像処理など情報科学の応用を目指すときに基本となる内容を学びます。

【Outline (in English)】

【Course Outline】

In this class, we will study Fourier series and Fourier transform, which are the basis of deconstructing and reconstructing the sounds and image signals. Basics of discrete Fourier transform, which is an important tool for real applications, will also be explained.

【Learning Objectives】

To be familiar with Fourier series, Fourier transform, and discrete Fourier transform, and to understand how to use those in real problems.

【Learning activities outside of classroom】

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Four hours will be your standard study time for this class.

【Grading Criteria/Policies】

Overall grade in this class will be decided based on the followings;

Assignments: 15%, Quizzes in each class: 10%,

Mid-term examination: 25%, Final examination: 50%

HUI312KA-CS-331

デジタル信号処理

高村 誠之

必選区分： | 配当年次/単位：3~4 年次 / 2 単位 | 開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

信号処理は情報を数学的に取り扱う基盤技術である。ほとんどの情報がデジタル化する時代において、デジタル信号処理は最も重要な技術の一つであるといえる。授業では、数学的な基礎やデジタル信号処理における重要な概念を中心に講義を行う。

学生は、アナログ信号処理とデジタル信号処理の基本原則を理解できることを目標とし、信号を数学的に取り扱えるようになることを目指す。また、信号処理の簡単なプログラミングも学ぶ。

【到達目標】

フーリエ変換、ラプラス変換、 z 変換などの信号処理に必要な数学的基盤を理解し、実際に計算できるようになることを目標とする。また、サンプリング定理、伝達関数、フィルタについて理解し、数学的に取り扱えることを目標とする。さらに、デジタル信号処理の基本的な処理を Python で実装できるようになることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

情報科学部ディプロマポリシーのうち「DP4-2」に関連

【授業の進め方と方法】

講義と演習を行う。必要に応じて、Python や MATLAB を用いたプログラミング演習を行う。提出された演習問題の解説・フィードバックを随時実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス、信号処理とは	アナログ信号処理とデジタル信号処理
2	フーリエ級数とフーリエ変換	フーリエ級数、複素フーリエ級数、フーリエ変換、フーリエ変換の性質、フーリエ変換の例
3	ラプラス変換	ラプラス変換、ラプラス変換の性質
4	逆ラプラス変換・連続時間システム	逆ラプラス変換、連続時間システムの性質
5	z 変換	z 変換、逆 z 変換、 z 変換の性質
6	離散フーリエ変換	離散フーリエ変換、離散フーリエ変換の性質
7	演習	学習した様々な変換に関する演習を行う。
8	離散時間システム 1	サンプリング定理、伝達関数、インパルス応答
9	離散時間システム 2	畳み込み、周波数応答
10	高速フーリエ変換	時間分割法、窓関数
11	フィルタ	フィルタの種類、フィルタの設計、周波数変換
12	デジタル IIR フィルタ	インパルス不変
13	FIR フィルタ	FIR フィルタ、窓関数法
14	まとめ	本講義のまとめを行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書の該当単元を予習と復習を行う。教科書の例題や演習問題を行う。

本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、各週につき 4 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて講義資料を配布するが、以下の教科書を講義で使用する。

萩原 将文, デジタル信号処理 第 2 版・新装版, 森北出版, 2020.

【参考書】

1. 渡部 英二 (監修), 基本からわかる信号処理講義ノート, オーム社, 2014.
 2. 金谷 健一, これならわかる応用数学教室, 共立出版, 2003. (主にフーリエ級数・変換に関して)
 3. 原島 博, 信号解析教科書-信号とシステム-, コロナ社, 2018.
- その他の参考書は、必要に応じて講義内で紹介する。

【成績評価の方法と基準】

課題 (授業内演習含む)50%、試験 (期末)50%

【学生の意見等からの気づき】

より理解を深められるような演習、講義内容の実応用事例が想像できるような授業を工夫する。

【学生が準備すべき機器他】

授業内に演習を行うため、貸与ノート PC を必要とする。

【その他の重要事項】

本講義は担当教員の企業での画像処理応用や画像符号化技術に関する研究開発の知見を元に実務に必要な信号処理に関する講義を行う。プログラミング (MATLAB)、微積分法の応用:フーリエ級数と変換を履修中または、履修済みであることが望ましい。また、積分法の基礎と応用、複素関数論 1, 2, 交流回路と電磁波:周波数、過渡応答、ベクトル解析の履修も推奨する。

【Outline (in English)】

Signal processing is a fundamental technology to handle information mathematically. Digital signal processing is one of the most important technologies in the era when most information is digitized. In the class, I'll give a lecture focusing on mathematical foundations and important concepts in digital signal processing.

You aim to understand the basic principles of analog signal processing and digital signal processing and aim to be able to handle signals mathematically. Also you'll learn simple programming of signal processing.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on the following.

Term-end examination: 50%, short reports (including in-class drill): 50%

HUI312KA-CS-333

画像処理

花泉 弘

必選区分： | 配当年次/単位：3~4 年次 / 2 単位 | 開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

広範な画像処理関連技術を体系的に理解する。それぞれの処理手法の考え方や定式化を理解することで、卒業研究などで使えるように習熟する。

【到達目標】

画像に対する処理アルゴリズムがどのようなものであるのかを知るだけでなく、その底流をなす考え方を理解し、それらを組み合わせて各人に必要な処理を組み立てられるレベルを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

情報科学部ディプロマポリシーのうち「DP4-2」に関連

【授業の進め方と方法】

単に教科書の内容を説明するだけでなく、理解がより深まるようになり、なるべく多くの問題を解くような形式とする。必要に応じて授業で課した課題（小テストやレポート）等を取り上げ、授業内で全体に対してフィードバックを行う。オフィス・アワーでも、課題に対して講評する。不明な点や興味を持ったところについては、遠慮なく質問してほしい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	講義内容の概略の説明と画像の取得システムおよび方法
2	デジタル画像の取得	撮影パラメータの説明
3	画像の性質と色空間	人間の感覚に合わせた色の表現法
4	画素ごとの濃淡変換	明るさやコントラストの変換、マスク処理など
5	空間フィルタリング	先鋭化と平滑化の手法
6	周波数フィルタリング	画像のフーリエ変換と周波数空間でのフィルタリング、実空間フィルタリングとの関連など
7	画像の復元と生成	画像のボケやブレの記述法および復元法
8	画像の幾何学的変換	アフィン変換や射影変換
9	2 値画像の処理	輪郭追跡や細線化の手法
10	領域処理	テクスチャと同時生起行列、および領域分割処理手法について
11	テンプレートマッチング	テンプレートマッチングの基礎と応用
12	パターン認識	特徴に基づく分類やクラスタリング処理、主成分分析法などについて
13	動画画像処理	背景差分法とフレーム間差分法
14	まとめ	講義全体のまとめと展望

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、予習・復習と課題レポートの作成等で各週につき 4 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

奥富編：デジタル画像処理（改訂新版）、(財)画像情報教育振興協会、2015

ISBN 978-4-903474-50-2

【参考書】

教科書の巻末に参考図書・文献が載っている。

【成績評価の方法と基準】

試験の成績 (60%) とレポートの成績 (40%) によって評価する。

【学生の意見等からの気づき】

わかりやすい授業になるよう説明を工夫していきたい。

【学生が準備すべき機器他】

ノートパソコン

【その他の重要事項】

行列計算や統計的手法の知識が必要となるので、参考書などでよく予習して授業に臨むことが望ましい。教科書の説明は要点のみが書かれているので、興味を持った処理については、原著論文を読んでみることを勧める。

レポートは各人の言葉で表現し期日を守って提出すること。

本講義では担当教員の 2 次元センサーデータの処理法に関する情報通信研究機構との共同研究の成果の一部を含んでいる。

【Outline (in English)】

Students systematically understand a wide range of image processing related technology. By understanding principle and formulation of each processing method, students acquire mastery so that they can use it for graduation research.

Not only do we know what the processing algorithms for images are, but we also aim to understand the underlying ideas and combine them to build the processing required by each student. The standard for outside classroom learning such as preparation and review of this class is 4 hours per week. Student scores are measured based on the evaluation with reports (40%) and regular examination (60%).

HUI312KA-CS-334

音声情報処理

大石 康智

必選区分： | 配当年次/単位：3~4 年次 / 2 単位 | 開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

音声コンピュータで扱う基礎的な能力を身に付けることを目標とします。

コンピュータを使うと、音声を生成したり、取り込んだ音声を加工できます。

これらを可能にする技術がデジタル信号処理です。

本講義では、まず音声の発声方法や聴覚特性に基づく音声のモデル化手法を紹介します。

次に、その技法を用いて実現できる音声処理の技法のいくつかの例を取り上げます。

最後に、音声処理の応用技術として、音声関係の web/cloud API を紹介します。

【到達目標】

MATLAB を用いてデジタル音声処理の技法を活用できる。

音声関係の web/cloud API やツールを利用できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

情報科学部ディプロマポリシーのうち「DP4-2」に関連

【授業の進め方と方法】

役立つ技能の習得のために、取り上げる技法はプログラミングと関連付けて紹介する。また、実際の音声データを扱う。

簡単にプログラミングするために MATLAB を利用する。

API は python で利用することを想定する。

課題は、授業で主要なものを発表させ、解説する。

最終課題のテーマに関しては、事前に提出させ、要件を満たさないものに関しては、その旨、授業で告知する。

また、最終課題のレポートは、第 1 版に関して、書き方に問題がある点を授業で解説する。最終課題に関しては、優秀なものを発表会で発表させる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	概要/基礎知識確認/MATLAB 復習/代表的な音声アプリケーション/音声とは
2	母音の生成	母音の音声波形の観察/母音の発声/母音発声の物理モデル/声道フィルタを用いた母音の合成
3	母音と子音の発声	母音の分類/子音の分類/ホルマントと調音位置
4	音声の聴取	人の聴覚系/蝸牛/聴覚尺度/メルスペクトル
5	音声の分解	音韻の分析/ケプストラム
6	音声の分析	聴覚末梢神経系における音声情報処理/プリエンファシス/時間方向の分解/対数変換/メル周波数スケール変換/スペクトルのピーク強調
7	母音の認識	ホルマントと母音/ホルマントの多様性/正規分布によるモデル化/多次元正規分布/GMM
8	音節の認識	日本語の子音の体系/MFCC による音韻の認識
9	音節の系列の認識	音声情報の時間スケール/調音結合とホルマント推移/デルタパラメータ

10	韻律の認識	日本語のイントネーションとアクセント/基本周波数検出/歌声の f0
11	長い発話の認識	長い発話が伝える情報/発話の単位/感情と態度/個性/声質とスピーチスタイル
12	簡単な音声合成	モデルベースの合成法/波形ベースの合成法
13	音声対話とさまざまなアプリケーション	音声の伝搬と知覚/音声区間検出
14	まとめ	全体の内容を振り返る。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、各週につき 4 時間を標準とする。

準備学習として、テキストを読み予習課題に取り組む。演習時間に解けなかった課題をいくつか選び、宿題として完成させる。また、最終課題である自主課題は授業外も含めて取り組みレポートを作成する。

【テキスト（教科書）】

配布する資料に基づいて講義を進める。

【参考書】

書名：Theory and Applications of Digital Speech Processing

著者名：L. R. Rabiner, R. W. Schafer

出版社：Pearson

出版年：2011

書名：MATLAB で学ぶ実践画像・音声処理入門

著者名：伊藤克巨、小泉悠馬、花泉弘

出版社：コロナ社

出版年：2019

書名：Python で学ぶ実践画像・音声処理入門

著者名：伊藤克巨、小泉悠馬、花泉弘

出版社：コロナ社

出版年：2018

【成績評価の方法と基準】

最終課題 (60%)、定期試験 (40%) で評価する (受講人数が少ない場合は、定期試験を実施しない)。ただし、講義内の課題を授業で発表した場合には加点する。また、講義内の課題の取り組み状況を考慮する場合がある。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システム、web ページ、ノート PC を利用する。

【その他の重要事項】

「プログラミング (MATLAB)」「デジタル信号処理」「統計学 2」を履修していることを期待する。また、「音と光」「情報理論」「パターン認識と機械学習」「科学技術計算」「オペレーションリサーチ」を並行して履修することが望ましい。また、できれば、「画像処理」も並行して履修することが望ましい。

また、受講希望者は、第 1 回の講義の前に、MATLAB がインストールされているか確認しておくこと。R2022a かそれ以降が望ましい。
<http://software.k.hosei.ac.jp/others/>
https://software.k.hosei.ac.jp/matlab_manual/MATLAB_student.pdf (後者のファイルは、VPN を使わないとアクセスできない)

本講義は担当教員の企業研究所での音声に関する研究の経験を元に行う。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to provide students with the basic skills to handle speech on a computer. Computers can be used to generate speech and to process recorded speech. The technology that makes this possible is digital signal processing. In this lecture, we will first introduce speech modeling methods based on the mechanism of speech production and auditory characteristics. Students will try some examples of speech processing techniques. Finally, we introduce speech-related web/cloud APIs as applied technologies for speech processing. By the end of the course, students should be able to do the followings:

- To utilize techniques of digital signal processing and speech processing
- To utilize speech-related web/cloud APIs and tools

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter from the text. Students are required to select some of the assignments they were unable to solve during the exercise time and complete them as homework. Students are also required to write a report on their final assignment including outside the class.

Final grade will be calculated according to the following process: Final report (60%), Term-end examination (40%), and in-class contribution. (If the number of students is small, the term-end examination will not be held.)

COT311KA-CS-302

プログラミング演習 3(MATLAB)

花泉 弘

必選区分： | 配当年次/単位：3～4 年次 / 2 単位 | 開講時期：春学期授業/Spring

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

自分の研究を進めるにあたり、論文を読むのは必須であるが、その内容を理解して自分の研究に生かすためには、論文中の数式に従って追試を行うことが効果的である。この演習では、こうした論文中の数式に基づいてプログラムを作成して動作させ、著者のアイデアを深く理解することを目的とする。

【到達目標】

この科目の単位を取得した者は、論文を読む際にそこに書かれた数式に基づいてプログラムを作成し著者の示す結果を追試できるスキルを獲得しており、併せて、追試し易い論文（報告書）の書き方についても学んでいる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

情報科学部ディプロマポリシーのうち「DP4-3」に関連

【授業の進め方と方法】

4つの課題に対して MATLAB を用いてプログラムを作成し、動作確認を行った上で報告書として提出、発表も行う。最初の3つについては、説明資料を配布するが、4つ目は最終課題としてそれまでの内容に劣らないテーマを各自で見つけて演習を行う。4つ目の課題については、最初の授業の際に各自のテーマについて紹介してもらう。授業で課した課題（小テストやレポート）等を取り上げ、授業内で全体に対してフィードバックを行う。オフィス・アワーでも、課題に対する講評を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の進め方や課題の概略について説明する。 MATLAB 開発環境の確認。
2	演習 1 - 1	課題 1 の内容の説明を行う。課題内容を理解し、解くための方針を立てるなど演習に取り組む。
3	演習 1 - 2	各自の方針に沿ってプログラムを作成する。 必要に応じて、課題に対する説明も行う。
4	演習 1 - 3	各自がここまでに行った内容についての発表。
5	演習 2 - 1	課題 2 の内容の説明を行う。課題内容を理解し、解くための方針を立てるなど演習に取り組む。
6	演習 2 - 2	各自の方針に沿ってプログラムを作成する。 必要に応じて、課題に対する説明も行う。
7	演習 2 - 3	各自が行った内容についての発表。
8	演習 3 - 1	課題 3 の内容の説明を行う。課題内容を理解し、解くための方針を立てるなど演習に取り組む。
9	演習 3 - 2	各自の方針に沿ってプログラムを作成する。 必要に応じて、課題に対する説明も行う。

10	演習 3 - 3	各自が行った内容についての発表。
11	演習 4 - 1	各自の選択したテーマの紹介。終了後は各自プログラム作成等を行う。
12	演習 4 - 2	各自の方針に沿ってプログラムを作成する。 必要に応じて、課題に対する助言等も行う。
13	演習 4 - 3	各自の方針に沿ってプログラムを作成する。 必要に応じて、課題に対する助言等も行う。
14	まとめ	最終課題の発表を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業時間だけでは時間が不足するので、自宅でも課題に取り組むこと（本授業では、毎週 4 時間を標準としている）。わからないことについては、参考になる論文や本を探してみるのもよい訓練になる。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて資料等を配布する。

【参考書】

MATLAB に付属する文書。
課題ごとにかくつか論文等を紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業への参加態度 (20%)、提出されたレポートの質 (50%)、課題発表の質 (30%) を予定している。

【学生の意見等からの気づき】

わかりやすい説明を心がける。

【学生が準備すべき機器他】

ノートパソコン

【その他の重要事項】

とにかくプログラムを書くことが重要である。数式や説明文を見てプログラムを書くことに習熟してほしい。

【Outline (in English)】

Reading papers and understanding authors idea are very important in advancing students own researches. Actually, it is effective to follow-up the ideas according to mathematical expression in the paper. The aim of this exercise is to deeply understand the idea of the author by creating some programs based on mathematical expressions in these papers, by making it work, and by confirming action.

Students who have earned credits for this subject have acquired the skills to create a program based on the mathematical formulas written in the dissertation and to retest the results shown by the author. At the same time, they also acquire the skill to write a report with easiness to retest. Class hours alone are not enough, so students need to study at home. The standard for outside classroom work of this exercise is 4 hours per week. If you don't understand something, it's a good training to look for useful papers and books. Student scores are measured based on attitude in the class, the evaluation with reports (40%) and presentation for the final task (60%).

COT311KA-CS-352

科学技術計算

岩沢 美佐子

必選区分： | 配当年次/単位：3~4 年次 / 2 単位 | 開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

近年では材料開発や構造解析といった科学技術的課題の解決に計算機シミュレーションは必須である。そこで使われる計算技術の基礎を学ぶ。

【到達目標】

- ・科学技術計算の基礎である微分法、積分法、方程式の解法を理解する。
- ・数値計算手法をプログラムとしてコーディングできる。
- ・プログラムを実行し、結果を可視化できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

情報科学部ディプロマポリシーのうち「DP4-1」と「DP4-2」に関連

【授業の進め方と方法】

この講義では、実際に様々な課題について問題を解くことで必要な技術を身に付ける。それを通して、コンピュータ科学、ネットワーク等の様々な情報科学分野を専攻する者を対象に、最近の計算技術を活かした解析手法修得の基礎となる数値解析の考え方や方法について基礎知識を学ぶ。

課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	科学技術計算の基礎	科学技術計算を学ぶ上での前提知識
2	差分化とその誤差	数値微分と数値計算における誤差の評価
3	数値積分法の比較 (1)	台形公式、シンプソン法による数値積分
4	数値積分法の比較 (2)	重み付き積分法による数値積分
5	代数方程式の解法 (1)	二分法、Newton 法による方程式の解法
6	代数方程式の解法 (2)	連立 1 次方程式の解法
7	行列問題の解法	実対称行列の対角化
8	データ解析 (1)	数値補間法
9	データ解析 (2)	最小二乗法によるフィッティング
10	常微分方程式の解法 (1)	オイラー法にて常微分方程式を解く
11	常微分方程式の解法 (2)	ルンゲ・クッタ法にて常微分方程式を解く
12	常微分方程式の解法 (3)	2 階常微分方程式を解く
13	常微分方程式の解法の評価	常微分方程式の解法の応用とまとめ
14	まとめ	全体の復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

復習として、授業中に出た課題はできるようにする。
本授業の準備・復習時間は各 4 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

計算物理学 I・II、小柳義夫監訳、朝倉書店

【参考書】

授業で指示

【成績評価の方法と基準】

提出課題、レポート等の評点（60 %）と期末試験（40 %）の総点で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

分かりやすい説明を心掛ける

【学生が準備すべき機器他】

貸与 PC、学習支援システム

【Outline (in English)】

The computer simulation is important in solution of scientific problem. This course introduces a basis of computational approach to students taking this course.

At the end of the course, students are expected to understand the numerical methods of differentiation, integration and equations.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Final grade will be decided based on the following.

Term-end examination: 40%, Problems and reports: 60%

MAT247KA-GMP-256

微積分法の応用 2

秋野 喜彦

必選区分： | 配当年次/単位：2~4 年次 / 2 単位 | 開講時期：秋学期授業/Fall

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

微積分法は現実世界の出来事の予測やシミュレーションに絶大な力を発揮し、情報科学を応用する様々な場面でも用いられます。また、専門科目に対する基礎となるためしっかりと理解することが重要です。これまで学んできた1変数関数の微積分法を、多変数関数（主に2変数および3変数）の実数関数について展開し、微分法（偏微分法）や積分（多重積分）を学びます。

【到達目標】

多変数関数の微積分法に親しみ違和感なく対応できるようになることを目標としています。あわせて「数学を使って考える技術」を身につけることも心がけます。

本授業は、「微積分法の基礎」の内容が前提となるため、「微積分法の基礎」が前提科目となります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

情報科学部ディプロマポリシーのうち「DP1」と「DP4-2」に関連

【授業の進め方と方法】

「微積分法の基礎」の内容をベースにして、本授業では多変数関数（主に2変数および3変数関数）の微積分法（偏微分法と多重積分など）の基礎およびその応用を学びます。

教室では計算法とともに実践的な応用例を紹介し、計算力を養うために、課題（教科書の問題と、別途用意する問題・解説を自宅で学習）を提出してもらいます。課題等の提出は「学習支援システム」を通じて行う予定です。また課題や試験問題の中から、理解度や重要性に応じて適宜解説・フィードバックします。

この授業では予習・復習が非常に大切です。予習では「授業中にどのような質問をしようか」と考えましょう。そうすると、予習は「考える技術」の訓練の場となりますし、何に焦点をあわせて聞くかという心構えができるので、授業の時間を非常に有効に使えます。復習では、より多くの問題に取り組むようにしましょう。それにより数学力が身に付くようになります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
No. 1	【2変数関数】 2変数関数の連続性や極限	1変数関数の微分法および2変数関数の連続性や極限について復習します。
No. 2	【偏微分法】 偏微分法①：多変数関数の導関数と全微分	2変数関数のグラフと偏微分係数の関係を考察します。また、全微分の意味と取り扱いを学びます。
No. 3	【偏微分法】 偏微分法②：平均値の定理とテイラー展開	2変数関数における平均値の定理やテイラー展開の基礎を学びます。
No. 4	【偏微分法】 偏微分法③：テイラー展開の応用	関数の形を多項式で近似する方法とその意味について具体例を通じて学びます。
No. 5	【偏微分法】 偏微分法④：極値	偏微分係数を用いて、2変数関数の極値を求める方法を考察します。
No. 6	【偏微分法】 偏微分法⑤：条件付き極値	条件付き極値問題を解く方法としてラグランジュの未定乗数法を学びます。
No. 7	【多重積分】 多重積分①	2変数関数の定積分を累次積分で表す方法を学びます。
No. 8	【多重積分】 多重積分②	多重積分の例を学びます。

No. 9	【多重積分】 多重積分③	極座標を用いた多重積分を学びます。
No.10	【多重積分】 多重積分④	物理における多重積分の応用例をいくつか学びます。
No.11	【ガウス積分】 ガウス積分①	確率論や統計力学で非常によく用いられるガウス積分について学びます。
No.12	【ガウス積分】 ガウス積分②	いろいろな例を通じてガウス積分に慣れ親しんでもらいます。
No.13	【線積分】 線積分の基礎	経路（積分路）に沿った積分である線積分について、そして物理との関連性を学びます。
No.14	【まとめ】	全体のまとめと復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回ごとの課題等は、学習支援システムに掲載、又は授業内に提示します。なお、本授業の準備・復習等の授業時間外学習は、各週につき4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

微分積分+微分方程式（理工系の数理） 裳華房
川野日朗・薩摩順吉・四ツ谷昌二 共著
授業中に配布するプリント

【参考書】

一般的な微分積分の書籍であれば参考になります。入門書の例として以下を挙げておきます。

解析入門 1・2 ハーン著 丸善

解析教程 ハイラー/ワナー著 丸善

微分積分（理工系の数学入門コース1） 和達三樹著 岩波書店

【成績評価の方法と基準】

課題（15%）・授業内ミニテスト（10%）・中間試験（25%）、及び、期末試験（50%）の総合点で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

微分法や積分法は、物理学においてだけでなく、情報科学分野においても基礎となるものです。レポートやテストなど負担の多い科目ですが、しっかりと身に付けることが重要です。頑張りましょう。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムで課題配布等を行います。

【Outline (in English)】

【Course Outline】

Calculus is an essential technique not only in the prediction of phenomena in real world and various simulations, but also in the applications of information science. In this class, we will study the basics and applications of calculus of real functions with two or more variables such as partial derivative, multiple integral, and Gaussian integral etc.

This class requires "Calculus - Basic Techniques and Applications".

【Learning Objectives】

To learn calculus of functions with multi-variables, especially two and three variables and to understand the usefulness of these techniquis in real problems.

【Learning activities outside of classroom】

Students will be expected to have completed the required assingments after each class meeting. Four hours will be your standard study time for this class.

【Grading Criteria/Policies】

Overall grade in this class will be decided based on the followings;

Assingments: 15%, Quizzes in each class: 10%,

Mid-term examination: 25%, Final examination: 50%

LAW200CA
日本国憲法
村元 宏行
開講時期：年間授業/Yearly 単位：4 単位

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

皆さんは本学で経済学を学んでいる。経済学にせよ、社会福祉を学ぶにせよ、またその他の分野を学ぶにせよ、社会制度の多くは法によって定められている。いうまでもなく憲法は国の最高法規であるから、どんな分野の法であっても、憲法に違反するものは効力を有しない。したがって、憲法を学ぶことは、どんな分野を学ぶにしても、重要な関わりがある。

また、主専攻との関係を意識するでもなく、現実には生起している憲法問題を学ぶことによって、さまざまな社会問題と向き合うことは、皆さんがこれから一市民として生活していくにあたって、重要なことである。

この授業では憲法の概論のオーソドックスなスタイルとして、前半で人権を、後半で統治機構を主にとりあげ、それらの歴史的、社会的背景もとりあげることとする。

【到達目標】

憲法が存在する意義について理解できる。

日本国憲法の全体構造について理解できる。

現実には生起している憲法上の争点について整理し、自分なりの見解をまとめることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP8」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】

授業はレジュメに沿って講義形式で行う。ただし一方通行にならないためにも、毎回小レポート（リアクションペーパー）を提出してもらい、授業の初めにいくつかを取り上げ、全体に対してフィードバックを行うなど、授業に取り入れていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	受講に際しての諸注意など。
第 2 回	憲法とは何か	立憲主義について学ぶ。
第 3 回	日本国憲法の誕生	憲法の制定過程について学ぶ。
第 4 回	国民主権と象徴天皇制	国民主権の意義や象徴天皇制の概要を学ぶ。
第 5 回	憲法 9 条と平和主義（その 1）	憲法 9 条制定の背景等を学ぶ。
第 6 回	憲法 9 条と平和主義（その 2）	憲法 9 条をめぐる裁判等について学ぶ。
第 7 回	基本的人権（基本的人権とは）	憲法で基本的人権が保障されている意義について学ぶ。
第 8 回	基本的人権（基本的人権の種類と人権保障の限界）	自由権や社会権などの人権分類と、公共の福祉などの人権制約の概念を学ぶ。
第 9 回	基本的人権（包括的基本人権）	憲法 13 条の幸福追求権について学ぶ。
第 10 回	基本的人権（自由権その 1）	精神的自由権について学ぶ。
第 11 回	基本的人権（自由権その 2）	人身の自由と経済的自由権について学ぶ。
第 12 回	基本的人権（社会権その 1）	生存権について学ぶ。
第 13 回	基本的人権（社会権その 2）	教育を受ける権利、勤労の権利について学ぶ。
第 14 回	基本的人権（参政権）、国民の義務	選挙権などの参政権と、国民の義務について学ぶ。
第 15 回	統治制度と権力分立制	権力分立制の意義について学ぶ。
第 16 回	立法権（その 1）	立法権について概要を学ぶ。
第 17 回	立法権（その 2）	立法権を担う国会の諸問題について学ぶ。

第 18 回	行政権（その 1）	行政権についてその範囲や概要を学ぶ。
第 19 回	行政権（その 2）	行政権を担う内閣や、行政機関をめぐる諸問題について学ぶ。
第 20 回	司法権（その 1）	司法権の独立など、司法権の概要を学ぶ。
第 21 回	司法権（その 2）	司法権を担う裁判所をめぐる諸問題を学ぶ。
第 22 回	地方自治	地方自治の本旨や、地方自治をめぐる諸問題を学ぶ。
第 23 回	財政	財政民主主義など、財政規定の概要を学ぶ。
第 24 回	憲法改正（その 1）	憲法改正について、議論の変遷を学ぶ。
第 25 回	憲法改正（その 2）	憲法改正をめぐる現代的争点を学ぶ。
第 26 回	憲法をめぐる現代的課題（その 1）	これまでの授業を踏まえ、憲法に関する現代的課題を取り上げて学ぶ。
第 27 回	憲法をめぐる現代的課題（その 2）	これまでの授業を踏まえ、憲法に関する現代的課題をもう一つ取り上げて学ぶ。
第 28 回	授業のまとめ	1 年間の授業のまとめをする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎時限毎にわからない事柄について自宅学習を行うことはもちろんのこと、新聞等で憲法をめぐる時事問題について把握しておき、どのような意見対立があるのかといった点について把握しておくことが求められます。予習と復習は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しない。

ただし、授業に六法の持参を求めるが、詳しくは初回授業で指示する。

【参考書】

授業において紹介する。

【成績評価の方法と基準】

定期試験（50％）：授業内容を踏まえて憲法の基本的概念について説明し、自己の見解をまとめることができるかどうかを評価する。

小レポート（50％）：授業の感想や意見、質問を書く（リアクションペーパー）。

【学生の意見等からの気づき】

今年度から担当

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを利用する場合がある。

【なし】

なし

【なし】

なし

【なし】

なし

【なし】

なし

【なし】

なし

【Outline (in English)】

Course outline

The purpose of this lecture is to understand the basic principle that supports the Constitutional law and its historical background.

Learning Objectives

The goals of this course are to understand the basic principle that supports the Constitutional law and its historical background

Learning activities outside of classroom

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading Criteria /Policies

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination: 50%, Short reports : 50%

LAW200CA
民法一部
上杉 めぐみ
開講時期：年間授業/Yearly 単位：4 単位

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

民法の基本的知識を身につけることを目的として、民法典のうち、財産法に共通する「総則」と物権法（担保物権を除く）を学ぶ。

【到達目標】

民法総則（民法典第1編）及び物権（第2編第1、2、3章）について、基本的な知識を修得するとともに、民法に関する法的思考力を修得することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP8」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】

本授業は、フルオンデマンド形式で行われる。

あらかじめ配信されたレジュメに従って授業が進められる。

毎回提出を求める課題については、次回の授業中において解説を行うので、それを確認しながら、知識の定着を図ることが求められる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	民法とは何か
第2回	総則①	権利能力・意思能力
第3回	総則②	制限行為能力
第4回	総則③	制限行為能力者の相手方の保護
第5回	総則④	物
第6回	総則⑤	法律行為
第7回	総則⑥	意思表示（1）心裡留保、虚偽表示
第8回	総則⑦	意思表示（2）錯誤
第9回	総則⑧	意思表示（3）詐欺、強迫
第10回	総則⑨	代理（1）代理概論
第11回	総則⑩	代理（2）表見代理
第12回	総則⑪	代理（3）無権代理
第13回	総則⑫	法人
第14回	まとめ	練習問題と解説
第15回	総則⑬	前期授業内容の復習
第16回	総則⑭	無効・取消し
第17回	総則⑮	条件・期限
第18回	総則⑯	時効（1）時効概論
第19回	総則⑰	時効（2）取得時効・消滅時効
第20回	総則⑱	時効（3）効果・援用者の範囲
第21回	物権①	物権法概論
第22回	物権②	所有権
第23回	物権③	物権的請求権
第24回	物権④	占有権
第25回	物権⑤	物権変動（1）物権変動と登記
第26回	物権⑥	物権変動（2）第三者の範囲
第27回	物権⑦	物権変動（3）動産物権変動、公信の原則
第28回	まとめ	練習問題と解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

レジュメは、授業支援システムにアップロードしますので、受講者は、事前にダウンロードして、講義の予習に役立ててください。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

六法（いずれの出版社のものでもよい）

【参考書】

潮見佳男『民法（全）[第3版]』（有斐閣）

我妻榮・有泉亨・川井健・鎌田薫『民法1[第4版]』（勁草書房）

道垣内弘人『リーガルベイス民法入門[第4版]』（日本経済新聞社）

【成績評価の方法と基準】

毎回配布される課題（平常点）（30%）と学期末に課される「春学期最終課題」（レポート又は試験）による評価（70%）

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

音声付きのパワーポイントファイルをダウンロードの上、視聴できるパソコンやスマートホンなど。

【Outline (in English)】

This course deals with the general principle of Japanese Civil Code and This course aims to introduce you to the general principles

of the Japanese Civil Code and property laws, paying close attention to their functions in Contract Law. The goal of this course is to acquire the basic knowledge about Civil Code.

Before/after each class, students will be expected to spend 2 hours each to understand the course content.

Grading will be decided based on Homework:30% and Final report:70%.

LAW300CA
民法二部
上杉 めぐみ
開講時期：年間授業/Yearly 単位：4 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

春学期は、当事者の意思により債権が発生する契約法と、当事者の意思にかかわらず債権が発生する不当利得法、不法行為法について学ぶ。

秋学期は、保証、債権譲渡、抵当権など金融法について学ぶ。

【到達目標】

- ①取引を行うにあたって、トラブル発生に備えて、また、トラブルが発生した場合の解決方法として、契約法を修得することができる。
- ②契約関係にない場合であっても義務を負う例外として、不当利得法や不法行為法について、基本的な知識を修得することができる。
- ③事業運営に重要な「保証」「譲渡担保」「抵当権」の基本的知識を習得することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP8」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】

本授業は、フルオンデマンド形式で行われる。

あらかじめ配信されたレジュメに従って授業が進められる。

毎回提出を求める課題については、次回の授業中において解説を行うので、それを確認しながら、知識の定着を図ることが求められる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	契約法総論①	契約法概論
第 2 回	契約法総論②	契約の成立
第 3 回	契約法総論③	同時履行の抗弁権・危険負担
第 4 回	契約法総論④	契約の解除
第 5 回	契約法各論①	贈与・売買
第 6 回	契約法各論②	売主の契約不適合責任
第 7 回	契約法各論③	消費貸借、使用貸借
第 8 回	契約法各論④	買戻し、交換
第 9 回	契約法各論⑤	質貸借
第 10 回	契約法各論⑥	雇用、請負、委任、寄託その他
第 11 回	法定債権①	事務管理、不当利得
第 12 回	法定債権②	不法行為の意義、成立要件、効果
第 13 回	法定債権③	特殊な不法行為
第 14 回	まとめ	練習問題と解説
第 15 回	債権総論①	債権総論序説
第 16 回	債権総論②	債権の効力（1）強制履行・債務不履行
第 17 回	債権総論③	債権の効力（2）損害賠償
第 18 回	債権総論④	責任財産の保全
第 19 回	債権総論⑤	弁済
第 20 回	債権総論⑥	相殺
第 21 回	債権総論⑦	債権譲渡
第 22 回	債権総論⑧	分割債務、不可分債権債務
第 23 回	債権総論⑨	連帯債務
第 24 回	債権総論⑩	保証債務
第 25 回	債権総論⑪	留置権・先取特権・質権
第 26 回	担保物権①	抵当権
第 27 回	担保物権②	譲渡担保
第 28 回	まとめ	練習問題と解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

レジュメは、授業支援システムにアップロードしますので、受講者は、事前にダウンロードして、講義の予習に役立ててください。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

六法全書（いずれの出版社のものでもよい）

【参考書】

潮見佳男『民法（全）[第3版]』（有斐閣）

我妻榮・有泉亨・川井健・野村豊弘・沖野真己『民法2 [第4版]』（勁草書房）

道垣内弘人『リーガルベシス民法入門 [第4版]』（日本経済新聞社）

【成績評価の方法と基準】

春学期及び秋学期の最後にそれぞれ出される課題の成績（70%）と、毎回の復習課題の提出状況及び内容（30%）による。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません

【学生が準備すべき機器他】

音声付きのパワーポイントファイルをダウンロードの上、視聴できるパソコンやスマートホンなど。

【その他の重要事項】

「民法1部」を履修済みか、履修中であることが望ましい。

【Outline (in English)】

In the spring semester the course focuses on obligation law which mainly emerges from contracts. Students also learn about law of obligation which involves tort and unjust enrichment in the absence of any contractual relationships. In the autumn semester the course focuses on obligation law which mainly emerges from contracts of financial services. The purpose of the course is to introduce you to the general principles of the Japanese Civil Code, paying close attention to their functions in the Market.

Before/after each class, students will be expected to spend 2 hours each to understand the course content.

Grading will be decided based on Homework:30% and Final report:70%.

LAW200CA
商法一部
笹久保 徹
開講時期：年間授業/Yearly 単位：4 単位

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は商法の会社法に関する講義である。受講生には、本授業を通じて、経済活動の主役である会社（特に株式会社）を規律する会社法の概要を理解し、会社に関連する問題に関心を持ってもらう。

【到達目標】

・会社法上の諸制度を理解し、条文から制度を説明できるようにする。
・自分の身の周りや実社会において生じている会社法上の問題に気づき、会社法による解決策を考えられるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

本授業は講義形式である。会社法は受講生がイメージを持ちづらい科目であるため、授業は基礎的事項の解説に重点を置き、丁寧に進める。資料を配布し、図等を使用して、受講生ができるかぎり容易に理解できるように講義する。授業の中で、リアクションペーパーや課題（試験等）に関して講評する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス 会社法 総論	ガイダンス、 前提知識や用語等の解説
第 2 回	株式会社の機関 総論	機関の概要に関する解説
第 3 回	株主総会 1	株主総会の権限等の解説
第 4 回	株主総会 2	株主総会の議事等の解説
第 5 回	株主総会 3	株主総会の決議等の解説
第 6 回	取締役 1	取締役の権限等の解説
第 7 回	取締役 2	取締役会の決議等の解説
第 8 回	取締役 3	代表取締役の解説
第 9 回	取締役 4	取締役の義務の解説
第 10 回	取締役 5	取締役の責任の解説
第 11 回	取締役 6	責任追及の方法の解説
第 12 回	取締役 7	取締役の第三者に対する責任に関する解説
第 13 回	監査役・会計監査人	監査役等の解説
第 14 回	指名委員会等設置会社・ 監査等委員会設置会社	指名委員会等設置会社等に関する解説
第 15 回	春学期学習内容の確認	春学期の復習・補習
第 16 回	株式会社の設立 1	設立の概要に関する解説
第 17 回	株式会社の設立 2	設立手続きの解説
第 18 回	株式会社の設立 3	設立の瑕疵に関する解説
第 19 回	株式会社の設立 4	設立の論点等に関する解説
第 20 回	株式 1	株式の概要、株主の権利等に関する解説
第 21 回	株式 2	株式の内容・種類の解説
第 22 回	株式 3	株主名簿・株券の解説
第 23 回	株式 4	株式譲渡の解説
第 24 回	株式 5	株式併合・分割等の解説
第 25 回	募集株式 1	募集株式の概要の解説
第 26 回	募集株式 2	募集株式の発行等の手続きに関する解説
第 27 回	募集株式 3	募集株式の発行等の瑕疵等の解説
第 28 回	新株予約権	新株予約権の解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業 1 回につき、学生の予習時間は 1 時間、復習時間は 3 時間を目安とする。

予習は参考書（柴田和史『日経文庫ビジュアル 図でわかる会社法〔第 2 版〕』）を読むこと。復習は、六法を開いて会社法の条文を参照しつつ、講義で配布した配布物や指定テキストを熟読すること。

【テキスト（教科書）】

柴田和史『会社法詳解〔第 3 版〕』（商事法務、2021）。

【参考書】

・柴田和史『日経文庫ビジュアル 図でわかる会社法〔第 2 版〕』（日本経済新聞出版社、2021）

・神作裕之ほか編『会社法判例百選〔第 4 版〕』別冊ジュリスト No.254（有斐閣、2021）

・長谷部由起子ほか編『デイリー六法 2023 令和 5 年版』（三省堂、2022）

【成績評価の方法と基準】

期末試験（80 %）及び平常点（20 %）による。到達目標との関係上、試験内容は会社法の基礎的な理解を問うものとする。

【学生の意見等からの気づき】

資料等の配布と図解が受講生に好評なため、引き続き行う。

【その他の重要事項】

受講生は最新の六法を使用すること。テキスト及び参考書は、新しい版が出版される可能性があるため、初回の授業で講師の説明を受けてから購入した方がよい。

【Outline (in English)】

This course introduces the foundations of the corporation law to students taking this course. The aim of this course is to help students acquire an understanding of clauses and fundamental principles of the corporation law. The goals of this course are to (1) able to obtain basic knowledge about the corporation law, (2) able to explain clauses and systems of the corporation law, (3) able to understand the relationship between the corporation law and our society. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Your overall grade in the class will be decided based on the following : Term-end examination 80%, in class contribution 20%.

LAW300CA
商法二部
笹久保 徹
開講時期：年間授業/Yearly 単位：4 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は商法総則及び商行為法を解説するものである。商法総則・商行為法は企業法の総論的な部分であり、受講生が企業に関連する他の科目（会社法等）を学ぶ上でも役立つものである。受講生には、本授業を通じて商法に慣れ親しみ、会社法、手形法・小切手法、保険法等にも興味を持ってもらう。

【到達目標】

・商法を学ぶために必要な基礎的概念や法理念を理解する。
 ・商法総則及び商行為法の条文から制度を説明できるようにする。
 ・商法に関心を持ち、社会に生じる問題を商法の視点から分析できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

本授業は講義形式である。初めて商法を学ぶ受講生がほとんどであろうから、基礎的な事項をできる限り丁寧に、わかりやすく解説する。授業の中で、リアクションペーパーや課題（試験等）に関して講評する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンスと概要	ガイダンス、法律学一般の解説。
第 2 回	商法の意義と法源	商法の意義と法源を解説する。
第 3 回	商人と商行為 1	商人について解説する。
第 4 回	商人と商行為 2	商行為を解説する。
第 5 回	商号 1	商号の意義を解説する。
第 6 回	商号 2	商号を解説する。
第 7 回	商業登記	商業登記を解説する。
第 8 回	商業使用人 1	支配人を解説する。
第 9 回	商業使用人 2	支配人以外の商業使用人を解説する。
第 10 回	代理商	代理商を解説する。
第 11 回	営業 1	営業の概要を解説する。
第 12 回	営業 2	営業譲渡を解説する。
第 13 回	商業帳簿	商業帳簿を解説する。
第 14 回	商法総則 事例研究	重要判例を解説する。
第 15 回	春学期学習内容の確認	春学期の復習・補習。
第 16 回	商行為法 総則 1	商行為法の概論の解説。
第 17 回	商行為法 総則 2	商行為の代理等の解説。
第 18 回	商事売買 1	商事売買の概論の解説。
第 19 回	商事売買 2	買主の義務等の解説。
第 20 回	匿名組合	匿名組合の解説。
第 21 回	運送営業 1	物品運送の解説。
第 22 回	運送営業 2	旅客運送の解説。
第 23 回	寄託	寄託の解説。
第 24 回	仲介営業	仲立営業等の解説。
第 25 回	運送取扱営業	運送取扱営業の解説。
第 26 回	倉庫営業	倉庫営業の解説。
第 27 回	交互計算	交互計算の解説。
第 28 回	商行為法 事例研究	重要判例の解説。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業 1 回に付き、学生の予習時間は 1 時間、復習時間は 3 時間を目安とする。予習は各自ができる範囲でやること。復習の際には、授業内での配布物及びテキストを熟読すること。必ず条文を参照しつつ、復習すること。

【テキスト（教科書）】

近藤光男『商法総則・商行為法〔第 8 版〕』（有斐閣法律学叢書）（有斐閣、2019）

【参考書】

・神作裕之＝藤田友敬編「商法判例百選」（別冊ジュリスト No.243）（有斐閣、2019 年）
 ・長谷部由起子ほか編『デイリー六法 2023 令和 5 年版』（三省堂、2022）

【成績評価の方法と基準】

期末試験（80 %）及び平常点（20 %）による。到達目標との関係上、試験内容は基礎的な理解を問うものとする。

【学生の意見等からの気づき】

資料と図解を用いた説明が好評のため、引き続き行う。

【その他の重要事項】

受講生は最新の六法を使用すること。テキスト及び参考書は、新しい版が出版される可能性があるため、初回の授業で講師の説明を受けてから購入した方がよい。

なお、本授業は「商法一部（会社法）」の履修済みを前提としていないため、両授業を並行して履修してもかまわない。

【Outline (in English)】

This course introduces general rules and transactions of the commercial law to students taking this course. The aim of this course is to help students acquire an understanding of clauses and fundamental principles of the commercial law. The goals of this course are to (1) able to obtain basic knowledge about the commercial law, (2) able to explain clauses and systems of the commercial law, (3) able to understand the relationship between the commercial law and our society. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Your overall grade in the class will be decided based on the following : : Term-end examination 80%, in class contribution 20%.

LAW300CA
経済法
杉崎 弘
開講時期：年間授業/Yearly 単位：4 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

経済法、特にその中核をなす独占禁止法は「経済憲法」とも呼ばれ、事業活動の全般に適用される基本的なルールを定めたものとなっています。そのため、講義は独占禁止法の解説（解釈論）を中心に行います。ただし、同法の背景にある市場経済のシステムとその問題点を理解するうえで、会社法をはじめとする他の企業法の知識も欠かせません。講義では、企業法に広く目配りをし、経済社会の主要な法制度を俯瞰的に把握できるようになることを目指します。

【到達目標】

独占禁止法が誰にどのような義務を課し、何を禁止しているのかを知り、同法に違反した場合に誰がどのような措置をとるのか（あるいはとることができるのか）を知ることを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

レジュメを配布し、それをもとに講義を行います。みなさんの主体的な「学び」を後押しできるように、適宜、自習教材を紹介します。講義後は、皆さんからの質問・意見を受け付け、学習支援システムや次回授業時においてフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1)	ガイダンス・法学入門	講義の進め方、法学入門
2)	経済法への招待	経済社会と法の歩み
3)	独占禁止法の概要	独占禁止法の全体像（禁止行為、違反行為に対する措置等）
4)	独占禁止法の基本概念	「事業者」、「事業者団体」、「競争」等の用語
5)	「私的独占」の規制（1）	「私的独占」の成立要件
6)	「私的独占」の規制（2）	規定文言の解釈
7)	「私的独占」の規制（3）	事例の検討
8)	「不当な取引制限」の規制（1）	「不当な取引制限」の成立要件
9)	「不当な取引制限」の規制（2）	規定文言の解釈
10)	「不当な取引制限」の規制（3）	事例の検討
11)	企業結合規制（1）	企業結合規制の仕組み
12)	企業結合規制（2）	規定文言の解釈
13)	企業結合規制（3）	事例の検討
14)	まとめ	春学期のまとめ
15)	独占禁止法の概要	春学期のおさらい
16)	「不公正な取引方法」の規制（総論）	「不公正な取引方法」の概要
17)	不当な差別的取扱い（1）	不当な取引拒絶
18)	不当な差別的取扱い（2）	不当な取引拒絶を除く、不当な差別的取扱い
19)	不当対価取引	主に不当廉売
20)	不当な顧客誘引・取引強制（1）	ぎまんの顧客誘引・不当な利益による顧客誘引

- | | | |
|-----|-----------------|--------------------|
| 21) | 不当な顧客誘引・取引強制（2） | 抱き合わせ販売 |
| 22) | 事業活動の不当拘束（1） | 排他条件付取引 |
| 23) | 事業活動の不当拘束（2） | 再販売価格の拘束 |
| 24) | 取引上の地位の不当利用 | 優越的地位の濫用 |
| 25) | 不当な取引妨害・内部干渉 | 主に不当な取引妨害 |
| 26) | 業法による規制 | 電気通信事業法等の各種業法の概要 |
| 27) | 国際的な規制 | 国際経済法 |
| 28) | まとめ | 秋学期のまとめ、春学期・秋学期の総括 |

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・幅広い分野に関心をもって書籍、雑誌、ネット等に触れ、あるいは実体験を通じて、経済社会と法に関する知見・知識を得る。
- ・参考書の関連部分、課題・質問事項に係るフィードバック内容を適宜読み、興味・関心をひく内容について自分なりに考えてみる。
- ・上記の授業時間外の学習時間は、大学設置基準に鑑み、毎回4時間程度とします。

【テキスト（教科書）】

特に使用しません。

【参考書】

- ①土田和博ほか『条文から学ぶ 独占禁止法〔第2版〕』（有斐閣、2019年）。
※補遺により部分的にアップデートされています。補遺はウェブ上で無料で入手できます（→http://www.yuhikaku.co.jp/static_files/24314_hoi.pdf）。
- ②川渕昇ほか『ベーシック経済法——独占禁止法入門〔第5版〕』（有斐閣、2020年）。
- ③金井貴嗣ほか編『独占禁止法〔第6版〕』（弘文堂、2018年）。
※①と同様に補遺があります（→<https://www.koubundou.co.jp/files/35751.pdf>）。
- ④根岸哲=舟田正之『独占禁止法概説〔第5版〕』（有斐閣、2015年）。
※①と同様に補遺（追補）があります（→http://www.yuhikaku.co.jp/static_files/web_supplement_14482.pdf）。
- ⑤金井貴嗣ほか編『経済法判例・審決百選〔第2版〕』（有斐閣、2017年）。

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業への参加状況）（20点）及び期末レポート（80点）により評価します。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【Outline (in English)】

- ・ This course introduces overview of Antimonopoly Act to students taking this course.
- ・ The goals of this course are to acquire knowledge about the basic contents of Antimonopoly Act, such as the purpose of the law, prohibited acts, and the contents of measures.
- ・ Before/after each class meeting, students will be expected to spent four hours to understand the course content.
- ・ Final grade will be calculated according to the following process Term-end report (80%) and in-class contribution (20%).

LAW300CA
労働法
小林 大祐
開講時期：年間授業/Yearly 単位：4 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

労働法は、労働者に人間らしい労働条件を保障し、それによって人間らしい生活を実現するために、古典的な市民法を修正して誕生した。

今日、労働法は3つの領域から構成される。すなわち、①労働者保護の観点から、個々の労働者と使用者との労働契約関係を規律する「雇用関係法」、②労働者の広義の団結権を保障する観点から、労働者団結と使用者との集団的な対向関係を規律する「労使関係法」、③労働市場における労働力の需給調整を介して、労働者の雇用の保障をめざす「労働市場法」である。

この授業では、働く人（労働者）、働かせる人（使用者）あるいは行政機関で労働問題に取り組む者などの様々な立場において重要な労働法の基礎的かつ体系的な知識を正確に身につけることによって、現実の社会にある労働問題を発見し、これを法的に分析し、解決する力を養うことを目的とする。

【到達目標】

- ◆働くうえで基本的な法ルールを身につける。
- ◆労働法の特徴と構造を理解する。
- ◆現実の社会において発生している労働問題を発見し、正確に法的な分析・検討をしたうえで、この問題を解決する力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP8」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】

- ◆この授業は講義形式です。
- ◆原則として、対面授業です。ただし、下記記載のように、オンライン授業の回があります。オンライン授業日は変動することがあります。
- ◆授業内で質問に返答いただくことがあります。
- ◆複数回、授業後に小テストを行います。その次の授業の際に、その解説を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	労働法の意義と体系、紛争解決制度
第2回	労働法のプレイヤー	労働者、使用者、労働組合、過半数代表、労使委員会
第3回	労働契約	労働契約上の権利・義務
第4回	労働条件の決定（1）	労働協約
第5回	労働条件の決定（2）	就業規則
第6回	賃金に関する規制と最低賃金法概論（1）	日本の賃金制度、賃金支払い4原則など
第7回	賃金に関する規制と最低賃金法概論（2）	最低賃金制度など
第8回	労働時間に関する規制と休息権（1）	労働時間の定義、三六協定、休日、休憩など
第9回	労働時間に関する規制と休息権（2）	弾力的労働時間制度、みなし労働時間制度、高度プロフェッショナル制度、適用除外
第10回	労働時間に関する規制と休息権（3）	年次有給休暇など
第11回	労働災害の予防と補償（1）	労働安全衛生、労災補償制度

第12回	労働災害の予防と補償（2）	労災保険制度、労災民訴
第13回	労働者の人権、平等、人格権（1）	労働憲章、個人情報・プライバシー保護など
第14回	労働者の人権、平等、人格権（2）	男女雇用機会均等法、育児介護休業法、ハラスメントなど
第15回	労働契約の成立をめぐる法的問題	採用内定（内々定）、試用など
第16回	人事制度をめぐる法的問題	配転、出向、転籍、昇進、昇格、降格
第17回	服務規律、懲戒制度をめぐる法的問題	懲戒処分など
第18回	労働契約の終了をめぐる法的問題（1）	解雇以外の労働契約終了事由
第19回	労働契約の終了をめぐる法的問題（2）	解雇
第20回	非典型雇用（1）	有期労働者の保護など
第21回	非典型雇用（2）	有期・パート労働者の均等待遇など
第22回	非典型雇用（3）	派遣労働者の保護と均等待遇など
第23回	雇用保険制度	失業等給付、育児休業給付、求職者支援制度など
第24回	特定分野の雇用政策	若年者雇用、高齢者雇用、障害者雇用、外国人雇用
第25回	労使関係法総論	労働基本権、労働組合、労働委員会など
第26回	団体交渉と団体行動（1）	団体交渉義務、争議行為の正当性など
第27回	団体交渉と団体行動（2）	組合活動、労働争議の調整制度など
第28回	不当労働行為	不当労働行為の主体・成立要件・救済

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義前：2時間程度を目安に、関連するニュースを見たり、教科書の当該箇所を読むことで、講義において重点的に聞くべき問題点を理解できるようにする。

講義後：2時間程度を目安に、テキスト・レジュメの復習、小テストの解答・復習をする。友達・家族に、その日聞いた労働法のおおまかな仕組みを説明できる程度まで復習する。

【テキスト（教科書）】

藤本茂・沼田雅之・山本圭子・細川良編著『ファーストステップ労働法』（エイデル研究所、2020年）
※開講時の最新版を使用します。

【参考書】

【判例集】
・村中孝史・荒木尚志編『労働判例百選（第10版）』（有斐閣、2022年）
【六法】
・労働政策研究・研修機構『労働関係法規集 2022年版』
・旬報社『労働六法 2022年版』

【成績評価の方法と基準】

- ◆小テスト：30%
- ◆期末テスト：70%

【学生の意見等からの気づき】

レジュメのみならず、パワーポイント資料や補足的な配布資料等を利用して、授業内容を分かりやすく伝え、かつ学生自身が自習をやりやすいようにしています。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布・課題提出等のために学習支援システムを利用します。

【その他の重要事項】

◆教科書からアクセスできる資料を授業内で利用することがあります。

【Outline (in English)】

Japanese labour law principally purposes to realise the conditions that enables people to work humanly. It consists of individual labour law, collective labour law and labour market law.

In this lecture, through confirming and considering basic legal system and several judicial precedents of Japanese labour law, students could have a capacity to analyse and solve labour problems legally.

The following topics will be explained : the sources and regulation of terms and conditions of employment, the prevention and compensation of industrial accidents, the discrimination and equality in employment, the protection of worker's personality, the formation and termination of employment, the rights and duties of parties during employment, the protection of certain categories of worker, the forms of collective organisations, the collective bargaining, the disputes acts and the unfair labour practices.

【Learning activities outside of classroom】

Before each class meeting, students will be expected to spend two hours to read the relevant texts and news.

After each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content

【Grading Criteria /Policies】

Your overall grade in the class will be decided based on the following :

Term-end examination: 70%、Short examinations in class: 30%

MAN300CA
経営学
砂田 充
開講時期：年間授業/Yearly 単位：4 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

企業活動のグローバル化に伴い、企業を取り巻く経営環境が複雑化し、企業経営の現場においても自社及びライバルの経営戦略とその影響をより正しく理解することの必要性が高まっている。本講義では経営学、特に経営戦略の基礎的及び発展的な内容について、経済学的な考え方をベースに学習する。授業形態については対面を基本とするが、各回の内容や進捗状況を踏まえてオンラインで実施する場合もあり得る（半期それぞれ最大7回、必ず7回オンラインになるわけではありません）。オンラインで実施する場合には学習支援システムを通じて連絡する。

【到達目標】

事業戦略の基礎（外部要因・内部要因の分析）、競争優位の基本戦略（コスト優位・差別化優位）、企業戦略の基礎（垂直統合・多角化）に加えて経営戦略のゲーム理論的アプローチについて、経済学的な考え方をベースとしたロジックを理解する。また、そのための基礎知識となるマイクロ経済分析のツールについても復習する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】

パワーポイント及び板書を使って講義を行う。必要に応じてレジュメを配布する。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	「経営学」と「経済学」 春学期
2	経営戦略とは	経営戦略とゼネラル・マネジメン ト
3	経営戦略の成立ちと種類	事業戦略と企業戦略
4	経営学のための経済学基礎①	需要の特性
5	経営学のための経済学基礎②	費用構造
6	事業戦略の考え方	価値創造とSWOTの分析
7	外部要因の分析①	業界構造分析
8	外部要因の分析②	業界構造分析の事例研究
9	外部要因の分析③	価値相関図
10	内部要因の分析	企業活動と経営資源
11	競争優位と基本戦略	競争優位のタイプと基本戦略
12	コスト優位	コスト・ドライバー
13	差別化優位	差別化ドライバー
14	春学期の総括	春学期の内容のおさらい
15	イントロダクション	企業戦略と戦略的行動 秋学期
16	企業戦略の考え方	企業優位とシナジー
17	垂直統合	取引費用と「Make or Buy」の意思決定
18	多角化①	多角化の内的・外的要因
19	多角化②	製品プロダクト・ポートフォリオ
20	国際化	国際企業戦略とOLI フレーム ワーク
21	参入	内部成長、M&A、提携

22	経営学のためのゲーム理論	戦略型ゲームと展開型ゲーム
23	寡占の企業間競争①	同質財市場
24	寡占の企業間競争②	製品差別化
25	戦略的行動①	相互依存関係と戦略的行動
26	戦略的行動③	略奪価格と柔道エコノミクス
27	その他のトピック	より進んだテーマ
28	秋学期の総括	秋学期の内容のおさらい

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学生は各講義前に講義資料を授業支援システムよりDLして予習（2時間程度）、講義後には「学習支援システム」を使って復習（2時間程度）することが必要である。加えて、講義の中で簡単に説明をするが、マイクロ経済学の基礎について復習しておくことが望まれる。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。授業の進行に従ってレジュメを配布する。

【参考書】

浅羽茂『経営戦略の経済学』（日本評論社、2004年）、
浅羽茂・牛島辰男『経営戦略をつかむ』（有斐閣、2010年）、
網倉久永・新宅純二郎『マネジメント・テキスト経営戦略入門』（日本経済新聞社、2011年）
小田切宏之『企業経済学（第2版）』（東洋経済新報社、2010年）、
丸山雅祥『経営の経済学 [第3版]』（有斐閣、2017年）、
Besanko, D., D. Dranove, M. Shanley, and S. Schaefer.
Economics of Strategy, 6th edition, John Wiley & Sons, 2013.
他適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

期末試験（50-80%）とホームワーク（20-50%）による。必ず、春学期・秋学期の課題を提出し、期末試験を受験してください。

【学生の意見等からの気づき】

具体的な事例を示しながら分かりやすく講義することに努めたい。

【その他の重要事項】

受講者の理解度等を踏まえて内容を変更する可能性がある。場合によっては、レポート・小テスト（授業内・外）を課すこともある。必ず、春学期・秋学期の課題の提出し、期末試験を受験してください。

【Outline (in English)】

This course introduces students to the basic concepts of strategic management from economics perspectives. The rigorous framework of economics helps students to understand the interactions among firms in the increasingly complex business environment alongside globalization. This course will focus on, but not limited to, the topics as follows: competitor and competition, value creation, industry analysis: five-force analysis, competitive advantage, vertical boundaries of the firm: vertical integration, horizontal boundaries of the firm: diversification, globalization, competitive strategy. The course also introduces real-world examples for students' easy understanding of each topics.

The goal of this course is understanding, based on the economic theory, the conceptual framework of business strategy, competitive advantage, the logic behind various corporate strategy (eg. vertical integration, diversification, internationalization, and so on) and the game theoretic analysis of competitive strategy, based on the economic theory.

Students will be expected to thoroughly prepare each class meeting using course materials which provided through HOPPII (about two hours required), and, after each class meeting, to complete a homework assignment through HOPPII within a week (about two hours required).

Students are also expected to have comprehension of introductory microeconomics and game theory, while we will briefly review them within the course.

The grade will be based on the final exam (50-80%) and the homework (20-50%).

ECN200CA
社会経済学応用 A
大友 敏明
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位
クラス指定あり【2 年 HIJKLMPRSTUVW 組、3 年生以上は指定なし】

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

学生が社会経済学応用を学ぶことで社会経済学基礎で習得した知識や理論をさらに発展することができます。この授業は再生産論と信用論の歴史を扱いますが、たんに過去の経済理論の展開をみるだけではなく、論争に焦点を当てます。それを学ぶことで経済学の理論の成立と発展を理解できることを目的とします。

【到達目標】

学生が経済現象を論理的に理解する能力を身につけることがこの授業の目標です。経済学の理論は論争を通じて形成されるので、対立する理論の長所と欠点を理解するとともに、過去の論争が現代でも新しい形で再現されることを学びます。そのうえで過去の論争と現代の論争の共通点と相違点を習得することが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】

現在、世界で問題となっている時事問題を取り上げながら授業を進めます。授業には毎回レジュメを配布します。基礎的な用語は繰り返し説明し、時々質問をします。授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか質問を取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	資本主義とは何か	現代の資本主義の諸問題
第 2 回	ケネーの経済表	再生産
第 3 回	ヒュームの経済学	貨幣数量説
第 4 回	ステュアートの経済学	経済循環論
第 5 回	ステュアートの信用論	土地担保発券銀行
第 6 回	スミスの再生産論	単線的生産構造論
第 7 回	スミスの信用論	真正手形割引
第 8 回	リカードウの経済学	分配論
第 9 回	リカードウの信用論	通貨の管理
第 10 回	金本位制	為替相場
第 11 回	通貨原理	金本位制の自動調節機能
第 12 回	銀行原理	預金通貨
第 13 回	ピール銀行条例	通貨の管理
第 14 回	試験・まとめ	春学期の試験とまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学生は毎回配布されるレジュメを復習して授業に臨み、授業中に示される演習問題に取り組んでください。本授業の準備・復習時間は各 4 時間を目安とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しない。毎回レジュメを配布します。

【参考書】

小林 昇・杉原四郎編『新版経済学史』有斐閣、1986 年。

【成績評価の方法と基準】

春学期の成績評価の方法と基準は、授業内小テスト 1 回（30%）および期末試験（70%）の合計です。

【学生の意見等からの気づき】

よりわかりやすい授業を目指します。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

特になし。

【Outline (in English)】

(Course Outline)The aim of this course is to develop the knowledge and understanding of Marx's economics. Students will be expected to deepen the history of reproduction theory and credit theory. Thereby, students will be able to learn how economic theories were formed.

(Learning Objectives)The goals of this course are to have an ability to understand economic phenomena logically.

(Learning activities outside of classroom)After each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

(Grading Criteria /Policy)Final grade will be calculated according to the following process Mid-term test(30%),term-end examination(70%).

ECN200CA
社会経済学応用 A
大友 敏明
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位
クラス指定あり【2 年 ABCDEFGNOQXYZ 組、3 年生以上は指定なし】

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

学生が社会経済学応用を学ぶことで社会経済学基礎で習得した知識や理論をさらに発展することができます。この授業は再生産論と信用論の歴史を扱いますが、たんに過去の経済理論の展開をみるだけではなく、論争に焦点を当てます。それを学ぶことで経済学の理論の成立と発展を理解できることを目的とします。

【到達目標】

学生が経済現象を論理的に理解する能力を身につけることがこの授業の目標です。経済学の理論は論争を通じて形成されるので、対立する理論の長所と欠点を理解するとともに、過去の論争が現代でも新しい形で再現されることを学びます。そのうえで過去の論争と現代の論争の共通点と相違点を習得することが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】

現在、世界で問題となっている時事問題を取り上げながら授業を進めます。授業には毎回レジュメを配布します。基礎的な用語は繰り返し説明し、時々質問をします。授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか質問を取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	資本主義とは何か	現代の資本主義の諸問題
第 2 回	ケネーの経済表	再生産
第 3 回	ヒュームの経済学	貨幣数量説
第 4 回	ステュアートの経済学	経済循環論
第 5 回	ステュアートの信用論	土地担保発券銀行
第 6 回	スミスの再生産論	単線的生産構造論
第 7 回	スミスの信用論	真正手形割引
第 8 回	リカードウの経済学	分配論
第 9 回	リカードウの信用論	通貨の管理
第 10 回	金本位制	為替相場
第 11 回	通貨原理	金本位制の自動調節機能
第 12 回	銀行原理	預金通貨
第 13 回	ピール銀行条例	通貨の管理
第 14 回	試験・まとめ	春学期の試験とまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学生は毎回配布されるレジュメを復習して授業に臨み、授業中に示される演習問題に取り組んでください。本授業の準備・復習時間は各 4 時間を目安とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しない。毎回レジュメを配布します。

【参考書】

小林 昇・杉原四郎編『新版経済学史』有斐閣、1986 年。

【成績評価の方法と基準】

春学期の成績評価の方法と基準は、授業内小テスト 1 回（30%）および期末試験（70%）の合計です。

【学生の意見等からの気づき】

よりわかりやすい授業を目指します。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

特になし。

【Outline (in English)】

(Course Outline)The aim of this course is to develop the knowledge and understanding of Marx's economics. Students will be expected to deepen the history of reproduction theory and credit theory. Thereby, students will be able to learn how economic theories were formed.

(Learning Objectives)The goals of this course are to have an ability to understand economic phenomena logically.

(Learning activities outside of classroom)After each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

(Grading Criteria /Policy)Final grade will be calculated according to the following process Mid-term test(30%),term-end examination(70%).

ECN200CA
社会経済学応用 B
大友 敏明
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位
クラス指定あり【2 年 HIJKLMPRSTUVW 組、3 年生以上は指定なし】

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

学生が社会経済学応用を学ぶことで社会経済学基礎で習得した知識や理論をさらに発展することができます。この授業は信用理論と株式会社論を講義します。この授業では、社会経済学基礎で学んだ信用理論を踏まえつつ、それに加えて信用創造論や決済システム、中央銀行論、株式会社論を展開していきます。そのうえで現代資本主義の抱える諸問題を理解することを目指します。

【到達目標】

学生が経済現象を論理的に理解する能力を身につけることがこの授業の目標です。信用理論と信用制度の仕組みを学びながら、現代の貨幣信用制度や金融政策の問題点を理解します。さらに株式会社の理論を学ぶことで株式会社が抱えるさまざまな問題を論理的に把握できることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】

現在、世界で問題となっている時事問題を取り上げながら授業を進めます。授業には毎回レジュメを配布します。基礎的な用語は繰り返し説明し、時々質問をします。授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか質問を取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	信用理論と株式会社論	現代の資本主義の諸問題の課題
第 2 回	商業信用	手形
第 3 回	銀行信用	銀行券と現金
第 4 回	信用創造論	預金通貨
第 5 回	信用制度 1	決済システム
第 6 回	信用制度 2	金融市場
第 7 回	中央銀行論 1	金融政策
第 8 回	中央銀行論 2	中央銀行の独立性
第 9 回	企業形態論	合名会社と合資会社
第 10 回	株式会社の原理	持ち株多数決の原理
第 11 回	株式会社論 1	支配の集中
第 12 回	株式会社論 2	資本の集中
第 13 回	擬制資本論	株価
第 14 回	試験・まとめ	秋学期の試験とまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学生は毎回配布されるレジュメを復習して授業に臨み、授業中に示される演習問題に取り組んでください。本授業の準備・復習時間は各 4 時間を目安とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しない。毎回レジュメを配布します。

【参考書】

大谷禎之介著『図解 社会経済学』桜井書店、2001 年。
奥村 宏著『新版法人資本主義の構造』社会思想社、1991 年。

【成績評価の方法と基準】

秋学期の成績評価の方法と基準は、授業内小テスト 1 回（30 %）および期末試験（70 %）の合計です。

【学生の意見等からの気づき】

よりわかりやすい授業を目指します。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

特になし。

【Outline (in English)】

(Course Outline)The aim of this course is to develop the knowledge and understanding of Marx's economics. Students will be expected to deepen the credit theory and a joint-stock company. Thereby, students will be able to learn some significant issues of modern capitalism.

(Learning Objectives)The goals of this course are to have an ability to understand economic phenomena logically.

(Learning activities outside of classroom)After each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

(Grading Criteria /Policy)Final grade will be calculated according to the following process Mid-term test(30%),term-end examination(70%).

ECN200CA
社会経済学応用 B
大友 敏明
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位
クラス指定あり【2 年 ABCDEFGNOQXYZ 組、3 年生以上は指定なし】

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

学生が社会経済学応用を学ぶことで社会経済学基礎で習得した知識や理論をさらに発展することができます。この授業は信用理論と株式会社論を講義します。この授業では、社会経済学基礎で学んだ信用理論を踏まえつつ、それに加えて信用創造論や決済システム、中央銀行論、株式会社論を展開していきます。そのうえで現代資本主義の抱える諸問題を理解することを目指します。

【到達目標】

学生が経済現象を論理的に理解する能力を身につけることがこの授業の目標です。信用理論と信用制度の仕組みを学びながら、現代の貨幣信用制度や金融政策の問題点を理解します。さらに株式会社の理論を学ぶことで株式会社が抱えるさまざまな問題を論理的に把握できることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】

現在、世界で問題となっている時事問題を取り上げながら授業を進めます。授業には毎回レジュメを配布します。基礎的な用語は繰り返し説明し、時々質問をします。授業で提出されたりアクションペーパーからいくつか質問を取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	信用理論と株式会社論	現代の資本主義の諸問題の課題
第 2 回	商業信用	手形
第 3 回	銀行信用	銀行券と現金
第 4 回	信用創造論	預金通貨
第 5 回	信用制度 1	決済システム
第 6 回	信用制度 2	金融市場
第 7 回	中央銀行論 1	金融政策
第 8 回	中央銀行論 2	中央銀行の独立性
第 9 回	企業形態論	合名会社と合資会社
第 10 回	株式会社の原理	持ち株多数決の原理
第 11 回	株式会社論 1	支配の集中
第 12 回	株式会社論 2	資本の集中
第 13 回	擬制資本論	株価
第 14 回	試験・まとめ	秋学期の試験とまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学生は毎回配布されるレジュメを復習して授業に臨み、授業中に示される演習問題に取り組んでください。本授業の準備・復習時間は各 4 時間を目安とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しない。毎回レジュメを配布します。

【参考書】

大谷禎之介著『図解 社会経済学』桜井書店、2001 年。
奥村 宏著『新版法人資本主義の構造』社会思想社、1991 年。

【成績評価の方法と基準】

秋学期の成績評価の方法と基準は、授業内小テスト 1 回（30 %）および期末試験（70 %）の合計です。

【学生の意見等からの気づき】

よりわかりやすい授業を目指します。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

特になし。

【Outline (in English)】

(Course Outline)The aim of this course is to develop the knowledge and understanding of Marx's economics. Students will be expected to deepen the credit theory and a joint-stock company. Thereby, students will be able to learn some significant issues of modern capitalism.

(Learning Objectives)The goals of this course are to have an ability to understand economic phenomena logically.

(Learning activities outside of classroom)After each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

(Grading Criteria /Policy)Final grade will be calculated according to the following process Mid-term test(30%),term-end examination(70%).

ECN200CA
日本経済論 A
小黒 一正
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本は今、少子高齢化やグローバル化の進展で様々な課題を抱えている。日本経済の今後の動向を理解するには、その内容を分析・考察するための「ツール」が必要であり、とくに「マクロ経済学」「公共経済学」の知識が必要不可欠となってくる。そこで、本講義では、財政政策・金融政策との関係を含めて「マクロ経済学」の基礎的な内容を学びつつ、日本経済を巡る課題をマクロ経済学の視点から見えていく。

【到達目標】

日本経済論を学ぶことで、日本経済を巡る課題に対して経済学的なロジックに従って考え、評価する姿勢を身につけることを目指す。日本経済の今後の動向を考えるうえで必要な諸理論を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP2」「DP9」に関連。国際経済学科は「DP2」「DP8」に関連。

【授業の進め方と方法】

現在のところ、基本的には教科書に沿って講義を進めることを予定している。教科書以外の参考文献がある時にはその都度指示する。また、各回のテーマは以下を予定するが、受講生の知識・理解度を勘案し、必要に応じて授業スピードの変更を行う。

【留意事項】

なお、新型コロナウイルス感染症拡大の影響に伴い、教室での講義が可能となるまでの期間の授業計画等は、学習支援システムでその都度提示する。また、課題の提出等（フィードバックを含む）も「学習支援システム」を通じて行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	ガイダンス
第 2 回	日本経済を理解するためのマクロ経済学 (1)	マクロ経済学の基礎（マクロ経済の循環・GDP・名目と実質）
第 3 回	日本経済を理解するためのマクロ経済学 (2)	古典派モデル (1) 基本モデル
第 4 回	日本経済を理解するためのマクロ経済学 (3)	古典派モデル (2) 拡張モデル（恒常所得仮説、開放経済モデル）
第 5 回	日本経済を理解するためのマクロ経済学 (4)	古典派モデル (3) 貨幣数量説、失業と労働市場
第 6 回	日本経済を理解するためのマクロ経済学 (5)	ケインズ・モデル (1) 所得支出モデル
第 7 回	日本経済を理解するためのマクロ経済学 (6)	ケインズ・モデル (2) IS-LM モデルと財政金融政策の効果
第 8 回	日本経済を理解するためのマクロ経済学 (7)	ケインズ・モデル (3) IS-MP モデル、開放経済モデル
第 9 回	日本経済を理解するためのマクロ経済学 (8)	消費関数・投資関数の理論
第 10 回	日本経済を理解するためのマクロ経済学 (9)	財政赤字（ドーマーの命題・リカードの等価定理）
第 11 回	日本経済を理解するためのマクロ経済学 (10)	経済成長論
第 12 回	現在の日本が抱える課題 (1)	デフレ脱却、金融政策の効果と限界
第 13 回	現在の日本が抱える課題 (2)	財政政策の効果と限界、成長戦略

第 14 回 期末試験と総括 試験等

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備・復習時間は、各 4 時間を目安とする。

【テキスト（教科書）】

浅井和美・篠原総一『入門・日本経済 第 4 版』有斐閣
麻生良文『マクロ経済学入門』ミネルヴァ書房
配布資料

【参考書】

マンキュー『マンキュー経済学 II マクロ編』東洋経済新報社
マンキュー『マクロ経済学 I・II』東洋経済新報社
内閣府『経済財政白書』（経済企画庁『経済白書』）
小黒一正『日本経済の再構築』日本経済新聞出版社
山重慎二・加藤久和・小黒一正『人口動態と政策：経済学のアプローチへの招待』日本評論社
その他は適宜授業内で紹介する。

【成績評価の方法と基準】

基本的に期末試験 100%での評価を予定するが、場合によってはレポート課題 100%で対応する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【その他の重要事項】

初回授業に必ず出席すること。

【Outline (in English)】

The Japanese economy is now facing multiple challenges due to the declining birthrate and aging population and the progress of globalization. In order to identify and understand the future trends of the Japanese economy, we need a tool for analyzing and assessing the trends, including the knowledge of macroeconomics and public economics. Therefore, in this course, while learning the basics of macroeconomics, we will consider the issues surrounding the Japanese economy from a macroeconomics perspective. At present, the evaluation for students would be based on the score of the final exam (100%).

ECN200CA
日本経済論 A
小崎 敏男
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「日本経済」の変遷を人口・経済成長・金融・財政・労働を中心として講義する。

現在のわが国が置かれている位置を確認して欲しい。受講者は、ミクロ経済学とマクロ経済学の基礎を学んでいることが望ましい。

【到達目標】

日本経済の現状と将来展望を理解し、新聞やニュースの経済記事を興味をもって読めるような基本的知識を身につけることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP2」「DP9」に関連。国際経済学科は「DP2」「DP8」に関連。

【授業の進め方と方法】

オンデマンド形式のオンライン講義とする。学年暦に応じ毎週各スライドにナレーションを挿入したパワーポイント・資料を、学習支援システム（HOPPII）の教材フォルダーにアップロードしておくので、それをダウンロードし、受講生が適切な環境で学習してもらう。授業内容に関し質問等がある場合は、学習支援システムの「掲示板」内のスレッド「授業への質問コーナー」に投稿して欲しい。課題等に対するフィードバックは、授業中解説し学習支援システムを通して返却する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	ガイダンス、わが国の人口減少 (1)	わが国の総人口の動向について考察する。
2	わが国の人口減少 (2)	わが国の人口を 3 区分して、その動向を考察する。
3	日本経済の歴史：1960～2018 年	名目 GDP、実質 GDP の動向及び、成長率の概念、成長率と複利の計算
4	高度経済成長：理論（成長会計）	経済成長の理論；生産関数と成長会計に関して考察する。
5	日本経済の失われた 30 年	1991 年のバブル崩壊から現在まで、5 期に分けて考察する。
6	日本経済と国際経済との関係	国際収支と貿易構造、企業の海外進出、アジア経済の拡大と貿易パターンの変化
7	金融政策 (1)	日本の金融の足取りの考察。
8	金融政策 (2)	伝統的理論と非伝統的理論の考察。
9	財政政策 (1)	財政の現状と社会保障に関して考察する。
10	財政政策 (2)	MMT 理論に関して考察する。
11	労働政策 (1)	人口減少と労働政策に関して考察する。
12	労働政策 (2)	解雇権・最低賃金に関して考察する。
13	地域政策	人口減少と地域政策
14	小括 1	第 1 回から 13 回までの講義に関する質疑応答

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は各回 4 時間を標準とし、毎日の新聞、ニュースの経済欄を読み聞く習慣を身に付けること、および授業で使う資料に必ず目を通すこと。

【テキスト（教科書）】

特に使用しない。毎回の講義内容は授業支援システム上にアップロードする。

【参考書】

- ①鶴・前田・村田（2019）『日本経済のマクロ分析』日本経済新聞社。
- ②小崎・牧野・吉田（2022）『キャリアと労働の経済学』日本評論社。
- ③内閣府『経済財政白書』（経済企画庁『経済白書』）など。

その他は適宜授業内で紹介する。

【成績評価の方法と基準】

レポート（100％）を課し、それによって評価する。

【学生の意見等からの気づき】

グラフを読みやすく改善しました。

【その他の重要事項】

現代経済学基礎、同応用、ミクロ経済学、マクロ経済学などの履修を平行して進めること。

【Outline (in English)】

Lectures on the transition of the "Japanese economy" focusing on population, economic growth, finance, finance, and labor.

I want you to confirm the current location of Japan. Students should be learning the basics of microeconomics and macroeconomics.

The goal is to understand the current state and future prospects of the Japanese economy, and to acquire basic knowledge to read economic articles in newspapers and news with interest.

Impose a report (100%) and evaluate accordingly.

ECN200CA
日本経済論 B
小黒 一正
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本は今、少子高齢化やグローバル化の進展で様々な課題を抱えている。日本経済の今後の動向を理解するには、その内容を分析・考察するための「ツール」が必要であり、とくに「マクロ経済学」「公共経済学」の知識が必要不可欠となってくる。そこで、本講義では、財政や租税の諸理論を含む「公共経済学」の基礎的な内容を学びつつ、日本経済を巡る課題を公共経済学の視点から見ていく。

【到達目標】

日本経済論を学ぶことで、日本経済を巡る課題に対して経済学的なロジックに従って考え、評価する姿勢を身につけることを目指す。日本経済の今後の動向を考えるうえで必要な諸理論を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP2」「DP9」に関連。国際経済学科は「DP2」「DP8」に関連。

【授業の進め方と方法】

現在のところ、基本的には教科書に沿って講義を進めることを予定している。教科書以外の参考文献がある時にはその都度指示する。また、各回のテーマは以下を予定するが、受講生の知識・理解度を勘案し、必要に応じて授業スピードの変更を行う。

【留意事項】

なお、新型コロナウイルス感染症拡大の影響に伴い、教室での講義が可能となるまでの期間の授業計画等は、学習支援システムでその都度提示する。また、課題の提出等（フィードバックを含む）も「学習支援システム」を通じて行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	ガイダンス
第2回	日本経済を理解するための公共経済学(1)	市場の失敗と政府の役割
第3回	日本経済を理解するための公共経済学(2)	財政、国債市場
第4回	日本経済を理解するための公共経済学(3)	公共財
第5回	日本経済を理解するための公共経済学(4)	外部性、共有地の悲劇、外部性の解決方法
第6回	日本経済を理解するための公共経済学(5)	社会保障の全体像、年金・医療・介護
第7回	日本経済を理解するための公共経済学(6)	情報の非対称性、逆選択、所得分配
第8回	日本経済を理解するための公共経済学(7)	租税の理論、物品税の帰着
第9回	日本経済を理解するための公共経済学(8)	労働所得税の効果、利子所得税の効果
第10回	日本経済を理解するための公共経済学(9)	課税が資本蓄積に及ぼす効果、減税の効果
第11回	日本経済を理解するための公共経済学(10)	公債の負担
第12回	現在の日本が抱える課題(1)	少子高齢化、社会保障、賦課方式と積立方式
第13回	現在の日本が抱える課題(2)	財政赤字、世代間格差
第14回	期末試験と総括	試験等

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備・復習時間は、各4時間を目安とする。

【テキスト（教科書）】

浅子和美・篠原総一『入門・日本経済 第4版』有斐閣
林正義・小川光・別所俊一郎『公共経済学』有斐閣
麻生良文・小黒一正・鈴木将寛『財政学15講』新世社
配布資料

【参考書】

ステイグリッツ『公共経済学上』東洋経済
ステイグリッツ『公共経済学下』東洋経済
内閣府『経済財政白書』（経済企画庁『経済白書』）
小黒一正『日本経済の再構築』日本経済新聞出版社
山重慎二・加藤久和・小黒一正『人口動態と政策：経済学のアプローチへの招待』日本評論社
その他は適宜授業内で紹介する。

【成績評価の方法と基準】

基本的に期末試験100%での評価を予定するが、場合によってはレポート課題100%で対応する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【その他の重要事項】

初回授業に必ず出席すること。

【Outline (in English)】

The Japanese economy is now facing multiple challenges due to the declining birthrate and aging population and the progress of globalization. In order to identify and understand the future trends of the Japanese economy, we need a tool for analyzing and assessing the trends, including the knowledge of macroeconomics and public economics. Therefore, in this course, while learning the basics of public economics, including various theories of public finance and tax, we will consider the issues surrounding the Japanese economy from the perspective of public economics. At present, the evaluation for students would be based on the score of the final exam (100%).

ECN200CA
日本経済論 B
小崎 敏男
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本経済論 B は、日本経済論 A をより深く経済学的に探究する。特に、人口減少と日本経済の関係を深掘する。それにより、現在、日本の置かれて位置関係が理解される。

学生は、この学びにより今、何が日本に求められているのか理解できることとなる。また、その成果として日本経済新聞などの経済記事や週刊誌を体系的に理解できることを目的としている。

【到達目標】

個別の分野ごとに日本経済の抱える問題、解決への手段を考察するための基本知識、そして当然のことながら、新聞の経済記事等が理解できるような基本知識を身につけることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP2」「DP9」に関連。国際経済学科は「DP2」「DP8」に関連。

【授業の進め方と方法】

オンデマンド形式のオンライン講義とする。学年暦に応じ毎週各スライドにナレーションを挿入したパワーポイント・資料を、学習支援システム（HOPPII）の教材フォルダーにアップロードしておくので、それをダウンロードし、受講生が適切な環境で学習してもらう。授業内容及び課題等に対するフィードバックは、学習支援システムの「掲示板」で返答する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の概要とスケジュール
2	少子化に関する基礎理論（1）	結婚の経済理論、子どもの数の決定理論
3	少子化に関する基礎理論（2）	少子化対策の理論
4	既婚女性の働き方と子どもの数（1）	理論的考察
5	既婚女性の働き方と子どもの数（2）	既婚女性の働き方と出生数の実証的考察
6	超高齢社会への対応策（1）	高齢化のメカニズム、人口高齢化の問題点
7	超高齢社会への対応策（2）	高齢者就業対策
8	労働力不足の労働市場（1）	わが国労働市場の趨勢と現状
9	労働力不足の労働市場（2）	労働力人口の減少と失業率の低下
10	労働力不足と外国人労働（1）	外国人労働受入れの現状
11	労働力不足と外国人労働（2）	外国人労働者受入れの経済学的検討
12	労働力不足と日本的雇用慣行（1）	日本的雇用慣行の理論
13	労働力不足と日本的雇用慣行（2）	労働力不足と日本的雇用慣行
14	労働力不足と技術革新	第 4 次産業は仕事を奪うのか

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は各回 4 時間を標準とし、毎日の新聞、ニュースの経済欄を読み聞く習慣を身に付けること、および授業で使う資料に必ず目を通すこと。

【テキスト（教科書）】

小崎敏男（2018）『労働力不足の経済学』日本評論社。

【参考書】

関係省庁の発行する白書類。

【成績評価の方法と基準】

レポート（100%）を課し、それによって評価する。

【学生の意見等からの気づき】

質疑応答の時間を積極的に活用したい。

【Outline (in English)】

Japanese economic theory B explores Japanese economic theory A more deeply and economically. In particular, we will deepen the relationship between population decline and the Japanese economy. By doing so, the positional relationship of Japan is now understood.

Students will be able to understand what is required of Japan now through this learning. In addition, as a result, the purpose is to be able to systematically understand economic articles and weekly magazines such as the Nihon Keizai Shimbun.

The goal is to acquire the basic knowledge necessary to consider the problems faced by the Japanese economy in individual fields, the means to solve them, and, of course, the basic knowledge necessary to understand economic articles in newspapers.

Impose a report (100%) and evaluate accordingly.

ECN200CA
国際経済論 A
武智 一貴
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位
※国際経済学科生のみ履修できます。

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は、国際経済学の基礎について学びます。特に国際貿易の諸問題について講義します。貿易利益・貿易政策の効果といったトピックを理解できることを目的とします。

【到達目標】

本講義は、受講者が国際貿易の基礎について理解できるようになることを目標とします。特に、貿易からの利益、貿易政策の効果といった基本概念について学習し、自ら貿易問題の分析が可能になることが目的です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式により、基本的な国際貿易の概念について学んでいきます。なぜ国々は貿易をするのか、輸出入の構造はどう決定されるのか、貿易政策の影響はどういったものがあるのかといった点について論理的に学び、自らそれらの分析ができるようにします。現実の貿易の諸問題を例にとり、貿易理論を応用しつつ理解を深めます。課題等の提出やフィードバックは「学習支援システム」により行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	Introduction	国際取引とは何か
2	Why do we trade? I(Gains from trade)	なぜ貿易をするのか：余剰分析の基礎
3	Why do we trade? II	余剰分析：消費者余剰、生産者余剰
4	Why do we trade? III	自給自足から自由貿易へ
5	Market Structure and gains from trade I	競争的市場と独占市場
6	Market Structure and gains from trade II	独占市場における貿易の利益
7	Trade Policy	貿易政策とは何か
8	Effects of tariffs and subsidies I	輸入関税の影響
9	Effects of tariffs and subsidies II	輸出補助金の影響
10	What do we trade? (Understanding international trade (trade pattern and trade volume))	比較優位
11	Trade and factor endowments	ヘクシャー・オリーモデル
12	Strategic Trade Policy	戦略的貿易政策とは何か
13	Strategic Trade Policy Analysis I	ゲーム理論の基礎
14	Strategic Trade Policy Analysis II	戦略的貿易政策の効果

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学生は事前に授業支援システムのハンドアウトを読む必要があります。本授業の準備・復習時間は、各4時間を目安とします。

【テキスト（教科書）】

教科書はありません。

【参考書】

石川・菊池・椋著、国際経済学をつかむ、有斐閣
 ジョン・マクラレン著、柳瀬明彦訳、国際貿易・グローバル化と政策の経済分析、文真堂
 Krugman, Obstfeld and Melitz, International Economics, Pearson

【成績評価の方法と基準】

課題（30%）および期末試験もしくはレポートの結果等（70%）により成績の評価をします。

【学生の意見等からの気づき】

エクササイズを課すので、解答することで内容の理解を深めてもらいます。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムを使用する（All course materials will be distributed through the course website.）

【Outline (in English)】

This is an introductory course in international economics with a primary emphasis on international trade. Our learning objective is to understand the basic concepts of international trade. Students are expected to solve problem sets assigned and study at least 4 hours for preparing for each class. The grade is determined by the performance of assignments (30%) and final exam (or term paper) (70%).

ECN200CA
国際経済論 A
田村 晶子
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位
※経済学科生・現代ビジネス学科生のみ履修できます。

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国際貿易の基礎理論を講義します。なぜ自由な貿易が望ましいのか、貿易がもたらす利益、関税などの貿易政策が社会全体におよぼす影響を理解し、FTAやEPAなどが進む現在の国際貿易体制について考えます。

【到達目標】

貿易の基礎理論により、どのように貿易の利益が示せるかを説明できる。貿易政策が、各経済主体に与える影響を説明し、その是非を議論できる。地域貿易協定の是非について、理論に基づき議論できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】

授業はオンラインで行いますが、期末試験は対面で行います。パワーポイントを用いて講義し、キーワードや数式、グラフなどを書き込む形の空白のある配布資料を配布します。また、内容を英文で要約した資料も配付します。毎回の授業内容を復習する練習問題を学習支援システムで解き、得点は自動採点でフィードバックされます。次回授業で解答について解説します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	ガイダンスと世界貿易の概要
第2回	比較優位の理論①	リカードモデルの仮定
第3回	比較優位の理論②	貿易後の相対価格と世界供給
第4回	比較優位の理論③	貿易の利益と実証研究
第5回	資源と貿易①	ヘクシャーオリーンモデルの仮定
第6回	資源と貿易②	貿易による利益と実証研究
第7回	規模の外部経済	生産の国際立地
第8回	新しい貿易理論	グローバル経済の企業
第9回	貿易政策のツール①	輸入関税の効果
第10回	貿易政策のツール②	輸出補助金の効果
第11回	貿易政策のツール③	輸入割当と輸出自主規制
第12回	国際貿易体制	自由貿易の進展、WTO
第13回	地域貿易協定の効果	FTAが与える影響
第14回	講義のまとめと質問	講義内容への質問

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

参考文献を読んで準備学習をする。毎回の授業終了後に練習問題を解き、配付資料で復習をする。準備は1時間、復習は3時間を目安とします。

【テキスト（教科書）】

なし。

【参考書】

クルグマン・オブズフェルド・メリッツ（山形浩生、守岡桜訳）『クルグマン国際経済学 理論と政策 〔原書第10版〕上:貿易編』丸善出版、2017年
石川城太・椋寛・菊地徹著『国際経済学をつかむ（第2版）』有斐閣、2013年
伊藤恵子・伊藤匡・小森谷徳純『国際経済学15講』新世社、2022年

【成績評価の方法と基準】

練習問題（13回を予定）（30％）と、期末試験（70％）
授業はオンラインですが、期末試験は対面（参照不可）で行います。

【学生の意見等からの気づき】

進度を気をつけて、学生が理解しているかを確認しながら授業を進めます。

【学生が準備すべき機器他】

パワーポイント、授業支援システムを利用します。

【Outline (in English)】

Students study the basics of International Trade. At the end of the course, students will comprehend why free trade is desirable, as well as they will learn the effect of trade policy such as tariffs. Also, students comprehend the international trade framework with Free Trade Agreements. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Grading will be decided based on 13 quizzes(30%) and term-end examination (70%).

ECN200CA
国際経済論 B
武智 一貴
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位
※国際経済学科生のみ履修できます。

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は、国際金融（マクロ経済学）の基礎について学びます。国際収支、為替レートといった国際金融を理解する基礎概念について講義します。

【到達目標】

本講義により、受講者は国際取引のパターンとその影響、為替レートの決定、金融市場と外国為替市場の関係といったことについて理解できることを目標とします。また、様々な国際金融データの処理が可能になることも目的です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式により、まずマクロ経済学の復習を行なった後に、国際金融の基礎である国際収支と為替レートに焦点を当てて学びます。国際金融データを用いつつ、国際金融理論を現実に応用する形で理解を深めます。・課題等の提出やフィードバックについては「学習支援システム」により行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	Introduction	国際金融とは何か
2	Basic elements of international finance	国民経済計算、国際収支と為替レート
3	The link between national economy and international market	IS バランスと経常収支
4	Balance of Payments	国際収支とは何か
5	Current account	経常収支とその分析
6	The relationship between current account and financial account	経常収支と金融収支
7	More on exchange rate	為替レート：平価レート
8	Price and exchange rate	購買力平価
9	PPP violation	なぜ購買力平価は成立しないのか
10	Real exchange rate	実質為替レート
11	An asset approach	アセットアプローチ
12	Covered and Uncovered Interest Parity	利子平価とフォワードプレミアムパズル
13	Financial market and foreign exchange	外国為替と金融市場
14	Monetary policy and exchange rate	金融市場と為替レート

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に授業支援システムのハンドアウトを読んでおく必要があります。本授業の準備・復習時間は、各4時間を目安とします。

【テキスト（教科書）】

教科書はありません。

【参考書】

Krugman, Obstfeld and Melitz, International Economics, Pearson

【成績評価の方法と基準】

成績は課題（30%）、期末試験もしくはレポート等（70%）により評価します。

【学生の意見等からの気づき】

エクササイズを課すので、解答することにより内容の理解を深めてもらいます。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムを使用する（All course materials will be distributed through the course website.）

【Outline (in English)】

This course is an introduction to international finance that focuses on monetary (or macroeconomic) aspects of international economics. Our learning objective is to understand the basic concepts of international finance. Students are expected to solve problem sets assigned and study at least 4 hours for preparing for each class. The grade is determined by the performance of assignments (30%) and final exam (or term paper) (70%).

ECN200CA
国際経済論 B
田村 晶子
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位
※経済学科生・現代ビジネス学科生のみ履修できます。

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国際金融論、国際マクロ経済学の基礎を勉強します。為替レートの決定理論を勉強した上で、為替介入の効果や現在の国際通貨体制の問題について考えます。国際収支表の見方や経常収支と国内経済との関係について理解します。

【到達目標】

国際収支表を理解し、経常収支、金融収支の内容を説明できる。為替レートの決定要因から、現在の為替レートの動きを説明できる。為替レートの適正水準を理解する。統一通貨や通貨危機など、国際通貨体制における問題を議論できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】

授業はオンラインで行いますが、期末試験は対面で行います。パワーポイントを用いて講義し、キーワードや数式、グラフなどを書き込む形の空白のある配布資料を配布します。また、内容を英文で要約した資料も配付します。毎回の授業内容を復習する練習問題を学習支援システムで解き、得点は自動採点でフィードバックされます。次回授業で解答について解説します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	国際収支表	国際収支表の項目
第 2 回	日本の国際収支	国際収支データの推移
第 3 回	開放経済における国民所得恒等式	貯蓄・投資バランス
第 4 回	為替レートと外国為替市場	外国為替市場のしくみ
第 5 回	外国為替取引の種類	スワップ取引とオプション取引
第 6 回	短期の為替レート決定	アセットアプローチ
第 7 回	金融政策と為替レート	オーバーシュート・テイクモデル
第 8 回	長期の為替レート決定	購買力平価
第 9 回	実質為替レート	購買力平価からの乖離
第 10 回	固定為替レート	外国為替市場介入
第 11 回	国際通貨制度	通貨トリレンマ
第 12 回	金融のグローバル化	リスクと銀行危機
第 13 回	最適通貨圏とユーロ	固定為替レートの範囲
第 14 回	授業のまとめ	授業全体のまとめと質問

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

参考文献を読んで準備学習をする。授業終了後に練習問題を解き、配付資料で復習をする。準備は 1 時間、復習は 3 時間を目安とします。

【テキスト（教科書）】

なし

【参考書】

クルグマン・オブズフェルド（山形浩生、守岡桜訳）『クルグマン国際経済学 理論と政策（原書第 10 版）下：金融編』丸善出版、2017 年
 清水順子・大野早苗・松原聖・川崎健太郎著『徹底解説 国際金融』日本評論社、2016 年
 高木信二著「入門国際金融（第 4 版）」日本評論社、2011 年

【成績評価の方法と基準】

毎回の授業の練習問題（30%）と期末試験（70%）
 授業はオンラインで行いますが、期末試験は対面（参照不可）で行います。

【学生の意見等からの気づき】

パワーポイントの進捗に気をつけて、学生の理解度に気を配ります。

【学生が準備すべき機器他】

パワーポイントと学習支援システムを利用します。

【Outline (in English)】

Students study the basics of International finance and Open Economy Macroeconomics. At the end of the course, students will comprehend the determination of exchange rates, then consider the effects of the foreign exchange intervention and the problems of monetary systems. Students also comprehend balance of payments and the relation between current account and domestic economy. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Grading will be decided based on 13 quizzes(30%) and term-end examination (70%)

ECN200CA
財政学 A
小林 克也
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位
クラス指定あり【2 年 DEFGNOTUVWXYZ 組、3 年生以上は指定なし】

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本では、現在、少子高齢化にともなう社会保障費の増大によって膨らんでしまった政府債務残高や低成長に対する経済政策のあり方などの問題が重なり、政府は難しい意思決定に迫られています。この講義ではこれらの現状について、以下のふたつの内容を中心に学びます。前半では政府の市場へ介入がどのようなときに必要なのかについて学びます。後半では日本の財政制度と財政データを見ることで、政府が直面する問題を理解します。

【到達目標】

経済における政府の役割について、どのような考え方があるのかを理解するとともに、わが国の財政を取り巻く問題を理解します。その上で、政府の役割と日本の財政がどうあるべきかを、自分自身で考えられるようになるための論理的思考力を身につけます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP1」「DP7」「DP8」に関連。国際経済学科は「DP1」「DP7」に関連。

【授業の進め方と方法】

この授業は、昨年度受講者数が多かったためにオンデマンドのオンラインで実施します。Hoppii で講義ノートと資料を配信します。あわせて解説をした音声も配信します。講義ノートと資料を見ながら音声を聞いて学習をしてください。Hoppii のテスト/アンケートを使って課題を 5 回出します。採点の際、全員向けと適宜個別にコメントを付けます。みなさんはそれらを読んで復習をして下さい。授業の質問や意見は Hoppii の掲示板に書き込みをして下さい。掲示板に返信する形で私がお答えします。なお対面で期末テストを実施します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	財政学はどのような内容か
2	市場の働き	価格メカニズムの働き
3	市場の失敗・政府の失敗	外部性、公共財、情報の非対称性の問題など
4	財政の 3 つの機能 (1)	資源配分機能
5	財政の 3 つの機能 (2)	所得再分配機能
6	財政の 3 つの機能 (3)	経済安定化機能
7	政府の規模	データから見る政府が経済に占める大きさ
8	一般会計歳入 (1)：税収	税目と収税規模、直間比率、国際比較
9	一般会計歳入 (2)：国債	国債の発行額と政府債務残高の規模
10	一般会計歳出	内訳と規模、一般歳出の考え方
11	プライマリーバランス	プライマリーバランスの考え方
12	財政投融资	財政投融资の仕組みと規模
13	予算のしくみと編成 (1)	予算制度、予算原則、予算の形式とその見方
14	予算のしくみと編成 (2)	予算編成と審議のプロセス

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

経済学の基本的な考え方を使うので、1 年次必修の経済学の授業を理解していることと授業も理解しやすいです。理解に不安のある場合は、授業で扱う概念について自分で 1 年次の講義ノート等を復習して下さい。日経新聞も使いながら日本の財政の現状を扱うので、日頃、新聞を見ることを推奨します。これらと本授業の準備学習・復習時間で、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。毎回、授業の講義ノートと必要に応じてデータ等をまとめた資料を配布します。

【参考書】

履修者が授業に関連する内容を自習する際に、以下の文献が役立ちます。
制度やデータの把握：『図説日本の財政（最新年度版）』東洋経済新報社。
財政学を通して学ぶ：麻生良文、小黒一正、鈴木将覚 (2018)『財政学 15 講』新世社。

【成績評価の方法と基準】

対面で筆記の期末試験を実施します。おそらく期末試験期間中に実施しますが詳細は授業内でお話しします。授業の内容に関する課題を Hoppii のテスト/アンケート機能を使って 5 回出します。期末試験で半分、5 回の課題で半分の合計 100% の評価をします。

【学生の意見等からの気づき】

掲示板に書かれるみなさんからの質問や提出された課題の採点を通じて、みなさんの理解度を把握しながら、わかりやすい講義を心がけます。

【学生が準備すべき機器他】

PC とインターネット環境が必要です。Hoppii を利用できる環境は必須です。Hoppii で講義ノートと資料を配信し、音声は google drive を使って配信します。google 上の音声再生機能は不具合が多いので、PC にダウンロードして、PC 上の音声再生ソフトを用いて聞いてください。

【その他の重要事項】

Hoppii を通じて、講義ノートと資料の配信、課題の出題と提出をします。学生のみなさんは、自分がきちんと学習支援システム上に登録されているか確認をして下さい。特に、履修変更をした方は、自分で Hoppii にこの授業を登録をして下さい。授業についての変更や追加の情報は Hoppii の「お知らせ」で掲示しますので、お知らせを見るようにして下さい。また、対面で筆記の期末試験を実施します。

【Outline (in English)】

Course outline:

At present, Japanese government must manage the several issues of a huge government debt due to the huge social security costs caused by the aging and low birth rate and the economic policy against the low economic growth rate. In this course, students understand these issues that the current Japanese government is facing and learn how to consider them from the viewpoint of economics.

Learning objective:

The goals of this course are to understand the roles of the central government in the national economy and the issues which our government faces. Students should be able to consider these roles and issues of Japanese government finance logically and normatively.

Leaning activities outside of classroom:

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand course contents and basic concepts of economics.

Grading criteria/policies:

Final grade will be calculated by term-end exam 50% + five homework 50% = 100%.

ECN200CA
財政学 A
廣川 みどり
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位
クラス指定あり【2 年 ABCHIJLMPQRS 組、3 年生以上は指定なし】

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本では、現在、少子高齢化にともなう社会保障費の増大によって膨れ上がった政府債務残高や低成長に対する経済政策のあり方などの問題が重なり、政府は難しい意思決定に迫られています。この講義ではこれらの現状について、以下のふたつの内容を中心に学びます。前半では政府の市場へ介入がどのようなときに必要なのかについて学びます。後半では日本の財政制度と財政データを見ることで、政府が直面する問題を理解します。

【到達目標】

経済における政府の役割について、どのような考え方があるのかを理解するとともに、わが国の財政を取り巻く問題を理解します。その上で、政府の役割と日本の財政がどうあるべきかを、自分自身で考えられるようになるための論理的思考力を身につけます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP1」「DP7」「DP8」に関連。国際経済学科は「DP1」「DP7」に関連。

【授業の進め方と方法】

オンデマンド形式のオンラインで実施します。Hoppii で教材（音声や画像も含む）を配信します。また、課題を 5 回出します。採点の際、全員向けと適宜個別にコメントを付けますので、みなさんはそれらを読んで復習して下さい。授業の質問や意見は Hoppii の掲示板に書き込みして下さい。掲示板又は教材により、回答します。なお対面で期末テストを実施します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	財政学とはどういう学問か
第 2 回	市場の働き	価格メカニズムの働き
第 3 回	市場の失敗・政府の失敗	外部性、公共財、情報の非対称性の問題など
第 4 回	財政の三つの機能 (1)	資源配分機能
第 5 回	財政の三つの機能 (2)	所得再配分機能
第 6 回	財政の三つの機能 (3)	経済安定化機能
第 7 回	政府の規模	経済に占める政府の大きさ
第 8 回	一般会計歳入 (1)：税収	税目と税収規模、直間比率、国際比較
第 9 回	一般会計歳入 (2)：国債	国債の発行額、政府債務残高の規模
第 10 回	一般会計歳出	内訳と規模、一般歳出の考え方
第 11 回	プライマリーバランス	プライマリー・バランスの考え方
第 12 回	財政投融资	財政投融资の仕組みと規模
第 13 回	予算のしくみと編成 (1)	予算制度、予算原則、予算の形式とその見方
第 14 回	予算のしくみと編成 (2)	予算編成と審議過程の把握

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

経済学の基本的な考え方をを用いるため、1 年次必修の経済学の授業を理解していると、この授業も理解しやすくなります。理解に不安のある場合は、授業で扱う概念について自分で 1 年次の講義ノート等を復習して下さい。日経新聞も使いながら日本の財政の現状を扱うので、日頃、新聞を見ることを推奨します。これらと本授業の準備学習・復習時間で、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。

【参考書】

履修者が授業に関連する内容を自習する際に、以下の文献が役立ちます。制度やデータの把握：『図説日本の財政（最新年度版）』東洋経済新報社。財政学を通して学ぶ：麻生良文、小黒一正、鈴木将覚 (2018)『財政学 15 講』新世社。

【成績評価の方法と基準】

5 回の授業内課題 (50%) + 対面による期末試験 (50%) により評価します。

【学生の意見等からの気づき】

掲示板に書かれるみなさんからの質問や提出された課題の採点を通じて、みなさんの理解度を把握しながら、わかりやすい講義を心がけます。

【学生が準備すべき機器他】

PC とインターネット環境が必要です。Hoppii を利用できる環境は必須です。

【その他の重要事項】

教材の配布や授業に関するお知らせは全て Hoppii を通じて行います。学生のみなさんは、自分がきちんと学習支援システム上に登録されているか、確認して下さい。（小林・廣川、ふたつのクラスがあるので、間違えないように。また、履修変更を行った人は自分で登録すること。）なお、期末試験は対面により実施します。

【Outline (in English)】

Course outline:

At present, Japanese government must manage the several issues of a huge government debt due to the huge social security costs caused by the aging and low birth rate and the economic policy against the low economic growth rate. In this course, students understand these issues that the current Japanese government is facing and learn how to consider them from the viewpoint of economics.

Learning objective:

The goals of this course are to understand the roles of the central government in the national economy and the issues which our government faces. Students should be able to consider these roles and issues of Japanese government finance logically and normatively.

Learning activities outside of classroom:

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand course contents and basic concepts of economics.

Grading criteria/policies:

Final grade will be calculated by term-end exam 50% + five homeworks 50% = 100%.

ECN200CA
財政学 B
小林 克也
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位
クラス指定あり【2 年 DEFGNOTUVWXYZ 組、3 年生以上は指定なし】

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

春学期の財政学 A の内容（財政の考え方や日本の財政の制度と現状）を前提として、ミクロ経済学とマクロ経済学の理論に基づいて、さまざまな財政上の政策を学びます。具体的には、課税や公債発行が家計に与える影響、政府支出の増大がマクロ経済に短期的に及ぼす効果を学びます。春学期に予定した内容で扱えなかったものがある場合は、秋学期の最初で扱います。

【到達目標】

私たちの生活に密接な税から、国全体のマクロ経済政策まで、政府が実施している様々な政策について、具体的にどのようなものがあるのかについて知るとともに、これらの経済上の効果を経済学の理論を用いて理解します。その上で、これらの政策によって私たちの生活がどう影響を受けるのかについて、自分で考えられるようになることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP1」「DP7」「DP8」に関連。国際経済学科は「DP1」「DP7」に関連。

【授業の進め方と方法】

この授業は、昨年度受講者数が多かったためにオンデマンドのオンラインで実施します。Hoppii で講義ノートと資料を配信します。あわせて解説をした音声も配信します。講義ノートと資料を見ながら音声を聞いて学習をしてください。Hoppii のテスト/アンケートを使って課題を 5 回出します。採点の際、全員向けと適宜個別にコメントを付けます。みなさんはそれらを読んで復習をして下さい。授業の質問や意見は Hoppii の掲示板に書き込みをして下さい。掲示板に返信する形で私がお答えします。なお対面で期末テストを実施します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	財政学 A の復習、財政学 B で扱う内容の紹介
2	国と地方との関係 (1)	国から地方自治体への移転と規模
3	国と地方との関係 (2)	地方交付税と国庫支出金
4	租税の転嫁と帰着 (1)	税の転嫁の紹介
5	租税の転嫁と帰着 (2)	需要曲線と供給曲線による余剰分析
6	所得税と消費税	所得税と消費税の理論的比較
7	消費税のしくみ	付加価値税、日本の制度、長所と問題点
8	国民所得決定の理論 (1)	有効需要の原理
9	国民所得決定の理論 (2)	経済政策（政府支出増大）の効果
10	国民所得決定の理論 (3)	ビルトイン・スタビライザー、均衡予算定理
11	IS-LM 分析 (1)	財市場の均衡
12	IS-LM 分析 (2)	貨幣市場の均衡
13	IS-LM 分析 (3)	財政政策・金融政策の効果
14	公債の経済学	公債負担についてのさまざまな考え方

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

経済学の基本的な考え方を使うので、1 年次必修の経済学の授業を理解しているところの授業も理解しやすいです。理解に不安のある場合は、授業で扱う概念について自分で 1 年次の講義ノート等を復習して下さい。日経新聞も使いながら日本の財政の現状を扱うので、日頃、新聞を見ることを推奨します。これらと本授業の準備学習・復習時間で、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。毎回、授業の講義ノートと必要に応じてデータ等をまとめた資料を配布します。

【参考書】

履修者が授業に関連する内容を自習する際に、以下の文献が役立ちます。制度やデータの把握：『図説日本の財政（最新年度版）』東洋経済新報社。財政学を通して学ぶ：麻生良文、小黒一正、鈴木将覚 (2018) 『財政学 15 講』 新世社。

【成績評価の方法と基準】

対面で筆記の期末試験を実施します。おそらく期末試験期間中に実施しますが詳細は授業内でお話しします。授業の内容に関する課題を Hoppii のテスト/アンケート機能を使って 5 回出します。期末試験で半分、5 回の課題で半分の合計 100% の評価をします。

【学生の意見等からの気づき】

掲示板に書かれるみなさんからの質問や提出された課題の採点を通じて、みなさんの理解度を把握しながら、わかりやすい講義を心がけます。

【学生が準備すべき機器他】

PC とインターネット環境が必要です。Hoppii を利用できる環境は必須です。Hoppii で講義ノートと資料を配信し、音声は google drive を使って配信します。google 上の音声再生機能は不具合が多いので、PC にダウンロードして、PC 上の音声再生ソフトを用いて聞いてください。

【その他の重要事項】

Hoppii を通じて、講義ノートと資料の配信、課題の出題と提出をします。学生のみなさんは、自分がきちんと学習支援システム上に登録されているか確認をして下さい。特に、履修変更をした方は、自分で Hoppii にこの授業を登録をして下さい。授業についての変更や追加の情報は Hoppii の「お知らせ」で掲示しますので、お知らせを見るようにして下さい。また、対面で筆記の期末試験を実施します。

【Outline (in English)】

Course outline:

Students learn the roles of public policies on the basis of "Public Finance A," microeconomics, and macroeconomics. In particular, students understand the economic impact of taxation, government bonds, and an increase of government expenditure.

Learning objective:

The goals of this course are to understand various policies implemented by the central government such as taxes in our life and macroeconomic policies. Students should be able to consider effects of these policies.

Learning activities outside of classroom:

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand course contents and basic concepts of economics.

Grading criteria/policies:

Final grade will be calculated by term-end exam 50% + five homework 50% = 100%.

ECN200CA
財政学 B
廣川 みどり
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位
クラス指定あり【2 年 ABCHIJLMPQRS 組、3 年生以上は指定なし】

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

春学期の財政学 A の内容（財政の考え方や日本の財政の制度と現状）を前提として、ミクロ経済学とマクロ経済学の理論に基づいて、さまざまな財政上の政策を学びます。具体的には、課税や公債発行が家計に与える影響、政府支出の増大がマクロ経済に短期的に及ぼす効果を学びます。春学期に予定した内容で扱えなかったものがある場合は、秋学期の最初に扱います。

【到達目標】

私たちの生活に密接な税から、国全体のマクロ経済政策まで、政府が実施している様々な政策について、具体的にどのようなものがあるのかについて知るとともに、これらの経済上の効果を経済学の理論を用いて理解します。その上で、これらの政策によって私たちの生活がどう影響を受けるのかについて、自分で考えられるようになることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP1」「DP7」「DP8」に関連。国際経済学科は「DP1」「DP7」に関連。

【授業の進め方と方法】

オンデマンド形式のオンラインで実施します。Hoppii で教材（音声や画像も含む）を配信します。また、課題を 5 回出します。採点の際、全員向けと適宜個別にコメントを付けますので、みなさんはそれらを読んで復習をして下さい。授業の質問や意見は Hoppii の掲示板に書き込みをして下さい。掲示板又は教材により、回答します。なお対面で期末テストを実施します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	財政学 A の復習、財政学 B で扱う内容の紹介
第 2 回	国と地方との関係 (1)	国から地方自治体への移転と規模
第 3 回	国と地方との関係 (2)	地方交付税と国庫支出金
第 4 回	租税の転嫁と帰着 (1)	税の転嫁の紹介
第 5 回	租税の転嫁と帰着 (2)	需要曲線と供給曲線による余剰分析
第 6 回	所得税と消費税	所得税と消費税の理論的比較
第 7 回	消費税のしくみ	付加価値税、日本の制度、長所と問題点
第 8 回	国民所得決定の理論 (1)	有効需要の原理
第 9 回	国民所得決定の理論 (2)	経済政策（公共投資拡大）の効果
第 10 回	国民所得決定の理論 (3)	ビルトイン・スタビライザー、均衡予算定理
第 11 回	IS-LM 分析 (1)	財市場の均衡
第 12 回	IS-LM 分析 (2)	貨幣市場の均衡
第 13 回	IS-LM 分析 (3)	財政政策・金融政策の効果
第 14 回	公債の経済学	公債負担についてのさまざまな考え方

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

経済学の基本的な考え方をを用いるため、1 年次必修の経済学の授業を理解しているところの授業も理解しやすいです。理解に不安のある場合は、授業で扱う概念について自分で 1 年次の講義ノート等を復習して下さい。日経新聞も使いながら日本の財政の現状を扱うので、日頃、新聞を見ることを推奨します。また、財政学 A のノートも見直して下さい。これらと本授業の準備学習・復習時間で、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。

【参考書】

履修者が授業に関連する内容を自習する際に、以下の文献が役立ちます。
制度やデータの把握：『図説日本の財政（最新年度版）』東洋経済新報社。
財政学を通して学ぶ：麻生良文、小黒一正、鈴木将覚 (2018) 『財政学 15 講』 新世社。

【成績評価の方法と基準】

5 回の授業内課題 (50%) + 対面による期末試験 (50%) により評価します。

【学生の意見等からの気づき】

掲示板に書かれるみなさんからの質問や提出された課題の採点を通じて、みなさんの理解度を把握しながら、わかりやすい講義を心がけます。

【学生が準備すべき機器他】

PC とインターネット環境が必要です。Hoppii を利用できる環境は必須です。

【その他の重要事項】

教材の配布や授業に関するお知らせは全て Hoppii を通じて行います。学生のみなさんは、自分がきちんと学習支援システム上に登録されているか、確認して下さい。(小林・廣川、ふたつのクラスがあるので、間違えないように。また、履修変更を行った人は自分で登録すること。) なお、期末試験は対面により実施します。

【Outline (in English)】

Course outline:

Students learn the roles of public policies on the basis of "Public Finance A," microeconomics, and macroeconomics. In particular, students understand the economic impact of taxation, government bonds, and an increase of government expenditure.

Learning objective:

The goals of this course are to understand various policies implemented by the central government such as taxes in our life and macroeconomic policies. Students should be able to consider effects of these policies.

Learning activities outside of classroom:

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand course contents and basic concepts of economics.

Grading criteria/policies:

Final grade will be calculated by term-end exam 50% + five homeworks 50% = 100%.

ECN200CA
金融論 A
武田 浩一
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講義の目的は、初めて金融を学ぶ人を対象として、金融や経済に関する身近な問題を考えるときに金融の基礎理論がいかに役立ってくれるかを解説することを通じて、まず金融に興味を持ってもらい、さらには現実の金融問題を理解し考察するために必要になる基本的な考え方の枠組みを身につけてもらうことです。

【到達目標】

この講義の最終的な目標は、現実の金融問題を理解し考察するために必要になる基本的な考え方の枠組みを修得することです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP1」「DP8」「DP9」に関連。国際経済学科は「DP1」「DP9」に関連。

【授業の進め方と方法】

今年度の本講義では、新型コロナウイルス感染症対策のため、オンライン講義を行います。

第1回講義は、Zoomによるリアルタイムのオンライン形式の講義ガイダンスとなります。学習支援システム上でZoomでの講義への参加方法をお知らせしてオンライン講義の方法や内容などに関するガイダンス資料を教材として配布します。この講義の履修を検討する学生は、学習支援システムでこの講義に仮登録してオンライン講義に参加した上でガイダンス資料をよく読んで、履修するかどうかを決めてください。

第2回以降の講義では、学習支援システムのオンデマンドシステムで受講登録者が動画コンテンツを視聴する形式のオンライン講義となります。仮登録期間中は、オンデマンドシステムでこの講義の動画コンテンツを視聴するためには、受講者はこの講義の履修を仮登録することが必要になります。

この講義では、「金融ビッグバン」という言葉に象徴されるように、日本や海外の金融が近年ダイナミックに変化を遂げて、少し前にあたたかも金融の世界の常識であるかのようにいわれていた知識の多くが陳腐化して必ずしも実態にそぐわなくなりつつあることを念頭において、今動いている金融の実態に即した up-to-date な金融論の基礎を紹介することに力を入れます。また、初めて金融を学ぶ人でも講義内容を理解できるように、金融を理解する上で不可欠となる専門的な用語や概念を初めて使うときには、それらの意味をできるだけ平易な言葉や図を使って解説するようにします。

講義のフィードバックは、リアルタイム形式の講義の回には授業の中で行い、オンデマンド形式の講義の回には、学習支援システムの「お知らせ」での通知と授業内掲示板での質疑応答を通じて行うほか、個別的な連絡が必要になる場合にはメールを通じて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	講義ガイダンス	講義の方法や内容に関する説明
第2回	イントロダクション：金融とは	金融とは何か
第3回	直接金融と間接金融	直接金融と間接金融の違い
第4回	銀行の決済機能と信用創造機能	銀行の決済機能と信用創造機能の意味
第5回	日本の金融組織と銀行	日本の金融組織の特徴と銀行について
第6回	日本の金融組織	協同組織金融機関と証券会社について

第7回	日本の金融組織	保険会社とその他の金融機関について
第8回	資金循環と金融構造	マクロ的な資金循環から見た日本の金融の特徴
第9回	貨幣の意義と機能	貨幣の本質的な機能と通貨制度について
第10回	日本の決済システム	決済システムの仕組みについて
第11回	貨幣需要	人々はなぜ貨幣を保有するのか
第12回	貨幣供給と流動性のワナ	貨幣供給について
第13回	マネーストック	マネーストックとは何か
第14回	公的金融	日本における公的金融の役割について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義では先に説明した知識を後の説明のときに使いますので、講義で分からないことがあるときには、教員に質問したり講義ノートや教科書で復習したりして、次の講義までに分からないことを持ち越さないように心がけることが重要です。

現代経済学入門や企業と経済・基礎で学ぶ経済学の基礎知識があれば、金融論の理解はより深まります。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

酒井良清・鹿野嘉昭『金融システム』第4版（有斐閣、2011年刊）

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

主に学期末試験によって成績を評価します（80%）。試験は定期試験期間に教室での対面形式（参照不可）で行う予定です。

授業への参加が単位習得の前提条件となりますので、授業での学習状況や参加度を加味することとし、オンデマンドシステムでの動画コンテンツの視聴状況やZoomミーティングへの参加状況などを確認し、平常点として加算します（20%）。

【学生の意見等からの気づき】

関心はあっても難しい印象がある金融について、基本事項を丁寧に分かりやすく説明することに対するニーズが高いことがうかがわれますので、その点を徹底して講義を進める方針です。

【学生が準備すべき機器他】

受講生への閲覧用資料の配布や課題の提示などに学習支援システムを利用します。

【Outline (in English)】

This is a course on the economics of money, banking, and financial markets. The course aims to provide the students with an introduction to the role of money, financial markets, financial institutions, and monetary policy in the economy.

Students will be expected to have completed the required assignments after class meetings. Your study time will be more than four hours for a class. Your overall grade in the class will be decided based on short reports (80%) and in-class contribution (20%).

ECN200CA
金融論 A
高橋 秀朋
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は、金融初学者を対象として、金融に関する基本的な知識およびフレームワークを習得し、金銭の貸借やそれらに関わる様々な経済主体の存在意義などを経済学的な視点から理解することが目的である。また、実際のデータなどを利用して、金融における諸問題を考察できるような力の基礎を身につけてもらう。

【到達目標】

本講義の目標は、金融システムにおける諸問題を経済学的観点から理解できるようになるために、その基礎となる貨幣の時間価値の概念、価値評価の概念、リスクの概念を理解し、身につけてもらうことにある。具体的な数値例を用いて、各概念を説明できるようになることが最終目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP1」「DP8」「DP9」に関連。国際経済学科は「DP1」「DP9」に関連。

【授業の進め方と方法】

本講義は、すべて遠隔授業により実施される。基本的には、学習資料を提示し、その資料に基づいて各自で学習をし、その上で、課題に回答する、という学習サイクルで実施する。ただし、必要に応じてセミナー形式のオンライン授業による解説を行う予定である。本講義では、金融の諸問題に対して経済的なアプローチを用いて分析するための基本的なフレームワークを身につけてもらう。そのため、講義では Excel を利用し講義中に身につけた知識が実際に適用可能であることを示していく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	金融取引	金融取引における経済主体
2	交換の利益	経済学における交換の便益
3	金融の役割	異時点間、異状態間の所得移転
4	貨幣の時間価値 1	将来価値・複利計算
5	貨幣の時間価値 2	現在価値・割引
6	貨幣の時間価値 3	年金、コンソル債の価値
7	リスク評価 1	2 状態モデルによるリスク評価
8	リスク評価 2	2 状態モデルにおける分散化
9	リスク評価 3	複数状態を仮定した時の分散化
10	債券価格	金利リスクと債券評価
11	株式評価	配当割引モデル
12	状態証券	保険・状態価格による資産評価
13	デリバティブ	状態価格によるオプション評価
14	最終課題（テスト実施）	金融の役割、証券の評価

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義資料は事前にアップロードしておくので、講義前に目を通して予習しておくこと（週 2 時間）。また、講義後に取り扱った計算例を復習するとともに、日本経済新聞、ロイター、F T 等に掲載された市場の価格情報を通じて学習した内容がどのように活用されているのかを実感すること（週 2 時間）。その他に、授業期間中に 1 もしくは 2 回の中間アサインメントが授業時間外の学習としてある。

【テキスト（教科書）】

指定なし

【参考書】

F. Mishkin 『Economics of Money, Banking, and Financial Markets, 13th Edition』（Pearson Education, 2021）

※当該テキストの Part 2 が学習の対象

【成績評価の方法と基準】

評価は期末試験 100 % として行う。試験は記述式の試験による。また、授業期間中に課されるアサインメントの結果も加点対象とする。当該加点を含めて 100% を超えた場合は超過分を切り捨てる。講義で取り扱う計算例、問題演習を理解していれば高い評価が得られるように作成する。

【学生の意見等からの気づき】

学生の理解度をよく確認したうえで、ゆっくりと進めていく。

【Outline (in English)】

This course provides an introduction to the theories and the methods in finance such as future/present value, risk, and state price. This course also shows what role each economic entity plays and how important their roles are. Through this course, students are expected to obtain abilities to consider economic/financial issues and problems in the real world from the academic perspective. Before each class meeting, students are expected to spend two hours to understand the course content. Students are also required to spend two hours to review the content after each class. Final grade will be calculated according to the term-end exam (100%) in addition to in-class assignments.

ECN200CA
金融論 B
武田 浩一
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講義では、金融の基本的な仕組みを紹介し、金融や経済に関する身近な問題を考えるときに金融の基礎理論がいかに役立ってくれるかを解説します。講義の目的は、初めて金融を学ぶ学生に、まず金融の面白さに触れてもらい、さらには現実の金融問題を理解し自ら考察するために必要となる基本的な考え方の枠組みを身につけてもらうことです。

【到達目標】

この講義の最終的な目標は、現実の金融問題を理解し自ら考察するために必要となる基本的な考え方の枠組みを修得することです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP1」「DP8」「DP9」に関連。国際経済学科は「DP1」「DP9」に関連。

【授業の進め方と方法】

今年度の本講義では、新型コロナウイルス感染症対策のため、オンライン講義を行います。

第1回講義は、Zoomによるリアルタイムのオンライン形式の講義ガイダンスとなります。学習支援システム上でZoomでの講義への参加方法をお知らせしてオンライン講義の方法や内容などに関するガイダンス資料を教材として配布します。この講義の履修を検討する学生は、学習支援システムでこの講義に仮登録してオンライン講義に参加した上でガイダンス資料をよく読んで、履修するかどうかを決めてください。

第2回以降の講義では、学習支援システムのオンデマンドシステムで受講登録者が動画コンテンツを視聴する形式のオンライン講義となります。仮登録期間中は、オンデマンドシステムでこの講義の動画コンテンツを視聴するためには、受講者はこの講義の履修を仮登録することが必要になります。

この講義では、金融市場の動向や金融取引の仕組み、貸出市場とメインバンク、新しい金融環境下での金融監督・規制などについて主に解説します。金融取引は、近年の急速な金融技術革新の進展に伴って国境や伝統的な業態の枠を越えて行われるようになっており、従来からの業態や規制の体系に依拠した枠組みでは的確にその鳥瞰図を描くことが困難になりつつありますが、この講義では、金融の基本的な機能に立ち返って金融システムについて議論することによって、金融市場はどのように機能し、そこで市場参加者はどのように行動しているのか、また市場の変化に金融監督・規制がどのように対応しようとしているのか、などのテーマについて新しい視点から俯瞰してゆきたいと考えています。

講義のフィードバックは、リアルタイム形式の講義の回には授業の中で行い、オンデマンド形式の講義の回には、学習支援システムの「お知らせ」での通知と授業内掲示板での質疑応答を通じて行うほか、個別な連絡が必要になる場合にはメールを通じて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	講義ガイダンス	講義の内容や方法の説明
第2回	金融市場と金融取引	金融市場とは何か
第3回	金融市場	短期金融市場について
第4回	債券市場と株式市場	長期金融市場について
第5回	外国為替市場	外国為替市場について
第6回	金融派生商品市場	金融派生商品市場について
第7回	資産証券化	資産証券化とは何か

第8回	貸出市場とメインバンク	銀行貸出市場の特徴と日本のメインバンクについて
第9回	金融システムと中央銀行	金融システムにおける中央銀行の役割
第10回	金融システムの安定性と監督・規制①	金融システムの安定性とブルーム政策について
第11回	金融システムの安定性と監督・規制②	自己資本比率規制とセーフティネットについて
第12回	アメリカの金融システム	アメリカの金融システムの特徴について
第13回	ヨーロッパの金融システム	ヨーロッパの経済通貨統合について
第14回	企業金融	企業の資金調達について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義では先に説明した知識を後の説明のときに使いますので、講義で分からないことがあるときには、教員に質問したり講義ノートや教科書で復習したりして、次の講義までに分からないことを持ち越さないように心がけることが重要です。

現代経済学基礎や企業と経済・基礎で学ぶ経済学の基礎知識があれば、金融論の理解はより深まります。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

・酒井良清・鹿野嘉昭『金融システム』第4版（有斐閣、2011年刊）

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

主に学期末試験によって成績を評価します（80%）。試験は定期試験期間に教室での対面形式（参照不可）で行う予定です。

授業への参加が単位習得の前提条件となりますので、授業での学習状況や参加度を加味することとし、オンデマンドシステムでの動画コンテンツの視聴状況やZoomミーティングへの参加状況などを確認し、平常点として加算します（20%）。

【学生の意見等からの気づき】

関心はあっても難しい印象がある金融について、基本事項を丁寧に分かりやすく説明することに対するニーズが高いことがうかがわれますので、その点を徹底して講義を進める方針です。

【学生が準備すべき機器他】

受講生への閲覧用資料の配布や課題の提示などに学習支援システムを利用します。

【Outline (in English)】

This is a course on the economics of money, banking, and financial markets. The course aims to provide the students with an introduction to the role of money, financial markets, financial institutions, and monetary policy in the economy.

Students will be expected to have completed the required assignments after class meetings. Your study time will be more than four hours for a class. Your overall grade in the class will be decided based on short reports (80%) and in-class contribution (20%).

ECN200CA
金融論 B
高橋 秀朋
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義の目的は、金融に関する基本的な知識およびフレームワークを一通り学習した者を対象として、金融システムの役割や現実の金融における諸問題を分析する力を身につけることにある。身近で起きている金銭のやり取りやそれらに関わる様々な経済主体の存在意義などを、金融論Aの知識を発展させ、情報の経済学を利用して分析する。

【到達目標】

本講義の目標は、金融論Aで学習したフレームワークを基礎に、いくつかのミクロ経済学のフレームワークを付加し、金融市場、金融仲介機関の機能、金融規制、銀行規制などを理解することにある。最終的な目標は、具体的な数値例を用いて、金融取引における情報の非対称性や契約の不完備性に関わる諸問題を説明できるようになることにある。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP1」「DP8」「DP9」に関連。国際経済学科は「DP1」「DP9」に関連。

【授業の進め方と方法】

本講義は、すべて遠隔授業により実施される。基本的には、学習資料を提示し、その資料に基づいて各自で学習をし、その上で、課題に回答する、という学習サイクルで実施する。ただし、必要に応じてセミナー形式のオンライン授業による解説を行う予定である。金融の諸問題に対して経済的なアプローチを用いて分析するためのフレームワークを身につけてもらい、知識が実際に適用可能であることを示していく。金融論Bではミクロ経済学に基礎をおいた経済学的フレームワークを利用して、金融に関する経済現象の分析を行っていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	金融論 A の復習①： 金融の機能	金融市場概要
2	金融論 A の復習②： 金融仲介機関	金融仲介の機能
3	金融論 A の復習③： 不確実性と市場	不確実性とリスク
4	情報の非対称性 1	逆選択問題
5	情報の非対称性 2	モラル・ハザード
6	情報の非対称性 3	自己選択メカニズム
7	情報の非対称性 4	インセンティブ・メカニズム
8	問題演習（予定）	情報の非対称性について
9	契約の不完備性 1	不完備契約における諸問題
10	契約の不完備性 2	金融仲介機関による再交渉
11	金融市場への応用	情報の非対称性と金融市場
12	金融仲介機能への応用	情報の非対称性と金融仲介機関
13	銀行・金融規制	銀行・金融規制の経済分析
14	最終課題（テスト実施）	情報の非対称性、契約の不完備性

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義資料は事前にアップロードしておくので、講義前に目を通して予習しておくこと（週 2 時間）。また、情報の経済学に基づく金融論は、実際の経済における金融に関わる事象をモデルによって説明しようと試みているため、講義で学習する知識だけでなく、日本経済新聞、ロイター、FT等の経済情報に目を通してその内容を実感すること（週 2 時間）。その他に、授業期間中に 2 回の中間アサインメントが授業時間外の学習としてある。

【テキスト（教科書）】

村瀬英彰『新エコノミクス 金融論 第 2 版』（日本評論社、2016 年）

【参考書】

F. Mishkin『Economics of Money, Banking, and Financial Markets, 13th Edition』（Pearson Education, 2021）

※当該テキストの Part 3 および Part 4 が対象。

【成績評価の方法と基準】

評価は期末試験 100 % として行う。試験は記述式の試験による。また、授業期間中に課されるアサインメントの結果も加点対象とする。当該加点を含めて 100%を超えた場合は超過分を切り捨てる。講義で取り扱う計算例、問題演習を理解していれば高い評価が得られるように作成する。

【学生の意見等からの気づき】

学生の理解度をよく確認したうえで、ゆっくりと進めていく。

【Outline (in English)】

The purpose of this course is to introduce more sophisticated concepts and frameworks than those students learn in Monetary and Finance A (Kin-yuron A). Students are expected to acquire ability to analyze real financial activities with knowledge related to information economics. In this lecture, employing the information theory and fundamental knowledge of Finance, we apply the theories to analysis of the real world. The goal of this course is to obtain abilities to apply economic tools to the real world. Before each class meeting, students are expected to spend two hours to understand the course content. Students are also required to spend two hours to review the content after each class. Final grade will be calculated according to the term-end exam (100%) in addition to in-class assignments.

ECN200CA
経済の数理 A
佐柄 信純
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ミクロ経済学やゲーム理論の分析を支える数学の題材を厳選して講義します。実数の公理、集合と位相、実数列と級数、実数列の極限を丁寧に解説します。計算力と同時に抽象的思考能力を養うのが本講義の目的です。また、数学の奥深さを知ってもらうために、難問に挑んだ数学者に関するテレビ番組（NHK スペシャル）や映画を数回視聴します。

【到達目標】

受講者に求められるのは、自分の頭で考え、論理を粘り強く追って行く根気です。本講義を通して「(数学の) 本を読むとはどういうことなのか」を受講者に自覚的に認識してもらうとともに、「分かって嬉しい」という純真無垢な喜びも味わって欲しいと思います。経済分析への応用を常に念頭に置きますので、公務員・公認会計士試験、大学院受験の対策としても本講義を活用することができます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科は「DP1」「DP7」「DP8」に関連。国際経済学科・現代ビジネス学科は「DP1」「DP7」に関連。

【授業の進め方と方法】

数学は「積み重ね」の学問です。それまでに導入した概念に基づき、新たな概念を構築する形で講義は進みます。動機付け → 定義 → 例 → 定理 → 証明 → 反例という流れに沿い、板書を中心に授業を進めます。随時、演習問題と宿題を課し、採点の上、返却します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	実数 (1)	はじめに、四則演算
第 2 回	実数 (2)	順序
第 3 回	実数 (3)	連続の公理、実数体
第 4 回	複素数	複素数体
第 5 回	ユークリッド空間	内積、ノルム
第 6 回	位相の導入 (1)	有限集合、可算集合、非可算集合
第 7 回	位相の導入 (2)	距離空間
第 8 回	位相の導入 (3)	コンパクト集合
第 9 回	位相の導入 (4)	連結集合
第 10 回	実数列と級数 (1)	収束列、部分列
第 11 回	実数列と級数 (2)	コーシー列
第 12 回	実数列と級数 (3)	上極限、下極限
第 13 回	実数列と級数 (4)	級数、正項級数
第 14 回	実数列と級数 (5)	冪級数、絶対収束

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義ノートの該当箇所を事前に読んで上で授業に出席することが求められます。授業内での問題演習を重視し、必要に応じて、適宜、宿題を課します。毎回の講義につき、予習 1 時間、復習 2 時間、宿題 1 時間の学習が必要になります。

【テキスト（教科書）】

使用しません。

【参考書】

- [1] 内田伏一『集合と位相（増補新装版）』（裳華房、2020 年）
- [2] 杉浦光夫『解析入門 I』（東京大学出版会、1980 年）
- [3] 松坂和夫『集合・位相入門』（岩波書店、1968 年）
- [4] 丸山徹『経済数学』（知泉書館、2002 年）
- [5] C.D. Aliprantis and O. Burkinshaw, *Principles of Real Analysis*, 3rd ed., Academic Press, 1998

[6] W. Rudin, *Principles of Mathematical Analysis*, 3rd ed., McGraw-Hill, New York, 1976 [初版 (1964 年) の邦訳, W. ルディン『現代解析学』（近藤甚吉・柳原二郎 訳）、共立出版、1971 年）このうち、講義内容に最も近い教科書は [2], [6] です。

【成績評価の方法と基準】

レポート提出 (80%) と平常授業時に行う問題演習 (20%) の総合評価。

【学生の意見等からの気づき】

学生の理解度に合わせて授業の進行スピードを調整します。

【その他の重要事項】

各回の授業形態については未定としていますが、詳細は学習支援システムを通じてお知らせします。最大 7 回までのオンライン授業を予定しています。

【Outline (in English)】

Course outline. In this course the axioms of real numbers, basic topology, numerical sequences and series, and the limit of sequences are lectured.

Learning Objectives. The goals of this course are to study advanced mathematics to understand major subjects of economics.

Learning activities outside of classroom. Students will be expected to have completed the required assignments before and after each class. Your study time will be more than four hours for a class.

Grading Criteria/Policy. Your overall grade in the class will be decided based on the following. Term end examination: 80% and in class contribution: 20%.

ECN200CA
経済の数理 B
佐柄 信純
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ミクロ経済学やゲーム理論の分析を支える数学の題材を厳選して講義します。関数の連続性、集合の濃度、集合論の公理を丁寧に解説します。計算力と同時に抽象的思考能力を養うのが本講義の目的です。また、数学の奥深さを知ってもらうために、難問に挑んだ数学者に関するテレビ番組（NHK スペシャル）や映画を数回視聴します。

【到達目標】

受講者に求められるのは、自分の頭で考え、論理を粘り強く追って行く根気です。本講義を通して「(数学の) 本を読むとはどういうことなのか」を受講者に自覚的に認識してもらうとともに、「分かって嬉しい」という純真無垢な喜びも味わって欲しいと思います。経済分析への応用に常に念頭に置きますので、公務員・公認会計士試験、大学院受験の対策としても本講義を活用することができます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科は「DP1」「DP7」「DP8」に関連。国際経済学科・現代ビジネス学科は「DP1」「DP7」に関連。

【授業の進め方と方法】

数学は「積み重ね」の学問です。それまでに導入した概念に基づき、新たな概念を構築する形で講義は進みます。動機付け → 定義 → 例 → 定理 → 証明 → 反例という流れに沿い、板書を中心に授業を進めます。随時、演習問題と宿題を課し、採点の上、返却します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	連続性 (1)	関数の極限
第 2 回	連続性 (2)	連続関数
第 3 回	連続性 (3)	連続性とコンパクト性
第 4 回	連続性 (4)	連続性と連結性
第 5 回	集合の濃度 (1)	全射, 単射
第 6 回	集合の濃度 (2)	濃度の大小
第 7 回	集合の濃度 (3)	二項関係
第 8 回	整列集合と選択公理 (1)	整列集合
第 9 回	整列集合と選択公理 (2)	選択公理
第 10 回	整列集合と選択公理 (3)	整列可能定理
第 11 回	集合論の公理 (1)	ラッセルのパラドックス
第 12 回	集合論の公理 (2)	外延性公理, 集合
第 13 回	集合論の公理 (3)	非順序対, 合併, 無限公理
第 14 回	集合論の公理 (4)	分出公理, 共通部分, 冪集合

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義ノートの該当箇所を事前に読んで上で授業に出席することが求められます。授業内での問題演習を重視し、必要に応じて、適宜、宿題を課します。毎回の講義につき、予習 1 時間、復習 2 時間、宿題 1 時間の学習が必要になります。

【テキスト（教科書）】

使用しません。

【参考書】

- [1] 内田伏一『集合と位相（増補新装版）』（裳華房，2020 年）
- [2] 杉浦光夫『解析入門 I』（東京大学出版会，1980 年）
- [3] 松坂和夫『集合・位相入門』（岩波書店，1968 年）
- [4] 丸山徹『経済数学』（知泉書館，2002 年）

[5] C.D. Aliprantis and O. Burkinshaw, *Principles of Real Analysis*, 3rd ed., Academic Press, 1998

[6] W. Rudin, *Principles of Mathematical Analysis*, 3rd ed., McGraw-Hill, New York, 1976[初版 (1964 年) の邦訳, W. ルーディン『現代解析学』(近藤甚吉・柳原二郎 訳), 共立出版, 1971 年] このうち、講義内容に最も近い教科書は [1], [3] です。

【成績評価の方法と基準】

レポート提出 (80%) と平常授業時に行う問題演習 (20%) の総合評価。

【学生の意見等からの気づき】

学生の理解度に合わせて授業の進行スピードを調整します。

【その他の重要事項】

各回の授業形態については未定としていますが、詳細は学習支援システムを通じてお知らせします。最大 7 回までのオンライン授業を予定しています。

【Outline (in English)】

Course outline. In this course convex analysis, fixed point theorems, and optimization theory are lectured.

Learning Objectives. The goals of this course are to study advanced mathematics to understand major subjects of economics.

Learning activities outside of classroom. Students will be expected to have completed the required assignments before and after each class. Your study time will be more than four hours for a class.

Grading Criteria/Policy. Your overall grade in the class will be decided based on the following. Term end examination: 80% and in class contribution: 20%.

ECN200CA
計量経済学 A
宮崎 憲治
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業を受講することによって、古典的な回帰分析の理論を説明することができ、一部の実証論文の内容を理解することができ、EXCELをもちいて実証分析ができるようになり、現代の社会について主体的に考察できるようになる。

【到達目標】

誤差項が正規分布にしたがうときの古典的な回帰分析を、テキストにしたがって講義する。データの扱い方、確率論の復習、統計学の復習、単回帰モデルおよび重回帰モデルの基本を講義する。適宜宿題を課し、授業の最後に期末試験もしくは授業内試験もしくは実証レポートを課す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP6」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】

テキストにしたがって、講義をする。適宜宿題を課し、「学習支援システム」を通じて採点する。授業の最後に期末試験もしくは実証レポートを課す。原則、対面授業を想定しているが、オンライン授業でも不利にならないように配慮する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	はじめに	なぜ計量経済学を学ぶ必要があるのか
2	データの扱い方	データを整理して情報を読み取る 観測されたデータから全体の傾向を知るには
3	データの扱い方	2つの事柄の関係を調べる
4	計量経済学のための確率論	物事の起こりやすさを表すツールとしての「確率」
5	計量経済学のための確率論	確率の性質を表す確率分布
6	計量経済学のための確率論	2つ以上の事柄の確率変数 連続確率分布 計量経済学で使う代表的な確率分布
7	統計学による推論	統計的推論とは? 標本平均の性質
8	統計学による推論	標本分散と効率性 仮説検定
9	単回帰分析	単回帰モデル 最小二乗法
10	単回帰分析	傾きパラメーターをどう解釈するか? 最小二乗法の別解法
11	単回帰分析	最小二乗推定量はよい推定方法か?
12	重回帰分析の基本	外的条件を制御する重回帰モデル
13	重回帰分析の基本	欠落変数によるバイアス 最小二乗推定量の分散
14	重回帰分析の基本	回帰分析後の検定 大標本理論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前準備としてテキストを事前に読むことが求められている。またレポート課題がある。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

田中隆一 (2015) 「計量経済学の第一歩」有斐閣

【参考書】

山本拓・竹内明香 (2013) 「入門計量経済学— Excel による実証分析へのガイド (経済学叢書 Introductory)」 新生社
中室敦子・津川友介 (2017) 「「原因と結果」の経済学」ダイヤモンド社
伊藤公一朗 (2017) 「データ分析の力: 因果関係に迫る思考法」 光文社新書

【成績評価の方法と基準】

平常点 (10%)・宿題 (30%)・試験もしくは実証レポート (60%)

【学生の意見等からの気づき】

数式をなるべく使わないように心がけたい。

【学生が準備すべき機器他】

大学のパソコンにも導入されている EXCEL を用いますが、自分のパソコンにもインストールしておくことが望ましい。

【その他の重要事項】

受講生の理解度や要望などによって内容を変更する場合があります。

【Outline (in English)】

(Course outline)

When you take this class, you are able to explain the theory of classical regression analysis, understand some empirical papers, and perform empirical analysis using EXCEL.

(Learning Objectives)

Classical regression analysis where the error term follows a normal distribution will be taught according to the text. Review of probability theory, review of statistics, and basics of simple and multiple regression models will be covered.

(Learning activities outside of classroom)

Students are expected to read the textbook in advance as preparation. There will be a report assignment. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

(Grading Criteria /Policy)

Usual performance score (10%), homework (30%), exam or report (60%)

ECN200CA
計量経済学 B
宮崎 憲治
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業を受講することによって、現代的な回帰分析の理論を説明することができ、一部の実証論文の内容を理解することができ、R をもちいて実証分析ができるようになり、現代の社会について主体的に考察できるようになる。

【到達目標】

誤差項が正規分布にしたがわないの現代的な回帰分析を、テキストにしたがって講義する。重回帰モデルの復習、頑健な標準偏差、操作変数法、パネル分析などを講義する。適宜宿題を課し、授業の最後に期末試験もしくは授業内試験もしくは実証レポートを課す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP6」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】

テキストにしたがって、講義をする。適宜宿題を課し、「学習支援システム」を通じて採点する。授業の最後に期末試験もしくは実証レポートを課す。原則、対面授業を想定しているが、オンライン授業でも不利にならないように配慮する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	はじめに	なぜ計量経済学が必要なのか データの扱い方
2	計量経済学のための確率論	不確かなことについて語る
3	統計学による推論	観察されたデータの背後にあるメカニズムを探る
4	単回帰分析	2つの事柄の関係をシンプルなモデルに当てはめる
5	重回帰分析の基本	外的条件を制御して本質に迫る
6	重回帰分析の応用	変数の単位と傾きパラメータの解釈 より複雑な政策効果をモデル化する
7	重回帰分析の応用	ダミー変数を使った分析
8	重回帰分析の応用	分散が不均一な時の頑健な標準誤差 誤差項が均一かどうか調べる
9	操作変数法	内生性の問題と対応 操作変数のモデル
10	操作変数法	誤った操作変数法を用いたら? 二段階最小二乗法
11	パネルデータ分析	複数時点の観測されたデータ 差の差の推定量
12	パネルデータ分析	二期間パネルデータ 変量効果モデル
13	マッチング法	実験的手法の導入 傾向スコアマッチング
14	回帰不連続デザイン	「制度」の特徴を利用する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前準備としてテキストを事前に読むことが求められている。またレポート課題がある。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

田中隆一 (2015) 「計量経済学の第一歩」有斐閣

【参考書】

星野匡郎, 田中久稔 (2016) 「Rによる実証分析 一回帰分析から因果分析へ」オーム社

中室牧子・津川友介 (2017) 「「原因と結果」の経済学」ダイヤモンド社

伊藤公一朗 (2017) 「データ分析の力: 因果関係に迫る思考法」光文社新書

【成績評価の方法と基準】

平常点 (10%)・宿題 (30%)・試験もしくは実証レポート (60%)

【学生の意見等からの気づき】

数式をなるべく使わないように心がけたい。

【学生が準備すべき機器他】

大学のパソコンにも導入されている R を用いますが、自分のパソコンにもインストールしておくことが望ましい。

【その他の重要事項】

受講生の理解度や要望などによって内容を変更する場合があります。

【Outline (in English)】

(Course outline)

When you take this class, you are able to explain the theory of modern regression analysis, understand some empirical papers, and perform empirical analysis using R.

(Learning Objectives)

Modern regression analysis where the error term does not follow a normal distribution will be taught according to the text. Review of multiple regression models, robust standard error, instrumental variables regression, panel analysis, etc. will be covered.

(Learning activities outside of classroom)

Students are expected to read the textbook in advance as preparation. There will be a report assignment. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

(Grading Criteria /Policy)

Usual performance score (10%), homework (30%), exam or report (60%)

ECN300CA
西洋経済史 A
杉浦 未樹
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

21世紀の世界経済は、広がる所得格差、人口成長と環境破壊の問題を抱え、資源の効率的な活用を促す新たな革新を必要としている。これらの課題が歴史的にどのように生じてきたかを、グローバルな視点から検証する。

1世界経済史の前半となるこの授業は、一八〇〇年以前を中心に扱う。現代につながる諸問題である、人口爆発、世界的不平等、地球破壊、交易がもたらす地域格差、危機の時代の対処法、農業の効率化、消費活性化と女子の労働参加、人の移動、奴隷と強制労働のテーマを、世界史の視点からとらえる。

授業のオンラインか対面は、学習支援システムで今後連絡をする。

【到達目標】

- ・経済事象の根幹にある所得格差や人口増加について、長期的展開を述べ、地域間の比較ができるようにする。
- ・経済活動を支えている組織や制度を多面的に理解する。
- ・基幹産業の成り立ちと長期的な展開を把握する。
- ・歴史分析を組みこんだ長文論述ができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科は「DP2」「DP8」「DP9」に関連。国際経済学科・現代ビジネス学科は「DP2」「DP8」に関連。

【授業の進め方と方法】

各回、講義内容がテキストで教材を配布し、レクチャーが理解できるようにします。毎回小課題があり、授業内でフィードバックします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	この授業のテーマ	授業の三つのテーマを理解し、長文論述に向けた基礎スキルを身につける
第2回	世界の人口、所得、格差の歴史（1）	人口、一人当たりの所得、所得格差の長期的推移をグローバルな視野から検証する
第3回	世界の人口、所得、格差の歴史（2）	所得格差の長期的推移の分析を紹介し、不平等が拡大・縮小を論じる
第4回	前工業化時代の環境史—集住と移動のインパクトと人新世2（1）	地球環境の破壊の歴史的な位置づけを、環境史・人新世の概念を紹介しながら論じる
第5回	前工業化時代の環境史—集住と移動のインパクトと人新世2（2）	地球環境の破壊の歴史的な位置づけを、環境史・人新世の概念を紹介しながら論じる
第6回	近代世界システム—交換メカニズムにひそむ不均等発展（1）	交換システムに地域間格差を生み出すメカニズムが埋め込まれているのか、近代世界システム論から、一六世紀の第一次グローバル化の時期を検証する。
第7回	近代世界システム—交換メカニズムにひそむ不均等発展（2）	交換システムに地域間格差を生み出すメカニズムが埋め込まれているのか、近代世界システム論から、一六世紀の第一次グローバル化の時期を検証する。

- 第8回 17世紀—危機の時代のとらえ方（1） 17世紀を共通して危機の時代となく、近代化論と世界システム論、グローバルヒストリーの見方を比較する。
- 第9回 17世紀—危機の時代のとらえ方（2） グローバルヒストリーからみた17世紀として、ユーラシアを視点に論じる。
- 第10回 農業革命・消費革命—先行した二つの革命 産業革命に先行した農業革命と消費革命と勤勉革命を論じ、現代に残した意義をさぐる
- 第11回 農業革命・消費革命—先行した二つの革命 産業革命に先行した農業革命と消費革命と勤勉革命を論じ、現代に残した意義をさぐる
- 第12回 大西洋をわたった人々（1）—植民地とは何か 植民地を人の移動の視点から説明する。植民地の奴隷、植民者、年季奉公人がどのような移動をしどのような立場にされたのかを、北米植民地、カリブ海を中心に具体的にたどる。
- 第13回 大西洋をわたった人々（2）—奴隷制と資本主義の形成 奴隷制度の発達をグローバルな視野から概観したあと、奴隷制をめぐるE・ウィリアムズのテーゼ、フォゲルとエンガマンのテーゼおよび最近の「資本主義の新しい歴史」研究の展開を述べる。第二次産業革命の展開と、交通・通信制度の発達を運河・鉄道・郵便制度からみる。
- 第14回 講義の総括と最終評価に向けたフィードバック 事前公開した最終評価（レポート・テスト）の対策を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業外では、指示された参考文献を読み、そこからさらに関連文献にあたって経済史への理解を深めることを推奨する。週に4～7時間程度補習し、課題作成にも時間をかける。

【テキスト（教科書）】

授業支援システムにアップする

【参考書】

小野塚知二 『経済史—今を知り、未来を生きるために』有斐閣、二〇一八年
 ブランコ・ミラノヴィッチ 『不平等について—経済学と統計が語る26の話』二〇一二年

【成績評価の方法と基準】

試験の評価が50%、各回の授業内課題点50%で評価します。授業に積極的に参加した場合はボーナス点を追加します。試験は長文論述で、問題を事前公開します。

【学生の意見等からの気づき】

問題設定に関心が高かったので、さらに議論を充実させていきたいと考えている。

【Outline (in English)】

21st century global economy is facing the problems of spreading inequality, poverty, population expansion and environmental destruction. Innovations that allows more efficient allocations of resources and distributions of wealth are sought after. This lecture outlines the historical processes these problems of global economy was formed and surveys the essential analytical frameworks in economic history. Grading will be decided by Term-end examination (including essay) 50%, and evaluation of the short reports assigned after lectures via Hoppii system 50%.

ECN300CA
西洋経済史 B
杉浦 未樹
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

資本・人・モノの国際移動・取引システムの編成、基幹産業の発展、戦争と経済、地域統合を主要な柱として、19世紀から21世紀の経済発展を概観する。

授業のオンラインか対面は、学習支援システムで今後連絡をする。

【到達目標】

・19世紀と20世紀の資本主義と産業の展開が、現在の経済状況を生み出したことを理解する

・基幹産業の成り立ちと長期的な展開を把握する。

・レポート作成を通じて、論述力、文献調査能力を向上させる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科は「DP2」「DP8」「DP9」に関連。国際経済学科・現代ビジネス学科は「DP2」「DP8」に関連。

【授業の進め方と方法】

オンラインでの開講となります。各回、講義内容がテキストで配布され、並行してオンラインレクチャーが行われます。テキストのみで受講するか、オンラインレクチャーに参加するか選べます。毎回授業内課題がテキストに表示され、授業支援システムに提出します。オンラインレクチャーでは、チャットを使ったクイズや討論を行います。

課題のフィードバックは、テキストとオンラインレクチャー内と、授業支援システムの評価を併用して行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	グローバリゼーションと19、20世紀	19、20世紀の特徴を整理したあと、グローバリゼーションからみるとどのような位置づけとなるかを論じる。とくに1815～1880年がグローバリゼーションの加速期、1880～1945年が減速期、1945年以降が第二の加速期であることを理解する
第2回	19～20世紀 グローバル化するモノの流れ	貿易の長期動向と、世界商品とそのコモディティチェーン、ヴァリューチェーンの史的分析
第3回	マシンメイドに到る道—イギリス綿織物業の機械化導入と技術革新	19～21世紀の移民史を経済側面から議論する。
第4回	19～21世紀の人の流れ—移民とグローバリゼーション	移民（主に国際移民）と経済発展との関係を歴史的に位置づける。移民の定義、現状を概観した後、グローバル化する移民の第一波（1840年～1913年）と、第二波（1950年～2000年）を比較する。最後に移民が引き起こす格差の拡大と収束を論じる
第5回	金本位制と国際信用取引システムの成立	国際通貨（信用）システムの展開を、金本位制から扱う。本位制の定義、金本位制の導入、グローバリゼーションとの関係、停止と崩壊を述べる。

第6回	産業で辿る19～21世紀（1）、工業化を支えた条件と製鉄+鉄道、	1840年以前の、工業国アメリカを生み出し、支えた土壌を整理したあと、製鉄+鉄道がタグを組んだ大規模な工業化と経営革新を述べる。
第7回	産業で辿る19～21世紀（2）、石油業	産油業の展開を軸に、垂直統合・独占/寡占とそれらの規制・多国籍企業の発展、エネルギー源の転換を理解する。
第8回	産業で辿る19～21世紀（3）自動車産業	自動車産業の展開を軸に、フォーダイズムからリーン生産方式までの歴史的な流れを理解する。
第9回	最終レポートの形式を指導	19～20世紀の産業史をテーマに、学術文献を検索し、読み、引用し、レポートを作成する方法を解説する。
第10回	1950、60年代の世界	1950、60年代の世界経済情勢を概観する
第11回	1970年代の世界	ドル危機とオイルショックを前後に、1970年代の経済情勢をみる
第12回	1980年代の世界	1980年代の世界経済の動向を概観する。
第13回	1990年代に提示された、危機を乗り越える経済モデル	1990年代に構造改革を行った国家をモデルとして紹介する。イギリス、北欧、オランダ、シンガポールを取り上げる。
第14回	試験準備とレポート事前評価	試験の論述対策をするとともに、前週までに提出したレポートに対し改善点を述べる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業中に示唆した経済史の文献を読み、歴史への理解を深めていくことが望ましい。高校時に世界史を履修していない者は、高校教科書ないし、戦後経済史の平易な新書を読みあわせることをすすめる。平均して週に4～7時間程度授業外学習し、レポート作成にむけた準備をする。

【テキスト（教科書）】

毎回授業時にテキストを配る。さらに参考図書を示す

【参考書】

北川勝彦、概説世界経済史、昭和堂、2017年
 キャメロン、ニール『概説世界経済史 2 工業化の展開から現代まで』東洋経済新報社、2013年。
 ロバート・C・アレン『なぜ豊かな国と貧しい国が生まれたのか』NTT出版、2012年
 馬場哲・山本通・廣田功・須藤功著『エレメンタル欧米経済史』晃洋書房、2016年
 ウォーマック、『リーン生産方式が、世界の自動車産業をこう変える』（経済界、1990年）
 他は講義ごとに指示します。

【成績評価の方法と基準】

授業ごとの理解テスト50%、最終レポート50%で評価する。レポートは合格点がとれるように事前フィードバックを行う。

【学生の意見等からの気づき】

テーマへの関心は高かったため、さらに伝達方法などを工夫していきたい。

【Outline (in English)】

21st century global economy is facing fundamental issues of spreading inequality, poverty, population expansion and environmental destruction. Innovations that allows more efficient allocations of resources and distributions of wealth are sought after. This lecture outlines the historical processes these problems of global economy was formed and surveys the essential analytical frameworks in economic history. Following Part A, Part B will deal with 19-21th centuries. Grading will be decided by Term-end paper and exam 50%, and evaluation of the short reports/tests assigned after lectures via Hoppii system 50%.

ECN200CD
企業と経済・応用 A
鈴木 豊
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位
※現代ビジネス学科生のみ履修できます。

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

春学期は1年次の「企業と経済・基礎」に続く内容として、「独占・寡占とその応用」「ゲーム理論の基礎」「交渉とオークション」を中心に学習する。受講生は、企業やビジネスに関わる経済学のより進んだ概念や考え方、分析手法を習得し、現実経済（特に企業経済）を考察する力をさらに高めることができる。

【到達目標】

1年次の「企業と経済・基礎」（マイクロ・パート）からの接続を意識し、そこからの積み上げとして、企業やビジネスに関わる経済学のより進んだ概念や考え方、分析手法を学習する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP7」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】

前半は授業用のレジュメ、後半は、教科書『完全理解ゲーム理論・契約理論 第2版』を使って授業を進める。講義では、過年度に好評だった「Zoom」による動画配信のコンテンツも活かしながら、丁寧に進めていきたい。受講生は、リアクションペーパーや課題提出（レポートを含む）の積み重ねが重要となる。授業の詳細の指示や課題等へのフィードバックは、「教室」と「学習支援システム」を組み合わせで行う。授業形態は、基本、対面授業とするが、適切に「Zoom 動画」などの資産も有効活用していきたい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	完全競争企業	復習。価格所与の下での利潤最大化行動。
第2回	独占企業①	独占企業の行動原理。最適解（独占価格公式）の導出と図解①
第3回	独占企業②	独占企業の行動原理。最適解（独占価格公式）の導出と図解②
第4回	独占企業③	応用問題：価格差別とその応用。部品の内製 vs 外部市場調達など。
第5回	寡占企業①	クールノー競争（数量競争）
第6回	寡占企業②	ベルトラン競争（価格競争）
第7回	寡占企業③	シュタッケルベルク競争（先手・後手の区別） 3つのモデルの比較（余剰分析）
第8回	ゲーム理論の基礎①	ナッシュ均衡
第9回	ゲーム理論の基礎②	サブゲーム完全均衡
第10回	ゲーム理論の基礎③	支配戦略、弱支配戦略、被支配戦略の繰り返し削除など。
第11回	交渉とオークション①	展開型交渉ゲーム
第12回	交渉とオークション②	ナッシュ交渉問題
第13回	交渉とオークション③	オークション①基礎
第14回	交渉とオークション④	オークション②応用

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書『完全理解 ゲーム理論・契約理論 第2版』勁草書房 2021 および 授業の配布資料、授業ノートを基に、予習、復習をする。課題提出（毎回の課題、複数回のレポート、リアクションペーパーの内容等）を怠らないこと。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

鈴木豊『完全理解 ゲーム理論・契約理論 第2版』勁草書房 2021

【参考書】

1. マクミラン『経営戦略のゲーム理論』（伊藤・林田訳）有斐閣
2. ミルグロム+ロバーツ『組織の経済学』（奥野・伊藤ほか訳）NTT出版
3. 伊藤元重『ミクロ経済学』日本評論社
4. 伊藤元重『ビジネス・エコノミクス 第2版』日本経済新聞出版
5. 梶井・松井『ミクロ経済学 戦略的アプローチ』日本評論社
6. 岡田章『ゲーム理論・入門』有斐閣

【成績評価の方法と基準】

学習支援システム上で課された課題提出（4、5回程度）、最終レポート（小エッセイ）、リアクションペーパー内容の合計で評価する。評価ウェイトは、課題提出（練習問題への解答）の合計点（80%）、リアクションペーパーの合計点（5%）、最終（小）エッセイ（15%）の予定である。

【学生の意見等からの気づき】

説明はできるだけ分かりやすく、丁寧に行うよう心がけたい。簡単な数値例や図を使い、レジュメなども配って、直観的理解に訴える工夫を心がける。後半は、教科書『完全理解ゲーム理論・契約理論』に沿った形で進め、内容をフォローしやすくする。レポート課題提出後の解説（フィードバック）も必ず行う。

【Outline (in English)】

In the spring semester, students will focus on "monopoly, oligopoly and their applications," "basics of game theory," and "bargaining and auction" as a content that follows the "Elementary Business Economics" of the first year. Students will be able to acquire more advanced concepts, ideas, and analytical methods of economics related to firms and businesses, and further enhance their ability to analyze the industrial economy. Before/after each lecture, students will be expected to spend four hours to fully understand the content. Grading is based on Four Assignments (Problem Sets as the Home work)(80%), Submission of Reaction Papers (every week)(5%), and a Final (Short) Essay (15%).

ECN200CD
企業と経済・応用 B
河村 真
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位
※現代ビジネス学科生のみ履修できます。

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

企業と経済基礎 A で均衡 GDP（国民所得）の決定の説明（45° 線分析）を学習した。その延長線上として、GDP（国民所得）と金利の水準を同時に決定する説明（IS-LM 分析）さらに、GDP（国民所得）と物価水準を同時に決定する説明（総需要-総供給分析）を理解することが本講義の目的の一つである。これらの説明に基づき（応用問題として）、財政政策及び金融政策が GDP（国民所得）、金利および物価水準への効果を自分で予測できるようになることが第二の目的である。

【到達目標】

- ・ IS-LM 分析に基づく GDP（国民所得）および金利の水準の決定の仕組みを理解する。
- ・ 総需要-総供給分析に基づく GDP（国民所得）および物価の水準の決定の仕組みを理解する。
- ・ 財政政策及び金融政策が金利および GDP（国民所得）にあたる効果を予測できるようになる。（IS-LM 分析の仕組みに基づき）
- ・ 財政政策及び金融政策が物価水準および GDP（国民所得）にあたる効果を予測できるようになる。（総需要-総供給分析の仕組みに基づき）

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP7」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】

対面授業により行う。秋学期中に、1 回課題を出すので、1 週間を目標に授業支援システムの「課題」にその解答をアップしてほしい。締め切り直後、授業内で正解の解説を行う。後半の 5 回分は、zoom による授業で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	マクロ経済学の理論に基づき GDP、金利、物価水準の動きを説明する理由
2	消費関数と貯蓄関数	消費関数の復習とその裏表の関係にある貯蓄関数の説明（限界貯蓄性向）
3	投資関数	投資関数の背後にある投資の水準の決定の考え方（機会費用）
4	IS 曲線の導出－財市場の均衡－	貯蓄関数と投資関数を組み合わせ、財市場を均衡させる金利と GDP（国民所得）の組み合わせの導出
5	貨幣供給	中央銀行による貨幣供給の仕組み（マーシャルの k など）
6	貨幣需要	IS-LM 分析における貨幣需要の考え方および貨幣需要関数（取引的動機および投機的動機に基づく）
7	LM 曲線の導出－貨幣市場の均衡－	貨幣市場を均衡させる金利と GDP（国民所得）の水準の導出
8	IS-LM 分析に基づく均衡 GDP および金利の水準の決定－財市場および貨幣市場の同時均衡－	IS-LM 分析に基づく 2 つの市場を均衡させる GDP（国民所得）および金利の水準の導出
9	IS-LM 分析に基づく財政政策・金融政策の効果	金融政策及び財政政策美変化が金利および GDP（国民所得）の水準に与える効果の予測（IS-LM 分析に基づき）
10	総需要曲線の導出	貨幣市場および財市場を同時に均衡させる GDP（国民所得）と物価水準の導出
11	生産関数および労働需要曲線	国全体の生産と生産要素需要の決定
12	労働市場を均衡させる GDP 及び物価水準の関係－総供給曲線の導出－	総供給曲線の導出（労働市場を均衡させる物価水準と GDP（国民所得）の水準の導出
13	総需要-総供給分析に基づく物価水準と GDP（国民所得）の導出	財市場、貨幣市場および労働市場を同時に均衡させる GDP（国民所得）および物価水準の導出
14	総需要-総供給分析に基づく金融政策、財政政策の効果	金融政策および財政政策の変化が GDP（国民所得）および物価水準に与える効果の予測

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

対面授業の回については、基本的に板書で説明を行う。その際は、授業を録画し、その録画ファイルの zoom でのリンクをお知らせする。オンラインの授業の回については、授業の説明に使った電子ノートの PDF ファイルを授業支援システムにアップする。本授業は、主に図による説明により行う。そのため、複雑な図による説明や例題もあるので、録画ファイルまたは PDF ファイルでの復習が 2 時間程度必要と思われる。

【テキスト（教科書）】

特に指示しない。参考書は、要望が多ければ、授業の際に紹介する。

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

成績評価は、基本的に、期末試験期間中の授業曜日、授業時間開始時に期末課題を授業支援システムの「課題」にアップします。解答作成し、「解答」を収めたファイルを、授業曜日、授業時間中に、「課題」にアップにより提出してもらいます。その課題解答の素点に関して 85%、1 回行う学期内での課題提出の状況（提出の有無）に関して 15%のウェイトで評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】

講義での板書は、ほぼ図解の説明によるため、図解の中で、書き込みの多いものについては、なるべく大きく示すよう心掛ける。

【Outline (in English)】

The objective to this course is to understand IS-LM model, and AD(Aggregate Demand)-AS(Aggregate Supply) model to determine the levels of interest rate, price level, and GDP in short run. Moreover, The effects of fiscal and monetary policy on GDP, price level and, interest rate could become to be determined, based on IS-LM model, and AD-AS model.

The learning objectives are for students to determine the levels of GDP, interest rate, and overall price, and predict the effects of fiscal/monetary policies on GDP, interest rate, and overall price level correctly, based on IS-LM model and, AS-AD model.

More than 2 hours are required to get the views of many graphical explanations, and follow the logic of these, after each classroom.

Your overall grade in the class will be decided based on the following, Term-end examination: 90%, Mid-term report: 10%.

ECN200CA
現代ファイナンス入門A
湯前 祥二
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講義では、ファイナンスに関する基本的な考え方を紹介します。ファイナンスでは、リターンとリスクという2つのキーワードを中心に据えて、資産運用にまつわる具体的な問題を扱います。

【到達目標】

株式会社について理解し、株式の理論価格を計算することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・国際経済学科は「DP1」「DP9」に関連。現代ビジネス学科は「DP1」「DP7」に関連。

【授業の進め方と方法】

ファイナンスや金融工学は「『確実な未来を知ることはできない』という前提に立ち、賢い選択をする」ための道具です。日々の実際の場面で使える具体的な実用的な技術で、ポイントは無駄（無駄な手数料、無駄なリスク）を省くことです。

春学期は、株式の理論価格を題材にして、リターンを中心に学びます。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ファイナンス	ファイナンスを学ぶ理由
第2回	株式の価格付けの流れ	配当割引モデルに至る流れ
第3回	事業循環	材料仕入れ、製造、販売、決算
第4回	財務諸表・事業計画	損益計算書、貸借対照表、改善ポイント
第5回	財務諸表分析	有価証券報告書
第6回	収益性の分析	資本利益率
第7回	安定性の分析	株主資本比率
第8回	デュボン・システム	株価と財務比率
第9回	株価の分解	EPSとPER
第10回	配当利回り	株価とDPS
第11回	キャッシュフロー	将来価値と現在価値
第12回	配当割引モデル	株式投資のキャッシュフロー
第13回	株主資本の増加と配当の成長	サステイナブル成長率
第14回	株価と配当政策	配当性向

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義に使う図表をまとめた資料を、随時、「学習支援システム」で配布します。受講者は、この資料を講義までに取得して、目を通しておいてください。わからない内容があれば調べ、関連する資料（新聞記事など）も見えておくことが望ましい。この資料は、印刷したものを、講義に持参してください。また、関数電卓を利用するので、使用法に慣れてください。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

なし

【参考書】

井手正介、高橋文郎（2001）、証券投資入門、日本経済新聞社。
井手正介、高橋文郎（2005）、証券分析入門、日本経済新聞社。
井出正介（2008）、株式投資入門、日本経済新聞出版社。

【成績評価の方法と基準】

試験によって評価します（100%）。

【学生の意見等からの気づき】

ノートに書き写す時間と、説明を聞く時間が重ならないよう努めます。

【学生が準備すべき機器他】

関数電卓を使用します。

【Outline (in English)】

This course is a primer on finance.

It deals with specific issues concerning asset management.

The goals of this course are to acquire basic knowledge about finance.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on term-end examination (100%).

ECN200CA
現代ファイナンス入門B
湯前 祥二
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講義では、ファイナンスに関する基本的な考え方を紹介します。ファイナンスでは、リターンとリスクという2つのキーワードを中心に据えて、資産運用にまつわる具体的な問題を扱います。

【到達目標】

リターンとリスクについて理解し、両者を計算で求め、投資判断に用いることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・国際経済学科は「DP1」「DP9」に関連。現代ビジネス学科は「DP1」「DP7」に関連。

【授業の進め方と方法】

ファイナンスや金融工学は「『確実な未来を知ることはできない』という前提に立ち、賢い選択をする」ための道具です。日々の実際の場面で使える具体的な実用的な技術で、ポイントは無駄（無駄な手数料、無駄なリスク）を省くことです。

秋学期はリスクを扱います。リスク管理に必要な、リスク指標の計算方法や、リスク分散を学びます。

課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	投資信託の仕組み	投資信託の種類
第2回	インデックス運用	市場ポートフォリオ
第3回	アクティブ運用	成功の条件
第4回	複利	最初の数字の賭け、割り算距離
第5回	複利計算の頻度	半年複利、連続複利
第6回	確定利付証券	元本、クーポン
第7回	金利期間構造	期間構造仮説
第8回	リスク管理	金融工学の機能
第9回	分布	離散型と連続型
第10回	リスク指標	プロジェクト選択の基準
第11回	標準偏差と VaR	正規分布
第12回	リスク分散	プロジェクトの組み合わせ
第13回	ポートフォリオのリスク	株式投資のリスク分散
第14回	モンテカルロ法	金融派生商品

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義に使う図表をまとめた資料を、随時、「学習支援システム」で配布します。受講者は、この資料を講義までに取得して、目を通しておいてください。わからない内容があれば調べ、関連する資料（新聞記事など）も見えておくことが望ましい。この資料は、印刷したものを、講義に持参してください。また、関数電卓を利用するので、使用法に慣れてください。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

なし

【参考書】

井手正介、高橋文郎（2001）、証券投資入門、日本経済新聞社
井手正介、高橋文郎（2005）、証券分析入門、日本経済新聞社
井出正介（2008）、株式投資入門、日本経済新聞出版社。

【成績評価の方法と基準】

試験によって評価します（100%）。

【学生の意見等からの気づき】

ノートに書き写す時間と、説明を聞く時間が重ならないよう努めます。

【学生が準備すべき機器他】

関数電卓を使用します。

【Outline (in English)】

This course is a primer on finance. It deals with specific issues concerning asset management.

The goals of this course are to acquire basic knowledge about finance.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on term-end examination (100%).

MAN300CA
会計学応用 I (財務会計) A
竹口 圭輔
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

企業会計は企業の行動を把握・理解する上で不可欠となるグローバルな「ビジネスの言語」です。企業会計への理解なくしては企業を理解することもできません。本講義ではそうした企業会計のうち、財務会計に関する応用的・実践的な知識を提供していきます。具体的には、財務会計を巡る基本的な概念や制度について復習しつつ、連結グループ会計、金融商品会計、退職給付会計、企業結合会計など会計基準の国際対応を受けて近年整備されてきた会計基準を取り上げていきます。また、それら会計基準を通じてアウトプットされる情報をいかに読みこなしていくかを学んでいきます。

【到達目標】

会計学応用 I (財務会計) A では、財務会計論の応用論点に関する理解だけでなく、国際的な文脈の中で会計情報を読みこなすスキルの獲得も目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】

基本的にスライドを使用した講義形式で進めていきます。また、毎講義に小テストを課します。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の概要説明
2	企業会計の本質とフレームワーク	企業会計と企業行動のリンケージ
3	会計制度の論理と体系	会計公準と企業会計原則
4	企業のディスクロージャー	ディスクロージャーの必要性和制度開示
5	売上とは何か	収益認識会計
6	連結グループの会計 (1)	連結財務諸表と企業行動
7	連結グループの会計 (2)	セグメント情報の開示
8	金融商品の会計	有価証券の会計、リース取引の会計、デリバティブ・ヘッジ会計
9	従業員給付の会計 (1)	退職給付会計
10	従業員給付の会計 (2)	株式報酬の会計
11	会計基準の国際化	国際会計基準 (IFRS) や環境問題への対応
12	企業結合・事業分離の会計	M&A の会計
13	グローバリゼーションの会計	外貨建取引の会計と在外子会社の換算
14	まとめと振り返り	本講義の総括

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

各回ごとに授業で用いるレジュメを事前に授業支援システム上で公開するので、各自ダウンロードし予習してきてください。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

特になし

【参考書】

伊藤邦雄『新・現代会計入門< 第 5 版>』日本経済新聞社、2022 年

【成績評価の方法と基準】

毎講義時の小テスト (50%) と期末レポート (50%) により総合的に評価する。

※小テストを半数回以上未受験の場合は無条件に不可とします。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムを通じてレジュメ・関連資料を配付するので、履修登録の確定を待たずに、各自、自己登録 (科目コード：K6114) を済ませてください。

【その他の重要事項】

本講義は、カリキュラム・ツリー上の位置づけから、簿記や会計学に関する基礎的理解があることを前提にしています。「簿記 I」や「会計学入門」等の会計関連科目を履修した学生のみが受講してください。

【Outline (in English)】

【Course outline】

Financial accounting is the language of business, which helps us better understand how companies behave. Businesses cannot be understood without an understanding of financial accounting. This course aims to provide students with practical skills and knowledge about financial accounting. Students learn how firms communicate through financial statements.

【Learning Objectives】

At the end of this course, students are expected to understand of the applied issues of financial accounting theory and to read and analysis accounting information in an international context.

【Learning activities outside of classroom】

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

【Grading Criteria】

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end report: 50%

In-class contribution: 50%

MAN300CA
会計学応用 I (財務会計) B
竹口 圭輔
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

企業会計は企業の行動を把握・理解する上で不可欠となるグローバルな「ビジネスの言語」です。企業会計への理解なくしては企業を理解することもできません。本講義ではそうした企業会計のうち、財務会計論の応用的・実践的な知識を提供していきます。この授業では、実際の財務諸表を用いて、現実の企業活動を読みこなしていくことに注力し、自らの手でファンダメンタル分析、会計戦略分析、企業価値評価などを行っていきます。

【到達目標】

会計学応用 I (財務会計) B では、ファンダメンタル分析ならびに企業価値評価に関するスキルの獲得を目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】

基本的にスライドを使用した講義形式で進めていきます。また、毎講義に小テストを課します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の概要説明
2	企業価値評価のフレームワーク	企業の価値創造プロセスと企業価値評価の全体像
3	財務諸表から読む企業活動 (1)	「企業活動を映し出す鏡」としての会計
4	財務諸表から読む企業活動 (2)	企業のディスクロージャー制度と会計情報の限界
5	戦略的ファンダメンタル分析 (1)	企業価値とファンダメンタル分析
6	戦略的ファンダメンタル分析 (2)	グループ経営分析
7	経営戦略分析	経営戦略分析のためのフレームワーク
8	会計戦略分析	会計利益の特性と会計政策
9	ケーススタディー (1)	特定業界のファンダメンタル分析
10	企業価値とバリュエーション (1)	企業価値評価の手法
11	企業価値とバリュエーション (2)	資本コストの概念と株主資本コストの推定
12	企業価値とバリュエーション (3)	会計利益による企業評価モデル
13	会計・財務数値と市場評価	株式市場と企業のファンダメンタルズ
14	ケーススタディー (2)	特定企業のバリュエーション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回ごとに授業で用いるレジュメを事前に学習支援システム上で公開するので、各自ダウンロードし予習してきてください。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

伊藤邦雄『企業価値経営』日本経済新聞社、2021 年

【成績評価の方法と基準】

毎講義時の小テスト（50 %）と期末試験・レポート（50 %）により総合的に評価する。

※小テストを半数回以上未受験の場合は無条件に不可とします。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを通じてレジュメ・関連資料を配付するので、履修登録の確定を待たずに、各自、仮登録（科目コード：K6115）を済ませてください。

【その他の重要事項】

本講義は、カリキュラム・ツリー上の位置づけから、簿記や会計学に関する基礎的理解があることを前提にしています。基本的な内容については授業内でフォローしないので、「簿記入門」や「会計学入門」等の会計関連科目を履修した学生のみが受講してください。

【Outline (in English)】

【Course outline】

This course starts with a review of financial reporting and then focuses on various modules of fundamental analysis, including performance evaluation, earnings quality, strategic analysis and valuation. The goal of this lesson is to practice corporate valuation.

【Learning Objectives】

At the end of this course, students are expected to acquire skills in fundamental analysis and corporate valuation.

【Learning activities outside of classroom】

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

【Grading Criteria】

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end report: 50%

In-class contribution: 50%

MAN300CA
会計学応用Ⅱ（管理会計）A
梅津 亮子
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

企業経営において経営者及び管理者は、戦略的な課題あるいは業務上の問題に対して様々な意思決定を行います。管理会計の役割は、経営者等が行うこれらの意思決定に対して有用な情報を提供することにあります。本講義では、管理会計の基礎的な知識を習得することを目的とし、意思決定を支援するための管理会計の理論と技法について学習していきます。

【到達目標】

1. 管理会計の基礎理論を理解する、2. 管理会計の具体的手法を習得する、3. 様々な経営課題について、管理会計情報を利用して解決する方法を考察する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式で基本的な理論構造の説明を行う。また、単元ごとに演習問題を解くことで知識の定着を図っていく。課題等を実施した場合は、とくに正解率の低いもの、難易度の高いものを中心として講評・解説の時間を設ける。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	経営活動と会計情報	経営管理と会計情報、経営管理プロセス、経営者の役割
第2回	管理会計の基礎①	財務会計情報と管理会計情報の相違
第3回	管理会計の基礎②	管理会計の体系、業績管理会計と意思決定会計
第4回	管理会計の基礎③	制度的原価概念、管理会計上の原価概念
第5回	短期利益計画	利益管理、コスト・ビヘイビア、大綱的利益計画
第6回	CVP分析①	損益分岐点図表、利益図表、損益分岐点の算出
第7回	CVP分析②	経営リスク、経営レバレッジ、安全余裕率
第8回	感度分析	損益分岐点の引き下げ、利益改善のためのアプローチ
第9回	多品種製品のCVP分析	線形計画法、制約条件、セールス・ミックス
第10回	原価分解	実績データ基準法と工学的方法による原価予測
第11回	全部原価計算方式によるCVP分析	CVP分析の仮定、全部原価計算による損益分岐点の算定
第12回	ABC/ABM	原価構造の変化、ABCの計算構造、アクティビティ分析
第13回	品質コストマネジメント	予防コスト、評価コスト、失敗コスト
第14回	復習	春学期の学習内容の復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回とも、授業で学習した内容を復習しておくこと。教科書・ノートをよく読み返しておいてください。本授業の準備・復習時間は4時間を目安とします。

【テキスト（教科書）】

武蔵誠ほか『管理会計』新世社。

【参考書】

必要に応じてそのつど紹介します。

【成績評価の方法と基準】

小テスト10%、期末試験90%

【学生の意見等からの気づき】

管理会計に特有の原価概念について丁寧に説明をしていきたい。

【その他の重要事項】

電卓を用意しておくこと。

【Outline (in English)】

(Course Outline)The aim of this course is to help students learn the basic concepts of management accounting which are used to make and support decisions.(Learning Objectives)The goals of this course are to acquire knowledge and techniques of management accounting.(Learning activities outside of classroom)Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.(Grading Criteria/Policy)Your overall grade in the class will be decided based on the following Final examination(90%),Small tests(10%).

MAN300CA
会計学応用Ⅱ（管理会計）B
梅津 亮子
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

企業経営において経営者及び管理者は、戦略的な課題あるいは業務上の問題に対して様々な意思決定を行います。管理会計の役割は、経営者等が行うこれらの意思決定に対して有用な情報を提供することにあります。本講義では、管理会計の基礎的な知識を習得することを目的とし、意思決定を支援するための管理会計の理論と技法について学習していきます。

【到達目標】

1. 管理会計の基礎理論を理解する、2. 管理会計の具体的方法を習得する、3. 様々な経営課題について、管理会計情報を利用して解決する方法を考察する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式で基本的な理論構造の説明を行う。また、単元ごとに演習問題を解くことで知識の定着を図っていく。課題等を実施した場合は、とくに正解率の低いもの、難易度の高いものを中心として講評・解説の時間を設ける。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	予算管理①	予算管理の機能、予算編成方針、予算の体系
第2回	予算管理②	予算編成プロセス、予算スラック、予算ゲーム
第3回	予算管理③	変動予算・固定予算、予算統制、ゼロベース予算
第4回	事業部制会計①	職能別組織と事業部制組織、責任会計、責任中心点
第5回	事業部制会計②	事業部長と事業部自体の業績評価
第6回	事業部制会計③	ROIと残余利益、社内資本金制度、振替価格
第7回	意思決定会計	経営意思決定の種類、意思決定プロセス
第8回	業務的意思決定①	特別注文、追加加工か販売か
第9回	業務的意思決定②	自製か購入か、既存製品の生産と販売
第10回	設備投資意思決定①	キャッシュ・フローの予測、貨幣の時間価値、資本コスト
第11回	設備投資意思決定②	会計的利益率法、回収期間法、正味現在価値法、内部利益率法
第12回	設備投資意思決定③	NPV法とIRR法の比較、再投資の仮定
第13回	BSC、原価企画	バランスト・スコアカード、原価企画・原価維持・原価改善
第14回	復習	秋学期の学習内容の復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回とも、授業で学習した内容を復習しておくこと。教科書・ノートをよく読み返しておいてください。本授業の準備・復習時間は4時間を目安とします。

【テキスト（教科書）】

武協誠ほか『管理会計』新世社。

【参考書】

必要に応じてそのつど紹介します。

【成績評価の方法と基準】

小テスト10%、期末試験90%

【学生の意見等からの気づき】

管理会計に特有の原価概念について丁寧に説明をしていきたい。

【その他の重要事項】

電卓を用意しておくこと。

【Outline (in English)】

(Course Outline)The aim of this course is to help students learn the basic concepts of management accounting which are used to make and support decisions.(Learning Objectives)The goals of this course are to acquire knowledge and techniques of management accounting.(Learning activities outside of classroom)Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.(Grading Criteria/Policy)Your overall grade in the class will be decided based on the following Final examination(90%),Small tests(10%).

ECN200CA
経済データ分析 A
明城 聡
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

データサイエンスの一環として、統計学・計量経済学を応用した経済データの分析方法を学ぶ。EXCELでの演習を通じて基本的なデータ処理の方法も学ぶ。

【到達目標】

統計学や計量経済学の基本的な考え方を学習するとともに、PC上でEXCELを使った経済データを分析します。また分析結果をグラフや表にまとめることで、調査レポートを作成する技術の習得も目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・国際経済学科は「DP6」「DP9」に関連。現代ビジネス学科は「DP6」「DP8」「DP9」に関連。

【授業の進め方と方法】

授業の前半では当日扱う分析手法やデータに関して解説をします。残りの時間を使ってExcelを用いた演習を行います。演習では与えられた課題を各自で解いて宿題やレポートとして提出するものとします。レポートの採点で理解が不十分であるところがあれば授業で補足するなどフィードバックします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	・講義概要の説明 ・Excelと統計データ分析
2	時系列データの記述	・時系列データの表・グラフ作成 ・成長率、寄与度、寄与率
3	度数分布表とヒストグラム	・度数分布表 ・分布の形状（尖度、歪度）
4	データ集計と基本統計量	・平均、分散、中央値、メディア ン、モード ・ボックスプロット
5	ローレンツ曲線とジニ係数	・格差の定量化 ・ローレンツ曲線
6	相関関係と因果関係	・散布図 ・相関、偏相関、時差相関、自己相関 ・ランダム化比較試験、自然実験
7	移動平均と季節調整	・移動平均 ・循環的な特性と季節調整 ・異常値
8	統計的推測	・確率、確率変数、確率分布 ・正規分布と標本平均による母平均の推測
9	母集団に関する検定と推定(1)	・仮説検定と有意水準 ・1つの母集団の母平均・母分散に関する検定・推定
10	母集団に関する検定と推定(2)	・2つの母集団の母平均・母分散に関する検定・推定
11	平均に関する群間比較(1)	・分散分析 ・1元配置法
12	平均に関する群間比較(2)	・2元配置法 ・相互効果
13	単回帰分析	・単回帰分析 ・系列相関とダービーワトソン統計量

- 14 重回帰分析
- ・重回帰分析
 - ・ダミー変数
 - ・その他の回帰分析

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

PCを使った演習を行うので基本的な操作を習得しておいて下さい。講義で扱ったトピックについての宿題があります。（標準 4 時間）

【テキスト（教科書）】

必要に応じてレジユメを配布します。

【参考書】

- 計量経済学の参考書として以下をオススメします。
- ・田中隆一、「計量経済学の第一歩－実証分析のススメ」、有斐閣、2015
- 統計学の参考書には以下をあげます。
- ・東京大学教養学部統計学教室、「統計学入門」、東京大学出版会、1991
 - ・東京大学教養学部統計学教室、「人文・社会科学の統計学」、東京大学出版会、1994

【成績評価の方法と基準】

宿題(30%)と課題レポート(70%)

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

情報処理室でPCを利用します。必要に応じてUSBメモリなどを準備して下さい。

【その他の重要事項】

受講生の理解度や要望などに応じて講義内容を変更する場合があります。

【Outline (in English)】

Outline: This course provides a guideline to study basic statistical techniques to analyze economic data. Applied statistics and econometrics are also covered in exercises using PC and statistical software (MS Excel).

Goal: To master basics of statistics and econometrics, and data-analysis skills using MS Excel.

Extracurricular exercise: weekly homework assignments need to be submitted through the online system (4 hours)

Grading: homework(30%) and final report(70%)

ECN200CA
経済データ分析 B
明城 聡
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

データサイエンスのスキルを身につけるため、統計パッケージを利用したより高度な経済データの分析手法を学ぶ。

【到達目標】

この統計パッケージ R を用いた演習を行います。R の特徴は Excel よりも高度な統計手法がデフォルトで利用できる点や柔軟なプログラミングができる点です。演習では具体的なクロスセクション・データやパネルデータを用いて計量経済学的手法を学習します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・国際経済学科は「DP6」「DP9」に関連。現代ビジネス学科は「DP6」「DP8」「DP9」に関連。

【授業の進め方と方法】

授業の前半ではデータ分析に必要な計量経済学と R の操作方法について解説します。その後で実際に端末を利用して演習を行います。春学期と同様に練習問題を解いてレポートとして提出するものとします。レポートの採点で理解が不十分であるところがあれば授業で補足するなどフィードバックします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	・講義概要の説明 ・その他連絡事項
2	R の設定	・R について ・基本的な設定 ・基本コマンド ・統計量の計算
3	R の操作とデータ管理 (1)	・ファイル操作 ・オブジェクト操作
4	R の操作とデータ管理 (2)	・基本統計量
5	R の操作とデータ管理 (3)	・行列の操作
6	R の操作とデータ管理 (4)	・行列演算
7	クロスセクションデータに対する線形回帰 (1)	・クロスセクションデータ ・K 変数線形回帰モデル ・一般化古典的仮定
8	クロスセクションデータに対する線形回帰 (2)	・R での回帰分析 ・散布図と回帰直線の作図
9	クロスセクションデータに対する線形回帰 (3)	・不均一分散の検定 ・不均一分散調整済み標準誤差
10	演習 (1)	・クロスセクションデータを用いた演習
11	パネルデータに対する線形回帰 (1)	・パネルデータ ・Pooled OLS
12	パネルデータに対する線形回帰 (2)	・固定効果モデル ・変量効果モデル ・Hausman 検定
13	演習 (2)	・パネルデータを用いた演習
14	まとめ	・授業のまとめと復習 ・課題レポートについて

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

春学期の経済データ分析 A に加えて、統計学と計量経済学を復習しておいて下さい。

毎回の講義内容をしっかり復習して下さい（標準 4 時間）。

【テキスト（教科書）】

必要に応じてレジュメを配布します。

【参考書】

R の操作やデータ分析については

- ・「R による統計データ分析入門」小暮厚之、朝倉書店、2009
 - ・「R による計量経済分析」福地純一郎、伊藤有希、朝倉書店、2011
- 計量経済学については
- ・山本拓「計量経済学」新世社、1995
 - ・田中隆一、「計量経済学の第一歩－実証分析のススメ」、有斐閣、2015
- 統計学の参考書には以下をあげます。
- ・東京大学教養学部統計学教室、「統計学入門」、東京大学出版会、1991
 - ・東京大学教養学部統計学教室、「人文・社会科学の統計学」、東京大学出版会、1994

【成績評価の方法と基準】

課題レポート (100%)

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

情報処理室で PC を使うので、必要に応じて USB メモリ等を用意して下さい。

【その他の重要事項】

受講生の理解度や要望などに応じて講義内容を変更する場合があります。

【Outline (in English)】

Outline: Primary objective of this course is to master advanced econometric techniques to analyze economic data using PC. Students are required to learn basic statistics and programming skills to utilize statistical software R.

Goal: To master advanced data-analysis skills for cross sectional and panel data using statistical software(R).

Extracurricular exercise: Review the contents covered in the class every week (4 hours).

Grading: final report (100%)

ECN200CD
経済地理
近藤 章夫
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位
※現代ビジネス学科生のみ履修できます。

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、経済地理学のアプローチについて立地論から概説する。産業ごとの立地の違いや現代経済における立地パターンなどを事例にあげて、立地の経済的論理を理解することを目的とする。

【到達目標】

産業立地の理論と実際を学ぶことによって、現代経済における多様な地理景観の形成を経済学のメカニズムから理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP2」「DP9」に関連。国際経済学科は「DP2」「DP8」に関連。

【授業の進め方と方法】

授業では経済立地や産業立地の基礎モデルをベースにして国内外の社会経済動向や研究事例を用いながら解説していく。講義に資する資料を適宜提示し、地図・統計を用いながら理解を深める。課題等の提出、フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	講義の概要と学習のポイント
第 2 回	立地論の基礎	立地論の基礎概念と系譜
第 3 回	産業立地の基礎①	農業立地論の基礎と応用
第 4 回	産業立地の基礎②	工業立地論の基礎と応用
第 5 回	産業立地の基礎③	中心地理論の基礎と応用
第 6 回	都市と集積の立地論①	オフィス立地と都市システム論
第 7 回	都市と集積の立地論②	集積と空間経済の理論
第 8 回	立地論の応用①	現代工業の立地調整と組織的立地論
第 9 回	立地論の応用②	グローバリゼーションと立地
第 10 回	立地論の応用③	商業・流通と立地論
第 11 回	立地論の応用④	創造性と文化産業の立地
第 12 回	立地論と政策①	福祉政策と立地論
第 13 回	立地論と政策②	環境問題と立地論
第 14 回	まとめ・総括	立地論の課題と展望

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。特に、講義後にノート、レジュメ、地図等で関心を持った点を中心に復習して欲しい。

【テキスト（教科書）】

教科書は指定しない。適宜、文献と資料を提示する。

【参考書】

川端基夫（2013）『立地ウォーズ（改訂版）』新評論
 鈴木洋太郎（2009）『産業立地論』原書房
 松原宏編著（2013）『現代の立地論』古今書院
 山田浩之・徳岡一幸編（2018）『地域経済学入門（第 3 版）』有斐閣

【成績評価の方法と基準】

中間・期末レポート（60%）、各回の小テスト等の課題（40%）となる。

【学生の意見等からの気づき】

講義だけでなく関連する話題や発展的学習につながる資料や文献なども積極的に提示する。

【その他の重要事項】

授業は対面形式を基本とするが、授業の進捗状況や履修者の学習状況をふまえ、一部の授業をオンライン形式で実施することがある。学期中は学習支援システムを用いて、授業内容のお知らせや課題の提示等を適宜行うので、授業のページを定期的に確認することを求める。

【Outline (in English)】

Course outline:

This lecture will provide an overview of the industrial location theory from the perspective of economic geography. The objective is to understand the economic logic of location, with examples of locational differences in industries and location patterns in the modern economy.

Learning Objectives:

By learning the theory and practice of industrial location, students will understand the formation of diverse geographic landscapes in the modern economy through the mechanisms of economics.

Learning activities outside of classroom :

Before/after each class, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading Criteria /Policy:

Final grade will be calculated according to the following process
 Mid-term report and term-end report(60%), and each-class requirements(40%).

ECN200CD
産業集積論
近藤 章夫
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位
※現代ビジネス学科生のみ履修できます。

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は、各産業の歴史と地理に焦点をあて、産業地域や産業集積の盛衰メカニズムに関する具体的かつ実践的な思考力を身につけることを目的として、現代産業における地域経済への影響や集積の実態を概説する。

【到達目標】

現代経済における産業構造に焦点をあてながら、さまざまな産業の姿について集積論（地域論）の視点から多角的に論ずる。産業のみならず、産業構造にかかわるさまざまな社会経済的側面について考察し、広範な現代経済の文脈と集積論への理解を深めることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】

本講義では、経済地理学の一分野である集積論をベースにして、主要産業の発展について、国・地域のスケールでみた立地や企業行動を概観し、市場変化や技術革新のもたらした地理的影響に焦点を当てる。その際、現代経済や現代ビジネスの潮流に触れ、世界の中の日本、アジアの中の日本を意識したトピックを各回で取りあげて、上記の目的を達したい。授業は配布資料をもとに行い、課題等の提出、フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	講義の概要と学習のポイント
第2回	産業研究と集積論①	産業化と経済発展
第3回	産業研究と集積論②	産業構造と地域経済
第4回	鉄は国家なり	近代製鉄業から現代の鉄鋼業へ
第5回	石油時代の来し方行く末	石油化学産業とその周辺
第6回	繊維産業の歴史と地理	近代製糸業と日本の工業化
第7回	織物からユニクロまで	繊維産業からみる現代経済の変化
第8回	工業から「ものづくり」へ	加工組立型製造業とものづくり基盤技術
第9回	自動車大国日本の行方①	製品アーキテクチャーと集積
第10回	自動車大国日本の行方②	日本的生産システムとグローバル戦略
第11回	電子立国興亡史①	日の丸家電・半導体の栄枯盛衰
第12回	電子立国興亡史②	産学連携とシリコンバレーモデル
第13回	知識経済化とグローバル・マーケティング時代	商品連鎖、クラスター、ネットワーク、イノベーション
第14回	まとめ	集積論の温故知新

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。特に、講義後にノート、レジュメ、地図等で関心を持った点を中心に復習して欲しい。

【テキスト（教科書）】

教科書は指定しない。適宜、文献と資料を提示する。

【参考書】

伊丹敬之ほか編（1998）『産業集積の本質』有斐閣
 伊藤正昭（2011）『新地域産業論』学文社
 橘川武郎ほか編（2014）『日本の産業と企業』有斐閣
 アナリー・サクセニアン（2009）『現代の二都物語』日経BP社
 松原宏編（2018）『産業集積地域の構造変化と立地政策』東京大学出版会

【成績評価の方法と基準】

中間・期末レポート（60%）、各回の小テスト等の課題（40%）となる。

【学生の意見等からの気づき】

講義だけでなく関連する話題や発展的学習につながる資料や文献なども積極的に提示する。

【その他の重要事項】

授業は対面形式を基本とするが、授業の進捗状況や履修者の学習状況をふまえ、一部の授業をオンライン形式で実施することがある。学期中は学習支援システムを用いて、授業内容のお知らせや課題の提示等を適宜行うので、授業のページを定期的に確認することを求める。

【Outline (in English)】

Course outline and objectives:

This lecture focuses on the history and geography of industry, and outlines the impact of the modern industry on regional economies, with the aim of cultivating concrete and practical thinking skills about the mechanisms of the rise and fall of industrial regions and industrial agglomerations.

Learning activities outside of classroom :

Before/after each class, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading Criteria /Policy:

Final grade will be calculated according to the following process
 Mid-term report and term-end report(60%), and each-class requirements(40%).

MAN200CA
コーポレートガバナンス論A
胥 鵬
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

近年、SDGs をテーマに高校の授業で学ぶことは増えている。企業の持続的な長期成長にも、収益だけではなく、SDGs、すなわち、ESG（環境・社会・ガバナンス）を考慮することは欠かせないものである。コーポレート・ガバナンス論 A のテーマは、株主総会、議決権行使、スチュワードシップ・コード、機関投資家の議決権行使の個別開示などの制度を学び、データから議決権行使と企業のガバナンスの関連を理解する。

【到達目標】

株式会社は株主によって所有され、株主は株主総会で議決権を行使することで経営の重要事項に自らの意見を反映させる。最近、海外ファンドなどの大株主が反対を表明したため、東芝が提案した会社の 2 分割計画が臨時株主総会で株主の反対多数で否決されたケースは、コーポレートガバナンスの一例である。コーポレート・ガバナンス論 A の学習目標は、株主総会と議決権行使との関連で、機関投資家などの大株主の議決権行使の個別開示などのスチュワードシップ・コード制度を学び、データから議決権行使とコーポレート・ガバナンスの関連を理解することである。

学生諸君が各自にダウンロードしたデータや資料に基づく活発な議論を行い、学生諸君が提示した具体例を取り上げつつ、学生参加による学生のための授業を進める。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP8」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】

原則として対面授業を実施する。学生諸君が各自にダウンロードしたデータや資料に基づく活発な議論を行い、学生諸君が提示した具体例を取り上げつつ、学生参加による学生のための授業を進める。

インターネットやオンラインデータベースなどを通じて、コーポレート・ガバナンスにかかわる株主総会制度や敵対的買収についてデータ資料を収集し、グループで議論し、課題解決型学習を行う、課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	長期的に利益を生み出すためにコーポレート・ガバナンスは重要	コーポレート・ガバナンスの基礎概念と用語を解説する
第 2 回	所有と経営の分離	コーポレート・ガバナンスの原点
第 3 回	株主の権限	ビジュアル資料を用いてわかりやすく説明する
第 4 回	株主総会	ビジュアル教材で使って解説する
第 5 回	議決権行使	法律と実務を交えながら解説する
第 6 回	日本版スチュワードシップ・コード	英国との比較で日本の制度の変遷を説明する
第 7 回	機関投資家の議決権行使の個別開示	公表されたデータに基づいて機関投資家の議決権行使の実態を把握する
第 8 回	取締役選任議案	賛成比率の低い議案を中心に、所有構造と議決権行使の関連を理解する

第 9 回	監査役選任議案	賛成比率の低い議案を中心に、所有構造と議決権行使の関連を理解する
第 10 回	敵対的買収対策	事例を交えながら説明する
第 11 回	敵対的買収防衛策導入議案	なぜ海外機関投資家が反対票を投じるかを理解する
第 12 回	ウォールストリート・ルール	保有株式を売却して反対意思を表明するメカニズムを解説する
第 13 回	株式持合	企業同士が株式を保有し合う日本特有な所有構造と議決権行使によるガバナンスの限界について説明する
第 14 回	課題	今までのことをどれくらい理解したかを確かめるために、各自に収集した資料やデータに基づいて課題を試みる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

データダウンロードやエクセルによるデータ加工は、必ず自分の手で行う。各自に収集した定時株主総会臨時報告書、機関投資家の議決権行使の個別開示等の資料やデータに基づいてグループ課題を試みるために、準備学習・復習・宿題などの授業時間外学習は各 4 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

テキストを特に使わないが、アップロードした講義ノートを学生がダウンロードする。

【参考書】

宮島英昭 [2007] (編著)『日本の M&A』、東洋経済新報社
 宮島英昭編 [2011]『日本の企業統治：システムの進化と危機後の再設計』、東洋経済新報社
 『日本のコーポレートファイナンス—サーベイデータによる分析』花枝英樹、芹田敏夫、胥鵬、佐々木隆文、鈴木健嗣、佐々木寿記 白桃書房 2020 年

【成績評価の方法と基準】

成績評価には、中間レポート (30%) と期末レポート (40%) はいずれも必須、授業内活動加点は 30 %。

【学生の意見等からの気づき】

早口ですが、できるだけゆっくり講義したいです。

【学生が準備すべき機器他】

ノートパソコン持参

【その他の重要事項】

米国のビジネススクールにまさるとも劣らぬ講義を諸君に届ける。

【担当教員の専門分野等】

MB O、株式持合、役員報酬、中小企業金融、コミットメント・ライン、銀行ガバナンスと銀行リスク、会社法の経済分析
 『日本のコーポレートファイナンス—サーベイデータによる分析』花枝英樹、芹田敏夫、胥鵬、佐々木隆文、鈴木健嗣、佐々木寿記 (6,7 章) 白桃書房 2020 年

Strategic short selling around index additions: Evidence from the Nikkei 225 Index,Shiomi, Naoya, Takahashi, Hidetomo, Xu, Peng International Review of Finance 2020 年
 Trading activities of short-sellers around index deletions: Evidence from the Nikkei 225 Hidetomo Takahashi and Peng Xu Journal of Financial Markets 27 132 - 146 2016

【Outline (in English)】

【Outline (in English)】

The theme of Corporate Governance Theory A is to learn voting rights, the general shareholders' meeting, the roles of the Japan Stewardship Code, and the market for control. The goals of this course are to understand how corporate governance systems mitigate the conflicts between shareholders and management. Before/after each class meeting, students will be expected to collect the relevant materials. Your required study time is about half hour for each class meeting. The mid-term report (30%) and term end report (40%) are both required for grading, in addition to in class contribution (30%).

MAN200CA
コーポレートガバナンス論 B
胥 鵬
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

近年、SDGs をテーマに高校の授業で学ぶことは増えている。企業の持続的な長期成長にも、収益だけではなく、SDGs、すなわち、ESG（環境・社会・ガバナンス）を考慮することは欠かせないものである。コーポレート・ガバナンス論 B のテーマは、監査役会設置会社、監査等委員会設置会社と指名委員会等設置会社の選択制、取締役会、社外取締役、役員報酬、ストック・オプション、コーポレート・ガバナンスコードである。

【到達目標】

世間で上場企業の社長は偉いと思われているが、実際には社長などのトップ経営者は、株主総会の議決で選任される。社長や CEO は、会社法上の代表取締役や代表執行役である。株主の最も重要な権限は、取締役を選任することである。2021 年 6 月 25 日、東芝の定時株主総会で計 11 人の取締役選任案のうち、取締役会議長ら 2 人の再任が反対多数で否決されたケースは、コーポレート・ガバナンスの一例である。また、経営者全体の報酬も株主総会の議決で決議されることが多い。この授業の学習目標は、取締役選任や取締役報酬との関連で、監査役会設置会社、監査等委員会設置会社と指名委員会等設置会社の選択制、取締役会、社外取締役、役員報酬、ストック・オプション、日本版コーポレート・ガバナンス・コード及び ESG などを理解することである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP8」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】

インターネットや豊富なデータベースを利用して、監査役会設置会社、監査等委員会設置会社と指名委員会等設置会社の選択制、取締役会、社外取締役、役員報酬、ストック・オプションと日本版コーポレート・ガバナンス・コードについてわかりやすく説明する。

原則として対面授業を実施する。学生諸君が各自にダウンロードしたデータや資料に基づく活発な議論を行い、学生諸君が提示した具体例を取り上げつつ、学生参加による学生のための授業を進める。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	取締役の義務	取締役は会社のしもべ
第 2 回	取締役会	規模、構成と独立性
第 3 回	監査役	監査役は目付役
第 4 回	監査役会設置会社	なぜ監査役は閑散役と揶揄される
第 5 回	指名委員会等設置会社	監督と執行の分離、独立社外取締役：米国の影響
第 6 回	取締役会の規模と執行役員制度	スマート＝効率？
第 7 回	監査等委員会設置会社	監査役会設置会社と指名委員会等設置会社の中間的性格を帯びた第三の会社形態
第 8 回	監査等委員である取締役	監査等委員である取締役とその他の取締役の相違
第 9 回	代表取締役の選任と解任	誰が社長のくびをとるのか：監査役と取締役の違い
第 10 回	取締役の多様性	女性取締役と女性の活躍推進

第 11 回	業績連動報酬	ストックオプション、譲渡制限株式などの株価などの企業経営業績と連動する役員報酬
第 12 回	1 億円以上役員報酬の開示	1 億円（ミリオン）プレイヤーは誰かを採ってその是非を考える
第 13 回	日本版コーポレート・ガバナンス・コード	コンプライ・オア・エクスプレイン
第 14 回	グループ課題	今までの勉強の理解を確かめるために、収集した資料やデータに基づいてグループ課題を試みる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

データダウンロードやエクセルによるデータ加工は、必ず自分の手で行う。各自に収集した定時株主総会臨時報告書、機関投資家の議決権行使の個別開示等の資料やデータに基づいてグループ課題を試みるために、準備学習・復習・宿題などの授業時間外学習は各 4 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

テキストは使わないが、アップロードした講義ノートはネットから各自でダウンロードする。

【参考書】

宮島英昭 [2007] (編著)『日本の M&A』、東洋経済新報社
 宮島英昭編 [2011]『日本の企業統治：システムの進化と危機後の再設計』、東洋経済新報社
 『日本のコーポレートファイナンス－サーバイデータによる分析』花枝英樹、芹田敏夫、胥鵬、佐々木隆文、鈴木健嗣、佐々木寿記 白桃書房 2020 年
 参考資料はネットから各自にダウンロードする。

【成績評価の方法と基準】

成績評価には、中間レポート (30%) と期末レポート (40%) はいずれも必須、授業内活動加点は 30 %。

【学生の意見等からの気づき】

早口ですが、できるだけゆっくり講義したいです。

【学生が準備すべき機器他】

ノートパソコン持参

【その他の重要事項】

米国のビジネススクールにまさるとも劣らぬ講義を諸君に届ける。

【担当教員の専門分野等】

MB O、株式持合、役員報酬、中小企業金融、コミットメント・ライン、銀行ガバナンスと銀行リスク、会社法の経済分析、来日観光客の決定要因等々
 『日本のコーポレートファイナンス－サーバイデータによる分析』花枝英樹、芹田敏夫、胥鵬、佐々木隆文、鈴木健嗣、佐々木寿記 (6,7 章) 白桃書房 2020 年

Strategic short selling around index additions: Evidence from the Nikkei 225 Index, Shiomi, Naoya, Takahashi, Hidetomo, Xu, Peng International Review of Finance 2020 年
 Trading activities of short-sellers around index deletions: Evidence from the Nikkei 225 Hidetomo Takahashi and Peng Xu Journal of Financial Markets 27 132 - 146 2016

【Outline (in English)】

The theme of Corporate Governance Theory B is to learn the board of directors and the roles of the Japan Corporate Governance Code. The goals of this course are to understand how the board of directors works to mitigate the conflicts between shareholders and management. Before each class meeting, students will be expected to collect the relevant materials. Your required study time is about half hour for each class meeting. The mid-term report (30%) and term end report (40%) are both required for grading, in addition to in class contribution (30%).

ECN300CA
リスク・マネジメント A
湯前 祥二
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講義では、リスク管理の考え方と手法を身につけ、実際に活用できることを目標とします。

【到達目標】

リスク測度について理解し、値を計算で求めることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】

家計でもビジネスでも、リスクを全く取らなければリターンも低いままです。一方、過剰なリスクは破綻につながります。リスク管理は、負担可能なリスクの限度を見極めて、要求される利回りを実現することに役立ちます。

現代ファイナンス入門の講義で、現在価値計算の方法や金融商品について学んだことを前提に、講義します。

春学期は、現在価値、リスクを中心に扱います。

課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ファイナンスとは何か	ファイナンスを学ぶ理由
第2回	将来価値	複利計算の頻度と実効金利
第3回	現在価値	単利の発想と複利の発想
第4回	採択ルール	正味現在価値
第5回	アニュイティ	複数回のキャッシュフロー
第6回	資産価値評価	一物一価の法則と裁定
第7回	三角裁定	為替とクロスレート
第8回	リスク	リスク回避とリスク測度
第9回	リスク管理	リスク管理の基本テクニック
第10回	リスク移転	ヘッジと保険と分散
第11回	動機付け問題	モラル・ハザードと逆選択
第12回	確率分布	正規分布
第13回	リスク測度	期待収益率とボラティリティ
第14回	まとめ	ファイナンスの役割

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義に使う図表をまとめた資料を、随時、「学習支援システム」で配布します。受講者は、この資料を講義までに取得して、目を通しておいください。わからない内容があれば調べ、関連する資料（新聞記事など）も見えておくことが望ましい。この資料は、印刷したものを、講義に持参してください。また、関数電卓を利用するので、使用法に慣れてください。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

なし

【参考書】

ボディ、マートン、クリートン（2011）、『現代ファイナンス論 原著第2版 意思決定のための理論と実践』、ピアソン桐原。
ルーエンバーガー（2015）、『金融工学入門第2版』、日本経済新聞出版社。

【成績評価の方法と基準】

試験によって評価します（100%）。試験を行わない場合は、学習支援システムの活動で評価します（100%）。

【学生の意見等からの気づき】

ノートに書き写す時間と、説明を聞く時間が重ならないよう努めます。

【学生が準備すべき機器他】

関数電卓を使用します。

【Outline (in English)】

This course is a primer on finance. It deals with specific issues concerning risk management.

The goals of this course are to acquire basic knowledge about finance.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on term-end examination (100%).

ECN300CA
リスク・マネジメント B
湯前 祥二
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講義では、リスク管理の考え方と手法を身につけ、実際に活用できることを目標とします。

【到達目標】

金融派生商品について理解し、理論価格を計算で求めることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】

家計でもビジネスでも、リスクを全く取らなければリターンも低いままです。一方、過剰なリスクは破綻につながります。リスク管理は、負担可能なリスクの限度を見極めて、要求される利回りを実現することに役立ちます。

現代ファイナンス入門の講義で、現在価値計算の方法や金融商品について学んだことを前提に、講義します。

秋学期は、ポートフォリオ理論、金融派生商品を扱います。

課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ポートフォリオ選択	原則と戦略
第 2 回	前提条件	ホライズンとリスク許容度
第 3 回	トレードオフ	危険資産と無リスク資産
第 4 回	目標期待リターンの達成	ポートフォリオの効率性
第 5 回	リスク分散	二つの危険資産
第 6 回	ポートフォリオのリスク	最小分散ポートフォリオ
第 7 回	先渡し契約、先物契約	先渡し価格、債務不履行の防止
第 8 回	パリテイ	裁定取引と先渡しの理論価格
第 9 回	金融先物	複製とインプライド配当
第 10 回	オプション	条件付き請求権
第 11 回	ペイオフ	本源的価値と時間的価値
第 12 回	オプション・プレミアム	株価モデル
第 13 回	動的複製戦略	ブラック・ショールズ式
第 14 回	まとめ	金融派生商品の利用

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義に使う図表をまとめた資料を、随時、「学習支援システム」で配布します。受講者は、この資料を講義までに取得して、目を通しておいてください。わからない内容があれば調べ、関連する資料（新聞記事など）も見えておくことが望ましい。この資料は、印刷したものを、講義に持参してください。また、関数電卓を利用するので、使用法に慣れてください。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

なし。

【参考書】

ボデイ、マートン、クリートン（2011）、『現代ファイナンス論 原著第 2 版 意思決定のための理論と実践』、ピアソン桐原。
ルーエンバーガー（2015）、『金融工学入門第 2 版』、日本経済新聞出版社。

【成績評価の方法と基準】

試験によって評価します（100%）。試験を行わない場合は、学習支援システムの活動で評価します（100%）。

【学生の意見等からの気づき】

ノートに書き写す時間と、説明を聞く時間が重ならないよう努めます。

【学生が準備すべき機器他】

関数電卓を使用します。

【Outline (in English)】

This course is a primer on finance. It deals with specific issues concerning risk management.

The goals of this course are to acquire basic knowledge about finance.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on term-end examination (100%).

ECN300CA
企業経営史 A
飯塚 陽介
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講義の目的は、ビジネスの時代・地域における多様性を学ぶことで、ビジネスのあり方の多様性について、広い視野から比較・考察する力を身につけることにあります。A では、日米欧における「現代企業」の出現にいたる時期までを対象とします。

【到達目標】

- (1) 日米欧の現代企業の相違を知り、それを歴史的な背景から説明できる。
- (2) 歴史的な視座から企業・産業のあり方に対して関心を持つ。
- (3) 企業・産業の歴史についての文献を収集できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

原則として対面式での講義（オンラインでの実施の可能性もあり）。毎回の確認小テストと任意の企業・産業の歴史についての研究計画書と期末レポート（オンラインにて評価及びコメント）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	経営史学とは何か？	経営史学の歴史とその問題意識
2	「規模の経済」の発見と企業者活動	産業革命期イギリスにおける「規模の経済」の発見。
3	市場経済の中の企業	市場を前提とした産業革命期の企業活動。
4	在来産業における革新	産業革命期の在来産業における革新。
5	産業革命と金融ビジネス	産業革命を支える金融ビジネスの興隆
6	大量生産への途	製造業における互換性生産の出現など
7	見えざる手から見える手へ+中間レポート提出	アメリカにおける大企業の出現
8	期末レポート作成指導（研究計画の調整など）	研究テーマの調整と調査についての指導。
9	経営階層組織と専門経営者の出現	鉄道業における経営階層組織の発達など。
10	経営者企業の成立	経営者企業の出現、米国大企業の国際化・多角化。
11	ヨーロッパにおける現代企業の登場	ヨーロッパにおける大企業の出現とその背景。
12	ヨーロッパ大企業の組織と戦略	ヨーロッパ大企業の特徴。
13	日本における大企業の形成	後発性ゆえの大規模性。
14	两大戦間期日本のビジネス+期末レポート提出	産業構造の変化、財閥のコンツェルン化など。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- (1) 学期末の期末レポートに向けての調査・研究（20 時間）
- (2) 毎回の確認小テスト（各回 2 時間）。

【テキスト（教科書）】

関連文献は毎回の講義にて紹介します。

【参考書】

鈴木良隆・大東英祐・武田晴人『ビジネスの歴史』有斐閣、2004 年。

【成績評価の方法と基準】

- (1) 授業後の確認小テスト（30 %）（到達目標（1）・（2）と関連します）
- (2) 期末テスト及び研究計画書（70 %）（到達目標（2）・（3）と関連します）

【学生の意見等からの気づき】

特に意見などはなかった。問題なく運営できている。

【その他の重要事項】

企業経営に関する基礎的な知識があることが望ましい。

【Outline (in English)】

In this course, students will learn about business history in Japan, the United States, and Europe. The learning objectives of this lecture is to acquire basic knowledge of business history of these regions, and to acquire the ability to research the history of individual companies. Students will be required to review the course content and answer the quiz after each class meeting. This will take 2 hours for a class. In addition, students will be expected to conduct their own research on the history of individual companies or industries outside of class hours. This will take 20 hours. Grades will be based on quizzes (30%) and reports on the history of individual companies or industries (70%).

ECN300CA
企業経営史 B
飯塚 陽介
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講義の目的は、ビジネスの時代・地域における多様性を学ぶことで、ビジネスのあり方の多様性について、広い視野から比較・考察する力を身につけることにあります。B では、日米欧における大企業体制の形成以降の時期を対象とします。

【到達目標】

- (1) 日米欧の現代企業の相違を知り、それを歴史的な背景から説明できる。
- (2) 歴史的な視座から企業・産業のあり方に対して関心を持つ。
- (3) 企業・産業の歴史についての文献を収集できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

原則として対面式での講義（オンラインでの実施の可能性もあり）。毎回の確認小テストと任意の企業・産業の歴史についての研究計画書と期末レポート（オンラインにて評価及びコメント）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	講義の方針。
2	アメリカの大企業体制	大企業体制の成立と「豊かな社会」の出現。
3	「豊かな社会」と政府の関与が生みだしたもの	「豊かな社会」を背景としたビジネスシステム。
4	「豊かな社会」と政府の関与が生みだしたもの（2）	政府の関与による新しい産業の出現。
5	ヨーロッパの大企業	戦後ヨーロッパにおける大企業の出現と「アメリカ化」の限界。
6	戦後改革とその影響	戦後改革の戦後企業システムへの影響。
7	日本のビジネス・システム	企業集団やメインバンク・システムについてのその形成と機能。
8	日本型雇用制度の生成	日本型雇用制度の「三種の神器」の生成。
9	消費の大衆化と企業の対応	大衆消費社会の形成と企業行動。
10	モノ離れの時代と企業行動	サービス業における企業行動。
11	戦後日本の政府・民間関係	戦後日本における産業政策。
12	戦後日本の大企業体制	日本企業の戦略・組織における特色と問題点。
13	大企業体制下の産業集積と金融センターの興亡	大企業下の産業集積と金融センターの興亡。
14	ポスト大企業体制の時代	経営者企業への進化は必然なのか？

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- (1) 学期末の期末レポートに向けての調査・研究（20 時間）
- (2) 毎回の確認小テスト（各回 2 時間）。

【テキスト（教科書）】

関連文献は毎回の講義にて紹介します。

【参考書】

鈴木良隆・大東英祐・武田晴人『ビジネスの歴史』有斐閣、2004 年。

【成績評価の方法と基準】

- (1) 授業後の確認小テスト（30 %）（到達目標（1）・（2）と関連します）
- (2) 期末テスト及び研究計画書（70 %）（到達目標（2）・（3）と関連します）

【学生の意見等からの気づき】

特に意見などはなかった。問題なく運営できている。

【その他の重要事項】

春学期の「企業経営史 A」も履修することを推奨する。

【Outline (in English)】

In this course, students will learn about business history in Japan, the United States, and Europe. The learning objectives of this lecture is to acquire basic knowledge of business history of these regions, and to acquire the ability to research the history of individual companies. Students will be required to review the course content and answer the quiz after each class meeting. This will take 2 hours for a class. In addition, students will be expected to conduct their own research on the history of individual companies or industries outside of class hours. This will take 20 hours. Grades will be based on quizzes (30%) and reports on the history of individual companies or industries (70%).

MAN300CA
企業経営論 A
井上 祐樹
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

企業は事業を行う存在であるため、事業創造無しには企業は始まらないし、また存続していくことができない。本講義では企業経営における重要な要素として事業創造に焦点を当て、これに関する基礎的な専門知識を体系的に理解することを目的とする。また、実際に自分達でビジネスアイデアを考えてみることで、事業創造に関する各種理論を体感的に身に付けることを目指す。

【到達目標】

- ①経営に関するいくつかの理論を理解し、それを実際のビジネス構築に活かす形で活用できるようになることを目指す。
- ②ビジネス構築に関するいくつかの実用的なツールを活用できるようになる。
- ③複雑な事業創造過程において、論点やロジックを整理し、適切な形でプレゼンテーションできる能力を身に付ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】

- (a) はじめにグループ分けを行い、グループごとにオリジナルのビジネスアイデアを考案する。
- (b) 毎回の講義において、事業創造に関する基本的な講義を行う。そして、それら内容に基づいた課題を提示するので、グループは自分たちで設定したビジネスアイデアに関して、その課題にどのように取り組むかを検討し、それによってビジネスアイデアを改良していく。
- (c) 検討結果は適宜、パワーポイント等にまとめて提出し、クラス全体でディスカッションを行う。
- (d) ペーパーテストの期末試験は実施せず、チームごとの最終成果発表の内容およびチームへの貢献度によって評価する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
①	ガイダンス、事業創造とアントレプレナーシップ	ガイダンスを中心に、事業創造とアントレプレナーシップに関する解説を行う。また、グループ分けのためのアンケートに回答する。
②	グループの発表と初期のビジネスアイデアの設定	前回回答したアンケートの回答内容に基づいて、教員がグループ分けを行った結果を発表する。グループ内では自己紹介からはじめ、新しいビジネスアイデアの提案と明文化までを行う。
③	様々な種類のイノベーション（講義・演習）	イノベーションと一口に言っても、様々な形態や種類のイノベーションが存在する。それらを理解するとともに、自分達のビジネスのイノベーションとは何かを定義する。
④	様々な種類のイノベーション（発表・全体討議）	前回講義の課題について自分達で発表するとともに、他のチームの発表を聞き、イノベーションに関する色々な考え方を学ぶ。

- ⑤ サービスビジネスと価値共創（講義・演習）
製品とは違って、サービスビジネスには独自の要素が存在する。またどんな製品型ビジネスにも、潜在的にサービスビジネスが存在している。そういった観点を理解し、自分達のビジネスのサービス価値とは何かを定義する。
- ⑥ サービスビジネスと価値共創（発表・全体討議）
前回講義の課題について自分達で発表するとともに、他のチームの発表を聞き、サービス価値に関する色々な考え方を学ぶ。
- ⑦ エコシステムの考え方とプラットフォーム戦略（講義・演習）
企業は自社を中心としたエコシステムを構築するか、あるいは他者のエコシステムのうえで事業活動を行うことが多くある。自社でエコシステムを構築する際に重要になるのが、プラットフォーム戦略の考え方である。これらの観点を理解するとともに、自社を中心としたエコシステムを構築するためのビジネスの設計を実施する。
- ⑧ エコシステムの考え方とプラットフォーム戦略（発表・全体討議）
前回講義の課題について自分達で発表するとともに、他のチームの発表を聞き、エコシステムとプラットフォームに関する色々な考え方を学ぶ。
- ⑨ データ収集・分析と事業改善への活用（アンケートの設計）
データを活用することは、自社のビジネスの価値を検証したり、戦略を立てたりすることに有効である。本講義では自社のビジネスの価値を検証するための独自のアンケートを作成し、そのデータを収集する。
- ⑩ データ収集・分析と事業改善への活用（データの分析と解釈）
前回の講義で収集したデータを分析し、その結果を自社ビジネスの改善に活かす。
- ⑪ デザイン思考の実践（講義・演習）
デザイン思考は革新的な事業を生み出すための一つの有名な方法論あるいはプロセスである。デザイン思考の内容を理解し、実際に自社ビジネスに適用してみる。また、インタビュー調査を行い、情報を収集する。
- ⑫ デザイン思考の実践（発表・全体討議）
インタビュー結果をまとめて、解釈し、ビジネスの改善を実施する。
- ⑬ 最終発表準備
これまでの検討してきた内容の一貫性を持った発表資料の作成を行い、次回の最終成果発表に備える。
- ⑭ 最終成果発表
これまでの集大成として、ブラッシュアップされたビジネス内容をプレゼンテーションする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各 4 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特に定めない。毎回パワーポイント形式の資料を配布する。

【参考書】

特に定めない。

【成績評価の方法と基準】

グループワークへの参加と提出物の品質：50%
全体討議への積極的参加：20%
最終発表の評価：30%
※ただし、合計得点が60%を超えている場合でも、最終発表を行わなかった場合には不可とする。

【学生の意見等からの気づき】

事例を増やす等して、理論の理解を促進する工夫をします。

【学生が準備すべき機器他】

講義中にインターネットや文書作成ソフトウェア等を活用するので、十分に充電されたノート PC を必ず持参すること。所有していない場合には、事前に大学から借りること。

【その他の重要事項】

グループワークやグループディスカッションが講義の多くの部分を占めるので、そのつもりで出席すること。

【Outline (in English)】

【授業の概要 (Course outline)】

Without business creation, the firms will not even start the work. This lecture teaches you about knowledge and theories about business creation. As the feature of this lecture, the students will create new business models with learning those knowledge and theories.

【到達目標 (Learning Objectives)】

To understand theories of business and management and to be able to apply them to actual business problems.

【授業時間外の学習 (Learning activities outside of classroom)】

Standard time for preparation and review is four hours in a week.

【成績評価の方法と基準 (Grading Criteria /Policy)】

- * Quality of assignment: 50%
- * Contribution for discussion: 20%
- * Quality of final presentation: 30%

MAN300CA
企業経営論 B
井上 祐樹
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

一つの考え方として、企業活動とは「イノベーション」を生み出し、それを製品化・サービス化して消費者に届ける、一連の活動と捉えることができる。すなわち、企業経営において「イノベーションをどうマネジメントするか」は非常に重要な部分を占めることとなる。本講義では企業経営におけるイノベーションに焦点を当て、これに関する基礎的な専門知識を体系的に理解することを目的とする。また、実際の企業を分析対象として行うことで、理論と実社会との対応関係を体感的に理解することを目指す。

【到達目標】

- ①イノベーションに関するいくつかの理論を理解し、その視点から現実の企業を分析できるようになることを目指す。
- ②イノベーションに関するいくつかの実用的な指標やツールを活用できるようになる。
- ③企業をある視点から分析し、それを適切な形でプレゼンテーションできる能力を身に付ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】

- (a) はじめにグループ分けを行い、グループごとに興味がある企業をいくつか選択する。
- (b) 毎回の講義において、イノベーションに関する基本的な講義を行う。そして、それら内容に基づいた課題を提示するので、グループは自分たちで設定した企業に関して、その課題にどのように取り組むかを検討する。
- (c) 検討結果は適宜、パワーポイント等にまとめて提出し、クラス全体でディスカッションを行う。
- (d) ベーパーテストの期末試験は実施せず、代わりに毎回のグループワークの発表成果とそこへのグループワークにおける貢献度を主な評価基準とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
①	ガイダンス	ガイダンスを中心に、イノベーションに関する解説を行う。また、グループ分けのためのアンケートに回答してもらう。
②	グループの発表と調査対象となる企業の選定	前回回答したアンケートの回答内容に基づいて、教員がグループ分けを行った結果を発表する。グループ内では自己紹介からはじめ、今後の講義で調査対象とする企業を選定する。
③	イノベーションの歴史／イノベーションと企業の栄枯盛衰（講義・演習）	歴史的に有名なイノベーションと、それに付随した変化を学ぶ。また、企業はイノベーションとともに登場し、イノベーションとともに去るといったメカニズムを学ぶ。その後、そういった観点から現実の企業を分析する。
④	イノベーションの歴史／イノベーションと企業の栄枯盛衰（発表・全体討議）	前回講義の課題について自分達で発表するとともに、他のチームの発表を聞くことで、前回の講義の観点への理解を深める。

- ⑤ 産業とイノベーション／イノベーションの測定（講義・演習）
イノベーションの創出は産業の違いによってどのように影響されるか、イノベーションをどうやって数値化するかを学ぶ。その後、そういった観点から現実の企業を分析する。
- ⑥ 産業とイノベーション／イノベーションの測定（発表・全体討議）
前回講義の課題について自分達で発表するとともに、他のチームの発表を聞くことで、前回の講義の観点への理解を深める。
- ⑦アントレプレナーシップ／資源動員と知識創造／新製品開発（講義・演習）
アントレプレナーシップの定義や重要性について学ぶ。また、イノベーションを生み出すための企業内の資源の利活用について学ぶ。その後、そういった観点から現実の企業を分析する。
- ⑧アントレプレナーシップ／資源動員と知識創造／新製品開発（発表・全体討議）
イノベーションに関する企業戦略について学ぶ。また、複数企業の関係性とそれによるイノベーション創出への影響について学ぶ。その後、そういった観点から現実の企業を分析する。
- ⑨イノベーションと企業戦略／イノベーションと企業間システム（講義・演習）
イノベーションに関する企業戦略について学ぶ。また、複数企業との関係性とそれによるイノベーション創出への影響について学ぶ。その後、そういった観点から現実の企業を分析する。
- ⑩イノベーションと企業戦略／イノベーションと企業間システム（発表・全体討議）
前回講義の課題について自分達で発表するとともに、他のチームの発表を聞くことで、前回の講義の観点への理解を深める。
- ⑪イノベーション創出のための知的財産権制度・マネジメント（講義・演習）
イノベーション関連する知的財産権とその重要性、およびそのマネジメントについて学ぶ。その後、そういった観点から現実の企業を分析する。
- ⑫イノベーション創出のための知的財産権制度・マネジメント（発表・全体討議）
前回講義の課題について自分達で発表するとともに、他のチームの発表を聞くことで、前回の講義の観点への理解を深める。
- ⑬イノベーションと規制・制度／イノベーションと経済成長（講義・演習）
イノベーションと規制や制度の関係性、およびイノベーションと経済成長の関係について学ぶ。その後、そういった観点から現実の企業を分析する。
- ⑭イノベーションと規制・制度／イノベーションと経済成長（発表・全体討議）
前回講義の課題について自分達で発表するとともに、他のチームの発表を聞くことで、前回の講義の観点への理解を深める。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各 4 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

マネジメント・テキスト イノベーション・マネジメント入門（第2版）（日本経済新聞出版）

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

毎回の課題のクオリティ：80%
全体討議への積極的参加：20%

【学生の意見等からの気づき】

特に無し。

【学生が準備すべき機器他】

講義中にインターネットや文書作成ソフトウェア等を活用するので、十分に充電されたノート PC を必ず持参すること。所有していない場合には、事前に大学から借りること。

【その他の重要事項】

グループワークやグループディスカッションが講義の多くの部分を占めるので、そのつもりで出席すること。講義の性質上、講義中に寝ることができないので、睡眠を取ってくることを。

【Outline (in English)】

【授業の概要 (Course outline)】

The activities of firms can be seen as sequent function which generate innovations, embodies them as products and services, and deliver it to consumers. Therefore, "innovation management" is significant for all firms. This lecture especially focuses on the innovation management in the field of business management and teaches you the theories about innovations.

【到達目標 (Learning Objectives)】

To understand theories of innovation and to be able to apply them to actual business problems.

【授業時間外の学習 (Learning activities outside of classroom)】

Standard time for preparation and review is four hours in a week.

【成績評価の方法と基準 (Grading Criteria /Policy)】

* Quality of assignment: 80%

* Contribution for discussion: 20%

CAR200CA
企業実務研究 A
井上 祐樹
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

世界のさまざまな地域の国際ビジネス事情を、豊富なビジネス経験を有する方々にオムニバス形式で語ってもらう。講師は、アメリカやヨーロッパなどの先進国に加え、中国、インド、ブラジルなどの新興経済国に長期駐在経験をもつ 8 人の商社マン等を予定している。各講師がそれぞれのビジネス体験に基づいてビジネスの現場の話を交えながら講義していく。

本講義では、臨場感をもった話を通じて、日本企業が海外で直面する問題とは何か、日本だけでなく海外でも通用する技能や資質とは何か、さらにはグローバル時代における仕事の意味とは何かを考えていくのが目的である。

そのほか、サマーインターンシップに臨むにあたっての準備として、キャリアデザインに関する講義も予定している。

【到達目標】

本講義では、実務現場での実践に関する臨場感をもった話を通じて、日本企業が海外で直面する問題とは何か、日本だけでなく海外を含む文化・社会的多様性を伴う環境の下でも通用する技能や資質とは何か、さらにはグローバル時代における仕事の意味とは何かを自分なりにイメージできるようになり、受講者がそれぞれの卒業後の実社会での自己の将来像を具体化してその実現に向けて主体的に取り組むべき目標や課題を自覚するための手がかりを学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】

原則として教室での対面講義形式で開講する予定だが、新型コロナウイルス感染症対策等の状況によっては、講義の一部においてオンライン講義形式の講義を実施する可能性がある。各回の講義の講義形式の見直しについては、講義ガイダンスにおいてその時点の見通しを説明するが、その後の状況の変化によって、学期の途中でやむをえず予定が変更となる可能性があることに留意してほしい。講義形式が変更になる場合は、学習支援システムのお知らせで講義形式を通知する。

第 1 回講義は、講義ガイダンスの回となる。教室での対面講義を予定している。学習支援システムで教材としてガイダンス資料を配布する。この講義の履修を検討する学生は、講義に出席してガイダンス資料をよく読んだ上で、履修するかどうかを検討されたい。

第 2 回以降の講義は、原則として教室での対面講義形式で実施する予定である。教室での講義では、講師と受講生によるクロストークの時間を設け、リアルタイムで教員がフィードバックを行うので、積極的に発言することが求められる。

実務研究という科目の性格上、ビジネスの現場を意識して能動的・積極的に講義にのぞむことを求めたい。また、実社会への接点ともなる講義でもあるため、ディスカッションやグループワーク等では設定された状況を認識して達成すべき課題をよく理解するよう努め、教員や他の受講者と協働して課題に取り組む責任感のある姿勢が求められる。

講義内容に関する質問の回答や各課題のフィードバックは、教室またはオンラインのリアルタイム形式の講義の回には毎回の授業の中で行い、オンデマンド形式の講義の回には授業内掲示板を通じて行うほか、個別のやりとりについては必要に応じてメールを併用する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	企業実務研究 A・B の概要とサマーインターンシップ実習について
第 2 回	ブラジルのビジネス事情	ブラジルの物流ビジネス事情
第 3 回	インドのビジネス事情	インドの経済社会とビジネス事業
第 4 回	ヨーロッパのビジネス事情	欧州通貨統合と金融市場
第 5 回	アメリカのビジネス事情	アメリカ航空宇宙産業のビジネス事情
第 6 回	中東のビジネス事情	中東ビジネスの特異性
第 7 回	ロシアのビジネス事情	ロシアの経済とビジネス事情
第 8 回	中国のビジネス事情	中国の経済発展とビジネス事情
第 9 回	アセアンのビジネス事情	アセアンにおける事業投資
第 10 回	その他のビジネス事情	中央省庁の仕事（例）
第 11 回	学部派遣のサマーインターンシップに関するガイダンス（出席必須）	学部派遣のサマーインターンシップに関するガイダンス
第 12 回	キャリア形成に関する外部講師による指導	キャリア形成に関する外部講師による指導・担当教員によるまとめ（1）
第 13 回	キャリア形成に関する外部講師による指導	キャリア形成に関する外部講師による指導・担当教員によるまとめ（2）
第 14 回	キャリア形成に関する外部講師による指導	キャリア形成に関する外部講師による指導・担当教員によるまとめ（3）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各講師が用意した資料を「学習支援システム」上でアップロードするので、学習すること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

各講師が用意するレジュメ

【参考書】

各講師のレジュメが講義の中心になるので、特に指定しない。

【成績評価の方法と基準】

毎回、講演者が提示した課題に対する小レポートの提出を求める（80%）ほか、教室授業では、授業内評価（20%）を加味する。教室授業における授業内評価では、講義への参加姿勢の積極性を評価し、毎回の発言回数とその内容の充実度が評価の重要な要素となる。教員や他の受講者と協働して課題に取り組む責任感のある姿勢が求められ、私語するなど授業態度の悪い学生は不可となる。

※企業実務研究 A、B は必ず同年度に登録すること。2 単位だけの登録は認められない。さらに、インターンシップに参加した者のみが「企業実務研究 B」を履修できる。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【その他の重要事項】

履修上の細かな条件とインターンシップに関して詳細な説明が必要なので、第 1 回のガイダンスおよびサマーインターンシップに関するガイダンスに必ず出席すること。本講義と併せて「キャリアデザイン論」の履修を推奨する。講義スケジュールは変更になる場合がある。

【Outline (in English)】

This course provides students with the knowledge and skills to understand the global business environment within which Japanese multinational firms operate. It also enhances the development of students' skill in reflecting this understanding in their future career.

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class. Your overall grade in the class will be decided based on short reports (80%) and in-class contribution (20%).

CAR200CA
企業実務研究 B
井上 祐樹
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

夏休み期間中に企業（官公庁、NPO 等を含む）でインターンシップ実習に参加し、通常の講義だけでは得られない就業体験を通じて現実のビジネス事情や仕事の意義を学ぶ。また、実習報告会を通じて、自らの経験や感想をプレゼンし、議論を行っていく。

インターンシップの経験や実習報告会での議論を通じて、企業や団体で働くときに求められる仕事への取り組み姿勢やコミュニケーション方法、ビジネスマナーなどの、将来の進路選択を主体的に行うために役に立つ実践的な知識への理解を深めることができる。

【到達目標】

インターンシップの経験をより具体的にわかりやすくプレゼン出来るようになることと、他の受講者の実習報告を聞き討論することを通じてビジネスの事情や仕事の意義について幅広い視点から理解を深めることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】

この講義は実習形式で行われ、原則として、本年度の経済学部のサマーインターンシップに参加した者しか単位を修得できないので、履修を検討する際には注意されたい。

今年度の講義では、原則として教室での対面講義形式で開講する予定だが、新型コロナウイルス感染症対策等の状況によっては、講義の一部においてオンライン講義形式の講義を実施する可能性がある。各回の講義の講義形式の見直しについては、講義ガイダンスにおいてその時点の見直しを説明するが、その後の状況の変化によって、学期の途中でやむをえず予定が変更となる可能性があることに留意してほしい。講義形式が変更になる場合は、学習支援システムのお知らせで講義形式を随時通知する。

第1回講義は、講義ガイダンスの回となる。教室での対面講義を予定している。この講義の履修を検討する学生は、学習支援システムで本科目に仮登録して、学習支援システム上で通知される講義に関するお知らせを講義前に確認し、第1回講義に出席した上で、履修するかどうかを検討されたい。第1回講義では、履修予定者の希望をきいて各履修者の実習報告の日程などを調整するので、履修者は第1回講義に必ず出席すること。

第2回以降の講義では、サマーインターンシップでの体験をまとめたレポートをもとに、報告会を通じて議論を行っていく。参加者は自分の実習について報告（プレゼン）を行うだけでなく、他の報告者の発表を聞いてコメントを行い討論する。

講義内容に関する質問の回答や各課題のフィードバックは、毎回の授業の中で行うほか、個別のやりとりについては必要に応じてメールを併用する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	講義の概要説明・実習報告スケジュールの説明と調整
第2回	実習報告会の説明と準備	実習報告会の説明と準備および実習報告スケジュールの最終確認
第3回	受講者による報告、討論①	履修者各自のサマーインターンシップに基づく経験の報告及び質疑応答①

第4回	受講者による報告、討論②	履修者各自のサマーインターンシップに基づく経験の報告及び質疑応答②
第5回	受講者による報告、討論③	履修者各自のサマーインターンシップに基づく経験の報告及び質疑応答③
第6回	受講者による報告、討論④	履修者各自のサマーインターンシップに基づく経験の報告及び質疑応答④
第7回	受講者による報告、討論⑤	履修者各自のサマーインターンシップに基づく経験の報告及び質疑応答⑤
第8回	受講者による報告、討論⑥	履修者各自のサマーインターンシップに基づく経験の報告及び質疑応答⑥
第9回	受講者による報告、討論⑦	履修者各自のサマーインターンシップに基づく経験の報告及び質疑応答⑦
第10回	受講者による報告、討論⑧	履修者各自のサマーインターンシップに基づく経験の報告及び質疑応答⑧
第11回	受講者による報告、討論⑨	履修者各自のサマーインターンシップに基づく経験の報告及び質疑応答⑨
第12回	受講者による報告、討論⑩	履修者各自のサマーインターンシップに基づく経験の報告及び質疑応答⑩
第13回	グループ・ディスカッションの説明と準備	仕事に関するグループ・ディスカッションの説明と準備
第14回	グループ・ディスカッションと講義の総括	サマーインターンシップを踏まえた仕事に関するグループ・ディスカッション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

サマーインターンシップに参加する事が条件となる。インターンシップ終了後、各自の報告に備え、資料や文献収集も含め準備しておくこと。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

特になし

【成績評価の方法と基準】

- ①派遣先企業による評価表（研修日誌）（25%）
- ②「実習で何を学んだか」のレポート（4,000字、A4）（25%）
- ③実習報告会での報告内容と討議内容（25%）
- ④授業中の発言・態度などの参加度（報告会への無断欠席は認めない）（25%）

派遣前に事務課に登録（報告）するなど、一定の手続きをしなければならない。

サマーインターンシップに参加しなかった学生は不可となる。

※企業実務研究 A、B は必ず同年度に履修登録すること。2 単位だけの登録は認められない。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【その他の重要事項】

履修上の詳細な条件があり、その説明のため、1 回目の講義に必ず出席すること。

【Outline (in English)】

This course provides students with the summer internship opportunities to gain knowledge and skills from work experiences not available in the classroom setting. It also enhances the development of students' skill in planning and delivering effective presentation on career design development. Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class. Your overall grade in the class will be decided based on workplace competencies evaluated by work-site supervisors (25%), internship report (25%), presentation (25%), and in-class contribution (25%).

MAN300CA
国際会計制度 A
倉井 潔
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、各国の会計基準の比較と、海外企業・日本企業の財務分析を行う。

会計情報は企業を知るうえで最も有用な情報の1つであり、それゆえに「事業の言語」と呼ばれる。企業が国境を越えて活動する昨今、会計制度も国家の枠を越えて変容を遂げている。

まず①会計制度間の差異と②①が会計情報に与える影響を理解し、③企業の財務分析を行う。

英文も登場するが、基礎から積み重ねればそれほど難しくはない。積極的に履修してほしい。

【到達目標】

国際的な会計制度間の差異を学び、その差異が会計情報の作成に与える影響を理解し、差異を踏まえた上で国内外の企業分析ができることを目指す。

Students learn about differences between international accounting systems, understand the impact of such differences on the preparation of accounting information, and aim to be able to analyze domestic and foreign companies based on the differences.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】

講義前半は財務諸表の基礎について解説する。こうした解説は講義の後半でも適宜実施する。講義後半では、基準間の差異に留意しながら、国内外企業の財務分析を行う。分析対象企業は自身で選び、関心の近い者同士でグループを組む（1人でも可）。

講義後は、翌週までに学習支援システムを通じて質問や感想を送ることができ、内容に応じて加点がある。詳細は下記「成績評価の方法と基準」参照。

多くの受講生の理解の助けになる質問やコメントについては、学習支援システムの資料配布等を通じてフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	講義の目的と計画説明。受講生の関心の確認。
第2回	会計のフレームワーク	会計制度の論理と体系、企業会計の機能など。
第3回	損益計算書	損益計算書の構造と役割を確認。
第4回	貸借対照表（資産の部）	貸借対照表の構造と役割を確認。
第5回	貸借対照表（負債・純資産の部）	貸借対照表の構造と役割を確認。
第6回	財務分析の概要	会計情報を用いた分析手法（ファンダメンタル分析）の概要。
第7回	実践・財務分析①	自身が選んだ企業について財務分析を行う
第8回	実践・財務分析②	フィードバックをもとに分析を改善する（中間レポート）
第9回	IFRSの基礎概念①	原則主義、経済的実質優先主義。
第10回	IFRSの基礎概念②	資産負債観、公正価値、親会社概念とエンティティ概念。
第11回	収益認識基準	収益、工事契約、外貨為替レート変動の影響。

第12回 包括利益の表示 その他包括利益計算書項目。

第13回 実践・財務分析③ 9～12回を踏まえて、財務分析を改善する

第14回 授業のまとめ 授業のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日頃から経済ニュースへの関心を持ち、日本経済新聞、日経ビジネス、エコノミスト、東洋経済といった各種メディアの購読を推奨する。講義の進捗と共に皆さんの理解が深まれば嬉しい。

事前の予習・復習時間は、毎週各2時間を標準とする。

Students are encouraged to take an interest in economic news on a daily basis and subscribe to various media such as Japan Keizai Shimbun, Nikkei Business, The Economist, and Toyo Keizai.

The standard preparation and review time required is 2 hours each week.

【テキスト（教科書）】

テキストは使用せず、レジュメを配布する。

【参考書】

『新・現代会計入門 第2版』伊藤邦雄 日本経済新聞出版社 2016年

『IFRS 国際会計基準の基礎 第4版』平松一夫 中央経済社 2015年

『エッセンシャル IFRS（第5版）』秋葉賢一 中央経済社 2016年

『国際会計論』森川八洲男 白桃書房 2015年 ほか

【成績評価の方法と基準】

講義に対する貢献度・平常点（20%）

中間レポート（30%）

期末テスト（50%）

Your overall grade in the class will be decided based on the following

In class contribution and usual performance score:20%

Short reports :30%

Term-end examination:50%

【学生の意見等からの気づき】

講義の冒頭に前回の復習を実施するため、理解の助けとして欲しい。

【その他の重要事項】

国際会計制度 B と合わせて受講すること。

【Outline (in English)】

This course deals with the comparison of accounting standards of each country and the financial analysis of foreign and Japanese companies.

In particular

① Differences between accounting systems

② Understand the impact of ① on accounting information.

③ Corporate financial analysis

MAN300CA
国際会計制度 B
倉井 潔
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国際会計制度 A に引き続き、各国の会計基準の比較と、海外企業・日本企業の財務分析を行う。
 まず①会計制度間の差異と②①が会計情報に与える影響を理解し、③企業の財務分析を行う。
 英文も登場するが、基礎から積み重ねればそれほど難しくはない。積極的に履修してほしい。

【到達目標】

国際的な会計制度間の差異を学び、その差異が会計情報の作成に与える影響を理解し、差異を踏まえた上で国内外の企業分析ができることを目指す。

Students learn about differences between international accounting systems, understand the impact of such differences on the preparation of accounting information, and aim to be able to analyze domestic and foreign companies based on the differences.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】

春学期の内容を踏まえ、国際会計制度が会計数値の作成に与える影響と、それらを踏まえた分析手法を学ぶ。国際会計制度 A と合わせた履修を強く推奨する。

有形固定資産、金融商品、引当金、リース会計、退職給付会計、株式報酬取引、外貨換算会計、企業結合、連結会計、セグメント情報、農業会計などを取り上げる。

春学期同様、国内外の企業の分析も行う。
 講義後は、翌週までに学習支援システムを通じて質問や感想を送ることができ、内容に応じて加点がある。詳細は下記「成績評価の方法と基準」参照。

多くの受講生の理解の助けになる質問やコメントについては、学習支援システムの資料配布等を通じてフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	講義の目的、受講生の関心の確認。
第 2 回	引当金会計	引当金の認識・測定、偶発債権・偶発債務の認識・測定、環境修復引当金と資産除去債務。
第 3 回	リース会計	オペレーティング・リース、ファイナンシャル・リースの認識と測定、航空会社の分析例。
第 4 回	従業員給付に関する会計 外貨換算会計	退職給付会計、株式報酬取引。 外貨建取引の会計処理、外貨表示財務諸表の換算方法。
第 5 回	無形資産の会計	のれんの会計処理、研究開発費の会計処理。
第 6 回	連結会計	持分法、共同契約、他の事業体に対する持分の表示。
第 7 回	セグメント情報、継続事業と非継続事業の表示	セグメント情報の開示基準、売却目的で保有する固定資産および廃止事業の開示。
第 8 回	IFRS 財務諸表分析のポイント	営業利益と当期純利益の数値変化ポイント

第 9 回	IFRS 財務諸表分析 (1)	自身が選んだ企業について財務分析。グループワーク。
第 10 回	IFRS 財務諸表分析 (2)	第 9 回の続き
第 11 回	IFRS 財務諸表分析 (3)	第 10 回の続き
第 12 回	IFRS 財務諸表分析 (4)	第 11 回の続き（プレゼン資料提出）
第 13 回	各国の会計制度 (1) 期末レポート課題提示	欧州圏の会計制度
第 14 回	各国の会計制度 (2) 最新トピック紹介	アジア圏の会計制度

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日頃から経済ニュースへの関心を持ち、日本経済新聞、日経ビジネス、エコノミスト、東洋経済といった各種メディアの購読を推奨する。講義の進捗と共に皆さんの理解が深まれば嬉しい。事前の予習・復習時間は、毎週各 2 時間を標準とする。

Students are encouraged to take an interest in economic news on a daily basis and subscribe to various media such as Japan Keizai Shimbun, Nikkei Business, The Economist, and Toyo Keizai.

The standard preparation and review time required is 2 hours each week.

【テキスト（教科書）】

テキストは使用せず、レジュメを配布する。

【参考書】

国際会計制度 A を参照

【成績評価の方法と基準】

講義に対する貢献度・平常点 (20%)

中間レポート (30%)

期末テスト (50%)

Your overall grade in the class will be decided based on the following

In class contribution and usual performance score:20%

Short reports :30%

Term-end examination:50%

【学生の意見等からの気づき】

講義の冒頭に前回の復習を行う。

【その他の重要事項】

国際会計制度 A と合わせて受講すること。

【Outline (in English)】

Continuing from the International Accounting System A course, this course deals with comparison of accounting standards of each country and financial analysis of foreign companies and Japanese companies.

This course deals with the comparison of accounting standards of each country and the financial analysis of foreign and Japanese companies.

In particular

① Differences between accounting systems

② Understand the impact of ① on accounting information.

③ Corporate financial analysis

ECN300CD
金融ビジネス論A
武田 浩一
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位
※現代ビジネス学科生のみ履修できます。

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講義の目的は、経済の中で金融システムがどのように機能している、どのように変化していくのかということ、経済学によりよく理解し考察するために必要となる基本的な思考の枠組みを提示することです。

【到達目標】

この講義の最終的な目標は、基本的な経済理論と金融問題の間の溝を埋めることを可能にするさまざまな経済理論を学び、それらの理論の金融問題への適用可能性と限界について理解することです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】

今年度の講義では、原則として教室での対面講義形式で開講する予定ですが、新型コロナウイルス感染症対策等の状況によっては、やむをえず講義の一部においてオンライン講義形式の講義を実施する可能性があります。各回の講義の講義形式の見直しについては、講義ガイダンスにおいてその時点の見直しを説明しますが、その後の状況の変化によって、学期の途中でやむをえず予定が変更となる可能性があることに留意してください。講義形式が変更になる場合は、学習支援システムのお知らせで講義形式を通知します。

第1回講義は、教室での対面講義形式での講義ガイダンスとなります。学習支援システム上で講義の方法や内容などに関するガイダンス資料を教材として配布します。この講義の履修を検討する学生は、学習支援システムでこの講義に仮登録して講義に参加した上でガイダンス資料をよく読んで、履修するかどうかを決めてください。

将来に関する契約としての側面が重要である金融取引は、不確実性下での経済取引に伴うさまざまな問題をうまく取り扱うために工夫された特徴的な仕組みの上に成り立っているため、金融市場には他の経済部門にはあまり見られない独特の取引慣行やルールが多くなっています。そのために、たとえ基本的な経済理論をある程度学んだ人でも、その知識だけでは金融問題をうまく取り扱うことができず、経済学の知識と金融の知識を結び付けることなく頭の中ばらばらに位置付けてしまいがちなのではないのでしょうか。この講義では、基本的な経済理論と金融問題の間の溝を埋めることを可能にするさまざまな経済理論を取り上げ、それらの理論の金融問題への適用可能性と限界について解説することを重視します。

講義の全般的な方針として、金融の果たす基本的な機能に立ち返って経済学的な視点から金融問題について議論を展開しますが、難解で無味乾燥なだけの講義となることを避けるため、理論的な厳密性よりもむしろその直感的な意味や現実問題との関連性を、日本の最近の金融問題を例に挙げるなどして具体的に説明することに力を入れます。

この講義では膨大な金融経済理論の氷山の一角しかご紹介できませんが、この講義をきっかけにして、金融の本当の面白さに触れ、それぞれの興味に応じて、講義で紹介する参考文献などを使ってより本格的な金融の議論に学生の皆さんが自ら取り組んでいただきたいと思えます。

講義のフィードバックは授業の中で行うほか、個別的な連絡が必要になる場合にはメールを通じて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	講義ガイダンス	講義の内容と方法の説明
第2回	金融取引とリスク①	金融におけるリスクの概念について
第3回	金融取引とリスク②	リスクの測定手法について
第4回	金融取引とリスク③	リスクとして把握できない不確実性について
第5回	金融取引とリスク④	不確実性下での意思決定方法について
第6回	投資と資金調達①	新古典派投資理論と企業の設備資金需要について
第7回	投資と資金調達②	企業の有限責任とリスクについて
第8回	投資と資金調達③	日本の企業グループと企業の株式保有について
第9回	投資と資金調達④	中小企業金融について
第10回	過剰債務と不良債権の処理①	過剰債務問題と事業再生について
第11回	過剰債務と不良債権の処理②	過剰債務への対応と追い貸し問題について
第12回	過剰債務と不良債権の処理③	追い貸しのメカニズムについて
第13回	金融技術革新と金融サービスの新潮流①	ブロックチェーンを使った決済について
第14回	金融技術革新と金融サービスの新潮流②	フィンテックとプラットフォームについて

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義では先に説明した知識を後の説明のときに使いますので、講義で分からないことがあるときには、教員に質問したり講義ノートや参考書で復習したりして、次の講義までに分からないことを持ち越さないように心がけることが重要です。

金融論で学ぶ金融の基礎知識があれば、この講義の理解はより深まります。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

なし

【参考書】

講義に必要な資料は講義のときに適宜配布します。教科書ではありませんが、講義全般にわたる参考書として、内田浩史『金融』（有斐閣、2016年刊）を挙げておきます。その他の参考文献については、講義の中で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

講義内容の理解度を確認する学期末試験によって主に成績を評価します（90%）。

出席状況調査を兼ねたアンケートを講義時に不定期に実施し、講義への参加度を平常点として加算します（10%）。

【学生の意見等からの気づき】

時事的なテーマを始めとした現実の経済、ビジネスの理解の助けになる実践的な金融理論の使い方、考え方に対するニーズが高いことがうかがわれますので、その点を重視して講義を進める方針です。

【Outline (in English)】

This is a course on the microeconomics of money, banking, and financial markets. The course aims to show the way to understand the role of money, financial markets, financial institutions, and monetary policy in the economy. The students will learn modern microeconomic theory of financial intermediation.

Students will be expected to have completed the required assignments after class meetings. Your study time will be more than four hours for a class. Your overall grade in the class will be decided based on term-end examination (100%).

ECN300CD
金融ビジネス論B
武田 浩一
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位
※現代ビジネス学科生のみ履修できます。

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講義の目的は、経済の中で金融システムがどのように機能している、どのように変化していくのかということ、経済学によりよく理解し考察するために必要となる基本的な思考の枠組みを提示することです。

【到達目標】

この講義の最終的な目標は、基本的な経済理論と金融問題の間の溝を埋めることを可能にするさまざまな経済理論を学び、それらの理論の金融問題への適用可能性と限界について理解することです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】

今年度の講義では、原則として教室での対面講義形式で開講する予定ですが、新型コロナウイルス感染症対策等の状況によっては、やむをえず講義の一部においてオンライン講義形式の講義を実施する可能性があります。各回の講義の講義形式の見通しについては、講義ガイダンスにおいてその時点の見通しを説明しますが、その後の状況の変化によって、学期の途中でやむをえず予定が変更となる可能性があることに留意してください。講義形式が変更になる場合は、学習支援システムのお知らせで講義形式を通知します。

第1回講義は、教室での対面講義形式での講義ガイダンスとなります。学習支援システム上で講義の方法や内容などに関するガイダンス資料を教材として配布します。この講義の履修を検討する学生は、学習支援システムでこの講義に仮登録して講義に参加した上でガイダンス資料をよく読んで、履修するかどうかを決めてください。

将来に関する契約としての側面が重要である金融取引は、不確実性下での経済取引に伴うさまざまな問題をうまく取り扱うために工夫された特徴的な仕組みの上に成り立っているため、金融市場には他の経済部門にはあまり見られない独特の取引慣行やルールが多くなっています。そのために、たとえ基本的な経済理論をある程度学んだ人でも、その知識だけでは金融問題をうまく取り扱うことができず、経済学の知識と金融の知識を結び付けることなく頭の中でばらばらに位置付けてしまいがちなのではないのでしょうか。この講義では、基本的な経済理論と金融問題の間の溝を埋めることを可能にするさまざまな経済理論を取り上げ、それらの理論の金融問題への適用可能性と限界について解説することを重視します。

講義の全般的な方針として、金融の果たす基本的な機能に立ち返って経済学的な視点から金融問題について議論を展開しますが、難解で無味乾燥なだけの講義となることを避けるため、理論的な厳密性よりもむしろその直感的な意味や現実問題との関連性を、日本の最近の金融問題を例に挙げるなどして具体的に説明することに力を入れます。

この講義では膨大な金融経済理論の氷山の一角しかご紹介できませんが、この講義をきっかけにして、金融の本当の面白さに触れ、それぞれの興味に応じて、講義で紹介する参考文献などを使ってより本格的な金融の議論に学生の皆さんが自ら取り組んでいただきたいと思えます。

講義のフィードバックは授業の中で行うほか、個別的な連絡が必要になる場合にはメールを通じて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	講義ガイダンス	講義の内容と方法の説明
第2回	資産価格と金融危機①	資産価格の決定理論の基本的枠組みの説明
第3回	資産価格と金融危機②	資産価格の合理的バブルについて
第4回	資産価格と金融危機③	資産価格の急落とそのメカニズムについて
第5回	資産価格と金融危機④	金融危機の発生要因と経済的影響について
第6回	資産価格と金融危機⑤	金融危機の波及メカニズムについて
第7回	金融市場と投資家行動①	期待効用理論について
第8回	金融市場と投資家行動②	投資家心理について
第9回	金融市場と投資家行動③	記述的意思決定理論について
第10回	金融市場と投資家行動④	プロスペクト理論について
第11回	資産価値評価①	基本的な資産価値の評価手法について
第12回	資産価値評価②	さまざまな資産価値の評価手法について
第13回	金融と人的資本投資①	人的資本投資と人材育成の経済的機能について
第14回	金融と人的資本投資②	金融リテラシーについて

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義では先に説明した知識を後の説明のときに使いますので、講義で分からないことがあるときには、教員に質問したり講義ノートや参考書で復習したりして、次の講義までに分からないことを持ち越さないように心がけることが重要です。

金融論で学ぶ金融の基礎知識があれば、この講義の理解はより深まります。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

なし

【参考書】

講義に必要な資料は講義のときに配布します。教科書ではありませんが、講義全般にわたる参考書として、内田浩史『金融』（有斐閣、2016年刊）を挙げておきます。その他の参考文献については、講義の中で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

講義内容の理解度を確認する学期末試験によって主に成績を評価します（90%）。

出席状況調査を兼ねたアンケートを講義時に不定期に実施し、講義への参加度を平常点として加算します（10%）。

【学生の意見等からの気づき】

時事的なテーマを始めとした現実の経済、ビジネスの理解の助けになる実践的な金融理論の使い方、考え方に対するニーズが高いことがうかがわれますので、その点を重視して講義を進める方針です。

【Outline (in English)】

This is a course on the microeconomics of money, banking, and financial markets. The course aims to show the way to understand the role of money, financial markets, financial institutions, and monetary policy in the economy. The students will learn modern microeconomic theory of financial intermediation.

Students will be expected to have completed the required assignments after class meetings. Your study time will be more than four hours for a class. Your overall grade in the class will be decided based on term-end examination (100%).

ECN200CA
開発経済論 A
池上 宗信
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

途上国貧困家計の栄養、健康、教育、出産という人的資本への投資選択を学びます。

さらに、その選択を理解するのに有用な時間非整合性などの理論モデル、ランダム化比較試験、差の差の分析などの実証分析手法を並行して学びます。

【到達目標】

なぜ、我が国を含む先進国では少子化が問題になっているのに、サブサハラアフリカの国々では急激な人口増加が問題になっているのでしょうか？

経済学の理論、手法、統計資料にもとづいて、このような開発途上国、国際社会に関連する経済問題を主体的に考察、議論できるようになることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】

本講義は、2022年度の受講者数に基づいて、教室を割り当てられている、対面授業の科目です。

各講義前の課題として、各自、リーディング・アサイメントを読みます。

各講義スライドは、このリーディング・アサイメントに基づきます。授業中は、担当教員が講義スライドを解説し、受講生が必要に応じて質問します。

授業中に、受講生は演習問題を解き、その後、教員と答え合わせをします。

受講生が、授業中の演習問題・答え合わせを紙に記入、提出します。担当教員が採点し、Google Classroomを通して返却します。

授業時間外の質疑応答は、学習支援システムの掲示板を活用します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	貧困の罍	資産動学、S字曲線
第2回	ランダム化比較試験 1	相関、因果、確率
第3回	ランダム化比較試験 2	ルービンの因果モデル、平均トリートメント効果
第4回	ランダム化比較試験 3	セレクション・バイアス なぜ栄養に投資しないのか？
第5回	栄養 1、回帰分析 1	カロリー不足による貧困の罍、最小二乗法、一致性、外生性、内生性
第6回	栄養 2、回帰分析 2	栄養への投資、回帰分析とランダム化比較試験、重回帰
第7回	復習および中間試験	第1回から第6回までの内容を復習。中間試験。
第8回	健康 1、差の差の分析 1	マラリアによる貧困の罍、病気予防への投資、並行トレンドの仮定
第9回	健康 2、差の差の分析 2	治療の質、価格、固定効果
第10回	差の差の分析 3	差の差の分析と回帰分析、マラリアと貧困
第11回	時間非整合性	指数割引モデル、準双曲割引モデル、コミットメント、あと押し
第12回	教育	就学決定モデル、成績別クラス分けの学力への効果

第13回 出産 時間差介入と差の差の分析、ソープオペラの出生率への効果

第14回 復習および期末試験 第8回から13回までの内容を復習。期末試験。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各講義スライドの基となっている20ページほどの文章をリーディング・アサイメントとし、各講義の前に予習として読みます。

授業、演習問題の内容を各自の必要に応じて復習します。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません。

【参考書】

池田新介 (2012) 「第3章 不本意な選択のメカニズム」『自滅する選択』東洋経済新報社

大垣昌夫、田中沙織 (2018) 「第6章 時間を通じた行動」『行動経済学新版』有斐閣

ディーン・カーラン、ジェイコブ・アベル (2013) 『善意で貧困はなくせるのか？ 貧乏人の行動経済学』みすず書房

高野久紀 (2014,2015) 「実践 開発経済学 1-8」『経済セミナー』2014年6/7月号-2015年8/9号

アビジット・バナジー、エステル・デュフロ (2012) 『貧乏人の経済学』みすず書房

森田果 (2014) 「第18章 DD」『実証分析入門』日本評論社

【成績評価の方法と基準】

中間試験 40%、期末試験 40%。平常点 20%。

【学生の意見等からの気づき】

授業中に、各自が演習問題を解き、その後、教員と答え合わせをする、という形式を今年度も継続します。

【Outline (in English)】

- Course outline

We will study human capital investment decision such as nutrition, health, schooling, birth decision for households in developing countries. We will also study theoretical models of time inconsistency and empirical methods such as randomized controlled trial, difference in difference method, which are useful for studying the decision.

- Learning Objectives

Why does rapid population growth have been a problem in countries in Sub-Saharan Africa while low birth rate has been a problem in developed countries including Japan? The goal of this class is that students will become able to proactively think and discuss economic issues related to developing countries based on economic theories, methods, and data.

- Learning activities outside of classroom

Students will read around 20 pages of texts that form the basis of each lecture slide as a reading assignment before each lecture.

Students will review the contents of the classes and exercises according to their own needs.

The standard time for preparation and review for this class is 2 hours each.

- Grading Criteria, Policies

Grading will be decided based on mid-term exam (40%), end-term exam (40%), and contribution to class (20%).

ECN200CA
開発経済論 B
池上 宗信
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

開発経済入門 A、B、開発経済論 A では、開発途上国の貧困家計が直面するリスク、不完全情報が捨象されていました。

開発経済論 B では、リスクおよび不完全情報に関する理論モデルをまず学びます。

そして、その理論モデルに基づいて、保険市場、信用市場、土地貸借市場、労働市場における家計の選択を学びます。

さらに、その選択を理解するのに有用な操作変数法という実証分析手法も学びます。

【到達目標】

なぜ、開発途上国では、定額地代ではなく分益小作、個人貸付ではなくグループ貸付が採用されるのでしょうか？

経済学の理論、手法、統計資料にもとづいて、このような開発途上国、国際社会に関連する経済問題を主体的に考察、議論できるようになることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】

本講義は、2021 年度の受講者数に基づいて、教室を割り当てられている、対面授業の科目です。

各講義前の課題として、各自、リーディング・アサイメントを読みます。

各講義スライドは、このリーディング・アサイメントに基づきます。授業中は、担当教員が講義スライドを解説し、受講生が必要に応じて質問します。

授業中に、受講生は演習問題を解き、その後、教員と答え合わせをします。

受講生が、授業中の演習問題・答え合わせを紙に記入、提出します。担当教員が採点し、Google Classroom を通して返却します。

授業時間外の質疑応答は、学習支援システムの掲示板を活用します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	リスク 1	期待値、期待効用、確実性同値額、リスクプレミアム
第 2 回	リスク 2	リスク対処戦略、リスク分散戦略、状態空間分析、保険会社の期待利潤線、独占的な保険会社
第 3 回	リスク 3	完全競争保険市場
第 4 回	モラル・ハザード 1	リスク分担とインセンティブ
第 5 回	モラル・ハザード 2、アドバース・セレクト	中古車市場、情報レント
第 6 回	アドバース・セレクト	保険市場
第 7 回	復習および中間試験	第 1 回から第 6 回までの内容を復習。中間試験。
第 8 回	信用市場 1	アドバース・セレクト、グループ貸付
第 9 回	信用市場 2	モラル・ハザード、投資選択
第 10 回	信用市場 3	努力選択、返済行動、2 段階ランダム化比較試験
第 11 回	分益小作 1	スクリーニング

第 12 回 分益小作 2 リスク分担とインセンティブ、操作変数法

第 13 回 労働市場 シグナリング

第 14 回 復習および期末試験 第 8 回から第 13 回までの内容を復習。期末試験。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各講義スライドの基となっている 20 ページほどの文章をリーディング・アサイメントとし、各講義の前に予習として読みます。

授業、演習問題の内容を各自の必要に応じて復習します。

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません。

【参考書】

石田潤一郎・玉田康成 (2020)『情報とインセンティブの経済学』有斐閣

デーモン・カーラン、ジェイコブ・アベル (2013)『善意で貧困はなくせるのか? 貧乏人の行動経済学』みすず書房

神取道宏 (2014)『ミクロ経済学の力』日本評論社

神戸伸輔 (2004)『入門ゲーム理論と情報の経済学』日本評論社

高野久紀 (2014, 2015)「実践 開発経済学 1-8」『経済セミナー』2014 年 6/7 月号-2015 年 8/9 号

アビジット・バナジー、エステル・デュフロ (2012)『貧乏人の経済学』みすず書房

【成績評価の方法と基準】

中間試験 40%、期末試験 40%。平常点 20%。

【学生の意見等からの気づき】

授業中に、各自が演習問題を解き、その後、教員と答え合わせをする、という形式を今年度も継続します。

【Outline (in English)】

- Course outline

In Introductory Development Economics A, B, and Development Economics A, we omit risk and asymmetric information poor households in developing countries face. In Development Economics B, we will study theoretical model of risk and asymmetric information first. Then, based on the theoretical model, we will study insurance, credit, land, and labor markets. We will also study instrument variable method, an empirical methods which is useful for studying the markets.

- Learning Objectives

Why do individuals in developing countries choose sharecropping instead of fixed rent? Why do they choose group lending instead of individual lending?

The goal of this class is that students will become able to proactively think and discuss economic issues related to developing countries based on economic theories, methods, and data.

- Learning activities outside of classroom

Students will read around 20 pages of texts that form the basis of each lecture slide as a reading assignment before each lecture.

Students will review the contents of the classes and exercises according to their own needs. The standard time for preparation and review for this class is 2 hours each.

- Grading Criteria, Policies

Grading will be decided based on mid-term exam (40%), end-term exam (40%), and contribution to class (20%).

POL200CA
国際関係論 A
藤田 吾郎
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は、国際関係論の導入レベルの授業である。国際関係論 A では、現代の国際政治のあり方を理解する上で必要不可欠となる、国際政治の歴史的展開および理論的概念について考察する。その際には、国際政治における中心的な争点である安全保障に主たる争点を当て、考察を進める。学生は、本講義を通じて、現代の国際政治を歴史的・理論的な文脈に引き付けて深く検討し、関心のある国際政治上の事象について、論理的に、かつ根拠に基づいて説明できる力を養うことを目指す。

【到達目標】

1. 国際政治の歴史的展開および理論的概念に関する知見を習得できること。
2. 本授業で習得した知見に基づいて、現代の国際政治上の諸問題について、論理的に、かつ根拠に基づいて説明できる力を身につけること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP4」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】

本授業は、教室での対面授業とする。本授業では、教員による講義を基本とした上で、毎回の授業中および授業終了後における質疑応答を通じて、学生の理解を促す。毎回の授業資料は、学習支援システムを通じて配布する予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	導入	本授業の狙い、授業の概要
第 2 回	国際政治の歴史的展開 I	主権国家体系の成立
第 3 回	国際政治の歴史的展開 II	ウィーン体制、第一次世界大戦の起源
第 4 回	国際政治の歴史的展開 III	国際連盟と集団安全保障体制、第二次世界大戦の起源
第 5 回	国際政治の歴史的展開 IV	冷戦期の国際政治
第 6 回	国際政治の捉え方 I	リアリズム、リベラリズム
第 7 回	国際政治の捉え方 II	従属論と世界システム論、コンストラクティヴィズム
第 8 回	国際政治の捉え方 III	交渉理論と戦争原因論
第 9 回	安全保障と同盟	同盟の起源、同盟のジレンマ、同盟と集団安全保障
第 10 回	安全保障と経済	相互依存論、覇権安定論、レジーム論
第 11 回	安全保障と外交	強制外交（抑止・強要）、安心供与外交
第 12 回	国際政治と国内政治	アリソン・モデル、二層ゲーム論、民主的平和論、観衆費用論
第 13 回	紛争と介入	平和維持、平和構築
第 14 回	期末試験	試験、まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学生は、授業前に指定されたテキストを読むことが求められる。また、授業後には、授業で用いたスライドに基づいて復習をすることが望ましい。本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

村田晃嗣・君塚直隆・石川卓・栗栖薫子・秋山信将『国際政治学をつかむ 第 3 版』有斐閣、2023 年。定価 2,420 円（本体 2,200 円）ISBN 978-4-641-17731-4（※ 2023 年 4 月上旬発売予定）

【参考書】

小川浩之・板橋拓己・青野利彦『国際政治史——主権国家体系のあゆみ』有斐閣、2018 年。定価 2,530 円（本体 2,300 円）ISBN 978-4-641-15052-2
 多湖淳『戦争とは何か——国際政治学の挑戦』中央公論新社（中公新書）、2020 年。定価 880 円（本体 800 円）ISBN 978-4-12-102574-6
 中西寛・石田淳・田所昌幸『国際政治学』有斐閣、2013 年。定価 3,520 円（本体 3,200 円）ISBN 978-4-641-05378-6

【成績評価の方法と基準】

【成績評価の方法】

本授業の評価は、小テスト（30%）と期末試験（70%）で行う。小テストは、「学習支援システム」を通じてオンラインで実施する予定である。期末試験は、指定の日・時間にて、教室で実施する予定である（持ち込み不可）。

【成績評価の基準】

小テスト・期末試験ともに、出題の内容に、正確かつ論理的に回答できているかを基準とする。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

毎回の授業で使用する資料の配布、ならびに学期中の小テストは、「学習支援システム」を通じて実施する。資料のダウンロードおよび小テストの実施のために、デバイス（PC など）とオンライン環境を整えておくこと。

【Outline (in English)】

【Course outline】

This course intends to provide students with basic knowledge which is essential to understand the nature of current international relations. This course mainly focuses on the interstate relations regarding security issues, and explores historical backgrounds and theoretical conceptions.

【Learning objectives】

1. To acquire knowledge of historical developments and theoretical conceptions of international politics
2. To acquire the ability to explain current issues of international politics logically and with evidence

【Learning activities outside of classroom】

Before each class: To read assigned part of the textbook (2 hours)

After each class: To review the slide (2 hours)

【Grading Criteria/Policy】

Midterm exam (30%): Online (Via Learning Support System of Hosei University)

Final exam (70%): Classroom

Criteria: To answer correctly and logically

POL200CA
国際関係論 B
藤田 吾郎
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は、国際関係論の導入レベルの授業である。国際関係論 B では、国際関係論 A の内容を踏まえた上で、戦後日本がいかなる外交を展開してきたのかについて、歴史的な視点から考察する。その際には、戦後日本の外交政策（および安全保障政策）を大きく規定してきた日米関係を中心に考察を進める。学生は、本講義を通じて、戦後日本外交の来歴についての知見を獲得するとともに、今後の日本外交のあるべき姿について、論理的に、かつ根拠に基づいて説明できる力を養うことを目指す。

【到達目標】

1. 戦後日本がどのような外交を展開してきたのかについての知見を習得できること。
2. 本授業で身につけた知見に基づいて、今後の日本外交のあるべき姿について、論理的に、かつ根拠に基づいて説明できる力を身につけること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP4」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】

本授業は、教室での対面授業とする。本授業では、教員による講義を基本とした上で、毎回の授業中および授業終了後における質疑応答を通じて、学生の理解を促す。毎回の授業資料は、学習支援システムを通じて配布する予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	導入	前学期の復習、本授業の概要
第 2 回	アジア・太平洋戦争	日中戦争、日独伊三国同盟、日米開戦
第 3 回	占領期 I	アジア・太平洋戦争の終結と日本占領の開始
第 4 回	占領期 II	占領政策の転換とその影響
第 5 回	占領期 III	講和・安保条約の締結
第 6 回	講和直後の日米関係	日本再軍備と米軍基地問題
第 7 回	極東の緊張緩和と日本の内政・外交	1955 年体制の成立、日ソ国交回復
第 8 回	日米関係の新展開	日米安全保障条約の改定と 60 年安保闘争
第 9 回	沖縄返還への道	対日講和と沖縄問題、佐藤政権と沖縄返還交渉
第 10 回	近隣諸国との関係回復の模索	日韓国交正常化、日中国交正常化、東南アジア外交
第 11 回	日米安全保障の多角化・深化	同盟の制度化、総合安全保障
第 12 回	冷戦終結期の日本外交	湾岸戦争と日本、自衛隊海外派遣問題
第 13 回	冷戦終焉後の日本外交	安保再定義、小泉外交
第 14 回	期末試験	試験、まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学生は、授業前に指定されたテキストを読むことが求められる。また、授業後には、授業で用いたスライドに基づいて復習をすることが望ましい。本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

五百旗頭真編『戦後日本外交史 第 3 版補訂版』有斐閣、2014 年。定価 2,200 円（本体 2,000 円）（ISBN 978-4-641-22018-8）

【参考書】

五百旗頭真編『日米関係史』有斐閣、2008 年。定価 2,640 円（本体 2,400 円） ISBN 978-4-64118357-5

添谷芳秀『日本の外交——「戦後」を読みとく』筑摩書房（ちくま学芸文庫）、2017 年。定価 1,100 円（本体 1,000 円） ISBN 978-4-480-09829-0

【成績評価の方法と基準】

【成績評価の方法】本授業の評価は、小テスト（30%）と期末試験（70%）で行う。小テストは、「学習支援システム」を通じてオンラインで実施する予定である。期末試験は、指定の日・時間にて、教室で実施する予定である（持ち込み不可）。

【成績評価の基準】

小テスト・期末試験ともに、出題の内容に、正確かつ論理的に回答できているかを基準とする。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

毎回の授業で使用する資料の配布、ならびに学期中の小テストは、「学習支援システム」を通じて実施する。資料のダウンロードおよび小テストの実施のために、デバイス（PC など）とオンライン環境を整えておくこと。

【Outline (in English)】

【Course outline】

This course intends to provide students with historical knowledge which is essential to understand current Japan's foreign relations. This course mainly focuses on the development of the U.S.-Japan relations, which has been a central framework of postwar Japan's foreign and security policies.

【Learning objectives】

1. To acquire knowledge of the history of postwar Japan's diplomacy
2. To acquire the ability to explain your opinion about desirable Japanese foreign policies logically and with evidence

【Learning activities outside of classroom】

Before each class: To read assigned part of the textbook (2 hours)

After each class: To review the slide (2 hours)

【Grading Criteria/Policy】

Midterm exam (30%): Online (Via Learning Support System of Hosei University)

Final exam (70%): Classroom

Criteria: To answer correctly and logically

CUA200CA
経済人類学 A
河野 正治
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

世界各地のローカルな社会において人々がいかに財やサービスをやり取りしているのかを紹介しながら、「経済とは何か」という大きな問いを人類学的な視点から考察する。経済人類学 A では、生業経済における人の暮らしや生き方、ならびに経済人類学の基礎概念を実例の中で解説する授業を行う。

【到達目標】

1) 経済人類学の基礎知識を身につける。2) 経済人類学の視点とアプローチを自分で説明できる。3) 私たちにはあまり馴染みのない経済のあり方を学ぶことを通して、人の暮らしや生き方の多様性を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式。各回のレジュメを授業支援システムに事前掲載するので、必ずダウンロードやプリントアウトをして授業に臨むこと。授業当日にはパワーポイントを用いて講義を行う。毎回の授業の最後にリアクションペーパーを課し、翌週の授業時にフィードバックを行う。また、講義形式による教員の解説を基本としつつ、思考力を伸ばしてもらうためにディスカッションの場を設けることもある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	人類学者の仕事	フィールドワークを通じた差異の発見
第 2 回	贈与と再分配の世界	経済人類学の入り口を垣間見る
第 3 回	贈与と互酬性	一般交換と限定交換
第 4 回	贈与と禁止	レヴィ=ストロースの学説
第 5 回	贈与・循環・所有	サーリンズとモースの学説
第 6 回	『贈与論』にみる人とモノ	異なる所有観の発見
第 7 回	贈与から考える人とモノ	モース派の人類学と譲渡不可能性の概念
第 8 回	贈与から考える女性の労働①	2人のフェミニスト人類学者の論争から
第 9 回	贈与から考える女性の労働②	権利から関係性へ
第 10 回	交換の類型学	互酬、再分配、市場
第 11 回	再分配と集団の境界	ミクロネシアの儀礼経済から考える①
第 12 回	再分配の中心	ミクロネシアの儀礼経済から考える②
第 13 回	再分配と階層性	ミクロネシアの儀礼経済から考える③
第 14 回	負い目と権力	贈与と再分配の違いをめぐって

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各講義や配布資料のなかで取り上げられる専門用語や個別社会について自らの手で調べることで理解を深める。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用せず、毎回の講義でオリジナルなレジュメを用意する。

【参考書】

授業内で文献を紹介するので、一冊でも多くの書籍を手にとってほしい。

【成績評価の方法と基準】

学期末レポート（70%）に加え、毎回の授業で取り組んでもらう小課題（30%）をもとに評価する。担当教員の講義内容を表面的になぞったレポートではなく、自分自身の頭で思考した形跡のあるレポートを高く評価したいと考えている

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを多用するので、授業開始時には仮登録を行うこと。学習支援システムで配布する授業資料を毎回ダウンロードやプリントアウトしておくこと。

【Outline (in English)】

【授業の概要（Course Outline）】

The purpose of this lecture is to consider the question "what is economy" from an anthropological perspective, examining how people produce and exchange goods and services in various local societies.

【到達目標（Learning Objectives）】

At the end of the course, students are expected to learn the way of life in subsistent societies and the basic terms and concepts.

【授業時間外の学習（Learning Activities outside of Classroom）】

Students will be expected to conduct their own independent research on the specialized knowledge of Economic Anthropology. Your study time will be more than two hours for a class.

【成績評価の方法と基準（Grading Criteria/Policy）】

Grading will be based on the end-of-term report (70%) and small assignments (30%). Reports that show evidence of students' own thinking, rather than reports that superficially trace the lecture content, will be highly evaluated.

CUA200CA
経済人類学 B
河野 正治
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

世界各地のローカルな社会において人々がいかに財やサービスをやり取りしているのかを紹介しながら、「経済とは何か」という大きな問いを人類学的な視点から考察する。経済人類学 B では、現代の事象に経済人類学の視角の応用を図る。

【到達目標】

1) 経済人類学のやや難度の高い知識を身につける。2) 経済人類学の視点とアプローチを自分で説明できる。3) 経済人類学の概念を用いて過去の社会事象や現代の社会事象を説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式。各回のレジュメを授業支援システムに事前掲載するので、必ずダウンロードやプリントアウトをして授業に臨むこと。授業当日にはパワーポイントを用いて講義を行う。毎回の授業の最後にリアクションペーパーを課し、翌週の授業時にフィードバックを行う。また、講義形式による教員の解説を基本としつつ、思考力を伸ばしてもらうためにディスカッションの場を設けることもある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	経済人類学の新展開	市場と非市場の二分法を超えて
第 2 回	互酬・再分配と市場交換の接合①	貨幣経済と暮らしの変容
第 3 回	互酬・再分配と市場交換の接合②	首長国ビジネスの誕生
第 4 回	互酬・再分配と市場交換の接合③	首長の金策と島民の金策
第 5 回	貨幣の人類学①	経済取引の短期秩序と長期秩序
第 6 回	貨幣の人類学②	貨幣の意味を変える方法
第 7 回	貨幣の人類学③	国境を越える貨幣とその読み替え
第 8 回	グローバル時代の文化研究①	SDGs のローカライゼーション
第 9 回	グローバル時代の文化研究②	まなざしを活用する
第 10 回	社会に再度埋め込まれた経済？ ①	「いのちの贈与」をめぐる
第 11 回	社会に再度埋め込まれた経済？ ②	地域通貨のリアルをめぐる
第 12 回	金融人類学への誘い①	金融トレーダーの世界
第 13 回	金融人類学への誘い②	市場の時間と希望の時間
第 14 回	総括	経済人類学からみる世界

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各講義や配布資料のなかで取り上げられる専門用語や個別社会について自らの手で調べることで、当該主題についてさらなる理解を獲得する。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用せず、毎回の講義でオリジナルなレジュメを用意する。

【参考書】

授業内で文献を紹介するので、一冊でも多くの書籍を手にとってほしい。

【成績評価の方法と基準】

学期末レポート（70%）に加え、毎回の授業で取り組んでもらうリアクションペーパー（30%）をもとに評価する。担当教員の講義内容を表面的になぞったレポートではなく、自分自身の頭で思考した形跡のあるレポートを高く評価したいと考えている。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムを多用するので、必要な場合は仮登録を行うこと。学習支援システムを通じて配布する授業資料については、毎回ダウンロードやプリントアウトしておくこと。

【Outline (in English)】

【授業の概要（Course Outline）】

The purpose of this lecture is to consider the question "what is economy" from an anthropological perspective, examining how people produce and exchange goods and services in various local societies.

【到達目標（Learning Objectives）】

At the end of the course, students are expected to understand modern economies from the perspective of Economic Anthropology.

【授業時間外の学習（Learning Activities outside of Classroom）】

Students will be expected to conduct their own independent research on the specialized knowledge of Economic Anthropology. Your study time will be more than two hours for a class.

【成績評価の方法と基準（Grading Criteria/Policy）】

Grading will be based on the end-of-term report (70%) and small assignments (30%). (Reports that show evidence of students' own thinking, rather than reports that superficially trace the lecture content, will be highly evaluated.)

ECN200CA
環境経済論 A
松波 淳也
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

環境経済学の基礎理論・概念を習得する。

【到達目標】

環境経済学はその体系化への努力が始まって以来、地球環境問題などグローバルな環境問題への直面を経て、各方面への深化を遂げている。本講義は、標準的な環境経済学の基本概念、手法を習得することを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科は「DP1」「DP8」「DP9」に関連。国際経済学科・現代ビジネス学科は「DP1」「DP8」に関連。

【授業の進め方と方法】

環境経済学にとって最重要であり、かつ、環境経済学の幅広い分野に応用の効く3つの概念（外部性、環境の経済評価、持続可能な発展）に絞って講義する。その際、特に、社会システムと環境の関係についての基本的考え方、および、経済学的方法、政策的志向をもとらえていきたい。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第01回	環境経済学とは？	環境経済学の誕生。環境か経済か？ 本講の立場と進め方。
第02回	環境問題の政策的整理	人類史と環境。近代化と環境問題。環境問題と総合政策。
第03回	外部性①	外部性の概念。外部性のモデル分析。産業公害モデル。
第04回	外部性②	課税政策。
第05回	外部性③	ピグー税政策とボーモル＝オーツ税政策
第06回	外部性④	たばこモデル～コースの定理
第07回	外部性⑤	外部性のモデル分析再考
第08回	環境の経済評価①	環境を価格付けする意義。非市場財の価格付け。環境経済評価手法。
第09回	環境の経済評価②	需要曲線アプローチ CVM。
第10回	環境の経済評価③	需要曲線アプローチ TCM, HPM。非需要曲線アプローチ RCM。
第11回	環境の経済評価④	環境価値の概念。CVMに関する論争。
第12回	持続可能な発展①	持続可能な発展 SD とは？ 環境経済学における SD。
第13回	持続可能な発展②	デイリーの問題提起。経世済民思想としての SD。
第14回	持続可能な発展③	SD の視点からの経済政策目標。環境マクロ経済学。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

経済学の基礎を身に付けていることが望ましい（ミクロ経済学、マクロ経済学等、経済学の基礎学習）。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

時政他編著『環境と資源の経済学』勁草書房,2007年

【参考書】

特になし

【成績評価の方法と基準】

期末レポート 100%

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire basic theories and concepts of environmental economics. By the end of course, students should be able to understand environmental economics. Before/after each class meeting, students will be expected to spend 4 hours to understand the course content. Final grade will be calculated according to the following process: Term-end report(100%)

ECN200CA
環境経済論 A
松波 淳也
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

環境経済学の基礎理論・概念を習得する。

【到達目標】

環境経済学はその体系化への努力が始まって以来、地球環境問題などグローバルな環境問題への直面を経て、各方面への深化を遂げている。本講義は、標準的な環境経済学の基本概念、手法を習得することを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科は「DP1」「DP8」「DP9」に関連。国際経済学科・現代ビジネス学科は「DP1」「DP8」に関連。

【授業の進め方と方法】

環境経済学にとって最重要であり、かつ、環境経済学の幅広い分野に応用の効く3つの概念（外部性、環境の経済評価、持続可能な発展）に絞って講義する。その際、特に、社会システムと環境の関係についての基本的考え方、および、経済学的方法、政策的志向をもとらえていきたい。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第01回	環境経済学とは？	環境経済学の誕生。環境か経済か？ 本講の立場と進め方。
第02回	環境問題の政策的整理	人類史と環境。近代化と環境問題。環境問題と総合政策。
第03回	外部性①	外部性の概念。外部性のモデル分析。産業公害モデル。
第04回	外部性②	課税政策。
第05回	外部性③	ピグー税政策とボーモル=オーツ税政策
第06回	外部性④	たばこモデル～コースの定理
第07回	外部性⑤	外部性のモデル分析再考
第08回	環境の経済評価①	環境を価格付けする意義。非市場財の価格付け。環境経済評価手法。
第09回	環境の経済評価②	需要曲線アプローチ CVM。
第10回	環境の経済評価③	需要曲線アプローチ TCM, HPM。非需要曲線アプローチ RCM。
第11回	環境の経済評価④	環境価値の概念。CVMに関する論争。
第12回	持続可能な発展①	持続可能な発展 SD とは？ 環境経済学における SD。
第13回	持続可能な発展②	デイリーの問題提起。経世済民思想としての SD。
第14回	持続可能な発展③	SD の視点からの経済政策目標。環境マクロ経済学。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

経済学の基礎を身に付けていることが望ましい（ミクロ経済学、マクロ経済学等、経済学の基礎学習）。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

時政他編著『環境と資源の経済学』勁草書房,2007年

【参考書】

特になし

【成績評価の方法と基準】

期末レポート 100 %

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire basic theories and concepts of environmental economics. By the end of course, students should be able to understand environmental economics. Before/after each class meeting, students will be expected to spent 4 hours to understand the course content. Final grade will be calculated according to the following process: Term-end report(100%)

ECN200CA
環境経済論 B
松波 淳也
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

廃棄物・リサイクルの経済学を習得する。

【到達目標】

環境経済学はその体系化への努力が始まって以来、地球環境問題などグローバルな環境問題への直面を経て、各方面への深化を遂げている。本講義では、最近理論的発展の著しい「ごみ・リサイクルの経済学」を取り上げ、標準的な環境経済学の基礎概念、手法の理解をより深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科は「DP1」「DP8」「DP9」に関連。国際経済学科・現代ビジネス学科は「DP1」「DP8」に関連。

【授業の進め方と方法】

現代の廃棄物問題の本質および「廃棄物経済学」の基礎概念を身につけてもらうことを目標として講義する。現実の廃棄物管理政策の状況の理解も図りたい。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	ごみ問題とリサイクル I - 現代的課題と理論的概観-	「ごみ問題」の構造分類。「ごみ」の定義。経済学における「ごみ」の扱い
第 2 回	ごみ問題とリサイクル II - 経済学的定式化に向けて-	廃棄物経済学の主要アプローチ。廃棄物経済学の整備に向けて。最近のトピック
第 3 回	ごみ問題とリサイクル III - 廃棄物リサイクルの経済モデル-	廃棄物経済学の誕生。廃棄物リサイクルの線形生産モデル
第 4 回	廃棄物管理政策 I - 循環型社会の法体系-	循環型社会形成推進基本法等。個別リサイクル法。3 R の優先順位。2つの基本理念
第 5 回	廃棄物管理政策 II - 代表的な経済手法-	家庭ごみの有料化。埋立税・産業廃棄物税。有害物質への税・課徴金。特定製品への税・課徴金。デポジット・リファンド制度
第 6 回	廃棄物管理政策 III - 自治体の清掃行政-	3 R + 適正処理の優先順位に即した政策展開。短期的政策。中長期的政策の位置づけ。地域特性に即したきめ細かい政策。環境政策の 3 手法
第 7 回	動脈産業と静脈産業 I - 経済学の暗黒面-	動脈経済と静脈経済。経済成長と動脈部門・静脈部門。静脈経済と潜在技術
第 8 回	動脈産業と静脈産業 II - ゼロエミッションと循環型社会-	ゼロエミッション思想。逆工場の考え方。「循環型社会」の考え方
第 9 回	動脈産業と静脈産業 III - システム、規制の効果-	市場リサイクルの条件。動脈と静脈の相互関係。規制と公共関与。企業のイニシャティブ
第 10 回	費用支払いと費用負担 I - PPP と汚染者負担原則-	汚染者支払い原則 PPP。汚染者負担原則。ピグー税と負担の帰着

第 11 回	費用支払いと費用負担 II - PPP と EPR -	廃棄物管理費用の支払いと負担。EPR の物理的責任と金銭的責任
第 12 回	不法投棄と不適切処理	廃棄物管理と外部不経済。不法投棄と不適切処理の経済的動機
第 13 回	個別リサイクル法と EPR I - 法体系と個別リサイクル法-	法体系と個別リサイクル法：再論。容器包装リサイクル法
第 14 回	個別リサイクル法と EPR II - E-Waste のリサイクル-	家電リサイクル法。PC リサイクル・システム。携帯電話リサイクル・システム。小型家電リサイクル法

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

環境経済論 A を既習であることが望ましい（環境経済学の基礎理論・概念）。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

細田衛士：『グズとバズの経済学 第 2 版』東洋経済新報社

【参考書】

時政他編著『環境と資源の経済学』勁草書房

【成績評価の方法と基準】

期末レポート：100 %

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire basic theories and concepts of the economics of waste and recycling. By the end of course, students should be able to understand the economics of waste and recycling. Before/after each class meeting, students will be expected to spend 4 hours to understand the course content. Final grade will be calculated according to the following process: Term-end report(100%)

ECN200CA
環境経済論 B
松波 淳也
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

廃棄物・リサイクルの経済学を習得する。

【到達目標】

環境経済学はその体系化への努力が始まって以来、地球環境問題などグローバルな環境問題への直面を経て、各方面への深化を遂げている。本講義では、最近理論的発展の著しい「ごみ・リサイクルの経済学」を取り上げ、標準的な環境経済学の基礎概念、手法の理解をより深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科は「DP1」「DP8」「DP9」に関連。国際経済学科・現代ビジネス学科は「DP1」「DP8」に関連。

【授業の進め方と方法】

現代の廃棄物問題の本質および「廃棄物経済学」の基礎概念を身につけてもらうことを目標として講義する。現実の廃棄物管理政策の状況の理解も図りたい。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	ごみ問題とリサイクル I - 現代的課題と理論的概観-	「ごみ問題」の構造分類。「ごみ」の定義。経済学における「ごみ」の扱い
第 2 回	ごみ問題とリサイクル II - 経済学的定式化に向けて-	廃棄物経済学の主要アプローチ。廃棄物経済学の整備に向けて。最近のトピック
第 3 回	ごみ問題とリサイクル III - 廃棄物リサイクルの経済モデル-	廃棄物経済学の誕生。廃棄物リサイクルの線形生産モデル
第 4 回	廃棄物管理政策 I - 循環型社会の法体系-	循環型社会形成推進基本法等。個別リサイクル法。3 R の優先順位。2つの基本理念
第 5 回	廃棄物管理政策 II - 代表的な経済手法-	家庭ごみの有料化。埋立税・産業廃棄物税。有害物質への税・課徴金。特定製品への税・課徴金。デポジット・リファンド制度
第 6 回	廃棄物管理政策 III - 自治体の清掃行政-	3 R + 適正処理の優先順位に即した政策展開。短期的政策。中長期的政策の位置づけ。地域特性に即したきめ細かい政策。環境政策の 3 手法
第 7 回	動脈産業と静脈産業 I - 経済学の暗黒面-	動脈経済と静脈経済。経済成長と動脈部門・静脈部門。静脈経済と潜在技術
第 8 回	動脈産業と静脈産業 II - ゼロエミッションと循環型社会-	ゼロエミッション思想。逆工場の考え方。「循環型社会」の考え方
第 9 回	動脈産業と静脈産業 III - システム、規制の効果-	市場リサイクルの条件。動脈と静脈の相互関係。規制と公共関与。企業のイニシャティブ
第 10 回	費用支払いと費用負担 I - PPP と汚染者負担原則-	汚染者支払い原則 PPP。汚染者負担原則。ピグー税と負担の帰着

第 11 回	費用支払いと費用負担 II - PPP と EPR -	廃棄物管理費用の支払いと負担。EPR の物理的責任と金銭的責任
第 12 回	不法投棄と不適切処理	廃棄物管理と外部不経済。不法投棄と不適切処理の経済的動機
第 13 回	個別リサイクル法と EPR I - 法体系と個別リサイクル法-	法体系と個別リサイクル法：再論。容器包装リサイクル法
第 14 回	個別リサイクル法と EPR II - E-Waste のリサイクル-	家電リサイクル法。PC リサイクル・システム。携帯電話リサイクル・システム。小型家電リサイクル法

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

環境経済論 A を既習であることが望ましい（環境経済学の基礎理論・概念）。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

細田衛士：『グズとバズの経済学 第 2 版』東洋経済新報社

【参考書】

時政他編著『環境と資源の経済学』勁草書房

【成績評価の方法と基準】

期末レポート：100 %

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire basic theories and concepts of the economics of waste and recycling. By the end of course, students should be able to understand the economics of waste and recycling. Before/after each class meeting, students will be expected to spent 4 hours to understand the course content. Final grade will be calculated according to the following process: Term-end report(100%)

ECN200CD
経済地理 A
近藤 章夫
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位
※経済学科生・国際経済学科生のみ履修できます。

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、世界の国・地域、アジアと日本、日本国内の都市と地方などの地理的スケールを範囲とし、経済地理学的な思考方法や分析枠組を用いて、人口構造と経済成長、産業の立地論、経済の空間構造（都市経済）、国土政策と地域経済、の諸問題について多角的に論じる。

【到達目標】

日本を中心とした世界の国・地域における経済活動の地理的側面について共通したメカニズムと実態を経済学的に理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP2」「DP9」に関連。国際経済学科は「DP2」「DP8」に関連。

【授業の進め方と方法】

本講義はオンデマンド形式の動画配信をベースに進める。経済地理学とは、多様な人間活動が立地をつうじて相互に補完することで生じる、経済の諸事象の空間的配置を説明し、都市、地域、国際間の空間経済システムのダイナミックな変遷を分析する分野である。授業では経済地理学の基礎理論やモデルをベースにして国内外の社会経済動向や研究事例を用いながら解説していく。講義に資する資料を適宜提示し、地図・統計を用いながら理解を深める。課題等の提出、フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	講義の概要とスケジュール、学習のポイント
第 2 回	人口と地域格差①	人口構造と人口転換
オンデマンド (以下、OD)①		
第 3 回	人口と地域格差②	人口動態と人口問題
OD ②		
第 4 回	人口と地域格差③	人口と経済成長
第 5 回	産業の立地①	立地論の基礎
OD ③		
第 6 回	産業の立地②	工業立地論と事例
OD ④		
第 7 回	産業の立地③	組織論的立地論と事例
第 8 回	経済の空間構造①	都市化と都市構造
OD ⑤		
第 9 回	経済の空間構造②	都市発展と都市システム
OD ⑥		
第 10 回	経済の空間構造③	都市の理論・モデルと実際
第 11 回	国土政策と地域経済①	日本の地域構造と地域間格差
OD ⑦		
第 12 回	国土政策と地域経済②	国土政策と地域政策の系譜と現状
OD ⑧		
第 13 回	都市・地域開発と政策	都市・地域問題の現状と新たな政策
OD ⑨		
第 14 回	まとめ・総括	経済活動と地理的スケールの重層性について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。特に、講義後にノート、レジュメ、地図等で関心を持った点を中心に復習して欲しい。

【テキスト（教科書）】

教科書は指定しない。適宜、文献と資料を提示する。

【参考書】

河野稠果（2000）『世界の人口（第 2 版）』東京大学出版会
 デイヴィッド・N・ワイル（2010）『経済成長（第 2 版）』ピアソン
 桐原
 松原宏編著（2002）『立地論入門』古今書院
 山田浩之・徳岡一幸編（2018）『地域経済学入門（第 3 版）』有斐閣
 竹内淳彦・小田宏信編著（2014）『日本経済地理読本（第 9 版）』東洋経済新報社

【成績評価の方法と基準】

中間・期末レポート（60%）、各回の小テスト等の課題（40%）で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

講義だけでなく関連する話題や発展的学習につながる資料や文献なども積極的に提示する。

【その他の重要事項】

本講義は全ての講義をオンラインで実施し、一部の授業回はオンデマンドシステムによる動画配信で実施する。
 詳細は、第 1 回授業の際に説明する。学期中は学習支援システムを用いて、課題の提示等を行うので、定期的に確認すること。なお、履修者の関心や授業の進捗状況によって、授業計画を一部変更することがある。

【Outline (in English)】

Course outline and objectives:

From the perspective of economic geography, this lecture will cover various issues such as economic growth and population, urban and regional economies, industrial location theory, spatial structure of the economy, national land planning, and regional policy.

Learning activities outside of classroom :

Before/after each class, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading Criteria /Policy:

Final grade will be calculated according to the following process
 Mid-term report and term-end report(60%), and each-class requirements(40%).

ECN200CD
経済地理 B
近藤 章夫
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位
※経済学科生・国際経済学科生のみ履修できます。

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は、生産性と創造性に関わる経済活動の集積に注目し、産業集積や都市集積の盛衰メカニズムに関する具体的かつ実践的な思考力を身につけることを目的として、経済学における集積論の到達点とその含意を論じる。

【到達目標】

日本を中心とした世界の都市・産業地域における経済活動の集積事象について共通したメカニズムを理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP2」「DP9」に関連。国際経済学科は「DP2」「DP8」に関連。

【授業の進め方と方法】

本講義はオンデマンド形式の動画配信をベースに進める。経済地理学とは、多様な人間活動が立地をつうじて相互に補完することで生じる、経済の諸事象の空間的配置を説明し、都市、地域、国際間の空間経済システムのダイナミックな変遷を分析する分野である。授業では経済地理学の一分野である集積論を扱い、古典的な集積論から新しい産業集積論までの系譜を理解するとともに、国内外の事例にもとづいて講義に資する資料を適宜提示し、地図・統計を用いながら理解を深める。課題等の提出、フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	講義の概要と学習のポイント
第 2 回	集積論の系譜①	A.Weber と A.Marshall の集積論
オンデマンド (以下、OD) ①		
第 3 回	集積論の系譜②	外部経済と集積の経済
OD ②		
第 4 回	集積論の系譜③	現代経済における集積の意義
第 5 回	現代の集積論①	新しい集積論の潮流、サードイタリー
OD ③		
第 6 回	現代の集積論②	クラスター論とネットワーク論
OD ④		
第 7 回	現代の集積論③	空間経済学と集積
第 8 回	日本の都市・産業集積	産地と企業城下町
OD ⑤ ①		
第 9 回	日本の都市・産業集積	都市集積とネットワーク型集積
OD ⑥ ②		
第 10 回	産業集積のダイナミズム	産業のグローバル化
OD ⑦		
第 11 回	自動車産業の集積①	系列、近接性、JIT 生産システム
OD ⑧		
第 12 回	自動車産業の集積②	日本的生産システムの海外展開
OD ⑨		
第 13 回	ハイテク産業の集積	シリコンバレーモデルと産学連携
OD ⑨		
第 14 回	講義の小括・まとめ	経済学における集積論の現在

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。特に、講義後にノート、レジュメ、地図等で関心を持った点を中心に復習して欲しい。

【テキスト（教科書）】

教科書は指定しない。適宜、文献と資料を提示する。

【参考書】

石倉洋子ほか編著（2003）『日本の産業クラスター戦略』有斐閣
川端基夫（2013）『立地ウォーズ（改訂版）』新評論
アナリー・サクセニアン（2009）『現代の二都物語』日経 BP 社
藤田昌久・ジャック・F・ティス（2017）『集積の経済学』東洋経済新報社
山本健児（2005）『産業集積の経済地理学』法政大学出版局

【成績評価の方法と基準】

中間・期末レポート（60%）、各回の小テスト等の課題（40%）で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

講義だけでなく関連する話題や発展的学習につながる資料や文献なども積極的に提示する。

【その他の重要事項】

本講義は全ての講義をオンラインで実施し、一部の授業回はオンデマンドシステムによる動画配信で実施する。詳細は、第 1 回授業の際に説明する。学期中は学習支援システムを用いて、課題の提示等を行うので、定期的に確認すること。なお、履修者の関心や授業の進捗状況によって、授業計画を一部変更することがある。

【Outline (in English)】

Course outline and objectives:

The purpose of this lecture is to explain the achievements and meaning of agglomeration theories in economics, focusing on the geographical economic activities related to productivity and creativity, and to develop concrete and practical thinking skills regarding the rise and fall mechanisms of industrial and urban agglomerations.

Learning activities outside of classroom :

Before/after each class, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading Criteria /Policy:

Final grade will be calculated according to the following process
Mid-term report and term-end report(60%), and each-class requirements(40%).

ECN200CA
アメリカ経済論 A
増田 正人
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

アメリカは戦後世界の経済秩序モデルを構築し、現在にいたるまで経済力や軍事力、文化などで国際社会においておきな影響力を持ち続けている。一方で環境問題や不法移民の流入、低所得者層の貧困問題など問題大国でもある。本講義では、アメリカ経済を理解するために、建国の理念、その歴史と現状について、時代を画期する政策や出来事、事件を通じて解き明かし、グローバル経済の中でのアメリカ経済のあり方について学ぶ。

【到達目標】

日本とは大きく異なるアメリカの経済、社会について、受講生が一定のまとまったイメージを持てるようにすること。その中で、現代アメリカ経済を正しく理解し、激変するグローバル経済の行方を展望するための視座を獲得すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】

この講義は、原則として対面授業で実施するが、コロナの感染状況等に応じてオンラインで実施する場合もある。講義は、事前にレジュメや講義資料を Hoppii に載せるので、プリントアウト等をして、授業時に参照できるようにしておくこと。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の進め方 人工国家としてのアメリカ アメリカ経済論を学ぶ意義。
第 2 回	アメリカ経済を見る視点 ① 独立革命と共和制、連邦制	独立革命と共和制 連邦制と州
第 3 回	アメリカ経済を見る視点 ② 南北戦争と国民経済の形成	南北戦争と国民経済の形成
第 4 回	アメリカ経済を見る視点 ③ 移民国家としてのアメリカ	移民国家としてのアメリカ
第 5 回	アメリカ経済を見る視点 ④ バックス・アメリカーナと冷戦	バックス・アメリカーナと冷戦
第 6 回	アメリカ経済の特徴とその変化① 価格中心の市場メカニズム	価格中心の市場メカニズムが機能している仕組みの紹介
第 7 回	アメリカ経済の特徴とその変化② 労使関係の特質	アメリカの労使関係の特徴、形成と歴史、現在の姿を解説する。
第 8 回	アメリカ経済の特徴とその変化③ 多国籍企業と産業の空洞化	多国籍企業化と国民経済の変容について解説する
第 9 回	アメリカ経済の特徴とその変化④ 軍産複合体とインナー・サークル	アメリカの軍産複合体の形成と歴史、その影響力等について解説する。
第 10 回	アメリカ経済の特徴とその変化⑤ アメリカ農業	アメリカ農業の歴史、現在の課題について解説する
第 11 回	アメリカ経済の特徴とその変化⑥ 財政制度の特徴と財政赤字	アメリカの財政制度の仕組み、現在の特徴について解説する。
第 12 回	アメリカ経済の特徴とその変化⑦ 金融制度の特徴とその変化	金融制度の特徴とその変化について解説する。

第 13 回 国際通貨ドルと国際金融センター ドルが国際通貨として機能している仕組み、アメリカ経済への意味について解説する。

第 14 回 試験・まとめと解説 期末試験の実施。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習として、指定される教科書や参考文献をよく読み、単元について理解を深める。復習はレジュメや参考文献をもとに課題レポートに取り組む。それぞれ 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

『21 世紀のアメリカ資本主義』河音琢郎・豊福裕二・野口義直・平野健編、大月書店、2023 年。
『現代アメリカ政治経済入門』河崎信樹・河音琢郎・藤木剛康編著、ミネルヴァ書房、2021 年。

【参考書】

『米国経済白書 2022』萩原伸次郎監修、蒼天社、2022 年。
その他、講義時に関連する文献を紹介する。

【成績評価の方法と基準】

期末試験を中心に評価するが、学期の途中で課題レポートを課します。課題レポート（30％）期末試験（70％）

【学生の意見等からの気づき】

今年度、初めてアメリカ経済論を担当するので、この講義についてはまだない。

【学生が準備すべき機器他】

事前には配信されたレジュメ、資料等をプリントアウトしておくか、PC 等で講義時に見られるようにしておくこと。

【その他の重要事項】

可能な限り、秋学期のアメリカ経済論 B とあわせて履修すること。

【担当教員の専門分野等】

国際経済、国際金融、アメリカ経済

【Outline (in English)】

The U.S. established the model for the post-war world economic order, and to this day it continues to be one of the most influential countries in the international community in all aspects, including economic power, military power, and educational standards. On the other hand, the U.S. is also a country with major problems such as environmental issues, influx of illegal immigrants, and poverty among low-income people. In this lecture, we will examine the founding principles of the United States, the history and current state of the U.S. economy, which leads the world as an economic powerhouse, through the policies, events, and incidents that marked the era, and deepen our understanding of the U.S. economy in the global economy. It is highly recommended that students prepare in advance and review the contents after the class. Students are encouraged to read textbooks according to the course schedule. The final evaluation will be based on the following: submitted reports 30% and final exam 70%; total: 100%.

ECN200CA
アメリカ経済論 B
増田 正人
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

アメリカは戦後世界の経済秩序モデルを構築し、現在にいたるまで経済力や軍事力、文化などで国際社会においておきな影響力を持ち続けている。本講義では、春学期に学んだことを踏まえて、アメリカ経済の課題、現状について、歴史的に重要な問題に焦点を当てながらより深く学ぶ。

【到達目標】

現代アメリカ経済が抱える諸問題の内容やその歴史的な背景を正しく理解し、グローバル経済の行方を展望するための視座を獲得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】

この講義は、原則として対面授業で実施するが、コロナの感染状況等に応じてオンラインで実施する場合もある。講義は、事前にレジュメや講義資料を Hoppii に載せるので、プリントアウト等をして、授業時に参照できるようにしておくこと。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	高度成長から低成長へ① 公民権運動と黒人差別問題	公民権運動、黒人差別問題について解説する。
第 2 回	高度成長から低成長へ② ドル危機とニクソン・ショック	ドル危機、オイルショックについて解説する。
第 3 回	高度成長から低成長へ③ スタグフレーションとレーガノミックス	スタグフレーション、それに対応したレーガノミックスについて解説する。
第 4 回	高度成長から低成長へ④ 日米貿易摩擦と競争力の強化政策	日米貿易摩擦とその帰結、アメリカの戦略について解説する。
第 5 回	グローバル化とアメリカ経済① クリントン政権とニューエコノミー	クリントン政権の経済政策、ニューエコノミー、知財重視の戦略について解説する。
第 6 回	グローバル化とアメリカ経済② 国際経済秩序の再編と WTO	新たな国際経済秩序の構想とそれを具体化した WTO について解説する。
第 7 回	グローバル化とアメリカ経済③ 高成長とグローバル・インバランス	WTO 体制の下で、高成長を続けるアメリカ経済の好循環の仕組みを解説する。
第 8 回	グローバル化とアメリカ経済④ リーマンショックと世界金融危機	住宅金融、サブプライム問題、リーマンショックとその世界的波及について解説する。
第 9 回	グローバル化とアメリカ経済⑤ 金融危機への対応とオバマ政権	金融危機への対応とそれがもたらしたものについて解説する。
第 10 回	グローバル化とアメリカ経済⑥ 富の二極化と分断されるアメリカ社会	アメリカの富の二極化の現状について解説する。
第 11 回	グローバル化とアメリカ経済⑦ トランプ政権とアメリカ単独主義	トランプ政権の経済政策について解説する。
第 12 回	グローバル化とアメリカ経済⑧ 米中新冷戦と世界の分裂	米中新冷戦の構造、アメリカの戦略、ロシアのウクライナ侵攻の背景等について解説する。
第 13 回	グローバル化とアメリカ経済⑨ バイデン政権の課題	気候変動危機や米中新冷戦など、アメリカの直面する様々な課題に対して、どのような政策がとられているのかを解説し、アメリカの課題について検討する。
第 14 回	試験と解説	期末試験の実施。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習として、指定される教科書や参考文献をよく読み、単元について理解を深める。復習はレジュメや参考文献をもとに課題レポートに取り組む。それぞれ 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

『21 世紀のアメリカ資本主義』河音琢郎・豊福裕二・野口義直・平野健編、大月書店、2023 年。
『現代アメリカ政治経済入門』河崎信樹・河音琢郎・藤木剛康編著、ミネルヴァ書房、2021 年。

【参考書】

『米国経済白書 2022』萩原伸次郎監修、著天社、2022 年。
その他、講義時に関連する文献を紹介する。

【成績評価の方法と基準】

期末試験を中心に評価するが、授業の中でレポート課題を出します。提出されたレポート課題（30%）期末試験（70%）

【学生の意見等からの気づき】

今年度初めて担当するので、特にない。

【学生が準備すべき機器他】

講義時に、事前には配信されたレジュメ、資料等をプリントアウトしておくか、PC 等で見られるようにしておくこと。

【その他の重要事項】

可能な限り、春期開講のアメリカ経済論 A とあわせて履修する。

【Outline (in English)】

The U.S. established the model for the post-war world economic order, and to this day it continues to be one of the most influential countries in the international community in all aspects, including economic power, military power, and educational standards.

In this lecture, based on the spring semester, we will deepen our understanding of the current status and challenges of the U.S. economy by focusing on topics that we consider particularly important for understanding the modern U.S. economy.

It is highly recommended that students prepare in advance and review the contents after the class. Students are encouraged to read textbooks according to the course schedule.

The final evaluation will be based on the following: submitted reports 30% and final exam 70%; total: 100%.

ECN200CA
ヨーロッパ経済論 A
進藤 理香子
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は現在の EU につながる欧州経済統合の礎となる 1945 年から 80 年
代半ばまでのヨーロッパの社会経済的発展を東西ドイツの軌跡及び冷戦期の
国際関係から考察することを目的とする。

【到達目標】

冷戦体制の国際関係と欧州経済統合の歴史のプロセスを理解する。また今日
の EU に受け継がれる西ドイツ社会的市場経済概念を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力
を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習
成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】

オンライン講義。学習支援システム上に講義資料を掲載、指定授業時間に Zoom
による講義を行う。授業時間外での閲覧も可能とする。パワーポイント、図
表や画像資料などを用いつつ対象の理解を深める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	春学期の導入	欧州の社会経済的発展をドイツの軌跡 を中心に学ぶ意義について。
第 2 回	第一次大戦後の欧米とド イツ	ヴェルサイユ体制、戦間期の欧米社会 と経済について見る。
第 3 回	第二次大戦と欧州	ドイツによる欧州諸国侵略、占領、戦 争経済について見る。
第 4 回	第二次大戦の終わりとはド イツ敗戦	連合国によるドイツ分割統治と占領政 策について学ぶ。
第 5 回	マーシャルプランと西欧 の経済復興	アメリカ主導の欧州復興支援、東西陣 営の形成について見る。
第 6 回	ドイツ連邦共和国（西ド イツ）の建国	東西ドイツ問題、通貨改革について学 ぶ。
第 7 回	西ドイツ社会的市場経済	社会的市場経済の理論と政策的実践に ついて学ぶ。
第 8 回	西ドイツ経済の奇跡	戦後復興から高度経済成長の過程、大 衆消費社会と生活水準向上について。
第 9 回	西欧の協調と市場統合の 模索	欧州石炭鉄鋼共同体の形成について見 る。
第 10 回	ドイツ民主共和国（東ド イツ）とベルリンの壁	ソ連占領政策、東ドイツ建国と社会主 義の建設について見る。
第 11 回	西ドイツ・ブランド首相 の東方政策とデタント	東西緊張の緩和と全欧安全保障協力会 議について見る。
第 12 回	ヨーロッパ福祉国家の諸 モデル	イギリス、スウェーデン、西ドイツの 福祉政策について学ぶ。
第 13 回	ブレトン・ウッズ体制の 崩壊とオイルショック	70 年代世界経済の停滞、高度経済成 長の終焉について学ぶ。
第 14 回	ケインズ主義から新自由 主義へ	80 年代の欧米新自由主義的政策につ いて見る。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本講義の準備・復習時間は一回あたり各 2 時間の合計 4 時間を標準とする。
また学期中に合計 2 回のレポート提出が必須となる。

【テキスト（教科書）】

教科書は指定しない。テーマごとに必要な参考文献を指示。

【参考書】

猪木武徳『戦後世界経済史:自由と平等の視点から』中央公論新社 2009 年。
遠藤乾（編）『ヨーロッパ統合史』名古屋大学出版会 増補版 2014 年。
藤澤利治/工藤章（編）『ドイツ経済:EU 経済の基軸』ミネルヴァ書房 2019 年。
古内博行『現代ドイツ経済の歴史』東京大学出版会 2007。

【成績評価の方法と基準】

評価方法は学期中に中間レポートを 1 回、学期末レポート 1 回の合計 2 回
の課題を完了した場合にのみ単位評価の対象とする。配点は中間課題 50 %、
学期末課題 50 %。提出時期については学習支援システムの指示に従うこと。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to study the socio-economic and political
developments in Europe from 1945 to the mid-1980s, mainly during the
Cold War period, in an historical perspective. Particular interest will be
paid to the development of Germany which was divided into two states,
in the West and in the East, after the country's defeat in World War II.

Learning Objective: The goal of this course is to understand the socio-
economic development of Europe since 1945.

Lecture (two-credits): Before/after each class meeting, students will be
expected to spend four hours to understand the course content.

Grading Criteria/Policies: Final grade will be calculated according to the
following process: a mid-term report (50%) and a term-end report (50%).

ECN200CA
ヨーロッパ経済論 B
進藤 理香子
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では 1980 年代後半から現在に至るヨーロッパの社会経済的発展について学ぶ。冷戦の終結、東欧平和革命、ドイツ再統一、ソ連崩壊、欧州連合 EU の成立といった流れを把握しつつ、現在に至る EU の発展と諸政策について学ぶ。

【到達目標】

冷戦終結から EU 成立、東方拡大への国際政治の流れを理解する。また欧州単一市場形成と通貨統合など EU 独自のガバナンス及び域内・域外に対する EU の役割を理解する。さらに直面する現代の危機（EU 離脱、コロナ危機、ロシアのウクライナ侵攻）への EU の対応を把握する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】

オンライン講義。学習支援システム上に講義資料を掲載、指定授業時間に Zoom による講義を行う。授業時間外での閲覧も可能とする。パワーポイント、図表や画像資料などを用いつつ対象の理解を深める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	秋学期の導入	現代ヨーロッパの社会経済を学ぶ意義について。
第 2 回	ソ連社会主義体制の停滞と改革の限界	ペレストロイカ、グラスノスチ、チェルノブイリ原発事故について見る。
第 3 回	東欧平和革命とベルリンの壁崩壊	民主化運動と社会主義政権の崩壊について見る。
第 4 回	ドイツ再統一とソ連崩壊	ドイツ最終規定条約、統一の負担、ソ連崩壊の帰結などについて学ぶ。
第 5 回	欧州共同体から欧州連合 EU へ	マーストリヒト条約単一市場問題について学ぶ。
第 6 回	経済通貨統合と欧州中央銀行	欧州通貨統合、単一通貨ユーロ導入について学ぶ。
第 7 回	EU の機構と運営	EU の諸組織と EU 独自のガバナンスを学ぶ。
第 8 回	EU 東方拡大と EU 諸国の経済・社会構造	EU 東方拡大、EU 加盟国間の諸特徴と不均衡について見る。
第 9 回	EU の通商と農業	共通通商政策と共通農業政策について学ぶ。
第 10 回	欧州と環境問題	環境問題への様々な取り組みについてドイツの事例を見る。
第 11 回	欧州と移民・難民問題	難民問題への EU の対応についてドイツの事例を中心にみる。
第 12 回	イギリスの EU 離脱	英国 EU 離脱の過程と影響について見る。
第 13 回	欧州とコロナ危機	パンデミックを通じた諸制約の経済・社会的帰結について見る。
第 14 回	ロシアによるウクライナ侵攻と欧州	EU のウクライナ支援、エネルギー危機、安全保障問題などについて見る。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学期中 2 回のレポート提出必須。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間の合計 4 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教科書は指定しない。テーマごとに必要な参考文献を講義で指示。

【参考書】

遠藤乾（編）『ヨーロッパ統合史』名古屋大学出版会 2008。
川越修/河合信晴（編）『歴史としての社会主義』ナカニシヤ出版 2016。
田中/長部/久保/岩田『現代ヨーロッパ経済』第 5 版 有斐閣 2018。
工藤章/藤澤利治『ドイツ経済：EU 経済の基軸』ミネルヴァ書房 2019。

【成績評価の方法と基準】

評価方法は学期中に中間レポートを 1 回、学期末レポート 1 回の合計 2 回の課題を完了した場合にのみ単位評価の対象とする。配点は中間課題 50 %、学期末課題 50 %。提出時期については学習支援システムの指示に従うこと。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline (in English)】

This course focuses on the socio-economic and political developments in Europe from the end of the Cold War period until today's European Union. Special consideration will be given to the historical events like the collapse of the Soviet Union, the peaceful revolution of 1989 in Eastern Europe, the reunification of the two German states, and the establishment of the European Union and its enlargement to the east. Learning Objective: The goal of this course is to understand the development of the EU.

Lecture (two-credits): Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading Criteria/Policies: Final grade will be calculated according to the following process: a mid-term report (50%) and a term-end report (50%).

ECN200CA
現代アジア経済論 A
馬場 敏幸
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

アジア NIEs（韓国、シンガポール、台湾、香港）の経済・地理・文化・歴史的内容の理解と第二次世界大戦後のアジアの発展の経緯と原動力を理解することが本授業のテーマである。この講義受講の意義として、単なる数字・経済情報だけでなく、それぞれの国・地域を生活・文化など地域的特色を含めて多層的に理解し、我々が国際社会に主体的に生き、どう向き合い、公正に判断し、対処するのか、その基礎知識を学んでほしい。

【到達目標】

アジアで第二次世界大戦後に高度経済成長を果たしたアジア NIEs（韓国、シンガポール、台湾、香港）を軸に、第二次世界大戦後のアジアの発展を多層的に講義する。第一に各国・地域の置かれた地理・経済・政治・歴史的経緯などの諸条件を講義することで、それぞれの国・地域の基礎的理解を目指す。第二に、第二次世界大戦後から現在における各地域・国の経済・産業の発展経路について講義を行うことで、アジアの発展の大きな流れの俯瞰的把握を目指す。第三に、電気電子産業・自動車産業を軸とした工業化とその諸条件、輸出、投資について講義を行うことで、アジアの経済発展の原動力の理解を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】

授業の前半では対象となる対象国・地域の現状について、オンラインデータベースの紹介と実際の使用方法を学習しつつ進めていく。中盤では経済発展のエンジンとなる産業や貿易などの育成とグローバル化に焦点を置く。後半は第二次世界大戦後の経済発展史を学ぶ。授業進展に伴い、理解力などを実施し、適宜フィードバックや講評を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	本授業の内容、対象国・地域の地理的位置、気候区分など（地図資料）
2	アジア NIEs の俯瞰	GDP、一人当たり GDP の理解と所得基準
3	アジア経済の底流 1	貧困の悪循環を抜け出せ！
4	アジア経済の底流 2	工業化戦略、投資、貿易
5	アジア経済の底流 3	為替レートがもたらす構造変化とアジアの発展
6	アジア NIEs1	初期の発展の共通点
7	アジア NIEs2	経済発展モデルと各国の実際
8	アジアの工業技術獲得 1	OEM・ODM とスマイルカーブ
9	アジアの工業技術獲得 2	OEM・ODM で発展した現地資本メーカー
10	アジアの工業技術獲得 3	技術導入経路と学習パターン
11	シンガポール	地理、経済統計、第二次世界大戦後の発展史
12	韓国	地理、経済統計、第二次世界大戦後の発展史
13	台湾・香港	地理、経済統計、第二次世界大戦後の発展史
14	総括	まとめ・解説・フィードバック・講評

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

アジア経済に関連するニュースに興味を持つ。配布資料や教科書、参考データベースによる学習など。本授業の予習 1 時間半・復習時間 2 時間半を目安とする。

【テキスト（教科書）】

なし

【参考書】

馬場敏幸 (2013) 『アジアの経済発展と産業技術』ナカニシヤ出版。講義中に使用する主な各種統計資料と URL は URL 詳細は通年科目「世界の経済」を参照。

【成績評価の方法と基準】

講義で理解力テストを課し、点数を 100 点に案分し評価を行う (100%)。なお、状況に応じて授業への取り組み、発言など平常点で点数の加減を行う。

【学生の意見等からの気づき】

講義スライドの事前配布を望む声があった。本講義ではまず授業時間内にしっかりと講義を聞いてもらい、講義後に配布するスライドを復習として用いてもらう方針なので、なにとぞご理解願いたい。

【学生が準備すべき機器他】

講義は Zoom で行い、理解力テストは Hoppii で行う。そのため、インターネット環境は必須であり、良好な Wifi 環境を強く推奨する。講義はスマホやタブレットなどでも受講可能であるが、データベース検索などは PC の方が行いやすい。PC 利用での受講を強く薦める。

【その他の重要事項】

本講義とともに現代アジア経済論 B（秋学期）の履修により、より立体的にアジアをとらえることができるため、A・B 双方での履修を望む。

Zoom による授業参加の場合、自分の発言の際にはビデオオンにしての発言をお願いします。また Zoom 講義でのプライバシー保護のため、画像保存、録画などは一切禁止します。発覚した場合は、単位を出さない場合もありますので、ネチケットには十分気をつけてください。

【Outline (in English)】

In this class, you learn economics and geography of ASIAN NIEs; South Korea, Singapore, Taiwan and Hong Kong, since end of WWII to present time. You also learn cultures and histories of that area in order to understand more deep. I hope you learn those countries and area in many directions then you have good knowledge how to face, judge and deal with those countries and area. As outside studies, I hope one and half hour before classroom and two and half hours after classroom. Grading is mainly based on quizzes and reports.

ECN200CA
現代アジア経済論 B
馬場 敏幸
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ASEAN について ASEAN4（タイ、インドネシア、マレーシア、フィリピン）を中心に経済・地理・文化・歴史的内容を理解することが目標である。単なる数字・経済情報だけでなく、それぞれの国を生活・文化など地域的特色を含めて多層的に理解し、我々が国際社会に主体的に生き、どう向き合い、公正に判断し、対処するのか、その基礎知識を学ぶ。

【到達目標】

アジアで第二次世界大戦後にアジア NIEs に次いで高度経済成長を果たした ASEAN 諸国について ASEAN4 を中心に各国の置かれた諸条件について多層的に理解を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】

Zoom によるリアルタイムオンラインで講義を行う。授業ではまず ASEAN 全体について概観したのち、各国ごとに国の地理、特徴、第二次世界大戦後の発展史などについて学ぶ。授業進展に伴い、理解力テストを実施し、適宜フィードバックや講評を行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	本授業の内容、地理的位置、気候区分など（地図資料）
2	ASEAN 1	ASEAN の成立とその経緯、加盟国情報、歴史など
3	ASEAN 2	経済指標での概観、国の発展戦略
4	タイ 1	独立を保てた理由、初期の発展、産業政策、自動車産業、コメ産業など
5	タイ 2	軍人政治・文民政治、赤シャツと黄シャツなど
6	タイ 3	経済成長、貿易、アジア経済通貨危機、大洪水など
7	マレーシア 1	英国からの独立、マハティール、プミプトラ、ルックイーストなど
8	マレーシア 2	貿易、産業政策、自動車産業、ICT 産業など
9	インドネシア 1	世界最大のイスラム国家、資源大国、オランダからの独立、スカルノ、スハルトなど
10	インドネシア 2	貿易、自動車産業、プリプミ、汚職撲滅など
11	フィリピン 1	米国からの独立、マルコス、アセアンの優等生から落第生など
12	フィリピン 2	ピープルパワー革命、OFW、テロ、スラムなど
13	まとめ	講義で行ったことを総括する
14	総括	まとめ・解説・フィードバック・講評

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の復習、アジア経済に関連するニュースに興味を持つ。アジアの発展と事例研究については教科書の該当部分に目を通しておくことにより、理解が深まる。本授業の予習 1 時間・復習時間 3 時間を目安とする。

【テキスト（教科書）】

なし

【参考書】

馬場敏幸 (2013) 『アジアの経済発展と産業技術』ナカニシヤ出版。講義中に使用する主な各種統計資料と URL 詳細は通年科目「世界の経済」を参照。

【成績評価の方法と基準】

講義で理解力テストを課し、点数を 100 点に案分し評価を行う (100%)。なお、状況に応じて授業への取り組み、発言など平常点で点数の加減を行う。

【学生の意見等からの気づき】

授業の進展でフィリピンができず残念に思ってくれた学生がいた。フィリピンまでカバーできるよう、授業プランの見直しを行った。

【学生が準備すべき機器他】

講義は Zoom で行い、理解力テストは Hoppii で行う。そのため、インターネット環境は必須であり、良好な Wifi 環境を強く推奨する。講義はスマホやタブレットなどでも受講可能であるが、データベース検索などは PC の方が行いやすい。PC 利用での受講を強く薦める。

【その他の重要事項】

その他重要事項

本講義とともに現代アジア経済論 B（秋学期）の履修により、より立体的にアジアをとらえることができるため、A・B 双方での履修を望む。

Zoom による授業参加の場合、自分の発言の際にはビデオオンにしての発言をお願いします。また Zoom 講義でのプライバシー保護のため、画像保存、録画などは一切禁止します。発覚した場合は、単位を出さない場合もありますので、ネチケットには十分気をつけてください。

【Outline (in English)】

In this class, you learn economics and geography of ASEAN4; Thailand, Malaysia, Indonesia and Philippines, since end of WWII to present time. You also learn cultures and histories of that area in order to understand more deep. I hope you learn those countries in many directions then you have good knowledge how to face, judge and deal with those countries. As outside studies, I hope one and half hour before classroom and two and half hours after classroom. Grading is mainly based on quizzes and reports.

ECN200CA
中国経済論 A
馬 欣欣
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では歴史的・マクロ経済の視点から中国経済成長の軌跡、計画経済から社会主義市場経済への体制移行のパターン、そして高度成長した現代中国経済の実態及び問題点を紹介し、中国経済成長の要因を様々な側面（歴史、制度・政策、経済発展、体制移行）から、理解してもらう。また日本や欧米などの先進国と比較し、中国経済の位置づけおよび中国経済成長の特徴を明確にする。

【到達目標】

中国経済に関しては、マクロレベルの視点から、経済成長の実態および問題点を把握したうえで、自らが経済学の諸理論やモデルを適用して、中国政府統計データおよび様々な調査データを活用し、中国経済成長のマクロ要因および問題点を説明できる能力を身につけることを目標とする。

The goal is to understand the situations and issues in Chinese economy from macroeconomic perspective, and to acquire the academic ability to explain the factors and issues of Chinese economic growth based on the theories in economics and the data from Chinese government statistical data sources and many kinds of academic surveys.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】

パワーポイント資料にもとづいて講義形式で行う。なお、適宜 DVD・ビデオ等、テレビ・映画を含む媒体を利用する場合があります。1 回以上のリアルタイムオンライン実施。課題（レポート等）に対するフィードバックを行います。具体的には、授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行い、また「学習支援システム」(Hoppii)を通じて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンスと世界経済からみた中国経済	講義内容の概要を紹介し、講義の進め方などを説明する。また、世界経済の現状を紹介し、中国経済の位置づけを理解する
第 2 回	歴史的視点からみた経済の成長	科学技術発展史からみた経済発展の謎（ニーダム仮説）とマディソンの長期 GDP 推計データからみた経済成長の軌跡を理解する
第 3 回	社会主義時代の経済	旧ソ連計画経済モデルと中国社会主義モデルの比較、国営企業と農村人民公社の実態と問題点について理解する
第 4 回	経済改革：社会主義市場経済とは何か	社会主義市場経済の概念、2つの移行パターン、体制移行における政府の役割について理解する
第 5 回	国家資本主義と開発独裁モデル：中国における政府と市場の関係	国家資本主義、開発独裁モデルについて理解する
第 6 回	人口変動と労働力 (1)	経済発展と人口転換の国際比較、人口ボーナスと経済成長、一人っ子政策の背景と問題点について理解する

第 7 回	人口変動と労働力 (2)	都市労働市場の失業、農村過剰労働力、ルイスの二重構造モデルと経済転換点について理解する
第 8 回	対外貿易と外需依存型成長からの転換	輸出主導型経済成長、外資の役割、外資導入の国際比較について理解する
第 9 回	経済成長と格差問題 (1)	農村部と都市部の格差、東部・中部と西部の格差の実態および形成要因について理解する
第 10 回	経済成長と格差問題 (2)	所得格差、貧困の実態、貧困削減政策およびその効果について理解する
第 11 回	財政政策と経済成長	地方分権と財政政策、「分税制」の概要と評価、地方財政の実態について理解する
第 12 回	地域振興政策とその影響	地域開発・振興政策実施の背景、政策変遷、およびその効果について理解する
第 13 回	経済成長と環境問題	環境問題の実態、中国環境政策の変遷、地球温暖化問題と国際協定について理解する
第 14 回	マクロレベル：中国経済の展望と問題点	中国経済の展望と問題点をまとめる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

中国経済に関連する他の科目（例えば、開発経済学、マクロ経済学、経済政策論など）を履修していない受講生は、それらの科目に関する教科書あるいは概説書を事前に読んでおくこと。授業で使用する資料を事前に学習支援システムを通じてダウンロードし、各回の授業の内容を理解しておくこと。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

Students who have not taken other courses related to the Chinese economy (e.g., development economics, macroeconomics, economic policy, etc.) should read the textbooks or introductions on those courses in advance. Download the learning materials in advance through the learning support system (Hoppii) and understand the content of each lesson. The standard time for preparation and review for each lesson is 2 hours each.

【テキスト（教科書）】

特に指定しないが、毎回パワーポイントで作成した資料を、学習支援システムを通じてダウンロードしておくこと。

【参考書】

1. 南亮進・牧野文夫編著 (2016) 『中国経済入門 第 4 版』日本評論社。
 2. 加藤弘之 (2016) 『中国経済学入門』名古屋大学出版会。
 3. 梶谷懐・藤井大輔編著 (2018) 『現代中国経済論』ミネルヴァ書房。
 4. 中兼和津次編著 (2013) 『中国経済はどう変わったか—改革開放以後の経済制度と政策を評価する』国際書院。
 5. 加藤弘之・渡邊真理子・大橋英夫 (2013) 『21 世紀の中国経済篇—国家資本主義の光と影』朝日新聞出版。
- その他適宜授業の中で指摘する

【成績評価の方法と基準】

1. 平常点および宿題 (70 %)
 2. 期末試験 (30 %)
- 両者の組み合わせ：100 %

1. Regular performance and homework (70%)
 2. Final examination (30%)
- Combinations of both: 100%

【学生の意見等からの気づき】

パワーポイントの作成については工夫をしたい。また、適宜の質疑応答等、双方向的な講義の進行に努めたい。

【専門分野】

中国経済論、労働経済学、開発経済学

【研究テーマ】

1. 中国社会保障改革とその経済効果
2. 技術進歩が中国労働市場に与える影響
3. 経済成長、体制移行と経済格差

【主要研究業績】

- 1.Ma, X. and Tang, C. (Eds.) (2022) *Growth Mechanism and Sustainable Development of Chinese Economy: Comparison with Japanese Experiences*. Singapore: Palgrave Macmillan. ISBN: 978-981-19-3857-3
- 2.Ma, X. (2022) *Public Medical Insurance Reform in China*. Singapore: Springer. ISBN: 978-981-16-7790-8
- 3.Ma, X. (Ed.) (2021) *Employment, Retirement and Lifestyle in Aging East Asia*. Singapore: Palgrave Macmillan. ISBN:978-981-16-0553-6
- 4.Ma, X. (2022) "Internet Usage and Income Gaps between the Self-employed Individuals and Employees: Evidence from China," *Review of Development Economics*. <https://doi.org/10.1111/rode.12969>
- 5.Ma, X. (2022) "Parenthood and the Gender Wage Gap in Urban China," *Journal of Asian Economics*, 80:101479. <https://doi.org/10.1016/j.asieco.2022.101479>
- 6.Ma, X. (2018) "Labor Market Segmentation by Industry Sectors and Wage Gaps between Migrants and Local Urban Residents in Urban China" *China Economic Review*, 47, 96 – 115. <https://doi.org/10.1016/j.chieco.2017.11.007>

【Outline (in English)】

[Course outline]

The lecture introduces the trajectory of China's economic growth from a historical and macroeconomic perspectives, the pattern of the transition from a planned economy to a socialist market economy, and the facts and problems of the modern Chinese economy. We will understand the factors behind China's economic growth from different sides (e.g., history, institutions and policies, economic development, and transition) and clarify the position of the Chinese economy and the features of Chinese economic growth in comparison with developed countries such as Japan, the United States, and European countries.

[Learning Objectives]

The goal is to understand the situations and issues in Chinese economy from macro-economic perspective, and to acquire the academic ability to explain the factors and issues of Chinese economic growth based on the theories in economics and the data from Chinese government statistical data source and many kinds of academic surveys.

[Learning activities outside of classroom]

Students who have not taken other courses related to the Chinese economy (e.g., development economics, macroeconomics, economic policy, etc.) should read the textbooks or introductions on those courses in advance. Download the learning materials in advance through the learning support system (Hoppii) and understand the content of each lesson. The standard time for preparation and review for each lesson is 2 hours each.

[Grading Criteria /Policy]

1. Regular performance and homework (70%)
2. Final examination (30%)

Combinations of both: 100%

ECN200CA
中国経済論 B
馬 欣欣
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義はミクロ経済の視点から中国の経済発展の要因を検討し、労働者・家計、企業、産業などの具体的な課題について、さまざまなデータ（たとえば、中国政府公表の統計データ、実態調査データ）を活用し、国有企業改革、企業生産とイノベーション、産業集積と産業構造転換、格差問題（例えば、都市と農村間の所得格差と社会保障格差）などについて考察し、ミクロレベルで中国経済の実態と問題点を検討する。

【到達目標】

中国経済に関しては、ミクロレベルの視点から、経済発展の実態および問題点を把握したうえで、自らが経済学の諸理論やモデルを適用して、中国政府統計データおよび様々な調査データを活用し、中国経済発展のミクロ要因および問題点を説明できる能力を身につけることを目標とする。

The goal is to understand the situations and issues in Chinese economy development from a microeconomic perspective, and to acquire the academic ability to explain the factors and issues of Chinese economic development based on the theories in economics and the data from Chinese government statistical data sources and many kinds of academic surveys.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】

パワーポイント資料にもとづいて講義形式で行う。なお、適宜、DVD・ビデオ等、テレビ・映画を含む媒体を利用する場合があります。1回以上のリアルタイムオンライン実施。課題（レポート等）に対するフィードバックを行います。具体的には、授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行い、また「学習支援システム」(Hoppii)を通じて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス：ミクロ視点からみた中国経済	ミクロ視点から見た中国経済の内容および研究方法を紹介する
第 2 回	国有企業改革 (1)	計画経済期の国営企業の特徴、国有企業の改革とその問題点について理解する
第 3 回	国有企業改革 (2)	国有企業の内部統治と企業業績、国有企業改革の結果とその問題点について理解する
第 4 回	世界の工場—中国	対中直接投資の原因と構造変化、FDI と中国経済発展について理解する
第 5 回	産業構造の転換	産業政策の改革、産業構造の転換と「中国製造 2025」、深センの産業発展を紹介し、産業構造の転換の原因について理解する
第 6 回	農村改革 (1)	農村の土地改革、「家庭生産請負制度」、土地流動化について理解する
第 7 回	農村改革 (2)	農村貧困実態と地域間の差異、農村貧困の原因、および農村貧困対策について理解する

第 8 回	出稼ぎ就業と農民工	経済発展と出稼ぎ就業、中国経済の謎—農民工不足現象、と農民工の就業と生活の実態について理解する
第 9 回	国有銀行と金融改革	金融改革の歴史、現代における金融システムと金融政策、株式市場と国有企業、国有銀行の改革について理解する
第 10 回	住宅市場と不動産	土地政策と住宅政策の変遷、住宅制度と住宅金融制度の改革、住宅と不動産市場の実態と問題点について理解する
第 11 回	経済発展と教育	教育制度と改革、人的資本理論と格差問題、「大学統一試験」（「高考」）の変遷、高等教育拡大政策、大学生就職難問題の原因について理解する
第 12 回	社会保障政策の改革	人口高齢化と社会保障制度の改革、都市部と農村部の社会保障の格差、社会保障と労働市場について理解する
第 13 回	労働雇用・賃金政策の改革	計画経済期の雇用・賃金政策の特徴、市場経済期の雇用・賃金政策の変遷、賃金格差の実態について理解する
第 14 回	ミクロレベル：中国経済の展望と問題点	ミクロ経済の視点からみた経済成長のメカニズム及び問題点について理解する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

中国経済に関連する他の科目（例えば、開発経済学、ミクロ経済学、労働経済学、産業組織論、経済政策論など）を履修していない受講生は、それらの科目に関する教科書あるいは概説書を事前に読んでおくこと。授業で使用する資料を事前に学習支援システムを通じてダウンロードし、各回の授業の内容を理解しておくこと。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

Students who have not taken other courses related to the Chinese economy (e.g., development economics, microeconomics, industrial organization economics, economic policy, etc.) should read the textbooks or introductions on those courses in advance. Download the learning materials in advance through the learning support system (Hoppii) and understand the content of each lesson. The standard time for preparation and review for each lesson is 2 hours each.

【テキスト（教科書）】

特に指定しないが、毎回パワーポイントで作成した資料を、学習支援システムを通じてダウンロードしておくこと。

【参考書】

1. 南亮進・牧野文夫編著（2016）『中国経済入門 第 4 版』日本評論社。
2. 加藤弘之（2016）『中国経済学入門』名古屋大学出版会。
3. 梶谷懐・藤井大輔編著（2018）『現代中国経済論』ミネルヴァ書房。
4. 中兼和津次編著（2013）『中国経済はどう変わったか—改革開放以後の経済制度と政策を評価する』国際書院。
5. 加藤弘之・渡邊真理子・大橋英夫（2013）『21 世紀の中国経済篇—国家資本主義の光と影』朝日新聞出版。
6. 馬欣欣（2015）『中国の公的医療保険制度の改革』、京都大学学術出版会。
7. 馬欣欣（2011）『中国女性の就業行動—「市場化」と都市労働市場の変容』、慶應義塾大学出版会。
その他適宜授業の中で指摘する

【成績評価の方法と基準】

1. 平常点および宿題（70 %）
2. 定期試験（30 %）

両者の組み合わせ：100 %

1. Regular performance and homework (70%)

2. Final examination (30%)

Combination of both: 100%

【学生の意見等からの気づき】

パワーポイントの作成については工夫をしたい。また、適宜の質疑応答等、双方向的な講義の進行に努めたい。

【専門分野】

中国経済論、労働経済学、開発経済学

【研究テーマ】

1. 中国社会保障改革とその経済効果
2. 技術進歩が中国労働市場に与える影響
3. 経済成長、体制移行と経済格差

【主要研究業績】

- 1.Ma, X. and Tang, C. (Eds.) (2022) Growth Mechanism and Sustainable Development of Chinese Economy: Comparison with Japanese Experiences. Singapore: Palgrave Macmillan. ISBN: 978-981-19-3857-3
- 2.Ma, X. (2022) Public Medical Insurance Reform in China. Singapore: Springer. ISBN: 978-981-16-7790-8
- 3.Ma, X. (Ed.) (2021) Employment, Retirement and Lifestyle in Aging East Asia. Singapore: Palgrave Macmillan. ISBN:978-981-16-0553-6
- 4.Ma, X. (2022) "Internet Usage and Income Gaps between the Self-employed Individuals and Employees: Evidence from China," Review of Development Economics. <https://doi.org/10.1111/rode.12969>
- 5.Ma, X. (2022) "Parenthood and the Gender Wage Gap in Urban China," Journal of Asian Economics, 80:101479. <https://doi.org/10.1016/j.asieco.2022.101479>
- 6.Ma, X. (2018) "Labor Market Segmentation by Industry Sectors and Wage Gaps between Migrants and Local Urban Residents in Urban China" China Economic Review, 47, 96 – 115. <https://doi.org/10.1016/j.chieco.2017.11.007>

【Outline (in English)】

[Course outline]

This lecture introduces the determinants of the economic development in China from a microeconomic perspective, using many kinds of data (i.e., government official statistical data, academic survey data etc.). The topics' targets focus on individuals, households, firms, and industry sectors. We will discuss some special issues on state-owned enterprise reform, enterprise innovation, industrial structural transformation, inequality issues such as income and social security inequality between rural and urban residents and understand the facts, issues and mechanisms in Chinese economy from a microeconomic perspective.

[Learning Objectives]

The goal is to understand the situations and issues in Chinese economy development from a microeconomic perspective, and to acquire the academic ability to explain the factors and issues of Chinese economic development based on the theories in economics and the data from Chinese government statistical data sources and many kinds of academic surveys.

[Learning activities outside of classroom]

Students who have not taken other courses related to the Chinese economy (e.g., development economics, microeconomics, industrial organization economics, economic policy, etc.) should read the textbooks or introductions on those courses in advance. Download the learning materials in advance through the learning support system (Hoppii) and understand the content of each lesson. The standard time for preparation and review for each lesson is 2 hours each.

[Grading Criteria /Policy]

1. Regular performance and homework (70%)
2. Final examination (30%)

Combinations of both: 100%

LANd200CA
ドイツ語セミナー A
新田 誠吾
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位
初回の授業に出席し担当教員の指示を受ける。

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、初級レベルのドイツ語を学習しながら、ドイツ語圏の暮らし、文化、人々の考え方を学びます。1 年次の初級文法の復習や説明も行います。

【到達目標】

1. ドイツ語圏の文化について、理解している。
2. 簡単なドイツ語表現を聞いて理解できる。
3. 簡単なドイツ語文を読んで、内容が理解できる。
4. ドイツ語で簡単な用件を口頭で伝えられる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

対面で行います。ペアワークやグループワークを行って、対話練習を行います。毎回課題があります。提出された課題については、翌週にフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業の進め方
第 2 回	道案内 (1)	場所をたずねる
第 3 回	道案内 (2)	見える文化と見えない文化 行き方の説明
第 4 回	住居 (1)	ステレオタイプ 住居の部屋の説明 和食とは？
第 5 回	住居 (2)	賃貸物件選び
第 6 回	暮らし (1)	自分の住む町を紹介する 非言語コミュニケーション
第 7 回	暮らし (2)	自分のお気に入りの場所 コンテキスト
第 8 回	トラブル (1)	トラブルを伝える ターンテーク
第 9 回	トラブル (2)	苦情をメールで書く アイコンタクト
第 10 回	将来の夢 (1)	自分の夢を語る
第 11 回	将来の夢 (2)	やりたいことを語る 時間感覚
第 12 回	健康 (1)	身体の部分の名称
第 13 回	健康 (2)	痛みの表現
第 14 回	授業内試験と解説	試験とその解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

Menschen Kursbuch A1.2 (Hueber)

【参考書】

参考書は特に必要ありません。

【成績評価の方法と基準】

授業の宿題やテストが 20 %、学期末試験の口頭が 30 %、筆記が 50 %で、合計 60%以上で単位を認定します。なお、正当な理由がなく欠席が 4 分の 1 を超えた場合は、単位は認定されません。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【その他の重要事項】

ドイツ語を 1 年以上履修した人が履修できます。他学部公開科目です。

【Outline (in English)】

【Course outline】 In this class, students will learn about life, culture, and the way people think in German-speaking countries while learning the German language. Elementary German grammar will also be explained.

【Learning Objectives】 The goals of the course are to

1. understand the culture of German-speaking countries
2. listen to and understand simple German expressions
3. read and understand simple German sentences
4. be able to communicate simple matters orally in German.

【Learning activities outside of classroom】 The standard review time for this class is two hours each.

【Grading Criteria /Policy】 Credit will be granted for a total of at least 60%, consisting of 20% for class homework and tests, 30% for the oral final exam and 50% for the written final exam. If a student is absent for more than one-fourth of the class without a valid reason, no credit will be granted.

LANd200CA
ドイツ語セミナー B
新田 誠吾
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位
初回の授業に出席し担当教員の指示を受ける。

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、初級レベルのドイツ語を学習しながら、ドイツ語圏の暮らし、文化、人々の考え方を学びます。1 年次の初級文法の復習や説明も行います。

【到達目標】

1. ドイツ語圏の文化について、理解している。
2. 簡単なドイツ語表現を聞いて理解できる。
3. 簡単なドイツ語文を読んで、内容が理解できる。
4. ドイツ語で簡単な用件を口頭で伝えられる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

対面で行います。ペアワークやグループワークを行って、対話練習を行います。毎回課題があります。提出された課題については、翌週にフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業の進め方と勉強方法について
第 2 回	過去形 (1)	過去
第 3 回	過去形 (2)	人の見た目 ルッキズム
第 4 回	命令形 (1)	命令と依頼 自己開示
第 5 回	命令形 (2)	日記を書く 高コンテキスト
第 6 回	助動詞 (1)	助動詞の使い方 評価の伝え方
第 7 回	助動詞 (2)	禁止の表現 話の組み立て方
第 8 回	服装 (1)	色の表現 合意形成
第 9 回	服装 (2)	比較表現
第 10 回	天気 (1)	天候の表現 水平な組織、垂直な組織
第 11 回	天気 (2)	理由を言う 対立
第 12 回	祝う (1)	誕生日を祝う 仕事と家庭
第 13 回	祝う (2)	お祝い表現 人間関係
第 14 回	試験と解説	試験をして、解説を行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

Menschen Kursbuch A1.2 (Hueber)

【参考書】

参考書は特に必要ありません。

【成績評価の方法と基準】

授業の宿題やテストが 20 %、学期末試験の口頭が 30 %、筆記が 50 %で、合計 60%以上で単位を認定します。なお、正当な理由がなく欠席が 4 分の 1 を超えた場合は、単位は認定されません。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【その他の重要事項】

ドイツ語を 1 年間以上履修した人が履修できます。他学部公開科目です。

【Outline (in English)】

【Course outline】 In this class, students will learn about life, culture, and the way people think in German-speaking countries while learning the German language. Elementary German grammar will also be explained.

【Learning Objectives】 The goals of the course are to

1. understand the culture of German-speaking countries
2. listen to and understand simple German expressions
3. read and understand simple German sentences
4. be able to communicate simple matters orally in German.

【Learning activities outside of classroom】 The standard review time for this class is two hours each.

【Grading Criteria /Policy】 Credit will be granted for a total of at least 60%, consisting of 20% for class homework and tests, 30% for the oral final exam and 50% for the written final exam. If a student is absent for more than one-fourth of the class without a valid reason, no credit will be granted.

LANf200CA
フランス語セミナー B
橋本 到
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位
初回の授業に出席し担当教員の指示を受ける。

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

フランス語圏で生活を送る中で、フランス語で交わされる日常的な会話のやりとりはどのようなものか知る。自ら発信する能力を向上させる。

その背景となる日常的な習慣・文化的背景への理解を深める。

【到達目標】

フランスの日常で交わされるごく簡単な会話ができるようになる（会話に必要な語彙・表現を運用する力を身に付ける）。フランスの文化に触れる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

日常的な場面のやりとりを聴いて理解する。語彙を確認し、発音する。自ら発信する練習を行なう。以上を一サイクルとして一課につき、5から6回繰り返します。対面授業を想定しているが、課題受け渡しのツールとしてグーグル・クラスルームを使用する。家庭学習で取り組むよう指示した課題については翌週までに、解説するとともに正答を示す。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業・評価方法の説明 フランス語の発音と読み方
第2回	日付と時刻-1	曜日、日付、時刻の問い方と答え方
第3回	日付と時刻-2	所定（開始・終了・行動）の時刻の表し方 文法（代名動詞）
第4回	過去の表し方-1	過去の事柄を表現する
第5回	過去の表し方-2	過去の事柄を問う、経験を言い表す 文法（複合過去）
第6回	未来の出来事-1	近い未来（予定）の言い表し方
第7回	未来の出来事-2	予定、旅程表の書き方 文法（近接未来）
第8回	食品・料理・食材-1	～を食べる、好き嫌い、渴き・空腹の表現
第9回	食品・料理・食材-2	飲食店・マルシェでの会話表現 文法（冠詞の復習）
第10回	天候-1	天候・気温の表現と会話
第11回	天候-2	感嘆文（何と寒いのか）、時の疑問副詞（寒いときは） 文法（非人称構文、比較構文）
第12回	街と街中の移動-1	所在を問う、行き方を尋ねる、行き方を教える
第13回	街と街中の移動-2	交通機関、交通手段を含めた表現
第14回	映像資料視聴	まとめの講評、フランスの文化（ジャポニスム）について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業時間外で本授業にかける準備・復習の時間は合計4時間を標準です。

テキストの会話部分は前もって目を通し、授業でやった練習問題は後でもう一度見直してください。不明な点があれば次週授業で質問してください。

そのほかに、インターネットを利用してフランスのニュース番組を見るなどしてフランスに関する情報や知識を得るように努めてください。

【テキスト（教科書）】

当初は配布プリント。その後、必要に応じて指示することがある。

【参考書】

初級で使用したフランス語の教科書。

森本英夫ほか『新・リュミエール フランス文法参考書』駿河台出版社

東京外語大 フランス語モジュール <http://www.coelang.tufts.ac.jp/mt/fr>

【成績評価の方法と基準】

平常点（課題の成果ならびに授業参加の積極度から算出）45%

まとめの試験（口頭と筆記）：55%

【学生の意見等からの気づき】

この講義は公開科目です。22年度はスポーツ健康学部からの受講生が多く、授業を盛り上げてくれました。虚心に言葉や文化を学び、楽しむ姿勢を大変すばらしいと思いました。

【学生が準備すべき機器他】

授業は対面で行う場合でも、課題の受け渡しにはグーグルクラスルームを用いるので各自端末で対応してください。

【その他の重要事項】

本授業の履修と並行して、語学検定資格の取得を奨める。受験の目安は、春期（6月）、秋期（11月）、4級以上。

【Outline (in English)】

TCourse outline — The aim of this course is to improve your everyday conversational skills in French as well as to broaden your understanding of French customs and culture.

Learning Objectives — The goal of this course is to improve your ability to use the vocabulary and expressions necessary for French conversation.

Learning activities outside of classroom — Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be about 4 hours for a class.

Grading Criteria /Policy — Your overall grade in the class will be decided based on the following. Term-end examination: 55%, Usual performance score: 45%

LANf200CA
フランス語セミナー A
橋本 到
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位
初回の授業に出席し担当教員の指示を受ける。

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

フランス語圏で生活を送る中で、フランス語で交わされる日常的な会話のやりとりはどのようなものか知る。自ら発信する能力を向上させる。

その背景となる日常的な習慣・文化的背景への理解を深める。

【到達目標】

フランスの日常で交わされるごく簡単な会話ができるようになる（会話に必要な語彙・表現を運用する力を身に付ける）。フランスの文化に触れる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

日常的な場面のやりとりを聴いて理解する。語彙を確認し、発音する。自ら発信する練習を行なう。以上を一サイクルとして一課につき、5 から 6 回繰り返します。対面授業を想定しているが、課題受け渡しのツールとしてグーグル・クラスルームを使用する。家庭学習で取り組むよう指示した課題については翌週までに、解説するとともに正答を示す。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業・評価方法の説明 フランス語の発音と読み方 発音、綴り字と読み方の規則
第 2 回	出会い-1	前回の復習 名乗る、相手の名を尋ねる
第 3 回	出会い-2	確認、相手について尋ねる 文法 (動詞の活用、名詞の性数、疑問文)
第 4 回	出会い-3	出身や職業、地名(国名)の使い方
第 5 回	出会い-4	電話番号と数字 文法(縮約、所有形容詞、疑問形容詞、人称代名詞強勢形)
第 6 回	紹介する-1	誰かを紹介する
第 7 回	紹介する-2	職場、出身、国籍、文法(疑問文、否定文、冠詞、名詞の複数形、縮約)
第 8 回	専攻について	専攻・学科の種類、好き嫌いとその程度
第 9 回	余暇について	余暇の種類、好き嫌いとその程度、頻度、文法(部分冠詞、中性代名詞)
第 10 回	家族について-1	家族の有無、年齢、性格の説明
第 11 回	家族について-2	家族についての説明(職業、人柄) 文法(提示表現、否定冠詞、形容詞の性数変化)
第 12 回	持ち物-1	持ち物の尋ね方
第 13 回	持ち物-2	ここまでの学習内容の確認、全体のまとめ
第 14 回	映像資料視聴	まとめの講評とフランスの社会(移民系住民について)

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業時間外で本授業にかけられる準備・復習の時間は合計 4 時間を標準です。

テキストの会話部分は前もって目を通し、授業でやった練習問題は後でもう一度見直してください。不明な点があれば次週授業で質問してください。

そのほかに、インターネットを利用してフランスのニュース番組を見るなどしてフランスに関する情報や知識を得るように努めてください。

【テキスト（教科書）】

当初は配布プリント。その後、必要に応じて指示することがある。

【参考書】

初級で使用したフランス語の教科書。

森本英夫ほか『新・リュミエール フランス文法参考書』駿河台出版社

東京外語大 フランス語モジュール <http://www.coelang.tufts.ac.jp/mt/fr>

【成績評価の方法と基準】

平常点（課題の成果ならびに授業参加の積極度から算出） 45 %

まとめの試験（口頭と筆記）： 55 %

【学生の意見等からの気づき】

この講義は公開科目です。22 年度はスポーツ健康学部からの受講生が多く、授業を盛り上げてくれました。虚心に言葉や文化を学び、楽しむ姿勢を大変すばらしいと思いました。

【学生が準備すべき機器他】

授業は対面で行う場合でも、課題の受け渡しにはグーグルクラスルームを用いるので各自端末で対応してください。

【その他の重要事項】

可能であれば、本授業の履修と並行して、語学検定資格等の目的を持って、学習を継続することを奨めます。受験の目安は、春期（6 月）、秋期（11 月）、4 級以上。

【Outline (in English)】

Course outline — The aim of this course is to improve your everyday conversational skills in French as well as to broaden your understanding of French customs and culture.

Learning Objectives — The goal of this course is to improve your ability to use the vocabulary and expressions necessary for French conversation.

Learning activities outside of classroom — Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be about 4 hours for a class.

Grading Criteria /Policy — Your overall grade in the class will be decided based on the following. Term-end examination: 55%、Usual performance score: 45%

LANr200CB
ロシア語セミナー A
小俣 智史
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位
※経済学科生のみ履修できます。初回の授業に出席し担当教員の指示を受ける。

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

初級ロシア語を履修し終え中級以上を目指す学生のためのクラスです。他学部からも履修が可能です。ロシア語基礎文法の習得を完成し、辞書を引き様々なテキストを読解・和訳できる。資格として履歴書に書くことができるロシア語能力検定試験4級3級の合格を目指す。リスニングやリーディング力を養い、実際に使える会話を身につける。ロシアに関する映画など視聴覚教材を通じロシア語力とロシアに関する知識を深める。

【到達目標】

基礎文法を習得し、確実に自身のものとする。その文法を用いて、様々なテキストを読み、的確に内容を把握し、きれいな日本語で訳せるようになる。ロシア語のリスニング（検定3級程度）や、テキストを早く美しく音読できること、ロシア語の実践会話の習得、語彙を増やし和訳や露訳の力を向上させる。毎年5月と10月に実施されるロシア語能力検定試験4級3級の合格を目指す（資格として履歴書に書くことができます。ロシア語資格は珍しいため面接時に武器となります）。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

経済・社会学部の合同授業のため、履修登録期間に授業形態（対面、オンライン）についてのアンケートを実施。それに伴う授業計画の変更については、学習支援システムでも提示します。春学期はロシア語能力検定試験4級3級の合格を目指し、基礎文法の習得を完成させ、対策問題などを解く。また、視聴覚教材で生きたロシア語に触れ、リスニングし、美しい発音でのリーディング練習を行う。課題等に対するフィードバックは、授業内あるいは学習支援システム上で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション、映像紹介、基礎文法の復習	オリエンテーション（自己紹介）、映像紹介、既習の教科書での基礎文法の復習
第2回	ロシア語能力検定試験対策（4級-1）	発音、アクセント、名詞の性別と人称代名詞
第3回	ロシア語能力検定試験対策（4級-2）	名詞の複数形、アクセントのついた文章の朗読、テキスト解説
第4回	ロシア語能力検定試験対策（4級3級-1）	動詞（現在人称変化、過去形、未来形、完了体）
第5回	ロシア語能力検定試験対策（4級3級-2）	副詞、無人称文、疑問詞と返答、命令形
第6回	ロシア語能力検定試験対策（4級3級-3）	格変化習得（名詞、形容詞、所有代名詞、指示代名詞）
第7回	ロシア語能力検定試験対策（4級3級-4）	運動の動詞（定向動詞と不定向動詞）
第8回	ロシア語能力検定試験対策（3級-1）	関係代名詞、会話練習
第9回	ロシア語能力検定試験対策（3級-2）	数詞（数詞と名詞の変化）、比較級、会話練習

第10回	テキスト読解とリスニング練習1	テキスト読解（ロシアの市民生活など）、リスニングの練習
第11回	テキスト読解とリスニング練習2	テキスト読解（ロシアの歴史など）、リスニングの練習
第12回	テキスト読解とリスニング練習3	テキスト読解（ロシアの文化など）、リスニングの練習
第13回	テキスト読解とリスニング練習4	テキスト読解（ロシアの民話など）、リスニングの練習
第14回	テキスト読解 検定試験対策	テキスト読解、検定試験対策

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

ロシア語学習の成果としてロシア語能力検定試験合格を目指した準備を進めて下さい。基礎文法を復習し、対策問題に取り組んでいきましょう。授業で指定されたテキストや練習問題は事前に準備を済ませてから授業に臨んでください。随時、課題を出す予定ですが、課題は期限までに必ず提出してください。

本科目は毎回2時間の予習・復習を目安とします。また、NHKロシア語講座（テレビとラジオ）やインターネットなどでロシア関連のニュースを聴くなど、日頃からロシア語に触れてみましょう。

【テキスト（教科書）】

テキストは、適時プリントを配布します。

露和辞典（博友社ロシア語辞典（1995年、¥6291）が望ましい）

【参考書】

『入門ロシア語文法』和久利誓一著、白水社、1970年、¥1404

『大学のロシア語1』沼野恭子著、東京外国語大学出版会、2013年、¥3520

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業への参加度、予習復習などの学習への取り組み）50%、小テスト・課題の評価（課題や小テスト）50%で評価します。課題は、文法の練習問題、和訳、露訳などです。また、記憶を定着させるための暗唱や音読などを行い、その評価も加味する予定です。詳細は今後、授業支援システムでご確認ください。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません

【その他の重要事項】

ロシア語既習者が対象です。春学期・秋学期合わせての通年での受講が学力向上に効果的であり望ましいです。

ロシア語能力検定試験を10月か翌年5月に受験し、合格を目指します。検定試験を受験しないつもりでの学生の受講も歓迎します。なお、受講生の習熟度や社会情勢等により授業計画およびその進捗は変更される可能性があります。授業形態については対面が基本ですが、詳細は学習支援システムを通じてお知らせします。

【Outline (in English)】

This course is for students who have taken beginner Russian. Complete the acquisition of basic Russian grammar, and can read and translate various texts by looking up a dictionary. Aim to pass Level 4 and Level 3 of the Russian Language Proficiency Test, which can be written on a resume as a qualification. Develop listening and reading skills and acquire practical conversation skills. Deepen your Russian language skills and knowledge about Russia through audiovisual materials such as movies about Russia. Two hours of self-study per week is required to prepare for class. Grades are evaluated by attendance scores (50%) and scores on tests and homework (50%).

LANr200CB
ロシア語セミナー B
小俣 智史
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位
※経済学科生のみ履修できます。初回の授業に出席し担当教員の指示を受ける。

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

10月のロシア語能力検定試験の合格を目指す。並行して中級文法を習得しながら、幅広いジャンルのテキストを読解し、ロシアの歴史や文化への理解を深める。リスニングの練習を重ね、「読む、聴く、話す、書く」の四方向から、ロシア語力を伸ばしていく。映画など視聴覚教材を通じてロシア語力とロシアに関する知識を深める。

【到達目標】

10月のロシア語能力検定試験（4級3級）の合格を目指す（資格として履歴書に書くことができる。ロシア語資格は珍しいため面接時に武器になります）。中級文法（副動詞と形動詞など）を学習し、ロシアの文化・歴史・生活に関するテキスト、文学作品などを読み解いていく。同時に語彙数も増やし、和文露訳のレベルアップをはかる。リスニングや、美しい発音での速いリーディング、ロシア語の実践会話の上達も目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

秋学期の初めは10月開催のロシア語能力検定試験（4級3級）の合格を目指し、基礎文法の総復習、対策問題を解く。試験終了後は多様な文章の読解と和訳のために中級文法（副動詞や形動詞など）を習得。ロシアについてより深く知るために、ロシアの文化・歴史に関するテキスト、ロシア文学作品の文章読解にも挑戦する。リスニングの練習も行う。課題等に対するフィードバックは、授業内あるいは学習支援システム上で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	文法の復習 検定試験対策 1	動詞の時制と命令形、格変化（名詞、形容詞、所有代名詞、指示代名詞）
第2回	文法の復習 検定試験対策 2	形容詞・副詞の比較級、数詞
第3回	文法の復習 検定試験対策 3	露文和訳、和文露訳（検定試験対策問題等）
第4回	中級文法（副動詞） テキスト読解	中級文法の学習（副動詞）とテキスト読解、検定試験対策
第5回	中級文法（能動形動詞） テキスト読解	中級文法の学習（能動形動詞）とテキスト読解
第6回	中級文法（被動形動詞 1） テキスト読解	中級文法の学習とテキスト読解（被動形動詞 1）
第7回	中級文法（被動形動詞 2） テキスト読解	中級文法の学習とテキスト読解（被動形動詞 2）
第8回	テキスト読解とリスニング練習 1	テキスト読解（ロシアでの生活など）、リスニングの練習
第9回	テキスト読解とリスニング練習 2	テキスト読解（ロシアの文化など）、リスニングの練習
第10回	テキスト読解とリスニング練習 3	テキスト読解（現代ロシアの文化など）、リスニングの練習
第11回	テキスト読解とリスニング練習 4	テキスト読解（現代ロシアの歴史など）、リスニングの練習

第12回	テキスト読解とリスニング練習 5	テキスト読解（ロシア文学作品：チェーホフ）、リスニングの練習
第13回	テキスト読解とリスニング練習 6	テキスト読解（ロシア文学作品：プーシキン）、リスニングの練習
第14回	テキスト読解とリスニング練習 7	テキスト読解（学生の要望を反映）、リスニングの練習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

当初の目標であるロシア語能力検定試験に向けて、基礎文法を復習し、対策問題に取り組んでいきましょう。授業で指定されたテキストや練習問題は事前に準備を済ませてから授業に臨んでください。随時、課題を出す予定ですが、課題は期限までに必ず提出してください。

本科目は毎回2時間の予習・復習を目安とします。

また、NHK ロシア語講座（テレビとラジオ）やインターネットなどでロシアの映画やニュースを聴くなど、日頃からロシア語に触れ、ロシアに関して興味あるテーマを調べ掘り下げてみましょう。

【テキスト（教科書）】

露和辞典（博友社ロシア語辞典（1995年、¥6291が望ましい））
その他のテキストは、適時プリントを配布します。

【参考書】

『入門ロシア語文法』和久利誓一著、白水社、1970年、¥1404
『大学のロシア語1』沼野恭子著、東京外国語大学出版会、2013年、¥3520

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業への参加度、予習復習などの学習への取り組み）50%、小テスト・課題の評価（課題や小テスト）50%で評価します。課題は、文法の練習問題、和訳、露訳などです。また、記憶を定着させるための暗唱や音読などを行い、その評価も加味する予定です。詳細は今後、授業支援システムでご確認ください

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません

【その他の重要事項】

ロシア語既習者が対象です。
ロシア語能力検定試験を10月か翌年5月に受験し、合格を目指します。検定試験を受験しないつもりの方の学生の受講も歓迎します。春学期・秋学期合わせての通年での受講が学力向上に効果的です。なお、受講生の習熟度や社会情勢等により授業計画およびその進捗は変更される可能性があります。授業形態（対面・オンライン）の変更については初回の授業で受講生にアンケートを取り、その結果も鑑みて事前に学習支援システムを通じてお知らせします。

【Outline (in English)】

Aim to pass the Russian Language Proficiency Test in October. While learning intermediate grammar at the same time, read a wide range of textbooks and deepen my understanding of Russian history and culture. By listening to audio materials, I will improve your Russian language skills from the four directions of "reading, listening, speaking, and writing." Deepen your Russian language skills and knowledge about Russia through audiovisual materials such as movies. Two hours of self-study per week is required to prepare for class. Grades are evaluated by attendance scores (50%) and scores on tests and homework (50%).

LANC200CA
中国語セミナー A
石 碩
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位
初回の授業に出席し担当教員の指示を受ける。

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、これまでに学んだ基礎的な知識を活かし、中国語をブラッシュアップしていくことを目的とします。

授業では中国の文化・時事問題を扱った文章を読解し、生きた中国語の表現を学んでいきます。

中国の記事やブログなども適宜取り上げ、中国語と中国文化に対する理解を深めていきます。

【到達目標】

中国の社会事情や文化に対する理解を深めながら、中級レベルの理解力、読解力、口頭表現力と文章力を身につけることを目的とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

教科書を精読し、内容を理解した上で日本語に訳します。

また、関連する時事的な話題について、各自調査を行い、発表を行います。学生の発表内容・質問・感想については、授業内で適宜フィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	自己紹介、授業の進め方
第 2 回	第 1 課	読解 (2022 年は中国の「スーパー宇宙年」)
第 3 回	第 2 課	読解 (楼蘭を破らずにば終に還らじ)
第 4 回	1、2 課のまとめ、発表	発表
第 5 回	第 3 課	読解 (超クール！「閃光少女」)
第 6 回	第 4 課	読解 (国産ブーム、いまなお健在)
第 7 回	3、4 課のまとめ、発表	発表
第 8 回	第 5 課	読解 (「テント経済」に見る新たな消費トレンド)
第 9 回	第 6 課	読解 (北京冬季五輪のエピソード)
第 10 回	5、6 課のまとめ、発表	発表
第 11 回	第 7 課	読解 (文字は時代を映し出す)
第 12 回	第 8 課	読解 (飲食こぼれ話)
第 13 回	7、8 課のまとめ、発表	発表
第 14 回	授業内試験	試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書を精読し、記事にふさわしい日本語訳を準備してください。

また、関連する時事的な事柄について、事前に本やインターネットを用いて調査してください。準備・復習時間は 4 時間程度です。

【テキスト（教科書）】

『時事中国語の教科書 2023 年度版』朝日出版社、2023 年。

【参考書】

授業時に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点 30 %、試験 70 %

【学生の意見等からの気づき】

授業を通して、語学のみならず、日本人学生と中国人留学生の文化交流を促進したい

【その他の重要事項】

2 年間中国語を学習した人を対象とします。

ネイティブ・準ネイティブが履修する場合は、初回授業時に面談を行います。

【Outline (in English)】

The goal of this course is to improve Chinese language proficiency and cross-cultural understanding. Students are expected to translate the textbook into Japanese and research related current affairs. Preparation and review time will be approximately 4 hours. Evaluation will be based on 30% regular marks and 70% examinations.

LANC200CA
中国語セミナー B
石 碩
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位
初回の授業に出席し担当教員の指示を受ける。

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、これまでに学んだ基礎的な知識を活かし、中国語をブラッシュアップしていくことを目的とします。
授業では中国の文化・時事問題を扱った文章を読解し、生きた中国語の表現を学んでいきます。
中国の記事やブログなども適宜取り上げ、中国語と中国文化に対する理解を深めていきます。

【到達目標】

中国の社会事情や文化に対する理解を深めながら、中級レベルの理解力、読解力、口頭表現力と文章力を身につけることを目的とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

教科書を精読し、内容を理解した上で日本語に訳します。
また、関連する時事的な話題について、各自調査を行い、発表を行います。
学生の発表内容・質問・感想については、授業内で適宜フィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	前期のまとめ
第 2 回	第 9 課	読解 (若者は欲しがらず、老人は使いこなせないもの、なーんだ?)
第 3 回	第 10 課	読解 (パンダの名前はどうか決める?)
第 4 回	9、10 課のまとめ、発表	発表
第 5 回	第 11 課	読解 (デジタル化が市民生活の助けに)
第 6 回	第 12 課	読解 (トウガラシ大王の「渡り鳥農業」)
第 7 回	11、12 課のまとめ、発表	読解 発表
第 8 回	第 13 課	読解 (消費は時代の移り変わりを映す鏡)
第 9 回	第 14 課	読解 (2000 年代生まれの職場改革)
第 10 回	第 15 課	読解 (中国児童文学の父、百歳に)
第 11 回	13、14、15 課のまとめ、発表	発表
第 12 回	補助教材	読解、発表
第 13 回	補助教材	読解、発表
第 14 回	授業内試験	試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書を精読し、記事にふさわしい日本語訳を準備してください。

また、関連する時事的な事柄について、事前に本やインターネットを用いて調査してください。準備・復習時間は 4 時間程度です。

【テキスト（教科書）】

『時事中国語の教科書 2023 年度版』朝日出版社、2023 年。

【参考書】

授業時に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点 30 %、試験 70 %

【学生の意見等からの気づき】

授業を通して、語学のみならず、日本人学生と中国人留学生の文化交流を促進したい

【その他の重要事項】

2 年間中国語を学習した人を対象とします。

ネイティブ・準ネイティブが履修する場合は、初回授業に面談を行います。

【Outline (in English)】

The goal of this course is to improve Chinese language proficiency and cross-cultural understanding. Students are expected to translate the textbook into Japanese and research related current affairs. Preparation and review time will be approximately 4 hours. Evaluation will be based on 30% regular marks and 70% examinations.

ECN300CA
現代社会と情報A
坂本 憲昭
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

情報システム・IT は社会の隅々まで深く浸透し、どのようなビジネスにおいても、それらを活用することが必須であり、IT と経営全般に関する総合的知識が不可欠です。そのために経営戦略、マーケティング、情報セキュリティ、知的財産権などの基礎（またはツール）を学びます。具体的には、これらの職業人としての知識を集約した「情報処理の促進に関する法律」に基づく国家試験 IT パスポートの内容に準拠し、そしてシステムやアプリケーションソフトを発注する立場として受け入れテストに関するソフトウェアテストやその技法の基礎を活用します。

【到達目標】

職業人として社会の情報化の進展に主体的に対応できる能力の取得、現代社会の基盤を構成している情報にかかわる知識や技術を習得し、情報が現代社会に及ぼす影響を理解します。具体的に、(1) 情報システムを業務に活用し、情報システムの投資対効果などを理解します。(2) 企業における問題発見・問題解決のために、業務の把握、データ収集・分析・解析、解決策の策定などに寄与する IT ツールの知識を習得します。(3) 情報システムを安全に利用するためのセキュリティなどの知識、情報倫理などを習得します。(4) ソフトウェアの受け入れテストに関する基礎知識の一部を習得します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】

授業内容は3本柱になります。それぞれにおいて「講義と演習問題」試験のサイクルで授業を進めます。下記の授業計画は概要で流れを示したものです。試験は3回あります。提出課題はありません。各試験結果のフィードバックは「学習支援システム」で公開します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンスおよび現代社会における情報システム	情報化社会において求められる職業人としての知識について
第2回	ストラテジ系前半（企業活動）	企業活動、企業の組織、最高情報責任者 CIO、コンプライアンス、OR や IE など
第3回	ストラテジ系前半（業務把握ツール）	問題発見のための業務把握のための ICT ツール、情報ツールなど
第4回	ストラテジ系前半（業務分析ツール）	問題解決のための業務解析、業務分析のためのツールと活用事例等
第5回	ストラテジ系前半試験	ストラテジ系前半の確認となる試験と復習など
第6回	ストラテジ系後半（経営戦略策定ツール）	経営戦略策定のためのデータ収集手法など
第7回	ストラテジ系後半（分析手法）	ビジネス戦略策定のためのデータ分析手法など
第8回	ストラテジ系後半（情報システム）	情報システム戦略の策定と事例紹介、アローダイアグラムなど
第9回	ストラテジ系後半（ビジネスインダストリ技術）	規格、標準化、電子商取引社会などの情報システム、ビジネスインダストリなど
第10回	ビジネスインダストリ事例	情報社会におけるビジネスインダストリに関する事例紹介等とマネジメント系の一部
第11回	ストラテジ系後半試験	ストラテジ系後半の確認となる試験と復習など、マネジメント系を一部含む
第12回	IT スキル及びモラルと計算問題	計算問題（PART 図、物の流れと比率 SPI など）演習
第13回	IT スキル及びモラルと受入テスト	情報倫理・情報セキュリティ、To/CC/BCC、デジションテーブルなど
第14回	IT スキル及びモラル範囲試験	IT スキル及びモラルとこれまでの計算問題試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の復習に取り組む時間は各 4 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用せず、教員による解説資料と演習問題を学習支援システムに掲載します。

【参考書】

情報処理技術者試験「IT パスポート」の参考書および問題集が参考書になります。タイトルに「ソフトウェアテスト」「ソフトウェアテスト」の単語が含まれる書籍が参考書になります。

【成績評価の方法と基準】

学習支援システムのテスト機能を使い 3 回試験をします。試験結果点数の換算方法などの詳細についてガイダンスファイルを必ず参照してください。成績評価は 100 点満点に換算して 60 点以上が合格となります。

【学生の意見等からの気づき】

学習支援システムに掲載されるガイダンスファイルを参照しない方がいらっしゃいます。必ず参照してください。

【その他の重要事項】

- ・学習支援システムに掲載する最新の「ガイダンスファイル」を参照してください。成績や公欠についての質問は、最初にまず「ガイダンスファイル」を参照してください。
- ・「実務経験のある教員による授業」に該当し、システム部での業務経験に基づく事例紹介をします。
- ・受講する場合は、ガイダンスファイルに記載した内容を「理解/納得/了承」してから、本登録してください。
- ・情報処理技術者試験「IT パスポート」とは、情報処理の促進に関する法律（昭和 45 年法律第 90 号）に基づき、経済産業大臣が実施する情報処理に関する業務を行う者の技術の向上に資するため、情報処理に関して必要な知識及び技能を問う、日本の国家試験です。

【Outline (in English)】

< Course outline >

The aim of this course is to help students acquire knowledge in information technology and management.

< Learning Objectives >

At the end of the course, students are expected to can answer questions about strategy and management on the IT Passport exam of the Japan Information-Technology Engineers Examination.

< Learning activities outside of classroom >

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

< Grading Criteria / Policies >

Your overall grade in the class will be decided according to the three examination (100%).

ECN300CA
現代社会と情報 B
菅 幹雄
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

情報通信技術の発展は、情報・知識の自由な創造・流通・共有化を可能にし、それは経済・社会に大きな変革をもたらした。一方、個人に関する大量の情報が集積・利用されたことに伴い、個人情報保護についての不安も顕在化した。個人情報を保護しつつ、マイクロデータ（個人情報が記録されたデータ）をいかに社会全体の利益のために活用すべきかを論じる。

【到達目標】

個人情報保護の重要性を十分に認識した上で、マイクロデータ活用の有効性を理解できるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】

パワーポイントを用いた講義形式であり、Zoom を用いて実施する。毎回、テストを実施する。テスト提出後、正解を提示し、テスト結果について講評を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	情報化社会を予測した人々	梅棹忠夫『情報産業論』、林雄二郎『情報化社会』、ダニエル・ベル『脱工業社会の到来』、ドオロネ、ギャドレ『サービス産業学説』
2	メインフレームによる支配	マクナマラ、DVD『フォッグ・オブ・ウォー』視聴、デビッド・ハルバースタム『ベスト&ブライテスト』
3	シリコン・バレーのベンチャー企業によるマイクロプロセッサの開発	DVD『シリコン・バレーの百年』視聴
4	米国対抗文化とパーソナルコンピュータの登場	アップル、DVD『ステイプ・ジョブズ：ラスト・メッセージ』視聴
5	ネット社会の到来	村井純『インターネットの基礎』、西垣通『IT 革命—ネット社会のゆくえ』、西垣通『ウェブ社会をどう生きるか』
6	検索エンジンとターゲット広告	佐々木俊尚『グーグル— Google 既存のビジネスを破壊する』、エリック・シュミット、ジャレット・コーエン『第五の権力』、DVD『グーグル革命』視聴
7	ビッグデータと人工知能、シンギュラリティ	ビクター・マイヤー＝ショーンベルガー、ケネス・クキエ『ビッグデータの正体』、西垣通『ビッグデータと人工知能』、涌井良幸、涌井貞美『Excel でわかるディープラーニング超入門』、レイ・カーツワイル『シンギュラリティは近い』、ヴァーナー・ヴィンジ『マイクロチップの魔術師』、新井紀子『AI vs. 教科書が読めない子どもたち』

8	ジョージ・オーウェルの『1984』と監視社会	DVD『1984』視聴、デイヴィッド・ライアン『監視社会』
9	個人情報保護とデータの利活用（1）	住民基本台帳ネットワーク、個人情報保護法、堀部政男『プライバシーと高度情報化社会』、年金記録問題、マイナンバー
10	個人情報保護とデータの利活用（2）	個人情報保護とデータの利活用、オープンデータ、オプトアウト、「内定辞退予測」の問題
11	公的マイクロデータの利活用（1）	統計法、匿名データ、匿名化の技法
12	公的マイクロデータの利活用（2）一般用マイクロデータ	一般用マイクロデータ、基本統計量、特異値
13	公的マイクロデータの利活用（3）	相関と回帰分析、クロス集計表
14	デジタル経済の把握	デジタル SUT、内閣府研究会報告書等 No.85 「デジタル SUT（供給・使用表）2015、2018 年表の推計について（デジタルエコノミー・サテライト勘定に関する調査研究）」報告書

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書を使用しない。授業で使用した Powerpoint のファイルを pdf ファイルで提供する。

【参考書】

各回の内容の欄に参照する文献を示した。

【成績評価の方法と基準】

毎回のテスト 100 %

【学生の意見等からの気づき】

小テストの正解はなるべく早く授業支援システムにアップする。

【Outline (in English)】

Course outline: The development of information and communication technology has enabled the free creation, distribution, and sharing of information and knowledge, which has brought about major changes in the economy and society. On the other hand, with the accumulation and use of a large amount of personal information, anxiety about personal information protection has become apparent. Discuss how micro data (data on which individual information is recorded) should be used for the benefit of society as a whole while protecting personal information.

Learning Objectives: Be able to understand the effectiveness of micro data utilization after fully recognizing the importance of personal information protection.

Learning activities outside of classroom: The standard time for preparation and review for this class is 2 hours each.

Grading Criteria /Policy : 100% test every time

ECN300CA
経済統計論 A
菅 幹雄
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

経済統計論 A では産業統計を取り上げる。事業者についての行政記録情報から出発して、ビジネスレジスター、経済センサス、各種産業統計を経て産業連関表に至るまでの流れを説明する。

【到達目標】

経済・社会を記述する統計がどのような体系に基づいて作成されているかを理解することによって、経済・社会に関する統計を表面的ではなく、深く読み取る能力を身に着けることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP6」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】

パワーポイントを用いた講義形式である。毎回、学習支援システムでテストを実施する。テスト提出メ切り後、正解を提示し、テスト結果について講評を行うことでフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	経済統計のしくみ、事業所・企業についての行政記録情報	経済統計のしくみ、産業統計の流れ、商業・法人登記、労働保険情報、EDINET
2	産業統計の基礎知識	統計単位、産業分類 (JSIC, ISIC, NAICS, NACE)、生産物分類 (CPC, NAPCS, CPA)
3	経済センサス- 基礎調査	事業所統計調査、経済のサービス化、調査方法、ローリング調査
4	ビジネスレジスター	母集団名簿、統計調査のインフラストラクチャー、レジスター統計
5	経済センサス- 活動調査（1）調査方法	調査方法、企業と事業所、個人企業と法人企業、単独事業所企業と複数事業所企業
6	経済センサス- 活動調査（2）経営指標と特化係数	調査結果の分析事例の紹介、経営指標を用いた産業間比較、特化係数を用いた地域分析
7	工業統計調査	工業の年次統計調査、工場法、重工業化、高度成長、軽薄短小、空洞化
8	経済構造実態調査（商業、サービス業）	商業の年次統計調査、流通革命、流通経路、業種と業態、大店法、規制の強化と緩和、立地環境特性、サービス産業の年次統計調査、情報化社会（情報通信業、専門・技術サービス業）、高齢化社会（医療・介護業）、観光立国（交通業、宿泊・飲食業）
9	月次産業統計調査と指数	経済産業省生産動態統計調査、鉱工業生産指数、商業動態統計調査、第三次産業活動指数、季節調整
10	産業連関表（1）レオンチェフ	ワシリー・レオンチェフ、DVD『13プラス』視聴
11	産業連関表（2）産業連関表のしくみ	産業連関表のしくみ、ケネーの経済表、相互依存関係、産業連関表の作成方法、接続表、地域間表

- 12 産業連関表（3）産業 産業連関分析（輸入外生きモデル）
連関分析（輸入外生モデル）
- 13 産業連関表（4）産業 産業連関分析（輸入内生きモデル）
連関分析（輸入内生モデル）
- 14 産業連関表（5）東京 東京都産業連関表 経済波及効果
都産業連関表を用いた 分析ツール
経済波及効果分析

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書を使用しない。授業で使用した Powerpoint のファイルを pdf ファイルで提供する。

【参考書】

清水雅彦・菅幹雄『経済統計』培風館 3850 円（※昨年度までの教科書。内容が旧くなっているので今年度は参考書とした。）
福井武弘『標本調査の理論と実際』日本統計協会 2580 円

【成績評価の方法と基準】

毎回のテスト 100 %

【学生の意見等からの気づき】

小テストの正解はなるべく早く授業支援システムにアップする。

【学生が準備すべき機器他】

パソコン（必須ではないが、授業において Excel を用いた計算方法を紹介する）

【Outline (in English)】

Course outline: Economic statistics A deals with industrial statistics. I will explain the flow from the administrative record about the business to the input-output table through the business register, economic census, and various industrial statistics.

Learning activities outside of classroom: The standard time for preparation and review for this class is 2 hours each.

Grading Criteria /Policy: 100% test every time

ECN300CA
経済統計論 B
菅 幹雄
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

経済統計論Bでは世帯統計を取り上げる。個人・世帯の行政記録情報から出発して、国勢調査、家計調査、消費者物価指数という流れを説明する。

【到達目標】

経済・社会を記述する統計がどのような体系に基づいて作成されているかを理解することによって、経済・社会に関する統計を表面的ではなく、深く読み取る能力を身に着けることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP6」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】

パワーポイントを用いた講義形式であり、Zoomを用いて実施する。毎回、小テストを実施する。家計簿アプリを用いた結果についてレポートを実施する。テスト提出後、正解を提示し、テスト結果について講評を行うことでフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	個人・世帯についての行政記録情報	世帯統計の流れ、住民基本台帳、戸籍法による届出、出入国管理記録
2	国勢調査（1）民主主義の基盤、調査方法	国勢調査の必要性、選挙区の区割り、標本調査のサンプリングフレーム、調査方法、調査員調査
3	国勢調査（2）年齢・時間・コーホート	人口の基本的属性、人口ピラミッド、団塊の世代、人口の高齢化、標準世帯、単身世帯の増加、首都圏への人口集中
4	国勢調査（3）ベティ=クラークの法則	人口の経済的属性、就業状態、産業と職業、ベティ=クラークの法則
5	人口推計と人口予測	人口学的方程式、中間年人口の推計、人口の将来予測、出生率、死亡率、純移動率、コーホート変化率
6	標本抽出法	単純無作為抽出、層化抽出、多段抽出、層化多段抽出、標本誤差、
7	家計調査（1）家計簿、調査方法	家計簿、調査方法
8	家計調査（2）エンゲルの法則	エンゲル係数、エンゲルの法則、需要の所得弾力性
9	家計調査（3）不平等度を測る	ローレンツ曲線、ジニ係数、相対的貧困率、全国消費実態調査
10	家計簿アプリを用いた学生の消費支出調査の分析結果	家計簿アプリ、学生の消費支出調査
11	消費者物価指数（1）	指数算式、フィッシャーのテスト、速報性
12	消費者物価指数（2）	理論的生計費指数、パーシェ・チェック、基準改定、CPI ショック、連鎖指数
13	消費者物価指数（3）	実質化、要因分解

14 消費動向指数、まとめ 実質化、1 か月の日数の影響、世帯人員の影響、世帯主の年齢の影響、高額消費、家計消費状況調査、単身モニター調査、傾向スコア

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書を使用しない。授業で使用した Powerpoint のファイルを pdf ファイルで提供する。

【参考書】

清水雅彦・菅幹雄『経済統計』培風館 3850 円（※昨年度までの教科書。内容が旧くなっているので今年度は参考書とした。）
福井武弘『標本調査の理論と実際』日本統計協会 2850 円

【成績評価の方法と基準】

毎回のテスト及びレポート 100 %

【学生の意見等からの気づき】

小テストの正解をなるべく早く授業支援システムにアップする。

【学生が準備すべき機器他】

電卓

【Outline (in English)】

Course outline: Economic statistics B deals with household statistics. Starting from the administrative record of individuals and households, I will explain the flow of census, household survey, and consumer price index.

Learning activities outside of classroom: The standard time for preparation and review for this class is 2 hours each.

Grading Criteria /Policy: 100% test every time

PHL300CA
日本文化論
黒田 俊太郎
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、「定番教材」を読み直す。
高校の国語教科書で夏目漱石の「こころ」という小説に接したという人は少なくないだろう。教科書で老若男女に読まれてきたそうした「定番教材」はしかし、いつの時代も同じ読まれ方がなされてきたわけではない。「定番教材」はこれまで様々な読まれ方がなされてきたのであり、それらは時代を映す鏡でもあるはずである。

この授業ではいくつかの「定番教材」を扱うが、それらの物語のこれまでの読まれ方を参照しながら、物語世界内で展開される対話、あるいは提示される課題について、改めて私たちの「教室」で議論してみたい。私たちが作品を読むことで対峙することになる解決困難な「問い」は、現代的な課題として私たちに残されたものでもあるだろう。

この授業では、そうした「問い」に対しあくまでも分析的に迫るためのいくつかの方法論（注釈・作品研究史の調査・文学理論など）についても紹介したい。

【到達目標】

・「定番教材」に内在していた「問い」を再発見し、現代的な課題として問い直そうとする。（態度目標 [本単元で育成したい学習者の態度]

・「定番教材」に内在する「問い」についての学習者同士や教師との対話を通して、私たちが人生において向き合ねばならない本質的問題について知る。（価値目標 [本単元で考えさせたい内容や価値観]）
・小説を分析的に読むための基本的な研究方法・調査方法を学び、小説を分析することができる。（技能目標 [本単元で習得させたい知識や言語能力]

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

指示された「定番教材」や先行研究を読んでくること。授業では、「定番教材」や研究方法・調査方法に関する講義を行うが、それに関連する課題にも必ず取り組んでもらう。また課題についてグループで話し合ったり、グループ内の意見を全体に対しプレゼンしたりしてもらおう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の概要と目的
第2回	作品・テキスト・語り手	研究史
第3回	森鷗外の文学	「高瀬舟」①
第4回	森鷗外の文学	「高瀬舟」②
第5回	森鷗外の文学	「高瀬舟」③
第6回	佐多稲子の文学	「キャラメル工場から」①
第7回	佐多稲子の文学	「キャラメル工場から」②
第8回	佐多稲子の文学	「キャラメル工場から」③
第9回	太宰治の文学	「富嶽百景」①
第10回	太宰治の文学	「富嶽百景」②
第11回	太宰治の文学	「富嶽百景」③
第12回	向田邦子の文学	「字のない葉書」①
第13回	向田邦子の文学	「字のない葉書」②
第14回	まとめ	半期のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学習者には、事前課題や復習課題に取り組んでもらうことがある。また、課題の有無に関わらず、準備学習・復習はそれぞれ2時間を目安に取り組むこと。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

佐藤泉『国語教科書の戦後史』勁草書房、2006
石原千秋『国語教科書の中の「日本」』筑摩書房、2009
その他、適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

- ・出席は毎回取る。
- ・全14回中10回以上の出席を単位修得の最低条件とする。
- ・遅刻は欠席0.5回とカウントする。
- ・課題提出は締め切り順守（基本は授業内の提出）。
- ・事前課題等を指示する場合は必ず取り組むこと。
- ・提出物100%。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

オンライン授業に際しては、インターネット回線とパソコン、カメラ、マイクを用意してください。パソコンがない場合は、スマホやタブレットを代用してもかまいません。

また授業中も、それらのデバイスを積極的に用いて情報収集を行いながら、課題等に取り組んでください。

【Outline (in English)】

This course will deal with the novels that have been repeatedly published in Japanese language textbooks for schools at all three levels.

Many people, young and old, might have encountered Natsume Soseki's novel "Kokoro" in high school as this novel has been picked up in high school Japanese textbooks many times over decades. This kind of "regular" novels in textbooks, however, have not always been read in the same way. Its interpretation has varied depending on time and this course will consider the social or historical backgrounds these different interpretations could reflect.

In this course, students will read a different "regular" novel for each class time while referring to how these novels have been read so far. Students will also discuss the dialogues and the issues presented in the texts as intractable issues in such novels continue to be contemporary issues.

In order to analytically approach such issues, this course will also introduce students to some methodologies such as literary theory.

Students are expected to spend about two hours for preparation and review of each class, respectively.

Attendance Policy: In order to pass this course, students should attend at least 10 classes (out of 14). A late attendance = 0.5 attendance.

Grading Policy: assignments (they should be submitted by the deadline) (100%)

POL300CA
政治過程論
岡崎 加奈子
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

私たちの暮らす現代社会において、政治の果たす役割は重要である。しかしながら、私たちは、政治的調整・決定の過程の実態についてどれほど理解し、思考しているだろうか。本講義では、政治過程論についての基礎的概念を身につけ、現代日本の政治過程についての幅広い知識と理解を深め、今日の政治課題について深く考察することを目的とする。

【到達目標】

本講義では以下の点を到達目標とする。
 学生が現代社会の政治をめぐる制度や政治過程について、幅広い知識と理解を得られること。
 学生が政治的な事象について自ら考察し、社会と自分との関係性について幅広く思考する力を身につけること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP4」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】

本講義では、現代日本における政治制度・政治過程について、授業で配布するレジュメ・資料をもとに講義をすすめていく。その際、国会、政党、市民など現代の政治を構成する要素について理解するとともに、これらが政治過程の中でどのような位置にあるかを考察していく。

学生は、毎授業後に質問・意見・感想等を提出する。次回授業において、質問にたいする回答や意見・感想の紹介などの共有をおこなう。また、複数回のレポート課題を予定している。

講義期間中に新型コロナウイルスの影響等により授業形態について変更が生じた場合は、学習支援システムにより周知する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	序章	政治過程論とは何か
第2回	現代社会と政策	現代社会の特徴と政策について
第3回	権力とは何か	権力と政治について
第4回	代表制	民主主義と代表制について
第5回	国会審議制度	議会の発達と国会のしくみ
第6回	立法過程	閣法・議員立法の審議過程
第7回	官僚・利益団体	政治過程における官僚・利益団体
第8回	政党制	政党の発達と政党制
第9回	戦後政党政治	戦後日本の政党政治の変遷
第10回	自治体のしくみ	自治体の政治過程と地方分権改革
第11回	自治体の財政・政策	自治体の財政・政策とその課題
第12回	世論・メディア	世論の形成とメディアの影響
第13回	市民とは何か	現代社会における市民の政治意識と政治参加
第14回	まとめ	これまでの振り返りと講義の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学生は、授業内容と毎回配布される資料をもとにノートを作成し復習すること。また本講義は、時事的な政治事象と関連づけた講義内容となることから、学生は、日ごろから新聞などをよく読むこと、さらに、講義の中で紹介する参考文献等について読むことが望ましい。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

指定なし

【参考書】

授業内で適宜、参考文献を紹介していく。

【成績評価の方法と基準】

学期末試験（50%）および平常点（50%）により評価する。平常点は毎回の授業への取り組みや、レポート等課題の提出及びその評価により構成される。

【学生の意見等からの気づき】

政治的な事象について、講義の内容を通じてより深く思考できる力を養うことを意識し、講義をおこなっていく。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを利用できるようにしておくこと。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire an understanding of the fundamental principles of political process. This course deals with the basic concepts and principles of the party system, the bureaucracy and the Diet in Japan.

At the end of the course, participants are expected to understand the basic political science and key challenges related to the political process in the modern society.

Final grade will be calculated according to the following process
 term-end examination: 50%, in class contribution: 50%.

POL300CA
国際政治論
曹 海石
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国際政治学の基礎知識を学ぶ。

【到達目標】

この講義では、国際政治をめぐる様々な概念と理論を紹介すると同時に、「国際政治を見る目」を養うトレーニングを行う。受講生には、毎回授業の最後に質問を出してもらう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP4」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】

この講義では、社会科学という視点と歴史的な観点から、国際政治における主要な概念と理論を分析しながら、現代の世界を考えていく。また、中国・朝鮮半島及び東南アジア諸国の開発・近代化、政治体制とその移行、民主化とナショナリズムを、日本の戦後史と関連付けながら相互関係を考察する。なお、授業形態は、講義に加えて、授業内での課題発表や個別課題等に対するフィードバック方法などを取る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	国際連合と国際政治とは何か	第二次世界大戦、国際連合、米ソ関係、多極化、イデオロギー
第 2 回	東西冷戦と朝鮮戦争	冷戦、国連軍、中国志願軍、サンフランシスコ講和会議、日米同盟
第 3 回	現代中国の政治と外交	毛沢東、文化大革命、鄧小平、一人っ子政策、改革開放政策
第 4 回	戦後の日中関係史	民間貿易協定、国交正常化、天皇陛下下訪中、ODA、尖閣諸島問題
第 5 回	台湾問題と米中関係	金門砲撃、一国二制度、米国の台湾関係法、台湾ナショナリズム、三つのノー
第 6 回	中国の少数民族問題	民族政策、民族教育、チベット、新疆ウイグル自治区、ダライラマ
第 7 回	韓国の政治と外交	李承晩ライン、軍事独裁、民主化運動、保守と革新、太陽政策
第 8 回	日韓関係	日韓基本条約、金大中事件、日本文化の開放、韓流ブーム、知られざる条約内容秘話
第 9 回	北朝鮮の政治と外交	金日成、先軍政治、核戦略、世襲体制、同距離外交
第 10 回	南北朝鮮関係	離散家族、経済支援、首脳会談、開城工業団地
第 11 回	日朝関係	朝鮮人帰国事業、拉致問題、万景峰号旅客船、日朝平壤宣言
第 12 回	知られざる中朝関係	相互援助協力条約、古朝鮮と領土問題、東北歴史工程、高句麗問題
第 13 回	日本と東南アジア諸国	ODA、アセアン・プラス3、FTA、南シナ海問題、RCEP
第 14 回	復習と試験	今までのことをどれくらい理解したかを復習し、それを試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日本の三大新聞紙以外に、中国の「人民日報海外日本語版」や韓国の「朝鮮日報海外日本語版」などを読むことを勧める。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は特に指定しない。

【参考書】

- 1、河辺一郎『国連と日本』岩波新書、1996年。
- 2、下斗米編『アジア冷戦史』中央公論新社、2004年。
- 3、天児慧編『膨張する中国の対外関係』勁草書房、2010年。
- 4、鐸木昌之『北朝鮮』東京大学出版会、1992年。
- 5、鈴木佑司『東南アジアの危機の構造』勁草書房、1988年。
- 6、国分良成など『日中関係史』有斐閣、2013年。

【成績評価の方法と基準】

授業への参加度「平常点」30%、レポート課題10%、期末テスト60%

【学生の意見等からの気づき】

日本のテレビや新聞では報道されていない内容、裏話などをもっと追加すること。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire international politics

Term-end examination: 30%, Short reports : 10%, in class contribution: 60% m

PHL300CA
日本思想史
古澤 直人
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本思想の基層にある伝統思想を検討する。政治思想としての忠誠と反逆の思想は詳細に検討する。思想史に関する如上のテーマを論述する活動を通じて、事実（史料）にもとづき筋道を立てて事物をとらえる歴史的認識方法を訓練する。

【到達目標】

日本の伝統思想と政治思想を学ぶ。具体的には、中華思想、小中華思想、神仏習合思想、公権授受思想、合議の思想、徳治主義などの理解を深める。日本思想史の大きなテーマである忠誠と反逆の思想については歴史的人物に即して深い知見を得る。関連史料を読み解き、歴史的思考力の獲得をめざす。毎回ショートペーパーを提出し到達度を評価されるものとする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

授業支援システムにアップした各回の講義資料（ワードとパワーポイント pdf）を事前に読み、課題回答の要点をメモ書きしておく。パワーポイントにそって授業を進め、章ごとに設定された課題の回答をそれぞれ考える。課題のうち一つを授業中に毎回 hoppii に提出してもらう。課題は毎回採点の上、改善点などがある場合はコメントを付しフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	国際環境としての中華思想	礼、天下、王道理論、徳治主義、東アジアの国際秩序
2	小中華思想	中国文化と国粋主義、辺土小国思想、罪と穢れと災い、ケガレ意識
3	神仏習合思想	日本の宗教思想、神と仏の関係、神宮寺建立、本地垂迹説、御霊信仰
4	歴史思想	『源氏物語』と『平家物語』、読者層の違い、歴史観への影響
5	武士の思想①：平清盛前半生を通じて	清盛をめぐる伝承、海洋国家思想、平家一門の繁栄、清盛の思想変貌
6	武士の思想②：平清盛後半生を通じて	忠と孝、忠誠と反逆、天皇の信義、海洋国家思想
7	武士の思想③：源頼朝を通じて	冷酷と温情、頼朝の政治思想、京都派と東国派
8	武士の思想④：木曾義仲を通じて	京都の義仲、異質な存在としての武士、主従思想
9	武士の思想⑤：源義経を通じて	判官鼻真、伝説、合戦のルール、反逆と没落
10	幕府成立をめぐる思想的対立	公権授受思想、朝廷権威か第2の主権か、形式と実体
11	執権政治と合議制の思想	將軍専制、権力と権威、日本の政治システム
12	承久の乱と徳治思想	朝廷の権威、政子の演説、天皇権威の失墜
13	御成敗式目の思想	強きものと弱きもの、北条泰時の思想、道理の思想
14	蒙古襲来と神国思想	内政と外交、防衛体制と権力集中、神国思想

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業支援システムにアップした講義資料（ワードとパワーポイント pdf）を事前に読み、課題の回答をメモ書きしておく。講義後 hoppii に挙げた「課題の解説と回答例」をみて復習する。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。教材を学習支援システムから各自ダウンロードする。

【参考書】

家永三郎『日本道徳思想史』（岩波書店、1977年改版）

【成績評価の方法と基準】

提出課題に関する評価の相対平均で評価する（90%）。これに平常点（授業への積極的な貢献度）を考慮して（10%）、総合評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】

回によって内容が多すぎるという指摘があるので厳選したい。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システム、PC またはタブレット。授業中に課題を提出するために必須となる。

【その他の重要事項】

高校日本史教科書程度の基礎知識を要するので、高校時代に日本史を履修しなかった学生は各自で『高校日本史教科書』（とくに古代中世の部分）を自習しておいてほしい。

【Outline (in English)】

Consider the traditional thought that is the basis of Japanese thought. For example, the Chinese thought, and Shinbutsu-shugo thought, loyalty and rebellion as samurai ideas. At the end of the course, students are expected to acquire historical recognition method. Students must submit a short paper for each assignment. Final grade will be calculated by the arithmetic mean of each test. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

ECN200CA
開発経済入門A
池上 宗信
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

経済成長の理論と実証分析、伝統的な農業から工業への経済発展のプロセスを学びます。また、これらの開発経済学のトピックを学ぶ準備として、かつ、経済学部1年生向けの経済学入門の補足として、労働需要、所得分配、回帰分析を学びます。

【到達目標】

なぜ我が国の経済は大きく、成長が緩やかなのに、サブサハラアフリカの国々の経済は小さく、成長が急激なのでしょう？ 経済学の理論、手法、統計資料にもとづいて、このような開発途上国、国際社会に関連する経済問題を主体的に考察、議論できるようになることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】

本講義は、2022年度の履修者数に基づいて、教室を割当てられていない、オンライン授業が確定している科目です。

各講義前の課題として、各自、リーディング・アサイメントを読みます。

各講義スライドは、このリーディング・アサイメントに基づきます。授業中は、担当教員が講義スライドを解説し、受講生が必要に応じて質問します。

授業中に、受講生は演習問題を解き、その後、教員と答え合わせをします。

各講義後の課題として、学習支援システム上の小テストを解きます。受講生は、小テストの各問の正解・不正解を自動フィードバックとして受け取ります。

受講生は、中間試験と期末試験の点数を自動フィードバックとして受け取ります。

授業時間外の質疑応答は、学習支援システムの掲示板を活用します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	労働需要 1	生産関数、等利潤線
第2回	労働需要 2	利潤最大化（図による導出）、微分
第3回	労働需要 3	利潤最大化（数式による導出）
第4回	労働需要 4	所得分配
第5回	労働需要 5、経済成長 1	国民総生産、購買力平価
第6回	経済成長 2	経済成長の記述統計、ソロー・モデル
第7回	まとめと解説、中間試験	第1回から6回までの内容を復習。中間試験。
第8回	経済成長 3	貯蓄率、労働成長率の変化
第9回	経済成長 4	一人あたり資本の成長率、技術水準の変化、相関と因果
第10回	経済成長 5	回帰分析、条件付き収束
第11回	経済成長 6、構造転換 1	成長会計、発展会計、構造転換の記述統計
第12回	構造転換 2	ルイス・モデル
第13回	構造転換 3	ハリス＝トダロ・モデル、トダロの逆説
第14回	まとめと解説、期末試験	第8回から13回までの内容を復習。期末試験。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各講義スライドの基となっている20ページほどの文章をリーディング・アサイメントとし、各講義の前に予習として読みます。

オンライン授業となってしまった場合、各講義の後に、学習支援システム上の小テストを解きます。

授業、演習問題の内容を各自の必要に応じて復習します。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません。

【参考書】

神取道宏 (2014) 『ミクロ経済学の力』 日本評論社

ジェトロ・アジア経済研究所他編 (2015) 『テキストブック開発経済学 第3版』 有斐閣

戸堂康之 (2021) 『開発経済学入門 第2版』 新世社

【成績評価の方法と基準】

中間試験 40%、期末試験 40%。平常点 20%。

学習支援システム上でオンライン試験を実施します。

【学生の意見等からの気づき】

授業中に、各自が演習問題を解き、その後、教員と答え合わせをする、という形式を今年度も継続します。この形式をふまえて履修した学生達の意見ですが、この形式に対する反対意見は過去5年間ありません。

【Outline (in English)】

- Course outline

We will study growth theory and its empirical studies and review economic development from traditional agriculture to industrialization.

Before studying these topics in Development Economics, we will study labor demand, income allocation, and regression analysis, which are not covered by introductory Economics for 1st year undergraduate students.

- Learning Objectives

Why are the economies of Sub-Saharan African countries small and growing rapidly while Japan's economy is large and growing slowly?

The goal of this class is that students will become able to proactively think and discuss economic issues related to developing countries based on economic theories, methods, and data.

- Learning activities outside of classroom

Students will read around 20 pages of texts that form the basis of each lecture slide as a reading assignment before each lecture.

Students will review the contents of the classes and exercises according to their own needs.

The standard time for preparation and review for this class is 2 hours each.

- Grading Criteria, Policies

Grading will be decided based on mid-term exam (40%), end-term exam (40%), and contribution to class (20%).

ECN200CA
開発経済入門B
池上 宗信
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

開発経済入門Aでは、経済成長、産業構造転換という経済発展の過程を学びました。開発経済入門Bでは、経済発展の潜在的な要因として、貿易、金融、起業を取り上げます。貿易、金融の利益を示す経済学の理論モデル、実証分析を学びます。

【到達目標】

なぜ我が国を含む東アジアの国々では、経済に占める貿易の比率が大きく、金融の深化も進んでいるのに、サブサハラアフリカの国々ではまだそれほど進んでいないのでしょうか？
経済学の理論、手法、統計資料にもとづいて、このような開発途上国、国際社会に関連する経済問題を主体的に考察、議論できるようになることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】

本講義は、2022年度の履修者数に基づいて、教室を割当てられていない、オンライン授業となることが確定している科目です。

各講義前の課題として、各自、リーディング・アサイメントを読みます。

各講義スライドは、このリーディング・アサイメントに基づきます。授業中は、担当教員が講義スライドを解説し、受講生が必要に応じて質問します。

授業中に、受講生は演習問題を解き、その後、教員と答え合わせをします。

各講義後の課題として、学習支援システム上の小テストを解きます。受講生は、小テストの各問の正解・不正解を自動フィードバックとして受け取ります。

受講生は、中間試験と期末試験の点数を自動フィードバックとして受け取ります。

授業時間外の質疑応答は、学習支援システムの掲示板を活用します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	貿易 1	比較優位、絶対優位
第2回	貿易 2	2財1時点モデル
第3回	貿易 3	国際価格比と比較優位、貿易政策下の予算制約線
第4回	貿易 4、金融 1	輸入代替工業化、実証分析、異時点間予算制約線
第5回	金融 2	割引現在価値、消費者の異時点間効用最大化
第6回	金融 3	企業の利潤最大化、資本制約、1財2期間モデル（消費者かつ生産者）
第7回	まとめと解説、中間試験	第1回から第6回までの内容を復習。中間試験。
第8回	金融 4	マクドゥーガル=ケンプ・モデル
第9回	金融 5、起業 1	実証分析、職業選択
第10回	起業 2	信用制約
第11回	起業 3	貧困の罠
第12回	起業 4	実証研究、ランダム化比較試験
第13回	産業集積	規模の経済、内生的産業発展論、実証分析

第14回 まとめと解説、期末試験 第8回から第13回までの内容を復習。期末試験。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各講義スライドの基となっている20ページほどの文章をリーディング・アサイメントとし、各講義の前に予習として読みます。各講義の後に、学習支援システム上の小テストを解きます。授業、演習問題の内容を各自の必要に応じて復習します。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません。

【参考書】

澤田康幸（2003）『基礎コース 国際経済学』新世社
高橋基樹、福井清一編（2008）『経済開発論：研究と実践のフロンティア』勁草書房
戸堂康之（2021）『開発経済学入門 第2版』新世社
ハナジ、テュフロ（2012）『貧乏人の経済学』みすず書房

【成績評価の方法と基準】

中間試験 40%、期末試験 40%。平常点 20%。
学習支援システム上でオンライン試験を実施します。

【学生の意見等からの気づき】

授業中に、各自が演習問題を解き、その後に、教員と答え合わせをする、という形式を今年度も継続します。この形式をふまえて履修した学生達の意見ですが、この形式に対する反対意見は過去5年間ありません。

【Outline (in English)】

- Course outline

In Introductory Development Economics A, we studied economic development as a process.

In Introductory Development Economics B, we will study trade, finance, and entrepreneurship as factors of economic development.

We will review economics models showing benefits of trade and finance and empirical studies.

- Learning Objectives

Why do East Asian countries have large proportions of trade and financial sectors, while Sub-Saharan Africa have smaller proportions?

The goal of this class is that students will become able to proactively think and discuss economic issues related to developing countries based on economic theories, methods, and data.

- Learning activities outside of classroom

Students will read around 20 pages of texts that form the basis of each lecture slide as a reading assignment before each lecture.

Students will review the contents of the classes and exercises according to their own needs.

The standard time for preparation and review for this class is 2 hours each.

- Grading Criteria, Policies

Grading will be decided based on mid-term exam (40%), end-term exam (40%), and contribution to class (20%).

SES200CA
環境科学 A
岡部 雅史
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講義は、環境とはなにか？ 私達と環境とのかかわりを受講生諸君が科学的視点から理解できるようになることを目的としています。

【到達目標】

主として私たちの身の周りの様々な現象の環境学的理解ができるようになることを目標としています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP4」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】

講義開始は4月21日・ガイダンスからスタートします。
講義概要としては、1－環境を構成する要因、2－環境の変動、3－テクノロジーの進歩と環境に対する影響、4－環境ビジネス（エコ・ビジネス）の展開と、その将来。以上の4つのサブテーマから構成され、前半では環境の概念の理解、後半では環境調査・保全・改変などの環境ビジネス（エコ・ビジネス）の最先端の紹介をもとに進めたいと思います。環境問題に興味のある方、環境ビジネスに興味のある方などの積極的参加を希望します。
履修希望者は必ず初回の講義ガイダンスに出席すること。
試験に対するフィードバックは授業支援システムにて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	講義ガイダンス	科目テーマ・授業の進め方・テキスト・評価方法の解説
2	水と環境 1	地球科学と水資源の総量・水資源の特徴
3	水と環境 2	上水道と下水道
4	水と環境 3	浄水処理と汚水処理・BOD・COD
5	空気と環境	清浄な空気組成・有毒ガス・室内空気汚染・PM2.5
6	健康と空気環境	一酸化炭素中毒・酸欠事故・シックハウス・シックスクール
7	生活と騒音	振動・騒音性難聴・ディスコ難聴
8	光線・放射線と環境	紫外線や放射線と発ガン・やけど
9	恒常性	ホメオスタシスの概念と職業病
10	公害と疾病	水俣病・イタイイタイ病・四日市喘息
11	体内環境	対外環境に対する生物の環境応答
12	生活環境と健康	ライフスタイルと種々のストレス・生活習慣病
13	環境・エコビジネス 1	環境調査・コンサルタント・環境修復ビジネス
14	環境・エコビジネス 2	ESCO 事業・ISO ビジネス・環境報告・環境会計

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日々の新聞・ニュース等 報道にて紹介される環境技術関連ニュース等に注意しておく事。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

支援システムにてテーマに沿った資料・映像ファイルを配布する。

【参考書】

参考図書は授業内にて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

期末に試験を行う（100点満点）及び、授業内にて小試験（10点満点）を複数回行う。総合計点の60%以上得点した学生に単位を認める。総合計点が評価基準配分100%となります。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

ノートパソコンまたはタブレット端末

【その他の重要事項】

毎週講義時刻に支援システムにて その週の教材を配信します。
小テストは講義時間中に配信し、講義時間中に答えを回収します。

シラバスの内容は今後の状況次第で変化することもありますので注意してください。

【Outline (in English)】

This lecture features the theme of pushing forward understanding based on a current scientific finding about environmental science.

There will be an exam at the end of the term (maximum score of 100 points) and a short exam (maximum score of 10 points) will be given multiple times in class. Credits will be granted to students who score 60% or more of the total score. The total score will be 100% of the evaluation criteria allocation.

SES200CA
環境科学 B
岡部 雅史
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講義は、人間の活動がどのようにして自然環境と関わってきたのか？ そのメカニズムと、現在の環境汚染の現状、さらには環境に負荷をかけないシステムの紹介まで踏み込んだ内容を展開します。生物と環境とのかかわりを生態科学的視点からも理解できるようになることを目的としています。

【到達目標】

主として地球環境問題の理解ができるようになる事を目標にしています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP4」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】

講義全体としては、1 - 自然環境を構成する因子、2 - 環境汚染の変遷、3 - 現在の環境汚染、4 - 環境負荷低減テクノロジーの展開と、その将来等 以上の4つのサブテーマから構成され、前半では今までの環境汚染（公害）の概念の理解、後半では地球規模にまで進んだ環境汚染・生態破壊のメカニズムを説明し、環境負荷低減のための技術の解説をおこないます。環境問題に興味のある方、環境ビジネスに興味のある方などの積極的参加を希望します。履修希望者は必ず初回の講義ガイダンスに出席すること。試験に対するフィードバックは授業支援システムにて行う

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	講義ガイダンス：	科目テーマ・授業の進め方・テキスト・評価方法の解説
第 2 回	環境に対する概念の変遷：	自然浄化・環境汚染・環境負荷・環境影響範囲
第 3 回	地球環境問題：	特徴・公害問題との違い・加害と被害
第 4 回	海洋汚染：	エコトキシコロジー・プラスチックペレット汚染・防止策
第 5 回	地球温暖化：	原因物質と発生メカニズム・影響と被害の現状・防止策
第 6 回	酸性雨：	原因物質と発生メカニズム・影響と被害の現状・防止策
第 7 回	砂漠化と都市気候：	発生メカニズム・ヒートアイランド現象・防止策
第 8 回	有害物質の越境移動：	一般・産業・医療廃棄物・ダイオキシン・土壤汚染
第 9 回	生物多様性の減少：	生物種の経済的価値と遺伝子資源・防止策
第 10 回	オゾン層の破壊：	原因物質と発生メカニズム・影響と被害の現状・防止策
第 11 回	環境・エコビジネス A	ESCO 事業 1（概念・経済規模）
第 12 回	環境・エコビジネス B	ESCO 事業 2（適用実例）
第 13 回	環境・エコビジネス C	エコファンド・土地関連ビジネス
第 14 回	海外の環境ビジネス：	米国のグリーンニューディール政策およびドイツの環境関連ビジネスの紹介

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日々の新聞・ニュース等 報道にて紹介される環境技術関連ニュース等に注意しておく事。本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業支援システムにてテーマに沿った資料を配布する。

【参考書】

参考図書は授業内にて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

期末に試験を行う（100 点満点）及び、授業内にて小試験（10 点満点）を複数回行う。 総合計点の 60%以上得点した学生に単位を認める。総合計点が評価基準配分 100 %となります。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

ノートパソコンまたはタブレット端末

【その他の重要事項】

毎週講義時刻に支援システムにて その週の教材を配信します。小テストは講義時間中に配信し、講義時間中に答えを回収します。

シラバスの内容は今後の状況次第で変化することもありますので注意してください。

【Outline (in English)】

This lecture features the theme of pushing forward understanding based on a current scientific finding about environmental science.

There will be an exam at the end of the term (maximum score of 100 points) and a short exam (maximum score of 10 points) will be given multiple times in class. Credits will be granted to students who score 60% or more of the total score. The total score will be 100% of the evaluation criteria allocation.

LANe300CA
時事英語セミナー A
中谷 安男
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位
初回の授業に出席し担当教員の指示を受ける。

その他属性：〈グ〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Participants learn current English through authentic business cases in Japan contexts. They also learn English presentation skills.

【到達目標】

This course is designed to give students a comprehensive view of business presentation and discussion skills.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP3」「DP5」に関連。国際経済学科は「DP3」「DP5」「DP9」に関連。

【授業の進め方と方法】

Students learn the important skills for effective presentations in English. They can have opportunities to improve their negotiation skills. This course also develops an awareness of the importance of coherence and cohesion in speech discourse to attract audience.

We share the feedback participants and discuss the issues to enhance lessons.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Introduction Marketing Mix in Emerging Countries	Shiseido Thailand
2	Innovative Marketing Approaches	Kao USA
3	Exploring Global Business and Enhancing People's Sustainable Value	MUJI: Ryohinkeikaku
4	Confectionery Marketing in Overseas Business	Morinaga U.S.A
5	Guerrilla Marketing Strategies	Coca-Cola Laos
6	Counter Innovators' Dilemma	Toshiba Vietnam
7	Enhancing Internal Communication of Global Company	Honda Motor
8	Focus Strategy and Cost Leadership Strategy in Frozen Food Industry	Hatchando Vietnam
9	World Standard Hospitality	Imperial Hotel

10	Creating a Japanese Luxury Brand	Toyota Lexus
11	Japanese Art and Technology	Toshiro Alloy Inc
12	Clean Water Supply System for BOP Business	Yamaha Motor Indonesia and Africa
13	Connecting People With What's Happening	Twitter Japan
14	Uniting the World for a Better Tomorrow	IC Net Limited

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Lessons preparation and review exercises
Preparation 2 hours, review 2 hours, a total of 4 hours.

【テキスト（教科書）】

Business Case Studies of Global Leaders. By Y. Nakatani & R. Smithers.
Seibido

【参考書】

Dynamic Presentations, by M. Hood. Kinseido

【成績評価の方法と基準】

Class participation and contribution 30%
Class presentations 40%
Final presentation 30%

【学生の意見等からの気づき】

Improving writing skills as well

【学生が準備すべき機器他】

PC, DVD, Internet connection

【Outline (in English)】

Participants learn current English through authentic business cases in Japan contexts. They also learn English presentation and negotiation skills.

LANe300CA
時事英語セミナー B
中谷 安男
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位
初回の授業に出席し担当教員の指示を受ける。

その他属性：〈グ〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Participants learn current English through authentic business cases in Japan contexts. They also learn English presentation skills.

【到達目標】

This course is designed to give students a comprehensive view of business presentation and discussion skills.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP3」「DP5」に関連。国際経済学科は「DP3」「DP5」「DP9」に関連。

【授業の進め方と方法】

Students learn the important skills for effective negotiations in English. This course also develops an awareness of the importance of coherence and cohesion in speech discourse to attract audience.

We share the feedback participants and discuss the issues to enhance lessons.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Introduction	Intel Japan
2	Creating Value and Making a Difference	Coca-Cola
3	Luxury Business	Chanel & CD
4	MOT	Sapporo Breweries
5	Reviving a Leading Brand	MUJI
6	Negotiation with Headquarters	Intel Japan
7	Making a Challenging Business Profitable	JRK
8	Omotenashi	Shiseido China
9	Emerging Market	Toshiba Vietnam
10	De-centralizing Marketing Strategies	Intel Japan Promotions
11	Confectionary Business	Meigetsudo
12	Global MUJI	MUJI
13	Enhancing Global Brand Communication	Global Shiseido
14	Global Business Model	Konica Minolta

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Lesson preparation and review exercises
Preparation 2 hours, review 2 hours, a total of 4 hours.

【テキスト（教科書）】

Global Leadership; Case Studies of Business Leaders in Japan
Yasuo NAKATANI & Ryan Smithers. Kinseido

【参考書】

Yoshio Sugita & Richard R. Caraker. Writing for Presentation in English. Nan'un-do

【成績評価の方法と基準】

Class participation and contribution 30%
Class presentations 40%
Final presentation 30%

【学生の意見等からの気づき】

Improving writing skills as well

【学生が準備すべき機器他】

PC, DVD, Internet connection

【Outline (in English)】

Participants learn current English through authentic business cases in Japan contexts. They also learn English presentation skills.

HIS300CA
日本文化史
古澤 直人
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本の生活文化の形成について理解を深める。応仁の乱後の分裂の時代を経て、地域ごとの小国家ともいえる戦国大名領国が作られ、生活・文化の地域的特色が形成される。さらに織豊統一政権によって日本は再統合され、統一した文化が形成される。以上の過程について深い知見を得る。関連史料を読み解きつつ史料に対する批判的な見方を養い、解釈の多様性を学ぶなど歴史的思考力の獲得をめざす。

【到達目標】

今日「日本的」とされる生活文化の多くは室町時代に成立している。また郷土の英雄や県民意識（お国ぶり）の源流も室町時代後期を起点とする。北山文化・東山文化が生まれた後、郷土に根ざした生活文化が形成される室町時代中期から、統一した文化が形成される織豊期・近世初頭の時期に焦点をあてて学ぶ。文化史にかんするいくつかのテーマを論述する活動を通じて、事実（史料）にもとづき筋道を立てて事物をとらえる歴史的認識方法を訓練する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

授業支援システムからダウンロードした教材（パワポ pdf、ワード資料）を事前に予習し、課題の回答のあらすじをメモしておく。授業は章ごとに設定された課題を考えながらパワーポイントにそって進める。課題の内1つの回答（500字～700字程度）を完成（文章化）させ毎回授業中に提出してもらう予定である。授業後採点の上、改善点などがある場合はコメントを付しフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	武家統一政権の形成	日本史の教育における本授業の意味、室町邸の造営、將軍絶対化
2	武家統一政権と北山文化	北山邸造営の意義、対明貿易の開始、義満の「法皇」化
3	東国下剋上の開始	鎌倉公方と関東管領、上杉禪秀の乱、永享の乱、幕府と鎌倉公方
4	西国下剋上の開始	守護連合、足利義教の恐怖政治、將軍専制、嘉吉の乱
5	日本文化史上の応仁の乱	内藤湖南の指摘、父の意向と家臣の支持、京都焼亡
6	応仁の乱と山城国一揆	足輕の活躍、東西幕府、山城国一揆、日野富子、東山文化
7	東国戦国の開始――北条早雲を中心に――	小田原城奪取、相模支配、早雲寺殿 21 箇条の思想
8	西国の戦国開始と文化	大内と尼子、国人から戦国大名へ、大内氏の文化
9	戦国大名毛利氏の領国支配と文化	石見銀山をめぐって、中国制覇、元就の思想
10	戦国大名武田氏とその文化	甲斐國の特徴、法典と家訓、治水、甲州金、信玄堤
11	戦国大名上杉謙信とその思想	北信と関東、謙信の 2 面作戦、謙信の筋目
12	織田氏の領国支配と新政策	信秀の活動、岐阜での新政策、加納楽市令
13	信長の統一事業と文化	都市の直轄、叡山焼討、安土城と文化、天下人

14 信長と南蛮文化 宗教勢力との対決、木綿と鉄砲、中世文化の否定、南蛮寺、神格化

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業支援システムにアップした一回あたり 4～8 頁ほどの講義資料（ワード）とパワーポイント pdf（70～120 枚）を事前に読み、課題に対する自分なりの回答の要旨をメモ書きしておく。講義後、課題の解説と回答例を hoppii に挙げる。また課題回答は毎回採点の上、改善点などがある場合はコメントを付しフィードバックするので、これらを復習しておく。本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。授業プリントを学習支援システムから各自ダウンロードする。

【参考書】

永原慶二『戦国時代』上・下（小学館ライブラリー）。このほか授業で逐次提示する。

【成績評価の方法と基準】

提出課題の評価の相加平均で評価する（100％）。

【学生の意見等からの気づき】

内容が多すぎる回があるという指摘があり厳選したい。

【学生が準備すべき機器他】

PC またはタブレット。学習支援システム。授業中に課題を提出するために必須となる。

【その他の重要事項】

高校日本史教科書程度の基礎知識を要するので、高校時代に日本史を履修しなかった学生は各自で『高校日本史教科書』（とくに古代・中世・近世の部分）を自習しておいてほしい。

【Outline (in English)】

The aim of this course is deepen understanding of the formation of Japanese life culture. It is formed from the Muromachi period to the early modern period. This course deals with these period. Through activities that discuss several themes related to cultural history, students will be expected to have historical recognition methods that make sense based on facts. Students must submit a short paper for each assignment. Final grade will be calculated by the arithmetic mean of each test (100%). Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

ECN200CA
経済学史 A
平瀬 友樹
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は、経済理論の歴史について解説を行うものである。この経済学史Aにおいては、ケインズ以前の経済理論について講義を行う。なお、経済史ではなく、経済学＝理論分析の歴史を扱う科目であることに注意すること。

【到達目標】

経済理論の形成過程が、市場原理について肯定的な思想とそれに否定的な思想との対立によって、生み出されてきたものであるということに力点を置きながら、社会経済学と新古典派経済学の成立過程について解説を行う。そもそも、『国富論』によって経済学が成立するはるか以前より、保護主義的思想と自由主義的思想の対立が続いてきた。したがって、価値論を中心に据えながら、社会経済学と現代経済学の対立および論点について学ぶことは、人間の思考や社会制度そのものを学ぶことと同義であると言えよう。なお、経済史ではなく、経済学＝理論分析の歴史を扱う科目であることに注意すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

基本的には対面形式で行うが、第1回および第2回を含む最大7回まで支援システムからの動画配信によるオンライン形式にすることがある。講義内のアナウンスおよび支援システムのお知らせ欄の指示にしたがうこと。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	学説史研究の意義	大学での研究および社会教育における本講義の意義
第2回	アダム・スミス以前の経済理論について	重商主義と重農主義について
第3回	アダム・スミスの経済理論について	2つの価値論の誕生・現代経済学と社会経済学の違い
第4回	リカードの経済理論について	穀物法論争と差額地代論・現代にも通じる論争と政策決定
第5回	リカードの経済理論の成立	比較生産費説について・理論で考えるということ
第6回	J.S. ミルの経済理論について	古典派経済学の限界・資本主義をどうとらえるべきか
第7回	マルクスの短期的経済分析	搾取とは何か・貧富の格差と投下労働価値説
第8回	マルクスの長期的経済分析	利潤率低下の法則とは何か
第9回	マルクス経済学の評価について	転化問題を中心に・マルクスの現代的意義について
第10回	限界革命について	現代的な価値論の確立・科学革命とは何か
第11回	限界革命の立役者たち	ワルラスを中心に
第12回	新古典派経済学の成立	マーシャルの経済学・需給による価格決定分析の成立
第13回	新古典派経済学に対する挑戦	独占的競争市場の分析を中心に
第14回	総復習	授業内試験およびその解説・この講義で学んだことをどう活かすか

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本科目は経済史ではなく、経済学史＝理論の歴史である。そのため、『現代経済学基礎』を履修しておくか、あるいはマイクロ経済学・マクロ経済学について同等の予備知識があることは望ましい。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

野原慎司・沖公祐・高見典和(2019)『経済学史』日本評論社

【参考書】

必要に応じてその都度指示する。

【成績評価の方法と基準】

期末テスト50%：レポート50%とする。なお、当然のことですが、成績評価に際して個別の事情は一切考慮しないので陳情や嘆願などは禁止とします。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

オンラインの場合には授業支援システムより動画配信で行う。

【その他の重要事項】

すべてのアナウンスは教育支援システムのお知らせ欄で行うため、必ず確認をお願いします。また、支援システムの掲示板は使っていないので、連絡は hirase@hosei.ac.jp をお願いします。

【Outline (in English)】

This course introduces the history of economic thought before the Keynesian revolution to students taking this course. In addition, the aim of this course is to help students acquire the necessary skills and knowledge needed to understand economic theory, especially micro economics and Marxian economics. Grading Criteria is following; Final Examination 50% and Report Assignment 50%. In addition, Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

ECN200CA
経済学史 B
平瀬 友樹
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は、経済理論の歴史について解説を行うものである。この経済学史Bにおいては、主にケインズ以降の経済理論について講義を行う。なお、経済史ではなく、経済学=理論分析の歴史を扱う科目であることに注意すること。

【到達目標】

経済理論の形成過程が、市場原理について肯定的な思想とそれに否定的な思想との対立によって、生み出されてきたものであるということに焦点を置きながら、IS-LM分析を中心とする旧マクロ経済学とルーカス批判以降の新マクロ経済学の成立過程について解説を行う。旧マクロ経済学と新マクロ経済学の対立および論点について学ぶことは、経済学史Aと同様に、単なる理論的知識の習得にとどまらず、人間の思考や社会制度そのものを学ぶことと同義である。なお、経済史ではなく、経済学=理論分析の歴史を扱う科目であることに注意すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

基本的には対面形式で行うが、第1回および第2回を含む最大7回まで支援システムからの動画配信によるオンライン形式にすることがある。講義内のアナウンスおよび支援システムのお知らせ欄の指示にしたがうこと。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	はじめに	大学での研究および社会教育における本講義の意義
第2回	ケインズ革命以前のマクロ経済思想	貨幣数量説と市場に対する評価
第3回	ケインズ革命によって失われたマクロ経済分析	ヴィクセルによる累積過程の分析
第4回	ケインズ革命	ケインズ自身の理論について・科学革命の実際
第5回	ケインズ革命の普及	ヒックスによるIS-LM分析・その功績と功罪について
第6回	ケインズ革命にみる理論と実際	消費関数および投資関数をめぐる論争、理論と現実の捉え方
第7回	戦後の経済理論の発展について	ケインジアンによる経済成長論
第8回	経済成長論の誕生	新古典派による経済成長論
第9回	新古典派総合の誕生	理論と政策の関係性について
第10回	新古典派総合の終焉	自然失業率仮説とスタグフレーション
第11回	計量経済学の誕生	景気循環分析と定量的分析
第12回	計量経済学の発展	IS-LM分析ベースの定量的分析の紹介
第13回	現代の経済学について	ルーカス批判を超えて・RBCを中心に
第14回	総復習	授業内試験およびその解説・この講義で学んだことをどう活かすか

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本科目は経済史ではなく、経済学史=理論の歴史である。そのため、『現代経済学入門』を履修しておくか、あるいはミクロ経済学・マクロ経済学について同等の予備知識があることは望ましい。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

野原慎司・沖公祐・高見典和(2019)『経済学史』日本評論社

【参考書】

必要に応じてその都度指示する。

【成績評価の方法と基準】

期末テスト50%：レポート50%とする。なお、当然のことですが、成績評価に際して個別の事情は一切考慮しないので陳情や嘆願などは禁止とします。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

オンラインの場合には授業支援システムより動画配信で行う。

【その他の重要事項】

すべての連絡は授業支援システムのお知らせ欄に記載します。また、支援システムも掲示板は使用せず、連絡は hirase@hosei.ac.jp をお願いします。

【Outline (in English)】

This course introduces the history of economic thought after the Keynesian revolution to students taking this course. In addition, the aim of this course is to help students acquire the necessary skills and knowledge needed to understand economic theory, especially macro economics. Grading Criteria is following; Final Examination 50% and Report Assignment 50%. In addition, Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

ECN200CA
公共経済論 A
小原 拓也
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

市場を通じて行われる取引は「効率性」と「公平性」の観点から望ましい状態が実現されるとミクロ経済学で学習する。しかし、現実的には市場で解決できない問題（市場の失敗）が存在するため、政府の市場への介入が必要となる。本講義では、様々な種類の市場の失敗に対して政府はどのように政策介入すべきなのか概観する。また、関連する現実の経済問題を紹介することで学生の問題意識を高める。

【到達目標】

本講義では、歳出の観点における公共経済学の基本的な内容を習得することで、政府がどのような目的で現実の経済問題に対処しているのか経済学的に理解できることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP7」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】

本講義では、自作のパワーポイント資料（PDF ファイル）を用意し、授業の前日までに学習支援システム（Hoppii）にアップロードするので、各自で印刷ないしは PC を持参して講義に出席すること。授業は、対面で行う。また毎回ではないが、講義内容を復習するための確認問題を講義資料に掲載する。フィードバック（解答解説等）は講義内で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	公共経済学総論	公共経済学の目的
2	市場と政府 (1)	政府の活動、消費者余剰と生産者余剰の理解
3	市場と政府 (2)	競争市場均衡、パレート効率性、死荷重
4	市場と政府 (3)	所得格差と公平性、羨望
5	公共財理論 (1)	公共財の定義と分類、中立命題
6	公共財理論 (2)	公共財の最適供給
7	外部性 (1)	外部性の定義、外部性下での余剰分析
8	外部性 (2)	外部性の公的解決と私的解決
9	独占	供給独占、独占下での余剰分析
10	自然独占	費用低減産業と規模の経済、自然独占下での余剰分析、価格規制
11	社会保障制度 (1)	社会保障制度の概観、リスクと保険、年金の仕組み
12	社会保障制度 (2)	医療制度、介護制度、生活保護制度、子育て支援策
13	講義総括	春学期の学習内容を総括する。
14	試験と解説	春学期の学習内容について期末試験および解説を行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義の準備としては、ミクロ経済学 AB(2 年次配当) の復習を行うこと、事前に講義資料を読み、理解できたところとそうでないところを明確にした上で講義に臨むこと。復習としては、理解できなかったところを担当者への質問等で解決すること。また確認問題を解いたり、講義資料を読み返したりすることで知識の定着を図ること。

1 回の授業につき、準備・復習それぞれ約 2 時間程度の学習が望ましい。

【テキスト（教科書）】

テキストは指定しない。自作のパワーポイント資料を学習支援システムにて配布する。

【参考書】

- ① 麻生良文・小黒一正・鈴木将覚著『財政学 15 講』新世社、2018 年
- ② 佐藤主光『公共経済学 15 講』新世社、2017 年
- ③ 寺井公子、肥前洋一『私たちと公共経済』有斐閣、2015 年
- ④ 土居丈朗『入門公共経済学 第 2 版』日本評論社、2018 年

【成績評価の方法と基準】

教室における試験（100%）により評価を行う。詳細は、講義にて知らせる。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできない。

【その他の重要事項】

本講義の理解を深めるために、「ミクロ経済学 AB」、「ビジネス数学入門 AB」、「財政学 AB」、「経済政策論 AB」等の履修を推奨する。

【Outline (in English)】

We learn in microeconomics that transactions conducted through markets achieve the desired state in terms of "efficiency" and "fairness". However, in reality, there are problems that cannot be solved by markets (market failures), and therefore, government intervention in markets is necessary. In this lecture, we will overview how the government should intervene in various types of market failures. It will also raise students' awareness of the issues by introducing related real-world economic problems.

The goal of this course is to provide students with a basic understanding of public economics in terms of expenditures, so that they will be able to understand economically the purposes for which governments deal with real economic problems.

Students are required to prepare and review this class for at least four hours per week. Students are also required to review Microeconomics AB (2nd year) and the lecture materials distributed by the class support system (Hoppii) to prepare for the lecture. Be sure to do the practice exercises as a review of the lecture.

Evaluation will be based on classroom examinations (100%). Details will be announced in the lecture.

ECN200CA
公共経済論 B
小原 拓也
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では公共経済論 A で学習した内容を踏まえて、政府の財源調達手段である課税と国債発行に関して学習する。公的債務の累積、消費税や所得税の改正など、財政健全化や税制改革に関する問題に対して経済学的観点からの答えを模索する。また、経済の安定化を図るための財政・金融政策についても学習する。

【到達目標】

本講義では、歳入の観点における公共経済学の基本的な内容を習得することで、政府の課税や国債発行による財源調達の問題点を経済学的に理解できることを目標とする。また、経済政策の基本的な内容を習得することで、現実の経済の動きに応じた望ましい財政・金融政策を提示できることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP7」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】

本講義では、自作のパワーポイント資料（PDF ファイル）を用意し、授業の前日までに学習支援システム（Hoppii）にアップロードするので、各自で印刷ないしは PC を持参して講義に出席すること。授業は、対面で行う。また毎回ではないが、講義内容を復習するための確認問題を講義資料に掲載する。フィードバック（解答解説等）は講義内で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	消費者理論 (1)	効用関数、予算制約、効用最大化問題、需要関数
2	消費者理論 (2)	代替効果と所得効果
3	税制 (1)	税制の設計、税の帰着と転嫁
4	税制 (2)	消費税（従量税と従価税）、軽減税率と逆弾力性ルール
5	税制 (3)	資本所得税（課税の正当性：アリとキリギリスを例に、異時点間の消費選択への影響）
6	税制 (4)	法人税（会計上の利益と税務上の利益の違い、実効税率と名目税率の違い、投資への影響）
7	税制 (5)	国際的な資本・労働移動の下での課税
8	税制 (6)	所得再分配の根拠と効果、所得の不平等度（ジニ係数とローレンツ曲線）
9	税制 (7)	労働所得税（個人課税、世帯課税）、負の所得税、勤労税額控除
10	公債の理論	財政制度と財政指標、財政赤字の現状、国債の理論（ドーマー条件、中立命題）
11	経済政策 (1)	財市場と貨幣市場、IS-LM 分析
12	経済政策 (2)	裁量的財政政策と問題点
13	講義総括	春学期の学習内容を総括する。
14	試験と解説	春学期の学習内容について期末試験および解説を行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義の準備としては、ミクロ経済学 AB(2 年次配当) の復習を行うこと、事前に講義資料を読み、理解できたとところとそうでないところを明確にした上で講義に臨むこと。

復習としては、理解できなかったところを担当者への質問等で解決すること。また確認問題を解いたり、講義資料を読み返したりすることで知識の定着を図ること。

1 回の授業につき、準備・復習それぞれ約 2 時間程度の学習が望ましい。

【テキスト（教科書）】

テキストは指定しない。自作のパワーポイント資料を学習支援システムにて配布する。

【参考書】

- ① 麻生良文・小黒一正・鈴木将覚著『財政学 15 講』新世社、2018 年
- ② 佐藤主光『公共経済学 15 講』新世社、2017 年
- ③ 寺井公子、肥前洋一『私たちと公共経済』有斐閣、2015 年
- ④ 土居丈朗『入門公共経済学 第 2 版』日本評論社、2018 年

【成績評価の方法と基準】

教室における試験（100%）により評価を行う。詳細は、講義にて知らせる。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできない。

【その他の重要事項】

本講義の理解を深めるために、「ミクロ経済学 AB」、「ビジネス数学入門 AB」、「財政学 AB」、「経済政策論 AB」等の履修を推奨する。

【Outline (in English)】

Building on the content studied in Public Economics A, this course will focus primarily on taxation and government debt as means of financing the government. Students will seek answers from an economic perspective to issues related to fiscal consolidation and tax reform, such as the accumulation of public debt, consumption tax increases, and income tax reform. Students will also learn about fiscal and monetary policies to stabilize the economy.

The goal of this course is to provide students with a basic understanding of public economics in terms of revenue, so that they will be able to understand the economics of the problems of government taxation and financing through government bonds. The goal is also to master the basic content of economic policy so that students can present desirable fiscal and monetary policies in response to real economic trends. Students are required to prepare and review this class for at least four hours per week. Students are also required to review Microeconomics AB (2nd year) and the lecture materials distributed by the class support system (Hoppii) to prepare for the lecture.

Evaluation will be based on classroom examinations (100%). Details will be announced in the lecture.

ECN300CA
環境政策論 A
西澤 栄一郎
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、環境政策を主に経済学的視点から理論的に考察する。なぜ環境政策が必要なのか、どのような政策が効率的か、という問いを中心に据える。

【到達目標】

- ①環境問題の経済学的な分析手法を身につける。
- ②環境政策のさまざまな手法について理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】

毎回、学習支援システムに資料をアップロードする。課題等の提出・フィードバックは学習支援システムを通じて行う予定である。

なお、経済学入門と現代経済学基礎を履修済みであることを想定して授業を進める。また、経済政策論 A または公共経済論 A・B を履修済みであるか、同時に履修することを強く希望する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	ガイダンス&環境問題を考える
第 2 回	日本の環境問題の歴史	江戸時代から 20 世紀末まで
第 3 回	地球温暖化問題	気候変動枠組条約、パリ協定
第 4 回	地球温暖化対策①	エネルギー政策、カーボンプライシング
第 5 回	地球温暖化対策②	省エネ対策、再生可能エネルギー
第 6 回	環境問題の経済分析①	余剰分析、厚生経済学の基本定理
第 7 回	環境問題の経済分析②	市場の失敗、公共財、外部性
第 8 回	環境政策の目標	費用便益分析、費用効果分析、リスク便益分析
第 9 回	環境政策の手段	政策手段の分類、経済的手法
第 10 回	環境税	ピグー税、汚染者負担原則
第 11 回	排出取引	税との比較、EU の制度
第 12 回	補助金・デボジット	長期効率性、税と補助金の組合せ
第 13 回	環境経済統合勘定	環境指標、SEEA、NAMEA
第 14 回	国際的取り組み	リオ・サミット、持続可能な発展

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

参考書と各回で示す参考文献を読む。配布資料を見直す。本授業の準備・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

テキストは指定しない。資料を配布する。

【参考書】

栗山・馬奈木 (2020) 『環境経済学をつかむ 第 4 版』有斐閣
 一方井誠治 (2018) 『コア・テキスト環境経済学』新世社
 その他の参考文献は、授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

期末試験により評価する (100%)。いかなる理由であれ、試験 (追試を含む) を受けない者の単位は認めない。

【学生の意見等からの気づき】

課題は各自で取り組むこと。授業の理解が深まるような課題を出すように心がけたい。

【Outline (in English)】

This course outlines environmental policies from the viewpoint of economic theory.

The goals of this course are to acquire methods of economic analysis on environmental issues and to comprehend environmental conservation measures.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading will be decided based on the final examination (100%) which all student must take.

ECN300CA
環境政策論 B
西澤 栄一郎
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、環境政策論 A につづき、主に法学または政治学の視点から、環境に関する政策・制度の実態について学ぶ。

【到達目標】

- ①日本の環境政策の実態について理解する。
- ②環境政策の形成過程を理解する。
- ③環境政策の今後のあり方について議論ができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】

毎回、学習支援システムに資料をアップロードする。課題等の提出・フィードバックは学習支援システムを通じて行う予定である。

環境政策論 A を履修済みであることが望ましい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	環境政策の諸原則	6 つの原則
第 2 回	日本の環境政策の枠組	基本法、基本計画、環境影響評価
第 3 回	大気保全政策	大気汚染防止法、アスベスト問題
第 4 回	水質保全政策	水質汚濁防止法、閉鎖性水域
第 5 回	土壌汚染対策	土壌汚染対策法
第 6 回	有害化学物質対策	化学物質審査法、PRTR
第 7 回	生物多様性	生態系サービス
第 8 回	生物多様性の保全	種の保存法、鳥獣保護管理法、外来生物法
第 9 回	自然保護地域の保全	自然公園法、自然環境保全法、自然再生推進法
第 10 回	廃棄物対策	循環型社会形成推進基本法
第 11 回	環境政策の政策過程①	温暖化対策の政策過程の各段階
第 12 回	環境政策の政策過程②	政策ネットワーク
第 13 回	企業と環境問題①	環境マネジメント
第 14 回	企業と環境問題②	サステナブルファイナンス、ESG 投資

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

参考書と各回で示す参考文献を読む。課題に取り組む。本授業の準備・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

テキストは指定しない。資料を配付する。

【参考書】

竹本和彦編 (2020) 『環境政策論講義』 東京大学出版会
 西尾哲茂 (2019) 『わかへる 環境法 増補改訂版』 信山社
 神山智美 (2018) 『自然環境法を学ぶ』 文眞堂
 その他の参考文献は、授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

期末試験により評価する (100%)。いかなる理由であれ、試験 (追試を含む) を受けない者の単位は認めない。

【学生の意見等からの気づき】

課題は各自で取り組むこと。授業の理解が深まるような課題を出すように心がけたい。

【Outline (in English)】

This course overviews current environmental law, politics, and policy in Japan.

At the end of the course, students are expected to understand environmental policies and their policy process in Japan and to discuss the future direction of environmental policies. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Grading will be decided based on the final examination (100%) which all student must take.

ECN300CA
日本経済史 A
宝利 ひとみ
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本における経済活動の歴史について、基礎的な知識を身につけ、その知識を用いて、現代のさまざまな経済活動を相対化して理解することを目的とする。

本講義では日本の経済発展の長期的概観を踏まえ、時系列に沿って各時期の経済社会の変化につき解説を加える。

【到達目標】

- ・江戸時代から第二次世界大戦までの日本における経済活動の歴史について、基礎的な知識を身につける。
- ・現代の日本経済が抱える諸問題を、歴史的な視点から考察できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP8」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式で進めます。授業内容に関する質問を歓迎します。授業中および授業前に受け付けます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	授業ガイダンス	経済史を学ぶ理由、授業方法と学習方法の説明
第 2 回	日本の経済発展の長期的概観	日本の経済発展を長期的に概観します
第 3 回	江戸時代の経済と社会	江戸時代の経済と社会の特徴を説明します
第 4 回	幕末開港・明治維新	幕末から明治維新までの経済について説明します
第 5 回	近代経済成長	近代経済成長とは何かについて説明します
第 6 回	近代化の進展と伝統的要素	近代化の進展の様子と併存する伝統的要素について説明します
第 7 回	産業革命	産業革命について説明します
第 8 回	第一次大戦の好況、1920 年台の慢性不況	第一次大戦から 1920 年代の不況期までの流れを説明します
第 9 回	昭和恐慌からの脱出、二重構造	1930 年代前半の日本経済の特徴について説明します
第 10 回	戦間期の産業と企業	戦間期の産業と企業の特徴を説明します
第 11 回	経済発展の担い手：企業組織と企業家	企業組織の発達と活躍した企業家について説明します
第 12 回	戦前日本の技術発展	戦前日本の技術発展の概要と特徴を説明します
第 13 回	戦時統制経済	戦時統制経済の概要を説明します
第 14 回	まとめと振り返り	講義内容のまとめと振り返りをします。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習：講義資料に目を通し、わからない箇所をチェックしておく（30分程度）

復習：講義資料とノートを読み返し、それでもわからない箇所は早めに質問する（30分程度）

【テキスト（教科書）】

なし

【参考書】

宮本又郎（編著）（2012）『日本経済史 改訂新版』放送大学教育振興会。

授業の流れはこの参考書に沿っていますが、入手が難しいためテキスト指定ではなく参考書指定としています。

【成績評価の方法と基準】

期末試験 100%

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません

【Outline (in English)】

The objective of this course is to provide a basic knowledge of the history of economic activities in Japan and to use this knowledge to understand various contemporary economic activities in relative terms.

Based on a long-term overview of Japan's economic development, this lecture will provide an explanation of economic and social changes during each period in chronological order.

Grading Criteria /Policy: Final Exam 100%

ECN300CA
日本経済史 B
宝利 ひとみ
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本における経済活動の歴史について、基礎的な知識を身につけ、その知識を用いて、現代のさまざまな経済活動を相対化して理解することを目的とする。

本講義では日本の経済発展の長期的概観を踏まえ、時系列に沿って各時期の経済社会の変化につき解説を加える。

【到達目標】

戦後の日本における経済活動の歴史について、基礎的な知識を身につける。

現代の日本経済が抱える諸問題を、歴史的な視点から考察できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP8」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式で進めます。授業内容に関する質問を歓迎します。授業前と授業中に受け付けます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	授業ガイダンス	経済史 A の振り返り、授業方法と学習方法の説明
第 2 回	戦後経済改革と市場経済への復帰	戦後の経済改革と市場経済への復帰について説明します
第 3 回	経済復興と高度成長への離陸	復興と高度成長に向けた時期の経済の状況を説明します
第 4 回	高度経済成長の時代	高度経済成長の時代の到来について説明します
第 5 回	技術革新の進展	技術革新の進展の様子を説明します
第 6 回	都市化と農村の変貌	都市化とその影響について説明します
第 7 回	高度成長と財政金融	高度成長期の財政金融政策の特徴について説明します
第 8 回	輸出振興政策	高度成長期の輸出振興政策について説明します
第 9 回	産業政策と国際競争力	高度成長期の産業政策と国際競争力について説明します
第 10 回	日本企業システムと高度経済成長	日本企業システムの特徴について説明します
第 11 回	国際化のなかの安定成長	安定成長期の日本を取り巻く環境について説明します
第 12 回	金融制度改革	金融制度改革について説明します
第 13 回	バブルの発生と崩壊	バブルの発生と崩壊について説明します
第 14 回	まとめと振り返り	講義内容のまとめと振り返りをします

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習：講義資料に目を通し、わからない箇所をチェックしておく（30分程度）

復習：講義資料とノートを読み返し、それでもわからない箇所は早めに質問する（30分程度）

【テキスト（教科書）】

なし

【参考書】

宮本又郎（編著）（2012）『日本経済史 改訂新版』放送大学教育振興会。

石井寛治、原朗、武田晴人（編）（2010）『日本経済史 5 高度成長期』東京大学出版会。

三和良一・三和元『概説日本経済史 近現代 [第 4 版]』東京大学出版会、2021 年。

【成績評価の方法と基準】

期末試験 100%

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません

【Outline (in English)】

The objective of this course is to provide a basic knowledge of the history of economic activities in Japan and to use this knowledge to understand various contemporary economic activities in relative terms.

Based on a long-term overview of Japan's economic development, this lecture will provide an explanation of economic and social changes during each period in chronological order.

Grading Criteria /Policy : Final Exam 100%

ECN200CA
社会経済思想史 A
後藤 浩子
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「ヨーロッパにおける重商主義の形成」

本講義では、まず諸理論家の背景となる歴史的状况を押さえ、そこからどのような思想が生み出されたのかを見ていきます。17 世紀にイングランドは、ステュアート朝三王国体制、ピューリタン革命と共和政、王政復古、そして名誉革命といったように内政の激動を経験し、他方フランスは、マザランやコルベールの財政政策に支えられたルイ 14 世の絶対王政を築いていました。両国は、商業的覇権を求めて経済的・軍事的な競争を展開することになります。このような時代背景の下、「国力とは何か」「商業的繁栄をもたらす国家体制はどのようなものか」といった問いが探究され、政治経済学の諸言説が生み出されることになりました。

【到達目標】

学生が、この講義を通して、17 世紀イングランドとフランスの政治・経済状況の中から、どのようにして経済学的なものの方が生成してきたのか、その過程を理解し、ヨーロッパの地域的特色と認識を深め、国際社会で主体的に生きるための歴史的思考力を培うことを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

授業形態は対面での講義を基本とし、必要に応じて Zoom でのオンライン併用で行います。

毎回の授業で 1200～1400 字の講義の内容をまとめたリアクション・ペーパーを提出してもらい、これに対する受講者全体へのフィードバックは次回の授業開始時に教員からのコメントとして提示します、またリアクション・ペーパーの内容から見て授業内容の理解が不十分と思われる学生に対しては、個別に学習支援システムを通じて添削指導を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	資本主義の誕生とヨーロッパ (1)	ヨーロッパはどのように原初の資本を蓄積したか。資本蓄積システムのプロトタイプと第 1 サイクル。以降 14 回までの本学期的講義内容は、高校世界史 A / B における「ヨーロッパの拡大と大西洋世界：16 世紀から 18 世紀までのヨーロッパ世界の特質とアメリカ・アフリカとの関係」を教授する際に役立つ専門的知識を提供します。
第 2 回	資本主義の誕生とヨーロッパ (2)	重商主義の実相
第 3 回	資本蓄積システムの第 2 サイクル	重商主義システムの雛形としてのオランダ
第 4 回	ポスト・オランダをめぐる競争：フランス対イングランド (1)	フランスとの比較でのイングランド発展の要因分析 ①フランスの税制・国家収入・軍備
第 5 回	ポスト・オランダをめぐる競争：フランス対イングランド (2)	フランスとの比較でのイングランド発展の要因分析 ②イングランドの税制・国家収入・軍備
第 6 回	政治算術の登場	フランシス・ベーコンの思想とベティへの影響
第 7 回	W・ベティ (1)	経歴とアイルランド測量
第 8 回	W・ベティ (2)	『租税貢納論』
第 9 回	W・ベティ (3)	『政治算術』
第 10 回	J・ロック	『政府二論』における労働と所有、植民地論
第 11 回	J・チャイルド	『新交易論』におけるオランダの国力の分析
第 12 回	C・ダヴナント	英国ウィッグ党の経済政策批判
第 13 回	D・デフォー	分業の密度と国力、『ロビンソン・クルーソー漂流記』の経済思想
第 14 回	資本蓄積システムの第 3 サイクル	大ブリテンを中核として形成された資本蓄積システムの特徴

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学生は、毎回の講義の後に、学習支援システムの「課題」欄に提示してある問いに答える形で講義の内容をまとめたレポートを作成し、6 日以内にそれを提出します。これに必要な学習時間は最低 4 時間です。毎回教員が目を通し、合格すればレポート評価分の点数として 10 点加算され、合格水準に満たないものは必要箇所を修正して再提出して頂きます。

【テキスト（教科書）】

とくにテキストは指定せず、私の講義ノートにそって授業を進めます。毎回、授業でレジュメと資料を学習支援システムを通じて配布します。

【参考書】

イシュトヴァン・ホント『貿易の嫉妬』（昭和堂、2009 年）
 ラース・マグヌソン著、熊谷次郎・大倉正雄訳『重商主義：近世ヨーロッパと経済的言語の形成』（知泉書館、2009 年）
 米田昇平『欲求と秩序：18 世紀フランス経済学の展開』（昭和堂、2005 年）
 ※さらに詳しく学びたい人のための文献ですので、事前に購入する必要はありません。

【成績評価の方法と基準】

毎回の講義内容をまとめたレポート（40 %）と春学期末の定期試験の成績（60 %）で評価します。授業でとりあげる各思想家が置かれていた歴史的状况と彼らの思想史的重要性についての理解度を基準として評価します。

【学生の意見等からの気づき】

歴史状況の具体的な認識を促進するため、写真や地図、動画などを教材として有効に利用します。

【Outline (in English)】

【Course outline】

"The formation of mercantilism in Europe"

To begin with, this lecture gives students basic knowledge about the economic development of sixteenth-and seventeenth-century Europe as historical context. Then, it introduces major theorists of social and economic thought of that time.

In the seventeenth century England underwent internal and external upheavals such as the Union of the Crowns, the Wars of the Three Kingdoms (the Puritan Revolution), the Restoration and the Glorious Revolution. On the other hand, France established an absolute monarchy under the reign of Louis XIV with the help of Mazarin and Colbert. These two kingdoms were to get into economic and military contest for commercial supremacy. Against this backdrop, intellectuals discussed questions such as "what is the strength of nation?" and "what regime brings economic prosperity?". In replying to them, mercantilism was to be formed.

【Learning Objectives】

At the end of the course, students are expected to understand the historical formation of economic perspectives in the political and economic situations of the seventeenth-century England and France and regional characteristics of Europe.

【Learning activities outside of classroom】

After each lecture, students will be expected to make a summary of a lecture in 1200 to 1400 characters on a reaction paper. Your study time will be more than 4 hours.

【Grading Criteria/ Policies】

Your overall grade in the class will be decided based on the following Term-end examination; 60%, Short reports (Summaries of the lectures):40%

ECN200CA
社会経済思想史 B
後藤 浩子
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「重商主義批判の流れと経済学の形成」
 戦費調達のために迫られ、17世紀末イングランドでは公信用の制度的革新が生じました。しかし、フランスでは、17世紀末の Colbert の工業重視政策と戦費増大で国家債務が膨らみ、絶対王政は自己破産の危機に瀕します。これに対処すべく、18世紀初頭には、フランス王立銀行が設立され、銀行券が発行されましたが、このいわゆる「ローのシステム」は 1720 年に破綻します。同時期にブリテンもまた「南海泡沬事件」で投資ブームとその破綻を経験します。このような歴史的状況の中で、まずはフランスで、そしてブリテンで、様々な処方箋が提出され、スミスによるそれらの批判的検討は「国富論」に結実します。

【到達目標】

学生が、この講義を通して、17世紀末「イングランド財政・金融革命」による公信用制度の普及と膨張する国家財政を背景に、18世紀に続々登場する重商主義政策批判の言説を介して、法学を補完する「立法者の科学」として経済学が誕生する過程を理解し、国際社会で主体的に生きるための歴史的思考力を培うことを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

授業形態は対面での講義を基本とし、必要に応じて Zoom でのオンライン併用で行います。

毎回の授業で 1200～1400 字の講義の内容をまとめたリアクション・ペーパーを提出してもらい、これに対する受講者全体へのフィードバックは次回の授業開始時に教員からのコメントとして提示します、またリアクション・ペーパーの内容から見て授業内容の理解が不十分と思われる学生に対しては、個別に「学習支援システム」を通じて添削指導を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	重商主義批判の流れ	フランスとスコットランドにおける脱オランダ・モデルの探究。以降 14 回までの本学期的講義内容は、高校世界史 A / B における「産業社会と国民国家の形成：フランス革命と 18 世紀後半から 19 世紀までのヨーロッパ・アメリカの経済的・政治的変革」を教授する際に役立つ専門的知識を提供します。
第 2 回	ジョン・ロー	国家債務処理システムのプランとその破綻
第 3 回	ボワギルベール (1)	欲求と富
第 4 回	ボワギルベール (2)	自然的自由の体制の希求
第 5 回	J・F・ムロン (1)	商業のための立法原理の探究：貿易と産業の連関
第 6 回	J・F・ムロン (2)	貨幣と信用
第 7 回	R・カンティロン (1)	商業の一般法則の分析
第 8 回	R・カンティロン (2)	市場価格と貨幣流通
第 9 回	F・ケネー (1)	「経済表」：国富の循環の分析
第 10 回	F・ケネー (2)	フィジオクラシーと合法的専制主義
第 11 回	A・スミス (1)	スミスによる基本概念の整理：資本・分業・交換
第 12 回	A・スミス (2)	「重商主義体系」批判
第 13 回	A・スミス (3)	経済発達の自然的過程と制度の影響
第 14 回	A・スミス (4)	公債批判と国家財政論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学生は、毎回の講義の後に、学習支援システムの「課題」欄に提示してある問いに答える形で講義の内容をまとめたレポートを作成し、6 日以内にそれを提出します。これに必要な学習時間は最低 4 時間です。毎回教員が目を通し、合格すればレポート評価分の点数として 10 点加算され、合格水準に満たないものは必要箇所を修正して再提出して頂きます。

【テキスト（教科書）】

とくにテキストは指定せず、私の講義ノートにそって授業を進めます。毎回、授業でレジュメと資料を学習支援システムを通じて配布します。

【参考書】

イシュトヴァン・ホント『貿易の嫉妬』（昭和堂、2009 年）

ラース・マグヌソン著、熊谷次郎・大倉正雄訳『重商主義：近世ヨーロッパと経済的言語の形成』（知泉書館、2009 年）
 米田昇平『欲求と秩序：18 世紀フランス経済学の展開』（昭和堂、2005 年）
 ジャン＝フランソワ・ムロン著、米田昇平・後藤浩子訳『商業についての政治的試論』（京都大学学術出版会、2015 年）

【成績評価の方法と基準】

毎回の講義内容をまとめたレポート（40 %）と秋学期末の定期試験の成績（60 %）で評価します。授業でとりあげる各思想家が置かれていた歴史的状況と彼らの思想的な重要性についての理解度を基準として評価します。

【学生の意見等からの気づき】

歴史状況の具体的な認識を促進するため、写真や地図、動画などを教材として有効に利用します。

【Outline (in English)】

【Course outline】

"Criticism of mercantilism and formation of political economy"
 In need of procurement of war expenditure, institutional innovation of public credit occurred in England in the end of the seventeenth century. However, in France, the national debt had expanded due to Colbert's manufacture-oriented policy and increase of financial burden of war since the seventeenth century and absolute monarchy was on the verge of self-bankruptcy. To cope with this quagmire, the Banque royale was established in the beginning of the 18th century, and bank notes were issued, but this so-called "Law system" failed in 1720. At the same time, Britain also experienced the investment boom and its collapse, namely the South Sea Bubble. Amid such historical circumstances, various prescriptions for the ailing economies are made up first in France and then in Britain. Adam Smith examined thoroughly those critical reviews of mercantile policy and gave birth to The Wealth of Nations.

【Learning Objectives】

At the end of the course, students are expected to understand the formation of the public credit system called the "Financial Revolution", the criticisms of mercantilism and the birth of physiocracy and political economy.

【Learning activities outside of classroom】

After each lecture, students will be expected to make a summary of a lecture in 1200 to 1400 characters on a reaction paper. Your study time will be more than 4 hours.

【Grading Criteria/ Policies】

Your overall grade in the class will be decided based on the following Term-end examination; 60%, Short reports (Summaries of the lectures):40%

ECN300CA
経済政策論 A
濱秋 純哉
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

政府は、ダムや道路の建設、教育サービスの提供、及び社会保障制度の整備などの「経済政策（公共政策）」を行っている。民間企業の自由な活動に任せられる分野がある一方で、このように政府が直接・間接に財・サービスの提供に関与する分野があるのはなぜだろうか。このような疑問に対して、経済学の余剰分析の考え方に基づき考察する。

【到達目標】

この講義では、受講者各人が、現実の経済政策を評価する力を身に付けることを目標とする。具体的には、経済学の余剰分析の考え方に基づき、外部性の問題や望ましい公共財の供給について主体的に考察できるようになることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP8」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】

直感的な理解が進むように図表を使った説明を交えながら、講義形式で経済政策に関するトピックを解説する。授業の途中や授業後に復習問題を解く時間を設け、受講者が自分の頭で考える機会も作る。復習問題については、翌週の授業までに解説資料をアップロードし、解答の説明と講評（多かった間違いや興味深い解答の紹介など）を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	経済学でどのように経済政策について考えるか？
2	経済政策を分析するための準備 1	完全競争市場とは何か、需要曲線と供給曲線
3	経済政策を分析するための準備 2	消費者余剰の図示
4	経済政策を分析するための準備 3	弾力性の概念
5	経済政策を分析するための準備 4	様々な費用の概念
6	経済政策を分析するための準備 5	企業の利潤最大化行動と供給曲線
7	経済政策を分析するための準備 6	生産者余剰の図示
8	経済政策を分析するための準備 7	経済政策の余剰分析
9	外部性への対処 1	外部性の概念
10	外部性への対処 2	外部性の存在と市場の効率性
11	外部性への対処 3	指導・監督政策による外部性への対処
12	外部性への対処 4	市場重視政策（ピグー税と排出権取引）による外部性への対処
13	公共財の供給 1	公共財の最適供給の条件、公共財の自発的供給
14	公共財の供給 2	国家公共財と地方公共財の供給

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の準備学習・復習を行うこと。準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

八田達夫, 2008, 『ミクロ経済学 I』東洋経済新報社
N・グレゴリー・マンキュー, 2019, 『マンキュー経済学 I ミクロ編 [第 4 版]』東洋経済新報社

【参考書】

小川光・西森晃, 2022, 『公共経済学 [第 2 版]』中央経済社

【成績評価の方法と基準】

期末試験（70%）、復習問題の解答の提出（30%）によって評価する。

【学生の意見等からの気づき】

毎回の授業で学生が受け身の学習にならないように、授業中に簡単な質問に答えてもらったり、授業内容に即した復習問題を課したりする。また、経済学の抽象的な概念の説明の際には、必ず具体例とセットで説明することで理解を促す。

【Outline (in English)】

Course Outline

Governments conduct a wide range of economic and other public policies including, for example, the construction of dams and roads, the provision of education services, and the provision of a social security system. While of course there are a large number of areas that are left to the private sector, the question nevertheless is why there are areas in which governments directly and indirectly contribute to the provision of goods and services. This course considers this issue from a microeconomic perspective using welfare analysis.

Learning Objectives

At the end of the course, students are expected to acquire the ability to evaluate economic policies based on economics.

Learning Activities Outside of Classroom

Before/after each class meeting, students are expected to spend four hours to understand the course content.

Grading Criteria / Policy

Final grade will be decided based on the following:

Term-end examination: 70%, Review questions after each class: 30%

ECN300CA
経済政策論 B
濱秋 純哉
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

政府や中央銀行は、財政政策や金融政策などのマクロ経済政策を行っているが、どのような目的で、さらには、どのような根拠に基づいて政策を実行しているのだろうか。このような疑問に対して、マクロ経済学の IS-LM モデルを用いて考察する。また、GDP、物価指数、失業率といった経済政策立案の際に参照される各種マクロ統計の作成方法とその計測上の課題、及び近年の雇用問題についても検討する。

【到達目標】

この講義では、受講者各人が経済学の考え方に基づいて、現実の経済政策を評価する力を身に付けることを目標とする。具体的には、各種マクロ統計の作成方法と統計の読み方を理解すること、及び財政政策と金融政策が経済に与える影響などについて主体的に考察できるようになることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP8」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】

直感的な理解が進むように図表を使った説明を交えながら、講義形式で経済政策に関するトピックを解説する。授業の途中や授業後に復習問題を解く時間を設け、受講者が自分の頭で考える機会も作る。復習問題については、翌週の授業までに解説資料をアップロードし、解答の説明と講評（多かった間違いや興味深い解答の紹介など）を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	マクロ経済と私たちの生活
2	経済政策のためのマクロ統計 1	GDP の概念と作成方法
3	経済政策のためのマクロ統計 2	名目 GDP と実質 GDP
4	経済政策のためのマクロ統計 3	物価指数の概念と作成方法
5	経済政策のためのマクロ統計 4	失業率の概念と作成方法
6	労働政策 1	需要不足失業とミスマッチ失業
7	労働政策 2	失業への政策的対処
8	労働政策 3	最低賃金引き上げの影響
9	財政・金融政策 1 : IS-LM モデルの構築 1	ケインジアンの変差図、乗数効果
10	財政・金融政策 2 : IS-LM モデルの構築 2	IS 曲線の導出
11	財政・金融政策 3 : IS-LM モデルの構築 3	貨幣量の測定とコントロール
12	財政・金融政策 4 : IS-LM モデルの構築 4	LM 曲線の導出
13	財政・金融政策 5 : IS-LM モデルの応用 1	財政政策の効果とクラウディング・アウト
14	財政・金融政策 6 : IS-LM モデルの応用 2	金融政策の効果と流動性の罫

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本講義を履修するにあたり、経済政策論 A を履修済みのことが望ましい（ただし、需要曲線・供給曲線、余剰や弾力性の概念、及び余剰分析の方法などを学習済みなら、必ずしも経済政策論 A を履修済みの必要はない）。また、授業の準備学習・復習を行うこと。準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

N・グレゴリー・マンキュー、2017、『マクロ経済学 I（第 4 版）』東洋経済新報社

【参考書】

福田慎一・照山博司、2016、『マクロ経済学・入門（第 5 版）』有斐閣

【成績評価の方法と基準】

期末試験（70%）、復習問題の解答の提出（30%）によって評価する。

【学生の意見等からの気づき】

毎回の授業で学生が受け身の学習にならないように、授業中に簡単な質問に答えてもらったり、授業内容に即した復習問題を課したりする。また、経済学の抽象的な概念の説明の際には、必ず具体例とセットで説明することで理解を促す。

【Outline (in English)】

Course Outline

Governments and central banks conduct macroeconomic policies such as fiscal policy and monetary policy, but for what purpose and on what basis do they implement such policies? This course considers these questions from a macroeconomic perspective using IS-LM model. The course also examines how various macroeconomic statistics such as GDP statistics, price indexes (consumer price indexes and GDP deflators), and unemployment rates are compiled as well as related measurement issues, and moreover, investigates employment issues in recent years.

Learning Objectives

At the end of the course, students are expected to acquire the ability to evaluate economic policies based on economics.

Learning Activities Outside of Classroom

Before/after each class meeting, students are expected to spend four hours to understand the course content.

Grading Criteria /Policy

Final grade will be decided based on the following:

Term-end examination: 70%, Review questions after each class: 30%

ECN300CA
農業経済論 A
西澤 栄一郎
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本の農業は、農家の減少や荒廃農地の増加、農産物輸入額の増加などのさまざまな課題に直面している。こうした農業の問題は、私たちの生活や経済全体に密接に関係している。この授業では、経済学的手法を用いつつ、日本の農業の分析と考察を行う。

【到達目標】

- ①日本農業の現状を理解する。
- ②食料・農業問題の経済学的な分析手法を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】

毎回、学習支援システムに資料をアップロードする。課題等の提出・フィードバックは学習支援システムを通じて行う予定である。経済学入門と現代経済学基礎を履修済みであることを想定して授業を進める。経済政策論 A または公共経済論 A を履修済みか、同時履修が望ましい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業ガイダンスと日本農業の現在
第 2 回	食生活の変遷	エンゲルの法則、食の外部化
第 3 回	食料の需要・供給	フードシステム、弾力性
第 4 回	日本農業の展開過程①	江戸時代から農地改革まで
第 5 回	日本農業の展開過程②	農地改革以降
第 6 回	食料自給率からみる日本農業	食料自給率と食料自給力
第 7 回	農業の生産組織と土地	農業経営体、法人化、集落営農
第 8 回	農業生産の技術	BC 技術と M 技術
第 9 回	コメの生産と流通	食糧管理制度、経営所得安定対策
第 10 回	畜産物の生産と流通	繁殖農家と肥育農家
第 11 回	世界の食料問題	フード・セキュリティ
第 12 回	価格政策と貿易政策	価格支持政策、GATT、WTO
第 13 回	アメリカ・ヨーロッパの農業と農業政策	アメリカ農業法、EU の共通農業政策
第 14 回	まとめ	春学期のおさらい

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書と各回で示す参考文献を読む。配布資料を見直す。本授業の準備・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しない。資料を配布する。

【参考書】

荏開津典生・鈴木宣弘 (2020) 『農業経済学 第 5 版』岩波書店
 生源寺真一 (2013) 『農業と人間』岩波書店
 その他の参考文献は、授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

期末試験により評価する (100%)。いかなる理由であれ、試験 (追試を含む) を受けない者の単位は認めない。

【学生の意見等からの気づき】

課題は各自で取り組むこと。授業の理解が深まるような課題を出すように心がけたい。

【Outline (in English)】

This course outlines food and agriculture in Japan.

The goals of this course are to acquire methods of economic analysis on food and agriculture and to comprehend Japanese agriculture.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading will be decided based on the final examination (100%) which all student must take.

ECN300CA
農業経済論 B
西澤 栄一郎
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、農業・農村を資源・環境および社会との関連でとらえ、現在の課題を把握する。これに関連して、森林・林業および水産業の現状を、経済学的手法を用いて理解する。

【到達目標】

- ①日本の農山村に関わる問題について理解する。
- ②日本の森林・林業と水産業の現状を理解する。
- ③資源の管理に関わる経済学的手法を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】

毎回、学習支援システムに資料をアップロードする。課題等の提出・フィードバックは学習支援システムを通じて行う予定である。

農業経済論 A を履修済みであることが望ましい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	国際貿易の理論	貿易の利益、比較生産費説
第 2 回	世界の農業類型	保水/除草農業、休閒/中耕農業
第 3 回	農山村の変遷と現状	中山間地域、地方創生
第 4 回	農業と環境	多面的機能、野生鳥獣害
第 5 回	農村資源とエネルギー	再生可能エネルギー
第 6 回	農村における地域づくり	都市農村交流、グリーンツーリズム
第 7 回	日本の森林と林業	生産、価格、経営体などの動向
第 8 回	森林整備と多面的機能	持続可能な森林経営
第 9 回	森林と林政の展開	江戸時代から現在まで
第 10 回	森林管理の課題	間伐や販売のありかた
第 11 回	日本の水産業の現状	生産、価格、経営体などの動向
第 12 回	水産業の展開過程	各種の漁法、明治から現在まで
第 13 回	日本の水産政策	漁業権、量的規制
第 14 回	水産資源の管理	新たな資源管理システム

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

参考書と各回で示す参考文献を読む。課題に取り組む。本授業の準備・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

テキストは指定しない。資料を配布する。

【参考書】

『食料・農業・農村白書』『森林・林業白書』『水産白書』の各年版。その他の参考文献は、授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

期末試験により評価する (100%)。いかなる理由であれ、試験（追試を含む）を受けない者の単位は認めない。

【学生の意見等からの気づき】

課題は各自で取り組むこと。授業の理解が深まるような課題を出すように心がけたい。

【Outline (in English)】

This course overviews rural areas as well as forestry and fisheries in Japan.

The goals of this course are to comprehend forestry and fisheries in Japan and to acquire methods of economic analysis on resource management.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading will be decided based on the final examination (100%) which all student must take.

ECN300CA
社会政策論 A
和久津 尚彦
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では現代社会の主として医療に関する諸課題とその政策対応を理解し、経済学の視点から分析する能力を身につけることを目的とする。医療政策は医療提供体制と医療保障に関するものに大別できる。本講義は医療提供体制に関する諸問題を中心に扱う。

【到達目標】

- ・日本の医療分野の現状と課題を理解し説明できる。
- ・日本の医療制度の概要を理解し説明できる。
- ・日本の医療に関する諸課題への政策対応を経済学の知見に基づき考察できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】

本講義はオンデマンドシステムで配信する講義コンテンツ並びに学習支援システムにおける情報提供、確認テストを通じて基本的に実施する。学習支援システムを通じて、適宜、講義内容に関する指示が出されるので確認を怠らないこと。同様に、質問や課題等の提出・フィードバックは学習支援システムを通じて行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業全体の説明、医療と経済学の関わり
2	日本の医療制度の枠組み	日本の医療提供体制、医療保障制度の概説
3	日本の医療制度の政策課題	医療提供体制と医療保険制度がかかえる政策課題の概説
4	医療と情報：理論編	医療市場の広告規制と経済学的根拠、医療情報
5	医療と情報：実証編	関連する国内外の実証研究結果の紹介と検討
6	医療における競争と規制：理論編	広告規制以外の医療市場における規制と経済学的根拠
7	医療における競争と規制：実証編	関連する国内外の実証研究結果の紹介と検討
8	医療の機能分化：理論編	かかりつけ医、エージェンシー問題、機能分化
9	医療の機能分化：実証編	関連する国内外の実証研究結果の紹介と検討
10	供給者誘発需要：理論編	供給者誘発需要仮説、病床規制
11	供給者誘発需要：実証編	関連する国内外の実証研究結果の紹介と検討
12	健康行動への介入：理論編	肥満の医学的・社会的問題、メタボ検診、ナッジ
13	健康行動への介入：実証編	関連する国内外の実証研究結果の紹介と検討
14	まとめ	前回までの内容の確認・補足

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義内でも様々な医療制度の目的や沿革、背景などを概説するが、日頃から医療に関する時事的トピックスの新聞記事・雑誌記事に関心をもって目を通すことが望ましい。

本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しない。主に下記の参考書を参考に作成した資料を配布する。

【参考書】

河川洋行『医療の経済学（第 4 版）』日本評論社 2020 年

【成績評価の方法と基準】

小レポート（複数回、計 30 %）、期末試験（70 %）で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

受講生の便宜を図るため資料の事前配布につとめる。

【その他の重要事項】

授業計画の細部については、適宜変更を加えることがある。

【Outline (in English)】

The purpose of this course is to acquire basic knowledge of and analytical skills to the issues on health care policies, using economics. This year, a particular attention is given to those on health care providing system. Final grade will be decided based on short reports (30%) and term-end examination (70%).

ECN300CA
社会政策論 B
和久津 尚彦
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では現代社会の主として医療に関する諸課題とその政策対応を理解し、経済学の視点から分析する能力を身につけることを目的とする。医療政策は医療提供体制と医療保障に関するものに大別できる。本講義は医療保障に関する諸問題を中心に扱う。

【到達目標】

- ・日本の医療分野の現状と課題を理解し説明できる。
- ・日本の医療制度の概要を理解し説明できる。
- ・日本の医療に関する諸課題への政策対応を経済学の知見に基づき考察できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】

本講義はオンデマンドシステムで配信する講義コンテンツ並びに学習支援システムにおける情報提供、確認テストを通じて基本的に実施する。学習支援システムを通じて、適宜、講義内容に関する指示が出されるので確認を怠らないこと。同様に、質問や課題等の提出・フィードバックは学習支援システムを通じて行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業全体の説明、日本の医療制度の枠組み・政策課題の概説
2	介護保険：理論編	介護保険制度、介護費の動向、医療サービスの代替と補完
3	介護保険：実証編	関連する国内外の実証研究結果の紹介と検討
4	公的医療保険：理論編	公的医療保険制度、国民皆保険、逆選択
5	公的医療保険：実証編	関連する国内外の実証研究結果の紹介と検討
6	診療報酬：理論編	診療報酬（医療サービスの公定価格）、海外との比較
7	診療報酬：実証編	関連する国内外の実証研究結果の紹介と検討
8	混合診療禁止：理論編	混合診療禁止ルール、経済学的根拠、メリット・デメリットの概説
9	混合診療禁止：実証編	関連する国内外の実証研究結果の紹介と検討
10	「医師不足」問題：理論編	「医師不足」問題の変遷、経済学的接近、買手独占
11	「医師不足」問題：実証編	関連する国内外の実証研究結果の紹介と検討
12	終末期医療：理論編	終末期医療をめぐる論争、終末期医療費、経済学的解釈の概説
13	終末期医療：実証編	関連する国内外の実証研究結果の紹介と検討
14	まとめ	前回までの内容の確認・補足

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義内でも様々な医療制度の目的や沿革・背景などを概説するが、日頃から医療に関する時事的トピックスの新聞記事・雑誌記事に関心をもって目を通すことが望ましい。

各授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しない。主に下記の参考書を参考に作成した資料を配布する。

【参考書】

河口洋行『医療の経済学（第4版）』日本評論社 2020年

【成績評価の方法と基準】

小レポート（複数回、計 30%）、期末試験（70%）で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

受講生の便宜を図るため資料の事前配布につとめる

【Outline (in English)】

The purpose of this course is to acquire basic knowledge of and analytical skills to the issues on health care policies, using economics. This year, an particular attention is given to those on health care insurance. Final grade will be decided based on short reports (30%) and term-end examination (70%).

ECN200CA
労働経済論 A
酒井 正
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ミクロ経済理論を応用することで、労働市場における諸現象を解釈すると同時に、労働市場に関する統計資料を読み解く。「人手不足」、「外国人労働力」、「教育の経済学」といったトピックについて紹介すると同時に、「なぜ賃金が上がらないのか」といったことについても議論する。

【到達目標】

この労働経済論 A では、まず基本的な労働供給・労働需要の理論をしっかりと理解する。更に、統計分析の考え方を学んだうえで、働き方を巡る様々な現象を実証的に分析する能力を身に付ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】

対面（教室）での授業を基本としながら、状況に応じてオンラインのみによる授業もおこなう。

小テストを学習支援システム（Hoppii）を通じておこない、その点数はシステムを通じてフィードバックする。また、正答率の低かった問題等については、適宜、授業内で解説する予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の進め方、労働経済学とは
2	労働市場の概観	統計で見る日本の労働市場
3	労働供給行動（1）	静学的労働供給モデル
4	労働供給行動（2）	静学的労働供給モデルの応用
5	労働需要行動（1）	短期・長期の労働需要
6	労働需要行動（2）	調整費用モデル等
7	市場均衡	競争均衡、買手独占
8	実証分析の方法（1）	回帰分析
9	実証分析の方法（2）	セレクション・バイアスの概念とその対処
10	補償賃金格差	ヘドニック・モデルとその応用（「同一労働同一賃金」等）
11	人的資本投資（1）	教育投資モデル、シグナリング・モデル
12	人的資本投資（2）	一般的訓練と企業特長的訓練
13	賃金格差・所得格差	所得格差の概観、グループ間賃金格差
14	地域間労働移動	ロイ・モデル等

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学生は、講義資料や授業内での練習問題を中心に復習をおこなう必要がある。本授業の準備・復習に必要な時間は4時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特に使用しない。

【参考書】

阿部正浩『基本講義 労働経済学』（新世社、2021年）

清家篤・風神佐知子『労働経済』（東洋経済新報社、2020年）

【成績評価の方法と基準】

2回程度の小テスト（10%）+ 期末テスト（90%）で評価する。いずれも学習支援システムによっておこなう予定である。

【学生の意見等からの気づき】

・本講義に関して、受講者が関心のあるトピックを把握するように心掛ける。
・講義内容に関する質問が少なく、学生の理解度を把握しづらい状況を鑑み、授業内での演習等を増やす予定である。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

コロナ感染等から教室で授業を受けられないケースに対応するため、ハイフレックス形式（対面とオンラインの併用）による授業の実施を検討する場合もある。

【Outline (in English)】

The objective of this course is to learn how to analyze various phenomenon in labor market by applying micro-economic theory with the data. This course covers topics such as labor scarcity, foreign workers and economics of education.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Final grade will be calculated based on mid-term exam (10%) and term-end exam (90%).

ECN200CA
労働経済論 B
酒井 正
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

労働経済論 A で学んだことを踏まえ、労働市場に関するより具体的なトピックを取り上げて解説する。特に、労働政策や社会保障等の各種施策が私たちの働き方にもたらす影響を検討する。（取り上げるトピックの例：「人事の経済学」、「介護離職」、「両立支援策」等）また、コロナ禍における労働市場のセーフティネットについても議論する。

【到達目標】

働き方を巡る「論点」を知り、それを経済学的に考えることを通じて、労働問題や公共政策の議論に参加できることを最終的な目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】

対面（教室）での授業を基本としながら、状況に応じてオンラインのみによる授業もおこなう。

小テストを学習支援システム（Hoppii）を通じておこない、その点数はシステムを通じてフィードバックする。また、正答率の低かった問題等については、適宜、授業内で解説する予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の進め方、労働経済学及び実証分析の基本概念的復習
2	人事の経済学（1）	固定給と出来高給
3	人事の経済学（2）	後払い賃金
4	労働市場における差別	差別の経済理論、男女間賃金格差
5	失業（1）	日本の失業の概観
6	失業（2）	失業を説明する理論
7	失業保険・労災保険	失業保険に関する実証分析、労働災害の現状
8	最低賃金	最低賃金の影響に関する実証分析
9	就業形態の多様化	非正規雇用の増加要因、仕事の二極化
10	若年就業	若年就業の現状と「世代効果」
11	高齢者就業	引退行動に影響を与える要因、介護離職問題
12	労働時間	労働時間の実態とワークライフバランス
13	両立支援制度	女性の就業と保育サービス
14	社会保険料事業主負担の帰着問題、その他	事業主負担の帰着に関する理論と実証

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学生は、講義資料や授業内での練習問題をよく復習する必要がある。また、指示された文献（新聞記事や雑誌記事等）についても目を通すこと。本授業の準備・復習に必要な学習時間は、4 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特に使用しない。

【参考書】

酒井正『日本のセーフティネット格差 労働市場の変容と社会保障』（慶應義塾大学出版会、2020 年）

川口大司編『日本の労働市場 経済学者の視点』（有斐閣、2017 年）

【成績評価の方法と基準】

2 回程度の小テスト（10%）+ 期末テスト（90%）で評価する。いずれも学習支援システムによって実施する予定である。

【学生の意見等からの気づき】

・授業で扱うトピックに関して受講者の考えを聞くように心がける。
・授業内容に関する質問が少なく、学生の理解度を把握しづらい状況を鑑み、授業内で演習の機会を増やす予定である。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

・労働経済論 A の履修は必須ではないが、講義は労働経済論 A の内容を前提として進める。したがって、労働経済論 A を受講しておらず、講義内容を理解できない場合には、各自でその内容を学習する必要がある。

【Outline (in English)】

Based on what students learned in labor economics A, the goal of this course is to analyze more specific topics, especially topics on labor market policy and social policy. Safety net under COVID-19 is also discussed.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Final grade will be calculated based on mid-term exam (10%) and term-end exam (90%).

ECN300CA
金融各論 I A
高橋 秀朋
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は、金融もしくはファイナンスの基本的な知識であるマネー（貨幣）の時間価値の概念、一物一価の法則と裁定、リスクに関する知識を解説し、その知識を応用して、債権の価格評価、債券のポートフォリオ管理、リスク分散化など実際の資産運用で実践されている知識を解説する。また、銀行のアセット・ライアビリティ・マネジメントや投資信託の資産運用でそれらがどのように利用されているかも実例やデータを交えて詳しく解説していく。

【到達目標】

本講義の目標は、資産運用方法および投資戦略の意義を理解し、銀行や保険会社が預金者から預かったお金が実際にどのように運用されているのか、それらの行動が経済に対してどのようなインパクトを与えるかを考察できる力を身につけることにある。また、株価データをはじめとした統計データを分析し、客観的な証拠を提示できるような力も身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP8」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】

本講義は原則として対面による講義形式で行う。講義では演習が中心になるため、学生は事前にオンデマンド形式でアップロードされるコンテンツを視聴しておくことが求められる。受講者はシステムにアップロードされた講義資料を各自で学習したのち、講義に参加することが求められる。本講義では、数学や統計的な知識を利用して、ファンドがどのような方法で資産を運用しているのかを示すのはもちろんであるが、できる限り事例を多く導入し、わかりやすく解説していく。そのため、講義は Excel を多用する。演習回では、アサインメント（クイズ）が毎回課され、それは講義中に提出してもらう。当該アサインメントの解説は講義内で行い、フィードバックする。その解説を聞いても不明瞭な点がある場合は講義終了後、もしくは、オフィスアワーに教員に直接し質問しすること。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	統計知識の復習	期待値と標準偏差
2	マネーの時間価値	将来価値、現在価値、IRR
3	債券価格と裁定理論	債券価格の計算
4	債券のデュレーション	イミュニゼーション
5	リスク資産評価 1	2 項モデル
6	リスク資産評価 2	分散化
7	分離定理	効率的フロンティア
8	資本市場モデル	CAPM とパフォーマンス評価
9	債券価格の計算	債券の現在価値を計算する
10	債券運用	債券価格の感応度分析
11	株式収益率 1	記述統計量の計算
12	株式収益率 2	シミュレーション、記述統計量
13	投資分析	資本市場線の記述
14	レポート提出	債券・投資分析

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義資料は事前にアップロードするので、受講者は当該資料に目を通した上で講義に参加することが望ましい。演習回の場合はそれが特に求められる。また、講義では EXCEL を利用し計算を行う練習問題を出題することがあるので、EXCEL を利用できる環境下にあることが望ましい。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

S. Benninga 『Financial Modeling 5th ed.』（The MIT Press, 2022）

【参考書】

手嶋宣之『ファイナンス入門』（ダイヤモンド社、2011 年）
ツヴィ・ボディー、ロバート・マートン（著）、大前恵一郎（翻訳）『現代ファイナンス論 第 2 版』（ピアソン・エドゥケーション、2011 年）
Z. Bodie, A. Kane, A. Marcus 『Essentials of Investments 10th ed.』（McGraw-Hill, 2016）

【成績評価の方法と基準】

講義後に課されるアサインメントと期末課題レポートで評価する。アサインメント 30%、期末課題レポート 70%で評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】

講義内容理解のためのフィードバックを可能な限り行い、学生の内容理解に尽力する。

【学生が準備すべき機器他】

講義では Excel を利用した演習を中心に進めるので、受講生は MS Excel がインストールされている PC を準備して講義に臨むこと。

【Outline (in English)】

This course provides an introduction to the theories and the methods in investment analysis such as present value, yield to maturity, arbitrage, risk, and risk diversification. This course also introduces how the theories and methods in investment are utilized into the practical world. We focus on asset/liability management by banks and evaluation of investment performance. To explain practical uses of the theories and the methods in investment analysis more easily, data and simulation-based analyses are employed. The goal of this course is to acquire basic skills concerning risk management. Before each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content. Students are also required to spend two hours to review the content after each class. Final grade will be calculated according to the in-class assignments (30%) and term-end report (70%).

ECN300CA
金融各論 I B
高橋 秀朋
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は、ファイナンスのリスク資産評価に関する知識がある程度身につけている者を対象として、デリバティブを利用したリスクの移転方法およびその応用に関して学習していく。具体的には、2 項モデル・BS モデルによるオプション評価、ポートフォリオ・インシュアランス、リアル・オプションによる投資評価である。それらの概念は数式などを通じて学習していくだけでは理解が難しいので、シミュレーションの方法も同時に学習し、数値例を用いてより理解を深めていく。

【到達目標】

本講義の目標は、確率・統計に関する基本的な知識を前提として、オプションを利用したリスク・インシュアランスの方法、オプションの価格評価、オプションが企業の投資意思決定に与える影響を理解し、実際に存在する投資ファンドや企業がどのような基準で投資判断を行っているのか、企業に関連するニュース（特に、M&A）の背後にはどのような経済的事情が存在するのかを考察できる力を身につけることにある。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP8」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】

本講義は原則として対面による講義形式で行う。講義では演習が中心になるため、学生は事前にオンデマンド形式でアップロードされるコンテンツを視聴していただくことが求められる。本講義では、数学や統計的な知識を利用して、企業や投資ファンドがどのような方法で資産や企業を評価しているのかを示すのはもちろんであるが、できる限り事例を多く導入し、わかりやすく解説していく。そのため、講義は Excel を多用する。演習回では、アサインメント（クイズ）が毎回課され、それは講義中に提出してもらおう。当該アサインメントの解説は講義内で行い、フィードバックする。その解説を聞いても不明瞭な点がある場合は講義終了後、もしくは、オフィスアワーに教員に直接し質問すること。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	統計知識の復習	平均・標準偏差
2	オプションの基本 1	オプションのペイオフ、利益
3	オプション戦略	複数オプションの組合せ
4	オプション評価 1	2 項モデル
5	オプション評価 2	ブラックショールズモデル
6	オプション複製	デルタヘッジング
7	シミュレーション 1	ポートフォリオインシュアランス
8	シミュレーション応用 1	モンテカルロ法によるオプション価格導出
9	オプションの基本 2	株式と債券によるオプション複製
10	オプション評価 3	2 項モデルの BS モデルへの近似
11	シミュレーション 2	バタフライスプレッドの複製
12	シミュレーション応用 2	アジアンオプションの価格導出
13	リアル・オプション	撤退・拡張オプション
14	レポート提出	オプション価格の計算

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義資料は事前にアップロードするので、受講者は当該資料に目を通した上で講義に参加することが望ましい。演習回の場合はそれが特に求められる。また、講義では EXCEL を利用し計算を行う練習問題を出題することがあるので、EXCEL を利用できる環境下にあることが望ましい。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

S. Benninga 『Financial Modeling 5th ed.』 (The MIT Press, 2022)

【参考書】

ツヴィ・ボディー、ロバート・マートン（著）、大前恵一朗（翻訳）『現代ファイナンス論 第 2 版』（ビアンソン・エドゥケーション、2011 年）
Z. Bodie, A. Kane, A. Marcus 『Essentials of Investments 10th ed.』 (McGraw-Hill, 2016)

【成績評価の方法と基準】

セミナー形式の講義後に課されるアサインメントと期末課題レポートで評価する。アサインメント 30%、期末課題レポート 70% で評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】

講義内容理解のためのフィードバックを可能な限り行い、学生の内容理解に尽力する。

【学生が準備すべき機器他】

講義では Excel を利用した演習を中心に進めるので、受講生は MS Excel がインストールされている PC を準備して講義に臨むこと。

【Outline (in English)】

This course provides lectures to understand and value the basic derivatives and their applications in the financial risk management and investment. Concretely, we focus on the theories and the methods in option pricing (binomial and Black-Sholes model), portfolio insurance, and real option. To understand practical application of the theories and the methods in derivatives more easily, numerical examples and simulation-based analyses are employed. The goal of this course is to acquire basic skills concerning risk management using options. Before each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content. Students are also required to spend two hours to review the content after each class. Final grade will be calculated according to the in-class assignments (30%) and term-end report (70%).

ECN300CA
情報経済論 A
鈴木 豊
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「ゲーム理論」は、経済学の多くの分野で強力な分析ツールとして使われているほか、企業組織や多くのビジネスシーンでも基礎理論として用いられている。本講義では、「ゲーム理論とその応用」について、基礎からやや高度な内容まで体系的に理解し、その応用の仕方学ぶ。

【到達目標】

経済学の多くの分野で強力な分析ツールとして使われている「ゲーム理論・契約理論」の方法論（考え方や分析の仕方）を体系的に学ぶことを通じて、現代社会を主体的に考察し、問題解決に向けて公正な判断を下す能力を修得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科は「DP1」「DP7」「DP8」に関連。国際経済学科・現代ビジネス学科は「DP1」「DP7」に関連。

【授業の進め方と方法】

教科書『完全理解ゲーム理論・契約理論 第2版』に沿って授業を進める。本講義では、過年度に「Zoomによる動画配信」方式も好評だったことから、その経験や素材も活かしつつ、丁寧に進める予定である。授業では、リアクションペーパー（レポート含む）と課題提出の積み重ねが重要となる。授業の詳細の指示や課題等へのフィードバックは、「教室」と「学習支援システム」を組み合わせで行う。授業形態は、基本、対面授業とするが、適切に「Zoom 動画」などの資産も有効活用していきたい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ゲーム理論とは	ゲーム理論の導入的説明およびゲーム理論で使う数学について
第2回	静学ゲーム①	ゲームの基礎と同時手番ゲーム。支配戦略均衡とナッシュ均衡。
第3回	静学ゲーム②	ナッシュ均衡の解釈。色々なゲームの例。クールノー競争。
第4回	静学ゲーム③	混合戦略均衡とその解釈
第5回	時間を通じたゲーム①	基礎理論：後ろ向き帰納法と部分ゲーム完全均衡
第6回	時間を通じたゲーム②	応用例①「参入阻止」と「意味のある脅し」
第7回	時間を通じたゲーム③	応用例② 経済政策ゲーム：ルールが裁量か
第8回	くり返しゲーム①	基礎理論 協調均衡達成のメカニズム
第9回	くり返しゲーム②	応用例① 共有資源の管理における協調行動
第10回	くり返しゲーム③	応用例② グローバルガバナンスと国際協調
第11回	交渉理論①	最後通牒ゲーム：理論予測と実験結果 公正さの考慮
第12回	交渉理論②	最後通牒ゲームと行動ゲーム理論
第13回	オークション①	ゲームの解概念：弱支配戦略、劣位戦略、劣位戦略のくりかえし削除
第14回	オークション②	ファーストプライスおよびセカンドプライス・オークションの比較

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書『完全理解 ゲーム理論・契約理論 第2版』勁草書房 2021 および 授業の配布資料、授業ノートを基に、予習、復習をする。課題（レポート2回）も提示される。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

鈴木豊『完全理解 ゲーム理論・契約理論 第2版』勁草書房 2021

【参考書】

- 岡田章『ゲーム理論・入門』有斐閣 2014
- 中山幹夫、武藤滋夫、船木由喜彦編『ゲーム理論で解く』有斐閣 2000
- 梶井・松井『ミクロ経済学 戦略的アプローチ』日本評論社 2000
- マクミラン『経営戦略のゲーム理論』（伊藤・林田訳）（有斐閣）
- 鈴木豊（編）『ガバナンスの比較セクター分析：ゲーム理論・契約理論を用いた学際的アプローチ』法政大学出版局 2010年
- 鈴木豊『中国経済の制度分析：契約理論・ゲーム理論アプローチ』日本評論社 2020年

【成績評価の方法と基準】

学習支援システム上で課された課題提出（毎回の課題、複数回のレポート、リアクションペーパーの内容等）の積み重ねで評価する。評価のウェイトは、課題（練習問題への解答）提出の合計点（85%）、最終レポート（10%）、リアクションペーパーの合計点（5%）とする。

【学生の意見等からの気づき】

具体例を用いた、分かり易く丁寧な説明を心がける。レポート課題提出後の解説（フィードバック）も必ず行う。「教科書」の内容に沿った授業を行うよう留意し、特に「教科書」を超える数学的な手法は、極力用いないようにする。その他、練習問題（提出課題）の回数も、適切に調整していく。

【Outline (in English)】

"Game theory" is used as a powerful analytical tool in many fields of economics, and is also applied as a basic theory in corporate organizations and many business scenes. In the spring lecture A, students will systematically learn "Game Theory and its application" from the basics to a more advanced content. Before/after each lecture, students will be expected to spend four hours to fully understand the content. Grading is based on Five Assignments (Problem Sets as the Homework)(85%), Submission of Reaction Papers (every week)(5%), and a Final (Short) Essay (10%).

ECN300CA
情報経済論 B
鈴木 豊
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「契約理論（Contract Theory）」について体系的に学ぶ。
 (I) 不確実性と情報の経済学：「情報の経済学」の基礎
 (II) プリンシパル=エージェントの理論:モラルハザード
 (III) プリンシパル=エージェントの理論:アドバース・セレクション
 (IV) 不完備契約の理論

【到達目標】

春学期の「ゲーム理論」に続き、その応用分野と位置付けられる「契約理論」の方法論を系統的・体系的に学ぶことによって、現代社会を主体的に考察し、課題解決に向けて公正な判断を下す能力をさらに向上させる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科は「DP1」「DP7」「DP8」に関連。国際経済学科・現代ビジネス学科は「DP1」「DP7」に関連。

【授業の進め方と方法】

教科書『完全理解ゲーム理論・契約理論 第2版』に沿って授業を進める。本講義では、過年度に「Zoomによる動画配信」方式も好評だったことから、その経験や素材も活かしつつ、丁寧に進める予定である。授業では、リアクションペーパーと課題提出（レポートを含む）の積み重ねが重要となる。授業の詳細の指示や課題等へのフィードバックは、「教室」と「学習支援システム」を組み合わせで行う。授業形態は、基本、対面授業とするが、適切に「Zoom 動画」などの資産も有効活用していきたい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	不確実性と情報の経済学①	不確実性とくじ、期待効用最大化仮説、リスク態度
第2回	不確実性と情報の経済学②	期待効用最大化とその使い方、リスクプレミアム
第3回	プリンシパル・エージェントの理論：モラルハザード①	固定給とモラルハザード
第4回	モラルハザード②	歩合給とインセンティブ効果、簡単なエージェントモデルの解
第5回	モラルハザード③	インセンティブ契約の数学モデル（リスク回避的エージェント）
第6回	モラルハザード④：複数エージェントの理論	チーム生産におけるフリーライダー問題とその解決（ペナルティスキーム）
第7回	プリンシパル・エージェントの理論：アドバース・セレクション①	逆選択の例
第8回	アドバース・セレクション②	逆選択を解決する仕組みとしての自己選択メカニズム
第9回	アドバース・セレクション③	自己選択メカニズムの最適解の導出、図解、含意
第10回	不完備契約①	関係特殊投資とホールドアップ問題：概念と基本モデル
第11回	不完備契約②	関係特殊投資とホールドアップ問題：一般化と外部機会の存在

第12回	不完備契約③	「資産所有（財産権）」アプローチ ①基本モデル 残余コントロール権
第13回	不完備契約④	「資産所有（財産権）」アプローチ ②企業の境界の決定
第14回	不完備契約⑤	組織における権限配分、権限委譲について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書『完全理解 ゲーム理論・契約理論 第2版』勁草書房 2021 および 授業の配布資料、授業ノートを基に、予習、復習をする。課題（レポート2回）も提示される。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

鈴木豊『完全理解 ゲーム理論・契約理論 第2版』勁草書房 2021

【参考書】

- 岡田章『ゲーム理論・入門』有斐閣 2014
- 中山幹夫、武藤滋夫、船木由喜彦編『ゲーム理論で解く』有斐閣 2000
- マクミラン『経営戦略のゲーム理論』（伊藤・林田訳）有斐閣
- ミルグロム+ロバーツ『組織の経済学』（奥野・伊藤ほか訳）NTT出版
- オリバー・ハート『企業契約金融構造』（鳥居訳）慶応大学出版会 2010
- 鈴木豊（編）『ガバナンスの比較セクター分析：ゲーム理論・契約理論を用いた学際的アプローチ』法政大学出版局 2010年
- 鈴木豊『中国経済の制度分析：契約理論・ゲーム理論アプローチ』日本評論社 2020年

【成績評価の方法と基準】

学習支援システム上で課された課題提出（複数回の課題、最終レポート、リアクションペーパーの内容等）の積み重ねで評価する。評価のウェイトは、課題提出の合計点（80%）、最終レポート（15%）、リアクションペーパーの合計点（5%）とする。

【学生の意見等からの気づき】

具体例を用いた、分かり易く丁寧な説明を心がける。レポート課題提出後の解説（フィードバック）も必ず行う。「教科書」の内容に沿った授業を行うよう留意し、特に「教科書」を超える数学的な手法は、極力用いないようにする。

【Outline (in English)】

Students will systematically study Contract Theory.

(I) Uncertainty and Economics of Information

(II) Principal = Agent Theory: Moral Hazard

(III) Principal = Agent Theory: Adverse Selection

(IV) Theory of Incomplete Contracts

Before/after each lecture, students will be expected to spend four hours to understand the content. Grading is based on Three Assignments (Problem Sets as the Home work)(80%), Submission of Reaction Papers (every week)(5%), and a Final (Short) Essay (15%).

ECN300CA
地方財政論 A
小林 克也
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講義では、日本の地方財政制度とその問題について解説します。日本では、少子高齢化によって社会保障関係費が膨らんだことで多額の政府債務が積み上がっています。国から補助金をもらっている地方自治体も財政の効率化が必須です。この授業の履修者はこうした問題を経済学の観点からどのようにとらえたら良いかについて学びます。

【到達目標】

この講義では、地方財政の問題を論理的に考えるられるようになることが目標です。そのために、財政や地方財政のいくつかの理論を理解することと、地方財政データの入手のしかたとその見方を身につけます。現在起きている問題は何か、それをどのようにとらえたら良いかを考えられるようになることを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP8」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】

この授業は、昨年度受講者数が多かったためにオンデマンドのオンラインで実施します。Hoppii で講義ノートと資料を配信します。あわせて解説をした音声も配信します。講義ノートと資料を見ながら音声を聞いて学習をしてください。Hoppii のテスト/アンケートを使って課題を 5 回出します。採点の際、全員向けと適宜個別にコメントを付けます。みなさんはそれらを読んで復習をして下さい。授業の質問や意見は Hoppii の掲示板に書き込みをして下さい。掲示板に返信する形で私がお答えします。なお対面で期末テストを実施します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	政府と市場 (1)	市場の失敗、バレート効率。
第 2 回	政府と市場 (2)	政府の抱える問題。自治体と分権化。
第 3 回	公共財	公共財、準公共財、クラブ財、私的財。公共財の最適供給。
第 4 回	財政データ (1)	歳入と歳出の分類。財政指標の見方。
第 5 回	財政データ (2)	決算カードの見方。
第 6 回	財政データ (3)	自治体の破綻と財指標のデータとの関係。
第 7 回	財政の役割	国と地方の役割分担。
第 8 回	所得再分配機能	所得再分配機能は国と地方でどちらが担うべきか。
第 9 回	経済安定化機能	経済安定化機能は国と地方とでどちらが担うべきか。
第 10 回	資源配分機能	資源配分機能は国と地方とでどちらが担うべきか。
第 11 回	分権化定理 (1)	オーツの地方分権化定理。
第 12 回	分権化定理 (2)	分権化定理と地方公共財の便益のスピルオーバー。
第 13 回	コースの定理	地方公共財の便益のスピルオーバーとコースの定理。
第 14 回	投票の理論	中位投票者の定理。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

経済学の基本的な考え方を使うので、1 年次必修の経済学の授業を理解しているとこの授業もわかりやすいです。不安のある場合は、授業で扱う概念について自分で復習をして下さい。加えて財政学 AB の履修を強く推奨します。日経新聞を使いながら日本の財政の現状も扱うので、日頃、新聞を見ることを推奨します。これらと本授業の準備学習・復習時間で、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は指定しません。

【参考書】

理論面では、ミクロ経済学や公共経済学の本が参考になります。地方財政の考え方を自分で学びたい場合、

林宏昭・橋本恭之 (2014) 『入門地方財政』 第 3 版中央経済社

佐藤主光 (2009) 『地方財政論入門』 新世社

林宜嗣 (2021) 『新・地方財政』 有斐閣

が適当です。また、地方財政の統計を見たい場合は

総務省編『地方財政白書』各年度版

が適当です。統計資料などを配布しながら講義します。

【成績評価の方法と基準】

対面で筆記の期末試験を実施します。おそらく期末試験期間中に実施しますが詳細は授業内でお話しします。授業の内容に関する課題を Hoppii のテスト/アンケート機能を使って 5 回出します。期末試験で半分、5 回の課題で半分の合計 100% の評価をします。

【学生の意見等からの気づき】

履修者が住んでいる市町村や都道府県に興味をもってもらえるようにお話しするようにします。また、公務員（都道府県・市町村などの職員）を希望している方もいると思いますので、仕事をしていく中で役に立つ考え方もお話ししたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

PC とインターネット環境が必要です。Hoppii を利用できる環境は必須です。Hoppii で講義ノートと資料を配信し、音声は google drive を使って配信します。google 上の音声再生機能は不具合が多いので、PC にダウンロードして、PC 上の音声再生ソフトを用いて聞いてください。

【その他の重要事項】

Hoppii を通じて、講義ノートと資料の配信、課題の出題と提出をします。学生のみなさんは、自分がきちんと学習支援システム上に登録されているか確認して下さい。特に、履修変更をした方は、自分で Hoppii にこの授業を登録して下さい。授業についての変更や追加の情報は Hoppii の「お知らせ」で掲示しますので、お知らせを見るようにして下さい。また、対面で筆記の期末試験を実施します。

【Outline (in English)】

Course outline:

In this lecture, I explain Japanese local government system and its issues. In Japan, we have a vast amount of governments' debt due to increases in social-security expenditures. We must make our governments' expenditures efficient. Students learn how to consider those issues from the standpoint of economics.

Learning objective:

Students should be able to consider issues on local public finance logically on their own. Students should also understand several theories of public finance and local public finance and learn how to obtain and evaluate municipal data.

Leaning activities outside of classroom:

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand course contents and basic concepts of economics.

Grading criteria/policies:

Final grade will be calculated by term-end exam 50% + five homework 50% = 100%.

ECN300CA
地方財政論 B
小林 克也
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講義では、地方財政 A での講義をもとに、日本の地方財政制度を中心に解説します。地方税や地方債、国から地方自治体へ配付される補助金のしくみと、それらを経済学からとらえた場合、どのように評価できるのかについて学びます。

【到達目標】

地方財政 A で学んだ考え方を元に、地方税が日常生活の中でどのように課税されているのかを理解することが第 1 目標です。さらに統計の数字を見ながら、地方債、国から自治体への補助金について、その特徴と近年の傾向とそれらが抱える問題について理解するのが次の目標です。履修者自身が経済学の立場でこれらについて論理的に考えられるようになることが最終目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP8」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】

この授業は、昨年度受講者数が多かったためにオンデマンドのオンラインで実施します。Hoppii で講義ノートと資料を配信します。あわせて解説をした音声も配信します。講義ノートと資料を見ながら音声を聞いて学習をしてください。Hoppii のテスト/アンケートを使って課題を 5 回出します。採点の際、全員向けと適宜個別にコメントを付けます。みなさんはそれらを読んで復習をして下さい。授業の質問や意見は Hoppii の掲示板に書き込みをして下さい。掲示板に返信する形で私がお答えします。なお対面で期末テストを実施します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	望ましい税のあり方と 地方税固有の原則	国税と地方税の満たすべき原則。
第 2 回	消費税と地方消費税	消費税と地方消費税のしくみ。従価税が市場に与える影響。
第 3 回	住民税 (1)	住民税の均等割と所得割のしくみ。
第 4 回	住民税 (2)	給与所得控除と所得控除、税率、法人住民税。
第 5 回	法人事業税 (1)	法人事業税のしくみ。都道府県間のばらつきの程度。
第 6 回	法人事業税 (2)	法人課税の経済学での考え方。外形標準課税、税率。
第 7 回	固定資産税 (1)	固定資産税と都市計画税。
第 8 回	固定資産税 (2)	公示地価、路線価、固定資産税評価額、市場価格。
第 9 回	地方債 (1)	地方債のしくみ。経済学上の意義と問題点。
第 10 回	地方債 (2)	実質公債費比率、起債充当率。臨時財政対策債に潜む問題。
第 11 回	国庫支出金	国庫支出金のしくみ。国庫支出金と便益のスピルオーバーの関係。
第 12 回	地方交付税交付金	地方交付税のしくみ。財源調整と財源保障、ソフトな予算制約。
第 13 回	市町村合併	最適財政規模に関する研究と平成の大合併。道州制。
第 14 回	再考：公共財	公共財の費用負担の問題とリンドール均衡。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

経済学の基本的な考え方を使うので、1 年次必修の経済学の授業を理解しているとこの授業もわかりやすいです。不安のある場合は、授業で扱う概念について自分で復習をして下さい。加えて地方財政 A と財政学 AB の履修を強く推奨します。日経新聞を使いながら日本の財政の現状も扱うので、日頃、新聞を見ることを推奨します。これらと本授業の準備学習・復習時間で、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は指定しません。

【参考書】

理論面では、ミクロ経済学や公共経済学の本が参考になります。地方財政の考え方を学びたい場合、

林宏昭・橋本恭之 (2014) 『入門地方財政』第 3 版中央経済社

佐藤主光 (2009) 『地方財政論入門』新世社

林宜嗣 (2021) 『新・地方財政』有斐閣

が適当です。また、地方財政の統計を見たい場合は

総務省編『地方財政白書』各年度版

が適当です。統計資料などを配布しながら講義します。

【成績評価の方法と基準】

対面で筆記の期末試験を実施します。おそらく期末試験期間中に実施しますが詳細は授業内でお話しします。授業の内容に関する課題を Hoppii のテスト/アンケート機能を使って 5 回出します。期末試験で半分、5 回の課題で半分の合計 100% の評価をします。

【学生の意見等からの気づき】

履修者が住んでいる市町村や都道府県に興味をもってもらえるようにお話しするようにします。また、公務員（都道府県・市町村などの職員）を希望している方もいると思いますので、仕事をしていく中で役に立つ考え方もお話ししたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

PC とインターネット環境が必要です。Hoppii を利用できる環境は必須です。Hoppii で講義ノートと資料を配信し、音声は google drive を使って配信します。google 上の音声再生機能は不具合が多いので、PC にダウンロードして、PC 上の音声再生ソフトを用いて聞いてください。

【その他の重要事項】

Hoppii を通じて、講義ノートと資料の配信、課題の出題と提出をします。学生のみなさんは、自分がきちんと学習支援システム上に登録されているか確認して下さい。特に、履修変更をした方は、自分で Hoppii にこの授業を登録して下さい。授業についての変更や追加の情報は Hoppii の「お知らせ」で掲示しますので、お知らせを見るようにして下さい。また、対面で筆記の期末試験を実施します。

【Outline (in English)】

Course outline:

In this lecture, I explain Japanese local finance system based on the lecture of the local public finance A. Students learn taxes and bonds of local governments and subsidies and grants from the central government to local governments. Students also learn how to evaluate them from the standpoint of economics.

Learning objective:

The goals of this course are to understand how local taxes are imposed in our life and to understand characteristics of local bonds, subsidies, and grants from the central government to local governments on the basis of these statistics. Students should be able to consider issues lying on these systems of local public finance from standpoint of economics.

Leaning activities outside of classroom:

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand course contents and basic concepts of economics.

Grading criteria/policies:

Final grade will be calculated by term-end exam 50% + five homework 50% = 100%.

ECN300CA
社会保障論 A
小黒 一正
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

少子高齢化が進む中、日本の社会保障は大きな転換点に直面している。社会保障制度の役割を再考しつつ、諸外国の社会保障制度との比較を通じて、日本の社会保障制度の現状や課題を講義する。

【到達目標】

社会保障論を学ぶことで、日本の社会保障を巡る課題に対して経済学的なロジックに従って考え、評価する姿勢を身につけることを目指す。社会保障の今後の動向を考えるうえで必要な諸理論を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】

現在のところ、基本的には教科書や参考書に沿って講義を進めることを予定している。それ以外の参考文献がある時にはその都度指示する。また、各回のテーマは以下を予定するが、受講生の知識・理解度を勘案し、必要に応じて授業スピードの変更を行う。また、課題の提出等（フィードバックを含む）も「学習支援システム」を通じて行う予定である。

【留意事項】

なお、新型コロナウイルス感染症拡大の影響に伴い、教室での講義が可能となるまでの期間の授業計画等は、学習支援システムでその都度提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	ガイダンス
第 2 回	人口の分析	人口ピラミッド、人口に関する公的統計、日本の人口の歴史
第 3 回	日本の社会保障制度と社会保障給付費	定義、GDP と社会保障給付費、財源
第 4 回	年金制度 1	年金制度の仕組み
第 5 回	年金制度 2	年金制度の問題点
第 6 回	年金制度 3	今後の年金制度の方向性と諸外国の年金制度
第 7 回	医療保険制度 1	医療保険制度の仕組み
第 8 回	医療保険制度 2	医療保険制度の問題点と諸外国の医療保険制度
第 9 回	介護保険制度	介護保険制度の仕組み、問題点と諸外国の介護保険制度
第 10 回	生活保護制度 1	生活保護制度の仕組みと問題点
第 11 回	生活保護制度 2	諸外国の公的扶助制度
第 12 回	雇用保険制度	雇用保険制度の仕組み
第 13 回	子育て支援	児童手当・保育サービス、育児休業制度
第 14 回	期末試験と総括	試験等

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備・復習時間は、各 4 時間を目安とする。

【テキスト（教科書）】

小塩 隆士『社会保障の経済学（第 4 版）』日本評論社

【参考書】

厚生労働省『厚生労働白書』各年版
 鈴木亘『だまされないための年金・医療・介護入門』東洋経済新報社
 西沢和彦『年金制度は誰のものか』日本経済新聞出版社
 西沢和彦『税と社会保障の抜本改革』日本経済新聞出版社

小黒一正『日本経済の再構築』日本経済新聞出版社
 麻生良文・小黒一正・鈴木将覚『財政学 15 講』新世社
 山重慎二・加藤久和・小黒一正『人口動態と政策：経済学的アプローチへの招待』日本評論社

【成績評価の方法と基準】

現在のところ、期末試験 100%で評価することを予定。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【その他の重要事項】

初回授業に必ず出席すること。
 なお、大蔵省（現財務省）の行政官として様々な政策立案や執行に携わった経験等も踏まえて講義する。

【Outline (in English)】

With the declining birthrate and aging population, Japan's social security system is facing a major turning point. Reconsidering the role of the social security system and comparing Japan's system with that of other countries, we will examine the current situation and issues of the Japanese social security system. At present, the evaluation for students would be based on the score of the final exam (100%).

ECN300CA
社会保障論 B
小黒 一正
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

社会保障論 A（日本の社会保障制度）の理解を深めるため、社会保障論 B では、社会保障制度を支える財政制度や、社会保障の経済分析などについて、経済学の視点から講義する。受講者は、ミクロ経済学・公共経済学の基礎を学んでいることが望ましい。

【到達目標】

日本の社会保障の現状と課題を理解し、経済学の視点から社会保障の将来展望について考察するための基礎知識の習得を目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】

現在のところ、基本的には教科書や参考書に沿って講義を進めることを予定している。それ以外の参考文献がある時にはその都度指示する。また、各回のテーマは以下を予定するが、受講生の知識・理解度を勘案し、必要に応じて授業スピードの変更を行う。また、課題の提出等（フィードバックを含む）も「学習支援システム」を通じて行う予定である。

【留意事項】

なお、新型コロナウイルス感染症拡大の影響に伴い、教室での講義が可能となるまでの期間の授業計画等は、学習支援システムでその都度提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	ガイダンス
第 2 回	財政と社会保障	社会保障制度の現状と財源
第 3 回	課税の経済分析 1	租税の経済への影響
第 4 回	課税の経済分析 2	望ましい租税政策のあり方
第 5 回	公債発行の経済分析	公債発行による経済への影響
第 6 回	所得再分配	所得格差の指標
第 7 回	社会保障の経済分析 1	望ましい生活保護制度のあり方
第 8 回	社会保障の経済分析 2	モラルハザード、逆選択
第 9 回	社会保障の経済分析 3	積立方式と賦課方式、マクロ経済への影響
第 10 回	少子化対策	少子高齢社会における少子化政策
第 11 回	世代間格差	世代会計
第 12 回	近年の社会保障改革 1	年金改革
第 13 回	近年の社会保障改革 2	医療・介護改革、地域包括ケア
第 14 回	期末試験と総括	試験等

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備・復習時間は、各 4 時間を目安とする。

【テキスト（教科書）】

小塩隆士『コア・テキスト 財政学』新世社
麻生良文・小黒一正・鈴木将覚『財政学 15 講』新世社
林正義・小川光・別所俊一郎『公共経済学』有斐閣

【参考書】

阿部彩・國枝繁樹・鈴木亘・林正義『生活保護の経済分析』東京大学出版会
小黒一正『日本経済の再構築』日本経済新聞出版社
小塩隆士『社会保障の経済学（第 4 版）』日本評論社
川口洋行『医療の経済学（第 2 版）』日本評論社
畑農鋭矢・林正義・吉田浩『財政学をつかむ』有斐閣
『図説 日本の財政』各年度版 東洋経済新報社

『図説 日本の税制』各年度版 財経詳報社

【成績評価の方法と基準】

現在のところ、期末試験 100%で評価することを予定。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【その他の重要事項】

初回授業に必ず出席すること。

なお、大蔵省（現財務省）の行政官として様々な政策立案や執行に携わった経験等も踏まえて講義する。

【Outline (in English)】

To deepen the understanding of “social security theory A” (the Japanese social security system), in this course (social security theory B) we will employ economic analysis to study the fiscal system that supports the social security system. Students are expected to learn the basics of microeconomics and public economics. At present, the evaluation for students would be based on the score of the final exam (100%).

ECN300CA
産業組織論 A
河村 真
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

産業組織論は、ミクロ経済学の応用分野として位置付けられる。本講義で受講生諸君には、完全競争モデルの理解を深めてもらうことを目的とする。産業組織論 B も併せて履修していただければなおよい。

【到達目標】

完全競争下での企業の生産量の決定、供給曲線の導出および均衡価格、数量の決定までの説明の流れを理解できるようにする。同時に、この説明を具体的な市場に当てはめ、解釈できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP1」「DP8」に関連。国際経済学科は「DP1」「DP9」に関連。

【授業の進め方と方法】

基本的に、対面による授業を行う。春学期に1回程度、練習問題集を授業支援システムの「課題」にアップし、各自行ってもらい、「課題」に提出をお願いする。練習問題の正解は、講義内で解説する。9回目以降、zoom によるオンライン授業とする。電子ノートに手書きで図などによる説明を行う。電子ノートに書き込んだ説明及び図を pdf ファイルに保存し、授業支援システムの教材にアップするので、復習に利用してほしい

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	産業組織論の枠組み	完全競争の条件と不完全競争
第 2 回	産業組織論の現実への応用例	産業組織論のトピックとしての不完全競争の具体例の例示
第 3 回	企業の生産技術	生産関数の説明
第 4 回	企業の生産技術	生産関数から費用関数の導出
第 5 回	企業の生産技術	費用関数から限界費用関数と平均費用関数の導出
第 6 回	企業の生産技術	生産関数、費用関数、平均・限界費用関数の対応関係
第 7 回	完全競争下の企業の生産量の決定	収入関数と費用関数を用いた利潤最大化生産量の図解
第 8 回	完全競争下の企業の生産量の決定	限界収入関数と限界費用関数を用いた生産量決定の図解
第 9 回	個別供給曲線の導出	財の市場価格の変化が企業が選ぶ利潤最大化生産量をどう変化させるかを知るための個別供給曲線
第 10 回	個別供給曲線のシフトの要因	個別供給曲線が完全競争モデルの下で、どのような要因によりシフトするかの説明
第 11 回	企業の個別供給曲線から市場供給曲線の導出	各企業の個別供給曲線を足し合わせるにより求められる企業全体の生産量の合計と市場価格との関係
第 12 回	市場需要曲線の説明（簡単な消費者理論の説明を含む）	消費者の理論にある予算制約化の効用最大化行動の結果として導かれる市場需要曲線（簡単に復習）
第 13 回	完全競争モデルでの市場均衡	市場需要曲線と市場供給曲線の交点における均衡価格と均衡数量の決定（ワルラス的調整過程を用いて説明）

第 14 回 比較静学による完全競争モデルの現実への応用例
完全競争が想定しやすい具体的な産業をイメージし、技術革新が生じた場合、完全競争モデルを用いて、価格、数量の変化の結果を予測する過程を解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

対面授業の回については、基本的に板書で説明を行う。オンラインの授業の回については、授業の説明に使った電子ノートの PDF ファイルを授業支援システムにアップする。本授業は、主に図による説明により行う。そのため、複雑な図による説明や例題もあるので、受講者が板書より作成したノートまたはアップした PDF ファイルでの復習が 2 時間程度必要と思われる。基本的に、授業の図解で完全競争モデルの成り立ちを理解できるよう準備しているつもりであるので、予習の必要はない。しかし、多くの図を系統だてて説明するので、授業後、授業の録画ファイルや板書から受講者が作成したノートを用いて、説明の筋道をフォローし、図による完全競争モデルの理解を深めてほしい。

【テキスト（教科書）】

基本的に指定しない。

【参考書】

学生諸君から要請があれば、講義冒頭に紹介。

【成績評価の方法と基準】

完全競争モデルの理解の程度を基準に評価する。評価方法は、定期試験期間中において行う試験の点数が 9 割、1 回の練習問題解答の提出状況に 1 割のウェイトで評価する。

【学生の意見等からの気づき】

レジュメにおいて図解に書き込みの多いものについてはなるべく大き目に示すことで対応したい。

【学生が準備すべき機器他】

なし

【Outline (in English)】

The aim of this course is to acquire theoretical understandings of competitive market model. Competitive market model is often used ,as a benchmark model, for evaluating competitive policy or regulatory policy to specific industries. For this sake, microeconomic theoretical understandings for competitive market are inevitable.

At the end of the course, students should be able to do the followings:

to get the whole picture of the competitive market model proposed by microeconomic theory.

to apply the competitive market model to predict the price and quantity changes with conditions changes out of market for certain commodity/service.

Then, after each class meeting, students will be expected to spend more than 2 hours to get understandings for many graphical explanations for competitive market theory in the class.

Your overall grade in the class will be decided based on following.

Term-end examination:90%, Mid-term report:10%.

ECN300CA
産業組織論 B
河村 真
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

独占モデルおよびクールノ複占モデルの解説、さらに、完全競争均衡、独占均衡およびクールノ複占均衡を比較し、それぞれの均衡の評価についても説明を加える。

【到達目標】

産業組織論は、ミクロ経済学の応用分野として位置付けられる。本講義で受講生諸君には、独占モデルおよびクールノ複占モデルの理解を深めてもらうことを目的とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP1」「DP8」に関連。国際経済学科は「DP1」「DP9」に関連。

【授業の進め方と方法】

基本的に対面による授業を行う。基本的に、対面による授業を行う。秋学期中に1回程度、練習問題を授業支援システムの「課題」にアップし、各自行ってもらい、「課題」に提出をお願いする。練習問題の正解は、講義内で解説する。12回目以降、zoomによるオンライン授業とする。電子ノートに手書きで図などによる説明を行う。電子ノートに書き込んだ説明及び図をpdfファイルに保存し、授業支援システムの教材にアップするので、復習に利用してほしい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	独占モデル	独占下の企業と完全競争下の企業の想定の違い
第2回	独占モデル	独占企業が直面する収入関数の説明
第3回	独占モデル	限界収入関数の説明
第4回	独占モデル	占企業の生産量と独占下の均衡価格決定の図解（収入関数と費用関数を用いて）
第5回	独占モデル	独占企業の生産量と独占下の均衡価格決定の図解（限界収入と限界費用関数を用いて）
第6回	独占モデルの応用例	自然独占下における公益事業の価格規制に関する議論
第7回	完全競争モデル及び均衡の導出（修正版）	独占モデルで用いたのと同じな費用関数および需要関数の想定の下での完全競争均衡の導出
第8回	クールノ複占モデル	企業2社からなる複占モデルにおける想定の違いとクールノ均衡の特徴
第9回	クールノ複占モデル	残余需要曲線の導出と各企業の利潤最大化生産量の導出
第10回	クールノ複占モデル	各企業の反応関数の導出と各社生産量と均衡価格の決定
第11回	独占、寡占および完全競争均衡の比較および独占の死荷重	独占、クールノ複占および完全競争下で予想される均衡数量、均衡価格の比較とその評価
第12回	クールノ複占モデル（応用例Ⅰ）	ネットワーク外部性を許した規格（技術仕様）の標準化（一規格への収斂）の評価（クールノ複占モデルを用いた）

第13回 クールノ複占モデル（応用例Ⅱ） 垂直統合の合理性の根拠をクールノ複占モデルを用いて明らかにする。

第14回 産業組織論 B の復習 産業組織論 B の復習および質疑応答

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各自が板書から作成したノートおよび zoom 授業時に説明に用いた講師作成の電子ノートのファイル閲覧を通じて説明の筋道をフォローして、復習を行ってほしい。多くの受講者には理解可能と思われる。理解が難しい場合は、入門用のミクロ経済学の教科書等を用いて行ってほしい。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に教科書は指定しない。

【参考書】

学生から要請があれば、本講義冒頭で紹介する。

【成績評価の方法と基準】

完全競争モデル、独占モデルおよびクールノモデルおよびそれらの応用例の理解の程度を基準に評価する。評価方法は、期末課題を期末試験期間中、授業曜日、授業時間内に、解答して授業支援システムに解答を記入したファイルをアップしてもらい採点する。この採点結果が主な評価基準となる。（この課題の解答に90%、授業期間内に出す練習問題の解答（1回）の提出状況に10%のウェイトを付け評価する。）

【学生の意見等からの気づき】

板書による図解は、なるべく大きく表示するように努める。

【学生が準備すべき機器他】

なし。

【Outline (in English)】

The objective of this course is to understanding a seller monopoly model and Cournot duopoly model. These models are often used for evaluating the effects of competitive policy or regulatory policy on market performance of specific industry. Microeconomic theoretical understandings for two models (as basic models) are required to describing market performance of real industry.

By the end of the course, students should be able to do the followings:

- 1) to get the whole picture of the monopoly model at microeconomic theory.
- 2) to get the whole picture of the Cournot duopoly model at microeconomic theory.
- 3) to evaluate market performances among competitive, monopoly and, duopoly markets quantitatively.

After each class meeting, students will be expected to spend more than 2 hours to follow many graphical explanations, presented at the class, for monopoly model/Cournot duopoly model.

Your overall grade in the class will be decided, based on the following:

Term-end examination:90% Mid-term report:10%

ECN300CA
金融各論Ⅱ A
武田 浩一
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位
※経済学科生・国際経済学科生のみ履修できます。

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講義の目的は、経済の中で金融システムがどのように機能している、どのように変化していくのかということ、経済学的によりよく理解し考察するために必要となる基本的な思考の枠組みを提示することです。

【到達目標】

この講義の最終的な目標は、基本的な経済理論と金融問題の間の溝を埋めることを可能にするさまざまな経済理論を学び、それらの理論の金融問題への適用可能性と限界について理解することです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP8」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】

今年度の講義では、原則として教室での対面講義形式で開講する予定ですが、新型コロナウイルス感染症対策等の状況によっては、やむをえず講義の一部においてオンライン講義形式の講義を実施する可能性があります。各回の講義の講義形式の見直しについては、講義ガイダンスにおいてその時点の見直しを説明しますが、その後の状況の変化によって、学期の途中でやむをえず予定が変更となる可能性があることに留意してください。講義形式が変更になる場合は、学習支援システムのお知らせで講義形式を通知します。

第1回講義は、教室での対面講義形式での講義ガイダンスとなります。学習支援システム上で講義の方法や内容などに関するガイダンス資料を教材として配布します。この講義の履修を検討する学生は、学習支援システムでこの講義に仮登録して講義に参加した上でガイダンス資料をよく読んで、履修するかどうかを決めてください。

将来に関する契約としての側面が重要である金融取引は、不確実性下での経済取引に伴うさまざまな問題をうまく取り扱うために工夫された特徴的な仕組みの上に成り立っているため、金融市場には他の経済部門にはあまり見られない独特の取引慣行やルールが多くなっています。そのために、たとえ基本的な経済理論をある程度学んだ人でも、その知識だけでは金融問題をうまく取り扱うことができず、経済学の知識と金融の知識を結び付けることなく頭の中であらばらに位置付けてしまいがちなのではないのでしょうか。この講義では、基本的な経済理論と金融問題の間の溝を埋めることを可能にするさまざまな経済理論を取り上げ、それらの理論の金融問題への適用可能性と限界について解説することを重視します。

講義の全般的な方針として、金融の果たす基本的な機能に立ち返って経済学的な視点から金融問題について議論を展開しますが、難解で無味乾燥なだけの講義となることを避けるため、理論的な厳密性よりもむしろその直感的な意味や現実問題との関連性を、日本の最近の金融問題を例に挙げるなどして具体的に説明することに力を入れます。

この講義では膨大な金融経済理論の氷山の一角しかご紹介できませんが、この講義をきっかけにして、金融の本当の面白さに触れ、それぞれの興味に応じて、講義で紹介する参考文献などを使ってより本格的な金融の議論に学生の皆さんが自ら取り組んでいただきたいと思えます。

講義のフィードバックは授業の中で行うほか、個別的な連絡が必要になる場合にはメールを通じて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	講義ガイダンス	講義の内容と方法の説明
第2回	金融取引とリスク①	金融におけるリスクの概念について
第3回	金融取引とリスク②	リスクの測定手法について
第4回	金融取引とリスク③	リスクとして把握できない不確実性について
第5回	金融取引とリスク④	不確実性下での意思決定方法について
第6回	投資と資金調達①	新古典派投資理論と企業の設備資金需要について
第7回	投資と資金調達②	企業の有限責任とリスクについて
第8回	投資と資金調達③	日本の企業グループと企業の株式保有について
第9回	投資と資金調達④	中小企業金融について
第10回	過剰債務と不良債権の処理①	過剰債務問題と事業再生について
第11回	過剰債務と不良債権の処理②	過剰債務への対応と追い貸し問題について
第12回	過剰債務と不良債権の処理③	追い貸しのメカニズムについて
第13回	金融技術革新と金融サービスの新潮流①	ブロックチェーンを使った決済について
第14回	金融技術革新と金融サービスの新潮流②	フィンテックとプラットフォームについて

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義では先に説明した知識を後の説明のときに使いますので、講義で分からないことがあるときには、教員に質問したり講義ノートや参考書で復習したりして、次の講義までに分からないことを持ち越さないように心がけることが重要です。

金融論で学ぶ金融の基礎知識があれば、この講義の理解はより深まります。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

なし

【参考書】

講義に必要な資料は講義のときに適宜配布します。教科書ではありませんが、講義全般にわたる参考書として、内田浩史『金融』（有斐閣、2016年刊）を挙げておきます。その他の参考文献については、講義の中で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

講義内容の理解度を確認する学期末試験によって主に成績を評価します（90%）。

出席状況調査を兼ねたアンケートを講義時に不定期に実施し、講義への参加度を平常点として加算します（10%）。

【学生の意見等からの気づき】

時事的なテーマを始めとした現実の経済、ビジネスの理解の助けになる実践的な金融理論の使い方、考え方に対するニーズが高いことがうかがわれますので、その点を重視して講義を進める方針です。

【Outline (in English)】

This is a course on the microeconomics of money, banking, and financial markets. The course aims to show the way to understand the role of money, financial markets, financial institutions, and monetary policy in the economy. The students will learn modern microeconomic theory of financial intermediation.

Students will be expected to have completed the required assignments after class meetings. Your study time will be more than four hours for a class. Your overall grade in the class will be decided based on term-end examination (100%).

ECN300CA
金融各論ⅡB
武田 浩一
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位
※経済学科生・国際経済学科生のみ履修できます。

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講義の目的は、経済の中で金融システムがどのように機能している、どのように変化していくのかということ、経済学的によりよく理解し考察するために必要となる基本的な思考の枠組みを提示することです。

【到達目標】

この講義の最終的な目標は、基本的な経済理論と金融問題の間の溝を埋めることを可能にするさまざまな経済理論を学び、それらの理論の金融問題への適用可能性と限界について理解することです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP8」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】

今年度の講義では、原則として教室での対面講義形式で開講する予定ですが、新型コロナウイルス感染症対策等の状況によっては、やむをえず講義の一部においてオンライン講義形式の講義を実施する可能性があります。各回の講義の講義形式の見直しについては、講義ガイダンスにおいてその時点の見直しを説明しますが、その後の状況の変化によって、学期の途中でやむをえず予定が変更となる可能性があることに留意してください。講義形式が変更になる場合は、学習支援システムのお知らせで講義形式を通知します。

第1回講義は、教室での対面講義形式での講義ガイダンスとなります。学習支援システム上で講義の方法や内容などに関するガイダンス資料を教材として配布します。この講義の履修を検討する学生は、学習支援システムでこの講義に仮登録して講義に参加した上でガイダンス資料をよく読んで、履修するかどうかを決めてください。

将来に関する契約としての側面が重要である金融取引は、不確実性下での経済取引に伴うさまざまな問題をうまく取り扱うために工夫された特徴的な仕組みの上に成り立っているため、金融市場には他の経済部門にはあまり見られない独特の取引慣行やルールが多くなっています。そのために、たとえ基本的な経済理論をある程度学んだ人でも、その知識だけでは金融問題をうまく取り扱うことができず、経済学の知識と金融の知識を結び付けることなく頭の中でばらばらに位置付けてしまいがちなのではないのでしょうか。この講義では、基本的な経済理論と金融問題の間の溝を埋めることを可能にするさまざまな経済理論を取り上げ、それらの理論の金融問題への適用可能性と限界について解説することを重視します。

講義の全般的な方針として、金融の果たす基本的な機能に立ち返って経済学的な視点から金融問題について議論を展開しますが、難解で無味乾燥なだけの講義となることを避けるため、理論的な厳密性よりもむしろその直感的な意味や現実問題との関連性を、日本の最近の金融問題を例に挙げるなどして具体的に説明することに力を入れます。

この講義では膨大な金融経済理論の氷山の一角しかご紹介できませんが、この講義をきっかけにして、金融の本当の面白さに触れ、それぞれの興味に応じて、講義で紹介する参考文献などを使ってより本格的な金融の議論に学生の皆さんが自ら取り組んでいただきたいと思えます。

講義のフィードバックは授業の中で行うほか、個別的な連絡が必要になる場合にはメールを通じて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	講義ガイダンス	講義の内容と方法の説明
第2回	資産価格と金融危機①	資産価格の決定理論の基本的枠組みの説明
第3回	資産価格と金融危機②	資産価格の合理的バブルについて
第4回	資産価格と金融危機③	資産価格の急落とそのメカニズムについて
第5回	資産価格と金融危機④	金融危機の発生要因と経済的影響について
第6回	資産価格と金融危機⑤	金融危機の波及メカニズムについて
第7回	金融市場と投資家行動①	期待効用理論について
第8回	金融市場と投資家行動②	投資家心理について
第9回	金融市場と投資家行動③	記述的意思決定理論について
第10回	金融市場と投資家行動④	プロスペクト理論について
第11回	資産価値評価①	基本的な資産価値の評価手法について
第12回	資産価値評価②	さまざまな資産価値の評価手法について
第13回	金融と人的資本投資①	人的資本投資と人材育成の経済的機能について
第14回	金融と人的資本投資②	金融リテラシーについて

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義では先に説明した知識を後の説明のときに使いますので、講義で分からないことがあるときには、教員に質問したり講義ノートや参考書で復習したりして、次の講義までに分からないことを持ち越さないように心がけることが重要です。

金融論で学ぶ金融の基礎知識があれば、この講義の理解はより深まります。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

なし

【参考書】

講義に必要な資料は講義のときに配布します。教科書ではありませんが、講義全般にわたる参考書として、内田浩史『金融』（有斐閣、2016年刊）を挙げておきます。その他の参考文献については、講義の中で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

講義内容の理解度を確認する学期末試験によって主に成績を評価します（90%）。

出席状況調査を兼ねたアンケートを講義時に不定期に実施し、講義への参加度を平常点として加算します（10%）。

【学生の意見等からの気づき】

時事的なテーマを始めとした現実の経済、ビジネスの理解の助けになる実践的な金融理論の使い方、考え方に対するニーズが高いことがうかがわれますので、その点を重視して講義を進める方針です。

【Outline (in English)】

This is a course on the microeconomics of money, banking, and financial markets. The course aims to show the way to understand the role of money, financial markets, financial institutions, and monetary policy in the economy. The students will learn modern microeconomic theory of financial intermediation.

Students will be expected to have completed the required assignments after class meetings. Your study time will be more than four hours for a class. Your overall grade in the class will be decided based on term-end examination (100%).

ECN300CA
企業金融論 A
胥 鵬
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ヒト、モノ、カネ、情報は、会社経営に欠かせない資源である。この講義では、カネと情報、すなわち、会社財務との関連で、キャッシュ・フローと現在価値を中心に、国内海外の負債による資金調達制度と実務および、デット・ファイナンスに関連する基礎理論のうち重要なものを学ぶ。日本では、80年代後半以降の社債市場の規制緩和により、デット・ファイナンスが大きく変化してきた。また、90年代末にゼロ金利政策などの非伝統的金融政策が日本、米国と欧州で実施されてきた。この講義では、こうした金融政策の変遷も理解する。

【到達目標】

ヒト、モノ、カネ、情報は、会社経営に欠かせない資源である。この講義では、カネと情報、すなわち、会社財務との関連で、銀行借入や社債などの負債による資金調達の企業金融問題を客観的かつ論理的に考える力を身につけることが目標である。負債に関連する割引現在価値、金利と債券の価格、金利リスクおよび債券の信用リスク（格付）の諸概念を理解し、上場企業の財務諸表などの統計資料を見ながら、主体的に考察し、公正に判断できるようになることである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP8」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】

エクセルで財務関数を中心に割引現在価値を応用して銀行借入と社債の返済償還、金利と債券の価格、金利リスクおよび債券の信用リスクの関係をわかりやすく説明する。

原則として対面授業を実施する。学生諸君が各自にダウンロードしたデータや資料に基づく活発な議論を行い、学生諸君が提示した具体例を取り上げつつ、学生参加による学生のための授業を進める。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	企業金融とは	企業の財務諸表からみた負債と資金調達について勉強する
第 2 回	将来価値	定期預金の満期残高を例に将来価値について勉強する
第 3 回	時は金なり	金利、現在価値と将来価値の計算について勉強する
第 4 回	銀行借入の返済方法	一括返済、元金均等返済、元利均等返済について
第 5 回	金利と銀行借入	金利と銀行借入の返済額
第 6 回	銀行と流動性	コミットメントラインなどについて説明する
第 7 回	利付債券	債券の基本概念を学ぶ
第 8 回	金利と債券価格	金利変化によって債券価額が変動する仕組み
第 9 回	銀行借入と社債	直接金融と金融仲介の相違
第 10 回	金利リスク	金利に対する債券価格の感応度と債券のリスク
第 11 回	格付と信用リスク	格付と社債のプレミアム
第 12 回	負債の資本コスト	銀行借入、社債などの資本コストについて勉強する
第 13 回	銀行借入と社債の選択	倒産費用、エージェンシーコストと資産選択について勉強する

第 14 回 課題作成

今までの内容を確認するために、課題としてデータをダウンロードしてレポートを作成する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

割り当てられた課題を完成するため、エクセルの演算・財務関数などの使い方をマスターし、必要なデータや資料をダウンロードする。準備学習・復習・宿題などの授業時間外学習は各 4 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

テキストは使わないが、講義ノートはネットから各自でダウンロードする。

【参考書】

中央経済社『資本調達・ペイアウト政策』（花枝英樹・榎原茂樹編著）

『日本のコーポレートファイナンス—サーバイデータによる分析』花枝英樹、芹田敏夫、胥鵬、佐々木隆文、鈴木健嗣、佐々木寿記 白桃書房 2020 年

【成績評価の方法と基準】

成績評価には、中間レポート (30%) と期末レポート (40%) はいずれも必須、授業内活動は 30 %。

【学生の意見等からの気づき】

できるだけゆくゆくと話すように。

【学生が準備すべき機器他】

ノートパソコン持参

【その他の重要事項】

教職、FPなどの資格を目指す学生諸君の必修科目である。

【担当教員の専門分野等】

MB O, 株式持合, 役員報酬, 中小企業金融, コミットメント・ライン, 銀行ガバナンスと銀行リスク, 会社法の経済分析, 来日観光客の決定要因等々

『日本のコーポレートファイナンス—サーバイデータによる分析』花枝英樹、芹田敏夫、胥鵬、佐々木隆文、鈴木健嗣、佐々木寿記 (6,7 章) 白桃書房 2020 年

Strategic short selling around index additions: Evidence from the Nikkei 225 Index, Shiomi, Naoya, Takahashi, Hidetomo, Xu, Peng International Review of Finance 2020 年

Trading activities of short-sellers around index deletions: Evidence from the Nikkei 225 Hidetomo Takahashi and Peng Xu Journal of Financial Markets 27 132 - 146 2016

【Outline (in English)】

In this lecture, we learn theories and practices of debt finance. The goal of this course is to understand cash flow and present value as well as the roles of various debt instruments in corporate finance. Students are expected to draw yield curve, to calculate credit risk premiums of corporate bonds. Before/after each class meeting, students will be expected to download the relevant data and documents. Your required study time is about half hour for each class meeting. The mid-term report (30%) and term end report (40%) are both required for grading, in addition to in class contribution (30%).

ECN300CA
企業金融論 B
胥 鵬
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ヒト、モノ、カネ、情報は、会社経営に欠かせない資源である。Bでは、カネと情報、すなわち、会社財務との関連で、期待株式投資収益率、株式投資収益率の標準偏差、二つの銘柄の株式投資収益率の相関などを中心に学ぶ。続いて、分散投資の基本的な考え方を理解する。その上で、危険資産からなる有効ポートフォリオと安全資産の投資組み合わせを勉強し、資本市場線と証券市場線の考え方をを用いて株式のリスクとリターンの関係を。理論だけでなく、株価等の統計資料を用いて株式のリスクの計測方法もマスターする。

【到達目標】

ヒト、モノ、カネ、情報は、会社経営に欠かせない資源である。Bでは、カネと情報、すなわち、会社財務との関連で、Aの中で扱った負債による資金調達に続いて、株式と資金調達について理解することが目標である。特に株式のリスクに関する理論（capital asset pricing model, CAPM）を把握することが目標である。さらに統計や資料などを自分で収集して、簡単な統計手法を用いて配当異動、新株発行と自己株式取得等の株価に及ぼす効果をCAPMに基づいて計測し、結果を主體的に考察し、公正に判断できるようになることが目標の2つ目である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP8」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】

エクセルで期待株式投資収益率、株式投資収益率の標準偏差、二つの銘柄の株式投資収益率の相関、 β および異常収益率などをわかりやすく説明する。

原則として対面授業を実施する。学生諸君が各自にダウンロードしたデータや資料に基づく活発な議論を行い、学生諸君が提示した具体例を取り上げつつ、学生参加による学生のための授業を進める。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	配当割引モデル	成熟企業 v s 成長企業
第2回	株式投資のリターン	期待投資収益率を計算する
第3回	株式投資のリスク	投資収益率の偏差、分散と標準偏差を計算する
第4回	株式同士の相性	共分散、相関とポートフォリオのリスクについて
第5回	分散投資	すべての卵を同じかごに入れるな
第6回	有効ポートフォリオ	リスクとリターンのトレードオフ
第7回	CAPM	資本市場線、証券市場線とベータ
第8回	異常収益率	個別株式投資収益率と市場収益率を用いてベータと異常収益率を計測する
第9回	エクイティファイナンス	公募増資、株主割当及び第三者割当のエクイティファイナンスの事例について学ぶ
第10回	新規上場	新規上場とエクイティファイナンスの仕組みについて学ぶ
第11回	配当政策の統計資料	増減配と株価
第12回	自己株式取得	みなし配当とする自社株買いの仕組みと効果について学ぶ

第13回 バイアウト 上場株式を取得して非上場への仕組みについて学ぶ

第14回 課題 データをダウンロードし、効果を計測する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

割り当てられた課題を完成するために、エクセルの統計関数などをマスターし、割り当てられたデータや資料をダウンロードする。準備学習・復習・宿題などの授業時間外学習は各4時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

テキストは使わないが、講義ノートはネットから各自でダウンロードする。

【参考書】

中央経済社『資本調達・バイアウト政策』（花枝英樹・榎原茂樹編著）

『日本のコーポレートファイナンス—サーバイデータによる分析』花枝英樹、芹田敏夫、胥鵬、佐々木隆文、鈴木健嗣、佐々木寿記 白桃書房 2020年

【成績評価の方法と基準】

成績評価には、中間レポート(30%)と期末レポート(40%)はいずれも必須、授業内活動加点は30%。

【学生の意見等からの気づき】

ゆっくり話すこと。

【学生が準備すべき機器他】

ノートパソコン持参

【その他の重要事項】

教職、FPなどの資格を目指す学生諸君の必修科目である。

【担当教員の専門分野等】

MB O、株式持合、役員報酬、中小企業金融、コミットメント・ライン、銀行ガバナンスと銀行リスク、会社法の経済分析、来日観光客の決定要因等々

『日本のコーポレートファイナンス—サーバイデータによる分析』花枝英樹、芹田敏夫、胥鵬、佐々木隆文、鈴木健嗣、佐々木寿記(6,7章) 白桃書房 2020年

Strategic short selling around index additions: Evidence from the Nikkei 225 Index, Shiomi, Naoya, Takahashi, Hidetomo, Xu, Peng International Review of Finance 2020年

Trading activities of short-sellers around index deletions: Evidence from the Nikkei 225 Hidetomo Takahashi and Peng Xu Journal of Financial Markets 27 132 - 146 2016

【Outline (in English)】

In course B, we first learn theories and practice of equity finance. The goal of this course is to understand the risk of equity investment as well as the impacts of equity financing on the stock price. Students are expected to calculate abnormal return around equity finance. Before/after each class meeting, students will be expected to download the relevant data and documents. Your required study time is about half hour for each class meeting. The mid-term report (30%) and term end report (40%) are both required for grading, in addition to in class contribution (30%).

ECN300CA
数理統計学 A
宮脇 典彦
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講義の目的は、データを解析していく上で不可欠な統計学の基本的な考え方を理解し、実際に Excel を用いてそれを使いこなす能力を身につけてもらうことにあります。そのためにさまざまな分野の例をあげながら、身近にある問題を通してできる限り平易に解説していきます。

「数理統計学 A」では、統計学の基礎となる確率論を学びます。（既に 1 年次配当の「統計学」を履修して興味をもった学生はもちろん、将来実証的な分析を行いたいと考えている皆さんは、是非履修してください。）

【到達目標】

確率論の基礎的な考え方を、Excel の実習を通じて理解することを到達目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】

本年度は教室での対面講義を行う予定ですが、今後のコロナ感染の状況によっては学習支援システムなどを使ったオンライン講義を併用する場合があります。

確率論を基礎から勉強し、Excel を用いた実習を通じて理解を深めていきます。Excel がインストールされたパソコンを使用します（多摩情報センターの貸出し用パソコンで対応できます）。実習等のフィードバックは、授業内で行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	概説	確率と統計の考え方
第 2 回	記述統計	データの代表値と視覚化
第 3 回	Excel による解析 (1)	基本操作と分析ツールによる計算
第 4 回	Excel による解析 (2)	度数分布表、2 変数の関係
第 5 回	確率 (1)	標本空間と確率
第 6 回	確率 (2)	条件つき確率と独立性
第 7 回	確率 (3)	ベイズの公式
第 8 回	確率変数と分布 (1)	離散型確率変数
第 9 回	確率変数と分布 (2)	同時確率関数
第 10 回	確率変数と分布 (3)	連続型確率変数
第 11 回	分布の代表値	期待値と分散、標準偏差 (Excel による実習)
第 12 回	基本的な分布 (1)	主な離散分布 (Excel による実習)
第 13 回	基本的な分布 (2)	主な連続分布 (Excel による実習)
第 14 回	基本的な分布 (3)	正規分布 (Excel による実習)

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストの予習・・・1 時間
Excel を含む実習・・・2 時間
授業の復習・・・1 時間

【テキスト（教科書）】

森棟公男他著「統計学（改訂版）」、有斐閣（2015 年）

【参考書】

大屋幸輔著「コアテキスト 統計学（第 2 版）」、新世社（2011 年）
加納・浅子著「入門 経済のための統計学 [第 3 版]」、日本評論社（2011 年）
篠崎信雄・竹内秀一著「統計解析 [第 3 版]」、サイエンス社（2020 年）
田中勝人著「基礎コース 統計学 [第 2 版]」、新世社（2010 年）

豊田利久他著「基本統計学 [第 3 版]」、東洋経済（2015 年）
石村貞夫著「Excel でやさしく学ぶ統計解析 2013」、東京図書（2013 年）
藤本啓著「Excel ができるらくらく統計解析」、自由国民社（2014 年）

【成績評価の方法と基準】

平常点 (50%)
レポート (50%)
※就職活動を行う 4 年生には、平常点について別途配慮します。

【学生の意見等からの気づき】

Excel での実習を交えながら、数学が苦手な学生にも配慮し内容が難解にならないよう、確率の基本的な考え方を丁寧に解説します。

【学生が準備すべき機器他】

Excel がインストールされたパソコン

【Outline (in English)】

【Course outline】

The purpose of this lecture is to understand the basic idea of statistics, and to acquire the ability to analyze real data using Excel.

In "Mathematical Statistics A", you will learn the theory of probability, which is the basis of mathematical statistics.

【Learning Objectives】

The goal of this class is to understand the basic idea of probability theory through practical training in Excel.

【Learning activities outside of classroom】

Text preparation — 1 hour

Practical training including Excel — 2 hours

Class review — 1 hour

【Grading Criteria /Policy】

Class participation (50%)

Report (50%)

ECN300CA
数理統計学 B
宮脇 典彦
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講義の目的は、データを解析していく上で不可欠な統計学の基本的な考え方を理解し、実際に Excel を用いてそれを使いこなす能力を身につけてもらうことにあります。そのためにさまざまな分野の例をあげながら、身近にある問題を通してできる限り平易に解説していきます。

「数理統計学 B」では、「数理統計学 A」の知識を前提として統計的推測（推定・検定）の基礎的な手法を学びます。

【到達目標】

統計学の基礎的な考え方を、Excel の実習を通じて理解することを到達目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】

本年度は教室での対面講義を行う予定ですが、今後のコロナ感染の状況によっては学習支援システムなどを使ったオンライン講義を併用する場合があります。

標本分布や推定と検定の基礎的な考え方を講義し、Excel を用いた実習を通じて理解を深めていきます。実習等のフィードバックは、授業中に行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	標本分布 (1)	標本と標本平均
第 2 回	標本分布 (2)	チェビシェフの不等式と大数の法則
第 3 回	標本分布 (3)	中心極限定理と正規分布による近似
第 4 回	標本分布 (4)	中心極限定理と正規分布による近似
第 5 回	正規分布から派生する分布 (1)	カイ 2 乗分布, t 分布
第 6 回	正規分布から派生する分布 (2)	F 分布
第 7 回	正規分布から派生する分布 (3)	カイ 2 乗分布, t 分布, F 分布
第 8 回	推定 (1)	推定の考え方（点推定と区間推定）
第 9 回	推定 (2)	正規母集団と二項母集団の推定
第 10 回	推定 (3)	点推定の規範
第 11 回	検定 (1)	検定の考え方
第 12 回	検定 (2)	検定における検出力
第 13 回	検定 (3)	正規母集団に関する検定
第 14 回	検定 (4)	二項母集団に関する検定

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストの予習・・・1時間

Excel を含む実習・・・2時間

授業の復習・・・1時間

【テキスト（教科書）】

森棟公男他著「統計学（改訂版）」、有斐閣（2015 年）

【参考書】

大屋幸輔著「コアテキスト 統計学（第 2 版）」、新世社（2011 年）

加納・浅子著「入門 経済のための統計学 [第 3 版]」、日本評論社（2011 年）

篠崎信雄・竹内秀一著「統計解析 [第 3 版]」、サイエンス社（2020 年）

田中勝人著「基礎コース 統計学 [第 2 版]」、新世社（2010 年）

豊田利久他著「基本統計学 [第 3 版]」、東洋経済（2015 年）

石村貞夫著「Excel でやさしく学ぶ統計解析 2013」、東京図書（2013 年）

藤本啓著「Excel でできるらくらく統計解析」、自由国民社（2014 年）

【成績評価の方法と基準】

平常点（50 %）

レポート（50 %）

【学生の意見等からの気づき】

Excel での実習を交えながら、数学が苦手な学生にも配慮し内容が難解にならないよう、統計学の基本的な考え方を丁寧に解説します。

【学生が準備すべき機器他】

Excel がインストールされたパソコン

【Outline (in English)】

【Course outline】

The purpose of this lecture is to understand the basic idea of statistics, and to acquire the ability to analyze real data using Excel.

In "Mathematical Statistics B", you will learn the basic method of statistical inference (estimation / hypothesis testing) based on the knowledge of "Mathematical Statistics A".

【Learning Objectives】

The goal is to understand the basic idea of statistics through practical training in Excel.

【Learning activities outside of classroom】

Text preparation — 1 hour

Practical training including Excel — 2 hours

Class review — 1 hour

【Grading Criteria /Policy】

Class participation (50%)

Report (50%)

ECN300CA
国際金融論 A
ブー トウン カイ
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

今日の世界では、対外取引は各国の経済にとってますます重要になっている。対外取引は多くの場合異なった通貨を媒介とする実物や金融資産の取引である。本講義ではこうした一国経済の対外取引、特に通貨がかかわっているその金融的側面について学ぶ。

【到達目標】

対外取引の意義や内容、為替市場の仕組みと為替取引、為替レート決定、為替レートと金利や物価、实体经济との関係、開放経済におけるマクロ経済政策の仕組みや効果を理解でき、さらに為替介入や通貨危機、共通通貨としてのユーロ、発展途上国の国際金融、世界的な経常収支不均衡といった国際金融分野の現実における様々な問題を知り、関心をもつことを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科は「DP1」「DP9」に関連。国際経済学科・現代ビジネス学科は「DP1」「DP7」に関連。

【授業の進め方と方法】

パワーポイントの講義ノートを教室前方の画面に映し、随時に黒板書きも併用しながら講義を行う。授業支援システムに講義ノートのファイルやその他の関連資料を掲載する。講義中に教員から受講生に質問をして返答を求めることがある。課題等のフィードバックは「学習支援システム」や授業用ウェブサイトを通じて行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	国際金融論という分野、経済学の基本的な考え方
2	国際金融の基本的視点の設定	金融取引の意義、国際的視点
3	統計でマクロ経済をみる	国民所得勘定
4	統計で対外取引をみる	国際収支勘定
5	貨幣とは	貨幣、貨幣需要、貨幣供給
6	貨幣と物価	貨幣市場の均衡、短期と長期における貨幣と物価との関係
7	前半のまとめ	前半で学んだことを振り返り、その後中間試験を行い、理解度を確認する。
8	為替レートとは	名目為替レート、実質為替レート、実効為替レート
9	外国為替市場	外国為替市場、直物・先物レート、通貨デリバティブ
10	金利と為替レート	金利裁定、カバー付金利平価、カバーなし金利平価、均衡為替レート
11	為替レート決定の理論(1)	貨幣市場と外国為替市場、リスク・プレミアム
12	物価と為替レート、及び為替レート決定の理論(2)	生産物裁定と購買力平価、マネタリーモデル
13	現実における購買力平価	購買力平価からの乖離、労働生産性とバラッサ・サミュエルソン効果
14	為替レート決定の実証分析	為替レート決定の理論を整理し、データを用いて検証する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各自で事前に授業支援システムからダウンロード・印刷して授業に持参すること。また、毎回の授業までにその前回は学んだ内容を復習しておくこと。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『コア・テキスト国際金融論』第 2 版、藤井英次（著）、新世社 2014 年。

【参考書】

- 『国際金融論をつかむ』（新版）、橋本優子・小川英治・熊本方雄（著）、有斐閣 2019 年。
- 『入門国際金融』第 4 版、高木信二（著）、日本評論社 2011 年。
- “International Finance: Theory and Policy,” Global Edition, by Paul Krugman, Maurice Obstfeld and Marc Melitz, Pearson Education Limited; 第 11 版 (2018) (英語) ペーパーバック。

【成績評価の方法と基準】

以下の通りに試験と課題の結果に基づいて成績評価を行う。

小テスト・宿題：30%、中間試験：30%、学期末試験：40%

【学生の意見等からの気づき】

アンケートや毎回の授業に対する学生の反応や意見、あるいは課題の解答から見える受講者の理解度に基づき、授業の内容や進行を適切に変更することがある。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

教員と他の学生に大変迷惑になるので、授業中の私語、携帯電話の使用や遅刻などはしないこと。授業で学ぶ予定のテキストの箇所を事前に読んでおくことが望ましい。大学の勉強ではコンスタントにテキストや参考書などの本を読むことは自分の知識や思考能力の形成に非常に大切で、「塵も積もれば山となる」という諺のごとく日々の積み重ねがやがて大きな成果につながる。

【Outline (in English)】

Course outline & Learning objectives: International transactions have become increasingly important to every country in the world today. These are mainly transactions in goods, services and financial assets that require currencies as the medium of exchange. In this course we will learn about these international transactions, with a special focus on financial assets and currencies.

Learning activities outside of classroom: To deepen understanding, the students are expected to read the class materials (lecture notes, textbooks, and newspaper/journal articles) after each lecture. Also, homework is assigned frequently.

Grading criteria: Grading is based on the students' homework and midterm & final report performance with weights being 30%, 30% and 40%, respectively.

ECN300CA
国際金融論 B
ブー トウン カイ
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

今日の世界では、対外取引は各国の経済にとってますます重要になっている。対外取引は多くの場合異なった通貨を媒介とする実物や金融資産の取引である。本講義ではこうした一国経済の対外取引、特に通貨がかかわっているその金融的側面について学ぶ。

【到達目標】

対外取引の意義や内容、為替市場の仕組みと為替取引、為替レート決定、為替レートと金利や物価、实体经济との関係、開放経済におけるマクロ経済政策の仕組みや効果を理解でき、さらに為替介入や通貨危機、共通通貨としてのユーロ、発展途上国の国際金融、世界的な経常収支不均衡といった国際金融分野の現実における様々な問題を知り、関心をもつことを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科は「DP1」「DP9」に関連。国際経済学科・現代ビジネス学科は「DP1」「DP7」に関連。

【授業の進め方と方法】

パワーポイントの講義ノートを教室前方の画面に映し、随時に黒板書きも併用しながら講義を行う。授業支援システムに講義ノートのファイルやその他の関連資料を掲載する。講義中に教員から受講生に質問をして返答を求めることがある。課題等のフィードバックは「学習支援システム」や授業用ウェブサイトを通じて行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	為替レートと实体经济 (1)	総需要と総供給、内需と外需、生産物市場の短期均衡
2	為替レートと实体经济 (2)	為替レートと経常収支
3	マクロ経済分析の理論的枠組み	IS-LM モデルの復習
4	開放経済分析の理論的枠組み	マンデル・フレミングモデル
5	開放マクロ経済政策	変動相場制・固定相場制における金融・財政政策の仕組みと効果
6	為替介入	介入の仕組み、胎化と不胎化、リスク・プレミアムとポートフォリオ・バランス効果
7	前半のまとめ	前半で学んだことを振り返り、その後中間試験を行い、理解度を確認する。
8	トリレンマと為替制度の選択	開放経済におけるトリレンマ、及び為替制度の選択
9	通貨危機 (1)	通貨危機の歴史
10	通貨危機 (2)	通貨危機に関する理論
11	発展途上国の国際金融	発展途上国の国際金融の現実の諸問題と政策
12	共通通貨	ユーロという共通通貨と最適通貨圏の理論
13	東アジアの経済統合と地域的通貨協力	東アジアにおける貿易や投資の面での経済統合やアジア通貨危機、そして地域的通貨協力について学ぶ。
14	グローバルインバランス	世界的な経常収支不均衡問題の現状、要因、政策的対応を学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各自で事前に授業支援システムからダウンロード・印刷して授業に持参すること。また、毎回の授業までにその前回で学んだ内容を復習しておくこと。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『コア・テキスト国際金融論』第 2 版、藤井英次、新世社 2014 年。

【参考書】

- 『国際金融論をつかむ』（新版）、橋本優子・小川英治・熊本方雄（著）、有斐閣 2019 年。
- 『入門国際金融』第 4 版、高木信二（著）、日本評論社 2011 年。
- “International Finance: Theory and Policy,” Global Edition, by Paul Krugman, Maurice Obstfeld and Marc Melitz, Pearson Education Limited; 第 11 版 (2018) (英語) ペーパーバック。

【成績評価の方法と基準】

以下の通りに試験と課題の結果に基づいて成績評価を行う。

小テスト・宿題：30%、中間試験：30%、学期末試験：40%

【学生の意見等からの気づき】

アンケートや毎回の授業に対する学生の反応や意見、あるいは課題の解答から見える受講者の理解度に基づき、授業の内容や進行を適切に変更することがある。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

教員と他の学生に大変迷惑になるので、授業中の私語、携帯電話の使用や遅刻などはしないこと。授業で学ぶ予定のテキストの箇所を事前に読んでおくことが望ましい。大学の勉強ではコンスタントにテキストや参考書などの本を読むことは自分の知識や思考能力の形成に非常に大切で、「塵も積もれば山となる」という諺のごとく日々の積み重ねがやがて大きな成果につながる。

【Outline (in English)】

Course outline & Learning objectives: International transactions have become increasingly important to every country in the world today. These are mainly transactions in goods, services and financial assets that require currencies as the medium of exchange. In this course we will learn about these international transactions, with a special focus on financial assets and currencies.

Learning activities outside of classroom: To deepen understanding, the students are expected to read the class materials (lecture notes, textbooks, and newspaper/journal articles) after each lecture. Also, homework is assigned frequently.

Grading criteria: Grading is based on the students' homework and midterm & final report performance with weights being 30%, 30% and 40%, respectively.

ECN300CA
企業経済論 A
砂田 充
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、ミクロ経済学の応用分野のひとつである「企業経済学」を学ぶ。特に、ミクロ経済学分析の基礎概念、独占企業の行動及びマーケティング戦略としての様々な価格差別の態様について学習する。また、企業行動と政府規制の関係についても学習し、資本主義経済における企業と政府の役割や企業の経営戦略が消費者に与える影響を学ぶ。授業形態については対面を基本とするが、各回の内容や進捗状況を踏まえてオンラインで実施する場合もあり得る（最大7回、必ず7回オンラインになるわけではありません）。オンラインで実施する場合には学習支援システムを通じて連絡する。

【到達目標】

企業経済学がさまざまな企業戦略のインセンティブとそのパフォーマンスへの影響を分析する学問分野であることを理解する。また、企業が日々の活動で行っている様々なマーケティング戦略の仕組みと効果、独占企業と政府規制の関係について経済学的に理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】

パワーポイント及び板書を使って講義を行う。必要に応じてレジュメを配布する。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	オリエンテーション
2	企業経済学の課題と歴史	SCP パラダイム
3	経済学のための数学基礎	関数・連立方程式・微分・最適化
4	ミクロ経済学の基礎概念①	消費者行動と需要の価格弾力性
5	ミクロ経済学の基礎概念②	企業の費用構造
6	ミクロ経済学の基礎概念③	機会費用とサンクコスト
7	ミクロ経済学の基礎概念④	市場均衡と経済厚生
8	独占	独占企業の価格設定と非効率性
9	価格差別①	価格差別の手段と効果
10	価格差別②	市場分割
11	価格差別③	バンドル
12	価格差別④	二部料金
13	価格差別⑤	抱き合わせ
14	授業の総括	これまでの内容のおさらい

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学生は各講義前に講義資料を授業支援システムより DL して予習（2時間程度）、講義後には「学習支援システム」を使って復習（2時間程度）することが必要である。加えて、講義の中で簡単に説明をするが、ミクロ経済学の基礎および経済数学の基礎について復習しておくことが望まれる。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。授業の進行に従ってレジュメを配布する。

【参考書】

泉田成美・柳川隆『プラクティカル産業組織論』（有斐閣、2008年）、小田切宏之『企業経済学（第2版）』（東洋経済新報社、2010年）、長岡貞夫・平尾由紀子『産業組織の経済学（第2版）』（日本評論社、2013年）。

丸山雅祥『経営の経済学 [第3版]』（有斐閣、2017）。

Belleflamme, P., and M., Pelitz. *Industrial Organization: Markets and Strategies*, 2nd Ed., Cambridge Univ. Press, 2015.

【成績評価の方法と基準】

期末試験（50-80%）とホームワーク（20-50%）による。

【学生の意見等からの気づき】

具体的な事例を示しながら分かりやすく講義することに努めたい。

【その他の重要事項】

受講者の理解度等を踏まえて内容を変更する場合がある。場合によっては、レポート・小テスト（授業内・外）を課すこともある。

【Outline (in English)】

We study the concepts and methodologies in managerial economics, which provides practical toolkits for managerial decision. This course applies microeconomics, game theory, and industrial organization, to understand the interactions of firm behavior and its effect on welfare. This course will focus on, but not limited to, the following topics: demand and supply, monopoly, price discrimination. In the course, we also discuss real-world examples, that make it easy for students to understand each concept.

The goal of this course is understanding the mechanism and effects of various marketing practices, and the role of public policy on monopoly market, based on the economic theory.

Students will be expected to thoroughly prepare each class meeting using course materials which provided through HOPPII (about two hours required), and, after each class meeting, to complete a homework assignment through HOPPII within a week (about two hours required).

Students are required comprehension of introductory microeconomics and game theory, while we will briefly review them in the course.

The grade will be based on the final exam (50-80%) and the homework (20-50%).

ECN300CA
企業経済論 B
砂田 充
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、ミクロ経済学の応用分野のひとつである「企業経済学」を学ぶ。特に、ゲーム理論の基礎、寡占市場、市場構造指標と市場支配力、カルテル、合併及び垂直的取引関係について学習し、わが国の様々な産業・市場で典型的な寡占市場における企業間競争の仕組みと社会・経済への影響を学習し、政府規制の役割についても学ぶ。授業形態については対面を基本とするが、各回の内容や進捗状況を踏まえてオンラインで実施する場合もあり得る（最大7回、必ず7回オンラインになるわけではありません）。オンラインで実施する場合には学習支援システムを通じて連絡する。

【到達目標】

企業経済学がさまざまな企業戦略のインセンティブとそのパフォーマンスへの影響を分析する学問分野であることを理解する。また、企業間競争と様々な経営戦略（協調行為・垂直的取引制限等）の仕組みと効果を経済学的に理解し、企業と政府規制の関係について理解を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】

パワーポイント及び板書を使って講義を行う。必要に応じてレジュメを配布する。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	オリエンテーション
2	ゲーム理論の基礎	企業行動とゲーム理論
3	寡占市場①	クールノー競争とベルトラン競争
4	寡占市場②	寡占の市場行動
5	製品差別化①	垂直的差別化
6	製品差別化②	水平的差別化
7	カルテル①	カルテルの経済分析
8	カルテル②	カルテル規制
9	市場構造分析①	市場支配力
10	市場構造分析②	市場画定
11	垂直的取引①	垂直的取引と企業間関係
12	垂直的取引②	垂直的統合による効率性と排除
13	垂直的取引③	垂直的取引制限の競争効果
14	授業の総括	これまでの内容のおさらい

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学生は各講義前に講義資料を授業支援システムより DL して予習（2時間程度）、講義後には「学習支援システム」を使って復習（2時間程度）することが必要である。加えて、講義の中で簡単に説明をするが、ミクロ経済学の基礎および経済数学の基礎について復習しておくことが望まれる。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。授業の進行に従ってレジュメを配布する。

【参考書】

泉田成美・柳川隆『プラクティカル産業組織論』（有斐閣、2008年）。
小田切宏之『企業経済学（第2版）』（東洋経済新報社、2010年）。
長岡貞夫・平尾由紀子『産業組織の経済学（第2版）』（日本評論社、2013年）。
丸山雅祥『経営の経済学（第3版）』（有斐閣、2017）。

Belleflamme, P., and M., Pelitz. *Industrial Organization: Markets and Strategies*, 2nd Ed., Cambridge Univ. Press, 2015.

【成績評価の方法と基準】

期末試験（50-80%）とホームワーク（20-50%）による。

【学生の意見等からの気づき】

具体的な事例を示しながら分かりやすく講義することに努めたい。

【その他の重要事項】

受講者の理解度等を踏まえて内容を変更する場合がある。場合には、レポート・小テスト（授業内・外）を課すこともある。

【Outline (in English)】

We study the concepts and methodologies in managerial economics, which provides practical toolkits for managerial decision. This course applies microeconomics, game theory, and industrial organization, to understand the interactions of firm behavior and its effect on welfare. This course will focus on, but not limited to, the topics as follows: oligopoly, vertical and horizontal product differentiation, cartel, market power, vertical integration and restraint. In the course, we also discuss real-world examples, that make it easy for students to understand each concept.

The goal of this course is understanding the mechanism and effects of various management strategy (eg. collusive behavior, vertical restraints, and so on) in oligopolistic competition, and the role of public policy on such strategies.

Students will be expected to thoroughly prepare each class meeting using course materials which provided through HOPPII (about two hours required), and, after each class meeting, to complete a homework assignment through HOPPII within a week (about two hours required).

Students are required comprehension of introductory microeconomics and game theory, while we will briefly review them in the course.

The grade will be based on the final exam (50-80%) and the homework (20-50%).

LANe200CA
ビジネス英語初級 A
JOHN THOMAS LACEY
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位
初回の授業に出席し担当教員の指示を受ける。

その他属性：〈グ〉〈優〉

【学生の意見等からの気づき】

Since the comments did not recommend any changes, no changes will be made unless specific changes are requested.

【学生が準備すべき機器他】

None

【その他の重要事項】

None

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

In this course students will learn about cross-cultural differences in international business.

【到達目標】

The goal of this course is to help students improve their intercultural business communication skills.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

Weekly assignments will be required to complete. Feedback will be given immediately after assignments have been submitted or presented in class.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
Week 1	Student introductions	Essay (1)
Week 2	Course introduction	Read assigned documents
Week 3	Introduction Letters	Formal letters
Week 4	Resume Development	Resume
Week 5	Mock Job Interviews	Preparation for interview
Week 6	Businesses	Presentation 1
Week 7	Research	Presentation 1
Week 8	Presentation Day Product Development	Product Development
Week 9	CM Script	CM Script
Week 10	Commercial Day	Summary Response
Week 11	Business etiquette	Article
Week 12	Business etiquette	Writing Assignment
Week 13	Review as necessary (1)	Peer Review
Week 14	Review as necessary (2)	Final Class Review

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students should prepare for each class by completing outside class study. Following the lesson, students will have home preparation for student presentations or writing assignments. required (approximately four hours at the student's discretion).

【テキスト（教科書）】

None

【参考書】

None

【成績評価の方法と基準】

Students will be evaluated on the basis of the assignments they complete (100%). It is important that you attend class to receive assignment information.

LANe200CA
ビジネス英語初級B
JOHN THOMAS LACEY
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位
初回の授業に出席し担当教員の指示を受ける。

その他属性：〈グ〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

In this course, students will learn about cross-cultural differences in international business and related issues

【到達目標】

The goal of this course is to help students improve their communication skills.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

Students will be given a number of topics and then be required to do a presentation. Emphasis will be on public speaking.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
Week 1	Course introduction	Read assigned documents
Week 2	General Speech Non-verbal Communication.	Business Research
Week 3	Presentation Day 1	A difficult moment
Week 4	Speech 2 Intonation	Intonation Speech Preparation
Week 5	Famous Speakers	Research
Week 6	Famous Speakers Day 1 Final Speech Intro	Research
Week 7	Famous Speaker Day 2 Final Speech intro continued	Research Topic
Week 8	Dialogue Development Hook and Issue	Research Final Speech first draft work.
Week 9	Dialogue Preparation with partner Final Speech Statistics and Quotes	Research Final Speech First Draft
Week 10	Dialogue Day Final Speech Deadline First Draft	Rewrite First Draft
Week 11	Peer Support	Final Speech Prep
Week 12	Peer Support Day 2 Impromptu Speaking Exercise	Final Speech Prep
Week 13	Final Speech Day	Summary Response
Week 14	Review	Review

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students should prepare for each class by completing outside class study. Following the lesson, students will have home preparation for student presentations or writing assignments. required (approximately four hours at the student's discretion).

【テキスト（教科書）】

None

【参考書】

None

【成績評価の方法と基準】

Students will be evaluated on the basis of the assignments they complete (100%). It is important that you attend class to receive assignment information.

【学生の意見等からの気づき】

Since the comments did not recommend any changes, no changes will be made unless specific changes are requested.

【学生が準備すべき機器他】

None

【その他の重要事項】

None

ARS200xCA
世界の文化と思想 A
石 碩
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中国の思想と文化は、長い歴史を経て形成され、時代に沿って変化を遂げながら、今日まで受け継がれている。本講義では、中国古代の知識人にとって教養の一環であった古典詩を手がかりに、中国の代表的な思想や文化について学ぶ。特に、唐代以前の人々の文学を取り上げて、その特徴について考える。同時に、同じ漢字文化圏として、中国と思想・文化を共有する日本との差異や、その背景についても触れたい。

【到達目標】

中国の古典詩を通して、その思想と文化について基礎的な知識を身につける。さらに、日本との差異や、その背景についても理解を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

パワーポイントを用いて講義を行う。講義後には毎回リアクションペーパーの提出を求め、翌週の講義の冒頭でフィードバックを行う。また、中間レポート（教場）および期末レポート（教場）を課する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	講義の概要・目的・進め方について説明し、中国の思想と文化の特徴について紹介する
第 2 回	『詩経』と民草の声	中国最古の詩集『詩経』を取り上げ、民草の素朴な生活風景、および諷刺の精神について紹介する
第 3 回	『楚辞』にみる愛国の精神	『楚辞』の屈原の文学を取り上げ、その愛国精神について紹介する
第 4 回	「古詩十九首」にみる悲哀の形①	最古の五言詩である「古詩十九首」を取り上げ、悲哀の表現と種類について紹介する
第 5 回	「古詩十九首」にみる悲哀の形②	最古の五言詩である「古詩十九首」を取り上げ、悲哀の表現と種類について紹介する
第 6 回	曹操・曹丕・曹植の文学	三国・魏の三曹の思想と文学について紹介する
第 7 回	中間レポート（教場）	中間レポート（教場）
第 8 回	中国の隠逸思想<竹林の七賢>	中国の隠逸思想について、竹林の七賢を中心に紹介する
第 9 回	中国の隠逸思想<陶淵明>	中国の隠逸思想について、陶淵明を中心に紹介する
第 10 回	山水に見出される美<謝靈運>	山水詩の祖である謝靈運について紹介する
第 11 回	自然と孤独<謝朓>	山水詩を確立した謝朓について紹介する
第 12 回	中国の官僚登用試験—科挙	中国の官僚登用試験である科挙について紹介する
第 13 回	中国の世界遺産—万里の長城と兵馬俑	中国の世界遺産を取り上げ、その文化的背景について紹介する
第 14 回	期末レポート（教場）	期末レポート（教場）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配布資料および参考文献で予習・復習を行う（約 4 時間）。初めて見る単語が多いことが予想されるため、辞書・インターネットなどを活用すること。

【テキスト（教科書）】

Hoppii に授業資料をアップロードする。

【参考書】

講義中に指示する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（リアクションペーパーおよび授業態度）30%、中間レポート（教場）20%、期末レポート（教場）50%とする。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

授業資料は各自あらかじめダウンロードし、①プリントして講義に持参する、もしくは② PC・タブレット上に表示させて講義を受けること。

【Outline (in English)】

In this course, students will learn about representative Chinese thought and culture, using classical poetry, which was part of the culture for ancient Chinese intellectuals, as a clue. The goal is to acquire a basic knowledge of Chinese thought and culture. Students are required to prepare and review for about 4 hours with the handouts and references in advance. 30%, 20% for the mid-term report, and 50% for the final report.

ARS200xCA
世界の文化と思想 B
石 碩
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中国の思想と文化は、長い歴史を経て形成され、時代に沿って変化を遂げながら、今日まで受け継がれている。本講義では、中国古代の知識人にとって教養の一環であった古典詩を手がかりに、中国の代表的な思想や文化について学ぶ。特に、日本人にとってなじみ深い李白・杜甫・白居易を取り上げる。同時に、同じ漢字文化圏として、中国と思想・文化を共有する日本との差異や、その背景についても触れたい。

【到達目標】

中国の古典詩を通して、その思想と文化について基礎的な知識を身につける。さらに、日本との差異や、その背景についても理解を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

パワーポイントを用いて講義を行う。講義後には毎回アクションペーパーの提出を求め、翌週の講義の冒頭でフィードバックを行う。また、中間レポート（教場）および期末レポート（教場）を課する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	講義の概要・目的・進め方について説明し、中国の思想と文化の特徴について紹介する
第 2 回	中国古典世界における植物のイメージと描き方	中国古典世界における植物のイメージと描き方について紹介する
第 3 回	中国古典世界における鳥獣虫魚と天文・気象のイメージと描き方	中国古典世界における鳥獣虫魚と天文・気象のイメージと描き方について紹介する
第 4 回	近体詩の成り立ちと唐詩のテーマ	近体詩の成り立ちと唐詩のテーマについて紹介する
第 5 回	李白の文学にみる酒と離別①	李白の文学を通して、中国の酒文化について紹介する
第 6 回	李白の文学にみる酒と離別②	李白の文学を通して、中国の離別の形について紹介する
第 7 回	中間レポート（教場）	中間レポート（教場）
第 8 回	杜甫の文学にみる官僚の使命感①	杜甫の文学を通して、中国知識人の使命感について紹介する
第 9 回	杜甫の文学にみる官僚の使命感②	杜甫の文学を通して、中国知識人の使命感について紹介する
第 10 回	王維の描く山水田園の世界	王維の描く山水田園の世界について紹介する
第 11 回	白居易の文学にみる知識人の社会批判①	白居易の文学にみる知識人の社会批判について紹介する
第 12 回	白居易の文学にみる知識人の社会批判②	白居易の文学にみる知識人の社会批判について紹介する
第 13 回	中国の世界遺産―泰山と孔子廟	中国の世界遺産を取り上げ、その文化的背景について紹介する
第 14 回	期末レポート（教場）	期末レポート（教場）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配布資料および参考文献で予習・復習を行う（約 4 時間）。初めて見る単語が多いことが予想されるため、辞書・インターネットなどを活用すること。

【テキスト（教科書）】

Hoppii に授業資料をアップロードする。

【参考書】

講義中に指示する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（リ）アクションペーパーおよび授業態度）30%、中間レポート（教場）20%、期末レポート（教場）50%とする。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

授業資料は各自あらかじめダウンロードし、①プリントして講義に持参する、もしくは② PC・タブレット上に表示させて講義を受けること。

【Outline (in English)】

In this course, students will learn about representative Chinese thought and culture, using classical poetry, which was part of the culture for ancient Chinese intellectuals, as a clue. The goal is to acquire a basic knowledge of Chinese thought and culture. Students are required to prepare and review for about 4 hours with the handouts and references in advance. 30%, 20% for the mid-term report, and 50% for the final report.

SES300CA
地球環境論 A
吉田 圭一郎
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

私たちの暮らすこの地球には実に多様な自然環境が見られ、私たちは複雑な自然環境の影響を受けながら、自然環境を利用して生活しています。授業では、こうした自然環境の複雑さや人と自然とのかわりについて、地理的な視点から解き明かしていきます。また、様々なスケールで自然環境を理解し、地球環境問題の解決の糸口を探るための知識や技術を学びます。

【到達目標】

身近なものから地球全体まで様々なスケールで展開する自然環境の諸事象について、その成因や形成過程を地理的な視点からとらえるとともに、自然環境と人間活動の相互依存関係について具体的に理解できるようになることが到達目標となります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP4」「DP8」に関連。国際経済学科は「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

授業は教科書及び学習支援システムを通じて配布した資料を用いた講義となります。毎回の授業についてのコメントを集めて、授業のふりかえりを行うことで内容理解を確かなものとするとともに、内容ごとに復習課題を課して、授業内容の発展的な理解を促します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業概要および進め方の説明し、地理学について紹介します。
2	自然地理学とはどんな学問か	自然地理学で扱う内容とその特徴について理解します。
3	生活の舞台としての地形（沖積平野、段丘・丘陵）	私たちの生活の舞台となっている沖積平野について具体的な事例をあげながら学び、私たちの暮らしに地形がどのようにかかわっているのかについて考えます。
4	第四紀の気候変動と地形形成	身近な地形形成にかかわる地球規模の気候変動について理解します。
5	災害を引き起こす地震・津波、火山	私たちの生活に大きな影響を及ぼす自然災害について理解します。
6	世界の気候とその成り立ち	地球規模の気候の成り立ちについて理解します。
7	身近な気候と人々の暮らし	気候に強く影響を受けている私たちの暮らしについて考えます。
8	気象災害	身近な自然災害である気象災害について理解し、防災を考えます。
9	地球環境問題－地球温暖化	地球規模の環境問題である温暖化について理解します。
10	生物群系と日本の植生	世界全体での生物分布を俯瞰し、日本の植生分布について理解します。
11	高山帯と森林限界の変化	高山帯について理解し、気候変化にともなう影響について考えます。
12	亜高山帯、低山帯、山地帯	私たちの生活にかかわる植生について理解します。

- 13 フィールドワークによる地域理解 身近な地域の自然環境と人間活動とのかわりについて理解するためのフィールドワークについて紹介します。
- 14 試験・まとめと解説 授業を通じた学習の理解度をチェックするとともに、全体のふりかえりを行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で用いる資料や理解度を確かめる課題は学習支援システムを通じて配布します。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

「みわたす・つなげる自然地理学」小野映介・吉田圭一郎編著（古今書院）2640 円

【参考書】

参考書は特に指定しません。

【成績評価の方法と基準】

期末試験（70%）および授業への取り組み（30%）により評価します。学部の評価基準のとおり、100 点中の 60 点を合格とします。

【学生の意見等からの気づき】

授業に対するコメントや疑問点などを踏まえてふりかえりを行い、誰一人取り残さないよう、授業内容を理解してもらえるようにします。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムに登録してください。

【その他の重要事項】

良い授業は担当教員と受講生との相互の積極的な関わり合いの中で作られます。真摯な態度で自発的・積極的に授業に取り組んで下さい。

【Outline (in English)】

Course outline:

In this course, the complexity of the natural environment and the relationship between humans and nature will be explained through a geographical perspective.

Learning Objectives:

Students will learn knowledge and skills to understand the natural environment at various scales and to explore key solutions to global environmental issues.

Learning activities outside of classroom:

Class materials and assignments will be provided using LMS. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading Criteria/Policy:

Your overall grade in the class will be decided based on the following; Term-end examination (70%) and in class contribution (30%).

SES300CA
地球環境論 B
吉田 圭一郎
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

世界各地で私たちが直面している自然環境に関する諸課題を解決するためには、地域の多様で複雑な「人と自然のかかわり」を多面的かつ総合的に理解する地理的なものの見方・考え方が必要不可欠です。この授業では、いくつかの具体的な事例を取り上げて人間と自然との関係についての理解を深め、身近な地域から地球全体におよぶ環境問題の解決に向けた地理学的なアプローチを学びます。

【到達目標】

人間と自然環境に関わる課題について地理学的なアプローチから総合的な理解ができるとともに、地球環境問題の解決方法について多面的に考え、自らの言葉で議論できるようになることが到達目標となります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP4」「DP8」に関連。国際経済学科は「DP4」に関連。

【授業の進め方と方法】

授業は教科書及び学習支援システムを通じて配布した資料を用いた講義となります。毎回の授業についてのコメントを集めて、授業のふりかえりを行うことで内容理解を確かなものとするとともに、内容ごとに復習課題を課して、授業内容の発展的な理解を促します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業概要および進め方の説明し、総合科学としての地理学について紹介します。
2	地理的な見方・考え方による事象のとらえ方	人と自然のかかわりを理解するための地理的な見方・考え方を学びます。
3	持続可能な開発目標と地球的課題	私たちが直面する地球的課題について理解します。
4	小笠原諸島 - 自然破壊の歴史	小笠原諸島を題材に、孤島における自然破壊について考えます。
5	小笠原諸島 - 移入種と保全	小笠原諸島を題材に、移入種の問題とその解決方法について考えます。
6	琉球列島 - 宮古島の暮らし、自然との共生と開発	琉球列島のサンゴ礁を題材に、自然との共生のあり方について考えます。
7	ハワイ - 独自の自然環境と開発	ハワイを題材に、利用制限による自然保護の是非について考えます。
8	マレーシア - 熱帯林の保護	マレーシアを題材に、熱帯林減少の現状について学びます。
9	ブラジル (1) - ブラジルの発展と自然環境	ブラジルを題材に、開発による発展と自然環境の破壊との関連性について学びます。
10	ブラジル (2) - アマゾン熱帯林の破壊と保全	アマゾン熱帯雨林を題材に、熱帯雨林破壊の特徴とその保全策について考えます。
11	ブラジル (3) - 熱帯季節乾燥林のカーチンガの破壊と保全	熱帯季節乾燥林のカーチンガを題材に、見過ごされてきた自然破壊について学びます。

- 12 ブラジル (4) - パンタナールにおける人と自然のかかわり
ブラジル・パンタナールを題材に、人と自然のかかわりを考慮した自然環境保全について考えます。
- 13 ボリビア・アンデス - 地球温暖化と氷河
ボリビア・アンデスを題材に、地球温暖化による人間社会への影響について学びます。
- 14 試験・まとめと解説
授業を通じた学習の理解度をチェックするとともに、全体のふりかえりを行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

報道ニュースなどの環境関連事項に注意し、目を通しておくこと。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特定の教科書は使用しません。

【参考書】

ブラジルについては以下の書籍が参考になります。

「世界地誌シリーズ 6 ブラジル」丸山浩明編（朝倉書店）3,740 円
「みわたす・つなげる地誌学」上杉和央・小野映介編（古今書院）2,640 円
「新版 現代ブラジル事典」ブラジル日本商工会議所編（新評論）3,850 円

【成績評価の方法と基準】

期末試験（70%）および授業への取り組み（30%）により評価します。学部の評価基準のとおり、100 点中の 60 点を合格とします。

【学生の意見等からの気づき】

授業に対するコメントや疑問点などを踏まえてふりかえりを行い、誰一人取り残さないよう、授業内容を理解してもらえようにします。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムへの登録をお願いします。

【その他の重要事項】

良い授業は担当教員と受講生との相互の積極的な関わり合いの中で作られます。真摯な態度で自発的・積極的に授業に取り組んで下さい。

【Outline (in English)】

Course outline:

In this course, students understand more deeply the relationship between humans and nature by discussing several concrete examples.

Learning Objectives:

Students will learn the geographical approaches to address the environmental issues ranging from local areas to the global scale.

Learning activities outside of classroom:

Class materials and assignments will be provided using LMS. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading Criteria/Policy:

Your overall grade in the class will be decided based on the following; Term-end examination (70%) and in class contribution (30%).

LANe200CA ビジネス英語初級 A
GLENN FERN
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位
初回の授業に出席し担当教員の指示を受ける。

その他属性：〈グ〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

The goal of this course is to assist students acquire the critical English language skills, necessary to develop a better understanding of International Business. Students will be asked to actively participate in a wide variety of activities, designed to develop the core English competencies of reading, writing, listening, speaking, specialized business vocabulary, critical thinking skills, and simple presentations related to business. Students will be expected to actively practice these skills by listening; to a short pod cast, reading, writing, and discussing topics related to business with in a controlled environment. Students will be given homework and assignments. The teacher will ask students to use the assigned textbook, in order to help develop these skills. Students will be expected to actively participate in a variety of oral communication activities, so they will feel comfortable using English to gather information and express their thoughts. Please note that changes to the course will be made as necessary to accommodate the needs of students and the class.

【到達目標】

The goal of this course is to assist students acquire the critical English language skills, necessary to develop a better understanding of International Business.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

Lecture, individual tasks, pair work, group work, and listening exercises. Feedback for class assignments and tests will be given on Hoppii, FORUM.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Course introduction	Course introduction to learning methodology, topics and expectations of the kind of contribution students will be expected to make to this class. Students will be asked to buy the textbook and be familiar with it for the next class
2	Career choices	Career versus salary man. The difference between these difficult choices will be explored in a class lecture and group discussions.
3	Job search techniques	What is the best way to find your dream job? A variety of different job search techniques will be explored in class.

4	Resume	The difference between a traditional Japanese resume and a Western style resume in English will be explored. Students will create their own resume in English.
5	Job interview styles	The different types of job interviews used by companies around the world will be examined in class. Students will be expected to participate in a group discussion
6	Job interview questions and simulations	Common job interview questions will be given and discussed. Job interview simulations will be practiced in class.
7	Interview Test	All students will be required to under go a one on one job interview test with the instructor. Individual feedback to students will be provided by the instructor.
8	Trends in business	The importance of being aware of and following common trends in business and society will be discussed. Students will examine popular business publications, and search for important business trends.
9	Describe the business of a company	An over view of the textbook, Global Links 2 will be given. Students will complete a variety of listening and speaking exercises in Unit 1, Talking About Your Company. Students will learn how to describe the business of a company.
10	Developing a presentation	Group work: Students will work together to develop a presentation describing the business of a company of their own choice. The instructor will guide and assist students in the development of their presentation, as required.
11	Presentation practice and presentation skills	Students will edit and practice their presentation to be given in the next class. The instructor will provide advice and guidance as necessary, along with instruction in presentation skills.
12	Student group presentations	Students will give their presentation in class, and answer questions from the instructor and other students. Emphasis will be placed upon critical thinking skills, problem solving, and a well organized presentation. A discussion will follow after the presentation, regarding important points raised during the question period.

- | | | |
|----|---------------------------------------|--|
| 13 | Student individual presentations | Students will give a short individual presentation to the class, regarding an interesting trend they have discovered in a popular business publication. A Q&A will follow, along with a brief discussion of the trend. |
| 14 | Semester review and group discussions | A review of the main points learned during the semester. Group discussions will follow regarding the |

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Home preparation for student presentations is a minimum of 4 hours per week required.

【テキスト（教科書）】

Global Links 2, English for International Business, Angela Blackwell, Longman, ISBN 9780130883964

【参考書】

None

【成績評価の方法と基準】

Participation in class discussion and activities : 40%

Tests : 20%

Presentations : 40%

【学生の意見等からの気づき】

Not Applicable

【学生が準備すべき機器他】

None

【その他の重要事項】

None

LANe200CA ビジネス英語初級 B
GLENN FERN
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位
初回の授業に出席し担当教員の指示を受ける。

その他属性：〈グ〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

The goal of this course is to assist students acquire the critical English language skills, necessary to develop a better understanding of International Business. Students will be asked to actively participate in a wide variety of activities, designed to develop the core English competencies of reading, writing, listening, speaking, specialized business vocabulary, critical thinking skills, and simple presentations related to business. Students will be expected to actively practice these skills by listening; to a short pod cast, reading, writing, and discussing topics related to business with in a controlled environment. Students will be given homework and assignments. The teacher will ask students to use the assigned textbook, in order to help develop these skills. Students will be expected to actively participate in a variety of oral communication activities, so they will feel comfortable using English to gather information and express their thoughts. Please note that changes to the course will be made as necessary to accommodate the needs of students and the class.

【到達目標】

The goal of this course is to assist students acquire the critical English language skills, necessary to develop a better understanding of International Business.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

Lecture, individual tasks, pair work, group work, and listening exercises. Feedback for class assignments and tests will be given on Hoppii, FORUM.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Course introduction	Course introduction to learning methodology, topics and expectations of the kind of contribution students will be expected to make to this class during the second semester. Students will be asked to familiarize themselves with Unit 6 in the textbook, Describing Processes.
2	Describing processes	Students will complete a variety of listening and speaking exercises in Unit 6, Describing Processes. Students will learn how to describe a variety of business processes.

3	Describing processes group work	Group work: Students will work together to develop a presentation describing a business process of their own choice. The instructor will guide and assist students in the development of their presentation, as required.
4	Presentation practice and presentation skills	Students will edit and practice their presentation to be given in the next class. The instructor will provide advice and guidance as necessary, along with instruction in presentation skills.
5	Group presentations and discussion	Students will give their presentation in class, and answer questions from the instructor and other students. Emphasis will be placed upon critical thinking skills, problem solving, and a well organized presentation. A discussion will follow after the presentation, regarding important points raised during the question period.
6	Corporate problem solving	Students will complete a variety of listening and speaking exercises in Unit 5, Turning a Company Around. Students will learn how to identify a problem and develop a plan to solve the problem.
7	Corporate problem solving group work	Group work: Students will work together to develop a presentation describing a corporate problem and how a company solved that problem. Students will select a company of their own choice to present as a case study. The instructor will guide and assist students in the development of their presentation, as required.
8	Presentation practice and presentation skills	Students will edit and practice their presentation to be given in the next class. The instructor will provide advice and guidance as necessary, along with instruction in presentation skills.
9	Group presentations and discussion	Students will give their presentation in class, and answer questions from the instructor and other students. Emphasis will be placed upon critical thinking skills, problem solving, and a well organized presentation. A discussion will follow after the presentation, regarding important points raised during the question period.

10	Managing change in a corporation	Students will complete a variety of listening and speaking exercises in Unit 8, Managing Change. Students will learn about the importance of managing change at the personal and corporate level in a Darwinian world.
11	Managing change group work	Group work: Students will work together to develop a presentation, describing a change(s) a company had to make in order to adapt and achieve its corporate goals. Students will select a company of their own choice to present as a case study. The instructor will guide and assist students in the development of their presentation, as required.
12	Presentation practice and presentation skills	Students will edit and practice their presentation to be given in the next class. The instructor will provide advice and guidance as necessary, along with instruction in presentation skills.
13	Group presentations and discussion	Students will give their presentation in class, and answer questions from the instructor and other students. Emphasis will be placed upon critical thinking skills, problem solving, and a well organized presentation. A discussion will follow after the presentation, regarding important points raised during the question period.
14	Course review and discussion	A review of the main points learned during the semester. Group discussions will follow regarding the application of the principles learned to the life of each individual student.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Home preparation for student presentations is a minimum of 4 hours per week required.

【テキスト（教科書）】

Global Links 2, English for International Business, Angela Blackwell, Longman, ISBN 9780130883964

【参考書】

None

【成績評価の方法と基準】

Participation in class discussion and activities : 40%

Tests : 20%

Presentations : 40%

【学生の意見等からの気づき】

Not Applicable

【学生が準備すべき機器他】

None

【その他の重要事項】

None

LANe200CA ビジネス英語初級 A
GLENN FERN
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位
初回の授業に出席し担当教員の指示を受ける。

その他属性：〈グ〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

The goal of this course is to assist students acquire the critical English language skills, necessary to develop a better understanding of International Business. Students will be asked to actively participate in a wide variety of activities, designed to develop the core English competencies of reading, writing, listening, speaking, specialized business vocabulary, critical thinking skills, and simple presentations related to business. Students will be expected to actively practice these skills by listening; to a short pod cast, reading, writing, and discussing topics related to business with in a controlled environment. Students will be given homework and assignments. The teacher will ask students to use the assigned textbook, in order to help develop these skills. Students will be expected to actively participate in a variety of oral communication activities, so they will feel comfortable using English to gather information and express their thoughts. Please note that changes to the course will be made as necessary to accommodate the needs of students and the class.

【到達目標】

The goal of this course is to assist students acquire the critical English language skills, necessary to develop a better understanding of International Business.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

Lecture, individual tasks, pair work, group work, and listening exercises. Feedback for class assignments and tests will be given on Hoppii, FORUM.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Course introduction	Course introduction to learning methodology, topics and expectations of the kind of contribution students will be expected to make to this class. Students will be asked to buy the textbook and be familiar with it for the next class
2	Career choices	Career versus salary man. The difference between these difficult choices will be explored in a class lecture and group discussions.
3	Job search techniques	What is the best way to find your dream job? A variety of different job search techniques will be explored in class.

4	Resume	The difference between a traditional Japanese resume and a Western style resume in English will be explored. Students will create their own resume in English.
5	Job interview styles	The different types of job interviews used by companies around the world will be examined in class. Students will be expected to participate in a group discussion.
6	Job interview questions and simulations	Common job interview questions will be given and discussed. Job interview simulations will be practiced in class.
7	Interview Test	All students will be required to under go a one on one job interview test with the instructor. Individual feedback to students will be provided by the instructor.
8	Trends in business	The importance of being aware of and following common trends in business and society will be discussed. Students will examine popular business publications, and search for important business trends.
9	Describe the business of a company	An over view of the textbook, Global Links 2 will be given. Students will complete a variety of listening and speaking exercises in Unit 1, Talking About Your Company. Students will learn how to describe the business of a company.
10	Developing a presentation	Group work: Students will work together to develop a presentation describing the business of a company of their own choice. The instructor will guide and assist students in the development of their presentation, as required.
11	Presentation practice and presentation skills	Students will edit and practice their presentation to be given in the next class. The instructor will provide advice and guidance as necessary, along with instruction in presentation skills.
12	Student group presentations	Students will give their presentation in class, and answer questions from the instructor and other students. Emphasis will be placed upon critical thinking skills, problem solving, and a well organized presentation. A discussion will follow after the presentation, regarding important points raised during the question period.

- | | | |
|----|---------------------------------------|--|
| 13 | Student individual presentations | Students will give a short individual presentation to the class, regarding an interesting trend they have discovered in a popular business publication. A Q&A will follow, along with a brief discussion of the trend. |
| 14 | Semester review and group discussions | A review of the main points learned during the semester. Group discussions will follow regarding the application of the principles learned to the life of each individual student. |

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Home preparation for student presentations is a minimum of 4 hours per week required.

【テキスト（教科書）】

Global Links 2, English for International Business, Angela Blackwell, Longman, ISBN 9780130883964

【参考書】

None

【成績評価の方法と基準】

Participation in class discussion and activities : 40%

Tests : 20%

Presentations : 40%

【学生の意見等からの気づき】

Not applicable

【学生が準備すべき機器他】

None

【その他の重要事項】

None

LANe200CA ビジネス英語初級 B
GLENN FERN
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位
初回の授業に出席し担当教員の指示を受ける。

その他属性：〈グ〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

The goal of this course is to assist students acquire the critical English language skills, necessary to develop a better understanding of International Business. Students will be asked to actively participate in a wide variety of activities, designed to develop the core English competencies of reading, writing, listening, speaking, specialized business vocabulary, critical thinking skills, and simple presentations related to business. Students will be expected to actively practice these skills by listening; to a short pod cast, reading, writing, and discussing topics related to business with in a controlled environment. Students will be given homework and assignments. The teacher will ask students to use the assigned textbook, in order to help develop these skills. Students will be expected to actively participate in a variety of oral communication activities, so they will feel comfortable using English to gather information and express their thoughts. Please note that changes to the course will be made as necessary to accommodate the needs of students and the class.

【到達目標】

The goal of this course is to assist students acquire the critical English language skills, necessary to develop a better understanding of International Business.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

Lecture, individual tasks, pair work, group work, and listening exercises. Feedback for class assignments and tests will be given on Hoppii, FORUM.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Course introduction	Course introduction to learning methodology, topics and expectations of the kind of contribution students will be expected to make to this class during the second semester. Students will be asked to familiarize themselves with Unit 6 in the textbook, Describing Processes.
2	Describing processes	Students will complete a variety of listening and speaking exercises in Unit 6, Describing Processes. Students will learn how to describe a variety of business processes.

3	Describing processes group work	Group work: Students will work together to develop a presentation describing a business process of their own choice. The instructor will guide and assist students in the development of their presentation, as required.
4	Presentation practice and presentation skills	Students will edit and practice their presentation to be given in the next class. The instructor will provide advice and guidance as necessary, along with instruction in presentation skills.
5	Group presentations and discussion	Students will give their presentation in class, and answer questions from the instructor and other students. Emphasis will be placed upon critical thinking skills, problem solving, and a well organized presentation. A discussion will follow after the presentation, regarding important points raised during the question period.
6	Corporate problem solving	Students will complete a variety of listening and speaking exercises in Unit 5, Turning a Company Around. Students will learn how to identify a problem and develop a plan to solve the problem.
7	Corporate problem solving group work	Group work: Students will work together to develop a presentation describing a corporate problem and how a company solved that problem. Students will select a company of their own choice to present as a case study. The instructor will guide and assist students in the development of their presentation, as required.
8	Presentation practice and presentation skills	Students will edit and practice their presentation to be given in the next class. The instructor will provide advice and guidance as necessary, along with instruction in presentation skills.
9	Group presentations and discussion	Students will give their presentation in class, and answer questions from the instructor and other students. Emphasis will be placed upon critical thinking skills, problem solving, and a well organized presentation. A discussion will follow after the presentation, regarding important points raised during the question period.

10	Managing change in a corporation	Students will complete a variety of listening and speaking exercises in Unit 8, Managing Change. Students will learn about the importance of managing change at the personal and corporate level in a Darwinian world.
11	Managing change group work	Group work: Students will work together to develop a presentation, describing a change(s) a company had to make in order to adapt and achieve its corporate goals. Students will select a company of their own choice to present as a case study. The instructor will guide and assist students in the development of their presentation, as required.
12	Presentation practice and presentation skills	Students will edit and practice their presentation to be given in the next class. The instructor will provide advice and guidance as necessary, along with instruction in presentation skills.
13	Group presentations and discussion	Students will give their presentation in class, and answer questions from the instructor and other students. Emphasis will be placed upon critical thinking skills, problem solving, and a well organized presentation. A discussion will follow after the presentation, regarding important points raised during the question period.
14	Course review and discussion	A review of the main points learned during the semester. Group discussions will follow regarding the application of the principles learned to the life of each individual student.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Home preparation for student presentations is a minimum of 4 hours per week required.

【テキスト（教科書）】

Global Links 2, English for International Business, Angela Blackwell, Longman, ISBN 9780130883964

【参考書】

None

【成績評価の方法と基準】

Participation in class discussion and activities : 40%

Tests : 20%

Presentations : 40%

【学生の意見等からの気づき】

Not applicable

MAN200CA
会計学入門Ⅱ（原価計算）A
梅津 亮子
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

原価計算は、製品またはサービスの製造販売のために消費された経済的価値を物量および貨幣という単位で測定、集計、分析、伝達する会計システムです。今日の企業経営にとって原価情報は不可欠の要素であり、原価計算の意義は非常に高いものとなっています。講義では、演習問題を取り入れながら原価計算を支える理論や計算システムについて学習していきます。

【到達目標】

1. 原価の諸概念を理解する、2. 原価計算システムの理論構造を理解する、3. 各種原価計算を行うことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式で基本的な構造の説明を行う。また、単元ごとに演習問題を解くことで知識の定着を図っていく。課題等を実施した場合は、とくに正解率の低いもの、難易度の高いものを中心として講評・解説の時間を設ける。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	コストと会計情報	原価とコスト、原価計算の対象、サービス業と製造業の原価計算
第2回	原価計算の基礎	原価とは、原価計算基準、原価計算の目的
第3回	原価計算手続き	費目別計算、部門別計算、製品別計算
第4回	原価の諸概念	形態別分類、機能別分類、製品との関連による分類、操業度との関連による分類
第5回	材料費の計算①	材料費の分類、消費数量の計算、実際価格法
第6回	材料費の計算②	予定価格法、期末棚卸高の計算、棚卸減耗費の処理
第7回	労務費の計算①	労務費の分類、支払賃金の計算と記帳
第8回	労務費の計算②	消費賃金の計算と記帳、予定賃率、賃金以外の労務費
第9回	経費の計算	経費の分類、支払経費、月割経費、測定経費、発生経費
第10回	部門費計算①	部門別計算の意義、原価部門の設定
第11回	部門費計算②	直接配賦法、相互配賦法、階梯式配賦法
第12回	部門費計算③	製造間接費の予定配賦、予定配賦率の計算
第13回	製造間接費の配賦①	活動基準原価計算の計算構造、活動原価、活動ドライバー
第14回	製造間接費の配賦②	伝統的原価計算と活動基準原価計算の比較

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回とも、授業で学習した内容を復習しておくこと。教科書・ノートをよく読み返しておいてください。本授業の準備・復習時間は4時間を目安とします。

【テキスト（教科書）】

望月恒男ほか『原価会計の基礎と応用』創成社。

【参考書】

必要に応じてそのつど紹介します。

【成績評価の方法と基準】

小テスト 10 %、期末試験 90 %

【学生の意見等からの気づき】

原価計算の手続きをより深く理解するために、計算構造の理論的背景についても説明する時間をもちたい。

【その他の重要事項】

電卓を用意しておくこと。

【Outline (in English)】

(Course Outline)The aim of this course is to help students learn the theory and practice of cost accounting. (Learning Objectives)The goals of this course are to understand the concepts and procedures used in the collection, recording and reporting of costs.(Learning activities outside of classroom)Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.(Grading criteria/Policy)Your overall grade in the class will be decided based on the following Final examination(90%),Small tests(10%).

MAN200CA
会計学入門Ⅱ（原価計算）B
梅津 亮子
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

原価計算は、製品またはサービスの製造販売のために消費された経済的価値を物量および貨幣という単位で測定、集計、分析、伝達する会計システムです。今日の企業経営にとって原価情報は不可欠の要素であり、原価計算の意義は非常に高いものとなっています。講義では、演習問題を取り入れながら原価計算を支える理論や計算システムについて学習していきます。

【到達目標】

1. 原価の諸概念を理解する、2. 原価計算システムの理論構造を理解する、3. 各種原価計算を行うことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式で基本的な構造の説明を行う。また、単元ごとに演習問題を解くことで知識の定着を図っていく。課題等を実施した場合は、とくに正解率の低いもの、難易度の高いものを中心として講評・解説の時間を設ける。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	個別原価計算①	個別原価計算の特徴、特定製造指図書、原価計算表
第 2 回	個別原価計算②	原価元帳と製造勘定、製造間接費の予定配賦
第 3 回	個別原価計算③	個別原価計算における仕損品の処理、作業屑の評価
第 4 回	単純総合原価計算①	総合原価計算の特徴、仕掛品の進捗度と完成品換算量
第 5 回	単純総合原価計算②	月末仕掛品の評価、単純総合原価計算の計算例
第 6 回	単純総合原価計算③	総合原価計算における仕損品・減損の処理
第 7 回	工程別総合原価計算①	工程別総合原価計算の概要、全原価要素工程別総合原価計算
第 8 回	工程別総合原価計算②	加工費工程別総合原価計算の特徴と計算例
第 9 回	その他の総合原価計算	組別総合原価計算、等級別総合原価計算
第 10 回	連産品と副産物	連産品の原価計算方法、副産物の評価
第 11 回	標準原価計算①	標準原価計算の目的、標準原価の種類
第 12 回	標準原価計算②	原価標準の設定、標準原価の記帳法、原価差異
第 13 回	直接原価計算①	直接原価計算の目的、利益計画、直接標準原価計算
第 14 回	直接原価計算②	直接原価計算と全部原価計算による営業利益の比較、固定費調整

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回とも、授業で学習した内容を復習しておくこと。教科書・ノートをよく読み返しておいてください。本授業の準備・復習時間は 4 時間を目安とします。

【テキスト（教科書）】

望月恒男ほか『原価会計の基礎と応用』創成社。

【参考書】

必要に応じてそのつど紹介します。

【成績評価の方法と基準】

小テスト 10 %、期末試験 90 %

【学生の意見等からの気づき】

原価計算の手続きをより深く理解するために、計算構造の理論的背景についても説明する時間をもちたい。

【その他の重要事項】

電卓を用意しておくこと。

【Outline (in English)】

(Course Outline)The aim of this course is to help students learn the theory and practice of cost accounting. (Learning Objectives)The goals of this course are to understand the concepts and procedures used in the collection, recording and reporting of costs.(Learning activities outside of classroom)Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.(Grading criteria/Policy)Your overall grade in the class will be decided based on the following Final examination(90%),Small tests(10%).

ECN300CA
国際貿易論 A
武智 一貴
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、国際貿易ルールをつかさどる国際機関である世界貿易機関 (World Trade Organization, WTO) の歴史、役割について紹介します。

【到達目標】

世界の貿易ルールをつかさどる国際機関である WTO。その歴史と、様々な貿易紛争を例に WTO の機能と役割について理解することを目的とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科は「DP1」「DP7」「DP8」に関連。国際経済学科・現代ビジネス学科は「DP1」「DP7」に関連。

【授業の進め方と方法】

板書・スライドを用いて WTO の下での貿易紛争を経済学的な観点から分析します。紛争の中心となる論点については講義において出席者によるディスカッション・意見を求めることがあります。課題等の提出やフィードバックは「学習支援システム」により行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1)	イントロダクション	GATT,WTO とは何か
2)	WTO 成立の理論的背景	国際機関の設立の理念
3)	WTO 成立の歴史	GATT から WTO へ
4)	WTO の基本理念	最恵国待遇、内国民待遇、数量規制の禁止など
5)	内国民待遇に関する紛争	内国民待遇に関する紛争例
6)	内国民待遇と日本の酒税	焼酎の税率
7)	日本の酒税に関する紛争の帰結	同種の産品、代替の弾力性とは何か
8)	セーフガードとは何か	WTO 下における数量制限
9)	日本による野菜セーフガード	中国からの野菜輸入に対するセーフガードの分析
10)	アンチダンピング	アンチダンピングとは何か
11)	日本によるアンチダンピング税の分析	アンチダンピング税の影響
12)	補助金相殺関税	補助金相殺関税とは何か
13)	日本による補助金相殺関税の分析	補助金の認定と補助金の影響の分析
14)	WTO の問題	紛争処理システムと安全保障の例外

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義資料を事前にダウンロードし読んでおくこと。本授業の準備・復習時間は、各4時間を目安とします。

【テキスト（教科書）】

特になし。学習支援システムを通じて資料を配布します。

【参考書】

ジョン・マクラレン著、柳瀬明彦訳、国際貿易・グローバル化と政策の経済分析、文真堂

【成績評価の方法と基準】

課題 (30%) および期末試験もしくはレポートの結果等 (70%) により成績の評価をします。

【学生の意見等からの気づき】

進度は出席学生に応じて変化させる予定です。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを使用します。

【Outline (in English)】

This lecture introduces the history and role of World Trade Organization (WTO). The goal of this course is to understand the importance of WTO. Students are expected to solve problem sets assigned and study at least 4 hours for preparing for each class. The grade is determined by the performance of assignments (30%) and final exam (or term paper)(70%).

ECN300CA
国際貿易論 B
武智 一貴
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、国際取引に関係する様々なコストの源泉と影響を分析します。特に、国際貿易と知的財産権保護の関係に焦点を当て、各国国内制度の違いの重要性と国際取引に及ぼす影響を講義します。

【到達目標】

知的財産権と国際的な取引に関して理解する事を目標とする。特に国際貿易にとって重要な、知的所有権の貿易関連の側面に関する協定の内容と影響について議論できることが目的です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科は「DP1」「DP7」「DP8」に関連。国際経済学科・現代ビジネス学科は「DP1」「DP7」に関連。

【授業の進め方と方法】

板書を主に用いて、知的財産法（著作権法、特許法）と国際取引との関係について講義を行います。また、貿易コストに関して、関税・輸送費・情報コストなどの影響を分析します。主に英文学術雑誌に公刊された論文を用いて、国際取引と制度を分析するための基本となる考え方とそれに関連した国際貿易論を講義します。国際経済学の基本と統計分析の基礎を習得済みであることが前提です。また、授業支援システムから論文をプリントアウトし学習しておくことが必要であり、トピックに応じて、ディスカッションを要求する事があります。・課題等の提出やフィードバックは「学習支援システム」により行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1)	イントロダクション	国際取引と所有権、制度
2)	各国の制度の違いと国際取引	日本・アメリカの比較、統計分析の考え方
3)	知的財産取引と制度	各国の制度の概要
4)	特許法の概要	日本、アメリカの特許制度に関する解説
5)	特許法の国際取引に与える影響 I	理論分析
6)	特許法の国際取引に与える影響 II	実証分析
7)	累積的イノベーションと特許保護	イノベーションのタイプと特性
8)	保護強化の帰結	コモنزとアンチコモنزの悲劇
9)	国際的な知的財産権保護	知的所有権の貿易関連の側面に関する協定の歴史
10)	知的所有権の貿易関連の側面に関する協定	知的所有権の貿易関連の側面に関する協定の特徴
11)	知的所有権の貿易関連の側面に関する協定と貿易	知的所有権の貿易関連の側面に関する協定の貿易に与える影響
12)	知的所有権の貿易関連の側面に関する協定の負の効果	保護と貿易の負の関係の可能性
13)	知的所有権の貿易関連の側面に関する協定と研究開発	保護が研究開発活動に与える影響
14)	知的所有権の貿易関連の側面に関する協定と途上国	知的財産権保護と途上国

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業支援システムの資料を事前に読んでおくこと。本授業の準備・復習時間は、各4時間を目安とします。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

授業支援システムにより文献を配布します。

【成績評価の方法と基準】

課題（30%）及び期末試験もしくはレポート等（70%）により評価します。

【学生の意見等からの気づき】

学習支援システムの資料をより活用し解説を行う予定です。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムを使用します。

【Outline (in English)】

This lecture introduce the key idea of intellectual property rights (IPRs) and international trade. The students should be able to understand the effects of IPRs on international transactions. Students are expected to solve problem sets assigned and study at least 4 hours for preparing for each class. The grade is determined by the performance of assignments (30%) and final exam (or term paper)(70%).

LANe300CA
ビジネス英語中級 A
YONGUE JULIA SALLE
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位
初回の授業に出席し担当教員の指示を受ける。

その他属性：〈グ〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Students will discuss issues relating to the global economy through the study of one specific industry, fashion. The central question that students will consider is: How has the globalization of the fashion industry affected business strategies, society, and the environment in developed nations, particularly Japan, as well as in developing ones?

【到達目標】

Students will discuss issues relating to the global economy through the study of one specific industry, fashion. The central question that students will consider is: How has the globalization of the fashion industry affected business strategies, society, and the environment in developed nations, particularly Japan, as well as in developing ones?

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

Students will discuss readings related to the course theme. One special feature of the course is that it incorporates an 'active learning' component, whereby students design a fieldwork project with a connection to the fashion industry and present their findings in class.

*Feedback on assignments will be given in class or during office hours.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Introduction	Class expectations and explanations; self-introductions
2	What is globalization?	The pros and cons of globalization
3	What is fast fashion?	The fast fashion industry's business model (Zara)
4	Ethical fashion	The true cost of fast fashion (UNIQLO)
5	History of the global garment industry	The roots of today's global supply chains
6	Solutions (1): The circular economy	A business model for the secondhand economy
7	Fieldwork projects: midterm progress reports	Planning and discussing fieldwork projects
8	Solutions (2): alternative fabrics	Science meets fashion: sustainable luxury brands
9	Solutions (3): sustainable fashion	Zero-waste design and ethical business practices
10	The future of fashion	Impact of Covid-19 on the fashion industry (Gucci)
11	Assessment	In-class writing assignment (or quiz)

12	Business and sustainability	Presentations on fieldwork projects and discussion
13	Business and sustainability	Presentations on fieldwork projects and discussion
14	Final wrap up and review	Reassessing the impact of globalization on the fashion industry

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- (1) Taking business courses offered at Hosei
- (2) Reading recent business news
- (3) Preparing for class activities

Since the theme of the spring semester is the global fashion industry and its impact on the environment and society, having an interest in this topic is preferable.

Regular (daily) study (of about 2 hours total per week) is key to academic success. 本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

There is no textbook. Readings will be provided on Hoppii.

【参考書】

Selected references:

*Pietra Rivoli, The travels of a t-shirt in the global economy: an economist examines the markets, power, and politics of world trade, Wiley, 2014.

*Mark K Brewer, Slow fashion in a fast fashion world: promoting sustainability and responsibility, New Frontiers of Fashion Law, 9 Oct 2019.

*Connie Ulasewicz and Janet Hethorn, Sustainable fashion take action, Bloomsbury, 2023.

*Articles from publications such as The Nikkei Newspaper, The Atlantic, New York Times, The Japan Times, will be provided via the library databases.

【成績評価の方法と基準】

(1) Participation (40%). Students MUST attend all of the classes and express their opinions in discussions in order to receive a high grade. Attitude, punctuality, and overall effort are also important factors for evaluating student performance.

(2) Evaluation (60%): Students must score at least 60% on their evaluation (presentations) in order to pass the course. Due to the pandemic, the evaluation method and teaching method (face-to-face) are subject to change.

Should the class be held via zoom, students must keep their video camera on at all times, unless doing so would compromise their internet reception.

【学生の意見等からの気づき】

N/A. Students are welcome to make requests or voice complaints and concerns at any time during the semester.

【学生が準備すべき機器他】

Should the pandemic prevent us from meeting in person, students should secure a reliable high-speed internet connection in order to participate via zoom.

【その他の重要事項】

THIS CLASS IS LIMITED TO 20 STUDENTS. THOSE WHO WISH TO REGISTER MUST ATTEND THE FIRST CLASS.

This course is designed for IGESS students who are earning their degree in English. Japanese language degree students in the economic department or others may enroll with permission from the instructor.

LANe300CA
ビジネス英語中級 B
YONGUE JULIA SALLE
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位
初回の授業に出席し担当教員の指示を受ける。

その他属性：〈グ〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Students will learn about work and the workplace environment in Japan. Some of the issues they will consider are Japanese management practices, work-style reforms, new ways of working, the impact of changing economic and demographic circumstances, and marginalized populations. By taking this course, they can become familiar with work-related issues in Japan and their impact on society.

【到達目標】

Students will learn about work and the workplace environment in Japan. Some of the issues they will consider are Japanese management practices, work-style reforms, new ways of working, the impact of changing economic and demographic circumstances, and marginalized populations. By taking this course, they can become familiar with work-related issues in Japan and their impact on society.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

One special feature of the course is that it incorporates an 'active learning' component, whereby students design a fieldwork project with a connection to the Japanese workplace/working in Japan and present their findings in class. *Feedback on assignments will be given during office hours and/or during class.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Introduction	Class expectations and explanations; self-introductions
2	Why do we work?	Ikigai and the meaning of work
3	Japan's workplace culture	Communication in the Japanese workplace
4	The Japanese labor market	What is Japanese-style management?
5	The third arrow of Abenomics	Work-style reform and overwork: international comparisons
6	Covid-19 and the Japan's workplace environment	Changes in working patterns during and after Covid-19
7	Fieldwork project discussion	Discussing and planning fieldwork projects
8	Gender issues in Japan	Womenomics and ikumen
9	The rise of social inequalities	Marginalized populations in Japan
10	Assessment	In-class writing assignment (or quiz)

11	Issues relating to work/working in Japan	Student presentations and discussion
12	Issues relating to work/working in Japan	Student presentations and discussion
13	Issues relating to work/working in Japan	Student presentations and discussion
14	Final wrap up and review	Discussion: reassessing the Japanese workplace

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- (1) Taking business courses offered at Hosei
- (2) Reading recent business news
- (3) Preparing for class activities

Since the theme of the fall semester is "working in Japan," students who are interested in working for a Japanese company after graduation would benefit from taking this course.

Regular (daily) study (of about 2 hours total per week) is key to academic success. 本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

There is no textbook. Readings will be made available on Hoppii.

【参考書】

Selected references:

- *Takatoshi Ito and Takeo Hoshi, *The Japanese Economy*, second edition, MIT Press, 2020.
- *Erin Meyer, *Culture Map: Decoding how people think, lead, and get things done*, Public Affairs, 2015.
- *Shinji Kojima, Scott North, Charles Weathers, *Abe Shinzo's campaign to reform the Japanese way of working*, Vo 15, Issue 23, No 3, Dec 1, 2017.
- *Helen Macnaughtan, *Womenomics for Japan: is the Abe policy for gendered employment viable in an era of precarity*, Vol 13, Issue 13, No 1, April 5, 2015.
- *Parissa Haghirian, *Routledge Handbook and Japanese Business and Management*, Routledge, 2016.
- *Articles from publications including *The Nikkei Newspaper*, *The Atlantic*, *New York Times*, *The Japan Times*, etc.

【成績評価の方法と基準】

(1) Participation (40%). Students MUST attend all of the classes and express their opinions in discussions in order to receive a high grade. Attitude, punctuality, and overall effort are also important factors for evaluating student performance. (2) Evaluation (60%): Students must score at least 60% on their evaluation (presentations) in order to pass the course. Due to the pandemic, the evaluation method and teaching method (face to face) are subject to change. Should the class be held via zoom, students must keep their video camera on at all times, unless doing so would compromise their internet reception.

【学生の意見等からの気づき】

N/A. Students are welcome to make requests or voice complaints and concerns at any time during the semester.

【学生が準備すべき機器他】

Should the pandemic prevent us from meeting in person, students should secure a reliable high-speed internet connection in order to participate via zoom.

【その他の重要事項】

THIS CLASS IS LIMITED TO 20 STUDENTS. THOSE WHO WISH TO REGISTER MUST ATTEND THE FIRST CLASS. This course is designed for IGESS students who are earning their degree in English. Japanese language degree students in the economic department or others may enroll with permission from the instructor.

LANe300CA
ビジネス英語中級 A
JAY M TANAKA
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位
初回の授業に出席し担当教員の指示を受ける。

その他属性：〈グ〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

In this course students will learn basic business content related to investing and investment banking. Within this specific area of business, students will practice various English communication skills used in meetings, emails, and presentations. The course will utilize various authentic materials covering basic concepts in investment and financial markets, as well as current news and market movements.

【到達目標】

The goal of this course is for students to improve their business English communication skill by practicing authentic business activities. In addition, students will learn about basic business concepts in finance.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

Students will read and watch videos on various basic concepts in investing and investment banking. In addition, they will have the opportunity to learn basic information about a variety of companies. Students will also work in small groups to complete weekly communicative tasks. The primary tasks are: giving brief market reports, researching companies for investment, writing short analysis report emails, and giving presentations on investments. The teacher will provide guidance and structure for English vocabulary learning, how to write business emails, and how to organize presentations. Students will submit homework exercises and assignments in class and on Google Classroom. Feedback will be given to students in class and via Google Classroom.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Course Outline and Introductions	Class Expectations Explaining Daily Tasks Self-Introductions Making Teams
2	Stocks and Bonds	Readings Group worksheets Quiz New market report
3	Industry Sectors	Present market report Readings Group worksheets Quiz New market report Midterm presentation introduction
4	Diversification	Present market report Readings Group worksheets Quiz New market report

5	Stock Indices Benchmarks	Present market report Readings Group worksheets Quiz New market report
6	Price History Reporting Price Movements	Present market report Readings Group worksheets Quiz New market report
7	Stock Analyst Ratings Earnings Per Share	Present market report Readings Group worksheets Quiz
8	Company and stock overview	Midterm Presentations
9	Healthcare Sector	Final presentation project introduction Readings Group worksheets Quiz New market report
10	Information Technology Sector	Present market report Readings Group worksheets Quiz New market report
11	Communication Services Sector	Present market report Readings Group worksheets Quiz New market report
12	Consumer Discretionary Sector	Present market report Readings Group worksheets Quiz New market report
13	Consumer Staples Sector	Present market report Readings Group worksheets Quiz
14	Company overview Investment result reporting	Final Presentations

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Weekly homework will be approximately 4 hours of reading business news and research reports, and preparation of presentation content, and rehearsing for market reports. 本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 4 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

There is no textbook. News and market information will be gathered online.

【参考書】

None

【成績評価の方法と基準】

Participation 30%
Homework 30%: market report quality, email assignments
In class assignments 10%: discussion worksheets
Midterm presentation 10%
Final presentation 20%

【学生の意見等からの気づき】

Not Applicable

【学生が準備すべき機器他】

All students must bring a notebook computer (Chromebook is fine also) to every class.

【その他の重要事項】

Attendance and participation are very important in this class. Students should be serious about increasing their professional communication skills.

[English Language Skill Required: Intermediate level] - This course is designed for intermediate or advanced-level English learners who wish to improve their communication skill and gain some business knowledge.

[Business knowledge Required: None] - Students do not need any prior business knowledge or experience to join this course. The basic business knowledge needed to complete tasks will be covered in the course. However, students should have a strong interest in investment and business.

LANe300CA ビジネス英語中級B
JAY M TANAKA
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位
初回の授業に出席し担当教員の指示を受ける。

その他属性：〈グ〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

In this course students will learn basic business content related to investing and investment banking. Within this specific area of business, students will practice various English communication skills used in meetings, emails, and presentations. The course will utilize various authentic materials covering basic concepts in investment and financial markets, as well as current news and market movements.

【到達目標】

The goal of this course is for students to improve their business English communication skill by practicing authentic business activities. In addition, students will learn about basic business concepts in finance.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

Students will read and watch videos on various basic concepts in investing and investment banking. In addition, they will have the opportunity to learn basic information about a variety of companies. Students will also work in small groups to complete weekly communicative tasks. The primary tasks are: giving brief market reports, researching companies for investment, writing short analysis report emails, and giving presentations on investments. The teacher will provide guidance and structure for English vocabulary learning, how to write business emails, and how to organize presentations. Students will submit homework exercises and assignments in class and on Google Classroom. Feedback will be given to students in class and via Google Classroom.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Course Outline and Introductions	Class Expectations Explaining Daily Tasks Self-Introductions Making Teams
2	Bull Markets and Bear Markets	Readings Group worksheets Quiz New market report
3	Inflation and Investments	Present market report Readings Group worksheets Quiz New market report Midterm presentation introduction
4	Exchange Rates and businesses	Present market report Readings Group worksheets Quiz New market report

5	Real Estate Sector	Present market report Readings Group worksheets Quiz New market report
6	Materials Sector	Present market report Readings Group worksheets Quiz New market report
7	Industrials Sector	Present market report Readings Group worksheets Quiz
8	Company and Stock overview	Midterm Presentations
9	Japan Stocks	Final presentation project introduction Readings Group worksheets Quiz New market report
10	Financials Sector	Present market report Readings Group worksheets Quiz New market report
11	Investment Banking vs Commercial banking	Present market report Readings Group worksheets Quiz New market report
12	Buy-side vs Sell-side Investment banking	Present market report Readings Group worksheets Quiz New market report
13	Cryptocurrency	Present market report Readings Group worksheets Quiz
14	Company overview Investment result reporting	Final Presentations

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Weekly homework will be approximately 4 hours of reading business news and research reports, and preparation of presentation content, and rehearsing for market reports. 本授業の準備学習・復習時間は、合わせて4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

There is no textbook. News and market information will be gathered online.

【参考書】

None

【成績評価の方法と基準】

Participation 30%
Homework 30%: market report quality, email assignments
In class assignments 10%: discussion worksheets
Midterm presentation 10%
Final presentation 20%

【学生の意見等からの気づき】

Not Applicable

【学生が準備すべき機器他】

All students must bring a notebook computer (Chromebook is fine also) to every class.

【その他の重要事項】

Attendance and participation are very important in this class. Students should be serious about increasing their professional communication skills.

[English Language Skill Required: Intermediate level] - This course is designed for intermediate or advanced-level English learners who wish to improve their communication skill and gain some business knowledge.

[Business knowledge Required: None] - Students do not need any prior business knowledge or experience to join this course. The basic business knowledge needed to complete tasks will be covered in the course. However, students should have a strong interest in investment and business.

MAN300CA
監査論 A
岸 牧人
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

監査の基本的な枠組みと、金融商品取引法に基づく公認会計士監査及び会社法に基づく監査役等による監査制度について講義する。監査とは何を目的とするものか、またいかなる行為であるのかについて理解するとともに、監査制度と経済社会とのかかわりについて理解することを目的とする。

【到達目標】

皆さんは「監査」ということばを聞くとどのようなものをイメージしますか。たとえば、公認会計士や企業の監査役など、職業のひとつとして聞いたことがあるかも知れません。また、部活やサークルなどで監事を設けていたり、実際に経験した人もいるかも知れません。この講義では、こうしたイメージの中の監査から一歩踏み出して、経済社会で行われている監査の仕組みを理解し、どのような役割を果たしているのかについて知見を得ることを到達目標とします。具体的には、監査という行為の本質と、法制度によって行われている監査の社会的意義について理解し、どのような問題点があるのか、またどのような改善策がありえるのかについて考察する能力を得ることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP8」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】

講義ごとに当日の講義内容をまとめたレジュメ（スライド）を配付する。講義ごとに「講義内レポート」の提出を求める。講義内レポートは採点した上で翌講義の冒頭に学習支援システムを通じて得点を通知し、解答と解説を行う。講義の構成は、①前回の講義内レポートの解説（10分）、②当回の講義（70分）、③当回の講義内レポートの作成（20分）とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	監査の基本的な考え方と二つの系列の監査	監査に対する一般的なイメージと、経済社会において展開される監査との異同点について学習する。
第 2 回	企業不正と監査	企業不正の具体的なケースと監査とのかかわりについて学習し、二つの系列の監査との関係について理解する。
第 3 回	二つの系列の監査と監査の種類	会計監査と業務監査、外部監査と内部監査、法定監査と任意監査のそれぞれの特質について学習する。
第 4 回	近代監査の発展過程	経済社会の時代的変遷と監査の変容過程について、特に 19 世紀（英国）以降の監査形態の変化について理解する。
第 5 回	日本の監査制度の成立と発展	旧商法に基づく監査役制度、旧証券取引法に基づく公認会計士監査の成立と時代的背景について学習する。
第 6 回	旧商法に基づく監査役監査制度の成立と展開	監査役の意義と八久和厘について、時代的背景と変遷過程、および現代的意義と課題について理解する。

第 7 回	旧商法特例法に基づく会計監査人監査の意義	会計監査人監査が必要となった背景について、旧商法と旧証券取引法に基づく監査との関連から理解する。
第 8 回	会社法監査の成立と展開	監査役、会計監査人、および委員会設置会社における監査委員の意義について、特にそれぞれの権限と責任の観点から理解する。
第 9 回	旧証券取引法に基づく公認会計士監査制度の成立と展開	旧証券取引法に基づく公認会計士監査制度の成立と展開過程について学習する。
第 10 回	金融商品取引法に基づく企業内容開示制度と財務諸表監査の意義	現在の金融商品取引法の意義を理解した上で、財務諸表監査の役割について学習する。
第 11 回	公認会計士法における公認会計士監査制度の意義と課題	公認会計士法の概要と、公認会計士の業務について学習する。特に、「1 項業務」と「2 項業務」の関係について理解する。
第 12 回	公認会計士法における監査法人制度の意義と課題	監査法人制度の概要と現代的課題について、特に社員の権限と責任、指定社員、特定社員、ネットワーク・ファームの現状について学習する。
第 13 回	監査基準における監査人の人的要件	監査人の資格要件である適格性、独立性、および正当な注意のそれぞれの意義について理解する。
第 14 回	監査人の法的責任と免責要件	監査人に課せられる法的責任について、刑事、民事、行政の各責任の観点から学習する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎講義の冒頭で得点通知および解説を行う前回の講義内レポートについて復習し、翌講義の内容についてテキスト等を参考に準備学習を行う。それぞれ 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

長吉眞一、岸牧人ほか著『監査論入門』（開講時の最新版）、中央経済社。

【参考書】

石田三郎、林隆敏、岸牧人『監査論の基礎』、東京経済情報出版。

【成績評価の方法と基準】

講義内レポートは各 5 点満点で 14 回実施し、計 70 点満点とする。42 点（60%）以上を合格とする。期末試験は実施しない。

【学生の意見等からの気づき】

監査論は用語が難しいという意見が多く見られた。講義では、専門用語の定義や解説を丁寧に行うことを心がける。

【その他の重要事項】

初回の講義において、講義の進め方、成績評価および単位の認定方法に関する詳細について説明する。

【Outline (in English)】

The purpose of this course is for students to understand the basic concepts of audit made pursuant to the Securities Law and Company's Act in Japan. At the end of the course, students are expected to identify the institutional significance and problems to be solved on auditing performed by independent public accountants. Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.

Students have to submit the report in each class, 5 points for each, 14 times, 70 points in total, and 60% of them (42 points) is the passing grade of the class.

MAN300CA
監査論 B
岸 牧人
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

財務諸表監査の基礎理論とプロセスについて理解するとともに、証券市場経済において財務諸表監査がどのような役割を果たしているか、また果たすべきかについて考察するための知見を得る。

【到達目標】

「期末商品（原価 1,000）の時価が 800 であったので評価替えを行う」、「期末売掛金残高に対して 2% の貸倒引当金を設定する」－簿記の問題でよく見るこれらの取引は、簿記の基本を理解している人であれば瞬時に仕訳することができるであろう。これは「会計アタマ」である。対して、「期末商品の評価額は本当に 800 なのか?」、「貸倒引当金の設定率は 2% でいいのか?」－こうした考え方は「監査アタマ」でないとできない。この講義では、「監査アタマ」で企業会計上の取引を考えることによって、財務諸表の信頼性（適正性）を確かめるためには何が必要で、その結果をどのように利用者に伝達するのかを考える。その上で、実際の証券市場経済において財務諸表監査がどのような役割を果たしているか、また果たすべきかについて、論理立てて考察するための知見を得ることを本講義の到達目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP8」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】

講義ごとに当日の講義内容をまとめたレジュメ（スライド）を配付する。また、講義ごとに「講義内レポート」の提出を求める。講義内レポートは採点した上で翌講義の冒頭に学習支援システムを通じて得点を通知し、解答と解説を行う。講義の構成は、①前回の講義内レポートの解説（10 分）、②当回の講義（70 分）、③当回の講義内レポートの作成（20 分）とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	「会計アタマ」から「監査アタマ」へ	監査の概念的枠組みを、「会計アタマ」と「監査アタマ」という視点から提示する。
第 2 回	「監査アタマ」で考えるアサーションと監査要点、監査証拠	財務諸表監査のプロセスにおけるアサーションと監査要点、及び監査手続と監査証拠の基本的関係について学習する。
第 3 回	企業の内部統制概念の変遷過程と財務諸表監査	内部統制概念の変遷について学習し、内部統制の評価が財務諸表監査においてどのように位置づけられるかについて学習する。
第 4 回	リスク・アプローチによる監査の基本的な考え方	リスク・アプローチの必要性と意義について、監査の有効性と効率性の観点から学習する。
第 5 回	事業上のリスク等を重視したリスク・アプローチの基本構造	リスク評価手続と運用評価手続の目的と属性について理解する。
第 6 回	監査上の重要性概念	監査上の重要性概念と監査リスク、監査の有効性と効率性、監査意見の性質との関係について理解する。
第 7 回	実証手続の意義と効用	監査手続全体の体系における実証手続の位置づけと属性について理解する。

第 8 回	監査結果の報告と監査報告書の改革	監査報告書の基礎的な機能と限界、および監査報告書の改革について学習する。
第 9 回	除外事項と監査意見、追記情報の種類と意義	除外事項の種類と発生原因、及び除外事項付意見との関係、および追記情報について学習する。
第 10 回	継続企業の前提に関する監査人の検討 (1)	いわゆる「GC 注記」の制度導入の経緯と背景、および枠組みについて理解する。
第 11 回	継続企業の前提に関する監査人の検討 (2)	継続企業の前提に関する監査人の検討が財務諸表監査のプロセスにどのように位置づけられるのか、またそのことによる課題について考察する。
第 12 回	内部統制報告書の監査	内部統制報告書の監査について、制度導入の経緯と背景、および現代的課題について理解する。
第 13 回	財務諸表監査の品質と品質管理	財務諸表監査の品質とは何か、またこれを管理するための仕組みについて学習する。
第 14 回	公会計と公監査	国および地方自治体、公益法人、NPO 等の監査について、各種形態の監査の目的、手法、および監査結果の報告について学習する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義の冒頭で、前回の講義内レポートについて復習し、翌講義の内容についてテキスト等を参考に準備学習を行う。それぞれ 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

長吉真一、岸牧人ほか著『監査論入門』（開講時の最新版）、中央経済社。

【参考書】

石田三郎、林隆敏、岸牧人『監査論の基礎』（第 3 版）、東京経済情報出版。

【成績評価の方法と基準】

講義内レポートは各 5 点満点で 14 回実施し、計 70 点満点とする。42 点（60%）以上を合格とする。期末試験は実施しない。

【学生の意見等からの気づき】

監査論は用語が難しいという意見が多く見られた。講義では、専門用語の定義や解説を丁寧に行うことを心がける。

【その他の重要事項】

初回の講義において、講義の進め方、成績評価および単位の認定方法に関する詳細について説明する。

【Outline (in English)】

The purpose of this course is for students to understand the audit procedures performed and audit report for financial statements by independent auditors. Basically, they will made pursuant to the International Standards on Auditing, issued by International Federation of Accountants (IFAC). At the end of the course, students are expected to identify the institutional significance and problems to be solved on auditing performed by independent public accountants. Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.

Students have to submit the report in each class, 5 points for each, 14 times, 70 points in total, and 60% of them (42 points) is the passing grade of the class.

MAN200CA
会計学入門 I (財務会計) A
堀江 優希
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

会計は、ビジネスの言語であり、企業を分析・評価するために欠かせません。この講義では、企業活動の実態を会計情報にどのように映し出すのか、また、会計情報を利用して企業をどのように分析するのかを理解します。会計学の初学者を対象とし、企業活動の分析・評価に必要な会計の基礎知識を身につけることを目的とします。

【到達目標】

1. 財務諸表を作成するプロセスを理解することができる、2. 企業の戦略や行動が財務諸表にどのように表れるかを理解することができる、3. 会計数値を用いて企業を分析・評価することができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】

対面実施時：

- ①講義：パワーポイントとプロジェクターを用いて講義を行います。
- ②アンケート：「学習支援システム」上でアンケートに回答してもらいます

オンライン実施時：

授業の方法：Google classroom に講義動画および講義資料をアップします。

授業の進め方：①講義動画 60 分、②問題演習等 30 分、③アンケート 10 分

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	会計学の目的	会計学の目的
2	財務会計の機能	財務会計の機能
3	複式簿記のしくみ	複式簿記のしくみ
4	財務会計の概念フレームワーク	財務会計の概念フレームワーク
5	利益測定の基礎概念	利益測定の基礎概念
6	企業の設立と資金調達	企業の設立と資金調達
7	仕入・生産活動	仕入・生産活動
8	販売活動 (1)	売上の認識と測定、売上原価の計算
9	販売活動 (2)	売上代金の回収、棚卸資産の期末評価
10	設備投資	設備投資
11	知的財産と研究開発	知的財産と研究開発
12	負債	負債
13	企業集団の財務報告	企業集団の財務報告
14	期末試験と解説	期末試験と解説

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

前回までの講義内容を理解していることを前提として講義を進めるため、毎回の講義をしっかりと予習・復習すること (毎回計 4 時間以上)。

【テキスト (教科書)】

指定はありません。講義資料を配布します。

【参考書】

必要に応じて講義中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

期末試験 (100 %) で評価します。また、講義終了後にアンケート (任意提出) を実施し、提出者には各回 2 点を加点します (隔週での実施。2 点 × 6 回 = 計 12 点)。

【学生の意見等からの気づき】

毎回の講義後半で行っている、グループ (または個人) の演習・エクササイズの実施が好評であったので、今年度も取り入れる予定である。

【Outline (in English)】

【Course outline】

The aim of this course is to acquire a basic knowledge in the area of financial accounting. Financial Accounting is the common language in the global economy. In this course students will learn how to prepare and analyze the financial statements.

【Learning Objectives】

At the end of the course, students are expected to analyze the financial statements.

【Learning activities outside of classroom】

After each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content.

【Grading Criteria/Policies】

Grading will be decided based on Final Exam (100 %)

MAN200CA
会計学入門 I (財務会計) B
堀江 優希
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

会計は、ビジネスの言語であり、企業を分析・評価するために欠かせません。この講義では、企業活動の実態を会計情報にどのように映し出すのか、また、会計情報を利用して企業をどのように分析するのかを理解します。会計学の初学者を対象とし、企業活動の分析・評価に必要な会計の基礎知識を身につけることを目的とします。

【到達目標】

1. 財務諸表を作成するプロセスを理解することができる、2. 企業の戦略や行動が財務諸表にどのように表れるかを理解することができる、3. 会計数値を用いて企業を分析・評価することができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】

対面実施時：

- ①講義：パワーポイントとプロジェクターを用いて講義を行います。
- ②アンケート：「学習支援システム」上でアンケートに回答してもらいます。

オンライン実施時：

授業の方法：Google classroom に講義動画および講義資料をアップします。

授業の進め方：①講義動画 60 分、②問題演習等 30 分、③アンケート 10 分

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	財務諸表分析の目的	財務諸表分析の目的
2	財務諸表の役割としくみ	財務諸表の役割としくみ
3	貸借対照表の見方	貸借対照表の見方
4	損益計算書の見方	損益計算書の見方
5	キャッシュ・フロー計算書の見方	キャッシュ・フロー計算書の見方
6	収益性の分析 (1)	資本利益率
7	収益性の分析 (2)	資本利益率の分解
8	効率性の分析	効率性の分析
9	安全性の分析	安全性の分析
10	キャッシュ・フロー・データによる分析	キャッシュ・フロー・データによる分析
11	損益分岐点分析	損益分岐点分析
12	成長性分析	成長性分析
13	会計方針と財務諸表分析	会計方針と財務諸表分析
14	期末試験と解説	期末試験と解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

前回までの講義内容を理解していることを前提として講義を進めるため、毎回の講義をしっかりと予習・復習すること（毎回計 4 時間以上）。

【テキスト（教科書）】

指定はありません。講義資料を配布します。

【参考書】

必要に応じて講義中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

期末試験（100 %）で評価します。また、講義終了後にアンケート（任意提出）を実施し、提出者には各回 2 点を加点します（隔週での実施。2 点 × 6 回 = 計 12 点）。

【学生の意見等からの気づき】

毎回の講義後半で行っている、グループ（または個人）の演習・エクササイズの実施が好評であったので、今年度も取り入れる予定である。

【学生が準備すべき機器他】

電卓を用意すること。

【Outline (in English)】

【Course outline】

The aim of this course is to acquire a basic knowledge in the area of financial accounting. Financial Accounting is the common language in the global economy. In this course students will learn how to prepare and analyze the financial statements.

【Learning Objectives】

At the end of the course, students are expected to analyze the financial statements.

【Learning activities outside of classroom】

After each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content.

【Grading Criteria/Policies】

Grading will be decided based on Final Exam (100 %)

ECN200CA
マクロ経済学 A
宮崎 憲治
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位
クラス指定あり【2 年 NOPQRSTUVWXYZ 組、3 年生以上は指定なし】

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

一国の経済がどのように成長し、変動するかを理解するために、この授業はマクロ経済学の基礎知識を講義する

【到達目標】

- ・今日の日本経済における問題が何か理解すること。
- ・日常的なマクロ経済学の問題を考察できるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科は「DP1」「DP7」「DP8」「DP9」に関連。国際経済学科・現代ビジネス学科は「DP1」「DP7」に関連。

【授業の進め方と方法】

テキストにしたがって、講義をする。パワーポイントを使用し、講義形式の授業を行う。（パワーポイントのスライドは授業支援システムよりダウンロード可）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業で学ぶことを紹介
2	マクロ経済学とは	マクロ経済学の登場人物 (1)
3	マクロ経済学とは	市場均衡 (2)
4	マクロ経済を観察する	国内総生産 (1)
5	マクロ経済を観察する	名目と実質 (2)
6	マクロ経済を観察する	消費者物価指数 (3)
7	マクロ経済を観察する	労働に関する統計 (4)
8	マクロ経済学を支える	金融市場の実際 金融市場 (1)
9	マクロ経済学を支える	金利（利率） 金融市場 (2)
10	貨幣の機能と中央銀行	貨幣の機能 の役割 (1)
11	貨幣の機能と中央銀行	中央銀行の役割 の役割 (2)
12	財政の仕組みと機能	財政の仕組み (1)
13	財政の仕組みと機能	税制と国債 (2)
14	まとめ	授業で学んだことを総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前準備としてテキストを事前に読むことが求められている。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

「マクロ経済学 第 3 版」平口良司・稲葉大、有斐閣、2023 年

【参考書】

「マクロ経済学・入門 第 5 版」福田慎一・照山博司、有斐閣、2016 年

【成績評価の方法と基準】

平常点 (10%)・宿題 (30%)・試験 (60%)

【学生の意見等からの気づき】

ゆっくり講義するよう心掛け、問題を解かせる時間を増やしたい。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムを使用し講義資料をダウンロードすること。

【その他の重要事項】

秋学期の「マクロ経済学 B」を履修する場合、春学期に「マクロ経済学 A」を履修済みであることが望ましい。

【Outline (in English)】

(Course outline)

To understand how a country's economy grows and fluctuates,
t his class lectures on basic knowledge of macroeconomics.

(Learning Objectives)

When you take this course, you can explain introductory macroeconomics and consider our society from an independent perspective.

(Learning activities outside of the classroom)

Students are expected to read the textbook in advance as preparation. There will be a report assignment. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each. (Grading Criteria /Policy)

Usual performance score (10%), homework (30%), exam or report (60%)

ECN200CA
マクロ経済学B
宮崎 憲治
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位
クラス指定あり【2年NOPQRSTUVWXYZ組、3年生以上は指定なし】

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

一国の経済がどのように成長し、変動するかを理解するために、この授業はマクロ経済学の基本モデルを講義する

【到達目標】

- ・今日の日本経済における問題が何か理解すること。
- ・日常的なマクロ経済学の問題を考察できるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科は「DP1」「DP7」「DP8」「DP9」に関連。国際経済学科・現代ビジネス学科は「DP1」「DP7」に関連。

【授業の進め方と方法】

テキストにしたがって、講義をする。パワーポイントを使用し、講義形式の授業を行う。（パワーポイントのスライドは授業支援システムよりダウンロード可）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業で学ぶことを紹介
2	GDP と金利の決まり方（1）	45 度分析
3	GDP と金利の決まり方（2）	ISLM モデル
4	総需要・総供給分析（1）	物価と GDP の同時決定
5	総需要・総供給分析（2）	経済政策の限界
6	インフレとデフレ（1）	実質金利と名目金利
7	インフレとデフレ（2）	インフレと失業
8	国際収支・為替レートとマクロ経済（1）	海外との取引を測る
9	国際収支・為替レートとマクロ経済（2）	金利平価
10	経済が成長するメカニズム（1）	ソローモデル
11	経済が成長するメカニズム（2）	経済成長の要因分解
12	資産価格の決まり方（1）	資産価格の決まり方
13	資産価格の決まり方（2）	資産価格バブル
14	まとめ	授業で学んだことを総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前準備としてテキストを事前に読むことが求められている。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

「マクロ経済学 第 3 版」平口良司・稲葉大、有斐閣、2023 年

【参考書】

「マクロ経済学・入門 第 5 版」福田慎一・照山博司、有斐閣、2016 年

【成績評価の方法と基準】

平常点 (10%)・宿題 (30%)・試験 (60%)

【学生の意見等からの気づき】

ゆっくり講義するよう心掛け、問題を解かせる時間を増やしたい。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムを使用し講義資料をダウンロードすること。

【その他の重要事項】

秋学期の「マクロ経済学B」を履修する場合、春学期に「マクロ経済学A」を履修済みであることが望ましい。

【Outline (in English)】

(Course outline)

To understand how a country's economy grows and fluctuates, this class lectures on basic macroeconomic models.

(Learning Objectives)

When you take this course, you can explain introductory macroeconomics and consider our society from an independent perspective.

(Learning activities outside of the classroom)

Students are expected to read the textbook in advance as preparation. There will be a report assignment. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each. (Grading Criteria /Policy)

Usual performance score (10%), homework (30%), exam or report (60%)

ECN200CA
ミクロ経済学A
平井 俊行
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位
クラス指定あり【2年 ABCDEFGKLMSTU 組、3年生以上は指定なし】

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ミクロ経済学について学習する。ミクロ経済学Aでは特に価格理論と呼ばれる、完全競争市場における価格を通じた資源配分について学ぶ。ミクロ経済学はそれ自体重要であるが経済学の専門的なトピックを学ぶための基礎であるので、内容を確実に身に付ける。

【到達目標】

- ・ミクロ経済学の用語の定義を理解し、説明できるようになる。
- ・実際の経済事象をミクロ経済学の考え方で捉えることができるようになる。
- ・ミクロ経済学の分析手法で、少なくとも簡単なモデルを分析できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科は「DP1」「DP7」「DP8」「DP9」に関連。国際経済学科・現代ビジネス学科は「DP1」「DP7」に関連。

【授業の進め方と方法】

初回のみオンデマンド方式、残りは対面講義の形式でおこなう。資料を Hoppii 上で配布するので、適宜ダウンロード・印刷したうえで講義に臨んでいただきたい。課題は Hoppii のテスト機能を用いて出題する。課題へのフィードバックには Hoppii のフィードバック機能を用いる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス・イントロダクション・数学準備	講義内容の概説と講義の進め方、数学準備
2	部分均衡分析 (1)	需要曲線・供給曲線と市場均衡
3	部分均衡分析 (2)	需要・供給の価格弾力性、比較静学
4	部分均衡分析 (3)	余剰分析
5	消費者行動 (1)	選好と効用およびそれらの無差別曲線による表現、予算制約
6	消費者行動 (2)	限界代替率と需要の導出
7	消費者行動 (3)	双対性と支出関数。
8	消費者行動 (4)	代替効果・所得効果、スルツキー分解
9	生産者行動 (1)	生産関数と等生産量曲線の関係・生産要素価格と等費用線の関係
10	生産者行動 (2)	生産要素間の限界代替率と費用関数の導出
11	生産者行動 (3)	供給の導出
12	一般均衡分析 (1)	契約曲線・パレート効率性・コア
13	一般均衡分析 (2)	厚生経済学の基本定理
14	まとめ	講義のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業支援システムで事前に講義スライド（穴埋め式）を配布するので、事前に目を通し、自身で考えておくこと。また、講義内容の復習および講義内で扱えなかった演習問題を解いておくこと。（各 2 時間が標準）

【テキスト（教科書）】

テキストは用いず、講義資料を配布する。

【参考書】

- ① 神取道宏「ミクロ経済学の力」2014 年、日本評論社、3200 円+税
- ② レヴィット, S., グールズビー, A., サイヴァーソン, C.[著]、安田洋祐 [監訳]、高遠裕子 [訳]「レヴィット ミクロ経済学 基礎編」2017 年、東洋経済新報社、3200 円+税
- ③ レヴィット, S., グールズビー, A., サイヴァーソン, C.[著]、安田洋祐 [監訳]、高遠裕子 [訳]「レヴィット ミクロ経済学 発展編」2017 年、東洋経済新報社、3600 円+税

【成績評価の方法と基準】

期末試験 80 %、オンライン課題 20 %

【学生の意見等からの気づき】

授業環境が静かであると評価していただきました。今年度もご協力よろしくお願ひします。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムを利用する。授業を欠席した場合は必ず確認すること。

【その他の重要事項】

科目の性質上、数学が出てくるので「ビジネス数学入門」や「数学」を履修済み・履修することを推奨する。

【Outline (in English)】

Course outline: This course introduces microeconomic theory, especially price theory that analyzes resource allocations through a price in a competitive market. Students should surely acquire the contents of this course since microeconomic theory is an essential foundation for advanced topic courses.

Learning objectives: By the end of the course, students are expected to: A) understand the concepts of microeconomics and become able to explain them; B) become able to think the real-life economic phenomenon by using the idea of microeconomics; C) become able to analyze simple microeconomic models.

Learning activities outside of classroom: Before/after each class, students are expected to spend four hours to understand the class content.

Grading policy) Final exam 80%; Online assignments 20%.

ECN200CA
ミクロ経済学B
平井 俊行
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位
クラス指定あり【2年ABCDEFGHIJKLMSTU組、3年生以上は指定なし】

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ミクロ経済学について学習する。ミクロ経済学Bでは不完全競争市場・外部性・情報の非対称性を学ぶ。これらの分析に必須となるゲーム理論の学習もおこなう。

【到達目標】

- ・ミクロ経済学・ゲーム理論の用語の定義を理解し、説明できるようになる。
- ・実際の経済事象を必要に応じて不完全競争市場・外部性・情報の非対称性の問題と関連づけて捉えることができる。
- ・ゲーム理論の分析手法で、少なくとも簡単なモデルを分析できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科は「DP1」「DP7」「DP8」「DP9」に関連。国際経済学科・現代ビジネス学科は「DP1」「DP7」に関連。

【授業の進め方と方法】

初回のみオンデマンド方式、残りは対面講義の形式でおこなう。資料を Hoppii 上で配布するので、適宜ダウンロード・印刷したうえで講義に臨んでいただきたい。課題は Hoppii のテスト機能を用いて出題する。課題へのフィードバックには Hoppii のフィードバック機能を用いる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス・イントロ ダクション・前期内容 の復習	講義内容の概説・講義の進め方、 前期内容のうち後期に特に関わる 内容の復習
2	ゲーム理論 (1)	戦略形ゲームの導入、最適反応戦 略とナッシュ均衡
3	ゲーム理論 (2)	(弱) 支配戦略、第二価格オーク ション
4	ゲーム理論 (3)	混合戦略ナッシュ均衡
5	ゲーム理論 (4)	展開形ゲーム
6	ゲーム理論 (5)	部分ゲーム完全均衡、後向き帰納 法
7	ゲーム理論 (6)	繰返しゲーム
8	不完全競争市場 (1)	独占市場
9	不完全競争市場 (2)	数量競争と価格競争
10	不完全競争市場 (3)	カルテルとしての独占の発生
11	外部性 (1)	外部 (不) 経済と市場の欠落、ピ グー税・補助金
12	外部性 (2)	公共財供給問題
13	外部性 (3)	VCG メカニズム
14	まとめ	講義のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業支援システムで事前に講義スライド(穴埋め式)を配布するので、事前に目を通し、自身で考えておくこと。また、講義内容の復習および講義内で扱えなかった演習問題を解いておくこと。(各2時間が標準)

【テキスト（教科書）】

テキストは用いず、講義資料を配布する。

【参考書】

- ① 神取道宏「ミクロ経済学の力」2014年、日本評論社、3200円+税
- ② レヴィット, S.、ゲールズビー, A.、サイヴァーソン, C. [著]、安田洋祐 [監訳]、高遠裕子 [訳]「レヴィット ミクロ経済学 発展編」2017年、東洋経済新報社、3600円+税
- ③ 岡田章「ゲーム理論・入門 - 人間社会の理解のために- 新版」2014年、有斐閣アルマ、1900円+税

【成績評価の方法と基準】

期末試験 80%、オンライン課題 20%

【学生の意見等からの気づき】

授業環境が静かであると評価していただきました。今年度もご協力よろしくお願いします。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムを利用する。授業を欠席した場合は必ず確認すること。

【その他の重要事項】

科目の性質上、数学が出てくるので「ビジネス数学入門」、「数学」を履修済み・履修することを推奨する。

【Outline (in English)】

Course outline: This course introduces microeconomic theory, especially situations called imperfect competition, externalities, and asymmetric information. This course also introduces game theory, which is essential for analyzing these situations.

Learning objective: By the end of the course, students are expected to: A) understand the concepts of microeconomics and game theory and become able to explain them; B) become able to capture real-life economic phenomenon by utilizing the theory of imperfect competitive market, externalities, and asymmetric information, if they are applicable; C) become able to analyze simple games.

Learning activities outside of classroom: Before/after each class, students are expected to spend four hours to understand the class content.

Grading policy: Final exam 80%; Online assignment 20%.

ECN300CA
現代経済学応用 A
八木橋 毅司
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位
※経済学科生・国際経済学科生のみ履修できます。

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業ではマクロ経済学の基礎講座で学んだ知見を足がかりに、中級向けのマクロ経済学の理論を学習します。また、マクロ経済データの基礎知識を身につけ、最近の新聞記事などで取り上げられた経済関連のトピックスを理論、データの両面から分析する視点を身につけます。

【到達目標】

- ・身近な問題を経済学的視点で捉えることができる
- ・短期と長期における経済問題の性質の違いについてグラフを用いて説明できる
- ・初歩的なマクロ経済モデルを使った金融・財政政策効果についての分析ができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科は「DP1」「DP7」「DP8」に関連。国際経済学科・現代ビジネス学科は「DP1」「DP7」に関連。

【授業の進め方と方法】

講義は基本的にパワーポイントの講義資料を学習支援システムからダウンロードし、課題を定期的に提出する形式で行います。また講義資料を補完するものとして、演習問題、教科書出版社が無償提供する練習問題も活用します。

各回の講義ではトピック毎の鍵となる専門知識を習得することに集中し、直後の復習では教科書の精読を通じ講義で学んだ知識の体系化を図ります。さらには適宜、宿題または小テストを通じ理解度のチェックを行います。それらについてのフィードバックは主に学習支援システムを通じて行われます。

講義内容等に関する質問は随時メール・オフィスアワーにて幅広く受け付けます。定期オフィスアワーのスケジュールは第1回の講義前後にアナウンスします。

また授業形態につきましてはコロナの蔓延状況を踏まえて対面・オンライン（各7回）の組み合わせとし、各講義回の形態については学習支援システムを通じてその都度事前に通知します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	科学としてのマクロ経済学	オリエンテーション、マクロ経済学概説
第2回	マクロ経済学のデータ	国内総生産、消費者物価指数、失業率
第3回	国民所得：どこから来てどこへ行くのか	生産
第4回	国民所得：どこから来てどこへ行くのか	所得分配
第5回	国民所得：どこから来てどこへ行くのか	支出、財市場の均衡
第6回	国民所得：どこから来てどこへ行くのか	金融市場の均衡
第7回	開放経済	開放経済（小国）モデル
第8回	開放経済	為替レート：名目対実質為替レート
第9回	開放経済、中間試験	為替レートの決定要因
第10回	景気変動へのイントロダクション	景気変動に関するデータ、時間的視野、総需要

第11回	景気変動へのイントロダクション	総供給、総需要・総供給モデルを使った短長期分析
第12回	総需要1：IS-LMモデルの構築	財市場とIS曲線
第13回	総需要1：IS-LMモデルの構築	貨幣市場とLM曲線
第14回	期末試験	期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本講義の学習時間は、1回につき4時間程度を標準とします。それ以外でも日々の経済ニュースを各種メディアを通じて吸収するよう心がけてください。

【テキスト（教科書）】

G. マンキュー（著）『マクロ経済学1：入門編』東洋経済新報社、2017年、4,180円（税込）

【参考書】

特になし

【成績評価の方法と基準】

期末試験 50%、小テスト 20%、宿題 25%、クラス参加 5%

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

ノートパソコン、タブレット、スマホのいずれかを常時持参してください。

【その他の重要事項】

『授業支援システム』で連絡したことは、全ての受講者に伝わったものとして取り扱いますので、頻繁にチェックする習慣を早いうちに身につけてください。

【担当教員の専門分野等】

詳しくは下記ウェブサイトをご覧ください

<https://sites.google.com/site/takeshiyagihashi/>

【主要業績】

"Intertemporal Elasticity of Substitution with Leisure Margin" (with Juan Du), forthcoming in Review of Economics of the Household

"How Do the Trans-Pacific Economies Affect the US? An Industrial Sector Approach" (with David Selover), Oct. 2017, The World Economy, 40(10), 2097-2124.

"Goods-Time Elasticity of Substitution in Health Production" (with Juan Du), Oct. 2017, Health Economics, 26(11), 1474-1478.

"Health Care Inflation and Its Implication for Monetary Policy" (with Juan Du), Mar. 2015, Economic Inquiry, 53(3), 1556-1579.

"Are DSGE Approximating Models Invariant to Shifts in Policy?" (with Timothy Cogley) Jan. 2010, The B.E. Journal of Macroeconomics, 10(1) (Contribution), Article 27, 1-31.

【Outline (in English)】

This course is designed to introduce the intermediate level macroeconomic theory. These theories provide results that, at times, contrast to the results you were exposed to in day-to-day decisions. We mainly use basic diagrams as the tool for generating predictions about aggregate prices, market interest rates, and exchange rates. Methods on how to interpret data on national income and other relevant macroeconomic variables are also studied.

【Learning Activities Outside of Classroom】

Four hours per class

【Grading Criteria/Policy】

Final Exam: 50%, Quiz: 20%, Homeworks: 25%, Class Participation: 5%

ECN300CA
現代経済学応用 B
八木橋 毅司
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位
※経済学科生・国際経済学科生のみ履修できます。

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業ではマクロ経済学の基礎講座で学んだ知見を足がかりに、中級向けのマクロ経済学の理論を学習します。また、マクロ経済データの基礎知識を身につけ、最近の新聞記事などで取り上げられた経済関連のトピックスを理論、データの両面から分析する視点を身につけます。

【到達目標】

- ・身近な問題を経済学的視点で捉えることができる
- ・短期と長期における経済問題の性質の違いについてグラフを用いて説明できる
- ・初歩的なマクロ経済モデルを使った金融・財政政策効果についての分析ができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科は「DP1」「DP7」「DP8」に関連。国際経済学科・現代ビジネス学科は「DP1」「DP7」に関連。

【授業の進め方と方法】

講義は基本的にパワーポイントの講義資料を学習支援システムからダウンロードし、課題を定期的に提出する形式で行います。また講義資料を補完するものとして、演習問題、教科書出版社が無償提供する練習問題も活用します。

各回の講義ではトピック毎の鍵となる専門知識を習得することに集中し、直後の復習では教科書の精読を通じ講義で学んだ知識の体系化を図ります。さらには適宜、宿題、小テスト、およびクラス内ディスカッションを通じ理解度のチェックを行います。それらについてのフィードバックは主に学習支援システムを通じて行われます。

講義内容等に関する質問は随時メール・オフィスアワーにて幅広く受け付けます。定期オフィスアワーのスケジュールは第1回の講義前後にアナウンスします。

また授業形態につきましてはコロナの蔓延状況を踏まえて対面・オンライン（各7回）の組み合わせとし、各講義回の形態については学習支援システムを通じてその都度事前に通知します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	総需要2：IS-LMモデルの応用	財政、金融政策
第2回	総需要2：IS-LMモデルの応用	総需要・総供給モデルの短長期分析
第3回	失業と労働市場	失業率に関するデータ、長期均衡、労働市場と賃金決定メカニズム
第4回	経済成長	資本の蓄積、定常均衡
第5回	経済成長	貯蓄、資本の黄金律水準
第6回	経済成長	人口成長、経済ショック、データ
第7回	総供給およびインフレーションと失業の短期的トレードオフ	総供給曲線
第8回	総供給およびインフレーションと失業の短期的トレードオフ	フィリップス曲線と自然失業率
第9回	中間試験	中間試験

第10回 経済変動の動学モデル 動学モデルにおける総需要・総供給

第11回 経済変動の動学モデル 動学モデルを使った政策分析

第12回 政府負債と財政赤字 財政の持続可能性

第13回 総復習 総復習

第14回 期末試験 期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本講義の学習時間は、1回につき4時間程度を標準とします。それ以外でも日々の経済ニュースを各種メディアを通じて吸収するよう心がけてください。

【テキスト（教科書）】

G. マンキュー（著）『マクロ経済学Ⅰ：入門編』東洋経済新報社、2017年、4,180円（税込）

G. マンキュー（著）『マクロ経済学Ⅱ：応用編』東洋経済新報社、2018年、4,180円（税込）

【参考書】

特になし

【成績評価の方法と基準】

期末試験 50%、小テスト 20%、宿題 25%、クラス参加 5%

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

ノートパソコン、タブレット、スマホのいずれかを常時持参してください。

【その他の重要事項】

『授業支援システム』で連絡したことは、全ての受講者に伝わったものとして取り扱いますので、頻繁にチェックする習慣を早いうちに身につけてください。

【担当教員の専門分野等】

詳しくは下記ウェブサイトをご覧ください

<https://sites.google.com/site/takeshiyagihashi/>

【主要業績】

"Intertemporal Elasticity of Substitution with Leisure Margin" (with Juan Du), forthcoming in Review of Economics of the Household

"Health Care Inflation and Its Implication for Monetary Policy" (with Juan Du), Mar. 2015, Economic Inquiry, 53(3), 1556-1579.

"Are DSGE Approximating Models Invariant to Shifts in Policy?" (with Timothy Cogley) Jan. 2010, The B.E. Journal of Macroeconomics, 10(1) (Contribution), Article 27, 1-31.

【Outline (in English)】

This course is designed to introduce the intermediate level macroeconomic theory. These theories provide results that, at times, contrast to the results you were exposed to in day-to-day decisions. We mainly use basic diagrams as the tool for generating predictions about aggregate prices, market interest rates, and exchange rates. Methods on how to interpret data on national income and other relevant macroeconomic variables are also studied.

【Learning Activities Outside of Classroom】

Four hours per class

【Grading Criteria/Policy】

Final Exam: 50%, Quiz: 20%, Homeworks: 25%, Class Participation: 5%

ECN200CA
マクロ経済学 A
松尾 朋紀
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位
クラス指定あり【2 年 ABCDEFGHIJKLM 組、3 年生以上は指定なし】

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

基本的なマクロ経済モデルについて、数学的な手法を用いて説明を行います。

また、マクロ経済の分析に用いられる経済指標を紹介し、その動向を解説します。

【到達目標】

1：マクロ経済モデルに基づいて現実の経済現象を説明できるようになる。

2：マクロ経済分析で用いられる経済指標を正しく理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科は「DP1」「DP7」「DP8」「DP9」に関連。国際経済学科・現代ビジネス学科は「DP1」「DP7」に関連。

【授業の進め方と方法】

対面授業を7回、オンライン授業を7回、それぞれ予定しています。途中、確認テストを行います（全3回）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	ガイダンス
第2回	GDP について（1）	GDP とは
第3回	GDP について（2）	GDP を見る・分析する
第4回	GDP について（3）	GDP 分析の関連トピック
第5回	GDP についての総括	確認テスト1：GDP について
第6回	長期モデル1（1）	総供給と総需要
第7回	長期モデル1（2）	財市場の均衡
第8回	長期モデル1（3）	長期モデルの活用例
第9回	長期モデル1の総括	確認テスト2：長期モデル1
第10回	長期モデル2（1）	貨幣と貨幣市場の均衡
第11回	長期モデル2（2）	貨幣を含む長期モデルの活用例
第12回	長期モデル2（3）	長期モデルの関連トピック
第13回	長期モデル2の総括	確認テスト3：長期モデル2
第14回	期末試験	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

特になし。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

古澤泰治・塩路悦朗、『ベーシック経済学一次につながる基礎固め（新版）』、有斐閣アルマ、2018 年。

【成績評価の方法と基準】

確認テスト（30%）と期末テスト（70%）に基づいて成績を評価。確認テストについては、全3回のうち点数の高い2回分を採用。

【学生の意見等からの気づき】

ひとつのトピックが終わるごとに確認テストを行うことで、学生に知識の定着を促す。

【その他の重要事項】

授業内容に関する質問は、学習支援システム上の「掲示板」の機能を利用してください。

【Outline (in English)】

(Course outline)

This course introduces basic macroeconomic models and economic indicators to students.

(Learning Objective)

The goals of this course are the following.

1. Understanding economic indicators used in macroeconomic analysis

2. Learning basic macroeconomic models by using mathematical methods

(Learning activities outside of the classroom)

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours reviewing the course content.

(Grading Criteria / Policies)

Your overall grade in the class will be calculated by adding up the following.

In-class quizzes: 30%, Final examination: 70%

Note that quizzes will be given three times. Of the three, the two with the highest scores will be taken into account for grading.

ECN200CA
マクロ経済学B
松尾 朋紀
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位
クラス指定あり【2年 ABCDEFGHIJKLM 組、3年生以上は指定なし】

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

基本的なマクロ経済モデルについて、数学的な手法を用いて説明を行います。

また、マクロ経済の分析に用いられる経済指標を紹介し、その動向を解説します。

【到達目標】

1：マクロ経済モデルに基づいて現実の経済現象を説明できるようになる。

2：マクロ経済分析で用いられる経済指標を正しく理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科は「DP1」「DP7」「DP8」「DP9」に関連。国際経済学科・現代ビジネス学科は「DP1」「DP7」に関連。

【授業の進め方と方法】

対面授業を7回、オンライン授業を7回、それぞれ予定しています。途中、確認テストを行います（全3回）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	ガイダンス
第2回	短期モデル（1）	短期の経済モデルの導出
第3回	短期モデル（2）	短期モデルと財政・金融政策
第4回	短期モデル（3）	日本の財政・金融政策
第5回	短期モデルの総括	確認テスト1：短期モデル
第6回	マクロ経済学のミクロ的基礎付け（1）	マクロ経済学のミクロ的基礎付け
第7回	マクロ経済学のミクロ的基礎付け（2）	2期間の経済モデル
第8回	マクロ経済学のミクロ的基礎付け（3）	2期間モデルの関連トピック
第9回	マクロ経済学のミクロ的基礎付けの総括	確認テスト2：マクロ経済学のミクロ的基礎付け
第10回	経済成長（1）	経済成長に関するファクト
第11回	経済成長（2）	ソローの経済成長モデル
第12回	経済成長（3）	経済成長の関連トピック
第13回	経済成長の総括	確認テスト3：経済成長
第14回	期末試験	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

特になし。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

古澤泰治・塩路悦朗、『ベーシック経済学一次につながる基礎固め（新版）』、有斐閣アルマ、2018年。

【成績評価の方法と基準】

確認テスト（30%）と期末テスト（70%）に基づいて成績を評価。

確認テストについては、全3回のうち点数の高い2回分を採用。

【学生の意見等からの気づき】

ひとつのトピックが終わるごとに確認テストを行うことで、学生に知識の定着を促す。

【その他の重要事項】

授業内容に関する質問は、学習支援システム上の「掲示板」の機能を利用してください。

【Outline (in English)】

(Course outline)

This course introduces basic macroeconomic models and economic indicators to students.

(Learning Objective)

The goals of this course are the following.

1. Understanding economic indicators used in macroeconomic analysis

2. Learning basic macroeconomic models by using mathematical methods

(Learning activities outside of the classroom)

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours reviewing the course content.

(Grading Criteria / Policies)

Your overall grade in the class will be calculated by adding up the following.

In-class quizzes: 30%, Final examination: 70%

Note that quizzes will be given three times. Of the three, the two with the highest scores will be taken into account for grading.

ECN200CA
ミクロ経済学A
平井 俊行
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位
クラス指定あり【2年 HIJNOPQRVWXYZ 組、3年生以上は指定なし】

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ミクロ経済学について学習する。ミクロ経済学Aでは特に価格理論と呼ばれる、完全競争市場における価格を通じた資源配分について学ぶ。ミクロ経済学はそれ自体重要であるが経済学の専門的なトピックを学ぶための基礎であるので、内容を確実に身に付ける。

【到達目標】

- ・ミクロ経済学の用語の定義を理解し、説明できるようになる。
- ・実際の経済事象をミクロ経済学の考え方で捉えることができるようになる。
- ・ミクロ経済学の分析手法で、少なくとも簡単なモデルを分析できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科は「DP1」「DP7」「DP8」「DP9」に関連。国際経済学科・現代ビジネス学科は「DP1」「DP7」に関連。

【授業の進め方と方法】

初回のみオンデマンド方式、残りは対面講義の形式でおこなう。資料を Hoppii 上で配布するので、適宜ダウンロード・印刷したうえで講義に臨んでいただきたい。課題は Hoppii のテスト機能を用いて出題する。課題へのフィードバックには Hoppii のフィードバック機能を用いる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス・イントロダクション・数学準備	講義内容の概説と講義の進め方、数学準備
2	部分均衡分析 (1)	需要曲線・供給曲線と市場均衡
3	部分均衡分析 (2)	需要・供給の価格弾力性、比較静学
4	部分均衡分析 (3)	余剰分析
5	消費者行動 (1)	選好と効用およびそれらの無差別曲線による表現、予算制約
6	消費者行動 (2)	限界代替率と需要の導出
7	消費者行動 (3)	双対性と支出関数。
8	消費者行動 (4)	代替効果・所得効果、スルツキー分解
9	生産者行動 (1)	生産関数と等生産量曲線の関係・生産要素価格と等費用線の関係
10	生産者行動 (2)	生産要素間の限界代替率と費用関数の導出
11	生産者行動 (3)	供給の導出
12	一般均衡分析 (1)	契約曲線・パレート効率性・コア
13	一般均衡分析 (2)	厚生経済学の基本定理
14	まとめ	講義のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業支援システムで事前に講義スライド（穴埋め式）を配布するので、事前に目を通し、自身で考えておくこと。また、講義内容の復習および講義内で扱えなかった演習問題を解いておくこと。（各 2 時間が標準）

【テキスト（教科書）】

テキストは用いず、講義資料を配布する。

【参考書】

- ① 神取道宏「ミクロ経済学の力」2014 年、日本評論社、3200 円+税
- ② レヴィット, S., グールズビー, A., サイヴァーソン, C.[著]、安田洋祐 [監訳]、高遠裕子 [訳]「レヴィット ミクロ経済学 基礎編」2017 年、東洋経済新報社、3200 円+税
- ③ レヴィット, S., グールズビー, A., サイヴァーソン, C.[著]、安田洋祐 [監訳]、高遠裕子 [訳]「レヴィット ミクロ経済学 発展編」2017 年、東洋経済新報社、3600 円+税

【成績評価の方法と基準】

期末試験 80 %、オンライン課題 20 %

【学生の意見等からの気づき】

授業環境が静かであると評価していただきました。今年度もご協力よろしくお願ひします。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムを利用する。授業を欠席した場合は必ず確認すること。

【その他の重要事項】

科目の性質上、数学が出てくるので「ビジネス数学入門」や「数学」を履修済み・履修することを推奨する。

【Outline (in English)】

Course outline: This course introduces microeconomic theory, especially price theory that analyzes resource allocations through a price in a competitive market. Students should surely acquire the contents of this course since microeconomic theory is an essential foundation for advanced topic courses.

Learning objectives: By the end of the course, students are expected to: A) understand the concepts of microeconomics and become able to explain them; B) become able to think the real-life economic phenomenon by using the idea of microeconomics; C) become able to analyze simple microeconomic models.

Learning activities outside of classroom: Before/after each class, students are expected to spend four hours to understand the class content.

Grading policy) Final exam 80%; Online assignments 20%.

ECN200CA
ミクロ経済学B
平井 俊行
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位
クラス指定あり【2年 HIJNOPQRVWXYZ 組、3年生以上は指定なし】

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ミクロ経済学について学習する。ミクロ経済学Bでは不完全競争市場・外部性・情報の非対称性を学ぶ。これらの分析に必須となるゲーム理論の学習もおこなう。

【到達目標】

- ・ミクロ経済学・ゲーム理論の用語の定義を理解し、説明できるようになる。
- ・実際の経済事象を必要に応じて不完全競争市場・外部性・情報の非対称性の問題と関連づけて捉えることができる。
- ・ゲーム理論の分析手法で、少なくとも簡単なモデルを分析できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科は「DP1」「DP7」「DP8」「DP9」に関連。国際経済学科・現代ビジネス学科は「DP1」「DP7」に関連。

【授業の進め方と方法】

初回のみオンデマンド方式、残りは対面講義の形式でおこなう。資料を Hoppii 上で配布するので、適宜ダウンロード・印刷したうえで講義に臨んでいただきたい。課題は Hoppii のテスト機能を用いて出題する。課題へのフィードバックには Hoppii のフィードバック機能を用いる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス・イントロダクション・前期内容の復習	講義内容の概説・講義の進め方、前期内容のうち後期に特に関わる内容の復習
2	ゲーム理論 (1)	戦略形ゲームの導入、最適反応戦略とナッシュ均衡
3	ゲーム理論 (2)	(弱) 支配戦略、第二価格オークション
4	ゲーム理論 (3)	混合戦略ナッシュ均衡
5	ゲーム理論 (4)	展開形ゲーム
6	ゲーム理論 (5)	部分ゲーム完全均衡、後向き帰納法
7	ゲーム理論 (6)	繰り返しゲーム
8	不完全競争市場 (1)	独占市場
9	不完全競争市場 (2)	数量競争と価格競争
10	不完全競争市場 (3)	カルテルとしての独占の発生
11	外部性 (1)	外部 (不) 経済と市場の欠落、ピグー税・補助金
12	外部性 (2)	公共財供給問題
13	外部性 (3)	VCG メカニズム
14	まとめ	講義のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業支援システムで事前に講義スライド（穴埋め式）を配布するので、事前に目を通し、自身で考えておくこと。また、講義内容の復習および講義内で扱えなかった演習問題を解いておくこと。（各 2 時間が標準）

【テキスト（教科書）】

テキストは用いず、講義資料を配布する。

【参考書】

- ① 神取道宏「ミクロ経済学の力」2014 年、日本評論社、3200 円+税
- ② レヴィット, S., グールズビー, A., サイヴァーソン, C. [著], 安田洋祐 [監訳], 高遠裕子 [訳]「レヴィット ミクロ経済学 発展編」2017 年、東洋経済新報社、3600 円+税
- ③ 岡田章「ゲーム理論・入門 - 人間社会の理解のために- 新版」2014 年、有斐閣アルマ、1900 円+税

【成績評価の方法と基準】

期末試験 80 %、オンライン課題 20 %

【学生の意見等からの気づき】

授業環境が静かであると評価していただきました。今年度もご協力よろしく願います。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムを利用する。授業を欠席した場合は必ず確認すること。

【その他の重要事項】

科目の性質上、数学が出てくるので「ビジネス数学入門」、「数学」を履修済み・履修することを推奨する。

【Outline (in English)】

Course outline: This course introduces microeconomic theory, especially situations called imperfect competition, externalities, and asymmetric information. This course also introduces game theory, which is essential for analyzing these situations.

Learning objective: By the end of the course, students are expected to: A) understand the concepts of microeconomics and game theory and become able to explain them; B) become able to capture real-life economic phenomenon by utilizing the theory of imperfect competitive market, externalities, and asymmetric information, if they are applicable; C) become able to analyze simple games.

Learning activities outside of classroom: Before/after each class, students are expected to spend four hours to understand the class content.

Grading policy: Final exam 80%; Online assignment 20%.

ECN200CA
財政学 A (市ヶ谷開講)
島澤 諭
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位
初回の授業に出席し担当教員の指示を受ける。

その他属性：〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本は現在、①少子化、高齢化の進展への対応、②財政再建への対応、③金融システムの安定化、といった多くの課題を抱えている。本講義では、政府や金融機関の経済活動に関する実態及び基礎的理論について踏まえた後、現実の日本財政や金融についてデータを参照しながら学習する。

【到達目標】

市場主義経済における政府の役割について、どのような考え方があるのかを理解する。また、日本の財政や金融を取り巻く問題を把握する。その上で、政府の役割と日本の財政がどうあるべきかまた今後どうあるべきかについて、自分なりの意見を持てるようになるための論理的思考力、分析能力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP1」「DP7」「DP8」に関連。国際経済学科は「DP1」「DP7」に関連。

【授業の進め方と方法】

現在のところ、基本的には講義資料に沿って講義を進めることを予定している。参考文献がある時にはその都度指示する。また、各回のテーマは以下を予定するが、受講生の知識・理解度を勘案し、必要に応じて授業スピードの変更を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	ガイダンス
第 2 回	財政の役割（1）	経済活動と政府、財政の役割、大きな政府と小さな政府
第 3 回	財政制度（1）	財政と法律、予算制度
第 4 回	財政制度（2）	財政投融资、地方財政制度
第 5 回	通貨金融についての基礎知識（1）	金融の概念、金融機関の役割
第 6 回	通貨金融についての基礎知識（2）	通貨の概念、通貨の供給、通貨の需要
第 7 回	金融・資本市場（1）	相対市場と公開市場、短期金融市場と長期金融市場
第 8 回	金融・資本市場（2）	金融派生商品市場、オンショア市場とオフショア市場
第 9 回	日本の財政問題（1）	財政赤字の累増、財政赤字の構造的要因
第 10 回	日本の財政問題（2）	財政赤字の問題点
第 11 回	政府支出の理論と実際（1）	政府支出の理論
第 12 回	政府支出の理論と実際（2）	政府支出の膨張要因、政府支出の構造
第 13 回	租税の原則と経済効果（1）	税の役割と租税原則
第 14 回	租税の原則と経済効果（2）	公平な税とは、課税と経済効率

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備・復習時間は、各 4 時間を目安とする。

【テキスト（教科書）】

なし

【参考書】

受講者が授業を補完するために勉強する場合は、以下の文献が参考となる。

- (1) 井堀利宏『財政学（第4版）』新世社
- (2) 畑農鋭矢、林正義、吉田浩『財政学をつかむ』有斐閣
- (3) 釣雅雄、宮崎智視『グラフィック財政学』新世社
- (4) 小黒一正等『財政学 15 講』新世社
- (5) 林宜嗣等『財政学（第4版）』新世社

【成績評価の方法と基準】

現在のところ、平常点（授業に臨む態度、積極度）（40%）と期末レポート（60%）で評価することを予定。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【その他の重要事項】

初回授業に必ず出席すること。

なお、経済企画庁（現内閣府）の官庁エコノミストとして様々な政策立案や執行に携わった経験等も踏まえて講義する。

【Outline (in English)】

Japan is currently facing a number of challenges, including (1) coping with the declining birthrate and aging population, (2) dealing with fiscal reconstruction, and (3) stabilizing the financial system. In this lecture, we will study the actual situation and basic theories on economic activities of the government and financial institutions, and then refer to data on the actual Japanese fiscal and financial situation.

To understand the concept of the role of government in a market-based economy. Also, understand the issues surrounding Japan's public finances and finance. Students will then acquire the logical thinking and analytical skills to be able to form their own opinions on the role of the government and how Japan's finances should be and will be in the future.

At present, we plan to basically follow the lecture materials. If there is any reference literature, it will be indicated each time. In addition, the following topics will be covered in each session, but the speed of the class will be changed as necessary, taking into account the level of knowledge and understanding of the students.

Preparation and review time is estimated to be 4 hours each. Currently, the plan is to evaluate the students on the basis of their regular scores (attitude toward class and level of activity) (40%) and a final report (60%).

ECN200CA
財政学 B (市ヶ谷開講)
島澤 諭
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位
初回の授業に出席し担当教員の指示を受ける。

その他属性：〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本は現在、①少子化、高齢化の進展への対応、②財政再建への対応、③金融システムの安定化、といった多くの課題を抱えている。本講義では、政府や金融機関の経済活動に関する実態及び基礎的理論について踏まえた後、現実の日本財政や金融についてデータを参照しながら学習する。

【到達目標】

日本財政や金融、社会保障制度・財源の現状と課題を理解し、経済学の視点から財政・社会保障制度、金融政策の効果について考察するための基礎知識の習得を目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP1」「DP7」「DP8」に関連。国際経済学科は「DP1」「DP7」に関連。

【授業の進め方と方法】

現在のところ、基本的には講義資料に沿って講義を進めることを予定している。参考文献がある時にはその都度指示する。また、各回のテーマは以下を予定するが、受講生の知識・理解度を勘案し、必要に応じて授業スピードの変更を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	ガイダンス
第 2 回	社会保障の財政問題 I (1)	超高齢社会と社会保障
第 3 回	社会保障の財政問題 I (2)	最低生活の保障、年金問題
第 4 回	社会保障の財政問題 II (1)	医療と財政
第 5 回	社会保障の財政問題 II (2)	社会福祉の改革
第 6 回	景気変動と財政政策 (1)	国民所得の決定
第 7 回	景気変動と財政政策 (2)	乗数、ビルトインスタビライザー
第 8 回	景気変動と財政政策 (3)	財政政策の効果
第 9 回	景気変動と金融政策 (1)	通貨と実体経済のかかわり
第 10 回	景気変動と金融政策 (2)	インフレーションとデフレーション
第 11 回	公債の負担 (1)	公債とは、公債発行の問題点、クラウディングアウト
第 12 回	公債の負担 (2)	公債の将来世代に対する負担
第 13 回	公債の負担 (3)	中立命題
第 14 回	世代会計	世代会計

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備・復習時間は、各 4 時間を目安とする。

【テキスト（教科書）】

なし

【参考書】

受講者が授業を補完するために勉強する場合は、以下の文献が参考となる。

- (1) 井堀利宏『財政学（第 4 版）』新世社
- (2) 畑農鋭矢、林正義、吉田浩『財政学をつかむ』有斐閣
- (3) 釣雅雄、宮崎智視『グラフィック財政学』新世社
- (4) 小黒一正等『財政学 15 講』新世社
- (5) 小塩隆士『社会保障の経済学（第 4 版）』日本評論
- (6) 島澤諭『シルバー民主主義の政治経済学』日本経済新聞出版社

【成績評価の方法と基準】

現在のところ、平常点（授業に臨む態度、積極度）（40 %）と期末レポート（60 %）で評価することを予定。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【その他の重要事項】

初回授業に必ず出席すること。

なお、経済企画庁（現内閣府）の官庁エコノミストとして様々な政策立案や執行に携わった経験等も踏まえて講義する。

【Outline (in English)】

Japan is currently facing a number of challenges, including (1) coping with the declining birthrate and aging population, (2) dealing with fiscal reconstruction, and (3) stabilizing the financial system. In this lecture, we will study the actual situation and basic theories on economic activities of the government and financial institutions, and then refer to data on the actual Japanese fiscal and financial situation.

The goal of this course is to acquire basic knowledge to understand the current status and issues of Japanese public finances, finance, and social security systems and financial resources, and to examine the effects of fiscal and social security systems and monetary policies from an economics perspective.

At present, it is planned to basically follow the lecture materials. If there is any reference literature, it will be indicated each time. In addition, the following topics will be covered in each session, but the speed of the class will be changed as necessary, taking into account the level of knowledge and understanding of the students.

Preparation and review time is estimated to be 4 hours each.

Currently, the plan is to evaluate the students on the basis of their regular scores (attitude toward class and level of activity) (40%) and a final report (60%).

ECN200CA
経済政策論 A (市ヶ谷開講)
濱秋 純哉
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位
初回の授業に出席し担当教員の指示を受ける。

その他属性：〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

政府は、ダムや道路の建設、教育サービスの提供、及び社会保障制度の整備などの「経済政策（公共政策）」を行っている。民間企業の自由な活動に任せる分野がある一方で、このように政府が直接・間接に財・サービスの提供に関与する分野があるのはなぜだろうか。このような疑問に対して、経済学の余剰分析の考え方に基づき考察する。

【到達目標】

この講義では、受講者各人が、現実の経済政策を評価する力を身に付けることを目標とする。具体的には、経済学の余剰分析の考え方に基づき、外部性の問題や望ましい公共財の供給について主体的に考察できるようになることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP8」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】

直感的な理解が進むように図表を使った説明を交えながら、講義形式で経済政策に関するトピックを解説する。授業の途中や授業後に復習問題を解く時間を設け、受講者が自分の頭で考える機会も作る。復習問題については、翌週の授業までに解説資料をアップロードし、解答の説明と講評（多かった間違いや興味深い解答の紹介など）を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	経済学でどのように経済政策について考えるか？
2	経済政策を分析するための準備 1	完全競争市場とは何か、需要曲線と供給曲線
3	経済政策を分析するための準備 2	消費者余剰の図示
4	経済政策を分析するための準備 3	弾力性の概念
5	経済政策を分析するための準備 4	様々な費用の概念
6	経済政策を分析するための準備 5	企業の利潤最大化行動と供給曲線
7	経済政策を分析するための準備 6	生産者余剰の図示
8	経済政策を分析するための準備 7	経済政策の余剰分析
9	外部性への対処 1	外部性の概念
10	外部性への対処 2	外部性の存在と市場の効率性
11	外部性への対処 3	指導・監督政策による外部性への対処
12	外部性への対処 4	市場重視政策（ピグー税と排出権取引）による外部性への対処
13	公共財の供給 1	公共財の最適供給の条件、公共財の自発的供給
14	公共財の供給 2	国家公共財と地方公共財の供給

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の準備学習・復習を行うこと。準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

八田達夫, 2008, 『ミクロ経済学 I』東洋経済新報社
N・グレゴリー・マンキュー, 2019, 『マンキュー経済学 I ミクロ編 [第 4 版]』東洋経済新報社

【参考書】

小川光・西森晃, 2022, 『公共経済学 [第 2 版]』中央経済社

【成績評価の方法と基準】

期末試験 (70%)、復習問題の解答の提出 (30%) によって評価する。

【学生の意見等からの気づき】

毎回の授業で学生が受け身の学習にならないように、授業中に簡単な質問に答えてもらったり、授業内容に即した復習問題を課したりする。また、経済学の抽象的な概念の説明の際には、必ず具体例とセットで説明することで理解を促す。

【Outline (in English)】

Course Outline

Governments conduct a wide range of economic and other public policies including, for example, the construction of dams and roads, the provision of education services, and the provision of a social security system. While of course there are a large number of areas that are left to the private sector, the question nevertheless is why there are areas in which governments directly and indirectly contribute to the provision of goods and services. This course considers this issue from a microeconomic perspective using welfare analysis.

Learning Objectives

At the end of the course, students are expected to acquire the ability to evaluate economic policies based on economics.

Learning Activities Outside of Classroom

Before/after each class meeting, students are expected to spend four hours to understand the course content.

Grading Criteria /Policy

Final grade will be decided based on the following:

Term-end examination: 70%, Review questions after each class: 30%

ECN200CA
経済政策論 B (市ヶ谷開講)
濱秋 純哉
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位
初回の授業に出席し担当教員の指示を受ける。

その他属性：〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

政府や中央銀行は、財政政策や金融政策などのマクロ経済政策を行っているが、どのような目的で、さらには、どのような根拠に基づいて政策を実行しているのだろうか。このような疑問に対して、マクロ経済学の IS-LM モデルを用いて考察する。また、GDP、物価指数、失業率といった経済政策立案の際に参照される各種マクロ統計の作成方法とその計測上の課題、及び近年の雇用問題についても検討する。

【到達目標】

この講義では、受講者各人が経済学の考え方に基づいて、現実の経済政策を評価する力を身に付けることを目標とする。具体的には、各種マクロ統計の作成方法と統計の読み方を理解すること、及び財政政策と金融政策が経済に与える影響などについて主体的に考察できるようになることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP8」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】

直感的な理解が進むように図表を使った説明を交えながら、講義形式で経済政策に関するトピックを解説する。授業の途中や授業後に復習問題を解く時間を設け、受講者が自分の頭で考える機会も作る。復習問題については、翌週の授業までに解説資料をアップロードし、解答の説明と講評 (多かった間違いや興味深い解答の紹介など) を行う。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	マクロ経済と私たちの生活
2	経済政策のためのマクロ統計 1	GDP の概念と作成方法
3	経済政策のためのマクロ統計 2	名目 GDP と実質 GDP
4	経済政策のためのマクロ統計 3	物価指数の概念と作成方法
5	経済政策のためのマクロ統計 4	失業率の概念と作成方法
6	労働政策 1	需要不足失業とミスマッチ失業
7	労働政策 2	失業への政策的対処
8	労働政策 3	最低賃金引き上げの影響
9	財政・金融政策 1 : IS-LM モデルの構築 1	ケインジアンの変差図、乗数効果
10	財政・金融政策 2 : IS-LM モデルの構築 2	IS 曲線の導出
11	財政・金融政策 3 : IS-LM モデルの構築 3	貨幣量の測定とコントロール
12	財政・金融政策 4 : IS-LM モデルの構築 4	LM 曲線の導出
13	財政・金融政策 5 : IS-LM モデルの応用 1	財政政策の効果とクラウディング・アウト
14	財政・金融政策 6 : IS-LM モデルの応用 2	金融政策の効果と流動性の罫

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本講義を履修するにあたり、経済政策論 A を履修済みのことが望ましい (ただし、需要曲線・供給曲線、余剰や弾力性の概念、及び余剰分析の方法などを学習済みなら、必ずしも経済政策論 A を履修済みの必要はない)。また、授業の準備学習・復習を行うこと。準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト (教科書)】

N・グレゴリー・マンキュー、2017、『マクロ経済学 I (第 4 版)』東洋経済新報社

【参考書】

福田慎一・照山博司、2016、『マクロ経済学・入門 (第 5 版)』有斐閣

【成績評価の方法と基準】

期末試験 (70%)、復習問題の解答の提出 (30%) によって評価する。

【学生の意見等からの気づき】

毎回の授業で学生が受け身の学習にならないように、授業中に簡単な質問に答えてもらったり、授業内容に即した復習問題を課したりする。また、経済学の抽象的な概念の説明の際には、必ず具体例とセットで説明することで理解を促す。

【Outline (in English)】

Course Outline

Governments and central banks conduct macroeconomic policies such as fiscal policy and monetary policy, but for what purpose and on what basis do they implement such policies? This course considers these questions from a macroeconomic perspective using IS-LM model. The course also examines how various macroeconomic statistics such as GDP statistics, price indexes (consumer price indexes and GDP deflators), and unemployment rates are compiled as well as related measurement issues, and moreover, investigates employment issues in recent years.

Learning Objectives

At the end of the course, students are expected to acquire the ability to evaluate economic policies based on economics.

Learning Activities Outside of Classroom

Before/after each class meeting, students are expected to spend four hours to understand the course content.

Grading Criteria /Policy

Final grade will be decided based on the following:

Term-end examination: 70%, Review questions after each class: 30%

ECN200CA
国際経済論 A (市ヶ谷開講)
田村 晶子
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位
初回の授業に出席し担当教員の指示を受ける。

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国際貿易の基礎理論を講義します。なぜ自由な貿易が望ましいのか、貿易がもたらす利益、関税などの貿易政策が社会全体におよぼす影響を理解し、FTAやEPAなどが進む現在の国際貿易体制について考えます。

【到達目標】

貿易の基礎理論により、どのように貿易の利益が示せるかを説明できる。貿易政策が、各経済主体に与える影響を説明し、その是非を議論できる。地域貿易協定の是非について、理論に基づき議論できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】

パワーポイントを用いて講義します。キーワードや数式、グラフなどを書き込む形の空白のある配布資料を配布します。毎回の授業内容を復習する練習問題を学習支援システムで解き、得点は自動採点でフィードバックされます。次回授業で解答について解説します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	ガイダンスと世界貿易の概要
第 2 回	比較優位の理論①	リカードモデルの仮定
第 3 回	比較優位の理論②	貿易後の相対価格と世界供給
第 4 回	比較優位の理論③	貿易の利益と実証研究
第 5 回	資源と貿易①	ヘクシャー・オリー・モアの仮定
第 6 回	資源と貿易②	貿易による利益と実証研究
第 7 回	規模の外部経済	生産の国際立地
第 8 回	新しい貿易理論	グローバル経済の企業
第 9 回	貿易政策のツール①	輸入関税の効果
第 10 回	貿易政策のツール②	輸出補助金の効果
第 11 回	貿易政策のツール③	輸入割当と輸出自主規制
第 12 回	国際貿易体制	自由貿易の進展、WTO
第 13 回	地域貿易協定の効果	FTAが与える影響
第 14 回	講義のまとめと質問	講義内容への質問

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

参考文献を読んで準備学習をする。毎回の授業終了後に練習問題を解き、配布資料で復習をする。準備は 1 時間、復習は 3 時間を目安とします。

【テキスト（教科書）】

なし。

【参考書】

クルグマン・オブズフェルド・メリッツ（山形浩生、守岡桜訳）『クルグマン国際経済学 理論と政策〔原書第 10 版〕上:貿易編』丸善出版、2017 年
石川城太・椋寛・菊地徹著『国際経済学をつかむ（第 2 版）』有斐閣、2013 年
伊藤恵子・伊藤匡・小森谷徳純『国際経済学 15 講』新世社、2022 年

【成績評価の方法と基準】

練習問題（13 回を予定）（30％）と、授業内に行う期末試験（70％）

【学生の意見等からの気づき】

進度を気をつけて、学生が理解しているかを確認しながら授業を進めます。

【学生が準備すべき機器他】

パワーポイント、授業支援システムを利用します。

【Outline (in English)】

Students study the basics of International Trade. At the end of the course, students will comprehend why free trade is desirable, as well as they will learn the effect of trade policy such as tariffs. Also, students comprehend the international trade framework with Free Trade Agreements. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Grading will be decided based on 13 quizzes(30%) and term-end examination (70%).

ECN200CA
国際経済論 B (市ヶ谷開講)
田村 晶子
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位
初回の授業に出席し担当教員の指示を受ける。

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国際金融論、国際マクロ経済学の基礎を勉強します。為替レートの決定理論を勉強した上で、為替介入の効果や現在の国際通貨体制の問題について考えます。国際収支表の見方や経常収支と国内経済との関係について理解します。

【到達目標】

国際収支表を理解し、経常収支、金融収支の内容を説明できる。為替レートの決定要因から、現在の為替レートの動きを説明できる。為替レートの適正水準を理解する。統一通貨や通貨危機など、国際通貨体制における問題を議論できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】

パワーポイントを用いて講義を行います。キーワードや数式グラフなどを自分で書き込む空白のある配布資料を配布します。毎回の授業の練習問題を学習支援システムから出し、自動採点で得点をフィードバックします。次回の授業で解き方を解説し、理解を深めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	国際収支表	国際収支表の項目
第 2 回	日本の国際収支	国際収支データの推移
第 3 回	開放経済における国民所得恒等式	貯蓄・投資バランス
第 4 回	為替レートと外国為替市場	外国為替市場のしくみ
第 5 回	外国為替取引の種類	スワップ取引とオプション取引
第 6 回	短期の為替レート決定	アセットアプローチ
第 7 回	金融政策と為替レート	オーバーシュートモデル
第 8 回	長期の為替レート決定	購買力平価
第 9 回	実質為替レート	購買力平価からの乖離
第 10 回	固定為替レート	外国為替市場介入
第 11 回	国際通貨制度	通貨トリレンマ
第 12 回	金融のグローバル化	リスクと銀行危機
第 13 回	最適通貨圏とユーロ	固定為替レートの範囲
第 14 回	授業のまとめ	授業全体のまとめと質問

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

参考文献を読んで準備学習をする。授業終了後に練習問題を解き、配付資料で復習をする。準備は 1 時間、復習は 3 時間を目安とします。

【テキスト（教科書）】

なし

【参考書】

クルグマン・オブズフェルド（山形浩生、守岡桜訳）『クルグマン国際経済学 理論と政策（原書第 10 版）下：金融編』丸善出版、2017 年
清水順子・大野早苗・松原聖・川崎健太郎著『徹底解説 国際金融』日本評論社、2016 年
高木信二著『入門国際金融（第 4 版）』日本評論社、2011 年

【成績評価の方法と基準】

毎回の授業の練習問題（30 %）と、授業内に行う期末試験（70 %）

【学生の意見等からの気づき】

パワーポイントの進度に気をつけて、学生の理解度に気を配ります。

【学生が準備すべき機器他】

パワーポイントと学習支援システムを利用します。

【Outline (in English)】

Students study the basics of International finance and Open Economy Macroeconomics. At the end of the course, students will comprehend the determination of exchange rates, then consider the effects of the foreign exchange intervention and the problems of monetary systems. Students also comprehend balance of payments and the relation between current account and domestic economy. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Grading will be decided based on 13 quizzes(30%) and term-end examination (70%)

ECN300CA
特別講義（寄付講座 証券市場論）
大和証券（株）
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講義は、金融商品一般に関する入門編である。以下の3点を踏まえ、金融商品市場の今後の役割を考察していく。

- ①金融商品市場の機能と役割を理解する。
 - ②金融商品市場での主な商品（株式・債券・投資信託）を学ぶ。
 - ③ M & A など、最近の市場動向や新しい潮流を知る。
- 講師には実務家を配し、金融市場に対する基本的な理解をベースに、理論に留まらずなるべく現実に直面しているテーマに触れる。

【到達目標】

株式・債券等、有価証券を活用した直接金融の社会的意義を述べることが出来、また、様々な経済環境下において、それら有価証券の値動きの特徴やリスクの所在を説明することが出来る。

It is possible to explain the social significance of direct financing using securities such as stocks and bonds, and to explain the characteristics and risks of price movements of these securities under various economic environments.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP2」に関連。国際経済学科は「DP2」「DP9」に関連。

【授業の進め方と方法】

進め方としては、資料を熟読し、15～20分程度の小テストをして頂く予定です。フィードバックについては、小テストの結果概要を次週講義時に公表し、理解度の低いところを認識してもらい再度重点的に勉強してもらえよう指導いたします。

As a way to proceed, we plan to read the materials carefully and take a small test of about 15 to 20 minutes. As for feedback, we will announce the summary of the quiz results during the next week's lecture, and we will instruct you to recognize the areas where your understanding is low and to focus on studying again.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	なぜ証券市場を学ぶのか
第2回	金融市場の役割	直接金融と間接金融
第3回	経済情報の見方	経済の基礎知識
第4回	資産運用とリスク	資産運用のポイント
第5回	株式市場①	株式の種類
第6回	株式市場②	株価の形成要因
第7回	債券市場①	債券のキーワード
第8回	債券市場②	債券の利回り
第9回	投資信託	投資信託の特徴
第10回	金融商品ポートフォリオ	資産運用の組み合わせ
第11回	ファイナンシャルプランニング	資金キャッシュフロー・マネジメント
第12回	M & A	最近の事例紹介
第13回	証券関連規制と証券会社 総括	証券関連規制の枠組み
第14回	試験・まとめ	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前の準備学習については特になし。復習時間として4時間程度。

Nothing in particular about preparatory study. Approximately 4 hours of study time.

【テキスト（教科書）】

各回講義用のレジュメを配布する。
Distribute resumes for each lecture.

【参考書】

必要に応じて参考文献を指示する。
Indicate references where necessary.

【成績評価の方法と基準】

毎回講義終了後に講義内容の理解度をはかる小テストの実施（50%）
期末試験（50%）

Implementation of a quiz after each lecture to measure the degree of understanding of the lecture content (50%)

Final exam (50%)

【学生の意見等からの気づき】

アンケート実施なし

【その他の重要事項】

現役の証券会社員が金融市場の機能と役割、市場動向、金融商品等を解説する。

【Outline (in English)】

This lecture is an introduction to financial instruments in general. We will examine the future role of financial instruments markets based on the following three points.

1) Understand the functions and roles of financial instruments markets.

(2) Learn about the main products in the financial instruments market (stocks, bonds, and investment trusts) (3) Learn about recent market trends and new trends, such as mergers and acquisitions

The lecturers will be practitioners, and based on a basic understanding of financial markets, the course will go beyond theory to touch on topics that are faced in reality.

LANj300CA
特別講義（ビジネス日本語 A）
大石 有香
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

留学生が日本で就職活動を行う上で必要になる知識と日本語力を身につけることを目的とする。日本における就職活動の仕組みや、就職活動の様々なプロセスにおいて必要になる「聞く」「話す」「読む」「書く」能力に関する理解を深め、将来の就職活動に備える。

【到達目標】

This course has three goals.

- 1.Understand the structure and process of job hunting endeavors in Japan and be able to prepare systematically,
- 2.Understand effective methods and be able to express oneself using appropriate forms.
- 3.Be able to use expressions appropriately in different communication situations.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は講義と実践的演習からなる。実践的演習にはエントリーシートの作成、Eメールの作成、模擬面接などが含まれる。必要に応じてリアクションペーパーの提出が求められる。課題等の提出は Google Classroom を通じて、課題のフィードバックは次回授業で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス/ 日本での就職活動	授業運営に関する説明/ 日本における就職活動の特徴とそのプロセス
2	自己分析	自己分析の意味と方法
3	業界・企業研究	業界・企業研究の方法と実践
4	学生時代に力を入れたこと	効果的な書き方と内容の検討
5	自己 PR	効果的な書き方と内容の検討
6	志望動機	効果的な書き方と内容の検討
7	エントリーシート	エントリーシートの作成と相互検討
8	履歴書	履歴書の作成と相互検討
9	敬語	敬語の種類と性質
10	Eメール	Eメールの書き方
11	面接	面接選考の種類と仕組み
12	模擬面接	模擬面接の実施・相互評価
13	模擬面接	模擬面接の実施・相互評価
14	まとめと解説	提出物の再検討

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Preparation: pre-assignment

Review: review of lecture content and activities, preparation of assignments and submissions

【テキスト（教科書）】

なし。必要な資料はその都度配布する。

【参考書】

『外国人留学生のための就活ガイド 2024』日本学生支援機構（https://www.jasso.go.jp/ryugaku/after_study_j/job/guide.html）

【成績評価の方法と基準】

Ordinary marks: 30%.

Assignments: 50% (e.g. worksheets, reflection sheets, entry sheets)

Mock interviews: 20%.

【学生の意見等からの気づき】

昨年はコロナ禍の影響により来日直後の学生が複数いたため学生間の相互交流を希望する声があった。今回は、感染防止に留意し状況をみながら協働学習の機会を増やしていく。

【学生が準備すべき機器他】

なし

【その他の重要事項】

本科目は留学生を対象とする。

【Outline (in English)】

This course is in order to prepare for future job-hunting endeavors, students will understand the structure of job-hunting in Japan and

develop skills related to listening, speaking, reading and writing, which are necessary in the various stages of the job-hunting process.

LANj300CA
特別講義（ビジネス日本語 B）
大石 有香
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、留学生が日本の企業で働く上で必要となる日本語の知識と、基礎的なコミュニケーション・スキルを身につけることを目的とする。敬語に関する講義や、仕事場を想定した実践的な演習を通して、職場での様々な課題に適切に対応できる力を養うことを目指す。

【到達目標】

This course has two goals.

1.Understand the nature and use of honorific expressions accurately and be able to use them appropriately according to the occasion and situation.

2.Be able to communicate appropriately in Japanese,including introducing people, answering the telephone and composing emails.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

各回の授業は、講師による講義、課題やテーマをめぐる学生同士の話し合い、クラス全体での共有という流れで進める。課題等の提出は Google Classroom を通じて、フィードバックは次回授業内で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス／ 尊敬語	授業運営に関する説明／ 尊敬語の性質と使い方
2	謙譲語	謙譲語の性質と使い方
3	その他の敬語	丁寧語・美化語、ウチソトと敬語の使い分け
4	言語表現の丁寧さ	「丁寧さの原理」と表現の使い分け
5	敬語のまとめ	復習、使い分けの練習
6	敬語テスト／ あいさつと紹介	復習テストの実施／ 表現の検討、ロールプレイ
7	電話を受ける	表現の検討、ロールプレイ
8	電話をかける	表現の検討、ロールプレイ
9	訪問	表現の検討、ロールプレイ
10	ビジネスメール	表現の検討、Eメールの作成
11	職場でのコミュニケーションのまとめ	ロールプレイテスト&フィードバック
12	プレゼンテーションの準備	資料・スクリプトの作成
13	プレゼンテーション	プレゼンテーションの実施
14	まとめ	授業全体の振り返りとフィードバック

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

The standard preparation and review time for this lesson is 2 hours each.

Preparation: e.g. preparation of worksheets for the next activity.

Review: e.g. preparation of assignments, quizzes and tests.

【テキスト（教科書）】

なし（必要な資料は授業の中で配布する）

【参考書】

『伸ばす！ 就職能力・ビジネス日本語力：日本で働くための「4つの能力」養成ワークブック』植木香・木下由紀子・小島美智子著、国書刊行会、2018年、1,980円（税込）

【成績評価の方法と基準】

Presentations: 20%, Assignments: 50% (Japanese language operational tasks appropriate to the situation/occasion), Ordinary marks: 30%.

【学生の意見等からの気づき】

昨年はコロナ禍の影響により来日直後の学生が複数いたため学生間の相互交流を希望する声があった。今期は、感染防止に留意し状況をみながら協働学習の機会を増やしていく。

【学生が準備すべき機器他】

なし

【その他の重要事項】

本科目は留学生を対象とする。

【Outline (in English)】

This course aims to provide international students with the Japanese language knowledge and basic communication skills necessary for working in Japanese companies. In order to develop the ability to respond appropriately to various assignments in the workplace, lectures on keigo (honorific expressions) and practical exercises that simulate work situations will be conducted.

LANe200CA
Business Communication I A
GLENN FERN
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位
初回の授業に出席し担当教員の指示を受ける。

その他属性：〈グ〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

The goal of this course is to assist students acquire the critical English language skills, necessary to develop a better understanding of International Business. Students will be asked to actively participate in a wide variety of activities, designed to develop the core English competencies of reading, writing, listening, speaking, specialized business vocabulary, critical thinking skills, and simple presentations related to business. Students will be expected to actively practice these skills by listening; to a short pod cast, reading, writing, and discussing topics related to business with in a controlled environment. Students will be given homework and assignments. The teacher will ask students to use the assigned textbook, in order to help develop these skills. Students will be expected to actively participate in a variety of oral communication activities, so they will feel comfortable using English to gather information and express their thoughts. Please note that changes to the course will be made as necessary to accommodate the needs of students and the class.

【到達目標】

The goal of this course is to assist students acquire the critical English language skills, necessary to develop a better understanding of International Business.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

Lecture, individual tasks, pair work, group work, and listening exercises. Feedback for class assignments and tests will be given on Hoppii, FORUM.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Course introduction	Course introduction to learning methodology, topics and expectations of the kind of contribution students will be expected to make to this class. Students will be asked to buy the textbook and be familiar with it for the next class.
2	Career choices	Career versus salary man. The difference between these difficult choices will be explored in a class lecture and group discussions
3	Job search techniques	What is the best way to find your dream job? A variety of different job search techniques will be explored in class.

4	Resume	The difference between a traditional Japanese resume and a Western style resume in English will be explored. Students will create their own resume in English.
5	Job interview styles	The different types of job interviews used by companies around the world will be examined in class. Students will be expected to participate in a group discussion
6	Job interview questions and simulations	Common job interview questions will be given and discussed. Job interview simulations will be practiced in class.
7	Interview Test	All students will be required to under go a one on one job interview test with the instructor. Individual feedback to students will be provided by the instructor.
8	Trends in business	The importance of being aware of and following common trends in business and society will be discussed. Students will examine popular business publications, and search for important business trends.
9	Describe the business of a company	An over view of the textbook, Global Links 2 will be given. Students will complete a variety of listening and speaking exercises in Unit 1, Talking About Your Company. Students will learn how to describe the business of a company.
10	Developing a presentation	Group work: Students will work together to develop a presentation describing the business of a company of their own choice. The instructor will guide and assist students in the development of their presentation, as required
11	Presentation practice and presentation skills	Students will edit and practice their presentation to be given in the next class. The instructor will provide advice and guidance as necessary, along with instruction in presentation skills.
12	Student group presentations	Students will give their presentation in class, and answer questions from the instructor and other students. Emphasis will be placed upon critical thinking skills, problem solving, and a well organized presentation. A discussion will follow after the presentation, regarding important points raised during the question period.

- | | | |
|----|---------------------------------------|--|
| 13 | Student individual presentations | Students will give a short individual presentation to the class, regarding an interesting trend they have discovered in a popular business publication. A Q&A will follow, along with a brief discussion of the trend. |
| 14 | Semester review and group discussions | A review of the main points learned during the semester. Group discussions will follow regarding the application of the principles learned to the life of each individual student. |

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Home preparation for student presentations is a minimum of 4 hours per week required.

【テキスト（教科書）】

Global Links 2, English for International Business, Angela Blackwell, Longman, ISBN 9780130883964

【参考書】

None

【成績評価の方法と基準】

Participation in class discussion and activities : 40%

Tests : 20%

Presentations : 40%

【学生の意見等からの気づき】

Not applicable

【学生が準備すべき機器他】

None

【その他の重要事項】

None

LANe200CA
Business Communication I B
GLENN FERN
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位
初回の授業に出席し担当教員の指示を受ける。

その他属性：〈グ〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

The goal of this course is to assist students acquire the critical English language skills, necessary to develop a better understanding of International Business. Students will be asked to actively participate in a wide variety of activities, designed to develop the core English competencies of reading, writing, listening, speaking, specialized business vocabulary, critical thinking skills, and simple presentations related to business. Students will be expected to actively practice these skills by listening; to a short pod cast, reading, writing, and discussing topics related to business with in a controlled environment. Students will be given homework and assignments. The teacher will ask students to use the assigned textbook, in order to help develop these skills. Students will be expected to actively participate in a variety of oral communication activities, so they will feel comfortable using English to gather information and express their thoughts. Please note that changes to the course will be made as necessary to accommodate the needs of students and the class.

【到達目標】

The goal of this course is to assist students acquire the critical English language skills, necessary to develop a better understanding of International Business.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

Lecture, individual tasks, pair work, group work, and listening exercises. Feedback for class assignments and tests will be given on Hoppii, FORUM.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Course introduction	Course introduction to learning methodology, topics and expectations of the kind of contribution students will be expected to make to this class during the second semester. Students will be asked to familiarize themselves with Unit 6 in the textbook, Describing Processes.
2	Describing processes	Students will complete a variety of listening and speaking exercises in Unit 6, Describing Processes. Students will learn how to describe a variety of business processes.

3	Describing processes group work	Group work: Students will work together to develop a presentation describing a business process of their own choice. The instructor will guide and assist students in the development of their presentation, as required.
4	Presentation practice and presentation skills	Students will edit and practice their presentation to be given in the next class. The instructor will provide advice and guidance as necessary, along with instruction in presentation skills.
5	Group presentations and discussion	Students will give their presentation in class, and answer questions from the instructor and other students. Emphasis will be placed upon critical thinking skills, problem solving, and a well organized presentation. A discussion will follow after the presentation, regarding important points raised during the question period.
6	Corporate problem solving	Students will complete a variety of listening and speaking exercises in Unit 5, Turning a Company Around. Students will learn how to identify a problem and develop a plan to solve the problem.
7	Corporate problem solving group work	Group work: Students will work together to develop a presentation describing a corporate problem and how a company solved that problem. Students will select a company of their own choice to present as a case study. The instructor will guide and assist students in the development of their presentation, as required.
8	Presentation practice and presentation skills	Students will edit and practice their presentation to be given in the next class. The instructor will provide advice and guidance as necessary, along with instruction in presentation skills.
9	Group presentations and discussion	Students will give their presentation in class, and answer questions from the instructor and other students. Emphasis will be placed upon critical thinking skills, problem solving, and a well organized presentation. A discussion will follow after the presentation, regarding important points raised during the question period.

10	Managing change in a corporation	Students will complete a variety of listening and speaking exercises in Unit 8, Managing Change. Students will learn about the importance of managing change at the personal and corporate level in a Darwinian world.
11	Managing change group work	Group work: Students will work together to develop a presentation, describing a change(s) a company had to make in order to adapt and achieve its corporate goals. Students will select a company of their own choice to present as a case study. The instructor will guide and assist students in the development of their presentation, as required.
12	Presentation practice and presentation skills	Students will edit and practice their presentation to be given in the next class. The instructor will provide advice and guidance as necessary, along with instruction in presentation skills.
13	Group presentations and discussion	Students will give their presentation in class, and answer questions from the instructor and other students. Emphasis will be placed upon critical thinking skills, problem solving, and a well organized presentation. A discussion will follow after the presentation, regarding important points raised during the question period.
14	Course review and discussion	A review of the main points learned during the semester. Group discussions will follow regarding the application of the principles learned to the life of each individual student.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Home preparation for student presentations is a minimum of 4 hours per week required.

【テキスト（教科書）】

Global Links 2, English for International Business, Angela Blackwell, Longman, ISBN 9780130883964

【参考書】

None

【成績評価の方法と基準】

Participation in class discussion and activities : 40%

Tests : 20%

Presentations : 40%

【学生の意見等からの気づき】

Not Applicable

【学生が準備すべき機器他】

None

【その他の重要事項】

None

LANe200CA
Business Communication I A
GLENN FERN
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位
初回の授業に出席し担当教員の指示を受ける。

その他属性：〈グ〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

The goal of this course is to assist students acquire the critical English language skills, necessary to develop a better understanding of International Business. Students will be asked to actively participate in a wide variety of activities, designed to develop the core English competencies of reading, writing, listening, speaking, specialized business vocabulary, critical thinking skills, and simple presentations related to business. Students will be expected to actively practice these skills by listening; to a short pod cast, reading, writing, and discussing topics related to business with in a controlled environment. Students will be given homework and assignments. The teacher will ask students to use the assigned textbook, in order to help develop these skills. Students will be expected to actively participate in a variety of oral communication activities, so they will feel comfortable using English to gather information and express their thoughts. Please note that changes to the course will be made as necessary to accommodate the needs of students and the class.

【到達目標】

The goal of this course is to assist students acquire the critical English language skills, necessary to develop a better understanding of International Business.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

Lecture, individual tasks, pair work, group work, and listening exercises. Feedback for class assignments and tests will be given on Hoppii, FORUM.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Course introduction	Course introduction to learning methodology, topics and expectations of the kind of contribution students will be expected to make to this class. Students will be asked to buy the textbook and be familiar with it for the next class.
2	Career choices	Career versus salary man. The difference between these difficult choices will be explored in a class lecture and group discussions.
3	Job search techniques	What is the best way to find your dream job? A variety of different job search techniques will be explored in class.

4	Resume	The difference between a traditional Japanese resume and a Western style resume in English will be explored. Students will create their own resume in English.
5	Job interview styles	The different types of job interviews used by companies around the world will be examined in class. Students will be expected to participate in a group discussion.
6	Job interview questions and simulations	Common job interview questions will be given and discussed. Job interview simulations will be practiced in class.
7	Interview Test	All students will be required to under go a one on one job interview test with the instructor. Individual feedback to students will be provided by the instructor.
8	Trends in business	The importance of being aware of and following common trends in business and society will be discussed. Students will examine popular business publications, and search for important business trends.
9	Describe the business of a company	An over view of the textbook, Global Links 2 will be given. Students will complete a variety of listening and speaking exercises in Unit 1, Talking About Your Company. Students will learn how to describe the business of a company.
10	Developing a presentation	Group work: Students will work together to develop a presentation describing the business of a company of their own choice. The instructor will guide and assist students in the development of their presentation, as required.
11	Presentation practice and presentation skills	Students will edit and practice their presentation to be given in the next class. The instructor will provide advice and guidance as necessary, along with instruction in presentation skills.
12	Student group presentations	Students will give their presentation in class, and answer questions from the instructor and other students. Emphasis will be placed upon critical thinking skills, problem solving, and a well organized presentation. A discussion will follow after the presentation, regarding important points raised during the question period.

- | | | |
|----|---------------------------------------|--|
| 13 | Student individual presentations | Students will give a short individual presentation to the class, regarding an interesting trend they have discovered in a popular business publication. A Q&A will follow, along with a brief discussion of the trend. |
| 14 | Semester review and group discussions | A review of the main points learned during the semester. Group discussions will follow regarding the application of the principles learned to the life of each individual student. |

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Home preparation for student presentations is a minimum of 4 hours per week required.

【テキスト（教科書）】

Global Links 2, English for International Business, Angela Blackwell, Longman, ISBN 9780130883964

【参考書】

None

【成績評価の方法と基準】

Participation in class discussion and activities : 40%

Tests : 20%

Presentations : 40%

【学生の意見等からの気づき】

Not applicable

LANe200CA
Business Communication I B
GLENN FERN
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位
初回の授業に出席し担当教員の指示を受ける。

その他属性：〈グ〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

The goal of this course is to assist students acquire the critical English language skills, necessary to develop a better understanding of International Business. Students will be asked to actively participate in a wide variety of activities, designed to develop the core English competencies of reading, writing, listening, speaking, specialized business vocabulary, critical thinking skills, and simple presentations related to business. Students will be expected to actively practice these skills by listening; to a short pod cast, reading, writing, and discussing topics related to business with in a controlled environment. Students will be given homework and assignments. The teacher will ask students to use the assigned textbook, in order to help develop these skills. Students will be expected to actively participate in a variety of oral communication activities, so they will feel comfortable using English to gather information and express their thoughts. Please note that changes to the course will be made as necessary to accommodate the needs of students and the class.

【到達目標】

The goal of this course is to assist students acquire the critical English language skills, necessary to develop a better understanding of International Business.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

Lecture, individual tasks, pair work, group work, and listening exercises. Feedback for class assignments and tests will be given on Hoppii, FORUM.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Course introduction	Course introduction to learning methodology, topics and expectations of the kind of contribution students will be expected to make to this class during the second semester. Students will be asked to familiarize themselves with Unit 6 in the textbook, Describing Processes.
2	Describing processes	Students will complete a variety of listening and speaking exercises in Unit 6, Describing Processes. Students will learn how to describe a variety of business processes.

3	Describing processes group work	Group work: Students will work together to develop a presentation describing a business process of their own choice. The instructor will guide and assist students in the development of their presentation, as required.
4	Presentation practice and presentation skills	Students will edit and practice their presentation to be given in the next class. The instructor will provide advice and guidance as necessary, along with instruction in presentation skills.
5	Group presentations and discussion	Students will give their presentation in class, and answer questions from the instructor and other students. Emphasis will be placed upon critical thinking skills, problem solving, and a well organized presentation. A discussion will follow after the presentation, regarding important points raised during the question period.
6	Corporate problem solving	Students will complete a variety of listening and speaking exercises in Unit 5, Turning a Company Around. Students will learn how to identify a problem and develop a plan to solve the problem.
7	Corporate problem solving group work	Group work: Students will work together to develop a presentation describing a corporate problem and how a company solved that problem. Students will select a company of their own choice to present as a case study. The instructor will guide and assist students in the development of their presentation, as required.
8	Presentation practice and presentation skills	Students will edit and practice their presentation to be given in the next class. The instructor will provide advice and guidance as necessary, along with instruction in presentation skills.
9	Group presentations and discussion	Students will give their presentation in class, and answer questions from the instructor and other students. Emphasis will be placed upon critical thinking skills, problem solving, and a well organized presentation. A discussion will follow after the presentation, regarding important points raised during the question period.

10	Managing change in a corporation	Students will complete a variety of listening and speaking exercises in Unit 8, Managing Change. Students will learn about the importance of managing change at the personal and corporate level in a Darwinian world.
11	Managing change group work	Group work: Students will work together to develop a presentation, describing a change(s) a company had to make in order to adapt and achieve its corporate goals. Students will select a company of their own choice to present as a case study. The instructor will guide and assist students in the development of their presentation, as required.
12	Presentation practice and presentation skills	Students will edit and practice their presentation to be given in the next class. The instructor will provide advice and guidance as necessary, along with instruction in presentation skills.
13	Group presentations and discussion	Students will give their presentation in class, and answer questions from the instructor and other students. Emphasis will be placed upon critical thinking skills, problem solving, and a well organized presentation. A discussion will follow after the presentation, regarding important points raised during the question period.
14	Course review and discussion	A review of the main points learned during the semester. Group discussions will follow regarding the application of the principles learned to the life of each individual student.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Home preparation for student presentations is a minimum of 4 hours per week required.

【テキスト（教科書）】

Global Links 2, English for International Business, Angela Blackwell, Longman, ISBN 9780130883964

【参考書】

None

【成績評価の方法と基準】

Participation in class discussion and activities : 40%

Tests : 20%

Presentations : 40%

【学生の意見等からの気づき】

Not applicable

LANe300CA

Business Communication II A

YONGUE JULIA SALLE

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：月 3/Mon.3 | キャンパス：多摩

毎年・隔年： | 科目主催学部：Economics

備考（履修条件等）：

その他属性：〈グ〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Students will discuss issues relating to the global economy through the study of one specific industry, fashion. The central question that students will consider is: How has the globalization of the fashion industry affected business strategies, society, and the environment in developed nations, particularly Japan, as well as in developing ones?

【到達目標】

Students will discuss issues relating to the global economy through the study of one specific industry, fashion. The central question that students will consider is: How has the globalization of the fashion industry affected business strategies, society, and the environment in developed nations, particularly Japan, as well as in developing ones?

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

Students will discuss readings related to the course theme. One special feature of the course is that it incorporates an 'active learning' component, whereby students design a fieldwork project with a connection to the fashion industry and present their findings in class.

*Feedback on assignments will be given in class or during office hours.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Introduction	Class expectations and explanations; self-introductions
2	What is globalization?	The pros and cons of globalization
3	What is fast fashion?	The fast fashion industry's business model (Zara)
4	Ethical fashion	The true cost of fast fashion (UNIQLO)
5	History of the global garment industry	The roots of today's global supply chains
6	Solutions (1): The circular economy	A business model for the secondhand economy
7	Fieldwork projects: midterm progress reports	Planning and discussing fieldwork projects
8	Solutions (2): alternative fabrics	Science meets fashion: sustainable luxury brands
9	Solutions (3): sustainable fashion	Zero-waste design and ethical business practices
10	The future of fashion	Impact of Covid-19 on the fashion industry (Gucci)
11	Assessment	In-class writing assignment (or quiz)

12	Business and sustainability	Presentations on fieldwork projects and discussion
13	Business and sustainability	Presentations on fieldwork projects and discussion
14	Final wrap up and review	Reassessing the impact of globalization on the fashion industry

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

(1) Taking business courses offered at Hosei

(2) Reading recent business news

(3) Preparing for class activities

Since the theme of the spring semester is the global fashion industry and its impact on the environment and society, having an interest in this topic is preferable.

Regular (daily) study (of about 2 hours total per week) is key to academic success. 本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

There is no textbook. Readings will be provided on Hoppii.

【参考書】

Selected references:

*Pietra Rivoli, The travels of a t-shirt in the global economy: an economist examines the markets, power, and politics of world trade, Wiley, 2014.

*Mark K Brewer, Slow fashion in a fast fashion world: promoting sustainability and responsibility, New Frontiers of Fashion Law, 9 Oct 2019.

*Connie Ulasewicz and Janet Hethorn, Sustainable fashion take action, Bloomsbury, 2023.

*Articles from publications such as The Nikkei Newspaper, The Atlantic, New York Times, The Japan Times, will be provided via the library databases.

【成績評価の方法と基準】

(1) Participation (40%). Students MUST attend all of the classes and express their opinions in discussions in order to receive a high grade. Attitude, punctuality, and overall effort are also important factors for evaluating student performance.

(2) Evaluation (60%): Students must score at least 60% on their evaluation (presentations) in order to pass the course. Due to the pandemic, the evaluation method and teaching method (face-to-face) are subject to change.

Should the class be held via zoom, students must keep their video camera on at all times, unless doing so would compromise their internet reception.

【学生の意見等からの気づき】

N/A. Students are welcome to make requests or voice complaints and concerns at any time during the semester.

【学生が準備すべき機器他】

Should the pandemic prevent us from meeting in person, students should secure a reliable high-speed internet connection in order to participate via zoom.

【その他の重要事項】

THIS CLASS IS LIMITED TO 20 STUDENTS. THOSE WHO WISH TO REGISTER MUST ATTEND THE FIRST CLASS.

This course is designed for IGESS students who are earning their degree in English. Japanese language degree students in the economic department or others may enroll with permission from the instructor.

LANe300CA
Business Communication II A
YONGUE JULIA SALLE
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位
初回の授業に出席し担当教員の指示を受ける。

その他属性：〈グ〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Students will discuss issues relating to the global economy through the study of one specific industry, fashion. The central question that students will consider is: How has the globalization of the fashion industry affected business strategies, society, and the environment in developed nations, particularly Japan, as well as in developing ones?

【到達目標】

Students will discuss issues relating to the global economy through the study of one specific industry, fashion. The central question that students will consider is: How has the globalization of the fashion industry affected business strategies, society, and the environment in developed nations, particularly Japan, as well as in developing ones?

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

Students will discuss readings related to the course theme. One special feature of the course is that it incorporates an 'active learning' component, whereby students design a fieldwork project with a connection to the fashion industry and present their findings in class.

*Feedback on assignments will be given in class or during office hours.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Introduction	Class expectations and explanations; self-introductions
2	What is globalization?	The pros and cons of globalization
3	What is fast fashion?	The fast fashion industry's business model (Zara)
4	Ethical fashion	The true cost of fast fashion (UNIQLO)
5	History of the global garment industry	The roots of today's global supply chains
6	Solutions (1): The circular economy	A business model for the secondhand economy
7	Fieldwork projects: midterm progress reports	Planning and discussing fieldwork projects
8	Solutions (2): alternative fabrics	Science meets fashion: sustainable luxury brands
9	Solutions (3): sustainable fashion	Zero-waste design and ethical business practices
10	The future of fashion	Impact of Covid-19 on the fashion industry (Gucci)
11	Assessment	In-class writing assignment (or quiz)

12	Business and sustainability	Presentations on fieldwork projects and discussion
13	Business and sustainability	Presentations on fieldwork projects and discussion
14	Final wrap up and review	Reassessing the impact of globalization on the fashion industry

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- (1) Taking business courses offered at Hosei
- (2) Reading recent business news
- (3) Preparing for class activities

Since the theme of the spring semester is the global fashion industry and its impact on the environment and society, having an interest in this topic is preferable.

Regular (daily) study (of about 2 hours total per week) is key to academic success. 本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

There is no textbook. Readings will be provided on Hoppii.

【参考書】

Selected references:

*Pietra Rivoli, The travels of a t-shirt in the global economy: an economist examines the markets, power, and politics of world trade, Wiley, 2014.

*Mark K Brewer, Slow fashion in a fast fashion world: promoting sustainability and responsibility, New Frontiers of Fashion Law, 9 Oct 2019.

*Connie Ulasewicz and Janet Hethorn, Sustainable fashion take action, Bloomsbury, 2023.

*Articles from publications such as The Nikkei Newspaper, The Atlantic, New York Times, The Japan Times, will be provided via the library databases.

【成績評価の方法と基準】

(1) Participation (40%). Students MUST attend all of the classes and express their opinions in discussions in order to receive a high grade. Attitude, punctuality, and overall effort are also important factors for evaluating student performance.

(2) Evaluation (60%): Students must score at least 60% on their evaluation (presentations) in order to pass the course. Due to the pandemic, the evaluation method and teaching method (face-to-face) are subject to change.

Should the class be held via zoom, students must keep their video camera on at all times, unless doing so would compromise their internet reception.

【学生の意見等からの気づき】

N/A. Students are welcome to make requests or voice complaints and concerns at any time during the semester.

【学生が準備すべき機器他】

Should the pandemic prevent us from meeting in person, students should secure a reliable high-speed internet connection in order to participate via zoom.

【その他の重要事項】

THIS CLASS IS LIMITED TO 20 STUDENTS. THOSE WHO WISH TO REGISTER MUST ATTEND THE FIRST CLASS.

This course is designed for IGESS students who are earning their degree in English. Japanese language degree students in the economic department or others may enroll with permission from the instructor.

LANe300CA
Business Communication II B
YONGUE JULIA SALLE
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位
初回の授業に出席し担当教員の指示を受ける。

その他属性：〈グ〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Students will learn about work and the workplace environment in Japan. Some of the issues they will consider are Japanese management practices, work-style reforms, new ways of working, the impact of changing economic and demographic circumstances, and marginalized populations. By taking this course, they can become familiar with work-related issues in Japan and their impact on society.

【到達目標】

Students will learn about work and the workplace environment in Japan. Some of the issues they will consider are Japanese management practices, work-style reforms, new ways of working, the impact of changing economic and demographic circumstances, and marginalized populations. By taking this course, they can become familiar with work-related issues in Japan and their impact on society.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

One special feature of the course is that it incorporates an 'active learning' component, whereby students design a fieldwork project with a connection to the Japanese workplace/working in Japan and present their findings in class. *Feedback on assignments will be given during office hours and/or during class.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Introduction	Class expectations and explanations; self-introductions
2	Why do we work?	Ikigai and the meaning of work
3	Japan's workplace culture	Communication in the Japanese workplace
4	The Japanese labor market	What is Japanese-style management?
5	The third arrow of Abenomics	Work-style reform and overwork: international comparisons
6	Covid-19 and the Japan's workplace environment	Changes in working patterns during and after Covid-19
7	Fieldwork project discussion	Discussing and planning fieldwork projects
8	Gender issues in Japan	Womenomics and ikumen
9	The rise of social inequalities	Marginalized populations in Japan
10	Assessment	In-class writing assignment (or quiz)

11	Issues relating to work/working in Japan	Student presentations and discussion
12	Issues relating to work/working in Japan	Student presentations and discussion
13	Issues relating to work/working in Japan	Student presentations and discussion
14	Final wrap up and review	Discussion: reassessing the Japanese workplace

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

(1) Taking business courses offered at Hosei
(2) Reading recent business news
(3) Preparing for class activities
Since the theme of the fall semester is "working in Japan," students who are interested in working for a Japanese company after graduation would benefit from taking this course.

Regular (daily) study (of about 2 hours total per week) is key to academic success. 本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

There is no textbook. Readings will be made available on Hoppii.

【参考書】

Selected references:

*Takatoshi Ito and Takeo Hoshi, The Japanese Economy, second edition, MIT Press, 2020.

*Erin Meyer, Culture Map: Decoding how people think, lead, and get things done, Public Affairs, 2015.

*Shinji Kojima, Scott North, Charles Weathers, Abe Shinzo's campaign to reform the Japanese way of working, Vo 15, Issue 23, No 3, Dec 1, 2017.

*Helen Macnaughtan, Womenomics for Japan: is the Abe policy for gendered employment viable in an era of precarity, Vol 13, Issue 13, No 1, April 5, 2015.

*Parissa Haghirian, Routledge Handbook and Japanese Business and Management, Routledge, 2016.

*Articles from publications including The Nikkei Newspaper, The Atlantic, New York Times, The Japan Times, etc.

【成績評価の方法と基準】

(1) Participation (40%). Students MUST attend all of the classes and express their opinions in discussions in order to receive a high grade. Attitude, punctuality, and overall effort are also important factors for evaluating student performance.
(2) Evaluation (60%): Students must score at least 60% on their evaluation (presentations) in order to pass the course. Due to the pandemic, the evaluation method and teaching method (face to face) are subject to change.

Should the class be held via zoom, students must keep their video camera on at all times, unless doing so would compromise their internet reception.

【学生の意見等からの気づき】

N/A. Students are welcome to make requests or voice complaints and concerns at any time during the semester.

【学生が準備すべき機器他】

Should the pandemic prevent us from meeting in person, students should secure a reliable high-speed internet connection in order to participate via zoom.

【その他の重要事項】

THIS CLASS IS LIMITED TO 20 STUDENTS. THOSE WHO WISH TO REGISTER MUST ATTEND THE FIRST CLASS.

This course is designed for IGESS students who are earning their degree in English. Japanese language degree students in the economic department or others may enroll with permission from the instructor.

LANe300CA

Business Communication II B

YONGUE JULIA SALLE

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位
 曜日・時限：月 3/Mon.3 | キャンパス：多摩
 毎年・隔年： | 科目主催学部：Economics
 備考（履修条件等）：
 その他属性：〈グ〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Students will learn about work and the workplace environment in Japan. Some of the issues they will consider are Japanese management practices, work-style reforms, new ways of working, the impact of changing economic and demographic circumstances, and marginalized populations. By taking this course, they can become familiar with work-related issues in Japan and their impact on society.

【到達目標】

Students will learn about work and the workplace environment in Japan. Some of the issues they will consider are Japanese management practices, work-style reforms, new ways of working, the impact of changing economic and demographic circumstances, and marginalized populations. By taking this course, they can become familiar with work-related issues in Japan and their impact on society.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

One special feature of the course is that it incorporates an 'active learning' component, whereby students design a fieldwork project with a connection to the Japanese workplace/working in Japan and present their findings in class.
 *Feedback on assignments will be given during office hours and/or during class.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
 あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
 あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Introduction	Class expectations and explanations; self-introductions
2	Why do we work?	Ikigai and the meaning of work
3	Japan's workplace culture	Communication in the Japanese workplace
4	The Japanese labor market	What is Japanese-style management?
5	The third arrow of Abenomics	Work-style reform and overwork: international comparisons
6	Covid-19 and the Japan's workplace environment	Changes in working patterns during and after Covid-19
7	Fieldwork project discussion	Discussing and planning fieldwork projects
8	Gender issues in Japan	Womenomics and ikumen
9	The rise of social inequalities	Marginalized populations in Japan
10	Assessment	In-class writing assignment (or quiz)

11	Issues relating to work/working in Japan	Student presentations and discussion
12	Issues relating to work/working in Japan	Student presentations and discussion
13	Issues relating to work/working in Japan	Student presentations and discussion
14	Final wrap up and review	Discussion: reassessing the Japanese workplace

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

(1) Taking business courses offered at Hosei
 (2) Reading recent business news
 (3) Preparing for class activities
 Since the theme of the fall semester is "working in Japan," students who are interested in working for a Japanese company after graduation would benefit from taking this course.
 Regular (daily) study (of about 2 hours total per week) is key to academic success. 本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

There is no textbook. Readings will be made available on Hoppii.

【参考書】

Selected references:
 *Takatoshi Ito and Takeo Hoshi, The Japanese Economy, second edition, MIT Press, 2020.
 *Erin Meyer, Culture Map: Decoding how people think, lead, and get things done, Public Affairs, 2015.
 *Shinji Kojima, Scott North, Charles Weathers, Abe Shinzo's campaign to reform the Japanese way of working, Vo 15, Issue 23, No 3, Dec 1, 2017.
 *Helen Macnaughtan, Womenomics for Japan: is the Abe policy for gendered employment viable in an era of precarity, Vol 13, Issue 13, No 1, April 5, 2015.
 *Parissa Haghirian, Routledge Handbook and Japanese Business and Management, Routledge, 2016.
 *Articles from publications including The Nikkei Newspaper, The Atlantic, New York Times, The Japan Times, etc.

【成績評価の方法と基準】

(1) Participation (40%). Students MUST attend all of the classes and express their opinions in discussions in order to receive a high grade. Attitude, punctuality, and overall effort are also important factors for evaluating student performance.
 (2) Evaluation (60%): Students must score at least 60% on their evaluation (presentations) in order to pass the course. Due to the pandemic, the evaluation method and teaching method (face to face) are subject to change.
 Should the class be held via zoom, students must keep their video camera on at all times, unless doing so would compromise their internet reception.

【学生の意見等からの気づき】

N/A. Students are welcome to make requests or voice complaints and concerns at any time during the semester.

【学生が準備すべき機器他】

Should the pandemic prevent us from meeting in person, students should secure a reliable high-speed internet connection in order to participate via zoom.

【その他の重要事項】

THIS CLASS IS LIMITED TO 20 STUDENTS. THOSE WHO WISH TO REGISTER MUST ATTEND THE FIRST CLASS.
 This course is designed for IGESS students who are earning their degree in English. Japanese language degree students in the economic department or others may enroll with permission from the instructor.

LANe300CA
Business Communication II A
JAY M TANAKA
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位
初回の授業に出席し担当教員の指示を受ける。

その他属性：〈グ〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

In this course students will learn basic business content related to investing and investment banking. Within this specific area of business, students will practice various English communication skills used in meetings, emails, and presentations. The course will utilize various authentic materials covering basic concepts in investment and financial markets, as well as current news and market movements.

【到達目標】

The goal of this course is for students to improve their business English communication skill by practicing authentic business activities. In addition, students will learn about basic business concepts in finance.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

Students will read and watch videos on various basic concepts in investing and investment banking. In addition, they will have the opportunity to learn basic information about a variety of companies. Students will also work in small groups to complete weekly communicative tasks. The primary tasks are: giving brief market reports, researching companies for investment, writing short analysis report emails, and giving presentations on investments. The teacher will provide guidance and structure for English vocabulary learning, how to write business emails, and how to organize presentations. Students will submit homework exercises and assignments in class and on Google Classroom. Feedback will be given to students in class and via Google Classroom.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Course Outline and Introductions	Class Expectations Explaining Daily Tasks Self-Introductions Making Teams
2	Stocks and Bonds	Readings Group worksheets Quiz New market report
3	Industry Sectors	Present market report Readings Group worksheets Quiz New market report Midterm presentation introduction
4	Diversification	Present market report Readings Group worksheets Quiz New market report

5	Stock Indices Benchmarks	Present market report Readings Group worksheets Quiz New market report
6	Price History Reporting Price Movements	Present market report Readings Group worksheets Quiz New market report
7	Stock Analyst Ratings Earnings Per Share	Present market report Readings Group worksheets Quiz
8	Company and stock overview	Midterm Presentations
9	Healthcare Sector	Final presentation project introduction Readings Group worksheets Quiz New market report
10	Information Technology Sector	Present market report Readings Group worksheets Quiz New market report
11	Communication Services Sector	Present market report Readings Group worksheets Quiz New market report
12	Consumer Discretionary Sector	Present market report Readings Group worksheets Quiz New market report
13	Consumer Staples Sector	Present market report Readings Group worksheets Quiz
14	Company overview Investment result reporting	Final Presentations

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Weekly homework will be approximately 4 hours of reading business news and research reports, and preparation of presentation content, and rehearsing for market reports. 本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 4 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

There is no textbook. News and market information will be gathered online.

【参考書】

None

【成績評価の方法と基準】

Participation 30%

Homework 30%: market report quality, email assignments

In class assignments 10%: discussion worksheets

Midterm presentation 10%

Final presentation 20%

【学生の意見等からの気づき】

Not Applicable

【学生が準備すべき機器他】

All students must bring a notebook computer (Chromebook is fine also) to every class.

【その他の重要事項】

Attendance and participation are very important in this class. Students should be serious about increasing their professional communication skills.

[English Language Skill Required: Intermediate level] - This course is designed for intermediate or advanced-level English learners who wish to improve their communication skill and gain some business knowledge.

[Business knowledge Required: None] - Students do not need any prior business knowledge or experience to join this course. The basic business knowledge needed to complete tasks will be covered in the course. However, students should have a strong interest in investment and business.

LANe300CA
Business Communication II B
JAY M TANAKA
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位
初回の授業に出席し担当教員の指示を受ける。

その他属性：〈グ〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

In this course students will learn basic business content related to investing and investment banking. Within this specific area of business, students will practice various English communication skills used in meetings, emails, and presentations. The course will utilize various authentic materials covering basic concepts in investment and financial markets, as well as current news and market movements.

【到達目標】

The goal of this course is for students to improve their business English communication skill by practicing authentic business activities. In addition, students will learn about basic business concepts in finance.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

Students will read and watch videos on various basic concepts in investing and investment banking. In addition, they will have the opportunity to learn basic information about a variety of companies. Students will also work in small groups to complete weekly communicative tasks. The primary tasks are: giving brief market reports, researching companies for investment, writing short analysis report emails, and giving presentations on investments. The teacher will provide guidance and structure for English vocabulary learning, how to write business emails, and how to organize presentations. Students will submit homework exercises and assignments in class and on Google Classroom. Feedback will be given to students in class and via Google Classroom.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Course Outline and Introductions	Class Expectations Explaining Daily Tasks Self-Introductions Making Teams
2	Bull Markets and Bear Markets	Readings Group worksheets Quiz New market report
3	Inflation and Investments	Present market report Readings Group worksheets Quiz New market report Midterm presentation introduction
4	Exchange Rates and Businesses	Present market report Readings Group worksheets Quiz New market report

5	Real Estate Sector	Present market report Readings Group worksheets Quiz New market report
6	Materials Sector	Present market report Readings Group worksheets Quiz New market report
7	Industrials Sector	Present market report Readings Group worksheets Quiz
8	Company and Stock overview	Midterm Presentations
9	Japan Stocks	Final presentation project introduction Readings Group worksheets Quiz New market report
10	Financials Sector	Present market report Readings Group worksheets Quiz New market report
11	Investment Banking vs Commercial Banking	Present market report Readings Group worksheets Quiz New market report
12	Buy-side vs Sell-side Investment banking	Present market report Readings Group worksheets Quiz New market report
13	Cryptocurrency	Present market report Readings Group worksheets Quiz
14	Company overview Investment result reporting	Final Presentations

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Weekly homework will be approximately 4 hours of reading business news and research reports, and preparation of presentation content, and rehearsing for market reports. 本授業の準備学習・復習時間は、合わせて4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

There is no textbook. News and market information will be gathered online.

【参考書】

None

【成績評価の方法と基準】

Participation 30%

Homework 30%: market report quality, email assignments

In class assignments 10%: discussion worksheets

Midterm presentation 10%

Final presentation 20%

【学生の意見等からの気づき】

Not Applicable

【学生が準備すべき機器他】

All students must bring a notebook computer (Chromebook is fine also) to every class.

【その他の重要事項】

Attendance and participation are very important in this class. Students should be serious about increasing their professional communication skills.

[English Language Skill Required: Intermediate level] - This course is designed for intermediate or advanced-level English learners who wish to improve their communication skill and gain some business knowledge.

[Business knowledge Required: None] - Students do not need any prior business knowledge or experience to join this course. The basic business knowledge needed to complete tasks will be covered in the course. However, students should have a strong interest in investment and business.

LAW200CA
日本国憲法 A
村元 宏行
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

皆さんは本学で経済学を学んでいる。経済学にせよ、社会福祉を学ぶにせよ、またその他の分野を学ぶにせよ、社会制度の多くは法によって定められている。いうまでもなく憲法は国の最高法規であるから、どんな分野の法であっても、憲法に違反するものは効力を有しない。したがって、憲法を学ぶことは、どんな分野を学ぶにしても、重要な関わりがある。

また、主専攻との関係を意識するでもなく、現実には生起している憲法問題を学ぶことによって、さまざまな社会問題と向き合うことは、皆さんがこれから一市民として生活していくにあたって、重要なことである。

この授業では憲法の概論のオーソドックスなスタイルとして、春期科目として人権を主にとりあげ（秋期科目で統治機構を扱う）、それらの歴史的、社会的背景もとりあげることとする。

【到達目標】

憲法が存在する意義について理解できる。
日本国憲法の構造（人権）について理解できる。
現実に生起している憲法上の争点について整理し、自分なりの見解をまとめることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP8」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】

授業はレジュメに沿って講義形式で行う。ただし一方通行にならないためにも、毎回小レポート（リアクションペーパー）を提出してもらい、授業の初めにいくつかを取り上げ、全体に対してフィードバックを行うなど、授業に取り入れていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	受講に際しての諸注意など。
第 2 回	憲法とは何か	立憲主義について学ぶ。
第 3 回	日本国憲法の誕生	憲法の制定過程について学ぶ。
第 4 回	国民主権と象徴天皇制	国民主権の意義や象徴天皇制の概要を学ぶ。
第 5 回	憲法 9 条と平和主義（その 1）	憲法 9 条制定の背景等を学ぶ。
第 6 回	憲法 9 条と平和主義（その 2）	憲法 9 条をめぐる裁判等について学ぶ。
第 7 回	基本的人権（基本的人権とは）	憲法で基本的人権が保障されている意義について学ぶ。
第 8 回	基本的人権（基本的人権の類型と人権保障の限界）	自由権や社会権などの人権分類と、公共の福祉などの人権制約の概念を学ぶ。
第 9 回	基本的人権（包括的基本人権）	憲法 13 条の幸福追求権について学ぶ。
第 10 回	基本的人権（自由権 その 1）	精神的自由権について学ぶ。
第 11 回	基本的人権（自由権 その 2）	人身の自由と経済的自由権について学ぶ。
第 12 回	基本的人権（社会権 その 1）	生存権について学ぶ。
第 13 回	基本的人権（社会権 その 2）	教育を受ける権利、勤労の権利について学ぶ。
第 14 回	基本的人権（参政権）、国民の義務	選挙権などの参政権と、国民の義務について学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎時限毎にわからない事柄について自宅学習を行うことはもちろんのこと、新聞等で憲法をめぐる時事問題について把握しておき、どのような意見対立があるのかといった点について把握しておくことが求められます。予習と復習は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しない。
ただし、授業に六法の持参を求めるが、詳しくは初回授業で指示する。

【参考書】

授業において紹介する。

【成績評価の方法と基準】

定期試験（50％）：授業内容を踏まえて憲法の基本的概念について説明し、自己の見解をまとめることができるかどうかを評価する。

小レポート（50％）：授業の感想や意見、質問を書く（リアクションペーパー）。

【学生の意見等からの気づき】

今年度から担当

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを利用する場合がある。

【なし】

なし

【なし】

なし

【なし】

なし

【なし】

なし

【なし】

なし

【Outline (in English)】

Course outline

The purpose of this lecture is to understand the basic principle that supports the Constitutional law and its historical background.

Learning Objectives

The goals of this course are to understand the basic principle that supports the Constitutional law and its historical background

Learning activities outside of classroom

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading Criteria /Policies

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination: 50%, Short reports : 50%

LAW200CA
日本国憲法 B
村元 宏行
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

皆さんは本学で経済学を学んでいる。経済学にせよ、社会福祉を学ぶにせよ、またその他の分野を学ぶにせよ、社会制度の多くは法によって定められている。いうまでもなく憲法は国の最高法規であるから、どんな分野の法であっても、憲法に違反するものは効力を有しない。したがって、憲法を学ぶことは、どんな分野を学ぶにしても、重要な関わりがある。

また、主専攻との関係を意識するでもなく、現実生起している憲法問題を学ぶことによって、さまざまな社会問題と向き合うことは、皆さんがこれから一市民として生活していくにあたって、重要なことである。

この授業では憲法の概論のオーソドックスなスタイルとして、秋学期授業として統治機構を主にとりあげ（人権は春学期に取り上げる）、それらの歴史的、社会的背景もとりあげることとする。

【到達目標】

憲法が存在する意義について理解できる。
日本国憲法の構造（統治機構）について理解できる。
現実生起している憲法上の争点について整理し、自分なりの見解をまとめることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP8」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】

授業はレジュメに沿って講義形式で行う。ただし一方通行にならないためにも、毎回小レポート（リアクションペーパー）を提出してもらい、授業の初めにいくつかを取り上げ、全体に対してフィードバックを行うなど、授業に取り入れていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス、統治制度と権力分立制	権力分立制の意義について学ぶ。
第 2 回	立法権（その 1）	立法権について概要を学ぶ。
第 3 回	立法権（その 2）	立法権を担う国会の諸問題について学ぶ。
第 4 回	行政権（その 1）	行政権についてその範囲や概要を学ぶ。
第 5 回	行政権（その 2）	行政権を担う内閣や、行政機関をめぐる諸問題について学ぶ。
第 6 回	司法権（その 1）	司法権の独立など、司法権の概要を学ぶ。
第 7 回	司法権（その 2）	司法権を担う裁判所をめぐる諸問題を学ぶ。
第 8 回	地方自治	地方自治の本旨や、地方自治をめぐる諸問題を学ぶ。
第 9 回	財政	財政民主主義など、財政規定の概要を学ぶ。
第 10 回	憲法改正（その 1）	憲法改正について、議論の変遷を学ぶ。
第 11 回	憲法改正（その 2）	憲法改正をめぐる現代的争点を学ぶ。
第 12 回	憲法をめぐる現代的課題（その 1）	これまでの授業を踏まえ、憲法に関する現代的課題を取り上げて学ぶ。
第 13 回	憲法をめぐる現代的課題（その 2）	これまでの授業を踏まえ、憲法に関する現代的課題をもう一つ取り上げて学ぶ。
第 14 回	授業のまとめ	授業のまとめをする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎時限毎にわからない事柄について自宅学習を行うことはもちろんのこと、新聞等で憲法をめぐる時事問題について把握しておき、どのような意見対立があるのかといった点について把握しておくことが求められます。予習と復習は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しない。
ただし、授業に六法の特参を求めるが、詳しくは初回授業で指示する。

【参考書】

授業において紹介する。

【成績評価の方法と基準】

定期試験（50％）：授業内容を踏まえて憲法の基本的概念について説明し、自己の見解をまとめることができるかどうかを評価する。
小レポート（50％）：授業の感想や意見、質問を書く（リアクションペーパー）。

【学生の意見等からの気づき】

今年度から担当

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを利用する場合がある。

【なし】

なし

【なし】

なし

【なし】

なし

【なし】

なし

【なし】

なし

【Outline (in English)】

Course outline

The purpose of this lecture is to understand the basic principle that supports the Constitutional law and its historical background.

Learning Objectives

The goals of this course are to understand the basic principle that supports the Constitutional law and its historical background

Learning activities outside of classroom

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading Criteria /Policies

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination: 50%、Short reports : 50%

LAW200CA
民法一部 A
上杉 めぐみ
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

民法の基本的知識を身につけることを目的として、民法典のうち、財産法に共通する「総則」を学ぶ。

【到達目標】

民法総則（民法典第1編）について、基本的な知識を修得し、民法に関する横断的な思考力を修得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP8」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】

本授業は、フルオンデマンド形式で行われる。

あらかじめ配信されたレジュメに従って授業が進められる。

毎回提出を求める課題については、次回の授業中において解説を行うので、それを確認しながら、知識の定着を図ることが求められる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	民法とは何か
第2回	総則①	権利能力・意思能力
第3回	総則②	制限行為能力
第4回	総則③	制限行為能力者の相手方の保護
第5回	総則④	物
第6回	総則⑤	法律行為
第7回	総則⑥	意思表示（1）心裡留保、虚偽表示
第8回	総則⑦	意思表示（2）錯誤
第9回	総則⑧	意思表示（3）詐欺、強迫
第10回	総則⑨	代理（1）代理概論
第11回	総則⑩	代理（2）表見代理
第12回	総則⑪	代理（3）無権代理
第13回	総則⑫	法人
第14回	まとめ	練習問題と解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

レジュメは、授業支援システムにアップロードしますので、受講者は、事前にダウンロードして、講義の予習に役立ててください。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

六法（いずれの出版社のものでもよい）

【参考書】

潮見佳男『民法（全）【第3版】』（有斐閣）

我妻榮・有泉亨・川井健・鎌田薫『民法1【第4版】』（勁草書房）

道垣内弘人『リーガルベシス民法入門【第4版】』（日本経済新聞社）

【成績評価の方法と基準】

毎回配布される課題（平常点）（30％）と学期末に課される「春学期最終課題」（レポート）による評価（70％）

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

音声付きのパワーポイントファイルをダウンロードの上、視聴できるパソコンやスマートホンなど。

【Outline (in English)】

This course deals with the general principle of Japanese Civil Code.

The goal of this course is to acquire the basic knowledge about Civil Code.

Before/after each class, students will be expected to spend 2 hours each to understand the course content.

Grading will be decided based on Homework:30% and Final report:70%.

LAW200CA
民法一部 B
上杉 めぐみ
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、契約法との関係を意識しながら、民法総則、物権法（担保物権を除く）を学び、民法の知識を習得することを目的とする。

【到達目標】

物権（第2編第1、2、3章）について基本的な知識を修得できるとともに、民法に関する法的思考力を修得することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP8」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】

本授業は、フルオンデマンド形式で行われる。

あらかじめ配信されたレジュメに従って授業が進められる。

毎回提出を求める課題については、次回の授業中において解説を行うので、それを確認しながら、知識の定着を図ることが求められる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	総則⑬	民法一部 A の復習
第2回	総則⑭	無効・取消し
第3回	総則⑮	条件・期限
第4回	総則⑯	時効（1）時効概論
第5回	総則⑰	時効（2）取得時効・消滅時効
第6回	総則⑱	時効（3）効果・援用者の範囲
第7回	物権①	物権法概論
第8回	物権②	所有権
第9回	物権③	物権的請求権
第10回	物権④	占有権
第11回	物権⑤	物権変動（1）物権変動と登記
第12回	物権⑥	物権変動（2）第三者の範囲
第13回	物権⑦	物権変動（3）動産物権変動、公信の原則
第14回	まとめ	練習問題と解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

レジュメは、授業支援システムにアップロードしますので、受講者は、事前にダウンロードして、講義の予習に役立ててください。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

六法全書（いずれの出版社のものでもよい）

【参考書】

潮見佳男『民法（全）【第3版】』（有斐閣）

我妻榮・有泉亨・川井健・鎌田薫『民法1【第4版】』（勁草書房）

道垣内弘人『リーガルベシス民法入門【第4版】』（日本経済新聞社）

【成績評価の方法と基準】

毎回提示される課題（平常点）（30%）と学期末に課される（レポート）による評価（70%）

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

音声付きのパワーポイントファイルをダウンロードの上、視聴できるパソコンやスマートホンなど。

【Outline (in English)】

This course aims to introduce you to the general principles

of the Japanese Civil Code and property laws, paying close attention to their functions in Contract Law.

The goal of this course is to acquire the basic knowledge about Civil Code.

Before/after each class, students will be expected to spend 2 hours each to understand the course content.

Grading will be decided based on Homework:30% and Final report:70%.

LAW300CA
民法二部 A
上杉 めぐみ
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

民法のうち、当事者の意思により債権が発生する契約法と、当事者の意思にかかわらず債権が発生する不当利得法、不法行為法について学ぶ。

【到達目標】

- ①社会生活を行うにあたり発生しうるトラブルに備えて、また、トラブルが発生した場合の解決方法として、契約法を修得する。
- ②不当利得法や不法行為法について、基本的な知識を修得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP8」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】

本授業は、フルオンデマンド形式で行われる。

あらかじめ配信されたレジュメに従って授業が進められる。毎回提出を求める課題については、次回の授業中において解説を行うので、それを確認しながら、知識の定着を図ることが求められる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	契約法総論①	契約法概論
第 2 回	契約法総論②	契約の成立
第 3 回	契約法総論③	同時履行の抗弁権・危険負担
第 4 回	契約法総論④	契約の解除
第 5 回	契約法各論①	贈与・売買
第 6 回	契約法各論②	売主の契約不適合責任
第 7 回	契約法各論③	買戻し、交換
第 8 回	契約法各論④	消費貸借、使用貸借
第 9 回	契約法各論⑤	賃貸借
第 10 回	契約法各論⑥	雇用、請負、委任、寄託その他
第 11 回	法定債権①	事務管理、不当利得
第 12 回	法定債権②	不法行為の意義、成立要件、効果
第 13 回	法定債権③	特殊な不法行為
第 14 回	まとめ	練習問題と解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

レジュメは、授業支援システムにアップロードしますので、受講者は、事前にダウンロードして、講義の予習に役立ててください。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

六法全書（いずれの出版社のものでもよい）

【参考書】

潮見佳男『民法（全）【第 3 版】』（有斐閣）
我妻榮・有泉亨・川井健・野村豊弘・沖野眞己『民法 2 【第 4 版】』（勁草書房）
道垣内弘人『リーガルバイシス民法入門』（日本経済新聞社）

【成績評価の方法と基準】

春学期最後に出される課題の成績（70%）と、毎回の復習課題の提出状況及び内容（30%）による。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

音声付きのパワーポイントファイルをダウンロードの上、視聴できるパソコンやスマートホンなど。

【その他の重要事項】

「民法 1 部」を履修済みか、履修中であることが望ましい。

【Outline (in English)】

This course focuses on contract law, tort law and unjust enrichment of the Japanese Civil Code.

The goal of this course is to acquire the basic knowledge about Civil Code.

Before/after each class, students will be expected to spend 2 hours each to understand the course content.

Grading will be decided based on Homework:30% and Final report:70%.

LAW300CA
民法二部 B
上杉 めぐみ
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

債権総論、保証制度、担保物権制度など、ビジネス運営に必要な法的知識について広く学ぶ。

【到達目標】

「保証」「債権譲渡」「抵当権」などビジネスシーンにおいて重要な法的知識を得ることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP8」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】

本授業は、フルオンデマンド形式で行われる。

あらかじめ配信されたレジュメに従って授業が進められる。

毎回提出を求める課題については、次回の授業中において解説を行うので、それを確認しながら、知識の定着を図ることが求められる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	債権総論①	債権法概論
第 2 回	債権総論②	債権の効力（1）強制履行・債務不履行
第 3 回	債権総論③	債権の効力（2）損害賠償
第 4 回	債権総論④	責任財産の保全
第 5 回	債権総論⑤	弁済
第 6 回	債権総論⑥	相殺
第 7 回	債権総論⑦	債権譲渡
第 8 回	債権総論⑧	分割債務・不可分債務
第 9 回	債権総論⑨	連帯債務
第 10 回	債権総論⑩	保証債務
第 11 回	担保物権①	留置権・先取特権・質権
第 12 回	担保物権②	抵当権
第 13 回	担保物権③	譲渡担保
第 14 回	まとめ	練習問題と解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

レジュメは、授業支援システムにアップロードしますので、受講者は、事前にダウンロードして、講義の予習に役立ててください。

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

六法全書（いずれの出版社のものでもよい）

【参考書】

潮見佳男『民法（全）【第 3 版】』（有斐閣）

我妻榮・有泉亨・川井健・野村豊弘・沖野真己『民法 2【第 4 版】』（勁草書房）

道垣内弘人『リーガルバイシス民法入門』（日本経済新聞社）

【成績評価の方法と基準】

秋学期の最後に出される課題の成績（70%）と、毎回の復習課題の提出状況及び内容（30%）による。

【学生の意見等からの気づき】

復習課題提出期限後は、自己採点と復習ができるよう、解答と解説が Hoppii 上で公表される。

【学生が準備すべき機器他】

音声付きのパワーポイントファイルをダウンロードの上、視聴できるパソコンやスマートホンなど。

【Outline (in English)】

The purpose of the course is to introduce you to the general principles of the Japanese Civil Code, paying close attention to information required to operate the business.

The goal of this course is to acquire the basic knowledge about Civil Code.

Before/after each class, students will be expected to spend 2 hours each to understand the course content.

Grading will be decided based on Homework:30% and Final report:70%.

LAW200CA
商法一部 A
笹久保 徹
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は商法の会社法に関する講義である。受講生には、本授業を通じて、経済活動の主役である会社（特に株式会社）を規律する会社法の概要を理解し、会社に関連する問題に関心を持ってもらう。

【到達目標】

・会社法上の諸制度を理解し、条文から制度を説明できるようにする。
・自分の身の周りや実社会において生じている会社法上の問題に気づき、会社法による解決策を考えられるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

本授業は講義形式である。会社法は受講生がイメージを持ちづらい科目であるため、授業は基礎的事項の解説に重点を置き、丁寧に進める。資料を配布し、図等を使用して、受講生ができるかぎり容易に理解できるように講義する。授業の中で、リアクションペーパーや課題（試験等）に関して講評する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス、総論	ガイダンス、用語の解説
第2回	株式会社の機関 総論	機関の概要に関する解説
第3回	株主総会 1	株主総会の権限等の解説
第4回	株主総会 2	株主総会の議事等の解説
第5回	株主総会 3	株主総会の決議等の解説
第6回	取締役 1	取締役の権限等の解説
第7回	取締役 2	取締役会の決議等の解説
第8回	取締役 3	代表取締役の解説
第9回	取締役 4	取締役の義務の解説
第10回	取締役 5	取締役の会社に対する責任の解説
第11回	取締役 6	責任追及の方法の解説
第12回	取締役 7	取締役の第三者に対する責任に関する解説
第13回	監査役・会計監査人	監査役等の解説
第14回	指名委員会等設置会社等	指名委員会等設置会社等に関する解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業1回に付き、学生の予習時間は1時間、復習時間は3時間を目安とする。予習は参考書（柴田和史『日経文庫ビジュアル 図でわかる会社法〔第2版〕』）を読むこと。復習は、六法を開いて会社法の条文を参照しつつ、講義で配布した配布物や指定テキストを熟読すること。

【テキスト（教科書）】

柴田和史『会社法詳解〔第3版〕』（商事法務、2021）。

【参考書】

・柴田和史『日経文庫ビジュアル 図でわかる会社法〔第2版〕』（日本経済新聞出版社、2021）
・神作裕之ほか編『会社法判例百選〔第4版〕』別冊ジュリスト No.254（有斐閣、2021）
・長谷部由起子ほか編『デイリー六法 2023 令和5年版』（三省堂、2022）

【成績評価の方法と基準】

期末試験（80%）及び平常点（20%）による。到達目標との関係上、試験内容は会社法の基礎的な理解を問うものとする。

【学生の意見等からの気づき】

資料等の配布と図解が受講生に好評なため、引き続き行う。

【その他の重要事項】

受講生は最新の六法を使用すること。テキスト及び参考書は、新しい版が出版される可能性があるため、初回の授業で講師の説明を受けてから購入した方がよい。

【Outline (in English)】

This course introduces the foundations of the corporation law to students taking this course. The aim of this course is to help students acquire an understanding of clauses and fundamental principles of the corporation law. The goals of this course are to (1) able to obtain basic knowledge about the corporation law, (2) able to explain clauses and systems of the corporation law, (3) able to understand the relationship between the corporation law and our society. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Your overall grade in the class will be decided based on the following : Term-end examination 80%, in class contribution 20%.

LAW200CA
商法一部 B
笹久保 徹
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は商法の会社法に関する講義である。受講生には、本授業を通じて、経済活動の主役である会社（特に株式会社）を規律する会社法の概要を理解し、会社に関連する問題に関心を持ってもらう。

【到達目標】

・会社法上の諸制度を理解し、条文から制度を説明できるようにする。
・自分の身の周りや実社会において生じている会社法上の問題に気づき、会社法による解決策を考えられるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

本授業は講義形式である。会社法は受講生がイメージを持ちづらい科目であるため、授業は基礎的事項の解説に重点を置き、丁寧に進める。資料を配布し、図等を使用して、受講生ができるかぎり容易に理解できるように講義する。授業の中で、リアクションペーパーや課題（試験等）に関して講評する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス 会社法 総論	ガイダンス、前提知識・用語等の解説、春学期の復習
第 2 回	株式会社の設立 1	設立の概要に関する解説
第 3 回	株式会社の設立 2	設立手続きの解説
第 4 回	株式会社の設立 3	設立の瑕疵に関する解説
第 5 回	株式会社の設立 4	設立の論点に関する解説
第 6 回	株式 1	株式の概要、株主の権利等に関する解説
第 7 回	株式 2	株式の内容・種類の解説
第 8 回	株式 3	株主名簿・株券の解説
第 9 回	株式 4	株式譲渡の解説
第 10 回	株式 5	株式併合・分割等の解説
第 11 回	募集株式 1	募集株式の概要の解説
第 12 回	募集株式 2	募集株式の発行等の手続きに関する解説
第 13 回	募集株式 3	募集株式の発行等の瑕疵等の解説
第 14 回	新株予約権	新株予約権の解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業 1 回につき、学生の予習時間は 1 時間、復習時間は 3 時間を目安とする。予習は参考書（柴田和史『日経文庫ビジュアル 図でわかる会社法〔第 2 版〕』）を読むこと。復習は、六法を開いて会社法の条文を参照しつつ、講義で配布した配布物や指定テキストを熟読すること。

【テキスト（教科書）】

柴田和史『会社法詳解〔第 3 版〕』（商事法務、2021）。

【参考書】

・柴田和史『日経文庫ビジュアル 図でわかる会社法〔第 2 版〕』（日本経済新聞出版社、2014）
・神作裕之ほか編『会社法判例百選〔第 4 版〕』別冊ジュリスト No.254（有斐閣、2021）
・長谷部由起子ほか編『デイリー六法 2023 令和 5 年版』（三省堂、2022）

【成績評価の方法と基準】

期末試験（80 %）及び平常点（20 %）による。到達目標との関係上、試験内容は会社法の基礎的な理解を問うものとする。

【学生の意見等からの気づき】

資料等の配布と図解が受講生に好評なため、引き続き行う。

【その他の重要事項】

受講生は最新の六法を使用すること。テキスト及び参考書は、新しい版が出版される可能性があるため、初回の授業で講師の説明を受けてから購入した方がよい。

【Outline (in English)】

This course introduces the foundations of the corporation law to students taking this course. The aim of this course is to help students acquire an understanding of clauses and fundamental principles of the corporation law. The goals of this course are to (1) able to obtain basic knowledge about the corporation law, (2) able to explain clauses and systems of the corporation law, (3) able to understand the relationship between the corporation law and our society. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Your overall grade in the class will be decided based on the following : Term-end examination 80%, in class contribution 20%.

LAW300CA
商法二部 A
笹久保 徹
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は商法総則及び商行為法を解説するものである。商法総則・商行為法は企業法の総論的な部分であり、受講生が企業に関連する他の科目（会社法等）を学ぶ上でも役立つものである。受講生には、本授業を通じて商法に慣れ親しみ、会社法、手形法・小切手法、保険法等にも興味を持ってもらう。

【到達目標】

・商法を学ぶために必要な基礎的概念や法理念を理解する。
 ・商法総則及び商行為法の条文から制度を説明できるようにする。
 ・商法に関心を持ち、社会に生じる問題を商法の視点から分析できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

本授業は講義形式である。初めて商法を学ぶ受講生がほとんどであろうから、基礎的な事項をできる限り丁寧に、わかりやすく解説する。授業の中で、リアクションペーパーや課題（試験等）に関して講評する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンスと概要	ガイダンス、法律学一般の解説。
第 2 回	商法の意義と法源	商法の意義と法源を解説する。
第 3 回	商人と商行為 1	商人について解説する。
第 4 回	商人と商行為 2	商行為を解説する。
第 5 回	商号 1	商号の意義を解説する。
第 6 回	商号 2	商号を解説する。
第 7 回	商業登記	商業登記を解説する。
第 8 回	商業使用人 1	支配人を解説する。
第 9 回	商業使用人 2	支配人以外の商業使用人を解説する。
第 10 回	代理商	代理商を解説する。
第 11 回	営業 1	営業の概要を解説する。
第 12 回	営業 2	営業譲渡を解説する。
第 13 回	商業帳簿	商業帳簿を解説する。
第 14 回	商法総則 事例研究	重要判例を解説する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業 1 回に付き、学生の予習時間は 1 時間、復習時間は 3 時間を目安とする。予習は各自ができる範囲でやること。復習の際には、授業内での配布物及びテキストを熟読すること。必ず条文を参照しつつ、復習すること。

【テキスト（教科書）】

近藤光男『商法総則・商行為法〔第 8 版〕』（有斐閣法律学叢書）（有斐閣、2019）

【参考書】

・神作裕之＝藤田友敬編『商法判例百選』（別冊ジュリスト No.243）（有斐閣、2019 年）
 ・長谷部由起子ほか編『デイリー六法 2023 令和 5 年版』（三省堂、2022）

【成績評価の方法と基準】

期末試験（80％）及び平常点（20％）による。到達目標との関係上、試験内容は基礎的な理解を問うものとする。

【学生の意見等からの気づき】

資料と図解を用いた説明が好評のため、引き続き行う。

【その他の重要事項】

受講生は最新の六法を使用すること。テキスト及び参考書は、新しい版が出版される可能性があるため、初回の授業で講師の説明を受けてから購入した方がよい。

なお、本授業は「商法一部（会社法）」の履修済みを前提としていないため、両授業を並行して履修してもかまわない。

【Outline (in English)】

This course introduces general rules and transactions of the commercial law to students taking this course. The aim of this course is to help students acquire an understanding of clauses and fundamental principles of the commercial law. The goals of this course are to (1) able to obtain basic knowledge about the commercial law, (2) able to explain clauses and systems of the commercial law, (3) able to understand the relationship between the commercial law and our society. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Your overall grade in the class will be decided based on the following : Term-end examination 80%, in class contribution 20%.

LAW300CA
商法二部 B
笹久保 徹
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は商法総則及び商行為法を解説するものである。商法総則・商行為法は企業法の総論的な部分であり、受講生が企業に関連する他の科目（会社法等）を学ぶ上でも役立つものである。受講生には、本授業を通じて商法に慣れ親しみ、会社法、手形法・小切手法、保険法等にも興味を持ってもらう。

【到達目標】

・商法を学ぶために必要な基礎的概念や法理念を理解する。
 ・商法総則及び商行為法の条文から制度を説明できるようにする。
 ・商法に関心を持ち、社会に生じる問題を商法の視点から分析できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

本授業は講義形式である。初めて商法を学ぶ受講生がほとんどであろうから、基礎的な事項をできる限り丁寧に、わかりやすく解説する。本授業の受講生は、春学期の「商法二部A」を受講していることが望ましいが、本授業から受講してもかまわない。授業の中で、リアクションペーパーや課題（試験等）に関して講評する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス、春学期の復習	ガイダンスおよび春学期の復習。
第 2 回	商行為法 総則 1	商行為法の概論の解説。
第 3 回	商行為法 総則 2	商行為の代理等の解説。
第 4 回	商事売買 1	商事売買の概論の解説。
第 5 回	商事売買 2	買主の義務等の解説。
第 6 回	匿名組合	匿名組合の解説。
第 7 回	運送営業 1	物品運送の解説。
第 8 回	運送営業 2	旅客運送の解説。
第 9 回	寄託	寄託の解説。
第 10 回	仲立営業	仲立営業等の解説。
第 11 回	運送取扱営業	運送取扱営業の解説。
第 12 回	倉庫営業	倉庫営業の解説。
第 13 回	交互計算	交互計算の解説。
第 14 回	商行為法 事例研究	重要判例の解説。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業 1 回につき、学生の予習時間は 1 時間、復習時間は 3 時間を目安とする。予習は各自ができる範囲でやること。復習の際には、授業内での配布物及びテキストを熟読すること。必ず条文を参照しつつ、復習すること。

【テキスト（教科書）】

近藤光男「商法総則・商行為法〔第 8 版〕」（有斐閣法律学叢書）（有斐閣、2019）

【参考書】

・神作裕之＝藤田友敬編「商法判例百選」（別冊ジュリスト No.243）（有斐閣、2019 年）
 ・長谷部由起子ほか編『デューリー六法 2023 令和 5 年版』（三省堂、2022）

【成績評価の方法と基準】

期末試験（80％）及び平常点（20％）による。到達目標との関係上、試験内容は基礎的な理解を問うものとする。

【学生の意見等からの気づき】

資料と図解を用いた説明が好評のため、引き続き行う。

【その他の重要事項】

受講生は、最新の六法を持参すること。六法、テキスト、及び、参考書は、新しい版が出版される可能性もあるため、講師の説明を受けてから購入した方がよい。

本授業は「商法一部（会社法）」の履修済みを前提としていないため、両授業を並行して履修してもかまわない。

【Outline (in English)】

This course introduces general rules and transactions of the commercial law to students taking this course. The aim of this course is to help students acquire an understanding of clauses and fundamental principles of the commercial law. The goals of this course are to (1) able to obtain basic knowledge about the commercial law, (2) able to explain clauses and systems of the commercial law, (3) able to understand the relationship between the commercial law and our society. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Your overall grade in the class will be decided based on the following : Term-end examination 80%, in class contribution 20%.

LAW300CA
経済法 A
杉崎 弘
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

経済法、特にその中核をなす独占禁止法は「経済憲法」とも呼ばれ、事業活動の全般に適用される基本的なルールを定めたものとなっています。そのため、講義は独占禁止法の解説（解釈論）を中心に行います。ただし、同法の背景にある市場経済のシステムとその問題点を理解するうえで、会社法をはじめとする他の企業法の知識も欠かせません。講義では、企業法に広く目配りをし、経済社会の主要な法制度を俯瞰的に把握できるようになることを目指します。

【到達目標】

独占禁止法とは、「私的独占の禁止及び公正取引の確保に関する法律」を指します。この講義では、この名称が示す「私的独占」の規制を出発点として、「不当な取引制限」、企業結合の各規制に関する根拠条文の解釈と運用について学びます（事業者団体の規制には適宜触れます）。これらの規制により、独占禁止法が誰にどのような義務を課し、何を禁止しているのかを知り、同法に違反した場合に誰がどのような措置をとるのか（あるいはとることができるのか）を知ることを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

レジュメを配布し、それをもとに講義を行います。みなさんの主体的な「学び」を後押しできるように、適宜、自習教材を紹介します。講義後は、皆さんからの質問・意見を受け付け、学習支援システムや次回授業時においてフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1)	ガイダンス・法学入門	講義の進め方、法学入門
2)	経済法への招待	経済社会と法の歩み
3)	独占禁止法の概要	独占禁止法の全体像（禁止行為、違反行為に対する措置等）
4)	独占禁止法の基本概念	「事業者」、「事業者団体」、「競争」等の用語
5)	「私的独占」の規制（1）	「私的独占」の成立要件
6)	「私的独占」の規制（2）	規定文言の解釈
7)	「私的独占」の規制（3）	事例の検討
8)	「不当な取引制限」の規制（1）	「不当な取引制限」の成立要件
9)	「不当な取引制限」の規制（2）	規定文言の解釈
10)	「不当な取引制限」の規制（3）	事例の検討
11)	企業結合規制（1）	企業結合規制の仕組み
12)	企業結合規制（2）	規定文言の解釈
13)	企業結合規制（3）	事例の検討
14)	まとめ	春学期のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・幅広い分野に関心をもって書籍、雑誌、ネット等に触れ、あるいは実体験を通じて、経済社会と法に関する知見・知識を得る。

・参考書の関連部分、課題・質問事項に係るフィードバック内容を適宜読み、興味・関心をひく内容について自分なりに考えてみる。
・上記の授業時間外の学習時間は、大学設置基準に鑑み、毎回4時間程度とします。

【テキスト（教科書）】

特に使用しません。

【参考書】

①土田和博ほか『条文から学ぶ 独占禁止法〔第2版〕』（有斐閣、2019年）。

※補遺により部分的にアップデートされています。補遺はウェブ上で無料で入手できます（→http://www.yuhikaku.co.jp/static_files/24314_hoi.pdf）。

②川濱昇ほか『ベーシック経済法——独占禁止法入門〔第5版〕』（有斐閣、2020年）。

③金井貴嗣ほか『独占禁止法〔第6版〕』（弘文堂、2018年）。

※①と同様に補遺があります（→<https://www.koubundou.co.jp/files/35751.pdf>）。

④根岸哲＝舟田正之『独占禁止法概説〔第5版〕』（有斐閣、2015年）。

※①と同様に補遺（追補）があります（→http://www.yuhikaku.co.jp/static_files/web_supplement_14482.pdf）。

⑤金井貴嗣ほか編『経済法判例・審決百選〔第2版〕』（有斐閣、2017年）。

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業への参加状況）（20点）及び期末レポート（80点）により評価します。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【Outline (in English)】

・ This course introduces overview of Antimonopoly Act to students taking this course.

・ The goals of this course are to acquire knowledge about the basic contents of Antimonopoly Act, such as the purpose of the law, prohibited acts, and the contents of measures.

・ Before/after each class meeting, students will be expected to spent four hours to understand the course content.

・ Final grade will be calculated according to the following process Term-end report (80%) and in-class contribution (20%).

LAW300CA
経済法 B
杉崎 弘
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

経済法、特にその中核をなす独占禁止法は「経済憲法」とも呼ばれ、事業活動の全般に適用される基本的なルールを定めたものとなっています。そのため、講義は独占禁止法の解説（解釈論）を中心に行います。ただし、同法の背景にある市場経済のシステムとその問題点を理解するうえで、会社法をはじめとする他の企業法の知識も欠かせません。講義では、企業法に広く目配りをし、経済社会の主要な法制度を俯瞰的に把握できるようになることを目指します。

【到達目標】

・経済法 A（春学期）に学んだ、「私的独占」・「不当な取引制限」・企業結合の各規制と並んで独占禁止法の主要な規制である、「不正な取引方法」の規制に関する根拠条文の解釈と運用について学びます（下請法と景表法には適宜触れます）。この規制により、独占禁止法が誰にどのような義務を課し、何を禁止しているのかを知り、同法に違反した場合に誰がどのような措置をとるのか（あるいはとることができるのか）を知ることを目指します。

・「不正な取引方法」の規制は、経済社会の変化に対応した規制を行うように、具体的な禁止行為を行政機関（公正取引委員会）が指定できる仕組みが取り入れられています。本講義では、「不正な取引方法」として規制されている行為類型のうち、主要なものを中心に学んでいくこととします。

・独占禁止法を取り巻く各種業法、国際経済法の概要も学びます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

レジュメを配布し、それをもとに講義を行います。みなさんの主体的な「学び」を後押しできるように、適宜、自習教材を紹介します。講義後は、皆さんからの質問・意見を受け付け、学習支援システムや次回授業時においてフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1)	ガイダンス・独占禁止法の概要	講義の進め方、春学期のおさらい法の概要
2)	「不正な取引方法」の規制（総論）	「不正な取引方法」の内容
3)	不当な差別的取扱い（1）	不当な取引拒絶
4)	不当な差別的取扱い（2）	不当な取引拒絶を除く、不当な差別的取扱い
5)	不当対価取引	主に不当販売
6)	不当な顧客誘引・取引強制（1）	ぎまんの顧客誘引・不当な利益による顧客誘引
7)	不当な顧客誘引・取引強制（2）	抱き合わせ販売
8)	事業活動の不当拘束（1）	排他条件付取引
9)	事業活動の不当拘束（2）	再販売価格の拘束
10)	取引上の地位の不当利用	優越的地位の濫用
11)	不当な取引妨害・内部干渉	主に不当な取引妨害

12)	業法による規制	電気通信事業法等の各種業法の概要
13)	国際的な規制	国際経済法
14)	まとめ	秋学期のまとめ、春学期・秋学期の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・幅広い分野に関心をもって書籍、雑誌、ネット等に触れ、あるいは実体験を通じて、経済社会と法に関する知見・知識を得る。

・参考書の関連部分、課題・質問事項に係るフィードバック内容を適宜読み、興味・関心をひく内容について自分なりに考えてみる。

・上記の授業時間外の学習時間は、大学設置基準に鑑み、毎回4時間程度とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しません。

【参考書】

- ①土田和博ほか『条文から学ぶ 独占禁止法〔第2版〕』（有斐閣、2019年）。
※補遺により部分的にアップデートされています。補遺はウェブ上で無料で入手できます（→http://www.yuhikaku.co.jp/static_files/24314_hoi.pdf）。
- ②川濱昇ほか『ベーシック経済法——独占禁止法入門〔第5版〕』（有斐閣、2020年）。
- ③金井貴嗣ほか『独占禁止法〔第6版〕』（弘文堂、2018年）。
※①と同様に補遺があります（→<https://www.koubundou.co.jp/files/35751.pdf>）。
- ④根岸哲＝舟田正之『独占禁止法概説〔第5版〕』（有斐閣、2015年）。
※①と同様に補遺（追補）があります（→http://www.yuhikaku.co.jp/static_files/web_supplement_14482.pdf）。
- ⑤金井貴嗣ほか編『経済法判例・審決百選〔第2版〕』（有斐閣、2017年）。

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業への参加状況）（20点）及び期末レポート（80点）により評価します。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【Outline (in English)】

- ・ This course introduces overview of Antimonopoly Act to students taking this course.
- ・ The goals of this course are to acquire knowledge about the basic contents of Antimonopoly Act, such as the purpose of the law, prohibited acts, and the contents of measures.
- ・ Before/after each class meeting, students will be expected to spent four hours to understand the course content.
- ・ Final grade will be calculated according to the following process Term-end report (80%) and in-class contribution (20%).

LAW300CA
労働法 A
小林 大祐
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

労働法は、労働者に人間らしい労働条件を保障し、それによって人間らしい生活を実現するために、古典的な市民法を修正して誕生した。

今日、労働法は3つの領域から構成される。すなわち、①労働者保護の観点から、個々の労働者と使用者との労働契約関係を規律する「雇用関係法」、②労働者の広義の団結権を保障する観点から、労働者団結と使用者との集団的な対向関係を規律する「労使関係法」、③労働市場における労働力の需給調整を介して、労働者の雇用の保障をめざす「労働市場法」である。

この授業では、働く人（労働者）、働かせる人（使用者）あるいは行政機関で労働問題に取り組む者などの様々な立場において重要な労働法の基礎的かつ体系的な知識を正確に身につけることによって、現実の社会にある労働問題を発見し、これを法的に分析し、解決する力を養うことを目的とする。

【到達目標】

- ◆働くうえで基本的な法ルールを身につける。
- ◆労働法の特徴と構造を理解する。
- ◆現実の社会において発生している労働問題を発見し、正確に法的な分析・検討をしたうえで、この問題を解決する力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP8」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】

- ◆この授業は講義形式です。
- ◆原則として対面授業です。ただし、下記のようにオンライン授業の回があります。オンライン授業日は変動することがあります。
- ◆授業内で質問に返答いただくことがあります。
- ◆複数回、授業後に小テストを行います。その次の授業の際に、その解説を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	労働法の意義と体系
第2回	労働法のプレイヤー	労働者、使用者、労働組合、過半数代表、労使委員会
第3回	労働契約	労働契約上の権利・義務
第4回	労働条件の決定（1）	労働条件を決める仕組み、労働協約
第5回	労働条件の決定（2）	就業規則、労使慣行
第6回	賃金に関する規制と最低賃金法概論（1）	日本の賃金制度、賃金支払い4原則など
第7回	賃金に関する規制と最低賃金法概論（2）	最低賃金制度など
第8回	労働時間に関する規制と休息権（1）	労働時間の定義、三六協定、休日、休憩など
第9回	労働時間に関する規制と休息権（2）	弾力的労働時間制度、みなし労働時間制度、高度プロフェッショナル制度、適用除外
第10回	労働時間に関する規制と休息権（3）	年次有給休暇など
第11回	労働災害の予防と補償（1）	労働安全衛生、労災補償制度
第12回	労働災害の予防と補償（2）	労災保険制度、労災民訴

- 第13回 労働者の人権、平等、労働憲章、個人情報・プライバシー保護など
人格権（1）
- 第14回 労働者の人権、平等、男女雇用機会均等法、育児介護休業法、ハラスメントなど
人格権（2）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義前：2時間程度を目安に、関連するニュースを見たり、教科書の当該箇所を読むことで、講義において重点的に聞くべき問題点を理解できるようにする。

講義後：2時間程度を目安に、テキスト・レジユメの復習、小テストの解答・復習をする。友達・家族に、その日聞いた労働法のおおまかな仕組みを説明できる程度まで復習する。

【テキスト（教科書）】

藤本茂・沼田雅之・山本圭子・細川良編著『ファーストステップ労働法』（エイデル研究所、2020年）
※開講時の最新版を使用します。

【参考書】

- ◆村中孝史・荒木尚志編『労働判例百選（第10版）』（有斐閣、2022年）
- ◆六法（以下は代表的なものです）
・労働政策研究・研修機構『労働関係法規集 2022年版』
・旬報社『労働六法 2022年版』

【成績評価の方法と基準】

- ◆小テスト：30%
- ◆期末テスト：70%

【学生の意見等からの気づき】

レジユメのみならず、パワーポイント資料や補足的な配布資料等を利用して、授業内容を分かりやすく伝え、かつ学生自身が自習をやりやすいようにしています。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布・課題提出等のために学習支援システムを利用します。

【その他の重要事項】

- ◆労働法Aと労働法Bは連続性が強いので、両方履修を推奨します。
- ◆教科書からアクセスできる資料を授業内で利用することがあります。

【Outline (in English)】

Japanese labour law principally purposes to realise the conditions that enables people to work humanly.

It consists of individual labour law, collective labour law and labour market law.

In this lecture, through confirming and considering basic legal system and several judicial precedents of Japanese labour law, students could have a capacity to analyse and solve labour problems legally.

The following topics will be explained: the sources and regulation of terms and conditions of employment, the prevention and compensation of industrial accidents, the discrimination and equality in employment, the protection of worker's personality, the rights and duties of parties during employment,

【Learning activities outside of classroom】

Before each class meeting, students will be expected to spend two hours to read the relevant texts and news.

After each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content

【Grading Criteria /Policies】

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Term-end examination: 70%, Short examinations in class: 30%

LAW300CA
労働法 B
小林 大祐
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

労働法は、労働者に人間らしい労働条件を保障し、それによって人間らしい生活を実現するために、古典的な市民法を修正して誕生した。

今日、労働法は3つの領域から構成される。すなわち、①労働者保護の観点から、個々の労働者と使用者との労働契約関係を規律する「雇用関係法」、②労働者の広義の団結権を保障する観点から、労働者団結と使用者との集団的な対向関係を規律する「労使関係法」、③労働市場における労働力の需給調整を介して、労働者の雇用の保障をめざす「労働市場法」である。

この授業では、働く人（労働者）、働かせる人（使用者）あるいは行政機関で労働問題に取り組む者などの様々な立場において重要な労働法の基礎的かつ体系的な知識を正確に身につけることによって、現実の社会にある労働問題を発見し、これを法的に分析し、解決する力を養うことを目的とする。

【到達目標】

- ◆働くうえで基本的な法ルールを身につける。
- ◆労働法の特徴と構造を理解する。
- ◆現実の社会において発生している労働問題を発見し、正確に法的な分析・検討をしたうえで、この問題を解決する力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP8」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】

- ◆この授業は講義形式です。
- ◆原則として、対面授業です。ただし、下記のようにオンライン授業の回があります。オンライン授業日は変動することがあります。
- ◆授業内で質問に返答いただくことがあります。
- ◆複数回、授業後に小テストを行います。その次の授業の際に、その解説を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	労働契約の成立をめぐる法的問題	採用内定（内々定）、試用など
第2回	人事制度をめぐる法的問題	配転、出向、転籍、昇進、昇格、降格
第3回	服務規律、懲戒制度をめぐる法的問題	懲戒処分など
第4回	労働契約の終了をめぐる法的問題（1）	解雇以外の労働契約終了事由
第5回	労働契約の終了をめぐる法的問題（2）	解雇
第6回	非典型雇用（1）	有期労働者の保護など
第7回	非典型雇用（2）	有期・パート労働者の均等待遇など
第8回	非典型雇用（3）	派遣労働者の保護と均等待遇など
第9回	雇用保険制度	失業等給付、育児休業給付、求職者支援制度など
第10回	特定分野の雇用政策	若年者雇用、高齢者雇用、障害者雇用、外国人雇用
第11回	労使関係法総論	労働基本権、労働組合、労働委員会など
第12回	団体交渉と団体行動（1）	団体交渉義務、争議行為の正当性など

第13回	団体交渉と団体行動（2）	組合活動、労働争議の調整制度など
第14回	不当労働行為	不当労働行為の主体・成立要件・救済

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義前：2時間程度を目安に、関連するニュースを見たり、教科書の当該箇所を読むことで、講義において重点的に聞くべき問題点を理解できるようにする。

講義後：2時間程度を目安に、テキスト・レジュメの復習、小テストの解答・復習をする。友達・家族に、その日聞いた労働法のおおまかな仕組みを説明できる程度まで復習する。

【テキスト（教科書）】

藤本茂・沼田雅之・山本圭子・細川良編著『ファーストステップ労働法』（エイデル研究所、2020年）
※開講時の最新版を使用します。

【参考書】

- ◆判例集
- 村中孝史・荒木尚志編『労働判例百選（第10版）』（有斐閣、2022年）
- ◆六法（以下は代表的なものです）
- ・労働政策研究・研修機構『労働関係法規集 2022年版』
- ・旬報社『労働六法 2022年版』

【成績評価の方法と基準】

- ◆小テスト：30%
- ◆期末テスト：70%

【学生の意見等からの気づき】

レジュメのみならず、パワーポイント資料や補足的な配布資料等を利用することで、授業内容を分かりやすく伝え、かつ学生自身が自習をやりやすいようにしています。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布・課題提出等のために学習支援システムを利用します。

【その他の重要事項】

- ◆労働法Aと労働法Bは連続性が強いので、合わせての履修を推奨します。労働法Bは、労働法Aの内容を前提に進めるので、注意してください。
- ◆教科書からアクセスできる資料を授業内で利用することがあります。

【Outline (in English)】

Japanese labour law principally purposes to realise the conditions that enables people to work humanly.

It consists of individual labour law, collective labour law and labour market law.

In this lecture, through confirming and considering basic legal system and several judicial precedents of Japanese labour law, students could have a capacity to analyse and solve labour problems legally.

The following topics will be explained : the formation and termination of employment, the rights and duties of parties during employment, the protection of certain categories of worker, the forms of collective organisations, the collective bargaining, the disputes acts and the unfair labour practices.

【Learning activities outside of classroom】

Before each class meeting, students will be expected to spend two hours to read the relevant texts and news.

After each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content

【Grading Criteria /Policies】

Your overall grade in the class will be decided based on the following :

Term-end examination: 70%, Short examinations in class: 30%

MAN300CA
経営学 A
砂田 充
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

企業活動のグローバル化に伴い、企業を取り巻く経営環境が複雑化し、企業経営の現場においても自社及びライバルの経営戦略とその影響をより正しく理解することの必要性が高まっている。本講義では経営学、特に経営戦略の基礎的な内容について、経済学的な考え方をベースに学習する。授業形態については対面を基本とするが、各回の内容や進捗状況を踏まえてオンラインで実施する場合もあり得る（最大7回、必ず7回オンラインになるわけではありません）。オンラインで実施する場合には学習支援システムを通じて連絡する。

【到達目標】

事業戦略の基礎（外部要因・内部要因の分析）及び競争優位の基本戦略（コスト優位・差別化優位）について、経済学的な考え方をベースとしたロジックを理解する。また、そのための基礎知識となるミクロ経済分析のツールについても復習する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】

パワーポイント及び板書を使って講義を行う。必要に応じてレジュメを配布する。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	「経営学」と「経済学」
2	経営戦略とは	経営戦略とゼネラル・マネジメント
3	経営戦略の成立ちと種類	事業戦略と企業戦略
4	経営学のための経済学基礎①	需要の特性
5	経営学のための経済学基礎②	費用構造
6	事業戦略の考え方	価値創造とSWOTの分析
7	外部要因の分析①	業界構造分析
8	外部要因の分析②	業界構造分析の事例研究
9	外部要因の分析③	価値相関図
10	内部要因の分析	企業活動と経営資源
11	競争優位と基本戦略	競争優位のタイプと基本戦略
12	コスト優位	コスト・ドライバー
13	差別化優位	差別化ドライバー
14	授業の総括	これまでの内容のおさらい

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学生は各講義前に講義資料を授業支援システムよりDLして予習（2時間程度）、講義後には「学習支援システム」を使って復習（2時間程度）することが必要である。加えて、講義の中で簡単に説明をするが、ミクロ経済学の基礎について復習しておくことが望まれる。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。授業の進行に従ってレジュメを配布する。

【参考書】

浅羽茂『経営戦略の経済学』（日本評論社、2004年）。
浅羽茂・牛島辰男『経営戦略をつかむ』（有斐閣、2010年）。
網倉久永・新宅純二郎『マネジメント・テキスト経営戦略入門』（日本経済新聞社、2011年）

小田切宏之『企業経済学（第2版）』（東洋経済新報社、2010年）。
丸山雅祥『経営の経済学 [第3版]』（有斐閣、2017年）。
Besanko, D., D. Dranove, M. Shanley, and S. Schaefer. *Economics of Strategy*, 6th edition, John Wiley & Sons, 2013.
他適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

期末試験（50-80%）とホームワーク（20-50%）による。

【学生の意見等からの気づき】

具体的な事例を示しながら分かりやすく講義することに努めたい。

【その他の重要事項】

受講者の理解度等を踏まえて内容を変更する場合がある。場合によっては、レポート・小テスト（授業内・外）を課すこともある。

【Outline (in English)】

This course introduces students to the basic concepts of strategic management from economics perspectives. The rigorous framework of economics helps students to understand the interactions among firms in the increasingly complex business environment alongside globalization. This course will focus on, but not limited to, the topics as follows: cost structure of the firm, value creation, competitor and competition, industry analysis: five-force analysis, competitive advantage, cost and benefit advantage, sustaining competitive advantage. The course also introduces real-world examples for students' easy understanding of each topic.

The goal of this course is understanding the conceptual framework of business strategy, competitive advantage, and its sustainability, based on the economic theory.

Students will be expected to thoroughly prepare each class meeting using course materials which provided through HOPPII (about two hours required), and, after each class meeting, to complete a homework assignment through HOPPII within a week (about two hours required).

Students are also expected to have comprehension of introductory microeconomics and game theory, while we will briefly review them within the course.

The grade will be based on the final exam (50-80%) and the homework (20-50%).

MAN300CA
経営学 B
砂田 充
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

企業活動のグローバル化に伴い、企業を取り巻く経営環境が複雑化し、企業経営の現場においても自社及びライバルの経営戦略とその影響をより正しく理解することの必要性が高まっている。本講義では経営学、特に経営戦略の発展的な内容について、経済学的な考え方をベースに学習する。授業形態については対面を基本とするが、各回の内容や進捗状況を踏まえてオンラインで実施する場合もあり得る（最大7回、必ず7回オンラインになるわけではありません）。オンラインで実施する場合には学習支援システムを通じて連絡する。

【到達目標】

企業戦略の基礎（垂直統合・多角化）に加えて経営戦略のゲーム理論的アプローチについて、経済学的な考え方をベースとしたロジックを理解する。また、そのための基礎知識となるミクロ経済分析のツールについても復習する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】

パワーポイント及び板書を使って講義を行う。必要に応じてレジュメを配布する。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	企業戦略と戦略的行動
2	企業戦略の考え方	企業優位とシナジー
3	垂直統合	取引費用と「Make or Buy」の意思決定
4	多角化①	多角化の内的・外的要因
5	多角化②	製品ポートフォリオ・マネジメント
6	国際化	国際企業戦略と OLI フレームワーク
7	参入	内部成長、M&A、提携
8	経営学のためのゲーム理論	戦略型ゲームと展開型ゲーム
9	寡占の企業間競争①	同質財市場
10	寡占の企業間競争②	製品差別化
11	戦略的行動①	相互依存関係と戦略的行動
12	戦略的行動②	略奪価格と柔道エコノミクス
13	その他のトピック	より進んだテーマ
14	授業の総括	これまでの内容のおさらい

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学生は各講義前に講義資料を授業支援システムより DL して予習（2 時間程度）、講義後には「学習支援システム」を使って復習（2 時間程度）することが必要である。加えて、講義の中で簡単に説明をするが、ミクロ経済学の基礎について復習しておくことが望まれる。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。授業の進行に従ってレジュメを配布する。

【参考書】

浅羽茂『経営戦略の経済学』（日本評論社、2004 年）。
浅羽茂・牛島辰男『経営戦略をつかむ』（有斐閣、2010 年）。
網倉久永・新宅純二郎『マネジメント・テキスト経営戦略入門』（日本経済新聞社、2011 年）

小田切宏之『企業経済学（第 2 版）』（東洋経済新報社、2010 年）。
丸山雅祥『経営の経済学 [第 3 版]』（有斐閣、2017 年）。
Besanko, D., D. Dranove, M. Shanley, and S. Schaefer. *Economics of Strategy*, 6th edition, John Wiley & Sons, 2013.
他適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

期末試験（50-80%）とホームワーク（20-50%）による。

【学生の意見等からの気づき】

具体的な事例を示しながら分かりやすく講義することに努めたい。

【その他の重要事項】

受講者の理解度等を踏まえて内容を変更する場合がある。場合によっては、レポート・小テスト（授業内・外）を課すこともある。

【Outline (in English)】

This course introduces students to the basic concepts of strategic management from economics perspectives. The rigorous framework of economics helps students to understand the interactions among firms in the increasingly complex business environment alongside globalization. This course will focus on, but not limited to, the topics as follows: vertical integration: vertical boundaries of the firm, horizontal boundaries of the firm: diversification, globalization, entry and exit, competitive strategy. The course also introduces real-world examples for students' easy understanding of each topic.

The goal of this course is understanding the logic behind various corporate strategy (eg. vertical integration, diversification, internationalization, and so on) and the game theoretic analysis of competitive strategy.

Students will be expected to thoroughly prepare each class meeting using course materials which provided through HOPPII (about two hours required), and, after each class meeting, to complete a homework assignment through HOPPII within a week (about two hours required).

Students are also expected to have comprehension of introductory microeconomics and game theory, while we will briefly review them within the course.

The grade will be based on the final exam (50-80%) and the homework (20-50%).

ECN200CA
Principles of Economics A
REYNALDO SENRA
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

その他属性：〈グ〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

英語で書かれた教科書を使い、経済学の応用的な概念を理解する。本講義では、教科書である Acemoglu, D., Laibson, D., and List, J.A. Economics: Pearson のミクロ経済学とマクロ経済学の基本をカバーする理論 Chapter13, Chapter14, Chapter19, Chapter20, Chapter21 を取り上げます。講義は英語で行われる。

In this class we use an English textbook to study core ideas in microeconomics and macroeconomics. In particular, we cover chapters 13, 14, 19, 20 and 21 of Acemoglu, D., Laibson, D., and List, J.A. Economics: Pearson.

【到達目標】

経済学に関する基本的な知識を応用し、ゲーム理論や競争が現実経済に与える影響とマクロ経済学の基本を理解できるようになる。

The goal of this course is to introduce students to the topics of game theory, competition and macroeconomics.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP5」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】

スライドと板書を用いた講義形式の授業を行う。コロナウイルスの発生が治るまで授業の動画をネット上オンデマンドで配信する。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う。The class is conducted in a lecture format using slides that can be downloaded. For the duration of the coronavirus outbreak, classes may be conducted online if necessary. Regular homework assignments will be followed by feedback on students' performance.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Game Theory and Strategic Play	Simultaneous Move Games
2	Game Theory and Strategic Play	Nash Equilibrium
3	Game Theory and Strategic Play	Extensive-Form Games
4	Oligopoly and Monopolistic Competition	Oligopoly
5	Oligopoly and Monopolistic Competition	Monopolistic Competition
6	Oligopoly and Monopolistic Competition	The "Broken Invisible Hand"
7	The Wealth of Nations: Defining and Measuring Macroeconomic Aggregates	National Income Accounts: Production = Expenditure = Income
8	The Wealth of Nations: Defining and Measuring Macroeconomic Aggregates	What Isn't Measured by GDP?

9	The Wealth of Nations: Defining and Measuring Macroeconomic Aggregates	Real vs. Nominal
10	Aggregate Incomes	Inequality Around The World
11	Aggregate Incomes	Productivity and the Aggregate Production Function
12	Aggregate Incomes	The Role and Determinants of Technology
13	Economic Growth	How Does a Nation's Economy Grow?
14	Review and Final Exam	Review the class material and take the final exam.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

課題が定期的に与えられます。他に、毎週の授業と教科書の復習が必要です。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。Homework assignment will be assigned regularly. Students are required to review the work covered in lecture and read the corresponding section of the textbook in addition to completing homework assignments. Preparation time of 2 hours, review time of 2 hours for a total of 4 hours.

【テキスト（教科書）】

Acemoglu, D., Laibson, D., and List, J.A. Economics: Pearson.

【参考書】

特になし。

None.

【成績評価の方法と基準】

宿題：30%

期末試験：70%

宿題はその週の授業の内容に基づいています。期末試験は、授業の内容を全てカバーします。

Homework: 30%

Final Exam: 70%

Homework assignments are based on that week's lecture. The final exam will cover the entire semester's material.

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

None.

ECN200CA

Principles of Economics A

REYNALDO SENRA

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：火 3/Tue.3 | キャンパス：多摩

毎年・隔年： | 科目主催学部：Economics

備考（履修条件等）：

その他属性：〈グ〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

英語で書かれた教科書を使い、経済学の応用的な概念を理解する。本講義では、教科書である Acemoglu, D., Laibson, D., and List, J.A. Economics: Pearson のミクロ経済学とマクロ経済学の基本をカバーする理論 Chapter13、Chapter14、Chapter19、Chapter20、Chapter21 を取り上げます。講義は英語で行われる。

In this class we use an English textbook to study core ideas in microeconomics and macroeconomics. In particular, we cover chapters 13, 14, 19, 20 and 21 of Acemoglu, D., Laibson, D., and List, J.A. Economics: Pearson.

【到達目標】

経済学に関する基本的な知識を応用し、ゲーム理論や競争が現実経済に与える影響とマクロ経済学の基本を理解できるようになる。

The goal of this course is to introduce students to the topics of game theory, competition and macroeconomics.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

スライドと板書を用いた講義形式の授業を行う。コロナウイルスの発生が治るまで授業の動画をネット上オンデマンドで配信する。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う。The class is conducted in a lecture format using slides that can be downloaded. For the duration of the coronavirus outbreak, classes may be conducted online if necessary. Regular homework assignments will be followed by feedback on students' performance.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Game Theory and Strategic Play	Simultaneous Move Games
2	Game Theory and Strategic Play	Nash Equilibrium
3	Game Theory and Strategic Play	Extensive-Form Games
4	Oligopoly and Monopolistic Competition	Oligopoly
5	Oligopoly and Monopolistic Competition	Monopolistic Competition
6	Oligopoly and Monopolistic Competition	The "Broken Invisible Hand"
7	The Wealth of Nations: Defining and Measuring Macroeconomic Aggregates	National Income Accounts: Production = Expenditure = Income

8	The Wealth of Nations: Defining and Measuring Macroeconomic Aggregates	What Isn't Measured by GDP?
9	The Wealth of Nations: Defining and Measuring Macroeconomic Aggregates	Real vs. Nominal
10	Aggregate Incomes	Inequality Around The World
11	Aggregate Incomes	Productivity and the Aggregate Production Function
12	Aggregate Incomes	The Role and Determinants of Technology
13	Economic Growth	How Does a Nation's Economy Grow?
14	Review and Final Exam	Review the class material and take the final exam.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

課題が定期的にと与えられます。他に、毎週の授業と教科書の復習が必要です。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。Homework assignment will be assigned regularly. Students are required to review the work covered in lecture and read the corresponding section of the textbook in addition to completing homework assignments. Preparation time of 2 hours, review time of 2 hours for a total of 4 hours.

【テキスト（教科書）】

Acemoglu, D., Laibson, D., and List, J.A. Economics: Pearson.

【参考書】

特になし。
None.

【成績評価の方法と基準】

宿題：30%
期末試験：70%
宿題はその週の授業の内容に基づいています。期末試験は、授業の内容を全てカバーします。
Homework: 30%
Final Exam: 70%
Homework assignments are based on that week's lecture. The final exam will covered the entire semester's material.

【学生の意見等からの気づき】

特になし。
None.

ECN200CA
Principles of Economics B
REYNALDO SENRA
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

その他属性：〈グ〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

英語で書かれた教科書を使い、経済学の応用的な概念を理解する。本講義では、教科書である Acemoglu, D., Laibson, D., and List, J.A. 2015. Economics: Pearson のマクロ経済学の基本をカバーする Chapter21、Chapter23、Chapter24、Chapter25 を取り上げます。講義を英語で行われる。

In this class we use an English textbook to continue our study of core ideas in macroeconomics. In particular, we cover chapters 21, 23, 24, and 25 of Acemoglu, D., Laibson, D., and List, J.A. Economics: Pearson.

【到達目標】

経済学に関する基本的な知識を応用し、経済成長や金融制度、財政政策と金融政策が現実経済に与える影響を理解できるようになる。

The goal of this course is to continue our of macroeconomics, focusing on the topics of growth, the monetary system, fiscal policy and monetary policy.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP5」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】

スライドと板書を用いた講義形式の授業を行う。コロナウイルスの発生が治るまで授業の動画をネット上オンデマンドで配信する。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う。The class is conducted in a lecture format using slides that can be downloaded. For the duration of the coronavirus outbreak, classes may be conducted online if necessary. Regular homework assignments will be followed by feedback on students' performance.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Orientation	Class introduction and explanation.
2	Economic Growth	How does a nation's economy grow?
3	Economic Growth	The history of growth and technology
4	Economic Growth	Growth, inequality and poverty
5	Employment and Unemployment	Measuring Employment and Unemployment
6	Employment and Unemployment	Why Is There Unemployment?
7	Employment and Unemployment	Wage Rigidity and Structural Unemployment
8	Credit Markets	What Is the Credit Market?
9	Credit Markets	Banks and Financial Intermediation
10	Credit Markets	What Banks Do
11	The Monetary System	Money
12	The Monetary System	Inflation
13	The Monetary System	The Central Bank

14 Review and Final Exam Review the class material and take the final exam.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

課題が定期的に与えられます。他に、毎週の授業と教科書の復習が必要です。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

Homework assignment will be assigned regularly. Students are required to review the work covered in lecture and read the corresponding section of the textbook in addition to completing homework assignments. Preparation time of 2 hours, review time of 2 hours for a total of 4 hours.

【テキスト（教科書）】

Acemoglu, D., Laibson, D., and List, J.A. 2015. Economics: Pearson.

【参考書】

特になし。

None.

【成績評価の方法と基準】

宿題:30%

期末試験:70%

宿題はその週の授業の内容に基づいています。期末試験は、授業の内容を全てカバーします。

Homework: 30%

Final Exam: 70%

Homework assignments are based on that week's lecture. The final exam will covered the entire semester's material.

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

None.

ECN200CA

Principles of Economics B

REYNALDO SENRA

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位
 曜日・時限：火 3/Tue.3 | キャンパス：多摩
 毎年・隔年： | 科目主催学部：Economics
 備考（履修条件等）：

その他属性：〈G〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

英語で書かれた教科書を使い、経済学の応用的な概念を理解する。本講義では、教科書である Acemoglu, D., Laibson, D., and List, J.A. 2015. Economics: Pearson のマクロ経済学の基本をカバーする Chapter21、Chapter23、Chapter24、Chapter25 を取り上げます。講義を英語で行われる。

In this class we use an English textbook to continue our study of core ideas in macroeconomics. In particular, we cover chapters 21, 23, 24, and 25 of Acemoglu, D., Laibson, D., and List, J.A. Economics: Pearson.

【到達目標】

経済学に関する基本的な知識を応用し、経済成長や金融制度、財政政策と金融政策が現実経済に与える影響を理解できるようになる。The goal of this course is to continue our of macroeconomics, focusing on the topics of growth, the monetary system, fiscal policy and monetary policy.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

スライドと板書を用いた講義形式の授業を行う。コロナウイルスの発生が治るまで授業の動画をネット上オンデマンドで配信する。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う。The class is conducted in a lecture format using slides that can be downloaded. For the duration of the coronavirus outbreak, classes may be conducted online if necessary. Regular homework assignments will be followed by feedback on students' performance.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Orientation	Class introduction and explanation.
2	Economic Growth	How does a nation's economy grow?
3	Economic Growth	The history of growth and technology
4	Economic Growth	Growth, inequality and poverty
5	Employment and Unemployment	Measuring Employment and Unemployment
6	Employment and Unemployment	Why Is There Unemployment?
7	Employment and Unemployment	Wage Rigidity and Structural Unemployment
8	Credit Markets	What Is the Credit Market?
9	Credit Markets	Banks and Financial Intermediation
10	Credit Markets	What Banks Do
11	The Monetary System	Money

12	The Monetary System	Inflation
13	The Monetary System	The Central Bank
14	Review and Final Exam	Review the class material and take the final exam.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

課題が定期的にと与えられます。他に、毎週の授業と教科書の復習が必要です。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

Homework assignment will be assigned regularly. Students are required to review the work covered in lecture and read the corresponding section of the textbook in addition to completing homework assignments. Preparation time of 2 hours, review time of 2 hours for a total of 4 hours.

【テキスト（教科書）】

Acemoglu, D., Laibson, D., and List, J.A. 2015. Economics: Pearson.

【参考書】

特になし。

None.

【成績評価の方法と基準】

宿題:30%

期末試験:70%

宿題はその週の授業の内容に基づいています。期末試験は、授業の内容を全てカバーします。

Homework: 30%

Final Exam: 70%

Homework assignments are based on that week's lecture. The final exam will covered the entire semester's material.

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

None.

ECN300CA
International Economics A
倪 彬
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

その他属性：〈グ〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

We will discuss the globalization of economics from mainly two important perspectives: international trade and foreign direct investment (FDI). In the first half, we will investigate why countries trade, types of trade, and study some of the benefits and costs of trade. In the second half, we will study why firms choose the form of FDI, the determinants of FDI, the spillover impact of FDI on the host countries. Various policies that different governments implement to promote globalization will also be studied.

【到達目標】

The purpose of this course is twofold: to arouse the students' interest towards the happenings that are related to international economics; and to equip students with the basic knowledge to reasonably question the phenomenon during the process of globalization, from the standpoint of economics.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP5」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】

Teaching materials will be uploaded in advance via Hosei's website ('lecture supporting system'). Lectures are given in line with the teaching materials. Quizzes will be combined with feedback papers, take-home tests and a final exam.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1 回目	Introduction	What's international economics?
2 回目	The basics of international trade	Some basic terms and what should be learned in international trade
3 回目	The analytical framework	Partial equilibrium and surplus analysis
4 回目	Ricardo model	Comparative advantage and Ricardian model
5 回目	HO model	Factor endowment and HO model
6 回目	Scale of economy	Types of trade and the theory of scale of economy
7 回目	Trade policy (1)	Tariff
8 回目	Trade policy (2)	Export subsidy, quota
9 回目	Trade policy (3)	FTA and NTM
10 回目	Multinational firms and FDI	The basics of FDI
11 回目	Inward FDI	The determinants of inward FDI and the case of China
12 回目	Outward FDI	Japanese firms' overseas expansion and the hollowing out
13 回目	Offshoring	The economic integration and offshoring
14 回目	Sharing economy	The mechanism of sharing economy and its prospect

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

It is highly recommended that students prepare in advance and review the contents after the class. Students are encouraged to read newspapers and references that are related to the topics included in the course schedule. It is important that students raise their own questions and actively participate in the discussion. 本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

Paul Krugman, Maurice Obstfeld and Marc Melitz, "International Economics: Theory and Policy," Global Edition, Pearson Education Limited; 10th Revised 版, 2014.

【参考書】

石川城太・棕寛・菊地徹『国際経済学をつかむ』（テキストブックつかむシリーズ）第2版、有斐閣、2013年、ISBN=9784641177192
阿部顕三・遠藤正寛『国際経済学』（有斐閣アルマ）、有斐閣、2012年、ISBN=9784641124806

【成績評価の方法と基準】

We will have a final exam for this course. But different from the regular written exam, it will be online and take the form of multiple choice question, using Hoppii (the same format as the homework). I will give you enough time, meanwhile you will be allowed to make reference to all the resources. As for the evaluation:

- (1)Homework: 50%
- (2)Final exam: 50%

【学生の意見等からの気づき】

Nothing particular

ECN300CA

International Economics A

倪 彬

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：水 3/Wed.3 | キャンパス：多摩

毎年・隔年： | 科目主催学部：Economics

備考（履修条件等）：

その他属性：〈グ〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

We will discuss the globalization of economics from mainly two important perspectives: international trade and foreign direct investment (FDI). In the first half, we will investigate why countries trade, types of trade, and study some of the benefits and costs of trade. In the second half, we will study why firms choose the form of FDI, the determinants of FDI, the spillover impact of FDI on the host countries. Various policies that different governments implement to promote globalization will also be studied.

【到達目標】

The purpose of this course is twofold: to arouse the students' interest towards the happenings that are related to international economics; and to equip students with the basic knowledge to reasonably question the phenomenon during the process of globalization, from the standpoint of economics.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

Teaching materials will be uploaded in advance via Hosei's website ('lecture supporting system'). Lectures are given in line with the teaching materials. Quizzes will be combined with feedback papers, take-home tests and a final exam.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1 回目	Introduction	What's international economics?
2 回目	The basics of international trade	Some basic terms and what should be learned in international trade
3 回目	The analytical framework	Partial equilibrium and surplus analysis
4 回目	Ricardo model	Comparative advantage and Ricardian model
5 回目	HO model	Factor endowment and HO model
6 回目	Scale of economy	Types of trade and the theory of scale of economy
7 回目	Trade policy (1)	Tariff
8 回目	Trade policy (2)	Export subsidy, quota
9 回目	Trade policy (3)	FTA and NTM
10 回目	Multinational firms and FDI	The basics of FDI
11 回目	Inward FDI	The determinants of inward FDI and the case of China
12 回目	Outward FDI	Japanese firms' oversea expansion and the hollowing out
13 回目	Offshoring	The economic integration and offshoring

14 回目 Sharing economy The mechanism of sharing economy and its prospect

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

It is highly recommended that students prepare in advance and review the contents after the class. Students are encouraged to read newspapers and references that are related to the topics included in the course schedule. It is important that students raise their own questions and actively participate in the discussion. 本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

Paul Krugman, Maurice Obstfeld and Marc Melitz, "International Economics: Theory and Policy," Global Edition, Pearson Education Limited; 10th Revised 版, 2014.

【参考書】

石川城太・棕寛・菊地徹『国際経済学をつかむ』（テキストブックつかむシリーズ）第2版、有斐閣、2013年、ISBN=9784641177192
阿部顕三・遠藤正寛『国際経済学』（有斐閣アルマ）、有斐閣、2012年、ISBN=9784641124806

【成績評価の方法と基準】

We will have a final exam for this course. But different from the regular written exam, it will be online and take the form of multiple choice question, using Hoppii (the same format as the homework). I will give you enough time, meanwhile you will be allowed to make reference to all the resources. As for the evaluation:

(1)Homework: 50%

(2)Final exam: 50%

【学生の意見等からの気づき】

Nothing particular

ECN300CA
International Economics B
倪 彬
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

その他属性：〈グ〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This course introduces undergraduate students to the theory of International Finance and its application to the real world. To be specific: 1. To help students understand the determinants and behavior of real variables and financial variables, and the interaction between them.

2. To help students study the interaction among countries through international flows of goods and financial assets.

【到達目標】

Upon completion of this course students will be able to achieve, but are not limited to the following:

- * To understand the balance of payment;
- * To understand how a foreign exchange market operates
- * To compare the exchange rate regimes and international monetary standards
- * To explain financial crises in emerging economies, their causes and solutions

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP5」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】

Teaching materials will be uploaded in advance via Hosei's website ('lecture supporting system'). Lectures are given in line with the teaching materials. Quizzes will be combined with feedback papers, take-home tests and a final exam.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1 回目	Introduction	What is international finance?
2 回目	The basics of international finance	The Balance of Payment, capital flow
3 回目	The foreign exchange market	The basics of foreign exchange market
4 回目	National accounts	The system of national accounts
5 回目	Exchange rate (1)	The concept of PPP
6 回目	Exchange rate (2)	Interest rate parity
7 回目	Exchange rate (3)	The foreign exchange rate
8 回目	Intervention in the foreign exchange market	Why is the intervention necessary?
9 回目	Fiscal policy	Governmental spending
10 回目	Monetary policy	Interest rate and investment
11 回目	Financial crisis	The history of financial crisis and the reasons
12 回目	International monetary system	The US dollar and the globalization of RMB
13 回目	Monetary union	The birth of euro, and other possibility
14 回目	Review	To review the contents of the whole semester

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

It is highly recommended that students prepare in advance and review the contents after the class. Students are encouraged to read newspapers and references that are related to the topics included in the course schedule. It is important that students raise their own questions and actively participate in the discussion. 本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

Paul Krugman, Maurice Obstfeld and Marc Melitz, "International Economics: Theory and Policy," Global Edition, Pearson Education Limited; 10th Revised 版, 2014.

【参考書】

高木信二 著、『入門国際金融』第 4 版、日本評論社 2011 年。

【成績評価の方法と基準】

We will have a final exam for this course. But different from the regular written exam, it will be online and take the form of multiple choice question, using Hoppii (the same format as the homework). I will give you enough time, meanwhile you will be allowed to make reference to all the resources. As for the evaluation:

(1)Homework: 50%

(2)Final exam: 50%

【学生の意見等からの気づき】

Nothing particular

ECN300CA

International Economics B

倪 彬

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位
 曜日・時限：水 3/Wed.3 | キャンパス：多摩
 毎年・隔年： | 科目主催学部：Economics
 備考（履修条件等）：

その他属性：〈グ〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This course introduces undergraduate students to the theory of International Finance and its application to the real world. To be specific: 1. To help students understand the determinants and behavior of real variables and financial variables, and the interaction between them.

2. To help students study the interaction among countries through international flows of goods and financial assets.

【到達目標】

Upon completion of this course students will be able to achieve, but are not limited to the following:

- * To understand the balance of payment;
- * To understand how a foreign exchange market operates
- * To compare the exchange rate regimes and international monetary standards
- * To explain financial crises in emerging economies, their causes and solutions

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

Teaching materials will be uploaded in advance via Hosei's website ('lecture supporting system'). Lectures are given in line with the teaching materials. Quizzes will be combined with feedback papers, take-home tests and a final exam.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1 回目	Introduction	What is international finance?
2 回目	The basics of international finance	The Balance of Payment, capital flow
3 回目	The foreign exchange market	The basics of foreign exchange market
4 回目	National accounts	The system of national accounts
5 回目	Exchange rate (1)	The concept of PPP
6 回目	Exchange rate (2)	Interest rate parity
7 回目	Exchange rate (3)	The foreign exchange rate
8 回目	Intervention in the foreign exchange market	Why is the intervention necessary?
9 回目	Fiscal policy	Governmental spending
10 回目	Monetary policy	Interest rate and investment
11 回目	Financial crisis	The history of financial crisis and the reasons
12 回目	International monetary system	The US dollar and the globalization of RMB
13 回目	Monetary union	The birth of euro, and other possibility

14 回目 Review

To review the contents of the whole semester

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

It is highly recommended that students prepare in advance and review the contents after the class. Students are encouraged to read newspapers and references that are related to the topics included in the course schedule. It is important that students raise their own questions and actively participate in the discussion. 本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

Paul Krugman, Maurice Obstfeld and Marc Melitz, "International Economics: Theory and Policy," Global Edition, Pearson Education Limited; 10th Revised 版, 2014.

【参考書】

高木信二 著、『入門国際金融』第 4 版、日本評論社 2011 年。

【成績評価の方法と基準】

We will have a final exam for this course. But different from the regular written exam, it will be online and take the form of multiple choice question, using Hoppii (the same format as the homework). I will give you enough time, meanwhile you will be allowed to make reference to all the resources. As for the evaluation:

- (1)Homework: 50%
- (2)Final exam: 50%

【学生の意見等からの気づき】

Nothing particular

ECN300CA
Area Studies A
馬 欣欣
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

その他属性：〈グ〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This course introduces the features of Chinese economy transition pattern compared with the other transition countries and developing countries. We will learn the economic theories and models to understand the situations and issues in economic growth and economic development under the transition period from a macroeconomic perspective. We will discuss some special issues such as the determinants of economic growth, regional disparity, and income inequality.

【到達目標】

1. Understand the different features of economic transition pattern between China and other countries
2. Understand the determinants of economic growth in China and other countries
3. Explain the situations and issues of economic growth and sustainable development in China and other countries from a macroeconomic perspective

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP5」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】

The lecture consists of the lecture by teacher (ten times) based on the learning materials and the presentation by students (two times). The active discussions are held two times. At least one real-time online lecture.

The lecture is designed to be:

1. Interactive: With a strong emphasis on student participation.
2. Up-to-date: With the real-time explanation of unfolding events.
3. Critical and Analytical: Understanding the mechanism and performance of economy institution transition and economic growth
4. Accessible: Develop the ability to understand the differences between countries and regions within a country from macroeconomic perspective
5. Feedback on homework will be given at the beginning of the lecture, and feedback will be given through the learning support system (Hoppii).

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Chinese Economy and World Economy	The contents and method of area studies; the current state of the global economy; the position of the Chinese economy in the world
2	Economy in the Socialist Era	Comparison of the planned economy model between the former Soviet Union and China; the states and problems of state-owned enterprises (SOEs) and rural people's communes in China
3	Economic Reform: What is a Socialist Market Economy	The concept of a socialist market economy; two kinds of transition patterns; the role of government in transition countries
4	State Capitalism and the Development Dictatorship Model	The functions of government and market mechanism in transition countries
5.	Active Discussion	Issue1: What is a Socialist Market Economy? Issue2: What should a government do under the economic transition or economic development period?
6	Economic Growth and Population: An International Comparison (1)	International comparisons of economic development and population transformation; the background and problems of the One-Child policy in China
7	Economic Growth and Population: An International Comparison (2)	The Lewis' Dualism Model and the economic turning point; unemployment and surplus labor in China and Japan

8	International Trade and Transformation from Export-Driven Economic Growth Pattern	Export-driven economic growth pattern; the role of foreign capital; international comparisons of FDI
9	Active Discussion	Issue1: Economic significance and policy implications of economy turning point for China and other developing countries? Issue2: The influences of FDI on economic growth for China and other developing countries
10	Economic Growth and Inequality (1)	Kuznets' curve; the states of inequality between rural areas and urban areas; the reasons of regional disparities in China
11	Economic Growth and Inequality (2)	Income inequality; the poverty in China; poverty reduction policies and their effects in China and developing countries
12	Fiscal Policy and Economic Growth	The process of the decentralization and fiscal policy; the tax institution reform and its influence on Chinese economy
13	Regional Development Policies and Sustainable Economy Development	The background of regional development and promotion policy implementation and their effects on economic growth in China
14	Summary of the issues of Chinese economy development and growth	sumamry of the issues of Chinese economy development and growth from Macroeconomcis perspective

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students who have not taken other related courses (e.g., development economics, macroeconomics, international economics etc.) are expected to read the textbooks or overviews of those courses in advance. Students should download the learning materials through the learning support system (Hoppii). The standard preparation and review hours for the lecture is more than 4 hours each.

【テキスト（教科書）】

No textbook. Students are expected to download the learning materials through the learning support system and review them.

【参考書】

1. Guo, R. (2017) How the Chinese Economy Works. Switzerland: Palgrave Macmillan. ISBN 978-3-319-32305-3
2. Cai, F. (2020) China's Economic New Normal Growth, Structure, and Momentum. Singapore: Springer Nature. ISBN 978-981-15-3226-9
3. Pen, C., Yang, C., and Yang, X. (2020) The Basic Economic System of China. Singapore: Springer Nature. ISBN 978-981-13-6894-3
4. Yao, S., and Jiang, C. (2017) Chinese Banking Reform from the Pre-WTO Period to the Financial Crisis and Beyond. Switzerland: Springer Nature. ISBN 978-3-319-63924-6
5. Brandt, L., and Rawski, T. G. (2008) China's Great Economic Transformation. Cambridge U.S.: Cambridge University Press. ISBN 9780511754234

【成績評価の方法と基準】

1. Homework and presentation in active discussion 70%
 2. Final examination 30%
- The combination points of the two parts are 100.

【学生の意見等からの気づき】

I would like to try to create better learning materials with consideration of the students' academic levels. In addition, I would like to make the lecture more interactive, to answer the questions and to take more discussions with students.

【専門分野】

Chinese Economy, Labor Economics, Development Economics

【研究テーマ】

1. Empirical research on the effect of social security policy reforms on economy society in China
2. The impacts of technological progress on labor market outcomes in China
3. Economic growth, institutional transition, and inequality in China

【主要研究業績】

1. Ma, X. and Tang, C. (Eds.) (2022) Growth Mechanism and Sustainable Development of Chinese Economy: Comparison with Japanese Experiences. Singapore: Palgrave Macmillan. ISBN: 978-981-19-3857-3
2. Ma, X. (2022) Public Medical Insurance Reform in China. Singapore: Springer. ISBN: 978-981-16-7790-8
3. Ma, X. (Ed.) (2021) Employment, Retirement and Lifestyle in Aging East Asia. Singapore: Palgrave Macmillan. ISBN: 978-981-16-0553-6

- 4.Ma, X. (2022) "Internet Usage and Income Gaps between the Self-employed Individuals and Employees: Evidence from China," *Review of Development Economics*. <https://doi.org/10.1111/rode.12969>
- 5.Ma, X. (2022) "Parenthood and the Gender Wage Gap in Urban China," *Journal of Asian Economics*, 80:101479. <https://doi.org/10.1016/j.asieco.2022.101479>
- 6.Ma, X. (2018) "Labor Market Segmentation by Industry Sectors and Wage Gaps between Migrants and Local Urban Residents in Urban China" *China Economic Review*, 47, 96 - 115. <https://doi.org/10.1016/j.chieco.2017.11.007>

ECN300CA

Area Studies A

馬 欣欣

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：月 2/Mon.2 | キャンパス：多摩

毎年・隔年： | 科目主催学部：Economics

備考（履修条件等）：

その他属性：〈グ〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This course introduces the features of Chinese economy transition pattern compared with the other transition countries and developing countries. We will learn the economic theories and models to understand the situations and issues in economic growth and economic development under the transition period from a macroeconomic perspective. We will discuss some special issues such as the determinants of economic growth, regional disparity, and income inequality.

【到達目標】

- 1.Understand the different features of economic transition pattern between China and other countries
- 2.Understand the determinants of economic growth in China and other countries
- 3.Explain the situations and issues of economic growth and sustainable development in China and other countries from a macroeconomic perspective

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

The lecture consists of the lecture by teacher (ten times) based on the learning materials and the presentation by students (two times). The active discussions are held two times. At least one real-time online lecture.

The lecture is designed to be:

- 1.Interactive: With a strong emphasis on student participation.
- 2.Up-to-date: With the real-time explanation of unfolding events.
- 3.Critical and Analytical: Understanding the mechanism and performance of economy institution transition and economic growth
- 4.Accessible: Develop the ability to understand the differences between countries and regions within a country from macroeconomic perspective
- 5.Feedback on homework will be given at the beginning of the lecture, and feedback will be given through the learning support system (Hoppii).

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Chinese Economy and World Economy	The contents and method of area studies; the current state of the global economy; the position of the Chinese economy in the world
2	Economy in the Socialist Era	Comparison of the planned economy model between the former Soviet Union and China; the states and problems of state-owned enterprises (SOEs) and rural people's communes in China
3	Economic Reform: What is a Socialist Market Economy	The concept of a socialist market economy; two kinds of transition patterns; the role of government in transition countries
4	State Capitalism and the Development Dictatorship Model	The functions of government and market mechanism in transition countries
5.	Active Discussion	Issue1: What is a Socialist Market Economy? Issue2: What should a government do under the economic transition or economic development period?
6	Economic Growth and Population: An International Comparison (1)	International comparisons of economic development and population transformation; the background and problems of the One-Child policy in China

7	Economic Growth and Population: An International Comparison (2)	The Lewis' Dualism Model and the economic turning point; unemployment and surplus labor in China and Japan
8	International Trade and Transformation from Export-Driven Economic Growth Pattern	Export-driven economic growth pattern; the role of foreign capital; international comparisons of FDI
9	Active Discussion	Issue1: Economic significance and policy implications of economy turning point for China and other developing countries? Issue2: The influences of FDI on economic growth for China and other developing countries
10	Economic Growth and Inequality (1)	Kuznets' curve; the states of inequality between rural areas and urban areas; the reasons of regional disparities in China
11	Economic Growth and Inequality (2)	Income inequality; the poverty in China; poverty reduction policies and their effects in China and developing countries
12	Fiscal Policy and Economic Growth	The process of the decentralization and fiscal policy; the tax institution reform and its influence on Chinese economy
13	Regional Development Policies and Sustainable Economy Development	The background of regional development and promotion policy implementation and their effects on economic growth in China
14	Summary of the issues of Chinese economy development and growth	sumamry of the issues of Chinese economy development and growth from Macroeconomics perspective

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students who have not taken other related courses (e.g., development economics, macroeconomics, international economics etc.) are expected to read the textbooks or overviews of those courses in advance. Students should download the learning materials through the learning support system (Hoppii). The standard preparation and review hours for the lecture is more than 4 hours each.

【テキスト（教科書）】

No textbook. Students are expected to download the learning materials through the learning support system and review them.

【参考書】

- 1.Guo, R. (2017) How the Chinese Economy Works. Switzerland: Palgrave Macmillan. ISBN 978-3-319-32305-3
- 2.Cai, F. (2020) China's Economic New Normal Growth, Structure, and Momentum. Singapore: Springer Nature. ISBN 978-981-15-3226-9
- 3.Pen, C., Yang, C., and Yang, X. (2020) The Basic Economic System of China. Singapore: Springer Nature. ISBN 978-981-13-6894-3
- 4.Yao, S., and Jiang, C. (2017) Chinese Banking Reform from the Pre-WTO Period to the Financial Crisis and Beyond. Switzerland: Springer Nature. ISBN 978-3-319-63924-6
- 5.Brandt,L., and Rawski, T. G. (2008) China' Great Economic Transformation. Cambridge U.S.: Cambridge University Press. ISBN 9780511754234

【成績評価の方法と基準】

- 1.Homework and presentation in active discussion 70%
 - 2.Final examination 30%
- The combination points of the two parts are 100.

【学生の意見等からの気づき】

I would like to try to create better learning materials with consideration of the students' academic levels. In addition, I would like to make the lecture more interactive, to answer the questions and to take more discussions with students.

【専門分野】

Chinese Economy, Labor Economics, Development Economics

【研究テーマ】

- 1.Empirical research on the effect of social security policy reforms on economy society in China
- 2.The impacts of technological progress on labor market outcomes in China
- 3.Economic growth, institutional transition, and inequality in China

【主要研究業績】

- 1.Ma, X. and Tang, C. (Eds.) (2022) Growth Mechanism and Sustainable Development of Chinese Economy: Comparison with Japanese Experiences. Singapore: Palgrave Macmillan. ISBN: 978-981-19-3857-3

- 2.Ma, X. (2022) *Public Medical Insurance Reform in China*. Singapore: Springer. ISBN: 978-981-16-7790-8
- 3.Ma, X. (Ed.) (2021) *Employment, Retirement and Lifestyle in Aging East Asia*. Singapore: Palgrave Macmillan. ISBN:978-981-16-0553-6
- 4.Ma, X. (2022) "Internet Usage and Income Gaps between the Self-employed Individuals and Employees: Evidence from China," *Review of Development Economics*. <https://doi.org/10.1111/rode.12969>
- 5.Ma, X. (2022) "Parenthood and the Gender Wage Gap in Urban China," *Journal of Asian Economics*, 80:101479. <https://doi.org/10.1016/j.asieco.2022.101479>
- 6.Ma, X. (2018) "Labor Market Segmentation by Industry Sectors and Wage Gaps between Migrants and Local Urban Residents in Urban China" *China Economic Review*, 47, 96 - 115. <https://doi.org/10.1016/j.chieco.2017.11.007>

ECN300CA
Area Studies B
馬 欣欣
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

その他属性：〈グ〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This course introduces the factors and mechanisms behind economic growth and economic development from a microeconomic perspective. As case studies, we will discuss some special issues on state-owned enterprise reform, innovation, industrial structural transformation, social security, market segmentation in China and understand the facts, issues, and mechanism of economy transitions in emerging market economies from a microeconomic perspective.

【到達目標】

1. Understand and explain the issues of economic transition and economic development in China and other emerging market economies from microeconomic perspective
2. Understand the mechanisms and factors which influence the behaviors of individuals and firms in China and other emerging market economies under transition period
3. Understand the differences in economy transition patterns and performances between China and other emerging market economies

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP5」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】

The lecture consists of the lecture by teacher (ten times) based on the learning materials and the presentation by students (two times). The active discussions are held two times. At least one real-time online lecture.

The lecture is designed to be:

1. Interactive: With a strong emphasis on student participation.
2. Up-to-date: With the real-time explanation of unfolding events.
3. Critical and Analytical: Understanding the mechanism and performance of economy institution transition and economic growth in China and other emerging market economies
4. Accessible: Develop the ability to understand the differences between countries and regions within a country from a microeconomic perspective
5. Feedback on homework will be given at the beginning of the lecture, and feedback will be given through the learning support system (Hoppii).

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Area Studies from Microeconomic Perspective	Introduction of the contents and analyze methods of area studies from microeconomic perspective
2	State-Owned Enterprises Reform in China (1)	The features of state-owned enterprises during the planned economy; the reforms of state-owned enterprises and their problems
3	State-Owned Enterprises Reform in China (2)	Corporate governance and performance of state-owned enterprises; problems of state-owned enterprise reform in China
4	Active Discussion	Issue1: What are the determinants of the development of non-state sector in China? Issue2: What are the main problems of state-owned enterprises?
5	Transformation of Industrial Structure	The industry upgrade policy reform; "China Manufacturing 2025" and innovation; a case study of industrial upgrade in Shenzhen city of Guangdong province in China
6	Reforms in Rural China (1)	The land reform and collapse of the people's commune; Household Production Responsibility System and land right transfer in China

7	Reforms in Rural China (2)	The states of poverty and the causes of poverty in rural China; the regional disparities of poverty and the reduce poverty policies in rural China
8	Migration within China	The mechanism of migration from the rural areas to urban areas within China; the mystery in Chinese Economy-the migrant shortage phenomenon; the migrants' living and work in urban China
9	Active Discussion	Issue1: Please evaluate the implementation of Household Production Responsibility system in rural China Issue2: Why there existed a migrant shortage phenomenon in China?
10	Bank Reform in China	The reform of state-owned bank; the establishment of stork market; the problem in financial market in China
11	Economic Development and Education in China	Education system and reform in China; changes in the "National College Entrance Examination" ("Gaokao"); Higher Education Expansion Policy; causes of the problem of unemployment of college graduates in China
12	Social Security Policy in China	The social security policy reform with economic transition; the inequality of social security between rural areas and urban areas in China
13	Labor Market Reform in China	The transformation of employment and wage determinate institutions; the determinate mechanism of employment and wage based on neoclassic economics
14	Summary of the issues of Chinese economy development and growth	Summary of the issues of Chinese economy development and growth from Microeconomics perspective

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students who have not taken other related courses (e.g., development economics, microeconomics, international economics etc.) are expected to read the textbooks or overviews of those courses in advance. Students should download the learning materials through the learning support system (Hoppii). The standard preparation and review hours for the lecture is more than 4 hours each.

【テキスト（教科書）】

No textbook. Students are expected to download the learning materials through the learning support system (Hoppii) and review them.

【参考書】

1. Guo, R. (2017) How the Chinese Economy Works. Switzerland: Palgrave Macmillan. ISBN 978-3-319-32305-3
2. Cai, F. (2020) China's Economic New Normal Growth, Structure, and Momentum. Singapore: Springer Nature. ISBN 978-981-15-3226-9
3. Pen, C., Yang, C., and Yang, X. (2020) The Basic Economic System of China. Singapore: Springer Nature. ISBN 978-981-13-6894-3
4. Ma, X. (2018) Economic Transition and Labor Market Reform in China, Singapore: Palgrave Macmillan. ISBN 978-981-13-1986-0
5. Yao, S., and Jiang, C. (2017) Chinese Banking Reform from the Pre-WTO Period to the Financial Crisis and Beyond. Switzerland: Springer Nature. ISBN 978-3-319-63924-6
6. Brandt, L., and Rawski, T. G. (2008) China's Great Economic Transformation. Cambridge U.S.: Cambridge University Press. ISBN 9780511754234

【成績評価の方法と基準】

1. Homework and presentation in active discussion 70%
 2. Final examination 30%
- The combination points of the two parts are 100.

【学生の意見等からの気づき】

I would like to try to create better learning materials with consideration of the students' academic levels. In addition, I would like to make the lecture more interactive, to answer the questions and to take more discussions with students.

【専門分野】

Chinese Economy, Labor Economics, Development Economics

【研究テーマ】

1. Empirical research on the effect of social security policy reforms on economy society in China
2. The impacts of technological progress on labor market outcomes in China

3.Economic growth, institutional transition, and inequality

【主要研究業績】

1.Ma, X. and Tang, C. (Eds.) (2022) *Growth Mechanism and Sustainable Development of Chinese Economy: Comparison with Japanese Experiences*. Singapore: Palgrave Macmillan. ISBN: 978-981-19-3857-3

2.Ma, X. (2022) *Public Medical Insurance Reform in China*. Singapore: Springer. ISBN: 978-981-16-7790-8

3.Ma, X. (Ed.) (2021) *Employment, Retirement and Lifestyle in Aging East Asia*. Singapore: Palgrave Macmillan. ISBN:978-981-16-0553-6

4.Ma, X. (2022) "Internet Usage and Income Gaps between the Self-employed Individuals and Employees: Evidence from China," *Review of Development Economics*. <https://doi.org/10.1111/rode.12969>

5.Ma, X. (2022) "Parenthood and the Gender Wage Gap in Urban China," *Journal of Asian Economics*, 80:101479. <https://doi.org/10.1016/j.asieco.2022.101479>

6.Ma, X. (2018) "Labor Market Segmentation by Industry Sectors and Wage Gaps between Migrants and Local Urban Residents in Urban China" *China Economic Review*, 47, 96 - 115. <https://doi.org/10.1016/j.chieco.2017.11.007>

ECN300CA

Area Studies B

馬 欣欣

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：月 2/Mon.2 | キャンパス：多摩

毎年・隔年： | 科目主催学部：Economics

備考（履修条件等）：

その他属性：〈グ〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This course introduces the factors and mechanisms behind economic growth and economic development from a microeconomic perspective. As case studies, we will discuss some special issues on state-owned enterprise reform, innovation, industrial structural transformation, social security, market segmentation in China and understand the facts, issues, and mechanism of economy transitions in emerging market economies from a microeconomic perspective.

【到達目標】

- 1.Understand and explain the issues of economic transition and economic development in China and other emerging market economies from microeconomic perspective
- 2.Understand the mechanisms and factors which influence the behaviors of individuals and firms in China and other emerging market economies under transition period
- 3.Understand the differences in economy transition patterns and performances between China and other emerging market economies

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

The lecture consists of the lecture by teacher (ten times) based on the learning materials and the presentation by students (two times). The active discussions are held two times. At least one real-time online lecture.

The lecture is designed to be:

- 1.Interactive: With a strong emphasis on student participation.
- 2.Up-to-date: With the real-time explanation of unfolding events.
- 3.Critical and Analytical: Understanding the mechanism and performance of economy institution transition and economic growth in China and other emerging market economies
- 4.Accessible: Develop the ability to understand the differences between countries and regions within a country from a microeconomic perspective
- 5.Feedback on homework will be given at the beginning of the lecture, and feedback will be given through the learning support system (Hoppii).

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Area Studies from Microeconomic Perspective	Introduction of the contents and analyze methods of area studies from microeconomic perspective
2	State-Owned Enterprises Reform in China (1)	The features of state-owned enterprises during the planned economy; the reforms of state-owned enterprises and their problems
3	State-Owned Enterprises Reform in China (2)	Corporate governance and performance of state-owned enterprises; problems of state-owned enterprise reform in China
4	Active Discussion	Issue1: What are the determinants of the development of non-state sector in China? Issue2: What are the main problems of state-owned enterprises?
5	Transformation of Industrial Structure	The industry upgrade policy reform; "China Manufacturing 2025" and innovation; a case study of industrial upgrade in Shenzhen city of Guangdong province in China

6	Reforms in Rural China (1)	The land reform and collapse of the people's commune; Household Production Responsibility System and land right transfer in China
7	Reforms in Rural China (2)	The states of poverty and the causes of poverty in rural China; the regional disparities of poverty and the reduce poverty policies in rural China
8	Migration within China	The mechanism of migration from the rural areas to urban areas within China; the mystery in Chinese Economy-the migrant shortage phenomenon; the migrants' living and work in urban China
9	Active Discussion	Issue1: Please evaluate the implementation of Household Production Responsibility system in rural China Issue2: Why there existed a migrant shortage phenomenon in China?
10	Bank Reform in China	The reform of state-owned bank; the establishment of stork market; the problem in financial market in China
11	Economic Development and Education in China	Education system and reform in China; changes in the "National College Entrance Examination" ("Gaokao"); Higher Education Expansion Policy; causes of the problem of unemployment of college graduates in China
12	Social Security Policy in China	The social security policy reform with economic transition; the inequality of social security between rural areas and urban areas in China
13	Labor Market Reform in China	The transformation of employment and wage determinate institutions; the determinate mechanism of employment and wage based on neoclassic economics
14	Summary of the issues of Chinese economy development and growth	Summary of the issues of Chinese economy development and growth from Microeconomics perspective

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students who have not taken other related courses (e.g., development economics, microeconomics, international economics etc.) are expected to read the textbooks or overviews of those courses in advance. Students should download the learning materials through the learning support system (Hoppii). The standard preparation and review hours for the lecture is more than 4 hours each.

【テキスト（教科書）】

No textbook. Students are expected to download the learning materials through the learning support system (Hoppii) and review them.

【参考書】

- 1.Guo, R. (2017) How the Chinese Economy Works. Switzerland: Palgrave Macmillan. ISBN 978-3-319-32305-3
- 2.Cai, F. (2020) China's Economic New Normal Growth, Structure, and Momentum. Singapore: Springer Nature. ISBN 978-981-15-3226-9
- 3.Pen, C., Yang, C., and Yang, X. (2020) The Basic Economic System of China. Singapore: Springer Nature. ISBN 978-981-13-6894-3
- 4.Ma, X. (2018) Economic Transition and Labor Market Reform in China, Singapore: Palgrave Macmillan. ISBN 978-981-13-1986-0
- 5.Yao, S., and Jiang, C. (2017) Chinese Banking Reform from the Pre-WTO Period to the Financial Crisis and Beyond. Switzerland: Springer Nature. ISBN 978-3-319-63924-6
- 6.Brandt, L., and Rawski, T. G. (2008) China's Great Economic Transformation. Cambridge U.S.: Cambridge University Press. ISBN 9780511754234

【成績評価の方法と基準】

- 1.Homework and presentation in active discussion 70%
 - 2.Final examination 30%
- The combination points of the two parts are 100.

【学生の意見等からの気づき】

I would like to try to create better learning materials with consideration of the students' academic levels. In addition, I would like to make the lecture more interactive, to answer the questions and to take more discussions with students.

【専門分野】

Chinese Economy, Labor Economics, Development Economics

【研究テーマ】

1. Empirical research on the effect of social security policy reforms on economy society in China
2. The impacts of technological progress on labor market outcomes in China
3. Economic growth, institutional transition, and inequality

【主要研究業績】

1. Ma, X. and Tang, C. (Eds.) (2022) Growth Mechanism and Sustainable Development of Chinese Economy: Comparison with Japanese Experiences. Singapore: Palgrave Macmillan. ISBN: 978-981-19-3857-3
2. Ma, X. (2022) Public Medical Insurance Reform in China. Singapore: Springer. ISBN: 978-981-16-7790-8
3. Ma, X. (Ed.) (2021) Employment, Retirement and Lifestyle in Aging East Asia. Singapore: Palgrave Macmillan. ISBN: 978-981-16-0553-6
4. Ma, X. (2022) "Internet Usage and Income Gaps between the Self-employed Individuals and Employees: Evidence from China," Review of Development Economics. <https://doi.org/10.1111/rode.12969>
5. Ma, X. (2022) "Parenthood and the Gender Wage Gap in Urban China," Journal of Asian Economics, 80:101479. <https://doi.org/10.1016/j.asieco.2022.101479>
6. Ma, X. (2018) "Labor Market Segmentation by Industry Sectors and Wage Gaps between Migrants and Local Urban Residents in Urban China" China Economic Review, 47, 96 - 115. <https://doi.org/10.1016/j.chieco.2017.11.007>

LANe200CA
Business Research Seminar A
中谷 安男
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位
初回の授業に出席し担当教員の指示を受ける。

その他属性：〈グ〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Participants learn current English through authentic business cases in Japanese contexts focusing on global leaders. They also learn English presentation skills to demonstrate their understanding of business studies.

【到達目標】

Students can demonstrate their understanding of current important business issues. They can improve their negotiation skills.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP3」「DP5」に関連。国際経済学科は「DP3」「DP5」「DP9」に関連。

【授業の進め方と方法】

Students learn the important skills for effective presentations in English. They can have opportunities to improve their negotiation skills. This course also develops an awareness of the importance of coherence and cohesion in speech discourse to attract audience.

We share the feedback participants and discuss the issues to enhance lessons.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Introduction Marketing Mix in Emerging Countries	Shiseido Thailand
2	Innovative Marketing Approaches	Kao USA
3	Exploring Global Business and Enhancing People's Sustainable Value	MUJI: Ryohinkeikaku
4	Confectionery Marketing in Overseas Business	Morinaga U.S.A
5	Guerrilla Marketing Strategies	Coca-Cola Laos
6	Counter Innovators' Dilemma	Toshiba Vietnam
7	Enhancing Internal Communication of Global Company	Honda Motor
8	Focus Strategy and Cost Leadership Strategy in Frozen Food Industry	Hatchando Vietnam

9	World Standard Hospitality	Imperial Hotel
10	Creating a Japanese Luxury Brand	Toyota Lexus
11	Japanese Art and Technology	Toshiro Alloy Inc
12	Clean Water Supply System for BOP Business	Yamaha Motor Indonesia and Africa
13	Connecting People With What's Happening	Twitter Japan
14	Uniting the World for a Better Tomorrow	IC Net Limited

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Lessons preparation and review exercises
Preparation 2 hours, review 2 hours, a total of 4 hours.

【テキスト（教科書）】

Business Case Studies of Global Leaders. By Y. Nakatani & R. Smithers.

Seibido

【参考書】

Dynamic Presentations, by M. Hood. Kinseido

【成績評価の方法と基準】

Class participation and contribution 30%

Class presentations 40%

Final presentation 30%

【学生の意見等からの気づき】

Improving writing skills as well

【学生が準備すべき機器他】

PC, DVD, Internet connection

LANe200CA

Business Research Seminar A

中谷 安男

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：木 3/Thu.3 | キャンパス：多摩

毎年・隔年： | 科目主催学部：Economics

備考（履修条件等）：

その他属性：〈グ〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Participants learn current English through authentic business cases in Japanese contexts focusing on global leaders. They also learn English presentation skills to demonstrate their understanding of business studies.

【到達目標】

Students can demonstrate their understanding of current important business issues. They can improve their negotiation skills.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

Students learn the important skills for effective presentations in English. They can have opportunities to improve their negotiation skills. This course also develops an awareness of the importance of coherence and cohesion in speech discourse to attract audience.

We share the feedback participants and discuss the issues to enhance lessons.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Introduction Marketing Mix in Emerging Countries	Shiseido Thailand
2	Innovative Marketing Approaches	Kao USA
3	Exploring Global Business and Enhancing People's Sustainable Value	MUJI: Ryohinkeikaku
4	Confectionery Marketing in Overseas Business	Morinaga U.S.A
5	Guerrilla Marketing Strategies	Coca-Cola Laos
6	Counter Innovators' Dilemma	Toshiba Vietnam
7	Enhancing Internal Communication of Global Company	Honda Motor
8	Focus Strategy and Cost Leadership Strategy in Frozen Food Industry	Hatchando Vietnam

9	World Standard Hospitality	Imperial Hotel
10	Creating a Japanese Luxury Brand	Toyota Lexus
11	Japanese Art and Technology	Toshiro Alloy Inc
12	Clean Water Supply System for BOP Business	Yamaha Motor Indonesia and Africa
13	Connecting People With What's Happening	Twitter Japan
14	Uniting the World for a Better Tomorrow	IC Net Limited

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Lessons preparation and review exercises
Preparation 2 hours, review 2 hours, a total of 4 hours.

【テキスト（教科書）】

Business Case Studies of Global Leaders. By Y. Nakatani & R. Smithers.
Seibido

【参考書】

Dynamic Presentations, by M. Hood. Kinseido

【成績評価の方法と基準】

Class participation and contribution 30%
Class presentations 40%
Final presentation 30%

【学生の意見等からの気づき】

Improving writing skills as well

【学生が準備すべき機器他】

PC, DVD, Internet connection

LANe200CA
Business Research Seminar B
中谷 安男
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位
初回の授業に出席し担当教員の指示を受ける。

その他属性：〈グ〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Participants learn current English through authentic business cases in Japanese contexts focusing on global leaders. They also learn English negotiation skills to demonstrate their understanding of business studies at an advanced level.

【到達目標】

Students can demonstrate their understanding of current important business issues. They can improve their negotiation skills at an advanced level.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP3」「DP5」に関連。国際経済学科は「DP3」「DP5」「DP9」に関連。

【授業の進め方と方法】

Students learn the important skills for effective negotiations in English. This course also develops an awareness of the importance of coherence and cohesion in speech discourse to attract audience.

We share the feedback participants and discuss the issues to enhance lessons.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Introduction	Intel Japan
2	Creating Value and Making a Difference	Coca-Cola
3	Luxury Business	Chanel & CD
4	MOT	Sapporo Breweries
5	Reviving a Leading Brand	MUJI
6	Negotiation with Headquarters	Intel Japan
7	Making a Challenging Business Profitable	JRK
8	Omotenashi	Shiseido China
9	Emerging Market	Toshiba Vietnam
10	De-centralizing Marketing Strategies	Intel Japan Promotions
11	Confectionary Business	Meigetsudo
12	Global MUJI	MUJI
13	Enhancing Global Brand Communication	Global Shiseido
14	Global Business Model	Konica Minolta

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Lesson preparation and review exercises
Preparation 2 hours, review 2 hours, a total of 4 hours.

【テキスト（教科書）】

Global Leadership; Case Studies of Business Leaders in Japan
Yasuo NAKATANI & Ryan Smithers. Kinseido

【参考書】

Yoshio Sugita & Richard R. Caraker. Writing for Presentation in English. Nan'un-do

【成績評価の方法と基準】

Class participation and contribution 30%

Class presentations 40%

Final presentation 30%

【学生の意見等からの気づき】

Improving writing skills as well

【学生が準備すべき機器他】

PC, DVD, Internet connection

LANe200CA

Business Research Seminar B

中谷 安男

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位
 曜日・時限：木 3/Thu.3 | キャンパス：多摩
 毎年・隔年： | 科目主催学部：Economics
 備考（履修条件等）：
 その他属性：〈グ〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Participants learn current English through authentic business cases in Japanese contexts focusing on global leaders. They also learn English negotiation skills to demonstrate their understanding of business studies at an advanced level.

【到達目標】

Students can demonstrate their understanding of current important business issues. They can improve their negotiation skills at an advanced level.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

Students learn the important skills for effective negotiations in English. This course also develops an awareness of the importance of coherence and cohesion in speech discourse to attract audience.

We share the feedback participants and discuss the issues to enhance lessons.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Introduction	Intel Japan
2	Creating Value and Making a Difference	Coca-Cola
3	Luxury Business	Chanel & CD
4	MOT	Sapporo Breweries
5	Reviving a Leading Brand	MUJI
6	Negotiation with Headquarters	Intel Japan
7	Making a Challenging Business Profitable	JRK
8	Omotenashi	Shiseido China
9	Emerging Market	Toshiba Vietnam
10	De-centralizing Marketing Strategies	Intel Japan Promotions
11	Confectionary Business	Meigetsudo
12	Global MUJI	MUJI
13	Enhancing Global Brand Communication	Global Shiseido
14	Global Business Model	Konica Minolta

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Lesson preparation and review exercises
 Preparation 2 hours, review 2 hours, a total of 4 hours.

【テキスト（教科書）】

Global Leadership; Case Studies of Business Leaders in Japan
 Yasuo NAKATANI & Ryan Smithers. Kinseido

【参考書】

Yoshio Sugita & Richard R. Caraker. Writing for Presentation in English. Nan'un-do

【成績評価の方法と基準】

Class participation and contribution 30%
 Class presentations 40%
 Final presentation 30%

【学生の意見等からの気づき】

Improving writing skills as well

【学生が準備すべき機器他】

PC, DVD, Internet connection

MAN200CA
簿記Ⅱ A
岸 牧人
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

簿記Ⅰ A,B の内容の理解を前提として、中級程度の経済取引の会計処理について学習する。

【到達目標】

この講義では以下の諸点を到達目標とする。

- (1) 非製造業における諸取引の記帳方法を理解する。
- (2) 株式会社（非製造業）の基本的な会計処理について学習する。
- (3) 上記の(1), (2)を前提とした決算書の作成について学習する。
- (4) 全体を通じて日商 2 級商業簿記の合格水準の技能を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】

講義ごとに書き込み式のプリントを配付する。テキストにそって講義した後、プリントによって補足説明を行い、演習問題に取り組む。オンライン授業は動画配信（オンデマンド）によって行う。中間試験の答えは、採点後に返却する。期末試験の答えについては希望者に返却する。プリントの演習問題、および中間試験、期末試験の解答と解説は Hoppii にアップする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス／商品売買取引	講義計画／分記法、売上原価対立法、三分法による会計処理と決算整理、
第 2 回	商品の期末評価	棚卸減耗損、商品評価損の会計処理方法と損益計算書における表示方法
第 3 回	現金預金取引	簿記上の現金の範囲と処理方法、銀行勘定調整表の作成方法
第 4 回	債権・債務	手形の不渡りと更改、クレジット売掛金、電子記録債権債務、債務の保証
第 5 回	有価証券の種類と取得原価	有価証券の意義と種類、移動平均法、総平均法による購入時の会計処理
第 6 回	有価証券の売却処理と期末評価	有価証券の売却時の会計処理、期末評価方法
第 7 回	中間試験および解説	第 1 回～第 6 回までの内容に関する中間試験および解説
第 8 回	有形固定資産の取得、減価償却、売却	有形固定資産の取得、減価償却、売却に関する会計処理
第 9 回	その他の有形固定資産取引	有形固定資産の割賦購入、建設仮勘定、改良と修繕、除却と廃棄、買い換えに関する会計処理
第 10 回	リース取引	ファイナンス・リース取引、オペレーティング・リース取引の会計処理
第 11 回	無形固定資産取引と研究開発費、引当金	特許権、商標権、研究開発費の会計処理、評価性引当金および負債性引当金の会計処理
第 12 回	外貨換算会計	財務諸表項目の外貨換算、外貨建取引および為替予約の会計処理

第 13 回 課税所得の算定と税効果会計 企業会計上の利益と課税所得の相違、永久差異と一時差異、税効果会計の処理方法

第 14 回 期末試験および解説 第 8 回から第 13 回までの内容を中心に期末試験を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストの「仕訳例」および「基本例題」を事前に学習すること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

TAC 出版『合格テキスト日商簿記 2 級商業簿記』（開講時の最新バージョン）

【参考書】

TAC 出版『合格トレーニング日商簿記 2 級商業簿記』（開講時の最新バージョン）

【成績評価の方法と基準】

中間試験 40%、期末試験 60%

【学生の意見等からの気づき】

簿記Ⅰ（簿記入門）と比較して学習内容が質・量ともに多くなるので、ペース配分に留意して講義を進める。

【学生が準備すべき機器他】

電卓（12 桁を推奨）、プリントを綴じるための 2 穴のファイル

【Outline (in English)】

This course introduces intermediate level of bookkeeping. Students of the class should have the basic knowledge of bookkeeping as a prerequisite.

At the end of the course, students are expected to be able to convert

corporate transactions to financial statements according to the accounting standards. Students' overall grade in the class will be decided based on the following: (a)mid-term exam: 40%, term-end exam: 60%.

MAN200CA
簿記ⅡB
岸 牧人
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

簿記ⅠA,Bおよび簿記ⅡAの内容の理解を前提として、中級程度の経済取引の会計処理および決算書の作成過程、作成方法について学習する。

【到達目標】

この講義では以下の諸点を到達目標とする。

- (1) 非製造業における諸取引の記帳方法を理解する。
- (2) 株式会社（非製造業）の基本的な会計処理について学習する。
- (3) 上記の(1)、(2)を前提とした決算書の作成について学習する。
- (4) 全体を通じて日商2級商業簿記の合格水準の技能を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】

講義ごとに書き込み式のプリントを配付する。テキストにそって講義した後、プリントによって補足説明を行い、演習問題に取り組む。オンライン授業は動画配信（オンデマンド）によって行う。中間試験の答えは、採点后に返却する。期末試験の答えについては希望者に返却する。プリントの演習問題、および中間試験、期末試験の解答と解説は Hoppii にアップする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス、株式の発行	講義計画／株式会社の純資産構成、株式発行時の会計処理
第2回	剰余金の配当と処分	利益剰余金の配当と処分の会計処理、株主資本等変動計算書の作成方法
第3回	収益・費用の認識基準	発生主義・実現主義にもとづく収益・費用の計上、サービス業における役務収益と役務原価の計上
第4回	本支店会計の基礎	本支店会計の意義、本支店間取引、本支店会計における決算手続、合併財務諸表の作成方法
第5回	本支店会計演習	未達事項の処理、本支店会計における決算手続、および合併財務諸表作成の反復演習
第6回	合併と事業譲渡	吸収合併と新設合併、パーチェス法による合併の会計処理、事業譲渡の会計処理
第7回	中間試験および解説	第1回～第6回までの内容に関する中間試験および解答・解説
第8回	連結会計(1) 連結会計の基礎	連結財務諸表の意義、親会社説と経済的単一体説、子会社取得時の投資と資本の相殺消去、部分所有の場合の資本連結
第9回	連結会計(2) 連結1年度の開始仕訳と期中仕訳（資本連結）	連結1年度における資本連結と期中仕訳、連結財務諸表の作成
第10回	連結会計(3) 連結2年度の開始仕訳と期中仕訳（資本連結）	連結2年度における開始仕訳と期中仕訳、連結財務諸表の作成

第11回	連結会計(4) 成果連結① 会社間取引と債権債務の相殺消去	内部取引の相殺消去、貸倒引当金の連結修正処理、アップストリームとダウンストリーム
第12回	連結会計(5) 成果連結② 未実現利益の消去	期末商品、期首商品に含まれる未実現利益の消去方法、その他の会社間取引によって生じる未実現利益の消去方法
第13回	連結会計(6) 連結会計総合演習	連結会計に関する集中的な問題演習
第14回	期末試験および解説	第13回までの内容に関する期末試験および解答・解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストの「仕訳例」および「基本例題」を事前に学習すること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

TAC 出版『合格テキスト日商簿記2級商業簿記』（開講時の最新バージョン）

【参考書】

TAC 出版『合格トレーニング日商簿記2級商業簿記』（開講時の最新バージョン）

【成績評価の方法と基準】

中間テスト 40%、期末試験 60%

【学生の意見等からの気づき】

検定試験の出題範囲の拡大により本講義の内容も増加したため、ペース配分に留意して講義を進めます。

【学生が準備すべき機器他】

電卓（12桁）、プリントを閉じるための2穴のファイル

【Outline (in English)】

This course introduces intermediate level of bookkeeping. Students of the class should have the basic knowledge of bookkeeping as a prerequisite.

At the end of the course, students are expected to be able to convert

corporate transactions to financial statements according to the accounting standards. Students' overall grade in the class will be decided based on the following: (a)mid-term exam: 40%, term-end exam: 60%.

ECN300CA
地域経済論 A
川邊 安彦
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Covid-19 下におけるグローバル情勢は大きく変化しました。中国ではめざましい経済発展が鈍化し始め、中南米ではメキシコ政権が変化し新ブラジル政権の変化が起きました。アセアンにおいても国々で新たな課題が視えています。また、経済成長の伸びが停滞しています。この講義では、春学期にタイを中心としたアセアンの現状から今後の変化を読み取る講義を行います。

【到達目標】

経済学の上では、海外の他の地域経済を理解することが現在重要な要素になってきています。この講義では、日本と関係が近いアセアンにおけるタイや中南米の中で日本と深い関係にあるメキシコを知ることによりアセアン・中南米の経済の動きを理解し、グローバルな観点からの経済動向を学ぶ力を養うものとします。また、チーム毎の意見交換による傾聴、まとめる力を個々の学生が実践で学べる機会を常に維持することで他人の意見を聴きながら、意見をまとめる能力をつけられる形式の講義内で試みます。（また、ファシリテーション手法の理解と実践を講義の中で進めたいと考えています。）

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】

- ①シラバスの内容を事前に確認し指示事項に沿って予習を行ってください。
- ②毎回講義で質疑を行いますので理解を深めてください。
- ③教員側からコメントや資料の意味について説明を行います。
- ④講義の理解確認の為、ミニ試験と最終確認試験を適宜行います。
- ⑤前回の授業内容への理解確認や課題等に対するフィードバックの為に次回の講義の最初に確認時間を設定します。尚、2023 年度はオンライン講義のみで実施します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	講義の狙い、進め方の確認	講義手法の目的の説明、学生のグループ編成、講義の進め方の説明、講義内レポート実施説明
第 2 回	現在のタイ経済の状況	アセアンの多地域との差の認識。アセアン以外の類似国との差異確認。
第 3 回	タイの強みと弱みの分析 (1)	産業構造から見た強みと弱み
第 4 回	タイの強みと弱みの分析 (2)	人口や教育・衛生・医療から見た強みと弱み
第 5 回	タイのバンコクと地方都市との差異	地勢的な地域特性からの課題
第 6 回	タイの交通網について	アセアンの他の地域との比較
第 7 回	確認試験と討議①	前回までの講義内容の理解確認を行う試験と意見交換の討議を行う
第 8 回	サンプル 1：クラビ県の魅力と将来性	世界を代表するピビ島の悩みや現状から見える将来性
第 9 回	クラビ県の温泉リゾート経営者（タイ温泉協会会長・王族）とのテレビ会議	事実を学生が確認できるチャンスの設定 (TBD)
第 10 回	サンプル 2：プーケットの魅力と将来性	何故、発展したのか？ データ整理と分析

第 11 回 サンプル 3：ラノーン 今後、発展するための施策とは？
県の魅力と将来性

第 12 回 クラビ県、プーケット、ラノーン県の比較
分析から見出せるものは何か？

第 13 回 確認討議②
前回までの講義内容の理解確認し、討議を行う

第 14 回 最終試験
確認試験実施

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義の中では、タイのアセアンにおける位置付けを理解します。学生が学ぶポイントは、自動車産業・電気電子産業・観光など視点は自由設定とします。講義内で終了するように事前にシラバスを確認し、学生各自のテーマに沿った事前情報の整理が必要と考えます。本授業の準備学習・復習時間は、各 4 時間以上を標準とします。

【テキスト（教科書）】

当日、プリントを配布しますので活用ください。

【参考書】

興味のある学生は、タイ政府公式 HP を参考にすること。

【成績評価の方法と基準】

成績は、第 7 回と第 14 回の講義時間に正誤テストを行います。この 2 回の試験により成績評価（各回配分 50 %、合計 100 %）を行います。必ず出席ください。

【学生の意見等からの気づき】

学生からの講義に対する意見は、個別にメールで送付ください。次回以降の講義に反映する前提でフィードバックをお願いします。

【学生が準備すべき機器他】

スマホまたは、パソコンによる講義内の情報入手のための機器を必要とします。

【Outline (in English)】

Course outline: Regional Economics

Today, China's remarkable economic development has begun to slow, and in Latin America, the Brazilian government has changed after the change Mexican in the government.

In ASEAN, new challenges are being seen in each country.

Also, From a global perspective, the growth of economic growth due to COVID-19 is stagnant.

In this lecture, we will give a lecture to read the future global trends from the changes in ASEAN centered on Thailand in the spring semester and the current situation in Central and South America centered on Mexico in the fall semester.

Understanding other regional economies abroad is an important point of evaluation analysis.

Learning Objectives:

1.In this lecture, you will learn about Thailand and Mexico, which are closely related to Japan, to understand the economic movements of ASEAN and Latin America, and to develop the ability to learn economic trends from a global perspective.

2.In addition, by always maintaining the opportunity for individual students to learn the ability to listen and organize by exchanging opinions with each team, we will give lectures in a format that gives the ability to summarize the content and derive directions while listening to the opinions of others.

3.Specifically, it is also a lecture to learn facilitation.

Learning activities outside of classroom:

1.If possible, check on the net for yourself based on the theme and content as preparation.

2.For review, check the public information and find out how to proceed in general.

Grading Criteria /Policy:

1.Grades will be tested using a mark sheet method at the end of the final lecture.70%

2.If necessary, a confirmation test will be conducted in each lecture.30%

3.Please be sure to participate in this exam as it will be a confirmation of attendance.

ECN300CA
地域経済論 B
川邊 安彦
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Covid-19 下におけるグローバル情勢は大きく変化しました。中国ではめざましい経済発展が鈍化し始め、中南米ではメキシコ政権の変化の後に新ブラジル政権への変化が起きました。アセアンにおいても国々で新たな課題が視えています。また、経済成長の伸びが停滞しています。この講義では、後期にメキシコを中心とした中南米の現状から今後の変化を読み取る講義を行ないます。

【到達目標】

経済学の上では、海外の他の地域経済を理解することが現在重要な要素になってきています。この講義では、日本と関係が近いアセアンにおけるタイや中南米の中で日本と深い関係があるメキシコを知ることによりアセアン・中南米の経済の動きを理解し、グローバルな観点からの経済動向を学ぶ力を養うものとします。また、チーム毎の意見交換による傾聴、まとめる力を個々の学生が実践で学べる機会を常に維持することで他人の意見を聴きながら、意見をまとめる能力を身につける形式の講義を試みます。（また、ファシリテーション手法の理解と実践を講義の中で進めたいと考えています。）

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】

- ①シラバスの内容を事前に確認し指示事項に沿って予習を行ってください。
- ②毎回講義で質疑を行いますので理解を深めてください。
- ③教員側からコメントや資料の意味について説明を行います。
- ④講義の理解確認の為、ミニ試験と最終確認試験を適宜行います。
- ⑤前回の授業内容への理解確認や課題等に対するフィードバックの為に次回の講義の最初に確認時間を設定します。尚、2023 年度はオンライン講義のみで実施します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	講義の狙い、進め方の確認	講義手法の目的の説明、学生のグループ編成、講義の進め方の説明、講義内レポート実施説明
第 2 回	現在のメキシコ経済と新政権ブラジル経済との比較から見える中南米の将来性を学ぶ	中南米の多地域との差の認識。中南米以外の類似国との差異確認。
第 3 回	メキシコの強みと弱みの分析 (1)	産業構造から見た強みと弱みの分析
第 4 回	メキシコの強みと弱みの分析 (2)	人口や教育・衛生・医療から見た強みと弱みの分析
第 5 回	首都メキシコシティと地方都市との差異	距離からの構造的な課題、地域特性からの課題
第 6 回	メキシコの交通網について	中南米の他の地域との比較、平均年取との差からの分析
第 7 回	確認試験と討議①	前回までの講義内容の理解確認を行う試験と意見交換の討議を行う
第 8 回	メキシコ政府の公開情報から見える現状の理解	海外政府情報の理解と情報解析能力を高める手法を学ぶ
第 9 回	サンプル 1：首都メキシコ DF の魅力と将来性	世界を代表するビジネス構造の悩みや現状から見える将来性

- 第 10 回 サンプル 2：ゴールドメントライアングルの魅力と将来性 何故、発展したのか？ データ整理と分析
- 第 11 回 サンプル 3：他の地域との産業構造の差と将来性 今後、発展するための施策とは？
- 第 12 回 メキシコとブラジルや他の中南米諸国との比較 分析から見出せるものは何か？
- 第 13 回 確認討議② 前回までの講義内容の理解確認し、討議を行う
- 第 14 回 最終試験 確認試験実施

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義の中でメキシコの中南米での位置付けを理解します。自動車産業、電気産業、観光、農業など視点は自由設定とします。全てが講義内で終了するように事前にシラバスを確認し、事前情報の整理が必要と考えます。本授業の準備学習・復習時間は、各 4 時間以上を標準とします。

【テキスト（教科書）】

当日プリントを配布しますので活用ください。

【参考書】

興味のある学生は、メキシコ政府公式 HP を参考にすること。

【成績評価の方法と基準】

成績は、第 7 回と第 14 回の講義時間に正誤テストを行います。この 2 回の試験により成績評価（各回配分 50 %、合計 100 %）を行います。必ず出席ください。

【学生の意見等からの気づき】

学生側の講義に対する意見は、個別にメールで送付ください。次回以降の講義に反映する前提です。

【学生が準備すべき機器他】

スマホまたは、パソコンによる講義内の情報入手のための機器を必要とします。

【Outline (in English)】

Course outline: Regional Economics

Today, China's remarkable economic development has begun to slow, and in Latin America, the Mexican government has changed after the change in the Brazilian government.

In ASEAN, new challenges are being seen in each country.

Also, From a global perspective, the growth of economic growth due to COVID-19 is stagnant.

In this lecture, we will give a lecture to read the future global trends from the changes in ASEAN centered on Thailand in the spring semester and the current situation in Central and South America centered on Mexico in the fall semester.

Understanding other regional economies abroad is an important point of evaluation analysis.

Learning Objectives:

1.In this lecture, you will learn about Thailand and Mexico, which are closely related to Japan, to understand the economic movements of ASEAN and Latin America, and to develop the ability to learn economic trends from a global perspective.

2.In addition, by always maintaining the opportunity for individual students to learn the ability to listen and organize by exchanging opinions with each team, we will give lectures in a format that gives the ability to summarize the content and derive directions while listening to the opinions of others.

3.Specifically, it is also a lecture to learn facilitation.

Learning activities outside of classroom:

1.If possible, check on the net for yourself based on the theme and content as preparation.

2.For review, check the public information and find out how to proceed in general.

Grading Criteria /Policy:

1.Grades will be tested using a mark sheet method at the end of the final lecture.70%

2.If necessary, a confirmation test will be conducted in each lecture.30%

3. Please be sure to participate in this exam as it will be a confirmation of attendance.

LANe200CA
Academic Research Seminar A
飯野 厚
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位
初回の授業に出席し担当教員の指示を受ける。

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

量的または質的リサーチ型英語論文を書くためのノウハウを学ぶ。まず論文の作りを理解する。そして、テーマ設定、先行研究の選び方とまとめ、リサーチクエスションの立て方、データ収集の方法、考察の仕方、まとめ方など一通り理解する。そのうえで、リサーチプロポーザルを提出し、Introduction, Literature review, Methodまでを執筆する。

【到達目標】

The students will be able to write a research paper in English principally in the field of English language teaching (learning) or cross-cultural communication, learning how to write a paper. 受講者は、英語論文の書き方を学びながら、英語教育（学習）、異文化間コミュニケーションなどをテーマとした研究論文を英語で執筆できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

This course is based on explanations and practices of writing a research paper with individual consultation. Individual feedback will be provided.

- (1) Choose a research theme, search the related literature and create research questions.
- (2) Learn the organization of a research paper and write a research proposal
- (3) Collect data, and summarize them for analysis

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	What is research?	Overview of the works done by former students
2	How to write comprehensible English 1	IMRAD construction, Start searching the topic of your research
3	Briefing of research proposal and finding previous research	Hosei Library Guidance, Making review sheet in Excel as a review format
4	How to write comprehensible English 2+Create research questions	Compile the previous research: list up the findings of studies and categorize them
5	How to write comprehensible English 3+ Write a research proposal in Japanese	Background, What is to be known, Expected results and tentative conclusion
6	How to write comprehensible English 4 +Make a title and write an abstract	Make sure if the proposed plan works

7	How to write a paragraph+ Write Introduction	Explanation of topical issue and your motivation
8	Write Introduction 1	Definition of the terminology and brief introduction of previous research
9	Write Introduction 2	Research issue and the goal of your research
10	Write Literature review	Introducing primary literature and critique
11	Write Research Questions and hypotheses	Squeeze the questions and hypotheses based on literature review
12	Write Method	Participants, materials, and procedure
13	Write hypothetical Results	How to summarize the collected information How to make tables and figures, appendices
14	Write hypothetical Discussion	How to write discussion part, referring the previous research

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Keep on reading and writing: 本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

Reading Packet を配布する

【参考書】

- 『経済学・経営学のための英語論文の書き方』中央経済社
- 『英語科学論文の書き方—IMRaDでわかる科学論文の構造』中山書店
- 『英語研究論文の書き方』ミネルヴァ書房(2012)
- 『APA論文作成マニュアル 第2版』医学書院(2011)[邦訳版]

【成績評価の方法と基準】

- 50% In-class participation in activities
- 50% Documents submitted

【学生の意見等からの気づき】

Pay special attention to students' needs and maintain frequent enough communication with individuals during the courses.

【その他の重要事項】

Students should know what is "paragraph writing" and have experience in practicing paragraph writing.

【Outline (in English)】

The students will learn how to write quantitative and qualitative research papers. They will understand the structure of a research paper and then learn how to decide one's theme, to review literature, to create their research questions, to collect data and summarize it. Once research proposal is accepted, they will write introduction, literature review and method parts.

LANe200CA
Academic Research Seminar B
飯野 厚
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位
初回の授業に出席し担当教員の指示を受ける。

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

春学期中に作成した研究提案と収集したデータにもとづいて、本格的に英語論文を執筆する。Introduction, Literature review, Method に続けて Results (Analysis), Discussion, Conclusion, References (APA style) までを執筆し完成する。

【到達目標】

Through the course, the students will be able to write a research paper based on the collected data in the previous semester.

本コースを通して受講者は春学期に分析したデータに基づいて、考察や結論を加え研究論文を英語で執筆する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

- (1) Briefing the organization of a paper
- (2) Write each section of a paper particularly Results and Discussion parts
- (3) Give feedback individually and share common mistakes in class

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Orientation	Organization of a research paper: IMRAD
2	Introduction	Specification of study field, backgrounds and issues, definition of terms
3	Revising Introduction	Briefing previous research, significance of the study and its purpose
4	Revising Review of literature	How to cite previous studies
5	Revising Organized review of literature	How to connect with research questions
6	Revising Method 1	Participants, materials, and procedure to collect data
7	Revising Method 2	Description of data analysis
8	Results 1:	Quantitative data summary: How to make Tables and Figures, Utilizing simple statistics
9	Results 2:	Qualitative data summary: categorization, excerpts, appendices
10	Discussion:	Restatement of the purpose and contrasting with previous studies
11	Implication and Conclusion	Summarizing the study and the results, limitation, further research
12	References	How to write in APA style
13	Appendix, Notes	Materials and data tables

14 Oral presentation of finalized work Feedback provided to individual students

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Keep on writing : 本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

Reading Packet を配布する

【参考書】

『経済学・経営学のための英語論文の書き方』中央経済社

『英語科学論文の書き方— IMRaD でわかる科学論文の構造』中山書店

『英語研究論文の書き方』ミネルヴァ書房 (2012)

『APA 論文作成マニュアル 第 2 版』医学書院 (2011)[邦訳版]

【成績評価の方法と基準】

20% In-class activities

80% Documents submitted

【学生の意見等からの気づき】

Pay special attention to students' needs and maintain frequent enough communication with individuals during the courses

【その他の重要事項】

秋学期から履修する人は、日本語による完成に近い研究論文（分野、課題自由）または前期シラバスの最終段階（Method まで）に匹敵する英語論文のを 2 週目までに準備できることが条件です。

【Outline (in English)】

Following the research proposal, the students will compile the data they collected and continue writing their paper. Concretely following the part of introduction and method, results (analysis), discussion, and conclusion parts will be completed with references organized by APA style.

LANe200CA
Academic Research Seminar A
伊藤 健彦
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位
初回の授業に出席し担当教員の指示を受ける。

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

英語論文の執筆方法を学び、他の受講生と積極的に英語でコミュニケーションを取ることで、英語で自分の考えを発信する力をつける。授業ではまず、論文の構成とパラグラフの書き方を学ぶ。次に、先行研究の読み方と文献の引用方法を学んだ後、序論と研究方法の書き方を学ぶ。最後に受講生が考えた論文内容を発表する。

【到達目標】

- 1) 英語論文の構造、特に、序論・方法の書き方を理解出来るようになる。
- 2) 研究論文を英語で執筆出来るようになる。
- 3) 他者と英語でコミュニケーションし、建設的な議論が出来るようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

- 1) 受講生は、テキストをあらかじめ読み、予習しておく。
- 2) 授業内で出された課題を、個人・ペア・グループで行う。
- 3) 受講生は成果を発表し、必要に応じて他の受講生や教員がフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Introduction	自己紹介と授業内容の説明
2	Structure of Research Paper	研究論文の構成に関する説明
3	How to Write a Paragraph	パラグラフの書き方の説明と実践
4	How to Write Multiple Paragraphs	複数のパラグラフの書き方の説明と実践
5	How to Read a Research Paper	文献の読み方の説明と実践
6	How to Quote a Research Paper	文献の引用方法の説明と実践
7	How to Write Introduction 1	研究テーマの設定に関する説明と実践
8	How to Write Introduction 2	序論の書き方の説明と実践
9	Literature Review & Summary of Introduction	先行研究のレビューと序論に関するまとめ
10	How to Write Method 1	研究方法の書き方の説明と実践
11	How to Write Method 2	データ分析の方法の説明と実践
12	Making an Outline	受講生によるアウトラインの作成
13	Discussion	受講生が考えた論文内容に関する議論
14	Presentation	受講生が考えた論文内容の発表

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業前にテキストを最低 2 時間予習する。
授業後には、出された宿題に取り組む。宿題には最低 2 時間かける。

【テキスト（教科書）】

『経済学・経営学のための英語論文の書き方』 中谷安男 中央経済社

【参考書】

『英語科学論文の書き方—IMRaD でわかる科学論文の構造』 片山晶子他 中山書店
『APA 論文作成マニュアル 第 2 版』 アメリカ心理学会 医学書院
『Writing Scientific Research Articles Second Edition』 Margaret Cargill 他 Wiley-Blackwell

【成績評価の方法と基準】

授業内課題 30%
宿題 30%
レポート課題 40%

【学生の意見等からの気づき】

受講生のニーズに照らし合わせて、授業内容を調整していく必要がある。

【学生が準備すべき機器他】

授業中、受講生はパソコンを使用する。各自がパソコンを持参する。

【その他の重要事項】

英語セミナー B と関連する授業内容のため、英語セミナー B も履修することを推奨する。

【Outline (in English)】

This course aims to prepare students to effectively communicate in English while studying and consequently be prepared for their future professions in real life and work. The goal is to help students understand the structure of English research papers, focusing on introductions and methods, writing a research paper in English, and communicating effectively through discussions. Students are expected to study for at least two hours before each class and do homework for at least two hours after class. The grading criteria are based on classroom tasks (30%), homework (30%), and writing reports (40%).

LANe200CA
Academic Research Seminar B
伊藤 健彦
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位
初回の授業に出席し担当教員の指示を受ける。

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

英語セミナー A に引き続き、英語論文の執筆方法を学び、他の受講生と積極的に英語でコミュニケーションを取ることで、英語で自分の考えを発信する力をつける。授業では、研究結果の書き方を学んだ後、考察や結論、要約の書き方を学ぶ。最後に受講生が作成した論文を発表する。

【到達目標】

- 1) 英語論文の構造、特に、結果・考察・結論の書き方が理解出来るようになる。
- 2) 研究論文を英語で執筆出来るようになる。
- 3) 他者と英語でコミュニケーションし、建設的な議論が出来るようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

- 1) 受講生は、テキストをあらかじめ読み、予習しておく。
- 2) 授業内で出された課題を、個人・ペア・グループで行う。
- 3) 受講生は成果を発表し、必要に応じて他の受講生や教員がフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Introduction	自己紹介と授業内容の説明
2	Review of Structure of Research Paper	研究論文の構成のおさらい
3	Review of Reading & Quoting a Research Paper	文献の読み方と引用方法のおさらい
4	Review of Writing Introduction	序論の書き方のおさらい
5	Review of Writing Method	研究方法の書き方のおさらい
6	How to Write Result 1	統計データの書き方の説明と実践
7	How to Write Result 2	図や表の書き方の説明と実践
8	How to Write Discussion 1	仮説検証の書き方の説明と実践
9	How to Write Discussion 2	貢献や今後の課題の書き方の説明と実践
10	How to Write Conclusion	結論の書き方の説明と実践
11	How to Write Abstract	要約の書き方の説明と実践
12	Making a Research Paper	受講生による研究論文の作成
13	Discussion	受講生の研究論文に関する議論
14	Presentation	受講生が作成した研究論文の発表

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業前にテキストを最低 2 時間予習する。

授業後には、出された宿題に取り組む。宿題には最低 2 時間かける。

【テキスト（教科書）】

『経済学・経営学のための英語論文の書き方』 中谷安男 中央経済社

【参考書】

『英語科学論文の書き方—IMRaD でわかる科学論文の構造』 片山晶子他 中山書店

『APA 論文作成マニュアル 第 2 版』 アメリカ心理学会 医学書院
『Writing Scientific Research Articles Second Edition』 Margaret Cargill 他 Wiley-Blackwell

【成績評価の方法と基準】

授業内課題 30%

宿題 30%

レポート課題 40%

【学生の意見等からの気づき】

受講生のニーズに照らし合わせて、授業内容を調整していく必要がある。

【学生が準備すべき機器他】

授業中、受講生はパソコンを使用する。各自がパソコンを持参する。

【その他の重要事項】

英語セミナー A と関連する授業内容のため、英語セミナー A も履修していることが望ましい。

【Outline (in English)】

This course aims to prepare students to effectively communicate in English while studying and consequently be prepared for their future professions in real life and work. The goal is to help students understand the structure of English research papers, focusing on introductions and methods, writing a research paper in English, and communicating effectively through discussions. Students are expected to study for at least two hours before each class and do homework for at least two hours after class. The grading criteria are based on classroom tasks (30%), homework (30%), and writing reports (40%).

ECN300CA
世界経済史 A
杉浦 未樹
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

21世紀の世界経済は、広がる所得格差、人口成長と環境破壊の問題を抱え、資源の効率的な活用を促す新たな革新を必要としている。これらの課題が歴史的にどのように生じてきたかを、グローバルな視点から検証する。

1 世界経済史の前半となるこの授業は、一八〇〇年以前を中心に扱う。現代につながる諸問題である、人口爆発、世界的不平等、地球破壊、交易がもたらす地域格差、危機の時代の対処法、農業の効率化、消費活性化と女子の労働参加、人の移動、奴隷と強制労働のテーマを、世界史の視点からとらえる。

授業のオンラインか対面は、学習支援システムで今後連絡をする。

【到達目標】

- ・経済事象の根幹にある所得格差や人口増加について、長期的展開を述べ、地域間の比較ができるようにする。
- ・経済活動を支えている組織や制度を多面的に理解する。
- ・基幹産業の成り立ちと長期的な展開を把握する。
- ・歴史分析を組みこんだ長文論述ができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科は「DP2」「DP8」「DP9」に関連。国際経済学科・現代ビジネス学科は「DP2」「DP8」に関連。

【授業の進め方と方法】

オンラインでの開講となります。各回、講義内容がテキストで配布され、並行してオンラインレクチャーが行われます。テキストのみで受講するか、オンラインレクチャーに参加するか選べます。毎回授業内課題がテキストに表示され、授業支援システムに提出します。オンラインレクチャーでは、チャットを使ったクイズや討論を行います。

課題のフィードバックは、テキストとオンラインレクチャー内で行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	この授業のテーマ	授業の三つのテーマを理解し、長文論述に向けた基礎スキルを身に着ける
第 2 回	世界の人口、所得、格差の歴史（1）	人口、一人当たりの所得、所得格差の長期的推移をグローバルな視野から検証する
第 3 回	世界の人口、所得、格差の歴史（2）	所得格差の長期的推移の分析を紹介し、不平等が拡大・縮小を論じる
第 4 回	前工業化時代の環境史—集住と移動のインパクトと人新世2（1）	地球環境の破壊の歴史的な位置づけを、環境史・人新世の概念を紹介しながら論じる
第 5 回	前工業化時代の環境史—集住と移動のインパクトと人新世2（2）	地球環境の破壊の歴史的な位置づけを、環境史・人新世の概念を紹介しながら論じる
第 6 回	近代世界システム—交換メカニズムにひそむ不均等発展（1）	交換システムに地域間格差を生み出すメカニズムが埋め込まれているのか、近代世界システム論から、一六世紀の第一次グローバル化の時期を検証する。

第 7 回	近代世界システム—交換メカニズムにひそむ不均等発展（2）	交換システムに地域間格差を生み出すメカニズムが埋め込まれているのか、近代世界システム論から、一六世紀の第一次グローバル化の時期を検証する。
第 8 回	17 世紀—危機の時代のとらえ方（1）	17 世紀を共通して危機の時代となく、近代化論と世界システム論、グローバルヒストリーの見方を比較する。
第 9 回	17 世紀—危機の時代のとらえ方（2）	グローバルヒストリーからみた17 世紀として、ユーラシアを視点に論じる。
第 10 回	農業革命・消費革命—先行した二つの革命	産業革命に先行した農業革命と消費革命と勤勉革命を論じ、現代に残した意義をさぐる
第 11 回	農業革命・消費革命—先行した二つの革命	産業革命に先行した農業革命と消費革命と勤勉革命を論じ、現代に残した意義をさぐる
第 12 回	大西洋をわたった人々（1）—植民地とは何か	植民地を人の移動の視点から説明する。植民地の奴隷、植民者、年季奉公人がどのような移動をしどのような立場にされたのかを、北米植民地、カリブ海を中心に具体的にたどる。
第 13 回	大西洋をわたった人々（2）—奴隷制と資本主義の形成	奴隷制度の発達をグローバルな視野から概観したあと、奴隷制をめぐる E・ウィリアムズのテーゼ、フォーゲルとエンガマンのテーゼおよび最近の「資本主義の新しい歴史」研究の展開を述べる。第二次産業革命の展開と、交通・通信制度の発達を運河・鉄道・郵便制度からみる。
第 14 回	講義の総括と最終評価に向けたフィードバック	事前公開した最終評価（レポート・テスト）の対策を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業外では、指示された参考文献を読み、そこからさらに関連文獻にあたって経済史への理解を深めることを推奨する。週に 4～7 時間程度補習し、課題作成にも時間をかける。

【テキスト（教科書）】

授業支援システムにアップする

【参考書】

小野塚知二 『経済史—今を知り、未来を生きるために』有斐閣、二〇一八年
 ブランコ・ミラノヴィッチ 『不平等について—経済学と統計が語る 26 の話』二〇一二年

【成績評価の方法と基準】

試験の評価が 50%、各回の授業内課題点 50 % で評価します。授業に積極的に参加した場合はボーナス点を追加します。試験は長文論述で、問題を事前公開します。

【学生の意見等からの気づき】

問題設定に関心が高かったため、さらに議論を充実させていきたいと考えている。

【Outline (in English)】

21st century global economy is facing the problems of spreading inequality, poverty, population expansion and environmental destruction. Innovations that allows more efficient allocations of resources and distributions of wealth are sought after. This lecture outlines the historical processes these problems of global economy was formed and surveys the essential analytical frameworks in economic history. Grading will be decided by Term-end exam (including essay) 50%, and evaluation of the short reports/tests assigned after lectures via Hoppii system 50%.

ECN300CA
世界経済史 B
杉浦 未樹
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

資本・人・モノの国際移動・取引システムの編成、基幹産業の発展、戦争と経済、地域統合を主要な柱として、19世紀から21世紀の経済発展を概観する。

授業のオンラインか対面は、学習支援システムで今後連絡をする。

【到達目標】

・19世紀と20世紀の資本主義と産業の展開が、現在の経済状況を生み出したことを理解する

・基幹産業の成り立ちと長期的な展開を把握する。

・レポート作成を通じて、論述力、文献調査能力を向上させる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科は「DP2」「DP8」「DP9」に関連。国際経済学科・現代ビジネス学科は「DP2」「DP8」に関連。

【授業の進め方と方法】

オンラインでの開講となります。各回、講義内容がテキストで配布され、並行してオンラインレクチャーが行われます。テキストのみで受講するか、オンラインレクチャーに参加するか選べます。毎回授業内課題がテキストに表示され、授業支援システムに提出します。オンラインレクチャーでは、チャットを使ったクイズや討論を行います。

課題のフィードバックは、テキストとオンラインレクチャー内と、授業支援システムの評価を併用して行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	グローバリゼーションと19、20世紀	19、20世紀の特徴を整理したあと、グローバリゼーションからみるとどのような位置づけとなるかを論じる。とくに1815～1880年がグローバリゼーションの加速期、1880～1945年が減速期、1945年以降が第二の加速期であることを理解する
第2回	19～20世紀 グローバル化するモノの流れ	貿易の長期動向と、世界商品とそのコモディティチェーン、ヴァリューチェーンの史的分析
第3回	マシンメイドに到る道—イギリス綿織物業の機械化導入と技術革新	19～21世紀の移民史を経済側面から議論する。
第4回	19～21世紀の人の流れ—移民とグローバリゼーション	移民（主に国際移民）と経済発展との関係を歴史的に位置づける。移民の定義、現状を概観した後、グローバル化する移民の第一波（1840年～1913年）と、第二波（1950年～2000年）を比較する。最後に移民が引き起こす格差の拡大と収束を論じる
第5回	金本位制と国際信用取引システムの成立	国際通貨（信用）システムの展開を、金本位制から扱う。本位制の定義、金本位制の導入、グローバリゼーションとの関係、停止と崩壊を述べる。

第6回	産業で辿る19～21世紀（1）、工業化を支えた条件と製鉄+鉄道、	1840年以前の、工業国アメリカを生み出し、支えた土壌を整理したあと、製鉄+鉄道がタグを組んだ大規模な工業化と経営革新を述べる。
第7回	産業で辿る19～21世紀（2）、石油業	産油業の展開を軸に、垂直統合・独占/寡占とそれらの規制・多国籍企業の発展、エネルギー源の転換を理解する。
第8回	産業で辿る19～21世紀（3）自動車産業	自動車産業の展開を軸に、フォーダイズムからリーン生産方式までの歴史的な流れを理解する。
第9回	最終レポートの形式を指導	19-20世紀の産業史をテーマに、学術文献を検索し、読み、引用し、レポートを作成する方法を解説する。
第10回	1950、60年代の世界	1950、60年代の世界経済情勢を概観する
第11回	1970年代の世界	ドル危機とオイルショックを前後に、1970年代の経済情勢をみる
第12回	1980年代の世界	1980年代の世界経済の動向を概観する。
第13回	1990年代に提示された、危機を乗り越える経済モデル	1990年代に構造改革を行った国家をモデルとして紹介する。イギリス、北欧、オランダ、シンガポールを取り上げる。
第14回	試験準備とレポート事前評価	試験の論述対策をするとともに、前週までに提出したレポートに対し改善点を述べる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業中に示唆した経済史の文献を読み、歴史への理解を深めていくことが望ましい。高校時に世界史を履修していない者は、高校教科書ないし、戦後経済史の平易な新書を読みあわせることをすすめる。平均して週に4～7時間程度授業外学習し、レポート作成にむけた準備をする。

【テキスト（教科書）】

毎回授業時にテキストを配る。さらに参考図書を示す

【参考書】

北川勝彦、概説世界経済史、昭和堂、2017年
 キャメロン、ニール『概説世界経済史 2 工業化の展開から現代まで』東洋経済新報社、2013年。
 ロバート・C・アレン『なぜ豊かな国と貧しい国が生まれたのか』NTT出版、2012年
 馬場哲・山本通・廣田功・須藤功著『エレメンタル欧米経済史』、晃洋書房、2016年
 ウォーマック、『リーン生産方式が、世界の自動車産業をこう変える』（経済界、1990年）
 他は講義ごとに指示します。

【成績評価の方法と基準】

授業ごとの理解テスト50%、最終レポート50%で評価する。レポートは合格点がとれるように事前フィードバックを行う。

【学生の意見等からの気づき】

テーマへの関心は高かったので、さらに伝達方法などを工夫していきたい。

【Outline (in English)】

21st century global economy is facing fundamental issues of spreading inequality, poverty, population expansion and environmental destruction. Innovations that allows more efficient allocations of resources and distributions of wealth are sought after. This lecture outlines the historical processes these problems of global economy was formed and surveys the essential analytical frameworks in economic history. Following Part A, Part B will deal with 19-21th centuries. Grading will be decided by Term-end paper and exam 50%, and evaluation of the short reports/tests assigned after lectures via Hoppii system 50%.

MAN300CA
財務諸表論 A
竹口 圭輔
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

企業会計は企業の行動を把握・理解する上で不可欠となるグローバルな「ビジネスの言語」です。企業会計への理解なくしては企業を理解することもできません。本講義ではそうした企業会計のうち、財務会計に関する応用的・実践的な知識を提供していきます。具体的には、財務会計を巡る基本的な概念や制度について復習しつつ、連結グループ会計、金融商品会計、退職給付会計、企業結合会計など会計基準の国際対応を受けて近年整備されてきた会計基準を取り上げていきます。また、それら会計基準を通じてアウトプットされる情報をいかに読みこなしていくかを学んでいきます。

【到達目標】

財務諸表論 A では、財務会計論の応用論点に関する理解だけでなく、国際的な文脈の中で会計情報を読みこなすスキルの獲得も目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】

基本的にスライドを使用した講義形式で進めていきます。また、毎講義に小テストを課します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の概要説明
2	企業会計の本質とフレームワーク	企業会計と企業行動のリンケージ
3	会計制度の論理と体系	会計公準と企業会計原則
4	企業のディスクロージャー	ディスクロージャーの必要性和制度開示
5	売上とは何か	収益認識会計
6	連結グループの会計(1)	連結財務諸表と企業行動
7	連結グループの会計(2)	セグメント情報の開示
8	金融商品の会計	有価証券の会計、リース取引の会計、デリバティブ・ヘッジ会計
9	従業員給付の会計(1)	退職給付会計
10	従業員給付の会計(2)	株式報酬の会計
11	会計基準の国際化	国際会計基準（IFRS）や環境問題への対応
12	企業結合・事業分離の会計	M&A の会計
13	グローバリゼーションの会計	外貨建取引の会計と在外子会社の換算
14	まとめと振り返り	本講義の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回ごとに授業で用いるレジュメを事前に学習支援システム上で公開するので、各自ダウンロードし予習してきてください。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

伊藤邦雄『新・現代会計入門< 第 5 版>』日本経済新聞社、2022 年

【成績評価の方法と基準】

毎講義時の小テスト（50%）と期末レポート（50%）により総合的に評価する。

※小テストを半数回以上未受験の場合は無条件に不可とします。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを通じてレジュメ・関連資料を配付するので、履修登録の確定を待たずに、各自、仮登録（科目コード：K6745）を済ませてください。

【その他の重要事項】

本講義は、カリキュラム・ツリー上の位置づけから、簿記や会計学に関する基礎的理解があることを前提にしています。「簿記 I」や「会計学入門」等の会計関連科目を履修した学生のみが受講してください。

【Outline (in English)】

【Course outline】

Financial accounting is the language of business, which helps us better understand how companies behave. Businesses cannot be understood without an understanding of financial accounting. This course aims to provide students with practical skills and knowledge about financial accounting. Students learn how firms communicate through financial statements.

【Learning Objectives】

At the end of this course, students are expected to understand of the applied issues of financial accounting theory and to read and analysis accounting information in an international context.

【Learning activities outside of classroom】

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

【Grading Criteria】

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end report: 50%

In-class contribution: 50%

MAN300CA
財務諸表論 B
竹口 圭輔
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

企業会計は企業の行動を把握・理解する上で不可欠となるグローバルな「ビジネスの言語」です。企業会計への理解なくしては企業を理解することもできません。本講義ではそうした企業会計のうち、財務会計論の応用的・実践的な知識を提供していきます。この授業では、実際の財務諸表を用いて、現実の企業活動を読みこなしていくことに注力し、自らの手でファンダメンタル分析、会計戦略分析、企業価値評価などを行っていきます。

【到達目標】

財務諸表論 B では、ファンダメンタル分析ならびに企業価値評価に関するスキルの獲得を目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】

基本的にスライドを使用した講義形式で進めていきます。また、毎講義に小テストを課します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の概要説明
2	企業価値評価のフレームワーク	企業の価値創造プロセスと企業価値評価の全体像
3	財務諸表から読む企業活動 (1)	「企業活動を映し出す鏡」としての会計
4	財務諸表から読む企業活動 (2)	企業のディスクロージャー制度と会計情報の限界
5	戦略的ファンダメンタル分析 (1)	企業価値とファンダメンタル分析
6	戦略的ファンダメンタル分析 (2)	グループ経営分析
7	経営戦略分析	経営戦略分析のためのフレームワーク
8	会計戦略分析	会計利益の特性と会計政策
9	ケーススタディー (1)	特定業界のファンダメンタル分析
10	企業価値とバリュエーション (1)	企業価値評価の手法
11	企業価値とバリュエーション (2)	資本コストの概念と株主資本コストの推定
12	企業価値とバリュエーション (3)	会計利益による企業評価モデル
13	会計・財務数値と市場評価	株式市場と企業のファンダメンタルズ
14	ケーススタディー (2)	特定企業のバリュエーション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回ごとに授業で用いるレジュメを事前に学習支援システム上で公開するので、各自ダウンロードし予習してきてください。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

伊藤邦雄『企業価値経営』日本経済新聞社、2021 年

【成績評価の方法と基準】

毎講義時の小テスト（50 %）と期末試験・レポート（50 %）により総合的に評価する。

※小テストを半数回以上未受験の場合は無条件に不可とします。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを通じてレジュメ・関連資料を配付するので、履修登録の確定を待たずに、各自、仮登録（科目コード：K6746）を済ませてください。

【その他の重要事項】

本講義は、カリキュラム・ツリー上の位置づけから、簿記や会計学に関する基礎的理解があることを前提にしています。基本的な内容については授業内でフォローしないので、「簿記 I」や「会計学入門」等の会計関連科目を履修した学生のみが受講してください。

【Outline (in English)】

【Course outline】

This course starts with a review of financial reporting and then focuses on various modules of fundamental analysis, including performance evaluation, earnings quality, strategic analysis and valuation. The goal of this lesson is to practice corporate valuation.

【Learning Objectives】

At the end of this course, students are expected to acquire skills in fundamental analysis and corporate valuation.

【Learning activities outside of classroom】

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

【Grading Criteria】

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end report: 50%

In-class contribution: 50%

ECN200CA
DemographyA
菅 幹雄
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

その他属性：〈グ〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

An introductory course in demographic methods, teaching how demographers measure population growth, mortality, fertility, marriage, and age structure.

【到達目標】

- 1.Understand basic concepts and measures
- 2.Understand age-specific rates and probabilities
- 3.Understand and be able to compile life table

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP6」「DP7」に関連。国際経済学科は「DP5」「DP6」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】

Worksheets will be delivered by using the Lecture Supporting System for better understanding and student should calculate and fill it in. After the submission deadline of worksheet, the correct answer will be feedbacked.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Basic Concepts and Measures(1)	Meaning of "Population", Population Statistics
2	Basic Concepts and Measures(2)	The Balancing Equation of Population Change
3	Basic Concepts and Measures(3)	The Structure of Demographic rates, Period Rates and Person-years, Principal Period Rates in Demography
4	Basic Concepts and Measures(4)	Instantaneous Growth Rate, Mean Annualized Growth Rate
5	Basic Concepts and Measures(5)	Estimating Period Person-years, The Concept of a Cohort, Probabilities of Occurrence of Events
6	Age-Specific Rates and Probabilities(1)	Period Age-specific Rates
7	Age-Specific Rates and Probabilities(2)	Age-standardization
8	Age-Specific Rates and Probabilities(3)	The Lexis Diagram
9	Age-Specific Rates and Probabilities(4)	Age-specific Probabilities
10	The Life Table and Single Decrement Processes(1)	The Life Table
11	The Life Table and Single Decrement Processes(2)	Period Life Tables
12	The Life Table and Single Decrement Processes(3)	Interpreting the Life Table
13	The Life Table and Single Decrement Processes(4)	The Life Table Conceived as a Stationary Population

14 The Life Table and Single Decrement Processes(5) Life tables around the world

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Look at homepages of related demographic statistics. Preparation 2 hours, review 2 hours, a total of 4 hours.

【テキスト（教科書）】

This class does not use a textbook. Provide the Powerpoint files used in class as pdf files.

【参考書】

Samuel Preston, Patrick Heuveline, Michel Guillot, Demography: Measuring and Modeling Population Processes, Wiley,5417 JPY

【成績評価の方法と基準】

Worksheets in online 100%

【学生の意見等からの気づき】

Upload the answer of worksheets as soon as possible.

【学生が準備すべき機器他】

personal computer

ECN200CA

Demography A

菅 幹雄

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：木 3/Thu.3 | キャンパス：多摩

毎年・隔年： | 科目主催学部：Economics

備考（履修条件等）：

その他属性：〈グ〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

An introductory course in demographic methods, teaching how demographers measure population growth, mortality, fertility, marriage, and age structure.

【到達目標】

- 1.Understand basic concepts and measures
- 2.Understand age-specific rates and probabilities
- 3.Understand and be able to compile life table

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

Worksheets will be delivered by using the Lecture Supporting System for better understanding and student should calculate and fill it in. After the submission deadline of worksheet, the correct answer will be feedbacked.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Basic Concepts and Measures(1)	Meaning of "Population", Population Statistics
2	Basic Concepts and Measures(2)	The Balancing Equation of Population Change
3	Basic Concepts and Measures(3)	The Structure of Demographic rates, Period Rates and Person-years, Principal Period Rates in Demography
4	Basic Concepts and Measures(4)	Instantaneous Growth Rate, Mean Annualized Growth Rate
5	Basic Concepts and Measures(5)	Estimating Period Person-years, The Concept of a Cohort, Probabilities of Occurrence of Events
6	Age-Specific Rates and Probabilities(1)	Period Age-specific Rates
7	Age-Specific Rates and Probabilities(2)	Age-standardization
8	Age-Specific Rates and Probabilities(3)	The Lexis Diagram
9	Age-Specific Rates and Probabilities(4)	Age-specific Probabilities
10	The Life Table and Single Decrement Processes(1)	The Life Table
11	The Life Table and Single Decrement Processes(2)	Period Life Tables
12	The Life Table and Single Decrement Processes(3)	Interpreting the Life Table

13	The Life Table and Single Decrement Processes(4)	The Life Table Conceived as a Stationary Population
14	The Life Table and Single Decrement Processes(5)	Life tables around the world

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Look at homepages of related demographic statistics. Preparation 2 hours, review 2 hours, a total of 4 hours.

【テキスト（教科書）】

This class does not use a textbook. Provide the Powerpoint files used in class as pdf files.

【参考書】

Samuel Preston, Patrick Heuveline, Michel Guillot, Demography: Measuring and Modeling Population Processes, Wiley, 5417 JPY

【成績評価の方法と基準】

Worksheets in online 100%

【学生の意見等からの気づき】

Upload the answer of worksheets as soon as possible.

【学生が準備すべき機器他】

personal computer

ECN200CA
DemographyB
菅 幹雄
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

その他属性：〈グ〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

An introductory course in demographic methods, teaching how demographers measure population growth, mortality, fertility, marriage, and age structure.

【到達目標】

- 1.Understand fertility rate
- 2.Understand and be able to conduct population projection
- 3.Understand stable population model

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP6」「DP7」に関連。国際経済学科は「DP5」「DP6」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】

Lectures will be conducted on both face to face and using Zoom. Worksheets are delivered in the lecture for better understanding and student should calculate and fill it in. After the submission deadline of worksheet, the correct answer will be feedbacked.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Multiple Decrement Processes(1)	Multiple Decrement Tables for a Periods
2	Multiple Decrement Processes(2)	Associated Single Decrement Life Tables from Period Data
3	Fertility Rates(1)	Period Fertility Rates
4	Fertility Rates(2)	Cohort Fertility, Reproduction Measures
5	Population Projection(1)	Population projection without immigration
6	Population Projection(2)	Population projection without immigration
7	Population Projection(3)	Projection and Forecasts, Population Projection Methodology, The Cohort Component Methods
8	The Stable Population Model(1)	Review of Stationary Population Model
9	The Stable Population Model(2)	A Simplified Example of a Stable Population
10	The Stable Population Model(3)	Lotka's Demonstration of Conditions Producing a Stable Population
11	The Stable Population Model(4)	Intrinsic Growth Rate
12	The Stable Population Model(5)	Stable Equivalent Population
13	The Stable Population Model(6)	Momentum of Population Growth
14	Summing up	Summing up

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Look at homepages related to demographic statistics
Preparation 2 hours, review 2 hours, a total of 4 hours.

【テキスト（教科書）】

This class does not use a textbook. Provide the Powerpoint files used in class as pdf files.

【参考書】

Samuel Preston, Patrick Heuveline, Michel Guillot, Demography: Measuring and Modeling Population Processes, Wiley,5417 JPY

【成績評価の方法と基準】

Worksheets 100%

【学生の意見等からの気づき】

Upload the answer of worksheets as soon as possible.

【学生が準備すべき機器他】

personal computer

ECN200CA

Demography B

菅 幹雄

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位
 曜日・時限：木 3/Thu.3 | キャンパス：多摩
 毎年・隔年： | 科目主催学部：Economics
 備考（履修条件等）：
 その他属性：〈グ〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

An introductory course in demographic methods, teaching how demographers measure population growth, mortality, fertility, marriage, and age structure.

【到達目標】

- 1.Understand fertility rate
- 2.Understand and be able to conduct population projection
- 3.Understand stable population model

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

Lectures will be conducted on both face to face and using Zoom. Worksheets are delivered in the lecture for better understanding and student should calculate and fill it in. After the submission deadline of worksheet, the correct answer will be feedbacked.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Multiple Decrement Processes(1)	Multiple Decrement Tables for a Periods
2	Multiple Decrement Processes(2)	Associated Single Decrement Life Tables from Period Data
3	Fertility Rates(1)	Period Fertility Rates
4	Fertility Rates(2)	Cohort Fertility, Reproduction Measures
5	Population Projection(1)	Population projection without immigration
6	Population Projection(2)	Population projection without immigration
7	Population Projection(3)	Projection and Forecasts, Population Projection Methodology, The Cohort Component Methods
8	The Stable Population Model(1)	Review of Stationary Population Model
9	The Stable Population Model(2)	A Simplified Example of a Stable Population
10	The Stable Population Model(3)	Lotka's Demonstration of Conditions Producing a Stable Population
11	The Stable Population Model(4)	Intrinsic Growth Rate
12	The Stable Population Model(5)	Stable Equivalent Population
13	The Stable Population Model(6)	Momentum of Population Growth
14	Summing up	Summing up

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Look at homepages related to demographic statistics

Preparation 2 hours, review 2 hours, a total of 4 hours.

【テキスト（教科書）】

This class does not use a textbook. Provide the Powerpoint files used in class as pdf files.

【参考書】

Samuel Preston, Patrick Heuveline, Michel Guillot, Demography: Measuring and Modeling Population Processes, Wiley,5417 JPY

【成績評価の方法と基準】

Worksheets 100%

【学生の意見等からの気づき】

Upload the answer of worksheets as soon as possible.

【学生が準備すべき機器他】

personal computer

MAN200CA
原価計算 A
梅津 亮子
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

原価計算は、製品またはサービスの製造販売のために消費された経済的価値を物量および貨幣という単位で測定、集計、分析、伝達する会計システムです。今日の企業経営にとって原価情報は不可欠の要素であり、原価計算の意義は非常に高いものとなっています。講義では、演習問題を取り入れながら原価計算を支える理論や計算システムについて学習していきます。

【到達目標】

1. 原価の諸概念を理解する、2. 原価計算システムの理論構造を理解する、3. 各種原価計算を行うことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式で基本的な構造の説明を行う。また、単元ごとに演習問題を解くことで知識の定着を図っていく。課題等を実施した場合は、とくに正解率の低いもの、難易度の高いものを中心として講評・解説の時間を設ける。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	コストと会計情報	原価とコスト、原価計算の対象、サービス業と製造業の原価計算
第 2 回	原価計算の基礎	原価とは、原価計算基準、原価計算の目的
第 3 回	原価計算手続き	費目別計算、部門別計算、製品別計算
第 4 回	原価の諸概念	形態別分類、機能別分類、製品との関連による分類、操業度との関連による分類
第 5 回	材料費の計算①	材料費の分類、消費数量の計算、実際価格法
第 6 回	材料費の計算②	予定価格法、期末棚卸高の計算、棚卸減耗費の処理
第 7 回	労務費の計算①	労務費の分類、支払賃金の計算と記帳
第 8 回	労務費の計算②	消費賃金の計算と記帳、予定賃率、賃金以外の労務費
第 9 回	経費の計算	経費の分類、支払経費、月割経費、測定経費、発生経費
第 10 回	部門費計算①	部門別計算の意義、原価部門の設定
第 11 回	部門費計算②	直接配賦法、相互配賦法、階梯式配賦法
第 12 回	部門費計算③	製造間接費の予定配賦、予定配賦率の計算
第 13 回	製造間接費の配賦①	活動基準原価計算の計算構造、活動原価、活動ドライバー
第 14 回	製造間接費の配賦②	伝統的原価計算と活動基準原価計算の比較

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回とも、授業で学習した内容を復習しておくこと。教科書・ノートをよく読み返しておいてください。本授業の準備・復習時間は 4 時間を目安とします。

【テキスト（教科書）】

望月恒男ほか『原価会計の基礎と応用』創成社。

【参考書】

必要に応じてそのつど紹介します。

【成績評価の方法と基準】

小テスト 10 %、期末試験 90 %

【学生の意見等からの気づき】

原価計算の手続きをより深く理解するために、計算構造の理論的背景についても説明する時間をもちたい。

【その他の重要事項】

電卓を用意しておくこと。

【Outline (in English)】

(Course Outline)The aim of this course is to help students learn the theory and practice of cost accounting. (Learning Objectives)The goals of this course are to understand the concepts and procedures used in the collection, recording and reporting of costs.(Learning activities outside of classroom)Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.(Grading criteria/Policy)Your overall grade in the class will be decided based on the following Final examination(90%),Small tests(10%).

MAN200CA
原価計算 B
梅津 亮子
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

原価計算は、製品またはサービスの製造販売のために消費された経済的価値を物量および貨幣という単位で測定、集計、分析、伝達する会計システムです。今日の企業経営にとって原価情報は不可欠の要素であり、原価計算の意義は非常に高いものとなっています。講義では、演習問題を取り入れながら原価計算を支える理論や計算システムについて学習していきます。

【到達目標】

1. 原価の諸概念を理解する、2. 原価計算システムの理論構造を理解する、3. 各種原価計算を行うことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式で基本的な構造の説明を行う。また、単元ごとに演習問題を解くことで知識の定着を図っていく。課題等を実施した場合は、とくに正解率の低いもの、難易度の高いものを中心として講評・解説の時間を設ける。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	個別原価計算①	個別原価計算の特徴、特定製造指図書、原価計算表
第 2 回	個別原価計算②	原価元帳と製造勘定、製造間接費の予定配賦
第 3 回	個別原価計算③	個別原価計算における仕損品の処理、作業屑の評価
第 4 回	単純総合原価計算①	総合原価計算の特徴、仕掛品の進捗度と完成品換算量
第 5 回	単純総合原価計算②	月末仕掛品の評価、単純総合原価計算の計算例
第 6 回	単純総合原価計算③	総合原価計算における仕損品・減損の処理
第 7 回	工程別総合原価計算①	工程別総合原価計算の概要、全原価要素工程別総合原価計算
第 8 回	工程別総合原価計算②	加工費工程別総合原価計算の特徴と計算例
第 9 回	その他の総合原価計算	組別総合原価計算、等級別総合原価計算
第 10 回	連産品と副産物	連産品の原価計算方法、副産物の評価
第 11 回	標準原価計算①	標準原価計算の目的、標準原価の種類
第 12 回	標準原価計算②	原価標準の設定、標準原価の記帳法、原価差異
第 13 回	直接原価計算①	直接原価計算の目的、利益計画、直接標準原価計算
第 14 回	直接原価計算②	直接原価計算と全部原価計算による営業利益の比較、固定費調整

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回とも、授業で学習した内容を復習しておくこと。教科書・ノートをよく読み返しておいてください。本授業の準備・復習時間は 4 時間を目安とします。

【テキスト（教科書）】

望月恒男ほか『原価会計の基礎と応用』創成社。

【参考書】

必要に応じてそのつど紹介します。

【成績評価の方法と基準】

小テスト 10 %、期末試験 90 %

【学生の意見等からの気づき】

原価計算の手続きをより深く理解するために、計算構造の理論的背景についても説明する時間をもちたい。

【その他の重要事項】

電卓を用意しておくこと。

【Outline (in English)】

(Course Outline)The aim of this course is to help students learn the theory and practice of cost accounting. (Learning Objectives)The goals of this course are to understand the concepts and procedures used in the collection, recording and reporting of costs.(Learning activities outside of classroom)Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.(Grading criteria/Policy)Your overall grade in the class will be decided based on the following Final examination(90%),Small tests(10%).

MAN200CA
会計学入門A
堀江 優希
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

会計は、ビジネスの言語であり、企業を分析・評価するために欠かせません。この講義では、企業活動の実態を会計情報にどのように映し出すのか、また、会計情報を利用して企業をどのように分析するのかを理解します。会計学の初学者を対象とし、企業活動の分析・評価に必要な会計の基礎知識を身につけることを目的とします。

【到達目標】

1. 財務諸表を作成するプロセスを理解することができる、2. 企業の戦略や行動が財務諸表にどのように表れるかを理解することができる、3. 会計数値を用いて企業を分析・評価することができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】

対面実施時：

- ①講義：パワーポイントとプロジェクターを用いて講義を行います。
- ②アンケート：「学習支援システム」上でアンケートに回答してもらいます

オンライン実施時：

授業の方法：Google classroom に講義動画および講義資料をアップします。

授業の進め方：①講義動画 60 分、②問題演習等 30 分、③アンケート 10 分

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	会計学の目的	会計学の目的
2	財務会計の機能	財務会計の機能
3	複式簿記のしくみ	複式簿記のしくみ
4	財務会計の概念フレームワーク	財務会計の概念フレームワーク
5	利益測定の基礎概念	利益測定の基礎概念
6	企業の設立と資金調達	企業の設立と資金調達
7	仕入・生産活動	仕入・生産活動
8	販売活動（1）	売上の認識と測定、売上原価の計算
9	販売活動（2）	売上代金の回収、棚卸資産の期末評価
10	設備投資	設備投資
11	知的財産と研究開発	知的財産と研究開発
12	負債	負債
13	企業集団の財務報告	企業集団の財務報告
14	期末試験と解説	期末試験と解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

前回までの講義内容を理解していることを前提として講義を進めるため、毎回の講義をしっかりと予習・復習すること（毎回計 4 時間以上）。

【テキスト（教科書）】

指定はありません。講義資料を配布します。

【参考書】

必要に応じて講義中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

期末試験（100 %）で評価します。また、講義終了後にアンケート（任意提出）を実施し、提出者には各回 2 点を加点します（隔週での実施。2 点 × 6 回 = 計 12 点）。

【学生の意見等からの気づき】

毎回の講義後半で行っている、グループ（または個人）の演習・エクササイズの実施が好評であったので、今年度も取り入れる予定である。

【Outline (in English)】

【Course outline】

The aim of this course is to acquire a basic knowledge in the area of financial accounting. Financial Accounting is the common language in the global economy. In this course students will learn how to prepare and analyze the financial statements.

【Learning Objectives】

At the end of the course, students are expected to analyze the financial statements.

【Learning activities outside of classroom】

After each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content.

【Grading Criteria/Policies】

Grading will be decided based on Final Exam (100 %).

MAN200CA
会計学入門B
堀江 優希
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

会計は、ビジネスの言語であり、企業を分析・評価するために欠かせません。この講義では、企業活動の実態を会計情報にどのように映し出すのか、また、会計情報を利用して企業をどのように分析するのかを理解します。会計学の初学者を対象とし、企業活動の分析・評価に必要な会計の基礎知識を身につけることを目的とします。

【到達目標】

1. 財務諸表を作成するプロセスを理解することができる、2. 企業の戦略や行動が財務諸表にどのように表れるかを理解することができる、3. 会計数値を用いて企業を分析・評価することができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】

対面実施時：

- ①講義：パワーポイントとプロジェクターを用いて講義を行います。
- ②アンケート：「学習支援システム」上でアンケートに回答してもらいます。

オンライン実施時：

授業の方法：Google classroom に講義動画および講義資料をアップします。

授業の進め方：①講義動画 60 分、②問題演習等 30 分、③アンケート 10 分

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	財務諸表分析の目的	財務諸表分析の目的
2	財務諸表の役割としくみ	財務諸表の役割としくみ
3	貸借対照表の見方	貸借対照表の見方
4	損益計算書の見方	損益計算書の見方
5	キャッシュ・フロー計算書の見方	キャッシュ・フロー計算書の見方
6	収益性の分析（1）	資本利益率
7	収益性の分析（2）	資本利益率の分解
8	効率性の分析	効率性の分析
9	安全性の分析	安全性の分析
10	キャッシュ・フロー・データによる分析	キャッシュ・フロー・データによる分析
11	損益分岐点分析	損益分岐点分析
12	成長性分析	成長性分析
13	会計方針と財務諸表分析	会計方針と財務諸表分析
14	期末試験と解説	期末試験と解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

前回までの講義内容を理解していることを前提として講義を進めるため、毎回の講義をしっかりと予習・復習すること（毎回計 4 時間以上）。

【テキスト（教科書）】

指定はありません。講義資料を配布します。

【参考書】

必要に応じて講義中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

期末試験（100 %）で評価します。また、講義終了後にアンケート（任意提出）を実施し、提出者には各回 2 点を加点します（隔週での実施。2 点 × 6 回 = 計 12 点）。

【学生の意見等からの気づき】

毎回の講義後半で行っている、グループ（または個人）の演習・エクササイズの実施が好評であったので、今年度も取り入れる予定である。

【学生が準備すべき機器他】

電卓を用意すること。

【Outline (in English)】

【Course outline】

The aim of this course is to acquire a basic knowledge in the area of financial accounting. Financial Accounting is the common language in the global economy. In this course students will learn how to prepare and analyze the financial statements.

【Learning Objectives】

At the end of the course, students are expected to analyze the financial statements.

【Learning activities outside of classroom】

After each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content.

【Grading Criteria/Policies】

Grading will be decided based on Final Exam (100 %).

MAN300CA
管理会計 A
梅津 亮子
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

企業経営において経営者及び管理者は、戦略的な課題あるいは業務上の問題に対して様々な意思決定を行います。管理会計の役割は、経営者等が行うこれらの意思決定に対して有用な情報を提供することにあります。本講義では、管理会計の基礎的な知識を習得することを目的とし、意思決定を支援するための管理会計の理論と技法について学習していきます。

【到達目標】

1. 管理会計の基礎理論を理解する、2. 管理会計の具体的手法を習得する、3. 様々な経営課題について、管理会計情報を利用して解決する方法を考察する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式で基本的な理論構造の説明を行う。また、単元ごとに演習問題を解くことで知識の定着を図っていく。課題等を実施した場合は、とくに正解率の低いもの、難易度の高いものを中心として講評・解説の時間を設ける。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	経営活動と会計情報	経営管理と会計情報、経営管理プロセス、経営者の役割
第 2 回	管理会計の基礎①	財務会計情報と管理会計情報の相違
第 3 回	管理会計の基礎②	管理会計の体系、業績管理会計と意思決定会計
第 4 回	管理会計の基礎③	制度的原価概念、管理会計上の原価概念
第 5 回	短期利益計画	利益管理、コスト・ビヘイビア、大綱的利益計画
第 6 回	CVP分析①	損益分岐点図表、利益図表、損益分岐点の算出
第 7 回	CVP分析②	経営リスク、経営レバレッジ、安全余裕率
第 8 回	感度分析	損益分岐点の引き下げ、利益改善のためのアプローチ
第 9 回	多品種製品のCVP分析	線形計画法、制約条件、セールス・ミックス
第 10 回	原価分解	実績データ基準法と工学的的方法
第 11 回	全部原価計算方式によるCVP分析	CVP分析の仮定、全部原価計算による損益分岐点の算定
第 12 回	ABC/ABM	原価構造の変化、ABCの計算構造、アクティビティ分析
第 13 回	品質コストマネジメント	予防コスト、評価コスト、失敗コスト
第 14 回	復習	春学期の学習内容の復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回とも、授業で学習した内容を復習しておくこと。教科書・ノートをよく読み返しておいてください。本授業の準備・復習時間は 4 時間を目安とします。

【テキスト（教科書）】

武協誠ほか『管理会計』新世社。

【参考書】

必要に応じてそのつど紹介します。

【成績評価の方法と基準】

小テスト 10 %、期末試験 90 %

【学生の意見等からの気づき】

管理会計に特有の原価概念について丁寧に説明をしていきたい。

【その他の重要事項】

電卓を用意しておくこと。

【Outline (in English)】

(Course Outline)The aim of this course is to help students learn the basic concepts of management accounting which are used to make and support decisions.(Learning Objectives)The goals of this course are to acquire knowledge and techniques of management accounting.(Learning activities outside of classroom)Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.(Grading Criteria/Policy)Your overall grade in the class will be decided based on the following Final examination(90%),Small tests(10%).

MAN300CA
管理会計 B
梅津 亮子
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

企業経営において経営者及び管理者は、戦略的な課題あるいは業務上の問題に対して様々な意思決定を行います。管理会計の役割は、経営者等が行うこれらの意思決定に対して有用な情報を提供することにあります。本講義では、管理会計の基礎的な知識を習得することを目的とし、意思決定を支援するための管理会計の理論と技法について学習していきます。

【到達目標】

1. 管理会計の基礎理論を理解する、2. 管理会計の具体的方法を習得する、3. 様々な経営課題について、管理会計情報を利用して解決する方法を考察する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式で基本的な理論構造の説明を行う。また、単元ごとに演習問題を解くことで知識の定着を図っていく。課題等を実施した場合は、とくに正解率の低いもの、難易度の高いものを中心として講評・解説の時間を設ける。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	予算管理①	予算管理の機能、予算編成方針、予算の体系
第 2 回	予算管理②	予算編成プロセス、予算スラック、予算ゲーム
第 3 回	予算管理③	変動予算・固定予算、予算統制、ゼロベース予算
第 4 回	事業部制会計①	職能別組織と事業部制組織、責任会計、責任中心点
第 5 回	事業部制会計②	事業部長と事業部自体の業績評価
第 6 回	事業部制会計③	ROI と残余利益、社内資本金制度、振替価格
第 7 回	意思決定会計	経営意思決定の種類、意思決定プロセス
第 8 回	業務的意思決定①	特別注文、追加加工か販売か
第 9 回	業務的意思決定②	自製か購入か、既存製品の生産と販売
第 10 回	設備投資意思決定①	キャッシュ・フローの予測、貨幣の時間価値、資本コスト
第 11 回	設備投資意思決定②	会計的利益率法、回収期間法、正味現在価値法、内部利益率法
第 12 回	設備投資意思決定③	NPV法とIRR法の比較、再投資の仮定
第 13 回	BSC、原価企画	バランスト・スコアカード、原価企画・原価維持・原価改善
第 14 回	復習	秋学期の学習内容の復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回とも、授業で学習した内容を復習しておくこと。教科書・ノートをよく読み返しておいてください。本授業の準備・復習時間は 4 時間を目安とします。

【テキスト（教科書）】

武協誠ほか『管理会計』新世社。

【参考書】

必要に応じてそのつど紹介します。

【成績評価の方法と基準】

小テスト 10 %、期末試験 90 %

【学生の意見等からの気づき】

管理会計に特有の原価概念について丁寧に説明をしていきたい。

【その他の重要事項】

電卓を用意しておくこと。

【Outline (in English)】

(Course Outline)The aim of this course is to help students learn the basic concepts of management accounting which are used to make and support decisions.(Learning Objectives)The goals of this course are to acquire knowledge and techniques of management accounting.(Learning activities outside of classroom)Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.(Grading Criteria/Policy)Your overall grade in the class will be decided based on the following Final examination(90%),Small tests(10%).

LANe200CA

Business Communication I A

JOHN THOMAS LACEY

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：金 3/Fri.3 | キャンパス：多摩

毎年・隔年： | 科目主催学部：Economics

備考（履修条件等）：

その他属性：〈グ〉〈優〉

【成績評価の方法と基準】

Students will be evaluated on the basis of the assignments they complete (100%). It is important that you attend class to receive assignment information.

【学生の意見等からの気づき】

Since the comments did not recommend any changes, no changes will be made unless specific changes are requested.

【学生が準備すべき機器他】

None

【その他の重要事項】

None

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

In this course students will learn about cross-cultural differences in international business.

【到達目標】

The goal of this course is to help students improve their intercultural business communication skills.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

Weekly assignments will be required to complete. Feedback will be given immediately after assignments have been submitted or presented in class.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
Week 1	Student introductions	Essay (1)
Week 2	Course introduction	Read assigned documents
Week 3	Introduction Letters	Formal letters
Week 4	Resume Development	Resume
Week 5	Mock Job Interviews	Preparation for interview
Week 6	Businesses	Presentation 1
Week 7	Research	Presentation 1
Week 8	Presentation Day Product Development	Product Development
Week 9	CM Script	CM Script
Week 10	Commercial Day	Summary Response
Week 11	Business etiquette (1)	Article
Week 12	Business etiquette (2)	Writing Assignment
Week 13	Review as necessary (1)	Peer Review (1)
Week 14	Review as necessary (2)	Final Class Review

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students should prepare for each class by completing outside class study. Following the lesson, students will have home preparation for student presentations or writing assignments. required (approximately four hours at the student's discretion).

【テキスト（教科書）】

None

【参考書】

None

LANe200CA
Business Communication IA
JOHN THOMAS LACEY
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位
初回の授業に出席し担当教員の指示を受ける。

その他属性：〈グ〉〈優〉

【学生の意見等からの気づき】

Since the comments did not recommend any changes, no changes will be made unless specific changes are requested.

【学生が準備すべき機器他】

None

【その他の重要事項】

None

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

In this course students will learn about cross-cultural differences in international business.

【到達目標】

The goal of this course is to help students improve their intercultural business communication skills.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

Weekly assignments will be required to complete. Feedback will be given immediately after assignments have been submitted or presented in class.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
Week 1	Student introductions	Essay (1)
Week 2	Course introduction	Read assigned documents
Week 3	Introduction Letters	Formal letters
Week 4	Resume Development	Resume
Week 5	Mock Job Interviews	Preparation for interview
Week 6	Businesses	Presentation 1
Week 7	Research	Presentation 1
Week 8	Presentation Day Product Development	Product Development
Week 9	CM Script	CM Script
Week 10	Commercial Day	Summary Response
Week 11	Business etiquette (1)	Article
Week 12	Business etiquette (2)	Writing Assignment
Week 13	Review as necessary (1)	Peer Review (1)
Week 14	Review as necessary (2)	Final Class Review

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students should prepare for each class by completing outside class study. Following the lesson, students will have home preparation for student presentations or writing assignments. required (approximately four hours at the student's discretion).

【テキスト（教科書）】

None

【参考書】

None

【成績評価の方法と基準】

Students will be evaluated on the basis of the assignments they complete (100%). It is important that you attend class to receive assignment information.

LANe200CA
Business Communication IB
JOHN THOMAS LACEY
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位
初回の授業に出席し担当教員の指示を受ける。

その他属性：〈グ〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

In this course, students will learn about cross-cultural differences in international business and related issues and give presentations and formal speeches.

【到達目標】

The goal of this course is to help students improve their communication skills.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

Students will be given a number of topics and then be required to do a presentation. Emphasis will be on public speaking.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
Week 1	Course introduction	Read assigned documents
Week 2	General Speech Non-verbal Communication.	Business Research
Week 3	Presentation Day 1	A difficult moment
Week 4	Speech 2 Intonation	Intonation Speech Preparation
Week 5	Famous Speakers	Research
Week 6	Famous Speakers Day 1 Final Speech Intro	Research
Week 7	Famous Speaker Day 2 Final Speech intro continued	Research Topic
Week 8	Dialogue Development Hook and Issue	Research Final Speech first draft work.
Week 9	Dialogue Preparation with partner Final Speech Statistics and Quotes	Research Final Speech First Draft
Week 10	Dialogue Day Final Speech Deadline First Draft	Rewrite First Draft
Week 11	Peer Support	Final Speech Prep
Week 12	Peer Support Day 2 Impromptu Speaking Exercise	Final Speech Prep
Week 13	Final Speech Day	Summary Response
Week 14	Final summary	Review

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students should prepare for each class by completing outside class study. Following the lesson, students will have home preparation for student presentations or writing assignments. required (approximately four hours at the student's discretion).

【テキスト（教科書）】

None

【参考書】

None

【成績評価の方法と基準】

Students will be evaluated on the basis of the assignments they complete (100%). It is important that you attend class to receive assignment information.

【学生の意見等からの気づき】

Since the comments did not recommend any changes, no changes will be made unless specific changes are requested.

【学生が準備すべき機器他】

None

【その他の重要事項】

None

LANe200CA

Business Communication I B

JOHN THOMAS LACEY

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位
 曜日・時限：金 3/Fri.3 | キャンパス：多摩
 毎年・隔年： | 科目主催学部：Economics
 備考（履修条件等）：

その他属性：〈グ〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

In this course, students will learn about cross-cultural differences in international business and related issues and give presentations and formal speeches.

【到達目標】

The goal of this course is to help students improve their communication skills.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

Students will be given a number of topics and then be required to do a presentation. Emphasis will be on public speaking.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
Week 1	Course introduction	Read assigned documents
Week 2	General Speech Non-verbal Communication.	Business Research
Week 3	Presentation Day 1	A difficult moment
Week 4	Speech 2 Intonation	Intonation Speech Preparation
Week 5	Famous Speakers	Research
Week 6	Famous Speakers Day 1 Final Speech Intro	Research
Week 7	Famous Speaker Day 2 Final Speech intro continued	Research Topic
Week 8	Dialogue Development Hook and Issue	Research Final Speech first draft work.
Week 9	Dialogue Preparation with partner Final Speech Statistics and Quotes	Research Final Speech First Draft
Week 10	Dialogue Day Final Speech Deadline First Draft	Rewrite First Draft
Week 11	Peer Support	Final Speech Prep
Week 12	Peer Support Day 2 Impromptu Speaking Exercise	Final Speech Prep
Week 13	Final Speech Day	Summary Response
Week 14	Final summary	Review

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students should prepare for each class by completing outside class study. Following the lesson, students will have home preparation for student presentations or writing assignments. required (approximately four hours at the student's discretion).

【テキスト（教科書）】

None

【参考書】

None

【成績評価の方法と基準】

Students will be evaluated on the basis of the assignments they complete (100%). It is important that you attend class to receive assignment information.

【学生の意見等からの気づき】

Since the comments did not recommend any changes, no changes will be made unless specific changes are requested.

【学生が準備すべき機器他】

None

【その他の重要事項】

None

ECN200CA
Japan and ASEAN Economy A
MANISH SHARMA
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

その他属性：〈グ〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

After the second world war, Japan has followed a very distinct development path with unique economic policy choices and pragmatic state-led industrialization. This course intends to cover the influence of the Japanese economic model on remarkable patterns of development in South East Asia. Specifically, the course highlights some of the most pertinent macroeconomic concepts to bind the empirical path of economic development in Japan and ASEAN.

Each class consists of two parts: (1) lecture and (2) students' presentations of the assignment. At the end of the course, students are also required to submit a short report.

【到達目標】

1. Introduce the historical economic perspective about Japan and ASEAN
2. Impart macro-economic tools to understand and analyze economic development in the region

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP5」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】

The class is designed to be:

1. Interactive: With a strong emphasis on student participation.
2. Up-to-date: With the real-time explanation of unfolding events.
3. Critical and Analytical: Understanding the whys and hows of the global economy.
4. Accessible: Breaking down the complex jargon in simple terms.

Each class consists of two parts: (1) lecture and (2) discussion. Active participation is required.

Two-Way Interaction:

Students will be able to partly design this course by participating in regular surveys and writing weekly posts on Hoppii. After the submission of each assignment, the instructor will give feedback or remedial explanation via an online forum and/or in the weekly session.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	INTRODUCTION	Overview and significance of the course
2	FLYING GEESE	East Asian Miracle; Critique of
3	PARADIGM	Akamatsu paradigm
4	STATE CAPITALISM	Definition; Theoretical framework; Historical precedents
5	THEORIES OF GOVERNANCE	Authoritarian developmentalism (Watanabe)
6	Introduction to ASEAN	Mechanism, Economic cooperation; Trade and investment patterns
7	MODERNIZING JAPAN 1	Pre and post war economic policies; Zaibatsu to Keiretsu
8	MODERNIZING JAPAN 2	Role of MITI and other institutions; The Main Bank System
9	BRIEF HISTORY OF ASEAN	Colonial and cultural legacy
10	ECONOMIC POLICIES IN ASEAN	Monetary and fiscal policy
11	FINANCIAL SYSTEMS IN ASEAN	Institutional perspective
12	JAPAN IN ASEAN	Investment, trade and aid
13	ECONOMIC INTEGRATION	Prospects of convergence
14	ECONOMIC DEVELOPMENT PATTERNS IN ASEAN	Economic and social indicators
15	JAPAN-ASEAN ECONOMIC TIES	Future bound perspective; Impact of trade war

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students are expected to review class material, complete assignments, and find relevant material. The preparatory study and review time for each session is 4 hours.

【テキスト（教科書）】

No textbook

【参考書】

A detailed reading list will be shared on the weekly basis, on the course website.

【成績評価の方法と基準】

1. Contribution to the class discussion, surveys, and micro-presentations - 40% (In-class participation)
2. Weekly forum posts and discussions - 40% (Peer interactions on Hoppii)
3. Final Assignment - 20% (An essay. Details TBA)

【学生の意見等からの気づき】

Not Applicable

【その他の重要事項】

1. The intensive perusal of the research and case material before each session is a prerequisite
2. The changes/ updates in the syllabus will be communicated to students during class 1

ECN200CA

Japan and ASEAN Economy A

MANISH SHARMA

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：水 1/Wed.1 | キャンパス：多摩

毎年・隔年： | 科目主催学部：Economics

備考（履修条件等）：

その他属性：〈グ〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

After the second world war, Japan has followed a very distinct development path with unique economic policy choices and pragmatic state-led industrialization. This course intends to cover the influence of the Japanese economic model on remarkable patterns of development in South East Asia. Specifically, the course highlights some of the most pertinent macroeconomic concepts to bind the empirical path of economic development in Japan and ASEAN.

Each class consists of two parts: (1) lecture and (2) students' presentations of the assignment. At the end of the course, students are also required to submit a short report.

【到達目標】

1. Introduce the historical economic perspective about Japan and ASEAN
2. Impart macro-economic tools to understand and analyze economic development in the region

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

The class is designed to be:

1. Interactive: With a strong emphasis on student participation.
2. Up-to-date: With the real-time explanation of unfolding events.
3. Critical and Analytical: Understanding the whys and hows of the global economy.

4. Accessible: Breaking down the complex jargon in simple terms.
Each class consists of two parts: (1) lecture and (2) discussion. Active participation is required.

Two-Way Interaction:

Students will be able to partly design this course by participating in regular surveys and writing weekly posts on Hoppii. After the submission of each assignment, the instructor will give feedback or remedial explanation via an online forum and/or in the weekly session.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	INTRODUCTION	Overview and significance of the course
2	FLYING GEESE PARADIGM	East Asian Miracle; Critique of Akamatsu paradigm
3	STATE CAPITALISM	Definition; Theoretical framework; Historical precedents
4	THEORIES OF GOVERNANCE	Authoritarian developmentalism (Watanabe)
5	Introduction to ASEAN	Mechanism, Economic cooperation; Trade and investment patterns
6	MODERNIZING JAPAN 1	Pre and post war economic policies; Zaibatsu to Keiretsu
7	MODERNIZING JAPAN 2	Role of MITI and other institutions; The Main Bank System
8	BRIEF HISTORY OF ASEAN	Colonial and cultural legacy
9	ECONOMIC POLICIES IN ASEAN	Monetary and fiscal policy
10	FINANCIAL SYSTEMS IN ASEAN	Institutional perspective
11	JAPAN IN ASEAN	Investment, trade and aid
12	ECONOMIC INTEGRATION	Prospects of convergence
13	ECONOMIC DEVELOPMENT PATTERNS IN ASEAN	Economic and social indicators
14	JAPAN-ASEAN ECONOMIC TIES	Future bound perspective; Impact of trade war

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students are expected to review class material, complete assignments, and find relevant material. The preparatory study and review time for each session is 4 hours.

【テキスト（教科書）】

No textbook

【参考書】

A detailed reading list will be shared on the weekly basis, on the course website.

【成績評価の方法と基準】

1. Contribution to the class discussion, surveys, and micro-presentations - 40% (In-class participation)
2. Weekly forum posts and discussions - 40% (Peer interactions on Hoppii)
3. Final Assignment - 20% (An essay. Details TBA)

【学生の意見等からの気づき】

Not Applicable

【その他の重要事項】

1. The intensive perusal of the research and case material before each session is a prerequisite
2. The changes/ updates in the syllabus will be communicated to students during class 1

ECN200CA
Japan and ASEAN Economy B
 MANISH SHARMA
 開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位
 曜日・時限：水 1/Wed.1 | キャンパス：多摩
 毎年・隔年： | 科目主催学部：Economics
 備考（履修条件等）：
 その他属性：〈グ〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
 After the second world war, Japan has followed a very distinct development path with unique economic policy choices and pragmatic state-led industrialization. This course intends to cover the influence of the Japanese economic model on remarkable patterns of development in South East Asia. Specifically, the course highlights some of the most pertinent macroeconomic concepts to bind the empirical path of economic development in Japan and ASEAN. Each class consists of two parts: (1) lecture and (2) students' presentations of the assignment. At the end of the course, students are also required to submit a short report.

- 【到達目標】**
 1.Introduce the historical economic perspective about Japan and ASEAN
 2.Impart macro-economic tools to understand and analyze economic development in the region

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】
 The class is designed to be:
 1.Interactive: With a strong emphasis on student participation.
 2. Up-to-date: With the real-time explanation of unfolding events.
 3. Critical and Analytical: Understanding the whys and hows of the global economy.
 4. Accessible: Breaking down the complex jargon in simple terms.
 Each class consists of two parts: (1) lecture and (2) discussion. Active participation is required.
 Two-Way Interaction:
 Students will be able to partly design this course by participating in regular surveys and writing weekly posts on Hoppii. After the submission of each assignment, the instructor will give feedback or remedial explanation via an online forum and/or in the weekly session.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
 あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
 なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	INTRODUCTION	Overview and significance of the course
2	ECONOMIC UPDATES	Things we covered in the Spring Current economic situation in ASEAN and JAPAN GDP; Interest Rates; Inflation; Unemployment
3	THE INDICATORS OF ECONOMIC STRENGTHS	Comparative Advantages; GDP Growth Rate; Exchange Rate
4	SHIFT IN ECONOMIC DISCOURSE (AKA Why textbooks are useless?)	WFH Economy; Shared Economy; Platform Economy; Surveillance Capitalism
5	SUSTAINABILITY	Circular Economy (Indonesian Case); Millennial Economics; GreenWashing
6	AGRICULTURE IN ASIA	Economic Productivity; Case Study of Agricultural Productivity;
7	TRADE IN ASEAN	Characteristics; Balance of Payments; Historical Milestones; Impact of COVID
8	SINGAPORE	US-China Trade War; A case study of iPhone. Country Summary; Presentations;
9	VIETNAM	Digging in the Data Country Summary; Presentations; Digging in the Data

10	MALAYSIA	Country Summary; Presentations; Digging in the Data
11	INDONESIA	Country Summary; Presentations; Digging in the Data
12	THAILAND	Country Summary; Presentations; Digging in the Data
13	PHILIPPINES	Country Summary; Presentations; Digging in the Data
14	EPILOGUE	Future bound perspective; Japan-ASEAN relations

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
 Students are expected to review class material, complete assignments, and find relevant material. The preparatory study and review time for each session is 4 hours.

【テキスト（教科書）】
 No textbook

【参考書】
 A detailed reading list to be available on the course website.

- 【成績評価の方法と基準】**
 1. Contribution to the class discussion, surveys, and micro-presentations - 40% (In-class participation)
 2. FORUM: Weekly posts and discussions - 40% (Peer interactions on Hoppii)
 3. Written Assignment - 20% (An essay. Details TBA)

【学生の意見等からの気づき】
 Not applicable

- 【その他の重要事項】**
 1. The intensive perusal of the research and case material before each session is a prerequisite.
 2. The changes/ updates in the syllabus will be communicated to students during class 1

ECN200CA
Japan and ASEAN Economy B
MANISH SHARMA
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

その他属性：〈グ〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

After the second world war, Japan has followed a very distinct development path with unique economic policy choices and pragmatic state-led industrialization. This course intends to cover the influence of the Japanese economic model on remarkable patterns of development in South East Asia. Specifically, the course highlights some of the most pertinent macroeconomic concepts to bind the empirical path of economic development in Japan and ASEAN.

Each class consists of two parts: (1) lecture and (2) students' presentations of the assignment. At the end of the course, students are also required to submit a short report.

【到達目標】

1. Introduce the historical economic perspective about Japan and ASEAN
2. Impart macro-economic tools to understand and analyze economic development in the region

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP5」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】

The class is designed to be:

1. Interactive: With a strong emphasis on student participation.
2. Up-to-date: With the real-time explanation of unfolding events.
3. Critical and Analytical: Understanding the whys and hows of the global economy.
4. Accessible: Breaking down the complex jargon in simple terms.

Each class consists of two parts: (1) lecture and (2) discussion. Active participation is required.

Two-Way Interaction:

Students will be able to partly design this course by participating in regular surveys and writing weekly posts on Hoppii. After the submission of each assignment, the instructor will give feedback or remedial explanation via an online forum and/or in the weekly session.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	INTRODUCTION	Overview and significance of the course Things we covered in the Spring
2	ECONOMIC UPDATES	Current economic situation in ASEAN and JAPAN GDP; Interest Rates; Inflation; Unemployment
3	THE INDICATORS OF ECONOMIC STRENGTHS	Comparative Advantages; GDP Growth Rate; Exchange Rate
4	SHIFT IN ECONOMIC DISCOURSE (AKA Why textbooks are useless?)	WFH Economy; Shared Economy; Platform Economy; Surveillance Capitalism
5	SUSTAINABILITY	Circular Economy (Indonesian Case); Millennial Economics; GreenWashing
6	AGRICULTURE IN ASIA	Economic Productivity; Case Study of Agricultural Productivity;
7	TRADE IN ASEAN	Characteristics; Balance of Payments; Historical Milestones; Impact of COVID US-China Trade War; A case study of iPhone.
8	SINGAPORE	Country Summary; Presentations; Digging in the Data
9	VIETNAM	Country Summary; Presentations; Digging in the Data
10	MALAYSIA	Country Summary; Presentations; Digging in the Data

11	INDONESIA	Country Summary; Presentations; Digging in the Data
12	THAILAND	Country Summary; Presentations; Digging in the Data
13	PHILIPPINES	Country Summary; Presentations; Digging in the Data
14	EPILOGUE	Future bound perspective; Japan-ASEAN relations

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students are expected to review class material, complete assignments, and find relevant material. The preparatory study and review time for each session is 4 hours.

【テキスト（教科書）】

No textbook

【参考書】

A detailed reading list to be available on the course website.

【成績評価の方法と基準】

1. Contribution to the class discussion, surveys, and micro-presentations - 40% (In-class participation)
2. FORUM: Weekly posts and discussions - 40% (Peer interactions on Hoppii)
3. Written Assignment - 20% (An essay. Details TBA)

【学生の意見等からの気づき】

Not applicable

【その他の重要事項】

1. The intensive perusal of the research and case material before each session is a prerequisite.
2. The changes/ updates in the syllabus will be communicated to students during class 1

ECN200CA
Japanese Business and Economy A
MANISH SHARMA
開講時期：春学期授業/Spring 単位：2 単位

その他属性：〈グ〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

The focus of this course is on providing a deep dive into the Japanese economy and business. The participants learn the implications of the policy decisions and their impact on the state of the economy. The course seeks to provide an understanding of the historical and institutional background of the contemporary Japanese economy.

We use a wide range of sources, covering academic literature, business case studies, and topical news items as well as op-ed pieces to understand the various aspects of Japanese business. Each class consists of two parts: (1) lecture and (2) students' exercises. In the second half of each lecture, students are expected to participate in various exercises. Exercises are followed by short class-discussion to develop the take-aways. Students are also required to take short quizzes.

【到達目標】

The course intends to cover:

1. The brief economic history of Japan
2. The institutional basis of the contemporary Japanese economy
3. The characteristics of Japanese business practices

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】

The class is designed to be:

1. Interactive: With a strong emphasis on student participation.
 2. Up-to-date: With the real-time explanation of unfolding events.
 3. Critical and Analytical: questioning the basic assumptions used in the text
 4. Accessible: Breaking down complex jargon in simple terms.
- Each class consists of two parts: (1) lecture and (2) discussion. Active participation is required.

Two-Way Interaction:

Students will be able to partly design this course by participating in regular surveys and writing weekly posts on Hoppii. After the submission of each assignment, the instructor will give feedback or a remedial explanation in the weekly session.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	INTRODUCTION	Overview & significance of the course; Political economy of Japan
2	JAPANESE ECONOMIC MIRACLE	Characteristics and attributes; Flying Geese Model; Impact on other countries
3	ECONOMIC HISTORY OF JAPAN	Japan in the early 20th century; Allied occupation; Zaibatsu to Keiretsu

4	CRISES MANAGEMENT	Plaza Accord; Bubble economy; East Asian financial crisis; Lost decades
5	STATE CAPITALISM	Characteristics; Theoretical framework; Role of MITI and other institutions
6	FINANCIAL SYSTEM	The Main bank system; Evolution of Japanese capital market; Convergence debate
7	ECONOMIC POLICY	Key elements; Future challenges
8	STRUCTURAL REFORMS	Productivity slowdown; Big-Bang
9	JAPAN INC.	Keiretsu and cross-ownership; Management system and corporate governance
10	LABOR MARKET	The employment system; Continuity and change
11	ABENOMICS	Performance indicators; Critique; Course correction
12	JAPAN INC. 2.0	Cool Japan; Brand Japan; Startup scene
13	DEMOGRAPHIC DEBATE	Low-fertility and aging; Major policy reforms; Immigration policy
14	ADVANCED TOPICS	Business of/by/for elderly; Inequality debate; Reimagining innovation

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students are expected to review class material, complete assignments, and find relevant material. Preparatory study and review time for this class is 2 hours each.

【テキスト（教科書）】

No Textbook

【参考書】

Hayashi, Fumio and Edward C. Prescott (2002), The 1990s in Japan: A Lost Decade, Review of Economic Dynamics, 206-235.
 Hoshi, Takeo and Anil K. Kashyap (2011): Why Did Japan Stop Growing?
 Hoshi and Kashyap (2013): Will the U.S and Europe Avoid a Lost Decade? Lessons from Japan's Post Crisis Experience
 Iwai, Katsuhito (2002), The Nature of the Business Corporation: Its Legal Structure and Economic Functions, Japanese Economic Review 53(3), 243-273.
 Clark and Ishii (2012) Social Mobility in Japan, 1868-2012: The Surprising Persistence of the Samurai, University of California, Davis
 Hiroshi Yoshikawa (2001), The Aging of Society and Fiscal Policy, in Japan's Lost Decade, International House of Japan.
 Hoshi, Takeo and Anil K. Kashyap (2004) Costs and Benefits of Keiretsu Financing, in Corporate Financing and Governance in Japan, Cambridge MA: MIT Press
 Allen, F. and M. Zhao (2007) The Corporate Governance Model of Japan: Shareholders are not Rulers.
 Ito, Takatoshi (2004) Exchange rate regimes and monetary policy cooperation: Lessons from East Asia and Latin America, Japanese Economic Review, 55(3), 240-266,
 McKinnon, Ronald, and Kenichi Ohno (1997), Dollar and Yen, MIT Press.
 The Becker-Posner Blog (2008, Nov. 16) Bail Out the Big Three Auto Producers? Not a Good Idea.
 Hashimoto, Masanori and Yoshio Higuchi (2005), Issues Facing the Japanese Labor Market, in Reviving Japan's Economy, MIT Press.
 Raymo, James M. and Miho Iwasawa (2005), Marriage Market Mismatches in Japan: An Alternative View of the Relationship between Women's Education and Marriage, American Sociological Review, 70, October, 801-822.
 S Shirahase (2007) The Political Economy of Japan's Low Fertility

Toshimitsu Shinkawa (2006) The politics of pension reform in Japan: Institutional legacies, credit-claiming and blame avoidance, in Ageing and Pension Reform around the World.

【成績評価の方法と基準】

1. Contribution to the class discussion, surveys, and micro-presentations - 40% (In-class participation)
2. Weekly forum posts and discussions - 40% (Peer interactions on Hoppii)
3. Final Assignment - 20% (An essay. Details TBA)

【学生の意見等からの気づき】

Not Applicable

【Notes】

- 1.The intensive perusal of the research and case material before each session is a prerequisite
- 2.The changes/ updates in the syllabus will be communicated to students during class 1

ECN200CA

Japanese Business and Economy A

MANISH SHARMA

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：水 2/Wed.2 | キャンパス：多摩

毎年・隔年： | 科目主催学部：Economics

備考（履修条件等）：

その他属性：〈グ〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

The focus of this course is on providing a deep dive into the Japanese economy and business. The participants learn the implications of the policy decisions and their impact on the state of the economy. The course seeks to provide an understanding of the historical and institutional background of the contemporary Japanese economy.

We use a wide range of sources, covering academic literature, business case studies, and topical news items as well as op-ed pieces to understand the various aspects of Japanese business. Each class consists of two parts: (1) lecture and (2) students' exercises. In the second half of each lecture, students are expected to participate in various exercises. Exercises are followed by short class-discussion to develop the take-aways. Students are also required to take short quizzes.

【到達目標】

The course intends to cover:

1. The brief economic history of Japan
2. The institutional basis of the contemporary Japanese economy
3. The characteristics of Japanese business practices

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

The class is designed to be:

1. Interactive: With a strong emphasis on student participation.
2. Up-to-date: With the real-time explanation of unfolding events.
3. Critical and Analytical: questioning the basic assumptions used in the text
4. Accessible: Breaking down complex jargon in simple terms. Each class consists of two parts: (1) lecture and (2) discussion. Active participation is required.

Two-Way Interaction:

Students will be able to partly design this course by participating in regular surveys and writing weekly posts on Hoppii. After the submission of each assignment, the instructor will give feedback or a remedial explanation in the weekly session.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	INTRODUCTION	Overview & significance of the course; Political economy of Japan
2	JAPANESE ECONOMIC MIRACLE	Characteristics and attributes; Flying Geese Model; Impact on other countries

3	ECONOMIC HISTORY OF JAPAN	Japan in the early 20th century; Allied occupation; Zaibatsu to Keiretsu
4	CRISES MANAGEMENT	Plaza Accord; Bubble economy; East Asian financial crisis; Lost decades
5	STATE CAPITALISM	Characteristics; Theoretical framework; Role of MITI and other institutions
6	FINANCIAL SYSTEM	The Main bank system; Evolution of Japanese capital market; Convergence debate
7	ECONOMIC POLICY	Key elements; Future challenges
8	STRUCTURAL REFORMS	Productivity slowdown; Big-Bang
9	JAPAN INC.	Keiretsu and cross-ownership; Management system and corporate governance
10	LABOR MARKET	The employment system; Continuity and change
11	ABENOMICS	Performance indicators; Critique; Course correction
12	JAPAN INC. 2.0	Cool Japan; Brand Japan; Startup scene
13	DEMOGRAPHIC DEBATE	Low-fertility and aging; Major policy reforms; Immigration policy
14	ADVANCED TOPICS	Business of/by/for elderly; Inequality debate; Reimagining innovation

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students are expected to review class material, complete assignments, and find relevant material. Preparatory study and review time for this class is 2 hours each.

【テキスト（教科書）】

No Textbook

【参考書】

Hayashi, Fumio and Edward C. Prescott (2002), The 1990s in Japan: A Lost Decade, Review of Economic Dynamics, 206-235.
 Hoshi, Takeo and Anil K. Kashyap (2011): Why Did Japan Stop Growing?
 Hoshi and Kashyap (2013): Will the U.S and Europe Avoid a Lost Decade? Lessons from Japan's Post Crisis Experience
 Iwai, Katsuhito (2002), The Nature of the Business Corporation: Its Legal Structure and Economic Functions, Japanese Economic Review 53(3), 243-273.
 Clark and Ishii (2012) Social Mobility in Japan, 1868-2012: The Surprising Persistence of the Samurai, University of California, Davis
 Hiroshi Yoshikawa (2001), The Aging of Society and Fiscal Policy, in Japan's Lost Decade, International House of Japan.
 Hoshi, Takeo and Anil K. Kashyap (2004) Costs and Benefits of Keiretsu Financing, in Corporate Financing and Governance in Japan, Cambridge MA: MIT Press
 Allen, F. and M. Zhao (2007) The Corporate Governance Model of Japan: Shareholders are not Rulers.
 Ito, Takatoshi (2004) Exchange rate regimes and monetary policy cooperation: Lessons from East Asia and Latin America, Japanese Economic Review, 55(3), 240-266,
 McKinnon, Ronald, and Kenichi Ohno (1997), Dollar and Yen, MIT Press.
 The Becker-Posner Blog (2008, Nov. 16) Bail Out the Big Three Auto Producers? Not a Good Idea.
 Hashimoto, Masanori and Yoshio Higuchi (2005), Issues Facing the Japanese Labor Market, in Reviving Japan's Economy, MIT Press.

Raymo, James M. and Miho Iwasawa (2005), Marriage Market Mismatches in Japan: An Alternative View of the Relationship between Women's Education and Marriage, *American Sociological Review*, 70, October, 801-822.

S Shirahase (2007) The Political Economy of Japan's Low Fertility

Toshimitsu Shinkawa (2006) The politics of pension reform in Japan: Institutional legacies, credit-claiming and blame avoidance, in *Ageing and Pension Reform around the World*.

【成績評価の方法と基準】

1. Contribution to the class discussion, surveys, and micro-presentations - 40% (In-class participation)
2. Weekly forum posts and discussions - 40% (Peer interactions on Hoppii)
3. Final Assignment - 20% (An essay. Details TBA)

【学生の意見等からの気づき】

Not Applicable

【Notes】

- 1.The intensive perusal of the research and case material before each session is a prerequisite
- 2.The changes/ updates in the syllabus will be communicated to students during class 1

ECN200CA

Japanese Business and Economy B

MANISH SHARMA

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位
 曜日・時限：水 2/Wed.2 | キャンパス：多摩
 毎年・隔年： | 科目主催学部：Economics
 備考（履修条件等）：
 その他属性：〈グ〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

The focus of this course is on providing a deep dive into the Japanese economy and business. The participants learn the implications of the policy decisions and their impact on the state of the economy. The course seeks to provide an understanding of the historical and institutional background of the contemporary Japanese economy.

We use a wide range of sources, covering academic literature, business case studies, and topical news items as well as op-ed pieces to understand the various aspects of Japanese business. Each class consists of two parts: (1) a lecture and (2) student exercises. In the second half of each lecture, students are expected to participate in various exercises. Exercises are followed by a short class discussion to develop the takeaways. Students are also required to take short quizzes.

【到達目標】

The course intends to cover:

1. The brief economic history of Japan
2. The institutional basis of the contemporary Japanese economy
3. The characteristics of Japanese business practices

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

The class is designed to be:

1. Interactive: With a strong emphasis on student participation.
2. Up-to-date: With the real-time explanation of unfolding events.
3. Critical and Analytical: Understanding the Japanese Economy and Business
4. Accessible: Breaking down the complex jargon in simple terms.

Each class consists of two parts: (1) lecture and (2) discussion. Active participation is required.

Two-Way Interaction:

Students will be able to partly design this course by participating in regular surveys and writing weekly posts on Hoppii. After the submission of each assignment, the instructor will give feedback or remedial explanation via an online forum and/or in the weekly session.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	INTRODUCTION	Overview & significance of the course; Political economy of Japan
2	JAPANESE ECONOMIC MIRACLE	Characteristics and attributes; Flying Geese Model; Impact on other countries

3	ECONOMIC HISTORY OF JAPAN	Japan in the early 20th century; Allied occupation; Zaibatsu to Keiretsu
4	CRISES MANAGEMENT	Plaza Accord; Bubble economy; East Asian financial crisis; Lost decades
5	STATE CAPITALISM	Characteristics; Theoretical framework; Role of MITI and other institutions
6	FINANCIAL SYSTEM	The Main bank system; Evolution of Japanese capital market; Convergence debate
7	ECONOMIC POLICY	Key elements; Future challenges
8	STRUCTURAL REFORMS	Productivity slowdown; Big-Bang
9	JAPAN INC.	Keiretsu and cross-ownership; Management system and corporate governance
10	LABOR MARKET	The employment system; Continuity and change
11	ABENOMICS	Performance indicators; Critique; Course correction
12	JAPAN INC. 2.0	Cool Japan; Brand Japan; Startup scene
13	DEMOGRAPHIC DEBATE	Low-fertility and aging; Major policy reforms; Immigration policy
14	ADVANCED TOPICS	Business of/by/for elderly; Inequality debate; Reimagining innovation

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students are expected to review class material, complete assignments, and find relevant material. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

【テキスト（教科書）】

No Textbook

【参考書】

Hayashi, Fumio and Edward C. Prescott (2002), The 1990s in Japan: A Lost Decade, Review of Economic Dynamics, 206-235.
 Hoshi, Takeo and Anil K. Kashyap (2011): Why Did Japan Stop Growing?
 Hoshi and Kashyap (2013): Will the U.S and Europe Avoid a Lost Decade? Lessons from Japan's Post Crisis Experience
 Iwai, Katsuhito (2002), The Nature of the Business Corporation: Its Legal Structure and Economic Functions, Japanese Economic Review 53(3), 243-273.
 Clark and Ishii (2012) Social Mobility in Japan, 1868-2012: The Surprising Persistence of the Samurai, University of California, Davis
 Hiroshi Yoshikawa (2001), The Aging of Society and Fiscal Policy, in Japan's Lost Decade, International House of Japan.
 Hoshi, Takeo and Anil K. Kashyap (2004) Costs and Benefits of Keiretsu Financing, in Corporate Financing and Governance in Japan, Cambridge MA: MIT Press
 Allen, F. and M. Zhao (2007) The Corporate Governance Model of Japan: Shareholders are not Rulers.
 Ito, Takatoshi (2004) Exchange rate regimes and monetary policy cooperation: Lessons from East Asia and Latin America, Japanese Economic Review, 55(3), 240-266,
 McKinnon, Ronald, and Kenichi Ohno (1997), Dollar and Yen, MIT Press.
 The Becker-Posner Blog (2008, Nov. 16) Bail Out the Big Three Auto Producers? Not a Good Idea.
 Hashimoto, Masanori and Yoshio Higuchi (2005), Issues Facing the Japanese Labor Market, in Reviving Japan's Economy, MIT Press.

Raymo, James M. and Miho Iwasawa (2005), Marriage Market Mismatches in Japan: An Alternative View of the Relationship between Women's Education and Marriage, *American Sociological Review*, 70, October, 801-822.

S Shirahase (2007) *The Political Economy of Japan's Low Fertility*

Toshimitsu Shinkawa (2006) The politics of pension reform in Japan: Institutional legacies, credit-claiming and blame avoidance, in *Ageing and Pension Reform around the World*.

【成績評価の方法と基準】

1. Contribution to the class discussion, surveys, and micro-presentations - 40% (In-class participation)
2. Weekly forum posts and discussions - 40% (Peer interactions on Hoppii)
3. Final Assignment - 20% (An essay. Details TBA)

【学生の意見等からの気づき】

Not applicable

【Notes】

- 1.The intensive perusal of the research and case material before each session is a prerequisite
- 2.The changes/ updates in the syllabus will be communicated to students during class 1

ECN200CA
Japanese Business and Economy B
MANISH SHARMA
開講時期：秋学期授業/Fall 単位：2 単位

その他属性：〈グ〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

The focus of this course is on providing a deep dive into the Japanese economy and business. The participants learn the implications of the policy decisions and their impact on the state of the economy. The course seeks to provide an understanding of the historical and institutional background of the contemporary Japanese economy.

We use a wide range of sources, covering academic literature, business case studies, and topical news items as well as op-ed pieces to understand the various aspects of Japanese business. Each class consists of two parts: (1) a lecture and (2) student exercises. In the second half of each lecture, students are expected to participate in various exercises. Exercises are followed by a short class discussion to develop the takeaways. Students are also required to take short quizzes.

【到達目標】

The course intends to cover:

1. The brief economic history of Japan
2. The institutional basis of the contemporary Japanese economy
3. The characteristics of Japanese business practices

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP9」に関連

【授業の進め方と方法】

The class is designed to be:

1. Interactive: With a strong emphasis on student participation.
2. Up-to-date: With the real-time explanation of unfolding events.
3. Critical and Analytical: Understanding the Japanese Economy and Business
4. Accessible: Breaking down the complex jargon in simple terms.

Each class consists of two parts: (1) lecture and (2) discussion. Active participation is required.

Two-Way Interaction:

Students will be able to partly design this course by participating in regular surveys and writing weekly posts on Hoppii. After the submission of each assignment, the instructor will give feedback or remedial explanation via an online forum and/or in the weekly session.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	INTRODUCTION	Overview & significance of the course; Political economy of Japan
2	JAPANESE ECONOMIC MIRACLE	Characteristics and attributes; Flying Geese Model; Impact on other countries
3	ECONOMIC HISTORY OF JAPAN	Japan in the early 20th century; Allied occupation; Zaibatsu to Keiretsu

4	CRISES MANAGEMENT	Plaza Accord; Bubble economy; East Asian financial crisis; Lost decades
5	STATE CAPITALISM	Characteristics; Theoretical framework; Role of MITI and other institutions
6	FINANCIAL SYSTEM	The Main bank system; Evolution of Japanese capital market; Convergence debate
7	ECONOMIC POLICY	Key elements; Future challenges
8	STRUCTURAL REFORMS	Productivity slowdown; Big-Bang
9	JAPAN INC.	Keiretsu and cross-ownership; Management system and corporate governance
10	LABOR MARKET	The employment system; Continuity and change
11	ABENOMICS	Performance indicators; Critique; Course correction
12	JAPAN INC. 2.0	Cool Japan; Brand Japan; Startup scene
13	DEMOGRAPHIC DEBATE	Low-fertility and aging; Major policy reforms; Immigration policy
14	ADVANCED TOPICS	Business of/by/for elderly; Inequality debate; Reimagining innovation

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students are expected to review class material, complete assignments, and find relevant material. Preparatory study and review time for this class are 2 hours each.

【テキスト（教科書）】

No Textbook

【参考書】

Hayashi, Fumio and Edward C. Prescott (2002), The 1990s in Japan: A Lost Decade, Review of Economic Dynamics, 206-235.
Hoshi, Takeo and Anil K. Kashyap (2011): Why Did Japan Stop Growing?

Hoshi and Kashyap (2013): Will the U.S and Europe Avoid a Lost Decade? Lessons from Japan's Post Crisis Experience
Iwai, Katsuhito (2002), The Nature of the Business Corporation: Its Legal Structure and Economic Functions, Japanese Economic Review 53(3), 243-273.

Clark and Ishii (2012) Social Mobility in Japan, 1868-2012: The Surprising Persistence of the Samurai, University of California, Davis

Hiroshi Yoshikawa (2001), The Aging of Society and Fiscal Policy, in Japan's Lost Decade, International House of Japan.

Hoshi, Takeo and Anil K. Kashyap (2004) Costs and Benefits of Keiretsu Financing, in Corporate Financing and Governance in Japan, Cambridge MA: MIT Press

Allen, F. and M. Zhao (2007) The Corporate Governance Model of Japan: Shareholders are not Rulers.

Ito, Takatoshi (2004) Exchange rate regimes and monetary policy cooperation: Lessons from East Asia and Latin America, Japanese Economic Review, 55(3), 240-266,

McKinnon, Ronald, and Kenichi Ohno (1997), Dollar and Yen, MIT Press.

The Becker-Posner Blog (2008, Nov. 16) Bail Out the Big Three Auto Producers? Not a Good Idea.

Hashimoto, Masanori and Yoshio Higuchi (2005), Issues Facing the Japanese Labor Market, in Reviving Japan's Economy, MIT Press.

Raymo, James M. and Miho Iwasawa (2005), Marriage Market Mismatches in Japan: An Alternative View of the Relationship between Women's Education and Marriage, American Sociological Review, 70, October, 801-822.

S Shirahase (2007) The Political Economy of Japan's Low Fertility

Toshimitsu Shinkawa (2006) The politics of pension reform in Japan: Institutional legacies, credit-claiming and blame avoidance, in Ageing and Pension Reform around the World.

【成績評価の方法と基準】

1. Contribution to the class discussion, surveys, and micro-presentations - 40% (In-class participation)
2. Weekly forum posts and discussions - 40% (Peer interactions on Hoppii)
3. Final Assignment - 20% (An essay. Details TBA)

【学生の意見等からの気づき】

Not applicable

【Notes】

- 1.The intensive perusal of the research and case material before each session is a prerequisite
- 2.The changes/ updates in the syllabus will be communicated to students during class 1

ECN218CA
演習
岸 牧人
開講時期：年間授業/Yearly 単位：8 単位
4 年次は授業コード「K7101」を履修登録すること。

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

企業会計の基礎概念、基礎理論、会計制度の枠組みを理解する。その上で、以下の視点から各自の研究テーマを選定し、卒業論文の作成を行う。

1. 企業内容の開示情報と経済社会
2. 内部会計情報とマネジメント
3. 公認会計士監査に関する現代的課題

【到達目標】

企業財務や公認会計士監査に関する現代的課題に対して、理論的・論理的に考察するスキルを習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP8」「DP9」「DP10」「DP11」に関連。国際経済学科は「DP9」「DP10」「DP11」に関連。

【授業の進め方と方法】

1. テキストの内容について輪番でプレゼンを行う。
2. マネジメント・ゲーム（日本総合研究所開発）をチーム対抗形式で行う。
3. アカウンティング・チャレンジをチーム対抗形式で行う。
4. 各自の研究テーマについてプレゼンを行う。
5. 簿記リーグをチーム対抗形式で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	スケジュール（年間、春学期）の決定、役職の決定、各チームメンバーの決定、研究テーマの探索
第 2 回	マネジメント・ゲーム #1 テキスト#1	マネジメント・ゲーム（会社設立、第 1 期、第 2 期）、テキスト第 1 章のプレゼン
第 3 回	アカウンティング・チャレンジ#1 個人研究プレゼン#1	アカウンティング・チャレンジ 1 回戦、各自の研究テーマの発表
第 4 回	マネジメント・ゲーム #2 テキスト#2	マネジメント・ゲーム（第 3 期、第 4 期）、テキスト第 2 章のプレゼン
第 5 回	アカウンティング・チャレンジ#2 チーム研究プレゼン #1	アカウンティング・チャレンジ 2 回戦、チーム研究の研究テーマの発表
第 6 回	マネジメント・ゲーム #3 テキスト#3	マネジメント・ゲーム（第 5 期、第 6 期）、テキスト第 3 章のプレゼン
第 7 回	アカウンティング・チャレンジ#3 チーム研究プレゼン #2	アカウンティング・チャレンジ 3 回戦、チーム研究のプレゼン
第 8 回	簿記リーグ#1 テキスト#4	簿記リーグ春学期 1 回戦、テキスト第 4 章のプレゼン

第 9 回	マネジメント・ゲーム #4 チーム研究プレゼン #3	マネジメント・ゲーム（第 7 期、第 8 期）、チーム研究のプレゼン
第 10 回	アカウンティング・チャレンジ#4 テキスト#5	アカウンティング・チャレンジ 4 回戦、テキスト第 5 章のプレゼン
第 11 回	マネジメント・ゲーム #5 チーム研究プレゼン #4	マネジメント・ゲーム（第 9 期、第 10 期）、チーム研究のプレゼン
第 12 回	アカウンティング・チャレンジ#5 テキスト#6	アカウンティング・チャレンジ 5 回戦、テキスト第 6 章のプレゼン
第 13 回	マネジメント・ゲーム #6 チーム研究プレゼン #5	マネジメント・ゲーム（総括と分析）、チーム研究のプレゼン
第 14 回	簿記リーグ#2 テキスト#7	簿記リーグ春学期 2 回戦、テキスト第 7 章のプレゼン
第 15 回	秋学期イントロダクション 夏合宿の成果発表	秋学期スケジュールの決定、各チームメンバーの決定、夏合宿でのプレゼンのレビュー
第 16 回	4 年生卒業論文プレゼン #1	4 年生による卒業論文のプレゼン（テーマと問題意識、研究方法）
第 17 回	アカウンティング・チャレンジ#1 テキスト#8	アカウンティング・チャレンジ 1 回戦、テキスト第 8 章のプレゼン
第 18 回	マネジメント・ゲーム #1 チーム研究プレゼン #6	マネジメント・ゲーム（会社設立、第 1 期、第 2 期） チーム研究のプレゼン
第 19 回	簿記リーグ#1 テキスト#9	簿記リーグ秋学期 1 回戦、テキスト第 9 章のプレゼン
第 20 回	アカウンティング・チャレンジ#2 4 年生卒論プレゼン #2	アカウンティング・チャレンジ 2 回戦、4 年生による卒業論文のプレゼン
第 21 回	マネジメント・ゲーム #2 チーム研究プレゼン #7	マネジメント・ゲーム（第 3 期、第 4 期） チーム研究のプレゼン
第 22 回	簿記リーグ#2 テキスト#10	簿記リーグ秋学期 2 回戦、テキスト第 10 章のプレゼン
第 23 回	アカウンティング・チャレンジ#3 4 年生卒論プレゼン #3	アカウンティング・チャレンジ 3 回戦、4 年生による卒業論文のプレゼン
第 24 回	マネジメント・ゲーム #3 チーム研究プレゼン #8	マネジメント・ゲーム（第 5 期、第 6 期）、チーム研究のプレゼン
第 25 回	アカウンティング・チャレンジ#4 2 年生個人研究プレゼン #1	アカウンティング・チャレンジ 4 回戦、2 年生による個人研究プレゼン（前半）
第 26 回	マネジメント・ゲーム #4 4 年生卒論プレゼン #4	マネジメント・ゲーム（第 7 期、第 8 期）、4 年生による卒業論文のプレゼン
第 27 回	簿記リーグ#3 2 年生個人研究プレゼン #2	簿記リーグ秋学期 3 回戦、2 年生による個人研究プレゼン（後半）
第 28 回	マネジメント・ゲーム #5 年間の振り返りと新年度の方針決定	マネジメント・ゲーム（総括と分析）、ゼミ活動全般に関する振り返りと新年度の方針決定

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

プレゼンテーションの準備に関する資料収集、分担決め、打ち合わせ等本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

新井清光、川村義則『新版現代会計学』（第 2 版）、中央経済社、2018 年。

【参考書】

『会計法規集』（開講時の最新版）

【成績評価の方法と基準】

アカウンティング・チャレンジの成績 20%、ビジネス・ゲームの総括と分析の内容 20%、個人研究プレゼンの内容 20%、チーム研究プレゼンの内容 20%、簿記リーグの個人成績 20%

【学生の意見等からの気づき】

演習科目につき実施していない。

【Outline (in English)】

This seminar introduces corporate financial accounting, managerial accounting, and auditing. Each member of this seminar should have their own research question, and write a graduation thesis.

Students have to advance research related to their own theme. 3 hours/day will be estimated to complete it.

Overall grade in this seminar will be decided based on the result of management game, book-keeping competition, accounting challenge, and evaluation of research.

ECN218CA
演習
小黒 一正
開講時期：年間授業/Yearly 単位：8 単位
4 年次は授業コード「K7102」を履修登録すること。

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テーマは日本経済が直面する課題とし、少子高齢化、政治システム、世代間格差、財政・社会保障、金融政策、労働市場等を巡る問題を考える上で参考になる日本語・英語のテキストを輪読しつつ、その解決策を討論する。

【到達目標】

経済学の視点から、日本経済が直面する課題の現状と問題を分析し、その解決の方向性について議論するための基礎的な知識や方法論を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP8」「DP9」「DP10」「DP11」に関連。国際経済学科は「DP9」「DP10」「DP11」に関連。

【授業の進め方と方法】

前半は、経済学の概念・理論の理解を深める観点から、テキストを輪読する。後半は調査分析を行う共通テーマを設定し、ゼミ生からの報告と質疑を中心に授業を進める。また、ゼミ生は ISFJ 日本政策学生会議に参加し、政策提言の報告を目指すこととする。課題の提出等（フィードバックを含む）も「学習支援システム」を通じて行う予定である。

【留意事項】

なお、新型コロナウイルス感染症拡大の影響に伴い、教室での講義が可能となるまでの期間の授業計画等は、学習支援システムでその都度提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	春学期ガバナンス	演習の狙い、春学期スケジュールの説明、輪読テキストの決定
第 2 回	輪読 (1)	担当学生による発表と質疑
第 3 回	輪読 (2)	担当学生による発表と質疑
第 4 回	輪読 (3)	担当学生による発表と質疑
第 5 回	輪読 (4)	担当学生による発表と質疑
第 6 回	輪読 (5)	担当学生による発表と質疑
第 7 回	輪読 (6)	担当学生による発表と質疑
第 8 回	輪読 (7)	担当学生による発表と質疑
第 9 回	輪読 (8)	担当学生による発表と質疑
第 10 回	輪読 (9)	担当学生による発表と質疑
第 11 回	輪読 (10)	担当学生による発表と質疑
第 12 回	輪読 (11)	担当学生による発表と質疑
第 13 回	輪読 (12)	担当学生による発表と質疑
第 14 回	総括	サブゼミ等
第 15 回	後期ガバナンス	春学期の復習、秋学期スケジュールの確認
第 16 回	調査分析 (1)	共通テーマ候補の提案とプレゼン
第 17 回	調査分析 (2)	共通テーマの決定、関連文献の検討
第 18 回	調査分析 (3)	担当学生による関連文献の報告と質疑
第 19 回	調査分析 (4)	担当学生による関連文献の報告と質疑

第 20 回	調査分析 (5)	担当学生による関連文献の報告と質疑
第 21 回	調査分析 (6)	担当学生による関連文献の報告と質疑
第 22 回	調査分析 (7)	担当学生による関連文献の報告と質疑
第 23 回	調査分析 (8)	担当学生による関連文献の報告と質疑
第 24 回	調査分析 (9)	担当学生による関連文献の報告と質疑
第 25 回	調査分析 (10)	共通テーマ全体の総括と討論
第 26 回	その他 (1)	次年度 ISFJ 参加テーマ候補の提案とプレゼン、卒論報告
第 27 回	その他 (2)	次年度 ISFJ 参加テーマ候補の提案とプレゼン、卒論報告
第 28 回	総括	サブゼミ等

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備・復習時間は、各 4 時間を目安とする。

【テキスト（教科書）】

参加者と相談して決定する。

【参考書】

参考書は適宜指示するが、自らの興味に応じて以下の書籍も読んでほしい。

- フリードマン『資本主義と自由』日経 BP 社
- 中田真佐男『基礎から学ぶ動学マクロ経済学に必要な数学』日本評論社
- 二神孝一『動学マクロ経済学 成長理論の発展』日本評論社
- 麻生良文『公共経済学』有斐閣
- 麻生良文『マクロ経済学入門』ミネルヴァ書房
- 麻生良文・小黒一正・鈴木将覚『財政学 15 講』新世社
- 加藤久和『世代間格差』ちくま新書
- 田中秀明『財政規律と予算制度改革』日本評論社
- 野口悠紀雄『消費増税では財政再建できない』ダイヤモンド社
- 小黒一正『日本経済の再構築』日本経済新聞出版社
- 小黒一正『財政危機の深層—増税・年金・赤字国債を問う』NHK 出版
- 小黒一正『アベノミクスでも消費税は 25 % を超える』PHP 研究所
- 小黒一正『2020 年、日本が破綻する日』日経プレミアシリーズ
- 小黒一正・小林慶一郎『日本破綻を防ぐ 2 つのプラン』日本経済新聞出版社
- ラインハート・ロゴフ『国家は破綻する——金融危機の 800 年』日経 BP 社
- 日本再建イニシアティブ編『人口蒸発「5000 万人国家」日本の衝撃——人口問題民間臨調 調査・報告書』新潮社
- 山重慎二・加藤久和・小黒一正『人口動態と政策：経済学的アプローチへの招待』日本評論社
- 山重慎二『家族と社会の経済分析：日本社会の変容と政策的対応』東京大学出版会
- 小塩隆士『社会保障の経済学』日本評論社
- 鈴木亘『だまされないための年金・医療・介護入門』東洋経済新報社
- 西沢和彦『年金制度は誰のものか』日本経済新聞出版社
- 西沢和彦『税と社会保障の抜本改革』日本経済新聞出版社
- 田近栄治・佐藤主光『医療と介護の世代間格差』東洋経済新報社
- 鈴木亘・八代尚宏『成長産業としての医療と介護』日本経済新聞出版社
- 池尾和人『現代の金融入門（新版）』ちくま新書
- 池尾和人『連続講義：デフレと経済政策 アベノミクスの経済分析』日経 BP 社
- 白川方明『現代の金融政策—理論と実際』日本経済新聞出版社
- 翁邦雄『ポスト・マネタリズムの金融政策』日本経済新聞出版社
- 小宮隆太郎・日本経済研究センター『金融政策議論の争点』日本経済新聞出版社
- 吉川洋『デフレレシヨナー“日本の慢性病”の全貌を解明する』日本経済新聞出版社
- 岩田一政『デフレとの闘い』日本経済新聞出版社
- 佐藤主光『地方税改革の経済学』日本経済新聞出版社
- 太田 聡一『若年者就業の経済学』日本経済新聞出版社
- 大内伸哉・川口大司『法と経済で読みとく雇用の世界』有斐閣
- 深尾京司『「失われた 20 年」と日本経済』日本経済新聞出版社
- 井堀利宏・土居丈朗『日本政治の経済分析』木鐸社

ブキャナン・ワグナー『赤字の民主主義 ケインズが遺したもの』日経 BP 社

飯塚信夫・加藤久和『EViews による経済予測とシミュレーション入門』日本評論社

Jones, *Macroeconomics*, 2011, W. W. Norton & Company.

Wooldridge, *Introductory Econometrics: A Modern Approach*, 2008, South-Western.

Kotlikoff, Leibfritz, and Auerbach, *Generational Accounting Around the World*, 1999, Univ of Chicago Press.

Keen, Bodin, and Summers, *The Modern Vat*, 2002, International Monetary Fund.

Persson and Tabellini, *Political Economics*, 2002, MIT Press.

【成績評価の方法と基準】

評価は、授業内評価（例：全体への議論の参加）70 %および報告・発表の評価 30 %によって総合的に判断する。無断欠席は禁止する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline (in English)】

The objective of this course is to consider the problems facing the Japanese economy. Specifically, based on our readings from the textbooks, we will formulate and discuss potential solutions to such problems as the declining birthrate, aging population, political system, intergenerational disparity, public finance, social security system, monetary policy, and the labor market.

ECN218CA
演習
平井 俊行
開講時期：年間授業/Yearly 単位：8 単位
4 年次は授業コード「K7103」を履修登録すること。

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

文献の輪読を通じてゲーム理論の基礎概念・考え方・使い方（使われ方）を学習します。また、プレゼンテーションの技術の向上も目指します。

【到達目標】

ゲーム理論についての基礎的な知識の習得を目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP8」「DP9」「DP10」「DP11」に関連。国際経済学科は「DP9」「DP10」「DP11」に関連。

【授業の進め方と方法】

ゼミは原則として対面でおこないます。輪読を中心に進めます。適宜、最終報告書の準備についても報告してもらいます。詳細は第 1 回の講義で連絡します。履修者による報告が講義の中心になりますので、フィードバックは当然その場でおこなわれます。履修者相互のフィードバックを歓迎します。報告は完璧である必要はありませんが、自分が理解したこととできなかったことを区別して報告するよう心掛けてください。質問者についても同様で、自分がどこまで理解してどの部分がなぜわからなかったかをきちんと伝えるよう努めてください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
打合せ	春学期のゼミの進行について	自己紹介・グループ分け・担当箇所決め
個人発表	輪読①	「教科書」の報告と質疑応答①
①		
輪読①	輪読②	「教科書」の報告と質疑応答②
輪読②	輪読③	「教科書」の報告と質疑応答③
輪読③	輪読④	「教科書」の報告と質疑応答④
輪読④	最終報告書の準備①	実際のゲーム的状況についての報告①
輪読⑤	輪読⑤	「教科書」の報告と質疑応答⑤
輪読⑥	輪読⑥	「教科書」の報告と質疑応答⑥
輪読⑦	輪読⑦	「教科書」の報告と質疑応答⑦
輪読⑧	輪読⑧	「教科書」の報告と質疑応答⑧
輪読⑨	輪読⑨	「教科書」の報告と質疑応答⑨
輪読⑩	輪読⑩	「教科書」の報告と質疑応答⑩
個人発表	最終報告書の準備②	実際のゲーム的状況についての報告②
②		
総括	春学期のまとめ	春学期の内容の総括
打合せ	秋学期のゼミの進行について	テキストの選定・グループ分け・担当箇所決め
個人発表	最終報告書の準備③	実際のゲーム的状況についての報告③
③		
輪読⑪	輪読⑪	「教科書」の報告と質疑応答⑪
輪読⑫	輪読⑫	「教科書」の報告と質疑応答⑫
輪読⑬	輪読⑬	「教科書」の報告と質疑応答⑬
輪読⑭	輪読⑭	実際のゲーム的状況についての報告④
④		
輪読⑮	輪読⑮	「教科書」の報告と質疑応答⑭
輪読⑯	輪読⑯	「教科書」の報告と質疑応答⑮
輪読⑰	輪読⑰	「教科書」の報告と質疑応答⑯
輪読⑱	最終報告書の報告①	実際のゲーム的状況についての最終報告①

輪読⑱	最終報告書の報告②	実際のゲーム的状況についての最終報告②
輪読⑳	最終報告書の報告③	実際のゲーム的状況についての最終報告③
個人発表	最終報告書の報告④	実際のゲーム的状況についての最終報告④
④		
総括	秋学期まとめ	1 年間の内容の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

発表の準備をしてください。自分の担当箇所だけでなくも予習をして議論ができるように準備をしておいてください。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

第 1 回講義で指示する。

【参考書】

講義中に指示する。

【成績評価の方法と基準】

平常点 100%

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline (in English)】

(Course outline) The purpose of this seminar is to learn the basic concepts, ideas, and techniques of game theory through reading textbooks. Students are expected to acquire basic knowledge and ideas of game theory and techniques to think and present logically. (Learning Objectives) By the end of the academic year, students are expected to:

A) acquire basic knowledge and techniques of game theory;

B) become able to give a presentation clearly.

(Learning activities outside of classroom) Before/after each class, students are expected to spend four hours for preparation/reviewing.

(Grading policy) Class participation (including the performance at presentations) 70%; Final report 30%

(

ECN218CA
演習
岡部 雅史
開講時期：年間授業/Yearly 単位：8 単位
4 年次は授業コード「K7104」を履修登録すること。

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

- 1-株式投資能力の向上を目指す。
- 2-プレゼンソフトを用いた発表能力の向上を目指す。

【到達目標】

- 1-株式投資を約 10 ヶ月行い、収益を上げることを目指す。
- 2-株式投資戦略・結果をプレゼンテーションすることを目指す（各人 2 回・通年）。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP8」「DP9」「DP10」「DP11」に関連。国際経済学科は「DP9」「DP10」「DP11」に関連。

【授業の進め方と方法】

投資スキル向上のための株式投資シミュレーション訓練（毎年 10 ヶ月）
プレゼンスキルの向上のため、各人 6 回の投資結果発表を行う（パワポ使用）

論文提出者がいる場合、卒業論文作成の指導
フィードバックは授業支援システムにて行う

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス 投資チーム編成	ゼミの進め方の説明 成績評価詳細の説明 チーム編成の決定 投資口座 ID 作成
2	春学期シミュレーション投資スタート	一般銘柄：1 人・チーム ETF 限定投資：1 人・チーム
3	春学期第 1 週投資結果分析	発表 1
4	春学期第 2 週投資結果分析	発表 2
5	春学期第 3 週投資結果分析	発表 3
6	春学期第 4 週投資結果分析	発表 4
7	春学期第 5 週投資結果分析	発表 5
8	春学期第 6 週投資結果分析	発表 6
9	春学期第 7 週投資結果分析	発表 7
10	春学期第 8 週投資結果分析	発表 8
11	春学期第 9 週投資結果分析	発表 9
12	春学期第 10 週投資結果分析	発表 10
13	春学期第 11 週投資結果分析	発表 11
14	春学期投資結果まとめ	一般銘柄、ETF 限定銘柄の投資結果についてのまとめ

15	秋学期投資方針考察 秋学期シミュレーション投資スタート	春学期の投資結果振り返り
16	秋学期第 1 週投資結果分析	発表 12
17	秋学期第 2 週投資結果分析	発表 13
18	秋学期第 3 週投資結果分析	発表 14
19	秋学期第 4 週投資結果分析	発表 15
20	秋学期第 5 週投資結果分析	発表 16
21	秋学期第 6 週投資結果分析	発表 18
22	秋学期第 7 週投資結果分析	発表 18
23	秋学期第 8 週投資結果分析	発表 19
24	秋学期第 9 週投資結果分析	発表 20
25	秋学期第 10 週投資結果分析 卒論指導 1	一般銘柄投資結果まとめ 卒論テーマの決め方
26	秋学期第 11 週投資結果分析 卒論指導 2	ETF 限定投資結果まとめ 論文のゴール設定
27	投資コンテスト結果分析 卒論指導 3	コンテスト結果の分析を行う 説得力を増すためのデータ取扱
28	秋学期投資結果まとめ	年度最終ゼミ 今年度通期のまとめ ゼミ内最優秀トレーダーの表彰

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

ニュース、新聞など報道資料に目を通しておくこと（特に金融・環境・医療・食品・国際紛争などの分野）。
本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

適宜ゼミにて通達する。

【参考書】

適宜ゼミにて通達する。

【成績評価の方法と基準】

各人 2 回の投資結果プレゼン発表 および株式投資収益を基準に総合的に評価を行う。総合評価の詳細については初回ガイダンスの際に説明する（70 %）。

学部・学外行事（ディベート大会、プレゼン大会、株式投資コンテストなど）に参加し、顕著な功績があれば該当チーム全員に加点し評価する（30 %）。

【学生の意見等からの気づき】

ゼミ運営 および 成績評価基準について、希望があれば逐次見直しを図ります。

【学生が準備すべき機器他】

ノートパソコンまたはタブレット端末

【その他の重要事項】

新型コロナウイルスの感染状況によっては zoom 講義になる場合があります。その場合はお知らせに掲示します。

【Outline (in English)】

The aim of this class is improvement of the ability for, 1-Japanese stock investment, & 2-announcement, using various kinds of media.

A comprehensive evaluation will be made based on each person's presentation of investment results twice and stock investment income. Details of the comprehensive evaluation will be explained during the initial guidance.

At the events (debate competitions, presentation competitions, stock investment contests, etc.), and if there are outstanding achievements, add points to all team members and evaluate them.

ECN218CA
演習
奥山 利幸
開講時期：年間授業/Yearly 単位：8 単位
4 年次は授業コード「K7105」を履修登録すること。

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ミクロ経済学を中心に経済学を学び、各自の興味に沿った論題を扱った先行研究の問題意識・分析方法・結果（発見と含蓄）をサーベイし、新たな論題を創造する力と、その解決のための分析力を培い、最終的には、その成果を進級論文・卒業論文として執筆し、発表します。

【到達目標】

プレゼン力、ディスカッション能力、経済学概念・理論の理解、現実へのその応用力、文献知識、論文作成力

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP8」「DP9」「DP10」「DP11」に関連。国際経済学科は「DP9」「DP10」「DP11」に関連。

【授業の進め方と方法】

各回、テーマに即して教科書や参考書から発表して行きます。レジュメの作成、プレゼンやディスカッションの練習、そして、進級論文や卒論にむけた論題探しに役立てて行きます。

進級論文の指導は、6 月より開始し、取り扱う先行研究を春学期中に確定させます。秋学期には、先行研究のレジュメ、共通理解や相違点、今後の課題について整理していきます。

例年、学生研究報告大会に 3 名のゼミ生が発表しています。大会の出場については、独自の分析が必須になります。大会出場者には、そのためのアドバイスをを行います。

ゼミにおけるパフォーマンスについては、論文指導時、また、学期途中に中間評価を示し、フィードバックします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ゼミ・ガイダンス	ゼミスケジュール、課題、論文
2	経済学の基本用語と問題意識	基本用語、産業連関表、ミクロ経済学、マクロ経済学
3	競争市場	需要曲線、供給曲線、厚生経済学の基本定理群、政策の効果
4	外部性、公共財	外部性、コースの定理、ピグー税、公共財、サミュエルソン条件、リンダール均衡
5	情報	逆選択、モラル・ハザード
6	非凸性、ゲーム理論 (1)	費用削減、独占均衡、自然独占、ゲーム理論、ナッシュ均衡
7	ゲーム理論 (2)	展開形ゲーム、不完備情報、ベイジアンゲーム、完全ベイジアン均衡
8	寡占	クールノー均衡、シュタッケルベルグ均衡、共謀、カルテル
9	差別化	価格差別化、商品差別化、独占的競争、ホテリングの定理、サロップ理論
10	メカニズム・デザイン入門	社会的選択関数、メッセージ、メカニズム、ナッシュ遂行
11	社会的選択	社会的厚生関数、アローの不可能性定理
12	消費者 (1)	無差別曲線、限界代替率、予算制約、最適消費計画
13	消費者 (2)	所得消費曲線、価格消費曲線
14	消費者 (3)	代替効果、所得効果、ギッフェン財
15	生産者 (1)	生産関数、限界生産性、平均生産性、等量曲線
16	生産者 (2)	費用関数、限界費用、平均費用
17	生産者 (3)	短期 vs. 長期、損益分岐点、操業中止点、供給曲線
18	均衡 (1)	マーシャル分析、ワルラス分析 (1) 純粋交換経済
19	均衡 (2)	ワルラス分析 (2) 生産経済
20	均衡 (3)	エッジワース分析 (コア)
21	厚生 (1)	厚生経済学の第 1 基本定理
22	厚生 (2)	厚生経済学の第 2 基本定理
23	不確実性	くじ、期待効用、保険、条件付商品、総量リスク
24	遂行 (1)	支配戦略遂行、ナッシュ遂行、マスキ単調性

25	遂行 (2)	クラークメカニズム、ハーヴィッツ定理
26	進級論文発表 (1)	発表 (2 年生)
27	進級論文発表 (2)	発表 (3 年生)
28	卒論発表	発表 (4 年生)

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

プレゼンの用意、教科書の予習・復習、論文論題関係先行研究のサーベイ、論文作成本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

奥山利幸『ミクロ経済学 新装改訂版』学術図書出版社
※ 2022 年 2 月出版予定

【参考書】

岡田章『ゲーム理論』有斐閣
スティグリッツ『ミクロ経済学』東洋経済
武隈慎一『ミクロ経済学』新世社
チャン『現代経済学の数学的方法』シーエービー出版

【成績評価の方法と基準】

平常点 (60%)、進級論文 (40%)

【学生の意見等からの気づき】

ゼミを益々活性化させるために、一緒に精力的に活動して行きましょう。

【その他の重要事項】

2 年次より中級レベル以上のミクロ経済学を学ぶことで、学力が飛躍的に向上します。2 年生の多くは、最初の数ヶ月間、かなり苦勞しますが、秋学期に発表する進級論文は、相当、質の高いものになる 2 年生が少なくありません。その飛躍たるもの、指導している教員自身が驚く程です。難しくても「ついで行く」姿勢を持っている限り、毎年、毎年、1 年間を振り返ったときに自らの成長を感じるはずで。

【Outline (in English)】

【Course Outline】

This course deals with intermediate microeconomics. It also enhances the development of students' skill in microeconomic applications and communication/presentation.

【Learning Objectives】

At the end of the course, students are expected to write and present a term paper. By the end of the course, students should be able to analyze and explain actual economic phenomena.

【Learning activities outside of classroom】

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Furthermore, before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter(s) from the text. Your required study time is at least four hours for each class meeting.

【Grading Criteria/Policy】

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Term paper:40%, in class contribution:60%

ECN218CA
演習
杉浦 未樹
開講時期：年間授業/Yearly 単位：8 単位
4 年次は授業コード「K7107」を履修登録すること。

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

このゼミは、商品流通をめぐる日本と経済が抱える問題を学び、商品開発にかかる経験・実践的スキルを調査・発表・産学協同事業を通して修得することを目的とします。商品開発について基礎理論と歴史を理解し、実践的な学習手法から議論に耐えうる知見・経験を身に付けます。加えて、実践的な学びを通じて、情報収集・チームワーキング・プレゼン力など、実社会での問題解決にも有用なスキルを習得します。

授業のオンラインか対面は、学習支援システムで今後連絡をする。

現在、われわれを取り巻く経済・ビジネスの環境は、非常に早いスピードで変化しており、そのような中、自ら主体的に考え行動していく人材が求められています。ゼミを通じて、自ら問題を解決するスキル・姿勢を身に付けましょう。

【到達目標】

下記の能力を身に付けます。

- 1) 日本企業に対し、商品開発の分野で、具体的・実現可能性のある提案を行う。
- 2) 資料収集・情報整理を効率的に行い、アウトプット（企画書・プレゼンテーション）を出せる。
- 3) 自分のアイデアを体系的に発表することができる。
- 4) 異なる意見のある中で、積極的かつ協調的なディスカッション・提案を行う。
- 5) 意見発表や、企業とのコミュニケーションを通じ、社会人マナーを身に付ける

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP8」「DP9」「DP10」「DP11」に関連。国際経済学科は「DP9」「DP10」「DP11」に関連。

【授業の進め方と方法】

教員からのレクチャーも行いますが、一般的にアクションラーニング的に行います。内容は、若干高度なものが含まれますが、適宜教員から説明します。

年前半の回では商品開発をテキスト中心に、年後半では実際に商品開発のプロセスをチームを編成して行います。

毎回の授業では、前半で、テキスト・資料についてのレジュメ（内容のまとめ）発表、あるいは、教員によるレクチャーを行います。後半では、前半の内容につき、ディスカッション・実習（自ら作業）を行います。

具体的内容として、年後半では、3、2年生それぞれ実践的な提案のためのグループ作業を行います。3年生は全国約15大学の30ゼミが参加する商品開発コンペ『Sカレ』に参加します。2年生は個人での商品開発コンセプトの策定プログラム、および、特定の日本企業様に対する商品企画ワークショップを行います。フィードバックは、以上の課題の中で、授業中または個人・グループ指導として都度行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	ゼミの内容・進め方、および、通年でのスケジュールの説明。教員・学生の自己紹介。

第2回	商品開発を学ぶ①	テキスト第1章「商品企画プロセス」、第2章「インタビュー法」を学ぶ。グループで事前作成のレジュメに沿って輪読。マーケティングリサーチについて説明、発表準備
第3回	商品開発を学ぶ②	テキスト第3章「観察法」第4章「リードユーザー法」を学ぶ。3年生「自分のマーケティングアプローチ発表」① アパレル業界のサバイバルをテーマにレクチャー
第4回	商品開発を学ぶ③	テキスト第5章「アイデア創出」第6章「コンセプト開発」を学ぶ。3年生自分のマーケティングアプローチ発表②アパレル業界のサバイバルをテーマにレクチャー
第5回	商品開発を学ぶ④	テキスト第7章「プロトタイプング」を学ぶ。「自分のマーケティングアプローチ発表」③、Sカレのテーマ決め。2年生 マーケティング論文献輪読
第6回	商品開発を学ぶ⑤	テキスト第8章「市場規模の確認」第9章「競合・技術の確認」を学ぶ。3年生、Sカレのテーマ決め。2年生2年生 マーケティング論文献輪読
第7回	商品開発を学ぶ⑥	テキスト第10章「顧客ニーズの確認」第11章「販促提案」を学ぶ。2年、マーケティング論発表。3年生、Sカレ基礎インタビュー、調査計画
第8回	商品開発を学ぶ⑦	テキスト第12章「価格提案」第13章「チャネル提案」を学ぶ。マーケティング論発表。3年生、Sカレ基礎インタビュー、調査計画発表
第9回	商品開発を学ぶ⑧	テキスト第14章「企画書作成」、第15章「プレゼンテーション」を学ぶ。アパレル業界のサバイバル」テーマに発表。3年生、Sカレ基礎インタビュー、調査計画発表
第10回	企業に対する商品提案のための調査計画と、業界調査計画①	教科書で学んだ知見についてまとめ（主に前半部）を行う。および、3年生はSカレ進行状況発表、2年生はグループ調査計画
第11回	企業に対する商品提案のための調査計画と、業界調査計画②	教科書で学んだ知見についてまとめ（主に後半部）を行う。また、引き続き、3年生はSカレ、2年生はグループ調査計画。
第12回	企業に対する商品提案のための調査と、業界調査②	3年生、2年生それぞれのSカレ、マーケティング調査発表グループに対する、教員からの個別指導
第13回	半期のまとめのグループ発表①	3年生Sカレ提案発表、2年生コンペプレゼン参加準備
第14回	半期のまとめのグループ発表①	3年生Sカレ提案発表、2年生コンペ参加プレゼン準備
第15回	Sカレ 事前演習	3年生は、Sカレのため、他ゼミ・他大学との、合同の事前演習を行います。2年生も学習、3年生支援のために参加します。
第16回	商品開発の実践①（情報収集・調査）	3年生はSカレの準備、2年生は個人の商品コンセプトプログラムと、商品開発ワークショップの準備を進めます。主に、情報収集・調査を行います。
第17回	商品開発の実践②（情報収集・調査）	同上。ただし、基礎的な情報収集から、より商品に直結した調査に進みます。

- 第18回 商品開発の実践③
(コンセプト設定) ここまでに集めた情報・分析結果をもとに、提案する商品コンセプトを決定します。(3年生はSカレ向け、2年生はワークショップ向け)
- 第19回 商品開発の実践④
(コンセプト検証) 前回決定したコンセプトにつき、ディスカッション、各種実査(技術・コスト実現性)などを行います。(3、2年生の目的は同上)
- 第20回 商品開発の実践⑤
(プレゼン資料作成とプレゼン準備) ここまで調査・分析した内容をプレゼン資料にまとめていきます。(3、2年生の目的は同上)
- 第21回 商品開発の実践⑥
(プレゼン練習の実施) 作成したプレゼン資料を、実際にプレゼン。相互にフィードバックを行います。(3、2年生の目的は同上)
- 第22回 Sカレ準備(3年生)、および、商品開発ワークショップの企業提案(2年生)① 3年生は、引き続きSカレに向けた準備を行います。2年生は、順次ワークショップの成果を企業様にプレゼンします。
- 第23回 Sカレ準備(3年生)、および、商品開発ワークショップの企業提案(2年生)② 同上
- 第24回 Sカレ 事前演習 Sカレ・冬カン(冬に行う最終大会)に向けた準備。
3年生が中心となり、企画書・プレゼンの練習を行う。
4年生、2年生を含み、相互にフィードバックを行う。
- 第25回 Sカレ 振り返り よび、全体の進め方について、振り返る。良かった点、反省点、要修正点を発表する。2年生を含めフィードバックを行います。
- 第26回 2年生の商品コンセプト発表① 2年生から、個人の商品コンセプトプログラムについて、個別にプレゼンを行います
- 第27回 2年生の商品コンセプト発表② 2年生から、個人の商品コンセプトプログラムについて、個別にプレゼンを行います。
- 第28回 全体としての振り返り 1年間のゼミを振り返り、各自の発表・コメントを行う。
4年生の卒論発表、就活体験会、3年生から、2年生へのアドバイスをを行う。

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

発表担当者は、事前にレジュメをワード/パワーポイントで作成し、授業において自ら説明・発表します。
自ら理解するだけでなく、他人に分かりやすいまとめ方・発表の仕方を習得することも目的とします。
商品開発では、授業外でインカレの大会に参加します。
その準備にも一部、授業外の時間が必要です。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト(教科書)】

西川英彦・廣田章光「1からの商品開発」碩学舎 2012年

【参考書】

調査・分析の仮定で、企業の状況、競合商品の状況、その他各種情報収集のため、ネットの検索を高い頻度で行います。
2年生のマーケティング論文献として
デービット・アーカー『ストーリーで伝えるブランド——シグネチャーストーリーが人々を惹きつける』、ダイヤモンド社、2019年
野中郁次郎、勝見明『共感経営「物語り戦略」で輝く現場』、日本経済新聞出版、2020年

【成績評価の方法と基準】

ゼミの活動の参加、グループワークへの貢献 60%、各種発表での充実度 40% (3年生はSカレ、2年生は個人の商品コンセプト策定プログラム、チームでの商品開発ワークショップ)

【学生の意見等からの気づき】

去年に引き続き、レクチャー(座学)もありますが、基本的に各回・通年で、アクションラーニング的に、チームでのディスカッション・作業・発表を多く行います。
また、レクチャーにおいても、皆さんの意見を多くきくため、双方向での授業を心掛けます。
3年生が参加するSカレについては、高い積極性が求められます。苦勞する分、充実感も大きいと思います。
2年生の企業向けの商品開発ワークショップでは、実際の企業の方々と相手にするため、社会人としての振る舞いが求められます。厳しい面もありますが、自ら能動的に動く楽しみを見つけてもらえればと思います。

【学生が準備すべき機器他】

授業内で実習を行いますので、基本的に毎回PC(ノックアウト+キーボード)を、各自持参してください。また、マイクロソフト社オフィス(特にワード・パワーポイント)が使用できるようにしてください。(互換ソフトも可能ですが、他人とのファイルやり取りもあるので、できるだけ純正のオフィスをお願いします。)
ただし、機種の性能的には、高いものでなくても構いません。

【Outline (in English)】

The aims of this seminar are 1. to have systematic understanding of the basic theory and history of product development, 2. to acquire pragmatic skills for presenting proposals through groupwork. The third-year students of this seminar are expected to join the Inter-university product development competition 'Student innovation college'. Students are expected to spend 6-8hrs per week to prepare for assignments and presentation. Students are assessed their grade through weekly assignments and participation to the class (60%), and contribution for the groupwork (40%).

ECN218CA
演習
小沢 和浩
開講時期：年間授業/Yearly 単位：8 単位
4 年次は授業コード「K7108」を履修登録すること。

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

経済データの様々な分析手法を習得することを目的とする。演習では Excel のマクロプログラムや VB などを利用することもある。また、統計解析手法や地理情報システム (GIS) を用いる。また、プレゼンテーション技術の向上も目的とする。

基本的なデータ解析法を身に付けながら、各自身近な研究テーマを持つ。各自の研究成果は年に数回の発表を行う。

【到達目標】

- ・データの特徴をつかむ基本理論と手法の理解
- ・データマイニングなどの手法を用いたデータ解析手法の習得
- ・データ解析に必要なプログラミング技法の習得
- ・プレゼンテーション技術の習得

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP8」「DP9」「DP10」「DP11」に関連。国際経済学科は「DP9」「DP10」「DP11」に関連。

【授業の進め方と方法】

本年度は対面での演習を行う予定である。ただし、今後の状況によっては学習支援システムなどを使ったオンライン講義を併用する場合もある。前もって「学習支援システムシステム」などの講義情報を確認すること。また毎週の課題のほか各自の研究テーマに関する発表会を年に数回実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	GIS の紹介	GIS ソフトの紹介をする
第 2 回	GIS ソフトの利用法 I	GIS ソフトの利用 I
第 3 回	GIS ソフトの利用法 II	GIS ソフトの利用 II
第 4 回	GIS と統計情報 I	GIS と統計情報の利用
第 5 回	GIS と統計情報 II	GIS と統計情報の利用
第 6 回	GIS と統計情報 III	GIS と統計情報の利用
第 7 回	GIS を用いた空間情報の分析 I	GIS を用いた空間情報の分析
第 8 回	GIS を用いた空間情報の分析 II	GIS を用いた空間情報の分析
第 9 回	GIS を用いた空間情報の分析 III	GIS を用いた空間情報の分析
第 10 回	GIS を用いた空間情報の分析 IV	GIS を用いた空間情報の分析
第 11 回	GIS を用いた空間情報の分析 V	GIS を用いた空間情報の分析
第 12 回	GIS を用いた空間情報の分析 VI	GIS を用いた空間情報の分析
第 13 回	GIS を用いた空間情報の分析 VII	GIS を用いた空間情報の分析
第 14 回	GIS を用いた空間情報の分析 VIII	GIS を用いた空間情報の分析
第 15 回	経済統計の作成過程	経済統計の種類と分類を理解する
第 16 回	経済統計の作成過程	統計の作成過程を理解する
第 17 回	人口統計	人口統計からの将来予測

第 18 回	家計	家計に関する統計調査を理解する
第 19 回	食料統計	食料統計の種類と入手法を学ぶ
第 20 回	物価・地価の統計	物価指標や地価統計の種類と入手法
第 21 回	労働統計	日本の労働統計諸事情
第 22 回	産業統計	変わる産業構造。主要な産業統計を理解する
第 23 回	企業統計	企業統計と経営状態の把握
第 24 回	国民経済	経済循環と国民経済計算の諸勘定
第 25 回	産業連関	産業連関表を理解する
第 26 回	景気	景気循環と景気統計
第 27 回	財政	財政の仕組みと統計
第 28 回	金融	デフレ不況と金融政策
	国際収支	国際収支と関連統計

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストの予習復習。

課題は毎週課されるので必ず提出すること。

また各自研究テーマを持ち、年に数回の成果発表をする。

本授業の準備・復習時間は、1 回につき 16 時間以上が必要です。

【テキスト（教科書）】

講義の初めに紹介する。

【参考書】

必要に応じて講義の途中で指示する。

【成績評価の方法と基準】

毎週の課題を必ず提出することが必要 (70%)

演習への参加度、発表会のプレゼンなど (30%)

【学生の意見等からの気づき】

演習の時間を多くしてより理解度をより高める。

【学生が準備すべき機器他】

Windows8 以上の OS を搭載し、Office2013 以降のものがインストールされている PC を用意してください。

【Outline (in English)】

This course aims at learning various analysis methods for economic data. In the exercises, Excel macro programs and VB may be used. It also uses statistical analysis methods and geographic information systems (GIS). It also aims to improve presentation skills.

ECN218CA
演習
黒田 俊太郎
開講時期：年間授業/Yearly 単位：8 単位
4 年次は授業コード「K7111」を履修登録すること。

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

近代以降の日本の文学・文化・歴史、文学理論などについて研究する。文学には、詩・小説・戯曲・随筆・文芸評論から、アニメ・漫画・映画などが含まれる。

【到達目標】

・文学作品に内在していた「問い」を再発見し、現代的な課題として問い直そうとする。(態度目標 [本単元で育成したい学習者の態度])
 ・文学作品に内在する「問い」についての学習者同士や教師との対話を通して、私たちが人生において向き合わねばならない本質の問題について知る。(価値目標 [本単元で考えさせたい内容や価値観])
 ・文学作品を分析的に読むための基本的な研究方法・調査方法・文学理論を学び、文学作品を分析することができる。(技能目標 [本単元で習得させたい知識や言語能力])

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP8」「DP9」「DP10」「DP11」に関連。国際経済学科は「DP9」「DP10」「DP11」に関連。

【授業の進め方と方法】

受講者による発表・報告を中心に進めていく。年間を通して、文学作品や文学理論に関する文献の輪読と、卒論をゴールとした個人研究とを並行して進めていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション①	年間計画・発表順の決定
第 2 回	イントロダクション②	研究方法・調査方法
第 3 回	春学期ゼミ活動①	4 限：文献輪読、5 限：個人研究発表
第 4 回	春学期ゼミ活動②	4 限：文献輪読、5 限：個人研究発表
第 5 回	春学期ゼミ活動③	4 限：文献輪読、5 限：個人研究発表
第 6 回	春学期ゼミ活動④	4 限：文献輪読、5 限：個人研究発表
第 7 回	春学期ゼミ活動⑤	4 限：文献輪読、5 限：個人研究発表
第 8 回	春学期ゼミ活動⑥	4 限：文献輪読、5 限：個人研究発表
第 9 回	春学期ゼミ活動⑦	4 限：文献輪読、5 限：個人研究発表
第 10 回	春学期ゼミ活動⑧	4 限：文献輪読、5 限：個人研究発表
第 11 回	春学期ゼミ活動⑨	4 限：文献輪読、5 限：個人研究発表
第 12 回	春学期ゼミ活動⑩	4 限：文献輪読、5 限：個人研究発表
第 13 回	春学期ゼミ活動⑪	4 限：文献輪読、5 限：個人研究発表
第 14 回	春学期ゼミ活動⑫	4 限：文献輪読、5 限：個人研究発表
第 15 回	秋学期ゼミ活動①	4 限：文献輪読、5 限：個人研究発表

第 16 回	秋学期ゼミ活動②	4 限：文献輪読、5 限：個人研究発表
第 17 回	秋学期ゼミ活動③	4 限：文献輪読、5 限：個人研究発表
第 18 回	秋学期ゼミ活動④	4 限：文献輪読、5 限：個人研究発表
第 19 回	秋学期ゼミ活動⑤	4 限：文献輪読、5 限：個人研究発表
第 20 回	秋学期ゼミ活動⑥	4 限：文献輪読、5 限：個人研究発表
第 21 回	秋学期ゼミ活動⑦	4 限：文献輪読、5 限：個人研究発表
第 22 回	秋学期ゼミ活動⑧	4 限：文献輪読、5 限：個人研究発表
第 23 回	秋学期ゼミ活動⑨	4 限：文献輪読、5 限：個人研究発表
第 24 回	秋学期ゼミ活動⑩	4 限：文献輪読、5 限：個人研究発表
第 25 回	秋学期ゼミ活動⑪	4 限：文献輪読、5 限：個人研究発表
第 26 回	秋学期ゼミ活動⑫	4 限：文献輪読、5 限：個人研究発表
第 27 回	秋学期ゼミ活動⑬	4 限：文献輪読、5 限：個人研究発表
第 28 回	秋学期ゼミ活動⑭	4 限：文献輪読、5 限：個人研究発表

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前学習：文献・作品の下読み、発表準備（1 時間）
 事後学習：授業中に疑問に思ったことや新たに発見した問題について追跡調査・分析を行い、レポートや卒論執筆に活かす。（1 時間）

【テキスト（教科書）】

適宜指示する。

【参考書】

適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

授業への貢献度（50%）、レポート評価（30%）、平常点（20%）、などで総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【Outline (in English)】

In this class, students will study modern Japanese literature, culture, history, and literary theory. Literature includes poetry, novels, plays, essays, and literary criticism, as well as anime, manga, and film.

Grades will be based on the student's contribution to the class (50%), report evaluation (30%), and in-class performance (20%).

ECN218CA
演習
河村 真
開講時期：年間授業/Yearly 単位：8単位
4年次は授業コード「K7112」を履修登録すること。

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

春学期は、ミクロ経済学の消費者の理論に関する理解を深める。自分で消費者の理論に基づき政策の効果を予測できるようになることを目標とする。秋学期は、統計学の入門レベルの教科書の練習問題をエクセルを用いて解き、具体的にデータが与えられた際に自分で仮説検定の結論を導けること、回帰分析の推定結果を評価できるようになることを目標とする。

【到達目標】

春学期には、具体的な消費者への課税または補助の例を探し、消費者の理論に基づき、これら政策の各商品またはサービスの消費量への効果を正しく予測できるようになることを目標とする。秋学期については、平均、標準偏差などの解釈を相対頻度分布の作成を通じて直感的に理解してもらう。正規分布、カイ二乗分布、 t -分布を乱数発生させて再現することにより分布を理解する。 T 分布、 F 分布を用いた仮説検定および回帰分析の推定結果の評価を自分でできるようにすることなどが目標となる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP8」「DP9」「DP10」「DP11」に関連。国際経済学科は「DP9」「DP10」「DP11」に関連。

【授業の進め方と方法】

基本的に、対面授業で行うことを考えている。春学期は各回の教材を用意し、講義したい。感染状況が対面を許さない場合、zoomによる講義で代替する。各回の講義の質問等は、授業または、zoomによる授業の際に回答または対応する。春学期第10回終了後に、消費者理論の復習のため、課題を出し、1週間を期限として授業支援システムの課題にアップする。次の講義で回答の解説を行う。(zoomを通じての場合もある。)春学期の最後にも各自探した例による課題の解答を授業支援システムを通じて提出してもらう。秋学期最初の授業で、幾人かの解答を紹介し、課題の解答のポイントを解説する。秋学期は、すべての時限で実習授業である。(zoomによる授業の場合もある。この場合、教員が作業をzoomで流し、各自作業の再現をしてもらう。リアルタイムで教員が各自の作業を確認する。質問等はその場で回答する。再現結果を求めたエクセルファイルを各自、授業支援システムを通じて提出をお願いします。当日完了しない学生のために、zoomで作業の動画ファイルを保存しgoogledriveにアップしておく。秋学期の最後の授業で行う回帰分析のレポートは、その時間内に質問等に対応する。レポートの提出期間は2週間前後を考えている。最終授業終了後レポート提出までの質問等には、個別にメールでやり取りするかまたはzoomを使って対応する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	市場機構と需要・供給 (1)	例を用いた需要-供給分析の復習
第2回	市場機構と需要・供給 (2)	例を用いた需要-供給分析の復習
第3回	効用関数と無差別曲線	消費者の嗜好-効用関数と無差別曲線
第4回	効用関数と無差別曲線 (特殊なケース)	消費者の嗜好-効用関数と無差別曲線 (特殊なケース)
第5回	予算制約集合	課税または補助金による予算制約集合の変化の予測 (実例を用いて)
第6回	消費者の主体的均衡	消費者の主体的均衡の導出
第7回	消費者行動と需要曲線 (1)	消費者の主体的均衡に基づく (個人または世帯の) ある財またはサービスの需要曲線の導出
第8回	消費者行動と需要曲線 (2)	所得が変化した際の消費者の主体的均衡の変化を通じて予測される需要曲線の変化 (所得効果)
第9回	物品税の税率変更の効果の予測と市場均衡の変化の予測 (1)	物品税の税率変化が消費者の主体的均衡および個人の需要曲線の変化の予測。それに伴う市場均衡の変化の予測。
第10回	所得税の税率変更の効果の予測と市場均衡の変化の予測 (2)	所得税の税率変化が消費者の主体的均衡および個人の需要曲線の変化の予測。それに伴う市場均衡の変化の予測。
第11回	消費者理論の応用 I	消費者理論の応用例である労働供給 (余暇と消費の選択) モデルとそれに基づき求められる個人 (世帯) の労働供給曲線
第12回	消費者理論の応用 II	労働供給モデルを用いて、所得税税率の労働供給に与える効果の予測。

第13回	各自探してきた具体例による課題の作成 (1)	財、サービスの需要量 (需要曲線) または労働供給量 (労働供給曲線) に影響を与える租税、補助金の変化の具体例を各自で探す。
第14回	各自探してきた具体例による課題の作成 (2)	各自探してきた租税または補助金の変更が消費者理論または労働供給モデルに基づき消費量の変化または労働供給の変化を予測し、課題として提出
第15回	記述統計 I (平均、標準偏差)	エクセルを用いて、数値例で平均、中央値、標準偏差などを各自で求める
第16回	記述統計 II (ヒストグラム、累積頻度分布、標準化)	前回の数値例でヒストグラムの作成および累積頻度分布の作成および標準化した相対頻度分布の作成
第17回	大数の法則 (シミュレーションによる確認)	VBAを用い、乱数を発生させ、相対頻度分布を作成。サンプル数が大きくなれば、真の値に近いサンプル数の比率が相対的に大きくなるような分布になることを確認する。
第18回	シミュレーションによる正規分布の再現	VBAを用いて乱数を発生させ、正規分布を再現させる。
第19回	シミュレーションによるカイ二乗分布および t -分布の再現	VBAを用いて乱数を発生させ、カイ二乗分布および t -分布の再現。正規分布、カイ二乗分布、 t -分布の関係を著間的に理解する。
第20回	他の分布 (ポアソン分布)	VBAを用いてポアソン分布を再現する。
第21回	検定の簡単な理論、正規分布を用いた検定の例	正規分布を用いた検定の練習問題を解く。
第22回	カイ二乗分布および t -分布を用いた検定の例	カイ二乗分布および t -分布を用いた検定の練習問題を解く。(例えば、平均値の有意差検定など)
第23回	F -分布を用いた検定の例	F 検定を用いた検定の練習問題を解く。
第24回	2変数の関係-散布図と相関係数-	数値例 (データの例) を用いてエクセルを使い、散布図の作成と相関係数を求める。さらに、その読み方。回帰分析の説明。相関関係と因果関係回帰分析の係数および標準誤差の導出の説明、数値例 (データ) とエクセルを用いて、係数の推定値、標準誤差、 t -値を求めてみる。
第25回	回帰分析-単回帰-	重回帰モデルの推定を、数値例 (データ) とエクセルの回帰分析のツールを用いて、係数の推定値、標準誤差および t -値を求めてみる。他の検定も紹介する。
第26回	回帰分析-単回帰-	
第27回	回帰分析-重回帰-	
第28回	回帰分析の課題の作成	各自、回帰分析に必要な相関が強そうな複数のデータを収集し、回帰分析を行い、推定結果の解釈をレポートとして作成。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

春学期に関しては、教員の講義の内容を次の週までに復習をしておいてもらえればよい。春学期の課題の作成に充てる最後の2回は、講義時間内で完了できないかもしれないので時間外にさらに2-3時間が必要と思う。秋学期は、毎回、実習で、教員が行った結果を再現させる作業は、時間内で完了可能と思われる。ただし、最後の回帰分析のレポートは、データの収集や回帰分析の結果の解釈の説明を理解するために、授業時間外に多めの時間が必要かもしれない。個人により違いがあるが3-4時間必要と思われる。

【テキスト (教科書)】

特に指定しない。

【参考書】

なし。

【成績評価の方法と基準】

春学期の中間の課題 20%、春学期期末の課題 30%、秋学期の授業時間内の実習状況の評価 30%、秋学期末回帰分析のレポート 20%で評価を付ける。

【学生の意見等からの気づき】

質疑応答があまり出ないので、質疑応答が活発になるように工夫が必要と思われる。

【その他の重要事項】

カリキュラム・ポリシー、カリキュラムの目的やねらいに基づき第三者チェックを行いました。以下の点についてご確認ください。到達目標の記述が、「授業の概要と目的 (何を学ぶか)」に記載した授業の目的・意義をいくつかの事項に具体化した、現実的な学習目標を記載します。」というガイドラインからすると抽象的に過ぎるように思われます。より具体性をもたせて記述してください。

【Outline (in English)】

In spring semester, basic understandings for consumer theory in microeconomics could be acquired by lecture and solving several practices.

In autumn semester, understanding for basic statistics has been acquired by solving problems, textbook have offered, using excel or VBA. This course introduces basic consumer theory in micro economics, and relationships among distributions, have been often used in statistics.

The goal of this course is to predict consumptions changes and individual demand curve changes correctly by policy change ;tax rate change, and subsidy change based on consumer theory. Another aim is for students to confirm retrieving several distributions(normal distribution, chi-squared distribution, t-distribution, and etc.) from generating random variable from unique distribution, and making some transformation of it, by VBA programing.

In the spring semester, before/after each classroom meeting, students will be expected to spend 4 hours to understand the course contents.

In the autumn semester, before/after each classroom meeting, students will be expected to spend 4 hours to complete programing, and acquire the basic image of generating a certain distribution.

In the spring semester, your overall grade in the class will be decided based on the following, Mid-term report:40%, Term end report:40%, and in-class contributions:20%.

In the autumn semester, your overall grade in the class will be decided based on the following, 1st report:20%, 2nd report:20%, 3rd report: 20%, term end report: 20%, and in-class contributions:20%.

ECN218CA
演習
阿部 俊弘
開講時期：年間授業/Yearly 単位：8 単位
4 年次は授業コード「K7113」を履修登録すること。

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

統計学を基礎として、理論的な研究とデータ分析のための手法を身に付けていく。また、英語論文も活用し、様々な研究手法を学んでいく。

*各回の授業形態で未定としているものについての詳細は学習支援システムを通じてお知らせをします。

【到達目標】

- ①統計学・計量経済学の基礎を身に付ける。
- ②身の回りのデータについて仮説検証等の分析を行う。
- ③自分の意見や分析結果のプレゼンテーションをする。
- ④他人の発表にコメント・質問・議論をする。
- ⑤グループまたは個人で研究を行い、思考能力および専門知識を身につける。
- ⑥英語の論文を読んでいく。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP8」「DP9」「DP10」「DP11」に関連。国際経済学科は「DP9」「DP10」「DP11」に関連。

【授業の進め方と方法】

- ・統計学・計量経済学について、輪読を通じて理解を深める。
- ・身の回りのニュース・経済現象等について発表・議論し理解を深める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり/Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
ガイダンス	ゼミの内容、進め方、今年度のスケジュールの決定	R/Python を用いて統計学を学んでいく
データの要約・可視化	基本統計量の計算・可視化	平均・分散・相関・ヒストグラム・散布図
確率密度関数の表示	確率密度関数	ソフトウェアによる関数の図示
乱数発生 1	乱数発生について	正規分布の乱数発生・図示
乱数発生 2	様々な分布の乱数発生	t 分布等の乱数発生・図示
信頼区間	信頼区間についての復習	分布を用いた信頼区間
統計的仮説検定	統計的仮説検定についての復習	分布を用いた仮説検定
パラメータ推定	分布のパラメータ推定	モーメント法・最尤法
回帰分析の概要	回帰分析の基本	単回帰分析モデルについて
単回帰モデルの推定	最小二乗法による単回帰モデルのパラメータ推定	単回帰分析モデルのパラメータ推定

単回帰パラメータの信頼区間	パラメータの信頼区間	単回帰分析モデルのパラメータの信頼区間
単回帰パラメータの検定	単回帰モデルの仮設検定	帰無仮説と対立仮説を用いる
単回帰モデルの評価	単回帰モデルを評価する	様々な評価法を学ぶ
単回帰分析の応用	データを用いた回帰分析の応用	実データを用いて分析を行う
重回帰モデルの概要	単回帰モデルの拡張	重回帰モデルが必要な例について
重回帰モデルのパラメータ推定	回帰係数の信頼区間と仮設検定	単回帰と同様にして行えることを確認していく
最尤法を用いたパラメータ推定 1	最小二乗法と最尤法	最小二乗法と最尤法による推定の比較を行う
最尤法を用いたパラメータ推定 2	推定パラメータの従う分布	推定したパラメータがどのような分布に従うのか学ぶ
論文の輪読 1	論文の構成	研究論文はどうやって書くのかを学ぶ
論文の輪読 2	データの紹介	論文のデータについてどのようなものであるのか調べる
論文の輪読 3	データ解析のための理論	論文で使われている理論を紹介する
論文の輪読 4	データ解析 1	データチェックを行う
論文の輪読 5	データ解析 2	理論で学んだ手法を用いてデータ解析を review する
論文の輪読 6	論文のまとめ	全体としてどのようなことを行ったかまとめる
データの取得 1	多変量データの取得	多変量データの取得を行う
データの取得 2	時系列データの取得	時系列データの取得を行う
データの解析	データ解析の実践	これまで得たデータを用いてデータ解析を行う
まとめ	これまでの内容についてのまとめ	まとめとして、発表を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・予習・復習を行う
- ・身の回りの現象・データについて統計的な視点を持つ
- ・本授業の準備学習・復習時間はそれぞれ 2 時間を目安とする

【テキスト（教科書）】

学生と相談して決める

【参考書】

- 確率統計演習 1 確率、国沢 清典
- 確率統計演習 2 統計、国沢 清典

【成績評価の方法と基準】

課題の提出状況・発表内容・議論への参加 (100%) による。

【学生の意見等からの気づき】

実データを意識した実践的な内容にしていきます

【学生が準備すべき機器他】

Python や R を使用するので PC が必要となります。

【Outline (in English)】

【Course outline】

We learn methodology for theoretical research and data analysis based on Statistics. We also make use of research publications to learn various statistical methods.

*Details for each session will be announced through the learning support system.

【Learning Objectives】

- (1) Learn the basics of statistics and econometrics.
- (2) Conduct analyses such as hypothesis testing on real data.
- (3) Present one's own opinions and results of analysis.
- (4) Give comments, questions, and discussions to other people's presentations.
- (5) Conduct research in groups or individually, and acquire the ability to think and specialized knowledge.
- (6) Read articles in English.

【Learning activities outside of classroom】

- ・ Preparation and review for the class
- ・ To have a statistical viewpoint on the phenomena and real data.
- ・ The standard preparation and review time for this class is needed for two hours each.

【Grading Criteria /Policy】

The grade is made based on results of assigned exercises, content of presentations, and participation in discussions (100%).

ECN218CA
演習
REYNALDO SENRA
開講時期：年間授業/Yearly 単位：8 単位
4 年次は授業コード「K7116」を履修登録すること。

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ファイナンス、投資に関するテキストの輪読を通じて、現実の投資を行う能力を身につける。さらに、輪読や研究報告を通じて、自分の考えをわかりやすく他人に伝えられるようなプレゼンテーション能力を培っていく。

In this seminar we learn the critical skills of investing. We begin by following a textbook treatment of finance, followed by group and individual projects. We also learn how to effectively communicate ideas through presentations.

【到達目標】

リスクとリターンの関係や企業の価値創造について、正しく理解し、他人に説明できるようになる。他人の考えを理解し、それに対し自分の考えを伝える能力を身につける。

The goal of the seminar is to understand the relationship between risk and return as well as the process of value creation by firms. We also use the seminar to learn how to communicate our ideas clearly to others.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP8」「DP9」「DP10」「DP11」に関連。国際経済学科は「DP9」「DP10」「DP11」に関連。

【授業の進め方と方法】

学生が主体となって、テキストの輪読、研究発表を行う。通常の講義とは異なり、教員から進んで授業を行っていくようなスタイルではない。フィードバックはプレゼンテーション後、またはプロジェクト提出後先生と会って個人的に行う。原則として、すべてのレッスンは対面式です。ただし、COVID の状況により、一部オンラインとなる場合があります。

The seminar focuses on the presentations and projects of students, with limited instruction from the professor. Regular feedback will be given after presentations and projects on an individual basis. In principle, all the lessons are face to face. However, some of them may be online depending on the COVID situation.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Guidance	Explanation of schedule and requirements.
2	Probability and Statistics	Introduction to Basic Probability
3	Probability and Statistics	Introduction to Basic Statistics
4	Financial Statements	The Balance Sheet
5	Financial Statements	The Income Statement and Cash Flow Statement
6	Asset Pricing	Present Value and Discounted Cash Flow
7	Asset Pricing	Relative Value and Earnings Power Value
8	Databases	Using Mergent Online

9	Databases	Using Nikkei NEEDS
10	Excel	Basic Excel Functions and Data Analysis
11	Excel	Financial Models in Excel
12	Review for Test	Review of Past Topics in Preparation for Test
13	Test	Test Covering All Material Covered
14	4th Year Graduation Thesis Interim Presentations	Interim Presentations of Graduation Thesis by 4th Year Students
15	Corporate Finance: Chapter 1	The Corporation and Financial Markets
16	Corporate Finance: Chapter 2	Introduction to Financial Statement Analysis
17	Corporate Finance: Chapter 3	Financial Decision Making and the Law of One Price
18	Corporate Finance: Chapter 4	The Time Value of Money
19	Corporate Finance: Chapter 5	Interest Rates
20	Zemi Interview Preparation	Preparation for Interviews and Test of New Zemi Applicants
21	Corporate Finance: Chapter 6	Valuing Bonds
22	Corporate Finance: Chapter 7	Investment Decision Rules
23	Corporate Finance: Chapter 8	Fundamentals of Capital Budgeting
24	Corporate Finance: Chapter 9	Valuing Stocks
25	Corporate Finance: Chapter 10	Capital Markets and the Pricing of Risk
26	Student Presentations	Final Project
27	Student Presentations	Final Project
28	Summary	Annual Review

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

We will visit companies to learn about their business models. Students are expected to spend 4 hours reviewing per lesson reviewing class material.

【テキスト（教科書）】

Berk, J. and DeMarzo, P., 2019. Corporate Finance, Global Edition: Pearson Education.

【参考書】

Thorndike, W.N., 2012. The Outsiders: Harvard Business Review Press

【成績評価の方法と基準】

授業への参加度、プレゼンテーションに基づいて、成績評価を行う。Grading will be based on the degree of student participation and quality of presentations and group work.

Participation: 50%

Presentations and Group Work: 50%

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

None.

【その他の重要事項】

高校レベルの数学の知識を有していると輪読するテキストの内容の理解がよりスムーズにできると思われる。

英語を読むこと（話せなくても）を苦にしない学生であることが望ましい。

A proficiency in high-school-level mathematics will be an advantage. The seminar is conducted in English, so language proficiency is requirement.

ECN218CA
演習
武田 浩一
開講時期：年間授業/Yearly 単位：8 単位
4 年次は授業コード「K7118」を履修登録すること。

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

基礎文献の輪読で経済に関する基本的な見方を学習しながら、グループあるいは個人で研究を行い研究成果のプレゼンテーションを行い、株式投資シミュレーションを通じて経済やビジネスの動向に関する洞察力を養います。希望があれば、参加者の自主的な企画の下で、年1～2回の合宿や、経済を学ぶのに有益な施設の見学などを行います。演習において積極的な発言が求められますので、有意義な議論を行うためにもミクロ経済学などの演習の基礎となる科目を並行して受講することを勧めます。

失敗を恐れずに難しい課題にもチャレンジしてその経験から真摯に学ぶことによってスキルが大きく伸びていくことをよく認識した上で、未経験の課題にも果敢に粘り強く取り組んでください。

【到達目標】

この演習では、経済についての深い理解と、卒業後にどんな道に進んでも役に立つ思考力、表現力、実行力を身につけることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP8」「DP9」「DP10」「DP11」に関連。国際経済学科は「DP9」「DP10」「DP11」に関連。

【授業の進め方と方法】

今年度の講義では、原則として教室での対面講義形式で開講する予定ですが、新型コロナウイルス感染症対策等の状況によっては、やむをえず講義の一部においてオンライン講義形式の講義を実施する可能性があります。各回の講義の講義形式の見直しについては、講義ガイダンスにおいてその時点の見直しを説明しますが、その後の状況の変化によって、学期の途中でやむをえず予定が変更となる可能性があることに留意してください。講義形式が変更になる場合は、学習支援システムのお知らせで講義形式を通知します。

第1回講義は、講義ガイダンスの回となります。学習支援システム上で講義の方法や内容などに関するガイダンス資料を教材として配布するので、この講義を履修する学生は、学習支援システムでこの講義に仮登録して講義に参加した上で資料をよく読んでください。経済のテキストの輪読、個人・グループ研究のレポート・論文の作成、プレゼンテーション、投資の計画策定・シミュレーション実行・成果レビュー、ディスカッションなどを行います。個人・グループ研究に本格的にとりかかる前に、経済に関する研究の進め方や論文の書き方などについて基本事項を確認します。

それぞれの課題に取り組む際には、専門知識が全くない初学者がいきなり何となく我流で取り組むと、課題への本質的な理解が浅いレベルで取り組みが停滞しやすく、大学生として十分に有意義な成果があがる前に壁に当たって行き詰まってしまうおそれがあります。各課題への取り組みから単なる自己満足にとどまらない成果を上げるためには、各課題において自分の力で筋道立てて考えることや考えたことを他人に分かるように表現することを可能にする最低限の基礎力を身につけることに地道に取り組みながら、学んだ基礎知識を応用して自分の興味や関心があることに粘り強く段階を踏んで取り組む姿勢をきちんと身につけるように努めることが非常に重要になります。

各課題のフィードバックは毎回の演習講義の中で行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロ	ゼミナールの基本的な学習方針の説明
第2回	個人・グループ研究計画発表	個人・グループ研究計画の報告第1回
第3回	個人・グループ研究計画発表	個人・グループ研究計画の報告第2回
第4回	投資シミュレーション	チームの投資の基本構想と計画の発表
第5回	基礎文献の輪読	基礎文献の輪読 第1回
第6回	基礎文献の輪読	基礎文献の輪読 第2回
第7回	基礎文献の輪読	基礎文献の輪読 第3回
第8回	基礎文献の輪読	基礎文献の輪読 第4回
第9回	ディスカッション	グループ・ディスカッション 第1回
第10回	基礎文献の輪読	基礎文献の輪読 第5回
第11回	投資シミュレーション	チームの投資状況と投資計画の報告 第1回
第12回	ディスカッション	グループ・ディスカッション 第2回
第13回	個人・グループ研究発表	個人・グループ研究の報告 第1回
第14回	個人・グループ研究発表	個人・グループ研究の報告 第2回
第15回	投資シミュレーション	チームの投資状況と投資計画の報告 第2回
第16回	経済の基礎文献の輪読	経済の基礎文献の輪読 第1回
第17回	個人・グループ研究中間発表	個人・グループ研究の中間報告 第1回
第18回	個人・グループ研究中間発表	個人・グループ研究の中間報告 第2回
第19回	ディスカッション	グループ・ディスカッション 第3回
第20回	経済の基礎文献の輪読	経済の基礎文献の輪読 第2回
第21回	経済の基礎文献の輪読	経済の基礎文献の輪読 第3回
第22回	投資シミュレーション	チームの投資状況と投資計画の報告 第3回
第23回	経済の基礎文献の輪読	経済の基礎文献の輪読 第4回
第24回	経済の基礎文献の輪読	経済の基礎文献の輪読 第5回
第25回	ディスカッション	グループ・ディスカッション 第4回
第26回	個人・グループ研究最終発表	個人・グループ研究の最終報告 第1回
第27回	投資シミュレーション	チームの投資結果のレビューと投資成果の報告
第28回	個人・グループ研究最終発表	個人・グループ研究の最終報告 第2回

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

輪読する文献には事前に目を通し、もし分からないところがある場合には、自分で調べたり輪読の時間やその前後に質問したりして、分からないまま残さないことが重要です。

個人・グループ研究や投資シミュレーションにおいては、ゼミの時間外に各自でテーマの設定、研究計画の策定、調査の実施、調査結果の分析や考察、論文の執筆、シミュレーション投資の実行、プレゼンテーションの準備などを着実に進める自律的な研究姿勢が求められます。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

輪読テキストは、ゼミ生と相談の上で最終的に決めます。

【参考書】

・宇井貴志ほか編『現代経済学の潮流 2021』東洋経済新報社、2021年
その他は講義の中で個別に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

2,3年生の評価は、授業内評価75%と、論文・レポート評価25%からなります。4年生の評価は、論文評価100%になります。授業内評価では、平常点、輪読の報告内容の充実度、演習で学習した内容の理解度、および毎回の発言回数とその内容が評価の重要な要素となります。

論文やレポートの評価では、調査の綿密さ、説明の分かりやすさ・丁寧さ、主張の独創性・論理性・説得性、が評価の重要な要素となります。

高い評価を受けるためには、ゼミの課題に積極的に取り組み、設定された学習目標への到達度を高めることが求められます。

無断での授業の欠席は厳禁です。欠席および 10 分程度以上の遅刻早退は、事前に事由を教員に説明することが求められます。

【学生の意見等からの気づき】

論文やレポートの作成、プレゼンテーション、ディスカッションなどの基本的なスキルの強化を重視します。

【学生が準備すべき機器他】

パワーポイントを用いたプレゼンテーションを行ないます。

【Outline (in English)】

This course will help the students prepare for the thesis. The course aims to show the way to conduct economic research and construct a proposal which follows what you have learned.

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class. Your overall grade in the class will be decided based on in-class contribution (75%), and reports and the thesis (25%).

ECN218CA
演習
後藤 浩子
開講時期：年間授業/Yearly 単位：8 単位
4 年次は授業コード「K7119」を履修登録すること。

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「国家における安全と暴力コントロールの制度形成史」
 今年度は、暴力コントロールと社会秩序形成という観点から、近代の国家と社会の特質を分析します。そして、この分析をもとに、現存する諸国家がそれぞれ歴史的变化のなかで帯びるに至った特徴を探究します。

【到達目標】

基本文献として、D.C. ノース他『暴力と社会秩序：制度の歴史学のために』（NTT 出版、2017 年）を精読することによって、「自然国家」から「アクセス開放型秩序」への変容プロセスを理解します。さらに D. アーミテージ『〈内戦〉の世界史』（岩波書店、2019）を読み、制度解体の要素としての内戦が歴史的にどのように把握されてきたのかを理解します。そして、これを土台にして、各自が個人研究のテーマを設定し、歴史学的研究の手法を身に付けて、最終的にゼミ内で各自の研究成果を共有することを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP8」「DP9」「DP10」「DP11」に関連。国際経済学科は「DP9」「DP10」「DP11」に関連。

【授業の進め方と方法】

演習 2 時間中 1 時間限は、共通テキストである『暴力と社会秩序：制度の歴史学のために』（『内戦』の世界史）を精読します。グループに分かれて用語などの説明・解釈を確認し、その後、各人が各章の論旨をまとめたレポートを書き、さらに深めるべき個別研究のテーマを設定します。残りの 1 時間限では、(1) 学生が興味をもったテーマについて分析し議論するセッション (2) ゼミ論文作成のための中間発表と論文指導 (3) グループに分かれての学生研究発表大会用共同研究・製作活動、のいずれかを行ないます。
 テキスト精読のフィードバックは授業中に教員から直接口頭で伝え、個人研究のフィードバックは、提出された各人の草稿ファイルを教員が添削し返送するという形で行われます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
 あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
 なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	自己紹介・テキスト精読の方法とゼミ論文への取り組み方の説明
第 2 回	テキスト精読／前年度個人研究報告	D.C. ノース他『暴力と社会秩序』序文、第 1 章「分析枠組み」1-1,1-2 「社会秩序の概念：暴力、制度、組織」
第 3 回	テキスト精読／前年度個人研究報告	D.C. ノース他『暴力と社会秩序』第 1 章「分析枠組み」1-3,1-4 「自然国家とアクセス開放型秩序」
第 4 回	テキスト精読／前年度個人研究報告	D.C. ノース他『暴力と社会秩序』第 1 章「分析枠組み」1-5 「自然国家からアクセス開放型秩序への移行」
第 5 回	テキスト精読／前年度個人研究報告	D.C. ノース他『暴力と社会秩序』第 1 章「分析枠組み」1-6,1-7 「因果関係に関する信念について」

第 6 回	テキスト精読／個人研究テーマの模索	D.C. ノース他『暴力と社会秩序』第 2 章「自然国家」2-1,2-2 「アクセス制限型秩序の特徴」
第 7 回	テキスト精読／個人研究テーマの模索	D.C. ノース他『暴力と社会秩序』第 2 章「自然国家」2-3,2-4 「自然国家の類型と特権、権利をめぐるエリートのダイナミクス」
第 8 回	テキスト精読／個人研究テーマの模索	D.C. ノース他『暴力と社会秩序』第 2 章「自然国家」2-5,2-6 「規模と暴力の問題、自然国家のダイナミクス」
第 9 回	テキスト精読／個人研究計画報告	D.C. ノース他『暴力と社会秩序』第 2 章「自然国家」2-7,2-8,2-9 「成熟した自然国家への移行」
第 10 回	テキスト精読／個人研究計画報告	D.C. ノース他『暴力と社会秩序』第 3 章「自然国家の事例：英国」
第 11 回	テキスト精読／個人研究計画報告	D.C. ノース他『暴力と社会秩序』第 4 章「アクセス開放型社会」4-1,4-2 「アクセス開放型秩序の特徴」
第 12 回	テキスト精読／個人研究計画報告	D.C. ノース他『暴力と社会秩序』第 4 章「アクセス開放型社会」4-3 「アクセスの開放を支える制度と信念におけるインセンティブ」
第 13 回	テキスト精読／共同研究・製作活動	D.C. ノース他『暴力と社会秩序』第 4 章「アクセス開放型社会」4-4 「包摂と市民の拡大」グループ別研究計画発表
第 14 回	テキスト精読／共同研究・製作活動	
第 15 回	テキスト精読／共同研究・製作活動	D.C. ノース他『暴力と社会秩序』第 4 章「アクセス開放型社会」4-5, 4-6 「アクセス開放型秩序における暴力の制御／グループ別研究発表準備」
第 16 回	テキスト精読／共同研究・製作活動	D.C. ノース他『暴力と社会秩序』第 4 章「アクセス開放型社会」4-7,4-8 「短期的、長期的安定を保つ要因：適応効率性」／グループ別研究発表準備
第 17 回	テキスト精読／個人研究中間報告	D.C. ノース他『暴力と社会秩序』第 4 章「アクセス開放型社会」4-9,4-10 「制度の作用、レントシーキングの理論」
第 18 回	テキスト精読／個人研究中間報告	D.C. ノース他『暴力と社会秩序』第 4 章「アクセス開放型社会」4-11,4-12 「民主政と再配分」
第 19 回	テキスト精読／個人研究中間報告	D.C. ノース他『暴力と社会秩序』第 5 章「アクセス制限型秩序から開放型秩序への移行」5-1,5-2 「個人性と非個人性」
第 20 回	テキスト精読／個人研究中間報告	D.C. ノース他『暴力と社会秩序』第 5 章「アクセス制限型秩序から開放型秩序への移行」5-3,5-4 「エリートに対する法の支配」
第 21 回	テキスト精読／個人研究中間報告	D.C. ノース他『暴力と社会秩序』第 5 章「アクセス制限型秩序から開放型秩序への移行」5-5,5-6,5-7 「軍へのコントロールの確立」
第 22 回	テキスト精読／個人研究中間報告	D.C. ノース他『暴力と社会秩序』第 6 章「厳密な意味での移行」6-1,6-2,6-3,6-4 「アクセス開放の制度化」
第 23 回	テキスト精読／個人研究中間報告	D.C. ノース他『暴力と社会秩序』第 6 章「厳密な意味での移行」6-5,6-6,6-7,6-8 「アクセス開放への移行：英仏独比較」
第 24 回	テキスト精読／個人研究中間報告	アーミテージ『〈内戦〉の世界史』第 1 章「内戦の発明」第 2 章「内戦の記憶」

第 25 回	今年度のゼミ研究のまとめ	アーミテージ『〈内戦〉の世界史』第 3 章「野蛮な内戦」
第 26 回	個人研究論文の完成	アーミテージ『〈内戦〉の世界史』第 4 章「革命の時代の内戦」
第 27 回	個人研究論文の完成	アーミテージ『〈内戦〉の世界史』第 5 章「内戦の文明化」
第 28 回	個人研究論文の完成	アーミテージ『〈内戦〉の世界史』第 6 章「内戦の世界」

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回でのテキスト読解に必要な、関連する事項や史実を調べるため、そして個人研究論文執筆のためなど、本演習の準備・復習時間は各 8 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

D.C. ノース他『暴力と社会秩序：制度の歴史学のために』（NTT 出版、2017 年）

D. アーミテージ『〈内戦〉の世界史』（岩波書店、2019）

【参考書】

テーマの展開に応じて適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】

学生が毎回提出する講読テキストの要旨に反映される内容理解度（60%）とゼミ論に示された問題探究能力と達成度（40%）で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

テキスト読解に不可欠な歴史状況の具体的な認識を促進するため、写真や地図、動画などを教材として有効に利用します。

【Outline (in English)】

【Course Outline】

"History of the Institutional Formation of Violence Control and Security in Modern States "

This seminar cultivates curiosity about European history, introducing students to historical studies as an academic discipline.

This year, we will analyze the formation of modern states and societies from the perspective of violence control and reorganization of social order. Then, based on this analysis, we will explore the characteristics each existing nation state has taken on in the process of historical changes from a primitive tribal state.

【Learning Objectives】

At the end of the course, students are expected to understand Douglass North's theory of the state and the institutional approaches as well as Armitage's historical analysis of the concept of "civil war".

【Learning Activities Outside of Classroom】

Before/after each seminar, students will be expected to spend eight hours for preparation of text reading and individual research.

【Grading Criteria /Policies】

Final grade will be calculated according to the following: the degree of understanding of the course content reflected in the abstracts of the text reading submitted after each seminar (60%) and the degree of research ability and achievement (40%) shown in term papers.

ECN218CA
演習
小林 克也
開講時期：年間授業/Yearly 単位：8 単位
4 年次は授業コード「K7120」を履修登録すること。

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この演習では、講義で学んだ経済学の知識を基礎に、経済学の初級から中級程度の知識と応用力を身につけるための輪読をします。日経新聞の中から記事を選んでその考察の報告と **Financial Times** の記事の輪読することで社会について考えることも目的です。

【到達目標】

経済学の知識と応用力を身につけることが目標です。2・3 年生は論理的な思考力やレポートの書き方を身につけます。4 年生は研究テーマを自分で見つけて分析し、その結果を卒業論文としてまとめます。また英字新聞の経済面で使われる英語に慣れることも目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP8」「DP9」「DP10」「DP11」に関連。国際経済学科は「DP9」「DP10」「DP11」に関連。

【授業の進め方と方法】

対面で行います。経済学の教科書の輪読をします。自分で選んだ日経新聞記事についての考察を報告し、議論をします。4 年生は卒業研究について複数回、中間報告をします。**Financial Times** の中から記事を選んで輪読をします。報告者と聞き手のあいだで質問や議論をします。報告や課題に対する指導、みなさんからの質問への回答は教室で直接私が伝えます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	輪読と報告 (1)	テキストの輪読。4 年生は卒業研究。2, 3 年生は新聞記事などに対する考察を報告する。
第 2 回	輪読と報告 (2)	英文と日経記事の報告と議論。テキストの輪読。4 年生は卒業研究。2, 3 年生は新聞記事などに対する考察を報告する。
第 3 回	輪読と報告 (3)	英文と日経記事の報告と議論。テキストの輪読。4 年生は卒業研究。2, 3 年生は新聞記事などに対する考察を報告する。
第 4 回	輪読と報告 (4)	英文と日経記事の報告と議論。テキストの輪読。4 年生は卒業研究。2, 3 年生は新聞記事などに対する考察を報告する。
第 5 回	輪読と報告 (5)	英文と日経記事の報告と議論。テキストの輪読。4 年生は卒業研究。2, 3 年生は新聞記事などに対する考察を報告する。
第 6 回	輪読と報告 (6)	英文と日経記事の報告と議論。テキストの輪読。4 年生は卒業研究。2, 3 年生は新聞記事などに対する考察を報告する。
第 7 回	輪読と報告 (7)	英文と日経記事の報告と議論。テキストの輪読。4 年生は卒業研究。2, 3 年生は新聞記事などに対する考察を報告する。

第 8 回	輪読と報告 (8)	英文と日経記事の報告と議論。テキストの輪読。4 年生は卒業研究。2, 3 年生は新聞記事などに対する考察を報告する。
第 9 回	輪読と報告 (9)	英文と日経記事の報告と議論。テキストの輪読。4 年生は卒業研究。2, 3 年生は新聞記事などに対する考察を報告する。
第 10 回	輪読と報告 (10)	英文と日経記事の報告と議論。テキストの輪読。4 年生は卒業研究。2, 3 年生は新聞記事などに対する考察を報告する。
第 11 回	輪読と報告 (11)	英文と日経記事の報告と議論。テキストの輪読。4 年生は卒業研究。2, 3 年生は新聞記事などに対する考察を報告する。
第 12 回	輪読と報告 (12)	英文と日経記事の報告と議論。テキストの輪読。4 年生は卒業研究。2, 3 年生は新聞記事などに対する考察を報告する。
第 13 回	輪読と報告 (13)	英文と日経記事の報告と議論。テキストの輪読。4 年生は卒業研究。2, 3 年生は新聞記事などに対する考察を報告する。
第 14 回	輪読と報告 (14)	英文と日経記事の報告と議論。テキストの輪読。4 年生は卒業研究。2, 3 年生は新聞記事などに対する考察を報告する。夏休みの共同課題の説明。
第 15 回	輪読と報告 (15)	共同課題の報告 1 回目。テキストの輪読。4 年生は卒業研究。2, 3 年生は新聞記事などに対する考察を報告する。
第 16 回	輪読と卒業研究報告 (1)	共同課題の修正版の報告。英文と日経記事の報告と議論。テキストの輪読。4 年生は卒業研究の中間報告。2, 3 年生は新聞記事などに対する考察を報告する。
第 17 回	輪読と卒業研究報告 (2)	共同課題の再修正の報告。英文と日経記事の報告と議論。テキストの輪読。4 年生は卒業研究の中間報告。2, 3 年生は新聞記事などに対する考察を報告する。
第 18 回	輪読と卒業研究報告 (3)	英文と日経記事の報告と議論。テキストの輪読。4 年生は卒業研究の中間報告。2, 3 年生は新聞記事などに対する考察を報告する。
第 19 回	輪読と卒業研究報告 (4)	英文と日経記事の報告と議論。テキストの輪読。4 年生は卒業研究の中間報告。2, 3 年生は新聞記事などに対する考察を報告する。
第 20 回	輪読と卒業研究報告 (5)	英文と日経記事の報告と議論。テキストの輪読。4 年生は卒業研究の中間報告。2, 3 年生は新聞記事などに対する考察を報告する。
第 21 回	輪読と卒業研究報告 (6)	英文と日経記事の報告と議論。テキストの輪読。4 年生は卒業研究の中間報告。2, 3 年生は新聞記事などに対する考察を報告する。
第 22 回	輪読と卒業研究報告 (7)	英文と日経記事の報告と議論。テキストの輪読。4 年生は卒業研究の中間報告。2, 3 年生は新聞記事などに対する考察を報告する。
第 23 回	輪読と卒業研究論文報告 (8)	英文と日経記事の報告と議論。テキストの輪読。4 年生は卒業研究の中間報告。2, 3 年生は新聞記事などに対する考察を報告する。
第 24 回	輪読と卒業研究報告 (9)	英文と日経記事の報告と議論。テキストの輪読。4 年生は卒業研究の中間報告。2, 3 年生は新聞記事などに対する考察を報告する。

第 25 回	輪読と卒業研究報告 (10)	英文と日経記事の報告と議論。テキストの輪読。4 年生は卒業研究の中間報告。2、3 年生は新聞記事などに対する考察を報告する。
第 26 回	輪読と卒業研究報告 (11)	英文と日経記事の報告と議論。テキストの輪読。4 年生は卒業研究の中間報告。2、3 年生は新聞記事などに対する考察を報告する。
第 27 回	輪読と卒業研究報告 (12)	英文と日経記事の報告と議論。テキストの輪読。4 年生は卒業研究の中間報告。2、3 年生は新聞記事などに対する考察を報告する。
第 28 回	輪読と卒業研究論文報告 (13)	英文と日経記事の報告と議論。テキストの輪読。4 年生は卒業研究の中間報告。2、3 年生は新聞記事などに対する考察を報告する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストや新聞、英字新聞の報告者予定の方はあらかじめ報告準備をすることが必要です。また報告当番でないときも、予めテキストや記事に目を通しておくことが必要です。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

あらかじめ履修予定者にテキスト希望のアンケート結果に基づき候補となる本を複数示します。その中から輪読するテキストを皆さんと相談して決めます。日経新聞、Financial Times の記事。

【参考書】

三土修平『初歩からの経済数学』日本評論社。
鈴木孝弘『高校数学からはじめるやさしい経済数学テキスト』オーム社
授業の最初で選んだ輪読のテキストに関連する参考書は、授業内で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

2、3 年生は平常点 25%とレポート 25%、共同課題 25%、報告内容 25%、計 100%。4 年生は卒業論文 (100%) で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

学生の皆さんが論理的思考ができるようになるように私から質問をしながら進めます。

【学生が準備すべき機器他】

Hoppii を利用します。PC やインターネットは必要です。大学の PC ルームで印刷もできるようにしておいてください。

【Outline (in English)】

Course outline:

The aim of this seminar is to acquire the knowledge and application skill of economics by reading a textbook in turn. Students also read articles of Nikkei and Financial Times in turn.

Learning objective:

Students should acquire the skills of economic knowledge and its application. Sophomores and juniors learn how to write academic reports and how to make a presentation. Seniors find a research theme, analyze it, and write a graduation theses. All students should get use to English economic words in newspapers and academic articles.

Leaning activities outside of classroom:

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand course contents and basic concepts of economics.

Grading criteria/policies:

Final grade of sophomores and juniors will be calculated by in-class contribution 25%, a report 25%, assignments 25%, and presentations 25%. That of seniors will be calculated by a graduate theses 100%.

ECN218CA
演習
近藤 章夫
開講時期：年間授業/Yearly 単位：8 単位
4 年次は授業コード「K7121」を履修登録すること。

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本演習では、都市・地域における産業・企業の立地を対象にしながら、文献輪読、統計分析・資料分析、現地調査（フィールドワーク）を軸に研究の多様なアプローチを学習する。

【到達目標】

上記のテーマを通じて、経済地理学、都市・地域経済学の思考方法を学び、自らの問題関心に沿って研究を遂行する能力を養うことが目標となる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP8」「DP9」「DP10」「DP11」に関連。国際経済学科は「DP9」「DP10」「DP11」に関連。

【授業の進め方と方法】

受講者の発表や討論が中心となる。また、自らが問題を設定し、積極的かつ自主的に現地調査や個人研究を企画・実施していくことが望ましい。受講者の関心や希望をふまえて、①重要文献の輪読、②現地調査の実習（夏期地域調査）、③個人・グループ自由研究の発表、を軸に進めていく。特に、現代経済・ビジネスと都市地域経済に関わる幅広い教養と有益なアプローチの習得に主眼をおく。課題やリアクションペーパーなどを授業内で適宜紹介し、さらなる議論に活用する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション①	オリエンテーション、年間計画
第 2 回	イントロダクション②	文献・資料の探し方、役割分担
第 3 回	春学期ゼミ活動①	4 限：文献輪読、5 限：分析実習
第 4 回	春学期ゼミ活動②	4 限：文献輪読、5 限：分析実習
第 5 回	春学期ゼミ活動③	4 限：文献輪読、5 限：分析実習
第 6 回	春学期ゼミ活動④	4 限：文献輪読、5 限：分析実習
第 7 回	春学期ゼミ活動⑤	4 限：文献輪読、5 限：分析実習
第 8 回	春学期ゼミ活動⑥	4 限：文献輪読、5 限：分析実習
第 9 回	春学期ゼミ活動⑦	4 限：文献輪読、5 限：分析実習
第 10 回	春学期ゼミ活動⑧	4 限：文献輪読、5 限：分析実習
第 11 回	春学期ゼミ活動⑨	4 限：文献輪読、5 限：分析実習
第 12 回	春学期ゼミ活動⑩	4 限：文献輪読、5 限：分析実習
第 13 回	春学期ゼミ活動⑪	4 限：文献輪読、5 限：分析実習
第 14 回	春学期ゼミ活動⑫	4 限：文献輪読のまとめ、5 限：春学期の総括
第 15 回	イントロダクション	秋学期計画、夏期調査の中間報告
第 16 回	秋学期ゼミ活動①	4 限：文献輪読、5 限：調査報告
第 17 回	秋学期ゼミ活動②	4 限：文献輪読、5 限：調査報告
第 18 回	秋学期ゼミ活動③	4 限：文献輪読、5 限：分析実習
第 19 回	秋学期ゼミ活動④	4 限：文献輪読、5 限：分析実習
第 20 回	秋学期ゼミ活動⑤	4 限：文献輪読、5 限：分析実習
第 21 回	秋学期ゼミ活動⑥	4 限：文献輪読、5 限：分析実習
第 22 回	秋学期ゼミ活動⑦	4 限：文献輪読、5 限：研究発表
第 23 回	秋学期ゼミ活動⑧	4 限：文献輪読、5 限：研究発表
第 24 回	秋学期ゼミ活動⑨	4 限：文献輪読、5 限：研究発表
第 25 回	秋学期ゼミ活動⑩	4 限：文献輪読、5 限：研究発表
第 26 回	秋学期ゼミ活動⑪	4 限：文献輪読、5 限：研究発表
第 27 回	秋学期ゼミ活動⑫	4 限：文献輪読、5 限：研究発表

第 28 回 秋学期ゼミ活動⑬ 4 限：文献輪読のまとめ、5 限：春学期の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前の予習、事後の復習・課題への積極的な取り組み、ゼミ正規時間以外の課外活動への積極的関与等が求められる。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教科書は指定しない。

【参考書】

適宜提示する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（40%）、授業への貢献度（発表・課外活動等含む）評価（30%）、レポート評価（30%）などで総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

個人の研究関心や問題意識に最大限配慮して柔軟に授業計画を進める。

【その他の重要事項】

この演習は対面で行うが、状況によっては一部をオンラインで実施することもある。学期中は学習支援システムなどを用いて、課題の提示等を行うので、定期的に確認すること。なお、履修者の関心や授業の進捗状況によって、授業計画を一部変更することがある。

【Outline (in English)】

Course outline and Learning Objectives:

In this seminar, students will learn various approaches to research based on literature review, data analysis, and fieldwork, while focusing on the location of industries and companies in cities and regions.

Learning activities outside of classroom :

Before/after each class, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading Criteria /Policy:

Final grade will be calculated according to the following process
The students' participation in class: 40%, in class contribution: 30%, Term-end reports: 30%

ECN218CA
演習
KALENGA N JOHN
開講時期：年間授業/Yearly 単位：8 単位
4 年次は授業コード「K7122」を履修登録すること。

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This seminar provides you with a good learning environment to improve your study skills. You will acquire the knowledge and skills to write your graduation thesis and plan successfully your career.

【到達目標】

The goals of the seminar are to improve students abilities and skills to analyze the data, to write their graduation thesis, develop critical thinking, and deepen their knowledge of economics. Additionally, to develop their leadership skills in a multicultural workplace.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP8」「DP9」「DP10」「DP11」に関連。国際経済学科は「DP9」「DP10」「DP11」に関連。

【授業の進め方と方法】

During the academic year of 2023, I teach face-to-face lectures in the classroom at the Tama Campus. Our seminar members are expected to prepare their individual presentations, group presentations, group conversations, and more.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
Lecture 1	Introduction to seminar	Self-introduction; guidelines; The writer of graduation thesis; leadership and planning.
Lecture 2	Introduction Global economic history	Northern Europe 1; Choosing a research topic; How to write the title; The 3 parts of thesis.
Lecture 3	College writing Workshop Global economic history 1	Northern Europe 2 Use of library resources; Individual presentations 1;
Lecture 4	Global economic history 2 College writing Workshop 2	Southern Europe Bibliographical essay; Group presentations 1 Individual presentations 1
Lecture 5	College writing Workshop 3 Global economic history	Eastern Europe; Plagiarism and academic honesty; Individual presentations 1
Lecture 6	Global economic history 3 Critical thinking 1	The United States; The basics of citation Self-understanding; Individual presentations 2
Lecture 7	Global economic history 4 Critical thinking 2	Canada APA citations for the social sciences; Design your life; Individual presentations 2

Lecture 8	Global economic history 5 Critical thinking 3	Latin America All reference styles The standard for thinking; Individual presentations 2 Group presentations 2
Lecture 9	Global economic history 6 Critical thinking 4	Japan; The art of making intellectual decisions; Individual presentations 3
Lecture 10	Global economic history 7 Critical thinking 5	China; The parts of thinking; Individual presentations 3
Lecture 11	Global economic history 8 Critical thinking 6	MENA; Becoming a fair-minded thinker; Individual presentations 3
Lecture 12	Global economic history 9 Critical thinking 7	South Asia and Australia; Analyzing and evaluating thinking; Individual presentations 3
Lecture 13	Global economic history 10 Critical thinking 8	Sub-Saharan Africa Strategic thinking Group presentations 3 Concluding remarks
Lecture 14	Global economic history 11	
Lecture 15	Global economic history	Guidelines; Leadership and planning
Lecture 16	Global economic history Workshop 1	Group presentations 1 Individual presentations 1
Lecture 17	Global economic history Workshop 2	Individual presentations 1 Group conversations 1
Lecture 18	Academic writing 1 World Development1	College research The three parts of a thesis; Economic growth; Individual presentations 1
Lecture 19	Academic writing 2 World Development2	The writer; Individual presentations 2; Macro-Measurement
Lecture 20	Academic writing 3 Western Europe and the Transformation 1	College writing 1 Group presentation 2 The Driving Forces; Individual presentations 2
Lecture 21	Academic writing 4 Western Europe and the Transformation 2	College writing 2; Individual presentations 2
Lecture 22	Academic writing 5 The Interaction Between Asia and the West1	College writing 3 Group conversations 2; European - Asian Interaction; Individual presentations 2
Lecture 23	Academic writing 6 The Interaction Between Asia and the West2	College writing 4 International trade agreements; Individual presentations 2
Lecture 24	Academic writing 7 The Pioneers of Macro-Measurement	Writing well1 Individual presentations 3
Lecture 25	Academic writing 8 The Pioneers of Macro-Measurement	Writing well 2 Macro-Measurement in the 19th and 20th centuries; Individual presentations 3
Lecture 26	Modern Macro-Measurement	Tool of Economic Policy; Writing well 3; World Economic Growth; Individual presentations 3

Lecture 27	The World Economy in 2030	Projections of Population Writing well 4 Per capita GDP Group presentations 3
Lecture 28	Final evaluation	Concluding remarks

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students are encouraged to prepare their individual and group presentations, reading assignments, and thesis presentations for about five hours per week.

【テキスト（教科書）】

Joerg Baten, A history of the global economy 1500 to the present, Cambridge: Cambridge University Press, 2016.

Gregory Clark, A Farewell to Alms: a brief economic history of the world, Princeton, New Jersey: Princeton University Press, 2007

【参考書】

1. Bassham et al., Critical thinking: a student's introduction, 4th ed., New York: McGraw-Hill, 2011
2. Charles Lipson, Doing honest work in college: how to prepare citations, avoid plagiarism, and achieve real academic success, Chicago: The University of Chicago Press, 2004.
3. Richard Paul and Linda Elder, Critical Thinking: Tools for taking charge of your professional and personal life, New Jersey: Pearson Education Inc., 2014.

【成績評価の方法と基準】

The final evaluation is based on the following criteria: seminar attendance and contributions: 30%; individual presentations: 30%; group presentations and debates: 40%; total: 100%.

【学生の意見等からの気づき】

N/A

【学生が準備すべき機器他】

Please prepare a Personal Computer with a good internet connection and webcam.

【その他の重要事項】

N/A

【Outline (in English)】

This seminar provides you with a good learning environment to improve your study skills.

ECN218CA
演習
坂本 憲昭
開講時期：年間授業/Yearly 単位：8 単位
4 年次は授業コード「K7123」を履修登録すること。

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

IT を中心とした情報システムを理解する。具体的には、現代社会で必須な情報システムおよび IT システムの概要や案画時の注意点などの基礎知識を習得する。

【到達目標】

実社会において、簡単な情報システムを新規導入する際の案画ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP8」「DP9」「DP10」「DP11」に関連。国際経済学科は「DP9」「DP10」「DP11」に関連。

【授業の進め方と方法】

システム設計における上流工程である要求定義の実践（プレゼンテーションスキルの向上を含む）「よのなか」に不可欠となった情報システムについて学ぶ。具体的な問題設定に対して、どのような機能や処理をもたせたシステム構成とするかを演習する。提案書を作成し、プレゼン用ソフトウェアを用いて提案を行う。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	ツアー計画課題および目的を決定する
第 2 回	ツアー計画課題	グループ討議に取り組み、スライドを作成する
第 3 回	プレゼンテーション講義	プレゼンの講評を受け修正する
第 4 回	バーコード講義	バーコードに関する講義と事例紹介をおこなう
第 5 回	QR コード講義	QR コードに関する講義と事例紹介をおこなう
第 6 回	バーコード課題演習	グループごとにバーコード課題に取り組む
第 7 回	スライド作成	グループ討議に取り組み、スライドを作成する
第 8 回	プレゼン実習	グループごとにプレゼンし講評を受け修正する
第 9 回	Excel 基礎演習（絶対参照ほか）	Excel 実習（絶対参照ほか）
第 10 回	Excel 演習（乱数、時系列処理ほか）	Excel 実習（乱数、時系列処理ほか）
第 11 回	Excel 実習	Excel 課題に取り組む
第 12 回	待ち行列講義	待ち行列の基礎を学ぶ
第 13 回	Excel による待ち行列演習	Excel で待ち行列をシミュレーションする
第 14 回	パークに関する Excel による待ち行列課題	グループごとに課題に取り組む
第 15 回	知的財産権	知的財産権の講義をおこなう
第 16 回	商標権、著作権	商標権、著作権を中心に講義をおこなう
第 17 回	知的財産権に関する報道例の紹介	グループごとに事例調査をおこなう
第 18 回	知的財産権に関する課題	課題に取り組みグループごとに事例調査とスライドを作成する
第 19 回	プレゼンテーション実習	グループごとにプレゼンし講評を受け修正する
第 20 回	特許権講義	特許権の講義をおこなう
第 21 回	特許事例紹介	グループごとに事例調査をおこなう
第 22 回	パークに関する特許事例調査	グループごとに事例調査とスライドを作成する
第 23 回	プレゼンテーション実習	グループごとにプレゼンし講評を受け修正する
第 24 回	特許アイデア発想課題	グループごとに特許アイデア発想の課題をおこなう
第 25 回	特許アイデアの文書化	グループごとに成果物のとりまとめとスライドを作成する
第 26 回	パークに関するテーマ調査	グループごとに調査テーマを決定して調査をおこなう
第 27 回	調査結果の集約とスライド作成	グループごとにスライドを作成する

第 28 回 プレゼンテーション実習 グループごとにプレゼンし講評を受け修正する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

グループごとに課題の取り組みをします。本授業の準備・復習時間は、各 4 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用せず、担当教員による自作資料を使います。

【参考書】

- ・ずっと受けたかった ソフトウェアエンジニアリングの授業 1,2(増補改訂版), 翔泳社
- ・社内プレゼンの資料作成術, ダイアモンド社
- ・社外プレゼンの資料作成術, ダイアモンド社

【成績評価の方法と基準】

課題の成果物とプレゼンテーション内容の合計点を 100 点満点とし、60 点以上で合格になります。

【学生の意見等からの気づき】

他グループの発表時に、その内容を参考にして自分たちのプレゼン内容をより良いものに改善できるような時間の使い方を取り入れます。

【Outline (in English)】

< Course outline >

The aim of this course is to help students acquire knowledge in information technology and management.

< Learning Objectives >

At the end of the course, students are expected to understand IT-centric information systems. Specifically, students will acquire basic knowledge such as an overview of information systems and IT systems that are essential in modern society and points to note when drafting.

< Learning activities outside of classroom >

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

< Grading Criteria / Policies >

Final grade will be calculated according to the reports (100%) and in-class contribution.

ECN218CA
演習
佐柄 信純
開講時期：年間授業/Yearly 単位：8 単位
4 年次は授業コード「K7124」を履修登録すること。

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

経済理論の本格的な理解と英文読解力の向上を目指します。LaTeXによる報告資料の作成にも力を入れます。LaTeXは無料のソフトウェアであり、インターネットや市販の解説書から容易に入手することができます。パソコンの予備知識は特に必要ありません。Microsoft社の製品をできるだけ使わないという方針の下に、何かと不具合の多いPowerPointよりも綺麗に報告資料を作る技を伝授します。

【到達目標】

卒論は組版用のソフトウェアである LaTeX で作成します。また、TOEIC®か経済学検定試験で優秀な成績を修めた学生には、卒論の規定枚数が減免されます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP8」「DP9」「DP10」「DP11」に関連。国際経済学科は「DP9」「DP10」「DP11」に関連。

【授業の進め方と方法】

2部構成でゼミを運営します。第1部では William Strunk Jr. and E. B. White, *The Elements of Style*, 4th ed., Allen and Bacon, Boston, 1999 をテキストに、英文作成の基本技術を学びます。英語の授業と同じ形でゼミを進めるので、受講者は毎回の予習が必要になります。こまめに辞書を引く習慣を付けて下さい。『リーダーズ英和辞典』か『ランダムハウス英語辞典』が入っている電子辞書を推奨します。第2部では、ミクロ経済学、ゲーム理論、経済数学の分野からテーマを選び、日本語の文献を輪読します。取り上げるテーマは毎年変わります。ゼミ生は「ビジネス数学」、「数学」または「経済の数理」を履修し、優秀な成績で単位を取得することが求められます。報告用ノートの提出を義務付け、報告後にコメントを書き添えた上、報告者に返却する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	英文講読, テキスト輪	報告 1 読
2	英文講読, テキスト輪	報告 2 読
3	英文講読, テキスト輪	報告 3 読
4	英文講読, テキスト輪	報告 4 読
5	英文講読, テキスト輪	報告 5 読
6	英文講読, テキスト輪	報告 6 読
7	英文講読, テキスト輪	報告 7 読
8	英文講読, テキスト輪	報告 8 読
9	英文講読, テキスト輪	報告 9 読
10	英文講読, テキスト輪	報告 10 読

11	英文講読, テキスト輪	報告 11 読
12	英文講読, テキスト輪	報告 12 読
13	英文講読, テキスト輪	報告 13 読
14	英文講読, テキスト輪	報告 14 読
15	英文講読, テキスト輪	報告 15 読
16	英文講読, テキスト輪	報告 16 読
17	英文講読, テキスト輪	報告 17 読
18	英文講読, テキスト輪	報告 18 読
19	英文講読, テキスト輪	報告 19 読
20	英文講読, テキスト輪	報告 20 読
21	英文講読, テキスト輪	報告 21 読
22	英文講読, テキスト輪	報告 22 読
23	英文講読, テキスト輪	報告 23 読
24	英文講読, テキスト輪	報告 24 読
25	英文講読, テキスト輪	報告 25 読
26	英文講読, テキスト輪	報告 26 読
27	英文講読, テキスト輪	報告 27 読
28	英文講読, テキスト輪	報告 28 読

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

英文購読の予習に3時間、発表の準備に4時間、宿題提出のための復習に3時間を必要とします。

【テキスト（教科書）】

William Strunk Jr. and E. B. White, *The Elements of Style*, 4th ed., Allen and Bacon, Boston, 1999

【参考書】

開講時に文献リストを提示する。

【成績評価の方法と基準】

出席を最重視する。ゼミ報告、レポート、課題に取り組む態度などを総合的に勘案する。

【学生の意見等からの気づき】

該当なし

【その他の重要事項】

各回の授業形態については未定としていますが、詳細は学習支援システムを通じてお知らせします。前期・後期それぞれ必要に応じて、最大7回までのオンライン授業を予定しています。

【Outline (in English)】

Course outline. The purpose of this course is twofold. First, the profound understanding of economic theory. Second, the substantial improvement of the reading and writing of English. Learning Objectives. The goal of this course is to study advanced economic theory to do the research independently. Learning activities outside of classroom. Students will be expected to have completed the required assignments before and after each class. Your study time will be more than four hours for a class.

Grading Criteria/Policy. Your overall grade in the class will be decided based on the following. Term end examination: 80% and in class contribution: 20%.

ECN218CA
演習
馬 欣欣
開講時期：年間授業/Yearly 単位：8 単位
4 年次は授業コード「K7125」を履修登録すること。

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

経済学部で学んでいくために必要な知識を身につけることが目的です。学術資料の探し方、レポートの書き方のほか、グループディスカッションや研究発表などを通じて、面白いテーマを見つけ（問題発見能力）、自分の考えを持って、理論的・実証的検証し（問題解決能力）、そして他人に伝えるスキル（コミュニケーション能力）を育成します。

【到達目標】

経済現象に関する様々なことに疑問を持ち（問題発見）、自ら調べ、自分の答えを見つけ（問題解決）、伝える能力（コミュニケーション）の能力を身に付けることが到達目標です。書籍・雑誌・新聞・インターネットなど様々な情報がある中で、多様な情報収集の方法を活用でき、発表・討論する能力を身に付けることを目的とします。

The goal is to acquire the ability to question various economic phenomena (problem finding), investigate by oneself, find one's own answer (problem solving), and communicate (communication). The purpose is to acquire the ability to make presentations and discuss by utilizing various information collecting methods in the presence of various information such as books, journal, magazines, newspapers, and the Internet.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP8」「DP9」「DP10」「DP11」に関連。国際経済学科は「DP9」「DP10」「DP12」に関連。

【授業の進め方と方法】

主に演習方式とする。研究テーマに関連した基礎知識の習得のために標準的なテキストを輪読し、研究テーマにおける代表的な研究論文を輪読する、または、実証分析の習得のための実習などを行う。授業の進め方やフィードバックは、指導教員と相談の上で、適宜対面のほか、Zoom やメール等のオンラインを介して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンスと自己紹介	授業内容と進め方の説明、教員と学生の自己紹介
第 2 回	文献サーベイの方法①	図書館を利用し、学術論文を検索
第 3 回	文献サーベイの方法②	学術論文引用と文献リストのまとめ方
第 4 回	情報収集の演習①	情報収集の演習①
第 5 回	情報収集の演習②	学術論文を学習
第 6 回	個人研究（1）	研究課題を決定
第 7 回	個人研究（2）	個人プレゼンテーション資料を作成
第 8 回	個人プレゼンテーション（1）	個人プレゼンテーション（1）
第 9 回	個人プレゼンテーション（2）	個人プレゼンテーション（2）
第 10 回	個人プレゼンテーション（3）	個人プレゼンテーション（3）
第 11 回	個人プレゼンテーション（4）	個人プレゼンテーション（4）
第 12 回	研究論文を作成（1）	論理的な議論（1）

第 13 回	研究論文を作成（2）	論理的な議論（2）
第 14 回	交流会	最優秀賞、学んだことの整理と今後の課題
第 15 回	学術研究の演習①	研究課題を探す
第 16 回	学術研究の演習②	先行文献と情報収集（文献輪読）
第 17 回	学術研究の演習③	先行文献と情報収集（文献輪読）
第 18 回	学術研究の演習④	先行文献と情報収集（文献輪読）
第 19 回	学術研究の演習⑤	データの使用
第 20 回	学術研究の演習⑥	データの分析
第 21 回	学術研究の演習⑦	データの分析
第 22 回	グループ学術研究の演習①	グループ学術研究の演習①
第 23 回	グループ学術研究の演習②	共同研究
第 24 回	グループ学術研究の演習③	共同研究
第 25 回	グループ学術研究の演習④	研究論文を作成
第 26 回	グループ学術研究の演習⑤	グループ研究発表
第 27 回	海外・日本国内大学合同演習	海内・日本国内大学合同研究発表会
第 28 回	共同研究交流会	最優秀賞（共同研究・個人研究）、学んだことの整理と今後の課題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

新聞・テレビ・インターネットなどから、経済の動向や関心のある経済問題の動向を理解しておくことは必要です。また、ディベート、研究発表に向けた資料収集などが適宜、必要となります。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とし、毎回 4 時間以上です。It is necessary to understand economic trends and trends in economic issues in the journals, books, newspapers, television, and the Internet. The study and collection of materials for debates and research presentations will be required. The standard total preparation and review time is 4 hours or more each time.

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

特になし

【成績評価の方法と基準】

平常点 100 %。発表とその準備の総合評価（文献サーベイの適性、先行研究への理解、該当分野の分析方法の応用力、自らの問題意識と分析方法の適切性）とする。

Normal evaluation 100%. Comprehensive evaluation of presentations and preparation (appropriateness of literature survey, understanding of previous research, ability to apply analysis methods in the relevant field, finding a new issue and appropriateness of analysis methods).

【学生の意見等からの気づき】

アンケート調査を行い、学生の意見に関するフィードバックを行い、また改善要望に対応し、講義内容を調整する。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【担当教員の専門分野等】

中国経済論、労働経済学、開発経済学

【研究テーマ】

1. 中国所得格差と貧困の実証分析
2. 中国社会保障の経済分析
3. 中国労働雇用・賃金、家計消費に関する実証研究

【主要研究業績】

1. Ma, X. (2022) Public Medical Insurance Reform in China. Springer Nature.
2. Ma, X. (2021) Female Employment and Gender Gap in China. Springer Nature.
3. Ma, X. and Li, S. (2022) "Self-employment in Urban China: Entrepreneurship or Disguised Unemployment?" China & World Economy, 30(1), 166-195.

4.Ma, X. (ed.) (2021) *Employment, Retirement and Lifestyle in Aging East Asia*. Palgrave Macmillan.

5.Ma, X. (2018)“Labor Market Segmentation by Industry Sectors and Wage Gaps between Migrants and Local Urban Residents in Urban China” *China Economic Review*, 47, 96-115

【Outline (in English)】

[Course outline]

The purpose of this course is to develop the basic skill necessary for students studying in the Faculty of Economics. In addition to learn how to search for academic materials and write reports, students will learn how to find interesting themes (problem finding skills), how to verify them theoretically and empirically (problem solving skills), and how to communicate them to others (communication skills) through group discussions and research presentations. In particular, this course aims to cultivate the "logical thinking skills" and individual/joint research skills to conduct "theoretical and empirical research on Economics issues" by student themselves.

[Learning Objectives]

The goal is to acquire the ability to question various economic phenomena (problem finding), investigate by oneself, find one's own answer (problem solving), and communicate (communication). The purpose is to acquire the ability to make presentations and discuss by utilizing various information collecting methods in the presence of various information such as books, journal, magazines, newspapers, and the Internet.

[Learning activities outside of classroom]

It is necessary to understand economic trends and trends in economic issues in the journals, books, newspapers, television, and the Internet. The study and collection of materials for debates and research presentations will be required. The standard total preparation and review time is 4 hours or more each time.

[Grading Criteria /Policy]

Normal evaluation100%. Comprehensive evaluation of presentations and preparation (appropriateness of literature survey, understanding of previous research, ability to apply analysis methods in the relevant field, finding a new issue and appropriateness of analysis methods).

ECN218CA
演習
酒井 正
開講時期：年間授業/Yearly 単位：8 単位
4 年次は授業コード「K7126」を履修登録すること。

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この演習では、以下の 3 つを課題として掲げる。

- 1) 専門性の高い文献を読み込む経験をする。
- 2) その論点と内容を整理して人にわかりやすく伝える。
- 3) 整理された論点に基づいて議論を行う。

講読する文献のトピックとしては、労働経済学における実証分析を中心に応用経済学全般を取り上げる予定である。

データを統計的に分析する方法を学ぶことも本演習の目的である。

【到達目標】

学生が、未知の内容に直面した際に、専門的な文献に当たり、そのことについて、学術的な研究においては何がわかっているのか（何がわかかっていないのか）把握できることを到達目標とする。どのような専門文献に当たるべきかを理解し、「専門的な論文を読んだ」と言えるようになることが最終的な目標である。議論を展開する際のデータの「示し方」を習得することも副次的な到達目標として挙げる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP8」「DP9」「DP10」「DP11」に関連。国際経済学科は「DP9」「DP10」「DP11」に関連。

【授業の進め方と方法】

与えられた文献について、各自で（もしくはグループごとに）その内容をまとめ、報告を行う。その後全員で議論を行う。特に、データに基づいて議論することを心掛ける。秋学期は、グループごとにトピックを選んで分析を行うことが中心となる。

11 月～12 月頃に開催されるインターゼミを年間目標の一つとして活動する。

課題等に関するフィードバックは、基本的に授業内で口頭あるいは面談の形でおこないたい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	ゼミの進め方
2	演習 (1)	講義：プレゼンの仕方等 文献講読：担当学生による報告 1
3	演習 (2)	文献講読：担当学生による報告 2
4	演習 (3)	文献講読：担当学生による報告 3
5	演習 (4)	文献講読：担当学生による報告 4
6	演習 (5)	文献講読：担当学生による報告 5
7	演習 (6)	指定されたトピックについてディベートを行う
8	演習 (7)	他のゼミと研究交流
9	演習 (8)	分析テーマの選定
10	演習 (9)	文献講読：担当学生による報告 6
11	演習 (10)	ゲスト・スピーカーによる報告等
12	演習 (11)	文献講読：担当学生による報告 7
13	講義 (1)	文献講読が特に遅れていなければ、統計資料の扱い方等に関して講義する。
14	演習 (12)	分析の進捗状況を報告
15	演習 (13)	春学期学習内容の補足
16	演習 (14)	分析の中間報告 1
17	演習 (15)	分析の中間報告 2

18	演習 (16)	文献講読：担当学生による報告 8
19	演習 (17)	文献講読：担当学生による報告 9
20	演習 (18)	文献講読：担当学生による報告 10
21	演習 (19)	文献講読：担当学生による報告 11
22	演習 (20)	文献講読：担当学生による報告 12
23	演習 (21)	分析の中間報告 3
24	演習 (22)	他のゼミとの研究交流
25	演習 (23)	文献講読：担当学生による報告 13
26	講義 (2)	文献講読：担当学生による報告 14
27	演習 (24)	文献講読：担当学生による報告 15（もしくは他のゼミとの研究交流）
28	講義 (3)	文献講読が特に遅れていなければ、社会政策等に関するトピックについて講義する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本演習は、グループによる課題取組等が中心となり、毎回の準備・復習に標準で 4 時間程度を要するものとする。

【テキスト（教科書）】

特に使用しない。

【参考書】

演習の各回において必要となる参考資料については、適宜、指示する。

【成績評価の方法と基準】

[平常点：70%、報告及びレポートの内容：30%]を目安として評価する。ゼミ活動への貢献（質問・発言、グループワークへの積極的な関与・協力等）を特に重視する。

【学生の意見等からの気づき】

- ・受講者の履修履歴がまちまちであることを鑑み、経済学の基礎知識の復習も適宜行う。また、資料の探し方や分析結果の示し方といったことについても初歩的な段階から指導する。
- ・授業外で時間調整をすることが難しいとの意見があることから、授業内でも最低限のグループ作業をする時間を確保したい。
- ・時事的なトピックについても、授業内で知識補給を行うことを心がける。

【Outline (in English)】

The objectives of this seminar are to 1) learn how to read academic papers, 2) investigate and discuss a variety of issues mainly by relying on statistics, and 3) report properly analyzed topics. Topics this seminar covers include such as, but not limited to, labor economics.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading will be decided based on in-class contribution (70%), and presentations and assignments (30%).

ECN218CA
演習
胥 鵬
開講時期：年間授業/Yearly 単位：8 単位
4 年次は授業コード「K7127」を履修登録すること。

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テーマは企業金融・コーポレート・ガバナンス、あるいは興味のあるトピックス。楽しく課題に取り組み、笑顔でプレゼンを行い、グループで論文を仕上げる。

【到達目標】

企業金融・コーポレート・ガバナンスの理論と実務を勉強し、データの収集分析に挑み、分析結果にものを語らせるようグループ論文を仕上げる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP8」「DP9」「DP10」「DP11」に関連。国際経済学科は「DP9」「DP10」「DP11」に関連。

【授業の進め方と方法】

グループあるいは個別に、2 年生は 3 年次予定の課題の仮説、仮説検定のためのデータおよび手法に関するエッセイ作成し、3 年生は課題に取り組み論文を作成する。4 年生は卒論を作成する。ゼミ勉強の合間には様々な親睦活動やゼミ合宿を実施する。ゼミ課題の関連知識として、コーポレートガバナンス論 A/B と企業金融論 A/B を履修することが望ましい。

原則として対面授業を実施する。ゼミ生諸君が各自にダウンロードしたデータや資料に基づく活発な議論を行い、諸君が提示した具体例を取り上げつつ、ゼミ生参加によるゼミ生のためのゼミを進める。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	理論	企業金融とコーポレート・ガバナンスの理論を学ぶ
第 2 回	実務	企業金融とコーポレート・ガバナンスの実務を学ぶ
第 3 回	データ	理論や実務の証拠となりうるデータの収集方法について学ぶ
第 4 回	データから証拠へ	研究とはデータを加工・処理して証拠として提示することについて学ぶ
第 5 回	論 = 仮説	経済学の研究とは、自分が主張しようとする「論 = 仮説」を裏付ける証拠を提示するプロセスについて学ぶ
第 6 回	企業金融「論」	企業金融に関するさまざまな「論」と証拠について学ぶ
第 7 回	コーポレート・ガバナンス「論」	コーポレート・ガバナンスに関するさまざまな「論」と証拠について学ぶ
第 8 回	グループ分け	グループ分けし、グループで only one の花を咲かせるゼミ研究を目指す。
第 9 回	グループ討論	only one になるテーマを目指してグループ内で討論

第 10 回	グループ間討論	only one になるテーマを目指してグループ間で討論
第 11 回	研究テーマ決定	グループ内とグループ間の討論を経て only one のグループ研究テーマを決定
第 12 回	研究計画	論文計画を作成
第 13 回	論文計画プレゼン	各自の研究テーマについて、オンリー・ワンを強調しつつ研究目的などの計画について、プレゼンを行なう
第 14 回	コメント	ゼミ同士・教員がコメントする。
第 15 回	文献収集	研究計画に沿って詳細な文献を収集
第 16 回	文献閲読	収集した文献を精読する
第 17 回	データ検討	研究計画に沿って研究の証拠となるデータについて検討する。
第 18 回	データ収集	学内のデータベースを活用して、必要なデータを収集する
第 20 回	手法検討	データをどのように加工・処理して証拠として提示することができるかについて、分析手法を検討する。
第 21 回	データ分析	検討した手法で収集したデータを分析する
第 22 回	中間論文執筆	分析結果をまとめ中間論文を完成する
第 23 回	中間論文プレゼン	中間論文をプレゼンする
第 24 回	中間論文コメント	ゼミ生同士・教員が中間論文に対してコメントする
第 25 回	論文改訂	コメントを参考に論文を書き直す
第 26 回	切磋琢磨	切磋琢磨で互いに学びあい、よい論文を目指す
第 27 回	再度コメント	教員などが再度コメントする
第 27 回	論文完成	再度コメントを参考に論文を仕上げる
第 28 回	完成論文プレゼン	グレードアップした論文をプレゼンし、提出する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

割り当てられた課題を完成するために、エクセルの統計関数などをマスターすること。ゼミ課題の関連知識として、コーポレートガバナンス論 A/B と企業金融論 A/B を履修することが望ましい。準備学習・復習・宿題などの授業時間外学習は各 4 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

論文資料を随時配布する

【参考書】

『日本のコーポレートファイナンス—サーベイデータによる分析』花枝英樹、芹田敏夫、胥鵬、佐々木隆文、鈴木健嗣、佐々木寿記 白桃書房 2020 年
必要なデータや資料は自分で調べる

【成績評価の方法と基準】

成績評価には、中間レポート (30%) と期末レポート (40%) はいずれも必須、ゼミ活動加点は 30 %。

【学生の意見等からの気づき】

一緒に楽しく勉強しよう！

【学生が準備すべき機器他】

ノートパソコン持参

【担当教員の専門分野等】

MBO、株式持合、役員報酬、中小企業金融、コミットメント・ライン、銀行ガバナンスと銀行リスク、会社法の経済分析、来日観光客の決定要因等々

『日本のコーポレートファイナンス—サーベイデータによる分析』花枝英樹、芹田敏夫、胥鵬、佐々木隆文、鈴木健嗣、佐々木寿記 (6,7 章) 白桃書房 2020 年

Strategic short selling around index additions: Evidence from the Nikkei 225 Index, Shiomi, Naoya, Takahashi, Hidetomo, Xu, Peng International Review of Finance 2020 年

Trading activities of short-sellers around index deletions:
Evidence from the Nikkei 225 Hidetomo Takahashi and Peng
Xu Journal of Financial Markets 27 132 - 146 2016

【Outline (in English)】

We learn theories and practices of corporate governance and corporate finance. Students are expected to write project papers with group collaborations. Have fun when we challenge tasks and smile when you make presentation. Before/after each class meeting, students will be expected to download the relevant data and documents. Your required study time is about half hour for each class meeting. The mid-term report (30%) and term end report (40%) are both required for grading, in addition to in class contribution (30%).

ECN218CA
演習
上北 正人
開講時期：年間授業/Yearly 単位：8 単位
4 年次は授業コード「K7128」を履修登録すること。

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

学生は、法律学の学習、法理論の習得、法的議論の実践を通して、多様性を重んじ、公正と正義にかなった思考方法を身につける。

【到達目標】

・広く現代社会を見渡し、多角的に分析し、発見された問題の解決に向けて、十分な文献・資料調査を通して、考え抜く姿勢と力の習得を目指す。

・法的知識、法的思考様式、法的論理構成力の習得を目標とする。
 ・民法の枠を超えた、法学一般、刑法、憲法についても学び、法学検定試験受験に備える。

・二年生は法学検定試験ベーシック〈基礎〉、三年生は法学検定試験スタンダード〈中級〉に合格することを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP8」「DP9」「DP10」「DP11」に関連。国際経済学科は「DP9」「DP10」「DP11」に関連。

【授業の進め方と方法】

・毎回、3部構成をとる。

①知識習得：

教科書、実際の判例、学術論文を使用し、民法を中心とした法律学の基礎理論、基礎知識を習得する。

②読解分析、プレゼンテーション、グループワーク、ディスカッション、ディベート：

担当者（グループまたは個人）によってプレゼンテーション、及び、問題提起を行う。それを受けて、全員参加によってディスカッションを行う。終了後、各発表者は、ゼミ内での議論を踏まえ、要約文を作成・提出する。

③法学検定試験問題練習：

ゼミ生が毎回順番に教師役となり、解答、解説を行う。
 ※春学期の最終回、秋学期の最終回には、振り返りレポートを提出し、各自の成長度に関するフィードバックに役立てる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	・本講義で行うこと、課題、問題意識、概要の共有 ・ディスカッション
第 2 回	①民法演習 ②映画を用いた法的議論 ③法学検定試験問題練習	①権利能力、法人制度 ②臓器売買 ③刑法問題番号 1～10 番
第 3 回	①民法演習 ②映画を用いた法的議論 ③法学検定試験問題練習	①権利能力なき社団、物 ②ソーシャルメディアと社会的検閲 1 ③刑法 11～20 番
第 4 回	①民法演習 ②映画を用いた法的議論 ③法学検定試験問題練習	①心裡留保、虚偽表示 ②ソーシャルメディアと社会的検閲 2 ③刑法 21～30 番

第 5 回	①民法演習 ②映画を用いた法的議論 ③法学検定試験問題練習	①錯誤、詐欺、強迫 ②文化の尊重と正義 ③刑法 31～40 番
第 6 回	①民法演習 ②調べ学習 ③法学検定試験問題練習	①消費者契約法の規定による取消、代理制度 ②ゼミ生選択課題 ③刑法 41～50 番
第 7 回	①民法演習 ②調べ学習 ③法学検定試験問題練習	①表見代理 ②ゼミ生選択課題 3 刑法 51～60 番
第 8 回	①民法演習 ②ディスカッション ③法学検定試験問題練習	①不動産物権変動、登記制度 ②ゼミ生選定課題 ③刑法 61～70 番
第 9 回	①民法演習 ②ディベート ③法学検定試験問題練習	① 177 条の第三者、動産物権変動 ②ゼミ生選定課題 ③刑法 71～80 番
第 10 回	①民法演習 ②ディスカッション ③法学検定試験問題練習	①担保物権 ②ゼミ生選定課題 ③刑法 81～90 番
第 11 回	①民法演習 ②ディベート ③法学検定試験問題練習	①抵当権 ②ゼミ生選定課題 ③刑法 91 番～最後
第 12 回	①民法演習 ②読解分析 ③法学検定試験問題練習	①法定地上権 ②介護事故判例の評釈 ③法学入門問題番号 1～20 番
第 13 回	①民法演習 ②プレゼンテーション ③法学検定試験問題練習	①譲渡担保制度 ②グループワーク、又は、個人報告の中間発表（1） ③法学入門 21～40 番
第 14 回	①民法演習 ②プレゼンテーション ③法学検定試験問題練習	①ディベート練習 ②グループワーク、又は、個人報告の中間発表（2） ③法学入門 41 番～最後
第 15 回	卒業論文指導	4 年生による卒業論文中間発表
第 16 回	①民法演習 ②パネル作成 ③法学検定試験問題練習	①履行不能、債権制度 ②議論 ③憲法 11～20 番
第 17 回	①民法演習 ②パネル作成 ③法学検定試験問題練習	①損害賠償制度 ②議論 ③憲法 21～30 番
第 18 回	①民法演習 ②ディスカッション ③法学検定試験問題練習	①債権者代位権 ②ゼミ生選定課題 ③憲法 31～40 番
第 19 回	①民法演習 ②ディベート ③法学検定試験問題練習	①連帯債権 ②ゼミ生選定課題 ③憲法 41～50 番
第 20 回	①民法演習 ②ディスカッション ③法学検定試験問題練習	①債権譲渡 ②ゼミ生選定課題 ③憲法 51～60 番
第 21 回	①民法演習 ②ディベート ③法学検定試験問題練習	①有価証券 ②ゼミ生選定課題 ③憲法 61～70 番
第 22 回	①民法演習 ②ディスカッション ③法学検定試験問題練習	①弁済の提供、受領遅滞 ②ゼミ生選定課題 ③憲法 71～80 番

- 第23回 ①民法演習 ①弁済
②ディベート ②ゼミ生選定課題
③法学検定試験問題練習 ③憲法81～90番
- 第24回 ①民法演習 ①相殺
②ディスカッション ②ゼミ生選定課題
③法学検定試験問題練習 ③憲法91番～最後
- 第25回 ①民法演習 ①民法総則総合
②プレゼンテーション ②ゼミ生選定課題
③法学検定試験問題練習 ③民法総復習
- 第26回 ①民法演習 ①物権制度総合
②プレゼンテーション ②ゼミ生選定課題
③法学検定試験問題練習 ③刑法総復習
- 第27回 映画を用いた法的議論 社会における「障害」について
- 第28回 ①ディベート ①ゼミ生選定課題
②ディベート ②ゼミ生選定課題
③法学検定試験問題練習 ③法学入門総復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・授業①については、毎回必ず、各自、資料（授業支援システムを使ってアップロードする）を事前に予習してから参加すること。自分がわからないところを認識（自覚）してから授業に臨むこと。
・授業②については、各自、毎日の生活の中で、深く考察すべきと考える法的問題、社会的問題の発見に努めること。発見された問題の分析のため、必要な情報を収集すること（裁判例データベースの利用：法情報学）。丹念に準備を整えた上で、報告を行うこと。
・授業③については、各自、予習してからゼミに臨むこと。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

沖野眞巳・窪田充見・佐久間毅編『民法演習サブノート 210問』（弘文堂）
法学検定試験委員会編『2022年法学検定試験問題集スタンダード＜中級＞コース』（商事法務）
六法全書（どちらの出版社でも可）

【参考書】

池田真朗『スタートライン民法総論』（日本評論社）
池田真朗『スタートライン債権総論』（日本評論社）
池田真朗編『民法 Visual Materials』（有斐閣）
大村敦志『基本民法Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ』（有斐閣）
大村敦志『もうひとつの基本民法Ⅰ・Ⅱ』（有斐閣）
山田卓生『私事と自己決定』（日本評論社）
道垣内弘人『リーガルバイシス民法入門 [第4版]』（日本経済新聞出版）

【成績評価の方法と基準】

報告内容の充実度（まとめ方、報告態度、文献検索、判例検索）、及び、議論への参加度・意欲・貢献度（質問、議論整理、議論展開）、並びに、提出課題の内容によって行う。
毎回の出席、及び、課題提出の期間厳守は、単位取得のための必要最小限の要件である。

【学生の意見等からの気づき】

前年同様、学生の積極的参加を促し、責任感を育む。

【その他の重要事項】

- 1年次配当科目「法学A・B」を、履修済み、又は、履修中であること。
- 2年次配当科目「民法一部」を、履修済み、若しくは、履修中、又は、履修予定であること。
- 3年次配当科目「民法二部」を、履修済み、若しくは、履修中、又は、履修予定であること。

【Outline (in English)】

Students are required to make active participation in the legal reasoning and discussion. By the end of this course students are expected to be able to acquire a balanced sense of fairness and justice. The purpose of the spring semester is to introduce you to the general principles of the Japanese Civil Code and also the property law, paying close attention to their functions in the Market. The aim of the autumn semester is to introduce you to obligation law. Classes will be conducted in a seminar format. Homework assignments should be done regularly before each session.

Grading Criteria (Regular participation: 90%, Final report: 10%)

ECN218CA
演習
鈴木 豊
開講時期：年間授業/Yearly 単位：8 単位
4 年次は授業コード「K7129」を履修登録すること。

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

1. ゲーム理論とその応用。
2. 企業と組織の経済学。契約理論。
3. 応用ミクロ経済学。

について、2 年次、3 年次を通して、系統的に学習する。それを、学生研究報告大会での研究発表や、卒論執筆などに反映させる。

【到達目標】

ゲーム理論、契約理論、組織の経済学の「基礎的な原理」を学び、その本質的なアイデアや視点を理解し、それを使って現実の諸問題を自分なりに考察・分析し、説明出来るようになることが主たる目標である。4 年次には、卒論を書くことが強く望まれる。（この場合の手マや分析方法の選択などは、各人の自由である。ゲーム理論的手法を使った卒論に限らなくても良い。）

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP8」「DP9」「DP10」「DP11」に関連。国際経済学科は「DP9」「DP10」「DP11」に関連。

【授業の進め方と方法】

昨年は、ほぼ対面形式でゼミを行うことが出来た。数回のオンラインでは、担当者が授業教材に関する PPT を作成し、Zoom で画面共有の上、プレゼンしてもらい、質疑応答や、教員による解説を行う形式であった。報告のための PPT 作成 ⇒ 対面か Zoom によるリアルタイムゼミが基本の流れとなる。今年も基本、対面授業を予定しているが、状況によっては、Zoom も活用しながら、柔軟に対応していく予定である。フィードバックの際は、電子メールを頻繁に用いるので、各自、環境を整えておくこと。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	打ち合わせ I1 章 I:『ひたすら読むエコノミクス』	打ち合わせ+導入
第 2 回	I2,3 章+ a	一人の意思決定+ゲーム理論入門
第 3 回	I4 章+ a	市場の成功と失敗
第 4 回	I5 章+ a	不確実性と情報+補足
第 5 回	I6 章+ a	モラルハザードとインセンティブ設計+補足
第 6 回	I7 章+ a	逆淘汰とインセンティブ設計+補足
第 7 回	I8 章+ a	マーケットデザイン+補足
第 8 回	I9 章+ a	組織のデザイン+補足
第 9 回	H3,4 章 (I4 章) H:『現代政策分析』	第 1~8 回で把握した「全体像」をもとに理解の掘り下げ：カルドア・ヒックス基準、市場の成功と失敗
第 10 回	H4 章 (I4 章)	市場の成功と失敗（続き） (理論モデルによる安全競争市場の全体像の把握)
第 11 回	オークション入門 (I8 章前版補充)	オークションの理論と実際

第 12 回	N6 章+ a (I8 章後半補充) N:『ゲーム理論で解く』	「恋愛・就職・結婚」をゲーム理論で解く、マッチング・アルゴリズム
第 13 回	評判 (名声) の担い手としての企業 (I9 章補充)	「コミットメント問題」と評判、実際の企業の例
第 14 回	行動ゲーム理論入門	最後通牒型交渉ゲーム：理論と実際ほか。
第 15 回	K4 章 (行動ゲーム理論続き) K:『行動ゲーム理論』	利他性、不平等回避、互惠性の理論、罪回避の理論。
第 16 回	打ち合わせ M1 章 M:『ミクロ経済学 戦略的アプローチ』	打ち合わせとイントロダクション
第 17 回	M2 章	戦略と均衡
第 18 回	M3 章	展開形表現
第 19 回	M4 章	交渉ゲーム
第 20 回	M5 章	情報とゲーム
第 21 回	M6 章	オークション
第 22 回	M7 章	公共財
第 23 回	M8 章	市場取引
第 24 回	M11 章	金融とリスク管理
第 25 回	M13 章	契約と誘因
第 26 回	M15 章	進化ゲーム、知識の階層
第 27 回	E1 章 E:『実験経済学への招待』	実験経済学入門
第 28 回	E2 章	報恩と報復、行動ゲーム理論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

担当者は十分に時間をかけてレジュメ作成の準備をし、責任を持って報告できるようにする。それ以外の人も、ゼミ内で積極的に発言できるように予習・復習を行う。学生研究報告大会での論文作成に向けて、関連する文献を各自で読み込む。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

通年
鈴木豊『完全理解 ゲーム理論・契約理論 第 2 版』勁草書房 2021 年
春学期
I:伊藤秀史『ひたすら読むエコノミクス』有斐閣
H:林敏彦『現代政策分析』放送大学テキスト
N:中山・武藤・船木（編）『ゲーム理論で解く』有斐閣
K:川越敏司『行動ゲーム理論』NTT 出版
秋学期
M：梶井・松井『ミクロ経済学 戦略的アプローチ』日本評論社
E：西條辰義（編著）『実験経済学への招待』NTT 出版

【参考書】

組織の経済学：
1. ミルグロム+ロバーツ 『組織の経済学』（奥野・伊藤ほか訳）NTT 出版
2. マックミラン 『経営戦略のゲーム理論』（伊藤・林田訳）有斐閣
ゲーム理論：
3. 武藤滋夫『ゲーム理論入門』日経文庫
4. 岡田章『ゲーム理論・入門』有斐閣
学際的テキスト：
5. 鈴木豊（編）『ガバナンスの比較セクター分析：ゲーム理論・契約理論を用いた学際的アプローチ』法政大学出版局 2010 年
6. 鈴木豊『中国経済の制度分析：契約理論・ゲーム理論アプローチ』日本評論社 2020 年

【成績評価の方法と基準】

担当箇所の発表の出来 (70%)、普段のゼミへの積極的な参加の程度 (発言内容、回数)(20%)、その他円滑なゼミ運営への貢献など (10%) を総合的に判断する。学生研究報告大会での論文発表等は、大きな加点対象となる。4 年生については、卒論の執筆を個別に指導 (アドバイス) していく。2022 年度は、5 人が提出した。

【学生の意見等からの気づき】

ゼミについては、現在のやり方を維持・継続して行くことが基本となる。そのうえで、今後は、学生研究報告大会での論文発表、プレゼン技術の練磨、討論機会の増加、個々の学生の進路への対応など、さらに改善可能な点については、努力して行きたい。

【Outline (in English)】

1. Game theory and its application.
2. Economics of Firms and Organizations, and Contract Theory.
3. Applied Microeconomics.

Students will systematically learn these topics through the second and third years, and reflect it in research presentations and graduation thesis writing. Grading will be based on the quality of the presentation (70%), the degree of active participation in the seminar (content and frequency of comments) (20%), and other contributions to the smooth operation of the seminar (10%). For 4th year students, individual guidance (advice) on writing thesis will be provided. Before/after each lecture, students will be expected to spend four hours to fully understand the content.

ECN218CA
演習
砂田 充
開講時期：年間授業/Yearly 単位：8 単位
4 年次は授業コード「K7130」を履修登録すること。

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「産業組織論」および「企業経済学」の学習とミクロ経済学と統計学に基づく実証的研究

【到達目標】

本演習の目標は大きく分けて3つあります。まず、受講生によるテキスト（産業組織論、企業経済学、統計学および計量経済学等）の輪読をとおして、応用ミクロ経済学の基本的な実証分析の方法を学ぶことです。次に、学習した分析ツールを応用し、各自の関心のある具体的な市場・産業、経済制度、政府規制、あるいはその他の社会・経済問題（広く（ミクロ）経済学に関することであれば可）に関するデータに基づく実証的研究を行うことです。最後に、分析結果を論文にまとめるとともに効果的なプレゼンテーションを行うための準備、書き方、話し方及び態度を習得することです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP8」「DP9」「DP10」「DP11」に関連。国際経済学科は「DP9」「DP10」「DP11」に関連。

【授業の進め方と方法】

演習の前半は、受講生によるテキストの輪読を行い、個別・グループ研究のテーマ決定および研究の実施に必要な知識を身につけます。演習の後半は、個別・グループ研究を実施するための時間です。具体的には、研究の進め方について担当教員と打ち合わせをしたり、実際に研究作業を進めます。また、研究成果を発表する場として、学内・学外のゼミとのインゼミを実施します。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」等を通じて行う予定。各回の授業形態については対面を基本とするが、授業内容や進捗状況を踏まえて、オンライン授業となる場合がある（春・秋それぞれ最大7回、必ず7回オンラインになるわけではありません）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	自己紹介 春学期の進め方確認 輪読テキスト決定
2	データ分析の基礎①	記述統計（講義・演習）
3	データ分析の基礎②	仮説検定（講義・演習）
4	データ分析の基礎③	回帰分析①（講義・演習）
5	データ分析の基礎④	回帰分析②（講義・演習）
6	輪読と個別・グループ研究の実施①	テキストの輪読 進捗状況報告と打ち合わせ 調査および分析
7	輪読と個別・グループ研究の実施②	テキストの輪読 進捗状況報告と打ち合わせ 調査および分析
8	輪読と個別・グループ研究の実施③	テキストの輪読 進捗状況報告と打ち合わせ 調査および分析
9	輪読と個別・グループ研究の実施④	テキストの輪読 進捗状況報告と打ち合わせ 調査および分析

10	輪読と個別・グループ研究の実施⑤	テキストの輪読 進捗状況報告と打ち合わせ 調査および分析
11	輪読と個別・グループ研究の実施⑥	テキストの輪読 進捗状況報告と打ち合わせ 調査および分析
12	輪読と個別・グループ研究の実施⑦	テキストの輪読 進捗状況報告と打ち合わせ 調査および分析
13	輪読と個別・グループ研究の実施⑧	テキストの輪読 進捗状況報告と打ち合わせ 調査および分析
14	春学期まとめ	半年間の総復習
15	輪読と個別・グループ研究の実施⑨	秋学期の進め方確認 輪読テキスト決定
16	輪読と個別・グループ研究の実施⑩	テキストの輪読 進捗状況報告と打ち合わせ 調査および分析
17	輪読と個別・グループ研究の実施⑪	テキストの輪読 進捗状況報告と打ち合わせ 調査および分析
18	輪読と個別・グループ研究の実施⑫	テキストの輪読 進捗状況報告と打ち合わせ 調査および分析
19	輪読と個別・グループ研究の実施⑬	テキストの輪読 進捗状況報告と打ち合わせ 調査および分析
20	輪読と個別・グループ研究の実施⑭	テキストの輪読 進捗状況報告と打ち合わせ 調査および分析
21	輪読と個別・グループ研究の実施⑮	テキストの輪読 進捗状況報告と打ち合わせ 調査および分析
22	輪読と個別・グループ研究の実施⑯	テキストの輪読 進捗状況報告と打ち合わせ 調査および分析
23	輪読と個別・グループ研究の実施⑰	テキストの輪読 進捗状況報告と打ち合わせ 調査および分析
24	輪読と個別・グループ研究の実施⑱	テキストの輪読 進捗状況報告と打ち合わせ 調査および分析
25	輪読と個別・グループ研究の実施⑲	テキストの輪読 進捗状況報告と打ち合わせ 調査および分析
26	輪読と個別・グループ研究の実施⑳	テキストの輪読 進捗状況報告と打ち合わせ 調査および分析
27	輪読と個別・グループ研究の実施㉑	テキストの輪読 研究成果最終報告
28	秋学期まとめ	1年間の総復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

（輪読）学生は各講義前に教科書の該当箇所の精読、演習問題がある場合は、問題の解答を準備する必要がある（2時間程度）。（研究）学生はグループ研究・個人研究の完成に向けて、分析手法の学習と練習・参考文献の収集と精読・分析用データの整備・分析の実施・分析結果の取りまとめ・プレゼンテーションの準備と練習を計画的に行う必要がある（2時間程度）。

【テキスト（教科書）】

第1回目の演習で決定します。

【参考書】

伊藤公一朗『データ分析の力 因果関係に迫る思考法』（光文社、2017年）。
小田切宏之『企業経済学（第2版）』（東洋経済新報社、2010年）。
加藤久和『やさしい計量経済学 プログラミングなしで身につける実証分析』（オーム社、2019年）。
田中隆一『計量経済学の第一歩—実証分析のススメ』（有斐閣、2015年）。
中室牧子・津川友介『「原因と結果」の経済学—データから真実を見抜く思考法』（ダイヤモンド社、2017年）。
丸山雅祥『経営の経済学 [第3版]』（有斐閣、2017年）。

他

【成績評価の方法と基準】

平常点、輪読や研究報告の準備と内容およびインゼミ等のイベントへの参加（100%）。

【学生の意見等からの気づき】

具体的な事例研究を通じて、仮説の設定、データの収集、分析手法の選定、仮説の検証、結果の解釈という一連の流れを体験しながら、経済学の実証的研究の方法論を学べるように努めたい。さらに、PCスキルを向上できるように努めたい。

【学生が準備すべき機器他】

毎回ノート PC を持参する必要があります。

【その他の重要事項】

与えられた課題を指示に従って適切に提出しない場合、単位を認めない可能性があります。受講者の理解度や要望などによって内容を変更する場合があります。授業形態については対面を基本とするが、各回の内容や進捗状況を踏まえてオンラインで実施する場合もあります。

【Outline (in English)】

This seminar focuses on applied microeconomics and microeconometrics.

The three goals of this seminar are as follows. First, students understand empirical tools of applied microeconomics through lectures, discussions, and exercises, with textbooks. Then, using the toolkits, students conduct empirical studies based on their own research interests. Finally, students complete research papers based on the empirical results and acquire effective presentation skills.

Before each class meeting of reading circle session, students will be expected to have thoroughly read relevant chapter(s) from textbooks, and to solve the problem sets in exercise sections (about two hours required). For research project, students will be expected to learn empirical methods, survey related works, prepare datasets, conduct analysis, and complete thesis, systematically (about two hours required).

The grade will be based on report, homework, in-class presentation, and in-class contribution (100%).

Students should bring their laptops to every session.

ECN218CA
演習
竹口 圭輔
開講時期：年間授業/Yearly 単位：8 単位
4 年次は授業コード「K7131」を履修登録すること。

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本演習の目的は、企業の様々な行動に焦点をあて、財務諸表分析や企業価値評価、戦略分析など種々のアプローチを用いて、企業行動あるいは企業と資本市場との関係を分析・考察していくことである。その際、財務・統計データだけでなく、新聞・雑誌等の資料や学術論文・研究書、さらにはインタビューなど多様な方法による調査研究を通じて、データ収集・分析・考察の手法を総合的に学んでいく。

【到達目標】

ゼミ活動の大半はグループワークを中心とするため、作業の分担、意見の摺り合わせ、報告、ディスカッション等を通じて個々のコミュニケーション・スキルやリーダーシップ、さらにはプレゼンテーション・スキルの向上も目指す。ただし、チーム作業だけでなく論文の執筆等を通じて、物事を深く考える力を養成する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP8」「DP9」「DP10」「DP11」に関連。国際経済学科は「DP9」「DP10」「DP11」に関連。

【授業の進め方と方法】

基本的にグループワークで活動を行う。具体的な分析テーマや方法については、種々の事情を考慮して個別に相談して決めていく。課題や成果物についてのフィードバックは基本的に授業中に行うが、授業外の時間帯においても適宜、質問や相談等に対応する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	年間スケジュールの確認と方針決定
2	春学期プロジェクト (1)	テーマ設定
3	春学期プロジェクト (2)	プレゼン・討議
4	春学期プロジェクト (3)	プレゼン・討議
5	春学期プロジェクト (4)	プレゼン・討議
6	春学期プロジェクト (5)	プレゼン・討議
7	春学期プロジェクト (6)	プレゼン・討議
8	春学期プロジェクト (7)	プレゼン・討議
9	春学期プロジェクト (8)	プレゼン・討議
10	春学期プロジェクト (9)	プレゼン・討議
11	夏プロジェクト (1)	テーマ設定
12	夏プロジェクト (2)	プレゼン・討議
13	夏プロジェクト (3)	プレゼン・討議
14	夏プロジェクト (4)	夏合宿に向けての準備
15	秋学期プロジェクト (1)	テーマ設定

16	秋学期プロジェクト (2)	プレゼン・討議
17	秋学期プロジェクト (3)	プレゼン・討議
18	秋学期プロジェクト (4)	プレゼン・討議
19	秋学期プロジェクト (5)	プレゼン・討議
20	秋学期プロジェクト (6)	プレゼン・討議
21	秋学期プロジェクト (7)	プレゼン・討議
22	秋学期プロジェクト (8)	プレゼン・討議
23	秋学期プロジェクト (9)	プレゼン・討議
24	秋学期プロジェクト (10)	プレゼン・討議
25	秋学期プロジェクト (11)	プレゼン・討議
26	秋学期プロジェクト (12)	プレゼン・討議
27	卒論報告会 (1)	プレゼン・討議
28	卒論報告会 (2)	プレゼン・討議

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

ゼミ授業時間中における研究報告や討議に向けての調査・分析・すりあわせ・資料作成など、準備学習・復習時間は各 2 時間以上を標準とします。

【テキスト（教科書）】

伊藤邦雄『新・現代会計入門<第 5 版>』日本経済新聞社、2022 年

【参考書】

授業で適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

・各プロジェクトの成果物（論文・プレゼン等） 50 %
・報告・討論、ゼミ運営、各種ゼミ活動へのコミットの程度 50 %
を基準に総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【Outline (in English)】

【Course outline】

This seminar is designed to analyze and examine corporate behavior and the relationship between firms and capital markets using various approaches such as financial statement analysis, corporate valuation, and strategic analysis. By doing so, students will learn comprehensive methods of data collection, data analysis, and consideration through research, incorporating not only financial and statistical data, but also newspaper and magazine articles, research papers, academic papers, and interviews.

【Learning Objectives】

This seminar aims to improve individual communication and leadership skills, as well as presentation skills, through role-sharing, coordination of opinions, reporting, discussion, etc. Each student is expected to be able to think deeply through not only group work, but also through writing papers and other activities.

【Learning activities outside of classroom】

Before/after each seminar class tim, students will be expected to spend four hours to understand the course content, including research, analysis, and preparation of materials for research reports and discussions.

【Grading Criteria】

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Outcomes of each project: 50%

Contribution to seminar activities: 50%

ECN218CA
演習
八木橋 毅司
開講時期：年間授業/Yearly 単位：8 単位
4 年次は授業コード「K7132」を履修登録すること。

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本演習の目的は、1) 経済学の全般的な知識の習得、2) エビデンスに基づいた議論を通じて各々の将来のキャリアにも役に立つ学術スキルを身につけることです。

【到達目標】

2・3年生は、レポート/論文の書き方、ディスカッション、プレゼンテーション、実証分析の手法の習得、英語文献の精読等を通じて、さまざまな学術スキルを身につけます。
4年生は学術的に質の高い卒業論文を書くことを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP8」「DP9」「DP10」「DP11」に関連。国際経済学科は「DP9」「DP10」「DP13」に関連。

【授業の進め方と方法】

少人数演習形式で学生による発表を中心に進めます（春学期：3年生主体、秋学期：2年生主体）。発表に関してはゼミ員からの積極的なフィードバックのもとで授業をすすめます。また講義時間の一部を使って学生主導のグループワーク（以下「サブゼミ」）も随時行います。

授業形態につきましては、通常は対面を基本としますが、事前に申出のあった場合にズームを用いたオンライン参加も可能とします。完全オンライン方式は一学期につき最大7回まで採用する可能性があります。各講義回の形態については講義中のアナウンスや一斉メールなどを通じて事前に通知します。

4年次は卒論執筆を希望する人のみの履修となります。その場合3年の秋学期の講義最終日までに研究計画書を教員に提出してください。卒論トピックは経済学関連であれば自由です。

4年生は卒論（日本語・英語いずれも可）を必ず仕上げることを前提に履修してください。毎週のゼミへの出席は求めません。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり/Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	授業のガイダンス	ゼミの運営についての説明、自己紹介、ゼミ員同士による交流
2	文献報告	文献報告、プレゼン（3名）
3	グループプレゼン	グループプレゼン、春季サブゼミ計画発表
4	文献報告	文献報告、特別講演、プレゼン、サブゼミ
5	文献報告	文献報告、プレゼン（2名）、サブゼミ
6	文献報告	文献報告、サブゼミ中間報告、プレゼン
7	文献報告	文献報告、特別講演、プレゼン、サブゼミ
8	文献報告	文献報告、特別講演、プレゼン、サブゼミ
9	フィールドワーク	詳細は後日発表
10	文献報告	文献報告、フィールドワーク報告、プレゼン（2名）、サブゼミ
11	文献報告	文献報告、特別講演、プレゼン、サブゼミ

12	研究発表会	春季サブゼミ活動報告および研究発表会
13	面談	主に3年生を対象に面談実施
14	面談	主に2年生を対象に面談実施
15	授業のガイダンス	夏季活動報告、自己紹介、プレゼン
16	輪読	図書の輪読、課題報告、プレゼン、秋季サブゼミ計画発表
17	論文ワークショップ	論文の書き方についてのガイダンスなど、サブゼミ
18	輪読	図書の輪読、課題報告、プレゼン、サブゼミ
19	論文ワークショップ	論文の書き方についてのガイダンスなど、サブゼミ
20	輪読	図書の輪読、課題報告、プレゼン、サブゼミ
21	輪読	図書の輪読、課題報告、プレゼン、サブゼミ
22	ディベート準備	ディベート実施に関する下打ち合わせ、課題報告、プレゼン、サブゼミ
23	輪読	図書の輪読、秋季サブゼミ活動報告、課題報告、プレゼン
24	輪読	図書の輪読、課題報告、プレゼン
25	面談	主に3年生を対象に面談実施
26	ディベート	ディベート実施
27	輪読	図書の輪読、課題報告、プレゼン
28	面談	主に2年生を対象に面談実施、3年生の研究計画書の提出期限（卒論指導希望者のみ）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。それ以外でも日々の経済ニュースを各種メディアを通じて吸収するよう心がけてください。

ゼミ時間外の親睦活動として新入生歓迎会（4～5月、2・3年生対象）、ゼミOB会（11月、全学年対象）、謝恩会（3月、3・4年生対象）があります。

外部スピーカーによる特別講演回においては先方の都合により講義時間が時間割から若干ずれる可能性があります。

【テキスト（教科書）】

春学期分は第1回目の講義中に教員が発表します。

秋学期分は7月中旬に2年生のゼミ員の投票によって決定します。

【参考書】

・小笠原喜康『最新版大学生のためのレポート・論文術』講談社現代新書、2018年

・経済セミナー編集部『経済論文の読み方』日本評論社（e-Bookのみ）、2022年

・経済セミナー編集部『経済論文の書き方』日本評論社、2022年
なお以下の書籍は2022年度の輪読に採択されたものです。

・中室・津川『「原因と結果」の経済学』ダイヤモンド社、2017年

【成績評価の方法と基準】

2・3年生：課題内容（60%）、質疑応答等による貢献（40%）の合算により決定します。無断欠席は禁止です。評価Cで単位認定の場合は、翌年のゼミ履修は許可しません。

4年生：卒業論文内容（60%）および教員へのズームによる経過報告（40%）の合算により決定します。

【学生の意見等からの気づき】

・演習科目につき大学を通じた匿名アンケートは実施していませんが、希望があれば直接教員かゼミ代表（匿名保持）に申し出てください。

・フィールドワークおよび夏合宿は参加者が主体的に計画し教員に具体的な提案があった場合に正式なゼミイベントとして実施します。
・学生相互のディスカッションを重視するため、教員の発言は総時間の10%以内に収まるよう努めます。

【学生が準備すべき機器他】

ノートパソコン、タブレット、スマホのいずれかを常時持参してください。

ズームによる講義を行う場合、カメラは基本的にオンのままとしていただきますので、自宅や外出先から受講される方は安定したインターネット接続環境をあらかじめ整えておいてください。

【その他の重要事項】

私のゼミでは好奇心が強く他の人からいろいろな刺激を受ける柔軟性を持ち合わせつつ、いずれは自分独自のキャリアを築いていきたいと思うタイプの人を歓迎します。卒業する頃には勉強は楽しいと思えるように一緒に活動していきましょう！

【担当教員の専門分野等】

詳しくは下記ウェブサイトをご覧ください

<https://sites.google.com/site/takeshiyagihashi/>

【主要業績】

"Intertemporal Elasticity of Substitution with Leisure Margin" (with Juan Du), forthcoming in Review of Economics of the Household

"How Do the Trans-Pacific Economies Affect the US? An Industrial Sector Approach" (with David Selover), Oct. 2017, The World Economy, 40(10), 2097-2124.

"Goods-Time Elasticity of Substitution in Health Production" (with Juan Du), Oct. 2017, Health Economics, 26(11), 1474-1478.

"Health Care Inflation and Its Implication for Monetary Policy" (with Juan Du), Mar. 2015, Economic Inquiry, 53(3), 1556-1579.

"Estimating Taylor Rules in a Credit Channel Environment," Dec. 2011, North American Journal of Economics and Finance, 22(3), 344-364.

"Are DSGE Approximating Models Invariant to Shifts in Policy?" (with Timothy Cogley) Jan. 2010, The B.E. Journal of Macroeconomics, 10(1) (Contribution), Article 27, 1-31.

【Outline (in English)】

【Course Outline】

The objective of this class is to 1) gain deep understanding of Economics and 2) be able to discuss Economic topics based on evidence. The goal is to acquire academic skills that would help students in developing their future career.

【Learning Objectives】

Second/third-year students learn how to write academic papers, discuss research, conduct presentation and empirical analysis, and reading materials in English

【Learning Activities Outside of Classroom】

Average workload for each class is as follows: class preparation time of 2 hours and review time of 2 hours

【Grading Criteria/Policy】

Second/third-year students: Assignments 60%, Active Class Participation 40%

Fourth-year students: Dissertation 60%, Progress Report 40%

ECN218CA
演習
武智 一貴
開講時期：年間授業/Yearly 単位：8 単位
4 年次は授業コード「K7133」を履修登録すること。

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、グループごとにプレゼンテーションとディスカッションを行う。プレゼンテーションとディスカッションの際に重要なのは、テーマを十分に理解し自分の言葉でわかりやすくまとめることである。この技術は、ゼミでの発表に留まらず、レポートや卒業論文の作成、就職活動、就職後の仕事の場面で必要となる。また人前で話す技術は、ある程度経験を積まなければ高められない。この授業では、プレゼンテーションとディスカッションを数多く実践することにより、他者に対して自分の考えを効果的に伝える技術を習得する。

【到達目標】

- ・テーマを与えられたときに、そのテーマの背景や問題点を要約でき、その内容を他者に伝えられる。
- ・グループで課題に取り組むことができ、その結果を発表できる。
- ・求められたとき、いつでも自分の考えを述べることができる。
- ・4年生は学術的な基盤を持った卒業論文を書くことを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP8」「DP9」「DP10」「DP11」に関連。国際経済学科は「DP9」「DP10」「DP11」に関連。

【授業の進め方と方法】

- ・グループごとにパワーポイントを使用したプレゼンテーションを行う。
- ・プレゼンテーションの内容に関連したディスカッションを行う。
- ・課題の提出・フィードバックなどは学習支援システムにより行う。
- ・卒業論文については、テーマの選択・先行研究の調査・論理の構築について適宜議論する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の進め方について説明する。
2	自己紹介	自己紹介のプレゼンを行う。
3	プレゼンテーションとディスカッション 1	WTO の歴史について教科書のプレゼン及びディスカッションを行う。
4	プレゼンテーションとディスカッション 2	WTO の制度について教科書のプレゼン及びディスカッションを行う。
5	プレゼンテーションとディスカッション 3	WTO の条文の構成について教科書のプレゼン及びディスカッションを行う。
6	プレゼンテーションとディスカッション 4	WTO の基本政策について教科書のプレゼン及びディスカッションを行う。
7	プレゼンテーションとディスカッション 5	WTO の原則と例外について教科書のプレゼン及びディスカッションを行う。
8	プレゼンテーションとディスカッション 6	WTO の附属書について教科書のプレゼン及びディスカッションを行う。

9	プレゼンテーションとディスカッション 7	WTO 紛争処理について教科書のプレゼン及びディスカッションを行う。
10	プレゼンテーションとディスカッション 8	内国民待遇違反について教科書のプレゼン及びディスカッションを行う。
11	プレゼンテーションとディスカッション 9	内国民待遇違反の日本の例について教科書のプレゼン及びディスカッションを行う。
12	プレゼンテーションとディスカッション 10	セーフガードについて教科書のプレゼン及びディスカッションを行う。
13	プレゼンテーションとディスカッション 11	日本のセーフガードについて教科書のプレゼン及びディスカッションを行う。
14	プレゼンテーションとディスカッション 12	アンチダンピングについて教科書のプレゼン及びディスカッションを行う。
15	プレゼンテーションとディスカッション 13	日本のアンチダンピングについて教科書のプレゼン及びディスカッションを行う。
16	プレゼンテーションとディスカッション 14	補助金相殺関税について教科書のプレゼン及びディスカッションを行う。
17	プレゼンテーションとディスカッション 15	日本の補助金相殺関税について教科書のプレゼン及びディスカッションを行う。
18	プレゼンテーションとディスカッション 16	教科書のプレゼン及びディスカッションを行う。
19	プレゼンテーションとディスカッション 17	SPS 協定について教科書のプレゼン及びディスカッションを行う。
20	プレゼンテーションとディスカッション 18	日本が関係する SPS 協定について教科書のプレゼン及びディスカッションを行う。
21	プレゼンテーションとディスカッション 19	一般例外について教科書のプレゼン及びディスカッションを行う。
22	プレゼンテーションとディスカッション 20	貿易と環境に関する WTO 紛争について教科書のプレゼン及びディスカッションを行う。
23	プレゼンテーションとディスカッション 21	安全保障の例外について教科書のプレゼン及びディスカッションを行う。
24	プレゼンテーションとディスカッション 22	知的財産権保護について教科書のプレゼン及びディスカッションを行う。
25	プレゼンテーションとディスカッション 23	TRIPS について教科書のプレゼン及びディスカッションを行う。
26	プレゼンテーションとディスカッション 24	WTO 紛争処理システムの限界について教科書のプレゼン及びディスカッションを行う。
27	プレゼンテーションとディスカッション 25	サービス貿易について教科書のプレゼン及びディスカッションを行う。
28	プレゼンテーションとディスカッション 26	GATS について教科書のプレゼン及びディスカッションを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

演習の準備・復習時間は事前の資料チェック・スライドチェック、報告のまとめなど目安として4時間です。

【テキスト（教科書）】

ビジュアルテキスト国際法第2版、加藤他著、有斐閣

【参考書】

特になし

【成績評価の方法と基準】

プレゼンテーション内容・形式及びディスカッション内容 100%

【学生の意見等からの気づき】

報告内容のみならず報告の仕方についても学習の対象とします。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to introduce basic presentation and discussion skills to student. The goal of this course is to talk about economic idea in students' own words. Students are required to study for each class at least four hours. The grade is determined by in-class performance (100%).

ECN218CA
演習
田村 晶子
開講時期：年間授業/Yearly 単位：8 単位
4 年次は授業コード「K7134」を履修登録すること。

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国際経済学の理論をテキストでしっかり理解し、海外の経済データソースも使った実証分析を行えるようにします。興味のあるテーマをグループで深く勉強し、プレゼンテーションする能力を養います。さらに、勉強の成果を卒業論文にまとめます。

【到達目標】

国際経済学の理論をしっかり理解し、経済データを使って確認することができる。興味がある内容につき、グループで協調しつつ、説明を行うとともに意見を発表できる。他の学生の報告を聞き、コメントし、討論することが出来る。自分の興味に従い、研究を論文にまとめることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP8」「DP9」「DP10」「DP11」に関連。国際経済学科は「DP9」「DP10」「DP11」に関連。

【授業の進め方と方法】

国際経済学のテキストの輪読を行い、内容について練習問題を解き、授業内で解答について議論します。年 4 回のグループプレゼンを行い、ゼミ生全員でプレゼンを評価し、次回授業で改善点を検討します。2 / 3 年生は進級論文、4 年生は卒業論文を執筆します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	ゼミの進め方の確認
第 2 回	文献やデータの使い方	データベースの使い方を学ぶ
	第 1 回テーマ決定	
第 3 回	国際経済テキスト輪読	文献の輪読・練習問題を解き討論
	第 1 回アウトライン	／プレゼンアウトライン報告
第 4 回	国際経済テキスト輪読	文献の輪読・練習問題を解き討論
	英文文献の輪読・討論	を行う
第 5 回	国際経済テキスト輪読	文献の輪読・練習問題を解き討論
	英文文献の輪読・討論	を行う
第 6 回	第 1 回グループプレゼン	第 1 回プレゼンを各自コメント
第 7 回	第 1 回プレゼンの評価	プレゼンの反省と次回のテーマ決定
	第 2 回テーマの決定	
第 8 回	国際経済テキスト輪読	文献の輪読・練習問題を解き討論
	第 2 回アウトライン	論、アウトライン報告
第 9 回	国際経済テキスト輪読	文献の輪読・練習問題を解き討論
	卒業論文テーマ報告	論、卒業論文テーマ報告を行う
第 10 回	国際経済テキスト輪読	文献の輪読・練習問題を解き討論
	英文文献の輪読・討論	を行う
第 11 回	国際経済テキスト輪読	文献の輪読・練習問題を解き討論
	英文文献の輪読・討論	を行う
第 12 回	第 2 回グループプレゼン	第 2 回プレゼンを各自コメント
第 13 回	第 2 回プレゼンの評価	文献の輪読・練習問題を解き討論
	英文文献の輪読・討論	を行う
第 14 回	夏合宿準備	夏合宿での勉強内容の決定
第 15 回	秋学期の予定の確認	予定確認とプレゼンテーマ決定
	第 3 回テーマ決定	

第 16 回	卒業論文のテーマ報告	卒論テーマとプレゼンアウトライン報告を行う
第 17 回	国際経済テキスト輪読	文献の輪読・練習問題を解き討論
	英文文献の輪読・討論	を行う
第 18 回	国際経済テキスト輪読	文献の輪読・練習問題を解き討論
	英文文献の輪読・討論	を行う
第 19 回	国際経済テキスト輪読	文献の輪読・練習問題を解き討論
	英文文献の輪読・討論	を行う
第 20 回	第 3 回グループプレゼン	第 3 回プレゼンを各自コメント
第 21 回	第 3 回プレゼンの評価	新ゼミ生選抜面接を合わせて行う
	第 4 回テーマ決定	
第 22 回	国際経済テキスト輪読	文献の輪読・練習問題を解き討論
	第 4 回アウトライン	を行う
第 23 回	国際経済テキスト輪読	文献の輪読・練習問題を解き討論
	英文文献の輪読・討論	を行う
第 24 回	国際経済テキスト輪読	文献の輪読・練習問題を解き討論
	英文文献の輪読・討論	を行う
第 25 回	第 4 回グループプレゼン	第 4 回プレゼンを各自コメント
第 26 回	第 3 回プレゼンの評価	文献の輪読・練習問題を解き討論
	英文文献の輪読・討論	を行う
第 27 回	卒業論文報告	4 年生の卒論報告を各自コメント
第 28 回	ゼミのまとめ	1 年間のゼミを振り返る

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

国際経済学テキスト輪読では、毎回、必ず全員が事前にテキストを予習し練習問題を提出してから、ゼミに出席する。グループプレゼンは、各グループで授業外でサブゼミを行って準備する。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

4 時限用の国際経済学のテキスト、5 時限用の国際経済に関する報告書や論文等を、4 月のゼミの始まる前までに決定します。

【参考書】

4 回行うグループのプレゼンなどで、必読参考文献を指定します。

【成績評価の方法と基準】

2、3 年生は、毎回の授業（合宿を含む）への積極的な参加（30 %）、テキストなどの輪読報告（20 %）、グループプレゼンでの報告と他グループへのコメント（20 %）、輪読の予習復習の練習問題の成績（10 %）、進級論文（20 %）により評価します。

4 年生は、卒業論文の報告（40 %）と卒業論文内容（60 %）により評価します。

【学生の意見等からの気づき】

輪読では報告者と教員との一方通行の授業にならないように、ゼミ生全員の参加を促す工夫します。

【Outline (in English)】

Students will be able to fully understand the theory of international economics using textbooks and perform empirical analysis using overseas economic data sources. Students develop the ability to present themes of your interest in groups. Students summarize the results of their studies in a thesis.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Sophomore/Junior students: Final grade will be calculated according to in-class contribution (30%), report/presentation of the textbook(20%), group presentation and comments (20%), preparation and quiz of the textbook (10%), and Sophomore/Junior thesis (20%).

Senior students: Final grade will be calculated according to report/presentation of graduation thesis (40%), graduation thesis (60%).

ECN218CA
演習
海野 正
開講時期：年間授業/Yearly 単位：8 単位
4 年次は授業コード「K7135」を履修登録すること。

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ゼミのテーマは企業行動分析です。新聞やテレビで目にする企業のことを、皆さんはどれだけ知っているでしょうか。就職活動をする時に、どの会社が「良い会社」なのかをどうやって調べますか。企業には戦略があります。ゼミではそうした戦略と企業のパフォーマンスとのつながりを、皆さんの力で明らかにしてください。分析手段のひとつとして財務情報を用いますが、戦略分析、資本市場分析、企業評価手法、マクロ経済分析、コーポレート・ガバナンス、企業の社会的責任など、企業行動の理解のためには財務会計以外の領域も扱います。

【到達目標】

新たな知識の獲得だけでなく、その知識を応用する力を実践しながら身につけていきたいと思います。共同作業やプレゼンテーションを通じて、社会で活躍するスキルの向上と、生涯を通じて信頼できる仲間を獲得することを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP8」「DP9」「DP10」「DP11」に関連。国際経済学科は「DP9」「DP10」「DP11」に関連。

【授業の進め方と方法】

グループワークを中心に行います。メンバーの知識水準に応じて、ゼミの前半では財務会計や基本的な戦略フレームワークの学習を行い、徐々に実際の企業の分析に移ります。自身の関心を積極的に知らせてください。ゼミ中の質問や提出された課題には、直接またはメール等でフィードバックを行います。4 年生は卒業論文の執筆に向けて定期的に教員と面談することとし、提出後の論文に対して評価を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	自己紹介、ゼミ生の関心確認
2	分析手法の基礎（1）	財務分析 メンバーの知識レベルに応じて複数回実施する可能性があります。
3	財務分析の実践	プレゼン発表
4	分析手法の基礎（2）	戦略分析、マクロ経済分析 メンバーの知識レベルに応じて複数回実施する可能性があります。
5	戦略分析の実践	プレゼン発表
6	テーマ設定	春学期のテーマ設定
7	グループワーク	プレゼン発表 1
8	グループワーク	プレゼン発表 2
9	グループワーク	プレゼン発表 3
10	グループワーク	プレゼン発表 4
11	グループワーク	プレゼン発表 5
12	グループワーク	プレゼン発表 6
13	グループワーク	プレゼン発表 7
14	グループワーク	プレゼン発表 8
15	テーマ設定	秋学期のテーマ案
16	グループワーク	プレゼン発表 9
17	グループワーク	プレゼン発表 10

18	グループワーク	プレゼン発表 11
19	グループワーク	プレゼン発表 12
20	グループワーク	プレゼン発表 13
21	グループワーク	プレゼン発表 14
22	グループワーク	プレゼン発表 15
23	グループワーク	プレゼン発表 16
24	グループワーク	プレゼン発表 17
25	グループワーク	プレゼン発表 18
26	グループワーク	プレゼン発表 19
27	グループワーク	プレゼン発表 20
28	グループワーク	プレゼン発表 21

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日頃から経済ニュースへの関心を持つこと。例えば日本経済新聞、日経ビジネス、エコノミスト、東洋経済といった各種新聞・雑誌の購読を推奨する。本講義の予習時間は各回 2 時間、復習時間は 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

ゼミの中で適宜指示する。

【参考書】

ゼミの中で適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

各回の発表（50%）やインゼミなど各種ゼミ活動への参加（50%）をもとに評価する。

【学生の意見等からの気づき】

メンバーの関心に沿ったテーマ設定、適切な参考文献や講演会等の案内を行います。

【Outline (in English)】

The theme of this seminar is corporate behavior analysis. How much do you know about the companies you see in newspapers and television? How do you find out which company is a "good company" when you are looking for a job?

Companies have a strategy. In this seminar, please clarify for yourself the connection between strategy and corporate performance.

We use financial information as one of the means of analysis. In addition, we also deal with areas other than financial accounting for understanding corporate behavior, such as strategic analysis, capital market analysis, corporate valuation methods, macroeconomic analysis, corporate governance, and corporate social responsibility.

Learning Objectives:

Not only capturing the knowledge but applying it to practical situations through group work and joint presentation, students should improve their skills and be connected to reliable lifelong partners.

Learning activities outside of classroom:

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours in total to understand the course content.

Grading Policies:

Your overall grade will be decided based on the quality of your presentations in the class (50%), and your class participation including inter-college activities (50%).

ECN218CA
演習
島田 昭仁
開講時期：年間授業/Yearly 単位：8 単位
4 年次は授業コード「K7136」を履修登録すること。

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

このゼミにおいて、学生たちは一年間をかけて基本的には一人が一つの研究テーマに取り組む。「脱炭素」、「こどもの理科教育」、「化学反応に関する実験研究」、「地域の環境問題」などに絡んだ研究を実施する。テーマの詳細は教員と相談して決定する。

【到達目標】

「自分で問題を発見し、その解決法を見だし、実際にその効果を確認する」ためのスキルや方法について学ぶことを目標とする。プレゼンテーション能力、マネージメント能力、アカデミックライティングのスキルを身に着ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP8」「DP9」「DP10」「DP11」に関連。国際経済学科は「DP9」「DP10」「DP11」に関連。

【授業の進め方と方法】

出席必須で、指導教員との研究打ち合わせを密に持ちながら、自分の力で研究を遂行する。研究のスケジュールは、研究テーマによって異なるので、研究の進展にあわせて適宜動的に見直される。研究の進捗については毎回の授業でチェックを行う。質問には個別に対応する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	「ガイダンス」	ゼミの方針、予定の説明。メールの書き方やエクセルの基本的な使い方を紹介する。
2	「安全教育」と「テーマ探索」	ゼミにおける安全教育
3	「文献調査方法、論文やレポートの書き方」	論文作成の方法論について解説
4	「文献調査方法、論文やレポートの書き方」	資料リファレンスの方法について解説
5	「研究テーマ、研究方針の決定」	テーマについて熟考
6	「調査」・「実験」	各自のテーマに沿った研究活動 1
7	「調査」・「実験」	各自のテーマに沿った研究活動 2
8	「調査」・「実験」	各自のテーマに沿った研究活動 3
9	「報告とディスカッション」	これまでの研究中間報告 1
10	「調査」・「実験」	各自のテーマに沿った研究活動 4
11	「調査」・「実験」	各自のテーマに沿った研究活動 5
12	「調査」または「実験」	各自のテーマに沿った研究活動 6
13	「調査」・「実験」	各自のテーマに沿った研究活動 7
14	「報告」・「議論」・「まとめ」	これまでの研究中間報告 2
15	「課題報告」	夏休みの研究の成果報告
16	「調査」または「実験」	秋学期の計画と研究はじめ
17	フィールドワーク	「わくわくほうせい！」等の取組 1
18	フィールドワーク	「わくわくほうせい！」等の取組 2
19	フィールドワーク	「わくわくほうせい！」等の取組 3
20	「調査」・「実験」	各自のテーマに沿った研究活動 8
21	「調査」・「実験」	各自のテーマに沿った研究活動 9

22	「調査」または「実験」	各自テーマに沿った研究活動 10
23	「調査」または「実験」	各自テーマに沿った研究活動 11
24	「調査」または「実験」	各自テーマに沿った研究活動 12
25	ゼミ中間発表会	ゼミ研究発表、全員参加
26	「調査」・「実験」	各自テーマに沿った研究活動 13
27	「調査」・「実験」	各自テーマに沿った研究活動 14
28	年間の総まとめ、発表	各自プレゼンおよびレポート提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

ゼミとしての脱炭素や環境問題や科学教育に関するフィールドワーク（わくわくほうせい！等）への参加を必須とする。準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に定めない。

【参考書】

特に定めない。

【成績評価の方法と基準】

平常点：ゼミへの（主にフィールドワークへの）貢献度を 50 % 見ます。さらに研究計画をレポートで提出してもらい、そのクオリティを 50% 見ます。

【学生の意見等からの気づき】

学生相互のディスカッションの機会をより多く設ける。

【Outline (in English)】

Each student basically works on one research theme over the course of a year. The goal is to have knowledge how to learn in the university. Students will be expected to research related to "science education" "local environmental issues" and so on and prepare reporting for the next.

Participation in fieldwork as a seminar is mandatory.

The standard preparation and review time is 2 hours each.

Your overall grade in this class will be decided based on in class contribution 50% and qualities of reports.

ECN218CA
演習
芝田 幸一郎
開講時期：年間授業/Yearly 単位：8 単位
4 年次は授業コード「K7137」を履修登録すること。

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スペイン語圏ラテンアメリカの文化・社会・歴史などを広く学び大まかな全体像を得る。その上で、各自が関心を持った特定の地域・時代・事柄等について、主体的に問題を見つけながら深く掘り下げる。これらの過程で、自らにインプットしたものを、目的に沿って効果的にアウトプットする技術を学ぶ。必要に応じてスペイン語スキルを向上させる。

【到達目標】

ラテンアメリカについての基礎的教養を身につける。自ら課題を掘り出し、各種資料（必要に応じて外国語文献も）を入手・分析した上で、論文形式でまとめ、わかりやすく口頭発表できるようにする。伝えたい事柄によって、文・写真・概念図・地図・グラフ・表などを、効果的に使い分けられるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP8」「DP9」「DP10」「DP11」に関連。国際経済学科は「DP9」「DP10」「DP11」に関連。

【授業の進め方と方法】

対面が基本だが、必要に応じてハイフレックス型授業となることがある。基本的に学年暦・時間割通りに実施する。毎週 Hoppii を確認すること。
春学期：2 年次は主にテキスト輪読による要約発表。3 年次は主に研究発表。若干の講義、論文要約発表、映像視聴等を含む。
秋学期：2 年次はテキスト輪読による要約発表、論文等の検索（若干の講義と実習あり）、各自の研究テーマ絞り込み、研究の構想・中間発表など。3 年次は主に研究発表。若干の講義、論文要約発表、映像視聴等を含む。
4 年次に履修継続する者は、春・秋学期を通して基本的に担当教員による個別指導下で卒業論文の作成を進め、ゼミ内で中間発表等を行う。
全ての口頭発表に対して講評という形でフィードバックがある。3 年次の課題レポートの中には、講評に基づいて修正と再提出が求められるものもある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	ゼミ運営等について。
第 2 回	プレゼンテーション	自己紹介。第 4 回以降の発表担当者として発表順などを決定。
第 3 回	ラテンアメリカ概説	教員による講義
第 4 回	2 年：読解と要約（ラテンアメリカ地域の特徴等）。3 年：研究。	テキスト輪読・要約発表、研究発表、講評等。
第 5 回	2 年：読解と要約（ラテンアメリカの歴史等）。3 年：研究。	テキスト輪読・要約発表、研究発表、講評等。
第 6 回	2 年：読解と要約（ラテンアメリカの政治等）。3 年：研究。	テキスト輪読・要約発表、研究発表、講評等。
第 7 回	2 年：読解と要約（ラテンアメリカの経済等）。3 年：研究。	テキスト輪読・要約発表、研究発表、講評等。
第 8 回	2 年：読解と要約（ラテンアメリカの社会等）。3 年：研究。	テキスト輪読・要約発表、研究発表、講評等。
第 9 回	2 年：読解と要約（ラテンアメリカの文化等）。3 年：研究。	テキスト輪読・要約発表、研究発表、講評等。
第 10 回	2 年：読解と要約（メキシコ等）。3 年：研究。	テキスト輪読・要約発表、研究発表、講評等。
第 11 回	2 年：読解と要約（中米地域等）。3 年：研究。	テキスト輪読・要約発表、研究発表、講評等。
第 12 回	2 年：読解と要約（カリブ地域等）。3 年：研究。	テキスト輪読・要約発表、研究発表、講評等。
第 13 回	2 年：読解と要約（アンデス諸国等）。3 年：研究。	テキスト輪読・要約発表、研究発表、講評等。
第 14 回	春学期のまとめ	発表、講評、夏季休暇中の課題説明等。
第 15 回	ガイダンス	秋学期の運営について、発表担当者として発表順などを決定。

第 16 回	2 年：読解と要約（ラブラ地域等）。3 年：研究。	テキスト輪読・要約発表、研究発表、講評等。
第 17 回	2 年：読解と要約（ブラジル等）。3 年：研究。	テキスト輪読・要約発表、研究発表、講評等。
第 18 回	2 年：読解と要約（ラテンアメリカと日本）。3 年：研究。※このあたりで図書館ガイダンスを実施する可能性あり。	テキスト輪読・要約発表、研究発表、講評等。
第 19 回	2 年：読解と要約（その他）。3 年：研究。	テキスト輪読・要約発表、研究発表、講評等。
第 20 回	2 年：読解と要約（その他）。3 年：研究。	テキスト輪読・要約発表、研究発表、講評等。
第 21 回	研究テーマの検討、文献検索等。	講義と実習
第 22 回	2 年：研究テーマ、構成、文献リスト。3 年：研究。	発表、講評等。
第 23 回	2 年：研究テーマ、構成、文献リスト。3 年：研究。	発表、講評等。
第 24 回	4 年生による特別セミナー	発表、質疑応答等。
第 25 回	入ゼミ面接、その他	面接、発表、講評等。
第 26 回	2 年：研究テーマ、構成、文献リスト。3 年：研究。	発表、講評等。
第 27 回	2 年：研究テーマ、構成、文献リスト。3 年：研究。	発表、講評など。
第 28 回	秋学期のまとめ	発表、講評、春季休暇中の課題説明等。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

春学期：2 年次は主にテキストの精読と要約作成。図書館およびインターネットでの文献検索。3 年次は春の課題レポートの要約作成、論文の精読と要約、研究テーマに応じた各種資料の収集と分析。4 年次は卒業論文の作成と必要に応じて中間発表。全学年に共通してプレゼンの準備（パワーポイント資料作成含む）。
夏休みの課題：2 年次は感想文またはレポート。3 年次はレポート。
秋学期：2 年次は今後執筆するレポートの仮テーマ・章立て・文献リストを作成。3 年次は夏の課題レポートの要約作成とプレゼンの準備、最終課題レポートの作成。2・3 年次ともに論文の精読と要約、研究テーマに応じた各種資料の収集と分析。4 年次は卒業論文の作成とその発表。
春休みの課題：レポート（2 年次のみ）。
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする（発表内容によっては更なる準備時間が必要）。

【テキスト（教科書）】
ゼミ内で相談のうえ決める。

【参考書】

『地図で見るラテンアメリカハンドブック』ダベナス、O.、F. ルオー、原書房、2017 年（ISBN978-4-562-05428-2）、2800 円＋税
『ラテンアメリカ世界のことばと文化』知恵子・山崎真次編著、成文堂、2009 年（ISBN978-4-7923-7084-8）、3000 円＋税
『ラテンアメリカ研究への招待（改訂新版）』国本伊代・中川文雄編著、新評論、2005 年（ISBN4-7948-0679-5）、3200 円＋税
『新版 ラテンアメリカを知る事典』大貫良夫他監修、平凡社、2013 年（ISBN9784582126464）、7000 円＋税
『ラテンアメリカ文化事典』ラテンアメリカ文化事典編集委員会編、丸善出版、2021 年（ISBN978-4-621-30585-0）
その他、適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

2・3 年：発表と提出物（80%）＋平常点（20%）
4 年：卒業論文（90%）＋平常点（10%）

【学生の意見等からの気づき】

4 月に自己紹介プレゼンテーションを行うことで、ゼミ生間やゼミ生と教員間の相互理解を深め、かつプレゼン能力向上を促す。春学期に小テストを実施し基礎知識定着の一助とする。レポート作成の機会を増やす。希望者に対しては更なるスペイン語学習の機会を用意する。

【学生が準備すべき機器他】

教員からの連絡や資料配布は Hoppii 上で行う。

【その他の重要事項】

スペイン語スキルを上げたい学生は、「スペイン語セミナー A・B（23 年度は臨時休講）」等の科目も併せて履修すると良いだろう。
4 年次にゼミ履修を継続する学生は、単位付与のために卒業論文の提出が必要である。早めに（3 年次の年度末～4 年次の 4 月前半）ゼミ担当教員に連絡をとり、4 月末を目途に「卒業論文作成計画書」を提出すること。

【Outline (in English)】

[Course outline] This seminar course explores the culture, society and history of Latin America and introduces academic writing and the fundamentals of academic research. [Learning Objectives] Through the seminar, participants are expected to A)explain the socio-cultural characteristics of Latin America and its historical background, and B)make academic papers and oral presentations on their own research topic. [Learning Activities outside of Classroom] Before/after each class meeting, participants will spend four hours to understand the course content. [Grading Criteria / Policy] Grading will be based on submitted papers and oral presentations (80%), and in-class contribution (20%).

ECN218CA
演習
ブー トウン カイ
開講時期：年間授業/Yearly 単位：8 単位
4 年次は授業コード「K7138」を履修登録すること。

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本演習では、テキストを輪読して国際金融論の基礎的な知識と経済分析手法を身に付けた後、文献の調査を通じて現実における金融や国際金融の現状や問題を知り、研究テーマを設定し経済学の手法やデータを用いて分析し、解決策を検討する。

【到達目標】

金融論や国際金融論の基礎的な知識及び経済学の手法を修得し、それらを用いて現実の金融や国際金融の様々な問題を特定し、分析できることを到達目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP8」「DP9」「DP10」「DP11」に関連。国際経済学科は「DP9」「DP10」「DP11」に関連。

【授業の進め方と方法】

前期では経済学と金融論のテキストの輪読を中心にゼミを進める。後期では、国際金融論のテキストを輪読しながらグループに分けて国際金融論の文献を調査し、研究テーマの検討・決定をする。そして決定したテーマに沿ってデータや資料を収集し、分析を行い、答えを探る。毎回はゼミ生による報告と討論を中心に進める。課題等のフィードバックは「学習支援システム」や授業用ウェブサイトを通じて行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	ゼミメンバーの紹介、前期のスケジュールの確認、ゼミの運営方針などの説明
第 2 回	輪読 (1)	ゼミ生による報告と討論
第 3 回	輪読 (2)	ゼミ生による報告と討論
第 4 回	輪読 (3)	ゼミ生による報告と討論
第 5 回	輪読 (4)	ゼミ生による報告と討論
第 6 回	輪読 (5)	ゼミ生による報告と討論
第 7 回	輪読 (6)	ゼミ生による報告と討論
第 8 回	輪読 (7)	ゼミ生による報告と討論
第 9 回	輪読 (8)	ゼミ生による報告と討論
第 10 回	輪読 (9)	ゼミ生による報告と討論
第 11 回	輪読 (10)	ゼミ生による報告と討論
第 12 回	輪読 (11)	ゼミ生による報告と討論
第 13 回	輪読 (12)	ゼミ生による報告と討論
第 14 回	輪読 (13)	ゼミ生による報告と討論
第 15 回	前期の総括	これまでの流れを振り返り、今後の予定を確認する。
第 16 回	イントロダクション	前期のゼミ内容を振り返り、後期のスケジュールの確認、ゼミの運営方針などの説明
第 17 回	研究テーマ設定 (1)	国際金融に関する研究テーマ候補の検討
第 18 回	研究テーマ設定 (2)	研究テーマの決定、研究計画の作成
第 19 回	調査分析 (1)	各グループによ先行文献調査結果の報告と討論

第 20 回	調査分析 (2)	各グループによる先行文献調査結果の報告と討論
第 21 回	調査分析 (3)	各グループによる先行文献調査結果の報告と討論
第 22 回	調査分析 (4)	各グループによる資料・データ収集結果の報告と討論
第 23 回	調査分析 (5)	各グループによる資料・データ収集結果の報告と討論
第 24 回	調査分析 (6)	各グループによる資料・データ収集結果の報告と討論
第 25 回	調査分析 (7)	各グループによる分析結果の報告と討論
第 26 回	調査分析 (8)	各グループによる分析結果の報告と討論
第 27 回	調査分析 (9)	各グループによる分析結果の報告と討論
第 28 回	調査分析 (10)	研究成果の取りまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回学んだことをきちんと復習し、理解できるように努めること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

- 『国際金融論をつかむ』（新版）、橋本優子・小川英治・熊本方雄（著）、有斐閣 2019 年。
- 『独習! ビジネス統計』、松浦寿幸（著）、東京図書 2012 年。

【参考書】

- 『コア・テキスト国際金融論』第 2 版、藤井英次（著）、新世社 2014 年。
- 『新しい国際金融論－理論・歴史・現実』、勝悦子（著）、有斐閣 2011 年。
- “International Finance: Theory and Policy,” Global Edition, by Paul Krugman, Maurice Obstfeld and Marc Melitz, Pearson Education Limited; 第 11 版 (2018/1/25) (英語) ペーパーバック。

【成績評価の方法と基準】

出席 (35%)、プレゼンテーション・ゼミへの貢献 (意見や討論) (35%)、学期末課題 (30%) の結果に基づいて成績評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】

ゼミ生の意見を聞きながら楽しく有意義なゼミを目指す。

【学生が準備すべき機器他】

報告資料の作成やデータ分析などのためにコンピュータを頻繁に使用するので、大学のコンピュータを利用するのによいが、ゼミ生が自らパソコンをもつと便利になる。

【Outline (in English)】

Course outline & Learning objectives: In this course we will learn the basics of international finance and methods for economic analysis. The students will acquire necessary knowledge and skills through a process of reading and understanding textbooks, practicing by solving problems, handling data in Excel, and doing research.

The students are assigned to several groups and every week some of the groups are required to make presentations on given topics in the textbooks. The students are thus expected to prepare for presentations, when assigned, before the class.

Grading criteria: Grading is based on the students' presentations, discussion, and final report performance with weights being 40%, 20% and 40%, respectively.

ECN218CA
演習
池上 宗信
開講時期：年間授業/Yearly 単位：8 単位
4 年次は授業コード「K7141」を履修登録すること。

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

研究として、受講者各自が興味のある開発ミクロ経済学のトピックについて学ぶ。

キャパシティブルディングとして、開発ミクロ経済学、論文の書き方、プレゼンテーション、データ分析を学ぶ。

データ分析では、経済学の各分野で頻出する、回帰分析、ランダム化比較試験、操作変数法などの実証分析の手法を学ぶ。

各手法の概要を理解し、各手法を用いてデータを分析することで、論文のアイデア探しに活用する。

【到達目標】

本講義の目標は、各自が目標をたて、文献を読み、データを分析し、学んだことをスライド、ノート、論文にまとめ、口頭発表でできるようになること。

データ分析における 1 つ目の目標は、各自の研究分野で、この講義で学んだ各実証分析手法を用いた論文が出てきたときに、手法がわからないことが原因でつまづかないようになること。

2 つ目の目標は、各実証分析手法を考慮しながら、各自の論文の間、アイデアを探ることができるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP8」「DP9」「DP10」「DP11」に関連。国際経済学科は「DP9」「DP10」「DP11」に関連。

【授業の進め方と方法】

研究として、各自が興味のある開発ミクロ経済学のトピックを選択し、中間発表をしつつ、論文を作成、発表、提出する。

研究の過程において、論文計画書、論文中間報告書、論文草稿を提出し、担当教員、他のゼミ生からのフィードバックとして質問・コメントをもらう。また、他の学生の文書について質問・コメントを提出する。

また、キャパシティブルディングとして開発ミクロ経済学、論文の書き方、プレゼンテーション、データ分析について、輪読、演習しながら学ぶ。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	データの扱い方	R の使い方、データの読み込み、加工
2	統計の基礎知識	母集団と標本、無作為抽出
3	確率論の基礎	確率変数、期待値、条件付き期待値、中心極限定理
4	中間発表 1	論文テーマの中間発表 1。
5	回帰分析の基礎	最小二乗法
6	推測統計の基礎	仮説検定、信頼区間
7	まとめと解説、中間試験	第 1 回から第 6 回までの内容を復習。中間試験。
8	中間発表 2	論文計画書の提出。論文テーマの中間発表 2。
9	相関関係と因果関係	相関関係と因果関係
10	外生変数と内生変数	外生変数と内生変数
11	ランダム化比較試験	選択性バイアス
12	操作変数法	2 段階最小二乗法

13	中間発表 3	論文中間報告書の提出。論文テーマの中間発表 3。
14	まとめと解説、期末試験	第 9 回から第 13 回までの内容を復習。期末試験。
15	固定効果	パネルデータ
16	差の差の分析	並行トレンドの仮定
17	不連続回帰デザイン	連続性条件
18	中間発表 4	論文テーマの中間発表 4。
19	マッチング	条件付独立性、オーバーラップ条件
20	貧困と不平等、零細自営業者や小農の経済学	不平等の貧困に与える影響。
21	まとめと解説、中間試験	第 15 回から第 20 回までの内容を復習。中間試験
22	中間発表 5	論文草稿の提出。論文テーマの中間発表 5。
23	貧困の罨、貯蓄	信用制約
24	金銭供与、マイクロクレジット	仕組みと貧困削減効果。
25	共同体、マイクロ保険	理論と実証研究の結果。
26	投資産供与、術供与、卒業プログラム	金銭供与との比較。
27	まとめと解説、期末試験	第 22 回から第 26 回までの内容を復習。期末試験。
28	最終発表	論文の提出。論文テーマの最終発表。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

キャパシティブルディングのための輪読・演習では、発表・演習担当者だけでなく、受講者全員が、予習として事前に内容を読み、質問、議論したいことを事前にまとめてから授業に参加する。授業時間内に各自の研究を発表し、他の学生、教員からコメントをもらう。

授業時間外に各自の研究を進める。

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は事前に指定しませんが、星野・田中（2016）の予定です。

【参考書】

- アビジット・V・バナジー、エステル・デュフロ（2012）『貧乏人の経済学』みすず書房

- 今井耕介（2018）『社会科学のためのデータ分析入門 上・下』岩波書店

- 田中隆一（2015）『計量経済学の第一歩：実証分析のススメ』有斐閣

- 星野匡郎、田中久稔（2016）『Rによる実証分析 回帰分析から因果分析へ』オーム社

【成績評価の方法と基準】

キャパシティブルディングのための発表、演習、討論 50%。各自の研究論文、発表 50%。

【学生の意見等からの気づき】

2018-2022 年度において、キャパシティブルディングの多くの時間をデータ分析に使いました。データ分析を学ぶための主な参考書は、2019 年度は今井（2018）、2020-2021 年度は星野・田中（2016）、2022 年度は田中（2015）でした。

【Outline (in English)】

- Course outline

Each of us will also study and write a research paper on a question in Development Microeconomics.

We will study Development Microeconomics, how to write a research paper, make a presentation, analyze data as our capacity development.

We will study econometrics methods such as regression, randomized controlled trial, and instrument variable method, which appear frequently in each field of Applied Microeconomics.

We will aim to understand each method roughly and apply each method to data so that we will become able to look for paper ideas with keeping each empirical method in our mind.

- Learning Objectives

Each of us will become able to set a goal, read papers, analyze data, make slides, notes, and a paper, and present the paper based on what we learn.

We will learn methods of data analysis so that we can understand previous studies using the methods and we can look for a research idea and research question keeping the methods in our mind.

- Learning activities outside of classroom

We will read a document in advance.

One of us will make slides in advance so that we can discuss contents of the document and slides in class.

The standard time for preparation and review for this class is 2 hours each.

- Grading Criteria, Policies

Grading will be decided based on presentation, problem sets, discussion for capacity building (50%) and presentation, paper, discussion for research (50%).

ECN218CA
演習
ROBERT D STROUD
開講時期：年間授業/Yearly 単位：8 単位
4 年次は授業コード「K7142」を履修登録すること。

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

The purpose of the seminar is to improve the presentation, leadership, management, problem-solving, and critical thinking skills of students through group projects to become effective leaders, managers, and team members in society.

【到達目標】

Students will analyze project management and leadership skills, as well as apply those skills to their own communication and actions.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP8」「DP9」「DP10」「DP11」に関連。国際経済学科は「DP9」「DP10」「DP11」に関連。

【授業の進め方と方法】

For 2nd and 3rd year students:

Students will discuss and practice different methods of leading and managing teams of their own, and report on discoveries about themselves. This will then be applied to real team projects within the course, with self and peer-reflection activities to follow. Feedback on course assignments will primarily be given through classroom discussions in-person and on Google Classroom.

For 4th year students:

A graduation thesis will be written in English across the spring and fall semesters. Students will undertake homework assignments related to research and writing the thesis and meet online/face-to-face with the teacher 5-7 times during each semester to present their work and get feedback on their progress via Google Classroom. 4th year students are not required to attend seminar classes with 2nd and 3rd year students if they do not wish to.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Seminar introductions / semester outline (subject to change)	- Self-Introductions/Ice Breakers - Seminar outline
2	Kokusai project work / PML project work / Debates	- Introduction to class projects - Classroom discussion/debates on various topics
3	Kokusai project work / PML project work / Debates	- Group projects: team forming and topic discussions - Classroom discussion/debates on various topics
4	Kokusai project work / PML project work / Debates	- Group projects: team role settings - Classroom discussion/debates on various topics
5	Kokusai project work / PML project work / Debates	- Group projects: brainstorming topics - Classroom discussion/debates on various topics
6	Kokusai project work / PML project work / Debates	- Group projects: decide on topic and individual research - Classroom discussion/debates on various topics
7	Kokusai project work / PML project work / Debates	- Group projects: share research - Classroom discussion/debates on various topics
8	Kokusai project work / PML project work / Debates	- Group projects: outline of final presentation - Classroom discussion/debates on various topics
9	Kokusai project work / PML project work / Debates	- Group projects: organize ideas for presentation/distribute speaker sections - Classroom discussion/debates on various topics

10	Kokusai project work / PML project work / Debates	- Group projects: practice presentation - Classroom discussion/debates on various topics
11	Kokusai project work / PML project work / Debates	- Group projects: practice presentation/feedback - Classroom discussion/debates on various topics
12	Final presentations	- Students give their final presentations
13	Final presentations	- Students give their final presentations - Student discussions on final presentations
14	Zemi meeting and discussions	- Students' self-reflection - Students discuss how to improve the zemi in a formal meeting
15	Seminar introductions / layout	- Students are introduced to the coming semester
16	Personal research projects / Debates	- Introduction to class projects - Classroom discussion/debates on various topics
17	Personal research projects / Debates	- Group projects: team forming and topic discussions - Classroom discussion/debates on various topics
18	Personal research projects / Debates	- Group projects: team role settings - Classroom discussion/debates on various topics
19	Personal research projects / Debates	- Group projects: brainstorming topics - Classroom discussion/debates on various topics
20	Personal research projects / Debates	- Group projects: decide on topic and individual research - Classroom discussion/debates on various topics
21	Personal research projects / Debates	- Group projects: share research - Classroom discussion/debates on various topics
22	Personal research projects / Debates	- Group projects: outline of final presentation - Classroom discussion/debates on various topics
23	PML camp preparation	- Group projects: organize ideas for presentation/distribute speaker sections - Classroom discussion/debates on various topics
24	PML camp preparation	- Group projects: practice presentation - Classroom discussion/debates on various topics
25	PML camp preparation	- Group projects: practice presentation/feedback - Classroom discussion/debates on various topics
26	Final presentations	- Students give their final presentations
27	Final presentations	- Students give their final presentations - Student discussions on final presentation
28	Final meeting and changes for next year	- Students' self-reflection - Students discuss how to improve the zemi in a formal meeting

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Weekly online homework (1-2 hours) to complete project work. このクラスの準備と復習の標準合計時間は、毎週 1-2 時間分です。

【テキスト（教科書）】

No textbooks - all materials will be provided.

【参考書】

N/A

【成績評価の方法と基準】

For 2nd and 3rd year students:

Project work, possible field trips, and presentations - 70%
Classroom/Homework assignments and participation - 30%

For 4th year students:

Graduation thesis (written in English) - 100%

(not required, but available for 3rd year students who apply and are successful)

【学生の意見等からの気づき】

Surveys given to the students will be used to make adjustments for the course in the future.

【学生が準備すべき機器他】

- Notebook and pens

- Laptop computer/tablet (if available)

If the course is conducted online, a laptop computer or tablet is highly recommended. Although the course is entirely accessible via smartphone, students may find difficulties accessing multiple platforms during online class if joining the class with a smartphone.

【その他の重要事項】

none

【Outline (in English)】

Students will undertake various projects in teams to improve their collaboration skills and ability to plan projects.

ECN218CA
演習
西澤 栄一郎
開講時期：年間授業/Yearly 単位：8 単位
4 年次は授業コード「K7143」を履修登録すること。

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

フィールドワークを柱とする環境問題の調査とその解決策の提案

【到達目標】

- ①現地調査の方法を身につける。
- ②地域の人々に対して貢献する。
- ③活動内容を報告書にまとめ、現地で報告する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP8」「DP9」「DP10」「DP11」に関連。国際経済学科は「DP9」「DP10」「DP11」に関連。

【授業の進め方と方法】

このゼミは、8月にフィールドワーク（現地調査）を行うことを特徴としています。ある地域を選び、その地域のまちづくりと環境に関わることを調べ、提言をまとめます。調査を通して参加者がその地域について理解を深めるだけでなく、その地域の人々に対して貢献することを目指しています。経済学部のゼミなので、調査にあたっては、環境問題の経済的な側面や、環境と経済との関わりについて重視できればと考えています。

COVID-19の影響で実際に現地を訪問できない場合は、オンラインで対象地域の人から聞き取りをするなど、代替策を講じます。なお、課題等の提出・フィードバックは主として授業中に行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	対象地とテーマの検討	各自の提案について議論する
2	対象地とテーマの決定	提案の中から一つに絞る
3	関連文献の収集	テーマに関する文献を調べる
4	関連文献の講読①	テーマに関する文献を全員で読む
5	関連文献の講読②	内容について議論する
6	関連文献の講読③	対象地域に関する文献を読む
7	関連文献の講読④	対象地域に関する理解を深める
8	現地調査の課題設定	具体的な調査課題を決める
9	現地調査内容の検討	訪問先と調査内容を決める
10	現地日程の検討	具体的なスケジュールを決める
11	現地調査の仮説設定	文献などから仮説を立てる
12	事前調査のまとめ	理解したことを文章にまとめる
13	調査項目の確定	調査票を作成する
14	報告書の構成の検討	事前学習の知見も盛り込む
15	報告書案の検討①	原稿を持ち寄って議論する
16	報告書案の検討②	修正したものをさらに検討する
17	報告書の結論の検討	結論について議論する
18	発表会準備①	パワーポイントを作成する
19	発表会準備②	発表の練習をする
20	報告書の最終調整①	書式を統一する
21	報告書の最終調整②	原稿を完成させる
22	今年の現地調査の反省	反省点を来年の調査に活かす
23	卒業論文の中間報告	4年生の報告について議論する
24	環境問題の文献講読	幅広い知識を得る
25	来年の方針の検討	来年の調査に向けて準備する
26	調査方法の文献講読	アンケートの方法を学ぶ
27	論文の書き方講座	図書館でガイダンスを受ける
28	卒業論文の報告	4年生の最終報告を議論する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

現地調査の準備や報告書の作成はさまざまな作業を伴います。それらの作業は適宜行って下さい。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは適宜決めて読んでいきます。

【参考書】

現地調査の基本文献として、2冊挙げます。

- ①轟亮・杉野勇編(2021)『入門・社会調査法〔第4版〕』法律文化社
- ②滋賀県立大学環境フィールドワーク研究会編(2015)『フィールドワーク心得帖〔新版〕』サンライズ出版

【成績評価の方法と基準】

平常点（50%）と課題（50%）で評価します。4年生は卒業論文を主に評価対象とします。

【学生の意見等からの気づき】

アンケートの回答がなかったため、該当なし

【Outline (in English)】

The aim of this seminar is to help students conduct fieldwork and make a proposal on the environmental and resource issues. The goals of this course are to acquire methods of field work, to make a report and a presentation on their activities, and to contribute the community where they visit for the fieldwork. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to conduct assignment and make reports. Grading will be based on Term-end thesis(50%) and in-class contribution(50%).

ECN218CA
演習
新田 誠吾
開講時期：年間授業/Yearly 単位：8 単位
4 年次は授業コード「K7144」を履修登録すること。

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この演習では、二つのテーマがあります。一つは、小説、劇、マンガ、アニメ、映画といった作品を分析、考察します。もう一つは、社会で起きている事象を分析することで、私たちが生きる世界への理解を深めます。演習と並行して、各自が設定したテーマについて、論文にまとめ、発表を行います。

【到達目標】

1. 物語について理解し、分析できる。
2. 現代日本の社会現象、課題について考察できる。
3. ファシリテーターとして、有益な議論を導くことができる。
4. 自分の考えを論理的にまとめることができる。
5. 自分の考えを表現でき、他人に伝えることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP8」「DP9」「DP10」「DP11」に関連。国際経済学科は「DP9」「DP10」「DP11」に関連。

【授業の進め方と方法】

原則、対面で授業を行います。専門書の講読、資料検索、グループ研究、発表、ディベート、論文作成を行います。提出された課題やリアクションペーパー（授業の感想等）については、次の授業でフィードバックを行います。必要な情報はメンバー全員で共有します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	自分のことをゼミのメンバーに伝える	演習の進め方とゼミ生の自己紹介（春休み課題）
2	私たちの世界は物語で溢れている。	小説を読む
3	200 字作文 (1) 何がドラマになるのか	小説を分析する
4	200 字作文 (2) マンガの技法 (1)	登場人物の設定
5	200 字作文 (3) マンガの技法 (2)	作品の世界観とは
6	200 字作文 (4) ファシリテーションとは何か 第 1 回コンテンツ報告会	みんなの意見を引き出すファシリテーターとは？
7	論文の書き方 (1)	テーマとは「問い」である。
8	論文の書き方 (2) 図書館ガイダンス	資料検索 図書館ガイダンスは、日程が前後することあり。
9	論文の書き方 (3)	パラグラフ・ライティング
10	論文の書き方 (4)	引用の仕方
11	論文の書き方 (5) 第 2 回コンテンツ報告会	注、参考文献の書き方
12	グループ論文中間報告 進級論文中間報告	2, 3 年生による報告
13	グループ論文中間報告 進級論文中間報告	2, 3 年生による報告

14	グループ論文中間報告 進級論文中間報告 ふりかえり	2, 3 年生による報告
15	作品鑑賞 第 3 回コンテンツ報告会	映像作品を観る
16	グループ研究発表 (1)	2 年生の発表
17	グループ研究発表 (2)	2 年生の発表
18	物語の技法 (1) 3 年生の研究発表	小説の輪読
19	物語の技法 (2) 3 年生の研究発表	小説の輪読
20	物語の技法 (3) 3 年生の研究発表 卒業論文指導	小説の輪読
21	物語の技法 (4) 3 年生の研究発表	小説の輪読
22	新ゼミ生の選考	選考面接
23	3 年生の研究発表 (1) 卒業論文指導	発表と質疑応答
24	3 年生の研究発表 (2) 第 4 回コンテンツ報告会	発表と質疑応答
25	3 年生の研究発表 (3) 卒業論文指導	発表と質疑応答
26	3 年生の研究発表 (4) 卒業論文指導	発表と質疑応答
27	3 年生の研究発表 (5)	発表と質疑応答
28	ふりかえり	ゼミの総括と来年度に向けた企画

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

課題、発表、論文作成にきちんとした準備が必要です。そのため週に 4 時間程度必要です。

【テキスト（教科書）】

新田誠吾 (2019). はじめてでも、ふたたびでも、これならできる！ レポート・論文のまとめ方. すばる舎.

【参考書】

参考書については、授業で指示します。

【成績評価の方法と基準】

2, 3 年生は、平常点 40 %、論文 40 %、発表 20 % で、合計 60 % 以上で単位を認定します。ただし翌年度のゼミ履修には 70 % 以上必要です。なお、正当な理由なくゼミを 5 回以上欠席した場合は、単位は認定しません。

4 年生は卒業論文について、①テーマ選定、②資料検索とアウトライン作成、③第 1 次原稿、④完成稿の卒論指導を受ける必要があります。

【学生の意見等からの気づき】

昨年度、学生から高い評価を受けました。今後も論文指導や発表に力を入れていきます。

【Outline (in English)】

【Course outline】 There are two themes in this exercise. One is to analyze and discuss works such as novels, plays, cartoons, animations, and movies. The second is to deepen our understanding of the world in which we live by analyzing events occurring in society. In parallel with the exercises, each student will write a paper on a theme of his/her own choice and present it.

【Learning Objectives】 The goals of the course are to

1. be able to understand and analyze stories
2. be able to consider social phenomena and issues in contemporary Japan
3. be able to lead useful discussions as a facilitator
4. be able to summarize one's thoughts logically
5. be able to express one's thoughts and communicate them to others.

【Learning activities outside of classroom】 Four hours per week are required for assignments, presentations, and thesis work.

【Grading Criteria /Policy】

For 2nd and 3rd year students, credit will be granted for a total of 60% or more, consisting of 40% for regular marks, 40% for papers, and 20% for presentations. However, a minimum of 70% is required to enroll in the seminar in the following year. If a student misses 5 or more seminars without a valid reason, no credits will be granted.

Fourth-year students are required to take the following graduation thesis instructions: (1) theme selection, (2) material search and outline preparation, (3) first draft, and (4) completed draft.

ECN218CA
演習
明城 聡
開講時期：年間授業/Yearly 単位：8 単位
4 年次は授業コード「K7145」を履修登録すること。

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

市場調査と統計学を利用した経済データ分析

【到達目標】

本演習では、受講生それぞれが独自に選んだ課題テーマについて調査するとともに客観的な視点で経済分析することを目標とします。各自が関心のある特定の財市場や経済制度、あるいは経済政策などを研究テーマに選び、それについて調査をすすめるとともにミクロ経済学や統計学の知識を応用して分析を行うものとします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP8」「DP9」「DP10」「DP11」に関連。国際経済学科は「DP9」「DP10」「DP11」に関連。

【授業の進め方と方法】

2 年生は主に統計学と計量経済学のテキストを使って勉強を行います。これは個別の課題テーマを調べる際に必要な知識を身につけるための演習です。

3 年生は個別のテーマについて調査分析を行って論文を執筆します。調査方法や分析手法などについて担当教員と相談したり、他の受講生と協力して作業を進めるための作業が主な内容になります。

そして秋の懸賞論文や研究報告大会などで研究成果を発表します。

4 年生は卒論を書きたい人のみ履修となります。必要に応じて論文指導します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	・シラバスの配布 ・演習概要の説明 ・その他、連絡事項
2	課題テーマの抽出 (1)	・テキストを使った学習 ・課題テーマの選定と調査方法の相談
3	課題テーマの抽出 (2)	・テキストを使った学習 ・課題テーマの選定と調査方法の相談
4	課題テーマの抽出 (3)	・テキストを使った学習 ・課題テーマの選定と調査方法の相談
5	課題テーマの抽出 (4)	・テキストを使った学習 ・課題テーマの選定と調査方法の相談
6	課題テーマの調査と分析 (1)	・テキストを使った学習 ・課題テーマについて個別相談 ・調査および分析
7	課題テーマの調査と分析 (2)	・テキストを使った学習 ・課題テーマについて個別相談 ・調査および分析
8	課題テーマの調査と分析 (3)	・テキストを使った学習 ・課題テーマについて個別相談 ・調査および分析
9	課題テーマの調査と分析 (4)	・テキストを使った学習 ・課題テーマについて個別相談 ・調査および分析

10	課題テーマの調査と分析 (5)	・テキストを使った学習 ・課題テーマについて個別相談 ・調査および分析
11	課題テーマの調査と分析 (6)	・テキストを使った学習 ・課題テーマについて個別相談 ・調査および分析
12	課題テーマの調査と分析 (7)	・テキストを使った学習 ・課題テーマについて個別相談 ・調査および分析
13	課題テーマの調査と分析 (8)	・テキストを使った学習 ・課題テーマについて個別相談 ・調査および分析
14	課題テーマの調査と分析 (9)	・テキストを使った学習 ・課題テーマについて個別相談 ・調査および分析
15	課題テーマの調査と分析 (10)	・テキストを使った学習 ・課題テーマについて個別相談 ・調査および分析
16	課題テーマの調査と分析 (11)	・テキストを使った学習 ・個別調査の途中経過の確認および相談 ・調査および分析
17	課題テーマの調査と分析 (12)	・テキストを使った学習 ・個別調査の途中経過の確認および相談 ・調査および分析
18	課題テーマの調査と分析 (13)	・テキストを使った学習 ・個別調査の途中経過の確認および相談 ・調査および分析
19	課題テーマの調査と分析 (14)	・テキストを使った学習 ・課題テーマについて個別相談 ・調査および分析
20	課題テーマの調査と分析 (15)	・テキストを使った学習 ・課題テーマについて個別相談 ・調査および分析
21	課題テーマの調査と分析 (16)	・テキストを使った学習 ・課題テーマについて個別相談 ・調査および分析
22	課題テーマの調査と分析 (17)	・テキストを使った学習 ・課題テーマについて個別相談 ・調査および分析
23	課題テーマの調査と分析 (18)	・テキストを使った学習 ・課題テーマについて個別相談 ・調査および分析
24	課題テーマの調査と分析 (19)	・テキストを使った学習 ・課題テーマについて個別相談 ・調査および分析
25	課題テーマの調査と分析 (20)	・テキストを使った学習 ・課題テーマについて個別相談 ・調査および分析
26	課題テーマの調査と分析 (21)	・テキストを使った学習 ・課題テーマについて個別相談 ・調査および分析
27	課題テーマの調査結果の報告 (1)	・調査結果の報告
28	課題テーマの調査結果の報告 (2)	・調査結果の報告

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

自分が関心のあるテーマを選べるように日頃から新聞やニュース等に目をとおすようにして下さい。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

演習の第 1 回の時点で連絡します。

【参考書】

演習の第 1 回の時点で連絡します。

【成績評価の方法と基準】

2・3 年生は
・学習時間における準備や発言 (30%)

- ・個別テーマの調査や報告内容 (70%)
などに応じて成績をつけます。
- 4年生は卒論の評価で成績をつけます (100%)

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

データ分析に PC が必要なので、各自ノート PC を利用できるようにしておいてください。

【その他の重要事項】

受講生の理解度や要望などによって内容を変更する場合があります。

【Outline (in English)】

Outline: In this seminar, students are required to investigate a specific market, economic system and/or economic policy, and then study it by conducting a statistical data analysis.

Learning activities: It is necessary to write a research thesis based on the economic data analysis in 3rd year. Extra - curriculum activities for homework assignment and/or research studies require at least 2-4 hours every week.

Grading: 2nd, 3rd year student: attendance/learning attitude(30%), thesis(70%); 4th year student: thesis(100%)

ECN218CA
演習
朴 宗玄
開講時期：年間授業/Yearly 単位：8 単位
4 年次は授業コード「K7146」を履修登録すること。

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

このゼミでは、日本と韓国を含む世界諸地域に関する幅広いテーマを取り上げ、地理学の視点から「社会」「文化」「地域」の特徴を研究する。本ゼミでは、おもに次の三つを柱に、地域の見方、調べ方、読み方を学習する。まず「地域」「地理学」の視点から、個々の関心を持つ地域とテーマを決め、それに関する先行研究をサーベイする。サーベイした先行研究をまとめて発表することで、論文の書き方とプレゼンテーションの方法を身につける。次に地域と個々のテーマに関する統計資料を調べる。どのような統計資料が存在し、それをどのように活用するのかを調べる。先行研究などを参考にして、どのような分析方法で統計データを扱うのか分析方法論を学習する。そして最後にフィールドワーク（地域調査）を実施する。

【到達目標】

授業の到達目標は、様々な側面から地域・都市を理解することである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP8」「DP9」「DP10」「DP11」に関連。国際経済学科は「DP9」「DP10」「DP11」に関連。

【授業の進め方と方法】

演習では、①統計処理、②先行研究のレビュー、③フィールドワーク、④発表、4つを柱で学習する。春学期では、地理学関連の先行研究のレビューや日本をはじめ世界各国の統計を扱い、地域の特徴を学習する。秋学期では、フィールドワークと発表を中心に、地理学の方法論を学習する。さらに、春学期・秋学期ともに、新宿区新大久保駅周辺のコリアンタウン地域に対する定期的なフィールドワークを行う。フィードバックは、発表やレジュメなどへ改善点、コメントなどを個別指導によって行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	先行研究のレビュー 1	人文地理学関連の先行研究論文の：人文地理学全般 調べ方、まとめ方を学習する。
2	先行研究のレビュー 2	経済地理学関連の先行研究論文の：経済地理学 調べ方、まとめ方を学習する。
3	先行研究のレビュー 3	都市地理学関連の先行研究論文の：都市地理学 調べ方、まとめ方を学習する。
4	先行研究のレビュー 4	商業地理学関連の先行研究論文の：商業地理学 調べ方、まとめ方を学習する。
5	先行研究のレビュー 5	企業地理学関連の先行研究論文の：企業地理学 調べ方、まとめ方を学習する。
6	統計処理方法論 1-基礎	統計の基礎を使い、地理学関連の様々な統計を扱い、地域分析を行う。
7	統計処理方法論 2-特化係数	特化係数を使う、地理学関連の様々な統計を扱い、地域分析を行う。
8	統計処理方法論 3-多変量解析基本	多変量解析の方法を理解し、地理学関連の様々な統計を扱い、地域分析を行う。

9	統計処理方法論 4-多変量解析応用	多変量解析を地理学でどのように応用しているのかを学習する。地理学関連の様々な統計を扱い、地域分析を行う。
10	統計処理方法論 5-多変量解析解釈	多変量解析の結果を用いて、解釈方法を学習する。地理学関連の様々な統計を扱い、地域分析を行う。
11	統計処理解釈論 1	国勢調査統計の扱い方を学習する。
12	統計処理解析論 2	政府機関発行の統計を扱い、地域分析・解釈を行う。
13	統計処理解析論 3	民間機関発行の統計を扱い、地域分析・解釈を行う。
14	まとめ	地域分析全般をまとめる。
15	フィールド調査方法の学習と準備 1-先行研究	先行研究から、フィールド調査に備え、調査方法を習得し、準備を行う。
16	フィールド調査方法の学習と準備 2-海外調査	先行研究から、海外調査事例を学習し、フィールド調査に備え、調査方法を習得し、準備を行う。
17	フィールド調査方法の学習と準備 3-国内調査	先行研究から、国内調査事例を学習し、フィールド調査に備え、調査方法を習得し、準備を行う。
18	フィールド調査方法の学習と準備 4-グループ調査	先行研究から、国内調査事例を学習し、フィールド調査に備え、調査方法を習得し、準備を行う。
19	フィールドワーク 1：一回目の調査	東京を事例に、第一回目の現地調査を行う。
20	結果解釈とプレゼンテーション 1：一回目の調査	第一回目の現地調査のデータをまとめ、発表する。
21	フィールドワーク 2：二回目の調査	東京を事例に、第二回目の現地調査を行う。
22	結果解釈とプレゼンテーション 2：二回目の調査	第二回目の現地調査のデータをまとめ、発表する。
23	フィールドワーク 3：三回目の調査	東京を事例に、第三回目の現地調査を行う。
24	結果解釈とプレゼンテーション 3：三回目の調査結果	第三回目の現地調査のデータをまとめ、発表する。
25	報告書作成 1-まとめ方	調査した地域の調査結果を分析する方法を学習する。
26	報告書作成 2-報告書作成方法	調査した地域の調査結果をまとめ、報告書作成方法を学習する。
27	報告書作成 3-グループワーク	調査した地域の調査結果をまとめ、報告書にまとめ、グループワーク方法を学習する。
28	まとめ	ゼミで学んだ内容をまとめる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

統計データの処理、先行研究の検索などを事前に行う。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは指定しないが、個別の文献は授業中で指示する。

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

発表の内容や授業中の質問・意見等の受講態度、レポートの添削結果や課題演習の結果などから総合的に評価する（100%）。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline (in English)】

The goal of the seminar is to promote students to develop geographical thinking as well as academic writing, researching and analytical skills, based on reading geographical articles, analyzing statistical data and presenting research findings.

Students are encouraged to prepare outside class some group presentations. Preparatory study and review time for this class are 6 hours per week.

Grades will be distributed according to the following weights:

Class participation 25%

Presentations: 50%

Seminar activities: 25%

ECN218CA
演習
橋本 到
開講時期：年間授業/Yearly 単位：8 単位
4 年次は授業コード「K7147」を履修登録すること。

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

- 1) 自主的な学習によって、フランスの現代やその礎となる文明・文化について理解を深め、物事を深く考える力を養う。
- 2) 「日本」や身の回りの問題を見直し、提言を発信する能力を身につける。各回の授業形態については未定としていますが、詳細は学習支援システムを通じてお知らせをします。

【到達目標】

- 1) 文化的・学術的な議論ができるようになる。
- 2) 情報検索・収集・整理を持続的・効率的に行えるようになる。
- 3) 物事を幅広く柔軟に考え、適切に分析・洞察できるようになる。それらを発信できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP8」「DP9」「DP10」「DP11」に関連。国際経済学科は「DP9」「DP10」「DP11」に関連。

【授業の進め方と方法】

輪読発表、グループ研究、個人研究、レクチャーを組み合わせます。輪読発表、グループ発表とも年度初頭の計画に基づき行いが、その準備が各自の課題になる。それぞれの発表はその場で相互評価の方法も取り入れ、改善点など指摘し、あわせて、授業外でも個人研究を進められるよう面談を行い一人一人の捗状況に合わせた指導も行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ゼミの場を作る。ゼミの進め方の確認など。	自己紹介、ガイダンス、グループ決めの確認、輪読アナウンス 1 班、毎回報告 1
第 2 回	興味を広げる、フランスについて知る。グループ内で発想を出し合う。	輪読（アナウンス 2 班+発表 1 班）、レクチャー 1、毎回報告 2、グループ研究 1
第 3 回	興味を広げる。論文の書かれ方について知る。グループで作業分担などを決める。	輪読（アナウンス 3 班+発表 2 班）、論文講読 1、毎回報告 3、グループ研究 2
第 4 回	興味を広げる。グループでリサーチする（1）。	輪読（アナウンス 4 班+発表 3 班）、グループ研究 3、毎回報告 4
第 5 回	興味を広げる。プレゼンについて考える。グループでリサーチする（2）。	輪読（アナウンス 5 班+発表 4 班）、毎回報告 5、グループ研究 4
第 6 回	興味を広げる、フランスについて知る。	輪読（アナウンス 6 班+発表 5 班）、論文講読 2、毎回報告 6
第 7 回	興味を広げる、フランスについて知る。	輪読（アナウンス 1 班+発表 6 班）、レクチャー 2、毎回報告 7
第 8 回	興味を広げる、フランスについて知る。グループでリサーチする（3）。	輪読（アナウンス 2 班+発表 1 班）、毎回報告 8、グループ研究 5
第 9 回	興味を広げる、フランスについて知る。	輪読（アナウンス 3 班+発表 2 班）、レクチャー 3、毎回報告 9
第 10 回	フランスについて知る。グループでリサーチする（4）。	輪読（アナウンス 4 班+発表 3 班）、レクチャー 4、グループ研究 6
第 11 回	探求した内容を発表する（1）。	輪読（発表 5 班）、3 年次発表 1

第 12 回	探求した内容を発表する（2）。	3 年次発表 2、4 年次発表 1
第 13 回	興味を広げる、探求した内容を発表する（3）。	4 年次発表 2、毎回報告 10
第 14 回	興味を広げる、グループ研究の途中経過を完成に近づける（1）。	毎回報告 11、グループ研究・第 1 回プレゼン・リハーサル
第 15 回	フランスについて知る、グループ研究を完成させる 1	ガイダンス、レクチャー 5、輪読（アナウンス 1 班）、グループ研究発表（1 班～5 班）
第 16 回	フランスについて知る、卒論にむけた準備（4 年）1	輪読（アナウンス 2 班+発表 1 班）、毎回報告 12、4 年次卒論中間発表 1 年）1
第 17 回	グループ研究を完成させる 2	輪読（アナウンス 3 班+発表 2 班）、毎回報告 13、グループ研究 7
第 18 回	卒論にむけた準備（4 年）2、グループ研究を完成させる 3	輪読（アナウンス 4 班+発表 3 班）、4 年次卒論中間発表 2、毎回報告 14、グループ研究 8
第 19 回	卒論にむけた準備（4 年）3、グループ研究を完成させる 3	輪読（アナウンス 5 班+発表 4 班）3、グループ研究発表 3
第 20 回	興味を広げる、フランスについて知る、グループ研究を完成させる 4	輪読（アナウンス 1 班+発表 5 班）、レクチャー 6、毎回報告 16、グループ研究 9（発表先発組・オープンゼミ）
第 21 回	学年末に向けたまとめの準備 1、グループ研究を完成させる 5	輪読（アナウンス 2 班+発表 1 班）、毎回報告 17、グループ研究 10（発表後発組・オープンゼミ）、1 次応募選考
第 22 回	学年末に向けたまとめの準備 2	輪読（アナウンス 3 班+発表 2 班）、3 年次発表 1、毎回報告 18
第 23 回	学年末に向けたまとめの準備 3	輪読（アナウンス 4 班+発表 3 班）、3 年次発表 2、毎回報告 19
第 24 回	興味を広げる、フランスについて知る。学年末に向けたまとめの準備 4	輪読（アナウンス 5 班+発表 4 班）、3 年次発表 4、毎回報告 20
第 25 回	面接の挙措などの学び——次年度の入ゼミ生を面接する	2018 年度、2 次応募者選考作業
第 26 回	集めた情報を論文として構成する（2 年）1。	輪読（発表 5）、レクチャー 7、毎回発表 21、2 年次発表 1。
第 27 回	集めた情報を論文としてまとめる（2 年）2	2 年次発表 2
第 28 回	映像を通してフランスを知る。	毎回報告 22、フランス映画視聴。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

親睦行事、グループ作成における自主的なサブゼミ、合宿などが、必要に応じて行われます。また、卒業論文作成のための継続的な作業を行います。授業時間外の準備には標準的に 4 時間をかけてください。

【テキスト（教科書）】

授業で指示します。輪読で使うテキストは、ゼミ生が班ごとに選書し、教員の了承を得たものとします。

【参考書】

授業内で適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

- 一) 個人研究の第二回発表と進級（学年末）論文 65 %
 - 二) 平常点 35 %（毎回報告・輪読など各種発表 20 % ゼミにおける討論への参加度・コメント執筆 10 % ゼミへの貢献 5 %）
- ※ 4 年生については、卒論 100 % とする。

【学生の意見等からの気づき】

22 年度は、輪読ディスカッション後に課題となっているコメントの執筆を嫌うゼミ生が見受けられました。考え、書く練習なので、嫌いだからやらないということがないようがんばってもらいたい。

【学生が準備すべき機器他】

個人でパソコンやタブレット端末が持ち込める人は、ゼミの時間内に活用してもらいたい。

【その他の重要事項】

ゼミの場が活性化されるかどうかは、ゼミ生の自発的な活動にかかっています。ゼミという場を考えて、適切に行動し、ゼミを盛り上げてもらいたいと思います。ゼミ内の連絡事項は、グループウェアである LINEBAND を通じて行います。また、ゼミからの連絡には目を通し、必ず返事をする

【Outline (in English)】

The aim of this course is to deepen the understanding of modern France and to develop different capacities (discussion, suggestions, dissemination) for different issues.

The objective of this class is to cultivate the ability to think and present ideas, and to submit a graduation thesis accordingly.

— Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be about 4 hours for a class.

— Your overall grade in the class will be decided based on the following.

Mid-term report+term-end report (65%), Usual performance score (35 %) ※ Grades of 4th grade are evaluated only by the graduation thesis (100 %)

ECN218CA
演習
馬場 敏幸
開講時期：年間授業/Yearly 単位：8 単位
4 年次は授業コード「K7148」を履修登録すること。

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

社会では、課題に対し、自分で情報を集め、アイデアを生み出し、まとめ、表現する能力が必要となります。その際チーム行動を取れることも重要です。本ゼミでは、主体的にそれらを行えることを目指し、実践訓練を通じ学びます。

先生の研究テーマはアジア経済、開発経済論、科学技術論などですが、ゼミでは学生の自主性を尊び、様々なテーマを取り扱うことが可能です。

【到達目標】

各自が自らで考え、企画し、調べ、まとめ、発表する。そうした一連のプロジェクトの流れを体得し、リーダーとして引っ張っていきけるようになって欲しい。また、一歩踏み出す勇気を手にして欲しい。こうしたグループワーク、研究実行、発表までを各人が主体的に行うことができるようになることを到達目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP8」「DP9」「DP10」「DP11」に関連。国際経済学科は「DP9」「DP10」「DP11」に関連。

【授業の進め方と方法】

コロナの状況を鑑みつつもできるだけ対面講義の授業進行を考えています。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	基礎知識の習得 1	講義の前半では、話題書や学問書の輪読を通じて知識習得、まとめ、発表の基礎的能力を身につけます。得た知識を元に、シンポジウム、ディベートなども行います。2 年生各 1~2 名に対し、3 年生各 1 名をメンターとして指名し、調査・研究活動などのノウハウを伝授します。 習得を目指す能力：情報検索法、アイデア発想法、アイデア収束法、論理的思考法、レジュメ作成法、論文作成法、プレゼンテーション法など
2	基礎知識の習得 2	基礎知識習得
3	基礎知識の習得 3	基礎知識習得
4	研究活動初期 1	各グループが決めた内容をプレゼン準備・発表まで行う
5	研究活動初期 2	研究継続
6	研究活動初期 3	研究継続
7	研究活動初期 4	研究継続
8	研究活動初期 5	研究継続
9	研究活動初期 6	研究継続
10	研究活動初期 7	研究継続
11	研究活動初期 8	研究継続
12	研究活動初期 9	研究継続
13	研究活動初期 10	研究継続
14	前期総括	前期の総括と夏休みの課題

15	研究論文の執筆 1	夏休み終了まで研究した内容を論文にまとめます
16	研究論文の執筆 2	研究論文執筆継続
17	研究論文の執筆 3	研究論文執筆継続
18	研究発表準備 1	研究論文の内容に基づき発表資料を作成します
19	研究発表準備 2	研究論文の内容に基づき発表資料を作成します
20	研究発表準備 3	研究論文の内容に基づき発表資料を作成します
21	発表検討 1	各グループの発表を相互に検討しあいます
22	発表検討 2	各グループの発表を相互に検討しあいます
23	発表検討 3	各グループの発表を相互に検討しあいます
24	研究資料完成 1	発表資料を完成させます
25	研究資料完成 2	発表資料を完成させます
26	研究報告 1	研究報告を行います
27	研究報告 2	研究報告を行います
28	卒業論文報告会	卒業論文報告会を開催します

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

自主研究の推進。本授業の事前学習は 5 時間、事後学習 5 時間を目安とします。

【テキスト（教科書）】

適時指示

【参考書】

適時指示

【成績評価の方法と基準】

受講態度、講義の中での発表、課題への取り組み態度や内容などを勘案して評価を行う（100 %）。

【学生の意見等からの気づき】

コロナ対応もあるが対面授業を中心にできればと考えています。

【その他の重要事項】

4 年次に卒論を書く気がない 2~3 年は受講しないでください。

【Outline (in English)】

In this class, you learn how to research, do presentation in group work. As outside studies, I hope two hours before classroom and two hours after classroom. Grading is based on daily attitude (40%) and presentation tests (60%).

ECN218CA
演習
井上 祐樹
開講時期：年間授業/Yearly 単位：8 単位
4 年次は授業コード「K7150」を履修登録すること。

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

研究活動を通して、各自が設定した経営学に関する理論・概念の理解を目指す。

【到達目標】

特定の経営学に関する理論・概念を、専門レベルで身に付ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP8」「DP9」「DP10」「DP11」に関連。国際経済学科は「DP9」「DP10」「DP11」に関連。

【授業の進め方と方法】

各自と相談して、経営学に関する各々の研究テーマを決定する。研究活動を通して、論文の読解、データの収集や分析、プレゼンテーションの経験を積む。基本的には演習の形態となるが、必要に応じて講義を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	春学期ガイダンス	春学期の本演習の実施方針の説明・自己紹介。
第 2 回	研究テーマの設定①	各自やりたいことを提案する。
第 3 回	研究テーマの設定②	提案内容を議論し、詰めていく。
第 4 回	研究テーマの設定③	提案内容から経営学の研究領域を特定する。
第 5 回	文献調査①	研究テーマに関連した研究分野を同定する。
第 6 回	文献調査②	関連する先行研究を調査し、リスト化する。
第 7 回	文献発表①	各自、関連する論文の発表を行う（前半部分）。
第 8 回	文献発表②	各自、関連する論文の発表を行う（後半部分）。
第 9 回	データ分析方法の理解・演習①	データ分析の概要を理解する。
第 10 回	データ分析方法の理解・演習②	R の使い方を学習する。
第 11 回	データ分析方法の理解・演習③	相関係数や差の検定を理解する。
第 12 回	データ分析方法の理解・演習④	回帰分析を理解する。
第 13 回	データ分析方法の理解・演習⑤	因子分析を理解する。
第 14 回	データ分析方法の理解・演習⑥	クラスタリングを理解する。
第 15 回	秋学期ガイダンス	秋学期の本演習の実施方針の説明。
第 16 回	データ取得方法の設計①	自分の研究テーマについて、どのようなデータを取得すべきかを検討する。
第 17 回	データ取得方法の設計②	先行研究を参照して、データ取得方法をブラッシュアップする。
第 18 回	データ取得方法の設計③	データ取得の計画を立てる。

第 19 回	データ取得方法の設計④	データ取得の計画の妥当性を議論する。
第 20 回	データ取得①	データの取得を開始する。
第 21 回	データ取得②	データの取得の進捗を報告し、必要なら軌道修正を行う。
第 22 回	データ取得③	再度データの取得の進捗を報告し、必要なら軌道修正を行う。
第 23 回	データ取得④	取得したデータの整理を行う。
第 24 回	取得したデータの分析①	取得したデータの分析計画を再度検討する。
第 25 回	取得したデータの分析②	データ分析を開始する。
第 26 回	取得したデータの分析③	データ分析の結果を報告し、議論する。
第 27 回	成果発表の準備	これまでの成果をまとめて、発表する準備を行う。
第 28 回	成果発表プレゼンテーション	これまでの成果を発表する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特に定めない。

【参考書】

講義中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

毎回の進捗報告の内容 60%、最終的な成果の内容 40%。

【学生の意見等からの気づき】

本年度新規科目につきアンケートを実施していない。

【学生が準備すべき機器他】

必ず充電されたノートパソコンを持参すること。

【Outline (in English)】

The students aim to understand theories and concepts of business management through research activities.

ECN218CA
演習
平瀬 友樹
開講時期：年間授業/Yearly 単位：8 単位
4 年次は授業コード「K7151」を履修登録すること。

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義の目的は、R や Python を用いたデータ解析についてのスキルを身につけることにある。

【到達目標】

グループまたは個人での専門論文執筆を通して、思考能力および専門知識を身につけることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP8」「DP9」「DP10」「DP11」に関連。国際経済学科は「DP9」「DP10」「DP11」に関連。

【授業の進め方と方法】

基本的には対面形式で行うが、最大 7 回まで支援システムからの動画配信によるオンライン形式にすることがある。講義内のアナウンスおよび支援システムのお知らせ欄の指示にしたがうこと。なお、課題に対するフィードバックが必要な場合に支援システムの登録アドレスへ直接送るので、PC からのメールを受け取れるように準備しておくこと。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	はじめに	自己紹介およびグループ分け
2	グループ・ディスカッション	グループ・ディスカッションをやってみよう
3	ディベート	ディベートとグループ・ディスカッションの違いについて
4	プレゼン	プレゼンをしてみよう
5	文章講座	論文やレポートの書き方について
6	回帰分析とは何か	回帰分析の理論と PC の操作について
7	t 検定について	t 検定の考え方と応用
8	重回帰分析	重回帰分析をしてみよう
9	先行研究	重回帰分析を使った先行研究を読んでみよう
10	重回帰分析の応用	多重共線性など注意すべき問題について
11	その他の統計学的分析	因果関係の分析へ
12	演習	グループ別での執筆活動
13	夏休みの計画	後期の懸賞論文に向けて・計画作り
14	総復習	前期の振り返り
15	はじめに	後期の進め方について
16	プログラミングとは何か	R を使ってみよう
17	R による分析の実際	R を使って前期の復習
18	PC を使った統計分析	Python の操作方法を覚えよう
19	より高度な統計分析に向けて	R と Python の違いを理解しよう
20	ロジスティック回帰分析とその応用	ダミー変数を被説明変数にした場合
21	傾向スコアを用いた分析	コードを実際にかいてみよう

22	マッチング、傾向スコア、そして IPW 推定量	複雑なコードを読めるようになる
23	パネルデータ分析	個別効果と変量効果
24	より高度な分析について	DiD 分析、サバイバル分析、そして操作変数法
25	時系列データ分析の基礎	系列相関について
26	時系列データ分析の応用	VAR モデルについて
27	研究テーマの決定	懸賞論文に向けての準備
28	総復習	振り返りと今後について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

課題について締め切りは厳守。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

追って指示する。

【参考書】

追って指示する。

【成績評価の方法と基準】

平常点 (50%) および課題の成果 (50%) によって評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】

特に指摘はない

【学生が準備すべき機器他】

各自で windows パソコンを準備すること。

【その他の重要事項】

長期休みには補習として二週間に 1 本程度の割合で動画配信を行っている。

【Outline (in English)】

The aim of this course introduces the fundamentals of data science to the students. In detail, this course is to help students acquire basic skills for data analysis with R or Python. Grading Criteria is following; Class Performance 50% and Report Assignment 50%. In addition, Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

ECN218CA
演習
廣川 みどり
開講時期：年間授業/Yearly 単位：8 単位
4 年次は授業コード「K7152」を履修登録すること。

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

経済学の考え方を習得する。どのような問題があるのか、どのようにそれを考えたらよいか。輪読、議論を通し、理論をしっかり修得し、それを応用する能力を身につける。

【到達目標】

各自が自分で考えるべき問題を見つけ、その解決に対処できるようにする。経済学の考え方を身につけ、その視点から問題をながめ、既存の文献やデータに依拠しつつ、問題解決についての自分の結論を出せるようにする。4 年の終わりまでに「経済学部を卒業しました」と明るく言える人材となることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP8」「DP9」「DP10」「DP11」に関連。国際経済学科は「DP9」「DP10」「DP11」に関連。

【授業の進め方と方法】

(i) テキストの輪読と、(ii) ゼミ論・卒論を目指し必要なツールの修得を行うと共に、(iii) 効果的なプレゼンの技術やディベートの方法を学ぶ。基本的には対面の授業とするが、コロナの状況を勘案しつつ、適宜オンライン授業を組み込む。また、それにとまなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。課題については、授業時間中にフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	経済学と自分との関わり、日経新聞の読み方
2	演習	今年度のテーマの選定、各人の研究テーマの見つけ方
3	演習	研究テーマを形にする方法、文献の取り扱い
4	演習	ミニ報告と輪読 (1)
5	演習	ミニ報告と輪読 (2)
6	演習	ミニ報告と輪読 (3)
7	演習	ミニ報告と輪読 (4)
8	演習	効果的なプレゼンを考える
9	演習	ミニ報告と輪読 (5)
10	演習	ミニ報告と輪読 (6)
11	演習	ミニ報告と輪読 (7)
12	演習	ミニ報告と輪読 (8)
13	演習	ミニ報告からレポート・論文へのつなげ方
14	春学期のまとめ	春学期の内容の総括と夏合宿の課題の選定
1	イントロダクション	春学期の内容の復習と秋学期の方向性の確認
2	演習	輪読およびレポート作成・報告 (1)
3	演習	輪読およびレポート作成・報告 (2)
4	演習	輪読およびレポート作成・報告 (3)

5	演習	輪読およびレポート作成・報告 (4)
6	演習	ゼミ論・卒論執筆者中間報告 (1)、研究テーマの軌道修正
7	演習	ディベートの方法、材料集め
8	演習	ディベートとその振り返り
9	演習	輪読およびレポート作成・報告 (5)
10	演習	輪読およびレポート作成・報告 (6)
11	演習	輪読およびレポート作成・報告 (7)
12	演習	輪読およびレポート作成・報告 (8)
13	演習	ゼミ論・卒論執筆者中間報告 (2)、および論文の仕上げ方について
14	年間の内容のまとめ	年間の内容の総括と春合宿の課題の選定

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、一回につき各 8 時間を標準とする。
・春学期

第 1~14 回：(1) サブゼミ参加とその準備 (1.5 時間)、(2) ゼミ報告の準備 (1.5 時間)、(3) 日経新聞を読む、または経済の読み物に親しむ (3.5 時間 = 1 日 30 分*7 日)

ゼミ合宿参加：2 泊 3 日 (準備も含め 21 時間、各回換算で 1.5 時間)
・秋学期

第 1~14 回：(1) サブゼミ参加とその準備 (1.5 時間)、(2) ゼミ報告の準備、ゼミ論執筆 (3 時間)、(3) 日経新聞を読む、または経済の読み物に親しむ (2 時間 = 1 日 15~20 分*7 日) ((2) と (3) の時間配分はゼミ論・卒論の進行度合いによる)

ゼミ合宿参加：2 泊 3 日 (準備も含め 21 時間、各回換算で 1.5 時間)

【テキスト（教科書）】

開始時に指示する。

【参考書】

各人の知識、理解、興味に応じて適宜指示していく。また、新聞記事も適宜取り上げる。

【成績評価の方法と基準】

平常点。(100%)

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

(1) 学習支援システムを通じてレジュメ・関連資料の配布を行うため、履修登録の確定を待たずに、各自、仮登録を済ませること。課題の提出もこちらで受けつけることとなる。

(2) PDF の閲覧と Word を使えるように準備すること。また今後の課題の中には、グラフや図を紙に描いて写真に撮って Word に貼り付けて提出という形も想定している。

(3) コロナの状況によっては、zoom を通じてのリアルタイムのやりとりもありうるため、アプリをインストールしておくこと。

【その他の重要事項】

演習の時間以外に、合宿、サブゼミへの参加も全て求められるため、注意してほしい。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire basic idea of Economics and ability of their application. By the end of this course, students should be able to

- (1) understand the way of thinking in Economics,
- (2) develop academic skills, and
- (3) find his/her own theme and analyze further.

Before/after each class, students will be expected to spend eight hours for preparation and review. Final grade will be determined by class contribution(100%).

ECN218CA
演習
濱秋 純哉
開講時期：年間授業/Yearly 単位：8 単位
4 年次は授業コード「K7153」を履修登録すること。

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

経済学の考え方やデータ分析の手法を身に付ける。

【到達目標】

- ①経済学，統計学，計量経済学の基礎的な知識を身に付ける。
- ②関心のある社会問題について，仮説検証型のデータ分析を行う。
- ③自分の意見や分析結果を分かりやすくプレゼンテーションする。
- ④他人の発表に建設的なコメントや質問を行ったり，議論したりする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち，経済学科・現代ビジネス学科は「DP8」「DP9」「DP10」「DP11」に関連。国際経済学科は「DP9」「DP10」「DP11」に関連。

【授業の進め方と方法】

- ・マイクロ経済学，及び経済データを分析する際に用いる統計学・計量経済学について，輪読を通じて理解を深める。
- ・他大学とのインゼミに向けた論文の作成や，各人の関心のあるトピックについて分析を行うことを通じて，データを用いた仮説検証の方法を学ぶ。
- ・各人が関心のあるニュースや新聞記事について，他のゼミ生の前で発表し，ディベート形式で議論理解を深める。
- ・長期休暇中に課題が課され，休暇明けにその理解度を確認するためのテストが行われるが，テスト後に解答例を示したり，よくある間違いの例を示したりしてフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	ゼミの内容，進め方，今年度のスケジュールの決定
2	マイクロ経済学①	マイクロ経済学の基本解説
3	マイクロ経済学②	需要と供給の基本原理
4	マイクロ経済学③	消費者行動
5	マイクロ経済学④	個別需要と市場需要
6	マイクロ経済学⑤	不確実性と消費者行動
7	マイクロ経済学⑥	生産
8	マイクロ経済学⑦	生産費用
9	マイクロ経済学⑧	利潤最大化と競争市場における供給
10	マイクロ経済学⑨	競争市場の分析
11	マイクロ経済学⑩	市場支配力を持つ企業の価格戦略
12	マイクロ経済学⑪	独占的競争と寡占
13	マイクロ経済学⑫	ゲーム理論と競争戦略
14	マイクロ経済学⑬	生産要素市場
15	統計学①	母集団と標本
16	統計学②	統計的推論
17	統計学③	相関係数と因果関係
18	統計学④	「確率」とは
19	統計学⑤	期待値と平均
20	統計学⑥	分散と標準偏差
21	統計学⑦	確率変数の独立性
22	統計学⑧	正規分布，カイ二乗分布，t 分布，F 分布
23	統計学⑨	推定量の性質（不偏性，一致性，効率性）

24	統計学⑩	大数の法則と中心極限定理
25	計量経済学①	単回帰分析
26	計量経済学②	最小二乗法
27	計量経済学③	重回帰分析
28	計量経済学④	内生性の問題への対処

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・テキストの輪読に際しては，予習と復習を欠かさずに行うこと。予習では疑問点を明確にし，ゼミでその点を質問できるように準備すること。
- ・新聞やニュースに関心を持ち，報道されている内容について経済学に基づいて考える習慣を付けること。
- ・本授業の準備学習・復習時間は，各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

・伊藤隆敏『公共政策入門 ミクロ経済学的アプローチ』，日本評論社。

【参考書】

- ・西森晃『これから経済学をまなぶ人のための数学基礎レッスン』，日本経済評論社。
- ・神取道宏『ミクロ経済学の力』，日本評論社。
- ・八田達夫『ミクロ経済学 I，II』，東洋経済新報社。
- ・N・グレゴリー・マンキュー『マンキュー経済学 I ミクロ編（第 3 版）』，東洋経済新報社。
- ・ピンダイク&ルビンフェルド『ミクロ経済学 I・II』，中経出版。
- ・スティーブン・レヴィット他『レヴィット ミクロ経済学基礎編』，東洋経済新報社。
- ・ダロン・アセモグル，デヴィッド・レイブソン，ジョン・リスト『ALL ミクロ経済学』岩本康志（監訳）・岩本千晴（訳），東洋経済新報社。
- ・N・グレゴリー・マンキュー『マクロ経済学 I，II（第 3 版）』，東洋経済新報社。
- ・福田慎一・照山博司『マクロ経済学・入門（第 5 版）』，有斐閣。
- ・吉田耕作『直感的統計学』，日経 BP 社。
- ・東京大学教養学部統計学教室編『統計学入門』，東京大学出版会。
- ・田中隆一『計量経済学の第一歩 実証分析のススメ』，有斐閣。
- ・畑農鋭矢・水落正明『データ分析をマスターする 12 のレッスン』，有斐閣アルマ。
- ・浅野正彦・中村公亮『はじめての RStudio - エラーメッセージなんかこわくない -』，オーム社。
- ・濱田悦生著・狩野裕編『データサイエンスの基礎』，講談社。
- ・星野匡郎・田中久稔『R による実証分析一回帰分析から因果分析へ』，オーム社。

【成績評価の方法と基準】

長期休暇（春休み，夏休み，冬休み）に出される課題についての筆記試験 50%，平常点（課題の提出状況，発表内容，議論への参加，他大学とのインゼミや論文への貢献等）50%による。4 年生は卒論の進捗状況の報告や論文の完成度による。

【学生の意見等からの気づき】

過去にゼミで輪読したテキストが難しいという意見があったので，テキストをより分かりやすいものへと変更し，基礎から応用まで段階を踏んで学習できるよう留意している。

【学生が準備すべき機器他】

テキストの輪読やデータ分析を行う際に，ノートパソコンが必要となる。

【その他の重要事項】

メール（メーリングリスト）で重要な連絡を行うことがあるので，メールチェックを欠かさないこと。

【Outline (in English)】

Course outline

Students will learn the concepts of economics and the methodology of a data analysis.

Learning objectives

- Acquire basic knowledge of economics, statistics and econometrics,
- Conduct data analysis on any social and economic problems,
- Explain own opinions and the results from data analysis in a way that is easy to understand, and
- Make constructive comments and ask questions on other people's presentations.

Learning activities outside of classroom

Before/after each class meeting, students are expected to spend four hours to understand the course content.

Grading criteria /policy

Final grade will be decided based on the following:

Examinations: 50%, Homework assignments and in-class contributions: 50%. For fourth-year students, the final grade is solely based on their thesis.

ECN218CA
演習
伊藤 健彦
開講時期：年間授業/Yearly 単位：8 単位
4 年次は授業コード「K7154」を履修登録すること。

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

社会心理学の観点から調査や統計を通して各自の興味あるテーマを研究する。そして、英語コミュニケーションを通してグローバル社会で活躍するためのスキルを身につける。また、ゼミ関連イベントを通して企画力・実践力を養う。

【到達目標】

- 1) 調査や統計を通して社会心理学に関する論文を英語で書けるようになる。
- 2) 英語でプレゼンテーションやディスカッションが出来るようになる。
- 3) イベントの企画から実施までを自立して行えるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたなどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP8」「DP9」「DP10」「DP11」に関連。国際経済学科は「DP9」「DP10」「DP11」に関連。

【授業の進め方と方法】

2年生：社会心理学・調査・統計の基本をテキストを用いて身につける。

3年生：研究計画を立て、調査を実施し、データを分析する。

4年生：分析データを用いて卒業論文を英語で執筆する。

授業では英語でのプレゼンテーション・ディスカッション・グループワークを適宜行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Introduction	自己紹介と授業内容説明。
2	Social Psychology Basics	社会心理学の基本を学ぶ。
3	Survey Basics	調査の基本を学ぶ。
4	Statistics Basics	統計の基本を学ぶ。
5	Statistical Analysis (1)	与えられたデータをもとに統計分析を行う。
6	Statistical Analysis (2)	与えられたデータをもとに統計分析を行う。
7	Presentation Basics	プレゼンテーションの方法を学ぶ。
8	Discussion Basics	ディスカッションの方法を学ぶ。
9	Presentation (1)	自ら分析したデータのプレゼンテーションを行う。
10	Presentation (2)	自ら分析したデータのプレゼンテーションを行う。
11	Writing Basics	英語での論文の書き方を学ぶ。
12	Writing an Outline	自らプレゼンテーションした内容の論文アウトラインを作成する。
13	Writing a Paper	自らプレゼンテーションした内容の論文を作成する。
14	Presenting a Paper	作成した論文を発表する。
15	Summary of Basics	前期に学んだこととおさらいする。
16	Literature Review	各自興味のあるテーマについて文献を調査する。

17	Research Proposal	各自興味のあるテーマの研究計画を立てる。
18	Proposal Discussion (1)	各自の研究計画を発表し、ディスカッションを行う。
19	Proposal Discussion (2)	各自の研究計画を発表し、ディスカッションを行う。
20	Survey Preparation	研究調査の実施準備を行う。
21	Conducting Survey	研究調査を行う。
22	Data Analysis	調査データを分析する。
23	Data Discussion (1)	データ分析をもとに発表を行い、ディスカッションを行う。
24	Data Discussion (2)	データ分析をもとに発表を行い、ディスカッションを行う。
25	Writing an Outline	研究発表をもとに、論文のアウトラインを作成する。
26	Writing a Paper	アウトラインをもとに英語で論文を執筆する。
27	Presenting a Paper	作成した論文を発表する。
28	Summary	授業のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業前にアップロードされる授業資料の予習に最低 2 時間かける。授業後に出された課題は最低 2 時間かける。ゼミ合宿など、ゼミ関連のイベントは参加必須。

【テキスト（教科書）】

『社会心理学概論』 北村英哉・内田由紀子編 ナカニシヤ出版 2016 年

『Excel で今すぐはじめる心理統計 簡単ツール HAD で基本を身につける』 小宮あすか・布井雅人 講談社 2018 年

【参考書】

『APA 論文作成マニュアル 第 2 版』 アメリカ心理学会 医学書院

【成績評価の方法と基準】

授業内プレゼンテーション・ディスカッション・グループワーク 40%
研究論文 40%

ゼミ関連イベント企画 20%

【学生の意見等からの気づき】

受講生のニーズに照らし合わせて、授業内容を調整していく必要がある。

【学生が準備すべき機器他】

授業中、受講生はパソコンを使用する。各自がパソコンを持参する。

【Outline (in English)】

The purpose of the course is for students to learn social psychological themes through surveys and statistical analysis. Students will develop the ability to communicate effectively in English, as well as acquire the skills needed to plan and execute events related to the seminars. The goal of the course is to bring students to a level where they are able to write a social psychology paper in English. This will involve incorporating survey and statistical analysis, presenting the finding and discussing it in English, and independently planning and conducting an event. Students are expected to spend at least two hours studying before each class and carry out their own research for an additional two hours after class. Attendance at all seminar-related events, such as seminar camps, is mandatory. The grading criteria are based on 40% presentation, discussion, and group work in the classroom; 40% research paper; and 20% seminar-related events.

ECN218CA
演習
古澤 直人
開講時期：年間授業/Yearly 単位：8 単位
4 年次は授業コード「K7155」を履修登録すること。

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本史研究を学ぶ。方法としては、史料から事実を復元する訓練を繰り返す。そして、根拠に基づいた議論を展開できるようにする。さらに、アカデミックライティングを学ぶ。

【到達目標】

史料を読む学問的な手続きを学ぶ。研究史を理解する。①問題設定、②研究史整理、③論証、④結論という論の立て方を学ぶ。①～④の各プロセスでの日本史研究の力量を一定水準以上にする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP8」「DP9」「DP10」「DP11」に関連。国際経済学科は「DP9」「DP10」「DP11」に関連。

【授業の進め方と方法】

はじめに基本的な学問の方法論を学ぶ。次に、各人のレポートの構想を吟味する。関係史料を持ち寄って精読する。それを報告という形に構成してプレゼンテーションをする。関連論文を読む。関連論文も同様の吟味を行う。さらに、関係史料を集め、その読みを訓練する。修正した報告を行う。使用史料を再吟味する。最終報告に仕上げる。提出課題についてはその都度採点のうえ必要に応じてコメントを付けてフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	今年のゼミの紹介と研究方法について	論文の書き方、歴史の調べ方
2	レポート構想報告 1	研究史・問題関心・章立て 1
3	レポート構想報告 2	研究史・問題関心・章立て 2
4	レポート構想報告 3	研究史・問題関心・章立て 3
5	レポート関係史料を読む 1.1	史料集から自分の報告に関する代表的な史料を 1～2 点取り上げ、下調べした上で読み合わせをする。
6	レポート関係史料を読む 1.2	史料集から自分の報告に関する代表的な史料を 1～2 点取り上げ、下調べした上で読み合わせをする。
7	レポート関係史料を読む 1.3	史料集から自分の報告に関する代表的な史料を 1～2 点取り上げ、下調べした上で読み合わせをする。
8	レポート関係論文を読む 1.1	自分の報告に関する代表的な論文を 1 点取り上げ、下調べした上で読み合わせをする。
9	レポート関係論文を読む 1.2	自分の報告に関する代表的な論文を 1 点取り上げ、下調べした上で読み合わせをする。
10	レポート関係論文を読む 1.3	自分の報告に関する代表的な論文を 1 点取り上げ、下調べした上で読み合わせをする。
11	レポート中間報告 1.1	レポート作成作業の提示と修正 1
12	レポート中間報告 1.2	レポート作成作業の提示と修正 2
13	レポート中間報告 1.3	レポート作成作業の提示と修正 3
14	卒業論文中間報告	卒業論文中間報告
15	歴史学会の現状	春学期・夏休みまでの成果の提示
16	レポート第 2 回中間報告 2.1	学生による春学期・夏休みまでの成果の提示 1
17	レポート第 2 回中間報告 2.2	学生による春学期・夏休みまでの成果の提示 2

18	レポート第 2 回中間報告 2.3	学生による春学期・夏休みまでの成果の提示 3
19	レポート関係史料を読む 2.1	史料集から自分の報告に関する代表的な史料を 2～3 点取り上げ、下調べした上で読み合わせをする。
20	レポート関係史料を読む 2.2	史料集から自分の報告に関する代表的な史料を 2～3 点取り上げ、下調べした上で読み合わせをする。
21	レポート関係史料を読む 2.3	史料集から自分の報告に関する代表的な史料を 2～3 点取り上げ、下調べした上で読み合わせをする。
22	レポート関係論文を読む 2.1	自分の報告に関する代表的な論文を 1 点取り上げ、下調べした上で読み合わせをする。
23	レポート関係論文を読む 2.2	自分の報告に関する代表的な論文を 1 点取り上げ、下調べした上で読み合わせをする。
24	レポート関係論文を読む 2.3	自分の報告に関する代表的な論文を 1 点取り上げ、下調べした上で読み合わせをする。
25	レポート最終報告 1	完成したレポートの報告 1。
26	レポート最終報告 2	完成したレポートの報告 2
27	レポート最終報告 3	完成したレポートの報告 4
28	卒業論文報告	完成した卒業論文の報告

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

ゼミメンバー全員があらかじめ報告者の史料に目を通す。授業の担当報告者のレジュメにそって授業で示された応答や論点を整理する。本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

とくに使用しない。

【参考書】

小笠原喜康『新版大学生のためのレポート・論文術』講談社現代新書

【成績評価の方法と基準】

日常的な報告や報告に対するコメント等の評価が 80%で、最終報告および進級レポートを 20%として総合評価する。

【学生の意見等からの気づき】

学生同士の議論が成立するように授業を構成したい。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システム、windows パソコン（学生への貸与の制度もあります）

【その他の重要事項】

高校日本史教科書程度の基礎知識を要するので、高校時代に日本史を学ばなかった学生は各自で高校教科書を自習しておいてほしい。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to learn Japanese history research. The goal of this course is to develop evidence-based discussions, learn academic writing, and understand research history. Before/after each class meeting student will be expected to spend four hours to understand the course content. Final grade will be calculated according to the following process Mid-term report(80%),term-end examination(20%).

ECN218CA
演習
JAY M TANAKA
開講時期：年間授業/Yearly 単位：8 単位
4 年次は授業コード「K7156」を履修登録すること。

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

The purpose of the seminar is to improve students' critical thinking and English language skills through the analysis of social issues. In addition, students will gain skills and knowledge related to academic presentation, writing, and research methods.

【到達目標】

Students will analyze comments on social media to critically think about problems in society, utilizing their English and thinking skills to carry out and document the research process.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP8」「DP9」「DP10」「DP11」に関連。国際経済学科は「DP9」「DP10」「DP11」に関連。

【授業の進め方と方法】

Students will learn about the theories and principles of critical thinking, and basic concepts common in social issues. This knowledge will be used for researching comments on social media. Feedback on course assignments will primarily be given through classroom discussions in-person and on Google Classroom.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Course introduction	Self introductions
	Critical thinking principles	group discussions Reflection writing
2	Applied critical thinking	Data analysis Group discussions
	Qualitative content analysis	
3	Reflection on research process	Viewing sample presentations Reading sample paper
4	Project Topic 1 (decided in class)	Group discussions Data collection
5	Project Topic 1 (decided in class)	Group discussions Data Analysis
6	Project Topic 1 (decided in class)	Group discussions Coding framework restructuring Dependability testing
7	Project Topic 1 (decided in class)	Presentations
8	Project Topic 2 (decided in class)	Group discussions Data collection
9	Project Topic 2 (decided in class)	Group discussions Data Analysis
10	Project Topic 2 (decided in class)	Presentations
11	Project Topic 3 (decided in class)	Group discussions Data collection

12	Project Topic 3 (decided in class)	Group discussions Data Analysis
13	Project Topic 3 (decided in class)	Presentations
14	Review of methods	Group discussions Reflection writing
15	Individual/Group Project introduction	Group discussions Reflection writing
	Review of Critical thinking principles	
16	Review of Applied critical thinking	Student Presentations Workshops
	Qualitative content analysis	
17	Workshop Project	Group discussions Slide writing
18	Workshop Project	Group discussions Presentation rehearsal
19	Project Topic 4 (decided in class)	Group discussions Data collection
20	Project Topic 4 (decided in class)	Group discussions Data Analysis
21	Project Topic 4 (decided in class)	Presentations
22	Project Topic 5 (decided in class)	Group discussions Data collection
23	Project Topic 5 (decided in class)	Group discussions Data Analysis
24	Project Topic 5 (decided in class)	Presentations
25	Project Topic 6 (decided in class)	Group discussions Data collection
26	Project Topic 6 (decided in class)	Group discussions Data Analysis
27	Project Topic 6 (decided in class)	Presentations
28	Course Review	Group discussions Reflection writing

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Weekly preparation and project work (2 hours).
本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

All course materials will be given in class.

【参考書】

N/A

【成績評価の方法と基準】

Project work, possible field trips, and presentations - 50%
Classwork/Homework assignments - 25%
Participation - 25%

【学生の意見等からの気づき】

N/A

【学生が準備すべき機器他】

All students must bring a notebook computer to every class (Chromebook or device with keyboard is also fine).

【Outline (in English)】

The purpose of the seminar is to improve students' critical thinking and English language skills through the analysis of social issues. In addition, students will gain skills and knowledge related to academic presentation, writing, and research methods.

ECN218CA
演習
松波 淳也
開講時期：年間授業/Yearly 単位：8 単位
4 年次は授業コード「K7158」を履修登録すること。

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

環境経済学についての基本的な知識を習得し、研究発表、卒業論文作成の準備を行う。

【到達目標】

環境経済学の基礎文献の輪読・報告を通じ、問題意識を醸成するとともに、分析手法を身につける。また、論文のサーチの方法、論文作法や研究発表の方法についても習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP8」「DP9」「DP10」「DP11」に関連。国際経済学科は「DP9」「DP10」「DP11」に関連。

【授業の進め方と方法】

対面講義（ハイブリッド）で進める。主に演習方式とする。研究テーマに関連した基礎知識の習得のために標準的なテキストおよび研究テーマにおける代表的な研究論文を輪読する。フィードバックは、Zoom やメール等のオンラインを介して行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	論文について	論文とは何か、問題意識の持ち方、文献の探し方
第 2 回	問題意識の醸成	検索した文献などを通じて問題意識を醸成する
第 3 回	基礎知識の習得①	問題意識に関連する基礎知識をテキストや基本文献の輪読等で習得する
第 4 回	基礎知識の習得②	テキスト、基本文献の輪読
第 5 回	基礎知識の習得③	テキスト、基本文献の輪読
第 6 回	基礎知識の習得④	テキスト、基本文献の輪読
第 7 回	基礎知識の習得⑤	テキスト、基本文献の輪読
第 8 回	基礎知識の習得⑥	テキスト、基本文献の輪読
第 9 回	基礎知識の習得⑦	テキスト、基本文献の輪読
第 10 回	基礎知識の習得⑧	テキスト、基本文献の輪読
第 11 回	基本文献における問題意識や分析方法のまとめ	サーベイした基本文献から学んだことをまとめる
第 12 回	基本的な研究報告①	サーベイした基本文献に基づき、自らの問題意識と分析方法で研究報告を行う
第 13 回	基本的な研究報告②	研究報告のつづき
第 14 回	まとめ	まとめ
第 15 回	研究テーマの確認	春学期、夏期休暇中に勉強したテキストや先行研究に基づき、研究テーマを確認する
第 16 回	先行研究の輪読①	研究テーマに添った先行研究（応用研究）を輪読する
第 17 回	先行研究の輪読②	先行研究（応用研究）の輪読
第 18 回	先行研究の輪読③	先行研究（応用研究）の輪読
第 19 回	先行研究の輪読④	先行研究（応用研究）の輪読
第 20 回	先行研究の輪読⑤	先行研究（応用研究）の輪読
第 21 回	先行研究の輪読⑥	先行研究（応用研究）の輪読
第 22 回	先行研究の輪読⑦	先行研究（応用研究）の輪読
第 23 回	先行研究の輪読⑧	先行研究（応用研究）の輪読
第 24 回	先行研究の輪読⑨	先行研究（応用研究）の輪読
第 25 回	先行研究の輪読⑩	先行研究（応用研究）の輪読
第 26 回	先行研究における分析方法、結果のまとめ	先行研究から学んだ分析方法や結果をまとめる
第 27 回	応用的な研究報告①	サーベイした先行研究に基づき、春学期より進んだ応用的な研究報告を行う
第 28 回	応用的な研究報告②	研究報告のつづき

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

標準的なテキストや基本文献について、問題意識、分析方法、結果（発見と含義）についてレジュメにする。自らの問題意識と分析方法についての研究ノートの作成を行う。本授業の準備・復習時間は、各 4 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

倉阪秀史『持続可能性の経済理論』、東洋経済新報社、2021 年。

【参考書】

時政島・藪田雅弘・今泉博国・有吉範敏、『環境と資源の経済学』、勁草書房、2007 年

【成績評価の方法と基準】

平常点 100 %。発表とその準備、Term Paper（必須とする場合のみ）の総合評価（文献サーベイの適性、先行研究への理解、該当分野の分析方法の応用力、自らの問題意識と分析方法の適切性）とする。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline (in English)】

Acquire basic knowledge about environmental economics and prepare for research presentations and graduation thesis writing. Foster awareness of problems and acquire analytical techniques through reading and reporting on basic literature on environmental economics. Students will also learn how to search for papers, how to write papers, and how to present research.Face-to-face lectures (hybrid). Mainly practice method. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. In order to acquire basic knowledge related to the research theme, read standard texts and representative research papers on the research theme. Feedback will be given online via Zoom, email, etc. Write a resume on the problem awareness, analytical methods, and results (discoveries and implications) of standard texts and basic literature. Create a research note about your own problem awareness and analysis method. Normal score 100%. Comprehensive evaluation of presentation and its preparation, term paper (if required) (appropriateness of literature survey, understanding of previous research, ability to apply analytical methods in the relevant field, own awareness of problems and appropriateness of analytical methods). The standard preparation and review time for this class is 4 hours each.

ECN218CA
演習
宮崎 憲治
開講時期：年間授業/Yearly 単位：8 単位
4 年次は授業コード「K7159」を履修登録すること。

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

このゼミの目的は、学生が経済学を用いて日常生活を説明し、社会人基礎力を身に付け、自分の適性にあった仕事をみつけられるようになることである。

【到達目標】

企業が要求する基礎能力（読み・書き・プレゼン等）を向上させるだけでなく、就職活動中の面接で、経済学部生として経済学をしっかり勉強したと自信をもっていえるように訓育したい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP8」「DP9」「DP10」「DP11」に関連。国際経済学科は「DP9」「DP10」「DP11」に関連。

【授業の進め方と方法】

そのために、経済学部生の学生がゼミナール活動で経済学の基本知識を獲得し、グループワークを通じてプレゼン能力、文章表現能力、ディベート能力を向上させるよう指導したい。具体的に、経済学の教科書を持ちいて「学生」が順番に講義する。今年度、マクロ経済学の教科書を用いる。また、各グループが興味を持った課題について講義する。今年度は、論文の書き方、コミュニケーション能力、疑似科学などである。文章力向上のため、2 年生は個人のテーマについて進級論文を、3 年生はグループ論文を、4 年生は卒業論文を執筆する。他にも、2、3 年生は、インゼミ大会ディベート部門およびプレゼンテーション部門に出場する。就職活動対策として、4 年生が3 年生に対して模擬面接を実施する。更に春休みと夏休みにゼミ合宿を実施する。フィードバックとして前期 2 回、後期 2 回の理解度テストを予定している。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ディベート技術	ディベート技術について講義する
第 2 回	ミクロ経済学（1）	ミクロ経済学について講義する。 消費者の理論
第 3 回	ミクロ経済学（2）	ミクロ経済学について講義する。 企業の理論
第 4 回	ミクロ経済学（3）	ミクロ経済学について講義する。 部分均衡理論
第 5 回	ミクロ経済学（4）	ミクロ経済学について講義する。 一般均衡理論
第 6 回	ミクロ経済学（5）	ミクロ経済学について講義する。 情報の非対称性
第 7 回	ミクロ経済学（6）	ミクロ経済学について講義する。 ゲーム理論
第 8 回	論文の書き方	論文の書き方について講義する
第 9 回	論文の書き方	論文の書き方について講義する
第 10 回	コミュニケーション能力（1）	コミュニケーション能力について講義する。話し方
第 11 回	コミュニケーション能力（2）	コミュニケーション能力について講義する。聞き方
第 12 回	グループ論文中間報告（1）	3 年生の 3 分の 1 がグループ論文の中間報告をする
第 13 回	グループ論文中間報告（2）	3 年生の次の 3 分の 1 がグループ論文の中間報告をする

第 14 回	グループ論文中間報告（3）	3 年生の最後の 3 分の 1 がグループ論文の中間報告をする
第 15 回	卒論中間報告	4 年生が卒論の中間報告をする
第 16 回	進級論文中間報告（1）	2 年生の 3 分の 1 が進級論文の中間報告をする
第 17 回	進級論文中間報告（2）	次の 2 年生の 3 分の 1 が進級論文の中間報告をする。
第 18 回	進級論文中間報告（3）	最後の 2 年生が進級論文の中間報告をする
第 19 回	マクロ経済学（1）	マクロ経済学について講義する。 消費関数
第 20 回	マクロ経済学（2）	マクロ経済学について講義する。 投資関数
第 21 回	マクロ経済学（3）	マクロ経済学について講義する。 45 度分析
第 22 回	マクロ経済学（4）	マクロ経済学について講義する。 .ISLM 分析
第 23 回	マクロ経済学（5）	マクロ経済学について講義する。 ADAS 分析
第 24 回	マクロ経済学（6）	マクロ経済学について講義する。 成長理論
第 25 回	就職活動セミナー	OBOG を招いてセミナーを開く
第 26 回	インゼミ大会準備（1）	インゼミ大会に備えディベートの準備をする
第 27 回	インゼミ大会準備（2）	インゼミ大会に備え 3 年生の 3 分の 1 がプレゼンの準備をする
第 28 回	インゼミ大会準備（3）	インゼミ大会に備え 3 年生の次の 3 分の 1 がプレゼンの準備をする

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストを事前に読む。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業内で指定する。

【参考書】

授業内で紹介する。

【成績評価の方法と基準】

ゼミ生を 3 つのグループに分けて互いに競わせる。最も成績がよいグループを S 評価に、次のグループを A 評価に、最後のグループを B 評価にする。ゼミ活動を総合的に評価する（100 %）。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

特になし。

【Outline (in English)】 （Course outline）

The purpose of this seminar is to enable students to use economics to explain their daily lives, to acquire basic social skills, and to find a job that suits their aptitude.

（Learning Objectives）

In addition to improving the basic skills required by companies (reading, writing, presentation, etc.), this seminar wants to train students to be able to say with confidence that they have studied economics well as economics students during job interviews.

（Learning activities outside of classroom）

Read the textbook in advance. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

（Grading Criteria /Policy）

Divide the seminar students into three groups and have them compete against each other. The group with the highest grade will receive an S grade, the next group will receive an A grade, and the last group will receive a B grade. Overall evaluation of the seminar activities (100%).

ECN218CA
演習
石 碩
開講時期：年間授業/Yearly 単位：8 単位
4 年次は授業コード「K7160」を履修登録すること。

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中国の歴史・社会・文化・文学について幅広く学び、各自が関心を持ったテーマについて調査・発表を行う。

【到達目標】

以下の2点を到達目標とする。

- ①中国の歴史・社会・文化・文学について基礎的な知識を身につけること
- ②自身の関心のある事柄をテーマとした上で、日本語もしくは中国語の文献を調査し、小論文の作成および口頭での発表ができるようになること

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP8」「DP9」「DP10」「DP11」に関連。国際経済学科は「DP9」「DP10」「DP11」に関連。

【授業の進め方と方法】

春学期は主として課題や図書を決めたいグループごとにプレゼンを行う。これと並行して自身で選択したテーマについての小論文の作成を進める（夏休み中に仕上げ、秋学期の初回授業までに提出）。秋学期は主として受講者が決めたテーマによる研究発表を行う。学生の発表内容・質問・感想については、授業内で適宜フィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	面談	・履修希望者との面談
第 2 回	ガイダンス	・春学期の授業の進め方について ・発表の順番を決める
第 3 回	文献の調べ方 レジュメの作り方	・文献の調べ方について ・レジュメの作り方について
第 4 回	テキストの輪読・発表 ①	・輪読 ・研究発表
第 5 回	テキストの輪読・発表 ②	・輪読 ・研究発表
第 6 回	テキストの輪読・発表 ③	・輪読 ・研究発表
第 7 回	テキストの輪読・発表 ④	・輪読 ・研究発表
第 8 回	テキストの輪読・発表 ⑤	・輪読 ・研究発表
第 9 回	テキストの輪読・発表 ⑥	・輪読 ・研究発表
第 10 回	テキストの輪読・発表 ⑦	・輪読 ・研究発表
第 11 回	テキストの輪読・発表 ⑧	・輪読 ・研究発表
第 12 回	小論文の書き方①	・小論文の書き方について ・小論文の添削
第 13 回	小論文の書き方②	・小論文の書き方について ・小論文の添削
第 14 回	春学期のまとめ	・春学期のまとめ ・夏課題について

第 15 回	ガイダンス	・秋学期の授業の進め方について ・発表の順番を決める
第 16 回	夏課題の合評①	・夏課題の合評を行う
第 17 回	夏課題の合評②	・夏課題の合評を行う
第 18 回	研究テーマを決める①	・発表のテーマを決める
第 19 回	研究テーマを決める②	・発表のテーマを決める
第 20 回	研究発表①	・研究発表を行う
第 21 回	研究発表②	・研究発表を行う
第 22 回	研究発表③	・研究発表を行う
第 23 回	研究発表④	・研究発表を行う
第 24 回	研究発表⑤	・研究発表を行う
第 25 回	研究発表⑥	・研究発表を行う
第 26 回	研究発表⑦	・研究発表を行う
第 27 回	研究発表⑧	・研究発表を行う
第 28 回	秋学期のまとめ	・春学期のまとめ ・来年度のテーマについて

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業前は、テキストを精読し、分からない語句などについて調べる。担当者は発表の準備（レジュメ・PPT など）をして来る。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

湯浅邦弘『テーマで読み解く中国の文化』ミネルヴァ書房

【参考書】

教場で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

課題・発表：60%（プレゼン・論文の完成度および質疑応答への対応、指摘された内容の修正状況などを総合的に評価）
平常点：40%（ゼミ生の発表に対する質疑応答、討論などへの参加度などを総合的に評価）

【学生の意見等からの気づき】

学年を越えたグループワークと個人発表をバランスよく行いたい。

【その他の重要事項】

本演習とあわせて、中国語・中国文化関連科目を履修することが望ましい。
ただし、中国語の履修経験は必須ではない。

【Outline (in English)】

Students will study a wide range of Chinese history, society, culture, and literature, and will research and present on topics of their own interest. The objectives of the course are (1) to acquire basic knowledge of Chinese history, society, culture, and literature, and (2) to be able to research, write an essay, and give an oral presentation on a topic of interest to each student. Preparation and review time before and after class will be approximately 2 hours each. Evaluation will be based on 60% for assignments and presentations, and 40% for regular marks.

ECN218CA
演習
宮脇 典彦
開講時期：年間授業/Yearly 単位：8 単位
4 年次は授業コード「K7161」を履修登録すること。

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

経営分析の基本的な3分野（マーケティング、アカウンティング、ファイナンス）を学び、データ解析やプログラミング技法を身につける

【到達目標】

- ①経営分析の基本となるマーケティング、アカウンティング、ファイナンスの知識を、基本的なテキストを輪読することにより3年間かけて身につける（輪読するテキストのテーマは毎年交代）。
- ②データ解析の手法やプログラミング技法を習得する。
- ③調査能力とプレゼンテーション力を向上させる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP8」「DP9」「DP10」「DP11」に関連。国際経済学科は「DP9」「DP10」「DP11」に関連。

【授業の進め方と方法】

本年度は教室での対面講義を行う予定ですが、今後のコロナ感染の状況によっては学習支援システムなどを使ったオンライン講義を併用する場合があります。

- ①グループ別にテキストに沿って輪読する。
- ②コンピュータを用いた実習を行う。
- ③個々人が興味あるテーマを選び、プレゼンテーションを行い、全員で討議する。

輪読、コンピューター実習およびプレゼンテーションは、授業中にフィードバックします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	概説	1年間のスケジュールと内容の確認
第2回	経営分析・情報処理（1）	テキスト輪読・情報処理の手法の習得（1）
第3回	経営分析・情報処理（2）	テキスト輪読・情報処理の手法の習得（2）
第4回	経営分析・情報処理（3）	テキスト輪読・情報処理の手法の習得（3）
第5回	経営分析・情報処理（4）	テキスト輪読・情報処理の手法の習得（4）
第6回	経営分析・情報処理（5）	テキスト輪読・情報処理の手法の習得（5）
第7回	経営分析・情報処理（6）	テキスト輪読・情報処理の手法の習得（6）
第8回	経営分析・情報処理（7）	テキスト輪読・情報処理の手法の習得（7）
第9回	経営分析・情報処理（8）	テキスト輪読・情報処理の手法の習得（8）
第10回	経営分析・情報処理（9）	テキスト輪読・情報処理の手法の習得（9）
第11回	経営分析・情報処理（10）	テキスト輪読・情報処理の手法の習得（10）
第12回	経営分析・情報処理（11）	テキスト輪読・情報処理の手法の習得（11）
第13回	経営分析・情報処理（12）	テキスト輪読・情報処理の手法の習得（12）
第14回	卒業論文（1）	4年生による卒業論文中間発表・全員による質疑応答
第15回	経営分析・個人発表（1）	テキスト輪読・個別テーマを3年生がプレゼンテーション・全員による質疑応答（1）
第16回	経営分析・個人発表（2）	テキスト輪読・個別テーマを3年生がプレゼンテーション・全員による質疑応答（2）
第17回	経営分析・個人発表（3）	テキスト輪読・個別テーマを3年生がプレゼンテーション・全員による質疑応答（3）
第18回	経営分析・個人発表（4）	テキスト輪読・個別テーマを3年生がプレゼンテーション・全員による質疑応答（4）

- 第19回 経営分析・個人発表（5） テキスト輪読・個別テーマを3年生がプレゼンテーション・全員による質疑応答（5）
- 第20回 経営分析・個人発表（6） テキスト輪読・個別テーマを2、3年生がプレゼンテーション・全員による質疑応答（6）
- 第21回 経営分析・個人発表（7） テキスト輪読・個別テーマを3年生がプレゼンテーション・全員による質疑応答（7）
- 第22回 経営分析・個人発表（8） テキスト輪読・個別テーマを3年生がプレゼンテーション・全員による質疑応答（8）
- 第23回 経営分析・個人発表（9） テキスト輪読・個別テーマを3年生がプレゼンテーション・全員による質疑応答（9）
- 第24回 経営分析・個人発表（10） テキスト輪読・個別テーマを3年生がプレゼンテーション・全員による質疑応答（10）
- 第25回 経営分析・個人発表（11） テキスト輪読・個別テーマを2、3年生がプレゼンテーション・全員による質疑応答（11）
- 第26回 経営分析・個人発表（12） テキスト輪読・個別テーマを3年生がプレゼンテーション・全員による質疑応答（12）
- 第27回 卒業論文（2） 4年生による卒業論文最終発表・全員による質疑応答（1）
- 第28回 卒業論文（3） 4年生による卒業論文最終発表・全員による質疑応答（2）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- 3 年生
 - グループ毎のサブゼミ・・・2時間
 - 個人発表の準備・・・2時間
- 4 年生
 - グループ毎のサブゼミ・・・2時間
 - 卒論作成・発表準備・・・2時間

【テキスト（教科書）】

テキストは、履修生と相談の上決定します。

【参考書】

参考書は、必要に応じて指示します。

【成績評価の方法と基準】

- 3 年生
 - グループ別の輪読講義 50 %
 - 個人発表 50 %
- 4 年生
 - グループ別の輪読講義 30 %
 - 卒論中間発表 20 %
 - 卒業論文および発表 50 %

【学生の意見等からの気づき】

ゼミでは、学生の自主的な運営を尊重するよう心がけています。

【Outline (in English)】

【Course outline】

Learn the basic three fields of business analysis (marketing, accounting, and finance), and acquire data analysis and programming techniques.

【Learning Objectives】

1.Acquire knowledge of marketing, accounting and finance by reading the basic texts over a three-year period (the theme of the texts to be read changes every year).

2. Learn data analysis techniques and programming techniques.

3.Improve research ability and presentation ability.

【Learning activities outside of classroom】

2nd and 3rd grade

Sub-seminars for each group—2 hours

Preparation for personal presentation— 2 hours

4th grade

Sub-seminars for each group — 2 hours

Preparation of graduation thesis / preparation for presentation —2 hours

【Grading Criteria /Policy】

2nd and 3rd grade

Reading in turns by group (50%)

Individual presentation(50%)

4th grade

Reading in turns (30%)

Interim presentation of graduation thesis (20%)

Bachelor thesis and presentation (50%)

ECN218CA
演習
富永 靖敬
開講時期：年間授業/Yearly 単位：8 単位
4 年次は授業コード「K7164」を履修登録すること。

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本ゼミでは、政治学方法論、また実証的な国際関係論（主に安全保障に関するテーマ）を体系的に学ぶことを通し、国際関係論に関する独自の学術研究を完成させることを目的とする。春学期には基本文献、海外ジャーナルを中心に輪読を行い、秋学期の前半では各自で選択したテーマについての先行研究の調査（発表）、また後半では個々の研究成果の発表を行う。

【到達目標】

単に興味のあるテーマについて調査した内容を発表するのではなく、政治的な現象についてパズルを見つけ、独自の仮説を立てた上で、質的・量的データを用いて実証する過程を通して、論理的かつ説得的に議論を展開できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP8」「DP9」「DP10」「DP11」に関連。国際経済学科は「DP9」「DP10」「DP11」に関連。

【授業の進め方と方法】

受講者各自（またはグループ）の発表を中心に授業を進める。なお課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である。また 4 年次で履修する学生には、卒業論文作成のため、個別指導を中心に行い、さらに、授業内で発表の機会を複数回設けることにより他学生・教員からのフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の進め方の説明と発表の順番の決定。
2	基本文献の輪読（1）	報告と議論
3	基本文献の輪読（2）	報告と議論
4	基本文献の輪読（3）	報告と議論
5	基本文献の輪読（4）	報告と議論
6	基本文献の輪読（5）	報告と議論
7	基本文献の輪読（6）	報告と議論
8	研究論文の輪読とテーマの選定（1）	報告と議論
9	研究論文の輪読とテーマの選定（2）	報告と議論
10	研究論文の輪読とテーマの選定（3）	報告と議論
11	研究論文の輪読とテーマの選定（4）	報告と議論
12	研究論文の輪読とテーマの選定（5）	報告と議論
13	研究論文の輪読とテーマの選定（6）	報告と議論
14	研究論文の輪読とテーマの選定（7）	報告と議論
15	イントロダクション	授業の進め方の説明と発表の順番の決定。
16	中間報告	各自で選定したテーマについて先行研究の内容を報告し、議論を行う。
17	中間報告	各自で選定したテーマについて先行研究の内容を報告し、議論を行う。
18	中間報告	各自で選定したテーマについて先行研究の内容を報告し、議論を行う。

19	中間報告	各自で選定したテーマについて先行研究の内容を報告し、議論を行う。
20	中間報告	各自で選定したテーマについて先行研究の内容を報告し、議論を行う。
21	中間報告	各自で選定したテーマについて先行研究の内容を報告し、議論を行う。
22	中間報告	各自で選定したテーマについて先行研究の内容を報告し、議論を行う。
23	研究成果報告	各自の研究について、計画内容や進捗状況を参加者全員で検討する。
24	研究成果報告	各自の研究について、計画内容や進捗状況を参加者全員で検討する。
25	研究成果報告	各自の研究について、計画内容や進捗状況を参加者全員で検討する。
26	研究成果報告	各自の研究について、計画内容や進捗状況を参加者全員で検討する。
27	研究成果報告	各自の研究について、計画内容や進捗状況を参加者全員で検討する。
28	研究成果報告	各自の研究について、計画内容や進捗状況を参加者全員で検討する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

論文の作成は長時間の作業が必要となるため、授業外の時間を有意義に使うことを期待する。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

適宜指定する。

【参考書】

久米郁男『原因を推論する 政治分析方法論のすゝめ』有斐閣、2013 年。
G・キング、R・O・コヘイン、S・ヴァーバ（真淵勝監訳）『社会科学のリサーチ・デザイン 定性的研究における科学的推論』勁草書房、2004 年。
Friden, Jeffrey A., Lake, David A., and Schultz, Kenneth A. 2016. World Politics: Interests, Interactions, Institutions, Third Edition, New York: W.W.Norton & Company.

【成績評価の方法と基準】

輪読発表や各個人の研究発表など授業内での発表を 60%、最終レポートを 40%として成績評価を行う。4 年生は 100%卒業論文にて評価する。

【学生の意見等からの気づき】

学生主導でゼミ運営を行う。

【その他の重要事項】

発表しない者でも、担当者の発表に対して積極的にコメントして議論すること。ただし、問題点を指摘する場合には、改善方法も提示するなど、建設的な議論になるよう心懸けること。

【Outline (in English)】

【Course outline】

The course is an intensive workshop that aims to provide students with a solid understanding of the study of international relations with a particular focus on international security issues. Distinct from a lecture-based course, this class requires students to actively engage in collaborative work, discussion, and presentation.

【Learning Objectives】

Through detailing the cases, students are expected to learn why and how a particular political phenomenon occurs and to bring that knowledge to create generalized arguments. During the course, students also learn how to test those arguments through data analysis.

【Learning activities outside of classroom】

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be roughly four hours for a class

【Grading Criteria】

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

- ・ In-class presentation and contribution: 60%
- ・ Term-end report: 40%

(For a forth-year student, a grade will be decided based on a term-end report (100%))

ECN218CA
演習
湯前 祥二
開講時期：年間授業/Yearly 単位：8 単位
4 年次は授業コード「K7166」を履修登録すること。

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

目標は次の2つです。(1) 生活の道具として、金融工学を修めること。(2) 研究および論文作成の手法を身につけること。いずれも、実社会での活動に直結しています。

【到達目標】

金融工学について理解し、実際の金融商品の価値を評価できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP8」「DP9」「DP10」「DP11」に関連。国際経済学科は「DP9」「DP10」「DP11」に関連。

【授業の進め方と方法】

金融工学は実際の学問です。(a) こみいった金融商品に値段をつけたり、(b) リスクを管理したり、(c) 最も良い投資配分を考えたりします。最近では個人向けに、一見、魅力的な金融商品が多く登場していますが、金融工学の知識があれば、その中身を冷静に調べて、よしあしを判断することができます。

一方、論理的に考え、レポートにまとめ、人を納得させる技術は、実社会の企画書、報告書の作成、およびプレゼンテーションといった場面で必須です。

輪読、研究発表、討論、問題演習、実地見学を行います。ただし、参加者の意見を反映させます。

並行して、年度を通して、新聞記事を使って時事問題を討論します。この他、参加者の意見を聞いて、モンテカルロ法実習（プログラミング）等を取り扱います。

課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	輪読①	金融工学の基礎を身につけます。
第2回	輪読②	金融工学の基礎を身につけます。
第3回	輪読③	金融工学の基礎を身につけます。
第4回	輪読④	金融工学の基礎を身につけます。
第5回	輪読⑤	金融工学の基礎を身につけます。
第6回	輪読⑥	金融工学の基礎を身につけます。
第7回	輪読⑦	金融工学の基礎を身につけます。
第8回	輪読⑧	金融工学の基礎を身につけます。
第9回	輪読⑨	金融工学の基礎を身につけます。
第10回	輪読⑩	金融工学の基礎を身につけます。
第11回	輪読⑪	金融工学の基礎を身につけます。
第12回	輪読⑫	金融工学の基礎を身につけます。
第13回	輪読⑬	金融工学の基礎を身につけます。
第14回	輪読⑭	金融工学の基礎を身につけます。
第15回	輪読、研究発表、問題演習①	個々人の研究の計画・実施・執筆・発表・討論。
第16回	輪読、研究発表、問題演習②	個々人の研究の計画・実施・執筆・発表・討論。
第17回	輪読、研究発表、問題演習③	個々人の研究の計画・実施・執筆・発表・討論。
第18回	輪読、研究発表、問題演習④	個々人の研究の計画・実施・執筆・発表・討論。

第19回 輪読、研究発表、問題演習⑤ 個々人の研究の計画・実施・執筆・発表・討論。

第20回 輪読、研究発表、問題演習⑥ 個々人の研究の計画・実施・執筆・発表・討論。

第21回 輪読、研究発表、問題演習⑦ 個々人の研究の計画・実施・執筆・発表・討論。

第22回 輪読、研究発表、問題演習⑧ 個々人の研究の計画・実施・執筆・発表・討論。

第23回 輪読、研究発表、問題演習⑨ 個々人の研究の計画・実施・執筆・発表・討論。

第24回 輪読、研究発表、問題演習⑩ 個々人の研究の計画・実施・執筆・発表・討論。

第25回 輪読、研究発表、問題演習⑪ 個々人の研究の計画・実施・執筆・発表・討論。

第26回 輪読、研究発表、問題演習⑫ 個々人の研究の計画・実施・執筆・発表・討論。

第27回 輪読、研究発表、問題演習⑬ 個々人の研究の計画・実施・執筆・発表・討論。

第28回 輪読、研究発表、問題演習⑭ 個々人の研究の計画・実施・執筆・発表・討論。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

輪読では、発表担当者はもちろん、受講者全員が発表部分を熟読し、内容を理解しておいてください。わからない内容があれば調べ、関連する資料（新聞記事など）も見ておくことが望ましい。数式の展開も、実際に自分で手を動かして確認してください。発表担当者は、未解決の疑問点を残さないようにしてください。発表担当者以外は、質問を簡潔にまとめておいてください。また、関数電卓を利用するので、使用方法に慣れてください。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

金子誠一、佐井りさ（2012）、証券アナリストのための数学再入門、とさわ総合サービス。

【参考書】

藤林宏、矢野学、角谷大輔、袖山則宏（2009）、EXCELで学ぶファイナンス（2）証券投資分析 第3版、金融財政事情研究会。

デービッド・G・ルーエンバーガー（2015）、金融工学入門第2版、日本経済新聞社。

【成績評価の方法と基準】

(1) 論文およびレポート 25%、(2) 発表 25%、(3) 討論への参加状況 25%、(4) 運営・活動への参加状況 25%、により評価します。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline (in English)】

This course deals with specific issues concerning asset management and risk management.

The goals of this course are to acquire basic knowledge about finance.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Reports: 25%、

Presentation: 25%、

Discussion: 25%、

in class contribution: 25%.

ECN218CA
演習
YONGUE JULIA SALLE
開講時期：年間授業/Yearly 単位：8 単位
4 年次は授業コード「K7167」を履修登録すること。

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

In this seminar whose theme is Japanese business and society, students will learn about Japanese enterprises and their impact on the development of the Japanese economy and society. They will also improve their academic and (practical) workplace skills by preparing and making an academic presentation at the competition hosted by the faculty of economics (経済学部大会).

【到達目標】

The goal of this seminar is for students to develop three types of skills: (1) critical thinking skills through in-class discussions of Japanese business and society, (2) academic skills through active learning in the form of empirical research projects, fieldwork, and presentations, and (3) leadership skills by directly engaging in seminar management. It is hoped that this seminar will stimulate students' intellectual curiosity and provide a space for them to build lasting friendships with all those they meet inside and outside the seminar.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP8」「DP9」「DP10」「DP11」に関連。国際経済学科は「DP9」「DP10」「DP11」に関連。

【授業の進め方と方法】

- (1) To explore Japanese business and its impact on society through readings, discussions, and fieldwork.
- (2) To complete a group research project and present the findings at the presentation competition hosted by the Faculty of Economics in December.

*Feedback will be given during office hours and/or during class.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	First semester introduction	Discussing the goals of the course and possible research topics
2	Introduction and academic skill building (1)	Learning how to prepare for this class; research/fieldwork topics discussion; videos
3	Academic skill building (2)	What is research? Learning about different types of sources; activity to build critical thinking skills; videos
4	Academic skill building (3); Library tour	Selecting a research topic; using library resources and databases; videos and discussion
5	Academic skill building (4)	Making effective use of statistical information in presentations; lecture and discussion on why we should study Japanese business history

6	Academic skill building (5); theme-focused, student-led discussion	Learning about research methodologies and approaches
7	Academic skill building (6); theme-focused, student-led discussion	Research, data analysis, and dissemination
8	Academic skill building (7); theme-focused, student-led discussion	Organizing your presentation; parts of an academic presentation; making an outline
9	Academic skill building (8); theme-focused, student-led discussion	Building non-verbal communication skills; bibliography and conclusion are due
10	Academic skill building (9); theme-focused, student-led discussion	Preparing for joint presentation event (tentative)
11	Academic skill building (10); theme-focused, student-led discussion	Preparing presentation and peer review
12	Joint presentation event	Responding to and giving feedback; group discussion
13	Final preparations	Incorporating feedback; student-led activity and group discussion
14	Wrap up and review	Submission of final assignments (slides and genko first draft); final discussion
15	Second semester introduction	Introduction; discussion of findings of summer fieldwork activities
16	Presentation preparation; Japanese business and society (case study 1)	Reading and discussion; Student-led activity (presentations and peer review)
17	Presentation preparation; Japanese business and society (case study 2)	Reading and discussion Student-led activity (presentations and peer review); submit second genko draft (1)
18	Debate preparation	Student-led activity (preparing for class debate on a topic related to Japanese business and society)
19	Debate	Class debate on a topic related to Japanese business and society
20	Japanese business and society(case study 3)	Reading and discussion; selecting criteria for new seminar student selection
21	New seminar student selection	Seminar student selection
22	Finalizing presentations, peer review	Presentation practice; students submit revised presentation genko draft due; writing resume for pamphlet
23	Finalizing presentations, peer review	Presentation practice; PPT and resume finalization; feedback on presentation genko

24	Finalizing presentations, peer review	Student presentation practice; student-led activity; practicing non-verbal presentation skills
25	Final preparation for 経済学部大会	Student presentation practice; peer review
26	Preparing for final class; converting presentations into mini movies	反省会; wrap up; movie making for new seminar students
27	Welcome party for new seminar students	Introducing the seminar: student presentations, mini movies, Q&A, etc.
28	Final evaluations; wrap up	Submission of final assignments and completed feedback forms

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

（フィールドワークの準備を含め）本授業の準備学習・復習時間は、各2~4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

- (1) 企業家に学ぶ日本経営史、テーマとケースでとらえよう、宇田川勝・生島淳（編）、有斐閣ブックス、2001.
- (2) 戦後日本の企業家活動、法政大学インベーション・マネジメント研究センター、宇田川勝（編）、文眞堂、2004
- (3) アカデミック・スキルズ、大学生のための指摘技術技法入門、慶應義塾大学出版会、2006
- (4) アカデミック・スキルズ、データ収集・分析入門社会を効果的に読み解く技法、慶應義塾大学出版会、2013

【参考書】

Additional references will be provided via the course website and/or library databases.

【成績評価の方法と基準】

Grades will be based on (1) participation in classroom activities, such as fieldwork and presentation preparation, (2) attitude (including being prepared for class), teamwork, seminar management, etc. (50%), and (3) taking part in the presentation competition (50%).

*All students are required to make a group presentation at the competition in December in order to pass this course. They must also organize and conduct fieldwork and submit their course feedback survey on the last day of class.

【学生の意見等からの気づき】

Student feedback is ALWAYS welcome! I try my best to incorporate your suggestions and am committed to improving this seminar.

【学生が準備すべき機器他】

Bring a PC to class.

【Outline (in English)】

Learning objectives: (1) to study about Japanese enterprises and their impact on the development of the Japanese economy and society; (2) to improve academic and workplace skills through various learning activities, namely by preparing and making an academic presentation in December at the competition hosted by the Faculty of Economics (経済学部大会). Learning activities outside of class: Students are expected to do their reading assignments, prepare their presentations, and conduct fieldwork in groups inside and outside of class.

Grades will be based on (1) participation, (fieldwork outside of class and presentation preparation in the classroom), (2) attitude (including being prepared for class), teamwork, seminar management, etc. (50%), and (3) taking part in the presentation competition (50%).

ECN218CA
演習
山田 快
開講時期：年間授業/Yearly 単位：8 単位
4 年次は授業コード「K7168」を履修登録すること。

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、スポーツやそれに関連する事象に焦点を当て、心理学の観点からその多様な意味や役割、可能性などについて調べ・学び・考えていきます。

【到達目標】

主体的な取り組みを基礎に、スポーツに関わる諸問題を取り上げ、それについて調べ、理解し、考えることを経て、自分なりの見解（スポーツ観）を導き出していきます。また、自らの見解を表出して他者とディスカッションすることで、スポーツを人生や社会に活かすための知識と姿勢を学んでいきます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP8」「DP9」「DP10」「DP11」に関連。国際経済学科は「DP9」「DP10」「DP11」に関連。

【授業の進め方と方法】

グループ（または個人）で研究テーマを設定し、そのことについて調べ、まとめていきます。まとめた内容を発表し、メンバーとディスカッションすることを通して、研究テーマに対する理解を深めていきます。また、オフィス・アワーで課題への取り組みに対するフィードバックを行ったり、良例を積極的に授業内で取り上げることで、議論や理解を深めることに役立ちます。最終的に、以上の取り組みから得た知見を論文化し、総括します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス、役割を分担する	年度の活動計画を確認し、役割を決定する。
2	スポーツ心理学を知る	研究動向をはじめ、スポーツ心理学の基礎を学ぶ。
3	研究テーマを洗い出す①	関心のあるテーマを出し合い、意見交換を行う。
4	研究テーマを洗い出す②	関心のあるテーマを出し合い、意見交換を行う。
5	研究テーマを決定する	多様なキーワードから共通点を見出し、研究テーマを設定する。
6	先行研究を概観し、発表する①	研究テーマに関連する先行研究を読み、その内容を資料にまとめて発表する。
7	先行研究を概観し、発表する②	研究テーマに関連する先行研究を読み、その内容を資料にまとめて発表する。
8	先行研究を概観し、発表する③	研究テーマに関連する先行研究を読み、その内容を資料にまとめて発表する。
9	研究計画を立てる①	研究計画を立案し、検討を重ねる。
10	研究計画を立てる②	研究計画を立案し、検討を重ねる。
11	研究計画を発表し、再考する①	研究計画を資料にまとめて発表し、意見交換を行う。
12	研究計画を発表し、再考する②	研究計画を資料にまとめて発表し、意見交換を行う。
13	調査方法を学ぶ①	研究テーマに見合うデータの収集方法を学ぶ。
14	調査方法を学ぶ②	研究テーマに見合うデータの収集方法を学ぶ。
15	調査データを分析する①	収集したデータの分析方法を学び、実践する。
16	調査データを分析する②	収集したデータの分析方法を学び、実践する。
17	分析結果を考察する①	分析から導き出された結果が示す意味を考える。
18	分析結果を考察する②	分析から導き出された結果が示す意味を考える。
19	分析結果を考察する③	分析から導き出された結果が示す意味を考える。
20	研究論文を執筆する①	一連の研究活動を論文にまとめる。
21	研究論文を執筆する②	一連の研究活動を論文にまとめる。
22	研究論文を執筆する③	一連の研究活動を論文にまとめる。
23	研究論文を執筆する④	一連の研究活動を論文にまとめる。
24	研究成果を発表する①	研究論文の内容を資料にまとめて発表し、議論する。
25	研究成果を発表する②	研究論文の内容を資料にまとめて発表し、議論する。

26	研究成果を発表する③	研究論文の内容を資料にまとめて発表し、議論する。
27	研究成果を発表する④	研究論文の内容を資料にまとめて発表し、議論する。
28	年度の活動を総括する	年度の活動を振り返り、次年度に活かす。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日頃からスポーツに興味と関心をもってテレビや雑誌、インターネットなどの多様な情報媒体を活用しながら、知識の収集と修得に努めてください。また、春学期と秋学期にそれぞれ発表ができるよう、計画的に資料の準備を進めてください（1回の授業につき、4時間以上を目安に主体的な学習活動に励むこと）。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しません。必要に応じて、資料を配布します。

【参考書】

必要に応じて紹介します。

【成績評価の方法と基準】

毎回の出席を前提に、授業への参画状況（50%）を主な基準とし、そこに発表（30%）と進級・卒業論文（20%）の出来を加えて総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

ゼミ活動の醍醐味である他者とのディスカッションをより活発にするため、チームビルディングなどを活用して、良好なメンバー同士の関係性と雰囲気、体制づくりに努めます。

【学生が準備すべき機器他】

必要に応じて、PC や AV 機器などの準備をお願いします。

【その他の重要事項】

学生自身が主体的に授業を運営していくことがゼミの本分です。受身ではなく、積極的な姿勢で学習活動に励んでください。

【オフィス・アワー】

授業前後に随時質問を受け付けます。

【Outline (in English)】

【Course Outline】

This course focuses on researching sport or health from the perspective of psychology.

【Learning Objectives】

The goal of this seminar is to deepen student's insights through discussions with another students.

【Learning Activities Outside of Classroom】

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

【Grading Criteria/Policy】

Grading will be decided based on participation activeness (50%), presentations (30%), and the quality of thesis (20%) in the lab.

ECN218CA
演習
梅津 亮子
開講時期：年間授業/Yearly 単位：8 単位
4 年次は授業コード「K7170」を履修登録すること。

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本演習では、管理会計の専門知識およびマネジメント手法を習得することを目的とします。管理会計を学習する前提として経営学全般の知識も必要となりますので、まずは組織の仕組みや組織のマネジメントに関する基礎知識を吸収してもらいます。その上で、原価計算や管理会計の上級の学習内容を積み上げていきます。

【到達目標】

1. 管理会計の専門的な知識を習得し、様々な経営課題に対してそれらの知識を応用展開することができる、2. 進級論文や卒業論文の作成を通じて、論理的な思考力、表現力、発想力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP8」「DP9」「DP10」「DP11」に関連。国際経済学科は「DP9」「DP10」「DP11」に関連。

【授業の進め方と方法】

本演習では、管理会計、原価計算および経営学の領域について年間数冊のテキストを読みこんでいきます。テキストの担当箇所について各自レジュメを作成して、報告してもらいます。テキストの輪読・報告・議論を通じて、各自、卒業論文として取り組みたいテーマを見つけてください。レポート課題等については、演習の中で講評を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	年間計画の説明
第 2 回	基礎知識の習得 1	テキスト 1 担当箇所の割り当て、輪読と解説、議論
第 3 回	基礎知識の習得 2	輪読と解説、議論
第 4 回	基礎知識の習得 3	輪読と解説、議論
第 5 回	基礎知識の習得 4	輪読と解説、議論
第 6 回	基礎知識の習得 5	輪読と解説、議論
第 7 回	資料検索・収集	資料検索、データベースの利用
第 8 回	原価計算の基礎 1	テキスト 2 担当箇所の割り当て、レジュメ作成・報告・議論
第 9 回	原価計算の基礎 2	レジュメ作成・報告・議論
第 10 回	原価計算の基礎 3	レジュメ作成・報告・議論
第 11 回	原価計算の基礎 4	レジュメ作成・報告・議論
第 12 回	研究計画書の作成	研究テーマの設定、研究計画書の作成・報告
第 13 回	ゼミ合宿 1	テキスト 3 合宿の準備・実施
第 14 回	ゼミ合宿 2	テキスト 4 合宿の準備・実施
第 15 回	夏休みの研究報告 1	レポートの提出と報告 1
第 16 回	夏休みの研究報告 2	レポートの提出と報告 2
第 17 回	管理会計入門 1	テキスト 5 担当箇所の割り当て、レジュメ作成・報告・議論
第 18 回	管理会計入門 2	レジュメ作成・報告・議論
第 19 回	管理会計入門 3	レジュメ作成・報告・議論
第 20 回	管理会計入門 4	レジュメ作成・報告・議論
第 21 回	管理会計入門 5	レジュメ作成・報告・議論
第 22 回	中間報告会	進級論文の中間報告、卒業論文の中間報告
第 23 回	管理会計応用 1	テキスト 6 担当箇所の割り当て、レジュメ作成・報告・議論
第 24 回	管理会計応用 2	レジュメ作成・報告・議論
第 25 回	管理会計応用 3	レジュメ作成・報告・議論
第 26 回	管理会計応用 4	レジュメ作成・報告・議論
第 27 回	管理会計応用 5	レジュメ作成・報告・議論
第 28 回	論文報告会	進級論文の報告、卒業論文の報告

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

あらかじめテキストを読んでおくこと。専門用語などは調べておくこと。本演習の準備・復習時間は 4 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

初回時に指示します。

【参考書】

必要に応じてそのつと紹介します。

【成績評価の方法と基準】

演習への貢献度 40 %、レポート 30 %、報告内容 30 %

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline (in English)】

(Course Outline)The aim of this course is to discuss the strategic issues in management accounting.(Learning Objectives)The goals of this course are to acquire specialized knowledge in management accounting and write graduation theses.(Learning activities outside of classroom)Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.(Grading Criteria/Policy)Grading will be decided based on in-class contribution:40%,Reports:30%,Presentation:30 %.

ECN218CA
演習
山田 稔
開講時期：年間授業/Yearly 単位：8 単位
4 年次は授業コード「K7171」を履修登録すること。

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スポーツの経済的役割およびスポーツビジネスの状況を把握し、スポーツの経済効果やマーケティング戦略について理解する。

【到達目標】

多くの具体例を題材にし、スポーツの多様な経済効果とスポーツビジネスの構造および現状について理解する。そしてスポーツの経済効果を高める考え方や方法について具体的に述べられるようにすること、またスポーツ商品に対する戦略的なマーケティング思考を身につけることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP8」「DP9」「DP10」「DP11」に関連。国際経済学科は「DP9」「DP10」「DP11」に関連。

【授業の進め方と方法】

現代社会におけるスポーツの環境、社会的役割、経済的役割についての資料を収集する。そして収集した資料を基にレポート作成、プレゼンテーション、ディスカッションを行う。またスポーツビジネスの現場見学などを行い、実践的な側面についても学ぶ。様々なスポーツの現状を理解した上で、スポーツの経済効果やスポーツビジネスについて検討・研究を進めていく。

毎回の授業内で、レポートの添削やプレゼンテーションに対するアドバイスなどのフィードバックを行う。また授業以外でも、学習支援システム等を利用して、同様のフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	ゼミの進め方について説明
第 2 回	スポーツの社会的意義	テーマについての講義
第 3 回	政策としてのスポーツ 1	テーマについての講義
第 4 回	政策としてのスポーツ 2	プレゼンテーションおよび討論
第 5 回	財政負担軽減策としてのスポーツ 1	テーマについての講義
第 6 回	財政負担軽減策としてのスポーツ 2	プレゼンテーションおよび討論
第 7 回	財政負担軽減策としてのスポーツ 3	プレゼンテーションおよび討論
第 8 回	スポーツ産業の構造 1	テーマについての講義
第 9 回	スポーツ産業の構造 2	プレゼンテーションおよび討論
第 10 回	スポーツ産業の構造 3	プレゼンテーションおよび討論
第 11 回	スポーツにおける消費者行動 1	テーマについての講義
第 12 回	スポーツにおける消費者行動 2	プレゼンテーションおよび討論
第 13 回	スポーツにおける消費者行動 3	プレゼンテーションおよび討論
第 14 回	スポーツにおける消費者行動 4	プレゼンテーションおよび討論
第 15 回	スポーツイベントの経済効果 1	テーマについての講義
第 16 回	スポーツイベントの経済効果 2	プレゼンテーションおよび討論

第 17 回	スポーツイベントの経済効果 3	プレゼンテーションおよび討論
第 18 回	スポーツイベントの経済効果 4	プレゼンテーションおよび討論
第 19 回	CRS としてのスポーツ 1	テーマについての講義
第 20 回	CRS としてのスポーツ 2	プレゼンテーションおよび討論
第 21 回	スポンサーシップ 1	テーマについての講義
第 22 回	スポンサーシップ 2	プレゼンテーションおよび討論
第 23 回	スポンサーシップ 3	プレゼンテーションおよび討論
第 24 回	プロスポーツの経営 1	テーマについての講義
第 25 回	プロスポーツの経営 2	プレゼンテーションおよび討論
第 26 回	プロスポーツの経営 3	プレゼンテーションおよび討論
第 27 回	スポーツ種目のマーケティング 1	テーマについての講義
第 28 回	スポーツ種目のマーケティング 2	プレゼンテーションおよび討論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

スポーツ全般に関する資料および文献の収集
スポーツの経済効果に関する具体的な事例に関する資料および文献収集
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特になし

【参考書】

「Sports Economics theory, evidence and policy」 Paul Downward, Alistair Dawson, Trudo Dejonghe 著 Routledge
「The Economics of Sport」 Robert Sandy, Peter J.Sloane, Mark S.Rosentraub 著 Palgrave macmillan
「スポーツ経済学」 里麻克彦著 北海道大学出版会
「スポーツの経済学」 マイケル・A・リーズ、ベーター・フォン・アルメン著 大坪正則監訳 佐々木勉訳 中央経済社
「スポーツマーケティング交換課程の経営」
スポーツマネジメント研究会 編訳「スポーツマネジメント」ボニー L・パークハウス編著 大修館書店
「スポーツ・マーケティングの基礎」 B.G. ピッツ・D.K ストットラー編著 白桃書房
「Sport in Consumer Culture」 John Horne 著 Palgrave macmillan

【成績評価の方法と基準】

平常点 20%
レポートの内容 40%
プレゼンテーションの内容 40%

【学生の意見等からの気づき】

講義とプレゼンテーションのバランスを計りたい。また、より盛んなディスカッションを促すようなプレゼンテーションとなるような工夫をしたい。

【学生が準備すべき機器他】

【教室における対面授業の場合】

PowerPoint や Keynote などのプレゼンテーションソフトを使用して発表してもらう。

コロナウイルス感染拡大の状況により、キャンパスへの登校に支障がある場合は、オンライン（ライブ形式）での授業参加も認める。

【オンライン授業に移行せざるを得ない場合】

Zoom などのオンデマンドミーティングアプリを使用し、プレゼンテーションを進める。

ミーティング前には、メール等によってミーティングに関する情報を通知するので、確認すること。

【Outline (in English)】

The purpose is acquire knowledge about economic impact of sports and strategies of sports marketing to understand current status of sports business and economic influence of sports.

One of the goals is understanding logic to create and expand economic impact of sport. And other goal is marketing strategies of sport products and service.

To reach goals, it's necessary minimum 2 hours per week to read some texts and research papers about sports economics and sports marketing.

Grade are based on 20% attitude, 40% report paper and 40% presentation.

ECN218CA
演習
池田 雅美
開講時期：年間授業/Yearly 単位：8 単位
4 年次は授業コード [K7172] を履修登録すること。

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

主に認知心理言語学、言語科学などの知見に基づく英語の効果的な習得を目指すとともに、学習者自身の英語力の習得データに関する実証的研究方法、分析方法を学ぶ。

【到達目標】

- (1) 言語学、第二言語習得に関する英語で書かれた原書を正確に理解し、要約し、検討・分析する能力を習得する。
- (2) 自分の意見や考えを先行研究や調査結果を踏まえて根拠に基づいて、英語で相手に分かりやすく説明する能力を習得する。
- (3) ゼミ生全員が 3 年終了時に TOEIC® 800 点、4 年終了時に TOEIC® 900 点の取得を到達目的とする。
- (4) 3 年終了時までには統計処理に基づく実証的研究方法の基礎を習得することを目標とする

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP8」「DP9」「DP10」「DP11」に関連。国際経済学科は「DP9」「DP10」「DP11」に関連。

【授業の進め方と方法】

(1) SLA に関する英文の専門書を扱う。ゼミ生は自分の発表担当箇所を熟読し、概要と自分の意見を加えた英文のレジュメを作成し、英語で発表する。次にその内容に関して正確な知識の確認を踏まえ、全員で問題点に関して議論する。(2) 実証的な研究方法の基礎を統計処理演習を通じて習得していく。各自が PC を活用して実際に統計処理の基礎（アンケート集計法、t 検定、相関係数、因子分析など）を習得できるように演習する。(3) プレゼン用多読課題として *Phoenix from the Flames* をなどを扱う。(4) リアクションペーパーなどにおける優れたコメントは授業内で紹介し、さらに議論を深めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ゼミの運営方法と学習方法の説明	ゼミの運営方法、予習方法、進級論文の作成予定作成方法の概要の説明 (担当教員、前年度ゼミ長)
第 2 回	第二言語習得研究の傾向	SLA の歴史的発達と進展状況の概説、SLA、CORE1900、統語処理 test
第 3 回	形態素の習得、パラグラフの構成 (1)	形態素の習得の原理とメカニズム、SLA、談話処理 test、Functions of Topic Sentence
第 4 回	音韻の習得、パラグラフの構成 (2)	音韻処理のプロセス、SLA、各自の進級論文の概要、Function of Supporting Sentences
第 5 回	語彙の習得、パラグラフの構成 (3)	語彙処理のプロセス、SLA、CORE1900、各自の進級論文の概要、Function of Concluding Sentence
第 6 回	統語の習得、パラグラフの展開型 (1)	統語処理のプロセス、SLA、各自の進級論文の概要、Facts & Example

第 7 回	第二言語習得における誤りの分析、パラグラフの展開型 (2)	誤りの分析のプロセス、SLA、各自の進級論文の概要、Comparison & Contrast
第 8 回	第二言語習得における学習者要因、パラグラフの展開型 (3)	学習ストラテジーと動機づけ、SLA、各自の進級論文の概要、Chronological Order
第 9 回	年齢と第二言語習得、パラグラフの展開型 (4)	年齢要因と臨界期仮説、SLA、CORE1900、各自の進級論文の概要、Hypothesis Testing
第 10 回	クラスルーム・リサーチと第二言語習得、パラグラフの展開型 (5)	クラスルーム・リサーチとアクション・リサーチ、SLA、Problem Solution
第 11 回	英語教育学と第二言語習得、パラグラフの展開型 (6)	英語教育学を支える第二言語習得理論、SLA、各自の進級論文の概要、Cause & Effects
第 12 回	リスニングとオーラル・コミュニケーション、パラグラフの展開型 (7)	リスニングのメカニズム、プロセス、ストラテジー、SLA、各自の進級論文の概要、Cognitive Analysis
第 13 回	スピーキングとオーラル・コミュニケーション、照応関係 (1)	スピーキングのメカニズム、プロセス、ストラテジー、SLA、各自の進級論文の概要、Anaphora
第 14 回	リーディング、照応関係 (2)	リーディングのメカニズム、プロセス、ストラテジー、SLA、Cataphora
第 15 回	ライティング、談話標識の機能 (1)	ライティングのメカニズム、プロセス、ストラテジー、SLA、CORE1900、Conjunction
第 16 回	実証的研究の方法、談話標識の機能 (2)	数量的リサーチ、SLA、CORE1900、Reverse Conjunction
第 17 回	実証的研究の方法、談話標識の機能 (3)	質的リサーチ、SLA、Core 1900、Addition
第 18 回	統計処理の方法 (a)、未知語の推測 (1)	統計処理の方法 (t 検定、分散分析、多重比較など) の演習、SLA、Word Formation-based Inference
第 19 回	統計処理の方法 (b)、未知語の推測 (2)	統計処理の方法 (相関係数、因子分析など) の演習、SLA、Context-based Inferences
第 20 回	実証的研究の計画と方法、推論 (1)	研究計画の立案とリサーチデザインと分析・考察の方法、SLA、CORE1900、Bridging Inferences
第 21 回	普遍文法理論と第二言語習得研究、推論 (2)	普遍文法理論の適用可能性、SLA、Elaborating Inferences
第 22 回	認知言語学と第二言語習得研究、研究方法 (1)	認知言語学の適用可能性、SLA、研究テーマの設定
第 23 回	第二言語語彙処理研究、研究方法 (2)	第二言語語彙処理研究との関連性、SLA、CORE1900、研究テーマと関連する先行研究の収集
第 24 回	第二言語音韻処理研究、研究方法 (3)	第二言語音韻処理研究との関連性、SLA、収集した情報・データ・研究成果の整理・比較分析
第 25 回	第二言語文処理研究、研究方法 (4)	第二言語文処理研究との関連性、SLA、研究論文の構成・章立て・筋立て・アウトラインに関する考察
第 26 回	第二言語意味処理研究、研究方法 (5)	第二言語意味処理研究との関連性、SLA、研究論文のアウトラインに基づく各章の執筆
第 27 回	認知心理言語学研究 (a) 研究方法 (6)	第二言語統語処理のメカニズム、SLA、CORE1900、研究論文の論旨の推敲・文章の推敲

第28回 認知心理言語学研究 第二言語統語処理のプロセスと
(b) 研究方法 (7) トラジェジー, SLA, 研究論文の問
題点、及び今後の展望の執筆

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- (1) 研究論文、原書、刊行物、著書などを熟読し、発表ハンドアウトにまとめ、発表する。
- (2) Core1900 を課題学習し、90%以上習得する。
- (3) TOEIC®の問題集を課題学習し、その成果を英語で発表する。
- (4) 実証的研究法に基づく統計処理方法の基礎を習得する。
- (5) Phoenix from the Flames の多読とプレゼン原稿を作成する。授業の準備学習・復習時間は、各 4 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

- (1) Introducing Second Language Acquisition, Muriel Saville-Troike, Karen Barto (2016), (CUP)
- (2) Phoenix from the Flames, (2015) (National Geographic Learning) Masanori Terauchi, et al
- (3) 『英語教育学の実証的研究法入門 Excel で学ぶ統計処理』(2012) 寺内正典(編集代表) 中谷安男(編) (研究社)
- (4) 『第二言語習得研究の現在』(2004) (大修館書店) 小池生夫(編集主幹) 寺内正典、木下耕児、成田真澄(編著)
- (5) 『速読速聴・英単語 Core 1900』松本茂(監修) (Z 会)

【参考書】

参考文献

- 『応用言語学事典』(2003) (研究社) 小池生夫(編集主幹) 寺内正典(チーフ編集コーディネーター)
- 『言語科学の百科事典』(2006)(丸善) 鈴木良次、畠山雄二、岡ノ谷一夫、萩野綱男、金子敬一、寺内正典、藤巻則夫、森山卓郎 編著

【成績評価の方法と基準】

評価方法・評価基準

- (1) 「研究発表」 [40 %]
- (2) 「レポート」「進級論文」 [40 %]
- (3) 「テスト」 [20 %]

【学生の意見等からの気づき】

ゼミ生個々人の学習要因とストラテジーの差異を出来るだけ正確に理解するとともに、一人一人の個性も尊重しながら学習あるいは、その他の各種の悩みなどのカウンセリングを行なうことの重要性を認識した。

【学生が準備すべき機器他】

DVD と Video と Laptop PC などを適宜活用する。

研究発表を行う場合や実証的研究に関する統計的手法を学ぶ際に貸与パソコンの持参が必要になる。

貸与パソコン、貸与タブレット「学習支援システム」などの活用が必要な状況が生じた場合は、その旨お知らせいたします。また、使用上の留意点なども合わせてお知らせします。

【その他の重要事項】

自分の発表個所以外も事前にきちんと予習しておくこと、授業の理解度は、リアクション・ペーパーで確認する。

進級論文(3年生は全員必修)の指導に関しては、ゼミ全体での論文計画書の発表会だけでなく、個人の必要に応じて、より丁寧な個人指導も行う。

特に4年生に関しては、卒論計画書を2回提出させ、当該計画書に基づいて発表させ、ゼミ生間で互いに修正案を検討させる。その後、教師が改善・修正のためのコメントを行う。なお進行状況に応じてこのサイクルを計3回行わせ、漸次、計画的に卒論が完成できるように支援していく。

【Outline (in English)】

Outline and objectives

To learn empirical research methods and analysis methods regarding the acquisition data of learners' own English proficiency, while aiming to effectively acquire English, based mainly on the knowledge of cognitive psycholinguistics and linguistic science,

Goal

- (1) To acquire the ability to accurately understand, summarize, examine and analyze original texts written in English on linguistics and second language acquisition.
- (2) To acquire the ability to explain one's opinions and thoughts to others in English in an easy-to-understand manner based on evidence based on previous research and survey results.

(3) All seminar students aim to achieve a TOEIC® score of 800 by the end of the third year and a TOEIC® score of 900 by the end of the fourth year.

(4) The goal is to master the basics of empirical research methods based on statistical processing by the end of the third year.

Work to be done outside of a class meeting

(1) To read carefully research papers, original books, publications, books, etc., and summarize them in presentation handouts, and present them.

(2) To acquire 90% or more of Core1900 through task learning.

(3) To study the TOEIC® problem collection and present the results in English.

(4) To learn the basics of statistical processing methods based on empirical research methods.

(5) Extensive reading of Phoenix from the Flames and preparation of the presentation manuscript. Standard time for class preparation and review is 4 hours each.

Grading criteria

(1) "Research presentation" [40%]

(2) "Report" "Promotion essay" [40%]

(3) "Test" [20%]

ECN218CA
演習
飯野 厚
開講時期：年間授業/Yearly 単位：8 単位
4 年次は授業コード「K7173」を履修登録すること。

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

英語を運用する力の向上、異文化間コミュニケーションの体験と学習。SDG s に関連する国内・国際社会の諸問題について調べ、発表し、解決策を提案し、議論する。

【到達目標】

異文化間コミュニケーションを専門的に理解し、英語力の研鑽に努めながら、英語を使用して国内外のさまざまなシーンで異文化理解・国際協力が実践できる。

・英語でプレゼンテーション・ディスカッション・ディベートができる。

・英語を使った行動の実践（国内・国際ボランティア、インターンなど）

・CEFR B2 レベルの英語力（TOEIC 2 年終了時 600 点（B1）、3 年 700 点、4 年 800 点（B2）、TOEFL71 点、英検準 1 級）

・進級論文：自分の英語の対話分析、4 年生履修者は卒業論文必須。
The course takers will become able to:

・practice cross-cultural communication with fluent English output proficiency as they enhance their proper attitudes to different cultures,

・give presentations and have active discussions and debates over domestic and international social issues related to SDGs,

・attend some projects of domestic and international volunteer activities and internships using English,

・attain the higher scores in TOEIC as they proceed the study,

・observe their English improvement and write a reserach paper in the final year (senior-year)

【授業の進め方と方法】

・2・3 年

ゼミ時間：さまざまな話題を用いたプレゼンテーション（グループ割当制）&ディスカッション&ディベート（討論 → 発表 → 討論）

・サブゼミ・オンライン対話：ゼミ時の討論の仕上げとしてオンライン対話を通して外国に住む英語話者と論じ合う。半期 10 回以上（2 年・3 年）

・ポイント制英語自主学習（POint System Self-access English Study[POSSES]）：毎月メニューから自分で選んで英語の勉強を実行し、30pt となるように自己申告する。270pt/年（前年度 2 月から 12 月までの間）。自主学習として意欲的に取り入れてほしい。

4 年

ゼミに年間 10 回以上参加する。卒論の執筆指導を行う。前期から月に 1 度以上の授業出席か個別指導を受た上で完成の認めをもらって提出する（1 月第 1 週締切）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Orientation, introduction of learning activities in POSSES	ゼミ進行方法、内容説明 各種英語力テスト（Speaking） ポイント制英語学習 POSSES ガイダンス、2 年自己紹介プレゼン self-intro 3 年春休み学習体験プレゼン
2	Online English Conversation Program Guidance, Brainstorming for Group presentaiton	オンライン英会話ガイダンス、グループプレゼンテーション打合せ
3	Topic 1 Which is better for a holiday, camping or staying at a hotel?(Unit 1)	Presentation, Discussion and Role-play + Group work
4	Topic 2 Which is better for your health, tea or coffee?(Unit 2)	Presentation, Discussion and Role-play 4 年卒論プロポーザル提出 research proposal
5	Topic 3 Which is better for your health, tea or coffee?(Unit 3)	Presentation, Discussion and Role-play + Group work
6	Topic 4 Which do you prefer, buying clothes or renting them? (Unit 4)	Presentation, Discussion and Role-play + Group work
7	Topic 5 Should eSports be in the Olympic Games? (Unit 5)	Presentation, Discussion and Role-play + Group work
8	Topic 6 Should food companies abandon best-before dates? (Unit 6)	Presentation, Discussion and Role-play + Group work
9	Topic 7 SWhere do you like to watch movies, at a theater or at home? (Unit 7)	Presentation, Discussion and Role-play + Group work
10	Topic 8 Should homeowners install solar panels? (Unit 8)	Presentation, Discussion and Role-play + Group work
11	Topic 9 Should Japan ban the sale of pets? (Unit9)	Presentation, Discussion and Role-play + Group work
12	Topic 10 Should Japan introduce a four-day workweek?(Unit 10)	Presentation, Discussion and Role-play + Group work
13	Writing a speech progress report, Writing BBS	Examine the videoconferencing and find the progress in interaction
14	Compiling progress report	Progress report writing+ presentation videorecording
1	Individual Presentation+ Topic choice for presentation contest	夏休み中の英語学習活動報告（個別プレゼン）
2	Re-introduction of learning activities in POSSES, Creating presentation slides for Presentation Contest: ABCDE Team	ポイント制英語学習 POSSES 再ガイダンス、プレゼンコンテスト打合せ

3	Topic 11 Should children's video game time be limited by law? (Unit 11)	Presentation, Discussion and Role-play + Group work
4	Topic 12 Should cashless payment be promoted further in Japan? (Unit 12)	Presentation, Discussion and Role-play + Group work
5	Topic 13 Should social media companies censor their platforms?(Unit13)	Presentation, Discussion and Role-play + Group work
6	Topic 14 Should Japan invest more in space development? (Unit 14)	Presentation, Discussion and Role-play + Group work
7	Topic 15 Should public baths and hot springs accept people with tattoos? (Unit15)	Presentation, Discussion and Role-play + Group work
8	Topic 16 Original topic chosen by Group 1	Presentation, Discussion and Role-play + Group work
9	Topic 17 Original chosen by Group 2	Presentation, Discussion and Role-play + Group work
10	Topic 18 Original chosen by Group 3	Presentation, Discussion and Role-play + Group work
11	Topic 19 Original chosen by Group 4	Presentation, Discussion and Role-play + Group work
12	Topic 20 Original chosen by Group 5	Presentation, Discussion and Role-play + Group work
13	Review of Interaction by transcribing	Examine the progress in speaking by reviewing VTR
14	Consolidating Point System of English Self-access Study[POSSES]	Individual interview

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・サブゼミのオンライン対話は授業と同じ扱いなので週1回（25分）は必ず実施。
- ・ポイント制英語学習を計画的に進める。成果は法政 G メール連動の G ドライブにアップロードし、現物を保存し教室のフォルダに保存もする。
- ・プレゼンテーション準備は必ず事前に打ち合わせと練習をすること。1 週間前にスライド完成が原則。
- ・ゼミ合宿やゼミの集まりなど行事参加は必須。
- ・本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

The course takers must:

- ・ attend sub-seminar activities (outside the class hours) among the course-takers in groups,
- ・ be actively involved in point-system self-paced English learning, submitting the study records both in paper and PDF to Google Drive,
- ・ prepare the assigned presentation slides in groups one week before the presentation date and receive feedback from the instructor, then practice presentation to raise the performance level,
- ・ actively attend the designated events in the seminar,
- ・ spend two hours for preparation and review of each class.

【テキスト（教科書）】

『Voice Your Opinion ーディスカッションで伸ばす発信型英語演習』金星堂

【参考書】

『異文化間コミュニケーション入門』ちくま書房
『英語研究論文の書き方』（ミネルヴァ書房）

【成績評価の方法と基準】

1. 50% 授業内活動、プレゼンテーション（準備、スライド・発表の質）、Hoppi 課題提出、授業前準備（Reading, 音声録音）、学年末プログレスレポート、
 2. 30% 自主英語学習ポイント（月別フォルダと学習記録）、サブゼミ録画、オンライン会話実施 etc
 3. 20% ワークシート提出、BBS 作文
- 2または3の取り組みが極端に少ない場合は単位認定しません。
評価 C で単位認定の場合は、翌年のゼミ履修は許可しません。
- 1.50% Performances in class activities: presentations, Assignments in Hoppi,
Pre-class reading and sound files, Year-end report
2.30% Point-system self English study: Monthly folders, sub-semi recording videos, online English conversation
3.20% Worksheet and writing in BBS
- *If the engagement in Category 2 and 3 is weak, no credit would be given,
*Those who received C are not allowed to take the seminar next year.

【学生の意見等からの気づき】

トピックの設定はある程度教員が指定するが、学生が自ら設定できる余地を作る。義務となっているサブゼミは 50 分程度の時間を要するので、通常ゼミ授業を若干早めに終了する。

【学生が準備すべき機器他】

- ・サブゼミは各自のパソコンで実施するため、オンラインソフトの設定も含め事前に準備する

【その他の重要事項】

- ・授業出席に関してはガイダンスで説明。・提出物は 100%実施が原則。
- ・4 年生は卒論を書くことを前提に履修し、学期中の最低 5 回は授業に出席する。
- ・卒論はプロポーザル認定（5 月）のあと、Hoppi 課題を通して求められる部分を期日までに執筆し提出する。春学期は Introduction、Method、想定 Results までを完成。夏休み中にデータ収集、秋学期に Results、Discussion、Conclusion、References を完成する
- ・卒論執筆の詳細ガイダンスは、飯野の Academic Research SeminarAB の履修を強く推奨する。

【Outline (in English)】

Students will enhance their communicative competence as they practice and learn about cross-cultural communication. They will also learn how to conduct research and how to practice presentation, discussion, and the proposal of solutions particularly on domestic and global social issues related to SDGs.

ECN218CA
演習
進藤 理香子
開講時期：年間授業/Yearly 単位：8 単位
4 年次は授業コード「K7174」を履修登録すること。

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ヨーロッパ近現代史を学習するゼミである。政治・経済分野のみならず、文化・社会問題などに至るまで、参加者の関心にしたがって幅広くヨーロッパの歴史を探究することを目的とする。

【到達目標】

ヨーロッパ近現代史を政治・経済面からだけでなく、社会・生活・文化といった身近に共感できる領域からも考察できるようになることを目指す。とりわけ 20 世紀・21 世紀の独裁体制、二度の世界大戦、冷戦、欧州統合、大衆消費社会、環境・エネルギー問題といった周知の重要なテーマについて、能動的に調べ自分の考えをまとめ、積極的に議論に参加し、他者の意見を踏まえて自身の仮説を論証していく力を養うことを到達目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP8」「DP9」「DP10」「DP11」に関連。国際経済学科は「DP9」「DP10」「DP11」に関連。

【授業の進め方と方法】

対面授業とオンライン授業 (Zoom) を行う。授業進行の詳細に関しては学習支援システムを通じ連絡する。ゼミでは各回、資料・文献の輪読、グループ研究発表を中心に進めてゆく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	春学期の導入	ゼミの概要、参加者の自己紹介、グループわけなど
2	19 世紀末ヨーロッパ	講義、文献講読、議論
3	第一次世界大戦	講義、文献講読、議論
4	戦間期	講義、文献講読、議論
5	ナチ体制	講義、文献講読、議論
6	学外見学会	博物館や資料館訪問など学外見学会を実施。
7	第二次世界大戦	講義、文献講読、議論
8	ドイツの敗戦	講義、文献講読、議論
9	冷戦体制	講義、文献講読、議論
10	西ヨーロッパの統合	講義、文献講読、議論
11	ソ連・東欧社会主義圏	講義、文献講読、議論
12	現代ヨーロッパの諸問題①	講義、文献講読、議論
13	現代ヨーロッパの諸問題②	講義、文献講読、議論
14	まとめ	講義、文献講読、議論
15	秋学期の導入	秋学期の方針、グループ分け、報告順などについて決める
16	研究報告①	学生のプレゼン、全体での議論①
17	研究報告②	学生のプレゼン、全体での議論②
18	学外見学会	博物館や資料館訪問などの学外見学会を実施する。
19	研究報告③	学生のプレゼン、全体での議論③
20	研究報告④	学生のプレゼン、全体での議論④
21	研究報告⑤	学生のプレゼン、全体での議論⑤
22	研究報告⑥	学生のプレゼン、全体での議論⑥
23	研究報告⑦	学生のプレゼン、全体での議論⑦
24	卒論経過報告①	卒論執筆者による作業経過報告、指導、全体議論①
25	卒論経過報告②	卒論執筆者による作業経過報告、指導、全体議論②
26	講演会①	ゲスト講演者を招きヨーロッパに関する講演開催①
27	講演会②	ゲスト講演者を招きヨーロッパに関する講演開催②
28	秋学期のまとめ	卒業予定者の報告と全学年参加の懇談会

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

ヨーロッパ近現代史の関連文献を自分で開拓、また新聞等を通じ日頃から時事問題への関心を高める。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間の合計 4 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

指定なし。必要に応じて指示、配布する。

【参考書】

指定なし。

【成績評価の方法と基準】

平常点 80%、期末レポート 20 %。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline (in English)】

In this seminar, we study European modern history in the 19th and 20th centuries. We will try to explore not only the economic and political developments, but also the cultural and the social movements in Europe. Lecture (two-credits): Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading Criteria/Policies: Your overall grade in the class will be decided based on the following performances: in-class contribution (80%) and a term-end report (20%).

ECN218CA
演習
菅 幹雄
開講時期：年間授業/Yearly 単位：8 単位
4 年次は授業コード「K7175」を履修登録すること。

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

統計学、地理情報システムソフト（QGIS）、産業連関分析、テキストマイニングを学び、これらの技法を実際の統計へ応用する。

【到達目標】

- ①統計データを用いて実証分析の手法をマスターすること。
- ②実際に統計データを用いて実証分析を行うこと。
- ③実証分析結果について研究発表できるようにすること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP8」「DP9」「DP10」「DP11」に関連。国際経済学科は「DP9」「DP10」「DP11」に関連。

【授業の進め方と方法】

4 時限目：春学期は統計検定過去問 3 級、地理情報システムソフト（QGIS）、産業連関分析を学んだ後、3 年生と 4 年生が研究発表を行う。秋学期は統計検定過去問 2 級、テキストマイニングを学んだ後、2 年生、3 年生が研究発表、4 年生が卒業論文発表を行う。

5 時限目：パソコンを用いた統計に関する演習を行う。学生の発表についてコメントすることでフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	【4 時限目】 ガイダンス / 【5 時限目】 PC 演習	『R 統計解析パーフェクトマスター』 Chapter 1 R と統計学 Chapter 2 R の基本（RStudio の操作と基本プログラミング）
2	統計学講義 (1) / PC 演習	Chapter 3 データの全体像を解析する（代表値）
3	統計学講義 (2) / PC 演習	Chapter 4 データのバラツキ具合を知る（偏差、分散、標準偏差）
4	統計学講義 (3) / PC 演習	Chapter 5 正規分布するデータを解析する
5	統計学講義 (4) / PC 演習	Chapter 6 手持ちのデータで全体を知る（標本と母集団）
6	統計学講義 (5) / PC 演習	Chapter 7 独立性の検定と 2 つの平均の比較（ χ^2 検定、t 検定）
7	統計検定 3 級過去問 (1) / PC 演習	Chapter 9 回帰分析で未来を知る（単回帰分析と重回帰分析）
8	統計検定 3 級過去問 (2) / PC 演習	Chapter 10 クラスタ分析
9	統計検定 3 級過去問 (3) / PC 演習	Chapter 11.5 「決定木」による分類
10	統計検定 3 級過去問 (4) / PC 演習	11.5 ランダムフォレスト回帰 11.9 ランダムフォレストによる分類
11	研究発表（3・4 年生）	主成分分析
12	研究発表（3・4 年生）	研究発表（3・4 年生）
13	研究発表（3・4 年生）	研究発表（3・4 年生）
14	研究発表（3・4 年生）	研究発表（3・4 年生）

15	ガイダンス / PC 演習	ガイダンス / 『テキストマイニング入門: Excel と KH Coder でわかるデータ分析』第 1 章 テキストマイニングとは 第 2 章 テキストマイニングで実現できること 第 3 章 気軽に始めるテキストマイニング 第 4 章 テキストデータを準備する
16	統計検定 2 級過去問 (1) / PC 演習	統計検定 2 級過去問 (1) / 第 5 章 KH Coder で伝える！ 分析アウトプット 5 選 第 6 章 分析の精度を高める！ データクレンジング 第 7 章 アンケートのテキストマイニング
17	統計検定 2 級過去問 (2) / PC 演習	『経済・政策分析のための GIS 入門』第 1 部 基礎知識と前準備
18	統計検定 2 級過去問 (3) / PC 演習	第 2 部 基礎事例 2-1 人口分布図の作成 2-2 高齢者分布と医療施設
19	統計検定 2 級過去問 (4) / PC 演習	2-3 保育所の立地分析 第 3 部 応用事例 3-1 地震リスクと地価
20	研究発表の方法、論文の書き方 / PC 演習	3-2 水害リスクと地価 3-3 母子世帯の空間クラスター
21	QGIS による鉄道路線別人口分析	QGIS による鉄道路線別人口分析
22	産業連関分析 (1)	産業連関表とは、輸入外生モデル
23	産業連関分析 (2)	輸入内生モデル、東京都産業連関表の分析
24	研究発表（2・3・4 年生）	研究発表（2・3・4 年生）
25	研究発表（2・3・4 年生）	研究発表（2・3・4 年生）
26	研究発表（2・3・4 年生）	研究発表（2・3・4 年生）
27	研究発表（2・3・4 年生）	研究発表（2・3・4 年生）
28	研究発表（2・3・4 年生）	研究発表（2・3・4 年生）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

金城俊哉『R 統計解析パーフェクトマスター』秀和システム、3190 円
河端瑞貴『経済・政策分析のための GIS 入門』古今書院、2860 円
末吉美喜『テキストマイニング入門: Excel と KH Coder でわかるデータ分析』オーム社、2500 円（税別）

【参考書】

清水雅彦、菅幹雄『経済統計』培風館、3630 円

【成績評価の方法と基準】

毎回の演習で出された課題に取り組み、提出することにより平常点をつける。

また 3・4 年生は春・秋学期それぞれ 1 回、2 年生は秋学期 1 回の研究発表に内容で成績評価を行う。
成績配分は平常点 40%、研究発表 60%、合計 100% である。

【学生の意見等からの気づき】

統計検定の過去問の学習を春学期に集中させていたのを、春学期に 3 級、秋学期に 2 級に分けた。

【Outline (in English)】

Learn statistics, geographic information system software (QGIS), input-output analysis, text mining, and apply these techniques to actual statistics.

ECN218CA
演習
高橋 秀朋
開講時期：年間授業/Yearly 単位：8 単位
4 年次は授業コード「K7176」を履修登録すること。

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本演習のテーマは、ファイナンス・証券投資という担当教員の専門分野を通じて、PC 能力および文章表現能力の向上を目指し、大学卒業後にできるだけ実践可能な能力を身につけることにある。

【到達目標】

本演習の目的は、証券投資や資産運用に応用可能な基本的なフレームワークを身につけて、それを実践可能なレベルに到達することである。また、グループワークによる論文（レポート、ショートペーパー等）執筆活動やプレゼンを通じて、文章力・表現力を向上させることも主要な目的である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP8」「DP9」「DP10」「DP11」に関連。国際経済学科は「DP9」「DP10」「DP11」に関連。

【授業の進め方と方法】

演習は 2 年生は基本的な知識の習得をメインとし、3 年生はすでに学習した内容を発展させることを目的とした学習を行う。具体的には、2 年生はアカウントティング、ファイナンスの基本を習得し、3 年生はリスク管理、コーポレートファイナンスに注目した、より実践的な演習を行う予定である。

演習履修者は通読するテキストを事前に精読し、教員の進行に従い、適時質問に答える必要がある。最初の 1 時間目は 2 年生が主となる基礎から入門レベルの学習、2 時間目は 3 年生が主となる発展的知識の学習となる。そのため、3 年生が利用するテキストは 2 年生が利用するテキストの上位互換となる。この他、2/3 年生ともに月 1 回程度でグループワークでのプレゼンテーションが課される。

なお、卒業論文、レポート（外部への研究発表等）については、事前に提出の上、別途プレゼンテーションの機会を設けて講評、フィードバックを行うこととする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	春学期の授業実施方針の説明	春学期の演習の進め方についての説明、ファイナンスを学習する意義、担当の割り振りを行う
2	貨幣の時間価値	現在価値、将来価値
3	投資意思決定基準	正味現在価値、IRR
4	キャピタルバジエツティング	企業による投資意思決定
5	キャピタルバジエツティング応用	複雑なキャッシュフローを持つ投資案
6	グループワーク発表 1	財務諸表分析
7	割引率の選択	割引率、成長率が企業価値に与える影響
8	企業価値評価	財務諸表から企業価値を計算する
9	グループワーク発表 2	事例を用いて企業価値の計算
10	リスク	リスク指標と株式リターンの記述統計量
11	リスク分散化	ポートフォリオ理論
12	CAPM	投資信託のパフォーマンスを評価する

13	CAPM の応用	CAPM で企業価値評価における割引率を求める
14	グループワーク発表 3	日本の投資信託のデータを利用してファンドのアルファを計算する
15	秋学期の授業実施方針の説明	秋学期の演習の進め方についての説明、目的、担当の割り振りを行う
16	効率的市場仮説	3 つの EMH、無裁定理論
17	債券、株式評価	企業の CF、配当から証券の価値を計算する
18	グループワーク発表 4	株価の過大/過小評価の議論
19	コーポレートファイナンスの基本	資本構成と企業価値
20	資本構成が企業価値に与える影響	税の影響、エージェンシー理論
21	配当政策	配当と自社株買い
22	グループワーク発表 5	企業の資金調達手段に関するケーススタディ
23	オプションの基本	オプションのペイオフ
24	オプションの価格付け 1	オプションの価格付け（二項モデル）
25	オプションの価格付け 2	ブラックショールズモデル
26	シミュレーションベースのオプション評価	モンテカルロ法を用いたオプション評価、ポートフォリオインシュアランスなど
27	グループワーク発表 6	オプション投資の有効性の検証
28	グループワーク最終報告	4 年生の卒論報告など

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

演習の目的は、学習した内容を実践できることが求められる。指定したテキストは事前精読、実践してくること（週 2 時間）。また、演習内で扱う範囲の理解だけでは十分とは言えず、指定テキストの章末問題を利用して自ら知識の拡充をはかることが求められる（週 1 時間）。また、より現実的な課題をグループワークを通してこなしてもらうことで、自分の知識の再確認を行ってもらう。それらの内容をまとめて提出するための時間も確保すること（平均して、週 1 時間）。

【テキスト（教科書）】

2 年生: Simon Benninga and Tal Mofkadi, Principles of Finance with Excel, 3rd ed. (Oxford Univ Pr, 2017)
3 年生: Simon Benninga, Financial Modeling, 5th ed. (Oxford Univ Pr, 2022)

【参考書】

2 年生: 手嶋宣之『ファイナンス入門』（ダイヤモンド社、2011 年）
3 年生: 藤崎達哉『実践デリバティブ: Excel でデータ分析』（オーム社、2019 年）

【成績評価の方法と基準】

グループワークによるプレゼン内容の評価 50%、平常点 50%で評価する。なお、無断欠席を 1 回でもした場合、平常点として減点対象とする。また、無断欠席を 2 回した場合は評価が自動的に「不可」となる。欠席は理由を明記して、ゼミ当日の 14 時半までに担当教員にメールなどの直接連絡が取れる手段で連絡すること。第三者から伝達および不明瞭な理由による欠席は、どのような理由があろうとも無断欠席と同じ扱いになる。理由を明記した上での欠席でも平常点（減点）として評価に反映される。2 年次の学生に関しては報告時の欠席や無断欠席等で評価が「B」以下になった受講生は原則として 3 年次におけるゼミ活動が困難と判断し、進級を認めない。

【学生の意見等からの気づき】

内容の理解が難しいという指摘があったので、グループワークによるプレゼンを行う回と教員主導によるテキストの内容を理解する回に分けることとした。

【学生が準備すべき機器他】

各自が PC を持参して、演習中も EXCEL を利用できる環境下にあることが求められる。

【Outline (in English)】

This seminar-styled course provides an introduction to the theories and the methods in investment analysis and corporate finance using data and simulation-based analyses. This course also provides opportunities to improve writing and PC skills to achieve the goal that students can write short academic reports or papers based on their acquired skills. Before each class meeting, students will be expected to spend two hours to prepare the course content. Students are also required to spend one hour for reviewing the content after each class and another one hour for solving some problems useful to deepen their understanding. Final grade will be calculated according to the following process: group work reports (50%) and in-class presentations and discussions (50%).

ECN218CA
演習
藤田 貢崇
開講時期：年間授業/Yearly 単位：8 単位
4 年次は授業コード「K7177」を履修登録すること。

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本演習では、「科学ジャーナリズム」または科学に関連する諸課題に取り組み、自ら課題を見出し、課題を発表するためのスキルや表現手法を身につけます。各自の具体的なテーマや詳細は教員と相談して決定します。また、一般向けの科学解説記事の翻訳・執筆に取り組み、発表スキルの習得を行います。

【到達目標】

各自の設定した研究テーマについて、調査する手法、調査結果をまとめる方法を習得すること。また、自らの意見を明確にしながら、調査結果を発表する様々な手法（プレゼンテーション・文章による表現・音声による表現・映像による表現など）を習得すること。

また、英語の文章を理解し、伝わりやすい日本語に翻訳できること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP8」「DP9」「DP10」「DP11」に関連。国際経済学科は「DP9」「DP10」「DP11」に関連。

【授業の進め方と方法】

教員との連絡を密に持ちながら、自らの力で研究を遂行します。各自の研究スケジュールは研究テーマによって異なるが、出席（オンラインによる課題の提出）は必須となります。

具体的な演習内容は、①科学ジャーナリズムの時事的な話題、②ジャーナリズムとは何か、③人に伝えるための文章の書き方、④文章以外に表現する方法（音声・映像）についてなどです。受講生が自ら調べ、表現することができるように指導していきます。

課題や質問等に対するフィードバックは、その都度、あるいは次の授業時に全体に対して回答します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	演習の概要を説明する
2	ジャーナリズムとは何か	ジャーナリズムの社会における重要性を考える
3	記事を書いてみよう I	ジャーナリストの表現手法の基本である文章術を学ぶ
4	記事を書いてみよう II	前回の内容をもとに、実際に執筆してみる
5	自らのテーマを見付ける	各自が知りたいこと、調べたいことを明確にする
6	情報検索や調査の方法	図書館の情報検索サービスなどの利用方法を身につける
7	翻訳手法の習得 I	読み手を意識した翻訳手法を学ぶ
8	いろいろな表現手法 I	文章以外にも、いろいろな表現手法があることを学ぶ
9	調査・研究活動 I	各自のテーマに沿って、調査・研究の具体的な計画を作成する
10	調査・研究活動 II	各自のテーマに沿って、調査・研究を進め、必要な文献を明確にする
11	調査・研究活動 III	各自のテーマに沿って、調査・研究を行う

12	調査・研究活動 IV	各自のテーマに沿って、調査・研究を進め、どのような表現手法があるかを検討する
13	海外のジャーナリズム	海外の科学ジャーナリズムについて学ぶ
14	翻訳手法の習得 II	よりわかりやすい翻訳文を作成するための手法を学ぶ
15	中間発表	表現手法を含めて、各自の課題の進捗状況を報告する
16	夏課題の報告会	各自の課題の進捗状況を報告し、問題点を明らかにする
17	ジャーナリズムをより深く知る	ジャーナリズムに関する論文・書籍を輪読する
18	翻訳手法の習得 III	翻訳文と原文を詳細に比較し、より適切な訳文を作成する手法を身につける
19	表現手法の工夫	映像を活用した表現手法を知る
20	調査・研究活動 V	映像を活用した表現手法を知る
21	調査・研究活動 VI	各自のテーマに沿って、調査・研究の表現手法について決定し、その制作計画を立てる
22	調査・研究活動 VII	各自のテーマに沿って、調査・研究を進めるとともに、発表作品の特性を生かした内容になっているか、計画を再検討する
23	調査・研究活動 VIII	各自のテーマに沿って、調査・研究を進めるとともに、発表作品の制作を進める
24	翻訳手法の習得 IV	完成した翻訳文の校正を行い、適切な訳文を作成する。
25	調査・研究活動 IX	各自のテーマに沿って、調査・研究を進めるとともに、発表作品の制作を進める
26	調査・研究活動 X	各自のテーマに沿って、調査・研究を進めるとともに、発表作品の制作を進める
27	調査・研究活動 X I	各自のテーマに沿って、調査・研究を進めるとともに、発表作品の制作を進める
28	成果報告会	1 年間の研究課題を報告する（2・3 年生）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

原稿や訳文の作成に関して、時間外に作業を行うことが必要となる場合があります。本授業の準備学習および復習時間は、それぞれ 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

1 年間を通じて使用するテキストはありません。

【参考書】

『科学ジャーナリズムの手法』（化学同人）
他は授業中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

演習で課される課題の提出状況（70 %）、平常点（30 %）として評価し、60%の得点率を合格とします。

【学生の意見等からの気づき】

個人で取り組む研究を充実させるように工夫します。

【その他の重要事項】

ジャーナリズムに関心を持ち、自ら情報発信をしてみたい学生の参加を望みます。偏った意見を取り上げるのではなく、公正・中立な立場で研究課題に取り組む姿勢が大切です。

止むを得ず演習に出席することができない場合には、必ず連絡すること。

【授業内の取り組み】

ジャーナリズムに大切なことは、多様な考え方です。演習では、事前に時事的な話題（例えば感染症政策、臓器移植、原子力問題など）を指定し、受講者それぞれの考え方を簡単に発表する場を設けます。

【Outline (in English)】

This course deals with the science journalism and science education. The goals of this course are to understand the importance of journalism. Your required study time is at least four hour for each class meeting. Grading will be decided based on short reports of each class.

ECN218CA
演習
竹本 亨
開講時期：年間授業/Yearly 単位：8 単位
4 年次は授業コード「K7178」を履修登録すること。

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

目的：ミクロ経済学・ゲーム理論を応用した、経済現象の分析および現代社会における経済政策と経済制度の有効性に関する考察

概要：ミクロ経済学とゲーム理論を学習した上で、それを応用し、経済政策・制度の分析を行う。政策・制度の分析については、公共経済学の教科書を用いて、学習する。習得した知識に基づき、研究テーマを設定し、春学期末に中間成果報告会を、年度末に最終研究成果の報告会を行う。

【到達目標】

ミクロ経済学・ゲーム理論を理解すること。練習問題演習をすることも重要だが、それ以上に、これら経済理論を応用し、身近な問題に対する分析能力を養うことが最も重要な目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP8」「DP9」「DP10」「DP11」に関連。国際経済学科は「DP9」「DP10」「DP11」に関連。

【授業の進め方と方法】

次の3段階のステップを踏む：①教科書に基づき理論の学習を行う。②その後、練習問題を解く。③そして、最終的には、ミクロ経済学・ゲーム理論を応用して研究活動を行う。

課題等のフィードバック（課題の解答解説等）は講義内で行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	春学期の運営方法について
2	研究成果報告会のテーマ報告-Part 1	学生による研究成果報告のテーマについて説明（主に3年次学生による報告）
3	研究成果報告会のテーマ報告-Part 2	学生による研究成果報告のテーマについて説明（主に2年次学生による報告）
4	報告と議論	報告と質疑応答 1
5	報告と議論	報告と質疑応答 2
6	報告と議論	報告と質疑応答 3
7	報告と議論	報告と質疑応答 4
8	報告と議論	報告と質疑応答 5
9	報告と議論	報告と質疑応答 6
10	報告と議論	報告と質疑応答 7
11	報告と議論	報告と質疑応答 8
12	報告と議論	報告と質疑応答 9
13	報告と議論	報告と質疑応答 10
14	研究成果中間報告会-Part 1	学生による中間報告（主に3年次学生による報告）
15	研究成果中間報告会-Part 2	学生による中間報告（主に2年次学生による報告）
16	報告と議論	報告と質疑応答 11
17	報告と議論	報告と質疑応答 12
18	報告と議論	報告と質疑応答 13
19	報告と議論	報告と質疑応答 14
20	報告と議論	報告と質疑応答 15
21	報告と議論	報告と質疑応答 16
22	報告と議論	報告と質疑応答 17
23	報告と議論	報告と質疑応答 18
24	報告と議論	報告と質疑応答 19
25	報告と議論	報告と質疑応答 20

26	報告と議論	報告と質疑応答 21
27	研究成果最終報告会-Part 1	学生による中間報告（主に3年次学生による報告）
28	研究成果最終報告会-Part 2	学生による中間報告（主に2年次学生による報告）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回のゼミ報告の準備、練習問題を解くことによる復習、春学期と秋学期に行われる研究報告のための準備。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

第1回のゼミにてゼミ生と相談の上、決定する。教科書の候補は、参考書欄に掲載したものも含まれる。

【参考書】

- ・八田達夫 (2008)『ミクロ経済学〈1〉市場の失敗と政府の失敗への対策』東洋経済新報社。
- ・八田達夫 (2009)『ミクロ経済学〈2〉効率化と格差是正』東洋経済新報社。
- ・林正義、小川光、別所俊一郎 (2010)『公共経済学』有斐閣。
- ・板谷淳一、佐野博之 (2013)『コア・テキスト公共経済学』新世社。
- ・伊藤隆敏 (2017)『公共政策入門－ミクロ経済学のアプローチ』日本評論社。

【成績評価の方法と基準】

平常点 (60%) とゼミでの報告・課題 (40%)

【学生の意見等からの気づき】

理論を学習した後に、その理論を使って分析することができる現実例を紹介し、分かり易く教えることを心がけます。

【その他の重要事項】

「ミクロ経済学 AB」を未修のゼミ生は、履修することをお勧めします。より進んだ学習を望む場合には、「公共経済論 AB」の履修をお勧めします。

【Outline (in English)】

This seminar will study microeconomics and game theory and then apply them to analyze economic policies and institutions. This year, after learning the basics of microeconomics and game theory, we will consider several topics on public economics as examples of economic policies and institutions.

Each student will set a research theme, conduct research based on microeconomics and game theory, and report the results of their research once each in the spring and fall semesters. The most important goal is to understand microeconomics and game theory and then to acquire the ability to analyze problems in modern economic society. Students must prepare and review for this class for at least four hours per week. Grading will be based on ordinary points (60%) and reports and assignments in the seminar (40%).

ECN218CA
演習
和久津 尚彦
開講時期：年間授業/Yearly 単位：8 単位
4 年次は授業コード「K7179」を履修登録すること。

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

社会政策、社会保障政策を中心に、さまざまな社会問題、社会現象とその対応をテーマとして幅広くあつかう。ゼミの後半では医療経済学や社会保障論の標準的テキストを輪読することで、経済学部生としてあるべき専門知識を併せて修得する。

【到達目標】

大きく以下の 3 点を柱とし、各々の能力の獲得を目標とする。

- ①多様な社会問題に関する自由な報告・議論を通じて、社会常識・一般教養の拡充と、プレゼン・コミュニケーション能力強化を図る社会人基礎力の鍛錬
- ②専門領域の基本テキスト輪読、報告による専門知識の習得と深化
- ③ゼミ論文作成による分析・処理能力、思考力の強化

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP8」「DP9」「DP10」「DP11」に関連。国際経済学科は「DP9」「DP10」「DP11」に関連。

【授業の進め方と方法】

演習は概ね 2 部構成とする。

- ①受講者が関心を持った時事問題、社会問題について報告（毎回数名、ランダムに指名）、教員のファシリテートのもと参加者全員で議論。採り上げられたトピックスをもとに実践的な問題解決思考の訓練をおこなう。
 - ②専門分野の標準的テキストを輪読、各回担当者（グループまたは個人）は内容を報告、質疑をおこなう。
- 課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	春学期オリエンテーション	演習の目的と内容、進め方、春学期計画について
第 2 回	時事問題、社会問題に関する報告・討論 テキスト講読①	テキスト序章 「消費者の健康を支える市場と規制」
第 3 回	時事問題、社会問題に関する報告・討論 テキスト講読②	テキスト第 1 章 「健康に関する消費者の選択と制度」
第 4 回	時事問題、社会問題に関する報告・討論 テキスト講読③	テキスト第 2 章 「健康経済学を学ぶための基礎」
第 5 回	時事問題、社会問題に関する報告・討論 テキスト講読④	テキスト第 3 章 「経済学の実証分析：因果推論の基礎」
第 6 回	時事問題、社会問題に関する報告・討論 テキスト講読⑤	テキスト第 4 章 「健康に対する需要」
第 7 回	時事問題、社会問題に関する報告・討論 インゼミ準備	インゼミ論文のテーマ選定
第 8 回	時事問題、社会問題に関する報告・討論 テキスト講読⑥	テキスト第 5 章 「保険とリスク」
第 9 回	時事問題、社会問題に関する報告・討論 テキスト講読⑦	テキスト第 6 章 「消費者の需要に対する政府の介入」
第 10 回	時事問題、社会問題に関する報告・討論 テキスト講読⑧	テキスト第 7 章 「健康サービス供給の特殊性」
第 11 回	時事問題、社会問題に関する報告・討論 テキスト講読⑨	テキスト第 8 章 「保健・医療専門職の労働市場」
第 12 回	時事問題、社会問題に関する報告・討論 テキスト講読⑩	テキスト第 9 章 「健康における製造業の役割：製薬・医療機器産業」
第 13 回	時事問題、社会問題に関する報告・討論 テキスト講読⑪	テキスト第 10 章 「介護に関わる民間企業と介護保険制度」
第 14 回	春学期のまとめ	インゼミ論文の中間報告 春学期総括、質疑応答

第 15 回	秋学期オリエンテーション	秋学期の演習内容、進め方について
第 16 回	時事問題、社会問題に関する報告・討論 インゼミ準備	インゼミ論文の進捗報告
第 17 回	時事問題、社会問題に関する報告・討論 テキスト講読⑫	テキスト第 11 章 「政府の役割と診療報酬制度」
第 18 回	時事問題、社会問題に関する報告・討論 テキスト講読⑬	テキスト第 12 章 「保健・医療の経済評価」
第 19 回	時事問題、社会問題に関する報告・討論 インゼミ準備	インゼミ論文の報告準備
第 20 回	時事問題、社会問題に関する報告・討論 テキスト講読⑭	テキスト第 13 章 「効率と公平」
第 21 回	時事問題、社会問題に関する報告・討論 テキスト講読⑮	テキスト第 14 章 「医療経済学」
第 22 回	時事問題、社会問題に関する報告・討論 テキスト講読⑯	テキスト第 15 章 「統計学」
第 23 回	時事問題、社会問題に関する報告・討論 テキスト講読⑰	テキスト第 16 章 「政治学」
第 24 回	時事問題、社会問題に関する報告・討論 テキスト講読⑱	テキスト第 17 章 「決断科学」
第 25 回	時事問題、社会問題に関する報告・討論 テキスト講読⑲	テキスト第 18 章 「医療経営学」
第 26 回	時事問題、社会問題に関する報告・討論 テキスト講読⑳	テキスト第 19 章 「医療倫理学」
第 27 回	時事問題、社会問題に関する報告・討論 テキスト講読㉑	テキスト第 20 章 「医療社会学」
第 28 回	秋学期のまとめ	秋学期総括、質疑応答

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・各回のパートとも報告者のみならず全員が事前に目を通し、疑問点を整理しておくこと。
- ・秋（11 月）に他大学とのインターゼミナールを実施する予定である。
- ・各回の報告やゼミ論文作成のために、サブ（自主）ゼミが必要となることもある。
- ・夏期休暇（9 月）、春期休暇（3 月）中の合宿は、学生と相談のうえ、決定する。
- ・本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

・後藤勲／井深陽子『健康経済学－市場と規制の間で』有斐閣、2020 年。（学生と相談のうえ、他のテキストを採用することもある）

【参考書】

・津川友介『世界一わかりやすい「医療政策」の教科書』医学書院、2020 年など、適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点を中心に評価する。特に担当報告の出来（50 %）、参加意欲（発言や質問）（35 %）、円滑なゼミ運営への貢献（インゼミへの参加などを含む）（15 %）を評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特記事項なし

【その他の重要事項】

演習の内容は受講生とも相談のうえ、適宜、変更する場合がある。演習で必要なテキスト等は各自、準備すること。

【Outline (in English)】

This seminar deals with a wide range of topics such as major social issues. By the end of the course, students are expected to have basic knowledge of health economics and social security policy. Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content. Final grade will be decided according to in-class presentation (50%) and other in-class contribution (50%).

ECN218CA
演習
松野 響
開講時期：年間授業/Yearly 単位：8 単位
4 年次は授業コード「K7180」を履修登録すること。

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

心理学の実験研究を自分自身で計画・実施し、実験心理学についてより深く学ぶ。これまでにこなされた心理学の実験研究についての情報収集をおこない、計画をたて、実際に実験をおこない、結果を解析・発表する、という一連の過程を体験することで、実験心理学の方法論を学習するとともに、たとえささやかで小さなことであっても、世界でまだ誰も知らない新しい発見をすることを目指す。

【到達目標】

第一に、実習を通じて、文献の探索・読解能力、科学的・論理的な思考、心理実験をおこなうための基礎的な技法、データの解析法、プレゼンテーションの方法および論文（論理的な文章）の適切な書き方を身につけることを目指す。

第二に、新しい心理学の知見を自ら発見・検証するための方法論を身につけることで、人の心や行動を、科学的・客観的に分析する力を養うことを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP8」「DP9」「DP10」「DP11」に関連。国際経済学科は「DP9」「DP10」「DP11」に関連。

【授業の進め方と方法】

個人の興味をもとにした研究テーマを中心に活動をおこなう。各自のテーマに関連する文献の発表とその議論を通じて実験方法や最新の心理学の知見について学ぶ。また、各自のテーマに沿った実験研究を自ら計画・実施し、論文としてまとめる。受講生の関心や余力によって、グループでの研究プロジェクトや課外での活動を実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	演習の進め方のガイダンス・発表スケジュールの決定・研究計画の立案
2	実験心理学の基礎・研究計画発表	実験研究および研究倫理についてのガイダンス・研究計画の発表
3	発表・実験プログラミング実習 (1)	文献発表、実験プログラミング (初期設定)
4	発表・実験プログラミング実習 (2)	文献発表、実験プログラミング (画像表示)
5	発表・実験プログラミング実習 (3)	文献発表、実験プログラミング (データ保存)
6	発表・実験プログラミング実習 (4)	文献発表、実験プログラミング (実験スクリプト作成)
7	発表・実験プログラミング実習 (5)	文献発表、実験プログラミング (実験スクリプト完成)
8	発表・実験実習 (1)	文献発表、実験の実施 (パイロットテスト)
9	発表・実験実習 (2)	文献発表、実験準備・実験の実施
10	発表・実験実習 (3)	文献発表、実験の実施
11	発表・データ解析実習 (1)	文献発表、統計解析環境の導入
12	発表・データ解析実習 (2)	文献発表、データ解析
13	研究発表	研究実施状況の中間報告

14	春学期総論	春学期の研究総括・研究発表についての議論
15	秋学期研究計画	夏季の課題についての発表、秋学期の研究計画
16	発表・研究計画作成 (1)	文献発表、個人研究計画の具体化
17	発表・研究計画作成 (2)	文献発表、実験計画書の作成
18	発表・実験実施準備 (1)	文献発表、実験準備の開始
19	発表・実験実施準備 (2)	文献発表、実験準備
20	発表・実験実施準備 (3)	文献発表、実験準備の完了
21	発表・予備実験	文献発表、実験実施 (パイロットテスト)
22	発表・実験実施 (1)	文献発表、実験準備・実験実施
23	発表・実験実施 (2)	文献発表、実験実施
24	発表・結果解析 (1)	文献発表、実験結果の集計
25	発表・結果解析 (2)	文献発表、研究結果の解析
26	研究結果発表準備	研究結果のまとめおよび研究発表準備
27	進級論文発表 (1)	進級論文の研究報告および議論
28	進級論文発表 (2)・卒業論文発表	進級論文・卒業論文の研究報告および議論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は各 4 時間を標準とする。教員の助言にもとづき、自分自身の研究プロジェクトの計画及び実施、学術論文の精読と発表の準備、他者の研究プロジェクトへの実験参加をおこなう。

【テキスト（教科書）】

文献の探し方等、全員に共通して教示する部分については、教員の作成した資料を配布する。また、個々の研究テーマにあわせて個別に相談に応じる。

【参考書】

個々の研究テーマにあわせて個別に相談に応じる。

【成績評価の方法と基準】

発表およびディスカッションへの寄与 (20%)、自身の個人研究プロジェクトへの取り組みや他の研究プロジェクトへの実験・調査参加協力と課題の提出 (40%)、進級論文・卒業論文の内容 (40%) を目安に、総合的に評価する。やむを得ない理由で授業を欠席した際は、欠席を補うための取り組みと課題の提出を必須とする。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

データ解析や実習のために PC を使用する。無料の統計解析アプリケーション R・R Studio や実験プログラムの開発環境がインストールできる Windows PC を用意すること (OS の違いによって生じうる問題を自力で解決できる知識がある場合は Mac も可)。詳細は第 1 回目の授業で説明する。学習支援システムや Google Classroom を用いて情報を共有する。

【その他の重要事項】

心理学の基礎的な知識を持つことを前提とするため、心理学 A/B の授業の単位取得もしくは本年度の聴講を必須とする。授業計画や内容は、学習の進捗状況によって適宜調整する。

【Outline (in English)】

In this course, students learn the research methods used in experimental psychology by reading research papers, summarizing and presenting their findings, and discussing them with other students. Furthermore, students experience the importance and interest of psychological experiments by planning and conducting their own original experiments and writing research papers. Before/after each class meeting, students will be expected to spend eight hours to understand the course content. The overall grade in the class will be decided based on the following. In-class presentations and discussions (20%), Contribution and participation to their own and others' research projects (40%), Term end research papers (40%).

ECN218CA
演習
高尾 直知、田村 理香
開講時期：年間授業/Yearly 単位：8 単位
4 年次は授業コード「K7182」を履修登録すること。

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

言葉が構築する世界に身を置き、深く考え、自らの言葉で考えを表現する。

【到達目標】

1. 文章を正確に読み、内容を正しく理解する。
2. 文化や歴史を理解し、人間の心の機微に触れる。
3. 作品に誠実に向き合い、知識や感性、想像力を働かせ、深く考える。
4. 考察したことを文章で的確に表現する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP8」「DP9」「DP10」「DP11」に関連。国際経済学科は「DP9」「DP10」「DP11」に関連。

【授業の進め方と方法】

1. 英文記事の読解、それをもとにした英語プレゼンテーション・ディスカッション
 2. 英語で書かれた小説の精読およびディスカッション
 3. 4 年生は卒論指導を個別に行う
- [授業や課題等に対するフィードバック方法]
毎回のコメントは次の授業時間に返却するもしくは「学習支援システム」で返却する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の内容、進め方、評価の説明。
2	英文記事講読およびプレゼンテーション、英語で書かれた小説の精読・ディスカッション①	Sara O. Jewett, "A White Heron" (1) 他
3	英文記事講読およびプレゼンテーション、英語で書かれた小説の精読・ディスカッション②	Sara O. Jewett, "A White Heron" (2) 他
4	英文記事講読およびプレゼンテーション、英語で書かれた小説の精読・ディスカッション③	Kate Chopin, "Her Letters" (1) 他
5	英文記事講読およびプレゼンテーション、英語で書かれた小説の精読・ディスカッション④	Kate Chopin, "Her Letters" (2) 他
6	英文記事講読およびプレゼンテーション、英語で書かれた小説の精読・ディスカッション⑤	Kate Chopin, "Her Letters" (3) 他

7	英文記事講読およびプレゼンテーション、英語で書かれた小説の精読・ディスカッション⑥	Kate Chopin, "Her Letters" (4) 他
8	英文記事講読およびプレゼンテーション、英語で書かれた小説の精読・ディスカッション⑦	Kate Chopin, "A Pair of Silk Stockings" (1) 他
9	英文記事講読およびプレゼンテーション、英語で書かれた小説の精読・ディスカッション⑧	Kate Chopin, "A Pair of Silk Stockings" (2) 他
10	英文記事講読およびプレゼンテーション、英語で書かれた小説の精読・ディスカッション⑨	Mary Freeman, "A New England Nun" (1) 他
11	英文記事講読およびプレゼンテーション、英語で書かれた小説の精読・ディスカッション⑩	Mary Freeman, "A New England Nun" (2) 他
12	英文記事講読およびプレゼンテーション、英語で書かれた小説の精読・ディスカッション⑪	Mary Freeman, "A New England Nun" (3) 他
13	英文記事講読およびプレゼンテーション、英語で書かれた小説の精読・ディスカッション⑫	Mary Freeman, "A New England Nun" (4) 他
14	英文記事講読およびプレゼンテーション、英語で書かれた小説の精読・ディスカッション⑬	前期まとめの議論 他
15	イントロダクション 2	授業の内容、進め方、評価の説明。
16	英文記事講読およびプレゼンテーション、英語で書かれた小説の精読・ディスカッション⑭	James Baldwin, Sonny's Blues 1 他
17	英文記事講読およびプレゼンテーション、英語で書かれた小説の精読・ディスカッション⑮	James Baldwin, Sonny's Blues 2 他
18	英文記事講読およびプレゼンテーション、英語で書かれた小説の精読・ディスカッション⑯	James Baldwin, Sonny's Blues 3 他
19	英文記事講読およびプレゼンテーション、英語で書かれた小説の精読・ディスカッション⑰	James Baldwin, Sonny's Blues 4 他
20	英文記事講読およびプレゼンテーション、英語で書かれた小説の精読・ディスカッション⑱	James Baldwin, Sonny's Blues 5 他
21	英文記事講読およびプレゼンテーション、英語で書かれた小説の精読・ディスカッション⑲	James Baldwin, Sonny's Blues 6 他

22	英文記事講読およびプレゼンテーション、英語で書かれた小説の精読・ディスカッション ⑳	James Baldwin, Sonny's Blues 7 他	For senior students, senior thesis 100%
23	英文記事講読およびプレゼンテーション、英語で書かれた小説の精読・ディスカッション ㉑	James Baldwin, Sonny's Blues 8 他	
24	英文記事講読およびプレゼンテーション、英語で書かれた小説の精読・ディスカッション ㉒	James Baldwin, Sonny's Blues 9 他	
25	英文記事講読およびプレゼンテーション、英語で書かれた小説の精読・ディスカッション ㉓	James Baldwin, Sonny's Blues 10 他	
26	英文記事講読およびプレゼンテーション、英語で書かれた小説の精読・ディスカッション ㉔	James Baldwin, Sonny's Blues 11 他	
27	英文記事講読およびプレゼンテーション、英語で書かれた小説の精読・ディスカッション ㉕	James Baldwin, Sonny's Blues 12 他	
28	英文記事講読およびプレゼンテーション、英語で書かれた小説の精読・ディスカッション ㉖	後期まとめの議論 他	

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- 1) 英語プレゼンテーションの準備：全員が意見を述べる準備をする。発表者以外の参加者は意見や感想や疑問などを英語で **comment** にする。**Comment** は提出する。
- 2) 英語小説精読の予習：英語の意味がわからなかったり、日本語にできなかったり、あやふやだったりする箇所を明確にしておく。本授業の準備学習・復習時間は、各 3 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

プリントを配布するほか、授業内で適宜指示します。

【参考書】

適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】

1. 平常点 50%
 2. 期末レポート 50%
- 4 年生は卒業論文を成績評価の対象とする。

【学生の意見等からの気づき】

楽しく充実した時間を全員で作りに上げて行けたらと思っています。

【その他の重要事項】

1. 参加者はかならず前後期の初回時の授業に出席してください。
2. 授業内容については参加者の状態に柔軟に対応します。意見や要望をいつでも遠慮なくお聞かせください。

【Outline (in English)】

[Course outline] Put yourself in the language in the text, think deeply, and express yourself in your own words.

[Course objectives]

1. Read texts correctly.
2. Understand history and culture as well as human feelings.
3. Use your knowledge, imagination and sensitivity, think deeply.
4. Describe your thought correctly.

[Learning activities outside of classroom] None

[Grading criteria / policy]

Classroom activities 50% and term paper 50%

ECN218CA
演習
劉 紅
開講時期：年間授業/Yearly 単位：8 単位
4 年次は授業コード「K7183」を履修登録すること。

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中国文学、中国文化を学び、中国の文化、歴史、社会への理解を深めます。

【到達目標】

勉強や研究を重ね、自らの中国認識を構築していきます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP8」「DP9」「DP10」「DP11」に関連。国際経済学科は「DP9」「DP10」「DP11」に関連。

【授業の進め方と方法】

- ①中国文学、中国文化に関する共通テキストの輪読・ディスカッション
- ②中国文学、中国文化に関する調査・研究の経過報告および卒論製作のための報告
- ③授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	演習の概要の説明、輪読の割り当て、自己紹介
第 2 回	輪読 1	『中国・文化と思想』 1
第 3 回	輪読 2	『中国・文化と思想』 2
第 4 回	輪読 3	『中国・文化と思想』 3
第 5 回	輪読 4・発表	『中国・文化と思想』 4・学生による発表
第 6 回	輪読 5・発表	『中国・文化と思想』 5・学生による発表
第 7 回	輪読 6・発表	『中国・文化と思想』 6・学生による発表
第 8 回	輪読 7・発表	『中国・文化と思想』 7・学生による発表
第 9 回	輪読 8・発表	『中国・文化と思想』 8・学生による発表
第 10 回	輪読 9・発表	『中国・文化と思想』 9・学生による発表
第 11 回	輪読 10・発表	『中国・文化と思想』 10・学生による発表
第 12 回	輪読 11・発表	『中国・文化と思想』 11・学生による発表
第 13 回	輪読 12・発表	『中国・文化と思想』 12・学生による発表
第 14 回	輪読 13・発表	『中国・文化と思想』 13・学生による発表
第 15 回	輪読 14・発表	『中国・文化と思想』 14・学生による発表
第 16 回	輪読 15・発表	『中国・文化と思想』 15・学生による発表
第 17 回	輪読 16・発表	『中国・文化と思想』 16・学生による発表
第 18 回	輪読 17・発表	『中国・文化と思想』 17・学生による発表

第 19 回	輪読 18・発表	『中国・文化と思想』 18・学生による発表
第 20 回	輪読 19・発表	『中国・文化と思想』 19・学生による発表
第 21 回	輪読 20・発表	『中国・文化と思想』 20・学生による発表
第 22 回	輪読 21・発表	『中国・文化と思想』 21・学生による発表
第 23 回	輪読 22・発表	『中国・文化と思想』 22・学生による発表
第 24 回	輪読 23・発表	『中国・文化と思想』 23・学生による発表
第 25 回	輪読 24・発表	『中国・文化と思想』 24・学生による発表
第 26 回	輪読 25・発表	『中国・文化と思想』 25・学生による発表
第 27 回	輪読 26・発表	『中国・文化と思想』 26・学生による発表
第 28 回	まとめ	全体のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

関連文献を十分に調べます。本授業の準備学習・復習時間は、4 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『中国・文化と思想』 講談社 1999 年、1400 円

【参考書】

必要に応じて適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】

2～3 年次履修者：平常点 60%、レポート等 40%。
4 年次履修者：卒業論文の評価が考慮され、卒業論文未提出者には単位は付与されません。

【学生の意見等からの気づき】

中国の文化・社会・歴史等に関する知識をより詳しく紹介します。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire understanding of Chinese literature/culture/society. At the end of the course, students are expected to have their own perspective of Chinese culture and community. Students will be expected to complete the required assignments. The required study time will be more than four hours for a class. The final grade will be decided based on the following: Term-end report 40%, in class contribution 60%.

ECN218CA
演習
中谷 安男
開講時期：年間授業/Yearly 単位：8 単位
4 年次は授業コード「K7184」を履修登録すること。

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国際ビジネスコミュニケーションとリーダーシップについて英語のテキストとディスカッションを通して深く学ぶ。グローバルマーケティングに関する知識を深め積極的に新たな事業提案に取り組む

【到達目標】

- ・英語力向上 TOEIC 2 年 730 点 (B レベル) 3 年 860 (A レベル)
- ・国際ビジネスに関する書物の多読を通してクリティカル・シンキング能力を向上

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP8」「DP9」「DP10」「DP11」に関連。国際経済学科は「DP9」「DP10」「DP11」に関連。

【授業の進め方と方法】

クラス・ディスカッション
プレゼンテーション
フィールドワーク

4 年生は定期的に卒論の中間発表を行い評価する。
卒論提出前に複数回のフィードバックを行う

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	演習 1	プレゼン 1 クラス討議 1
2	演習 2	プレゼン 2 クラス討議 2
3	演習 3	プレゼン 3 クラス討議 3
4	演習 4	プレゼン 4 クラス討議 4
5	演習 5	プレゼン 5 クラス討議 5
6	演習 6	プレゼン 6 クラス討議 6
7	演習 7	プレゼン 7 クラス討議 7
8	演習 8	プレゼン 8 クラス討議 8
9	演習 9	プレゼン 9 クラス討議 9
10	演習 10	プレゼン 10 クラス討議 10
11	演習 11	プレゼン 11 クラス討議 11
12	演習 12	プレゼン 12 クラス討議 12
13	演習 13	プレゼン 13 クラス討議 13
14	演習 14	プレゼン 14 クラス討議 14
15	演習 15	プレゼン クラス討議 15

16	演習 16	プレゼン クラス討議 16
17	演習 17	プレゼン クラス討議 17
18	演習 18	プレゼン クラス討議 18
19	演習 19	プレゼン クラス討議 19
20	演習 20	プレゼン クラス討議 20
21	演習 21	プレゼン クラス討議 21
22	演習 22	プレゼン クラス討議 22
23	演習 23	プレゼン クラス討議 23
24	演習 24	プレゼン クラス討議 24
25	演習 25	プレゼン クラス討議 25
26	演習 26	プレゼン クラス討議 26
27	演習 27	プレゼン クラス討議 27
28	演習 28	プレゼン クラス討議 28

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Lesson preparation and review exercises

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

English for Business Studies. by Ian Mackenzie. CUP

・『英語教育学の実証的研究法入門』寺内正典 & 中谷安男. 研究社
・4 年『経済学・経営学のための英語論文の書き方』中谷安男 中央経済社

・『オックスフォード世界最強のリーダ 0 シップ教室』中谷安男 中央経済社

【参考書】

『国際ビジネスコミュニケーション』丸善書店

Intelligent Business: Coursebook、By Johnson, C. Pearson Longman

【成績評価の方法と基準】

レポート 20 %
平常点 20 %
論文 40 %
研究発表 20 %

【学生の意見等からの気づき】

より討議を増やす

【学生が準備すべき機器他】

PC DVD

【Outline (in English)】

We learn effective business communication for leaders and global marketing.

Evaluation is as follows: Classroom contribution 20%, Report 30%, Research paper exam: 40%, Research presentation: 20%
€

ECN218CA
演習
倪 彬
開講時期：年間授業/Yearly 単位：8 単位
4 年次は授業コード「K7185」を履修登録すること。

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国際経済学の理論やエビデンスを英文テキストでしっかり理解し、また経済データソースも使った実証研究を行えるようにする。グループワークで深く勉強し、プレゼンテーションする能力を養う。

【到達目標】

国際経済学の資料を英語で読むことが出来る。自分の興味がある内容につき、グループで協調しつつ、他の学生に説明を行うとともに意見を発表できる。さらに、自らデータを用いて検証出来る事を目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、経済学科・現代ビジネス学科は「DP8」「DP9」「DP10」「DP11」に関連。国際経済学科は「DP9」「DP10」「DP11」に関連。

【授業の進め方と方法】

受講者によるテキストの輪読、及び教員による解説、演習を行います。今年はオンラインの形で進めていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	演習 1：イントロ	演習の目的、各種割り当て（プレゼンの順番など）
2	演習 2	1: Introductory Trade Issues:
3	演習 3	2: The Ricardian Theory of Comparative Advantage
4	演習 4	3: The Heckscher-Ohlin (Factor Proportions) Model
5	演習 5	4: Economies of Scale and International Trade
6	演習 6	5: Trade Policy Effects with Perfectly Competitive Markets
7	演習 7	6: Trade Policies with Market Imperfections and Distortions
8	演習 8	7: Political Economy and International Trade
9	演習 9	8: Free Trade Agreement
10	演習 10	9: Introductory Finance Issues
11	演習 11	10: National Income and the Balance of Payments Accounts
12	演習 12	11: The Whole Truth about Trade Imbalances
13	演習 13	12: Interest Rate Parity
14	演習 14	13: Exchange Rate Regime
15	演習 15	データ分析 12 のレッスンに関する紹介
16	演習 16	第 1 章 データから仮説を探る
17	演習 17	第 2 章 データに親しむ
18	演習 18	第 3 章 データを見る
19	演習 19	第 4 章 データを加工する
20	演習 20	第 5 章 関係性を読み解く
21	演習 21	第 6 章 1 つの原因で結果にせまる:単回帰分析

22	演習 22	第 7 章 複数の原因で結果にせまる:重回帰分析
23	演習 23	第 8 章 ダミー変数を使いこなす
24	演習 24	第 9 章 パネルデータに親しむ
25	演習 25	第 10 章 個票データに親しむ
26	演習 26	第 11 章 個票データで回帰分析する
27	演習 27	第 12 章 質的な結果を回帰分析する
28	演習 28	最終締め

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

必ずテキストを事前に読んでおくこと。また、テキスト以外の資料も各自で図書館等で取得しておくこと。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

Krugman, Melitz, and Obstfeld, *International Economics* ; 柏木 吉基著 『それ、根拠あるの?』と言わせないデータ・統計分析ができる本』日本実業出版社 ; 畑農鋭矢, 水落正明著 「データ分析をマスターする 12 のレッスン」有斐閣アルマ **Basic** 星野匡郎, 田中久稔著 「R による実証分析—回帰分析から因果分析へ」オーム社

【参考書】

教科書以外、発表内容に関連するプリントを配ります。

【成績評価の方法と基準】

毎回の授業への参加、発言、輪読報告、グループプレゼン、また、合宿への参加で総合的に評価します。三年生のみには卒論を書くためのレポートを作成してもらいます。具体的に：

- (1) 授業での発言、積極さ 30%
- (2) プレゼン 40%
- (3) レポート 30%

また、四年生に関して、履修するには卒論の提出が義務付けられています。卒論の執筆は個別指導を行います。最終成績は提出論文の質に基づいて評価します。

【学生の意見等からの気づき】

英文輪読では報告者と教員との一方通行の授業にならないように、ゼミ生全員の参加を促す工夫します。

【Outline (in English)】

The object is to understand the theory and evidence in international economics. Using data analysis as well as group discussion, the students are expected to extract information from real data and cultivate the habit of thinking like an economist.

The grading criteria is as follows:

- (1) Participation in the discussion 30%
- (2) Presentation 40%
- (3) Report, homework, etc. 30%

POL200EB, POL200EC

政治学理論 I

白鳥 浩

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：木 4/Thu.4

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

責任ある「有権者」として必要な、政治学理論の体系的理解

【到達目標】

選択を行う「有権者」として、政治的事象の理論的理解のみならず、理論を使った事例の理解にも到達する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP5・DP6・DP8に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>**【授業の進め方と方法】**

現在、政治はかつてない変動の時代を迎えているといっている。現代は「政治変動」の時代、「国際化」の時代といわれているが、こうした現象を理論的にどう分析するのか。そのための多様な認識枠組を価値中立的に紹介することを目的とする。なお、以下の記述は、扱うべきトピックを述べているが講義の展開によって変更がありうる。また、今後の責任ある「有権者」としてのフレームワークを形成するのに必要な考え方をともに考える。最後の講義で講義内容のまとめや、課題に対する講評や解説によるフィードバックを試みる。また講義計画は講義の展開により、若干の変更もありうる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1)	政治学とは何か	導入
2)	政治学の基礎概念	基礎概念
3)	古代の政治理論 (1)	プラトンなど
4)	古代の政治理論 (2)	プラトンなど
5)	古代の政治理論 (3)	アリストテレスなど
6)	古代の政治理論 (4)	アリストテレスなど
7)	中世の政治理論 (1)	アキナスなど
8)	中世の政治理論 (2)	アキナスなど
9)	中世の政治理論 (3)	アウグスチヌスなど
10)	中世の政治理論 (4)	アウグスチヌスなど
11)	近代の政治理論 (1)	マキャベリなど
12)	近代の政治理論 (2)	マキャベリなど
13)	政治学理論と現代	最近の動向から
14)	過去の政治学理論の意義	今、古典を学ぶ意味とは

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

時事問題も取り扱うので、新聞、ニュースをできればチェックすること。また、責任ある「有権者」となるためにはいうまでもないことであるが、政治の事例への理解を深めるために読書レポートを準備してもらおう。本年度はどの本を読むか未定であるが、かつて『政権交代選挙の政治学』ミネルヴァ書房、2010年。を課題とした。本年度も同等のものを読んでもらうつもりである。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

講義時に指示。

【参考書】

講義時に適宜指示。

【成績評価の方法と基準】

テスト 70%、レポート 20%、講義科目への積極度 10%を中心として総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

学生との双方向のコミュニケーションを大事にしている。継続して行っているこの講義の試みは、学生に好意的に評価されている。また、講義を通じ、現実の問題への関心を喚起することで、現代を現実的に理解することができているようである。

【Outline (in English)】

This course aims to provide basic understandings of Theoretical Aspects of Political Science.

The goals of this course are to realize relationship between political theory and political process.

Before each class meeting, students will be expected to have read or watch news on politics. Your required study time is at least one hour for each class meeting.

Grading will be decided based on term-end examination 70%, short reports 20%, and class contribution 10%.

POL200EB, POL200EC

政治学理論Ⅱ

白鳥 浩

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：木 4/Thu.4

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

責任ある「有権者」として必須な、政治学理論の体系的理解

【到達目標】

選択を行う「有権者」として、政治的事象の理論的理解のみならず、理論を使用した事例の理解に到達する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP5・DP6・DP8に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

現在、政治はかつてない変動の時代を迎えているといつて良い。現代は「政治変動」の時代、「国際化」の時代といわれているが、こうした現象を理論的にどう分析するのか。そのための多様な認識枠組を価値中立的に紹介することを目的とする。なお、以下の記述は、扱うべきトピックを述べているが講義の展開によって変更がありうる。また、今後の選択を行う責任ある「有権者」としてのフレームワークを形成するのに必須な考え方をともに考える。最後の講義で講義内容のまとめや、課題に対する講評や解説によるフィードバックを試みる。また講義計画は講義の展開により、若干の変更もありうる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1)	イントロダクション	近代までの政治学
2)	近代とは何であったか	マキャベリ、ホッブス、ロックなど
3)	近代批判の政治理論 (1)	ルソーなど
4)	近代批判の政治理論 (2)	ルソーなど
5)	近代批判の政治理論 (3)	ヘーゲルなど
6)	近代批判の政治理論 (4)	マルクスなど
7)	現代の政治理論 (1)	ウェーバーなど
8)	現代の政治理論 (2)	制度論から過程論へ
9)	現代の政治理論 (3)	政治過程の理論
10)	現代の政治理論 (4)	国際化する政治
11)	最先端の政治理論 (1)	行動科学としての政治学
12)	最先端の政治理論 (2)	アメリカの研究
13)	国際政治の政治理論	ヨーロッパの研究、ロッキンなど
14)	現代政治理論の展望	最近の動向から

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

時事問題も取り扱うので、新聞、ニュースをできればチェックすること。また、責任ある「有権者」となるためにはいうまでもないことであるが、政治の理解を深めるために読書レポートを準備してもらおう。本年度はどの本を読むか未定であるが、かつて『政権交代選挙の政治学』ミネルヴァ書房、2010年。を課題とした。本年度も同等のものを読んでもらうつもりである。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

講義時に指示。

【参考書】

講義時に適宜指示。

【成績評価の方法と基準】

テスト 70%、レポート 20%、講義科目への積極度 10%を中心として総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

学生との双方向のコミュニケーションを大事にしている。継続して行っているこの講義の試みは、学生に好意的に評価されている。また、講義を通じ、現実の問題への関心を喚起することで、現代を現実的に理解することができているようである。

【Outline (in English)】

This course aims to provide basic understandings of Theoretical Aspects of Political Science.

The goals of this course are to realize relationship between political theory and political process.

Before each class meeting, students will be expected to have read or watch news on politics. Your required study time is at least one hour for each class meeting.

Grading will be decided based on term-end examination 70%, short reports 20%, and class contribution 10%.

ECN200EB

日本経済論

澁谷 朋樹

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：金 4/Fri.4

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、戦前から引き継がれた要素をみながら、戦後復興期、高度成長期、バブル期を経て、現代へとつながる日本経済の姿を学んでいく。日本経済の歩みを踏まえることで、財政赤字や少子高齢化、過疎化等、現代日本が抱える諸問題の理解にもつながる。最終的には、日本経済の現状を把握した上で、客観的なデータを用いつつ、今後どのように諸問題を解決していくかの方策を考える力を身につけることが目標となる。

【到達目標】

1. 戦前・戦後の日本における経済発展の仕組みを理解できる。
2. 日本経済の現状と課題についての基本的な知識を習得できる。
3. 各種データを活用しながら、日本経済の全体像を把握できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP5・DP6に関連。

DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

基本的に講義形式で進めていく。時事問題を織り込んでいく予定であるため、必ずしも以下の授業計画に沿って進めるとは限らない。また、前回の講義で提出されたりアクションペーパーで寄せられた質問・意見に回答する等を通じて、受講生との双方向性を高める工夫を行っていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	経済学の基本	経済学の基本的な考え方
第2回	経済指標の読み方	基本的な経済指標の読み方
第3回	白書の読み方	『経済白書』・『経済財政白書』を読む
第4回	日本経済の全体像	長期統計を用いた日本経済の把握
第5回	戦前における日本経済	明治時代から戦時期までの日本経済
第6回	戦後日本の経済発展 (1)	戦後日本の経済復興
第7回	戦後日本の経済発展 (2)	高度成長時代から低成長時代へ
第8回	戦後日本の経済発展 (3)	戦後日本のエネルギー政策
第9回	戦後日本の経済発展 (4)	バブル景気とそのメカニズム
第10回	日本の長期経済停滞 (1)	バブル崩壊後の日本経済
第11回	日本の長期経済停滞 (2)	小泉構造改革における産業構造と雇用構造の変化
第12回	平成時代の日本経済	平成時代の日本経済を振り返る
第13回	日本の農業政策	農業政策と農業構造問題
第14回	講義まとめ	講義全体を振り返り、日本経済の主要な課題を整理する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日頃から各メディアの報道を通じて、日本経済の動向に目を向けておくことが望ましい。本講義の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。講義時に資料を適宜配付する。

【参考書】

1. 小峰隆夫、村田啓子『最新日本経済入門 [第6版]』日本評論社、2020年。
2. N・グレゴリー・マンキュー／足立英之他訳『マンキュー 入門経済学 [第3版]』東洋経済新報社、2019年。
3. 宮崎勇、本庄真、田谷禎三『日本経済図説 (第5版)』岩波新書、2021年。
4. その他の参考文献は、必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

期末レポート(70%)、平常点(30%)

【学生の意見等からの気づき】

コメントペーパーで寄せられた受講生の意見を講義に反映させていく。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire an understanding of history and development of the Japanese economy. The goals of this course are to understanding Japan's economic structure. Grading will be decided based on Term-end report(70%), in class contribution(30%).

LAW200EB, LAW200ED

憲法

天本 哲史

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：木 2/Thu.2

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は、個人の基本的な人権や国の統治の仕組みを中心に、憲法の基礎を学ぶことを目的とします。この授業では、日本国憲法の条文解説だけでなく、現代社会の具体的な憲法の論点も扱います。

【到達目標】

- ・憲法の基礎的な知識を身につける。
- ・基本的な人権の統治機構を理解し、それを説明できる。
- ・憲法の知識を基礎にして、社会的問題を検討できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP5・DP6・DP11に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

この授業は講義形式で実施します。学生にはリアクションペーパーを提出してもらい、次の授業でその内容に対するコメントをします。なお、授業計画は授業の展開によって、若干の変更があり得ます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション 憲法総論① 憲法とは何か	授業の進め方を説明します。国家とは何か、憲法の意義等を学びます。
第 2 回	憲法総論② 憲法の歴史	憲法発展の歴史等を学びます。
第 3 回	憲法総論③ 国民主権	国民主権と象徴天皇制等を学びます。
第 4 回	憲法総論④ 平和主義	戦争放棄と自衛権等を学びます。
第 5 回	基本的人権① 人権とその限界	人権の意義と人権の限界等を学びます。
第 6 回	基本的人権② 幸福追求権と法の下での平等	幸福追求権（新しい人権を含む）と平等の意味等を学びます。
第 7 回	基本的人権③ 自由権・社会権	自由権と社会権を学びます。
第 8 回	基本的人権④ 参政権・国務請求権	参政権と国務請求権を学びます。
第 9 回	基本的人権⑤ 国民の義務	国民の義務を学びます。
第 10 回	統治機構① 三権分立・国会	三権分立の意義等を学びます。国会（立法権）を学びます。
第 11 回	統治機構② 内閣	内閣（行政権）を学びます。
第 12 回	統治機構③ 裁判所	裁判所（司法権）を学びます。
第 13 回	統治機構④ 財政・地方自治	財政と地方自治を学びます。
第 14 回	憲法の改正・まとめ	憲法改正を学びます。授業のまとめをします。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学生は配布された資料で準備学習をします。学生は復習としてレポートを提出をしてもらいます。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書を使用しません。

【参考書】

授業内で適宜紹介しますが、差し当たり芦部信喜（高橋和之補訂）『憲法』（岩波書店、第 7 版、2019）を挙げます。

【成績評価の方法と基準】

期末試験（50 %）、レポート（36 %）、平常点（14 %）を総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

講義内容が難しいという意見がありましたので、解説を多くすることにより平易な内容にしたいと思っています。

【学生が準備すべき機器他】

連絡、授業資料や課題提出等は Hoppii で行いますので、PC、タブレット、スマートフォン等の情報端末を準備してください。

【Outline (in English)】

【授業の概要（Course outline）】

The aim of this lecturer is to learn the basics of the Constitution, focusing on basic human rights and governance mechanisms.

【到達目標（Learning Objectives）】

- ・ Students acquire basic knowledge of the Constitution.
- ・ Students can understand and explain the basic human rights and the separation of powers.
- ・ Students can consider social issues based on their knowledge of the Constitution.

【授業時間外の学習（Learning activities outside of classroom）】

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

【成績評価の方法と基準（Grading Criteria /Policy）】

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination : 50%, Reports : 36%, Usual performance score : 14%

LAW200EB

民法（総則）

松田 佳久

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：月 5/Mon.5

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

民法を通じて私たちの生活する社会の基本的な法制度を理解する。内容は次のとおりである。売買契約の有効な成立、債務不履行、契約解除、代理、所有権の移転など。私たちの生活に欠くことのできない知識をこの講義で得ることができ、そのような知識を得ることを目的としている。

【到達目標】

1. 民法の全体的なイメージを把握できる（レベルC）
2. 民法の基本的な制度を理解できる（レベルB）
3. 社会に生起するさまざまな問題を民法の視点から考えることができる（レベルA）

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP5・DP6に関連。

DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

この講座は対面で行われます。

授業支援システムの「教材」に参考図、判例等をUPしておきますので、教材を印刷し、対面での授業に臨んでください。

わからないところがありましたら、いつでも担当教員にメールで質問してください（担当教員のメールアドレス：yoshi-hisa.matsuda.7y@hosei.ac.jp）。

民法は2020年4月に大改正されました。それに伴って教科書も大改訂をし、新しくしています。古い教科書を使ってもこの講義の内容は理解できませんし、定期試験に対応できませんので、注意してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	民法典とその構成	民法典、民法典の構成、物権と債権、
2	売買契約の有効な成立	契約の成立要件
3	1 売買契約の有効な成立	2 契約の有効要件
4	3 売買契約の有効な成立	無効原因 取消しと無効
5	4 売買契約の有効な成立	代理
6	5 売買契約の有効な成立	無権代理 条件と期限
7	6 売主の義務と買主の義務	1 物の引渡し
8	7 売主の義務と買主の義務	2 代金の支払い
9	8 売主の義務と買主の義務	3 購入資金の借入れ
10	9 売主の義務と買主の義務	4 債権関係の終了
11	10 売主の義務と買主の義務	5 現実的履行の強制
12	11 売主の義務と買主の義務	6 損害賠償請求 契約の解除

13 売買契約による所有権 物権変動の基本原則
の移転1

14 売買契約による所有権 動産取引における公示の原則と
の移転2 信の原則

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

○教科書に事前に目を通してから授業を視聴すること

○視聴後に各自で内容を復習すること

○学習した内容を踏まえて社会を法的な視点から眺めてみる。

○本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

宮本健蔵編著『ワンステップ民法』（嵯峨野書院、2022年）

【参考書】

1. 潮見佳男＝道垣内弘人編『民法判例百選Ⅰ総則・物権』（有斐閣、第8版、2018年）

2. 窪田充見＝森田宏樹編『民法判例百選Ⅱ債権』（有斐閣、第8版、2018年）

【成績評価の方法と基準】

民法の全体的なイメージを把握するとともに基本的な制度を理解できたかどうかにつき定期試験の結果によって判断する。

定期試験結果が100%。

民法は2020年4月に大改正されました。それに伴って教科書も大改訂をし、新しくしています。古い教科書を使ってもこの講義の内容は理解できませんし、定期試験に対応できませんので、注意してください。

【学生の意見等からの気づき】

基本的には14回の対面での授業をきちんと受けることが必要です。わからないところがありましたら、いつでも担当教員にメールで質問してください（担当教員のメールアドレス yoshi-hisa.matsuda.7y@hosei.ac.jp）。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムの「教材」に参考図、判例等をUPしますので、参考図等を印刷でき、Webexでのオンタイム授業に臨むためのパソコン等が必要になります。

【その他の重要事項】

○秋学期の「民法（財産法）」を履修するためには、本科目を修得していることが望ましい。

○授業視聴には小六法を必ず準備すること。

○民法は2020年4月に大改正されました。それに伴って教科書も大改訂をし、新しくしています。古い教科書を使ってもこの講義の内容は理解できませんし、定期試験に対応できませんので、注意してください。

【オフィスアワー】

常時、メールで質問を受け付けます。

【Outline (in English)】

Understand the basic legal system of the society in which we live through civil law. The contents are as follows. Effective establishment of sales contract, default, contract cancellation, agency, transfer of ownership, etc. The knowledge that is indispensable to our lives can be obtained in this lecture, and the purpose is to obtain such knowledge.

【Goal】

1. Understanding the overall image of civil law (Level C)

2. Understanding the basic system of civil law (Level B)

3. Ability to think about various problems that arise in society from the perspective of civil law (Level A)

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

○ Read the textbook in advance before watching the class

○ Review the content on your own after watching

○ Look at society from a legal point of view based on what you have learned.

○ The standard time for preparation and review for this class is 2 hours each.

【Grading criteria】

Whether or not students have grasped the overall image of the Civil Code and understood the basic system will be determined based on the results of regular examinations.

Regular test result is 100%.

The Civil Code was significantly revised in April 2020. Along with that, the textbook has also been greatly revised and updated. Please be aware that even if you use an old textbook, you will not be able to understand the contents of this lecture, and you will not be able to cope with the final exam.

LAW200EB

民法（財産法）

松田 佳久

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：月 5/Mon.5

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「財産」に関する民法の基本的な制度を理解する。この講義の内容は次のとおりである。売買契約における所有権移転、債権の回収と債権の確保、連帯債務、保証債務、抵当権、賃貸借契約など。この講義では私たちが社会生活を送るうえで欠くことのできない知識を得ることができる。そしてこの講義はそのような知識を得ることを目的とする。

【到達目標】

1. 民法の全体的なイメージを把握できる（レベルC）
2. 民法の基本的な制度を理解できる（レベルB）
3. 社会に生起するさまざまな問題を民法の視点から考えることができる（レベルA）

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP5・DP6に関連。

DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

この講座は対面での受講となります。

授業支援システムの「教材」に参考図、判例等をUPしておきますので、教材を印刷し、対面での授業に臨んでください。

わからないところがありましたら、いつでも担当教員にメールで質問をしてください（担当教員のメールアドレス yoshihisa.matsuda.7y@hosei.ac.jp）。

民法は 2020 年 4 月に大改正されました。それに伴って教科書も大改訂をし、新しくしています。古い教科書を使ってもこの講義の内容は理解できませんし、定期試験に対応できませんので、注意してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	所有権と占有権 1	物権の客体、物権の本質、物権の効力、所有権の性質と効力
2	所有権と占有権 2	相隣関係、所有権の特別な取得原因、占有権の成立と態様、占有権の効力
3	債権の回収と債権の確保 1	債権回収の基本原則、責任財産の保全（債権者代位権）
4	債権の回収と債権の確保 2	詐害行為取消権
5	責任財産の拡大による債権の担保	連帯債務、保証債務
6	優先弁済権による債権の担保 1	担保物権の基本原則、抵当権
7	優先弁済権による債権の担保 2	非典型担保
8	物の貸借契約 1	総説、賃貸借契約（基本的な法律関係）
8	物の貸借契約 2	賃貸借関係（賃貸借の効力、第三者との関係、当事者の変更、賃借権の譲渡・転貸、賃貸借契約の終了）
9	物の貸借契約 3	借地借家法（借地関係、借家関係）

- 10 他人の労務を目的とする契約 1 総説、雇用契約、請負契約
- 11 他人の労務を目的とする契約 2 委任契約 総説、事務管理 法律の規定に基づいて生ずる債権 1
- 12 法律の規定に基づいて 不当利得 生ずる債権 2
- 13 法律の規定に基づいて 一般的不法行為 生ずる債権 3
- 14 法律の規定に基づいて 特殊的不法行為 生ずる債権 4

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

○教科書に事前に目を通してから授業ビデオを視聴し、授業後に復習すること。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

宮本健蔵編著『ワンステップ民法』（嵯峨野書院、2022 年）

【参考書】

1. 潮見佳男＝道垣内弘人『民法判例百選Ⅰ総則・物権』（有斐閣、第 8 版、2020 年）
2. 窪田充見＝森田宏樹『民法判例百選Ⅱ債権』（有斐閣、第 8 版、2020 年）

【成績評価の方法と基準】

民法の財産法（物権法・債権法）に関する基本的な知識の修得ができ、関連する裁判例や法解釈について理解できたかにつき、定期試験の結果によって 100 % 評価する。

定期試験は授業支援システムの「レポート」に問題を提示し、添付の解答用紙で所定の期間内に解答し、「レポート」に提出します。

民法は 2020 年 4 月に大改正されました。それに伴って教科書も大改訂をし、新しくしています。古い教科書を使ってもこの講義の内容は理解できませんし、定期試験に対応できませんので、注意してください。

【学生の意見等からの気づき】

基本的には 14 回の対面での授業を受ける必要があります。

わからないところがありましたら、いつでも担当教員のメールアドレスにメールで質問をしてください（担当教員のメールアドレス yoshihisa.matsuda.7y@hosei.ac.jp）。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムの「教材」に参考図、判例等をUPしておきますので、参考図等を印刷し、Webex でのオンタイムでの授業を受講できるパソコン等が必要です。

【その他の重要事項】

○本科目を履修するためには、春学期に「民法（総則）」を履修しておくことが望ましい。

○授業ビデオの視聴にはあたっては小六法を準備しておくこと。

○民法は 2020 年 4 月に大改正されました。それに伴って教科書も大改訂をし、新しくしています。古い教科書を使ってもこの講義の内容は理解できませんし、定期試験に対応できませんので、注意してください。

【オフィスアワー】

常時、メールで質問を受け付けます。

【Outline (in English)】

Understand the basic system of the Civil Code relating to "property". The contents of this lecture are as follows. Transfer of ownership in sales contracts, collection of receivables and securing of receivables, joint debt, guarantee debt, mortgages, lease contracts, etc. This lecture will give us the knowledge that is indispensable for living a social life. And this lecture aims to acquire such knowledge.

【Goal】

1. Understand the overall image of civil law (Level C)
2. Understand the basic system of civil law (Level B)
3. Ability to think about various problems that arise in society from the perspective of civil law (Level A)

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

Read the textbook before class, watch the class video, and review after class. The standard time for preparation and review for this class is 2 hours each.

[Grading criteria]

A 100% evaluation will be made based on the results of regular examinations on whether students have acquired basic knowledge of property law (property law and law of obligations) in civil law, and whether they have understood relevant judicial precedents and legal interpretations.

For the regular exam, present the questions on the "Report" of the class support system, answer the attached answer sheet within the specified period, and submit it to the "Report".

The Civil Code was significantly revised in April 2020. Along with that, the textbook has also been greatly revised and updated. Please be aware that even if you use an old textbook, you will not be able to understand the contents of this lecture, and you will not be able to cope with the final exam.

SOS200EB, SOS200EC

組織論

多田 和美

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位
曜日・時限：月 4/Mon.4

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

組織論では、社会の基礎的構成要素である組織の存在、行動、変化および効率的な運営に関する原理・原則を考察します。授業では、組織論の基本理論とその実践的な活用方法を学びます。また、変化の激しい現代社会では組織はどのような取り組みが必要なのかといった、組織に関する諸問題を組織論の基本理論を通じて議論します。

【到達目標】

授業では、下記の2点に到達することを目標とします。

- 1) 組織論に関する基本的な理論、概念、用語を理解し、実践的に活用できる。
- 2) 現代社会における企業や各機関の組織の役割や課題を積極的に考え、解決策を提示できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP5・DP6・DP8に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

授業は、オンライン形式、かつ講義資料にもとづく講義形式で実施します。授業に関する連絡、講義資料の配布および課題の提出は、学習支援システムを通じて行います。そのため、学習支援システムおよびメールを日常的に活用・確認する必要があります。なお、毎回の授業の初めに、前回の授業課題のフィードバック（解答・解説）を行います。授業計画は、授業の展開によって若干の変更があり得ます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	組織とは何か	組織の定義
第2回	多様な組織観	組織の機械観と有機体観
第3回	組織デザイン①	分業と調整
第4回	組織デザイン②	組織構造
第5回	経営組織論①	企業組織の特徴と管理
第6回	経営組織論②	企業組織の事例研究
第7回	経営組織論③	組織文化
第8回	コンティンジェンシー理論①	環境と組織
第9回	コンティンジェンシー理論②	組織の対環境戦略
第10回	資源依存理論	依存とパワー
第11回	コンフリクトとパワー	コンフリクトの発生と解消
第12回	取引コスト理論	取引コストと企業の境界
第13回	新制度派組織論	同型化、正当性
第14回	公共組織論	公共性とは何か

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

適宜、提示します。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は特に指定しません。

【参考書】

桑田耕太郎・田尾雅夫（2010）『組織論』有斐閣。
山田耕嗣・佐藤秀典（2014）『コア・テキスト マクロ組織論』新世社。
山田真茂留（2017）『集団と組織の社会学』世界思想社。

【成績評価の方法と基準】

授業内課題（小テスト）：40%、期末試験もしくは期末レポート：60%で評価します。
・課題の提出は期限厳守です。
・授業内課題（小テスト）は、第2回～第13回まで計12回実施する予定です。
・期限までに課題の提出が無い場合、原則として代替課題は提示しないので注意してください。

【学生の意見等からの気づき】

授業改善アンケートおよびリアクション・ペーパーを通じて、受講生の意見を把握し授業改善に努めます。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを利用できる機器・環境。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to understand the basics of organizational theory. The course is mainly composed of the followings:

- 1) Organization design,
- 2) Management of organizations,
- 3) Organizations in external environments.

Learning Objectives:

The goals of this course are the followings:

- 1) Understanding of basic theories of organizations,
- 2) Practical application of the above knowledge.

Learning activities outside of classroom:

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading Criteria / Policy:

Your overall grade in the class will be decided based on the followings:

Quizzes (12 times):40% and final exam: 60%.

ECN300EB

財政学 I

古市 将人

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：水 2/Wed.2

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

経済危機のような問題に対して、現代国家は巨額の財政支出による対策を実施している。このような国家の活動を予算制度の観点から分析するのが、財政学の基本的な課題と目的である。

【到達目標】

履修者が、財政学の理論や制度の知識を用いて、社会現象を読み解く能力を獲得することが、本講義の基本的な到達目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP5・DP6に関連。

DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

授業形態は講義形態を採用する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	財政学入門の入門	財政学とはどんな学問か。
第 2 回	公的部門の役割	財政の 3 機能論
第 3 回	外部性と政府活動	外部性の意義とその射程
第 4 回	公的部門とメリット財	メリット財、準公共財
第 5 回	経費論と財政民主主義	予算制度、経費膨張論
第 6 回	予算制度と予算編成論	予算編成過程
第 7 回	公共事業と財政投融资	公共事業、財政投融资
第 8 回	2000 年代の予算編成過程	予算と決算の違い
第 9 回	財政政策入門の入門	国民経済計算、GDP
第 10 回	経済成長と再分配	経済成長率、再分配
第 11 回	財政政策と公債原則	公債原則
第 12 回	社会保障制度論	セーフティネット、生活保護制度
第 13 回	社会保障制度とその役割	普遍主義、選別主義
第 14 回	雇用セーフティネット	雇用保険、求職者支援制度

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

履修者は、講義ノートに記載されている例題を 2 時間程度復習すること。履修者は、配付資料や講義ノートを参考に、次回の論点を事前に 2 時間程度学習すること。

【テキスト（教科書）】

特に指定はしない。講義ノートを配布する。

【参考書】

神野直彦（2021）『財政学 第 3 版』有斐閣。
井手英策・倉地真太郎・佐藤滋・古市将人・村松怜・茂住政一郎（2022）『財政社会学とは何か－危機の学から分析の学へ』有斐閣。

【成績評価の方法と基準】

講義内提出課題（30 %）とテスト（70 %）によって評価をする。

【学生の意見等からの気づき】

毎回の講義冒頭にてその講義の到達目標を明示することが、履修者にとって有益であるとの声が複数あったため、本年度もその方針を採用したい。

【Outline (in English)】

This course introduces the foundations of public finance to students taking this course. The goals of this course are for students to understand the basic knowledge of public finance. After taking this course, students will be able to:

- Explain the basic theory of public finance.
- Explain the description of fiscal policy.
- Describe the history of Japanese public finance.
- Understand the role of the public sector in the economy.

Your final grade will be calculated according to the following process: Reaction papers(30%) and Term-end examination(70%).

ECN300EB

財政学Ⅱ

古市 将人

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：水 2/Wed.2

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

経済危機のような問題に対して、現代国家は巨額の財政支出による対策を実施している。このような国家の活動を予算制度の観点から分析するのが、財政学の基本的な課題と目的である。

【到達目標】

履修者が、財政学の理論や国家財政と地方財政の制度の知識を用いて、社会現象を読み解く能力を獲得することが、本講義の基本的な到達目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP5・DP6に関連。

DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

授業形態は講義形態を採用する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	財政学と地方財政	財政学、地方財政論
第2回	再分配政策	社会的余剰、リスクシェアリング
第3回	格差の計測方法	ジニ係数
第4回	教育財政	外部性、教育財政
第5回	教育財政の理論と制度	財政移転、垂直的不均衡
第6回	地方財政論入門	地方自治、自治体決算
第7回	地方財政の理論と制度	地方交付税
第8回	租税論入門	超過累進税率
第9回	個人所得税入門	課税所得、超過累進税率
第10回	所得課税論	比例税、超過負担
第11回	消費課税論	一般消費税、消費税負担
第12回	公的年金制度論	賦課方式、不確実性
第13回	日本の公的年金制度	基礎年金、マクロ経済スライド
第14回	医療保険・介護保険入門	再分配、情報の不確実性

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

履修者は、講義ノートに記載されている例題を2時間程度復習すること。履

修者は、配付資料や講義ノートを参考に、次回の論点を事前に2時間程度学習すること。

【テキスト（教科書）】

特に指定はしない。講義ノートを配布する。

【参考書】

神野直彦（2021）『財政学 第3版』有斐閣。
井手英策・倉地真太郎・佐藤滋・古市将人・村松怜・茂住政一郎（2022）『財政社会学とは何か－危機の学から分析の学へ』有斐閣。

【成績評価の方法と基準】

講義内提出課題（30%）とテスト（70%）によって評価をする。

【学生の意見等からの気づき】

毎回の講義冒頭にてその講義の到達目標を明示することが、履修者にとって有益であるとの声が多数あったため、本年度もその方針を採用したい。

【Outline (in English)】

This course introduces the foundations of public finance to students taking this course. The goals of this course are for students to understand the basic knowledge of public finance. After taking this course, students will be able to:

- Explain the role of redistributive policy.
 - Explain the basic theory of taxation.
 - Describe the history of Japanese public finance.
 - Understand the role of the social security system in Japan.
- Your final grade will be calculated according to the following process: Reaction papers(30%) and Term-end examination(70%).

POL300EB

行政学

谷本 有美子

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：月 5/Mon.5

その他属性：〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

行政の活動は、私たちの生活に様々な場面で関わりを持つもので、民主主義国家における行政は、国民を代表する議会在議定した法律や予算に基づくことが原則とされます。しかし、複雑化した現代社会のしくみをすべて議会の決定に委ねることは困難で、行政には命令や規則などの一定の裁量権が認められており、その仕事は主に専門家集団としての官僚機構が担っています。行政の活動は、それ自体が自律的に運用される側面を有するため、その不作為や政策実施の不手際が人々の生活に影響を及ぼし、新たな社会課題を生じる可能性は少なくありません。

そうした観点から、この授業のテーマは「行政学から見た社会課題の発見」とします。私たちの暮らしと密接な関わりを有する行政について、制度やしくみとともに基本的な性質を学んだ上で、政治との関係で変化する制度や政策形成を検討し、主権者の立場から行政責任の問題等を考察していきます。

【到達目標】

- ・行政の基本的な制度やしくみ、性質を理解する
- ・行政における政策形成と政治との関係性を検討する
- ・現代行政の問題を主権者の立場で実践的に考察する思考力を身につける

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP5・DP6に関連。

DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

授業はパワーポイントや、レジュメを使用し、講義形式で進めます。新聞記事等を活用して可能な限り政治と行政の最近の動きを交えます。取り扱った内容に関連して、適宜、リアクションペーパーの提出を求めます。提出されたリアクションペーパーについては、授業内でいくつか取り上げて全体に向けてフィードバックしていきます。前半は行政の制度や仕組みを中心に、後半は政策の形成過程を中心に解説します。終盤では、現代の行政活動事例について行政責任・行政統制の論点も踏まえながら検討し、行政課題と社会課題との関係性についても考察をすすめていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	行政学－身近なところからのアプローチ	私たちの生活と行政との関係について概説し、授業で扱う行政の問題を俯瞰する
第 2 回	行政国家の成り立ちと行政学の展開	政府の役割が増大し、行政官僚制が形成されてきたプロセスを詳説した上で、その学問領域としての行政学の展開について概説する（テキスト第 2-3 章参照）
第 3 回	現代の政府体系	政府概念や政府体系の構造等、現代行政の枠組みを形成する基本的なしくみ・制度について概説する（テキスト第 4 章参照）
第 4 回	日本の内閣制度と国地方関係	日本の内閣制度と国地方関係について、行政改革や分権改革の動向を交えながら詳説する（テキスト第 5 章参照）

第 5 回	日本の行政組織と中央省庁改革	日本の行政組織とその政策立案システムについて概説した上で、橋本行草以降に変化した政策形成過程の実態を検討する（テキスト第 8 章参照）
第 6 回	公務員制度と人事・給与システム	行政を中心的に担う公務員に関する制度と人事・給与に関わるしくみについて詳説する（テキスト第 9 章参照）
第 7 回	行政活動と政策	行政活動のプログラムである政策の構造や政策体系に加え、その形成過程や理論モデルについて詳説する（テキスト第 11 章参照）
第 8 回	政策作成と決定－予算案の調整過程から	行政による政策案作成から政府案としての決定に至るプロセスを俯瞰した上で、予算案・法律案の調整過程を検討する（テキスト第 8 章及び第 12 章参照）
第 9 回	行政の IT 活用と政策実施の体制	政策執行の基準や、実施体制・手法について、近年の IT・デジタル戦略の動向も踏まえ実践的に検討する（テキスト第 13 章参照）
第 10 回	行政の活動－規制行政	行政による課題解決方法として、規制行政を取り上げ、その権力性についての理解を深める
第 11 回	行政の活動－サービス提供活動	行政による公共財提供の側面を取り上げ、行政資源配分の選択肢について検討する
第 12 回	政策の評価	現代日本で導入されている政策評価の仕組みについて概説した上で、フィードバックの実態を検討する（テキスト第 14 章参照）
第 13 回	行政責任と行政統制	行政活動に対する民主的統制のあり方を中心に検討する
第 14 回	行政学から見た社会課題の発見と政策作成	行政課題と社会課題とのつながりを認識した上で、実現可能性を踏まえた政策を考案する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- 本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。
- ・授業で取り上げた内容に関連した新聞記事を検索する等の情報収集を行う
 - ・2023 年度政府予算の重点政策を調べる
 - ・自分たちの生活に影響があると考えた内容の新聞記事を日常的に読む

【テキスト（教科書）】

森田朗（2022）『新版 現代の行政〔第 2 版〕』（第一法規）

【参考書】

伊藤正次・出雲明子・手塚洋輔『はじめての行政学』（有斐閣）
 今村都南雄・武藤博己・沼田良・佐藤克廣・南島和久『ホーンブック基礎行政学』（北樹出版）
 金井利之『行政学概説』（放送大学教育振興会）
 西尾勝『行政の活動』（有斐閣）

【成績評価の方法と基準】

成績は、期末の論述試験（80%）に授業内のリアクションペーパー・小レポート提出状況等（20%）を加味し、総合的に評価します。なお、大学の授業実施方針に依り、期末はレポート提出に変更する可能性があります。変更の際は学習支援システムでお知らせします。

【学生の意見等からの気づき】

学生からの質問や理解度に応じて、後日授業での補足説明や追加資料配布等を行います。

【学生が準備すべき機器他】

レジュメ以外の資料配布は学習支援システムを通じて行います。

【Outline (in English)】

In principle, administration in a democratic state is based on laws and budgets determined by the parliament representing the people. As it is difficult to delegate all the complexities of modern society to the decisions of Congress, administration has discretionary powers. Because of being managed mainly by bureaucrats, administration activities have the aspect of being operated autonomously. Therefore, their omissions and negligence on implementing the public policy might cause new social issues.

From such a viewpoint, we'll set the purpose of this class "Discovering social issues from the viewpoint of public administration." After studying the basics, like system, mechanism, and characteristics of public administration, we will study the change by the political influence of administrative system and policy, then we will consider the issue of the administrative responsibility.

By the end of the course, students should be able to do the followings:

- A. To understand the basic system, mechanism, and nature of public administration
- B. To examine the policy making process in public administration and the connection with politics
- C. To acquire the ability to think practically about the problems of modern administration from the standpoint of a sovereign.

The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each. Students will be expected to check the priority policies of the 2023 government budget and after class collect information such as searching for newspaper articles related to the content taken up in the class. In addition, read newspaper articles routinely that are thought to have an impact on our lives.

Your overall grade will be decided based on the following,

Term-end essay exam (80%), short reports or in-class reaction papers (20%). The term-end exam may change to the report according to the university's class implementation policy. It will be informed by the learning support system of any changes.

LAW300EB

行政法 I

天本 哲史

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：木 1/Thu.1

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国や公共団体の行政活動は社会の中で生きる私たちの市民生活の隅々にまで影響を及ぼします。この授業では、このような行政活動に対する法的規律等を学習します。この授業を学習の前半とし、後半は「行政法Ⅱ」で学習します。

【到達目標】

- ・行政法の基本的な法理論を理解する。
- ・行政活動の種類と法的統制を理解し、説明できる。
- ・行政法の理論を用いて、社会的問題を検討できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP5・DP6に関連。
DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

この授業は講義形式で実施します。学生にはリアクションペーパーを提出してもらい、次の授業でその内容に対するコメントをします。なお、授業計画は授業の展開によって、若干の変更があり得ます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション 行政と行政法	この授業の進め方を説明します。 行政と行政法の内容を解説します。
第 2 回	行政法の法源	行政法の法源とは何かとその種類を解説します。
第 3 回	法律による行政の原理	法律による行政の原理を解説します。
第 4 回	行政組織	行政主体と行政機関を解説します。
第 5 回	行政立法	行政立法の意義と法的統制を解説します。
第 6 回	行政行為①	行政行為の意義と法的統制を解説します。
第 7 回	行政行為②	行政裁量、附款の法的統制を解説します。
第 8 回	行政行為③	行政行為の瑕疵を解説します。
第 9 回	行政強制	義務履行強制、即時強制、行政調査の意義と法的統制を解説します。
第 10 回	行政上の制裁	行政罰その他の行政上の制裁の意義と法的統制を解説します。
第 11 回	行政指導①	行政指導の意義と法的統制を解説します。
第 12 回	行政指導②	行政指導の意義と法的統制を解説します。
第 13 回	行政計画	行政計画の意義と法的統制を解説します。
第 14 回	行政契約	行政契約の意義と法的統制を解説します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学生は配布された資料で準備学習をします。学生は復習としてレポートを提出をしてもらいます。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

この授業では教科書を指定せず、授業資料を配布します。

【参考書】

- ・教科書
- 宇賀克也『行政法概説 I』（有斐閣、第 7 版、2020）
- ・その他
- 宇賀克也『判例で学ぶ行政法』（第一法規出版、2015）
- 大橋洋一ほか編『行政法判例集 I』（有斐閣、2019）
- 大橋洋一ほか編『行政法判例集 II』（有斐閣、2018）
- 斉藤誠＝山本隆司編『行政判例百選 I・II』（有斐閣、第 8 版、2022）
- 芝池義一ほか編『判例行政法入門』（有斐閣、第 6 版、2017）
- 中原茂樹『基本行政法判例演習』（日本評論社、2023）
- 山本隆司『判例から探求する行政法』（有斐閣、2012）
- その他、授業内において適宜指定します。

【成績評価の方法と基準】

期末試験（50 %）、レポート（36 %）、平常点（14 %）を総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

講義内容が難しいという意見がありましたので、解説を多くすることにより平易な内容にしようと思います。

【学生が準備すべき機器他】

連絡、授業資料や課題提出等は Hoppii で行いますので、PC、タブレット、スマートフォン等の情報端末を準備してください。

【Outline (in English)】

【授業の概要（Course outline）】

There are various administrative activities such as regulation and guidance. The aim of this lecturer is to learn the basic theory of administrative law. This lecturer is the first half of learning administrative law.

【到達目標（Learning Objectives）】

- ・ Students understand the basic legal theory of administrative law.
- ・ Students can understand and explain the types of administrative activities and legal controls.
- ・ Students can consider social issues using the theory of administrative law.

【授業時間外の学習（Learning activities outside of classroom）】

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

【成績評価の方法と基準（Grading Criteria /Policy）】

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination : 50%, Reports : 36%, Usual performance score : 14%

LAW300EB

行政法Ⅱ

天本 哲史

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：木 1/Thu.1

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は「行政法Ⅰ」の延長線上に位置し、行政活動をどのような手段（手続）とするのか、私人は行政活動からどのように救われるのかを学習します。また、行政法の法理論をより深く理解する上で学ぶべき行政情報管理や公務員等に関連する法分野も併せて広く学習します。なお、この授業を理解するためには春学期の行政法Ⅰの授業を履修することが望ましい。

【到達目標】

- ・行政活動の行政過程と司法的救済を理解する。
- ・行政活動からの救済とその複合的な組み合わせを理解し、説明できる。
- ・行政法の理論を用いて、社会的問題を検討できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP5・DP6に関連。

DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

この授業は講義形式で実施します。学生にはリアクションペーパーを提出してもらい、次の授業でその内容に対するコメントをします。なお、授業計画は授業の展開によって、若干の変更があり得ます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション 行政手続法①	この授業の意義や進め方の説明をします。行政手続の意義と法的統制を解説します。
第 2 回	行政手続法②	行政手続法の内容を解説します。
第 3 回	行政不服審査法①	行政不服審査法の内容を解説します。
第 4 回	行政不服審査法②	行政不服審査法の内容を解説します。
第 5 回	行政事件訴訟法①	行政事件訴訟の内容を解説します。
第 6 回	行政事件訴訟法②	行政事件訴訟法上の抗告訴訟と仮の権利救済を解説します。
第 7 回	行政事件訴訟法③	行政事件訴訟法上の当事者訴訟等と客観訴訟を解説します。
第 8 回	国家賠償法	国家賠償法と損失補償の内容を解説します。
第 9 回	情報公開法	行政機関の保有する情報の公開に関する法律等の内容を解説します。
第 10 回	個人情報保護法	個人情報の保護に関する法律の中で国の機関等に関する部分を解説します。
第 11 回	公文書管理法	公文書管理法の内容を解説します。
第 12 回	公務員法と公物法	公務員法と公物法の内容を解説します。
第 13 回	地方自治法①	地方自治の本旨等を解説します。
第 14 回	地方自治法②	地方公共団体の執行機関と地方議会等を解説します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学生は配布された資料で準備学習をします。学生は復習としてレポートを提出をしてもらいます。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

この授業では教科書を指定せず、授業資料を配布します。

【参考書】

- ・教科書
- 宇賀克也『行政法概説Ⅱ』（有斐閣、第 5 版、2015）
- 宇賀克也『行政法概説Ⅲ』（有斐閣、第 5 版、2019）
- ・その他
- 宇賀克也『判例で学ぶ行政法』（第一法規出版、2015）
- 大橋洋一ほか編『行政法判例集Ⅰ』（有斐閣、2019）
- 大橋洋一ほか編『行政法判例集Ⅱ』（有斐閣、2018）
- 斉藤誠＝山本隆司編『行政判例百選Ⅰ・Ⅱ』（有斐閣、第 8 版、2022）
- 芝池義一ほか編『判例行政法入門』（有斐閣、第 6 版、2017）
- 中原茂樹『基本行政法判例演習』（日本評論社、2023）
- 山本隆司『判例から探求する行政法』（有斐閣、2012）
- その他、授業内において適宜指定します。

【成績評価の方法と基準】

期末試験（50 %）、レポート（36 %）、平常点（14 %）を総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

講義内容が難しいという意見がありましたので、解説を多くすることにより平易な内容にするようにしたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

連絡、授業資料や課題提出等は Hoppii で行いますので、PC、タブレット、スマートフォン等の情報端末を準備してください。

【Outline (in English)】

【授業の概要（Course outline）】

There are various administrative activities such as regulation and guidance. The aim of this lecturer is to learn the basic theory of administrative law. This lecturer is the second half of learning administrative law.

【到達目標（Learning Objectives）】

- ・ Students understand the basic legal theory of administrative law.
- ・ Students can understand and explain the types of administrative activities and legal controls.
- ・ Students can consider social issues using the theory of administrative law.

【授業時間外の学習（Learning activities outside of classroom）】
Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

【成績評価の方法と基準（Grading Criteria /Policy）】

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination : 50%, Reports : 36%, Usual performance score : 14%

LAW300EB

政策と制度

長沼 建一郎

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：火 2/Tue.2

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

政策は、様々な社会的課題を解決する取り組みですが、その実現には制度を構築し、運用することによって行動を組織する必要があります。

政府・自治体において、また市民社会の中で、それぞれの問題や対象の特質に応じた政策と制度を立案する必要性が高まっています。そのため制度の構築・運用という課題に焦点を当てて、政策実施のための考え方と手法について学びます。

「入門」ではなく「出口」として、この学部で学んださまざまな社会科学を活かして、問題を政策的・制度的に解決する（学問を実際に使う）ことを目指します。

【到達目標】

政策を実現するためのツールについて理解し、活用する能力を身に着けること。政策に携わるうえで必要な基礎的能力を形成するとともに、制度のあり方について考察する能力を習得すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP5・DP6に関連。

DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

なるべく具体的な事例を素材として、法政策論および「法と経済学」を駆使した検討と解決を試みます。

皆さんからの質問やコメントなどには次の授業で答えます。

講義内で希望する参加者とのやり取りや意見交換も行予定す。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	講義の進め方、政策決定と制度運営、政策サイクル、政治学／経済学／法学の思考の違い
第 2 回	政策の決定方法（1） 「全体の福利か、個人の権利か」	社会的意思決定、"fairness vs welfare"、パレートとカルドア・ヒックス基準、多数決／少数意見
第 3 回	政策の決定方法（2） 「公共的討議か、利害の衝突か」	本音と建前、合議と熟議、共和主義と多元主義、代表制／半代表、政党の役割
第 4 回	政策問題の定位「プライベートか、パブリックか」	公法と私法、私人間効力、公私二分論・リベラリズム、市民社会論・新しい公共論、利己と利他
第 5 回	政策・制度と市場 「公共財か、価値財・負財か」	権限（entitlement）の設定とコースの定理、社会的費用の最小化、最安価費用回避者
第 6 回	政策要求の宛先「投票箱（国会）か、裁判所か」	原告適格・訴えの利益、紛争志向型訴訟と政策志向型訴訟、クラスアクション、三権分立と正統性
第 7 回	政策と時間軸（1）「抜本改革か、漸進主義か」	法改正と新法制定、「世直し」と「立て直し」、増分主義、risk approach / population approach
第 8 回	政策と時間軸（2）「事前（pre）の予防か、事後（post）の救済か」	規制と給付、行政指導・監察、モニタリングコストと裁判コスト、政策評価（output / outcome）

第 9 回	政策と不確実性「効用最大化か、リスク回避か」	コスト・ベネフィット分析、功利主義、マキシミン戦略、限定合理性、ヒューリスティック
第 10 回	政策実現の手法（1） 「インセンティブか、サンクションか」	民事賠償と刑事罰・行政罰、勧告・公表、補助金、優遇税制、テーパリング、努力義務・不完全義務
第 11 回	政策実現の手法（2） 「ルールか、スタンダードか」	法律と政省令、通達行政、裁量と裁量権の逸脱、最低基準・推奨基準、プリンシパルとエージェント
第 12 回	政策実現の手法（3） 「一律強制か、任意・選択か」	強行規定と任意規定、majority default / penalty default、スタンダードパッケージ、分離均衡
第 13 回	政策・制度の担い手 「専門知か、市民参加か」	公務員・ストリートレベル官僚、審議会・委員会、第三者機関・オンブズマン、行政手続法
第 14 回	補説・まとめ	講義の補足・まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内容の予習・復習をおこなう。

本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

長沼建一郎『法政策論への招待』（信山社、2022 年）（2000 円+税）をテキストとして指定します。

【参考書】

授業内で適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

テキストおよびノート参照（持ち込み）可の試験により評価する予定です。期末試験（70%）、中間試験（30%）の予定です。

希望する参加者とのやり取り・意見交換が可能であれば、プラスアルファとしてそれによる平常点を勘案します。

【学生の意見等からの気づき】

とくになし。

【その他の重要事項】

中央官庁で政策立案・実施に携わった経験を踏まえて講義します。

授業の進捗によって若干の変更が出る可能性があります。

【Outline (in English)】

This course deals with policy and institution.

At the end of the course, students are expected to understand and discuss policy and institution

Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Mid-term examination: 40%, Term-end examination: 60%

SOS300EB

人的資源論

恵羅 さとみ

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位
曜日・時限：火 2/Tue.2

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

人的資源論の歴史的背景を踏まえた上で、企業がいかにかに人材を活用し価値を創造しようとしているのかについて、「働かせる側」および「働く側」の両方の視点から、人的資源論の基本的知識と実践を学ぶ。その上で、批判理論にも目を配りながら、今日的な課題や日本社会の変容について考察する。

【到達目標】

人的資源管理論の歴史的背景を理解し、基本的知識を身に着ける。それを通じて、将来のキャリア形成と問題解決に役立つ構造制度的・組織的背景への理解を深め、同時に批判的思考と社会学的発想力をもてるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP5・DP6に関連。

DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

ハンドアウトや配布資料等に基づき講義を行う。課題等に対するフィードバックは、毎回および最終授業において前回まで提出されたりアクションペーパーから適宜取り上げ講評する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の説明
第2回	人事管理・人的資源管理 発展史1	科学的管理と人事管理
第3回	人事管理・人的資源管理 発展史2	人間関係管理
第4回	人事管理・人的資源管理 発展史3	行動科学的管理
第5回	人事管理・人的資源管理 発展史4	人的資源管理の萌芽
第6回	人事管理・人的資源管理 発展史5	戦略的人的資源管理
第7回	批判理論の検討1	労働過程論など
第8回	批判理論の検討2	経営学の間観（ドラッカー、バーナードなど）
第9回	批判理論の検討3	経営学と批判理論（クリティカルマネジメント研究など）
第10回	今日の 이슈 1	ダイバーシティ（ジェンダー・セクシャリティなど）
第11回	今日の 이슈 2	貧困・格差・持続可能性（開発、リスクリングなど）
第12回	人的資源管理と日本社会1	雇用・賃金・労働時間・福利厚生・社会保障など
第13回	人的資源管理と日本社会2	外部労働市場と国際化
第14回	まとめ	授業のふりかえり

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前にレジュメや参考書に目を通しておく、復習では、配布資料やノートを整理しておく。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

毎回、レジュメや配布資料を学習支援システムにアップロードする。

【参考書】

岡田行正（2008）『新版 アメリカ人事管理・人的資源管理史』同文館出版、3200円
守屋貴司・中村艶子・橋場俊展編著（2018）『価値創発（EVP）時代の人的資源管理 Industry4.0の新しい働き方・働かせ方』ミネルヴァ書房、2800円、Alvesson,M. et al., 2011, The Oxford Handbook of Critical Management Studies, Oxford University Press.
その他、授業内で適宜参照する。

【成績評価の方法と基準】

①平常点（50%）
毎回のリアクションペーパー（授業内で出された提出課題や意見・質問など）
②期末レポート（50%）

【学生の意見等からの気づき】

リアクションペーパーなどを適宜紹介しながら前回のフィードバックを行う。クリッカー等を使用して双方向的なコミュニケーションを心掛ける。

【学生が準備すべき機器他】

情報機器（学習支援システムにアクセス可能なもの）

【その他の重要事項】

進行によって若干の内容変更の可能性はある。

【Outline (in English)】

Course outline: The aim of this course is to help students acquire an understanding of basic ideas of human resources theory while taking account of the historical background of the development of the theories, alternative perspectives of recent critical studies, as well as changing employment relationships in Japan.

Learning activities outside of classroom: Students will be expected to write short/reaction paper after each class meeting. Grading Criteria: Overall grade in the class will be decided based on the following.

Term-end paper: 50%、in class contribution: 50%

MAN200EB

社会・イノベーション論 I

糸久 正人

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：月 2/Mon.2

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、社会に新たな価値をもたらすイノベーションに対する理解を深めます。社会・イノベーション論 I では、1) イノベーションが実現される基本的な前提としての社会の仕組み、2) 企業を中心としたイノベーション活動について学びます。

【到達目標】

・イノベーションが実現される前提としての社会の仕組みを理解する
 ・企業におけるイノベーション活動を理解する

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP6・DP7 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

授業形態は、毎回パワーポイントを用いた講義形式で行います。その他、小テストおよび期末試験を実施します（なお、小テストは抜き打ちで実施します）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イノベーションとは何か？	本講義のメインテーマであるイノベーションについて定義し、講義全体の概要を述べる
第 2 回	企業の目的と社会的責任	資本家の所有権の概念から企業の目的を考える
第 3 回	資本主義と競争	貨幣の成り立ちと資本主義の基本原則を前提として、必然的に競争が生じるメカニズム
第 4 回	社会における分業と協業	社会における生産活動を効率的に行うための仕組みとしての分業と協業
第 5 回	ソーシャルイノベーション	社会課題の解決を主眼に置いたソーシャルイノベーションの取組について
第 6 回	ビジネスモデルの見取り図	価値の重要性とビジネスモデルキャンパスについて理解する
第 7 回	競争戦略論	事業で競争優位を獲得するための戦略
第 8 回	ブルーオーシャン戦略	コストリーダーシップと差別化を同時に実現するバリューイノベーション
第 9 回	ビジネスエコシステム（産業生態系）論	PC 産業で先駆的に観察された垂直分業から水平分業への産業転換
第 10 回	規制とイノベーション	競争の枠組としての規制（強制的なルール）
第 11 回	標準とイノベーション	競争の枠組としての標準（自発的なルール）
第 12 回	知的財産制度	知的財産を保護し、イノベーションを促すための社会制度
第 13 回	オープン&クローズ戦略	エコシステムの発展と競争優位の確保の両立
第 14 回	まとめ	前期のまとめを行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

ビジネス関連の新聞・雑誌・書籍等に日頃から目を向けることを推奨します。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。

【参考書】

授業内で適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

小テスト 20%、期末試験 80%

【学生の意見等からの気づき】

理論だけでなく、なるべく多くの事例も取り上げます。

【その他の重要事項】

後期の社会・イノベーション論 II を併せて受講することを推奨します。

【Outline (in English)】

This lecture aims to cultivate your understanding of innovation, which provides new values to society. In the first semester, we focus on 1) social contexts and mechanisms in which innovation realize, and 2) the innovation activities of firms.

The goals of this course are to understand the basic structure of society relating to innovation and the innovation activities of firms. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination: 80%, tests : 20%,

MAN300EB

社会・イノベーション論Ⅱ

糸久 正人

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：月 2/Mon.2

その他属性：〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、社会に新たな価値をもたらすイノベーションに対する理解を深めます。社会・イノベーション論Ⅱでは、1) 技術とイノベーション、2) イノベーション政策、3) オペレーションマネジメントについて学びます。

【到達目標】

- ・技術とイノベーションの関係について理解する
- ・イノベーション政策について理解する
- ・オペレーションマネジメントについて理解する

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP6・DP7に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

授業形態は、毎回パワーポイントを用いた講義形式で行います。その他、小テストおよび期末試験を実施します（なお、小テストは抜き打ちで実施します）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	技術とイノベーション	イノベーションを実現する技術の役割と関係性
第 2 回	デザイン思考	イノベーション活動におけるデザインの意義と重要性
第 3 回	シェアリングエコノミー	所有から使用へと変化する消費活動の実態
第 4 回	人工知能とロボット共生社会	人工知能およびロボットと人間社会の関係
第 5 回	次世代モビリティエコシステム	CASE を中心とした次世代モビリティ
第 6 回	IoT 社会のに向けたイノベーション政策	欧州を中心とした IoT 社会実現のためのイノベーション政策
第 7 回	グリーンイノベーション政策	カーボンニュートラルを実現するためのイノベーション政策
第 8 回	両利き経営	イノベーション活動とオペレーション活動のバランス
第 9 回	制約理論	流れづくりを効率的に行うためのボトルネックの考え方とその解消方法
第 10 回	品質管理	オペレーションにおける品質管理
第 11 回	コスト管理	オペレーションにおけるコスト管理
第 12 回	納期管理	オペレーションにおける納期管理
第 13 回	フレキシビリティ	品種と数量に関するフレキシビリティの確保
第 14 回	総括	社会イノベーション論のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

ビジネス関連の新聞・雑誌・書籍等に日頃から目を向けることを推奨します。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業内で適宜紹介します。

【参考書】

授業内で適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

小テスト 20%、期末試験 80%

【学生の意見等からの気づき】

理論だけでなく、なるべく多くの事例も取り上げるようにします。

【その他の重要事項】

前期の社会・イノベーション論Ⅰを受講していることが望ましいです。

【Outline (in English)】

This lecture aims to cultivate your understanding of innovation, which provides new values to society. In the second semester, we focus on 1) technology and innovation, 2) innovation policy, and 3) operation management.

The goals of this course are to understand the relationship between technology and innovation, innovation policies, and operation management.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination: 80%, tests : 20%,

MAN200EB

中小企業論

糸久 正人

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：月 3/Mon.3

その他属性：〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本経済の根幹を形成する「中小企業」に関して、既存研究では、資源制約があるがゆえに発展が妨げられているという「問題型」の議論、小さいことによる発展性／優位性に着目した「貢献型」の議論がなされてきました。本講義では、こうした中小企業をめぐる二面性を意識しつつ、中小企業に関する諸理論を学習します。具体的には、1) 中小企業とは何か？ 2) 中小企業はなぜ企業規模が小さいために問題性と発展性／優位性を有しているのか？ 3) 中小企業の一形態であるベンチャー企業とは何か？ というテーマで議論します。また、多摩で活躍する中小企業の経営者をゲストスピーカーとして招き、実践的な中小企業経営について議論します。

【到達目標】

本講義では、企業規模が小さいことに起因する「問題性」と「発展性／優位性」を認識した上で、両者を包含した複眼的な視点から中小企業に対する理解を深めることを目標とします。また、多摩地域の中小企業経営者をゲストに招き、現場の活きた知識の獲得を目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP6・DP7に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

授業は主にパワーポイントを活用した講義形式で行います。ゲスト講師の回にはリアクションペーパーの提出を求められます。小テストなどの課題に対するフィードバックは講義中に行い、期末試験に関しては学習支援システムで行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	本講義の目的と全体像
第 2 回	中小企業とは？	中小企業の定義、法律・経済・経営的な意味について、および日本経済の発展過程における中小企業の役割
第 3 回	複眼的視点からの中小企業論	中小企業を捉える視座について
第 4 回	イノベーションと中小企業	独自の視点からイノベーション活動を行う中小企業を紹介
第 5 回	ベンチャー企業の経営	ベンチャー企業マネジメントの要点
第 6 回	産業集積と産業クラスター	産業集積と産業クラスターの要点
第 7 回	中小企業のケース (1)	多摩地域の中小企業経営者によるゲスト講演とディスカッション
第 8 回	中小企業のケース (2)	多摩地域の中小企業経営者によるゲスト講演とディスカッション
第 9 回	中小企業のケース (3)	多摩地域の中小企業経営者によるゲスト講演とディスカッション
第 10 回	中小企業のケース (4)	多摩地域の中小企業経営者によるゲスト講演とディスカッション
第 11 回	中小企業のケース (5)	多摩地域の中小企業経営者によるゲスト講演とディスカッション

第 12 回 中小企業のケース (6) 多摩地域の中小企業経営者によるゲスト講演とディスカッション

第 13 回 中小企業政策 中小企業政策を概観し、中小企業の活性化について考える

第 14 回 中小企業論のまとめ 全体の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義期間中に、中小企業／ベンチャー企業の経営者によって書かれた独自のマネジメント手法に関する書籍を講読してください。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。

【参考書】

授業内で適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

リアクションペーパー提出 4 0 %、期末試験 6 0 %

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline (in English)】

Small and medium enterprises (SMEs) form the basis of the Japanese economy. There are mainly two major arguments in the previous researches on SMEs. One is “Problem driven,” which claims that SMEs have difficulties growing due to limited resources. The other is 2) “Contribution driven,” which claims SMEs’ potentiality and advantages because of its flexibility. This course deals with general theories on SMEs, considering these two different arguments. We discuss the following subjects; 1) What is a small business? 2) Why do SMEs have problems and potentiality/advantages? 3) What is a venture business? Additionally, we invite guest lecturers from SMEs in the Tama area to acquire a comprehensive understanding of SMEs.

The goals of this course are to understand SMEs in terms of a balanced perspective and acquire practical wisdom from SME managers.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination: 60%, short reports : 40%、

ECN200EB

地域産業論 I

加藤 寛之

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：月 4/Mon.4

その他属性：〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

様々な地域産業の具体例を紹介しつつ、地域産業を考える上で必要な眼（概念・理論）を習得し、受講者各自が地域産業の活性化に関われるようになることをテーマとする。

【到達目標】

農業や製造業、サプライヤーシステムなど、現代の地域産業で生じている国内での現状と課題を認識し、一方で国境を越えて地域産業をとらえる視点を身につけることを到達目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP6・DP7に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

毎回授業前日までに、授業支援システムに教材と簡単な課題をアップします。課題は授業支援システム上で提出し、締切を設けます。締切は授業日です。

最初の数回は授業のやり方に慣れるまでの移行期間とし、課題提出に遅延を認めます。締切後でも授業支援システムに提出できるように設定しておきます。

期末試験は実施せず、課題とレポートで評価します。

フィードバックは課題ごとにコメントします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	企業を見る眼、産業を見る眼、中小企業を見る眼、地域産業を見る眼
第 2 回	産業の立地	チューネンの農業立地論、ウェーバー・アロンゾの工業立地モデル
第 3 回	農業と立地	事例研究：バルグアース、村上農園
第 4 回	地域経済の成長理論	需要主導型の成長モデル、供給主導型の成長モデル
第 5 回	都市と環境問題	公害としての環境問題、都市の環境問題
第 6 回	地方工業都市（1）	企業城下町、日立製作所、三菱重工業（東海・九州）
第 7 回	地方工業都市（2）	トヨタ生産システム、愛知と九州と東北の自動車産業
第 8 回	都市周縁の集積	大阪の金型工場の集積、岡山のジーンズ縫製
第 9 回	マザー工場	子工場、孫工場とマザー工場の共進化、富士通、川崎重工
第 10 回	産業集積の理論と実例	クラスター
第 11 回	国境を越える地域の連携	プロダクトサイクル説、雁行形態論、塩地モデル
第 12 回	国の競争優位（1）	タイの自動車産業のサプライヤーシステム
第 13 回	国の競争優位（2）	東アジアの優位産業の競争力
第 14 回	国境を越えるクラスター同士の連携	東アジアのハードディスクドライブ産業

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に、今回のプリントを配布しますので、講義内容をあらかじめ把握してください。また、日常的に新聞を読むなど社会ニュースに触れ、時事的な事柄に感心を持ってください。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用せず、プリントを配布します。

【参考書】

村上 英樹(著)、高橋 望(著)、加藤 一誠(著)、榎原 胖夫(著)『航空の経済学』ミネルヴァ書房

伊藤 正昭(著)『新地域産業論—産業の地域化を求めて』学文社
中村剛治郎編(2008)『基本ケースで学ぶ地域経済学』有斐閣。

【成績評価の方法と基準】

毎回の課題評価による平常点 70 点、レポート 30 点

【学生の意見等からの気づき】

事例と理論の関わりを理解できるよう、講義を進めます。毎回リアクションペーパーを課しますが、復習になる（期末試験対策になる）という意見が多いです。

【学生が準備すべき機器他】

必要に応じて、PC によるプレゼンテーション形式の講義を行います。

【その他の重要事項】

授業開始は学年暦通りです。最初は授業の進め方に試行錯誤が続きますが、どうかお付き合いください。

授業前日までに毎回の教材と簡単な課題を授業支援システム上にアップロードします。課題には提出締切を設けます。最初の数回は試行錯誤が続きますので、提出遅延をしても提出できるように設定しておきます。

【Outline (in English)】

The theme of this course is to introduce specific examples of various regional industries, and to enable participants to acquire the necessary eyes (concepts and theories) to think about regional industries and to become involved in the revitalization of their own regional industries. To study about modern firms and modern societies. Course Outline: The course aims to teach the fundamentals of industrial research and strategy theory.

Learning Objectives: To help each student become an industrial research man or research woman corporate strategy planner.

Learning activities outside of classroom: Need 2Hours.

Grading Criteria/Policy: Regular points (40%) based on the content and frequency of presentations and contributions to the management during the exercises. Degree of commitment to the assignment you set (30%) Content of the final submission (30%)

ECN300EB

地域産業論Ⅱ

加藤 寛之

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：月 4/Mon.4

その他属性：〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

特性の異なる地域を取り上げて、地域産業の具体的な実態や理論の検討を行い、地域産業を考える際に必要な概念・理論の習得を目指す。また、実際の地域産業の分析・議論において、それらをどのように活用していくべきかを考えることをテーマとする。なお、授業計画は、授業の展開によって若干の変更があり得る。

【到達目標】

製造業、農業、流通業、観光業など、現代の地域産業の実態、理論や政策課題について、一定程度以上の理解を得てもらうことを到達目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP6・DP7に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

指定テキストを参照しながら、最新動向を踏まえつつ、地域産業の実態と理論について学ぶ。各回、章毎にテキストを扱う予定である。数回に一度課題をだし、その都度コメントします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	地方消滅、地域産業を調べるということは
第 2 回	地方消滅	東京一極集中、コンパクトシティ
第 3 回	G 型と L 型	グローバル経済圏とローカル経済圏
第 4 回	産業分析	統計指標の読み方
第 5 回	企業分析	財務諸表と企業分析
第 6 回	稼ぐまちとは	利益なくして再生なし
第 7 回	街づくりを成功させる鉄則	自立がまちを支える
第 8 回	町おこし：鯖江市	「めがねのまち」から「オープンデータのまち」へ
第 9 回	町おこし：今治タオル	地方発のブランド
第 10 回	温州商人	ソーシャルキャピタル、温州商人のネットワーク
第 11 回	琵琶湖水系	関西経済圏と琵琶湖水系、地盤沈下、水質汚染、環境と地域産業の共存
第 12 回	現代の二都物語	アナリー・サクセニアンの明らかにした経済地理
第 13 回	常石造船	沼隈町と常石造船
第 14 回	今治造船	瀬戸内海の波方船主達の生態と造船産業

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回プリントを配布します。日常的に新聞を読むなど、社会経済に関するニュースに触れて、時事的な事柄に関心を持つように心がけてください。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

毎回プリントを配布します。参考書は適宜指定します。

【参考書】

木下 斉 (著) 『稼ぐまちが地方を変える—誰も言わなかった 10 の鉄則』 N H K 出版新書
 木下 斉 (著) 『まちづくりの「経営力」養成講座』学陽書房
 富山 和彦 (著) 『なぜローカル経済から日本は甦るのか』 PHP 新書
 田村正紀 (著) 『リサーチ・デザイン』経営知識創造の基本技術』白桃書房
 アナリー・サクセニアン (著), 本山 康之 (監修, 監修), 星野 岳穂 (監修, 監修), 酒井 泰介 (翻訳) 『最新・経済地理学』
 アナリー・サクセニアン (著), 山形 浩生 (翻訳), 柏木 亮二 (翻訳) 『現代の二都物語』日経 BP 社

【成績評価の方法と基準】

平常点：20%、試験：80%

【学生の意見等からの気づき】

事例と理論の関わりを理解できるよう、講義を進めます。毎回リアクションペーパーを課しますが、復習になる（期末試験対策になる）との意見が多いです。

【学生が準備すべき機器他】

必要に応じて、PC によるプレゼンテーション形式の講義を行います。

【Outline (in English)】

The theme of this course is to introduce specific examples of various regional industries, and to enable participants to acquire the necessary eyes (concepts and theories) to think about regional industries and to become involved in the revitalization of their own regional industries. To study about modern firms and modern societies. Course Outline: The course aims to teach the fundamentals of industrial research and strategy theory, Learning Objectives: To help each student become an industrial research man or research woman corporate strategy planner. Learning activities outside of classroom: Need 2Hours. Grading Criteria/Policy: Regular points (40%) based on the content and frequency of presentations and contributions to the management during the exercises. Degree of commitment to the assignment you set (30%) Content of the final submission (30%)

SOC200EB, SOC200EC

産業社会学 I

恵羅 さとみ

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：金 1/Fri.1

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

グローバル化と急速な産業構造の変化の下、働きかたは多様化し、人びとの意識や社会的結合のあり方も変容している。「働くこと」とはどのようなことなのか、そこにはどのような課題があるのか。この授業では、産業・労働を捉える様々な見方について学び、産業社会学の学問としての成り立ちと基本的テーマを通じて、基礎的な知識を身に着ける。

【到達目標】

「働くこと」について、産業社会の発展の中で、どのような課題および問いが発生してきたのか、社会学的な観点から考察する方法について学ぶ。「働くこと」を取り巻く構造や制度、ならびに労働者の主体的関わりについて、社会学的な枠組みから理解できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP6・DP7・DP8・DP10に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

ハンドアウトや配布資料等に基づき講義を行う。課題等に対するフィードバックは、毎回および最終授業において前回まで提出されたリアクションペーパーから適宜取り上げ講評する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の説明
第 2 回	産業と社会変動 1	仕事とは何か？（工業社会、生業・分業、社会学的視点から働くことを考える）
第 3 回	産業と社会変動 2	技術と近代（テイラーリズム、フォードイズム、ポストフォードイズムなど）
第 4 回	産業と社会変動 3	技術と未来（産業社会・情報社会、自動化と省力化、人工知能、雇用と失業）
第 5 回	社会関係・制度 1	職場組織と人間関係（人間関係論、ホワイトカラー、感情労働における感情の管理）
第 6 回	社会関係・制度 2	労使関係（労使関係論、福祉国家と 1980 年代以降、日本における労使関係）
第 7 回	社会関係・制度 3	労働組合・労働運動（雇用類似の働き方と労働運動、ドキュメンタリーを観て考える）
第 8 回	意識・文化 1	労働の意味、労働者であること（労働倫理、アイデンティティ、社会化、満足、疎外）
第 9 回	意識・文化 2	今日的な労働の諸側面（官僚制、フレキシビリティと労働者の意識、技能の意味）
第 10 回	再生産 1	労働者になること（労働者文化、社会階層の再生産、名著を読む）
第 11 回	再生産 2	日本における教育と職業（教育の職業的意義、キャリア教育、適応と抵抗）

第 12 回	持続可能性 1	身体と脆弱性（身体イメージ、社会学における身体と社会、仕事の社会学、労働災害）
第 13 回	持続可能性 2	グローバル化と相互依存（移動の拡大と労働移民、アジア、移動をめぐる諸理論）
第 14 回	まとめ	授業のふりかえり

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習では、産業・労働をめぐるテーマについて関心を持ち、積極的に自主学習を進めること。疑問点や分からないキーワードなどについて調べておく。

復習では、配布資料やノートを整理しておく。授業内で適宜、講読課題を出すので指定された箇所を各自で読み、課題を提出する。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特に変更しない。授業時にはハンドアウトや資料を配布する。

【参考書】

授業で指示する

【成績評価の方法と基準】

①平常点（50 %）

毎回のリアクション・ペーパー（授業内で出された提出課題や意見・質問など）

②期末レポート（50 %）

【学生の意見等からの気づき】

リアクションペーパーなどを適宜紹介しながら前回のフィードバックを行う。

資料講読、映像視聴、ペアワークなど、能動的な授業参加を促す工夫をする。

【学生が準備すべき機器他】

情報機器（学習支援システムにアクセス可能なもの）

【その他の重要事項】

授業の進捗状況によっては、内容が若干変更する可能性がある。

【Outline (in English)】

This course introduces the foundations of sociology of work to students. It also enhances the understanding of current socioeconomic dynamics surrounding industrial relations and workers in the era of globalization. The issues student will learn in this course cover various topics including social division of labor, industrialization/development and its consequences, human relations in workplace, ideology and alienation related to work, labor movement, labor migration and so on.

Learning activities outside of classroom: Students will be expected to write short/reaction paper after each class meeting. Grading Criteria: Overall grade in the class will be decided based on the following.

Term-end paper: 50%、in class contribution: 50%

SOC300EB, SOC300EC

産業社会学Ⅱ

恵羅 さとみ

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：金 1/Fri.1

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

社会構造変動の下で、これまでの産業社会が前提としてきた雇用慣行や労働のあり方が問い直しを迫られている。グローバル化や社会格差の拡大、雇用の流動化、労働をめぐる不安定性やリスクの拡大など、現在、社会が直面している問題について、身近なテーマや具体的な社会問題を通じて考える。

【到達目標】

産業と労働に関わる諸問題について、①その背景と実態を理解し、②自らに関連するものとして捉え、③問題解決のためにどのような対策・制度・政策が求められているのかについて、他者と議論し、考えることができるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP6・DP7・DP8・DP10に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

適宜、映像資料等を活用し、グループ・ディスカッションなどを取り入れながら、リアクションとフィードバックを重ねることで、参加者の問題意識の発展を促す。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の説明
第2回	雇用を問い直す1	産業社会と雇用
第3回	雇用を問い直す2	働き方の曖昧化について考える
第4回	雇用を問い直す3	オルタナティブな働き方について考える
第5回	労働時間について1	産業社会と労働時間（『モモ』『ブルシット・ジョブ』を読む、グループ・ディスカッション）
第6回	労働時間について2	長時間労働・過労死問題について考える
第7回	労働環境について1	労災・公害問題を考える（ドキュメンタリー映像視聴・グループ・ディスカッション）
第8回	労働環境について2	労災・公害問題を考える（ドキュメンタリー映像視聴・グループ・ディスカッション）
第9回	労働環境について3	労災・公害問題を考える（ドキュメンタリー映像視聴・グループ・ディスカッション）
第10回	グローバル化について1	日本の外国人技能実習制度を考える
第11回	グローバル化について2	日本の外国人技能実習制度を考える
第12回	グローバル化について3	グローバルなサプライチェーンを考える（ドキュメンタリー映像視聴・グループ・ディスカッション）
第13回	グローバル化について4	グローバルなサプライチェーンを考える（ドキュメンタリー映像視聴・グループ・ディスカッション）
第14回	まとめ	授業のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習では、産業・労働をめぐるテーマについて関心を持ち、積極的に自主学習を進めること。疑問点や分からないキーワードなどについて調べておく（事前に講読課題が出された場合は、必ず講読してから参加すること）。

復習では、配布資料やノートを整理しておく。授業内で適宜、講読課題を出すので指定された箇所を各自で読み、課題を提出する。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特に使用しない。授業時にはハンドアウトや資料を配布する。

【参考書】

授業で指示する

【成績評価の方法と基準】

①平常点（50%）

リアクション・ペーパー、授業内で出された提出課題など

②期末レポート（50%）

【学生の意見等からの気づき】

ディスカッションのタイムスケジュールや進め方を工夫する。

【学生が準備すべき機器他】

情報機器（学習支援システムにアクセスできるもの）

【その他の重要事項】

授業の進捗状況によっては、内容が若干変更する可能性がある。

【Outline (in English)】

This course examines inequality in Japanese society related to work and employment. Students will learn various topics such as changing industrial relations, expanding unregular/precarious work, working environments and risks as well as social policy. Student will be expected to actively participate in group discussion on each issue.

Learning Objectives: At the end of the course, students are expected to have knowledge and multiple perspectives on various labor issues and

to develop communication skills in discussion.

Learning activities outside of classroom: Students will be expected to write short/reaction paper after each class meeting.

Grading Criteria: Overall grade in the class will be decided based on the following.

Term-end paper: 50%, in class contribution: 50%

ECN200EB

国際経営論 I

多田 和美

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位
曜日・時限：月 3/Mon.3

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国際経営論 I では、国際経営論に関する基本的な考え方や概念を学びます。そのなかでは、国際社会の変化を踏まえて、社会とその一員である企業がともに成長するためにどのような取り組みが必要なのかといった課題も取り上げます。その結果、国際経営論に関する基本知識とその知識の実践的な活用方法を修得することを目的とします。

【到達目標】

授業では、下記の2点に到達することを目標とします。

- 1) 国際経営論に関する基本的な理論、概念、用語を理解し、文章によって説明できる。
- 2) 国際社会における企業の役割と課題を積極的に考え、解決策を提示できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP6・DP7に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

教科書と講義資料にもとづく講義形式で実施します。授業に関する連絡、講義資料の配布および課題の提出は、学習支援システムを通じて行います。日常的に学習支援システムを確認・利用する必要があります。なお、毎回の授業の初めに、前回の授業課題のフィードバック（解答・解説）を行います。授業計画は、授業の展開によって若干の変更があり得ます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	国際経営とは何か	ガイダンス
第2回	国際経営と環境	CAGE フレームワーク
第3回	海外直接投資の理論①	優位性の命題、内部化理論
第4回	海外直接投資の理論②	OLI パラダイム
第5回	多国籍企業の国際競争の歴史	今日に至る歴史
第6回	多国籍企業の組織デザイン	国際経営の進展と組織構造
第7回	トランスナショナル経営①	グローバル統合とローカル適応
第8回	トランスナショナル経営②	国際経営の4タイプ
第9回	海外子会社の経営①	海外子会社の所有政策
第10回	海外子会社の経営②	海外子会社の役割と成長
第11回	国際戦略提携	国際戦略提携のメリットとデメリット
第12回	異文化経営	各国文化のとらえ方
第13回	国際経営と CSR	多国籍企業の社会的責任
第14回	総括	授業のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

適宜、提示します。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

中川功一・林正・多田和美・大木清弘（2015）『はじめての国際経営』有斐閣。

【参考書】

梶浦雅己（2020）『はじめて学ぶ人のためのグローバル・ビジネス（第三版）』文真堂。
大木清弘（2017）『コア・テキスト国際経営』新世社。
吉原英樹（2021）『国際経営（第5版）』有斐閣。

【成績評価の方法と基準】

授業内課題（小テスト）：40%、期末試験：60%で評価します。
・課題の提出は期限厳守です。
・授業内課題（小テスト）は、第2回～第13回まで計12回実施する予定です。
・期限までに課題の提出が無い場合、原則として代替課題は提示しないので注意してください。

【学生の意見等からの気づき】

授業改善アンケートおよびリアクション・ペーパーを通じて、学生の意見を把握し随時授業の改善に努めます。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを利用できる機器・環境。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to understand the basics of international business from the theoretical and practical points of view. The course is mainly composed of the followings:

- 1)Basic theories of international business,
- 2)Basic frameworks of international business,
- 3)Advantages/disadvantages of international business.
- 4)Social responsibility of multinational companies.

Learning Objectives:

The goals of this course are the followings:

- 1)Understanding of basic theories of International Business,
- 2)Practical application of the above knowledge.

Learning activities outside of classroom:

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading Criteria / Policy:

Your overall grade in the class will be decided based on the followings:

Quizzes (12 times):40% and final exam: 60%.

ECN300EB

国際経営論Ⅱ

多田 和美

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：月 3/Mon.3

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国際経営論Ⅱでは、実際の国際経営活動の多様な領域を学びます。そこでは、日本多国籍企業による各種国際経営活動の実際にも焦点を当て、その特徴や課題を議論します。後半では、その他の先進国および新興国にも焦点を当てます。その結果、国際経営論の基本知識とその実践的な活用方法に関する理解を深めることを目的とします。

【到達目標】

授業では、下記の2点に到達することを目標とします。

- 1) 国際経営論の基本知識をもとに、企業の国際経営の現象を論理的に分析できる。
- 2) 国際社会における企業の役割と課題を積極的に考え、解決策を提示できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP6・DP7に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

教科書と講義資料にもとづく講義形式で実施します。授業に関する連絡、講義資料の配布および課題の提出は、学習支援システムを通じて行います。日常的に学習支援システムを確認・利用する必要があります。なお、毎回の授業の初めに、前回の授業課題のフィードバック（解答・解説）を行います。授業計画は、授業の展開によって若干の変更があり得ます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	国際経営論の基本視座	I-R フレームワーク
第2回	国際マーケティング①	国際マーケティングの特徴
第3回	国際マーケティング②	日本多国籍企業の事例
第4回	海外生産①	国際生産ネットワーク
第5回	海外生産②	日本多国籍企業の事例
第6回	国際研究開発①	HBE/HBA 型
第7回	国際研究開発②	日本多国籍企業の事例
第8回	国際サプライチェーン・マネジメント	国際的な調達活動と製販統合
第9回	国際人的資源管理①	EPRG プロファイル
第10回	国際人的資源管理②	日本多国籍企業の事例
第11回	先進国と国際経営①	先進国市場の特徴
第12回	先進国と国際経営②	先進国企業の特徴
第13回	新興国と国際経営①	新興国市場の特徴
第14回	新興国と国際経営②	新興国企業の特徴

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

適宜、提示します。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

中川功一・林正・多田和美・大木清弘（2015）『はじめての国際経営』有斐閣。

【参考書】

大木清弘（2017）『コア・テキスト国際経営』新世社。
吉原英樹（2015）『国際経営（第4版）』有斐閣。

【成績評価の方法と基準】

授業内課題（小テスト）：40%、期末試験：60%で評価します。
・課題の提出は期限厳守です。
・授業内課題（小テスト）は、第2回～第13回まで計12回実施する予定です。
・期限までに課題の提出が無い場合、原則として代替課題は提示しないので注意してください。

【学生の意見等からの気づき】

授業改善アンケートおよびリアクション・ペーパーを通じて、学生の意見を把握し随時授業の改善に努めます。

【学生が準備すべき機器他】

特にありません。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to understand the various fields and activities of international business based on the basic knowledge acquired in International business 1 in Spring semester. The course is mainly composed of the followings:

- 1)Marketing, Production, R&D and HRM by multinational companies,
- 2)The characteristics of multinational companies' behavior in developed and emerging countries.

Learning Objectives:

The goals of this course are the followings:

- 1)Understanding of basic theories of International Business,
- 2)Analyzing of international business theoretically and empirically,
- 3)Practical application of the above knowledge.

Learning activities outside of classroom:

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading Criteria / Policy:

Your overall grade in the class will be decided based on the followings:

Quizzes (12 times):40% and final exam: 60%.

ECN200EB

経済政策論

北浦 康嗣

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：木 3/Thu.3

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、ミクロ経済学とマクロ経済学の基礎理論を前提として、経済政策のあり方について学びます。とくに（1）政府の市場への介入（2）景気安定化政策を取り上げて、経済政策のあり方について学びます。

【到達目標】

- （1）ミクロ経済政策の効果について、図を用いて説明することができる。
- （2）マクロ経済政策である財政政策と金融政策の効果の違いについて、図を用いて説明することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP6・DP7に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

前半はミクロ経済学の観点から政策効果について分析を行います。後半はマクロ経済学の観点から財政政策・金融政策の効果の違いについて図解します。

必ず、毎回、Hoppiiを確認するように心がけてください。

授業の初めに、前回の授業での疑問・質問からいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス、政府の役割	ガイダンスを行った後に、政府の役割について説明します。
2	ミクロ経済政策	市場の失敗を確認した後に、税について説明します。
3	所得税（1）	所得税が労働に与える影響を図解します。
4	所得税（2）	所得税が労働に与える影響について議論します。
5	消費税（1）	従量税の課税によって生じる問題を図解します。
6	消費税（2）	従量税の課税によって生じる問題について議論します。
7	中間試験	計算問題を中心として試験を行います。
8	マクロ経済政策	マクロ経済政策について解説します。
9	45度線分析（1）	45度線分析を図解します。
10	45度線分析（2）	45度線分析における「望ましい状態」を定義した後、政策について解説します。
11	財政政策と金融政策（1）	IS-LM分析の枠組みで財政政策を図解します。
12	財政政策と金融政策（2）	IS-LM分析の枠組みで金融政策を図解します。
13	財政政策と金融政策（3）	AD-AS分析の枠組みで財政政策を図解します。
14	財政政策と金融政策（4）	AD-AS分析の枠組みで金融政策を図解します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を想定しています。

【テキスト（教科書）】

とくに指定しません。

【参考書】

家森 信善, 小川 光 [2007] 「基礎からわかるミクロ経済学 (第2版)」中央経済社

【成績評価の方法と基準】

2回の試験（中間試験50%、期末試験50%、両方受験すること。）で評価します。それ以外では一切評価しません。試験に関しては、Hoppii上でお知らせします。必ず、毎回、Hoppiiを確認するように心がけてください。

【学生の意見等からの気づき】

「板書中心の授業はありがたいです。」という意見を尊重して、板書中心の授業を行います。

【Outline (in English)】

The objective of the course is to earn about economic policy based on the basic theories of both microeconomics and macroeconomics. Students who complete this course will be able to understand:

- (1) government intervention in the market;
- (2) stabilization policy.

ECN200EB

金融システム論

山村 延郎

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：木 1/Thu.1

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

マネーは、あらゆる価値を統一的に測り、売買を通じて自己増殖しつつ、金融市場を通じて世の中に圧倒的な力を及ぼしている。この魔物をあなたが逆に支配し、社会のために使役するには、どうすればよいか。

マネーが運動するルール、フィールドの性質、すなわち金融を取り巻く社会制度と土台となる情報通信システムを理解することが肝要である。それがこの科目の目的である。

【到達目標】

売買を通じて価値が増えていく仕組み（剰余価値生産・回転率）と、超過収益を価値にする仕組み（地代又はレントの理論、及び資本還元）を説明できること。

金融制度、信用創造、レバレッジ、バブル経済について説明できること。

金融を取り巻くデジタル・システムの基本知識について判断が下せること。

関連する専門用語を運用でき、常識的な事項の正誤判断ができること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP6・DP7に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

各回完結の反転授業スタイルとします。受講生は、準備として、未履修科目も含めた高校レベルの社会科学の知識の復習をしておいてください。可能な限りで、予習もしておいてください。

授業では、社会人レベルの常識と教科書レベルの専門知識を確認し、身近な知識とのつながりを積み重ねて知識を編んでいきます。

また、総合的学習として、視聴覚教材を見たり、テキストを朗読したり、隣の人と議論をしたり、ゲームをしたりして、多面的なツールを用いた知識・能力の涵養を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1:	貨幣の尺度機能	尺度一般の統一について整理した後、貨幣の尺度機能の意義と限界を確認します。
2:	貨幣の製造・信用の創造	手で触れる硬貨と紙幣の製造技術と身に見えない預金通貨の創造メカニズムについて確認します。
3:	消費生活と金融	消費者信用についてまとめ、個人のライフサイクルに金融システムが浸透していることについて整理します。
4:	中小企業と金融	商業信用と銀行信用の理論と実態について確認します。
5:	大企業と金融	産業信用の理論と独占企業への成長メカニズムを確認します。
6:	不動産と金融	現代の不動産ビジネスおよび知的財産権の理論として、古典地代論を読み直します。
7:	金融市場とバブル	平成バブルとリーマンショックについて整理します。

- 8: 植民地・戦争と金融 東インド会社、日露戦争と国債、ドイツ戦後ハイパーインフレ、国際金融体制、ウクライナ侵攻とSWIFT、資金洗浄対策について整理します。
- 9: 決済システムのデジタル化 フィンテックの議論の一つとして、決済システムの進化を整理します。
- 10: 融資システムのデジタル化 フィンテックの議論の一つとして、投資・融資システムの進化を整理します。
- 11: 金融の総合化とAPI フィンテックの議論の一つとして、金融サービスの総合的提供について論じます。
- 12: サステナブル金融 金融業界のSDGsについて、とくにカーボンニュートラルの観点から論じます。
- 13: 社会的責任投資の多様性 金融業界のSDGsについて、とくに人権・倫理・宗教を動機とするものについて整理します。
- 14: 試験・まとめと解説 まとめと解説ののち、授業内で試験をします。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

この授業の教室外学習時間は、毎週4時間を標準とします。授業に欠席するときは、これに2時間の学習を加えてください。

なお、各人の個別的な1時間は、60分又は3600秒といった原子時間とは関係がありませんので、科目の目的・目標を達成できるよう、各人の能率に応じて長く又は短くしてください。

また、学習時間とは、机に座っている勉強時間だけを指すのではないので、通学や勤労、動画視聴等の時間も、そこで見聞する社会現象を批判的にとらえて意識的に学びの時間とし、学習時間の充実をはかってください。

【テキスト（教科書）】

授業内で教科書は使いませんが、課題などで参考書を参照する機会が出てきます。

【参考書】

川波・上川『新版・現代金融論』有斐閣

【成績評価の方法と基準】

金融小説、金融ビジネス書、金融専門書の読書レポート 30%
 専門用語や基本理論の確認テスト 20%
 科目全体の大系的な理解を確認する期末テスト 50%

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システム等を利用できる環境を整えていてください。

【その他の重要事項】

なにを執行すれば知恵や知識が身に付くかという問題意識（構成主義的教育観）でもって指導しているので課題は多い方です。

教室では、官庁勤務の経験、ドイツ留学と諸外国への調査訪問などを通じて得られた知見を盛り込んで話をしていきます。

【Outline (in English)】

Our purpose is to analyze the social and computer systems that make up the framework of the movement of money and capital, and to understand and control their constraints and freedoms. To this end, Your goal is to develop Your ability to critique the concepts of capital, credit, and fintech systems and use related terminology.

The average weekly study time to reach this goal is 6 hours. These are achieved by attending classes, completing assignments, watching and reading relevant content, and thinking critically in everyday life.

Grades for this course are based on book reviews (30%), midterm exams (20%), and an essay-style final exam(50%).

SES200EB

環境経済学 I

島本 美保子

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：金 2/Fri.2

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

環境経済学のマクロ分野の中心課題のひとつである「環境と貿易」をテーマとし、環境問題と経済との関わりについて自ら分析できるような力を醸成します。環境問題の対象領域として森林資源や農産物を取り上げ、これらの持続可能性と貿易の関係について学習します。

【到達目標】

始めに最低限必要な経済学の基礎知識を学習し、グローバルな資源管理問題についての知識を習得しつつ、経済学的に環境と貿易の関係を学びます。環境と貿易の関係について経済学的に論理的に考える能力を身につけることが目標となります。さらに環境と貿易に関する国際システムの現状について学びます。最後にこれらの知識を総動員し、持続可能な資源管理とはいかにあるべきか、という規範的な考察が行えるようになることが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP6・DP7に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

基本的に講義形式で行いますが、経済学的な部分はオンデマンド教材の巻末の小テスト問題を採点・フィードバックして、各自の理解のスピードに応じた学修が行えるようにします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	INTRODUCTION	エコロジー経済学からの経済社会と環境の関係 最低限の経済学知識① 市場経済とは・需要曲線
第 2 回	最低限の経済学知識②	供給曲線・余剰分析
第 3 回	最低限の経済学知識③	外部不経済効果・ピグー税
第 4 回	環境と貿易＜事例 1＞	世界の森林問題、特に天然林破壊の原因やその背景を学習する
第 5 回	環境と貿易＜事例 1＞	2 林産物貿易と森林の持続可能性について実証的・理論的に解き明かす
第 6 回	環境と貿易＜事例 1＞	3 気候変動と森林火災
第 7 回	環境と貿易＜事例 2＞	1 農産物貿易① 地下水のくみ上げによる非持続的な農業と農産物貿易の関係 日本と世界の農業
第 8 回	環境と貿易＜事例 2＞	2 農産物貿易② 農産物貿易と農業・農村・アグリビジネスについて
第 9 回	環境と貿易＜事例 2＞	3 レントシーキング・グローバル企業・資源貿易（集合行為論、グローバル企業のロビイング）
第 10 回	環境と貿易理論編 1	なぜ貿易は推進されるのか、外部不経済性を発生させる財の貿易が各国の社会的厚生に与える影響
第 11 回	環境と貿易理論編 2	貿易と持続可能性・分配

第 12 回	貿易制度と環境 1	貿易と持続可能性・分配の解説と質疑応答 GATT/WTO
第 13 回	貿易制度と環境 2	GATT/WTO と TPP、為替レートと持続可能性
第 14 回	まとめ	持続可能性のための国際秩序について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

環境問題、特に食料問題、森林や生物多様性の問題、鉱物資源等の問題について幅広い知識を身につけておくこと。本授業の準備・復習時間は、毎週各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に用いません。参考文献はその都度指示します。

【参考書】

主な参考文献は

島本美保子 (2015)「熱帯林を中心とした国際的な森林保全」, pp.53-74, 亀山康子・馬奈木俊介編『シリーズ環境政策の新地平 5 資源を未来につなぐ』第 3 章, 東京: 岩波書店, 2015 年 9 月 8 日。

島本美保子著 (2010)『森林の持続可能性と国際貿易』, 岩波書店
田代洋一編著 (2016)『TPP と農林業・国民生活』, 筑波書房, など

【成績評価の方法と基準】

70%期末試験、オンデマンド教材を学習した後の小テスト 30%の合計で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

オンデマンド教材で難しい間があるとの声があったので、対面授業で解説を加えることを考えています。

【学生が準備すべき機器他】

オンデマンド授業やオンライン授業を適宜行いますので、各自ノートパソコンをご用意ください。

【その他の重要事項】

。

【Outline (in English)】

【Course outline】

Under the theme of "environment and trade," which is one of the major issues in the macro field of environmental economics, we will foster the ability to analyze the relationship between environment and the economy. We will focus on forest resources and agricultural products as areas of environmental concern and learn about the relationship between their sustainability and trade.

【Learning Objectives】

The goals of this course are to acquire the ability to think economically and logically about the relationship between the environment and trade. It is important to learn more about the current state of the international system of environment and trade. Finally, we will be able to provide a normative consideration of what sustainable resource management should be.

【Learning activities outside of classroom】

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to deepen the knowledge relating with the course.

【Grading Criteria /Policy】

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination: 70%, Several short quizzes after learning on-demand materials: 30%

SES300EB

環境経済学Ⅱ

島本 美保子

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：金 2/Fri.2

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

具体的な環境問題として気候変動やエネルギー選択を題材とし、前半でグリーンニューディールを中心に据えながらマクロ経済と環境の関係について学びます。後半に環境の経済学的手法（環境税、排出権取引）それぞれの理論的背景や歴史について学習します。

【到達目標】

前半でグリーンニューディールを中心に据えながらマクロ経済と環境の関係について学び経済と環境の両立について経済学的に論じることができるようになることを目標とします。

後半は環境の経済学的手法について学びます。まずこれらの手法の素材として地球温暖化問題について自然科学、社会科学の両方から学習します。その後経済的手段である、環境税や排出権取引の理論を理解し、地球温暖化を制御するために、どのような政策が適切か、主体的に判断できるようになることが目標となります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP6・DP7に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

基本的に講義形式で行いますが、経済学的な部分はオンデマンド教材の巻末の小テスト問題を採点・フィードバックして、各自の理解のスピードに応じた学修が行えるようにします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	INTRODUCTION 気候変動問題 1	気候変動問題とは
2	気候変動問題 2	気候変動問題についての国際交渉 気候変動枠組条約、京都議定書 パリ協定などの動向、民間の動き、RE100、ESG 投資
3	気候変動問題 3	
4	マクロ経済学の基礎 1	国民経済計算
5	マクロ経済学の基礎 2	消費関数、乗数効果
6	グリーンニューディール	先進国でのグリーンニューディールへの動き
7	気候変動問題 4	日本で脱炭素化が停滞する理由 (再エネ、発送電分離)
8	気候変動問題 5	日本で脱炭素化が停滞する背景 (原発問題)
9	ピグー税の理論と環境税の基本	ピグー税理論の復習 環境税の経済学的な説明、直接規制との関係
10	環境税の理論と排出量取引の理論	環境税の弱点や補助金の関係、排出量取引の理論
11	環境税の実例	ドイツの排水課徴金、日本の環境税等
12	オンデマンド教材の解説 排出量取引の実例	オンデマンド教材の解説 米国での萌芽、気候変動と排出量取引
13	資金問題の決着	規範的法人税
14	まとめ	まとめ及びディスカッション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

気候変動や廃棄物問題といった環境問題について幅広い知識を習得しておくこと。またマクロ経済情勢について新聞記事などを読んでおくこと。

本授業の準備・復習時間は、毎週各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません。毎回詳細なレジュメを配布し、それに基づいて授業を行います。

【参考書】

主な参考書は、
明日香壽著 (2021) 『グリーン・ニューディール』、岩波新書。
平口良司・稲葉大著 (2020) 『マクロ経済学—入門の「一歩前」から応用まで』、有斐閣ストゥディア、など

【成績評価の方法と基準】

70%期末の試験、オンデマンド教材を視聴した後に行う小テスト30%で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

実例についての動画の視聴が大いに理解を助けると改めて気づかされたので、効果的な動画の視聴を授業に織りこもうと思っています。

【学生が準備すべき機器他】

オンデマンド授業やオンライン授業を適宜行いますので、各自ノートパソコンをご用意ください。

【Outline (in English)】

【Course outline】

First, our aim of this course is to help students understand about the relationship between macroeconomics and the environment while focusing on the Green New Deal. Second, we will learn about the theoretical background and history of environmental tax and emission trading. Climate change and energy selection are the subjects of specific environmental issues.

【Learning Objectives】

In the first half, the goal is to learn about the relationship between the macro economy and the environment while focusing on the Green New Deal, and to be able to discuss the balance between the economy and the environment economically.

In the second half, the goal is to learn about the economic methods of the environment. First, we will learn about global warming issues from both the natural sciences and social sciences as materials for these methods. After that, we will expect to understand the theory of environmental tax and emissions trading, which are economic means, and to be able to independently judge what kind of policy is appropriate to control global warming.

【Learning activities outside of classroom】

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to deepen the knowledge relating with the course.

【Grading Criteria /Policy】

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination: 70%、Several short quizzes after learning on-demand materials: 30%

EVN200EB

エネルギー論

鞠子 茂

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：水 5/Wed.5

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

エネルギーに関する基本的な知識とカーボンゼロ社会の実現可能性を講義する。

【到達目標】

エネルギーを通じて人間社会の成り立ち、エネルギーの利用技術、エネルギー社会のあり方について議論できる能力が身につく。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP6・DP7に関連。

DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>**【授業の進め方と方法】**

パワポと配布資料を使った講義。毎回課題を課し、フィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス・エネルギーとは何か	授業の概要や進め方について説明し、エネルギーとは何かについて講義する
2	生物学的エネルギー論	生物としての人間にとってエネルギーとは何かを論じる
3	産業革命以前のエネルギー利用の歴史	人類がエネルギー革命を繰り返しながら文明を築いてきた歴史を解説する
4	産業革命以後のエネルギー利用の歴史	人類がエネルギー革命を繰り返しながら文明を築いてきた歴史を解説する
5	エネルギー構造における現状と課題	化石燃料依存社会の問題点と今後の課題について講述する
6	自然を利用した再生エネルギー①	再生可能エネルギーの種類やしきみについて学ぶ
7	自然を利用した再生エネルギー②	再生可能エネルギーの種類やしきみについて学ぶ
8	新しく開発された再生可能エネルギー	潮汐発電などの新しい発電技術について紹介する
9	原子力発電の現在過去未来	原子力発電の問題点や核融合発電の現状について解説する
10	グリーン社会の実現に向けたエネルギー政策	カーボンゼロ社会の構築に向けたグリーン成長戦略について解説する
11	エネルギー自治の現状と課題	エネルギーの地産地消に関する現状と課題について講義する
12	脱炭素のカギを握るバイオマスエネルギー	原材料・エネルギーの両面からバイオマスの利用を考える
13	社会システムの中のエネルギーとその選択	カーボンニュートラルを実現するための知恵を生態系炭素循環機能から学ぶ
14	試験・まとめと解説	授業全体のまとめをした後、試験を実施する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配布資料等を使って標準で4時間の予習・復習を行うこと。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。

【参考書】

授業の中で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

〔評価配分〕 期末試験（70%）、平常点（30%）

【学生の意見等からの気づき】

十分な予習復習ができるように、配布資料はより充実した内容にする。

【Outline (in English)】

In this course, students will learn energy generating technologies, using fossil/nuclear fuels and renewable energy, and consider sustainable energy policy. Students will be expected to spend 4 hours for preparation and review. Grading: final exam (70%) and in-class contribution (30%).

EVN200EB

気候変動論

澤柿 教伸

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位
曜日・時限：木 2/Thu.2

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

気候の変化や変動は、人間社会の歴史にさまざまな要因の影響を与えてきた要因のひとつである。どんな気候の変化や変動が人間社会にどんな影響を与えたのかについて、事実をあきらかにしていく科学的な営みを知り、事実相互の因果関係を理解するとともに、人間社会が直面する問題の解決にむけての動きを考える素養を身につける。

【到達目標】

気候変動の歴史的経緯や現在の状況および将来起こりうる現象を読み解くにあたって、必要とされる自然科学的な基礎知識を獲得するとともに、変動する気候の中で人間社会が持続するためにとるべき予防策や適応策について、社会科学的視点から理解し実践できる素養を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP6・DP7に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

コロナ感染防止対策で遠隔授業になっている期間は特に、学習支援システムを通じて授業形態を指示します。こまめに学習支援システムのおしらせをチェックするようにしてください。

通常の座学（LC）に加えて、グループワークやディベート（GW）を適宜とりいれます。気候変動が現代社会が直面する複雑かつ重要な問題の一つであることを示す事例を受講生各自で発掘・取材し発表し討論します。そのプロセスを通じて、自然科学的な理解なしには気候変動問題が抱える論点的確かな把握が難しいことを認識し適切な予防策や適応策を構築しようとする実際の試みについて知り、さまざまなレベルでの社会的合意形成が求められていることを学びます。

対面・オンラインにかかわらず、毎回の授業でリアクションペーパーを提出してもらい、そこに記載された疑問や質問には学習支援システムを通じて、全体・個別に回答します。授業進行に従い、全体の理解度に応じて、資料を捕捉で提供したりや Web コンテンツを追加で紹介したりします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	気候変動の見方（LC・GW）
第 2 回	IPCC の現状認識	IPCC の紹介・考え方・認識（LC・GW）
第 3 回	温暖化懐疑論	地球温暖化論争の紹介（LC・GW）
第 4 回	地球の構造	地球表層部に限定した一大気・海洋・大陸・宇宙空間の構造と相互関係（LC・GW）
第 5 回	気象と気候	時々刻々の大気現象と広域・長期の気象状態、因果関係（LC・GW）
第 6 回	地球の循環システム	物質とエネルギーの循環、熱・水・炭素などの循環（LC・GW）
第 7 回	気候変動と歴史	第四紀環境変遷と人類世の提案（LC・GW）
第 8 回	温暖化の原理	放射強制力・温室効果・フィードバック・エアロゾル（LC・GW）

第 9 回	大気現象の時空スケール	テレコネクション・極端現象・局地現象・エルニーニョ・集中豪雨（LC・GW）
第 10 回	気候変動の検出と予測	観測技術とシミュレーション技術、その可能性と限界（LC・GW）
第 11 回	再び温暖化懐疑論へ	これまでの授業内容に基づいて論争をふりかえり、温暖化懐疑論への反論（LC・GW）
第 12 回	国際協調にむけて	これまでの授業内容に基づいて IPCC の指針と COP などの国際協調の動き（LC・GW）
第 13 回	温暖化への対応策	気候変動への「緩和策・適応策・持続可能性」（LC・GW）
第 14 回	まとめと試験	これまでの授業内容のふりかえりと授業内試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・学習支援システムを通じて配布されるレジュメを毎回持参すること。
・問題発掘課題を事前に実施して授業内のディスカッションに備えること。
・リアクションペーパーを指定。事前にキャンパス内の印刷端末に本人のアカウントでログインしてプリントアウトすること。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

「絵でわかる地球温暖化」渡部 雅浩（講談社 KS 絵でわかるシリーズ）、2018 を教科書として使いますので、事前に準備しておいてください。

【参考書】

「温暖化の「発見」とは何か」スベンサー・ワート（著）、増田耕一・熊井ひろ美（翻訳）、みすず書房、2005。

【成績評価の方法と基準】

毎回授業後にリアクションペーパーを提出、その記述内容によって授業への参加度や理解度を評価（50%）および定期試験による評価（50%）

【学生の意見等からの気づき】

受講生の基礎素養にばらつきがあります。関連分野をそれなりに学んできた学生には平易に感じられたり、まったく触れたことのない学生には難易に感じられたりするようです。全体構成の前半では、この差異を埋めるように受講生の素養を見極めながら進めます。

【学生が準備すべき機器他】

コロナ感染対策で Zoom によるリアルタイムネット配信授業となる場合もあります。それに備えて、Zoom を視聴しながらノートテイクもできるネット・PC 環境を整えてください。

【Outline (in English)】

This course provides clear, concise and up-to-date information for the fundamentals of climate change.

The goal of this course are to understand about climate change, focusing on particular interest to explain the climate change science, the international climate change legal and policy framework.

Students will be expected to be interested in recent climate change and related social problems. Your study time will be more than four hours for a class. Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination: 50%、in class contribution: 50%

LAW200EB

社会保障法 I

長沼 建一郎

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：水 2/Wed.2

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本の社会保障の仕組みを理解し、法政策上の論点を検討します。学問性は維持しつつ、知っているのと役に立つ（逆に「知らない」と損をする）事柄を扱いたいと思います。

【到達目標】

自分自身のライフサイクルやライフプランとのかかわりで、基本的な法制度の内容を理解し、活用できるようになること。さらにその政策的論点について、考察できること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP6・DP7に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

法制度の基本的な仕組みとともに、実際の制度の利用方法について説明するとともに、法政策的な論点や今後のあり方を検討します。質問やコメントに次の授業で全体に対して答えます。講義内で希望する参加者とのやり取り、意見交換も行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	ライフサイクルと社会保障
2	保険とは何か	生命保険と損害保険
3	社会保険とは何か	社会保険の基本的な仕組み
4	医療保険①	病気になったらどうするか
5	医療保険②	保険料と窓口ではいくら払うのか
6	医療保険③	どういう医療を受けられるのか
7	医療保険④補説	高齢者医療、前半部分の補足
8	介護保険①	寝たきりや認知症になったら
9	介護保険②	どんな介護サービスが利用可能か
10	雇用保険①	失業したらどうするか
11	雇用保険②	離職を防ぐため、再就職のための給付
12	労災保険①	仕事や通勤でケガや病気をしたら
13	労災保険②	過労死・過労自殺と労災認定
14	補説、まとめ	後半部分の補足、まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストの予習、授業内容の復習をおこなう。本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

長沼建一郎『図解テキスト 社会保険の基礎』（弘文堂）。

【参考書】

原野美智子・田中耕太郎『はじめての社会保障』（有斐閣）。

【成績評価の方法と基準】

テキストおよびノート参照（持ち込み）可の試験により評価する予定です。期末試験（100%）の予定です。希望する参加者とのやり取り、意見交換が可能であれば、プラスアルファとしてそれによる平常点も勘案します。

【学生の意見等からの気づき】

テキストの使用により、理解しやすいようにします。

【その他の重要事項】

授業の進度によって若干の変更が出る可能性があります。

担当教員の厚生省（現厚生労働省）と金融機関（生命保険会社）での実務経験を活かして、実際に役に立つ授業を目指します。

【Outline (in English)】

This course deals with social security law.

At the end of the course, students are expected to understand and discuss social security law.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Mid-term examination: 40%, Term-end examination: 60%

LAW300EB

社会保障法Ⅱ

長沼 建一郎

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：水 2/Wed.2

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本の社会保障の仕組みを理解し、法政策上の論点を検討します。学問性は維持しつつ、知っているのと役に立つ（逆に「知らない」と損をする）事柄を扱いたいと思います。

【到達目標】

自分自身のライフサイクルやライフプランとのかかわりで、基本的な法制度の内容を理解し、活用できるようになること。さらにその政策的論点について、考察できること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP6・DP7に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

法制度の基本的な仕組みと、実際の制度の利用方法について説明するとともに、法政策的な論点や今後のあり方を検討します。質問やコメントに次の授業で全体に対して答えます。講義内で希望する参加者とのやり取り、意見交換も行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション、 公的年金①	年金は何のためにあるのか
2	公的年金②	いくら払って、いくらもらえるのか——全国民共通の基礎年金
3	公的年金③	いくら払って、いくらもらえるのか——サラリーマンの厚生年金
4	公的年金④	女性のライフサイクルと年金、障害年金・遺族年金
5	公的年金⑤	年金財政は大丈夫なのか
6	公的年金⑥補説	年金税制、前半部分の補足
7	私的年金	企業年金・個人年金は頼りになるか
8	社会福祉等の体系	各福祉分野と公衆衛生などの位置づけ
9	生活保護①	最後のセーフティネットとして
10	生活保護②	稼働能力の要件
11	障害者福祉	身体障害・知的障害・精神障害
12	児童福祉	保育所・子育て支援
13	社会手当	児童手当、母子家庭への手当
14	補説、まとめ	後半部分の補足、まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストの予習、授業内容の復習をおこなう。本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

長沼建一郎『図解テキスト 社会保険の基礎』（弘文堂）および『ソーシャルプロブレム入門』（信山社）。

【参考書】

椋野美智子・田中耕太郎『はじめての社会保障』（有斐閣）。

【成績評価の方法と基準】

テキストおよびノート参照（持ち込み）可の試験により評価する予定です。期末試験（100%）の予定です。

希望する参加者とのやり取り、意見交換が可能であれば、プラスアルファとしてそれによる平常点も勘案します。

【学生の意見等からの気づき】

テキストの使用により、理解しやすいようにします。

【その他の重要事項】

授業の進度によって若干の変更が出る可能性があります。担当教員の厚生省（現厚生労働省）と金融機関（生命保険会社）での実務経験を活かして、実際に役に立つ授業を目指します。

【Outline (in English)】

This course deals with social security law.

At the end of the course, students are expected to understand and discuss social security law.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Mid-term examination: 40%, Term-end examination: 60%

SOC200EB, SOC200EC

市民運動論**中筋 直哉**

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位
曜日・時限：水 3/Wed.3

その他属性：〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代社会を主体的に形成する手段の 1 つである、市民による社会運動の実態と意味を、主に社会学の方法をに基づいて理解する。とくに歴史的な視野とグローバル化への視野に重点を置く。

【到達目標】

- ・現実の市民運動を、肯定的にせよ批判的にせよ事実とデータに基づいて理解・説明できる。
- ・現実の市民運動に対する自らの立ち位置、考えを論理的に説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP6・DP7・DP8・DP10 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

対面で開催。学習支援システムで講義資料と音声・動画を事前配布する。質疑応答に学習支援システムを時間指定で使用する。課題については授業中に期末試験については試験後に、受講者全体に対するフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の目的と構成の説明
2	社会運動の理論 1	社会的行為としての合理性
3	社会運動の理論 2	構造変動をもたらす集合的力
4	社会運動の理論 3	文化を創造する言葉と身ぶり
5	社会運動の歴史 1	伝統社会の騒乱の論理
6	社会運動の歴史 2	労働組合運動の消長
7	社会運動の歴史 3	地域開発と住民運動
8	事例研究的講義	現代世界における集合行動の意味
9	グローバルな市民運動 1	正義のフロンティアに向かって
10	グローバルな市民運動 2	越境するアソシエーション
11	グローバルな市民運動 3	小さな運動の構想力
12	展開的講義 1	ジェンダーをめぐる社会問題
13	展開的講義 2	ジェンダーをめぐる市民運動
14	市民運動の未来	重要論点の復習と質疑、討論

※別途定期試験を実施

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内容の予習復習の他、「今日の課題図書」のいくつかを読むことが必須。授業の中盤に A4×1 枚程度のレポートを課す。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

使用しない。

【参考書】

授業中に指示する。

【成績評価の方法と基準】

レポートの出来が 35 % (提出しないと D)、論述式の定期試験が 55 %。授業参加についての総合的評価が 10 %。試験解答において、市民運動に対する自分の考えを、事実とデータに基づいて論理的に表明できることが A の条件。

【学生の意見等からの気づき】

理論的説明をよりゆっくりと丁寧に行うよう努める。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムへのアクセスが必須。ただ画面を眺めるだけでなく自分のノートを作ることが重要。

【その他の重要事項】

コースの専門的科目なので入門科目以上の知識が必要。

【Outline (in English)】

(Course outline)This lecture aims to study contemporary social movements by sociological, historical and positive perspective.

(Learning Objectives)The goals of this lecture are sociological understanding of contemporary social movements for making activity and social policy.

(Learning activities outside of classroom)Reading some directed books and Writing a report.

(Grading Criteria /Policy)Positivity to lecture 10%,Report:35%,Final Exam:55%.

ECN200EB

地方財政論

早崎 成都

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位
曜日・時限：火 2/Tue.2

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

地方財政論とはその名の通り、「地方」政府の財政を検討する研究分野である。財政を考えるにあたって、中央政府だけを見ればよく、地方財政はさしたる重要性を持たないと考えるのは大きな誤りである。むしろ、我々の生活に必要なものの多くは、地方財政が提供していると言っても過言ではない。本講義では地方財政を理解する上で極めて重要な、以下の二つのテーマを設定する。第一のテーマは、中央政府の財政と地方政府の財政の関係、いわゆる政府間財政関係であり、第二のテーマは地方政府の財政そのもの、とりわけ、地域住民の嗜好や活動を踏まえた予算の決定のあり方である。歴史的に、中央政府と地方政府は様々な問題をめぐって対立してきた。これらの政府間にどのような対立があり、その対立はどのように克服されてきたのか。地方自治は「民主主義の学校」と称されることもあるが、住民との距離が近い地方政府における財政をめぐる意思決定は、どのような問題を抱えてきたのか。受講者はこれらの問題群を日本と諸外国の経験を踏まえながら考察することとなる。これらのテーマを意識しつつ、地方の衰退やコロナなど、時事的な話題にも触れたいと考えている。

【到達目標】

この講義を通して、受講者は地方財政をめぐる諸問題について理論的・実証的に分析することが出来るようになる。そのことは住民として、会社員として、公務員として等どのような形であれ地方財政に関わる際に役立つであろう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP6・DP7に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

講義形式で進めるが、学生の質問は積極的に受け付ける。成績評価の対象であるクイズ実施の際には、学生の理解度を確認するためにも講義に対するコメント・質問を書いてもらう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	「地方」財政論とは
第2回	財政の目的と基本原則	財政の機能や税制についての原則
第3回	政府間財政の全体像	資金の流れを確認する
第4回	地方自治体は何にお金を使っているか	支出の特徴の整理
第5回	地方公共団体の収入	各収入の理解
第6回	財政調整制度	財政調整制度の必要性と機能
第7回	政府間財政関係	中央政府と地方公共団体の対立
第8回	団体自治と住民自治	日本とアメリカを題材に
第9回	日本において地方自治は可能か？	自治をめぐる歴史
第10回	地方財政の現代的課題(1)	衰退する地方
第11回	地方財政の現代的課題(2)	地方の少子高齢化対策
第12回	地方財政の現代的課題(3)	コロナへの対応
第13回	地方財政の現代的課題(4)	移民と地方財政

第14回 本講義のまとめ 全体の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の理解の促進のため、文献課題を予習課題として課す。予習の際は、事前に配布する講義資料に目を通すとともに課題の文章を読んでくること。復習については演習問題を講義資料の末尾に付すのでそれに取り組み、また授業内で理解できなかった点について資料等を注意深く読み、解決すること（わからなかった点については質問してくればよい）。予習・復習時間は各2時間かけることを標準とする。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは指定せず、毎度文献課題をアップロードする。課題文献のリストについては秋学期の授業の初回で資料として配布する。

【参考書】

下記の本は初学者向けに書かれた優れたものである。
沼尾波子ほか『地方財政を学ぶ』有斐閣、2017年。
高端正幸・佐藤滋『財政学の扉をひらく』、2020年。
なお、より深く学習したい人向けには授業内でその都度文献を紹介する。

【成績評価の方法と基準】

3 回実施予定のクイズ (30%)、定期試験 (70%) で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

前年度、学生から受けた質問やコメントは総じて優れたものであり、法政大学の学生は極めて優秀だと印象を受けている。また、重要な質問やコメントについては、講義でも取り上げ、私がそれにレスポンスする形で進めた。講義形式の授業ではあるが、受講者とともにこの授業を作り上げていくものだと考えている。

【Outline (in English)】

Local public finance, as the name suggests, is a field of study that discusses issues of local government tax and spending. Some may think that studying local public finance is not as important as studying central government's public finance. However, given that local governments play a crucial role in providing our various and fundamental needs, this recognition is completely wrong. This course sets the following two themes, which are central to understanding of local public finance. The first one is the relationship between a central government's budget and a local government's budget, so called "intergovernmental financial relations." The second one is how to determine a local government's budget given preference and activities of its residents. There have been many conflicts between central government and local governments over taxing and spending. What kind of conflicts are there and how have they resolved these conflicts? How is local government tax and spending policy determined in the political process? Students will investigate these questions by looking at Japan and other countries' historical experiences. Having these two themes in mind, this course also discusses current affairs such as rural decline and covid-19. Through this course, students will be able to analyze issues related to local public finance both theoretically and empirically. Perspectives you obtain in this course will help you analyze problems related to local public finance, be as a resident, employee, or a civil servant.

Learning Activities Outside of the Classroom

The lecturer gives you reading assignments. Students are expected to read materials distributed by the lecturer before and after class. The list of reading assignments will be given at the first lecture.

Grading Criteria/Policy

Your overall grade is determined by three quizzes (30%) and final exam (70%). If you have any questions, please let me know via email.

POL200EB

地方自治論 I

谷本 有美子

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：月 3/Mon.3

その他属性：〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

2000 年の地方分権改革や平成の大合併を経て、21 世紀の地方自治では公共サービスの担い手が民へと拡大し、行政と民間の役割分担が大きく変化してきました。同時に少子高齢化の進行や人口減少が社会問題化する中で、政府が自治体に対し「人口ビジョン」や「地方版総合戦略」の策定を求めるなど、自治体が将来を見通しながら地域をマネジメントする責任が問われてきています。この授業では、受講生が自治体の主人公の「市民 (Citizen)」として地方自治に関わる際の基礎知識を習得し、これからの地方自治のあり方について主体的に思考する力を身につけることを目的とします。

【到達目標】

・地方自治の歴史や理論、制度に関する基本的な知識を身につける
 ・地方自治の最近の動きを市民としての主体性を持って理解し、自らの考察を踏まえて判断できるような教養を身につける

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP6・DP7 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

授業はパワーポイントやレジュメを使用し、講義形式で進めます。新聞記事等を活用して可能な限り地方自治の最近の動きを交えます。取り扱った内容に関連して、適宜、リアクションペーパーの提出を求めます。提出されたリアクションペーパーについては、授業内でいくつか取り上げて全体に向けてフィードバックしていきます。前半は、地方自治の成り立ちや歴史の変遷、欧米諸国との比較を通して日本の地方自治の特徴を学びます。その上で、基本的なしくみの解説と現場の運用事例の紹介をしながら、市民の視点で地方自治を実践的に検討していきます。後半では、国地方を通じた事務処理体制や中央地方の政府間関係も取り上げ、分権型の地方自治のあり方を考察します。それらを踏まえて、市民の政府としての自治体に必要なシステムについて、見識を深めていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンスー「地方自治」と「自治」の概念	「地方自治」と「共同体の自治」との含意を概説し、講義で扱う内容を俯瞰する
第 2 回	地方自治制度の比較（欧米諸国と日本）	日本の地方自治に影響を与えた欧米諸国の地方自治制度との比較の中から、日本の地方自治制度の特色を認識する
第 3 回	近代日本の地方自治制	明治維新以降の日本の地方制度を学びながら、近代日本における国家と地方自治との関係性を理解する
第 4 回	地方自治の保障と集権的な行財政制度	戦後憲法で保障された地方自治の意義を踏まえつつ、講和期からの中央集権的な制度改革で構築された行財政制度の特性を理解する

第 5 回	大都市自治体の特例と都市問題への対応	指定都市や中核市等の大都市制度と東京の都区制度を概説したうえで、人口が集中した大都市における自治体の役割や課題を検討する
第 6 回	二元代表制と長のリーダーシップ	二元代表で機関対立主義を採る自治体統治機構について概説し、その特色である首長（執行機関）の優位性に着目して、自治体運営で発揮される長のリーダーシップを考察する
第 7 回	自治体議会と地域政治	住民の代表として行政監視機能を果たす議会の活動を概説し、二元代表制における議会の政治的役割という観点から、議会による政策形成の可能性と代表制のあり方を考察する
第 8 回	住民自治を支える参加のシステム	地方自治法に定めのある住民の直接請求権や自治体が独自に定める市民参加のしくみを取り上げ、市民が主人公となる地方自治の民主主義的機能について検討する
第 9 回	自治体財政と住民による税負担	全国的な財政調整・財源保障制度を基礎に成り立つ自治体財政の特色を踏まえつつ、住民が負担する税の側面に着目して、地方自治の受益と負担という関係性を検討する
第 10 回	21 世紀の中央地方関係と自治体の自律性	2000 年地方分権改革を経た対等な国地方関係のもとで、国と自治体との政策思考が対立した場合の調停のしくみを概説した上で、現実に自治体が直面している課題について考察する
第 11 回	民に広がる公共サービス	公共サービスの担い手を民へと拡大するために導入された指定管理者制度・PFI、独立行政法人制度等の諸制度や、自治体レベルでNPOや地域住民組織とパートナーシップの名の下で展開する事業を学びつつ、公民の役割分担が大きく変化している現状について理解を深める
第 12 回	住民自治組織と地域コミュニティ	近年、各地で運用されている住民自治組織等の事例を取り上げながら、地域社会における住民の自治と地域コミュニティの問題を自治体政策の観点から検討する
第 13 回	人口減少時代の自治体の役割	平成の大合併を経て市町村数は3分の1に減少した。合併の功罪には今もさまざまな論議がある中、国は行政サービス維持の観点から、自治体間連携や公民連携の可能性を提示している。ここでは「住民自治」と「自治体の規模」の観点から、自治体の役割を検討する
第 14 回	「市民の政府」たる自治体のシステム	自治体を「市民の政府」として運用するにはどのようなシステムが必要か。自治基本条例や総合計画など自治体運営の基本的なルールを活用事例を参考にしながら、「市民」的な視点から今後の可能性を考えていく

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。
 ・授業で取り上げた内容に関連した新聞記事を検索する等の情報収集を行う
 ・自分の住んでいる自治体の状況を調べる
 ・地方自治に関連のあると考える新聞記事を日常的に読む

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しません。授業時にレジユメと資料を配付します。

【参考書】

・大森彌／大杉覚『これからの地方自治の教科書 改訂版』（第一法規）
・幸田雅治編著『地方自治論－変化と未来』（法律文化社）
その他の参考文献は授業内で適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

成績は、期末の論述試験（80％）に授業内のリアクションペーパー・小レポート提出状況等（20％）を加味し、総合的に評価します。大学の授業実施方針に応じ、期末はレポート提出に変更する可能性があります。変更の際は学習支援システムでお知らせします。

【学生の意見等からの気づき】

学生の質問や理解度に応じ、後日授業での補足説明や追加資料配布を行います。

【学生が準備すべき機器他】

レジユメ以外の資料配布は、学習支援システムを通じて行います。

【Outline (in English)】

The role of public services in the local autonomy in the 21st century has expanded to the private sector, and the division of roles between the administration and the private sector has changed significantly in Japan. At the same time, with the declining birthrate and aging population and the declining population becoming a social issue, the local government take responsibility to keep the area sustainable while making predictions about the future.

In this class students will learn the basic knowledge of local government as a “ Citizen ”, the main character of a local government, and to acquire the ability to think independently about the future of local government.

By the end of the course, students should be able to do the followings:

- A. To acquire basic knowledge about the history, theory, and system of local autonomy
- B. To acquire an citizenship literacy that allows you to understand the recent movements of local government and make decisions based on your own consideration.

The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each.

Students will be expected to collect information such as searching for newspaper articles related to the content taken up in the class and check the situation of the municipality where you live. Read newspaper articles routinely that are considered be related to the local governments.

Your overall grade will be decided based on the following

Term-end essay exam (80%), short reports or in-class reaction papers (20%).The term-end exam may change to the report according to the university's class implementation policy. It will be informed by the learning support system of any changes.

POL300EB

地方自治論Ⅱ

谷本 有美子

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：月 3/Mon.3

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

21 世紀の行政サービスの供給体制は、「官から民へ」の規制緩和や国地方を通じた行財政改革の推進とともに大きく変容し、公務の担い手を民間へと拡大してきました。いわば「公民連携」型の公共サービスの提供は、民間特性を活かした良質なサービス供給が期待されている中で、行政とサービスの受け手となる住民との距離は広がりつつあり、自治体の政策形成に「市民」の側から地域や現場のニーズをインプットする必要性が増えています。

この授業では、自治体が担う諸政策を取り上げながら、自治体の仕事についての理解を深めた上で、地域社会の公共的な活動との連携や、税金投入の意義等も含めながら、自治体が果たすべき役割や公共サービスのあり方について考察していきます。

【到達目標】

・自治体の政策過程に関わるしくみや諸制度の基本的知識を身につける

・自治体が果たすべき役割や公共サービスのあり方について、財源や徴税の視点も踏まえながら判断できるシティズン・リテラシーを身につける

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP6・DP7 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

授業はパワーポイントやレジュメを使用し、講義形式で進めます。新聞記事等を活用して可能な限り自治体政策の最近の動きを交えます。取り扱った内容に関連して、適宜、リアクションペーパーの提出を求めます。提出されたリアクションペーパーは授業内でいくつか取り上げて、全体に向けてフィードバックします。

自治体政策をハード・ソフト含め個別分野ごとに取り上げますが、その一方で自治体の仕事を分野横断的・総合的に捉えるという基本的なスタンスに立脚しながら、政策課題や自治体の仕事を検討していきます。それらを踏まえて、自治体が限られた財源の中でも果たすべき役割や行政の責任領域について、納税者の視点を意識しながら考察します。

秋学期授業を理解するためには春学期の授業（地方自治論Ⅰ）で地方自治の基本的な事項を修得していることが前提となります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	自治体の行政と政策形成のしくみ	行政に関わる国・都道府県・市町村の役割分担を概説した上で、主な行政サービスの実施主体とされる基礎自治体を中心に、総合計画を軸とした政策体系と政策形成のしくみを理解する
第 2 回	自治体福祉政策とバリアフリーの地域づくり	「福祉」行政の歴史的な考え方と高齢者・障がい者という対象者ごと・縦割りの行政施策について概要を学び、「バリアフリー」のような縦割りを越えた観点からの共通対応を検討する

第 3 回	「人生 100 年時代」の高齢者施策	介護保険制度を含む高齢者福祉政策の課題を学んだ上で、近年、提唱される「人生 100 年時代構想」を踏まえて「生きがい」「働き方」の視点から超高齢社会の問題を考察する
第 4 回	地域福祉の視点と地域包括ケアシステムの展開	福祉施策の傾向として、「地域福祉」の観点から当事者に対し多様な主体を交えて総合的にサポートする「地域包括ケアシステム」へと転換しつつある現状を学び、行政と地域社会との連携のあり方を考察する
第 5 回	生活困窮者自立支援施策と就労支援の課題	憲法で保障された生活保護行政の現状を踏まえつつ、自治体がすすめる生活困窮者自立支援対策の中から明らかになった「就労支援」の現実的な課題を検討する
第 6 回	子ども・子育て支援政策と地域ニーズに応じた展開	子ども子育て関連施策の運用事例を取り上げながら、大都市部と地方都市・農山間地域における政策課題の共通性や相違性を学び、地域ニーズに応じた政策の必要性を検討する
第 7 回	開かれた学校運営と多様な学びの保障	自治体において長が運営する総合教育会議が設置され、地域社会に開かれた学校運営が求められる現状を理解した上で、近年法制化された多様な学びの保障について、地域レベルでの展開可能性を考える
第 8 回	環境政策をめぐる多様なパートナーシップ	自治体における環境政策を取り上げる中から、地域住民の協力や専門性を持った NPO 等との連携や、「地球規模で考え地域で行動する」視点の必要性等を学び、パートナーシップ型の政策展開のモデルとして考察する
第 9 回	公共施設・インフラの老朽化と自治体の対策	高度成長期に整備された公共施設や道路、橋梁、下水道等のインフラの老朽化が進行する中で、人口減少に伴い都市機能を縮小させる必要が生じてきている現状を学び、これからの都市機能のあり方を検討する
第 10 回	土地利用・都市計画のしくみとまちの将来ビジョン	住宅や商業施設の建築の基本に土地利用や都市計画に関わる法制度が存在していることを学び、まちづくりの将来を考える際に、自治体が条例等によりルールを定めていくことやそれを支える理念の重要性について理解を深める
第 11 回	人口減少・超高齢社会における住宅施策	近年深刻化し始めた空き家問題やマンションの空き室問題等について具体的な地域課題を取り上げ、自治体の対策が遅れている住宅関連の政策を、地域の空間管理やコミュニティ問題を視野に入れて考察していく
第 12 回	外国人住民の生活課題と多文化共生のとりくみ	政府が外国人労働者枠の拡大を進める中で、地域に居住する外国人に対し、自治体がこれまで予定してこなかった生活支援等の施策が求められるようになってきている。そうした取り組みを、多文化共生のまちづくりの必要性から検討する

- 第13回 市民社会から提起される政策課題 地域社会では自治体に政策課題と認識されていない公共的な課題に対し NPO や住民間の互助的な関係で対策が講じられているものがある。それらの取組みに関し「公共性」の観点から、自治体政策としてどう対応すべきかを考察する
- 第14回 自治体が果たすべきこと 災害対応のように地域住民の命や生活を守るという行政活動の本質を捉えながら、自治体が何を優先してその役割を果たしていくべきか、またその財政負担をどうするのかなど、今後の自治体のあり方を市民的視点から考察する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

- ・授業で取り上げた内容に関連した新聞記事を検索する等の情報収集を行う
- ・自分の住んでいる自治体の政策を調べる
- ・自分たちの生活に影響があると考えた内容の新聞記事を日常的に読む

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しません。授業時にレジユメと資料を配付します。

【参考書】

磯崎初仁・金井利之・伊藤正次『ホーンブック地方自治』（北樹出版）
今川晃・牛山久仁彦・村上順編『分権時代の地方自治』（三省堂）
その他、授業内で適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

成績は、期末の論述試験（80%）に授業内の小レポート提出状況（20%）を加味し、総合的に判断します。大学の授業実施方針に同じ、期末はレポート提出に変更する可能性があります。変更の際は学習支援システムでお知らせします。

【学生の意見等からの気づき】

学生からの質問や理解度に応じ、後日授業での補足説明や追加資料配付を行います。

【学生が準備すべき機器他】

レジユメ以外の資料配布は、学習支援システムを通じて行います。

【Outline (in English)】

The supply system of administrative services in the 21st century has undergone a major transformation and has expanded the role of public affairs to the private sector in Japan. Although the provision of public services of the “public-private partnership” type is expected to provide high-quality services that make use of the characteristics of the private sector, the distance between the government and the people who will receive the services is expanding. So citizen’s participation for public policy making process has become more important than before.

In this class, students will learn the public policy and the work of local governments, will consider the roll of the local government in the future and the way of keeping the public service in the view of the tax payer’s request.

By the end of the course, students should be able to do the followings:

- A. To acquire basic knowledge of mechanisms and systems related to the policy process of local governments.
- B. To acquire citizen literacy that can judge the role that local governments should play and the ideal way of public services from the viewpoint of financial resources and tax collection.

The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each.

Students will be expected to collect information such as searching for newspaper articles related to the content taken up in the class and check the policies of the municipality where you live. Read newspaper articles routinely that are thought to have an impact on our lives.

Your overall grade will be decided based on the following

Term-end essay exam (80%), short reports or in-class reaction papers (20%).The term-end exam may change to the report according to the university’s class implementation policy. It will be informed by the learning support system of any changes.

SOC200EB, SOC200EC

国際協力論

岡野内 正

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：水 2/Wed.2

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国際協力とは、南北問題の解決をめざす諸国家と諸国民のさまざまな活動のことだ。南北問題とは、貧しい南の国々と豊かな北の国々との間での、貧富の格差から起こるさまざまな問題のことだ。しかし、20 世紀後半以降の国際協力は、南北問題を解決できていない。この失敗の原因を探究するうえで、欠かせない論点の概略をつかむ。

【到達目標】

①国際協力に関する学術書の内容を的確に理解する力をつける。②さらに批判的に読解する力をつける。③学術的討論の流れをつかむ力をつける。④学術的討論を批判的に評価する力をつける。⑤国際協力について問いをたて、質問し、答えを聞き、さらに自分なりの問いを発展させる力をつける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP6・DP7・DP8・DP10 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

国際協力についての担当教員の新著を精読しつつ、今日の学問状況を批判的に検討する。受講生は全員が、毎回の授業前までに、「授業日誌」を作成して、掲示板に書きこんでいく。「授業日誌」は、テキストの該当箇所を読んで、①わかったこと、②わからなかったこと、③調べてみたこと、④みんなで話し合ってみようこと、を含むこと。授業前半では ZOOM のブレイクアウトセッションを用いて、少人数分科会で全員が各自の授業日誌を共有しながら議論し、後半では、少人数分科会の座長になった人が分科会の状況を報告し、講師を含む全員で議論することで、どうしてもわからない問題を解決し、調べてきたことを共有し、さらにより深い問いをもてるようにする。

フィードバックは、授業時間中および前後での質問時間で、さらに Hoppi の掲示板を用いたやりとり、そして、オフィスアワーやメールでの直接連絡を通じて密接に行っていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	国際協力をめぐる学問状況	授業説明と受講生による自由討論。
2	批判開発論とグローバル・ベーシック・インカム構想	受講生の報告と教員を交えた議論
3	開発援助から民衆中心開発戦略への転換—コーテン	受講生の報告と教員を交えた議論
4	開発援助への再挑戦—サックス	受講生の報告と教員を交えた議論
5	脱開発の世界秩序再編—サックス	受講生の報告と教員を交えた議論
6	グローバル企業支配の告発—ジョージ	受講生の報告と教員を交えた議論
7	グローバル帝国転覆の論理—ネグリ	受講生の報告と教員を交えた議論
8	グローバル資本主義学派のグローバル企業権力論	受講生の報告と教員を交えた議論
9	国連 SDGs の論理	受講生の報告と教員を交えた議論
10	コロナ・パンデミックと宇宙開発	受講生報告と教員を交えた議論
11	グローバル・ベーシック・インカム構想	受講生報告と教員を交えた議論
12	歴史的不正義に関する正義回復論	受講生報告と教員を交えた議論
13	グローバル企業資本の植民地的起源	受講生報告と教員を交えた議論。授業日誌の提出。
14	真の国際協力とは何か？	受講生報告と教員を交えた議論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストを読み、毎回の授業までに「授業日誌」を書く。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

岡野内正『グローバル・ベーシック・インカム構想の射程』法律文化社、2021 年、3300 円+税。

【参考書】

阪本公美子・岡野内正・山中達也編著『日本の国際協力 中東・アフリカ編』ミネルヴァ書房、2021 年、4000 円+税。

ガイ・スタンディング著、岡野内正監訳『プレカリアート』法律文化社、2016 年、3000 円+税。

岡野内正著訳『グローバル・ベーシック・インカム入門』明石書店、2016 年、2000 円+税。

【成績評価の方法と基準】

毎回の授業参加を前提に、掲示板に書き込まれた授業日誌の各項目について、25%ずつ 100%で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

一回限りの試験ではなく、毎回の授業の積み重ねを評価してほしいという要望に応じて、「授業日誌」での評価を導入してみました。

【その他の重要事項】

「実務経験のある教員による授業」に該当。教室討論の中で、国際開発・人権 NGO 活動への長年の参加経験と観察を踏まえた議論を展開します。

【Outline (in English)】

A kind of seminar class on the issues of International Cooperation. Participants are required to read the textbook on the issues. Presentation of the outline and some points to discuss on each chapter followed by discussion with the lecturer in the class will be a good occasion to understand the main issues on the subjects from the sociological perspective.

[Learning Objectives] At the end of the course, students are expected to think about academic issues critically and enjoy discussing on them.

[Learning activities outside of classroom] Students will be expected to have completed the required assignments before and after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

[Grading Criteria /Policies] Your overall grade in the class will be decided based on the following: Before-class reports in HOPPI: 40%, After-class reports in HOPPI: 30%, in class contribution: 30%.

ARSh200EB, ARSh200EC

イスラム社会論

岡野内 正

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：水 4/Wed.4

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

イスラム社会とは、イスラム教徒住民が多数を占める中近東、北アフリカ、南アジア、東南アジアなどの諸地域の地域社会のこと。イスラム社会の諸問題を受講生の生き方の問題と結びつけて考えることができるようにしたい。

【到達目標】

①イスラム社会に関する学術書の内容を的確に理解する力をつける。②さらに批判的に読解する力をつける。③学術的討論の流れをつかむ力をつける。④学術的討論を批判的に評価する力をつける。⑤イスラム社会の諸問題について問いをたて、質問し、答えを聞き、さらに自分なりの問いを発展させる力をつける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP6・DP7・DP8・DP10に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

中東・イスラム世界研究の著作を受講生全員で検討する。受講生で小グループを作り、授業日誌を報告し合って議論し、その要点を、講師を含む全員で議論する。受講生は、毎回、「授業日誌」（テキストの該当部分について以下の4点を含むこと。①わかったこと、②わからなかったこと、③調べてみたこと、④みんなで話し合ってみたこと。）を作成してることが必須となる。受講生にとっては、だんだんわからないことが、減ってくるとともに、より深い、学問的な疑問が増えていくことになる。それがこの授業の狙いである。フィードバックは、授業時間中および前後での質問時間で、さらにHoppiの掲示板を用いたやりとり、そして、オフィスアワーやメールでの直接連絡を通じて密接に行っていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	中東・イスラム社会を学ぶということ	授業の全体についての説明。テーマについて知りたいことに関する自由討論。
2	冷戦後の国際政治と中東地域の構造変容	受講生報告と教員を交えた議論
3	21世紀の中東におけるイスラム主義運動	受講生報告と教員を交えた議論
4	グローバル化する中東とレソニア国家再考	受講生報告と教員を交えた議論
5	エジプト——民衆は時代の転換に何を望んだか	受講生報告と教員を交えた議論
6	アラブの春とチュニジアの国家=社会関係：歴史的視点から	受講生報告と教員を交えた議論
7	「パレスチナ問題」をめぐる語りの変容・イスラエルの国家安全保障問題	受講生報告と教員を交えた議論
8	中東地域の女性と難民、およびロジャヴァ革命論	受講生報告と教員を交えた議論

- トルコ—新自由主義・受講生報告と教員を交えた議論
親イスラム政党・外交
- 中東地域秩序におけるアラビア半島諸国の台頭を支える安定性の源泉
受講生報告と教員を交えた議論
- イランのイスラム統治体制の現状
受講生報告と教員を交えた議論
- イラク「政治体制を巡る迷路」
受講生報告と教員を交えた議論
- ヨルダン——紛争との共生
受講生報告と教員を交えた議論
- 中東・イスラム研究の課題
受講生報告と教員を交えた議論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストを読み、毎回の授業までに「授業日誌」を書く。準備・復習時間は2時間が標準となる。

【テキスト（教科書）】

松尾昌樹・岡野内正・吉川卓郎編『中東の新たな秩序（グローバルサウスはいま第3巻）』ミネルヴァ書房、2016年、3800円+税。
岡野内正「アラブの春は西クルディスタンで花開いたか？——シリア内戦におけるロジャヴァ革命研究のために」『アジア・アフリカ研究』61（2）2021年4月に所収。（岡野内正研究室HPの「中東研究」のページからダウンロードできる。）

【参考書】

阪本公美子・岡野内正・山中達也編著『日本の国際協力 中東・アフリカ編』ミネルヴァ書房、2021年、4000円+税。
長沢栄治他編『中東と日本の針路』大月書店、2016年、1800円プラス税。
岡野内 正著訳『グローバル・ベーシック・インカム入門』明石書店、2016年、2000円プラス税。
ガイ・スタンディング著、岡野内正監訳『プレカリアート』法律文化社、2016年、3000円プラス税。

【成績評価の方法と基準】

毎回の授業参加を前提に、毎回の授業日誌の4項目について、25%ずつ、合計100%で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

一回限りの試験ではなく、毎回の授業の積み重ねを評価してほしいという要望に応じて、「授業日誌」での評価を導入しました。また、討論型の授業への要望が強いので、継続します。

【その他の重要事項】

「実務経験のある教員による授業」に該当。パレスチナ難民支援のNGO活動に参加し、レバノンの難民キャンプなどで活動した経験とその際の観察なども含めて、授業で討論していきます。

【Outline (in English)】

A kind of seminar class on contemporary Muslim society. Participants are required to read the textbook on contemporary Middle East. Presentation of the outline and some points to discuss on each chapter followed by discussion with the lecturer in the class will be a good occasion to understand the main issues on contemporary Muslim society from the sociological perspective.

[Learning Objectives] At the end of the course, students are expected to think about academic issues critically and enjoy discussing on them.

[Learning activities outside of classroom] Students will be expected to have completed the required assignments before and after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

[Grading Criteria /Policies] Your overall grade in the class will be decided based on the following: Before-class reports in HOPPI: 40%, After-class reports in HOPPI: 30%, in class contribution: 30%.

ECN200EB

国際経済論 I

増田 正人

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：水 1/Wed.1

その他属性：〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代の国際経済は様々な経済主体によって形成されており、国際経済を各国、各地域の特殊性を捨象した抽象的なレベルでの国民経済の集合としてみなすだけでは、複雑な現実を理解することは困難である。この講義では、国際経済を一つの世界経済システムを構成するものとしてとらえ、現代世界経済の諸特徴を明らかにすることを目的とする。

国際経済論 I では、国際経済学の基本的な理論について学ぶとともに、非主流派の経済学についても勉強します。具体的には、貿易理論と外国為替論、国際通貨論、国際投資の理論、国際労働力移動についての基礎理論について学ぶ。

【到達目標】

国際経済の基礎理論を身につけることで、グローバル経済を理論的に理解できるようになる。

それと同時に、理論と現実との緊張関係を理解し、国際経済に関するニュースを単なる出来事としてではなく、因果関係の中で理解できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP6・DP7に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

授業形態は講義形態です。

対面授業で行います。オンラインで行う場合は、リアルタイムのオンライン授業の形式で行います。また、ズームで授業を録画し、公開するので、復習に活用してください。

この講義は春学期・秋学期を通じて履修することが望ましい科目です。事前に、学習支援システムに、レジメ、図表等をアップしておきます。画面上で同時に見られない場合、授業前にプリントアウトするなど、授業時に参照できるようにしておいてください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
イントロダクション	国際経済とグローバル経済	授業の目的、国際経済の理論を学ぶことの意義と目標の解説
2 回	世界経済と自由貿易体制 GATT、WTO	自由貿易体制 GATT WTO
3 回	国際貿易の理論①リカードと比較生産費説	リカードの比較生産費説の紹介、比較生産費説の意味
4 回	国際貿易の理論②ミルと2国多数財モデル、HOS モデル	ミルによる比較生産費説、2国多数財モデル HOS モデルの紹介と説明
5 回	国際貿易の理論③貿易の一般均衡論	貿易の一般均衡分析 貿易のパターン 貿易の利益 オファーカーブ
6 回	国際貿易の理論④主流派貿易理論への批判と不等価交換論	主流派貿易理論への批判と不等価交換論

7 回	貿易理論の小テスト 外国為替論 外国為替取引と外国為替市場	貿易理論の小テスト 外国為替取引の仕組み 外国為替市場とは何か
8 回	国際通貨論 国際通貨と国際通貨体制	世界貨幣、国際通貨とは何か 金本位制と国際通貨体制
9 回	国際通貨システム論 「ドル本位制」と現代の外国為替市場	「ドル本位制」とはどんなものなのか 現代の外国為替市場の特徴
10 回	国際投資の理論 資本輸出の諸形態と多国籍企業	資本輸出の諸形態 多国籍企業の定義、特徴、グローバル経済における多国籍企業の位置
11 回	多国籍企業の諸理論	多国籍企業の諸理論の紹介と解説
12 回	多国籍銀行とユーロ市場	多国籍銀行とは何か 多国籍銀行論の紹介 ユーロ市場の特徴、その発展の歴史
13 回	グローバルマネーの運動と金融危機	資本移動の自由化と累積債務危機、通貨危機、金融危機
まとめ	国際労働力移動の理論	国際労働力移動の理論ちお現状

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義の前に、テキストを読み、配布されたプリント、レジメを読んでおくこと。

講義の後に、再度テキストを読み、自分のノートを整理すること。本授業の準備・復習時間は、各2時間、合計で4時間になります。

【テキスト（教科書）】

半期の講義を通じて、単一の教科書は使用しないが、以下のテキストの関連する章を必要に応じて使用する。

『現代世界経済をとらえる Ver5』石田修、板木雅彦、櫻井公人、中本悟編、東洋経済新報社、2010年。

『現代国際金融論』（第4版）上川孝夫、藤田誠一編、有斐閣、2012年。

『国際経済政策論』新岡智、板木雅彦、増田正人編、有斐閣、2005年。

【参考書】

教科書の中で授業時に参照しなかった章についても読んでおくことを進める。

【成績評価の方法と基準】

成績評価は、小テスト、レポート課題、期末試験によって行います。

貿易理論の小テスト	20 %
レポート課題	30 %
定期テスト	50 %

貿易理論の小テストは、第7回の授業の冒頭に行います。

【学生の意見等からの気づき】

復習等のために録画をして公開してほしいということでしたので、録画を公開することにしました。昨年は、公開期間を限定しない方がいいという意見が多かったため、授業期間中は常にみられるようにしました。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布、課題提出等のために学習支援システムを使います。

【その他の重要事項】

春・秋学期を通じて、国際経済論 I、II を履修することが望ましい。この授業は、前半の貿易理論の部分が抽象度が高く、理解するのが一番難しいので、しっかり復習すること。

授業計画は現実の世界経済の展開によって、変更することもある。

【Outline (in English)】

From the standpoint of considering the international economy as one world economic system, the purpose of this lecture is to study both traditional international economics and non-traditional international economic theory, especially about trade and foreign exchange trading, international investment, and international labor migration.

It is highly recommended that students prepare in advance and review the contents after the class. Students are encouraged to read textbooks. Students are encouraged to read textbooks according to the course schedule.

The final evaluation will be based on the following: midterm exam 20%, submitted report 30% and final exam 40%; total: 100%.

ECN300EB

国際経済論Ⅱ

増田 正人

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：水 1/Wed.1

その他属性：〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代の国際経済は様々な経済主体によって形成されており、国際経済を各国、各地域の特殊性を捨象した抽象的なレベルでの国民経済の集合としてみなすだけでは、複雑な現実を理解することは困難である。この講義では、国際経済の一つの世界経済システムを構成するものとしてとらえ、現代世界経済の諸特徴を明らかにすることを目的にする。

国際経済論Ⅱでは、第二次世界大戦後の国際経済体制の変化をアメリカ経済を中心にして説明し、それとの対比と関連の中で、欧州経済と発展途上国の経済を説明する。春学期の理論的な解説と合わせて世界経済の概観をもてるようにする。

【到達目標】

ボックスアメリカナと呼ばれた戦後の世界経済秩序の内容について理解できる。

その中でアメリカが果たしてきた役割、また、現在のアメリカの地位についても理解することができる。

また、EU の成立と発展、南北問題といわれるグローバル経済の不均衡について、相互関係の中で理解できる。

グローバル経済における上記の地域の特性を踏まえて、国際経済に関するニュースを単なる出来事としてではなく、因果関係の中で理解できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP6・DP7 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

授業形態は講義形態です。

対面授業で行いますが、感染状況によって、オンラインに切り替えます。オンラインの場合は、リアルタイムのオンライン授業の形式で行います。

この講義は春学期・秋学期を通じて履修することが望ましい科目です。事前に、学習支援システムに、レジメ、図表等をアップしておきます。画面上で同時に見られない場合、授業前にプリントアウトするなど、授業時に参照できるようにしておいてください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1 回	国際経済秩序とグローバル経済	授業全体の進め方の解説、国際経済、世界経済との相違、国際経済秩序とグローバル経済
2 回	アメリカってどんな国？	アメリカという国家の特徴とアメリカの国際経済秩序への関わり
3 回	アメリカと国際経済秩序①	戦後構想とボックス・アメリカナ的基本的枠組み
4 回	アメリカと国際経済秩序②	ボックス・アメリカナの変容と変動相場体制
5 回	アメリカと国際経済秩序③	レーガノミックスからニュー・エコノミーへ
6 回	アメリカと国際経済秩序④	アメリカ経済の「再生」と新たなグローバル経済秩序

7 回	EU ①	EEC 成立から欧州統合へ ECSC、EEC、EURATOM EC
8 回	EU ②	92 年欧州統合と EU 停滞する欧州 マーストリヒト条約 共通通貨ユーロの導入
9 回	EU ③	EU の発展と動揺 加盟国の拡大 EU の発展と統合の深化 イギリスの離脱
10 回	南北問題①	植民地体制の崩壊と工業化 輸入代替工業化 輸出志向工業化 UNCTAD
11 回	南北問題②	NICs と累積債務問題 新興国の工業化 ユーロ市場の役割 累積債務問題 新興市場諸国と南北問題の今 東アジアの奇跡 中国の経済成長 アフリカ諸国の今
12 回	南北問題③	
13 回	今日のグローバル経済 まとめ	米中対立とグローバル経済 ロシアによるウクライナ侵攻とそれによるグローバル経済の変容

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義の前に、テキストを読み、配布されたプリント、レジメを読んでおくこと。

講義の後に、課題を提出するとともに、再度テキストを読み、自分のノートを整理すること。

本授業の準備・復習時間は、各2時間、合計で4時間になります。

【テキスト（教科書）】

半期の講義を通じて、単一の教科書は使用しないが、以下のテキストの関連する章を必要に応じて使用する。

『21 世紀のアメリカ資本主義』平野健、河音琢郎、豊福裕二、野口義直編、大槻書店、2023 年（3 月出版予定）

『現代アメリカ政治経済入門』河崎信樹・河音琢郎・藤木剛康編、ミネルヴァ書房、2021 年。

『現代国際金融論』（第4版）上川孝夫、藤田誠一編、有斐閣、2012 年。

『国際経済政策論』新岡智、板木雅彦、増田正人編、有斐閣、2005 年。

『現代世界経済をとらえる Ver5』石田修、板木雅彦、櫻井公人、中本悟編、東洋経済新報社、2010 年。

【参考書】

教科書の中で授業時に参照しなかった章についても読んでおくことを進める。

【成績評価の方法と基準】

成績評価は提出されたレポート課題と期末試験によって行います。

レポート 30 %

定期テスト 70 %

【学生の意見等からの気づき】

リアルタイムでのオンライン授業の場合、復習のために、録画もしてほしいということでしたので、昨年は録画も行って公開することにした。ただし、公開期間は限定することにした。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布、課題提出等のために学習支援システムを使います。

【その他の重要事項】

春・秋学期を通じて、国際経済論Ⅰ、Ⅱを履修することが望ましい。この授業は、歴史的な発展を追って説明する形になるが、その説明において、理論的な部分は国際経済論Ⅱを履修してはじめて理解できることもあるので、国際経済論Ⅱを履修することが必要である。もちろん、テキストを事前に読み、理論的な学習をして講義に臨むというのが望ましいことはいうまでもない。

授業計画は現実の国際経済の展開によって、変更することもある。

【Outline (in English)】

From the standpoint of considering the international economy as one world economic system, the purpose of this lecture is to study the changes in the international economic system after World War II, focusing on the US economy, and explain the European economy and the economies of developing countries in relation to the world economy.

It is highly recommended that students prepare in advance and review the contents after the class. Students are encouraged to read textbooks. Students are encouraged to read textbooks according to the course schedule.

The final evaluation will be based on the following: submitted report 30% and final exam 70%; total: 100%.

SOC200EB, SOC200EC, SOC200ED

社会学理論 A I

鈴木 智之

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：金 1/Fri.1

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「相互作用秩序」の社会学。「相互作用論（interactionism）」の考え方に基づいて、日々の社会的現実の成り立ちを社会的に記述・分析するための概念、視点、方法論を学ぶことを目的とする。

【到達目標】

私たちが日々を経験している社会生活の秩序は、私たちが他者の視点を取りこみつつ、相互的な関与を継続することによって成立している。この「相互作用秩序」の成り立ち方（成り立たせ方）を概念的に対象化する方法を身に付け、これを通じて、日常生活の秩序が破綻する場面（トラブル）の記述を可能にする。と同時に、社会秩序に対する「違和感・不全感」の理由を言語化できるようになることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP5・DP8・DP11に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

毎回配布する「レジュメ」を用いて講義を進める。

リアクションペーパーの提出は毎回求めるが、これは成績評価につながるものではない。リアクションペーパーから選別して、次週の講義資料において回答する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	相互作用論とは何か？
第2回	相互作用論の理論的基礎（1）	G.H. ミード『精神・自我・社会』から
第3回	相互作用論の理論的基礎（2）	対面的相互行為をめぐる E. ゴフマンの視点
第4回	相互作用論の理論的基礎（3）	「規範」と「秩序」をめぐる相互作用論的視点
第5回	相互作用論の理論的基礎（4）	「レリヴァンス」と「フレーム」
第6回	相互作用秩序とそのトラブル（1）	焦点の定まらない相互作用空間としての「社会空間」
第7回	相互作用秩序とそのトラブル（2）	電車の中で席を譲ることがどうしてこれほど難しいのか？
第8回	相互作用秩序とそのトラブル（3）	トラブルを報告する
第9回	相互作用秩序とそのトラブル（4）	「アラーム」の出現
第10回	「心」の相互作用秩序（1）	感情の社会的構成
第11回	「心」の相互作用秩序（2）	コミュニケーションの要素としての「動機」
第12回	「心」の相互作用秩序（3）	「モーティヴ・トーク」の社会学
第13回	「心」の相互作用秩序（4）	動機の語彙と「心の闇」
第14回	相互作用と心の秩序	春学期の講義全体の振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で紹介された参考書を各自で読みこなすこと。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しません。

【参考書】

草柳千早 2015 『日常の最前線としての身体』世界思想社
中河伸俊・渡辺克典（編）2015 『触発するゴフマン』新曜社。
鈴木智之、2014 『「心の闇」と動機の語彙』青弓社。
など。他は授業の進行に合わせてその都度指示します。

【成績評価の方法と基準】

学期末の「試験」のみを評価の対象とします（100%）。

【学生の意見等からの気づき】

久しぶりに対面での講義に戻ります。講義そのものが、私とあなたとの相互作用の場面です。積極的な参加を求めます。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【Outline (in English)】

The aim of this lecture is to understand the theoretical frames of interactionist sociology and to demonstrate knowledges and analysis of the everyday-life situations. At the end of the course, students are expected to be able to analyze sociologically the interactional order in social life.

After each class, students are expected to spend two hours to understand the course content.

Grading will be decided based on term-end examination(100%).

SOC200EB, SOC200EC, SOC200ED

社会学理論 A II

鈴木 智之

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：金 1/Fri.1

その他属性：〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「ハビトゥス」と「ナラティヴ」という二つの概念を軸に、「社会的存在」としての「個人」の成り立ちについて考える。

【到達目標】

「私」という存在は、社会生活の累積の中で作られていく、複雑な社会的構成体である。「私」はなぜ今あるような「私」なのか。「私」が「私」であろうとすることが、どのような社会の成り立ちに結びついているのか。これを概念的に分析し、言語化できるようになることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP5・DP8・DP11に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

毎回配布するレジュメを用いて講義を行う。
リアクションペーパーの提出を求めるが、これは成績評価につながらるものではない。
リアクションペーパーからいくつかを選択し、次週の講義において回答する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	「個人存在」の社会学という視点
第 2 回	「個人存在の社会学」の理論的基礎（1）	デュルケム社会学における「個人」
第 3 回	「個人存在の社会学」の理論的基礎（2）	G.H. ミードの「社会的自己」論
第 4 回	「個人存在の社会学」の理論的基礎（3）	G. ジンメルの「社交圏の分離」と「個人の自立」論
第 5 回	「ハビトゥス」の理論（1）	社会的なるものの身体化
第 6 回	「ハビトゥス」の理論（2）	身体化された文化と不平等の再生産
第 7 回	「ハビトゥス」の理論（3）	感覚の社会的依存性
第 8 回	「ハビトゥス」の理論（4）	複数のハビトゥス
第 9 回	物語としての自己（1）	認知と判断の形式としてのナラティヴ
第 10 回	物語としての自己（2）	再帰的な語りと自己の構築
第 11 回	物語としての自己（3）	病いの語り
第 12 回	物語としての自己（4）	自己物語の困難
第 13 回	ハビトゥスとナラティヴ（1）	ハビトゥスをめぐる語り
第 14 回	ハビトゥスとナラティヴ（2）	ナラティヴ・ハビトゥス

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回の講義によって提起された問いを、自分自身の現実に適用して、「私」という存在の成り立ちについて考える。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。

【参考書】

B. ライール『複数の人間』法政大学出版局、2013 年

A.W. フランク『傷ついた物語の語り手 身体・病い・倫理』ゆみる出版、2002 年

他は随時指示する

【成績評価の方法と基準】

学期末の試験によって評価する (100%)。

【学生の意見等からの気づき】

久しぶりの対面の講義です。教室での出会いを大切にしていきたいと思えます。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

講義内容の構成は、学生のリアクションや、新しいテキストなどとの出会いによって、変更される場合があります。

【Outline (in English)】

The aim of this lecture is to understand the theoretical frames of sociology of the self, and to demonstrate knowledges and analysis on concrete situations. At the end of the course, students are expected to be able to analyze the social constitution of individual being.

After each class, students are expected to spend two hours to understand the course content.

Grading will be decided based on the term-end examination(100%).

SOC200EB, SOC200EC, SOC200ED

社会学理論 B I

佐藤 成基

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位
曜日・時限：水 1/Wed.1

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「国家 (state)」という社会制度についてマックス・ヴェーバー、チャールズ・ティリー、ノルベルト・エリアス、マイケル・マン、ピエール・ブルデュー、アントニー・ギデンズ、ミシェル・フーコーらの国家論をとりあげ、歴史社会的に把握し、分析する視点・方法について学ぶ。

【到達目標】

国家という規模が大きく、あまり身近には思えないような社会制度と私たちとが、どのような関係にあるのかについて、社会的な見方で捉えることのできる知見を習得すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP5・DP8・DP11に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

通常の講義。毎回質問・コメントを必ず提出してもらう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	講義全体の概要や目的について
2	国家とは何か： その能力と作用	一定の領域を統治する政治組織としての国家の固有な能力について
3	国家と暴力（1）： 正当な暴力行使の独占	「正当な暴力行使の独占」というヴェーバーの国家概念について
4	国家と暴力（2）： 国家と「文明化」	エリアスの「文明化」の過程について
5	国家と暴力（3）： 国家の暴力行使	ルーマンの権力論とアガンベンの「例外状態」論について
6	国家と官僚制（1）： ヴェーバーの官僚制論	ヴェーバーの官僚制概念について
7	国家と官僚制（2）： 官僚制の機能と逆機能	官僚制の機能と逆機能について
8	国家と戦争（1）： 国家形成における軍事・財政的要因	ティリーの国家論について
9	国家と戦争（2）： 間接統治から直接統治へ	ティリーの国家論について
10	国家と正当性（1）： 「象徴暴力」と「公共性」	ブルデューの「象徴暴力」概念について
11	国家と正当性（2）： 官僚制的公共性	ブルデューの国家形成論について
12	国家と社会（1）： 国家の民政化	国家の「民政化」について
13	国家と社会（2）： 社会の「国家帰属化」	マンのインフラストラクチャー的権力について
14	国家と情報管理： 国家と統計（学）	公式統計と国勢調査の歴史について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の授業では、指定されたテキストを読んで予習・復習することが求められる。そこでテキストや授業に関する疑問点を毎回提出してもらい、授業内でその疑問に答える。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

佐藤成基『国家の社会学』（青弓社）

【参考書】

授業内で指示する。

【成績評価の方法と基準】

期末試験にて評価する（100％）。

【学生の意見等からの気づき】

毎回提出される疑問・質問から、授業での説明の不足や不明確さを補っている。

【Outline (in English)】

In this course we will learn different sociological approaches to explore and analyze the "state" as a set of social institutions by examining the arguments of Max Weber, Charles Tilly, Norbert Elias, Michael Mann, Pierre Bourdieu, Anthony Giddens, Michael Foulcaut, and so on. The purpose of this course is to understand the formation of the state and its roles from theoretical and historical perspectives. Before and after each class meeting, students are expected to spend two hours to read the relevant parts of the text carefully and to submit a memorandum of comments and questions. The comments and questions will be discussed in the next class meeting. Grades will be based on the final examination (100%).

SOC200EB, SOC200EC, SOC200ED

社会学理論 B II

佐藤 成基

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：水 1/Wed.1

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

20 世紀以降の国家の歴史を検討しながら、「国家（state）」という社会制度について歴史社会的に把握し、分析する視点・方法について学ぶ。

【到達目標】

国家という規模が大きく、あまり身近には思えないような社会制度と私たちが、どのような関係にあるのかについて、社会的な見方で捉えることのできる知見を習得すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP5・DP8・DP11 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

通常の講義。毎回質問・コメントを必ず提出してもらう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	前期の B I での講義の内容の復習。
2	国家とナショナリズム (1) : ナショナリズムの発生	近代主と反近代主義のアプローチについて
3	国家とナショナリズム (2) : 国家論的アプローチ	ナショナリズムに関する国家論的アプローチについて
4	国家とナショナリズム (3) : ナショナリズムの「民族化」	ナショナリズムの「民族化」について
5	国家と資本主義 (1) :	国家と資本主義経済の発展に果たした役割について
6	国家と資本主義 (2) : マルクス主義の国家論	マルクス主義の国家論について
7	国家と民主主義 (1) : アメリカ政治学理論	第二次大戦後アメリカ政治学を代表するダール、イーストンの政治理論が国家をどう捉えていたのかを解説する。
8	国家と民主主義 (2) : 民主主義にとっての国家	ティリーの民主主義論について
9	国家の社会福祉 (1) : 福祉国家の発生	福祉国家の発生について
10	国家と社会福祉 (2) : 福祉国家の発展と「危機」	現代福祉国家の「危機」について
11	国家のグローバル化 : 世界社会と国民国家	メイヤーらの新制度主義について

12	国家の「崩壊」 : アフリカからの視点	アフリカの新家産制国家論について
13	国民国家とグローバル化 : 「衰退」か「復権」か	グローバル化と国民国家の変容について
14	国家の機能とセキュリティ, 再考	現代における国家の状況について再考する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の授業では、指定されたテキストを読んで予習・復習することが求められる。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。毎回の授業では、指定されたテキストを読んで予習・復習することが求められる。そこでテキストや授業に関する疑問点を毎回提出してもらい、授業内でその疑問に答える。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

佐藤成基『国家の社会学』（青弓社）

【参考書】

授業内で指示する。

【成績評価の方法と基準】

期末試験にて評価する（100%）。

【学生の意見等からの気づき】

毎回提出される疑問・質問から、授業での説明の不足や不明確さを補っている。

【その他の重要事項】

前期に開講される同一担当教員の社会学理論 B I を受講することを強く推奨する。社会学理論 B II は B I の内容を前提にして進められる。

【Outline (in English)】

In this course we will study different sociological approaches to explore and analyze the "state" as a set of social institutions by examining the history of the state since the 20th century. The purpose of this course is to understand the formation of the state and its roles from theoretical and historical perspectives. Before and after each class meeting, students are expected to spend two hours to read the relevant parts of the text carefully and to submit a memorandum of comments and questions. The comments and questions will be discussed in the next class meeting. Grades will be based on the final examination (100%).

SOC300EC

理論社会学

鈴木 智之

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：木 5/Thu.5

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

社会学の方法論争の歴史を振り返りながら、社会的現実を科学的に記述することの意味と、「社会」の存立構造を検討する。これを通じて、各自が自分自身の研究において「方法の選択」ができるようになることを目標とする。

【到達目標】

社会学は単一の安定的な方法論の上に成り立つ学問ではなく、複数の相対立する認識論の競争を通じて発展してきた。社会学の理論を学ぶということは、この「対立」の歴史を意味を理解し、そのなかで自分自身の認識論的な立場を模索していくということである。この講義では、社会学の方法論争史のいくつかの場面を振り返りつつ、各学生が自らの方法を探し当てる道筋を見いだすことを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP8に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

授業は対面の講義形式で行う。

毎回レジュメを配布する。

毎回リアクションペーパーの提出を求め、そのなかからピックアップして次週の講義でリプライを示す。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	「社会」についての「ロゴス」とは何か？
第 2 回	実証主義と社会学	科学の単一性と社会学の特異性
第 3 回	物と意味（1）	社会的事実を物のように観察すること
第 4 回	物と意味（2）	社会的行為の意味を理解すること
第 5 回	物と意味（3）	デュルケムとウェーバー ：対立点と共通点
第 6 回	内在と外在	「全体」を観察する／「内部観察」
第 7 回	多元的意味世界としての社会（1）	P. バーガーの現象学的社会学
第 8 回	多元的意味世界としての社会（2）	ハリー・コリンズ「対話型専門知」としての社会学
第 9 回	言語と現実（1）	ヴァイトゲンシュタインの言語ゲーム論とエスノメソドロジー
第 10 回	言語と現実（2）	言説分析という方法
第 11 回	構築と实在（1）	「構築主義」とその問題
第 12 回	構築と实在（2）	世界が皆構築主義者だったら
第 13 回	構築と实在（3）	対話的構築主義と約束としての实在論
第 14 回	構築と实在（4）	アクターネットワークセオリーとは何か

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

この授業は、授業内容の咀嚼と理解が重要なので、復習を中心に学習を進めること。各回で提示されたテキストを読んで、授業内容の理解を深めること。復習のために、各週2時間の学習時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教科書は用いない

【参考書】

各回の講義で指示する。

【成績評価の方法と基準】

成績評価は学期末のレポートによってのみ行う（100％）。

【学生の意見等からの気づき】

必ずしも平易な内容ではないようです。頑張ってキャッチアップしてください。

【学生が準備すべき機器他】

とくになし

【その他の重要事項】

各回の内容や順番は講義を進めていくなかで変更されることがある。

【Outline (in English)】

Through the revision of the history of sociology as methodological debates, we investigate the meaning of the scientific description of social reality, and the way of construction of "Society". The aim of this lecture is to make possible to choose a method in one's own research.

Students are expected to read the text presented in the class to deepen the understanding of the lecture.

Grade is decided on the term-end report(100%).

SOC300EC

社会学史 I

徳安 彰

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：水 1/Wed.1

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、社会学の歴史の中で、とくに 19 世紀から 20 世紀前半の主要な諸理論を学ぶ。目的は、諸理論の学修を通して「社会学は古典的近代をどのように理論化してきたか」を知ることである。

【到達目標】

この授業の到達目標は、主要な古典的社會学者の理論の概要や主要概念を、原典を通して理解できるようになり、さらに「社会学は古典的近代をどのように理論化してきたか」という観点から、自分で諸理論の意義を説明できるようになることである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP8 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

授業は対面形式で行う。状況に応じて、授業方式が変更される可能性がある。この授業では、受講者は毎回、担当教員の作成した資料（著作を抜粋したリーディングス）を事前に読み込んだ上で授業に臨み、授業での説明、質疑、討論を通して理解を深めるといった方法をとる。毎回の授業のリアクションを提出してもらい、疑問点を中心に各人および全体にフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	西洋近代の歴史と社会学の問題意識	西洋近代の歴史を概観しつつ、社会学の基本的な問題意識を理解する
2	古典的近代の主要な社会学者たち	19 世紀から 20 世紀前半の主要な社会学者や学派を知る
3	コント／スペンサー	三段階の法則、社会進化論、軍事型社会／産業型社会
4	マルクス (1)	史的唯物論、階級構造と階級闘争
5	マルクス (2)	疎外、使用価値と交換価値
6	ヴェーバー (1)	合理化、合理性の諸類型
7	ヴェーバー (2)	資本主義の精神、鉄の檻
8	ヴェーバー (3)	支配の諸類型、官僚制
9	デュルケム (1)	分業、機械的連帯と有機的連帯
10	デュルケム (2)	自殺の諸類型、近代社会と自殺
11	デュルケム (3)	聖と俗、集合的沸騰
12	ジンメル (1)	社会化の形式、社会圏
13	ジンメル (2)	支配と従属の諸類型
14	ジンメル (3)	宗教の機能分化、宗教と社会の類似性

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で扱う社会学者の原典（抜粋）は、学習支援システム等を用いて資料を配布するので、事前に入手して読んでおく。理解の行き届かない部分については、授業の前後に概説書や社会学辞典によって理解を深めておく。さらに学修を深めるためには、抜粋だけでなく原典を通読するのが望ましい。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とするが、原典通読等でそれ以上の学修時間を確保するのが望ましい。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。各回に使用するテキストについては、学習支援システムをとおして配布する。

【参考書】

ドン・マーチンデール『現代社会学の系譜』未來社
 ランドール・コリンズ『ランドール・コリンズが語る社会学の歴史』有斐閣
 那須壽（編）『クロニクル社会学』有斐閣
 新陸人（編）『社会学の歩み』有斐閣

【成績評価の方法と基準】

期末レポート（70%）、授業への積極的貢献（30%）。期末レポートは論述形式で行い、授業で論じた主要な学説の理解、論述の論理性的の 2 つの基準で評価する。授業への積極的貢献は、リアクション・ペーパーの内容によって評価する。

【学生の意見等からの気づき】

受講生の皆さんからの質問やコメントを可能な限りフィードバックできる講義を心がけたい。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを通して資料を配布する。

【その他の重要事項】

この授業は、受講生の予習を前提に講義を進める。またリアクション・ペーパーでの、積極的な質問やコメントを歓迎する。リアクション・ペーパーに対しては、学習支援システムの個別のリプライや掲示板機能を活用してフィードバックをはかる。受講生の積極的な参加を求める。

【Outline (in English)】

In this course we study the history of sociology, especially so-called "classic sociology" developed from 19th century to early 20th century. The goal of this course is to understand how major sociologists built their theories in the classic modern era. Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant material(s). Your study time will be more than four hours for a class. Your overall grade in the class will be decided based on the following. Term-end report (70%): In-class contribution (30%).

SOC300EC

社会学史Ⅱ

徳安 彰

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：水 1/Wed.1

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、社会学の歴史の中で、とくに 20 世紀半ばから後半の主要な諸理論を学ぶ。目的は、諸理論の学修を通して「社会学は後期近代をどのように理論化してきたか」を知ることである。

【到達目標】

この授業の到達目標は、主要な現代的社会学者の理論の概要や主要概念を、原典を通して理解できるようになり、さらに「社会学は後期近代をどのように理論化してきたか」という観点から、自分で諸理論の意義を説明できるようになることである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP8 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

授業は対面方式で行う。状況に応じて、授業方式が変更される可能性がある。この授業では、受講者は毎回、担当教員の作成した資料（著作を抜粋したリーディングス）を事前に読み込んだ上で授業に臨み、授業での説明、質疑、討論を通して理解を深めるという方法をとる。毎回の授業のリアクションを提出してもらい、疑問点を中心に各人および全体にフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	後期（高度）近代の歴史と社会学の問題意識	西洋の後期近代の歴史を概観しつつ、社会学の基本的な問題意識を理解する
2	後期（高度）近代の主要な社会学者たち	20 世紀半ばから後半の主要な社会学者や学派を知る
3	ミード	I と me、一般化された他者、役割
4	シュッツ	日常生活世界、間主観性、多元的現実
5	バーガー/ルックマン	社会的世界の複数か、聖なる天蓋
6	ガーフィンケル	エスノメソドロジー、違背実験
7	ゴッフマン	ドラマトウルギー、印象操作
8	パーソンズ	ダブル・コンティンジェンシー、社会進化
9	ルーマン	ダブル・コンティンジェンシー、社会分化
10	ハーバーマス	コミュニケーション的行為
11	ギデنز	モダニティ
12	フーコー	規律化、主体、生権力
13	ブルデュー	文化資本、再生産
14	ベック	リスク社会、個人化

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で扱う原典（抜粋）は、学習支援システム等を用いて資料を配付するので、各自で事前に入手して読んでおく。理解の行き届かない部分については、概説書や社会学辞典によって理解を深めておく。さらに学修を深めるためには、抜粋だけでなく原典を通読するのが望ましい。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とするが、原典通読等でそれ以上の学修時間を確保するのが望ましい。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。各回に使用するテキストについては、学習支援システムをとおして配布する。

【参考書】

ランドール・コリンズ『ランドール・コリンズが語る社会学の歴史』有斐閣
 那須壽（編）『クロニクル社会学』有斐閣
 新陸人（編）『社会学のあゆみ パート2』有斐閣
 新陸人（編）『新しい社会学のあゆみ』有斐閣

【成績評価の方法と基準】

期末レポート（70%）、授業への積極的貢献（30%）。期末レポートは論述形式で作成し、授業で論じた主要な学説の理解、論述の論理性的の 2 つの基準で評価する。授業への積極的貢献は、リアクション・ペーパーの内容、授業での質疑や討論への参加によって評価する。

【学生の意見等からの気づき】

受講生の皆さんからの質問やコメントを可能な限りフィードバックできる講義を心がけたい。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを通して資料を配付する。

【その他の重要事項】

この授業は、受講生の予習を前提に講義を進める。授業内でもリアクション・ペーパーでも、積極的な質問やコメントを歓迎する。またリアクション・ペーパーに対しては、学習支援システムの個別のリプライや掲示板機能を活用してフィードバックをはかる。受講生の積極的な参加を求める。

【Outline (in English)】

In this course we study the history of sociology, especially so-called "modern and late modern sociology" developed since the middle of 20th century. The goal of this course is to understand how major sociologists built their theories in the late modern era. Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant material(s). Your study time will be more than four hours for a class. Your overall grade in the class will be decided based on the following. Term-end report (70%): In-class contribution (30%).

SOC300EC

歴史社会学 I

鈴木 智道

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：月 2/Mon.2

その他属性：〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「歴史を通して考える」という全体を貫く主題のもと、いくつかのより身近なテーマを素材にしながら、日本社会の歴史的経験を、とりわけ明治以降に照準しつつ（必要に応じてその外側に広がる地理的空間をも視野に入れつつ）読み解いていくことで、われわれの今日の生活世界や社会生活のあり方を、その起源にまで遡って再認識していく。同時に、そうした作業を通して、より大きくは「近代」とは何か」という問題を相対的な視野のなかで捉え直していく。

【到達目標】

- ・社会的な歴史研究の射程を理解しながら、そこから立ち上がる「歴史」からの問いに対して、一人ひとりが対峙できる地点に至る。
- ・あわせて、歴史的な視点が、〈いま・ここ〉を見据え、考える手段としてどのような可能性をもっているかということについて、掘り下げた視点から考えられるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP8 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

原則的に講義形式で授業を進めていく。その都度「考える素材」を提示し、リアクションペーパーやレポートを通して、その回答を求める。

リアクションペーパーについては、可能な限り授業内でフィードバックを行う。レポートについては、求めに応じてオフィスアワーで講評を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	総論・概要説明
2	〈文明化〉する社会①	〈伝統〉から〈文明〉へ
3	〈文明化〉する社会②	社会秩序としての〈近代〉
4	〈文明化〉する社会③	社会秩序を支える「身体」
5	〈都市〉に暮らす①	近代都市の離陸と空間編制
6	〈都市〉に暮らす②	理想的な都市のあり方を求めて
7	〈都市〉に暮らす③	都市郊外の開発と都市型ライフスタイル
8	〈職〉に就く①	メリトクラシー社会としての近代社会
9	〈職〉に就く②	学校と職業の不幸な関係
10	〈職〉に就く③	「身分」から「職業」へ
11	〈家族〉をつくる①	〈家族〉の歴史性
12	〈家族〉をつくる②	「家庭」的な〈家族〉の誕生
13	〈家族〉をつくる③	イデオロギーとしての〈近代家族〉
14	エピローグ	「歴史」からの問い

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・各トピックごとに提示される参考文献一覧のうち、興味をもった文献を手に取り、通読してみることで、授業内容について理解を深める。

・中間および期末の 2 度にわたり、授業内容をふまえた課題についてレポートを執筆する。

・本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。適宜レジュメを配布し、それに基づき講義を進めていく。

【参考書】

授業中に適宜紹介していく。

【成績評価の方法と基準】

課題レポート（20 % × 2 回）+ 学期末試験（60 %）により評価をおこなう。

なお、2 本の課題レポートの提出は、学期末試験の受験のための必須条件である。

【学生の意見等からの気づき】

快適な教室環境を作り出すよう気を配る。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to rethink some topics on Japanese experiences of the period after the Meiji Restoration from the sociological perspective. Students are expected to be able to think about history as a tool for investigating the present-day society.

Your study time will be more than four hours for a class.

Grading will be decided based on Report I & II (20%×2) and Term-end examination (60%).

SOC300EC

歴史社会学Ⅱ

鈴木 智道

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：月 2/Mon.2

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「歴史とは何かを考える」という全体を貫く主題のもと、近年、提起されている「歴史」なるものをめぐる理論的あるいは実践的な論点について、具体的な事例を織り交ぜつつ概観しながら、歴史と聞けば高校までの「日本史」や「世界史」を想起してしまう思考を超えたところで展開している〈歴史〉の姿に様々な角度から向き合っていく。同時に、そうした作業を通して、私たちがこれまでに作り上げてきた「歴史」を相対的な視野のなかで問い直していく。

【到達目標】

・“暗記科目としての「歴史」”を超えた地平に広がる、その奥行きと広がりに対して、一人ひとりが対峙できる地点に至る。
・あわせて、様々な形で提示される「歴史」への問いを前にして、掘り下げた視点から考えられるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP8に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

原則的に講義形式で授業を進めていく。その都度「考える素材」を提示し、リアクションペーパーやレポートを通して、その回答を求める。リアクションペーパーについては、可能な限り授業内でフィードバックを行う。レポートについては、求めに応じてオフィスアワーで講評を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	総論・概要説明
2	歴史を〈書く〉①	歴史が作られる“現場”を覗く
3	歴史を〈書く〉②	歴史はいかにして科学たりえるのか？
4	歴史を〈書く〉③	フィクションとノンフィクションの間
5	〈問題化される〉歴史①	書き換えられる歴史(1)
6	〈問題化される〉歴史②	書き換えられる歴史(2)
7	〈問題化される〉歴史③	歴史と責任～終わらない過去
8	歴史を〈学ぶ〉①	〈日本史〉的歴史の文法
9	歴史を〈学ぶ〉②	〈日本史〉的歴史の機能
10	歴史を〈記憶する〉①	人は誰もみな歴史家
11	歴史を〈記憶する〉②	過去をいかにして記憶するか
12	歴史を〈イメージする〉①	社会が〈近代化〉するとはどういうことか？
13	歴史を〈イメージする〉②	歴史的想像力のゆくえ
14	エピローグ	「歴史」への問い

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・各トピックごとに提示される参考文献一覧のうち、興味をもった文献を手に取り、通読してみることで、授業内容について理解を深める。

・中間および期末の2度にわたり、授業内容をふまえた課題についてレポートを執筆する。

・本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。適宜レジュメを配布し、それに基づき講義を進めていく。

【参考書】

授業中に適宜紹介していく。

【成績評価の方法と基準】

課題レポート（20%×2回）+学期末試験（60%）により評価をおこなう。

なお、2本の課題レポートの提出は、学期末試験の受験のための必須条件である。

【学生の意見等からの気づき】

快適な教室環境を作り出すよう気を配る。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to introduce students to some viewpoints on history as contemporary events. Students are expected to be able to think deeply about historical positivism, narrative theory on history, historical revisionism, collective memory, and the classical theory of social change.

Your study time will be more than four hours for a class.

Grading will be decided based on Report I & II (20%×2) and Term-end examination (60%).

SOC300EC

数理社会学 I

斎藤 友里子

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：木 3/Thu.3

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

数理社会学は、モデルによって社会現象を説明する理論社会学の一分野である。ここでは、派閥ができるとそれを崩すのはなぜ難しいかなどの問いを可能な限りシンプルなロジックで説明することが目指される。問いが個別具体的でもその形式的な特徴が他にも通じるならば、単純なロジックで色々な現象を説明する理論が手に入る。この授業では、主として社会関係や人間関係がつくる「構造」を扱ういくつかのモデルを紹介することで、社会現象を理論的に説明する方法を学習する。

【到達目標】

社会現象の理論的な把握の実例に触れ、多様な現象に共通の形式や仕組みを探するという思考方法の基礎を習得すること

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP8・DP9に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

講義による。学習支援システムを活用して課題を解き、必要なフィードバックを確認することで理解を深める。授業の展開によって、授業計画の若干の変更がありうる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	数理社会学と「モデル」について紹介する
2	「関係」の居心地とバランス (1)	関係のフォーマルな捉え方とハイダーのバランス理論について説明する
3	「関係」の居心地とバランス (2)	バランス理論と均衡概念について説明する
4	派閥が維持されるとき (1)	グラフ理論の基礎概念を導入する
5	派閥が維持されるとき (2)	バランス理論のモデルを導入する
6	派閥が維持されるとき (3)	モデルの展開と含意について説明する
7	弱いつながりの強さ (1)	紐帯と社会の統合について論じる
8	弱いつながりの強さ (2)	グラノヴェターの「弱い紐帯の強さ」理論を導入する。
9	弱いつながりの強さ (3)	「弱い紐帯」とネットワークの特徴のとらえ方について説明する
10	弱いつながりの強さ (4)	グラノヴェターの「弱い紐帯の強さ」理論の検証について論じる
11	つながりの産物としての権力 (1)	「支配関係」がネットワークでどのような形をとるかを考える
12	つながりの産物としての権力 (2)	「支配関係」ネットワークに行列による表現を与える方法を学ぶ
13	つながりの産物としての権力 (3)	権力（勢力）構造の表現について考える
14	構造をとらえるということ	授業のふり返りを通して「構造」について考える

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配布する講義資料を読んで復習すると共に、出された課題に取り組むこと。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教科書は特に指定しない。

【参考書】

土場・小林・佐藤・数土・三隅・渡辺（編）2004『社会をくモデル>でみる－数理社会学への招待』勁草書房。ほか、授業中に指示する。

【成績評価の方法と基準】

平常レポートにより評価する（100%）。

【学生の意見等からの気づき】

時間の許す範囲で、授業中に問題を解説する時間を増やす。

【その他の重要事項】

配布する教材に沿って授業を進める。数学の予備知識は必要ではないが、「モデルを動かす」ことで理解を深める形をとるので、出された課題を着実にこなす努力が必要となる。

【Outline (in English)】

Mathematical sociology is a type of theoretical sociology characterized by its formality and its use of mathematical model. It tries to explain social process as simply as possible. Finding a simple mechanism explaining one "why?" should give us a theoretical tool to explaining various social phenomena (many "why?"). This course provides students an opportunity to learn models of the "structure" emerging from our daily interactions.

The goal for you is to learn the basics of approaching broad range of social phenomena by seeking a common form or common mechanism among them. To accomplish this goal, you are expected to study class materials and finish required assignments. Expected study time for each class is about four hours.

The overall grade will be decided based on the performance on the assignments (100%).

SOC300EC

数理社会学Ⅱ

斎藤 友里子

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：木 3/Thu.3

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

数理社会学は、モデルによって社会現象を説明する理論社会学の一分野である。そこでは、人はどのように社会をイメージするのかなどの問いをシンプルなロジックで説明することが目指される。問いが個別具体的でもその形式的な特徴が他にも通じるなら単純なロジックで色々な現象を説明する理論が手に入る。この授業では、制度の維持と社会過程を扱うモデルの紹介を通して、社会現象を理論的に説明する方法（とその多様性）を学習する。

【到達目標】

社会現象の理論的な把握の実例に触れ、多様な現象に共通の形式や仕組みを探すと思考方法の適用例を学ぶこと

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP8・DP9に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

講義による。学習支援システムを活用して課題を解き、必要なフィードバックを確認することで理解を深める。授業の展開によって、授業計画の若干の変更がありうる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	フォーマルセオリーの役割について紹介する
2	「世代交代」と制度の安定(1)	社会的分業と年齢階梯制について導入する
3	「世代交代」と制度の安定(2)	世代間の役割分担のシステムである「ガダ」のモデル化を説明する
4	「世代交代」と制度の安定(3)	ガダのモデルをもとに制度の安定について考える
5	きょうだいはなぜ結婚できないか(1)	インセスト・タブーへの理論的なアプローチについて紹介する
6	きょうだいはなぜ結婚できないか(2)	White (1963) のモデルについて解説する
7	きょうだいはなぜ結婚できないか(3)	親族システムによる秩序が維持されるための条件について考える
8	きょうだいはなぜ結婚できないか(4)	婚姻と出自をめぐるルールをどう表現するかを考える
9	きょうだいはなぜ結婚できないか(5)	White (1963) モデルの含意のいくつかを解説する
10	なぜ「中流」が多いのか(1)	社会のイメージに関する研究を紹介する
11	なぜ「中流」が多いのか(2)	人との出会いで社会イメージが形成されるというファラロのアイデアを紹介する
12	なぜ「中流」が多いのか(3)	ファラロ (1973) のモデルについて解説する
13	なぜ「中流」が多いのか(4)	社会イメージのパターンや格差の認識についてモデルから導出する
14	社会学と数理モデル	社会学と数理モデルの関係について論じる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配布する講義資料を読んで復習すると共に、出された課題に取り組む。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教科書は特に指定しない。

【参考書】

土場・小林・佐藤・数土・三隅・渡辺（編）2004『社会をくモデル>でみる－数理社会学への招待』勁草書房。ほか、授業中に指示する。

【成績評価の方法と基準】

平常レポートにより評価する（100%）。

【学生の意見等からの気づき】

時間の許す範囲で、授業中に問題を解説する時間を増やす

【その他の重要事項】

配布する教材に沿って授業を進める。数学の予備知識は必要ではないが、「モデルを動かす」ことで理解を深める形をとるので、出された課題を着実にこなす努力が必要となる。

【Outline (in English)】

Mathematical sociology is a type of theoretical sociology characterized by its formality and its use of mathematical model. It tries to explain social process as simply as possible. Finding a simple mechanism explaining one "why?" should give us a theoretical tool to explaining various social phenomena (many "why?"). This course provides students an opportunity to learn models for the maintenance of social institutions and its products.

The goal for you is to learn the basics of approaching broad range of social phenomena by seeking a common form or common mechanism among them. To accomplish this goal, you are expected to study class materials and finish required assignments. Expected study time for each class is about four hours.

The overall grade will be decided based on the performance on the assignments (100%).

SOC300EC

原典講読

樋口 明彦

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：木 3/Thu.3

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

都会の大学で社会学を学ぶことに何の意味があるのだろうか？ 社会学部生なら誰もが一度は抱く疑問を考えるヒントになるのが、ディディエ・エリボン『ランスへの帰郷』（2009）である。著者は地方出身であること、貧しい家庭であること、そしてゲイであること、社会的意味を、自身の経験を通じて語ってゆき、その考察はヨーロッパを席卷する「ポピュリズム」が台頭する理由にまで及ぶ。その論述は、私的なことをスタートとしながら、社会学を考えるうえで新鮮な視点を提供してくれる。確かに、本書はフランスという社会的文脈に依拠しているけれども、日本の大学で社会学を学ぶことの意味を考え直すきっかけも与えてくれるだろう（例えば、有名な社会学理論を学ぶことだけでなく、身近なことを自分と結びつけて社会的に考えることの可能性）。授業では、文献購読だけでなく、できるだけ幅広いフランス事情を知るため、映画・小説・漫画も折に触れて紹介することにした。

【到達目標】

- ①一冊の文献を読解して、内容を正確に理解する。
- ②階級・ジェンダー・差別について、専門的な社会的知識を獲得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP8に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

演習。

- ①参加者は、文献の担当箇所についてレジメを作成し、授業で報告する。
 - ②その後、全員でディスカッションを行う（報告者以外の参加者も、全員が文献を読む）
 - ③各自、購読の終了後、文献についての評価レポートを作成し、報告を行う。
- ※課題等へのフィードバックは、各回の授業内で行う。
※受講者数の多寡に応じて、授業内容を一部変更することがある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	文献紹介、授業の進め方
2	文献購読①	第1章
3	文献購読②	第2章（前半）
4	文献購読③	第2章（後半）
5	文献購読④	第3章
6	文献購読⑤	第4章
7	文献購読⑥	第5章
8	文献購読⑦	エピローグ、解説
9	映画	アニエス・ヴァルダ、フランソワ・リュファン
10	小説	アニー・エルノー
11	漫画	ジャン・トゥレ
12	評価レポート報告①	ディスカッション
13	評価レポート報告②	ディスカッション
14	評価レポート報告③	ディスカッション

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

①テキスト購読、②レジメ作成、③評価レポート作成
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

ディディエ・エリボン『ランスへの帰郷』みすず書房、2020年、3800円＋税

【参考書】

適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

- ①平常点（50 %）
- ②評価レポート（50 %）

【学生の意見等からの気づき】

初回授業のため、なし。

【Outline (in English)】

This lecture is about class, gender and discrimination.

The goal is to acquire intermediate knowledge of it. Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Grading will be decided based on a report (50%), and in-class contribution (50%).

SOC300EC

社会学総合特講A

徳安 彰

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：水 4/Wed.4

その他属性：〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、一般システム理論やサイバネティクス concepts を学び、それを社会現象に適用して、社会現象のメカニズムを理解することを目的とする。

【到達目標】

この授業では以下のようなことができるようになることを目標とする。

- ①一般システム理論やサイバネティクスの概念を理解し、修得することができる。
- ②それらの概念を社会現象に適用することができる。
- ③それらの概念によって社会現象のメカニズムを理解することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP8 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

この授業は、一般システム理論やサイバネティクスの概念について教員が説明する部分と、それを受講生が社会現象に適用して発表し、全員で検討する部分から成り立つ。

授業での討論へのコメント、および授業後の掲示板への書き込みへのコメントによって、疑問点を解消し、さらなるアイデアの展開を促す。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の概要とシステム理論の歴史について概説する。
第 2 回	ホメオスタシス	ホメオスタシスの概念を説明し、社会現象に適用する。
第 3 回	フィードバック	フィードバックの概念を説明し、社会現象に適用する。
第 4 回	モーフォジェネシス	モーフォジェネシスの概念を説明し、社会現象に適用する。
第 5 回	エントロピー	エントロピーの概念を説明し、社会現象に適用する。
第 6 回	シナジェティクス	シナジェティクスの概念を説明し、社会現象に適用する。
第 7 回	カオス	カオスの概念を説明し、社会現象に適用する。
第 8 回	ブラックボックス	ブラックボックスの概念を説明し、社会現象に適用する。
第 9 回	トリビアルな機械／トリビアルでない機械	トリビアルな機械／トリビアルでない機械の概念を説明し、社会現象に適用する。
第 10 回	開放システム／閉鎖システム	開放システム／閉鎖システムの概念を説明し、社会現象に適用する。
第 11 回	オートポイエーシス	オートポイエーシスの概念を説明し、社会現象に適用する。
第 12 回	システム分化	システム分化の概念を説明し、社会現象に適用する。
第 13 回	総括討論 1	全体を振り返り、全員で総合討論を行う。
第 14 回	総括討論 2	全体を振り返り、全員で総合討論を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

とくに用いない。

【参考書】

『社会学理論応用事典』丸善、2017 年（とくに「社会システム」の各項目）。その他の参考書については、授業内で紹介する。

【成績評価の方法と基準】

この授業は、平常点のみで評価する。その内訳は、

- ①授業内での議論 50 %
 - ②授業後の掲示板への書き込みおよびその内容 50 %
- である。授業に出席しなかったばあいには、授業後の掲示板の書き込みも含めて、当日分の評価はゼロである。

【学生の意見等からの気づき】

学生のアイデアをできるだけ共有して、理解を深めるようにしたい。

【学生が準備すべき機器他】

可能ならば自分用のノートパソコンを準備するのが望ましい。

【その他の重要事項】

この授業は、受動的な受講ではなく、能動的に自分で概念を社会現象に適用する作業が最も重要です。毎回、自分の頭を使い、他の受講生と一緒に考えて作業が課せられます。授業に積極的にコミットする姿勢で臨んでください。

【Outline (in English)】

This course introduces several concepts of general systems theory and cybernetics to help students analyze social phenomena.

The goals of this course are (1) to learn several concepts of general systems theory and cybernetics, (2) to apply these concepts to social phenomena, and (3) to understand the mechanism of social phenomena with these concepts.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading will be decided based on in-class contribution(50%) and short reports (50%).

SOC300EC

社会学総合特講B

鈴木 智道

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：月 4/Mon.4

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代思想／現代社会分析に多大な影響を与え続けている 20 世紀後半を代表する哲学者ミシェル・フーコーの諸著作の読解を通して、その思想の社会的な意義を考えていく。本授業では、実際にそれぞれの文献の一部にあたりながらその筆致を体感しつつ、フーコーの思考の道筋を追体験してみる。同時にそれを通して、フーコーが対峙しようとしていた「問題」について、受講者との議論を通して探索することを目的とする。

【到達目標】

・フーコーの思想のもつ、とりわけその社会的な射程について理解を深める。
・それを導きの糸としながら、自分のこれまでのものの見方／社会との対峙の仕方とあらためて向き合い考える。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP8 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

担当教員による講義（解説）と受講者による議論を交互に組み合わせながら授業を進める。ただし、授業計画は、授業の展開により若干の変更の可能性がある。

なお、本科目の履修にあたっては、担当教員が別に担当している「歴史社会学Ⅰ」を今年度春学期までに受講し、単位修得済であることが望ましい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション～なぜいまフーコーなのか？	概要の説明・スケジュール確認
第 2 回	フーコーを読む前に	フーコーの生涯と思想遍歴
第 3 回	社会は「狂気」といかに対峙してきたのか？	『狂気の歴史』を読む
第 4 回	私たちは「自由に」考えることができるのか？	『言葉を物』のを読む
第 5 回	なぜ人は法を守らなければならないのか？	『監獄の誕生』を読む①
第 6 回	私たちはどんな社会に生きているのか？ ①	『監獄の誕生』を読む②
第 7 回	私たちはどんな社会に生きているのか？ ②	『監獄の誕生』を読む③
第 8 回	現代は「ひとびとがすすんで監視される時代」なのか？	『監獄の誕生』を読む④
第 9 回	犯罪者をいかに処遇すべきか？ ①	『監獄の誕生』を読む⑤
第 10 回	犯罪者をいかに処遇すべきか？ ②	『監獄の誕生』のその先で
第 11 回	なぜ「性」は＜隠されるべき＞なのか？	『性の歴史Ⅰ・知への意志』を読む①
第 12 回	私たちはどんな社会に生きているのか？ ③	『性の歴史Ⅰ・知への意志』を読む②

第 13 回 結局、フーコーは何と『性の歴史Ⅱ～Ⅳ』を読む闘っていたのか？

第 14 回 まとめ～フーコーの向 レポートの合評会
こう側

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回で提示する配布資料を通読してみることで、授業内容について理解を深める。

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

必要な文献は、学習支援システムを通して配布する。

【参考書】

ミシェル・フーコー：

『狂気の歴史—古典主義時代における—』新潮社、1961 年＝新装版：2020 年

『言葉と物—人文科学の考古学—』新潮社、1966 年＝新装版：2020 年

『監獄の誕生—監視と処罰—』新潮社、1975 年＝新装版：2020 年

『性の歴史Ⅰ・知への意志』新潮社、1976 年＝1986 年

『性の歴史Ⅱ・快楽の活用』新潮社、1984 年＝1986 年

『性の歴史Ⅲ・自己への配慮』新潮社、1984 年＝1987 年

『性の歴史Ⅳ・肉の告白』新潮社、2018 年＝2020 年

その他の参考書については、開講後に適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

授業への参加度（50%）と最終レポートの水準（50%）により評価する。

【学生の意見等からの気づき】

とくになし。

【Outline (in English)】

The aim of this seminar is to read carefully some of the M. Foucault's works, and to discuss how they have made a great impact on contemporary sociology. Students are expected to deeply comprehend what he said and contemplated, and then come face-to-face with your own viewpoint toward society. Your study time will be more than four hours for a class.

Grading will be decided based on in-class contribution (50%) and the quality of the final paper (50%).

SOC300EB, SOC300EC

統計調査法

齋藤 友里子

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位
曜日・時限：水 5/Wed.5

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

量的データ分析の基礎、社会調査から得られた量的データを分析する際に必要となる基本的な考え方と方法について学ぶ。これを通して、統計学の基礎知識を身につけ、初歩的な仮説検定の手法や考え方を理解することをめざす。

【到達目標】

社会調査から得られた量的データを分析するための基礎知識を習得する。データの分布をどのように把握するか、標本をもとに全体に関する情報をどのように推測するか、自らの仮説をどう検証すればよいかを「わかる」ようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP2・DP4・DP6・DP9に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

講義による。学習支援システムを活用して課題を解き、必要なフィードバックを確認することで理解を深める。授業の展開によって、授業計画の若干の変更がありうる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の内容と目的について概説する
第2回	代表値と測度・分布の記述	データの測度がどのように分析と関連するかを概括する
第3回	確率の考え方	確率の概念を説明する
第4回	確率分布について	統計分布について説明する
第5回	統計的推測(1)：推測統計の基本	母集団と標本、そして統計的推定との関係について論じる
第6回	統計的推測(2)：統計的仮説検定の考え方と平均値の検定	平均値の検定の学習を通して統計的仮説検定の考え方と実際に学ぶ
第7回	「差がある」とはどういうことか	平均の差の検定・比率の差の検定について学ぶ
第8回	2つ以上の平均の差の検定	分散分析について説明する
第9回	クロス集計(1)：解釈のしかた	クロス表の「読みかた」を学ぶ
第10回	クロス集計(2)：検定と関連の指標	クロス表について、検定と関連の諸指標を概説する
第11回	変数のコントロール	変数のコントロールの考え方について説明する
第12回	相関係数と回帰係数	相関係数の性質と解釈、回帰係数との違いおよび関連について説明する
第13回	重回帰分析	重回帰分析について紹介する
第14回	まとめ	授業のふり返しを行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配布する講義資料を読んで復習すると共に、出された課題に取り組む。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教科書は特に指定しない。

【参考書】

ボーンシュテット&ノーキ『社会統計学』ハーベスト社、1990。
ほか授業中に適宜指示。

【成績評価の方法と基準】

平常レポートにより評価する（100%）。

【学生の意見等からの気づき】

時間の許す範囲で、授業中に問題を解説する時間を増やす。

【その他の重要事項】

配布する教材に沿って授業を進める。受講生に数学の予備知識は必要ではないが、出された課題を着実にこなす努力は必要となる。

【Outline (in English)】

Students will learn the basics of quantitative analysis. In doing so, they should understand the logic and method for statistical hypothesis testing.

The goal of this course for you is to know how to grasp statistical distribution, how to make basic statistical inference on population, and how to construct and test a research hypothesis.

To accomplish this goal, you are expected to study class materials and finish required assignments. Expected study time for each class is about four hours.

The overall grade will be decided based on the performance on the assignments (100%).

EDU200EC

発達・教育の理論 I

山下 大厚

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：金 3/Fri.3

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

教育の歴史と思想、および人間発達の理論の形成と展開について学ぶ。

【到達目標】

主要な教育哲学、発達論の思潮のあらましをつかみ、教育実践における重要性を理解する。近代の教育制度の特質を理解し、歴史の中で子どもたちの処遇はどう変化し、今またどうあるべきなのか、考える手立てを得る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP8・DP10に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

講義は配布資料、映像資料を用いて行なう。授業のはじめに前回提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行なう。レポートやテストなどに対する講評、解説は採点后、学習支援システムに掲載するが、個別の質問にも応じたい。また授業計画は適宜変更がありうる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーションと 受講上の注意	education の語源と「発達」／教育を受ける権利と子どもの権利条約
第 2 回	人間の発達とは何か	人類史と霊長類研究における人の発達
第 3 回	子ども（親）の歴史	前近代の産育／ルソーの「子どもの発見」とアリエスの「子どもの誕生」
第 4 回	児童中心主義の展開	ペスタロッチ/オーエン/フレーベル/エレン・ケイ/モンテッソーリ
第 5 回	近代公教育の展開	国民国家と義務教育/ヘルバルト派と新教育
第 6 回	近世、近代日本の教育思想	世阿弥/貝原益軒/福沢諭吉/森有礼
第 7 回	進歩主義教育の展開	デュルケム/デューイ/ラッセル
第 8 回	戦中・戦後の教育と人間観	戦時下の教育/戦後教育改革/高度経済成長と人的能力開発
第 9 回	発達の科学のはじまり	ダーウィン/ビネー/ワトソン/ゲゼル
第 10 回	発達の諸理論 (1)	ピアジェ/ヴィゴツキー/ブルーナー
第 11 回	発達の諸理論 (2)	バンデューラ/ボウルビィ/クライン
第 12 回	発達の諸理論 (3)	M. ミード/A. フロイト/エリクソン
第 13 回	近代学校教育への批判	再生産、脱学校、フリースクールほか
第 14 回	教育における今日的課題	神経科学時代の子どもの教育

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。講義スライド、参考資料、参考文献を活用した準備・復習により理解を深めること。また、普段から子ども・教育・学校に関する話題や報道にも関心を持つこと。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。各回の講義で必要な資料を配布する。

【参考書】

上笙一郎ほか編, 1977, 『日本子どもの歴史 1～7』第一法規. ジョージ・バターワース, ハリス・マーガレット, 1997, 『発達心理学の基本を学ぶ：人間発達の生物学的・文化的基盤』ミネルヴァ書房.

【成績評価の方法と基準】

評価の方法とウェイト：中間レポート (50%) と期末テスト (50%)、およびリアクションペーパーなどによる授業への貢献を加味する。評価の基準：中間レポートは、出題されたテーマを適切に理解し、調べたことだけでなく、自らの考察・思惟が述べられているか評価する。期末テストは、学習内容の理解・修得度を確認する。

【学生の意見等からの気づき】

昨年度は受講生の要望を受け、オンデマンドにも対応したが、録画を見た人はほとんどいないようであった。今年度は対面授業となり（ハイフレックス／オンデマンド対応は未定）講義毎にいただいた質問や感想にも答えていくので、感染対策に留意しつつ多くの方が出席することを期待する。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムの利用が不可欠である。また学習支援システムの受講者名簿には連絡の取れるメールアドレスを必ず登録すること。

【その他の重要事項】

質問などは学習支援システムの掲示板やメールで受け付ける。なお、この科目は発達・教育の理論Ⅱと併せて履修することが望ましい。

【Outline (in English)】

〔Course Outline〕

This course introduces the modern/premodern history of education, philosophy of education, and developmental theories to students taking this course.

〔Learning Objectives〕

By the end of the course, students should be able to do the followings:

- ・ Understand the significance of educational and developmental theories in the practices,
- ・ Outline the trend of philosophy of education and developmental theories,
- ・ Compare and contrast the modern educational system and others.

〔Learning activities outside of classroom〕

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to prepare and review the course content with handouts, reference material, and reference books.

〔Grading Criteria〕

Your final grade will be calculated according to the following process: mid-term report (50%), term-end examination (50%), and a fraction of in-class contribution.

EDU300EC

発達・教育の理論Ⅱ

山下 大厚

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：金 3/Fri.3

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

新たな学習・学力、地域との連携、危機管理、多様性の包摂など「改革」が学校教育に求められる背景と課題、公教育を支える教育行政、学校経営、教員の役割に生じた新たな課題などについて理解する。

【到達目標】

社会の変化と課題、あるいはまた地域に対して「開かれた学校」であることが求められ、その対応が、学校の社会的・制度的・経営的課題となっている。「開かれた学校」づくりの意味と課題、問題点について理解を深める。憲法、教育基本法の教育を受ける権利について理解し、説明することができる。子ども・若者をめぐる諸問題と、社会や大人の役割について議論できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP8・DP10に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

講義は配布資料、映像資料を用いて行なう。授業のはじめに前回提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行なう。レポートやテストなどに対する講評、解説は採点后、学習支援システムに掲載するが、個別の質問にも応じたい。また授業計画は適宜変更がありうる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーションと受講上の注意	公教育を取り巻く現代的課題と「改革」を迫られる学校
第2回	公教育制度の基盤	公教育の原理と理念、教育法体系
第3回	公教育制度の行政と組織	教育行政機構及び学校組織と教員組織
第4回	学力とカリキュラム行政	「新しい学力」と教育課程行政
第5回	教育機会の保障と基盤	改正教育基本法と教育財政
第6回	教職員の働き方改革	改革のポイントと問題点
第7回	学校のガバナンス	学校経営とアカウントビリティ
第8回	地域と連携協働する学校	コミュニティスクールの目的と課題
第9回	学級制度と学級経営	担任の職務と学級経営の課題
第10回	危機管理と安全教育	事故災害、いじめ、ハラスメントの対応
第11回	多様性の包摂と機会保障	不登校、LGBT、外国籍などへの対応
第12回	インクルーシブ教育	特別の支援や配慮が必要な子どもたち
第13回	非行少年の社会的包摂	自立支援、更生を支える仕組みと課題
第14回	学習指導要領の変遷	昭和と平成の教育は何を求めてきたか

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。講義スライド、参考資料、参考文献を活用した準備・復習により理解を深めること。また、普段から子ども・教育・学校に関する話題や報道にも関心を持つこと。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。各回の講義で必要な資料を配布する。

【参考書】

中学校学習指導要領、高等学校学習指導要領（最新版 文部科学省）／佐藤晴雄,2017,『コミュニティ・スクールの成果と展望:スクール・ガバナンスとソーシャル・キャピタルとしての役割』ミネルヴァ書房／グループ・ダイダクティカ編,2012,『教師になること、教師であり続けること—困難の中の希望—』勁草書房／田中正博,佐藤晴雄,2013,『教育のリスクマネジメント—子ども・学校を危機から守るために』時事通信出版局

【成績評価の方法と基準】

評価の方法とウェイト：中間レポート（50%）と期末テスト（50%）、およびリアクションペーパーなどによる授業への貢献を加味する。評価の基準：中間レポートは、出題されたテーマを適切に理解し、調べたことだけでなく、自らの考察・思惟が述べられているか評価する。期末テストは、学習内容の理解・修得度を確認する。

【学生の意見等からの気づき】

昨年度は受講生の要望を受け、オンデマンドにも対応したが、録音を見た人はほとんどいないようであった。今年度は対面授業となり（ハイフレックス/オンデマンド対応は未定）講義毎にいただいた質問や感想にも答えていくので、感染対策に留意しつつ多くの方が出席することを期待する。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムの利用が不可欠である。また学習支援システムの受講者名簿には連絡の取れるメールアドレスを必ず登録すること。

【その他の重要事項】

質問などは学習支援システムの掲示板やメールで受け付ける。この授業は、発達・教育の理論Ⅰと併せて履修することが望ましい。

【Outline (in English)】

〔Course Outline〕

This course introduces the education reform in present-day Japan and the discussion of its social background and problems to students taking this course.

〔Learning Objectives〕

By the end of the course, students should be able to do the followings:

- ・ Understand and explain the Right to Education of the Constitution of Japan and Basic Act on Education,
- ・ Outline the educational problem and reform trend in present-day Japan,
- ・ Discuss the problems of children and youth, and the role of adults and society.

〔Learning activities outside of classroom〕

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to prepare and review the course content with handouts, reference material, and reference books.

〔Grading Criteria〕

Your final grade will be calculated according to the following process: mid-term report (50%), term-end examination (50%), and a fraction of in-class contribution.

SOC200EC

家族社会学 I

宮下 阿子

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：火 3/Tue.3

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現在、「家族の弱体化」等々の言葉で「家族が変わった」と指摘する声が開かれるが、本当に家族は変わったのだろうか。そもそも家族とは何なのか。変わったとすれば、それは何故、またどのように変わったのか。今、家族はどのような状況にあり、これからどのように変わっていくのだろうか。本授業は、こうした疑問を糸口に、身近な「家族」について社会的観点から考察を行うとともに、家族社会学に関する基礎的事項を学ぶ。

【到達目標】

家族社会学の基礎となる概念、視点、方法、研究動向等を学び、家族をめぐる諸現象について社会的視点から考察するための基礎的な力を養成する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP8・DP10に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

授業は講義形式で進める。授業終了時にリアクションペーパー（感想や質問のほか、こちらで内容を指示することもある）を提出してもらい、翌週以降の授業の中で必要に応じてフィードバックを行う。この科目は春学期・秋学期を通じて履修することが望ましい。授業計画は概ね以下の内容を予定しているが、受講者の状況や授業の展開等により変更する可能性もある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の説明
2	家族とは（1）	様々な家族の定義について概説する
3	家族とは（2）	家族の類型と分類について概説する
4	近代化と家族（1）	構造機能主義的視点から家族の変化をとらえる
5	近代化と家族（2）	ジェンダーの視点から家族の変化をとらえる
6	近代化と家族（3）	歴史社会的視点から家族の変化をとらえる
7	戦後日本の家族（1）	家族の戦後体制
8	戦後日本の家族（2）	家族の戦後体制、その後
9	戦後日本の家族（3）	家族計画
10	現代社会と家族（1）	配偶者選択・結婚・離婚について考える
11	現代社会と家族（2）	パートナーシップの多様化について考える
12	現代社会と家族（3）	性別役割分業について考える
13	現代社会と家族（4）	家族・貧困・福祉について考える
14	まとめ	試験の説明とふりかえり

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配布資料を読み返すとともに、必要に応じて参考文献を読み、テーマへの理解を深めることが求められる。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

配布資料を中心に進める。

【参考書】

授業で指示する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（30%）と期末試験（70%）により評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

適宜、学習支援システムを使用する。

【その他の重要事項】

履修予定者は必ず初回授業に出席してください（授業の進め方や成績評価の方法等について詳細を説明します）。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire an understanding of the fundamentals of sociology of families. At the end of the course, students are expected to understand the basic concepts and findings in the field. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Your overall grade in the class will be decided based on the following. Usual performance score: 30%, Term-end examination: 70%.

SOC300EB, SOC300EC

家族社会学Ⅱ

宮下 阿子

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：火 3/Tue.3

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

家族社会学において近年研究が蓄積されつつある家族とケアの諸問題をとりあげ、当該領域における現状や研究動向等を学ぶとともに、家族社会学的視点から考察を深める。

【到達目標】

家族とケアに関する現状や研究動向を理解し、家族社会学的視点から考察するための基礎的な力を養成する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP6・DP7・DP8・DP10に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

授業は講義形式で進める。授業終了時にリアクションペーパー（感想や質問のほか、こちらで内容を指示することもある）を提出してもらい、翌週以降の授業の中で必要に応じてフィードバックを行う。この科目は春学期・秋学期を通じて履修することが望ましい。秋学期のみの受講者は初回に指定する文献を通読すること。授業計画は概ね以下の内容を予定しているが、受講者の状況や授業の展開等により変更する可能性もある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の説明
2	性・生殖と家族（1）	性と生殖の関係性はどうか変化してきたか
3	性・生殖と家族（2）	具体的な事例を通して考える
4	補論	病いや障がいを感じる当事者とその家族
5	家族と子育て（1）	だれが子育てを担うのか
6	家族と子育て（2）	育児休業に焦点を当てて考える
7	家族と子育て（3）	血縁を超えて（親に育てられない子どもたち）
8	家族と子育て（4）	血縁を超えて（里親家族）
9	補論	家族と暴力
10	家族と介護（1）	だれが高齢者を介護するのか
11	家族と介護（2）	具体的な事例を通して考える
12	家族と介護（3）	家族介護者の視点から（男性介護者）
13	家族と介護（4）	家族介護者の視点から（ヤングケアラー）
14	まとめ	試験の説明とふりかえり

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配布資料を読み返すとともに、必要に応じて参考文献を読み、テーマへの理解を深めることが求められる。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

配布資料を中心に進める。

【参考書】

授業で指示する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（30%）と期末試験（70%）により評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

適宜、学習支援システムを使用する。

【その他の重要事項】

履修予定者は必ず初回授業に出席してください（授業の進め方や成績評価の方法等について詳細を説明します）。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire an understanding of the sociological research on family and care. At the end of the course, students are expected to understand the theoretical developments and findings in the field. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Your overall grade in the class will be decided based on the following. Usual performance score: 30%, Term-end examination: 70%.

SOC200EB, SOC200EC

臨床社会学 I

三井 さよ

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：金 1/Fri.1

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

具体的な社会問題について、そこで苦しむ人たち／支援する人たちの葛藤や取り組みに学びつつ、何が問題でどのような解決の模索がありうるのか、社会学の立場に依拠しつつ探る。そこから、具体的な社会問題への取り組み方／向き合い方について学ぶ。

【到達目標】

具体的な社会問題について、一般的に言われる図式だけでなく、渦中にある人たちの葛藤や苦しみに目を向けるとともに、その問題の解決に向けて何がありうるのか、論理的に構想する力を育む。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP6・DP7・DP8・DP10に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

具体的に取り上げるのは、災害支援や高齢者介護と呼ばれる現場についてである。どのような問題を取り上げる際にも、現場でどのような問題が起きているか、それについて公的な制度でどのような対応が考えられてきたか、その限界はどこにあったのか、さらにどのような個別の取り組みが現場でなされたのか、という点を踏まえて論じていく。

必要に応じて、リアクションペーパーを提出してもらおう予定である（内容は任意）。その中で回答が必要と思われるものは、次回以降に全体に向けて解説する。

なお、状況に応じて、障害当事者をはじめとして、支援や介護の現場にいる人たちの講演会を行なう。そのため、授業の予定は変更する可能性がある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	臨床の社会学とは何か	概要の解説
第2回	震災とボランティア	ボランティア論再考
第3回	「災害弱者」の存在	避難所での状況
第4回	復興から「取り残される」人たち	仮設住宅での状況
第5回	支援活動の曲がり角	長期的支援段階
第6回	公的援助システムの限界と継続する支援活動	組織維持とミッションとの対立と共存
第7回	新たな連帯に向けて	コミュニティ経済
第8回	「高齢者」とは誰のことか	歴史的観点から
第9回	家族ゆえの困難	家族介護者への照準
第10回	認知症を生きる	当事者の視点から
第11回	介護の転換(1)	生活リハビリ
第12回	介護の転換(2)	宅老所運動
第13回	介護の転換(3)	共生ケア
第14回	生活モデルへの転換	新たなケアシステム構築に向けて

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

参考書やテキストを各自で読みこなすことを要する。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

指定しない。

【参考書】

三井さよ 2018『はじめてのケア論』有斐閣

三井さよ 2021『ケアと支援と「社会」の発見』生活書院

【成績評価の方法と基準】

平常点（20％）と論文試験（80％）で総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

当事者による講演から多くを学んだという学生が多いため、可能な限り講演の機会を作りたい。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire an understanding of the fundamental principles of clinical sociology. At the end of the course, students are expected to be able to think about caring and supporting as social matters. Your study time will be more than two hours for a class. Final grade will be calculated according to the following process term-end examination (80%), and in-class contribution (20%).

SOC300EC

臨床社会学Ⅱ

三井 さよ

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：金 1/Fri.1

その他属性：〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

具体的な社会問題について、そこで苦しむ人たち／支援する人たちの葛藤や取り組みに学びつつ、何が問題でどのような解決の模索がありうるのか、社会学の立場に依拠しつつ探る。そこから、具体的な社会問題への取り組み方／向き合い方について学ぶ。具体的には、「病い」や「障害」を手がかりとする。

【到達目標】

「病い」「障害」を、「病者」「障害者」やその家族の側から捉え返し、その人たちだけの問題としてきた社会のあり方を問い直すことを目標とする。「病い」「障害」というと、ある人に生じた医学的状態を指すと思われがちだが、「病い」も「障害」は実は社会との間で生まれるものである。車椅子ユーザーにとって移動が困難なのは、車椅子ユーザーを無視した設計になっているためでもある。このように社会との関係から問い直すことによって、人間観や社会規範を根底から見直すことがもたらす自由と創造性を知り、既存の社会構造について問い直す力を身につける。そこから、社会問題に取り組む臨床的な社会学の姿勢を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP8・DP10に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

社会問題の解決を目指す人たちとともに考える臨床社会学の姿勢に基づき、「病い」や「障害」を、一方ではマクロな社会状況と結びつけつつ、他方で個々の人の苦しみに根差しながら再考していく。学校教育、ジェンダーとセクシュアリティ、労働と雇用、犯罪と刑罰、社会保障、差別と包摂など、多くの社会的なテーマと結びつけて解説し、学生それぞれが考えを深められるように促す。

毎回、リアクションペーパーを提出してもらう予定である（内容は任意）。その中で回答が必要と思われるものは、次回以降に全体に向けて解説する。

なお、状況に応じて、障害当事者の講演会を行なう。そのため、授業の予定は変更される可能性がある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	臨床社会学についての解説と、病い・障害の再定義
第 2 回	障害者解放運動の歴史	「青い芝の会」の問いかけ (1)
第 3 回	障害者解放運動の歴史	家族を問い直す (2)
第 4 回	障害者解放運動の歴史	福祉的配慮を問い直す (3)
第 5 回	障害は誰にあるのか①	コミュニケーションを問い直す
第 6 回	障害は誰にあるのか②	個人化の過程
第 7 回	当事者研究の台頭	学問のありようを問い直す
第 8 回	就学運動から	学校／学ぶを問い直す
第 9 回	共に働く運動から	働くことを問い直す
第 10 回	生命倫理を考える	人間の定義について
第 11 回	アートと障害	アートを問い直す
第 12 回	当事者による講演	当事者の観点から
第 13 回	加害／被害とは何か	触法障害者

第 14 回 新たな地域社会へ 排除／包摂の向こうへ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

参考文献やテキストを各自で読みこなすことを要する。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

指定しない。

【参考書】

横塚晃一 2007『母よ！ 殺すな』生活書院
安積純子・尾中文哉・立岩真也・岡原正幸 2013『生の技法：家と施設を出て暮らす障害者の社会学』生活書院
「支援」編集委員会編 2011『支援 vol.1』～2023『支援 vol.12』生活書院

【成績評価の方法と基準】

平常点（20％）とレポート（80％）から総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

当事者による講演から学ぶことが多いという学生の声が多かったので、可能な限り機会を作りたいと思っています。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire an understanding of the fundamental principles of clinical sociology and disability studies. The topics of this course include work in disability history, theory, ethics, and the arts. At the end of the course, students will be able to focus on the lived experiences of individuals with disabilities in practical terms as well. Your study time will be more than two hours for a class. Final grade will be calculated according to the following process term-end examination (80%), and in-class contribution (20%).

SOC200EC

社会心理学 I

土倉 英志

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：水 3/Wed.3

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

社会心理学は、他者や集団との関わりにおける人びとの認知、情動、行動を探究する学問である。本講義では、社会心理学の多様な研究テーマのうち、他者や社会的事象に関する認知、他者から受ける影響、他者との関係性にかかわるテーマをとりあげて、代表的な知見を解説する。

【到達目標】

- ・社会心理学の基本的な知見を理解する
- ・社会心理学の研究手法を理解する
- ・知見を批判的に読み解くスキルを習得する

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP8・DP10に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

- ・講義を中心に展開する。社会心理学の調査を体験したり、グループワークに取りくむ機会を設けたいと考えている。
- ・提出された課題にたいする講評や解説は、授業内で定期的に行なう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	社会心理学とはどのような学問か
2	対人認知	他者のイメージはいかに作られるのか
3	社会的推論 1	出来事の原因をいかに推論するのか
4	社会的推論 2	他者をどのように理解するのか
5	社会的推論 3	推論はどのようになされるのか
6	態度変化	態度はどのように変わるのか
7	社会的影響	他者からどのように影響を受けるのか
8	対人魅力	どのように魅力を感じるのか
9	社会的自己 1	自己とはいかなるものか
10	社会的自己 2	自己はどのように作用しているのか
11	援助行動 1	どうして他者に手を差し伸べないのか
12	援助行動 2	どうして他者に手を差し伸べないのか
13	寛容性	他者にやさしくあるとは
14	まとめ	まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・講義内容の理解に努め、次回の講義までに復習を行なう。
- ・本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

- ・教科書はなし

【参考書】

- ・池田謙一他（2019）『社会心理学・補訂版』（New Liberal Arts Selection）. 有斐閣.
- ・他の参考文献は講義において紹介する。

【成績評価の方法と基準】

- ・授業内外で実施する課題の評価を合計して成績を評価する（100%）。
- ・定期試験は実施しないため、日々の取り組みが重要となる。
- ・課題の詳細は初回の授業で説明するので必ず出席すること。

【学生の意見等からの気づき】

- ・研究の方法論の理解をうながせるよう工夫したい。

【学生が準備すべき機器他】

- ・学習支援システムを利用する。

【その他の重要事項】

- ・授業を欠席した場合は後日、配付資料を参照してください。「欠席したので知りませんでした」と言うのは無しです。

【Outline (in English)】

Lectures in social psychology. Social psychology is interested in people's cognition, emotions, and behavior in social situations. This course addresses topics in social cognition, social impact, interpersonal relations, etc. The objective of this course is to acquire basic foundational knowledge in social psychology. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Grades will be based on the total of assignments in and out of class (100%).

SOC300EC

社会心理学Ⅱ

土倉 英志

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：水 3/Wed.3

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

社会心理学は、他者や集団との関わりにおける人びとの認知、情動、行動を探究する学問である。本講義では、社会心理学の多様な研究テーマのうち、文化と心理の関連性、文化的道具論、行為と誘因の関連、ステレオタイプと偏見、現在の社会システムを維持させる要因といったテーマをとりあげて、代表的な知見を解説する。

【到達目標】

- ・社会心理学の基本的な知見を理解する
- ・社会心理学の研究手法を理解する
- ・知見を批判的に読み解くスキルを習得する
- ・社会事象を社会心理学的に解釈できるようになる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP8・DP10に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

- ・講義を中心に展開する。社会心理学の調査を体験したり、グループワークに取り組み機会を設けたいと考えている。
- ・提出された課題にたいする講評や解説は、授業内で定期的に行なう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	もう一つの社会心理学、文化心理学、集団社会心理学・グループ・ダイナミックスとは何か
2	文化と心理の関連性	文化・歴史とともにある認知
3	文化と心理の関連性	文化・歴史とともにある認知
4	認知と文化的道具	文化的道具によって媒介される認知
5	認知と文化的道具	文化的道具によって媒介される認知
6	分散された認知	人びとのあいだに分散している認知と活動
7	文化的実践と学び	私たちはなぜ学ぶのか
8	誘因と行為の関連	誘因の構造と行為の関連
9	誘因と行為の関連	誘因の構造と行為の関連
10	集団意思決定	集団意思決定と集団生産性
11	ステレオタイプと偏見	偏見がもたらす問題
12	ステレオタイプと偏見	偏見の解消に向けて
13	社会変化を阻害する要因	なぜ現行のシステムは維持されるのか
14	まとめ	まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・講義内容の理解に努め、次回の講義までに復習を行なう。
- ・グループワーク課題に取り組む。
- ・本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

・教科書はなし。

【参考書】

- ・ガーゲン（1998）『もう一つの社会心理学』。ナカニシヤ出版。
- ・石黒広昭・亀田達也（編）（2010）『文化と実践』。新曜社。
- ・ドナルド・ノーマン（2022）『人を賢くする道具』。筑摩書房。

- ・レイヴ&ウェンガー（1993）『状況に埋め込まれた学習』。産業図書。
- ・他の参考文献は講義において紹介する。

【成績評価の方法と基準】

- ・授業内外で実施する課題の評価を合計して成績を評価する（100%）。
- ・定期試験は実施しないため、日々の取り組みが重要となる。
- ・課題の詳細は初回の授業で説明するので必ず出席すること。

【学生の意見等からの気づき】

- ・研究の方法論の理解をうながせるよう教材を工夫したい。

【学生が準備すべき機器他】

- ・学習支援システムを利用する。

【その他の重要事項】

- ・授業を欠席した場合は後日、配付資料を参照してください。「欠席したので知りませんでした」と言うのは無しです。
- ・春学期の学習を前提に授業を進めるため、あわせて受講することをすすめます。

【Outline (in English)】

Lectures in social psychology. Social psychology is interested in people's cognition, emotions, and behavior in social situations. This course addresses topics in cultural psychology, cognitive tools, social dilemma, stereotypes, prejudice, just world hypothesis, etc. The objective of this course is to acquire basic foundational knowledge in social psychology. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Grades will be based on the total of assignments in and out of class (100%).

SOC200EC

エイジングの社会学

姫野 宏輔

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位
曜日・時限：木 4/Thu.4

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本科目は、現代社会における「エイジング（老い）」がもたらす社会問題に対して、どのような社会のあり方を目指すことが望ましいのか、高齢化の進んだ地域の実例から考えていく授業です。先んじて結論を述べてしまうと、「どんな地域もこうすればみんな幸せになれる」といった魔法の万能薬のような社会デザインは存在しません。ひとが老いていくとき、そのひとが暮らす場所では何が問題となるのか、それはなぜなのか、周囲のひとびとはどのような対策をとろうとしているのか、政府はどのような対策をとろうとしているのか、といったことを地道に調べて、できるだけ多くのひとが幸せを感じることができるように試行錯誤を繰り返す他はありません。

そのためこの授業では、「教えられたことを覚える」ことよりも、学生の皆さんが「自分で考えてみる」ことを重視します。授業はガイダンスを除いて2回を1セットにして、(前半)重要なキーワードを学ぶ→(後半)実際にその問題が発生している実例をもとにどうすれば良いか考えてみる、という形式を繰り返します。後半の実例を見る授業回では映像作品も使用します。

今後さらに高齢化率が上昇していく社会を生きる皆さんが、エイジングのもたらす社会問題に直面したときに参考になるよう、たくさんの事例を見ていきますので、望ましい社会福祉のあり方について、一緒に考えていきましょう。

【到達目標】

次の2点を到達目標とする。

(1) エイジングがもたらす社会問題について、基本的な知識や類型を身につけて理解することができる。

(2) 自分の身の回りで起こっているエイジングにまつわる社会問題について、その問題点を発見し、解決に向けての行動案を自分なりに考えることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP8・DP10に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

授業は講義形式で行います。ガイダンスを除いて授業は2回を1セットにして、(前半)重要なキーワードを学ぶ→(後半)実際にその問題が発生している実例をもとにどうすれば良いか考えてみる、という形式を繰り返します。1セット終了ごとに「自分ならこの社会問題に対してどう取り組むか」を考えたコメントカードを提出してもらいます。コメントカードで寄せられた意見や質問はいくつかを取り上げて次の授業の冒頭で解説し、フィードバックします。正解のコメントといったものではありません。自由な発想で、自分の言葉を使って、自分ならどうするかを考えられているかどうかを確認します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンスとイントロダクション	・授業の内容、進め方、提出課題等について説明する。 ・ひとが「老いる」ということはどういうことか、多角的に考えてみる。
2	老いとディスアビリティ (1)	・ディスアビリティ概念について

3	老いとディスアビリティ (2)	・実例をもとに、自分がディスアビリティにまつわる社会問題に直面したらどうするか、自分なりに考えてみる。
4	老いと家族・血縁 (1)	・家族と親族によって支えられてきた日本の高齢者介護について
5	老いと家族・血縁 (2)	・自分の家族・親族が老いに直面したらどうするか、自分なりに考えてみる。
6	老いと人間関係 (1)	・老いと社会的孤立の相関関係について
7	老いと人間関係 (2)	・老いた後にどのような人間関係を結ぶことが望ましいと思うか、自分なりに考えてみる。
8	老いと経済・年金 (1)	・老いたあとの経済活動と日本の社会福祉政策について
9	老いと経済・年金 (2)	・老いて経済活動に携わることが難しくなった人々に対して、どのような社会政策が望ましいと思うか、自分なりに考えてみる。
10	老いと世代間格差 (1)	・日本社会の少子化と労働力人口の減少について
11	老いと世代間格差 (2)	・若年世代と高齢世代が対立しているという言説について、自分なりに社会の将来像を考えてみる。
12	エイジング社会のデザイン (1)	・アメリカ合衆国のような福祉社会のありかたについて
13	エイジング社会のデザイン (2)	・スウェーデンのような福祉社会のありかたについて
14	授業の総括	・授業中でとりあげたトピックを振り返り、自分ならどのようなエイジング社会のデザインが望ましいと思うか、考えてみる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の授業で配布される資料を読み返すことを基本にしてください。丸暗記の必要はありません。資料で紹介されている様々な事例で、「自分ならどうするか」を簡単にいいので考えておくことが重要です（授業の目標的にも、課題を提出するうえでも）。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし。
毎回の授業の中で参考資料を配布します。

【参考書】

特になし。
毎回の授業の中で参考資料を配布します。

【成績評価の方法と基準】

老いがもたらす社会問題について、自分自身の言葉で問題の要点を説明し、対策を考えることができているかを評価の基準とし、その達成度によって評価する。
得点の配分は、2回の授業ごとに課されるコメントカード提出を平常点として50%、期末レポートを到達度の確認として50%の配分で、総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

2022年度の授業で一番学生からの反響が大きかったのは「世代間格差」の授業回でした。この令和の時代に大学生として生きている皆さんは、多くのところで「高齢者は優遇されている」「自分たちは冷遇されている」という実感を持っている人が多いのではないでしょうか。この授業は「エイジングの社会学」ですが、授業概要にも記載したとおり、「高齢者を大事にしろ」という授業ではありません。むしろ上記のような実感を持っている人向けに、興味関心を抱いてもらえるような教材を増やしましたので、多くの方の受講をお待ちしております。

【Outline (in English)】

This course introduces social problems concerning the aging society. The aim of this course is to help students get the skills and knowledge needed to live in the aging society. At the end of the course, you are expected to describe your ideal vision of the future society. This course will be given by Japanese language.

SOC200EB, SOC200EC

環境社会学 I

堀川 三郎

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：火 2/Tue.2

その他属性：〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

近年台頭してきた環境社会学について概説する。ここでは、環境社会学を便宜的に「環境問題の社会学」と「環境共存の社会学」という2つのサブカテゴリーに分類し、本講義では、前者を取り扱う。具体的には、足尾鉍毒事件と水俣病問題を取り上げて「公害・環境問題」の内実を理解する。こうした事例の検討を通じて、被害構造論等の諸理論を検討する。

【到達目標】

理系の学問ではなく、社会学で環境問題を分析可能なのだということを理解できるようになること

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP6・DP7・DP8・DP10に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

まず詳細な事例研究を行って「環境問題」の内実を理解した上で、そうした「環境問題」を学問的に分析しようとして産み出されてきた諸理論（被害構造論、社会的ディレンマ論）を詳しく検討する。このように、事例研究の基盤の上に理論の検討がなされるという講義の構成は、問題の発生に促されて形成されてきた環境社会学の成立過程をいわば「追体験」するものだ。未曾有の公害に直面した時、既存の知の枠組みが対応できずにいたのはなぜか、そこにどのような人と言葉（概念）が集まって新たな学問を創り上げてきたのか。講義ではこうした重要な問いを、受講生と一緒に考えてゆきたい。そのためにグループに分かれてディスカッションを行うこともある。毎回、「学生からのコメント」を提出してもらい、それらに対して翌週にコメントをすることによって学生へのフィードバックとする。必ず、秋学期の「環境社会学 [II]」とセットで履修すること。対面授業か、オンラインか、あるいはその組み合わせか—コロナ感染状況に依存するので、臨機応変に授業形態を決める予定である。対面授業になっても対応できるように準備しておくこと。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	社会学・再入門	環境社会学とはどのような社会学か
2	「3.11」の衝撃	今、問うべきは何か
3	公害・環境問題の考古学	問題史の概観
4	足尾鉍毒事件 (1)	事件の概要
5	足尾鉍毒事件 (2)	別紙銅山との比較
6	水俣病事件 (1)	事件の概説
7	水俣病事件 (2)	漁民の視点
8	水俣病事件 (3)	支援者の視点
9	水俣病事件 (4)	チッソの視点
10	水俣病事件 (5)	行政の視点
11	水俣病事件 (6)	認定制度の視点
12	環境問題の社会学における理論 (1)	被害構造論
13	環境問題の社会学における理論 (2)	社会的ディレンマ論
14	期末テスト	春学期の理解内容の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

必要に応じて随時指示するが、基本的に、文献を事前に読むことが必要となる。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。必要に応じてプリントを配布する。

【参考書】

毎時間、リストを配布する。

【成績評価の方法と基準】

対面授業の場合は毎回の課題レポート（80%）と期末試験（20%）で評価する。オンライン授業の場合は、毎回の課題レポートで評価する（100%）。初回のガイダンスに必ず出席すること。

なお、レポート課題は、毎日が論文試験に相当するものであり、したがって不正行為は学則によって処分されるので十分に注意すること。

【学生の意見等からの気づき】

毎時間、リアクション・ペーパーを提出してもらい、必要に応じてそれに担当教員が応答するスタイルをとっている。昨年度も好評だったので継続する。

【学生が準備すべき機器他】

毎回、プリント類を配布する（オンラインの際は学習支援システムを使って配布するので、各自で使い方に習熟しておくこと）。また、対面授業ではビデオ映像などを随時使用する予定である。

【その他の重要事項】

必ず、秋学期の「環境社会学 [II]」とセットで履修すること。

【Outline (in English)】

Social life never happens in a vacuum. What kind of changes are induced in communality by changes in the physical urban environment, and how does that in turn alter the urban environment? Those are basic questions this course addresses. To do this, we take a social and historical approach to understand contemporary environmental challenges. At the end of the course, students are expected to explain the essential concepts of environmental sociology, identify the policies and understand key challenges related to Japanese environmental policies. Students will be expected to have completed the required assignments before each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class. Final grade will be decided based on short reports (100%) when given online and the term-end examination (100%) when in-person.

SOC300EB, SOC300EC

環境社会学Ⅱ

堀川 三郎

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位
曜日・時限：火 2/Tue.2

その他属性：〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

近年台頭してきた環境社会学について概説する。ここでは、環境社会学を便宜的に「環境問題の社会学」と「環境共存の社会学」という2つのサブカテゴリーに分類し、本講義では、後者を取り扱う。具体的には、国内諸都市やアメリカの事例を取り上げて「環境共存」の内実を理解する。さらに、地球温暖化や福島原発事故も取り上げながら、「我々は原子力と共存できるのか」という愁眉の課題の考察を行ない、エコロジカル近代化論等の諸理論を検討する。

【到達目標】

理系の学問ではなく、社会学で環境問題を分析可能なのだということを理解すること

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP6・DP7・DP8・DP10に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

まず詳細な事例研究を行って「環境問題」の内実を理解した上で、そうした「環境問題」を学問的に分析しようとして産み出されてきた諸理論（生活環境主義、歴史的環境の社会学）を詳しく検討する。このように、事例研究の基盤の上に理論の検討がなされるという講義の構成は、問題の発生に促されて形成されてきた環境社会学の成立過程をいわば「追体験」するものだ。そこにどのような人と言葉（概念）が集まって新たな学問を創り上げてきたのか。講義ではこうした重要な問いを、受講生と一緒に考えてゆきたい。そのためにグループに分かれてディスカッションを行うこともある。毎回、「学生からのコメント」を提出してもらい、それらに対して翌週にコメントをすることによって学生へのフィードバックとする。必ず、春学期の「環境社会学 [I]」とセットで履修すること。対面授業か、オンラインか、あるいはその組み合わせか—コロナ感染状況に依存するので、臨機応変に授業形態を決める予定である。対面授業になっても対応できるように準備しておくこと。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロ	秋学期への導入
2	環境問題の深化	視えない構造
3	「3.11」と温暖化	構造と政策
4	「共存」の社会学 (1)	小樽 (1)
5	「共存」の社会学 (2)	小樽 (2)
6	「共存」の社会学 (3)	小樽 (3)
7	「共存」の社会学 (4)	竹富島
8	「共存」の社会学 (5)	セントルイス (1)
9	「共存」の社会学 (6)	セントルイス (2)
10	「共存」の社会学 (7)	気候変動
11	「共存」の社会学 (8)	福島原発事故
12	環境問題の社会学における理論 (1)	生活環境主義
13	環境問題の社会学における理論 (2)	エコロジカル近代化論
14	期末テスト	理解度の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

必要に応じて随時指示するが、基本的に、文献を事前に読むことが必要となる。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。必要に応じてプリントを配布する。

【参考書】

毎時間、リストを配布する。

【成績評価の方法と基準】

対面授業の場合は毎回の課題レポート（80%）と期末試験（20%）で評価する。オンライン授業の場合は、毎回の課題レポートで評価する（100%）。初回のガイダンスに必ず出席すること。

なお、レポート課題は、毎日が論文試験に相当するものであり、したがって不正行為は学則によって処分されるので十分に注意すること。

【学生の意見等からの気づき】

毎時間、提出してもらおうリアクション・ペーパーに担当教員が応答することで授業内容を改善している。昨年度も好評であったため、継続する。

【学生が準備すべき機器他】

毎回、プリント類を配布する（オンラインの際は学習支援システムを使って配布するので、各自で使い方に習熟しておくこと）。また、対面授業ではビデオ映像などを随時使用する予定である。

【その他の重要事項】

必ず、春学期の「環境社会学 [I]」とセットで履修すること。

【Outline (in English)】

Social life never happens in a vacuum. What kind of changes are induced in communality by changes in the physical urban environment, and how does that in turn alter the urban environment? Those are basic questions this course addresses. To do this, we take a social and historical approach to understand contemporary environmental challenges. At the end of the course, students are expected to explain the essential concepts of environmental sociology, identify the policies and understand key challenges related to Japanese environmental policies. Students will be expected to have completed the required assignments before each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class. Final grade will be decided based on short reports (100%) when given online and the term-end examination (100%) when in-person.

SOC200EC

現代農業・農村の社会学

大倉 季久

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：水 2/Wed.2

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代の農業・農村で起こっている出来事や、生じている課題について、「グローバル化」、「テクノロジーの進化」、「個人化」といった現代社会の構造変動とのかかわり合いのなかで考察する。

【到達目標】

- ・現代の農業・農村で起こっている諸課題を社会学の視点から理解すること。
- ・さまざまな社会課題を農業、農村の立場から考える視点を獲得すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP8・DP10に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

講義形式で行う。授業資料については、事前配布を基本とする。毎回、リアクションペーパーの提出を求め、それを次の回以降の授業内容にも適宜反映させていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	何を学び、何を考えるのか：講義の概略と解説
第 2 回	交錯する農業・農村像 (1)	田舎は苦しい
第 3 回	交錯する農業・農村像 (2)	田舎は楽しい
第 4 回	グローバリゼーションと農業・農村	グローバル化は農業の危機か？
第 5 回	テクノロジーと農業・農村 (1)	農業とテクノロジー
第 6 回	テクノロジーと農業・農村 (2)	食とテクノロジー①「美味しさ」の光と陰
第 7 回	テクノロジーと農業・農村 (3)	食とテクノロジー②「脱肉食」の問い
第 8 回	個人化社会の農業・農村 (1)	「個人化する消費」との交差
第 9 回	個人化社会の農業・農村 (2)	農業とアントレプレナーシップ
第 10 回	料理人の社会学	農業と消費者をつなぐ新しい担い手
第 11 回	食の分配と農業・農村 (1)	フードロスから考える
第 12 回	食の分配と農業・農村 (2)	フード・セキュリティと飢餓
第 13 回	荒れる大地と農業・農村 (1)	人口減少、獣害、耕作放棄
第 14 回	荒れる大地と農業・農村 (2)	森林開発、気候変動、戦争

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

使用しない。

【参考書】

榎渥俊子ほか『食と農の社会学：生命と地域の視点から』ミネルヴァ書房。

ほか、授業内で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

中間レポート（30%）、最終レポート（60%）、授業ごとのリアクションペーパーの内容（10%）を基準として評価する。

【学生の意見等からの気づき】

本年度からの担当ですので特にありません。

【Outline (in English)】

(Course outline)

This course examines the events and issues occurring in modern agriculture and farming villages in relation to social changes such as "globalization," "evolution of technology," and "individualization."

(Learning Objectives)

The goals of this course are to understand various issues occurring in modern agriculture and farming villages from a sociological point of view and to gain a perspective to think about various social issues from agriculture and farming villages.

(Learning activities outside of classroom)

Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.

(Grading Criteria /Policies)

Final grade will be calculated according to the following process: Mid-term report (30%), term-end report (60%), and in-class contribution.

SOC200EC

地域環境論

大倉 季久

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：水 2/Wed.2

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

年を追うごとに切迫しつつある地球環境の危機を、「地域」の視点から読み解く。授業では、とりわけ、サステイナブルな社会を築くプロジェクトを担う人びとによる課題解決を探るアクションに関心を寄せながら、現代の環境危機の考察を深める。

【到達目標】

- ・環境危機の解決の難しさと可能性を「地域」という視点から理解すること。
- ・環境危機に対する様々なアクションから、地域課題に関する深い理解を獲得すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP8・DP10に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

講義形式で行う。授業資料については、事前配布を基本とする。毎回、リアクションペーパーの提出を求め、それを次の回以降の授業内容にも適宜反映させていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	「地域環境」とは何だろうか。
第2回	持続可能性とは何か	地域環境をとりまく基本問題
第3回	地域環境を捉える（1）	環境と資源の人類史
第4回	地域環境を捉える（2）	資源管理を担う人びと
第5回	縮小する地域と地域資源をめぐる岐路	縮小社会の時代と地域環境の現在地
第6回	エネルギー転換と地域環境（1）	再生可能エネルギーの実力
第7回	エネルギー転換と地域環境（2）	エネルギー転換の政策構想
第8回	エネルギー転換と地域環境（3）	エネルギー転換と地域資源のゆえ
第9回	荒れる森林の謎（1）	日本の森林が抱えた問題とは？
第10回	荒れる森林の謎（2）	脱常識の思考で問題を理解する
第11回	荒れる森林の謎（3）	グローバル化と地域環境
第12回	持続可能な地域のデザイン（1）	都市を変革する
第13回	持続可能な地域のデザイン（2）	移住者がつくる地域
第14回	持続可能な地域のデザイン（3）	気候危機の時代の「地域環境」

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

指定しない。

【参考書】

小田切徳美編『新しい地域をつくる：持続的農村発展論』岩波書店。ほか、適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

中間レポート（30%）、最終レポート（60%）、授業ごとのリアクションペーパーの内容（10%）を基準として評価する。

【学生の意見等からの気づき】

今年度からの担当ですので特にありません。

【Outline (in English)】

(Course outline)

This class considers the crisis of the global environment from the viewpoint of "local community".

(Learning Objectives)

The goals of this course are to understand the difficulty and possibility of resolving environmental crises from the viewpoint of local community and to be able to think about local issues from the actions of local residents who seek solutions to environmental crises.

(Learning activities outside of classroom)

Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.

(Grading Criteria /Policies)

Final grade will be calculated according to the following process
Mid-term report (30%), term-end report (60%), and in-class contribution.

SOC100EC

文化社会学 B

武田 俊輔

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：火 1/Tue.1

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講義では伝統的な文化の変容や創造、(再)構築を手がかりとして、近現代における日本の地域社会やコミュニティについて論じる。そうした伝統文化を通じたまちづくりが地域住民や担い手、その当の文化そのものに対してどのような影響を与えるのかについて分析する。そうした中で地域やコミュニティにおいて文化を継承することの意味と可能性について学生が考えることができるようになることを目的としている。

【到達目標】

地域やコミュニティにおいて人口減少や過疎高齢化が進む中で文化の継承をめぐる困難と共に、住民たちや担い手にとってなぜ伝統的な文化や芸能がかけがえないものと感じられるのか、それらが観光やまちづくりに活用される中での矛盾、一方でそうした状況を逆手に取りながら文化を継承していく人々のしたたかさといった点について、社会学的に分析・理解できるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP8・DP10に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

対面での講義となる。ただしコロナへの感染や濃厚接触など、個別に対応する必要がある学生については、学部からの指示に基づいて対応する。具体的には講義初回に通知する。概念や理論を、具体的な文化やその担い手が置かれた社会的状況に即して把握してもらうために、対面での講義の場合は視聴覚資料を用いる。また対面に参加できない学生に対しては、オンラインで閲覧できる映像・視聴覚資料について指示しつつ講義を行う。毎回提出してもらうアクションペーパーのうち、代表的なものや興味深いものをピックアップして、フィードバックを行う。授業計画は授業の展開によって、若干の変更があり得る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	講義の目的と進め方の説明
2	戦後地域政策・文化政策の中の「伝統」文化	戦前・戦後日本において「伝統」を通じた「まちづくり」がなぜ喚起されてきたのかを論じる
3	「伝統」が創られるとき	創造された伝統としての「民謡」
4	「伝統」としての和太鼓イメージ	戦後における「和太鼓」をめぐる表象の構築
5	真正性をめぐる揺らぎ(1)	伝統文化における「保存」と「観光」
6	真正性をめぐる揺らぎ(2)	担い手にとっての「本物」・専門家にとっての「本物」
7	「伝統」のダイナミズム(1)	変化し続ける「伝統」としての都市祭礼
8	「伝統」のダイナミズム(2)	祭礼における観光化・文化遺産化の流用
9	「伝統」のダイナミズム(3)	原発反対運動から見出された祝島の「伝統」
10	移動と混淆が生み出す「伝統」(1)	移民たちによる複数の「十九の春」の創造

11	移動と混淆が生み出す「伝統」(2)	アイス舞踊の継承と再創造
12	新たな継承の形	アーティストを介した民俗芸能の継承
13	個人化・流動化した祝祭	都市部を中心とした個人化・流動化したネットワークを基盤とした祝祭
14	まとめ	現代の地域社会において「伝統文化」が継承される意味と可能性を考える

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回の授業内容は深く関連しているので、前回の講義内容を復習した上で授業に臨むこと。また毎回の授業後に、Hoppiiでレスポンスを提出すること。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

俵木悟,2018,『文化財／文化遺産としての民俗芸能：無形文化遺産時代の研究と保護』勉誠出版。

牧野修也編,2021,『変貌する祭礼と担いのしくみ』学文社。

武田俊輔,2019,『コモングとしての都市祭礼：長浜曳山祭の都市社会学』新曜社。

【成績評価の方法と基準】

リアクションペーパーの内容(28%)、期末レポート(72%)。

【学生の意見等からの気づき】

前回のリアクションペーパーへの返答を通じて、学生の反応や直接のリアクションにより対応した形で、講義を進めていく。

【Outline (in English)】

This lecture discusses modern and contemporary local society and community focusing on the invention and (re)construction of traditional culture in Japan. It analyzes the impact of community development through traditional culture on the local residents, the bearers, and the culture itself.

The purpose of this lecture is to enable students to analyze and understand the following three points from a sociological perspective.

(1) What are the difficulties involved in passing on traditional culture in the face of declining populations and aging populations in regions and communities?

(2) Why do residents and bearers of traditional culture and performing arts feel that they are essential?

(3) What problems arise when traditional culture is used for tourism and community development, and what is the resilience of people who take advantage of such circumstances to pass on their culture?

The contents of each class are deeply interrelated, so please review the contents of the previous lecture before coming to class. Students will be expected to submit their short report via Hoppii after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

Your overall grade in the class will be decided based on the following. Term-end examination: 72%, Short reports : 28%

CUA200EC

文化人類学

謝 荔

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：火 2/Tue.2

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

人間の文化（生活様式）の多様性と普遍性について、諸民族の事例を取りあげ、世界諸地域の人びとの生活、信仰、文化変容を理解すると同時に、自文化を相対化する考え方も学んでいく。

【到達目標】

文化人類学の基礎的な知識、アプローチが理解できるようになる。フィールドワークに基づいて書き上げられた民族誌などの事例を通して世界の諸地域に暮らす人びとの文化の多様性を知り、異文化の理解を深め、視野を広げることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP8・DP10に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

授業で取り上げるテーマに関連する文化人類学の概念について説明し、映像を含む資料を用いながら世界の諸民族の文化の事例を取り上げる。講義内容のレジュメを配布し、パワーポイントを使用し進めていく。

授業の初めに前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

なお、授業計画は授業の展開によって、若干の変更があり得る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1.	ガイダンス	(1) 文化人類学とは、隣接の研究分野との関連性、(2) 授業のトピックス、進め方と評価方法
2.	通過儀礼	通過儀礼の構造、暦と年中行事（季節儀礼）
3.	通過儀礼	祝祭日の重層性
4.	通過儀礼	人生儀礼（誕生、成人式、婚姻儀礼）
5.	通過儀礼	人生儀礼（葬送儀礼の構造、現代社会の樹木葬）
6.	家族と親族	家族のかたちと住まい
7.	宗教と世界観	神話
8.	宗教と世界観	風水の環境認識および実践
9.	生業形態と文化	狩猟採集社会の文化の継承と変容
10.	生業形態と文化	牧畜社会の動物観、文化の継承と変容
11.	生業形態と文化	農業と「文化的景観」、「世界農業遺産」
12.	嗜好品文化	コーヒーの栽培、飲用、「伝統」の再考
13.	文化の展示、まとめ	人類学・民族学博物館と文化の展示、まとめ
14.	レポートの解説	提出された期末レポートの解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内容に関連する資料を調べ、リアクションペーパーを通じて積極的に発言してほしい。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。

【参考書】

授業中に提示する。

【成績評価の方法と基準】

リアクションペーパー（授業終了時に毎回提出）の内容を中心とする平常点（遅刻や早退をした場合は減点）50%と期末レポート50%で成績を評価する。授業の具体的な内容に即していないものは評価の対象としない。

【学生の意見等からの気づき】

授業に画像や映像資料を多めに取り入れること。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。オンライン授業を行う場合は、通信機器と通信環境を確保しておくこと。

【その他の重要事項】

学習支援システム上の連絡事項をよく確認すること。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire an understanding about various culture of the world from the viewpoint of cultural anthropology.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.

Grading will be decided based on final paper (50%), and the quality of the students' reaction papers (50%).

SOC200EC

宗教社会学

永井 美紀子

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位
曜日・時限：火 3/Tue.3

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

普段、宗教とは無関係な生活をしているように思えても、実は私たちは多くの宗教的な意味とともに暮らしていることに気づく。宗教文化に関する基礎的な知識を習得した上で、宗教を見つめる視点を構築し、社会との関わりのなかに存在する宗教的現象を客観的に捉えなおそう。

【到達目標】

①主要な宗教伝統に関して、それぞれの歴史的経緯や特徴などの基礎的な知識を身につけることができる。②それらの知識をもとに、社会にみられる多様な宗教的な現象に気づくことができる。③自分を取り巻く環境における宗教的な現象を客観的に把握し理解することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP8・DP10に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

授業は対面による講義形式です。①授業当日の資料教材は授業時に配布します（授業内容のレジュメではありません）。後日、学習支援システムにも掲げます。②授業内でのリアクションペーパーや課題ペーパーの提出があります。あるいは、授業日当日中が提出期限の学習支援システムにて提出する小テストの場合もあります。③授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーをいくつか取り上げ補足説明したり、小テストの解答説明等のフィードバックを行ないます。④授業計画は授業の展開によって、若干の変更があることがあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	「宗教」という言葉・宗教と社会との関わり
2	主要な宗教伝統 1	唯一神信仰の大きな流れ・はじまりとしてのユダヤ教
3	主要な宗教伝統 2	ユダヤ教における新宗教運動としてのキリスト教
4	主要な宗教伝統 3	イスラームにおける共同体の意味
5	主要な宗教伝統 4	唯一神信仰の大きな流れ・補足説明
6	アジアにおける仏教の展開と変容 1	インドにおける新宗教運動としての仏教
7	アジアにおける仏教の展開と変容 2	仏教の大きな二つの流れ
8	アジアにおける仏教の展開と変容 3	日本における仏教受容・神仏習合
9	近代以降の日本の宗教状況 1	近代宗教行政政策の余波
10	近代以降の日本の宗教状況 2	神道の「解体」とその後
11	近代以降の日本の宗教状況 3	新宗教運動の発生と展開
12	社会のなかの宗教 1	宗教意識の国際比較・日本とヨーロッパ
13	社会のなかの宗教 2	アメリカの宗教意識

14 社会のなかの宗教 3 補足説明

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

取り扱う宗教の基礎知識に関しては、日本史や世界史、倫理社会の参考書等で確認しておくといよいでしょう。新聞の中から宗教に関する記事を取り上げて読むことでさらに理解が深められます。授業時に配布される資料教材には目を通し、紹介された参考文献も関心を持って読んでみてください。授業内容に関する課題や小テストもありますので、授業中に提示されたら、忘れずに学習支援システムにて提出してください。提出期限は授業日当日中です。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しません。授業時に配布する資料教材は学習支援システムにも掲げます。

【参考書】

世界宗教百科事典編集委員会編『世界宗教百科事典』丸善出版 2012 年
山田真茂留編『グローバル現代社会論』文真堂 2018 年 (2600 円+税)
各テーマに関する参考文献は配布資料にて適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

①期末試験の結果を 60 %②授業内提出のリアクションペーパーまたは課題ペーパー（回数は随時）の内容を 20 %③授業日当日中に学習支援システム上に提出する小テスト（回数は随時）の結果を 20 %とする割合で総合的に判断・評価します。

【学生の意見等からの気づき】

頂いたご意見を真摯に受け止め適宜改善に努めていきたいと思えます。

【学生が準備すべき機器他】

課題を提出する際に学習支援システムが利用できる機器及び環境

【Outline (in English)】

This course introduces the foundations of religious studies from a sociological point of view while showing various religious cultures around the world.

At the end of the course, students are expected to acquire basic knowledge about various religious cultures and construct a perspective that enables students to grasp and understand the existence of religious culture that surrounds us objectively.

Before/after each class, students will be expected to spend two hours to understand the course content.

Final grade will be calculated according to the following process
Mid-term report (30%), and assignments after each class (70%).

HSS200EC

スポーツ文化論

越部 清美

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：月 1/Mon.1

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代の社会においてスポーツは、一部の特権的な人々の所有物から大衆の文化として広く深く人々の生活に浸透している。本講義では、スポーツの歴史を学びながら、スポーツ文化を包括的に理解することを目的とし、その中でも特に現代に特徴的と思われる視点について考えていく。

【到達目標】

スポーツの歴史を学び、現代社会における文化としてのスポーツ活動の意義や機能を考え、理解できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP8・DP10に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

各回の講義の中でリアクションペーパー等の提出を求める。ゲスト講師を予定している。授業計画は授業の展開によって、若干の変更があり得る。

授業の初めに、前回の授業で提出されたりアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	スポーツ文化論とは	スポーツ文化論を学ぶ意義
第2回	スポーツの歴史	文化としてのスポーツの発生
第3回	スポーツの思想（1）	近代スポーツの思想
第4回	スポーツの思想（2）	現代スポーツの思想
第5回	メディアとスポーツ（1）	テレビとスポーツの関係を探る
第6回	メディアとスポーツ（2）	構造と機能
第7回	女性とスポーツ	歴史を振り返り問題点を問う
第8回	スポーツ競技者	アスリートと社会の関係を探る
第9回	スポーツファン	スポーツファンとは何か
第10回	オリンピックとパラリンピック	オリンピック・パラリンピックと政治・経済の関係
第11回	スポーツと環境問題	スポーツと環境の関係
第12回	体育の社会的構造と機能	体育はなぜ存在するのか
第13回	生涯スポーツ	生涯スポーツを考える
第14回	試験・まとめと解説	授業の総括として授業内試験を受ける

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

指示されたプリント類を事前に読んでくること。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用せず、適宜プリントを配布する。

【参考書】

「よくわかるスポーツ文化論」井上俊・菊幸一編著ミネルヴァ書房

【成績評価の方法と基準】

期末試験 50 %、平常点 50 %

【学生の意見等からの気づき】

スポーツに思想があるのか、と驚く学生が結構多い。いろいろな事例を紹介しながら、さらに理解を深めてもらいたい。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire an understanding of the sports culture while learning the history of sports culture. At the end of course, students are expected to get sports minds. Students will be expected to have completed the required assignments after each class.

Your study time will be more than two hours for a class.

Your overall grade in the class will be decided based on the following Attitude:50%, Exam:50%

SOC200EB, SOC200EC

国際社会学 I

田嶋 淳子

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位
曜日・時限：水 2/Wed.2

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国際社会学における視点、主要概念、アプローチ方法について学びます。

【到達目標】

グローバル化による社会変容が進む今日、私たちが生きている現代社会の諸問題について国際社会的な視点やアプローチを用いて読み解き、説明できるようにします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP6・DP7・DP8・DP10に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

この科目は春学期の授業内容を踏まえて、秋学期の授業が展開します。そのため、春・秋学期を通じて履修することが望ましいと考えています。なお、授業計画は授業の展開によって若干の変更があります。リアクション・ペーパーでの質問については、授業の冒頭で回答を広く共有します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	「国際社会学」とは何か？	授業計画、成績評価についての説明と講義のイントロダクション。
2	グローバル化と社会変容	グローバル化の進展による国家の揺らぎと社会の変容について考えます。
3	「現代の移住」とは何か かなる社会現象か	移民現象と国民国家の関係について、キーワードで考えます。
4	国際移民研究の理論的展開	国際移住システム論を紹介し、その理論的展開について考えます。
5	国際移住と日本社会	日本社会を事例として現代の移住問題を考えます。
6	日本に移民政策は存在するか？	移民問題を政策面から考えていきます。
7	難民問題と日本社会 「この世で最も大切なものは“平和・命・人権”」	外部講師：久郷ボンナレットさんをお招きする予定です。
8	止められない移住プロセスの展開	移住プロセスをマイクロ構造の視点から読み解きます。
9	ニューカマーズと在日韓国・朝鮮人	在日韓国・朝鮮人コミュニティについて現状と課題を考えます
10	移住二世世代と多文化教育の可能性	アイデンティティと教育を中心に移民の二世世代をめぐる問題について考えます。
11	複層化するアイデンティティ	エスニック・アイデンティティについて考えます。
12	新しい「市民権」とは	新しい「市民権」論について考えます。
13	グローバル化の帰結	グローバル化がもたらす帰結について考えます。
14	授業内テスト	授業内テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特定の教科書はない。

【参考書】

1. 塩原良和, 2012, 『共に生きる——多民族・多文化社会における対話』弘文堂.
- 2.S. カースルズ・M. J. ミラー／関根政美・関根薫監訳, 2009=2011, 『国際移民の時代（第 4 版）』名古屋大学出版会.
3. 樽本英樹編, 2018『排外主義の国際比較』ミネルヴァ書房.
4. 小井土彰宏編, 2017『移民政策の国際比較』名古屋大学出版会.
5. 田嶋淳子, 2010『国際移住の社会学』明石書店。
(参考文献一覧は教材として配布する予定です)

【成績評価の方法と基準】

講義中に設定する課題としてのミニ・レポート（15%）および講義最終日に授業内テストを予定（85%）持ち込み不可。

【学生の意見等からの気づき】

学生の理解度を確認するため、今年度もリアクションペーパーを活用する。
レポートや試験では、講義内容をふまえ、課題や設問の趣旨をきちんと理解し、作成・回答すること。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【Outline (in English)】

Students will study the main concepts and perspectives in global sociology as well as approaching methods.

Learning Objectives

As social transformation caused by globalisation progresses today, students will learn to analyze and be able to explain various modern issues from the perspectives and approaches of global sociology.

Learning Activities Outside Class

Standard duration for preparation and review will be two hours each.

Assesment

The final examination (85%) and assignments (15%).

SOC300EB, SOC300EC

国際社会学Ⅱ

田嶋 淳子

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：水 2/Wed.2

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国際移住と東アジアのグローバル化を考える

【到達目標】

東アジアにおけるグローバル化の現実とトランスナショナルな社会空間の生成を理解すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP6・DP7・DP8・DP10に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>**【授業の進め方と方法】**

授業は対面を基本とします。ハイブリッド形式での取り組みを前提としていますが、完全オンラインとは形式が異なることをご注意ください。リアクション・ペーパーは紙媒体での提出を基本とします。フィードバックは授業内で直接お話しします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	国際移住研究の方法論的課題	方法論的課題について考えていきます。
2	送り出しとしての中国社会の変容-改革・開放 40 年-	国際移住からみた中国社会を理解する上での前提となる基本構造をみていきます。
3	国際移住からみた中国社会	19 世紀後半から現代に至る中国社会と国際移住を考えます。
4	移民社会の中の中国系移住者（その 1）オーストラリア	オーストラリアにおける多文化主義政策の中の中国系移住者たちについて考えます。
5	イタリアと温州を繋ぐもの	イタリアに多くの移住者を送り出す温州地域について考えます。
6	移民社会の中の中国系移住者（その 2）アメリカ	アメリカ合衆国における中国系移民の歴史的経緯と中国系人の現在を考えます。
7	移民社会の中の中国系移住者（その 3）カナダ	カナダにおける多文化主義政策の進展と中国系人の移住について考えます。
8	グローバル化の中の台湾社会	東アジアにおけるグローバル化と台湾社会の変容を考えます。
9	中台関係と外国人労働者問題	台湾における外国人労働者導入の経緯から中台関係を考えます。
10	台湾と香港—一国二制度をめぐる葛藤	一国二制度について取り上げ、香港社会の現状を考えます。
11	ディアスポラとしてのコリアン：北東アジアにおける朝鮮族移住者	北東アジアにおける朝鮮族移住者の現在を考えます。
12	韓国社会の変容過程と南北関係	韓国社会の戦後と南北関係について、考えます。
13	韓国における外国人労働者政策	2000 年以降の韓国における外国人労働者政策の変遷を見ていきます。
14	東アジアのグローバル化と国際移住	東アジアにおけるグローバル化の展開と国際移住問題のこれからについて考えます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定はありません。

【参考書】

参考文献一覧は学習支援システムを通じて、配布予定です。

【成績評価の方法と基準】

期末試験 85 % および課題 15 % で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

テスト/アンケートあるいは課題のいずれに問題を設定するのか、明確に示す。

【Outline (in English)】**Course Outline**

Students will learn about international migration as well as current globalization and issues concerning East Asia.

Learning Objectives

Students will understand the realities of globalization in East Asia and the formation of transnational social spaces

Learning Activities Outside Class

The standard duration for preparation and review will be two hours each.

Assessment

The final examination (85%) and assignments (15%)

POL200EB, POL200EC

国際関係論 I

二村 まどか

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位
曜日・時限：金 2/Fri.2

その他属性：〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現在の国際情勢を考察するために必要な概念と分析枠組みについて学ぶ。国際問題を理解する上で重要な 3 つの理論をとりあげ、それらの基本的な主張を、各理論が生まれ発展する背景となった国際的な文脈に即して考察する。また国際組織、国際法、脱国家的主体にも焦点を当て、国際社会におけるそれぞれの役割と限界を 3 つの理論を通して考える。

【到達目標】

各理論の分析枠組みを通して、現代の国際情勢と問題を理論的、実証的、規範的に考察し、それぞれの理論が持つ利点と限界を認識・理解できるようになることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP6・DP7・DP8・DP10に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

前半で主要な国際関係学の理論を扱い、後半でそれらの理論を使いながら、国際社会における国際組織、国際法、脱国家的主体の役割を考える。また現在新たに浮上しているグローバリゼーションに伴う問題への視点を模索する。

リアクションペーパーは講義の冒頭に提出し、教員がフィードバックを講義内で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の予定、進め方、国際関係論の学び方について
2	「国際関係論」とは何か	国際情勢を見るためのさまざまな視点
3	国際関係における理想主義	第一次世界大戦と国際関係学の始まり
4	リベラリズムとリアリズム	第二次世界大戦とリアリズムの台頭
5	冷戦時代の国際関係①：ネオリアリズム	安全保障のジレンマ、「国家はなぜ協調できないのか」
6	冷戦時代の国際関係②：ネオリベラリズム	国際制度の構築、「国家はどのようなときに協調できるのか」
7	冷戦の終わりと国際関係における変化	冷戦の終わりは国際関係に何をもたらしたのか
8	コンストラクティヴィズムと国際規範	国際関係における、理念、文化、社会的側面の重要性
9	国際関係における法の役割	国際法の特徴と機能
10	国際連合	アナーキーな国際システムにおける国連の可能性と限界
11	脱国家的主体	脱国家的主体とは何か、国際関係においてどういう存在か
12	国際関係における人権問題	人権と国家主権の関係
13	国際政治からグローバル政治へ	グローバルな問題と国家の役割
14	まとめ	国際関係の現状について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各自で、指定されたテキストを読むことが求められる。加えて、毎講義の冒頭に書くリアクションペーパーの題材のため、毎週国際ニュースをチェックしてくること。

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

ジョセフ・S. ナイ ジュニア、デイヴィッド・A. ウェルチ 『国際紛争- 理論と歴史 [第 10 版]』（原書房、2017）

【参考書】

授業中に随時紹介。

【成績評価の方法と基準】

平常点（毎講義におけるリアクションペーパー）：30 %

期末テスト：70 %

【学生の意見等からの気づき】

参考資料はできるだけアクセスしやすいものを選びたいと思います。

【Outline (in English)】

In this course, we learn the concepts and theories of international relations to understand ongoing global issues. The course especially focuses on Realism, Liberalism and Constructivism. It also examines the role and function of international law, international organizations, and non-state actors.

POL300EB, POL300EC

国際関係論Ⅱ

二村 まどか

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：金 2/Fri.2

その他属性：〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

冷戦後から現在に至るまで国家や国際組織がどのように「国際の平和と安全への脅威」に対応してきたかについて学ぶ。国際関係論Ⅰで学んだ理論や概念をふまえつつ、冷戦後の武力紛争や脅威がどのような問題を突きつけてきたのか、そしてその問題に対して国際社会ではどのような行動がとられ、議論がなされてきたのかについて考察する。

【到達目標】

現代の国際情勢と問題、特に安全保障と武力行使にかかわる問題について、論理的、実証的、規範的に考察し、理解できるようになることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP6・DP7・DP8・DP10に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

冷戦後の国際安全保障に関する重要な出来事（湾岸戦争、ユーゴスラビア紛争、ルワンダの大虐殺、コソヴォ紛争、9.11 アメリカ同時多発テロ、アフガニスタン戦争、イラク戦争、リビア空爆）に焦点を当て、国際社会が直面した国際安全保障の問題を考える。リアクションペーパーは講義の冒頭に提出し、教員がフィードバックを講義内で行う

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の予定、進め方、国際関係論の学び方について
2	冷戦の終結と国際安全保障の変化	冷戦後の国際の平和と安全をめぐる問題の特徴
3	湾岸戦争：「新世界秩序」	集団安全保障体制の復活と国連の役割
4	ユーゴスラビア紛争	国連平和維持活動（PKO）の発展と課題
5	ルワンダ大虐殺	民族紛争の構図と「アイデンティティ政治」
6	コソヴォ紛争	人道的介入
7	戦争犯罪と国際刑事裁判所	国際社会における国際刑事裁判の試み
8	映像鑑賞	9/11 後の世界について
9	9/11 とテロリズム	国際テロとグローバリゼーションの関係
10	アフガニスタン空爆	「テロとの戦い」と空爆の是非
11	アフガニスタンの国家再建	脆弱国家と平和構築
12	イラク戦争	「テロとの戦い」と大量破壊兵器問題
13	リビア空爆	「保護する責任」をめぐる議論
14	「人間の安全保障」からのアプローチ	伝統的安全保障の限界

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各自で、指定されたテキストを読むことが求められる。加えて、毎講義の冒頭に書くリアクションペーパーの題材のため、毎週国際ニュースをチェックしてくること。

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

ジョセフ・S. ナイ ジュニア、デイヴィッド・A. ウェルチ 『国際紛争- 理論と歴史 [第 10 版]』（原書房、2017）

酒井啓子 『9.11 後の現代史』講談社現代新書（2018）

【参考書】

講義中に随時紹介。

【成績評価の方法と基準】

平常点（毎講義におけるリアクションペーパー）：30 %

期末テスト（課題）：70 %

【学生の意見等からの気づき】

参考資料はできるだけアクセスしやすいものを選びたいと思います。

【Outline (in English)】

The topic of this course is international peace and security, especially focusing on the use of force in the post-Cold War international relations. The course will pick up wars and armed conflicts in the 1990s onwards and critically examine international debates and practices.

SOC200EC

国際社会と民族

慎 蒼宇

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位
曜日・時限：木 5/Thu.5

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、①歴史と現在、②国際社会のなかの民族、③民族と地域、という3つの側面から、「国際社会と民族」というテーマについて学び、考えることを課題とします。

【到達目標】

「民族」をめぐる問題を、「国民国家」や国際社会との関係のなかで読み解き、それを理論的にも分析、説明できるようにします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP8・DP10に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

授業は対面の講義形式で進めます。講義後は毎回リアクション・ペーパーを提出していただきます。そこで出た質問については、その次の講義の冒頭で一部紹介することで、双方向的なコミュニケーションを図っていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	講義の概要と進め方、成績評価についての説明
第2回	現代の課題から	現代世界における「国民国家」「民族」をめぐる諸問題を考える。
第3回	概念と論叢の歴史を整理する①	基本的な概念について整理する。
第4回	概念と論叢の歴史を整理する②	基本的な概念について整理する。
第5回	西ヨーロッパ-国民国家の歴史を考える①	西欧の国民国家体系とフランス国民国家
第6回	西ヨーロッパ-国民国家の歴史を考える①	ドイツの国民国家とユダヤ人問題
第7回	20世紀のナショナリズムとジェノサイド	ホロコースト等
第8回	宗教とナショナリズム	イスラーム世界の近現代
第9回	帝国主義と民族①	南アジア
第10回	帝国主義と民族②	スラヴ民族
第11回	東アジアのナショナリズム①	朝鮮
第12回	東アジアのナショナリズム②	日本
第13回	新たな問い	インターセクショナル리티の視点から
第14回	まとめ	講義の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

期末レポートの作成。
各回の授業の復習として Google フォームを使った小テストに回答すること。
授業の準備・復習は、1回につき4時間を目安とする。

【テキスト（教科書）】

第1回の授業の際に、この講義で話すために参照した文献リストを配布します。授業の進行とともに、適宜資料ともども紹介します。

【参考書】

授業で適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

期末試験（70%）
平常点（30%）

【学生の意見等からの気づき】

内容はやや難だが学びの充実感を重視する、

【学生が準備すべき機器他】

資料配布・課題提出には学習支援システムを利用します。

【Outline (in English)】

This course introduces ① history and present, ② “nation state”, “ethnicity” in the international society and ③ region, to students taking this course.

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Normal points 30%
examination: 70%

GDR200EC

開発とジェンダー

吉村 真子

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：火 1/Tue.1

その他属性：〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は、開発とジェンダーについて、開発途上国の開発や問題点、ジェンダーをめぐる議論など、多様な観点から議論します。

【到達目標】

開発とジェンダーについて学び、ジェンダーという視点を入れると問題がどう見えるか、具体的に考えていくこと、問題を構造的に議論できるようになることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP8・DP10に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

●本講義は、開発とジェンダーについて、様々な観点から議論、分析することを目的とします。

●開発とジェンダーについて構造的に考え、グループ・ディスカッションも含めて深く議論していきます。最終授業では 13 回までのまとめや復習に加え、授業内の小レポートや課題に対する講評や解説も行います。

●今年度は全ての授業を対面授業で実施します。COVID-19 対応でオンライン（Zoom など）利用のグループ・ディスカッションを行う回も入れる予定ですが、いずれにせよ、毎週の授業の出席や課題の提出がない場合は採点の対象となりませんので、注意してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業のテーマと目的
第 2 回	開発と「女性」「男性」の視点	「女性」「男性」の視点から開発途上国の社会と開発を見直す
第 3 回	「農村の近代化」：「農民＝男性」か？	農村社会におけるジェンダーと開発プロジェクトを考える
第 4 回	貧困、ジェンダー、女性	開発途上国のケースから考える
第 5 回	開発途上国の女性の生活	教育や妊娠・出産などについて考える
第 6 回	開発途上国の伝統と少女	伝統的慣習や「女子割礼」
第 7 回	イスラームとジェンダー	イスラーム・コミュニティにおける女性や「ヴェール論争」
第 8 回	開発政策とジェンダー	国連などの開発政策におけるジェンダーの議論
第 9 回	グローバル経済とジェンダー	多国籍企業の途上国進出と女性労働者：「器用な指先」
第 10 回	ヒトの移動とジェンダー	移住（出稼ぎ）労働、ケア労働など
第 11 回	セックス産業と人身売買	人身売買とジェンダー
第 12 回	開発途上国の女性の身体	生理の貧困、リプロダクティブ・ヘルスなど
第 13 回	開発途上国のセクシュアリティ	開発途上国のセクシュアル・マイノリティ
第 14 回	人間の安全保障とジェンダー	開発・貧困・ジェンダー、女性のエンパワーメント

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

●授業外でも、自分で関心をもって開発とジェンダーについて調べてほしいと思います。授業でのグループ・ディスカッションやプレゼンテーションのために、ミニ・レポートの事前提出など、課題について調べてもらうことも予定しています。

●本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストはとくに指定しませんが、参考文献などは適宜、紹介します。

【参考書】

吉村真子「開発とジェンダー」『性と文化』法政大学出版局（2004）；宇田川妙子ほか編『ジェンダー人類学を読む』世界思想社（2007）；田中由美子『はじめてのジェンダーと開発：現場の実体験から』新水社（2017）など。

【成績評価の方法と基準】

●成績評価の基準は、①定期試験（60%）、②ミニ・レポートなどの課題（20%）、③授業やグループ・ディスカッションのコメント（20%）など、総合的に評価します。

●毎週の授業の出席や課題の提出がない場合は採点の対象となりませんので、注意してください。

【学生の意見等からの気づき】

開発とジェンダー、国際社会問題など、授業以外の視点につながる議論にしたいと思っています。

【学生が準備すべき機器他】

●今年度はすべての授業は対面/教室で行います。ただし、COVID-19 対策で、Zoom/オンラインでのグループ・ディスカッションやプレゼンテーションの回を設ける可能性もありますので、その準備もしておいてください。

●本授業の連絡や課題の提出などは、大学の学習支援システム Hoppii を使います。

【Outline (in English)】

【Course outline】

This course is to study Gender and Development. The issues include discussion on gender issues in politics, education, UN programs, rural development, industrialization, reproduction health, sexuality, human rights, and so on. The course is to analyze the structure of problems in developing countries in globalization. Students are required to study gender issues in developing countries, to submit comment sheets each week, to write short papers, and to take a term-end examination.

【Learning Objectives】

By the end of this course, students are expected to be able to analyze and to discuss the gender issues with development.

【Learning activities outside of classroom】

Students are required to study before/after a class each week and for a term-end examination. Your study time will be more than four hours for a class.

【Grading Criteria / Policy】

Grading will be according to (1) Term-end examination (60%), (2) Short reports (20%), and (3) In-class contribution (20%).

ARSa200EC

地域研究（ヨーロッパ）

高橋 愛

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：金 3/Fri.3

その他属性：〈優〉

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students deepen knowledge and understanding of Europe. Before/after each class meeting, students are required to spend two hours to understand the course content. Upon successful completion of the course, they will be able to comprehend various histories and social issues related to Europe, as well as to analyze the current topics. Grading will be based on term-end examination (50%) and in-class contribution (50%).

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

多源性の上に成り立つヨーロッパに時間軸をたどりながらアプローチし、その形成の歴史的背景と過程を学ぶ。現代ヨーロッパの特徴と今日の EU が向き合っている問題を複眼的な視点で眺め、今後の可能性を検討、議論する。

【到達目標】

ヨーロッパは底流にある共通の文化とローカルな地域的多様性によって形成され、二度にわたる世界大戦の経験から未来への指針をいかに引き寄せるべきかを模索してきた。2020 年における英国の EU 離脱によって、ヨーロッパ統合の流れは初めて後退した。こうした歴史も踏まえて、ヨーロッパの諸地域を比較し、「多様性の中の統合」を掲げる EU の現状や今日の問題点を具体的に述べることができる。ウクライナ情勢などの現代における諸問題について調べ、自ら考えることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP8・DP10 に関連。

DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

- ・講義形式で進め、授業の内容に関する受講生の質問等にも応じ、議論を深める。
- ・授業のはじめに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつかを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。
- ・授業計画は、学期中の授業の展開によって若干の変更があり得る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業内容と方法の説明
第 2 回	ヨーロッパとは？	地理的概念と文化、ヨーロッパ意識をめぐる問題
第 3 回	ヨーロッパ世界の形成（1）	古代ギリシャ・ローマの遺産と精神的故郷としての位置づけ
第 4 回	ヨーロッパ世界の形成（2）	キリスト教文化圏の形成と三大教派誕生の背景、現代ヨーロッパへ至るまでの影響
第 5 回	ヨーロッパと世界大戦	第一次・第二次世界大戦
第 6 回	戦後ヨーロッパにおける記憶と対話	国際教科書改善運動、記憶の場
第 7 回	東西冷戦	東西冷戦とヨーロッパ分断
第 8 回	ヨーロッパ統合（1）	ヨーロッパ統合前史、統合への共通意思と理念
第 9 回	ヨーロッパ統合（2）	リスボン条約発効へ至るまで、EU 独自のガバナンス
第 10 回	ヨーロッパ統合（3）	EU 拡大（第 1 次～第 6 次拡大の時期と特徴）
第 11 回	ヨーロッパ統合（4）	EU 統合による歪み（ユーロ危機、ポピュリズムの台頭など）
第 12 回	21 世紀のヨーロッパ（1）	英国の EU 離脱と影響
第 13 回	21 世紀のヨーロッパ（2）	2023 年のヨーロッパを通して、ウクライナ情勢、転換期の世界を考える
第 14 回	試験、まとめと解説	試験、まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

新聞・ニュースを通して、ヨーロッパで何が問題となり、議論されているのかをきちんと把握する。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

授業内で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業への参加度・リアクションペーパーによる平常点（50 %）と学期末試験（50 %）で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

2023 年度の授業においても、ヨーロッパ情勢に関わる記事や映像教材も積極的に紹介し、説明を充実させたい。

ARSe200EC

地域研究（アジア）

吉村 真子

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位
曜日・時限：木 1/Thu.1

その他属性：〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は、アジアにおける社会・経済・政治などの問題について、様々な観点から議論していくことを課題とします。対象地域は、東アジア（中国、朝鮮半島、台湾）、東南アジア、南アジアです。

【到達目標】

本講義で、アジア社会における様々な問題について学び、多角的な視点で議論、分析することを身につけることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP8・DP10に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

●本講義は、アジアの社会や経済・政治について、様々な観点から議論、分析することを目的とします。対象地域は、東アジア（中国、朝鮮半島、台湾）、東南アジア、南アジアです。

●アジア社会について構造的に考え、グループ・ディスカッションも含めて深く議論していきます。またミニ・レポートではアジアに関連してフィールド・ワークも求めます。最終授業では13回までのまとめや復習に加え、授業内の小レポートや課題に対する講評や解説も行います。

●今年度は全ての授業を対面授業で実施します。COVID-19 対応でオンライン（Zoom など）利用のグループ・ディスカッションを行う回も入れる予定ですが、いずれにせよ、毎週の授業の出席や課題の提出がない場合は採点の対象となりませんので、注意してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	はじめに	授業のテーマと目的
第2回	世界の中のアジア	アジアとは何か
第3回	植民地支配と独立後	アジアの植民地化と現地社会
第4回	日本と「アジア」	日本と近隣アジア諸国との関係
第5回	アジア社会の多様性	エスニック集団（民族）、宗教、言語
第6回	アジアの多民族社会	地域研究のケースから
第7回	アジアの政治問題	現代アジアの政治
第8回	農村社会の近代化	農村開発、農業、貧困
第9回	アジアにおける工業化	グローバル化と新しい国際分業
第10回	アジアの都市化	アジアにおける都市問題
第11回	経済援助	開発援助、ODA、NGOs など
第12回	アジアの環境問題	環境の諸問題とサステナビリティ
第13回	グローバル化とアジア	いまアジアで何が起きているのか
第14回	アジアの開発と市民社会	アジア社会の視点から

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

●授業外でも、自分で関心をもってアジア社会について調べてほしいと思っています。授業でのグループ・ディスカッションやプレゼンテーションのために、ミニ・レポートを提出してもらっても予定しています。

●またアジアに関する文献・資料のほか、ドキュメンタリー、シンポジウムや講演会、アジア映画や展覧会など、教室外でアジアに触れる（フィールド・ワーク含む）ことを目的に、「ミニ・レポート」は「文字メディア以外でふれたアジア」を課題にする予定です。

●なお、本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストはとくに指定しませんが、参考文献などは適宜、紹介します。

【参考書】

参考文献などは適宜、紹介します。

【成績評価の方法と基準】

●成績評価の基準は、①定期試験（60%）、②ミニ・レポートなどの課題（20%）、③授業やグループ・ディスカッションのコメント（20%）など、総合的に評価します。

●毎週の授業の出席や課題の提出がない場合は採点の対象となりませんので、注意してください。

【学生の意見等からの気づき】

アジア社会について深い分析と議論につながるようにしたいと思っています。

【その他の重要事項】

●今年度はすべての授業は対面/教室で行います。ただし、COVID-19 対策で、Zoom/オンラインでのグループ・ディスカッションやプレゼンテーションの回を設ける可能性もありますので、その準備もしておいてください。

●本授業の連絡や課題の提出などは、大学の学習支援システム Hoppii を使います。

【Outline (in English)】

【Course outline】

This course is to study Asian societies and economies. The issues include discussion on history, politics, ethnicity, rural development, industrialization, urbanization, environment, human rights, and so on. The course is to analyze the structure of problems in the globalizing Asian societies. Students are required to study social problems in Asian countries, to submit short papers and to take a term-end examination.

【Learning Objectives】

By the end of this course, students are expected to be able to analyze and to discuss the social sciences issues on Asian studies.

【Learning activities outside of classroom】

Students are required to study before/after a class each week and for a term-end examination. Your study time will be more than four hours for a class.

【Grading Criteria /Policy】

Grading will be according to (1) Term-end examination (60%), (2)Short reports (20%), and (3) In-class contribution (20%).

ARSe200EC

地域研究（中国）

大崎 雄二

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：金 4/Fri.4

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

古来、独自の文化的秩序観による一個の「世界」を形成してきた中国（中華）の歴史をふまえ、グローバル化が進展する現代国際社会の中で、その特徴をさまざまな具体的事例で検証、分析、考察します。

【到達目標】

現代中国と東アジア地域について、特に近代以降の歴史を「通時的」に概観しながら、グローバルな視点も加えて「共時的」に解析、検証し、事象をより正確にとらえる練習を重ね、現在の中国共産党と中華人民共和国の諸政策を的確に分析していく視座を形成します。

脅威論や仮想敵国論ばかりが跋扈するこの国のメディアの報道も分析対象とします。一緒に学んだ後、そうしたニュースについて、不足している観点や記者の不勉強や取材不足をきちんと指摘できる media literacy も身につけましょう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP8・DP10に
関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

前半は教員による概説と問題提起、グループ討論の形とします。後半はテーマ別に個人や小グループでの発表、議論など少し規模の大きなゼミのような形に展開できればと考えています。そのために学生と教員、学生相互の円滑なコミュニケーションが実現可能な時空としたいと思います。

「交換日記」については、隔週で交換を続け、最終回までに返却します。課題についての講評や、注意点などについては、授業時間内に全員に紹介し、情報を共有します。

授業計画は、実際の展開によって若干の変更をすることもあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	中国とは？	中国的（中華）世界秩序
2	近現代史(1)	屈辱の近代
3	近現代史(2)	中華人民共和国
4	近現代史(3)	「改革・開放」
5	近現代史(4)	民族
6	近現代史(5)	香港
7	近現代史(6)	台湾
8	近現代史(7)	日・中関係
9	事例研究(1)	「課題1」の検討
10	事例研究(2)	内政(1)
11	事例研究(3)	内政(2)
12	事例研究(4)	外交(1)
13	事例研究(5)	外交(2)
14	事例研究(6)	総合討論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- (1) 関連する新聞やネットの記事のチェック
 - (2) 読書（参考図書）の渉猟
 - (3) 発表、討論の準備
- 予習、復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特定の「教科書」はありません。毎回プリントを配布します。

【参考書】

関連する書籍、背景理解のための参考書等はテーマごとにできるだけ多く紹介します。

【成績評価の方法と基準】

- (1) 「課題1」 現代中国に関して興味のある分野に関して先行研究を渉猟し、紹介してもらいます。
 - (2) 「課題2」 「課題1」を踏まえ、あるいは別のテーマで小論文を作成してもらいます。
 - (3) 参加 「交換日記」 + 授業内発表
- (1) 25 % + (2) 45 % + (3) 30 % で総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

従来どおり「1 対多」ではなく「1 対 1」の集合体としての時空としたいと思います。グループ討論による相互学習等学生から高い評価を得たものについては継続、発展させていきます。「交換日記」等で意見や質問や連絡など、遠慮なくどうぞ。

【その他の重要事項】

北京駐在記者としての取材、報道の経験を踏まえ、現代中国に関する情報収集や分析の literacy を具体的に伝え、メディアの伝える「中国像」の歪みと実像とを比較考量したいと考えています。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire the knowledge and new point of view to contemporary China. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Final grade will be calculated according to the following process: mid-term report (25%), term-end report (45%), and in-class contribution (30%).

SOC300EC

特講（障害の社会学）

三井 さよ

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位
曜日・時限：金 2/Fri.2

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講義では、日本における障害者解放運動の歴史を踏まえながら、現在のアクチュアルな問題について、障害者運動の当事者たちと学生とがともに考える機会を作ろうとするものです。障害者解放運動の歴史や論点の整理などは担当教員が行いますが、授業の多くの回に障害者運動の当事者たちに来ていただき、自分たちの言葉で歴史と現状、課題について話していただく予定です。学生たちと障害者運動の当事者たちが率直に話し合うことで、障害者解放運動や「障害の社会モデル」が問うてきたことの意味をともに考える機会としたいと思っています。

【到達目標】

- ・障害とともに生きる人たちのリアリティについて、その一端を確かに知るとともに、人としてかわるということの意味について考える
- ・障害の当事者たちを取り巻く社会状況について把握し、個人の問題と社会の問題とを切り分けながら捉えかえすことができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

最初に数回のイントロダクションを行った後は、障害当事者に来ていただき、受講生と直接に議論を重ねるワークショップを、数回に分けて行う。また、来ていただく障害当事者は複数おり、背景も異なるため、教員による解説も必要などときがあるだろうと推測している。そのため、可能な範囲で教員と学生のための回も挟み、多様な形で学生の問いを探究する方途を作っていきたい。なお、外部講師の都合もあり、授業の予定が変更される可能性がある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の進め方について
第 2 回	障害者解放運動	青い芝の会とその行動綱領の意味について
第 3 回	自立生活運動の展開	歴史と意味について
第 4 回	障害当事者とのワークショップ①	当事者の思い
第 5 回	障害当事者とのワークショップ②	学生からの疑問
第 6 回	障害当事者とのワークショップ③	当事者からの応答
第 7 回	障害当事者とのワークショップ④	学生からの応答
第 8 回	教員とのワークショップ	教員からの解説
第 9 回	障害当事者とのワークショップ⑤	当事者からの解説
第 10 回	障害当事者とのワークショップ⑥	学生からの質問
第 11 回	障害当事者とのワークショップ⑦	当事者からの応答
第 12 回	障害当事者とのワークショップ⑧	学生からの応答
第 13 回	障害当事者とのワークショップ⑨	総合的討論

第 14 回 全体のまとめ 論点の整理

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】
特になし

【参考書】
横塚晃一『母よ、殺すな！ [改訂版]』生活書院

【成績評価の方法と基準】
平常点（40 点）と期末レポート（60 点）で総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】
本年度新規科目につきアンケートを実施していません。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to make a chance for students to discuss with the people with disabilities directly. The goals of this course are to know the lives of the people with disabilities and what problems they usually face with. Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content. Final grade will be calculated according to the following process: term-end examination (40%), and in-class contribution (60%).

FRI300EC, FRI300ED

メディアの思想

小林 直毅

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：金 3/Fri.3

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「思想」とは thought、つまり「思考されたこと」です。メディアについてどのような問題が、どのように思考され、今日のメディアをめぐるどのような思考が必要なのかを理解することがこの授業の目的です。

【到達目標】

メディアによって人びとが、どのようにして、どのような出来事を経験しているのかを理解できるようなることを第一の目標にします。その上で、今日のメディア環境の可能性と課題を実践的に考えることができるようになることを第二の目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP8・DP10・DP11に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

対面授業で進める予定です。

5～6点の配布資料を学習支援システム>教材で配信しますので、それらを使って受講を進めてもらいます。

配布資料は受講の事前、事後の学習のためのものです。受講者はこの配布資料を参照しながら、講義を聴いてノートを作成していきます。受講後さらに、配布資料や参考文献などを参照して、学んだことを文章化した「講義ノート」を作成します。受講者にはこれを毎週重ねてもらいます。

授業期間内で学習支援システム>課題によって3～5回のリアクションペーパーの提出を求めます。それについて授業内で講評、解説します。

なお、授業計画は授業の展開によって、若干の変更があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	この講義の概要とねらい
2	環境世界という考え方	理論生物学の成果に学ぶ。
3	環境世界としてのメディア環境	メディアと身体と生活とのかかわりを考える。
4	小括「環境世界・身体・メディア」	リアクションペーパーへのリプライ（1）
5	記号とその意味の成り立ち	記号学の思想に学ぶ。
6	記号の意味の多様性	記号の可能性を考える。
7	映像記号と身体	「コードのないメッセージ」を考える。
8	小括「記号・身体・メディア」	リアクションペーパーへのリプライ（2）
9	読まれ、見られる出来事	メディア環境の可能性を考える。
10	語られ、描かれる出来事	メディア環境の秩序を考える。
11	意味としての出来事	メディア環境における出来事の経験を考える。
12	小括「メディアテクスト・メディア言説・メディア表象」	リアクションペーパーへのリプライ（3）

13	メディアと権力	メディア環境のポリティクスを考える。
14	メディアと主体	メディア環境におけるイデオロギーを考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義の前に、配布資料を必ず熟読してください。そして講義の概要を自分なりに把握し、分かりにくい事項については、「何が、どう分からないか」を考えてメモとして書き出すといった作業が必須です。

毎回の講義後に、配布資料や参考文献を参照しながら「講義ノート」を整理、作成することも必須です。その際、事項の箇条書きメモではなく、文章として整理するように心がけてください。

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

とくに使用しません。

【参考書】

毎回の配布資料で示しますが、そこで紹介された文献をできるだけ多く読んでください。

【成績評価の方法と基準】

リアクションペーパーがすべて提出されていて、いずれの内容も問題がない場合は、それをもって成績全体の60%の評価とします。さらに学期末試験を実施しますので、これを単位認定の必須要件とするとともに、その評価を成績全体の40%の評価とします。

【学生の意見等からの気づき】

リアクションペーパーや答案以上に、授業改善アンケートなどによって気づかされたようなことはありません。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムで資料配布します。

【Outline (in English)】

Course outline:

In this course, you will understand how the media as a technology and institution that enables human recognition and existence is thought, and what kind of thought is needed about the media today.

Learning objectives:

The primary goal of this course is to understand how and what events they are experiencing through the media. The second goal is to be able to think practically about the possibilities and problems of today's media environment.

Learning activities outside of classroom:

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading Criteria /Policies:

Your overall grade in the class will be decided based on the following.

Term-end examination: 40%, Short reports : 60%

HUI300ED

認知科学

中井 彩香

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位
曜日・時限：木 5/Thu.5

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

私たちの日常生活は、私たち自身すら意識しない知的な諸活動、すなわち認知機能の働きによって成り立っている。本講義は、人の生活を支える認知機能の仕組みをテーマとする。記憶や注意など基礎的な認知の諸特性とその仕組みを学ぶ。さらに、判断や意思決定、デザインなどについて知ることで、私たちの日常生活と認知機能の関係を深く理解する。

【到達目標】

基礎的な認知の働きとメカニズムについて説明することができる。また、その働きを踏まえ、私たちの日常場面を対象として、人間の諸活動を分析的に理解できるようになることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP11に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

各回のテーマについて講義形式で学習する。授業回によって対面授業、あるいはオンデマンド授業で実施する予定である。授業資料の配布や課題の出題は Google Classroom を用いて行う。Google Classroom を用いた質問への回答と、全体へのフィードバックを適宜行う。なお、授業計画は授業の展開によって変更することがある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	本講義の目的と目標を理解する
第2回	認知科学とは	私たちの「知」の捉え方を知る
第3回	記憶	記憶のメカニズムを理解する
第4回	感覚、知覚・認知	外界の情報の受け取り方を理解する
第5回	注意	注意の働きを理解する
第6回	態度	ある対象に対して示す認知を学ぶ
第7回	印象形成	他者に対する認知を学ぶ
第8回	判断と意思決定、その認識	判断と意思決定、その認識を学ぶ
第9回	集団における判断と意思決定	集団における判断と意思決定を学ぶ
第10回	創造とデザイン	創造、デザインと認知科学の関係について学ぶ
第11回	感情と認知	感情と認知の関係について学ぶ
第12回	問題解決と推論	問題解決と推論の過程を理解する
第13回	社会的認知	日常生活における認知を学ぶ
第14回	総括と試験	総括と試験を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本研究の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。各授業回では、次回以降の授業の予習となる課題が出題されますので、取り組むようにしてください。授業後には、授業内容を振り返り、要点をまとめるなど各自で復習を行ってください。詳しくは初回のガイダンスにて説明します。

【テキスト（教科書）】

教科書は用いず、配布資料に基づいて授業を進めます。

【参考書】

講義時に適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点 50%、試験 50%として総合的に判断します。平常点には、授業内や授業外で取り組む課題の提出状況と内容も含まれます。

【学生の意見等からの気づき】

授業内や授業外の課題に認知科学に関するクイズへの回答や実験体験の実施を含めています。前年度はそれらにより能動的に楽しく学べたという意見を多くいただきましたので、今年度もそのような機会を多く設ける予定です。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムと Google Classroom にアクセスできる環境を用意してください。授業資料の配布や課題の出題は Google Classroom を用いて行います。Google Classroom の登録方法は学習支援システムと初回のガイダンスで案内します。

対面授業においては、授業時間中に提出を求める課題もありますので、スマホやタブレット、PC などインターネットに繋がる機器を持ってきてください。

【Outline (in English)】

Our daily life is made up of various intellectual activities (i.e., cognitive functions) that we are not aware of. This lecture will focus on the mechanisms of cognitive functions that support human life. Students will learn basic cognitive characteristics such as memory and attention. In addition, students will learn about judgments, decision making, and design to gain a deeper understanding of the relationship between our daily lives and cognitive functions.

The goal of this course are to be able to explain the functions and mechanisms of basic cognition and, based on these functions, to be able to analytically understand various human activities in our daily situations.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Final grade will be calculated according to the following process. Term-end examination (50%), and usual performance score (50%). Usual performance score includes the submission status and content of in-class and out-of-class assignments.

LAW200ED

知的財産権法

白田 秀彰

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：月 2/Mon.2

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

知的財産権法の入門講義である。

情報社会における財産として重要性を飛躍的に増した知的財産権法について、まず特許・商標・意匠および著作権といった全領域を概観しそれぞれの役割を理解したあと、文科系学生にとってもっとも身近で重要な著作権法について具体的に検討する。

【到達目標】

知的財産権制度全体の構造を理解し、とくに著作権について具体的な適切な取扱いができること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP11に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

プレゼンテーション資料を用いながら講義する。課題解決型学習にも取り組みたい。

新型コロナ状況下であるため、対面が可能な場合は対面で行うが、オンデマンドによる対面講義とほぼ同内容の動画による講義となる可能性がある。講義に関する連絡その他は、指定された Google Classroom にて行う。提出された課題に対する講評は、Google Classroom のストリームにて適宜行う。また必要に応じて個別にメール等の方法で指導を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	講義概要および受講上の留意点。
2	創作概念	知的財産権の中核概念である「創作・発明」について検討する。
3	模倣概念	「創作・発明」と対になる概念である「模倣」について検討する。
4	権利と契約	知的財産権の保護に関して、法律の基本的な概念について説明する。
5	特許	特許・実用新案制度について解説する。
6	商標	商標制度について解説する。
7	意匠	意匠制度について解説する。
8	著作権・著作物	著作権の対象となる著作物について解説する。
9	著作権・派生著作物	二次的著作物、編集著作物等の派生的な著作物について解説する。
10	著作権・著作者	著作権の主体となる著作者について解説する。また、著作者人格権について解説する。
11	著作権・著作権の制限	著作権が制限される場合について解説する。
12	著作権・隣接権	メディア産業にかかわる隣接権について解説する。
13	著作権・特殊な規定	美術、音楽、レコード、映画、放送といった業界の特殊な事情を反映した規定をまとめて解説する。
14	事例検討	具体的な事例をいくつか取り上げながら、理解を深める。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業中に指定された動画・参考文献・関連文献を参照すること。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。

【参考書】

参考書は、適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

評価は、対面授業の場合には、期末試験によって評価する。一方、疫病や事故等によりオンライン授業になった場合には、各セッションごとに適宜課す小論文の合算点によって行う。すなわち、各小論文を 10 段階評価し、期末にその素点を合算する。

いずれの場合でも最高得点をとった学生の素点を 100 点と換算し、以下全員の素点を換算する。このとき 60 点未満の学生は単位を落とすことになる。

また、小論文等において剽窃（コピー）を確認した場合は、不正行為として教授会に報告し処分されることになるので注意するよう。その期の単位をすべて失い留年が確定することになる。

【学生の意見等からの気づき】

内容を整理し、より遅い進行で易しく解説するよう努力したい。

【学生が準備すべき機器他】

講義に関する連絡は、すべて Google Classroom 上で行う。

受講生は、下記の URL に必ず登録しておく必要がある。

<https://classroom.google.com/c/NTgwNzIxMjYwMDE4?cjc=apra5si>

【Outline (in English)】

This is an introductory lecture on intellectual property law.

First, we will overview all areas of intellectual property law, such as patents, trademarks, designs, and copyrights, to understand their respective roles, and then specifically examine copyright law, which is the most familiar and important for liberal arts students.

LAW300ED

メディア法

白田 秀彰

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：月 1/Mon.1

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

情報が社会の様々な場面において重要になっている。この情報化は、今後もさらに進んでいくものと予測される。こうしたなか、これまで法学のテーマとしては直接的に取り扱われなかった「情報」に関する一定の法領域が形成されてきた。こうした「情報法」として括られる領域には、複数の法領域が少しずつ関係しており、範囲が広いものとなっている。また、論者によって対象としている領域に差があるのも事実である。このため本講義では、基本的な視点から「情報」と「法」のかかわりについて解説する。

【到達目標】

「法」が「情報」をどのように取り扱ってきたのかという歴史を理解すること。加えて情報社会の現状を把握し、現在から将来へ向かって「法」がどのように変化するか見通せることを目的とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP11に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

この科目は春学期「メディア社会学基礎 C」を履修したのちに履修することが望ましい。

新型コロナ状況下であるため、対面が可能な場合は対面で行うが、対面講義とほぼ同内容の動画による講義となる可能性がある。講義に関する連絡その他は、指定された Google Classroom にて行う。課題に対する講評は、Google Classroom のストリームにて適宜行う。また必要に応じて個別にメール等の方法で指導を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	名誉・信用棄損 1	メディアにおいて頻繁に問題となる名誉・信用棄損の概念について解説する。
2	名誉・信用棄損 2	名誉・信用棄損の実例について日本とアメリカの事例を挙げながら検討する。
3	放送規制 / 通信規制 1	放送事業や通信事業はどのような性質を理由として、法的規制のもとにあるのか。
4	放送規制 / 通信規制 2	放送事業や通信事業はどのような歴史的経緯をたどりながら現在の形態になったのか。
5	放送規制 / 通信規制 3	情報社会においてどのように基礎条件が変化し、規制内容が変化するのだろうか。
6	プライバシー 1	プライバシーとは、その始まりにおいてどのような概念なのか。
7	プライバシー 2	プライバシーとは、現在においてどのような概念なのか。
8	プライバシー 3	情報社会におけるプライバシー概念はどのように変化するか。
9	個人情報保護 1	個人情報保護とは、その始まりにおいてどのような概念なのか。
10	個人情報保護 2	個人情報保護とは、また現在においてどのような概念なのか。

11	個人情報保護 3	情報社会における個人情報保護にはどのような課題があるのだろうか。
12	猥褻と社会と法 1	生命に必要な生殖がなぜ猥褻概念と結合したのか。なぜ抑制されるのか。
13	猥褻と社会と法 2	猥褻概念の歴史的発展について、イギリス・アメリカと日本での展開を開設する。
14	猥褻と社会と法 3	情報社会において私たちは何を抑圧すべき表現として認識するのだろうか。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業中に指示された動画・参考文献・関連文献を参照すること。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

『情報法テキスト』講義中の配布物や出席票をまとめたもの。入手方法は Google Classroom にて案内する。

【参考書】

Google Classroom のストリームにて適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

評価は、対面授業の場合は、期末試験によって行う。一方、疫病や事故等によりオンライン授業になった場合には、各セクションごとに適宜課す小論文の合算点によって行う。すなわち、各小論文を 10 段階評価し、期末にその素点を合算する。

いずれの場合も、最高得点をとった学生の素点を 100 点と換算し、以下全員の素点を換算する。このとき 60 点未満の学生は単位を落とすことになる。

また、小論文等において剽窃（コピペ）を確認した場合は、不正行為として教授会に報告し処分されることになるので注意するよう。その期の単位をすべて失い留年が確定することになる。

【学生の意見等からの気づき】

内容を整理し、より遅い進行で易しく解説するよう努力したい。

【学生が準備すべき機器他】

この講義に関する連絡は、すべて Google Classroom にて行う。

受講生は下記の URL から登録しておくことが必要である。

<https://classroom.google.com/c/NTA5MTU1MTUwNzZM0?cjc=sjsrogs>

【Outline (in English)】

Information technologies has played an important role in our lives. They will continue to evolve. In such circumstance, an area of law that deals with information, which has long been ignored, has been formed in some degree. Such area so-called "information law" relates with multiple areas of law, therefore it has a wide spectrum. It is true that advocates points of view differ from each others. For these reasons, this subject focuses on explaining relationship between information and law from basic perspective.

SOC300EC, SOC300ED

公共性と民主主義 I

鈴木 宗徳

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位
曜日・時限：木 1/Thu.1

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

公共性の思想史とその現代的意義を学ぶ

【到達目標】

歴史学・政治学・社会学における「公共性」をめぐる諸思想を理解することによって、参加民主主義のあるべき姿について考察する力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP8・DP10・DP11に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

公共性（または公共圏, public sphere, Öffentlichkeit）は多様な意味をもつ言葉であるが、この講義で扱うのは「市民による開かれた政治的討議の空間」という意味のそれである。ドイツの政治哲学者ユルゲン・ハーバーマスの『公共性の構造転換』（1962）において、18世紀のヨーロッパで議会制民主主義や法治国家といった制度が生まれた背景には、「市民社会」という理念に加え、市民たちが「公共性」という討議の空間（コーヒーハウスや各種メディア）を生み出したという事実があったことを指摘する。

民主主義を実質的なものとするため、つまりそれが利益集団政治・ポピュリズム・大衆の無関心…といった事態に陥らないようにするためには、市民がつねに「公共性」を活性化させなければならない。これは、様々な社会運動や「熟議民主主義」といった現象にかかわる現代政治の課題である。

この講義では、18世紀に生まれた「市民社会」や「公共性」の理念と現実について説明し、それらを現代においてを再興する上で必要とされる要件について検討する。

授業終了後に提出してもらうアクションペーパーは、翌週の授業で一部をとり上げてコメントを加える。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	ハーバーマスと公共性
2	フランクフルト学派第一世代の思想	アドルノと啓蒙的理性批判
3	18世紀市民社会とは何だったのか	自由主義と議会制民主主義
4	市民的（ブルジョア的）公共圏の成立	『公共性の…』前半の解説
5	18～19世紀市民社会の実像	コーヒーハウスとドイツ教養市民層
6	19世紀末以降の公共圏の衰退	『公共性の…』後半の解説
7	ハーバーマスと福祉国家	グローバル化時代における再分配
8	フレイザーによるハーバーマス批判	対抗的公共圏と社会運動の位置づけ
9	新しい社会運動とその後の社会運動論	アソシエーションと中間集団をめぐって
10	ハーバーマスのコミュニケーション的行為論	近代化による生活世界の合理化と植民地化
11	アーレントの公共性論と複数性	全体主義と画一性への批判

- 12 闘技民主主義と熟議 ムフの思想とミニ・パブリックス
13 地域における社会運動 ゲスト講師による講演の
実践
14 まとめ 全体のふり返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

レジュメおよび参考書を事前に読んでおくこと。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

パワーポイントで作成したレジュメを学習支援システムにアップロードする。

【参考書】

この授業は、ハーバーマス『公共性の構造転換』（未來社）を出発点とし、この本をめぐる展開した様々な公共性論について説明する。難解な本であるが、社会科学の最重要文献でもあるため、ぜひ挑戦してほしい。平易な入門書としては、齋藤純一『公共性』（岩波書店）を一読しておいてほしい。その他、授業中にも参考書を紹介する。

【成績評価の方法と基準】

リアクションペーパー（60%）と期末筆記試験（40%）。

リアクションペーパーは 200～800 字で、第 2 回の講義から毎回 Hoppii 上に提出を求める。期末筆記試験は授業内容の理解度を問う論述式の問題で、問いは事前に予告しないので、必ず授業に出席し、試験前には授業で扱った内容全体を復習すること。代替レポート等による「救済措置」は一切行わない。

【学生の意見等からの気づき】

該当なし。

【その他の重要事項】

Hoppii によるメール連絡（特にリアクションペーパーの提出方法）に気を付けておくこと。質問は担当教員にメールで連絡すること（munenori@hosei.ac.jp）。

【Outline (in English)】

Course Outline and Objectives

This course introduces the history of the idea of publicness and its contemporary significance.

Learning Activities outside of Classroom

Before each lecture, students will be expected to have read the resume and reference books. The required study time is at least four hours for each lecture.

Grading Criteria / Policy

Grading will be decided based on the weekly reaction paper(60%) and final exam(40%).

SOC300EC, SOC300ED

公共性と民主主義Ⅱ

鈴木 宗徳

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：木 1/Thu.1

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

公共性と社会問題の現実を学ぶ

【到達目標】

公共性や社会運動をめぐる実践的諸問題を理解し、理想的な市民社会を構想するための力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP8・DP10・DP11に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

「公共性」とは、現実存在する空間や運動を表す概念であるとともに、存在すべき理想を表す規範的な理念でもある。しかし実際には、理想的な「公共性」の実現を妨げる問題が数多く存在する。春学期（Ⅰ）の授業が主として理想を扱うのに対し、秋学期（Ⅱ）では、公共性の実現がいかに困難であるか、その現実について検討する。

とりわけ外国人／移民の共生というテーマを通して、包括的な公共圏の形成を阻む「壁」がどこにあるのかについて考察する。さらに近年における国内外の政治運動をとり上げ、社会運動を組織する上での課題がどこにあるのかを明らかにする。

授業終了時に提出してもらおうリアクションペーパーは、翌週の授業で一部をとり上げてコメントを加える。

この科目は春学期・秋学期を通じて履修することが望ましい。（秋学期授業を理解するためには春学期の授業を理解することが前提となる。）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	春学期のまとめ・秋学期の課題	公共性論の理論的困難
2	科学技術と公共性	専門家支配を超える
3	フランクフルト学派の科学技術批判	マルクーゼとハーバーマス
4	フランスにおける移民労働者の排除	ドキュメンタリー鑑賞
5	フランスの「郊外」問題とスカーフ論争	排外主義の原因を探る
6	日系人労働者の生活と教育	定住外国人との共生
7	テイラーの思想と多文化主義政策の是非	マイノリティ文化の保護をめぐって
8	本質主義／アイデンティティという“壁”	ポストコロナリズムを手がかりに
9	朝鮮学校と差別扇動	排外主義に抗する
10	インターネットと公共性	集団分極化とフェイクニュース
11	不服従と直接行動	“非暴力”的直接行動を理性化する
12	「沈黙」とジェンダー	トーン・ポリシングとマンスプレイング
13	政治教育の可能性	教育における中立性とは
14	まとめ	全体のふり返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

レジュメおよび参考書を事前に読んでおくこと。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

パワーポイントで作成したレジュメを学習支援システムにアップロードする。

【参考書】

この授業は、ハーバーマス『公共性の構造転換』（未來社）を出発点とし、この本をめぐって展開した様々な公共性論について説明する。難解な本であるが、社会科学の最重要文献でもあるため、ぜひ挑戦してほしい。平易な入門書としては、齋藤純一『公共性』（岩波書店）を一読しておいてほしい。

【成績評価の方法と基準】

リアクションペーパー（60%）と期末筆記試験（40%）。

リアクションペーパーは200～800字で、第2回の講義から毎回Hoppii上に提出を求める。期末筆記試験は授業内容の理解度を問う論述式の問題で、問いは事前に予告しないので、必ず授業に出席し、試験前には授業で扱った内容全体を復習すること。代替レポート等による「救済措置」は一切行わない。

【学生の意見等からの気づき】

該当なし。

【その他の重要事項】

質問は担当教員にメールで連絡すること（munenori@hosei.ac.jp）。

【Outline (in English)】

Course Outline and Objectives

This course introduces the reality of publicness and social issues.

Learning Activities outside of Classroom

Before each lecture, students will be expected to have read the resume and reference books. The required study time is at least four hours for each lecture.

Grading Criteria / Policy

Grading will be decided based on the weekly reaction paper(60%) and final exam(40%).

SOC300ED

特講（コミュニケーション・デザイン論）

石寺 修三、青木 貞茂

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：木 4/Thu.4

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は広告会社である(株)博報堂との協力関係のもと、広告の現場で活躍する一線級の講師陣による授業で構成します。ただし、単なる事例紹介中心の広告表現論ではなく、広告制作における思考プロセスを辿りながら、コミュニケーションという行為の本質を掘り下げる「刺激と発見の場」を目指します。

【到達目標】

講義を通じて皆さんに学んでほしいことは、以下の通りです。

- ①コミュニケーションという行為において重要な“考えること”と“創りあげること”の難しさと楽しさに気づく。
- ②コミュニケーションのプロが持つ視点やスキルを体験することにより、個人が自律的に創発しあう関係構築に関与するようになる。
- ③自分の考えを効果的に伝えることに関する基本的な知識とスキルを獲得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

【講義の構成】

本講座はあらかじめ設定した授業全体を貫くテーマのもと、以下の5つのステップに分け、いずれも簡単な演習を挟みながら進めます。
I. 基調講義 II. 発見するチカラ III. 考え抜くチカラ IV. 創りあげるチカラ V. 伝えるチカラ

【講義の形態】

対面を基本とし、毎回出席をとります、なお、コロナウイルス禍の状況により、講義を zoom によるオンライン形式で行うことがあります。その場合、チャット／アンケート／ブレイクアウトルームなどを活用し、リアル講義時のエッセンスを維持することを目指します。

【課題に対するフィードバック】

毎回入力してもらう「学びと気づき」を随時、講義内で引用するほか、個人／グループでの発表に対しても、その場で随時フィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1 回	基調講義	講座の概要を共有すると共に、ブランドに関する基本的な知識を学びます。
2 回	発見するチカラ (1)	ものごとを様々な角度から見つめるための考え方や手法を学びます。(生活者発想の視点から)
3 回	発見するチカラ (2)	ものごとを様々な角度から見つめるための考え方や手法を学びます。(観察調査の視点から)
4 回	発見するチカラ (3)	ものごとを様々な角度から見つめるための考え方や手法を学びます。(統計データの視点から)
5 回	考え抜くチカラ (1)	発見したことを論理的に組み立て、考えを深めるための手法を学びます。 (論理的とは何か)

6 回	考え抜くチカラ (2)	発見したことを論理的に組み立て、考えを深めるための手法を学びます。 (論理を組み立てる構造)
7 回	考え抜くチカラ (3)	発見したことを論理的に組み立て、考えを深めるための手法を学びます。 (ロジックチャートの作り方)
8 回	創りあげるチカラ (1)	他者と創発しあい新しいアイデアを生むための手法を学びます。 (ワークショップのやり方)
9 回	創りあげるチカラ (2)	他者と創発しあい新しいアイデアを生むための手法を学びます。 (ワークショップによるアイデア創造)
10 回	創りあげるチカラ (3)	他者と創発しあい新しいアイデアを生むための手法を学びます。 (ワークショップによる課題テーマ解決)
11 回	伝えるチカラ (1)	伝えるチカラアイデアをコトバやカタチにするための視点や手法を学びます。(コンセプトを創造する)
12 回	伝えるチカラ (2)	伝えるチカラアイデアをコトバやカタチにするための視点や手法を学びます。(キャッチコピーの書き方)
13 回	伝えるチカラ (3)	伝えるチカラアイデアをコトバやカタチにするための視点や手法を学びます。(広告表現の作り方)
14 回	試験 (論文課題)	講座を通して学んだことなどについての論考と最終的な成果物 (ポスター) の提出。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

最終回のプレゼンテーションに使用するポスター制作以外に、いくつかの講義で簡単な事前課題を付与します。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

本講義は授業で学んだことを日常生活で実践することで大きな気づきを得られる構成となっています。学生諸君がここでの学びを、普段のゼミ活動や論文・レポート作成などで積極的に実践することを期待します。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しませんが、講義に関連する参考書を推奨します。(参考書欄を参照のこと)

【参考書】

博報堂生活総合研究所『生活者発想塾』（日本経済新聞社,2010）
博報堂生活総合研究所『生活者の平成 30 年史』（日本経済新聞社,2019）
博報堂生活総合研究所『デジノグラフィ インサイト発見のためのビッグデータ分析』（宣伝会議,2021）

【成績評価の方法と基準】

【成績評価について】

出席状況に基づく平常点 (80 %) と論文課題 (20 %) で評価を行います。

【出席確認について】

出席確認は、①対面（あるいは zoom 上）での出席確認 と ②講義の翌日 24 時まで学習支援システム内の「課題」欄に入力する“学びと気づき” の 2 つが揃った者を「出席」と認めます。なお、対面（あるいは zoom）の講義開始後 30 分以降の入室と、講義終了 30 分以前の退室は「出席」とみなさないで注意してください。

【学生の意見等からの気づき】

毎回の講義の翌日 24 時まで授業に関する“学びと気づき”を、学習支援システムの「課題」欄に入力することをルールとします。なお、記入された内容は、次回以降の授業に随時反映させていきます。加えて、学習支援システム内の「授業内掲示板」も活用して、インタラクティブなやりとりを進めたいと思います。学生諸君の積極的な書き込みを期待します。

【学生が準備すべき機器他】

- ①当日配布するレジюмеに書き込みながら受講する講義が中心となります。コロナウイルス禍の状況によりオンライン講義になった場合は、レジюмеのファイルと受講用 URL を講義前日までに学習支援システムの「お知らせ」上で周知・配布します。受講者はあらかじめ紙で出力したレジюмеと筆記用具を用意して受講してください。
- ②オンライン講義になった場合は、パワーポイントを画面共有して進めます。その場合の受講はスマートフォンよりも、文字を視認しやすいPC上での受講を推奨します。

【その他の重要事項】**【受講者への要望】**

本講義は基本的に各回ないし各ステップで完結しますが、同時に1つのテーマのもとで連続性を持った構成となっています。その効果は全カリキュラムを受講することで最大化するので、“全ての回”に出席する意欲を持った真剣な学生の受講を希望します。

【Outline (in English)】

Under collaboration with Hakuhodo Inc., a major advertising company, this special lecture will be directed by forefront business people from the advertisement industry. However, the lecture is not just focused on studying advertisement expressions through case studies. Our aim is to provide “a platform of stimulation and discovery” where the students will explore the essence that lies in the act of communication by following the thinking process in advertisement production.

What I want you to learn from the lecture is the following:

1. Realize how difficult and fun it is to “think” and “create,” which are important in the act of communication.
2. Experience the perspectives and skills of communication professionals to enable you to build autonomous and emergent relationships.
3. Acquire basic knowledge and skills by effectively communicating your ideas. In addition to creating posters to be used in the final presentation, simple preliminary assignments will be given in some lectures. The standard preparation and review time for this class is two hours. This lecture is structured so that students can gain a great deal of insight by practicing what they learn in class in their daily lives. I hope that students will apply what they have learnt here in their everyday seminar activities and in their papers and reports. Students will be evaluated on ordinary points (80%) which are based on their attendance and the paper assignment.

SOC200EC, SOC200ED

メディア文化論

近藤 和都

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：月 4/Mon.4

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

映像文化の歴史は、ビデオとレンタルビデオ店が登場・普及する 1980 年代に大きく変容します。本講義ではメディア史やファン研究、文化地理学、科学技術社会論などの観点からビデオとレンタルビデオ店を考察し、現在の映像文化にいたるさまざまな系譜を辿ります。

【到達目標】

・メディア文化を分析するためのさまざまな方法を学び、自らの関心に基づく対象を分析できるようになる。
・映像文化の歴史的变化を学び、現在の映像文化を相対化できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP8・DP10・DP11 に関連。DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

・講師による講義形式で進めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	講義の概要説明
2	ビデオのメディア技術史	テクノロジーとしてのビデオの歴史を、テレビ制作との関係から辿る
3	ビデオの社会的構築	ビデオが家電として位置づけられるプロセスを、教育現場での利用との関係から考える
4	初期レンタルビデオ店の生成	初期レンタルビデオ店のあり方を、ジェンダーの観点から考える
5	レンタル生活様式の形成	レンタルビデオ店の利用について、生活リズムの観点から考える
6	レンタルビデオ店の大規模化	レンタルビデオ店の大規模化について、郊外化や情報技術の観点から考える
7	「メディアミックス・ハブ」としてのレンタルビデオ店	レンタルビデオ店の複合施設化について、出版文化史的な文脈から考える
8	ソフト供給体制の成立	大量の新作ソフトを供給する体制の成立過程とその背景について、ケーブルテレビ、衛星放送、ミニシアターなどのメディアインフラとの関係から考える
9	レンタルビデオ店の地理学	レンタルビデオ店の立地と分布、その背景について、東京と沖縄を事例に考える
10	TSUTAYA の誕生と展開	レンタルビデオ店の FC 化と標準化について、TSUTAYA を事例に考える
11	ビデオ雑誌とデータベース	大規模化したレンタルビデオ店の利用について、ビデオ雑誌の媒介作用の観点から考える
12	ビデオとファン文化	ビデオがもたらしたファン文化の変容について、アニメファンを事例に考える

13 レンタルビデオ店から Netflix へ レンタルビデオ店と定額制動画配信サービスの関係について、連続性と断絶の両視点から考える

14 まとめ レンタルビデオ店と定額制動画配信サービスの関係について、連続性と断絶の両視点から考える
全体の議論を振り返る

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・講義内で紹介した文献やコンテンツに触れることが求められる。
・本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

なし

【参考書】

講義内で随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】

・コメントシート 40 %
・期末レポート 60 %

【学生の意見等からの気づき】

なし

【Outline (in English)】

The history of screen culture underwent a major transformation in the 1980s with the emergence and spread of video and rental video stores. In this lecture, we will examine video and rental video stores from the perspectives of media history, fan studies, cultural geography, and STS, and trace the various genealogies that have led to the current screen culture.

Your overall grade in the class will be decided based on the following Term-end report: 60%, In class comments: 40%

SOC200EB, SOC200EC, SOC200ED

広告・消費文化論

青木 貞茂

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：月 2/Mon.2

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代社会において広告は、生活者のブランド選択やライフスタイルなどに様々な影響を与えている。またメディアを通じて発信される広義の広告情報は、コンテンツとして消費の対象となっている。この状況をふまえ、広告を幅広く消費文化との関連で捉えてその機能を論じ、高度大衆消費社会で広告が果たす役割を記号論等を用いて明らかにする。私たちの価値観や行動様式がいかに広告環境に組み込まれているかを認識し、自覚的・自律的なメディア情報把握、処理を実践する基礎能力を身につける。

【到達目標】

広告表現、消費文化表象の特徴や構造を学ぶことを通して、コンテンツ・広告分析に必要な知識を獲得し、広告の重層的な意味内容を把握できるようになることを目指す。また、消費文化として広告を捉えることで、広い意味での文化についての教養的な知識を習得することも意図する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP6・DP7・DP8・DP10・DP11・DP13 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

広告を中心としながら、コンテンツ、デザイン、商品など関連消費文化の表象も取り上げ、領域横断的に記号表現としての構造的な同一性や変換構造、意味内容などを論じる。広告と消費の相互関係を、具体的な事例を通して説明する。なお、授業計画は授業の展開によって、若干の変更があり得る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	授業のオリエンテーション	授業のコンセプトと必要な予備知識などについて
第 2 回	現代社会における広告消費・文化	広告・消費文化は、現代社会の中でどのような役割を果たしているのか
第 3 回	広告の力とは何か	広告は、現代社会の中でどのような力を持っているのか
第 4 回	広告消費・文化の理論	米国の大量生産・大量消費を支えた広告とアメリカン・ウェイ・オブ・ライフについて
第 5 回	<広告知>の発展	広告表現開発における<広告知>の発展とはどのようなものか
第 6 回	ブランドと広告 (1)	ブランディングに効果的な広告とは
第 7 回	ブランドと広告 (2)	ブランディングに効果的な広告とは
第 8 回	日本の消費文化と広告の起源	江戸期における消費文化とメディア、広告の発達
第 9 回	明治から昭和初期の広告と消費文化	日本の近代化に伴う広告と消費文化の転換
第 10 回	日本におけるアメリカ型広告の浸透	アメリカン・ウェイ・オブ・ライフの影響
第 11 回	高度成長期・バブル期の広告消費・文化	選択基準としての<私>の絶対化と日本的な広告表現の到達点

第 12 回 現代の日本と世界の 現代の広告表現の動向と課題
広告

第 13 回 文化の力と広告 ソフトパワーの担い手としての広告、およびその文化との関係

第 14 回 試験・まとめ 論述試験とまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義内容を頭の片隅に、日常生活において広告・映画・ドラマを積極的に視聴する。予習、課題がある場合、適宜授業内で指示する。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

青木貞茂『文化の力』（NTT 出版、2008 年）

【参考書】

青木貞茂『キャラクター・パワー』（NHK 出版新書、2014 年）他適宜授業内で指示する。

【成績評価の方法と基準】

評価は平常点（70%）と試験（30%）で行う。授業出席ごとにリアクションペーパーを提出。その提出回数と内容を評価する。また、最終回は論述試験を実施する。両者を合計して最終評価とする。

【学生の意見等からの気づき】

受講生が、授業内容に関して学びのポイントを的確につかんでいるかを把握した上で、より学びが深まるようにフィードバックを行う。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを活用するためパソコンを準備しておくこと。

【その他の重要事項】

全ての回に出席する意欲を持った学生の受講を希望する。教員は、長年広告会社にて広告プランニングの実務に携わっていた。その経験・ノウハウを反映した講義を行なう。

【Outline (in English)】

Advertisements in modern society influence consumers in many ways including their brand selection and lifestyle. In addition, broad-term advertisement information delivered by the media is a content subject to consumption. Taking this situation into account, we will look at advertising in the broadest sense of the word in relation to consumption culture, discuss its function and clarify the role played by advertisement in our advanced mass consumer society by using semiotics. Students will realize how our values and behavior styles are incorporated in the advertising environment. The class is designed to provide the basic skills to sort out and process subjective and self-directive media information. Through studying the characteristics and structure of advertising expressions and consumer culture representations, students will be able to grasp the multilayered meanings of advertisements and acquire an educational knowledge of consumer culture in a broad sense.

They will also actively view advertisements, films, and dramas in their daily lives. If there are any preparatory studies or assignments, they will be given in class as appropriate. The standard preparation and review time for this class is two hours. Evaluation is based on ordinary points (70%) and examinations (30%). Assignments presented in class are submitted to the learning support system. The number of submissions and their contents will be evaluated. In addition, a special assignment will be given in the final session as an alternative to the essay exam. The combined score of both assignments will be the final assessment.

SOC200ED

広告・PR論

青木 貞茂

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：月 2/Mon.2

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

広告・PRを中心としたメディアが提供するコンテンツを消費文化の重要な表現として捉えて、その現代的な機能・役割を明らかにするとともに、そのことを念頭に置いた広告・PRプランニングの実践に関わる基礎的な知識を修得することを目的とする。また、広告・PR産業についての理解を深めることも意図する。

【到達目標】

広告・PR業界について産業論の視点からその特徴と構造を把握し、その上で基礎的な広告・PRの基本的なプランニングに有用な基礎知識を獲得することを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP11に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

コンテンツ、商品、デザイン、ファッションなどにも通じる、消費文化を形成するものとしての広告・PRの意味や、その企画立案の方法や要件などについて論じる。広告・PRとメディア産業の相互関係を念頭に、具体的な映像・画像やキャンペーンの事例をもとに説明を行なう。毎回課題を学習支援システムに提出、フィードバックを行なう。なお、授業計画は授業の展開によって、若干の変更があり得る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	広告ビジネスの概要	広告・PRとは何か、ビジネスの視点からの講義と全体のオリエンテーション
第2回	広告会社の組織（1）	広告会社の組織の全体像とその内容
第3回	広告会社の組織（2）	広告会社の組織における専門職とその内容
第4回	生活者インサイトの発見（1）	インサイト発見のための調査方法と効果的なインサイト事例についてディベート
第5回	生活者インサイトの発見（2）	インサイト発見のための調査方法とプランニングへの応用
第6回	広告計画の流れとアカウント・プランニング	広告のプランニング手法としてのアカウント・プランニング概説
第7回	生活者インサイト（1）	生活者インサイトとは何か、その理論的解説
第8回	生活者インサイト（2）	生活者インサイトの調査方法と古典的事例のケース詳解
第9回	生活者インサイト（3）	生活者インサイトを活用した広告・PRの事例分析
第10回	ブランド戦略と言語ゲーム（1）	ブランド・コミュニケーション戦略とマネジメントの理論
第11回	ブランド戦略と言語ゲーム（2）	ブランド・コミュニケーション戦略とマネジメントの理論のアメリカの事例詳解
第12回	クロス・メディア（1）	日本のクロス・メディアの優れた事例について

第13回 クロス・メディア 海外のクロス・メディアの優れた事例について

第14回 広告の未来 広告・PRの未来と試験課題について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義内容を頭の片隅に置き、日常生活において広告、映画、ドラマを積極的に視聴する。予習、課題がある場合、適宜授業内で指示する。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

青木貞茂『文化の力』（NTT出版、2008年）

【参考書】

青木貞茂『キャラクター・パワー』（NHK出版、2014年）他適宜授業内で指示する。

【成績評価の方法と基準】

評価は平常点（70%）と試験（30%）で行う。最終回は論述試験を出題する。両者を合計して最終評価とする。

【学生の意見等からの気づき】

受講生が、与えられた課題の内容、形式両面の指示に関するチェック、確認をおろそかにしている点を改善する。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを活用するためパソコンを準備しておくこと。

【その他の重要事項】

全ての回に出席する意欲を持った学生の受講を希望する。教員は、長年広告会社にて広告プランニングの実務に携わっていた。その経験・ノウハウを反映した講義を行なう。

【Outline (in English)】

Advertisement and PR contents provided by the media are considered as an important expression of consumption culture. The class aims to clarify its contemporary functions and roles, and also provides basic knowledge related with the practice of PR planning. It is also intended to deepen the understanding of the advertising / PR industry.

This course aims to provide students with an understanding of the characteristics and structure of the advertising and PR industry from an industrial theory perspective, enabling them to acquire basic knowledge useful for rudimentary advertising and PR planning. They will also actively view advertisements, films, and dramas in their daily lives. If there are any preparatory studies or assignments, they will be given in class as appropriate. The standard preparation and review time for this class is two hours. Evaluation is based on ordinary points (70%) and examinations (30%).

PRI200ED

情報科学とコミュニケーション

金井 明人

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：木 2/Thu.2

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

コミュニケーションを、コンピュータと情報科学の理論を用い、総合的に把握し、解析することを目指す。特に、情報理論、システム理論、物語論および認知科学・人工知能の方法論を取り上げる。

【到達目標】

コミュニケーションを情報科学的な観点から分析できるようになる。また、情報理論やコンピュータ、デジタル技術の可能性と限界を理解したうえで、情報メディアが関わるコミュニケーションをデザインすることができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP11に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

本講義の第一部では、様々な状況におけるコミュニケーションを、特に、情報と認知、物語の観点から考察する。また、情報理論のモデルだけでなく、物語論的観点から、コミュニケーションに対してより深く、また幅広くアプローチするモデルについても扱っていく。さらに中間論文課題提出後の本講義の第二部では、コンピュータ・メディア・ネットワークなどを基盤とするコンテンツやコミュニケーションの現場について、人工知能やコンピュータ、関連作品の最新情報を盛り込みつつ、第一部の内容や中間論文課題をふまえた講義をする。最終的には以上の内容をふまえた論文の提出が必要になる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	情報科学と物語、コミュニケーション	本授業のガイダンス
第 2 回	コミュニケーションの実験調査	コミュニケーションに関する実験調査を行う
第 3 回	物語とコミュニケーション	物語とコミュニケーションの関係を議論する
第 4 回	通信ネットワークとセキュリティ	インターネットにおける通信の理論を議論する
第 5 回	情報とコミュニケーション	コンピュータで情報がどのように扱われているかを議論する
第 6 回	情報理論とコミュニケーション	コンピュータで情報がどのように伝達されているかを議論する
第 7 回	システム理論とコミュニケーション	現状のコンピュータの理論では実現不可能な事項は何か議論する
第 8 回	中間論文課題へ向けたまとめ	最新の情報メディアに関する議論と、これまでのまとめ
第 9 回	情報システムとコミュニケーション	コンピュータのプログラミングの限界について
第 10 回	物語論とコミュニケーション	物語の解析を、情報科学的な観点から行なう
第 11 回	中間論文課題を基にした議論	論文例を提示し、それを基にした議論を行う
第 12 回	映像・広告とコミュニケーション	映像・広告とコミュニケーションの関係を議論する
第 13 回	芸術とコミュニケーション	芸術とコミュニケーションの関係を議論する

第 14 回 まとめと授業内論文 これまでの授業のまとめとそれを基にした論文執筆・提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。毎回の復習をし、それをふまえて中間論文課題を提出すること。また、中間論文は、提出後に論文例を提示するので、それをふまえて、その後の授業に取り組むこと。

【テキスト（教科書）】

プリントを毎回配布する。

【参考書】

授業時に紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業中の課題と中間論文課題 (50%)・最終授業内論文課題 (50%)

【学生の意見等からの気づき】

情報科学の理系的側面および哲学的側面を扱う回数も数回あるので、そのことは意識しておいてください。数学を扱う回も 1~2 回だけあります。社会学ではなく、情報科学やプログラミングからの観点を重視しますので難解に感じられる回もあると思いますが、デジタル機器やインターネットの基になっている内容ですので、深く探究してください。また、デジタルだけでなく、アナログ的な観点についても重視していく予定です。

【Outline (in English)】

This course deals with the information theory, system theory, narratology, artificial intelligence, and cognitive science. The goals of this course are to establish the skill to analyze communication from the viewpoint of information theory. Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class. Your overall grade in the class will be decided based on the following

Midterm paper: 50%, term paper: 50%

HUI200ED

認知映像論

金井 明人

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：木 2/Thu.2

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

多くの映像作品においては、物語が重要な役割を担っている。本授業では映像を物語とその認知の観点から分析する。物語による認知的効果は、必ずしもストーリーのみにはならず、編集や撮影、音などの様々な技法が重要になるため、これらの側面も重視する。また、映像の歴史と認知の関係・影響も議論していく。映画をメインに扱う予定であるが、他の種類の映像もとりあげる。また、映像がもたらす違和感や認知的切断に特に注目するので、この種の効果とその技法に強い関心を持つことが重要になる。「わかりにくい」映像、「見づらい」映像を多く扱うが、「わかりにくさ」「見づらさ」は認知的な要因が大きく影響しているの、それがなぜ生じるのかを考えてみてほしい。

【到達目標】

映像作品（主に実験的作品）に数多く実際に接し、それらの作品を基に、映像と物語に関する認知プロセスの分析・解析ができるようになることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP11に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

授業では多くの映像に実際に接し、認知的に生じる物語とその効果について、皆さんが提出するレポートやリアクションペーパーを基に議論していく。なお、通常時は授業開始 30 分後以降の教室への入室は禁じる。課題時は、さらに短期間で入室を禁じる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	本授業の内容について
第 2 回	映像と認知科学	映像と認知科学の関係について
第 3 回	映像とストーリー	ストーリーを認知するプロセスについて
第 4 回	映像とノンストーリー	映像認知におけるストーリー以外の側面について
第 5 回	第 1 回レポート課題	第 1 回レポートの対象映像の上映
第 6 回	映画の歴史・認知	第 1 回レポート課題映像の解説
第 7 回	映像認知プロセスの調査・分析	第 1 回レポート課題をふまえ、映像認知プロセスを解析
第 8 回	映像と物語による効果の発生要因	認知的効果の発生要因について
第 9 回	第 2 回レポート課題	第 2 回レポートの対象映像の上映映像
第 10 回	映画の歴史・認知再考	第 2 回レポート課題映像の解説
第 11 回	映像と物語による効果の発生要因再考	第 2 回レポート課題をふまえ、認知的効果の発生要因を再考
第 12 回	ここまでで扱えなかった映像について	様々な映像の技法と、認知の関係について
第 13 回	映像環境について	映像とその環境による認知的効果の差異について
第 14 回	まとめと授業内論文	授業内容をまとめる論文の授業内での執筆

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とするので、テキストなどの自習によって、各自、授業の補足を行なうこと。

【テキスト（教科書）】

開講時に指示する。

【参考書】

小方孝・川村洋次・金井明人(2018)『情報物語論: 人工知能・認知・社会過程と物語生成』白桃書房

【成績評価の方法と基準】

2 回のレポートの提出 (66%) に加え、最終回の授業内で論文課題 (34%) がある。全ての提出が成績評価の前提となる。

【学生の意見等からの気づき】

映像上映中は、一切の電子機器の使用を禁じる。時間を見るのにも使わないこと。私語も厳禁。映像環境の構築にご協力お願い致します。

【学生が準備すべき機器他】

プリントは授業支援システムで配布する。

【その他の重要事項】

レポート課題映像の上映時は、対面の場合は早い時間に教室を閉め切るので遅刻しないこと。

【Outline (in English)】

This course deals with the techniques of film and images, rhetoric, narrative, and cognition. This course deals with the information theory, system theory, narratology, artificial intelligence, and cognitive science. The goals of this course are to establish the skill to analyze cognitive process regarding the film and narrative. Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class. Your overall grade in the class will be decided based on the following
First midterm paper: 33%, Second midterm paper: 33%, term paper: 34%

SOC200EB, SOC200EC, SOC200ED

ジャーナリズムの歴史と思想 I

別府 三奈子

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：水 3/Wed.3

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、問題解決のための社会装置であるジャーナリズムの形成過程と、その必然的背景となる言論の自由の考え方を中心に、ジャーナリズムの生い立ちと今日の存在意義を学ぶ。

【到達目標】

言論の自由思想の由来と、今日のグローバル・スタンダードとなっているジャーナリズムの基本理念となっているプロフェッション論の考え方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP5・DP8・DP10・DP11に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

映像資料を教室での提示をベースに、講義形式で行う。質問を拾い、理解度を確認するリアクションペーパーの提出と、それに対する教室でのフィードバックも行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	ニュースをめぐる考察
第2回	ジャーナリズムの主体	記者の条件
第3回	マスメディアと技術	マスコミュニケーション発達史
第4回	ジャーナリストの役割	誰のために何をする人か
第5回	言論の自由思想の形成	封建社会の自由と不自由
第6回	言論の自由の社会的機能	市民社会の自由と不自由
第7回	ジャーナリズム前史	マスメディア・言論の自由思想・言論統制
第8回	言論の自由の法文化	ポール・リビアの鐘の音
第9回	社会改良主義1	ルイス・ハインの写真
第10回	社会改良主義2	ピューリッターの生涯
第11回	弱点1：会社益の克服	経営者とジャーナリズム
第12回	弱点2：国益の克服へ	国家とジャーナリズム
第13回	プロフェッション論	パブリックサービスの考察
第14回	制度化された理念	中間レポートほかのリプライと授業全体の補足

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストの事前予習と配布資料の復習などで、毎週4時間以上の学習を要する。

【テキスト（教科書）】

『「表現の自由」入門』ナイジェル・ウォーバートン著、岩波書店、2015。

このほか、ハンドライティングの配布資料を、授業内にて扱う事例に即して配布する予定。

【参考書】

参考書は指定しない。配布資料があります。

【成績評価の方法と基準】

中間試験 40%、期末試験 60%、総合評価としてリアペも参考に
する。

【学生の意見等からの気づき】

情報、メディア、マス・メディア、ジャーナリズムといった用語の、一般語と専門用語の相違に対する自覚を促す。

【学生が準備すべき機器他】

筆記用具

【その他の重要事項】

春学期はジャーナリズムの歴史と思想の下部構造である言論の自由を主題とする。秋学期は、上部構造に表出する20世紀の事例の数々を扱う。ジャーナリズムの理解には2科目履修が望ましい。

【Outline (in English)】

Students learn the concept of the freedom of the press, a relationship between journalism and the free press, and the meaning of the first amendment in America.

Understand the origin of the idea of free speech and the concept of professionalism, which is the basic philosophy of today's global standard journalism.

It requires more than 4 hours of study each week, including preparation for the textbook and review of handouts.

Grading will be decided based on interim report 40%, final exam 60%

SOC200EC, SOC200ED

ジャーナリズムの歴史と思想Ⅱ

別府 三奈子

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：水 3/Wed.3

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ジャーナリズムの専門基礎知識があることを前提に、ジャーナリズムが果たしてきた役割、社会的機能について、古今東西の数々の事例を観察する。言論の自由の砦としての一線を画し、社会的立場の弱い人びとの声を伝え、あるいは、長い時間の積み重ねによって社会問題の構造を明らかにする日々の記録。さまざまな事例を通して、ジャーナリズムの社会的役割とジャーナリストの実践について学ぶ。

【到達目標】

ジャーナリズムを規定しているプロフェッション論の意味、言論の自由のせめぎあいの前線にあるジャーナリズムの社会的機能と責任、それを担うジャーナリストの困難や役割について、深く理解し、他の情報とジャーナリズムの違いを見分けられるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP8・DP10・DP11 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

対面授業を予定している。授業での映像資料の観察と、講義による解題と問いかけ、指定テキストによる復習とリアペの提出、のサイクルで、無理なく理解を深めていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	ジャーナリズムの定義・プロフェッションの考え方
第 2 回	DX 化の進む情報社会のニュース特性	情報の種類と定義・米国のジャーナリズム略史
第 3 回	言論の自由と民主主義	事例:戦時政府の機密指定と人びとの知る権利
第 4 回	調査報道記者の立ち位置	事例:教会による犯罪の隠蔽
第 5 回	記者と市民の連帯	事例:軍事政権下の国際報道
第 6 回	命のインフラとしてのジャーナリズム	事例:大災害直後の混乱
第 7 回	記録の意味	事例に共通する問いを考える
第 8 回	判断材料の共有	事例:国際裁判の世界中継
第 9 回	メディア理論からの検討	沈黙の螺旋理論
第 10 回	監視社会のリスクと安全	事例:国家権力と GAF A が国民を監視する
第 11 回	ジャーナリズムの弱点	商業主義・国家主義
第 12 回	アーカイブの可能性	事例:原発事故の予測
第 13 回	ジャーナリズムの原理・原則	記者の行動綱領を考察する
第 14 回	市民社会とジャーナリズム	中間レポートのリプライと振り返り。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で扱った事例に関する追加リサーチ、指定教材による復習、授業課題に関するリアペの作成などで、毎週5時間くらいを要する。

【テキスト（教科書）】

今秋刊行予定のテキストを使用する予定

【参考書】

『調査報道ジャーナリズムの挑戦—市民社会と国際支援戦略』花田達郎、別府三奈子、大塚一美、デビッド・カプラン著、旬報社、2017年

【成績評価の方法と基準】

理解度を測る中間試験 40%、期末筆記試験 60%。総合評価として、リアペも参考にする。

【学生の意見等からの気づき】

政治体制のことなる国ごと、あるいは、同じ国でも時代によって異なるジャーナリズム観について、その違いが生まれる理由への自覚的認識をより強く促す。

【学生が準備すべき機器他】

指定テキストの入手、図書館の新聞データベースへの学外からのアクセス（VPN 接続の準備）

【その他の重要事項】

日々のニュース観察

【担当教員の専門分野等】

<主要単著>『ジャーナリズムの起源』世界思想社、2006年。『アジアでどんな戦争があったのか 戦跡を辿る旅』めこん、2006年、ほか。

【Outline (in English)】

We observe the concepts of profession theory and freedom of speech, which govern journalism, through the cases of in east and west.

Gain a deep understanding of the professional theory that defines journalism, and be able to distinguish the difference between other information and journalism.

It takes about 5 hours a week to do additional research on the cases covered in the class, review using designated materials, and create a rapport for class assignments.

Grading will be decided based on 40% midterm report to measure comprehension, 60% final written exam.

MAN200EB, MAN200ED

消費者行動論

諸上 茂光

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：水 2/Wed.2

その他属性：〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現在のマーケティング戦略において、消費者がどのように商品・サービス、或はブランドなどの情報に接し、それらの情報を利用して最終的な購買行動を起こすのかを把握することは効果的な戦略の構築のためにも重要なことである。

本講義では実際のマーケティング戦略の実例に触れながら消費者の認知や情報収集・態度形成・意思決定過程といった消費者行動のメカニズム、さらに、それらの処理に影響を与える外部環境要因について、社会心理学・認知心理学・経営学など学際的な視点に基づいて体系的に学習する。

【到達目標】

消費者がある製品・サービスに出会ってから実際の購買行動に至るまでの消費者の認知的・心理的特性について理解した上で、常に変化する市場や消費者動向に対応した効果的な消費者コミュニケーション戦略及びマーケティング戦略のあり方について考察・提案できるようにすることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP6・DP7・DP11に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

講義形式で進める。授業内においてテーマに応じて随時ディスカッションを行ったり、リアクションペーパーの提出を求める。提出されたリアクションペーパーからいくつか良いものを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1.	ガイダンス	授業概要
2.	消費者行動とマーケティング	マーケティング戦略における消費者心理・消費者行動の位置付け
3.	消費者の購買意思決定過程	情報入力から始まる各種意思決定モデルの紹介
4.	消費者の欲求と動機づけ	購買の動機について理解し、その調査方法について概観する
5.	消費者の知覚特性	心理学的な観点も取り入れ、消費者の知覚特性を理解
6.	消費者の情報探索と評価	消費者による商品・サービスに関する情報の探索と評価について
7.	消費者の記憶特性	広告等を通して与えられるブランド・商品情報に対する注意と記憶について
8.	消費者の態度形成と変容	消費者の評価と態度形成の過程およびその変容の仕組み
9.	消費者の関与	関与の概念の理解と、消費行動への影響について
10.	消費者行動の状況要因	状況依存的に変化する消費者の意思決定について事例を基に理解 〈ゲスト講師登壇予定〉
11.	消費者の個人特性	消費者の統計学的・心理学的なセグメント分けと心理過程への影響
12.	マーケティング調査	消費者調査および市場調査の実践について

13. 対人関係と消費者行動 対人関係が消費者の情報探索行動や意思決定にもたらす影響について

14. 消費者の購買後行動 購買後行動と、ブランドロイヤリティの形成

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

具体的な事例に触れてもらうため、随時、事前課題を授業の最後に示す。

この事前課題の一部が小レポートとして評価に加算される。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

指定しない。

【参考書】

『新・消費者理解のための心理学』（杉本徹雄編著、福村出版）

【成績評価の方法と基準】

小レポート類 (30%) と期末試験 (70 %) による総合評価。

【学生の意見等からの気づき】

グループ討議を多く（なるべく授業の冒頭で）取り入れることとした（対面授業時）。

【その他の重要事項】

ゲスト講師の登壇回については講師との話し合いにより前後する可能性があります。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to obtain the basic concepts and principles of consumer psychology.

Before/after each class, students will be expected to spend four hours to understand the course content Experiment/Practice.

Your overall grade in the class will be decided based on the followings: Term-end examination: 70%, Short reports : 30%.

FRI200EC, FRI200ED

メディアの歴史

小林 直毅

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：金 3/Fri.3

その他属性：〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

どのようなメディアが、何を、どのように語り、描いてきたのかを考えながらメディアと人間と技術の歴史を理解し、「記録と記憶」としてのメディアの可能性と課題を考えることを目的とします。

【到達目標】

政治、経済、社会、文化の変容とメディアの変容との結びつきから、出来事の実験にメディアが不可欠であることを理解し、後半では、「戦後史としてのメディア史」をテーマにして、これを実践的に考えることができるようになるのがこの授業の到達目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP8・DP10・DP11に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

対面授業を進める予定です。

5～6点の配布資料を学習支援システム>教材で配信しますので、それらを使って受講を進めてもらいます。

配布資料は受講の事前、事後の学習のためのものです。受講者はこの配布資料を参照しながら、講義を聴いてノートを作成していきます。受講後さらに、配布資料や参考文献などを参照して、学んだことを文章化した「講義ノート」を作成します。受講者にはこれを毎週重ねてもらいます。

授業期間内で学習支援システム>課題によって3～5回のリアクションペーパーの提出を求めます。それについて授業内で講評、解説をします。

なお、授業計画は授業の展開によって、若干の変更があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	この講義の概要とねらい
第2回	メディアの歴史を読み解く視点	「記録と記憶」の考古学をめざして。
第3回	メディアと近代社会	何が、どのように印刷され、どのように読まれたのか。
第4回	「眼の隠喩」としての映像メディア	「見えないもの」を見る経験。
第5回	戦争とメディア	「動員」と「告発」、「記録」と「記憶」。
第6回	メディア表象としての近代	リアクションペーパーへのリブライ(1)
第7回	「玉音放送」と「終戦」の記憶	敗戦はどのように語られ、記憶されたのか。
第8回	原爆と原子力「平和利用」のメディア表象	「核」の記録と記憶に見る敗者の心性。
第9回	ナショナルメディアとしての放送とその技術	ラジオとテレビの連続性。
第10回	敗戦の記録と記憶	リアクションペーパーへのリブライ(2)
第11回	「テレビを見ること」で何が経験されたのか	高度経済成長とテレビの普及。
第12回	テレビが描いた「豊かさ」と「平和」(その1)	人びとは「皇太子ご成婚」に何を見たのか。

第13回 テレビが描いた「豊かさ」と「平和」(その2)

第14回 3.11 後のメディア メディア・アーカイブの可能性と課題を考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義の前に、配布資料を熟読してください。講義の概要を把握し、分かりにくい事項については、「何が、どう分からないか」を考えてメモとして書き出すといった作業が必須です。

講義後に、配布資料や参考文献などを参照しながら「講義ノート」を整理、作成することも必須です。事項の箇条書きメモではなく、文章として整理するように心がけてください。

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

とくに指定しません。

【参考書】

毎回の配布資料で示しますが、そこで紹介された文献をできるだけ多く読んでください。

【成績評価の方法と基準】

リアクションペーパーがすべて提出されていて、いずれの内容も問題がない場合は、それをもって成績全体の60%の評価とします。さらに期末試験を実施しますので、これを単位認定の必須要件とするとともに、その評価を成績全体の40%の評価とします。

【学生の意見等からの気づき】

リアクションペーパーや答案以上に、授業改善アンケートなどによって気づかされたようなことはありません。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムで資料配布します。

【Outline (in English)】

Course outline:

In this course, you will understand the history of media as a technology and institution that enables human recognition and existence, and also consider media as "record and memory".

Learning objectives:

The goal of this course is to help students understand that the media associated with political, economic, social and cultural transformations are essential to the experience of the event.

Learning activities outside of classroom:

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading Criteria /Policies:

Your overall grade in the class will be decided based on the following.

Term-end examination: 40%, Short reports : 60%

SOC200ED

メディアコンテンツ論

藤田 真文

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：木 4/Thu.4

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、KHCoder という自然言語分析のツールを使い、自然言語分析の方法を解説します。その後、受講者自らが収集したテキストで、自然言語分析を試みてもらいます。

【到達目標】

受講生が自然言語分析の方法を理解できている。KHCoder を使い自然言語分析ができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP11に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

この授業では、KHCoder というツールを使った自然言語分析の方法を講義系形式で解説します。その後、受講者自らが収集したテキストで、自然言語分析を試みてもらいます。毎回講義内容を理解できているか課題を出して確認していきます。自然言語分析の課題に関するレポートを計 3 回提出してもらいます。受講生の分析結果については、授業中にコメントをしてフィードバックします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	授業の進行・KHCoder について	授業内容の説明
第 2 回	言語とは	言語の基本構造を知る
第 3 回	日本語の性質	日本語の基本構造を知る
第 4 回	中間課題の提示①	言語・日本語の基本課題
第 5 回	テキストマイニングを知る	計量言語分析の原理を知る
第 6 回	テキストマイニングに親しむ	計量言語分析のツールを知る
第 7 回	KHCoder を使ってみる	KHCoder の基本操作を知る
第 8 回	中間課題の提示②	計量言語分析の基本課題
第 9 回	中間課題の①の結果	分析結果の報告
第 10 回	共起ネットワークとは	共起分析の原理を知る
第 11 回	クラスター分析とは	クラスター分析の原理を知る
第 12 回	データクレンジング	データの正規化を知る
第 13 回	最終課題の提示	最終レポートの作成方法
第 14 回	中間課題の②の結果	分析結果の報告

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

樋口耕一・中村康則・周景龍（2022）『動かして学ぶ! はじめてのテキストマイニング: フリー・ソフトウェアを用いた自由記述の計量テキスト分析 KHCoder オフィシャルブック II』ナカニシヤ出版、2,420 円

【参考書】

樋口耕一（2020）『社会調査のための計量テキスト分析—内容分析の継承と発展を目指して【第 2 版】』ナカニシヤ出版、3,080 円
末吉美喜（2019）『テキストマイニング入門 Excel と KHCoder でわかるデータ分析』オーム社、2,500 円

【成績評価の方法と基準】

中間に 2 回各 2000 字程度、学期末に 1 回 4000 字程度のメディアコンテンツを分析したレポートを提出してもらいます。ただし授業時の課題を 3 回以上提出していることがレポート評価の要件となります。

①レポート（3 回）= 80 % ②毎回の課題 = 20 %による総合評価

【学生の意見等からの気づき】

昨年度在外研究のため今年度はありません。

【学生が準備すべき機器他】

計量言語分析のツールとして KHCoder を使います。Windows は無料ですが、Mac の場合は、導入費用（3,980 円）がかかります。また、できれば授業時間には PC を教室に持ち込んで講義を聞いてください。

【その他の重要事項】

KHCoder の詳細な設定や使用方法については授業時間内では消化しきれない可能性があります。必ずテキストを購入してください。

【Outline (in English)】

【Course outline】

In this class, we will explain how to perform natural language analysis using a natural language analysis tool called KHCoder. Afterwards, participants will try their hand at natural language analysis on texts they have collected themselves.

【Learning Objectives】

The student understands the methods of natural language analysis and is able to perform natural language analysis using KHCoder.

【Learning activities outside of classroom】

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria /Policy】

Students are required to submit two reports of approximately 2000 words each in the middle of the semester and one report of approximately 4000 words at the end of the semester analyzing media content. However, the requirement for report evaluation is that the students have submitted the assignments at least three times in class.

Overall evaluation based on (1) reports (3 times) = 80% (2) assignments at each class = 20%.

HUI200ED

空間メディア論 I

森 幹彦

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：月 2/Mon.2

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本科目は、メディアとしての空間に注目し、多様な空間で起こる現象やその空間で行われる活動の様相を掴もうとする。これらを理解する上での理論的背景を理解することを目的とする。そのために、空間の様子を情報の観点から取得してモデル化し、シミュレーションする手法を概観して分析方法を理解する。

【到達目標】

- 1) 様々な空間がメディアとしてあることを理解する。
- 2) それぞれの空間の特性を理解する。
- 3) 空間の情報化法を理解する。
- 4) 空間の様子をモデル化する方法、シミュレーションする方法を理解する。
- 5) 得られた情報の分析法を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP11に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

講義形式で進める。内容に応じて学生と議論しながら理解を深める。不明点などは、授業中に積極的に質問することが必要である。意見・疑問をまとめることを主眼とする小レポートと、理解度を確認するための中間レポートを必要に応じて課す。小レポートで受け取った意見・疑問に対しては全体に向けてフィードバックする。理解度に応じて補足説明を加える。なお、授業計画は授業の展開によって変更する可能性がある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	この授業の進め方、空間とメディアの概要
第 2 回	メディアとしての空間	様々な「空間」のメディア的性質の議論
第 3 回	物理空間	物理空間の性質と分析方法
第 4 回	情報空間	情報空間の性質と分析方法
第 5 回	思考空間と交流空間	人間の内部や人間関係を表す空間の性質と分析方法
第 6 回	学習空間	知識や技能を伝達する空間の特性と分析方法
第 7 回	中間討議	ここまでを総合し、「空間」のメディア的性質をまとめる
第 8 回	情報可視化	「空間」を見えるようにする方法
第 9 回	空間情報のモデル化とシミュレーション	空間情報を適切にとらえて様子を確認する方法
第 10 回	空間情報のモデル化 (1)	物理的特性の強いモデルとその利用
第 11 回	空間情報のモデル化 (2)	情報的特性の強いモデルとその利用
第 12 回	シミュレーション (1)	物理的特性の強いシミュレーションとその利用
第 13 回	シミュレーション (2)	情報的特性の強いシミュレーションとその利用
第 14 回	振り返りとまとめ	授業全体を振り返り、まとめの議論をする

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

前回までの内容が理解できた前提で授業を進めていく。理解できるまで復習して授業に臨まなければならない。準備学習・復習時間は各 2 時間を標準として授業を進める。

【テキスト（教科書）】

適宜資料の配布と提示を行う。

【参考書】

授業内で参考資料をその都度提示する。

【成績評価の方法と基準】

レポート課題 (50%)、中間課題 (20%)、最終課題 (30%) として、到達目標への達成度を総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

学生の進捗に合わせて授業進度や難易度の調整をする。

【学生が準備すべき機器他】

資料は電子的に配布することから、必携ではないが個人用の PC か画面の大きめなタブレット端末があるとよいだろう。

【その他の重要事項】

授業内容の性質から、数学的・物理学的な理論の説明があり、数式が現れざるを得ない。多様な背景を持つ学生にも受講可能なように可能な限り分かりやすい議論をするが、高校での「数学」や「物理」の知識があるとよいだろう。大学での教養的な数学や物理学を履修していると深く理解できるだろう。

質問は原則授業中に受け付ける。その他のコミュニケーション手段でも受け付ける。詳細は、初回授業で説明する。

【Outline (in English)】

This course focuses on space as a medium and attempts to grasp the phenomena that occur in diverse spaces and the activities that are performed in these spaces. This course aims to understand the theoretical background in understanding these phenomena. For that purpose, students overview the methods of acquiring, modeling, and simulating the state of space from the viewpoint of information, and understand the analytical methods.

The goal of this course is as follows:

- (1) To understand that there are various spaces as media,
- (2) To understand the characteristics of each space,
- (3) To understand the informatization methods of space,
- (4) To understand how to model and simulate spaces,
- (5) To understand how to analyze the obtained information.

This course progresses on the premise that students have reviewed the previous contents until they understand the contents before the next class. The standard preparation and review time is 2 hours each.

The following three assignments will be made: report assignment (50%), midterm assignment (20%), and final assignment (30%). The degree of goal achievement will be evaluated holistically.

HUI200ED

空間メディア論 II

森 幹彦

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位
曜日・時限：月 2/Mon.2

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本科目は、メディアとしての空間に注目し、多様な空間での出来事を分析する技法の修得を目的とする。その際に、理想状態にない現実的なデータを取得して整理して分析する方法を実践的に身につける。

【到達目標】

- (1) 空間メディアに対するデータ処理の方法を理解する。
- (2) 空間メディアに対するデータ分析の方法を理解する。
- (3) データ分析の計画ができる。
- (4) 実際にデータ分析をして、出来事と結びつけて説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP11に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

第7回までにデータの扱うスキルを身につける。既存のデータを利用して分析や可視化を試す。第8回以降は、グループワークを通じて実際のデータ取得からデータ分析と考察までを行う。

不明点などは、授業中に積極的に質問することが必要である。意見・疑問をまとめることを主眼とする小レポートと、理解度を確認するための中間レポートを必要に応じて課す。小レポートで受け取った意見・疑問に対しては全体に向けてフィードバックする。理解度に応じて補足説明を加える。最終レポートにより到達目標の達成状況を確認する。なお、授業計画は授業の展開によって変更する可能性がある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	この授業の進め方、空間とメディアの概要
第2回	物理情報のセンシング	物理空間を対象にデータ取得する方法
第3回	データの処理法	生データを整形データにする方法
第4回	データの分析法	データ分析のための処理法
第5回	地理空間情報(1)	時空間地理データ処理法
第6回	地理空間情報(2)	時空間地理データの可視化法
第7回	中間まとめ	ここまでの技法の理解を確認する
第8回	データ分析計画	実施時の制約と注意点
第9回	データ取得の実施(1)	センシング法と取得可能なデータの関係
第10回	データ取得の実施(2)	取得データの適切さの確認法
第11回	データ分析(1)	データ分析の実践
第12回	データ分析(2)	データ分析の実践
第13回	分析結果の考察	分析結果からの意味付け方法
第14回	授業の振り返りとまとめ	授業全体を振り返り、まとめの議論をする

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

前回までの内容が理解できた前提で授業を進めていく。理解できるまで復習して授業に臨まなければならない。準備学習・復習時間は各2時間を標準として授業を進める。さらに、授業時間内での進捗状況によっては、授業時間外に分析等を進めなければならない可能性がある。

【テキスト（教科書）】

適宜資料の配布と提示を行う。

【参考書】

授業内で参考資料をその都度提示する。

【成績評価の方法と基準】

レポート課題(50%)、中間課題(20%)、最終課題(30%)として、到達目標への達成度を総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

学生の進捗に合わせて授業進度や難易度の調整をする。

【学生が準備すべき機器他】

普通教室の場合、各自の所有するPCがあると効率よく授業内活動が可能になる。PCがない場合には、貸し出し用PCを利用できる。情報実習室の場合は、そのPC端末が利用できる。

【その他の重要事項】

授業内容の性質から、数学的・物理学的な理論の説明があり、数式が現れざるを得ない。多様な背景を持つ学生にも受講可能なように可能な限り分かりやすい議論をするが、高校での「数学」や「物理」の知識があるとよいだろう。大学での教養的な数学や物理学を履修していると深く理解できるだろう。また、データ処理のためにコンピュータ操作とプログラミングが必要になる。「プログラミング入門」の復習をしておくとともに、自習するとよいだろう。質問は原則授業中に受け付ける。その他のコミュニケーション手段でも受け付ける。詳細は、初回授業で説明する。

【Outline (in English)】

This course focuses on space as a medium and aims to acquire techniques for analyzing events in a various types of space. Students learn practical methods of acquiring, organizing, and analyzing realistic data.

The goal of this course is as follows:

- (1) To understand data processing methods for spatial media,
- (2) To understand how to analyze data on spatial media,
- (3) To be able to plan data analysis,
- (4) To be able to actually analyze data and explain it in relation to events.

This course progresses on the premise that students have reviewed the previous contents until they understand the contents before the next class. The standard preparation and review time is 2 hours each. Depending on the progress of the students, it may be necessary to proceed with analysis and other work outside of class time.

The following three assignments will be made: report assignment (50%), midterm assignment (20%), and final assignment (30%). The degree of goal achievement will be evaluated holistically.

FRI200ED

メディアテクノロジーと社会

橋爪 絢子

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：水 2/Wed.2

その他属性：〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

メディアテクノロジーの発展と、それに伴う社会における課題について考えます。また、それらの諸課題を解決するための設計の基礎として、ユーザ中心設計の基本概念と考え方について学びます。

【到達目標】

- (1) ユーザ中心設計の基本概念と設計プロセスにおける各活動の理解
- (2) メディアテクノロジーの発展に伴う社会における諸課題の理解

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP11に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

【コロナウイルス感染症の状況に応じて、オンラインでの実施になる可能性があります。】

以下のテーマについて、主に講義形式で授業を行います。内容の理解を深めるために、適宜グループワーク等を入れたり、ゲストを招聘したりします。なお、授業計画は授業の展開によって、若干変更する場合があります。

前回までに提出されたリアクションペーパーや課題などの内容、および得られたコメントから、授業のはじめにいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業概要の説明
2	ユーザとインタフェース 1	ユーザの多様性
3	ユーザとインタフェース 2	インタフェースにおけるインタラクション
4	生活の中のメディアテクノロジー	コンピュータの浸透と生活の変化
5	アンユーザーブルなコンピュータ	ユーザビリティの概念の誕生
6	設計プロセス 1	設計プロセスの基本
7	設計プロセス 2	ユーザ中心設計の活動の進め方
8	インタフェースデザイン 1	デザインと設計、デザインアプローチの基本
9	インタフェースデザイン 2	人間工学、人間の身体・生理的特性を考慮したデザイン
10	インタフェースデザイン 3	認知工学、人間の認知的特性を考慮したデザイン
11	テクノロジーとの共生 1	記憶の支援、情報へのアクセス
12	テクノロジーとの共生 2	人間の社会的側面を支援するテクノロジー
13	テクノロジーとの共生 3	ソーシャルネットワークの構造とネット炎上
14	テクノロジーとの共生 4	VR と AR、まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業支援システムや Google Classroom で提示します。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

橋爪絢子・黒須正明著（2022）「現場の声から考える人間中心設計」共立出版（ISBN：978-4-320-07200-8）

【参考書】

黒須正明・橋爪絢子著（2021）「人間中心設計におけるユーザー調査」近代科学社（ISBN：978-4-7649-0635-8）

【成績評価の方法と基準】

試験 50%、平常点 50%。

平常点は、授業への参加の姿勢やリアクションペーパーの内容等で判断します。

【学生の意見等からの気づき】

特にありません。

【Outline (in English)】

We will consider the development of media technology and the resulting issues in society. We will also learn basic concepts and ideas of the User Centered Design (UCD) as a basis for the design so that we can solve related issues.

The final grade will be based on the final exam (50%) and the usual performance score (50%). The usual performance score includes contribution to the class, reaction papers, and small reports.

FRI200ED

メディアテクノロジーと社会分析

橋爪 絢子

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：水 2/Wed.2

その他属性：〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

メディアテクノロジーのユーザに着目しながら、ユーザ中心設計の設計プロセスで用いられる手法について学び、それらの技法を習得します。

【到達目標】

- (1) ユーザ中心設計の各活動で用いる手法の理解
- (2) メディアテクノロジーのユーザを理解するためのスキルの習得

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP11に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

【コロナウイルス感染症の状況に応じて、オンラインでの実施になる可能性があります。】

授業は、講義と実践のための個人ワークもしくはグループワークで行います。分析に関する理解を深めるために、見学やゲストによる講義を行うことがあります。

前回までに提出されたリアクションペーパーや課題などの内容、および得られたコメントから、授業のはじめにいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業概要の説明
2	ユーザ調査の流れ	ユーザ中心設計におけるユーザ調査、調査の準備
3	ユーザ調査で用いる手法 1	UX グラフを用いた UX 評価
4	ユーザ調査で用いる手法 2	経験想起法の分析
5	ユーザ調査で用いる手法 3	ダイアリー法の記録
6	ユーザ調査で用いる手法 4	ユーザの特性やユーザの利用状況をより理解するための工夫
7	ユーザ調査の実施 1	実施時の注意点の学習
8	ユーザ調査の実施 2	RQ の作成
9	ユーザ調査の実施 3	調査の実施、音声の録音
10	ユーザ調査の実施 4	書き起こしデータの作成、提出
11	結果の分析 1	KJ 法による分析
12	結果の分析 2	SCAT による分析
13	結果の分析 3	要求事項の明確化、ペルソナとシナリオの作成
14	分析のまとめ	分析の講評、その後の設計プロセス

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業支援システムや Google Classroom で提示します。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

黒須正明・橋爪絢子著（2021）「人間中心設計におけるユーザー調査」近代科学社（ISBN：978-4-7649-0635-8）

【参考書】

橋爪絢子・黒須正明著（2022）「現場の声から考える人間中心設計」共立出版（ISBN：978-4-320-07200-8）

【成績評価の方法と基準】

平常点 100%。

授業への参加の姿勢やグループへの貢献、提出物の内容等で判断します。

【学生の意見等からの気づき】

特にありません。

【学生が準備すべき機器他】

パソコンと Office 系ソフトウェア（Word、Excel、PowerPoint）、学習支援システム、電子メール、Google Classroom などを使用します。

【その他の重要事項】

本授業は、春学期の「メディアテクノロジーと社会」の受講を前提としています。また、グループワーク形式で授業を実施することもあるため、全ての回への出席が求められます。

【Outline (in English)】

We will learn methods used in the User Centered Design (UCD), and acquire these skills by taking into account of the user of media technology.

In order to understand the content of the class, students are expected to spend a total of four hours before and after each class.

The final grade will be evaluated based on the usual performance score (100%), including the attitude of participation in the class, the contribution to the group, and the content of the submission.

FRI200EB, FRI200ED

社会ネットワーク論 I

境 新一

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：金 3/Fri.3

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は、日本における社会構造を、主にネットワークと組織（企業、法人）に焦点をあて、ネットワークや組織のつづ構造、機能、役割を主に社会学、経営学の視点から分析・考察することを目的とします。具体的には組織と組織間関係（企業と企業間関係／企業紐帯）に焦点をあて、企業グループ内部・外部との関係性、外資系企業、ベンチャー企業における組織間関係の特徴、組織間関係の海外移転などを実際のデータを用い平易に学びます。就活における業界&企業情報の読み方、選択の仕方にも大いに参考になると思います。

【到達目標】

- 1 社会現象のネットワーク、組織間関係からの分析および理解
- 2 企業や地域を社会ネットワークに捉える有効性の理解
- 3 企業紐帯の形成・展開と数理モデルを用いた分析・考察

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP6・DP7・DP11 に関連。 DP についてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

講義を中心として進めますが、期中レポート（小課題2回）、期末レポート、演習も交えて行います。レポート等学生諸君の回答に関しては、具体的な講評、コメントを随時、講義や学習支援システムを通して公表します。なお、毎回学習支援システムに講義資料を掲載しますので、受講生諸君は各自で資料ファイル（PDF）をダウンロードまたは印刷して講義に臨んでください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
01	ガイダンスとイントロダクション	講義内容を概観し、学生と教員で確認します。社会学、経営学を中心に企業紐帯と業績の関係を検証します。
02	社会におけるネットワーク現象 (1) 外部環境	SDGs とパンデミック、Society 5.0 などについて紹介します。
03	社会におけるネットワーク現象 (2) 2つの組織	階層型組織とネットワーク型組織について考察します。
04	産業・企業におけるネットワーク現象 (1) 産業、企業	産業間連携、組織間関係／企業紐帯を考察します。
05	産業・企業におけるネットワーク現象 (2) 業界、日本と海外の企業グループ	業界地図、製造業／非製造業、日本／海外の企業グループを検証します。
06	社会ネットワーク理論、分析対象と分析枠組み (1) 分析対象	分析対象としての個別企業ならびに企業グループを考察します。
07	社会ネットワーク理論、分析対象と分析枠組み (2) 分析枠組み	ネットワーク現象による地域変化を考察します。
08	企業紐帯と業績の研究 (1) 製造業	製造業グループ（電機、自動車）の事例を学びます。

09	企業紐帯と業績の研究 (2) 非製造業	非製造業グループ（金融）の事例を学びます。
10	企業紐帯と業績の研究 (3) 非製造業	非製造業グループ（小売）の事例を学びます。
11	企業紐帯と業績の研究 (4) ベンチャー業界	ベンチャー企業ならびに同グループの事例を学びます。
12	企業紐帯と業績の研究 (5) 外資系企業	在日外資系企業の事例を学びます。
13	企業紐帯と業績の研究 (6) 海外企業	海外企業（本邦系、非本邦系）の事例を学びます。
14	総括と質疑および議論	各講義に関する概観と、質疑、議論を行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業支援システムで提示します。

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

境 新一『企業紐帯と業績の研究-組織間関係の理論と実証- 第2版』文真堂、2017 年。

【参考書】

『日経業界地図 2023』日本経済新聞社、2022 年。ほかに必要に応じて紹介し、授業支援システムで提示します。

【成績評価の方法と基準】

平常点・講義中の演習 20 %、期中ポート 40 %、期末試験 40 %。

【学生の意見等からの気づき】

「着実に学習し、必要な点は確認する必要」が指摘されました。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを使用します。電子メールが到達する様に予め大学付与のメールアドレスを設定してください。その他必要に応じてインターネット上のサービスを利用します。

【その他の重要事項】

講義計画は、進行によって若干の変更がありえます。なるべく統計学 I・II を（先行・並行して）履修して下さい。毎回学習支援システムに講義資料を掲載しますので、受講生諸君は各自で資料ファイル（PDF）をダウンロードまたは印刷して講義に臨んでください。

【Outline (in English)】

【Course outline】

This lecture focuses on the social structure in Japan, mainly on networks and organizations (companies, corporations), and analyzes and examines the structures, functions, and roles of networks and organizations mainly from the perspective of sociology and business administration. The purpose is to Specifically, I will focus on the relationship between organizations and their relationships (relationships between companies/company ties). Using actual data, students will learn in simple terms about the overseas transfer of relationships. I think it will be a great reference for how to read and select industry and company information in job hunting.

【Learning Objectives】

- 1 Analysis and understanding from networks of social phenomena and inter-organizational relationships
- 2 Understanding the effectiveness of capturing companies and communities in social networks
- 3 Formation and development of corporate ties and analysis and discussion using mathematical models

【Learning activities outside of classroom】

Presented in the class support system.

The standard time for preparation and review for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria /Policy】

20% of regular scores and exercises during lectures, 40% of mid-term reports, and 40% of final exams.

FRI200EB, FRI200ED

社会ネットワーク論Ⅱ

境 新一

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：金 3/Fri.3

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は、日本における社会構造を、主にネットワークと組織（企業、法人）に焦点をあて、ネットワークや組織のもつ構造、機能、役割を分析・考察することを目的とします。具体的には社会科学分野（主に社会学を中心に、経営学、経済学、法学）の視点から、SNS も含めた社会ネットワークに関する現象を理論と実証の両面から検証します。さらにスモールワールド・モデル、弱い紐帯の強さ、閾値理論などの数理社会学に関わるモデル、仮説も紹介します。最後に、ネットワーク論と意思決定論を基礎とするアイデア発想法の枠組み理解と具体的な課題で演習を行います。就活における業界&企業情報の読み方、選択の仕方に参考になると思います。

【到達目標】

- 1 社会現象のネットワークを対象とした主要な社会科学の分析枠組みから分析および理解
- 2 社会ネットワークの諸仮説と数理社会学のモデルの理解
- 3 ネットワーク論と意思決定論をふまえたアイデア発想法の全体像の理解と演習

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP3・DP6・DP7・DP11に関連。DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

講義を中心として進めますが、期中レポート（小課題2回）、期末レポート、演習も交えて行います。レポート等学生諸君の回答に関しては、具体的な講評、コメントを随時、講義や学習支援システムを通して公表します。なお、毎回学習支援システムに講義資料を掲載しますので、受講生諸君は各自で資料ファイル（PDF）をダウンロードまたは印刷して講義に臨んでください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
01	ガイダンス、イントロダクション	講義内容を概観し、学生と教員で確認します。
02	社会ネットワーク論と分析対象と分析枠組、理論と背景	分析対象／マイクロ・メゾ・マクロ、分析枠組み／行動・過程・構造、社会ネットワークならびに関連するの理論と背景を理解します。
03	社会ネットワークと主要な社会科学分野の関連性	主要な社会科学（経済学、経営学、社会学、法学）の分析視点を理解します。
04	分析視点1 経済学の視点	個人・組織・市場、産業、政策、貿易、部分最適と全体最適、対象の数理モデル的理解をすすめます。
05	分析視点2 経営学の視点	営利社団、所有と経営の分離、組織と管理、意思決定、利益と成長、対象の実態的理解をすすめます。
06	分析視点3 社会学の視点	個人・組織・地域・市場・ネットワーク、集団や社会の均衡、公共善／公益の実現を理解します。
07	分析視点4 法学の視点	社会規範、制度、個人と法人、企業法（民商法など）、利害の調整を理解します。

08	数理社会学の理論モデルとネットワークの実証1	数理分析、グラフ理論、ネットワーク&ブロックモデル、統計学等の分析枠組みを理解します。
09	数理社会学の理論モデルとネットワークの実証2	スモールワールド・モデル、なぜ世界は広く、世間は狭いのか、理解します。
10	数理社会学の理論モデルとネットワークの実証3	弱い紐帯の強さモデル、転職に成功するにはどうすればよいか、を理解します。
11	数理社会学の理論モデルとネットワークの実証4	閾値理論 なぜ流行が起こるのか、理解します。
12	アイデア発想法1 ブレインマップの枠組み	ネットワーク論と意思決定論を基礎とするブレインマップの枠組みを理解します。
13	アイデア発想法2 ブレインマップの演習	課題を提示し、ブレインマップの演習を行います。
14	アイデア発想法3、総括と質疑および議論	ブレインマップの演習の成果発表を行い、講義を総括します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業支援システムで提示します。

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

境 新一・谷 真哉・榎本 正『新事業創造ための発想：素人発想・大人実行にもとづくブレインマップの手法』文真堂、2022年8月。

【参考書】

数理社会学会監修・編者『社会を（モデル）でみる 数理社会学への招待』勁草書房、2004年。

境 新一『企業紐帯と業績の研究-組織間関係の理論と実証- 第2版』文真堂、2017年。

ほかに必要に応じて紹介し、授業支援システム等で提示します。

【成績評価の方法と基準】

平常点・講義中の演習 20%、期中ポート 40%、期末試験 40%。

【学生の意見等からの気づき】

「着実に学習し、必要な点は確認する必要」が指摘されました。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを使用します。電子メールが到達する様に予め大学付与のメールアドレスを設定してください。

【その他の重要事項】

講義計画は、進行によって若干の変更がありえます。なるべく統計学Ⅰ・Ⅱを（先行・並行して）履修して下さい。

毎回学習支援システムに講義資料を掲載しますので、受講生諸君は各自で資料ファイル（PDF）をダウンロードまたは印刷して講義に臨んでください。

【Outline (in English)】

【Course outline】

The purpose of this lecture is to analyze and consider the structure, functions, and roles of networks and organizations, focusing mainly on networks and organizations (companies and corporations) in the social structure of Japan. Specifically, from the perspective of the social sciences (mainly sociology, business administration, economics, and law), we will examine phenomena related to social networks, including SNS, from both theoretical and empirical perspectives. We also introduce models and hypotheses related to mathematical sociology, such as the small-world model, strength of weak ties, and threshold theory. Finally, we will practice the framework of the idea generation method based on network theory and decision theory and practice with specific problems. I think it will be helpful for how to read and select information about industries and companies in job hunting.

【Learning Objectives】

- 1 Analysis and understanding from major social science analytical frameworks targeting networks of social phenomena
- 2 Understanding social network hypotheses and models of mathematical sociology
- 3 Understanding and practice of the overall idea generation method based on network theory and decision-making theory

【Learning activities outside of classroom】

Presented in the class support system.

The standard time for preparation and review for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria /Policy】

20% of regular scores and exercises during lectures, 40% of mid-term reports, and 40% of final exams.

FRI200ED

デジタル情報環境論

土橋 臣吾

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：金 4/Fri.4

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

今日のデジタルメディアは、私たちの生活全域を覆う情報環境になっています。その来歴・現状・将来を、流動化・個人化・再帰化という3つの論点から考え、これらを通じて、今日のデジタル情報環境に関する社会学的理解を獲得することが授業の目的です。

【到達目標】

今日のデジタル情報環境の特徴を具体的事例を通じて社会学的に理解することが第一の目標です。その上で、今後のデジタル情報環境がどうあるべきかについて一定の見解を獲得することが第二の目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP11に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

上記の目標を達成するために授業の全体を「流動化する情報環境」「個人化する情報環境」「情報環境の再帰的把握」の3セクションに分け、それぞれのセクションをいくつかの社会理論と関連付けながら、その理論的理解に基づいて各種事例の分析を行っていきます。
・各回の授業で前回授業のリアクションペーパーへのフィードバックを行います。
・授業計画は授業の展開によって若干の変更があり得ます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	授業の概要	授業の概要
2	流動化する情報環境 1	「流動化」とは何か？
3	流動化する情報環境 2	ブロードキャストからネットワークへ
4	流動化する情報環境 3	固定的なメディアから移動的なメディアへ
5	流動化する情報環境 4	ソリッドなコンテンツからリキッドなコンテンツへ
6	個人化する情報環境 1	「個人化」とは何か？
7	個人化する情報環境 2	ソーシャルメディアと情報行動の変容
8	個人化する情報環境 3	パーソナライズされる広告とコンテンツ
9	個人化する情報環境 4	個人化の中での「群」：祭りと炎上
10	情報環境の再帰的把握 1	「再帰的把握」とは何か？
11	情報環境の再帰的把握 2	メディアだらけの社会にどう向き合うか
12	情報環境の再帰的把握 3	テクノロジー的生活形式にどう向き合うか
13	情報環境の再帰的把握 4	経験の断片化・非同期化にどう向き合うか
14	全体のまとめ	全体のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内で紹介した文献や記事についてはできる限り目を通してください。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

辻泉・南田勝也・土橋臣吾（2018）『メディア社会論』有斐閣

【参考書】

授業内で多数紹介する。

【成績評価の方法と基準】

学期末レポート（80%）、リアクションペーパー（20%）

【学生の意見等からの気づき】

リアクションペーパーの授業内フィードバックが好評なので続けます。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムを使用します。大学付与のメールアドレスを使用し授業支援システムからのメールを受信できるようにしておいて下さい。

【Outline (in English)】**(Course Outline)**

The aim of this course is to help students acquire a sociological understanding of digital media technologies.

(Learning Objectives)

The goals of this course are to understand the characteristics of today's digital information environment sociologically and to form opinions about the future of digital media.

(Learning activities outside of classroom)

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

(Grading Criteria /Policy)

Term-end report(80%), reaction paper(20%)

FRI200ED

デジタル情報環境分析

土橋 臣吾

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：金 4/Fri.4

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、日常生活におけるウェブやモバイルメディアの影響を具体的に分析する視点および調査の方法を学びます。具体的には、アーキテクチャ分析、人・モノ・空間の連関の分析などについて学び、さらに UX デザインの領域で活用される調査技法について学びます。

【到達目標】

身近なデジタルメディアや、自分たちの普段のメディア利用を分析的に捉える能力を身につけることが第一の目的です。その上で、ユーザー調査の技法についても学び、調査に基づいてメディアを設計する＝デザインする視点を獲得することが第二の目的です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP11に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

上記の目的を達成するために、授業の全体を「アーキテクチャの分析」「人・モノ・空間の分析」「ユーザー調査の方法」に分け、それぞれのセクションで各種の理論や調査法を具体的な事例と共に学んでいきます。

・各回の授業で前回授業のリアクションペーパーへのフィードバックを行います。

・授業計画は授業の展開によって若干の変更があり得ます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	授業の概要	授業の目的、内容および受講上の注意
2	アーキテクチャの分析 1	アーキテクチャとは何か
3	アーキテクチャの分析 2	動画共有サイトのアーキテクチャ
4	アーキテクチャの分析 3	SNS のアーキテクチャ
5	アーキテクチャの分析 4	セクションのまとめ
6	人・モノ・空間の分析 1	アクターネットワークとは何か？
7	人・モノ・空間の分析 2	固定的なメディアをめぐる連関
8	人・モノ・空間の分析 3	移動的なメディアをめぐる連関
9	人・モノ・空間の分析 4	セクションのまとめ
10	ユーザー調査の方法 1	行動観察・エスノグラフィ
11	ユーザー調査の方法 2	カスタマージャーニーマップ・日記式調査
12	ユーザー調査の方法 3	ペルソナシナリオ
13	ユーザー調査の方法 4	セクションのまとめ
14	まとめ	全体のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内で紹介した文献や記事についてはできる限り目を通してください。また具体的なウェブサービスなどを事例に取り上げることがあるので、授業と並行としてそれぞれのサービスを利用し、その特徴を把握しておくと思えます。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

使用しない。

【参考書】

授業内で多数紹介する。

【成績評価の方法と基準】

学期末レポート（80%）、リアクションペーパー（20%）

【学生の意見等からの気づき】

リアクションペーパーの授業内フィードバックが好評なので続けます。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムを使用します。大学付与のメールアドレスを使用し授業支援システムからのメールを受信できるようにしておいて下さい。

【Outline (in English)】

(Course Outline)

The aim of this course is to help students acquire theoretical tools and research methods to study the user experience of digital media technology.

(Learning Objectives)

The goals of this course are to acquire analytical framework for studying the relation between digital media and its users and to learn the techniques of user research.

(Learning activities outside of classroom)

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

(Grading Criteria /Policy)

Term-end report(80%), reaction paper(20%)

SOC200EB, SOC200ED

ソーシャルメディア論

藤代 裕之

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2 単位

曜日・時限：水 1/Wed.1

その他属性：〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ソーシャルメディアの登場による情報環境の変化は、社会に大きな変化をもたらしています。この授業では、ソーシャルメディアに関連する歴史、技術、法という基本概念を学ぶとともに、急速に発展する「ソーシャルメディア社会」がもたらす課題を考えることで、情報発信の当事者としてメディア・リテラシーを獲得することを目的としています。

【到達目標】

1) ソーシャルメディア社会のあり方を理解する。2) 情報発信の当事者としてメディア・リテラシーを身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP5・DP11に関連。

DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

授業は教科書の予習・復習を前提に進めます。提出された課題に対するフィードバックを行うことで、授業の理解を深めます。現在進行形で起きているメディアと社会の問題を扱うため、ゲストの招聘、時事問題への対応などで、授業計画を変更することがあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業概要の説明
第 2 回	歴史を知る	ソーシャルメディアの歴史
第 3 回	歴史を知る	ソーシャルメディアの技術
第 4 回	歴史を知る	ソーシャルメディアの法
第 5 回	現在を知る	ソーシャルメディアとニュース
第 6 回	現在を知る	ソーシャルメディアと広告
第 7 回	現在を知る	ソーシャルメディアと政治
第 8 回	現在を知る	ソーシャルメディアとキャンペーン
第 9 回	現在を知る	ソーシャルメディアと都市
第 10 回	現在を知る	ソーシャルメディアとコンテンツ
第 11 回	現在を知る	ソーシャルメディアとモノ
第 12 回	未来を考える	ソーシャルメディアと社会課題解決（地域）
第 13 回	未来を考える	ソーシャルメディアと社会課題解決（システム）
第 14 回	未来を考える	試験、まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

該当部分のテキスト（教科書）を予習・復習すること。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

藤代裕之編（2019 年）『ソーシャルメディア論・改訂版：つながりを再設計する』青弓社

【参考書】

授業内で適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

期末試験 40%、平常点 60%。平常点は、授業中の発言や質問、リアクションペーパーの内容で判断します。

【学生の意見等からの気づき】

予習・復習に対する授業内フィードバックが好評なので継続します。

【その他の重要事項】

受講希望者は必ずガイダンスに出席して、授業の方針を確認してください。

【Outline (in English)】

This course will introduce the fundamental concepts, history, law, and technology of social media.

The goals of this course are to understanding social media and media literacy.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination: 40%, in class contribution: 60%

SOC200ED

ソーシャルメディア分析

藤代 裕之

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2 単位

曜日・時限：水 1/Wed.1

その他属性：〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ソーシャルメディアの登場による情報環境の変化は、社会に大きな変化をもたらしています。中でもソーシャルメディアにより可視化された生活者の口コミ分析は、メディアに関わる企業だけでなく、マーケティング活動においても必要不可欠となっています。本授業では、ソーシャルメディアの拡散構造やデータの分析手法を学ぶことで、ジャーナリズムやマーケティングなどに生かすことができる能力を身につけることを目的としています。

【到達目標】

ソーシャルメディアの拡散構造やデータの分析手法を理解し、生活者のインサイトを洞察し、社会に与える影響を考えられるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

社会学部のディプロマポリシーのうち、DP1・DP11に関連。 DPについてはこちら <https://www.hosei.ac.jp/shakai/info/article-20200325181407/>

【授業の進め方と方法】

授業は予習・復習を前提に進めます。グループワークがあります。提出された課題に対するフィードバックを行うことで、授業の理解を深めます。企業見学の実施やゲストによる講義が行われることがあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業概要と目的
第2回	概論	ソーシャルメディアの特徴
第3回	概論	ソーシャルメディアと消費行動モデル
第4回	概論	ソーシャルメディアとキャンペーン
第5回	概論	情報拡散の構造
第6回	概論	ビッグデータとインサイト
第7回	概論	ソーシャルリスニング
第8回	分析	ビッグデータの観察技法
第9回	分析	データの収集
第10回	分析	データの分析
第11回	分析	関連情報の分析
第12回	分析	リスクの検討
第13回	分析	インサイトの分析
第14回	まとめ	試験、分析結果の発表

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回は予習、復習が前提です。個人やグループによる作業時間が相当程度必要になります。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特にありません。

【参考書】

博報堂生活総合研究所（2021年）『デジノグラフィ インサイト発見のためのビッグデータ分析』宣伝会議
桶谷功（2008年）『インサイト実践トレーニング』ダイヤモンド社

【成績評価の方法と基準】

期末試験 40%、平常点 60%。平常点は、提出課題の内容、グループワークやディスカッションへの貢献で判断します。

【学生の意見等からの気づき】

予習・復習に対する授業内フィードバックが好評なので継続します。

【学生が準備すべき機器他】

データの収集分析にパソコン、ソフトを使用します。

【その他の重要事項】

本授業は「ソーシャルメディア論」の受講を前提としています。受講希望者は必ずガイダンスに出席して授業方針を確認してください。連続性を持った構成となっているため、原則としてすべての回に出席する必要があります。

【Outline (in English)】

In this course, students will learn methods about social media data analysis.

The goals of this course are to understanding social media data analysis.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination: 40%、in class contribution: 60%

HSS100IA

スポーツトレーニング論 I

平野 裕一

カテゴリ：専門基幹科目・講義

開講時期：春学期授業/Spring | 配当年次/単位：1 年次 / 2 単位

曜日・時限：金 3/Fri.3

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

トレーニングを実施する手順および体力、技術トレーニングの内容・方法に関するこれまでの科学的知見を学ぶ。これらを理解することでトレーニング実践あるいはトレーニング指導を効率的、効果的なものにする。

【到達目標】

・トレーニングを実施する手順として、そのスポーツ・運動の構造を理解し、それに基づくトレーニング目標の設定、手段・方法の選択、計画の立案、実践での留意点、効果の評価および実施手順の改善についての各理論を理解する。
・体力、技術トレーニングの内容・方法として、運動様式、運動強度、時間、頻度、期間といったトレーニング変数およびトレーニング実践での留意点についての科学的知見を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】

トレーニングを実施する手順および体力、技術トレーニングの内容・方法についての講義を進める中で、トレーニングを実施する際に必要となる具体的な変数の算出およびトレーニング効果を示す図の理解記述などをアクティブ・ラーニングで行う。理解記述の結果は次回の授業でフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	全体のガイダンス ・スポーツ・運動の構造論 ・遺伝とトレーニング	・スポーツ・運動の構造を設計する意義 ・遺伝とトレーニングの関係
2	・トレーニングの目標論 ・全身持久力トレーニング①	・トレーニングを実施する際の目標の立て方 ・全身持久力の要因とトレーニングの内容・方法
3	・トレーニングの手段論 ・全身持久力トレーニング②	・トレーニングを実施する際の手段の選び方 ・全身持久力トレーニングにおける最近のトピックス
4	・トレーニングの方法論 ・高強度インターバルトレーニング (HIIT)	・トレーニングを実施する際の手段の配置 ・高強度インターバルトレーニングの内容・方法と効果
5	・トレーニングの計画論 ・筋持久力トレーニング	・トレーニングを実施する際の計画、特に時間資源に対する考え方 ・筋持久力の要因とトレーニングの内容・方法
6	・トレーニング実践論 ・筋力トレーニング①	・トレーニングを実施する際の実施における留意点 ・筋力の要因とトレーニングの内容・方法
7	・トレーニング改善論 ・筋力トレーニング②	・トレーニングを実施後、改善するための方法 ・筋力トレーニングにおける最近のトピックス
8	・パワートレーニング	・パワーの理解、その要因とトレーニングの内容・方法
9	・暑熱順化トレーニング	・暑熱順化の原理とトレーニングの内容・方法
10	・スピードトレーニング	・スピードの分類、それぞれの要因とトレーニングの内容・方法
11	・バランスのトレーニング	・バランスの要因とトレーニングの内容・方法
12	・柔軟性のトレーニング	・柔軟性の要因とトレーニングの内容・方法
13	・高地トレーニング	・高地トレーニングの変遷、理論背景とトレーニングの内容・方法
14	・技術トレーニングの考え方、基本原則	・技術トレーニングの原理、効果を高めるための基本原則、実施する際の留意点

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義形式であるが、自分の実施しているスポーツあるいは興味のあるスポーツにここで理論・知見をあてはめる作業を望む。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

なし（各授業回、資料を作成して学習支援システム「教材」にアップロードする）

【参考書】

・「トレーニング科学」北川 薫編、文光堂
・「トレーニング科学ハンドブック」トレーニング科学研究会編、朝倉書店
・「トレーニングのための生理学的知識」Zsolt Radak、市村出版
・「パワーズ運動生理学」Scott Powers、メディカル・サイエンス・インターナショナル

【成績評価の方法と基準】

・講義中でのトレーニング効果を示す図の理解記述を 3 点 × 1 4 回 = 4 2 点
・期末テストを 5 8 点
として評価する

【学生の意見等からの気づき】

講義形式ではあるが、アクティブ・ラーニングになるように工夫して進める。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【Outline (in English)】

【Course outline】

This class deals with the physical and skill training science for exercise and sport. In addition to the training PDCA cycle, training variables(intensity, volume, frequency, and period) are introduced for each physical element. On the skill training, changes in the nervous system and principles of the training are introduced.

【Learning Objectives】

Objectives are to understand findings in the training science and to utilize them in the application of training.

【Learning activities outside of classroom】

Students try to apply the understandings into their sport fields.

【Grading Criteria/Policy】

Comments to the figure introduced in each class (42%) and term-end exam (58%)

HSS200IA

スポーツリスクマネジメント

木下 訓光

サブタイトル：【2018年度以降入学生対象】

カテゴリ：ヘルスデザインコース専門科目・講義

開講時期：春学期授業/Spring | 配当年次/単位：2~4 年次/2 単位

曜日・時限：木 2/Thu.2

備考（履修条件等）：※ 2018 年度以降入学生対象

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

競技・レクリエーション・健康管理を目的に行うスポーツ活動・運動中に生じる身体の異変や重大事故等の実態と、予防のための対処方法がテーマである。「起きてしまった」事故の法的解釈や裁判例の学習ではなく、「いかにして事故を予防するか」について、医学、科学、疫学に基づき述べていく。各回のテーマは「スポーツ医学」などの講義で扱うものと重複する場合があるが、本授業では理論的な基礎について学習するよりも、実際のスポーツ現場で指導者や管理者に必要とされる実践的な知識やスキルの学習に重きを置く。

【到達目標】

学校体育・部活動や競技スポーツ、フィットネスジムなど様々なスポーツ現場で遭遇する事故等の危機管理に必要な基礎知識の習得が目標である。これまでスポーツにおけるリスクマネジメントは法学の分野で考察されることが多かったが、本授業ではスポーツの医学的リスクマネジメントについて扱う。具体的には、スポーツ活動中に遭遇する内因性突然死、破綻的外傷、熱中症、感染症などの予防や対策、対処方法、スポーツイベントの医事運営などについて、最先端のスポーツ医学の知見を踏まえて学習する。これらの知識をスポーツ現場において自らが危機管理にあたる際、活用できるようにすることが重要な目標である。あらゆる危機管理の局面において論理的・分析・考察ができる思考力を養成することも念頭に置いている。今年度も引き続き新型コロナウイルス感染症（COVID-19）パンデミックについて、その生物学、医学、公衆衛生学分野の最新のエビデンスを学び、未曾有の社会的危機を科学的・論理的・批判的に分析して対峙する姿勢の習得も目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

・すべての回を対面授業で行う予定である。ただしパンデミックの遅延などによって、すべての学生の不安を払拭して対面授業を安心して行えない場合、あるいは大学の方針によって対面授業を回避しなければならない場合は、オンライン授業またはハイブリッド形式の授業に切り替える可能性がある。
・原則として授業内容は録画して配信することはない。すなわちオンデマンド型の授業配信は行わない。

- ① 原則として各回ごとに完結するテーマを設定して、スライドによる講義形式で行う。いくつかのテーマは関連し、前段までの講義を踏まえながら学習するため、各回の講義の内容を段階的かつ連続的に習得していかなければならない。
- ② この分野における日本語の包括的教科書は存在せず、またインターネットや雑誌などのメディアも系統的で正確な情報を提供していない分野であるため、国内外の研究成果や教員自身の経験に基づいた情報やノウハウを基礎にして講義を行う。
- ③ 実際にスポーツ現場や健康管理関連事業の中で直面する可能性のある状況を念頭に講義する。
- ④ 可能な限り各回の授業の前週末までにスライドのハンドアウトを授業支援システムにアップロードする。
- ⑤ 各回の授業では keyword, take-home message, summary を適宜提示する。
- ⑥ 講義中の質疑応答を奨励する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	新型コロナウイルス感染症（COVID-19）パンデミックにおけるリスクマネジメント	新型コロナウイルスの生物学的・医学的基礎を学び、COVID-19 パンデミックにおけるエビデンスを整理して、リスクマネジメントの基礎を学ぶ。
2	「なぜ事故が起きるのか」—スポーツ現場におけるヒューマンエラー	スポーツ現場で起きる事故の機序、危機管理の全体像について講義する。
3	インフォームドコンセントと誓約書	競技大会やスポーツジムで求められるインフォームドコンセントの意義や指導者、管理者の法的責任などについて講義する。

4	スポーツと突然死	若年アスリートスポーツ中の内因性突然死の原因疾患と対策について講義する。中高年者の運動中の突然死について講義する。
5	スポーツにおける重大外傷	スポーツ中に発生する重大外傷（catastrophic injury）、すなわち致命的頭部外傷や脊椎損傷の発生機序や対策について講義する。
6	スポーツと脳振盪	ボクシングやアメリカンフットボール、柔道などで経験する脳振盪について、実態、危険性、対策などを講義する。
7	競技参加のためのメディカルチェック	競技スポーツ参加の可否判断の基準（競技スポーツを行ってはいけない条件）、およびスポーツ参加を許可する診断書の意義と解釈について講義する。
8	「なぜスポーツしてはいけないのか？」—競技スポーツ参加の可否判断	競技スポーツ参加の可否判断の基準（競技スポーツを行ってはいけない条件）、およびスポーツ参加を許可する診断書の意義と解釈について講義する。
9	環境とスポーツ	スポーツ現場における熱中症対策のピットフォールとその解決方法について講義、実効性のある予防のためには何が必要か学ぶ。また寒冷、落雷などにもなる対策について学ぶ。
10	BLS (basic life support; 一次救命処置) & AED (自動体外式除細動器)	BLS と AED の理論的基礎と適切な運用のために必要なポイントについて学習し、医療の専門家以外人間が、スポーツ現場でどのようなことに配慮すれば、BLS のスキルを適切に運用できるか講義する。また（mass gathering としての）スポーツイベントにおける救急対策について講義する。
11	スポーツ選手と減量	減量に伴うリスク、すなわち脱水症や摂食障害について、実態や対策などを講義する。
12	スポーツ現場におけるハラスメントとその対策	スポーツ現場におけるセクシャルハラスメントなどについて、実態や対策について講義する。
13	スポーツにおける感染症管理	スポーツ活動を通じて感染する可能性のある疾患について、原因と対策を講義する。またオリンピックなどのスポーツイベントにおける感染症対策について講義する。COVID-19 のパンデミック対策、感染後のアスリートの競技復帰などについて最新知見を学ぶ。
14	ドーピングとアンチドーピング	ドーピングとアンチドーピングについて講義する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ① 授業支援システムにアップロードしたハンドアウトを用いて予習をすること。ハンドアウトは授業で講義する内容のうちポイントとなる部分を除いて作成するので、予習および講義のなかでこれを補充し学習に役立てること。
- ② 各回の講義の中でも、keyword, take-home message, summary など、重要な概念や用語を適宜まとめて提示するので、それらを手掛かりにして復習をすること。
- ③ 各回のテーマに沿った課題を授業内で適宜提示するので、必ず取り組み、理解を深めるための自習に活用すること。
- ④ 下記【参考書】 蘭に、各回のテーマに沿って講義内容の習得または習得した知識の発展に役立つと考えられる書籍、文献、資料を掲載するので、予習、復習などに積極的に活用すること。これらのテキストの記載内容は講義の中でも引用することがある。本授業の準備学習・復習時間は各2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特に定めず

【参考書】

- 第 1 回：
『感染症疫学』（ヨハン・ギセック、昭和堂、2020）※資料室収蔵
『感染症疫学のためのデータ分析入門』（西浦 博、金芳堂、2021）※多摩図書館収蔵・電子ブック利用可
- 第 2 回：
『ヒューマンエラーを理解する』（Sidney Dekker、海文堂）。（特に第 1 章～第 6 章）
『スポーツのリスクマネジメント』（小笠原 正、他（編）、ぎょうせい、2009）※資料室収蔵
『リスクを伝えるハンドブック-災害・トラブルに備えるリスクコミュニケーション』（西澤 真理子、エネルギーフォーラム、2018）※多摩図書館収蔵
- 第 3 回：
『スポーツの法律相談』（望月 浩一郎 監修、青林書院）※資料室収蔵
- 第 3 回および第 4 回：
『臨床スポーツ医学：特集：スポーツと心臓』（2018 年 35 巻 6 号）
『臨床スポーツ医学：特集：アスリートに対する突然死予防対策』（2012 年 29 巻 2 号）
『臨床スポーツ医学：特集：スポーツ・身体活動と突然死』。2009 年 26 巻 11 号。（特に「身体活動と突然死の因果関係：誘発要因としての身体活動」のセクション）
（雑誌『臨床スポーツ医学』はメディカルオンラインよりアクセスすることで全文ダウンロード可）
- 第 5 回：

『ラグビー外傷・障害対応マニュアル』（日本ラグビーフットボール協会、2013年改訂版）

『柔道の安全指導』（全日本柔道連盟、2015年4版）

いずれも各競技団体のホームページより閲覧可能。

『柔道事故』（内田良、河出書房新社）※資料室収蔵

第6回：

『スポーツ現場での脳振盪』（Julian E. Bailes, et al. ed., ナップ）※資料室収蔵

『ほんとうに危ないスポーツ脳振盪』（谷 諭、大修館書店）※資料室収蔵

『臨床スポーツ医学：特集：どう対応するか、スポーツ頭部外傷：「頭部外傷10か条の提言」から考える』（2016年33巻7号）

（雑誌『臨床スポーツ医学』はメディカルオンラインよりアクセスすることで全文ダウンロード可）

第7回：

『臨床スポーツ医学：特集：スポーツと心臓』（2018年35巻6号、木下訓光：アスリートのためのメディカルチェッカー心臓突然死を未然に防ぐために。 pp.570-573）

『臨床スポーツ医学：特集：アスリートに対する突然死予防対策』（2012年29巻2号、木下訓光：アスリートに対するメディカルチェッカーその有用性と限界。 pp.153-162.）

（雑誌『臨床スポーツ医学』はメディカルオンラインよりアクセスすることで全文ダウンロード可）

第8回：

木下訓光：アスリートのメディカルチェックおよびその結果としての競技参加制限・中止勧告における社会的・法的・倫理的問題。1999年スポーツ医学研究センター紀要 pp 15-23.

(<http://sports.hc.keio.ac.jp/ja/current-research-and-activities/assets/files/bulletin/1999kiyo.pdf>)

第9回：

『熱中症：日本を襲う熱波の恐怖（日本救急医学会、へるす出版）

『熱中症対策マニュアル』（稲葉裕 監修、エクスマレッジ）

『熱中症を防ごう：熱中症予防対策の基本』（堀江正知、中央労働災害防止協会）

『熱中症 review：Q&A でわかる熱中症のすべて』（三宅康史、中外医学社）

『熱中症の現状と予防：さまざまな分野から予防対策を見つけ出す』（澤田晋一、杏林書院）

『高温環境とスポーツ・運動：熱中症の発生と予防対策』（中井誠一、篠原出版新社）

※以上、すべて資料室収蔵

『スポーツ活動中の熱中症予防ガイドブック』（日本スポーツ協会）

(<https://www.japan-sports.or.jp/medicine/heatstroke/tabid523.html> より閲覧可能)

『落雷事故対策マニュアル』（埼玉県体育協会、埼玉県スポーツ科学委員会

https://www.sayama-stm.ed.jp/h_tyuu/index/saigai/rakurai.pdf)

『雷対応マニュアル』（Jリーグ）

『落雷事故の防止について』（文部科学省 https://www.mext.go.jp/a_menu/kenko/anzen/1375858.htm)

第10回：

高木 修 『人を助ける心』（1998年、サイエンス社）。（特に第1章、第2章、第4章）※研究室収蔵

木下訓光（編）『臨床スポーツ医学：特集：スポーツ・身体活動と突然死』。2009年26巻11号（特に「BLSとAED：突然死予防への課題」、「スポーツイベントにおける突然死対策」のセクション）

（雑誌『臨床スポーツ医学』はメディカルオンラインよりアクセスすることで全文ダウンロード可）

第11回：

木下訓光：スポーツ選手の減量－米国アマチュアレスリングにおける事例－。（1998年スポーツ医学研究センター紀要 pp 17-20. <http://sports.hc.keio.ac.jp/ja/current-research-and-activities/assets/files/bulletin/1998kiyo.pdf> から参照）

木下訓光：ランニングのスポーツ医学：やせと体組成、月経障害。臨床スポーツ医学。2014;31(9):858-867.

（雑誌『臨床スポーツ医学』はメディカルオンラインよりアクセスすることで全文ダウンロード可）

第12回：

『ハラスメント防止・対策に関するガイドライン』（法政大学。 <http://www.hosei.ac.jp/gaiyo/torikumi/harassment/guide.html>）

『運動部活動の在り方に関する調査研究報告書』（文科省、2013）(http://www.mext.go.jp/a_menu/sports/jyujitsu/1335529.htm)

『スポーツ界における暴力行為根絶宣言』

(<https://www.joc.or.jp/news/detail.html?id=2947>)

第13回：

『臨床雑誌 内科：特集：感染症2020：冬のインフルエンザ・夏のオリンピックに備える』（2020年125巻1号）（医書jpよりアクセスすることで全文ダウンロード可）

第14回：

日本アンチ・ドーピング機構 website (<http://www.playtruejapan.org/>)。ダウンロードセンターより最新の『世界ドーピング防止規程（日本語版）』が閲覧可能。同サイトはアンチ・ドーピングの現状を把握・理解する上で重要な情報源である。本授業を受講する学生は必ず参照しておくこと。

『マンガで学ぶスポーツ倫理』（林 芳紀ほか、化学同人）※資料室収蔵

『ランス・アームストロングツール・ド・フランス7冠の真実』[DVD]。資料室収蔵（ドーピングの実態をよく伝える作品であり本授業の理解を深めるうえで受講者全員に視聴を求める。大学の規約上資料室には3部しか揃えておけないため、定期試験前や該当授業前後には閲覧機会が得難くなるが予想される。各学生においては早目に視聴しておくこと）

その他に下記の書籍などを追加的に参考にしてもよい。

・Herb Appenzeller."Risk Management In Sport: Issues And Strategies"(Carolina Academic Press, 2005) ※研究室収蔵

・小笠原 正、他（編）『スポーツのリスクマネジメント』（ぎょうせい、2009）

※資料室収蔵

・入澤 充 『学校事故：知っておきたい! 養護教諭の対応と法的責任』（時潮社、2011） ※資料室収蔵

【成績評価の方法と基準】

期末試験（原則 100%、ただし下記※参照）：講義各回に提示する重要点を中心に作成した複数の設問を、各テーマについて満遍なく網羅した試験問題によって評価をする。

※授業回の多くで、事前にまたは授業内に小課題を課す。これらの成果の集積は期末試験の点数と合わせて最終成績を決定する点数算出に用いる場合がある。

【禁止事項】 授業中に提示するスライドや動画などを許可なく撮影・録画・録音することを禁止する。また授業を録音・録画することを禁止する。これに違背して許可なく撮影・録音・録画を行った学生の定期試験受験を認めない。授業スライドに関連する資料を入手したい場合は必ず教員に相談すること。

【学生の意見等からの気づき】

特に改善を求める意見を得ていない。

【学生が準備すべき機器他】

① 可能な限り各回の授業の前週末までに授業支援システムに PDF ハンドアウトをアップロードする。各授業回の資料をダウンロードできるのは、原則として授業日当日の深夜までと設定するので注意すること。

【その他の重要事項】

① 授業の展開によって、若干の変更があり得る。

【実務の経験】 臨床経験および医学研究歴を有する医師（日本スポーツ協会認定スポーツドクター、日本医師会健康認定スポーツ医）が授業を行う。

【どのように実務経験が授業に反映されるか】 上記診療経験に基づき、スポーツ現場で発生する様々な障害、外傷について、患者症例を供覧しながら理解し、学生がその発症機序を医学的に理解して対処できるように講義する。

【Outline (in English)】

【Course outline】 The lecture intends to provide the basic knowledge of risk management in sports according to the medical and scientific evidences. The lecture provide knowledge and skill how to prevent accidents and injuries related to physical activity, exercise, and sports.

【Learning objectives】 The substantial goal of the lecture is to understand what risk is entailed and what accident is incurred in relation to sports activity and to obtain the skill of logical assessment of the sports related risk and that of developing strategy for prevention of accidents on the basis of scientific and medical evidences. In addition, to understand the biological, medical, and epidemiological background of COVID-19 and how to cope with sports activities in the pandemic is another important scope of this lecture.

【Learning activities outside of classroom】 Students have to study and prepare for each classroom by using handout materials uploaded to the learning management system beforehand. Total hours for studying outside of classroom is estimated to be 4 hours; 2 hours beforehand and 2 hours afterward.

【Grading criteria/policy】 The grading will be determined by the score of the term-end examination (100%, as a rule but please refer to the following). A quiz (mini test) will be provided in the classroom. The score of the quiz would be considered to determine the final score of the term-end examination. **CAUTION: To take photos of any materials presented in the classroom or to record the lecture is prohibited. Students who violate this rule and take photos or record any materials presented in the classroom without permission are not allowed to take the term-end examination.**

ECN1001A

スポーツビジネス論 I

井上 尊寛

サブタイトル：【2018年度以降入学生対象】

カテゴリ：専門基礎科目（講義科目）・講義

開講時期：秋学期授業/Fall | 配当年次/単位：1年次/2単位

曜日・時限：月2/Mon.2

備考（履修条件等）：※2018年度以降入学生対象

その他属性：〈他〉〈優〉

【学生の意見等からの気づき】

支援システムへのアップロードのタイミングについて改善する予定である。

【Outline (in English)】

(Course outline)The sport industry includes the sport goods, service, and construction segments. (Learning Objectives) This course is an introduction to the fundamental elements of the sport industry. Upon successful completion of this course, students will be able to understand how they can synthesize and apply basic theories, concepts, and practices related to each segment of the sport industry. (Learning activities outside of classroom) Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than two hours for a class. (Grading Criteria) Your overall grade in the class will be decided based on the following Term-end examination: 60%, Short reports : 40%.

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義ではスポーツマネジメントにおける代表的な事例を取り上げながら、市場規模や特徴を理解するとともに、現在直面する課題や将来の発展の方向性について学んでいく。

【到達目標】

本講義では、スポーツ・サービス産業を対象に、当該領域における基本的な知見を学習するとともに、スポーツの当面する問題を明らかにする。また、スポーツ産業を展開する際に重要となるマーケティングへの基礎的な理論・技術の理解および修得を目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は講義形式でおこなう。毎回のテーマに関する感想をまとめて授業の最後に提出してもらおう予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション スポーツ産業の発展とス ポーツマーケティング	サービス財の特性、権利ビジネス、文 化の産業化
2	スポーツマーケティング の考え方	マーケティング志向、交換
3	消費者行動とマーケット セグメンテーション	意思決定、市場細分化、リレーション シップマーケティング
4	マーケティング戦略の考 え方	マーケティング戦略、ドメイン
5	スポーツ・サービス産業 のプロダクト	プロダクト構造、中核商品、顧客満足
6	スポーツ・イベントのマ ネジメント（プロ・ス ポーツ）	Jリーグ、企業マーケティング
7	スポーツ・イベントのマ ネジメント（スポーツ消 費者行動）	観戦者行動、観戦者マーケティング
8	スポーツ・イベントのマ ネジメント（ブランディ ング）	ブランディング
9	スポーツ・イベントのマ ネジメント（マーケティ ング戦略）	フランチャイズ、リーグマネジメン ト、セカンドキャリア
10	スポーツ・サービス産業 の一般的経営課題（市場 動向）	需要動向、事業環境、経営戦略
11	スポーツ・サービス産業 の一般的経営課題（コ ミュニケーション戦略）	スポーツブランドのコーポレートブラ ンドコミュニケーション戦略
12	スポーツ・サービス産業 の一般的経営課題（CSR およびソーシャルマーケ ティング）	CSR、CSV、SRI、NGO
13	まとめ	各テーマに関する総括
14	授業内レポート	レポート作成 (1)

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『よくわかるスポーツマーケティング』、仲澤真・吉田政幸 編著、ミネルヴァ
書房、2017年

【参考書】

特に設けず、資料などは必要に応じて配布する

【成績評価の方法と基準】

期末テスト (60%) および授業内レポートの評価 (40%) から総合的に判断する

HSS100IA

スポーツコーチング論 A

平野 裕一

サブタイトル：【2018 年度以降入学生対象】

カテゴリ：専門基礎科目（講義科目）・講義

開講時期：秋学期授業/Fall | 配当年次/単位：1 年次/2 単位

曜日・時限：金 3/Fri.3

備考（履修条件等）：※ 2018 年度以降入学生対象

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

新しい時代にふさわしいスポーツのコーチングとは「競技者やスポーツそのものの未来に責任を負う社会的な活動」である。これを実践するために、コーチングの理念・哲学、対自分力と対他者力、現場のマネジメントを学ぶ。さらに理解したものを実践で使えるようにすることも学ぶ。

【到達目標】

新しい時代にふさわしいスポーツのコーチングを実践していくために、
 ・コーチングの現状、多様な文脈、コーチに求められるもの、コーチの学び
 ・セルフコントロール、コミュニケーション、リーダーシップ、多様な思考法
 ・様々な人に対するコーチング、コーチングにおけるリスクマネジメント
 を理解する。

一方で、理解した内容をコーチング実践の中で活かす。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」「DP8」に関連

【授業の進め方と方法】

受講者を2つのグループに分ける。

1つのグループでは、授業の前半の時間にコーチングにおける思考・判断、態度・行動を講義形式で学び、後半の時間にコーチ役と選手役をつくって屋外でコーチングを実践し、その後それぞれの役からみたコーチング実践についてコメントする。コーチ役はスポーツスキルから1つを選びそのスキルを向上させるためのドリルを3つ作る。3週にわたり1つずつドリルを実践してコーチ役を終え、選手役と交替していく。

もう1つのグループは逆順で進める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	講義と実習の進め方のガイダンス	モデルコアカリキュラムとの関連性 実践におけるコーチ役の使命と職務
2	・スポーツの意義と価値 ・1 巡目コーチの1 回目 実践	文化的特性、スポーツ精神、基本法と基本計画
3	・日本のコーチングの今 ・1 巡目コーチの2 回目 実践	グッドコーチに向けた「7つの提言」
4	・多様なコーチング文脈 ・1 巡目コーチの3 回目 実践	種類別コーチに求められるもの ・参加型スポーツのコーチング ・パフォーマンススポーツのコーチング
5	・コーチに求められるもの ・2 巡目コーチの1 回目 実践	コーチの主な機能（職務）
6	・コーチの学び ・2 巡目コーチの2 回目 実践	・コーチが学ぶための方法論 ・省察の流れ
7	・コーチのセルフコントロール ・2 巡目コーチの3 回目 実践	・自分の心理的、行動的な特徴 ・セルフコントロールの技法の理解
8	・コーチのコミュニケーション ・3 巡目コーチの1 回目 実践	・コミュニケーション ・プレゼンテーション ・ファシリテーション
9	・コーチングとリーダーシップ ・3 巡目コーチの2 回目 実践	・リーダーシップ理論の流れ ・リーダーの成長を促す経験
10	・多様な思考法に基づくコーチング ・3 巡目コーチの3 回目 実践	・理論的思考法 ・分析的思考法 ・創造的思考法 ・批判的思考法

11	・発育発達と女性アスリート ・4 巡目コーチの1 回目 実践	・成長期の子どものコーチングの特徴 ・女性アスリートのコーチングの特徴
12	・障がいのある人のコーチング ・4 巡目コーチの2 回目 実践	・アダプテッド・スポーツ ・インクルーシブ・スポーツ 障がいのある人のコーチングの特徴
13	・リスクマネジメント ・4 巡目コーチの3 回目 実践	・暴力的指導のリスクマネジメント ・スポーツ事故のリスクマネジメント
14	総括	・専門的知識への移行 ・コーチング実践の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

コーチング実践におけるスキル課題とそれを習得するための3回分のドリルを考案する。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

「グッドコーチになるためのココロエ」平野裕一、土屋裕陸、荒井弘和共編、培風館
 （授業の各回には学習支援システムの「教材」に資料をアップロードする）

【参考書】

・「私たちは未来から「スポーツ」を託されている」文部科学省編、Gakken
 ・「コーチング学への招待」日本コーチング学会編、大修館書店
 ・「球技のコーチング学」日本コーチング学会編、大修館書店

【成績評価の方法と基準】

・コーチング実践における自身の振り返りと受講者からの評価（3点×12回＝36点）

・講義に関する期末テスト（64点）
 で総合100点とする。

【学生の意見等からの気づき】

・ローテーションするグループ分けが明確に伝わるようにする。
 ・コーチングに用いる用具を十分に手配する。
 ・雨天時の対応を明確にする。

【学生が準備すべき機器他】

・運動ができる服装
 ・コーチング実践で使う用具

【Outline (in English)】

【Course outline】

The purposes of this class are to learn the philosophy, attitude and action on the sport coaching in the classroom and to practice coaching skill on the court. The contents of classroom lecture are referred to 'the model core curriculum' created by JSPO in 2016. In the practice, sport skill drills designed by the student coach are implemented to the student players.

【Learning Objectives】

Objectives are to understand the philosophy, attitude and action on the sport coaching and to use these findings in the coaching practice on the court.

【Learning activities outside of classroom】

Student coach selects one of the sport skill and creates 3 drills to improve the selected skill of student players.

【Grading Criteria/Policy】

Comments to each coaching practice (36%) and term-end exam (64%)

SOC100IA

スポーツメディア論

山本 浩

カテゴリ：スポーツビジネスコース専門科目・講義

開講時期：秋学期授業/Fall | 配当年次/単位：1~4 年次 / 2 単位

曜日・時限：月 4/Mon.4

備考（履修条件等）：※ 2012 年度以前入学生は履修年次が異なります

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

既存の新聞、放送と、近年隆盛著しいインターネット・タブレット等、スポーツメディアのジャンルは広い。授業の目的は、社会に点在するそれぞれのメディアがスポーツを捉える理念、行動の実態に精通する所にある。そのためには、メディアの発生から今日までの軌跡をたどった上で現状を理解し、著しい変化にさらされるメディア世界を読み解ける能力を磨くことに集約される。競技スポーツの中には「メディアスポーツ」と称されるものがある。といったスポーツ自体がなぜメディアなのか。近時のスポーツ環境を振り返りながら、スポーツメディアの近未来を考える機会ともしたい。

【到達目標】

十代から二十代にかけて、スポーツメディアに対する需要はデジタルデバイスが他を圧倒している。その中には何が詰まっているのか。それを解き明かすことで、スポーツとスポーツ情報の消費者の間を取り持つ、スポーツメディアの実装を把握すること。これがこの講義の最終目標である。

活字、電波、写真、モバイルと進化を遂げてきたアイテムの成り立ちと必然性。変化が促されたのは、それを求めた社会があってこそのことである。となれば、社会そのものがどう変わってきたのかに視点は向けられなければならない。講義の過程で認識したいのは、「文字」「映像」「音楽」「コメント」を武器に、メディアが今さしかかっている曲がり角をいかに乗り越えようとしているのか。ストーリーミング、OTT、SNS、見逃し配信など、多様なルートを通して、スポーツがそれ自身どこに向かうのかを把握する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】

スポーツメディアの実に入るために、マスメディアのスタートの基礎となった歴史上の出来事を追いながら、活字・音声・映像メディアの登場をスライドを使ってつぶさに見る。担当教員のバックグラウンドには電波メディアの世界がある。音声と映像で伝えるスポーツメディアの重心はテレビを離れて、スマートフォンやモバイル端末に移行してきた。変化を促したのは、媒体技術面のイノベーションを牽引した消費者の意向と技術者の向上心にある。それが共振してやがてスポーツ自体にも変化を及ぼすようになる。講義では、ニュース記事、テレビ番組を随時取り上げ、理解の促進材料とする。取材、記事作成の基本や実際の作業過程、番組制作の仕組みを知ることはすなわち、ある部分で自分をどう伝え、主張するかのノウハウにもつながる。

教員の上映するスライド（Mac による Keynote を使用）を元にした講義形式。授業内に、毎回受講生を指名して問いかけに答えてもらう。そして、講義終了時には小論文を課す。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンスとメディアの現状	新聞、放送はいまだメディアの中心に近いところで踏ん張っている。その組織と情報提供の実際を目にして、報道の中でのスポーツの占める位置を確認する。
2	スポーツメディアの歴史	活字の報道は、始まるどほほ時を同じくして“スポーツ”に関心を示してきた。それは洋の東西を問わず同じ感性に貫かれている。新聞から雑誌までの展開を追う。
3	メディアの仕組み①（プリント/活字）	スポーツメディアは、メディアの中の一部である。そこを知るには、プリントメディアの世界の常識と理念から始めなければならない。後に電波メディアも大きな影響を受けた、プリントメディアの取材から報道までのありようを見る。

4	メディアの仕組み②（音声/映像）	誕生当初の電波メディアは、新聞の知恵を借りることが多かった。それが違った道をたどるようになるのは、映像という武器を手にするようになってからだ。それでも底流を流れるスポーツに対する理念は変わらない。
5	プリント（活字）メディアの中のスポーツ	新聞の長い歴史がスポーツを育て、明治の黎明期から、時代と共に変遷を遂げてきた。一般紙とスポーツ紙、それぞれの個性、報道スタンスの違いを見ながらプリントスポーツメディアの特徴を知る。
6	メディアとスポーツ事業	スポーツメディアがスポーツをイベントとして取り上げるようになったのは、世界のスポーツ界に商業化路線が押し寄せたからではない。購買数・視聴率という経営に関わる指標は、昔からスポーツイベントを必要としてきた。
7	スポーツ中継（1）～仕組みと制度～	タブレット端末でのスポーツ観戦が当たり前になった今でも、画面の中に見る手法はテレビ中継が培ってきたものに他ならない。スポーツ中継の見えにくい部分を、音声実況の歴史からテレビ中継までをハードウェアを中心に確認する。
8	スポーツ中継（2）～人と思想～	ラジオとテレビ。そこにあるのは、媒介する機材やルートの違いだけではない。方法論や考え方を見比べることで、スポーツ報道がいかに社会の要請を受けて変化したのかが見えてくる。
9	スポーツニュース	時代と共に、スポーツ記事の量は増え、その重要性は高まってきた。テレビニュースにおけるスポーツも同じような変化を遂げている。スポーツニュースの現代的価値を問う。
10	スポーツ番組（スタジオ制作）	スポーツスタジオ番組の制作は多面的な素材を要求する点でスポーツメディアの総合製品に近い。多彩な試みで視聴者の関心を誘うスポーツスタジオ番組の全貌を知る。
11	ドキュメンタリー	日本のスポーツドキュメンタリーには、一つの定形がある。この定形をどうとらえるか。それを超越する新しいスポーツドキュメンタリーは可能なのか。それは、私たちがスポーツのどこに価値を見だしているのかに底通する。
12	メガイイベントとメディア	オリンピックを主催する IOC も、W杯サッカーを主催する FIFA も、映像メディアに強い関心と影響力を持ってきた。歴史的流れの中でメガイイベントとメディアの関係に習熟する。
13	スポーツメディア世界の今	放送と通信の融合、新聞離れ、有料チャンネルの増加、ストーリーミングによるスポーツ観戦の時代をどうとらえるか。これに対応するスポーツ界にも目を凝らしたい。
14	総括と授業内試験	ここまでの 13 回にわたる講義の中で取り上げてきた用語を確認する。さらに、テーマの一貫性を大切にしながらジャーナルな課題を選択しての小論文による試験を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

新聞、テレビ、ネットによる報道に日常的に目配りして、メディアが示すスポーツに対する「判断」「情報」に関心を持ち続けよう。肝心なのは、個々の報道をすべてを鵜呑みにしないことである。自らの体験、他人の意見を冷静に見比べながら、常に自分の世界観に照らし合わせた読解力を持つ必要がある。そのためには、いつ・どこで・何が・どのように起こったのか。どう取り上げられたのか、自分のメモに書き留めておこう。それぞれが事前事後で準備学習・復習時間を 2 時間取りながら講義に向かいたい。

【テキスト（教科書）】

特に使用せず。

【参考書】

「テレビジョン」テクノロジーと文化の形成 レイモンド・ウィリアムズ著 木村茂雄訳 ミネルヴァ書房 2020 年
「メディア文化研究への招待」ポール・ホドキンソン著 土屋武久訳 ミネルヴァ書房 2016 年
「メディアスポーツへの招待」黒田勇編著 ミネルヴァ書房 2012 年
「スポーツは誰のためのものか」杉山茂著 慶応大学出版会 2011 年
「日本スポーツ放送史」橋本一夫著 大修館書店 1992 年

【成績評価の方法と基準】

「講義ごとに課す課題」と「最終講義時間に設定する講義内試験」の評価の総和が単位認定の要素となる。

【講義内 1~13】

「講義毎に課す課題」は、講義時間内に指定する時間を使って書きその場で提出。

指名した際、挙手で答えた際の内容によって加点する。

配点：最終日を除く講義内課題、13回に満点を取り続ければ 39点(3点/0.1点刻み×13)。

【講義内 14】

最終講義内に実施する期末論文試験(ターム / フレーズ問題 20点、小論文 25×2=50点)には必ず取り組むこと。

【総合評価】すべてパーフェクトであれば、109点が獲得できる。

通常講義時に学校を代表しての行事参加、病欠、欠席の避けられない冠婚葬祭に対しては、期末試験の後に、講義内課題に代わる追加のレポート課題を(最高3点)学習支援システムを通じて掲示する[既定の書類、体育会指定書類、会葬状類、医療機関の日付の入った領収書コピーなどを提出のこと]。ただしこの条件が適用されるのは、一人につき3回まで。自己都合での欠席は救済の対象にならない。この場合のレポートは通常の講義内課題よりボリュームの大きいものになる。

単位認定の重要な要素、期末試験は試験期間中ではなく最終講義日に設定されるので欠席のないように。

【学生の意見等からの気づき】

テレビを見ない世代が増えている中で、スマートフォン、デジタルデバイスでの需要が他を圧倒している。この先がどう動くのか、常に未来形で“現代”を追いかけてい。

スライド枚数が多い分、スライドの切り替えが早くなりがちだが、講義後速やかに PDF 化した授業素材をあげることで、受講者が確認できるような手立てを続ける。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

今年 WBC、世界陸上ブダペスト大会、ラグビー W 杯フランス大会、アジア大会にメディアの関心が集まる年になる。ビッグイベントは、どうしても大きな話題にストーリーが展開されがちだ。その間にある、些細な出来事がビッグイベントにどう作用するのか、普段からしっかりアンテナを張っておきたい。

【Outline (in English)】

(Course Outline) The sports media covers a wide range of genres, including existing newspapers and broadcasts, as well as the Internet and tablets that have been flourishing in recent years. The purpose of this class is to familiarize students with the philosophy and behavior of each of these media that are scattered throughout society. To achieve this goal, it is essential to trace the history of the media from its inception to the present, understand its current status, and hone one's ability to read and understand the media world, which is undergoing remarkable change. Some competitive sports are called "media sports. Why on earth are sports themselves media? This session will be an opportunity to reflect on the recent sports environment and to consider the near future of sports media.

(Learning Objectives) Digital devices dominate the rest of the demand for sports media among teens and twenty-somethings. What is packed into them? By unraveling it, we must grasp the implementation of sports media, the intermediary between sports and consumers of sports information. This is the ultimate goal of this lecture.

The origins and inevitability of the items that have evolved from print, to radio, to photography, to mobile. The changes were prompted by the society that demanded them. If this is the case, then we must look at how society itself has changed. What I would like to recognize in the course of the lecture is how the media is trying to overcome the corner it is now approaching by using "text," "images," "music," and "comments" as weapons. Through a variety of routes, including streaming, OTT, SNS, and missed broadcasts, we will grasp where sports is heading itself.

(Learning Activities Outside of Classroom) Keep an eye on newspaper, television, and online reports on a daily basis and remain interested in the "judgments" and "information" about sports presented by the media. The key is not to believe everything you read in individual reports. It is necessary to compare one's own experiences and the opinions of others in a calm manner, and to always read and comprehend them in light of one's own worldview. To do this, we must ask ourselves when, where, what, and how it happened. How was it covered, and write it down in your own notes. Each of you should take two hours of preparatory study and review time before and after the lecture.

(Grading Criteria/Policy) The sum of the evaluations of the "tasks assigned to each lecture" and the "in-class exam set at the end of the lecture" is an element for credit approval.

[1-13 in the lecture]

"Assignment for each lecture" is written and submitted on the spot using the time specified within the lecture time.

When nominated, points will be added depending on the content of the answer by raising your hand.

Scoring: 39 points (3 points/0.1 point increments x 13) if you continue to get full marks in the 13 lectures on the assignments in the lecture, excluding the final day.

[14 in the lecture]

Be sure to work on the final essay exam (term/phrase question 20 points, short essay 25 x 2 = 50 points) held in the final lecture.

[Comprehensive evaluation] If everything is perfect, you can get 109 points.

For unavoidable ceremonial occasions such as participation in events on behalf of the school during regular lectures, sick leave, and absences, after the final exam, additional report assignments (maximum 3 points) instead of assignments in lectures Learning support system [Submit the prescribed documents, the documents designated by the Athletic Association, the funeral certificate, a copy of the receipt with the date of the medical institution, etc.]. However, this condition is applied up to 3 times per person. Voluntary absences will not be reimbursed. In this case, the report will be larger in volume than a normal lecture assignment.

An important factor in recognizing credits, the final exam is set on the last day of the lecture, not during the exam period, so be sure not to miss it.

ECN2001A

スポーツビジネス論Ⅱ

望月 拓実

サブタイトル：【2018年度以降入学生対象】

カテゴリ：専門基幹科目・講義

開講時期：春学期授業/Spring | 配当年次/単位：2年次/2単位

曜日・時限：木 3/Thu.3

備考（履修条件等）：※2018年度以降入学生対象

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義ではスポーツビジネスを推進していくうえで必要となる多様な領域のマネジメントを解説する。具体的には、新たに登場したIT分野に関連するマネジメントや施設運営・管理に関するマネジメント、行動経済学的視点から見たスポーツマネジメントや財務に関するマネジメントを理解する。

【到達目標】

- 1：スポーツビジネスを推進するうえで必要となる要素を説明できる
- 2：スポーツファシリティマネジメントの概要を説明し、課題と解決策を提示できる
- 3：行動経済学からみたスポーツビジネスの特徴を説明できる
- 4：スポーツファイナンスの概要を説明し、課題と解決策を提示できる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

【授業の進め方と方法】

講義では各回で設定された課題に対するグループワークを行い、自ら意見・アイデアを発信する。その後座学形式による講義を行ったうえで、その内容をふまえた問いに対する意見（リアクションペーパー）を作成する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	講義内容、講義の流れ、グループワークの解説、成績評価の解説
第2回	ニューススポーツにおけるビジネス実態と課題	eスポーツ、エクストリームスポーツの特徴と課題
第3回	スポーツテクノロジーにおけるビジネス実態と課題	VAR、ホークアイがもたらすスポーツへの影響、VR観戦の可能性
第4回	スポーツファシリティマネジメント1	スポーツファシリティの歴史的発展、指定管理者制度
第5回	スポーツファシリティマネジメント2	スポーツファシリティとスポーツ政策、運営組織論
第6回	スポーツファシリティマネジメント3	スポーツファシリティの組織間連携、ホスピタリティマネジメント
第7回	スポーツファシリティマネジメント4	スポーツファシリティの建設プロジェクト、管理業務と事業計画
第8回	中間まとめと小テスト	これまでの学習内容をふりかえったうえで、その内容をふまえての穴埋め小テスト
第9回	行動経済学とスポーツ1	顧客ロイヤリティ、感情一致効果、フレーミング効果、ヒューリスティック
第10回	行動経済学とスポーツ2	マーケティングの落とし穴、マーケティングリサーチの実際、イノベーションのジレンマ
第11回	スポーツファイナンスの基礎	ファイナンスとは何か、スポーツファイナンスの特徴、固有性
第12回	クラブファイナンス1	法人格、財務諸表、資金繰り、スポーツ組織の「価値」構造について
第13回	クラブファイナンス2	資本金、株式上場、プロスポーツの企業価値計算、情報開示
第14回	学習の総括	学習の総括（第9回～第13回）とレポート課題の解説（テーマ設定、文字数、引用方法の種類と方法）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で扱う内容に関連する参考書および関連文献を授業前に熟読し、授業時に発言、またはリアクションペーパーへの記述に反映できるようにする。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特になし。

授業資料等の配布は学習支援システムを使用する。

【参考書】

授業内にて、適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業への参加度（リアクションペーパー、グループワークへの参加、講義内の発言等）：30%

講義内小テスト：20%

最終レポート課題：50%

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません

【学生が準備すべき機器他】

ノートパソコン、あるいはタブレット

【その他の重要事項】

グループワークはオンラインツールを用いて行うため、原則パソコンを持参すること。所有していない場合はタブレットなど一定以上の画面サイズがある電子端末でも可とする。

【Outline (in English)】

【Course outline】 In this lecture, we will explain the various areas of management that are necessary to promote sports business. Specifically, students will understand management related to the newly emerging IT field, management related to facility operation and management, sports management from a behavioral economics perspective, and management related to finance.

【Learning Objectives】 1 : To be able to explain the elements necessary to promote sports business 2 : To be able to give an overview of sports facility management and present challenges and solutions 3 : To be able to explain the characteristics of sports business from the perspective of behavioral economics 4 : To be able to give an overview of sports finance and present issues and solutions

【Learning activities outside of classroom】 Students are expected to read carefully the reference books and related literature related to the contents of the class before the class, and to be able to reflect them in their comments and reaction papers.

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria /Policy】 Class participation (reaction papers, participation in group work, speaking in class, etc.): 30%.

In-class quiz: 20%.

Final report assignment: 50%.

MAN300IA

マーケティングリサーチ実習

伊藤 真紀

サブタイトル：【2018年度以降入学生対象】

カテゴリ：スポーツビジネスコース専門科目・講義

開講時期：春学期授業/Spring | 配当年次/単位：3~4 年次/
1 単位

曜日・時限：火 3/Tue.3

備考（履修条件等）：※ 2018 年度以降入学生対象

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義ではマーケティング調査の基礎を学び、マーケティング調査について総合的に学習する。

【到達目標】

- ・あるテーマに関して、調査課題の設定ができる
- ・課題に対して、仮説をたてることができる
- ・仮説を調査票にすることができる
- ・回答しやすい調査票作成ができる
- ・単純集計から多変量解析にいたるまでの分析手法がわかる、使うことができる
- ・実務へのインプリケーションを行うことができる
- ・統計解析ソフト spss の使用方法を習得する

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】

本講義では、スポーツビジネスにおけるマーケティング・リサーチの重要性について理解し、その手法から活用に至るまで、調査の事例についての解説や実際の調査をおこなうことによって理論的・技術的な理解を深める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	マーケティングリサーチに必要なマインド	市場をみる上で必要な客観的な視点とは何か、調査をする上での心構えを学ぶ。
2	調査とは何か	調査に関する基礎知識を学ぶ。
3	調査課題の立て方について説明	調査課題とは何かを複数の例に基づき考える。
4	調査課題を考える	スポーツビジネスにおける問題点を考え、調査すべき課題をまとめる。
5	調査課題の立て方についてまとめ	第 4 回でまとめて調査課題について発表し、ブラッシュアップを行う。
6	調査の種類について	市場にある調査について、事例をもとに学ぶ。
7	調査の種類を学ぶ	定量調査、定性調査研究を学ぶ。
8	定量調査について	事例をもとに定量調査の調査票の構成について学ぶ。
9	定量調査の調査票作成	第 5 回でまとめて調査課題について、簡単な調査票を作成し、グループでブラッシュアップをはかる。
10	定性調査について	事例をもとに定性調査の調査票の構成について学ぶ。
11	定性調査の調査票作成	第 5 回、第 9 回の結果を踏まえ、定性調査の企画書を作成する。
12	定量調査の実践	第 9 回の調査票について、実査を行い、結果を見ると同時に、作成した調査票の課題を把握する。
13	定性調査の実戦準備	模擬のグループインタビュー実践のためのインタビューフローを作る。
14	定性調査の実戦	インタビュー調査の実施

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業内で必要があれば指定します。

【参考書】

授業内で必要があれば指定します。

【成績評価の方法と基準】

調査票 (50%)、分析・レポート (50%) などを総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

授業で使う資料については、わかりやすく提示するように心がける。

専門用語での説明について理解しやすくする。

【その他の重要事項】

履修者が上限（52 名）を超えた場合には、第 1 回目の授業にて受講者選抜をします。受講者選抜の際には、マーケティングリサーチ実習とマーケティングリサーチ演習の両方の科目を履修する学生を優先とします。

【Outline (in English)】

This course is an introduction to the basic elements of marketing research. Students will learn how to collect data, analyze the results, and interpret and report conclusions drawn from the findings. Upon successful completion of this course, students will be able to understand how they can conduct marketing research. The goals of this course are set a research subject for a certain theme

, make a hypothesis for a task, create a survey form that is easy to answer, understand and using analysis methods from simple aggregation to multivariate analysis, learn how to use the statistical analysis software spss. The grade is comprehensively evaluated by questionnaires (50%), analysis / reports (50%).

MAN300IA

マーケティングリサーチ演習

伊藤 真紀

サブタイトル：【2018年度以降入学生対象】

カテゴリ：スポーツビジネスコース専門科目・講義

開講時期：秋学期授業/Fall | 配当年次/単位：3~4年次/2単位

曜日・時限：火 3/Tue.3

備考（履修条件等）：※2018年度以降入学生対象

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義ではマーケティング調査の基礎を学ぶとともに、実際にリサーチデザインを行い、定量調査を実施し、結果を分析・報告することを通して、マーケティング調査について総合的に学習する。

【到達目標】

- ・あるテーマに関して、調査課題の設定ができる
- ・課題に対して、仮説をたてることができる
- ・仮説を調査票にすることができる
- ・回答しやすい調査票作成ができる
- ・単純集計から多変量解析にいたるまでの分析手法がわかる、使うことができる
- ・実務へのインプリケーションを行うことができる
- ・統計解析ソフト spss の使用方法を習得する

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】

本講義の具体的な内容としては、マーケティング・リサーチの実際の把握、調査の目的および手法の理解、データマイニングの手法の把握などの理論的な部分と、調査のデザイン、データ収集、データ分析およびプレゼンテーションまでの実践部分とで構成される。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	スポーツに関する調査について学ぶ	現在存在するスポーツに関する調査について、その種類と方向性をまとめる。
2	スポーツに関する調査概要	スポーツに関する調査について検索し、現在のテーマとその背景を考える。
3	調査課題の設定	スポーツビジネスを行っていくための課題について、グループで抽出する。
4	調査課題の仮説の設定	結果をまとめ、調査課題と仮説を抽出する。
5	事前調査の実施	プレ調査を実施し、課題の妥当性、仮説の方向性をまとめる。
6	事前調査結果の発表	第5回について、発表し、ブラッシュアップをはかる。
7	定量調査の調査票設計	課題解決、仮説検証のための調査票設計を行う。
8	定量調査の調査票の妥当性の確認	定量調査票設計について妥当性と問題点を議論し、調査票のブラッシュアップをはかる①
9	定量調査の事前確認	定量調査の実施に向けた、調査時の事前確認並びに調査方法のシュミレーション確認を行う。
10	定量調査の実施	定量調査を実施する。
11	定量調査のデータ分析	定量調査で実施した結果について、データ化する方法を学ぶとともに、分析手法を学ぶ。
12	調査の集計、分析、仮説検証	調査の分析を実施し、仮説を検証する。
13	調査の集計、分析結果の考察	第12回で行った仮説検証を踏まえて、考察と調査結果のまとめを行う。
14	総括	調査結果および分析内容についてプレゼンテーションを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業内で必要があれば指定します。

【参考書】

授業内で必要があれば指定します

【成績評価の方法と基準】

調査票（50%）、分析・レポート（50%）などを総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

授業で使う資料については、わかりやすく提示するように心がける。専門用語での説明について理解しやすくする。

【その他の重要事項】

履修者が上限（52名）を超えた場合には、第1回目の授業にて受講者選抜をします。受講者選抜の際に、マーケティングリサーチ実習とマーケティングリサーチ演習の両方の科目を履修する学生を優先とします。

【Outline (in English)】

This course is an introduction to the basic elements of marketing research. Students will learn how to collect data, analyze the results, and interpret and report conclusions drawn from the findings. Upon successful completion of this course, students will be able to understand how they can conduct marketing research. The goals of this course are set a research subject for a certain theme, make a hypothesis for a task, create a survey form that is easy to answer, understand and using analysis methods from simple aggregation to multivariate analysis, learn how to use the statistical analysis software spss. The grade is comprehensively evaluated by questionnaires (50%), analysis / reports (50%).

ARSk100JB,ARSk100JC

地域問題入門

野田 岳仁

科目分類・科目群(福祉コミュニティ)：専門教育科目 専門基礎科目

科目分類・科目群(臨床心理)：専門教育科目 専門基幹科目

配当年次／単位数：1～4 年次／2 単位

その他属性：〈優〉〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は、地域社会が抱えるさまざまな社会的な課題に対して、現場に暮らす人びとの立場からの解決を模索することを目的とする。地域づくり、観光、地域福祉、災害、環境問題をテーマにしたケーススタディを扱うなかで、人びとの創造性や地域社会の志向性を捉えながら、問題解決につながる政策論を構築していく。

【到達目標】

地域社会が抱える諸課題に対して、現場の人たちが考える問題の本質とはどのようなものであるのかを見極める力を養うこと。そのうえで、現場に暮らす人びとが納得し、満足できるような政策論を構想する力を身につけることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

本講義は知識を覚えることよりも、地域問題を理解する際の”考え方”を身につけることに重点をおいた実践的な講義である。受講生には、理想論や常識的な考え方にとらわれることなく、現場の人びとの立場に立って問題の本質を見極めることを求める。DVDなどの視覚資料を積極的に活用する。授業の展開によって若干の変更がありうる。授業計画に変更がある場合は学習支援システムにて適時提示する。リアクションペーパーや課題等のフィードバックは講義や学習支援システムを通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	地域問題を捉える視座	現場に暮らす人びとの立場から
第2回	地域社会を理解する視点	むらの暮らしと生活文化
	①	
第3回	地域社会を理解する視点	むらの共同性と社会関係
	②	
第4回	地域社会が担ってきた教育と福祉	社会的親と平凡教育
第5回	地域問題としての環境汚染	水はなぜ汚れるのか？
第6回	水辺空間管理と地域づくり	コモンスズと弱者生活権
第7回	地域社会の合意形成はいかにして可能か？	住民参加と地域づくり
第8回	コミュニティづくりはなぜうまくいかないのか？	地域コミュニティとNPO・NGO
第9回	自然災害と災害文化	なぜ人びとは雪崩が予測できると語るのか？
第10回	原発災害とコミュニティ	被災者にとっての”被害”とは？
第11回	魅力ある景観形成と地域づくり	町並み保全と地域づくり
第12回	環境と観光はどのように両立されるのか？	ローカル・ルールを守る観光まちづくり
第13回	地域問題の理論と実践	生活環境主義の立場から
第14回	講義のまとめと試験	本講義の知見と有効性の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回の振り返りは不可欠となる。毎回配布するレジュメには参考文献を記載しておくので必要に応じて参照すること。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

毎回資料を配布する。

【参考書】

配布資料に参考文献を紹介する。

【成績評価の方法と基準】

講義内のコメントやリアクションペーパー、ミニレポート（40%）と期末試験（60%）の総合評価。到達目標が達成されているかを確認する。

【学生の意見等からの気づき】

リアクションペーパー等を通じて学生からのコメントを適宜授業内容に反映させていく。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを積極的に活用する。

【その他の重要事項】

担当教員は環境保全活動や地域づくり活動などの地域問題の現場における実務経験を有しており、その経験に基づいてより有効性のある政策論を議論していく。

【Outline (in English)】

【Course outline】 The purpose of this course is to help students master the basic concepts of environmental sociology and sociology of local community. **【Learning Objectives】** At the end of the course, students are expected to describe major methods and theories of environmental sociology and sociology of local community, discuss the role of local community policy and apply the treatment of local community problems. **【Learning activities outside of classroom】** Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. **【Grading Criteria /Policy】** Grading will be decided based on reaction papers(40%) and term-end examination (60%).

ARSx100JB

コミュニティマネジメント入門

水野 雅男、関司 直也、土肥 将敦、佐野 竜平、野田 岳仁

科目分類・科目群(福祉コミュニティ)：専門教育科目 専門基礎科目

科目分類・科目群(臨床心理)：総合教育科目 視野形成科目 (社会系)

配当年次/単位数：1～4 年次 / 2 単位

備考(履修条件等)：2021 年度以降入学者のみ受講可能。2020 年度以前入学者は「N6002 まちづくりの思想」を受講すること。

その他属性：〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

コミュニティマネジメント(まちづくり)とは何か、その原則や方策、あるいは農山村、都市、地域、コミュニティの捉え方について、市民活動やソーシャルビジネスの実践事例を通じて理解する。

【到達目標】

日本国内や海外のコミュニティマネジメント(まちづくり)、地域再生の取り組みとその実態を把握し、それらが内包する意味と現代的意義について幅広く理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

教員 5 名がオムニバス形式で講義を担当する。実践事例やケーススタディでは、関連スライドやDVD等を活用して紹介する。リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かす。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	「地域/まち」をつくるって何? (関司)	地域づくりを実践する現場の事例から考える
第 2 回	農村景観とひとの営み (関司)	農村における地域づくりを捉える視点
第 3 回	若者は「地域」で何ができるのか? (関司)	地域づくりに動き出した若者たちの姿を知る
第 4 回	なぜ人びとは地域の自然を守るのか? (野田)	地元の人びとの生活の立場から考える
第 5 回	ツーリズムによる地域再生 (野田)	大衆的な観光地を目指さない観光まちづくり
第 6 回	コミュニティの文化と創造性 (野田)	地域社会の論理を捉える方法
第 7 回	コミュニティ × 企業 (土肥)	地域固有の企業とステイクホルダー
第 8 回	コミュニティ × スポーツ × 企業 (土肥)	地域におけるスポーツ・ビジネスの可能性
第 9 回	コミュニティ × 社会問題 × 企業 (土肥)	ソーシャル・ビジネスの可能性
第 10 回	世界を知ろう (佐野)	アジアを中心とした世界の動き
第 11 回	グローバル社会のまちづくり (佐野)	広い視野からみるまちづくり
第 12 回	グローバルなまちづくり人材になるために (佐野)	グローバル社会に生きる視点
第 13 回	地域資源の保全活用によるまちづくり (水野)	歴史的建造物の保全活用の意義と実践事例
第 14 回	住民主体のまちづくり (水野)	NPOと行政のパートナーシップの必要性和実践事例

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

新聞、雑誌、書籍等によるまちづくり関連報道、論文等に関心を持つ。旅行等の機会、出身市町村、居住地等、身近な地域について調べる。講義で示した事例等について、より詳しく調べ自らの関心を深める。本授業の予習・復習時間は各 2 時間程度を標準とする。

【テキスト(教科書)】

必要に応じて、授業中に資料を配布する。

【参考書】

授業中に随時示す。

【成績評価の方法と基準】

平常点(リアクションペーパーのコメント) 100%で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

前年度の授業改善アンケート結果を反映して改善する。

【学生が準備すべき機器他】

必要に応じて、学習支援システムを利用して教材を掲載する。

【その他の重要事項】

授業を担当する 5 名の教員がそれぞれ地域プランニング、ソーシャルビジネス、まちづくり活動などのフィールドワークに基づいてコミュニティマネジメント(まちづくり)の考え方を具体的に紹介する。

【Outline (in English)】

< Course outline >

The aim of this course is to help students acquire what community management is, its principles and measures, or how to understand agricultural and mountain villages, cities, regions, and communities through practical examples of civic activities and social business.

< Learning Objectives >

By the end of the course, students should be able to do the followings: Understand the community management in Japan and overseas, the efforts for regional revitalization and their actual conditions, and broadly understand the meaning and modern significance of them.

< Learning activities outside of classroom >

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

< Grading Criteria /Policy >

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Short reports: 100%

SOW100JB,SOW100JC

社会問題論

高良 麻子

科目分類・科目群(福祉コミュニティ)：専門教育科目 専門基礎科目

科目分類・科目群(臨床心理)：専門教育科目 専門基礎科目

配当年次／単位数：1～4年次／2単位

その他属性：〈優〉〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代の日本における社会問題を中心に、多様な視点から理解するとともに、問題解決に向けた様々な活動を学ぶ。

【到達目標】

- ・それぞれの社会問題の概要を説明できる。
- ・様々な社会問題は相互に関連していることを説明できる。
- ・社会問題の解決に向けた活動を考えられる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

(福祉コミュニティ学科) ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」と「DP3」に関連

(臨床心理学科) ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

この授業では、講義とともに、映像等を見てのグループワークを一部行う。また、授業ごとのリアクションペーパー等をもとに、次の回の授業でフィードバックを行う。

基本的には対面授業で実施するが、ゲストスピーカーの都合によっては、オンラインにて実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業内容の概要と目標の確認
第2回	社会問題とは何か①	状態からの理解
第3回	社会問題とは何か②	活動からの理解
第4回	社会問題①	少子高齢化・人口減少
第5回	社会問題②	ヤングケアラー
第6回	社会問題③	ワーキングプア
第7回	社会問題④	子どもの貧困
第8回	社会問題⑤	ホームレス
第9回	社会問題⑥	ひきこもり
第10回	社会問題⑦	性暴力
第11回	社会問題⑧	誹謗中傷
第12回	社会問題⑨	難民
第13回	社会問題の連鎖	社会問題の全体像 SDGs
第14回	総括	まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配布資料を活用して、予習および復習をすることで、理解を深めてほしい。また、日頃から社会問題に興味をもち調べることを期待する。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。

【参考書】

必要に応じて、適時紹介する。

【成績評価の方法と基準】

- ・平常点 60%
- ・レポート 40%

【学生の意見等からの気づき】

昨年度の学生のフィードバックをもとに、今年度もゲストスピーカーからの講義を予定している。

【Outline (in English)】

This course is designed to explore contemporary social problems in Japan. The design of this course provides students with an opportunity to develop knowledge of current social problems. Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content. Grading will be decided based on term-end report (40%) and in-class contribution (60%).

SOW200JB

福祉国家論

布川 日佐史

科目分類・科目群(福祉コミュニティ)：専門教育科目 専門基幹科目

配当年次／単位数：2～4 年次／2 単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

福祉国家の機能と役割について学ぶ。

日本、アメリカ、ドイツの3か国の貧困対策の展開を比較検討し、日本の福祉国家の課題を明らかにする。

【到達目標】

- 1) 福祉国家の分配、再分配制度について理解する。
- 2) 相対的貧困の基準と実態について、理解する。
- 3) 日本、アメリカ、ドイツの貧困対策の新たな展開を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

1) アメリカとドイツの貧困対策に関しては、原文の資料を読んで、概要をまとめてもらいます。

翻訳アプリなどを活用して、内容の要点の把握に努めてください。

- 2) オンライン授業形態も随時取り入れます。注意してください。
- 3) 受講生からの報告や提出物に対しては、代表的なものについては授業の中でコメントをし、その他については授業支援システムでフィードバックします。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	福祉国家の概要/授業ガイダンス	役割と機能
第2回	相対的貧困の基準と実態	相対的貧困基準 貧困線の推移 「超・階級社会」の出現
第3回	日本の福祉国家の特徴(1)	皆保険皆年金体制 低所得対策 住民税非課税基準
第4回	日本の福祉国家の特徴(2)	再分配の実態とコロナ対応の特徴
第5回	日本の福祉国家の特徴(3)	岸田政権の成長と分配施策 子どもの貧困対策
第6回	アメリカ：バイデン政権の政策展開(1)	アメリカ救済計画、アメリカ家族計画 富裕層課税強化とGAF A 規制
第7回	アメリカ：バイデン政権の政策展開(2)	子ども税額控除の拡大
第8回	ドイツ：シュルツ政権の政策展開(1)	ドイツにおけるコロナ対応策：社会保険パッケージ法とその効果
第9回	ドイツ：シュルツ政権の政策展開(2)	求職者基礎保障から「市民手当」への転換とその意味
第10回	ドイツ：シュルツ政権の政策展開(3)	子ども基礎保障創設に向けた動き
第11回	原資料の検討(1)	アメリカ：子ども税額控除拡大による子供の貧困削減効果
第12回	原資料の検討(2)	ドイツ：子ども基礎保障創設の狙いと効果
第13回	米・独の政策展開についての報告	受講生によるまとめの報告
第14回	講義まとめ	全体の振り返りと、受講生のまとめへの講評

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

- ①各自が原文資料を読み込み、発表の準備を行います。
- ②本授業の準備学習・復習時間は計4時間を標準とします。

【テキスト(教科書)】

特に指定しません。

【参考書】

各自のテーマに沿った参考資料、参考文献については、授業中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

個人発表 30%・個人テーマまとめ(期末)：70%

【学生の意見等からの気づき】

外国の施策展開について学びたいという声にこたえます。

【Outline (in English)】

【Course outline】 The aim of this course is to learn about the function and role of the welfare state through a comparison of three countries: Japan, the United States, and Germany.

【Learning Objectives】 The goals of this class are 1) To understand the distribution and redistribution systems of the welfare state, 2) Identify new developments in poverty measures in Japan, the U.S., and Germany.

【Learning activities outside of classroom】 Before/after each meeting, students will be expected to spend four hours to understand the content.

【Grading Criteria /Policy】 Grading will be decided based on the quality of the presentation(30%) and term-end report(70%).

ENG200JB

社会的包摂論

水野 雅男

科目分類・科目群(福祉コミュニティ)：専門教育科目 専門基幹科目

配当年次／単位数：1～4 年次／2 単位

その他属性：〈優〉〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

バリアフリーあるいは社会的包摂（ソーシャル・インクルージョン）を多様な観点から把握することで、すべての人びとが健康で文化的な生活をおくる地域社会のあり方について理解を深める。特に、その実現に向けた各セクター（行政・民間・市民）の役割分担と連携について注目する。

【到達目標】

バリアフリーやユニバーサルデザイン、ソーシャル・インクルージョンが出現してきた社会的背景ならびにそれらの概念の違いを理解できるようにする。さらに、国内外の政策の変遷を辿り、市民セクターの地域づくり現場での関わり方や今後の在り方を理解し、自ら行動する意識付けを行う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

毎回のテーマに関するデータを参考書から引用紹介する。国内外の近年の動向を理解しやすいように、参考となる映像資料を紹介する。映像資料を視聴した後、毎回のテーマについてペアワークを行い、意見交換の結果をリアクションペーパーにまとめる。講義の感想や質問、意見を毎回リアクションペーパーで提出、翌週に素晴らしいコメントを抽出し紹介することで、受講生相互の理解の違いと多様性を共有する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	社会的包摂の概念の紹介
第 2 回	バリアフリー政策①国内	バリアフリー、国内の政策の変遷
第 3 回	バリアフリー政策②米国	日米のバリアフリー政策の相違
第 4 回	移動と UD ①	国内の交通施設や公共交通機関
第 5 回	移動と UD ②	欧州の交通政策とトラム
第 6 回	包摂的なまちづくり①	海外の交通計画・土地利用計画における社会的包摂
第 7 回	包摂的なまちづくり②	住まいにおける社会的包摂
第 8 回	障害者の能力①	エイブルアート
第 9 回	障害者の能力②	めだかの育成プログラムによる障害者の就労支援事業
第 10 回	障害者のシゴト①	障害者の実態と障害者差別解消法
第 11 回	障害者のシゴト②	我が国のホームレス政策と NPO 活動
第 12 回	ホームレス支援①	国内外のホームレス政策の相違
第 13 回	ホームレス支援②	学生によるホームレス支援アプローチ
第 14 回	試験・まとめと解説	レポートの授業内提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回翌週のテーマを提示するので、授業の前に授業内容に関連する書籍、文献や資料のレビューを充分に行った上で、明確な問題意識を持って参加すること。

学習支援システムに当日の教材を掲載するので、充分に復習すること。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて、適宜資料として紹介する。

【参考書】

「ユニバーサル・デザインの仕組みをつくる」川内美彦、学芸出版社、2007 年
「インクルーシブデザイン 社会の課題を解決する参加型デザイン」ジュリア・カセム他編、学芸出版社、2014 年
「人間都市クリチバ」服部圭郎、学芸出版社、2004 年
「ストラスブールのまちづくり」ヴァンソン藤井由実、学芸出版社、2011 年
「フライブルクのまちづくり」村上敦、学芸出版社、2007 年
「英国発グラウンドワーク」渡辺豊博・松下重雄、春風社、2010 年

【成績評価の方法と基準】

①平常点 70 % ②レポート 30 % ①と②を総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

前年度の授業改善アンケートは現在集計中、結果を活用していく。

【学生が準備すべき機器他】

授業の教材（パワーポイントデータ）は、授業終了後に学習支援システムに教材として掲載する。

【その他の重要事項】

まちづくりプランナーとして地域社会のデザイン・コーディネーターに 27 年間関わった中で、バリアフリータウン計画を策定した経験に基づき、プランニングの視点を授業に導入する。

【Outline (in English)】

< Course outline >

The aim of this course is to help students acquire understanding of the community in which all people live a healthy and cultural life.

< Learning Objectives >

By the end of the course, students should be able to do the followings: Understand the social background of barrier-free, universal design, and the emergence of social inclusion, as well as the differences in their concepts.

< Learning activities outside of classroom >

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

< Grading Criteria /Policy >

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Short reports: 100%

ENG200JB

地域計画論

今井 裕久

科目分類・科目群(福祉コミュニティ)：専門教育科目 専門基幹科目

配当年次／単位数：1～4 年次／2 単位

その他属性：〈優〉〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

多くの地域で、その将来像が構想（デザイン）され、それを実現するために様々な計画（プラン）が策定・実践されてきた。その計画主体には、国や自治体だけでなく、民間企業や個人の起業家も含まれる。本講義では、こうしたさまざまな主体による地域へのアプローチを学び、今日的な計画論とその実践を探りながら、あるべき姿を受講生と共に探る。

【到達目標】

地域とは何か、計画を立てるとはどういうことか、その利点・限界は何かを学ぶ他、計画プロセスの多様性、そのイノベーション、実践や成果の評価、見直しの在り方等について理解を深めることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

授業では地域計画に関連する制度や事例について解説を行い、授業間の課題を通じて、受講者には調査・図表の作成などを行い、提出してもらう。提出物へのフィードバックは、各回の授業のはじめ及び最終回に実施する。また個人課題と併せ、グループワークなどを通じ他者とのコミュニケーションや合意形成といったまちづくりに必要なテーマについても演習等を通じて取り組む。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	計画とは何か？	授業の目的や進め方について説明するとともに、そもそも「計画」とは何かを問う。
第 2 回	地域計画の変遷とこれから	社会の変化に応じた地域計画の変遷を学び、これからの計画を考える。
第 3 回	地域計画における課題 (1)	地域計画において生じうる価値観の相克についてケーススタディを通じて紹介し、それに対する考え方を議論する。
第 4 回	地域計画における課題 (2)	引き続きケーススタディを通じて、多様な価値観の相克とそのなかでの計画づくりを考える。
第 5 回	システム思考による地域分析	システム思考の考え方を解説し、SWOT を用いた地域分析を行う。
第 6 回	システム思考による地域計画のはじまり	地域分析を生かして地域計画を作成する方法を解説し、それぞれで計画づくりを行う。
第 7 回	システム思考による地域計画	システム思考による地域計画を、具体例を通じて解説する。
第 8 回	地域計画のケーススタディ (1)	地域計画を策定・実践について、具体例を通じて学ぶ。
第 9 回	地域計画のケーススタディ (2)	別の具体例を使って、地域計画の策定・実践について学ぶ。
第 10 回	地域計画の表現と対話～土地利用とマッピング	システム思考による地域計画の表現方法を探る。今回は地図を使う。
第 11 回	地域計画の表現と対話～グラフやループを使って	システム思考による地域計画の表現方法を探る。今回はグラフやループを使う。
第 12 回	マルチステークホルダーによる計画づくり①	地域の複雑な利害関係や構造を探りつつ、そこでどのようなマネジメントが最適かを探る。
第 13 回	マルチステークホルダーによる計画づくり②	地域マネジメントを理解した上で、具体的なケースワークを行う。
第 14 回	提出課題の共有・まとめ	受講生から提出された課題を通じて地域計画のポイントを確認する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内に配布する教材を参考に、常に自分の生活の中にある「計画」に目を向け、理解を深めることが課題作成の役に立ちます。また常に地域の客観的な現状分析の根拠となる統計数字に関心を寄せ、数値的データを可視化することにより、客観的な共通認識をもって地域を理解することを意識した課題を提示します。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業内にレジメと参考資料を配布する。

【参考書】

保井美樹・泉山壘威編著『エリアマネジメント・ケーススタディ（仮題）』学芸出版社、2021 年 4 月

枝廣 淳子・小田 理一郎(著)『なぜあの人の解決策はいつもうまくいくのか? 一小さな力で大きく動かす! システム思考の上手な使い方』東洋経済新報社、2007 年 3 月

ジャック・ベルタン(著)、森田喬(訳)『図の記号学』平凡社、1982 年 12 月

【成績評価の方法と基準】

最終レポート 35 %、各講義の演習レポート 65 %

【学生の意見等からの気づき】

情報機器の利用について得手不得手がある学生への支援として授業支援アシスタントを積極的に活用して、フォローを行います。

【学生が準備すべき機器他】

オンラインによる講義となる可能性があることや、提出が必要な演習課題等は情報機器（ノート PC、タブレット等）が不可欠です。常に情報機器を講義に持参してください。

【その他の重要事項】

実際の地域計画の現場として、複数のフィールドで活動しているため、実際の地域計画で使った計画図や合意形成のための資料を提示して講義を行います。

【Outline (in English)】

There are lots of Plans made to tackle unknown problems and realize ideal regional future. Among those are done by not only national and local governments but also private organizations and entrepreneurs. In this lecture, we first learn various approaches to regional planning as well as recent change happening worldwide, discuss future planning with students.

Students will be expected to have completed the required assignments or reports after each class meeting. Your study time will be more than two hours for a class.

Your overall grade in the class will be decided based on the following Term-end report: 35%, Short reports after each class: 65%

MAN200JB

コミュニティビジネス論

土肥 将敦

科目分類・科目群(福祉コミュニティ)：専門教育科目 専門基幹科目

配当年次／単位数：1～4 年次／2 単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

地域における経済的・社会的問題の解決を求めて、地域の人々によって所有、コントロールされ、地域の資源を生かして活動する事業体＝コミュニティ・ビジネスが求められている。政府・行政の活動、大企業の活動からは漏れ落ちるような地域の多様なニーズや価値に柔軟に応えようとするコミュニティ・ビジネスは、コミュニティの再生という目的と事業活動をつなげていく市民活動家もしくは社会的企業者たちによって担われるものであり、ソーシャル・ビジネスの一部分とみなすことができる。本講義では、こうしたコミュニティ・ビジネスやソーシャル・ビジネスの意義や経営課題を国内外の事例を通して明らかにする。

【到達目標】

- ①コミュニティ・ビジネスとソーシャル・ビジネスの定義や要件を理解する。
- ②コミュニティ・ビジネスとソーシャル・ビジネスの意義や経営課題について理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

授業形態は対面授業による講義形式である。毎回講義内でのディスカッションやミニレポートの提出を求める。COVID-19 にもなう各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。リアクションペーパーやミニレポート等における優れたコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かしていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	講義概要、テキストの紹介、成績評価方法について。
第 2 回	コミュニティ・ビジネス/ソーシャル・ビジネスとは何か①	「コミュニティ・ビジネス」を何かを理解する。
第 3 回	コミュニティ・ビジネス/ソーシャル・ビジネスとは何か②	「ソーシャル・ビジネス」を何かを理解する。
第 4 回	事業型 NPO による取り組み①	病児保育の事例を通して理解する。
第 5 回	事業型 NPO による取り組み②	病児保育事業の取り組みを通して理解する。
第 6 回	事業型 NPO による取り組み③	貧困問題と健康問題の事例を通して理解する。
第 7 回	事業型 NPO による取り組み④	貧困問題と健康問題を解決する事業活動事例を通して理解する。
第 8 回	事業型 NPO による取り組み⑤	アメリカの事業型 NPO の事例を通じて理解する。
第 9 回	株式会社による取り組み①	女性起業家の事例を通して理解する。
第 10 回	株式会社による取り組み②	女性起業家の事例を通して理解する。
第 11 回	株式会社による取り組み③	大企業とコミュニティの関係を理解する。
第 12 回	株式会社による取り組み④	大企業の具体的なコミュニティ/ソーシャル・ビジネスを通して理解する(1)。
第 13 回	株式会社による取り組み⑤	大企業の具体的なコミュニティ/ソーシャル・ビジネスを通して理解する(2)。
第 14 回	講義全体のまとめ	これまでの講義を通して得られた知見を整理する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日頃から新聞・雑誌・書籍などを通じて、コミュニティ・ビジネスやソーシャル・ビジネスに関するニュースに積極的に触れることが必要である。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

土肥将敦（2022）『社会的企業者－CSIの推進プロセスにおける正統性』千倉書房

谷本寛治編（2015）『ソーシャル・ビジネス・ケース：少子高齢化時代のソーシャル・イノベーション』中央経済社

【参考書】

講義中に適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

ミニレポート 30%、平常点 40%、期末レポート 30%。

具体的な講義方法と基準等は、授業開始日までに学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】

なるべく多くのゲストスピーカーをお招きし、彼らとの対話を通してダイナミックな講義を目指す。

【Outline (in English)】

The purpose of this course is to develop students' business skills and knowledge in problem solving, community business, social business and for-profit/non-profit organizations. Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class. Finally, Your overall grade in the class will be decided based on the following; Short reports and presentations(60%), in class contribution(40%).

ARSx200JB

ローカルイノベーション論

野田 岳仁、水野 雅男、関司 直也、土肥 将敦

科目分類・科目群(福祉コミュニティ)：専門教育科目 専門基幹科目

配当年次／単位数：1～4 年次／2 単位

備考(履修条件等)：2021 年度以降入学者のみ受講可能。2020 年度以前入学者は「N6055 地域の歴史と文化」を受講すること。

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的(何を学ぶか)】

ローカルイノベーションが立ち現れる社会的な背景や新たな社会変革を創出する仕組みとはどのようなものであるのかを各地の実践事例を通じて理解することを目的とする。

【到達目標】

ローカルイノベーションの基本的な考え方をマスターし、自らがローカルイノベーションを創出するプレイヤーになるための知識や技能について理解を深めることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

教員4名(水野・関司・土肥・野田)が具体的な事例を取り上げ、オムニバス形式で講義を担当する。1 地域を2回の講義で構成し、1 回目では、地域の概要やイノベーターについて担当教員がレクチャーを行う。2 回目は、当該地域からゲストスピーカーを招いてのレクチャー、担当教員、受講生を交えてディスカッションを行う。リアクションペーパーや課題等のフィードバックは講義や学習支援システムを通じて行う。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス/イントロダクション(水野・関司・土肥・野田)	ローカルイノベーションとは何か
第2回	半島先端におけるローカルイノベーション①(水野)	世界農業遺産の環境保全活用についての概要と社会的背景についてのレクチャー
第3回	半島先端におけるローカルイノベーション②(水野・土肥)	ゲストスピーカーを交えてのレクチャーおよびディスカッション
第4回	多様なライフスタイルでローカルイノベーション①	ライフスタイル研究と移住推進の市民事業についてのレクチャー
第5回	多様なライフスタイルでローカルイノベーション②(水野・土肥)	ゲストスピーカーを交えてのレクチャーおよびディスカッション
第6回	景観まちづくりにおけるローカルイノベーション①(野田)	景観まちづくりについての概要と社会的背景についてのレクチャー
第7回	景観まちづくりにおけるローカルイノベーション②(土肥・野田)	ゲストスピーカーを交えてのレクチャーおよびディスカッション
第8回	地域ツーリズムにおけるローカルイノベーション①(野田)	地域ツーリズムについての概要と社会的背景についてのレクチャー
第9回	地域ツーリズムにおけるローカルイノベーション②(土肥・野田)	ゲストスピーカーを交えてのレクチャーおよびディスカッション
第10回	若者と地域をつなぐローカルイノベーション①(関司)	地域に向かう若者の動向と社会的背景についてのレクチャー
第11回	若者と地域をつなぐローカルイノベーション②(関司・土肥)	ゲストスピーカーを交えてのレクチャーおよびディスカッション
第12回	農山村再生に向けたローカルイノベーション①(関司)	農山村における地域づくりの概要と社会的背景についてのレクチャー
第13回	農山村再生に向けたローカルイノベーション②(関司・土肥)	ゲストスピーカーを交えてのレクチャーおよびディスカッション
第14回	総括(水野・関司・土肥・野田)	6 事例からの学びと提言

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

関心のある分野や領域でどのようなローカルイノベーションが創出されているのか事前に調べておく。講義で取り上げた地域やゲストスピーカーの活動については、メディアの記事、論文、書籍等を通じて、より詳しく探求すること。本講義の予習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト(教科書)】

必要に応じて講義内で資料を配布する。

【参考書】

講義内で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点(リアクションペーパーへのコメント)100%で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

2022 年度授業改善アンケートの結果を反映させるとともに、リアクションペーパー等を通じて学生の意見や要望には積極的に応えていく。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布や課題提出等に学習支援システムを積極的に活用する。

【その他の重要事項】

講義を担当する4名の教員は、それぞれ地域プランニング、まちづくり活動等の豊富なフィールド経験を有している。それらの経験に基づいてローカルイノベーションの考え方を示していく。

【Outline(in English)】

【Course outline】The purpose of this course is to master the basic concept of local innovation through various case studies. 【Learning Objectives】The goal of this course is to understand the knowledge and skills needed to become a player in creating local innovation. 【Learning activities outside of classroom】Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. 【Grading Criteria /Policy】Grading will be decided based on reaction papers(100%).

SOW300JB

社会福祉原理

渡辺 寛人

科目分類・科目群(福祉): 専門教育科目 専門展開科目

配当年次/単位数: 2~4 年次 / 2 単位

その他属性: (優) (S)

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

社会福祉発展の原理と現在の福祉政策に向けられる批判や直面する課題について検討する。

【到達目標】

社会福祉発展の原理と福祉政策をめぐる多様な論点を理解し、社会福祉のあり方に対する知識と自分なりの見解を深めることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

配布するレジュメに沿って講義を行ないます。参考文献は講義のなかで適宜紹介するので、講義内容から関心をもった文献を読んで理解を深めることを推奨します。

講義内容についての疑問点や論点はリアクションペーパーに積極的に書いてください。寄せられた疑問点や論点については、可能なかぎり講義の冒頭で共有し、回答していきたいと思えます。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	社会福祉の正当化問題	社会福祉の正当化問題について理解する。
第 2 回	社会福祉の原理① 社会福祉の誕生	社会福祉が誕生する独自の文脈について学ぶ。
第 3 回	社会福祉の原理② パターンナリズムの問題点	パターンナリスティックな福祉の問題点について学ぶ。
第 4 回	社会福祉の原理③ ノーマライゼーションとパーソナライゼーションからの批判	ノーマライゼーションとパーソナライゼーションからの批判について学ぶ。
第 5 回	社会福祉の原理④ 基本的ケアバビリティと人権	基本的ケアバビリティの平等と個人の尊厳としての人権について学ぶ。
第 6 回	社会福祉の原理⑤ 新しい社会福祉のあり方	これまでの内容を踏まえ、「新しい社会福祉」のあり方を検討する。
第 7 回	福祉政策をめぐる論点① 貧困とはなにか	絶対的貧困と相対的貧困、相対的剥奪について理解する。
第 8 回	福祉政策をめぐる論点② 社会的排除と包摂	社会的排除理論と社会的包摂戦略について理解する。
第 9 回	福祉政策をめぐる論点③ 自立と依存、自立支援	自立と依存の関係概念を整理し、自立支援のあり方を考える。
第 10 回	福祉政策をめぐる論点④ 民営化と新しい公共	社会福祉の民営化と「新しい公共」の役割について理解する。
第 11 回	福祉政策をめぐる論点⑤ フェミニズムと脱家族化	フェミニズムの知見と脱家族化という概念について理解する。
第 12 回	福祉政策をめぐる論点⑥ ワークフェア/アクティベーション	積極的労働市場政策が登場した背景とその内容を理解する。
第 13 回	福祉政策をめぐる論点⑦ ベーシックインカム	ベーシックインカムという政策アイデアが登場した背景とその内容を理解する。
第 14 回	福祉政策をめぐる論点⑧ セキュリティと自由	セキュリティと自由の関係について整理し、理解を深める。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備・復習時間は、各30分を標準とします。参考文献は講義内で適宜紹介します。また、講義内で関連する参考文献を紹介するので、適宜参照するようにしてください。

【テキスト (教科書)】

特に使用しない。

【参考書】

講義内で適宜紹介しますが、以下は全体を通して関連する参考文献になります。自主学習をする際に参考にしてください。

『社会福祉の原理と政策』、日本ソーシャルワーク教育学校連盟編、2021年『福祉原理』、岩崎晋也、有斐閣

【成績評価の方法と基準】

①評価方法: リアクションペーパー (40%), レポート課題 (60%)

②採点基準:

<リアクションペーパー>

各講義内容についての理解度について評価します。

<レポート課題>

講義内容で取り扱ったテーマから、自身が関心をもったテーマについて、少なくとも一冊以上の参考文献を読んだうえで、レポート(1000~3000字程度)を提出してください。

レポート課題については、以下の点を評価します。

- ・テーマについての理解度
- ・論理的に各自の見解を述べられているか
- ・レポートの形式が適切に守られているか
- ・参考文献が記載されているか

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布およびレポート課題の提出については学習支援システムを利用する予定です。

【その他の重要事項】

特になし。

【Outline (in English)】**[Course outline]**

The principles of social welfare development and the criticisms directed at and challenges faced by current welfare policy will be examined.

[Learning Objectives]

To understand the principles of social welfare development and the various issues surrounding welfare policy, and to deepen one's knowledge and personal views on the state of social welfare.

[Learning activities outside of classroom]

The standard preparation and review time for this class is 30 minutes each. References will be introduced in the lecture as appropriate. Relevant references will also be introduced in the lecture, so please refer to them as appropriate.

[Grading Criteria /Policy]

(1) Evaluation method: Reaction paper at each class (30%), final report (70%)

(2)Grading criteria

< Reaction papers >

- the level of understanding of the content of each lecture
- whether the students are able to develop their own views logically and persuasively.

< Final report >

Students will be asked to write a report on a theme of their own interest.

The following are the specific grading items for final report.

- the level of understanding of the chosen theme
- whether the report is based on facts and correct information
- the persuasiveness of their own views
- the logical structure of the report

SOW300JB

医療政策論

小磯 明

科目分類・科目群(福祉コミュニティ)：専門教育科目 専門展開科目

配当年次／単位数：2～4 年次／2 単位

その他属性：〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

授業での意見交換を通じて、医療政策の重要性を認識する。

【到達目標】

医療政策とは何か、を理解するとともに、日常生活の中で、医療政策・制度がどのような役割を果たしているか、を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は対面で実施する。授業への学生の積極的参加を促すために、毎回の授業終了後にリアクションペーパーを提出してもらう。リアクションペーパーでの質問・意見については、翌週の授業の冒頭で答えるようにする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	講義のねらい、授業の進め方など
2	医療政策の定義と周辺学問	「医療政策とは何か」ということと周辺領域の学問について検討する
3	医療提供体制	現在の医療提供体制について設立主体や他国との違いを検討する
4	医療保険のしくみ	日本の医療保険のしくみについて理解するとともに他国との違いを検討する
5	診療報酬制度	日本の診療報酬制度について理解するとともに他国との違いを検討する
6	医療費の動向	日本の医療費について理解するとともに他国と比較検討する
7	医療の質	医療の質とは何かについて理解するとともに質向上の取り組みを検討する
8	保険者の役割	日本の保険者の役割について理解するとともに他国との違いを検討する
9	高齢者医療制度	高齢者医療制度の歴史と現在の仕組みを理解する
10	医療費の患者負担	医療費における患者負担について理解するとともに他国との違いを検討する
11	医療改革	日本の医療改革について理解する
12	医療の患者満足	医療の患者満足について理解する
13	国民皆保険制度	国民皆保険制度について理解するとともに、他国との違いを検討する
14	地域包括ケアシステム	地域包括ケアシステムについて理解する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

特に必要ないが、医療や社会保障に関する新聞報道等に注目してほしい。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特定の教科書は使用しない。毎回、教材資料を配布する。

【参考書】

小磯明『医療機能分化と連携』御茶の水書房,2013 年.
小磯明『高齢者医療と介護看護』御茶の水書房,2016 年.
小磯明『イギリスの認知症国家戦略』同時代社,2017 年.
小磯明『フランスの医療福祉改革』日本評論社,2019 年.
小磯明『イギリスの医療制度改革』同時代社,2019 年.

【成績評価の方法と基準】

授業平常点 60 %、レポート提出 40 %。レポートは 1 回とし、内容を総合的に判断する。履修者は必ず、レポートを提出すること。毎回の授業は対面授業のため、出席を重視することに注意のこと。

【学生の意見等からの気づき】

諸外国の医療制度や事例を紹介するとともに、日本の医療保険制度についての理解も深める。

【学生が準備すべき機器他】

パワーポイントを使用する。

【その他の重要事項】

受講生の関心に応じて、授業計画が若干変更される可能性がある。

【Outline (in English)】

Recognize the importance of health policy through exchange of ideas in class. The aim of this course is to help students acquire knowledge of medical policy.

At the end of the course, students are expected to knowledge of medical system and policy.

Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapters from the text. Your required study time is a least two hour for each class meeting.

Your overall grade in the class will be decided based on the following Short reports: 50%, in class contribution: 50%.

ENG300JB

都市住宅政策論

水野 雅男

科目分類・科目群(福祉コミュニティ)：専門教育科目 専門展開科目

配当年次／単位数：2～4 年次／2 単位

備考 (履修条件等)：旧「都市住宅政策論 I」修得者は履修不可

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

生活に深く関わり、地域景観や社会福祉の面でも重要な住宅について、住宅政策がどのように取り組まれてきたのか、国内外の比較ならびに市民活動事例を通じて学ぶ。

【到達目標】

都市住宅政策が社会背景の中でどのように変遷してきたのか、国内外ではどのように異なるのかを認識できるようにする。さらに、都市の歴史資産として木造住宅が残存する金沢と京都において、その歴史的な木造住宅を保全活用する市民活動を学習する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

毎回のテーマに関するデータを参考書から引用紹介する。国内外の近年の動向を理解しやすいように、参考となる映像資料を紹介する。授業の冒頭で、毎回のテーマについてペアワークを行い、意見交換の結果をリアクションペーパーにまとめるとともに、いくつかの意見を紹介し合う。講義の感想や質問、意見を毎回リアクションペーパーで提出、翌週に素晴らしいコメントを抽出し紹介することで、受講生相互の理解の違いと多様性を共有する。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業の枠組みとスケジュール、住宅政策の問題提起
第 2 回	我が国の住宅政策①	住宅所有の政策推進と社会変化
第 3 回	我が国の住宅政策②	社会的変容と若年層の住宅条件
第 4 回	我が国の住宅政策③	持ち家社会のグローバル化
第 5 回	我が国の住宅政策④	住宅セーフティネット
第 6 回	我が国の住宅政策⑤	シェアする生活
第 7 回	歴史的住宅の保全活用①	金澤町家の保全活用
第 8 回	歴史的住宅の保全活用②	金澤町家の現状と課題
第 9 回	歴史的住宅の保全活用③	木造建物のコンバージョン活用
第 10 回	歴史的住宅の保全活用④	京町家の実態と再生方策
第 11 回	海外の住宅政策①	アメリカの住宅政策と NPO
第 12 回	海外の住宅政策②	英国ドイツ・スウェーデンの住宅政策とまちづくり事業体
第 13 回	被災地の住宅政策	在来工法と大工職人の継承
第 14 回	試験・まとめと解説	授業内レポート提出

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

授業の前に授業内容に関連する書籍、文献や資料のレビューを充分に行った上で、明確な問題意識を持って参加すること。学習支援システムに前週の教材を掲載しているので、充分に復習すること。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト (教科書)】

必要に応じて、適宜資料として紹介する。

【参考書】

「住宅政策のどこが問題か」平山洋介、光文社新書、2009 年
「居住の貧困」本間義人、岩波新書、2009 年
「空き家問題」牧野知弘、祥伝社、2014 年
「欧米の住宅政策—イギリス・ドイツ・フランス・アメリカ」小玉徹他、ミネルヴァ書房、1999 年
「町家再生の論理」宗田好史、学芸出版社、2009 年
「生活景」社団法人日本建築学会編、学芸出版社、2009 年
「これからの日本のために「シェア」の話をしよう」三浦展、NHK 出版、2011 年

【成績評価の方法と基準】

①平常点 70 % ②レポート 30 % ①と②を総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

前年度の授業改善アンケート結果を反映する。

【学生が準備すべき機器他】

授業の教材 (パワーポイントデータ) は、授業終了後に学習支援システムに掲載する。

【その他の重要事項】

まちづくりプランナーとして地域社会のデザイン・コーディネーターに 27 年間関わった中で、NPO 法人金澤町家研究会、NPO 法人輪島土蔵文化研究会などの市民活動を企画運営してきた経験に基づき、フィールドレベルからの住宅政策の課題について授業で言及する。

【Outline (in English)】

< Course outline >

The aim of this course is to help students acquire how housing policies have been tackled through domestic and international comparisons and examples of civic activities.

< Learning Objectives >

By the end of the course, students should be able to do the followings: Recognizing how urban housing policies have changed in the social background and how they differ at home and abroad.

< Learning activities outside of classroom >

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

< Grading Criteria /Policy >

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Short reports: 100%

CUM300JB

地域文化政策論

須田 英一

科目分類・科目群(福祉コミュニティ)：専門教育科目 専門展開科目

配当年次／単位数：2～4 年次／2 単位

備考(履修条件等)：旧「地域文化政策」を修得した者は履修不可

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的(何を学ぶか)】

地域文化政策の実態とあり方を事例を通して学びます。この授業は地域社会に Well-being 社会を実現するための政策づくりの一環として学んでほしいと思います。

【到達目標】

文化活動が人間にとって根源的な欲求であり、Well-being 社会を実現する文化活動に対して、行政がどのように関わり、取り組みがなされているのかを理解することを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

文化の捉え方や文化政策を実現させるためのシステム、文化に関わる法律・条令・行政組織などを述べ、広く文化行政の仕組みを講じます。また、文化政策の重要な一支柱をなす文化財政策に関して、文化財の概要及び文化財の保存と活用について具体例を論じます。さらに、近年における文化財政策の取り組みや新たな視点を論じ、心豊かな Well-being 社会を実現するための地域文化政策のあり方を具体的に学びます。授業の展開によって、授業テーマに若干の変更があり得ます。講義形式の授業形態です。

授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつかを取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

なし/No

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業のガイダンス、評価の方法など
第2回	Well-being と文化政策	Well-being 実現のための文化と政策
第3回	文化政策の誕生と発展	戦前の社会教育と文化政策・戦後の社会教育と文化政策・社会教育と生涯学習
第4回	文化政策実現のシステム	自治体の基本構想・基本計画策定
第5回	文化に関わる法と行政組織(1)	人間の営為と基本的人権保障の規定
第6回	文化に関わる法と行政組織(2)	文化関係法の体系と内容
第7回	文化に関わる法と行政組織(3)	自治体の文化関係条例・行政組織
第8回	近年の国の文化政策の動向	文化政策推進会議設置・文化振興マスタープラン策定・文化芸術基本法制定
第9回	地方自治体の文化政策の取り組み	地域文化遺産の保護・文化振興条例の制定
第10回	地域史を考える	地域の歴史や文化を学ぶ目的とその変遷
第11回	地域文化遺産の保存と活用(1)	地域文化遺産
第12回	地域文化遺産の保存と活用(2)	エコミュージアム
第13回	地域文化遺産の保存と活用(3)	日本遺産事業
第14回	まとめ	課題レポートのフィードバックとまとめ

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

授業はほぼテキストに沿って進めるので、授業計画に示されたテーマ・内容にもとづき予習・復習を行うこと。また、新聞・雑誌などに掲載される地域文化政策に関連する記事に関心を持ってほしい。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト(教科書)】

馬場憲一『Well-being と文化環境』(生協で販売)

【参考書】

馬場憲一(1998)『地域文化政策の新視点-文化遺産保護から伝統文化の継承へ-』(雄山閣、3000円)、川村恒明監修・著(2002)『文化財政策概論』(東海大学出版会、3500円)を挙げておきますが、その他については、必要に応じて講義の中で適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

①成績評価方法

・平常点：毎回リアクションペーパーの提出を求めます。

・試験方法：中間に1回と期末に課題レポート提出。

・評価方法：平常点(リアクションペーパー)40%、課題レポート60%により総合的に評価します。2種類の課題レポート提出は単位の修得に不可欠とします。

②評価基準

・平常点：授業態度、学習への意欲、リアクションペーパーの内容によって評価します。

・レポート：課題に適切に答え、現地を訪れるなど積極的に取り組んだものであるかどうかを評価対象とします。

【学生の意見等からの気づき】

質疑応答を積極的に行い、双方向での授業運営を図ります。

【その他の重要事項】

専門展開科目の「文化環境創造論」は、本授業の「応用編」的な内容も含んでいますので、セットで受講することをお勧めします。特に公務員を目指す皆さんには必ず受講してほしいと思います。

地方自治体での文化財調査・実務経験、大学文化財調査機関での調査・研究経験を活かして、実際の経験にも重きを置きながら授業を展開したいと思えます。

【Outline (in English)】

This lecture learn about the actual state and the way of regional culture policy through case studies. I would like you to learn as part of policy making to realize Well-being Society in the community. The goals of this course are to understand the involvement of government in cultural activities. Students should be interested in articles related to regional cultural policy published in newspapers and magazines. Your study time will be more four hours for a class. Final grade will be calculated according to the following process Mid-term report, Term-end report (70%), and in-class contribution (30%).

ENV300JB

環境政策論

藤澤 浩子

科目分類・科目群(福祉コミュニティ)：専門教育科目 専門展開科目

配当年次／単位数：2～4 年次／2 単位

備考(履修条件等)：旧「環境教育論」修得者は履修不可

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的(何を学ぶか)】

地球規模で発生しているさまざまな環境問題の解決のために必要とされる環境政策の形成と実施には、市民の主体的な関与と自発的な実践活動が不可欠です。身近な環境を知り、そこで生じている問題について学ぶことは、そうした取り組みの基礎として極めて重要です。この授業では、環境および環境政策に関する基礎的な内容や取組み事例、初歩的な体験を通して理解を深め、身近な環境を愛し環境問題の解決に自ら取組む市民を育成することを目的とします。

【到達目標】

学習や発表、実践体験が、受講者自身の気づきや継続的な取組みの契機となることを目標とします。受講生には、身のまわりの環境にふれ、そこから何かを感じとり自ら動く姿勢、自分で調べ正しい情報を判断する力、それを他者に伝える力、仲間の発表に耳を傾け共有する力を、身につけて高めていくという姿勢を求めます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

環境政策はPDCAサイクルの各段階で市民による関与が重要であり、そのためには市民レベルでの学習・実践活動が不可欠です。そこで本講座は、市民による環境学習を柱に、環境政策及び環境教育の理念・歴史の経緯・基礎知識・方法論等、基本的事項について解説していく予定です。課題等の提出・フィードバックは、講義時または「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

あり/Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション1 講義の進め方等の確認と ミニフィールドワーク (FW)	ガイダンス及び環境学習経験の確認、 キャンパス周辺を歩き、身近な自然 的・歴史的環境にふれる。宿題：FW 後、フィールドノートを作成提出する。 フィールドノート及び「人間をとりま く環境のイメージ」を共有する
第2回	オリエンテーション2 身近な環境に関するイ メージの共有	
第3回	SDGs について	SDGs 関連情報(国際的取組み経過・ 現状、日本の環境政策における位置づ け等)の解説及び関心共有ワーク
第4回	環境・環境政策の理念	環境とは、環境政策とはどのようなも のか、環境問題への取組みの歴史的経 緯等を踏まえて解説する
第5回	環境に関する基礎知識	地球規模の環境問題とその対策を知る 上で必要な、地球に関する基礎知識と 問題となっている諸テーマについて概 説する
第6回	環境問題を知る1	温暖化、エネルギー問題
第7回	環境問題を知る2	生物多様性、地球環境問題
第8回	環境問題を知る3	循環型社会、地域環境問題
第9回	環境問題を知る4	化学物質、震災関連の問題等
第10回	環境政策の原則・手法	環境政策の原則・手法、環境学習、環 境アセスメント等に関する概説
第11回	各主体の役割・活動1	各主体の役割、参加・協働の手法、国 際機関・政府セクターの取組み、企業 の取組み
第12回	各主体の役割・活動2	市民(個人、NPO等)の取組み、身 近な環境に関する市民の取組み事例 (DVD 視聴等)
第13回	身近な環境保全の取組み 実践体験 全体ワーク1	かるた制作(読み札づくり)
第14回	身近な環境保全の取組み 実践体験 全体ワーク2	かるた制作(絵札づくり)と試用(場 合によっては、読書レポート発表会)

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

現在までに受けた環境教育や関心をもった環境問題等を整理しておく。
関心のあるテーマとその背景について、新聞や書籍、インターネット等から
情報を得る。多摩キャンパス周辺の環境に目を向ける。関心のあるテーマや
フィールドでの行事や活動に、積極的に参加してみる。本授業の準備学習・復
習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト(教科書)】

東京商工会議所(2023)『環境社会検定試験 eco 検定公式テキスト 改訂9版』。

その他、必要に応じ講義時にプリントを配布します。

【参考書】

倉阪秀史(2014)『環境政策論(第3版)』信人社、竹本和彦編(2020)『環
境政策論講義：SDGs 達成に向けて』東京大学出版会、日本環境教育学会編
(2013)『環境教育辞典』教育出版、藤澤浩子著(2011)『自然保護分野の市
民活動の研究』芙蓉書房出版、他、講義時に必要に応じて紹介します。

【成績評価の方法と基準】

1. 出欠確認：毎回リアクションペーパーをとります。
2. 試験方法：随時行う小テストと読書レポート
3. 採点基準：リアクションペーパー及び小テスト、かるた制作への参加等
を把握する平常点70%、提出課題(フィールドノート、読書レポート)30%
とします。

【学生の意見等からの気づき】

過去10年間、受講生との話し合いをもとにキャンパス周辺でのフィールド
ワークとグループやクラス単位でのワークショップを行ってきました。全回
オンライン形式となった2020年度以外、全体ワークでは、かるた制作を行
い大変好評でした。長年通学しているキャンパスの周辺をあらためて見
つめ、受講者間で共有する機会をもつことは、地に足のついた取り組みにつ
ながるため、対面でのアクティブラーニングが可能な状況であれば、受講者数に
応じた形式で実施する予定です。

【学生が準備すべき機器他】

課題提出及び資料配布等のために学習支援システムを活用する予定です。

【その他の重要事項】

受講者数および授業の展開により若干の変更があり得ます。

【Outline (in English)】

【Course outline】

This course introduces basic knowledge of the environment/environmental problem and policy to students taking this course. The aim of this course is to help students acquire the knowledge necessary for solving familiar environmental problems. Please refer to the schedule for detailed information.

【Learning Objectives】

By the end of the course, students should be able to do the followings:

- understand the importance of each citizen's efforts.
- understand the significance of actually touching and feeling the environment around us.
- get the right information, make wise decision, and tell others, listen and share with others.
- willing to do good activities for the familiar/global environment.

【Learning activities outside of classroom】

1. Find out about environmental issues of your interest.
 2. Try participating in environmental activities, if possible.
- Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

【Grading Criteria/Policy】

- ・Normal point 70% : Preparations, reaction papers, approaches, contribution to group work
- ・Report (Field-note, Mid-term, Final) 30%

ARSk300JB

地方自治論

中嶋 学

科目分類・科目群(福祉コミュニティ)：専門教育科目 専門展開科目
 配当年次／単位数：2～4 年次／2 単位

その他属性：〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

都道府県、市町村、特別区といった自治体が地域における政治と行政を担っており、地域の課題・問題を解決するために、政策を作成し、実施しています。しかし、近年、自治体が解決を求められている子育て・教育、高齢者福祉、まちづくりなどの課題・問題の多くは、複雑な要因が絡み合い、既存の解決策が通用しない「厄介な問題 (wicked problem)」であり、その解決のために、自治体は、企業、NPO、住民と連携・協働することが必要になります。この講義では、地域の課題・問題の解決に向けて、多様な組織や人が参加し、それぞれの専門性を活かして連携・協働するための仕組み、つまり、政策を形成・実施する体制を、どのようにデザインし、どのようにマネジメントするかについて学習します。

【到達目標】

- ・地方自治論の基礎的な知識を習得する。
- ・自治体が直面している問題を解決するための政策の形成・実施体制のデザイン・マネジメントについて論理的に思考するための概念・枠組みを習得する。
- ・概念・枠組みを活用し、自治体が直面している問題を解決するための政策の形成・実施体制のデザイン・マネジメントについて考察できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

地域の課題・問題の解決に向けて、多様な組織や人が参加して政策を形成・実施する体制のデザイン・マネジメントについての理解を深めるために、組織間関係論の説明を中心に授業を進めます。1 回の授業で 1 つの理論をカバーし、各回の授業では、まず、その回で取り扱う理論の概要、重要概念、強み・弱みなどの説明を行い、次に、その理論を公的部門に応用した重要業績の説明を行います。

授業に進展などに応じて内容の入れ替え、変更などもありえます。また、履修人数によっては、双方向型の形態を用いることやアクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施も考慮します。課題に対しては、授業内や Hoppii 等を活用してフィードバックを行う予定にしています。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	シラバスの記載事項の確認および授業の進め方の説明。
第 2 回	地方自治の担い手①	首長、議会、公務員、住民の役割についての説明。
第 3 回	地方自治の担い手②	「ガバメント」から「ガバナンス」へという標語で表わされる地方自治の担い手の変化についての説明。
第 4 回	政策の形成・実施体制のデザイン・マネジメント①	取引費用理論についての説明。
第 5 回	政策の形成・実施体制のデザイン・マネジメント②	エージェンシー理論についての説明。
第 6 回	政策の形成・実施体制のデザイン・マネジメント③	資源依存理論についての説明。
第 7 回	政策の形成・実施体制のデザイン・マネジメント④	組織エコロジー理論についての説明。
第 8 回	政策の形成・実施体制のデザイン・マネジメント⑤	制度理論についての説明。
第 9 回	政策の形成・実施体制のデザイン・マネジメント⑥	ネットワーク理論についての説明。
第 10 回	政策の形成・実施体制のデザイン・マネジメント⑦	組織 (間) 信頼についての説明。
第 11 回	政策の形成・実施体制のデザイン・マネジメント⑧	組織 (間) 学習についての説明。

第 12 回 政策の形成・実施体制のデザイン・マネジメント⑨ 合意形成についての説明。

第 13 回 子育て・教育に関する政策形成・実施体制 組織間関係論の観点による子育て・教育に関する政策の考察。

第 14 回 高齢者福祉に関する政策形成・実施体制 組織間関係論の観点による高齢者福祉に関する政策の考察。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

1 時間程度かけて授業時に配布する資料を読んでください。該当箇所の学習に 1 時間程度割くことができれば、授業の理解が深まります。

【テキスト (教科書)】

授業中に資料を配布します。

【参考書】

- ・北村巨・青木栄一・平野淳一 (2017) 『地方自治論 - 2 つの自律性のほがまで』 有斐閣
- ・磯崎初仁・金井利之・伊藤正次 (2020) 『ホーンブック 地方自治 [新版]』 北樹出版
- ・秋吉貴雄・伊藤修一郎・北山 俊哉 (2020) 『公共政策学の基礎 [第 3 版]』 有斐閣
- ・渡辺深 (2007) 『組織社会学』 ミネルヴァ書房

【成績評価の方法と基準】

- ・期末レポート 70 % (データなどの客観的な事実に基づいた議論が展開されているか、論理的な思考が示されているか、独自の考察がみられるか、レポートの形式が適切かを評価します)
- ・小レポート 30 % (授業内容への理解が示されているか、自分なりの考察が記述されているかを評価します)

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline (in English)】

【授業の概要 (Course outline)】

Local governments face complex problems (e.g., health and human services, economic development), which no single organization can address. For example, the well-being of mentally ill children and youth depends on comprehensive, integrated, and individualized services including mental health treatments, social services, education, and vocational services, rather than a single excellent service in any of the service areas. Thus, local governments need work with business and non-profit sectors to make and implement public policy; and, goal-directed inter-organizational networks, composed of three or more organizations to collectively achieve a common goal, have become a prevalent organizational arrangement. Such goal-directed inter-organizational networks address complex problems, by integrating resources, information, expertise, and perspectives possessed by differently-endowed organizations. In public administration and policy research, they are known as “collaborative networks.” While the involvement of diverse organizations does enhance the capacity of collaborative networks to address complex problems, it also brings about negative consequences — namely difficulties of cooperation and coordination resulting from the differing (sometimes, even conflicting) goals, strategies, perceptions, and ways of working among diverse network participants. Because of the cooperation and coordination challenges, it is recognized that network management is essential to produce satisfactory network outputs and outcomes.

【到達目標 (Learning Objectives)】

This class is designed with an emphasis on two objectives: (1) understanding key concepts in inter-organizational theory and (2) applying the concepts for designing and managing collaborative networks.

【授業時間外の学習 (Learning activities outside of classroom)】

After each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course material.

【成績評価の方法と基準 (Grading Criteria/Policy)】

Grading will be decided based on mid-term paper (30%) and final paper (70%)

ECN300JB

地域経済論

関司 直也

科目分類・科目群(福祉コミュニティ)：専門教育科目 専門展開科目

配当年次／単位数：2～4 年次／2 単位

その他属性：〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、積極的に地域づくりを進める上で不可欠な視点である「地域経済」に焦点を当て、地域資源をもとにした産業基盤（とりわけ農山村地域の主要産業である第1次産業）への理解を深め、グローバル化に直面する中で地場産業の変化と課題、また対応する試みを学ぶ。

【到達目標】

講義を通して、まず、グローバル化に直面する地域経済の状況、また今日に至る地域経済の展開過程とそこで生じた諸問題についての基礎を理解できる。その上で、地域資源をもとにした産業形成として第1次産業である農林業を中心に、関連するテーマを通して、経済活動と地域との関係を捉えることができる。日本の地域経済や地場産業における歴史的背景を踏まえ、グローバル経済と密接な現状を理解し、地域を核とした経済循環のあり方を考えることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式で進め、リアクションペーパーを通じて、受講生の捉え方を全体でも共有するとともに、質疑にも応えていく。なお、講義は以下の内容で進める予定であるが、進度やゲスト講師によって変更もあり得る。リアクションペーパー等のフィードバックは授業内で行い、さらなる議論に活用する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	地域問題を考える糸口としての地域経済を理解する。
第2回	地域経済の形成過程（戦後）	地域経済の下地がどのように積み上がったのか、歴史的経緯（戦後）を理解する。
第3回	地域経済の形成過程（高度経済成長期）	地域経済の下地がどのように積み上がったのか、歴史的経緯（高度成長期）を理解する。
第4回	地域経済の形成過程（低成長期）	地域経済の下地がどのように積み上がったのか、歴史的経緯（低成長期）を理解する。
第5回	地域経済の形成過程（バブル期以降）	地域経済の下地がどのように積み上がったのか、歴史的経緯（バブル期以降）を理解する。
第6回	農業・農村の現場から	第1次産業である農業と地域との関係を学ぶ。
第7回	林業・山村の現場から	第1次産業である林業と地域との関係を学ぶ。
第8回	経済のグローバル化と地域インパクト	1980年代以降の地域経済が直面するグローバル化の背景を学ぶ。
第9回	産業構造の転換と地域経済構造	1980年代以降の地域経済が直面する産業構造転換の背景を学ぶ。
第10回	地域再生の理論と農山漁村	地域間格差が生じる背景について学ぶ。
第11回	内発的発展の道筋を考える	農山漁村地域の自立に向けたプロセスを学ぶ。
第12回	コミュニティ政策の潮流	コミュニティ政策の展開を学ぶ。
第13回	コミュニティと地域経済の再生	地域資源管理の担い手形成を考える。
第14回	まとめ	授業全体の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習には、各2時間程度を確保してもらいたい。日頃から、地域に内在する様々な問題に関心を寄せ、その課題を乗り越える取り組みや知恵に着目しておく。講義後に、授業内容について復習し、改めてテーマについて考えることが望ましい。

【テキスト（教科書）】

講義内において配布・紹介する資料を用いる。

【参考書】

必要に応じて適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点 60%、期末レポート 40%

【学生の意見等からの気づき】

VTRなども交えて、時代や地域性の観点からも地域経済の実態が視覚的にも理解できるよう工夫を重ねていく。

【Outline (in English)】

【Course outline】 In this lecture, we will focus on the local economy, deepen our understanding of the industrial base that utilizes local resources, and learn about changes in local industries and new attempts in the face of globalization.

【Learning Objectives】 Understand the current situation closely related to the global economy, based on the historical background of Japan's regional economy and local industry, and understand the ideal economic cycle centered on the region.

【Learning activities outside of classroom】 Two hours will be secured for each preparation and review of this class. It is desirable to take an interest in various regional issues on a daily basis and review the lesson contents after the lecture.

【Grading Criteria /Policy】 60% of reaction papers every time, 40% of year-end reports.

SOW300JB

福祉の思想と歴史

白川 耕一

科目分類・科目群(福祉コミュニティ)：専門教育科目 専門展開科目

配当年次／単位数：2～4 年次／2 単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

題目「福祉国家—形成・展開・未来—」

どの国にあっても、福祉国家の改革が焦眉の課題です。本講義では、20 世紀における英・独の福祉国家の歴史分析をおこない、それを通じて福祉国家の未来を考えます。

【到達目標】

- ・イギリス等を事例に、福祉国家の形成および発展を説明することができる。
- ・時代によって変化する福祉の目標を説明することができる。
- ・ナショナル・ミニマム、社会的包摂、社会的排除、ワークフェアなどのキーワードを説明することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

講義は、投影されたパワーポイントを説明する形態で行われます。適宜資料プリントを配布します。授業後に数回、小テストを行います。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	はじめに	講義概要の説明
第 2 回	福祉国家への道	社会保険の導入
第 3 回	戦争と福祉国家	世界大戦のインパクト
第 4 回	戦後の再建	1940 年代の動向
第 5 回	50 年代の改革	社会保険改革
第 6 回	福祉国家の「頂点」	1970 年代の改革と停滞
第 7 回	新しい社会問題	貧困への再発見
第 8 回	高齢者問題	高齢者の貧困
第 9 回	福祉と哲学	福祉と自由の両立
第 10 回	福祉サービスの市場化	1980 年代以降のイギリス
第 11 回	家族の変容と改革	少子化対策
第 12 回	福祉国家改革	21 世紀の福祉国家
第 13 回	移民と福祉	難民危機 (2015 年)
第 14 回	総括と展望	福祉国家の未来

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

・講義内容に関係した文献目録を適宜配布しますので、講義ペースに合わせて、文献をお読みください。例えば、第 2 回と第 3 回については、セイン『イギリス福祉国家の社会史』、第 4 回から第 12 回までは、二宮『福祉国家と新自由主義』、第 9 回から第 13 回までは、水島『反転する福祉国家』、田中『福祉政治史』を熟読の上、理解してください。講義の予習に 1 時間、授業後の復習のために 3 時間の授業外学習を必要としています。

・山崎史郎『人口減少と社会保障』を受講前にお読みください。

【テキスト (教科書)】

使用しない。

【参考書】

神島裕子『正義とは何か—現代政治哲学の 6 つの視点』(中公新書 2018 年)

菊池馨実『社会保障再考』(岩波新書 2019 年)

斎藤義彦『ドイツと日本 「介護」の力と危機』(ミネルヴァ書房 2012 年)

田中拓道『福祉政治史』(勁草書房 2017 年)

中野智世他『「価値を否定された人々」—ナチス・ドイツの強制断種と「安楽死」』(新評論 2021 年)

二宮元『福祉国家と新自由主義—イギリス現代国家の構造とその再編』(旬報社 2014 年)

平岡公一『イギリスの社会福祉と政策研究』(ミネルヴァ書房 2003 年)

水島治郎『反転する福祉国家—オランダモデルの光と影』(岩波書店 2012 年)

山崎史郎『人口減少と社会保障』(中公新書 2017 年)

パット・セイン『イギリス福祉国家の社会史』(ミネルヴァ書房 2000 年)

ジョック・ヤング『排除型社会』(洛北出版 2007 年)

【成績評価の方法と基準】

1. 学期末に論述形式の筆記試験を行います。
2. 筆記試験の得点 (7 割)、平常点 (小テストの成績 3 割) で成績評価を決定する。

【学生の意見等からの気づき】

説明が早口にならないように気を付けたいと思います。

【Outline (in English)】

(1) Course Outline

Welfare State- Past, Present, and Future-

The reform of welfare system is a problem of great urgency in all the developed countries because of big changes of economy, family, and employment. In this lecture the history of the European welfare states in the 20th century is treated. Through the survey we will have a view on the future of welfare states.

(2) Learning Objectives

(a) Students should be able to explain the historical development of the Welfare States in the 20th Century.

(b) Students should be able to explain Philosophie, goal, and dominant Theory of welfare in each era.

(c) Students should be able to explain the important words, for example, “social inclusion”, “social exclusion”, and “the right of life” in the historical context.

(3) Learning activities outside of classroom

Students will be expected to read the reference books and theses in the bibliography in pace with progress of the lecture. Before/ after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

(4) Grading Criteria

Your overall grade in the class will be based on the following: Term-end examination (essay-type):70% and in-class contribution: (30%).

SOW300JB

国際協力論

佐野 竜平

科目分類・科目群(福祉コミュニティ)：専門教育科目 専門展開科目
 科目分類・科目群(臨床心理)：総合教育科目 視野形成科目 (社会学)
 配当年次／単位数：2～4 年次／2 単位
 備考 (履修条件等)：旧「国際支援論」、旧々「国際福祉論」修得者は不可

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉〈S〉〈ダ〉〈未〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

現代福祉に関連したインクルーシブな国際協力・開発の理論および実践の基礎を学ぶ。

【到達目標】

学生が将来何らかの形で国際社会に関わることを前提に、現代福祉とインクルーシブ開発に関する基礎知識とスキルを習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

(福祉コミュニティ学科) ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP4」に関連
 (臨床心理学科) ディプロマポリシーのうち、「DP1」に関連

【授業の進め方と方法】

現代福祉と国際協力について、インプットとアウトプットを繰り返しつつ触れていく。対面を基本に、一部オンラインを組み合わせて実施する。本講義の授業計画のお知らせ・教材・課題の提示およびフィードバックについては、講義スタイルに関わらず、学習支援システムまたは Google フォーム等でその都度行う。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	各講義の概要、ポイントを紹介
第 2 回	SDGs と現代福祉①	SDGs と国際社会に関する学び①
第 3 回	SDGs と現代福祉②	SDGs と国際社会に関する学び②
第 4 回	国際機関と国際協力①	国連による現代福祉に関する学び①
第 5 回	国際機関と国際協力②	国連による現代福祉に関する学び②
第 6 回	国際協力の現場から①	海外の現場から実際に学ぶ①
第 7 回	日本政府と国際協力①	日本政府による国際協力に関する学び①
第 8 回	日本政府と国際協力②	日本政府による国際協力に関する学び②
第 9 回	国際協力と人材	国際協力に必要な人材と職種
第 10 回	国際協力の現場から②	海外の現場から実際に学ぶ②
第 11 回	NGO/民間企業と国際協力①	NGO/民間企業による現代福祉に関する実践①
第 12 回	NGO/民間企業と国際協力②	NGO/民間企業による現代福祉に関する実践②
第 13 回	国際協力に関する課題	課題発表と質疑応答
第 14 回	講義の振り返り	各講義のレビュー

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

毎回講義で配布した資料等の復習。本講義の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト (教科書)】

特に指定なし。

【参考書】

外務省 開発協力白書。必要に応じて資料等を適宜配布。

【成績評価の方法と基準】

Google フォームによるリアクションペーパーの提出 (平常点)：50 %、課題提出 (発表含む)：50%

【学生の意見等からの気づき】

講義内容・計画に関する学生からの積極的な提案をできるかぎり反映。

【学生が準備すべき機器他】

講義準備・履修のための機器 (パソコン、スマートフォン等含む)

【その他の重要事項】

上述の計画は、若干変更する場合あり。長年海外の国際機関で培った知識や経験および現在関わっている国内外の諸活動に関連して展開していく。

【担当教員の専門分野】

障害者権利条約、障害インクルーシブな国際協力・開発、循環型経済、広報・PR、東南アジア・その他アジア、人馬のウェルビーイング

【Outline (in English)】

【Course Outline】 With a focus on inclusive development, basic theories, practices and important findings on international cooperation and development in developing world are to be introduced.

【Learning Objectives】 By the end of the course, students are expected to gain basic knowledge on international cooperation in the context of social policy and administration.

【Learning activities outside of classroom】 Before/after each class, students will be expected to spend four hours to understand the course contents.

【Grading Criteria /Policy】 Grading will be decided based on reaction papers (50%), report and presentation (50%).

MAN300JB

地域経営論

松本 昭

科目分類・科目群(福祉コミュニティ)：専門教育科目 専門展開科目

配当年次／単位数：2～4年次／2単位

備考(履修条件等)：SSI生は授業コード「N6151」を選択すること。旧「地域経営」修得者は履修不可

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的(何を学ぶか)】

21世紀社会の底流となる「人口減少社会」「少子高齢化社会」における地域社会の望ましい経営(マネジメント)のあり方について、自治、分権、コミュニティ、まちづくり、公共施設の維持更新、住宅政策等の観点から理解を深めるとともに、市民、NPO等の市民団体、民間事業者、行政等の多様な地域主体の連携、協働、協創のあり方について考察する。

【到達目標】

次の事項について基本的な理解を得るとともに、テーマごとの課題とその対応方針についても問題意識を高めることを到達目標とする。
 ・地域経営に関する基本的な法制度及び代表的諸制度のあらましと特性
 ・地域経営に関する国と地方の関係、法律と条例の関係
 ・地域経営に関する市民(住民)、事業者、行政等の連携・協力・分担の考え方
 ・地域空間の整序ルール、公共空間と私有施設の関係、公共施設の維持更新等に関する
 仕組みと課題
 ・既存の地域資源の活用した地域経営のあり方

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は、原則、「講義」と「講義テーマに応じた全体討議又はミニワークショップ等のワーク作業」により進める。授業は、各回のテーマの本質が何かということを中心に問いかけ、その問いに対して受講生が、具体的に思考できるような工夫を施して楽しく進めたい。各回講義に関する課題提起については、次回講義のはじめに、リアクションペーパーの紹介や参考事例等を紹介して課題解決型の進め方を行う。なお、コロナ感染症対策に伴う講義方法等については、大学の方針に基づく。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】あり/Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション 地域経営論の全体像	・講義ガイダンス、 ・「地域経営」の今日的意義と視点 ・各回講義の要点解説
第2回	自治・分権と地域経営	・「地方自治」「地方分権」の今日的課題 ・憲法、地方自治法、個別法に基づく公共の福祉と財産権
第3回	住民参加と地域経営	・参加、参画、協働、協創(共創)と地域経営 ・参加型まちづくりから協働・協創(共創)型地域経営へ
第4回	地域経営と合意形成	・まちづくり、地域経営における合意形成 ・具体的課題から合意形成を考える
第5回	まちづくり条例と地域経営①	・まちづくり、地域経営における法律と条例の関係 ・まちづくり条例の系譜と展望
第6回	まちづくり条例と地域経営②	・まちづくり紛争の実態 ・まちづくり紛争の予防と調整
第7回	まちづくり条例と地域経営③	・まちづくりのルールと特性 ・協議調整型まちづくりとは
第8回	地域経営と公民連携まちづくり①	公共施設、公共空間の更新と魅力化(道路、公園、広場、河川等を魅力化する取り組み)
第9回	地域経営と公民連携まちづくり②	公共建築物整備の民間活用(PFI制度等の民間活用の施設整備)
第10回	地域経営と公民連携まちづくり③	まちづくり会社と地域経営(長浜、高松、紫波等のまちづくり会社を対象に)
第11回	住宅地経営とまちづくり①	・戸建て住宅地…高齢化社会における郊外住宅地のこれから ・マンション住宅地…管理組合と自治会
第12回	住宅地経営とまちづくり②	空き家、空き地問題と地域経営 ・ストック活用のまちづくり(リノベーションまちづくり)

第13回 講義の総括①
第14回 講義の総括②

レポート提出と個別指導
 ・レポート評価とプレゼンテーション
 ・学生諸君からの感想と意見/講義の総括

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

・人口減少社会、少子高齢化社会における都市や地方のまちづくりや地域経営に関する広範な書籍、新聞記事等の通読を薦める。本授業の復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト(教科書)】

特になし。毎回、パワーポイント資料を事前にアップします。

【参考書】

講義において適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

①講義とその後の全体討議・ミニワークショップを踏まえたリアクションペーパー 60%
 ②選択課題に基づくレポートとプレゼンテーション 40%(レポート課題は6月前半に提示)

【学生の意見等からの気づき】

・具体的事例の紹介と考察が、講義の理解度を高めるため、講義は具体的事例を豊富に盛り込んで行います。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

特になし。

【Outline (in English)】

【Course outline】

The purpose of this course will understand the desirable management of local communities in "population declining society" and "declining birthrate and aging society" from the viewpoints of autonomy, decentralization, community, town planning, maintenance of public facilities, housing policy, etc.

【Learning Objectives】

The objective of this course is to provide students with a basic understanding of the following issues and to raise their awareness of the issues and policies for dealing with each theme.
 ・Basic legal systems related to regional management, and an overview and characteristics of representative systems
 ・The relationship between national and local governments, laws and ordinances related to regional management
 ・The relationship between the national and local governments, laws and ordinances related to regional management
 ・The relationship between the national and local governments, laws and ordinances related to regional management
 ・How to manage local communities by utilizing existing local resources
 【Learning activities outside of classroom】

Students will be required to read a wide range of books and articles related to urban and regional planning and regional management in a society with a declining population, low birthrate and aging society. In this class, we will review a wide range of articles on urban and regional development and regional management in a declining population and an aging society. The standard review time for this class is two hours each.

【Grading Criteria/Policy】

(1) Reaction papers based on the lecture and subsequent plenary discussions and mini-workshops 50%.
 (2) Reports and presentations based on selected assignments 50% (Report assignments will be presented in the first half of June)

MAN300JB

ソーシャルイノベーション論

土肥 将敦

科目分類・科目群(福祉コミュニティ)：専門教育科目 専門展開科目

配当年次／単位数：2～4 年次／2 単位

備考（履修条件等）：旧「社会起業論」修得者は履修不可

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

地球環境、貧困、少子高齢化、障害者雇用といった社会的課題の解決に向けてビジネスとしてそれらに取り組む動きが 2000 年代以降世界的に広まってきた。こうした事業体はソーシャル・エンタプライズもしくはソーシャル・ビジネスと呼ばれる。また近年では、従業員や地域社会、環境へ配慮した事業活動を行なっている企業に与えられる国際的な B Corp 認証も増加してきている。本講義では、こうした事業やビジネスモデルがなぜ必要とされるのか、誰がどのように生み出したのか、そしてそれはどこが革新的でどのようなインパクトがもたらされるのかについて、国内外の事例をもとに検討する（なお、過去数年は、数多くの社会的企業者や実務家にゲスト講師としてお越しいただいている）。また講義後半では、企業の社会的責任（CSR）についても概観し、CSR の枠組みの中で大企業が取り組むさまざまなソーシャル・ビジネスの意義についても考えていく。

【到達目標】

本講義では、以下の 3 点を履修者の到達目標とする。

①グローバル/ローカルなソーシャル・ビジネスの動向を理解すること、②社会的企業者によるソーシャル・イノベーションの創出と普及のプロセスを理解すること。③企業の CSR 活動の本質を理解すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

社会的課題にビジネスとして取り組むソーシャル・ビジネスは、さまざまな事業形態やスタイルで、市場や社会から資源を動員し、新しい仕組みを構築し、新たな社会サービスを提供している。本講義では、まずこうした多様な事業分野、事業スタイルの存在を理解し、一般的なビジネスとの相違点等を明らかにしていく。その上で、事業化してきた社会的企業者にも注目し、彼らの存在意義やその機能などについても考えていく。必要に応じて国内外のゲストも招聘する予定である。リアクションペーパーやミニレポート等における優れたコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かしていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	講義概要、成績評価、テキスト等について。履修希望者は必ず出席のこと。
第 2 回	ソーシャル・ビジネスとは何か①	社会福祉領域のソーシャル・ビジネスを通して、3 つの要件、活動する事業領域を理解する。
第 3 回	ソーシャル・ビジネスとは何か②	社会福祉領域のソーシャル・ビジネスを通して、多様な組織形態を理解する。
第 4 回	ソーシャル・ビジネスとは何か③	海外の事例を通して、多様な組織形態と事業スタイルの違いを理解する。
第 5 回	ソーシャル・イノベーションを理解する①	国際協力領域のソーシャル・エンタプライズを通して、ソーシャル・イノベーションを理解する。
第 6 回	ソーシャル・イノベーションを理解する②	海外の事例を通して、ソーシャル・イノベーションを理解する。
第 7 回	ソーシャル・イノベーションを理解する③	ソーシャル・イノベーションの創出について理解する。
第 8 回	ソーシャル・イノベーションを理解する④	ソーシャル・イノベーションの普及について理解する。
第 9 回	ソーシャル・イノベーションを理解する⑤	ソーシャル・イノベーションの創出と普及の課題
第 10 回	大企業における CSR ①	企業と社会の関係を理解する。
第 11 回	大企業における CSR ②	古典的モデルと近年の考え方を理解する。
第 12 回	コーズ・リレイティッド・マーケティング (CRM) について理解する①	各種事例を通して CRM について理解する (A 事例)。
第 13 回	CRM について理解する②	各種事例を通して CRM について理解する (B 事例)。
第 14 回	CRM について理解する③	各種事例を通して CRM について理解する (C 事例)。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義中に指示するテキスト・資料や関連するウェブサイトを目を通し、講義中のディスカッションに備えて欲しい。本授業の準備学習・復習時間は合計 4 時間を標準とします。特に、毎回の講義後に掲示板などへのコメントの書き込みが必須となり、これが成績評価の基準となる予定ですので注意してください。

【テキスト（教科書）】

講義中に指示します。

【参考書】

土肥将敦 (2022) 「社会的企業者－ CSI の推進プロセスにおける正統性」千倉書房

Marquis, C (2020) Better Business, Yale University Press (土肥将敦監訳・保科京子訳 (2022) 『ビジネスの新形態 B Corp 入門』ニュートンプレス)
鈴木良隆編 (2014) 『ソーシャル・エンタプライズ論』有斐閣
谷本・大室・大平・土肥・古村著 (2013) 『ソーシャル・イノベーションの創出と普及』NTT 出版

【成績評価の方法と基準】

講義リアクションペーパーおよびショートレポート課題 (60 %)、平常点 (40 %) を総合的に判断する。

【学生の意見等からの気づき】

履修者とのコミュニケーションを大切にし、講義がより良いものとなるように努める。

市ヶ谷や小金井キャンパスからの受講生は、キャンパスごとに時間割が異なっているため、各学部が定めるルールを確認した上で履修するようにしてほしい。

【Outline (in English)】

This course goes far beyond the innovation theory and academic aspect of developing social businesses or social responsible business. The goal of this course is to understand the concept of SOCIAL INNOVATION, and the various aspects of Corporate Social Responsibilities in the MNC.

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class. Finally, Your overall grade in the class will be decided based on the following; Short reports and presentations(50%), in class contribution(50%).

MAN300JB

ソーシャルマネジメント論

樋口 邦史

科目分類・科目群(福祉コミュニティ)：専門教育科目 専門展開科目

配当年次／単位数：2～4 年次／2 単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

企業および企業が行う事業と社会の関わりを考える。企業と社会の関わりは、多様な形が可能である。企業の社会への関わり方、関わる対象、内容、組織形態の多様さを理解する。また、なぜ企業の社会的側面を考えることが大切なのかを考え、理解する。

【到達目標】

本講義の受講生は、企業が社会的課題を捉えて、解決するまでのプロセスと論理を理解する。また、このプロセスと論理を学ぶことを通じて、企業と社会の関係性を、社会学或いは経営学的観点から考えられるようになる。さらに、企業の社会への影響を理解できるようになる。以上のことを本講義のゴールとする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

企業と社会の関係は、多様かつ多面的な側面を内包している。そのため、学際的かつ実践的に講義を行う。例えば、企業や社会の仕組みを理解するために、経営学や社会学の観点を取り入れて講義をすすめる。また、企業活動とその社会への影響を考察するために、実践例としてのケーススタディやゲストによるセッションを取り入れる。事前課題に対する議論とグループ討議を中心に講義をすすめる。予習を求めるが、講義の展開によって若干の変更があり得る。事前課題には講師が学生個別にフィードバックをし、講義での論点などの指摘や記述方法への指導を行う。対面での開講を前提とするが、ゲストセッションや、社会状況によってはオンラインでの双方向型講義となる場合もある。それにとりも各回の講義計画の変更については、学習支援システムでその都度提示する。また、本講義の開始日や授業の方法なども、学習支援システムで随時提示する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	導入と概要	講義の進め方について 講義で取り扱う内容の概要
2	ソーシャルマネジメントとは何か	ソーシャルマネジメントの本質と、企業・行政・研究コミュニティ、各組織の相互関係について
3	企業が目指す CSR 経営とは何か	CSR 経営とその実践
4	企業と社会の関わり	企業の社会の中での機能と役割
5	社会環境変化への対応① 企業と研究組織	企業と研究組織とマネジメント
6	社会環境変化への対応② 行政組織	行政組織の特色とマネジメント
7	社会環境変化への対応③ コミュニティ組織	コミュニティ組織の特色と事例研究
8	CSR と CSV	企業の不正と防止策について
9	CSV またはプロジェクト マネジメントケース スタディ	企業の実務家によるゲストセッション を予定
10	コミュニケーション技術 について	コミュニケーション技術に関する理解 と習得
11	演習①	仮想タウンでアートなまち創り
12	演習②	身近な地域の課題を共有し、アートな まちづくりを実践
13	演習③	同上（更に議論を深める）
14	最終発表、まとめと展望	Final Presentation 講義のまとめ、最終レポート提出について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義では、全 5 回の事前課題レポート（A4 1 枚以内）の提出を求める。講義で紹介する事例のほかに、日頃からニュース等の情報および自身の日常生活を、企業と社会の関係性から観察し、企業の社会的行動の事例として考える癖を身につけること。なお、毎回幾つかの課題レポートを取り上げ、講義の冒頭で全員で議論する。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

遠野みらい創りカレッジ編著「SDGs の主流化と実践による地域創生」水曜社：まち創り叢書

【参考書】

講義の中で随時紹介する

【成績評価の方法と基準】

課題レポート 10 点 × 5 回、最終レポート 50 点で評価し、グループワークでの貢献度によって加点する（最高 10 点）。オンラインでのセッションとなった場合でも、評価方法や基準は変更しない。より具体的な方法と基準は、講義開始日に案内する。

【学生の意見等からの気づき】

昨年度の講義参加者からの要望に基づき、2 年生から 4 年生までの多様な参加者によるコミュニケーションとグループワークを中心に、更に「実践型」の講義を実施します。多彩な学部からの参加者を期待しています。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

特になし

【Outline (in English)】

【Course outline】 In this course, the students will think about relationship for Enterprise and Society by some discussion or dialog. Because it's a available for diversification between Enterprise and Society. We will communicate the variety of relationship, the domain, contents and organization among us. And we will be able to identify why the Enterprise have to consider about the social dimension.

【Learning Objectives】 The goals of this course are to understand logic and process of Social Management. Indeed, at the end of the course, students are expected to identify social responsibility of the company organization and the meaning of the mainstream for SDGs.

【Learning activities outside of classroom】 Before the every session, students will be expected to have read the relevant case study on web site or news paper. And some text will be introduced in the session for reference of group discussion.

【Grading Criteria /Policy】 Final grade will be calculated according to the following process Mid-term report (50%), term-end report (50%), and additional point by in-class contribution and leadership on work shop.

MAN300JB

ソーシャルファイナンス論

徳永 洋子

科目分類・科目群(福祉コミュニティ)：専門教育科目 専門展開科目

配当年次／単位数：2～4 年次／2 単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

The goals of this course is to know how to fundraise.

3) Learning activities outside of class room

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content by checking relevant contents from newspapers, TV news, online materials, etc.

4) Grading Criteria/Policy

Your overall grade in the class will be decided based on the following. Term-end examination: 80% In class contribution: 20%

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

少子高齢化、経済格差、震災からの復興といった社会の課題を民間の力で解決していく。NPO 法人、公益法人、社会福祉法人などのソーシャルセクターが注目されています。しかし、こうした団体の多くが活動資金の調達に苦勞しています。一般に金融（ファイナンス）とは、資金余剰者から資金不足者へ資金を融通することを意味します。本講では、ソーシャルファイナンスを「社会的価値を生むための金融」と捉えて、日本のソーシャルセクターを支える資金の概要とその調達手法を学びます。

【到達目標】

社会の課題解決に必要な資金の調達について具体的なノウハウを体得します。加えて、身近な寄付やクラウドファンディングへの理解を深めることで社会貢献意欲が高まることも期待されます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

スライドを用いた講義形式。スライドと参考資料などは学習支援システムを通じて配布。理解度や関心の把握には学習支援システムの掲示板を活用し、授業の初めに全体に対してフィードバックします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	プロローグ	本講の概要、目的
第 2 回	非営利団体の資金源	各種資金源とその特徴
第 3 回	日本の寄付文化の歴史	奈良時代から現代の事例
第 4 回	日本の寄付市場	各種調査結果から考察
第 5 回	ドナージャーニー	寄付者の心理と行動
第 6 回	ドナーピラミッド	団体の寄付者の構造的把握
第 7 回	心理学と寄付集め	寄付者心理を事例から考察
第 8 回	遺贈寄付	その定義と実態
第 9 回	クラウドファンディング	その概要と成功の秘訣
第 10 回	会員拡大	新規会員拡大と継続率向上
第 11 回	企業からの支援獲得	支援のステップアップ戦略
第 12 回	助成金	助成金の獲得方法と活用
第 13 回	事業収益	非営利団体らしい事業収益の上げ方
第 14 回	エピローグ	まとめとテスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

宿題はありませんが、授業に関連するニュースや話題については、さらに調べたり、自分の意見を持つように努めてください。本授業の準備・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。

【参考書】

「非営利団体の資金調達ハンドブック」 徳永洋子著 時事通信社 2400 円
<https://www.amazon.co.jp/dp/4788715104>

【成績評価の方法と基準】

平常点（20%）、期末テスト（80%）※期末テストは資料持ち込み可

【学生の意見等からの気づき】

卒業後に、社会福祉法人などのソーシャルセクターに就職するとは限らないことから、一般企業に就職した際にも役立つ内容にしています。

【Outline (in English)】

1) Course Outline

In today's Japanese society, there are many problems, such as the aging population and declining birthrate, economic disparity, post-earthquake restoration, domestic violence, and lack of public nursery school places. Everyone feels that these problems cannot be solved by the work of national and local government organizations alone. Hoping that they can therefore be solved by efforts in the private sector, the work of social sector organizations, such as social welfare corporations, NPOs, and public-service corporations has been gaining attention. However, most of these organizations have difficulty raising the funds required in order to tackle these issues. In general, "financing" refers to the funding of those who lack required funds by those with surplus funds.

In this course, we will see how "charitable funding" can be raised from a diverse range of groups in order to support social sector work in Japan.

2) Learning Objectives

MAN300JB

NPO論

渡真利 紘一

科目分類・科目群(福祉コミュニティ)：専門教育科目 専門展開科目

配当年次／単位数：2～4 年次／2 単位

備考(履修条件等)：SSI 生は授業コード「N6155」を選択すること。旧「非営利組織の運営」修得者は不可。

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈未〉

【授業の概要と目的(何を学ぶか)】

「NPO/非営利組織」は単に行政サービスを補完する組織ではなく、新しい未知なる価値を生み出し、市民社会を創造する主体であることを理解し、その実践のための方法を学びます。併せて、NPOの成立した歴史的背景やその社会的役割をはじめ、運営上の課題や他の社会資源(ボランティア、行政、民間企業(CSR)、助成財団など)との関係から、今後の社会のあり方を考えていきます。

【到達目標】

・NPOの社会的意義を理解し、実践の方法について具体的にイメージすることができ
 ・自らの関心分野のNPO活動の考案や授業のなかで気になったテーマに関する研究を通じ、社会との主体的な関わり方、他者との協力の仕方がわかる
 NPOを論じる過程で、受講者自らが、自分らしく在ること/他者に対して寛容であること/仲間を持つこと/社会と本音で向き合うこと等の重要性を認識する機会につながらばと思います。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

授業の前半は、NPOに関する基本的な内容(歴史的背景や社会的意義、運営方法や他の社会資源との関係等)について、映像資料や参考書等を交えて紹介します。後半は、NPO活動実践者によるゲストスピーチを取り入れ、体験的に実践を把握できる機会をつくとともに、自らの関心分野のNPO活動の考案や授業のなかで気になったテーマに関する研究に取り組みます。授業形態は講義を主とします。受講者各々が授業を通じて感じたことや考えたことを言葉にし、共有するなかでの学びも大切にします。各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示します。なお、授業では、リアクションペーパー等を予定しています。リアクションの内容には、講師からもできる限りフィードバックを行います。また、各回の授業で幾つかリアクションを取り上げる等により、授業内容の一層の理解につなげる予定です。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション/NPOのイメージ	NPOのイメージや昨今の社会情勢を共有し、本講義の目的や目標、進め方を受講生と決定する。
第2回	NPOの活動分野	映像資料等を活用しながら、NPOの活動分野について知る。
第3回	NPOの歴史的背景と社会的意義	非営利活動の歴史的背景やNPO法設立経緯等から、NPOの文脈を辿るとともに、行政や企業と比較し、NPOの社会的意義について考える。
第4回	NPOの組織運営と他の社会資源との関係	NPO組織の立ち上げや運営方法について基本的な内容を理解するとともに、他の社会資源(ボランティア、行政、民間企業(CSR)、助成財団など)との関係について把握する。
第5回	関心分野におけるNPO活動の考案	受講者自らの関心分野における地域社会の現状やNPO活動を調査し、自らが活動を実施すると仮定して活動計画書を作成する。
第6回	NPOの活動事例紹介1「ゼロカーボン、コンポスト等、持続可能な地域循環づくりの実践」(予定)	NPO活動に携わる者(ゲスト)から、NPOの具体的な実践事例を学ぶ。
第7回	NPOの活動事例紹介2「スポーツやアートを通じた居場所をつくる実践」(予定)	NPO活動に携わる者(ゲスト)から、NPOの具体的な実践事例を学ぶ。
第8回	NPOの活動事例紹介3「子どもを真ん中につながり、ともに生きる実践」(予定)	NPO活動に携わる者(ゲスト)から、NPOの具体的な実践事例を学ぶ。

第9回	NPOに関する自由研究 企画書の作成	個人又はグループ毎にNPOに関連するテーマを定め、自由研究の予定を立てる。
第10回	実践から考えるシリーズ「仲間と行動する」	コミュニティ・オーガナイズングや協力のテクノロジー等を取り上げ、仲間とともに行動する方法について考察する。
第11回	実践から考えるシリーズ「資金を調達する」	クラウドファンディングや会費による基金創設、助成金申請など、NPOの多様な財源確保策を取り上げ、各手段の特徴や資金調達の際に配慮すべきことについて考察する。
第12回	NPOに関する自由研究 発表会1	第8回授業で作成した企画書をもとに、個人又はグループ毎に自由研究の発表を行う。
第13回	NPOに関する自由研究 発表会2	第8回授業で作成した企画書をもとに、個人又はグループ毎に自由研究の発表を行う。
第14回	最終講義「これからの市民社会とわたしたち」	授業の振り返りやまとめを行うとともに、これからの社会を生きる私たちにとって大切な観点は何か、議論する。

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

授業の振り返りの時間を大切にしてください。振り返りには、リアクションペーパーや講師から受講者へ共有されたフィードバック等の時間を活かしてください。また、授業で気になったキーワードや考え方について本やネット、新聞記事や映画等から更なる情報をインプットしたり、学んだ内容を周囲に話す等、言葉によるアウトプットを心がけ、自らの「観」を養っていくことを期待します。コロナの状況次第となりますが、授業で紹介したNPOの主催するイベントへ参加したり、NPO活動にボランティア等を通じて主体的に関わることも推奨します。本授業の準備・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト(教科書)】

必要に応じて適宜紹介します。

【参考書】

必要に応じて適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

(1) 平常点(出席・リアクション) 50点、(2) 中間レポート(NPO活動計画書) 10点、(3) 期末試験(自由研究企画書及び発表) 40点。平常点については、授業ごとのリアクションペーパーによって評価・採点します。また、優れたものについては加点を行います。なお、成績評価の観点の例は以下のとおりです。
 ・NPOを論じることで社会の捉え方がどのくらい多様になったか
 ・受講者自らの関心分野の活動や研究テーマにどのくらい主体的に理解を深める関わりができたか
 ・クラスメイトが関心分野への理解を深めることにどのくらい協力して取り組めたか
 (注) 実習や就職活動、部活動や健康上の理由などで授業への出席があまりできない人は、出来るだけ早く教員に知らせてください。

【学生の意見等からの気づき】

・受講者同士のリアクションの共有や講師からのフィードバックの時間をつくります。
 ・授業内容の理解の助けとなる書籍や映像、記事等を紹介します。
 ・NPO活動の企画立案を具体的に検討する内容や実践からNPO活動を考察する内容の充実を図ります。

【学生が準備すべき機器他】

なし
 (注) オンラインでの実施となった場合は、パソコン又はタブレット、スマートフォンとwifiが必要です。

【その他の重要事項】

授業計画の内容は、社会情勢や授業の展開によって、変更があり得ることを申し添えます。

【Outline(in English)】

NPO/Non Profit Organization is not just organizations to cover government services, but it provides new values and creates civil societies proactively.

Throughout the class, we understand methods of cooperation with NPOs and the future of our society learning historical background of its establishment, its social roles, operational challenges and relations of other social resources such as volunteers, public administrations, CSRs and grant making foundations.

The goals of this course are to "To understand Social significance of Non Profit Organization".

By the end of the course, students should be able to do the followings:

- Being yourself.
- Being tolerant of others.
- Facing society in earnest.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on the following Term-end examination: 40%, Short reports: 10%, in class contribution: 50%

MAN300JB

協同組合論

西井 賢悟

科目分類・科目群(福祉コミュニティ)：専門教育科目 専門展開科目

配当年次／単位数：2～4 年次／2 単位

その他属性：〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

本講義では、協同組合が人々の暮らしの中で果たしてきた役割、そして現在果たしている役割を学ぶ。特に、その役割を社会・経済的な動きと関連付けながら見ていくことにより、さまざまな企業形態の経営組織が存在する中での、協同組合の存在意義を学ぶ。また、農協や生協などの実際の取り組みから、実社会をよりよきものにしていく方策を学ぶ。

【到達目標】

- ・協同組合の経営組織としての特徴を説明できる
- ・協同組合の展開過程を社会・経済的背景を踏まえて説明できる
- ・農協と生協が地域社会に果たしている役割を説明できる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

授業形態は講義形式とするが、適宜質疑やグループワークの時間を設けることにより、受講生が主体的に講義に関わるようにする。また、講義後のリアクションペーパーの作成を通じて、講義内容を自らの知識や実際の生活と結びつけながら考察することを求める。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	協同組合とは	協同組合の多様なタイプ、協同組合と株式会社の違いなど、協同組合の概要を把握する
第2回	世界の協同組合の歴史	イギリス産業革命と協同組合の誕生、協同組合原則の制定・改定など、世界的な協同組合の原理・原則と動向を学ぶ
第3回	日本の協同組合の歴史①	二宮尊徳と大原幽学思想・実践、産業組合法の制定など、戦前の日本の協同組合の歴史を学ぶ
第4回	日本の協同組合の歴史②	戦時中の協同組合の再編、戦後の多様な組合の設立・発展など、戦時・戦後の日本の協同組合の歴史を学ぶ
第5回	日本の農協①	総合事業の構成と内容、連合会と中央会の機能など、農協・JAグループの概要を把握する
第6回	日本の農協②	正・准組合員の相違、組合運営の仕組みなど、農協の特徴を協同組合らしさの観点から学ぶ
第7回	日本の農協③	自己改革の実践、農業振興の応援づくりなど、近年のJAにおける改革の動向を学ぶ
第8回	日本の農協④	農協の実務者をゲストスピーカーとして招き、農協が地域農業や地域社会に果たしている役割の実際を学ぶ
第9回	日本の生協①	生協の多様なタイプ、購買生協の事業構成と内容、供給事業の仕組みなど、生協の概要を把握する
第10回	日本の生協②	組合員組織と組合員活動の概況、組合運営の仕組みなど、生協の特徴を協同組合らしさの観点から学ぶ
第11回	日本の生協③	生協の実務者をゲストスピーカーとして招き、生協が個々の家庭や地域社会に果たしている役割の実際を学ぶ
第12回	新たな協同の動向	労働者協同組合法の制定、協同組合間連携の拡大など、日本における新たな協同の動向を把握する
第13回	期末試験	小論文中心の試験を通じて、これまで学んだことの到達状況を確認する
第14回	まとめ	これまで学んだことをもとに、協同組合の進むべき途や、協同の実社会での可能性を考える

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

- ・本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。
- ・毎回、復習として講義内容を考察してリアクションペーパーを作成する。
- ・毎回、事前に提供する資料や視聴資料を用いて準備学習する。

【テキスト(教科書)】

教科書は使用しない

【参考書】

参考書は指定しない

【成績評価の方法と基準】

平常点(35%)、リアクションペーパー(35%)、期末試験(30%)。平常点は、毎回の授業内での質疑やグループワークでの主体性を評価する。リアクションペーパーは、毎回の講義内容を自らの知識や実際の生活と結びつけながら考察できているかを評価する。期末試験は、小論文中心の構成とし、本講義の到達目標に対する到達状況を評価する。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできない

【その他の重要事項】

本講義では農協・生協の実務者をゲストスピーカーとして招く予定としている。農業振興、食品流通、地域づくり、環境問題への対応や、そこで働く職員などをリアルに学ぶことができるようにする。

【Outline (in English)】

【Course outline】

In this lecture, students will learn the roles that cooperatives have played in people's lives and the roles they are playing today. In particular, students will learn about the significance of the existence of cooperatives in the presence of various types of management organizations, and how to improve the real world.

【Learning Objectives】

- ・ Be able to explain the characteristics of cooperatives as management organizations
 - ・ Be able to explain the development process of cooperatives based on the social and economic background
 - ・ Be able to explain the role that agricultural cooperatives and consumer cooperatives play in the local community.
- 【Learning activities outside of classroom】
- ・ The standard time for preparation and review of this class is 2 hours each.
 - ・ Every time, as a review, consider the contents of the lecture and create a reaction paper.
 - ・ Prepare for each lesson using materials and audio-visual materials provided in advance.

【Grading Criteria /Policy】

- ・ Normal points (35%), reaction paper (35%), final exam (30%).
- ・ Normal points are evaluated based on independence in questions and group work.
- ・ Reaction papers are evaluated based on whether students are able to consider the content of each lecture while connecting it with their own knowledge and actual life.
- ・ The final exam will be composed mainly of short essays and will be evaluated on the achievement status of the goals of this course.

SOW300JB

居住福祉論

大原 一興

科目分類・科目群(福祉コミュニティ)：専門教育科目 専門展開科目

配当年次／単位数：2～4年次／2単位

備考(履修条件等)：隔週開講。4・5限連続受講が必須のため注意すること。

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的(何を学ぶか)】

居住福祉の基本的理念と実情を捉え、それを実現するための方策としての社会的制度や居住福祉環境づくりのために、個人として、専門家として、社会として何が必要かを考える。

【到達目標】

居住福祉の諸理論および実践の理解。福祉住環境の理念と実際についての理解。国内外の実践例に関する知識の習得。福祉住環境コーディネーター検定3～2級レベルの知識の習得。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

毎回の講義と簡単な演習。参考図書・資料の紹介による予習と復習。事例調査レポートの作成。

基本的に隔週でおこなう。第2回目以降から第4、5時限の2時限続きでおこない、初回と最終回は第4時限のみとする。各回のテーマ、内容については若干の変更もあり得る。

第1回：4月11日 4時限

第2・3回：4月25日 4・5時限

第4・5回：5月9日 4・5時限

第6・7回：5月23日 4・5時限

第8・9回：6月6日 4・5時限

第10・11回：6月20日 4・5時限

第12・13回：7月4日 4・5時限

第14回：7月18日 4時限 基本的に対面授業での開講となる。それともなう各回の変更がある場合には、学習支援システムでその都度提示する。オンライン授業の必要性がある場合は、基本的にオンデマンド型で一部双方向を用いながら行う。資料等は学習支援システムで提示する。課題に対するフィードバックとしては、授業中に発表をした学生に対しては講評し、他の学生に対しては提出物について適宜コメントをする。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

あり/Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業の目標、進め方と参考図書などの紹介
第2回	居住福祉と環境についての理念	居住福祉の概念(居住、住まい、福祉、社会福祉、居住環境等の概念整理)
第3回	福祉住環境整備の考え方	高齢者・障害者の福祉と生活環境についての理念、日本の住環境における課題
第4回	福祉のまちづくり・制度・政策	居住福祉環境整備のこれまでの経緯
第5回	障害と環境の関係性	バリアフリーデザインとユニバーサル・デザインの基礎理念からみたICFの考え方
第6回	高齢者・障害者の身体特性と居住環境	身体特性と居住環境
第7回	高齢者・障害者と住まい	高齢者・障害者のための住宅と住宅政策の流れ
第8回	高齢者向け住宅、集合住宅と戸建て住宅	高齢者向け住宅の実際、長寿社会対応住宅設計指針など
第9回	ハウスアダプテーション・住宅改造	介護保険と居住環境との関係、住宅改修についての具体的な現状と課題
第10回	福祉機器の活用	
第10回	高齢者福祉施設	高齢者福祉施設における居住環境の詳細
第11回	障害者福祉施設等	障害者施設、児童養護施設、グループホーム等における居住環境の詳細
第12回	コハウジング 共生の住まいの理念	コーポラティブ住宅とコレクティブリビング、グループハウスなど共生の住まいの考え方の整理
第13回	コハウジング 共生の住まいの実際	集住、共生の住まい方に関する国内外の実例の紹介
第14回	暮らしの先進国に学ぶレポート提出・発表	北欧社会における福祉住環境の実際と各自レポート内容の発表

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

配付資料や参考資料の予習

平日頃から、身近な居住福祉の環境に関心を持ち、注意をはらって観察し発見したり考察する姿勢が必要です。

レポート作成のために、学外の実例を見学調査することを課しています。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト(教科書)】

基本的に授業の際に資料を配付する。特定の教科書は使用しない。

【参考書】

野口定久、外山義、武川正吾 編『居住福祉』有斐閣

東京商工会議所 編『福祉住環境コーディネーター検定1、2、3級公式テキスト』東京商工会議所

住総研高齢期居住委員会 編『住みつなごのスズメ』萌文社

【成績評価の方法と基準】

平常点と毎回の小レポート(リフレクションシート)(70%)、レポート(30%)

【学生の意見等からの気づき】

2時間続きの授業のため、講義のみ続けて行くと疲れてしまう。適宜演習や対話を含めて進めることとする。

【Outline (in English)】

Course outline

The aim of this course is to help students learn the theory and the practice for living environment and well-being concerning with social issues, welfare, health, housing, institution, community and social care system

Learning Objectives

The aim of this course is to help students acquire the theory and the practice for living environment and well-being.

Learning activities outside of classroom

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

Grading Criteria /Policies

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end reports : 30%, in class contribution and short report at each class: 70%

SOW300JB

人権活動論

寺中 誠

科目分類・科目群(福祉コミュニティ)：専門教育科目 専門展開科目

配当年次／単位数：2～4 年次／2 単位

その他属性：〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

【授業概要】

人権は、実社会の問題の解決のための手段として使ってこそ、意味のある概念です。多くの社会事象の中から「人権問題」として対象化された問題の解決手法を学びます。

【授業の目的・意義】

人権問題の構造や主なテーマを把握するための方法の習得を目的とし、人権活動を担う団体や組織のマネジメントの基礎についても考えます。

【到達目標】

- ・法や権利を理解するための基礎知識を身につけ、国内的・国際的人権なシステムがどのように機能しているかを理解する。
- ・上記で得た法や権利の知識を日常生活の上で使えるようになる。
- ・実際に人権に関わる活動の現場で役立つ基礎知識と技術を得る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

授業は主として講義形式で行い、必要に応じてディスカッション形式も取り入れます。関係する資料等を紹介し、外部の経験者の声なども紹介しながら、理論的な仕組みを勉強します。毎回アクションペーパーを提出してもらいます。

学生は、各自受講用のノートを準備し、毎回ノートに講義内容を記録します。このノートを充実させることにより、自分自身の人権活動論を習得するようにします。

課題に対しては、授業内や Hoppii 等を活用してフィードバックを行う予定にしています。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	人権論基礎 I 人権における権利義務関係論	権利義務関係論で基本的人権概念を再考する。
第 2 回	人権論基礎 II 人権を構成する要素	社会資本（ソーシャルキャピタル）としての人権と依存
第 3 回	人権論基礎 III 福祉と人権	多義的な平等概念とポジティブアクション：配分の平等と結果の平等
第 4 回	人権基礎論 IV 権利の優先順位	絶対的自由と調整可能な権利：自由権と社会権、そして人権の不可分性・相互依存性
第 5 回	人権基礎論 V 権利制約の原理	調整可能な権利の具体的な調整における手順：比例原則、LRA 等
第 6 回	依存と人権 I 依存症の構造	依存症という概念の理解とその実態
第 7 回	依存と人権 II ハームリダクション	依存症におけるハームリダクション政策：公衆衛生か刑罰か？
第 8 回	性産業と人権 I 性産業論	性産業政策の歴史と近年のハームリダクション政策
第 9 回	性産業と人権 II 「慰安婦」問題の構造	性産業論と植民地主義（戦争責任）の狭間で
第 10 回	移民問題 I 移民排斥という構造的暴力	移民をめぐる意識や「テロ」不安、「体感治安」。
第 11 回	移民問題 II 「在日」問題と「ヘイト」	植民地支配に伴う「在日」問題と「ヘイト犯罪」の状況。
第 12 回	移民問題 III 移住労働者問題が表すグローバルな変化	移民を政策的に受け入れたり、締め出した政策のブレについて。
第 13 回	企業と人権 I ビジネスと人権	国連指導原則の誕生と企業の社会的責任（CSR）の流れ
第 14 回	企業と人権 II 企業や非国家主体の統制のための制度	ソフトローの重要性と国内人権機関、差別禁止法制の必要性

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

ノートに、授業等で知れた参考情報や文献の内容を記録します。その内容を見直し、次回授業では必要な点を確認します。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は特に定めませんが、山崎・川島・菅原「国際人権法の考え方」（法律文化社）を参照することが多いと思います。

【参考書】

申惠ボン「友だちを助けるための国際人権法入門」（影書房）、阿部浩己「国際法を物語る」三分冊（朝陽会）ほか

<http://www.teramako.jp/housei.html> 上で紹介する。

【成績評価の方法と基準】

「知る」「理解する」「日常的に使える」「活動できる」という各段階をどの程度習得したかを確認する。

期末レポートないし試験の評価（60 %）

リアクションペーパーの内容も含めた平常点評価（40 %）

【学生の意見等からの気づき】

「理念的」「抽象的」と捉えるという先入観を壊し、日常の具体的な事例に即したところから、実際の問題解決に役立てるための発想を養うことに注力したい。

【Outline (in English)】

【Outline】

Human Rights are to solve problems within the real life and in the community. The class shall explore ways to find out how to design 'social problems' adaptable to human rights.

【Learning Objectives】

Obtaining methods to understand themes and mechanisms of human rights problems as "social problems", while getting some thoughts of organising and managing human rights movements.

【Learning activities outside of classroom】

Each students are required to spend three to four hours before and after the class meetings. They are also invited to make questions regarding contents.

【Grading Criteria】

60% are considered for ordinal attendance attitude and performances provided during the class (including response sheets). 40% are counted from term-end essays/reports.

ASS300JB

農山村とコミュニティ

図司 直也

科目分類・科目群(福祉コミュニティ)：専門教育科目 専門展開科目

配当年次／単位数：2～4 年次／2 単位

その他属性：〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、農山村の地域構造の原型ともいえる「家と集落（むら）の関係」を理解し、農山村地域が今日に至るまで直面してきた社会的諸問題を考えながら、その解決手段として試みられてきた地域づくりの展開を探っていく。

【到達目標】

講義を通して、まず、農村の家と集落（むら）との関係を通して、農山村地域構造の原型を理解できる。その上で、農と食の変化や、環境・開発、農村女性や高齢者などの担い手、都市と農山村との関係性、「小さな自治」の試みなど多様な切り口から、農山村地域が直面する問題の背景と、そこで展開する新たな取り組みを知る。授業で学んだ内容を、食をはじめとする日常生活との繋がりから意識したり、ゼミ活動や実習等の農山村地域における現場での実践に活かすことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式で進め、リアクションペーパー等のフィードバックは、授業内で行い全体で共有するとともに、質問にも応えていく。なお、講義は以下の内容で進める予定であるが、進度やゲスト講師によって変更もあり得る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	村落空間とむらの構造	農山村の地域構造の原型とその変化を学ぶ。
第 2 回	むらの変化—過疎化	農山村の地域構造変化である過疎化を学ぶ。
第 3 回	むらの変化—都市化・混住化	農山村の地域構造変化である都市化・混住化を学ぶ。
第 4 回	変わりつつある農村の家・家族・世帯	農山村の家族・世帯の変化を学ぶ。
第 5 回	農村自治とむらづくり	農山村の自治の仕組みを学ぶ。
第 6 回	「農」の変化と地域	「農業」から農山村地域での取り組みを捉える。
第 7 回	「食」の変化と地域	「食」から農山村地域での取り組みを捉える。
第 8 回	農の担い手—農村女性や高齢者	農村女性や高齢者など多様な主体による農の取り組み
第 9 回	開発と環境—景観形成・コモンズ	景観形成・コモンズに関する取り組み
第 10 回	消費される農村と地域づくり	グリーンリズムの展開と課題
第 11 回	都市農村交流から協働へ	外部人材の役割と活用
第 12 回	新しいコミュニティづくりの試み—地域運営組織	地域運営組織の役割と立ち上げプロセス
第 13 回	新しいコミュニティづくりの試み—「小さな経済」	「小さな経済」を生み出す実践
第 14 回	まとめ	全体のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習には、各2時間程度を確保してもらいたい。日頃から、地域に内在する様々な問題に関心を寄せ、その課題を乗り越える取り組みや知恵に着目しておく。講義後には、授業内容について復習し、改めてテーマについて考えることが望ましい。

【テキスト（教科書）】

講義内において配布・紹介する資料を用いる。

【参考書】

必要に応じて適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点 60%、期末レポート 40%

【学生の意見等からの気づき】

VTR など交えて農山村の地域社会の様子が視覚的にも理解できるよう工夫を重ねていく。

【Outline (in English)】

【Course outline】 In this lecture, we will understand the prototype of the regional structure of agricultural and mountain villages, think about regional issues, and explore the development of regional development.

【Learning Objectives】 You can be aware of what you have learned in class from the connection with daily life such as food, and you can apply it to practice in the field in agricultural and mountain village areas.

【Learning activities outside of classroom】 Two hours will be secured for each preparation and review of this class. It is advisable to take an interest in various issues in the area on a daily basis and review the lesson content after the lecture.

【Grading Criteria /Policy】 60% of reaction papers every time, 40% of year-end reports.

CMF300JB

コミュニティアート

吉野 裕之

科目分類・科目群(福祉コミュニティ)：専門教育科目 専門展開科目

配当年次／単位数：2～4 年次／2 単位

備考(履修条件等)：SSI 生は授業コード「N6162」を選択すること。

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的(何を学ぶか)】

多くの事例を通して、アートは単に芸術作品のことでなく、まち＝コミュニティを豊かに耕す日常的な実践であることを理解し、その実践のための方法を学ぶとともに、これからのまちづくりのあり方を考えていく。

【到達目標】

まち＝コミュニティは最も身近な社会であり、私たちの生活の現場であることの意味を理解し、コミュニティアートとは住民がそれぞれの立場でまち＝コミュニティの価値を高めていく行為であるという視点から、こうした実践の分析や評価、企画を行うことができるようになることが目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

この授業というアートとは、いわゆる美術だけでなく、文芸、音楽、演劇など、さらに暮らしに根づいた生活文化をも含めたもの／ことを指し、こうしたアートをまちづくりにおいてどのように活用するかについて学ぶ。前半では「まちづくりとは何か」「アートとは何か」について、後半では「まちづくりにおけるよりよいアートの活用のしかた」について学ぶ。

方法としては、講義形式が中心にはなるが、ワークシートを活用した思考のトレーニングやグループでのディスカッションなども取り入れていく。また、リアクションペーパーなどにおける優れたコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かしていく。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】あり/Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	講義内容全般の説明。
第2回	まちづくりの意味	まちづくりの意味や意義についての説明。(授業の展開によって、若干の変更があり得る。以下同)
第3回	NPO・市民活動の意義	NPO・市民活動の意義の説明。
第4回	市民主体のまちづくりの事例(1)	NPO・市民活動によるまちづくりの事例(先進地域における活動の変遷の事例)の紹介と解説。
第5回	市民主体のまちづくりの事例(2)	NPO・市民活動によるまちづくりの事例(学生が主体となった活動の事例)の紹介と解説。
第6回	市民主体のまちづくりの事例(3)	NPO・市民活動によるまちづくりの事例(中高齢者が主体となった活動の事例)の紹介と解説。
第7回	アートの意味	アートの意味(意味の歴史の変遷や芸術家のことばなど)の説明。
第8回	コミュニティアートの要件と機能	コミュニティアートの要件と機能の説明。
第9回	都市空間・まちなかのアートの変遷	都市空間・まちなかのアート(パブリックアートやコミュニティアートなど)の変遷の説明。
第10回	コミュニティアートの事例(1)	コミュニティアートの事例(大都市/拠点型)の紹介と解説。

第11回	コミュニティアートの事例(2)	コミュニティアートの事例(大都市/まちなか展開型)の紹介と解説。
第12回	コミュニティアートの事例(3)	コミュニティアートの事例(大都市/地域密着型)の紹介と解説。
第13回	コミュニティアートの事例(4)	コミュニティアートの事例(大都市/地域交流型)の紹介と解説。
第14回	これからのまちづくりとアート	これからのまちづくりとアートの関係のあり方についての解説。

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

毎回、授業の復習をすること。また、授業に関連する新聞記事や文献などに関心をもつとともに、日々の生活のさまざまなもの／ことを、授業との関連で捉え直していくように心掛けること。さらには、まちづくりやアートに関わるイベントなどには積極的に参加することが望ましい。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト(教科書)】

特に指定しない。(必要に応じて適宜配布する。)

【参考書】

必要に応じて適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点(リアクションペーパーなど)：30点 中間レポート：20点 期末レポート：50点

平常点におけるリアクションペーパーなどでは、1回～数回の授業の内容の理解度を確認する。中間レポートでは、NPO・市民活動によるまちづくりについての理解度を確認する。期末レポートでは、コミュニティアートの意義の理解度や分析・評価などについての習得度を確認する。

【学生の意見等からの気づき】

これまでと同様だが、応用力、思考力がついた、新しい発見があったなどの感想をもつ学生が多い。自分が大きく変化できたということだろう。今年度も引き続きこうした授業を展開していきたい。

【Outline (in English)】

(Course outline)

We will understand that art is a powerful way to revitalize the community, learn methods for practicing it, and think about the way of community design in the future.

(Learning Objectives)

By the end of the course, students will be able to do the followings:

- Analysis and evaluation of cases about community art
 - Planning of community art
- (Learning activities outside of classroom)

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

- Reviewing the class meeting
 - Reading literature related to the class meeting
 - Participating in events related to community design and art
- (Grading Criteria /Policy)

Final grade will be calculated according to the following process.

Short reports : 30%, Mid-term report : 20%, Term-end report : 50%

CUM300JB

地域遺産マネジメント論

須田 英一

科目分類・科目群(福祉コミュニティ)：専門教育科目 専門展開科目

配当年次／単位数：2～4 年次／2 単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

地域の歴史や文化の中から生成されてきた地域遺産（歴史的町並み、歴史的建造物、民俗芸能、史跡など）を活かした地域づくりが、日本各地で取り組まれています。そこには地域住民をはじめ NPO などが担い手として活躍しています。授業では、さまざまな地域遺産に関する基礎的な知識や、地域遺産を活かし、Well-being（健康で幸福な暮らし）を地域の中に実現していくための方法について幅広く解説します。

【到達目標】

さまざま地域遺産に関する基礎的な知識をはじめ、地域遺産の活用と地域のネットワークづくりに向けた能力を身につけます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

地域遺産の多くを占める文化財の保護の歴史をふりかえり、地域遺産のマネジメントに関わる人々の仕事や役割、地域遺産に関わるボランティア活動や地域遺産の活用例を映像や画像などにより紹介します。なお、授業の展開によって、授業テーマに若干の変更があり得ます。講義形式の授業形態です。授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつかを取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業のガイダンス、評価の方法、関連映像
第 2 回	地域遺産とは、地域遺産マネジメントとは	地域遺産、地域遺産マネジメント
第 3 回	地域遺産の生成と保護の現状	地域の歴史と地域遺産の生成、文化財の保存・管理と活用
第 4 回	文化財保護の歴史	明治期の文化財保護、大正期・昭和戦前期の文化財保護
第 5 回	今日の文化財の保護制度	文化財保護法、文化財保護法の改正と文化財の拡大
第 6 回	地域遺産保護と専門家 (1)	文化財担当専門職員、学芸員の仕事と役割
第 7 回	地域遺産保護と専門家 (2)	文化財保護修理技術者の仕事と役割
第 8 回	さまざまな地域遺産、世界遺産	全国のさまざまな地域遺産の紹介、世界遺産
第 9 回	地域遺産とボランティア活動	博物館ボランティア、文化遺産ボランティア
第 10 回	地域遺産の再生と活用 (1)	地域遺産としての建造物の修復と活用
第 11 回	地域遺産の再生と活用 (2)	地域遺産としての史跡の修景と活用
第 12 回	地域遺産の再生と活用 (3)	地域遺産としての名勝・天然記念物・食文化
第 13 回	地域遺産の再生と活用 (4)	地域遺産としての伝統的建造物群
第 14 回	まとめ	地域遺産と地域づくりまとめ、課題レポートのフィードバック

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

自分の住む地域にはどのような地域遺産があり、それらは私達の生活とどのような関わりがあるのでしょうか。きっとすぐい身近に何かしらの地域遺産があるはずですし、どこかに眠っているかもしれません。見つけてみて下さい。また、博物館や美術館の展覧会にも是非行ってみましょう。

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

馬場憲一『Well-being と文化環境』（生協で販売）

【参考書】

馬場憲一『地域文化政策の新視点－文化遺産保護から伝統文化の継承へ－』（雄山閣、3000 円）、川村恒明監修・著『文化財政策概論－文化遺産保護の新たな展開に向けて－』（東海大学出版会、3500 円）。その他については、必要に応じて講義の中で適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】**①成績評価方法**

- ・平常点：毎回リアクションペーパーの提出を求めます。
- ・試験方法：中間に 1 回と期末に課題レポート提出。

・評価方法：平常点（リアクションペーパー）40%、課題レポート 60 %により総合的に評価します。2 種類の課題レポート提出は単位の修得に不可欠とします。

②評価基準

- ・平常点：授業態度、学習への意欲、リアクションペーパーの内容によって評価します。
- ・レポート：課題に適切に答え、現地を訪れるなど積極的に取り組んだものであるかどうかを評価対象とします。

【学生の意見等からの気づき】

質疑応答を積極的に行い、双方向での授業運営を図ります。

【その他の重要事項】

地方自治体での文化財調査・実務経験、大学文化財調査機関での調査・研究経験を活かして、実際の経験にも重きを置きながら授業を展開したいと思います。

【Outline (in English)】

This lecture explain broadly about the basic knowledge on various regional heritage and the way to make use of community heritage and to realize Well-being Society in the area. The goals of this course are to acquire the ability to utilize regional heritage and build regional networks. Students will try to find a community heritage that is related to our lives in their area. Students should also visit museums and museum exhibitions. Your study time will be more than four hours for class. Final grade will be calculated according to the following process Mid-term report, term-end report (70%), and in-class contribution (30%).

TRS300JB

地域ツーリズム

野田 岳仁

科目分類・科目群(福祉コミュニティ)：専門教育科目 専門展開科目

配当年次／単位数：2～4 年次／2 単位

備考(履修条件等)：SSI 生は授業コード「N6165」を選択すること。

その他属性：〈他〉〈優〉〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的(何を学ぶか)】

本講義は、地域ツーリズムの論理とその仕組みを理解することを通じて、地域社会における持続的な観光のあり方を模索することを目的としている。地域ツーリズムとは、観光の本質にある“大衆性”を相対化し、地域課題の解決や現場に暮らす人びとの幸せ(ウェルビーイング)の実現を目指す新しい観光実践である。それゆえ本講義では、地域ツーリズムの典型として、“水辺空間の観光化”、“伝統文化の観光化”、“生活空間の観光化”の3つのテーマのケーススタディを扱う。地域ツーリズムという新しい観光実践を理解するうえで大切なことは、現場に暮らす人びとの立場に立って、問題の本質を理解し、その解決に応えようとする視点を持つことである。従来の大衆的な観光とは異なる特徴を持つからこそ、地域ツーリズムを理解する新しい方法論を構想していく必要があるからである。本講義では、現場の人びとの立場からの持続可能な観光のあり方を探究していく。

【到達目標】

大衆的な観光との差異に注目しながら、地域ツーリズムの基本的な考え方を理解し、地域ツーリズムを捉える視点を養うこと。そのうえで、現場の人びとが抱える課題に対して、本講義の知見を活かして有効性のある政策論を構想する力を身につけることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

本講義では“いくら儲かるか”、“いかに集客を伸ばせるのか”といった大衆的な観光のイメージを相対化して、現場の人びとの立場から観光という現象を捉え直していく。DVDなどの視覚資料を積極的に活用する。授業の展開によって若干の変更がありうる。授業計画に変更がある場合は学習支援システムにて適時提示する。リアクションペーパーや課題等のフィードバックは講義や学習支援システムを通じて行う。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	地域ツーリズムとは?	地域づくりの手段としての「観光」論
第2回	地域ツーリズムをとらえる視点	人びとの「生活」を捉える方法から
第3回	大衆的な観光地は本当に稼げるのか?	マスツーリズムの功罪
第4回	観光地化を目指さない美しいむらづくり	競争から共創の観光まちづくり
第5回	地域ツーリズムにおける成功とは?	水辺空間の観光化①
第6回	生活保全としての地域ツーリズム	水辺空間の観光化②
第7回	地域の自治とツーリズム	前半のまとめ
第8回	なぜ地元の人びとは踊りの観光資源化を望まないのか?	伝統文化の観光化
第9回	水を愛でる自然観からみたアクアツーリズム	生活空間の観光化①
第10回	アクアツーリズムの担い手論	生活空間の観光化②
第11回	アクアツーリズムの論理と価値	生活空間の観光化③
第12回	銀座のローカル・ルールとアクアツーリズム	生活空間の観光化④
第13回	地域ツーリズムの理論と実践	観光の大衆性を相対化する新しい観光論の構想
第14回	講義のまとめと試験	本講義の知見と意義の確認

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

適宜アナウンスするが、各回の振り返りは不可欠となる。配布資料に記載された参考文献を参照すること。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト(教科書)】

毎回資料を配布する。

【参考書】

毎回の配布資料に参考文献を紹介する。

【成績評価の方法と基準】

講義内のコメント・リアクションペーパー・ミニレポート(30%)、期末試験(70%)の総合評価。到達目標が達成されているかを確認する。

【学生の意見等からの気づき】

リアクションペーパー等を通じて学生からのコメントを適宜授業内容に反映させていく。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを積極的に活用する。

【その他の重要事項】

担当教員は地域づくり活動の現場における実務経験を有しており、その経験に基づいてより有効性のある政策論を議論していく。

【Outline (in English)】

【Course outline】 The purpose of this course is to help students master the basic concepts of community tourism studies. 【Learning Objectives】 At the end of the course, students are expected to describe major methods and theories of community tourism studies, discuss the role of local community policy and apply the treatment of community tourism problems. 【Learning activities outside of classroom】 Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. 【Grading Criteria/Policy】 Grading will be decided based on reaction papers(30%) and term-end examination (70%).

ENG300JB

住民参加の手法

杉崎 和久

科目分類・科目群(福祉コミュニティ)：専門教育科目 専門展開科目
 配当年次／単位数：2～4 年次／2 単位

その他属性：〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

地域づくりの現場では、住民等の地域の多様な主体が地域の資源や課題、各主体の思いやニーズなどを共有し、それらを踏まえて効果的な活動を検討し、それを実施するプロセスが重要である。この講義では、これらのプロセスを実施する際に必要となる対話手法（住民参加手法）の特徴を理解し、運用できる能力を獲得する。

【到達目標】

住民参加が求められる社会背景を理解し、地域の多様な主体がプロジェクトの中で適切に住民参加手法の選択・開発、そして運用ができる能力を習得することを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

住民参加の役割・効果、具体的な活用事例、基本的な考え方等の基本事項については、講義形式で理解を深める。さらに、代表的な住民参加手法については、効果等の特徴を把握するために講義の中で体験する。また、地域の多様な主体による対話の重要となる社会的背景等の理解をするために基本文献を講読し、概要等を報告するレポート課題を出題する。授業は、原則として対面で行う。対面の講義の中でオンラインツールを活用した手法を体験する。なお、レポートについては、その内容を用いたグループワークを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	講義の進め方、目標等を説明する（オンラインでの実施）。
第 2 回	住民参加の事例紹介 1	事例を通じて、住民参加全体をデザインする考え方を紹介する。
第 3 回	住民参加の事例紹介 2	事例を通じて、地域住民等が対話をするワークショップのねらい・手法等について紹介する。
第 4 回	住民参加の事例紹介 3	事例を通じて、ステークホルダーの特徴に合わせた意向収集の手法等について紹介する。さらにオンラインツールの試行を行う。
第 5 回	意見表出を促す手法	参加者からの意見表出を促す手法を体験する。
第 6 回	意見整理のための手法	参加者から出た意見を整理するための手法を体験する。
第 7 回	意見を誘発するフレームワーク	参加者からの意見を誘発するフレームワークを用いた対話を体験する。
第 8 回	対話を可視化させる手法	議論経過を共有するための手法（ファシリテーショングラフィック等）を体験する。
第 9 回	対話の空間（場）づくり	創造的な対話を促す空間のあり方を学ぶ。
第 10 回	ファシリテーターの役割と聴く姿勢	創造的な会議を生み出す役割（ファシリテーター）と技術、聴く姿勢について体験を通じて学ぶ。
第 11 回	多様な参加者の知恵を共有する手法（レポート発表）	レポート内容（関係する文献の内容・感想）を受講者間で共有する体験をする。
第 12 回	コロナ禍におけるオンラインを用いた対話手法 1	オンラインツールを用いた対話の体験する。
第 13 回	コロナ禍におけるオンラインを用いた対話手法 2	オンラインツールを用いた対話を効果、課題を検討する。
第 14 回	総括	授業全体を振り返り、住民参加を実施する上でのポイントを再確認する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業では適宜レジュメを配布する

【参考書】

中野民夫「ワークショップ」（岩波新書）
 世田谷トラストまちづくり「参加のデザイン 工具箱」
 その他、講義の中で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

・授業への貢献（70%）、中間レポート（30%）
 ・授業への貢献は、講義ごとにワークへの参加状況やリアクションペーパーの内容などを踏まえて行う。
 ・レポートは住民参加の手法に関する文献を読み、その概要を整理し、自分の意見をまとめて提出する。なお、レポート内容を用いて行う授業回がある。

【学生の意見等からの気づき】

地域づくりの現場での参加手法を体験するだけでなく、その背景となる理論や経緯等についても適切に解説していく。

【学生が準備すべき機器他】

授業は、原則として対面で行う。しかし、オンラインツールを用いたグループワークを行うこともある。その際には、タブレットあるいはパソコンが用いる。

【その他の重要事項】

・受講者の人数等により、授業内容、方法等を変更する場合がある。
 ・講義では対話手法の体験を重視している。そのため、事例紹介等をのぞけば、グループワークを多用行う。
 ・担当教員は、複数の地方自治体の現場において、行政と地域住民をつなぐまちづくりコーディネーターとして勤務経験を有する教員が地域での実践事例を交えながら、市民参加の手法に関する実習をする。

【Outline (in English)】

【Course outline】

The aim of this course is to help students acquire the citizen participation method.

【Learning Objectives】

The goals of this course are to understand the characteristics of the citizen participation method and to acquire the ability to operate.

【Learning activities outside of classroom】

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than two hours for a class.

【Grading Criteria /Policy】

Grading will be decided based on mid-term report (30%), and in-class contribution (70%)

In-class contribution is evaluated by attendance at the lesson and the contents of the reaction paper of each lesson.

SOW300JB

老いの文化と福祉

金 慧英

科目分類・科目群(福祉コミュニティ)：専門教育科目 専門展開科目

配当年次／単位数：2～4 年次／2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

本講義では、老いについて社会・経済・歴史・地域・文化・福祉などの多角的な理解を深める。また、老いをめぐる様々な課題に取り組み、考察することで自分の「老年観」を客観的に見つめ、明確にしていく。

【到達目標】

- 1) 老いについて多角的に理解し、説明できる
- 2) 老いに関連する課題に取り組み、ウェルビーイングな老いについて考察できる
- 3) 自分の「老年観」を明確にすることができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

先行研究から老年観をめぐる諸理論を学んだ後、高齢者の生活実態と高齢者が直面している問題について理解する。また、高齢期のウェルビーイングを実現するために必要な社会的・文化的役割を考えていく。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	講義ねらい、スケジュール、「老い」を学ぶ意味
第 2 回	老年観をめぐる諸理論①	老年観に関するパラダイムシフト
第 3 回	老年観をめぐる諸理論②	高齢者の幸福感と社会・文化的役割を理解
第 4 回	高齢期の生きがい①	高齢期の生きがいとその規定因を把握
第 5 回	高齢期の生きがい②	社会参加とコミュニティの役割を理解
第 6 回	高齢者の貧困問題と経済的自立	就労の実際と所得保障の仕組み
第 7 回	介護実態と介護者	介護離職、老老介護、ヤングケアラーなどの諸問題と介護者
第 8 回	外国人高齢者の支援	外国人高齢者の諸問題と支援について考える
第 9 回	限界集落の高齢者支援	過疎化地域に生きる高齢者の生活実態を把握
第 10 回	高齢者と犯罪	高齢者のアイデンティ危機や孤立化問題と犯罪との関連
第 11 回	地域のフォーマルケアとインフォーマルケア	コミュニティケア、新しいサービスの創造
第 12 回	諸外国の高齢者ケア	欧米、アジアの高齢者ケアシステム
第 13 回	幸福な老いを考える	幸福な老いについて考え、ワークシートを作成
第 14 回	まとめ	講義の総括、今後の展望

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

老いを身近に認識することは、本講義での学びを深めるために重要である。そのため、事前準備として、普段より社会的・文化的老いに関連する専門書や文献を読んでおく。また、復習として講義中に配布されたレジュメや資料を整理し、まとめる。本授業の準備・復習時間は各回 4 時間を標準とする。

【テキスト (教科書)】

特に指定しない。必要に応じて資料等を適宜配布。

【参考書】

アードマン・B・バルモア (2002) 『エイジズム 高齢者差別の実相と克服の展望』(鈴木研一訳) 明石書店 など、適宜紹介。

【成績評価の方法と基準】

期末試験 (70%)、授業内小レポート課題の内容 (30%) で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

昨年度は授業を担当していないため、今後、学生の意見等を反映していく。

【Outline (in English)】**【Course outline】**

In this course, students will deepen their understanding of aging from diverse perspectives including social, economic, historical, regional, cultural, and welfare. In addition, by addressing and considering various issues related to aging, students will be able to clarify their "views about aging" in order to live the subjective age.

【Learning Objectives】

- 1) Can understand and explain aging from diverse perspectives.

- 2) Can address issues related to aging and think about wellbeing and aging.

- 3) Can clarify one's own view of aging.

【Learning activities outside of classroom】

It is crucial to thoroughly perceive aging for deepening the learning in this course. Therefore, students are encouraged to read specialized books and literature related to social and cultural aging as part of their advance preparations more than usual. Furthermore, as part of the review, students organize and summarize the resumes and documents distributed during the lectures. The standard preparation and review time for this class is four hours for each session.

【Grading Criteria /Policy】

The final exam (70%) and in-class small report (30%) will be the basis of evaluation.

SOW300JB,SOW300JC

セルフヘルプグループ

横川 剛毅

科目分類・科目群(福祉コミュニティ)：専門教育科目 専門展開科目

科目分類・科目群(臨床心理)：専門教育科目 専門展開科目

配当年次/単位数：2～4 年次 / 2 単位

その他属性：〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

人が生活するうえで、さまざまな困難や生きづらさがあります。同じような生きづらさをもつ人たちの集まりがセルフヘルプグループ (SHG=自助グループ) です。その意義を理解することがこの科目の目的です。

【到達目標】

次の2点を目標とします。

- ①さまざまな困難や生きづらさを理解することによって、支え合いについての考えを他者に伝えることができる。
- ② SHG の役割と意義を言語化できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

この科目は学生同士が協働しながら学びます。講義形式と併せて、視聴覚教材・ゲストスピーカーの声や姿をもとに、毎回、小グループでのディスカッションを取り入れ適宜発表してもらいます。そのため受講者には、相応の主体性と協調性を求め評価にあたってはそれらを平常点として重視します。併せて、基本的に「休まない」「遅刻しない」心構えを求めます。課題のフィードバックについては、①前週の授業のリアクションペーパーを授業冒頭に匿名で全体に対して紹介して共有を図ります。②発表に関しては、教員が評価コメントを授業内で伝えます。なお、履修者数、授業の進捗、社会情勢などを考慮して、下記の授業計画を若干変更することがあります。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	この授業の全体像を把握する。また SHG とは何か
第2回	知的障がいのある人の地域生活	SHG の定義を学ぶ 障がいを隠さない生き方について学ぶ
第3回	摂食障がいの困難	摂食障がいについて学ぶ
第4回	摂食障がいの SHG	摂食障がいの SHG について学ぶ
第5回	パニック障がいの理解と SHG	パニック障がいのある当事者から学ぶ
第6回	精神障がいの理解	精神障がいを理解し SHG について学ぶ
第7回	ゲストスピーカーから学ぶ①	精神障がいのある親をもつ子どもの SHG から、実践を学ぶ
第8回	依存症とは ゲーム依存	多様な依存症を知り、特にゲーム依存について学ぶ
第9回	アルコール依存症の困難	アルコール依存症について学ぶ
第10回	ゲストスピーカーから学ぶ②	ゲストスピーカーの語りから依存症と回復について考える
第11回	アルコール依存症者の SHG	アルコール依存症者の SHG について学ぶ
第12回	これまでの学びの振り返りと発表テーマ設定	ここまでの学びを踏まえて注目した内容に関して発表テーマを設定する
第13回	発表準備	発表用パワーポイント作成する
第14回	学びの成果の共有	一人ひとりが履修者全体に、学びの成果を発表する

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

グループ内発表や全体への発表やレポート作成に向け、授業内容だけでなく、自分自身が関心のある SHG について調べたり情報収集したりして学びを深めましょう。本授業の準備学習・復習時間は4時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

特定のテキストは使用しません。基本的に毎回プリントを配布します。

【参考書】

「セルフヘルプ・グループ ―当事者へのまなざし―」(久保絃章 著) 相川書房 2004 他、授業内で適宜伝えます。

【成績評価の方法と基準】

ディスカッション参画度合いなどの平常点 (20%)、リアクション (30%)、レポート課題 (50%)。

【学生の意見等からの気づき】

一昨年度の授業改善アンケートや、グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーションなどを通じた学びの意義が見出されました。そのため、この科目の本質である「語り合いと共有」を大切にしていきたいと思えます。

【学生が準備すべき機器他】

授業配布プリント収納用にクリアファイル (A4 サイズ・20 シート以上) を準備しておく。

【Outline (in English)】

【Course outline】

When a person lives, there are various difficulty and difficulty in living.

People's gathering with difficulty in living equally is a self-helping group (SHG).It's the purpose of this classroom to understand the significance of SHG.

【Learning Objectives】

At the end of the course, students are expected to about following two.

- ① By understanding various difficulty and difficulty in living, it's possible to tell ideas about mutual support.
- ② Can be put into words about The role and the significance of SHG.

【Learning activities outside of classroom】

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

【Grading Criteria /Policies】

The posture overlooked in this class meeting:20%、Reaction paper:30%、

Report:50 %

SOW300JB

多文化ソーシャルワーク

中條 桂子

科目分類・科目群(福祉コミュニティ)：専門教育科目 専門展開科目
配当年次／単位数：2～4 年次／2 単位

その他属性：〈優〉〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

多文化社会を形成する要因とその問題について「外国人労働者問題」や「教育問題」など生活面から検討し、多文化背景を持つ人々の生活課題とその福祉援助について考える。

【到達目標】

グローバル化の視点から、多文化ソーシャルワークの概要を理解する。多文化背景を持つ人々の実情を知り、生活課題について理解を深める。多文化背景を持つ人々への支援においてソーシャルワーカーが持つべき価値観・視点を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

ソーシャルワーカーの支援では「言葉で支援すること」も大事な支援の一つである。本授業では多くのグループワークを通して、他者の意見を聞く態度や自身の考えを伝えることの大切さを学び、さらに講義で現状の理解を深めていく。対面式での開講を予定している。各回の授業計画の変更については、授業内もしくは学習支援システムでその都度提示する。課題等の提出・フィードバックについても授業内もしくは学習支援システムを通じて行う予定である。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション グループワーク：外国人のイメージ	授業内容の概要と目標、評価方法の説明を行う。 外国籍・多文化背景を持つ人へのイメージから、自身が偏った見方をしていないか振り返る。
第 2 回	講義：日本に滞在している多文化背景の人々	出入国のデータをもとに日本にいる多文化背景を持つ人々の状況や在留資格に関して学び、どのような問題があるかを考える。
第 3 回	グループワーク：言語習得について	居住先の言語に精通していない場合に、直面する諸問題を考える。
第 4 回	講義：入国管理手続きの煩雑さ等を知る	授業用の事例を通してオーバーステイについて考える。
第 5 回	講義：多文化背景を持つ人の生活課題 1 (医療・教育)	医療と教育の面からどのような課題を抱えているかを学ぶ。
第 6 回	グループワーク：労働について (技能実習制度を中心に)	技能実習生・介護職として日本で働く外国人労働者について調べてきたことをもとに話し合う。
第 7 回	グループワークと講義：多文化背景を持つ人の生活課題 2 (就労)	在留資格と就労を振り返る。スクールソーシャルワークの歴史から児童労働を取り上げ、現在の不就業についても考えてみる。
第 8 回	グループワークと講義：多文化背景を持つ人の生活課題 3 (DV・児童虐待について)	DV や虐待に関する支援について調べてきたことをもとに、多文化背景の人への援に目を向ける。
第 9 回	グループワークと講義：多文化背景を持つ人の生活課題 4 (難民)	日本の難民受け入れに関して調べてきたことをもとに話し合い、現状を理解する。
第 10 回	講義：多文化ソーシャルワークの実践 1	ソーシャルワークのグローバル定義をもとに理念を学ぶ。
第 11 回	グループワークと講義：多文化ソーシャルワークの実践 2	現在までの歩みを知り、今後に向けて何ができるのか、また何をすべきかを考える。
第 12 回	グループワーク：(事例検討) 支援に求められる視点を理解する	自分が支援機関の職員であると仮定し、チーム体制による支援について考えながら、事例検討をする。
第 13 回	グループワーク：多文化背景を持つ人々に対するまなざしの変化	12 回と同じグループにて事例検討の続きを行う。最後に本授業を通して、多文化背景を持つ人たちへの自分自身のまなざしの変化を確認する。
第 14 回	試験	学習した内容に関する試験を行う。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

授業中に紹介した文献・資料の他に、新聞、テレビ、地域活動などからも授業に関連した問題・動向に関心を持ち、理解を深めておくこと。グループワークに必要な事前準備をするにあたってレポート課題を出すこともある。本授業の準備学習・復習時間は合わせて 4 時間程度を要する。

【テキスト (教科書)】

特に定めず、毎回プリントを配布する。

【参考書】

必要に応じて適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

グループワークや授業への積極的参加や発言 (30 %)、課題のレポート (30 %)、試験 (40 %)

【学生の意見等からの気づき】

授業や、事前準備で得た知識をグループワーク時に応用することで、身に付けていけるように、本年度もたくさんのグループワークを予定している。また、文字だけでなく視覚的にとらえられるよう、資料の工夫をしていきたい。

【学生が準備すべき機器他】

感染状況によりオンラインに切り替わった時はもちろん、授業の事前準備等のために使用できる機器 (パソコン、スマートフォン等) があるとよい。

【その他の重要事項】

講師の医療相談員・スクールソーシャルワーカーとしての実践をもとに、多文化背景を持つ人々への支援に関して、授業用事例を織り交ぜて講義をしていきます。実際の支援状況を知っていただき、さらにグループでの話し合いを通して、グローバル社会と言われる日本の現状を振り返ってみましょう、そして、一人一人に何が必要で、なにができるのかを具体的に考えてみましょう。また、履修をされている留学生との交流もできるよう、グループワークを行っていきたくと考えています。

【Outline (in English)】

This course examines the complexity of social work practice in a multicultural society from the perspective of immigrants and their education and everyday life. By the end of the course, students are expected to explain the basic concepts of ethnic sensitive social work, and to discuss the significance of social workers in their understanding of social difference, oppression, and justice.

Before / after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Your overall grade in the class will be determined on the following:

In-class Contribution: 30%; Short Essays: 30%; Term-end Examination: 40%

SOW300JB,SOW300JC

死生観とソーシャルワーク

佐藤 蘭美

科目分類・科目群(福祉コミュニティ)：専門教育科目 専門展開科目

科目分類・科目群(臨床心理)：専門教育科目 専門展開科目

配当年次／単位数：2～4年次／2単位

その他属性：〈優〉〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日常生活では意識しにくくなっている「死」について考えることにより、改めて「生きる」ことを見つめ、ソーシャルワークにおける援助観の形成を目指すものである。授業内では、「死」を取り扱うことへの概念的な理解から、映像・グループワークを通して、死にゆく人への寄り添い方や専門的な実務に至るまでを学習していく。

【到達目標】

受講者ひとりひとりが自己の生き方や価値観を見つめ、死生観を育むことを目指す。また、社会福祉や近接領域の死の位相について理解を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

(福祉コミュニティ学科) ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP4」に関連

(臨床心理学科) ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

講義を主体とするが、参加型の授業を目指すため、DVD 視聴、グループディスカッションや演習を実施します。また、リアクションペーパー、小レポートを課すので、必ず提出してください。フィードバックの方法として、リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業の進め方、死生観を育む必要性についての解説
第2回	ホスピスの誕生	ホスピスの誕生、三徴候死、脳死
第3回	病む人が抱える痛み	病む人が抱える痛みについて考える
第4回	残された人生	あなたにとって大切なこと・ものを考える
第5回	グリーフ・ケア、ビリー ブメントケア	悲嘆へのケアについて考える
第6回	尊厳死・安楽死	現代の死の様相について考える
第7回	愛する人を失うというこ と①	大切な人を失う感覚について考える
第8回	愛する人を失うというこ と②	悲嘆感情の表出について考える
第9回	ソーシャルワーカーとし て何ができるか①	社会福祉援助対象者の喪失について考 える
第10回	ソーシャルワーカーとし て何ができるか②	対象者の悲嘆感情への支援について考 える
第11回	癒しとは何か①	人の癒しについて考える
第12回	癒しとは何か②	心地よさについて考える
第13回	死への準備に必要なこと	人として死を迎えることについて考 える
第14回	総括	これまでの学習をふまえたまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本講義を受講するにあたり、ソーシャルワーク実践の概要について以下の参考文献を読み進めておくことをおすすめする。
社会福祉士養成講座編集委員会編（2015）『相談援助の基盤と専門職』、『相談援助の理論と方法Ⅰ』、『相談援助の理論と方法Ⅱ』中央法規
本授業の準備学習・復習時間は各回4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に使用しない。授業内では資料やレジュメを配布する。

【参考書】

適宜必要な文献を紹介する

【成績評価の方法と基準】

小レポート及びリアクションペーパーの内容 40%、ディスカッション・ディ
ベートへの参加度 20%、学期末レポート 40%

【学生の意見等からの気づき】

「生きること」「死ぬこと」について学生同士で意見交換することについて、好
評だったので、今年度も意識しながら実施していく。

【その他の重要事項】

社会福祉士として社会福祉協議会に勤務した経験をもとに、ソーシャルワ
ーカーが関わる「生と死」について具体的な話を盛り込みながら、授業を展開
する。

【Outline (in English)】

【Course outline】 The aim of this course is to help students acquire an
understanding of the view of life with death in social work.

【Learning Objectives】 The goal is to understand the view of life and
death as a profession.

【Learning activities outside of classroom】 Before/after each class
meeting, students will be expected to spend four hours to understand
the course content.

【Grading Criteria /Policy】 Final grade will be calculated according to the
following process Mid-term report (40%), term-end examination (40%),
and in-class contribution(20%).

PSY300JB,PSY300JC

家族心理学

松本 聡子

科目分類・科目群(福祉コミュニティ)：専門教育科目 専門展開科目

科目分類・科目群(臨床心理)：専門教育科目 専門展開科目

配当年次／単位数：2～4 年次／2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「家族とは」「家族はどのように変化するのか」「家族をとりまく問題とは」といった問いに対して、基礎的な事項をふまえたうえで、心理学的な視点からアプローチしていくことが本講義の主なテーマです。

【到達目標】

・家族に関する心理学的な視点からの基礎的な知識を獲得すること。
・上記の知識や視点をふまえ、家族や家族をとりまく現代社会における諸問題の理解・分析ができること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

講義の前半では、家族について概説をおこない、そのうえで人間の発達を軸とした家族の変化のようすとその関連要因について考察していきます。講義の後半では、家族をとりまく諸問題として少子高齢化、環境、労働などを取り上げ、現代社会における家族のあり方について検討します。講義中に多くのデータを紹介しますので、配布資料には必ず目を通すようにしてください。また、リアクションペーパーを提出していただく場合もあります。リアクションペーパーや課題等に対するフィードバックは、講義中に適宜おこなう予定です。各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	本講義の概要説明
第2回	家族とはなにか	家族に関する基礎的な事項の説明
第3回	家族の発達	家族の変化・発達の概観
第4回	結婚と夫婦関係	結婚し夫婦になることについて心理学的な視点からの検討
第5回	子どもの発達	発達に関する基礎的な事項の説明
第6回	親になること	親への移行の様相とその関連要因
第7回	夫婦と子どもの発達	夫婦関係と子どもの発達の関わり
第8回	親子の関係	親子の相互の関係性と変化
第9回	家族をめぐる諸問題：少子高齢化	少子高齢化問題の家族心理学的な視点からの検討
第10回	家族をめぐる諸問題：住まい・近隣環境	住環境や近隣環境からの家族関係の検討
第11回	家族をめぐる諸問題：働くことと家族	就労と家族の問題に関する考察
第12回	日本の家族	日本の家族が置かれている状況について国際比較をまじえた説明
第13回	家族に関する研究の課題と展望	家族に関する学術的な研究の紹介と課題の検討
第14回	まとめ	まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義の際に配布するプリントなどを見ながら、前回の内容を復習したうえで、講義に参加してください。講義では現代社会における家族に関する問題も扱っていきますので、日ごろから新聞や雑誌記事などを意識して見るようにしてください。本授業の準備・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。講義の際に適宜プリントを配布します。

【参考書】

必要に応じて講義中に適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

リアクションペーパーや課題の提出 20 %

学期末試験 80 %

家族に関する心理学的な視点からの基礎的な知識が獲得・理解できているか、基礎知識をふまえたうえでの、家族や家族をとりまく現代社会における諸問題の理解・分析による考察内容、などの観点から、総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

2022年度の授業改善アンケートは現在集計中につき、結果が次第それを講義に活かしていきたいと考えています。

【その他の重要事項】

・講義中に様々なデータをスライドやビデオなどで提示したり、講義に出席・参加することは講義内容を理解するために重要です。
・上記の授業計画や内容は、授業の進行や状況により変更があり得ますので、学習支援システム上や講義内での連絡に常に気を付けるようにしてください。
・講義に関する連絡事項を学習支援システム上でおこなうこともありますので、必ず確認してください。

【Outline (in English)】

The purpose of this course will be to acquire basic understanding of "family" from psychological perspective. By taking this course, students should be able to apply the basic knowledge and psychological perspectives to understand various family issues. Before/After each class meeting, students will be expected to spend about two hours to understand and review the course content. Grading will be decided based on brief writing assignments (20%) and final exam (80%).

PSY300JB,PSY300JC

異文化心理学

奥山 今日子

科目分類・科目群(福祉コミュニティ)：専門教育科目 専門展開科目

科目分類・科目群(臨床心理)：専門教育科目 専門展開科目

配当年次／単位数：2～4年次／2単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「文化」の定義は様々です。この講義においては、受講生の生活に資するように、全ての個人間の相互作用までを異文化交流として捉えます。私たちは時々刻々とものごとを経験をしていますが、そのような経験は私たちが気づかないところでもかたどられている部分が多くあります。

私たちが持って生まれた資質と私たちのこれまでの諸経験の相互作用の結果が、いまの私たちの感じ方、知り方、解釈の仕方を規定しているとも言えるでしょう。

私たちが知らないうちに排除してしまっている異質なものの/異文化/他者が私たちをより豊かにする可能性を持っていることを知る機会になればと考えています。

授業内で映画を視聴し、私が提示するテーマについて、グループディスカッションを行うことを通じて、異質なものの/異文化/他者に触れていきます。私は精神分析的な観点を紹介します。

【到達目標】

この講義を通じて、受講生のみなさんに目指していただきたいのは、①自身の経験に気づき、②それを他者に伝えることができるようになり、③自分の経験について自分自身がより考えられるようになり、④他者との交流を通じて、自身をより豊かにする可能性のあるスキルを身につけることです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

対面で行います。講義では刺激素材として主に映画を上映します。その際、みなさんはそれらの映画をどのように経験しているかに注意を払いながら視聴します。まずは、みなさんそれぞれが感じたり想ったり思ったり考えたことを可能な限り言語化し、その上で、グループディスカッションを通じて、異質なものに触れていきます。私は精神分析的な観点を紹介します。受講者の反応に従って、視聴するDVD素材の内容・順序を変更します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の全体像が理解できるよう説明する。
第2回	アサーション・トレーニング(1)	授業で多く行うグループ・ワークは他者/異文化との交流として位置づけられる。そこで重要と思われる基本的なスキルを学ぶ。
第3回	アサーション・トレーニング(2)	さらにアサーティブ・コミュニケーションを学ぶ
第4回	映画視聴(1)とディスカッション	家族関係について
第5回	同一素材を視聴し更にディスカッションを行う	家族関係について更に学ぶ
第6回	映画視聴(2)とディスカッション	心理的な成長や発達とは何か
第7回	同一素材を視聴し更にディスカッションを行う	心理的な成長や発達とは何かについて更に学ぶ
第8回	映画視聴(3)とディスカッション	心理的な成長あるいは発達あるいは展開の行き詰まり
第9回	同一素材を視聴し更にディスカッションを行う	心理的な成長あるいは発達あるいは展開の行き詰まりについて更に学ぶ
第10回	映画視聴(4)とディスカッション	人生に登場する壁のような存在について
第11回	同一素材を視聴し更にディスカッションを行う	人生に登場する壁のような存在について更に学ぶ
第12回	映画視聴(5)とディスカッション	夢と現実、無意識とは
第13回	同一素材を視聴し更にディスカッションを行う	夢と現実、無意識について更に学ぶ
第14回	映画視聴(6)	ある人生を考える

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

自分が何をどのように経験しているのか、つまり、何を感じ、どのようなことを想い、考え、行動しているのかに注意を払うようにして下さい。本授業の準備・復習時間は、各1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

使用しない

【参考書】

『こころの処方箋』 河合隼雄 新潮社（新潮文庫）

【成績評価の方法と基準】

平常点（リアクションペーパー・授業への能動的参加）40%

期末レポート 60%

【学生の意見等からの気づき】

発言を求められたり、グループワークをすることが多いことが、受講者によっては負担となっているようです。私は、そういう方たちにごそ、この際、苦手に感じられていることに挑戦してほしいと思います。

【Outline (in English)】

The definition of "culture" varies. In this lecture, the interaction between all individuals is considered as cross-cultural exchange to contribute to the lives of the students. We experience things from time to time, and many of those experiences are shaped in ways we don't realize.

It can be said that the result of the interplay between our qualities and our previous experiences defines the way we feel, know and interpret now.

I hope this lecture will be an opportunity for you to see that the alien / different culture / others that we unknowingly exclude have the potential to make us richer.

The students will be exposed to the alien / different culture / others through watching several movies and holding group discussions on the themes I will present. I will introduce a psychoanalytic point of view.

【Goal】

Through this course, I would like to encourage students to (1) become aware of their own experiences, (2) become able to communicate them to others, (3) become more self-reflective about their own experiences, and (4) acquire skills that can enrich themselves through interaction with others.

【Methods】

In the lecture, movies are mainly shown as stimulus materials. You watch these movies paying attention to how you experience them. First, you

will try to put what you feel, imagine, reflect and think into words as much as possible, and then touch on the alien / different culture / others through group discussions. I will introduce a psychoanalytic point of view.

I will change the contents to be viewed according to the student's response. We have a hybrid of face-to-face and online classes. The learning support system will show you which way the next class will be. Feedback on assignments, etc. is given sequentially and comprehensively in class. If you personally wish to receive feedback, please let us know by email.

【Work to be done outside of class】

Pay attention to what and how you are experiencing — what you feel, what you imagine, reflect, think, and do.

【Grading criteria】

Normal point (reaction paper, active participation in class) 40%

Year-end Report 60%

PSY300JB,PSY300JC

教育心理学特講

大瀧 玲子

科目分類・科目群(福祉・心理)：専門教育科目 専門展開科目

科目分類・科目群(臨床心理)：専門教育科目 専門展開科目

配当年次／単位数：2～4 年次／2 単位

備考(履修条件等)：2023 年度の授業実施日は、8 月 1 日(火)、2 日(水)、7 日(月)。2018 年度以降の入学者のみ受講可能。2017 年度以前入学者は「N6225 教育心理学」を受講すること。教職・スクールソーシャルワーク課程科目でないため注意。

その他属性：〈優〉〈美〉〈S〉

【授業の概要と目的(何を学ぶか)】

教育心理学の基礎的な知見を習得すること、また臨床心理学的視点を変え学校における様々な問題について理解を深めることを目標とする。子どもが発達していくプロセスや学習についての心理学的な知見に加え、現代の子どもが抱える問題の社会的背景や、不適応を示す子どもの理解と対応などについても学ぶ。

【到達目標】

教育心理学の理論を習得し、子どもの発達や学習および学校における諸問題への理解が深まること、対応と支援に関する基礎的な知識が身につくことを目標とする。また、学校場面での具体的な問題や支援の実際について学ぶことで、教育に対する様々な考え方、困難や障害を抱える生徒への配慮や学校が抱える問題について理解を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式を基本として、教育心理学分野に関する基礎的な内容について概説する。毎回の講義内でリアクションペーパーを提出する。また内容に応じて、講義内で小グループでの話し合いを取り入れることがある。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	教育心理学とはなにか	教育心理学の成り立ち、オリエンテーション
2	発達段階と発達課題	心理学における発達概念を学ぶ
3	適応と障害の理解	適応とはなにか、また教育相談や障害について学ぶ
4	対人関係の発達の理解	親子関係や仲間関係など様々な対人関係の発達と学校教育について学ぶ
5	幼児期、児童期、青年期の心理的問題(青年期)	幼児期、児童期、青年期の心理的問題について学ぶ
6	学習と動機づけ	学習理論や記憶、動機づけについて学ぶ
7	学級集団の心理学	学級集団の特徴や学級の対人関係、社会性について学ぶ
8	パーソナリティの理解	パーソナリティの理解と測定について学ぶ
9	知的発達のメカニズム	知能の発達、様々な知能観、測定方法、測定結果の利用について学ぶ
10	様々な不適応を示す子どもへの理解と対応①	不登校やいじめ、非行の理解と対応について学ぶ
11	様々な不適応を示す子どもへの理解と対応②	発達障害の理解と対応について学ぶ

12	様々な不適応を示す子どもへの理解と対応③	障害児の心理、特別支援教育などについて学ぶ
13	社会における学校	学校内外での連携やスクールカウンセラーの活用について学ぶ
14	総括	授業について振り返り、課題と今後の展望についてまとめる

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

事前の学習 新聞などで子供や学校に関する記事を読むこと。ほかの参考書も用いて学習すること。「教育相談」「心理学」「臨床心理学」「心理学辞典」など他の科目のテキストも参考に学ぶこと。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト(教科書)】

特になし

【参考書】

「やさしい教育心理学」有斐閣アルマ 鎌原雅彦・竹綱誠一郎 著
「ベーシック現代心理学6 教育心理学」有斐閣 子安増生・田中俊也・南風原朝和・伊東裕司 著

【成績評価の方法と基準】

期末試験(60%)

授業参加およびリアクションペーパー等(40%)

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

なし

【Outline (in English)】

Educational Psychology

Course outline:

This course introduces educational psychology to students taking this course.

Learning Objectives:

The goal of this course is to acquire basic knowledge of educational psychology and to deepen understanding of various problems in schools from the perspective of clinical psychology. Learning activities outside of classroom:

・Lecture/Exercise (two-credits)

Student will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

Grading Criteria/Policies:

Your overall grade in the class will be decided based of the following

Term-end examination 60%, Short reports and in class contribution 40%

PSY200JC

心理療法

久保田 幹子

科目分類・科目群(臨床心理)：専門教育科目 専門基幹科目
配当年次／単位数：1～4 年次／2 単位

その他属性：〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

心理療法の基本的な概念、歴史、対象、具体的な方法について概説する。

【到達目標】

心理療法の基本的な概念を理解し、心理療法の対象、心理療法家としての姿勢を学ぶ。またいくつかの心理療法について、具体的な方法とその効果について理解し、心理的援助の実践について説明することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」と「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

心理的援助を必要とする対象とそれらが抱える問題、それを解決するための心理療法の方法、心理療法家の姿勢について具体的に理解できるよう、講義を中心に視聴覚資料なども取り入れつつ進めていきます。

理解を深めるために、リアクションペーパーも活用しますが、授業で提出されたリアクションペーパーについては、いくつか質問や意見を取り上げ、次の授業内で全体に対してフィードバックを行っていきます。また課題等の提出・フィードバックは授業内および「学習支援システム」を通じて行う予定です。なお、授業の展開によって、授業計画には若干の変更もあり得ます。

各回の授業計画の変更がある場合には、学習支援システムでその都度提示します。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

なし/No

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	心理療法とは何か	講義の概要と成績評価の基準について説明し、心理療法とは何かについて概説する
第 2 回	心理療法の歴史	心理療法の発展の歴史について概説する
第 3 回	心理療法の対象と領域	心理療法が、どのような領域で、どのような対象に対しておこなわれるのかを概説する。
第 4 回	心理療法家の姿勢と役割 (1)	心理療法を行う上で、セラピストに必要な資質、姿勢について概説する。
第 5 回	心理療法家の姿勢と役割 (2)	心理療法において、セラピストがクライアントとどのように関わるか、またセラピストの役割について概説する。
第 6 回	心理療法を始めるにあたって	心理療法を始めるにあたって、セラピストがどのような作業を行うかを概説する。
第 7 回	心理療法 (1) 来談者中心療法、支持的 精神療法	主な心理療法の中で、来談者中心療法、支持的 精神療法の理論と方法について概説する。
第 8 回	心理療法 (2) 精神分析的 精神療法、ブリーフセラピーなど	主な心理療法の中で、精神分析的 精神療法、ブリーフセラピーなどの理論と方法について概説する。
第 9 回	心理療法 (3) 認知行動療法、対人関係 療法など	主な心理療法の中で、認知行動療法、 対人関係療法などの理論と方法について概説する。
第 10 回	心理療法 (4) 日本で生まれた心理療法 ：森田療法、内観療法	日本で生まれた心理療法である森田療法と内観療法の理論と方法について概説する。
第 11 回	心理療法 (5) 遊戯療法、箱庭療法など	主な心理療法の中で、言語を介さない遊戯療法、箱庭療法などの理論と方法について概説する。
第 12 回	心理療法の実際 (1)	心理療法の実際の事例を通して、心理療法のプロセスを学ぶ。例：対人緊張
第 13 回	心理療法の実際 (2)	心理療法の実際の事例を通して、心理療法のプロセスを学ぶ。例：摂食障害
第 14 回	学期末試験	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

毎回配布する資料をもとに授業内容を復習すると共に、参考図書で授業内容に該当する箇所をあらかじめ理解しておくことを勧める。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

テキストは使用しない。講義時に適宜レジュメを配布すると共に、参考文献を紹介する。

【参考書】

「臨床心理学への招待」野島和彦編著、ミネルヴァ書房

【成績評価の方法と基準】

平常点および学期末試験によって評価する。
平常点およびリアクションペーパー：30 %
学期末試験：70 %

【学生の意見等からの気づき】

心理療法を行う上でのセラピストの関わり方、セラピーにおけるクライアントの体験などを、具体的にイメージしやすいように進めていきたいと思っています。

【その他の重要事項】

医療機関において病院臨床の実務経験があることから、心理療法家としての心得、関わり方について、事例経験・事例紹介を盛り込みつつ講義を行っていきます。

【Outline (in English)】

This course will provide an overview of the psychotherapy including the basic concept, history, objects, and specific methods. The objectives of this course is to enable students to understand the basics of psychotherapy and to explain the psychotherapeutic practice. Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content. Grading will be decided based on term-end examination (70%) and in-class contribution (30%).

PSY300JC

臨床心理学特講

末武 康弘

科目分類・科目群(臨床心理)：専門教育科目 専門展開科目

配当年次／単位数：2～4 年次／2 単位

その他属性：〈優〉〈実〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

この授業では、臨床心理学、特にカウンセリングや心理療法の主要な概念や理論について、その提唱者の原著（主に日本語訳）の読解をすることを通して、臨床心理学がどのような考え方や方法から成り立っているのかを学びます。

【到達目標】

この授業の達成目標は、臨床心理学、特にカウンセリングや心理療法の主要な概念や理論を提唱した心理学者や臨床家の原著（主に日本語訳）の読解に取り組み、その内容を理解し、またそれらが臨床心理学の成り立ちや発展に与えた意義を考察し説明できることです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

臨床心理学、特にカウンセリングや心理療法の主要な概念や理論を提唱した心理学者や臨床家の原著（主に日本語訳）から抜粋した講義レジュメをもとに、パワーポイントを活用しながら講義、原著の読解、関連する問題や英文和訳などの課題、ディスカッション等によって授業を進めていきます。関連する映像資料の視聴も行います。なお、課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業への導入を行い、成績評価の基準を明示します。
第 2 回	臨床心理学の主要な概念と理論：概説	臨床心理学、特にカウンセリングや心理療法の主要な立場の概要を学びます。
第 3 回	主要な概念と理論 (1)：無意識、自我、対象関係	精神分析学的な概念と理論をフロイトの著作等から考察します。
第 4 回	主要な概念と理論 (2)：集合無意識、元型、夢と箱庭	分析心理学の概念と理論をユングの著作等から考察します。
第 5 回	主要な概念と理論 (3)：自己愛、シニフィアン、大文字の他者	精神分析の特異な発展をコフートやラカンの著作等から考察します。
第 6 回	主要な概念と理論 (4)：実存、現象学、超越	ビンズワングーらの現存在分析およびフランクルのロゴセラピーの概念と理論を考察します。
第 7 回	主要な概念と理論 (5)：ヒューマニスティック、クライアント中心、PCA	クライアント中心療法の概念と理論をロジャーズの著作等から考察します。
第 8 回	主要な概念と理論 (6)：体験過程、フォーカシング、暗在性	クライアント中心療法から発展した概念と理論をジェンドリンの著作等から考察します。
第 9 回	主要な概念と理論 (7)：逆制止、強化、思考修正	行動療法や認知行動療法の概念と理論をウォルビヤベックの著作等から考察します。
第 10 回	主要な概念と理論 (8)：ダブルバインド、家族システム、ソリューションフォーカス	家族療法、システム理論、ナラティブアプローチ等の概念と理論を考察します。
第 11 回	主要な概念と理論 (9)：芸術、ドラマ、詩歌	芸術療法、サイコドラマ、読書療法や詩歌療法の理論を考察します。
第 12 回	主要な概念と理論 (10)：エスノ、自然、真空	日本のエスノセラピーやクライアント中心療法の日本的な発展について考察します。
第 13 回	主要な概念と理論 (11)：折衷、統合、多元的アプローチ	複数の理論や方法を活用するアプローチについて考察します。
第 14 回	新しい概念と理論、授業のまとめ	最近注目されている新しい概念や理論を取り上げて考察します。最後に授業のまとめを行います。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

毎回の授業の資料は、事前に「授業支援システム」上に掲載するので、それを読んで授業に参加することが求められます。また、毎回の授業の終了時に授業で取り上げた内容に関連した「発展課題」を提示し、学習内容を各自が深めていく作業を求めます。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

テキストは使用しません。

【参考書】

参考書は授業の中で適宜紹介します。また、資料（講義レジュメ、パワーポイント等）、映像教材などを使用します。

【成績評価の方法と基準】

学期末に提出するレポート（2000 字前後）（60 %）と毎回の発展課題（40 %）で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

授業改善アンケートの結果に基づき、より具体的にわかりやすい内容の授業を組み立てたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

特にありません。

【その他の重要事項】

おもに思春期～老年期を中心とした心理支援の経験（カウンセリングセンター等）を踏まえて、心理学的支援法の実際について具体的にわかりやすく講義します。

【Outline (in English)】

In this lesson, through reading the original author's work (mainly Japanese translation) on clinical psychology, especially counseling and psychotherapy, you learn major theories and methods of clinical psychology.

At the end of the course, students are expected to understand major theories and methods of clinical psychology, especially counseling psychotherapy.

Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant materials uploaded on Hoppii. And students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

Your overall grade in the class will be decided based on the following.

Term-end report: 60%, Assignments after each class meeting: 40%.

PSY300JC

精神分析学

中 康

科目分類・科目群(臨床心理)：専門教育科目 専門展開科目

配当年次／単位数：2～4 年次／2 単位

その他属性：〈優〉〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

フロイトの精神分析学理論は人の心を理解しようとする科学的仮説の体系である。力動的な精神分析学仮説は、通常の日常生活で意識することのない、無意識的なレベルにおける人の心を示す概念である。そのため難解であるが、授業では無意識の発見、構造論モデル、精神性的発達、親子関係ならびに治療関係論をテーマにして、心の在り方を理解する。

【到達目標】

精神分析学仮説の意味する事柄を日常生活のレベルで理解できるようにすることを到達目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

PC プロジェクターを用いた講義形式で行い、適宜資料を配布する。毎回の授業で、質疑応答やディスカッションを含めるようにし、その中で必要なフィードバックを行う。またリアクションペーパーの内容を取り上げてフィードバックを行う。なお、授業の展開によって、授業計画には若干の変更があり得る。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

なし/No

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	精神分析学の誕生①	メスレルの磁気術、催眠術
第 2 回	精神分析学の誕生②	ブロイエルと症例アンナ O、ヒステリー研究、催眠浄化法から前額法・自由連想法へ
第 3 回	無意識、フロイトの夢判断	心の局所論モデル、夢分析、心の構造論モデル、防衛機制
第 4 回	精神性的発達論①	口唇期、肛門期、幼児性器期、エディプス・コンプレックス、潜伏期、性器期、退行と固着
第 5 回	精神性的発達論②	思春期青年期、性器統裁、対象選択、超自我の構造的変化、Blos による思春期の発達論
第 6 回	フロイトの症例／ドラ	転移と抵抗への気づき
第 7 回	フロイトの症例／ハンス	親を介しての児童分析
第 8 回	精神分析療法と精神分析的な精神療法	精神分析療法、治療構造、基本規則、精神分析的な心理療法、心理療法の進め方。アセスメントと治療契約、適応
第 9 回	契約	治療契約について
第 10 回	退行	治療的退行について
第 11 回	抵抗	抵抗の形式、抵抗解釈について
第 12 回	転移、逆転移、解釈技法	転移・逆転移の概念、転移解釈について
第 13 回	終結の仕事	終結の仕事、喪の仕事、同一化
第 14 回	期末試験・まとめと解説	期末試験・まとめと解説

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

授業の進行に伴い、日常生活における自己の感情と思考を眺めてみてほしい。自己理解につながるかもしれない。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト(教科書)】

必要に応じて適宜紹介する。

【参考書】

適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

期末試験(70%)、平常点(リアクション・ペーパーを含む)(30%)にて評価する。

【学生の意見等からの気づき】

具体的なケースを提示しながらわかりやすく授業を進行したい。

【学生が準備すべき機器他】

オンライン授業の場合は、PC を使用して zoom を介して行う。

【その他の重要事項】

精神科医が、専門分野である精神分析学について講義する。

【Outline (in English)】

【Course outline】

This course deals with the Freud's psychoanalytic theory, which is a system of scientific hypotheses. Psychodynamic theory is a notion which demonstrates the unconscious state of mind of human being. The aim of this lecture is to understand the state of the mind, through learning about discovery of unconsciousness, structural point of view, psychosexual development, parent-child relationship, and therapeutic relationship.

【Learning objectives】

The goal of this course is to understand the psychoanalytic theory in the level of everyday life.

【Learning activities outside the classroom】

Attending this course, try to observe your emotion and thought in everyday life. It may leads to understanding yourself. Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours each to understand the course content.

【Grading criteria/policy】

Grading will be decided based on term-end examination (70%), in-classroom contribution (including reaction paper)(30%).

PSY300JC

児童精神医学

関谷 秀子

科目分類・科目群(臨床心理)：専門教育科目 専門展開科目

配当年次／単位数：2～4 年次／2 単位

その他属性：〈優〉〈実〉〈S〉

【Outline (in English)】

The child psychiatry is a relatively new field established in the 1950s. It is not necessarily appropriate to understand all deviation from normal mental development as a disease. But nevertheless, an international criterion of diagnosis and classification is currently available. We should learn about pathology and the treatment of all disorders respectively. In addition, we must understand child development and adolescence. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Your overall grade in the class will be decided based on the following. Term-end examination: 80%, Short reports : 20%

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

児童精神医学は 1950 年代に成立した比較的新しい領域である。精神発達の正常からの逸脱をすべて疾患として理解するのは必ずしも適切ではないが、今日では取りあえずの国際的診断分類学ができて上がっている。その臨床単位ごとの病理特性と治療について取り上げる。またその理解に必要な心の発達について理解する。

【到達目標】

児童精神医学の歴史を理解する。

児童・思春期の心の発達について理解する。

代表的な児童思春期の心の病について基本的知識を習得する。

児童思春期に対する治療的アプローチについて理解を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

主に P C プロジェクターを用いた講義形式で行い、適宜レジメを配布する。授業の展開によって、授業計画には若干の変更があり得る。授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業の進め方と成績評価基準についての説明。19 世紀の子ども観について。
第 2 回	児童精神医学の歴史①	子どもガイダンス運動の展開について。
第 3 回	児童精神医学の歴史②	児童精神医学の誕生について。
第 4 回	児童精神医学の歴史③	乳幼児期・幼児期の発達について。
第 5 回	子どもの精神発達①	マラーの発達理論。
第 6 回	子どもの精神発達②	児童期・思春期の発達について。アンナフロイトの発達ライン。
第 7 回	子どもの精神療法	児童期と精神療法
第 8 回	親ガイダンス	親ガイダンスの基本構造と基本原則
第 9 回	不登校①	小学生の不登校
第 10 回	不登校②	思春期の不登校
第 11 回	摂食障害	摂食障害の経過と治療について
第 12 回	強迫性障害・恐怖症	強迫性障害・恐怖症の経過と治療について
第 13 回	精神遅滞・広範性発達障害・注意欠陥多動性障害・行為障害・反抗挑戦性障害	精神遅滞・広範性発達障害・注意欠陥多動性障害・行為障害・反抗挑戦性障害の経過と治療について
第 14 回	ケースの検討	見立て・治療経過について
第 15 回	期末試験とまとめ	期末試験とまとめ

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

幼児や児童と関わるボランティア活動を推奨する。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト (教科書)】

資料を配布する。また、必要に応じて適宜紹介する。

【参考書】

必要に応じて適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

期末試験 (80%)、リアクションペーパー (20%) にて評価する。

【学生の意見等からの気づき】

具体的なケースを提示しながらわかりやすく授業を進行したい。

【その他の重要事項】

精神科医が専門分野である児童思春期精神医学について講義する。

PSY300JC

認知行動療法

金築 優

科目分類・科目群(臨床心理)：専門教育科目 専門展開科目

配当年次／単位数：2～4 年次／2 単位

その他属性：〈優〉〈実〉〈S〉

[Outline (in English)]

The focus of this course is on the concepts, theory, principles and procedures appropriate to cognitive behavior therapy. This course will review Meta-Cognitive Therapy, Mindfulness-Based Cognitive Therapy, and Acceptance and Commitment Therapy. Your study time will be more than four hours for a class. Grading will be decided based on term-end reports (60%), and in class contribution (40%).

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

認知行動療法とは、心の問題を、認知・行動・感情の側面から捉えて、アプローチする心理療法です。本授業では、認知行動療法の様々な技法を、それらの理論的根拠も含めて、紹介します。

【到達目標】

この授業の到達目標は、認知行動療法における様々な技法や理論について、自分の言葉で説明できるようになることです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

認知行動療法を、認知、行動及び感情へのアプローチの3つに分類し、各アプローチを取り上げていきます。技法についてだけでなく、技法の背景にある理論についても紹介していきます。なお、授業の展開によって、授業計画には若干の変更があり得ます。

課題等のフィードバックは、授業の初めに、提出された課題からいくつか取り上げ、全体に対して行います。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	本授業の進め方を示し、認知行動療法の歴史を概説します。
第2回	行動に焦点を当てたアプローチ(1)	学習(行動)理論(特に、レスポナント学習)と行動療法の関連を考えます。
第3回	行動に焦点を当てたアプローチ(2)	学習(行動)理論(特に、オペラント学習)と行動療法の関連を考えます。
第4回	行動に焦点を当てたアプローチ(3)	行動療法の技法群を紹介します。
第5回	行動に焦点を当てたアプローチ(4)	行動療法の適用例を紹介します。
第6回	感情に焦点を当てたアプローチ(1)	認知行動療法が感情をどのように捉えられているかを考えます。
第7回	感情に焦点を当てたアプローチ(2)	エクスポージャー法を紹介します。
第8回	認知に焦点を当てたアプローチ(1)	論理療法を紹介します。
第9回	認知に焦点を当てたアプローチ(2)	認知療法を紹介します。
第10回	認知に焦点を当てたアプローチ(3)	情報処理理論と認知へのアプローチの関連を考えます。
第11回	認知に焦点を当てたアプローチ(4)	メタ認知療法を紹介します。
第12回	新世代の認知行動療法(1)	マインドフルネス認知療法を紹介します。
第13回	新世代の認知行動療法(2)	アクセプタンス&コミットメント・セラピーを取り上げます。
第14回	新世代の認知行動療法(3)	アクセプタンス&コミットメント・セラピーにおける価値を考えます。

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

資料を配布し、次回の授業までに熟読しておくように求めることがあります。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト(教科書)】

テキストは使用しません。

【参考書】

適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点(40%)と定期試験(60%)によって総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

認知行動療法のイメージをつかみやすいように、動画の教材も取り入れていく予定です。

【その他の重要事項】

これまでに携わってきた認知行動療法に関する実践活動や研究活動についても触れます。

PSY300JC

グループアプローチ

大竹 直子

科目分類・科目群(臨床心理)：専門教育科目 専門展開科目

配当年次／単位数：2～4 年次／2 単位

その他属性：〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

グループ・アプローチは、心理、福祉、教育、医療、看護などの臨床場面で広く行われているグループ状況での専門的援助活動の総称です。「人は人との間で人になる」という人間の本来的特質を改めて確認しながら、治療的グループ・アプローチ、教育的グループ・アプローチ、成長傾向のグループ・アプローチなどについて理解を深めていきます。

【到達目標】

グループ・アプローチについての理論を理解するとともに、体験をとおして「人間」や「自己」への理解を深めることを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

この授業は、毎回の授業において前半はレジュメを用いた講義を中心に、後半は毎回異なるメンバーとグループを組み、グループ・ワークやディスカッションを中心に進めていきます。(授業の展開によって若干の変更があり得ます。) また、毎回リアクションペーパーの提出を求め、出欠の確認をするとともに、質問が記入されている場合は、次の授業の始めに回答をいたします。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業計画、ねらい、進め方、評価などの確認
2	グループ・アプローチとは	講義：グループ・アプローチの歴史と発展
3	人は人との間で人になる(1)	講義と演習：人間の本来的特質～“人間”に焦点を当てて～
4	人は人との間で人になる(2)	講義と演習：人間の本来的特質に～“個人”に焦点を当てて～
5	グループ体験(1)	演習：構成的グループの体験
6	ベーシック・エンカウンター・グループ	講義とビデオ： カール・ロジャーズと記録映画
7	医療現場におけるグループ・アプローチ	講義と演習：集団精神療法など
8	教育現場におけるグループ・アプローチ	講義と演習：構成的グループエンカウンターなど
9	企業におけるグループ・アプローチ	講義と演習：研修や開発に用いられるグループ・アプローチ
10	グループ体験(2)	演習：非構成的グループの体験
11	グループ・アプローチの現代的意義	講義と演習：今なぜグループ・アプローチか～グループ・アプローチ再考～
12	グループ・ファシリテーターの役割	講義と演習：ファシリテーターの役割と在り方
13	グループワークのまとめ	講義と演習
14	試験・まとめと解説	筆記試験(持込不可)

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

授業では、これまで話したことがない人とグループを組み、話し合いや演習を行います。みなさんと安心した場を作っていきながら、積極的に自分や他者と向き合えるよう、心構えをもってご参加ください。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト(教科書)】

使用しません。(プリントを配布します。A4版のファイルをご準備ください。)

【参考書】

講義の中で提示します

【成績評価の方法と基準】

- ①最終試験 60%
- ②平常点 40%

【学生の意見等からの気づき】

受講生の皆さんより、授業内でのグループを体験は、自己や他者への発見や気づきの機会となったこと、グループアプローチの理解に役立ったとの感想をいただいております。毎回、違うメンバーとのグループワークやディスカッションを行うため「最初は、自分について話すことに戸惑った」「知らない人と話すのは緊張した」との声や「回数を重ねるごとに楽しになってきた」「自己理解が深まった」「人と話すことが怖くなった」などのフィードバックをいただきました。

今年度も、受講生同士のディスカッション、グループ体験の時間を持つ予定です。できるだけ安心して授業やグループに参加していただけるよう、工夫をしていきたいと考えております。

【学生が準備すべき機器他】

特にありません。

【Outline (in English)】

The group approach is a general term for professional psychological helping activities in group situations that are widely practiced in clinical situations such as Psychology, Welfare, Education, Medical care, Nursing. We will deepen our understanding of the group approaches, while again confirming the inherent characteristics of human beings, "People become people with people".

【Learning Objectives】

The goal of this course is to understand the theory of group approach and to deepen understanding of humans and self.

【Learning activities outside of classroom】

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

【Grading Criteria /Policy】

Your overall grade in the class will be decided based on the following
Term-end examination: 60%, in class contribution: 40%

PSY300JC

精神生理学特講

望月 聡

科目分類・科目群(臨床心理)：専門教育科目 専門展開科目
配当年次／単位数：2～4 年次／ 2 単位

その他属性：〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

こころの働きと脳がどのように関係しているかを明らかにしようとする「神経心理学」を概説します。人間の脳損傷によって生じうる認知・行動・感情などの障害(高次脳機能障害)を詳しく紹介し、それらの障害からどのような心理学的・認知神経科学的メカニズムが明らかになるか解説します。

神経心理学的障害に関する評価方法や認知リハビリテーションなどの介入方法の基礎、さらに健常者を対象としたニューロイメージングによる知見も取り上げます。

【到達目標】

- 1) 高次脳機能の障害及び必要な支援について説明できる。
- 2) 脳神経系の構造及び機能について概説できる。
- 3) 記憶、感情等の生理学的反応の機序について概説できる。
- 4) 人の感覚・知覚等の障害について概説できる。
- 5) 人の認知・思考等の障害について概説できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

パワーポイントを用いた講義形式で進めます。各回ごとにリアクションを提出し学習内容をふりかえります。リアクションは学習支援システムの「掲示板」に書き込んでもらいます。

授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

なし/No

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	神経心理学の目的と方法についての概要を学びます。
第 2 回	脳の構造	特に大脳皮質に関する解剖学的基礎について学びます。
第 3 回	知覚・認知	視覚性失認、聴覚性失認、触覚性失認などを学び、知覚・認知に関わる脳のメカニズムを理解します。
第 4 回	空間、身体	半側空間無視、身体失認を学び、空間認知、身体認知に関わる脳のメカニズムを理解します。
第 5 回	行為	失行、行為制御障害を学び、行為表出と制御に関わる脳のメカニズムを理解します。
第 6 回	記憶	短期記憶障害、ワーキングメモリ障害、エピソード記憶障害、意味記憶障害、手続き記憶障害を学び、記憶に関わる脳のメカニズムを理解します。
第 7 回	言語(1) 聞く・話す	失語を学び、口頭言語に関わる脳のメカニズムを理解します。
第 8 回	言語(2) 読む・書く、計算	失読、失書、計算障害を学び、文字言語と計算に関わる脳のメカニズムを理解します。
第 9 回	脳の側性化	左右半球の情報処理の違いを学び、半球優位性のメカニズムを理解します。
第 10 回	注意	注意障害を学び、注意に関わる脳のメカニズムを理解します。

第 11 回	遂行機能(実行機能)	遂行機能(実行機能)障害を学び、計画性や問題解決に関わる脳のメカニズムを理解します。
第 12 回	社会的認知	社会的認知の障害を学び、社会性に関わる脳のメカニズムを理解します。
第 13 回	感情、動機づけ	感情の認知や表出の障害、動機づけや意欲の障害を学び、感情や動機づけ・意欲に関わる脳のメカニズムを理解します。
第 14 回	授業内試験・まとめと解説	筆記試験 まとめと解説

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

これまでに他の科目で学んできた心理学の生物学的な側面について復習をしておく、授業内容の理解が深まります。

授業後には、資料をもとに復習し、関心をもった点は、授業担当者に質問する、関連する書籍を読むなどをすると、理解がもっとも深まります。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト(教科書)】

使用しません。資料を学習支援システムにアップロードします。

【参考書】

各回の内容ごとに、関連する参考図書を紹介いたします。

【成績評価の方法と基準】

(各回授業終了後のリアクションの提出状況・内容を含む) 平常点 (25%)、および期末試験 (75%) により評価します。

【学生の意見等からの気づき】

講義内容が少し難しいと感じられる人もいますが、さまざまな領域の心理学の知見を結びつけたり、心理学の基礎的な面と臨床的な面をつなぐための大切な学問領域でもありますので、頑張って受講してもらいたいと思っています。興味を持って受講していただけるような内容や説明の仕方を心がけます。

【その他の重要事項】

「神経・生理心理学」とあわせての受講を推奨します。

【Outline (in English)】

【Course outline】

This course provides an overview of neuropsychology, which aims to clarify how the brain is related to psychological functions. I will introduce in detail the cognitive, behavioral, and emotional disorders (higher brain dysfunction) that can be caused by brain injury, and explain what psychological and cognitive neuroscience mechanisms can be revealed from these disorders.

It will also cover the basics of neuropsychological assessment and intervention methods such as cognitive rehabilitation, as well as neuroimaging findings in healthy subjects.

【Learning Objectives】

By the end of the course, students are expected to be able to:

- 1) Explain higher brain dysfunction and necessary support.
- 2) Outline the structure and function of the cerebral nervous system.
- 3) Outline the mechanisms of physiological responses such as memory and emotion.
- 4) Outline disorders of sensation and perception in humans.
- 5) Outline disorders of cognition and thought in humans.

【Learning activities outside of classroom】

Reviewing the biological aspects of psychology that you have studied in other courses will help you understand the content of the class better.

After the class, review the material and ask questions to the class instructor or read related books to deepen your understanding.

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria /Policies】

Evaluation will be made on the basis of the reaction papers submitted after each class (25%) and the final exam (75%).

PSY300JC

認知心理学特講

望月 聡

科目分類・科目群(臨床心理)：専門教育科目 専門展開科目

配当年次／単位数：2～4 年次／2 単位

その他属性：〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

本授業では、「知覚・認知心理学」では扱わなかった認知心理学の応用的側面、他の心理学あるいは他の学問領域とのつながり(認知科学)にかかわる発展的なテーマ・トピックスをとりあげ、人間の知覚・認知機能についての広く応用的な視点を身につけます。

【到達目標】

- 1) 人の認知・思考等の機序及びその障害について発展的に理解できる。
- 2) 認知心理学と他の心理学のつながりについて概説できる。
- 3) 認知心理学と他の学問領域とのつながりについて概説できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式です。各回ごとにリアクションを提出し学習内容をふりかえります。リアクションは学習支援システムの「掲示板」に書き込んでもらいます。

授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

なし/No

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業方針・授業内容の説明
第2回	認知と学習・言語	学習科学 メタ認知 メタ認知的知識 メタ認知的活動 自己調整学習 認知地図 生成文法 認知言語学
第3回	認知と身体	身体認知 身体イメージと身体スキーマ 身体所有感 幻肢 身体化認知 (embodied cognition) 心身問題 心の哲学
第4回	認知と運動・行為	アクションスリップ 行為(運動)主体感 神経生理学 視覚誘導型行為/記憶誘導型行為 運動前野 補足運動野 前頭前野
第5回	認知と感情	情動二要因説 認知的評価理論 コア・アフェクト理論 制御焦点理論 感情の認知的制御 感情ネットワークモデル 認知が感情に及ぼす影響 感情が認知に及ぼす影響
第6回	認知の個人差	知能 知能検査 認知機能検査 認知スタイル ワーキングメモリの個人差 パーソナリティ認知 パーソナリティ障害における自己像・他者像・否定的信念
第7回	認知と社会	社会的認知 自己認知 態度 対人認知 印象形成 属性推論 帰属過程 社会的推論 ステレオタイプ メディア ゲーム理論 ナッジ
第8回	認知の発達	認知発達段階論 視覚認知の発達 記憶と概念形成の発達 言語発達 語彙の獲得 文法能力の獲得・発達 描画の発達 非認知能力 実行機能 認知機能への加齢の影響
第9回	認知と障害	認知神経心理学 高次脳機能障害 失語 失読 失書 失行 実行機能障害 神経発達症(限局性学習症・発達性強調運動症)

第10回	認知と臨床心理学	認知行動療法 認知療法 媒介信念 中核信念 自動思考 メタ認知療法 認知臨床心理学 注意バイアス・記憶バイアス・解釈バイアス メタ認知療法 認知バイアス修正法
第11回	認知と脳神経科学	認知神経科学 脳機能計測技術 ニューロイメージング 認知の生理心理学・精神生理学
第12回	認知と工学・情報科学	認知情報処理 認知工学 ヒューマン・エラー わかりやすさ ユーザーインターフェース ユニバーサルデザイン ヴァーチャル・リアリティ (VR) 拡張現実感 (AR) 人工知能 機械学習 ニューラル・ネットワーク ディープラーニング ロボット ブレイン・マシーン・インターフェース (BMI)
第13回	認知と進化・文化	進化心理学 認知人類学 動物の認知(比較認知科学) 動物のコミュニケーション 認知生態学 文化心理学 文化的自己観
第14回	まとめと解説, 期末課題の提出	授業全体のまとめと解説。期末課題の提出。

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

準備学習として資料にあらかじめ目を通しておくと、授業内容の理解が深まります。

授業後には、資料をもとに復習し、関心をもった点は、授業担当者に質問する、関連する書籍を読むなどをすると、理解がもっと深まります。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト(教科書)】

使用しません。資料を学習支援システムにアップロードします。

【参考書】

各回の内容ごとに、関連する参考図書を紹介しします。

【成績評価の方法と基準】

(各回授業終了後のリアクションの提出状況・内容を含む) 平常点 (50%)、および期末レポート課題 (50%) により評価します。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【その他の重要事項】

「知覚・認知心理学」を履修済みであることを前提とします。「知覚・認知心理学」とあわせての履修を推奨します。

【Outline (in English)】

【Course outline】

In this class, we will take up applied aspects of cognitive psychology that were not covered in "Perceptual and Cognitive Psychology," and developmental themes and topics related to the connection with other psychology or other academic fields (cognitive science) to acquire a broad and applied perspective on human perception and cognitive functions.

【Learning Objectives】

By the end of the course, students are expected to be able to:

- 1) Expand understandings of the mechanisms of human cognition and thought and their disorders.
- 2) Outline the connections between cognitive psychology and other psychologies.
- 3) Outline the connections between cognitive psychology and other disciplines.

【Learning activities outside of classroom】

Reading through the material in advance as preparatory study will help you understand the class content better.

After the class, review the material and ask questions to the class instructor or read related books if you are interested in the material to deepen your understanding.

The standard preparation and review time for this class is two hours each.

【Grading Criteria /Policies】

Evaluation will be based on the status and content of the reaction papers submitted after each class (50%) and the final report assignment (50%).

MAN300JB

NPO論

渡真利 紘一

科目分類・科目群(福祉コミュニティ)：専門教育科目 専門展開科目

配当年次／単位数：2～4 年次／2 単位

備考(履修条件等)：旧「非営利組織の運営」修得者は不可

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的(何を学ぶか)】

「NPO/非営利組織」は単に行政サービスを補完する組織ではなく、新しい未知なる価値を生み出し、市民社会を創造する主体であることを理解し、その実践のための方法を学びます。併せて、NPO の成立した歴史的背景やその社会的役割をはじめ、運営上の課題や他の社会資源(ボランティア、行政、民間企業(CSR)、助成財団など)との関係から、今後の社会のあり方を考えていきます。

【到達目標】

- ・ NPO の社会的意義を理解し、実践の方法について具体的にイメージすることができる
- ・ 自らの関心分野の NPO 活動の考案や授業のなかで気になったテーマに関する研究を通じ、社会との主体的な関わり方、他者との協力の仕方がわかる NPO を論じる過程で、受講者自らが、自分らしく在ること/他者に対して寛容であること/仲間を持つこと/社会と本音で向き合うこと等の重要性を認識する機会につながればと思います。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

授業の前半は、NPO に関する基本的な内容(歴史的背景や社会的意義、運営方法や他の社会資源との関係等)について、映像資料や参考書等を交えて紹介します。後半は、NPO 活動実践者によるゲストスピーチを取り入れ、体験的に実践を把握できる機会をつくるとともに、自らの関心分野の NPO 活動の考案や授業のなかで気になったテーマに関する研究に取り組みます。授業形態は講義を主とします。受講者各々が授業を通じて感じたことや考えたことを言葉にし、共有するなかでの学びも大切にします。各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示します。なお、授業では、リアクションペーパー等を予定しています。リアクションの内容には、講師からもできる限りフィードバックを行います。また、各回の授業で幾つかリアクションを取り上げる等により、授業内容の一層の理解につなげる予定です。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション/NPO のイメージ	NPO のイメージや昨今の社会情勢を共有し、本講義の目的や目標、進め方を受講生と決定する。
第 2 回	NPO の活動分野	映像資料等を活用しながら、NPO の活動分野について知る。
第 3 回	NPO の歴史的背景と社会的意義	非営利活動の歴史的背景や NPO 法設立経緯等から、NPO の文脈を辿るとともに、行政や企業と比較し、NPO の社会的意義について考える。
第 4 回	NPO の組織運営と他の社会資源との関係	NPO 組織の立ち上げや運営方法について基本的な内容を理解するとともに、他の社会資源(ボランティア、行政、民間企業(CSR)、助成財団など)との関係について把握する。
第 5 回	関心分野における NPO 活動の考案	受講者自らの関心分野における地域社会の現状や NPO 活動を調査し、自らが活動を実施すると仮定して活動計画書を作成する。
第 6 回	NPO の活動事例紹介 1 「ゼロカーボン、コンポスト等、持続可能な地域循環づくりの実践」(予定)	NPO 活動に携わる者(ゲスト)から、NPO の具体的な実践事例を学ぶ。
第 7 回	NPO の活動事例紹介 2 「スポーツやアートを通じた居場所をつくる実践」(予定)	NPO 活動に携わる者(ゲスト)から、NPO の具体的な実践事例を学ぶ。
第 8 回	NPO の活動事例紹介 3 「子どもを真ん中につながり、ともに生きる実践」(予定)	NPO 活動に携わる者(ゲスト)から、NPO の具体的な実践事例を学ぶ。
第 9 回	NPO に関する自由研究 企画書の作成	個人又はグループ毎に NPO に関連するテーマを定め、自由研究の予定を立てる。

第 10 回	実践から考えるシリーズ 「仲間と行動する」	コミュニティ・オーガナイズンや協力のテクノロジー等を取り上げ、仲間とともに行動する方法について考察する。
第 11 回	実践から考えるシリーズ 「資金を調達する」	クラウドファンディングや会費による基金創設、助成金申請など、NPO の多様な財源確保策を取り上げ、各手段の特徴や資金調達の際に配慮すべきことについて考察する。
第 12 回	NPO に関する自由研究 発表会 1	第 8 回授業で作成した企画書をもとに、個人又はグループ毎に自由研究の発表を行う。
第 13 回	NPO に関する自由研究 発表会 2	第 8 回授業で作成した企画書をもとに、個人又はグループ毎に自由研究の発表を行う。
第 14 回	最終講義「これからの市民社会とわたしたち」	授業の振り返りやまとめを行うとともに、これからの社会を生きる私たちにとって大切な観点とは何か、議論する。

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

授業の振り返りの時間を大切にしてください。振り返りには、リアクションペーパーや講師から受講者へ共有されたフィードバック等の時間を活かしてください。

また、授業で気になったキーワードや考え方について本やネット、新聞記事や映画等から更なる情報をインプットしたり、学んだ内容を周囲に話す等、言葉によるアウトプットを心がけ、自らの「観」を養っていくことを期待します。コロナの状況次第となりますが、授業で紹介した NPO の主催するイベントへ参加したり、NPO 活動にボランティア等を通じて主体的に関わることも推奨します。本授業の準備・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト(教科書)】

必要に応じて適宜紹介します。

【参考書】

必要に応じて適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

(1) 平常点(出席・リアクション) 50 点、(2) 中間レポート(NPO 活動計画書) 10 点、(3) 期末試験(自由研究企画書及び発表) 40 点。

平常点については、授業ごとのリアクションペーパーによって評価・採点します。また、優れたものについては加点を行います。

- ・ NPO を論じることで社会の捉え方がどのくらい多様になったか
- ・ 受講者自らの関心分野の活動や研究テーマにどのくらい主体的に理解を深める関わりができたか
- ・ クラスメイトが関心分野への理解を深めることにどのくらい協力して取り組めたか

(注) 実習や就職活動、部活動や健康上の理由などで授業への出席があまりできない人は、出来るだけ早く教員に知らせてください。

【学生の意見等からの気づき】

- ・ 受講者同士のリアクションの共有や講師からのフィードバックの時間を増やします。
- ・ 授業内容の理解の手助けとなる書籍や映像、記事等を紹介します。
- ・ NPO 活動の企画立案を具体的に検討する内容や実践から NPO 活動を考察する内容の充実を図ります。

【学生が準備すべき機器他】

なし

(注) オンラインでの実施となった場合は、パソコン又はタブレット、スマートフォンと wifi が必要です。

【その他の重要事項】

授業計画の内容は、社会情勢や授業の展開によって、変更があり得ることを申し添えます。

【Outline (in English)】

NPO(Non Profit Organization is not just organizations to cover government services, but it provides new values and creates civil societies proactively.

Throughout the class, we understand methods of cooperation with NPOs and the future of our society learning historical background of its establishment, its social roles, operational challenges and relations of other social resources such as volunteers, public administrations, CSRs and grant making foundations.

The goals of this course are to “To understand Social significance of Non Profit Organization”.

By the end of the course, students should be able to do the followings:

- Being yourself.
- Being tolerant of others.
- Facing society in earnest.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on the following Term-end examination: 40%, Short reports: 10%, in class contribution: 50%

SOW200JB

ケアマネジメント論

柴崎 祐美

科目分類・科目群(福祉コミュニティ)：専門教育科目 専門基幹科目

配当年次／単位数：2～4 年次／2 単位

その他属性：〈優〉〈実〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ケアマネジメント概念を国際的な視点から理解し、わが国におけるケアマネジメントの実態とその課題について学習します。

【到達目標】

・ケアマネジメントの定義や構造、機能を理解し、説明することができる。
 ・介護保険制度におけるケアマネジメントの具体的なプロセスを説明、展開することができる。
 ・児童福祉、障害者福祉分野等、さまざまな対象や場面で展開されるケアマネジメントの特性を説明することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」と「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

講義を主体としつつ、適宜、映像教材の視聴、演習、グループディスカッションを実施します。

授業の始めに前回のリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス、ケアマネジメントの背景	授業の進め方と評価方法、ケアマネジメントの背景の説明
第2回	ケアマネジメントの概念および定義	国際的な概念の理解、日本における定義の理解
第3回	ケアマネジメントの構造、機能	ケアマネジメントの構成要素と機能の概略の理解
第4回	ケアマネジメントの過程	ケアマネジメントの過程の理解
第5回	自立支援	自立の捉え方、エンパワメント、ストレングスマデルの理解
第6回	ニーズの把握と目標設定	生活ニーズとサービスニーズの構造を整理し、社会資源に結びつける過程を検討
第7回	ケアマネジメントにおける家族の位置づけ	社会資源及び支援対象者としての家族の位置づけの確認。介護負担軽減への支援方法の検討
第8回	地域包括ケアシステムとケアマネジメント	地域包括ケアシステムにおけるケアマネジメントの位置、コミュニティワークとの関係
第9回	介護保険制度とケアマネジメント①	認知症高齢者のケアマネジメントに関する事例検討、演習
第10回	介護保険制度とケアマネジメント②	介護予防ケアマネジメントと地域支援事業に関する事例検討、演習
第11回	介護保険制度とケアマネジメント③	高齢障害者のケアマネジメントの連続性、相談支援専門員との連携に着目した事例検討、演習
第12回	児童福祉とケアマネジメント	医療的ケアを要する児童の地域生活支援の事例検討、演習
第13回	ケアマネジメントの価値と倫理	ケアマネジャーの倫理綱領、ケアプラン作成時の倫理的ジレンマ
第14回	試験・まとめと解説	ケアマネジメントの展望

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。
 ・利用者の生活を取り巻く環境、法制度は変化しています。日ごろから新聞記事や文献・雑誌等から関連する情報収集に努めてください。

【テキスト（教科書）】

指定なし。必要に応じてプリントや資料を配布します。

【参考書】

・白澤政和（2018）『ケアマネジメントの本質:生活支援のあり方と実践方法』中央法規出版。
 ・社会福祉士養成テキスト『相談援助の理論と方法Ⅰ、Ⅱ』（出版社は問わない、最新刊を参照することが望ましい）

【成績評価の方法と基準】

平常点（¹）アクションペーパー等）30%、小レポート（ケアプラン作成演習）20%、筆記試験 50%

【学生の意見等からの気づき】

各回のリアクションペーパーを参考に、授業の内容等を適宜修正しながら進めます。

【学生が準備すべき機器他】

授業に関する連絡、課題提出は「学習支援システム」を通じて行います。

【Outline (in English)】

【Course outline】 The aim of this course is to help students acquire understand the concept of care management from international perspective and learn about the actual condition and issues of care management in Japan

【Learning Objectives】 By the end of the course, students should be able to do the followings:

- Explain the definition, structure, and function of care management.
- Explain and implement the process of care management in long-term care insurance.
- Explain the characteristics of care management implemented in welfare for children, the person with disabilities, etc.

【Learning activities outside of classroom】 Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content

【Grading Criteria /Policy】 Your overall grade in the class will be decided based on the following Term-end examination: 50%、Short reports : 20%、in class contribution: 30%

CUM300JB

文化環境創造論

須田 英一

科目分類・科目群(福祉コミュニティ)：専門教育科目 専門展開科目

配当年次／単位数：2～4 年次／2 単位

備考(履修条件等)：2019 年度以前入学者のみ受講可。

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的(何を学ぶか)】

Well-being(健康で幸福な暮らし)を実現するうえで重要な、豊かな文化環境を創造するための基礎的な知識や方法について幅広く解説します。

【到達目標】

文化環境創造に関わる法、文化遺産の保存・活用などの基礎的な知識をはじめ、文化環境創造に向けた能力を身につけます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」と「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

文化環境とは何か、地域社会(コミュニティ)の中に歴史的文化環境を創造し継承していく環境を構築し、維持していくためのシステムや手法などについて、海外や日本国内で取り組まれている実践例などを映像や画像などにより紹介します。なお、授業の展開によって、授業テーマに若干の変更があり得ます。講義形式の授業形態です。

授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

なし/No

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業のガイダンス、評価の方法、関連映像
第 2 回	文化環境の概念(1)	文化環境とは何か
第 3 回	文化環境の概念(2)	Well-being と文化環境との関わり
第 4 回	世界における文化環境創造の取り組み(1)	世界遺産条約と文化環境の保存
第 5 回	世界における文化環境創造の取り組み(2)	ナショナル・トラストと文化環境
第 6 回	世界における文化環境創造の取り組み(3)	フランスの野外博物館活動と文化環境
第 7 回	日本における文化環境創造の取り組み(1)	文化環境創造の仕組み
第 8 回	日本における文化環境創造の取り組み(2)	伝統的建造物群の保存・活用
第 9 回	日本における文化環境創造の取り組み(3)	史跡の保存・活用
第 10 回	日本における文化環境創造の取り組み(4)	近代の文化遺産の保存・活用
第 11 回	日本における文化環境創造の取り組み(5)	自治体条例と文化環境創造事業
第 12 回	日本における文化環境創造の取り組み(6)	文化環境創造と文化財支援団体
第 13 回	日本における文化環境創造の取り組み(7)	日本遺産事業
第 14 回	まとめ	課題レポートのフィードバックとまとめ

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

自分の住む地域で、歴史的文化環境の創造のために実施されている事業や試みに目を向けてみましょう。また、博物館や美術館の展覧会にも是非行ってみましょう。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト(教科書)】

馬場憲一『Well-being と文化環境』(生協で販売)

【参考書】

馬場憲一『地域文化政策の新視点-文化遺産保護から伝統文化の継承へ-』(雄山閣、3000 円)。その他については、必要に応じて講義の中で適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

①成績評価方法

・平常点:毎回リアクションペーパーの提出を求めます。
 ・試験方法:中間に 1 回と期末に課題レポート提出。
 ・評価方法:平常点(リアクションペーパー) 40%、課題レポート 60%により総合的に評価します。2 種類の課題レポート提出は単位の修得に不可欠とします。

②評価基準

・平常点:授業態度、学習への意欲、リアクションペーパーの内容によって評価します。

・レポート:課題に適切に答え、現地を訪れるなど積極的に取り組んだものであるかどうかを評価対象とします。

【学生の意見等からの気づき】

質疑応答を積極的に行い、双方向での授業運営を図ります。

【その他の重要事項】

地方自治体での文化財調査・実務経験、大学文化財調査機関での調査・研究経験を活かして、実際の経験にも重きを置きながら授業を展開したいと思えます。

【Outline (in English)】

This lecture explain broadly the basic knowledge and method for creating a rich cultural environment which is important for realizing Well-being Society. The goals of this course are to acquire the ability to create a cultural environment, such as the law related to the creation of a cultural environment and basic knowledge such as the preservation and utilization of cultural heritage. Students should look at the projects and attempts being made to create a historic and cultural environment in their area. Also, be sure to visit museums and museum exhibitions. Your study time will be more than four hours for a class. Final grade will be calculated according to the following process Mid-term report, term end report (70%) ,and in-class contribution (30%) .

PRI100LA

情報処理演習 I

2017 年度以降入学者

吉岡 卓

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 1/Mon.1

単位数：2 単位

この授業は「Web 履修抽選対象授業」です。抽選エントリー期間は 2023 年 4 月 3 日（月）10：00～5 日（水）17：00、結果発表は 4 月 6 日（木）22：00（予定）です。履修ガイド (<https://hosei-keiji.jp/ilac/rishuguide2023/>) を確認のうえ、情報システムから期間内にエントリーしてください。

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業のねらいは、様々な情報の中から自分に必要な情報を取得し自分なりの表現へと加工して発信する力を身につけることです。また、高校の科目「情報」の取り組みが学校によって異なるため、不足分を補充し、さらに情報科学の理論へと導いていきます。

【到達目標】

本科目では、主に Word（ワープロソフト）の操作方法を学びます。一般的な文章だけでなく、図表を入れた文章や長文を自由に書けるようになります。具体的には、文字装飾・図表の挿入・ページスタイル一段組み・脚注・図表番号・文献登録・テンプレート・差し込み印刷などが身に付きます。

授業では Word を使用する際のテクニカルな面を講義しますが、本科目の目標はあくまでも「自らが主張したい事（Word の様々な機能を用いて）表現する」という事です。例えば課題が出されたときに、単に基準を満たすものを提出するだけでなく、自分なりに Word の機能を試行錯誤して楽しんでもらう事でコンピュータの操作に慣れてもらいます。

また、簡単なプログラムを通して、論理的に思考する事を身につけてもらいます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

本科目は対面授業を基本とします。毎回 1 人 1 台コンピュータを使って実習を行います。そのため、学内パソコンにログインする際の ID とパスワード（統合認証 ID 等）を必ず確認しておいてください。

初心者を前提として、タイプ練習、日本語入力、ワープロソフトなどを実習していきます。また、コンピュータの基礎知識や情報倫理、情報科学の理論についても学びます。

課題のフィードバックは授業中に行います。また授業資料・課題等は Hoppii 上にてお知らせします。詳細は初回授業時に告知しますので、初回授業は必ず出席してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 01 回	計算機利用における基礎知識の確認	パソコンの起動と終了、ウインドウ操作、ネチケットなど、パソコン操作のための導入とメールの送受信
第 02 回	文字入力・ページレイアウト	Microsoft Word を用いた文字入力とページスタイルの設定を行う
第 03 回	文字の装飾	Microsoft Word を用いて文字飾りなどの装飾を行う
第 04 回	箇条書きとインデント	Microsoft Word を用いて箇条書きやインデント設定を行う

第 05 回	表の作成・挿入	Microsoft Word を用いて表を作成する
第 06 回	図・図形の挿入	Microsoft Word を用いて図の挿入を行う
第 07 回	段組み・数式入力	Microsoft Word を用いて段組み・数式の挿入を行う
第 08 回	テンプレートの利用	Microsoft Word のテンプレートを作成・利用する。
第 09 回	長文作成	Microsoft Word で長文作成する時の様々な補助機能を利用する
第 10 回	差し込み印刷	Microsoft Word の差し込み印刷機能を利用する。
第 11 回	グラフの挿入	Microsoft Word を用いてグラフの挿入を行う。Microsoft Excel との連動を行う事で、情報処理演習 2 の内容につなげる。
第 12 回	Processing を用いた簡単なプログラム（基礎）	コンピュータアニメーションの仕組みを、Processing を使ってプログラミングし、学習する
第 13 回	Processing を用いた簡単なプログラム（応用）	プログラミングにおける動作フローの組み方を学習し、自分なりのアニメーションプログラムを作成する
第 14 回	FreeMat を用いて音の作成（プログラム）	簡単なプログラムを通して、様々な音をコンピュータで作成し、その特徴を科学的に検証する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

第 1 回の授業の前に、教室内の端末にログインするための ID（統合認証アカウント）とパスワードを確認しておく。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

実習 情報リテラシ [第 3 版]、重定如彦・河内谷幸子 共著、サイエンス社、1980 円

【参考書】

適時指示。なお、講義で使用したスライドは授業支援システム Hoppii にアップします。

【成績評価の方法と基準】

平常点（20%）、レポート課題（80%）を総合して評価します。特に課題が出た時は必ず指定の方法で提出し、期限を守る事。3～4 回ほどを予定。

【学生の意見等からの気づき】

パソコンに慣れている人と慣れていない人が混在するため、出来るだけどちらにも興味をもってもらえるよう、授業スピードや内容に心がけるつもりです。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムを利用します。履修決定後、参照できることを各自確認してください。

【その他の重要事項】

上記【授業の進め方と方法】を良く読み、初回授業は必ず出席すること。

出席が不可能な場合は、授業支援システムから連絡すること。

【Outline (in English)】

This is an introductory Information Processing course, covering prerequisite knowledge and skills to acquire necessary information from various information and process it to my own expressions.

It covers computer hardware and software fundamentals, programming and key productivity application Word with Microsoft Office 2016.

Students will develop basic computer skills to aid them with college studies and workforce readiness.

Basic keyboarding skills are strongly recommended.

PRI200LA

情報処理演習Ⅱ

2017年度以降入学者

吉岡 卓

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 1/Mon.1

単位数：2 単位

この授業は「Web 履修抽選対象授業」です。抽選エントリー期間は 2023 年 4 月 3 日（月）10：00～5 日（水）17：00、結果発表は 4 月 6 日（木）22：00（予定）です。履修ガイド (<https://hosei-keiji.jp/ilac/rishuguide2023/>) を確認のうえ、情報システムから期間内にエントリーしてください。

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業のねらいは、自分の持つ情報のよりよい表現方法を学ぶことです。また、将来的に新種のソフトが普及しても積極的に取り組む姿勢を身につけることも目標とします。

【到達目標】

本科目では、主に Excel2010（表計算ソフト）と PowerPoint2010（プレゼンテーションソフト）の操作方法を学びます。基本的な操作方は情報処理演習Ⅰで学んだ Word と同様なので、特に本授業では、表の作成と簡単な計算・オートフィル・関数の利用・最適化問題を解く・プレゼンテーション資料の作成・発表方法などが身に付きます。

授業では Excel と PowerPoint を使用する際のテクニカルな面を講義しますが、本科目の目標はあくまでも「計算式を書く」事と「自らの主張をプレゼンテーションにつなげる」事です。なお、前者では、数学的な思考はあまり必要ありません。数式を解くのではなく、数式を立てるほうを重要視しますので、論理的な思考が身に付きます。後者では、プレゼンテーション資料を作る際の様々なルール（一般的な文字数や図表の規則など）が身に付きます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

本科目は対面授業を基本とします。毎回 1 人 1 台コンピュータを使って実習を行います。そのため、学内パソコンにログインする際の ID とパスワード（統合認証 ID 等）を必ず確認しておいてください。

初心者を前提として、表計算ソフト、プレゼンテーションソフト、その他の応用ソフトの使い方などを実習します。また、ホームページ作成の初歩、情報倫理や情報理論についての考え方を深めます。課題のフィードバックは授業中に行います。また授業資料・課題等は Hoppii 上にてお知らせします。詳細は初回授業時に告知しますので、初回授業は必ず出席してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 01 回	Excel 導入	セルの挿入・結合・装飾などを通して、Microsoft Excel の利用方法を学習する
第 02 回	関数の利用	Microsoft Excel の自動計算機能を用いる
第 03 回	関数の応用	Microsoft Excel の様々な関数を利用する
第 04 回	詳細な表示形式の変更	Microsoft Excel の条件付き書式を利用する
第 05 回	非線形な問題を解く	Microsoft Excel のソルバーやゴールシーク機能を用いて非線形な問題を解く

第 06 回	条件分岐に関する関数を用いる	Microsoft Excel の IF 関数などを用いる事で、論理的思考をやしなう
第 07 回	Power Point 導入	Microsoft PowerPoint の基本操作や箇条書き・スライド装飾について学習する
第 08 回	図表の挿入・アニメーション設定	Microsoft PowerPoint の図表利用やアニメーションの設定により、視覚的効果の得られるスライド作成を目標とする
第 09 回	動画の挿入・拡張子	Microsoft PowerPoint に動画を挿入する場合の注意や、Windows における拡張子の扱いについて学習する
第 10 回	マイテンプレート	Microsoft PowerPoint で、自分なりのテンプレートを作成し、特色あるスライド作成を目標とする
第 11 回	スライドの作成	Microsoft PowerPoint を用いて個別にスライドを作成し、情報発信能力の向上を目標とする
第 12 回	スライドの発表	第 11 回で作成したスライドを発表する。自らの主張を効果的に伝える手法を学習する
第 13 回	スライド発表時の諸注意と応用	第 11 回で作成したスライドをもとに、プレゼンテーションの注意点やスライド作成の応用例を概観する
第 14 回	ネットワークの基礎	サーバ・クライアントの関係を概観し、コンピュータネットワークに関する理解を深める

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

第 1 回の授業の前に、ログイン ID とパスワードを確認しておくこと。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

実習 情報リテラシ [第 3 版]、重定如彦・河内谷幸子 共著、サイエンス社、1980 年

【参考書】

適時指示。なお、講義で使用したスライドは授業支援システム Hoppii にアップします。

【成績評価の方法と基準】

平常点 (20%)、レポート課題 (80%) を総合して評価します。特に課題が出た時は必ず指定の方法で提出し、期限を守る事。3~4 回ほどを予定。

【学生の意見等からの気づき】

パソコンに慣れていない人と慣れていない人が混在するため、出来るだけどちらにも興味をもってもらえるよう、授業スピードや内容に心がけるつもりです。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムを利用します。履修決定後、参照できることを各自確認してください。

【その他の重要事項】

「情報処理演習Ⅰ」履修者または同等の基礎力を持つ者を対象とします。

上記【授業の進め方と方法】を良く読み、初回授業は必ず出席すること。

出席が不可能な場合は、授業支援システムから連絡すること。

【Outline (in English)】

This is an introductory Information Processing course. It covers key productivity software Excel and Powerpoint with Microsoft Office 2013.

In this course, I will show you what we need to use Excel is not to solve mathematical expressions, but to make mathematical expressions.

That is, you will able to acquire logical thinking.

And also, with PowerPoint, you can easily create slideshow.

Basic keyboarding skills are strongly recommended.

PRI100LA

情報処理演習 I

2017 年度以降入学者

吉岡 卓

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 2/Mon.2

単位数：2 単位

この授業は「Web 履修抽選対象授業」です。抽選エントリー期間は 2023 年 4 月 3 日（月）10：00～5 日（水）17：00、結果発表は 4 月 6 日（木）22：00（予定）です。履修ガイド (<https://hosei-keiji.jp/ilac/rishuguide2023/>) を確認のうえ、情報システムから期間内にエントリーしてください。

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業のねらいは、様々な情報の中から自分に必要な情報を取得し自分なりの表現へと加工して発信する力を身につけることです。また、高校の科目「情報」の取り組みが学校によって異なるため、不足分を補充し、さらに情報科学の理論へと導いていきます。

【到達目標】

本科目では、主に Word（ワープロソフト）の操作方法を学びます。一般的な文章だけでなく、図表を入れた文章や長文を自由に書けるようになります。具体的には、文字装飾・図表の挿入・ページスタイル一段組み・脚注・図表番号・文献登録・テンプレート・差し込み印刷などが身に付きます。

授業では Word を使用する際のテクニカルな面を講義しますが、本科目の目標はあくまでも「自らが主張したい事（Word の様々な機能を用いて）表現する」という事です。例えば課題が出されたときに、単に基準を満たすものを提出するだけでなく、自分なりに Word の機能を試行錯誤して楽しんでもらう事でコンピュータの操作に慣れてもらいます。

また、簡単なプログラムを通して、論理的に思考する事を身につけてもらいます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

本科目は対面授業を基本とします。毎回 1 人 1 台コンピュータを使って実習を行います。そのため、学内パソコンにログインする際の ID とパスワード（統合認証 ID 等）を必ず確認しておいてください。

初心者を前提として、タイプ練習、日本語入力、ワープロソフトなどを実習していきます。また、コンピュータの基礎知識や情報倫理、情報科学の理論についても学びます。

課題のフィードバックは授業中に行います。また授業資料・課題等は Hoppii 上にてお知らせします。詳細は初回授業時に告知しますので、初回授業は必ず出席してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 01 回	計算機利用における基礎知識の確認	パソコンの起動と終了、ウィンドウ操作、ネチケットなど、パソコン操作のための導入とメールの送受信
第 02 回	文字入力・ページレイアウト	Microsoft Word を用いた文字入力とページスタイルの設定を行う
第 03 回	文字の装飾	Microsoft Word を用いて文字飾りなどの装飾を行う
第 04 回	箇条書きとインデント	Microsoft Word を用いて箇条書きやインデント設定を行う

第 05 回	表の作成・挿入	Microsoft Word を用いて表を作成する
第 06 回	図・図形の挿入	Microsoft Word を用いて図の挿入を行う
第 07 回	段組み・数式入力	Microsoft Word を用いて段組み・数式の挿入を行う
第 08 回	テンプレートの利用	Microsoft Word のテンプレートを作成・利用する。
第 09 回	長文作成	Microsoft Word で長文作成する時の様々な補助機能を利用する
第 10 回	差し込み印刷	Microsoft Word の差し込み印刷機能を利用する。
第 11 回	グラフの挿入	Microsoft Word を用いてグラフの挿入を行う。Microsoft Excel との連動を行う事で、情報処理演習 2 の内容につなげる。
第 12 回	Processing を用いた簡単なプログラム（基礎）	コンピュータアニメーションの仕組みを、Processing を使ってプログラミングし、学習する
第 13 回	Processing を用いた簡単なプログラム（応用）	プログラミングにおける動作フローの組み方を学習し、自分なりのアニメーションプログラムを作成する
第 14 回	FreeMat を用いて音の作成（プログラム）	簡単なプログラムを通して、様々な音をコンピュータで作成し、その特徴を科学的に検証する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

第 1 回の授業の前に、教室内の端末にログインするための ID（統合認証アカウント）とパスワードを確認しておく。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

実習 情報リテラシ [第 3 版]、重定如彦・河内谷幸子 共著、サイエンス社、1980 円

【参考書】

適時指示。なお、講義で使用したスライドは授業支援システム Hoppii にアップします。

【成績評価の方法と基準】

平常点（20%）、レポート課題（80%）を総合して評価します。特に課題が出た時は必ず指定の方法で提出し、期限を守る事。3～4 回ほどを予定。

【学生の意見等からの気づき】

パソコンに慣れている人と慣れていない人が混在するため、出来るだけどちらにも興味をもってもらえるよう、授業スピードや内容に心がけるつもりです。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムを利用します。履修決定後、参照できることを各自確認してください。

【その他の重要事項】

上記【授業の進め方と方法】を良く読み、初回授業は必ず出席すること。

出席が不可能な場合は、授業支援システムから連絡すること。

【Outline (in English)】

This is an introductory Information Processing course, covering prerequisite knowledge and skills to acquire necessary information from various information and process it to my own expressions.

It covers computer hardware and software fundamentals, programming and key productivity application Word with Microsoft Office 2016.

Students will develop basic computer skills to aid them with college studies and workforce readiness.

Basic keyboarding skills are strongly recommended.

PRI200LA

情報処理演習Ⅱ

2017年度以降入学者

吉岡 卓

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 2/Mon.2

単位数：2 単位

この授業は「Web 履修抽選対象授業」です。抽選エントリー期間は 2023 年 4 月 3 日（月）10：00～5 日（水）17：00、結果発表は 4 月 6 日（木）22：00（予定）です。履修ガイド (<https://hosei-keiji.jp/ilac/rishuguide2023/>) を確認のうえ、情報システムから期間内にエントリーしてください。

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業のねらいは、自分の持つ情報のよりよい表現方法を学ぶことです。また、将来的に新種のソフトが普及しても積極的に取り組む姿勢を身につけることも目標とします。

【到達目標】

本科目では、主に Excel2010（表計算ソフト）と PowerPoint2010（プレゼンテーションソフト）の操作方法を学びます。基本的な操作方は情報処理演習Ⅰで学んだ Word と同様なので、特に本授業では、表の作成と簡単な計算・オートフィル・関数の利用・最適化問題を解く・プレゼンテーション資料の作成・発表方法などが身に付きます。

授業では Excel と PowerPoint を使用する際のテクニカルな面を講義しますが、本科目の目標はあくまでも「計算式を書く」事と「自らの主張をプレゼンテーションにつなげる」事です。なお、前者では、数学的な思考はあまり必要ありません。数式を解くのではなく、数式を立てるほうを重要視しますので、論理的な思考が身に付きます。後者では、プレゼンテーション資料を作る際の様々なルール（一般的な文字数や図表の規則など）が身に付きます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

本科目は対面授業を基本とします。毎回 1 人 1 台コンピュータを使って実習を行います。そのため、学内パソコンにログインする際の ID とパスワード（統合認証 ID 等）を必ず確認しておいてください。

初心者を前提として、表計算ソフト、プレゼンテーションソフト、その他の応用ソフトの使い方などを実習します。また、ホームページ作成の初歩、情報倫理や情報理論についての考え方を深めます。課題のフィードバックは授業中に行います。また授業資料・課題等は Hoppii 上にてお知らせします。詳細は初回授業時に告知しますので、初回授業は必ず出席してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 01 回	Excel 導入	セルの挿入・結合・装飾などを通して、Microsoft Excel の利用方法を学習する
第 02 回	関数の利用	Microsoft Excel の自動計算機能を用いる
第 03 回	関数の応用	Microsoft Excel の様々な関数を利用する
第 04 回	詳細な表示形式の変更	Microsoft Excel の条件付き書式を利用する
第 05 回	非線形な問題を解く	Microsoft Excel のソルバーやゴールシーク機能を用いて非線形な問題を解く

第 06 回	条件分岐に関する関数を用いる	Microsoft Excel の IF 関数などを用いる事で、論理的思考をやしなう
第 07 回	Power Point 導入	Microsoft PowerPoint の基本操作や箇条書き・スライド装飾について学習する
第 08 回	図表の挿入・アニメーション設定	Microsoft PowerPoint の図表利用やアニメーションの設定により、視覚的効果の得られるスライド作成を目標とする
第 09 回	動画の挿入・拡張子	Microsoft PowerPoint に動画を挿入する場合の注意や、Windows における拡張子の扱いについて学習する
第 10 回	マイテンプレート	Microsoft PowerPoint で、自分なりのテンプレートを作成し、特色あるスライド作成を目標とする
第 11 回	スライドの作成	Microsoft PowerPoint を用いて個別にスライドを作成し、情報発信能力の向上を目標とする
第 12 回	スライドの発表	第 11 回で作成したスライドを発表する。自らの主張を効果的に伝える手法を学習する
第 13 回	スライド発表時の諸注意と応用	第 11 回で作成したスライドをもとに、プレゼンテーションの注意点やスライド作成の応用例を概観する
第 14 回	ネットワークの基礎	サーバ・クライアントの関係を概観し、コンピュータネットワークに関する理解を深める

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

第 1 回の授業の前に、ログイン ID とパスワードを確認しておくこと。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

実習 情報リテラシ [第 3 版]、重定如彦・河内谷幸子 共著、サイエンス社、1980 年

【参考書】

適時指示。なお、講義で使用したスライドは授業支援システム Hoppii にアップします。

【成績評価の方法と基準】

平常点 (20%)、レポート課題 (80%) を総合して評価します。特に課題が出た時は必ず指定の方法で提出し、期限を守る事。3~4 回ほどを予定。

【学生の意見等からの気づき】

パソコンに慣れていない人と慣れていない人が混在するため、出来るだけどちらにも興味をもってもらえるよう、授業スピードや内容に心がけるつもりです。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムを利用します。履修決定後、参照できることを各自確認してください。

【その他の重要事項】

「情報処理演習Ⅰ」履修者または同等の基礎力を持つ者を対象とします。上記【授業の進め方と方法】を良く読み、初回授業は必ず出席すること。出席が不可能な場合は、授業支援システムから連絡すること。

【Outline (in English)】

This is an introductory Information Processing course. It covers key productivity software Excel and Powerpoint with Microsoft Office 2013. In this course, I will show you what we need to use Excel is not to solve mathematical expressions, but to make mathematical expressions. That is, you will able to acquire logical thinking. And also, with PowerPoint, you can easily create slideshow. Basic keyboarding skills are strongly recommended.

PRI100LA

情報処理演習 I

2017 年度以降入学者

吉岡 卓

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 3/Mon.3

単位数：2 単位

この授業は「Web 履修抽選対象授業」です。抽選エントリー期間は 2023 年 4 月 3 日（月）10：00～5 日（水）17：00、結果発表は 4 月 6 日（木）22：00（予定）です。履修ガイド (<https://hosei-keiji.jp/ilac/rishuguide2023/>) を確認のうえ、情報システムから期間内にエントリーしてください。

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業のねらいは、様々な情報の中から自分に必要な情報を取得し自分なりの表現へと加工して発信する力を身につけることです。また、高校の科目「情報」の取り組みが学校によって異なるため、不足分を補充し、さらに情報科学の理論へと導いていきます。

【到達目標】

本科目では、主に Word（ワープロソフト）の操作方法を学びます。一般的な文章だけでなく、図表を入れた文章や長文を自由に書けるようになります。具体的には、文字装飾・図表の挿入・ページスタイル一段組み・脚注・図表番号・文献登録・テンプレート・差し込み印刷などが身に付きます。

授業では Word を使用する際のテクニカルな面を講義しますが、本科目の目標はあくまでも「自らが主張したい事（Word の様々な機能を用いて）表現する」という事です。例えば課題が出されたときに、単に基準を満たすものを提出するだけでなく、自分なりに Word の機能を試行錯誤して楽しんでもらう事でコンピュータの操作に慣れてもらいます。

また、簡単なプログラムを通して、論理的に思考する事を身につけてもらいます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

本科目は対面授業を基本とします。毎回 1 人 1 台コンピュータを使って実習を行います。そのため、学内パソコンにログインする際の ID とパスワード（統合認証 ID 等）を必ず確認しておいてください。

初心者者を前提として、タイプ練習、日本語入力、ワープロソフトなどを実習していきます。また、コンピュータの基礎知識や情報倫理、情報科学の理論についても学びます。

課題のフィードバックは授業中に行います。また授業資料・課題等は Hoppii 上にてお知らせします。詳細は初回授業時に告知しますので、初回授業は必ず出席してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 01 回	計算機利用における基礎知識の確認	パソコンの起動と終了、ウィンドウ操作、ネチケットなど、パソコン操作のための導入とメールの送受信
第 02 回	文字入力・ページレイアウト	Microsoft Word を用いた文字入力とページスタイルの設定を行う
第 03 回	文字の装飾	Microsoft Word を用いて文字飾りなどの装飾を行う
第 04 回	箇条書きとインデント	Microsoft Word を用いて箇条書きやインデント設定を行う

第 05 回	表の作成・挿入	Microsoft Word を用いて表を作成する
第 06 回	図・図形の挿入	Microsoft Word を用いて図の挿入を行う
第 07 回	段組み・数式入力	Microsoft Word を用いて段組み・数式の挿入を行う
第 08 回	テンプレートの利用	Microsoft Word のテンプレートを作成・利用する。
第 09 回	長文作成	Microsoft Word で長文作成する時の様々な補助機能を利用する
第 10 回	差し込み印刷	Microsoft Word の差し込み印刷機能を利用する。
第 11 回	グラフの挿入	Microsoft Word を用いてグラフの挿入を行う。Microsoft Excel との連動を行う事で、情報処理演習 2 の内容につなげる。
第 12 回	Processing を用いた簡単なプログラム（基礎）	コンピュータアニメーションの仕組みを、Processing を使ってプログラミングし、学習する
第 13 回	Processing を用いた簡単なプログラム（応用）	プログラミングにおける動作フローの組み方を学習し、自分なりのアニメーションプログラムを作成する
第 14 回	FreeMat を用いて音の作成（プログラム）	簡単なプログラムを通して、様々な音をコンピュータで作成し、その特徴を科学的に検証する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

第 1 回の授業の前に、教室内の端末にログインするための ID（統合認証アカウント）とパスワードを確認しておく。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

実習 情報リテラシ【第 3 版】、重定如彦・河内谷幸子 共著、サイエンス社、1980 円

【参考書】

適時指示。なお、講義で使用したスライドは授業支援システム Hoppii にアップします。

【成績評価の方法と基準】

平常点（20%）、レポート課題（80%）を総合して評価します。特に課題が出た時は必ず指定の方法で提出し、期限を守る事。3～4 回ほどを予定。

【学生の意見等からの気づき】

パソコンに慣れている人と慣れていない人が混在するため、出来るだけどちらにも興味をもってもらえるよう、授業スピードや内容に心がけるつもりです。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムを利用します。履修決定後、参照できることを各自確認してください。

【その他の重要事項】

上記【授業の進め方と方法】を良く読み、初回授業は必ず出席すること。

出席が不可能な場合は、授業支援システムから連絡すること。

【Outline (in English)】

This is an introductory Information Processing course, covering prerequisite knowledge and skills to acquire necessary information from various information and process it to my own expressions.

It covers computer hardware and software fundamentals, programming and key productivity application Word with Microsoft Office 2016.

Students will develop basic computer skills to aid them with college studies and workforce readiness.

Basic keyboarding skills are strongly recommended.

PRI200LA

情報処理演習Ⅱ

2017年度以降入学者

吉岡 卓

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 3/Mon.3

単位数：2 単位

この授業は「Web 履修抽選対象授業」です。抽選エントリー期間は 2023 年 4 月 3 日（月）10：00～5 日（水）17：00、結果発表は 4 月 6 日（木）22：00（予定）です。履修ガイド (<https://hosei-keiji.jp/ilac/rishuguide2023/>) を確認のうえ、情報システムから期間内にエントリーしてください。

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業のねらいは、自分の持つ情報のよりよい表現方法を学ぶことです。また、将来的に新種のソフトが普及しても積極的に取り組む姿勢を身につけることも目標とします。

【到達目標】

本科目では、主に Excel2010（表計算ソフト）と PowerPoint2010（プレゼンテーションソフト）の操作方法を学びます。基本的な操作方は情報処理演習Ⅰで学んだ Word と同様なので、特に本授業では、表の作成と簡単な計算・オートフィル・関数の利用・最適化問題を解く・プレゼンテーション資料の作成・発表方法などが身に付きます。

授業では Excel と PowerPoint を使用する際のテクニカルな面を講義しますが、本科目の目標はあくまでも「計算式を書く」事と「自らの主張をプレゼンテーションにつなげる」事です。なお、前者では、数学的な思考はあまり必要ありません。数式を解くのではなく、数式を立てるほうを重要視しますので、論理的な思考が身に付きます。後者では、プレゼンテーション資料を作る際の様々なルール（一般的な文字数や図表の規則など）が身に付きます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

本科目は対面授業を基本とします。毎回 1 人 1 台コンピュータを使って実習を行います。そのため、学内パソコンにログインする際の ID とパスワード（統合認証 ID 等）を必ず確認しておいてください。

初心者を前提として、表計算ソフト、プレゼンテーションソフト、その他の応用ソフトの使い方などを実習します。また、ホームページ作成の初歩、情報倫理や情報理論についての考え方を深めます。

課題のフィードバックは授業中に行います。また授業資料・課題等は Hoppii 上にてお知らせします。詳細は初回授業時に告知しますので、初回授業は必ず出席してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 01 回	Excel 導入	セルの挿入・結合・装飾などを通して、Microsoft Excel の利用方法を学習する
第 02 回	関数の利用	Microsoft Excel の自動計算機能を用いる
第 03 回	関数の応用	Microsoft Excel の様々な関数を利用する
第 04 回	詳細な表示形式の変更	Microsoft Excel の条件付き書式を利用する
第 05 回	非線形な問題を解く	Microsoft Excel のソルバーやゴールシーク機能を用いて非線形な問題を解く

第 06 回 条件分岐に関する関数を用いる Microsoft Excel の IF 関数などを用いる事で、論理的思考をやしなう

第 07 回 Power Point 導入 Microsoft PowerPoint の基本操作や箇条書き・スライド装飾について学習する

第 08 回 図表の挿入・アニメーション設定 Microsoft PowerPoint の図表利用やアニメーションの設定により、視覚的効果の得られるスライド作成を目標とする

第 09 回 動画の挿入・拡張子 Microsoft PowerPoint に動画を挿入する場合の注意や、Windows における拡張子の扱いについて学習する

第 10 回 マイテンプレート Microsoft PowerPoint で、自分なりのテンプレートを作成し、特色あるスライド作成を目標とする

第 11 回 スライドの作成 Microsoft PowerPoint を用いて個別にスライドを作成し、情報発信能力の向上を目標とする

第 12 回 スライドの発表 第 11 回で作成したスライドを発表する。自らの主張を効果的に伝える手法を学習する

第 13 回 スライド発表時の諸注意と応用 第 11 回で作成したスライドをもとに、プレゼンテーションの注意点やスライド作成の応用例を概観する

第 14 回 ネットワークの基礎 サーバ・クライアントの関係を概観し、コンピュータネットワークに関する理解を深める

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

第 1 回の授業の前に、ログイン ID とパスワードを確認しておくこと。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

実習 情報リテラシ [第 3 版]、重定如彦・河内谷幸子 共著、サイエンス社、1980 年

【参考書】

適時指示。なお、講義で使用したスライドは授業支援システム Hoppii にアップします。

【成績評価の方法と基準】

平常点 (20%)、レポート課題 (80%) を総合して評価します。特に課題が出た時は必ず指定の方法で提出し、期限を守る事。3~4 回ほどを予定。

【学生の意見等からの気づき】

パソコンに慣れていない人と慣れていない人が混在するため、出来るだけどちらにも興味をもってもらえるよう、授業スピードや内容に心がけるつもりです。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムを利用します。履修決定後、参照できることを各自確認してください。

【その他の重要事項】

「情報処理演習Ⅰ」履修者または同等の基礎力を持つ者を対象とします。

上記【授業の進め方と方法】を良く読み、初回授業は必ず出席すること。

出席が不可能な場合は、授業支援システムから連絡すること。

【Outline (in English)】

This is an introductory Information Processing course. It covers key productivity software Excel and Powerpoint with Microsoft Office 2013.

In this course, I will show you what we need to use Excel is not to solve mathematical expressions, but to make mathematical expressions.

That is, you will able to acquire logical thinking.

And also, with PowerPoint, you can easily create slideshow.

Basic keyboarding skills are strongly recommended.

PRI100LA

情報処理演習 I

2017 年度以降入学者

吉岡 卓

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 4/Mon.4

単位数：2 単位

この授業は「Web 履修抽選対象授業」です。抽選エントリー期間は 2023 年 4 月 3 日（月）10：00～5 日（水）17：00、結果発表は 4 月 6 日（木）22：00（予定）です。履修ガイド (<https://hosei-keiji.jp/ilac/rishuguide2023/>) を確認のうえ、情報システムから期間内にエントリーしてください。

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業のねらいは、様々な情報の中から自分に必要な情報を取得し自分なりの表現へと加工して発信する力を身につけることです。また、高校の科目「情報」の取り組みが学校によって異なるため、不足分を補充し、さらに情報科学の理論へと導いていきます。

【到達目標】

本科目では、主に Word（ワープロソフト）の操作方法を学びます。一般的な文章だけでなく、図表を入れた文章や長文を自由に書けるようになります。具体的には、文字装飾・図表の挿入・ページスタイル一段組み・脚注・図表番号・文献登録・テンプレート・差し込み印刷などが身に付きます。

授業では Word を使用する際のテクニカルな面を講義しますが、本科目の目標はあくまでも「自らが主張したい事（Word の様々な機能を用いて）表現する」という事です。例えば課題が出されたときに、単に基準を満たすものを提出するだけでなく、自分なりに Word の機能を試行錯誤して楽しんでもらう事でコンピュータの操作に慣れてもらいます。

また、簡単なプログラムを通して、論理的に思考する事を身につけてもらいます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

本科目は対面授業を基本とします。毎回 1 人 1 台コンピュータを使って実習を行います。そのため、学内パソコンにログインする際の ID とパスワード（統合認証 ID 等）を必ず確認しておいてください。

初心者者を前提として、タイプ練習、日本語入力、ワープロソフトなどを実習していきます。また、コンピュータの基礎知識や情報倫理、情報科学の理論についても学びます。

課題のフィードバックは授業中に行います。また授業資料・課題等は Hoppii 上にてお知らせします。詳細は初回授業時に告知しますので、初回授業は必ず出席してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 01 回	計算機利用における基礎知識の確認	パソコンの起動と終了、ウィンドウ操作、ネチケットなど、パソコン操作のための導入とメールの送受信
第 02 回	文字入力・ページレイアウト	Microsoft Word を用いた文字入力とページスタイルの設定を行う
第 03 回	文字の装飾	Microsoft Word を用いて文字飾りなどの装飾を行う
第 04 回	箇条書きとインデント	Microsoft Word を用いて箇条書きやインデント設定を行う

第 05 回	表の作成・挿入	Microsoft Word を用いて表を作成する
第 06 回	図・図形の挿入	Microsoft Word を用いて図の挿入を行う
第 07 回	段組み・数式入力	Microsoft Word を用いて段組み・数式の挿入を行う
第 08 回	テンプレートの利用	Microsoft Word のテンプレートを作成・利用する。
第 09 回	長文作成	Microsoft Word で長文作成する時の様々な補助機能を利用する
第 10 回	差し込み印刷	Microsoft Word の差し込み印刷機能を利用する。
第 11 回	グラフの挿入	Microsoft Word を用いてグラフの挿入を行う。Microsoft Excel との連動を行う事で、情報処理演習 2 の内容につなげる。
第 12 回	Processing を用いた簡単なプログラム（基礎）	コンピュータアニメーションの仕組みを、Processing を使ってプログラミングし、学習する
第 13 回	Processing を用いた簡単なプログラム（応用）	プログラミングにおける動作フローの組み方を学習し、自分なりのアニメーションプログラムを作成する
第 14 回	FreeMat を用いて音の作成（プログラム）	簡単なプログラムを通して、様々な音をコンピュータで作成し、その特徴を科学的に検証する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

第 1 回の授業の前に、教室内の端末にログインするための ID（統合認証アカウント）とパスワードを確認しておく。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

実習 情報リテラシ [第 3 版]、重定如彦・河内谷幸子 共著、サイエンス社、1980 円

【参考書】

適時指示。なお、講義で使用したスライドは授業支援システム Hoppii にアップします。

【成績評価の方法と基準】

平常点（20%）、レポート課題（80%）を総合して評価します。特に課題が出た時は必ず指定の方法で提出し、期限を守る事。3～4 回ほどを予定。

【学生の意見等からの気づき】

パソコンに慣れている人と慣れていない人が混在するため、出来るだけどちらにも興味をもってもらえるよう、授業スピードや内容に心がけるつもりです。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムを利用します。履修決定後、参照できることを各自確認してください。

【その他の重要事項】

上記【授業の進め方と方法】を良く読み、初回授業は必ず出席すること。

出席が不可能な場合は、授業支援システムから連絡すること。

【Outline (in English)】

This is an introductory Information Processing course, covering prerequisite knowledge and skills to acquire necessary information from various information and process it to my own expressions.

It covers computer hardware and software fundamentals, programming and key productivity application Word with Microsoft Office 2016.

Students will develop basic computer skills to aid them with college studies and workforce readiness.

Basic keyboarding skills are strongly recommended.

PRI200LA

情報処理演習Ⅱ

2017年度以降入学者

吉岡 卓

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 4/Mon.4

単位数：2 単位

この授業は「Web 履修抽選対象授業」です。抽選エントリー期間は 2023 年 4 月 3 日（月）10：00～5 日（水）17：00、結果発表は 4 月 6 日（木）22：00（予定）です。履修ガイド (<https://hosei-keiji.jp/ilac/rishuguide2023/>) を確認のうえ、情報システムから期間内にエントリーしてください。

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業のねらいは、自分の持つ情報のよりよい表現方法を学ぶことです。また、将来的に新種のソフトが普及しても積極的に取り組む姿勢を身につけることも目標とします。

【到達目標】

本科目では、主に Excel2010（表計算ソフト）と PowerPoint2010（プレゼンテーションソフト）の操作方法を学びます。基本的な操作方は情報処理演習Ⅰで学んだ Word と同様なので、特に本授業では、表の作成と簡単な計算・オートフィル・関数の利用・最適化問題を解く・プレゼンテーション資料の作成・発表方法などが身に付きます。

授業では Excel と PowerPoint を使用する際のテクニカルな面を講義しますが、本科目の目標はあくまでも「計算式を書く」事と「自らの主張をプレゼンテーションにつなげる」事です。なお、前者では、数学的な思考はあまり必要ありません。数式を解くのではなく、数式を立てるほうを重要視しますので、論理的な思考が身に付きます。後者では、プレゼンテーション資料を作る際の様々なルール（一般的な文字数や図表の規則など）が身に付きます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

本科目は対面授業を基本とします。毎回 1 人 1 台コンピュータを使って実習を行います。そのため、学内パソコンにログインする際の ID とパスワード（統合認証 ID 等）を必ず確認しておいてください。

初心者を前提として、表計算ソフト、プレゼンテーションソフト、その他の応用ソフトの使い方などを実習します。また、ホームページ作成の初歩、情報倫理や情報理論についての考え方を深めます。課題のフィードバックは授業中に行います。また授業資料・課題等は Hoppii 上にてお知らせします。詳細は初回授業時に告知しますので、初回授業は必ず出席してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 01 回	Excel 導入	セルの挿入・結合・装飾などを通して、Microsoft Excel の利用方法を学習する
第 02 回	関数の利用	Microsoft Excel の自動計算機能を用いる
第 03 回	関数の応用	Microsoft Excel の様々な関数を利用する
第 04 回	詳細な表示形式の変更	Microsoft Excel の条件付き書式を利用する
第 05 回	非線形な問題を解く	Microsoft Excel のソルバーやゴールシーク機能を用いて非線形な問題を解く

第 06 回	条件分岐に関する関数を用いる	Microsoft Excel の IF 関数などを用いる事で、論理的思考をやしなう
第 07 回	Power Point 導入	Microsoft PowerPoint の基本操作や箇条書き・スライド装飾について学習する
第 08 回	図表の挿入・アニメーション設定	Microsoft PowerPoint の図表利用やアニメーションの設定により、視覚的效果の得られるスライド作成を目標とする
第 09 回	動画の挿入・拡張子	Microsoft PowerPoint に動画を挿入する場合の注意や、Windows における拡張子の扱いについて学習する
第 10 回	マイテンプレート	Microsoft PowerPoint で、自分なりのテンプレートを作成し、特色あるスライド作成を目標とする
第 11 回	スライドの作成	Microsoft PowerPoint を用いて個別にスライドを作成し、情報発信能力の向上を目標とする
第 12 回	スライドの発表	第 11 回で作成したスライドを発表する。自らの主張を効果的に伝える手法を学習する
第 13 回	スライド発表時の諸注意と応用	第 11 回で作成したスライドをもとに、プレゼンテーションの注意点やスライド作成の応用例を概観する
第 14 回	ネットワークの基礎	サーバ・クライアントの関係を概観し、コンピュータネットワークに関する理解を深める

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

第 1 回の授業の前に、ログイン ID とパスワードを確認しておくこと。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

実習 情報リテラシ [第 3 版]、重定如彦・河内谷幸子 共著、サイエンス社、1980 年

【参考書】

適時指示。なお、講義で使用したスライドは授業支援システム Hoppii にアップします。

【成績評価の方法と基準】

平常点 (20%)、レポート課題 (80%) を総合して評価します。特に課題が出た時は必ず指定の方法で提出し、期限を守る事。3~4 回ほどを予定。

【学生の意見等からの気づき】

パソコンに慣れていない人と慣れていない人が混在するため、出来るだけどちらにも興味をもってもらえるよう、授業スピードや内容に心がけるつもりです。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムを利用します。履修決定後、参照できることを各自確認してください。

【その他の重要事項】

「情報処理演習Ⅰ」履修者または同等の基礎力を持つ者を対象とします。

上記【授業の進め方と方法】を良く読み、初回授業は必ず出席すること。

出席が不可能な場合は、授業支援システムから連絡すること。

【Outline (in English)】

This is an introductory Information Processing course. It covers key productivity software Excel and Powerpoint with Microsoft Office 2013.

In this course, I will show you what we need to use Excel is not to solve mathematical expressions, but to make mathematical expressions.

That is, you will able to acquire logical thinking.

And also, with PowerPoint, you can easily create slideshow.

Basic keyboarding skills are strongly recommended.

PRI100LA

情報処理演習 I

2017 年度以降入学者

中村 文隆

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 2/Wed.2

単位数：2 単位

この授業は「Web 履修抽選対象授業」です。抽選エントリー期間は 2023 年 4 月 3 日（月）10：00～5 日（水）17：00、結果発表は 4 月 6 日（木）22：00（予定）です。履修ガイド (<https://hosei-keiji.jp/ilac/rishuguide2023/>) を確認のうえ、情報システムから期間内にエントリーしてください。

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業のテーマは、様々な情報の中から自分に必要な情報を取得し、自分なりの表現へと加工して発信する力を身につけることです。また、高校の科目「情報」の取り組みが学校によって異なるため、不足分を補充し、さらに情報科学の理論へと導いていきます。春学期の情報処理演習 I では、コンピューターの基本的な概念と使い方、ワードプロセッサの使い方を中心に学びます

【到達目標】

情報化社会の中で必要とされる ICT スキルを習得するとともに、情報処理システムの背景となっている情報理論を理解し、急速な技術革新の中で将来に渡って情報処理システムの変革に対応していくための基礎を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

授業の前半は説明を行い、後半は課題実施と質疑応答、の進め方を基本とする。実習のある回は前半で課題の具体的な進め方を説明し、後半で各自課題を作成しながら質問などを受け付ける。座学の回は後半で各自小レポートを作成する。

なお、コロナの状況によっては、座学の回をオンラインで行う可能性もある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	授業の導入	市ヶ谷キャンパスのコンピューター・ネットワーク環境について学ぶ
第 2 回	キーボード・ウィンドウ	情報授業を受講する際に必要な基本操作について学ぶ
第 3 回	ファイル・クラウド	ファイルの操作とクラウドサービス利用の基本について学ぶ
第 4 回	ワードその 1	Word アプリの基本的な操作方法と用語について学ぶ
第 5 回	ワードその 2	書式やレイアウトのトトの方など、文章の体裁を整える技術を学ぶ
第 6 回	ワードその 3	表の作成や参考文献の書き方について学ぶ
第 7 回	ワードその 4	前 3 回の Word の学習を総合した文書の作成について学ぶ
第 8 回	コンピューターの基本概念	コンピューターの基本的な仕組みとソフトウェアの分類について学ぶ
第 9 回	コンピューターの基本操作	コンピューター上での様々な操作を正しく、効率よく行う方法について学ぶ

第 10 回	キーボードと文字入力	コンピュータ操作の基本となるキーボードの扱い方と様々な文字入力の方法を学ぶ
第 11 回	ファイル操作その 1	ファイル名の構成と意味、フォルダーについて学ぶ
第 12 回	ファイル操作その 2	エクスプローラーによるファイル管理と様々な操作について学ぶ
第 13 回	コンピューターとデータその 1	デジタルとアナログの違い、2 進法による文字の符号化について学ぶ
第 14 回	コンピューターとデータその 2	画像や音の 2 進法による符号化とデータサイズの問題を学ぶ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各自授業の前後に教科書を使って予習、復習を行うこと。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業中に指示します。

【参考書】

「キーワードで理解する最新情報リテラシー 第 2 版」 久野、辰巳、佐藤 監修 日経 BP ソフトプレス
「実習 Word」 入戸野、重定、児玉、河内谷 著 サイエンス社

【成績評価の方法と基準】

授業中の提出物 (80%) と平常点 (20%) で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

一人一人の進度に応じたフォローを心がけています

【学生が準備すべき機器他】

コロナの状況により、オンライン授業の回が生じた場合はインターネットにアクセス可能なパーソナルコンピュータを準備してください

【その他の重要事項】

情報処理演習 I は秋学期の情報処理演習 II とセットになる科目です。情報処理演習 I を受講された方は引き続き秋学期の情報処理演習 II を受講するようにして下さい。

【Outline (in English)】

The theme of this class is to acquire the ability to gather and transmit information from the Internet, and, based on the knowledge acquired in high school, we will lead to the theory of information science.

In the spring semester, you will learn the basic concepts and usage of computers, and how to use email and web.

PRI200LA

情報処理演習 II

2017 年度以降入学者

中村 文隆

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 2/Wed.2

単位数：2 単位

この授業は「Web 履修抽選対象授業」です。抽選エントリー期間は 2023 年 4 月 3 日（月）10：00～5 日（水）17：00、結果発表は 4 月 6 日（木）22：00（予定）です。履修ガイド (<https://hosei-keiji.jp/ilac/rishuguide2023/>) を確認のうえ、情報システムから期間内にエントリーしてください。

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業のテーマは、様々な情報の中から自分に必要な情報を取得し、自分なりの表現へと加工して発信する力を身につけることです。また、高校の科目「情報」の取り組みが学校によって異なるため、不足分を補充し、さらに情報科学の理論へと導いていきます。

秋学期の情報処理演習 II では、情報処理演習 I で学んだ内容を元に、表計算ソフト、プレゼンテーション、インターネットといった内容を学びます。

【到達目標】

情報のタイプに応じて様々な情報の表現形式（情報メディア）が存在する事を理解する。また、その上で文書作成、表計算、プレゼンテーションを用いた複合的な情報の受信、発信技術を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

授業の前半は説明を行い、後半は課題実施と質疑応答、の進め方を基本とする。実習のある回は前半で課題の具体的な進め方を説明し、後半で各自課題を作成しながら質問などを受け付ける。座学の回は後半で各自小レポートを作成する。

なお、コロナの状況によっては、座学の回をオンラインで行う可能性もある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	インターネットとメ ディアリテラシ	インターネットの歴史と仕組み、 電子メールについて学ぶ
第 2 回	エクセルその 1	Excel の概要と用語、基本的な使 い方について学ぶ
第 3 回	エクセルその 2	データの移動・コピーと数式の使 い方を学ぶ
第 4 回	エクセルその 3	関数の使い方と条件分岐について 学ぶ
第 5 回	エクセルその 4	グラフの描画とデータ処理の基本 を学ぶ
第 6 回	エクセルその 5	総合課題を通して関数の応用を学 ぶ
第 7 回	エクセルその 6	総合課題の続きとして、フィルタ とデータの自動生成について学ぶ
第 8 回	World Wide Web	WWW(ホームページ)の仕組みと サーチエンジンについて学ぶ
第 9 回	パワーポイントその 1	PowerPoint の基本的な使い方と 発表操作について学ぶ
第 10 回	パワーポイントその 2	アニメーションや表、グラフの扱 い方について学ぶ
第 11 回	パワーポイントその 3	総合課題を通じ、実用的なスライ ドの作成について学ぶ

第 12 回	インターネットとメ ディアリテラシその 1	インターネットの安全性につい て、匿名性や情報の保護について 学ぶ
第 13 回	インターネットとメ ディアリテラシその 2	インターネットにおける著作権や ウィルス、ネット犯罪について学 ぶ
第 14 回	総括	I・II を通して学んだ内容につい て総括する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各自授業の前後に教科書を使って予習、復習を行うこと。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業中に指示します。

【参考書】

「キーワードで理解する最新情報リテラシー 第 2 版」久野、辰巳、
佐藤 監修 日経 BP ソフトプレス
「実習 Word」 入野、重定、児玉、河内谷 著 サイエンス社

【成績評価の方法と基準】

授業中の提出物 (80%) と平常点 (20%) で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

一人一人の進度に応じたフォローを心がけています

【学生が準備すべき機器他】

オンライン授業を中心として進める予定であり、インターネットに
アクセス可能なパーソナルコンピュータを準備してください

【その他の重要事項】

情報処理演習 II は春学期の情報処理演習 I とセットになる科目です。
情報処理演習 II を受講する方は必ず春学期の情報処理演習 I を受講
して下さい。

【Outline (in English)】

Objectives of this class are to acquire the ability to collect
necessary information from various information, and to
process the collected information to original form, and to process
them to other people. In Autumn, themes of this class are, word
processing, spreadsheet, and presentation.

PRI100LA

情報処理演習 I

2017 年度以降入学者

中村 文隆

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 2/Tue.2

単位数：2 単位

この授業は「Web 履修抽選対象授業」です。抽選エントリー期間は 2023 年 4 月 3 日（月）10：00～5 日（水）17：00、結果発表は 4 月 6 日（木）22：00（予定）です。履修ガイド (<https://hosei-keiji.jp/ilac/rishuguide2023/>) を確認のうえ、情報システムから期間内にエントリーしてください。

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業のテーマは、様々な情報の中から自分に必要な情報を取得し、自分なりの表現へと加工して発信する力を身につけることです。また、高校の科目「情報」の取り組みが学校によって異なるため、不足分を補充し、さらに情報科学の理論へと導いていきます。春学期の情報処理演習 I では、コンピューターの基本的な概念と使い方、ワードプロセッサの使い方を中心に学びます

【到達目標】

情報化社会の中で必要とされる ICT スキルを習得するとともに、情報処理システムの背景となっている情報理論を理解し、急速な技術革新の中で将来に渡って情報処理システムの変革に対応していくための基礎を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

授業の前半は説明を行い、後半は課題実施と質疑応答、の進め方を基本とする。実習のある回は前半で課題の具体的な進め方を説明し、後半で各自課題を作成しながら質問などを受け付ける。座学の回は後半で各自小レポートを作成する。

なお、コロナの状況によっては、座学の回をオンラインで行う可能性もある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	授業の導入	市ヶ谷キャンパスのコンピューター・ネットワーク環境について学ぶ
第 2 回	キーボード・ウィンドウ	情報授業を受講する際に必要な基本操作について学ぶ
第 3 回	ファイル・クラウド	ファイルの操作とクラウドサービス利用の基本について学ぶ
第 4 回	ワードその 1	Word アプリの基本的な操作方法と用語について学ぶ
第 5 回	ワードその 2	書式やレイアウトのトトの方など、文章の体裁を整える技術を学ぶ
第 6 回	ワードその 3	表の作成や参考文献の書き方について学ぶ
第 7 回	ワードその 4	前 3 回の Word の学習を総合した文書の作成について学ぶ
第 8 回	コンピューターの基本概念	コンピューターの基本的な仕組みとソフトウェアの分類について学ぶ
第 9 回	コンピューターの基本操作	コンピューター上での様々な操作を正しく、効率よく行う方法について学ぶ

第 10 回	キーボードと文字入力	コンピュータ操作の基本となるキーボードの扱い方と様々な文字入力の方法を学ぶ
第 11 回	ファイル操作その 1	ファイル名の構成と意味、フォルダーについて学ぶ
第 12 回	ファイル操作その 2	エクスプローラーによるファイル管理と様々な操作について学ぶ
第 13 回	コンピューターとデータその 1	デジタルとアナログの違い、2 進法による文字の符号化について学ぶ
第 14 回	コンピューターとデータその 2	画像や音の 2 進法による符号化とデータサイズの問題を学ぶ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各自授業の前後に教科書を使って予習、復習を行うこと。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業中に指示します。

【参考書】

「キーワードで理解する最新情報リテラシー 第 2 版」 久野、辰巳、佐藤 監修 日経 BP ソフトプレス
「実習 Word」 入戸野、重定、児玉、河内谷 著 サイエンス社

【成績評価の方法と基準】

授業中の提出物 (80%) と平常点 (20%) で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

一人一人の進度に応じたフォローを心がけています

【学生が準備すべき機器他】

コロナの状況により、オンライン授業の回が生じた場合はインターネットにアクセス可能なパーソナルコンピュータを準備してください

【その他の重要事項】

情報処理演習 I は秋学期の情報処理演習 II とセットになる科目です。情報処理演習 I を受講された方は引き続き秋学期の情報処理演習 II を受講するようにして下さい。

【Outline (in English)】

The theme of this class is to acquire the ability to gather and transmit information from the Internet, and, based on the knowledge acquired in high school, we will lead to the theory of information science.

In the spring semester, you will learn the basic concepts and usage of computers, and how to use email and web.

PRI200LA

情報処理演習 II

2017 年度以降入学者

中村 文隆

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 2/Tue.2

単位数：2 単位

この授業は「Web 履修抽選対象授業」です。抽選エントリー期間は 2023 年 4 月 3 日（月）10：00～5 日（水）17：00、結果発表は 4 月 6 日（木）22：00（予定）です。履修ガイド (<https://hosei-keiji.jp/ilac/rishuguide2023/>) を確認のうえ、情報システムから期間内にエントリーしてください。

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業のテーマは、様々な情報の中から自分に必要な情報を取得し、自分なりの表現へと加工して発信する力を身につけることです。また、高校の科目「情報」の取り組みが学校によって異なるため、不足分を補充し、さらに情報科学の理論へと導いていきます。

秋学期の情報処理演習 II では、情報処理演習 I で学んだ内容を元に、表計算ソフト、プレゼンテーション、インターネットといった内容を学びます。

【到達目標】

情報のタイプに応じて様々な情報の表現形式（情報メディア）が存在する事を理解する。また、その上で文書作成、表計算、プレゼンテーションを用いた複合的な情報の受信、発信技術を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

授業の前半は説明を行い、後半は課題実施と質疑応答、の進め方を基本とする。実習のある回は前半で課題の具体的な進め方を説明し、後半で各自課題を作成しながら質問などを受け付ける。座学の回は後半で各自小レポートを作成する。

なお、コロナの状況によっては、座学の回をオンラインで行う可能性もある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	インターネットとメ ディアリテラシ	インターネットの歴史と仕組み、 電子メールについて学ぶ
第 2 回	エクセルその 1	Excel の概要と用語、基本的な使 い方について学ぶ
第 3 回	エクセルその 2	データの移動・コピーと数式の使 い方を学ぶ
第 4 回	エクセルその 3	関数の使い方と条件分岐について 学ぶ
第 5 回	エクセルその 4	グラフの描画とデータ処理の基本 を学ぶ
第 6 回	エクセルその 5	総合課題を通して関数の応用を学 ぶ
第 7 回	エクセルその 6	総合課題の続きとして、フィルタ とデータの自動生成について学ぶ
第 8 回	World Wide Web	WWW(ホームページ)の仕組みと サーチエンジンについて学ぶ
第 9 回	パワーポイントその 1	PowerPoint の基本的な使い方と 発表操作について学ぶ
第 10 回	パワーポイントその 2	アニメーションや表、グラフの扱 い方について学ぶ
第 11 回	パワーポイントその 3	総合課題を通じ、実用的なスライ ドの作成について学ぶ

第 12 回	インターネットとメ ディアリテラシその 1	インターネットの安全性につい て、匿名性や情報の保護について 学ぶ
第 13 回	インターネットとメ ディアリテラシその 2	インターネットにおける著作権や ウィルス、ネット犯罪について学 ぶ
第 14 回	総括	I・II を通して学んだ内容につい て総括する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各自授業の前後に教科書を使って予習、復習を行うこと。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業中に指示します。

【参考書】

「キーワードで理解する最新情報リテラシー 第 2 版」久野、辰巳、
佐藤 監修 日経 BP ソフトプレス
「実習 Word」 入野、重定、児玉、河内谷 著 サイエンス社

【成績評価の方法と基準】

授業中の提出物 (80%) と平常点 (20%) で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

一人一人の進度に応じたフォローを心がけています

【学生が準備すべき機器他】

オンライン授業を中心として進める予定であり、インターネットに
アクセス可能なパーソナルコンピュータを準備してください

【その他の重要事項】

情報処理演習 II は春学期の情報処理演習 I とセットになる科目です。
情報処理演習 II を受講する方は必ず春学期の情報処理演習 I を受講
して下さい。

【Outline (in English)】

Objectives of this class are to acquire the ability to collect
necessary information from various information, and to
process the collected information to original form, and to process
them to other people. In Autumn, themes of this class are, word
processing, spreadsheet, and presentation.

PRI100LA

情報処理演習 I

2017 年度以降入学者

河内谷 幸子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 3/Tue.3

単位数：2 単位

この授業は「Web 履修抽選対象授業」です。抽選エントリー期間は 2023 年 4 月 3 日（月）10：00～5 日（水）17：00、結果発表は 4 月 6 日（木）22：00（予定）です。履修ガイド (<https://hosei-keiji.jp/ilac/rishuguide2023/>) を確認のうえ、情報システムから期間内にエントリーしてください。

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業のねらいは、様々な情報の中から自分に必要な情報を取得し自分なりの表現へと加工して発信する力を身につけることです。また、高校の科目「情報」の取り組みが学校によって異なるため、不足分を補充し、さらに情報科学の理論へと導いていきます。

Word、Excel、パソコンの仕組みを学びます。

初心者でも Word や Excel の資格試験合格レベルまで上達できます。当科目は、専門科目の情報科目（情報学入門等）と両方履修できます。両方履修すると相乗効果で上達が期待できます。

【到達目標】

他科目のレポート作成、ゼミの資料や卒論作成、社会に出てからの書類作成、などに役立つ実践的な内容の習得が到達目標です。web ブラウザ、サーチエンジン、電子メール、ネットワークについて、しくみを理解します。文書作成ソフト Word の、書式変更、段落処理、表の作成、描画などの機能を理解し利用できるようになります。表計算ソフト Excel の、文字・数字・式の入力方法、多くの関数、基礎から応用までのグラフ作成方法、データベース機能、串刺し集計、近似曲線などの機能を理解し利用できるようになります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

この授業を履修するためには4月上旬（春学期の授業開始前）の抽選に当選する必要があります。大学 HP の授業関連の項目を参照して抽選に申し込んで下さい。

基本的には対面授業で、対面授業科目にカウントされるのですが、数回オンライン授業の日があります。授業の前日には必ず学習支援システム「Hoppii」の「お知らせ」を読んで、対面かどうかを確認して下さい。特に 1 回目の対面授業は「持ち物」の指定があるので必ず学習支援システム Hoppii の「お知らせ」で授業内容を確認して下さい。

対面授業では、ボアソナードタワー内にあるパソコン実習室で、毎回 1 人 1 台コンピュータを使って実習を行います。初心者を前提として、タイプ練習から始めて、Word・Excel の基本を実習します。課題のフィードバックは学習支援システムに掲載します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス 情報倫理	パソコンの起動と終了、ウインドウ操作、情報倫理について学び実習する。
2	ブラウザとメール タイプ練習	web ブラウザ、サーチエンジン、電子メールなどのしくみを学び実習する。 タイピング練習を行う。

3	文書作成 1	文書作成ソフト Word を使って、様々な入力方法、書式変更方法について実習する。
4	文書作成 2	見やすい文書を作成することを目的として、文書作成ソフト Word を使って、段落処理および表の作成について実習する。
5	文書作成 3	効果的に文をまとめることを目的として、効果文書作成ソフト Word を使って、画像の挿入およびスマートアート（構造図）について実習する。
6	文書作成 4	文章をよりわかりやすくする説明図の作成を目的として、文書作成ソフト Word を使って、描画機能について実習する。
7	文書作成 5	文書作成に関するこれまでのまとめ演習を行う。
8	コンピュータの基礎知識	コンピュータの基礎知識を学ぶ。
9	表計算 1	表計算ソフト Excel を使って、表の作成・グラフの作成の基本を実習する。
10	表計算 2	表計算ソフト Excel を使って、いろいろなグラフの書き方を実習する。また、適切なグラフの選び方や、グラフの強調方法を学ぶ。
11	表計算 3	表計算ソフト Excel を使って、シートをまたいだ集計、データベース機能などについて実習する。
12	表計算 4	表計算ソフト Excel を使って、いろいろな関数の使い方を実習する。近似曲線機能、シナリオ機能、ゴールシーク機能などの応用機能について学ぶ。
13	表計算 5	表計算に関するこれまでのまとめ演習を行う。
14	ネットワークの基礎 ホームページの仕組み	ネットワークの基礎知識を学ぶ。 ホームページを閲覧するためのネットワークの仕組みや、html によるホームページ作成について実習する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業中の指示に従って前回の実習内容を復習します。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

学習支援システム Hoppii で指示します。

【参考書】

実習 情報リテラシ [第3版]
著者：重定如彦・河内谷幸子 共著
出版：サイエンス社

【成績評価の方法と基準】

学習支援システム Hoppii での提出物（100%）で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

対面授業の場合は、一人一人の席をまわって個別にわからない点を指導する点に高い評価をいただきましたので、今年度も丁寧に個別指導をしていきたいと思えます。

【学生が準備すべき機器他】

オンライン授業の備えて、Word と Excel と PowerPoint が使用できるパソコンを自宅に準備して下さい。

【その他の重要事項】

コンピュータが苦手でも履修できます。
この授業を履修するためには4月上旬（春学期の授業開始前）の抽選に当選する必要があります。大学 HP の授業関連の項目を参照して抽選に申し込んで下さい。

授業の前日には必ず学習支援システム **Hoppii** の「お知らせ」を読んで、対面かオンラインかを確認して下さい。1 回目の対面授業は「持ち物」の指定があるので必ず学習支援システム **Hoppii** の「お知らせ」で授業内容を確認して下さい。

【Outline (in English)】

This course aims at acquiring skills to choose necessary information from varieties of information and process it as your own expressions for publishing. In addition, because the teaching level of "Information" course at high school varies, this course starts from its review then leads to the study of Information Science. Lectures of PC internals are included in this course.

The goal of this course is to master the technique of Word, Excel and PowerPoint.

It takes 2 hours to prepare/review.

You will get grades with your submissions from learning-support system "Hoppii".

PRI200LA

情報処理演習Ⅱ

2017年度以降入学者

河内谷 幸子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 3/Tue.3

単位数：2 単位

この授業は「Web 履修抽選対象授業」です。抽選エントリー期間は 2023 年 4 月 3 日（月）10：00～5 日（水）17：00、結果発表は 4 月 6 日（木）22：00（予定）です。履修ガイド (<https://hosei-keiji.jp/ilac/rishuguide2023/>) を確認のうえ、情報システムから期間内にエントリーしてください。

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「情報処理演習Ⅰ」履修者または同等の基礎力を持つ者を対象とします。この授業のねらいは、自分の持つ情報のよりよい表現方法を学ぶことです。また、将来的に新種のソフトが普及しても積極的に取り組む姿勢を身につけることも目標とします。

Word, Excel, PowerPoint, パソコンの仕組みを学びます。初心者でも Word や Excel の資格試験合格レベルまで上達できます。当科目は、専門科目の情報科目（情報学入門等）と両方履修できます。両方履修すると相乗効果で上達が期待できます。

【到達目標】

他科目のレポート作成、ゼミの資料や卒論作成、社会に出てからの書類作成、などに役立つ実践的な内容の習得が到達目標です。

文書作成ソフト Word において、レポートや卒業論文の作成に必要な技術として、表紙付与、目次、脚注、引用文献、索引などの機能を習得します。また、共同作業に必要な技術として、履歴・コメント・パスワード付与などの機能を習得します。

表計算ソフト Excel において、条件処理、アンケート集計に便利なピボットテーブル、連続する操作を登録するマクロ機能などを習得します。

データベースソフト ACCESS の使い方を体験します。プレゼンテーションソフト PowerPoint を利用して発表ができるようになります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

この授業は秋学期科目ですが、履修するためには情報処理演習Ⅱ(春学期科目)と同じタイミングで4月上旬(春学期の授業開始前)の抽選に当選する必要があります。大学 HP の授業関連の項目を参照して抽選に申し込んで下さい。

基本的には対面授業で、対面授業科目にカウントされますが、数回オンライン授業の日があります。授業の前日には必ず学習支援システム Hoppii の「お知らせ」を読んで、対面かオンラインかを確認して下さい。

対面授業では、ボアソナードタワー内にあるパソコン実習室で、毎回 1 人 1 台コンピュータを使って実習を行います。表計算ソフト、プレゼンテーションソフト、その他の応用ソフトの使い方などを実習します。また、コンピュータの知識や情報倫理や情報科学の理論についての考え方を深めます。

課題のフィードバックは学習支援システムに掲示します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	春学期の復習 秋学期ガイダンス 情報倫理	春学期に学んだ文書作成と表計算の内容を復習する実習を行う。

2	文書作成 1	文書作成ソフト Word を使って、文字スタイル、高度な検索・置換、クイックパーツ、段組み、透かしなどの機能の実習を行う。
3	文書作成 2	文書作成ソフト Word を使って、表紙付与、目次、脚注、引用文献、索引、差し込み印刷などの機能の実習を行う。
4	文書作成 3	文書作成ソフト Word を使って、文章校正、変更履歴、コメント、テンプレート、ユーザの編集制限、パスワード付与、図番の付与、画像編集などの機能の実習を行う。
5	文書作成 4	文書作成に関するこれまでのまとめ演習を行う。
6	データベースソフト	データベースソフト Access を使って、リレーショナルデータベースについて理論を学び、実習する。
7	コンピュータのしくみ IT 時事問題	コンピュータの基礎知識を学ぶ。また、IT 時事問題を紹介し、それについて考え、まとめる。
8	表計算 1	表計算ソフト Excel を利用して、条件処理を学ぶ。関数 IF、SUMIF、AVERAGEIF、COUNTIF などを使った実習を行う。また条件付き書式の実習を行う。
9	表計算 2	アンケート処理を目的として、表計算ソフト Excel のピボットテーブル機能について実習する。また、効果的なグラフを書くことを目的として、Excel のグラフテンプレートについて実習する。
10	表計算 3	EXCEL のマクロを入門体験する。
11	表計算 4	表計算に関するこれまでのまとめ演習を行う。
12	文書作成と表計算の連携	Word の差し込み印刷機能と、Excel で作成した住所録を利用して、ラベル作成およびハガキ作成を実習する。
13	プレゼンテーションソフト 1	プレゼンテーションソフト PowerPoint の入力、デザイン、アニメーション、スライドショーなどについて実習する。
14	プレゼンテーションソフト 2	PowerPoint を使って発表資料を作成する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業中の指示に従って前回の授業の復習を行います。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業中に指示します。

【参考書】

実習 情報リテラシ [第3版]
著者：重定如彦・河内谷幸子 共著
出版：サイエンス社

【成績評価の方法と基準】

学習支援システム Hoppii への提出物（100%）で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

一人一人の席をまわって個別にわからない点を指導する点に高い評価をいただきましたので、今年度も丁寧に個別指導をしていきたいと思ひます。

【学生が準備すべき機器他】

オンライン授業の備えて、Word・Excel・PowerPoint・Zoom が使用できるパソコンを自宅に準備する。

【その他の重要事項】

コンピュータが苦手でも履修可能です。

この授業は秋学期科目ですが、履修するためには情報処理演習 I(春学期科目)と同じタイミングで4月上旬(春学期の授業開始前)の抽選に当選する必要があります。大学 HP の授業関連の項目を参照して抽選に申し込んで下さい。

授業の前日には必ず学習支援システム Hoppii の「お知らせ」を読んで、対面かオンラインかを確認して下さい。

【Outline (in English)】

This course targets students who completed the "Information Processing Exercise I" course or has equivalent basic skills.

This course teaches various techniques to express your information better and helps you acquire the attitude to proactively study future new-type software. Advanced lectures of PC internals are included in this course.

The goal of this course is to master the advanced technique of Word, Excel and PowerPoint.

It takes 2 hours to prepare/review.

You will get grades with your submissions from learning-support system "Hoppii".

PRI100LA

情報処理演習 I

2017 年度以降入学者

岡嶋 裕史

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 4/Tue.4

単位数：2 単位

この授業は「Web 履修抽選対象授業」です。抽選エントリー期間は 2023 年 4 月 3 日（月）10：00～5 日（水）17：00、結果発表は 4 月 6 日（木）22：00（予定）です。履修ガイド (<https://hosei-keiji.jp/ilac/rishuguide2023/>) を確認のうえ、情報システムから期間内にエントリーしてください。

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業のねらいは、様々な情報の中から自分に必要な情報を取得し、自分なりの表現へと加工して発信する力を身につけること、主要なアプリケーションの操作技能を習得することです。また、高校の科目「情報」の取り組みが学校によって異なるため、不足分を補充することも目的としています。

【到達目標】

大学の講義を受講するに際して、あるいは社会人として職務に就くときに困らない程度のアプリケーション操作技能習得を目標としています。Word をマスターし、Excel の基礎レベルを修了します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

毎回、1 人 1 台コンピュータを使って実習を行います。初心者を前提として、タイプ練習、日本語入力、ワープロソフト、表計算ソフトの使用方法などを実習していきます。また、コンピュータの基礎知識や情報倫理、情報科学の基礎についても学びます。

課題のフィードバックは授業中に行います。

なお、大学の行動方針レベルが 2 となった場合、この授業は原則としてオンラインで行います。詳細は学習支援システムで伝達します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	講義の位置づけ、内容についての説明
2	PC の操作	パソコンの起動と終了、ウインドウ操作、ネチケット
3	日本語入力および ICT スキル診断テスト	IME の概要と操作方法、今後の講義を円滑に進めるための診断テスト
4	ワープロソフト 1	文字の書式設定
5	ワープロソフト 2	段落の書式設定
6	ワープロソフト 3	グラフィックスの利用
7	ワープロソフト 4	表の作成と編集
8	ワープロソフト 5	印刷の方法
9	表計算ソフト基礎 1	ブックの基本操作
10	表計算ソフト基礎 2	表作成の基礎
11	表計算ソフト基礎 3	表の編集
12	表計算ソフト基礎 4	数式と関数
13	表計算ソフト基礎 5	グラフの作成
14	期末試験	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストを読んで、当日実施する実技内容の手順を確認してください。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

複数の教科書を使いますので、初回授業で詳しく指示します。

【参考書】

実習情報リテラシ（サイエンス社）

Microsoft Excel 基礎 セミナーテキスト（日経 BP 社）など

【成績評価の方法と基準】

平常点 30%、期末試験 70%を合わせた成績により評価します。

平常点は授業内課題への取り組み、提出物によって判定を行います。すべての講義への出席が前提です。

期末試験は主要アプリケーションの操作技能を中心にした実技試験を行い、到達度を判定します。

【学生の意見等からの気づき】

I・II がセットになっている講義ですが、特に I 期においては進度が遅いと感じる方が多いと思われます。高校で十分に「情報」の授業が受けられなかった方の技能醸成が授業テーマの一つですので、技術を持っている方には大変申し訳ありませんが、お付き合いいただければと思います。

【その他の重要事項】

教員に連絡が必要な場合は、以下のメールアドレスをご利用ください。

okajima@tamacc.chuo-u.ac.jp

<http://researchers.chuo-u.ac.jp/Profiles/4/0000383/profile.html>

教員は総合研究所での勤務経験を活かし、実務に即した技術を中心にお話しします。

【Outline (in English)】

The aim of this lesson is to acquire necessary information from among various information. And to acquire the ability to process and transmit to an easy-to-understand expression. To master the operation skills of major applications.

PRI200LA

情報処理演習Ⅱ

2017年度以降入学者

岡嶋 裕史

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 4/Tue.4

単位数：2 単位

この授業は「Web 履修抽選対象授業」です。抽選エントリー期間は 2023 年 4 月 3 日（月）10：00～5 日（水）17：00、結果発表は 4 月 6 日（木）22：00（予定）です。履修ガイド (<https://hosei-keiji.jp/ilac/rishuguide2023/>) を確認のうえ、情報システムから期間内にエントリーしてください。

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「情報処理演習Ⅰ」履修者または同等の基礎力を持つ者を対象とします。この授業のねらいは、自分の持つ情報のよりよい表現方法を学ぶことと、社会に出た際に利用するであろう主要アプリケーションの操作技能、応用技能を習得することです。また、将来的に新種の技術やアプリケーションが普及しても柔軟に対応できるリテラシを身につけることも目標とします。

【到達目標】

大学の講義を受講するに際して、あるいは社会人として職務に就くときに困らない程度度のアプリケーション操作技能習得を目標としています。Excel の応用レベルを修了し、実務で困らない運用ができる水準に到達します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

1 人 1 台コンピュータを使って実習を行います。表計算ソフト、その他の応用ソフトの使い方などを実習します。また、コンピュータの知識や情報倫理、情報科学についての考え方を深めます。課題のフィードバックは授業中に行います。

なお、大学の行動方針レベルが 2 となった場合、この授業は原則としてオンラインで行います。詳細は学習支援システムで伝達します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	表計算ソフト応用 1	ブックの活用
2	表計算ソフト応用 2	高度な関数
3	表計算ソフト応用 3	シートの分析と入力規則
4	表計算ソフト応用 4	グラフの応用
5	表計算ソフト応用 5	データベース機能の活用
6	表計算ソフト応用 6	ピボットテーブル
7	表計算ソフト応用 7	マクロによる作業の自動化
8	プレゼンテーションソフト 1	スライドの基本操作
9	プレゼンテーションソフト 2	プレゼンテーションの編集
10	プレゼンテーションソフト 3	整列した図の作成
11	プレゼンテーションソフト 4	オブジェクトの挿入
12	プレゼンテーションソフト 5	スライドショーと特殊効果の追加
13	プログラミング初歩、もしくはデータベース（受講者のスキルによって決定します）	足し算ゲームなどの簡単なプログラミング、もしくはデータベースソフトの操作
14	期末試験	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストを読んで、当日実施する実技内容の手順を確認してください。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

複数の教科書を使いますので、初回授業で詳しく指示します。

【参考書】

実習情報リテラシ（サイエンス社）

Microsoft Excel 応用 セミナーテキスト（日経 BP 社）など

【成績評価の方法と基準】

平常点 30%、期末試験 70%を合わせた成績により評価します。平常点は授業内課題への取り組み、提出物によって判定を行います。すべての講義への出席が前提です。期末試験は主要アプリケーションの操作技能を中心にした実技試験を行い、到達度を判定します。

【学生の意見等からの気づき】

I・II がセットになっている講義ですが、II 期で急に難しくなったと感じる方が多いようです。主に Excel の関数を扱うのが原因です。対策として、この時期は問題演習の時間を多く取るなどいたしますが、受講生の方も是非復習をしてください。

【その他の重要事項】

教員に連絡が必要な場合は、以下のメールアドレスをご利用ください。

okajima@tamacc.chuo-u.ac.jp

<http://researchers.chuo-u.ac.jp/Profiles/4/0000383/profile.html>

教員は総合研究所での勤務経験を活かし、実務に即した技術を中心にお話します。

【Outline (in English)】

The aim of this lesson is to learn how to express your own information. To master the operation skills and applied skills of the main application that you will use when you get a job.

PRI100LA

情報処理演習 I

2017 年度以降入学者

岡嶋 裕史

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 5/Tue.5

単位数：2 単位

この授業は「Web 履修抽選対象授業」です。抽選エントリー期間は 2023 年 4 月 3 日（月）10：00～5 日（水）17：00、結果発表は 4 月 6 日（木）22：00（予定）です。履修ガイド (<https://hosei-keiji.jp/ilac/rishuguide2023/>) を確認のうえ、情報システムから期間内にエントリーしてください。

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業のねらいは、様々な情報の中から自分に必要な情報を取得し、自分なりの表現へと加工して発信する力を身につけること、主要なアプリケーションの操作技能を習得することです。また、高校の科目「情報」の取り組みが学校によって異なるため、不足分を補充することも目的としています。

【到達目標】

大学の講義を受講するに際して、あるいは社会人として職務に就くときに困らない程度のアプリケーション操作技能習得を目標としています。Word をマスターし、Excel の基礎レベルを修了します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

毎回、1 人 1 台コンピュータを使って実習を行います。初心者を前提として、タイプ練習、日本語入力、ワープロソフト、表計算ソフトの使用する方法などを実習していきます。また、コンピュータの基礎知識や情報倫理、情報科学の基礎についても学びます。

課題のフィードバックは授業中に行います。

なお、大学の行動方針レベルが 2 となった場合、この授業は原則としてオンラインで行います。詳細は学習支援システムで伝達します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	講義の位置づけ、内容についての説明
2	PC の操作	パソコンの起動と終了、ウインドウ操作、ネチケット
3	日本語入力および ICT スキル診断テスト	IME の概要と操作方法、今後の講義を円滑に進めるための診断テスト
4	ワープロソフト 1	文字の書式設定
5	ワープロソフト 2	段落の書式設定
6	ワープロソフト 3	グラフィックスの利用
7	ワープロソフト 4	表の作成と編集
8	ワープロソフト 5	印刷の方法
9	表計算ソフト基礎 1	ブックの基本操作
10	表計算ソフト基礎 2	表作成の基礎
11	表計算ソフト基礎 3	表の編集
12	表計算ソフト基礎 4	数式と関数
13	表計算ソフト基礎 5	グラフの作成
14	期末試験	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストを読んで、当日実施する実技内容の手順を確認してください。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

複数の教科書を使いますので、初回授業で詳しく指示します。

【参考書】

実習情報リテラシ（サイエンス社）

Microsoft Excel 基礎 セミナーテキスト（日経 BP 社）など

【成績評価の方法と基準】

平常点 30%、期末試験 70%を合わせた成績により評価します。

平常点は授業内課題への取り組み、提出物によって判定を行います。すべての講義への出席が前提です。

期末試験は主要アプリケーションの操作技能を中心にした実技試験を行い、到達度を判定します。

【学生の意見等からの気づき】

I・II がセットになっている講義ですが、特に I 期においては進度が遅いと感じる方が多いと思われます。高校で十分に「情報」の授業が受けられなかった方の技能醸成が授業テーマの一つですので、技術を持っている方には大変申し訳ありませんが、お付き合いいただければと思います。

【その他の重要事項】

教員に連絡が必要な場合は、以下のメールアドレスをご利用ください。

okajima@tamacc.chuo-u.ac.jp

<http://researchers.chuo-u.ac.jp/Profiles/4/0000383/profile.html>

教員は総合研究所での勤務経験を活かし、実務に即した技術を中心に話しします。

【Outline (in English)】

The aim of this lesson is to acquire necessary information from among various information. And to acquire the ability to process and transmit to an easy-to-understand expression. To master the operation skills of major applications.

PRI200LA

情報処理演習Ⅱ

2017年度以降入学者

岡嶋 裕史

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 5/Tue.5

単位数：2 単位

この授業は「Web 履修抽選対象授業」です。抽選エントリー期間は 2023 年 4 月 3 日（月）10：00～5 日（水）17：00、結果発表は 4 月 6 日（木）22：00（予定）です。履修ガイド (<https://hosei-keiji.jp/ilac/rishuguide2023/>) を確認のうえ、情報システムから期間内にエントリーしてください。

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「情報処理演習Ⅰ」履修者または同等の基礎力を持つ者を対象とします。この授業のねらいは、自分の持つ情報のよりよい表現方法を学ぶことと、社会に出た際に利用するであろう主要アプリケーションの操作技能、応用技能を習得することです。また、将来的に新種の技術やアプリケーションが普及しても柔軟に対応できるリテラシを身につけることも目標とします。

【到達目標】

大学の講義を受講するに際して、あるいは社会人として職務に就くときに困らない程度のアプリケーション操作技能習得を目標としています。Excel の応用レベルを修了し、実務で困らない運用ができる水準に到達します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

1 人 1 台コンピュータを使って実習を行います。表計算ソフト、その他の応用ソフトの使い方などを実習します。また、コンピュータの知識や情報倫理、情報科学についての考え方を深めます。課題のフィードバックは授業中に行います。

なお、大学の行動方針レベルが 2 となった場合、この授業は原則としてオンラインで行います。詳細は学習支援システムで伝達します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	表計算ソフト応用 1	ブックの活用
2	表計算ソフト応用 2	高度な関数
3	表計算ソフト応用 3	シートの分析と入力規則
4	表計算ソフト応用 4	グラフの応用
5	表計算ソフト応用 5	データベース機能の活用
6	表計算ソフト応用 6	ピボットテーブル
7	表計算ソフト応用 7	マクロによる作業の自動化
8	プレゼンテーションソフト 1	スライドの基本操作
9	プレゼンテーションソフト 2	プレゼンテーションの編集
10	プレゼンテーションソフト 3	整列した図の作成
11	プレゼンテーションソフト 4	オブジェクトの挿入
12	プレゼンテーションソフト 5	スライドショーと特殊効果の追加
13	プログラミング初歩、もしくはデータベース（受講者のスキルによって決定します）	足し算ゲームなどの簡単なプログラミング、もしくはデータベースソフトの操作
14	期末試験	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストを読んで、当日実施する実技内容の手順を確認してください。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

複数の教科書を使いますので、初回授業で詳しく指示します。

【参考書】

実習情報リテラシ（サイエンス社）

Microsoft Excel 応用 セミナーテキスト（日経 BP 社）など

【成績評価の方法と基準】

平常点 30%、期末試験 70%を合わせた成績により評価します。平常点は授業内課題への取り組み、提出物によって判定を行います。すべての講義への出席が前提です。期末試験は主要アプリケーションの操作技能を中心にした実技試験を行い、到達度を判定します。

【学生の意見等からの気づき】

I・II がセットになっている講義ですが、II 期で急に難しくなったと感じる方が多いようです。主に Excel の関数を扱うのが原因です。対策として、この時期は問題演習の時間を多く取るなどいたしますが、受講生の方も是非復習をしてください。

【その他の重要事項】

教員に連絡が必要な場合は、以下のメールアドレスをご利用ください。

okajima@tamacc.chuo-u.ac.jp

<http://researchers.chuo-u.ac.jp/Profiles/4/0000383/profile.html>

教員は総合研究所での勤務経験を活かし、実務に即した技術を中心にお話します。

【Outline (in English)】

The aim of this lesson is to learn how to express your own information. To master the operation skills and applied skills of the main application that you will use when you get a job.

PRI100LA

情報処理演習 I

2017 年度以降入学者

重定 如彦

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 3/Wed.3

単位数：2 単位

この授業は「Web 履修抽選対象授業」です。抽選エントリー期間は 2023 年 4 月 3 日（月）10：00～5 日（水）17：00、結果発表は 4 月 6 日（木）22：00（予定）です。履修ガイド (<https://hosei-keiji.jp/ilac/rishuguide2023/>) を確認のうえ、情報システムから期間内にエントリーしてください。

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業のテーマは、様々な情報の中から自分に必要な情報を取得し、自分なりの表現へと加工して発信する力を身につけることです。また、高校の科目「情報」の取り組みが学校によって異なるため、不足分を補充し、さらに情報科学の理論へと導いていきます。

春学期の情報処理演習 I では、初心者を前提として、タイプ練習、日本語入力、インターネット概論などを実習していきます。また、コンピューターの基礎知識や情報倫理、情報科学の理論についても学びます。

【到達目標】

コンピューターを特定のハードウェア・ソフトウェアに依存しない抽象化されたモデルとして理解し、情報処理の概念と応用技術の仕組みを習得し、ネットワーク社会における倫理観を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

基本的に毎回の授業の前半に講義を行い、後半に一人一台のコンピューターを使った演習を行います。コンピューターを学ぶ上で、実際に手を動かすことは非常に重要です。授業では後半の演習の時間に様々な実習課題をこなすことで実践を通じて学びます。

授業は後述のテキストを使って行います。また、課題もテキストから出しますので、必ず購入して授業に持参して下さい。

資料の配布、アンケート、課題の提出などは学習支援システムを使って行います。学習支援システムの使い方については授業内で説明します。各回の授業の冒頭で、必要に応じてアンケートの中からいくつかを取り上げてコメントを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	授業の導入	法政大学のコンピューター環境について学ぶ
第 2 回	コンピューターの基本概念	コンピューターの基本概念について学ぶ 安全なパスワードの作り方を学び、新しいパスワードを設定する
第 3 回	コンピューターの基本構成	ハードウェアの構成要素、ソフトウェア、OS の役割など、コンピューターの基本構成について学ぶ
第 4 回	Windows の基本操作	デスクトップ画面の操作方法、カットアンドペースト、GUI と CUI、ショートカットキー操作、トラブルへの対処など Windows の基本操作について学ぶ

第 5 回	キーボードと文字入力	日本語入力とかな漢字変換、全角文字と半角文字、日本語 FEP、キーボードの種類、タッチタイピングの練習方法について学ぶ
第 6 回	ファイル操作その 1	ファイルシステム（ファイル、拡張子、フォルダの概念、ファイルのパス）、エクスプローラーの基本操作について学ぶ
第 7 回	ファイル操作その 2	エクスプローラーでのファイル操作、ファイルのプロパティ、ファイルの削除、ファイルのショートカットなどについて学ぶ
第 8 回	コンピューターとデータ	デジタルとアナログ、著作権、2 進数、様々なデータの表現、データの圧縮について学ぶ
第 9 回	インターネットと電子メールその 1	インターネットの歴史と仕組み、プロトコル、電子メールの仕組みについて学ぶ
第 10 回	インターネットと電子メールその 2	電子メールの使い方、使う際の注意点（スパムメール、添付ファイルの危険性など）について学ぶ
第 11 回	WWW その 1	WWW の仕組みと利用方法について学ぶ
第 12 回	WWW その 2	WWW で得られる情報、サーチエンジンについてその仕組みと使い方について学ぶ
第 13 回	インターネットとメディアリテラシその 1	インターネットの匿名性、詐欺、情報の真偽について学ぶ
第 14 回	インターネットとメディアリテラシその 2	フリーソフトと著作権、クラウドコンピューティング、コンピューターウイルス、コンピューター犯罪について学ぶ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各自授業の前後に教科書を使って予習、復習を行うこと。また、課題が出されている場合は、締め切り間に合うように課題を行い、学習支援システムに指示に従って提出すること。なお、教科書にある、課題としなかった練習問題や章末問題も、余裕があれば行うことが望ましい。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

「実習情報リテラシ 第 3 版」 重定、河内谷 著 サイエンス社 第 2 版の「実習情報リテラシ」は内容が古く、大学のパソコンにインストールされている Windows 10 や Microsoft Office に対応していないので、間違えてそちらを購入しないように注意すること。

【参考書】

「キーワードで理解する最新情報リテラシー 第 2 版」 久野、辰巳、佐藤 監修 日経 BP ソフトプレス
「実習 Word」 入野、重定、児玉、河内谷 著 サイエンス社

【成績評価の方法と基準】

「配分」

平常点 10 %、レポート 70 %、タッチタイピングのテスト 20 %

「評価基準」

平常点は授業の参加態度で評価します。また、4 回以上欠席した場合は成績の上限を B とします。6 回以上欠席した場合は成績を E とします。

レポートは内容および表現の適切さを評価します。

タッチタイピングのテストは入力する文字の量と正確さを評価します。

【学生の意見等からの気づき】

講義の時間が長く、実習の時間を増やしてほしいとの要望があったので、実習の時間をなるべく多くとるようにしたい。

【学生が準備すべき機器他】

情報実習室で各自 1 台のコンピューターを用いて授業を行う。

【その他の重要事項】

情報処理演習 I は秋学期の情報処理演習 II とセットになる科目です。情報処理演習 I を受講された方は引き続き秋学期の情報処理演習 II を受講するようにして下さい。

【Outline (in English)】

Objectives of this class are to acquire the ability to collect necessary information from various information, and to process the collected information to original form, and to process them to other people. In Spring Semester, themes of this class are, typing, Japanese input, overview of the Internet, basic knowledge of computer, computer ethics, theory of information science.

Each student is expected to prepare and review the textbook before and after the class.

If assignments are given, do them in time for the deadline, and submit them according to the instructions on the learning support system.

It is also recommended to do the exercises and end-of-chapter problems in the textbook that are not assigned, if you have time. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Distribution.

10% of normal score, 70% of report, 20% of touch typing test

Evaluation Criteria

Ordinary points will be evaluated based on class participation.

If you are absent more than four times, your grade will be capped at B. If you are absent more than six times, your grade will be capped at E.

Reports will be evaluated on the appropriateness of content and expression.

The touch-typing test will be graded on the amount and accuracy of the typed text.

PRI200LA

情報処理演習Ⅱ

2017年度以降入学者

重定 如彦

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 3/Wed.3

単位数：2単位

この授業は「Web 履修抽選対象授業」です。抽選エントリー期間は 2023 年 4 月 3 日（月）10：00～5 日（水）17：00、結果発表は 4 月 6 日（木）22：00（予定）です。履修ガイド (<https://hosei-keiji.jp/ilac/rishuguide2023/>) を確認のうえ、情報システムから期間内にエントリーしてください。

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業のテーマは、様々な情報の中から自分に必要な情報を取得し、自分なりの表現へと加工して発信する力を身につけることです。また、高校の科目「情報」の取り組みが学校によって異なるため、不足分を補充し、さらに情報科学の理論へと導いていきます。

秋学期の情報処理演習Ⅱでは、情報処理演習Ⅰで学んだ内容を元に文書作成、表計算ソフト、プレゼンテーションといった内容を学びます。

【到達目標】

情報のタイプに応じて様々な情報の表現形式（情報メディア）が存在する事を理解する。また、その上で文書作成、表計算、プレゼンテーションを用いた複合的な情報の受信、発信技術を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

基本的に毎回の授業の前半に講義を行い、後半に一人一台のコンピュータを使った演習を行います。コンピュータを学ぶ上で、実際に手を動かすことは非常に重要です。授業では後半の演習の時間に様々な実習課題をこなすことで実践を通じて学びます。

授業は後述のテキストを使って行います。また、課題もテキストから出しますので、必ず購入して授業に持参して下さい。

資料の配布、アンケート、課題の提出などは学習支援システムを使って行います。各回の授業の冒頭で、必要に応じてアンケートの中からいくつかを取り上げてコメントを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ワードプロセッサその 1	テキストエディタとワードプロセッサの基本について学ぶ ワープロと、HTML による文章の構造化について学ぶ
第 2 回	ワードプロセッサその 2	段落、タブ、ルーラー、文章の検索、置換、校正について学ぶ
第 3 回	ワードプロセッサその 3	表紙、ヘッダーとフッター、表の挿入と編集について学ぶ
第 4 回	ワードプロセッサその 4	図形、描画キャンパスの挿入と編集について学ぶ
第 5 回	ワードプロセッサその 5	画像、SmartArt、スクリーンショットの挿入と編集について学ぶ レポートを作成する上で必要となる機能（目次、参考文献、脚注の挿入など）について学ぶ

第 6 回	表計算ソフトその 1	表計算ソフトウェアの概念、データの入力、セルの操作、データの種類と式、セルの修飾について学ぶ
第 7 回	表計算ソフトその 2	セルの表示形式、カットアンドペースト、オートフィルなどによるデータのコピー、式によるデータの計算、時系列データについて学ぶ
第 8 回	表計算ソフトその 3	式のコピーと相対参照、絶対参照、セルに名前を付ける方法、関数の基礎について学ぶ
第 9 回	表計算ソフトその 4	条件分岐について学び、条件分岐を使った応用例として実用的な表の作成方法について学ぶ
第 10 回	表計算ソフトその 5	グラフについて学ぶ
第 11 回	表計算ソフトその 6	データベース機能（並べ替え、検索、フィルター）、串刺し集計、Word への表やグラフの貼り付け、エラー表記について学ぶ
第 12 回	プレゼンテーション 1	プレゼンテーションとは何か、プレゼンテーションソフトの概念、スライド作成について学ぶ
第 13 回	プレゼンテーション 2	図形、画像、グラフなどの利用方法、画面切り替え効果について学ぶ
第 14 回	プレゼンテーション 3	アニメーション、スライドショー、発表練習、質疑応答について学ぶ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各自授業の前後に教科書を使って予習、復習を行うこと。また、課題が出されている場合は、締め切りに間に合うように課題を行い、学習支援システムに指示に従って提出すること。なお、教科書にある、課題としなかった練習問題や章末問題も、余裕があれば行うことが望ましい。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

「実習情報リテラシ 第 3 版」 重定、河内谷 著 サイエンス社
第 2 版の「実習情報リテラシ」は内容が古く、大学のパソコンにインストールされている Windows 10 や Microsoft Office に対応していないので、間違えてそちらを購入しないように注意すること。

【参考書】

「キーワードで理解する最新情報リテラシー 第 2 版」久野、辰巳、佐藤 監修 日経 BP ソフトプレス
「実習 Word」 入戸野、重定、児玉、河内谷 著 サイエンス社

【成績評価の方法と基準】

「配分」
平常点 10 %、レポート 70 %、タッチタイピングのテスト 20 %
「評価基準」
平常点は授業の参加態度で評価します。また、4 回以上欠席した場合は成績の上限を B とします。6 回以上欠席した場合は成績を E とします。
レポートは内容および表現の適切さを評価します。
タッチタイピングのテストは入力する文字の量と正確さを評価します。

【学生の意見等からの気づき】

講義の時間が長く、実習の時間を増やしてほしいとの要望があったので、実習の時間をなるべく多くとるようにしたい。

【学生が準備すべき機器他】

情報実習室で各自 1 台のコンピュータを用いて授業を行う。

【その他の重要事項】

情報処理演習Ⅱは春学期の情報処理演習Ⅰとセットになる科目です。情報処理演習Ⅱを受講する方は必ず春学期の情報処理演習Ⅰを受講して下さい。

【Outline (in English)】

Objectives of this class are to acquire the ability to collect necessary information from various information, and to process the collected information to original form, and to process them to other people. In Autumn, themes of this class are, word processing, spreadsheet, and presentation.

Each student is expected to prepare and review the textbook before and after the class.

If assignments are given, do them in time for the deadline, and submit them according to the instructions on the learning support system.

It is also recommended to do the exercises and end-of-chapter problems in the textbook that are not assigned, if you have time. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Distribution.

10% of ordinary points, 70% of reports, 20% of touch typing test
Evaluation Criteria

Ordinary points will be evaluated based on class participation.

If you are absent more than four times, your grade will be capped at B. If you are absent more than six times, your grade will be capped at E.

Reports will be evaluated on the appropriateness of content and expression.

The touch-typing test will be graded on the amount and accuracy of the typed text.

PRI100LA

情報処理演習 I

2017 年度以降入学者

重定 如彦

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 4/Wed.4

単位数：2 単位

この授業は「Web 履修抽選対象授業」です。抽選エントリー期間は 2023 年 4 月 3 日（月）10：00～5 日（水）17：00、結果発表は 4 月 6 日（木）22：00（予定）です。履修ガイド (<https://hosei-keiji.jp/ilac/rishuguide2023/>) を確認のうえ、情報システムから期間内にエントリーしてください。

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業のテーマは、様々な情報の中から自分に必要な情報を取得し、自分なりの表現へと加工して発信する力を身につけることです。また、高校の科目「情報」の取り組みが学校によって異なるため、不足分を補充し、さらに情報科学の理論へと導いていきます。

春学期の情報処理演習 I では、初心者を前提として、タイプ練習、日本語入力、インターネット概論などを実習していきます。また、コンピューターの基礎知識や情報倫理、情報科学の理論についても学びます。

【到達目標】

コンピューターを特定のハードウェア・ソフトウェアに依存しない抽象化されたモデルとして理解し、情報処理の概念と応用技術の仕組みを習得し、ネットワーク社会における倫理観を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

基本的に毎回の授業の前半に講義を行い、後半に一人一台のコンピューターを使った演習を行います。コンピューターを学ぶ上で、実際に手を動かすことは非常に重要です。授業では後半の演習の時間に様々な実習課題をこなすことで実践を通じて学びます。

授業は後述のテキストを使って行います。また、課題もテキストから出しますので、必ず購入して授業に持参して下さい。

資料の配布、アンケート、課題の提出などは学習支援システムを使って行います。学習支援システムの使い方に関しては授業内で説明します。各回の授業の冒頭で、必要に応じてアンケートの中からいくつかを取り上げてコメントを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	授業の導入	法政大学のコンピューター環境について学ぶ
第 2 回	コンピューターの基本概念	コンピューターの基本概念について学ぶ 安全なパスワードの作り方を学び、新しいパスワードを設定する
第 3 回	コンピューターの基本構成	ハードウェアの構成要素、ソフトウェア、OS の役割など、コンピューターの基本構成について学ぶ
第 4 回	Windows の基本操作	デスクトップ画面の操作方法、カットアンドペースト、GUI と CUI、ショートカットキー操作、トラブルへの対処など Windows の基本操作について学ぶ

第 5 回	キーボードと文字入力	日本語入力とかな漢字変換、全角文字と半角文字、日本語 FEP、キーボードの種類、タッチタイピングの練習方法について学ぶ
第 6 回	ファイル操作その 1	ファイルシステム（ファイル、拡張子、フォルダの概念、ファイルのパス）、エクスプローラーの基本操作について学ぶ
第 7 回	ファイル操作その 2	エクスプローラーでのファイル操作、ファイルのプロパティ、ファイルの削除、ファイルのショートカットなどについて学ぶ
第 8 回	コンピューターとデータ	デジタルとアナログ、著作権、2 進数、様々なデータの表現、データの圧縮について学ぶ
第 9 回	インターネットと電子メールその 1	インターネットの歴史と仕組み、プロトコル、電子メールの仕組みについて学ぶ
第 10 回	インターネットと電子メールその 2	電子メールの使い方、使う際の注意点（スパムメール、添付ファイルの危険性など）について学ぶ
第 11 回	WWW その 1	WWW の仕組みと利用方法について学ぶ
第 12 回	WWW その 2	WWW で得られる情報、サーチエンジンについてその仕組みと使い方について学ぶ
第 13 回	インターネットとメディアリテラシその 1	インターネットの匿名性、詐欺、情報の真偽について学ぶ
第 14 回	インターネットとメディアリテラシその 2	フリーソフトと著作権、クラウドコンピューティング、コンピューターウイルス、コンピューター犯罪について学ぶ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各自授業の前後に教科書を使って予習、復習を行うこと。また、課題が出されている場合は、締め切り間に合うように課題を行い、学習支援システムに指示に従って提出すること。なお、教科書にある、課題としなかった練習問題や章末問題も、余裕があれば行うことが望ましい。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

「実習情報リテラシ 第 3 版」 重定、河内谷 著 サイエンス社 第 2 版の「実習情報リテラシ」は内容が古く、大学のパソコンにインストールされている Windows 10 や Microsoft Office に対応していないので、間違えてそちらを購入しないように注意すること。

【参考書】

「キーワードで理解する最新情報リテラシー 第 2 版」 久野、辰巳、佐藤 監修 日経 BP ソフトプレス
「実習 Word」 入野、重定、児玉、河内谷 著 サイエンス社

【成績評価の方法と基準】

「配分」

平常点 10 %、レポート 70 %、タッチタイピングのテスト 20 %

「評価基準」

平常点は授業の参加態度で評価します。また、4 回以上欠席した場合は成績の上限を B とします。6 回以上欠席した場合は成績を E とします。

レポートは内容および表現の適切さを評価します。

タッチタイピングのテストは入力する文字の量と正確さを評価します。

【学生の意見等からの気づき】

講義の時間が長く、実習の時間を増やしてほしいとの要望があったので、実習の時間をなるべく多くとるようにしたい。

【学生が準備すべき機器他】

情報実習室で各自 1 台のコンピューターを用いて授業を行う。

【その他の重要事項】

情報処理演習 I は秋学期の情報処理演習 II とセットになる科目です。情報処理演習 I を受講された方は引き続き秋学期の情報処理演習 II を受講するようにして下さい。

【Outline (in English)】

Objectives of this class are to acquire the ability to collect necessary information from various information, and to process the collected information to original form, and to process them to other people. In Spring Semester, themes of this class are, typing, Japanese input, overview of the Internet, basic knowledge of computer, computer ethics, theory of information science.

Each student is expected to prepare and review the textbook before and after the class.

If assignments are given, do them in time for the deadline, and submit them according to the instructions on the learning support system.

It is also recommended to do the exercises and end-of-chapter problems in the textbook that are not assigned, if you have time. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Distribution.

10% of normal score, 70% of report, 20% of touch typing test

Evaluation Criteria

Ordinary points will be evaluated based on class participation.

If you are absent more than four times, your grade will be capped at B. If you are absent more than six times, your grade will be capped at E.

Reports will be evaluated on the appropriateness of content and expression.

The touch-typing test will be graded on the amount and accuracy of the typed text.

PRI200LA

情報処理演習Ⅱ

2017年度以降入学者

重定 如彦

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 4/Wed.4

単位数：2単位

この授業は「Web 履修抽選対象授業」です。抽選エントリー期間は2023年4月3日(月)10:00~5日(水)17:00、結果発表は4月6日(木)22:00(予定)です。履修ガイド(<https://hosei-keiji.jp/ilac/rishuguide2023/>)を確認のうえ、情報システムから期間内にエントリーしてください。

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業のテーマは、様々な情報の中から自分に必要な情報を取得し、自分なりの表現へと加工して発信する力を身につけることです。また、高校の科目「情報」の取り組みが学校によって異なるため、不足分を補充し、さらに情報科学の理論へと導いていきます。

秋学期の情報処理演習Ⅱでは、情報処理演習Ⅰで学んだ内容を元に文書作成、表計算ソフト、プレゼンテーションといった内容を学びます。

【到達目標】

情報のタイプに応じて様々な情報の表現形式（情報メディア）が存在する事を理解する。また、その上で文書作成、表計算、プレゼンテーションを用いた複合的な情報の受信、発信技術を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

基本的に毎回の授業の前半に講義を行い、後半に一人一台のコンピュータを使った演習を行います。コンピュータを学ぶ上で、実際に手を動かすことは非常に重要です。授業では後半の演習の時間に様々な実習課題をこなすことで実践を通じて学びます。

授業は後述のテキストを使って行います。また、課題もテキストから出しますので、必ず購入して授業に持参して下さい。

資料の配布、アンケート、課題の提出などは学習支援システムを使って行います。各回の授業の冒頭で、必要に応じてアンケートの中からいくつかを取り上げてコメントを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ワードプロセッサその1	テキストエディタとワードプロセッサの基本について学ぶ ワープロと、HTMLによる文章の構造化について学ぶ
第2回	ワードプロセッサその2	段落、タブ、ルーラー、文章の検索、置換、校正について学ぶ
第3回	ワードプロセッサその3	表紙、ヘッダーとフッター、表の挿入と編集について学ぶ
第4回	ワードプロセッサその4	図形、描画キャンパスの挿入と編集について学ぶ
第5回	ワードプロセッサその5	画像、SmartArt、スクリーンショットの挿入と編集について学ぶ レポートを作成する上で必要となる機能（目次、参考文献、脚注の挿入など）について学ぶ

第6回	表計算ソフトその1	表計算ソフトウェアの概念、データの入力、セルの操作、データの種類と式、セルの修飾について学ぶ
第7回	表計算ソフトその2	セルの表示形式、カットアンドペースト、オートフィルなどによるデータのコピー、式によるデータの計算、時系列データについて学ぶ
第8回	表計算ソフトその3	式のコピーと相対参照、絶対参照、セルに名前を付ける方法、関数の基礎について学ぶ
第9回	表計算ソフトその4	条件分岐について学び、条件分岐を使った応用例として実用的な表の作成方法について学ぶ
第10回	表計算ソフトその5	グラフについて学ぶ
第11回	表計算ソフトその6	データベース機能（並べ替え、検索、フィルター）、串刺し集計、Wordへの表やグラフの貼り付け、エラー表記について学ぶ
第12回	プレゼンテーション1	プレゼンテーションとは何か、プレゼンテーションソフトの概念、スライド作成について学ぶ
第13回	プレゼンテーション2	図形、画像、グラフなどの利用方法、画面切り替え効果について学ぶ
第14回	プレゼンテーション3	アニメーション、スライドショー、発表練習、質疑応答について学ぶ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各自授業の前後に教科書を使って予習、復習を行うこと。また、課題が出されている場合は、締め切りに間に合うように課題を行い、学習支援システムに指示に従って提出すること。なお、教科書にある、課題としなかった練習問題や章末問題も、余裕があれば行うことが望ましい。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

「実習情報リテラシ 第3版」 重定、河内谷 著 サイエンス社
第2版の「実習情報リテラシ」は内容が古く、大学のパソコンにインストールされている Windows 10 や Microsoft Office に対応していないので、間違えてそちらを購入しないように注意すること。

【参考書】

「キーワードで理解する最新情報リテラシー 第2版」久野、辰巳、佐藤 監修 日経 BP ソフトプレス
「実習 Word」 入戸野、重定、児玉、河内谷 著 サイエンス社

【成績評価の方法と基準】

「配分」
平常点 10%、レポート 70%、タッチタイピングのテスト 20%
「評価基準」
平常点は授業の参加態度で評価します。また、4回以上欠席した場合は成績の上限を B とします。6回以上欠席した場合は成績を E とします。
レポートは内容および表現の適切さを評価します。
タッチタイピングのテストは入力する文字の量と正確さを評価します。

【学生の意見等からの気づき】

講義の時間が長く、実習の時間を増やしてほしいとの要望があったので、実習の時間をなるべく多くとるようにしたい。

【学生が準備すべき機器他】

情報実習室で各自1台のコンピュータを用いて授業を行う。

【その他の重要事項】

情報処理演習Ⅱは春学期の情報処理演習Ⅰとセットになる科目です。情報処理演習Ⅱを受講する方は必ず春学期の情報処理演習Ⅰを受講して下さい。

【Outline (in English)】

Objectives of this class are to acquire the ability to collect necessary information from various information, and to process the collected information to original form, and to process them to other people. In Autumn, themes of this class are, word processing, spreadsheet, and presentation.

Each student is expected to prepare and review the textbook before and after the class.

If assignments are given, do them in time for the deadline, and submit them according to the instructions on the learning support system.

It is also recommended to do the exercises and end-of-chapter problems in the textbook that are not assigned, if you have time. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Distribution.

10% of ordinary points, 70% of reports, 20% of touch typing test
Evaluation Criteria

Ordinary points will be evaluated based on class participation.

If you are absent more than four times, your grade will be capped at B. If you are absent more than six times, your grade will be capped at E.

Reports will be evaluated on the appropriateness of content and expression.

The touch-typing test will be graded on the amount and accuracy of the typed text.

PRI100LA

情報処理演習 I

2017 年度以降入学者

河内谷 幸子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 3/Thu.3

単位数：2 単位

この授業は「Web 履修抽選対象授業」です。抽選エントリー期間は 2023 年 4 月 3 日（月）10：00～5 日（水）17：00、結果発表は 4 月 6 日（木）22：00（予定）です。履修ガイド (<https://hosei-keiji.jp/ilac/rishuguide2023/>) を確認のうえ、情報システムから期間内にエントリーしてください。

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業のねらいは、様々な情報の中から自分に必要な情報を取得し自分なりの表現へと加工して発信する力を身につけることです。また、高校の科目「情報」の取り組みが学校によって異なるため、不足分を補充し、さらに情報科学の理論へと導いていきます。

Word、Excel、パソコンの仕組みを学びます。

初心者でも Word や Excel の資格試験合格レベルまで上達できます。当科目は、専門科目の情報科目（情報学入門等）と両方履修できます。両方履修すると相乗効果で上達が期待できます。

【到達目標】

他科目のレポート作成、ゼミの資料や卒論作成、社会に出てからの書類作成、などに役立つ実践的な内容の習得が到達目標です。web ブラウザ、サーチエンジン、電子メール、ネットワークについて、しくみを理解します。文書作成ソフト Word の、書式変更、段落処理、表の作成、描画などの機能を理解し利用できるようになります。表計算ソフト Excel の、文字・数字・式の入力方法、多くの関数、基礎から応用までのグラフ作成方法、データベース機能、串刺し集計、近似曲線などの機能を理解し利用できるようになります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

この授業を履修するためには4月上旬（春学期の授業開始前）の抽選に当選する必要があります。大学 HP の授業関連の項目を参照して抽選に申し込んで下さい。

基本的には対面授業で、対面授業科目にカウントされるのですが、数回オンライン授業の日があります。授業の前日には必ず学習支援システム「Hoppii」の「お知らせ」を読んで、対面かどうかを確認して下さい。特に 1 回目の対面授業は「持ち物」の指定があるので必ず学習支援システム Hoppii の「お知らせ」で授業内容を確認して下さい。

対面授業では、ボアソナードタワー内にあるパソコン実習室で、毎回 1 人 1 台コンピュータを使って実習を行います。初心者を前提として、タイプ練習から始めて、Word・Excel の基本を実習します。課題のフィードバックは学習支援システムに掲載します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス 情報倫理	パソコンの起動と終了、ウインドウ操作、情報倫理について学び実習する。
2	ブラウザとメール タイプ練習	web ブラウザ、サーチエンジン、電子メールなどのしくみを学び実習する。 タイピング練習を行う。

3	文書作成 1	文書作成ソフト Word を使って、様々な入力方法、書式変更方法について実習する。
4	文書作成 2	見やすい文書を作成することを目的として、文書作成ソフト Word を使って、段落処理および表の作成について実習する。
5	文書作成 3	効果的に文をまとめることを目的として、効果文書作成ソフト Word を使って、画像の挿入およびスマートアート（構造図）について実習する。
6	文書作成 4	文章をよりわかりやすくする説明図の作成を目的として、文書作成ソフト Word を使って、描画機能について実習する。
7	文書作成 5	文書作成に関するこれまでのまとめ演習を行う。
8	コンピュータの基礎知識	コンピュータの基礎知識を学ぶ。
9	表計算 1	表計算ソフト Excel を使って、表の作成・グラフの作成の基本を実習する。
10	表計算 2	表計算ソフト Excel を使って、いろいろなグラフの書き方を実習する。また、適切なグラフの選び方や、グラフの強調方法を学ぶ。
11	表計算 3	表計算ソフト Excel を使って、シートをまたいだ集計、データベース機能などについて実習する。
12	表計算 4	表計算ソフト Excel を使って、いろいろな関数の使い方を実習する。近似曲線機能、シナリオ機能、ゴールシーク機能などの応用機能について学ぶ。
13	表計算 5	表計算に関するこれまでのまとめ演習を行う。
14	ネットワークの基礎 ホームページの仕組み	ネットワークの基礎知識を学ぶ。 ホームページを閲覧するためのネットワークの仕組みや、html によるホームページ作成について実習する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業中の指示に従って前回の実習内容を復習します。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

学習支援システム Hoppii で指示します。

【参考書】

実習 情報リテラシ [第3版]
著者：重定如彦・河内谷幸子 共著
出版：サイエンス社

【成績評価の方法と基準】

学習支援システム Hoppii での提出物（100%）で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

対面授業の場合は、一人一人の席をまわって個別にわからない点を指導する点に高い評価をいただきましたので、今年度も丁寧に個別指導をしていきたいと思えます。

【学生が準備すべき機器他】

オンライン授業の備えて、Word と Excel と PowerPoint が使用できるパソコンを自宅に準備して下さい。

【その他の重要事項】

コンピュータが苦手でも履修できます。
この授業を履修するためには4月上旬（春学期の授業開始前）の抽選に当選する必要があります。大学 HP の授業関連の項目を参照して抽選に申し込んで下さい。

授業の前日には必ず学習支援システム **Hoppii** の「お知らせ」を読んで、対面かオンラインかを確認して下さい。1 回目の対面授業は「持ち物」の指定があるので必ず学習支援システム **Hoppii** の「お知らせ」で授業内容を確認して下さい。

【Outline (in English)】

This course aims at acquiring skills to choose necessary information from varieties of information and process it as your own expressions for publishing. In addition, because the teaching level of "Information" course at high school varies, this course starts from its review then leads to the study of Information Science. Lectures of PC internals are included in this course.

The goal of this course is to master the technique of Word, Excel and PowerPoint.

It takes 2 hours to prepare/review.

You will get grades with your submissions from learning-support system "Hoppii".

PRI200LA

情報処理演習Ⅱ

2017年度以降入学者

河内谷 幸子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 3/Thu.3

単位数：2 単位

この授業は「Web 履修抽選対象授業」です。抽選エントリー期間は 2023 年 4 月 3 日（月）10：00～5 日（水）17：00、結果発表は 4 月 6 日（木）22：00（予定）です。履修ガイド (<https://hosei-keiji.jp/ilac/rishuguide2023/>) を確認のうえ、情報システムから期間内にエントリーしてください。

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「情報処理演習Ⅰ」履修者または同等の基礎力を持つ者を対象とします。この授業のねらいは、自分の持つ情報のよりよい表現方法を学ぶことです。また、将来的に新種のソフトが普及しても積極的に取り組む姿勢を身につけることも目標とします。

Word, Excel, PowerPoint, パソコンの仕組みを学びます。初心者でも Word や Excel の資格試験合格レベルまで上達できます。当科目は、専門科目の情報科目（情報学入門等）と両方履修できます。両方履修すると相乗効果で上達が期待できます。

【到達目標】

他科目のレポート作成、ゼミの資料や卒論作成、社会に出てからの書類作成、などに役立つ実践的な内容の習得が到達目標です。

文書作成ソフト Word において、レポートや卒業論文の作成に必要な技術として、表紙付与、目次、脚注、引用文献、索引などの機能を習得します。また、共同作業に必要な技術として、履歴・コメント・パスワード付与などの機能を習得します。

表計算ソフト Excel において、条件処理、アンケート集計に便利なピボットテーブル、連続する操作を登録するマクロ機能などを習得します。

データベースソフト ACCESS の使い方を体験します。プレゼンテーションソフト PowerPoint を利用して発表ができるようになります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

この授業は秋学期科目ですが、履修するためには情報処理演習Ⅱ(春学期科目)と同じタイミングで4月上旬(春学期の授業開始前)の抽選に当選する必要があります。大学 HP の授業関連の項目を参照して抽選に申し込んで下さい。

基本的には対面授業で、対面授業科目にカウントされますが、数回オンライン授業の日があります。授業の前日には必ず学習支援システム Hoppii の「お知らせ」を読んで、対面かオンラインかを確認して下さい。

対面授業では、ボアソナードタワー内にあるパソコン実習室で、毎回 1 人 1 台コンピュータを使って実習を行います。表計算ソフト、プレゼンテーションソフト、その他の応用ソフトの使い方などを実習します。また、コンピュータの知識や情報倫理や情報科学の理論についての考え方を深めます。

課題のフィードバックは学習支援システムに掲示します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	春学期の復習 秋学期ガイダンス 情報倫理	春学期に学んだ文書作成と表計算の内容を復習する実習を行う。

2	文書作成 1	文書作成ソフト Word を使って、文字スタイル、高度な検索・置換、クイックパーツ、段組み、透かしなどの機能の実習を行う。
3	文書作成 2	文書作成ソフト Word を使って、表紙付与、目次、脚注、引用文献、索引、差し込み印刷などの機能の実習を行う。
4	文書作成 3	文書作成ソフト Word を使って、文章校正、変更履歴、コメント、テンプレート、ユーザの編集制限、パスワード付与、図番の付与、画像編集などの機能の実習を行う。
5	文書作成 4	文書作成に関するこれまでのまとめ演習を行う。
6	データベースソフト	データベースソフト Access を使って、リレーショナルデータベースについて理論を学び、実習する。
7	コンピュータのしくみ IT 時事問題	コンピュータの基礎知識を学ぶ。また、IT 時事問題を紹介し、それについて考え、まとめる。
8	表計算 1	表計算ソフト Excel を利用して、条件処理を学ぶ。関数 IF、SUMIF、AVERAGEIF、COUNTIF などを使った実習を行う。また条件付き書式の実習を行う。
9	表計算 2	アンケート処理を目的として、表計算ソフト Excel のピボットテーブル機能について実習する。また、効果的なグラフを書くことを目的として、Excel のグラフテンプレートについて実習する。EXCEL のマクロを入門体験する。
10	表計算 3	表計算に関するこれまでのまとめ演習を行う。
11	表計算 4	Word の差し込み印刷機能と、Excel で作成した住所録を利用して、ラベル作成およびハガキ作成を実習する。
12	文書作成と表計算の連携	プレゼンテーションソフト PowerPoint の入力、デザイン、アニメーション、スライドショーなどについて実習する。
13	プレゼンテーションソフト 1	PowerPoint を使って発表資料を作成する。
14	プレゼンテーションソフト 2	PowerPoint を使って発表資料を作成する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業中の指示に従って前回の授業の復習を行います。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業中に指示します。

【参考書】

実習 情報リテラシ [第 3 版]
著者：重定如彦・河内谷幸子 共著
出版：サイエンス社

【成績評価の方法と基準】

学習支援システム Hoppii への提出物（100%）で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

一人一人の席をまわって個別にわからない点を指導する点に高い評価をいただきましたので、今年度も丁寧に個別指導をしていきたいと思ひます。

【学生が準備すべき機器他】

オンライン授業の備えて、Word・Excel・PowerPoint・Zoom が使用できるパソコンを自宅に準備する。

【その他の重要事項】

コンピュータが苦手でも履修可能です。

この授業は秋学期科目ですが、履修するためには情報処理演習 I(春学期科目)と同じタイミングで4月上旬(春学期の授業開始前)の抽選に当選する必要があります。大学 HP の授業関連の項目を参照して抽選に申し込んで下さい。

授業の前日には必ず学習支援システム Hoppii の「お知らせ」を読んで、対面かオンラインかを確認して下さい。

【Outline (in English)】

This course targets students who completed the "Information Processing Exercise I" course or has equivalent basic skills.

This course teaches various techniques to express your information better and helps you acquire the attitude to proactively study future new-type software. Advanced lectures of PC internals are included in this course.

The goal of this course is to master the advanced technique of Word, Excel and PowerPoint.

It takes 2 hours to prepare/review.

You will get grades with your submissions from learning-support system "Hoppii".

PRI100LA

情報処理演習 I

2017 年度以降入学者

河内谷 幸子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 4/Thu.4

単位数：2 単位

この授業は「Web 履修抽選対象授業」です。抽選エントリー期間は 2023 年 4 月 3 日（月）10：00～5 日（水）17：00、結果発表は 4 月 6 日（木）22：00（予定）です。履修ガイド (<https://hosei-keiji.jp/ilac/rishuguide2023/>) を確認のうえ、情報システムから期間内にエントリーしてください。

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業のねらいは、様々な情報の中から自分に必要な情報を取得し自分なりの表現へと加工して発信する力を身につけることです。また、高校の科目「情報」の取り組みが学校によって異なるため、不足分を補充し、さらに情報科学の理論へと導いていきます。

Word、Excel、パソコンの仕組みを学びます。

初心者でも Word や Excel の資格試験合格レベルまで上達できます。当科目は、専門科目の情報科目（情報学入門等）と両方履修できます。両方履修すると相乗効果で上達が期待できます。

【到達目標】

他科目のレポート作成、ゼミの資料や卒論作成、社会に出てからの書類作成、などに役立つ実践的な内容の習得が到達目標です。web ブラウザ、サーチエンジン、電子メール、ネットワークについて、しくみを理解します。文書作成ソフト Word の、書式変更、段落処理、表の作成、描画などの機能を理解し利用できるようになります。表計算ソフト Excel の、文字・数字・式の入力方法、多くの関数、基礎から応用までのグラフ作成方法、データベース機能、串刺し集計、近似曲線などの機能を理解し利用できるようになります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

この授業を履修するためには4月上旬（春学期の授業開始前）の抽選に当選する必要があります。大学 HP の授業関連の項目を参照して抽選に申し込んで下さい。

基本的には対面授業で、対面授業科目にカウントされるのですが、数回オンライン授業の日があります。授業の前日には必ず学習支援システム「Hoppii」の「お知らせ」を読んで、対面かどうかを確認して下さい。特に 1 回目の対面授業は「持ち物」の指定があるので必ず学習支援システム Hoppii の「お知らせ」で授業内容を確認して下さい。

対面授業では、ボアソナードタワー内にあるパソコン実習室で、毎回 1 人 1 台コンピュータを使って実習を行います。初心者を前提として、タイプ練習から始めて、Word・Excel の基本を実習します。課題のフィードバックは学習支援システムに掲載します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス 情報倫理	パソコンの起動と終了、ウインドウ操作、情報倫理について学び実習する。
2	ブラウザとメール タイプ練習	web ブラウザ、サーチエンジン、電子メールなどのしくみを学び実習する。 タイピング練習を行う。

3	文書作成 1	文書作成ソフト Word を使って、様々な入力方法、書式変更方法について実習する。
4	文書作成 2	見やすい文書を作成することを目的として、文書作成ソフト Word を使って、段落処理および表の作成について実習する。
5	文書作成 3	効果的に文をまとめることを目的として、効果文書作成ソフト Word を使って、画像の挿入およびスマートアート（構造図）について実習する。
6	文書作成 4	文章をよりわかりやすくする説明図の作成を目的として、文書作成ソフト Word を使って、描画機能について実習する。
7	文書作成 5	文書作成に関するこれまでのまとめ演習を行う。
8	コンピュータの基礎知識	コンピュータの基礎知識を学ぶ。
9	表計算 1	表計算ソフト Excel を使って、表の作成・グラフの作成の基本を実習する。
10	表計算 2	表計算ソフト Excel を使って、いろいろなグラフの書き方を実習する。また、適切なグラフの選び方や、グラフの強調方法を学ぶ。
11	表計算 3	表計算ソフト Excel を使って、シートをまたいだ集計、データベース機能などについて実習する。
12	表計算 4	表計算ソフト Excel を使って、いろいろな関数の使い方を実習する。近似曲線機能、シナリオ機能、ゴールシーク機能などの応用機能について学ぶ。
13	表計算 5	表計算に関するこれまでのまとめ演習を行う。
14	ネットワークの基礎 ホームページの仕組み	ネットワークの基礎知識を学ぶ。 ホームページを閲覧するためのネットワークの仕組みや、html によるホームページ作成について実習する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業中の指示に従って前回の実習内容を復習します。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

学習支援システム Hoppii で指示します。

【参考書】

実習 情報リテラシ [第3版]
著者：重定如彦・河内谷幸子 共著
出版：サイエンス社

【成績評価の方法と基準】

学習支援システム Hoppii での提出物（100%）で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

対面授業の場合は、一人一人の席をまわって個別にわからない点を指導する点に高い評価をいただきましたので、今年度も丁寧に個別指導をしていきたいと思えます。

【学生が準備すべき機器他】

オンライン授業の備えて、Word と Excel と PowerPoint が使用できるパソコンを自宅に準備して下さい。

【その他の重要事項】

コンピュータが苦手でも履修できます。
この授業を履修するためには4月上旬（春学期の授業開始前）の抽選に当選する必要があります。大学 HP の授業関連の項目を参照して抽選に申し込んで下さい。

授業の前日には必ず学習支援システム **Hoppii** の「お知らせ」を読んで、対面かオンラインかを確認して下さい。1 回目の対面授業は「持ち物」の指定があるので必ず学習支援システム **Hoppii** の「お知らせ」で授業内容を確認して下さい。

【Outline (in English)】

This course aims at acquiring skills to choose necessary information from varieties of information and process it as your own expressions for publishing. In addition, because the teaching level of "Information" course at high school varies, this course starts from its review then leads to the study of Information Science. Lectures of PC internals are included in this course.

The goal of this course is to master the technique of Word, Excel and PowerPoint.

It takes 2 hours to prepare/review.

You will get grades with your submissions from learning-support system "Hoppii".

PRI200LA

情報処理演習Ⅱ

2017年度以降入学者

河内谷 幸子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 4/Thu.4

単位数：2 単位

この授業は「Web 履修抽選対象授業」です。抽選エントリー期間は 2023 年 4 月 3 日（月）10：00～5 日（水）17：00、結果発表は 4 月 6 日（木）22：00（予定）です。履修ガイド (<https://hosei-keiji.jp/ilac/rishuguide2023/>) を確認のうえ、情報システムから期間内にエントリーしてください。

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「情報処理演習Ⅰ」履修者または同等の基礎力を持つ者を対象とします。この授業のねらいは、自分の持つ情報のよりよい表現方法を学ぶことです。また、将来的に新種のソフトが普及しても積極的に取り組む姿勢を身につけることも目標とします。

Word, Excel, PowerPoint, パソコンの仕組みを学びます。初心者でも Word や Excel の資格試験合格レベルまで上達できます。当科目は、専門科目の情報科目（情報学入門等）と両方履修できます。両方履修すると相乗効果で上達が期待できます。

【到達目標】

他科目のレポート作成、ゼミの資料や卒論作成、社会に出てからの書類作成、などに役立つ実践的な内容の習得が到達目標です。

文書作成ソフト Word において、レポートや卒業論文の作成に必要な技術として、表紙付与、目次、脚注、引用文献、索引などの機能を習得します。また、共同作業に必要な技術として、履歴・コメント・パスワード付与などの機能を習得します。

表計算ソフト Excel において、条件処理、アンケート集計に便利なピボットテーブル、連続する操作を登録するマクロ機能などを習得します。

データベースソフト ACCESS の使い方を体験します。プレゼンテーションソフト PowerPoint を利用して発表ができるようになります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

この授業は秋学期科目ですが、履修するためには情報処理演習Ⅱ(春学期科目)と同じタイミングで4月上旬(春学期の授業開始前)の抽選に当選する必要があります。大学 HP の授業関連の項目を参照して抽選に申し込んで下さい。

基本的には対面授業で、対面授業科目にカウントされますが、数回オンライン授業の日があります。授業の前日には必ず学習支援システム Hoppii の「お知らせ」を読んで、対面かオンラインかを確認して下さい。

対面授業では、ボアソナードタワー内にあるパソコン実習室で、毎回 1 人 1 台コンピュータを使って実習を行います。表計算ソフト、プレゼンテーションソフト、その他の応用ソフトの使い方などを実習します。また、コンピュータの知識や情報倫理や情報科学の理論についての考え方を深めます。

課題のフィードバックは学習支援システムに掲示します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	春学期の復習 秋学期ガイダンス 情報倫理	春学期に学んだ文書作成と表計算の内容を復習する実習を行う。

2	文書作成 1	文書作成ソフト Word を使って、文字スタイル、高度な検索・置換、クイックパーツ、段組み、透かしなどの機能の実習を行う。
3	文書作成 2	文書作成ソフト Word を使って、表紙付与、目次、脚注、引用文献、索引、差し込み印刷などの機能の実習を行う。
4	文書作成 3	文書作成ソフト Word を使って、文章校正、変更履歴、コメント、テンプレート、ユーザの編集制限、パスワード付与、図番の付与、画像編集などの機能の実習を行う。
5	文書作成 4	文書作成に関するこれまでのまとめ演習を行う。
6	データベースソフト	データベースソフト Access を使って、リレーショナルデータベースについて理論を学び、実習する。
7	コンピュータのしくみ IT 時事問題	コンピュータの基礎知識を学ぶ。また、IT 時事問題を紹介し、それについて考え、まとめる。
8	表計算 1	表計算ソフト Excel を利用して、条件処理を学ぶ。関数 IF、SUMIF、AVERAGEIF、COUNTIF などを使った実習を行う。また条件付き書式の実習を行う。
9	表計算 2	アンケート処理を目的として、表計算ソフト Excel のピボットテーブル機能について実習する。また、効果的なグラフを書くことを目的として、Excel のグラフテンプレートについて実習する。
10	表計算 3	EXCEL のマクロを入門体験する。
11	表計算 4	表計算に関するこれまでのまとめ演習を行う。
12	文書作成と表計算の連携	Word の差し込み印刷機能と、Excel で作成した住所録を利用して、ラベル作成およびハガキ作成を実習する。
13	プレゼンテーションソフト 1	プレゼンテーションソフト PowerPoint の入力、デザイン、アニメーション、スライドショーなどについて実習する。
14	プレゼンテーションソフト 2	PowerPoint を使って発表資料を作成する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業中の指示に従って前回の授業の復習を行います。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業中に指示します。

【参考書】

実習 情報リテラシ [第3版]
著者：重定如彦・河内谷幸子 共著
出版：サイエンス社

【成績評価の方法と基準】

学習支援システム Hoppii への提出物（100%）で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

一人一人の席をまわって個別にわからない点を指導する点に高い評価をいただきましたので、今年度も丁寧に個別指導をしていきたいと思えます。

【学生が準備すべき機器他】

オンライン授業の備えて、Word・Excel・PowerPoint・Zoom が使用できるパソコンを自宅に準備する。

【その他の重要事項】

コンピュータが苦手でも履修可能です。

この授業は秋学期科目ですが、履修するためには情報処理演習 I(春学期科目)と同じタイミングで4月上旬(春学期の授業開始前)の抽選に当選する必要があります。大学 HP の授業関連の項目を参照して抽選に申し込んで下さい。

授業の前日には必ず学習支援システム Hoppii の「お知らせ」を読んで、対面かオンラインかを確認して下さい。

【Outline (in English)】

This course targets students who completed the "Information Processing Exercise I" course or has equivalent basic skills.

This course teaches various techniques to express your information better and helps you acquire the attitude to proactively study future new-type software. Advanced lectures of PC internals are included in this course.

The goal of this course is to master the advanced technique of Word, Excel and PowerPoint.

It takes 2 hours to prepare/review.

You will get grades with your submissions from learning-support system "Hoppii".

PRI100LA

情報処理演習 I

2017 年度以降入学者

名児耶 厚

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 1/Fri.1

単位数：2 単位

この授業は「Web 履修抽選対象授業」です。抽選エントリー期間は 2023 年 4 月 3 日（月）10：00～5 日（水）17：00、結果発表は 4 月 6 日（木）22：00（予定）です。履修ガイド (<https://hosei-keiji.jp/ilac/rishuguide2023/>) を確認のうえ、情報システムから期間内にエントリーしてください。

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

大学での学習・社会の様々な分野で必要とされる情報利活用のため、基本的な ICT スキルの習得を目指します。PC 操作の実習を中心に、コンピュータの基礎知識や情報リテラシー、各種文書作成・管理について習得します。

【到達目標】

コンピュータの基本的な知識・操作法を理解し、文書作成・管理、集計、情報収集等のスキルを習得する。在学中・その後の様々な局面で必要となる基礎的な ICT 関連の知識や技術を理解し、使用できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

PC 操作の実習を中心に講義・関連説明を交えて進め、結果や成果物を提出していく形式となります。授業内の実習も提出物の範囲に含めることで、授業への参加がそのまま提出物にもつながるようにします。提出や解答例の解説等のフィードバックは学習支援システムを通じて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	説明と確認	授業の説明、準備、機材の確認
第 2 回	基本操作と知識	基本操作、資料の配布と受け取り
第 3 回	データの作成と保存	作成した文書の保存、ファイル
第 4 回	ファイルと文章の入力	ファイルの扱いと文章の入力操作
第 5 回	文書作成の基本	文書処理基礎、資料の管理と保存
第 6 回	共通の操作・知識	ファイル操作、ネットワークなど
第 7 回	文書作成（文章中心）	ワープロ（文章、修飾、操作法）
第 8 回	プレゼンテーション	発表の知識と資料の作成
第 9 回	画像等を含む文書作成	図形や画像を含む書類の作成
第 10 回	表計算の基礎	データの取り扱い、表計算の基礎
第 11 回	プレゼン応用・発表	応用操作と資料の編集、発表
第 12 回	計算処理	関数の取り扱いと数式の実行
第 13 回	データ管理、グラフ	データベースとグラフ
第 14 回	まとめ・総合的な演習	これまでのまとめとその後

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学習内容の多くが連続しているため、過去の内容を把握・理解しておくことが必要です。授業内での実習に続けて課題も行い、授業時に不十分と感じた項目の復習をしてください。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

実習 情報リテラシ【第 3 版】、重定 如彦・河内谷 幸子、サイエンス社、¥1,950 + 税。

実習室の環境と合わせるため、詳細は初回授業で説明します。

【参考書】

ICT・情報系の入門書籍や同類授業・講座での教科書等が広く該当します。

【成績評価の方法と基準】

各回・単元ごとに設定する課題（40%）、授業内実習と平常点（60%）。提出物は授業内実習と課題を両方兼ね、それらを元に到達目標への達成状況を判断します。

【学生の意見等からの気づき】

授業内容や資料作成、丁寧な説明は継続して皆が理解できるようにしつつ、意見を聞く機会を広げて進捗状況の調整へとつなげたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

情報実習室で行う授業のため情報機器（PC）を使用し、配布・提出には学習支援システムを使います。

【その他の重要事項】

この科目は春学期・秋学期を通じて履修することを勧めます。

【Outline (in English)】

This course introduces ICT and related technologies to students taking this course. The goals of this course are to get basic skills of ICT and information literacy. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Your overall grade in the class will be decided based on the followings: Short reports: 40% and in-class practical work and contribution: 60%.

PRI200LA

情報処理演習Ⅱ

2017年度以降入学者

名児耶 厚

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 1/Fri.1

単位数：2 単位

この授業は「Web 履修抽選対象授業」です。抽選エントリー期間は 2023 年 4 月 3 日（月）10：00～5 日（水）17：00、結果発表は 4 月 6 日（木）22：00（予定）です。履修ガイド (<https://hosei-keiji.jp/ilac/rishuguide2023/>) を確認のうえ、情報システムから期間内にエントリーしてください。

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

大学での学習・社会の様々な分野で必要とされる情報利活用のため、現代社会で必要な ICT 関連や情報技術のスキル・知識の習得を、さらに深めることを目指します。PC 操作の実習を中心に、情報リテラシーやその活用、集計・データ処理について習得していきます。

【到達目標】

事務作業などを想定した一般的な情報系の知識・スキルを習得し、活用できる。応用的な文書作成・調査・集計・管理などにて必要となる基盤的な技術を習得し、実践できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

PC 操作の実習を中心に講義・関連説明を交えて進め、結果や成果物を提出していく形式となります。授業内の実習も提出物の範囲に含めることで、授業への参加がそのまま提出物にもつながるようにします。提出や解答例の解説等のフィードバックは学習支援システムを通じて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	説明と確認	授業の説明、準備、機材の確認
第 2 回	確認と復習	これまでの確認と復習
第 3 回	表計算の応用例	一利用例としての統計分析
第 4 回	書類の構成・構造	総合的な書類作成・応用
第 5 回	グラフや図表の利用	表計算の利用例、集計資料作成
第 6 回	Web ページ作成基礎	Web の基本と作成実習
第 7 回	文書作成総合	書式に従った文書の作成
第 8 回	Web ページ応用知識	Web サイト作成と情報発信
第 9 回	検索とデータ取込	表からの検索、外部データ利用
第 10 回	複雑な文書の作成	集計・計算等を含む文書の作成
第 11 回	条件分岐と判定	条件判断、結果の更新と変更
第 12 回	情報の蓄積と管理	データベースの基礎と体験
第 13 回	情報処理と文書管理	情報や文書の逐次・自動処理
第 14 回	まとめ・総合演習	これまでの知識に基づく総合演習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学習内容の多くが連続しているため、過去の内容を把握・理解しておくことが必要です。授業内での実習に続けて課題も行い、授業時に不十分と感じた項目の復習をしてください。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

実習 情報リテラシ [第 3 版]、重定 如彦・河内谷 幸子、サイエンス社、¥1,950 + 税。
実習室の環境と合わせるため、詳細は初回授業で説明します。

【参考書】

基礎的な情報リテラシー系の書籍や同類授業・講座での教科書等が広く該当します。

【成績評価の方法と基準】

各回・単元ごとに設定する課題（40%）、授業内実習と平常点（60%）。提出物は授業内実習と課題を両方兼ね、それらを元に到達目標への達成状況を判断します。

【学生の意見等からの気づき】

授業内容や資料作成、丁寧な説明は継続して皆が理解できるようにしつつ、意見を聞く機会を広げて進捗状況の調整へとつなげたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

情報実習室で行う授業のため情報機器（PC）を使用し、配布・提出には学習支援システムを使います。

【その他の重要事項】

この科目は春学期・秋学期を通じて履修することを勧めます。

【Outline (in English)】

This course introduces ICT and related technologies to students taking this course. The goals of this course are to improve skills and knowledge of information literacy. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Your overall grade in the class will be decided based on the followings: Short reports: 40% and in-class practical work and contribution: 60%.

PRI100LA

情報処理演習 I

2017 年度以降入学者

名児耶 厚

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 2/Fri.2

単位数：2 単位

この授業は「Web 履修抽選対象授業」です。抽選エントリー期間は 2023 年 4 月 3 日（月）10：00～5 日（水）17：00、結果発表は 4 月 6 日（木）22：00（予定）です。履修ガイド (<https://hosei-keiji.jp/ilac/rishuguide2023/>) を確認のうえ、情報システムから期間内にエントリーしてください。

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

大学での学習・社会の様々な分野で必要とされる情報利活用のため、基本的な ICT スキルの習得を目指します。PC 操作の実習を中心に、コンピュータの基礎知識や情報リテラシー、各種文書作成・管理について習得します。

【到達目標】

コンピュータの基本的な知識・操作法を理解し、文書作成・管理、集計、情報収集等のスキルを習得する。在学中・その後の様々な局面で必要となる基礎的な ICT 関連の知識や技術を理解し、使用できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

PC 操作の実習を中心に講義・関連説明を交えて進め、結果や成果物を提出していく形式となります。授業内の実習も提出物の範囲に含めることで、授業への参加がそのまま提出物にもつながるようにします。提出や解答例の解説等のフィードバックは学習支援システムを通じて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	説明と確認	授業の説明、準備、機材の確認
第 2 回	基本操作と知識	基本操作、資料の配布と受け取り
第 3 回	データの作成と保存	作成した文書の保存、ファイル
第 4 回	ファイルと文章の入力	ファイルの扱いと文章の入力操作
第 5 回	文書作成の基本	文書処理基礎、資料の管理と保存
第 6 回	共通の操作・知識	ファイル操作、ネットワークなど
第 7 回	文書作成（文章中心）	ワープロ（文章、修飾、操作法）
第 8 回	プレゼンテーション	発表の知識と資料の作成
第 9 回	画像等を含む文書作成	図形や画像を含む書類の作成
第 10 回	表計算の基礎	データの取り扱い、表計算の基礎
第 11 回	プレゼン応用・発表	応用操作と資料の編集、発表
第 12 回	計算処理	関数の取り扱いと数式の実行
第 13 回	データ管理、グラフ	データベースとグラフ
第 14 回	まとめ・総合的な演習	これまでのまとめとその後

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学習内容の多くが連続しているため、過去の内容を把握・理解しておくことが必要です。授業内での実習に続けて課題も行い、授業時に不十分と感じた項目の復習をしてください。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

実習 情報リテラシ【第 3 版】、重定 如彦・河内谷 幸子、サイエンス社、¥1,950 + 税。

実習室の環境と合わせるため、詳細は初回授業で説明します。

【参考書】

ICT・情報系の入門書籍や同類授業・講座での教科書等が広く該当します。

【成績評価の方法と基準】

各回・単元ごとに設定する課題（40%）、授業内実習と平常点（60%）。提出物は授業内実習と課題を両方兼ね、それらを元に到達目標への達成状況を判断します。

【学生の意見等からの気づき】

授業内容や資料作成、丁寧な説明は継続して皆が理解できるようにしつつ、意見を聞く機会を広げて進捗状況の調整へとつなげたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

情報実習室で行う授業のため情報機器（PC）を使用し、配布・提出には学習支援システムを使います。

【その他の重要事項】

この科目は春学期・秋学期を通じて履修することを勧めます。

【Outline (in English)】

This course introduces ICT and related technologies to students taking this course. The goals of this course are to get basic skills of ICT and information literacy. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Your overall grade in the class will be decided based on the followings: Short reports: 40% and in-class practical work and contribution: 60%.

PRI200LA

情報処理演習Ⅱ

2017年度以降入学者

名児耶 厚

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 2/Fri.2

単位数：2 単位

この授業は「Web 履修抽選対象授業」です。抽選エントリー期間は 2023 年 4 月 3 日（月）10：00～5 日（水）17：00、結果発表は 4 月 6 日（木）22：00（予定）です。履修ガイド (<https://hosei-keiji.jp/ilac/rishuguide2023/>) を確認のうえ、情報システムから期間内にエントリーしてください。

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

大学での学習・社会の様々な分野で必要とされる情報利活用のため、現代社会で必要な ICT 関連や情報技術のスキル・知識の習得を、さらに深めることを目指します。PC 操作の実習を中心に、情報リテラシーやその活用、集計・データ処理について習得していきます。

【到達目標】

事務作業などを想定した一般的な情報系の知識・スキルを習得し、活用できる。応用的な文書作成・調査・集計・管理などにて必要となる基盤的な技術を習得し、実践できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

PC 操作の実習を中心に講義・関連説明を交えて進め、結果や成果物を提出していく形式となります。授業内の実習も提出物の範囲に含めることで、授業への参加がそのまま提出物にもつながるようにします。提出や解答例の解説等のフィードバックは学習支援システムを通じて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	説明と確認	授業の説明、準備、機材の確認
第 2 回	確認と復習	これまでの確認と復習
第 3 回	表計算の応用例	一利用例としての統計分析
第 4 回	書類の構成・構造	総合的な書類作成・応用
第 5 回	グラフや図表の利用	表計算の利用例、集計資料作成
第 6 回	Web ページ作成基礎	Web の基本と作成実習
第 7 回	文書作成総合	書式に従った文書の作成
第 8 回	Web ページ応用知識	Web サイト作成と情報発信
第 9 回	検索とデータ取込	表からの検索、外部データ利用
第 10 回	複雑な文書の作成	集計・計算等を含む文書の作成
第 11 回	条件分岐と判定	条件判断、結果の更新と変更
第 12 回	情報の蓄積と管理	データベースの基礎と体験
第 13 回	情報処理と文書管理	情報や文書の逐次・自動処理
第 14 回	まとめ・総合演習	これまでの知識に基づく総合演習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学習内容の多くが連続しているため、過去の内容を把握・理解しておくことが必要です。授業内での実習に続けて課題も行い、授業時に不十分と感じた項目の復習をしてください。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

実習 情報リテラシ [第 3 版]、重定 如彦・河内谷 幸子、サイエンス社、¥1,950 + 税。
実習室の環境と合わせるため、詳細は初回授業で説明します。

【参考書】

基礎的な情報リテラシー系の書籍や同類授業・講座での教科書等が広く該当します。

【成績評価の方法と基準】

各回・単元ごとに設定する課題（40%）、授業内実習と平常点（60%）。提出物は授業内実習と課題を両方兼ね、それらを元に到達目標への達成状況を判断します。

【学生の意見等からの気づき】

授業内容や資料作成、丁寧な説明は継続して皆が理解できるようにしつつ、意見を聞く機会を広げて進捗状況の調整へとつなげたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

情報実習室で行う授業のため情報機器（PC）を使用し、配布・提出には学習支援システムを使います。

【その他の重要事項】

この科目は春学期・秋学期を通じて履修することを勧めます。

【Outline (in English)】

This course introduces ICT and related technologies to students taking this course. The goals of this course are to improve skills and knowledge of information literacy. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Your overall grade in the class will be decided based on the followings: Short reports: 40% and in-class practical work and contribution: 60%.

PRI100LA

情報処理演習 I

2017 年度以降入学者

名児耶 厚

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 3/Fri.3

単位数：2 単位

この授業は「Web 履修抽選対象授業」です。抽選エントリー期間は 2023 年 4 月 3 日（月）10：00～5 日（水）17：00、結果発表は 4 月 6 日（木）22：00（予定）です。履修ガイド (<https://hosei-keiji.jp/ilac/rishuguide2023/>) を確認のうえ、情報システムから期間内にエントリーしてください。

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

大学での学習・社会の様々な分野で必要とされる情報利活用のため、基本的な ICT スキルの習得を目指します。PC 操作の実習を中心に、コンピュータの基礎知識や情報リテラシー、各種文書作成・管理について習得します。

【到達目標】

コンピュータの基本的な知識・操作法を理解し、文書作成・管理、集計、情報収集等のスキルを習得する。在学中・その後の様々な局面で必要となる基礎的な ICT 関連の知識や技術を理解し、使用できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

PC 操作の実習を中心に講義・関連説明を交えて進め、結果や成果物を提出していく形式となります。授業内の実習も提出物の範囲に含めることで、授業への参加がそのまま提出物にもつながるようにします。提出や解答例の解説等のフィードバックは学習支援システムを通じて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	説明と確認	授業の説明、準備、機材の確認
第 2 回	基本操作と知識	基本操作、資料の配布と受け取り
第 3 回	データの作成と保存	作成した文書の保存、ファイル
第 4 回	ファイルと文章の入力	ファイルの扱いと文章の入力操作
第 5 回	文書作成の基本	文書処理基礎、資料の管理と保存
第 6 回	共通の操作・知識	ファイル操作、ネットワークなど
第 7 回	文書作成（文章中心）	ワープロ（文章、修飾、操作法）
第 8 回	プレゼンテーション	発表の知識と資料の作成
第 9 回	画像等を含む文書作成	図形や画像を含む書類の作成
第 10 回	表計算の基礎	データの取り扱い、表計算の基礎
第 11 回	プレゼン応用・発表	応用操作と資料の編集、発表
第 12 回	計算処理	関数の取り扱いと数式の実行
第 13 回	データ管理、グラフ	データベースとグラフ
第 14 回	まとめ・総合的な演習	これまでのまとめとその後

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学習内容の多くが連続しているため、過去の内容を把握・理解しておくことが必要です。授業内での実習に続けて課題も行い、授業時に不十分と感じた項目の復習をしてください。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

実習 情報リテラシ [第 3 版]、重定 如彦・河内谷 幸子、サイエンス社、¥1,950 + 税。

実習室の環境と合わせるため、詳細は初回授業で説明します。

【参考書】

ICT・情報系の入門書籍や同類授業・講座での教科書等が広く該当します。

【成績評価の方法と基準】

各回・単元ごとに設定する課題（40%）、授業内実習と平常点（60%）。提出物は授業内実習と課題を両方兼ね、それらを元に到達目標への達成状況を判断します。

【学生の意見等からの気づき】

授業内容や資料作成、丁寧な説明は継続して皆が理解できるようにしつつ、意見を聞く機会を広げて進捗状況の調整へとつなげたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

情報実習室で行う授業のため情報機器（PC）を使用し、配布・提出には学習支援システムを使います。

【その他の重要事項】

この科目は春学期・秋学期を通じて履修することを勧めます。

【Outline (in English)】

This course introduces ICT and related technologies to students taking this course. The goals of this course are to get basic skills of ICT and information literacy. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Your overall grade in the class will be decided based on the followings: Short reports: 40% and in-class practical work and contribution: 60%.

PRI200LA

情報処理演習Ⅱ

2017年度以降入学者

名児耶 厚

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 3/Fri.3

単位数：2 単位

この授業は「Web 履修抽選対象授業」です。抽選エントリー期間は 2023 年 4 月 3 日（月）10：00～5 日（水）17：00、結果発表は 4 月 6 日（木）22：00（予定）です。履修ガイド (<https://hosei-keiji.jp/ilac/rishuguide2023/>) を確認のうえ、情報システムから期間内にエントリーしてください。

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

大学での学習・社会の様々な分野で必要とされる情報利活用のため、現代社会で必要な ICT 関連や情報技術のスキル・知識の習得を、さらに深めることを目指します。PC 操作の実習を中心に、情報リテラシーやその活用、集計・データ処理について習得していきます。

【到達目標】

事務作業などを想定した一般的な情報系の知識・スキルを習得し、活用できる。応用的な文書作成・調査・集計・管理などにて必要となる基盤的な技術を習得し、実践できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

PC 操作の実習を中心に講義・関連説明を交えて進め、結果や成果物を提出していく形式となります。授業内の実習も提出物の範囲に含めることで、授業への参加がそのまま提出物にもつながるようにします。提出や解答例の解説等のフィードバックは学習支援システムを通じて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	説明と確認	授業の説明、準備、機材の確認
第 2 回	確認と復習	これまでの確認と復習
第 3 回	表計算の応用例	一利用例としての統計分析
第 4 回	書類の構成・構造	総合的な書類作成・応用
第 5 回	グラフや図表の利用	表計算の利用例、集計資料作成
第 6 回	Web ページ作成基礎	Web の基本と作成実習
第 7 回	文書作成総合	書式に従った文書の作成
第 8 回	Web ページ応用知識	Web サイト作成と情報発信
第 9 回	検索とデータ取込	表からの検索、外部データ利用
第 10 回	複雑な文書の作成	集計・計算等を含む文書の作成
第 11 回	条件分岐と判定	条件判断、結果の更新と変更
第 12 回	情報の蓄積と管理	データベースの基礎と体験
第 13 回	情報処理と文書管理	情報や文書の逐次・自動処理
第 14 回	まとめ・総合演習	これまでの知識に基づく総合演習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学習内容の多くが連続しているため、過去の内容を把握・理解しておくことが必要です。授業内での実習に続けて課題も行い、授業時に不十分と感じた項目の復習をしてください。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

実習 情報リテラシ [第 3 版]、重定 如彦・河内谷 幸子、サイエンス社、¥1,950 + 税。
実習室の環境と合わせるため、詳細は初回授業で説明します。

【参考書】

基礎的な情報リテラシー系の書籍や同類授業・講座での教科書等が広く該当します。

【成績評価の方法と基準】

各回・単元ごとに設定する課題（40%）、授業内実習と平常点（60%）。提出物は授業内実習と課題を両方兼ね、それらを元に到達目標への達成状況を判断します。

【学生の意見等からの気づき】

授業内容や資料作成、丁寧な説明は継続して皆が理解できるようにしつつ、意見を聞く機会を広げて進捗状況の調整へとつなげたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

情報実習室で行う授業のため情報機器（PC）を使用し、配布・提出には学習支援システムを使います。

【その他の重要事項】

この科目は春学期・秋学期を通じて履修することを勧めます。

【Outline (in English)】

This course introduces ICT and related technologies to students taking this course. The goals of this course are to improve skills and knowledge of information literacy. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Your overall grade in the class will be decided based on the followings: Short reports: 40% and in-class practical work and contribution: 60%.

PRI100LA

情報処理演習 I

2017 年度以降入学者

名児耶 厚

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 4/Fri.4

単位数：2 単位

この授業は「Web 履修抽選対象授業」です。抽選エントリー期間は 2023 年 4 月 3 日（月）10：00～5 日（水）17：00、結果発表は 4 月 6 日（木）22：00（予定）です。履修ガイド (<https://hosei-keiji.jp/ilac/rishuguide2023/>) を確認のうえ、情報システムから期間内にエントリーしてください。

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

大学での学習・社会の様々な分野で必要とされる情報利活用のため、基本的な ICT スキルの習得を目指します。PC 操作の実習を中心に、コンピュータの基礎知識や情報リテラシー、各種文書作成・管理について習得します。

【到達目標】

コンピュータの基本的な知識・操作法を理解し、文書作成・管理、集計、情報収集等のスキルを習得する。在学中・その後の様々な局面で必要となる基礎的な ICT 関連の知識や技術を理解し、使用できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

PC 操作の実習を中心に講義・関連説明を交えて進め、結果や成果物を提出していく形式となります。授業内の実習も提出物の範囲に含めることで、授業への参加がそのまま提出物にもつながるようにします。提出や解答例の解説等のフィードバックは学習支援システムを通じて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	説明と確認	授業の説明、準備、機材の確認
第 2 回	基本操作と知識	基本操作、資料の配布と受け取り
第 3 回	データの作成と保存	作成した文書の保存、ファイル
第 4 回	ファイルと文章の入力	ファイルの扱いと文章の入力操作
第 5 回	文書作成の基本	文書処理基礎、資料の管理と保存
第 6 回	共通の操作・知識	ファイル操作、ネットワークなど
第 7 回	文書作成（文章中心）	ワープロ（文章、修飾、操作法）
第 8 回	プレゼンテーション	発表の知識と資料の作成
第 9 回	画像等を含む文書作成	図形や画像を含む書類の作成
第 10 回	表計算の基礎	データの取り扱い、表計算の基礎
第 11 回	プレゼン応用・発表	応用操作と資料の編集、発表
第 12 回	計算処理	関数の取り扱いと数式の実行
第 13 回	データ管理、グラフ	データベースとグラフ
第 14 回	まとめ・総合的な演習	これまでのまとめとその後

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学習内容の多くが連続しているため、過去の内容を把握・理解しておくことが必要です。授業内での実習に続けて課題も行い、授業時に不十分と感じた項目の復習をしてください。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

実習 情報リテラシ [第 3 版]、重定 如彦・河内谷 幸子、サイエンス社、¥1,950 + 税。

実習室の環境と合わせるため、詳細は初回授業で説明します。

【参考書】

ICT・情報系の入門書籍や同類授業・講座での教科書等が広く該当します。

【成績評価の方法と基準】

各回・単元ごとに設定する課題（40%）、授業内実習と平常点（60%）。提出物は授業内実習と課題を両方兼ね、それらを元に到達目標への達成状況を判断します。

【学生の意見等からの気づき】

授業内容や資料作成、丁寧な説明は継続して皆が理解できるようにしつつ、意見を聞く機会を広げて進捗状況の調整へとつなげたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

情報実習室で行う授業のため情報機器（PC）を使用し、配布・提出には学習支援システムを使います。

【その他の重要事項】

この科目は春学期・秋学期を通じて履修することを勧めます。

【Outline (in English)】

This course introduces ICT and related technologies to students taking this course. The goals of this course are to get basic skills of ICT and information literacy. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Your overall grade in the class will be decided based on the followings: Short reports: 40% and in-class practical work and contribution: 60%.

PRI200LA

情報処理演習Ⅱ

2017年度以降入学者

名児耶 厚

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 4/Fri.4

単位数：2 単位

この授業は「Web 履修抽選対象授業」です。抽選エントリー期間は 2023 年 4 月 3 日（月）10：00～5 日（水）17：00、結果発表は 4 月 6 日（木）22：00（予定）です。履修ガイド (<https://hosei-keiji.jp/ilac/rishuguide2023/>) を確認のうえ、情報システムから期間内にエントリーしてください。

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

大学での学習・社会の様々な分野で必要とされる情報利活用のため、現代社会で必要な ICT 関連や情報技術のスキル・知識の習得を、さらに深めることを目指します。PC 操作の実習を中心に、情報リテラシーやその活用、集計・データ処理について習得していきます。

【到達目標】

事務作業などを想定した一般的な情報系の知識・スキルを習得し、活用できる。応用的な文書作成・調査・集計・管理などにて必要となる基盤的な技術を習得し、実践できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

PC 操作の実習を中心に講義・関連説明を交えて進め、結果や成果物を提出していく形式となります。授業内の実習も提出物の範囲に含めることで、授業への参加がそのまま提出物にもつながるようにします。提出や解答例の解説等のフィードバックは学習支援システムを通じて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	説明と確認	授業の説明、準備、機材の確認
第 2 回	確認と復習	これまでの確認と復習
第 3 回	表計算の応用例	一利用例としての統計分析
第 4 回	書類の構成・構造	総合的な書類作成・応用
第 5 回	グラフや図表の利用	表計算の利用例、集計資料作成
第 6 回	Web ページ作成基礎	Web の基本と作成実習
第 7 回	文書作成総合	書式に従った文書の作成
第 8 回	Web ページ応用知識	Web サイト作成と情報発信
第 9 回	検索とデータ取込	表からの検索、外部データ利用
第 10 回	複雑な文書の作成	集計・計算等を含む文書の作成
第 11 回	条件分岐と判定	条件判断、結果の更新と変更
第 12 回	情報の蓄積と管理	データベースの基礎と体験
第 13 回	情報処理と文書管理	情報や文書の逐次・自動処理
第 14 回	まとめ・総合演習	これまでの知識に基づく総合演習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学習内容の多くが連続しているため、過去の内容を把握・理解しておくことが必要です。授業内での実習に続けて課題も行い、授業時に不十分と感じた項目の復習をしてください。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

実習 情報リテラシ [第 3 版]、重定 如彦・河内谷 幸子、サイエンス社、¥1,950 + 税。
実習室の環境と合わせるため、詳細は初回授業で説明します。

【参考書】

基礎的な情報リテラシー系の書籍や同類授業・講座での教科書等が広く該当します。

【成績評価の方法と基準】

各回・単元ごとに設定する課題（40%）、授業内実習と平常点（60%）。提出物は授業内実習と課題を両方兼ね、それらを元に到達目標への達成状況を判断します。

【学生の意見等からの気づき】

授業内容や資料作成、丁寧な説明は継続して皆が理解できるようにしつつ、意見を聞く機会を広げて進捗状況の調整へとつなげたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

情報実習室で行う授業のため情報機器（PC）を使用し、配布・提出には学習支援システムを使います。

【その他の重要事項】

この科目は春学期・秋学期を通じて履修することを勧めます。

【Outline (in English)】

This course introduces ICT and related technologies to students taking this course. The goals of this course are to improve skills and knowledge of information literacy. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Your overall grade in the class will be decided based on the followings: Short reports: 40% and in-class practical work and contribution: 60%.

PRI100LA

情報処理演習 I

2017 年度以降入学者

星 善光

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 4/Fri.4

単位数：2 単位

この授業は「Web 履修抽選対象授業」です。抽選エントリー期間は 2023 年 4 月 3 日（月）10：00～5 日（水）17：00、結果発表は 4 月 6 日（木）22：00（予定）です。履修ガイド (<https://hosei-keiji.jp/ilac/rishuguide2023/>) を確認のうえ、情報システムから期間内にエントリーしてください。

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、パソコンを利用した文章作成方法の習得と、様々なアプリケーションソフトの操作体験を行う。身の回りに溢れる「情報」を取り扱うために必要な基礎知識を学び、仕事や研究など様々な場面において、効果的に情報機器を利用できるスキルを身につけることを目的とする。

【到達目標】

一般的なワープロソフトとして Microsoft Word を使うことができる。スライド作成ソフトとして Microsoft PowerPoint を使うことができる。仕事や研究に効果的なアプリケーションソフトを探することができる。PowerPoint を用いて、わかりやすいプレゼンテーション資料を作成することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

講義と実習の組み合わせで授業を進めていきます。パソコンを使用した実習を行います。情報処理の基礎知識、日本語入力、ワープロ操作、スライド作成等を行います。原則として毎回パソコンを用いた実習を行います。テーマに沿ったプレゼンテーション資料の作成と発表を行います。課題のフィードバックは授業中に行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	パソコンの基本	パソコンの起動と終了、GUI の操作、文字入力など、パソコンの基本操作を学ぶ。
第 2 回	Windows 操作及びウェブブラウザ操作の基礎	Windows のファイル構造や様々な機能の操作方法を学ぶ。ウェブブラウザの機能と操作方法を学ぶ。
第 3 回	Microsoft Word の基礎	Microsoft Word の基礎について学ぶ。
第 4 回	文章作成の基礎	Microsoft Word を用いた文章作成の基礎を学ぶ。
第 5 回	表・図の作成	Microsoft Word を用いた表・図の作成方法を学ぶ。
第 6 回	ページレイアウト	Microsoft Word におけるページレイアウト設定方法について学ぶ。
第 7 回	応用機能の利用	Microsoft Word の高度な編集機能やテンプレート機能を学ぶ。
第 8 回	アプリケーションソフトウェア①	パソコンで利用する様々なアプリケーションソフトウェアについて学び、画像処理機能を体験する。

第 9 回	アプリケーションソフトウェア②	パソコンで利用する様々なアプリケーションソフトウェアについて学び、データ処理機能を体験する。
第 10 回	Microsoft PowerPoint の基礎	Microsoft PowerPoint の基礎について学ぶ。
第 11 回	スライドの編集	Microsoft PowerPoint のスライド編集機能について学ぶ。
第 12 回	画面切り替えとアニメーション	Microsoft PowerPoint の画面切り替え設定とアニメーション機能について学ぶ。
第 13 回	スライドデザイン・発表課題の説明	Microsoft PowerPoint のスライドデザインについて学ぶ。発表課題の説明を行う。
第 14 回	プレゼンテーション制作のポイント・発表課題作業	プレゼンテーションを作成する時のポイントについて学ぶ。発表課題の資料作成に取り組む。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

第 1 回の授業の前に、ログイン ID とパスワードを確認しておくこと。宿題を出すことがあります。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

説明用プリントや課題プリントを適時配布します。

【参考書】

「実習情報リテラシ [第 3 版]」重定如彦・河内谷幸子共著、サイエンス社

【成績評価の方法と基準】

課題（70%）、小テスト（30%）として評価します。課題に積極的に取り組み、提出して下さい。

【学生の意見等からの気づき】

可能な限り多くの基礎的な課題を用意し、楽しみながら授業を進められるようにしていきます。

【学生が準備すべき機器他】

演習室のパソコンを利用します。

【Outline (in English)】

In this class, you learn how to use the Microsoft Word and how to operate various application software. You learn the basic computer background to deal with PC and "information devices surrounding you".

PRI200LA

情報処理演習Ⅱ

2017年度以降入学者

星 善光

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 4/Fri.4
 単位数：2 単位
 この授業は「Web 履修抽選対象授業」です。抽選エントリー期間は 2023 年 4 月 3 日（月）10：00～5 日（水）17：00、結果発表は 4 月 6 日（木）22：00（予定）です。履修ガイド (<https://hosei-keiji.jp/ilac/rishuguide2023/>) を確認のうえ、情報システムから期間内にエントリーしてください。

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

情報処理演習Ⅰに引き続き、様々なソフトウェアや情報機器を効果的に利用できるように、身の回りに溢れる「情報」を取り扱うために必要な基礎力を習得することを目的とする。

【到達目標】

一般的な表計算ソフトウェアである Microsoft Excel を使うことができる。HTML、JavaScript、PHP を用いた Web ページを作成することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

情報処理演習Ⅰと同様に、授業と実習の組み合わせで進めていきます。パソコンを使用した実習を行います。表計算や様々なアプリケーションソフトウェアを利用します。また、ホームページの作成、簡単なプログラム作成も行います。課題のフィードバックは授業中に行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	Microsoft Excel の基礎／計算式・関数・書式	Microsoft Excel の基礎を学ぶ。Excel で利用する計算式・関数・書式を学ぶ。
第 2 回	ページレイアウト・データツール	Microsoft Excel のページレイアウトやデータツールを学ぶ。
第 3 回	グラフ	Microsoft Excel のグラフ作成機能を学ぶ。
第 4 回	外部データの処理	Microsoft Excel を用いて外部データの処理を行う方法を学ぶ。
第 5 回	CEATEC 見学	日本を代表するテクノロジー展示会である CEATEC を見学して ICT 技術の最先端を学ぶ。
第 6 回	VBA	Microsoft Excel 用 Visual Basic for Application(VBA) の機能を学ぶ。
第 7 回	課題発表会	情報処理演習Ⅰで作成したプレゼンテーション資料を用いた発表会を開催する。
第 8 回	アプリケーションソフトウェア③	パソコンで利用する様々なアプリケーションソフトウェアについて学び、統計解析に役立つ R の機能を体験する。
第 9 回	コンピュータネットワークとセキュリティの基礎	コンピュータネットワーク及びセキュリティの基礎知識を学ぶ。

第 10 回 コンピュータの未来 コンピュータの進歩や未来の応用について学び、グループディスカッションを通じて理解を深める。

第 11 回 HTML の基礎 HTML を用いたホームページ作成の基礎を学ぶ。

第 12 回 JavaScript とスタイルシート JavaScript とスタイルシートの基礎を学ぶ。

第 13 回 PHP の基礎 HTML 自動生成に役立つ PHP 言語についての基礎を学ぶ。

第 14 回 まとめ 講義内容をまとめる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

第 1 回の授業の前に、ログイン ID とパスワードを確認しておくこと。宿題を出すことがあります。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しません。

【参考書】

適時指示します。必要に応じてプリントを配布します。また、ホームページでパワーポイント資料を閲覧できます。

【成績評価の方法と基準】

課題（70%）、小テスト（30%）として評価します。課題に積極的に取り組み、提出して下さい。

【学生の意見等からの気づき】

可能な限り多くの基礎的な課題を用意し、楽しみながら授業を進められるようにしていきます。

【学生が準備すべき機器他】

演習室のパソコンを利用します。

【Outline (in English)】

You learn how to use various application software including Microsoft Excel, various information devices effectively. You learn about web development related languages such as HTML, JavaScript, PHP and learn about network structure too.

PRI100LA

情報処理演習 I

2017 年度以降入学者

星 善光

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 5/Fri.5

単位数：2 単位

この授業は「Web 履修抽選対象授業」です。抽選エントリー期間は 2023 年 4 月 3 日（月）10：00～5 日（水）17：00、結果発表は 4 月 6 日（木）22：00（予定）です。履修ガイド (<https://hosei-keiji.jp/ilac/rishuguide2023/>) を確認のうえ、情報システムから期間内にエントリーしてください。

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、パソコンを利用した文章作成方法の習得と、様々なアプリケーションソフトの操作体験を行う。身の回りに溢れる「情報」を取り扱うために必要な基礎知識を学び、仕事や研究など様々な場面において、効果的に情報機器を利用できるスキルを身につけることを目的とする。

【到達目標】

一般的なワープロソフトとして Microsoft Word を使うことができる。スライド作成ソフトとして Microsoft PowerPoint を使うことができる。仕事や研究に効果的なアプリケーションソフトを探することができる。PowerPoint を用いて、わかりやすいプレゼンテーション資料を作成することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

講義と実習の組み合わせで授業を進めていきます。パソコンを使用した実習を行います。情報処理の基礎知識、日本語入力、ワープロ操作、スライド作成等を行います。原則として毎回パソコンを用いた実習を行います。テーマに沿ったプレゼンテーション資料の作成と発表を行います。課題のフィードバックは授業中に行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	パソコンの基本	パソコンの起動と終了、GUI の操作、文字入力など、パソコンの基本操作を学ぶ。
第 2 回	Windows 操作及びウェブブラウザ操作の基礎	Windows のファイル構造や様々な機能の操作方法を学ぶ。ウェブブラウザの機能と操作方法を学ぶ。
第 3 回	Microsoft Word の基礎	Microsoft Word の基礎について学ぶ。
第 4 回	文章作成の基礎	Microsoft Word を用いた文章作成の基礎を学ぶ。
第 5 回	表・図の作成	Microsoft Word を用いた表・図の作成方法を学ぶ。
第 6 回	ページレイアウト	Microsoft Word におけるページレイアウト設定方法について学ぶ。
第 7 回	応用機能の利用	Microsoft Word の高度な編集機能やテンプレート機能を学ぶ。
第 8 回	アプリケーションソフトウェア①	パソコンで利用する様々なアプリケーションソフトウェアについて学び、画像処理機能を体験する。

第 9 回	アプリケーションソフトウェア②	パソコンで利用する様々なアプリケーションソフトウェアについて学び、データ処理機能を体験する。
第 10 回	Microsoft PowerPoint の基礎	Microsoft PowerPoint の基礎について学ぶ。
第 11 回	スライドの編集	Microsoft PowerPoint のスライド編集機能について学ぶ。
第 12 回	画面切り替えとアニメーション	Microsoft PowerPoint の画面切り替え設定とアニメーション機能について学ぶ。
第 13 回	スライドデザイン・発表課題の説明	Microsoft PowerPoint のスライドデザインについて学ぶ。発表課題の説明を行う。
第 14 回	プレゼンテーション制作のポイント・発表課題作業	プレゼンテーションを作成する時のポイントについて学ぶ。発表課題の資料作成に取り組む。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

第 1 回の授業の前に、ログイン ID とパスワードを確認しておくこと。宿題を出すことがあります。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

説明用プリントや課題プリントを適時配布します。

【参考書】

「実習情報リテラシ [第 3 版]」重定如彦・河内谷幸子共著、サイエンス社

【成績評価の方法と基準】

課題（70%）、小テスト（30%）として評価します。課題に積極的に取り組み、提出して下さい。

【学生の意見等からの気づき】

可能な限り多くの基礎的な課題を用意し、楽しみながら授業を進められるようにしていきます。

【学生が準備すべき機器他】

演習室のパソコンを利用します。

【Outline (in English)】

In this class, you learn how to use the Microsoft Word and how to operate various application software. You learn the basic computer background to deal with PC and "information devices surrounding you".

PRI200LA

情報処理演習Ⅱ

2017年度以降入学者

星 善光

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 5/Fri.5
 単位数：2 単位
 この授業は「Web 履修抽選対象授業」です。抽選エントリー期間は 2023 年 4 月 3 日（月）10：00～5 日（水）17：00、結果発表は 4 月 6 日（木）22：00（予定）です。履修ガイド (<https://hosei-keiji.jp/ilac/rishuguide2023/>) を確認のうえ、情報システムから期間内にエントリーしてください。

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

情報処理演習Ⅰに引き続き、様々なソフトウェアや情報機器を効果的に利用できるように、身の回りに溢れる「情報」を取り扱うために必要な基礎力を習得することを目的とする。

【到達目標】

一般的な表計算ソフトウェアである Microsoft Excel を使うことができる。HTML、JavaScript、PHP を用いた Web ページを作成することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

情報処理演習Ⅰと同様に、授業と実習の組み合わせで進めていきます。パソコンを使用した実習を行います。表計算や様々なアプリケーションソフトウェアを利用します。また、ホームページの作成、簡単なプログラム作成も行います。課題のフィードバックは授業中に行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	Microsoft Excel の基礎／計算式・関数・書式	Microsoft Excel の基礎を学ぶ。Excel で利用する計算式・関数・書式を学ぶ。
第 2 回	ページレイアウト・データツール	Microsoft Excel のページレイアウトやデータツールを学ぶ。
第 3 回	グラフ	Microsoft Excel のグラフ作成機能を学ぶ。
第 4 回	外部データの処理	Microsoft Excel を用いて外部データの処理を行う方法を学ぶ。
第 5 回	CEATEC 見学	日本を代表するテクノロジー展示会である CEATEC を見学して ICT 技術の最先端を学ぶ。
第 6 回	VBA	Microsoft Excel 用 Visual Basic for Application(VBA) の機能を学ぶ。
第 7 回	課題発表会	情報処理演習Ⅰで作成したプレゼンテーション資料を用いた発表会を開催する。
第 8 回	アプリケーションソフトウェア③	パソコンで利用する様々なアプリケーションソフトウェアについて学び、統計解析に役立つ R の機能を体験する。
第 9 回	コンピュータネットワークとセキュリティの基礎	コンピュータネットワーク及びセキュリティの基礎知識を学ぶ。

第 10 回 コンピュータの未来 コンピュータの進歩や未来の応用について学び、グループディスカッションを通じて理解を深める。

第 11 回 HTML の基礎 HTML を用いたホームページ作成の基礎を学ぶ。

第 12 回 JavaScript とスタイルシート JavaScript とスタイルシートの基礎を学ぶ。

第 13 回 PHP の基礎 HTML 自動生成に役立つ PHP 言語についての基礎を学ぶ。

第 14 回 まとめ 講義内容をまとめる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

第 1 回の授業の前に、ログイン ID とパスワードを確認しておくこと。宿題を出すことがあります。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しません。

【参考書】

適時指示します。必要に応じてプリントを配布します。また、ホームページでパワーポイント資料を閲覧できます。

【成績評価の方法と基準】

課題（70%）、小テスト（30%）として評価します。課題に積極的に取り組み、提出して下さい。

【学生の意見等からの気づき】

可能な限り多くの基礎的な課題を用意し、楽しみながら授業を進められるようにしていきます。

【学生が準備すべき機器他】

演習室のパソコンを利用します。

【Outline (in English)】

You learn how to use various application software including Microsoft Excel, various information devices effectively. You learn about web development related languages such as HTML, JavaScript, PHP and learn about network structure too.

PRI100LA

情報処理演習

2017 年度以降入学者

大間 哲

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 5/Mon.5

単位数：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

大学生にとって、情報技術の習得は必須と言えます。むしろ、理系や経済学部等の学生だけではなく、キャリアデザイン学部等の学生にとってこそ大切でしょう。それは、皆さんが、プログラミングなどの IT の専門技術者よりも、キャリアデザイン学等の幅広い知識を専門的に扱うために、パソコンやネットの情報を「道具として」使いこなすことが求められるからです。

そのため、この授業では一番の目的を、「コンピュータが使えるようになること」には置きません。実践的な実務能力を身につけられるようにします。言い換えるなら、皆さんが将来にわたって、コンピュータやネットの技術を使って、皆さんの「やりたいこと」ができるようになることを目的とします。

情報処理の技術は日進月歩ですから、今のコンピュータが使えるようになっても、将来皆さんが進学したり社会人になるころに、そのまま使えるとは限りません。ですから、この授業では、各コンピュータ・ソフトウェアの操作の「やり方（操作方法）」を全て丸暗記のように覚えることよりも、ソフトウェアやサービスが「どのようなものなのか、何ができるのか」を知ることを大切にします。そして、日々進化する情報処理技術に対応できるよう、応用的な操作方法は随時「検索して見つけられる」ようになることを目的とします。その目的実現のための手段として、この授業では、大学で学ぶために必要となる、コンピュータ・ソフトウェアおよびネット上のサービスの基本的な使用方法を習得します。

同時に、大学の学びの基本となる、自ら興味があることの中から「問い」を立てて、調査をし、ディスカッションをし、結果を纏めるという一連の作業を、情報処理技術を使いながら行う演習をして、レポートや卒論に使えるスキルを身に付けます。

<オンラインでの開講について>

2月現在、大学の方針では対面授業が可能（※）ですので、原則対面授業とします。ただし、万が一新型コロナ等の感染状況の悪化でオンラインを余儀なくされた場合や、皆さんの学習環境や興味によっては、オンラインミーティングの学習のために、敢えて一部の授業回をオンラインで開講する可能性もあります。

ただし、対面授業であろうとオンラインであろうと、上記の目的が変わることはありません。

※大学の授業実施方針については、最新の情報を大学ホームページで確認してください。

【到達目標】

Windows 環境で基礎的な PC リテラシーやインターネットのリテラシーの習得をめざします。大学の授業のレポートや卒論作成時に使える Office (Word・Excel・PowerPoint) や Google の Web サービス、クラウド等の基本操作および活用方法を学びます。また必要時には操作方法を検索する技術を身につけることを目標とします。その際には、従来の Google 等の検索方法に加え、ChatGPT 等の AI チャットボットの適切な利用方法についても、言及する予定です。

<オンライン開講について>

前述のとおり、もし授業がオンラインでの開講になっても、授業の目的や到達目標が変わることはありません。ただし、環境が整わない場合などは、基本操作を実際に演習することが困難な場合があります。そのため、学期の早い時期に皆さんの学習環境（自宅等のネット環境を含む）のアンケートを行い、皆さんが将来の授業や卒業研究に役立てられるスキルを身につけられるよう内容を構築します。また、もし自宅等での環境が整わない場合は、必要な操作方法を自ら検索する能力をより高めることにより、将来必要な時に十分な情報リテラシーの習得が可能ないようにします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

(1) テキストをベースに、基礎的な操作方法を習得していきます。
(2) 毎回の授業は、講義と演習、ディスカッション等のグループワークを組み合わせて行います。

(3) 単に操作方法を学習するのではなく、コンピュータの機能を理解し、必要情報をネットで検索する能力を身につけることによって、日常生活においても効率よく使いこなせるようになることを目指します。

時間に余裕があれば、応用的内容も扱います。

※ 出席さえすれば単位がもらえる楽な科目ではありませんが、課題を着々と提出して行けば、期初に初心者であっても、最終的には Web を利用した調査や、その結果を纏めて発表するなど、レポートや卒論に使えるだけの能力が自然に身につくように、段階的に演習を進めます。また、暗記科目ではないので、期末テストは行いません。

<オンラインでの開講になった場合>

万が一、オンライン開講を余儀なくされた場合などは、その時々状況に合わせて授業計画を柔軟に変更していかなくてはならなくなります。それに伴う各回の授業計画の変更については、学習支援システムでその都度提示します。授業開始日前に学習支援システムを確認してください。

また、オンライン開講をする場合でも、原則授業時間は対面授業と同じ時間にリアルタイムで行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業ガイダンス。授業の目的の確認。
	Windows の基本操作	情報教室 PC へのログイン方法の確認。自身の PC を使用する場合、使い方の確認。
	ネットリテラシーとセキュリティ	WindowsPC の基本的な使い方の説明。ネットリテラシーの基本と、セキュリティの重要性。
第 2 回	電子メールとネットの基本	電子メールの仕組みと使用上の注意。電子メールと他のコミュニケーション・ツールや SNS との比較。
	USB メモリの取扱方法	USB メモリの使い方と利用上の注意点。
	学習環境を整える	アンケートによる、学生の自身の学習環境の報告。学習支援ハンドブック等による、メールの書き方（マナー）の学習。
第 3 回	Zoom の基本操作	オンライン会議システム（Zoom）の参加者としての基本機能を知る。
	ウェブの仕組みと情報検索	ウェブの仕組みについて理解する。情報検索演習として、ウェブから必要な情報を探すための方法を知る。
	クラウドの利用	Dropbox の利用と、注意点。教科書によるネットリテラシーの復習。
第 4 回	Word(1)	Windows の基礎の復習。ワープロソフト（Word）の基本的な文章の作成方法、フォント・段落書式（インデント）・表について学ぶ。

第 5 回	Word(2)	応用的な文章作成方法。 Word で絵・写真や図を挿入する方法。 見出し・アウトライン・スタイル・ 脚注。校閲機能。見出しの利用と目次の作成（課題）。 「表計算ソフト」とは、Excel でできることを知る（頭出し） 脚注。校閲機能（補足）。 表計算ソフト（Excel）の基本操作を習得する。 （Google スプレッドシートとの関連の確認）
第 6 回	Word(3) Excel(1)	計算式や関数の基本的な使い方。見やすい表の作り方。書式設定、見出しなど。 Excel でグラフを作成する。 Excel の表やグラフを Word に貼り付ける。 計算式や関数の応用的な使い方。 Excel でのリスト管理（データベース）。 Excel とワードの合わせ技（差し込み印刷）。
第 7 回	Excel(2)	プレゼンテーションソフト（PowerPoint）の基本操作を習得する。 発表資料としての PowerPoint ファイルの作成。
第 8 回	Excel(3)	簡易 DTP としての PowerPoint の利用。 Word Excel との連携。
第 9 回	Excel(4)	Excel、Word、Powerpoint を総合的に使用し、最終課題の準備を行う。
第 10 回	PowerPoint(1)	Google Forms（アンケート調査）、Google Spreadsheet Excel、Word、Powerpoint を総合的に使用し、最終課題を行う。 授業で扱った内容を振り返る。
第 11 回	PowerPoint(2)	
第 12 回	Office ソフト総合演習	
第 13 回	Google のサービスと Office ソフトの合わせ技	
第 14 回	総合演習	

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。
- ・小課題を期日を守って、決められた方法で提出してください。
- ・次の授業に向けてのリーディング・アサイメント（準備学習としての読む課題）を出すことがあります。その場合は、そこを読んでから授業に臨むようにしてください。

【テキスト（教科書）】

『情報リテラシー教科書 -Windows11/Office2021 対応版-』 矢野文彦 著 オーム社（定価：本体 2090 円）
 （『情報リテラシー教科書 -Windows10 Office2019 対応版-』でも可。自分が持っているパソコンのソフトのバージョンに合わせてください）

【参考書】

- ・『情報処理エンジニア職業ガイド - プログラマ・IT エンジニア・SE のためのキャリアデザイン-』 豊沢聡/大間哲 著 カットシステム（定価：本体 1800 円）
- ・『レポート・論文作成法』 井下千子子 慶応義塾大学出版会（他の授業でテキストとして指定されている場合もあります）
- ・法政大学『学習支援ハンドブック』 <http://www.hoseikyoku.jp/lf/>（法政大学教育開発・学習支援センター）のメニューより「学習支援ハンドブック」を選択。

【成績評価の方法と基準】

授業への参加状況（出席という意味ではありません。積極的な参加という意味です。）や課題提出状況をふまえて総合的に評価します。情報処理は、高校時代も含むそれまでの経験によって知識レベルに大きく差が出る可能性がある授業です。しかし、初心者であっても、恐れる必要はありません。真面目な講義・演習への参加と小課題の提出によって必要なゴールは達成できるようにします。また、熟達者や真剣にスキルの向上を望んで取り組む者には、さらに加点方式で評価がなされるよう工夫します。

- ・授業内の講義と演習への参加（配点比重 50%）
- ・毎回の小課題の提出（未提出の場合、その課題について 0 点。提出遅れは減点（配点比重 30%）
- ・総合課題（配点比重 20%）

※期末テストは行いません。

【学生の意見等からの気づき】

- ・読まなければならない授業内容の説明が多いという意見があったので、授業内容のレジュメの量を減らし、口頭での説明の比率を上げます。
- ・好評だった、最終的な総合課題に向けてのグループワーク、ディスカッション方式での演習は続けたいと考えています。
- ・自らの興味がある事について能動的に調べ、ディスカッションし、発表するという課題は好評でもあり、また、大学での学び方の基本でもあるので、今期も続けたいと考えています。

【学生が準備すべき機器他】

- ・初回参加時までに、このシラバスを良く読んでおくこと。
- ・指定されたテキストを大学から指定された方法で入手すること。
- ・この授業の目的である大学での授業のレポートや卒業研究・卒論作成に実践的に使用できるスキルを身に着けるため、できれば大学の授業で使う予定の自身のパソコンや自宅からのネットへの接続環境を整える事が望ましい（必須ではありません）。
- ・今後の他の授業やレポートで使えるようになるために、自身のパソコンに慣れる意味からも、対面授業の時にも自身のパソコンを持参することを推奨する（必須ではありません）。
- ・自身のパソコンを持参しない場合は、8GB 以上の容量の USB メモリーを入手し持参すること。

【その他の重要事項】

- ・基本的な内容からはじめ、段階的にレベルアップできるように授業を行います。
- ・学期末の必須課題を軽くし、受講生の皆さんの期末の負担を少なくするように工夫します。
- ・授業進度、理解度に合わせて、予定している授業日程の内容が前後することがあります。
- ・定員超過の場合は抽選をします。抽選に漏れた場合は、他の曜日時間に開講されている同一科目を履修してください。

【Outline (in English)】

< Course outline >

In this class, you will learn the way of using internet search engines as well as basic skills needed in using computer software and network services.

< Learning Objectives >

The objective of this class is NOT only acquiring computer skills BUT to learn how to find the necessary information when you need it, from now and in the future. Since information technology is advancing every day, it is more important to understand what the computers and/or network services actually are and what can be done with them than memorizing the way of using computer software.

< Learning activities outside of classroom >

Students are expected to understand the course content and complete the required assignments after each class meeting.

The learning time outside of classroom should be at least four hours per class.

< Grading Criteria /Policy >

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end assignment:20%, Every class assignments:30%, In class contribution:50%.

PRI100LA

情報処理演習

2017 年度以降入学者

寺澤 信雄

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 3/Thu.3

単位数：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

コンピューターの基本的な仕組みを理解し、その基本的な操作、周辺機器の利用方法を学習する。次に、電子メールとインターネット・ブラウザの利用、表計算ソフト、ワープロソフトなど基本的なアプリケーション・ソフトの利用と HTML を使ったホームページ・デザインの基礎を学習する。

【到達目標】

コンピューターの基本的な仕組みの理解、その基本的な操作、周辺機器の利用方法の習得。また、基本的なアプリケーションソフトを使いこなす技量の獲得。更に、HTML を理解した上でホームページビルダーに頼ることなく Web デザインを行うスキルを身に付ける事。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

実習室で、パソコンを利用した実習形式で授業を行う。毎回出席をとるが、これは成績評価の参考とする。授業の進め方は、各テーマごとに、前半は操作方法について説明し、後半は課題に取り組むという形式で行う。

実習の開始は 4 月 23 日とします。当面は、学習支援システムを使った授業で、学習支援システムにアップロードするテキストに基づいて、学習して行く事とし、ビデオ会議や動画を使う授業は行いません。パソコン、またはタブレット端末を使用する事が前提ですが、スマートフォンでも大丈夫です。ただ、少し大変かも知れません。また、スマートフォンを利用する場合は、Excel、Word、PowerPoint のアプリをダウンロードしておく必要があります。有料版と無料版があって、ダウンロードの際に注意がみつようですが、無料版で十分です。尚、みなさんの利用環境が知りたいので、アンケートに答えて下さい。成績は課題と提出物に基づいて評価しますが、どちらも、学習支援システムの課題にアップロードしていただきます。成績評価の基準と方法の項に書いた通り、課題は各単元の終りに 1 回時間を取って作成してもらうこととし、提出物はその日作成した文書を、ほぼ毎回アップロードしていただきます。メール添付での課題提出は基本的には受け付けませんが、どうしても困難な時は相談してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1 回	コンピューターの仕組みと基本操作。インターネットと Wi-fi の仕組み。	キーボード操作と文字入力の基本。インターネットブラウザを使った、WWW (Web) の利用と検索。電子メールの利用。
2 回	表計算 (Microsoft Excel)	MS Excel の利用。数値と文字の入力。フィルハンドルを使ったオートフィル。数式と関数を使った表計算。相対参照と絶対参照の概念。
3 回	表計算 (MS Excel)、続き。	様々なグラフを使った、表計算の視覚化。表ラベルの入力法やグラフの 3D 化、複合グラフの作成法。

4 回	表計算：インターネットを利用したデータ検索と取り込み。	インターネットを通じてのデータ検索、表データの取り込みとアレンジ。非エクセルデータのエクセル化、取り込んだ表のアップデート。
5 回	表計算の課題	指定されたデータを Web を使って検索し、エクセルの表として取り込む。更に、このデータを基に計算、分析し、グラフとして表現する。
6 回	ワードプロセッサソフト (WS Word)	MS Word を使った文書の作成。ページ設定、各種のインデントの設定、タブ設定とリーダーの利用。文字装飾。
7 回	ワードプロセッサソフト (WS Word)：続き	テキストボックスの利用。段組みの利用。簡単な図と表の作成。画像のコピー、貼り付けや画像の文書内挿入とオブジェクトの取り込み。
8 回	PowerPoint を使ったプレゼンテーションスライドの作成。	アニメーションの開始と終了の効果。強調の効果。プレースホルダーの利用とプレースホルダーを使わないスライドデザイン。ワードアート、スマートアートの利用。
9 回	Word もしくは PowerPoint の課題	Word を使った文書、または PowerPoint のプレゼンテーションスライドの課題。どちらかを選択して作成する。
10 回	HTML によるホームページのデザイン：1	HTML の基本概念と Editor Software を使った HTML 文書の作成。簡単なホームページの作成。
11 回	HTML によるホームページのデザイン：2	ハイパーリンクの設定と画像の表示、ページ配置。Name と Target の概念。画像の一部にリンクを張る事。
12 回	HTML によるホームページのデザイン：3	Frame による画面分割、Floating Frame の設定。Name Target を使って、指定したフレームへの文書リンク。
13 回	HTML によるホームページのデザイン：4	Form を利用したアンケートページの作成と文書送信。オートスライドショーの作成。スタイルシートの利用。
14 回	最終課題：HTML によるホームページ作成の課題	HTML によるホームページデザインの課題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Excel、Word、PowerPoint は非常に実用性の高いアプリケーションソフトなので、他の講義、実習の課題、リポート作成に積極的に応用、利用して問題点、疑問点があれば実習に反映する。また、HTML については、これを使ってサークル、または自己 PR のホームページを作成するなど活用する。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は特に指定しない。

【参考書】

参考書は、授業中に随時指示する。

【成績評価の方法と基準】

毎回の実習で作成する提出物の評価（配点：50%）と各セッション後の課題の評価（配点：50%）で成績を評価する。

【学生の意見等からの気づき】

欠席すると、以降の実習について行けなくなる事が多いようです。毎回出席を心がけてください。

【その他の重要事項】

初の実習は Zoom によるオンライン実習となります。Zoom ID は学習支援システム (Hopii) を見て下さい。また、受講希望者が定員を上回る時は抽選になります。抽選に漏れた場合は、他の曜日時間に開講されている同一科目を履修してください。

【Outline (in English)】

We learn the basic functions of the computer and the fundamental manipulation of them. Furthermore, we study how to use the basic application software such as the e-mail, the spread sheet application, the word processor software, and the home-page designing using HTML.

The goal is to understand the basic structure of the computer and to master the usage of fundamental application soft wares. Outside of class, the aggressive applications of the software on the preparation of the reports of the other classes are wanted. Grading is based on the reports of the usual classes and the evaluation on the several application subjects.

PRI100LA

情報処理演習

2017 年度以降入学者

寺澤 信雄

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 4/Thu.4

単位数：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

コンピューターの基本的な仕組みを理解し、その基本的な操作、周辺機器の利用方法を学習する。次に、電子メールとインターネット・ブラウザの利用、表計算ソフト、ワープロソフトなど基本的なアプリケーション・ソフトの利用と HTML を使ったホームページ・デザインの基礎を学習する。

【到達目標】

コンピューターの基本的な仕組みの理解、その基本的な操作、周辺機器の利用方法の習得。また、基本的なアプリケーションソフトを使いこなす技量の獲得。更に、HTML を理解した上でホームページビルダーに頼ることなく Web デザインを行うスキルを身に付ける事。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

実習室で、パソコンを利用した実習形式で授業を行う。毎回出席をとるが、これは成績評価の参考とする。授業の進め方は、各テーマごとに、前半は操作方法について説明し、後半は課題に取り組むという形式で行う。

実習の開始は 4 月 23 日とします。当面は、学習支援システムを使った授業で、学習支援システムにアップロードするテキストに基づいて、学習して行く事とし、ビデオ会議や動画を使う授業は行いません。パソコン、またはタブレット端末を使用する事が前提ですが、スマートフォンでも大丈夫です。ただ、少し大変かも知れません。また、スマートフォンを利用する場合は、Excel、Word、PowerPoint のアプリをダウンロードしておく必要があります。有料版と無料版があって、ダウンロードの際に注意がみつようですが、無料版で十分です。尚、みなさんの利用環境が知りたいので、アンケートに答えて下さい。成績は課題と提出物に基づいて評価しますが、どちらも、学習支援システムの課題にアップロードしていただきます。成績評価の基準と方法の項に書いた通り、課題は各単元の終りに 1 回時間を取って作成してもらうこととし、提出物はその日作成した文書を、ほぼ毎回アップロードしていただきます。メール添付での課題提出は基本的には受け付けませんが、どうしても困難な時は相談してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1 回	コンピューターの仕組みと基本操作。インターネットと Wi-fi の仕組み。	キーボード操作と文字入力の基本。インターネットブラウザを使った、WWW (Web) の利用と検索。電子メールの利用。
2 回	表計算 (Microsoft Excel)	MS Excel の利用。数値と文字の入力。フィルハンドルを使ったオートフィル。数式と関数を使った表計算。相対参照と絶対参照の概念。
3 回	表計算 (MS Excel)、続き。	様々なグラフを使った、表計算の視覚化。表ラベルの入力法やグラフの 3D 化、複合グラフの作成法。

4 回	表計算：インターネットを利用したデータ検索と取り込み。	インターネットを通じてのデータ検索、表データの取り込みとアレンジ。非エクセルデータのエクセル化、取り込んだ表のアップデート。
5 回	表計算の課題	指定されたデータを Web を使って検索し、エクセルの表として取り込む。更に、このデータを基に計算、分析し、グラフとして表現する。
6 回	ワードプロセッサソフト (WS Word)	MS Word を使った文書の作成。ページ設定、各種のインデントの設定、タブ設定とリーダーの利用。文字装飾。
7 回	ワードプロセッサソフト (WS Word)：続き	テキストボックスの利用。段組みの利用。簡単な図と表の作成。画像のコピー、貼り付けや画像の文書内挿入とオブジェクトの取り込み。
8 回	PowerPoint を使ったプレゼンテーションスライドの作成。	アニメーションの開始と終了の効果。強調の効果。プレースホルダーの利用とプレースホルダーを使わないスライドデザイン。ワードアート、スマートアートの利用。
9 回	Word もしくは PowerPoint の課題	Word を使った文書、または PowerPoint のプレゼンテーションスライドの課題。どちらかを選択して作成する。
10 回	HTML によるホームページのデザイン：1	HTML の基本概念と Editor Software を使った HTML 文書の作成。簡単なホームページの作成。
11 回	HTML によるホームページのデザイン：2	ハイパーリンクの設定と画像の表示、ページ配置。Name と Target の概念。画像の一部にリンクを張る事。
12 回	HTML によるホームページのデザイン：3	Frame による画面分割、Floating Frame の設定。Name Target を使って、指定したフレームへの文書リンク。
13 回	HTML によるホームページのデザイン：4	Form を利用したアンケートページの作成と文書送信。オートスライドショーの作成。スタイルシートの利用。
14 回	最終課題：HTML によるホームページ作成の課題	HTML によるホームページデザインの課題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Excel、Word、PowerPoint は非常に実用性の高いアプリケーションソフトなので、他の講義、実習の課題、リポート作成に積極的に応用、利用して問題点、疑問点があれば実習に反映する。また、HTML については、これを使ってサークル、または自己 PR のホームページを作成するなど活用する。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は特に指定しない。

【参考書】

参考書は、授業中に随時指示する。

【成績評価の方法と基準】

毎回の実習で作成する提出物の評価（配点：50%）と各セッション後の課題の評価（配点：50%）で成績を評価する。

【学生の意見等からの気づき】

欠席すると、以降の実習について行けなくなる事が多いようです。毎回出席を心がけてください。

【その他の重要事項】

初の実習は Zoom によるオンライン実習となります。Zoom ID は学習支援システム (Hopii) を見て下さい。また、受講希望者が定員を上回る場合抽選となります。抽選に漏れた場合は、他の曜日時間に開講されている同一科目を履修してください。

【Outline (in English)】

We learn the basic functions of the computer and the fundamental manipulation of them. Furthermore, we study how to use the basic application software such as the e-mail, the spread sheet application, the word processor software, and the home-page designing using HTML.

The goal is to understand the basic structure of the computer and to master the usage of fundamental application soft wares. Outside of class, the aggressive applications of the software on the preparation of the reports of the other classes are wanted. Grading is based on the reports of the usual classes and the evaluation on the several application subjects.

PRI100LA

情報処理演習

2017 年度以降入学者

御園生 純

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 5/Thu.5

単位数：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

【日常で活かす IT】

コンピュータを日常の中でどのように活用し、大学での活動を豊かにしていくための実践的な技術・知識の習得を目指します。

以下の 3 点を授業の柱とします。

■動画作成をマスターしよう！

動画を通じて他者に自分の考えを伝えることとは？

ひとは何に注目するのか？

みるひと・聞く人の関心を引く動画をフリーソフトを利用してつくる

■オリジナルスタンプをつくってみよう！

コンピューターでデザインって難しくないの？

自分の考え（アイデア）をカタチにする

自分だけのスタンプをつくってみよう

■エクセルのマスターになる

計算だけじゃない、エクセルの使い方～予測・分析

エクセルでプログラミング

パソコンの基本的な操作やアプリケーションソフトの利用方法はもとより、インターネットを利用した情報の主体的な受発信や各種のメディア活用能力・情報モラルの涵養など、情報化社会に必要な不可欠である、基礎的な情報リテラシー能力の習得を講義の中心に据え、できる限り受講者個々のスキルレベルに合わせた授業展開を心がける予定です。

【到達目標】

ビジネス系のみならず、表現方法としての情報リテラシーの習得を目指します。とくにプレゼンテーションについてはその理論と方法論の習得を通じて、実際に動画編集やプレゼンツール（Davinch resolve/パワーポイント）とドローソフト（Inkscape）の仕様を実際を学びます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

具体的な課題の完成（目的）に合わせた基本ソフトウェアの使用方法を通じて、複数のソフトウェアを駆使することを目指し、実践的なコンピュータの活用方法を実習を通じて学びます。

課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行います。各課題について受講生毎に講評します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
①	オリエンテーション	授業の進め方の注意事項～ログオン方法の確認 (授業方針と計画・評価方法について)
②	情報保護について	データ管理とセキュリティについて理解する
③	パーソナルコンピュータ及び Windows-OS	OS の利用方法 の基本的な取扱い方法について

- | | | |
|---|---------------------------------|----------------------------------|
| ④ | 電子メールの基礎と日本語入力方法～FEP 活用の基礎理解操作方 | メールアカウントの設定とメールソフトについて |
| ⑤ | アプリケーションソフト習得～MS Word (1) | 基礎的な日本語入力 |
| ⑥ | アプリケーションソフト習得～MS Word (2) | 表組みと描画など |
| ⑦ | アプリケーションソフト習得～MS Word (3) | アウトラインプロセッサについて |
| ⑧ | アプリケーションソフト習得～MS Excel (1) | エクセルの基礎的な画面構成の理解 |
| ⑨ | アプリケーションソフト習得～MS Excel (2) | 計算式と関数①
再計算機能と相対・絶対番地について |
| ⑩ | アプリケーションソフト習得～MS Excel (3) | 計算式と関数②
条件判断関数の基本とその応用 |
| ⑪ | アプリケーションソフト習得～MS Excel (4) | マクロ・VBA 基礎 |
| ⑫ | ドローイングソフト習得～inkscape ① | ドローソフトの基本的構造とレイヤーの意味 |
| ⑬ | ドローイングソフト習得～inkscape ② | オリジナルスタンプを作ってみよう |
| ⑭ | プレゼンテーション～prezi ① | prezi を使ったプレゼンテーションの作成～アカウント取得など |

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

なし

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

- ・情報における権利意識と保護意識の醸成 15%
- ・著作権・複製権などの権利関係に対する具体的な理解 15%
- ・授業毎に課す提出課題の提出度と完成度 70%

【学生の意見等からの気づき】

ありません。

【その他の重要事項】

履修に当たってはできれば PC を所有していることが望ましいです。定員超過の場合は抽選をします。抽選に漏れた場合は、他の曜日時間に開講されている同一科目を履修してください。

【Outline (in English)】

【Course outline】

[IT to utilize in daily life] We aim to acquire practical skills and knowledge for how to utilize computers in daily life and enrich activities at the university. The following three points are the pillars of the class.

■ Let's master video creation! What does it mean to convey your thoughts to others through videos? What do people pay attention to? It was Using free software to create videos that attract the attention of viewers and listeners.

■ Let's make an original stamp! Isn't it difficult to design with a computer? It was Shape your thoughts (ideas) Let's make your own stamp.

■ Become an Excel master How to use Excel, not just calculations-prediction / analysis Programming in excel Basic operations that are indispensable to the information-oriented society, such as the basic operation of personal computers and how to use application software, as well as the proactive transmission and reception of information using the Internet, the ability to utilize various media, and the development of information morals. We plan to put the acquisition of information literacy ability at the center of the lesson and try to develop the lesson according to the skill level of each student as much as possible.

【Learning Objectives】

We aim to acquire information literacy as an expression method as well as business-related. Especially for presentations, you will actually learn the actual specifications of video editing and presentation tools (Davinch resolve / PowerPoint) and drawing software (Inkscape) by learning the theory and methodologies.

【Learning activities outside of classroom】

Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter(s) from the text. Your required study time is at least one hour foreach class meeting.

【Grading Criteria /Policy】

- ・ Fostering awareness of rights and protection in information 15%
- ・ Specific understanding of rights such as copyright and reproduction rights 15%
- ・ 70% of the degree of submission and completion of the submitted assignments imposed for each class

IDN100LA

大学を知ろう <法政学>への招待 2017年度以降入学者待

小林 ふみ子、金子 匡良

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 4/Fri.4

単位数：2 単位

2018年度までに「法政学への招待」の単位を修得済みの場合、履修不可

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ようこそ法政大学へ！みなさんのこの大学や学部がいつどのようになり、どうして作られたのか知ってみたいはありませんか？

この授業では、創立から144年めとなる本学の歴史、校歌の成り立ち、明治期からの海外との関わり、特徴ある研究の蓄積、学生文化の今昔、卒業生の活躍など、多方面から法政大学に迫ります。最後には未来を考え、総長に提言する機会も設けます。長い歴史をもつ本学で学ぶ自らをみつめ、将来の目標やキャリアを考えてみましょう。

【到達目標】

・法政大学の歴史を日本近現代史、世界史の流れのなかで理解する。
・〈法政大学らしさ〉を考え、ここで学ぶ自らの将来へのヒントを得る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

毎回、科目責任者2名のコーディネートのもと、総長以下、本学教員、卒業生等が、学部やキャンパスの垣根を超えて担当します。

講義の途中や最後に内容を確認するクイズ、グループワークなどで参加型・双方向型授業にしています。毎回の学習支援システムのコメントに書かれた質問のなかから講義担当者が重要なものを選んで翌週にペーパーにして応答します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	市民社会の開明とノンエリートへの夢～法政大学と日本近現代史①	ガイダンスとして授業の概要を説明したのち、創立者の一人、青年薩埵正邦の「志」と「奮闘」を中心に、本学創立期について講義する。（科目責任者＝金子匡良）
2	「山の手」の市ヶ谷キャンパス～法政大学と地域社会	市ヶ谷キャンパス周辺地域の歴史・地理環境、本学の地域連携活動を紹介します。（小倉淳一）
3	ボアソナードと梅謙次郎～法政大学と日本近現代史②	開学後約30年の発展期に多大な貢献をした人物たち、その民法制定への関わりを学ぶ。（岡孝）
4	アジアからみつめる～法政大学と国際社会	20世紀初頭に始まる留学生の受け入れをはじめ、本学の国際関係を概観する。（高柳俊男）
5	リベラリズムの潮流～法政大学と日本近現代史③	本学で教えた夏目漱石門の内田百閒らの文学者、三木清らの哲学者たちを紹介し、そこに底流するリベラリズムを考える。図書館にある旧蔵書も紹介。（衣笠正晃）
6	学生生活の今昔	写真や映像を交えて学生文化史を振り返る。戦時下の学徒出陣にも触れる。（古俣達郎）

7	校歌「よき師よき友つどひ結び」	成立背景や作詞・作曲家、歌詞の意味などについて知り、応援団のパフォーマンスを見ながらアカデミー合唱団のみなさんより歌唱指導を受ける予定。（児美川孝一郎）
8	大内総長とその時代～法政大学と日本近現代史④	戦後の本学の復興・発展期を担った大内兵衛総長の功績とその教育的理想を考える。（横内正雄）
9	先輩からのエール	社会で活躍する卒業生の体験を聞き、本学で学ぶ意義や可能性を考える。今年度は奥多摩に移住し、森林資源を生かした地域づくりに取り組む菅原和利さんをお迎えする予定。
10	ユニークな研究所	多数の研究所のうち他大に類例がなく、研究実績で世に知られる能楽研究所、沖縄文化研究所、大原社会問題研究所について知る。
11	近年の発展～法政大学と日本近現代史⑤	本学が大きく変貌した90年代以降の改革と、市ヶ谷に設置された国際文化・人間環境学部について学ぶ。（職員・各学部教員）
12	近年の発展～法政大学と日本近現代史⑥、そして未来へ	前回に引き続き2000年代に市ヶ谷に設置されたキャリアデザイン学部・GIS（グローバル教養学部）について学んだ後、法政大学の展望を総長に聞く。（各学部教員・廣瀬克哉総長）
13	「自由と進歩」と法政大学憲章～「法政らしさ」を考える	法政大学の学風として掲げられてきた「自由と進歩」から「法政大学憲章」へ、この講義の内容をふり返りつつ「法政大学らしさ」を考える。（科目責任者＝小林ふみ子）
14	まとめのワーク	「法政大学と自分たちの未来」を話しあい、将来の法政大学への提言をする。本学の教学担当理事の講評を受け、もっとも優れた発表に総長賞を授与する。（小秋元段常務理事・科目責任者＝小林）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回、講師は代わりますが、一つの流れになっています。配付資料を読み直し、紹介した参考文献にも目を通すようにしましょう。2020年にオープンしたばかりのHOSEIミュージアムは必見。予習復習をかねてぜひ見学を！デジタル展示でつぎつぎと新しい情報が出てきます。その他関連する特別展示なども紹介、見学を推奨します。なお、本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

写真でみせる『法政大学 1880-2000 そのあゆみと展望』から抜粋本をつくり、授業支援システムに掲載します。さらに充実したバージョンはテキストとして生協で販売します。

【参考書】

毎回、適宜お知らせします。本学の大学史については、上述書のほか『法政大学八十年史』『法政大学百年史』『法政大学と戦後五〇年』などがあります。

【成績評価の方法と基準】

毎回の学習支援システムのコメントにみえる取り組み70%、期末レポート30%で総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

開設13年を迎える科目で、受講生が法政大学で学ぶ自分を見つめ直す役割を果たしているようです。毎回の授業内容を、テキストとより関連づけながら進めていくよう努めます。みなさんにとって興味深く、よい刺激となるようにする工夫を重ねていきます。

【学生が準備すべき機器他】

配付資料類は、学習支援システムを通じて配付します。

【その他の重要事項】

- ・入学した段階で、本学で学ぶことの意味を考えられるよう 1 年次での履修を推奨します。2 年生以上の受講もちろん歓迎します。
- ・この授業で法政大学の経てきた歴史に興味をもったら、上位科目として開講されている「法政学の探究 LA・LB」にもチャレンジしてみてください。

【Outline (in English)】

(Course outline) Welcome to Hosei University! Would you like to know when, how and why your university and faculty were founded?

We will trace the more than 140-year history of Hosei University, looking at its various aspects: the university song, acceptance of overseas students, relations with other countries, distinctive research institutes, changes in student culture, outstanding graduates, etc. In the last class session, we are going to hold a discussion as to the future of our university and you can present your proposals to the university president. Hopefully this class would be a good opportunity for you to reflect on yourself who study at this university and think about your future career.

(Learning activities outside of classroom) Students will be expected to study for four hours before and after each class.

(Grading Policies) The final grade will be calculated based on the small report submitted in each class (70%) and the final report (30%).

IDN200LA

法政学の探究 L A

2017 年度以降入学者

サブタイトル：

高柳 俊男、北口 由望

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 5/Fri.5

単位数：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は、「大学を知ろう <法政学>への招待」（旧科目名「法政学への招待」）をすでに受講し、法政大学が経てきた 140 余年の歴史と現状について一通りの理解をもつ学生を主対象にして、本学ゆかりの特定の人物を媒介に、法政大学についてより深く考える場を提供する発展科目として設定しました。

「大学を知ろう <法政学>への招待」における学習を前提に、本授業では、法政大学で教えた教員や、学んだ学生を具体的に取り上げます。教員の場合なら、その人物が法政大学でどういう教育研究に携わったのか、そのことで本学や社会の発展にいかに関与したか、などを追います。卒業生の場合なら、本学で何を学んだのか、あるいは学んだことをその後の本人の人生や、社会に向けてどう役立てたかなどについて、探究することになるでしょう。

法政大学ゆかりの特定の人物を詳しく追うことで、「自由と進歩」の理念や、時代のフロントランナー養成を掲げる本学の歴史と現在が、より具体性を帯びて理解できるようになるはずです。

【到達目標】

本学の経てきた道を、具体的な人物に即して、実証的・実感的に把握できることを目指します。時代の大きな流れの中で、本学ゆかりのその人物が何に興味をもち、どんな活動をし、何を目指し、何に悩んだかなど、時代の潮流や雰囲気を受講生個々人の知性と感性で感じられるようにします。それを、自分の学生生活や将来像へとつなげて考える契機を得るよう努めます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

科目責任者の教員 2 名が毎回同席し、授業をコーディネートします。講義は、毎回のテーマに最適な本学内外の講師陣（科目責任者を含む）が、分担して担当します。

授業の最後に毎回、リアクションペーパーを書いていただきます。受講生の声を反映した参加型・双方向型授業になるよう努めます。なお、質問やリアクションペーパーに対するフィードバックは授業中に行います。

対面を基本としますが、講師の都合等により他の形式で行う回が生じた場合は、事前にお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	導入	この授業の狙いや、全体の構成について説明する。 あわせて、本学の経てきた歴史の概略を復習する。（科目責任者＝高柳俊男、北口由望）

2	本学草創期を支えた日本近代法の父・ボアソナードとその門人たち	1873 年に政府顧問として来日したフランス人法学者ボアソナードは、刑法・民法などの近代法典の整備のかたわら、法学教育にも尽力した。その門人の薩埵正邦に焦点を当てて、明治初期の法典整備・法学教育の意義を考える。（岡孝）
3	世界を知りつくした本学の祖 箕作麟祥	本学の前身である和仏法律学校の初代校長の箕作麟祥は、明治期の有数の啓蒙家であった。彼は、洋学を学んで、西洋の法律や歴史を日本に紹介し、日本の「民権」のために活躍した。彼の仕事を振り返って、そこから学ぶものを探りたい。（南塚信吾）
4	「民法の父」・和仏法律学校初代総理 梅謙次郎	日本民法典起草者の一人であり、帝国大学法学部教授、法政大学の初代総理（総長）であった梅謙次郎について、韓国（大韓帝国、1897～1910 年）政府の法律顧問として活動していた頃の足跡を辿る。（李英美）
5	能楽研究の開拓者である野上豊一郎	法政大学は古典芸能の「能楽」と深い結びつきがあるが、その縁は、戦後間もなく総長を務めた野上豊一郎が創出したものである。今回は、野上と能楽との出会いから、彼が残した功績を概観する。（伊海孝充）
6	夏目漱石門下生たちに学んで作家になった椋鳩十	伊那谷出身の椋鳩十（本名：久保田彦穂）は、とくに動物物語の作者として広く知られる。初の詩集を出し、学生結婚もした法政大学時代をはじめ、戦前戦後にわたる椋の歩みを時代の中で振り返る。（高柳俊男）
7	作家井本健作とその日記	野上豊一郎の推挙で本学教員になり、戦前・戦後にかけて、予科長、第二中学校長（初代）、図書館長を歴任するなど大学運営にも深くかかわった作家・俳人の井本健作。井本が長年にわたり書き残した日記（「自省録」）を紐解き、知られざる戦前期法政大学の歴史を明らかにする。（北口由望）
8	戦争の中を生きた学友たち～久納好学を例に	戦終直前のわずか 10 ヶ月足らずの間に 5,845 名もの戦死者を出した「特攻」。その第一号となったのが、本学に学んだ学友の一人・久納好学であった。彼はなぜ「特攻」を志願したのか。その短い生涯を辿りながら、戦前戦中の本学の歴史と学友たちの生きざまを追体験してみたい。（鈴木靖）
9	城戸幡太郎、波多野完治、宮原誠一、乾孝～生涯学習の時代を切り拓いた人々	戦前の法政大学高等師範部教授の城戸幡太郎、波多野完治、宮原誠一らは、本学を舞台に教育科学研究会や保育問題研究会を組織したが、そのねらいは現場の教員と研究者とが共同して教育実践を研究することにあった。キャリアデザイン学部へと引き継がれるこの伝統を明らかにしたい。（笹川孝一）

- 10 南北朝鮮と日本の狭間に生きた尹学準 尹学準は朝鮮戦争最中に韓国から日本に密航し、法政大学の小田切秀雄ゼミで近代文学を学んだ。晩年、母校の教授となり、現役のまま亡くなった尹学準の波乱万丈の歩みを追いながら、その一生が投げかけるものを考えたい。(高柳俊男)
- 11 「女性である前にまず人間であれ」野上弥生子と法政大学 日本を代表する作家野上弥生子。法政大学女子高等学校名誉校長もつとめた弥生子は、同校の生徒たちに「女性である前にまず人間であれ」という言葉をのこした。弥生子の思想と人物像を探るとともに、その日記に記された法政大学の逸話を紹介する。(古侯達郎)
- 12 法政スポーツの伝統を探る 法政スポーツは100年以上の歴史をもつ。HOSEI ミュージアムで開催された展示「HOSEI スポーツの原点」をもとに、その歴史と伝統を振り返る。(北口由望)
- 13 校舎と建築学科の礎を築いた建築家 大江宏 法政大学の幾つもの校舎を設計し、また教育者として建築学科の礎を築いた建築家・大江宏(1913～89年)。残された建築と資料を参照しながら、その思想と足跡に迫る。(藤本貴子)
- 14 学生の目と教員の目から見る法政大学 学生として本学で学び、のちに本学で教えるに至った方を授業にお招きし、2つの立場から見た法政大学について体験的に語っていただき、授業全体のまとめとする。(根崎光男、明田川融)

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講師が授業内で言及した文献は、積極的に参照してください。また、2020年に開館したHOSEI ミュージアムの展示、および同ミュージアムデジタルアーカイブ(<https://museum.hosei.ac.jp/archives/Users/Top>)には、授業で取り上げた人物や事象に関するコンテンツが豊富に含まれていますので、準備学習・復習に活用してください。

その他、授業に関連する特別展示などが学内外で開催される場合には、随時お知らせしますので、極力足を運んでみましょう。

なお、本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストはありません。講義担当者が適宜、プリント配付やパワーポイント提示を行います。それらを基本的に、学習支援システム上にアップします。

【参考書】

各担当教員が、その都度お知らせします。

本学の歴史を通史的にまとめた書籍には、『法政大学 1880-2000：そのあゆみと展望』のほか、『法政大学参拾年史』『法政大学八十年史』『法政大学百年史』『法政大学と戦後五〇年』などがあります。図書館などで適宜参照してください。

【成績評価の方法と基準】

毎回のリアクションペーパーに反映された授業に取り組む姿勢40%、学期末のレポート60%を基準にして、総合的に評価します。受講者数によっては若干の変更があるかもしれませんが、その場合は授業の場（もしくは学習支援システム上）でお知らせします。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とします。

なお、レポートの作成に際しては、典拠となる文献に必ず当たり、実証的な内容になるよう心がけてください。

【学生の意見等からの気づき】

学術的でありながら、同時に本学で学ぶ自分自身の生き方の参考になるような、興味深い授業を目指します。

【学生が準備すべき機器他】

とくにありません。学習支援システムを積極的に活用します。

【その他の重要事項】

上述のように、「大学を知ろう <法政学>への招待」で学んだ内容を前提に進めます。したがって、原則として同科目の既修者か、それと同程度の前提知識がある方が受講対象者になります。無い方の受講も認めますが、この授業と並行して、自ら積極的に補うよう努めてください。

「大学を知ろう <法政学>への招待」とこの「法政学の探究 LA」を履修し、さらに学びを深めたい方には、より演習に近い少人数の科目として、「法政学の探究 LB」(春学期)も用意されています。ただし、2023年度に限り、休講です。

【Outline (in English)】

This intermediate class aims to explore the history and the spirit of Hosei University, by following the achievements and personality of several specific individuals.

Please refer to the documents mentioned by the lecturer in the class. Also, please make use of the newly opened HOSEI Museum and Digital Archives for preparation and review.

Final grade will be calculated according to the following process. Reaction papers for each class 40%, and term-end report 60%.

BSP100LA

リベラルアーツ特別講座 2017年度以降入学者

サブタイトル：

コーディネータ：渡辺昭太、講師（ゲストスピーカー）：
イオンフィナンシャルサービスグループ

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 3/Fri.3

単位数：2 単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代社会では、金融との関わりを持つことは避けられないため、生活スキルとして「金融リテラシー力（お金に関する知識と判断力）」を身につけることは重要です。

金融リテラシーについて体系的に学び、人生と生活を考えるうえで重要な事項を理解し、自分で必要な情報を集め、比較・検討して判断することが出来るようになる実践的な力を身につけて頂くことが本講座の目標です。

本講義はイオンフィナンシャルサービス株式会社の寄付講義です。

【到達目標】

経済的に自立し、より良い生活を送るために必要な、経済や金融についての知識と判断力を学ぶ。

学んだ知識を活かし、適切な金融商品のサービス選択ができ、将来の生活設計（ライフプラン）が作成できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義テーマにより、講師が交代する場合があります。毎回リアクションペーパーを提出していただきます。講義内容に関する質問回答、試験問題についての解説なども行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	金融経済教育の重要性・人生とお金	①金融教育の重要性 ②人生とお金 ③大学生活とお金
2	お金と経済	①お金と経済の関係 ②景気・物価・金利の関係 ③金利と外国為替
3	お金を稼ぐ	①お金を稼ぐ ②職業選択 ③額面収入と手取り収入 ④海外で働く
4	生活に関わる税金	①税金の種類 ②収入に関する税金 ③日々の生活に関する税金 ④その他の税金
5	ライフプランを描く①	①ライフプランの重要性②所得と収入③人生の3大費用④ライフイベントを描く
6	ライフプランを描く②	①PL、BS、CF ②キャッシュフロー表の作り方 ③キャッシュフロー表の分析
7	お金を借りる①（クレジットカード）	①お金を借りる方法 ②多様化する決済 ③外カの仕組み ④外カの上手な使い方
8	お金を借りる②（ローン、リース）	①ローン ②分割払い ③リース ④多重債務の予防
9	お金をふやす①（投資）	①お金を増やす方法 ②貯蓄について ③投資について ④投資のリスクコントロール

10 お金をふやす② ① NISA ② iDeCo (NISA と iDeCo)

11 リスクに備える①（生活におけるリスク ②私的保険、年金） ①生活におけるリスク ②私的保険の基礎知識 ③身体・健康のリスクに備える

12 リスクに備える②（損害保険） ①身の回りのリスク ②損害保険について

13 トラブルに強くなる ①消費者トラブルの現状 ②消費者を守る制度 ③トラブルに遭わないために

14 ライフプランを描く③ ①ライフプランを作る ②ライフプランの見直し方法、総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各授業の準備学習及び復習時間は、各 2 時間程度を想定します。配布資料および web 上の参考資料を必要に応じて読むこと。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。

【参考書】

資料については講義サイトに投稿予定です。

【成績評価の方法と基準】

リアクションペーパーの提出（30%）、中間テスト 1 回（30%）および最終テストまたはレポート（40%）の点数により成績を判定し、単位付与の可否を決定する。

【学生の意見等からの気づき】

将来だけでなく現時点での生活にも役立つことが学べたといった意見を多くいただきました。2023 年度も皆さんの生活に密着した事例等を取り入れ、人生におけるリスクに対する心構え等も含め役立つ情報をお伝えします。

受講者人数や状況にもよりますが、学生同士のディスカッション等ができるよう工夫して授業を展開していきます。

【Outline (in English)】

In present-day society, it is unavoidable to live without variety of financial services, moreover these financial services are becoming more complexed. Therefore, it is important to have "Financial Literacy" including the knowledge about personal monetary related matters and skill to make proper decisions. By studying financial literacy through this course, we aim to achieve every student

・ To understand the important matters related to financial literacy, including budgeting, saving, investing, borrowing, insurance and personal financial management

・ To acquire skills to make proper decisions by (a) searching and gathering information, (b) careful and logical consideration, (c) necessary comparisons.

This course is voluntary provided by AEON Financial Service Co., Ltd.

【Learning Objectives】

a) Acquiring necessary knowledge and decision-making skill related to personal financial matters for their better life with financially independence.

b) Using the learned skills and knowledge, students will be able to make their life planning including budgeting and proper selection of necessary financial services.

【Learning activities outside of classroom】

Students are expected to have preparation and review for each lesson. We estimated 2 hour each for preparation and review.

Students are expected to read distributed texts and reference materials as necessary

【Grading Criteria /Policy】

The score is calculated based on three subjects.

a) Attendance report contribute 20%

b) Mini exam contributes 20% (few times during the course)

c) Culminating report 60%

Based on the score calculated above, the granting of credit will be decided.

LIT100LA

日本古典文学 A

2017 年度以降入学者

サブタイトル：中世文学を読み解く

表 きよし

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 4/Tue.4

単位数：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本古典文学の代表的な作品である『平家物語』を読み、一の谷合戦・屋島合戦・壇の浦合戦という三つの合戦を通して平氏が滅亡に追い込まれていく様子を考察する。登場する人物たちの活躍がどのように描かれているかを細かく分析するとともに、その合戦の持つ意味を作者がどのようにとらえているかを明らかにする。『平家物語』が語られた作品であることにも留意しながら、言葉による表現の可能性を探る。

【到達目標】

『平家物語』の多彩な登場人物の個性、さまざまな合戦などの出来事の内容、『平家物語』という作品の特色を理解し説明することができる。古典文学作品の面白さを味わうことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

『平家物語』後半の、三つの合戦に関する部分を毎回 1~2 段ずつ取り上げて講義していく。各段で事件・人物がどのように描かれているかを分析しながら内容を理解していく。授業の最後のリアクションペーパーを提出してもらおう。多くの人から質問があった事柄については次回の授業の中で回答する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
①	『平家物語』の特色	授業の進め方、教科書などについて説明し、授業に対する心構えをしっかりとさせる。『平家物語』の特色を説明し、どのような点に留意しながら読んだらよいかを把握してもらおう。
②	『平家物語』の内容展開	『平家物語』の最初から最後まで話の展開を説明する。どのような出来事が起きるかを把握しておくことにより、以後の授業に順調に対応できるようにしてもらおう。
③	木曾の最期の事	義経が都に攻め入ったために追い詰められた義仲が、あえて範頼軍が待ち構える琵琶湖へと向かう様子や、乳母子の今井兼平や愛妾の巴との心のつながりを読み取っていく。
④	老馬の事・坂落しの事	平氏が態勢を整えて待つ一の谷へと範頼・義経が向かっていく様子や、義経が坂落しと呼ばれる奇襲戦法を実行していく様子、それにより平氏が大混乱に陥る様子を読み取っていく。

⑤	忠度の最期の事	一の谷合戦で最期を遂げた平氏の武士から平忠度を取り上げ、忠度の和歌に対する情熱と勅撰集入集への思い、覚悟を決めて最期を迎える様子などを読み取っていく。
⑥	敦盛最期の事	一の谷合戦で最期を遂げた平氏の武士から平敦盛を取り上げ、十七歳の若武者ながら高貴な武士としてのプライドを保つ敦盛の健気さと、敦盛を討った熊谷次郎直実の心の変化を読み取っていく。
⑦	逆櫓の事	四国の屋島へ逃れた平氏を討つために義経が都を出発する様子や、大坂の港での逆櫓設置をめぐる梶原景時との激しい論争、悪天候の中船出を強行する義経の思いを読み取っていく。
⑧	大坂越の事・嗣信最期の事	四国の阿波に上陸した義経が陸路を通して屋島を急襲する様子や、慌てた平氏が海上へと逃れる様子、海岸での戦いで義経の部下である佐藤嗣信が戦死する様子を読み取っていく。
⑨	那須与一の事	夕刻となって戦いが中断となりそうな時に平氏が扇的の船に立てた理由や、射手に選ばれた那須与一が厳しい状況の中で見事に任務をやり遂げる様子を読み取っていく。
⑩	壇の浦合戦の事・遠矢の事	最後の合戦である壇の浦合戦がどのような状況で始まっていくか、合戦を目にしている義経と梶原景時との対立、平氏のリーダー平宗盛の決断力のない姿などを読み取っていく。
⑪	先帝御入水の事	阿波民部重能の寝返りなどにより平氏の敗戦が決定的になる様子や、平氏の副リーダー平知盛の人々に覚悟を促す行動、先頭を切って安徳天皇とともに海中に沈む二位殿の覚悟などを読み取っていく。
⑫	能登殿最期の事	入水したが救出されてしまう建礼門院、覚悟が決まらず生け捕りとなる平宗盛、あくまでも戦おうとする平教経、みんなの最期を見届けて入水する平知盛など、平氏の人々の最期の有様を読み取っていく。
⑬	腰越の事	平氏が滅亡に追い込んだ源義経が、兄の源頼朝との関係が悪化したために鎌倉入りを拒否され、自らの思いを腰越状に認めるがついに許されず、苦境に陥っていく様子を読み取っていく。
⑭	全体のまとめと試験	今までの授業を振り返りながら、登場人物の特徴が把握できたか、それぞれの合戦の様子が把握できたか、『平家物語』の特色を理解できたかを確認する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習として、授業で取り上げる段に必ず事前に目を通し、どのような内容が書かれているか、わかりにくい部分はないかを確認しておく。授業で取り上げることができない段についてもおおよその内容を把握するように心がける。復習として、授業内容をしっかりと再確認し、わからなかった部分はまず自分で調べてみる。『平家物語』に関する解説書はたくさん出版されているので、それらを読むことで『平家物語』に関する知識を自分でも補強していく。本授業の準備学習・復習時間は、1 回の授業につき 4 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

『角川ソフィア文庫 平家物語 下巻』。佐藤謙三校註。角川学芸出版。1959年。776円。

【参考書】

千明守著『平家物語が面白いほどわかる本』中経出版。2004年。
梶原正昭著『古典講読・平家物語』岩波書店。2014年。
日下力『平家物語転読』笠間書院。2006年。
山下宏明『平家物語入門・琵琶法師の「平家」を読む』笠間書院。2012年。

【成績評価の方法と基準】

毎回の授業後に提出するリアクションペーパーの点数（50％）と期末試験の点数（50％）を総合して成績評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】

『平家物語』は登場人物が多彩なため、人物関係の把握が難しい。その点に留意しながら授業を進めていくようにしたい。

【Outline (in English)】

【Course outline】

Read the "The Tale of the Heike" which is a typical work of Japanese classical literature and consider how Heike clan is being driven to ruin through three battles of Ichinotani battle, Yasima battle and Dannoura battle. We analyze in detail how the activities of the appearing people are depicted and clarify how the author sees the meaning of the battle. While paying attention to the fact that "Heike Monogatari" was spoken, We explore the possibilities of expression by means of words.

【Learning Objectives】

You can understand and explain the individuality of various characters in "The Tale of the Heike", the contents of events such as various battles, and the characteristics of the work "The Tale of the Heike". You can enjoy the fun of classical literary works.

【Learning activities outside of classroom】

As a preparatory study, be sure to read the stages covered in the class in advance to see what kind of content is written and whether there are any parts that are difficult to understand. Try to grasp the approximate contents of the steps that cannot be taken up in the class. As a review, reconfirm the content of the lesson, and first try to find out what you did not understand. Many commentary books on "The Tale of the Heike" have been published, so reading them will reinforce your knowledge of "The Tale of the Heike". The standard preparatory study / review time for this class is 2 hours each.

【Gradeing Policy】

Comeprehensive score of the assignment report (50%) submitted after each class and the score of the term-end report (50%) that reports the results of investigating and considering the theme of "The Tale of the Heike". And evaluate the grade.

LIT100LA

日本古典文学B

2017年度以降入学者

サブタイトル：中世文学を読み解く

表 きよし

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 4/Tue.4

単位数：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中世において悲劇的な英雄として人気を集めた源義経と弁慶を取り上げ、『平治物語』『義経記』『お伽草子』などの古典文学作品や、能・歌舞伎などの古典芸能における二人の描かれ方やその変化を比較検討し、人々が二人の英雄に求めた理想像を、作者が作品を通してどのように表現しようとしているかを明らかにする。これらの考察を通して、文学作品成立の背景にある様々な伝説や、文学作品が伝説の流布に果たした役割を考える。

【到達目標】

義経・弁慶伝説の内容を把握・理解し、説明することができる。人々がどのような思いを込めてこれらの伝説を生み出し流布させていったかを考えるとともに、古典文学や古典芸能の面白さを味わうことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

授業計画に示したように、毎回テーマを決めて授業を行う。源義経や弁慶をめぐる出来事が文学作品にどのように描かれているか確認しながら、それぞれの話の特色を理解していく。

授業の最後にリアクションペーパーを提出してもらおう。多くの人から質問があった事柄については次回の授業の中で回答する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
①	義経・弁慶の生涯	この授業の内容や進め方などについて説明し、授業に対する心構えをしっかりとさせる。義経・弁慶の生涯を把握することにより、今後の授業に順調に取り組めるようにする。
②	鞍馬寺での義経	生まれた年に平治の乱によって父を失い、母とも引き離されて鞍馬寺の稚児となる義経の様子や、鞍馬山の僧正が谷で平氏を倒すため武術の修業に励む義経の健気な姿を読み取っていく。
③	義経の東国下り	僧になることを嫌って鞍馬寺を脱出した義経が金商人吉次とともに東国へ旅立つ様子や、鏡の宿で盗賊に襲撃されるが戦って見事に退治する義経の活躍ぶりを読み取っていく。

④	伊勢三郎との出会い	関東で自分に冷たい態度をとった人物の家を焼き払う義経の過激な行動や、上野国で伊勢三郎の家に泊めてもらい、義経が優れた人物であることを見抜いた伊勢三郎が義経の家来となる様子を読み取っていく。
⑤	義経と兵法書	奥州平泉に身を落ち着けた義経だが、平氏の情報を入手するため都に舞い戻り、周囲の人々にも助けられながら、鬼一法眼が所持していた兵法書を盗み読む様子を読み取っていく。
⑥	弁慶の誕生と成長	弁慶が生まれた時から人並みはずれた様子だったことや、延暦寺の稚児となってからも暴れ回って寺を追放される様子など、弁慶の波乱に富んだ人生の始まりの様子を読み取っていく。
⑦	義経・弁慶の出会い	京都に戻った弁慶と義経の出会いには、千本太刀奪いと千人斬りという二つのパターンがある。それぞれがどのような内容で、どのような特色を持っているのかを読み取っていく。
⑧	義経・弁慶の主従契約	清水寺や五条大橋での戦いにより、義経と弁慶は主従の関係を結んでいく。戦いながらも惹かれあっていく二人の息の合った様子や心の結び付きを読み取っていく。
⑨	頼朝からの刺客	平氏を倒すために大活躍した義経だったが、兄の頼朝との関係が悪化して鎌倉に入らず京都で生活を送る。そんな義経のもとに刺客が送りこまれ、義経がそれを退ける様子を読み取っていく。
⑩	義経・弁慶の都落	鎌倉から大軍が京都に向かったため、義経は京都を離れて西国へ向かうことにする。大坂から船出した義経一行が暴風に遭遇して危機に陥る様子を読み取っていく。
⑪	静との別れ	義経は潜伏生活にも愛妾の静を伴っていたが、吉野山で泣く泣く別れることになる。吉野山で捕えられて鎌倉へ送られた静の行動を通して、静の性格を読み取っていく。
⑫	義経・弁慶の北国落	吉野山などで潜伏生活を送っていた義経は、山伏姿となって奥州平泉へ向かう。途中あちらこちらで疑われるが、弁慶の機転により危機を乗り越えていく様子を読み取っていく。
⑬	義経・弁慶の最期	奥州平泉にたどり着いて平穏な日々を送っていた義経だが、良き理解者だった藤原秀衡の死によって追い詰められる。義経を守り抜こうとする弁慶の様子や、義経の最期の有様を読み取っていく。
⑭	全体のまとめと試験	今までの授業を振り返りながら、登場人物の特徴が把握できたか、出来事の様子が把握できたか、義経伝説の特徴を理解できたかを確認する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習として、授業で取り上げる話について、事前にプリントをよく読んでおおよその内容を把握しておく。復習として、授業の中で疑問に思った事について自分なりに調べてみる。源義経に関する書物はたくさん出版されているので、そのうちのいくつかを読み、様々な角度から義経・弁慶の様子を理解できるようにする。本授業の準備学習・復習時間は、1回の授業につき4時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

安価で入手できる教科書がないため使用しない。各回の授業に必要な古典文学作品の本文を記載したプリントを学習支援システムに掲載する。

【参考書】

岡見正雄校注『日本古典文学大系・義経記』岩波書店。1959年。
梶原正昭校注『新編日本古典文学全集・義経記』小学館。1999年。

【成績評価の方法と基準】

毎回の授業後に提出するリアクションペーパーの点数（50%）と期末試験の点数（50%）を総合して成績評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】

義経伝説は能や歌舞伎などの古典芸能の題材ともなっており、これらの芸能の作品に関心を持つ学生が多い。適宜、古典芸能の作品にも言及するようにしたい。

【Outline (in English)】**【Course outline】**

Taking a look at Minamoto Yoshitune and Benkei who gained popularity as a tragic hero in the Middle Ages, they are drawn by classical literary works such as "Heiji Monogatari", "Gikeiki" and "Otogisoushi" and classical performing arts such as Noh and Kabuki Comparing people and their changes, we will clarify how the author tries to express ideal images that people asked through their works. Through these considerations, consider various legends behind the formation of literary works and the role that literary works played in the legendary dissemination.

【Learning Objectives】

Be able to understand, and explain the contents of Yoshitsune and Benkei legends. You can think about how people thought about creating and spreading these legends, and enjoy the fun of classical literature and entertainment.

【Learning activities outside of classroom】

As a preparatory study, read the prints carefully in advance to understand the approximate contents of the stories to be taken up in class. As a review, I will try to find out what I wondered in class. Many books on Minamoto no Yoshitsune have been published, so read some of them so that you can understand the situation of Yoshitsune and Benkei from various angles. The standard preparation / review time for this lesson is 4 hours per lesson.

【Grading Policy】

The score of the assignment report submitted after each class (50%) and the score of the term-end report (50%) that reports the results of investigating and considering the Yoshitsune legend by setting its own theme are combined. Perform grade evaluation.

LIT100LA

日本古典文学A

2017年度以降入学者

サブタイトル：『源氏物語』のはじまりー「桐壺」巻を読む

園 明美

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：土 2/Sat.2

単位数：2 単位

この授業は「Web 履修抽選対象授業」です。抽選エントリー期間は 2023 年 4 月 3 日（月）10：00～5 日（水）17：00、結果発表は 4 月 6 日（木）22：00（予定）です。履修ガイド (<https://hosei-keiji.jp/ilac/rishuguide2023/>) を確認のうえ、情報システムから期間内にエントリーしてください。

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

『源氏物語』といえば、おそらく多くの人々が「絶世の美男子・光源氏が多くの女性と恋愛遍歴を重ねていく物語」というイメージを持っているように感じる。

しかし、なぜ光源氏が多くの恋を重ねるようになったのかについては、意外に知られていないのではないだろうか。

本授業では、『源氏物語』の最初の巻である「桐壺」巻の読解を通して、この物語の発端がいかなるものなのかを理解するとともに、この巻の持つ 5 巻という長大な物語を牽引する力について考えてみる。

【到達目標】

『源氏物語』の最初の巻である「桐壺」巻の本文を物語の展開に沿って紹介し、主人公・光源氏の人生の発端がいかなるものであったのか、また、『源氏物語』が描こうとしたものは何であったのかを考察するとともに、現代とは異なる平安時代の習俗等も理解してゆく。なお、受験のための古文の学習ではないので、文法等にこだわるのではなく、「何が語られているのか」の理解を目指し、可能な限りかみ砕いて解説を行うので、高校時代に古文が苦手だったという人も心配しないでよい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式。

なお、毎回コメントが記入できる形式の出席カード（リアクションペーパー）を配布し、寄せられたコメントの内容をフィードバックすることで、理解を含め、視野を広げることに役立てる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
①	ガイダンス	導入と概説
②	『源氏物語』の発端	光源氏の誕生
③	制度と感情の板挟み	源氏の母の立場の弱さ
④	愛ゆえの悲劇	源氏の母の死
⑤	それぞれの思い	源氏の母の葬送
⑥	帝の使者の弔問	源氏の祖母の嘆き
⑦	二人の語らい	哀惜と後悔と
⑧	使者の報告	更衣の実家を思いやる帝
⑨	深まる帝の悲嘆	更衣の形見を見て
⑩	「長恨歌」との関わり	楊貴妃と更衣の比較
⑪	成長する源氏	並はずれた美貌と才能
⑫	新しいキサキ	運命の女性・藤壺登場
⑬	新たな局面へ	源氏の元服と結婚
⑭	藤壺への思慕	満たされぬ想い

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

一つの作品を取り扱うので、授業を受けた後、配布資料を再読して理解を深め、次のストーリー展開といかに関わりを持つのかを自分なりに考えてみる。

【テキスト（教科書）】

特にテキストは定めず、毎回必要な資料をプリントにして配布する。

【参考書】

新編日本古典文学全集『源氏物語』①（小学館）

新日本古典文学大系『源氏物語』①（岩波書店）

新潮日本古典集成『源氏物語』①（新潮社）

その他、それぞれのエピソードに関連して参考文献がある場合は、授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

学期末にレポート課題を課し、その内容（設定したテーマに対して、自己の考えが明確に示されているか否か）によって評価する（90%）。平常点（リアクションペーパーへのコメント内容）は最終評価の参考とする（10%）。ただし、出席率が60%に満たない場合は評価の対象外とするので注意すること。

【学生の意見等からの気づき】

アンケートに記されたコメントから、想像以上に、現代のことと引き比べることや、逐語訳を行うのではなく、「具体的にはどういうことなのか？」を噛み砕いて解説することで、学生諸君が古典文学や歴史に興味を持つことがわかった。

したがって、今後とも「わかりやすく、文学を身近に感じられる解説」に留意したい。

また、毎回出席カードのコメント欄に記された内容を紹介することにより、「自分と違う考え方を知れてよかった。理解が深まった」という意見も多数見られたので、これからも、この点を充実させてゆくとおりである。

【Outline (in English)】

This course introduces to the first volume of the Tale of Genji students taking this course.

By the end of the course, students should be able to do the following:

- ・ Understand a consciousness about the beginning of The of Genji.

- ・ Recognize the customs of the Heian Period.

Grading Criteria /Policy:

Essay 90%, Presentations and class participation 10%

Learning activities outside of classroom;

Students are required to review each class using handouts. If there remain any parts they cannot understand, they should ask questions in the next class.

LIT100LA

日本古典文学B

2017年度以降入学者

サブタイトル：和泉式部を知っていますか？

園 明美

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：土 2/Sat.2

単位数：2 単位

この授業は「Web 履修抽選対象授業」です。抽選エントリー期間は 2023 年 4 月 3 日（月）10：00～5 日（水）17：00、結果発表は 4 月 6 日（木）22：00（予定）です。履修ガイド (<https://hosei-keiji.jp/ilac/rishuguide2023/>) を確認のうえ、情報システムから期間内にエントリーしてください。

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

和泉式部は、平安時代の有名女流歌人の一人で、『紫式部日記』にもその名が見える人物であるが、清少納言や紫式部に比べると、知名度は劣るかもしれない。

しかしながら、この女性はいわゆる「恋多き女」として有名で、藤原道長にも「浮かれ女」と呼ばれたという。これは、現代における「モテ」「非モテ」という感覚ともつながるものであろう。

この授業では、『和泉式部日記』と『和泉式部集』をはじめとする文学作品を通して、和泉式部という一人の女性の人生を理解することを目的とする。

【到達目標】

『和泉式部日記』・『和泉式部集』をはじめとして、和泉式部にまつわるエピソードを載せる文学作品の記事を読むことで、和泉式部という女性の人生のさまざまな側面を考えるとともに、現代とは異なる平安時代の身分制度や婚姻の慣習等についても理解してゆく。

なお、受験のための古文の学習ではないので、文法等にこだわるのではなく、「何が語られているのか」の理解を目指し、可能な限りかみ砕いて解説を行うので、高校時代に古文が苦手だったという人も心配しないでよい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式。

なお、毎回コメントが記入できる形式の出席カード（リアクションペーパー）を配布し、寄せられたコメントの内容をフィードバックすることで、理解を含め、視野を広げることに役立てる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
①	ガイダンス	授業の進め方と概説
②	師宮敦道親王からの手紙	二人のなれそめ
③	深まる交流	恋の進展
④	愛と不信と	噂に惑わされる師宮
⑤	揺れ動く二人の関係	再燃する愛情
⑥	波乱の兆し	宮邸入りの誘い
⑦	拗れる人間関係	宮邸に迎えられて
⑧	日記の結末	師宮の正妻の退去
⑨	二人の恋に対する世間の目	『大鏡』が語る和泉式部
⑩	師宮亡き後の和泉式部	『和泉式部集』にうかがえる和泉式部の思い
⑪	最後の男・藤原保昌	『古本説話集』等が語る和泉式部

- ⑫ 「母」としての和泉式 『栄花物語』が語る和泉式部「部」
- ⑬ 和泉式部への後世の評 『無名草子』の和泉式部評 価
- ⑭ まとめと解説 総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

一つの作品を取り扱うので、授業を受けた後、配布資料を再読して理解を深め、次のストーリー展開といかに関わりを持つのかを自分なりに考えてみることにしてください。

【テキスト（教科書）】

特にテキストは定めず、毎回必要な資料をプリントにして配布する。

【参考書】

新編日本古典文学全集『和泉式部日記 紫式部日記 上級日記 讃岐典侍日記』（小学館）

角川ソフィア文庫『和泉式部日記』（角川書店）

新潮日本古典集成『和泉式部日記 和泉式部集』（新潮社）

その他、それぞれのエピソードに関連して参考文献がある場合は、授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

学期末にレポート課題を課し、その内容（設定したテーマに対して、自己の考えが明確に示されているか否か）によって評価する（90%）。平常点（リアクションペーパーへのコメント内容）は最終評価の参考とする（10%）。ただし、出席率が60%に満たない場合は評価の対象外とするので注意すること。

【学生の意見等からの気づき】

アンケートに記されたコメントから、想像以上に、現代のことと引き比べることや、逐語訳を行うのではなく、「具体的にはどういうことなのか？」を噛み砕いて解説することで、学生諸君が古典文学や歴史に興味を持つことがわかった。

したがって、今後とも「わかりやすく、文学を身近に感じられる解説」に留意したい。

また、毎回出席カードのコメント欄に記された内容を紹介すること（フィードバック）により、「自分と違う考え方を知れてよかった。理解が深まった」という意見も多数見られたので、これからも、この点を充実させてゆくとともに、

【Outline (in English)】

This course introduces to Izumi Shikibu students taking this course. (Izumi Shikibu is one of the famous lady poets of the Heian period.)

By the end of the course, students should be able to do the following:

- ・ Understand a consciousness about Izumi Shikibu.
- ・ Recognize the customs of the Heian Period.

Grading Criteria /Policy:

Essay 90%, Presentations and class participation 10%

Learning activities outside of classroom;

Students are required to review each class using handouts. If

there remain any parts they cannot understand, they should ask questions in the next class.

LIT100LA

日本古典文学 A

2017 年度以降入学者

サブタイトル：万葉集前期の和歌から、時代と共感する歌の在り方を考える

成島 知子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 1/Wed.1

単位数：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本最古の歌集、万葉集には 7 世紀半ば～8 世紀半ばの約 100 年間の約 4500 種の歌が収められている。それらは年代、歌風などにより 4 期に分けられるが、この授業では前期（第 1、第 2 期）の作品を中心に取り上げる。

この和歌の創成期の作品を取り上げることで、そののちの日本古典文学の根幹というべき和歌の世界を学ぶ。加えて、当時の社会制度の中生き、1200 年後の現代にまで伝わり、評価される歌人たちの表現が現代においても持ち続ける魅力を学んでいく。

芸術としての、かつコミュニケーションとしての和歌が、少ない文字（音）数でありながらも持つ表現の豊かさを学んでほしい。

【到達目標】

和歌という主に 31 文字の短い形式のなかに込められた思いを読み取るだけでなく、日本の古代社会の整いつつある激動期に生きた人々の人生に思いをはせ、1300 年ほどの時間差があっても共感できる文学としてのありようを見出していく。

古文というと縁遠いものと思われがちな古典文学の中にも現代の私たちに相通じる面白みがあることを感じ取れるようになるとともに、文学史的知識を獲得し、日本の文化への興味、教養を高めることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

現代語訳付のテキストを使つての講義形式。

現代語訳付なので、高校時代の古文のように現代語訳が到達点ではなく、それを踏まえた読解のための講義となる。

また、人数にもよるが、読解に関するディスカッション、意見交換などもできたらいいと考えている。

受け身でない、授業参加姿勢を期待する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	授業概要説明・導入	万葉集および万葉集前期の時代背景、概要
2	第 1 期万葉を代表する額田王を中心に 1	熟田津に～三輪山 近江遷都以前
3	第 1 期万葉を代表する額田王を中心に 2	茜さす～三山～春秋優劣 近江京時代と天皇たちとのかかわり
4	第 1 期万葉を代表する額田王を中心に 3	鏡女王との贈答歌・弓削皇子との贈答歌
5	過ぎ去った近江京への思いの変化	柿本人麻呂の近江荒都歌と高市黒人の近江旧都歌
6	天武天皇の子供たちの歌 1	高市皇子と十市皇女 悲劇の皇女と秘められた恋の歌
7	天武天皇の子供たち 2	大津皇子と大伯皇女 連力争いの中の姉弟の歌

8	天武天皇の子供たち 3	草壁皇子と石川郎女 大津皇子のライバルの姿
9	天武天皇の子供たち 3	但馬皇女と穂積皇子 恋に自立しようとした皇女の歌
10	柿本人麻呂の挽歌 1	叙事的挽歌 高市皇子挽歌の壬申の乱の表現
11	柿本人麻呂の挽歌 2	抒情的挽歌 明日香皇女挽歌や泣血哀慟挽歌
12	柿本人麻呂の恋の歌と旅の歌	旅と結びつく恋の想いを、紀伊行幸時の歌や羈旅 8 首から読み取る。
13	高市黒人の旅の歌	人麻呂の旅の歌との比較からみられる時代性と個性
14	試験・まとめと解説	事前発表設問による論述テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学生は、日常生活において、現代の生活の中に残留する和歌という文学・表現に目を向ける意識を持ってほしい。百人一首などがマンガ、アニメ、ドラマの素材となっているのはその一例。

学生は、事前に飛鳥時代から奈良時代の日本史を、高校の日本史レベルで振り返り、かつ各授業時に必要に応じて確認することで、作品の背景が理解しやすくなる。

学生は、自分の感情を 31 音で表現するとしたら、という和歌の試作をしてみたい。

本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします

【テキスト（教科書）】

講談社文庫「万葉集（一）」中西進 全訳注 759 円

【参考書】

講談社文庫「万葉集（二）～（四）」中西進 全訳注

角川ソフィア文庫「ビギナーズ・クラシックス 万葉集」

角川ソフィア文庫「万葉集一～四」伊藤博 全訳注

高校時代の日本史の年表

その他、必要に応じて授業内で紹介する。

【成績評価の方法と基準】

最終授業時に、事前に発表した問題（複数の中から 1 問選択）についての論述テスト（持ち込み可）を行う。このテストが評価の 100%。設問は、和歌表現への理解、歌人や成立した時代への理解、など文学としての万葉集への理解を問うものとなる。

評価のポイントは、設定された問題テーマについて、文学作品の読解をふまえて自分なりに考察し、その考察が論理的に論述されているかという点。

加えてその論述が他人に読みやすい文章で表現できているかという点が主となる。

毎回出席をとり、50%以上の出席をテスト受験資格とする。

【学生の意見等からの気づき】

文学作品という関係上、作品のその部分の分量により 1 コマの時間内に 1 つのテーマがうまく収まらない場合が多い。授業の回をまたぐ場合には、できるだけ前回の内容の振り返りをしつつ進めていく。また、大人数の授業の場合、なかなかディスカッションとはいかないかもしれないが、学生の感想・意見を聞くことを講義の中に取り入れていきたい。

【Outline (in English)】

The oldest song collection in Japan, the Man'yōshū, contains about 4,500 kinds of songs from about 100 years from the mid-7th century ~mid-8th century. They are divided into four periods according to age and song style, but in this class, we will focus on the works of the first semester (1st and 2nd periods).

By taking up the works of this early period of waka, we learn about the world of waka poetry, which is the basis of later Japan classical literature. In addition, students will learn the charm of living in the social system of the time, and the expression of poets who have been handed down and appreciated 1,200 years later continues to exist even today.

I want you to learn the richness of expression that waka as an art and communication possesses even though it has a small number of letters (sounds).

【Learning activities outside of classroom】

In addition to reading the thoughts contained in the short form of waka poetry, which is mainly 31 characters, we will think about the lives of people who lived during the turbulent period of the Japan's ancient society, and find the ideal form of literature that can be sympathized with even if there is a time difference of about 1,300 years.

The goal is to enable students to sense that classical literature, which is often thought to be alien to ancient literature, has something interesting that is common to us today, and to acquire knowledge of literary history and enhance interest and culture in Japan culture.

[Learning activities outside of classroom]

I want students to be conscious of the literature and expression of waka poetry that remains in modern life in their daily lives. One example of this is the use of manga, anime, and dramas such as Hyakunin Isshu.

Students can easily understand the background of the works by reviewing the Japan history of the Asuka period to the Nara period in advance at the level of Japan high school history and checking it as necessary during each class.

I would like students to try to create a prototype waka poem that expresses their emotions with 31 notes.

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

[Grading Criteria /Policy]

At the final class, students will take an essay test (you can bring your own) on the questions presented in advance (select one question from multiple questions). This test is 100% of the rating.

The questions will ask about understanding the Man'yōshū as literature, such as understanding waka expression, understanding the poets and the era in which they were established. The point of evaluation is whether the person considers the set problem theme in his own way based on his or her reading comprehension of literary works, and whether the consideration is logically argued.

In addition, the main point is whether the essay can be expressed in a sentence that is easy for others to read.

Attendance is required each time, and at least 50% attendance is considered to be eligible to take the test.

LIT100LA

日本古典文学B

2017年度以降入学者

サブタイトル：個性や個人の歌の誕生を後期万葉集からよみとく

成島 知子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 1/Wed.1

単位数：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

万葉集には7世紀半ば～8世紀半ばの約100年間の約4500種の歌が収められている。4期に分けてそれらは年代、歌風などにより4期に分けられる。この授業では後期の第3期第4期の、大伴氏を中心とした歌人たちの作品を読んでいく。

律令制度が整っていく時代に官人として生きる男性貴族と、その周辺の女性たちの歌から今につながる個人としての抒情の表現の成立と、多様な和歌表現を学ぶ

【到達目標】

古代律令制度社会が整備されていき、官人として生きていくことになる万葉後期の男性貴族たちは、現代社会に生きる社会人に通じるものがある。また女性たちの、社会的制約の中で恋し家族を守ろうとする思いもまた、同様であろう。1300年ほどの時代を超えて共感できる歌に込められた思いを読み取り、歌、韻文という文学形態がもつ力を感じ取れるようになりたい。

古文というと縁遠いものと思われがちな古典文学にも現代の私たちに相通じる面白みがあることを感じ取れるようになるとともに、文学史的知識を獲得し、韻文である歌の世界を理解し、日本の文化への興味、教養を高めることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

現代語訳付のテキストを使つての講義形式。

現代語訳付なので、高校時代の古文のように現代語訳が到達点ではなく、それを踏まえた読解のための講義となる。

また、人数にもよるが、読解についてのディスカッション、意見交換などもできたらいいと考えている。

受け身でない、授業参加姿勢を期待する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	授業概要説明。作品の導入・背景の説明	作品理解のための時代・制度等の背景説明
第2回	亡妻挽歌の比較1 表現形式の多様化	前期万葉の柿本人麻呂から、大伴旅人と山上憶良
第3回	亡妻挽歌の比較2	旅人と憶良から家持
第4回	大伴旅人・律令官人としての歌 都と地方の意識	大宰府での儀式としての梅花の宴と自負心の建前
第5回	大伴旅人 老境の悲しみの歌	老いへの思いと望郷歌
第6回	大伴旅人 逃避としての酒と歌	讃酒歌の無常観
第7回	山上憶良	貧窮問答歌や反感情歌などの社会性と個人の情
第8回	大伴坂上郎女の歌1	媚態する女歌
第9回	大伴坂上郎女の歌2	家を守るための歌たち 古代における女性の地位

第10回 笠郎女

餓鬼の後に額づく思い 家持への恋の連作。編集者としての家持の意図

第11回 高橋虫麻呂と家持古伝承へのアプローチ

古伝承へのアプローチ 菟原処女伝説歌の比較から。大和物語生田川や能「求塚」へ

第12回 高橋虫麻呂・山辺赤人の個性

伝説歌、叙景歌といった多彩な歌たち

第13回 万葉集の到達点

大伴家持の春愁歌とその評価

第14回 レポート提出

レポートの形式等確認指導とレポート提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学生は、日常生活において、現代の生活の中に残留する和歌という文学・表現に目を向ける意識を持ってほしい。百人一首などがマンガ、アニメ、ドラマの素材となっているのはその一例。

学生は、事前に飛鳥時代から奈良時代の日本史を、高校の日本史レベルで振り返り、かつ各授業時に必要に応じて確認することで、作品の背景が理解しやすくなる。

学生は、自分の感情を31音で表現するとしたら、という和歌の試作をしてみたい。

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします

【テキスト（教科書）】

講談社文庫「万葉集（一）」中西進 全訳注

【参考書】

講談社文庫「万葉集（二）～（四）」中西進 全訳注

角川ソフィア文庫「ビギナーズ・クラシックス 万葉集」

角川ソフィア文庫「万葉集一～四」伊藤博 全訳注

高校時代の日本史の年表

その他、必要に応じて授業内で紹介する。

【成績評価の方法と基準】

最終授業時提出のレポートが評価の100%。

テーマは万葉集後期の和歌、歌人、ことばの表現について。4000字相当。

作品を踏まえての読解が適切になされたうえで考察がなされているか、その自らの考えを論理的にわかりやすい文章で述べられているかが評価基準となる。

また、出席は、毎時間とり、半分以上の出席をレポート提出資格とする。

【学生の意見等からの気づき】

古典文学を読むにあたって、歴史などと文学を切り結ぶ楽しみを見出す学生が増えるべく、歴史の流れなどの資料を配布するなどしていきたい。

文学作品という関係上、作品のその部分の分量により1コマの時間内に1つのテーマがうまく収まらない場合が多い。時間をまたぐ場合には、できるだけ前回の内容の振り返りをしつつ進めていく。

また、大人数の授業の場合、ディスカッションは難しいかもしれないが、学生の感想・意見を聞くことを講義の中に取り入れていきたい。

【Outline (in English)】

The Man'yōshū contains about 4,500 kinds of songs from about 100 years from the mid-7th century ~mid-8th century. It is divided into four periods, depending on the age and style of the song. In this class, we will read the works of poets of the third and fourth semesters, centered on Mr. Otomo.

Students learn how to express themselves as individuals from the songs of male aristocrats living as government officials in the era of the Ritsurei system and the women around them, and learn waka expressions that lead to the present.

【Learning activities outside of classroom】

I want students to be conscious of the literature and expression of waka poetry that remains in modern life in their daily lives. One example of this is the use of manga, anime, and dramas such as Hyakunin Isshu.

Students can easily understand the background of the works by reviewing the Japan history of the Asuka period to the Nara period in advance at the level of Japan high school history and checking it as necessary during each class.

I would like students to try to create a prototype waka poem that expresses their emotions with 31 notes.

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria /Policy】

The report submitted at the last class is 100% of the evaluation.

The theme is about the expression of waka poetry, poets, and words in the late Man'yōshū. Equivalent to 4000 characters.

The evaluation criteria are whether the reading comprehension based on the work is appropriately considered and whether the person's thoughts are expressed in a logical and easy-to-understand sentence.

In addition, attendance is every hour, and at least half of the attendance is eligible for report submission.

LIT100LA

日本古典文学 A

2017 年度以降入学者

サブタイトル：歌のはじまり、万葉集前期の時代と共感する歌をよみとく

成島 知子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 2/Wed.2

単位数：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本最古の歌集、万葉集には 7 世紀半ば～8 世紀半ばの約 100 年間の約 4500 種の歌が収められている。それらは年代、歌風などにより 4 期に分けられるが、この授業では前期（第 1、第 2 期）の作品を中心に取り上げる。

この和歌の創成期の作品を取り上げることで、そののちの日本古典文学の根幹というべき和歌の世界を学ぶ。加えて、当時の社会制度の中生き、1200 年後の現代にまで伝わり、評価される歌人たちの表現が現代においても持ち続ける魅力を学んでいく。

芸術としての、かつコミュニケーションとしての和歌が、少ない文字（音）数でありながらも持つ表現の豊かさを学んでほしい。

【到達目標】

和歌という主に 31 文字の短い形式のなかに込められた思いを読み取るだけでなく、日本の古代社会の整いつつある激動期に生きた人々の人生に思いをはせ、1300 年ほどの時間差があっても共感できる文学としてのありようを見出ししていく。

古文というと縁遠いものと思われがちな古典文学の中にも現代の私たちに相通じる面白みがあることを感じ取れるようになるとともに、文学史的知識を獲得し、日本の文化への興味、教養を高めることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

現代語訳付のテキストを使つての講義形式。

現代語訳付なので、高校時代の古文のように現代語訳が到達点ではなく、それを踏まえた読解のための講義となる。

また、人数にもよるが、読解に関するディスカッション、意見交換などもできたらいいと考えている。

受け身でない、授業参加姿勢を期待する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	授業概要説明・導入	万葉集および万葉集前期の時代背景、概要
2	第 1 期万葉を代表する額田王を中心に 1	熟田津に～三輪山 近江遷都以前
3	第 1 期万葉を代表する額田王を中心に 2	茜さす～三山～春秋優劣 近江京時代と天皇たちとのかかわり
4	第 1 期万葉を代表する額田王を中心に 3	鏡女王との贈答歌・弓削皇子との贈答歌
5	過ぎ去った近江京への思いの変化	柿本人麻呂の近江荒都歌と高市黒人の近江旧都歌
6	天武天皇の子供たちの歌 1	高市皇子と十市皇女 悲劇の皇女と秘められた恋の歌
7	天武天皇の子供たち 2	大津皇子と大伯皇女 連力争いの中の姉弟の歌

8	天武天皇の子供たち 3	草壁皇子と石川郎女 大津皇子のライバルの姿
9	天武天皇の子供たち 3	但馬皇女と穂積皇子 恋に自立しようとした皇女の歌
10	柿本人麻呂の挽歌 1	叙事的挽歌 高市皇子挽歌の壬申の乱の表現
11	柿本人麻呂の挽歌 2	抒情的挽歌 明日香皇女挽歌や泣血哀慟挽歌
12	柿本人麻呂の恋の歌と旅の歌	旅と結びつく恋の想いを、紀伊行幸時の歌や羈旅 8 首から読み取る。
13	高市黒人の旅の歌	人麻呂の旅の歌との比較からみられる時代性と個性
14	試験・まとめと解説	事前発表設問による論述テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学生は、日常生活において、現代の生活の中に残留する和歌という文学・表現に目を向ける意識を持ってほしい。百人一首などがマンガ、アニメ、ドラマの素材となっているのはその一例。

学生は、事前に飛鳥時代から奈良時代の日本史を、高校の日本史レベルで振り返り、かつ各授業時に必要に応じて確認することで、作品の背景が理解しやすくなる。

学生は、自分の感情を 31 音で表現するとしたら、という和歌の試作をしてみたい。

本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします

【テキスト（教科書）】

講談社文庫「万葉集（一）」中西進 全訳注 759 円

【参考書】

講談社文庫「万葉集（二）～（四）」中西進 全訳注

角川ソフィア文庫「ビギナーズ・クラシックス 万葉集」

角川ソフィア文庫「万葉集一～四」伊藤博 全訳注

高校時代の日本史の年表

その他、必要に応じて授業内で紹介する。

【成績評価の方法と基準】

最終授業時に、事前に発表した問題（複数の中から 1 問選択）についての論述テスト（持ち込み可）を行う。このテストが評価の 100%。設問は、和歌表現への理解、歌人や成立した時代への理解、など文学としての万葉集への理解を問うものとなる。

評価のポイントは、設定された問題テーマについて、文学作品の読解をふまえて自分なりに考察し、その考察が論理的に論述されているかという点。

加えてその論述が他人に読みやすい文章で表現できているかという点が主となる。

毎回出席をとり、50%以上の出席をテスト受験資格とする。

【学生の意見等からの気づき】

文学作品という関係上、作品のその部分の分量により 1 コマの時間内に 1 つのテーマがうまく収まらない場合が多い。授業の回をまたぐ場合には、できるだけ前回の内容の振り返りをしつつ進めていく。また、大人数の授業の場合、なかなかディスカッションとはいかないかもしれないが、学生の感想・意見を聞くことを講義の中に取り入れていきたい。

【Outline (in English)】

The oldest song collection in Japan, the Man'yōshū, contains about 4,500 kinds of songs from about 100 years from the mid-7th century ~mid-8th century. They are divided into four periods according to age and song style, but in this class, we will focus on the works of the first semester (1st and 2nd periods).

By taking up the works of this early period of waka, we learn about the world of waka poetry, which is the basis of later Japan classical literature. In addition, students will learn the charm of living in the social system of the time, and the expression of poets who have been handed down and appreciated 1,200 years later continues to exist even today.

I want you to learn the richness of expression that waka as an art and communication possesses even though it has a small number of letters (sounds).

【Learning activities outside of classroom】

In addition to reading the thoughts contained in the short form of waka poetry, which is mainly 31 characters, we will think about the lives of people who lived during the turbulent period of the Japan's ancient society, and find the ideal form of literature that can be sympathized with even if there is a time difference of about 1,300 years.

The goal is to enable students to sense that classical literature, which is often thought to be alien to ancient literature, has something interesting that is common to us today, and to acquire knowledge of literary history and enhance interest and culture in Japan culture.

[Learning activities outside of classroom]

I want students to be conscious of the literature and expression of waka poetry that remains in modern life in their daily lives. One example of this is the use of manga, anime, and dramas such as Hyakunin Isshu.

Students can easily understand the background of the works by reviewing the Japan history of the Asuka period to the Nara period in advance at the level of Japan high school history and checking it as necessary during each class.

I would like students to try to create a prototype waka poem that expresses their emotions with 31 notes.

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

[Grading Criteria /Policy]

At the final class, students will take an essay test (you can bring your own) on the questions presented in advance (select one question from multiple questions). This test is 100% of the rating.

The questions will ask about understanding the Man'yōshū as literature, such as understanding waka expression, understanding the poets and the era in which they were established. The point of evaluation is whether the person considers the set problem theme in his own way based on his or her reading comprehension of literary works, and whether the consideration is logically argued.

In addition, the main point is whether the essay can be expressed in a sentence that is easy for others to read.

Attendance is required each time, and at least 50% attendance is considered to be eligible to take the test.

LIT100LA

日本古典文学B

2017年度以降入学者

サブタイトル：個人の歌の誕生を後期万葉集からよみとく

成島 知子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 2/Wed.2

単位数：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

万葉集には7世紀半ば～8世紀半ばの約100年間の約4500種の歌が収められている。4期に分けてそれらは年代、歌風などにより4期に分けられる。この授業では後期の第3期第4期の、大伴氏を中心とした歌人たちの作品を読んでいく。

律令制度が整っていく時代に官人として生きる男性貴族と、その周辺の女性たちの歌から今につながる個人としての抒情の表現の成立と、多様な和歌表現を学ぶ

【到達目標】

古代律令制度社会が整備されていき、官人として生きていくことになる万葉後期の男性貴族たちは、現代社会に生きる社会人に通じるものがある。また女性たちの、社会的制約の中で恋し家族を守ろうとする思いもまた、同様であろう。1300年ほどの時代を超えて共感できる歌に込められた思いを読み取り、歌、韻文という文学形態がもつ力を感じ取れるようになりたい。

古文というと縁遠いものと思われがちな古典文学にも現代の私たちに相通じる面白みがあることを感じ取れるようになるとともに、文学史的知識を獲得し、韻文である歌の世界を理解し、日本の文化への興味、教養を高めることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

現代語訳付のテキストを使つての講義形式。

現代語訳付なので、高校時代の古文のように現代語訳が到達点ではなく、それを踏まえた読解のための講義となる。

また、人数にもよるが、読解についてのディスカッション、意見交換などもできたらいいと考えている。

受け身でない、授業参加姿勢を期待する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	授業概要説明。作品の導入・背景の説明	作品理解のための時代・制度等の背景説明
第2回	亡妻挽歌の比較1 表現形式の多様化	前期万葉の柿本人麻呂から、大伴旅人と山上憶良
第3回	亡妻挽歌の比較2	旅人と憶良から家持
第4回	大伴旅人・律令官人としての歌 都と地方の意識	大宰府での儀式としての梅花の宴と自負心の建前
第5回	大伴旅人 老境の悲しみの歌	老いへの思いと望郷歌
第6回	大伴旅人 逃避としての酒と歌	讃酒歌の無常観
第7回	山上憶良	貧窮問答歌や反感情歌などの社会性と個人の情
第8回	大伴坂上郎女の歌1	媚態する女歌
第9回	大伴坂上郎女の歌2	家を守るための歌たち 古代における女性の地位

第10回	笠郎女	餓鬼の後に額づく思い 家持への恋の連作。編集者としての家持の意図
第11回	高橋虫麻呂と家持古伝承へのアプローチ	古伝承へのアプローチ 菟原処女伝説歌の比較から。大和物語生田川や能「求塚」へ
第12回	高橋虫麻呂・山辺赤人の個性	伝説歌、叙景歌といった多彩な歌たち
第13回	万葉集の到達点	大伴家持の春愁歌とその評価
第14回	レポート提出	レポートの形式等確認指導とレポート提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学生は、日常生活において、現代の生活の中に残留する和歌という文学・表現に目を向ける意識を持ってほしい。百人一首などがマンガ、アニメ、ドラマの素材となっているのはその一例。

学生は、事前に飛鳥時代から奈良時代の日本史を、高校の日本史レベルで振り返り、かつ各授業時に必要に応じて確認することで、作品の背景が理解しやすくなる。

学生は、自分の感情を31音で表現するとしたら、という和歌の試作をしてみたい。

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします

【テキスト（教科書）】

講談社文庫「万葉集（一）」中西進 全訳注

【参考書】

講談社文庫「万葉集（二）～（四）」中西進 全訳注

角川ソフィア文庫「ビギナーズ・クラシックス 万葉集」

角川ソフィア文庫「万葉集一～四」伊藤博 全訳注

高校時代の日本史の年表

その他、必要に応じて授業内で紹介する。

【成績評価の方法と基準】

最終授業時提出のレポートが評価の100%。

テーマは万葉集後期の和歌、歌人、ことばの表現について。4000字相当。

作品を踏まえての読解が適切になされたうえで考察がなされているか、その自らの考えを論理的にわかりやすい文章で述べられているかが評価基準となる。

また、出席は、毎時間とり、半分以上の出席をレポート提出資格とする。

【学生の意見等からの気づき】

古典文学を読むにあたって、歴史などと文学を切り結ぶ楽しみを見出す学生が増えるべく、歴史の流れなどの資料を配布するなどしていきたい。

文学作品という関係上、作品のその部分の分量により1コマの時間内に1つのテーマがうまく収まらない場合が多い。時間をまたぐ場合には、できるだけ前回の内容の振り返りをしつつ進めていく。

また、大人数の授業の場合、ディスカッションは難しいかもしれないが、学生の感想・意見を聞くことを講義の中に取り入れていきたい。

【Outline (in English)】

The Man'yōshū contains about 4,500 kinds of songs from about 100 years from the mid-7th century ~mid-8th century. It is divided into four periods, depending on the age and style of the song. In this class, we will read the works of poets of the third and fourth semesters, centered on Mr. Otomo.

Students learn how to express themselves as individuals from the songs of male aristocrats living as government officials in the era of the Ritsurei system and the women around them, and learn waka expressions that lead to the present.

【Learning activities outside of classroom】

I want students to be conscious of the literature and expression of waka poetry that remains in modern life in their daily lives. One example of this is the use of manga, anime, and dramas such as Hyakunin Isshu.

Students can easily understand the background of the works by reviewing the Japan history of the Asuka period to the Nara period in advance at the level of Japan high school history and checking it as necessary during each class.

I would like students to try to create a prototype waka poem that expresses their emotions with 31 notes.

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria /Policy】

The report submitted at the last class is 100% of the evaluation.

The theme is about the expression of waka poetry, poets, and words in the late Man'yōshū. Equivalent to 4000 characters.

The evaluation criteria are whether the reading comprehension based on the work is appropriately considered and whether the person's thoughts are expressed in a logical and easy-to-understand sentence.

In addition, attendance is every hour, and at least half of the attendance is eligible for report submission.

LIT100LA

日本近・現代文学A

2017年度以降入学者

サブタイトル：恐怖と不安から読む近代文学

細沼 祐介

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 4/Fri.4

単位数：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

近現代の文学を「恐怖」や「不安」という感情をテーマに読み解いていきます。

これらの感情はネガティブなものですが、それだけに人間の根源に根差したものであり、直感的な違和感の表明に他なりません。

近現代の作家たちがどのような「恐怖」や「不安」を感じ、それを作品で表現したかを通じて、近現代という激動の時代の特異性について考察していきます。

なお、この講義はあくまでも著名な作品に表現された「恐怖」や「不安」をテーマにするものであり、いわゆるホラー作品を主眼としたものではないことに注意してください。

【到達目標】

- ①「恐怖」や「不安」などの感情の概略や機能を知る
- ②それらが近現代の文学作品にどのように表現されているかを読み解く
- ③作品読解を通じて近現代という時代区分の特徴を学ぶ

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

各テーマごとに三時間を割り、様々な文学作品を紹介しながら全体に迫っていきます。

講義内では各作品の概要やあらすじについても解説しますが、可能な限り自身で読み、作家たちの味わった「恐怖」や「不安」を自身の身体で体感してみてください。

授業ごとにはリアクションペーパーの提出を行い、学んだことの応用や実践にも挑戦していきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	「恐怖」と「不安」の哲学概論
第2回	「近代化する社会」への恐怖と不安①	消滅していく前近代
第3回	「近代化する社会」への恐怖と不安②	功利主義の功罪
第4回	「近代化する社会」への恐怖と不安③	かくあらねばならない社会の「私」
第5回	「分断された個」であることへの恐怖と不安①	「近代的自我」について
第6回	「分断された個」であることへの恐怖と不安②	捏造されていく内面
第7回	「分断された個」であることへの恐怖と不安③	「自由」であることの代償
第8回	「私の知らない私」への恐怖と不安①	「自意識」の誕生

第9回 「私の知らない私」へ 「私」に連なる無数の「私」の恐怖と不安②

第10回 「私の知らない私」への恐怖と不安③ 才能という呪縛

第11回 「主義」への恐怖と不安① 道具としての「主義」

第12回 「主義」への恐怖と不安② 社会運動の暴走

第13回 「主義」への恐怖と不安③ 全体主義の浸食

第14回 総括 まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

上述のように、紹介した作品を可能な限り読んでおきましょう。作品は実際に鑑賞してこそです。よって本授業の準備学習・復習時間は、合計4時間を標準とし、復習時間としての読書に多くを割くことが望ましいです。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

講義内で適宜紹介する作品を読んでください。

【成績評価の方法と基準】

平常点5割、期末レポート5割。なお平常点はリアクションペーパーで評価を行います。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません

【学生が準備すべき機器他】

課題提出や資料配布に学習支援システムを使用します。

【その他の重要事項】

関連した内容を春学期と秋学期で学んでいくため、可能であれば併せての履修が望ましいです。

【Outline (in English)】

【Course outline】

This course introduces modern literature through the emotions of "fear" and "anxiety."

【Learning Objectives】

The goal of this course is to give you a deeper understanding how 'fear' and 'anxiety' are expressed in modern literature.

【Learning activities outside of classroom】

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

【Grading Criteria /Policies】

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end report: 50%, in class contribution: 50%.

LIT100LA

日本近・現代文学B

2017年度以降入学者

サブタイトル：恐怖と不安から読む近代文学

細沼 祐介

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 4/Fri.4

単位数：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

近現代の文学を「恐怖」や「不安」という感情をテーマに読み解いていきます。

これらの感情はネガティブなものですが、それだけに人間の根源に根差したものであり、直感的な違和感の表明に他なりません。

近現代の作家たちがどのような「恐怖」や「不安」を感じ、それを作品で表現したかを通じて、近現代という激動の時代の特異性について考察していきます。

なお、この講義はあくまでも著名な作品に表現された「恐怖」や「不安」をテーマにするものであり、いわゆるホラー作品を主眼としたものではないことに注意してください。

「日本近・現代文学A」に引き続き戦後を主として扱います。

【到達目標】

- ①「恐怖」や「不安」などの感情の概略や機能を知る
- ②それらが近現代の文学作品にどのように表現されているかを読み解く
- ③作品読解を通じて近現代という時代区分の特徴を学ぶ

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

各テーマごとに三時間を割り、様々な文学作品を紹介しながら全体に迫っていきます。

講義内では各作品の概要やあらすじについても解説しますが、可能な限り自身で読み、作家たちの味わった「恐怖」や「不安」を自身の身体で体感してみてください。

授業ごとにはリアクションペーパーの提出を行い、学んだことの応用や実践にも挑戦していきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	「恐怖」と「不安」についての復習
第2回	「戦争」の恐怖と不安①	戦場の絶望
第3回	「戦争」の恐怖と不安②	圧倒的な暴力と開放
第4回	「戦争」の恐怖と不安③	埋没する個人の死
第5回	「間に合わなかったこと」への恐怖と不安①	「戦後」への失望
第6回	「間に合わなかったこと」への恐怖と不安②	贖罪意識の行方
第7回	「間に合わなかったこと」への恐怖と不安③	「死にそびれる」こと
第8回	「物語の喪失」への恐怖と不安①	「大きなもの」の欠如感
第9回	「物語の喪失」への恐怖と不安②	仮構される「物語」たち

第10回 「物語の喪失」への恐怖と不安③ 「物語」の拡散と縮小

第11回 「拡大していく他者」への恐怖と不安① 隠されていく「私」と「あなた」

第12回 「拡大していく他者」への恐怖と不安② 外面と内面のズレ、および認識の難しさ

第13回 「拡大していく他者」への恐怖と不安③ SNS時代の「他者」像

第14回 総括 まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

上述のように、紹介した作品を可能な限り読んでおきましょう。作品は実際に鑑賞してこそです。よって本授業の準備学習・復習時間は、合計4時間を標準とし、復習時間としての読書に多くを割くことが望ましいです。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

講義内で適宜紹介する作品を読んでください。

【成績評価の方法と基準】

平常点5割、期末レポート5割。なお平常点はリアクションペーパーで評価を行います。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません

【学生が準備すべき機器他】

課題提出や資料配布に学習支援システムを使用します。

【その他の重要事項】

関連した内容を春学期と秋学期で学んでいくため、可能であれば併せての履修が望ましいです。

【Outline (in English)】

【Course outline】

This course introduces modern literature through the emotions of "fear" and "anxiety."

【Learning Objectives】

The goal of this course is to give you a deeper understanding how 'fear' and 'anxiety' are expressed in modern literature.

【Learning activities outside of classroom】

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

【Grading Criteria /Policies】

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end report: 50%, in class contribution: 50%.

LIT100LA

日本文学A

2017年度以降入学者

サブタイトル：

島田 雅彦

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：学習支援システムを参照

単位数：2単位

この授業は「Web履修抽選対象授業」です。抽選エントリー期間は2023年4月3日(月)10:00~5日(水)17:00、結果発表は4月6日(木)22:00(予定)です。履修ガイド(<https://hosei-keiji.jp/ilac/rishuguide2023/>)を確認のうえ、情報システムから期間内にエントリーしてください。

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的(何を学ぶか)】

「現代国語」を越え、文学作品を能動的かつ創造的に読む。主に日本の近現代小説に秘められた欲望を掘り起こす。多様な作品解釈に向けて、誤読の自由も行使する。神話、日本語、カネ、恋愛、戦争、テクノロジーなどのテーマに基づき、漱石、一葉、谷崎、戦後文学などを読み解く。

【到達目標】

日本近代文学必読のテキストを消化し、文学史の教養を身に着けた上で、それを現代のコンテキストに置き換え、再利用できるような応用的知性の獲得を目指す。また現在の状況に至った歴史的因果を理解すれば、政治や社会情勢を読み解くリテラシーが上がる。講義内容のまとめや復習は各自が行うが、授業内で行った小レポート等、課題に対する講評や解説は授業の最後にまとめて行う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

原則として講義形式で話すが、随時、資料を提示するので、それについての小レポートを提出してもらう。それについての講評は授業内で行う。履修者からの質問も受け付けるが、個別に答えるのではなく、次回の授業の初めに補足コメントの形で答えを提示する。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】あり/Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】なし/No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	文学とはどんな営みか?	神話と文学をつなぐもの
2	日本語とはどういう言語か?	魅惑の日本古典
3	お金の話 漱石を読む1	コトバかカネか?『こころ』の自由な読み方。誤読のススメ。
4	写生文について 漱石を読む2	明治の散文理論 描写について
5	樋口一葉を読む	少女文学の元祖 言文一致とは別の散文のあり方
6	快樂の活用 谷崎論	官能の哲学
7	性的人間	もてない男の栄光 さまざまな愛の形 同性愛 ロリコン フェティッシュ
8	日本論と日本人論	「武士道」、「日本風景論」、「茶の本」を読む。
9	戦争に負けるということ	大岡昇平『野火』、『武蔵野夫人』を読む。

10	戦後の文学	戦争文学 占領文学 坂口安吾の認識。敗戦と焼跡の想像力。
11	小説と“場所”	上京小説 よそ者の視点 芥川『繭車』を読む。可能性、パラレルワールド。
12	空っぽな心	三島由紀夫という逆説。川端という曖昧。
13	現代文学と世相	近頃巻で流行るもの 経済と文学。
14	まとめと質疑応答	これまでの質問、コメントに対する回答と論評

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

予告した本や資料を読んで授業に臨めば、3倍楽しめる。本授業の準備、復習時間は提示した資料を読むのに必要な時間である。授業で指示する必読書をできるだけ多くよく読み、あらゆることに好奇心を抱くこと。毎回、質問を考えてくるような態度で臨めば、自ずと能動的な授業参加ができる。講義内容のまとめや復習は各自が行うが、授業内で行った小レポート等、課題に対する講評や解説は授業の最後にまとめて行う。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト(教科書)】

『深読み日本文学』 島田雅彦 集英社インターナショナル新書2018

『小説作法ABC』 島田雅彦 新潮選書 2008

『小説作法XYZ』 島田雅彦 新潮選書 2022

【参考書】

『必読150』太田出版
それ以外は随時指示する。

【成績評価の方法と基準】

筆記試験を行う。質疑や討論への参加も平常点として評価されよう。評価基準は選択式試験80%、平常点20%とする。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【Outline (in English)】

Beyond the "Gendai kokugo(contemporary Japanese)" we read literary works actively and creatively. We primarily focus to discover the hidden desires in Japanese contemporary novels. We also exercise freedom of misreading for interpretation of various works. Based on themes such as myths, languages money, romance, war, technology, we will read about Soseki, Ichiyo, Tanizaki, postwar literature etc. Out-of-class learning requires regular preparation and review. Submit a report. Participation in questions and discussions will also be evaluated as a normal point. The evaluation criteria are 80% for multiple-choice test and 20% for the normal score. The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each.

LIT100LA

日本文学B

2017年度以降入学者

サブタイトル：

島田 雅彦

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：学習支援システムを参照

単位数：2単位

この授業は「Web履修抽選対象授業」です。抽選エントリー期間は2023年4月3日(月)10:00~5日(水)17:00、結果発表は4月6日(木)22:00(予定)です。履修ガイド(<https://hosei-keiji.jp/ilac/rishuguide2023/>)を確認のうえ、情報システムから期間内にエントリーしてください。

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的(何を学ぶか)】

「世界文学」のエポックメイキングな作品を能動的かつ創造的に読む。神話、言語、恋愛、交易、テクノロジーなどのテーマに基づき、履修者諸君には主に日本で広く、長く読まれて来た西洋古典の必読書と向き合い、世界史の中の文学の役割を認識してもらう。

【到達目標】

世界文学必読のテキストを消化し、文学史の教養を身に着けた上で、それを現代のコンテキストに置き換え、再利用できるような応用的知性の獲得を目指す。また現在の状況に至った歴史的因果を理解すれば、政治や社会情勢を読み解くリテラシーが上がる。講義内容のまとめや復習は各自が行うが、授業内で行った小レポート等、課題に対する講評や解説は授業の最後にまとめる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

原則として講義形式で話す。随時、資料を提示するので、それについての小レポートを提出してもらう。それについての講評は授業内で行う。履修者からの質問も受け付けるが、個別に答えるのではなく、次回の授業の初めに補足コメントの形で答えを提示する。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】あり/Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】なし/No

【授業計画】授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	夢見る力	神話の時代 口承文学
2	古代の英雄	「オイディプス王」を読む
3	聖書の虚実	政治、宗教というフィクション モーゼと一神教 イエスという男
4	恋愛の誕生	『神曲』を読む
5	ドン・ファンと光源氏	女たらし東西比較
6	グーテンベルク以後	出版文化の萌芽 大量複製時代
7	大航海時代	転換期の知性 交易と文学
8	宣教と棄教	East Meets West 日本におけるキリスト教布教の歴史
9	対話について	ドストエフスキー論
10	パロディ文学論	ジョイスとナボコフ 現代亡命文学事情
11	映画と文学	小説から劇映画へ 映像化された古典
12	政治と文学	物語と歴史のはざま ナショナリズムというフィクション 想像の共同体

- 13 テクノロジーと文学 世界の終わり パラレルワールド
時間の彼方 SFの想像力
- 14 授業内試験か質疑応答 授業内試験ができない場合はレポート。この時間はまとめと質疑応答にあてる。

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

予告した本や資料を読んで授業に臨めば、3倍楽しめる。本授業の準備、復習時間は提示した資料を読むのに必要な時間である。授業で指示する必読書をできるだけ多くよく読み、あらゆることに好奇心を抱くこと。毎回、質問を考えてくるような態度で臨めば、自ずと能動的な授業参加ができる。講義内容のまとめや復習は各自が行うが、授業内で行った小レポート等、課題に対する講評や解説は授業の最後にまとめる。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト(教科書)】

『小説作法ABC』島田雅彦著 新潮選書 2009

【参考書】

『深読み日本文学』島田雅彦 集英社インターナショナル新書2018

『小説作法ABC』島田雅彦 新潮選書 2008

『小説作法XYZ』島田雅彦 新潮選書 2022

【成績評価の方法と基準】

筆記試験を行う。質疑や討論への積極的な参加もまた評価されよう。評価基準は選択式試験80%、平常点20%とする。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【Outline (in English)】

Active and creative reading of epoch-making works of "World Literature". Based on themes such as myths, languages, romance, trade, technology, etc., Students face the must-read books of the Western classics, which have been read widely in Japan recognizing the role of literature in world history. Out-of-class learning requires regular preparation and review. Submit a report. Participation in questions and discussions will also be evaluated as a normal point. The evaluation criteria are 80% for multiple-choice test and 20% for the normal score. The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each.

LIT100LA

日本文学A

2017年度以降入学者

サブタイトル：戦前文学とメディア

佐藤 未央子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 4/Tue.4

単位数：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、日本近代文学が成立した明治期から昭和20年代までの文学を論じる。ドラスティックに変化する、いわゆる（近代）化の過程で、作家たちはいかなる言葉によって社会と、ひいてはそれを存立させる制度と切り結んできたか。同時期に発達する諸メディア（写真・雑誌・映画等）との関わりを参照しながら考えていく。また、戦前の作品がいまの時代に対して持つ批評的意義を積極的に読み解いていきたい。

【到達目標】

・時代・社会背景を考慮したうえで、作品の成立過程や社会的批評性、現代的意義について論じることができる。
・文学作品は周辺の諸メディアと関わりながら成り立ってきたことを具体的な例を挙げて説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式で行う。授業中にリアクションペーパーを記入・提出する。次回授業でコメントをいくつか取り上げ、質問や意見に関してはフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業内容と進め方に関する説明/日本近代文学とメディアの関わり
第2回	鳥崎藤村「破戒」①	自然主義文学が作り出した制度とその問題について、プライベート的な観点も含めて考察する。
第3回	鳥崎藤村「破戒」②	昭和と令和の映画化を比較し、それぞれの主題を読み取る。
第4回	日清・日露戦争とメディア	国木田独步や田山花袋らの戦争小説や報道姿勢を分析する。
第5回	戦前の言論統制①	新聞紙法・出版法や、映画に対する検閲制度について学ぶ。
第6回	スペイン風邪と文学	志賀直哉の実体験を基にした短編とそのドラマ化を題材に、パンデミックの表象について考察する。
第7回	中間総括	これまでの学習を確認する。
第8回	関東大震災とメディア	関東大震災で被災した作家たちの言説や小説、映像を確認し、いかなる表現がなされたか確認する。
第9回	新感覚派の表現改革	川端康成ら新感覚派が映画を通して挑んだ新たな表現について考察する。
第10回	探偵小説と『新青年』	江戸川乱歩の作品が掲載された雑誌『新青年』のメディア戦略について学ぶ。
第11回	藤森成吉「何が彼女をさうさせたか」	昭和恐慌を背景として大ヒットした映画「何が彼女をさうさせたか」の分析を通して、当時の世情について考える。
第12回	日中戦争とペン部隊	ペン部隊として戦地に派遣された作家たちが伝えた言説とその問題を分析する。
第13回	戦前の言論統制②	戦前から戦後にかけて執筆された谷崎潤一郎「細雪」における、二重の言論統制の実態について分析する。
第14回	総括	これまでの復習を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

取り扱う作家や作品について、毎回必ず予習をしておくこと。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。担当教員が作成した印刷物を授業にて配布する。また適宜、青空文庫やデジタル資料も活用する。

【参考書】

・十川信介『近代日本文学案内』（2008、岩波文庫）
・海野弘『モダン都市東京 日本の1920年代』（2007、中公文庫）
・ロバートキャンベル・十重田裕一・宗像和重編『東京百年物語』1、2巻（2018、岩波文庫）
ほか、適宜講義で指示する。

【成績評価の方法と基準】

・リアクションペーパーを含む授業への参加度：40%
・学期末テスト：60%
テストは参照不可。講義で扱った事項に関する問題と、理解度を測る記述問題を課す。
以上を考慮し、総合的に判断する。

【学生の意見等からの気づき】

受講生にも積極的に参加してもらい、双方向的な授業を目指します。リアクションペーパーのコメントを多く取り上げ、質問や意見を参考に授業を行う予定です。授業内で分からないことや、説明不足な点があれば、ご遠慮なくお問い合わせください。授業進度や要望に合わせてシラバスを変更する可能性もあります。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを通じた資料配布・課題提出を行います。

【Outline (in English)】

(Course outline)

This course deals with Japanese literature 1890s-1940s. It also explains actuality and significance of prewar literature by referring to magazines and cinema. We discuss how writers described modernity and consider the critical qualities of prewar works.

(Learning Objectives)

By the end of the course, students should be able to do the followings:

- Explained with specific examples that literary works have been established in relation to various media.
- Discuss the process of creation, criticality, and contemporary significance of works, based on the historical and social background.

(Learning activities outside of classroom)

Before/after each class meeting, students will be expected to spend 2 hours to understand the course content.

(Grading Criteria /Policy)

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination: 60%, in class contribution: 40%

LIT100LA

日本文学B

2017年度以降入学者

サブタイトル：映像で読む戦後文学

佐藤 未央子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 4/Tue.4

単位数：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、昭和20年代から40年代までの文学作品を取り上げる。敗戦後、GHQの占領下でひとびとは〈焼跡〉から再起し、飛躍的な経済成長を遂げるが、この大きな物語の陰にある個人の生活と心情に焦点を絞る。再編され続ける制度や社会空間の中に生きる人々の姿を、作家がいかに捉えたかを明らかにしていく。また戦後、国際的に評価が高まった日本映画や演劇を参照することで、戦後日本の実態を視覚的にも確認していきたい。

【到達目標】

・時代・社会背景を考慮したうえで、作品の成立過程や社会的批評性、現代的意義について論じることができる。
・戦後日本の国際的な立場や文化状況の知識を持ち、作品解釈に応用することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式で行う。授業中にリアクションペーパーを記入・提出する。次回授業でコメントをいくつか取り上げ、質問や意見に関してはフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業内容と進め方に関する説明／占領期の表現規制と思想的転換
第2回	田村泰次郎「春婦伝」	GHQ占領下において、小説の映画化にかけられた規制の内実を学ぶ。また、女優山口淑子（李香蘭）の来歴も確認する。
第3回	坂口安吾「墮落論」「白痴」	坂口安吾が提唱した〈墮落〉概念の史的意義を学ぶ。また、戦後の焼け跡表象も分析する。
第4回	太宰治「斜陽」	作中で語られる「道徳革命」の意味を読み解くとともに、作家自身と作品の距離について考察する。
第5回	林芙美子「下町（ダウン・タウン）」	価値観が変容していく戦後社会の中で、女性がいかに生き抜こうとしていたかを考察する。
第6回	林芙美子「浮雲」	戦後社会に生きづらさを覚える男女の物語を読み解き、〈終戦〉とは何かを考察する。
第7回	中間総括	これまでの学習を確認する。
第8回	石原慎太郎と太陽族	新たな価値観を持つ無軌道な若者たちを描いた石原作品の、文壇と映画界への波及力を検討する。
第9回	三島由紀夫「金閣寺」①	戦後の思想転換に対し、三島が「金閣寺」に仮託した考えを読み解く。
第10回	三島由紀夫「金閣寺」②	小説と映画版や舞台版を比較し、それぞれが前景化した問題について分析する。
第11回	松本清張とメディア・ミックス	戦後社会の裏面を描き、小説・映画化とともに広い支持を得た清張作品の批評性を考察する。
第12回	安部公房「他人の顔」	安部公房と勅使河原宏が協働した映画化において、原爆被害者の女性を前景化させた演出の意義について検討する。
第13回	寺山修司と唐十郎	1960年代におけるアンガラ演劇・映画が描き出した都市空間と反権力性について、作品を鑑賞して考察する。
第14回	総括	これまでの復習を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

取り扱う作家や作品について、毎回必ず予習をしておくこと。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

担当教員が作成した印刷物を授業にて配布する。また適宜、青空文庫やデジタル資料も活用する。

【参考書】

・磯田光一『戦後史の空間』（2000、新潮文庫）
・本多秋五『物語戦後文学史』上、中、下（2005、岩波現代文庫）
・ロバート キャンベル・十重田裕一・宗像和重編『東京百年物語』3巻（2018、岩波文庫）
ほか、適宜講義で指示する。

【成績評価の方法と基準】

・リアクションペーパーを含む授業への参加度：40%
・学期末テスト：60%
テストは参照不可。講義で扱った事項に関する問題と、理解度を測る記述問題を課す。
以上を考慮し、総合的に判断する。

【学生の意見等からの気づき】

受講生にも積極的に参加してもらい、双方向的な授業を目指します。リアクションペーパーのコメントを多く取り上げ、質問や意見を参考にして授業を行う予定です。授業内で分からないことや、説明不足な点があれば、ご遠慮なくお問い合わせください。授業進度や要望に合わせてシラバスを変更する可能性もあります。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを通じた資料配布・課題提出を行います。

【Outline (in English)】

【Course outline】

This course deals with postwar Japanese literature, drama and cinema. It also explains how the author wrote about people in various systems and post-war societies. We visually confirm situation of post-war Japan by referring to Japanese movies and plays, which received increasing international recognition after the war.

【Learning Objectives】

By the end of the course, students should be able to do the followings:

- Acquire knowledge of Japan's international position and cultural situation after the war.
- Discuss the process of creation, criticality, and contemporary significance of works, based on the historical and social background.

（Learning activities outside of classroom）

Before/after each class meeting, students will be expected to spend 2 hours to understand the course content.

（Grading Criteria /Policy）

Your overall grade in the class will be decided based on the following
Term-end examination: 60%, in class contribution: 40%

LIT100LA

外国文学A

2017年度以降入学者

サブタイトル：ヨーロッパ文学と「変身」

D. ハイデンライヒ

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 4/Fri.4

単位数：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ローマ詩人オウィディウス『変身物語』から、カフカの『変身』とステイーヴンソン『ジキル博士とハイド氏』など、変身をテーマにした作品は今も多く読者を惹き付けてやまない。授業ではヨーロッパ変身物語の異なる時代と異なる語圏の数例を取り上げながら、この題材を比較文学的な視点から論じる。

【到達目標】

- 今日的な視点から「変身」の意義を捉え直すこと。
- 「変身」というモチーフを手がかりに、各時代の思想的・文化的背景を理解すること。
- 異文化理解能力を高める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

さまざまな形で教材化したテキストやメディアを用いて、数回の課題とリアクションペーパーの提出とフィードバックによって授業を構成する。提出用課題を出す場合は、次の授業にて解説を実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	授業の紹介	授業の内容と進め方の説明 諸芸術モチーフとしての変身について
第2回	神話と変身（1）	オウィディウス『変身物語』読解
第3回	神話と変身（2）	課題、ディスカッション
第4回	メルヘンと変身（1）	グリム『六羽の白鳥』読解
第5回	メルヘンと変身（2）	課題、ディスカッション
第6回	メルヘンと変装（1）	ペロー『ロバの皮』読解
第7回	メルヘンと変装（2）	課題、ディスカッション
第8回	オペラと変身（1）	ワグナー『ローエングリン』について
第9回	オペラと変身（2）	課題、ディスカッション
第10回	変身物語と映画（1）	ステイーヴンソン『ジキル博士とハイド氏』読解（1） 映画との比較
第11回	変身物語と映画（2）	ステイーヴンソン『ジキル博士とハイド氏』読解（2） 諸映画との比較 課題、ディスカッション
第12回	変身物語と映画（3）	カフカ『変身』読解（1） 諸映画、コミック等との比較
第13回	変身物語と映画（4）	カフカ『変身』読解（2） 諸映画、コミック等との比較 課題、ディスカッション
第14回	試験・まとめ	春学期に学んだ内容を確認する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習・復習。

【本授業の準備学習・復習時間は、合わせて4時間を標準とします。】

【テキスト（教科書）】

テキストは使わず、学習支援システムに事前に授業資料をアップします。各自プリントアウトして授業に持参してください。

【参考書】

教室で指示する。

【成績評価の方法と基準】

リアクションペーパーと課題提出を含む平常点：60%

学期末試験：40%

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

Hoppii 学習支援システムを利用するので、情報機器（パソコン、プリンター）などを準備して下さい。これらの環境を整えることが難しい場合は、大学のPCやプリンター、wifiを利用して下さい。

【Outline (in English)】

Literary works exploring the theme of transformation, from Ovid's *Metamorphoses* to Kafka's *Metamorphosis* until Stevenson's *Dr. Jekyll and Mr. Hyde*, are still attracting a lot of readers.

This class discusses this theme from a comparative point of view, taking several examples from different eras and different languages.

- To recapture the meaning of "transformation" from a modern perspective.

- To understand the ideological and cultural background of each era, using the motif of "transformation" as a clue.

- Improve the ability to understand different cultures.

Preparation and review.

The standard for preparatory study and review time for this class is 4 hours in total.

Grading will be decided based on worksheets (60%) and term-end examination (40%).

LIT100LA

外国文学B

2017年度以降入学者

サブタイトル：映画化とともに読むヨーロッパ文学の名作

D. ハイデンライヒ

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 4/Fri.4

単位数：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ヨーロッパ文学作品の映画化を取り上げ、原作の描写と映画の比較、そして映画の翻案について分析をします。

【到達目標】

- ヨーロッパ文学・映画・文化に対する関心や理解を深める。
- メディア固有の表現やメディア間の相互接続性についての理解を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

さまざまな形で教材化したテキストやメディアを用いて、数回の課題とリアクションペーパーの提出とフィードバックによって授業を構成する。提出用課題を出す場合は、次の授業にて解説を実施します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	扱う文学作品と映画の紹介
第2回	T. マン『ヴェネツィアに死す』総論	原作の通読、映画の視聴
第3回	原作『ヴェネツィアに死す』分析	原作の指定個所の熟読
第4回	映画化『ベニスに死す』分析（1）	原作と映画の比較（1）
第5回	映画化『ベニスに死す』分析（2）	原作と映画の比較（2）
第6回	P. ジュースキント『香水_ある人殺しの物語』総論	原作の通読、映画の視聴
第7回	原作『香水_ある人殺しの物語』分析	原作の指定個所の熟読
第8回	映画化『パフューム_ある人殺しの物語』分析（1）	原作と映画の比較（1）
第9回	映画化『パフューム_ある人殺しの物語』分析（2）	原作と映画の比較（2）
第10回	K. プリクセン『バベットの晩餐会』総論	原作の通読、映画の視聴
第11回	原作『バベットの晩餐会』分析	原作の指定個所の熟読
第12回	映画化『バベットの晩餐会』分析（1）	原作と映画の比較（1）
第13回	映画化『バベットの晩餐会』分析（2）	原作と映画の比較（2）
第14回	試験・まとめ	秋学期に学んだ内容を確認する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習・復習。

【本授業の準備学習・復習時間は、合わせて4時間を標準とします。】

【テキスト（教科書）】

テキストは使わず、学習支援システムに事前に授業資料をアップします。各自プリントアウトして授業に持参してください。

【参考書】

教室で指示する。

【成績評価の方法と基準】

リアクションペーパーと課題提出を含む平常点：60%

学期末試験：40%

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

Hoppii 学習支援システムを利用するので、情報機器（パソコン、プリンター）などを準備して下さい。これらの環境を整えることが難しい場合は、大学のPCやプリンター、wifiを利用して下さい。

【Outline (in English)】

We will examine the film adaptations of European literary works, compare the depictions of the originals and the films, and analyze the adaptations of the films.

◦ Deepen interest and understanding of European literature, movies and culture.

◦ Deepen understanding of media-specific expressions and interconnectivity between media.

Preparation and review.

The standard for preparatory study and review time for this class is 4 hours in total.

Ordinary score including reaction paper and assignment submission: 60%

Final exam: 40%

LIT100LA

外国文学A

2017年度以降入学者

サブタイトル：

近江屋 志穂

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 5/Thu.5

単位数：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代の意味でのフランスのバカロレアは、19世紀にナポレオンⅠ世により創設されました。合格者には中等教育修了（高等学校卒業程度の能力）の認定と、高等教育進学（大学やグランゼコールなど）の許可を兼ねる学位が付与されてきました。

本授業では、バカロレアのフランス語（いわゆる国語）の筆記試験について、課題の内容と解き方を理解します。同時に関連する文学作品を読んでいます（作品は日本語で読みます）。春学期は「テキスト解釈」を扱います。

【到達目標】

- ・フランスの文学史の流れを理解し、主要作家数名の文学作品に親しむ。
- ・大学入試における記述式問題について、フランスの事例を理解する。
- ・「読後感想文」以外にどのような文章が読後コメントとしてあり得るのかを学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義が中心です。授業コメントや要約など、授業に関する文章を書いてもらうこともあります。課題へのフィードバックは授業内や学習支援システムを通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	・授業概要 ・テキスト解釈文の形式
2	17世紀（1）	古典主義
3	17世紀（2）	ラファイエット夫人『クレーヴの奥方』
4	17世紀（3）	線の読解
5	18世紀（1）	啓蒙主義
6	18世紀（2）	ヴォルテール『カンディード』
7	18世紀（3）	横断的読解
8	19世紀（1）	ロマン主義
9	19世紀（2）	ヴィクトル・ユゴー『エルナニ』
10	19世紀（3）	リアリズム
11	19世紀（4）	フローベール『ボヴァリー夫人』
12	20世紀	アルベール・カミュ『異邦人』
13	「テキスト解釈」バカロレア筆記過去問題	2016年度の問題解説
14	期末試験	筆記試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で言及された文学作品を読むこと。課題に取り組むこと。本授業の授業外において必要な学習時間は、各回平均で4時間程度とします。

【テキスト（教科書）】

プリントを使用します。

【参考書】

横山安由美/朝比奈美知子編著『はじめて学ぶフランス文学史』ミネルヴァ書房、2016年

【成績評価の方法と基準】

平常点50%、期末試験50%

【学生の意見等からの気づき】

「テキスト解釈」がより理解しやすくなるよう、説明を工夫します。

【Outline (in English)】

An introduction to French literature and a literary analysis. The goal of this course is to learn to write a short literary criticism.

After each class, students will be expected to spend four hours to understand the course content and to do their homework.

The overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination : 50 %, in-class contribution : 50%.

LIT100LA

外国文学B

2017年度以降入学者

サブタイトル：

近江屋 志穂

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 5/Thu.5

単位数：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代の意味でのフランスのバカロレアは、19世紀にナポレオンⅠ世により創設されました。合格者には中等教育修了（高等学校卒業程度の能力）の認定と、高等教育進学（大学やグランゼコールなど）の許可を兼ねる学位が付与されてきました。

本授業では春学期の続きとして、バカロレアのフランス語（いわゆる国語）の筆記試験について、課題の内容と解き方を理解します。同時に関連する文学作品を読んでいきます。課題は「総括」「ディセルタシオン」という論述文です。前半は課題に関連する文学作品と作家について、後半は2種類の論述文の書き方について、解説します。

尚、秋学期のみの受講も可能です。

【到達目標】

- ・フランスの主要作家数名の文学作品に親しむ。
- ・フランスの学校教育における伝統的な論述文とは何かを理解する。
- ・大学入試における記述式問題について、フランスの事例を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義が中心です。授業コメントや要約など、授業に関する文章を書いてもらうこともあります。課題へのフィードバックは授業内や学習支援システムを通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業概要説明 バカロレア試験制度について
2	ラ・フォンテーヌ（17世紀）	『寓話』
3	ラ・ブリュイエール（17世紀）	『キャラクター』
4	ジャン＝ジャック・ルソー（18世紀）	『エミール』
5	ヴィクトル・ユゴー（19世紀）（1）	『静観詩集』
6	ヴィクトル・ユゴー（19世紀）（2）	『懲罰詩集』
7	エミール・ゾラ（19世紀）	『ジェルミナル』
8	エミール・ゾラ（19世紀）	『ジェルミナル』の映画化
9	「総括」（1）	基本的な構成方法
10	「総括」（2）	文学の課題（ラ・フォンテーヌ、ルソー、ユゴー、ゾラ）
11	「ディセルタシオン」（1）	基本的な構成方法
12	「ディセルタシオン」（2）	文学の課題解説

13 「ディセルタシオン」 2016年の問題解説（3）

14 期末試験 筆記試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で言及された文学作品を読むこと。課題に取り組むこと。本授業の授業外において必要な学習時間は、各回平均で4時間程度とします。

【テキスト（教科書）】

プリントを使用します。

【参考書】

横山安由美/朝比奈美知子編著『はじめて学ぶフランス文学史』ミネルヴァ書房、2016年

【成績評価の方法と基準】

平常点50%、期末試験50%

【学生の意見等からの気づき】

課題の取り組み方をより丁寧に説明するようにします。

【Outline (in English)】

An introduction to French literature and a literary analysis. The goal of this course is to learn to write a short literary criticism.

After each class, students will be expected to spend four hours to understand the course content and to do their homework.

The overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination : 50 %, in-class contribution : 50%.

LIT100LA

外国文学A

2017年度以降入学者

サブタイトル：中国古典に親しむ

吉井 涼子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 5/Mon.5

単位数：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

古代のものから唐詩までを主な対象とし、作品のエピソードや時代背景・文化などと関連させつつ読み解くことで、中国古典文学に対する視野をひらく。また、中国詩を鑑賞する上で必要な基本的知識（五言・七言、絶句・律詩や押韻・平仄）を学ぶ。

【到達目標】

中国古典や漢詩を鑑賞するために必要な基本知識を習得する。漢詩をはじめ中国古典は難しいイメージを持ってしまいがちだが、要領さえ掴めば親しみやすいものであることがわかるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式で行う。成立した時代背景・習俗や作者などを解説しつつ、原文を訓読で読解していく形を基本とする。授業は春秋時代から唐代まで、時代順に進めていく。

毎回授業時にリアクションペーパーもしくは小課題を提出してもらって学生の理解度を確認し、補足が必要な部分や疑問点などは次の授業時に解説する。また、このリアクションペーパー（又は小課題）の提出と内容で平常点を決定する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	中国とは 授業内容の説明と、導入部として中国の地理・歴史・言語的性格などを概説する。
第 2 回	甲骨・金文	実際の甲骨文字と金文の出土資料を使い、現在の漢字に至るまでの文字の変遷を知る。
第 3 回	『詩経』を読む	現存最古の中国の詩集『詩経』について解説し、実際に数首を読む。
第 4 回	楽府と古詩	前漢時代に詠まれた楽府や古詩十九首などを読み、当時の習俗についても学ぶ。
第 5 回	三曹の詩	三国志の英雄である曹操とその息子たちの詩を鑑賞する。
第 6 回	陶淵明	六朝期を代表する作品を比較しつつ鑑賞する。
第 7 回	孟浩然と崔顥	この回から唐詩を学ぶ。まず唐詩（近体詩）全体についてスタイルなどを解説し、実際に崔顥の「黄鶴楼」と孟浩然の「春暁」を読む。
第 8 回	李白	李白は中国詩を知る上で欠かせない人物である。月を愛した詩人李白の、月を詠んだ有名な詩を鑑賞する。

第 9 回 王維

王維の「九月九日憶山東兄弟」を読み、当時の重陽の節句などの習俗を知る。

第 10 回 杜甫

「春望」など、杜甫の詠んだ詩から、当時の戦乱を読む。

第 11 回 白居易

「長恨歌」を読み解く。

第 12 回 杜牧

杜牧の詩から、「題烏江亭」など、英雄を詠んだ懐古的な詩を鑑賞する。

第 13 回 復習と総括

第 1 回からの授業を振り返り、改めて中国文学の流れを学習する。

第 14 回 試験・まとめと解説

授業で学んだ知識などが身につけているか確認する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

次回以降の授業の資料を配布された場合は予習すること。授業内で学んだことはよく復習しておくこと。

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。毎回原文および、書き下し・訳などとともに、資料などを適宜配布する。

【参考書】

大島正二『漢字と中国人—文化史をよみとく—』（岩波書店 2003 年）

岡村繁『文選の研究』（岩波書店 1999 年）

興膳宏『六朝詩人伝』（大修館書店 2000 年）

小川環『唐代の詩人—その傳記』（大修館書店 1975 年）

松浦友久『校注 唐詩解釈辞典』（大修館書店 1987 年）

この他、授業時に提示する。

【成績評価の方法と基準】

毎回のリアクションペーパーもしくは小課題を主とする平常点を 30%、期末考査の点数を 70% として評価する。出席は大前提とする。

【学生の意見等からの気づき】

リアクションペーパーへの記載内容や要望を鑑みて、配布資料や進行速度に配慮を加える。リアクションペーパーに質問があった場合は、可能な範囲で授業内で答える。できるだけわかりやすく解説するために、画像・映像がある場合は活用する場合がある。

シラバスに挙げている作品は一例、もしくは主とする作品であって、適宜他の作品も用いる。

授業で原文を読む場合は返り点などを用いた訓読方式で行うので、留学生の方はこの点にご留意いただきたい。

【その他の重要事項】

電子でも構わないので、漢和辞典があれば持って来ることが大変望ましい。

授業で原文を読む場合は返り点などを用いた訓読方式で行うので、留学生の方はこの点にご留意いただきたい。

【None】

None

【None】

None

【None】

None

【None】

None

【None】

None

【Outline (in English)】

It focuses mainly from ancient things to Tang poetry, and it opens a vision to Chinese classical literature by understanding while relating it to episode of poet, background background · culture etc. Also learn the basic knowledge necessary for appreciating Chinese poetry.

Acquire the basic knowledge necessary to appreciate Chinese classics and Chinese poetry. Chinese classics, including Chinese poetry, tend to have a difficult image, but once you know the point, you can see that it's easy to understand.

Do it in a lecture format. While explaining the historical background, customs, and authors, he reads the original text in “kundoku”. Classes proceed in chronological order from the spring and autumn period to the Tang dynasty.

Students submit reaction papers or sub-assignments at class every time, and explain the parts and questions that need to be supplemented while checking their understanding at the next class. Also, this reaction paper (or sub-assignments) determines the normal points.

Be sure to prepare for the materials distributed in advance. Please review what you learned in class well.

The preparation and review time for this class is 2 hours each. I don't use textbooks in this class. Each time, along with the original text and translation, the materials are distributed as appropriate.

We will evaluate the normal points mainly on each reaction paper or small assignment as 30% and the score of the final examination as 70%. Attendance is a major premise.

Adjust the handout and speed of progress considering the contents and requests described in the reaction paper. If you have a question in the reaction paper, answer it in class as much as possible. In order to explain as clearly as possible, if there are images and videos, it may be used.

The works listed in Syllabus are examples or main works, and other works will be added as appropriate.

When reading the original text in class, it is done in a “kundoku” method using “kaeriten”, so international students should keep this in mind.

It doesn't matter if it's electronic, so it's desirable to bring it if you have a Chinese-Japanese dictionary.

LIT100LA

外国文学B

2017年度以降入学者

サブタイトル：中国古典に親しむ

吉井 涼子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 5/Mon.5

単位数：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

主に漢代のものから、より物語性の高い唐代の伝奇小説に至るまで、その当時の時代背景や文化などと一緒によく多くの話を読み解くことで、中国古典文学に対する視野をひろく。

【到達目標】

物語性の高い作品を実際に多く読むことで、中国古典全般に対する理解を深めることができる。そこで読み解いた知識により、他の中国古典を楽しむ素地と教養を培う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式で進める。人物を取り上げる場合は、その生涯や時代背景も解説する。作品および小説は原文を訓読で読解していくのを基本とするが、特に長文のものは日本語訳などを利用する。毎回授業時にリアクションペーパーもしくは小課題を提出してもらい、学生の理解度や興味の方向性を確認し、補足が必要な部分や疑問点などは次の授業時に解説する。また、このリアクションペーパー（又は小課題）の提出と内容で平常点を決定する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業内容の説明と中国文学全体の概説をする。
第 2 回	漢代の文章	『史記』伯夷・叔斉伝を読む。
第 3 回	『穆天子伝』を読む	中国最古の小説とも言われる『穆天子伝』を読み、西周の王であった穆王の説話について知る。
第 4 回	『漢武故事』を読む	前漢の武帝の生涯を描いた小説『漢武故事』を読む。
第 5 回	英雄からの手紙	諸葛亮の書いた「出師表」を読む。
第 6 回	志怪小説を読む（1）	『搜神記』をはじめとする志怪小説について解説し、出来るだけ多くの話を読む。 （1）では魂の行方をテーマとする
第 7 回	志怪小説を読む（2）	志怪小説のうち、異界に関する話を読む。
第 8 回	志怪小説を読む（3）	志怪小説のうち、予言に関する話を読む。
第 9 回	「人虎伝」を読む（1）	中島敦の『山月記』により、中国の伝奇小説の中でもこの人虎伝は日本でも有名である。ここでは、その物語に可能な限り詳しく迫る。
第 10 回	「人虎伝」を読む（2）	人虎伝の続きを読み進めつつ、伏線について資料を用いて解説する。

- 第 11 回 「人虎伝」を読む（3） 人虎伝の続きを読むと共に、『広異記』の虎に化ける人間のエピソードを解説する。
- 第 12 回 「人虎伝」を読む（4） 結末を読み、人虎伝とは結局どのような物語であったのかを整理する。
- 第 13 回 復習と総括 第 1 回からの授業を振り返り、改めて文学の流れを学習する。
- 第 14 回 試験・まとめと解説 授業で学んだ知識などが身につけているか確認する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

次回以降の資料を配布した場合は予習が必須である。授業内容、特に基本的知識として学んだことはよく復習しておくこと。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。毎回原文および、書き下し・訳などととも、資料などを適宜配布する。

【参考書】

明治書院『中国古典小説選 穆天子伝 漢武故事 神異経 山海経他』
 明治書院『中国古典小説選 搜神記・幽明録・異苑他』
 明治書院『新釈漢文大系 史記八（列伝一）』
 明治書院『新釈漢文大系 唐代伝奇』
 平凡社『東洋文庫 搜神記』
 この他、授業時に提示する。

【成績評価の方法と基準】

毎回のリアクションペーパーもしくは小課題を主とする平常点を 30%、期末考査の点数を 70% として評価する。出席は大前提とする。

【学生の意見等からの気づき】

リアクションペーパーへの記載内容や要望を鑑みて、配布資料や進行速度に配慮を加える。リアクションペーパーに質問があった場合は、可能な範囲で授業内で答える。できるだけわかりやすく解説するために、画像・映像がある場合は活用する場面がある。シラバスに挙げている作品は一例、もしくは主とする作品であって、適宜他の作品も用いる。授業で原文を読む場合は返り点などを用いた訓読方式で行うので、留学生の方はこの点にご留意いただきたい。

【その他の重要事項】

電子辞書で構わないので、漢和辞典があれば持って来ることが大変望ましい。授業で原文を読む場合は返り点などを用いた訓読方式で行うので、留学生の方はこの点にご留意いただきたい。

【None】

None

【None】

None

【None】

None

【None】

None

【None】

None

【Outline (in English)】

From the things of the Han Dynasty to the Literary novels of the Tang Dynasty with high narratives, touched many stories, and by reading along with the times background and culture, we will open our vision to Chinese classical literature.

By actually reading a very narrative work, you can deepen your understanding of Chinese classics in general. Through the knowledge read there, will cultivate the basics and culture of enjoying other Chinese studies.

Do it in a lecture format. In the case of a person, the life and historical background are also explained. Works and novels are based on reading the original text by reading comprehension, but especially long texts use Japanese translations.

Students submit reaction papers or sub-assignments at class every time, and explain the parts and questions that need to be supplemented while checking their understanding at the next class. Also, this reaction paper (or sub-assignments) determines the normal points.

Be sure to prepare for the materials distributed in advance. Please review what you learned in class well.

The preparation and review time for this class is 2 hours each. I don't use textbooks in this class. Each time, along with the original text and translation, the materials are distributed as appropriate.

We will evaluate the normal points mainly on each reaction paper or small assignment as 30% and the score of the final examination as 70%. Attendance is a major premise.

Adjust the handout and speed of progress considering the contents and requests described in the reaction paper. If you have a question in the reaction paper, answer it in class as much as possible. In order to explain as clearly as possible, if there are images and videos, it may be used.

The works listed in Syllabus are examples or main works, and other works will be added as appropriate.

When reading the original text in class, it is done in a "kundoku" method using "kaeriten", so international students should keep this in mind.

It doesn't matter if it's electronic, so it's desirable to bring it if you have a Chinese-Japanese dictionary.

LIT100LA

外国文学A

2017年度以降入学者

サブタイトル：日中比較

吉井 涼子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 3/Wed.3

単位数：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日中のそれぞれの文献や文学作品を比較・鑑賞することで、他国の文学作品のみならず、自国のものに対しても多角的な視点で読めるようになることを目的とする。

【到達目標】

日中両国の文学作品を、より広い視野から鑑賞するために必要な知識と教養を得ることにより、自国の文化への理解もより深めることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式で行う。まずその時代・成立背景・作者などを解説後、読解していく形を基本とする。また、適宜習俗や生活なども学ぶ。毎回授業時にリアクションペーパーもしくは小課題を提出してもらい、学生の理解度や興味の方向性を確認し、補足が必要な部分や疑問点などは次の授業時に解説する。また、このリアクションペーパー（又は小課題）の提出と内容で平常点を決定する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス 日本と中国	授業内容の説明と、導入部として中国と日本の地理・歴史・言語的性格などを概説する。
第2回	「神話」を読む（1）	中国前漢時代の書物である『淮南子』の、中国の創世神話的な部分を読む。
第3回	「神話」を読む（2）	中国の歴史書である『史記』の本紀を中心に、史書の中の神話的性格が強い部分を読む。
第4回	「神話」を読む（3）	前回に引き続き、『史記』の神話・伝説にあたる部分から、実在の王朝へとつながる部分を読む。
第5回	「神話」を読む（4）	日本の記紀神話の創世の部分を中心に読む。
第6回	「神話」を読む（5）	日本の神話から、スサノオやオオクニヌシの部分を読む。
第7回	月と太陽の神話比較	日本と中国それぞれの文化における月と太陽の話を扱う。
第8回	「魏志倭人伝」を読む（1）	日本の記述が中国の正史に現れるのは『漢書』からである。この回では『漢書』『後漢書』と、主に『三国志』魏書東夷伝倭人の条（所謂「魏志倭人伝」）を実際にも読む。
第9回	「魏志倭人伝」を読む（2）	「魏志倭人伝」を読み、当時の日本の状況と当時の中国との関係について学ぶ。

第10回	説話を読む（1）	『今昔物語集』や『宇治拾遺物語』から、当時の習俗や思想・他界観が読み取れる話を読む。
第11回	説話を読む（2）	信貴山の縁起に関わる物語を読む。
第12回	『枕中記』を読む	中国唐代の伝記小説である『枕中記』を読み、当時の人々の暮らしなども学ぶ。
第13回	復習と総括	第1回からの授業を振り返り、改めて日中の古典のそれぞれの特徴を整理する。
第14回	試験・まとめと解説	授業で学んだ知識などが身につけているか確認する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

次回以降の授業の資料を配布された場合は予習すること。授業内で学んだことはよく復習しておくこと。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。毎回原文および、書き下し・訳などとともに、資料などを適宜配布する。

【参考書】

岩波文庫『古事記』
 明治書院『新釈漢文大系 史記一（本紀上）』
 中央公論新社『魏志倭人伝の謎を解く 三国志から見る邪馬台国』渡邊義浩著
 小学館『日本古典文学全集 今昔物語』
 小学館『日本古典文学全集 宇治拾遺物語』
 明治書院『新釈漢文大系 唐代伝奇』
 小学館『日本古典文学全集 枕草子』
 など

【成績評価の方法と基準】

毎回のリアクションペーパーもしくは小課題を主とする平常点を30%、期末考査の点数を70%として評価する。出席は大前提とする。

【学生の意見等からの気づき】

リアクションペーパーへの記載内容や要望を鑑みて、配布資料や進行速度に配慮を加える。リアクションペーパーに質問があった場合は、可能な範囲で授業内で答える。できるだけわかりやすく解説するために、画像・映像がある場合は活用する場合がある。シラバスに挙げている作品は一例、もしくは主とするものであって、適宜他の作品等も用いる。授業で中国古典の原文を読む場合は返り点などを用いた訓読方式で行うので、留学生の方はこの点にご留意いただきたい。

【学生が準備すべき機器他】

電子辞書やアプリ等で構わないので、古語辞典・漢和辞典があれば持って来ることが望ましい。

【その他の重要事項】

授業で中国古典の原文を読む場合は返り点などを用いた訓読方式で行うので、留学生の方はこの点にご留意いただきたい。高校の日本史B程度の基礎知識及び文学史の知識等が必須であるので、よく留意しておくこと。

【None】

None

【None】

None

【None】

None

【None】

None

【None】

None

【Outline (in English)】

By comparing the documents of the Japan-China relations, it becomes possible to read not only sentences and literary works of other countries but also literary works of their own country from a multilateral point of view.

Can gain the knowledge and education necessary to appreciate literary works from both Japan and China from a broader perspective, and deepen your understanding of your own culture.

Do it in a lecture format. First, explain the times, the background of the establishment, the author, etc., and then read the text. You will also learn habits and lifestyles as needed.

Students submit reaction papers or sub-assignments at class every time, and explain the parts and questions that need to be supplemented while checking their understanding at the next class. Also, this reaction paper (or sub-assignments) determines the normal points.

Be sure to prepare for the materials distributed in advance. Please review what you learned in class well.

The preparation and review time for this class is 2 hours each. I don't use textbooks in this class. Each time, along with the original text and translation, the materials are distributed as appropriate.

We will evaluate the normal points mainly on each reaction paper or small assignment as 30% and the score of the final examination as 70%. Attendance is a major premise.

Adjust the handout and speed of progress considering the contents and requests described in the reaction paper. If you have a question in the reaction paper, answer it in class as much as possible. In order to explain as clearly as possible, if there are images and videos, it may be used.

The works listed in Syllabus are examples or main works, and other works will be added as appropriate.

When reading the original text in class, it is done in a "kundoku" method using "kaeriten", so international students should keep this in mind.

It doesn't matter if it's electronic, so it's desirable to bring it if you have a Chinese-Japanese dictionary.

Classes are conducted on the premise that you have basic knowledge of Japanese history B in high school and knowledge of literary history.

LIT100LA

外国文学B

2017 年度以降入学者

サブタイトル：日中比較

吉井 涼子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 3/Wed.3

単位数：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本と中国それぞれの古典を比較しつつ鑑賞することで、他国の文学のみならず自国のものに対しても、多角的な視点でより深く楽しむことができる知識と教養を得る。

【到達目標】

精読を通して、日中両国の文学をより広い視野から鑑賞するために必要な知識と教養を得る。日本と中国の古典に興味を持った際に、自身の力で読み解くための基礎を学ぶことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたなどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

テーマを決め、講義形式で行う。まずその時代・成立背景・作者などを解説後、読解していく形を基本とする。また、適宜習俗や生活なども学ぶ。

毎回授業時にリアクションペーパーもしくは小課題を提出してもらい、学生の理解度や興味の方向性を確認し、補足が必要な部分や疑問点などは次の授業時に解説する。また、このリアクションペーパー（又は小課題）の提出と内容で平常点を決定する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業内容の説明をする。
第 2 回	流浪する英雄—中国— (1)	『史記』晋世家・『国語』晋語から、重耳の話を精読する。
第 3 回	流浪する英雄—中国— (2)	重耳の遭った驪姫の乱と逃亡後の運命を読む。
第 4 回	流浪する英雄—中国— (3)	登場人物を整理しつつ、重耳の流転を追う。
第 5 回	流浪する英雄—中国— (4)	これまでの流れを、『史記』晋世家以外の歴史資料などを用いて補完し、時系列を整理する。
第 6 回	流浪する英雄—中国— (5)	重耳の結末と、家臣らのその後を知る。
第 7 回	流浪する英雄—日本— (1)	記紀からヤマトタケルの物語を読み解く。
第 8 回	流浪する英雄—日本— (2)	ヤマトタケルの辿った運命とその結末について学ぶ。
第 9 回	戦の天才とその末路— 中国— (1)	『史記』列伝から、中国史における軍事の天才の 1 人である楽毅の話を読む。
第 10 回	戦の天才とその末路— 中国— (2)	当時の時代背景などに注意しつつ、楽毅列伝から、楽毅の書いた手紙を読む。
第 11 回	戦の天才とその末路— 日本— (1)	日本の戦の天才とされる人物のうち、源義経について『平家物語』から数段抜粋して読み解く。

第 12 回 戦の天才とその末路— 『平家物語』の続きと義経の書いた手紙を読み、平家の結末に関して解説する。

第 13 回 復習と総括 第 1 回からの授業を振り返り、改めて日中の古典のそれぞれの特徴を整理する。

第 14 回 試験・まとめと解説 授業で学んだ知識などが身についているか確認する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

次回以降の資料を配布した場合は予習が必須である。授業内容はよく復習しておくこと。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。毎回原文および、書き下し・訳などととも、資料などを適宜配布する。

【参考書】

明治書院『新釈漢文大系 史記 五（世家中）』

明治書院『新釈漢文大系 春秋左氏伝（一）』

明治書院『新釈漢文大系 国語（上）』

明治書院『新釈漢文大系 国語（下）』

明治書院『新釈漢文大系 史記九（列伝二）』

小学館『日本古典文学全集 古事記 上代歌謡』

岩波書店『日本古典文学大系 32 平家物語上』

岩波書店『日本古典文学大系 33 平家物語下』

など

【成績評価の方法と基準】

毎回のリアクションペーパーもしくは小課題を主とする平常点を 30%、期末考査の点数を 70%として評価する。出席は大前提とする。

【学生の意見等からの気づき】

リアクションペーパーへの記載内容や要望を鑑みて、配布資料や進行速度に配慮を加える。リアクションペーパーに質問があった場合は、可能な範囲で授業内で答える。できるだけわかりやすく解説するために、画像・映像がある場合は活用する機会がある。

シラバスに挙げている作品は一例、もしくは主とする作品であって、適宜他の作品を加える。

授業で中国古典の原文を読む場合は返り点などを用いた訓読方式で行うので、留学生の方はこの点にご留意いただきたい。

【学生が準備すべき機器他】

電子辞書やアプリ等で構わないので、古語辞典・漢和辞典があれば持ってくるのが望ましい。

【その他の重要事項】

授業で中国古典の原文を読む場合は返り点などを用いた訓読方式で行うので、留学生の方はこの点にご留意いただきたい。

高校の日本史B程度の基礎知識及び文学史の知識等が必須であるので、よく留意しておくこと。

【None】

None

【None】

None

【None】

None

【None】

None

【None】

None

【Outline (in English)】

By comparing the documents of the Japan-China relations, it becomes possible to read not only sentences and literary works of other countries but also literary works of their own country from a multilateral point of view. By learning each classic during the day, you can acquire more knowledge and culture when you read other literary works.

Through reading carefully, you will gain the knowledge and culture necessary to appreciate the literature of both Japan and China from a broader perspective. When you are interested in Japanese and Chinese classics, you can learn the basics for reading on your own.

Decide on a theme, do it in a lecture format. First, explain the times, the background of the establishment, the author, etc., and then read the text. You will also learn habits and lifestyles as needed.

Students submit reaction papers or sub-assignments at class every time, and explain the parts and questions that need to be supplemented while checking their understanding at the next class. Also, this reaction paper (or sub-assignments) determines the normal points.

Be sure to prepare for the materials distributed in advance. Please review what you learned in class well.

The preparation and review time for this class is 2 hours each. I don't use textbooks in this class. Each time, along with the original text and translation, the materials are distributed as appropriate.

We will evaluate the normal points mainly on each reaction paper or small assignment as 30% and the score of the final examination as 70%. Attendance is a major premise.

Adjust the handout and speed of progress considering the contents and requests described in the reaction paper. If you have a question in the reaction paper, answer it in class as much as possible. In order to explain as clearly as possible, if there are images and videos, it may be used.

The works listed in Syllabus are examples or main works, and other works will be added as appropriate.

When reading the original text in class, it is done in a "kundoku" method using "kaeriten", so international students should keep this in mind.

It doesn't matter if it's electronic, so it's desirable to bring it if you have a Chinese-Japanese dictionary.

Classes are conducted on the premise that you have basic knowledge of Japanese history B in high school and knowledge of literary history.

LIT100LA

外国文学A

2017年度以降入学者

サブタイトル：日韓文化比較と交流

梁 禮先

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 3/Thu.3

単位数：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日韓の文化や興味あるテーマを取り上げて、日韓両国関係により理解を深めて行くことを目指していきます。文化や問題などを比較してみることで、新しい発見や日韓の未来が見えてきます。また、現在の日韓の若者たちの興味ある問題や題材を、若者目線で幅広く取り上げて、日韓両国の交流を向上させて行くことが目的です。韓国留学生たちの積極的な参加も歓迎します。

【到達目標】

日韓の文化や習慣・歴史の差などを多様な角度から比較することによって、日韓の様々な問題を総合理解し、解決の出発点に立つことを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

日本人学生と韓国人の留学生の割合にもよりますが、日韓の文化・習慣・問題・歴史・トレンドなどについて比較したり、ご意見やご質問など、皆さんの積極的な授業への参加をお勧めしながら進めていきます。

課題等に対するフィードバック方法は、学習支援システムなどを利用します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	授業の進め方について	授業の進め方についての説明をします。
第2回	日韓簡単比較	日韓の基礎知識を比較します。
第3回	日韓問題について 1	日韓の間にはどのような問題があるかを調べてみます。
第4回	日韓習慣の比較	日韓の習慣などの比較をします。
第5回	現在の日韓問題について 2	現在の日韓問題について詳しく調べます。
第6回	現在の日韓トレンド	日韓トレンドを比較します。
第7回	日韓文化比較	日韓の様々な教育問題を比較します。
第8回	日韓教育問題比較	日韓の入試と大学生活などを比較してみます。
第9回	日韓問題比較 3	日本における渡来人などについて考えてみます。
第10回	日韓の文化を比較	日韓文化について比較をしてみます。
第11回	日韓の現在の問題について比較 4	日韓における現在に起きている様々な問題について比較します。
第12回	日韓の現在の問題について比較 5	日韓の現在の政治的な問題について比較します。
第13回	日韓の現在の問題について比較 6	日韓の歴史的な様々な問題について比較します。
第14回	日韓問題について直接意見交換など	意見交換をします。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日韓についての記事や情報収集。授業感想など。日韓の文化・問題などの意見発表なども歓迎します。本授業の準備学習・復習時間は、各 4 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『新版 日韓の文化比較と日韓問題—よりよい日韓関係を築くために』

梁禮先 著（『朝日出版社』2018,10）

【参考書】

授業中に必要な文献・資料を紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点・授業感想・レポートなど 50%、期末レポート 50%。
(学生たちの積極的な授業参加・意見なども評価に加算にします)
合計 100%

※三分の一以上の欠席は、成績評価基準にかかわらず、不合格になることがあります。

【学生の意見等からの気づき】

日韓文化・歴史を含めて日韓における問題を、より知識を深めたい。

【学生が準備すべき機器他】

特にありません。

【その他の重要事項】

諸事情により、授業進行形式と内容が少々変わることもあります。

【Outline (in English)】

< Course outline > We aim to deepen the understanding of both Japan and Korea by discussing their cultures and other interesting themes. By comparing cultures and problems between the two countries, you would make new findings and envision their future outlooks. The purpose of this course is to enhance the exchanges between the two countries by taking a broad look at issues and topics that young Koreans and Japanese are interested in from young people's perspectives. This course also welcomes Korean international students.

< Learning Objectives >

Our goal is to comprehensively understand various problems in Japan and South Korea and to stand as a starting point for solutions.

< Learning activities outside of classroom >

This is an online class, so please prepare for it. It is important to submit the assignment. Within 4 hours.

< Grading Criteria /Policy >

Class points 50% and term-end report points 50% (100% in total)

LIT100LA

外国文学B

2017年度以降入学者

サブタイトル：日韓文化比較と交流

梁 禮先

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 3/Thu.3

単位数：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

春学期の授業を踏まえて、韓国と日本の文化や話題や問題について、様々な視点から問題を捉えていきます。特に、現在の日韓の若者たちのトレンドから日韓文化比較を更に進め、歴史から現在までの様々な日韓問題などを、日韓交流の発展を模索していく学習の場にしていきたいと思えます。

【到達目標】

常に、現在の日韓のトレンドを取り上げつつ、その問題や将来性や日韓両国の交流の方向性を考えることを目指すことで、日韓のこれからの未来への活発な交流のきっかけをつくるのが授業の目指す目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

授業で取り上げた日韓の文化や話題や問題点について、日韓の両方の立場・視点から考えていく。

課題等に対するフィードバック方法は、学習支援システムなどを利用します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	授業の進め方について	授業の進め方についての説明をします。
第2回	日韓文化比較 1	現在の韓流について考えてみます。
第3回	日韓文化比較 2	現在の日韓若者たちのトレンドについて調べてみます。
第4回	日韓のトレンド比較 1	現在の日韓若者たちのトレンドを比較してみます。
第5回	日韓のトレンド比較 2	日韓若者たちのファッションのトレンドを調べてみます。
第6回	日韓文化比較 3	日韓若者たちのファッショントレンドを比較してみます。
第7回	日韓問題比較 1	日韓若者たちの流行を調べてみます。
第8回	日韓問題比較 2	日韓若者たちの流行りを比較してみます。
第9回	日韓文化比較 4	北朝鮮について調べてみます。
第10回	日韓文化比較 5	北朝鮮と日韓問題について比較してみます。
第11回	日韓問題比較 3	日韓の宗教問題などを比較してみます。
第12回	日韓問題比較 4	日韓の企業問題などを比較してみます。
第13回	日韓文化比較 6	在日コリアン問題を調べてみます。
第14回	総合問題などの意見交換	意見交換などをします。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日韓問題の記事や情報など。授業内容などによるレポート。本授業の準備・復習時間は、各4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『新版 日韓の文化比較と日韓問題—よりよい日韓関係を築くために』

梁禮先 著（『朝日出版社』2018,10）

【参考書】

文献・資料などは授業中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

評価方法（平常点〔課題、授業感想など〕）50%、
期末レポート 50%
（発表など積極的な授業参加なども評価に加算されます）
合計 100%

※三分の一以上の欠席は、成績評価基準にかかわらず、不合格になることがあります。

【学生の意見等からの気づき】

日韓の様々な文化・問題についてもっと知識を深めたい。

【学生が準備すべき機器他】

特にありません。

【その他の重要事項】

いろいろな事情によって、授業進行形式と内容が少々変わることもあります。

【Outline (in English)】

< Course outline > Based on the contents covered in the spring semester, we will look at Japanese and Korean cultures, their recent trend, and issues from various perspectives. In particular, we intend to further our comparison of cultures from the trend of young people in Japan and discuss various issues regarding the two countries to cogitate their potential development of exchanges in the future.

< Learning Objectives >

The goal of the class is to create an opportunity for active exchanges with the future of Japan and South Korea.

< Learning activities outside of classroom >

This is an online class, so please prepare for it. It is important to submit the assignment. Within 4 hours.

< Grading Criteria /Policy >

Class points 50% and term-end report points 50% (100% in total)

LIT100LA

日本近・現代文学A

2017年度以降入学者

サブタイトル：教科書文学で学ぶ文学理論

細沼 祐介

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 2/Mon.2

単位数：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中学や高校の現代文で扱われる日本の近現代文学を読み解きながら、批評理論や文学理論について学んでいきます。

自由な読解や解釈は大変大事なのですが、手放しで行くと結果的にどう読んだらいいかわからないという状態になりがちです。そこで先人たちが積み上げてきた文学や批評に関する理論、つまり解釈の切り口を学ぶことで、より深い読書のための「定石」を身につけましょう。

【到達目標】

- ①文学理論についての概略を理解する
- ②実際にその理論を用いることで、既知の作品の解釈がどう変化するかを楽しむ
- ③複数の理論を応用して自分自身の解釈を試みる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

作品ごとに四時間を割り、一つの講義ごとに様々な文学理論を適用した読解を行います。

講義の性質上、すでに知っている作品であっても必ずもう一度読み直すようにして臨んでください。

授業ごとにはリアクションペーパーの提出を行い、学んだことの応用や実践にも挑戦していきます。

なお、授業冒頭ではリアクションペーパーへの返答に多めに時間を割り、テーマにかかわらず文学に関する種々の疑問に答えていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	「教科書として読まないこと」と理論を学ぶ意味について
第 2 回	芥川龍之介「羅生門」	「語り」について
	①	
第 3 回	芥川龍之介「羅生門」	物語類型について
	②	
第 4 回	芥川龍之介「羅生門」	テキスト論について
	③	
第 5 回	芥川龍之介「羅生門」	間テキスト性について
	④	
第 6 回	葉山嘉樹「セメント樽の中の手紙」	プロレタリア文学について
	①	
第 7 回	葉山嘉樹「セメント樽の中の手紙」	マルクス主義批評について
	②	
第 8 回	葉山嘉樹「セメント樽の中の手紙」	書簡体の力について
	③	
第 9 回	葉山嘉樹「セメント樽の中の手紙」	ストーリーとプロットについて
	④	
第 10 回	夏目漱石『こころ』	① 読者反応批評について
第 11 回	夏目漱石『こころ』	② フェミニズム批評ジェンダー批評について

- 第 12 回 夏目漱石『こころ』③ ジェンダー批評について
- 第 13 回 夏目漱石『こころ』④ 教育と『こころ』について
- 第 14 回 総括 まとめとレポート回収

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

上述のように、テキストを事前に入手し、しっかり読んでおくことを求めます。これは単位認定のための最低条件です。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

芥川龍之介『羅生門・鼻』新潮文庫
葉山嘉樹『セメント樽の中の手紙』角川文庫
夏目漱石『こころ』新潮文庫ほか
必ずしもこのテキストを用いる必要はありませんが、必ず読むようにしましょう。

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

平常点 5 割、期末レポート 5 割。なお平常点はリアクションペーパーで評価を行います。

【学生の意見等からの気づき】

好評につき質疑応答にも力点を置く予定です。

【学生が準備すべき機器他】

課題提出や資料配布に学習支援システムを使用します。

【その他の重要事項】

幅広い内容を春学期と秋学期で学んでいくため、可能であれば併せての履修が望ましいです。

【Outline (in English)】

【Course outline】

This course introduces literary theory through reading comprehension of modern literature learned in high school.

【Learning Objectives】

The goal of this course is to give you a deeper understanding literary theory.

【Learning activities outside of classroom】

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

【Grading Criteria / Policies】

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end report: 50%, in class contribution: 50%.

LIT100LA

日本近・現代文学B

2017年度以降入学者

サブタイトル：教科書文学で学ぶ文学理論

細沼 祐介

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 2/Mon.2

単位数：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中学や高校の現代文で扱われる日本の近現代文学を読み解きながら、批評理論や文学理論について学んでいきます。

自由な読解や解釈は大変大事なのですが、手放して行くと結果的にどう読んだらいいかわからないという状態になりがちです。そこで先人たちが積み上げてきた文学や批評に関する理論、つまり解釈の切り口を学ぶことで、より深い読書のための「定石」を身につけましょう。

【到達目標】

- ①文学理論についての概略を理解する
- ②実際にその理論を用いることで、既知の作品の解釈がどう変化するかを楽しむ
- ③複数の理論を応用して自分自身の解釈を試みる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

作品ごとに四時間を割り、一つの講義ごとに様々な文学理論を適用した読解を行います。

講義の性質上、すでに知っている作品であっても必ずもう一度読み直すようにして臨んでください。

授業ごとにはリアクションペーパーの提出を行い、学んだことの応用や実践にも挑戦していきます。

なお、授業冒頭ではリアクションペーパーへの返答に多めに時間を割り、テーマにかかわらず文学に関する種々の疑問に答えていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	角度を変えた読み方の面白さについて
第2回	中島敦「山月記」①	「信用できない語り手」について
第3回	中島敦「山月記」②	イメージと象徴について①
第4回	中島敦「山月記」③	イメージと象徴について②
第5回	中島敦「山月記」④	プロットとストーリーについて
第6回	原民喜「夏の花」①	戦争と文学について
第7回	原民喜「夏の花」②	「私小説」について
第8回	原民喜「夏の花」③	伝記批評について
第9回	原民喜「夏の花」④	文体について
第10回	森鷗外「舞姫」①	文化批評について
第11回	森鷗外「舞姫」②	都市論について
第12回	森鷗外「舞姫」③	「近代文学」の制度について
第13回	森鷗外「舞姫」④	「自己」の問題について
第14回	総括	まとめとレポート回収

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。指定された作品はそれを扱う授業までに確実に読んでおいてください。

【テキスト（教科書）】

中島敦『山月記・李陵』岩波文庫

原民喜『夏の花・心願の国』新潮文庫

森鷗外『阿部一族・舞姫』新潮文庫

必ずしもこのテキストを用いる必要はありませんが、必ず読むようにしましょう。

【参考書】

なし。

【成績評価の方法と基準】

平常点5割、期末レポート5割。なお平常点はリアクションペーパーで評価を行います。

【学生の意見等からの気づき】

好評につき質疑応答にも力点を置く予定です。

【学生が準備すべき機器他】

課題提出や資料配布に学習支援システムを使用します。

【その他の重要事項】

幅広い内容を春学期と秋学期で学んでいくため、可能であれば併せての履修が望ましいです。

【Outline (in English)】

【Course outline】

This course introduces literary theory through reading comprehension of modern literature learned in high school.

【Learning Objectives】

The goal of this course is to give you a deeper understanding literary theory.

【Learning activities outside of classroom】

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

【Grading Criteria /Policies】

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end report: 50%, in class contribution: 50%.

BSP100LA

文章論

2017 年度以降入学者

サブタイトル：思考の言語化のために

安藤 優一

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 4/Wed.4

単位数：2 単位

定員制

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

小論文やレポートなど文章を書くにあたって、形式やルールといった基礎的な段階を出発点として、より豊かな文章表現を習得することを旨とする。

【到達目標】

- ・言葉（日本語表現）についての知識と理解を深める。
- ・言葉や文章の背景にある社会的事象を理解し、実践を通して深める。
- ・自分の考えや意見を言語化する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

- ・テーマに沿った課題を提示し実際に文章を書く。
- ・提出された課題（600～800 字程度）について添削・指導をおこなう。
- ・提出された課題の中で優秀なものについては、適宜紹介し講評する（番号・氏名は伏せる）。可能であれば受講者による相互批評もおこなう。
- ・新聞記事やコラム、エッセイ、文学作品、学術論文などを通して文章表現を学ぶ。
- ・文章表現に関わる基礎知識や社会的事象について解説をおこなう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の概要説明
第 2 回	自己紹介文	自分自身についての言語化
第 3 回	自己紹介文	文章表現の系譜
第 4 回	自己紹介文	添削と講評
第 5 回	原稿執筆の基礎	書式とルールの基本
第 6 回	原稿執筆の基礎	課題に沿った実践
第 7 回	原稿執筆の基礎	添削と講評
第 8 回	論文の書き方	論理的な文章とは
第 9 回	論文の書き方	時事的な文章の紹介
第 10 回	論文の書き方	課題に沿った実践
第 11 回	論文の書き方	添削と講評
第 12 回	文章表現とネットリテラシー	注意点の概説
第 13 回	意見の言語化	これまでの内容を踏まえた実践
第 14 回	総括	これまでの内容のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

特になし。授業内で適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点 30 %、授業内での提出物 30 %、期末レポート 40 %

【学生の意見等からの気づき】

実践やフィードバックの方法などについて、より改善できるよう留意したいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

※以下、受講にあたって大変重要な内容です。必ず読んでください。

○受講人数の制限について（選抜について）

・文章論は受講者の制限がある授業です（上限 25 名）。
・初回授業前日に受講希望者の人数を確認し、上限を上回っていた場合は抽選を実施します。そのため、受講希望者は初回授業前々日までに必ず仮登録をおこなってください。

・選抜終了後に受講決定者の学生証番号を Hoppii の「お知らせ」を使って告知します。掲載されていない学生は受講できません。登録を抹消してください。

・選抜を受けていない学生が 2 週目以降から授業に参加することはできません。

○複数の「文章論」クラスへの登録について

・「文章論」の授業は複数あります。授業内容と対象学部・学年、曜日・時限をよく確認してください。

・重複しての仮登録は可能です。選抜は授業開始日の順におこないます。

・重複しての本登録はできません。万が一、本登録の時点で重複があった場合には、必ずどれか一つだけを選んでください。

【Outline (in English)】

【授業概要（Course outline）】

The aim of this course is to help students acquire written expression.

到達目標（Learning Objectives）

The goals of this course are to verbalize your mind.

【授業時間外の学習（Learning activities outside of classroom）】

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than two hours for a class.

【成績評価の方法と基準（Grading Criteria /Policies）】

Your overall grade in the class will be decided based on the following Term-end examination: 40%, Short reports : 30%, in class contribution: 30%.

BSP100LA

文章論

2017 年度以降入学者

サブタイトル：大学での学習に必要な「書く力」の基礎をつくる

関口 雄士

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 5/Thu.5

単位数：2 単位

定員制

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

大学での学習に必要な「書く力」を、技法を学びながら様々な文章を読み書きすることで習得することを目指す授業です。

なお、このクラスは留学生を主な対象としたクラスではありません。留学生・海外生活が長かった学生は、春学期火曜 5 限の「文章論」が留学生を主な対象とした授業になりますので、そちらの受講をおすすめします。もちろん、自信があれば本授業への参加も可能です。

【到達目標】

大学での学習に必要な「書く力」の基礎を定着する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

目標達成のために、以下のように 3 回 1 セットを基本として 4 セットの授業を行います（課題③は下記 I を 2 回かけておこない、4 回を 1 セットとします）。

I 課題に関する文章を講読する：課題にそった文章を読んでいくことで、知識・技法を身につけます。

II 文章作成に関する知識の講義：授業前半で大学でのレポート・論文作成に必要な知識についての講義をおこないます。授業後半で課題作文を作成・提出してもらいます。

III 課題作文への講評と相互批評：前週に提出された課題作文を添削してコメントをつけたものを返却します。一部の作文については個人が特定できないかたちにしたうえで授業内で紹介・講評し、その作文について相互批評をおこなってもらいます。

なお、授業の性質上、受講者全員の作文への添削・コメントが必要になりますので、受講人数に制限があります。くわしくは末尾の【その他の重要事項】にありますので、必ず確認してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	本授業についての詳細な説明。
第 2 回	課題①エッセイを書く	エッセイとは何かを学ぶ。
第 3 回	課題①エッセイを書く	文章作成の基本的な規則を学ぶ。
第 4 回	課題①エッセイを書く	課題①の講評・相互批評。
第 5 回	課題②文献を紹介する	文献の扱い方を学ぶ。
第 6 回	課題②文献を紹介する	資料の探し方を学ぶ。
第 7 回	課題②文献を紹介する	課題②の講評・相互批評。
第 8 回	課題③意見文を書く	文の構成要素として段落を学ぶ。
第 9 回	課題③意見文を書く	事実と意見の分け方を学ぶ。
第 10 回	課題③意見文を書く	テーマの決め方を学ぶ。
第 11 回	課題③意見文を書く	課題③の講評・相互批評。
第 12 回	課題④期末作文を書く	読みやすい文章について考える。
第 13 回	課題④期末作文を書く	学習内容のまとめをおこなう。
第 14 回	課題④期末作文を書く	課題④の講評・相互批評。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

課題作文を半期で 4 回書いてもらいます。課題作文は下書きを 1 週間で準備してもらいます。

授業中にしめした参考文献はできる限り読むようにしてください。日常生活のなかで文章を目にしたとき、講義で学んだことを意識するようにしてください。

（本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。）

【テキスト（教科書）】

指定の教科書はありません。適宜プリントを配布します。

【参考書】

授業内で単元ごとに紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（課題提出状況、相互批評、リアクションペーパーの内容）：50 %

提出物の内容：50 %

未提出の課題が 1 つでもあった場合、原則として単位を認めません。特別な理由なく 3 回以上の欠席があった場合も原則として単位を認めません。

【学生の意見等からの気づき】

作文への添削・コメントが文章力を磨く役に立ったという意見を多くもらえたので、引き続き丁寧におこなうようにします。また、相互批評に好意的な意見が多かったので、より学生にとって有益なかたちでおこなえるようにしたいと考えています。

【その他の重要事項】

※以下、受講にあたって大変重要な内容です。必ず読んでください。

○受講人数の制限について（選抜について）

・文章論は受講者の制限がある授業です（上限 25 名）。

・初回授業前日に受講希望者の人数を確認し、上限を上回っていた場合は抽選を実施します。そのため、受講希望者は初回授業前々日までに必ず仮登録をおこなってください。

・選抜終了後に受講決定者の学生証番号を Hoppii の「お知らせ」を使って告知します。掲載されていない学生は受講できません。登録を抹消してください。

・選抜を受けていない学生が 2 週目以降から授業に参加することはできません。

○複数の「文章論」クラスへの登録について

・「文章論」の授業は複数あります。授業内容と対象学部・学年、曜日・時限をよく確認してください。

・重複しての仮登録は可能です。選抜は授業開始日の順におこないます。

・重複しての本登録はできません。万が一、本登録の時点で重複があった場合には、必ずどれか一つだけを選んでください。

【Outline (in English)】

This class aims to help students acquire the "writing skills" necessary for university study by learning techniques and reading and writing a variety of texts.

Please note that this class is not intended primarily for international students. International students and students who have lived abroad for a long time are recommended to take "Writing Theory," which is offered on Tuesdays during 5th period of the spring semester and is intended mainly for international students. Of course, if you are confident, you can also join this class.

BSP100LA

文章論

2017 年度以降入学者

サブタイトル：大学での学習に必要な「書く力」の基礎をつける（留学生を主な対象とする）

関口 雄士

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 5/Tue.5

単位数：2 単位

定員制

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本の大学での学習に必要な「書く力」を、技法を学びながら様々な文章を読み書きすることで習得することを目指す授業です。このクラスは留学生を主な対象としています。留学生のほか、海外での生活が長かった日本人学生もこのクラスの受講を推奨します。授業計画の大枠としては日本人向けクラスと同様ですが、扱う内容において留学生を対象として、より「日本語で書く力」に重点をおいた内容になります。

【到達目標】

日本の大学での学習に必要な「書く力」の基礎を定着する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

目標達成のために、以下のように3回1セットを基本として4セットの授業を行います（課題③は下記Iを2回かけておこない、4回を1セットとします）。

- I 課題に関する文章を講読する：課題にそった文章を読んでいくことで、知識・技法を身につけます。
 - II 文章作成に関する知識の講義：授業前半で大学でのレポート・論文作成に必要な知識についての講義をおこないます。授業後半で課題作文を作成・提出してもらいます。
 - III 課題作文への講評と相互批評：前週に提出された課題作文を添削してコメントをつけたものを返却します。一部の作文については個人が特定できないかたちにしたうえで授業内で紹介・講評し、その作文について相互批評をおこなってもらいます。
- なお、授業の性質上、受講者全員の作文への添削・コメントが必要になりますので、受講人数に制限があります。くわしくは末尾の【その他の重要事項】にありますので、必ず確認してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	本授業についての詳細な説明。
第2回	課題①エッセイを書く	エッセイとは何かを学ぶ。
第3回	課題①エッセイを書く	文章作成の基本的な規則を学ぶ。
第4回	課題①エッセイを書く	課題①の講評・相互批評。
第5回	課題②文献を紹介する	文献の扱い方を学ぶ。
第6回	課題②文献を紹介する	資料の探し方を学ぶ。
第7回	課題②文献を紹介する	課題②の講評・相互批評。
第8回	課題③意見文を書く	文の構成要素として段落を学ぶ。
第9回	課題③意見文を書く	事実と意見の分け方を学ぶ。
第10回	課題③意見文を書く	テーマの決め方を学ぶ。
第11回	課題③意見文を書く	課題③の講評・相互批評。
第12回	課題④期末作文を書く	読みやすい文章について考える。
第13回	課題④期末作文を書く	学習内容のまとめをおこなう。
第14回	課題④期末作文を書く	課題④の講評・相互批評。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

課題作文を半期で4回書いてもらいます。課題作文は下書きを1週間で準備してもらいます。

授業中にしめた参考文献はできる限り読むようにしてください。日常生活のなかで文章を目にしたとき、講義で学んだことを意識するようにしてください。

（本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。）

【テキスト（教科書）】

指定の教科書はありません。適宜プリントを配布します。

【参考書】

授業内で単元ごとに紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（課題提出状況、相互批評、リアクションペーパーの内容）：50%

提出物の内容：50%

未提出の課題が1つでもあった場合、原則として単位を認めません。特別な理由なく3回以上の欠席があった場合も原則として単位を認めません。

【学生の意見等からの気づき】

作文への添削・コメントが文章力を磨く役に立ったという意見を多くもらえたので、引き続き丁寧におこなうようにします。

【その他の重要事項】

※以下、受講にあたって大変重要な内容です。必ず読んでください。

○受講人数の制限について（選抜について）

- ・文章論は受講者の制限がある授業です（上限25名）。
- ・初回授業前日に受講希望者の人数を確認し、上限を上回っていた場合は抽選を実施します。そのため、受講希望者は初回授業前々日までに必ず仮登録をおこなってください。

・選抜終了後に受講決定者の学生証番号をHoppiiの「お知らせ」を使って告知します。掲載されていない学生は受講できません。登録を抹消してください。

・選抜を受けていない学生が2週目以降から授業に参加することはできません。

○複数の「文章論」クラスへの登録について

- ・「文章論」の授業は複数あります。授業内容と対象学部・学年、曜日・時限をよく確認してください。
- ・重複しての仮登録は可能です。選抜は授業開始日の順におこないます。
- ・重複しての本登録はできません。万が一、本登録の時点で重複があった場合には、必ずどれか一つだけを選んでください。

【Outline (in English)】

This class is designed to help students acquire the "writing skills" necessary for studying at Japanese universities by learning techniques and reading and writing a variety of texts. This class is primarily intended for international students. In addition to international students, Japanese students who have lived abroad for a long time are also encouraged to take this class.

The general framework of the class plan is the same as that of the class for Japanese students, but the content of the class is more focused on "the ability to write in Japanese" for international students.

BSP100LA

文章論

2017 年度以降入学者

サブタイトル：大学での学習に必要な「書く力」の基礎をつくる

関口 雄士

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 4/Thu.4

単位数：2 単位

定員制

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

大学での学習に必要な「書く力」を、技法を学びながら様々な文章を読み書きすることで習得することを目指す授業です。

なお、このクラスは留学生を主な対象としたクラスではありません。留学生・海外生活が長かった学生は、春学期火曜 5 限の「文章論」が留学生を主な対象とした授業になりますので、そちらの受講をおすすめします。もちろん、自信があれば本授業への参加も可能です。

【到達目標】

大学での学習に必要な「書く力」の基礎を定着する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

目標達成のために、以下のように 3 回 1 セットを基本として 4 セットの授業を行います（課題③は下記 I を 2 回かけておこない、4 回を 1 セットとします）。

I 課題に関する文章を講読する：課題にそった文章を読んでいくことで、知識・技法を身につけます。

II 文章作成に関する知識の講義：授業前半で大学でのレポート・論文作成に必要な知識についての講義をおこないます。授業後半で課題作文を作成・提出してもらいます。

III 課題作文への講評と相互批評：前週に提出された課題作文を添削してコメントをつけたものを返却します。一部の作文については個人が特定できないかたちにしたうえで授業内で紹介・講評し、その作文について相互批評をおこなってもらいます。

なお、授業の性質上、受講者全員の作文への添削・コメントが必要になりますので、受講人数に制限があります。くわしくは末尾の【その他の重要事項】にありますので、必ず確認してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	本授業についての詳細な説明。
第 2 回	課題①エッセイを書く	エッセイとは何かを学ぶ。
第 3 回	課題①エッセイを書く	文章作成の基本的な規則を学ぶ。
第 4 回	課題①エッセイを書く	課題①の講評・相互批評。
第 5 回	課題②文献を紹介する	文献の扱い方を学ぶ。
第 6 回	課題②文献を紹介する	資料の探し方を学ぶ。
第 7 回	課題②文献を紹介する	課題②の講評・相互批評。
第 8 回	課題③意見文を書く	文の構成要素として段落を学ぶ。
第 9 回	課題③意見文を書く	事実と意見の分け方を学ぶ。
第 10 回	課題③意見文を書く	テーマの決め方を学ぶ。
第 11 回	課題③意見文を書く	課題③の講評・相互批評。
第 12 回	課題④期末作文を書く	読みやすい文章について考える。
第 13 回	課題④期末作文を書く	学習内容のまとめをおこなう。
第 14 回	課題④期末作文を書く	課題④の講評・相互批評。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

課題作文を半期で 4 回書いてもらいます。課題作文は下書きを 1 週間で準備してもらいます。

授業中にしめした参考文献はできる限り読むようにしてください。日常生活のなかで文章を目にしたとき、講義で学んだことを意識するようにしてください。

（本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。）

【テキスト（教科書）】

指定の教科書はありません。適宜プリントを配布します。

【参考書】

授業内で単元ごとに紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（課題提出状況、相互批評、リアクションペーパーの内容）：50 %

提出物の内容：50 %

未提出の課題が 1 つでもあった場合、原則として単位を認めません。特別な理由なく 3 回以上の欠席があった場合も原則として単位を認めません。

【学生の意見等からの気づき】

作文への添削・コメントが文章力を磨く役に立ったという意見を多くもらえたので、引き続き丁寧におこなうようにします。また、相互批評に好意的な意見が多かったので、より学生にとって有益なかたちでおこなえるようにしたいと考えています。

【その他の重要事項】

※以下、受講にあたって大変重要な内容です。必ず読んでください。

○受講人数の制限について（選抜について）

・文章論は受講者の制限がある授業です（上限 25 名）。

・4 月 14 日に受講希望者の人数を確認し、上限を上回っていた場合は選抜（抽選）を実施します。そのため、受講希望者は 4 月 13 日までに必ず仮登録をおこなってください。

・選抜終了後に受講決定者の学生証番号を Hoppii の「お知らせ」を使って告知します。掲載されていない学生は受講できません。登録を抹消してください。

・選抜を受けていない学生が 2 週目以降から授業に参加することはできません。

○複数の「文章論」クラスへの登録について

・「文章論」の授業は複数あります。授業内容と対象学部・学年、曜日・時限をよく確認してください。

・重複しての仮登録は可能です。選抜は授業開始日の順におこないます。

・重複しての本登録はできません。万が一、本登録の時点で重複があった場合には、必ずどれか一つだけを選んでください。

【Outline (in English)】

This class aims to help students acquire the "writing skills" necessary for university study by learning techniques and reading and writing a variety of texts.

Please note that this class is not intended primarily for international students. International students and students who have lived abroad for a long time are recommended to take "Writing Theory," which is offered on Tuesdays during 5th period of the spring semester and is intended mainly for international students. Of course, if you are confident, you can also join this class.

BSP100LA

文章論

2017年度以降入学者

サブタイトル：実用から芸術までの文章作法

細沼 祐介

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 3/Fri.3

単位数：2 単位

定員制

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では論文・レポート執筆法に加え、批評文、小説の創作にまで至る幅広い日本語を学びます。履修者には日本語のもつ豊かさや、目的に応じた多彩な表現方法を味わって欲しいと思います。

【到達目標】

- ①日本語についての知識と理解を深める。
- ②文章の構造を分解し、内容面だけにとどまらない表現に関する魅力を明確に理解し、自身でも使いこなせるようになる。
- ③他者の書いたものを批評的に読み、論理的に感想をまとめる行為をとおり、読みと書きの両面から文章の奥深さを学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

到達目標を達成するためにそれぞれのジャンルごとに三から四時間を割り、二〜三コマ目で概略の説明、最後の時間で簡単な相互批評を行っていきます。学生による文章の提出は講義の時間と相互批評の時間の間で行い、そのなかからこちらで選抜した秀作をまとめ、Hoppii で学生に配布します。相互批評の時間までに目を通したうえで授業に臨んでください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンスと文章の大形式について	「分かりやすく論理的」か「美しく感覚的」か、目的に合わせたスタイルを意識する
第 2 回	「マジメ」な文章の綴り方	ビジネスマナーを含む文章作法の一般基礎を学ぶ
第 3 回	論文の書き方①	論文の構成と三つの柱の繰り返しについて学ぶ
第 4 回	論文の書き方②	引用作法と文献調査の方法を学ぶ
第 5 回	論文の書き方③	パラグラフライティングと二つのセンテンスについて学ぶ
第 6 回	論文の書き方④	相互批評に挑戦する
第 7 回	批評文の書き方①	「分かりにくさ」の美点について学ぶ
第 8 回	批評文の書き方②	批評理論について概観する
第 9 回	批評文の書き方③	相互批評に挑戦する
第 10 回	小説の書き方①	虚と実、視点について学ぶ
第 11 回	小説の書き方②	文体と筋の関係について学ぶ
第 12 回	小説の書き方③	主題の取り扱いとオリジナリティについて学ぶ
第 13 回	小説の書き方④	相互批評に挑戦する
第 14 回	総括	期末課題を回収し、授業全体の振り返りを行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。期末レポートも含めて四度の大きな課題提出があります。

【テキスト（教科書）】

なし。

【参考書】

なし。

【成績評価の方法と基準】

平常点 30%、提出物 30%、期末課題 40%
非常に課題の多い講義となりますが、文章力は実践を通してしか学びえません。必ず得るものがあるので、じっくりがんばってください。

【学生の意見等からの気づき】

授業の進度に応じてプラスアルファが欲しいとの要望があったため、毎時簡単に文章上のレトリックについての講義も取り入れていくつもりです。

【学生が準備すべき機器他】

課題作成のためのパソコン（Wordをインストール）
また出欠確認および課題の提出には学習支援システムを使用します。特に出欠確認は授業内で行うため、スマートフォンやタブレット等の用意をお願いします。

【その他の重要事項】

- ※以下、受講にあたって大変重要な内容です。必ず読んでください。
- 受講人数の制限について（選抜について）
・文章論は受講者の制限がある授業です（上限 25 名）。
・初回授業前日に受講希望者の人数を確認し、上限を上回っていた場合は抽選を実施します。そのため、受講希望者は初回授業前々日までに必ず仮登録をおこなってください。
・選抜終了後に受講決定者の学生証番号を Hoppii の「お知らせ」を使って告知します。掲載されていない学生は受講できません。登録を抹消してください。
- ・選抜を受けていない学生が 2 週目以降から授業に参加することはできません。
- 複数の「文章論」クラスへの登録について
・「文章論」の授業は複数あります。授業内容と対象学部・学年、曜日・時限をよく確認してください。
- ・重複しての仮登録は可能です。選抜は授業開始日の順におこないます。
- ・重複しての本登録はできません。万が一、本登録の時点で重複があった場合には、必ずどれか一つだけを選んでください。

【Outline (in English)】

【Course outline】

In this lesson, in addition to writing such as paragraph writing, you will learn a wide range of Japanese ranging from treatises, criticisms to the creation of novels.

【Learning Objectives】

The goal of this course is to give you a deeper understanding of how to write sentences in Japanese.

【Learning activities outside of classroom】

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

【Grading Criteria /Policies】

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end report: 40%、Short reports : 30%、in class contribution: 30%.

BSP100LA

文章論

2017年度以降入学者

サブタイトル：実用から芸術までの文章作法

細沼 祐介

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 3/Fri.3

単位数：2 単位

定員制

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では論文・レポート執筆法に加え、批評文、小説の創作にまで至る幅広い日本語を学びます。履修者には日本語のもつ豊かさや、目的に応じた多彩な表現方法を味わって欲しいと思います。

【到達目標】

- ①日本語についての知識と理解を深める。
- ②文章の構造を分解し、内容面だけにとどまらない表現に関する魅力を明確に理解し、自身でも使いこなせるようになる。
- ③他者の書いたものを批評的に読み、論理的に感想をまとめる行為をとおり、読みと書きの両面から文章の奥深さを学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

到達目標を達成するためにそれぞれのジャンルごとに三から四時間を割り、二〜三コマ目で概略の説明、最後の時間で簡単な相互批評を行っていきます。学生による文章の提出は講義の時間と相互批評の時間の間で行い、そのなかからこちらで選抜した秀作をまとめ、Hoppii で学生に配布します。相互批評の時間までに目を通したうえで授業に臨んでください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンスと文章の大形式について	「分かりやすく論理的」か「美しく感覚的」か、目的に合わせたスタイルを意識する
第 2 回	「マジメ」な文章の綴り方	マナーを含む文章作法の一般基礎を学ぶ
第 3 回	論文の書き方①	論文の構成と三つの柱の繰り返しについて学ぶ
第 4 回	論文の書き方②	引用作法と文献調査の方法を学ぶ
第 5 回	論文の書き方③	パラグラフライティングと二つのセンテンスについて学ぶ
第 6 回	論文の書き方④	相互批評に挑戦する
第 7 回	批評文の書き方①	「分かりにくさ」の美点について学ぶ
第 8 回	批評文の書き方②	批評理論を概観する
第 9 回	批評文の書き方③	相互批評に挑戦する
第 10 回	小説の書き方①	虚と実、視点について学ぶ
第 11 回	小説の書き方②	文体と筋の関係について学ぶ
第 12 回	小説の書き方③	主題の取り扱いとオリジナリティについて学ぶ
第 13 回	小説の書き方④	相互批評に挑戦する
第 14 回	総括	期末課題を回収し、授業全体の振り返りを行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

授業内で課された作文を期限厳守で仕上げる

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

特になし

【成績評価の方法と基準】

平常点 30%、提出物 30%、期末課題 40%

非常に課題の多い講義となりますが、文章力は実践を通してしか学びえません。必ず得るものがあるので、じっくりがんばってください。

【学生の意見等からの気づき】

授業の進度に応じてプラスアルファが欲しいとの要望があったため、毎時簡単に文章上のレトリックについての講義も取り入れていくつもりです。

【学生が準備すべき機器他】

課題作成のためのパソコン（Word をインストール）

また出欠確認および課題の提出には学習支援システムを使用します。特に出欠確認は授業内で行うため、スマートフォンやタブレット等の用意をお願いします。

【その他の重要事項】

※以下、受講にあたって大変重要な内容です。必ず読んでください。

○受講人数の制限について（選抜について）

・文章論は受講者の制限がある授業です（上限 25 名）。

・初回授業前日に受講希望者の人数を確認し、上限を上回っていた場合は抽選を実施します。そのため、受講希望者は初回授業前々日までに必ず仮登録をおこなってください。

・選抜終了後に受講決定者の学生証番号を Hoppii の「お知らせ」を使って告知します。掲載されていない学生は受講できません。登録を抹消してください。

・選抜を受けていない学生が 2 週目以降から授業に参加することはできません。

○複数の「文章論」クラスへの登録について

・「文章論」の授業は複数あります。授業内容と対象学部・学年、曜日・時限をよく確認してください。

・重複しての仮登録は可能です。選抜は授業開始日の順におこないます。

・重複しての本登録はできません。万が一、本登録の時点で重複があった場合には、必ずどれか一つだけを選んでください。

【Outline (in English)】**【Course outline】**

In this lesson, in addition to writing such as paragraph writing, you will learn a wide range of Japanese ranging from treatises, criticisms to the creation of novels.

【Learning Objectives】

The goal of this course is to give you a deeper understanding of how to write sentences in Japanese.

【Learning activities outside of classroom】

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

【Grading Criteria /Policies】

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end report: 40%、Short reports : 30%、in class contribution: 30%.

LIN100LA

言語学 A

2017 年度以降入学者

板井 美佐

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 2/Mon.2

単位数：2 単位

定員制

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

学生は言語学に関する基礎的な概念を学ぶ。言語とは何か、言語学の基盤となる音声学、音韻論とはどのようなものか、言語習得はどのようなことなのか等について学ぶとともに、言語のさまざまな事柄を客観的に捉え、分析する視点を身につける。

【到達目標】

学生は、言語学の概念について科学的な分析を行うための基礎的な方法が理解できるだけでなく、第二言語習得のメカニズム、第二言語習得研究の現状を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

1. 講義と演習（グループディスカッション・グループワーク）を中心に行う。
2. 授業の最後に、リアクションペーパーを提出する。
3. 次回の授業の頭でリアクションペーパーに対するフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション 言語学入門 1	言語学とは何か 言語の特質（1）
第 2 回	言語学入門 2	言語の特質（2）
第 3 回	言語学入門 3	言語の特質（3）
第 4 回	音声学 1	音声器官
第 5 回	音声学 2	調音
第 6 回	音声学 3	母音、子音
第 7 回	音韻論 1	異音、相補分布
第 8 回	音韻論 2	環境同化、音声的類似
第 9 回	音韻論 3	日本語の音韻体系
第 10 回	第二言語習得研究 1	第二言語習得研究の流れ
第 11 回	第二言語習得研究 2	中間言語
第 12 回	第二言語習得研究 3	学習者の母語と第二言語習得
第 13 回	第二言語習得研究 4	習得順序と発達順序
第 14 回	期末試験	期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

基本的に予習は必要ないが、復習は必要。
講義の骨子は PPT の形式で授業支援システムにアップロードするので、それをダウンロードした上で、授業では PPT の一部空白部分に講義ノート書いていくことが求められる。
授業は基本的に講義形式で行うが、授業内容の問いに対しグループ単位で考え、発表することがある。スマホの情報を発言内容に置き換えるのではなく、各自オリジナルの意見を発表することが期待される。

PPT を含め、授業で配布した資料は試験範囲に含まれる。

【テキスト（教科書）】

資料（テキストに相当）及び PPT は授業支援システムにアップロードしてある。

資料の配付は行わないので、毎回持参すること。
テキスト名 1：『日本語教師トレーニングマニュアル 3 よくわかる言語学入門 解説と演習』 著者：町田健ほか 出版社：バベルプレス 定価：2233 円＋税
テキスト名 2：『ことばの獲得 母語獲得と第二言語習得』 著者：鈴木孝明ほか 出版社：くろしお出版 定価：1800 円＋税

【参考書】

参考文献は適宜 PPT などで紹介する。

【成績評価の方法と基準】

期末試験を 100 点満点換算で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

さらなる履修者の積極的な授業参加を図りたい。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

※履修者数によっては、授業開始前に選抜を行なうかもしれない。

【Outline (in English)】

【Course outline】 This course introduces language, phonetics, phonology and another language acquisition, encouraging to analyze and seize the many aspects of the language and language learning.

【Learning Objectives】 The goals of this course are to understand the basic methods for scientific analysis of linguistic concepts, to understand the mechanism of second language acquisition and the current state of second language acquisition research.

【Learning activities outside of classroom】 Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course contents.

【Grading Criteria /Policy】 Final grade will be calculated by Final exam(100%).

LIN100LA

言語学 B

2017 年度以降入学者

板井 美佐

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 2/Mon.2

単位数：2 単位

定員制

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

前半は第一言語習得はどのようになされるか等について学ぶとともに、言語のさまざまな事柄を客観的に捉え、分析する視点を身につける。後半は、異文化コミュニケーションを概観することで異文化についての理解を深める。本講義では、学生は言語のさまざまな事柄を客観的に捉え、分析する視点を身につける。

【到達目標】

学生は、第一言語習得を含め、言語を取り巻くさまざまな事象を理解し、言語の多様性を意識した上で世界の多様性に気づくことになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

1. 講義を中心に行うが、適宜演習（グループワーク）も行う。
2. 授業の最後に、リアクションペーパーを提出する。
3. 次回の授業の頭でリアクションペーパーに対するフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	第 1 言語習得 1	第一言語とは？
第 2 回	第 1 言語習得 2	第一言語習得とは？
第 3 回	第 1 言語習得 3	第一言語習得研究の方法
第 4 回	第 1 言語習得メカニズム 1	第一言語習得のメカニズム
第 5 回	第 1 言語習得メカニズム 2	主な言語発達理論（基礎編）
第 6 回	第 1 言語習得メカニズム 3	主な言語発達理論（応用編）
第 7 回	母語獲得とインプットの役割 1	子どもの構造依存性 語順獲得母語獲得とインプットの役割
第 8 回	母語獲得とインプットの役割 2	肯定証拠と否定証拠
第 9 回	母語獲得とインプットの役割 3	インプットの効果
第 10 回	異文化理解 1	カルチャーショック
第 11 回	異文化理解 2	ジョハリの窓
第 12 回	異文化トレーニング 1	異文化トレーニング方法 1
第 13 回	異文化トレーニング 2	異文化トレーニング方法 2
第 14 回	期末試験	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

基本的に予習は必要ないが、復習は必要。
講義の骨子は PPT の形式で授業支援システムにアップロードするので、それをダウンロードした上で、授業では PPT の一部空白部分に講義ノート書いていくことが求められる。
授業は基本的に講義形式で行うが、授業内容の問いに対しグループ単位で考え、発表することがある。スマホの情報を発言内容に置き換えるのではなく、各自オリジナルの意見を発表することが期待される。

PPT を含め、授業で配布した資料は試験範囲に含まれる。

【テキスト（教科書）】

テキスト（テキスト相当）及び PPT は授業試験システムにアップロードしてある。

資料の配付は行わないので、毎回持参すること。

テキスト名：『ことばの獲得 母語獲得と第二言語習得 著者：鈴木孝明ほか 出版社：くろしお出版 定価：1800 円＋税』

【参考書】

PPT の参考文献に示した。

参考書名：『はじめて学ぶ異文化コミュニケーションー多文化共生と平和構築へ向けて』 著者：石井敏ほか 出版社：有斐閣選書

【成績評価の方法と基準】

全ての課題提出を期末試験に換算し、100 点満点換算で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

・第一言語習得理論、日本語を外国人に教えるための日本語教育文法に興味を持ってもらえてよかったと思う。

・前期に言語学 A を履修しなかった学生にも理解できるよう、言語学 B では前期言語学のエッセンス部分を丁寧にひろってから後期の講義内容へとつなげた。後期登録の学生はスムーズに授業に入っていたようでよかった。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【Outline (in English)】

【Course outline】 In the first half of the course, this course introduces about how first language acquisition is accomplished. In the second half, students will deepen their understanding of different cultures through an overview of cross-cultural communication.

【Learning Objectives】 The goals of this course are to understand various phenomena surrounding languages, including first language acquisition, and to become aware of the diversity of the world after being conscious of the diversity of languages.

【Learning activities outside of classroom】 Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course contents.

【Grading Criteria /Policy】 Final grade will be calculated by Final exam(100%).

LIN100LA

言語学 A

2017 年度以降入学者

副島 健作

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 4/Wed.4

単位数：2 単位

定員制

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

多言語化した国際地域社会や多文化社会に関する高度な理解力を養うため、言語学の基本的な知識と考え方に触れ、コミュニケーションの観点から「言語」はどうとらえられるか、客観的に分析できるようにすることを目的とします。

言語学は、ことばを分析し、「ことばの仕組み」を記述・説明する学問です。この授業では人間の言語を客観的に記述するのに必要な基本概念を紹介し、また、その過程で一つの現象に対する様々なアプローチを提示し、現代言語学で行なわれている主要な研究方法も概観します。それらを通じて、世界の言語に見られる構造と言語現象、およびそれらを説明するのに必要な基本概念を紹介し、

【到達目標】

1. 言語についてのヒトの営みについての一般的な知見を得る。
2. 言語学の方法についての基礎的な分野、音声学、音韻論、形態論、統語論、意味論の基本形式を理解する。
3. 他の学問領域と重なる語用論、社会言語学および心理言語学のような分野に触れ、ことばがさまざまな角度から分析・研究できることを理解する。
4. 現代言語学の主要な研究方法について認識を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

言語学とはどんな学問かについて概観します。

「言語学」の基礎的な術語・概念について講義し、どう言語を扱ってきたかを紹介したり、「コミュニケーション」と言語との関係について解説したりします。

一方的な講義にならないように、適宜対話方式で進めていくので、自分なりに参加するようにしてください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	言語と言語学	世界の言語と言語学を考える
第 2 回	音の作り方：音声学	「音声学」について解説する
第 3 回	音の使い方：音韻論	「音韻論」について解説する
第 4 回	単語のしくみ：形態論・語彙論	「形態論・語彙論」について解説する
第 5 回	意味の世界：意味論 1	「意味論」について解説する論
第 6 回	単語間の意味関係：意味論 2	単語間の意味関係について考察する
第 7 回	文のしくみ：統語論 1	「統語論」について解説する
第 8 回	文の意味：統語論 2	文の意味のかかわる要素について日本語と英語を例に概観する
第 9 回	談話のしくみ：誤用論 1	「語用論」の観点について紹介する
第 10 回	会話のしくみ：誤用論 2	コミュニケーションを考えるときの要素について解説する
第 11 回	言語のバリエーション：社会言語学 1	「社会言語学」について概観する

第 12 回 言語の変化：社会言語学 2 言語変化が社会の中でどのように進行しているのかを概観する

第 13 回 文理解：心理言語学 1 文を理解するときのしくみについて解説する

第 14 回 文産出：心理言語学 2 (授業内試験をする可能性あり) 文を話すことができるしくみについて解説する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義内容は基礎的な内容に限られるので、少しでも不明な箇所や疑問点があれば、その時点で質問するなり、紹介する参考資料等を参考にして、理解をしておくこと。

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

高橋留美 他 (2021) 『やさしい言語学』

【参考書】

佐久間淳一 他 (2007) 『言語学入門』 研究社

千野栄一 (1994) 『言語学の開かれた扉』 三省堂、

必要に応じて授業中に紹介したりや支援システムにリストをアップする予定です。

【成績評価の方法と基準】

課題：30%

平常点：20%

期末試験：50%で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【その他の重要事項】

積極的に授業に参加するという意志が大切です。つまり、自分なりに疑問を持とうという姿勢です。そうすると、何が理解できていて、何が理解できていないのかがわかってきます。ただ座って聞いていだけでは意味がありません。問題意識を持って、チャレンジしてくれることを期待します。

【Outline (in English)】

【Course outline】

In order to develop an advanced understanding of multilingual international communities and multicultural societies, students will be exposed to the basic knowledge and concepts of linguistics and will be able to objectively analyze how "language" can be viewed from the perspective of communication.

Linguistics is a discipline that analyzes language and describes and explains the "mechanism of language." In this class, we will introduce the basic concepts necessary to objectively describe human language. In the process, we will also present various approaches to a single phenomenon and overview the major research methods used in modern linguistics. Through these approaches, we will introduce the structures and linguistic phenomena found in the world's languages and the basic concepts needed to explain them.

【Learning Objectives】

By the end of the course, students should be able to do the followings:

1. To gain a general knowledge of human activity in language.
2. To understand the basic forms of the methods of linguistics: phonetics, phonology, morphology, syntax, and semantics.
3. To understand that language can be analyzed and studied from various perspectives, touching on areas such as pragmatics, sociolinguistics, and psycholinguistics, which overlap with other disciplines.
4. To develop an awareness of the main research methods in modern linguistics.

【Learning activities outside of classroom】

Since the lecture content is limited to the basics, if there are any unclear points or questions, please ask questions or refer to the reference materials introduced at that time to ensure understanding.

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria /Policy】

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Term-end examination: 50%, Assignments : 30%, in class contribution: 20%

LIN100LA

言語学B

2017年度以降入学者

副島 健作

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 4/Wed.4

単位数：2単位

定員制

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

多言語化した国際地域社会や多文化社会に関する高度な理解力を養うため、言語学の基本的な知識と考え方に触れ、コミュニケーションの観点から「言語」はどうとらえられるか、客観的に分析できるようになることを目的とします。

言語学は、ことばを分析し、「ことばの仕組み」を記述・説明する学問です。この授業では人間の言語を客観的に記述するのに必要な基本概念を紹介し、また、その過程で一つの現象に対する様々なアプローチを提示し、現代言語学で行なわれている主要な研究方法も概観します。それらを通じて、世界の言語に見られる構造と言語現象、およびそれらを説明するのに必要な基本概念を紹介し、

【到達目標】

1. 言語についてのヒトの営みについての一般的な知見を得る。
2. 世界の言語には思いもよらない現象があることを、日本語や英語のしくみと違う点・似ている点に注目することで、理解する。
3. 他の学問領域と重なる言語学の分野、歴史・比較・地理言語学、社会言語学、認知言語学、対照言語学および第二習得論のような分野に触れ、ことばがさまざまな角度から分析・研究できることを理解する。
4. 現代言語学の主要な研究方法について認識を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

言語学とはどんな学問かについて概観します。

世界の言語について概観し、言語学と呼ばれるさまざまな分野においてそれらをどう扱ってきたかを紹介したり、「コミュニケーション」と言語との関係について解説したりします。

一方的な講義にならないように、適宜対話方式で進めていくので、自分なりに参加するようにしてください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	内容・授業のすすめ方の説明 「ことば」の記録
第2回	歴史言語学の成果	「歴史言語学」の概説と、それでわかったことを紹介する世界の言語の現状と、言語の起源について
第3回	比較言語学の成果	「比較言語学」の概説と、それでわかったことを紹介する
第4回	地理言語学の成果	「地理言語学」の概説と、それでわかったことを紹介する
第5回	社会言語学の成果 1	「社会言語学」でわかったことを紹介する
第6回	社会言語学の成果 2	「社会言語学」でわかったことを紹介する
第7回	認知言語学の成果	「認知言語学」を概観し、それがもたらす成果について解説する
第8回	第二言語習得について	「第二言語取得論」を概観し、そこでわかったことを紹介する

第9回	文字論	「文字論」について解説する
第10回	言語研究の歴史	言語学の成立とその変遷について概説する
第11回	世界の諸言語について（発表）1	世界の言語の現状と、言語の起源などについて、受講生が学んでいる外国語を自ら調べて発表する
第12回	世界の諸言語について（発表）2	世界の言語の現状と、言語の起源などについて、受講生が学んでいる外国語を自ら調べて発表する
第13回	言世界の諸言語について（発表）3	世界の言語の現状と、言語の起源などについて、受講生が学んでいる外国語を自ら調べて発表する
第14回	「ことば」を考えると きの問題等 (授業内試験をする可能性あり)	「ことば」の力、言語の発見等について考える

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義内容は基礎的な内容に限られるので、少しでも不明な箇所や疑問点があれば、その時点で質問するなり、紹介する参考資料等を参考にして、理解をしておくこと。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特にテキストは指定しません。

【参考書】

風間喜代三 (1978) 『言語学の誕生』 岩波新書
 佐久間淳一他 (2007) 『言語学入門』 研究社
 スティーブソン/江村他訳 (2010) 『図説 ことばの世界－欧米の言語史－』 青山社
 千野栄一 (1994) 『言語学の開かれた扉』 三省堂
 町田健・初山洋介 (1995) 『よくわかる言語学入門－解説と演習』 バベルプレス
 小泉政利 (2016) 『ここから始める言語学プラス統計分析』 共立出版
 初山洋介 (2009) 『日本語表現で学ぶ入門からの認知言語学』 研究社
 迫田久美子 (2002) 『日本語教育に生かす第二言語習得研究』 アルク
 野田尚史・迫田久美子・渋谷勝己・小林典子 (2001) 『日本語学習者の文法習得』 大修館書店

【成績評価の方法と基準】

課題：30%

平常点：20%

期末試験：50%で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【その他の重要事項】

積極的に授業に参加するという意志が大切です。つまり、自分なりに疑問を持とうという姿勢です。そうすると、何が理解できていて、何が理解できていないのかがわかってきます。ただ座って聞いているだけでは意味がありません。問題意識を持って、チャレンジしてくれることを期待します。

【Outline (in English)】

【Course outline】

In order to develop an advanced understanding of multilingual international communities and multicultural societies, students will be exposed to the basic knowledge and concepts of linguistics and will be able to objectively analyze how "language" can be viewed from the perspective of communication.

Linguistics is a discipline that analyzes language and describes and explains the "mechanism of language." In this class, we will introduce the basic concepts necessary to objectively describe human language. In the process, we will also present various approaches to a single phenomenon and overview the major research methods used in modern linguistics. Through these approaches, we will introduce the structures and linguistic phenomena found in the world's languages and the basic concepts needed to explain them.

【Learning Objectives】

By the end of the course, students should be able to do the followings:

1. To gain a general knowledge of human activity in language.

2. To understand that there are unexpected phenomena in the world's languages by focusing on the differences and similarities between the systems of Japanese and English.
3. To understand that language can be analyzed and studied from various angles through exposure to fields of linguistics that overlap with other disciplines, such as historical, comparative, and geographical linguistics, sociolinguistics, cognitive linguistics, contrastive linguistics, and second acquisition theory.
4. To develop an awareness of the main research methods in modern linguistics.

[Learning activities outside of classroom]

Since the lecture content is limited to the basics, if there are any unclear points or questions, please ask questions or refer to the reference materials introduced at that time to ensure understanding.

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

[Grading Criteria /Policy]

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Term-end examination: 50%, Assignments : 30%, in class contribution: 20%

LIN100LA

言語学 A

2017 年度以降入学者

齊藤 雄介

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 1/Tue.1

単位数：2 単位

定員制

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

学生は言語学の概要を学ぶ。言語学にはどのような分野があり、それらが実際に使用される言語とどのように関連しているかを考察し、言語を様々な視点から分析する方法を身に付ける。

【到達目標】

学生は言語を分析するための基礎的な方法を理解し、言語研究の現状を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

基本的には講義形式で授業を進めるが、何らかのテーマについてグループディスカッションを求めることもある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	言語学入門	言語学とは何か、どのような分野があるのかについて説明する。
第 2 回	音声学・音韻論 1	音声学と音韻論の違い、音声構造
第 3 回	音声学・音韻論 2	音声器官、調音点
第 4 回	音声学・音韻論 3	母音と子音
第 5 回	音声学・音韻論 4	音素と異音
第 6 回	音声学・音韻論 5	日本語と英語の強制的の違い
第 7 回	形態論 1	語の構造と語の構成
第 8 回	形態論 2	派生接辞と屈折接辞
第 9 回	形態論 3	語彙範疇と機能範疇
第 10 回	形態論 4	派生、屈折、複合と接頭辞、接尾辞の関係
第 11 回	形態論 5	語の右側主要部規則
第 12 回	統語論 1	文法とは何か
第 13 回	統語論 2	文法構造
第 14 回	期末試験	期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

ほぼ全履修者にとって初めての内容であることが考えられるため、予習は必要ないが、毎回の授業の復習をしておくこと。毎回プリントを配布するので、その内容も確認しておくこと。

【テキスト（教科書）】

使用しない

【参考書】

毎回プリントを配布する。

『言語学入門』 西原哲雄（編） 朝倉書店

【成績評価の方法と基準】

平常点 20%、期末試験 80%

【学生の意見等からの気づき】

本科目は講義形式で行いますが、リアクションペーパーなどを用いて双方向の授業を目指します。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

特になし

【Outline (in English)】

Course outline: Students learn the outline of Linguistics. Students learn what kinds of field are in Linguistics, how they are related to languages used in our lives, and how to analyze languages in some perspectives.

Learning Objectives: Students understand a fundamental method to analyze languages and linguistic studies.

Learning activities outside of classroom: Students reconsider the content of previous classes.

Grading Criteria /Policy: Participation: 20%, Final Exam: 80%

LIN100LA

言語学B

2017年度以降入学者

齊藤 雄介

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 1/Tue.1

単位数：2単位

定員制

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

学生は言語学の概要を学ぶ。言語学にはどのような分野があり、それらが実際に使用される言語とどのように関連しているかを考察し、言語を様々な視点から分析する方法を身に付ける。

【到達目標】

学生は言語を分析するための基礎的な方法を理解し、言語研究の現状を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

基本的には講義形式で授業を進めるが、何らかのテーマについてグループディスカッションを求めることもある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	言語学入門	言語学とは何かを説明し、言語学Aの内容を若干復習する
第2回	統語論1	文法とは何か 文の構造
第3回	統語論2	下位範疇と句構造規則
第4回	統語論3	変形文法
第5回	統語論4	Xバー統語論
第6回	意味論1	語と語の意味関係
第7回	意味論2	語の内部の意味関係
第8回	意味論3	語の意味と背景知識
第9回	意味論4	意味と話者の関係
第10回	語用論1	語用論とは何か
第11回	語用論2	言語能力と言語運用と語用論
第12回	語用論3	会話仮説理論
第13回	語用論4	関連性理論
第14回	期末試験	期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

ほぼ全履修者にとって初めての内容であることが考えられるため、予習は必要ないが、毎回の授業の復習をしておくこと。使用するテキスト以外に授業中に配布したプリントも試験範囲に含まれるため、その内容も確認しておくこと。

【テキスト（教科書）】

『言語学入門』 西原哲雄（編） 朝倉書店

【参考書】

毎回プリントを配布する。

【成績評価の方法と基準】

平常点 20%, 期末試験 80%

【学生の意見等からの気づき】

本科目は講義形式で行いますが、リアクションペーパーなどを用いて双方向の授業を目指します。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

特になし

【Outline (in English)】

Course outline: Students learn the outline of Linguistics. Students learn what kinds of field are in Linguistics, how they are related to languages used in our lives, and how to analyze languages in some perspectives.

Learning Objectives: Students understand a fundamental method to analyze languages and linguistic studies.

Learning activities outside of classroom: Students reconsider the content of previous classes.

Grading Criteria /Policy: Participation: 20%, Final Exam: 80%

PHL100LA

哲学 I

2017 年度以降入学者

佐藤 真人

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 3/Mon.3

単位数：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

古代ギリシアから中世初期までの西洋哲学史に即して、世界（自然）と精神（魂）はどのように考えられてきたのか、それらを知るためにいかなる方法がとられてきたのかを学びます。

世界の探究はどのように行われたのか。精神とは何か。世界と精神とはいかなる関係にあるのか。世界と精神について、われわれは何をどのように知ることができるのか。こういった問題に対する古代ギリシア以来の哲学者たちの探究を通じて西洋哲学の基礎を理解し、それによって現代の私たちが自身で論理的に考え、探究するための力を養うのが、この授業の目的です。

【到達目標】

- ① 世界（自然）と精神（魂）の問題について、西洋哲学の基礎的な知識と考え方を身につける。
- ② 西洋哲学がいかなる考えのもとで成立し発展してきたのか、その内容と論理の構造を理解する。
- ③ 授業で理解・考察したことを、自身の言葉で適切かつ論理的に説明することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

対面の講義形式で、哲学者の思想や配布したテキストについて、スライド資料を用いつつ説明します。授業後に出席票を兼ねたリアクション・ペーパー（各自の考察を論述）を毎回提出してもらいます。その幾つかを次回授業で共有し、コメントします。

また、人数次第で中間の小テストを実施する予定です。

なお、この授業は秋学期の「哲学 II」へ続くので、通年での履修が望ましいですが、どちらかを別個に履修することも可能です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	導入部：哲学とは？	世界があることの驚異と探究の開始
第 2 回	世界はどのように成り立っているのか？	古代ギリシアにおける「コスモス」の誕生と自然の根源の探究
第 3 回	古代ギリシアの真理・善・美 ①	ソフィストの知とソクラテスの「不知」
第 4 回	古代ギリシアの真理・善・美 ②	プラトンの知識論と魂の不死
第 5 回	古代ギリシアの真理・善・美 ③	プラトンの愛、美、真実在
第 6 回	アリストテレスの知識論	体系とは何か？ アリストテレスの論理学と知の区分
第 7 回	アリストテレスの自然学	四つの原因と運動変化
第 8 回	アリストテレスの魂論	魂の役割と機能
第 9 回	初期ストア派の「理」の学と自然哲学	ロゴスと自然の探究の意味
第 10 回	絶対に確かな真理はあるのか？	懐疑主義の脅威

第 11 回 新プラトン主義の宇宙論 世界の「流出」と「三つの存在者」論

第 12 回 自己の内面の探求 ① プロティノスのエクスタシスと「一者」への回帰

第 13 回 自己の内面の探求 ② アウグスティヌスによる「私」の時間論

第 14 回 自己の内面の探求 ③ アウグスティヌスによる愛と三位一体の理論

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配布されたテキストを丁寧に読み、理解した内容や疑問などを各自でまとめるようにしてください。

内容のまとめと、疑問・質問を明らかにしたうえで授業に臨めば理解がもっと深まり、そこからさらなる疑問が生じることで、どうなっているのかもっと知りたいという、思考の流れの好循環が生まれます。

本授業の準備学習・復習は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストを授業支援システムで適宜配布します。

【参考書】

参考書は都度提示しますが、何よりも、扱う哲学者たちの文章をよく読んでください。

授業全般に関わる概説書としては、以下を勧めます。

・内山勝利ほか編、『哲学の歴史』、1～3 巻、中央公論新社、2007～2008 年。

・納富信留、『ギリシア哲学史』、筑摩書房、2021 年

【成績評価の方法と基準】

平常点（リアクション・ペーパーや参加姿勢など）20%、中間の小テスト 20%、期末試験（またはレポート）60%（中間テストを実施しない場合は 80%）、の割合とします。

なお、欠席 4 回で不可としますので、注意してください（事情がある場合は要相談）。

【学生の意見等からの気づき】

なるべく丁寧にわかりやすい説明と、皆さんの自主的な思考を促す授業を心がけます。

【その他の重要事項】

哲学は受け身で聞き流すだけでは身につけません。ぜひ自分でテキストや参考文献を読み、考えるようにしてください。

【Outline (in English)】

We will learn the methods and the results of western philosophers, from the ancient period to the early medieval period, on how they consider the world (nature) and the mind, and how they see their relations, by examining their thoughts and by reading their texts. The purpose of this course is to understand the fundamentals of western philosophy on these issues and, through this, to develop the ability to explore knowledge and think logically by oneself.

Students are expected by the end of course 1) to acquire basic knowledge and ideas of Western philosophy on issues such as the world and the mind. 2) to understand the content and logical structure of the ideas of universality or diversity in the history of Western philosophy, and on what basis they were established and developed, and 3) to explain their understandings clearly and logically in their own words.

Before each class meeting, students are to read carefully the relevant text of the next class and summarize what the text is arguing for. Required study time is two hours each before and after the class.

The grade will be decided on the following proportion. In-class contribution: 25%, Mid-term examination: 20%, Term-end examination or report: 55% (if no mid-term examination is given, 75%).

PHL100LA

哲学Ⅱ

2017年度以降入学者

佐藤 真人

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 3/Mon.3

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中世から近世までの西洋哲学史に即して、世界（自然）、神、精神（魂）はどのように考えられてきたのか、それらを知るためにいかなる方法がとられてきたのかを学びます。

世界と神の探究は哲学によってどのように行われたのか。精神とは何か。世界と神、精神はいかなる関係にあるのか。世界と神、精神について、われわれは何をどのように知ることができるのか。こういった問題に対する中世から近世までの哲学者たちの探究を通じて西洋哲学の基礎を理解し、それによって現代の私たちが自身で論理的に考え、探究するための力を養うのが、この授業の目的です。

【到達目標】

- ① 世界（自然）、神、精神（魂）の問題について、西洋哲学の基礎的な知識と考え方を身につける。
- ② 西洋哲学がいかなる考えのもとで成立し発展してきたのか、その内容と論理の構造を理解する。
- ③ 授業で理解・考察したことを、自身の言葉で適切かつ論理的に説明することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

対面の講義形式で、哲学者の思想や配布したテキストについて、スライド資料を用いつつ説明します。授業後に出席票を兼ねたリアクション・ペーパー（各自の考察を論述）を毎回提出してもらいます。その幾つかを次回授業で共有し、コメントします。

また、人数次第で中間の小テストを実施する予定です。

なお、この授業は「哲学Ⅰ」から引き続いているので、通年での履修が望ましいですが、どちらかのみ個別で履修することも可能です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	導入部	中世哲学の発展と世界の見方の変化
第2回	理性と信仰の調和	キリスト教における哲学の導入
第3回	神の存在は証明可能か？①	アンセルムスとトマス・アクィナスによる神の存在証明
第4回	神の存在は証明可能か？②	トマスの宇宙論的証明とドゥナス・スコトゥスによる「存在」
第5回	宇宙と無限	ニコラウス・クザヌスによる宇宙像と神を知る方法
第6回	コスモスの解体と「幾何学的宇宙」の発見	世界認識の刷新と「近世哲学」の始まり
第7回	デカルト哲学の成立	「学校」哲学への懐疑と数学的方法の探究
第8回	デカルト哲学の発展	「考える私」と神の発見
第9回	デカルト哲学の体系	観念、実体、情念の理論の革新性
第10回	パスカルの哲学批判	「考える葦」と憎むべき「私」
第11回	マルブランシュの物的認識論	明晰な自然界と闇の「私」
第12回	スピノザの幾何学的哲学	至福と真理の探究

第13回 スピノザの倫理学とラ「神または自然」と人間の自由
イブニッツの批判

第14回 ライブニッツ哲学の体系的世界の「表現」と調和

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配布されたテキストを丁寧に読み、理解した内容や疑問などを各自でまとめるようにしてください。

内容のまとめと、疑問・質問を明らかにしたうえで授業に臨めば理解がもっと深まり、そこからさらなる疑問が生じることで、どうなっているのかももっと知りたいという、思考の流れの好循環が生まれます。

本授業の準備学習・復習は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストを授業支援システムで適宜配布します。

【参考書】

参考書は都度提示しますが、何よりも、扱う哲学者たちの文章をよく読んでください。

授業全般に関わる概説書としては、以下を勧めます。

・内山勝利ほか編、『哲学の歴史』、3～5巻、中央公論新社、2007～2008年。

・神崎繁ほか編、『西洋哲学史』Ⅱ、Ⅲ、講談社選書メチエ、2011～2012年。

【成績評価の方法と基準】

平常点（リアクション・ペーパーや参加姿勢など）20%、中間の小テスト20%、期末試験（またはレポート）60%（中間テストを実施しない場合は80%）、の割合とします。

なお、欠席4回で不可としますので、注意してください（事情がある場合は要相談）。

【学生の意見等からの気づき】

なるべく丁寧にわかりやすい説明と、皆さんの自主的な思考を促す授業を心がけます。

【その他の重要事項】

哲学は受け身で聞き流すだけでは身につかないので、テキストや参考文献をぜひ自分で読み、考えるようにしてください。

【Outline (in English)】

We will learn the methods and the results of western philosophers, from the medieval period to the early modern period, on how they consider the world (nature), God, and the mind, and how they see their relations, by examining their thoughts and by reading their texts. The purpose of this course is to understand the fundamentals of western philosophy on these issues and, through this, to develop the ability to explore knowledge and think logically by oneself.

Students are expected by the end of course 1) to acquire basic knowledge and ideas of Western philosophy on issues such as the world, God, and the mind. 2) to understand the content and logical structure of the ideas of universality or diversity in the history of Western philosophy, and on what basis they were established and developed, and 3) to explain their understandings clearly and logically in their own words.

Before each class meeting, students are to read carefully the relevant text of the next class and summarize what the text is arguing for. Required study time is two hours each before and after the class.

The grade will be decided on the following proportion. In-class contribution: 25%, Mid-term examination: 20%, Term-end examination or report: 55% (if no mid-term examination is given, 75%).

PHL100LA

哲学Ⅰ

2017年度以降入学者

計良 隆世

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 3/Tue.3

単位数：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

哲学の基本的性格と歴史と基本問題を概観します。この概観によって、教養知の原理を理解し、現代人が直面する諸問題を、広くて新しい視野から考え、解決することを目的とします。

この授業では、特に、西洋古代ギリシャ哲学・哲学史を学びながら、現代人にも関わる哲学の基本問題を考察していきます。

【到達目標】

基本的性格と歴史と基本問題の探究を通して教養知の原理としての哲学を理解できるようにします。

この授業では、特に、以下の事柄・問題の深い理解を目指します：

- ・アイデア説の哲学史上の意味
- ・知の普遍性、価値に関する共通理解の可能性の根拠
- ・相対主義・懐疑主義・モラルの危機をどのように乗り越えるか

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は講義形式です。毎回、レジュメと資料を読み、解説する形で、授業を進めていきます。

学期中、単元終了ごとに、授業内容確認小テストを行います（4～5回実施予定）。

課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	哲学Ⅰのオリエンテーション	この授業について 哲学（愛知） 哲学の方法
第2回	哲学の基本的性格 1	世界像と哲学
第3回	哲学の基本的性格 2	原理の探求 ヘラクレイトス・ロゴス パルメニデス
第4回	哲学の歴史 1	ヌース説 ソクラテス 現象学的方法 ソクラテス VS 快楽主義
第5回	哲学の歴史 2	プラトン（1） 愛（エロース）と超越
第6回	哲学の歴史 3	プラトン（2） アイデア説
第7回	哲学の歴史 4	プラトン（3） アイデア説批判
第8回	哲学の歴史 5	プラトン（4） アリストテレスのアイデア説解釈
第9回	哲学の歴史 6	プラトン（5） 善のアイデアと現代的プラトン批判
第10回	哲学の基本問題 1	知の普遍性 その可能性の根拠
第11回	哲学の基本問題 2	知性と神：プラトン
第12回	哲学の基本問題 3	モラルの危機と哲学

第13回 哲学の基本問題 4 一元論思想とその問題点

東西の一元論思想

第14回 哲学Ⅰのまとめ 授業内試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

授業前学習：レジュメ・資料・参考書該当箇所の精読

授業後学習：授業内容の確認、参考書の熟読、小テストへの回答

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません。レジュメ・資料はプリントで配布します。

【参考書】

竹田青嗣・西研著『はじめての哲学史』、有斐閣アルマ、1998年
その他の参考書は、授業毎に指示します。

【成績評価の方法と基準】

学期末の授業内筆記試験の成績（60%）、授業内容確認小テストの成績（30%）そして平常点（10%）とにより評価する。

授業内筆記試験では、「到達目標」に掲げた事柄の理解度を試すための問題を出す予定。

【学生の意見等からの気づき】

哲学を授業で学ぶのは、多くの大学生にとって初めてのことだろうと思います。解説は丁寧に行いますので、テキスト・資料を深く読み、哲学者の思想の本質・核心を正しく真直ぐに捉えるように努めてください。

【学生が準備すべき機器他】

パソコン（学習支援システムを利用するため）

【Outline (in English)】

This course introduces ancient Greek philosophy, especially the philosophy of Plato, to students taking this course.

By the end of the course, students should be able to understand the followings:

1. The meaning of Plato's idea theory in the history of philosophy.
2. The grounds for the possibility of common understanding on values.
3. How to overcome relativism, skepticism and the moral crises caused by them.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end examination (60%), Short reports (30%) and Contribution in class (10%).

PHL100LA

哲学Ⅱ

2017年度以降入学者

計良 隆世

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 3/Tue.3

単位数：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

哲学は、古い常識を批判し、新しい常識をクリエートします。このような観点から、古代から現代に到る哲学の根本問題を、古代から現代の主要学説を手がかりにしながらできるだけ平明に解説します。この授業では、特に、「生の意味と価値」・「認識の確実性・客観性」という近代哲学の問題、そして「ニヒリズム」という現代社会とも関わる問題を考察します。

【到達目標】

主要な哲学説の根本問題を学習することを通して、常識批判としての哲学を理解することを到達目標とします。

この授業では、特に、以下の事柄についての深い理解を目指します：

- ・近代哲学の難問とその解決策。
- ・ニヒリズムとそれへの対応法（どう生きるべきかについて）。
- ・世界像の生成（世界の秩序付け）の原理。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は講義形式です。毎回、レジュメと資料を読み、解説する形で、授業を進めていきます。

学期中、単元終了ごとに、授業内容確認小テストを行います（4～5回実施予定）。

課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	哲学Ⅱのオリエンテーション	この授業について キリスト教 アウグスティヌス
第2回	哲学の基本的性格1	普遍とは？ 唯名論・實在論 オッカムの剃刀
第3回	哲学の基本的性格2	近代の学問と世界像 自然観・社会観の変更
第4回	哲学の根本問題について1	近代哲学は何を問題としたか？ 生の意味と価値 認識の確実性・客観性
第5回	哲学の根本問題について2	デカルトの二元論
第6回	哲学の根本問題について3	デカルトが残した近代哲学の難問 物心問題 主客一致の難問
第7回	哲学の根本問題について4	認識批判1 共有可能な知識とは？
第8回	哲学の根本問題について5	認識批判2 客観性は成立するのか 合理論・経験論からカントへ
第9回	哲学の根本問題について6	カントの超越論的哲学 認識の客観性

第10回 哲学の根本問題について7 カントと近代哲学の難問（カント哲学の意義と問題点）

第11回 哲学の根本問題について8 超越論的哲学の展開1 超越論的現象学

第12回 哲学の根本問題について9 超越論的哲学の展開2 世界信念

第13回 現代世界と哲学について ニヒリズム
ニーチェの対応法
「生きること」それ自体に意味はあるのか？

第14回 哲学Ⅱのまとめ 世界像生成の根本原理

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

授業前学習：レジュメ・資料・参考書該当箇所の精読

授業後学習：授業内容の確認、参考書の熟読、小テストへの回答

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません。レジュメ・資料はプリントで配布します。

【参考書】

竹田青嗣・西研著『はじめての哲学史』、有斐閣アルマ、1998年
その他の参考書は、授業毎に指示します。

【成績評価の方法と基準】

学期末レポート試験の成績（60%）、授業内容確認小テストの成績（30%）そして平常点（10%）とにより評価する。

学期末レポート試験では、「到達目標」に掲げた事柄の理解度を試すための問題を課す予定。

【学生の意見等からの気づき】

授業で使用するレジュメと説明がわかりやすかったようです。これからも丁寧な解説につとめたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

パソコン（学習支援システムを利用するため）

【Outline (in English)】

The main aim of this course is to give students an understanding of the fundamental problems dealt with the Western philosophy after Descartes.

By the end of the course, students should be able to understand the followings:

1. The problems which have arisen from Descartes' dualism.
2. Kant's and Husserl's solutions to the problems.
3. The problem of nihilism pointed out by Nietzsche, and his solutions to the problem.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end examination (60%), Short reports (30%) and Contribution in class (10%).

PHL100LA

哲学Ⅰ

2017年度以降入学者

計良 隆世

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 4/Tue.4

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

哲学の基本的性格と歴史と基本問題を概観します。この概観によって、教養知の原理を理解し、現代人が直面する諸問題を、広くて新しい視野から考え、解決することを目的とします。

この授業では、特に、西洋古代ギリシャ哲学・哲学史を学びながら、現代人にも関わる哲学の基本問題を考察していきます。

【到達目標】

基本的性格と歴史と基本問題の探究を通して教養知の原理としての哲学を理解できるようにします。

この授業では、特に、以下の事柄・問題の深い理解を目指します：

- ・アイデア説の哲学史上の意味
- ・知の普遍性、価値に関する共通理解の可能性の根拠
- ・相対主義・懐疑主義・モラルの危機をどのように乗り越えるか

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は講義形式です。毎回、レジュメと資料を読み、解説する形で、授業を進めていきます。

学期中、単元終了ごとに、授業内容確認小テストを行います（4～5回実施予定）。

課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	哲学Ⅰのオリエンテーション	この授業について 哲学（愛知） 哲学の方法
第2回	哲学の基本的性格 1	世界像と哲学
第3回	哲学の基本的性格 2	原理の探求 ヘラクレイトス・ロゴス パルメニデス
第4回	哲学の歴史 1	ヌース説 ソクラテス 現象学的方法 ソクラテス VS 快楽主義
第5回	哲学の歴史 2	プラトン（1） 愛（エロース）と超越
第6回	哲学の歴史 3	プラトン（2） アイデア説
第7回	哲学の歴史 4	プラトン（3） アイデア説批判
第8回	哲学の歴史 5	プラトン（4） アリストテレスのアイデア説解釈
第9回	哲学の歴史 6	プラトン（5） 善のアイデアと現代的プラトン批判
第10回	哲学の基本問題 1	知の普遍性 その可能性の根拠
第11回	哲学の基本問題 2	知性と神：プラトン
第12回	哲学の基本問題 3	モラルの危機と哲学

第13回 哲学の基本問題 4 一元論思想とその問題点

東西の一元論思想

第14回 哲学Ⅰのまとめ 授業内試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

授業前学習：レジュメ・資料・参考書該当箇所の精読

授業後学習：授業内容の確認、参考書の熟読、小テストへの回答

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません。レジュメ・資料はプリントで配布します。

【参考書】

竹田青嗣・西研著『はじめての哲学史』、有斐閣アルマ、1998年
その他の参考書は、授業毎に指示します。

【成績評価の方法と基準】

学期末の授業内筆記試験の成績（60%）、授業内容確認小テストの成績（30%）そして平常点（10%）とにより評価する。

授業内筆記試験では、「到達目標」に掲げた事柄の理解度を試すための問題を出す予定。

【学生の意見等からの気づき】

哲学を授業で学ぶのは、多くの大学生にとって初めてのことだろうと思います。解説は丁寧に行いますので、テキスト・資料を深く読み、哲学者の思想の本質・核心を正しく真直ぐに捉えるように努めてください。

【学生が準備すべき機器他】

パソコン（学習支援システムを利用するため）

【Outline (in English)】

This course introduces ancient Greek philosophy, especially the philosophy of Plato, to students taking this course.

By the end of the course, students should be able to understand the followings:

1. The meaning of Plato's idea theory in the history of philosophy.
2. The grounds for the possibility of common understanding on values.
3. How to overcome relativism, skepticism and the moral crises caused by them.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end examination (60%), Short reports (30%) and Contribution in class (10%).

PHL100LA

哲学Ⅱ

2017年度以降入学者

計良 隆世

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 4/Tue.4

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

哲学は、古い常識を批判し、新しい常識をクリエートします。このような観点から、古代から現代に到る哲学の根本問題を、古代から現代の主要学説を手がかりにしながらできるだけ平明に解説します。この授業では、特に、「生の意味と価値」・「認識の確実性・客観性」という近代哲学の問題、そして「ニヒリズム」という現代社会とも関わる問題を考察します。

【到達目標】

主要な哲学説の根本問題を学習することを通して、常識批判としての哲学を理解することを到達目標とします。
この授業では、特に、以下の事柄についての深い理解を目指します：
・近代哲学の難問とその解決策。
・ニヒリズムとそれへの対応法（どう生きるべきかについて）。
・世界像の生成（世界の秩序付け）の原理。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は講義形式です。毎回、レジュメと資料を読み、解説する形で、授業を進めていきます。
学期中、単元終了ごとに、授業内容確認小テストを行います（4～5回実施予定）。
課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	哲学Ⅱのオリエンテーション	この授業について キリスト教 アウグスティヌス
第2回	哲学の基本的性格1	普遍とは？ 唯名論・実在論 オッカムの剃刀
第3回	哲学の基本的性格2	近代の学問と世界像 自然観・社会観の変更
第4回	哲学の根本問題について1	近代哲学は何を問題としたか？ 生の意味と価値 認識の確実性・客観性
第5回	哲学の根本問題について2	デカルトの二元論
第6回	哲学の根本問題について3	デカルトが残した近代哲学の難問 物心問題 主客一致の難問
第7回	哲学の根本問題について4	認識批判1 共有可能な知識とは？
第8回	哲学の根本問題について5	認識批判2 客観性は成立するのか 合理論・経験論からカントへ
第9回	哲学の根本問題について6	カントの超越論的哲学 認識の客観性

第10回 哲学の根本問題について7 カントと近代哲学の難問（カント哲学の意義と問題点）

第11回 哲学の根本問題について8 超越論的哲学の展開1 超越論的現象学

第12回 哲学の根本問題について9 超越論的哲学の展開2 世界信念

第13回 現代世界と哲学について ニヒリズム
ニーチェの対応法
「生きること」それ自体に意味はあるのか？

第14回 哲学Ⅱのまとめ 世界像生成の根本原理

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。
授業前学習：レジュメ・資料・参考書該当箇所の精読
授業後学習：授業内容の確認、参考書の熟読、小テストへの回答

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません。レジュメ・資料はプリントで配布します。

【参考書】

竹田青嗣・西研著『はじめての哲学史』、有斐閣アルマ、1998年
その他の参考書は、授業毎に指示します。

【成績評価の方法と基準】

学期末レポート試験の成績（60%）、授業内容確認小テストの成績（30%）そして平常点（10%）とにより評価する。
学期末レポート試験では、「到達目標」に掲げた事柄の理解度を試すための問題を課す予定。

【学生の意見等からの気づき】

授業で使用するレジュメと説明がわかりやすかったようです。これからも丁寧な解説につとめたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

パソコン（学習支援システムを利用するため）

【Outline (in English)】

The main aim of this course is to give students an understanding of the fundamental problems dealt with the Western philosophy after Descartes.

By the end of the course, students should be able to understand the followings:

1. The problems which have arisen from Descartes' dualism.
2. Kant's and Husserl's solutions to the problems.
3. The problem of nihilism pointed out by Nietzsche, and his solutions to the problem.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end examination (60%), Short reports (30%) and Contribution in class (10%).

PHL100LA

哲学 I

2017 年度以降入学者

近堂 秀

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 2/Thu.2

単位数：2 単位

その他属性：〈優〉

【Outline (in English)】

This course deals with the basic concepts and history of philosophy.

(Learning activities outside of classroom)

After each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

(Grading Criteria /Policies)

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Term-end report: 70%, in class contribution: 30%.

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

哲学の基本的性格と歴史と基本問題を概観します。この概観によって、人間の知のあり方を、広くて新しい視野から考えることを目的とします。

【到達目標】

哲学の基本的性格と歴史と基本問題を概観を通して、知ることの意味を捉え直します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

実際に哲学の著作をいくつか取り上げて、読み解いていきます。授業は講義形式で進め、課題の提出・フィードバックは学習支援システムを通じて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	哲学 I のオリエンテーション	学問としての哲学
第 2 回	哲学の基本的性格 1	自然を知ること—自然哲学—
第 3 回	哲学の基本的性格 2	人間を知ること—ソクラテス—
第 4 回	哲学の歴史 1	知の可能性について 1—プラト—
第 5 回	哲学の歴史 2	知の可能性について 2—アリス—
第 6 回	哲学の基本問題 1	『国家』を読む
第 7 回	哲学の歴史 3	信仰と知—中世哲学—
第 8 回	哲学の歴史 4	人間的理性について—近代哲学—
第 9 回	哲学の歴史 5	考えることと感ずること 1—大陸合理論—
第 10 回	哲学の歴史 6	考えることと感ずること 2—イギリス経験論—
第 11 回	哲学の基本問題 2	『方法序説』を読む
第 12 回	哲学の歴史 7	自然と自由—カント—
第 13 回	哲学の歴史 8	社会と歴史を知ること—ドイツ観念論—
第 14 回	哲学の基本問題 3	人間の知のあり方について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内で参照を指示した資料文献を分析し、関連文献を調査します。授業の準備・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業内で指示します。

【参考書】

授業内で指示します。

【成績評価の方法と基準】

授業の内容理解度 30 %、学期末レポート 70 % で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

各回の授業で学生が哲学に対して問題意識を持つように工夫します。

PHL100LA

哲学Ⅱ

2017年度以降入学者

近堂 秀

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 2/Thu.2

単位数：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

哲学の根本問題を、イマヌエル・カントの哲学思想を手がかりにしながらかできるだけ平明に解説します。カント哲学の観点からグローバル化時代について考えることをテーマとします。

【到達目標】

主要な哲学説の根本問題を学習することを通して、哲学の観点から時代状況について考える力を身につけることを到達目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

実際に哲学の著作をいくつか取り上げて、読み解いていきます。授業は講義形式で進め、課題の提出・フィードバックは学習支援システムを通じて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	哲学Ⅱのオリエンテーション	時代状況と哲学
第 2 回	哲学の基本的性格 1	近代の哲学思想 1—デカルト—
第 3 回	哲学の基本的性格 2	近代の哲学思想 2—ロック—
第 4 回	哲学の基本的性格 3	カント哲学の概要
第 5 回	哲学の根本問題について 1	カントの理論哲学
第 6 回	哲学の根本問題について 2	『純粋理性批判』を読む 1—超越論的感性論—
第 7 回	哲学の根本問題について 3	『純粋理性批判』を読む 2—超越論的分析論—
第 8 回	哲学の根本問題について 4	『純粋理性批判』を読む 3—概念の分析論—
第 9 回	哲学の根本問題について 5	『純粋理性批判』を読む 4—純粋悟性概念の演繹について—
第 10 回	哲学の根本問題について 6	カントの実践哲学
第 11 回	現代世界と哲学について 1	現代の哲学思想
第 12 回	現代世界と哲学について 2	カント哲学の解釈
第 13 回	現代世界と哲学について 3	カントの世界市民主義
第 14 回	現代日本と哲学について 4	グローバル化時代の哲学
	まとめ	

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内で参照を指示した資料文献を分析し、関連文献を調査します。授業の準備・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業内で指示します。

【参考書】

授業内で指示します。

【成績評価の方法と基準】

授業の内容理解度 30 %、学期末レポート 70 % で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

各回の授業で学生が哲学に対して問題意識を持つように工夫します。

【Outline (in English)】

This course introduces the foundations of Kant's philosophy to students taking this course.

(Learning activities outside of classroom)

After each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

(Grading Criteria /Policies)

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Term-end report: 70%, in class contribution: 30%.

PHL100LA

哲学 I

2017 年度以降入学者

伊藤 功

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 4/Tue.4

単位数：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

哲学の基本的性格と歴史と基本問題を概観します。

【到達目標】

現代人が直面する諸問題をさまざまな観点から捉え直し解決するための糸口を見つけ出せるよう試みます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は講義形式によって実施されます。講義内容に関する簡単な課題を毎回提出していただき、そのフィードバックを次回授業時に行ないます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	哲学 I のオリエンテーション	講義の概要
2	哲学の基本的性格 1 — 哲学の問い	隣接学問領域との対比：〈わたし〉というもの
3	哲学の基本的性格 2 — 哲学の暫定的定義と方法	隣接学問領域との対比：他人の心
4	哲学の歴史 1 — 古代	イデア
5	哲学の歴史 2 — 中世	普遍の实在性
6	哲学の歴史 3 — 近世	観念
7	哲学の歴史 4 — 現代 前編	知そのものの来歴：道徳
8	哲学の歴史 5 — 現代 後編	知そのものの来歴：技術
9	哲学の基本問題 1 — 現実世界について	心と身体
10	哲学の基本問題 2 — 現実と虚構の区別について	心の内と外
11	哲学の基本問題 3 — 運命と自由意志の関係について	自由意志と決定論
12	哲学の基本問題 4 — 行為の因果性について	道徳的運
13	哲学の基本問題 5 — 生命に目的はあるか？	生きる意味
14	哲学 I のまとめ	講義内容のふりかえり

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しません。

【参考書】

講義中に随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点 100 %：成績は平常点に基づいて評価します。具体的には毎回授業後に提出していただく課題に基づいて評価することになります。課題では自分の考えを述べたり調べものをしたりしていただきます。提出された課題に授業内容との関連性があまり認められない場合は評価が低くなる点にご注意ください。

【学生の意見等からの気づき】

知識をためこむだけでも自分の考えを述べるだけでなく、知識に基づいて自分の考えを形成できるような授業にできればと考えています。

【Outline (in English)】

An overview of the basic nature, history and fundamental issues of philosophy.

PHL100LA

哲学Ⅱ

2017年度以降入学者

伊藤 功

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 4/Tue.4

単位数：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

哲学は常識を批判的に再検討します。この観点から古代から現代に到る哲学の根本問題をできるだけ平明に解説します。

【到達目標】

授業のテーマは常識の批判的再検討であり、主要な哲学の根本問題を学習することを通してそれを自ら行なえるようになることを到達目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は講義形式で実施されます。講義内容に関する簡単な課題を毎回提出していただき、そのフィードバックを次回授業時に行ないます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	哲学Ⅱのオリエンテーション	講義の概要
2	哲学の基本的性格 1	隣接学問領域との対比：愛 —哲学の暫定的定義と方法
3	哲学の基本的性格 2	隣接学問領域との対比：友人 —哲学の懐疑
4	哲学の根本問題について 1	「ある」 —現実世界について
5	哲学の根本問題について 2	時間 —科学的世界像について
6	哲学の根本問題について 3	言葉の意味 —言語について
7	哲学の根本問題について 4	自由と平等 —個人の自由について
8	哲学の根本問題について 5	退屈 —幸福について
9	哲学の根本問題について 6	悪 —我執について
10	哲学の根本問題について 7	道徳の根拠 —道徳について
11	哲学の根本問題について 8	死との向き合い方 —死について
12	現代世界と哲学について	寛容
13	現代日本と哲学について	個
14	哲学Ⅱのまとめ	講義内容のふりかえり

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しません。

【参考書】

講義中に随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点 100 %：成績は平常点に基づいて評価します。具体的には各授業後に提出していただく課題に基づいて評価することになります。課題では自分の考えを述べたり調べものをしたりしていただきます。提出された課題に授業内容との関連性があまり認められない場合は評価が低くなる点にご注意ください。

【学生の意見等からの気づき】

知識をためこむだけでなく自分の考えを述べるだけでなく、知識に基づいて自分の考えを形成できるような授業にできればと考えています。

【Outline (in English)】

Philosophy criticizes old common sense and creates new common sense. From this point of view, I will explain the fundamental issues of philosophy from ancient times to the present day as plainly as possible, based on the key theories of ancient and modern times.

PHL100LA

哲学 I

2017 年度以降入学者

谷口 力

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 3/Wed.3

単位数：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

哲学の基本的性格と歴史と基本問題を概観します。この授業では、主として、伝統的な古典哲学から現代の分析哲学までを概観しながら、「世界」および「世界」に関するさまざまな論理的な問題（存在論、認識論、言語論、など）について、各時代の哲学者たちが、どのように考え、論じてきたのかを学びます。

【到達目標】

哲学は、教養知の原理です。教養知によって、現代人が直面する諸問題を、広くて新しい視野から考え、解決します。そのための原理を、哲学の基本的性格と歴史と基本問題の探究を通して理解できるようにします。

この授業では、主として、以下の内容の理解を目標とします。

- ・古代ギリシャ哲学における世界
- ・大陸合理論における世界
- ・イギリス経験論における世界
- ・近代ドイツ哲学における世界
- ・19～20 世紀哲学における世界
- ・現代分析哲学における世界

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

授業形態は講義形式です。序論として、まず西洋哲学史全体について説明したうえで、各哲学の内容に入っていきます。授業の進め方としては、レジュメを配布し、ポイントを解説し、レジュメに書ききれない部分については、そのつど各哲学者の著作から補足説明していきます。質問があれば、随時お応えします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	哲学 I のオリエンテーション～哲学の基本的性格	・授業の案内と導入 ・哲学とは何か
第 2 回	哲学の歴史～哲学の基本問題 1	・西洋哲学史全体の流れ ・ソクラテス以前の哲学者たち① ：古代ギリシャ哲学（さまざまなアルケー、有）
第 3 回	哲学の基本問題 2	・ソクラテス以前の哲学者たち② ：古代ギリシャ哲学（ゼノンのパラドックス、流動説、ヌース）
第 4 回	哲学の基本問題 3	・ソクラテス（無知の知） ・プラトン①（イデア論）
第 5 回	哲学の基本問題 4	・プラトン②（一と多、知識とは何か） ：古代ギリシャ哲学
第 6 回	哲学の基本問題 5	・アリストテレス（四原理、デユナミスとエネルゲイア） ：古代ギリシャ哲学 （5） ・プロティノス（一者、流出説） ・近代への過渡期

第 7 回	哲学の基本問題 6	・デカルト（実体、神、精神と物体） ：大陸合理論
第 8 回	哲学の基本問題 7	・スピノザ（実体、属性、様態） ：ライプニッツ（モノドロジー） ・ロック（経験と観念）
第 9 回	哲学の基本問題 8	・ヒューム（因果律の否定） ：イギリス経験論（2） ・バークリ（物質的実体の否定）
第 10 回	哲学の基本問題 9	・カント（感性と悟性、ア・プリ） ：近代ドイツ哲学（1） ・フィヒテ（自我と非我）
第 11 回	哲学の基本問題 10	：近代ドイツ哲学（2） ・シェリング（主客の無差別） ・ヘーゲル（絶対者、弁証法）
第 12 回	哲学の基本問題 11	・ショーペンハウアー（意志と表象） ：19～20 世紀哲学 ・ニーチェ（真理らしさ、パースペクティヴ） ・ハイデガー（世界-内-存在）
第 13 回	哲学の基本問題 12	・ウイトゲンシュタイン（対象と事実、語りえぬもの） ：現代分析哲学（1）
第 14 回	哲学の基本問題 13	・その他の現代形而上学 ：現代分析哲学（2） ～哲学 I のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。授業前：興味ある哲学者の著作は読んでおくことが望ましい。授業後：興味をもった哲学者の著作を読んでみるのが望ましい。

【テキスト（教科書）】

定まった教科書は用いません。授業時にプリントを配布します。

【参考書】

シュヴェーグラー『西洋哲学史』（上・下巻）、谷川徹三・松村一人訳、岩波文庫、1958 年改版。その他、授業時に適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

Semester 末の試験を基準として、平常点も参考とします。この授業では、原則として、期末試験 50%、平常点 50% で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

哲学に詳しくない人でも十分に理解できるように、日常的な事例を挙げながら、よりわかりやすい説明を心がけていきます。

【Outline (in English)】

The main objective of this course is to understand overview of the following major philosophical questions and problems: of world and some related logical problems of world (ontology, epistemology, linguistic theory, etc.).

PHL100LA

哲学Ⅱ

2017年度以降入学者

谷口 力

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 3/Wed.3

単位数：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

哲学は、古い常識を批判し、新しい常識をクリエートします。このような観点から、古代から現代に到る哲学の根本問題を、古代から現代の主要学説を手がかりにしながらできるだけ平明に解説します。この授業では、主として、伝統的な古典哲学から現代の分析哲学までを概観しながら、「心」および「心」に関するいくらかの倫理的問題（価値、道徳、生、など）について、各時代の哲学者たちが、どのように考え、論じてきたのかを学びます。

【到達目標】

授業のテーマは、常識批判であり、それを、主要な哲学の根本問題を学習することを通して深めることを到達目標とします。この授業では、主として、以下の内容の理解を目標とします。

- ・古代ギリシャ哲学における心
- ・大陸合理論における心
- ・イギリス経験論における心
- ・近代ドイツ哲学における心
- ・19～20世紀哲学における心
- ・現代分析哲学における心

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

授業形態は講義形式です。序論として、まず西洋哲学史全体について説明したうえで、各哲学者の議論に入っていきます。授業の進め方としては、レジュメを配布し、ポイントを解説し、レジュメに書ききれない部分については、そのつど各哲学者の著作から補足説明していきます。質問があれば、随時お応えします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	哲学Ⅱのオリエンテーション～哲学の基本的性格	・授業の案内と導入 ・心の哲学とは何か ・西洋哲学史全体の流れ
第2回	哲学の根本問題について1 ：古代ギリシャ哲学(1)	・ソクラテス（徳の知、死） ・プラトン①（プシュケー、想起説）
第3回	哲学の根本問題について2 ：古代ギリシャ哲学(2)	・プラトン②（魂の正しさについて）
第4回	哲学の根本問題について3 ：古代ギリシャ哲学(3)	・アリストテレス（アニマ） ・近代への過渡期
第5回	哲学の根本問題について4 ：大陸合理論	・デカルト（我思う、ゆえに我あり） ・スピノザ（神、善悪の相対性） ・ライプニッツ（モノイド）

第6回	哲学の根本問題について5 ：イギリス経験論	・ロック（感覚と反省） ・ヒューム（知覚の束、同一性の否定） ・バークリ（存在するとは知覚されることである）
第7回	哲学の根本問題について6 ：近代ドイツ哲学(1)	・カント（実践的要請、定言命法）
第8回	哲学の根本問題について7 ：近代ドイツ哲学(2)	・フィヒテ（自我） ・ヘーゲル（精神現象学）
第9回	哲学の根本問題について8 ：19～20世紀哲学	・シュティルナー（唯一者） ・ニーチェ（自己、エス、ニヒリズムについて） ・フッサール（志向性）
第10回	哲学の根本問題について9 ：現代分析哲学(1)	・ウイトゲンシュタイン①（形而上学的主体、世界の限界）
第11回	哲学の根本問題について10 ：現代分析哲学(2)	・現代の心の哲学①（行動主義、心脳同一説、機能主義、消去主義、随伴現象説、性質二元論、など）
第12回	哲学の根本問題について11 ：現代分析哲学(3)	・現代の心の哲学②（非法則的一元論、クオリア、認知的閉鎖、さまざまな思考実験、など）
第13回	哲学の根本問題について12 ：現代分析哲学(4)	・ウイトゲンシュタイン②（生きている人間、まなざし、微笑み）
第14回	哲学の根本問題について13 ：大乘仏教の哲学～現代世界および現代日本と哲学について～哲学Ⅱのまとめ	・炎のたとえ ・心の哲学が教えること ・試験（ないしレポート）について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。授業前：興味ある哲学者の著作は読んでおくことが望ましい。授業後：興味をもった哲学者の著作を読んでみるのが望ましい。

【テキスト（教科書）】

定まった教科書は用いません。授業時にプリントを配布します。

【参考書】

シュヴェーグラー『西洋哲学史』（上・下巻）、谷川徹三・松村一人訳、岩波文庫、1958年改版。その他、授業時に適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

Semester末の試験を基準として、平常点も参考とします。この授業では、原則として、期末試験50%、平常点50%で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

哲学に詳しくない人でも十分に理解できるように、日常的な事例を挙げながら、よりわかりやすい説明を心がけていきます。

【Outline (in English)】

The main objective of this course is to understand overview of the following major philosophical questions and problems: 'mind' and some related ethical problems of 'mind' (value, moral, life, etc.).

PHL100LA

哲学 I

2017 年度以降入学者

大西 正人

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 4/Fri.4

単位数：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

哲学の基本的性格と歴史と基本問題を概観します。この概観によって、教養知の原理を理解し、現代人が直面する諸問題を、広くて新しい視野から考え、解決することとします。

特にこの I の講義は、人間とは何か、その本質に迫ろうとする哲学的人間論です。新技術の開発などによってこれまで考えられもしなかった人間の新しいあり方について選択と決断を迫られる現代においてこそ、人間らしさとは何か切実に問われます。なお、日本の哲学や 20 世紀以降の思想にも焦点を当てます。

【到達目標】

基本的性格と歴史と基本問題の探究を通して教養知の原理としての哲学を理解できるようにします。到達目標は、受講生が実際に名著の思想世界に触れてみる体験をし、またその体験を表現できるようにすることです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式により進めます。一人の思想家ごとに、その作品を二三週間に分けて集中的に読みます。毎週授業後、その回の内容について問うグループワーク上の小テストを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	哲学 I のオリエンテーション	ガイダンス 哲学とは？
2	哲学の基本的性格 1	プラトン (1) 「アイデアの萌芽」としての人間存在
3	哲学の基本的性格 2	プラトン (2) 『饗宴』 アリストファネスの話
4	哲学の歴史 1	プラトン (3) 『饗宴』 ソクラテスの話
5	哲学の歴史 2	西田幾多郎 (1) 『善の研究』 - 「知即愛」の命題
6	哲学の歴史 3	西田幾多郎 (2) 「主客合一」としての人間存在
7	哲学の歴史 4	和辻哲郎 (1) 『倫理学』 - 「間柄」としての人間存在
8	哲学の歴史 5	和辻哲郎 (2) 「矛盾的统一」としての人間存在
9	哲学の基本問題 1	和辻哲郎 (3) 『風土』 - 「風土」のうちに己を見出す人間存在
10	哲学の基本問題 2	和辻哲郎 (4) 主体としての風土
11	哲学の基本問題 3	ブーバー (1) 『我と汝』
12	哲学の基本問題 4	ブーバー (2) 「汝」としての世界
13	哲学の基本問題 5	ブーバー (3) 「本質行為」としての人間
14	哲学 I のまとめ	ふりかえり

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義で取り上げられ、その一部が教材プリントとして授業内でも配布される下記の文献は、すべて岩波文庫で入手できるので、学生は、授業計画に合わせてこれらの文献を読むことが推奨される。

プラトン『饗宴』、西田幾多郎『善の研究』、和辻哲郎『倫理学』(一)、和辻哲郎『風土』、マルティン・ブーバー『我と汝・対話』復習として、返却された前回の小テストの模範解答をチェックし、間違えた箇所があればその点を中心にノートやプリントを振り返り、特に疑問などは次の時間に質問できるようにしておくこと。本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

こちらでプリントを用意します。

【参考書】

授業中に指示します。

【成績評価の方法と基準】

原則、授業後に行われる上記小テストの合計点 100 % で評価。

【学生の意見等からの気づき】

毎回行っている前回小テストの解説を工夫し、これまでの復習や定着がより効率的にできるようにしたい。

【学生が準備すべき機器他】

グループワーク上の小テストを受けるためのデバイス。PC が望ましい。

【その他の重要事項】

ノートをとることが大切です。

【Outline (in English)】

This lecture is a philosophical human theory trying to think about human nature. In modern times where we are forced to make choices and decisions about the new way of human beings that we have never considered before, such as through the development of new technologies, something is being deeply questioned about humanness. We will also focus on Japanese philosophy and ideas after the 20th century.

PHL100LA

哲学Ⅱ

2017年度以降入学者

大西 正人

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 4/Fri.4

単位数：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

古代から現代に到る哲学の根本問題を、古代から現代の主要学説を手がかりにしながらできるだけ平明に解説します。哲学が古い常識を批判し、新しい常識をクリエートすることであることをテーマとします。西洋哲学は、万物の根源を人間の理性の力で探り、そうして捉えられた全体としての世界の中に自分を位置づけたいという人間的欲求とともに始まりました。講義では、こうした「形而上学的」な欲求が、世界を全体として非常に生き生きとした自己形成的なものとする自己形成的世界観として、現代にいたるまでの様々な知的探求の背景になっている様子を見ます。

【到達目標】

主要な哲学説の根本問題を学習することを通して常識批判としての哲学を理解することを到達目標とします。受講生が実際に名著の思想世界に触れてみる体験をし、またその体験を表現できるようにします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式により進めます。一人の思想家ごとに、その作品を二三週間に分けて集中的に読みます。毎週授業後、その回の内容について問うデジタルフォーム上の小テストを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	哲学Ⅱのオリエンテーション	ガイダンス 哲学への導入
2	哲学の基本的性格 1	今西錦司 生命的自然観－自己形成的世界観の前哨として
3	哲学の基本的性格 2	その 2 生命的自然観－自己形成的世界観の前哨として
4	哲学の根本問題について 1	アリストテレス 自己形成的世界観としての形而上学
5	哲学の根本問題について 2	その 2 自己形成的世界観としての形而上学
6	哲学の根本問題について 3	自己形成的世界観の展開としての近代哲学 近代化の原理としての主観客観二元論
7	哲学の根本問題について 4	デカルトの近代的世界観 近代的主客二元論
8	哲学の根本問題について 5	デカルト (2) 近代的な主客二元論
9	哲学の根本問題について 6	デカルト (3) 「近代的分裂」の予告としての近代的な主客二元論
10	哲学の根本問題について 7	「近代化」と「近代的分裂」の原理としての主客二元論 近代哲学の分裂－合理論と経験論
11	哲学の根本問題について 8	カントとヘーゲル カントによる近代哲学の分裂克服の試み
12	現代世界と哲学について	カントとヘーゲル カントのアンチノミー論

13 現代日本と哲学について カントとヘーゲル ヘーゲルの弁証法的世界観

14 哲学Ⅱのまとめ カントとヘーゲル ヘーゲルの弁証法的世界観その 2

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義で扱われる下記の文献などは事前に読むことが推奨される。今西錦司『生物の世界』、アリストテレス『形而上学』、デカルト『省察』復習として、返却された前回の小テストの模範解答をチェックし、間違えた箇所があればその点を中心にノートやプリントを振り返り、特に疑問などは次の時間に質問できるようにしておくこと。本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

こちらでプリントを用意します。

【参考書】

授業中に指示します。

【成績評価の方法と基準】

原則、授業後に行われる上記小テストの合計点 100 % で評価。

【学生の意見等からの気づき】

毎回行っている前回小テストの解説を工夫し、これまでの復習や定着がより効率的にできるようにしたい。

【学生が準備すべき機器他】

デジタルフォーム上の小テストを受けるためのデバイス。PC が望ましい。

【その他の重要事項】

ノートをとることが大切です。

【Outline (in English)】

Western philosophy began with human desire to explore the root of all things with the power of human reason and to position himself in the whole world captured as such. In the lecture, we see how these metaphysical needs are behind various intellectual explorations up to the present age, becoming a self-organizing-world-view that the world as a whole is very vivid and self-organizing.

PHL100LA

哲学 I

2017 年度以降入学者

近堂 秀

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 3/Thu.3

単位数：2 単位

その他属性：〈優〉

【Outline (in English)】

This course deals with the basic concepts and history of philosophy.

(Learning activities outside of classroom)

After each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

(Grading Criteria /Policies)

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Term-end report: 70%, in class contribution: 30%.

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

哲学の基本的性格と歴史と基本問題を概観します。この概観によって、人間の知のあり方を、広くて新しい視野から考えることを目的とします。

【到達目標】

哲学の基本的性格と歴史と基本問題を概観を通して、知ることの意味を捉え直します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

実際に哲学の著作をいくつか取り上げて、読み解いていきます。授業は講義形式で進め、課題の提出・フィードバックは学習支援システムを通じて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	哲学 I のオリエンテーション	学問としての哲学
第 2 回	哲学の基本的性格 1	自然を知ること—自然哲学—
第 3 回	哲学の基本的性格 2	人間を知ること—ソクラテス—
第 4 回	哲学の歴史 1	知の可能性について 1—プラト—
第 5 回	哲学の歴史 2	知の可能性について 2—アリストテレス—
第 6 回	哲学の基本問題 1	『国家』を読む
第 7 回	哲学の歴史 3	信仰と知—中世哲学—
第 8 回	哲学の歴史 4	人間的理性について—近代哲学—
第 9 回	哲学の歴史 5	考えることと感ずること 1—大陸合理論—
第 10 回	哲学の歴史 6	考えることと感ずること 2—イギリス経験論—
第 11 回	哲学の基本問題 2	『方法序説』を読む
第 12 回	哲学の歴史 7	自然と自由—カント—
第 13 回	哲学の歴史 8	社会と歴史を知ること—ドイツ観念論—
第 14 回	哲学の基本問題 3	人間の知のあり方について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内で参照を指示した資料文献を分析し、関連文献を調査します。授業の準備・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業内で指示します。

【参考書】

授業内で指示します。

【成績評価の方法と基準】

授業の内容理解度 30 %、学期末レポート 70 % で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

各回の授業で学生が哲学に対して問題意識を持つように工夫します。

PHL100LA

哲学Ⅱ

2017年度以降入学者

近堂 秀

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 3/Thu.3

単位数：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

哲学の根本問題を、イマヌエル・カントの哲学思想を手がかりにしながらかできるだけ平明に解説します。カント哲学の観点からグローバル化時代について考えることをテーマとします。

【到達目標】

主要な哲学説の根本問題を学習することを通して、哲学の観点から時代状況について考える力を身につけることを到達目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

実際に哲学の著作をいくつか取り上げて、読み解いていきます。授業は講義形式で進め、課題の提出・フィードバックは学習支援システムを通じて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	哲学Ⅱのオリエンテーション	時代状況と哲学
第 2 回	哲学の基本的性格 1	近代の哲学思想 1—デカルト—
第 3 回	哲学の基本的性格 2	近代の哲学思想 2—ロック—
第 4 回	哲学の基本的性格 3	カント哲学の概要
第 5 回	哲学の根本問題について 1	カントの理論哲学
第 6 回	哲学の根本問題について 2	『純粋理性批判』を読む 1—超越論的感性論—
第 7 回	哲学の根本問題について 3	『純粋理性批判』を読む 2—超越論的分析論—
第 8 回	哲学の根本問題について 4	『純粋理性批判』を読む 3—概念の分析論—
第 9 回	哲学の根本問題について 5	『純粋理性批判』を読む 4—純粋悟性概念の演繹について—
第 10 回	哲学の根本問題について 6	カントの実践哲学
第 11 回	現代世界と哲学について 1	現代の哲学思想
第 12 回	現代世界と哲学について 2	カント哲学の解釈
第 13 回	現代世界と哲学について 3	カントの世界市民主義
第 14 回	現代日本と哲学について 4	グローバル化時代の哲学
	まとめ	

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内で参照を指示した資料文献を分析し、関連文献を調査します。授業の準備・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業内で指示します。

【参考書】

授業内で指示します。

【成績評価の方法と基準】

授業の内容理解度 30 %、学期末レポート 70 % で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

各回の授業で学生が哲学に対して問題意識を持つように工夫します。

【Outline (in English)】

This course introduces the foundations of Kant's philosophy to students taking this course.

(Learning activities outside of classroom)

After each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

(Grading Criteria /Policies)

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Term-end report: 70%, in class contribution: 30%.

PHL100LA

哲学 I

2017 年度以降入学者

越部 良一

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 5/Fri.5

単位数：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

哲学の基本的性格と歴史と基本問題を概観します。哲学は子供から大人、老年に至るまで、才能の有無、向き不向きを問うことなく、人間として誰もが考えるべき問いを探求する。本講義は、古今東西の思想家に、この問いを訪ねてゆく。

【到達目標】

哲学は、教養知の原理です。教養知によって、現代人が直面する諸問題を、広くて新しい視野から考えます。そのための原理を、哲学の基本的性格と歴史と基本問題の探究を通して理解できるようにします。特にこの講義では、人間存在（自己）の哲学的在り方と人間を超える存在との関わりを理解し、説明できることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は対面授業である。講義形式で行い、思想家の言葉を見ながら、その意味を把握していくことを中心とする。質問等のフィードバックは授業内で行う。ただし、初回の授業のみオンラインで行う予定である（初回授業の詳細は数日前に学習支援システムに示す予定）。

大学の行動方針レベルの変更に応じて授業形態を変更する際は、学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	哲学 I のオリエンテーション	講義全体の概観とシラバスの解説
第 2 回	哲学の基本的性格 1 — 哲学の暫定的定義と方法	「愛知」としての哲学と自己
第 3 回	哲学の基本的性格 2 — 哲学の問い	哲学と科学の関連と相違
第 4 回	哲学の歴史 1 — 近代 ①	ニーチェ：解釈論と試みとしての哲学
第 5 回	哲学の歴史 2 — 近代 ②	ニーチェ：超人、自己、運命愛
第 6 回	哲学の歴史 3 — 現代 ①	ヤスパース：実存と永遠
第 7 回	哲学の歴史 4 — 現代 ②	ヤスパース：超越者の「言葉」
第 8 回	哲学の基本問題 1 — 死について①	ハイデガー：死に関わる人間存在
第 9 回	哲学の基本問題 2 — 死について②	ドストエフスキー：死と魂の不滅
第 10 回	哲学の基本問題 3 — 現実と非現実について	ドストエフスキー：悪魔の存在
第 11 回	哲学の基本問題 4 — 人生に目的はあるか？	清沢満之：絶対無限と自己
第 12 回	哲学の歴史 5 — 古代	エピクテトス：我執、運命、自由意志

第 13 回 哲学の歴史 6 — 中世 証空：浄土教における無限者との一体化

第 14 回 哲学 I のまとめ まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で配布するプリントをよく読み込むこと。また、授業中に紹介する哲学者の著作（西洋のものは翻訳でよい）に少しでも目を通すことが望ましい。

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しない。適宜プリントを配布する。

【参考書】

ヤスパース『新版 哲学入門』林田新二訳、リベルタス出版、2020 年、2700 円（税抜）。

その他は適宜授業内で紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（40% くらい）と期末の筆記試験（60% くらい）の 2 つにより評価する予定である。

期末の筆記試験は、最終授業内で教室で行う予定である。ただし、状況によっては変更することもありえるので、6 月下旬頃の授業でのアナウンスに注意しておいてほしい。

【学生の意見等からの気づき】

自己の見解はひとまずおいて、哲学者の思考をまず追っていく姿勢をもつとよい。そのために思想家からの引用はできるかぎり多めにするつもりである。

【Outline (in English)】

This course deals with the defining characteristics, the history and the questions of philosophy. We will ask thinkers of all ages, east and west, about the problem of self and being beyond myself. The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each. Grades will be evaluated based on two points: a normal score (about 40%) and a written test at the end of the semester (about 60%).

PHL100LA

哲学Ⅱ

2017年度以降入学者

越部 良一

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 5/Fri.5

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

哲学は、通俗的常識を批判し、新しい常識をクリエートします。このような観点から、古代から現代に到る哲学の根本問題を、主要学説を手がかりにしながらできるだけ平明に解説します。

【到達目標】

授業のテーマは、通俗的な意識への批判（存在意識の変革）であり、それを、主要な哲学の根本問題を学習することを通して深めることを到達目標とします。特にこの講義では、人間存在と人間を超える存在との関わりを、近現代社会の哲学的な状況をも意識しつつ、理解し説明できることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は対面授業である。講義形式で行い、思想家の言葉を見ながら、その意味を把握していくことを中心とする。質問等のフィードバックは授業内で行う。

大学の行動方針レベルの変更に応じて授業形態を変更する際は、学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	哲学Ⅱのオリエンテーション	講義全体の概観とシラバスの解説
第2回	哲学の基本的性格—哲学の暫定的定義と方法、哲学の懐疑	哲学することの動機
第3回	哲学の根本問題について1—科学的認識と行為の因果性について	カントの認識論
第4回	哲学の根本問題について2—道徳、自由、幸福について	カント：道徳と宗教
第5回	哲学の根本問題について3—現実世界と人間存在について	ヤスパース：包越者論
第6回	哲学の根本問題について4—真理について	ヤスパース：理性と交わり
第7回	哲学の根本問題について5—哲学的世界像について	古代ギリシャの存在論
第8回	哲学の根本問題について6—現実世界の運動について	ヘーゲルの弁証法
第9回	哲学の根本問題について7—近世日本の道徳観	伊藤仁斎の「仁」の思想
第10回	現代日本と哲学について1	夏目漱石：現代日本批判と自己本位
第11回	現代日本と哲学について2	夏目漱石：道と天

第12回 現代世界と哲学について1 小林秀雄：信じられる自己、言葉、物、美

第13回 現代世界と哲学について2 小林秀雄：西洋と日本、自己を超える存在

第14回 哲学Ⅱのまとめ まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で配布するプリントをよく読み込むこと。また、授業中に紹介する哲学者の著作（西洋のものは翻訳でよい）に少しでも目を通すことが望ましい。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。適宜、プリントを配布する。

【参考書】

適宜授業内で紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（40%くらい）と期末の筆記試験（60%くらい）の2つにより評価する予定である。

期末の筆記試験は、最終授業内で教室で行う予定である。ただし、状況によっては変更することもありえるので、12月はじめ頃の授業でのアナウンスに注意してほしい。

【学生の意見等からの気づき】

自己の見解はひとまずおいて、哲学者の思考をまず追っていく姿勢をもつとよい。そのために思想家からの引用はできるだけ多めにするつもりである。

【Outline (in English)】

This course deals with the basic subjects of philosophy from ancient to modern times in the critique of a commonly held view. The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each. Grades will be evaluated based on two points: a normal score (about 40%) and a written test at the end of the semester (about 60%).

PHL100LA

哲学 I

2017 年度以降入学者

伊藤 功

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 5/Tue.5

単位数：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

哲学の基本的性格と歴史と基本問題を概観します。

【到達目標】

現代人が直面する諸問題をさまざまな観点から捉え直し解決するための糸口を見つけ出せるよう試みます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は講義形式によって実施されます。講義内容に関する簡単な課題を毎回提出していただき、そのフィードバックを次回授業時に行ないます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	哲学 I のオリエンテーション	講義の概要
2	哲学の基本的性格 1 — 哲学の問い	隣接学問領域との対比：〈わたし〉というもの
3	哲学の基本的性格 2 — 哲学の暫定的定義と方法	隣接学問領域との対比：他人の心
4	哲学の歴史 1 — 古代	イデア
5	哲学の歴史 2 — 中世	普遍の実在性
6	哲学の歴史 3 — 近世	観念
7	哲学の歴史 4 — 現代 前編	知そのものの来歴：道徳
8	哲学の歴史 5 — 現代 後編	知そのものの来歴：技術
9	哲学の基本問題 1 — 現実世界について	心と身体
10	哲学の基本問題 2 — 現実と虚構の区別について	心の内と外
11	哲学の基本問題 3 — 運命と自由意志の関係について	自由意志と決定論
12	哲学の基本問題 4 — 行為の因果性について	道徳的運
13	哲学の基本問題 5 — 生命に目的はあるか？	生きる意味
14	哲学 I のまとめ	講義内容のふりかえり

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しません。

【参考書】

講義中に随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点 100 %：成績は平常点に基づいて評価します。具体的には毎回授業後に提出していただく課題に基づいて評価することになります。課題では自分の考えを述べたり調べものをしたりしていただきます。提出された課題に授業内容との関連性があまり認められない場合は評価が低くなる点にご注意ください。

【学生の意見等からの気づき】

知識をためこむだけでも自分の考えを述べるだけでなく、知識に基づいて自分の考えを形成できるような授業にできればと考えています。

【Outline (in English)】

An overview of the basic nature, history and fundamental issues of philosophy.

PHL100LA

哲学Ⅱ

2017年度以降入学者

伊藤 功

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 5/Tue.5

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

哲学は常識を批判的に再検討します。この観点から古代から現代に到る哲学の根本問題をできるだけ平明に解説します。

【到達目標】

授業のテーマは常識の批判的再検討であり、主要な哲学の根本問題を学習することを通してそれを自ら行なえるようになることを到達目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は講義形式で実施されます。講義内容に関する簡単な課題を毎回提出していただき、そのフィードバックを次回授業時に行ないます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	哲学Ⅱのオリエンテーション	講義の概要
2	哲学の基本的性格 1	隣接学問領域との対比：愛 —哲学の暫定的定義と方法
3	哲学の基本的性格 2	隣接学問領域との対比：友人 —哲学の懐疑
4	哲学の根本問題について 1	「ある」 —現実世界について
5	哲学の根本問題について 2	時間 —科学的世界像について
6	哲学の根本問題について 3	言葉の意味 —言語について
7	哲学の根本問題について 4	自由と平等 —個人の自由について
8	哲学の根本問題について 5	退屈 —幸福について
9	哲学の根本問題について 6	悪 —我執について
10	哲学の根本問題について 7	道徳の根拠 —道徳について
11	哲学の根本問題について 8	死との向き合い方 —死について
12	現代世界と哲学について	寛容
13	現代日本と哲学について	個
14	哲学Ⅱのまとめ	講義内容のふりかえり

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しません。

【参考書】

講義中に随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点 100 %：成績は平常点に基づいて評価します。具体的には各授業後に提出していただく課題に基づいて評価することになります。課題では自分の考えを述べたり調べものをしたりしていただきます。提出された課題に授業内容との関連性があまり認められない場合は評価が低くなる点にご注意ください。

【学生の意見等からの気づき】

知識をためこむだけでも自分の考えを述べるだけでなく、知識に基づいて自分の考えを形成できるような授業にできればと考えています。

【Outline (in English)】

Philosophy criticizes old common sense and creates new common sense. From this point of view, I will explain the fundamental issues of philosophy from ancient times to the present day as plainly as possible, based on the key theories of ancient and modern times.

PHL100LA

倫理学 I

2017 年度以降入学者

越部 良一

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 2/Mon.2

単位数：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

倫理学を学ぶことは、単に教室の中で知識を得て、試験で高得点をとることで終わりではない。倫理学の知は、私たちが生きる場で試されるのであり、日常的な生活の中で生きていくことで磨かれていく。この授業は倫理的な問題を取り上げながら、社会のルールや規範と個人の価値観について、各学生がそれぞれの立場で考察できるように促す。

【到達目標】

この授業は、現代に生きる私たちが、日常的な社会の中で、一個の人間としてどのように存在し、どのように生きるかを社会的規範との関係に基づいて考察することを目的とする。その際に、様々な倫理的問題を探究する実践的な知を獲得することを旨とする。前半は東西の古典的な倫理思想を取り上げ、後半は近現代の西洋倫理思想を取り上げて、倫理的な問題と思考を理解し説明できることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は対面授業である。講義形式で行い、思想家の言葉を見ながら、その意味を把握していくことを中心とする。質問等のフィードバックは授業内で行う。ただし、初回の授業のみオンラインで行う予定である（初回授業の詳細は数日前に学習支援システムに示す予定）。

大学の行動方針レベルの変更に応じて授業形態を変更する際は、学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	この授業の概要	シラバスおよびこの授業全体の概観と説明
第 2 回	倫理学とは何か	倫理学と他の学問。倫理学の根本問題、善、快楽、自己、共同体、超越者
第 3 回	人間とは何か？（1）	現に問うているのは誰か？ ソクラテスの「汝自身を知れ」、魂の善さ（徳）
第 4 回	人間とは何か？（2）	世界内存在としての私。ソクラテスの法と国家、死についての思索
第 5 回	人間とは何か？（3）	私は世界とどのように関わるのか？ 釈尊の四諦と自己
第 6 回	私は何をなすべきか？（1）	孔子の仁と学
第 7 回	私は何をなすべきか？（2）	孔子の「天命を知る」
第 8 回	私は何をなすべきか？（3）	絶対的な善とは何か？ 福音書におけるイエスの思想
第 9 回	私は何をなすべきか？（4）	アリストテレス倫理学、「中庸」の思想
第 10 回	私は自分の義務をなすべきか？（1）	カント倫理学①「道徳法則」

第 11 回 私は自分の義務をなす カント倫理学② 自由とは何か？ べきか？（2）

第 12 回 私は自分の義務をなす 功利主義（ベンサム、ミル） べきか？（3）

第 13 回 私は法にかなったこと 社会契約論 をなすべきか？

第 14 回 授業のまとめ まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で配布するプリントをよく読み込むこと。また授業で取り上げる著作（西洋のものは翻訳でよい）に少しでも目を通すことが望ましい。

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキスト（教科書）は使用しない。適宜、プリントを配布する。

【参考書】

授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（40%くらい）と期末の筆記試験（60%くらい）の2つにより評価する予定である。

期末の筆記試験は、最終授業内で教室で行う予定である。ただし、状況によっては変更することもありえるので、6月下旬頃の授業でのアナウンスに注意しておいてほしい。

【学生の意見等からの気づき】

古典的な倫理思想はただ古いだけでなく、現代に生きているものであることに注意しながら見ていく。

【Outline (in English)】

This course deals with the basic questions and thoughts of ethics. It also enhances the development of students' skill in considering social rules and morals. The goals of this course are to understand and explain ethical issues and thinking.

The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each. Grades will be evaluated based on two points: a normal score (about 40%) and a written test at the end of the semester (about 60%).

PHL100LA

倫理学Ⅱ

2017年度以降入学者

越部 良一

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 2/Mon.2

単位数：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

応用倫理学は、現実の中で起こる具体的な倫理的問題に対して、理論的な知をさらに深め、応用していくための倫理学である。この授業は、その中でも主に生命倫理学と環境倫理学を取り上げて、科学技術の進展と多様な価値観に基づく諸文化が交雑する現代世界の中で生れてきた倫理的な問題を見やりながら、文化や価値観を異にする他者との相違のうちにあつて、各学生がそれぞれの立場で倫理的問題を考察できるように促す。

【到達目標】

この授業は、現代に生きる私たちが、グローバルな社会の中で、一個の人間としてどのように存在し、どのように生きるかを社会的規範との関係に基づいて考察することを目的とする。その際に、様々な倫理的問題を解決する実践的な知を獲得することを目指す。特に、この授業はいわゆる「応用倫理学（applied ethics）」と呼ばれる分野の「生命倫理」「環境倫理」を主に学ぶことで、倫理学Ⅰで学んだ倫理学の基礎を、現実的なテーマのもとで応用していくという点で、より実践的な倫理学であるといえよう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は対面授業である。講義形式で行う。質問等のフィードバックは授業内で行う。

大学の行動方針レベルの変更に応じて授業形態を変更する際は、学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	この授業の概要	シラバス及びこの授業全体の概観と説明
第 2 回	応用倫理学とは何か	倫理学と応用倫理学、生命倫理学、環境倫理学
第 3 回	私は生命を操作する権利があるのか？（1）	「生きるに値する命」とは何か？ 生命倫理学の基本概念
第 4 回	私は生命を操作する権利があるのか？（2）	脳死と臓器移植の問題① 「脳死」とは何か
第 5 回	私は生命を操作する権利があるのか？（3）	脳死と臓器移植の問題② 脳死と臓器移植への思想的批判
第 6 回	私は生命を操作する権利があるのか？（4）	person（人格、人間）とは何か？ エンゲルハートの生命倫理学
第 7 回	環境は保護しなければならないのか？（1）	環境倫理学とは何か？ 環境倫理学の根本問題
第 8 回	環境は保護しなければならないのか？（2）	動物倫理学 動物の権利と土地倫理。「権利」とは何か
第 9 回	環境は保護しなければならないのか？（3）	21 世紀の倫理学に向けて 桑子敏雄の「空間の履歴」
第 10 回	環境は保護しなければならないのか？（4）	持続可能な社会とは何か？ 大量消費社会批判（アレント、佐伯啓思）
第 11 回	人間の責任はどこまで及ぶのか？（1）	世代間倫理（フレチェット）

第 12 回 人間の責任はどこまで 責任という原理（ヨナス）
及ぶのか？（2）

第 13 回 何が暴力を抑止するの 暴力、戦争と倫理学
か？

第 14 回 授業のまとめ まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で取り上げる著作（西洋のものは翻訳でよい）に少しでも目を通すこと。

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。

【参考書】

授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（40%くらい）と期末の筆記試験（60%くらい）の2つにより評価する予定である。

期末の筆記試験は、最終授業内で教室で行う予定である。ただし、状況によっては変更することもありえるので、12月はじめ頃の授業でのアナウンスに注意してほしい。

【学生の意見等からの気づき】

生命倫理学、環境倫理学は新しい学問であり、かつ欧米の現代倫理学の影響が強くみられる倫理となっていることに注意しながら講義していくつもりである。

【Outline (in English)】

This course deals with the applied ethics, especially with bioethics and environmental ethics. It enhances the development of students' skill in considering various ethical issues. The goals of this course are to understand and explain ethical issues and thinking. The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each. Grades will be evaluated based on two points: a normal score (about 40%) and a written test at the end of the semester (about 60%).

PHL100LA

倫理学 I

2017 年度以降入学者

杉本 隆久

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 4/Mon.4

単位数：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

倫理学を学ぶことは、単に教室の中で知識を得て、試験で高得点をとることで終わりではない。倫理学の知は、私たちが生きる場で試されるのであり、日常的な生活の中で生きていくことで磨かれていく。そのため、この授業は身近な問題を取り上げながら、社会のルールや規範と個人の価値観との齟齬について、各学生がそれぞれの立場で考察できるように促す。

【到達目標】

この授業は、現代に生きる私たちが、日常的な社会の中で、一個の人間としてどのように存在し、どのように生きるかを社会的規範との関係に基づいて考察することを目的とする。その際に、様々な倫理的問題を解決する実践的な知を獲得することを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は、講義形式の授業です。今年度は大学の授業実施方針に則り、原則対面授業を行います。初回授業は受講希望者数が不明なため、着席できない受講者が発生することを回避する目的で「オンライン」または「ハイフレックスを用いた対面」授業を行う予定です。なお、「オンライン授業による教育効果が高い場合」の条件に該当する授業回に限り、全授業回の半数を超えない範囲（7 回以下）で、オンライン授業を実施する場合があります。

また、入国できない外国人留学生や基礎疾患等における配慮を必要とする学生が履修した場合は、Zoom を利用したハイフレックス授業を行います。

授業は講義形式で進めますが、授業内でディスカッションを行ったり、受講生から意見を述べてもらうなど、積極的に授業に参加してもらうように配慮するつもりです。また、リアクションペーパーを提出してもらうなどして、受講生の考えを授業に反映させていきたいと考えています。

なお授業の変更及び伝達事項等のお知らせに関しては、Hoppii（学習支援システム）より通知します。課題や期末レポートは、学習支援システム上で提出してもらうことを考えています。毎回の授業の資料に関しても、授業開始までに学習支援システムで配信する予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	人間とは何か？（1）	現に問うているのは誰か？
第 2 回	人間とは何か？（2）	世界内存在としての私
第 3 回	人間とは何か？（3）	私は世界とどのように関わっているのか？
第 4 回	私は何をなすべきか？（1）	倫理学とは何か？
第 5 回	私は何をなすべきか？（2）	絶対的な善とは何か？
第 6 回	私は何をなすべきか？（3）	アリストテレス倫理学
第 7 回	私は何をなすべきか？（4）	快樂主義とストア派の倫理学

- 第 8 回 私は自分の義務をなす 功利主義
べきか？（1）
- 第 9 回 私は自分の義務をなす 自由とは何か？
べきか？（2）
- 第 10 回 私は自分の義務をなす カント倫理学
べきか？（3）
- 第 11 回 私は法にかなったこと 法実証主義
をなすべきか？（1）
- 第 12 回 私は法にかなったこと 社会契約論
をなすべきか？（2）
- 第 13 回 私は法にかなったこと 自由主義・共同体主義
をなすべきか？（3）
- 第 14 回 まとめ 授業のまとめをします。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません。資料を適宜配布します。

【参考書】

ベルンハルト・ヘルツル、フリードリッヒ・ミュラー、ハンス・ウーラッハ『哲学の問い 討議用』鳥崎隆監訳、晃洋書房、2002 年
加藤尚武『現代倫理学入門』、講談社学術文庫、1997 年
など

【成績評価の方法と基準】

毎回の授業後に、課題としてリアクションペーパーを提出してもらう（Hoppii を利用することを考えています）。また期末にレポートを提出してもらう。以上の 2 点を総合して評価する。評価の比率は、課題 60%、期末レポート 40%とする。

【学生の意見等からの気づき】

一方的な講義ではなく、ディスカッションを行ったり、受講生から意見を述べてもらうようにしていきます。またリアクションペーパーを活用することで、受講生からの意見を授業に反映させるようにします。

【学生が準備すべき機器他】

授業の変更及び伝達事項等のお知らせに関しては、Hoppii（学習支援システム）より通知します。課題や期末レポートは、学習支援システム上で提出してもらうことを考えています。毎回の授業の資料に関しても、授業開始までに学習支援システムで配信する予定です。

【その他の重要事項】

倫理学Ⅱも併せて受講していただくことが望ましいです。

【Outline (in English)】

Learning ethics is not gaining knowledge in the classroom and taking a high score in the exam. The knowledge of ethics is tested in the place we live, and it is polished by living in everyday life. For this reason, this class will encourage each student to think about the discrepancy between social rules and norms and individual values while taking up familiar issues.

The purpose of this lesson is to consider how we, who live in the present age, exist and live as one human being in everyday society based on the relationship with social norms.

Study time outside classroom is 1 hour for preparatory study and 1 hour for review.

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Report : 40%、Short reports : 60%

PHL100LA

倫理学Ⅱ

2017年度以降入学者

杉本 隆久

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 4/Mon.4

単位数：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

応用倫理学は、現実の中で起こる具体的な倫理的問題に対して、理論的な知をさらに深め、応用していくための倫理学である。そのため、この授業は、グローバルな社会において、多様な価値観に基づく諸文化が交雑することで生ずる倫理的な問題をとり上げながら、文化を異にする他者との価値観の相違について、各学生がそれぞれの立場で考察できるように促す。

【到達目標】

この授業は、現代に生きる私たちが、グローバルな社会の中で、一個の人間としてどのように存在し、どのように生きるかを社会的規範との関係に基づいて考察することを目的とする。その際に、様々な倫理的問題を解決する実践的な知を獲得することを目指す。特に、この授業はいわゆる「応用倫理学（allied ethics）」と呼ばれる分野の倫理学を学ぶことで、倫理学Ⅰで学んだ倫理学の基礎を、現実的なテーマのもとで応用していくという点で、より実践的な倫理学であるといえよう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は、講義形式の授業です。今年度は大学の授業実施方針に則り、原則対面授業を行います。初回授業は受講希望者数が不明なため、着席できない受講者が発生することを回避する目的で「オンライン」または「ハイフレックスを用いた対面」授業を行う予定です。なお、「オンライン授業による教育効果が高い場合」の条件に該当する授業回に限り、全授業回の半数を超えない範囲（7回以下）で、オンライン授業を実施する場合があります。

また、入国できない外国人留学生や基礎疾患等における配慮を必要とする学生が履修した場合は、Zoom を利用したハイフレックス授業を行います。

授業は講義形式で進めますが、授業内でディスカッションを行ったり、受講生から意見を述べてもらうなど、積極的に授業に参加してもらうように配慮するつもりです。また、リアクションペーパーを提出してもらうなどして、受講生の考えを授業に反映させていきたいと考えています。

なお授業の変更及び伝達事項等のお知らせに関しては、Hoppii（学習支援システム）より通知します。課題や期末レポートは、学習支援システム上で提出してもらうことを考えています。毎回の授業の資料に関しても、授業開始までに学習支援システムで配信する予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	何が暴力を抑止するの	「正義の戦争」はありうるか？ か？（1）
第2回	何が暴力を抑止するの	暴力の倫理学 か？（2）
第3回	何が暴力を抑止するの	テロリズムと戦争 か？（3）
第4回	私は生命を操作する権	生存権／人権とは何か？ 利があるのか？（1）

第5回	私は生命を操作する権	「生きるに値する命」とは何か？ 利があるのか？（2）
第6回	私は生命を操作する権	動物倫理学 利があるのか？（3）
第7回	私は生命を操作する権	生命倫理 利があるのか？（4）
第8回	人間の責任はどこまで	責任という原理（ヨナス） 及ぶのか？（1）
第9回	人間の責任はどこまで	科学技術の倫理 及ぶのか？（2）
第10回	人間の責任はどこまで	世代間倫理 及ぶのか？（3）
第11回	環境は保護しなければ	環境倫理学とは何か？ ならないのか？（1）
第12回	環境は保護しなければ	持続可能な社会とは何か？ ならないのか？（2）
第13回	環境は保護しなければ	21世紀の倫理学に向けて ならないのか？（3）
第14回	まとめ	まとめの授業を行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません。資料を適宜配布します。

【参考書】

ベルンハルト・ヘルツル、フリードリッヒ・ミュレッカー、ハンス・ウーラッハ『哲学の問い 討議用』島崎隆監訳、晃洋書房、2002年
加藤尚武『戦争倫理学』、ちくま新書、2003年
加藤尚武『新・環境倫理学のすすめ』、丸善、2005年
ハンス・ヨナス『責任という原理—科学技術文明のための倫理学の試み』、東信堂、2010年
など

【成績評価の方法と基準】

毎回の授業後に、課題としてリアクションペーパーを提出してもらう（Hoppiiを利用することを考えています）。また期末にレポートを提出してもらう。以上の2点を総合して評価する。評価の比率は、課題60%、期末レポート40%とする。

【学生の意見等からの気づき】

一方的な講義ではなく、ディスカッションを行ったり、受講生から意見を述べてもらうようにしていきます。またリアクションペーパーを活用することで、受講生からの意見を授業に反映させるようにします。

【学生が準備すべき機器他】

授業の変更及び伝達事項等のお知らせに関しては、Hoppii（学習支援システム）より通知します。課題や期末レポートは、学習支援システム上で提出してもらうことを考えています。毎回の授業の資料に関しても、授業開始までに学習支援システムで配信する予定です。

【その他の重要事項】

倫理学Ⅰも併せて受講していただくことが望ましいです。

【Outline (in English)】

Applied ethics is ethics to deepen and apply theoretical knowledge to specific ethical problems occurring in reality. For this reason, in this class, we take up ethical issues arising from the crossing of various cultures based on diverse values in the global society, and consider differences of values with others with different cultures.

The purpose of this lesson is to consider how we, who live in the present age, exist and live as one human being in a global society based on the relationship with social norms.

Study times outside classroom is 1 hour for preparatory study and 1 hour for review.

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Report : 40%、Short reports : 60%

PHL100LA

倫理学 I

2017 年度以降入学者

伊藤 直樹

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 1/Fri.1

単位数：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

倫理学を学ぶことは、単に教室の中で知識を得て、試験で高得点をとることで終わりではない。倫理学の知は、私たちが生きる場で試されるのであり、日常的な生活の中で生きていくことで磨かれていく。そのため、この授業は身近な問題を取り上げながら、社会のルールや規範と個人の価値観との齟齬について、各学生がそれぞれの立場で考察できるように促す。

【到達目標】

この授業は、現代に生きる私たちが、日常的な社会の中で、一個の人間としてどのように存在し、どのように生きるかを社会的規範との関係に基づいて考察することを目的とする。その際に、様々な倫理的問題を解決する実践的な知を獲得することを旨とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際化学学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

本講義では、まず哲学的、倫理的に問うということそのものを考える。そのうえで、各テーマに沿って、倫理的諸問題がどのように扱われてゆくかを見てゆく。毎回、資料を配付し、パワーポイントを用い、それに従って講義する。受講者からの質問、コメントをもとに、それに答えるかたちで講義内容を補足する。倫理学をはじめて学ぶ者にも、理解できるように配慮する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	人間とは何か？（1）	現に問うているのは誰か？
第 2 回	人間とは何か？（2）	世界内存在としての私
第 3 回	人間とは何か？（3）	私は世界とどのように関わるのか？
第 4 回	私は何をなすべきか？（1）	倫理学とは何か？
第 5 回	私は何をなすべきか？（2）	絶対的な善とは何か？
第 6 回	私は何をなすべきか？（3）	アリストテレス倫理学
第 7 回	私は何をなすべきか？（4）	快樂主義とストア派の倫理学
第 8 回	私は自分の義務をなすべきか？（1）	功利主義
第 9 回	私は自分の義務をなすべきか？（2）	自由とは何か？
第 10 回	私は自分の義務をなすべきか？（3）	カント倫理学
第 11 回	私は法にかなったことをなすべきか？（1）	法実証主義
第 12 回	私は法にかなったことをなすべきか？（2）	社会契約論
第 13 回	私は法にかなったことをなすべきか？（3）	自由主義・共同体主義
第 14 回	まとめ	まとめと授業内テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

前回の講義内容に関して、自分なりの理解をまとめておくこと。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。講義時に、ノートを含んだ資料を配付する。

【参考書】

参考書については、講義中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

成績評価の基準は次のようにする。

授業への貢献度 30%；レポート 70%

授業への貢献度とは、毎授業後に提出されるコメントペーパーです。レポートは学期末に、課題を提示します。

【学生の意見等からの気づき】

毎回コメントペーパーを書いてもらい、授業冒頭でそれに応答をします。

コメントペーパーを見ていると、4月のはじめに書かれたものと最後の講義時に書いているコメントペーパーでは、ずいぶん内容が変わってきている印象をもちます。

哲学的・倫理的に考えることが、少しずつですが定着していると思えます。

【Outline (in English)】

【Course outline】

Learning ethics is not gaining knowledge in the classroom and taking a high score in the exam. The knowledge of ethics is tested in the place we live, and it is polished by living in everyday life. For this reason, the aim of this course is to help students think about the discrepancy between social rules and norms and individual values while taking up familiar issues.

【Learning Objectives】

At the end of the course, students are expected to acquire practical knowledge to solve various ethical problems.

【Learning outside of classroom】

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than two hours for a class.

【Grading Criteria/Policy】

Your overall grade in the class will be decided based on the following Term-end examination: 70%, in class contribution: 30%.

PHL100LA

倫理学Ⅱ

2017年度以降入学者

伊藤 直樹

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 1/Fri.1

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

応用倫理学は、現実の中で起こる具体的な倫理的問題に対して、理論的な知をさらに深め、応用していくための倫理学である。そのため、この授業は、グローバルな社会において、多様な価値観に基づく諸文化が交雑することで生ずる倫理的な問題をとり上げながら、文化を異にする他者との価値観の相違について、各学生がそれぞれの立場で考察できるように促す。

【到達目標】

この授業は、現代に生きる私たちが、グローバルな社会の中で、一個の人間としてどのように存在し、どのように生きるかを社会的規範との関係に基づいて考察することを目的とする。その際に、様々な倫理的問題を解決する実践的な知を獲得することを目指す。特に、この授業はいわゆる「応用倫理学（allied ethics）」と呼ばれる分野の倫理学を学ぶことで、倫理学Ⅰで学んだ倫理学の基礎を、現実的なテーマのもとで応用していくという点で、より実践的な倫理学であるといえよう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

本講義では、まず哲学的、倫理的に問うということそのものを考える。そのうえで、各テーマに沿って、倫理的諸問題がどのように扱われてゆくかを見てゆく。毎回、資料を配付し、パワーポイントを用い、それに従って講義する。受講者からの質問、コメントをもとに、それに答えるかたちで講義内容を補足する。倫理学をはじめ学ぶ者にも、理解できるように配慮する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	何が暴力を抑止するか？（1）	「正義の戦争」はありうるか？
第2回	何が暴力を抑止するか？（2）	暴力の倫理学
第3回	何が暴力を抑止するか？（3）	テロリズムと戦争
第4回	私は生命を操作する権利があるのか？（1）	生存権/人権とは何か？
第5回	私は生命を操作する権利があるのか？（2）	「生きるに値する命」とは何か？
第6回	私は生命を操作する権利があるのか？（3）	動物倫理学
第7回	私は生命を操作する権利があるのか？（4）	生命倫理学
第8回	人間の責任はどこまで及ぶのか？（1）	責任という原理（ヨナス）
第9回	人間の責任はどこまで及ぶのか？（2）	科学技術の倫理
第10回	人間の責任はどこまで及ぶのか？（3）	世代間倫理
第11回	環境は保護しなければならぬのか？（1）	環境倫理学とは何か？

第12回 環境は保護しなければ 持続可能な社会とは何か？

ならないのか？（2）

第13回 環境は保護しなければ 21世紀の倫理学に向けて

ならないのか？（3）

第14回 まとめ これまでのまとめ、レポート提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

前回の講義内容に関して、自分なりの理解をまとめておくこと。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。講義時に、ノートを含んだ資料を配付する。

【参考書】

参考書は、授業内で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

学期末にレポートを提出してもらいます。

成績評価の基準は次のようにする。

平常点35%；レポート65%

【学生の意見等からの気づき】

タイミングをみて「哲学対話」やディベートを取り入れています。次のコメントは、「教育」に関して哲学対話を行ったときのコメントです。

「教育と洗脳の違いを考えるだけで、ほぼすべての議題を含めて討論することができた。教育が逆説的であることに気づき、答えが一つに定まらないことに対するもどかしさが解消された。主体や考え方を考えるだけで教育に対する印象が大きく変わった。」

また、授業については、次のようなコメントがありました。

「授業中に思ったことや疑問を次の授業で解決してくれるため、内容があたまに入りやすかった。」

「ディベートや哲学対話をとおして自分の考えを発信したり、相手の考え方を学ぶことができたりしておもしろかった。」

【Outline (in English)】

【Course outline】

Applied ethics is ethics to deepen and apply theoretical knowledge to specific ethical problems occurring in reality. For this reason, in this class, we take up ethical issues arising from the crossing of various cultures based on diverse values in the global society, and consider differences of values with others with different cultures.

【Learning Objectives】

At the end of the course, students are expected to acquire practical knowledge to solve various ethical problems.

【Learning outside of classroom】

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than two hours for a class.

【Grading Criteria/Policy】

Your overall grade in the class will be decided based on the following Term-end examination: 65%, in class contribution: 35%.

PHL100LA

倫理学 I

2017 年度以降入学者

田島 樹里奈

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 3/Wed.3

単位数：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

倫理学を学ぶことは、単に教室の中で知識を得て、試験で高得点をとることで終わりではない。倫理学の知は、私たちが生きる場で試されるのであり、日常的な生活の中で生きていくことで磨かれていく。そのため、この授業は身近な問題を取り上げながら、社会のルールや規範と個人の価値観との齟齬について、各学生がそれぞれの立場で考察できるように促す。

【到達目標】

この授業では、現代に生きる私たちが日常的な社会の中で、一個の人間としてどのように存在し、どのように生きるかを社会的規範との関係に基づいて考察することを目的とする。その際に、様々な倫理的問題を解決する実践的な知を獲得することを目指す。

The purpose of this class is to examine how we exist and live as an individual human being in the everyday society we live in today, based on the relationship with social norms. In doing so, we aim to acquire practical knowledge to solve various ethical problems.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

基本的には講義形式で行ないます。毎回の講義後には、簡単なリアクションペーパーを提出してもらいます。リアクションペーパーは、レポートのような大変なものではなく、授業を視聴して各自で考えたことを書いてもらうことにより、考える力を養い、自分の考えを文字化する訓練のために実施しています。

学生の皆さんに質問を投げかけたり、皆さんのリアクションペーパーを紹介したりすることで、同世代の受講者がどのような考えを持っているのか、同じ講義を聞いてもさまざまな考えがあるのだということを知ることができます。講義形式であっても、教員からの一方的な教えではなく、双方向性を生み出し、お互いに刺激し合い、学び合えるような授業にしていきたいと考えています。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	人間とは何か？（1）	「私」とは誰か？
第 2 回	人間とは何か？（2）	世界の中にいるとはどういうことか？
第 3 回	人間とは何か？（3）	世界の様々な捉え方、世界と「私」
第 4 回	私は何をなすべきか？（1）	倫理学とは何か？
第 5 回	私は何をなすべきか？（2）	絶対的な善とは何か？
第 6 回	私は何をなすべきか？（3）	アリストテレス倫理学：幸福な生とは何か？
第 7 回	私は何をなすべきか？（4）	快樂主義とストア派の倫理学：快樂と禁欲
第 8 回	私は自分の義務をなすべきか？（1）	功利主義：「万人の利益」が善なのか？
第 9 回	私は自分の義務をなすべきか？（2）	自由とは何か？：自由意志と責任

第 10 回	私は自分の義務をなすべきか？（3）	カント倫理学：行為の道徳的価値と義務
第 11 回	私は法にかなったことをなすべきか？（1）	法実証主義：法律は絶対的に正しいのか？
第 12 回	私は法にかなったことをなすべきか？（2）	社会契約論：人民の主権と法の支配
第 13 回	私は法にかなったことをなすべきか？（3）	自由主義・共同体主義：個人の権利と共同体的多元性
第 14 回	まとめ	全体の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の授業の復習をよくすること。とくに授業内で気付いたことや疑問に思ったことは各自で調べたり掘り下げて考えてみる。本授業の準備学習・復習時間は、各 90 分を標準とします。

Review each class carefully. In particular, you are expected to research and think in-depth about any questions you notice or have in the class. The standard preparation and review time for this class is 1.5 hours each.

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

ベルンハルト・ヘルツル、フリードリッヒ・ミュラー、ハンス・ウーラッハ『哲学の問い 討議用』島崎隆監訳、晃洋書房、2002 年適宜、授業の中で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

毎授業ごとのリアクションペーパー（50%）、期末試験またはレポート（50%）

毎回リアクションペーパーを提出することを必須としますので、受講を検討する際は注意してください（ただ提出しているだけの人は、評価対象とならない場合があります。主体的に考えながら受講することを重視しています）。

Reaction papers for each class (50%), final exam or report (50%)
This year, due to the university's request, the class will be conducted on demand. For this reason, we will increase the evaluation ratio of the reaction papers for each class. Please note that it is mandatory to listen to the on-demand class properly and then submit a reaction paper by the deadline every week, so please be careful when considering taking this course.

【学生の意見等からの気づき】

倫理学を受けたことのない人、倫理学がどのような学問か分からない人でも、関心を持って受講することで、少しずつ倫理学が身近な学問であることが理解できるようになってくると思います。また、受講者のコメントシートを紹介することで、同世代の人たちの色々な考え方を知ることができ、良い刺激になると思います。

【その他の重要事項】

※ 倫理学という科目が初めてであっても、毎回の授業の中で少しずつ理解を深め、徐々に慣れることはできるので心配しないで OK です。（基本的に初學者向けの授業です）

※ 単位を取るためだけに履修しようと思う人にはお勧めしません。大学生としてきちんと学ぼうという意思のある人に受講して頂きたいです。

※ この科目は教職科目のため、共通シラバスになっています。

* Even if you are new to the subject of ethics, don't worry because you can gradually deepen your understanding and get used to it in each class. (Basically, this class is for first-time students)

* We do not recommend this course to those who just want to get credits. This class should be taken by anyone who is willing to learn properly as a university student.

* This course is based on a common syllabus.

【Outline (in English)】

This course will introduce and survey the various basic concepts and theoretical framework of ethics. Students will gain practice the critical and philosophical thinking through this course.

During the first part of this course we will introduce the basic concepts and foundational theories of ethics. We will attempt to consider what is definition and what is value. In the second part of the course we will examine some specific topics through philosophical theme. Through this course, students will be able to recognize the importance of ethical values and consideration. In addition, students will be given not only the knowledge and comprehension of ethics, but also the opportunity to consider critically.

PHL100LA

倫理学Ⅱ

2017年度以降入学者

田島 樹里奈

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 3/Wed.3

単位数：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

応用倫理学は、現実の中で起こる具体的な倫理的問題に対して、理論的な知をさらに深め、応用していくための倫理学である。そのため、この授業は、グローバルな社会において、多様な価値観に基づく諸文化が交雑することで生ずる倫理的な問題をとり上げながら、文化を異にする他者との価値観の相違について、各学生がそれぞれの立場で考察できるように促す。

【到達目標】

この授業は、現代に生きる私たちがグローバルな社会の中で、一個の人間としてどのように存在し、どのように生きるかを社会的規範との関係に基づいて考察することを目的とする。その際に、様々な倫理的問題を解決する実践的な知を獲得することを旨とする。特に、この授業はいわゆる「応用倫理学（applied ethics）」と呼ばれる分野の倫理学を学ぶことで、倫理学Ⅰで学んだ倫理学の基礎を、現実的なテーマのもとで応用していくという点で、より実践的な倫理学である。

The goals of this course are to provide students with practical knowledge to solve various ethical problems. In particular, this course is a more practical ethics in terms of applying the fundamentals of ethics learned in Ethics I under realistic themes by studying the so-called field of "applied ethics."

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

基本的には講義形式で行なう。場合によっては、学生の皆さんに質問を投げかけたり、リアクションペーパーなどを用いながら、受講者が主体的に考えられるような授業にしたい。

◆本授業では、多角的な視野でじっくりと物事を考える力を身につけて貰いたいと考えているため、以下のように授業を進める。

- * 講義
 - * 毎回、授業後に簡単なコメントシートを提出。
 - * 適宜、授業内で学生からのコメントを紹介。
- これらの繰り返しをすることで、同じ講義内容を聞いていても、自分とは異なる様々な意見があることを知り、少しずつ多角的な視野を得られるようになって考えている。また講義形式であっても、教員からの一方的な教えではなく、双方向性を生み出し、お互いに刺激し合い、学び合えるような授業にしていきたいと考えている。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	何が暴力を抑止するの	「正義の戦争」はありうるか？ か？（1）
第2回	何が暴力を抑止するの	暴力の倫理学 か？（2）
第3回	何が暴力を抑止するの	テロリズムと戦争 か？（3）
第4回	私は生命を操作する権	生存権／人権とは何か？ 利があるのか？（1）
第5回	私は生命を操作する権	「生きるに値する命」とは何か？ 利があるのか？（2）

第6回	私は生命を操作する権	動物倫理学 利があるのか？（3）
第7回	私は生命を操作する権	バイオテクノロジーの倫理 利があるのか？（4）
第8回	人間の責任はどこまで	責任という原理（ヨナス） 及ぶのか？（1）
第9回	人間の責任はどこまで	科学技術の倫理 及ぶのか？（2）
第10回	人間の責任はどこまで	世代間倫理 及ぶのか？（3）
第11回	環境は保護しなければ	環境倫理学とは何か？ ならないのか？（1）
第12回	環境は保護しなければ	持続可能な社会とは何か？ ならないのか？（2）
第13回	環境は保護しなければ	21世紀の倫理学に向けて ならないのか？（3）
第14回	まとめ	総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の授業の復習をよくすること。とくに授業内で気付いたことや疑問に思ったことは各自で調べたり掘り下げて考えてみる。本授業の準備学習・復習時間は、各 90 分を標準とします。

Review each class carefully. In particular, you are expected to research and think in-depth about any questions you notice or have in the class. The standard preparation and review time for this class is 1.5 hours each.

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

ベルンハルト・ヘルツル、フリードリッヒ・ミュラー、ハンス・ウーラッハ『哲学の問い 討議用』島崎隆監訳、晃洋書房、2002年
加藤尚武『新・環境倫理学のすすめ』、丸善、2005年
ハンス・ヨナス『責任という原理—科学技術文明のための倫理学の試み』、東信堂、2010年
田島樹里奈『デリダのポリティカルエコノミー：パレルゴン・自己免疫・暴力』北樹出版、2019年
その他、適宜授業中に紹介します

【成績評価の方法と基準】

毎授業ごとのリアクションペーパー（50%）、期末試験またはレポート（50%）

リアクションペーパーの提出をもって出席扱いとしますが、ただ提出しているだけの人は評価対象とならない場合があります。主体的に考えながら受講することを重視しています。（リアクションペーパーは、レポートのような大変なものではありません。受講して各自で考えたことを毎回書いてもらうことにより、考える力を養い、自分の考えを文字化する訓練のために行っています）

Reaction papers for each class (50%), final exam or report (50%)
Submission of reaction papers will count as attendance, but those who just submit them may not be evaluated. In this course, the emphasis is on taking the class while thinking proactively.(The reaction paper is not as hard as a report, but is designed to develop your ability to think and to train you to put your thoughts into words by asking you to write what you have thought about each time you take the course.)
Translated with www.DeepL.com/Translator (free version)

【学生の意見等からの気づき】

倫理学を受けたことのない人、倫理学がどのような学問か分からない人でも、関心を持って受講することで、少しずつ身近な学問であることが理解できるようになってくると思います。

Even if you have never taken an ethics class or do not know what ethics is, if you take the course with interest, you will gradually come to understand that it is a familiar subject.(Basically, this class is for first-time students)

【その他の重要事項】

倫理学Ⅰを受けてから受講すると、より理解しやすくなります。
※ 単位だけ欲しくて履修しようと思う人にはお勧めしません。大学生としてきちんと学ぼうという意思のある人に受講して頂きたいです。
※ この科目は教職科目のため、共通シラバスになります。

It is recommended that students take Ethics I before taking this course for better understanding.

We do not recommend this course to those who just want to get credits. This class should be taken by anyone who is willing to learn properly as a university student.

This course is based on the common syllabus.

【Outline (in English)】

This course will learn applied ethics with emphases on violence, technology, environment and sustainability. This course will recognize a variety of ethical issues and problems when confronted with examples of social and historical situations. By this course students will be able to understand what is applied ethics and why this field is important. In addition, through this course students will be given not only the knowledge and comprehension of ethics, but also the opportunity to consider critically.

PHL100LA

倫理学 I

2017 年度以降入学者

森村 修

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 3/Fri.3

単位数：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

倫理学を学ぶことは、単に教室の中で知識を得て、試験で高得点をとることで終わりではない。倫理学の知は、私たちが生きる場で試されるのであり、日常的な生活の中で生きていくことで磨かれていく。そのため、この授業は身近な問題を取り上げながら、社会のルールや規範と個人の価値観との齟齬について、各学生がそれぞれの立場で考察できるように促す。

【到達目標】

この授業は、現代に生きる私たちが、日常的な社会の中で、一個の人間としてどのように存在し、どのように生きるかを社会的規範との関係に基づいて考察することを目的とする。その際に、様々な倫理的問題を解決する実践的な知を獲得することを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

この授業では、基本的には、講義形式で行う。ただ、受講者各自の理解度を確認するために、授業内でディスカッションを行ったり、受講生から意見を述べてもらうなど、積極的に授業に参加してもらうように配慮するつもりである。また、リアクションペーパーを提出してもらうなどして、受講生の考えを授業に反映させていきたいと考えている。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	人間とは何か？（1）	・ 受講上の注意 ・ 授業内容についてのイントロダクション
第 2 回	人間とは何か？（2）	・ 「現に問うているのは誰か？」 ・ ハイデガー哲学からみた「私」の位置
第 3 回	人間とは何か？（3）	・ 「世界内存在としての私」 ・ 「私は世界とどのように関わるのか？」
第 4 回	私は何をなすべきか？（1）	・ 「倫理学とは何か？」
第 5 回	私は何をなすべきか？（2）	・ 「絶対的な善とは何か？」 ・ 倫理学と宗教
第 6 回	私は何をなすべきか？（3）	・ アリストテレス倫理学
第 7 回	私は何をなすべきか？（4）	・ 快樂主義とストア派の倫理学
第 8 回	私は自分の義務をなすべきか？（1）	・ 功利主義 ・ 義務と有用性
第 9 回	私は自分の義務をなすべきか？（2）	・ 自由とは何か？ ・ 権利と自由
第 10 回	私は自分の義務をなすべきか？（3）	・ カント倫理学 ・ 権利と義務
第 11 回	私は法になかったことをなすべきか？（1）	・ 法実証主義 ・ 法と倫理

- 第 12 回 私は法になかったこと ・ 社会契約論
をなすべきか？（2） ・ 国家と個人
- 第 13 回 私は法になかったこと ・ 自由主義・共同体主義
をなすべきか？（3） ・ 政治と倫理
・ 社会と個人
- 第 14 回 まとめ ・ 倫理学の現代的意味

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・ 倫理的問題は、私たちが日常生活を営むなかで様々な形で出会う問題が多い。それゆえ、受講生各自は、授業内で指示された様々な倫理的な基本的文献を参考にしながら、自らの倫理的問題を意識することが望ましい。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

ベルンハルト・ヘルツル、フリードリッヒ・ミュラー、ハンス・ウーラッハ『哲学の問い 討議用』島崎隆監訳、晃洋書房、2002 年
加藤尚武『現代倫理学入門』、講談社学術文庫、1997 年
など

【成績評価の方法と基準】

・ 定期試験（30%）に加え、リアクションペーパーや小テスト（70%）などを行うことで、授業の理解度を確認し、総合的に判断する。

【学生の意見等からの気づき】

・ リアクションペーパーを活用することで、受講生からの意見を授業に反映させるようにする。

【その他の重要事項】

・ 倫理学という学問の性質上、私たちが生きている現場で、実践知として生かされなければ、倫理学で学んだ知識は単なる「机上の空論」にすぎない。倫理学説の特徴を理解しながらも、各自がいきている場面で生かしていかない限り、倫理的知は身につかない。したがって、授業に参加するだけでなく、自ら日常生活の中で、日頃から倫理観を問いただす姿勢をもつようにしてもらいたい。

【Outline (in English)】

【Course outline】

Learning ethics is not gaining knowledge in the classroom and taking a high score in the exam. The knowledge of ethics is tested in the place we live, and it is polished by living in everyday life. For this reason, the aim of this course is to help students think about the discrepancy between social rules and norms and individual values while taking up familiar issues.

【Learning Objectives】

At the end of the course, students are expected to acquire practical knowledge to solve various ethical problems.

【Learning outside of classroom】

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than two hours for a class.

【Grading Criteria/Policy】

Your overall grade in the class will be decided based on the following Term-end examination: 30%, Short reports : 30%, in class contribution: 40%

PHL100LA

倫理学Ⅱ

2017年度以降入学者

森村 修

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 3/Fri.3

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

応用倫理学は、現実の中で起こる具体的な倫理的問題に対して、理論的な知をさらに深め、応用していくための倫理学である。そのため、この授業は、グローバルな社会において、多様な価値観に基づく諸文化が交雑することで生ずる倫理的な問題をとり上げながら、文化を異にする他者との価値観の相違について、各学生がそれぞれの立場で考察できるように促す。

【到達目標】

この授業は、現代に生きる私たちが、グローバルな社会の中で、一個の人間としてどのように存在し、どのように生きるかを社会的規範との関係に基づいて考察することを目的とする。その際に、様々な倫理的問題を解決する実践的な知を獲得することを目指す。特に、この授業はいわゆる「応用倫理学（applied ethics）」と呼ばれる分野の倫理学を学ぶことで、倫理学Ⅰで学んだ倫理学の基礎を、現実的なテーマのもとで応用していくという点で、より実践的な倫理学であるといえよう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は、基本的に、講義形式で行われる。ただ、授業で取り上げる応用倫理的な諸問題について、受講生から意見を聞いたり、ディスカッションを行ったりすることも考えている。また、リアクションペーパーを提出してもらうことで、受講生の意見を積極的に授業に反映させることも考えている。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	何が暴力を抑止するのか？（1）	・「正義の戦争」はありうるか？ ・戦争倫理学入門
第2回	何が暴力を抑止するのか？（2）	・暴力の倫理学
第3回	何が暴力を抑止するのか？（3）	・テロリズムと戦争 ・国家に抵抗することは、可能か？
第4回	私は生命を操作する権利があるのか？（1）	・生存権／人権とは何か？ ・生命の尊厳と生命の質
第5回	私は生命を操作する権利があるのか？（2）	・「生きるに値する命」とは何か？
第6回	私は生命を操作する権利があるのか？（3）	・動物倫理学 ・動物保護の倫理
第7回	私は生命を操作する権利があるのか？（4）	・バイオテクノロジーの倫理
第8回	人間の責任はどこまで及ぶのか？（1）	・責任という原理（ヨナス）
第9回	人間の責任はどこまで及ぶのか？（2）	・科学技術の倫理
第10回	人間の責任はどこまで及ぶのか？（3）	・世代間倫理
第11回	環境は保護しなければならないのか？（1）	・環境倫理学とは何か？

第12回 環境は保護しなければ・持続可能な社会とは何か？
ならないのか？（2）

第13回 環境は保護しなければ・21世紀の倫理学に向けて
ならないのか？（3）

第14回 まとめ
・応用倫理学の現代的な意味について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

応用倫理学の領域は多岐に渡るため、受講生各自はそれぞれの興味関心のままに倫理的問題にアプローチすることができる。それゆえ、自分が興味のあるテーマについての様々な文献をよみ、自らの倫理観を見直すように努めてもらいたい。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

ベルンハルト・ヘルツル、フリードリッヒ・ミュラー、ハンス・ウーラッハ『哲学の問い 討議用』島崎隆監訳、晃洋書房、2002年
加藤尚武『戦争倫理学』、ちくま新書、2003年
加藤尚武『新・環境倫理学のすすめ』、丸善、2005年
ハンス・ヨナス『責任という原理—科学技術文明のための倫理学の試み』、東信堂、2010年
など

【成績評価の方法と基準】

定期試験（30％）に加え、小テスト（30％）やリアクションペーパー（40％）などで、授業の理解度を確認し、総合的に判断する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

応用倫理学の扱う領域は多種多様であり、そこで生ずる倫理的問題もまた多岐にわたっている。その意味では、私たちは、倫理的問題にどこからでも取り組むことができる。それゆえ、受講生各自は、自らの興味関心や素朴な疑問から倫理的問題にアプローチすることができる。そして、応用倫理学の分野（生命倫理学、環境倫理学、情報倫理学、戦争倫理学など）の領域を堪能してもらいたい。

【Outline (in English)】

【Course outline】

Applied ethics is ethics to deepen and apply theoretical knowledge to specific ethical problems occurring in reality. For this reason, in this class, we take up ethical issues arising from the crossing of various cultures based on diverse values in the global society. Therefore, the aim of this course is to help students consider differences of values with others with different cultures.

【Learning Objectives】

At the end of the course, students are expected to acquire practical knowledge to solve various ethical problems.

【Learning activities outside of classroom】

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than two hours for a class.

【Grading Criteria /Policy】

Your overall grade in the class will be decided based on the following Term-end examination: 30%、Short reports : 30%、in class contribution: 40%.

PHL100LA

倫理学 I

2017 年度以降入学者

佐藤 英明

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 5/Fri.5

単位数：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

倫理学を学ぶことは、単に教室の中で知識を得て、試験で高得点をとることで終わりではない。倫理学の知は、私たちが生きる場で試されるのであり、日常的な生活の中で生きていくことで磨かれていく。そのため、この授業は身近な問題を取り上げながら、社会のルールや規範と個人の価値観との齟齬について、各学生がそれぞれの立場で考察できるように促す。

【到達目標】

この授業は、現代に生きる私たちが、日常的な社会の中で、一個の人間としてどのように存在し、どのように生きるかを社会的規範との関係に基づいて考察することを目的とする。その際に、様々な倫理的問題を解決する実践的な知を獲得することを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義を中心に進めるが、授業中にとりあげた問題に対して受講者自身の意見を求めることもある。原則として毎回リアクションペーパー（課題）の提出を求める。授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

大学の行動方針レベルが1の場合は、オンライン授業と対面授業を併用する。レベルが2となった場合は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	人間とは何か？（1） ——現に問うているのは誰か？	人間が人間の本質を問うという営みがどのようなものなのか考える。
第 2 回	人間とは何か？（2） ——世界内存在としての私	人間を「世界内存在」と捉えたハイドガールの思想を解説する。
第 3 回	人間とは何か？（3） ——私は世界とどのように関わるのか？	人間が世界を認識することができるのは精神的働きによってである。その位置づけについて考察する。
第 4 回	私は何をなすべきか？（1） ——倫理学とは何か？	倫理学という学問の概要を倫理学の3つのレベルの違いという観点から解説する。
第 5 回	私は何をなすべきか？（2） ——絶対的な善とは何か？	「よい」という言葉の相対的な使用と絶対的な使用の区別について考える。
第 6 回	私は何をなすべきか？（3） ——アリストテレス倫理学	エウダイモニア（幸福）を中心とするアリストテレス倫理学の特徴を解説する。
第 7 回	私は何をなすべきか？（4） ——快樂主義とストア派の倫理学	生涯にわたる苦痛からの解放を求めるエピクロス派と自然に適合した行為を求めるストア派の思想を解説する。

第 8 回	私は自分の義務をなすべきか？（1） ——功利主義	公益の最大化をめざす利他主義的幸福主義の立場について考える。
第 9 回	私は自分の義務をなすべきか？（2） ——自由とは何か？	倫理学の人間学的前提である「自由意志」について考察する。
第 10 回	私は自分の義務をなすべきか？（3） ——カント倫理学	カント倫理学の概要を解説する。
第 11 回	私は法にかなったことをなすべきか？（1） ——法実証主義	現に通用している法律の妥当性を倫理的にどんな根拠に基づくのか考える。
第 12 回	私は法にかなったことをなすべきか？（2） ——社会契約論	ホブズの社会契約論、現代的な契約論ともいえるロールズ思想について解説する。
第 13 回	私は法にかなったことをなすべきか？（3） ——自由主義・共同体主義	社会的な目標より個人の権利を優先する「自由主義」と共同体としての善を重視する「共同体主義」について考える。
第 14 回	まとめ	これまでの授業全体を振り返り、※別途定期試験を実施する 理解を深める。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で扱った内容について、書籍やインターネット等を通じて、さらに理解を深め、自身の思索を深化させることが求められる。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

ベルンハルト・ヘルツル、フリードリッヒ・ミュラー、ハンス・ウーラッハ『哲学の問い 討議用』島崎隆監訳、晃洋書房、2002 年
加藤尚武『現代倫理学入門』、講談社学術文庫、1997 年
など

【成績評価の方法と基準】

授業内小テスト（70％）期末レポート（30％）

【学生の意見等からの気づき】

受講生からの意見を授業に反映させるために、さらにリアクションペーパーの活用を工夫すること。

【Outline (in English)】

Learning ethics is not gaining knowledge in the classroom and taking a high score in the exam. The knowledge of ethics is tested in the place we live, and it is polished by living in everyday life. For this reason, this class will encourage each student to think about the discrepancy between social rules and norms and individual values while taking up familiar issues.

The goals of this course are to consider how we, who live in the present age, exist and live as one human being based on the relationship with social norms and to acquire practical knowledge to solve various ethical problems.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on the following.

Short reports:50,Term-end examination:50.

PHL100LA

倫理学Ⅱ

2017年度以降入学者

佐藤 英明

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 5/Fri.5

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

応用倫理学は、現実の中で起こる具体的な倫理的問題に対して、理論的な知をさらに深め、応用していくための倫理学である。そのため、この授業は、グローバルな社会において、多様な価値観に基づく諸文化が交雑することで生ずる倫理的な問題を取り上げながら、文化を異にする他者との価値観の相違について、各学生がそれぞれの立場で考察できるように促す。

【到達目標】

この授業は、現代に生きる私たちが、グローバルな社会の中で、一個の人間としてどのように存在し、どのように生きるかを社会的規範との関係に基づいて考察することを目的とする。その際に、様々な倫理的問題を解決する実践的な知を獲得することを目指す。特に、この授業はいわゆる「応用倫理学（applied ethics）」と呼ばれる分野の倫理学を学ぶことで、倫理学Ⅰで学んだ倫理学の基礎を、現実的なテーマのもとで応用していくという点で、より実践的な倫理学であるといえよう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義を中心に進めるが、授業中にとりあげた問題に対して受講者自身の意見を求めることもある。原則として毎回リアクションペーパー（課題）の提出を求める。授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	何が暴力を抑止するのか？（1）——「正義の戦争」はありうるか？	正義論とはなにか、正義論はどのような戦争を正当化するのか考える。
第2回	何が暴力を抑止するのか？（2）——暴力の倫理学	暴力という観点から戦争を考える。
第3回	何が暴力を抑止するのか？（3）——テロリズムと戦争	テロリズムについて戦争倫理学という観点から考察する。
第4回	私は生命を操作する権利があるのか？（1）——生存権/人権とは何か？	生存権をもつとはいかなることか、その前提条件は何かを考える。
第5回	私は生命を操作する権利があるのか？（2）——「生きるに値する命」とは何か？	「生きるに値する命」という評価をとおこなう可能性について考える。
第6回	私は生命を操作する権利があるのか？（3）——動物倫理学	シンガーの「動物解放論」にていて解説する。

- 第7回 私は生命を操作する権利があるのか？（4）——動物倫理学 動物倫理学と環境倫理学との関係について解説する。
- 第8回 人間の責任はどこまで及ぶのか？（1）——責任という原理（ヨナス） ヨナスの責任概念を中心に相互性について考える。
- 第9回 人間の責任はどこまで及ぶのか？（2）——科学技術の倫理 科学技術の発展がもたらす倫理問題について考える。
- 第10回 人間の責任はどこまで及ぶのか？（3）——世代間倫理 世代間倫理に対する世代間倫理について解説する。
- 第11回 環境は保護しなければならないのか？（1）——環境倫理学とは何か？ 世代間倫理としての環境倫理学について解説する。
- 第12回 環境は保護しなければならないのか？（2）——持続可能な社会とは何か？ 「持続可能性」という概念について倫理的な観点から考える。
- 第13回 環境は保護しなければならないのか？（3）——21世紀の倫理学に向けて なぜ地球環境を保護しなければならないのか、その理由を考える。
- 第14回 まとめ これまでの授業全体を振り返り、※別途定期試験を実施 理解を深める。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で扱った内容について、書籍やインターネット等を通じて、さらに理解を深め、自身の思索を深化させることが求められる。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

ベルンハルト・ヘルツル、フリードリッヒ・ミュラー、ハンス・ウーラッハ『哲学の問い 討議用』島崎隆監訳、晃洋書房、2002年
加藤尚武『戦争倫理学』、ちくま新書、2003年
加藤尚武『新・環境倫理学のすすめ』、丸善、2005年
ハンス・ヨナス『責任という原理—科学技術文明のための倫理学の試み』、東信堂、2010年
浅見昇吾、森永審一郎（編）『教養としての応用倫理学』、丸善出版、2013年
など

【成績評価の方法と基準】

授業内小テスト（70％）期末レポート（30％）

【学生の意見等からの気づき】

受講生からの意見を授業に反映させるために、さらにリアクションペーパーの活用を工夫すること。

【Outline (in English)】

Applied ethics is ethics to deepen and apply theoretical knowledge to specific ethical problems occurring in reality. For this reason, in this class, we take up ethical issues arising from the crossing of various cultures based on diverse values in the global society, and consider differences of values with others with different cultures.

The goals of this course are to consider how we, who live in the present age, exist and live as one human being in a global society based on the relationship with social norms and to acquire practical knowledge to solve various ethical problems. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on the following.

Short reports:50,Term-end examination:50.

PHL100LA

倫理学 I

2017 年度以降入学者

越部 良一

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 2/Fri.2

単位数：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

倫理学を学ぶことは、単に教室の中で知識を得て、試験で高得点をとることで終わりではない。倫理学の知は、私たちが生きる場で試されるのであり、日常的な生活の中で生きていくことで磨かれていく。この授業は倫理的な問題を取り上げながら、社会のルールや規範と個人の価値観について、各学生がそれぞれの立場で考察できるように促す。

【到達目標】

この授業は、現代に生きる私たちが、日常的な社会の中で、一個の人間としてどのように存在し、どのように生きるかを社会的規範との関係に基づいて考察することを目的とする。その際に、様々な倫理的問題を探究する実践的な知を獲得することを旨とする。前半は東西の古典的な倫理思想を取り上げ、後半は近現代の西洋倫理思想を取り上げて、倫理的な問題と思考を理解し説明できることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は対面授業である。講義形式で行い、思想家の言葉を見ながら、その意味を把握していくことを中心とする。質問等のフィードバックは授業内で行う。ただし、初回の授業のみオンラインで行う予定である（初回授業の詳細は数日前に学習支援システムに示す予定）。

大学の行動方針レベルの変更に応じて授業形態を変更する際は、学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	この授業の概要	シラバスおよびこの授業全体の概観と説明
第 2 回	倫理学とは何か	倫理学と他の学問。倫理学の根本問題、善、快楽、自己、共同体、超越者
第 3 回	人間とは何か？（1）	現に問うているのは誰か？ ソクラテスの「汝自身を知れ」、魂の善さ（徳）
第 4 回	人間とは何か？（2）	世界内存在としての私。ソクラテスの法と国家、死についての思索
第 5 回	人間とは何か？（3）	私は世界とどのように関わるのか？ 釈尊の四諦と自己
第 6 回	私は何をなすべきか？（1）	孔子の仁と学
第 7 回	私は何をなすべきか？（2）	孔子の「天命を知る」
第 8 回	私は何をなすべきか？（3）	絶対的な善とは何か？ 福音書におけるイエスの思想
第 9 回	私は何をなすべきか？（4）	アリストテレス倫理学、「中庸」の思想
第 10 回	私は自分の義務をなすべきか？（1）	カント倫理学①「道徳法則」

第 11 回 私は自分の義務をなす カント倫理学② 自由とは何か？ べきか？（2）

第 12 回 私は自分の義務をなす 功利主義（ベンサム、ミル） べきか？（3）

第 13 回 私は法にかなったこと 社会契約論 をなすべきか？

第 14 回 授業のまとめ まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で配布するプリントをよく読み込むこと。また授業で取り上げる著作（西洋のものは翻訳でよい）に少しでも目を通すことが望ましい。

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキスト（教科書）は使用しない。適宜、プリントを配布する。

【参考書】

授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（40%くらい）と期末の筆記試験（60%くらい）の2つにより評価する予定である。

期末の筆記試験は、最終授業内で教室で行う予定である。ただし、状況によっては変更することもありえるので、6月下旬頃の授業でのアナウンスに注意しておいてほしい。

【学生の意見等からの気づき】

古典的な倫理思想はただ古いだけでなく、現代に生きているものであることに注意しながら見ていく。

【Outline (in English)】

This course deals with the basic questions and thoughts of ethics. It also enhances the development of students' skill in considering social rules and morals. The goals of this course are to understand and explain ethical issues and thinking.

The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each. Grades will be evaluated based on two points: a normal score (about 40%) and a written test at the end of the semester (about 60%).

PHL100LA

倫理学Ⅱ

2017年度以降入学者

越部 良一

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 2/Fri.2

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

応用倫理学は、現実の中で起こる具体的な倫理的問題に対して、理論的な知をさらに深め、応用していくための倫理学である。この授業は、その中でも主に生命倫理学と環境倫理学を取り上げて、科学技術の進展と多様な価値観に基づく諸文化が交雑する現代世界の中で生れてきた倫理的な問題を見やりながら、文化や価値観を異にする他者との相違のうちにある、各学生がそれぞれの立場で倫理的問題を考察できるように促す。

【到達目標】

この授業は、現代に生きる私たちが、グローバルな社会の中で、一個の人間としてどのように存在し、どのように生きるかを社会的規範との関係に基づいて考察することを目的とする。その際に、様々な倫理的問題を解決する実践的な知を獲得することを目指す。特に、この授業はいわゆる「応用倫理学（applied ethics）」と呼ばれる分野の「生命倫理」「環境倫理」を主に学ぶことで、倫理学Ⅰで学んだ倫理学の基礎を、現実的なテーマのもとで応用していくという点で、より実践的な倫理学であるといえよう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は対面授業である。講義形式で行う。質問等のフィードバックは授業内で行う。

大学の行動方針レベルの変更に応じて授業形態を変更する際は、学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	この授業の概要	シラバス及びこの授業全体の概観と説明
第2回	応用倫理学とは何か	倫理学と応用倫理学、生命倫理学、環境倫理学
第3回	私は生命を操作する権利があるのか？（1）	「生きるに値する命」とは何か？ 生命倫理学の基本概念
第4回	私は生命を操作する権利があるのか？（2）	脳死と臓器移植の問題① 「脳死」とは何か
第5回	私は生命を操作する権利があるのか？（3）	脳死と臓器移植の問題② 脳死と臓器移植への思想的批判
第6回	私は生命を操作する権利があるのか？（4）	person（人格、人間）とは何か？ エンゲルハートの生命倫理学
第7回	環境は保護しなければならないのか？（1）	環境倫理学とは何か？ 環境倫理学の根本問題
第8回	環境は保護しなければならないのか？（2）	動物倫理学 動物の権利と土地倫理。「権利」とは何か
第9回	環境は保護しなければならないのか？（3）	21世紀の倫理学に向けて 桑子敏雄の「空間の履歴」
第10回	環境は保護しなければならないのか？（4）	持続可能な社会とは何か？ 大量消費社会批判（アレント、佐伯啓思）
第11回	人間の責任はどこまで及ぶのか？（1）	世代間倫理（フレチェット）

第12回 人間の責任はどこまで 責任という原理（ヨナス）

及ぶのか？（2）

第13回 何が暴力を抑止するの 暴力、戦争と倫理学

か？

第14回 授業のまとめ

まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で取り上げる著作（西洋のものは翻訳でよい）に少しでも目を通すこと。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。

【参考書】

授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（40%くらい）と期末の筆記試験（60%くらい）の2つにより評価する予定である。

期末の筆記試験は、最終授業内で教室で行う予定である。ただし、状況によっては変更することもありえるので、12月はじめ頃の授業でのアナウンスに注意してほしい。

【学生の意見等からの気づき】

生命倫理学、環境倫理学は新しい学問であり、かつ欧米の現代倫理学の影響が強くみられる倫理となっていることに注意しながら講義していくつもりである。

【Outline (in English)】

This course deals with the applied ethics, especially with bioethics and environmental ethics. It enhances the development of students' skill in considering various ethical issues. The goals of this course are to understand and explain ethical issues and thinking. The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each. Grades will be evaluated based on two points: a normal score (about 40%) and a written test at the end of the semester (about 60%).

PHL100LA

論理学 I

2017 年度以降入学者

大西 正人

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 4/Tue.4

単位数：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

論理学は正しい思考の形式の研究と定義されています。わざわざ「正しい」とついているのは、そもそもなぜ思考というものが成り立っているのか知りたいという哲学的な関心があるからです。思考を研究してみてわかることは、思考が、はじめばらばらに現れていた世界の根底に本質的な統一を見出し、それらを結合しまとめる作業だということです。だから考えることができると、世界はまとまりがついてすっきりします。「わかった！」というときのあの感覚です。逆に、うまく考えられないことを考えが「まとまらない」と言うのもそのためです。考えられるとは、まとまること、すっきりすることです。私たちはすっきりしたいから、正しく考えられるようになりますと願っています。論理学は、その手助けをします。特にこの論理学 I では、アリストテレス以来の伝統的な形式論理学に焦点を当てます。

【到達目標】

本講義の到達目標は、受講生が、①論理的思考の練習ができるようにし、②さらになぜ私たちはものを考えることのできる「ひと」でありえているのか、思考そのものの成り立ちに対する洞察を通して人間理解を深められるようにすることである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式で進めながら、適宜、教科書の問題を解いてみる。授業後にグーグルフォーム上の小テストを行う。課題等の提出・フィードバックは学習支援システムやグーグルフォームテストを通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	論理学とは？
2	論理学の原理	アイデンティティとは何か
3	概念 (1)	概念とは何か－内包と外延、類と種
4	概念 (2)	概念の定義
5	概念 (3)	ロジックツリー ロジックツリーを使って実戦的問題を解決する方法
6	判断 (1)	判断とは何か
7	判断 (2)	判断の分類
8	判断 (3)	オイラーの図形、周延と不周延
9	判断 (4)	オイラーの図形を使った問題
10	推理 (1)	推理とは何か 演繹と帰納、アナロジー
11	推理 (2)	対当推理
12	推理 (3)	変形推理
13	推理 (4)	三段論法の形式
14	推理 (5)	定言三段論法の格式と規則

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。予習は、事前に教科書の次の章を読む。

復習は、前回のグーグルフォーム上の小テストの模範解答をチェックしてから授業で解答が示された教科書の問題を解きなおすこと。そのうえで今回のグーグルフォーム上の小テストを受けること。

【テキスト（教科書）】

論理学入門／千葉茂美 東千尋 若山玄芳／学陽書房 ISBN-313-35005-5

【参考書】

授業中に指示する。

【成績評価の方法と基準】

原則、授業後に行われる上記小テストの合計点 100 % で評価。

【学生の意見等からの気づき】

毎行っている前回小テストの解説を工夫し、これまでの復習や定着がより効率的にできるようにしたい。

【学生が準備すべき機器他】

上記グーグルフォーム上の小テストを受けるためのデバイス。PC が望ましい。

【Outline (in English)】

Logic is defined as researching the form of correct thinking. It is because there is a philosophical interest in knowing why thought is established in the first place. What you can understand by studying thinking is that thinking is a task of finding unity in the world that appeared separately at first and combining the world. So if you can think well, the world will be clean and refreshing. That feeling at the time "I understood!" On the contrary, when you can not think well, you will say "I can not put together my idea." To think is to make it clear and to be clear. Since we want to be clear, we hope to be able to think right. Logic will help that.

In particular, this logic I focuses on traditional formal logic since Aristotle.

The purpose of this course is to be able to think logically and correctly.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading will be decided based on the total score of confirmation tests (100%).

PHL100LA

論理学Ⅱ

2017年度以降入学者

大西 正人

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 4/Tue.4

単位数：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

論理学は正しい思考の形式の研究と定義されています。わざわざ「正しい」とついているのは、そもそもなぜ思考というものが成り立っているのか知りたいという哲学的な関心があるからです。思考を研究してみてもわかることは、思考が、はじめばらばらに現れていた世界の根底に本質的な統一を見出し、それらを結合しまとめる作業だということです。だから考えることができると、世界はまとまりがついてすっきりします。「わかった！」というときのあの感覚です。逆に、うまく考えられないことを考えが「まとまらない」と言うのもそのためです。考えられるとは、まとまること、すっきりすることです。私たちはすっきりしたいから、正しく考えられるようになりたいと願っています。論理学は、その手助けをします。

春学期の論理学Ⅰでは伝統的な形式論理学と呼ばれるものが主に扱われました。それに対してこの秋学期の論理学Ⅱでは、そうした伝統的な形式論理学の問題点や限界を乗り越えようとする近代以降の論理学の試みにも焦点を当てます。ただし、論理学Ⅰの受講を前提とせず独立にとれるように配慮します。

【到達目標】

本講義の到達目標は、受講生が、①論理的思考の練習ができるようにし、②さらになぜ私たちはものを考えることのできる「ひと」でありえているのか、思考そのものの成り立ちに対する洞察を通して人間理解を深められるようにすることである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式で進めながら、適宜、教科書の問題を解いてみる。授業後にGoogleフォーム上の小テストを行う。課題等の提出・フィードバックは学習支援システムやGoogleフォームテストを通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	論理学への導入
2	三段論法 (1)	三段論法の格式
3	三段論法 (2)	正しい三段論法の規則
4	三段論法 (3)	ベンの図形による三段論法の妥当性の判定
5	誤謬論	なぜ誤謬に陥るのか
6	帰納推理 (1)	帰納推理とは何か
7	帰納推理 (2)	ミルの帰納法
8	記号論理学 (1)	記号論理学とは何か
9	記号論理学 (2)	命題論理学
10	記号論理学 (3)	命題の記号化と真理表、簡単な思考装置の設計
11	記号論理学 (4)	結合記号の相互関係
12	記号論理学 (5)	恒真命題
13	記号論理学 (6)	公理主義体系
14	記号論理学 (7)	限量論理学

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

予習は、事前に教科書の次の章を読む。

復習は、前回のGoogleフォーム上の小テストの模範解答をチェックしてから授業で解答が示された教科書の問題を解きなおすこと。そのうえで今回のGoogleフォーム上の小テストを受けること。

【テキスト（教科書）】

論理学入門／千葉茂美 東千尋 若山玄芳／学陽書房 ISBN-313-35005-5

【参考書】

授業中に指示する。

【成績評価の方法と基準】

原則、授業後に行われる上記小テストの合計点 100 %で評価。

【学生の意見等からの気づき】

毎回行っている前回小テストの解説を工夫し、これまでの復習や定着がより効率的にできるようにしたい。

【学生が準備すべき機器他】

上記Googleフォーム上の小テストを受けるためのデバイス。PC が望ましい。

【Outline (in English)】

Logic is defined as researching the form of correct thinking. It is because there is a philosophical interest in knowing why thought is established in the first place. What you can understand by studying thinking is that thinking is a task of finding unity in the world that appeared separately at first and combining the world. So if you can think well, the world will be clean and refreshing. That feeling at the time "I understood!" On the contrary, when you can not think well, you will say "I can not put together my idea." To think is to make it clear and to be clear. Since we want to be clear, we hope to be able to think right. Logic will help that.

In Logic I, things called traditional formal logic were mainly dealt with. On the other hand, this Logic II also focuses on modern logic attempts to overcome the problems and limitations of such traditional formal logic. However, we will be able to take it independently without assuming that you take Logic I.

The purpose of this course is to be able to think logically and correctly.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading will be decided based on the total score of confirmation tests (100%).

PHL100LA

論理学 I

2017 年度以降入学者

白根 裕里枝

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses

単位数：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講義では、主として伝統的形式論理学の基礎を学び、正しい推論を形成し論証の妥当性を判定するための基本技術を習得することを目的とします。我々は何を考え、何を行なうにしても、まず論理的に正しく考えなくては、いつどこで誤り、不幸な結果を招くかわからない。では「論理的に正しい」とか「矛盾している」とはどういうことなのか。論理学は、我々の思考のあり方を反省し、その原理と規則を明らかにし、正しい判断をもたらすための学問です。論理的に考える方法を身に付けることは、何を学ぶ上でも大変に重要であって、これなくしてはいかなる学問も成立しません。この授業で、学生は論理的に思考するための基礎的知識を身につけることができます。

【到達目標】

学生は、まずは、概念、命題、推理についてなど、論理的に思考するための基礎知識を学び、身につけることができます。命題のあり方や推理の基本を学ぶことで、論理的思考の訓練になります。レポートや小論文などを書く上でも、言葉や論理に気をつけるようになるでしょう。公務員試験などにも論理学の基礎知識を問う問題も出るようです。何を学ぶにも論理学の基礎知識は有用です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

この講義は、基本的にはオンライン形式によるプリントを用いた講義です。理解を深めるために練習問題を数多く解いてもらいます。身近な例などを用いてわかりやすく解説していきます。論理学は積み重ねが重要なので、毎回の出席（＝課題の提出）を重視します。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。なるべく論理学 I と II とを通して履修するようにして下さい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	序論	論理学とはいかなる学問か
2	思考の根本原理	同一律、矛盾律、排中律について
3	概念論 1、概念とは何か？	概念とは何か、概念の形成
4	概念論 2、概念の性質	概念の性質、内包と外延
5	概念論 3、分類とは何か？	分類体系図とカテゴリー
6	概念論 4、概念の種類について	概念の種類・問題演習
7	命題論 1、命題とは何か？	命題とは何か？ 命題の標準形式について
8	命題論 2、命題の種類	定言命題の基本形式
9	命題論 3、命題の表し方	オイラーの図と周延・不周延
10	命題論 4、問題演習	問題演習
11	推理 1、直接推理	対当関係による推理
12	推理 2、対当関係	対当の四角形と解説

13 推理 3、対当による推 問題演習
理

14 前期のまとめと試験 授業内試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各自、予習・復習のために、教科書をよく読むこと。毎回の課題の提出準備など、本授業の準備学習・復習時間は、各 3 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『論理学の初歩』（改訂版）大貫義久、白根裕里枝、菅沢龍文、中釜浩一共著、梓出版、2013

【参考書】

『論理学』 藤野登著 内田老鶴圃

『論理学講義』村上恭一著 成文堂

【成績評価の方法と基準】

毎回の課題の提出などの平常点 (40 %) と、学期末試験の成績 (60 %) によって評価する。

【学生の意見等からの気づき】

引き続き、丁寧で分かりやすく面白い授業を心がける。対面の場合、授業中の私語は絶対に禁止なので、授業に集中できるよう私語の排除に配慮したい。板書の写メ、スマホも禁止する。オンラインの場合、酷似した課題やレポートは、どちらも減点の対象とする。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire an ability to think logically. This course introduces the basics of the traditional formal logic and symbolic logic to students taking this course. After two semesters, students will be able to understand the outline of the traditional formal logic and prepared to think logically.

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than three hours for a class.

Grading will be decided based on the following,

Term-end examination:60%,Submit assignment:30%,Usual performance score:10%.

PHL100LA

論理学Ⅱ

2017年度以降入学者

白根 裕里枝

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses

単位数：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

論理学（Ⅰ）で学んだ「概念」や「命題」を元にして、論理学Ⅱでは、主として「推理」をめぐって、論理学の基礎を学ぶ。直接推理、三段論法、仮言推理、両刀論法、記号論理の初歩などを基礎から学び、実際の問題を解くことを通して、論理的思考を身に付けることを目的とする。特に、アリストテレスによって完成された三段論法について詳しく学んでゆく。実際に問題を解いてみることを通して、思考の見事な規則性を確認するとともに、いかに自分が安易な思い込みや思い違いの中で日々暮らしているか、気づくだろう。論理学を学ぶことで、われわれの思考のパターンと、そのあるべき姿について広く学ぶことができる。

【到達目標】

学生は、直接推理、三段論法、仮言推理、両刀論法、記号論理の初歩などを基礎から学び、実際の問題を解くことを通して、論理的思考を身に付けることができる。例えば、「私を愛しているのなら、電話をくれるはず。電話をくれた！私を愛しているのね♡」かどうか……。特に学生は、アリストテレスによって完成された三段論法について詳しく学び、解き方を身につけることができる。論理的思考の基礎を身に付けることは、レポートや小論文などを書く際にも大いに役立つだろう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

基本的な事柄を配布プリントを用いて解説した上で、多くの練習問題を解くことによって理解を深めてゆきます。身近な例を用いて、わかりやすく説明します。例えば「学生は勉強が必要だが、教師は学生でないから、教師は勉強しなくてよい」？。これはどうして変なのか？いかなる誤謬であるのかなど、いろいろな規則を学びます。毎回の課題を解くことで、理解を深めるように工夫しています。論理学は積み重ねが重要なので、毎回の練習問題や課題の提出を重視します。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。なるべく論理学（Ⅰ）と（Ⅱ）を通して履修するようにして下さい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	推理論1	推理とは何か？
2	変形による直接推理 1、換質法	換質法の解説と問題演習
3	変形による直接推理 2、換位法	換位法の解説と問題演習
4	変形による直接推理 3、換質換位法	換質・換位法のまとめと問題演習
5	間接推理、定言三段論法	三段論法とは何か？
6	三段論法の公理と規則 1	定言三段論法の公理と6つの規則
7	三段論法の規則2、媒概念不周延の誤謬	定言三段論法の規則（2）媒概念不周延の誤謬

8	三段論法の規則3	定言三段論法の規則（3）大概念・小概念不当周延の規則、その他の規則
9	三段論法の問題演習	問題演習・定言三段論法の格と式について
10	仮言三段論法の解説と演習	混合仮言・純粹仮言三段論法の解き方と問題演習
11	選言三段論法の解説と演習	選言三段論法の解き方と問題演習
12	両刀論法の解説と演習	両刀論法（ジレンマ）の解き方と問題演習
13	記号論理学の基礎	記号論理学への導入
14	後期のまとめと試験	授業内試験、まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各自、予習・復習のために、教科書をよく読むこと。毎回の課題の提出準備など、本授業の準備学習・復習時間は、各3時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『論理学の初歩』（改訂版）大貫義久、白根裕里枝、菅沢龍文、中釜浩一共、梓出版、2013

【参考書】

『論理学』 藤野登著 内田老鶴圃
『論理学講義』 村上恭一著 成文堂

【成績評価の方法と基準】

毎回の練習問題や課題の提出を重視します。平常点（40%）と学期末試験の成績（60%）によって評価する。

【学生の意見等からの気づき】

引き続き、丁寧に分かりやすく面白い授業を心がける。対面の場合、私語厳禁、板書の写メやスマホ禁止に注意喚起する。オンラインの場合、酷似した課題やレポートはどちらも減点の対象とする。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire an ability to think logically. This course introduces the basics of the traditional formal logic and symbolic logic to students taking this course. After two semesters, students will be able to understand the outline of the traditional formal logic and prepared to think logically.

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than three hours for a class.

Grading will be decided based on the following,

Term-end examination:60%,Submit assignment:30%,Usual performance score:10%

PHL100LA

論理学 I

2017 年度以降入学者

計良 隆世

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 3/Wed.3

単位数：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

論理学は、正しく考えるとはどのように考えることか、即ち、思考の形式および法則を研究する学問です。

論理学 I では、古代ギリシャのアリストテレスに始まる伝統的論理学を学び、正しい思考を行うのに必要となる、論理学の基礎的かつ実践的な知識と技法とを習得します。

（論理学の知識と実践トレーニングは、本授業だけでは不十分です。秋学期の「論理学 II」も必ず履修して下さい。）

【到達目標】

正しい思考・推理を行うための論理学上の基礎的知識（たとえば、論理学の基本的な規則・法則等）と実践的な推理の技法とを練習問題を通して習得し、論理的思考力を高めること、これがこの授業の目標です。具体的には、主に以下の事柄の習得を目指します：

1. 伝統的論理学における直接推理を学ぶことで、一つの文（命題）が何を意味し、何を意味していないかを明確に理解するための論理的な知識と技法とを習得する。
2. 伝統的論理学の間接推理の学習によって、妥当な（定言三段論法等の）推理と妥当でない推理とを見極めるための基本的・実践的な知識と技法とを習得する。

上記の目標を達成するために、授業中に多くの練習問題を出します。積極的に問題に取り組みれば取り組むほど、目標達成の度合いも高まります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は基本的に講義形式です。学期中、単元終了ごとに、授業内容確認小テストを行います（3～4 回程度実施予定。）

また、学期の後半、授業の理解度と論理的思考力を高めるため、授業中に多くの練習問題を出します。

課題（小テスト）等の提出・フィードバックは、「学習支援システム」を通じて行う予定。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	序論	1. 論理学とはどのような学問か 2. 論理学の歴史的な展開（論理学史） 3. 演繹法と帰納法：両者の違い
第 2 回	思考の根本原則	1. 同一律 2. 矛盾律 3. 排中律 4. 非古典論理学（直観主義論理）
第 3 回	概念論	1. 概念の形成過程 2. 概念の外延と内包 3. アリストテレスの概念論 4. 概念の種類

第 4 回	判断論（命題論） 1	1. 判断（命題）とは 2. 命題の種類 3. 定言命題 4. 命題の標準形式化 5. 練習問題
第 5 回	判断論（命題論） 2	1. 周延の概念 2. 定言命題における主語概念と述語概念の外延的包摂関係 3. 定言命題において周延をもつ名辞
第 6 回	推理論：直接推理 1	1. 対当関係による推理：矛盾対当・反対対当 2. 練習問題
第 7 回	推理論：直接推理 2	1. 対当関係による推理：小反対対当・大小対当 2. 練習問題
第 8 回	推理論：直接推理 3	1. 命題の変形による推理：換質法・换位法 2. 練習問題
第 9 回	推理論：直接推理 4	1. 命題の変形による推理：換質换位法 2. 練習問題 3. 排他的命題の標準形式化
第 10 回	推理論：間接推理 1（定言三段論法）	1. 間接推理（三段論法）の種類 2. 定言三段論法を構成する三命題と三名辞 3. 定言三段論法の格と式
第 11 回	推理論：間接推理 2（定言三段論法）	1. 妥当な定言三段論法の見分け方 2. 練習問題（初級）
第 12 回	推理論：間接推理 3（定言三段論法・仮言三段論法）	1. 練習問題（中級） 2. 仮言命題（条件文）について 3. 純粹仮言三段論法 4. 練習問題
第 13 回	推理論：間接推理 4（仮言三段論法）	1. 混合仮言三段論法：前件肯定式・後件否定式 2. 練習問題
第 14 回	授業内試験・まとめ	筆記試験 まとめ・解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

準備学習：参考書の該当箇所を良く読む。

復習：前回授業内容の確認。参考書の練習問題を解く。授業内容確認小テストに回答する。（特に復習は必ずしっかり行ってください。）

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません。資料等はプリントで配布します。

【参考書】

大貫義久・白根裕里枝・菅沢龍文・中釜浩一著『改訂版 論理学の初歩』、梓出版社、2013 年

その他は、必要に応じて授業内に指示します。

【成績評価の方法と基準】

学期末の授業内筆記試験の成績（65%）、授業内容確認小テストの成績（25%）、平常点（10%）により評価します。

学期末の授業内筆記試験においては、「到達目標」に記した事柄の理解度をためす問題を出す予定。

成績評価方法として主なる筆記試験の採点基準は、授業中に指示した仕方で答案を作成しているか、そして論理的に正しい答えを導いているかによります。

【学生の意見等からの気づき】

論理学は自分で問題が解けるようになると楽しくなる科目ですので、練習問題に積極的に取り組んでください。解説は丁寧に行ないます。

【学生が準備すべき機器他】

パソコン（学習支援システムを利用するため）

【その他の重要事項】

春学期の「論理学 I」だけでは、論理学の知識もトレーニングも不十分となりますので、秋学期の「論理学 II」も必ず履修して下さい。

【Outline (in English)】

This is a course to learn Western traditional logic, especially categorical and hypothetical syllogisms.

The main aim of this course is to help students acquire the basic knowledge and skills needed to make valid syllogistic inferences.

By the end of the course, students should be able to understand the followings:

1. The inferences by using the relationship summed up in the square of opposition.
2. The operations on categorical propositions, e.g., obversion, conversion and contraposition.
3. The rules for testing the validity of categorical syllogisms.
4. The valid and invalid forms of hypothetical syllogisms.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end examination (65%). Short reports (25%) and Contribution in class (10%).

PHL100LA

論理学Ⅱ

2017年度以降入学者

計良 隆世

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 3/Wed.3

単位数：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

論理学Ⅱでは、まず学期前半において、伝統的論理学における仮言三段論法・選言三段論法・両刀論法（ディレンマ）という3つの間接推理と現代論理学（命題論理学）の基礎を学びます。つぎに学期後半において、演繹的推理に関するクリティカル・シンキング系の論理トレーニングを行います。

前半・後半の両学習を通して、正しい思考・推理を行うのに必要となる、論理学の基礎的かつ実践的な知識と技法の習得を目指します。（本授業、特に学期後半の論理トレーニングは、春学期の「論理学Ⅰ」の学習内容を前提としていますので、「論理学Ⅰ」からの履修を強く勧めます。）

【到達目標】

春学期の論理学Ⅰと同様、正しい思考・推理を行うための論理学上の基礎的知識（たとえば、論理学の基本的な規則・法則等）と実践的な推理の技法とを練習問題を通して習得し、論理的思考力を高めることが、この授業の目標です。具体的には、主に以下の事柄の理解・習得を目指します：

1. 伝統的論理学の間接推理の学習によって、妥当な仮言三段論法等の推理と妥当でない推理とを見極めるための論理的な知識と技法とを習得する。
 2. 現代論理学については、否定・連言・選言・条件・同値といった論理的結合子の定義の理解、命題の真・偽を考えることによる真理値表の作成、命題文の記号化など、命題論理学の基礎を習得する。
 3. 伝統的論理学と命題論理学における演繹的推理の知識を身に付けた上で、日常言語による論理的思考を鍛えるために、クリティカル・シンキング系の論理トレーニングを行い、演繹的論証の基本技術を習得する。
- 上記の目標を達成するために、授業中内に多くの練習問題を出します。積極的に問題に取り組みれば取り組むほど、目標達成の度合いも高まります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は基本的に講義形式で行います。授業の理解度と論理的思考力を高めるために、授業中に多くの練習問題を出します。また、課題（宿題）を出すこともあります。

授業の進め方：学期前半は、伝統的論理学における仮言三段論法・選言三段論法・両刀論法（ディレンマ）の学習を行った後、現代論理学（命題論理学）に入ります。

命題論理学の学習では、論理語の学習から始めて、真理値表の作成・日常文の記号化そしてトートロジーと推論までを学びます。そして学習後、第1回目の小テストを行います。

学期後半は、クリティカル・シンキング系の論理トレーニングを通して、演繹的論証の基本技術を順々に学び、学期末に二回目の小テストを行います。

課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	序論(1)：復習	1. 仮言命題（条件文）：逆・裏・対偶 2. 仮言三段論法：前件肯定式・後件否定式
第2回	序論(2)	1. 選言三段論法 2. 両刀論法
第3回	命題論理学(1)	1. 論理語についての説明 2. 十分条件と必要条件 3. 真理値表を作ってみる
第4回	命題論理学(2)	1. カッコの省略 2. 練習問題 1. 日常文を記号化してみる 2. 練習問題
第5回	命題論理学(3)	1. 真理関数と真理値分析 2. 練習問題
第6回	命題論理学(4)	1. 整合的な式・矛盾的な式・トートロジーとは何か 2. トートロジーと推論 3. 練習問題
第7回	命題論理学(5)	1. 小テスト（筆記試験） 2. 意味論と構文論
第8回	論理トレーニング(1)	1. 否定・反対 2. ド・モルガンの法則 3. 練習問題
第9回	論理トレーニング(2)	1. 「すべて」と「存在する」 2. 練習問題
第10回	論理トレーニング(3)	1. 逆・裏・対偶 2. 練習問題
第11回	論理トレーニング(4)	1. 条件連鎖 2. 練習問題
第12回	論理トレーニング(5)	1. 存在文の扱い方 2. 消去法 3. 練習問題
第13回	論理トレーニング(6)	1. 背理法 2. 練習問題
第14回	授業内試験・まとめ	小テスト（筆記試験） まとめ・解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習と復習時間は、各2時間を標準とします。

準備学習：参考書の該当箇所を良く読む。

復習：前回授業内容の確認。課題（宿題）または参考書の練習問題を解く。

特に復習は必ずしっかり行ってください。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません。資料等はプリントで配付します。

【参考書】

大貫義久・白根裕里枝・菅沢龍文・中釜浩一著『改訂版 論理学の初歩』、梓出版社、2013年

坂本百大・坂井秀寿共著『新版現代論理学』、東海大学出版会、1971年

その他は、必要に応じて授業内に指示します。

【成績評価の方法と基準】

中間小テスト成績（40%）と期末小テスト成績（40%）と平常点（20%）に基づき評価。2回の小テストでは、「到達目標」で記した事柄の理解度をためず問題を出す予定。

小テストの採点基準は、2回ともいづれも、授業中に指示した仕方で答案を作成しているか、そして論理的に正しい答えを導いているかによります。

【学生の意見等からの気づき】

履修者の多くは積極的にトレーニング問題に取り組んでくれたようであり、授業が楽しかったようです。

論理学は自分で問題が解けるようになると楽しくなる科目ですので、是非とも授業・練習問題に積極的に取り組んで下さい。説明は丁寧に行ないます。

【学生が準備すべき機器他】

パソコン（学習支援システムを利用するため）

【その他の重要事項】

春学期の「論理学 I」からの履修を推奨します。

【Outline (in English)】

This is a course to learn propositional logic and critical thinking. The main aim of this course is to help students acquire the basic knowledge and skills needed to make valid deductive reasonings.

By the end of the course, students should be able to understand the followings:

1. The meaning of logical connectives, truth-value analysis and the forms of tautologies and so forth.
2. The application of the valid rules of inference such as De Morgan's laws and disjunction elimination.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Final grade will be calculated according to the following process: Mid-term examination (40%), Term-end examination (40%) and Contribution in class (20%).

PHL100LA

論理学 I

2017 年度以降入学者

編澤 和彦

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 3/Fri.3

単位数：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

論理学を学ぶことは、わたしたちが物事を理性的に考えて、行動するための基礎を身につけることにほかなりません。それは、わたしたちが日常生活で出会うさまざまな問題の解決に役立ち、また、社会人として備えるべき就業力を育成することにもつながります。論理学 I の授業は、アリストテレスに由来する伝統的論理学を学び、正しい推論を見極める能力を身につけることを目的とします。

【到達目標】

- ①正しい推理のための基礎的な知識を得ることができる。たとえば、オイラーの図をイメージして、概念間の関係を適切に捉えることができるようになる。
- ②論理的に筋道を立てて冷静に考える態度を身につけることができる。たとえば、直接推理や間接推理（三段論法）の規則を使って、正しい推論を行うことができるようになる。
- ③論理的なコミュニケーション能力を習得できる。具体的には、相手が詭弁を弄してきた際に、その論理的な誤謬を指摘し、反論することができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

授業は対面の形式で行われます。学習支援システム Hoppii を通じて、パワーポイント原稿、授業資料、課題を提供します。課題は理解を確認する目的で行われます。受講生は課題に答え、それを送信してください。課題等の提出・フィードバックは Hoppii を通じて行われます。質問は次回の授業時にお答えします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	授業全体のガイダンスと思考の基礎	春学期講義全体（教員紹介、授業のテーマ、到達目標、方法、成績評価基準）、思考の3原則（同一律、矛盾律、排中律）
2	知識の成り立ち	概念、内包と外延、上位と下位、類と種、普遍と特殊、種差と定義、区別と分類、定義とその種類
3	1. 判断・命題、2. オイラーの図、3. 命題の標準形式化	判断・命題の定義、定言命題の4種類（全称肯定、全称否定、特称肯定、特称否定）、概念の周延と不周延、オイラーの図、命題の標準形式化
4	1. 推理の定義と分類、2. 対当推理	推理の概念、演繹推理と蓋然推理、直接推理と間接推理、真偽と妥当・非妥当、対当推理（矛盾、反対、大小、小反対）
5	変形推理（1. 換質法、2. 换位法、3. 換質换位法、4. 戻換法）	換質法、换位法、换位不可能な命題、換質换位法、戻換法、直接推理の有用性
6	課題プリント（第1回から第5回）の解答と解説、三段論法	課題プリント（第1回から第5回）の解答と解説、三段論法の概念、種類、定言三段論法

7	定言三段論法の規則	三段論法の導入、三つの一般原則、六つの規則と三つの派生規則
8	定言三段論法の判定、誤謬判定の練習問題、妥当性の判定の練習問題	誤謬判定の練習問題（設問1から設問6）、妥当性の判定の練習問題（設問8から11）
9	定言三段論法の格と式	定言三段論法の格（第1格、第2格、第3格、第4格）、定言三段論法の式、全体及び皆無の原理（第1格）、差異の原理（第2格）、用例の原理（第3格）、逆の原理（第4格）
10	練習問題、仮言三段論法	練習問題の解答と解説、仮言三段論法の概念、種類、肯定式、否定式、妥当な混合仮言三段論法、純粹仮言三段論法（第1格から第4格）
11	仮言三段論法の復習と練習問題、選言三段論法	前件否定の誤謬、後件肯定の誤謬、選言三段論法の概念と種類（肯定否定式、否定肯定式）、選択肢が三個以上の選言三段論法、選言三段論法の規則とその違反
12	両刀論法（ディレンマ）、規則、詭弁的両刀論法に対する反論	両刀論法の概念と分類（単純構成的、単純破壊的、複合構成的、複合破壊的両刀論法）、両刀論法の規則、詭弁的両刀論法に対する反論
13	両刀論法、仮言・選言三段論法の練習問題	両刀論法の練習問題、教科書の練習問題、仮言三段論法の練習問題、選言三段論法の練習問題
14	課題プリントの復習と授業全体のまとめ	課題プリントの復習と授業全体のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習：テキストの関連箇所を一読し、全体の概要を把握する（2時間）。復習：前回の授業内容をテキストやプリントを用いて復習し、論理学の知識を確実に習得する。また、課題を解き、Hoppii を使って課題を提出する（2時間）。

【テキスト（教科書）】

『改訂版 論理学の初歩』、梓出版社、大貫義久・白根裕里枝・菅沢龍文・中釜浩一著、2013年、2,100円（ISBN ISBN-10: 4872620321）。なお、本教科書は、生協による一括購入ができませんので、各自オンライン（例えば、Amazon）などで購入してください。

【参考書】

①『論理哲学入門』E. トゥーゲントハット、U. ヴォルフ著、鈴木、がく石川訳、ちくま学芸文庫

【成績評価の方法と基準】

①平常点（参加姿勢、課題の評価など）、②春学期試験の点数。①と②とをそれぞれ50%の割合で総合評価する。課題と筆記試験は、授業で示した方法に従って評価します。具体的には、到達目標で示された①オイラーの図によって概念間の関係が正しく把握されているかどうか（30%）、②推論の規則が正確に理解されているかどうか（40%）、③相手の詭弁を適切に指摘し、反論することができるかどうか、という基準に従って評価されます（30%）。

【学生の意見等からの気づき】

教科書以外の学習教材は、すべて学習支援システム Hoppii にアップロードされていますので、病気などで欠席された方は、このシステムを活用して、自習してください。

【学生が準備すべき機器他】

授業時そして予習や復習の際にも、学習支援システム Hoppii を利用するため、インターネット、パソコンあるいはノートブックを使用します。

【Outline (in English)】

To study logic is no less than to learn the basics of how to think and act rationally. Logical thinking will help us solve various problems we encounter in our everyday life, and the methods of thinking will develop working skills in society. "Logic I" deals with "traditional logic" derived from Aristotle and aims to help students acquire the ability to identify correct reasoning. Goals: (1) Students can gain basic knowledge for appropriate grounding. (2) Students can develop an attitude of thinking logically and calmly. For example, they can use the rules of direct and indirect reasoning to make correct inferences. (3) Acquire the ability to communicate logically. Homework: Read the relevant parts of the textbook to get an overview (2 hours). Review the contents of the previous class using the handouts to ensure that you have acquired the knowledge of logic (2 hours). Grading criteria: (1) Ordinary points (attitude toward lecture, evaluation of assignments, etc.) and (2) spring semester exam scores. (1) and (2) will each be at a ratio of 50%.

PHL100LA

論理学 II

2017 年度以降入学者

編澤 和彦

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 3/Fri.3

単位数：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

論理学を学ぶことは、わたしたちが物事を理性的に考えて、行動するための基礎を身につけることにほかなりません。それは、わたしたちが日常生活で出会うさまざまな問題を解決することに役立ち、また、社会人として備えるべき就業力を育成することにもつながります。論理学 II の授業は、科学的思考、認識、歴史に関する論理のほか、論理学 I（伝統的論理学）で学習した内容を踏まえて、現代の記号論理学（命題論理学）の習得を目的とします。

【到達目標】

- ①科学、認識、歴史のテーマに関して論理的に考えることができる。
- ②真理表や帰謬法を用いて推論の真偽を判定することができる。
- ③仮説構築力・文書構成力・説得力に関する就業力を身につけることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

授業は対面の形式で行われます。学習支援システム Hoppii を通じて、パワーポイント原稿、授業資料、課題が提供されます。課題は理解を確認する目的で行われます。受講生は、課題に答え、それを送信してください。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行われます。質問は、次の週の授業でお答えします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーションおよび F・ペーコンの帰納法	秋学期セメスターの授業内容、授業の進め方など、F・ペーコンの帰納法論理（イドラ論と四つの表）
第 2 回	J・S・ミルの帰納法	ミルの論理学体系、一致法、差異法、一致差異併用法、剰余法、自然の斉一性の原理、ペーコンとミルの帰納法の共通点と相違点
第 3 回	デカルトとライプニッツの演繹法	デカルト（明晰判明な認識、直観および演繹の確実性）、ライプニッツ（定義論、結合法、根拠律）、両者の共通点と相違点
第 4 回	アンチノミーと弁証法	カントの超越論的論理（超越論的論理、分析論と弁証論、アンチノミー）、ヘーゲルの弁証法論理
第 5 回	文（命題）の真偽および論理的結合	文の真偽、論理的結合詞、真理関数、複合命題の真理値、否定
第 6 回	文の論理的結合	連言、両立的選言、排他的選言、条件（含意）、等値、ブール代数の考え方
第 7 回	文と文の論理的関係の具体相	同一命題の連言、同一命題の両立的選言、同一命題の排他的選言、論理代数のまとめ
第 8 回	つねに真である文と真理表	恒真命題。命題の恒真性を真理表で知る。テキストの問題を解く。

第 9 回	つねに真である文	テキストおよびプリントの問題を解く。
第 10 回	三段論法（推理）の妥当性	三段論法（推論）の妥当性。テキストの問題を解く。帰謬法の導入
第 11 回	帰謬法の概念	教科書およびその他の練習問題を解く。
第 12 回	帰謬法の練習	プリントなどの練習問題、帰謬法を用いた推論の妥当性の検証
第 13 回	帰謬法のまとめ	プリント及び教科書の問題を解く。対偶律、両刀論法
第 14 回	述語論理学の導入	述語論理学の歴史、特徴、量化的考え方、量化記号

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習：テキストの関連箇所を一読し、全体の概要を把握する（2 時間）。復習：前回の授業内容をテキストやプリントを用いて復習し、論理学の知識を確実に習得する。また、課題を解き、Hoppii を使って課題を提出する（2 時間）。

【テキスト（教科書）】

『改訂版 論理学の初歩』、梓出版社、大貫義久・白根裕里枝・菅沢龍文・中釜浩一著、2013 年、2,100 円 (ISBN ISBN-10: 4872620321) なお、本教科書は、生協による一括購入ができませんので、各自オンライン（例えば、Amazon）で購入してください。

【参考書】

- ①『論理哲学入門』E. トゥーゲントハット、U. ヴォルフ著、鈴木、石川訳、ちくま学芸文庫

【成績評価の方法と基準】

①平常点（参加姿勢、課題の評価など）、②春学期試験の点数。①と②とをそれぞれ 50 % の割合で総合評価する。課題と筆記試験は、授業で示した方法に従って評価します。具体的には①授業内容が正しく把握されているかどうか（30%）、②学習した規則を使って問題を解くことができるかどうか（40%）、③期限内に課題を提出できているかどうか、という基準に従って評価されます（30%）。

【学生の意見等からの気づき】

教科書以外のすべての授業資料は、すべて授業支援システム Hoppii にアップロードされていますので、病気などで欠席した方は、これを活用し、自習してください。

【学生が準備すべき機器他】

授業時そして予習や復習の際にも、学習支援システム Hoppii を利用するため、インターネット、パソコンあるいはノートブックを使用します。

【Outline (in English)】

To study logic is no less than to learn the basics of how to think and act rationally. Logical thinking will help us solve various problems we encounter in our everyday life, and the methods of thinking will develop working skills in society. "Logic II" aims to acquire modern propositional logic and logic on science, cognition, and history. Goals: (1) Students can gain basic knowledge for thinking about science, knowledge, and history. (2) Students can judge the truth or falsity of inferences using truth tables and reductio ad absurdum. Students can acquire working skills related to hypothesis building, document construction, and persuasion. Homework: Please read the relevant parts of the textbook to get an overview (2 hours). Review the contents of the previous class using the handouts to ensure that you have acquired the knowledge of logic (2 hours). Grading criteria: (1) Ordinary points (attitude toward lecture, evaluation of assignments, etc.) and (2) autumn semester exam scores. (1) and (2) will each be at a ratio of 50%.

PHL100LA

論理学 I

2017 年度以降入学者

大貫 義久

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 5/Thu.5

単位数：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

私たち人間は自分の意思を言葉によって表現し、他の人に伝えることができます。しかしその際、誤解のないように自分の意思を正しく表現して伝えることが大切です。その正しく考え、表現する仕方を教えてくれるのが論理学です。私たちは普段から思考（推理）していますが、多くの場合、その推理は誤っています。この授業は、論理学を初めて学ぶ学生のために、「論理的」とはいかなることなのか、また、論理的に正しく思考し表現するためには、どのようにしたらよいのかということ、基礎から順に学んでいきます。そして最後に、日常の生活で正しくし思考し行動するためには、正しい知識（判断）と正しい論理（推理）の両方が必要であることを確認します。

【到達目標】

説明と練習問題によって、論理的に思考し表現する方法が実際に身につくようになることが、この授業の到達目標です。学期末試験は、正しく論理的に思考し表現する力が、身についたかどうかを見ます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義を基本とします。配布プリントと教科書を使い、基礎から、多くの例を挙げて、できる限り理解しやすく説明して行きます。また、論理的な思考が身につくようにするために、演習として授業内で練習問題に取り組み、フィードバックとして問題の答え合わせと解説をし各自の理解度を確認してもらいます。下の授業計画には、見慣れない多くの論理学用語が出てきますが、恐れることはありません。それら論理学用語の丁寧な説明から始めて行き、その理解の上に立って、正しく思考し、表現することを、順に学んでいきますから。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	授業ガイダンス	授業の内容、論理学への導入
第 2 回	論理学の根本原理について。	同一の原理、矛盾の原理、排中律の原理についての説明
第 3 回	概念について	概念の成り立ち、概念と判断についての説明
第 4 回	概念について	概念の内包と外延、概念の種類についての説明
第 5 回	区分と分類について	区分及び分類とは何か、区分の仕方、分類の仕方について
第 6 回	命題について	判断と命題、定言命題の種類、命題の記号化についての説明。
第 7 回	定言命題の 4 種類とオイラーの図について	定言命題のオイラーの図と、概念の周延・不周延の説明。
第 8 回	判断の命題化（標準形式化）	判断を命題の形にする方法について説明し、練習問題を解く。
第 9 回	推理及び演繹推理について	推理とは何か、命題の真偽と推理の妥当・非妥当等について。
第 10 回	演繹推理の直接推理について	矛盾・反対・大小・小反対のそれぞれの対当推理の説明。
第 11 回	命題の変形による直接推理について	換質法・換位法についての説明

第 12 回 命題の変形による直接推理について 換質換位法及び本格的な推理についての説明

第 13 回 練習問題で推理を身につけよう。 命題の変形による推理の練習問題を授業内で解き、その解説を行う。

第 14 回 授業内の学期末試験：まとめと解説 論理的な正しい思考ができるかどうかを見る

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業時間外の学習は、授業の準備として教科書の該当箇所を予め読んでおいて下さい。学んだ内容については、その都度教科書で復習して理解度を確認し、次の授業の内容が理解できるようにしておいて下さい。学習時間は 4 時間。本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

以下のテキストを教科書として使用します。 大貫義久・他『改訂版論理学の初歩』（梓出版社、2013 年） アマゾン POD で購入可能

【参考書】

参考文献については、授業内で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（20%）と学期末試験（80%：教科書・ノート・配布プリント持ち込み可）で決定します。平常点（20 点）は各単元ごとの練習問題の取り組みを、学期末試験（80 点）は、問題によって内容の理解度を見ます。できる限り出席し演習（練習問題）に取り組んで下さい。理解しやすいように工夫して説明して行きます。

【学生の意見等からの気づき】

講義では、多くの学生が「わかりやすい授業だった」、「レジュメのプリントや問題演習もあってよかった。理解できると楽しかった」と書いてくれていました。説明のスピードに配慮し、理解が進むよう授業を工夫します。

【Outline (in English)】

This course introduces the basics of the traditional formal logic to students taking this course. The aim of this course is to help students acquire an ability to think logically. Learning time outside of classroom is 4 hours: 2 hours each for preparation and review. Your final grade will be calculated according to the following process: Usual performance score (20%), term-end examination (80%).

PHL100LA

論理学Ⅱ

2017年度以降入学者

大貫 義久

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 5/Thu.5

単位数：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は、春学期の復習をした上で、「推理」の説明から始めます。特に「判断の変形による直接推理」を扱い、この推理が日常の曖昧な表現（言い方）を正確なものにするのに大いに役立つことを、丁寧に説明して行きます。

さらに、本格的な推理の三段論法に入り、正しい思考法を学びます。論理学は、正しく考えるということにおいて、これからの人生の様々な場面において役立ちます。正しい思考は正しい知識（判断）と正しい論理（推理）から可能になりますが、この授業では、その正しい論理について学ぶのです。

本格的な論理である三段論法についても学び、最後に、現代論理学へと導きます。論理学は、分かってくると、とても面白くなります。

【到達目標】

説明と練習問題によって、論理的に正しく思考し、表現する方法を実際に身につけることが、この授業の目標です。春学期よりも少し複雑な論理的思考（推理）を正しく行う方法を身につけます。試験では、複雑な論理的思考を正しく行うことができるかどうかを見ます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義を基本とします。配布プリントと教科書を使い、多くの例を挙げて、できる限り分かりやすく説明して行きます。また、論理的思考を実際に身につけてもらうために、演習として練習問題を授業内で解き、フィードバックとして問題の答え合わせと解説を各自で理解度を確認してもらいます。秋学期から初めて授業を受ける学生にも、春学期の復習をすることによって考慮します。安心して履修して下さい。出席すれば、理解が十分できるようにします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	授業ガイダンス	授業の目標や内容、授業の仕方、評価方法についての説明。秋学期の内容に進むにあたって必要な春学期内容の復習
第 2 回	演繹推理の直接推理について	判断の変形による直接推理:換質法・換位法についての説明
第 3 回	演繹推理の直接推理について（続き）	判断の変形による直接推理:練習問題の解法と説明
第 4 回	演繹推理の間接推理について	定言三段論法について、その構造と規則について学ぶ。
第 5 回	定言三段論法についてのさらなる説明	定言三段論法の格と正しい式についての説明
第 6 回	練習問題で推理を身につけよう。	定言三段論法の練習問題を授業内で解く。
第 7 回	仮言三段論法について	混合仮言三段論法、純粋仮言三段論法についての説明
第 8 回	選言三段論法について	選言三段論法（肯定式・否定式）についての説明
第 9 回	練習問題で推理を身につけよう。	仮言三段論法と選言三段論法の練習問題を授業内で解く。

第 10 回	両刀論法（ディレンマ）について	単純構成的両刀論法、単純破壊的両刀論法、複合構成的両刀論法、複合破壊的両刀論法についての説明
第 11 回	両刀論法と詭弁両刀論法について	詭弁両刀論法の反論について練習問題に取り組む。
第 12 回	現代論理学への導入	命題論理学と述語論理学について。特に命題論理学の説明
第 13 回	命題論理学の演習	問題の解答と説明
第 14 回	授業内の期末試験：まとめと解説	複雑な論理的思考が正しくできるかを見る

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の準備として教科書の該当箇所を予め読んで下さい。学んだ内容は、その都度教科書で復習して理解度を確認し、次の内容が理解できるようにしておいて下さい。学習時間は4時間、本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

以下のテキストを教科書として使用します。 大貫義久・他『改訂版論理学の初歩』（梓出版社・2013年） アマゾン POD で購入可能

【参考書】

参考文献については、授業内で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（20%）と学期末の授業内試験（80%：教科書・ノート・配布プリント持ち込み可）で決定します。できる限り授業に出席して下さい。理解しやすいように工夫して説明して行きます。

【学生の意見等からの気づき】

授業については、多くの学生が「わかりやすかった」、「推理に興味を持てた」、「理解できると面白くなる」と書いてくれました。内容をもっと理解しやすいものにするために、プリントと黒板を効率よく使って説明して行きます。

【Outline (in English)】

This course introduces the basics of immediate inference to students taking this course. Then this course introduces syllogism to students. Lastly this course introduces symbolic logic to students taking this course. The aim of this course is to help students acquire an ability to think logically. Learning time outside of classroom is 4 hours : 2 hours each for preparation and review. Your final grade will be calculated according to the following process: Usual performance score (20%), term-end examination (80%).

PHL100LA

論理学 I

2017 年度以降入学者

計良 隆世

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 4/Wed.4

単位数：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

論理学は、正しく考えるとはどのように考えることか、即ち、思考の形式および法則を研究する学問です。

論理学 I では、古代ギリシャのアリストテレスに始まる伝統的論理学を学び、正しい思考を行うのに必要となる、論理学の基礎的かつ実践的な知識と技法とを習得します。

（論理学の知識と実践トレーニングは、本授業だけでは不十分です。秋学期の「論理学 II」も必ず履修して下さい。）

【到達目標】

正しい思考・推理を行うための論理学上の基礎的知識（たとえば、論理学の基本的な規則・法則等）と実践的な推理の技法とを練習問題を通して習得し、論理的思考力を高めること、これがこの授業の目標です。具体的には、主に以下の事柄の習得を目指します：

1. 伝統的論理学における直接推理を学ぶことで、一つの文（命題）が何を意味し、何を意味していないかを明確に理解するための論理的な知識と技法とを習得する。
2. 伝統的論理学の間接推理の学習によって、妥当な（定言三段論法等の）推理と妥当でない推理とを見極めるための基本的・実践的な知識と技法とを習得する。

上記の目標を達成するために、授業中に多くの練習問題を出します。積極的に問題に取り組みれば取り組むほど、目標達成の度合いも高まります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は基本的に講義形式です。学期中、単元終了ごとに、授業内容確認小テストを行います（3～4回程度実施予定。）

また、学期の後半、授業の理解度と論理的思考力を高めるため、授業中に多くの練習問題を出します。

課題（小テスト）等の提出・フィードバックは、「学習支援システム」を通じて行う予定。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	序論	1. 論理学とはどのような学問か 2. 論理学の歴史的な展開（論理学史） 3. 演繹法と帰納法：両者の違い
第 2 回	思考の根本原則	1. 同一律 2. 矛盾律 3. 排中律 4. 非古典論理学（直観主義論理）
第 3 回	概念論	1. 概念の形成過程 2. 概念の外延と内包 3. アリストテレスの概念論 4. 概念の種類

第 4 回	判断論（命題論） 1	1. 判断（命題）とは 2. 命題の種類 3. 定言命題 4. 命題の標準形式化 5. 練習問題
第 5 回	判断論（命題論） 2	1. 周延の概念 2. 定言命題における主語概念と述語概念の外延的包摂関係 3. 定言命題において周延をもつ名辞
第 6 回	推理論：直接推理 1	1. 対当関係による推理：矛盾対当・反対対当 2. 練習問題
第 7 回	推理論：直接推理 2	1. 対当関係による推理：小反対対当・大小対当 2. 練習問題
第 8 回	推理論：直接推理 3	1. 命題の変形による推理：換質法・换位法 2. 練習問題
第 9 回	推理論：直接推理 4	1. 命題の変形による推理：換質换位法 2. 練習問題 3. 排他的命題の標準形式化
第 10 回	推理論：間接推理 1（定言三段論法）	1. 間接推理（三段論法）の種類 2. 定言三段論法を構成する三命題と三名辞 3. 定言三段論法の格と式
第 11 回	推理論：間接推理 2（定言三段論法）	1. 妥当な定言三段論法の見分け方 2. 練習問題（初級）
第 12 回	推理論：間接推理 3（定言三段論法・仮言三段論法）	1. 練習問題（中級） 2. 仮言命題（条件文）について 3. 純粹仮言三段論法 4. 練習問題
第 13 回	推理論：間接推理 4（仮言三段論法）	1. 混合仮言三段論法：前件肯定式・後件否定式 2. 練習問題
第 14 回	授業内試験・まとめ	筆記試験 まとめ・解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

準備学習：参考書の該当箇所を良く読む。

復習：前回授業内容の確認。参考書の練習問題を解く。授業内容確認小テストに回答する。（特に復習は必ずしっかり行ってください。）

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません。資料等はプリントで配布します。

【参考書】

大貫義久・白根裕里枝・菅沢龍文・中釜浩一著『改訂版 論理学の初歩』、梓出版社、2013年

その他は、必要に応じて授業内に指示します。

【成績評価の方法と基準】

学期末の授業内筆記試験の成績（65%）、授業内容確認小テストの成績（25%）、平常点（10%）により評価します。

学期末の授業内筆記試験においては、「到達目標」に記した事柄の理解度をためす問題を出す予定。

成績評価方法として主なる筆記試験の採点基準は、授業中に指示した仕方で答案を作成しているか、そして論理的に正しい答えを導いているかによります。

【学生の意見等からの気づき】

論理学は自分で問題が解けるようになると楽しくなる科目ですので、練習問題に積極的に取り組んでください。解説は丁寧に行ないます。

【学生が準備すべき機器他】

パソコン（学習支援システムを利用するため）

【その他の重要事項】

春学期の「論理学 I」だけでは、論理学の知識もトレーニングも不十分となりますので、秋学期の「論理学 II」も必ず履修して下さい。

【Outline (in English)】

This is a course to learn Western traditional logic, especially categorical and hypothetical syllogisms.

The main aim of this course is to help students acquire the basic knowledge and skills needed to make valid syllogistic inferences.

By the end of the course, students should be able to understand the followings:

1. The inferences by using the relationship summed up in the square of opposition.
2. The operations on categorical propositions, e.g., obversion, conversion and contraposition.
3. The rules for testing the validity of categorical syllogisms.
4. The valid and invalid forms of hypothetical syllogisms.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end examination (65%). Short reports (25%) and Contribution in class (10%).

PHL100LA

論理学Ⅱ

2017年度以降入学者

計良 隆世

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 4/Wed.4

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

論理学Ⅱでは、まず学期前半において、伝統的論理学における仮言三段論法・選言三段論法・両刀論法（ディレンマ）という3つの間接推理と現代論理学（命題論理学）の基礎を学びます。つぎに学期後半において、演繹的推理に関するクリティカル・シンキング系の論理トレーニングを行います。

前半・後半の両学習を通して、正しい思考・推理を行うのに必要となる、論理学の基礎的かつ実践的な知識と技法の習得を目指します。（本授業、特に学期後半の論理トレーニングは、春学期の「論理学Ⅰ」の学習内容を前提としていますので、「論理学Ⅰ」からの履修を強く勧めます。）

【到達目標】

春学期の論理学Ⅰと同様、正しい思考・推理を行うための論理学上の基礎的知識（たとえば、論理学の基本的な規則・法則等）と実践的な推理の技法とを練習問題を通して習得し、論理的思考力を高めることが、この授業の目標です。具体的には、主に以下の事柄の理解・習得を目指します：

1. 伝統的論理学の間接推理の学習によって、妥当な仮言三段論法等の推理と妥当でない推理とを見極めるための論理的な知識と技法とを習得する。
 2. 現代論理学については、否定・連言・選言・条件・同値といった論理的結合子の定義の理解、命題の真・偽を考えることによる真理値表の作成、命題文の記号化など、命題論理学の基礎を習得する。
 3. 伝統的論理学と命題論理学における演繹的推理の知識を身に付けた上で、日常言語による論理的思考を鍛えるために、クリティカル・シンキング系の論理トレーニングを行い、演繹的論証の基本技術を習得する。
- 上記の目標を達成するために、授業中内に多くの練習問題を出します。積極的に問題に取り組みれば取り組むほど、目標達成の度合いも高まります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は基本的に講義形式で行います。授業の理解度と論理的思考力を高めるために、授業中に多くの練習問題を出します。また、課題（宿題）を出すこともあります。

授業の進め方：学期前半は、伝統的論理学における仮言三段論法・選言三段論法・両刀論法（ディレンマ）の学習を行った後、現代論理学（命題論理学）に入ります。

命題論理学の学習では、論理語の学習から始めて、真理値表の作成・日常文の記号化そしてトートロジーと推論までを学びます。そして学習後、第1回目の小テストを行います。

学期後半は、クリティカル・シンキング系の論理トレーニングを通して、演繹的論証の基本技術を順々に学び、学期末に二回目の小テストを行います。

課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	序論(1)：復習	1. 仮言命題（条件文）：逆・裏・対偶 2. 仮言三段論法：前件肯定式・後件否定式
第2回	序論(2)	1. 選言三段論法 2. 両刀論法
第3回	命題論理学(1)	1. 論理語についての説明 2. 十分条件と必要条件 3. 真理値表を作ってみる
第4回	命題論理学(2)	1. カッコの省略 2. 練習問題 1. 日常文を記号化してみる 2. 練習問題
第5回	命題論理学(3)	1. 真理関数と真理値分析 2. 練習問題
第6回	命題論理学(4)	1. 整合的な式・矛盾的な式・トートロジーとは何か 2. トートロジーと推論 3. 練習問題
第7回	命題論理学(5)	1. 小テスト（筆記試験） 2. 意味論と構文論
第8回	論理トレーニング(1)	1. 否定・反対 2. ド・モルガンの法則 3. 練習問題
第9回	論理トレーニング(2)	1. 「すべて」と「存在する」 2. 練習問題
第10回	論理トレーニング(3)	1. 逆・裏・対偶 2. 練習問題
第11回	論理トレーニング(4)	1. 条件連鎖 2. 練習問題
第12回	論理トレーニング(5)	1. 存在文の扱い方 2. 消去法 3. 練習問題
第13回	論理トレーニング(6)	1. 背理法 2. 練習問題
第14回	授業内試験・まとめ	小テスト（筆記試験） まとめ・解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習と復習時間は、各2時間を標準とします。

準備学習：参考書の該当箇所を良く読む。

復習：前回授業内容の確認。課題（宿題）または参考書の練習問題を解く。

特に復習は必ずしっかり行ってください。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません。資料等はプリントで配付します。

【参考書】

大貫義久・白根裕里枝・菅沢龍文・中釜浩一著『改訂版 論理学の初歩』、梓出版社、2013年

坂本百大・坂井秀寿共著『新版現代論理学』、東海大学出版会、1971年

その他は、必要に応じて授業内に指示します。

【成績評価の方法と基準】

中間小テスト成績（40%）と期末小テスト成績（40%）と平常点（20%）に基づき評価。2回の小テストでは、「到達目標」で記した事柄の理解度をためず問題を出す予定。

小テストの採点基準は、2回ともいづれも、授業中に指示した仕方で答案を作成しているか、そして論理的に正しい答えを導いているかによります。

【学生の意見等からの気づき】

履修者の多くは積極的にトレーニング問題に取り組んでくれたようであり、授業が楽しかったようです。

論理学は自分で問題が解けるようになると楽しくなる科目ですので、是非とも授業・練習問題に積極的に取り組んで下さい。説明は丁寧に行ないます。

【学生が準備すべき機器他】

パソコン（学習支援システムを利用するため）

【その他の重要事項】

春学期の「論理学 I」からの履修を推奨します。

【Outline (in English)】

This is a course to learn propositional logic and critical thinking. The main aim of this course is to help students acquire the basic knowledge and skills needed to make valid deductive reasonings.

By the end of the course, students should be able to understand the followings:

1. The meaning of logical connectives, truth-value analysis and the forms of tautologies and so forth.
2. The application of the valid rules of inference such as De Morgan's laws and disjunction elimination.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Final grade will be calculated according to the following process: Mid-term examination (40%), Term-end examination (40%) and Contribution in class (20%).

PHL100LA

論理学 I

2017 年度以降入学者

菅沢 龍文

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 2/Tue.2

単位数：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

西洋の伝統的論理学の基礎 — オイラー図とベン図で知る —
すべての学問の基礎にある、古代ギリシア以来のアリストテレスの
伝統的論理学を学びます。(1) 概念、(2) 判断、(3) 推理が三本柱と
なります。オイラー図やベン図を用いて考えることにより、数少ない
シンプルな図形の組合せだけで伝統的論理学を知ることができます。
覚えねばならないことは少なく、図形を使って論理的に考える
力が身につきます。

【到達目標】

- (A) ヨーロッパの伝統的論理学の基礎的な知識を得る。
(B) 論理的に冷静に考える態度を身につける。
(C) 論理的に正しく推理することができる。
(1) オイラー図を使って伝統的論理学に則った正しい推理がで
きる。
(2) ベン図を使って伝統的論理学に則る正しい推理ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示された
どの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針
に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学
部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国
際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学
部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

- (1) テキストを用い、必要に応じて板書を行いプロジェクターを使
います。
(2) 各回の授業が終わった後に、「学習支援システム」を使った確
認小テストの提出を求めます。
(3) 授業の初めに、前回の振り返り、確認小テストの気づきを、フィ
ードバックします。
(4) 最終授業で全体を振り返る総合確認テストを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	授業のオリエンテー ションと思考の基礎	①授業の受け方 ②何をどのように学ぶのか ③思考の3原則
2	概念と判断	①概念 ②定義 ③判断（オイラー図）
3	直接推理（対当推理）	①存在判断から述定判断への変換 ②対当推理（オイラー図）
4	直接推理（変形推理）	①換質法 ②换位法 ③戻換法（オイラー図）
5	間接推理（三段論法）	①三段論法の妥当性をオイラー図 で考える。
6	三段論法の誤謬論	①量の公理 ②質の公理
7	三段論法の実践	①三段論法の問題を解く。
8	直接推理をベン図で考 える	①存在仮定とベン図 ②対当推理をベン図で考える ③変形推理の戻換法をベン図で考 える

9	ベン図で三段論法	①三段論法の妥当性をベン図で調 べる手順 ②三段論法の誤謬論をベン図で考 える ③三段論法の問題をベン図で解く
10	ベン図で三段論法 （実践）	①実例で三段論法の妥当性を判定 する
11	仮言三段論法	①混合仮言三段論法 ②純粋仮言三段論法
12	選言三段論法	①純粋選言三段論法 ②混合選言三段論法
13	両刀論法（ジレンマ）	①両刀論法（ジレンマ） ②ジレンマから抜け出す方法
14	全体への振り返り	①全体（第 1～13 回）の総合確 認テストによる総復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。
《予習》各回の授業内容についてテキストで確認しておく。
《復習》①「学習支援システム」で各回の確認小テストを提出する。
②授業内容を復習して理解を確実にする。

【テキスト（教科書）】

菅沢龍文『論理学 はじめの一步 ——オイラー図とベン図で知る
伝統的論理学——』（春風社）

【参考書】

大貫・白根・菅沢・中釜『論理学の初歩』梓出版社
その他は適宜、授業内で提示します。

【成績評価の方法と基準】

伝統的論理学の基礎的な知識、論理的に考える態度、論理的推理力に
関して次の 2 方面から評価する。

- (1) 平常点（参加姿勢、確認小テストの評価など）
(2) 全体についての総合確認テストの点数
そして (1) を 70 %、(2) を 30 % の割合で総合評価する。

【学生の意見等からの気づき】

- (1) 口頭で説明するときの発音を大きな声でゆっくり明確に行い、
聞き取りやすくする。
(2) 授業内容は必須事項と発展的な事項との区別をつけて、必須事
項の習得に重点を置く。

【学生が準備すべき機器他】

法政大学の学習支援システム（Hoppii）にインターネット接続して、
確認テストをするためのパソコン（推奨）やタブレット、スマホが
必要です。

【Outline (in English)】

Elements of the traditional European Logic, Using Euler
Diagrams and Venn Diagrams: We learn the ancient Greek
traditional logic of Aristotle. This logic is the basis of every
science and constituted by three parts: (1) concepts, (2)
judgements, (3) reasoning. Using Euler diagrams and Venn
diagrams, by simple combinations of the figures we can realize
the traditional logic. We don't have to learn so many things
by heart and we will get the skill to think logically with the
diagrams.

[Learning Objectives]

- (A) To acquire a basic knowledge of the traditional European
logic.
(B) To acquire an attitude to think logically and calmly.
(C) To be able to reason logically and correctly.
(1) To be able to use Euler diagrams to make correct
deductions in accordance with traditional logic.

(2) To be able to reason correctly using Venn diagrams in
accordance with traditional logic.

[Learning activities outside of classroom]

The preparation (2 hours): To understand what we learn in our
class next time.

The brush-up (2 hours): (1) To try mini-examination on
"Hoppii". (2) To review the lesson.

[Grading Criteria / Policy]

The grades are given in the light of the basic understanding of the traditional logic, the perspective of logical thinking and the reasoning skill. In this regard the following two aspects are respected. (1) 70%: The score of the mini-examinations, the attendance and the attitudes. (2) 30%: The score of the final examination.

PHL100LA

論理学Ⅱ

2017年度以降入学者

菅沢 龍文

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 2/Tue.2

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「論理学Ⅱ」では現代における文（ぶん）の論理学を取り上げます（「論理学Ⅰ」では概念の論理学を主に取り上げました）。それに先立ち、近・現代科学の哲学的論理について、ベーコンやデカルトから始まる西洋の哲学者たちの思想を初歩的に学びます。そして文の論理学として、現代の命題論理学、さらに述語論理学の基礎を習得して、論理的な言葉遣いを学びます。また、論理代数、真理表、ベン図といった3つの表現方法を身につけて、論理的言葉遣いの理解を深めます。これにより、近・現代科学の論理的基礎や、論理的に正しい言葉遣いの基礎について学ぶことができます。

【到達目標】

近・現代科学の哲学的論理学、現代の命題論理学、述語論理学の初歩を学ぶ。

- ①哲学的論理学によって、近代科学の論理的基礎を明らかにできる。
- ②命題論理学によって論理的に正しい文章を作ることができる。
- ③述語論理学によって文の論理的な意味を明らかにできる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

参加者は

- (1) テキスト、プリント、プロジェクターを用います。
- (2) 授業内では、必要に応じて板書で問題を解きます。
- (3) 毎回「学習支援システム」で確認小テストを解いて提出します。
- (4) 授業の初めに前回の確認小テストを用いて復習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション F・ベーコンの考えたこと	(1) 授業について (2) イドラ説 (3) 表を用いた帰納法
2	帰納法と演繹法	(1) ミルの帰納法 (2) 自然の斉一性 (3) デカルトと演繹法
3	哲学的論理	(1) ライプニッツ 充足理由律 (2) カント 超越論的論理学 (3) ヘーゲル 弁証法
4	命題論理学 — 命題の真偽・論理的結合・複合命題の真理値	(1) 命題 (2) 論理的結合子 (3) 真理表とベン図 —複合命題の真理値— (1) 否定 (2) 連言
5	複合命題の真理値	—複合命題の真理値— (3) 選言 (4) 条件（対偶など） (5) 等値 (*）論理代数を用いて考える

6	問題を解く	(1) 複合命題の反例となる命題 (2) 複合命題に対応する事象の確率 (3) 複合命題の論理代数化
7	恒真命題（1）	(1) 恒真命題 (2) 恒偽命題・総合命題 (3) 恒真命題の判定（真理表）
8	恒真命題（2）	(1) 恒真命題の判定（真理表と帰謬法）
9	恒真命題と推理の妥当性	(1) 恒真命題の判定（帰謬法） (2) 推理の妥当性
10	G. フレーゲ、B. ラッセル	(1) クラス理論 (2) 嘘つきのパラドックス (3) タイプ理論
11	述語論理学のはじめ（I）	(1) 命題関数 (2) 限量記号 (3) 概念の述語化
12	述語論理学のはじめ（II）	(1) 対当推理を考える (2) 多項述語で考える
13	総復習	秋学期全体について
14	問題を解く	試験問題を解いて到達度を確認する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

《予習》 次回の内容についてテキストやプリント（「学習支援システム」上で前日にPDFで配布が原則）で概観しておく。

《復習》 「学習支援システム」で毎回の確認小テストを提出し、前回の授業内容を復習して理解を確実にしておく。

【テキスト（教科書）】

大貫・白根・菅沢・中釜著『論理学の初歩』（梓出版社）

※第2回(3)～第3回および第10～14回は、プリントをテキストとします。

【参考書】

適宜、授業内で提示します。

【成績評価の方法と基準】

近・現代科学の哲学的論理学、現代の命題論理学、述語論理学の初歩に関して、次の2方面から総合評価する。

- (1) 平常点（参加姿勢、確認小テストの評価など）
- (2) 最終回に行う全体を振り返る試験の点数

これらのうち(1)を70% (2)を30%の割合で総合して評価する。

【学生の意見等からの気づき】

(1) 口頭で説明するときの発音を大きな声でゆっくり明確に行い、聞き取りやすくする。

(2) 授業内容は基礎的なものとはいえ多いので、整理して見通しよく説明する。

(3) 問題解答は、板書等により、解き方が具体的につかめるようにする。

【学生が準備すべき機器他】

法政大学の学習支援システム（Hoppii）にインターネット接続して、確認テストをするためのパソコン（推奨）やタブレット、スマホが必要です。

【Outline (in English)】

Elements of Modern Philosophical Logic of Knowledge, Propositional Logic and Predicate Logic:

Students will first learn the basic ideas of Western philosophers, beginning with Bacon and Descartes, about logic, which is the mainstay of modern scientific knowledge. Then, students will learn modern propositional logic beginning with Boolean logic, as well as the fundamentals of predicate logic, and learn how to use logical language. In addition, students will deepen their understanding of logical wording by acquiring various methods of expression, such as logical algebra, truth tables, and Venn diagrams. This will enable students to learn about the logical foundations of modern science and the fundamentals of logically correct wording.

Students will learn the rudiments of philosophical logic, modern propositional logic, and predicate logic.

- (1) Students will be able to clarify the logical basis of modern science by means of philosophical logic.
- (2) Students will be able to produce logically correct sentences by means of propositional logic.
- (3) Students will be able to clarify the logical meaning of sentences by predicate logic.

[Learning activities outside of classroom]

The preparation (2 hours): To understand what we learn in our class next time.

The brush-up (2 hours): (1) To try mini-examination on "Hoppii". (2) To review the lesson.

[Grading Criteria / Policy]

The grades are given in terms of the philosophical logic of the modern science, the propositional logic of our time and the predicate logic elementary understood. In this regard the following two aspects are respected. (1) 70%: The score of the mini-examinations, the attendance and the attitudes. (2) 30%: The score of the final examination.

PHL100LA

論理学 I

2017 年度以降入学者

計良 隆世

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 4/Thu.4

単位数：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

論理学は、正しく考えるとはどのように考えることか、即ち、思考の形式および法則を研究する学問です。

論理学 I では、古代ギリシャのアリストテレスに始まる伝統的論理学を学び、正しい思考を行うのに必要となる、論理学の基礎的かつ実践的な知識と技法とを習得します。

（論理学の知識と実践トレーニングは、本授業だけでは不十分です。秋学期の「論理学 II」も必ず履修して下さい。）

【到達目標】

正しい思考・推理を行うための論理学上の基礎的知識（たとえば、論理学の基本的な規則・法則等）と実践的な推理の技法とを練習問題を通して習得し、論理的思考力を高めること、これがこの授業の目標です。具体的には、主に以下の事柄の習得を目指します：

1. 伝統的論理学における直接推理を学ぶことで、一つの文（命題）が何を意味し、何を意味していないかを明確に理解するための論理的な知識と技法とを習得する。
2. 伝統的論理学の間接推理の学習によって、妥当な（定言三段論法等の）推理と妥当でない推理とを見極めるための基本的・実践的な知識と技法とを習得する。

上記の目標を達成するために、授業中に多くの練習問題を出します。積極的に問題に取り組めば取り組むほど、目標達成の度合いも高まります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は基本的に講義形式です。学期中、単元終了ごとに、授業内容確認小テストを行います（3～4回程度実施予定。）

また、学期の後半、授業の理解度と論理的思考力を高めるため、授業中に多くの練習問題を出します。

課題（小テスト）等の提出・フィードバックは、「学習支援システム」を通じて行う予定。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	序論	1. 論理学とはどのような学問か 2. 論理学の歴史的な展開（論理学史） 3. 演繹法と帰納法：両者の違い
第 2 回	思考の根本原則	1. 同一律 2. 矛盾律 3. 排中律 4. 非古典論理学（直観主義論理）
第 3 回	概念論	1. 概念の形成過程 2. 概念の外延と内包 3. アリストテレスの概念論 4. 概念の種類

第 4 回	判断論（命題論） 1	1. 判断（命題）とは 2. 命題の種類 3. 定言命題 4. 命題の標準形式化 5. 練習問題
第 5 回	判断論（命題論） 2	1. 周延の概念 2. 定言命題における主語概念と述語概念の外延的包摂関係 3. 定言命題において周延をもつ名辞
第 6 回	推理論：直接推理 1	1. 対当関係による推理：矛盾対当・反対対当 2. 練習問題
第 7 回	推理論：直接推理 2	1. 対当関係による推理：小反対対当・大小対当 2. 練習問題
第 8 回	推理論：直接推理 3	1. 命題の変形による推理：換質法・换位法 2. 練習問題
第 9 回	推理論：直接推理 4	1. 命題の変形による推理：換質换位法 2. 練習問題 3. 排他的命題の標準形式化
第 10 回	推理論：間接推理 1（定言三段論法）	1. 間接推理（三段論法）の種類 2. 定言三段論法を構成する三命題と三名辞 3. 定言三段論法の格と式
第 11 回	推理論：間接推理 2（定言三段論法）	1. 妥当な定言三段論法の見分け方 2. 練習問題（初級）
第 12 回	推理論：間接推理 3（定言三段論法・仮言三段論法）	1. 練習問題（中級） 2. 仮言命題（条件文）について 3. 純粹仮言三段論法 4. 練習問題
第 13 回	推理論：間接推理 4（仮言三段論法）	1. 混合仮言三段論法：前件肯定式・後件否定式 2. 練習問題
第 14 回	授業内試験・まとめ	筆記試験 まとめ・解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

準備学習：参考書の該当箇所を良く読む。

復習：前回授業内容の確認。参考書の練習問題を解く。授業内容確認小テストに回答する。（特に復習は必ずしっかり行ってください。）

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません。資料等はプリントで配布します。

【参考書】

大貫義久・白根裕里枝・菅沢龍文・中釜浩一著『改訂版 論理学の初歩』、梓出版社、2013年

その他は、必要に応じて授業内に指示します。

【成績評価の方法と基準】

学期末の授業内筆記試験の成績（65%）、授業内容確認小テストの成績（25%）、平常点（10%）により評価します。

学期末の授業内筆記試験においては、「到達目標」に記した事柄の理解度をためす問題を出す予定。

成績評価方法として主なる筆記試験の採点基準は、授業中に指示した仕方で答案を作成しているか、そして論理的に正しい答えを導いているかによります。

【学生の意見等からの気づき】

論理学は自分で問題が解けるようになると楽しくなる科目ですので、練習問題に積極的に取り組んでください。解説は丁寧に行ないます。

【学生が準備すべき機器他】

パソコン（学習支援システムを利用するため）

【その他の重要事項】

春学期の「論理学 I」だけでは、論理学の知識もトレーニングも不十分となりますので、秋学期の「論理学 II」も必ず履修して下さい。

【Outline (in English)】

This is a course to learn Western traditional logic, especially categorical and hypothetical syllogisms.

The main aim of this course is to help students acquire the basic knowledge and skills needed to make valid syllogistic inferences.

By the end of the course, students should be able to understand the followings:

1. The inferences by using the relationship summed up in the square of opposition.
2. The operations on categorical propositions, e.g., obversion, conversion and contraposition.
3. The rules for testing the validity of categorical syllogisms.
4. The valid and invalid forms of hypothetical syllogisms.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end examination (65%). Short reports (25%) and Contribution in class (10%).

PHL100LA

論理学Ⅱ

2017年度以降入学者

計良 隆世

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 4/Thu.4

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

論理学Ⅱでは、まず学期前半において、伝統的論理学における仮言三段論法・選言三段論法・両刀論法（ディレンマ）という3つの間接推理と現代論理学（命題論理学）の基礎を学びます。つぎに学期後半において、演繹的推理に関するクリティカル・シンキング系の論理トレーニングを行います。

前半・後半の両学習を通して、正しい思考・推理を行うのに必要となる、論理学の基礎的かつ実践的な知識と技法の習得を目指します。（本授業、特に学期後半の論理トレーニングは、春学期の「論理学Ⅰ」の学習内容を前提としていますので、「論理学Ⅰ」からの履修を強く勧めます。）

【到達目標】

春学期の論理学Ⅰと同様、正しい思考・推理を行うための論理学上の基礎的知識（たとえば、論理学の基本的な規則・法則等）と実践的な推理の技法とを練習問題を通して習得し、論理的思考力を高めることが、この授業の目標です。具体的には、主に以下の事柄の理解・習得を目指します：

1. 伝統的論理学の間接推理の学習によって、妥当な仮言三段論法等の推理と妥当でない推理とを見極めるための論理的な知識と技法とを習得する。
 2. 現代論理学については、否定・連言・選言・条件・同値といった論理的結合子の定義の理解、命題の真・偽を考えることによる真理値表の作成、命題文の記号化など、命題論理学の基礎を習得する。
 3. 伝統的論理学と命題論理学における演繹的推理の知識を身に付けた上で、日常言語による論理的思考を鍛えるために、クリティカル・シンキング系の論理トレーニングを行い、演繹的論証の基本技術を習得する。
- 上記の目標を達成するために、授業中内に多くの練習問題を出します。積極的に問題に取り組みば取り組むほど、目標達成の度合いも高まります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は基本的に講義形式で行います。授業の理解度と論理的思考力を高めるために、授業中に多くの練習問題を出します。また、課題（宿題）を出すこともあります。

授業の進め方：学期前半は、伝統的論理学における仮言三段論法・選言三段論法・両刀論法（ディレンマ）の学習を行った後、現代論理学（命題論理学）に入ります。

命題論理学の学習では、論理語の学習から始めて、真理値表の作成・日常文の記号化そしてトートロジーと推論までを学びます。そして学習後、第1回目の小テストを行います。

学期後半は、クリティカル・シンキング系の論理トレーニングを通して、演繹的論証の基本技術を順々に学び、学期末に二回目の小テストを行います。

課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	序論(1)：復習	1. 仮言命題（条件文）：逆・裏・対偶 2. 仮言三段論法：前件肯定式・後件否定式
第2回	序論(2)	1. 選言三段論法 2. 両刀論法
第3回	命題論理学(1)	1. 論理語についての説明 2. 十分条件と必要条件 3. 真理値表を作ってみる
第4回	命題論理学(2)	1. カッコの省略 2. 練習問題 1. 日常文を記号化してみる 2. 練習問題
第5回	命題論理学(3)	1. 真理関数と真理値分析 2. 練習問題
第6回	命題論理学(4)	1. 整合的な式・矛盾的な式・トートロジーとは何か 2. トートロジーと推論 3. 練習問題
第7回	命題論理学(5)	1. 小テスト（筆記試験） 2. 意味論と構文論
第8回	論理トレーニング(1)	1. 否定・反対 2. ド・モルガンの法則 3. 練習問題
第9回	論理トレーニング(2)	1. 「すべて」と「存在する」 2. 練習問題
第10回	論理トレーニング(3)	1. 逆・裏・対偶 2. 練習問題
第11回	論理トレーニング(4)	1. 条件連鎖 2. 練習問題
第12回	論理トレーニング(5)	1. 存在文の扱い方 2. 消去法 3. 練習問題
第13回	論理トレーニング(6)	1. 背理法 2. 練習問題
第14回	授業内試験・まとめ	小テスト（筆記試験） まとめ・解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習と復習時間は、各2時間を標準とします。

準備学習：参考書の該当箇所を良く読む。

復習：前回授業内容の確認。課題（宿題）または参考書の練習問題を解く。

特に復習は必ずしっかり行ってください。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません。資料等はプリントで配付します。

【参考書】

大貫義久・白根裕里枝・菅沢龍文・中釜浩一著『改訂版 論理学の初歩』、梓出版社、2013年

坂本百大・坂井秀寿共著『新版現代論理学』、東海大学出版会、1971年

その他は、必要に応じて授業内に指示します。

【成績評価の方法と基準】

中間小テスト成績（40%）と期末小テスト成績（40%）と平常点（20%）に基づき評価。2回の小テストでは、「到達目標」で記した事柄の理解度をためず問題を出す予定。

小テストの採点基準は、2回ともいづれも、授業中に指示した仕方で答案を作成しているか、そして論理的に正しい答えを導いているかによります。

【学生の意見等からの気づき】

履修者の多くは積極的にトレーニング問題に取り組んでくれたようであり、授業が楽しかったようです。

論理学は自分で問題が解けるようになると楽しくなる科目ですので、是非とも授業・練習問題に積極的に取り組んで下さい。説明は丁寧に行ないます。

【学生が準備すべき機器他】

パソコン（学習支援システムを利用するため）

【その他の重要事項】

春学期の「論理学 I」からの履修を推奨します。

【Outline (in English)】

This is a course to learn propositional logic and critical thinking. The main aim of this course is to help students acquire the basic knowledge and skills needed to make valid deductive reasonings.

By the end of the course, students should be able to understand the followings:

1. The meaning of logical connectives, truth-value analysis and the forms of tautologies and so forth.
2. The application of the valid rules of inference such as De Morgan's laws and disjunction elimination.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Final grade will be calculated according to the following process: Mid-term examination (40%), Term-end examination (40%) and Contribution in class (20%).

HIS100LA

東洋史 I

2017 年度以降入学者

齋藤 勝

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 5/Mon.5

単位数：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

前近代における中国世界の形成と拡大
中国の前近代史を概括的にとらえながら、世界史の中における中国、現代世界における中国の位置づけについて考える。

【到達目標】

漢民族及びその伝統的領域・文化の形成過程を理解すること、それを根幹として今日の多民族世界としての中国の形成過程と問題点、中国の文化が東アジア世界に与えた影響、ユーラシア世界の変動の中での位置づけについて理解を深めることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式で行っていきます。資料は学習支援システムを通じて配布します。授業の基本になる資料は初回の授業前に学習支援システムに一括して掲載しますので、準備しておいてください。質問等は授業後に行うか、学習支援システムの掲示板を利用してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	中華文明の始まり	黄河文明と初期王朝
第 2 回	中華思想の始まり	春秋戦国時代
第 3 回	中華帝国の始まり	秦と漢の天下統一
第 4 回	中華帝国と中国世界	漢の武帝と帝国の完成
第 5 回	中華の分裂	後漢から魏晋南北朝時代へ
第 6 回	中華帝国の再生	隋唐帝国
第 7 回	中国の社会と文化の変容	唐宋時期の変革
第 8 回	中国の統一と地方	五代十国から北宋へ
第 9 回	漢民族と異民族	遼・金と南宋
第 10 回	ユーラシア世界の変動と中国	モンゴル・元とユーラシア世界
第 11 回	漢民族王朝の復活と崩壊	明から清へ
第 12 回	中国の経済と文化の成熟	明清時代の社会の変化
第 13 回	世界的変動の中の中国	列強の進出と中国の抵抗
第 14 回	中国と私たち	中国の文化と日本・世界

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。
資料によって事前に知識を深めてきてもらいます。
また、過去に作成したオンデマンド授業用の動画を毎回、期間限定で公開しますので、予習・復習に活用してください。

【テキスト（教科書）】

特になし。
授業の基本になる資料は初回の授業前に学習支援システムに一括して掲載します。

【参考書】

随時、紹介していきます。

【成績評価の方法と基準】

レポート 100 %
講義で扱ったテーマについて論述してもらいます。講義の内容の理解とまとめ方を評価の対象にするつもりです。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline (in English)】

Course outline: Students will survey the history of pre-modern China.

Learning objectives: At the end of the course, students are expected to consider how the traditional "China" had been formed.

Learning activities outside of classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading criteria/policy: Term-end report(100%)

HIS100LA

東洋史Ⅱ

2017年度以降入学者

齋藤 勝

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 5/Mon.5

単位数：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代中国の政治と民衆

歴史の学習を通じて現代中国への理解を深め、政治が人の生活・人生に及ぼす影響について考える。

【到達目標】

現代中国の変動を知識として学ぶとともに、その中で翻弄された人々の苦しみや政治のもたらした社会矛盾を感得する。それにより、現在の中国の成り立ちを理解するだけでなく、政治と一人一人の生活・人生とがいかに関わっているかについても考察を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式で行っていきます。資料は学習支援システムを通じて配布します。授業の基本になる資料は初回の授業前に学習支援システムに一括して掲載しますので、準備しておいてください。質問等は授業後に行うか、学習支援システムの掲示板を利用してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	現代中国の前提(1)	列強の中国進出から辛亥革命へ
第2回	現代中国の前提(2)	中華民国と日本
第3回	1940年代	抗日戦争から国共内戦へ／中華人民共和国の成立
第4回	1950年代(1)	朝鮮戦争と社会主義化の推進
第5回	1950年代(2)	中国とソ連、大躍進とその失敗
第6回	1960年代	文化大革命の始まり
第7回	1970年代	文化大革命の展開と終焉
第8回	中国をめぐる国際環境	日本・アメリカ・ソ連・東南アジアとの関係
第9回	中国における身分と抑圧	『芙蓉鎮』の描く社会
第10回	中国における革命と破壊	『さらば、わが愛 霸王別姫』の描く時代
第11回	1980年代	改革開放から天安門事件へ
第12回	1990年代以降	高度経済成長の到来
第13回	中国における社会問題	『あの子を探して』の描く現代
第14回	中国と私たち	現代中国と日本・世界

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

資料によって事前に知識を深めてきてもらいます。

また、過去に作成したオンデマンド授業用の動画を毎回、期間限定で公開しますので、予習・復習に活用してください。

【テキスト（教科書）】

特になし。

授業の基本になる資料は初回の授業前に学習支援システムに一括して掲載します。

【参考書】

随時、紹介していきます。

【成績評価の方法と基準】

レポート（もしくは期末試験）100%

講義で扱ったテーマについて論述してもらいます。講義の内容の理解とまとめ方を評価の対象にするつもりです。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline (in English)】

Course outline: Students will survey the history of modern China.

Learning objectives: At the end of the course, students are expected to consider how politics had affected the life of people in China.

Learning activities outside of classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading criteria/policy: Term-end report(100%)

HIS100LA

東洋史 I

2017 年度以降入学者

齋藤 勝

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 1/Thu.1

単位数：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

前近代における中国世界の形成と拡大
中国の前近代史を概括的にとらえながら、世界史の中における中国、現代世界における中国の位置づけについて考える。

【到達目標】

漢民族及びその伝統的領域・文化の形成過程を理解すること、それを根幹として今日の多民族世界としての中国の形成過程と問題点、中国の文化が東アジア世界に与えた影響、ユーラシア世界の変動の中での位置づけについて理解を深めることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式で行っていきます。資料は学習支援システムを通じて配布します。授業の基本になる資料は初回の授業前に学習支援システムに一括して掲載しますので、準備しておいてください。質問等は授業後に行うか、学習支援システムの掲示板を利用してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	中華文明の始まり	黄河文明と初期王朝
第 2 回	中華思想の始まり	春秋戦国時代
第 3 回	中華帝国の始まり	秦と漢の天下統一
第 4 回	中華帝国と中国世界	漢の武帝と帝国の完成
第 5 回	中華の分裂	後漢から魏晋南北朝時代へ
第 6 回	中華帝国の再生	隋唐帝国
第 7 回	中国の社会と文化の変容	唐宋時期の変革
第 8 回	中国の統一と地方	五代十国から北宋へ
第 9 回	漢民族と異民族	遼・金と南宋
第 10 回	ユーラシア世界の変動と中国	モンゴル・元とユーラシア世界
第 11 回	漢民族王朝の復活と崩壊	明から清へ
第 12 回	中国の経済と文化の成熟	明清時代の社会の変化
第 13 回	世界的変動の中の中国	列強の進出と中国の抵抗
第 14 回	中国と私たち	中国の文化と日本・世界

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。
資料によって事前に知識を深めてきてもらいます。
また、過去に作成したオンデマンド授業用の動画を毎回、期間限定で公開しますので、予習・復習に活用してください。

【テキスト（教科書）】

特になし。
授業の基本になる資料は初回の授業前に学習支援システムに一括して掲載します。

【参考書】

随時、紹介していきます。

【成績評価の方法と基準】

レポート 100 %
講義で扱ったテーマについて論述してもらいます。講義の内容の理解とまとめ方を評価の対象にするつもりです。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline (in English)】

Course outline: Students will survey the history of pre-modern China.

Learning objectives: At the end of the course, students are expected to consider how the traditional "China" had been formed.

Learning activities outside of classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading criteria/policy: Term-end report(100%)

HIS100LA

東洋史Ⅱ

2017年度以降入学者

齋藤 勝

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 1/Thu.1

単位数：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代中国の政治と民衆

歴史の学習を通じて現代中国への理解を深め、政治が人の生活・人生に及ぼす影響について考える。

【到達目標】

現代中国の変動を知識として学ぶとともに、その中で翻弄された人々の苦しみや政治のもたらした社会矛盾を感得する。それにより、現在の中国の成り立ちを理解するだけでなく、政治と一人一人の生活・人生とがいかに関わっているかについても考察を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式で行っていきます。資料は学習支援システムを通じて配布します。授業の基本になる資料は初回の授業前に学習支援システムに一括して掲載しますので、準備しておいてください。質問等は授業後に行うか、学習支援システムの掲示板を利用してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	現代中国の前提(1)	列強の中国進出から辛亥革命へ
第2回	現代中国の前提(2)	中華民国と日本
第3回	1940年代	抗日戦争から国共内戦へ／中華人民共和国の成立
第4回	1950年代(1)	朝鮮戦争と社会主義化の推進
第5回	1950年代(2)	中国とソ連、大躍進とその失敗
第6回	1960年代	文化大革命の始まり
第7回	1970年代	文化大革命の展開と終焉
第8回	中国をめぐる国際環境	日本・アメリカ・ソ連・東南アジアとの関係
第9回	中国における身分と抑圧	『芙蓉鎮』の描く社会
第10回	中国における革命と破壊	『さらば、わが愛 霸王別姫』の描く時代
第11回	1980年代	改革開放から天安門事件へ
第12回	1990年代以降	高度経済成長の到来
第13回	中国における社会問題	『あの子を探して』の描く現代
第14回	中国と私たち	現代中国と日本・世界

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

資料によって事前に知識を深めてきてもらいます。

また、過去に作成したオンデマンド授業用の動画を毎回、期間限定で公開しますので、予習・復習に活用してください。

【テキスト（教科書）】

特になし。

授業の基本になる資料は初回の授業前に学習支援システムに一括して掲載します。

【参考書】

随時、紹介していきます。

【成績評価の方法と基準】

レポート（もしくは期末試験）100%

講義で扱ったテーマについて論述してもらいます。講義の内容の理解とまとめ方を評価の対象にするつもりです。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline (in English)】

Course outline: Students will survey the history of modern China.

Learning objectives: At the end of the course, students are expected to consider how politics had affected the life of people in China.

Learning activities outside of classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading criteria/policy: Term-end report(100%)

HIS100LA

東洋史 I

2017年度以降入学者

板橋 暁子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 5/Fri.5

単位数：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

第一に漢民族が民族としての変容を経験しながら中華世界を形成してきた過程、それを通じて作り上げてきた帝国・皇帝制度がいかなるものであったかを扱っていく。またその中で生まれた中国文化の基層をなす思想がいかに生まれ、東アジア世界にいかん普及したかについて扱っていく。次に中国における地域性というものが生み出してきた産業や文化の有り様、その影響下で展開された北宋の新法・旧法の党争に象徴される政治的・思想的動向、周辺諸民族との関係のなかで作り出されてきた朱子学をはじめとした中華ナショナリズムについて扱っていく。さらに、モンゴルやムスリムの活動、「大航海時代」といった世界の一体化につながる動きが中国世界に与えた影響について扱っていく。

【到達目標】

前近代における中国世界の形成と拡大を中心的なテーマとする。漢民族及びその伝統的領域・文化の形成過程を理解すること、それを根幹として今日の多民族世界としての中国の形成過程と問題点、中国の文化が東アジア世界に与えた影響、ユーラシア世界の変動の中の位置づけについて理解を深めることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

原則として講義形式の対面授業を行います。第1回のみオンライン（Zoom）で実施します。

第1回のZoom URLは、学習支援システム上でお知らせします。課題等に対するフィードバックは、主に学習支援システムを通じて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	中華文明の始まり	黄河文明と初期王朝
第2回	中華思想の始まり	春秋戦国時代
第3回	中華帝国の始まり	秦と漢の天下統一
第4回	中華帝国と中国世界	漢の武帝と帝国の完成
第5回	中華の分裂	後漢から魏晋南北朝時代へ
第6回	中華帝国の再生	隋唐帝国
第7回	中国の社会と文化の変容	唐宋時期の変革
第8回	中国の統一と地方	五代十国から北宋へ
第9回	漢民族と異民族	遼・金と南宋
第10回	ユーラシア世界の変動と中国	モンゴル・元とユーラシア世界
第11回	漢民族王朝の復活と崩壊	明から清へ
第12回	中国の経済と文化の成熟	明清時代の社会の変化
第13回	世界的変動の中の中国	列強の進出と中国の抵抗
第14回	中国と私たち	中国の文化と日本

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

主に配布資料による本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

随時、紹介していきます。

【成績評価の方法と基準】

レポート（もしくは期末試験）100%

講義で扱ったテーマについて論述してもらいます。講義の内容の理解とまとめ方を評価の対象にするつもりです。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

原則として対面授業を実施しますが、授業時間外のフィードバックや資料配布・諸連絡の必要にそなえ、学生支援システムに接続できる情報機器（パソコンやスマートフォン等）を準備してください。

【Outline (in English)】

Course outline: Surveying the history of premodern China

Learning objectives: Considering how the traditional "China" had been formed

Learning activities outside of classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading criteria/policy: Term-end report(100%)

HIS100LA

東洋史Ⅱ

2017年度以降入学者

板橋 暁子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 5/Fri.5

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

第一に日本や欧米列強との関係のなかでの近代中国の政治的・社会的変容、中華人民共和国の建国に至る過程、それらと愛国心・ナショナリズムとの関係について扱っていく。また中国共産党が標榜した社会主義・共産主義の実像と国民統合との関わり、その挫折と社会に及ぼした影響について扱っていく。次に、世界の一体化が進展する中で中華人民共和国と日本・東アジア・東南アジアとの関係およびアメリカ・ソ連（ロシア）との関係について扱っていく。さらに、改革開放以後の経済成長の軌跡とそれにより生み出された社会問題、政治問題について扱っていく。

【到達目標】

近現代中国の国家と社会の関わり、世界との関係を中心的なテーマとする。世界第二の超大国である隣国中国の社会が近現代においてたどった歴史を理解することにより、東アジアおよび世界の今とこれからを主体的に考察するための素地を培うこと、加えて中国の現代史をもとに経済成長と格差、少子高齢化といった現代社会特有の社会問題について主体的に考察するための素地を培うことを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

原則として講義形式の対面授業を行います。第1回のみオンライン（Zoom）で実施します。

第1回のZoom URLは、学習支援システム上でお知らせします。課題等に対するフィードバックは、主に学習支援システムを通じて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	現代中国の前提(1)	列強の中国進出から辛亥革命へ
第2回	現代中国の前提(2)	中華民国と日本
第3回	1940年代	抗日戦争から国共内戦へ／中華人民共和国の成立
第4回	1950年代(1)	朝鮮戦争と社会主義化の推進
第5回	1950年代(2)	中国とソ連、大躍進とその失敗
第6回	1960年代	文化大革命の始まり
第7回	1970年代	文化大革命の展開と終焉
第8回	中国をめぐる国際環境	日本・アメリカ・ソ連・東南アジアとの関係
第9回	中国における身分と抑圧	『芙蓉鎮』の描く社会
第10回	中国における革命と破壊	『さらば、わが愛 霸王別姫』の描く時代
第11回	1980年代	改革開放から天安門事件へ
第12回	1990年代以降	高度経済成長の到来
第13回	中国における社会問題	『あの子を探して』の描く現代
第14回	中国と私たち	現代中国と日本・世界

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

主に配布資料による本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

担当教員が作成した印刷物を授業にて配布。

【参考書】

随時、紹介していきます。

【成績評価の方法と基準】

レポート（もしくは期末試験）100%

講義で扱ったテーマについて論述してもらいます。講義の内容の理解とまとめ方を評価の対象にするつもりです。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

原則として対面授業を実施しますが、授業時間外のフィードバックや資料配布・諸連絡の必要にそなえ、学生支援システムに接続できる情報機器（パソコンやスマートフォン等）を準備してください。

【Outline (in English)】

Course outline: Surveying the history of modern China

Learning objectives: Considering how politics had affected the life of people in China

Learning activities outside of classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading criteria/policy: Term-end report(100%)

HIS100LA

東洋史 I

2017 年度以降入学者

齋藤 勝

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 1/Mon.1

単位数：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

前近代における中国世界の形成と拡大
中国の前近代史を概括的にとらえながら、世界史の中における中国、現代世界における中国の位置づけについて考える。

【到達目標】

漢民族及びその伝統的領域・文化の形成過程を理解すること、それを根幹として今日の多民族世界としての中国の形成過程と問題点、中国の文化が東アジア世界に与えた影響、ユーラシア世界の変動の中での位置づけについて理解を深めることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式で行っていきます。資料は学習支援システムを通じて配布します。授業の基本になる資料は初回の授業前に学習支援システムに一括して掲載しますので、準備しておいてください。質問等は授業後に行うか、学習支援システムの掲示板を利用してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	中華文明の始まり	黄河文明と初期王朝
第 2 回	中華思想の始まり	春秋戦国時代
第 3 回	中華帝国の始まり	秦と漢の天下統一
第 4 回	中華帝国と中国世界	漢の武帝と帝国の完成
第 5 回	中華の分裂	後漢から魏晋南北朝時代へ
第 6 回	中華帝国の再生	隋唐帝国
第 7 回	中国の社会と文化の変容	唐宋時期の変革
第 8 回	中国の統一と地方	五代十国から北宋へ
第 9 回	漢民族と異民族	遼・金と南宋
第 10 回	ユーラシア世界の変動と中国	モンゴル・元とユーラシア世界
第 11 回	漢民族王朝の復活と崩壊	明から清へ
第 12 回	中国の経済と文化の成熟	明清時代の社会の変化
第 13 回	世界的変動の中の中国	列強の進出と中国の抵抗
第 14 回	中国と私たち	中国の文化と日本・世界

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。
資料によって事前に知識を深めてきてもらいます。
また、過去に作成したオンデマンド授業用の動画を毎回、期間限定で公開しますので、予習・復習に活用してください。

【テキスト（教科書）】

特になし。
授業の基本になる資料は初回の授業前に学習支援システムに一括して掲載します。

【参考書】

随時、紹介していきます。

【成績評価の方法と基準】

レポート 100 %
講義で扱ったテーマについて論述してもらいます。講義の内容の理解とまとめ方を評価の対象にするつもりです。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline (in English)】

Course outline: Students will survey the history of pre-modern China.

Learning objectives: At the end of the course, students are expected to consider how the traditional "China" had been formed.

Learning activities outside of classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading criteria/policy: Term-end report(100%)

HIS100LA

東洋史Ⅱ

2017年度以降入学者

齋藤 勝

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 1/Mon.1

単位数：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代中国の政治と民衆

歴史の学習を通じて現代中国への理解を深め、政治が人の生活・人生に及ぼす影響について考える。

【到達目標】

現代中国の変動を知識として学ぶとともに、その中で翻弄された人々の苦しみや政治のもたらした社会矛盾を感得する。それにより、現在の中国の成り立ちを理解するだけでなく、政治と一人一人の生活・人生とがいかに関わっているかについても考察を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式で行っていきます。資料は学習支援システムを通じて配布します。授業の基本になる資料は初回の授業前に学習支援システムに一括して掲載しますので、準備しておいてください。質問等は授業後に行うか、学習支援システムの掲示板を利用してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	現代中国の前提(1)	列強の中国進出から辛亥革命へ
第2回	現代中国の前提(2)	中華民国と日本
第3回	1940年代	抗日戦争から国共内戦へ／中華人民共和国の成立
第4回	1950年代(1)	朝鮮戦争と社会主義化の推進
第5回	1950年代(2)	中国とソ連、大躍進とその失敗
第6回	1960年代	文化大革命の始まり
第7回	1970年代	文化大革命の展開と終焉
第8回	中国をめぐる国際環境	日本・アメリカ・ソ連・東南アジアとの関係
第9回	中国における身分と抑圧	『芙蓉鎮』の描く社会
第10回	中国における革命と破壊	『さらば、わが愛 霸王別姫』の描く時代
第11回	1980年代	改革開放から天安門事件へ
第12回	1990年代以降	高度経済成長の到来
第13回	中国における社会問題	『あの子を探して』の描く現代
第14回	中国と私たち	現代中国と日本・世界

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

資料によって事前に知識を深めてきてもらいます。

また、過去に作成したオンデマンド授業用の動画を毎回、期間限定で公開しますので、予習・復習に活用してください。

【テキスト（教科書）】

特になし。

授業の基本になる資料は初回の授業前に学習支援システムに一括して掲載します。

【参考書】

随時、紹介していきます。

【成績評価の方法と基準】

レポート（もしくは期末試験）100%

講義で扱ったテーマについて論述してもらいます。講義の内容の理解とまとめ方を評価の対象にするつもりです。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline (in English)】

Course outline: Students will survey the history of modern China.

Learning objectives: At the end of the course, students are expected to consider how politics had affected the life of people in China.

Learning activities outside of classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading criteria/policy: Term-end report(100%)

HIS100LA

東洋史 I

2017年度以降入学者

板橋 暁子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 4/Fri.4

単位数：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

第一に漢民族が民族としての変容を経験しながら中華世界を形成してきた過程、それを通じて作り上げてきた帝国・皇帝制度がいかなるものであったかを扱っていく。またその中で生まれた中国文化の基層をなす思想がいかに生まれ、東アジア世界にいかん普及したかについて扱っていく。次に中国における地域性というものが生み出してきた産業や文化の有り様、その影響下で展開された北宋の新法・旧法の党争に象徴される政治的・思想的動向、周辺諸民族との関係のなかで作り出されてきた朱子学をはじめとした中華ナショナリズムについて扱っていく。さらに、モンゴルやムスリムの活動、「大航海時代」といった世界の一体化につながる動きが中国世界に与えた影響について扱っていく。

【到達目標】

前近代における中国世界の形成と拡大を中心的なテーマとする。漢民族及びその伝統的領域・文化の形成過程を理解すること、それを根幹として今日の多民族世界としての中国の形成過程と問題点、中国の文化が東アジア世界に与えた影響、ユーラシア世界の変動の中の位置づけについて理解を深めることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

原則として講義形式の対面授業を行います。第1回のみオンライン（Zoom）で実施します。

第1回のZoom URLは、学習支援システム上でお知らせします。課題等に対するフィードバックは、主に学習支援システムを通じて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	中華文明の始まり	黄河文明と初期王朝
第2回	中華思想の始まり	春秋戦国時代
第3回	中華帝国の始まり	秦と漢の天下統一
第4回	中華帝国と中国世界	漢の武帝と帝国の完成
第5回	中華の分裂	後漢から魏晋南北朝時代へ
第6回	中華帝国の再生	隋唐帝国
第7回	中国の社会と文化の変容	唐宋時期の変革
第8回	中国の統一と地方	五代十国から北宋へ
第9回	漢民族と異民族	遼・金と南宋
第10回	ユーラシア世界の変動と中国	モンゴル・元とユーラシア世界
第11回	漢民族王朝の復活と崩壊	明から清へ
第12回	中国の経済と文化の成熟	明清時代の社会の変化
第13回	世界的変動の中の中国	列強の進出と中国の抵抗
第14回	中国と私たち	中国の文化と日本

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

主に配布資料による本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

随時、紹介していきます。

【成績評価の方法と基準】

レポート（もしくは期末試験）100%

講義で扱ったテーマについて論述してもらいます。講義の内容の理解とまとめ方を評価の対象にするつもりです。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

原則として対面授業を実施しますが、授業時間外のフィードバックや資料配布・諸連絡の必要にそなえ、学生支援システムに接続できる情報機器（パソコンやスマートフォン等）を準備してください。

【Outline (in English)】

Course outline: Surveying the history of premodern China

Learning objectives: Considering how the traditional "China" had been formed

Learning activities outside of classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading criteria/policy: Term-end report(100%)

HIS100LA

東洋史 II

2017 年度以降入学者

板橋 暁子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 4/Fri.4

単位数：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

第一に日本や欧米列強との関係のなかでの近代中国の政治的・社会的変容、中華人民共和国の建国に至る過程、それらと愛国心・ナショナリズムとの関係について扱っていく。また中国共産党が標榜した社会主義・共産主義の実像と国民統合との関わり、その挫折と社会に及ぼした影響について扱っていく。次に、世界の一体化が進展する中で中華人民共和国と日本・東アジア・東南アジアとの関係およびアメリカ・ソ連（ロシア）との関係について扱っていく。さらに、改革開放以後の経済成長の軌跡とそれにより生み出された社会問題、政治問題について扱っていく。

【到達目標】

近現代中国の国家と社会の関わり、世界との関係を中心的なテーマとする。世界第二の超大国である隣国中国の社会が近現代においてたどった歴史を理解することにより、東アジアおよび世界の今とこれからを主体的に考察するための素地を培うこと、加えて中国の現代史をもとに経済成長と格差、少子高齢化といった現代社会特有の社会問題について主体的に考察するための素地を培うことを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

原則として講義形式の対面授業を行います。第 1 回のみオンライン（Zoom）で実施します。

第 1 回の Zoom URL は、学習支援システム上でお知らせします。課題等に対するフィードバックは、主に学習支援システムを通じて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	現代中国の前提 (1)	列強の中国進出から辛亥革命へ
第 2 回	現代中国の前提 (2)	中華民国と日本
第 3 回	1940 年代	抗日戦争から国共内戦へ／中華人民共和国の成立
第 4 回	1950 年代 (1)	朝鮮戦争と社会主義化の推進
第 5 回	1950 年代 (2)	中国とソ連、大躍進とその失敗
第 6 回	1960 年代	文化大革命の始まり
第 7 回	1970 年代	文化大革命の展開と終焉
第 8 回	中国をめぐる国際環境	日本・アメリカ・ソ連・東南アジアとの関係
第 9 回	中国における身分と抑圧	『芙蓉鎮』の描く社会
第 10 回	中国における革命と破壊	『さらば、わが愛 霸王別姫』の描く時代
第 11 回	1980 年代	改革開放から天安門事件へ
第 12 回	1990 年代以降	高度経済成長の到来
第 13 回	中国における社会問題	『あの子を探して』の描く現代
第 14 回	中国と私たち	現代中国と日本・世界

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

主に配布資料による本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

担当教員が作成した印刷物を授業にて配布。

【参考書】

随時、紹介していきます。

【成績評価の方法と基準】

レポート（もしくは期末試験）100 %

講義で扱ったテーマについて論述してもらいます。講義の内容の理解とまとめ方を評価の対象にするつもりです。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

原則として対面授業を実施しますが、授業時間外のフィードバックや資料配布・諸連絡の必要にそなえ、学生支援システムに接続できる情報機器（パソコンやスマートフォン等）を準備してください。

【Outline (in English)】

Course outline: Surveying the history of modern China

Learning objectives: Considering how politics had affected the life of people in China

Learning activities outside of classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading criteria/policy: Term-end report(100%)

HIS100LA

西洋史 I

2017 年度以降入学者

大澤 広晃

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 4/Tue.4

単位数：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

アジアとの地理的な隔たりにもかかわらず、西洋世界は私たちの生活、価値観、歴史に大きな影響を及ぼしてきた。西洋とそれ以外の地域の交流や関係においてひとつの媒介となったのが、「帝国」である。本授業では、「帝国」をキーワードに西洋の歴史を概観したい。

【到達目標】

- ・帝国の視座から西洋史の基礎知識を習得する。
- ・西洋世界内部の動向とその外部世界との関係の双方に目配りしつつ、歴史を複眼的に理解する姿勢を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は講義形式で行う。ただし、授業中に質問をしたり、リアクションペーパーを積極的に活用したりして、受講生の主体的な参加を求める。課題や質問に対しては、授業の内容や目的に照らして有益なものを抽出したうえで、次の授業までにフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の概要を説明する。
第 2 回	帝国の模範と源流①：ギリシアとローマ	西洋の帝国が模範としたギリシアとローマについて学ぶ
第 3 回	帝国の模範と源流②：キリスト教	西洋の帝国の文化的基盤となったキリスト教とその浸透について学ぶ。
第 4 回	西洋世界の拡大	近代における西洋諸国の対外進出について学ぶ。
第 5 回	帝国主義の時代①	帝国主義時代の西洋列強諸国の動向について学ぶ。
第 6 回	帝国主義の時代②	帝国主義を暴力と戦争の観点から学ぶ。
第 7 回	第一次世界大戦と帝国	第一次世界大戦を帝国の視点から学ぶ。
第 8 回	戦間期の帝国支配	戦間期の帝国支配と反植民地運動の展開について学ぶ。
第 9 回	第二次世界大戦と帝国	第二次世界大戦が西洋諸国の帝国支配に与えた影響について学ぶ。
第 10 回	帝国支配の崩壊と冷戦・熱戦	第二次世界大戦後の脱植民地化を冷戦との関連で学ぶ。
第 11 回	植民地独立の諸相	植民地の独立とそれに伴う諸問題を学ぶ。
第 12 回	帝国の過去と民族紛争	帝国支配の過去と旧植民地地域の民族紛争の関連について学ぶ。
第 13 回	まとめ：帝国支配の過去と植民地責任	帝国支配の過去が現在の世界に及ぼしている影響について学び、授業内容を総括する。
第 14 回	授業内試験	期末試験。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。以下に掲げる参考書などを自主的に読み、授業で扱う内容についての理解を深める。また、授業で用いる資料について宿題が課される場合もある。

【テキスト（教科書）】

使用しない。授業でプリントを配付する。

【参考書】

服部良久・南川高志・山辺規子編著『大学で学ぶ西洋史—古代・中世』ミネルヴァ書房、2006 年
 小山哲・上垣豊・山田史郎・杉本淑彦編著『大学で学ぶ西洋史—近現代』ミネルヴァ書房、2011 年
 南塚信吾・秋田茂・高澤紀恵編著『新しく学ぶ西洋の歴史—アジアから考える』ミネルヴァ書房、2016 年

【成績評価の方法と基準】

- ・平常点（授業参加度、課題への取り組み方など）：50%
- ・期末試験：50%

【学生の意見等からの気づき】

学生のみなさんの主体的参加を促すような授業を目指していきます。

【Outline (in English)】

< Course outline >

This course explores major themes of western history. In particular, it covers topics related with empire.

< Learning objectives >

- 1) Students are able to acquire basic knowledge about western history in view of empires.
- 2) Students are able to understand history of the western world in view of its interaction with non-western worlds.

< Learning activities outside of classroom >

Students have to spend at least two hours on preparation for and review of each class respectively. They are expected to read relevant books, such as those listed in the reference section, and learn by themselves. They also have to work on assignments given by the instructor.

< Grading policy >

Class participation and assignments: 50% Final examination: 50%

HIS100LA

西洋史Ⅱ

2017年度以降入学者

大澤 広晃

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 4/Tue.4

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ジェンダー関係、女性の立場、性のあり方は社会の基盤にかかわる問題であり、歴史の理解においても重要なイシューである。本授業では、女性とジェンダーの視座から西洋の歴史を考えてみたい。

【到達目標】

- ・女性とジェンダーの視座から西洋史の基礎知識を習得する。
- ・授業で学んだことを基礎にして、現代世界が直面するさまざまな問題を歴史的に考察する力を修得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は講義形式で行う。ただし、授業中に質問をしたり、リアクションペーパーを積極的に活用したりして、受講生の主体的な参加を求める。課題や質問に対しては、授業の内容や目的に照らして有益なものを抽出したうえで、次の授業までにフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の概要を説明する。
第2回	古代西洋の女性とジェンダー	古代の西洋社会における女性の立場とジェンダー関係について学ぶ。
第3回	中世西洋の女性とジェンダー	中世の西洋社会における女性の立場とジェンダー関係について学ぶ。
第4回	宗教改革と魔女裁判の時代	宗教改革と魔女裁判の時代における女性とジェンダーのあり方を学ぶ。
第5回	近世社会と家族・ジェンダー	近世社会における家族とジェンダーに関連する諸問題を学ぶ。
第6回	啓蒙の時代	啓蒙思想で女性やジェンダー関係がどう論じられていたかを学ぶ。
第7回	女性とジェンダーから考えるフランス革命	フランス革命を女性とジェンダーの観点から学ぶ。
第8回	産業革命の時代と女性・ジェンダー	産業革命の時代における女性とジェンダーのありようを学ぶ。
第9回	近代社会と家族・ジェンダー	19世紀西洋社会における家族とジェンダーに関連する諸問題を学ぶ。
第10回	第一次世界大戦とジェンダー	第一次世界大戦期におけるジェンダー関係のありようを学ぶ。
第11回	第一次世界大戦と女性の経験	女性が第一次世界大戦をどう経験したのかを学ぶ。
第12回	戦間期から第二次世界大戦期の社会とジェンダー	戦間期から第二次大戦期にかけての西洋社会をジェンダーの視点から学ぶ。
第13回	まとめ：現代の西洋世界とジェンダー	20世紀後半以降の西洋世界とジェンダー問題について学び、授業内容を総括する。
第14回	授業内試験	期末試験。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。以下に掲げる参考書などを自主的に読み、授業で扱う内容についての理解を深める。また、授業で用いる資料について宿題が課される場合もある。

【テキスト（教科書）】

使用しない。授業でプリントを配付する。

【参考書】

服部良久・南川高志・山辺規子編著『大学で学ぶ西洋史—古代・中世』ミネルヴァ書房、2006年
 小山哲・上垣豊・山田史郎・杉本淑彦編著『大学で学ぶ西洋史—近現代』ミネルヴァ書房、2011年
 南塚信吾・秋田茂・高澤紀恵編著『新しく学ぶ西洋の歴史—アジアから考える』ミネルヴァ書房、2016年

【成績評価の方法と基準】

- ・平常点（授業参加度、課題への取り組み方など）：50%
- ・期末試験：50%

【学生の意見等からの気づき】

学生のみなさんの主体的参加を促すような授業を目指していきます。

【Outline (in English)】

< Course outline >

This course explores major themes of western history. In particular, it covers topics related with women and gender.

< Learning objectives >

1) Students are able to acquire basic knowledge about western history in view of women and gender.

2) Students are able to acquire critical views of various issues surrounding contemporary world in reference to history.

< Learning activities outside of classroom >

Students have to spend at least two hours on preparation for and review of each class respectively. They are expected to read relevant books, such as those listed in the reference section, and learn by themselves. They also have to work on assignments given by the instructor.

< Grading policy >

Class participation and assignments: 50% Final examination: 50%

HIS100LA

西洋史 I

2017 年度以降入学者

大澤 広晃

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 5/Tue.5

単位数：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

アジアとの地理的な隔たりにもかかわらず、西洋世界は私たちの生活、価値観、歴史に大きな影響を及ぼしてきた。西洋とそれ以外の地域の交流や関係においてひとつの媒介となったのが、「帝国」である。本授業では、「帝国」をキーワードに西洋の歴史を概観したい。

【到達目標】

- ・帝国の視座から西洋史の基礎知識を習得する。
- ・西洋世界内部の動向とその外部世界との関係の双方に目配りしつつ、歴史を複眼的に理解する姿勢を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は講義形式で行う。ただし、授業中に質問をしたり、リアクションペーパーを積極的に活用したりして、受講生の主体的な参加を求める。課題や質問に対しては、授業の内容や目的に照らして有益なものを抽出したうえで、次の授業までにフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の概要を説明する。
第 2 回	帝国の模範と源流①：ギリシアとローマ	西洋の帝国が模範としたギリシアとローマについて学ぶ
第 3 回	帝国の模範と源流②：キリスト教	西洋の帝国の文化的基盤となったキリスト教とその浸透について学ぶ。
第 4 回	西洋世界の拡大	近代における西洋諸国の対外進出について学ぶ。
第 5 回	帝国主義の時代①	帝国主義時代の西洋列強諸国の動向について学ぶ。
第 6 回	帝国主義の時代②	帝国主義を暴力と戦争の観点から学ぶ。
第 7 回	第一次世界大戦と帝国	第一次世界大戦を帝国の視点から学ぶ。
第 8 回	戦間期の帝国支配	戦間期の帝国支配と反植民地運動の展開について学ぶ。
第 9 回	第二次世界大戦と帝国	第二次世界大戦が西洋諸国の帝国支配に与えた影響について学ぶ。
第 10 回	帝国支配の崩壊と冷戦・熱戦	第二次世界大戦後の脱植民地化を冷戦との関連で学ぶ。
第 11 回	植民地独立の諸相	植民地の独立とそれに伴う諸問題を学ぶ。
第 12 回	帝国の過去と民族紛争	帝国支配の過去と旧植民地地域の民族紛争の関連について学ぶ。
第 13 回	まとめ：帝国支配の過去と植民地責任	帝国支配の過去が現在の世界に及ぼしている影響について学び、授業内容を総括する。
第 14 回	授業内試験	期末試験。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。以下に掲げる参考書などを自主的に読み、授業で扱う内容についての理解を深める。また、授業で用いる資料について宿題が課される場合もある。

【テキスト（教科書）】

使用しない。授業でプリントを配付する。

【参考書】

服部良久・南川高志・山辺規子編著『大学で学ぶ西洋史—古代・中世』ミネルヴァ書房、2006 年
 小山哲・上垣豊・山田史郎・杉本淑彦編著『大学で学ぶ西洋史—近現代』ミネルヴァ書房、2011 年
 南塚信吾・秋田茂・高澤紀恵編著『新しく学ぶ西洋の歴史—アジアから考える』ミネルヴァ書房、2016 年

【成績評価の方法と基準】

- ・平常点（授業参加度、課題への取り組み方など）：50 %
- ・期末試験：50 %

【学生の意見等からの気づき】

学生のみなさんの主体的参加を促すような授業を目指していきます。

【Outline (in English)】

< Course outline >

This course explores major themes of western history. In particular, it covers topics related with empire.

< Learning objectives >

- 1) Students are able to acquire basic knowledge about western history in view of empires.
- 2) Students are able to understand history of the western world in view of its interaction with non-western worlds.

< Learning activities outside of classroom >

Students have to spend at least two hours on preparation for and review of each class respectively. They are expected to read relevant books, such as those listed in the reference section, and learn by themselves. They also have to work on assignments given by the instructor.

< Grading policy >

Class participation and assignments: 50% Final examination: 50%

HIS100LA

西洋史Ⅱ

2017年度以降入学者

大澤 広晃

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 5/Tue.5

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ジェンダー関係、女性の立場、性のあり方は社会の基盤にかかわる問題であり、歴史の理解においても重要なイシューである。本授業では、女性とジェンダーの視座から西洋の歴史を考えてみたい。

【到達目標】

- ・女性とジェンダーの視座から西洋史の基礎知識を習得する。
- ・授業で学んだことを基礎にして、現代世界が直面するさまざまな問題を歴史的に考察する力を修得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は講義形式で行う。ただし、授業中に質問をしたり、リアクションペーパーを積極的に活用したりして、受講生の主体的な参加を求める。課題や質問に対しては、授業の内容や目的に照らして有益なものを抽出したうえで、次の授業までにフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の概要を説明する。
第2回	古代西洋の女性とジェンダー	古代の西洋社会における女性の立場とジェンダー関係について学ぶ。
第3回	中世西洋の女性とジェンダー	中世の西洋社会における女性の立場とジェンダー関係について学ぶ。
第4回	宗教改革と魔女裁判の時代	宗教改革と魔女裁判の時代における女性とジェンダーのあり方を学ぶ。
第5回	近世社会と家族・ジェンダー	近世社会における家族とジェンダーに関連する諸問題を学ぶ。
第6回	啓蒙の時代	啓蒙思想で女性やジェンダー関係がどう論じられていたかを学ぶ。
第7回	女性とジェンダーから考えるフランス革命	フランス革命を女性とジェンダーの観点から学ぶ。
第8回	産業革命の時代と女性・ジェンダー	産業革命の時代における女性とジェンダーのありようを学ぶ。
第9回	近代社会と家族・ジェンダー	19世紀西洋社会における家族とジェンダーに関連する諸問題を学ぶ。
第10回	第一次世界大戦とジェンダー	第一次世界大戦期におけるジェンダー関係のありようを学ぶ。
第11回	第一次世界大戦と女性の経験	女性が第一次世界大戦をどう経験したのかを学ぶ。
第12回	戦間期から第二次世界大戦期の社会とジェンダー	戦間期から第二次大戦期にかけての西洋社会をジェンダーの視点から学ぶ。
第13回	まとめ：現代の西洋世界とジェンダー	20世紀後半以降の西洋世界とジェンダー問題について学び、授業内容を総括する。
第14回	授業内試験	期末試験。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。以下に掲げる参考書などを自主的に読み、授業で扱う内容についての理解を深める。また、授業で用いる資料について宿題が課される場合もある。

【テキスト（教科書）】

使用しない。授業でプリントを配付する。

【参考書】

服部良久・南川高志・山辺規子編著『大学で学ぶ西洋史—古代・中世』ミネルヴァ書房、2006年
 小山哲・上垣豊・山田史郎・杉本淑彦編著『大学で学ぶ西洋史—近現代』ミネルヴァ書房、2011年
 南塚信吾・秋田茂・高澤紀恵編著『新しく学ぶ西洋の歴史—アジアから考える』ミネルヴァ書房、2016年

【成績評価の方法と基準】

- ・平常点（授業参加度、課題への取り組み方など）：50%
- ・期末試験：50%

【学生の意見等からの気づき】

学生のみなさんの主体的参加を促すような授業を目指していきます。

【Outline (in English)】

< Course outline >

This course explores major themes of western history. In particular, it covers topics related with women and gender.

< Learning objectives >

1) Students are able to acquire basic knowledge about western history in view of women and gender.

2) Students are able to acquire critical views of various issues surrounding contemporary world in reference to history.

< Learning activities outside of classroom >

Students have to spend at least two hours on preparation for and review of each class respectively. They are expected to read relevant books, such as those listed in the reference section, and learn by themselves. They also have to work on assignments given by the instructor.

< Grading policy >

Class participation and assignments: 50% Final examination: 50%

HIS100LA

西洋史 I

2017 年度以降入学者

内川 勇海

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 1/Thu.1

単位数：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

西洋は、私たちの生活や思考のあり方に巨大な影響を及ぼしてきた。では、西洋とは何か。それはどのように生まれ、いかなる変化をとげてきたのか。本授業では、古代から中世にかけての西洋の歩みを考える。

【到達目標】

- ・古代から中世までの西洋史にかんする基礎知識を習得する。
- ・西洋世界内部の動向とその外部世界との関係の双方に目配りしつつ、歴史を複眼的に理解する姿勢を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は講義形式で行う。ただし、リアクションペーパーを積極的に活用するなど、受講生の主体的な参加を求める。受講生の数に応じて、授業で用いる資料に基づく討論を行うこともある。課題や質問に対しては、授業の内容や目的に照らして有益なものを抽出したうえで、次の授業までにフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の概要と、西洋史を勉強することの意義について
第 2 回	古代地中海世界 1 : ギリシア・ポリス社会の形成	ギリシア・ポリス社会の形成について
第 3 回	古代地中海世界 2 : 古代ギリシアの社会と人々	古代ギリシア社会における人々の生活について
第 4 回	古代地中海世界 3 : ギリシアと周辺世界の関係	ペルシア戦争やヘレニズムなど、古代ギリシア社会と周辺世界の関係について
第 5 回	古代地中海世界 4 : ローマの台頭	共和制から帝国へと至るローマの歩みについて
第 6 回	古代地中海世界 5 : 古代ローマの社会と人々	古代ローマ社会における人々の生活について
第 7 回	古代地中海世界 6 : ローマ帝国の分裂と西ローマ帝国の衰退とキリスト教の誕生	ローマ帝国の滅亡、キリスト教の誕生と発展について
第 8 回	中世ヨーロッパ 1 : 中世世界の形成	諸集団の移動と中世ヨーロッパの形成について
第 9 回	中世ヨーロッパ 2 : 国家と社会	中世ヨーロッパにおける諸国家の動向と社会の特徴について
第 10 回	中世ヨーロッパ 3 : 中世ヨーロッパの社会と人々	中世ヨーロッパ社会における人々の生活について
第 11 回	中世ヨーロッパ 4 : キリスト教世界の発展と十字軍	キリスト教の発展、十字軍運動の展開について

第 12 回 中世ヨーロッパ 5 : 黒死病や戦争などの影響、国家体制と社会の変容について

第 13 回 中世から近世へ：ルネサンスの展開について

第 14 回 まとめ：近代へ これまでの授業の内容を振り返り、近代西洋への展望を示す

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。以下に掲げる参考書などを自主的に読み、授業で扱う内容についての理解を深める。また、授業で用いる資料について宿題が課される場合もある。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。必要に応じてプリントを配布する。

【参考書】

『古典古代史』、伊藤貞夫、放送大学教育振興会、1995 年
『大学で学ぶ西洋史 [古代・中世]』、服部良久/南川高志/山辺規子編著、ミネルヴァ書房、2006 年
『論点・西洋史学』、金澤周作監修、藤井崇ほか編著、ミネルヴァ書房、2020 年
その他適宜授業中に指示する。

【成績評価の方法と基準】

・平常点（授業参加度、課題への取り組み方など）：50%

* 出席管理は厳格に行う。

・期末試験：50%

【学生の意見等からの気づき】

図像資料の提供を増やす。適宜休憩をはさむ。

【学生が準備すべき機器他】

第 1 回の授業はオンライン形式で行うので、そのために必要なデバイスおよび通信環境

【その他の重要事項】

2 回目以降の講義は対面の予定だが、新型コロナウイルス感染症の流行状況により、一部オンライン形式に変更する可能性がある。その際は、講義前日までにアナウンスする。

【Outline (in English)】

< Course outline > This course explores major themes of western history, particularly focusing on ancient and medieval periods.

< Learning objectives > 1) Students are able to acquire basic knowledge about ancient and medieval history of the western world. 2) Students are able to understand history of the western world in view of its interaction with non-western worlds.

< Learning activities outside of classroom > Students have to spend at least two hours on preparation for and review of each class respectively. They are expected to read relevant books, such as those listed in the reference section, and learn by themselves. They also have to work on assignments given by the instructor.

< Grading policy > Class participation and assignments: 50%
Final examination: 50%

HIS100LA

西洋史Ⅱ

2017年度以降入学者

渡辺 知

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 1/Thu.1

単位数：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

近世以降の西洋は、新たな知識、制度—その弊害も含めて—を生みだし、世界史の動向を大きく規定してきました。本授業では、近世から近代にかけての西洋の歩みを学び、それが現在に与える影響を考えます。

【到達目標】

・近世から近代までの西洋史にかんする基礎知識を習得する。
 ・西洋世界内部の動向とその外部世界との関係の双方に目配りしつつ、歴史を複眼的に理解する姿勢を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式で行います。授業中に質問をしたり、リアクションペーパーを積極的に活用したりして、受講生の主体的な参加を求めます。必要に応じて、リアクションペーパー等へのコメントを授業内で行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の概要と、西洋近代史を学ぶことの意義について説明します。
第2回	第1章 大航海時代以前のヨーロッパ1	第1章では15世紀ヨーロッパで大航海時代が始まる前提として11～15世紀にかけてのヨーロッパの経済、社会を概観します。1回目は11～13世紀にかけての経済社会状況を概観します。
第3回	第1章 大航海時代以前のヨーロッパ2	第1章では15世紀ヨーロッパで大航海時代が始まる前提として11～15世紀にかけてのヨーロッパの経済、社会を概観します。2回目は「14世紀の危機」を扱います。
第4回	第1章 大航海時代以前のヨーロッパ3	第1章では15世紀ヨーロッパで大航海時代が始まる前提として11～15世紀にかけてのヨーロッパの経済、社会を概観します。3回目は主権国家の形成とインターステイト・システムの成立について説明します。
第5回	第2章 ポルトガルとアフリカ、アジア1	第2章ではポルトガルのアフリカ、アジア進出の過程とその影響を考察します。1回目はポルトガルのアフリカ進出の過程、その特徴と影響を説明します。
第6回	第2章 ポルトガルとアフリカ、アジア2	第2章ではポルトガルのアフリカ、アジア進出の過程とその影響を考察します。2回目はポルトガルのアジア進出の過程と特徴について説明します。

第7回	第2章 ポルトガルとアフリカ、アジア3	第2章ではポルトガルのアフリカ、アジア進出の過程とその影響を考察します。3回目はポルトガルのアジア進出がポルトガルとアジアにとってどのような意味を持ったのか考察します。
第8回	第3章 スペインとアメリカ1	第3章ではスペインのアメリカ進出の過程とその影響を考察します。1回目はスペインのアメリカ進出の過程とその特徴を説明します。
第9回	第3章 スペインとアメリカ2	第3章ではスペインのアメリカ進出の過程とその影響を考察します。2回目はスペインのアメリカ進出がアメリカ世界に与えた影響を考察します。
第10回	第3章 スペインとアメリカ3	第3章ではスペインのアメリカ進出の過程とその影響を考察します。3回目はスペインのアメリカ進出がスペインにとってどのような意味を持ったのか考察します。
第11回	第4章 イギリス 第一帝国の形成1	第4章ではイギリスの帝国形成の過程とその影響を考察します。1回目はイギリスがオランダ、フランスと競争しつつ帝国を形成する過程を説明します。
第12回	第4章 イギリス 第一帝国の形成2	第4章ではイギリスの帝国形成の過程とその影響を考察します。2回目は帝国の形成がイギリスに与えた影響を論じます。
第13回	第4章 イギリス 第一帝国の形成3	第4章ではイギリスの帝国形成の過程とその影響を考察します。3回目は帝国の形成が西インド諸島とアフリカに与えた影響を論じます。
第14回	まとめ	これまでの授業の内容を振り返り、現代世界が直面する諸問題を歴史的に考えます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。授業で紹介する参考文献などを読み授業の理解を深めて下さい。

【テキスト（教科書）】

特に設けません。

【参考書】

授業中に適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

授業の区切りにリアクションペーパー等を書いて頂き、この提出をもって平常点とします。これら平常点と学期末の試験の総合評価とします（平常点20%、学期末の試験80%）

【学生の意見等からの気づき】

高校で世界史を履修していなかった人にもこれまで以上に配慮するようにします。

【Outline (in English)】

< Course outline >

This course explores major themes of western history, particularly focusing on modern periods.

< Learning objectives >

1) Students are able to acquire basic knowledge about modern and contemporary history of the western world. 2) Students are able to understand history of the western world in view of its interaction with non-western worlds.

< Learning activities outside of classroom >

Students have to spend at least two hours on preparation for and review of each class respectively. They are expected to read relevant books and learn by themselves.

< Grading policy >

Class participation and assignments: 20% Final examination: 80%

HIS100LA

西洋史 I

2017 年度以降入学者

内川 勇海

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 2/Thu.2

単位数：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

西洋は、私たちの生活や思考のあり方に巨大な影響を及ぼしてきた。では、西洋とは何か。それはどのように生まれ、いかなる変化をとげてきたのか。本授業では、古代から中世にかけての西洋の歩みを考える。

【到達目標】

- ・古代から中世までの西洋史にかなする基礎知識を習得する。
- ・西洋世界内部の動向とその外部世界との関係の双方に目配りしつつ、歴史を複眼的に理解する姿勢を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は講義形式で行う。ただし、リアクションペーパーを積極的に活用するなど、受講生の主体的な参加を求める。受講生の数に応じて、授業で用いる資料に基づく討論を行うこともある。課題や質問に対しては、授業の内容や目的に照らして有益なものを抽出したうえで、次の授業までにフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の概要と、西洋史を勉強することの意義について
第 2 回	古代地中海世界 1 : ギリシア・ポリス社会の形成	ギリシア・ポリス社会の形成について
第 3 回	古代地中海世界 2 : 古代ギリシアの社会と人々	古代ギリシア社会における人々の生活について
第 4 回	古代地中海世界 3 : ギリシアと周辺世界の関係	ペルシア戦争やヘレニズムなど、古代ギリシア社会と周辺世界の関係について
第 5 回	古代地中海世界 4 : ローマの台頭	共和制から帝国へと至るローマの歩みについて
第 6 回	古代地中海世界 5 : 古代ローマの社会と人々	古代ローマ社会における人々の生活について
第 7 回	古代地中海世界 6 : ローマ帝国の分裂と西ローマ帝国の衰退とキリスト教の誕生	ローマ帝国の滅亡、キリスト教の誕生と発展について
第 8 回	中世ヨーロッパ 1 : 中世世界の形成	諸集団の移動と中世ヨーロッパの形成について
第 9 回	中世ヨーロッパ 2 : 国家と社会	中世ヨーロッパにおける諸国家の動向と社会の特徴について
第 10 回	中世ヨーロッパ 3 : 中世ヨーロッパの社会と人々	中世ヨーロッパ社会における人々の生活について
第 11 回	中世ヨーロッパ 4 : キリスト教世界の発展と十字軍	キリスト教の発展、十字軍運動の展開について

- 第 12 回 中世ヨーロッパ 5 : 黒死病や戦争などの影響、国家体制と社会の変容について
 第 13 回 中世から近世へ：ルネサンスの展開について
 第 14 回 まとめ：近代へ これまでの授業の内容を振り返り、近代西洋への展望を示す

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。以下に掲げる参考書などを自主的に読み、授業で扱う内容についての理解を深める。また、授業で用いる資料について宿題が課される場合もある。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。必要に応じてプリントを配布する。

【参考書】

『古典古代史』、伊藤貞夫、放送大学教育振興会、1995 年
 『大学で学ぶ西洋史 [古代・中世]』、服部良久/南川高志/山辺規子編著、ミネルヴァ書房、2006 年
 『論点・西洋史学』、金澤周作監修、藤井崇ほか編著、ミネルヴァ書房、2020 年
 その他適宜授業中に指示する。

【成績評価の方法と基準】

- ・平常点（授業参加度、課題への取り組み方など）：50 %
- * 出席管理は厳格に行う。
- ・期末試験：50 %

【学生の意見等からの気づき】

図像資料の提供を増やす。適宜休憩をはさむ。

【学生が準備すべき機器他】

第 1 回の授業はオンライン形式で行うので、そのために必要なデバイスおよび通信環境

【その他の重要事項】

2 回目以降の講義は対面の予定だが、新型コロナウイルスの流行状況により、一部オンライン形式に変更する場合がある。その際は、講義前日までにアナウンスする。

【Outline (in English)】

< Course outline > This course explores major themes of western history, particularly focusing on ancient and medieval periods. < Learning objectives > 1) Students are able to acquire basic knowledge about ancient and medieval history of the western world. 2) Students are able to understand history of the western world in view of its interaction with non-western worlds.

< Learning activities outside of classroom > Students have to spend at least two hours on preparation for and review of each class respectively. They are expected to read relevant books, such as those listed in the reference section, and learn by themselves. They also have to work on assignments given by the instructor.

< Grading policy > Class participation and assignments: 50%
 Final examination: 50%

HIS100LA

西洋史Ⅱ

2017年度以降入学者

渡辺 知

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 2/Thu.2

単位数：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

近世以降の西洋は、新たな知識、制度—その弊害も含めて—を生みだし、世界史の動向を大きく規定してきました。本授業では、近世から近代にかけての西洋の歩みを学び、それが現在に与える影響を考えます。

【到達目標】

- ・近世から近代までの西洋史にかなする基礎知識を習得する。
- ・西洋世界内部の動向とその外部世界との関係の双方に目配りしつつ、歴史を複眼的に理解する姿勢を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式で行います。授業中に質問をしたり、リアクションペーパーを積極的に活用したりして、受講生の主体的な参加を求めます。必要に応じて、リアクションペーパー等へのコメントを授業内で行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の概要と、西洋近代史を学ぶことの意義について説明します。
第2回	第1章 大航海時代以前のヨーロッパ1	第1章では15世紀ヨーロッパで大航海時代が始まる前提として11～15世紀にかけてのヨーロッパの経済、社会を概観します。1回目は11～13世紀にかけての経済社会状況を概観します。
第3回	第1章 大航海時代以前のヨーロッパ2	第1章では15世紀ヨーロッパで大航海時代が始まる前提として11～15世紀にかけてのヨーロッパの経済、社会を概観します。2回目は「14世紀の危機」を扱います。
第4回	第1章 大航海時代以前のヨーロッパ3	第1章では15世紀ヨーロッパで大航海時代が始まる前提として11～15世紀にかけてのヨーロッパの経済、社会を概観します。3回目は主権国家の形成とインターステイト・システムの成立について説明します。
第5回	第2章 ポルトガルとアフリカ、アジア1	第2章ではポルトガルのアフリカ、アジア進出の過程とその影響を考察します。1回目はポルトガルのアフリカ進出の過程、その特徴と影響を説明します。
第6回	第2章 ポルトガルとアフリカ、アジア2	第2章ではポルトガルのアフリカ、アジア進出の過程とその影響を考察します。2回目はポルトガルのアジア進出の過程と特徴について説明します。

第7回	第2章 ポルトガルとアフリカ、アジア3	第2章ではポルトガルのアフリカ、アジア進出の過程とその影響を考察します。3回目はポルトガルのアジア進出がポルトガルとアジアにとってどのような意味を持ったのか考察します。
第8回	第3章 スペインとアメリカ1	第3章ではスペインのアメリカ進出の過程とその影響を考察します。1回目はスペインのアメリカ進出の過程とその特徴を説明します。
第9回	第3章 スペインとアメリカ2	第3章ではスペインのアメリカ進出の過程とその影響を考察します。2回目はスペインのアメリカ進出がアメリカ世界に与えた影響を考察します。
第10回	第3章 スペインとアメリカ3	第3章ではスペインのアメリカ進出の過程とその影響を考察します。3回目はスペインのアメリカ進出がスペインにとってどのような意味を持ったのか考察します。
第11回	第4章 イギリス 第1帝国の形成1	第4章ではイギリスの帝国形成の過程とその影響を考察します。1回目はイギリスがオランダ、フランスと競争しつつ帝国を形成する過程を説明します。
第12回	第4章 イギリス 第1帝国の形成2	第4章ではイギリスの帝国形成の過程とその影響を考察します。2回目は帝国の形成がイギリスに与えた影響を論じます。
第13回	第4章 イギリス 第1帝国の形成3	第4章ではイギリスの帝国形成の過程とその影響を考察します。3回目は帝国の形成が西インド諸島とアフリカに与えた影響を論じます。
第14回	まとめ	これまでの授業の内容を振り返り、現代世界が直面する諸問題を歴史的に考えます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。授業で紹介する参考文献などを読み授業の理解を深めて下さい。

【テキスト（教科書）】

特に設けません。

【参考書】

授業中に適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

授業の区切りにリアクションペーパー等を書いて頂き、この提出をもって平常点とします。これら平常点と学期末の試験の総合評価とします（平常点20%、学期末の試験80%）

【学生の意見等からの気づき】

高校で世界史を履修していなかった人にもこれまで以上に配慮するようにします。

【Outline (in English)】

< Course outline >

This course explores major themes of western history, particularly focusing on modern periods.

< Learning objectives >

1) Students are able to acquire basic knowledge about modern and contemporary history of the western world. 2) Students are able to understand history of the western world in view of its interaction with non-western worlds.

< Learning activities outside of classroom >

Students have to spend at least two hours on preparation for and review of each class respectively. They are expected to read relevant books and learn by themselves.

< Grading policy >

Class participation and assignments: 20% Final examination: 80%

HIS100LA

日本史 I

2017 年度以降入学者

根崎 光男

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 3/Thu.3

単位数：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、日本の誕生から始めて中世社会の終焉までを、政治・外交・社会経済・文化などの様々な側面から考える。また、近年の日本史研究の新しい成果を取り入れながら、「歴史」を「覚える」のではなく「考える」能力を身につけていく。また、史料に基づいて「考える」ことができるように、授業中に適宜、重要史料を中心に読解し、史料から具体的歴史像を描き出せるようにする。

【到達目標】

中学校・高等学校で日本史を教える上で必要となる知識の習得と歴史的事実の調べ方、その全体像の論理的構成方法を学ぶ。教科書の記述がどのように成り立っているのか、その根拠になった学説にまで遡って根拠史料を踏まえて理解する。古代から中世の日本史像について、東アジア世界のなかの日本という国際環境ないし地理的視点を常に保ちながら、豊かで多様な価値観に支えられた歴史像（文化を含む）を構築する能力を養うことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

授業は、原則として対面による講義形式で行う。各回の授業は、主として配付プリントによりシラバス通りに進める。レポート提出後の授業において、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンスー東アジア世界の中の日本	授業の概要と進め方、東アジアという視点から日本の歴史を考えることの意味について学ぶ
第 2 回	倭国の誕生と東アジア世界	倭王権の成立と東アジア地域の国際情勢、激動の東アジアと古代国家形成について学ぶ
第 3 回	律令国家の誕生と国際環境	律令国家の成立・展開と 8 世紀の外交について学ぶ
第 4 回	古代家族と在地首長制	古代の婚姻と家族の姿、在地首長制について学ぶ
第 5 回	律令国家の展開と終焉	桓武・嵯峨天皇の時代と政治改革、律令制的地方支配の行き詰まりと地方支配の転換について学ぶ
第 6 回	東アジア世界の文化と国風文化	10 世紀以降の東アジア情勢と外交、貴族社会と国風文化について学ぶ
第 7 回	摂関政治と王朝国家	摂関政治の成立とその展開、王朝国家期の政治・社会について学ぶ
第 8 回	院政の展開と日宋貿易	院政の開始と展開、平氏の台頭と日宋貿易について学ぶ
第 9 回	武士の誕生と鎌倉幕府	武士の誕生、鎌倉幕府の成立とその支配について学ぶ
第 10 回	執権政治の展開と元寇	北条氏の権力掌握と執権政治、元寇が政治・社会に与えた影響と鎌倉幕府の衰退について学ぶ

第 11 回 建武新政と室町幕府の展開 鎌倉幕府の滅亡と建武の新政、南北朝の内乱から室町幕府の統治体制確立の過程について学ぶ

第 12 回 日明関係と室町文化の特質 15・16 世紀における東アジアとの活発な交流と室町文化の特徴について学ぶ

第 13 回 戦国の動乱と関東地方 戦国大名の登場とその支配、享徳の乱と関東の戦国時代について学ぶ

第 14 回 総括と試験 授業内容を総括し、試験をおこなう

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配布プリントやノートを確認し、復習を行うこと。授業で提示した史料についてもしっかりと復習し、史料に基づいて考える姿勢を養うこと。本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし。必要に応じてプリントを配付する。

【参考書】

佐々木潤之介他『概論日本歴史』（吉川弘文館）

【成績評価の方法と基準】

成績評価は、期末試験（80%）、レポート（20%）により行う。期末試験は授業内容の理解度に応じて、またレポートは課題に対する豊富な内容に応じて評価する。

【学生の意見等からの気づき】

難解な歴史用語などについては、わかりやすく丁寧な説明を心がける。

【学生が準備すべき機器他】

新型コロナの感染状況によっては、オンライン授業もありえるので、Zoom に接続できる環境を整えておくこと。

【Outline (in English)】

(Course outline)

Considers the history of Japan from ancient time to medieval time through various aspects of politics, economics, society and culture etc.

(Learning Objectives)

The goals of course are to acquisition of advanced knowledge of Japanese history, how to examine historical facts, and how to construct them logically.

(Learning activities outside of classroom)

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

(Grading Criteria / Policy)

Your overall grade in the class will be decided based on the following.

Term-end examination:80%,Report:20%

HIS100LA

日本史Ⅱ

2017年度以降入学者

根崎 光男

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 3/Thu.3

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、近世社会の成立から現代までを、政治・外交・社会経済・文化などの様々な側面から考える。また、近年の日本史研究の新しい成果を取り入れながら、「歴史」を「覚える」のではなく、「考える」能力を身につけていく。また、史料に基づいて「考える」ことができるように、授業中に適宜、重要史料を中心に読解し、史料から具体的歴史像を描き出せるようにする。

【到達目標】

中学校・高等学校で日本史を教える上で必要となる知識の習得と歴史的事実の調べ方、その全体像の論理的構成方法を学ぶ。教科書の記述がどのように成り立っているのか、その根拠になった学説にまで遡って根拠史料を踏まえて理解する。近世から近代の日本史像について、世界のなかの日本という国際環境ないし地理的視点を常に保ちながら、豊かで多様な価値観に支えられた歴史像（文化を含む）を構築する能力を養うことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

授業は、原則として対面による講義形式で行う。各回の授業は、主として配付プリントによりシラバス通りに進める。レポート提出後の授業において、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス—世界のなかの近世・近代日本	時代区分における近世・近代の位置づけの確認に際して、世界の中の日本という視点を意識しながら学ぶ
第2回	江戸幕府の成立と地域社会	江戸幕府はどのように成立したのか。天皇・将軍・大名・寺社・庶民などの動向を見ながら学ぶ
第3回	寛永期の政治と国際関係	寛永期の幕府政治の動向を見ながら、鎖国の意味とこの時代の国際関係について学ぶ
第4回	近世村落の運営と租税	近世村落の成立・展開を概観しながら、その運営や租税の仕組みなどについて学ぶ
第5回	元禄の幕府政治と地域社会	元禄期の幕府政治とその課題を概観しながら、儒教・仏教・神道とのかかわりについて学ぶ
第6回	近世の家族制度と家族関係	近世の家族制度にみられる親子関係・夫婦関係、老人と子供などの社会的位置づけについて学ぶ
第7回	享保改革と地域社会	享保改革が目指したものは何か。改革政治の内容や地域社会の動向などについて学ぶ
第8回	近世社会の変容と幕府政治	近世社会はどのように変容していったのか。その変容の歩みと政治・社会の動向などについて学ぶ

第9回	開国と江戸幕府の終焉	開国はわが国にどのような影響を与え、また幕府はどのように崩壊していったのかについて学ぶ
第10回	明治維新と近代国家の形成	日本史上、明治維新をどのように捉えることができるのか。近代国家の形成について事実即して学ぶ
第11回	近代産業の発展と国際市場	産業の近代化はどのように進められたのか。近代産業の発展を、殖産興業や内外の博覧会とのかかわりについて学ぶ
第12回	自由民権運動と政党政治	自由民権運動と政党政治との関係を、社会の動向を視野に入れながら学ぶ
第13回	世界大戦と戦後政治	日本はなぜ2つの世界大戦に参戦したのか。そして戦後の民主化政策と日本国憲法の役割について学ぶ
第14回	総括と試験	授業を総括し、試験をおこなう

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配布プリントやノートを確認し、復習を行うこと。授業で提示した史料についてもしっかりと復習し、史料に基づいて考える姿勢を養うこと。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし。必要に応じてプリントを配付する。

【参考書】

佐々木潤之助他『概論日本歴史』（吉川弘文館）

【成績評価の方法と基準】

成績評価は、期末試験（80%）、レポート（20%）により行う。期末試験は授業内容の理解度に応じて、またレポートは課題に対する豊富な内容に応じて評価する。

【学生の意見等からの気づき】

難解な歴史用語などについては、わかりやすく丁寧な説明を心がける。

【学生が準備すべき機器他】

新型コロナウイルスの感染状況によっては、オンライン授業もありえるので、Zoomに接続できる環境を整えること。

【Outline (in English)】

(Course outline)

Considers the history of Japan from early modern to modern times, through various aspects of politics, economics, society and culture etc.

(Learning Objectives)

The goals of course are to acquisition of advanced knowledge of Japanese history, how to examine historical facts, and how to construct them logically.

(Learning activities outside of classroom)

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

(Grading Criteria/Policy)

Your overall grade in the class will be decided based on the following.

Term-end examination:80%,Report:20%

HIS100LA

日本史 I

2017 年度以降入学者

小口 雅史

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 4/Fri.4

単位数：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

歴史学は「現在と過去との対話」だと言われています。現代社会を理解し、その未来を展望するためには、過去の歩みの正しい理解が必要となります。とくに日本古代の歴史は、日本国家の原点であり、中国を中心とする東アジア世界の政治・外交秩序と密接な関係を保ちながら展開されました。まさに現代世界の基盤になったものです。

この講義では、こうした特徴ある日本古代史をベースに、1 回毎に時代を代表するメルクマールを設定しますので、みなさんは、歴史の見方、歴史の流れを総体的・論理的にとらえ、現代との対話ができるようになる方法を取得することを目標に頑張ってください。

【到達目標】

暗記主体の高校までの日本史とは異なって、大学の日本史は、「歴史を考える」ことを目指します。そのことは、例えば中学校・高等学校で日本史を教える立場にたつたときにも重要です。「歴史を考える」時に、必要となる知識の習得と歴史的事実の調べ方、その全体像の論理的構成方法を学ぶこととなります。高校で学んだ教科書の記述がどのように成り立っているのか、その根拠になった学説にまで遡って根拠史料を踏まえて解説していきます。もはや、高校生のようにひたすら暗記することは必要ありません。なぜその時点で、そこで、その事象が発生したのかを論理的に考える力をつけましょう。

最終的には、古代の日本史像について、東アジア世界のなかの日本という国際環境ないし地理的視点を常に保ちながら、豊かで多様な価値観に支えられた新しい歴史像を構築する能力を養うことを目標とします。このことは現代社会を正しく理解し、さらには将来の社会生活において必ず役に立つはずで

高校までの「勉強としての日本史」とはまったく異なる、大学での「学問としての日本史」「科学としての日本史」の魅力を十分味わってください

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

基本的に講義形式で進めます。適宜スライドやビデオを用いて視覚的な理解をはかることも考えています。

謎多き日本古代国家の成立過程からはじめて、その展開・崩壊と、そこから生まれてくる中世国家の形成過程、展開・崩壊を、論理的に考えながら「時代」像を構築してみます。具体的に当時の生の史料を解読しながら皆さんと一っしょに考えていきます。

高校までの日本史では原則として正解は一つでしたが、大学での日本史は正解は一つではありません。答えは私の講義を聴いた上で、皆さん各自で考えてみましょう。

皆さんから出された質問その他へのフィードバックは、まとめて最終授業で、講評や解説として実施します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	序論・日本史の時代区分	科学ないし学問としての歴史学とは何かを考えます。そのための大前提が時代区分論です。ここで古代とは何かを定義します。

第 2 回	ヤマト王権－日本国家の初源	律令国家の前史として、ヤマト王権の最終的な国家の姿を検討してみます。
第 3 回	大化改新－古代史上最大の政治改革	対外的緊張の高まりのなかで、ヤマト政権の限界を打破して新国家体制を作るべく、古代史上最大のクーデターが実行されます。その政治改革の実像を検討してみます。
第 4 回	律令法の成立と展開	新国家体制の柱となった律令とは何かについて考えてみます。
第 5 回	律令国家の財政制度	古代国家の財政の特徴を、中央財政と地方財政とにわけて考えてみます。
第 6 回	在地首長と地方政治	通信手段が貧弱だった時代にわずか 60 余名の国司で日本を統治できたのはなぜか。現地に根ざした在地首長たちの姿を追ってみます。
第 7 回	古代家族論	世界史の奇跡と言われた「正倉院文書」中にはたくさんの戸籍があります。古代家族の真実の姿を考えてみます。
第 8 回	律令国家の転換	東大寺に代表される天平文化華やかになりし時代は、じつは律令国家の大きな転換点でもありました。その実態を検討します。
第 9 回	公営田制－人から土地へ	戸籍によって人を支配する古代国家は、次第にその維持が難しくなります。変わって登場したのが土地を支配する体制でした。その実態を探ります。
第 10 回	王朝国家論	人から土地への変化は、中央政府の在り方は変えませんでした。地方政治は大きく変化しました。それを重視する「王朝国家論」について検討してみます。
第 11 回	摂関政治とは	地方の変化にもかかわらず中央で権勢を奮った貴族政治の実態とその力の源泉を探ってみます。
第 12 回	荘園制の展開	高校の日本史の先生方が一番嫌っている「荘園とは何か」をテーマに、じっくりと考えてみます。
第 13 回	院政の特徴-摂関政治との比較	摂関政治はやがて院政へと変化しました。なぜそうした変化が生まれ、両者の違いは何かについて考えてみます。
第 14 回	武家政権前夜	平氏政権から鎌倉幕府への道筋はどうやって引かれたのか。歴史的背景を探ってみます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習は事前のテキスト内容の理解を期待します。人によって異なりますが、2 時間が標準とされています。また事前にプリントなど補足教材を授業支援システムを通じて配布することもあります。その場合は、それを活用しながらテキストを読んでおくと、講義内容がいつそう分かりやすくなると思います。

実際に「歴史を考える」作業は授業のなかだけで完結するように講義を工夫して行います。復習しておくことと次回の講義の理解に役立ちます。これも人によって異なりますが 2 時間程度が標準とされています。

【テキスト（教科書）】

日本史概論編集委員会編『日本史概論』(上) (同成社)

【参考書】

特に指定しません。必要に応じて補助プリントを授業支援システムを通じて配布します。

【成績評価の方法と基準】

基本的に期末試験（論述問題）によって行います（95%相当）。

この講義の目標である、現代と対話しながら「歴史を考える」という思考方法が身についたかどうかを、具体的に論述してもらって判断します。

なお受講生数によっては、講義中に質疑応答を設けることがありそれを反映することも予定しています（5%相当）。

【学生の意見等からの気づき】

高校日本史を履修していない人はやや難解なようです。ただ高校日本史を繰り返すつもりは全くありませんので。高校で日本史を履修しなかった人はあらかじめ日本古代史の概説書を読んでから受講することを強く勧めます。

【学生が準備すべき機器他】

とくになし

【その他の重要事項】

とくになし

【担当教員の専門分野等】

〈専門領域〉

日本古代史・法制史・北方史・国際日本学

〈研究テーマ〉

日本古代社会経済史・日中比較律令法史・古代中世北方史

〈主要研究業績〉

2010年、『古代末期・日本の境界－城久遺跡群と石江遺跡群』

2008年、『エミシ・エゾ・アイヌ』（編著）、岩田書院

2008年、「近時の在欧吐魯番出土漢文文書の整理・公開等をめぐって」『古文書研究』66

2007年、「『在ベルリン吐魯番出土漢文世俗文書総合目録』のその後－FileMakerによるDatabaseのWeb公開の一例として」『漢字文献情報処理研究』8

【Outline (in English)】

Course outline : In this lesson, we will examine from the birth of Japan to the modern society from various aspects such as politics, diplomacy, social economy, culture.

Learning Objectives : we will introduce specific methods to acquire the ability to "think" rather than "remember" the "history". In some cases, I also ask students opinions on interpretation of historical materials.

Learning activities outside of classroom : Before each class meeting, students will be expected to spend 30 minutes to understand the course content. After each class meeting, students will be expected to spend 20 minutes to understand the course content.

Grading Criteria /Policies : Final grade will be calculated according to the following process term-end examination (95%), and in-class contribution (5%).

HIS100LA

日本史Ⅱ

2017年度以降入学者

小口 雅史

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 4/Fri.4

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

歴史学は「現在と過去との対話」だと言われています。現代社会を理解し、その未来を展望するためには、過去の歩みの正しい理解が必要となります。また東アジア世界の理解にあたって一つの共通の重要な視点となるのが土地制度の問題です。土地の問題は東アジアではヨーロッパとは異なる重要な意味を持っています。本講義では、その舞台を日本に定め、古代における土地制度がどのようなものであり、どのように運用されていたのかを考えます。それは現代日本の土地問題の原点であり、中国を中心とする東アジア世界の政治・外交秩序と密接な関係を保ちながら展開されました。まさに現代世界の基盤になったものです。

この講義では、こうした特徴ある古代の土地制度史をベースに、1回毎に時代を代表するメルクマールを設定しますので、みなさんは、歴史の見方、歴史の流れを総体的・論理的にとらえ、現代との対話ができるようになる方法を取得することを目標に頑張ってください。

【到達目標】

暗記主体の高校までの日本史とは異なって、大学の日本史は、「歴史を考える」ことを目指します。そのことは、例えば中学校・高等学校で日本史を教える立場にたつたときにも重要です。「歴史を考える」時に、必要となる知識の習得と歴史的事実の調べ方、その全体像の論理的構成方法を学ぶこととなります。高校で学んだ教科書の記述がどのように成り立っているのか、その根拠になった学説にまで遡って根拠史料を踏まえて解説していきます。もはや、高校生のようにひたすら暗記することは必要ありません。なぜその時点で、そこで、その事象が発生したのかを論理的に考える力をつけましょう。

最終的には、日本土地経営の運用の実態について、東アジア世界のなかの日本という国際環境ないし地理的視点を常に保ちながら、豊かで多様な価値観に支えられた新しい歴史像を構築する能力を養うことを目標とします。このことは現代社会を正しく理解し、さらには将来の社会生活において必ず役に立つはずで

高校までの「勉強としての日本史」とはまったく異なる、大学での「学問としての日本史」「科学としての日本史」の魅力を十分味わってください。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

基本的に講義形式で進めます。適宜スライドやビデオを用いて視覚的な理解をはかることも考えています。

古代の土地経営の実態について、法制度の問題からはじめて政治との関係を解明し、さらには土地所有者と耕作農民という、近代社会における地主制の展開との比較を念頭に置きながら、具体的なあり方とその変質過程を解明していきます。ポイントとなるのは、具体的に当時書かれた生の史料を解説しながら皆さんといっしょに考えていくところにあります。前近代の農民たちがどのような行動をとっていたのか手が取るように分かる貴重な史料がたくさんあります。当時の農民は高校で教わるような、虫けらのような存在ではなく、自分の意思を持って自分の利益を目指していたことが分かるはずで

す。近現代の農民たちと類似する点も多いのです。また古文書の読解にあたってはパソコンによる最新の漢字処理を援用します。

高校までの日本史では原則として正解は一つでしたが、大学での日本史は正解は一つではありません。答えは私の講義を聴いた上で、皆さん各自で考えてみましょう。

皆さんから出された質問その他へのフィードバックは、まとめて最終授業で、講評や解説として実施します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	序論	この講義の進め方についてお話しします。
第2回	コンピュータと漢字	限られた文字コードの中でどうやって古文書特有の漢字を利用するか考えてみます。
第3回	日本古代の土地制度(1)	この講義を理解する前提として、律令土地制度について考えてみます。
第4回	日本古代の土地制度(2)	律令土地制度からどのように墾田が生まれたのかを考えてみます。
第5回	地方支配と収取方法の具体例	アメリバのような古代家族と、それを利用した在地首長制、律令租税制度について考えます。
第6回	造東大寺司と政治史の関係	東大寺が作られた時代の政治情勢について検討します。
第7回	政治史上の初期荘園	権力者藤原仲麻呂と東大寺の確執について考えてみます。
第8回	桑原荘の経営	越前国坂井郡の東大寺領荘園から、詳細な経営史料を残した桑原荘を選んで、経営実態を考えます。
第9回	鯖田国富荘の経営	桑原荘とは対照的に、経営史料をほとんど残さなかった鯖田国富荘について検討してみます。
第10回	道守荘の経営	経営第2段階の様相を、東大寺領最大級の道守荘を舞台に検討してみます。
第11回	東大寺の復権と初期荘園	経営第3段階の様相を、越前を舞台に広く検討してみます。
第12回	正倉院文書数万点の世界	正倉院には、東大寺関係の膨大な史料が残されました。世界史の奇蹟だとも言われています。その実態を垣間見えます。
第13回	ある下級官人の私田経営	東大寺に寄生していたある下級官人が居ました。その経営を調べることによって、天平時代の経済活動を検討してみます。
第14回	荘園経営の二類型	地域が変われば経営も変わる！古代における二類系の存在を考えてみます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習は事前のテキスト内容の理解を期待します。人によって異なりますが、2時間が標準とされています。また事前にプリントなど補足教材を授業支援システムを通じて配布することもあります。その場合は、それを活用しながらテキストを読んでおくと、講義内容がいつそう分かりやすくなると思います。

実際に「歴史を考える」作業は授業のなかだけで完結するように講義を工夫して行います。復習しておくことと次回の講義の理解に役立ちます。これも人によって異なりますが2時間程度が標準とされています。

【テキスト（教科書）】

デジタル古文書集日本古代土地経営関係史料集成 東大寺領・北陸編（大学テキスト版）（同成社）。論文集をとまなう市販本でも可ですが高価です

【参考書】

『土地所有史』（山川出版社）

【成績評価の方法と基準】

基本的に期末試験（論述問題）によって行います（95%相当）。

この講義の目標である、現代と対話しながら「歴史を考える」という思考方法が身についたかどうかを、具体的に論述してもらって判断します。

なお受講生数によっては、講義中に質疑応答を設けることがありそれを反映することも予定しています（5%相当）。

【学生の意見等からの気づき】

高校日本史を履修していない人には、やや難解だったようです。ただ高校日本史を繰り返すつもりは全くありませんので、高校で日本史を履修しなかった人はあらかじめ日本古代史の概説書を読んでから受講することを強く勧めます。

【学生が準備すべき機器他】

とくになし

【その他の重要事項】

とくになし

【担当教員の専門分野等】

〈専門領域〉

日本古代史・法制史・北方史・国際日本学

〈研究テーマ〉

日本古代社会経済史・日中比較律令法史・古代中世北方史

〈主要研究業績〉

2010 年、『古代末期・日本の境界－城久遺跡群と石江遺跡群』

2008 年、『エミシ・エゾ・アイヌ』（編著）、岩田書院

2008 年、「近時の在欧吐魯番出土漢文文書の整理・公開等をめぐって」『古文書研究』66

2007 年、「『在ベルリン吐魯番出土漢文世俗文書総合目録』のその後－FileMaker による Database の Web 公開の一例として」『漢字文献情報処理研究』8

【Outline (in English)】

Course outline : In this lesson, we will examine from the birth of Japan to the modern society from various aspects such as politics, diplomacy, social economy, culture.

Learning Objectives : we will introduce specific methods to acquire the ability to "think" rather than "remember" the "history". In some cases, I also ask students opinions on interpretation of historical materials.

Learning activities outside of classroom : Before each class meeting, students will be expected to spend 30 minutes to understand the course content. After each class meeting, students will be expected to spend 20 minutes to understand the course content.

Grading Criteria /Policies : Final grade will be calculated according to the following process term-end examination (95%), and in-class contribution (5%).

HIS100LA

日本史 I

2017 年度以降入学者

小口 雅史

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 4/Thu.4

単位数：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

歴史学は「現在と過去との対話」だと言われています。現代社会を理解し、その未来を展望するためには、過去の歩みの正しい理解が必要となります。とくに日本古代の歴史は、日本国家の原点であり、中国を中心とする東アジア世界の政治・外交秩序と密接な関係を保ちながら展開されました。まさに現代世界の基盤になったものです。

この講義では、こうした特徴ある日本古代史をベースに、1 回毎に時代を代表するメルクマールを設定しますので、みなさんは、歴史の見方、歴史の流れを総体的・論理的にとらえ、現代との対話ができるようになる方法を取得することを目標に頑張ってください。

【到達目標】

暗記主体の高校までの日本史とは異なって、大学の日本史は、「歴史を考える」ことを目指します。そのことは、例えば中学校・高等学校で日本史を教える立場にたつたときにも重要です。「歴史を考える」時に、必要となる知識の習得と歴史的事実の調べ方、その全体像の論理的構成方法を学ぶことになります。高校で学んだ教科書の記述がどのように成り立っているのか、その根拠になった学説にまで遡って根拠史料を踏まえて解説していきます。もはや、高校生のようにひたすら暗記することは必要ありません。なぜその時点で、そこで、その事象が発生したのかを論理的に考える力をつけましょう。

最終的には、古代の日本史像について、東アジア世界のなかの日本という国際環境ないし地理的視点を常に保ちながら、豊かで多様な価値観に支えられた新しい歴史像を構築する能力を養うことを目標とします。このことは現代社会を正しく理解し、さらには将来の社会生活において必ず役に立つはずで

高校までの「勉強としての日本史」とはまったく異なる、大学での「学問としての日本史」「科学としての日本史」の魅力を十分味わってください

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

基本的に講義形式で進めます。適宜スライドやビデオを用いて視覚的な理解をはかることも考えています。

謎多き日本古代国家の成立過程からはじめて、その展開・崩壊と、そこから生まれてくる中世国家の形成過程、展開・崩壊を、論理的に考えながら「時代」像を構築してみます。具体的に当時の生の史料を解読しながら皆さんと一っしょに考えていきます。

高校までの日本史では原則として正解は一つでしたが、大学での日本史は正解は一つではありません。答えは私の講義を聴いた上で、皆さん各自で考えてみましょう。

皆さんから出された質問その他へのフィードバックは、まとめて最終授業で、講評や解説として実施します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	序論・日本史の時代区分	科学ないし学問としての歴史学とは何かを考えます。そのための大前提が時代区分論です。ここで古代とは何かを定義します。

第 2 回	ヤマト王権－日本国家の初源	律令国家の前史として、ヤマト王権の最終的な国家の姿を検討してみます。
第 3 回	大化改新－古代史上最大の政治改革	対外的緊張の高まりのなかで、ヤマト政権の限界を打破して新国家体制を作るべく、古代史上最大のクーデターが実行されます。その政治改革の実像を検討してみます。
第 4 回	律令法の成立と展開	新国家体制の柱となった律令とは何かについて考えてみます。
第 5 回	律令国家の財政制度	古代国家の財政の特徴を、中央財政と地方財政とにわけて考えてみます。
第 6 回	在地首長と地方政治	通信手段が貧弱だった時代にわずか 60 余名の国司で日本を統治できたのはなぜか。現地に根ざした在地首長たちの姿を追ってみます。
第 7 回	古代家族論	世界史の奇跡と言われた「正倉院文書」中にはたくさんの戸籍があります。古代家族の真実の姿を考えてみます。
第 8 回	律令国家の転換	東大寺に代表される天平文化華やかになりし時代は、じつは律令国家の大きな転換点でもありました。その実態を検討します。
第 9 回	公営田制－人から土地へ	戸籍によって人を支配する古代国家は、次第にその維持が難しくなります。変わって登場したのが土地を支配する体制でした。その実態を探ります。
第 10 回	王朝国家論	人から土地への変化は、中央政府の在り方は変えませんでした。地方政治は大きく変化しました。それを重視する「王朝国家論」について検討してみます。
第 11 回	摂関政治とは	地方の変化にもかかわらず中央で権勢を奮った貴族政治の実態とその力の源泉を探ってみます。
第 12 回	荘園制の展開	高校の日本史の先生方が一番嫌っている「荘園とは何か」をテーマに、じっくりと考えてみます。
第 13 回	院政の特徴-摂関政治との比較	摂関政治はやがて院政へと変化しました。なぜそうした変化が生まれ、両者の違いは何かについて考えてみます。
第 14 回	武家政権前夜	平氏政権から鎌倉幕府への道筋はどうやって引かれたのか。歴史的背景を探ってみます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習は事前のテキスト内容の理解を期待します。人によって異なりますが、2 時間が標準とされています。また事前にプリントなど補足教材を授業支援システムを通じて配布することもあります。その場合は、それを活用しながらテキストを読んでおくと、講義内容がいつそう分かりやすくなると思います。

実際に「歴史を考える」作業は授業のなかだけで完結するように講義を工夫して行います。復習しておくことと次回の講義の理解に役立ちます。これも人によって異なりますが 2 時間程度が標準とされています。

【テキスト（教科書）】

日本史概論編集委員会編『日本史概論』(上) (同成社)

【参考書】

特に指定しません。必要に応じて補助プリントを授業支援システムを通じて配布します。

【成績評価の方法と基準】

基本的に期末試験（論述問題）によって行います（95%相当）。

この講義の目標である、現代と対話しながら「歴史を考える」という思考方法が身についたかどうかを、具体的に論述してもらって判断します。

なお受講生数によっては、講義中に質疑応答を設けることがありそれを反映することも予定しています（5%相当）。

【学生の意見等からの気づき】

高校日本史を履修していない人はやや難解なようです。ただ高校日本史を繰り返すつもりは全くありませんので。高校で日本史を履修しなかった人はあらかじめ日本古代史の概説書を読んでから受講することを強く勧めます。

【学生が準備すべき機器他】

とくになし

【その他の重要事項】

とくになし

【担当教員の専門分野等】

〈専門領域〉

日本古代史・法制史・北方史・国際日本学

〈研究テーマ〉

日本古代社会経済史・日中比較律令法史・古代中世北方史

〈主要研究業績〉

2010年、『古代末期・日本の境界－城久遺跡群と石江遺跡群』

2008年、『エミシ・エゾ・アイヌ』（編著）、岩田書院

2008年、「近時の在欧吐魯番出土漢文文書の整理・公開等をめぐって」『古文書研究』66

2007年、「『在ベルリン吐魯番出土漢文世俗文書総合目録』のその後－FileMakerによるDatabaseのWeb公開の一例として」『漢字文献情報処理研究』8

【Outline (in English)】

Course outline : In this lesson, we will examine from the birth of Japan to the modern society from various aspects such as politics, diplomacy, social economy, culture.

Learning Objectives : we will introduce specific methods to acquire the ability to "think" rather than "remember" the "history". In some cases, I also ask students opinions on interpretation of historical materials.

Learning activities outside of classroom : Before each class meeting, students will be expected to spend 30 minutes to understand the course content. After each class meeting, students will be expected to spend 20 minutes to understand the course content.

Grading Criteria /Policies : Final grade will be calculated according to the following process term-end examination (95%), and in-class contribution (5%).

HIS100LA

日本史Ⅱ

2017年度以降入学者

小口 雅史

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 4/Thu.4

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

歴史学は「現在と過去との対話」だと言われています。現代社会を理解し、その未来を展望するためには、過去の歩みの正しい理解が必要となります。また東アジア世界の理解にあたって一つの共通の重要な視点となるのが土地制度の問題です。土地の問題は東アジアではヨーロッパとは異なる重要な意味を持っています。本講義では、その舞台を日本に定め、古代における土地制度がどのようなものであり、どのように運用されていたのかを考えます。それは現代日本の土地問題の原点であり、中国を中心とする東アジア世界の政治・外交秩序と密接な関係を保ちながら展開されました。まさに現代世界の基盤になったものです。

この講義では、こうした特徴ある古代の土地制度史をベースに、1回毎に時代を代表するメルクマールを設定しますので、みなさんは、歴史の見方、歴史の流れを総体的・論理的にとらえ、現代との対話ができるようになる方法を取得することを目標に頑張ってください。

【到達目標】

暗記主体の高校までの日本史とは異なって、大学の日本史は、「歴史を考える」ことを目指します。そのことは、例えば中学校・高等学校で日本史を教える立場にたつたときにも重要です。「歴史を考える」時に、必要となる知識の習得と歴史的事実の調べ方、その全体像の論理的構成方法を学ぶこととなります。高校で学んだ教科書の記述がどのように成り立っているのか、その根拠になった学説にまで遡って根拠史料を踏まえて解説していきます。もはや、高校生のようにひたすら暗記することは必要ありません。なぜその時点で、そこで、その事象が発生したのかを論理的に考える力をつけましょう。

最終的には、日本土地経営の運用の実態について、東アジア世界のなかの日本という国際環境ないし地理的視点を常に保ちながら、豊かで多様な価値観に支えられた新しい歴史像を構築する能力を養うことを目標とします。このことは現代社会を正しく理解し、さらには将来の社会生活において必ず役に立つはずで

高校までの「勉強としての日本史」とはまったく異なる、大学での「学問としての日本史」「科学としての日本史」の魅力を十分味わってください。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

基本的に講義形式で進めます。適宜スライドやビデオを用いて視覚的な理解をはかることも考えています。

古代の土地経営の実態について、法制度の問題からはじめて政治との関係を解明し、さらには土地所有者と耕作農民という、近代社会における地主制の展開との比較を念頭に置きながら、具体的なあり方とその変質過程を解明していきます。ポイントとなるのは、具体的に当時書かれた生の史料を解説しながら皆さんといっしょに考えていくところにあります。前近代の農民たちがどのような行動をとっていたのが手に取るように分かる貴重な史料がたくさんあります。当時の農民は高校で教わるような、虫けらのような存在ではなく、自分の意思を持って自分の利益を目指していたことが分かるはずで

す。近現代の農民たちと類似する点も多いのです。また古文書の読解にあたってはパソコンによる最新の漢字処理を援用します。

高校までの日本史では原則として正解は一つでしたが、大学での日本史は正解は一つではありません。答えは私の講義を聴いた上で、皆さん各自で考えてみましょう。

皆さんから出された質問その他へのフィードバックは、まとめて最終授業で、講評や解説として実施します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	序論	この講義の進め方についてお話しします。
第2回	コンピュータと漢字	限られた文字コードの中でどうやって古文書特有の漢字を利用するか考えてみます。
第3回	日本古代の土地制度(1)	この講義を理解する前提として、律令土地制度について考えてみます。
第4回	日本古代の土地制度(2)	律令土地制度からどのように墾田が生まれたのかを考えてみます。
第5回	地方支配と収取方法の具体例	アメーバのような古代家族と、それを利用した在地首長制、律令租税制度について考えます。
第6回	造東大寺司と政治史の関係	東大寺が作られた時代の政治情勢について検討します。
第7回	政治史上の初期荘園	権力者藤原仲麻呂と東大寺の確執について考えてみます。
第8回	桑原荘の経営	越前国坂井郡の東大寺領荘園から、詳細な経営史料を残した桑原荘を選んで、経営実態を考えます。
第9回	鯖田国富荘の経営	桑原荘とは対照的に、経営史料をほとんど残さなかった鯖田国富荘について検討してみます。
第10回	道守荘の経営	経営第2段階の様相を、東大寺領最大級の道守荘を舞台に検討してみます。
第11回	東大寺の復権と初期荘園	経営第3段階の様相を、越前を舞台に広く検討してみます。
第12回	正倉院文書数万点の世界	正倉院には、東大寺関係の膨大な史料が残されました。世界史の奇蹟だとも言われています。その実態を垣間見えます。
第13回	ある下級官人の私田経営	東大寺に寄生していたある下級官人が居ました。その経営を調べることによって、天平時代の経済活動を検討してみます。
第14回	荘園経営の二類型	地域が変われば経営も変わる！古代における二類系の存在を考えてみます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習は事前のテキスト内容の理解を期待します。人によって異なりますが、2時間が標準とされています。また事前にプリントなど補足教材を授業支援システムを通じて配布することもあります。その場合は、それを活用しながらテキストを読んでおくと、講義内容がいつそう分かりやすくなると思います。

実際に「歴史を考える」作業は授業のなかだけで完結するように講義を工夫して行います。復習しておくことと次回の講義の理解に役立ちます。これも人によって異なりますが2時間程度が標準とされています。

【テキスト（教科書）】

デジタル古文書集日本古代土地経営関係史料集成 東大寺領・北陸編（大学テキスト版）（同成社）。論文集をとまなう市販本でも可ですが高価です

【参考書】

『土地所有史』（山川出版社）

【成績評価の方法と基準】

基本的に期末試験（論述問題）によって行います（95%相当）。

この講義の目標である、現代と対話しながら「歴史を考える」という思考方法が身についたかどうかを、具体的に論述してもらって判断します。

なお受講生数によっては、講義中に質疑応答を設けることがありそれを反映することも予定しています（5%相当）。

【学生の意見等からの気づき】

高校日本史を履修していない人には、やや難解だったようです。ただ高校日本史を繰り返すつもりは全くありませんので、高校で日本史を履修しなかった人はあらかじめ日本古代史の概説書を読んでから受講することを強く勧めます。

【学生が準備すべき機器他】

とくになし

【その他の重要事項】

とくになし

【担当教員の専門分野等】

〈専門領域〉

日本古代史・法制史・北方史・国際日本学

〈研究テーマ〉

日本古代社会経済史・日中比較律令法史・古代中世北方史

〈主要研究業績〉

2010 年、『古代末期・日本の境界－城久遺跡群と石江遺跡群』

2008 年、『エミシ・エゾ・アイヌ』（編著）、岩田書院

2008 年、「近時の在欧吐魯番出土漢文文書の整理・公開等をめぐって」『古文書研究』66

2007 年、「『在ベルリン吐魯番出土漢文世俗文書総合目録』のその後－FileMaker による Database の Web 公開の一例として」『漢字文献情報処理研究』8

【Outline (in English)】

Course outline : In this lesson, we will examine from the birth of Japan to the modern society from various aspects such as politics, diplomacy, social economy, culture.

Learning Objectives : we will introduce specific methods to acquire the ability to "think" rather than "remember" the "history". In some cases, I also ask students opinions on interpretation of historical materials.

Learning activities outside of classroom : Before each class meeting, students will be expected to spend 30 minutes to understand the course content. After each class meeting, students will be expected to spend 20 minutes to understand the course content.

Grading Criteria /Policies : Final grade will be calculated according to the following process term-end examination (95%), and in-class contribution (5%).

HIS100LA

日本史 I

2017 年度以降入学者

真辺 美佐

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 5/Mon.5

単位数：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、日本の誕生から始めて中世社会の終焉までを、政治・外交・社会経済・文化などの様々な側面から検討します。授業は講義を中心とし、近年の日本史研究の新しい成果を取り入れながら、「歴史」を「覚える」のではなく「考える」能力を身につける具体的手法を紹介していきます。史料に基づいて「考える」ことができるように、授業中に適宜、重要史料を中心に提示して、史料から具体的な歴史像を描き出せるように工夫します。場合によっては、受講者に史料解釈について意見を求めることも考えています。

【到達目標】

中学校・高等学校で日本史を教える上で必要となる知識の習得と歴史的事実の調べ方、その全体像の論理的構成方法を学びます。教科書の記述がどのように成り立っているのか、その根拠になった学説にまで遡って根拠史料を踏まえて解説します。古代から中世の日本史像について、東アジア世界のなかの日本という国際環境ないし地理的視点を常に保ちながら、豊かで多様な価値観に支えられた歴史像（文化を含む）を構築する能力を養うことを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

授業は、基本的に講義形式で進めますが、講義内容の理解度を確認するために、適宜、リアクションペーパーの提出を求めます。次回の授業までに匿名で全員分のコメントを取り纏め、質問については回答し、そのほかのコメントについては、受講生全員の共有財産とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	東アジア世界の中の日本の歴史を学ぶとはどういうことなのか、春学期の授業のアウトラインを説明する。
2	倭国の誕生と東アジア世界	律令国家前史としてのヤマト王権とその対外関係を考察する。
3	律令国家の誕生と国際環境	大化の改新を中心にヤマト王権から律令国家への転換を国際環境のなかで位置づける。
4	古代家族と在地首長制	律令国家における古代家族と在地首長制の実態について考察する。
5	律令国家の展開と終焉	皇位継承問題と藤原氏の台頭を中心に律令国家の展開とその終焉を考察する。
6	東アジア世界の文化と国風文化	中国の影響下で形成された日本文化の展開とその特徴を考察する。
7	摂関政治と王朝国家	摂関期の国家の歴史的特徴を検討する。
8	院政の展開と日宋貿易	古代から中世への変容と院政期の特徴を考察し、併せて日宋貿易の役割についても考える。

9	武士の誕生と鎌倉幕府	武士の誕生について、北方世界の動向を踏まえながら検討する。
10	執権政治の展開と元寇	執権政治を概括した上で、元寇がそれに与えた影響を考える。
11	建武新政と室町幕府の展開	鎌倉幕府と室町幕府を比較し、室町幕府が成立した背景を考える。
12	日明関係と室町文化の特質	日明関係の影響を受けた室町文化の特徴を考察する。
13	戦国の動乱と関東地方	室町幕府の崩壊過程と幕府の勢力地盤である関東地方の変化を考察する。
14	試験と解説	古代とは何か、中世とは何かを総合的に考え、その成果を各自答案に記述してもらう。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

毎回、プリントを配付します。

【参考書】

随時、授業で紹介いたします。

【成績評価の方法と基準】

期末試験の成績による評価（70 %）。授業への積極的な貢献度（課題提出含む）（30 %）。

【学生の意見等からの気づき】

難解な用語や複雑な論点については、分かりやすく丁寧な説明を心がけます。

【学生が準備すべき機器他】

資料配付・課題提出等は、学習支援システムを利用します。

【Outline (in English)】

This course introduces Japanese history during the Ancient and Medieval Ages, from a variety of political, economic, social and cultural perspectives. This lecture is given by using important historical materials to show specific historical facts and based on the latest findings of the research. The aim of this course is to help students acquire the necessary skills and knowledge needed to educate in the future. At the end of the course, participants are expected to cultivate the ability to think.

HIS100LA

日本史Ⅱ

2017年度以降入学者

真辺 美佐

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 5/Mon.5

単位数：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、近世社会の成立から現代までを、政治・外交・社会経済・文化などの様々な側面から検討します。授業は講義を中心とし、近年の日本史研究の新しい成果を取り入れながら、「歴史」を「覚える」のではなく、「考える」能力を身につける具体的手法を紹介します。史料に基づいて「考える」ことができるように、授業中に適宜、重要史料を中心に提示して、史料から具体的歴史像を描き出せるように工夫します。場合によっては、受講者に史料解釈について意見を求めることも考えています。

【到達目標】

中学校・高等学校で日本史を教える上で必要となる知識の習得と歴史的事実の調べ方、その全体像の論理的構成方法を学ぶ。教科書の記述がどのように成り立っているのか、その根拠になった学説にまで遡って根拠史料を踏まえて解説する。近世から近代の日本史像について、世界のなかの日本という国際環境ないし地理的視点を常に保ちながら、豊かで多様な価値観に支えられた歴史像（文化を含む）を構築する能力を養うことを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

授業は、基本的に講義形式で進めますが、講義内容の理解度を確認するために、適宜、リアクションペーパーの提出を求めます。今回の授業までに匿名で全員分のコメントを取り纏め、質問については回答し、そのほかのコメントについては、受講生全員の共有財産とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	世界のなかの近世・近代日本の歴史を学ぶとはどういうことなのか、秋学期の授業のアウトラインを説明する。
2	江戸幕府の成立と地域社会	織田・豊臣政権から徳川政権への移行の歴史的背景とそれぞれの地域社会の特徴を説明する。
3	寛永期の政治と国際関係	寛永期の政治の特徴を考察し、国際関係のなかで鎖国の意味を読み解く。
4	元禄・享保期の政治と社会	元禄・享保期の政治と社会・文化の特徴を検討する。
5	近世村落の運営と租税	近世村落の運営と租税の特徴を概括した上で、他の時代と比較する。
6	近世文化の展開と文化遺産	近世文化の展開を概括した上で、現代に引き継がれている文化遺産の今を考える。
7	近世社会の変容と政治状況	政治状況のなかで近世社会がどのように変容して近代社会を形成していくのかを考察する。

8	明治維新と近代国家の形成	明治維新の概念を規定した上で、国家としての近代化の歩みを追う。
9	近代産業の発展と国際環境	国際環境のなかで近代化が進められた産業の展開を追う。
10	政党政治の展開	日本の政党政治の歴史的特徴を検討し、他国と比較する。
11	二つの世界大戦と国際状況	国際状況のなかの二つの世界大戦に対する日本の対応を比較検討する。
12	近代文化の展開と東京の文化遺産	近代文化の展開を概括した上で、今に残る東京の文化遺産について考える。
13	戦後政治の動向と国際社会	国際社会における戦後日本の歴史について、今日的課題も踏まえながら考察する。
14	試験と解説	近世とは何か、近代とは何かを総体的に考え、その成果を各自答案に記述してもらう。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

毎回、プリントを配付します。

【参考書】

随時、授業で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

期末試験の成績による評価（70%）。授業への積極的な貢献度（課題提出含む）（30%）。

【学生の意見等からの気づき】

難解な用語や複雑な論点については、分かりやすく丁寧な説明を心がけます。

【学生が準備すべき機器他】

資料配付・課題提出等は、学習支援システムを利用します。

【Outline (in English)】

This course introduces Japanese history during the Early Modern and Modern Ages, from a variety of political, economic, social and cultural perspectives. This lecture is given by using important historical materials to show specific historical facts and based on the latest findings of the research. The aim of this course is to help students acquire the necessary skills and knowledge needed to educate in the future. At the end of the course, participants are expected to cultivate the ability to think.

HIS100LA

日本史 I

2017 年度以降入学者

小口 雅史

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 3/Fri.3

単位数：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

歴史学は「現在と過去との対話」だと言われています。現代社会を理解し、その未来を展望するためには、過去の歩みの正しい理解が必要となります。とくに日本古代の歴史は、日本国家の原点であり、中国を中心とする東アジア世界の政治・外交秩序と密接な関係を保ちながら展開されました。まさに現代世界の基盤になったものです。

この講義では、こうした特徴ある日本古代史をベースに、1 回毎に時代を代表するメルクマールを設定しますので、みなさんは、歴史の見方、歴史の流れを総体的・論理的にとらえ、現代との対話ができるようになる方法を取得することを目標に頑張ってください。

【到達目標】

暗記主体の高校までの日本史とは異なって、大学の日本史は、「歴史を考える」ことを目指します。そのことは、例えば中学校・高等学校で日本史を教える立場にたつたときにも重要です。「歴史を考える」時に、必要となる知識の習得と歴史的事実の調べ方、その全体像の論理的構成方法を学ぶことになります。高校で学んだ教科書の記述がどのように成り立っているのか、その根拠になった学説にまで遡って根拠史料を踏まえて解説していきます。もはや、高校生のようにひたすら暗記することは必要ありません。なぜその時点で、そこで、その事象が発生したのかを論理的に考える力をつけましょう。

最終的には、古代の日本史像について、東アジア世界のなかの日本という国際環境ないし地理的視点を常に保ちながら、豊かで多様な価値観に支えられた新しい歴史像を構築する能力を養うことを目標とします。このことは現代社会を正しく理解し、さらには将来の社会生活において必ず役に立つはずで

高校までの「勉強としての日本史」とはまったく異なる、大学での「学問としての日本史」「科学としての日本史」の魅力を十分味わってください

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

基本的に講義形式で進めます。適宜スライドやビデオを用いて視覚的な理解をはかることも考えています。

謎多き日本古代国家の成立過程からはじめて、その展開・崩壊と、そこから生まれてくる中世国家の形成過程、展開・崩壊を、論理的に考えながら「時代」像を構築してみます。具体的に当時の生の史料を解読しながら皆さんと一っしょに考えていきます。

高校までの日本史では原則として正解は一つでしたが、大学での日本史は正解は一つではありません。答えは私の講義を聴いた上で、皆さん各自で考えてみましょう。

皆さんから出された質問その他へのフィードバックは、まとめて最終授業で、講評や解説として実施します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	序論・日本史の時代区分	科学ないし学問としての歴史学とは何かを考えます。そのための大前提が時代区分論です。ここで古代とは何かを定義します。

第 2 回	ヤマト王権－日本国家の初源	律令国家の前史として、ヤマト王権の最終的な国家の姿を検討してみます。
第 3 回	大化改新－古代史上最大の政治改革	対外的緊張の高まりのなかで、ヤマト政権の限界を打破して新国家体制を作るべく、古代史上最大のクーデターが実行されます。その政治改革の実像を検討してみます。
第 4 回	律令法の成立と展開	新国家体制の柱となった律令とは何かについて考えてみます。
第 5 回	律令国家の財政制度	古代国家の財政の特徴を、中央財政と地方財政とにわけて考えてみます。
第 6 回	在地首長と地方政治	通信手段が貧弱だった時代にわずか 60 余名の国司で日本を統治できたのはなぜか。現地に根ざした在地首長たちの姿を追ってみます。
第 7 回	古代家族論	世界史の奇跡と言われた「正倉院文書」中にはたくさんの戸籍があります。古代家族の真実の姿を考えてみます。
第 8 回	律令国家の転換	東大寺に代表される天平文化華やかになりし時代は、じつは律令国家の大きな転換点でもありました。その実態を検討します。
第 9 回	公営田制－人から土地へ	戸籍によって人を支配する古代国家は、次第にその維持が難しくなります。変わって登場したのが土地を支配する体制でした。その実態を探ります。
第 10 回	王朝国家論	人から土地への変化は、中央政府の在り方は変えませんでした。地方政治は大きく変化しました。それを重視する「王朝国家論」について検討してみます。
第 11 回	摂関政治とは	地方の変化にもかかわらず中央で権勢を奮った貴族政治の実態とその力の源泉を探ってみます。
第 12 回	荘園制の展開	高校の日本史の先生方が一番嫌っている「荘園とは何か」をテーマに、じっくりと考えてみます。
第 13 回	院政の特徴-摂関政治との比較	摂関政治はやがて院政へと変化しました。なぜそうした変化が生まれ、両者の違いは何かについて考えてみます。
第 14 回	武家政権前夜	平氏政権から鎌倉幕府への道筋はどうやって引かれたのか。歴史的背景を探ってみます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習は事前のテキスト内容の理解を期待します。人によって異なりますが、2 時間が標準とされています。また事前にプリントなど補足教材を授業支援システムを通じて配布することもあります。その場合は、それを活用しながらテキストを読んでおくと、講義内容がいつそう分かりやすくなると思います。

実際に「歴史を考える」作業は授業のなかだけで完結するように講義を工夫して行います。復習しておくことと次回の講義の理解に役立ちます。これも人によって異なりますが 2 時間程度が標準とされています。

【テキスト（教科書）】

日本史概論編集委員会編『日本史概論』(上) (同成社)

【参考書】

特に指定しません。必要に応じて補助プリントを授業支援システムを通じて配布します。

【成績評価の方法と基準】

基本的に期末試験（論述問題）によって行います（95%相当）。

この講義の目標である、現代と対話しながら「歴史を考える」という思考方法が身についたかどうかを、具体的に論述してもらって判断します。

なお受講生数によっては、講義中に質疑応答を設けることがありそれを反映することも予定しています（5%相当）。

【学生の意見等からの気づき】

高校日本史を履修していない人はやや難解なようです。ただ高校日本史を繰り返すつもりは全くありませんので。高校で日本史を履修しなかった人はあらかじめ日本古代史の概説書を読んでから受講することを強く勧めます。

【学生が準備すべき機器他】

とくになし

【その他の重要事項】

とくになし

【担当教員の専門分野等】

〈専門領域〉

日本古代史・法制史・北方史・国際日本学

〈研究テーマ〉

日本古代社会経済史・日中比較律令法史・古代中世北方史

〈主要研究業績〉

2010年、『古代末期・日本の境界－城久遺跡群と石江遺跡群』

2008年、『エミシ・エゾ・アイヌ』（編著）、岩田書院

2008年、「近時の在欧吐魯番出土漢文文書の整理・公開等をめぐって」『古文書研究』66

2007年、「『在ベルリン吐魯番出土漢文世俗文書総合目録』のその後－FileMakerによるDatabaseのWeb公開の一例として」『漢字文献情報処理研究』8

【Outline (in English)】

Course outline : In this lesson, we will examine from the birth of Japan to the modern society from various aspects such as politics, diplomacy, social economy, culture.

Learning Objectives : we will introduce specific methods to acquire the ability to "think" rather than "remember" the "history". In some cases, I also ask students opinions on interpretation of historical materials.

Learning activities outside of classroom : Before each class meeting, students will be expected to spend 30 minutes to understand the course content. After each class meeting, students will be expected to spend 20 minutes to understand the course content.

Grading Criteria /Policies : Final grade will be calculated according to the following process term-end examination (95%), and in-class contribution (5%).

HIS100LA

日本史Ⅱ

2017年度以降入学者

小口 雅史

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 3/Fri.3

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

歴史学は「現在と過去との対話」だと言われています。現代社会を理解し、その未来を展望するためには、過去の歩みの正しい理解が必要となります。また東アジア世界の理解にあたって一つの共通の重要な視点となるのが土地制度の問題です。土地の問題は東アジアではヨーロッパとは異なる重要な意味を持っています。本講義では、その舞台を日本に定め、古代における土地制度がどのようなものであり、どのように運用されていたのかを考えます。それは現代日本の土地問題の原点であり、中国を中心とする東アジア世界の政治・外交秩序と密接な関係を保ちながら展開されました。まさに現代世界の基盤になったものです。

この講義では、こうした特徴ある古代の土地制度史をベースに、1回毎に時代を代表するメルクマールを設定しますので、みなさんは、歴史の見方、歴史の流れを総体的・論理的にとらえ、現代との対話ができるようになる方法を取得することを目標に頑張ってください。

【到達目標】

暗記主体の高校までの日本史とは異なって、大学の日本史は、「歴史を考える」ことを目指します。そのことは、例えば中学校・高等学校で日本史を教える立場にたつたときにも重要です。「歴史を考える」時に、必要となる知識の習得と歴史的事実の調べ方、その全体像の論理的構成方法を学ぶこととなります。高校で学んだ教科書の記述がどのように成り立っているのか、その根拠になった学説にまで遡って根拠史料を踏まえて解説していきます。もはや、高校生のようにひたすら暗記することは必要ありません。なぜその時点で、そこで、その事象が発生したのかを論理的に考える力をつけましょう。

最終的には、日本土地経営の運用の実態について、東アジア世界のなかの日本という国際環境ないし地理的視点を常に保ちながら、豊かで多様な価値観に支えられた新しい歴史像を構築する能力を養うことを目標とします。このことは現代社会を正しく理解し、さらには将来の社会生活において必ず役に立つはずで

高校までの「勉強としての日本史」とはまったく異なる、大学での「学問としての日本史」「科学としての日本史」の魅力を十分味わってください。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

基本的に講義形式で進めます。適宜スライドやビデオを用いて視覚的な理解をはかることも考えています。

古代の土地経営の実態について、法制度の問題からはじめて政治との関係を解明し、さらには土地所有者と耕作農民という、近代社会における地主制の展開との比較を念頭に置きながら、具体的なあり方とその変質過程を解明していきます。ポイントとなるのは、具体的に当時書かれた生の史料を解説しながら皆さんといっしょに考えていくところにあります。前近代の農民たちがどのような行動をとっていたのが手に取るように分かる貴重な史料がたくさんあります。当時の農民は高校で教わるような、虫けらのような存在ではなく、自分の意思を持って自分の利益を目指していたことが分かるはずで

す。近現代の農民たちと類似する点も多いのです。また古文書の読解にあたってはパソコンによる最新の漢字処理を援用します。

高校までの日本史では原則として正解は一つでしたが、大学での日本史は正解は一つではありません。答えは私の講義を聞いた上で、皆さん各自で考えてみましょう。

皆さんから出された質問その他へのフィードバックは、まとめて最終授業で、講評や解説として実施します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	序論	この講義の進め方についてお話しします。
第2回	コンピュータと漢字	限られた文字コードの中でどうやって古文書特有の漢字を利用するか考えてみます。
第3回	日本古代の土地制度(1)	この講義を理解する前提として、律令土地制度について考えてみます。
第4回	日本古代の土地制度(2)	律令土地制度からどのように墾田が生まれたのかを考えてみます。
第5回	地方支配と収取方法の具体例	アメリバのような古代家族と、それを利用した在地首長制、律令租税制度について考えます。
第6回	造東大寺司と政治史の関係	東大寺が作られた時代の政治情勢について検討します。
第7回	政治史上の初期荘園	権力者藤原仲麻呂と東大寺の確執について考えてみます。
第8回	桑原荘の経営	越前国坂井郡の東大寺領荘園から、詳細な経営史料を残した桑原荘を選んで、経営実態を考えます。
第9回	鯖田国富荘の経営	桑原荘とは対照的に、経営史料をほとんど残さなかった鯖田国富荘について検討してみます。
第10回	道守荘の経営	経営第2段階の様相を、東大寺領最大級の道守荘を舞台に検討してみます。
第11回	東大寺の復権と初期荘園	経営第3段階の様相を、越前を舞台に広く検討してみます。
第12回	正倉院文書数万点の世界	正倉院には、東大寺関係の膨大な史料が残されました。世界史の奇蹟だとも言われています。その実態を垣間見てください。
第13回	ある下級官人の私田経営	東大寺に寄生していたある下級官人が居ました。その経営を調べることによって、天平時代の経済活動を検討してみます。
第14回	荘園経営の二類型	地域が変われば経営も変わる！古代における二類系の存在を考えてみます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習は事前のテキスト内容の理解を期待します。人によって異なりますが、2時間が標準とされています。また事前にプリントなど補足教材を授業支援システムを通じて配布することもあります。その場合は、それを活用しながらテキストを読んでおくと、講義内容がいつそう分かりやすくなると思います。

実際に「歴史を考える」作業は授業のなかだけで完結するように講義を工夫して行います。復習しておくことと次回の講義の理解に役立ちます。これも人によって異なりますが2時間程度が標準とされています。

【テキスト（教科書）】

デジタル古文書集日本古代土地経営関係史料集成 東大寺領・北陸編（大学テキスト版）（同成社）。論文集をとまなう市販本でも可ですが高価です

【参考書】

『土地所有史』（山川出版社）

【成績評価の方法と基準】

基本的に期末試験（論述問題）によって行います（95%相当）。

この講義の目標である、現代と対話しながら「歴史を考える」という思考方法が身についたかどうかを、具体的に論述してもらって判断します。

なお受講生数によっては、講義中に質疑応答を設けることがありそれを反映することも予定しています（5%相当）。

【学生の意見等からの気づき】

高校日本史を履修していない人には、やや難解だったようです。ただ高校日本史を繰り返すつもりは全くありませんので、高校で日本史を履修しなかった人はあらかじめ日本古代史の概説書を読んでから受講することを強く勧めます。

【学生が準備すべき機器他】

とくになし

【その他の重要事項】

とくになし

【担当教員の専門分野等】

〈専門領域〉

日本古代史・法制史・北方史・国際日本学

〈研究テーマ〉

日本古代社会経済史・日中比較律令法史・古代中世北方史

〈主要研究業績〉

2010 年、『古代末期・日本の境界－城久遺跡群と石江遺跡群』

2008 年、『エミシ・エゾ・アイヌ』（編著）、岩田書院

2008 年、「近時の在欧吐魯番出土漢文文書の整理・公開等をめぐって」『古文書研究』66

2007 年、「『在ベルリン吐魯番出土漢文世俗文書総合目録』のその後－FileMaker による Database の Web 公開の一例として」『漢字文献情報処理研究』8

【Outline (in English)】

Course outline : In this lesson, we will examine from the birth of Japan to the modern society from various aspects such as politics, diplomacy, social economy, culture.

Learning Objectives : we will introduce specific methods to acquire the ability to "think" rather than "remember" the "history". In some cases, I also ask students opinions on interpretation of historical materials.

Learning activities outside of classroom : Before each class meeting, students will be expected to spend 30 minutes to understand the course content. After each class meeting, students will be expected to spend 20 minutes to understand the course content.

Grading Criteria /Policies : Final grade will be calculated according to the following process term-end examination (95%), and in-class contribution (5%).

HIS100LA

日本史 I

2017 年度以降入学者

根崎 光男

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 5/Thu.5

単位数：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、日本の誕生から始めて中世社会の終焉までを、政治・外交・社会経済・文化などの様々な側面から考える。また、近年の日本史研究の新しい成果を取り入れながら、「歴史」を「覚える」のではなく「考える」能力を身につけていく。また、史料に基づいて「考える」ことができるように、授業中に適宜、重要史料を中心に読解し、史料から具体的歴史像を描き出せるようにする。

【到達目標】

中学校・高等学校で日本史を教える上で必要となる知識の習得と歴史的事実の調べ方、その全体像の論理的構成方法を学ぶ。教科書の記述がどのように成り立っているのか、その根拠になった学説にまで遡って根拠史料を踏まえて理解する。古代から中世の日本史像について、東アジア世界のなかの日本という国際環境ないし地理的視点を常に保ちながら、豊かで多様な価値観に支えられた歴史像（文化を含む）を構築する能力を養うことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

授業は、原則として対面による講義形式で行う。各回の授業は、主として配付プリントによりシラバス通りに進める。レポート提出後の授業において、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス- 東アジア世界の中の日本	授業の概要と進め方、東アジアという視点から日本の歴史を考えることの意味について学ぶ
第 2 回	倭国の誕生と東アジア世界	倭王権の成立と東アジア地域の国際情勢、激動の東アジアと古代国家形成について学ぶ
第 3 回	律令国家の誕生と国際環境	律令国家の成立・展開と 8 世紀の外交について学ぶ
第 4 回	古代家族と在地首長制	古代の婚姻と家族の姿、在地首長制について学ぶ
第 5 回	律令国家の展開と終焉	桓武・嵯峨天皇の時代と政治改革、律令制的地方支配のいきづまりと地方支配の転換について学ぶ
第 6 回	東アジア世界の文化と国風文化	10 世紀以降の東アジア情勢と外交、貴族社会と国風文化について学ぶ
第 7 回	摂関政治と王朝国家	摂関政治の成立とその展開、王朝国家期の政治・社会について学ぶ
第 8 回	院政の展開と日宋貿易	院政の開始と展開、平氏の台頭と日宋貿易について学ぶ
第 9 回	武士の誕生と鎌倉幕府	武士の誕生、鎌倉幕府の成立とその支配について学ぶ
第 10 回	執権政治の展開と元寇	北条氏の権力掌握と執権政治、元寇が政治・社会に与えた影響と鎌倉幕府の衰退について学ぶ

第 11 回 建武新政と室町幕府の展開 鎌倉幕府の滅亡と建武の新政、南北朝の内乱から室町幕府の統治体制確立の過程について学ぶ

第 12 回 日明関係と室町文化の特質 15・16 世紀における東アジアとの活発な交流と室町文化の特徴について学ぶ

第 13 回 戦国の動乱と関東地方 戦国大名の登場とその支配、享徳の乱と関東の戦国時代について学ぶ

第 14 回 総括と試験 授業を総括し、試験をおこなう

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配布プリントやノートを確認し、復習を行うこと。授業で提示した史料についてもしっかりと復習し、史料に基づいて考える姿勢を養うこと。本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし。必要に応じてプリントを配付する。

【参考書】

佐々木潤之介他『概論日本歴史』（吉川弘文館）

【成績評価の方法と基準】

成績評価は、期末試験（80 %）、レポート（20 %）により行う。期末試験は授業内容の理解度に応じて、またレポートは課題に対する豊富な内容に応じて評価する。

【学生の意見等からの気づき】

難解な歴史用語などについては、わかりやすく丁寧な説明を心がける。

。

【学生が準備すべき機器他】

新型コロナの感染状況によっては、オンライン授業もありえるので、Zoom に接続できる環境を整えておくこと。

【Outline (in English)】

(Course outline)

Considers the history of Japan from ancient time to medieval time through

various aspects of politics, economics, society and culture etc.

(Learning Objectives)

The goals of course are to acquisition of advanced knowledge of Japanese history, how to examine historical facts, and how to construct them logically.

(Learning activities outside of classroom)

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

(Grading Criteria / Policy)

Your overall grade in the class will be decided based on the following.

Term-end examination:80%,Report:20%

HIS100LA

日本史Ⅱ

2017年度以降入学者

根崎 光男

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 5/Thu.5

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、近世社会の成立から現代までを、政治・外交・社会経済・文化などの様々な側面から考える。また、近年の日本史研究の新しい成果を取り入れながら、「歴史」を「覚える」のではなく、「考える」能力を身につけていく。また、史料に基づいて「考える」ことができるように、授業中に適宜、重要史料を中心に読解し、史料から具体的歴史像を描き出せるようにする。

【到達目標】

中学校・高等学校で日本史を教える上で必要となる知識の習得と歴史的事実の調べ方、その全体像の論理的構成方法を学ぶ。教科書の記述がどのように成り立っているのか、その根拠になった学説にまで遡って根拠史料を踏まえて理解する。近世から近代の日本史像について、世界のなかの日本という国際環境ないし地理的視点を常に保ちながら、豊かで多様な価値観に支えられた歴史像（文化を含む）を構築する能力を養うことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

授業は、原則として対面による講義形式で行う。各回の授業は、主として配付プリントによりシラバス通りに進める。レポート提出後の授業において、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンスー世界のなかの近世・近代日本	時代区分における近世・近代の位置づけの確認に際して、世界のなかの日本という視点を意識しながら学ぶ
第2回	江戸幕府の成立と地域社会	江戸幕府はどのように成立したのか。天皇・将軍・大名・寺社・庶民などの動向を見ながら学ぶ
第3回	寛永期の政治と国際関係	寛永期の幕府政治の動向を見ながら、鎖国の意味とこの時代の国際関係について学ぶ
第4回	近世村落の運営と租税	近世村落の成立・展開を概観しながら、その運営や租税の仕組みなどについて学ぶ
第5回	元禄の幕府政治と地域社会	元禄期の幕府政治とその課題を概観しながら、儒教・仏教・神道とのかかわりについて学ぶ
第6回	近世の家族制度と家族関係	近世の家族制度にみられる親子関係、夫婦関係、老人と子供などの社会的位置づけについて学ぶ
第7回	享保改革と地域社会	享保改革が目指したものは何か。改革政治の内容や地域社会の動向などについて学ぶ
第8回	近世社会の変容と幕府政治	近世社会はどのように変容していったのか。その変容の歩みと政治・社会の動向について学ぶ

第9回	開国と江戸幕府の終焉	開国はわが国にどのような影響を与え、また幕府はどのように崩壊していったのかについて学ぶ
第10回	明治維新と近代国家の形成	日本史上、明治維新をどのように捉えることができるのか。近代国家の形成について事実即して学ぶ
第11回	自由民権運動と政党政治	自由民権運動と政党政治との関係を、社会の動向を視野に入れながら学ぶ
第12回	近代産業の発展と国際環境	産業の近代化はどのように進められたのか。近代産業の発展を、殖産興業や内外の博覧会とのかかわりについて学ぶ
第13回	世界大戦と戦後政治	日本はなぜ2つの世界大戦に参戦したのか。そして、戦後の民主化政策と日本国憲法の役割について学ぶ
第14回	総括と試験	授業を総括し、試験をおこなう

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配布プリントやノートを確認し、復習を行うこと。授業で提示した史料についてもしっかりと復習し、史料に基づいて考える姿勢を養うこと。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし。必要に応じてプリントを配付する。

【参考書】

佐々木潤之助他『概論日本歴史』（吉川弘文館）

【成績評価の方法と基準】

成績評価は、期末試験（80%）、レポート（20%）により行う。期末試験は授業内容の理解度に応じて、またレポートは課題に対する豊富な内容に応じて評価する。

【学生の意見等からの気づき】

難解な歴史用語などについては、わかりやすく丁寧な説明を心がける。

【学生が準備すべき機器他】

新型コロナウイルスの感染状況によっては、オンライン授業もありえるので、Zoomに接続できる環境を整えておくこと。

【Outline (in English)】

(Course outline)

Considers the history of Japan from early modern to modern times, through various aspects of politics, economics, society and culture etc.

(Learning Objectives)

The goals of course are to acquisition of advanced knowledge of Japanese history, how to examine historical facts, and how to construct them logically.

(Learning activities outside of classroom)

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

(Grading Criteria /Policy)

Your overall grade in the class will be decided based on the following.

Term-end examination:80%,Report:20%

PHL100LA

宗教論 I

2017 年度以降入学者

榎本 香織

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 5/Tue.5

単位数：2 単位

その他属性：〈優〉

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックはありません。

【Outline (in English)】

The aim of this class is to provide an overview and understanding of the basics of the history, forms, and thought of the major religions

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

主要な宗教の歴史や形態、思想についての基礎を俯瞰的に学び、理解を深める。

【到達目標】

宗教の基本を客観的に学び、「人間とは何か」という人文系の学問について考える力を養う。日本と世界の宗教を知ることで、日本の精神文化および異文化への理解を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式。教科書は使用せず、必要に応じて資料やレジュメを配布して授業を進める。毎回アクションペーパーの提出を求める。質問やコメントにたいするフィードバックは次回講義冒頭にて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	講義全体の説明、「宗教 (Religion)」とは何か？
2	人間と宗教	複数領域の進化論から、人間にとっての宗教とは何かを考える
3	信仰形態の基礎知識	一神教、多神教、アニミズムなど
4	世界の主要宗教を概観する (1)	ユダヤ教
5	世界の主要宗教を概観する (2)	キリスト教
6	世界の主要宗教を概観する (3)	イスラム教
7	世界の主要宗教を概観する (4)	仏教
8	日本の宗教 (1)	神道と仏教
9	日本の宗教 (2)	新宗教など
10	日本の宗教 (3)	精神世界とスピリチュアリティ
11	宗教現象を知る (1)	祈り・儀礼
12	宗教現象を知る (2)	シャーマニズム
13	宗教現象を知る (3)	現代と宗教
14	試験、まとめ	振り返りと試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。

【参考書】

脇本平也『宗教学入門』（1997 年、講談社学術文庫）

島蘭進『精神世界のゆくえ』（2022 年、法蔵館文庫）

その他講義内で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業への参加度が 50%、期末試験が 50%。前者はアクションペーパーの内容、後者は上記「到達目標」がどの程度達成されているかによって評価する。

PHL100LA

宗教論Ⅱ

2017年度以降入学者

榎本 香織

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 5/Tue.5

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【Outline (in English)】

This class will further explore a cross-section of major religious phenomena and learn how religion is connected to contemporary society.

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

主要な宗教現象を横断的に更に掘り下げ、かつ、現代社会と宗教がどのように結び付いているかを学ぶ。

【到達目標】

宗教や宗教研究のあり方への理解をさらに深め、現代における宗教の役割や意義について客観的に捉え・考察できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式。教科書は使用せず、必要に応じて資料やレジュメを配布して授業を進めていく。毎回アクションペーパーの提出を求める。質問やコメントにたいするフィードバックは次回講義冒頭にて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	講義全体の説明、宗教論を学ぶことについて
2	宗教と宗教論	宗教と宗教論（学）との違いについて
3	宗教的世界観（1）	神話、伝説
4	宗教的世界観（2）	聖と俗、ハレとケなど
5	宗教的世界観（3）	死生観、他界観など
6	宗教的行為（1）	祈りについて
7	宗教的行為（2）	儀礼について
8	宗教的行為（3）	修行、戒律について
9	宗教的行為（4）	祭りについて
10	現代社会と宗教（1）	宗教・呪術・科学
11	現代社会と宗教（2）	宗教とメディアの歴史
12	現代社会と宗教（3）	宗教と公共性
13	現代社会と宗教（4）	宗教といのち
14	試験、まとめ	振り返りと試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。

【参考書】

脇本平也『宗教学入門』（1997年、講談社学術文庫）
石井研士『テレビと宗教』（2008年、中公新書ラクレ）
稲場圭信『利他主義と宗教』（2011年、弘文堂）
その他講義内で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業への参加度が50%、期末試験が50%。前者はアクションペーパーの内容、後者は上記「到達目標」がどの程度達成されているかによって評価する。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックはありません。

PHL100LA

宗教論 I

2017 年度以降入学者

古澤 有峰

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 5/Thu.5

単位数：2 単位

その他属性：〈優〉

【学生の意見等からの気づき】

学生の興味関心や理解度に配慮した授業を心がける。

【Outline (in English)】

Students will learn some basic views on the origins and forms of religion and gain the deeper understanding of existing religions.

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

宗教の発生と形態について基本的な見方を学び、既存の宗教への理解を深めていく。

【到達目標】

宗教の基本を客観的に学んで、「人間とは何か」という人文系の学問の大前提の問題へ理解を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式。教科書は使用せず、配布資料に沿って授業を進めていく。初回レポートおよび中間レポートの提出を求める。コメントに対するフィードバックは資料配信によって行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	今学期の授業の概要の説明	宗教を学ぶことの意義を中心に
2	なぜ宗教は生まれたのか	宗教の発生を人類の起源に立ち返って考察する
3	宗教形態の基本的な問題	一神教と多神教など
4	世界の主要宗教を概観する (1)	ユダヤ教
5	世界の主要宗教を概観する (2)	キリスト教
6	世界の主要宗教を概観する (3)	イスラム教
7	世界の主要宗教を概観する (4)	仏教
8	日本の宗教観 (1)	神道と仏教
9	日本の宗教観 (2)	無宗教と現代
10	宗教現象の分析 (1)	神とカミガミ
11	宗教現象の分析 (2)	祈り
12	宗教現象の分析 (3)	祭礼
13	宗教現象の分析 (4)	現代の問題
14	まとめ	全体を振り返る

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。配布資料やノート、指示される参考書を使って授業内容をよく理解するよう努め、わからない点があれば質問すること。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。

【参考書】

授業で適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

授業への参加度が 40%、最終レポートが 60%。前者は初回レポートと中間レポートの内容、後者は上記「到達目標」がどの程度達成されているかによって評価する。

PHL100LA

宗教論Ⅱ

2017年度以降入学者

古澤 有峰

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 5/Thu.5

単位数：2 単位

その他属性：〈優〉

【Outline (in English)】

Students will learn major religious phenomena, focusing on the relationship between God (or gods/kamigami) and humans, and will also examine the role that religion has played in history from ancient to modern times.

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

神（あるいはカミガミ）と人間の関係を中心に主要な宗教現象を学び、さらに古代から近代までの歴史のなかで宗教が果たした役割について考察していく。

【到達目標】

宗教に対する基本的な見方を学び、さらに世界の歴史に眼を向けて宗教現象を広い視点で捉えていく。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式。教科書は使用せず、配布資料に沿って授業を進めていく。初回レポートおよび中間レポートの提出を求める。コメントに対するフィードバックは資料配信によって行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	今学期の授業の概要の 説明	宗教論とは何か
2	宗教の分類	世界宗教と民族宗教など
3	宗教現象の基本的な見 方	聖と俗など
4	聖なることば (1)	祈りを中心に
5	聖なることば (2)	神話を中心に
6	宗教的世界観 (3)	聖なる空間および他界について
7	聖なる行為 (1)	儀礼とは何か
8	聖なる行為 (2)	通過儀礼が意味するもの
9	聖なる行為 (3)	祝祭とは何か
10	理性と宗教 (1)	宗教・呪術・科学
11	理性と宗教 (2)	呪術と宗教
12	理性と宗教 (3)	西洋占星術の起源から近代天文学 の誕生へ
13	理性と宗教 (4)	近代科学革命のなかで
14	まとめ	全体を振り返る

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。配布資料やノート、指示される参考書を使って授業内容をよく理解するよう努め、わからない点があれば質問すること。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。

【参考書】

授業で適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

授業への参加度が 40%、最終レポートが 60%。前者は初回レポートと中間レポートの内容、後者は上記「到達目標」がどの程度達成されているかによって評価する。

【学生の意見等からの気づき】

学生の興味関心や理解度に配慮した授業を心がける。

ART100LA

芸術 A

2017 年度以降入学者

嘉藤 笑子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 5/Tue.5

単位数：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

20 世紀になって「芸術」は、モダンアートや現代アートと呼ばれるようになって、人々の生活から乖離していく存在になった。わかりづらいモノ、難しいモノとして人々の意識から遠のいたように思える。にもかかわらず、SNS やインスタ映えといった現象によって現代アート展や国際芸術祭には、多くの若者や外国人旅行者が押し寄せている。こうした現象に代表されるようにアートは面白い！と思わせる存在でもある。したがって、その真性をつかむのは容易ではない。古えから連綿と続く芸術の普遍性や真価性を紐解きながら、新たな美意識や思想を生み出してきた芸術の真価を学ぶべきである。同時に「アートとは何か？」ということ学ぶことは現代社会の深層を掘り下げることにある。アートの定義を改めて探求し、社会的文脈を読み解くことで、芸術の真正を探求していく。

【到達目標】

芸術がモダンアートと呼ばれるようになった 20 世紀初めから現代までのおよそ 100 年間における芸術と社会の関係を考察していく。芸術の存在を受容してきた社会的背景や歴史的考察を経て、芸術が影響を与えてきた社会的構造を探求していく。20 世紀を象徴する具体的なアーティストや代表的なアート作品の事例をもとにアートと社会との関係性を模索していく。その芸術が誕生した地域や習性などの文化的背景や社会環境を包括的に捉えていくことで、芸術の文化的価値について探求していく。また、地域創生やコミュニティ再生といった今目的問題を視野に入れて、社会変化と文化推進のなかで内在する具体的な課題を見出していく。さらにグローバル社会における芸術の普遍的価値を改めて問い直していく。多くの文化事業やコミュニティ活動から事例を学び、芸術が育成されるべき社会構造についても考察していく。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義（動画・画像を多用していく）を行う。

毎回リアクションペーパーの提出。

各回のレジュメおよび参考資料を配布。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	アートとは何か？（ガイダンス）	20 世紀におけるアートの変化を考える
第 2 回	美術館と展覧会のはじまり	アートをめぐるインスティテューションの在り方を探求する
第 3 回	博覧会と芸術祭	芸術の見せ方を模索するなかで博覧会や芸術祭の可能性を模索する
第 4 回	ふたつの世界大戦とアート①	戦争におけるプロパガンダの登場とその影響について考察する。事例：ドイツの退廃芸術など
第 5 回	ふたつの世界大戦とアート②	戦争におけるプロパガンダとその影響について考察する。事例：日本の戦争画

第 6 回	冷戦構造とアート①	ソビエト連合の設立と崩壊に関わった芸術をまあ部。ロシア・アヴァンギャルドほか
第 7 回	冷戦構造とアート②	東西分断されたドイツの芸術祭『ドクメンタ』や五月革命（1968）を考察していく。
第 8 回	ポップアートと消費社会	20 世紀を代表するアンディ・ウォホルとポップアートを検証する。
第 9 回	パブリックアートと都市再生	公共事業とパブリックアートの構造について学ぶ。
第 10 回	現代美術館の興隆	20 世紀後半に乱立したモダンアートを輩出する装置である現代美術館を知る。
第 11 回	コミュニティと地域社会	世界遺産の振興、インバウンド政策（アートツーリズム）の発展を考察する。
第 12 回	グローバル社会の課題①	障害者支援とアート（アールブリュット）を模索する。
第 13 回	グローバル社会の課題②	アートと環境問題という社会課題を検証する。
第 14 回	グローバル社会の課題③	難民・紛争・格差など深刻な社会問題とアートは立ち向かえるのかを考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回授業のレジュメや参考書類はファイルにしておき、自分で調べた資料などを追加していけるようにするしましょう。日頃から新聞・ニュースなどを通じて国際政治や社会動向について目を触れておくこと。文化芸術に関する専門知識や世界史や歴史的考察を身に付けていくことも必要となります。専門誌や文献、関連する書籍を通じて現在の文化動向の概観を掴むこと。また、日ごろから文化芸術に触れる機会や興味を増やしておく方がいいでしょう。学習時間は、予習・復習ともに各自で考えて進めてください。準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。

【参考書】

「アートとは何か：芸術の存在論と目的論」アーサー・C・ダントー著、2018、人文書院

「万博 100 の物語」久島伸昭著、2022、ヨシモトブックス

「現代美術史：欧米、日本、トランスナショナル」山本浩貴著、2019、中公新書

【成績評価の方法と基準】

定期試験（割合 %）40 %

定期試験（評価基準、評価方法）総計 100 点

小論文（60 点）と用語解説（20 点 x 2 問）の記述試験。全ての問題に解答すること。

小論文・レポート（割合 %）40 %

小論文・レポート（評価基準、評価方法）

小論文のレポート課題（学期内に 1 点）

締切厳守（遅れた場合が、減点はするが学期内であれば受け付ける）

授業後にリアクションペーパー 20 %

※授業に対する感想や意見を記入して提出すること。

※無記名や記述のないものは無効。

【学生の意見等からの気づき】

本年度新規科目につきアンケートを実施していません

【学生が準備すべき機器他】

資料配布・課題提出等（質問など）は教育の Email に送信してください。

kotorismile@gmail.com

【その他の重要事項】

徳島県神山町のアーティスト・イン・レジデンス評価委員（2005 - 2018）

Art Autonomy Network(2005-2019)

向島学会副理事長（2005 - 現職）

すみだ向島 EXPO（2020、2021、2022）

KAB Library and Residency の運営（2019 - ）

「ととのう温泉美術館」愛知県蒲郡市（2023）ゲスト・キュレーター。
など。
地域社会と文化振興について実質的問題や方策を協議していくときに
具体例として話題にしていく。

【Outline (in English)】

In the 20th century, 'art' came to be known as modern or contemporary art and became an entity that diverged from people's lives. It seems to have moved away from people's thoughts as an incomprehensible or difficult object. Despite this, phenomena such as social networking and Insta-evidence have attracted many young people and foreign tourists to contemporary art exhibitions and international art festivals. As typified by these phenomena, art is interesting! and it also makes people feel that art is precious. Therefore, it is not easy to grasp its true nature. We should learn the true value of art, which has created new aesthetics and ideas while unravelling the universality and authenticity of art that has continued uninterrupted since ancient times. At the same time, learning "what is art?" is to delve into the depths of contemporary society. By re-exploring the definition of art and reading it in a social context, we will explore the authenticity of art.

ART100LA

芸術 B

2017 年度以降入学者

嘉藤 笑子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 5/Tue.5

単位数：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

グローバル社会の発展とともにアートは国際化しボーダレスな価値観を築いてきた。文化政策は、国際政治と大きくかかわり、各国の政策や政治哲学と密接に関わっている。特に欧米を中心に自由主義国家のなかで発展してきた理念といえるだろう。わが国の文化政策の発展および振興をめざすためにも、必要不可欠な近代的制度である。本授業を通して各国の文化政策の動向を洞察し、国内外の比較分析につなげていく。特に世界情勢が常に変化していくことを鑑みて、国際的な視座を含有する文化政策を探求していく。同時に、日本社会の今日的課題に目を向けていくことで、市民社会に文化活動を振興していくための社会構造を考察していく。

【到達目標】

国際社会における民主主義国家を中心にした文化政策を探求していく。特に 20 世紀のアメリカ、ヨーロッパ（イギリス・フランス・ドイツ）、日本を取り上げ、それぞれの国家の歴史的背景と文化的状況を比較していく。さらに第二次世界大戦や、冷戦構造、そして東西分断をしていたベルリン壁の崩壊を経て、世界の国家体制が大きな変化し、その体制は政治・経済とともに文化政策にも大きな影響を与えている。そのなかでも文化支援を行う公的機関や NPO、民間組織の存在は、各国ごとに構造や規模、運営方法が異なる。さらに各国の経済・文化振興を図るために取り入れられた文化施設の設立、万国博覧会やオリンピックといった大型イベント、その流れで登場してきた地域プロジェクトや国内芸術祭などによる文化交流事業を検証する。日々刻々と変化していく世界の状況をグローバルな視点で見つめていき国際社会の一員として文化支援の在り方を、各国の具体的な事例から考察していく。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式で行う。テキストは用いず毎回配布資料を用意する。参考文献については授業内で提示する。授業内でワークショップやディスカッションを行う場合がありますので、積極的な発言や行動を求めます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	文化政策と国際比較（ガイダンス）	現代社会のなかで文化政策とは何かを考察する
第 2 回	20 世紀のアメリカ①	近代国家への道（美術館設立の開始）
第 3 回	20 世紀のアメリカ②	世界恐慌とニューディール政策など
第 4 回	20 世紀のアメリカ③	第二次世界大戦以後の文化戦略
第 5 回	冷戦時代の文化政策	マッカーシズム、宇宙開発ほか
第 6 回	20 世紀のヨーロッパ：イギリス①	ミュージアム大国として博物館や万国博覧会の始まりを探る。

第 7 回	20 世紀のヨーロッパ：イギリス②	戦後処理としてのインスティテューション（アーツカウンシル）を知る。
第 8 回	20 世紀のヨーロッパ：ドイツ①	ナチズムの影響（オリンピック、戦争という負の遺産）を学ぶ
第 9 回	20 世紀のヨーロッパ：ドイツ②	戦後復興（博物館島・ドクメンタ・ミュンスター彫刻プロジェクト）を知る。
第 10 回	20 世紀のヨーロッパ：フランス①	国家主導型文化支援「文化財保護」ユネスコ・世界遺産などを学ぶ。
第 11 回	20 世紀のヨーロッパ：フランス②	地方行政へにシフトする文化政策を探る。
第 12 回	日本の文化政策①	世界と日本をつなぐ文化政策（明治～昭和初期）
第 13 回	日本の文化政策②	地域社会と文化振興「ソーシャル・インクルージョン」ほか。
第 14 回	世界の文化予算	国際比較によって現実を知る。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回授業のレジュメや参考書類はファイルにしておき、自分で調べた資料などを追加していけるようにしましょう。日頃から新聞・ニュースなどを通じて国際政治や社会動向について目を触れておくこと。文化芸術に関する専門知識や世界史や歴史的考察を身につけていくことも必要となります。専門誌や文献、関連する書籍を通じて現在の文化動向の概観を掴むこと。また、日ごろから文化芸術に触れる機会や興味を増やしておくことがいいでしょう。学習時間は、予習・復習ともに各自で考えて進めてください。準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しません。

【参考書】

「文化政策入門」池上惇、端信之、福原義春、堀田力（共に編者）、2001、丸善ライブラリー
「文化政策学」後藤和子著、2001、有斐閣コンパクト
「地域主権の国 ドイツの文化政策」藤野一夫・秋野有紀、2017 m 美学出版

【成績評価の方法と基準】

定期試験（割合 %）40 %
定期試験（評価基準、評価方法）総計 100 点
小論文（60 点）と用語解説（20 点 x 2 問）の記述試験。全ての問題に解答すること。
小論文・レポート（割合 %）40 %
小論文・レポート（評価基準、評価方法）
小論文のレポート課題（学期内に 1 点）
締切厳守（遅れた場合が、減点はするが学期内であれば受け付ける）

授業後にリアクションペーパー 20 %

※授業に対する感想や意見を記入して提出すること。

※無記名や記述のないものは無効。

【学生の意見等からの気づき】

本年度新規科目につきアンケートを実施していません。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布・課題提出（質問）などのために連絡事項先を明記します。
嘉藤笑子：kotorismile@gmail.com

【その他の重要事項】

徳島県神山町のアーティスト・イン・レジデンス評価委員（2005 - 2018）
Art Autonomy Network(2005-2019)
向島学会副理事長（2005 - 現職）
すみだ向島 EXPO（2020、2021、2022）
KAB Library and Residency の運営（2019 - ）
「ととの温泉美術館」愛知県蒲郡市（2023）ゲスト・キュレーター。など。
地域社会と文化振興について実質の問題や方策を協議していくときに具体例として話題にしていく。

【Outline (in English)】

With the development of global society, the arts have become internationalised and have built a borderless value system. Cultural policy is heavily involved in international politics and is closely related to the policies and political philosophies of individual countries. It is a cultural policy that has developed in liberal states, particularly in Europe and the USA. It is also an essential modern system for the development and promotion of art and culture in Japan. Through this course, students will gain insight into the trends in cultural policy in various countries (mainly the USA, UK, Germany, and France), which will lead to a comparative analysis of domestic and international cultural policies. In particular, we will explore cultural policies that contain an international perspective in view of the constantly changing global situation. At the same time, by turning our attention to the contemporary challenges of Japanese society, we will examine the social structure for the encouragement of cultural activities in civil society.

ART100LA

芸術 A

2017 年度以降入学者

小澤 慶介

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 5/Thu.5

単位数：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

近代以降の美術の作品や歴史を時代背景とともに概観する。その際、哲学思想や社会学、文化人類学など、芸術に関連する学問領域の議論も参照する。それは、同時代を表象する芸術と社会の関係性を考察する力を養うことでもある。

【到達目標】

近代における芸術の変容を、それを成立させている社会や時代思潮の変化とともに追う。その過程で、近代社会と芸術の関係を考察する力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

各回、近代および現代アートの作品や運動、展覧会などに関するスライドを見せながら解説をする。授業の途中でも質問に応じ、学生とのコミュニケーションを図りながら進めてゆく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	芸術とは何か	本授業において、どのようなものあるいはことを「芸術」と呼ぶかについて。
2	絵画の歩み	ギュスターヴ・クールベやエドゥアール・マネなど、絵画の可能性を切り開いた芸術および思考について。
3	絵画が表すリアリティ	具象的な絵画から抽象的な絵画へと至る道を、第一次世界大戦に着目しながら描き出す。
4	眼から頭脳へ	マルセル・デュシャンとコンセプチュアル・アートについて考える。
5	複製技術の到来と芸術の地殻変動	写真術の誕生とそれが芸術に与えた衝撃について考える。
6	写真の存在論	写真が芸術になるとき、それは世界の何を切り取って伝えているのかについて考える。
7	彫刻とインスタレーション	彫刻の歩みについて、19 世紀末フランスのオーギュスト・ロダンから眺める。
8	映像の誕生	19 世紀末フランスのリリュミエール兄弟やアメリカのエジソンが発明した映像とそれが開く文化について考える。
9	スペクタクルの社会と映像	テレビジョンやインターネットの到来と映像作品の関係を考える。
10	パフォーマンスとアート	生身の体を表現の媒体とするパフォーマンスを時代や社会背景の関係性において考える。
11	大正デモクラシーと芸術	自由の実践と権力への抵抗のかたちについて考える。

- 12 戦後日本の前衛芸術の歩み 「反芸術」と言われた戦後日本の前衛芸術運動を紹介しながら、現代の日本のアートと時代の関係を考える。
- 13 授業内試験 小論文の執筆と提出。
- 14 多様化する現代の芸術 都内で行われている展覧会を同時代との関係で捉え、考察する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テーマに関連する作品が展示してある展覧会あるいは美術館に行つて、実物を見ること。授業で出てきたキーワードについて、関連文献でさらに調べる。各回 30 分程度の復習を標準とする。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて授業時にプリントを配布する。

【参考書】

現代美術用語辞典 <https://artscape.jp/dictionary/modern/>

【成績評価の方法と基準】

授業内試験を実施。成績評価は、授業内試験（100%）による。

【学生の意見等からの気づき】

展覧会やシンポジウムなどに関する情報や現場での経験にも触れる。

【Outline (in English)】

【Outline】 This series of lectures aims to give an overview of the history of modern art with reference to other academic disciplines like philosophy, sociology or anthropology. This means that students are encouraged to grasp art as a representation of the contemporary society. Towards the end of the course, students attend an examination and write a short essay.

【Learning Objectives】

Following the transformation of art in the modern age in relation to that of society and the cultural climate, the students nurture an ability to envisage a relationship between art and modern society.

【Learning activities outside of classroom】

Students are encouraged to visit art museums and galleries in order to discover art today as well as look into the terminologies introduced in the course. In addition, it is recommended that each lecture be reviewed for 30 minutes.

【Grading Criteria/Policy】

Towards the end of the course, there will be an exam to evaluate student achievement. (100%)

ART100LA

芸術 B

2017 年度以降入学者

小澤 慶介

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 5/Thu.5

単位数：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

1990 年代以降のグローバリゼーションと芸術の関係について考察する。新自由主義と芸術の関係について、国際展や芸術祭、アートフェア、美術館の民営化などをとおして考察する。

【到達目標】

政治や経済と密接な関係をもつ現代アートのあり方を多角的に考察する。時代の先行指標となり既存の価値に問いを投げかける現代アートのあり方を踏まえ、現代のグローバル化した世界のこれからを探る思考力と洞察力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

各回、近代および現代アートの作品や運動、展覧会などに関するスライドを見せながら解説をする。授業の途中でも質問に応じ、学生とコミュニケーションを図りながら進めてゆく。また、必要に応じてテーマに関連する展覧会を訪ねるよう促す。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	アート界とアートの関係について（オリエンテーション）	アートをアートとして成り立たせる制度との関係で考える。
2	アート界の仕組み	現代アートを動かしているアート界の仕組みと運動について概説する。
3	美術館と展覧会の歴史	時代や社会背景とともにあり方が変わる美術館の今と、時代や社会を鋭い視点で表した展覧会を紹介する。
4	ヨーロッパ中心主義の終わり？	モダニズム - ポスト・モダニズムの考えを紹介しながら、ヨーロッパ中心主義を問う作品について考察する。
5	国際展の時代	ヴェネチア・ビエンナーレほか、1990 年代以降加速的に増加した国際展とその社会的機能について考察する。
6	グローバリゼーションと多文化主義	大地の魔術師たち展やドクメンタ 11 などをおして、他者の表象の移り変わりについて考える。
7	多文化主義のその後	近年のトランスナショナルなアートとアーティストについて紹介し、グローバリゼーションの影を問う。
8	ドクメンタ 14 から見える世界	新自由主義が生み出してきた非対称な世界とドクメンタ 14 (2017) について考える。
9	ドクメンタ 15 とエコシステムの実践	住みやすい環境を整える技としてのアートとその実践について。

10	ドクメンタ 15 とコレクティブについて	個ではなく、なぜ集団で活動するのかについて、新自由主義との関係で考える。
11	現代アートと地域社会	2000 年代以降、全国各地で開催されるようになっていく芸術祭について、地域の特性と展示内容の関係を考える。
12	現代アートとアーティスト・イン・レジデンス	アーカスプロジェクトの実践をとおして、先鋭的な現代アートと地域社会を結ぶ回路作りを考える。
13	授業内試験	小論文の執筆と提出。
14	2024 年の芸術を考える	まとめと来るべき時代とますます多様になる芸術表現について考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テーマに関連する作品が展示してある展覧会あるいは美術館に行つて、実物を見ること。授業で出てきたキーワードについて、関連文献でさらに調べる。各回 30 分程度の復習を標準とする。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて授業時にプリントを配布する。

【参考書】

現代美術用語辞典 <https://artscape.jp/dictionary/modern/>

【成績評価の方法と基準】

授業内試験を実施。成績評価は、授業内試験（100%）による。

【学生の意見等からの気づき】

展覧会やシンポジウムなどに関する情報や現場での経験にも触れる。

【Outline (in English)】

【Course Outline】 This series of lectures is intended to overview the relationship between art and globalization from the 1990s. By touching upon Venice Biennale, Documenta, art fairs and art museum privatization, students are encouraged to consider contemporary art practice in relation to neo liberalism. Towards the end of the course, students attend an exam and write a short essay.

【Learning Objectives】

Students are encouraged to approach contemporary art in multiple ways that is profoundly related to politics and economics today. With contemporary art, which questions preconceived ideas and sheds light on a path to the future, they will also gain an insight into the globalized society of today.

【Learning activities outside of classroom】

Students are encouraged to visit art museums and galleries in order to discover art today as well as look into the terminologies introduced in the course. In addition, it is recommended that each lecture be reviewed for 30 minutes.

【Grading Criteria/Policy】

Towards the end of the course, there will be an exam to evaluate student achievement. (100%)

ART100LA

芸術 A

2017 年度以降入学者

中川 三千代

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 4/Thu.4

単位数：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

芸術の中でも主に西洋絵画、加えて彫刻・装飾美術を取り上げ、ルネサンス以降の西洋美術史と欧米での近代的な美術館の成立について学びます。これを通して、美術が社会にどう関わってきたか、現在どう関わっているかについて考えます。

【到達目標】

- 1) ルネサンス以降の西洋絵画、彫刻・装飾美術に関する知識を深め、様々な視点から作品を鑑賞できる。
- 2) 西洋絵画が歴史的にどのような変遷をたどっていったかを学び、絵画の背景にある歴史を理解することができる。
- 3) 美術館の成立過程について、近代の美術館がどのように成立したか、歴史的な背景を含めて理解できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

スライドでの講義、作品鑑賞を中心に行います。また、授業内でそれぞれのテーマに関する簡単なレポートを実施し、理解度の確認を行います。

レポートや質問については、適宜講義内で取り上げてフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス・概要説明	授業評価、進め方に関するガイダンスを実施する。各回で扱う内容について概説する。
第 2 回	西洋絵画入門	西洋絵画におけるジャンル分けを解説し、主なジャンルの作品を紹介する。
第 3 回	風景画の成立	特に風景画について、ジャンルとしての成立から印象派に至るまでの流れを解説する。
第 4 回	ルネサンス美術	ルネサンス美術の代表的な作家・作品を紹介しその移り変わりを解説する。
第 5 回	バロック・ロココ美術	バロック、ロココ美術の代表的な作家・作品を紹介しその移り変わりを解説する。
第 6 回	新古典主義・ロマン主義	フランス革命期の絵画について、主題の変化や背景の理念等に触れながら作品を紹介する。
第 7 回	印象派	印象派の作家・作品およびその時代背景・技法について解説する。
第 8 回	ポスト印象派・新印象派	印象派に強く影響を受けた画家を中心に、作家・作品を紹介する。
第 9 回	世紀末から 20 世紀	世紀末から第一次世界大戦前までの西洋絵画の潮流・運動について概説する。

第 10 回	彫刻	西洋の彫刻について、ロダン及びロダン以降の近代彫刻を中心に概説する。
第 11 回	万博と装飾美術	アール・ヌーヴォー、アール・デコ、及びこれらと関連の深い万国博覧会について解説する。
第 12 回	ルーヴル美術館の設立とフランスの美術館	西洋における美術館の成り立ちについて、ルーヴル美術館を一例として取り上げ、更に現在のフランスの美術館について解説する。
第 13 回	欧米の美術館	欧米の代表的な美術館をいくつか取り上げ、その成立や現在について解説する。
第 14 回	まとめ	授業を通しての総括を実施する。また、各回で触れられなかった事項を補足として取り上げる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学期中に授業内レポートとは別に、授業に関するレポート 1 本を課します。また、授業外でも、多くの作品に接することが望ましいです。本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。そのうち半分程度を授業に関するレポートおよび期末レポート、残りを授業外での作品鑑賞や教養の涵養などにあてるのが想定されています。

【テキスト（教科書）】

教科書は用いません。

【参考書】

授業中に随時指示します。準備の必要はありません。

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業内レポート）；50%

期末レポート；50%

期末レポートの提出を、単位取得の必須条件とします。

ただし、成績は平常点と期末レポートの双方を加味して評価するため、期末レポートを提出しても必ずしも単位が取得できるわけではないことに注意してください。

【学生の意見等からの気づき】

オンラインからの形態変更により、授業レポートの内容等については再検討します。

【その他の重要事項】

第 1 回の授業で、ガイダンスと概要説明を実施するため、極力参加するようにしてください。

【Outline (in English)】

In this course, Western paintings will be mainly discussed, along with sculptures and decorative arts, in order to learn about the Western art history since the Renaissance, and the establishment of the art museums in the Western society. Students will learn about how art has contributed to the society.

The goal of the course is following:

- 1) Acquiring the knowledge on Western paintings, sculptures and decorative arts since the Renaissance, and the skill of viewing from various perspectives.
- 2) Acquiring the knowledge on the Western art history since the Renaissance, and understanding the background of the paintings of respective eras.
- 3) Acquiring the knowledge on the establishment of the art museums in the Western society, and learning about how art has contributed to the society.

The lecture will be conducted online using the slides including the picture of art works. A simple report will be requested every class for checking your understanding on the theme. Also, you can add a question about the lecture. You can get some feedbacks for the report and questions on the next class. In addition to weekly reports, a term paper is requested.

No textbooks are designated. References for art works would be given in the lecture.

Although no preparation is requested, viewing art works is recommended for more fruitful experience. I expect you of spending two hours per week for the lecture, and for example, spending one hour for weekly reports and a term paper, and one hour for viewing art works.

Your grade in this course is to be evaluated based on the following basis.

Weekly report: 50 %

Term paper: 50 %

Note that the term paper is mandatory, but not enough, to get the pass-mark.

The first class is guidance and introduction for the course. I expect you to view it if you seriously consider taking the course.

ART100LA

芸術 B

2017 年度以降入学者

中川 三千代

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 4/Thu.4

単位数：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

明治・大正・昭和初期の日本における西洋美術の受容について、作家の視点と観衆の視点から学びます。また、日本の近代美術館の成立過程や歴史、現代の美術館の機能や役割について学びます。

【到達目標】

- 1) 江戸期から大正期の作家たちが西洋美術技法をどう取り入れたかを学ぶ。
- 2) 明治期から昭和初期にかけて、西洋美術作品がどう展覧されたかを学ぶ。
- 3) 美術館の機能と役割について理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

スライドでの講義、作品鑑賞を中心に行います。また、授業内でそれぞれのテーマに関する簡単なレポートを実施し、理解度の確認を行います。レポートや質問については、適宜講義内で取り上げてフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス・概要説明	授業評価、進め方に関するガイダンスを実施する。各回で扱う内容について概説する。
第 2 回	伝統的な日本の絵画	伝統的な日本の絵画について江戸時代を中心に、代表的な作家と作品を取り上げる。
第 3 回	明治・大正期の日本画	明治・大正期の日本画について、その代表的な画家と作品を取り上げ、その変遷を概説する。
第 4 回	洋風画から洋画へ	洋画の影響や洋風画の流行、および明治初期の洋画の成立に関して、作品を取り上げつつ概説する。
第 5 回	明治・大正期の日本の洋画	西洋絵画技法の導入により成立した明治・大正期の洋画について、その成立過程と初期の作品を解説する。
第 6 回	日本の近代彫刻	ロダン彫刻の需要を中心に、明治・大正期の日本における彫刻を取り上げる。
第 7 回	西洋美術品の流入	大正から昭和にかけて西洋美術品の輸入を試みた活動をいくつか取り上げて解説する。
第 8 回	仏展・日仏芸術社	初期の西洋美術品流入におけるトピックとして、仏蘭西現代美術展およびその運営母体の日仏芸術社を取り上げる。

- | | | |
|--------|-------------------|---|
| 第 9 回 | 黎明期の日本の美術館 | 日本における美術館制度の成立過程を、展覧会および美術館設立への運動を中心に解説する。また、黎明期の美術館として東京府美術館の設立過程を中心に解説する。 |
| 第 10 回 | 美術館の役割（展示・作品収集） | 美術館の役割を規定した法律、及び美術館における展示と作品収集について解説する。 |
| 第 11 回 | 美術館の役割（保存修復） | 美術館の役割の 1 つである保存修復に関して、具体例を挙げて解説する。 |
| 第 12 回 | 美術館の役割（調査研究・教育普及） | 調査研究、教育普及について、活動の例をあげて解説する。 |
| 第 13 回 | 美術館の外の美術 | パブリックアート、アートプロジェクトなどの、美術館の外での芸術活動を取り上げる。 |
| 第 14 回 | まとめ | 授業を通しての総括を行う。また、各回で触れられなかった事項を補足として取り上げる。 |

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学期中に授業内レポートとは別に、授業に関するレポート 1 本を課します。また、授業外でも、多くの作品に接することが望ましいです。本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。そのうち半分程度を授業に関するレポートおよび期末レポート、残りを授業外での作品鑑賞や教養の涵養などにあてることが想定されています。

【テキスト（教科書）】

教科書は用いません。

【参考書】

授業中に随時指示します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業レポート）：50%
 期末レポート：50%
 期末レポートの提出を、単位取得の必須条件とします。ただし、成績は平常点と期末レポートの双方を加味して評価するため、期末レポートを提出しても必ずしも単位が取得できるわけではないことに注意してください。

【学生の意見等からの気づき】

オンラインからの形態変更につき、授業レポートの内容等は再検討します。

【その他の重要事項】

第 1 回の授業で、ガイダンスと概要説明を実施するため、極力参加するようにしてください。

【Outline (in English)】

In this course, how the Western art was introduced in Japan during the Meiji/Taisho/Showa era will be discussed from the artists' and people's point of view. The origin and history of art museums in Japan, and also the function and role of art museums today will be discussed.

The goal of the course is following:

- 1) Acquiring the knowledge how the Western art was introduced to the artists in Japan during the Edo/Meiji/Taisho/Showa era (1600s - early 1900s).
- 2) Acquiring the knowledge how the Western art was exhibited to the public during the Meiji/Taisho/Showa era (1860s - 1930s).
- 3) Acquiring the knowledge on the functions of art museum.

The lecture will be conducted online using the slides including the picture of art works. A simple report will be requested every class for checking your understanding on the theme. Also, you can add a question about the lecture. You can get some feedbacks for the report and questions on the next class. In addition to weekly reports, a term paper is requested.

No textbooks are designated. References for art works would be given in the lecture.

Although no preparation is requested, viewing art works is recommended for more fruitful experience. I expect you of spending two hours per week for the lecture, and for example, spending one hour for weekly reports and a term paper, and one hour for viewing art works.

Your grade in this course is to be evaluated based on the following basis.

Weekly report: 50 %

Term paper: 50 %

Note that the term paper is mandatory, but not enough, to get the pass-mark.

The first class is guidance and introduction for the course. I expect you to view it if you seriously consider taking the course.

LIT200LA

日本文学と文化 L A

2017 年度以降入学者

サブタイトル：

阿部 真弓

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 5/Mon.5

単位数：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

絵巻の鑑賞方法等について解説した後、院政期に作られたとされる国宝『源氏物語絵巻』について講義します。種々の源氏絵、また現代のマンガ等とも比較しながら、『源氏物語』がどのように解釈され、絵画化されてきたかを考察します。『源氏物語絵巻』を学ぶことを通し、日本の古典文学や美術に関する理解を深めます。

【到達目標】

- ① 絵巻に関する基礎的な知識を習得する。
- ② 『国宝 源氏物語絵巻』の特質を理解する。
- ③ 平安時代の人々が『源氏物語』をどのように解釈し、イメージしたかについて理解する。
- ④ 現代に至るまで、『源氏物語』がどのように絵画化されてきたか、源氏絵の様相を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

パワーポイントを使い、講義します。授業のはじめに、学習支援システムにアップロードされた受講生からの質問や意見を取り上げてフィードバックし、前回授業の振り返りを行います。現代語訳のプリントを用いる等、古典文学の読解が苦手な人に配慮しつつ、授業を進めます。

なお、状況によって、オンライン授業となる可能性があります。その際は、学習支援システムを通じて、連絡します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の概要
第 2 回	絵巻とは (1)	絵巻の歴史について
第 3 回	絵巻とは (2)	絵巻に見られる技法について
第 4 回	絵巻とは (3)	絵巻の鑑賞方法について
第 5 回	『源氏物語絵巻』 (1)	『源氏物語絵巻』概説
第 6 回	『源氏物語』第一部概説	『源氏物語』第一部の解説
第 7 回	『源氏物語』第一部概要	『源氏物語』第一部のあらすじ
第 8 回	『源氏物語絵巻』 (2)	『源氏物語絵巻』蓬生巻について
第 9 回	『源氏物語』第二部概説	『源氏物語』第二部の解説およびあらすじ
第 10 回	『源氏物語絵巻』 (3)	『源氏物語絵巻』柏木巻 (一) について
第 11 回	『源氏物語絵巻』 (4)	『源氏物語絵巻』柏木巻 (三) について
第 12 回	『源氏物語絵巻』 (5)	『源氏物語絵巻』横笛巻について
第 13 回	『源氏物語絵巻』 (6)	『源氏物語絵巻』鈴虫巻 (二) について
第 14 回	総括	授業のまとめ、試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

授業内容を復習し、理解した上で、次の授業に臨むようにすること。

【テキスト（教科書）】

プリントを配布します。

【参考書】

参考文献は授業中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

学期末レポート (70%)、平常点 (30%) によって評価します。レポートは【到達目標】①～④に照らして採点します。また平常点については、毎回、学習支援システムに提出してもらった課題によって、授業の理解度を確認します。

【学生の意見等からの気づき】

パワーポイントのスライドのプリントアウトにノートを取ってもらう形を、今年度も継続します。学習支援システムにアップロードされた質問やコメントは、次週の講義でできる限り紹介・回答し、疑問点を残さないようにしていきます。

【Outline (in English)】

This course deals with *The Tale of Genji illustrated Scrolls* (源氏物語絵巻, designated a National Treasure) and the other works (including Manga) painted *The Tale of Genji*.

The aim of this course is to help students acquire an understanding of Japanese classical literature and art.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end report : 70%, Short reports : 30%.

LIT200LA

日本文学と文化 L B

2017 年度以降入学者

サブタイトル：

阿部 真弓

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 5/Mon.5

単位数：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

安珍・清姫伝説として知られる、道成寺にまつわる説話について講義します。絵巻や能・歌舞伎の題材として有名なこの説話が、これまで人々にどのように享受されてきたのかについて学び、日本の古典文学や古典芸能に関する理解を深めます。

【到達目標】

- ①説話文学の特質について理解する。
- ②絵巻に関する基礎的な知識を習得する。
- ③能、歌舞伎など古典芸能に関する基礎的な知識を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

パワーポイントを使い、講義します。授業のはじめに、学習支援システムにアップロードされた受講生からの質問や意見を取り上げてフィードバックし、前回授業の振り返りを行います。現代語訳のプリントを用いる等、古典文学の読解が苦手な人に配慮しつつ、授業を進めます。

なお、状況によって、オンライン授業となる可能性があります。その際は、学習支援システムを通じて、連絡します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の概要
第 2 回	説話について	説話文学に関する解説
第 3 回	道成寺にまつわる説話	説話集に収められた道成寺説話
第 4 回	絵巻について	絵巻の鑑賞方法に関する解説
第 5 回	道成寺縁起絵巻 (1)	『道成寺縁起絵巻』鑑賞
第 6 回	道成寺縁起絵巻 (2)	『道成寺縁起絵巻』解説
第 7 回	道成寺縁起絵巻 (3)	熊野信仰について
第 8 回	道成寺縁起絵巻 (4)	『道成寺縁起絵巻』の異本について
第 9 回	能について	能の歴史・鑑賞の仕方に関する解説
第 10 回	能『道成寺』(1)	能『道成寺』を読む
第 11 回	能『道成寺』(2)	能『道成寺』解説
第 12 回	能『道成寺』(3)	能『道成寺』鑑賞
第 13 回	道成寺物について	日本伝統芸能における「道成寺」の解説
第 14 回	総括	授業のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。
授業内容を復習し、理解した上で、次の授業に臨んでください。

【テキスト（教科書）】

適宜、プリントを配布します。

【参考書】

参考文献は授業中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

学期末締切のレポート（70%）、平常点（30%）によって評価します。レポートは【到達目標】①～③に照らして採点します。また平常点については、毎回、学習支援システムに提出された課題によって、授業の理解度を確認します。

【学生の意見等からの気づき】

授業に関する質問やコメントは、次以降の講義でできる限り紹介・回答し、疑問点を残さないようにしていきます。

【Outline (in English)】

This course deals with the picture scrolls *Dojoji Engi* and the Noh program *Dojoji*.

The aim of this course is to help students acquire an understanding of Japanese classical literature and art and performing arts.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end report : 70%, Short reports : 30%.

LIT200LA

日本文学と文化 L C

2017 年度以降入学者

サブタイトル：中世日本文学と仏教

今泉 隆裕

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 5/Fri.5

単位数：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では能（謡曲）とその周辺事項について、とくに日本仏教とのかかわりについて考える。

俳句や短歌が固定した形式をもつゆえに、かえって人々の想像力を刺激するように、能もいくつかの決まった形式をもっている。しかも、この形式（話の枠）に、この芸能が胎動した当時の時代状況や、人々の期待が反映されていることはいうまでもない。どのような状況下で、どのようなことがこの芸能に要請されたのか。どのような歴史社会の影響を受けたためにそれらの形式が確立され、その形式からどのような想像力が新たに促がされたのか。ここでは、とくに能と宗教文化（おもに日本仏教）との関連を紹介しながら、その一端を垣間見たいと考える。

とはいえ、能に関する知識はそれほど一般的ではない。はじめの数回、能楽に関する入門的内容をふまえることになる。そののち勸進興行と能という視点から、一般的に「夢幻能」といわれるもの、なかでも幽霊を主人公（シテ）とする曲を主に扱う。や、離ればなれになった親子の再開を描く、いわゆる「親子物狂能」を取り上げ、その周辺的な事柄を紹介する。

また、時間に余裕があれば、近代における能楽の動向を紹介しつつ、文化がいかに歴史社会とのかかわりの中で存続するのか（あるいは消滅するのか）を考える機会も持ちたい。

※夢幻能に関する講義が「日本文学と文化（前期）」（旧「文学Ⅰ」）、おもに親子物狂能に関する講義が「日本文学と文化（後期）」（旧「文学Ⅱ」）となる予定である。ただし、講義内容はその都度変更する場合がある。

【到達目標】

文芸作品が歴史社会とのかかわりのなかで、いかに規制されるのか、また、その規制された視点がどのような想像を促し、どのような表現を創造するのか、その一端を垣間見る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

授業形態は、講義形式とする。

フィードバックするためにも毎回リアクションペーパーを記入させる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	能楽入門①	能楽の歴史、基本的な用語などについて解説する（5 回程度）。
2	能楽入門②	上記、能楽入門（つづき）VTR で能にふれ、都度入門的な内容に言及する。
3	能楽入門③	上記、能楽入門（つづき）舞台について説明する。
4	能楽入門④	上記、能楽入門（つづき）演者について説明する。

5	能楽入門⑤	上記、能楽入門（つづき）曲種について説明する。
6	夢幻能について① （幽霊能について）	夢幻能のなかでも幽霊を主人公（シテ）とするものを取り上げ、その特徴について論じる（9 回程度）。 ここでは以下のような項目を取り上げる予定である。 ・鑑賞 ・本説（典拠）と能との比較検討 ・夢幻能（幽霊能）の特徴とその機能について ・シテ（幽霊）とワキ（僧ワキ）との関係 ・宗教学からみた能の幽霊の特殊性 ・僧ワキの機能についてなど
7	夢幻能について② （幽霊能について）	上記、夢幻能について（つづき）〈求塚〉①概要
8	夢幻能について③ （幽霊能について）	上記、夢幻能について（つづき）〈求塚〉②本説（典拠）について
9	夢幻能について④ （幽霊能について）	上記、夢幻能について（つづき）〈求塚〉③鑑賞
10	夢幻能について⑤ （幽霊能について）	上記、夢幻能について（つづき）〈鶴飼〉①概要
11	夢幻能について⑥ （幽霊能について）	上記、夢幻能について（つづき）〈鶴飼〉②典拠について説明する。
12	夢幻能について⑦ （幽霊能について）	上記、夢幻能について（つづき）〈船橋〉①概要
13	夢幻能について⑧ （幽霊能について）	上記、夢幻能について（つづき）〈船橋〉②本説（典拠）について説明する
14	夢幻能について⑨ （幽霊能について）	上記、夢幻能について（つづき）前期まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内で指示した課題にしっかり取り組む。

本講義ではいくつかの曲を取り上げる予定である。

その際には【参考書】『謡曲集』『謡曲百番』等で本文を事前に確認することが望ましい。

本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。必要な際は授業内で指示する。

【参考書】

本文

『謡曲集』上・下（表章日本古典文学大系、岩波書店）

『謡曲百番』（新日本古典文学大系、岩波書店）

『謡曲集』一・二（日本古典文学全集、小学館）など

入門書

西野春雄『能・狂言・風姿花伝』（新潮社、1992 年）など

ほかは授業内で指示する。

【成績評価の方法と基準】

出席状況と、学期末の授業内レポートを持って評価する。目安としてはレポート 80 %、平常 20 % とする。ただし、出席状況だけでは判断しない。したがって、レポートを提出しないものは評価できないと考えて下さい。出席はあくまでレポートの評価を補うものとなります。

講義内容の曲解や、また講義内容に言及しないレポートの評価は低くなることは言うまでもありません。到達目標を参照し、それを加味したレポートを作成して下さい。

【学生の意見等からの気づき】

試験解答をみていると、そもそも質問の意味を了解していないものが散見される。能に関する知識は、あまり一般的ではないので、図書館等を積極的に活用し、理解を深めてほしい。

【学生が準備すべき機器他】

使用しません

【その他の重要事項】

※それぞれのテーマを何回講義するかは未定である。

※取り上げるテーマは進捗等、都合により変更されることがあります。

【None.】

None.

【None.】

None.

【None.】

None.

【None.】

None.

【None.】

None.

【Outline (in English)】

In this lecture, we will think about Noh (Kayo) and its surroundings, especially concerning Japanese Buddhism.

Haiku and Tanka have a fixed form, so they stimulate the imagination of people. It is needless to say that this form (the framework of the story) reflects the circumstances and expectations of people when this entertainment is created. Under such circumstances, what was expected for this entertainment? what kind of historical society did affect the establishment of the form? What kind of imagination from that form was newly promoted?

The goals of this course are to Understand Nogaku.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Final grade will be calculated according to the following process term-end examination (80%), and in-class contribution (20 %).

LIT200LA

日本文学と文化LD

2017年度以降入学者

サブタイトル：中世日本文学と仏教

今泉 隆裕

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 5/Fri.5

単位数：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では能（謡曲）とその周辺事項について、とくに日本仏教とのかかわりについて考える。

俳句や短歌が固定した形式をもつゆえに、かえって人々の想像力を刺激するように、能もいくつかの決まった形式をもっている。この形式（話の枠）に、この芸能が胎動した当時の時代状況や、人々の期待が反映されていることはいうまでもない。どのような状況下で、どのようなことがこの芸能に要請されたのか。どのような歴史社会の影響を受けたためにそれらの形式が確立され、その形式からどのような想像力が新たに促されたのか。

本講義では、とくに能と宗教文化（おもに日本仏教）との関連を紹介しながら、その一端を垣間見たいと考える。

とはいえ、能に関する知識はそれほど一般的ではない。はじめの数回、能楽に関する入門的内容をふまえることになる。また時間に余裕があれば、近代における能楽の動向を紹介しつつ、文化がいかに歴史社会とのかかわりの中で存続するのか（あるいは消滅するのか）を考える機会も持ちたい。

そのうち勸進興行と能という視点から、一般的に「夢幻能」といわれるもの、なかでも幽霊を主人公（シテ）とする曲を主に扱う。また、離ればなれになった親子の再開を描く、いわゆる「親子物狂能」を取り上げ、その周辺の事柄を紹介する。

※夢幻能に関する講義が「日本文学と文化LC」（旧「文学I」）、おもに親子物狂能に関する講義が「日本文学と文化LD」（旧「文学II」）となる予定である。ただし、講義内容はその都度変更する場合がある。

【到達目標】

能楽に関する基本的な知識を身につけることを目指す。と同時に、文芸作品が歴史社会とのかかわりのなかで、いかに規制されるのか、また、その規制された視点がどのような想像を促し、どのような表現を創造するのか、その一端を垣間見る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

授業形態は、講義形式とする。

フィードバックするため毎回アクションペーパーを記入させる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	能楽入門（補足①）	入門的事項の補足説明と「日本文学と文化（前期）」（旧「文学I」）の内容をおさらいする（2回程度）。ただし、連続して講義を受けていない学生が多い場合は、内容を変更して対応したい。
2	能楽入門（補足②）	上記、能楽入門 舞台についてほか歴史についても言及したい。

3	夢幻能について① （神能について）	夢幻能のなかでも神を主人公（シテ）とするものを取り上げ、その特徴について論じる（4回程度）。ここでは以下のような項目を取り上げる予定である。 ・鑑賞 ・本説（典拠）と能との比較検討 ・夢幻能（神能）の特徴とその機能について ・シテ（神）とワキ（大臣ワキ）との関係 ・宗教学からみた能の神の特殊性 ・大臣ワキの機能について など
4	夢幻能について② （神能について）	上記、夢幻能、とくに神能について（つづき）〈高砂〉①概要
5	夢幻能について③ （神能について）	上記、夢幻能、とくに神能について（つづき）〈高砂〉②本説（典拠）について説明する
6	夢幻能について④ （神能について）	上記、夢幻能、とくに神能について（つづき）〈高砂〉③鑑賞
7	親子物狂能について①	春学期でみた勸進興行との関連で寺社の霊験譚として、離ればなれになった親子の再開を描く親子物狂能とその特色などについて論じる（6回程度）。ここでは以下のような項目を取り上げる予定である。 ・鑑賞 ・本説（典拠）と能との比較検討 ・〈弱法師〉と俊徳丸説話、さらにその淵源 など
8	親子物狂能について②	上記、親子物狂能について（つづき） 〈隅田川〉①概要
9	親子物狂能について③	上記、親子物狂能について（つづき） 〈隅田川〉②本説（典拠）について説明する。
10	親子物狂能について④	上記、親子物狂能について（つづき） 〈隅田川〉③鑑賞
11	親子物狂能について⑤	上記、親子物狂能について（つづき） そのほかの親子物狂能①〈百万〉ほか
12	親子物狂能について⑥	上記、親子物狂能について（つづき） そのほかの親子物狂能②〈柏崎〉ほか
13	能楽の近代について①	近代化の中で一時期廃れていた能楽がいかに復活したかについて論じ、文化がいかに歴史社会とのかかわりの中で存続するのか（あるいは消滅するのか）を考える（2回程度）。
14	能楽の近代について②	上記、能楽の近代について（つづき）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内で指示した課題にしっかり取り組む。

本講義ではいくつかの曲を取り上げる予定である。

その際には【参考書】『謡曲集』『謡曲百番』等で本文を事前に確認することが望ましい。

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。必要の際は授業内で指示する。

【参考書】

本文

『謡曲集』上・下（表章日本古典文学大系、岩波書店）

『謡曲百番』（新日本古典文学大系、岩波書店）

『謡曲集』一・二（日本古典文学全集、小学館）など

入門書

西野春雄『能・狂言・風姿花伝』（新潮社、1992年）など

ほかは授業内で指示する。

【成績評価の方法と基準】

出席状況と、学期末の授業内レポートを持って評価する。目安としてはレポート 80 %、平常 20 %とする。ただし、出席状況だけでは判断しない。したがって、レポートを提出しないものは評価できないと考えて下さい。出席はあくまでレポートの評価を補うものとなります。

講義内容の曲解や、また講義内容に言及しないレポートの評価は低くなることは言うまでもありません。到達目標を参照し、それを加味したレポートを作成して下さい。

【学生の意見等からの気づき】

試験解答をみていると、そもそも質問の意味を了解していないものが散見される。能に関する知識は、あまり一般的ではないので、図書館等を積極的に活用し、理解を深めてほしい。

【学生が準備すべき機器他】

特にありません

【その他の重要事項】

※それぞれのテーマを何回講義するかは未定である。

※取り上げるテーマは進度等、都合により変更されることがあります。

【None.】

None.

【None.】

None.

【None.】

None.

【None.】

None.

【None.】

None.

【Outline (in English)】

In this lecture, we will think about Noh (Kayo) and its surroundings, especially concerning Japanese Buddhism. Haiku and Tanka have a fixed form, so they stimulate the imagination of people. It is needless to say that this form (the framework of the story) reflects the circumstances and expectations of people when this entertainment is created. Under such circumstances, what was expected for this entertainment? what kind of historical society did affect the establishment of the form? What kind of imagination from that form was newly promoted?

The goals of this course are to Understand Nogaku.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Final grade will be calculated according to the following process term-end examination (80%), and in-class contribution (20 %).

LIT200LA

日本文学と文化LE

2017年度以降入学者

サブタイトル：

伊海 孝充

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 1/Mon.1

単位数：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本の幽霊に纏わる伝承・物語について学ぶ。幽霊の物語はその話が生まれた時代や伝播した環境によって、その姿には大きな隔りがある。この授業では、物語が生まれた土壌について学ぶのと同時に、幽霊が何を表現しているのかを考えていく。

【到達目標】

授業内容は、専門的な文学研究の領域にも及ぶが、専門外の学生にもわかるように説明していく。本講義では、日本の物語がどのような土壌で生まれ、どのような媒介を通して現代まで伝わってきたのかを知ることを目標としている。単に「昔話」の一言では括れない、豊潤な世界を体感してほしい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

まず作品を受講者に分析してもらい、その後解説を加える。授業開始日は5月4日とする。詳しくは学習支援システムを参照すること。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の進め方について具体例をもとに説明する。
第2回	日本の幽霊の特徴	日本の幽霊の伝承・物語について概説する。
第3回	「耳なし芳一」の概要	話の概要と様々な話柄を紹介する。
第4回	「耳なし芳一」と小泉八雲	『怪談』を中心に「耳なし芳一」話の広がりを考える。
第5回	「耳なし芳一」と琵琶法師	阿弥陀寺の伝承について解説する。
第6回	源融と河原院」の概説	話の概要と様々な話柄を紹介する。
第7回	怪談話の歴史	説話文学の中の幽霊
第8回	幽霊の屋敷の歴史	「場所」の重要性を考える。
第9回	「鵜飼いのゆうれい」の概説	話の概要と能「鵜飼」との関係について紹介する。
第10回	鵜飼と殺生	殺生にかかわる物語を参看し、漁師の罪を考える。
第11回	「鵜飼いの幽霊」と日蓮宗	物語成立の背景とその伝播について考える。
第12回	「百物語」の概説	話の概要と百物語に関わる物語を紹介する。
第13回	百物語の座	百物語が行われた場と作法について考える。
第14回	まとめ	幽霊譚を形成と展開を確認する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。授業にのぞむ前に、扱う話を一読していただくことが望ましい。

【テキスト（教科書）】

毎回プリントを配布する。

【参考書】

授業内で指示する。

【成績評価の方法と基準】

授業内の課題70%

学期末レポート30%

【学生の意見等からの気づき】

難解な古文を扱う場合は、専門外の学生も授業についていけるよう心がける。

【Outline (in English)】

This course introduces Japanese ghost traditions and stories to students taking this course. The goals of this course are to understand how those were formed. Students will be expected to read my works before classes. Your study time will be more than four hours for a class. Grading will be decided based on reaction papers (70%), and Term-end report (30%).

LIT200LA

日本文学と文化 L F

2017 年度以降入学者

サブタイトル：

伊海 孝充

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 1/Mon.1

単位数：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本の狐・狸に纏わる伝承・物語について学ぶ。狐と狸は昔話でよく登場する動物だが、人間に災いをもたらすモノとして描かれる一方で、人間に親近性があるモノとして描かれることもある。本講義では、その狐と狸の両義性を学ぶと同時に、人間はこれらの動物に何を投影してきたのかを考えていく。

【到達目標】

授業内容は、専門的な文学研究の領域にも及ぶが、専門外の学生にもわかるように説明していく。本講義では、日本の狸・狐の物語がどのような形成され、どのような媒介を通して現代まで伝わってきたのかを知ることを目標としている。昔話の本質を知り、それを後代へ伝えてほしい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

授業は講義形式に進める。ただし、基本的な話柄を確認するために「まんが日本昔ばなし」などのビデオを用いる。さらに文学作品の広がりを確認するため、視聴覚資料を多用する。鑑賞に際しては、話の疑問点を探しながら集中して観ることが望まれる。また、毎回コメントカードを配布し、それに授業内容に関する疑問点を書いてもらう。それに対する回答は、適宜授業冒頭で行なう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の進め方について具体例をもとに説明する。
第 2 回	「カチカチ山」の概説	話の概要と様々な話柄を紹介する。
第 3 回	残酷な昔話	狸と罪と罰を考える。
第 4 回	「ぶんぶく茶釜」の概説	話の概要と様々な話柄を紹介する。
第 5 回	茂林寺・茶釜	物語の要素と背景を考え。
第 6 回	「たぬきの腹鼓」	狸と腹鼓の結びつきの背景
第 7 回	「きつね女房」の概説	話の概要と様々な話柄を紹介する。
第 8 回	異類婚姻譚	狐と特殊能力
第 9 回	「玉藻の前」の概説	話の概要と様々な話柄を紹介する。
第 10 回	国家を揺るがす狐	狐と災いの関係
第 11 回	「稲荷の物語」の概説	話の概要と様々な話柄を紹介する。
第 12 回	稲荷信仰の多重性	狐への信仰の背景
第 13 回	狐・狸の物語の類似点と相違点	狐・狸の伝承・物語について整理する。
第 14 回	まとめ	狐と狸の物語の展開を確認する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。授業にのぞむ前に、扱う話を一読していただくことが望ましい。

【テキスト（教科書）】

毎回プリントを配布する。

【参考書】

授業内で指示する。

【成績評価の方法と基準】

授業内のコメントカード 70%

学期末レポート 30%

【学生の意見等からの気づき】

映像などの視聴覚資料を用いて、専門外の人にもわかりやすく講義を行なう。

【Outline (in English)】

This course introduces the traditions and stories of Japanese foxes and raccoons to students taking this course. The goals of this course are to understand how those were formed. Students will be expected to read my works before classes. Your study time will be more than four hours for a class. Grading will be decided based on reaction papers (70%), and Term-end report(30 %).

LIT200LA

日本文学と文化 LG

2017 年度以降入学者

サブタイトル：新海誠の文学世界

榎本 正樹

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 3/Tue.3

単位数：2 単位

この授業は「Web 履修抽選対象授業」です。抽選エントリー期間は 2023 年 4 月 3 日（月）10：00～5 日（水）17：00、結果発表は 4 月 6 日（木）22：00（予定）です。履修ガイド (<https://hosei-keiji.jp/ilac/rishuguide2023/>) を確認のうえ、情報システムから期間内にエントリーしてください。

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

新海誠監督のアニメーション映画『君の名は。』（2016 年）は、アニメーション界や映画界を超えた近年の日本映画最大のヒット作品として、多くの観客の支持と共感を得ました。国内観客動員数 1,900 万人を突破、興行収入 250 億円を超える大ヒットとなり、邦画興行収入歴代 3 位、アジア圏では 7 冠達成を記録し、日本のみならず世界各国の記録を塗り替えました。

2019 年には『天気の子』、2022 年には最新作『すずめの戸締まり』が封切られ、アニメファンだけでなく多くの観客に迎え入れられました。

新海誠というクリエイターの名前を、『君の名は。』で初めて知った人が多いかもしれませんが、新海監督のキャリアは 2000 年代初頭にまで遡ることができます。新海作品の根底にあるのは「言葉」に重きを置いた世界造形、言い換えれば「文学」への強い視線です。人と人の繊細なコミュニケーションを、精緻な言葉と独自の映像美学によって表現するその姿勢は、「アニメーションという表現手段を用いた文学」と形容可能なものです。アニメーションというジャンルの枠を越えた同時代の重要な表現者として、新海誠という存在をとりえ直す必要があります。

新海誠は「アニメーション監督」であるとともに「小説家」でもあります。新海は自身の手で代表作のノベライズ（小説化）を手がけていますが、それらは単に映像作品を言葉に置き換えたものではなく、小説作品として自立しています。同一の作者の手による映画と小説を比較検討することで、映像表現と小説表現の違いを検証することが可能です。

本講義では、新海誠の初期作品から最新作まで入手可能な映像作品を参観しつつ、「新海誠の文学世界」を紐解いていきます。国民的アニメーション作家としての地位を築きつつある、同時代の先端的な表現者である新海誠の主要作品を「網羅的に」観賞し、かつ「分析的」に解説する経験を通して、作品批評のための技術を獲得します。

【到達目標】

映像作品であるアニメーションをシーンごとに分析的に解説する技術を身に付け、アニメ固有の表現方法や仕掛けや物語構造などについて、自分の力で読み解き、論述できるレベルを目指します。関連資料を参照し、他者の意見やコメントに目を通し、作品のモデルとなった場所に実際に赴くことで、作品の背景にある文化的、社会的、歴史的、地理的背景について深く学び、作品を客観的に論じる力を得ます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

授業はプレゼンテーションと講義を合わせた形で行います。新海誠監督作品を初期から最新作まで観賞し（時間的な制約から一部となります）、重要なシーンについて解説と分析を加えていきます。アニメーションで重要なのは、シーンを構成する一つひとつのカットです。カットにはクリエイターの「世界そのものへの純粋な視線」が投影されています。

もう一つ重要なのは、言葉（ナレーション、モノログ、対話）です。本授業では新海作品の言葉の要素に特に注目し、物語の中で言葉がどのように作用し、コミュニケーションの主題を提示していくのかを細かく見ていきます。

さらに新海監督自身の言葉、関連資料の紹介や他の論者の考察など、作品をめぐる多様な言説を紹介する機会も設けます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	新海誠、その人と作品について
2	『遠い世界』『彼女と彼女の猫』	最初期作品を概観する
3	『ほしのこえ』	物理的な「距離」と精神的な「距離」
4	『雲のむこう、約束の場所』	装置としての SF
5	『秒速 5 センチメートル』	風景と速度をめぐる物語
6	『星を追う子ども』 前半	「物語」への接近
7	『星を追う子ども』 後半	異界への移動と帰還
8	『言の葉の庭』	映像美学を支える文学性
9	『君の名は。』 前半	「入れ替わり」と「すれ違い」の趣向
10	『君の名は。』 後半	「共苦」する魂のゆくえ
11	『天気の子』 前半	人身御供譚としての構成
12	『天気の子』 後半	「規範」を逸脱するということ
13	『すずめの戸締まり』 前半	移動と出会いの物語
14	『すずめの戸締まり』 後半	震災アニメとしての評価

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

アニメーションを観たり小説を読む際に、受動的に観賞するのではなく、物語の細部について自分の言葉で客観的に書いたり話したりする習慣をつけましょう。授業で取りあげる映像作品や小説を繰り返し観たり読んだりして、その中で得た「気づき」をメモにとったり、疑問点や重要なポイントと思われる箇所についてまとめる作業を随時行ってください。

機会があれば、作品の中に登場する場所に赴く「聖地巡礼」に挑戦してみてください。なぜその場所が選ばれたのか、その場所が物語の各シーンでどのような意味を与えられているのか、体験的に学習してください。本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

榎本正樹『新海誠の世界 時空を超えて響きあう魂のゆくえ』（KADOKAWA、2021 年）

【参考書】

授業で扱う新海誠のノベライズ作品は参考書とします。必要に応じて、個人で入手してください。『小説 秒速 5 センチメートル』『小説 言の葉の庭』『小説 君の名は。』『小説 天気の子』『小説 すずめの戸締まり』とも（以下リンク参照）、角川文庫で入手可能です（電子書籍版もあります）。

<http://www.kadokawa.co.jp/product/321510000146/>

<http://www.kadokawa.co.jp/product/321510000145/>

<http://www.kadokawa.co.jp/product/321603000121/>

<https://www.kadokawa.co.jp/product/321903000333/>

<https://www.kadokawa.co.jp/product/322203001170/>

その他の参考書・参考文献や参考サイトは別途指示します。

【成績評価の方法と基準】

レポートで評価します（100 %）。

試験や小テストはありません。

レポートのテーマは、「授業で取りあげた新海監督作品の中から、一作品または複数の作品を選び、作品論を展開する」というものです。授業内容を踏まえ、自分が選んだ作品について、自分で設定したテーマに基づき、自分の言葉で論を展開してください。

分析の鋭さ、考察の深さ、文章の正確さ、構成の巧みさなどを中心に採点します。詳細は、初回のガイダンス授業時に説明します。

【学生の意見等からの気づき】

専門用語など難易度が高いタームの使用を控え、初級者にも理解しやすい授業を心がけます。

可能な限り映像作品を観る機会を増やします。

【その他の重要事項】

アニメーションや現代日本文学、同時代の表現に関心をもつ学生の履修を歓迎します。

榎本のプロフィールや研究・評論活動は、サイト (<http://enmt.jp>) で確認できます。Twitter (@enmt) での情報発信も行っていますので、履修時の参考にしてください。

【Outline (in English)】

【Course outline】

Shinkai Makoto is Japanese animation director. His animation film is highly acclaimed not only in Japan but also overseas. In 2019, his latest work "Weathering With You" was released. And a new film "Suzume no Tojimari" was released last year. I decode Shinkai's all animation works from various viewpoints.

[Learning Objectives]

The goal of this course is for students to acquire the skills to analytically decipher Makoto Shinkai animations as a visual works, scene by scene, and to be able to discuss in their own words the unique expression methods and narrative structure of animation.

[Learning activities outside of classroom]

When watching animations or reading novels, develop the habit of objectively writing and talking about the details of the story in your own words, rather than just passively watching the film or reading the novel. Your study time will be more than four hours for a class.

[Grading Criteria /Policy]

Grade will be based on reports 100%.

There will be no examinations.

The theme of the report is "Select one or more of Shinkai's works discussed in class and wrapping up the report". Based on the content of the class, develop your own argument in your own words about the work you have chosen, based on the theme you have set for yourself.

LIT200LA

日本文学と文化 LH

2017 年度以降入学者

サブタイトル：現代日本文学と映像表現

榎本 正樹

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 3/Tue.3

単位数：2 単位

この授業は「Web 履修抽選対象授業」です。抽選エントリー期間は 2023 年 4 月 3 日（月）10：00～5 日（水）17：00、結果発表は 4 月 6 日（木）22：00（予定）です。履修ガイド (<https://hosei-keiji.jp/ilac/rishuguide2023/>) を確認のうえ、情報システムから期間内にエントリーしてください。

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代日本文学を原作として映画化された作品の一部を解説を加えながら観賞し、原作小説を講読します。2022 年に劇場公開された以下の作品から 6 作品を選んで取り上げる予定です。

小説（文学表現）と映画（映像表現）を比較対照し、分析を行うことで、言葉と映像それぞれのメディア固有の表現方法について考えを深めるとともに、「文学固有の表現とは何か？」という視点から小説を解説する力の獲得を目指します。

風良ゆう『流浪の月』（李相日監督）

辻村深月『ハケンアニメ!』（吉野耕平監督）

今村夏子『こちらあみ子』（森井勇佑監督）

東野圭吾『沈黙のパレード』（西谷弘監督）

平野啓一郎『ある男』（石川慶監督）

湊かなえ『母性』（廣木隆一監督）

佐藤正午『月の満ち欠け』（廣木隆一監督）

辻村深月『かがみの狐城』（原恵一監督）

*劇場公開順。作品は変更の可能性があります。

【到達目標】

現代日本文学を代表する多様なジャンルの小説を読む経験を重ねることで、複雑な言語構成体としてのテキストから様々な要素を抽出し、整理し、分析し、自分の言葉で批評的に表現することができるようになります。

加えて、個人、社会、性、生、死、ジェンダー、家族、事件、歴史などの諸問題について思考する力を養います。言語表現と映像表現を比較対照することで、メディア固有の表現やメディア間の相互接続性についても理解を深めます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式をとります。原作小説を精読し、作品分析を行った後、映画の一部を解説を加えながら観賞します。映像メディアである映画と言語メディアである小説を比較検討することによって、情報提示、叙述、人物設定、構成など、表現上の相違点を明らかにしていきます。

履修者には、現代日本文学の多様な表現世界や作品固有の表現に触れ、作品について深く思考し、考えをまとめ、批評的な言葉でアウトプットする力が求められます。小説を事前に読んでいなくても理解できる形で授業を進めていきますが、取り上げる作品はすべて文庫化されていますので、事前に読んでから授業に臨む形がベストです。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	ガイダンス授業
2	原作小説の講読 (1)	小説の講読・分析・考察
3	映画観賞 (1)	原作の映画鑑賞と解説・考察
4	原作小説の講読 (2)	小説の講読・分析・考察
5	映画観賞 (2)	原作の映画鑑賞と解説・考察

6	原作小説の講読 (3)	小説の講読・分析・考察
7	映画観賞 (3)	原作の映画鑑賞と解説・考察
8	原作小説の講読 (4)	小説の講読・分析・考察
9	映画観賞 (4)	原作の映画鑑賞と解説・考察
10	原作小説の講読 (5)	小説の講読・分析・考察
11	映画観賞 (5)	原作の映画鑑賞と解説・考察
12	原作小説の講読 (6)	小説の講読・分析・考察
13	映画観賞 (6)	原作の映画鑑賞と解説・考察
14	秋学期授業のまとめ	秋学期授業のまとめと、レポート提出について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に原作小説を読んでいなくても理解できる形で授業を進めていきますが、物語内容や人物関係を把握する上でも、小説を読んで授業に臨むのがベストです。授業で取りあげた小説や映像作品は、授業外の環境で、もう一度読み直し観賞し直すことで、作品の理解を深めるよう努めてください。

レポート提出のための事前準備として、対象作品を精読し、その中で得た「気づき」をメモにとったり、疑問点や重要なポイントと思われる箇所についてまとめる作業を随時行ってください。

本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業で扱う予定の以下の文庫本。

- ・風良ゆう『流浪の月』（創元文芸文庫）
- ・辻村深月『ハケンアニメ!』（マガジンハウス文庫）
- ・今村夏子『こちらあみ子』（ちくま文庫）
- ・東野圭吾『沈黙のパレード』（文春文庫）
- ・平野啓一郎『ある男』（文春文庫）
- ・湊かなえ『母性』（新潮文庫）
- ・佐藤正午『月の満ち欠け』（岩波文庫）
- ・辻村深月『かがみの狐城』（ポプラ文庫）

【参考書】

参考書・参考文献は、教室で指示します。

必要な資料はプリントで配付します。

【成績評価の方法と基準】

レポートで評価します（100%）。

試験や小テストはありません。

レポートのテーマは、「授業でとりあげた小説の中から一作品を選び、作品論を展開する」というものです。授業内容を踏まえ、自分が選んだ小説について、自分で設定したテーマに基づき、自分の言葉で「論」を展開してください。

分析の鋭さ、考察の深さ、文章の正確さ、構成の巧みさなどを見て採点します。詳細は、初回のガイダンス授業時に説明します。

【学生の意見等からの気づき】

専門科目ではないので、現代日本文学になじみのない学生にも分かりやすい言葉で、分析と解説を行うよう心がけます。

【その他の重要事項】

現代日本文学のみならず、映像メディアに関心をもつ学生の履修を歓迎します。

榎本のプロフィールや研究・評論活動は、サイト (<http://enmt.jp>) で確認できます。ツイッター (@enmt) での情報発信も行っていますので、履修時の参考にしてください。

【Outline (in English)】

【Course outline】

We read the original novel after having watched movie works that followed as "Contemporary Japanese literature". I select from the following 6 works in 2022.

We compare movie expression with the literature expression including the same story contents, we are analyzing peculiar expressin words and movies.

【Learning Objectives】

We will read through the original novels after watching films based on contemporary Japanese literature. We plan to highlight the following 6 titles after carefully selecting from the works released in 2022.

By comparing and analyzing literary expressions and visual expressions of the same story events, we will deepen our thoughts about specific expressions and techniques of the book and film media. Our aim to acquire the ability to read novels from the perspective of what is literature-specific expression.

【Learning activities outside of classroom】

Although the class will be conducted in a manner that can be understood without having read the original novel beforehand, it is best to read the novel in order to grasp the content of the story and the relationships between the characters. Students are encouraged to re-read and re-watch the novels and films discussed in class outside of class to deepen their understanding of the works. Your study time will be more than four hours for a class.

[Grading Criteria /Policy]

Grade will be based on reports 100%.

There will be no examinations.

The theme of the report is "Select one of the novels discussed in class and wrapping up the report". Based on the content of the class, develop a "theory" in your own words about the novel you have chosen, based on the theme you have set for yourself.

LIT200LA

外国文学と文化 L A

2017 年度以降入学者

サブタイトル：西洋文学と音楽

鈴木 正道

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 3/Mon.3

単位数：2 単位

この授業は「Web 履修抽選対象授業」です。抽選エントリー期間は 2023 年 4 月 3 日（月）10：00～5 日（水）17：00、結果発表は 4 月 6 日（木）22：00（予定）です。履修ガイド (<https://hosei-keiji.jp/ilac/rishuguide2023/>) を確認のうえ、情報システムから期間内にエントリーしてください。

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は、西洋の文学、特に音楽とかかわりの深い作品を扱います。音声や文字という記号の表現である文学と、直接感性に訴える音の連なりである音楽は、元来切っても切れない関係にあります。「詩」は「うたふ」ものであり、かつて物語は韻律をとまない楽器にのせて語られました。

春学期では、ミュージカルの名作として愛され続けている『レ・ミゼラブル』を、原作を参照しつつ分析します。さらに最も人気の高いオペラの一つである『カルメン』を扱います。次にシェークスピアの名高い『ロミオとジュリエット』を取り上げます。この作品は様々な作曲家により音楽化されています。さらにこの現代への翻案として創られたミュージカル『ウエストサイド物語』を扱います。

【到達目標】

芸術作品を鑑賞しつつ、批評、分析し、それを表現する手法を学びます。

「文学」のようなものは「実用性がない」ように言われがちですが、「衣食足りて」「モノ」から「コト」へと消費が移ってきた現在において、さまざまな知識を身に着けることで、今後の職業生活に必要な「ネタ」を蓄え、さらには自ら探り当てる習慣を身に着けることは大切でしょう。

この授業を履修することで、出版、メディア、教育などの分野で働くうえで必要な基礎的な知識と表現力や探求力を身につけることができます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

教材や資料は学習支援システムに載せます。

まずはヴィクトル・ユゴーによる『レ・ミゼラブル』の原作を概観したうえで、ミュージカルやテレビドラマ版を鑑賞し、分析します。次にほぼ同時期に書かれた小説かつ戯曲をもとに創られたオペラ『カルメン』を扱います。さらに『ロミオとジュリエット』を概観し、鍵となる場面を詳しく検討します。そのうえで音楽家によるさまざまな作品を鑑賞し、分析します。さらに『ロミオとジュリエット』の現代への翻案として創られたミュージカル『ウエストサイド物語』を、元ネタとのかかわりを含めて鑑賞し、分析します。2021 年にスピルバーグ監督による映画が公開されましたが、この授業では主に 1961 年の映画版を取り上げます。時代も背景も異なる状況で書かれた物語にも、シェイクスピアの名高い作品の影が映っていることを見ます。

各作品の鑑賞と分析が一区切りついた時点で、400 字ほどの書き物を学習支援システムの「課題」を通して出させていただきます。やはり学習支援システムを通じてお返しします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	授業の説明、 『レ・ミゼラブル』1 そもそもこれはどのような作品か	ヴィクトル・ユゴー：ロマン主義運動の総帥 小説『レ・ミゼラブル』
2	『レ・ミゼラブル』2 ぶつかる二人の主要人物	ミュージカル： ジャン・ヴァルジャンとジャヴェール
3	『レ・ミゼラブル』3 ハッピーエンドのカップルともう一人（two others）	コゼットとマリウス エポニヌという存在 ジャン・ヴァルジャンという存在
4	『レ・ミゼラブル』4 『カルメン』1	フランスのテレビ局製作：ジェラルド・ドバルデュー主演 原作はメリメの中編小説。書いたのは役人。 オペラを作曲したのはフランス人ビゼー。
5	『カルメン』2 スペインという異郷	序曲と冒頭 「ハバナラ」 「ミカエラの歌」 Femme fatale（運命の／致命的な女）VS 清纯派 「アルカラの竜騎兵」：ロマの踊りが圧巻 歌手も踊る（というよりも踊れない歌手はお呼びでない）：「鈴を打ち鳴らす」
6	『カルメン』3 闘牛場の外で	「闘牛士の歌」 「行進曲」 最終場面：中の祝祭と外の破局 ウィリアム・シェイクスピアの戯曲：元ネタと著作権という考え方 映画版：ゼフィレリ監督 1968 年 冒頭とバルコニーの場面
7	『ロミオとジュリエット』1 誰もが聞いたことのあるあの作家、あの作品、 誰もが見たことのあるあの場面	「騎士たちの踊り」 （シンセサイザーなどによる ELP 版） 決闘の場面／最終場面 シャルル・グノーのオペラ： 冒頭とバルコニーの場面
8	『ロミオとジュリエット』2 どう描くか、演出による違い	決闘の場面 最終場面
9	『ロミオとジュリエット』3 バレエ：セリフがない シェイクスピア演劇	冒頭 「騎士たちの踊り」 （シンセサイザーなどによる ELP 版） 決闘の場面／最終場面 シャルル・グノーのオペラ： 冒頭とバルコニーの場面
10	『ウエストサイド物語』1 誰もが見たことのあるあの振り付け	現代への翻案 『ロミオとジュリエット』との比較： 登場人物と設定の共通点と違い ジャズの表現：裏拍： 冒頭場面 "Tonight" "America" (The Nice による編曲)
11	『ウエストサイド物語』2 移民グループの対立	悪魔の？ 魅惑の？ 減 5 度（増 4 度） 決闘場面 "Cool"

- 14 『ウエストサイド物語』 最終場面
3 永遠のテーマ
どこが、そしてなぜ
「原作」と異なるのか

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

扱われる作品の原作をあらかじめ読んでおいて下さい。さらに AV ライブラリなどで借りて映像作品をみておくといいかと思えます。ただし現在の状況ではそれもなかなか難しいことだと考えられます。インターネットで視聴できるものは私のほうからも紹介しますが、皆さんも独自にいろいろ探してみてください。

1-4:原作の小説『レ・ミゼラブル』を読む。主要登場人物についてまとめる。映画版やドラマ版を選んで視聴する。

5-7：原作の小説『カルメン』を読む。オペラ版を選んで視聴する。

8-11：原作の演劇『ロミオとジュリエット』を読む。映画版やバレエ版を選んで視聴する。

12-14：映画版を視聴する。舞台版を選んで視聴する。

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

決まった教科書はありません。資料、教材を学習支援システムでお配りします。

【参考書】

【参考書 / References】

『大学生のためのレポート・論文術』小笠原喜康、講談社現代新書 1603.

『論文レポートの文章作法』古郡廷治、有斐閣新書 C164

『著作権とは何か』、福井建築、集英社新書 0924A

他にも随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】

各作品の鑑賞と分析が一区切りついた時点で、400 字ほどの書き物を学習支援システムの「課題」を通して出していただき、その評価の合計で成績を出します（100 %）。

【学生の意見等からの気づき】

課題の趣旨が伝わりにくいことがあったようです。わかりやすく示すようにします。

【その他の重要事項】

教室の定員を超える受講希望者があった場合には抽選を行いますので「お知らせ」等をよく確認してください。

【Outline (in English)】

This course deals with occidental literature, especially works adapted for music. Literature, which expresses its objects by signs, and music, which appeals to sentiments by way of sequences of sounds, are closely related to each other. Stories were, in effect, once sung accompanied by musical instruments.

The works dealt with during the spring term will be:

"Les Misérables" (musical), "Carmen"(opera), "Romeo and Juliet" (movie, ballet, opera), "West Side Story" (musical).

Through this course students are expected to get knowledge to appreciate analytically and critically literary and musical works.

Students should read beforehand relevant works. They need also to submit an assignment after having studied each work, for which they must spend at least two hours.

Final grade will be calculated according to the total score of their assignments (100%).

LIT200LA

外国文学と文化 L B

2017 年度以降入学者

サブタイトル：西洋文学と音楽

鈴木 正道

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 3/Mon.3

単位数：2 単位

この授業は「Web 履修抽選対象授業」です。抽選エントリー期間は 2023 年 4 月 3 日（月）10：00～5 日（水）17：00、結果発表は 4 月 6 日（木）22：00（予定）です。履修ガイド (<https://hosei-keiji.jp/ilac/rishuguide2023/>) を確認のうえ、情報システムから期間内にエントリーしてください。

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

春学期に引き続き、西洋の文学、特に音楽とかかわりの深い作品を扱います。モーツァルトとサリエリのライヴァル関係を描いた演劇および映画『アマデウス』を軸に、モーツァルトの『フィガロの結婚』、『ドン・ジョヴァンニ』、サリエリの『タラール』といったオペラ、モリエールの『ドン・ジュアン』、ボーマルシェの『フィガロの結婚』などの戯曲を分析します。その次に、ミュージカルとして人気を博しているルルー原作の『オペラ座の怪人』を扱います。

【到達目標】

芸術作品を鑑賞しつつ、批評、分析し、それを表現する手法を学びます。

「文学」のようなものは「実用性がない」ように言われがちですが、「衣食足りて」「モノ」から「コト」へと消費が移ってきた現在において、さまざまな知識を身に着けることで、今後の職業生活に必要な「ネタ」を蓄え、さらには自ら探り当てる習慣を身に着けることは大切でしょう。

この授業を履修することで、出版、メディア、教育などの分野で働くうえで必要な基礎的な知識と表現力や探求力を身につけることができます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

教材や資料は学習支援システムに載せます。

秋学期には、イギリスの劇作家ピーター・シェファアの『アマデウス』を軸に、その中に登場するヨーロッパの 17 世紀から 18 世紀の文学作品、またそれにちなむ音楽作品を扱います。『アマデウス』は作者自身が脚色して映画化されて多くの人々に評価されたので、知っている方も多いことでしょう。まず、この作品の概要を見渡し、それからこの作品の中に登場する音楽、その原作となった文学作品を概観し、分析します。分析の方法論も学びます。

『オペラ座の怪人』は 20 世紀の初めにフランスのミステリー作家ガストン・ルルーによって発表された小説作品ですが、英語によるミュージカルで今では人気を博しています。美と醜、歴史的な建物に潜む謎など、ある意味では定番の数々のテーマを分析します。

各作品の鑑賞と分析が一区切りついた時点で、400 字ほどの書き物を学習支援システムの「課題」を通して出させていただきます。やはり学習支援システムを通じてお返しします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	授業の説明、 『アマデウス』とは	演劇と映画; 「神に愛されたる者」の物語

2	『アマデウス』 衝撃の出会い	モーツァルトとサリエリのライヴァル関係
3	『フィガロの結婚』1 原作者はどんな人か オペラへの翻案	ボーマルシェの戯曲：政治的な意味合い ダ・ポンテの台本とモーツァルトのオペラ： 序曲と冒頭
4	『フィガロの結婚』2 ケルビーノというトリックスター	「自分で自分がわからない」「もう飛ぶまいぞこの蝶々」 映画『アマデウス』におけるサリエリの行進曲の変奏
5	『フィガロの結婚』3 『アマデウス』版と譜面	第 2 幕の最終場面の 7 重唱 結婚式の場面 第 3 幕の山場と急転換 第 4 幕のどんでん返し 最終場面
6	『タラール』とはどんな作品か	ボーマルシェ自身が台本を書いたサリエリのオペラは当時のお手本オペラ
7	ドン・ファン伝説 モリエールの『ドン・ジュアン』1 唯物論者にして快楽主義者？	女たらしの伝説 無神論の誘惑者？ モリエールの演劇：フランス古典主義の時代 冒頭の場面 貧者との対話の場面
8	『ドン・ジュアン』2 父親という法、掟	騎士隊長の像 亡霊 晩餐 最終場面
9	オペラ『ドン・ジョヴァンニ』1 グロテスク：おぞましくも滑稽	ダ・ポンテの台本とモーツァルトのオペラ：序曲、 「女のリスト」
10	『ドン・ジョヴァンニ』2 超自然をどう演出するか	村の娘の誘惑 騎士隊長の像
11	『ドン・ジョヴァンニ』3 再び『アマデウス』 歴史上の謎をどう演出するか	晩餐 最終場面のさまざまな演出： 映画『アマデウス』版とロゼー版 精神分析：科学か 20 世紀の骨相学か 『アマデウス』の最終場面
12	『オペラ座の怪人』1 これはオペラではない、オペラ劇場を舞台とした作品。	原作者のガストン・ルルーとは？ 小説『オペラ座の怪人』 2004 年の映画版ミュージカル
13	『オペラ座の怪人』2 読み手／観客を惹きつける設定	ミュージカル： 人気スターと新進の歌手、 謎と恐怖
14	『オペラ座の怪人』3 捕り物という定番クライマックスと余韻を残す最終場面	ミュージカル： 表の二枚目と裏のヒーロー

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

扱われる作品の原作をあらかじめ読んでおいて下さい。さらに AV ライブラリなどで借りて映像作品をみておくといいかと思います。ただし現在の状況ではそれなかなか難しいことだと考えられます。インターネットで視聴できるものは私のほうからも紹介しますが、皆さんも独自にいろいろ探してみてください。

1-2：原作の演劇を読む。

3-5：原作の演劇を読む。オペラ版を選んで視聴する。

6：サリエリについて調べる。

7-10：ドン・ファンの伝説について調べる。モリエールの『ドン・ジュアン』を読む。オペラ『ドン・ジョヴァンニ』を選んで視聴する。

11：モーツァルトの晩年について調べる。

12-14：原作の小説を読む。映画版、ミュージカル版を選んで視聴する。

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

指定した教科書はありません。学習支援システムの「教材」を通して資料などを配ります。

【参考書】

『大学生のためのレポート・論文術』小笠原喜康、講談社現代新書 1603.

『論文レポートの文章作法』古郡廷治、有斐閣新書 C164

『著作権とは何か』、福井建築、集英社新書 0924A

他にも随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】

各作品の鑑賞と分析が一区切りついた時点で、400字ほどの書き物を学習支援システムの「課題」を通して出していただき、その評価の合計で成績を出します（100％）。

【学生の意見等からの気づき】

課題の趣旨が伝わりにくいことがあったようです。わかりやすく示すようにします。

【その他の重要事項】

教室の定員を超える受講希望者があった場合には抽選を行いますので「お知らせ」等をよく確認してください。

【Outline (in English)】

As in the spring semester, this course deals with occidental literature, especially works adapted for music.

The works dealt with during the fall term will be : "The Marriage of Figaro", "Tarare", "Don Giovanni" (opera works presented in Peter Shaffer's "Amadeus", which will be also treated in this course); "Le Fantôme de l'opéra", one of the most popular musicals, originally written by a French novelist, Gaston Leroux.

Through this course students are expected to get knowledge to appreciate analytically and critically literary and musical works.

Students should read beforehand relevant works. They need also to submit an assignment after having studied each work, for which they must spend at least two hours.

Final grade will be calculated according to the total score of their assignments (100%).

LIT200LA

外国文学と文化 L C

2017 年度以降入学者

サブタイトル：

日原 傳

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 4/Fri.4

単位数：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

初心者に漢詩の実作を指導する授業です。最初に漢詩の中でも最も厳格な規則に基づく「近体詩」の作り方について解説します。その上で漢詩（七言絶句）の実作に挑み、「近体詩」の規則についての理解を深めます。実作の参考になるように、実作と並行して四季の風物を詠じた漢詩（歳時詩）を季節に沿って鑑賞します。

【到達目標】

- ・漢詩の読解・創作に必要な基本的知識の習得を目指す。
- ・近体詩の規則を理解し、それによって漢詩の実作をする。
- ・日本の古典文学の世界で大きな位置を占める「漢文学」の存在を再認識する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

開講時から3回ほどを使って、漢詩の歴史、さまざまな詩形、近体詩の規則について説明する。その後は漢詩の実作指導を中心に据える。実作の参考になるように、一回ごとに異なるテーマを設け、毎回数首の漢詩を鑑賞する。日本人の作った漢詩もできるだけ紹介したい。日本の先人が中国に起源をもつ「漢詩」という定型詩と取り組み、各自の思いを表現していったことを知ってほしい。

※第1回目の授業はオンラインで行ないます。

※第2回目以降は対面授業の予定ですが、状況によってオンライン授業に移行する可能性もあります。授業方法を変更する場合は、学習支援システムでその都度提示します。

※提出課題等へのフィードバックは授業時間または「学習支援システム」を通じて行ないます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	漢詩の詩形、古体詩と近体詩、歳時詩について、／梅の詩鑑賞	漢詩の歴史、さまざまな詩形、古体詩と近体詩の説明。「歳時詩」「二十四節気」／林逋「山園小梅」などを鑑賞。
第2回	近体詩の規則①／桜の詩鑑賞	正岡子規「聞子規」を例に作詩法を解説。平仄図式・押韻の説明。／藤井竹外「芳野」などを鑑賞。
第3回	近体詩の格律②／春遊の詩鑑賞	二四不同二六対、反法・粘法の説明。／杜牧「江南春」、永井荷風「墨上春遊」などを鑑賞。
第4回	近体詩の格律③／晩春の詩鑑賞／実作指導	いくつかの禁忌（下三連、孤平、冒韻、同字の重複）について。／白居易「三月三十日題慈恩寺」、吳錫麒「送春」などを鑑賞。／実作（七言一句を作る）
第5回	ほととぎすの詩鑑賞／実作指導	杜甫「子規」、嵯峨波響「聞鶉」などを鑑賞。／実作

第6回	牡丹・薔薇・石榴の詩鑑賞／実作指導	皮日休「牡丹」、石川丈山「白牡丹」、高駢「山亭夏日」、柏木如亭「石榴」などを鑑賞。／実作
第7回	山行の詩鑑賞／実作指導	王安石「鍾山」、広瀬淡窓「彦山」などを鑑賞。／実作
第8回	梅雨の詩鑑賞／実作指導	趙師秀「約客」、篠崎小竹「梅雨」などを鑑賞。／実作
第9回	蓮の花の詩鑑賞／実作指導	白居易「池上」、菅茶山「夏日雜詩」などを鑑賞。／実作
第10回	螢・蟬・蠅・蚊の詩鑑賞／実作指導	杜甫「螢火」、北條霞亭「観螢」、蘇軾「溪陰堂」、韓愈「雜詩」などを鑑賞。／実作
第11回	苦熱・避暑・昼寝の詩鑑賞／実作指導	柳宗元「夏昼偶作」、袁枚「銷夏」、野田笛浦「昌平橋納涼」などを鑑賞。／実作
第12回	夏の江村・舟行・滝の詩鑑賞／実作指導	杜甫「江村」、李白「望廬山瀑布」などを鑑賞。／実作
第13回	夕立の詩鑑賞／実作指導	蘇軾「六月二十七日、望湖樓醉書」、大窪詩仏「急雨」などを鑑賞。／実作
第14回	授業の総まとめと期末試験	筆記試験、まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

漢詩関連の書籍を読み、漢詩に親しむ。

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

担当者作成の資料を配布する。

【参考書】

石川忠久『漢詩を作る』（大修館書店）

石川忠久『漢詩の稽古』（大修館書店）

石川忠久監修『漢詩創作のための詩語集』（大修館書店）

鷲野正明『初めての漢詩創作』（白帝社）

鈴木健一編『漢文のルール』（笠間書院）

小川環樹『唐詩概説』（岩波文庫）

前野直彬『唐詩選』全三冊（岩波文庫）

村上哲見『三体詩』全四冊（朝日文庫）

目加田誠『唐詩三百首』全三冊（平凡社）

山田勝美『中国名詩鑑賞辞典』（角川書店）

猪口篤志『日本漢詩鑑賞辞典』（角川書店）

石川忠久『日本人の漢詩 風雅の過去へ』（大修館書店）

石川忠久『漢詩をよむ 春の詩 100選』

同 『漢詩をよむ 夏の詩 100選』

同 『漢詩をよむ 秋の詩 100選』

同 『漢詩をよむ 冬の詩 100選』（以上、NHK 出版）

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業中の取り組み姿勢・授業中に作って提出する漢詩の実作）50%

期末試験またはそれに代わる最終レポート 50%

【学生の意見等からの気づき】

実作指導の時間を多くとれるように工夫する。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire the necessary skills and knowledge needed to write Chinese poems. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Term-end examination (or Term-end report): 50%, Short reports: 50%

LIT200LA

外国文学と文化 L D

2017 年度以降入学者

サブタイトル：

日原 傳

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 4/Fri.4

単位数：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

江戸時代に日本で刊行された『唐詩選画本』をテキストとして唐詩を読む。『唐詩選画本』は絵と詩の本文、その訓み下し文、日本語による解説文によって構成されている。はじめに『唐詩選画本』を含む唐詩のテキストについて概説する。以後は五言絶句から始めて徐々に長い詩に進むかたちで具体的な作品を鑑賞してゆく。「歳時詩」「辺塞詩」「閨怨詩」「唱酬詩」「詠物詩」「詠史詩」といった漢詩のテーマについても折をみて解説を加えるつもりである。なお、『唐詩選画本』の訓み下し文、解説文は「変体仮名」で記されているので、変体仮名を読む訓練にもなるであろう。

【到達目標】

- ・中国古典文学の基盤をなす考え方を知るとともに漢詩の読解に必要な基本的知識の習得を目指す。
- ・変体仮名に慣れる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式。第一回目の授業で、漢詩の歴史、さまざまな詩形、近体詩の規則について概説する。第二回目の授業では「変体仮名」について説明した上で、『唐詩選画本』の具体的な作品を鑑賞する。第三回目以降の授業は作品鑑賞が中心になる。日本の先人が中国に起源をもつ「漢詩」という定型詩をどのように読み解いていたかを具体的に知ってほしい。

※第 1 回目の授業はオンラインで行ないます。

※第 2 回目以降は対面授業の予定ですが、状況によってオンライン授業に移行する可能性もあります。授業方法を変更する場合は、学習支援システムでその都度提示します。

※提出課題等へのフィードバックは授業時間または「学習支援システム」を通じて行ないます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	漢詩の形式について	漢詩の形式の解説。『全唐詩』『三唐詩のテキストについて
	て	体詩』『唐詩選』『唐詩三百首』『唐詩選画本』等の説明。
第 2 回	鑑賞（五言絶句）	賀知章「題袁氏別業」
第 3 回	鑑賞（五言絶句）	駱賓王「易水送別」
第 4 回	鑑賞（五言絶句）	李白「静夜思」、王維「班婕妤」
第 5 回	鑑賞（七言絶句）	王勃「蜀中九日」
第 6 回	鑑賞（七言絶句）	王翰「涼州詞」
第 7 回	鑑賞（七言絶句）	李白「峨眉山月歌」、王昌齡「閨怨」
第 8 回	鑑賞（五言律詩）	杜甫「旅夜書懷」
第 9 回	鑑賞（五言律詩）	張謂「同王徵君洞庭有懷」
第 10 回	鑑賞（七言律詩）	崔顥「黃鶴樓」
第 11 回	鑑賞（五言古詩）	李白「子夜吳歌」
第 12 回	鑑賞（七言古詩）	杜甫「貧交行」
第 13 回	鑑賞（七言古詩）	劉廷芝「代悲白頭翁」

第 14 回 授業の総まとめと期末 筆記試験、まとめと解説試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

漢詩関連の書籍を読み、漢詩に親しむ。

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

担当者がプリントを用意する。

【参考書】

前野直彬注解『唐詩選』全三冊（岩波文庫）

村上哲見『三体詩』全四冊（朝日文庫）

目加田誠『唐詩三百首』全三冊（平凡社）

山田勝美『中国名詩鑑賞辞典』（角川書店）

猪口篤志『日本名詩鑑賞辞典』（角川書店）

小川環樹『唐詩概説』（岩波文庫）

石川忠久『漢詩をよむ 春の詩 100 選』

同 『漢詩をよむ 夏の詩 100 選』

同 『漢詩をよむ 秋の詩 100 選』

同 『漢詩をよむ 冬の詩 100 選』（以上、NHK 出版）

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業中の取り組み姿勢・授業支援システムを使って提出する課題）50 %

期末試験またはそれに代わる最終レポート 50 %

【学生の意見等からの気づき】

変体仮名を読む訓練の時間を多くとれるように工夫する。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire the necessary skills and knowledge needed to appreciate Chinese poems. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Term-end examination (or Term-end report) : 50%, Short reports : 50%

LIT200LA

外国文学と文化 L E

2017 年度以降入学者

サブタイトル：イタリア・オペラに親しむ (1)

大崎 さやの

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses

単位数：2 単位

定員制 (40 名)

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

オペラは 16 世紀末にイタリアで生まれた舞台芸術形式です。本講義では、イタリア・オペラの代表的な作品をとりあげ、さまざまな演出により上演された舞台を映像で鑑賞、オペラという舞台芸術の歴史を学びつつ、現代におけるあり方を考えます。日本では比較的馴染みが薄いオペラですが、特にイタリア・オペラはありふれた内容のものが多く、肩肘張って見るような難しいものでは決してありません。楽しみながらヨーロッパ文化の神髄であるオペラに親しんでいきましょう。

【到達目標】

イタリアの文化と社会について理解を深めることにより、ヨーロッパの文化や社会全般に関する教養を身につけることが本講義の目標です。さまざまな興味を持つみなさんの参加を期待しています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

オペラの誕生したルネサンスから 18 世紀までのオペラを講義形式で扱います。配布 PDF・音声ファイルの他、視聴覚教材を用います。また毎回課題を提出してもらいます。フィードバックは授業内で行います。

授業はオンデマンド方式で行います。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
①	イントロダクション	授業紹介 ルネサンスの舞台芸術
	(1)	ルネサンスと宮廷音楽劇
②	ルネサンスの舞台芸術	コンメディア・デッラルテとマドリガル・コメディ
	(2)	
③	オペラの誕生 (1)	カメラータ・フィオレンティーナとオペラの誕生、モンテヴェルディの生涯
④	オペラの誕生 (2)	モンテヴェルディ作曲、ストリッジョ台本のオペラ
⑤	バロック・オペラ (1)	ヴェネツィア・オペラとカストラートの隆盛
⑥	バロック・オペラ (2)	モンテヴェルディ作曲、プゼネッロ台本のオペラ
⑦	バロック・オペラ (3)	ヘンデルの生涯と作品
⑧	バロック・オペラ (4)	ヘンデル作曲、ハイム台本のオペラ
⑨	オペラ・ブッフアとオペラ・セーリア (1)	アルカーディア・アカデミーとオペラ
⑩	オペラ・ブッフアとオペラ・セーリア (2)	メタスタージオ台本、ヴィンチ作曲のオペラ

⑪	オペラ・セーリアの改革 (1)	グルックとカルツァビージについて
⑫	オペラ・セーリアの改革 (2)	グルック作曲、カルツァビージ台本のオペラ
⑬	オペラ・ブッフアとインテルメッツ	ベルゴレージ作曲のインテルメッツ
⑭	授業のまとめ	期末課題

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

GoogleClassroom で指示します。GoogleClassroom のコードは、授業支援システム (Hoppii) で指示します。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

GoogleClassroom で資料を配布します。教科書は使用しません。

【参考書】

GoogleClassroom で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点 (期限内に提出された課題含む) (約 70 %) と期末課題 (約 30 %) により評価します。

【学生の意見等からの気づき】

わかりやすい授業をこころがけます。

【学生が準備すべき機器他】

パソコン、タブレット、スマートフォンのいずれか、インターネットに接続できる機器

【重要】対面授業のみの場合と異なり、課題のレポートを作成し、オンラインで提出するにあたり、ワード等のワープロ機能 (大学の Office 365 に入っています) を使用します。また、授業では映像を多用しますので、オンライン授業受講の際は通信容量が多く必要となります。

【Outline (in English)】

Opera is a performing art form born in Italy at the end of the sixteenth century. In this class, I will take up representative works of Italian opera and give a lecture on its history.

Instructions will be given in class or via GoogleClassroom; GoogleClassroom codes will be given via the class support system (Hoppii). The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Students will be graded on the basis of their normal scores (including assignments submitted on time) (70%) and the final assignment (30%).

LIT200LA

外国文学と文化 L F

2017 年度以降入学者

サブタイトル：イタリア・オペラに親しむ (2)

大崎 さやの

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses

単位数：2 単位

定員制 (40 名)

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

オペラは16世紀末にイタリアで生まれた舞台芸術形式です。本講義では、イタリア・オペラの代表的な作品をとりあげ、さまざまな演出により上演された舞台を映像で鑑賞、オペラという舞台芸術の歴史を学びつつ、現代におけるあり方を考えます。外国文学と文化 F では、春学期の外国文学と文化 E に引き続き、19世紀から20世紀にかけての爛熟期のイタリア・オペラを扱います。

【到達目標】

イタリアの文化と社会について理解を深めることにより、ヨーロッパの文化や社会全般に関する教養を身につけることが本講義の目標です。さまざまな興味を持つみなさんの参加を期待しています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

授業では18世紀から20世紀にかけてのイタリア・オペラを扱います。配布PDF・音声ファイルの他、視聴覚教材を用います。また毎回課題を提出してもらいます。フィードバックは授業内で行います。授業はすべてオンデマンド方式で行います。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】
なし/No

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】
なし/No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
①	オペラ・ブッファ	18世紀までのオペラの簡単な歴史とオペラ・ブッファについて
②	古典派オペラ (1)	モーツァルト作曲のオペラ (1) 生涯と作品 作品解説
③	古典派オペラ (2)	モーツァルト作曲のオペラ (2) 作品鑑賞
④	古典派オペラ (3)	モーツァルト作曲のオペラ (3) 作品解説
⑤	古典派オペラ (4)	モーツァルト作曲のオペラ (4) 作品鑑賞
⑥	ロマン派オペラ (3)	ロッシーニ作曲のオペラ (1) 生涯と作品 作品解説
⑦	ロマン派オペラ (4)	ロッシーニ作曲のオペラ (2) 作品鑑賞
⑧	ロマン派オペラ (5)	ドニゼッティ作曲のオペラ (1) 生涯と作品 作品解説
⑨	ロマン派オペラ (6)	ドニゼッティ作曲のオペラ (2) 作品鑑賞
⑩	ロマン派オペラ (7)	ヴェルディ作曲のオペラ (1) 生涯と作品
⑪	ロマン派オペラ (8)	ヴェルディ作曲のオペラ (2) 作品鑑賞
⑫	ロマン派オペラ (9)	ヴェルディ作曲のオペラ (3) 作品解説

⑬ 世紀末から20世紀に プッチーニ作曲のオペラ 作品鑑 かけてのオペラ (2) 賞

⑭ 授業のまとめ 期末課題

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

GoogleClassroom で指示します。GoogleClassroom のコードは、授業支援システム (Hoppii) で指示します。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

GoogleClassroom で資料を配布します。教科書は使用しません。

【参考書】

GoogleClassroom で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点 (期限内に提出された課題含む) (70%) と期末課題 (30%) により評価します。

【学生の意見等からの気づき】

分り易い授業を心がけます。

【学生が準備すべき機器他】

パソコン、タブレット、スマートフォンのいずれか、インターネットに接続できる機器

【重要】対面授業のみの場合と異なり、課題のレポートを作成し、オンラインで提出するにあたり、ワード等のワープロ機能 (大学の Office 365 に入っています) を使用します。また、授業では映像を多用しますので、オンライン授業受講の際は通信容量が多く必要となります。

【Outline (in English)】

Opera is a performing art form born in Italy at the end of the sixteenth century. In this class, I will take up representative works of Italian opera and give a lecture on its history.

Instructions will be given in class or via GoogleClassroom; GoogleClassroom codes will be given via the class support system (Hoppii). The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Students will be graded on the basis of their normal scores (including assignments submitted on time) (about 70%) and the final assignment (about 30%).

LIT200LA

文学と社会 L A

2017 年度以降入学者

梶 裕史

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 3/Fri.3

単位数：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テーマ（副題）：日本文学と民俗

「民俗」（民間伝承）とは、ある地域社会、特定のコミュニティのごくふつうの人々の暮らしの中で集団的に形づくられ、時代を超えて伝えられてきた暮らしぶりや心の持ち方を指します。

「地域（ローカル）」の範囲は、小さくは一つの集落、大きくは世界（グローバル）の中の日本という「地域」といったように、さまざま設定できます。この授業では世界の中の日本、という視野のもと、こうした「民間伝承」を研究対象とする「民俗学」を採り入れた日本文学研究の世界を、『万葉集』『古事記』『日本書紀』『風土記』『古今和歌集』『源氏物語』等、主として上代・中古の文学の中から事例を選んで紹介します。民俗学的な日本文学研究とは、個々の作者・作品の個性や創意、時代性を超えて、現代の私たちの心の底にまで伝わっていると考えられるような集団的心性を、残された言語表現を通じて探ろうとするものである、といえるでしょう。このような性格のため、「個」（一作者や作品）の芸術性の追究といったことを期待する人には、不向きと思われる。

【到達目標】

・一般的な文学研究に比べて、民俗学的に文学を見る方法の特色・意義を知り、視野を広げられること。
・科目名が示すように、人文科学と社会科学の融合領域を扱う分野に触れ、学際的なアプローチの一例を学べること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

教室での対面授業を基本とする、ふつうの講義形式です。（事情がある場合は、オンライン参加も可とします。）小説の構成に喩えれば、テーマに沿って2～3回で完結する例題を並べていく「短編小説集」のような構成と思って下さい。
気軽な質疑応答の時間や、（時々）リアクションペーパーにより感想を記す時間を十分に採り入れます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	民俗学的な日本文学研究について、概説
第2回	桜の文学と民俗（1）	季節感と古典文学との関わり、またその源流と考えられる民俗について
第3回	桜の文学と民俗（2）	前回の続きとまとめ
第4回	「女歌」の特色と源流（1）	男女の恋の贈答歌における女性の歌の特色と、その源と考えられる「歌垣」の習俗について
第5回	「女歌」の特色と源流（2）	前回の続きとまとめ
第6回	恋歌の虚構性	万葉集・額田王の蒲生野の恋歌を例に
第7回	古代女性の巫女的性格と文学（1）	古代女性の「神」に仕える役割と古典文学、歴史との関係：「代作歌人」、卑弥呼、神功皇后

第8回	古代女性の巫女的性格と文学（2）	前回の続き：采女、斎宮、大津皇子と大伯皇女、伊勢物語など
第9回	古代女性の巫女的性格と文学（3）	前回の続き：文学の女性像の表裏一体の二類型、逃げ回る花嫁、「いろごのみ」など／まとめ
第10回	「恋（こひ）」の生活と靈魂信仰（1）	「魂乞い」・名前の民俗ほか、和歌や物語から恋愛・結婚に関わる靈魂信仰（生命観）を探る
第11回	「恋（こひ）」の生活と靈魂信仰（2）	前回の続きとまとめ
第12回	「誕生」「成人」——年齢通過儀礼と文学（1）	昔の日本人にとっての「誕生」「成人」の意義と文学への反映
第13回	「誕生」「成人」——年齢通過儀礼と文学（2）	前回の続きとまとめ
第14回	総括と授業内試験	話してきた例題のポイントを振り返ったあと、まとめのテストを行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

古典文学に高校までの授業のイメージを持たずに、現代語訳でもいいので、日頃からその世界に親しんでほしいと思います。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

不要。学習支援システムに掲載するスライド教材を持って替えます。

【参考書】

授業の中で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

期末試験 85 %。その他（質問や、時々行うリアクションペーパーの内容等）15 %

【学生の意見等からの気づき】

文章の説明入りのオンデマンド対応のスライド教材であるため、体調不良で教室授業に出られない場合でも自宅で自習できることへの評価がありました。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

特になし

【Outline (in English)】

Theme: Japanese literature and folklore

"Folk" (folklore) refers to the way of life and mindset that has been collectively formed in the lives of ordinary people in a certain community or a specific community and has been passed down through the ages.

increase. The range of "region (local)" can be set in various ways, such as one village for small and Japan in the world (global) for large. In this class, from the perspective of Japan in the world, the world of Japanese literature research that incorporates "folklore" that targets such "folklore" will be discussed in "Manyoshu," "Kojiki," and "Nihonshoki." We will introduce examples mainly from the literature of the upper generation and used, such as "Fudoki," "Kokin Wakashū," and "Genji Monogatari". Folklore Japanese literature research transcends the individuality, creativity, and timeliness of individual authors and works, and is the bottom of our hearts today.

Folklore Japanese literature research leaves behind a collective spirit that is thought to be transmitted to the bottom of our hearts today, transcending the individuality, creativity, and timeliness of individual authors and works. It can be said that it is an attempt to explore through the linguistic expressions that have been made. Because of this personality, it seems unsuitable for those who expect to pursue the artistry of "individuals" (one author or work).

Goal

This lecture aims at the following two goals

- Compared to general literary research, students can broaden your horizons by learning about the characteristics and significance of folklore-based methods of viewing literature.
- As the subject name indicates, students can learn an example of an interdisciplinary approach by touching on fields dealing with the integrated area of the humanities and social sciences.

Work to be done outside of class

The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each. I would like you to become familiar with the world on a daily basis, as you can use a modern translation without having the image of a class up to high school in classical literature.

Grading criteria

Final exam 85%. Others (questions, content of reaction papers sometimes asked, etc.) 15%

LIT200LA

文学と社会 L B

2017 年度以降入学者

梶 裕史

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 3/Fri.3

単位数：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テーマ（副題）：日本文学と民俗

梶「文学と社会 LA」と同じです。ただし具体的な内容は「授業計画」に記す通り、異なります。A よりも「民俗」（＝民間伝承）の部分に重点を置いた内容になります。「文学」発生の母胎としての性格を未だによく保持しており、日本文学の「古代性」を考える上で重要なヒントになるとされる沖縄離島の祭事・信仰をクローズアップして紹介する回が多くなり、時間があればそれを材料に、伝統文化を活かした持続可能な地域形成に祭事や言語伝承が果たす役割なども考察したいと思っています。

【到達目標】

- ・一般的な文学研究に比べて、民俗学的に文学を見る方法の特色・意義を知り、視野を広げられること。
- ・科目名が示すように、人文科学と社会科学の融合領域を扱う分野に触れ、学際的なアプローチの一例を学べること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

教室での対面授業を基本とし、オンライン参加も可能にする予定の、ふつうの講義形式です。小説の構成に喩えれば、テーマに沿って2～3回で完結する例題を並べていく「短編小説集」のような構成と思って下さい。気軽な質疑応答の時間や、(時々)リアクションペーパーにより感想を記す時間を十分に採り入れます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	日本文学の民俗学的な見方について、概説
第 2 回	季節行事と文学（1）	具体例として、古典文学における七夕と、七夕関連行事・民俗について
第 3 回	季節行事と文学（2）	日本固有のタナバタ説話について／2回のまとめ
第 4 回	古代文学に表現された異郷「妣（はは）の異郷」(1)	古事記の用例をめぐって、語の意味・由来、背景に考えられる民族移動・渡来の歴史など
第 5 回	古代文学に表現された異郷「妣（はは）の異郷」(2)	別視点：「異族結婚」が多かった時代の記憶の反映／2回のまとめ
第 6 回	古代文学に表現された異郷「常世（とこよ）」(1)	万葉集・記紀・風土記などに見える用例（浦島伝説等）／明・暗両面性
第 7 回	古代文学に表現された異郷「常世（とこよ）」(2)	比較事例として、沖縄・奄美等の来訪神の祭事を紹介：「ニライカナイ」の心象
第 8 回	古代文学に表現された異郷「常世（とこよ）」(3)	明暗両面性の由来の考察（日本の「神」とは何か）—自然観・祖霊観念との関わりなど

第 9 回 古代文学に表現された トコヨからの来訪者／まとめ
異郷「常世（とこよ）」

(4)

第 10 回 「貴種流離譚」(1) 神（またはそれに近い高貴な存在）がさすらう物語の類型をめぐって

第 11 回 「貴種流離譚」(2) 古代的な生命観・靈魂信仰や異郷意識（他界観念）との関わり／2回のまとめ

第 12 回 「神話」が生きる島 (1) 祭事・信仰などに古代的要素が残っている日本の離島の例を紹介前回の続き

第 13 回 「神話」が生きる島 (2)

第 14 回 総括の授業と授業内試験 話してきた例題のポイントを振り返ったあと、まとめのテストを行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

古典文学と「民俗」との関連を知ることをきっかけに、地域の伝統行事を見学することなども奨励します。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

不要。学習支援システムに掲載するスライド教材をもって替えます。

【参考書】

授業の中で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

期末試験 85 %。その他（質問、リアクションペーパー等）15 %。

【学生の意見等からの気づき】

春学期の「LA」の授業と同様、文章の説明入りのオンデマンド対応のスライド教材であるため、体調不良で教室授業に出られない場合でも自宅で自習できることへの評価のほか、伝統祭事についての豊富な動画で実感を持たせたという声もありました。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【Outline (in English)】

Theme: Japanese literature and folklore

This class is same as "Literature and Society LA" by Kaji. However, the specific content is different as described in the "Class Plan". The content focuses on the "folk" (= folklore) part rather than A. A close-up introduction to the festivals and beliefs of the remote islands of Okinawa, which still retains the character of the mother of "literature" and is considered to be an important hint when considering the "ancientity" of Japanese literature. If I have more time, I would like to consider the role of festivals and linguistic tradition in the sustainable regional formation that make use of traditional culture.

Goal

This lecture aims at the following two goals

- ・ Compared to general literary research, students can broaden your horizons by learning about the characteristics and significance of folklore-based methods of viewing literature.

- ・ As the subject name indicates, students can learn an example of an interdisciplinary approach by touching on fields dealing with the integrated area of the humanities and social sciences.

Work to be done outside of class

The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each. We also encourage you to visit traditional events in the area by learning about the relationship between classical literature and "folklore".

Grading criteria

Final exam 85%. Others (questions, content of reaction papers sometimes asked, etc.) 15%

LIT200LA

文学と社会 L C

2017 年度以降入学者

サブタイトル：江戸の印刷・出版物

白戸 満喜子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 3/Wed.3

単位数：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では江戸時代の文学作品『御存商売物』を通読します。作品を通して江戸の出版文化の多様性に触れていきます。江戸という地域・時代に暮らした人々が手にしていた、読んでいた、眼にしていた、時には聴いていたさまざまなメディアを、実際に読んだり聴いたりすることで江戸を体感します。

【到達目標】

江戸時代の特徴的な文化や慣習・感覚をテキスト『御存商売物』を通じて理解することが目標。

くずし字（変体仮名）で書かれた簡単な出版・印刷物を判読できるようになることがもう一つの目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

授業は『御存商売物』という江戸時代の印刷・出版物を人物になぞらえた作品を通読しながら講義を行います。あわせて作品の中に登場人物として描かれている印刷・出版物を読解する演習形式を取り入れます。意匠絵本（デザイン集）・暦など、簡単な読み物の翻字（くずし字を現代仮名遣いにすること）のノウハウを解説します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	・江戸時代の文学について ・テキスト『御存商売物』について ・外国人から見た江戸
2	テキスト『御存商売物』の解説	・日本の書物 ・江戸後期の文学作品 ・江戸の出版
3	テキスト『御存商売物』の解説とくずし字の読解	・江戸の紋様 ・大坂と江戸
4	テキスト『御存商売物』の解説とくずし字の読解	・江戸の人気小説 ・江戸の食べ物
5	テキスト『御存商売物』の解説とくずし字の読解	・江戸の絵画 ・江戸時代までの紙 ・江戸の流行歌
6	テキスト『御存商売物』の解説とくずし字の読解	・「見立（みたて）」という表現 ・小道具と物語の関係 ・絵と文の関係を読み取る
7	テキスト『御存商売物』の解説とくずし字の読解	・江戸の慣習 ・江戸の街並み
8	テキスト『御存商売物』の解説とくずし字の読解	・江戸の繁華街「吉原」 ・浮世絵と鑑賞の基礎知識

- 9 テキスト『御存商売物』の解説とくずし字の読解
・現在と異なる暦
・江戸の教養を支えた書物の読解
- 10 テキスト『御存商売物』の解説とくずし字の読解
・江戸の土産物
・江戸時代の夫婦喧嘩の読解
- 11 テキスト『御存商売物』の解説とくずし字の読解
・江戸の占い
・江戸のおまじないの読解
- 12 テキスト『御存商売物』の解説とくずし字の読解
・江戸の学問書
・江戸時代の情報伝達の読解
- 13 テキスト『御存商売物』の解説とくずし字の読解
・江戸時代の流行り廃りの読解
・江戸の刑罰
- 14 授業のまとめ
・江戸時代の豊かな出版文化

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業中に随時、レポートに関する情報を話しますので、その情報を参考にしながら江戸に関する知識を広げて下さい。

くずし字の読解に必要な資料（配布プリント）は毎回持参し、授業前には一読しておくこと。くずし字読解の準備として2時間、復習に2時間、計4時間を必要とします。

【テキスト（教科書）】

授業中にプリントを配布します

【参考書】

くずし字読解のための参考文献は以下の2冊ですが、読解に必要なプリントは別途授業中に配布します。

- ・笠間影印叢刊行会『字典かな』笠間書院
- ・松尾聡編『変体平仮名演習』笠間書院

【成績評価の方法と基準】

レポート 40 % 筆記試験（最後の授業時に一回） 40 % 平常点（授業への取り組み・発言） 20 % として評価します。

詳細は開講時にお知らせします。

【学生の意見等からの気づき】

「高校までは学んでこなかった、非常に興味深い内容だった」という感想が寄せられています。古典文学でもなく、現在の小説とも異なる、江戸の大人の娯楽と教養を『御存商売物』という作品を通じて楽しんで下さい。

【学生が準備すべき機器他】

授業における「AI くずし字認識アプリ」の使用を推奨しています。インストール可能な機器を使用してください。

【Outline (in English)】

In this class, we read through the literary work "Gozonji-no-shobaimono" in the Edo Period. Through the work we can touch on the diversity of Edo's publishing culture. You will experience Edo by actually reading and listening to various media that people were living in in the region & the era of Edo. Sometimes you can listen the audible media.

The main goal of this course is to understand the characteristic culture, customs, and sensations of the Edo period through the textbook "Gozonji-no-shobaimono".

Another goal is to be able to read simple publications and printed matter written in cursive script (Hentaigana).

Bring the materials (distributed prints) necessary for reading the cursive script every time, and read them before class. It takes 2 hours to prepare for reading comprehension and 2 hours to review, for a total of 4 hours.

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Short reports 40 %, Term-end examination 40 %, in class contribution 20 %

LIT200LA

文学と社会 L D

2017 年度以降入学者

サブタイトル：江戸の絵入り本で読む百人一首

白戸 満喜子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 3/Wed.3

単位数：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

浮世絵が添えられた絵本『錦百人一首あづま織』（国立国会図書館蔵）<https://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/2533227> を受講生全員で分担し、読解・解釈をします。最近では競技としての知名度が上がってきた百人一首が、いつ、どのようにして成立し、また現在まで人々に愛されてきたのか。江戸時代の人々が楽しんだ百人一首を読み解き、和歌の解釈と描かれた歌人について学んでいきます。

【到達目標】

くずし字で書かれた和歌（ひらかなの部分とその字母）を判読し、解釈することが各受講生の目標です。

各自の担当する和歌について、1：字母を確認しながら翻字をする、2：解釈（意味や技法）する、という 2 点から考察・発表をし、『錦百人一首あづま織』という絵本の成立を理解し、和歌の知識を深めます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

はじめは百人一首と『錦百人一首あづま織』について講義を行います。その後は受講生がそれぞれ分担する和歌についての読解・解釈を順番に発表します。発表者以外はそれぞれの読解・解釈を準備しておき、発表内容に対して授業内掲示板で意見交換をします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	テキスト『錦百人一首あづま織』百人一首とは何かの発表順番決定
	くずし字読解の方法と解釈	
2	テキスト『錦百人一首あづま織』の構成について解説	テキストに関する講義
3	テキスト『錦百人一首あづま織』の読解方法	テキストの翻字・解釈の具体的な方法・内容
4	勅撰和歌集に関する講義 1 および受講者による発表 1 回目	・勅撰和歌集とは何か：八代集 ・担当者による発表
5	勅撰和歌集に関する講義 2 および受講者による発表 2 回目	・勅撰和歌集にまつわる逸話 ・担当者による発表
6	歌合に関する講義 1 および受講者による発表 3 回目	・歌合とは何か ・担当者による発表
7	歌合に関する講義 2 および受講者による発表 4 回目	・歌合に賭けた歌人たち ・担当者による発表
8	歌道に関する講義および受講者による発表 5 回目	・歌道とは何かー和歌の変化 ・担当者による発表

- 9 百人一首の中世写本に 関する講義および受講者による発表 6 回目
- 10 百人一首の近世写本に 関する講義および受講者による発表 7 回目
- 11 百人一首版本に関する 講義 1 および受講者による発表 8 回目
- 12 百人一首版本に関する 講義 2 および受講者による発表 9 回目
- 13 百人一首版本に関する 講義 3 および受講者による発表 1 0
- 14 テキスト『錦百人一首 あづま織』のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

履修者にはこちらから発表分担となる和歌を指定します。受講生は各自が分担する和歌の翻字と読解・解釈を指定日までに提出してください。分担以外の和歌については、それぞれ読解しておいてください。各自の読解に基づいて発表内容に対する意見交換をします。くずし字の読解に必要な資料（配布プリント）は毎回持参し、授業前には一読しておくこと。テキストのくずし字読解として 2 時間、授業で扱った和歌の字母確認・復習に 2 時間を毎回必要とします。

【テキスト（教科書）】

『錦百人一首あづま織』（国立国会図書館蔵）<https://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/2533227>

【参考書】

くずし字を読むための参考文献は以下の 2 冊ですが、読解用のプリントは教材にアップロードします。文学と社会 L C 既習者は同じプリントになります。

- ・笠間影印叢刊行会『字典かな』笠間書院
- ・松尾聡編『変体平仮名演習』笠間書院

【成績評価の方法と基準】

分担発表の内容 30 % 平常点（授業内での意見内容）40 % 期末レポート 30 % として評価します。分担する和歌の翻字と読解・解釈の未提出、発表内容に関する意見交換がない場合は評価対象となりません。

【学生の意見等からの気づき】

「江戸時代の文字を翻字すること、内容を読み解くこと、どちらも謎解きのように楽しかった」という感想が寄せられています。くずし字の読解は、昔の日本人たちと時空を越えたコミュニケーションをするようなもの。語学習得に似ているものの、ひと味異なる独特の達成感を味わってください。

【学生が準備すべき機器他】

授業における「AI くずし字認識アプリ」の使用を推奨しています。インストール可能な機器を使用してください。

【その他の重要事項】

関連部分があるので文学と社会 L C を履修していることが望ましいものの、前向きな性格・柔軟な思考・気合などのどれかがあれば秋学期のみの履修も可能。

【Outline (in English)】

In this class, we read the original book of "Nishiki Hyakunin Isshu Azuma Ori" <https://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/2533227> with ukiyo-e. Hyakunin Isshu has been loved by people, and recently it has gained recognition as a sport. We will read Hyakunin Isshu which was made in the Edo period, and learn about the interpretation of waka and the singer drawn. The main goal of this lesson is to read and interpret waka (the hirakana part and its character) written in cursive script. About the waka poems that each person is in charge of

- 1: Transliterate while checking the character
- 2: Interpret (meaning and technique),

We will consider and present from these two points, understand the formation of the text, and deepen our knowledge of waka.

Students will be assigned a waka poem to be shared by the instructor. Students are requested to submit the transliteration, reading comprehension, and interpretation of the waka poems that they share by the designated date. Please read each of the waka poems other than the division. We will exchange opinions on the content of the presentation based on each person's reading comprehension.

Bring the materials (distributed prints) necessary for reading the cursive script every time and read them before class. It takes 2 hours to read the text and 2 hours to check and review the waka characters used in the class.

Final grade will be calculated according to the following process
Mid-term report (30 %), in-class contribution (40 %), and term-end examination (30 %)

However, if there is no transliteration of the shared waka poem, unsubmitted reading comprehension / interpretation, and no exchange of opinions regarding the content of the presentation, it will not be evaluated.

LIT200LA

文学と社会 L E

2017 年度以降入学者

サブタイトル：

中澤 忠之

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 5/Wed.5

単位数：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

小説を読むとき、私たちはどんなところを重視するでしょう。たとえば、泣けるかどうかとか、感情移入できるかどうか、とかいったところでしょうか。実際、これまで中学校や高校の現国の授業では、主人公の心情を素直に読み取るトレーニングを受けてきたはずですが。しかし、小説の書き方・読み方は一様ではありません。この講義は、小説の書き方・読み方には多様性があることを知り（夏目漱石とライトノベルを優劣関係ではなく多様性の一つとして捉えること）、それを身に付ける土台作りとなるでしょう。そのためにはまず、小説の成り立ちをおさらいすることからはじめます。そして文学史にしたがって、小説の書き方・読み方が変化し、新たな書き方・読み方の発見が文学史を豊かに形成してきたことを確認します。戦前の文学史がメインですが、最近の文学史にも積極的にふれます。マンガや映画、美術など、文学に隣接するジャンルにもしばしば言及したい。

【到達目標】

創作物を単に主観的に受容するのではなく、対象化して評価する技術と教養を身に付け、作品受容の許容範囲が広がることを目指します。文学に関心がある学生はもちろん、ポップカルチャーやサブカルチャーのジャンルに関心がある学生も歓迎します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

配布する資料をもとに講義するスタイルです。

必要に応じてリアクションペーパーを書いてもらいます（3 回程度）。

【重要】初回のみオンライン授業（Zoom）とします。授業にエントリーするための URL は、Hoppii の「お知らせ」にて掲示します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	講義の概要説明および導入。
第 2 回	現在の文学が置かれた状況	最近の文学事情を、他のジャンルとの関係から明らかにする。
第 3 回	文学作品の読み方	文学の仕組みを解説して、高校時代までの読み方を相対化する。
第 4 回	近代文学の誕生①	言文一致（いわゆる近代日本語）を中心に、近代文学が形になったプロセスを解説。 言文一致形成の全体像を確認する。
第 5 回	近代文学の誕生②	言文一致形成の初期（明治 10 から 20 年代）の状況を作品を参照しながら確認する。
第 6 回	近代文学の誕生③	言文一致形成の後期（明治 30 から 40 年代）の状況を作品を参照しながら確認する。

第 7 回	文学史第 1 期（明治 20～40 年の文学）	リアリズム（写実主義）は近代に確立した表現法だが、そのリアリズムが確立した時代の表現パターンを解説。
第 8 回	文学史第 2 期（大正時代の文学）	私小説がはやった時代の表現パターンを解説。文学における自己表現を問題にしたい。
第 9 回	文学史第 3 期（1920 年代）①	社会が大衆化したモダニズムの時代の表現パターンを解説。
第 10 回	文学史第 3 期（1920 年代）②	具体的な文学作品を参照する。
第 11 回	文学史第 4 期（1930 年代）①	文学表現が成熟した時代の表現パターンを解説。現代の表現とも関係させる。
第 12 回	文学史第 4 期（1930 年代）②	具体的な文学作品を参照する。
第 13 回	現在の文学との接点	過去の文学を参照することで現代文学の読み書きにいかに応用できるかを考察する。
第 14 回	まとめと試験	これまでの講義の総括。今後の現代文学の読み方についても触れる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

少しでも文学作品に触れてください。しかし闇雲に読むのではなく、ジャンルを意識しながら読むことをおすすめします。ジャンルが分からなければ、大きめの本屋に行って書棚がどういう配置になっているのか、どういう本が収まっているのかを確認してみるのもよいです。たとえば、映画をよく観る人は TSUTAYA の棚陳列がどういふジャンル区分に従っているのかよくわかっているはず。AKB48 のファンは、素人目には同じように見える顔が、それぞれ個性を持ち、ジャンル分けできることを知っているはず。文学も同じです。小説を全く読まない人は、まず『ノルウェイの森』（村上春樹）と『時をかける少女』（筒井康隆）と『涼宮ハルヒの憂鬱』（谷川流）の 3 冊を読み比べてみてください。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

随時プリントを配布します。

【参考書】

なし。

【成績評価の方法と基準】

最後の試験が評価の主要な対象となります。3 回予定のリアクションペーパー（400 字程度）も評価したい。評価の割合は最後の試験が 70 %、リアクションペーパーを 30 %とします。

【学生の意見等からの気づき】

基本的に口述と板書が多いので、「授業の概要を示すプリントがあればよい」という意見がありました。重要なポイントとなるころではプリントで示すことも考慮に入れようと思います。

【Outline (in English)】

【Course outline and Learning objectives】

This lecture aims to give techniques and cultures to read novels, using the work of modern Japanese literature.

How to write and read novels is not single. In this lecture, you can learn that diversity exists in how to write and read novels. Let's begin by reviewing the origins of the novel. And according to the history of literature, We confirm that the way of writing and reading the novel has changed.

【Learning activities outside of classroom】

Please read even a little literary work. I recommend reading while being aware of the genre. If you don't know the genre, check the shelves in the bookstore.

【Grading Criteria / Policy】

The final report is the main subject of evaluation. I also want to evaluate the short reports (about 400 characters) for each session. The evaluation rate is 70% for the final report and 30% for short reports.

LIT200LA

文学と社会 L F

2017 年度以降入学者

サブタイトル：

中澤 忠之

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 5/Wed.5

単位数：2 単位

この授業は「Web 履修抽選対象授業」です。抽選エントリー期間は 2023 年 4 月 3 日（月）10：00～5 日（水）17：00、結果発表は 4 月 6 日（木）22：00（予定）です。履修ガイド (<https://hosei-keiji.jp/ilac/rishuguide2023/>) を確認のうえ、情報システムから期間内にエントリーしてください。

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

普段何気なく読んでいる小説が、きわめて政治的で社会的なものであるということ考えたことがあるでしょうか。文学作品は、人畜無害な単なるフィクションではありません。ときに世の中の差別や偏見を生み出し助長するものであり、特定の個人や集団を傷つけるものでもあります。あるいはまた、社会秩序を乱すとして批判される過激な暴力や性表現も無視できないでしょう。もちろんその一方で、社会の差別や偏見と戦ってきた歴史も、文学にはあります。文学作品における、こういった政治的かつ社会的な側面を、本講義では取り上げます。素材は性表現と差別表現がメインです。メディア環境が激変している昨今の事情に対応させて、取り上げる表現は文学のみならず、映画やマンガなど多岐にわたる予定です。現在進行形の話も積極的に扱います。

【到達目標】

これまでなんとなくイメージしてきた表現の自由や表現の暴力性といった概念を、法規制や表現史を通して具体的に捉えられる教養の獲得を到達目標とします。文学に関心がある学生のみならず、法律等社会の制度設計に関心のある学生も歓迎します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

配布する資料をもとに講義するスタイルです。必要に応じてリアクションペーパーを書いてもらいます（3 回程度）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	講義の概要説明および導入。
第 2 回	文学が置かれた社会状況	表現規制の最近の動向を解説。
第 3 回	性表現・暴力表現と規制①	性・暴力表現とその規制の歴史を振り返る。
第 4 回	性表現・暴力表現と規制②	「わいせつ罪」を中心に、現代社会における性・暴力表現を考える。
第 5 回	性表現・暴力表現と規制③	「青少年保護」を中心に、現代社会における性・暴力表現を考える。
第 6 回	性表現・暴力表現と規制④	「児童ポルノ」を中心に、現代社会における性・暴力表現を考える。
第 7 回	性表現・暴力表現と規制⑤	ネット社会における性・暴力表現について解説する。
第 8 回	差別表現と規制①	差別表現とその規制の概要を解説する。
第 9 回	差別表現と規制②	差別の仕組みを知るために、具体的な作品を参照する。

第 10 回 差別表現と規制③

戦後の日本における差別の歴史を振り返る。

第 11 回 差別表現と規制④

差別には複数のパターンがあるので、それらを分節化して解説する。

第 12 回 差別表現と規制⑤

差別表現とその規制の現在。特にネット社会における差別表現

第 13 回 差別表現と規制⑥

(Metoo 運動など) を考える。最近話題になる嫌韓・嫌中のな「ヘイトスピーチ」について考察する。

第 14 回 まとめと試験

これまでの講義の総括。表現の自由とその規制の社会的バランスを考える。また、補足として、著作権やプライバシーの問題から表現の社会性をにも言及したい。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

まず何より活字や映像作品に触れてください。そして、表現規制の話題は常時ニュースになるので、そのつど気にかけて、新聞やウェブでの議論に触れてほしい。たとえば、昨年話題になっている性表現なり差別表現に対する規制強化の動き、あるいはネット上で盛んに行われている著作物の無断コピーや二次創作等について考えてみるのもよいでしょう。ここ数年は、美術家の性的な表現物がわいせつ罪に問われたり、また差別的なヘイトスピーチがメディアで盛んに取り扱われています。文学作品にとらわれず、こういった表現にかかわる社会的問題に注目してください。

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

随時プリントを配布します。

【参考書】

なし。

【成績評価の方法と基準】

最後の試験が評価の主要な対象となります。3 回予定のリアクションペーパー（400 字程度）も評価したい。評価の割合は最後の試験が 70 %、リアクションペーパーを 30 %とします。

【学生の意見等からの気づき】

基本的に口述と板書が多いので、「授業の概要を示すプリントがあればよい」という意見がありました。重要なポイントとなるころではプリントで示すことも考慮に入れようと思います。映像を積極的に導入し、時事的な話題も取り入れました。

【Outline (in English)】

【Course outline】 【Learning objectives】

The novel has a very political and social part. Literary works are not mere fiction. They sometimes produce discrimination and prejudice of the world, and they also hurt certain individuals and groups. Or you can not ignore radical violence or sexual expression that is criticized as disturbing the social order.

On the other hand, literature also has a history of fighting social discrimination and prejudice. This lecture will cover these political and social aspects of literary works. Sexual expression and discrimination are the main material.

Our goal is to acquire a culture that allows us to understand topics such as freedom of expression and violence of expression through legal regulations and the history of expression.

【Learning activities outside of classroom】

Please contact literary works and video works. And since the topic of freedom of expression and expression regulation is always news, please contact the discussion in newspapers and the web.

【Grading Criteria /Policy】

The final report is the main subject of evaluation. I also want to evaluate the short reports (about 400 characters) for each session. The evaluation rate is 70% for the final report and 30% for short reports.

LIT200LA

日本文学と文化 LG

2017 年度以降入学者

サブタイトル：新海誠の文学世界

榎本 正樹

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 4/Tue.4

単位数：2 単位

この授業は「Web 履修抽選対象授業」です。抽選エントリー期間は 2023 年 4 月 3 日（月）10：00～5 日（水）17：00、結果発表は 4 月 6 日（木）22：00（予定）です。履修ガイド (<https://hosei-keiji.jp/ilac/rishuguide2023/>) を確認のうえ、情報システムから期間内にエントリーしてください。

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

新海誠監督のアニメーション映画『君の名は。』（2016 年）は、アニメーション界や映画界を超えた近年の日本映画最大のヒット作品として、多くの観客の支持と共感をえました。国内観客動員数 1,900 万人を突破、興行収入 250 億円を超える大ヒットとなり、邦画興行収入歴代 3 位、アジア圏では 7 冠達成を記録し、日本のみならず世界各国の記録を塗り替えました。

2019 年には『天気の子』、2022 年には最新作『すずめの戸締まり』が封切られ、アニメファンだけでなく多くの観客に迎え入れられました。

新海誠というクリエイターの名前を、『君の名は。』で初めて知った人が多いかもしれませんが、新海監督のキャリアは 2000 年代初頭にまで遡ることができます。新海作品の根底にあるのは「言葉」に重きを置いた世界造形、言い換えれば「文学」への強い視線です。人と人の繊細なコミュニケーションを、精緻な言葉と独自の映像美学によって表現するその姿勢は、「アニメーションという表現手段を用いた文学」と形容可能なものです。アニメーションというジャンルの枠を越えた同時代の重要な表現者として、新海誠という存在をとりえ直す必要があります。

新海誠は「アニメーション監督」であるとともに「小説家」でもあります。新海は自身の手で代表作のノベライズ（小説化）を手がけていますが、それらは単に映像作品を言葉に置き換えたものではなく、小説作品として自立しています。同一の作者の手による映画と小説を比較検討することで、映像表現と小説表現の違いを検証することが可能です。

本講義では、新海誠の初期作品から最新作まで入手可能な映像作品を参観しつつ、「新海誠の文学世界」を紐解いていきます。国民的アニメーション作家としての地位を築きつつある、同時代の先端的な表現者である新海誠の主要作品を「網羅的に」観賞し、かつ「分析的」に解説する経験を通して、作品批評のための技術を獲得します。

【到達目標】

映像作品であるアニメーションをシーンごとに分析的に解説する技術を身に付け、アニメ固有の表現方法や仕掛けや物語構造などについて、自分の力で読み解き、論述できるレベルを目指します。関連資料を参照し、他者の意見やコメントに目を通し、作品のモデルとなった場所に実際に赴くことで、作品の背景にある文化的、社会的、歴史的、地理的背景について深く学び、作品を客観的に論じる力を得ます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

授業はプレゼンテーションと講義を合わせた形で行います。新海誠監督作品を初期から最新作まで観賞し（時間的な制約から一部となります）、重要なシーンについて解説と分析を加えていきます。アニメーションで重要なのは、シーンを構成する一つひとつのカットです。カットにはクリエイターの「世界そのものへの純粋な視線」が投影されています。

もう一つ重要なのは、言葉（ナレーション、モノログ、対話）です。本授業では新海作品の言葉の要素に特に注目し、物語の中で言葉がどのように作用し、コミュニケーションの主題を提示していくのかを細かく見ていきます。

さらに新海監督自身の言葉、関連資料の紹介や他の論者の考察など、作品をめぐる多様な言説を紹介する機会も設けます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	新海誠、その人と作品について
2	『遠い世界』『彼女と彼女の猫』	最初期作品を概観する
3	『ほしのこえ』	物理的な「距離」と精神的な「距離」
4	『雲のむこう、約束の場所』	装置としての SF
5	『秒速 5 センチメートル』	風景と速度をめぐる物語
6	『星を追う子ども』前半	「物語」への接近
7	『星を追う子ども』後半	異界への移動と帰還
8	『言の葉の庭』	映像美学を支える文学性
9	『君の名は。』前半	「入れ替わり」と「すれ違い」の趣向
10	『君の名は。』後半	「共苦」する魂のゆくえ
11	『天気の子』前半	人身御供譚としての構成
12	『天気の子』後半	「規範」を逸脱するということ
13	『すずめの戸締まり』前半	移動と出会いの物語
14	『すずめの戸締まり』後半	震災アニメとしての評価

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

アニメーションを観たり小説を読む際に、受動的に観賞するのではなく、物語の細部について自分の言葉で客観的に書いたり話したりする習慣をつけましょう。授業で取りあげる映像作品や小説を繰り返し観たり読んだりして、その中で得た「気づき」をメモにとったり、疑問点や重要なポイントと思われる箇所についてまとめる作業を随時行ってください。

機会があれば、作品の中に登場する場所に赴く「聖地巡礼」に挑戦してみてください。なぜその場所が選ばれたのか、その場所が物語の各シーンでどのような意味を与えられているのか、体験的に学習してください。本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

榎本正樹『新海誠の世界 時空を超えて響きあう魂のゆくえ』（KADOKAWA、2021 年）

【参考書】

授業で扱う新海誠のノベライズ作品は参考書とします。必要に応じて、個人で入手してください。『小説 秒速 5 センチメートル』『小説 言の葉の庭』『小説 君の名は。』『小説 天気の子』『小説 すずめの戸締まり』とも（以下リンク参照）、角川文庫で入手可能です（電子書籍版もあります）。

<http://www.kadokawa.co.jp/product/321510000146/>

<http://www.kadokawa.co.jp/product/321510000145/>

<http://www.kadokawa.co.jp/product/321603000121/>

<https://www.kadokawa.co.jp/product/321903000333/>

<https://www.kadokawa.co.jp/product/322203001170/>

その他の参考書・参考文献や参考サイトは別途指示します。

【成績評価の方法と基準】

レポートで評価します（100 %）。

試験や小テストはありません。

レポートのテーマは、「授業で取りあげた新海監督作品の中から、一作品または複数の作品を選び、作品論を展開する」というものです。授業内容を踏まえ、自分が選んだ作品について、自分で設定したテーマに基づき、自分の言葉で論を展開してください。

分析の鋭さ、考察の深さ、文章の正確さ、構成の巧みさなどを中心に採点します。詳細は、初回のガイダンス授業時に説明します。

【学生の意見等からの気づき】

専門用語など難易度が高いタームの使用を控え、初級者にも理解しやすい授業を心がけます。

可能な限り映像作品を観る機会を増やします。

【その他の重要事項】

アニメーションや現代日本文学、同時代の表現に関心をもつ学生の履修を歓迎します。

榎本のプロフィールや研究・評論活動は、サイト (<http://enmt.jp>) で確認できます。ツイッター (@enmt) での情報発信も行っていますので、履修時の参考にしてください。

【Outline (in English)】

【Course outline】

Shinkai Makoto is Japanese animation director. His animation film is highly acclaimed not only in Japan but also overseas. In 2019, his latest work "Weathering With You" was released. And a new film "Suzume no Tojimari" was released last year. I decode Shinkai's all animation works from various viewpoints.

[Learning Objectives]

The goal of this course is for students to acquire the skills to analytically decipher Makoto Shinkai animations as a visual works, scene by scene, and to be able to discuss in their own words the unique expression methods and narrative structure of animation.

[Learning activities outside of classroom]

When watching animations or reading novels, develop the habit of objectively writing and talking about the details of the story in your own words, rather than just passively watching the film or reading the novel. Your study time will be more than four hours for a class.

[Grading Criteria /Policy]

Grade will be based on reports 100%.

There will be no examinations.

The theme of the report is "Select one or more of Shinkai's works discussed in class and wrapping up the report". Based on the content of the class, develop your own argument in your own words about the work you have chosen, based on the theme you have set for yourself.

LIT200LA

日本文学と文化 LH

2017 年度以降入学者

サブタイトル：現代日本文学と映像表現

榎本 正樹

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 4/Tue.4

単位数：2 単位

この授業は「Web 履修抽選対象授業」です。抽選エントリー期間は 2023 年 4 月 3 日（月）10：00～5 日（水）17：00、結果発表は 4 月 6 日（木）22：00（予定）です。履修ガイド (<https://hosei-keiji.jp/ilac/rishuguide2023/>) を確認のうえ、情報システムから期間内にエントリーしてください。

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代日本文学を原作として映画化された作品の一部を解説を加えながら観賞し、原作小説を講読します。2022 年に劇場公開された以下の作品から 6 作品を選んで取り上げる予定です。

小説（文学表現）と映画（映像表現）を比較対照し、分析を行うことで、言葉と映像それぞれのメディア固有の表現方法について考えを深めるとともに、「文学固有の表現とは何か？」という視点から小説を解説する力の獲得を目指します。

風良ゆう『流浪の月』（李相日監督）

辻村深月『ハケンアニメ!』（吉野耕平監督）

今村夏子『こちらあみ子』（森井勇佑監督）

東野圭吾『沈黙のパレード』（西谷弘監督）

平野啓一郎『ある男』（石川慶監督）

湊かなえ『母性』（廣木隆一監督）

佐藤正午『月の満ち欠け』（廣木隆一監督）

辻村深月『かがみの狐城』（原恵一監督）

*劇場公開順。作品は変更の可能性があります。

【到達目標】

現代日本文学を代表する多様なジャンルの小説を読む経験を重ねることで、複雑な言語構成体としてのテキストから様々な要素を抽出し、整理し、分析し、自分の言葉で批評的に表現することができるようになります。

加えて、個人、社会、性、生、死、ジェンダー、家族、事件、歴史などの諸問題について思考する力を養います。言語表現と映像表現を比較対照することで、メディア固有の表現やメディア間の相互接続性についても理解を深めます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式をとります。原作小説を精読し、作品分析を行った後、映画の一部を解説を加えながら観賞します。映像メディアである映画と言語メディアである小説を比較検討することによって、情報提示、叙述、人物設定、構成など、表現上の相違点を明らかにしていきます。

履修者には、現代日本文学の多様な表現世界や作品固有の表現に触れ、作品について深く思考し、考えをまとめ、批評的な言葉でアウトプットする力が求められます。小説を事前に読んでいなくても理解できる形で授業を進めていきますが、取り上げる作品はすべて文庫化されていますので、事前に読んで上で授業に臨む形がベストです。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	ガイダンス授業
2	原作小説の講読(1)	小説の講読・分析・考察
3	映画観賞(1)	原作の映画鑑賞と解説・考察
4	原作小説の講読(2)	小説の講読・分析・考察
5	映画観賞(2)	原作の映画鑑賞と解説・考察

6	原作小説の講読(3)	小説の講読・分析・考察
7	映画観賞(3)	原作の映画鑑賞と解説・考察
8	原作小説の講読(4)	小説の講読・分析・考察
9	映画観賞(4)	原作の映画鑑賞と解説・考察
10	原作小説の講読(5)	小説の講読・分析・考察
11	映画観賞(5)	原作の映画鑑賞と解説・考察
12	原作小説の講読(6)	小説の講読・分析・考察
13	映画観賞(6)	原作の映画鑑賞と解説・考察
14	秋学期授業のまとめ	秋学期授業のまとめと、レポート提出について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に原作小説を読んでいなくても理解できる形で授業を進めていきますが、物語内容や人物関係を把握する上でも、小説を読んで授業に臨むのがベストです。授業で取りあげた小説や映像作品は、授業外の環境で、もう一度読み直し観賞し直すことで、作品の理解を深めるよう努めてください。

レポート提出のための事前準備として、対象作品を精読し、その中で得た「気づき」をメモにとったり、疑問点や重要なポイントと思われる箇所についてまとめる作業を随時行ってください。

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業で扱う予定の以下の文庫本。

- ・風良ゆう『流浪の月』（創元文芸文庫）
- ・辻村深月『ハケンアニメ!』（マガジンハウス文庫）
- ・今村夏子『こちらあみ子』（ちくま文庫）
- ・東野圭吾『沈黙のパレード』（文春文庫）
- ・平野啓一郎『ある男』（文春文庫）
- ・湊かなえ『母性』（新潮文庫）
- ・佐藤正午『月の満ち欠け』（岩波文庫）
- ・辻村深月『かがみの狐城』（ポプラ文庫）

【参考書】

参考書・参考文献は、教室で指示します。

必要な資料はプリントで配付します。

【成績評価の方法と基準】

レポートで評価します（100%）。

試験や小テストはありません。

レポートのテーマは、「授業でとりあげた小説の中から一作品を選び、作品論を展開する」というものです。授業内容を踏まえ、自分が選んだ小説について、自分で設定したテーマに基づき、自分の言葉で「論」を展開してください。

分析の鋭さ、考察の深さ、文章の正確さ、構成の巧みさなどを見て採点します。詳細は、初回のガイダンス授業時に説明します。

【学生の意見等からの気づき】

専門科目ではないので、現代日本文学になじみのない学生にも分かりやすい言葉で、分析と解説を行うよう心がけます。

【その他の重要事項】

現代日本文学のみならず、映像メディアに関心をもつ学生の履修を歓迎します。

榎本のプロフィールや研究・評論活動は、サイト (<http://enmt.jp>) で確認できます。ツイッター (@enmt) での情報発信も行っていますので、履修時の参考にしてください。

【Outline (in English)】

【Course outline】

We read the original novel after having watched movie works that following as "Contemporary Japanese literature". I select from the following 6 works in 2022.

We compare movie expression with the literature expression including the same story contents, we are analyzing peculiar expressin words and movies.

【Learning Objectives】

We will read through the original novels after watching films based on contemporary Japanese literature. We plan to highlight the following 6 titles after carefully selecting from the works released in 2022.

By comparing and analyzing literary expressions and visual expressions of the same story events, we will deepen our thoughts about specific expressions and techniques of the book and film media. Our aim to acquire the ability to read novels from the perspective of what is literature-specific expression.

【Learning activities outside of classroom】

Although the class will be conducted in a manner that can be understood without having read the original novel beforehand, it is best to read the novel in order to grasp the content of the story and the relationships between the characters. Students are encouraged to re-read and re-watch the novels and films discussed in class outside of class to deepen their understanding of the works. Your study time will be more than four hours for a class.

[Grading Criteria /Policy]

Grade will be based on reports 100%.

There will be no examinations.

The theme of the report is "Select one of the novels discussed in class and wrapping up the report". Based on the content of the class, develop a "theory" in your own words about the novel you have chosen, based on the theme you have set for yourself.

LIN200LA

音声学Ⅰ

2017年度以降入学者

サブタイトル：

副島 健作

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 1/Wed.1

単位数：2 単位

定員制

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「言語」は、音声の形式という表現面と意味の形式という内容面が結びついた言語記号が単位であるようなシステムであり、このシステムの解明を対象とする学問分野は「言語学」と呼ばれています。この「言語」の表現面である「音声を使ったコミュニケーション」のあらゆる側面を研究するのが音の科学、すなわち「音声学」です。

音そのものがある特定のイメージを喚起する現象を「音象徴」といいます。この授業では、音象徴という現象を題材に、「音声学」をできるだけ分かりやすく解説することを目指します。

【到達目標】

1. ヒトが音声を使って話すときに何が起きているか、個々の音（子音・母音）とその連続を発音するしくみを理解する。
2. 音がどのような音響振動として現れるか、阻害音、共鳴音、圧力変化などの概念から理解する。
3. 音象徴の例を通して、母音や濁音の調音と音響を理解する。
4. 身近な音象徴の例を自ら発見し、分析する方法を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

まず「言語学」は言語をどういふものとして見ているかを概説し、表現面の形式である「音韻」が実質である「音声」によって実現されているという発想に慣れ、「音象徴」と呼ばれる現象の分析に入ります。具体的には、音声がある振る舞いをする時に「なぜそのような振る舞いをするのか」を、音声学で必要になる概念や道具立てを使って分析・研究・理解していきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	導入 1	言語とは
2	導入 2	音声とは
3	優しい音、ツンツンした音	どこでどのように発音するか
4	阻害音、共鳴音、圧力変化	阻害音、共鳴音の物理学的な定義
5	大きな音、小さい音	聞き取ってみる 調音してみる
6	母音の調音と音響	母音の発音の仕方と「大きさのイメージ」
7	濁音と向かい合う	聞き取ってみる 調音してみる
8	濁音の調音と音響	母音の発音の仕方と「大きい」イメージ
9	その他の音象徴	音象徴の具体例の「音声学」の概念による理解
10	音象徴研究の実際	音象徴研究の例

11	音象徴・音声学とその関連分野	より広い視点から音象徴・音声学を考える
12	気になる音象徴についての発表 1	受講生が自ら音象徴について調べたことを発表 1
13	気になる音象徴についての発表 2	受講生が自ら音象徴について調べたことを発表 2
14	最終試験	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

音声学はスポーツと同じです。できない発音があっても、訓練すればだれでもできるようになります。発音するしくみを理解し、再現できるように努めてください。

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

決まったテキストを使う予定はありません。

【参考書】

川原繁人 (2017) 『「あ」は「い」より大きい!?』 ひつじ書房

川原繁人 (2018) 『ビジュアル発音が』 三省堂

J.C. キャットフォード, 竹林滋 ほか (訳) (2006) 『実践音声学入門』

大修館書店

国際音声学会 (編), 竹林滋・神山孝夫 (訳) (2003) 『国際音声記号ガイドブック-国際音声学会案内-』 大修館書店

【成績評価の方法と基準】

課題：20%

平常点：20%

発表：20%

期末試験：40%で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline (in English)】

【Course outline】

Language is a system of linguistic symbols that combines the expressive aspect of the form of speech with the content aspect of the form of meaning. The academic field that focuses on the clarification of this system is called "linguistics". The science of sound, or phonetics, studies all aspects of communication using speech, the expressive aspect of language.

The phenomenon in which sound itself evokes a certain image is called "sound symbolism". In this class, we aim to explain phonetics as clearly as possible using the phenomenon of sound symbolism as a subject.

【Learning Objectives】

By the end of the course, students should be able to do the followings:

1. To understand what happens when humans speak using speech sounds, and how individual sounds (consonants and vowels) and their sequences are pronounced.
2. To understand how sounds appear as acoustic vibrations, based on concepts such as inhibitory sounds, resonant sounds, and pressure changes.
3. To understand the articulation and acoustics of vowels and murmurs through examples of sound symbols.
4. To learn how to discover and analyze examples of familiar sound symbols.

【Learning activities outside of classroom】

Phonetics is just like sports. Even if you can't pronounce something, you can learn to do it with practice. Please try to understand the mechanism of pronunciation and try to reproduce it.

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria / Policy】

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Term-end examination: 50%, Assignments : 30%, in class contribution: 20%

PHL200LA

哲学 L I

2017 年度以降入学者

サブタイトル：

大西 正人

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 5/Tue.5

単位数：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

哲学の基本的性格と歴史と基本問題を概観します。この概観によって、教養知の原理を理解し、現代人が直面する諸問題を、広くて新しい視野から考え、解決すること目的とします。特にこの I の講義は、人間とは何か、その本質に迫ろうとする哲学的人間論です。新技術の開発などによってこれまで考えられもしなかった人間の新しいあり方について選択と決断を迫られる現代においてこそ、人間らしさとは何かが切実に問われます。なお、日本の哲学や 20 世紀以降の思想にも焦点を当てます。

【到達目標】

基本的性格と歴史と基本問題の探究を通して教養知の原理としての哲学を理解できるようにします。到達目標は、受講生が実際に名著の思想世界に触れてみる体験をし、またその体験を表現できるようにすることです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式により進めます。一人の思想家ごとに、その作品を二三週間に分けて集中的に読みます。毎週授業後、その回の内容について問うグーグルフォーム上の小テストを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	哲学とは？
2	プラトン (1)	「アイデアの萌芽」としての人間存在
3	プラトン (2)	『饗宴』アリストファネスの話
4	プラトン (3)	『饗宴』ソクラテスの話
5	西田幾多郎 (1)	『善の研究』-『知即愛』の命題
6	西田幾多郎 (2)	「主客合一」としての人間存在
7	和辻哲郎 (1)	『倫理学』-「間柄」としての人間存在
8	和辻哲郎 (2)	「矛盾的统一」としての人間存在
9	和辻哲郎 (3)	『風土』-「風土」のうちに己を見出す人間存在
10	和辻哲郎 (4)	主体としての風土
11	ブーバー (1)	『我と汝』
12	ブーバー (2)	「汝」としての世界
13	ブーバー (3)	「本質行為」としての人間
14	まとめ	ふりかえり

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義で取り上げられ、その一部が教材プリントとして授業内でも配布される下記の文献は、すべて岩波文庫で入手できるので、学生は、授業計画に合わせてこれらの文献を読むことが推奨される。プラトン『饗宴』、西田幾多郎『善の研究』、和辻哲郎『倫理学』(一)、和辻哲郎『風土』、マルティン・ブーバー『我と汝・対話』

本授業の準備・復習として、返却された前回の小テストの模範解答をチェックし、間違えた個所があればその点を中心にノートやプリントを振り返り、特に疑問などは次の時間に質問できるようにしておくこと。

復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

こちらでプリントを用意します。

【参考書】

授業中に指示します。

【成績評価の方法と基準】

原則、授業後に行われる上記小テストの合計点 100 % で評価。

【学生の意見等からの気づき】

毎回行っている前回小テストの解説を工夫し、これまでの復習や定着がより効率的にできるようにしたい。

【学生が準備すべき機器他】

グーグルフォーム上の小テストを受けるためのデバイス。PC が望ましい。

【その他の重要事項】

ノートをとることが大切です。

【Outline (in English)】

This lecture is a philosophical human theory trying to think about human nature. In modern times where we are forced to make choices and decisions about the new way of human beings that we have never considered before, such as through the development of new technologies, something is being deeply questioned about humanness. We will also focus on Japanese philosophy and ideas after the 20th century.

PHL200LA

哲学ⅠⅡ

2017年度以降入学者

サブタイトル：

大西 正人

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 5/Tue.5

単位数：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

古代から現代に到る哲学の根本問題を、古代から現代の主要学説を手がかりにしながらできるだけ平明に解説します。哲学が古い常識を批判し、新しい常識をクリエートすることであることをテーマとします。西洋哲学は、万物の根源を人間の理性の力で探り、そうして捉えられた全体としての世界の中に自分を位置づけたいという人間的欲求とともに始まりました。講義では、こうした「形而上学的」な欲求が、世界を全体として非常に生き生きとした自己形成的なものとする自己形成的世界観として、現代にいたるまでの様々な知的探求の背景になっている様子を見ます。

【到達目標】

主要な哲学説の根本問題を学習することを通して常識批判としての哲学を理解することを到達目標とします。受講生が実際に名著の思想世界に触れてみる体験をし、またその体験を表現できるようにします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式により進めます。一人の思想家ごとに、その作品を二三週間に分けて集中的に読みます。毎週授業後、その回の内容について問うグーグルフォーム上の小テストを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	哲学への導入
2	今西錦司	生命的自然観－自己形成的存在論の前哨として
3	その2	今西錦司『生物の世界』を読む
4	アリストテレス	自己形成的存在論としての形而上学
5	その2	アリストテレス『形而上学』を読む
6	自己形成的存在論の展開としての近代哲学	近代化の原理としての主観客観二元論
7	デカルトの近代的世界観	近代的主客二元論とは？
8	デカルト(2)	『省察』を読む
9	デカルト(3)	デカルトの機械論的自然観-「近代的分裂」の予告としての近代的 主客二元論
10	「近代的分裂」の予告としての近代的 主客二元論	近代哲学の分裂－合理論と経験論
11	カントとヘーゲル	カントによる近代哲学の分裂克服の試み
12	カントとヘーゲル(2)	カントのアンチノミー論
13	カントとヘーゲル(3)	ヘーゲルの弁証法的世界観
14	カントとヘーゲル(4)	ヘーゲルの弁証法的世界観その2

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義で扱われる下記の文献などは事前に読むことが推奨される。今西錦司『生物の世界』、アリストテレス『形而上学』、デカルト『省察』復習として、返却された前回の小テストの模範解答をチェックし、間違えた箇所があればその点を中心にノートやプリントを振り返り、特に疑問などは次の時間に質問できるようにしておくこと。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

こちらでプリントを用意します。

【参考書】

授業中に指示します。

【成績評価の方法と基準】

原則、授業後に行われる上記小テストの合計点 100 % で評価。

【学生の意見等からの気づき】

毎回行っている前回小テストの解説を工夫し、これまでの復習や定着がより効率的にできるようにしたい。

【学生が準備すべき機器他】

グーグルフォーム上の小テストを受けるためのデバイス。PC が望ましい。

【その他の重要事項】

ノートをとることが大切です。

【Outline (in English)】

Western philosophy began with human desire to explore the root of all things with the power of human reason and to position himself in the whole world captured as such. In the lecture, we see how these metaphysical needs are behind various intellectual explorations up to the present age, becoming a self-organizing-world-view that the world as a whole is very vivid and self-organizing.

PHL200LA

哲学 I

2017 年度以降入学者

サブタイトル：

白根 裕里枝

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses

単位数：2 単位

この授業は「Web 履修抽選対象授業」です。抽選エントリー期間は 2023 年 4 月 3 日（月）10：00～5 日（水）17：00、結果発表は 4 月 6 日（木）22：00（予定）です。履修ガイド (<https://hosei-keiji.jp/ilac/rishuguide2023/>) を確認のうえ、情報システムから期間内にエントリーしてください。

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

哲学というと難しいという印象があるかもしれないが、何も特別のことではない。私たちは生きてゆく上で、常に様々な行為を選んで、様々な幸せを目指しているが、善く生きて幸福になるためには、よりよく、正しく考えること、つまり哲学が必要なのである。人間の尊厳は考えるということにある。誰もが、正しく考えるために、哲学を学ぶことが必要なのである。

哲学はあらゆる学問の基礎である。学生は、何を学ぶにしても、哲学がその根本に関わることを知るだろう。さらには他の学問、とりわけ、今日、絶大なる信頼を持ってその地位の確立されている近代科学のあり方を振り返ることで、哲学の重要性も再確認できるだろう。その上で、哲学を学ぶことで、私たちが幸せによく生きるためにはどうしたらよいかを考えてみたい。哲学とは、本来、学ぶものではなく、自分で考えるものなのだから。

【到達目標】

この授業では西洋の哲学の基礎を学ぶ。哲学は古代ギリシアに誕生した。どのような考えのもとで、哲学が生まれたのか、その後、どのような変遷を辿ったのか、そもそも哲学が問題としたことは何であるのか、古代ギリシアの源流から探りたい。

哲学（I）では、哲学の源である古代ギリシア哲学に遡って、哲学とは何か、その根本的な特徴を捉えた上で、哲学はその他の学問や科学とはどう異なるのか、また、なぜ哲学が必要とされるのかなどを探ってみたい。

学生は、まずはオーソドックスな哲学の基礎を学ぶことで、哲学のそもそもの誕生の現場を知ることができる。それは学問の誕生の場でもあるから、すべての学問を学ぶ上での基本的な見取り図を手に入れることができるだろう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

授業は基本的にプリントを用いた講義形式である。哲学者たちの生き方をめぐるエピソードなども交えながら、オーソドックスな哲学の考え方をわかりやすく講義してゆく。補助資料によって著名な哲学者たちの言葉に直接に触れることで、理解を深めてゆきたい。できるだけ、わかりやすい授業を目指す。毎回の課題の提出を重視する。課題のコメントの提出によって、自分の考えを確認する機会にもなるだろう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	序論	足の裏に影はあるか？
2	哲学とは何か	「哲学」という語の由来

3	ギリシアにおける「哲「哲学」という語の用例学」の誕生	
4	哲学の出発点 1	無知の自覚と愛知 ソクラテスの哲学
5	哲学の出発点 2	ソクラテスの無知の自覚と愛知
6	哲学の出発点 3	驚き、懐疑、絶望…（デカルト～ヤスパース）
7	哲学の究極	愛についての考察・アイデア論とプラトニックラブ
8	哲学とは何か・まとめ	愛の3つの対象と知への愛
9	哲学と科学 1	知についての考察——哲学と学問知
10	哲学と科学 2	対象の違い——部分と全体、本質と現象
11	哲学と科学 3	方法の違い——仮説と真理、分析と反省
12	哲学と科学 4	事実と価値・目的と手段
13	哲学と科学・まとめ	主体知と客体知・相補性
14	哲学 I まとめと学期末試験	授業内試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で取り上げた著作を、実際に手に取って読んでみることを。本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

受講者は、下記を必ず読むこと。

『哲学のすすめ』岩崎武雄、講談社現代新書、1966 年、¥ 814

【参考書】

『西洋哲学史 古代・中世編—フィロソフィアの源流と伝統』内山勝利、中川 純男、ミネルヴァ書房

『哲学の歴史』1～5、中央公論新社

『はじめて学ぶ哲学』渡辺二郎、ちくま学芸文庫

【成績評価の方法と基準】

毎回の課題の提出などの平常点（40％）と、学期末試験（レポート）（60％）によって評価する。試験のレポートは、授業で扱った内容について自分の考えを書くという論述形式である。

【学生の意見等からの気づき】

難しくそうという印象の哲学だったが、授業は分かりやすく、楽しく哲学を学ぶことができたということなので、引き続き、哲学の面白さ、素晴らしさをじっくり伝えてゆきたい。生きて行く上で、哲学をますます身近なものとしてもらいたい。対面授業の場合、授業中の私語には厳しく対処し、板書の写メ、スマホも禁止してゆく。オンラインの場合、酷似したレポートはどちらも減点の対象とする。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students understand how important philosophy is, by studying the philosophical thoughts in ancient Greece and their relation to science.

PHL200LA

哲学Ⅱ

2017年度以降入学者

サブタイトル：

白根 裕里枝

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses

単位数：2単位

この授業は「Web履修抽選対象授業」です。抽選エントリー期間は2023年4月3日(月)10:00~5日(水)17:00、結果発表は4月6日(木)22:00(予定)です。履修ガイド(<https://hosei-keiji.jp/ilac/rishuguide2023/>)を確認のうえ、情報システムから期間内にエントリーしてください。

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的(何を学ぶか)】

哲学(Ⅱ)では、「Ⅲ.哲学と宗教」、「Ⅳ.哲学と幸福」について考察する。宗教というと嫌いだとか怖いと思う人もいるかも知れないが、ユダヤ教、イスラム教、キリスト教はどれも同じ神を信じながら、今日、様々な問題を引き起こしているのも事実である。まずは、その思想と歴史的事実をよりよく知ることが重要である。宗教の成立過程を見ることで、宗教の思索の持つ素晴らしい面や意義を知ることができ、また逆に、その問題点や危険性を知ることでもできるだろう。哲学の観点から、今日における宗教の問題を考え、哲学の意義を再考してみたい。

他方で、哲学は人間の真の幸福を探求する。幸福、つまり、善き生とは何か。われわれは誰もが幸福になりたいと願っているが、たとえば、科学だけで、あるいは、宗教によって、幸福になれるのだろうか？幸福になるには何よりも哲学が必要である。幸福になるための条件とは何であり、そもそも幸福とは何なのだろうか。哲学の観点から幸福について考えてみたい。

【到達目標】

西洋の文化や思想、芸術に大きな影響を与えてきたキリスト教だが、その教義の形成にはギリシア哲学が大きな影響を与えてきた。学生は、哲学との対比を通して、キリスト教やその他の宗教について、付かず離れずに見る視点を確保することができるだろう。偉大な宗教は、人間の弱さ、惨めさをとことん見つめようとする。哲学は、人間の知の可能性を可能な限り追求する。「信じる」ことと「知る」こととの緊張関係において、哲学と宗教の接点を考えてみたい。

また、幸福とは何か？ どうしたらわれわれは幸福な生を送ることができるのか？古代ギリシア・ローマの幸福論をみることで、私たちの幸福について考え直してみたい。幸福になるには、よく知ることがいかに大事か、真の幸福の鍵が哲学にあることが理解されるだろう。愚かさこそが、私たちの不幸の原因なのだから。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

授業は基本的にプリント配信を用いた講義形式で進める。まずは、哲学と宗教の根本的相違点である知と信の問題に触れる。その上で、ユダヤ教、キリスト教、ギリシア哲学者たちの神観などについて、補助プリントなども用いて概要を把握した上で、哲学と宗教との関わりについて考えたい。また、補助資料によって、哲学者たちの生き方をめぐるユニークなエピソードなども交えながら、著名な哲学者たちの言葉に直接に触れることで、オーソドックスな哲学の考え方をわかりやすく講義して理解を深めてゆきたい。できるだけ、分かりやすい授業を目指す。毎回の課題の提出やコメントを重視する。課題やコメントの提出によって、自分の考えを確認する機会にもなるだろう。なるべく哲学Ⅰから取るようにして下さい。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】なし/No

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし/No

【授業計画】授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	序論	哲学とは何か?哲学と科学と宗教
2	学と宗教の相違点	知の立場と信の立場
3	ユダヤ人とユダヤ教	旧約聖書とメソポタミア
4	キリスト教とは	キリスト教——愛の宗教
5	ギリシア哲学とキリスト教	知と信の葛藤
6	現代における宗教の存在理由	人間知性の偉大さとその限界
7	宗教心の源泉	パスカルとアウグスティヌス・自由意志と悪の問題
8	哲学と宗教	自力と他力——人間の強さと弱さについて
9	哲学と幸福(善き生)	幸福論——哲学とよき生について1
10	哲学と幸福(善き生)	意志の弱さと選択の問題・ソクラテスのアクラシアー否定論
11	哲学と幸福(善き生)	『ゴルギアス』のカリクレス説・『国家』の国政の変遷と独裁者の幸・不幸
12	哲学と幸福(善き生)	正義と幸福——ソクラテスの場合4
13	哲学と幸福(善き生)	ソクラテスの後継者たち——禁欲主義と快楽主義
14	哲学と幸福(善き生)・まとめ	授業内試験・まとめと解説

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

授業で触れて、興味を持った哲学者の著作を、自分で手に取って読んでみて下さい。本授業の準備・復習時間は、各々2時間程度を標準とします。

【テキスト(教科書)】

受講者は、下記を必ず読むこと。

『哲学のすすめ』岩崎武雄、講談社現代新書、1966年、¥814

【参考書】

『西洋哲学史 古代・中世編—フィロソフィアの源流と伝統』

内山 勝利、中川 純男著、ミネルヴァ書房

『哲学の歴史』1~5、中央公論新社

『はじめて学ぶ哲学』渡辺二郎、ちくま学芸文庫

【成績評価の方法と基準】

毎回の課題の提出などの平常点(40%)と、学期末試験(レポート)(60%)によって評価する。毎回の課題を提出済みであること。学期末試験のレポートは、授業で扱った内容について自分の考えを書くという論述形式である。

【学生の意見等からの気づき】

難しそうという印象の哲学だったが、授業は分かりやすく、じっくり楽しく哲学を学ぶことができたということなので、引き続き、哲学の面白さ、素晴らしさを伝えてゆきたい。生きて行く上で、哲学をますます身近なものとしてもらいたい。対面授業の場合、授業中の私語には厳しく対処し、板書の写メ、スマホも禁止してゆく。オンラインの場合、酷似したレポートはどちらも減点の対象とする。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students understand how important philosophy is, by studying the philosophical thoughts in ancient Greece and their relation to religion. And also this course introduces the philosophical theory of eudaemonics (happiness) to students taking this course.

PHL200LA

倫理学 L I

2017 年度以降入学者

サブタイトル：

森村 修

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 2/Fri.2

単位数：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

【授業の概要】

2020 年から 2022 年にかけて、新型コロナウイルス感染の爆発的流行（パンデミック pandemic）に、全世界が巻き込まれた。2023 年になっても収束する決定的な要因を見出せず、世界では感染は増え続けている。それに対して、各国の医療は感染者の治療に間に合っているとはいえない状況にある。

生死を分ける「トリアージ（どの患者から治療するかという優先順位づけ）」が日常的に行われ、「生命の線引き」が後を絶たない。また、若年層には重篤化する傾向が少なく、感染しても無症状の可能性が高いのに対して、中高年層や持病を持った患者は死に至るケースが多い。これらのことから、年齢差別的な事態も引き起こされかねない。

コロナウイルスのパンデミックによって、私たちの社会の「道徳性」の弱さが露呈し、個人主義的というよりも利己主義的な個人の倫理観や社会道徳の意味などが問われているように思われる。自己中心的な価値観に基づくあまり、誰もが自分以外の他者に対して〈優しく〉ない。雰囲気醸成しているといえよう。

本授業では、「ケアの倫理」という立場から、「自己をケアすること」・「他者をケアすること」から出発し、いかに社会や国家だけでなく、世界や地球全体を守り、ケアするかという大きな問いにまで視野を広げていく。

そこで本授業では、自分の個人的な行為が、見ず知らずの多数の人に影響を与えかねない現代社会の倫理性の問題を、「ケア」という角度から哲学的・倫理的に分析する。

【授業の目的】

本科目は、1980 年代に始まった比較的新しい「ケアの倫理」を学んでいく科目である。「ケアの倫理」では、「ケアとは何か」、「誰が誰をケアするのか」、「グローバル・エシックスにおけるケアとは何か」などの様々な問いを検討することを通じて、「ケア」という概念が私たちが生きている現場で必要不可欠な概念であることを明らかにする。また、「他者をケアすることの意味」や「自己へのケアの重要性」を考察することの重要性を学んでいく。

さらに「グローバル社会におけるケアの意味」、「正義の倫理」と「ケアの倫理」との対比を考察しながら、「愛とケア」に重点を置く、新しい「愛とケアのグローバル倫理」を構築することが、本授業の最終的なテーマである。

【到達目標】

- (1) 「倫理学」という学問について、近隣諸学（哲学、法学、宗教学、政治学など）との違いを説明することができる。
- (2) 「応用倫理学」のなかで、「生命倫理学」と「ケアの倫理学」との異同について比較することができる。
- (3) 「正義の倫理」と「ケアの倫理」についての歴史的経緯について、具体的に述べることができる。
- (4) 「ケア」概念を包括的に理解し、学際的な立場から、科学と倫理学の学問性の違いについて説明することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

【授業の方法】

基本的に、授業は「講義形式」で行う。場合によっては、リアクションペーパーを用いて、受講生の皆さんと討論することも考えている。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	・履修上の注意 ・「ケアの倫理」についての概要説明
2	第 1 章 生きることの倫理①	・生きることの質（QOL）
3	第 1 章 生きることの倫理②	・健康であることの意味
4	第 1 章 生きることの倫理③	・死ぬことの意味
5	第 1 章 生きることの倫理④	・死に立ち会うこと
6	第 1 章 生きることの倫理⑤	・ペットロス
7	第 1 章 生きることの倫理⑥	・死への準備教育（Death Education）
8	第 2 章 「ケア」の倫理①	・「ケア」の思想①——メイヤロフ『ケアの本質』
9	第 2 章 「ケア」の倫理②	・「ケア」の思想②——ギリガン『もう一つの声で』
10	第 2 章 「ケア」の倫理③	・〈心〉が傷ついた人のケア
11	第 2 章 「ケア」の倫理④	・スピリチュアルケア（spiritual care）——〈いたみ〉を分かち合うこと
12	第 3 章 支え合うこととの倫理	・ケア意識の発達
13	第 3 章 支え合うこととの倫理	・ケアする人を支えるために
14	まとめ	・「自己へのケア」から「他者へのケア」へ、そして「支え合いとしてのケア」へ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業内で触れたことについて、様々な書籍、雑誌、新聞やインターネットで確認し、自分の知識を増やすように心がけること。倫理学は、生き方に関わる学問である。座学では何も身につかない。積極的に、倫理的な問題を考え、自ら主体的に学ぶように日頃から気をつける必要がある。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

- ・森村修『ケアの倫理』（大修館書店、2000 年）
- ・森村修『ケアの形而上学』（大修館書店、2020 年）
- ・キャロル・ギリガン『もうひとつの声で——心理学の理論とケアの倫理』（風行社、2022）
- ・Virginia Held, *The Ethics of Care: Personal, Political, and Global*, Oxford University Press, 2006.

【参考書】

- 竹田純郎・伊坂青司・森秀樹編『生と死の現在——家庭・学校・地域のなかのデス・エデュケーション』（ナカニシヤ出版、2002 年）

【成績評価の方法と基準】

毎回のリアクションペーパーや授業内で行う小テストなど（70 %）と期末試験（30 %）によって、総合的に評価する。

〈要注意〉

・リアルタイム・オンライン授業の場合には、成績評価の方法と基準も変更する。具体的な方法と基準は、授業内や学習支援システムで提示する。

初回授業日に、その時点での成績評価の方針について、「学習支援システム」で受講者に通知する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

ビデオ、DVD など AV 機器を用いる場合がある。

【その他の重要事項】

「ケアの倫理」は、単に授業ですわってれば自然と身につくものではない。自らの主体的な実践を伴わない「ケア」や「〈癒しと救い〉」は、単なる「絵に描いた餅」でしかなく、生きるためには何の役にも立たない。受講生各自が、自らの日々の生活のなかで、「ケアとは何か」「何をケアするのか」「ケアするためには何が必要なのか」「ケアとは何をしなければならないことなのか」などという問いを自らに問いかけ、それに答える努力を欠かさないようにしてもらいたい。

【Outline (in English)】

In this course, we examine the question "What is care?" from the perspective of "Global Ethics of Care and Justice". At that time, in this subject, we will consider the problem of care labor by examining the specific question of "who cares who". In addition, we will ask the contemporary significance of the previously controversial issue of the conflict between care and justice. From there, As described above, we will examine the question of "What is care ethics in global ethics" in the 21st century from various angles.

PHL200LA

倫理学Ⅱ

2017年度以降入学者

サブタイトル：

森村 修

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 2/Fri.2

単位数：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

【授業の概要】

2020年から2023年にかけて、新型コロナウイルス感染の爆発的流行（パンデミック pandemic）に、全世界が巻き込まれた。2022年になっても収束する決定的な要因を見出せず、世界では感染は増え続けている。それに対して、各国の医療は感染者の治療に間に合っているとはいえない状況にある。

生死を分ける「トリアージ（どの患者から治療するかという優先順位づけ）」が日常的に行われ、「生命の線引き」が後を絶たない。また、若年層には重篤化する傾向が少なく、感染しても無症状の可能性が高いのに対して、中高年層や持病を持った患者は死に至るケースが多い。これらのことから、年齢差別的な事態も引き起こされかねない。

コロナウイルスのパンデミックによって、私たちの社会の「道徳性」の弱さが露呈し、個人主義的というよりも利己主義的な個人の倫理観や社会道徳の意味などが問われているように思われる。自己中心的な価値観に基づくあまり、誰もが自分以外の他者に対して〈優しく〉雰囲気醸成しているといえよう。

本授業では、「ケアの倫理」という立場から、「自己をケアすること」・「他者をケアすること」から出発し、いかに社会や国家だけでなく、世界や地球全体を守り、ケアするかという大きな問いにまで視野を広げていく。

そこで本授業では、自分の個人的な行為が、見ず知らずの多数の人に影響を与えかねない現代社会の倫理性の問題を、「ケア」という角度から哲学的・倫理的に分析する。

【授業の目的】

本科目は、1980年代に始まった比較的新しい「ケアの倫理」を学んでいく科目である。「ケアの倫理」では、「ケアとは何か」、「誰が誰をケアするのか」、「グローバル・エシックスにおけるケアとは何か」などの様々な問いを検討することを通じて、「ケア」という概念が私たちが生きている現場で必要不可欠な概念であることを明らかにする。また、「他者をケアすることの意味」や「自己へのケアの必要性」を考察することの重要性を学んでいく。

さらに「グローバル社会におけるケアの意味」、「正義の倫理」と「ケアの倫理」との対比を考察しながら、「愛とケア」に重点を置く、新しい「愛とケアのグローバル倫理」を構築することが、本授業の最終的なテーマである。

【到達目標】

- (1)「倫理学」という学問について、近隣諸学（哲学、法学、宗教学、政治学など）との違いを説明することができる。
- (2)「応用倫理学」のなかで、「生命倫理学」と「ケアの倫理学」との異同について比較することができる。
- (3)「正義の倫理」と「ケアの倫理」についての歴史的経緯について、具体的に述べることができる。
- (4)「ケア」概念を包括的に理解し、学際的な立場から、科学と倫理学の学問性の違いについて説明することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

【授業の方法】

基本的に、授業は「講義形式」で行う。場合によっては、リアクションペーパーを用いて、受講生の皆さんと討論することも考えている。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	・受講上の注意 ・「ケアの倫理」入門
2	第1章 暴力被害者のケア①	・〈生き残ること〉と〈生き延びること〉 ・「こども虐待」という〈社会・政治的暴力〉
3	第1章 暴力被害者のケア②	・「新たなる傷つきし者」の出現——「社会・政治的トラウマ」の問題 ・〈情動を抱える生〉の〈ケアの倫理〉
4	第2章 「生き延びる者」へのケア——長寿高齢社会の現実①	・哲学的課題としての「認知症」 ・「認知症」が問いかけるもの
5	第2章 「生き延びる者」へのケア——長寿高齢社会の現実②	・「社会的疾患」としての「認知症」 ・「認知症」における〈こころ〉と脳
6	第2章 「生き延びる者」へのケア——長寿高齢社会の現実③	・認知症ケアの倫理
7	第3章 〈社会的孤立者〉へのケア——「孤独死」社会における倫理①	・「孤独死」の現在 ・「ひとりて死ぬこと」の意味
8	第3章 〈社会的孤立者〉へのケア——「孤独死」社会における倫理②	・「何も共有していない者たちの共同体」の倫理 ・〈他者としての死者〉を抱えて〈生き延びる〉こと
9	第3章 〈社会的孤立者〉へのケア——「孤独死」社会における倫理③	・アボリアの経験 ・喪の倫理
10	第4章 〈からだ〉と〈ことば〉のケア倫理①	・〈からだ〉という問題圏 ・東洋の心身論の試み
11	第4章 〈からだ〉と〈ことば〉のケア倫理②	・富士谷御杖の思想 ・〈身〉と〈言〉 ・〈身〉と〈こころ〉 ・「言霊」の〈力〉
12	第5章 「生存の美学」としてのケア①	・アウトサイダーとアーと・セラピー ・ヘンリー・ダーガーの世界
13	第5章 「生存の美学」としてのケア②	・他者への配慮 ・レベッカ・ブラウンの「贈与」
14	第5章 「生存の美学」としてのケア③	・デヴィッド・グレーバーの価値論について ・贈与としてのケア

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

森村修『ケアの形而上学』、大修館書店、2020年

【参考書】

森村修『ケアの倫理』、大修館書店、2000年

【成績評価の方法と基準】

毎回のリアクションペーパー（40%）、小テスト（30%）と期末試験あるいはレポート（30%）によって、総合的に評価する。

※リアルタイム・オンライン授業の場合は、変更の可能性がある。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

オンライン授業の場合には、インターネットなどの必要な設備が必要である。

【Outline (in English)】

【Course outline】

In this course, we examine the question "What is care?" from the perspective of "Global Ethics of Care and Justice". At that time, in this subject, we will consider the problem of care labor by examining the specific question of "who cares who". In addition, we will ask the contemporary significance of the previously controversial issue of the conflict between care and justice. From there, the aim of this course is to help students examine the question of what is care ethics in global ethics in the 21st century from various angles.

【Learning Objectives】

At the end of the course, students are expected to describe the differences between ethics of justice and ethics of care in detail and to understand the concept of care comprehensively.

【Learning activities outside of classroom】

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

【Grading Criteria /Policy】

Final grade will be calculated according to the following process
Mid-term report (30%), term-end examination (30%), and in-class contribution(40 %).

PHL200LA

倫理学 L I

2017 年度以降入学者

サブタイトル：

佐藤 英明

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 4/Fri.4

単位数：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講義では、おもに人の生命誕生に関わる生命倫理問題に目を向けながら、倫理学の基本的な概念を学ぶ。

【到達目標】

いま何が問われ、それに対してどのような倫理学上の立場が存在するのかを学ぶことを通して、倫理学の基本的な知識を身につけるとともに、具体的な生命倫理問題を通じて自ら思索を深めることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義を中心に進めるが、授業中にとりあげた問題に対して受講者自身の意見を求めることもある。原則として毎回アクションペーパー（課題）の提出を求める。授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

大学の行動方針レベルが1の場合は、オンライン授業と対面授業を併用する。レベルが2となった場合は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	倫理学の基本概念	倫理学とはどのようなことを研究対象とする学問なのか、倫理学全般に関して説明する。
第 2 回	規範倫理学・記述倫理学・メタ倫理学	倫理学の 3 つのレベルについて、その概要を説明する。
第 3 回	バイオエシックスの誕生	1970 年代に米国においてバイオエシックスが誕生した背景を解説する。
第 4 回	バイオエシックスの諸問題	バイオエシックスにおいて取り扱われるテーマを解説する。
第 5 回	倫理的価値としての生命	生命や健康は価値あるものとされているが、それはいかなる理由からかを考える。
第 6 回	生命の誕生と人工妊娠中絶の問題	生殖に関する生命倫理問題を考察する。
第 7 回	人口抑制と環境問題	生殖に関する生命倫理問題と人口問題や環境問題との関係を考察する。
第 8 回	「自然」とは何か	倫理問題を考えるうえで「自然」という概念がいかなる意味を持つのかを解説する。
第 9 回	優生思想	優秀な子孫を残し劣った子孫の出生を防止するという「優生思想」に関する問題を解説する。

第 10 回	社会ダーウィニズムと人種主義	優生思想と社会ダーウィニズムとの関係解説し、ナチズムにおける位置づけを考察する。
第 11 回	人工授精と体外受精	具体的な生殖医療における生命倫理問題を概観する。
第 12 回	ウォーノック報告と自由主義	英国のウォーノック報告の基本的考え方を解説し、生命倫理学における自由主義について考察する。
第 13 回	凍結保存の倫理的意味	配偶子や受精卵の凍結保存の持つ意味とそれによってもたらされる倫理的問題を考察する。
第 14 回	まとめ ※別途定期試験を実施する	これまでの授業全体を振り返り、理解を深める。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

次回の授業内容に関するテキストの該当箇所を一読しておくこと。またプリントやノートを用いて授業内容について復習し、自分自身の思索を深めること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

テキストとして今井道夫『生命倫理学入門 [第 4 版]』（産業図書）を使用し、他に資料を配付する。

【参考書】

授業内で提示する。

【成績評価の方法と基準】

授業内小テスト（70 %）期末レポート（30 %）

【学生の意見等からの気づき】

受講生からの意見を授業に反映させるために、さらにリアクションペーパーの活用を工夫すること。

【Outline (in English)】

In this lecture, we will focus on bioethical issues concerning the birth of people and learn the basic concepts of ethics.

The goals of this course are to acquire basic knowledge of ethics and to deepen your thoughts through specific bioethical issues. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on the following.

Short reports:50,Term-end examination:50.

PHL200LA

倫理学Ⅱ

2017年度以降入学者

サブタイトル：

佐藤 英明

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 4/Fri.4

単位数：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講義では、おもに人の死に関わる生命倫理問題に目を向けながら、倫理学の基本的な概念を学ぶ。

【到達目標】

いま何が問われ、それに対してどのような倫理学上の立場が存在するのかを学ぶことを通じて、倫理学の基本的な知識を身につけるとともに、具体的な生命倫理問題を通じて自らの思索を深めることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義を中心に進めるが、授業中にとりあげた問題に対して受講者自身の意見を求めることもある。原則として毎回リアクションペーパー（課題）の提出を求める。授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	倫理的観点から見た「人の死」	人の死とはどのようなことかをあらためて生命倫理学の視点から考察する。
第2回	脳死に関する倫理的諸問題	脳死とはどのような状態かを確認し、生命倫理学においてどのような問題を孕んでいるのかを概観する。
第3回	臓器移植と功利主義	臓器移植という医療が、功利主義的な考え方によってどのように正当化されるかを具体的に考察する。
第4回	功利主義の問題	功利主義とはどのような考え方を確認し、その問題点を明らかにする。
第5回	義務論と目的論	功利主義を義務論と対比し、義務論的な考え方について概観する。
第6回	幸福加算の可能性	「最大多数の最大幸福」を原則とする功利主義が前提とする幸福計算の可能性について考察する。
第7回	社会的コンセンサスの倫理的意味	合意形成の可能性について倫理的視点から考察する。
第8回	安楽死・尊厳死・自然死	安楽死とはどのようなことかを解説し、安楽死に関する生命倫理問題を概観する。
第9回	生命の質	安楽死容認の根拠とされる考え方を考察する。
第10回	パターナリズム	自律原理に基づく医療とは対置されるパターナリズムの内容とその問題点を明らかにする。

第11回	自己決定の問題	安楽死の根拠とされる自律原理に関わる問題を明らかにする。
第12回	「判断能力」の有無	自己決定権行使の前提となる「判断能力」について、その内容を考察するとともに、問題とされる具体的事例を考察する。
第13回	「人格」概念	人間とはいかなる存在かをパーソン論の観点から考察する。
第14回	まとめ ※別途定期試験を実施する	これまでの授業全体を振り返り、理解を深める。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

次回の授業内容に関するテキストの該当箇所を一読しておくこと。また授業内容について復習し、自分自身の思索を深めること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

テキストとして今井道夫『生命倫理学入門 [第4版]』（産業図書）を使用し、他に資料を配付する。

【参考書】

授業内で提示する。

【成績評価の方法と基準】

授業内小テスト（70%）期末レポート（30%）

【学生の意見等からの気づき】

受講生からの意見を授業に反映させるために、さらにリアクションペーパーの活用を工夫すること。

【Outline (in English)】

In this lecture, we will focus on bioethical issues concerning human death and learn basic concepts of ethics.

The goals of this course are to acquire basic knowledge of ethics and to deepen your thoughts through specific bioethical issues. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on the following.

Short reports:50,Term-end examination:50.

PHL200LA

倫理学 L I

2017 年度以降入学者

サブタイトル：情報社会の倫理

杉本 隆久

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 3/Mon.3

単位数：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

情報社会の倫理は、現代の情報社会の中で起こる具体的な倫理的問題に対して、理論的な知をさらに深め、応用していくための倫理学です。そのため、この授業では、グローバルな情報社会において生じている具体的な倫理的問題をいくつも取り上げながら、その問題に対して倫理的にどのように対応していくべきかを各学生がそれぞれの立場で考察できるようにします。

倫理学 L I では、情報社会における倫理的問題の中でも、特に「ネットにおけるコミュニケーション」、「メディア・リテラシー」、「情報技術とセキュリティ」、「インターネットと犯罪」「個人情報と知的財産」、「SNS と情報モラル」などインターネット社会を生きるための情報倫理に関連する諸問題を取り上げます。

【到達目標】

この授業では、現代に生きる私たちが、グローバルな情報社会の中で、一個の人間としてどのように生きるべきかを倫理的に考察することを目指します。その中で、様々な倫理的問題を解決する実践的・応用的な知を獲得することを目標とします。また、様々な倫理的問題と対峙した際に必要となる思考力と判断力を養うことを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は、講義形式の授業です。今年度は大学の授業実施方針に則り、原則対面授業を行います。初回授業は受講希望者数が不明なため、着席できない受講者が発生することを回避する目的で「オンライン」または「ハイフレックスを用いた対面」授業を行う予定です。なお、「オンライン授業による教育効果が高い場合」の条件に該当する授業回に限り、全授業回の半数を超えない範囲（7 回以下）で、オンライン授業を実施する場合があります。また、入国できない外国人留学生や基礎疾患等における配慮を必要とする学生が履修した場合は、Zoom を利用したハイフレックス授業を行います。

授業は講義形式で進めますが、授業内でディスカッションを行ったり、受講生から意見を述べてもらうなど、積極的に授業に参加してもらうように配慮するつもりです。また、リアクションペーパーを提出してもらうなどして、受講生の考えを授業に反映させていきたいと考えています。

なお授業の変更及び伝達事項等のお知らせに関しては、Hoppii（学習支援システム）より通知します。課題や期末レポートは、学習支援システム上で提出してもらうことを考えています。毎回の授業の資料に関しても、授業開始までに学習支援システムで配信する予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	情報と情報社会と情報倫理	授業ガイダンスを行う。また、情報と情報社会と情報倫理についての概説も行います。

第 2 回	情報通信社会とインターネット	情報通信社会とインターネットの進化と変遷を概観し、その中で生じてきた倫理的問題について検討します。
第 3 回	ネット時代のコミュニケーション	ネットにおけるコミュニケーションとマナーについて倫理的に検討します。
第 4 回	メディアの変遷とメディア・リテラシー	メディアの変遷とメディア・リテラシーについて倫理的に検討します。
第 5 回	情報技術とセキュリティ	情報セキュリティとネット被害の問題を倫理的に検討します。
第 6 回	インターネットと犯罪	ネット社会におけるトラブルと犯罪について倫理的に検討します。
第 7 回	個人情報とプライバシー	個人情報の流出と保護の問題について倫理的に検討します。
第 8 回	知的所有権とコンテンツ	知的財産の問題と知的財産権について倫理的に検討します。
第 9 回	企業と情報倫理	企業の社会的責任や企業倫理について倫理的に検討します。
第 10 回	科学技術と倫理	科学技術と倫理の問題や技術者倫理について検討します。
第 11 回	デジタルデバイスとユニバーサルデザイン	デジタルデバイスの問題とユニバーサルデザインについて倫理的に検討します。
第 12 回	SNS と情報モラル	ソーシャルネットワークサービス（SNS）と情報モラルについて倫理的に検討します。
第 13 回	情報社会とリテラシー	情報社会を生き抜くリテラシーについて倫理的に検討します。
第 14 回	まとめ	まとめを行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に配布した資料を読み、分からなかった部分についてはノートに抜き書きするなどして、問題意識を持った上で授業に臨んでください。

受講後は、不明点を理解できたかどうか復習してください。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

基本的にテキストは使用しません。授業のテーマに関係するプリントを配付します。

【参考書】

- ・高橋慈子他著『情報倫理—ネット時代のソーシャル・リテラシー』（技術評論社）
- ・情報教育学研究会『インターネット社会を生きるための情報倫理（改訂版）』（実務出版）
- ・勢力尚雅編著『科学技術時代の倫理学』（梓出版社）
- ・大黒岳彦『情報社会の〈哲学〉—グーグル・ビッグデータ・人工知能』（勁草書房）

【成績評価の方法と基準】

毎回の授業後に、課題としてリアクションペーパーを提出してもらいます（Hoppii を利用することを考えています）。また期末レポートを提出してもらいます。以上の 2 点を総合して評価します。評価の比率は、課題 60%、期末レポート 40%とします。

【学生の意見等からの気づき】

一方的な講義ではなく、ディスカッションを行ったり、受講生から意見を述べてもらうようにしていきます。またリアクションペーパーを活用することで、受講生からの意見を授業に反映させるようにします。

【学生が準備すべき機器他】

授業の変更及び伝達事項等のお知らせに関しては、Hoppii（学習支援システム）より通知します。課題や期末レポートは、学習支援システム上で提出してもらうことを考えています。毎回の授業の資料に関しても、授業開始までに学習支援システムで配信する予定です。

【その他の重要事項】

積極的・意欲的な態度で授業に臨んでもらいたいです。倫理学 L II も併せて受講していただくことが望ましいです。

【Outline (in English)】

Ethics of information society is ethics to deepen and apply theoretical knowledge to specific ethical problems occurring in modern information society. From this reason, in this class, we will take up a variety of ethical issues arising from global information society, and consider a ethical reaction to those.

In this class, we aim to ethically consider how we, who live in the present age, should live as one person in the global information society.

Study times outside classroom is 1 hour for preparatory study and 1 hour for review.

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Report : 40%、 Short reports : 60%

PHL200LA

倫理学 L II

2017 年度以降入学者

サブタイトル：情報社会の倫理

杉本 隆久

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 3/Mon.3

単位数：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

情報社会の倫理は、現代の情報社会の中で起こる具体的な倫理的問題に対して、理論的な知をさらに深く、応用していくための倫理学です。そのため、この授業では、グローバルな情報社会において生じている具体的な倫理的問題をいくつも取り上げながら、その問題に対して倫理的にどのように対応していくべきかを各学生がそれぞれの立場で考察できるようにします。

倫理学 L II では、〈身体〉というパースペクティブから、特に「人工知能 (AI)」、「ロボット、アンドロイド、サイボーグ」という問題を中心に、他にも「技術的特異点 (テクノロジカル・シンギュラリティ)」、「2045 年問題」、「Google」、「ビッグデータ」、「SNS」、「ウェアラブル」など現代を生きるための情報社会に関連する様々な倫理的問題を取り上げます。

【到達目標】

この授業では、現代に生きる私たちが、グローバルな情報社会の中で、一個の人間としてどのように生きるべきかを倫理的に考察することを目指します。その中で、様々な倫理的問題を解決する実践的・応用的な知を獲得することを目標とします。また、様々な倫理的問題と対峙した際に必要となる思考力と判断力を養うことを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は、講義形式の授業です。今年度は大学の授業実施方針に則り、原則対面授業を行います。初回授業は受講希望者数が不明なため、着席できない受講者が発生することを回避する目的で「オンライン」または「ハイフレックスを用いた対面」授業を行う予定です。なお、「オンライン授業による教育効果が高い場合」の条件に該当する授業回に限り、全授業回の半数を超えない範囲（7 回以下）で、オンライン授業を実施する場合があります。また、入国できない外国人留学生や基礎疾患等における配慮を必要とする学生が履修した場合は、Zoom を利用したハイフレックス授業を行います。

授業は講義形式で進めますが、授業内でディスカッションを行った後、受講生から意見を述べてもらうなど、積極的に授業に参加してもらうように配慮するつもりです。また、リアクションペーパーを提出してもらうなどして、受講生の考えを授業に反映させていきたいと考えています。

なお授業の変更及び伝達事項等のお知らせに関しては、Hoppii（学習支援システム）より通知します。課題や期末レポートは、学習支援システム上で提出してもらうことを考えています。毎回の授業の資料に関しても、授業開始までに学習支援システムで配信する予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	情報社会と 2045 年問題	授業ガイダンスを行う。また、情報社会と技術的特異点の問題についての概説も行います。

第 2 回	技術的特異点という倫理学的問題 (1) 一切の状況と指数関数的な爆発	技術的特異点という倫理学的問題について検討します。
第 3 回	技術的特異点という倫理学的問題 (2) 来るべき未来と終末論	技術的特異点という倫理学的問題について検討します。
第 4 回	マスメディアの終焉とメディア史観	マスメディアの終焉とメディア史観について倫理的に検討します。
第 5 回	グーグルによる「汎知」の企図と哲学の終焉	「汎知」の思想史を概観しながら、「グーグル」という問題について倫理的に検討します。
第 6 回	ビッグデータの社会学的位置	ビッグデータをめぐる倫理的問題について検討します。
第 7 回	SNS によるコミュニケーションの変様と社会システム論	SNS によるコミュニケーションの変様について、社会システム論的見地を踏まえ、倫理的に検討します。
第 8 回	ロボットから倫理を考える	ロボットをめぐる倫理的問題について検討します。
第 9 回	人間をつくり変える？	クローン、サイボーグ、アンドロイドをめぐる倫理的問題について検討します。
第 10 回	人工知能とロボットの新たな次元	人工知能とロボットの展開（未来）について、「身体」というパースペクティブから倫理的に検討します。
第 11 回	情報社会において倫理は可能か？	情報社会において倫理は可能かどうかを、「身体」というパースペクティブから倫理的に検討します。
第 12 回	メルロ＝ポンティと身体哲学	メルロ＝ポンティと身体哲学について倫理的に検討します。
第 13 回	ニヒリズムと人間の終焉とポスト・ヒューマンの倫理学	ニヒリズムと人間の終焉とポスト・ヒューマンの倫理学について検討します。
第 14 回	まとめ	まとめを行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に配布した資料を読み、分からなかった部分についてはノートに抜き書きするなどして、問題意識を持った上で授業に臨んでください。

受講後は、不明点を理解できたかどうか復習してください。

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

基本的にテキストは使用しません。授業のテーマに関係するプリントを配付します。

【参考文献】

- ・ニック・ポストロム著『スーパーインテリジェンス 超絶 AI と人類の命運』（日本経済新聞出版社）
- ・レイ・カーツワイル著『ポスト・ヒューマン誕生 コンピュータが人類の知性を超えるとき』（NHK 出版）
- ・大黒岳彦著『情報社会の〈哲学〉—グーグル・ビッグデータ・人工知能』（勁草書房）
- ・ジャン＝ガブリエル・ガナシア著『そろそろ、人工知能の真実を話そう』（早川書房）
- ・三宅陽一郎著『人工知能のための哲学塾』（BNN 新社）
- ・久木田水生他著『ロボットからの倫理学入門』（名古屋大学出版会）
- ・岡本裕一郎著『12 歳からの現代思想』（ちくま新書）
- ・松田卓也著『2045 年問題 コンピュータが人類を超える日』（廣済堂新書）
- ・松尾豊著『人工知能は人間を超えるか ディープラーニングの先にあるもの』（角川 EPUB 選書）
- ・弥永真生他編『ロボット・AI と法』（有斐閣）
- ・岡本裕一郎著『人工知能に哲学を教えたなら』（SB 新書）

【成績評価の方法と基準】

毎回の授業後に、課題としてリアクションペーパーを提出してもらいます（Hoppii を利用することを考えています）。また期末にレポートを提出してもらいます。以上の 2 点を総合して評価します。

評価の比率は、課題 60%、期末レポート 40%とします。

【学生の意見等からの気づき】

一方的な講義ではなく、ディスカッションを行ったり、受講生から意見を述べてもらうようにしていきます。またリアクションペーパーを活用することで、受講生からの意見を授業に反映させるようにします。

【学生が準備すべき機器他】

授業の変更及び伝達事項等のお知らせに関しては、Hoppii（学習支援システム）より通知します。課題や期末レポートは、学習支援システム上で提出してもらうことを考えています。毎回の授業の資料に関しても、授業開始までに学習支援システムで配信する予定です。

【その他の重要事項】

積極的・意欲的な態度で授業に臨んでもらいたいです。
倫理学 L I も併せて受講していただくことが望ましいです。

【Outline (in English)】

Ethics of information society is ethics to deepen and apply theoretical knowledge to specific ethical problems occurring in modern information society. From this reason, in this class, we will take up a variety of ethical issues arising from global information society, and consider a ethical reaction to those.

In this class, we aim to ethically consider how we, who live in the present age, should live as one person in the global information society.

Study times outside classroom is 1 hour for preparatory study and 1 hour for review.

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Report : 40%、Short reports : 60%

PHL200LA

倫理学 L I

2017 年度以降入学者

サブタイトル：

伊藤 直樹

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 2/Fri.2

単位数：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、倫理の基底である自己と他者との関わりを学んでゆく。とくに他者とはなにかということの問題とし、他者と自己との関わりを考察してゆくことになる。

私はたった一人で生きているのではなく、私の前や隣には人がいて、その私以外の他人とともに生きているという、このあたりまえのことに、あらためて気づくためである。

【到達目標】

講義を終えた後、受講生が、上記の諸問題について自分なりに考えてゆくことができるようになることが、到達目標である。具体的には、学期末のテストにおいて、それを行なってもらおう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

対面授業で行う。資料を配付し、それに沿って講義をする。講義終了後、コメントカードを書いてもらう。次回の授業では、最初にそのコメントカードに対してリアクションしながら復習をして、当日の内容に入ってゆく。このパターンで授業を進める。

学期中に2度ほど「哲学対話」を取り入れる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	はじめに：問題設定	単位取得方法、および講義の概要についての説明；他者という問題。なぜ「他者」が問題なのか。
第 2 回	デカルトの他者論（その 1）	デカルト哲学の紹介
第 3 回	デカルトの他者論（その 2）	デカルトの他者論（コギト、神の存在証明）
第 4 回	デカルトの他者論（その 3）	それまでの議論を振り返りつつ、あらためてデカルトにおける他者の不在について考察する。
第 5 回	フッサールの他者論（その 1）	フッサール哲学の紹介
第 6 回	フッサールの他者論（その 2）	フッサールの他者論へ 問主観性・共現前という問題
第 7 回	フッサールの他者論（その 3）	フッサールの他者論の問題点と可能性（自己移入論、超越論的問主観性という立論）
第 8 回	デイルタイの他者論（その 1）	デイルタイの思想の紹介
第 9 回	デイルタイの他者論（その 2）	デイルタイの解釈学
第 10 回	デイルタイの他者論（その 3）	デイルタイの他者論
第 11 回	サルトルの他者論（その 1）	サルトル哲学の紹介

第 12 回 サルトルの他者論（その 2） サルトルの他者論（対他存在について）

第 13 回 サルトルの他者論（その 3） サルトルの他者論から見た人間存在の諸相

第 14 回 レポートについての説明 レポートの書き方、内容について説明します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

前回の講義内容に関して、自分なりの理解をまとめておくこと。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

内容が多岐にわたるため、特定のテキストは用いない。授業毎に、資料を配付する。

【参考書】

参考文献等は、そのつどの講義で紹介する。

【成績評価の方法と基準】

出席は、授業形態に関わらず 2 / 3 以上参加してください。

学期末のレポート（65 %）と授業への積極的な貢献度 [コメントカードの記述など]（35 %）によって評価します。

【学生の意見等からの気づき】

毎回コメントペーパーを書いてもらい、授業冒頭でそれに応答をします。

コメントペーパーを見ていると、4 月のはじめに書かれたものと最後の講義時に書いているコメントペーパーでは、ずいぶん内容が変わってきている印象をもちます。

「L」の付いている授業なので、内容は発展的で、やや高度な場合があります。受講のさい、その点は注意してください。

【Outline (in English)】

This course deals with the relation between self and the Other. Specifically, we inquire will analyze the concept of the Other. By taking this course, students acquire an understanding of the knowledge about the significance of the Other in ethics. Students will submit comments on the class content after attending the lecture. These comments will be used to review the previous class. Final grade will be calculated according to the following process term-end report (65%), and in-class contribution (35%)

PHL200LA

倫理学Ⅱ

2017年度以降入学者

サブタイトル：

伊藤 直樹

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 2/Fri.2

単位数：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、倫理の基底である自己と他者との関わりを学んでゆく。とくに他者とはなにかということの問題とし、他者と自己との関わりを考察してゆくことになる。

私はたった一人で生きているのではなく、私の前や隣には人がいて、その私以外の他人とともに生きているという、このあたりまえのことに、あらためて気づくためである。

【到達目標】

講義を終えた後、受講生が、上記の諸問題について自分なりに考えてゆくことができるようになることが、到達目標である。具体的には、学期末のテストにおいて、それを行なってもらおう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

まず、他者論の問題設定の発生を明らかにして、そのうえで、サルトル、和辻哲郎、M・ブーバー、E・レヴィナスなどが、その問題をどのように考えているかを見てゆく。

基本的に講義形式を取るが、内容に応じて映像資料なども用いる。また、受講者からの質問、コメントをもとに、それに答えるかたちで講義内容を補足してゆく。

2回ほど「哲学対話」を取り入れる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	はじめに	単位取得方法、および講義の概要についての説明
第2回	問題設定	他者という問題（デカルト、カント、フッサールの問題設定）
第3回	和辻哲郎の倫理学（その1）	和辻哲郎という人物、「面とベルソナ」について
第4回	和辻哲郎の倫理学（その2）	和辻倫理学の主要論点（個と全体、二人共同体）
第5回	和辻哲郎の倫理学（その3）	和辻倫理学の問題点
第6回	M・ブーバーの思想（その1）	ブーバーという人物、「わたし-きみ」「わたし-それ」
第7回	M・ブーバーの思想（その2）	ブーバーの人間観
第8回	M・ブーバーの思想（その3）	ブーバーの思想の問題点、E・レヴィナスによる批判
第9回	ハイデガーの他者論（その1）	ハイデガー哲学の紹介
第10回	ハイデガーの他者論（その2）	顧慮的気遣い、本来的な他者
第11回	E・レヴィナスの他者論（その1）	レヴィナス哲学の紹介
第12回	E・レヴィナスの他者論（その2）	レヴィナスの他者論（顔、他者）

第13回 アーレントの他者論 アーレントの他者論

第14回 レポートについての説明 レポートのテーマ、書き方についての説明

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

前回の講義内容に関して、自分なりの理解をまとめておくこと。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

内容が多岐にわたるため、特定のテキストは用いない。授業毎に、資料を配付する。

【参考文献】

参考文献等は、そのつどの講義で紹介する。

【成績評価の方法と基準】

出席は、授業形態に関わらず2/3以上参加してください。

学期末のレポート（70%）と授業への積極的な貢献度〔コメントカードの記述など〕（30%）によって評価します。

【学生の意見等からの気づき】

毎回コメントペーパーを書いてもらい、授業冒頭でそれに応答をします。

コメントペーパーを見ていると、9月のはじめに書かれたものと最後の講義時に書いているコメントペーパーでは、ずいぶん内容が変わってきている印象をもちます。

「L」の付いている授業なので、内容は発展的で、やや高度な場合もあります。受講のさい、その点に注意してください。

【Outline (in English)】

This course deals with the relation between self and the Other. Specifically, we inquire will analyze the concept of the Other. By taking this course, students acquire an understanding of the knowledge about the significance of the Other in ethics. Students will submit comments on the class content after attending the lecture. These comments will be used to review the previous class. Final grade will be calculated according to the following process term-end report (65%), and in-class contribution (35%).

PHL200LA

倫理学 L I

2017 年度以降入学者

サブタイトル：

田島 樹里奈

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 2/Wed.2

単位数：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、生命倫理学という応用倫理学の一分野を通じて、人間にとって生（生命、人生、生活）(life)とは何であるかを中心に、生きること・死ぬことについて考察することを目的とする。とりわけ本授業では、「幸福とは何か」を出発点としながら、人間の生/死、人格、医療（技術）に焦点を当てながら、私たち人間とはどのような存在であるかをじっくり倫理的な視点から考え直していきたい。現代では、自然界に生まれた生命に人間の科学技術が介入することは当たり前であるが、人工授精・体外受精、デザイナーベビー、新型出生前診断、人工妊娠中絶、臓器移植、延命治療など、現代社会でよく耳にするこれらの人工的な生命操作は、自然の摂理という観点から見れば反自然的な行為と言いうる。だからと言って、簡単に善悪の判断を下すことはできない。私たちの日常生活においては、こうした論理や合理性だけでは解決し難い問題がたくさんある。「いのち」の問題は、私たちが生きていく中で、いずれどこかで関わる身近な問題であり、避けては通ることのできない重要な問題である。本授業では、具体的な事例や現代的な問題を取り上げながら、命（生と死）・医療・科学技術などについて、今一度考え直すきっかけを提供していきたい。

【到達目標】

① 生命、死、存在、医療、QOL などの言葉を相互に関連づけながら思考する力を身につける。
 ② 生命倫理学の多様な価値観を学ぶことで、様々な立場の考え方を多角的に把握する力を身につける。
 ③ 学問的な理論の構築法を学ぶことで、各自の問題意識を学問的に分析する力を身につける。
 本授業では、生命倫理学について、たんなる知識を身につけるだけに終わらせることなく、複雑な現代を生きる一人の人間として、より広い視野を培い、深い思考力を持つことを最終的な目標としている。

(1) Acquire the ability to think about life, death, existence, medical care, QOL, and other terms while relating them to each other.

(2) By learning the various values of bioethics, students will acquire the ability to grasp the ideas of various positions from multiple perspectives.

(3) Learn how to construct academic theories, and acquire the ability to academically analyze their own awareness of issues. The ultimate goal of this class is not only to acquire knowledge of bioethics, but also to cultivate a broader perspective and deep thinking skills as an individual.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

基本的には講義形式で行なう。場合によっては、グループディスカッションをしたり、学生の皆さんに質問を投げかけたり、リアクションペーパーなどを用いながら、受講者が主体的に考えられるような授業にしたい。

◆ 本授業では、多角的な視野でじっくりと物事を考える力を身につけて貰いたいと考えているため、以下のように授業を進める。

* 講義

* 毎回、授業後にコメントシートを提出。

* 適宜、授業内で学生からのコメントを紹介。

→ これらの繰り返しをすることで、同じ講義内容を聞いていても、自分とは異なる様々な意見があることを知り、少しずつ多角的な視野を得られるようになって考えている。また講義形式であっても、教員からの一方的な教えではなく、双方向性を生み出し、お互いに刺激し合い、学び合えるような授業にしていきたいと考えている。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業内容の説明 生命倫理学とは？ 自然界の生命に医学（医療）が介入すること
第 2 回	倫理学の基礎理論①— —幸福とは何か	「幸福」はどのように決まるか？ 善く生きるの「善い」とは？
第 3 回	バイオエシックスの成 立	医療と倫理 バイオエシックス/生命倫理はど のような背景から出てきたか
第 4 回	倫理学の基礎理論②— —功利主義	「最大多数の最大幸福」 平等原理は存在するか？
第 5 回	人間の生命と人格①	生物学的生命と人格的生命 人格とは何か？
第 6 回	人間の生命と人格②	人格と責任能力 胎児に人格はあるか？ 自己意識と生存の権利
第 7 回	人間の生命と人格③	パーソン論とは 人工妊娠中絶は殺人か？
第 8 回	生存の義務と死ぬ権利	私たちは死ぬ権利をもつことがで きるか 自己決定権と生命 医療と人体実験
第 9 回	伝える義務と知る権利	医療とインフォームド・コンセ ント 情報開示と自己決定権
第 10 回	命は誰のものか？	医療とパターンリズム 患者の権利と医師の義務——生命 の維持と自己決定権
第 11 回	医療と倫理と法	看護業務と医療事故 様々な医療事故の裁判例
第 12 回	誰が生/死を決定する のか	患者の自己決定権 宗教・信条と生命
第 13 回	医療の倫理と法	医療技術の進歩と医療現場 医療事故と医療過誤
第 14 回	まとめ	生きることと死ぬことの倫理

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の授業の復習をよくすること。とくに授業内で気付いたことや疑問に思ったことは各自で調べたり掘り下げて考えてみる。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

Review each class carefully. In particular, you are expected to research and think in-depth about any questions you notice or have in the class. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

塩野寛、清水恵子『生命倫理への招待』南山堂、2012 年。
 曾我英彦、棚橋實、長島隆編『生命倫理のキーワード』理想社、1999 年。
 H・T・エンゲルハート『バイオエシックスの基礎』東海大学出版
 会、1988/2005。

【成績評価の方法と基準】

毎授業ごとのリアクションペーパー（50%）、期末試験またはレポート（50%）

リアクションペーパーの提出をもって出席扱いとしますが、ただ提出しているだけの人は評価対象とならない場合があります。主体的に考えながら受講することを重視しています。(リアクションペーパーは、レポートのような大変なものではありません。受講して各自で考えたことを毎回書いてもらうことにより、考える力を養い、自分の考えを文字化する訓練のために行っています)

Reaction papers for each class (50%), final exam or report (50%)
Submission of reaction papers will count as attendance, but those who just submit them may not be evaluated. In this course, the emphasis is on taking the class while thinking proactively.(The reaction paper is not as hard as a report, but is designed to develop your ability to think and to train you to put your thoughts into words by asking you to write what you have thought about each time you take the course.)

【学生の意見等からの気づき】

基礎から学ぶので、倫理学を受けたことのない人でも関心を持って受講することで、少しずつ理解でき、視野が広がってくると思います。また、受講者のコメントシートを紹介することで、同世代の人たちの色々な考え方を知ることができ、良い刺激になると思います。

Even if you are new to the subject of ethics, don't worry because you can gradually deepen your understanding and get used to it in each class. (Basically, this class is for first-time students)

【その他の重要事項】

受講生の希望や状況に応じて、シラバスの内容が前後したり、多少変更する場合があります。

【Outline (in English)】

This course is an introduction and survey course in Bioethics. The purpose of this course is introduce students to bioethics through critical thinking contemporary issues. Through this course, students will be given not only the knowledge and comprehension of relationship between biotechnology and ethics, but also the opportunity to focus on their life and death. Students will first be introduced the history of ethics, foundational theories in bioethics, and the basic concepts and theoretical framework of bioethics.

Topics will include: what is happiness, health-care, responsibility, system of value, informed consent, death and dying, and the issue of beginning of life(on abortion, designer baby, prenatal testing etc.).

Through this course, students will be able to think carefully and to express their own views more clearly through their own positions on bioethical/ medical issues.

PHL200LA

倫理学Ⅱ

2017年度以降入学者

サブタイトル：

田島 樹里奈

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 2/Wed.2

単位数：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、生命倫理学という応用倫理学の一分野を通じて、人間にとって生（生命、人生、生活）(life)とは何であるかを中心に、生きること・死ぬことについて考察することを目的とする。とりわけ本授業の後半では、宗教の視点から生命倫理を考察することにより、様々な宗教的思想を背景にした死生観と生命倫理観を学んでいく。そもそも宗教は生死と密接に関わり、それぞれの仕方で「あの世／この世」「現世／来世」を語ってきた。本授業ではこれら全てを網羅することはできないが、私たちが今・ここで生きることの意義や、死や死後を考察するための手掛かりとして、それぞれの宗教的思想の意義を検討していきたい。

倫理学という学問領域は、私たちの日常生活や生きること・死ぬことに直接関わる部分を含んでいる。それゆえ、本授業を通じて、受講生各自が関心を持ったテーマに対して、積極的にアプローチをすることで、それぞれの興味・関心を深めていきながら、死生観や生命観を構築し、さらに倫理的問題意識を持って学問的に掘り下げてもらいたい。

以上の観点をもって、受講生各自が本授業を通して、私たち人間とはどのような存在であるか、生きるとは、死ぬとはどういうことなのかをじっくり倫理的な視点から考え直していくきっかけを提供していきたい。

【到達目標】

- ① 生命、死、人格、医学、宗教などの言葉を、自分の頭の中で相互に関連づけながら思考する力を身につける。
- ② 多様な生命の在り方や、宗教的思想を背景とした多様な価値観を学ぶことで、様々な立場から生命倫理を考える力を身につける。
- ③ 学問的な理論の構築法を学ぶことで、各自の問題意識を学問的に分析する力を身につける。

本授業では、生命倫理学について、たんなる知識を身につけるだけに終わらせることなく、複雑な現代を生きる一人の人間として、より広い視野を培い、深い思考力を持てることを最終的な目標としている。

1) Acquire the ability to think about life, death, personality, medicine, religion, and other terms while relating them to each other in one's mind.

2) To acquire the ability to think about bioethics from various perspectives by learning about various ways of life and various values based on religious thought.

(3) Learn how to construct academic theories, and acquire the ability to academically analyze their own awareness of the issues.

The ultimate goal of this class is not only to acquire knowledge of bioethics, but also to cultivate a broader perspective and deep thinking ability as an individual.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

基本的には講義形式で行なう。場合によっては、グループディスカッションをしたり、学生の皆さんに質問を投げかけたりしながら、受講者が主体的に考えられるような授業にしたい。

◆本授業では、多角的な視野でじっくりと物事を考える力を身につけて貰いたいと考えているため、以下のように授業を進める。

* 講義

* 毎回、授業後にコメントシートを提出。

* 適宜、授業内で学生からのコメントを紹介。

→ これらの繰り返しをすることで、同じ講義内容を聞いていても、自分とは異なる様々な意見があることを知り、少しずつ多角的な視野を得られるようになって考えている。また講義形式であっても、教員からの一方的な教えではなく、双方向性を生み出し、お互いに刺激し合い、学び合えるような授業にしていきたいと考えている。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	生命倫理学とは何か？
第2回	生命の誕生と倫理①	生殖医療の倫理——生殖技術の発展と拡大 人工授精の歴史と現状
第3回	生命の誕生と倫理②	生殖医療の倫理——体外受精と卵子の老化
第4回	生命の誕生と倫理③	生殖技術の倫理——代理母の在り方
第5回	生命の誕生と倫理④	生殖技術の倫理——精子バンクとインターネット
第6回	生命の誕生と倫理⑤	SNSと生命倫理
第7回	生命と医学①	再生医療とクローン技術
第8回	生命と医学②	遺伝子技術と生命倫理 デザイナーベビーとは
第9回	生命と医学③	遺伝子とゲノム ゲノム解析とは
第10回	生命と医学④	性転換手術と医療倫理 自然界の性転換と人工的性転換、LBGTQIA+
第11回	宗教と生命倫理①	宗教とは何か？ 宗教的価値観と倫理的判断
第12回	宗教と生命倫理②	神道における死後観と人間観
第13回	宗教と生命倫理③	ヒンドゥー教の死生観
第14回	まとめ	宗教／非宗教から生命倫理を考える

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の授業の復習をよくすること。とくに授業内で気付いたことや疑問に思ったことは各自で調べたり掘り下げて考えてみる。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

Review each class carefully. In particular, you are expected to research and think in-depth about any questions you notice or have in the class. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

曾我英彦、棚橋實、長島隆編『生命倫理のキーワード』理想社、1999年。
小松美彦、土井健司編『宗教と生命倫理』ナカニシヤ出版、2005年。

【成績評価の方法と基準】

毎授業ごとのリアクションペーパー（50%）、期末試験またはレポート（50%）

リアクションペーパーの提出をもって出席扱いとしますが、ただ提出しているだけの人は評価対象とならない場合があります。主体的に考えながら受講することを重視しています。（リアクションペーパーは、レポートのような大変なものではありません。受講して各自で考えたことを毎回書いてもらうことにより、考える力を養い、自分の考えを文字化する訓練のために行っています）

Reaction papers for each class (50%), final exam or report (50%)

Submission of reaction papers will count as attendance, but those who just submit them may not be evaluated. In this course, the emphasis is on taking the class while thinking proactively.(The reaction paper is not as hard as a report, but is designed to develop your ability to think and to train you to put your thoughts into words by asking you to write what you have thought about each time you take the course.)

【学生の意見等からの気づき】

倫理学 L 1 から継続して受講すると理解しやすく、知識も深まります。

(倫理学 L2 を受講した後に、次年度の倫理学 L1 を受講することも可能です。)

ただし倫理学が初めての人でも、分かりやすく説明するので受講することは可能です。

It is recommended that students take Ethics LI before taking this course for better understanding.

We do not recommend this course to those who just want to get credits. This class should be taken by anyone who is willing to learn properly as a university student.

【その他の重要事項】

学生の要望や状況により、シラバスの内容が一部前後したり変更する場合があります。

【Outline (in English)】

This course is intended to develop student's understanding of ethical issues of bioethics and medical care. Especially, this course will focus upon major bioethical issues which related to artificial insemination, genetic testing and human right. In addition, the second half of this course, we will explore various ethical problems within several religious traditions. Through comparison of bioethical perspectives on selected themes, students will be able to recognize the interconnections between bioethical issues and religious system. This course will help students to develop the ability to analyze diverse perspective and to recognize the importance of ethical considerations.

PHL200LA

倫理学 L I

2017 年度以降入学者

サブタイトル：

吉永 明弘

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 3/Fri.3

単位数：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

倫理学の基礎知識を学び、応用倫理学の内容に親しむとともに、具体的な倫理問題について議論する。

【到達目標】

倫理学の基本的な考え方や主要な理論（功利主義、義務論、徳倫理学、社会契約論、正義論）および応用倫理学の内容を把握し、それをもとに具体的な倫理問題について議論することができることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義とコメントペーパーへの応答。
連絡は学習支援システムで行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	倫理学を学ぶ意味	なぜ倫理学を学ぶ必要があるのかについて説明する
2	倫理学の三大理論（1） 功利主義	ミルの自由論を基軸に功利主義について説明する
3	倫理学の三大理論（2） 義務論	カントの倫理学の概要を紹介する
4	倫理学の三大理論（3） 徳倫理学	アリストテレスと現代の徳倫理学の概要を紹介する
5	倫理学と政治哲学（1） 社会契約論	ホブズ、ロック、ルソーらの社会契約論を概説する
6	倫理学と政治哲学（2） 正義論	ロールズ、ノージック、サンデルらの正義論を紹介する
7	倫理学と公共哲学	公共性について倫理学の視点から論じる
8	中間チェックテスト	ここまでの内容を確認する
9	応用倫理学（1）生命倫理学	脳死と臓器移植、医師・患者関係 フォームドコンセントを中心に説明する
10	応用倫理学（2）情報倫理学	情報化社会の倫理問題について紹介する
11	応用倫理学の多様な広がり	技術者倫理、研究倫理、脳神経倫理、宇宙倫理などを紹介する
12	対話型講義（1）内部告発	内部告発について議論する
13	対話型講義（2）21 世紀の労働倫理	IT・AI の時代がもたらす新たな労働倫理について議論する

14 対話型講義（3） 21 IT・AI の時代の教育のあり方について議論する
世紀の教育

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

参考文献をよく読んでおくこと。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しない。

【参考書】

加藤尚武『現代倫理学入門』講談社学術文庫、1997 年
新田孝彦『入門講義 倫理学の視座』世界思想社、2000 年
宇都宮芳明『倫理学入門』ちくま学芸文庫、2019 年
川本隆史『現代倫理学の冒険』創文社、1994 年
國分功一郎『近代政治哲学』ちくま新書、2015 年
児玉聡『功利と直観』勁草書房、2010 年
梅津光弘『ビジネスの倫理学』丸善、2002 年

【成績評価の方法と基準】

中間チェックテスト（40 %）、書評レポート（60 %）。

【学生の意見等からの気づき】

学生から意見がありませんでした。

【Outline (in English)】

This course deals with ethics and applied ethics. At the end of the course, students are expected to get an overview on ethics and applied ethics. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Your overall grade in the class will be decided based on the following, book review:50%, term-end examination:50%.

PHL200LA

倫理学Ⅱ

2017年度以降入学者

サブタイトル：

吉永 明弘

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 3/Fri.3

単位数：2 単位

その他属性：〈優〉

【Outline (in English)】

This course deals with environmental ethics. At the end of the course, students are expected to get an overview on ethics and applied ethics. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Your overall grade in the class will be decided based on the following, book review:50%, term-end examination:50%.

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

環境倫理学の基本的文献の内容を紹介する。このなかから各自の興味のある文献を読み、レポートを書いてもらう。

【到達目標】

環境倫理学の基本的文献の内容を把握し、それをもとに現実の環境問題に対する自分なりの構えをもつことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式で行う。適宜、ディスカッションを取り入れる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	この授業の進め方を説明する
2	現代倫理学の射程	現代倫理学の基本文献を紹介する
3	欧米の環境倫理	欧米の環境倫理について紹介する
4	グローバルな環境倫理	グローバルな環境倫理について紹介する
5	ローカルな環境倫理	ローカルな環境倫理について紹介する
6	科学技術の倫理	科学技術の倫理について紹介する
7	公害と環境正義	公害と環境正義について紹介する
8	中間チェックテスト	ここまでの内容を確認する
9	動物倫理	動物倫理について紹介する
10	生物多様性と倫理	生物多様性と倫理に関する議論を紹介する
11	気候変動と気候工学	気候変動と気候工学に関する議論を紹介する
12	場所論と風土論	場所論と風土論について紹介する
13	景観保全と観光	景観保全と観光に関する議論を紹介する
14	都市の環境倫理	都市の環境倫理の構想を紹介する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書のなかで紹介している文献を読むこと。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

吉永明弘・寺本剛編『環境倫理学（3STEPシリーズ）』昭和堂、2020年

【参考書】

吉永明弘『都市の環境倫理』勁草書房、2014年

吉永明弘・福永真弓編『未来の環境倫理学』勁草書房、2018年

吉永明弘『はじめて学ぶ環境倫理』ちくまプリマー新書、2021年

【成績評価の方法と基準】

中間チェックテスト（40%）と書評レポート（60%）。

【学生の意見等からの気づき】

学生からの意見がありません。

PHL200LA

論理学 L I

2017 年度以降入学者

サブタイトル：

佐々木 護

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 5/Mon.5

単位数：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

論点が明確で、筋の通った議論や文章は「論理的」と言われます。この授業では、分野を問わず多様な文章を論理的に把握し、それを吟味検討したうえで、自分の見解を論理的に表現する訓練を行います。論理的読解力や論述力を身につけることは、みなさんが今後研究活動や社会生活を送る上で大いに役立つはずですが。

【到達目標】

本授業の到達目標は以下の2点です。

- (1) 新聞記事や新書レベルの文章を読み、そこから論証構造を抽出し、内容をよく理解した上で、的確な要約を行うことができる。
- (2) 上記の文章を吟味検討し、自分の見解を論理的に展開することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

授業前半は講義形式ですが、後半は問題演習とその検討が中心となります。そのため、受講者には主体的な参加を求めます。また、論述力の向上を図るため、定期的に小論文を作成する回を設けます。提出答案は添削・評価の上、翌週返却・解説します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス／論理学とは	論理学には分析論と弁証術の2つの流れがあることを理解する。
第 2 回	論理的説明と論証	ツールミン・モデルなどを参照しつつ、論理的な説明には、根拠の提示が不可欠であることを理解する。
第 3 回	論理的読解と論証	論理的読解には、文章全体を論証と捉え、結論とそれを支える根拠を見きわめることが有効であることを理解する。
第 4 回	論証の構造	論証図の作成を通じて、論証構造を的確に把握する仕方を身につける。
第 5 回	要約の技法	文章から論証構造を取り出し、それを軸に要約する技法を身につける。
第 6 回	隠れた前提	論証を論理的に理解するには、隠れた前提を自覚的に取り出すことが必要な場合があることを理解する。
第 7 回	論証の評価（1）	論証の適切さや妥当性を評価するにあたって着目すべきポイントを理解する。
第 8 回	論証の評価（2）	論証を検討する仕方を実践的に身につける。

第 9 回	誤った論証	論証の誤りの代表的なパターンを理解する。
第 10 回	論証への反論（1）	現代の社会問題に関連した論証に対する反論を作成する。
第 11 回	論証への反論（2）	前回作成答案を基にして、発展的検討を行う。
第 12 回	文章読解と見解論述（1）	現代の社会問題に関連した文章を読み、それに対する見解論述を作成する。
第 13 回	文章読解と見解論述（2）	前回作成答案を基にして、発展的検討を行う。
第 14 回	試験日	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。毎回、講義内容に関連した課題が課されます。毎回配信する資料にはよく目を通しておいてください。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しません。

【参考書】

荻谷剛彦『知的複眼思考法』（講談社プラスアルファ文庫、2002 年）
野矢茂樹『新版・論理トレーニング』（産業図書、2006 年）

【成績評価の方法と基準】

通常回の課題成績（50%）および最終回の試験の成績（50%）で評価します。評価基準については、授業中に何度か実施する小論文課題の評価基準を参考にしてください。

【学生の意見等からの気づき】

「他の学生の答案を見て、意見や表現方法を学ぶことができたのが良かった」「文章を読むときにどういうところに気をつければよいか分かってきた」「授業を通して、少しずつ自分の文章力がついてきたと実感した」などの感想がありました。

今まで文章を書く機会の少なかった受講者の場合、最初は小論文作成に時間がかかり、難しく感じることもあるようです。しかし、書き続けるうちに徐々に慣れていきますので、その点についてあまり心配する必要はありません。

【Outline (in English)】

We call a reasonable argument as "logical". In this course, we will practice to logically read various texts regardless of the field, examine them, and express your own view logically. If you acquire the ability of logical reading and argumentation, it will be useful for your future academic activities and social life. The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each. The grading are evaluated based on the results of regular assignments (50%) and the final exam (50%).

PHL200LA

論理学Ⅱ

2017年度以降入学者

サブタイトル：批判的思考のトレーニング

佐々木 護

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 5/Mon.5

単位数：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

批判的思考（クリティカル・シンキング）教育の一環として、複数の視点から仮説を立てたり、対立する意見も視野に入れつつ望ましい問題解決策を見出す訓練を行います。自分が自明とする考えからいったん距離を置き、異なる他者の考えにも目を向ける態度を身につけることは、みなさんが今後研究活動や社会生活を送る上でも大いに役立つはずですよ。

【到達目標】

本授業の到達目標は以下の2点です。

- (1) 統計資料などを手がかりに仮説を立て、それに基づく解決策を提示することができる。
- (2) 与えられたテーマに関して、対立する意見も視野に入れつつ、説得力ある見解論述を展開することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

授業前半は講義形式ですが、後半は問題演習とその検討が中心となります。そのため、受講者には主体的な参加を求めます。また、論述力の向上を図るため、定期的に小論文を作成する回を設けます。提出答案是添削・評価の上、翌週返却・解説します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス／推論の分類	演繹、帰納、仮説推量という推論の3つのタイプを概観する。
第2回	演繹と仮説推量	演繹と仮説推量の関連性と相違点を理解したうえで、新たな発想やアイデアを導く上で仮説推量が果たす意義を押さえる。
第3回	統計資料の分析と仮説推量	統計資料の分析の基本を理解し、資料からどのような仮説を立てることができるかを考える。
第4回	相関関係と因果関係	2つの現象の間に何らかの関係が認められる場合に、どんな仮説が立てられるのかを理解する。
第5回	原因分析と対策提言	ある仮説に基づくならば、どのような対策が必要かを考える。仮説が異なれば、必要な対策も大きく異なることを理解する。
第6回	価値前提	それぞれの論証がどのような価値判断や価値基準を前提としているかに注目することで、議論の争点を整理する仕方を身につける。
第7回	対策提言の評価（1）	現代の社会問題に関連した論証に対する検討を行う。
第8回	対策提言の評価（2）	前回作成答案を基に、発展的検討を行う。

- 第9回 立論・批判・異論（1） 対立する意見を視野に入れつつ、それに対する批判や異論を展開する仕方を身につける。
- 第10回 立論・批判・異論（2） 批判と異論の違いを見きわめる。
- 第11回 立論・批判・異論（3） あるテーマに対し、立論・批判・異論から構成される小論文を作成する。
- 第12回 立論・批判・異論（4） 前回作成答案を基に、発展的検討を行う。
- 第13回 誤った二分法 二分法が陥りがちな罠を理解する。
- 第14回 試験日 試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

配信された資料にはよく目を通しておいください。

また、日頃から政治や経済、社会等のニュースに関心を持ち、批判的にチェックする習慣を身につけていきましょう。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しません。

【参考書】

荻谷剛彦『知的複眼思考法』（講談社プラスアルファ文庫、2002年）
野矢茂樹『新版・論理トレーニング』（産業図書、2006年）

【成績評価の方法と基準】

通常回の課題成績（50%）および最終回の試験の成績（50%）で評価します。

評価基準については、授業中に何度か実施する小論文課題の評価基準を参考にしてください。

【学生の意見等からの気づき】

「文章の書き方などを学べたことはもちろん、毎回の授業や課題においてテーマとなる社会問題について考え文章にすることが、自分の意見を持つ大変いい機会となった」「ただ論理の立て方を学ぶだけでなく時事を用いて学ぶことができて大変勉強になった」などの感想がありました。

テーマに関連したアウトプットを繰り返す授業形式を通して、考えて書く力がアップしたと感じる受講者が多かったようです。

【Outline (in English)】

As part of the critical thinking education, we will make hypotheses from multiple perspectives, and practice to find solutions while taking into account the opposite opinion. If you learn how to think critically, you will be of great help in your future academic activities and social life. The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each. The grading are evaluated based on the results of regular assignments (50%) and the final exam (50%).

HIS200LA

東洋史 L I

2017 年度以降入学者

サブタイトル：

齋藤 勝

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 5/Tue.5

単位数：2 単位

その他属性：〈優〉

【Outline (in English)】

Course outline: Students will survey the history of Taiwan.

Learning objectives: At the end of the course, students are expected to consider how history have affected the life of people in Taiwan.

Learning activities outside of classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading criteria/policy: Term-end report or test(100%)

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

台湾の歴史と現在

歴史の学習を通じて台湾への理解を深め、日本・中国との関わりについて考えていく。

【到達目標】

歴史を辿りながら、現在の台湾が抱える国際問題、政治問題、民族問題の根源を理解し、その歴史の当事者の一人であった日本人の責任についても認識を深めていく。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

台湾の歴史について通史的に講ずるとともに、現代の台湾を描いた映画を通して台湾への理解を深めていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	台湾と日本	日台関係と台湾人の日本人観
第 2 回	台湾の現勢	台湾の民族構成と経済
第 3 回	先史時代と大航海時代	原住民とオランダ支配
第 4 回	清朝と台湾	鄭氏政権から清朝の支配へ
第 5 回	日本の台湾支配 (1)	日清戦争から前期武官総督時代
第 6 回	日本の台湾支配 (2)	文官総督時代から終戦まで
第 7 回	国民党の支配へ	光復から二・二八事件
第 8 回	台湾人と支配者達 (1)	『悲情城市』と二・二八事件 (1)
第 9 回	台湾人と支配者達 (2)	『悲情城市』と二・二八事件 (2)
第 10 回	蒋介石の時代	台湾の中華民国化
第 11 回	蔣経国の時代	台湾の孤立と転換
第 12 回	李登輝の時代	台湾の民主化と台湾化
第 13 回	陳水扁の時代	台湾の分裂
第 14 回	馬英九～蔡英文の時代	台湾の現在と中国

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

プリントによって事前に知識を深めてきてもらいます。

【テキスト（教科書）】

特になし。

授業に必要な資料は配布しますが、配布方法は履修者数を見て考えます。

【参考書】

随時、紹介していきます。

【成績評価の方法と基準】

レポート（もしくは期末試験）100 %

講義で扱ったテーマについて論述してもらいます。講義の内容の理解とまとめ方を評価の対象とするつもりです。

【学生の意見等からの気づき】

本年度新規科目につきアンケートを実施していません。

HIS200LA

東洋史Ⅱ

2017年度以降入学者

サブタイトル：

齋藤 勝

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 5/Tue.5

単位数：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

唐代における土地・税制度の変容

均田・租庸調制度から両税法へという土地・税制度の変容を通して、中国前近代における国家と人民の関係について考える。

【到達目標】

唐宋変革期と言われる時代において土地・税制度がどのように変化してきたのかを知り、中国前近代において国家と人民の関係がどのように変化してきたのかについて理解を深めることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

体面による講義形式で行っていきます。

質問等は授業後に受けつけます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	唐宋変革論と時代区分	内藤湖南の唐宋変革論論①
第2回	唐宋変革論と時代区分	唐中世説論②
第3回	唐宋変革論と時代区分	唐古代説論③
第4回	北朝の均田・均賦制①	北朝の均田・均賦制の沿革・内容
第5回	北朝の均田・均賦制②	北朝の均田・均賦制の理念・変遷
第6回	唐の均田・租庸調制①	唐朝の均田・租庸調制の内容・特徴
第7回	唐の均田・租庸調制②	唐朝の均田・租庸調制の実態
第8回	唐の均田・租庸調制③	均田制と佃人・租佃
第9回	均田・租庸調制から両税法へ①	荘園の普及
第10回	均田・租庸調制から両税法へ②	逃戸と括戸
第11回	均田・租庸調制から両税法へ③	藩鎮とその自立化
第12回	均田・租庸調制から両税法へ④	両税法の成立
第13回	均田・租庸調制から両税法へ⑤	両税法の特徴・歴史的意義
第14回	唐宋変革と土地・税制度	唐代における国家と人民の関係の度変化

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

指定した参考文献等による準備学習・復習。

【テキスト（教科書）】

特になし。

授業に必要な資料は配布しますが、配布方法は履修者数を見て考えます。

【参考書】

随時、紹介していきます。

【成績評価の方法と基準】

レポート100%（授業内テスト等に変更する場合があります）

講義で扱ったテーマについて論述してもらいます。講義の内容の理解とまとめ方を評価の対象にするつもりです。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【Outline (in English)】

Course outline: Students will survey the history of the change of systems of land and taxation in the Tang dynasty.

Learning objectives: At the end of the course, students are expected to consider how the relation between state and people had been changed in the Tang dynasty.

Learning activities outside of classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading criteria/policy: Term-end report or test(100%)

HIS200LA

東洋史 L I

2017 年度以降入学者

サブタイトル：

長谷部 圭彦

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 2/Thu.2

単位数：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本科目では、イスラームが誕生した 7 世紀から、オスマン帝国がビザンツ帝国を滅ぼす 15 世紀までの「中東・イスラーム地域」の歴史を概観する。また、イスラームの教義や戒律、そして世界秩序観などについても解説する。受講者が、当該地域への理解を深めつつ、他の地域との比較や連関ができるようになることを目的とする。

【到達目標】

本科目の目標は、受講者が、15 世紀までの「中東・イスラーム地域」の歴史と、イスラームの教義に関する基礎的な知識を習得し、それを論理的に表現できるようになることである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式で行う。毎週質問用紙を配布するので、質問や意見を記入してほしい。それには翌週、可能な限り回答する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	講義概要	講義の目的、成績評価方法等を確認する。
第 2 回	預言者ムハンマド	ムハンマドの生涯を概観する。
第 3 回	六信五行	イスラームの信仰箇条と行為義務を概観する。
第 4 回	聖典『クルアーン』	イスラームの聖典を概観する。
第 5 回	スンナ派とシーア派	イスラームの宗派を概観する。
第 6 回	ウマイヤ朝とアッバース朝	7 世紀から 8 世紀までのイスラーム地域を概観する。
第 7 回	シャリーアとフィクフ	イスラームの法と法学を概観する。
第 8 回	ウラマーとマドラサ	イスラームの法の担い手とその養成方法を概観する。
第 9 回	マムルークとイクター制	9 世紀から 11 世紀までのイスラーム地域を概観する。
第 10 回	スーフィーと聖者	イスラームの神秘主義と聖者を概観する。
第 11 回	スンナ派の時代	12 世紀のイスラーム地域を概観する。
第 12 回	モンゴルの時代	13 世紀のイスラーム地域を概観する。
第 13 回	オスマン朝とティムール朝	14 世紀から 15 世紀までのイスラーム地域を概観する。
第 14 回	イスラームの普及	アフリカ、インド、東南アジア、中国へのイスラームの普及を概観する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。
準備学習：レジュメに記載されている参考文献を読むこと。
復習：講義内容を、自身の専門と比較したり関連付けたりすること。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。レジュメおよび資料を配付する。

【参考書】

大塚和夫他編『岩波イスラーム辞典』岩波書店、2002 年。
東長靖『イスラームのとらえ方』山川出版社、1996 年。
屋形禎亮・佐藤次高『西アジア』上巻、朝日新聞社、1993 年。

【成績評価の方法と基準】

100%: 期末レポート

悪質な剽窃が確認された場合、本科目は E 評価となり、停学（3 か月未満）となる。

【学生の意見等からの気づき】

ある受講生から、「レジュメは概要だけでなく、それだけ見ても分かるように作ってほしかった」との意見があったが、それでは授業に出席しない受講生が出てくる可能性があるため、簡潔なレジュメのままとする。

【学生が準備すべき機器他】

念のため、オンライン授業に備えておくこと。

【その他の重要事項】

秋学期に開講される「東洋史 LII（イスラーム史 2）」も受講することが望ましい。

【Outline (in English)】

We survey a history of Islamic area from 7th to 15th century and review the Islamic technical terms. We aim to understand the area and to compare and connect it with another. Before / after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Your overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end report 100%.

HIS200LA

東洋史Ⅱ

2017年度以降入学者

サブタイトル：

長谷部 圭彦

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 2/Thu.2

単位数：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本科目では、オスマン・サファヴィー・ムガルの三王朝が並び立った16世紀から現代までの「中東・イスラーム地域」の歴史を概観する。とくに、この地域の大部分を支配したオスマン帝国（1300頃～1922）に焦点をあてる。受講者が、オスマン帝国への理解を深めつつ、他の政治体との比較や連関ができるようになることを目的とする。

【到達目標】

本科目の目標は、受講者が、オスマン帝国の歴史に関する基礎的な知識を習得し、それを論理的に表現できるようになることである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式で行う。毎週質問用紙を配布するので、質問や意見を記入してほしい。それには翌週、可能な限り回答する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	講義概要	講義の目的、成績評価方法等を確認する。
第2回	オスマン史の全体像	オスマン史の時代区分（形成、拡張、変容、刷新、崩壊）を紹介する。
第3回	形成の時代1—戦士集団から君侯国へ	13世紀から15世紀中葉までのオスマン史を概観する。
第4回	形成の時代2—コンスタンティノープルの征服	コンスタンティノープルの征服を概観する。
第5回	拡張の時代1—世界帝国への道	15世紀中葉から16世紀前半までのオスマン史を概観する。
第6回	拡張の時代2—スレイマンの時代	16世紀中葉のオスマン史を概観する。
第7回	拡張の時代3—支配組織の確立	16世紀の支配組織を概観する。
第8回	変容の時代1—兵制と税制の変容	16世紀後半から17世紀前半までのオスマン史を概観する。
第9回	変容の時代2—対外関係の変容	17世紀後半から18世紀までのオスマン史を概観する。
第10回	刷新の時代1—改革の序章	19世紀前半のオスマン史を概観する。
第11回	刷新の時代2—二つのナショナリズム	オスマン帝国のナショナリズムを概観する。
第12回	刷新の時代3—社会秩序の変容	19世紀中葉のオスマン史を概観する。
第13回	崩壊の時代1—専制と革命	19世紀後半から20世紀初頭までのオスマン史を概観する。
第14回	崩壊の時代2—帝国の終焉	20世紀前半のオスマン史を概観する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。
準備学習：レジュメに記載されている参考文献を読むこと。
復習：講義内容を、自身の専門と比較したり関連付けたりすること。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。レジュメおよび資料を配布する。

【参考書】

新井政美『トルコ近現代史』みすず書房、2001年。
大塚和夫他編『岩波イスラーム辞典』岩波書店、2002年。
小笠原弘幸『オスマン帝国』中央公論新社、2018年。
鈴木董『オスマン帝国』講談社、1992年。
鈴木董『オスマン帝国の解体』筑摩書房、2000年。
永田雄三・羽田正『成熟のイスラーム社会』中央公論社、1998年。
林佳世子『オスマン帝国の時代』山川出版社、1997年。
林佳世子『オスマン帝国500年の平和』講談社、2008年。

【成績評価の方法と基準】

100%: 期末レポート
悪質な剽窃が確認された場合、本科目はE評価となり、停学（3カ月未満）となる。

【学生の意見等からの気づき】

ある受講生から、「レジュメは概要だけでなく、それだけ見ても分かるように作ってほしかった」との意見があったが、それでは授業に出席しない（オンライン授業の場合は動画を視聴しない）受講生が出てくる可能性があるため、簡潔なレジュメのままとする。

【学生が準備すべき機器他】

念のため、オンライン授業に備えておくこと。

【その他の重要事項】

春学期に開講される「東洋史Ⅱ（イスラーム史1）」も受講することが望ましい。

【Outline (in English)】

We survey a history of the Ottoman Empire. We aim to understand it and to compare and connect it with another political body. Before / after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Your overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end report 100%.

HIS200LA

西洋史 L A

2017 年度以降入学者

サブタイトル：

内田 康太

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 3/Thu.3

単位数：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

古代地中海世界に成立した諸国家のうち、アテナイ民主政とローマ共和政の国制について概説する。個々に独立した分析だけではなく、両者の比較という方法でそれぞれの特徴を把握することにより、歴史研究における比較史の有用性も学ぶ。

【到達目標】

この授業の到達目標は以下のとおり。

- ・アテナイ民主政とローマ共和政の国制について基礎的知識を習得する。
- ・両者の国制について、類似点と相違点を説明できる。
- ・両者の国制を比較することの意義を理解できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は講義形式で行うが、授業時間内に質疑応答の機会を設ける。さらに、講義内容の区切りの良いところでリアクションペーパーを提出してもらうことで、受講生の理解度、関心事項、疑問点等を確認しながら授業を進めていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	国制について考える
第 2 回	アテナイ民主政の歴史	アテナイ民主政の誕生から終焉まで
第 3 回	アテナイ民主政の国制	参政権 (1)
第 4 回	アテナイ民主政の国制	投票 (2)
第 5 回	アテナイ民主政の国制	民会 (3)
第 6 回	アテナイ民主政の国制	役人・公職者 (4)
第 7 回	アテナイ民主政の国制	裁判 (5)
第 8 回	ローマ共和政の歴史	ローマ共和政の誕生から終焉まで
第 9 回	ローマ共和政の国制	参政権 (1)
第 10 回	ローマ共和政の国制	投票 (2)
第 11 回	ローマ共和政の国制	民会 (3)
第 12 回	ローマ共和政の国制	役人・公職者 (4)
第 13 回	ローマ共和政の国制	裁判 (5)
第 14 回	試験・まとめと解説	到達度の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。参考書として挙げた書籍などを用いて、自主的に学習することが求められる。

【テキスト（教科書）】

特になし。担当教員が作成したレジュメ・資料を配布する。

【参考書】

橋場弦『古代ギリシアの民主政』、岩波新書、2022 年。
島田誠『世界史リブレット 3 古代ローマの市民社会』、山川出版社、1997 年。

【成績評価の方法と基準】

期末の筆記試験（80 %）

リアクションペーパーや質問等、授業への積極的参加度（20 %）

【学生の意見等からの気づき】

本年度新規担当のためフィードバックできない。

【Outline (in English)】

Course outline: This course outlines the constitution of the Athenian democracy and the Roman republic. Not only analyzing them individually but also comparing each other to identify their characteristics, it also helps students learn the usefulness of comparative history.

Learning Objectives: The followings are the goals of this course.

- Students are able to acquire fundamental knowledge concerning the constitution of the Athenian democracy and the Roman republic.
- Students are able to explain similarities and differences between them.
- Students are able to understand the significance of comparing them each other.

Learning activities outside of classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. They are required to read relevant books, such as those listed in the reference section, and learn by themselves.

Grading Criteria: Grading will be decided based on term-end examination (80%) and in-class contribution (20%).

HIS200LA

西洋史 L B

2017 年度以降入学者

サブタイトル：

高澤 紀恵

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 1/Thu.1

単位数：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

歴史家たちはヨーロッパの過去に対してどのような問いを投げかけ、どのように歴史を描こうとしてきたのでしょうか。この授業は、二宮宏之『マルク・ブロックを読む』を共通テキストに、フランスと日本の歴史家たちの営みから、この問題を考えたいと思います。ヨーロッパの歴史に親しむだけでなく、歴史を学ぶ意味、歴史を捉える方法について一緒に学んでいきましょう。

【到達目標】

歴史が過去に問いかける人の営みによって描かれ、伝えられることを、ひとりのフランス人歴史家（マルク・ブロック）とひとりの日本人歴史家（二宮宏之）との知的対話を通して学びましょう。それはまた、中・近世のヨーロッパについての知見を深め、日本・フランスの二〇世紀史について学ぶことに繋がるでしょう。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

授業の開始までにテキストを読んできてください。

第一回目に担当を決め、二回目以降は担当者による発表、質疑、議論によって授業を進めます。レジュメは、必ず前日までに学習支援システムにアップしてください。レジュメの書き方などは初回授業で説明します。人数が多い場合は、グループ報告になります。毎回、出席をとり、リアクションペーパーを提出してもらいます。そこで出された質問などへの応答（フィードバック）は、次の授業の冒頭で行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の進め方の紹介 報告グループの割り当て
第 2 回	第一講「時代に立ち向かうブロック」(1)	講読・質疑・解説 (テキスト p.1~p.28)
第 3 回	第一講「時代に立ち向かうブロック」(2)	講読・質疑・解説 (テキスト p.28~p.52)
第 4 回	レジスタンスを考える	ディスカッション
第 5 回	第二講「学問史のなかのブロック」(1)	講読・質疑・解説 (テキスト p.52~p.69)
第 6 回	第二講「学問史のなかのブロック」(2)	講読・質疑・解説 (テキスト p.69~p.92)
第 7 回	第三講「作品の仕組みを読む」(1)	講読・質疑・解説 (テキスト p.93~p.128)
第 8 回	第三講「作品の仕組みを読む」(2)	講読・質疑・解説 (テキスト p.129~p.161)
第 9 回	第四講「作品の仕組みを読む(つづき)」(1)	講読・質疑・解説 (テキスト p.162~p.192)
第 10 回	第四講「作品の仕組みを読む(つづき)」(2)	講読・質疑・解説 (テキスト p.193~p.219)
第 11 回	第五講「生きられた歴史」(1)	講読・質疑・解説 (テキスト p.220~p.238)

第 12 回	第五講「生きられた歴史」(2)	講読・質疑・解説 (テキスト p.238~p.264)
第 13 回	20 世紀の学問を考える	ディスカッション
第 14 回	総括	小エッセイの作成

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学生に割り当てて、テキストの概要を報告してもらいますので、事前にテキストを入手し、読んできて下さい。

自分は何の箇所を担当したいかを考えながら、疑問をもちながら読むことをおすすめします。

本授業の予習・復習時間は、各二時間以上を標準とします。

【テキスト（教科書）】

二宮宏之『マルク・ブロックを読む』岩波書店、(岩波現代文庫版) 2016 年。

【参考書】

高澤紀恵「高橋・ルフェーブル・二宮——「社会史誕生」の歴史的位相」『思想』1048 号、2011 年 10 月号。

【成績評価の方法と基準】

担当箇所の発表 (40%)

議論への参加 (20%)

最終回におけるエッセイ (40%)

【学生の意見等からの気づき】

昨年度は受講生が少なかったので、毎回、じっくりと議論ができました。提出されたレポートに対してフィードバックをしっかりと行う時間を取ることができました。

【Outline (in English)】

(Course Outline and Learning Objectives)

This course aims to understand how historians have treated and described the past of Europe. We will focus on the struggle of Japanese and French historians in the 20th century and today like Marc Bloch, Hiroyuki Ninomiya and so on.

Students are expected to read assignments in advance.

(Learning activities outside of the classroom)

I expect students to have completed the required assignment before the class. Your study time will be more than four hours for a class at least.

(Grading Criteria)

I will decide your overall grade in the class based on the following:

Presentation (40%), the quality of the performance in the class (20%), and a final essay (40%).

HIS200LA

西洋史 L A

2017 年度以降入学者

サブタイトル：西洋世界による太平洋認識

新井 隆

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 5/Tue.5

単位数：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

19 世紀末から 20 世紀前半にかけて、欧米列強による植民地獲得競争が激化し、アフリカやアジアなど世界各地に欧米列強や日本が勢力を拡大させていきました。さらに、植民地支配の流れは、太平洋の島々にも押し寄せていきました。欧米諸国や日本と太平洋世界の関わりには、植民地化以前にも、探検航海や捕鯨船、貿易商人、宣教師などによるものがあり、時代を経ながら羨望と侮蔑が入り混じっていったのです。本授業では、これら太平洋の島々に対する欧米諸国や日本の認識について、俯瞰的な視野で学習していきます。

【到達目標】

太平洋世界に対する欧米諸国や日本の認識の変遷について、歴史的な背景を踏まえながら自らの理解が深まることを目標とします。西洋や日本の「他者」に対するイメージは、しばしば羨望と侮蔑が入り混じるものでしたが、そうした他者認識の方法は太平洋の島々に対しても顕著なものでした。この授業では、太平洋に関する映像や図像などに注目することで、西洋世界の他者認識の変遷が掴めるようになることを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

この授業では内容理解の確認とフィードバックのために、適宜ワークシートを配布するので、各自授業内容のポイントを振り返りながら適宜気づいた点や気になった点を書き込んで提出してもらいます。ワークシートの記載内容は、授業のフィードバックに活用すると同時に、期末レポートの際に参照可とするので、各自その点を踏まえた上で取り組むこと。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	本授業の概要説明ならびに簡単なアイスブレイク
第 2 回	西洋と太平洋の邂逅 (I)	接触以前における太平洋世界の概要に触れながら、西洋側の太平洋世界に対するイメージがはじめる。曖昧な気持ちしか持っていなかったことを確認します。
第 3 回	西洋と太平洋の邂逅 (II)	大航海時代をきっかけに太平洋と関わりを持つようになった西洋世界が数々の航海を通して、この大洋の概要を掴もうとしたことを理解します。
第 4 回	浮き彫りになる太平洋の全体像と探検航海 (I)	ようやく太平洋横断が可能になった西洋が数々の探検航海を通じて、さらに明確な太平洋像を作り上げていったことを抑えます。
		探検航海の意味

第 5 回	浮き彫りになる太平洋の全体像と探検航海 (II)	クックによる科学的知見を求める探検航海を期期として、西洋世界の太平洋認識がアンヴィヴァレント（二律背反的）に変容していく様子を概観します。
第 6 回	強まる西洋と太平洋世界のつながり (I)	探検航海後に登場した捕鯨船や貿易、キリスト教伝道が進展するにつれて、西洋から見た太平洋世界には、羨望と侮蔑が入り混じっていたことを理解します。
第 7 回	強まる西洋と太平洋世界のつながり (II)	西洋が太平洋世界と関わる中で形成されたヒトやモノの動きは、確かに双方の世界の結びつきを強めました。しかし、その裏には前者による後者の搾取という側面があったことを改めて確認します。
第 8 回	西洋諸国による太平洋の分割	19 世紀末から 20 世紀はじめにかけて、欧米列強は世界各地で植民地獲得競争に明け暮れ、その波は太平洋世界をも飲み込んでいきました。ここでは、欧米諸国による本格的な太平洋進出が現地社会の在り方を大きく変容させたことを理解します。
第 9 回	南洋をまなざす日本の眼	植民地支配の潮流が世界を覆う中で、日本は国際連盟の C 式委任統治領として南洋群島を支配下に置くことになります。ここでは、欧米諸国の太平洋認識にも触れつつ、日本の認識にも太平洋に対する羨望と侮蔑が入り混じっていた様子を確認します。
第 10 回	軍事衝突の舞台となった太平洋	欧米列強や日本が太平洋にも勢力を伸張させる中で、やがて軍事的対立を深めていく過程を太平洋認識との関わりで理解します。
第 11 回	太平洋に対する列強諸国の軍事的まなざしの系譜 (I)	第二次世界大戦後の太平洋（ミクロネシア）では、アメリカが国際連合下の戦略的信託統治領として、同地域を管轄していました。ここでは、太平洋の島々が日米を中心とする各国から軍事的な要衝として認識されてきたことの歴史的系譜を掴みます。
第 12 回	太平洋に対する列強諸国の軍事的まなざしの系譜 (II)	戦後アメリカやフランス、イギリスなどが太平洋の島々で多くの核実験を実施しました。その影響は実際の被害だけでなく、映像作品などを通じた太平洋認識にも及ぶものであったことを理解します。
第 13 回	南国の楽園としての太平洋イメージ (I)	欧米諸国による太平洋イメージの系譜を眺めてみると、憧憬・羨望と侮蔑が隣り合わせになって登場してきます。そうした認識は植民地化や戦争を通じて醸成されるとともに、観光化によってさらに強化されていることを確認します。
第 14 回	南国の楽園としての太平洋イメージ (II)	太平洋の観光化には、しばしば「南国の楽園」という他者イメージが強く作用しています。ここではハワイやグアムの事例を取り上げながら、特に日米による太平洋認識の一端を確認します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各 3 時間を標準とします。参考書の欄にあげた文献や授業中に紹介した文献などを自主的に読み、授業で取り上げるテーマについての理解を深めましょう。

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。

【参考書】

- ・石川榮吉『日本人のオセアニア発見』平凡社、1992年 5,600円
- ・石森大知・丹羽典生編著『エリア・スタディーズ 176 太平洋諸島の歴史を知るための60章—日本とのかかわり』明石書店、2019年 税別 2,000円
- ・印東道子編著『エリア・スタディーズ 51 ミクロネシアを知るための60章【第2版】』明石書店、2015年 税別 2,000円
- ・春日直樹編『太平洋世界叢書 2 オセアニア・ポストコロニアル』国際書院、2002年 税別 2,800円
- ・金澤周作監修・藤井崇ほか編著『論点・西洋史学』ミネルヴァ書房、2020年 税別 3,200円
- ・ジェームズ・クック（増田義郎訳）『クック 太平洋探検 1～6』岩波文庫、2004～2005年 税別各 800円
- ・小山哲ほか編著『大学で学ぶ西洋史【近現代】』ミネルヴァ書房、2011年 税別 2,800円
- ・佐藤幸男編『太平洋世界叢書 1 世界史のなかの太平洋』国際書院、1998年 税別 2,800円
- ・塩田光喜『太平洋文明航海記—キャプテン・クックから米中の制海権をめぐる争いまで』明石書店、2014年 税別 2,200円
- ・エティエンヌ・タイユミット（増田義郎監修、中村健一訳）『知の再発見双書 33 太平洋探検史—幻の大陸を求めて』創元社、1993年 1,359円
- ・瀧田佳子編『変貌するアメリカ太平洋世界 6 太平洋世界の文化とアメリカ—多文化主義・土着・ジェンダー』彩流社、2005年 税別 3,800円
- ・中山京子編著『エリア・スタディーズ 105 グアム・サイパン・マリアナ諸島を知るための54章』明石書店、2012年 税別 2,000円
- ・増田義郎『太平洋—開かれた海の歴史』集英社新書、2004年 税別 700円
- ・矢口祐人『ハワイの歴史と文化—悲劇と誇りのモザイクの中で』中公新書、2002年 税別 840円
- 『憧れのハワイ—日本人のハワイ観』中央公論新社、2011年 税別 2,000円
- ・山内昌之・古田元夫編『日本イメージの交錯—アジア太平洋のトボス』東京大学出版会、1997年 税別 1,800円
- ・山口誠『グアムと日本人—戦争を埋立てた楽園』岩波新書、2007年 税別 740円
- ・山中速人『イメージの「楽園」—観光ハワイの文化史』筑摩書房、1992年 税別 1,359円
- 『ハワイ』岩波新書、1993年 税別 620円
- 『世界史リブレット 64 ヨーロッパからみた太平洋』山川出版社、2004年 税別 729円
- ・吉岡政徳・石森大知編著『エリア・スタディーズ 82 南太平洋を知るための58章』明石書店、2010年 税別 2,000円
- ・和田光弘編著『大学で学ぶアメリカ史』ミネルヴァ書房、2014年 税別 3,000円

【成績評価の方法と基準】

成績評価の方法と基準は、平常点（毎回のワークシートの提出状況・記述状況、受講態度）30%ならびに期末レポート70%の割合で、(1) 毎回の授業に積極的に参加しているかどうか (2) 太平洋をめぐる欧米諸国や日本の認識について関心と理解が深められているかどうかを判断します。

【学生の意見等からの気づき】

写真や映像資料を用いることで授業内容の理解を促すとともに、ワークシートのやり取りによるフィードバックを実施しています。

【その他の重要事項】

本授業は西洋史 LB との関わりが大きいいため、関心のある学生は西洋史 LB の受講も勧めます。

【Outline (in English)】

授業概要 (Course outline)

From the end of the 19th century to the first half of the 20th century, the race to acquire colonies by Western powers intensified, and Western powers and Japan expanded their power in Africa, Asia, and other parts of the world. The involvement of Western nations and Japan with the Pacific world, even before colonization, was through exploratory voyages, whaling ships, traders, and missionaries, and over the ages, envy and contempt were mixed together. The aim of this course is to help students acquire a bird's-eye view about Western and Japanese perceptions of these Pacific islands.

到達目標 (Learning Objectives)

The goal of this course is to deepen our own understanding of the change of Western and Japanese perceptions toward the Pacific world in the context of historical background. Western and Japanese images of the “other” have often been a mixture of envy and contempt, and this way of perceiving the other has also been evident in the Pacific islands. At the end of the course, students are expected to grasp a part of the change of the Western world's perception of the “other”.

授業時間外の学習 (Learning activities outside of classroom)

Before/after each class meeting, students will be expected to spend three hours to understand the course content. Students are encouraged to deepen their understanding of the topics to be covered in the class by independently reading the references listed in the reference section and other literature introduced in the class.

成績評価の方法と基準 (Grading Criteria /Policies)

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end report: 70%, in class contribution (submission and description of worksheets at each session, and course attitude): 30%

HIS200LA

西洋史 L B

2017 年度以降入学者

サブタイトル：西洋世界と太平洋地域形成

新井 隆

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 5/Tue.5

単位数：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

19 世紀末から 20 世紀前半にかけて、欧米列強による植民地獲得競争が激化し、アフリカやアジアなど世界各地に欧米列強や日本が勢力を拡大させていきました。その結果生じた列強間の対立はやがて二度の世界大戦につながり、太平洋の島々にも植民地支配と戦争が大きな影響を与えることになりました。本授業ではこれらの歴史的背景を踏まえた上で、太平洋の地域形成について、特に 19-20 世紀における日米との関わりを中心に学習します。

【到達目標】

19-20 世紀における太平洋地域形成の流れについて、歴史的な背景を踏まえながら、自らの理解が深まることを目標とします。現在太平洋に関する名称については、オセアニアやミクロネシア、ポリネシア、メラネシアなどいくつかの呼称が用いられています。これらの呼び名が用いられるようになった背景には、欧米諸国や日本による植民地支配や戦争の影響が色濃く見られます。この授業では、太平洋をめぐる各国の相剋の事例をいくつか取り上げながら、太平洋地域形成の流れが掴めるようになることを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

この授業では内容理解の確認とフィードバックのために、適宜ワークシートを配布するので、各自授業内容のポイントを振り返りながら適宜気づいた点や疑問点を書き込んで提出してもらいます。ワークシートの記載内容は、授業のフィードバックに活用すると同時に、期末レポート作成の際に参照可とするので、各自その点を踏まえた上で取り組むこと。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	本授業の概要説明ならびに簡単なアイスブレイク
第 2 回	西洋と太平洋の関わり (I) 一西洋世界の太平洋認識のはじまり	大航海時代からクックらによる探検航海の進展までを通じて、西洋世界が太平洋を認識するようになり、関わりを深めていく過程を概観します。
第 3 回	西洋と太平洋の関わり (II) 一西洋世界による太平洋像の把握	数々の探検航海により太平洋の全体像を把握していった西洋世界が捕鯨船、貿易、キリスト教伝道、植民地化などを通じて、一つの地域として太平洋を認識していく過程を押さえます。

第 4 回	西洋諸国による太平洋進出の論理 一列強による世界分割の論理と太平洋の地域形成	19 世紀末から 20 世紀はじめにかけて、欧米列強は世界各地で植民地獲得競争に明け暮れ、太平洋地域でも各国の勢力争いが繰り広げられました。ここでは欧米諸国や日本が太平洋に各々の勢力を伸張させたねらいを押さえながら、太平洋の地域形成の流れを確認します。
第 5 回	アメリカによる太平洋進出の論理 (I) 一マニフェスト・デスティニー（明白なる天命）と西漸運動の拡大	アメリカ合衆国の領土拡大と密接な関わりを持っていたマニフェスト・デスティニーが太平洋への進出にもつながっていったことを確認します。
第 6 回	アメリカによる太平洋進出の論理 (II) 一太平洋におけるアメリカの覇権拡大の端緒	19 世紀末の米西戦争やハワイ王国の転覆・併合を通して、海外領土の獲得に踏み切っていくアメリカ合衆国の太平洋との関わりについて、軍事的政治的な観点を踏まえて理解します。
第 7 回	日本による太平洋進出の論理 (I) 一日本のミクロネシア占領と南洋群島	日本は第一次世界大戦を契機にミクロネシア地域を軍事占領し、のちに「南洋群島」として支配下に置きます。ここでは、日本が南洋群島として同地域を規定していく過程を概観します。
第 8 回	日本による太平洋進出の論理 (II) 一日本の南洋群島支配と太平洋地域形成	植民地支配の潮流が世界を覆う中で、日本は国際連盟の C 式委任統治領として南洋群島を支配下に置くことになります。ここでは、日米の政治的な緊張関係の醸成が太平洋の地域形成に与えた影響を理解します。
第 9 回	日米の軍事的相剋と太平洋地域形成の変容 一太平洋における日米の軍事的なせめぎ合い	日米が互いに太平洋に勢力を伸張させる中で、やがて軍事的対立を深めていく過程を太平洋地域形成との関わりで理解します。
第 10 回	戦後太平洋世界における地域形成 (I) 一戦略的信託統治領としての太平洋	第二次世界大戦後の太平洋（ミクロネシア）では、アメリカが国際連合下の戦略的信託統治領として、同地域を管轄していました。ここでは、冷戦対立が深まる戦後世界における太平洋地域形成について理解を深めます。
第 11 回	戦後太平洋世界における地域形成 (II) 一冷戦下における太平洋の島々と核実験	戦後アメリカやフランス、イギリスなどが太平洋の島々で多くの核実験を実施しました。その影響について、戦後における太平洋地域形成との関わりで理解します。
第 12 回	太平洋島嶼国の「独立」と地域形成 (I) 一太平洋における脱植民地化の進展と課題	1970 年代から 90 年代にかけて、太平洋地域でも脱植民地化の流れが進み、「独立」を達成する国も登場してきます。しかし、その独立に至る過程を眺めてみると、大国との関係構築が決して一筋縄ではいかなかった様子が見えてきます。ここでは、主に戦後におけるアメリカと太平洋島嶼国・地域との関係構築の変遷を追っていきます。
第 13 回	太平洋島嶼国の「独立」と地域形成 (II) 一軍事化・観光化された「南国の楽園」	太平洋の島々では、しばしば「南国の楽園」という他者イメージが強く作用することで観光化が進んだり、主に米軍による島の軍事化が推進されたりしてきました。ここではハワイやグアムの事例を取り上げながら、太平洋地域における軍事化・観光化と地域形成のつながりを理解します。

第14回 太平洋をめぐる地域形成の系譜とオセアニア・オリエンタリズム—太平洋を語る主体とは

太平洋をめぐるのは、これまでも欧米諸国や日本から様々な名称で呼ばれてきました。ここでは、太平洋をめぐる呼称の裏に、植民地支配や戦争など様々な歴史的背景が絡んでいたことを改めて確認するとともに、そうした呼称の主体が太平洋の地域形成と密接に関わっていたことを理解します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各3時間を標準とします。参考書の欄にあげた文献や授業中に紹介した文献などを自主的に読み、授業で取り上げるテーマについての理解を深めましょう。

【テキスト（教科書）】

教科書は特に指定しません。

【参考書】

・麻田貞雄『両大戦間の日米関係—海軍と政策決定過程』東京大学出版会、1993年 定価 7,828円

・麻田貞雄編・訳『マハン海上権力論集』講談社学術文庫、2010年 税別 920円

※同書は『アメリカ古典文庫 8 アルフレッド・T・マハン』研究社出版、1977年をもとに「解説」などの加筆修正を行い、再編集されたものである

・浅野豊美編『南洋群島と帝国・国際秩序』慈学社出版、2007年 税別 6,000円

・ロニー・アレキサンダー『大きな夢と小さな島々—太平洋島嶼国の非核化にみる新しい安全保障観』国際書院、1992年 3,200円

・池上大祐『アメリカの太平洋戦略と国際信託統治—米國務省の戦後構想 1942~1947』法律文化社、2014年 税別 3,700円

・石森大知・丹羽典生編著『エリア・スタディーズ 176 太平洋諸島の歴史を知るための60章』明石書店、2019年 税別 2,000円

・今泉裕美子「日本の軍政期南洋群島統治（1914-22）」『国際関係学研究』（17）（別冊）、1990年

—「日本軍による支配の実態と民衆の抵抗—ミクロネシア」『歴史評論』（508）、1992年

—「南洋群島委任統治政策の形成」大江志乃夫・浅田喬二ほか編『岩波講座 近代日本と植民地 4 統合と支配の論理』岩波書店、1993年

—「太平洋の「地域」形成と日本—日本の南洋群島統治から考える」大津透・桜井英治・藤井謙二ほか編『岩波講座 日本歴史 第20巻 地域論（テーマ巻1）』岩波書店、2014年

・印東道子編著『エリア・スタディーズ 51 ミクロネシアを知るための60章【第2版】』明石書店、2015年 税別 2,000円

・遠藤泰生・油井大三郎編『変貌するアメリカ太平洋世界 1 太平洋世界の中のアメリカ—対立から共生へ』彩流社、2004年 税別 3,800円

・大庭三枝『アジア太平洋地域形成への道程—境界国家日豪のアイデンティティ模索と地域主義』ミネルヴァ書房、2004年 税別 6,000円

・春日直樹編『太平洋世界叢書 2 オセアニア・ポストコロニアル』国際書院、2002年 税別 2,800円

・春日直樹編『オセアニア・オリエンタリズム』世界思想社、1999年 税別 3,500円

・金澤周作監修・藤井崇ほか編著『論点・西洋史学』ミネルヴァ書房、2020年 税別 3,200円

・キース・L・カマチョ（西村明・町泰樹訳）『戦禍を記念する—グアム・サイパンの歴史と記憶』岩波書店、2016年 税別 5,400円

・紀平英作・油井大三郎編著『シリーズ・アメリカ研究の越境 第5巻 グローバリゼーションと帝国』ミネルヴァ書房、2006年 税別 3,500円

・ジェームズ・クック（増田義郎訳）『クック 太平洋探検 1~6』岩波文庫、2004~2005年 税別各 800円

・熊谷圭知・塩田光喜編『マタンギ・パシフィック—太平洋島嶼国の政治・社会変動』アジア経済研究所、1994年 4,800円

・小林泉『アメリカ極秘文書と信託統治の終焉—ソロモン報告・ミクロネシアの独立』東信堂、1994年 定価 3,811円

・小山哲ほか編著『大学で学ぶ西洋史【近現代】』ミネルヴァ書房、2011年 税別 2,800円

・酒井一臣『近代日本外交とアジア太平洋秩序』昭和堂、2009年 税別 4,700円

・佐藤幸男編『太平洋世界叢書 1 世界史のなかの太平洋』国際書院、1998年 税別 2,800円

・塩田光喜編『海洋島嶼国家の原像と変貌』アジア経済研究所、1997年 定価 4,738円

・塩田光喜『太平洋文明航海記—キャプテン・クックから米中の海権をめぐる争いまで』明石書店、2014年 税別 2,200円

・清水昭俊・吉岡政徳編『オセアニア 3 近代に生きる』東京大学出版会、1993年 3,090円

・エティエンヌ・タイユミット（増田義郎監修、中村健一訳）『知の再発見双書 33 太平洋探検史—幻の大陸を求めて』創元社、1993年 税別 1,359円

・高橋章『アメリカ帝国主義成立史の研究』名古屋大学出版会、1999年 税別 5,800円

・田所昌幸・阿川尚之編『海洋国家としてのアメリカ—パクス・アメリカ—ナへの道』千倉書房、2013年 税別 3,400円

・等松春夫『日本帝国と委任統治—南洋群島をめぐる国際政治 1914-1947』名古屋大学出版会、2011年 税別 6,000円

・長島怜央『アメリカとグアム—植民地主義、レイシズム、先住民』有信堂高文社、2015年 税別 6,000円

・中野聡『歴史経験としてのアメリカ帝国—米比関係史の群像』岩波書店、2007年 税別 3,500円

・原貴美恵『サンフランシスコ平和条約の盲点—アジア太平洋地域の冷戦と「戦後未解決の諸問題」』溪水社、2005年 税別 3,500円

・藤原帰一『デモクラシーの帝国—アメリカ・戦争・現代世界』岩波新書、2002年 税別 740円

・古矢旬『アメリカニズム—「普遍国家」のナショナリズム』東京大学出版会、2002年 5,800円

—『アメリカ 過去と現在の間』岩波新書、2004年 税別 740円

・古矢旬・山田史郎編著『シリーズ・アメリカ研究の越境 第2巻 権力と暴力』ミネルヴァ書房、2007年 税別 3,500円

・ジョン・C・ペリー（北太平洋国際関係史研究会訳）『西へ！—アメリカ人の太平洋開拓史』PHP研究所、1998年 3,780円

・増田義郎『太平洋—開かれた海の歴史』集英社新書、2004年 税別 700円

・松島泰勝『ミクロネシア—小さな島々の自立への挑戦』早稲田大学出版部、2007年

・矢崎幸生『ミクロネシア信託統治の研究』御茶の水書房、1999年 8,000円

・矢野暢『「南進」の系譜：日本の南洋史観』千倉書房、2009年（新版） 税別 5,000円

※初版は、『「南進」の系譜』1975年ならびに『日本の南洋史観』1979年として、いずれも中公新書から出版されている

・山中速人『世界史リブレット 64 ヨーロッパからみた太平洋』山川出版社、2004年 税別 729円

・山本吉宣編『変貌するアメリカ太平洋世界 3 アジア太平洋の安全保障とアメリカ』彩流社、2005年 税別 3,800円

・油井大三郎『好戦の共和国アメリカ—戦争の記憶をたどる』岩波新書、2008年 税別 780円

・渡辺昭夫『アジア・太平洋の国際関係と日本』東京大学出版会、1992年 定価 3,708円

【成績評価の方法と基準】

成績評価の方法と基準は、平常点（毎回のワークシートの提出状況・記述状況、受講態度）30%ならびに期末レポート70%の割合で、（1）毎回の授業に積極的に参加しているかどうか（2）欧米諸国や日本との歴史的な関わりを踏まえつつ、太平洋地域形成の変容について各自の関心と理解が深められているかどうかを判断します。

【学生の意見等からの気づき】

写真や映像資料を用いることで授業内容の理解を促すとともに、ワークシートのやり取りによるフィードバックを実施しています。

【その他の重要事項】

本授業は西洋史 LA との関わりが深いため、同授業も受講しておく、より理解が深まります。

【Outline (in English)】

授業概要（Course outline）

From the end of the 19th century to the first half of the 20th century, the race to acquire colonies by Western powers intensified, and Western powers and Japan expanded their power in Africa, Asia, and other parts of the world. As a result, the conflict between the powers eventually led to two world wars, and colonial rule and warfare had a major impact on the Pacific islands. Based on these historical backgrounds, the aim of this course is to help students acquire their own understanding of the regional formation in the Pacific Ocean, especially its relationship with Japan and the U.S. in the 19th and 20th centuries.

到達目標 (Learning Objectives)

The goal of this course is to deepen their own understanding of the formation of the Pacific region in the 19th and 20th centuries, while providing historical background. Currently, several names are used to refer to the Pacific Ocean, including Oceania, Micronesia, Polynesia, and Melanesia. The background to the use of these names is strongly influenced by the colonial rule and wars waged by Western countries and Japan. At the end of the course, students are expected to grasp the flow of the formation of the Pacific region by discussing several examples of conflicts among countries over the Pacific Ocean.

授業時間外の学習 (Learning activities outside of classroom)

Before/after each class meeting, students will be expected to spend three hours to understand the course content. Students are encouraged to deepen their understanding of the topics to be covered in the class by independently reading the references listed in the reference section and other literature introduced in the class.

成績評価の方法と基準 (Grading Criteria /Policies)

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end report: 70%, in class contribution (submission and description of worksheets at each session, and course attitude): 30%

HIS200LA

西洋史 L A

2017 年度以降入学者

サブタイトル：

渡辺 知

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 1/Thu.1

単位数：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

16 世紀以降、イギリス人は積極的に海外に進出し、一大帝国を築くに至ります。近年のイギリス史研究では帝国の存在がイギリスの歴史を強く規定してきたことを強調する傾向にあります。また、イギリス帝国への関心はその経済的側面に留まらず、文化や社会のあり方にまで広がっています。この授業では、こうしたイギリス帝国の多様なあり方を見ていくこととします。

【到達目標】

ただ、過去の事実の確認にとどまらず、それがなぜ起きたのか、また、過去の出来事が現在のイギリスの社会といかに関係するのか、あるいは、イギリスの動向が世界のその他の地域の動向といかに密接に結びついているのかといった点に力点を置きつつ、歴史学における多様なものの捉え方をあわせて提示できればと希望します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義を行います。リアクションペーパー等でのコメント、質問は随時授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。大学の行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行います。詳細は学習支援システムで伝達します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	授業内容の紹介	16 世紀から 19 世紀にかけてのイギリスの歴史の流れを概観します。
第 2 回	16 世紀のイギリス 1	パラ戦争や宗教改革、ウェールズとの合同を通じて国家統合が進む過程を説明します。
第 3 回	16 世紀のイギリス 2	16 世紀のイギリス経済が停滞していたこと、それに伴って浮浪者問題など社会が混乱していたことを説明します。
第 4 回	イギリス帝国の形成 1	15 世紀末からの初期の海外進出から 17 世紀初頭の海外進出が軌道に乗るまでの過程を説明します。
第 5 回	イギリス帝国の形成 2	17 世紀ヘゲモニー国家として繁栄したオランダと対立する中、航海法体制を確立する過程を説明します。
第 6 回	イギリス帝国の形成 3	17 世紀末からのフランスとの対立の中 18 世紀中頃に第一帝国を完成させる過程を説明します。
第 7 回	イギリス商業革命 1	イギリス帝国の形成がイギリスの経済にどのような影響を与えたのか貿易面に焦点をあて説明します。

第 8 回	イギリス商業革命 2	イギリス帝国の形成が貿易に留まらず、経済全般に影響を与え、結果、産業革命をもたらした過程を説明します。
第 9 回	イギリス生活革命	イギリス帝国の形成がイギリスの生活文化に与えた影響について説明します。
第 10 回	砂糖と西インド諸島	イギリス商業革命、イギリス生活革命で重要な役割を果たしたのが砂糖ですが、その生産を行っていた西インド諸島がその結果低開発の道を進むことになったことを説明します。
第 11 回	大西洋黒人奴隷貿易	イギリスは植民地経営に必要な労働力を獲得する手段として大西洋黒人奴隷貿易を盛んに行いました。この貿易がイギリス帝国およびアフリカに与えた影響について説明します。
第 12 回	13 植民地の独立	13 植民地の独立の過程と独立がイギリスに与えた影響について説明します。
第 13 回	産業革命と帝国	産業革命の展開と帝国が果たした役割について説明します。
第 14 回	試験・まとめと解説	第一イギリス帝国の形成がイギリスの内外に与えた影響について総括します

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義の前に前回のノートを読み返して下さい。また、紹介する参考文献を積極的に読むようにして下さい。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に使用しません。

【参考書】

授業中に適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

授業の区切りにリアクションペーパー等を書いて頂き、この提出をもって平常点とします。これら平常点と学期末の試験の総合評価とします（平常点 20 %、学期末の試験 80 %）。

【学生の意見等からの気づき】

視覚教材を積極的に活用したいと思います。

【Outline (in English)】

< Course outline >

British History from the 16th century to the 19th century

In this lecture, the formation of the British Empire and the influence of the empire on Britain and her dependencies will be discussed.

< Learning objectives >

- 1) Students are able to acquire basic knowledge about modern and contemporary British history
- 2) Students are able to understand British history in view of its interaction with the rest of the world.
- 3) Students are able to learn diverse perspectives in history.

< Learning activities outside of classroom >

Students have to spend at least two hours on preparation for and review of each class respectively. They are expected to read relevant books and learn by themselves.

< Grading policy >

Class participation and assignments: 20% Final examination: 80%

HIS200LA

西洋史 L B

2017 年度以降入学者

サブタイトル：『古代アテナイの法と社会-殺人訴訟を中心に-』

内川 勇海

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 1/Thu.1

単位数：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

都市国家アテナイでは、紀元前 6 世紀末から前 4 世紀後半まで、高度に発達した民主政の下で人々が生活していた。民主政アテナイにおいては様々な行政制度が精緻に整備され、司法制度も例外ではなかった。本講義では、アテナイ民主政の成立と発展を概観したのち、アテナイの司法制度、特に殺人訴訟の事例に注目することで、当時の司法制度運用の実態と、殺人事件への人々の対応について考察する。その際、法制度の枠に留まらず、当時の倫理規範や宗教観念が、殺人訴訟に対してどのような影響を与えたのかという点についても論じる。

【到達目標】

古代アテナイ民主政の仕組みを理解するとともに、アテナイで行われた殺人訴訟の事例の検討を通じて、アテナイの司法制度の運用実態に関する知見を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

プリントを用いて講義形式を進める。必要に応じて授業内で質問やリアクションペーパーの記入を求めることもある。質問は主なものを取り上げ、次回授業でコメントする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	本講義の目的と概要について説明する。
第 2 回	アテナイ民主政の成立と発展①	アテナイの司法制度を理解するための前提として、アテナイ民主政の成立と発展について説明する。
第 3 回	アテナイ民主政の成立と発展②	第 2 回に引き続き、アテナイ民主政の成立と発展について説明する。
第 4 回	アテナイ司法制度概観①	アテナイの法律と裁判制度について説明する。
第 5 回	アテナイ司法制度概観②	第 4 回に引き続き、アテナイの法律と裁判制度について説明する。
第 6 回	アテナイ殺人法概観①	古代アテナイの殺人関連の法律や訴訟手続について説明する。
第 7 回	アテナイ殺人法概観②	第 6 回に引き続き、古代アテナイの殺人関連の法律や訴訟手続について説明する。
第 8 回	アテナイの殺人訴訟① 一有意思殺人・殺意を有する傷害・毒殺・放火	アレイオス・バゴス評議会で裁かれた殺人事件について説明する。
第 9 回	アテナイの殺人訴訟② 一無意志殺人・殺人計画・在留外人、外国人、奴隷の殺害	パッラディオンの神域で裁かれた殺人事件について説明する。

第 10 回	アテナイの殺人訴訟③ 一合法殺人	デルフィニオンの神域で裁かれた殺人事件について説明する。
第 11 回	アテナイの殺人訴訟④ 一国外追放中の殺人犯が犯した別の殺人に対する訴訟	プレアトスの神域で裁かれた殺人事件について説明する。
第 12 回	アテナイの殺人訴訟⑤ 一犯人不明、動物、無生物による殺人	プリュタネイオンで裁かれた殺人事件について説明する。
第 13 回	アテナイの殺人訴訟⑥ 一特殊事例	民衆法廷で裁かれた殺人事件、および殺人に関連した罪について説明する。
第 14 回	全体のまとめ	半年間の講義を振り返り、全体のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。必要に応じて参考書や配布プリントを読み、予習・復習を行うこと。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。必要に応じてプリントを配布する。

【参考書】

『民主主義の源流』、橋場弦、講談社学術文庫、2016 年
他の文献は授業内で適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

平常点 50 % * 毎授業後のリアクションペーパーの内容によって評価する。
最終レポート 50 %

【学生の意見等からの気づき】

図像資料の提供を増やす。適宜休憩をはさむ。

【学生が準備すべき機器他】

第 1 回の授業はオンライン形式で行うため、オンライン授業を履修するために必要なデバイスおよび通信環境。

【その他の重要事項】

第 2 回以降は対面形式を予定しているが、新型コロナウイルス感染症の流行状況により、一部オンライン形式に変更する可能性がある。その際は前日までにアナウンスする。

【Outline (in English)】

< Course outline > After overviewing the development of ancient Athenian democracy, we will focus on Athenian legal system and how it works. In particular, homicide trials will be discussed in detail.

< Learning objectives > Students are able to understand ancient Athenian legal system and how it works.

< Learning activities outside of classroom > Students have to spend at least two hours on preparation for and review of each class respectively. They are expected to read relevant books, such as those listed in the reference section, and learn by themselves. They also have to work on assignments given by the instructor.

< Grading policy > Class participation and assignments: 50%
Final examination or report
(TBA): 50%

HIS200LA

西洋史 L A

2017 年度以降入学者

サブタイトル：

渡辺 知

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 2/Thu.2

単位数：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

16 世紀以降、イギリス人は積極的に海外に進出し、一大帝国を築くに至ります。近年のイギリス史研究では帝国の存在がイギリスの歴史を強く規定してきたことを強調する傾向にあります。また、イギリス帝国への関心はその経済的側面に留まらず、文化や社会のあり方にまで広がっています。この授業では、こうしたイギリス帝国の多様なあり方を見ていくこととします。

【到達目標】

ただ、過去の事実の確認にとどまらず、それがなぜ起きたのか、また、過去の出来事が現在のイギリスの社会といかに関係するのか、あるいは、イギリスの動向が世界のその他の地域の動向といかに密接に結びついているのかといった点に力点を置きつつ、歴史学における多様なものの捉え方をあわせて提示できればと希望します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義を行います。リアクションペーパー等でのコメント、質問は随時授業内で紹介し、さらなる議論に活かします。大学の行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行います。詳細は学習支援システムで伝達します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	授業内容の紹介	16 世紀から 19 世紀にかけてのイギリスの歴史の流れを概観します。
第 2 回	16 世紀のイギリス 1	パラ戦争や宗教改革、ウェールズとの合同を通じて国家統合が進む過程を説明します。
第 3 回	16 世紀のイギリス 2	16 世紀のイギリス経済が停滞していたこと、それに伴って浮浪者問題など社会が混乱していたことを説明します。
第 4 回	イギリス帝国の形成 1	15 世紀末からの初期の海外進出から 17 世紀初頭の海外進出が軌道に乗るまでの過程を説明します。
第 5 回	イギリス帝国の形成 2	17 世紀ヘゲモニー国家として繁栄したオランダと対立する中、航海法体制を確立する過程を説明します。
第 6 回	イギリス帝国の形成 3	17 世紀末からのフランスとの対立の中 18 世紀中頃に第一帝国を完成させる過程を説明します。
第 7 回	イギリス商業革命 1	イギリス帝国の形成がイギリスの経済にどのような影響を与えたのか貿易面に焦点をあて説明します。

第 8 回	イギリス商業革命 2	イギリス帝国の形成が貿易に留まらず、経済全般に影響を与え、結果、産業革命をもたらした過程を説明します。
第 9 回	イギリス生活革命	イギリス帝国の形成がイギリスの生活文化に与えた影響について説明します。
第 10 回	砂糖と西インド諸島	イギリス商業革命、イギリス生活革命で重要な役割を果たしたのが砂糖ですが、その生産を行っていた西インド諸島がその結果低開発の道を進むことになったことを説明します。
第 11 回	大西洋黒人奴隷貿易	イギリスは植民地経営に必要な労働力を獲得する手段として大西洋黒人奴隷貿易を盛んに行いました。この貿易がイギリス帝国およびアフリカに与えた影響について説明します。
第 12 回	13 植民地の独立	13 植民地の独立の過程と独立がイギリスに与えた影響について説明します。
第 13 回	産業革命と帝国	産業革命の展開と帝国が果たした役割について説明します。
第 14 回	試験・まとめと解説	第一イギリス帝国の形成がイギリスの内外に与えた影響について総括します

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義の前に前回のノートを読み返して下さい。また、紹介する参考文献を積極的に読むようにして下さい。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に使用しません。

【参考書】

授業中に適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

授業の区切りにリアクションペーパー等を書いて頂き、この提出をもって平常点とします。これら平常点と学期末の試験の総合評価とします（平常点 20 %、学期末の試験 80 %）。

【学生の意見等からの気づき】

視覚教材を積極的に活用したいと思います。

【Outline (in English)】

< Course outline >

British History from the 16th century to the 19th century

In this lecture, the formation of the British Empire and the influence of the empire on Britain and her dependencies will be discussed.

< Learning objectives >

- 1) Students are able to acquire basic knowledge about modern and contemporary British history
- 2) Students are able to understand British history in view of its interaction with the rest of the world.
- 3) Students are able to learn diverse perspectives in history.

< Learning activities outside of classroom >

Students have to spend at least two hours on preparation for and review of each class respectively. They are expected to read relevant books and learn by themselves.

< Grading policy >

Class participation and assignments: 20% Final examination: 80%

HIS200LA

西洋史 L B

2017 年度以降入学者

サブタイトル：『古代アテナイの法と社会-殺人訴訟を中心に-』

内川 勇海

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 2/Thu.2

単位数：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

都市国家アテナイでは、紀元前 6 世紀末から前 4 世紀後半まで、高度に発達した民主政の下で人々が生活していた。民主政アテナイにおいては様々な行政制度が精緻に整備され、司法制度も例外ではなかった。本講義では、アテナイ民主政の成立と発展を概観したのち、アテナイの司法制度、特に殺人訴訟の事例に注目することで、当時の司法制度運用の実態と、殺人事件への人々の対応について考察する。その際、法制度の枠に留まらず、当時の倫理規範や宗教観念が、殺人訴訟に対してどのような影響を与えたのかという点についても論じる。

【到達目標】

古代アテナイ民主政の仕組みを理解するとともに、アテナイで行われた殺人訴訟の事例の検討を通じて、アテナイの司法制度の運用実態に関する知見を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

プリントを用いて講義形式を進める。必要に応じて授業内で質問やリアクションペーパーの記入を求めることもある。質問は主なものを取り上げ、次回授業でコメントする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	本講義の目的と概要について説明する。
第 2 回	アテナイ民主政の成立と発展①	アテナイの司法制度を理解するための前提として、アテナイ民主政の成立と発展について説明する。
第 3 回	アテナイ民主政の成立と発展②	第 2 回に引き続き、アテナイ民主政の成立と発展について説明する。
第 4 回	アテナイ司法制度概観①	アテナイの法律と裁判制度について説明する。
第 5 回	アテナイ司法制度概観②	第 4 回に引き続き、アテナイの法律と裁判制度について説明する。
第 6 回	アテナイ殺人法概観①	古代アテナイの殺人関連の法律や訴訟手続について説明する。
第 7 回	アテナイ殺人法概観②	第 6 回に引き続き、古代アテナイの殺人関連の法律や訴訟手続について説明する。
第 8 回	アテナイの殺人訴訟① 一有意思殺人・殺意を有する傷害・毒殺・放火	アレイオス・バゴス評議会で裁かれた殺人事件について説明する。
第 9 回	アテナイの殺人訴訟② 一無意志殺人・殺人計画・在留外人、外国人、奴隷の殺害	パッラディオンの神域で裁かれた殺人事件について説明する。

第 10 回	アテナイの殺人訴訟③ 一合法殺人	デルフィニオンの神域で裁かれた殺人事件について説明する。
第 11 回	アテナイの殺人訴訟④ 一国外追放中の殺人犯が犯した別の殺人に対する訴訟	プレアトスの神域で裁かれた殺人事件について説明する。
第 12 回	アテナイの殺人訴訟⑤ 一犯人不明、動物、無生物による殺人	プリュタネイオンで裁かれた殺人事件について説明する。
第 13 回	アテナイの殺人訴訟⑥ 一特殊事例	民衆法廷で裁かれた殺人事件、および殺人に関連した罪について説明する。
第 14 回	全体のまとめ	半年間の講義を振り返り、全体のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。必要に応じて参考書や配布プリントを読み、予習・復習を行うこと。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。必要に応じてプリントを配布する。

【参考書】

『民主主義の源流』、橋場弦、講談社学術文庫、2016 年
他の文献は授業内で適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

平常点 50 % *出席の他、リアクションペーパーの内容によって評価する。
最終レポート 50 %

【学生の意見等からの気づき】

図像資料の提供を増やす。適宜休憩をはさむ。

【学生が準備すべき機器他】

第 1 回の授業はオンライン形式で行うため、オンライン授業を履修するために必要なデバイスおよび通信環境。

【その他の重要事項】

第 2 回以降は対面形式を予定しているが、新型コロナウイルス感染症の流行状況により、一部オンライン形式に変更する可能性がある。その際は前日までにアナウンスする。

【Outline (in English)】

< Course outline > After overviewing the development of ancient Athenian democracy, we will focus on Athenian legal system and how it works. In particular, homicide trials will be discussed in detail.

< Learning objectives > Students are able to understand ancient Athenian legal system and how it works.

< Learning activities outside of classroom > Students have to spend at least two hours on preparation for and review of each class respectively. They are expected to read relevant books, such as those listed in the reference section, and learn by themselves. They also have to work on assignments given by the instructor.

< Grading policy > Class participation and assignments: 50%
Final examination or report
(TBA): 50%

HIS200LA

日本史 L I

2017 年度以降入学者

サブタイトル：

森 朋久

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 4/Fri.4

単位数：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テーマ：日本の耕地と集落（村）の史的展開

日本の歴史のうち、日本の原風景、伝統的な景観であり、主に耕地と集落で成り立つ、村（ムラ）の歴史について、各時代の政治と経済を背景としながら、通史的に学習することができる。特に、現在の市町村の基盤となる村が成立する、近世・近代が重点となる。耕地と集落は、棚田に代表されるように、人間と自然との共同作品で、文化的景観として近年注目されている。世界的に優良なその景観は、世界遺産の選定項目となり、日本でも優良な景観は、文化財保護法、農林水産業の重要文化的景観に選定されており、文化財としての意義がある。授業では前提として、日本史研究の基礎資料である歴史資料（古文書）を読み、その重要性を理解するとともに、耕地や集落が文化財としてどのような意義があるのかを学ぶことができる。（学問分野：日本史、日本地域史、日本村落史、環境歴史学、文化財学）

【到達目標】

日本史研究の基礎資料である歴史資料（古文書）や耕地と集落の文化的意義を踏まえ、日本の農林水産業の地域基礎単位である村（ムラ）に関する通史的な学習を通じ、教科書的な理解を越え日本史に対する新たな歴史観と問題意識を形成することを到達目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

授業は、基本的に対面授業の講義形式で行うが、状況に応じてハイフレックス授業を組み込む。なお、変更が生じた場合は、速やかに対面授業の場および学習支援システムの「お知らせ」機能を用いて連絡する。各回の授業は主として適宜配信または配布した資料により、シラバス通りに進める。授業内レポート提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	日本史における耕地と集落の意義 日本史研究の基礎
第 2 回	日本史学入門	歴史資料の提示、解説、歴史資料の内容解説、背景
第 3 回	文化財保護法と耕地と集落	文化財・重要文化的景観からみた村（耕地と集落）
第 4 回	弥生・古墳時代の村	縄文・弥生移行期、弥生・古墳時代の耕地と集落
第 5 回	古代の政治と経済	古代の村と領主支配との関係
第 6 回	古代の村	古代の開発、条里と村、荘園と村、初期武士団の村
第 7 回	中世の政治と経済	中世の村と領主支配との関係
第 8 回	中世の村	村の景観、惣村と在家、開発と経営、近世の村との関係
第 9 回	近世の村の景観	村の基本構成要素、様々な村のカタチ

第 10 回	近世の村の機能	村で作成される様々な文書、ムラの運営
第 11 回	幕藩領主の農政と近世の村（1）	近世中期までの領主財政と年貢収奪
第 12 回	幕藩領主の農政と近世の村（2）	吉宗政権の年貢増徴策と新田開発、土地政策
第 13 回	近代の村	地租改正、戸長制、大区小区制、地方三新法、地方改良運動と村
第 14 回	現代の村	農地改革、昭和の市町村合併と村、高度成長下の耕地と集落

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

〈1〉準備学習：あらかじめ配信または配布した資料を一読、一覧しておくこと。各授業の時代背景を、日本史年表で調べておくことが望ましい。

〈2〉復習：日本各地の地名が出てくるので、馴染みがない地名は地名辞典などで調べておくこと。授業内レポートに備えて、授業の内容を各回まとめておくこと。

〈3〉本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特に定めない。適宜配信・配布した資料に沿って授業を行う。

【参考書】

〈1〉『村の語る日本の歴史 古代・中世編』、『村の語る日本の歴史 近世編①』、『村の語る日本の歴史 近世編②』木村礎著（1983 年 そしえて）

〈2〉『日本の農業 150 年 1850～2000 年』暉峻衆三編著（2003 年 有斐閣）

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業内小レポート 20%）と期末レポート（80%）で、評価を決める。

授業内レポートは授業内容の理解度に応じて、また期末レポートは課題に対する豊富な内容に応じて評価する。

【学生の意見等からの気づき】

オンデマンド授業資料（音声付属）を利用する場合は、形式的になる説明部分に関しては、口頭で追加の情報資源を伝える予定である。

【Outline (in English)】

【Course outline】

This course deals with the historical explores the features of the Japanese village society from the perspective of people's life and an abundant historical and geographic image.

【Learning Objectives】

By the end of the course, students should be able to understand the historical features of the Japanese village society.

【Learning activities outside of classroom】

Before and after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

【Grading Criteria / Policy】

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination: 80%, Short class reports : 20%.

HIS200LA

日本史Ⅱ

2017年度以降入学者

サブタイトル：

森 朋久

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 4/Fri.4

単位数：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テーマ：江戸時代転換期における政治・経済・社会

日本の江戸時代の歴史のうち、おもに転換期となる享保改革期から田沼政治期の政治・経済・社会（農村・都市）について、地域環境の変化に留意しながら学ぶことができる。具体的には、最近の成果を取り入れながら、一般的に知られているこの時期の諸事象と諸政策が歴史上どのような意義をもつのかを理解することを学習・教育目標とする。また、江戸時代における地域の諸相や地域基礎単位であり、町人や武家の生業生活の場である「都市」および農民の生産生活の場である「村」に注目しながら、日本近世史を学ぶことができる。（学問分野：日本近世史、日本地域史、日本都市史、日本都市近郊農村史）

【到達目標】

江戸時代研究の重要な情報資源である近世文書や江戸時代の政治（幕政・藩政）・経済・社会（都市江戸および江戸近郊・周辺農村）に関する学習などを通し、教科書的な理解を越え当該期に対する新たな歴史観と問題意識を形成することを到達目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

授業は、対面授業の講義形式で行うことを基本とするが、状況に応じてハイフレックス授業も組み込む。なお、変更が生じた場合は、速やかに対面授業の場および学習支援システムの「お知らせ」機能を用いて連絡する。各回の授業は、主として資料の配信または配付によりシラバス通りに進める。授業内レポート提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。今年、大河ドラマの主演となった、徳川家康、その妻子（築山殿・松平信康など）も話題とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の内容と進め方についての説明
第2回	吉宗政権の成立	家康～吉宗の時代推移と地域 吉宗政権の性格
第3回	行政機構の改革と法令の整備	老中制度及び勘定所機構の整備 法令集の編さん
第4回	享保改革期の農政	農政の特徴
第5回	都市政策の前提	都市江戸の成立と河川 武家屋敷の展開
第6回	都市政策の展開	江戸の防火政策 経済政策 風俗・出版統制
第7回	田沼政権の成立	家重政権時代の意次 意次権力の拡大
第8回	通貨制度の改革	江戸時代の通貨の特徴 田沼政権発行の貨幣

第9回	間接税の導入	百姓一揆と財政窮乏策 株仲間の役割
第10回	幕政と藩政（1）	幕府の銅貨貿易と秋田藩の産銅政策
第11回	幕政と藩政（2）	幕府の通貨政策と秋田藩の銭鑄造
第12回	江戸近郊の地域史	江戸の青物市場 江戸近郊農村における蔬菜生産と下肥流通
第13回	江戸周辺の地域史	利根川の歴史と流域住民の共生
第14回	日本通史、地域史における享保改革・田沼政治期の意義	享保改革・田沼政権期はなぜ転換期と呼ばれるのか、江戸と近郊・周辺地域との関係は如何なるものなのかを、総体的に考えていきます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

常にノートを整理し、配信または配布した資料などを改めて読みなおすなど、次回に備えるようにしてもらいたい。なお、本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

テキストは指定しない。適宜資料を配信・配布する。

【参考書】

- 〈1〉『幕藩体制の展開と動揺 上（日本歴史大系10）』井上光貞ほか著（山川出版社）
 〈2〉『大江戸歴史の風景』加藤貴編著（山川出版社）
 その他、参考となる文献は、講義の中で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業内小レポート 20%）と期末レポート（80%）で、評価を決める。授業内レポートは授業内容の理解度に応じて、また期末レポートは課題に対する豊富な内容に応じて評価する。

【学生の意見等からの気づき】

一昨年度、授業で利用する資料を、対面授業教室のみではなく、オンラインでの配布を求める意見があり、昨年度は実行した。今年度も実行する予定である。

【Outline (in English)】

【Course outline】

This course deals with the historical explores the administration, the economy and the society of Japan in the early modern period including the social system of Edo and its surrounding areas.

【Learning Objectives】

By the end of the course, students should be able to understand the economy and the society of Japan in the early modern period.

【Learning activities outside of classroom】

Before and after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

【Grading Criteria /Policy】

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination: 80%, Short class reports : 20%,

HIS200LA

日本史Ⅰ

2017年度以降入学者

サブタイトル：

仁平 義孝

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 4/Tue.4

単位数：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

鎌倉時代の幕府政治史を概観する。幕府内部で繰り返された内紛と、幕府の政治意志決定のあり方を中心に、関連する史料を読みながら検討していく。

【到達目標】

鎌倉幕府政治史の流れを理解し、史料に基づく検証方法を学ぶことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は講義形式で行う。講義資料を学習支援システムにて配布するので、受講生は各自でプリントアウトして受講すること。

学期内（2回の予定）と学期末にレポートを提出してもらう。レポートはすべて期限内に提出することを必須とする。学期内に課すレポートについては、最終授業で解説する。

質問は授業終了後や、学習支援システムの掲示板などで受け付ける。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業概要の説明。
2	源頼朝執政期の幕府政治(1)	寿永2年10月宣旨、文治勅許など。
3	源頼朝執政期の幕府政治(2)	頼朝上洛、建久7年の政変、頼朝執政期の評定など。
4	将軍源頼家・実朝、北条政子期の幕府政治(1)	比企氏事件、頼家・実朝期の評定など。
5	将軍源頼家・実朝、北条政子期の幕府政治(2)	和田合戦、承久の乱、政子期の評定など。
6	執権北条泰時・経時代の幕府政治(1)	伊賀氏事件、連署制など。
7	執権北条泰時・経時代の幕府政治(2)	評定、御成敗式目など。
8	執権北条泰時・経時代の幕府政治(3)	経時の訴訟制度改革など。
9	執権北条時頼・長時代の幕府政治(1)	寛元の政変、宝治合戦など。
10	執権北条時頼・長時代の幕府政治(2)	引付、得宗時頼など。
11	得宗北条時宗・貞時・高時代の幕府政治(1)	引付廃止・再設置、寄合、二月騒動など。
12	得宗北条時宗・貞時・高時代の幕府政治(2)	霜月騒動、平禅門の乱など。
13	得宗北条時宗・貞時・高時代の幕府政治(3)	貞時の訴訟制度改革、評定・寄合など。
14	まとめ	授業内容のまとめと学期内レポートの解説。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

参考書や授業時に紹介する文献を読む。

本授業の準備・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

なし。講義資料を学習支援システムにて配布する。

【参考書】

本郷恵子『京・鎌倉 ふたつの王権』（小学館、2008年）

川合 康『源平の内乱と公武政権』（吉川弘文館、2009年）

小林一岳『元寇と南北朝の動乱』（吉川弘文館、2009年）

近藤成一『鎌倉幕府と朝廷』（岩波新書、2016年）

その他、授業時に紹介する。

【成績評価の方法と基準】

学期内・学期末のレポートで総合評価する（100％）。

【学生の意見等からの気づき】

講義資料のわかりにくい表現を改める。

【Outline (in English)】

(Course Outline)

This course studies political history of the Kamakura Shogunate.

(Learning Objectives)

The goals of this course are to acquisition of the study method of the Kamakura era.

(Learning activities outside of classroom)

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

(Grading Criteria/Policies)

Your overall grade in the class will be decided based on the following

2 mid-term reports and 1 term-end report:100%

HIS200LA

日本史Ⅱ

2017年度以降入学者

サブタイトル：

仁平 義孝

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 4/Tue.4

単位数：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

鎌倉幕府の基本法である御成敗式目を読む。その内容は多岐にわたるが、ここでは犯罪や訴訟手続きに関する条文を読み、鎌倉幕府法の特徴を考えていく。

【到達目標】

鎌倉幕府法の特徴を理解し、史料に基づく検証方法を学ぶことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は講義形式で行う。講義資料を学習支援システムにて配布するので、受講生は各自でプリントアウトして受講すること。

学期内（2回の予定）と学期末にレポートを提出してもらう。レポートはすべて期限内に提出することを必須とする。学期内に課すレポートについては、最終授業で解説する。

質問は授業終了後や、学習支援システムの掲示板などで受け付ける。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	御成敗式目について (1)	御成敗式目制定の目的などの解説。
2	御成敗式目について (2)	御成敗式目の条文構成などの解説。
3	御成敗式目第9条	謀叛の罪について。
4	御成敗式目第10条	殺害・刃傷の罪について。
5	御成敗式目第11条	夫の罪科の妻への縁坐について。
6	御成敗式目第21・24条	離婚・再婚と女性所領について。
7	御成敗式目第32条	盗賊・悪党を所領内に隠し置く事について。
8	御成敗式目第33条	強盗・窃盗・放火の罪について。
9	御成敗式目第12条	悪口の罪について。
10	御成敗式目第13・14条	殴人の罪および地頭代の罪について。
11	御成敗式目第15条	謀書の罪について。
12	御成敗式目第51条	問状狼藉について。
13	御成敗式目第35条	召文違背の罪について。
14	まとめ	授業内容のまとめと学期内レポートの解説。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

参考書や授業時に紹介する文献を読む。

本授業の準備・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

なし。講義資料を学習支援システムにて配布する。

【参考書】

『中世政治社会思想 上』（日本思想大系 21、岩波書店、1972年）

笠松宏至編『中世を考える 法と訴訟』（吉川弘文館、1992年）

水林彪・大津透・新田一郎・大藤修編『法社会史』（新体系日本史 2、山川出版社、2001年）

その他、授業時に紹介する。

【成績評価の方法と基準】

学期内・学期末のレポートで総合評価する（100％）。

【学生の意見等からの気づき】

講義資料のわかりにくい表現を改める。

【Outline (in English)】

(Course Outline)

This course studies law of the Kamakura shogunate.

(Learning Objectives)

The goals of this course are to acquisition of the study method of the Kamakura era.

(Learning activities outside of classroom)

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

(Grading Criteria/Policies)

Your overall grade in the class will be decided based on the following

2 mid-term reports and 1 term-end report:100%

HIS200LA

日本史 L I

2017 年度以降入学者

サブタイトル：日本中世社会をまなぶ

貫井 裕恵

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 5/Mon.5

単位数：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ユネスコ「世界の記憶」に採択されている国宝「東寺百合文書」をおもな題材として、歴史を学ぶための基本的な考え方を習得し、史料読解の方法を学びます。「東寺百合文書」は寺院社会のみならず、朝廷・公家・武家・民衆といったあらゆる階層の人々のすがたをいまに伝える貴重な文書群です。「東寺百合文書」を通じて日本中世社会への理解を深めましょう。*日本史 L II もあわせて受講することを推奨します。

【到達目標】

- ・「東寺百合文書」を通じて、日本中世社会への理解を深める。
- ・歴史史料から歴史像を浮かび上がらせる醍醐味を味わう。
- ・歴史研究における論理展開の発想と、文献に基づく議論構築の手法を学ぶ。
- ・文化財のもつ多様な価値とさまざまな見方を学ぶ。
- ・くずし字に親しみ、解読できるようになる。
- ・国際社会において日本の歴史文化や文化財の魅力を説明できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

基本的に対面授業で実施しますが、大学の方針に従い、適宜柔軟に対応します。学習支援システムを通じてお知らせします。毎回の講義ごとに、レビューシート（リアクションペーパー）の提出を求めます。次の授業で、レビューシートに寄せられた疑問や質問、気づきに回答するかたちで復習を行います。授業期間内に、任意の美術館・博物館へ見学に行ってください、感想の提出を求めます（オンラインミュージアムや文化財データベースでの代替も可）。上記のレビューシート同様に、授業内で共有します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	本授業の目的と課題、評価方法などの説明
2	歴史学の流れと日本中世史	歴史学の発展と、そのなかでの日本中世史研究の大きな流れを学ぶ
3	中世社会と東寺	日本中世社会の構造と、そのなかでの東寺の位置づけなど、本授業のおおまかな流れや前提となる知識を学ぶ
4	東寺百合文書について	東寺百合文書の特徴と採択されているユネスコ「世界の記憶」について学ぶ
5	寺院組織	東寺をはじめとする中世寺院の組織と構造を学ぶ
6	史料管理（アーカイブズ）	中世寺院における史料管理のありかたを学ぶ

7	芸能	能・狂言の淵源となった、中世寺院周辺で行われた様々な芸能を学ぶ
8	喫茶文化	中世寺院における僧侶や民間における喫茶文化を学ぶ
9	寺誌・縁起	寺院における歴史叙述のありかたを学ぶ
10	絵巻	『弘法大師行状絵巻』など寺院における絵巻作成の背景や利用方法などを学ぶ
11	荘園の構造・荘園絵図の世界	中世荘園制社会について学び、荘園絵図も紹介しつつ、中世社会の諸問題を学ぶ
12	文化財を守り伝える	文化財が現代まで守り伝えられてきた意義を学ぶ
13	現代社会と歴史学研究	現代社会において歴史学を学ぶ意義を学び、受講者と討論する
14	まとめ	受講者の質疑応答とレポート内容の報告会および講評、本講義のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

適宜配布します。

【参考書】

- ・佐藤進一『新版 古文書学入門』法政大学出版局、2003 年
- ・京都府立総合資料館編『東寺百合文書にみる日本の中世』京都新聞出版センター、1998 年

【成績評価の方法と基準】

レポート 60 %、平常点 40 % で評価する。ただし、平常点には、毎回提出を求めるレビューシートでの意見・感想の内容を含む。

【学生の意見等からの気づき】

毎回提出を求めているレビューシートに基づき、次回の授業の冒頭でレビューシートの内容を紹介しながら復習を行い、授業内容のフォローアップを実施する。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

- ・日本史 L II もあわせて受講することを推奨します。
- ・日本の古代・中世に関心のある方はもちろん、日本の文化、美術館や博物館、文化財に興味を抱く学生の履修をとくにお待ちしております。
- ・高校で日本史を学んでいなくても、受講に支障はありません。
- ・日本の歴史と文化、文化財の魅力を自分の言葉で海外に発信できるようにしましょう。

【Outline (in English)】

【Course outline】 The Outline of this class is learning of the medieval history of Japan. 【Learning Objectives】 The aim of this course is to help students acquire the necessary skills and knowledge needed to understand the medieval history of Japan. 【Learning activities outside of classroom】 You spend 2hours preparing and reviewing each class. 【Grading Criteria /Policy】 You need to hand over review sheets each class and reports last class.

HIS200LA

日本史Ⅱ

2017年度以降入学者

サブタイトル：中世寺院と文化財

貫井 裕恵

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 5/Mon.5

単位数：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ユネスコ世界記憶遺産に採択された国宝「東寺百合文書」をおもな題材として、歴史を学ぶための基本的な考え方を習得し、史料読解の方法を身につけます。「東寺百合文書」は寺院社会のみならず、朝廷・公家・武家・民衆といったあらゆる階層の人々のすがたをいまに伝える貴重な文書群です。「東寺百合文書」を通じて日本中世社会への理解を深めましょう。*日本史Ⅱもあわせて受講することを推奨します。同授業の発展的内容になります。

【到達目標】

- ・「東寺百合文書」を通じて日本中世社会への理解を深める。
- ・歴史研究における論理展開の発想と、文献に基づく議論構築の手法を学ぶ。
- ・歴史史料から歴史像を浮かび上がらせる醍醐味を味わう。
- ・文化財のもつ多様な価値と読み解き方を学ぶ。
- ・くずし字に親しみ、解読できるようになる。
- ・国際社会において日本の歴史文化や文化財の魅力を説明できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

基本的に対面授業で実施しますが、大学の方針に従い、適宜柔軟に対応します。学習支援システムを通じてお知らせします。毎回の講義ごとに、レビューシート（リアクションペーパー）の提出を求めます。次の授業で、レビューシートに寄せられた疑問や質問、気づきに回答するかたちで復習を行います。授業期間内に、任意の美術館・博物館へ見学に行ってください、感想の提出を求めます（オンラインミュージアムや文化財データベースでの代替も可）。上記のレビューシート同様に、授業内で共有します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	本授業の概要や評価方法を知る
2	歴史学と日本中世史	日本における歴史学の流れと、中世史の歩みを学ぶ
3	寺院史料論	中世寺院における史料（聖教・古文書等）とその社会について学ぶ
4	寺院史料と東寺百合文書	中世寺院における史料群の形成と伝来を概観し、東寺百合文書の特徴を探る
5	中世寺院・東寺の誕生	古代から鎌倉初期に至る東寺の歴史を学ぶ
6	鎌倉幕府と東寺	建久年間の文覚上人による東寺復興事業や蒙古襲来をとりあげながら、寺院と武家の関わりを学ぶ

7	本末相論	鎌倉中～末期における東大寺・醍醐寺の本末相論との関わりに焦点をあてながら、同時期の東寺の宗教環境を学ぶ
8	アーカイブズの形成と伝来	中世寺院における文書・聖教群の形成と管理のありかたを学ぶ
9	東寺領荘園の展開	鎌倉末期から南北朝期にかけて拡充した東寺領荘園とその展開を学ぶ
10	東寺の伽藍修造事業	東寺大勧進職が推進した室町期における修造事業について学ぶ
11	弘法大師信仰の展開	東寺御影堂を中心に展開した弘法大師信仰とその社会的意義を学ぶ
12	寺院の芸能	古典芸能に通じる、室町期に発達した寺院における芸能について学ぶ
13	応仁・文明の乱	応仁・文明の乱という大乱に際して、人びとがどのように対応したのかを学ぶ
14	まとめ	現代社会において歴史学研究の果たす役割を学ぶ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・使用テキストは事前に予習しておく。（各回 2 時間程度。予習の仕方については教場で説明します。）
- ・プリントやノートをを用いた復習を行う。（各回 2 時間程度。復習の仕方については教場で説明します。）
- ・本授業の最終にレポートをまとめて提出する。（テーマや執筆方法については、教場でお伝えします。）

【テキスト（教科書）】

適宜配布します。

【参考書】

- ・佐藤進一『新版 古文書学入門』法政大学出版社、2003 年
 - ・京都府立総合資料館編『東寺百合文書にみる日本の中世』京都新聞出版センター、1998 年
- このほか、授業の進行状況に応じてお伝えします。

【成績評価の方法と基準】

レポート 60 %、平常点 40 % で評価する。ただし、平常点には、毎回提出を求めるレビューシートでの意見・感想の内容を含む。

【学生の意見等からの気づき】

毎回提出を求めているレビューシートに基づき、次回の授業の冒頭でレビューシートの内容を紹介しながら復習を行い、授業内容のフォローアップを実施する。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

- ・日本史Ⅱもあわせて受講することを推奨します。
- ・日本の古代・中世に関心のある方はもちろん、日本の文化、美術館や博物館、文化財に興味を抱く学生の履修をとくにお待ちしております。
- ・高校で日本史を学んでいなくても、受講に支障はありません。
- ・日本の歴史と文化、文化財の魅力を自分の言葉で海外に発信できるようにしましょう。

【Outline (in English)】

【Course outline】 The Outline of this class is learning of the medieval history of Japan. 【Learning Objectives】 The aim of this course is to help students acquire the necessary skills and knowledge needed to understand the medieval history of Japan. 【Learning activities outside of classroom】 You spend 2hours preparating and reviewing each class. 【Grading Criteria /Policy】 You need to hand over review sheets each class and reports last class.

HIS200LA

日本史 L I

2017 年度以降入学者

サブタイトル：

鈴木 多聞

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 5/Mon.5

単位数：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は日本近代史（政治史、社会史）に関する知識を身につけるとともに、歴史学、政治学の基礎的概念を理解することを目的としています。史料やデータを正確に解釈し、全体像をバランスよく把握する能力は、現代社会を生きていく上でも重要です。

【到達目標】

日本近代史に関する基礎的な知識を習得し、簡単な文章を書けるようになることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義においては、双方向的なやりとりを重視する。課題の中で優秀な小レポートについては、その都度、授業内において取り上げ、講評を行う。また、授業の最後に寄せられたコメントについても、次週の授業において取り上げる。新型コロナウイルスの感染拡大の状況によっては、内容に若干の変更を伴うこともある。オンライン、対面授業等などの実施予定にともなう、各回の授業計画の変更については、本講義の開始日に説明する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	日本近代史を考える	日本近代史の見方や解釈について、先行研究の論点を整理し、考察を深める。
2	空襲と国民	空襲の残した爪痕について「戦後」も含めて考察する。
3	日本近代史の中の病気	「流感」やその他の病気が、日本近代史に与えた社会的影響について考える。
4	明治憲法と戦前の日本	いわゆる明治憲法体制の形成と崩壊について考える。
5	皇族と戦前の日本	皇族たちの近代史について考える。
6	第一次世界大戦と日本	近年の研究動向をふまえ、100年以上前の戦争の記憶について考える。
7	皇族と三種の神器	三種の神器や賢所、宮中の制度などについて考える。
8	満州事変と日本外交	「満州事変」が日本の国内政治をどのように変容させたのかについて考える。
9	戦争と捕虜	「捕虜」「俘虜」などの定義などについて考える。
10	二・二六事件と陸軍	二・二六事件とその思想的背景について考える。

- | | | |
|----|----------------|--|
| 11 | 日独伊三国同盟と重臣 | いわゆる「三国同盟」について、当時の史料を読みながら、この問題について考察を深める。また、同盟理論についても考察を深める。 |
| 12 | 「アジア・太平洋戦争」の時代 | 戦前の朝鮮・台湾・アジアとの関係について考える。 |
| 13 | シベリア抑留と日ソ関係 | 近衛文隆や宇野宗佑、三波春夫など、多くの人が抑留されました。抑留中に歌われた音楽やナヴォイ劇場にまつわる言説についても取り上げます。 |
| 14 | 原爆投下について考える | 原爆投下についての論争などについて整理し「戦後」の問題も考える。 |

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

開講時に指示する。

【参考書】

開講時に指示する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（各回のコメント）30%
簡単な小レポート（複数回）50%
テスト 20%

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline (in English)】

(Course outline) This course will help students understand modern Japanese history, especially political and social history. Students will also gain a general understanding of the disciplines of history and political science. The ability to analyze historical materials and data to obtain a balanced view of a topic is a critical skill for modern life.

(Learning Objectives) Students will acquire a basic understanding of modern Japanese history while also learning how to write short essays.

(Learning activities outside of classroom)

Preparation time: 2 hours per class

Review time: 2 hours per class

(Grading Criteria /Policy)

Short reports 50%

Class participation (weekly comments) 30%

Final test 20%

HIS200LA

日本史Ⅱ

2017年度以降入学者

サブタイトル：

鈴木 多聞

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 5/Mon.5

単位数：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は日本現代史（政治史）に関する知識を身につけるとともに、歴史学、政治学の基礎的概念を理解することを目的としています。史料やデータを正確に解釈し、全体像をバランスよく把握する能力は、現代社会を生きていく上でも重要です。

【到達目標】

日本現代史に関する基礎的な知識を習得し、簡単な文章を書けるようになることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義においては、双方向的なやりとりを重視する。課題の中で優秀な小レポートについては、その都度、授業内において取り上げ、講評を行う。また、授業の最後に寄せられたコメントについても、次週の授業において取り上げる。新型コロナウイルスの感染拡大の状況によっては、内容に若干の変更を伴うこともある。オンライン、対面授業等などの実施予定にともなう、各回の授業計画の変更については、本講義の開始日に説明する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	日本現代史について考える	「戦前」と「戦後」について考えます。
2	老病死の「終戦史」	「病気」「身体」といった要因が政治に与えた影響を考える。
3	日露戦争と鈴木貫太郎	近年の研究動向をふまえ、日露戦争のインパクトについて考える。
4	真珠湾攻撃と日米戦争	2021年の80周年にあたってのメディアや記憶について考える。
5	新憲法の制定過程	日本国憲法の制定過程について概観します。
6	東条英機と「東京裁判」	国際政治の文脈から「東京裁判」を考えます。
7	昭和天皇と平沼騏一郎	平沼騏一郎とその政治グループの位置づけについて考えます。
8	55年体制の成立と岸信介	岸信介とその政治グループの位置づけについて考えます。
9	占領政策の転換と吉田茂	吉田茂とその政治グループの位置づけについて考えます。
10	風化する戦争体験と「五感」	五感を歴史学の文脈で語ることは難しいです。空襲警報の音や、戦争における「匂い」などについて考えます。
11	政治とシンボル	「国家」「陸軍」「海軍」は見えなくても、シンボルは目に見えます。国旗、軍旗、軍艦、日本刀、石碑、いろいろなものについて考えてみたいと思います。

- | | | |
|----|-------------------|----------------------------------|
| 12 | 日中国交正常化と高度成長 | 戦後の日中・日台関係について概観します。 |
| 13 | 冷戦の終結と日米関係 | 日米関係を長期的視点から考察します。 |
| 14 | 21世紀の日本外交相互理解にむけて | 日本の内政と外交がどのような関連性を持っているのかを理解します。 |

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

開講時に指示する。

【参考書】

開講時に指示する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（各回のコメント）30%

小レポート（複数回）50%

テスト 20%

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline (in English)】

(Course outline) This course will help students understand modern Japanese history, especially political and social history. Students will also gain a general understanding of the disciplines of history and political science. The ability to analyze historical materials and data to obtain a balanced view of a topic is a critical skill for modern life.

(Learning Objectives) Students will acquire a basic understanding of modern Japanese history while also learning how to write short essays.

(Learning activities outside of classroom)

Preparation time: 2 hours per class

Review time: 2 hours per class

(Grading Criteria /Policy)

Short reports 50%

Class participation (weekly comments) 30%

Final test 20%

PHL200LA

宗教論 L I

2017 年度以降入学者

サブタイトル：国際社会の中の宗教：グローバルな視点からみた「宗教・公共・中立性」

古澤 有峰

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 4/Thu.4

単位数：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

グローバルな視点から、宗教の社会貢献や中立性、利他等について再考する。

【到達目標】

国際社会の中の宗教をめぐる課題や問題点（宗教の社会貢献や公共における宗教的中立性など）について、具体例の検証などを通じて学習・理解を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式。教科書は使用せず、配布資料に沿って授業を進めていく。初回レポートおよび中間レポートの提出を求める。コメントに対するフィードバックは資料配信によって行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	導入	「宗教」を取り巻く諸問題について、国際社会の中の宗教という観点から再考する
2	理論編	宗教・中立・公共性—講義理解のための“理論入門”
3	国際社会の中の宗教①	赤十字の思想と実践を例に
	災害支援は誰のためか（1）	
4	国際社会の中の宗教①	阪神大震災を例に
	災害支援は誰のためか（2）	
5	国際社会の中の宗教①	東日本大震災を例に
	災害支援は誰のためか（3）	
6	国際社会の中の宗教②	中絶論争を例に
	あなたのからだは誰のものか（1）	
7	国際社会の中の宗教②	臓器移植を例に
	あなたのからだは誰のものか（2）	
8	国際社会の中の宗教②	終末期医療を例に
	あなたのからだは誰のものか（3）	
9	国際社会の中の宗教③	心のケア、その課題と問題点
	心と魂のケアは何のためか（1）	
10	国際社会の中の宗教③	スピリチュアルケアの功罪：理念と実際
	心と魂のケアは何のためか（2）	
11	国際社会の中の宗教③	スピリチュアルケアの功罪：歴史的背景
	心と魂のケアは何のためか（3）	

12 国際社会の中の宗教③ スピリチュアルケアの功罪：中立心と魂のケアは何のためか（4）

13 国際社会の中の宗教③ 音楽と癒しを例に心と魂のケアは何のためか（5）

14 まとめ 全体を振り返る

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。配布資料やノート、指示される参考書を使って授業内容をよく理解するよう努め、わからない点があれば質問すること。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。

【参考書】

授業で適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

授業への参加度が 40%、最終レポートが 60%。前者は初回レポートと中間レポートの内容、後者は上記「到達目標」がどの程度達成されているかによって評価する。

【学生の意見等からの気づき】

学生の興味関心や理解度に配慮した授業を心がける。

【Outline (in English)】

In this course, we will reconsider religions' contributions, neutrality, and altruism towards society from a global standpoint.

PHL200LA

宗教論Ⅱ

2017年度以降入学者

サブタイトル：ジェンダーからみた「キリスト教・宗教」論再考

古澤 有峰

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 4/Thu.4

単位数：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ジェンダーの視点からキリスト教と宗教を捉えなおす。

【到達目標】

理論と実際の両方を検証する事を通じて、ジェンダーとキリスト教および宗教をめぐる問題や課題について学習・理解を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式。教科書は使用せず、配布資料に沿って授業を進めていく。初回レポートおよび中間レポートの提出を求める。コメントに対するフィードバックは資料配信によって行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	導入	ジェンダーの視点からキリスト教と宗教を捉えなおす
2	基礎知識編	ジェンダーの視点からキリスト教における「聖書」「神」を再考する
3	ジェンダーとキリスト教・宗教からみた性的マイノリティ（1）	世界における宗教の歴史的動向と、キリスト教における性的マイノリティ
4	ジェンダーとキリスト教・宗教からみた性的マイノリティ（2）	ジェンダーの定義と歴史的背景
5	ジェンダーとキリスト教・宗教からみた性的マイノリティ（3）	ライフヒストリーから考える
6	ジェンダーとキリスト教・宗教からみた生命倫理（1）	キリスト教の体系化の歴史と中絶論争
7	ジェンダーとキリスト教・宗教からみた生命倫理（2）	脳死・臓器移植・生殖医療・再生医療
8	ジェンダーとキリスト教・宗教からみた生命倫理（3）	看取り・終末期医療
9	ジェンダーとキリスト教・宗教からみたスピリチュアルケア（1）	心と魂のケア、その課題と問題点
10	ジェンダーとキリスト教・宗教からみたスピリチュアルケア（2）	スピリチュアルケアの功罪：理念と実際
11	ジェンダーとキリスト教・宗教からみたスピリチュアルケア（3）	スピリチュアルケアの功罪：歴史的背景
12	ジェンダーとキリスト教・宗教からみたスピリチュアルケア（4）	スピリチュアルケアの功罪：中立性をめぐって

13 ジェンダーとキリスト 音楽と癒しを例に

教・宗教からみたスピ

リチュアルケア（5）

14 まとめ 全体を振り返る

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。配布資料やノート、指示される参考書を使って授業内容をよく理解するよう努め、わからない点があれば質問すること。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。

【参考書】

授業で適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

授業への参加度が40%、最終レポートが60%。前者は初回レポートと中間レポートの内容、後者は上記「到達目標」がどの程度達成されているかによって評価する。

【学生の意見等からの気づき】

学生の興味関心や理解度に配慮した授業を心がける。

【Outline (in English)】

The purpose of this course is to revisit Christianity and religion from the perspective of gender.

LAW100LA

法学 I

2017 年度以降入学者

山本 圭子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 3/Mon.3

単位数：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

主に法学の初学者・入門者を対象に、法学の基礎に関する講義を行う。内容的には、法学全体に関わる一般的・包括的な知識と日本国憲法の構造と基本原理に関する講義を柱とする。

【到達目標】

法学の一般的・基本的な知識の習得と理解がこの授業のテーマである。法律を学んだことのない学生が、法学の基礎を習得し、現代法の仕組みと基本原則を理解することをねらいとする。それにより、法治国家の市民として求められる法的な知識と資質を身に付けると共に、民主的な国家の主権者として備えるべき基礎的な法的素養の習得を目指す。具体的な到達目標は以下の通り。

- ①法学の基本概念・用語の意味内容を習得し、現代法の基本的な仕組みと体系を理解する。
- ②社会の中での法の役割を理解し、法によって社会的な紛争がいかに関係が解決されるか、個人の権利がどのように守られるかが分かるようになる。
- ③立憲主義の意義、日本国憲法の基本原理と基本構造を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

パワーポイントを用いて講義形式で実施する。授業毎に学習支援システムで自動採点の小テストを実施する。小テストについては、次の授業時に講評と解説によりフィードバック行う。なお、授業計画は、授業の展開・法改正の動向によって若干の変更があり得る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の進め方と法学を学ぶ意義について
第 2 回	法とは何か	社会規範としての法の特徴と働き
第 3 回	法と権利	権利義務関係
第 4 回	紛争と裁判	裁判の仕組み、裁判員制度
第 5 回	法の解釈	法解釈の性質と役割
第 6 回	法の分類	法の分類と法源
第 7 回	国家と法	立憲主義と「法の支配」
第 8 回	明治憲法と日本国憲法	日本国憲法の成り立ちを学ぶ
第 9 回	日本国憲法の基本原理	国民主権 1
第 10 回	日本国憲法の基本原理	平和主義 2
第 11 回	日本国憲法の基本原理	基本的人権とは 3（1）
第 12 回	日本国憲法の基本原理	人権規定の構成 3（2）
第 13 回	統治機構 1	国会と内閣
第 14 回	統治機構 2	司法権の意味、司法権の独立

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業後にテキストの該当箇所を復習し、関係条文を確認してから小テストを受験する。授業前にはテキストを読み込んで予習し、関係条文を確認する。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

大谷 實編『エッセンシャル法学 第 7 版』成文堂、2019 年、3,190 円

【参考書】

宮川 基『高校の教科書で学ぶ法学入門』ミネルヴァ書房、2021 年、2,750 円

【成績評価の方法と基準】

授業毎に実施する学習支援システムの小テスト（45 %）、期末に実施するレポート課題（55 %）の合計で評価する。これらにより、到達目標欄に記載した 3 点の達成度を評価する。

【学生の意見等からの気づき】

情報量の多いテキストを用いるが、読みこなして欲しい。文字が多くとっつきにくいという意見があったので、より簡易な参考書を先に読んでおくことを推奨する。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムで小テストを受験できる、レポート課題を学習支援システム上でワードファイルで提出できる機器を準備すること。六法を購入する必要はない。

【その他の重要事項】

質問については、学習支援システムで受けるほか、講義の前後に教室で受ける。

【Outline (in English)】

Lectures on the basics of law will be given to beginners and beginners in law. The content will be centered on general and comprehensive knowledge of law as a whole and lectures on the structure and basic principles of the Constitution of Japan.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend 4 hours to understand the course content.

Each class will be evaluated based on the total of quizzes (45%) conducted by the learning support system, and final report at the end of the term (55%).

LAW100LA

法学Ⅱ

2017年度以降入学者

山本 圭子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 3/Mon.3

単位数：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

主に法学の初学者・入門者を対象に、法学の基礎に関する講義を行う。内容的には、刑法、民法、労働法の基礎知識・基本原則と国際法の基礎に関する講義を柱とする。

【到達目標】

法学の一般的・基本的な知識の習得と理解がこの授業のテーマである。法律を学んだことのない学生が、法学の基礎を習得し、現代法の仕組みと基本原則を理解することをねらいとする。それにより、法治国家の市民として求められる法的な知識と資質を身に付けると共に、民主的な国家の主権者として備えるべき基礎的な法的素養の習得を目指す。具体的な到達目標は以下の通り。

- ①法学の基本概念・用語の意味内容を習得し、現代法の基本的な仕組みと体系を理解する。
- ②社会の中で法の役割を理解し、法によって社会的な紛争がいかに解決されるか、個人の権利がどのように守られるかが分かるようになる。
- ③刑法、民法、労働法などの基本的な構成と基本原則を理解する。
- ④国際法に関する基礎知識を身に付ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式でパワーポイントを用いて授業を行う。授業毎に学習支援システムでの自動採点の小テストを実施する。小テストについては、次の授業時に講評と解説によりフィードバック行う。なお、授業計画は、授業の展開・法改正の動向によって若干の変更があり得る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の進め方と履修の意義について
第 2 回	犯罪と刑罰 1	罪刑法定主義
第 3 回	犯罪と刑罰 2	犯罪の成立
第 4 回	権利能力と行為能力	民法の基礎
第 5 回	契約自由の原則	債権法 1
第 6 回	契約の成立と効力	債権法 2
第 7 回	不法行為と損害賠償	不法行為 1
第 8 回	過失責任の原則	不法行為 2
第 9 回	家族関係と法 1	夫婦と親子
第 10 回	家族関係と法 2	扶養と相続
第 11 回	労働関係と法 1	労働法の理念と体系
第 12 回	労働関係と法 2	労働法の内容・社会保険・労働保険
第 13 回	国際関係と法 1	主権と領土
第 14 回	国際関係と法 2	国際法と国内法

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業後にテキストの該当箇所を復習し、関係条文を確認してから小テストを受験する。授業前にはテキストを読み込んで予習し、関係条文を確認する。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

大谷實編『エッセンシャル法学第 7 版』成文堂、2019 年、3,190 円

【参考書】

宮川 基『高校の教科書で学ぶ法学入門』ミネルヴァ書房、2021 年、2,750 円

【成績評価の方法と基準】

授業毎に実施する学習支援システムの自動採点の小テスト（45 %）、期末に実施するレポート課題（55 %）の合計で評価する。これらにより、到達目標欄に記載した 4 点の達成度を評価する

【学生の意見等からの気づき】

民法改正について、追加資料を用意して、学習支援システムで配布した。社会保障制度は労働法など、制度改定が頻繁な単元についても、追加資料を用意することとする。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムで小テストを受験できる、レポート課題を学習支援システムでワードファイルで提出できる機器を準備すること。最新の法律条文は、電子政府の総合窓口（e-Gov など）で閲覧すると良い。

【その他の重要事項】

質問については、学習支援システムで受けるほか、講義の前後に教室で受ける。なお、授業計画は、授業の展開・法改正の動向によって若干の変更があり得る。

【Outline (in English)】

Lectures on the basics of law will be given to beginners and beginners in law. The main content is lectures on basic knowledge and principles of criminal law, civil law, and labor law, and the basics of international law.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend 4 hours to understand the course content.

Each class will be evaluated based on the total of quizzes (45%) conducted by the learning support system, and final report at the end of the term (55%).

LAW100LA

法学 I

2017 年度以降入学者

山口 哲史

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses

単位数：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

主に法学の初学者・入門者を対象に、法学の基礎に関する講義を行う。内容は、主に日本国憲法の構造と基本原理、行政法に関するものである。

【到達目標】

この授業の目的は、はじめて法学を学ぶ学生が、法学の基礎を習得し、現代法の仕組みと基本原則を理解することにある。法的な知識と資質を身に付けると共に、民主的な国家の主権者として備えるべき基礎的な法的素養の習得を目指す。

到達目標は次の通り。

- ①法学の基本概念・用語の意味内容を習得し、現代法の基本的な仕組みと体系を理解する。
- ②社会の中での法の役割を理解し、法によって社会的な紛争がいかに解決されるか、個人の権利がどのように守られるかが分かるようになる。
- ③立憲主義の意義、日本国憲法の基本、行政法の基本を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

レジュメに沿って内容の解説を行う。

授業の進み具合によって内容を修正・変更する場合がある。

毎回の授業の始めに、前回授業時の質問やリアクションペーパーに関するコメントをフィードバックする予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	導入	授業の進め方と法学の意義について
2	法とは何か	法の特徴と働き、法の適用と解釈
3	日本国憲法	憲法総論—憲法とは何か、憲法の歴史、立憲主義
4	日本国憲法	統治機構—国会
5	日本国憲法	統治機構—内閣
6	日本国憲法	統治機構—裁判所と違憲審査
7	日本国憲法	基本的人権—幸福追求権（包括的基本権）・法の下での平等
8	日本国憲法	基本的人権—精神的自由（思想・良心の自由、信教の自由）
9	日本国憲法	基本的人権—表現の自由
10	日本国憲法	基本的人権—経済的自由、人身の自由
11	行政法	行政法総論
12	行政法	行政法—行政処分
13	行政法	行政手続
14	行政法	行政訴訟、国家賠償

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

レジュメや文献を事前・事後に読む。授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

レジュメを使用します。

【参考書】

穴戸常寿、石川博康編『法学入門』（有斐閣、2021）ISBN：978-4641126183

毛利透『グラフィック 憲法入門 第 2 版』（新世社、2021）ISBN：978-4883843244

藤田宙靖『行政法入門 第 7 版』（有斐閣、2016）ISBN：978-4641131958

必要に応じて授業中に紹介する。

【成績評価の方法と基準】

期末の試験、またはレポート課題によって評価する（100 %）。

これにより、到達目標欄の達成度を評価する。なお、リアクションペーパーを考慮する場合がある。

詳細は、学期中のオンデマンドの授業内で周知する。

【学生の意見等からの気づき】

引き続き、具体例を示しながら授業を進めていきます。

【学生が準備すべき機器他】

授業の録画や配布資料は、パソコン上から閲覧することを想定して作成されている。録画の視聴や課題への取り組みは、パソコンで行うことを推奨する。

【その他の重要事項】

この講義は、1 4 回すべてオンライン（オンデマンド形式）で行います。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire legal studies including constitutional law and administrative law.

The goals of this course are to understand basics of legal studies, how to work law in society, and basics of constitutional law.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Final grade will be calculated according to term-end examination or term-end report(100%).

Details will be announced later.

LAW100LA

法学Ⅱ

2017年度以降入学者

山口 哲史

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses

単位数：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

主に法学の初学者・入門者を対象に、法学の基礎に関する授業を行う。特に、国際法、民法、労働法を中心に扱う。

【到達目標】

法学の一般的・基本的な知識の習得と理解がこの授業のテーマである。法律を学んだことのない学生が、法学の基礎を習得し、現代法の仕組みと基本原則を理解することをねらいとする。それにより、法治国家の市民として求められる法的な知識と資質を身に付けると共に、民主的な国家の主権者として備えるべき基礎的な法的素養の習得を目指す。具体的な到達目標は以下の通り。

- ①法学の基本概念・用語の意味内容を習得し、現代法の基本的な仕組みと体系を理解する。
- ②社会の中で法の役割を理解し、法によって社会的な紛争がいかに解決されるか、個人の権利がどのように守られるかが分かるようになる。
- ③民法、労働法などの基本的な構成と基本原則を理解する。
- ④国際法に関する基礎知識を身に付ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式でレジュメに沿って内容の解説を行う。

授業の進み具合によって内容を修正・変更する場合がある。

毎回の授業の始めに、前回授業時の質問やアクションペーパーに関するコメントをフィードバックする予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	導入	授業の進め方と履修の意義について
2	国際法	国際法の基礎
3	国際法	国際法の基本構造
4	民法	民法の基本原則
5	民法	不法行為一過失責任原則、損害賠償
6	民法	契約一契約自由の原則、契約の成立と効力
7	民法	物権
8	民法	親族（婚姻・離婚）
9	民法	相続（相続・遺言）
10	民法	権利能力、意思能力、行為能力
11	民法	法律行為、意思表示、代理、法人
12	労働法	労働法の基本事項、労働関係の当事者（労働者、労働組合、使用者）
13	労働法	労働関係の成立・終了
14	労働法	労使関係

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

レジュメや文献を事前・事後に読む。授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

レジュメを使用する。

【参考書】

穴戸常寿、石川博康編『法学入門』（有斐閣、2021）ISBN：978-4641126183

必要に応じて授業中に紹介する。

【成績評価の方法と基準】

期末の試験、またはレポート課題によって評価する（100％）。

これにより、到達目標欄に記載した事項の達成度を評価する。なお、リアクションペーパーを考慮する場合がある。

詳細は、学期中のオンデマンドの授業内で周知する。

【学生の意見等からの気づき】

引き続き、具体例を示しながら授業を進めていく。

【学生が準備すべき機器他】

授業の録画や配布資料は、パソコン上から閲覧することを想定して作成されている。録画の視聴や課題への取り組みは、パソコンで行うことを推奨する。

【その他の重要事項】

この講義は、14回すべてオンライン（オンデマンド形式）で行う。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire legal studies including international law, civil law(torts, contract and property etc.) and labor law.

The goals of this course are to understand basics of legal studies, how to work law in society.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Final grade will be calculated according to term-end examination or term-end report(100%).

Details will be announced later.

LAW100LA

法学 I

2017 年度以降入学者

内藤 淳

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 5/Tue.5

単位数：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

法学の初学者・入門者を対象に、法学の基礎や一般的知識に関する講義を行う。秋学期の法学Ⅱと連続する形で、春学期の法学Ⅰでは、主に「法学全体に関わる包括的な知識」と「日本国憲法の構造と基本原理」に関する内容を扱う。法学の基本的な用語や概念を覚えること、現代の日本法の構成を把握すること、日本国憲法の基本原理や特徴を理解することが目的である。単に用語や概念を暗記するのではなく、それに関わる法的な論理や筋道を整理して理解すること、具体的な事例に即した論点・問題点を考えることに重点を置く。

【到達目標】

法律を学んだことのない学生が、法学の基礎的・一般的知識を習得し、現代法の仕組みと基本原則を理解することが基本的な目標である。それにより、社会生活の中で必要になる法の基礎知識を身に付けると共に、民主国家の主権者として備えるべき法的素養の習得を目指す。具体的な到達目標は以下の通りである。

- ①法学全体に関わる基本的な用語や概念を覚えること
- ②現代の日本法の基本的な仕組みと体系を把握すること
- ③立憲主義の意義、日本国憲法の基本原理と特徴を理解すること

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式で実施し、授業の中で適宜重要論点の検討やそれに関するコメント提出などを行う。提出コメントや質問に対しては、授業の中で随時解説を行う。

秋学期の同一曜日・時限に開講の「法学Ⅱ」と連続した内容で講義を行うので受講者はこの両方を履修することが望ましい。

授業計画は以下の予定だが、進行ペースや受講生の理解状況等に応じて内容や順序を変更する場合がある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の進め方と法学を学ぶ意義について
第 2 回	法とは何か	社会規範としての法の特徴と働きについて
第 3 回	法と権利	権利と義務の意義と関係について
第 4 回	紛争と裁判	裁判の仕組み、裁判員制度について
第 5 回	法の解釈	法解釈の意義と役割について
第 6 回	法の分類	制定法の体系と関係について
第 7 回	国家と法	立憲主義と「法の支配」について
第 8 回	日本の憲法の歴史	明治憲法と日本国憲法の比較について
第 9 回	日本国憲法の基本原理	民主主義について 1
第 10 回	日本国憲法の基本原理	平和主義について 2
第 11 回	日本国憲法の基本原理	基本的人権の概要について 3-（1）

第 12 回 日本国憲法の基本原理 人権規定の構成について
3-（2）

第 13 回 統治機構 1

国会と内閣について

第 14 回 統治機構 2

司法権の意味、司法権の独立について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。毎回の講義の内容とポイントを整理し、下記のテキスト・参考書などを参照しながら、そこで出てきた概念や論理を見直すこと。

【テキスト（教科書）】

青木人志『グラフィック法学入門 第 2 版』（新世社、2021 年）
六法を各自用意し、授業に持参すること。どの出版社のものでもよい。

【参考書】

伊藤正巳・加藤一郎 編『現代法学入門〔第 4 版〕』（有斐閣双書、2005 年）

末川博 編『法学入門〔第 6 版補訂版〕』（有斐閣双書、2014 年）

松本・三枝・橋本・青木 編『日本法への招待〔第 3 版〕』（有斐閣、2014 年）

その他の参考書は授業の中で随時紹介する。

【成績評価の方法と基準】

期末試験により、上記「到達目標」で示した①～③の達成度を評価する。但し、受講人数や講義の進捗状況、コロナ感染状況などに応じて、期末試験ではなく授業内試験にしたり、試験ではなく期末課題を課したりする場合がある。併せて、授業内でコメント提出等の課題を出した場合はその評価を加味する（要素配分は、期末試験・期末課題 80 % + 授業内課題 20 % の予定）。

【学生の意見等からの気づき】

法の説明には抽象的な論理や観念がたくさん出てくるので、具体的な事例に即すなどして丁寧な説明を心がけたい。

【その他の重要事項】

授業中の私語は進行の妨げになるので厳禁。その他、途中での入室を慎む、携帯電話の電源を切るなど、受講上のマナーを厳守すること。

【Outline (in English)】

(Course outline)

This course deals with the basics of law, especially general knowledge of contemporary Japanese law and the basic principles of the Constitution of Japan.

(Learning Objectives)

The goals of this course are to memorize the basic concepts of jurisprudence, to grasp the structure of contemporary Japanese law, and to understand the basic principles and features of the Japanese Constitution.

(Learning activities outside of classroom)

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

(Grading Criteria /Policy)

Your overall grade in the class will be decided based on the following. Term-end examination: 80%, Short reports in class: 20%.

LAW100LA

法学Ⅱ

2017年度以降入学者

内藤 淳

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 5/Tue.5

単位数：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

主に法学の初学者・入門者を対象に、法学の基礎や一般的知識に関する講義を行う。春学期の法学Ⅰと連続する形で、秋学期の法学Ⅱでは、主に刑法、民法、労働法の基本的・一般的な知識と、国際法の基礎に関する内容を扱う。これらの法に関する基本的な用語や概念を覚えること、基本原理や特徴を理解することが目的である。単に用語や概念を暗記するのではなく、それに関わる法的な論理や筋道を整理して理解すること、具体的な事例に即した論点・問題点を考えることに重点を置く。

【到達目標】

法律を学んだことのない学生が、法学の基礎と一般的知識を習得し、現代法の仕組みと基本原則を理解することが基本的な目標である。それにより、社会生活の中で必要になる法の基礎知識を身に付けると共に、民主国家の主権者として備えるべき法的素養の習得を目指す。具体的な到達目標は以下の通りである。

- ①刑法、民法、労働法などの基本的な構成と原則を理解する。
- ②具体的な事例や判例を通して、これらの法における基礎的な論点と紛争解決の筋道を理解する。
- ③国際法に関する基礎知識を身に付ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式で実施し、授業の中で適宜重要論点の検討やそれに関するコメント提出などを行う。提出コメントや質問に対しては、授業の中で随時解説を行う。

春学期の同一曜日・時限に開講の「法学Ⅰ」と連続した内容で講義を行うので受講者はこの両方を履修することが望ましい。

授業計画は以下の予定だが、進行ペースや受講生の理解状況等に応じて内容や順序を変更する場合がある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の進め方と履修の意義について
第2回	刑事訴追の手続き	犯罪発生から裁判へのプロセスについて
第3回	刑事法の原理	罪刑法定主義について
第4回	犯罪とは？	犯罪の成立要件について
第5回	民法の基本原則：権利能力平等の原則	権利能力と行為能力について
第6回	民法の基本原則：契約自由の原則	契約自由の原則の意義について
第7回	民法の基本原則：契約自由の原則の修正	契約自由の原則の問題点について
第8回	民法の基本原則：過失責任の原則	不法行為と損害賠償の基礎について
第9回	民法の基本原則：過失責任の原則の修正	過失責任の原則の問題点について
第10回	家族関係と法	夫婦と親子について
第11回	労働関係と法	労働法の意義と理念について

第12回 労働法制度の内容 労働法の基本原則について

第13回 国際法の基本概念 主権と領土について

第14回 国際法の原理 国際法と国内法の関係について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。毎回の講義の内容とポイントを整理し、下記のテキスト・参考書などを参照しながら、そこで出てきた概念や論理を見直すこと。

【テキスト（教科書）】

青木人志『グラフィック法学入門 第2版』（新世社、2021年）

六法を各自用意し、授業に持参すること。どの出版社のものでもよい。

【参考書】

伊藤正巳・加藤一郎編『現代法学入門〔第4版〕』（有斐閣双書、2005年）

末川博編『法学入門〔第6版補訂版〕』（有斐閣双書、2014年）

松本・三枝・橋本・青木編『日本法への招待〔第3版〕』（有斐閣、2014年）

その他の参考書は授業の中で随時紹介する。

【成績評価の方法と基準】

期末試験により、上記「到達目標」で示した①～③の達成度を評価する。但し、受講人数や講義の進捗状況、コロナ感染状況などに応じて、期末試験ではなく授業内試験にしたり、試験ではなく期末課題を課したりする場合がある。併せて、授業内でコメント提出等の課題を出した場合はその評価を加味する（要素配分は、期末試験・期末課題 80% + 授業内課題 20% の予定）。

【学生の意見等からの気づき】

法の説明には抽象的な論理や観念がたくさん出てくるので、具体的な事例に即すなどして丁寧な説明を心がけたい。

【その他の重要事項】

授業中の私語は進行の妨げになるので厳禁。その他、途中での入室を慎む、携帯電話の電源を切るなど、受講上のマナーを厳守すること。

【Outline (in English)】

(Course outline)

This course deals with the basic and general knowledge of law, especially the basics of criminal law, civil law, and labor law, as well as the fundamentals of international law.

(Learning Objectives)

The goals of this course are to understand the basic concepts and principles of criminal law, civil law, and labor law, and to grasp the structure of international law.

(Learning activities outside of classroom)

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

(Grading Criteria /Policy)

Your overall grade in the class will be decided based on the following. Term-end examination: 80%, Short reports in class: 20%.

LAW100LA

法学 I

2017 年度以降入学者

内藤 淳

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 5/Fri.5

単位数：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

法学の初学者・入門者を対象に、法学の基礎や一般的知識に関する講義を行う。秋学期の法学Ⅱと連続する形で、春学期の法学Ⅰでは、主に「法学全体に関わる包括的な知識」と「日本国憲法の構造と基本原理」に関する内容を扱う。法学の基本的な用語や概念を覚えること、現代の日本法の構成を把握すること、日本国憲法の基本原理や特徴を理解することが目的である。単に用語や概念を暗記するのではなく、それに関わる法的な論理や筋道を整理して理解すること、具体的な事例に即した論点・問題点を考えることに重点を置く。

【到達目標】

法律を学んだことのない学生が、法学の基礎的・一般的知識を習得し、現代法の仕組みと基本原則を理解することが基本的な目標である。それにより、社会生活の中で必要になる法の基礎知識を身に付けると共に、民主国家の主権者として備えるべき法的素養の習得を目指す。具体的な到達目標は以下の通りである。

- ①法学全体に関わる基本的な用語や概念を覚えること
- ②現代の日本法の基本的な仕組みと体系を把握すること
- ③立憲主義の意義、日本国憲法の基本原理と特徴を理解すること

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式で実施し、授業の中で適宜重要論点の検討やそれに関するコメント提出などを行う。提出コメントや質問に対しては、授業の中で随時解説を行う。

秋学期の同一曜日・時限に開講の「法学Ⅱ」と連続した内容で講義を行うので受講者はこの両方を履修することが望ましい。

授業計画は以下の予定だが、進行ペースや受講生の理解状況等に応じて内容や順序を変更する場合がある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の進め方と法学を学ぶ意義について
第 2 回	法とは何か	社会規範としての法の特徴と働きについて
第 3 回	法と権利	権利と義務の意義と関係について
第 4 回	紛争と裁判	裁判の仕組み、裁判員制度について
第 5 回	法の解釈	法解釈の意義と役割について
第 6 回	法の分類	制定法の体系と関係について
第 7 回	国家と法	立憲主義と「法の支配」について
第 8 回	日本の憲法の歴史	明治憲法と日本国憲法の比較について
第 9 回	日本国憲法の基本原理	民主主義について 1
第 10 回	日本国憲法の基本原理	平和主義について 2
第 11 回	日本国憲法の基本原理	基本的人権の概要について 3-（1）

第 12 回 日本国憲法の基本原理 人権規定の構成について
3-（2）

第 13 回 統治機構 1

国会と内閣について

第 14 回 統治機構 2

司法権の意味、司法権の独立について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。毎回の講義の内容とポイントを整理し、下記のテキスト・参考書などを参照しながら、そこで出てきた概念や論理を見直すこと。

【テキスト（教科書）】

青木人志『グラフィック法学入門 第 2 版』（新世社、2021 年）
六法を各自用意し、授業に持参すること。どの出版社のものでもよい。

【参考書】

伊藤正巳・加藤一郎 編『現代法学入門〔第 4 版〕』（有斐閣双書、2005 年）

末川博 編『法学入門〔第 6 版補訂版〕』（有斐閣双書、2014 年）

松本・三枝・橋本・青木 編『日本法への招待〔第 3 版〕』（有斐閣、2014 年）

その他の参考書は授業の中で随時紹介する。

【成績評価の方法と基準】

期末試験により、上記「到達目標」で示した①～③の達成度を評価する。但し、受講人数や講義の進捗状況、コロナ感染状況などに応じて、期末試験ではなく授業内試験にしたり、試験ではなく期末課題を課したりする場合がある。併せて、授業内でコメント提出等の課題を出した場合はその評価を加味する（要素配分は、期末試験・期末課題 80 % + 授業内課題 20 % の予定）。

【学生の意見等からの気づき】

法の説明には抽象的な論理や観念がたくさん出てくるので、具体的な事例に即すなどして丁寧な説明を心がけたい。

【その他の重要事項】

授業中の私語は進行の妨げになるので厳禁。その他、途中で入室を慎む、携帯電話の電源を切るなど、受講上のマナーを厳守すること。

【Outline (in English)】

(Course outline)

This course deals with the basics of law, especially general knowledge of contemporary Japanese law and the basic principles of the Constitution of Japan.

(Learning Objectives)

The goals of this course are to memorize the basic concepts of jurisprudence, to grasp the structure of contemporary Japanese law, and to understand the basic principles and features of the Japanese Constitution.

(Learning activities outside of classroom)

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

(Grading Criteria /Policy)

Your overall grade in the class will be decided based on the following. Term-end examination: 80%, Short reports in class: 20%.

LAW100LA

法学Ⅱ

2017年度以降入学者

内藤 淳

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 5/Fri.5

単位数：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

主に法学の初学者・入門者を対象に、法学の基礎や一般的知識に関する講義を行う。春学期の法学Ⅰと連続する形で、秋学期の法学Ⅱでは、主に刑法、民法、労働法の基本的・一般的な知識と、国際法の基礎に関する内容を扱う。これらの法に関する基本的な用語や概念を覚えること、基本原理や特徴を理解することが目的である。単に用語や概念を暗記するのではなく、それに関わる法的な論理や筋道を整理して理解すること、具体的な事例に即した論点・問題点を考えることに重点を置く。

【到達目標】

法律を学んだことのない学生が、法学の基礎と一般的知識を習得し、現代法の仕組みと基本原則を理解することが基本的な目標である。それにより、社会生活の中で必要になる法の基礎知識を身に付けると共に、民主国家の主権者として備えるべき法的素養の習得を目指す。具体的な到達目標は以下の通りである。

- ①刑法、民法、労働法などの基本的な構成と原則を理解する。
- ②具体的な事例や判例を通して、これらの法における基礎的な論点と紛争解決の筋道を理解する。
- ③国際法に関する基礎知識を身に付ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式で実施し、授業の中で適宜重要論点の検討やそれに関するコメント提出などを行う。提出コメントや質問に対しては、授業の中で随時解説を行う。

春学期の同一曜日・時限に開講の「法学Ⅰ」と連続した内容で講義を行うので受講者はこの両方を履修することが望ましい。

授業計画は以下の予定だが、進行ペースや受講生の理解状況等に応じて内容や順序を変更する場合がある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の進め方と履修の意義について
第2回	刑事訴追の手続き	犯罪発生から裁判へのプロセスについて
第3回	刑事法の原理	罪刑法定主義について
第4回	犯罪とは？	犯罪の成立要件について
第5回	民法の基本原則：権利能力平等の原則	権利能力と行為能力について
第6回	民法の基本原則：契約自由の原則	契約自由の原則の意義について
第7回	民法の基本原則：契約自由の原則の修正	契約自由の原則の問題点について
第8回	民法の基本原則：過失責任の原則	不法行為と損害賠償の基礎について
第9回	民法の基本原則：過失責任の原則の修正	過失責任の原則の問題点について
第10回	家族関係と法	夫婦と親子について
第11回	労働関係と法	労働法の意義と理念について

第12回 労働法制度の内容 労働法の基本原則について

第13回 国際法の基本概念 主権と領土について

第14回 国際法の原理 国際法と国内法の関係について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。毎回の講義の内容とポイントを整理し、下記のテキスト・参考書などを参照しながら、そこで出てきた概念や論理を見直すこと。

【テキスト（教科書）】

青木人志『グラフィック法学入門 第2版』（新世社、2021年）

六法を各自用意し、授業に持参すること。どの出版社のものでもよい。

【参考書】

伊藤正巳・加藤一郎 編『現代法学入門〔第4版〕』（有斐閣双書、2005年）

末川博 編『法学入門〔第6版補訂版〕』（有斐閣双書、2014年）

松本・三枝・橋本・青木 編『日本法への招待〔第3版〕』（有斐閣、2014年）

その他の参考書は授業の中で随時紹介する。

【成績評価の方法と基準】

期末試験により、上記「到達目標」で示した①～③の達成度を評価する。但し、受講人数や講義の進捗状況、コロナ感染状況などに応じて、期末試験ではなく授業内試験にしたり、試験ではなく期末課題を課したりする場合がある。併せて、授業内でコメント提出等の課題を出した場合はその評価を加味する（要素配分は、期末試験・期末課題 80% + 授業内課題 20% の予定）。

【学生の意見等からの気づき】

法の説明には抽象的な論理や観念がたくさん出てくるので、具体的な事例に即すなどして丁寧な説明を心がけたい。

【その他の重要事項】

授業中の私語は進行の妨げになるので厳禁。その他、途中での入室を慎む、携帯電話の電源を切るなど、受講上のマナーを厳守すること。

【Outline (in English)】

(Course outline)

This course deals with the basic and general knowledge of law, especially the basics of criminal law, civil law, and labor law, as well as the fundamentals of international law.

(Learning Objectives)

The goals of this course are to understand the basic concepts and principles of criminal law, civil law, and labor law, and to grasp the structure of international law.

(Learning activities outside of classroom)

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

(Grading Criteria /Policy)

Your overall grade in the class will be decided based on the following. Term-end examination: 80%, Short reports in class: 20%.

LAW100LA

法学 I

2017 年度以降入学者

陳 志明

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 4/Thu.4

単位数：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は、法学Ⅱ（秋学期）と一体をなすものであり、主に初学者・入門者を対象に、法学の一般的・基本的な知識を習得して理解することをテーマとしています。下記の目標を達するため、春学期の法学Ⅰでは、法学全体に関わる一般的・包括的な知識、立憲主義の意義、日本国憲法の基本原則と基本構造に関する講義を行う予定です。

【到達目標】

受講生が法学の基礎を習得し、現代法の仕組みと基本原則を理解することで、法治国家の市民として求められる法的な知識と資質を身に付けると共に、民主的な国家の主権者として備えるべき基礎的な法的素養を習得することを目標としています。具体的には、①法学の基本概念・用語の意味内容を習得し、現代法の基本的な仕組みと体系を理解すること、②社会の中での法の役割を理解し、法によって社会的な紛争がいかにか解決されるか、個人の権利がどのように守られるかが分かるようになることです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

授業は毎回配布するレジュメや資料に沿って進めます。また質問等に対するフィードバックは随時行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	講義概要（シラバス）の説明
第 2 回	法とは何か	法と社会との関係 道徳等との関係 法の目的 権利義務との関係
第 3 回	法と裁判	事件への法の適用 裁判制度
第 4 回	裁判の基準	訴訟手続上の諸原則 制定法 法の適用における原則 不文法
第 5 回	法の解釈と分類	事実認定と法の解釈 解釈の性質及び方法 法の分類
第 6 回	国家と憲法	近代憲法の成立 立憲主義及び基本原則 現代憲法の特質
第 7 回	日本の新旧憲法	大日本帝国憲法の特質 日本国憲法の制定 日本国憲法の基本原則
第 8 回	国民主権	国民主権 選挙 地方自治
第 9 回	平和主義	規定の背景 規定の内容及び解釈 安全保障

第 10 回	基本的人権①	人権総論 包括的基本権 法の下での平等
第 11 回	基本的人権②	自由権 社会権 参政権及び国務請求権
第 12 回	権力分立①	国会 議院内閣制 内閣
第 13 回	権力分立②	裁判所 違憲審査制 財政
第 14 回	授業内試験（教室レポート）	レポートの作成及び提出並びにまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業前後に参考書の該当部分を併せて読むことを勧めます。この授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません。

【参考書】

伊藤正己・加藤一郎編『現代法学入門〔第 4 版〕』（有斐閣双書、有斐閣、2005 年）

伊藤正己『憲法入門〔第 6 版補訂版〕』（有斐閣双書、有斐閣、2006 年）

末川博編『法学入門〔第 6 版補訂版〕』（有斐閣双書、有斐閣、2014 年）

初宿正典・高橋正俊・米沢広一・棟居快行『いちばんやさしい憲法入門〔第 6 版〕』（有斐閣アルマ、有斐閣、2020 年）

その他の参考書は、必要に応じてその都度紹介します。

【成績評価の方法と基準】

春学期末の授業内試験（教室レポート）（80 %）及び平常点（20 %）により、「到達目標」に掲げた「法学の基礎を習得し、現代法の仕組みと基本原則を理解すること」等の達成度を評価します。

【学生の意見等からの気づき】

特にありませんが、法学部の専門科目ではなく、ILAC 科目であることに留意します。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire an understanding of general and comprehensive knowledge of the whole law, and the basic principles and structure of the Constitution of Japan. At the end of the course, students are expected to master the basics of law and to understand the mechanism and basic principles of modern law. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Final grade will be calculated according to the following process: Term-end examination (80%) and in-class contribution (20%).

LAW100LA

法学Ⅱ

2017年度以降入学者

陳 志明

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 4/Thu.4

単位数：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は、法学Ⅰ（春学期）と一体をなすものであり、主に初学者・入門者を対象に、法学の一般的・基本的な知識を習得して理解することをテーマとしています。下記の目標を達するため、秋学期の法学Ⅱでは、刑法、民法、労働法の基本構成と基本原則、国際法の基礎的な知識に関する講義を行う予定です。

【到達目標】

受講生が法学の基礎を習得し、現代法の仕組みと基本原則を理解することで、法治国家の市民として求められる法的な知識と資質を身に付けると共に、民主的な国家の主権者として備えるべき基礎的な法的素養を習得することを目標としています。具体的には、①法学の基本概念・用語の意味内容を習得し、現代法の基本的な仕組みと体系を理解すること、②社会の中での法の役割を理解し、法によって社会的な紛争がいかに関与されるか、個人の権利がどのように守られるかが分かるようになることです。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

授業は毎回配布するレジュメや資料に沿って進めます。また質問等に対するフィードバックは随時行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	犯罪と法①	刑法とは何か 罪刑法定主義 法益の保護
第 2 回	犯罪と法②	犯罪の成立 構成要件 違法性と責任
第 3 回	民法総論①	民法とは何か 民法の基本原則 権利と義務
第 4 回	民法総論②	契約と法律行為 権利能力と行為能力 法人と会社
第 5 回	財産関係と法①	契約の成立と効果 双務契約における債務 契約の履行と不履行
第 6 回	財産関係と法②	所有権 不法行為 損害賠償
第 7 回	家族関係と法①	家族法 親族 夫婦
第 8 回	家族関係と法②	親子 扶養 相続
第 9 回	労働と法①	労働法の概観 労働関係の当事者 労働条件の決定

第 10 回 労働と法②

労働契約の成立
人事
賃金

第 11 回 国際社会と法①

主体
国家の主権

第 12 回 国際社会と法②

国際法の存在形式
国際法の国内的实施
国際法の国際的实施
領域

第 13 回 国際社会と法③

海洋
南極と上空

第 14 回 授業内試験（教室レポート）

人権
レポートの作成及び提出並びにまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業前後に参考書の該当部分を併せて読むことを勧めます。この授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません。

【参考書】

伊藤正己・加藤一郎編『現代法学入門〔第 4 版〕』（有斐閣双書、有斐閣、2005 年）

末川博編『法学入門〔第 6 版補訂版〕』（有斐閣双書、有斐閣、2014 年）

井田良『基礎から学ぶ刑事法〔第 6 版補訂版〕』（有斐閣アルマ、有斐閣、2022 年）

野村豊弘『民事法入門〔第 8 版補訂版〕』（有斐閣アルマ、有斐閣、2022 年）

玉田大・水島朋則・山田卓平『国際法〔第 2 版〕』（有斐閣ストゥディア、有斐閣、2022 年）

小畑史子・緒方桂子・竹内（奥野）寿『労働法〔第 4 版〕』（有斐閣ストゥディア、有斐閣、2023 年）

その他の参考書は、必要に応じてその都度紹介します。

【成績評価の方法と基準】

秋学期末の授業内試験（教室レポート）（80%）及び平常点（20%）により、「到達目標」に掲げた「法学の基礎を習得し、現代法の仕組みと基本原則を理解すること」等の達成度を評価します。

【学生の意見等からの気づき】

特にありませんが、法学部の専門科目ではなく、ILAC 科目であることに留意します。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire an understanding of the basic structure and principles of criminal law, civil law and labor law, and the basic knowledge of international law. At the end of the course, students are expected to master the basics of law and to understand the mechanism and basic principles of modern law. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Final grade will be calculated according to the following process: Term-end examination (80%) and in-class contribution (20%).

LAW100LA

法学 I

2017 年度以降入学者

水野 圭子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 2/Mon.2

単位数：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

主に法学の初学者・入門者を対象に、法学の基礎に関する講義を行う。契約法に関する基本的な概念を理解し、初歩的な法知識を取得することすることを第一の目的とする。これに加え、憲法の構造と基本原理、国際法に関して、条約の締結や EU 法についても学ぶ。

【到達目標】

法学の一般的・基本的な知識の習得と理解がこの授業の目標である。法律を学んだことのない学生が法学の基礎を習得し、現代法の仕組みと基本原則を理解することをねらいとする。それにより、法治国家の市民として求められる法的な知識と資質を身に付けると共に、民主的な国家の主権者として備えるべき基礎的な法的素養の習得を目指す。具体的な到達目標は以下の通り。

- ① 法学の基本概念・用語の意味内容を習得し、現代法の基本的な仕組みと体系を理解する。
- ② 社会の中での法の役割を理解し、法によって社会的な紛争がいかに解決されるか、個人の権利がどのように守られるかが分かるようになる。
- ③ 立憲主義の意義、日本国憲法の基本原理と基本構造を理解する。
- ④ EU 法の基礎を理解する

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

教科書とパワーポイント・黒板を利用し、講義形式で授業を行う。ドキュメンタリーなど視聴覚教材を使用する場合があるが、その場合は、リアクションペーパーの提出を求める。

毎回の授業の終わりに質問等を受ける時間を設け、次回の授業開始時に、前回の復習を行うとともに、リアクションペーパーに関するコメントについて、フィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	法の役割と法律の学び方
第 2 回	契約をしたことはありますか。	私たちが日々行っている契約が生活における様々な活動と契約がどのように関係しているか考え、契約とは何かを学ぶ。
第 3 回	契約を結ぶとどのような権利義務関係にはいるのだろうか。	契約をすると、どのような義務が発生し、どのような権利を得るのか。
第 4 回	債権・債務関係	契約によって生じる権利義務関係について、具体例を通じて考える。
第 5 回	債務不履行	契約が守られなかったとき、契約を締結した者はどのような対応を取ることができるか。
6 回	契約に拘束されない場合	契約を結んだにもかかわらず、契約に従わなくてもよい場合について
7 回	不法行為（1）	他人によって自分の権利を侵害された場合について

8 回	不法行為（2）	典型的な不法行為とその解決
9 回	憲法とは	憲法は何のためにあり、何を守るものか。
10 回	憲法と私人	憲法は何を保障するか。憲法が保障する基本的人権について
11 回	憲法と統治機構	なぜ、権力を抑制する必要があるか。近年起きた事例をもとに検討する。
12 回	EU とはどのようなものか	EU の成立と法制度について
13 回	EU における司法制度	EU の裁判の特徴を理解し、国内裁判との違いを理解する。また、判決文を見る
14 回	まとめ・試験	春学期の重要な点について確認を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書、資料等の指摘されたところを熟読すること。本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

池田・犬伏・野川・大塚『法の世界へ〔第 8 版〕』（有斐閣アルマ、2020 年）

なお、版が改訂される場合があるが、講義では最新版のものを使用するので、版の改訂を確認の上購入すること。

【参考書】

伊藤正巳・加藤一郎 編『現代法学入門〔第 4 版〕』（有斐閣双書、2005 年）

田中淳子・大野正博 編『法学入門』（成文堂、2015 年）

末川博 編『法学入門〔第 6 版〕』（有斐閣双書、2009 年）

松本・三枝・橋本・青木 編『日本法への招待〔第 3 版〕』（有斐閣、2014 年） など

【成績評価の方法と基準】

記号選択問題によっておこなう期末試験の成績（80 %）、これに、授業内で行った小テスト・レポート（20 %）とし、到達目標欄に記載した 4 点の達成度を測り評価する。成績評価は 100 点満点とし、60 点以上に単位を認定する。

【学生の意見等からの気づき】

近年の社会問題と関係のある事例についての関心が高いので、時事的な問題を今年度も取り扱う。

また、映像資料を講義内で利用する。

パワーポイントだけでなく、板書を利用する。

【Outline (in English)】

(Course outline)

This lecture targets beginners in law and explains the basic knowledge of law. As a relationship between individuals, we aim to understand the basic concepts concerning the contract law and to acquire rudimentary legal knowledge. Furthermore, as a relationship between the nation and individual, we study the Constitution of Japan and fundamental human rights. Also, as a field related to international law, we also learn about the treaty and the EU law, which is the relation between nations.

(Learning Objectives)

The goal of this class is to acquire and understand the general and basic knowledge of law. The purpose of this course is to enable students who have never studied law to acquire the basics of law and to understand the structure and basic principles of modern law. This course is designed to help students who have never studied law to acquire basic legal knowledge and qualities required as citizens of a law-abiding country, and to acquire the basic legal knowledge that a sovereign citizen of a democratic country should have. Specific objectives of the course are as follows

(1) To acquire the meaning and content of the basic concepts and terms of law, and to understand the basic structure and system of modern law.

(2) To understand the role of law in society, and how social conflicts can be resolved by law and how individual rights can be protected.

(3) Understand the significance of constitutionalism and the basic principles and structure of the Japanese Constitution.

4) Understand the basics of EU law.

(Learning activities outside of classroom)

Please read the textbook and handouts carefully. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

(Grading Criteria /Policy)

Students will be graded on the basis of their performance on the final exam, which will consist of symbol selection questions (80%), and in-class tests and reports (20%). Grades are given on a 100-point scale, with 60 points or more being awarded for credit.

LAW100LA

法学Ⅱ

2017年度以降入学者

水野 圭子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 2/Mon.2

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

学生であってもアルバイトをする場合など、働くことと法律は様々なかわりを持っている。しかしながら、労働と法について学ぶ機会は多くない。本講義では、働くこととかわかる法律について、採用内定とその取り消し、アルバイトの場合の残業代の支給や有給休暇の取得など労働災害、採用内定とその取消など学生であってもかわりを持つ事例について、さらには、賃金、労働時間、転勤、解雇など重要な問題についても検討を行う。引き続き、働くことと関係する憲法の問題、働くことについてもボーダレスとなっているEUの仕組みなどを通じて、国際的な法律関係、とくにEU法を素材として、人権や平等、労働法上の規制等についても知識を深めることを目的とする。

【到達目標】

発展的な契約である労働契約の仕組みと法的な規制についての知識を得る。

これによって、働く場合における法律関係について、正確な法的知識に基づく正しい理解ができる。

EUなどの国際法的な関係についても、労働という視点からEU指令、EU裁判所制度、EUの社会保障制度などについても法的な理解を深める。

上述の点に関与する憲法的な論点について理論的に説明できるよう理解を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

レジュメ、パワーポイントを用いた講義形式で授業を進める。視聴覚教材を利用した場合など、リアクションペーパーやコメントの提出を求める場合がある。講義の終わりに質問の時間を設け、次回抗議の開始時に、復習と質問に対する解説、リアクションペーパー等についてのフィードバックとしてをおこなう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回	ガイダンス	授業の進め方・テストなどについてのガイダンスと模擬授業
2回	アルバイトを決める時に確認すること	労働契約を結び働く場合の法律関係について
3回	働く場合の法律	労働時間・賃金・時間外労働・割増賃金
4回	働く場合の法律	休む 休憩・休息時間・休日・休暇について
5回	仕事を辞める労働契約の終了について	採用内定の取り消し・解雇
6回	働く場合の法律	最近の問題
7回	ワークライフバランス	ワークライフバランスと少子高齢化
8回	安全に働く	労働災害・過労死について知る
9回	安全に働く	過労自殺・過労死の認定の問題
10回	国と国の関係と働くこと	グローバル化の中で労働はどのように変わってきているのか

11回	EU諸国における労働と社会保障法	EU市民とEU加盟国はどの間の労働法・社会保障法はどのようになっているのか
12回	EUの労働法とその実行の仕組み	EU指令の制度、EU加盟国の立法権、EU裁判所の制度による労働法の問題の解決
13回	EUと社会憲章	EUにおいて人権や働く権利、私生活はどのように保障されているのか。
14回	EUにおける労働と社会保障	ワークライフバランスや多様性を許容する社会を実現するためにしる労働法とは何か

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

該当する教科書のページを熟読すること。さらに、関連する新聞記事やニュースなどをフォローすること。なお、本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

池田真朗、犬伏由子、野川忍、大塚英明『法の世界へ〔第8版〕』（有斐閣アルマ、2020年）（改訂版が出た場合は最新のものとすること）
このほか今年度版の六法を用意すること。
六法については初回の授業で詳しく紹介します。

【参考書】

伊藤正己、加藤一郎『現代法学入門〔第4版〕』（有斐閣双書、2005年）
浜村彰、唐津博、青野覚、奥田香子『ベーシック労働法〔第7版〕』（有斐閣アルマ、2019年）

【成績評価の方法と基準】

選択問題、マークシートを利用して行う期末試験の成績（80%）、これに、春学期間に提出されたレポート（20%）として、到達目標欄に記載した①労働関係の法的知識、②EU法に関する理解、③憲法的論点の理解を達成度を測り評価する。これらの合計を60点～69点をC、70点から79点をB、80点～89点をA、90点以上A+、あるいはSと単位認定する。

【学生の意見等からの気づき】

EUやフランス法との比較法的な検討について、関心が高かったので今後もそのような比較法的な視点からの講義を増やすこととしたい。
また、コロナ感染症対策における雇用政策や公衆衛生法についても関心が高かったので、時事的な問題や直ちに影響を受ける政策について情報を提供するように心がけたい。

【Outline (in English)】

(Course outline)

We will study legal relations in labor law. From the time you are a student, working part-time or looking for a job, the law has had a lot to do with your work. However, there are not many opportunities to learn about labor and law.

In this lecture, students will learn about labor laws that are relevant to them from the time they are students, such as overtime pay for part-time work, annual paid leave, Workplace accidents, and Rescission of employment offer. In this lecture, students will learn about labor laws that are relevant to them from the time they are students, such as overtime pay for part-time work, annual paid leave, work-related accidents, and employment offers and their revocation. Next, we will examine important issues related to work, such as wages, working hours, reassignment, and dismissal. We will also examine constitutional issues related to labor. Students will also learn about EU labor law, including human rights, equality, and regulations under EU labor law.

(Learning Objectives)

Gain knowledge of the structure and legal regulations of labor contracts, which are developmental contracts. This will provide students with a correct understanding based on accurate legal knowledge of legal relations in the case of work.

Students will also gain a legal understanding of international legal relations such as the EU, including EU directives, the EU court system, and the EU social security system from the perspective of labor.

Deepen their understanding so that they can theoretically explain the constitutional issues involved in the above points.

(Learning activities outside of classroom)

Read the relevant textbook pages and handouts carefully. In addition, students are expected to follow up on relevant newspaper articles and news. The standard preparation and review time for this class is two hours each.

(Grading Criteria /Policy)

Students will be evaluated based on their performance in the final examination using mark sheets (80%), plus reports submitted during the spring semester (20%) to measure their achievement in (1) legal knowledge of labor relations, (2) understanding of EU law, and (3) understanding of constitutional issues as stated in the achievement objectives section. A total of 60 to 69 points will be awarded as C, 70 to 79 points as B, 80 to 89 points as A, and 90 points or more as A+ or S.

LAW100LA

法学 I

2017 年度以降入学者

金子 匡良

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 5/Mon.5

単位数：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

主に法学の初学者・入門者を対象に、法学の基礎に関する講義を行う。内容的には、法学全体に関わる一般的・包括的な知識と日本国憲法の構造と基本原理に関する講義を柱とする。

【到達目標】

- ①法学の基本概念・用語の意味内容を習得し、現代法の基本的な仕組みと体系を理解する。
- ②社会の中での法の役割を理解し、法によって社会的な紛争がいかに解決されるか、個人の権利がどのように守られるかが分かるようになる。
- ③立憲主義の意義、日本国憲法の基本原理と基本構造を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は全回オンデマンド方式のオンライン授業で行う。履修者は Hoppii を通じて配布されるプリントと動画を利用して自己学習を行い、疑問点などがあれば Hoppii から質問を行う。質問に対するフィードバックも、適宜 Hoppii を通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の進め方と法学を学ぶ意義について説明する
第 2 回	法とは何か	社会規範としての法の特徴と働きについて学ぶ
第 3 回	法の分類	成文法と不文法などの法の分類について学ぶ
第 4 回	法の構造と内容	法規範の構造と法的責任や法的制裁の内容について学ぶ
第 5 回	法の歴史①	ローマ法から近代法の成立までの歴史を学ぶ
第 6 回	法の歴史②	近代法の修正と現代法の成立について学ぶ
第 7 回	法の歴史③	日本法の歴史について学ぶ
第 8 回	日本国憲法成立の法理	日本国憲法成立の経緯とそこにおける問題点について学ぶ
第 9 回	裁判制度	裁判の種類と裁判機構について学ぶ
第 10 回	違憲審査制	違憲審査制の種類とその限界について学ぶ
第 11 回	司法権の独立	司法権の独立とそれを脅かす要因について学ぶ
第 12 回	法の解釈①	法解釈の方法について学ぶ
第 13 回	法の解釈②	法解釈の科学性をめぐる議論について学ぶ
第 14 回	法の効力	法の効力の種類と基本原則について学ぶ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に Hoppii からプリントをダウンロードし、それをよく読んで要点を把握するとともに、疑問点を明らかにしておく。授業後には、授業内容を振り返り、理解できたかどうか、疑問点が解消されたかどうかを確認する。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

テキストは指定しない。Hoppii を通じて配布するプリントに基づいて授業を行う。

【参考書】

伊藤正己・加藤一郎（編）『現代法学入門〔第 4 版〕』（有斐閣双書、2005 年）
澤木敬郎・荒木伸怡・南部篤『ホーンブック法学原理〔第 4 版〕』（北樹出版、2015 年）
田中成明『法学入門〔新版〕』（有斐閣、2016 年）

【成績評価の方法と基準】

上記「到達目標」の達成度を学期末に Hoppii を通じて行うオンラインテストで判断し、成績を評価する（100%）。

【学生の意見等からの気づき】

法学の初学者が多い授業であることを考慮して、基本的な用語や概念の説明にも時間を割く予定である。

【その他の重要事項】

国会議員政策担当秘書の実務経験がある。その知識と経験を活かして、日本の政治運営の実態、および現実政治における法の役割についても授業の中で随時触れていく。

【Outline (in English)】

In this class, students will learn general and comprehensive knowledge related to law and the basic principles of the Constitution of Japan.

All classes will be conducted online. Students will self-study using handouts and videos distributed through Hoppii and ask questions through Hoppii.

Before/after each class meeting, students will be expected to read the printouts distributed by Hoppii. Your required study time is at least one hour for each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

Grading will be decided based on term-end examination (100%).

LAW100LA

法学Ⅱ

2017年度以降入学者

金子 匡良

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 5/Mon.5

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

主に法学の初学者・入門者を対象に、法学の基礎的な知識に関する講義を行う。内容的には、民法、憲法、刑法、社会法等の基礎知識・基本原則に関する講義を柱とする。

【到達目標】

- ①法学の基本概念・用語の意味内容を習得し、現代法の基本的な仕組みと体系を理解する。
- ②憲法の基本構造、および人権の意義と種類を理解する。
- ③刑法、民法、社会法などの基本的な構成と基本原則を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は全回オンデマンド方式のオンライン授業で行う。履修者は Hoppii を通じて配布されるプリントと動画を利用して自己学習を行い、疑問点などがあれば Hoppii から質問を行う。質問に対するフィードバックも、適宜 Hoppii を通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の進め方と近代法の構造について学ぶ
第2回	民法①	契約法の基礎的知識について学ぶ
第3回	民法②	不法行為法と損害賠償責任について学ぶ
第4回	民法③	婚姻と離婚、相続について学ぶ
第5回	憲法①	憲法の機能と役割について学ぶ
第6回	憲法②	人権の種類について学ぶ
第7回	憲法③	表現の自由について学ぶ
第8回	憲法④	参政権について学ぶ
第9回	憲法⑤	社会権について学ぶ
第10回	憲法⑥	権力分立について学ぶ
第11回	刑法①	刑法の意義と基本原則について学ぶ
第12回	刑法②	刑事手続について学ぶ
第13回	社会法	社会法の意義と種類について学ぶ
第14回	国際法	国際法の歴史と法源について学ぶ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に Hoppii からプリントをダウンロードし、それをよく読んで要点を把握するとともに、疑問点を明らかにしておく。授業後には、授業内容を振り返り、理解できたかどうか、疑問点が解明されたかどうかを確認する。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

テキストは指定せず、Hoppii を通じて配布するプリントを用いて授業を行う。

【参考書】

伊藤正己・加藤一郎（編）『現代法学入門〔第4版〕』（有斐閣双書、2005年）

澤木敬郎・荒木伸怡・南部篤『ホーンブック法学原理〔第4版〕』（北樹出版、2015年）

田中成明『法学入門〔新版〕』（有斐閣、2016年）

【成績評価の方法と基準】

上記「到達目標」の達成度を学期末に Hoppii を通じて行うオンラインテストで判断し、成績を評価する（100%）。

【学生の意見等からの気づき】

主たる受講者が法学の初学者であることに留意して、なるべく平易な授業を心がける。

【その他の重要事項】

国会議員政策担当秘書の実務経験がある。その知識と経験を活かして、日本の政治運営の実態、および現実政治における法の役割についても授業の中で随時触れていく。

【Outline (in English)】

This course is primarily intended for beginning students and introductory students of law. The class will cover basic knowledge and fundamental principles of civil law, constitutional law, criminal law, and social law.

Before/after each class meeting, students will be expected to read the printouts distributed by Hoppii. Your required study time is at least one hour for each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

Grading will be decided based on term-end examination (100%).

LAW100LA

法学 I

2017 年度以降入学者

菅谷 麻衣

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 4/Thu.4

単位数：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

主に法学の初学者・入門者を対象に、法学の基礎に関する講義を行う。内容的には、法学全体に関わる一般的・包括的な知識と日本国憲法の構造と基本原理に関する講義を柱とする。

【到達目標】

法学の一般的・基本的な知識の習得と理解がこの授業のテーマである。法律を学んだことのない学生が、法学の基礎を習得し、現代法の仕組みと基本原則を理解することをねらいとする。それにより、法治国家の市民として求められる法的な知識と資質を身に付けると共に、民主的な国家の主権者として備えるべき基礎的な法的素養の習得を目指す。具体的な到達目標は以下の通り。

- ① 法学の基本概念・用語の意味内容を習得し、現代法の基本的な仕組みと体系を理解する。
- ② 社会の中での法の役割を理解し、法によって社会的な紛争がいかに解決されるか、個人の権利がどのように守られるかが分かるようになる。
- ③ 立憲主義の意義、日本国憲法の基本原理と基本構造を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式の対面授業を原則とするが、状況に応じて、Zoom 等による双方向型授業や課題提示等によるオンデマンド授業を実施する。また、授業実施に必要な連絡は学修支援システムを活用する。授業計画は以下の通りだが、授業進度、受講生の理解状況等に応じて内容や順序を変更することがある。なお、課題等のフィードバックは授業内で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	本授業の受け方、法を学ぶこと
第 2 回	法とは何か	法の種類、法形式、法分野
第 3 回	憲法とは何か	国家の成立と憲法の役割
第 4 回	選挙と参政権	民主主義と日本の選挙制度
第 5 回	国会	国会の権限とその憲法上の位置付け
第 6 回	内閣	内閣の仕組みとその権限
第 7 回	裁判所	裁判所の権限と裁判員制度
第 8 回	人権総論	人権とは何か
第 9 回	新しい人権	憲法 13 条の意義と自己決定権
第 10 回	平等と憲法 1	平等の意味と判断枠組み
第 11 回	平等と憲法 2	同性婚と選択的夫婦別姓
第 12 回	学校と憲法	教育を受ける権利と学問の自由
第 13 回	裁判と憲法	人身の自由と刑事手続
第 14 回	授業内試験	授業内試験とその解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。
 [事前学習] ニュース・新聞等に目を通し、法律問題への関心を高めしておくこと。予習が必要な回に関しては、別途、指示する。
 [事後学習] ノートを整理し、疑問点については授業内レポートや授業の前後に積極的に質問すること。

【テキスト（教科書）】

毎回の授業には必ず六法を持参すること（出版社は問わないが、最新のもの）。
 なお、初回の授業のときに六法・教科書の話をする予定である。

【参考書】

適宜、授業内で紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業内試験によって、到達目標欄に記載した 3 点の達成度を評価することで行う。
 ただし、受講人数や講義の進捗状況などにより、授業内試験ではなく期末試験ないし期末レポートとする場合もある。
 授業内レポート、小テスト等の課題を出した場合、その評価を加味する（要素配分は、授業内試験 80 % + 授業内課題 20 % の予定）。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【Outline (in English)】

This course deals with the basic knowledge of law. It also enhances students' skill in legal thinking. The main aim of this course is to help students' understand the framework of modern Japanese law. At the end of this course, participants are expected to understand fundamental principles of civil law, criminal law and the Constitution of Japan and explain legal terms correctly.

Learning activities outside of classroom;

If you are unfamiliar with Japanese law and society, you may want to allocate additional time to make sure those aspects of the course go smoothly.

Grading Criteria /Policy;

20% of the final grade will be based on class participation and 80% on a final exam.

LAW100LA

法学Ⅱ

2017年度以降入学者

菅谷 麻衣

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 4/Thu.4

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

主に法学の初学者・入門者を対象に、法学の基礎に関する講義を行う。内容的には、刑法、民法、労働法の基礎知識・基本原則と国際法の基礎に関する講義を柱とする。

【到達目標】

法学の一般的・基本的な知識の習得と理解がこの授業のテーマである。法律を学んだことのない学生が、法学の基礎を習得し、現代法の仕組みと基本原則を理解することをねらいとする。それにより、法治国家の市民として求められる法的な知識と資質を身に付けると共に、民主的な国家の主権者として備えるべき基礎的な法的素養の習得を目指す。具体的な到達目標は以下の通り。

- ①法学の基本概念・用語の意味内容を習得し、現代法の基本的な仕組みと体系を理解する。
- ②社会の中で法の役割を理解し、法によって社会的な紛争がいかに解決されるか、個人の権利がどのように守られるかが分かるようになる。
- ③刑法、民法、労働法などの基本的な構成と基本原則を理解する。
- ④国際法に関する基礎知識を身に付ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式の対面授業を原則とするが、状況に応じて、Zoom等による双方向型授業や課題提示等によるオンデマンド授業を実施する。また、授業実施上必要な連絡は学修支援システムを活用する。授業計画は以下の通りだが、授業進度、受講生の理解状況等に応じて内容や順序を変更することがある。なお、課題等のフィードバックは授業内で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	本授業の進め方と履修の意義について
第2回	犯罪と刑罰 1	刑事法の基本的考え方
第3回	犯罪と刑罰 2	犯罪の成立
第4回	民法の基本原則 1	権利能力と行為能力
第5回	民法の基本原則 2	契約自由の原則
第6回	財産と法	物権とその変動
第7回	取引と法	契約の成立と効力
第8回	不法行為と損害賠償	不法行為の成立要件
第9回	家族関係と法 1	夫婦と親子
第10回	家族関係と法 2	扶養と相続
第11回	労働関係と法 1	労働法の理念と体系
第12回	労働関係と法 2	労働法の内容
第13回	国際関係と法 1	主権と領土、国際法と国内法
第14回	授業内試験	授業内試験とその解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。
〔事前学習〕ニュース・新聞等に目を通し、法律問題への関心を高めておくこと。予習が必要な回に関しては、別途、指示する。

〔事後学習〕ノートを整理し、疑問点については授業内レポートや授業の前後に積極的に質問すること。

【テキスト（教科書）】

毎回の授業には必ず六法を持参すること（出版社は問わないが、最新のもの）。
なお、初回の授業のときに六法・教科書の話をする予定である。

【参考書】

適宜、授業内で紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業内試験によって、到達目標欄に記載した4点の達成度を評価することで行う。
ただし、受講人数や講義の進捗状況などにより、授業内試験ではなく期末試験ないし期末レポートとする場合もある。
授業内レポート、小テスト等の課題を出した場合、その評価を加味する（要素配分は、授業内試験80%＋授業内課題20%の予定）。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【Outline (in English)】

This course deals with the basic knowledge of law. It also enhances students' skill in legal thinking. The main aim of this course is to help students' understand the framework of modern Japanese law. At the end of this course, participants are expected to understand fundamental principles of civil law, criminal law and the Constitution of Japan and explain legal terms correctly.

Learning activities outside of classroom;

If you are unfamiliar with Japanese law and society, you may want to allocate additional time to make sure those aspects of the course go smoothly.

Grading Criteria /Policy;

20% of the final grade will be based on class participation and 80% on a final exam.

LAW100LA

法学（日本国憲法）

2017年度以降入学者

金子 匡良

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 1/Thu.1

単位数：2単位

その他属性：〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、まず憲法の土台となっている立憲主義とそれが成立した歴史的背景について学び、法体系における憲法の存在意義・機能・役割を理解する。その上で、日本国憲法の歴史と全体構造を概観し、日本国憲法が社会において果たしている役割、あるいは果たすべき役割について考える。この授業の目的は、単に憲法の知識を学ぶことにあるのではなく、憲法を通じて現代社会の諸問題を分析し、自分なりの考えを提示できる力を養うことにある。

【到達目標】

- ①憲法の土台となっている立憲主義とそれが成立した歴史的背景について理解する。
- ②法体系における憲法の機能と役割、および憲法の特徴を理解する。
- ③日本国憲法が成立した歴史の経緯および日本国憲法の構造について理解する。
- ④現代社会で生じる諸問題について分析する力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

授業は Hoppii を通じて配布するプリントを用いて、講義形式で行う。受講者は予めプリントをダウンロードし、一読の上で授業に臨むことが求められる。質問は教室または Hoppii を通じて受け付ける。質問等に対するフィードバックは、授業中または Hoppii を通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	憲法の意義と機能	法体系における憲法の位置づけと立憲主義の意義について学ぶ
第2回	憲法の歴史①	近代憲法の成立経緯について学ぶ
第3回	憲法の歴史②	現代国家の成立経緯と近代憲法の変容について学ぶ
第4回	日本国憲法の概要	日本国憲法の制定経緯と構造について学ぶ
第5回	国民主権・天皇制	国民主権の意義と象徴天皇制の意義、および天皇の権能について学ぶ
第6回	平和主義	平和主義の内容とその変遷について学ぶ
第7回	平等権	平等権の意義とそれに関する判例について学ぶ
第8回	表現の自由	表現の自由の意義とそれに関する判例について学ぶ
第9回	参政権	参政権の意義とそれに関する判例について学ぶ
第10回	社会権	社会権の意義とそれに関する判例について学ぶ
第11回	権力分立	権力分立の類型と議院内閣制について学ぶ
第12回	違憲審査制	違憲審査制の意義と限界について学ぶ

第13回 司法権の独立 司法権の独立の意義とそれを脅かす要因について学ぶ

第14回 全体のまとめ 授業全体のまとめを行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に Hoppii からプリントをダウンロードし、それをよく読んで要点を把握するとともに、疑問点を明らかにしておく。授業後には、授業内容を振り返り、理解できたかどうか、疑問点が解明されたかどうかを確認する。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

テキストは指定しない。授業は Hoppii を通じて配布するプリントを用いて行う。

【参考書】

毛利透『グラフィック憲法入門〔第2版〕』（新世社、2021年）
 芦部信喜（高橋和之（補訂））『憲法〔第7版〕』（岩波書店、2019年）
 安西文雄・巻美矢紀・宍戸常寿『憲法学読本〔第3版〕』（有斐閣、2018年）
 その他の参考文献は、授業の中で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

上記「到達目標」の達成度を学期末に実施する期末試験の点数で判断し、成績を評価する（100%）。

【学生の意見等からの気づき】

法学の初学者が多いことを考慮して、なるべく平易な説明を心がける。

【その他の重要事項】

国会議員政策担当秘書の実務経験がある。その知識と経験を活かして、日本の政治運営の実態、および現実政治における法の役割についても授業の中で随時触れていく。

【Outline (in English)】

In this class, students will first learn about constitutionalism, which is the foundation of the Constitution, and the historical background of the Constitution. The class will then overview the history and overall structure of the Constitution of Japan, and consider the role that the Constitution of Japan plays, or should play, in society. The purpose of this class is not merely to learn about the Constitution, but to develop the ability to analyze various issues in contemporary society through the Constitution.

Before/after each class meeting, students will be expected to read the printouts distributed by Hoppii. Your required study time is at least one hour for each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

Grading will be decided based on term-end examination (100%).

LAW100LA

法学（日本国憲法）

2017年度以降入学者

金子 匡良

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 1/Thu.1

単位数：2単位

その他属性：〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、まず憲法の土台となっている立憲主義とそれが成立した歴史的背景について学び、法体系における憲法の存在意義・機能・役割を理解する。その上で、日本国憲法の歴史と全体構造を概観し、日本国憲法が社会において果たしている役割、あるいは果たすべき役割について考える。この授業の目的は、単に憲法の知識を学ぶことにあるのではなく、憲法を通じて現代社会の諸問題を分析し、自分なりの考えを提示できる力を養うことにある。

【到達目標】

- ①憲法の土台となっている立憲主義とそれが成立した歴史的背景について理解する。
- ②法体系における憲法の機能と役割、および憲法の特徴を理解する。
- ③日本国憲法が成立した歴史の経緯および日本国憲法の構造について理解する。
- ④現代社会で生じる諸問題について分析する力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

授業は Hoppii を通じて配布するプリントを用いて、講義形式で行う。受講者は予めプリントをダウンロードし、一読の上で授業に臨むことが求められる。質問は教室または Hoppii を通じて受け付ける。質問等に対するフィードバックは、授業中または Hoppii を通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	憲法の意義と機能	法体系における憲法の位置づけと立憲主義の意義について学ぶ
第2回	憲法の歴史①	近代憲法の成立経緯について学ぶ
第3回	憲法の歴史②	現代国家の成立経緯と近代憲法の変容について学ぶ
第4回	日本国憲法の概要	日本国憲法の制定経緯と構造について学ぶ
第5回	国民主権・天皇制	国民主権の意義と象徴天皇制の意義、および天皇の権能について学ぶ
第6回	平和主義	平和主義の内容とその変遷について学ぶ
第7回	平等権	平等権の意義とそれに関する判例について学ぶ
第8回	表現の自由	表現の自由の意義とそれに関する判例について学ぶ
第9回	参政権	参政権の意義とそれに関する判例について学ぶ
第10回	社会権	社会権の意義とそれに関する判例について学ぶ
第11回	権力分立	権力分立の類型と議院内閣制について学ぶ
第12回	違憲審査制	違憲審査制の意義と限界について学ぶ

第13回 司法権の独立 司法権の独立の意義とそれを脅かす要因について学ぶ

第14回 全体のまとめ 授業全体のまとめを行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に Hoppii からプリントをダウンロードし、それをよく読んで要点を把握するとともに、疑問点を明らかにしておく。授業後には、授業内容を振り返り、理解できたかどうか、疑問点が解明されたかどうかを確認する。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

テキストは指定しない。授業は Hoppii を通じて配布するプリントを用いて行う。

【参考書】

毛利透『グラフィック憲法入門〔第2版〕』（新世社、2021年）
 芦部信喜（高橋和之（補訂））『憲法〔第7版〕』（岩波書店、2019年）
 安西文雄・巻美矢紀・宍戸常寿『憲法学読本〔第3版〕』（有斐閣、2018年）
 その他の参考文献は、授業の中で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

上記「到達目標」の達成度を学期末に実施する期末試験の点数で判断し、成績を評価する（100%）。

【学生の意見等からの気づき】

法学の初学者が多いことを考慮して、なるべく平易な説明を心がける。

【その他の重要事項】

国会議員政策担当秘書の実務経験がある。その知識と経験を活かして、日本の政治運営の実態、および現実政治における法の役割についても授業の中で随時触れていく。

【Outline (in English)】

In this class, students will first learn about constitutionalism, which is the foundation of the Constitution, and the historical background of the Constitution. The class will then overview the history and overall structure of the Constitution of Japan, and consider the role that the Constitution of Japan plays, or should play, in society. The purpose of this class is not merely to learn about the Constitution, but to develop the ability to analyze various issues in contemporary society through the Constitution.

Before/after each class meeting, students will be expected to read the printouts distributed by Hoppii. Your required study time is at least one hour for each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

Grading will be decided based on term-end examination (100%).

LAW100LA

法学（日本国憲法）

2017年度以降入学者

茂木 洋平

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 4/Tue.4

単位数：2 単位

その他属性：〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

下記の目標を達するため、授業期間の初期に、法全般に関わる基礎的概念・理解に関する内容を取り上げ解説した上で、以降の期間で日本国憲法に関する講義を行う。①立憲主義や権力分立など憲法そのものの土台に関わる原理、②日本国憲法の基本原則（「国民主権」「基本的人権の尊重」「平和主義」）、③そこでの統治の仕組みの3つがその柱となる。受講者が初学者であることを踏まえて、法一般や憲法に関わる今日的なトピックを多く取り上げることで、抽象的な議論・講述に偏ることを避け、基本的理解が容易に得られるように講義を進める。

【到達目標】

おもに初学者を対象に、法と国家および社会の関係に関する理解を踏まえて、日本国憲法の理念や構成を理解することをテーマとする。日本国憲法の基本原理とそれに基づく内容構成、特徴などの正しい理解を通じて、憲法を中心とした法体系の基本構造を把握し、あわせて基礎的な法的知識を身に付けることで、民主的国家的市民として、また主権者として必要な法的・制度的知識と資質を習得することが授業の目標である。それと同時に、現実の社会における様々な法関係に対して、適切かつ妥当な対応ができるような、いわゆる「リーガルマインド（法的思考）」の涵養も目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

前半は対面型講義を実施する。教科書は使用せず、配布資料を基に講義を進める。後半はオンデマンド型とする。ウェブのOATubeに動画資料をアップする。質疑応答は、対面講義中は講義終了後、オンデマンド講義中はウェブ上の掲示板を通じて行う。受けた質問に関するポイントの解説は、次回以降の授業の中で適宜行う

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	日本国憲法を学ぶ意義
2	憲法とは何か	憲法の概要を学ぶ
3	国家の成立	国家の存在意義と憲法の意義
4	国家の役割	国家が果たすべき役割
5	日本国憲法と立憲主義	日本国憲法と立憲主義の関係性について学ぶ
6	グローバル化と日本国憲法	グローバル化が日本国憲法に突き付けた課題を学ぶ
7	統治の基礎①	日本国憲法と権力分立の意義について学ぶ
8	統治の基礎②	国会の役割について学ぶ
9	統治の基礎③	内閣と裁判所について学ぶ
10	日本国憲法の基本原理	日本国憲法の基本的原理である国民主権の意義について学ぶ
11	日本国憲法と人権保障①	人権保障の特色 基本的人権の保障の限界
12	日本国憲法と人権保障②	私人間における人権保障

- 13 日本国憲法と人権保障 法の下での平等（総論）
③
- 14 日本国憲法と人権保障 法の下での平等（各論）
④ 日本国憲法と家族

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。講義中に指示した資料を閲覧する（紙媒体の資料だけでなく、YouTube等の動画の閲覧を指示する場合もある）。

講義内容をメモにまとめ、分かり易い文章にまとめる（講義内容についてレポート作成を求めため、この作業は成績評価とも直結する）。

【テキスト（教科書）】

特に使用しない。

【参考書】

講義中に適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

講義前半（対面型）の課題レポート（50%）と講義後半（オンデマンド型）の課題レポート（50%）によって、到達目標欄に記載した『憲法の体系的理解』『基礎的法知識』『リーガルマインドの涵養』の達成度を測ることで評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline (in English)】

Learn basic knowledge about the Constitution of Japan.

The theme is to understand the philosophy and structure of the Constitution of Japan, mainly for beginners, based on their understanding of the relationship between law and the state and society. By grasping the basic structure of the legal system centered on the Constitution and acquiring basic legal knowledge through "correct understanding" of the basic principles of the Constitution of Japan and the content structure and characteristics based on it. The goal of the lesson is to acquire the legal and institutional knowledge and qualities necessary as a citizen of a democratic nation and as a sovereign. At the same time, we aim to cultivate a so-called "legal mind" that can respond appropriately and appropriately to various legal relationships in the real world.

The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each.

Browse the materials instructed during the lecture (in some cases, you may instruct to view videos such as YouTube as well as paper materials).

Summarize the content of the lecture in a memo and summarize it in easy-to-understand sentences (this work is directly linked to grade evaluation because a report is required for the content of the lecture).

"Systematic understanding of the Constitution", "Basic legal knowledge" described in the achievement goal column by the task report (50%) in the first half of the lecture (face-to-face type) and the task report (50%) in the second half of the lecture (on-demand type). Evaluate by measuring the degree of achievement of "Legal Mind Development".

LAW100LA

法学（日本国憲法）

2017年度以降入学者

茂木 洋平

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 4/Tue.4

単位数：2 単位

その他属性：〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

下記の目標を達するため、授業期間の初期に、法全般に関わる基礎的概念・理解に関する内容を取り上げ解説した上で、以降の期間で日本国憲法に関する講義を行う。①立憲主義や権力分立など憲法そのものの土台に関わる原理、②日本国憲法の基本原則（「国民主権」「基本的人権の尊重」「平和主義」）、③そこでの統治の仕組みの3つがその柱となる。受講者が初学者であることを踏まえて、法一般や憲法に関わる今日的なトピックを多く取り上げることで、抽象的な議論・講述に偏ることを避け、基本的理解が容易に得られるように講義を進める。

【到達目標】

おもに初学者を対象に、法と国家および社会の関係に関する理解を踏まえて、日本国憲法の理念や構成を理解することをテーマとする。日本国憲法の基本原理とそれに基づく内容構成、特徴などの「正しい理解」を通じて、憲法を中心とした法体系の基本構造を把握し、あわせて基礎的な法的知識を身に付けることで、民主的国家的市民として、また主権者として必要な法的・制度的知識と資質を習得することが授業の目標である。それと同時に、現実の社会における様々な法関係に対して、適切かつ妥当な対応ができるような、いわゆる「リーガルマインド（法的思考）」の涵養も目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

前半は対面型講義を実施する。教科書は使用せず、配布資料を基に講義を進める。後半はオンデマンド型とする。ウェブのOATubeに動画資料をアップする。質疑応答は、対面講義中は講義終了後、オンデマンド講義中はウェブ上の掲示板を通じて行う。受けた質問に関するポイントの解説は、次回以降の授業の中で適宜行う

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	日本国憲法を学ぶ意義
2	憲法とは何か	憲法の概要を学ぶ
3	国家の成立	国家の存在意義と憲法の意義
4	国家の役割	国家が果たすべき役割
5	日本国憲法と立憲主義	日本国憲法と立憲主義の関係性について学ぶ
6	グローバル化と日本国憲法	グローバル化が日本国憲法に突き付けた課題を学ぶ
7	統治の基礎①	日本国憲法と権力分立の意義について学ぶ
8	統治の基礎②	国会の役割について学ぶ
9	統治の基礎③	内閣と裁判所について学ぶ
10	日本国憲法の基本原理	日本国憲法の基本的原理である国民主権の意義について学ぶ
11	日本国憲法と人権保障①	人権保障の特色 基本的人権の保障の限界
12	日本国憲法と人権保障②	私人間における人権保障

13 日本国憲法と人権保障 法の下での平等（総論）

③

14 日本国憲法と人権保障 法の下での平等（各論）

④

日本国憲法と家族

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

講義中に指示した資料を閲覧する（紙媒体の資料だけでなく、YouTube等の動画の閲覧を指示する場合もある）。

講義内容をメモにまとめ、分かり易い文章にまとめる（講義内容についてレポート作成を求めため、この作業は成績評価とも直結する）。

【テキスト（教科書）】

特に使用しない。

【参考書】

講義中に適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

講義前半（対面型）の課題レポート（50%）と講義後半（オンデマンド型）の課題レポート（50%）によって、到達目標欄に記載した『憲法の体系的理解』『基礎的法知識』『リーガルマインドの涵養』の達成度を測ることで評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline (in English)】

Learn basic knowledge about the Constitution of Japan.

The theme is to understand the philosophy and structure of the Constitution of Japan, mainly for beginners, based on their understanding of the relationship between law and the state and society. By grasping the basic structure of the legal system centered on the Constitution and acquiring basic legal knowledge through "correct understanding" of the basic principles of the Constitution of Japan and the content structure and characteristics based on it. The goal of the lesson is to acquire the legal and institutional knowledge and qualities necessary as a citizen of a democratic nation and as a sovereign. At the same time, we aim to cultivate a so-called "legal mind" that can respond appropriately and appropriately to various legal relationships in the real world.

The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each.

Browse the materials instructed during the lecture (in some cases, you may instruct to view videos such as YouTube as well as paper materials).

Summarize the content of the lecture in a memo and summarize it in easy-to-understand sentences (this work is directly linked to grade evaluation because a report is required for the content of the lecture).

"Systematic understanding of the Constitution", "Basic legal knowledge" described in the achievement goal column by the task report (50%) in the first half of the lecture (face-to-face type) and the task report (50%) in the second half of the lecture (on-demand type). Evaluate by measuring the degree of achievement of "Legal Mind Development".

ECN100LA

経済学 I

2017 年度以降入学者

玉之内 直

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 4/Mon.4

単位数：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、受講生自らが経済学の理論的背景を理解することにより、現実社会で語られることの多い主な経済統計を読み取り、その含意について考察するための基礎を身につけることを目的とする。

【到達目標】

本講義では、受講生自らが、様々な局面で発表される諸経済指標の変化を読み取り、その背景と意味に関する考察を自らの言葉で説明できる力を養うことを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

受講生は、毎回の講義において出題する課題を提出する。また、課題の提出によって出席の確認に替える。毎回の課題、および、質問等は、講師宛にメールの添付にて提出すること。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	講義の全体像、および、進め方の解説。
第 2 回	市場はどのように機能するか①	市場における需要と供給の作用、弾力性、需要と供給（教科書、ミクロ編第Ⅱ部）
第 3 回	市場はどのように機能するか②	市場における需要と供給の作用、弾力性、需要と供給（教科書、ミクロ編第Ⅱ部）
第 4 回	市場と厚生	市場の効率性等、課税の費用、国際貿易（教科書、ミクロ編第Ⅲ部）
第 5 回	公共部門の経済学	外部性、公共財と共有資源、税制の設計等（教科書、ミクロ編第Ⅳ部）
第 6 回	マクロ経済のデータ①	国民所得の測定等（教科書、マクロ編第Ⅱ部）
第 7 回	マクロ経済のデータ②	国民所得の測定等（教科書、マクロ編第Ⅱ部）
第 8 回	長期の実物経済①	生産と成長、貯蓄、投資と金融システム（教科書、マクロ編第Ⅲ部）
第 9 回	長期の実物経済②	ファイナンスの基本的な分析手法（教科書、マクロ編第Ⅲ部）
第 10 回	長期における貨幣と価格①	貨幣システム、インフレーション（教科書、マクロ編第Ⅳ部）
第 11 回	長期における貨幣と価格②	貨幣システム、インフレーション（教科書、マクロ編第Ⅳ部）
第 12 回	実社会の経済学①	資産運用ビジネスについて
第 13 回	実社会の経済学②	外部講師による講演
第 14 回	おわりに	春学期まとめ 期末レポートについて

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に講義資料を参照のこと。また、授業では、各局面で発表される様々な経済指標を参照するため、新聞各紙の経済面を気にかけておくこと。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

購入を必須としないが、以下 2 冊を講義の礎とする

N.G. マンキュー著、足立、石川、小川、地主、中馬、柳川訳、『マンキュー経済学Ⅰミクロ編（第 3 版）』東洋経済新報社、2014.

N.G. マンキュー著、足立、石川、小川、地主、中馬、柳川訳、『マンキュー経済学Ⅱマクロ編（第 3 版）』東洋経済新報社、2014.

【参考書】

購入を必須としない。

神取道宏、『ミクロ経済学の力』日本評論社、2017.

ジョセフ.E. スティグリッツ著、山田美明訳『スティグリッツ PROGRESSIVE CAPITALISM』東洋経済新報社、2019.

中野剛士、『奇跡の経済教室【基礎知識編】』ベストセラーズ、2019.
ポール・クルーグマン、ロビン・ウェルス著、大山、石橋、塩澤、白井、大東訳、『クルーグマンマクロ経済学（第 2 版）』東洋経済新報社、2019.

【成績評価の方法と基準】

成績は、毎回の講義で出題する課題に対する採点、授業中の発表等（授業への貢献）を踏まえた平常点、および、期末レポートにより評価する。平常点、および、期末レポートは、それぞれ 50 点満点とする。

【学生の意見等からの気づき】

本講義では、様々な経済学の理論が実社会の中でどのように活用されているかについて解説することに重点を置く。

【その他の重要事項】

毎回の課題は、ワープロソフト、エクセルなどの表計算ソフトを利用することが多い。また、課題の提出には E メールを利用する。

【Outline (in English)】

The objective of this course is to enable students to acquire the basics of understanding the main economic statistics that are often mentioned in the real world and considering their implications. The goal of this course is that students will develop their ability to understand changes in various economic indicators announced in different aspects, and to explain the background and implications in their own words. Students are expected to read lecture materials prior to each lecture. In addition, as classes will refer to a wide variety of economic indicators, students are strongly encouraged to pay attention to the Business section of newspapers. Final grades will be evaluated based on assignment scores that will be submitted after each lecture, classroom presentations (contributions to the course), and term end reports.

ECN100LA

経済学Ⅱ

2017年度以降入学者

玉之内 直

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 4/Mon.4

単位数：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、経済学Ⅰを踏まえ、現実社会で語られることの多いトピックスを取り上げ、その背景にある理論と課題について理解することを目的とする。

【到達目標】

本講義では、経済学Ⅰで学んだ理論的背景を踏まえ、近時話題となっているいくつかの関連するトピックスについて実際のデータにもとづき理解し、それらを巡る課題について自らの言葉で説明できる力を養うことを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

受講生は、毎回の講義において出題する課題を提出する。また、課題の提出によって出席の確認に替える。毎回の課題、および、質問等は、講師宛にメールの添付にて提出すること。毎回の講義の前半は、前回講義から今回の講義までに発生した経済イベントに関し受講生が発表を行い、それを踏まえ質疑応答を行う。後半は授業計画にもとづく講義を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	経済学Ⅰの振り返り
第2回	社会保障①	我が国の公的年金制度
第3回	社会保障②	我が国の企業年金制度
第4回	企業行動と産業組織①	独占（教科書、ミクロ編第Ⅴ部）
第5回	企業行動と産業組織②	囚人のジレンマ（教科書、ミクロ編第Ⅴ部）
第6回	企業行動と産業組織③	ナッシュ均衡（教科書、ミクロ編第Ⅴ部）
第7回	企業行動と産業組織④	寡占（教科書、ミクロ編第Ⅴ部）
第8回	長期の実物経済①	効率的市場仮説（教科書、マクロ編第Ⅲ部）
第9回	長期の実物経済②	リスクとリターン（教科書、マクロ編第Ⅲ部）
第10回	長期の実物経済③	リスクとリターン（教科書、マクロ編第Ⅲ部）
第11回	実務の経済学①	ポートフォリオ理論と分散投資
第12回	実務の経済学②	ポートフォリオ理論と分散投資
第13回	実務の経済学③	実社会で活躍する実務家による講演
第14回	まとめ	秋学期の振り返り 期末レポートについて

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に講義資料を参照のこと。また、講義において発表可能なように、新聞各紙の経済面を気にかけておくこと。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

購入を必須としないが、以下2冊を講義の礎とする

N.G. マンキュー著、足立、石川、小川、地主、中馬、柳川訳、『マンキュー経済学Ⅰミクロ編（第3版）』東洋経済新報社、2014.

N.G. マンキュー著、足立、石川、小川、地主、中馬、柳川訳、『マンキュー経済学Ⅱマクロ編（第3版）』東洋経済新報社、2014.

【参考書】

『ミクロ経済学の力』（神取道宏、日本評論社）

ジョセフ.E. スティグリッツ著、山田美明訳『スティグリッツ PROGRESSIVE CAPITALISM』東洋経済新報社、2019.

中野剛士、『奇跡の経済教室【基礎知識編】』ベストセラーズ、2019.
ポール・クルーグマン、ロビン・ウェルス著、大山、石橋、塩澤、白井、大東訳、『クルーグマンマクロ経済学（第2版）』東洋経済新報社、2019.

【成績評価の方法と基準】

成績は、毎回の講義で出題する課題に対する採点、授業における発表等（授業への貢献）を踏まえた平常点、および、期末レポートにより評価する。平常点、および、期末レポートは、それぞれ50点満点とする。

【学生の意見等からの気づき】

本講義は、若干発展的ながら、実社会と密接な繋がりのあるテーマを扱う。講義内容については受講生の関心度合いも高かったものの、理解度にはバラつきがあった。先を急がずわかりやすい講義を心がける。なお、経済学Ⅰとの関連はあるものの、本講義のみの受講も可能である。

【学生が準備すべき機器他】

特に指定しない

【その他の重要事項】

毎回の課題は、ワープロソフト、エクセルなどの表計算ソフト、および、パワーポイントなどのプレゼンテーション作成ソフトを利用する。また、課題の提出にはEメールを利用する。

【Outline (in English)】

With reference to Economics I, the objective of this course is to address a selection of topics discussed in the real world and to enable students to comprehend rationales and issues behind. The goal of this course is that students will understand some current topics based on actual data as well as develop their ability to explain issues around them in their own words, based on the theoretical background learned in Economics I. Students are expected to read lecture materials prior to each lecture. In addition, as classes will refer to a wide variety of economic indicators, students are strongly encouraged to pay attention to the Business section of newspapers. Final grades will be evaluated based on assignment scores that will be submitted after each lecture, classroom presentations (contributions to the course), and term end reports.

ECN100LA

経済学 I

2017 年度以降入学者

千葉 千尋

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 2/Thu.2

単位数：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

経済学 I では、経済学の基礎から専門基礎レベルを身につけていくことを目指します。社会の基盤を成す経済の仕組み、それを体系的に解き明かすのが経済学です。ここでは、経済学の概念、ルーツ、理論などを、身近な事例と関連付けながら学んでいきます。経済を知ることによって社会の実態と変容を理解できるようになり、国際関係などを理解出来る力を身につけることが出来ます。

(秋学期の経済学 II では、応用基礎のレベルまで身につけていくことを目指します)

【到達目標】

・経済、金融を理解する基礎知識と応用力を身につけ、様々な経済、社会問題の把握と考察を行っていきける知識基盤を身につけること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式で行います。

講義の中で様々なグラフ、統計、数式が出てくる場面はありますが、数学的な能力を身につけることが目的ではないため、数学的要素を極力省くことで親しみやすい経済学を通じ、経済事象への関心を高め、理解が出来るベースを作ります。最終回は、期末テストを実施します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス 経済と経済学	経済学とは何か、何のために学ぶのか
2	経済学の基礎概念 1	SDG s に経済学が不可欠なわけ 経済財とは？ 経済取引とは？
3	経済学の基礎概念 2	市場の意義 需要と供給 お金と価格 効用 余剰と予算制約
4	経済学のルーツと理論 の発展 1	オイコノミー（執事家政学）から ミクロ基盤の近代経済学（A. スミス古典派完全市場経済学）の発展
5	経済学のルーツと理論 の発展 2	需給構造の変化と古典派経済学の 行き詰まり ケインズ マクロ経済学の登場
6	実態変化と理論の変遷	ケインズ経済学 国全体の経済構造と活動の体系化 を実現 GDP の概念と経済政策の理論基礎付け 実物市場と金融市場の体系的把握

7	専門基礎 1 市場メカニズム	市場メカニズム（需給の決定と 価格） 市場の不完全性（レモン問題）
8	専門基礎 2 GDP、財市場の均衡	財市場、GDP の構成と需要の 決定 財市場の均衡 貯蓄のパラドックス
9	専門基礎 3 ミクロとマクロ	実物経済 ミクロとマクロの関係
10	専門基礎 4 貨幣市場	貨幣の定義と機能 実物財に対する相対価値としての 価格
11	専門基礎 5 金融	金融とは？ 金融取引の価格 = 金利の意味と 決定 割引現在価値
12	専門基礎 6 マネー管理	不換紙幣 マネーサプライ管理の仕組み 中央銀行の機能と金融政策手段
13	専門基礎 7 金融市場と財市場の均 衡	金融市場と財市場の均衡 IS 曲線、LM 曲線の導出 IS/LM モデルの概要 AD-AS 分析の意味
14	期末テストおよび総復 習	講義内容の総復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業は、各回の準備学習 1 時間、復習時間 3 時間程度を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特にありません。

【参考書】

参考書、文献、資料などは、各回必要に応じてお知らせします。

【成績評価の方法と基準】

期末試験 = 100 % (試験 = 100 点満点)

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更により、特にありません。

【学生が準備すべき機器他】

特にありません。

【その他の重要事項】

経済学 II の履修を予定する学生は、同 II が直面する問題等を含めた応用基礎の内容となるので本経済学 I の講義を履修しておくことが望まれます。

【Outline (in English)】

Economics I introduce a broad perspective of basic economic theories as well as understanding economic related activities. The goal of this course is to grasp a sense of economic theories and models and become to be able to relate them to understand ongoing world issues.

Your required study time is at least one hour before class and three hours after class.

Your overall grade will be decided 100% on Term-end examination.

ECN100LA

経済学Ⅱ

2017年度以降入学者

千葉 千尋

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 2/Thu.2

単位数：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

経済学Ⅰの基礎知識を要約レビューした上で、実践的に国際社会や日本が直面する社会経済的課題を専門基礎のレベルから解き明かし、経済学と経済知識の応用力を身に付けていくことを目指します。

【到達目標】

・様々な経済、社会問題の把握と考察を経済学の基礎知識の応用から、実践的に考察していける力を身に付けることを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式を基本とします。
後半1~2回グループディスカッションを行います。
最終回は、期末テストを実施します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス 経済学の応用基礎 基本概念1	経済財、経済取引 需要と供給 お金と価格
2	基本概念2	市場メカニズム ミクロとマクロ 財市場 GDPの構成と需要の決定
3	基本概念3	貨幣の定義と機能 金融システムと中央銀行
4	基本概念4	国際取引とマクロ経済、金融の 関係 国際取引関係と経済の収支バラン ス
5	基本概念5	国際決済と外国為替の基礎、国際 収支の発展段階説
6	直面する課題と経済学 日本経済の衰退1	日本経済衰亡の実態 デフレ衰退のメカニズムと実態
7	日本経済の衰退2	正常化への道を探る 市場機能の不全と国際競争力の基 盤の衰退が構造化
8	グローバル化1 グローバル化と市場と 国家 国家間の対立と新たな 関係	経済グローバル化の進行と国家の 後退 グローバル化による市場統合と国 民経済関係の構造的変貌 国家間の新たな競争と対立（中国 の台頭と米中関係）
9	グローバル化2 グローバル化と地域統 合化	グローバル化での地域統合は解決 策か？ EUの拡大、アセアン経済共同体、 メルコスールの展開から考える

10	グローバル化3 グローバル化と国際ガ バナンス	G A F Aの台頭と国際ガバナンス 世界共通決済システム内臓の仮想 通貨の意義と限界 グローバル経済統合と民主主義、 相互矛盾相克への道、ロドリク・ モデルから考える。
11	エネルギー1 エネルギー革命	エネルギー革命の進行 その推移と実態
12	エネルギー2 エネルギーと経済の長 期波動	経済の長期成長波動とエネルギー 革命の関連性 再生エネルギーから究極の水素循 環型エネルギーへの転換初期に伴 うグリーン成長と雇用波及の視点 から日本経済再生の道を考える
13	資本主義の存続	資本主義の史的構造変化とピケ ティの指摘 資本主義が内蔵するメカニズムか ら存続への課題を探る
14	期末テストおよび総ま とめ	期末テストおよび総まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業は、各回の準備学習1時間、復習時間3時間程度を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特にありません。

【参考書】

参考書、文献、資料などは、各回必要に応じてお知らせします。

【成績評価の方法と基準】

期末試験 = 100%（試験 = 100点満点）。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更により、特にありません。

【学生が準備すべき機器他】

特にありません。

【その他の重要事項】

本講義は、基礎となる経済学Ⅰの講義をあらかじめ履修しておくことをお勧めします。

【Outline (in English)】

Economics II focuses more on the practical side of Economics I. Here we study ongoing issues and crisis that are deeply related to economic activities, policies and theories.

The goal of this course is to grasp a further sense of economic theories used in practice as well as to understand its cause and effects in our real world.

Your required study time is at least one hour before class and three hours after each class.

(Students are strongly required to take Economics I in advance.)

Your overall grade will be decided 100% on Term-end examination.

ECN100LA

経済学 I

2017 年度以降入学者

関口 駿輔

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 4/Thu.4

単位数：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

経済学は多くの内容から構成されるが、本授業では最も基本であるミクロ経済学を学び、入門コースとして必須の考え方を習得する。家計・企業・政府が経済活動の判断を行う基準は何か、市場の取引により無駄のない資源配分が実現するのか、無駄がある場合に必要な対処は何かというポイントを理解し、経済社会の課題に対して柔軟に発言できる基礎力を養成することが目的である。

【到達目標】

目標は、①身の回りの出来事の背景にある経済主体の判断基準を理解できること、②価格が変化する競争的な市場の意味を理解できること、③経済ニュースの内容について経済学が示す論点と政策的な判断の違いが理解できるようになることの3点である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

授業は板書による講義形式で進める。その際、現実問題を経済学で考える習慣を身につけるために、新聞記事・雑誌などからも適宜教材を提供する。講義資料は学習支援システム（Hoppii）に事前に掲載する（第1回目は印刷物を配布します）。授業中に講義内容を復習する練習問題を実施し、受講生の理解を深める。学期中に小テストを実施し、ミクロ経済学の理解を確認する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス、経済学の基本原理（1）	授業の概要説明、経済学の基本的考え方を学ぶ（トレードオフ、機会費用、限界概念など）
2	経済学の基本原理（2）	経済学の基本的考え方を学ぶ（比較生産費説、失業率と物価など）
3	企業の行動（1）	費用について
4	企業の行動（2）	利潤最大化、損益分岐点、操業停止点について
5	企業の行動（3）	生産関数について
6	消費者の行動（1）	効用最大化について
7	消費者の行動（2）	需要（量）の変化と弾力性について
8	消費者の行動（3）	効用最大化の応用（労働と余暇、リスク）
9	企業と消費者の行動のまとめ（小テスト）	小テストと解説
10	余剰分析	余剰と政策の評価
11	不完全競争（1）	独占について
12	不完全競争（2）	寡占市場について
13	ゲーム理論	利得表と決定木について
14	期末試験	試験・まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。新聞・雑誌の経済記事やテレビの経済番組に幅広く接し、経済学がどのように活用されているか理解することを勧める。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しません。学習には講義資料を活用してください。

【参考書】

マンキュー（2019）『入門経済学』（第3版）東洋経済新報社
資格試験研究会（2020）『新スーパー過去問ゼミ6 ミクロ経済学』実務教育出版
伊藤元重（2021）『ビジネス・エコノミクス』（第2版）日本経済新聞出版

【成績評価の方法と基準】

小テスト 30%（2回）、期末試験 70%

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システム（Hoppii）を利用するためのパソコン（可能であればノートパソコンが望ましい）が必要。

【その他の重要事項】

コロナ禍の状況によっては、対面の形態を変更することがある。

【Outline (in English)】

This is an introductory course of microeconomics with an emphasis on understanding basic framework of economic theory: decision making of household, firms and government, economic consequences of economic transactions in the market. The course aims to enhance the ability to understand economic and social outcomes based on the reasoning with microeconomics. Students are expected to prepare for the class by studying the course materials for two hours prior to the class and to follow up each class with two hours of review. Students are graded by two short-answer tests (30%) and the final exam (70%).

ECN100LA

経済学Ⅱ

2017年度以降入学者

梅溪 健児

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 4/Wed.4

単位数：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

授業ではマクロ経済学の基礎を取り上げ、日本のマクロ経済を理解するために必須の考え方を習得する。GDP（国内総生産）による経済全体の把握、経済成長、消費や投資などの有効需要、経済政策と政府の役割、インフレとデフレ、雇用と失業、為替レート、海外との取引などについて、体系的に理解できるようになることが目的である。

【到達目標】

目標は、①経済の持続的な成長について経済学の標準的な考え方が理解できること、②政府と中央銀行が経済成長と物価の安定に果たす役割を事例に基づいて理解できること、③経済データと図表に慣れ、目の子計算で数値の意味が理解できるようになることの3点である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

授業は教科書に基づき講義形式で進める。その際、基礎理論の図表、因果関係のフローチャート、経済データの図表を教材として配布する。また、世界で現実には起きている事象を取り上げ、マクロ経済学の適用事例として理解を深める。講義資料は学習支援システム（Hoppii）に事前に掲載する。授業中に講義内容を復習するクイズを実施し、受講生の理解を深める。学期中に小テストを2回実施し、マクロ経済学の基礎用語の理解を確認する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	マクロ経済とは	GDP（国内総生産）を学ぶ（教科書第9章）
2	経済成長	経済成長を需要側と供給側から考える（第15章）
3	有効需要	マクロ経済の均衡を学ぶ（第10章）
4	マクロ経済政策	財政政策と金融政策を学ぶ（第12章）
5	景気対策	不況期の財政出動を学ぶ（第12章）
6	貨幣と金融政策	貨幣の機能と金融調節を学ぶ（第11章）
7	インフレとデフレ	物価の変動と経済への影響、金融政策の役割を学ぶ（第13章）
8	雇用と失業	労働市場の変動と要因を学ぶ（第13章）
9	日本型雇用	労働市場の動向、賃金決定、ジョブ型雇用を学ぶ（第13章）（清家他2020）
10	高齢社会の財政運営	社会保障費の増大と社会保障改革を学ぶ（第14章）
11	財政健全化	財政赤字の原因と対処、基礎的財政収支の考え方を学ぶ（第14章）

12	為替レート	円高・円安の経済効果を学ぶ（第16章）
13	貿易と直接投資	比較優位の考え方及び貿易と直接投資の動向、開放経済の分析を学ぶ（第16章）
14	期末試験	試験・まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。新聞・雑誌の経済記事やテレビの経済番組に幅広く接し、経済学がどのように活用されているか理解することを勧める。マクロ経済学は財政金融政策の運営とつながりが深いので、政府や国際機関の経済ニュースに関心を持つことが有益である。

【テキスト（教科書）】

伊藤元重（2015）『入門経済学』（第4版）日本評論社

【参考書】

塩路悦朗（2019）『やさしいマクロ経済学』日経文庫
清家篤・風神佐知子（2020）『労働経済』東洋経済新報社
田中久稔（2018）『経済数学入門の入門』岩波新書
吉川洋（2016）『人口と日本経済』中公新書
渡辺努（2022）『世界インフレの謎』講談社現代新書

【成績評価の方法と基準】

小テスト30%（2回）、期末試験70%

【学生の意見等からの気づき】

学期の中盤では雇用に関連して2回の講義を行うが、日本型雇用の中で若者が直面している雇用問題を取り上げる。これが学生の関心にマッチしているため、今年度も内容を充実させていきたい。講義中に実施する復習のためのクイズは内容理解を助けるとの意見が多いので、継続する。期末試験には簡単な計算問題を出题するが、講義の中で計算問題を練習する機会を増やしてほしいとの声があったので、少しずつ続けていきたい。春学期のミクロ経済学に比べると、マクロ経済学の事例は日常生活で実感することが少ない学生が多いようだが、国際的にも社会的にも、また就職試験においても関連の深い内容なのでじっくり履修することを望む。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システム（Hoppii）を利用するためのパソコン（可能であればノートパソコンが望ましい）が必要。

【その他の重要事項】

毎回、英語の教材を配布するので知見を深めてほしい。
昨年度は小テストと期末試験を学習支援システム（Hoppii）の「テスト」にて実施した。本年度も継続する予定。
コロナ禍の状況によっては、対面授業の形態を変更することがある。

【Outline (in English)】

This is an introductory course of standard macroeconomics. Topics to be covered are growth theory, effective demand such as consumption and investment, role of government and economic policy, prices, employment, and exchange rates and goods and service trade. The course aims to help understand fundamental ideas of macroeconomic theory. Students are expected to prepare for the class by studying the course materials for two hours prior to the class and to follow up each class with two hours of review. Students are graded by two short-answer tests (30%) and the final exam (70%).

ECN100LA

経済学 I

2017 年度以降入学者

玉之内 直

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：土 1/Sat.1

単位数：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、受講生自らが経済学の理論的背景を理解することにより、現実社会で語られることの多い主な経済統計を読み取り、その含意について考察するための基礎を身につけることを目的とする。

【到達目標】

本講義では、受講生自らが、様々な局面で発表される諸経済指標の変化を読み取り、その背景と意味に関する考察を自らの言葉で説明できる力を養うことを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

受講生は、毎回の講義において出題する課題を提出する。また、課題の提出によって出席の確認に替える。毎回の課題、および、質問等は、講師宛にメールの添付にて提出すること。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	講義の全体像、および、進め方の解説。
第 2 回	市場はどのように機能するか①	市場における需要と供給の作用、弾力性、需要と供給（教科書、ミクロ編第Ⅱ部）
第 3 回	市場はどのように機能するか②	市場における需要と供給の作用、弾力性、需要と供給（教科書、ミクロ編第Ⅱ部）
第 4 回	市場と厚生	市場の効率性等、課税の費用、国際貿易（教科書、ミクロ編第Ⅲ部）
第 5 回	公共部門の経済学	外部性、公共財と共有資源、税制の設計等（教科書、ミクロ編第Ⅳ部）
第 6 回	マクロ経済のデータ①	国民所得の測定等（教科書、マクロ編第Ⅱ部）
第 7 回	マクロ経済のデータ②	国民所得の測定等（教科書、マクロ編第Ⅱ部）
第 8 回	長期の実物経済①	生産と成長、貯蓄、投資と金融システム（教科書、マクロ編第Ⅲ部）
第 9 回	長期の実物経済②	ファイナンスの基本的な分析手法（教科書、マクロ編第Ⅲ部）
第 10 回	長期における貨幣と価格①	貨幣システム、インフレーション（教科書、マクロ編第Ⅳ部）
第 11 回	長期における貨幣と価格②	貨幣システム、インフレーション（教科書、マクロ編第Ⅳ部）
第 12 回	実社会の経済学①	資産運用ビジネスについて
第 13 回	実社会の経済学②	外部講師による講演
第 14 回	おわりに	春学期まとめ 期末レポートについて

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に講義資料を参照のこと。また、授業では、各局面で発表される様々な経済指標を参照するため、新聞各紙の経済面を気にかけておくこと。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

購入を必須としないが、以下 2 冊を講義の礎とする
N.G. マンキュー著、足立、石川、小川、地主、中馬、柳川訳、『マンキュー経済学Ⅰミクロ編（第 3 版）』東洋経済新報社、2014。
N.G. マンキュー著、足立、石川、小川、地主、中馬、柳川訳、『マンキュー経済学Ⅱマクロ編（第 3 版）』東洋経済新報社、2014。

【参考書】

購入を必須としない。
神取道宏、『ミクロ経済学の力』日本評論社、2017。
ジョセフ.E. スティグリッツ著、山田美明訳『スティグリッツ PROGRESSIVE CAPITALISM』東洋経済新報社、2019。
中野剛士、『奇跡の経済教室【基礎知識編】』ベストセラーズ、2019。
ポール・クルーグマン、ロビン・ウェルス著、大山、石橋、塩澤、白井、大東訳、『クルーグマンマクロ経済学（第 2 版）』東洋経済新報社、2019。

【成績評価の方法と基準】

成績は、毎回の講義で出題する課題に対する採点、授業中の発表等（授業への貢献）を踏まえた平常点、および、期末レポートにより評価する。平常点、および、期末レポートは、それぞれ 50 点満点とする。

【学生の意見等からの気づき】

本講義では、様々な経済学の理論が実社会の中でどのように活用されているかについて解説することに重点を置く。

【その他の重要事項】

毎回の課題は、ワープロソフト、エクセルなどの表計算ソフトを利用することが多い。また、課題の提出には E メールを利用する。

【Outline (in English)】

The objective of this course is to enable students to acquire the basics of understanding the main economic statistics that are often mentioned in the real world and considering their implications. The goal of this course is that students will develop their ability to understand changes in various economic indicators announced in different aspects, and to explain the background and implications in their own words. Students are expected to read lecture materials prior to each lecture. In addition, as classes will refer to a wide variety of economic indicators, students are strongly encouraged to pay attention to the Business section of newspapers. Final grades will be evaluated based on assignment scores that will be submitted after each lecture, classroom presentations (contributions to the course), and term end reports.

ECN100LA

経済学Ⅱ

2017年度以降入学者

玉之内 直

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：土 1/Sat.1

単位数：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、経済学Ⅰを踏まえ、現実社会で語られることの多いトピックスを取り上げ、その背景にある理論と課題について理解することを目的とする。

【到達目標】

本講義では、経済学Ⅰで学んだ理論的背景を踏まえ、近時話題となっているいくつかの関連するトピックスについて実際のデータにもとづき理解し、それらを巡る課題について自らの言葉で説明できる力を養うことを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

受講生は、毎回の講義において出題する課題を提出する。また、課題の提出によって出席の確認に替える。毎回の課題、および、質問等は、講師宛にメールの添付にて提出すること。毎回の講義の前半は、前回講義から今回の講義までに発生した経済イベントに関し受講生が発表を行い、それを踏まえ質疑応答を行う。後半は授業計画にもとづく講義を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	経済学Ⅰの振り返り
第2回	社会保障①	我が国の公的年金制度
第3回	社会保障②	我が国の企業年金制度
第4回	企業行動と産業組織①	独占（教科書、ミクロ編第Ⅴ部）
第5回	企業行動と産業組織②	囚人のジレンマ（教科書、ミクロ編第Ⅴ部）
第6回	企業行動と産業組織③	ナッシュ均衡（教科書、ミクロ編第Ⅴ部）
第7回	企業行動と産業組織④	寡占（教科書、ミクロ編第Ⅴ部）
第8回	長期の実物経済①	効率的市場仮説（教科書、マクロ編第Ⅲ部）
第9回	長期の実物経済②	リスクとリターン（教科書、マクロ編第Ⅲ部）
第10回	長期の実物経済③	リスクとリターン（教科書、マクロ編第Ⅲ部）
第11回	実務の経済学①	ポートフォリオ理論と分散投資
第12回	実務の経済学②	ポートフォリオ理論と分散投資
第13回	実務の経済学③	実社会で活躍する実務家による講演
第14回	まとめ	秋学期の振り返り 期末レポートについて

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に講義資料を参照のこと。また、講義において発表可能なように、新聞各紙の経済面を気にかけておくこと。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

購入を必須としないが、以下2冊を講義の礎とする

N.G. マンキュー著、足立、石川、小川、地主、中馬、柳川訳、『マンキュー経済学Ⅰミクロ編（第3版）』東洋経済新報社、2014。

N.G. マンキュー著、足立、石川、小川、地主、中馬、柳川訳、『マンキュー経済学Ⅱマクロ編（第3版）』東洋経済新報社、2014。

【参考書】

『ミクロ経済学の力』（神取道宏、日本評論社）

ジョセフ.E. スティグリッツ著、山田美明訳『スティグリッツ PROGRESSIVE CAPITALISM』東洋経済新報社、2019。

中野剛士、『奇跡の経済教室【基礎知識編】』ベストセラーズ、2019。
ポール・クルーグマン、ロビン・ウェルス著、大山、石橋、塩澤、白井、大東訳、『クルーグマンマクロ経済学（第2版）』東洋経済新報社、2019。

【成績評価の方法と基準】

成績は、毎回の講義で出題する課題に対する採点、授業における発表等（授業への貢献）を踏まえた平常点、および、期末レポートにより評価する。平常点、および、期末レポートは、それぞれ50点満点とする。

【学生の意見等からの気づき】

本講義は、若干発展的ながら、実社会と密接な繋がりのあるテーマを扱う。講義内容については受講生の関心度合いも高かったものの、理解度にはバラつきがあった。先を急がずわかりやすい講義を心がける。なお、経済学Ⅰとの関連はあるものの、本講義のみの受講も可能である。

【学生が準備すべき機器他】

特に指定しない

【その他の重要事項】

毎回の課題は、ワープロソフト、エクセルなどの表計算ソフト、および、パワーポイントなどのプレゼンテーション作成ソフトを利用する。また、課題の提出にはEメールを利用する。

【Outline (in English)】

With reference to Economics I, the objective of this course is to address a selection of topics discussed in the real world and to enable students to comprehend rationales and issues behind. The goal of this course is that students will understand some current topics based on actual data as well as develop their ability to explain issues around them in their own words, based on the theoretical background learned in Economics I. Students are expected to read lecture materials prior to each lecture. In addition, as classes will refer to a wide variety of economic indicators, students are strongly encouraged to pay attention to the Business section of newspapers. Final grades will be evaluated based on assignment scores that will be submitted after each lecture, classroom presentations (contributions to the course), and term end reports.

ECN100LA

マクロ経済学 I

2017 年度以降入学者

平田 英明

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 2/Thu.2

単位数：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

芥川賞を受賞したお笑いコンビ・ピースの又吉直樹さんは、「人は人生のあらゆる局面において自分で選択をしなければなりません。そこには落とし穴もあるでしょうし、迷子になることもあるかもしれません。（中略）『経済学』はそんな厄介な道の危険な箇所や迷いやすい箇所を教えてくれる地図」になると指摘しています。ここで「人」というのは、個々人だけでなく、個々の企業を含んでも構いません。つまり、経営学部で一番学びたいことを、経済学の視点から学べるのです。

この授業では、日本の経済、世界の経済を鳥瞰する上でどのような物差しで見ればよいかという点についての基礎知識が身につきます。そして、履修を通じて、マクロ経済学的な視点から消費者行動や企業活動を論理的に考えることができるようになるはずです。

【到達目標】

大企業のトップのインタビュー等を見ると、学生の皆さんも彼らの日本や世界のマクロ経済の現況に関する理解度が極めて高いことがわかるでしょう。それは、自社の経営が日本経済ならびに世界経済の状況次第で大きく影響されるからに他なりません。この授業では、日本のマクロ経済や世界の先進国（場合によって途上国）のマクロ経済をどのように理解すればよいかについての方法論の基礎の基礎を紹介していきます。

春学期（マクロ経済学 I）は、GDP やその他の主要なマクロ経済指標について一通り学んだ上で、マネーと中央銀行、財政の仕組みと機能といった経済政策面の基礎に触れた上で、それらを総合的に分析するモデルに少し触れていきます。これにより、学生の皆さんがマクロ的に経済を鳥瞰する基本のスタイルを学べます。

秋学期（マクロ経済学 II）は、そのモデルを発展して物価と GDP の決定方法を学びます。その上で、インフレとデフレ、為替レート、経済成長、景気変動といったトピックに取り組みます。これにより、学生の皆さんがマクロ的に経済を分析する方法論の基本を学べます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

本授業は対面授業とオンデマンド授業（2021 年に作成）の組み合わせで実施の予定です。1 セメスター 14 回の授業のうち半分の 7 回を対面授業とする予定です（詳細は 4 月の最初の授業で説明します）。ただし、オンデマンドでは全 14 回分の授業が録画されていますので、対面授業に参加せず、オンデマンド授業のみで聴講しても構いません。

スライドや資料を使った講義形式を軸とします。授業の告知や資料等は、原則として全て「学習支援システム」を使って発信します。また、質問やコメントに関するフィードバックも「学習支援システム」を通じて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	授業の説明	授業計画の紹介とマクロ経済学とミクロ経済学の違いを説明をします
2	序章 マクロ経済学とは 1	経済の捉え方の切り口の基本を紹介していきます

3	序章 マクロ経済学とは 2	経済の捉え方の切り口の基本を紹介した上で、GDP の基本を学びます
4	マクロ経済を観察する 1 (GDP)	マクロ経済を観察します
5	マクロ経済を観察する 2 (GDP)	GDP の基本を学び、実質と名目と物価の関係を学びます。
6	マクロ経済を観察する 3 (物価)	物価統計の基本的な特徴を理解します
7	マクロ経済を観察する 4 (失業率、景気)	労働市場関連統計と景気動向関連統計の基本的な仕組みを理解します
8	マクロ経済を支える金融市場 1	マネー、金利と金融市場の基礎を学びます
9	マクロ経済を支える金融市場 2	中央銀行の役割とマネーの関係を理解します
10	マクロ経済を支える金融市場 3	貨幣の機能と中央銀行の役割 1
11	貨幣の機能と中央銀行の役割 2	金融システムの安定化の意義を理解します
12	貨幣の機能と中央銀行の役割 3	中央銀行による経済政策（金融政策）の基本を学びます。財政の意義とその決まり方を把握します
13	財政の仕組みと機能 1	義とその決まり方を把握します
14	財政の仕組みと機能 2	税制の基本を学びます
15	財政の仕組みと機能 3	国債と政府債務の基本的特徴を理解します
16	演習	春学期に学んだ内容に関連する例題の演習を行います
17	授業内期末試験	期末試験を実施します

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

平口良司・稲葉大『マクロ経済学－入門の「一歩前」から応用まで 新版』（有斐閣）

ISBN 978-4-641-15076-8

【参考書】

新聞やレポート等を参考資料として紹介（授業支援システムに掲載）。

【成績評価の方法と基準】

持ち込み可の期末試験によって評価を行います。なお、 $+a$ として授業内での発言等について加点をする場合があります。ただし、あくまで加点であり、原則として期末試験の成績で成績評価を決めます。

期末試験の際に、以下のいずれかが選択できます。

(ア)S～D の評価基準で評価を求める（学生は全問に解答）。

(イ)C～D の評価基準で評価を求める（学生は限られた数の設問に解答）。

なお、単位取得率は例年 95 % 程度であり、落第者（D）の大半は殆ど授業に出席していない学生です。

【学生の意見等からの気づき】

学生からは特にネガティブな意見は聞かれおらず、例年通りに授業は行方予定です。モデル部分は複雑な場合があるので、極力、複数回、違う角度から説明をするように心がけます。

対面授業部分は、昨年度の授業履修者のアンケート結果に基づいて、対面の希望が多かった部分にしています。

【その他の重要事項】

担当教員は、日本銀行における金融政策業務の経験を有します。また、国際通貨基金（IMF）や世界銀行（World Bank）におけるコンサルタント業務の経験も有します。こういった実務的な経験を踏まえ、生きた経済事象の説明を心がけたいです。

【Outline (in English)】

This class is designed for the students who firstly learn the basics of macroeconomics. You will learn what firms and households do in the economy from a macroeconomic perspective. You will learn the basic tools of macroeconomics to understand what is going on in the Japanese and the world economy.

In the spring semester (Macroeconomics I), we will learn about GDP and other major macroeconomic indicators, the basics of economic policy such as money and central banks, and the structure and function of public finance. And then we touch on models for analyzing them in a comprehensive manner. In the fall semester (Macroeconomics II), we will develop the model and learn how prices and GDP are determined. We will then tackle topics such as inflation and deflation, exchange rates, economic growth, and business cycle fluctuations.

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Evaluation will be based on the open-book style final exam. In addition, extra points may be given for comments made in class.

At the time of the final exam, you can choose one of the following options.

(a) Ask for a grade based on the evaluation criteria of S to D (students answer all questions).

(b) Ask for a grade based on the evaluation criteria of C to D (students answer a limited number of questions).

ECN100LA

マクロ経済学Ⅱ

2017年度以降入学者

平田 英明

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 2/Thu.2

単位数：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

芥川賞を受賞したお笑いコンビ・ピースの又吉直樹さんは、「人は人生のあらゆる局面において自分で選択をしなければなりません。そこには落とし穴もあるでしょうし、迷子になることもあるかもしれません。（中略）『経済学』はそんな厄介な道の危険な箇所や迷いやすい箇所を教えてくれる地図」になると指摘しています。ここで「人」というのは、個々人だけでなく、個々の企業を含んでも構いません。つまり、経営学部で一番学びたいことを、経済学の視点から学べるのです。

この授業では、日本の経済、世界の経済を鳥瞰する上でどのような物差しで見ればよいかという点についての基礎知識が身につきます。そして、履修を通じて、マクロ経済学的な視点から消費者行動や企業活動を論理的に考えることができるようになるはずです。

【到達目標】

大企業のトップのインタビュー等を見ると、学生の皆さんも彼らの日本や世界のマクロ経済の現況に関する理解度が極めて高いことがわかるでしょう。それは、自社の経営が日本経済ならびに世界経済の状況次第で大きく影響されるからに他なりません。この授業では、日本のマクロ経済や世界の先進国（場合によって途上国）のマクロ経済をどのように理解すればよいかについての方法論の基礎の基礎を紹介していきます。

春学期（マクロ経済学Ⅰ）は、GDP やその他の主要なマクロ経済指標について一通り学んだ上で、マネーと中央銀行、財政の仕組みと機能といった経済政策面の基礎に触れた上で、それらを総合的に分析するモデルに少し触れていきます。これにより、学生の皆さんがマクロ的に経済を鳥瞰する基本のスタイルを学べます。

秋学期（マクロ経済学Ⅱ）は、そのモデルを発展して物価と GDP の決定方法を学びます。その上で、インフレとデフレ、為替レート、経済成長、景気変動といったトピックに取り組みます。これにより、学生の皆さんがマクロ的に経済を分析する方法論の基本を学べます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

本授業は2021年に作成されたばかりのオンデマンド映像と対面授業の組み合わせで実施の予定です（対面授業は状況によってはオンラインでの実施の可能性）。そして、スライドや資料を使った講義形式を軸とします。授業の告知や資料等は、原則として全て「学習支援システム」を使って発信します。また、質問やコメントに関するフィードバックも「学習支援システム」を通じて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	GDP と金利の決まり方1	総需要と物価の関係を学びます
2	GDP と金利の決まり方2	総供給と物価の関係を学びます
3	GDP と金利の決まり方3	金利と GDP の決まり方を考察します
4	総需要・総供給分析1	物価が一定ではない世界の枠組みを理解します
5	総需要・総供給分析2	マクロ的な均衡状態の背後で何が起きるのかを理解します

6	総需要・総供給分析3	マクロ経済政策の役割を考察します
7	インフレとデフレ1	インフレとデフレの意味とその発生原因を学びます
8	インフレとデフレ2	実質金利、インフレとデフレのコストを学びます
9	国際マクロ経済1	海外との取引の計測の仕方を学びます
10	国際マクロ経済2	為替市場と特徴と短期的な決定要因を学びます、開放経済下での経済政策の効果を学びます
11	経済成長1	経済成長モデルを使った分析を行います
12	経済成長2	経済成長の要因を理解します
13	演習	例題に取り組みます
14	授業内期末試験	期末試験を実施します

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

平口良司・稲葉大『マクロ経済学－入門の「一歩前」から応用まで新版』（有斐閣）

ISBN 978-4-641-15076-8

【参考書】

新聞やレポート等を参考資料として紹介（授業支援システムに掲載）。

【成績評価の方法と基準】

持ち込み可の期末試験によって評価を行います。なお、+ a として授業内での発言等について加点をする場合があります。ただし、あくまで加点であり、原則として期末試験の成績で成績評価を決めます。

期末試験の際に、以下のいずれかが選択できます。

(ア)S～D の評価基準で評価を求める（学生は全問に解答）。

(イ)C～D の評価基準で評価を求める（学生は限られた数の設問に解答）。

なお、単位取得率は例年 95 % 程度であり、落第者（D）の大半は殆ど授業に出席していない学生です。

【学生の意見等からの気づき】

学生からは特にネガティブな意見は聞かれおらず、例年通りに授業は行う予定です。モデル部分は複雑な場合があるので、極力、複数回、違う角度から説明するように心がけます。

【その他の重要事項】

担当教員は、日本銀行における金融政策業務の経験を有します。また、国際通貨基金（IMF）や世界銀行（World Bank）におけるコンサルタント業務の経験も有します。こういった実務的な経験を踏まえ、生きた経済事象の説明を心がけたいです。

【Outline (in English)】

This class is designed for the students who firstly learn the basics of macroeconomics. You will learn what firms and households do in the economy from a macroeconomic perspective. You will learn the basic tools of macroeconomics to understand what is going on in the Japanese and the world economy.

When we read interviews conducted with top executives of major companies, we can see that they are extremely knowledgeable about the current macroeconomic situation in Japan and the world. This is because the state of the Japanese and global economies greatly affects the management of their companies. In this course, we introduce the basic methodology for understanding the macroeconomics of Japan and developed (and developing) countries around the world.

In the spring semester (Macroeconomics I), we will go over GDP and other major macroeconomic indicators, touch on the fundamentals of the economic policy such as money policy and fiscal policy, and then touch on models to analyze them in a comprehensive manner. This will allow students to learn the basic style of bird's eye view of the macroeconomy.

In the fall semester (Macroeconomics II), students will develop various types of models. They will learn how prices and GDP are determined. Students will then study topics such as inflation and deflation, exchange rates, economic growth, and business cycles. This will allow students to learn the basics of the methodology for analyzing the macroeconomy.

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Regarding grading, students will be evaluated by a final open-book style exam. In some cases, extra points will be given for additional comments made in class. In principle, the grade is determined by the final exam.

Students can choose either (a) or (b) at the time of the final exam.

(a) Evaluation based on the grading criteria of S to D (students answer all questions).

(b) Seek a grade on a scale of C to D (students answer a limited number of questions).

The credit acquisition rate is usually around 95%, and the majority of students who fail the course (D) are those who hardly attend any classes.

ECN100LA

マクロ経済学 I

2017 年度以降入学者

平田 英明

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 1/Thu.1

単位数：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

芥川賞を受賞したお笑いコンビ・ピースの又吉直樹さんは、「人は人生のあらゆる局面において自分で選択をしなければなりません。そこには落とし穴もあるでしょうし、迷子になることもあるかもしれません。（中略）『経済学』はそんな厄介な道の危険な箇所や迷いやすい箇所を教えてくれる地図」になると指摘しています。ここで「人」というのは、個々人だけでなく、個々の企業を含んでも構いません。つまり、経営学部で一番学びたいことを、経済学の視点から学べるのです。

この授業では、日本の経済、世界の経済を鳥瞰する上でどのような物差しで見ればよいかという点についての基礎知識が身につきます。そして、履修を通じて、マクロ経済学的な視点から消費者行動や企業活動を論理的に考えることができるようになるはずです。

【到達目標】

大企業のトップのインタビュー等を見ると、学生の皆さんも彼らの日本や世界のマクロ経済の現況に関する理解度が極めて高いことがわかるでしょう。それは、自社の経営が日本経済ならびに世界経済の状況次第で大きく影響されるからに他なりません。この授業では、日本のマクロ経済や世界の先進国（場合によって途上国）のマクロ経済をどのように理解すればよいかについての方法論の基礎の基礎を紹介していきます。

春学期（マクロ経済学 I）は、GDP やその他の主要なマクロ経済指標について一通り学んだ上で、マネーと中央銀行、財政の仕組みと機能といった経済政策面の基礎に触れた上で、それらを総合的に分析するモデルに少し触れていきます。これにより、学生の皆さんがマクロ的に経済を鳥瞰する基本のスタイルを学べます。

秋学期（マクロ経済学 II）は、そのモデルを発展して物価と GDP の決定方法を学びます。その上で、インフレとデフレ、為替レート、経済成長、景気変動といったトピックに取り組みます。これにより、学生の皆さんがマクロ的に経済を分析する方法論の基本を学べます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

本授業は対面授業とオンデマンド授業（2021 年に作成）の組み合わせで実施の予定です。1 セメスター 14 回の授業のうち半分の 7 回を対面授業とする予定です（詳細は 4 月の最初の授業で説明します）。ただし、オンデマンドでは全 14 回分の授業が録画されていますので、対面授業に参加せず、オンデマンド授業のみで聴講しても構いません。

スライドや資料を使った講義形式を軸とします。授業の告知や資料等は、原則として全て「学習支援システム」を使って発信します。また、質問やコメントに関するフィードバックも「学習支援システム」を通じて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	授業の説明	授業計画の紹介とマクロ経済学とミクロ経済学の違いを説明をします
2	序章 マクロ経済学とは 1	経済の捉え方の切り口の基本を紹介していきます

3	序章 マクロ経済学とは 2	経済の捉え方の切り口の基本を紹介した上で、GDP の基本を学びます
4	マクロ経済を観察する 1 (GDP)	マクロ経済を観察します
5	マクロ経済を観察する 2 (GDP)	GDP の基本を学び、実質と名目と物価の関係を学びます。
6	マクロ経済を観察する 3 (物価)	物価統計の基本的な特徴を理解します
7	マクロ経済を観察する 4 (失業率、景気)	労働市場関連統計と景気動向関連統計の基本的な仕組みを理解します
8	マクロ経済を支える金融市場 1	マクロ経済を支える金融市場を考察します
9	マクロ経済を支える金融市場 2	マネー、金利と金融市場の基礎を学びます
10	マクロ経済を支える金融市場 3	中央銀行の役割とマネーの関係を理解します
11	貨幣の機能と中央銀行の役割 1	金融システムの安定化の意義を理解します
12	貨幣の機能と中央銀行の役割 2	中央銀行による経済政策（金融政策）の基本を学びます。財政の意義とその決まり方を把握します
13	貨幣の機能と中央銀行の役割 3	財政の仕組みと機能 1
14	貨幣の機能と中央銀行の役割 3	財政の仕組みと機能 2
15	貨幣の機能と中央銀行の役割 3	財政の仕組みと機能 3
16	演習	税制の基本を学びます
17	演習	国債と政府債務の基本的特徴を理解します
18	演習	春学期に学んだ内容に関連する例題の演習を行います
19	授業内期末試験	期末試験を実施します

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

平口良司・稲葉大『マクロ経済学－入門の「一歩前」から応用まで 新版』（有斐閣）

ISBN 978-4-641-15076-8

【参考書】

新聞やレポート等を参考資料として紹介（授業支援システムに掲載）。

【成績評価の方法と基準】

持ち込み可の期末試験によって評価を行います。なお、 $+a$ として授業内での発言等について加点をする場合があります。ただし、あくまで加点であり、原則として期末試験の成績で成績評価を決めます。

期末試験の際に、以下のいずれかが選択できます。

(ア)S～D の評価基準で評価を求める（学生は全問に解答）。

(イ)C～D の評価基準で評価を求める（学生は限られた数の設問に解答）。

なお、単位取得率は例年 95 % 程度であり、落第者（D）の大半は殆ど授業に出席していない学生です。

【学生の意見等からの気づき】

学生からは特にネガティブな意見は聞かれおらず、例年通りに授業は行方予定です。モデル部分は複雑な場合があるので、極力、複数回、違う角度から説明をするように心がけます。

対面授業部分は、昨年度の授業履修者のアンケート結果に基づいて、対面の希望が多かった部分にしています。

【その他の重要事項】

担当教員は、日本銀行における金融政策業務の経験を有します。また、国際通貨基金（IMF）や世界銀行（World Bank）におけるコンサルタント業務の経験も有します。こういった実務的な経験を踏まえ、生きた経済事象の説明を心がけたいです。

【Outline (in English)】

This class is designed for the students who firstly learn the basics of macroeconomics. You will learn what firms and households do in the economy from a macroeconomic perspective. You will learn the basic tools of macroeconomics to understand what is going on in the Japanese and the world economy.

In the spring semester (Macroeconomics I), we will learn about GDP and other major macroeconomic indicators, the basics of economic policy such as money and central banks, and the structure and function of public finance. And then we touch on models for analyzing them in a comprehensive manner. In the fall semester (Macroeconomics II), we will develop the model and learn how prices and GDP are determined. We will then tackle topics such as inflation and deflation, exchange rates, economic growth, and business cycle fluctuations.

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Evaluation will be based on the open-book style final exam. In addition, extra points may be given for comments made in class.

At the time of the final exam, you can choose one of the following options.

(a) Ask for a grade based on the evaluation criteria of S to D (students answer all questions).

(b) Ask for a grade based on the evaluation criteria of C to D (students answer a limited number of questions).

ECN100LA

マクロ経済学Ⅱ

2017年度以降入学者

平田 英明

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 1/Thu.1

単位数：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

芥川賞を受賞したお笑いコンビ・ピースの又吉直樹さんは、「人は人生のあらゆる局面において自分で選択をしなければなりません。そこには落とし穴もあるでしょうし、迷子になることもあるかもしれません。（中略）『経済学』はそんな厄介な道の危険な箇所や迷いやすい箇所を教えてくれる地図」になると指摘しています。ここで「人」というのは、個々人だけでなく、個々の企業を含んでも構いません。つまり、経営学部で一番学びたいことを、経済学の視点から学べるのです。

この授業では、日本の経済、世界の経済を鳥瞰する上でどのような物差しで見ればよいかという点についての基礎知識が身につきます。そして、履修を通じて、マクロ経済学的な視点から消費者行動や企業活動を論理的に考えることができるようになるはずです。

【到達目標】

大企業のトップのインタビュー等を見ると、皆さんも彼らの日本や世界のマクロ経済の現況に関する理解度が極めて高いことがわかります。それは、自社の経営が日本経済ならびに世界経済の状況次第で大きく影響されるからに他なりません。この授業では、日本のマクロ経済や世界の先進国（場合によっては途上国）のマクロ経済をどのように理解すればよいのかについての方法論の基礎の基礎を紹介していきます。

春学期（マクロ経済学Ⅰ）は、GDP やその他の主要なマクロ経済指標について一通り学んだ上で、マネーと中央銀行、財政の仕組みと機能といった経済政策面の基礎に触れた上で、それらを総合的に分析するモデルに少し触れていきます。秋学期（マクロ経済学Ⅱ）は、そのモデルを発展して物価と GDP の決定方法を学びます。その上で、インフレとデフレ、為替レート、経済成長、景気変動といったトピックに取り組みます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。経営学部：DP3

【授業の進め方と方法】

本授業は2021年に作成されたばかりのオンデマンド映像と対面授業の組み合わせで実施の予定です（対面授業は状況によってはオンラインでの実施の可能性）。そして、スライドや資料を使った講義形式を軸とします。授業の告知や資料等は、原則として全て「学習支援システム」を使って発信します。また、質問やコメントに関するフィードバックも「学習支援システム」を通じて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	GDPと金利の決まり方1	総需要と物価の関係を学びます
2	GDPと金利の決まり方2	総供給と物価の関係を学びます
3	GDPと金利の決まり方3	金利とGDPの決まり方を考察します
4	総需要・総供給分析1	物価が一定ではない世界の枠組みを理解します
5	総需要・総供給分析2	マクロ的な均衡状態の背後で何が起きるのかを理解します
6	総需要・総供給分析3	マクロ経済政策の役割を考察します

7	インフレとデフレ1	インフレとデフレの意味とその発生原因を学びます
8	インフレとデフレ2	実質金利、インフレとデフレのコストを学びます
9	国際マクロ経済1	海外との取引の計測の仕方を学びます
10	国際マクロ経済2	為替市場と特徴と短期的な決定要因を学びます、開放経済下での経済政策の効果を学びます
11	経済成長1	経済成長モデルを使った分析を行います
12	経済成長2	経済成長の要因を理解します
13	演習	例題に取り組みます
14	授業内期末試験	期末試験を実施します

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

平口良司・稲葉大『マクロ経済学－入門の「一歩前」から応用まで新版』（有斐閣）

ISBN 978-4-641-15076-8

【参考書】

新聞やレポート等を参考資料として紹介（授業支援システムに掲載）。

【成績評価の方法と基準】

持ち込み可の期末試験によって評価を行います。なお、 $+a$ として授業内での発言等について加点をする場合があります。ただし、あくまで加点であり、原則として期末試験の成績で成績評価を決めます。

期末試験の際に、以下のいずれかが選択できます。

(ア)S～Dの評価基準で評価を求める（学生は全問に解答）。

(イ)C～Dの評価基準で評価を求める（学生は限られた数の設問に解答）。

なお、単位取得率は例年95%程度であり、落第者（D）の大半は殆ど授業に出席していない学生です。

【学生の意見等からの気づき】

学生からは特にネガティブな意見は聞かれおらず、例年通りに授業は行う予定です。モデル部分は複雑な場合があるので、極力、複数回、違う角度から説明をするように心がけます。

【その他の重要事項】

担当教員は、日本銀行における金融政策業務の経験を有します。また、国際通貨基金（IMF）や世界銀行（World Bank）におけるコンサルタント業務の経験も有します。こういった実務的な経験を踏まえ、生きた経済事象の説明を心がけたいです。

【Outline (in English)】

This class is designed for the students who firstly learn the basics of macroeconomics. You will learn what firms and households do in the economy from a macroeconomic perspective. You will learn the basic tools of macroeconomics to understand what is going on in the Japanese and the world economy.

In the spring semester (Macroeconomics I), we will learn about GDP and other major macroeconomic indicators, the basics of economic policy such as money and central banks, and the structure and function of public finance. And then we touch on models for analyzing them in a comprehensive manner. In the fall semester (Macroeconomics II), we will develop the model and learn how prices and GDP are determined. We will then tackle topics such as inflation and deflation, exchange rates, economic growth, and business cycle fluctuations. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Evaluation will be based on the open-book style final exam. In addition, extra points may be given for comments made in class.

At the time of the final exam, you can choose one of the following options.

(a) Ask for a grade based on the evaluation criteria of S to D (students answer all questions).

(b) Ask for a grade based on the evaluation criteria of C to D (students answer a limited number of questions).

PSY100LA

心理学 I

2017 年度以降入学者

宇野 カオリ

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses

単位数：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

人間の条件について、心理学という学問が、その歴史において何を探究し解明してきたのか、そして、その探究を未来に向けてどのように推し進めようとしているのか、心理学の基礎的な内容を段階的に学習していきます。「心理学 I/II」を通して、分野横断的な取り組みを特徴とする「ポジティブ心理学 (positive psychology) (注)」のアプローチに基づき、従来の心理学の各分野における重要な概念や発見、ものの見方（観点）を概観しながら、「心理学のおもしろさ」に触れることを目指します。

(注：「ポジティブ心理学」とは、ウェルビーイングに関する科学的な研究の総称です。いわゆる「ポジティブになる」ことを奨励するような学問ではありません。)

【到達目標】

心理学は、社会科学の一領域であり、リベラルアーツ (liberal arts: 原義は、「人間を良い意味で束縛から解放するための知識や、生きるための力を身につけるための手法」) に深く根差してこそ、よりよく理解できる分野です。心理学 I・II が到達目標とするのは、科学的な探究という視点から心理学を捉えることができるようになること、また、リベラルアーツとして、本授業を通して得た心理学の知識が、学際的な思考力や想像力の素地となってくれることです。なお、「心理学 I」を履修しておらず、本授業から受講する学生も歓迎します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

学期を通して、「曜日時限なし」のオンライン（オンデマンド型）授業となります。ただし、前年度までの同授業形態の履修者の多くが、学習ペースの自己管理に困難を来したことから、授業動画の視聴および課題提出については定期的な期日を設けながら進めます。オンデマンド型学習のために、学習支援システム（掲示板は使用しません）と Google クラスルームを併用します。学期中の連絡手段は主にメールと Google クラスルームになりますので、必ず確認するようにしてください。その他の詳細については第 1 回授業のガイダンスでお伝えします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業概要 授業の進め方と方法
第 2 回	科学的心理学の歩み	心理学における科学的人間観 計量心理学
第 3 回	主観的経験とは何か (1)	知覚心理学
第 4 回	主観的経験とは何か (2)	感情心理学
第 5 回	主観的経験とは何か (3)	認知心理学
第 6 回	思考と個人差 (1)	学習心理学

第 7 回	思考と個人差 (2)	認知心理学 進化心理学
第 8 回	中間レポート	第 3 回～第 7 回授業の振り返り
第 9 回	意識の階層 (1)	臨床心理学
第 10 回	意識の階層 (2)	神経心理学
第 11 回	意識の階層 (3)	パーソナリティ心理学
第 12 回	自己と社会性 (1)	パーソナリティ心理学
第 13 回	自己と社会性 (2)	社会心理学
第 14 回	期末レポート	第 9 回～第 13 回授業の振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で扱うテーマについて、授業を離れても日常的に意識して過ごしてみることをお勧めします。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準としますが、各自でペース調整をしてください。

【テキスト（教科書）】

『ポジティブ心理学入門：「よい生き方」を科学的に考える方法』（クリストファー・ピーターソン著、宇野カオリ訳、春秋社、2012 年）
<https://www.shunjusha.co.jp/book/9784393365205.html>

【参考書】

特に指定しませんが、テーマに応じて有益と思われる書籍は授業内で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

中間レポート 25%、期末レポート 25%、授業に関係するアクティビティ 50%

中間・期末レポート共に、暗記による知識ではなく、理解度を確認するものとなります。

授業に関係するアクティビティの具体的な内容を含め、成績評価に関する詳細についてはガイダンスで説明します。

【学生の意見等からの気づき】

< 授業内容について >

- ・授業に関する意見のなかで、最も励みとなったのは、「これからの人生を生きていく上でとても為になる」という言葉でした。
- ・「授業がおもしろい」というコメントも多くいただきます。皆さんの学生生活に即役に立つようなテーマを取り上げますが、楽しんで学習することによる学習効率についても念頭に置いています。
- ・かなり多くの方が、「自分はネガティブだと自覚しているが、ポジティブに振る舞っている」という悩みを抱えていることが、リアクションペーパー（オンラインで提出）を通して分かりました。ポジティブ心理学では、人間は生来、ネガティブになる傾向があることが指摘されています。「授業を通して、自分がなぜネガティブなのか分かって救われた」との声が非常に多く寄せられました。
- ・総じて、毎回の授業内容について、リアクションペーパーでしっかりと自分の考えを述べたり、自己内省をして授業から学び取ったことを書いてくれたりした方がほとんどでした。

< 授業形式について >

- ・本授業は加点方式か、それとも減点方式か、という質問が、学期を通して寄せられましたが、本授業は基本的に加点方式です。
- ・諸事情により、動画配信を逃してしまった、課題が期日までに提出できなかった、という方も少なくありません。動画の再視聴期間や、課題の遅延提出期間を設けることで、支障なく学習を進められるよう、便宜を図ります。

【学生が準備すべき機器他】

スマホよりはパソコンでの受講が望ましいです。（課題は Google フォームで提出してもらいますが、スマホから提出を続けていたところ、受付となっておらず、それまでの提出が無効となった、という事例が発生しました。）

【その他の重要事項】

- ・心理学 I と心理学 II いずれかのみを受講でも支障ありませんが、連続して受講していただくと、心理学の基礎を一通り学習できるカリキュラムとなっています。
- ・日本語よりも英語を得意とする方は、リアクションペーパーやレポートを英語で書いて提出していただいても構いません。

【Outline (in English)】

【授業の概要 (Course Outline)】

The mission of this course is to provide a basic overall understanding of theoretical and empirical progress in contemporary psychology. On a broader perspective, the underlying aim of this course is to enhance your appreciation of how psychological inquiry as a scientific discipline can advance exploration and understanding of the human condition. Throughout the year, various key concepts, findings, and perspectives in each traditional psychological discipline will be introduced. The cross-disciplinary approach which characterizes positive psychology, the most well-known umbrella term for the scientific study of well-being, will be introduced as well.

【到達目標 (Learning Objectives)】

By the end of this course, students are expected to understand psychology from the perspective of social scientific inquiry and that in the context of liberal arts knowledge (see https://www.obirin.ac.jp/academics/arts_sciences/what_is_liberal_arts.html *in Japanese* for what liberal arts means). As knowledge aids the acquisition of more knowledge, students should be able to make use of the knowledge gained from this course as a foundation of further interdisciplinary pursuit. Students who have not enrolled in the spring semester is still welcome to take the course from the fall semester.

【授業時間外の学習 (Learning Activities Outside of Classroom)】

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be around two hours before and after each class meeting.

【成績評価の方法と基準 (Grading Criteria/Policy)】

Final grade will be calculated according to the following process: Mid-term report (25%), final report (25%), and class-related activities (50%). More details will be explained in the first lecture of each semester.

PSY100LA

心理学Ⅱ

2017年度以降入学者

宇野 カオリ

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses

単位数：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

人間の条件について、心理学という学問が、その歴史において何を探究し解明してきたのか、そして、その探究を未来に向けてどのように推し進めようとしているのか、心理学の基礎的な内容を段階的に学習していきます。「心理学Ⅰ/Ⅱ」を通して、分野横断的な取り組みを特徴とする「ポジティブ心理学（positive psychology）（注）」のアプローチに基づき、従来の心理学の各分野における重要な概念や発見、ものの見方（観点）を概観しながら、「心理学のおもしろさ」に触れることを目指します。

（注：「ポジティブ心理学」とは、ウェルビーイングに関する科学的な研究の総称です。いわゆる「ポジティブになる」ことを奨励するような学問ではありません。）

【到達目標】

心理学は、社会科学の一領域であり、リベラルアーツ（liberal arts: 原義は、「人間を良い意味で束縛から解放するための知識や、生きるための力を身につけるための手法」）に深く根差してこそ、よりよく理解できる分野です。心理学Ⅰ・Ⅱが到達目標とするのは、科学的な探究という視点から心理学を捉えることができるようになること、また、リベラルアーツとして、本授業を通して得た心理学の知識が、学際的な思考力や想像力の素地となってくれることです。なお、「心理学Ⅰ」を履修しておらず、本授業から受講する学生も歓迎します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

学期を通して、「曜日時限なし」のオンライン（オンデマンド型）授業となります。ただし、前年度までの同授業形態の履修者の多くが、学習ペースの自己管理に困難を来したことから、授業動画の視聴および課題提出については定期的な期日を設けながら進めます。

オンデマンド型学習のために、学習支援システム（掲示板は使用しません）と Google クラスルームを併用します。学期中の連絡手段は主にメールと Google クラスルームになりますので、必ず確認するようにしてください。その他の詳細については第1回授業のガイダンスでお伝えします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業概要 授業の進め方と方法
第2回	人間欲求としての戦争（「自己と社会性」再考）（1）	社会心理学 平和心理学
第3回	人間欲求としての戦争（「自己と社会性」再考）（2）	社会心理学 平和心理学
第4回	精神疾患か、それとも悪か？	臨床心理学 （異常心理学）
第5回	いじめと排他性のメカニズム	臨床心理学 道徳心理学

第6回	「いいひと」の起源	発達心理学 道徳心理学
第7回	人間性を（再）定義する	発達心理学 道徳心理学
第8回	中間レポート	第3回～第7回授業の振り返り
第9回	自己を「肯定」する・「否定」するとは？	感情的観点 認知的観点

第10回	愛こそはすべて	関係性の観点
第11回	私を殺さないものは、私を一層強くする	臨床的観点
第12回	大量消費社会における心の健康	個人差の観点
第13回	3つの「生きる」	生物学的観点
第14回	期末レポート	第9回～第13回授業の振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で扱うテーマについて、授業を離れても日常的に意識して過ごしてみることをお勧めします。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準としますが、各自でペース調整をしてください。

【テキスト（教科書）】

心理学Ⅰの授業への理解度に基づき、ガイダンスで指定します。（心理学Ⅱから受講する方は、心理学Ⅰのテキストの入手は任意とします。）

【参考書】

特に指定しませんが、テーマに応じて有益と思われる書籍は授業内で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

中間レポート 25%、期末レポート 25%、授業に関するアクティビティ 50%

中間・期末レポート共に、暗記による知識ではなく、理解度を確認するものとなります。

授業に関するアクティビティの具体的な内容を含め、成績評価に関する詳細についてはガイダンスで説明します。

【学生の意見等からの気づき】

< 授業内容について >

・授業に関する意見のなかで、最も励みとなったのは、「これからの人生を生きていく上でとても為になる」という言葉でした。

・「授業がおもしろい」というコメントも多くいただきます。皆さんの学生生活に即役に立つようなテーマを取り上げますが、楽しんで学習することによる学習効率についても念頭に置いています。

・かなり多くの方が、「自分はネガティブだと自覚しているが、ポジティブに振る舞っている」という悩みを抱えていることが、リアクションペーパー（オンラインで提出）を通して分かりました。ポジティブ心理学では、人間は生来、ネガティブになる傾向があることが指摘されています。「授業を通して、自分がなぜネガティブなのか分かって救われた」との声が非常に多く寄せられました。

・総じて、毎回の授業内容について、リアクションペーパーでしっかりと自分の考えを述べたり、自己内省をして授業から学び取ったことを書いてくれたりした方がほとんどでした。

< 授業形式について >

・本授業は加点方式か、それとも減点方式か、という質問が、学期を通して寄せられましたが、本授業は基本的に加点方式です。

・諸事情により、動画配信を逃してしまった、課題が期日までに提出できなかった、という方も少なくありません。動画の再視聴期間や、課題の遅延提出期間を設けることで、支障なく学習を進められるよう、便宜を図ります。

【学生が準備すべき機器他】

スマホよりはパソコンでの受講が望ましいです。（課題は Google フォームで提出してもらいますが、スマホから提出を続けていたところ、受付となっておらず、それまでの提出が無効となった、という事例が発生しました。）

【その他の重要事項】

・心理学Ⅰと心理学Ⅱいずれかのみを受講でも支障ありませんが、連続して受講していただくと、心理学の基礎を一通り学習できるカリキュラムとなっています。

・日本語よりも英語を得意とする方は、リアクションペーパーやレポートを英語で書いて提出していただいても構いません。

【Outline (in English)】

【授業の概要 (Course Outline)】

The mission of this course is to provide a basic overall understanding of theoretical and empirical progress in contemporary psychology. On a broader perspective, the underlying aim of this course is to enhance your appreciation of how psychological inquiry as a scientific discipline can advance exploration and understanding of the human condition. Throughout the year, various key concepts, findings, and perspectives in each traditional psychological discipline will be introduced. The cross-disciplinary approach which characterizes positive psychology, the most well-known umbrella term for the scientific study of well-being, will be introduced as well.

【到達目標 (Learning Objectives)】

By the end of this course, students are expected to understand psychology from the perspective of social scientific inquiry and that in the context of liberal arts knowledge (see https://www.obirin.ac.jp/academics/arts_sciences/what_is_liberal_arts.html *in Japanese* for what liberal arts means). As knowledge aids the acquisition of more knowledge, students should be able to make use of the knowledge gained from this course as a foundation of further interdisciplinary pursuit. Students who have not enrolled in the spring semester is still welcome to take the course from the fall semester.

【授業時間外の学習 (Learning Activities Outside of Classroom)】

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be around two hours before and after each class meeting.

【成績評価の方法と基準 (Grading Criteria/Policy)】

Final grade will be calculated according to the following process: Mid-term report (25%), final report (25%), and class-related activities (50%). More details will be explained in the first lecture of each semester.

PSY100LA

心理学 I

2017 年度以降入学者

櫻井 登世子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 3/Mon.3

単位数：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

心理学のなかでも児童（子ども）の心理、とくにことば・知性・思考・動機づけの発達に焦点をあて、教科書や関連する文献についてショートレポートを提出してもらう。

【到達目標】

1. 現代に生きる子どもたちを取り巻く環境について理解を深める。
2. ことば・認知と思考の発達を理解できる。
3. 動機づけのメカニズムを説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

対面授業を実施する。ただし、行動方針レベルが 1 から 2 になった場合は原則としてオンラインにより授業を進める。詳細は学習支援システムに掲載する。

前半は DVD の視聴を行ったり、パワーポイントを用いたりしながら、講義形式によって授業を進め、後半は授業内容に関連する資料に基いて考察し、リアクションペーパーの提出を求める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の内容・進め方などについて説明する。
第 2 回	子どもをどうとらえるのか	小学生に対するイメージを自由記述する。人間の子どもの特徴を概説する。
第 3 回	児童期とは	児童期の定義 児童期の様相
第 4 回	現代に生きる子どもたち	家庭のなかの子ども 現代の子どもの生活
第 5 回	子どもと学校生活 子どもと情報通信メディア	学校は楽しいか 子どもと仲間たち 情報通信メディアの普及
第 6 回	からだと運動 ストレス	からだと健康 ストレスのとらえ方
第 7 回	ことば	言語発達の概要
第 8 回	知性	知能 思考
第 9 回	創造性と学力	創造性とは 学力とは
第 10 回	認知と思考	記憶
第 11 回	問題解決	問題解決とは何か 算数文章題に見る問題解決
第 12 回	動機づけ 内発的動機づけと外的報酬	動機づけのメカニズム、学習への報酬、人間関係の影響
第 13 回	無気力	学習性無力感 達成目標と無気力
第 14 回	まとめ	児童のこころの発達について、認知・思考、動機づけの観点から総まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1. 日頃から、子どもを取り巻く環境に関心を持つ。
2. 新聞記事など、子どもに関連する情報を取り込むようにする。
3. 授業内容を日常場面にあてはめてみる。

【テキスト（教科書）】

『新版 子どもとこころー児童心理学入門』

櫻井茂男・濱口佳和・向井隆代（著）

有斐閣アルマ, 2014 年

2,100 円＋税

【参考書】

『学習意欲の心理学』 櫻井茂男著 誠信書房, 2010 年

『はじめて学ぶ乳幼児の心理』 櫻井茂男編著 有斐閣アルマ, 2010 年

【成績評価の方法と基準】

授業内のリアクションペーパー 70%, 学期末レポート課題 30%

【学生の意見等からの気づき】

2022 年度は履修者数が多く、オンライン授業のため学生から意見を得ることはできませんでした。

課題に対するレポートは概ね合格基準に達していたので、オンライン授業でも学生は理解できることが示されたと思います。

【Outline (in English)】

This course focuses on children's psychology, particularly development of language, intelligence, thinking, motivation, as it relates to psychology, through short reports on related literature and texts.

Learning Objectives: By the end of the course, students should be able to do the followings: Understand the development of language, cognition and thinking.

Explain the mechanism of motivation.

Learning activities outside of classroom: Students will be expected to interest in environment of children.

Your study time will be more than two hours for class.

Grading Criteria: Term end test(70%), short report(30%)

PSY100LA

心理学Ⅱ

2017年度以降入学者

櫻井 登世子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 3/Mon.3

単位数：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

心理学分野のなかでも子ども（児童）の心理、とくにパーソナリティ、子どもの人間関係、社会性の発達、子どもの心理治療に焦点をあてます。児童を取り巻く環境や発達状況の変化について理解できるようにします。

【到達目標】

- ①児童（子ども）のイメージを豊かにつくる。
- ②児童（子ども）の心理を理解する。
- ③児童（子ども）のこころの問題に対処できる知識を修得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

対面授業を実施します。ただし、行動方針レベルが1から2になった場合、この授業は原則としてオンラインで進めます。詳細は学習支援システムに掲載します。

講義形式で授業を進めていきます。pptを提示して説明しますが、DVD鑑賞を数回予定しています。各章ごとに復習問題に取り組み、理解度を確認していきます。

ショートレポート課題を数回提示します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の進め方等について説明する。
第2回	自分をよく知りたい	自己概念
第3回	パーソナリティ	パーソナリティの理論 パーソナリティの測定方法
第4回	人間関係	親・家族との関係
第5回	友達・仲間との関係	仲間関係の発達 生徒と教師の関係
第6回	社会性	向社会的行動とは何か 向社会的行動の発達
第7回	向社会的行動を支える内的要因	共感と向社会的行動
第8回	攻撃行動	攻撃行動に及ぼす観察学習の影響
第9回	性	性同一性と性役割 性役割の発達
第10回	子どもの心理臨床	子どもの心理臨床とは
第11回	ソーシャル・スキル・トレーニング	ソーシャル・スキル・トレーニングの具体例
第12回	子どもの心理臨床の流れ	場面緘黙の事例
第13回	遊戯療法	遊戯療法とは カウンセリング
第14回	まとめ	子どもの人間関係・社会性・心理臨床についての総まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・自分の小学生時代といまどきの小学生を比べてみましょう。
- ・日頃から児童（子ども）を取り巻く環境に関心を持つようにしましょう。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『新版 子どもとこころ—児童心理学入門』櫻井茂男・濱口佳和・向井隆代、有斐閣アルマ、2014年新版、2100円＋税

【参考書】

授業内で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

授業内のショートレポート70%、学期末のレポート課題30%

【学生の意見等からの気づき】

2022年度はオンライン授業のため学生からの意見を得ることはできませんでした。

課題に対するレポートは概ね合格基準に達していたので、オンライン授業でも学生は理解できていることが示されました。

【その他の重要事項】

心理学Iを履修していることが望ましい。

【Outline (in English)】

This course focuses on children's psychology, particularly personality, children's relationship, development of social skill and children's therapy, as it relates to psychology.

Learning Objectives: By the end of the course, students should be able to do the followings:

Make image of child.

Understand children's mind.

Have the intelligence to solve the problem of children's mind.

Learning activities outside of classroom: Students will be expected to interest in environment of children.

Grading Criteria: Term end test(70%) short report(30%)

PSY100LA

心理学 I

2017 年度以降入学者

宇野 カオリ

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses

単位数：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

人間の条件について、心理学という学問が、その歴史において何を探究し解明してきたのか、そして、その探究を未来に向けてどのように推し進めようとしているのか、心理学の基礎的な内容を段階的に学習していきます。「心理学 I/II」を通して、分野横断的な取り組みを特徴とする「ポジティブ心理学 (positive psychology) (注)」のアプローチに基づき、従来の心理学の各分野における重要な概念や発見、ものの見方（観点）を概観しながら、「心理学のおもしろさ」に触れることを目指します。

(注：「ポジティブ心理学」とは、ウェルビーイングに関する科学的な研究の総称です。いわゆる「ポジティブになる」ことを奨励するような学問ではありません。)

【到達目標】

心理学は、社会科学の一領域であり、リベラルアーツ (liberal arts: 原義は、「人間を良い意味で束縛から解放するための知識や、生きるための力を身につけるための手法」) に深く根差してこそ、よりよく理解できる分野です。心理学 I・II が到達目標とするのは、科学的な探究という視点から心理学を捉えることができるようになること、また、リベラルアーツとして、本授業を通して得た心理学の知識が、学際的な思考力や想像力の素地となってくれることです。なお、「心理学 I」を履修しておらず、本授業から受講する学生も歓迎します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

学期を通して、「曜日時限なし」のオンライン（オンデマンド型）授業となります。ただし、前年度までの同授業形態の履修者の多くが、学習ペースの自己管理に困難を来したことから、授業動画の視聴および課題提出については定期的な期日を設けながら進めます。オンデマンド型学習のために、学習支援システム（掲示板は使用しません）と Google クラスルームを併用します。学期中の連絡手段は主にメールと Google クラスルームになりますので、必ず確認するようにしてください。その他の詳細については第 1 回授業のガイダンスでお伝えします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業概要 授業の進め方と方法
第 2 回	科学的心理学の歩み	心理学における科学的人間観 計量心理学
第 3 回	主観的経験とは何か (1)	知覚心理学
第 4 回	主観的経験とは何か (2)	感情心理学
第 5 回	主観的経験とは何か (3)	認知心理学
第 6 回	思考と個人差 (1)	学習心理学

第 7 回	思考と個人差 (2)	認知心理学 進化心理学
第 8 回	中間レポート	第 3 回～第 7 回授業の振り返り
第 9 回	意識の階層 (1)	臨床心理学
第 10 回	意識の階層 (2)	神経心理学
第 11 回	意識の階層 (3)	パーソナリティ心理学
第 12 回	自己と社会性 (1)	パーソナリティ心理学

第 13 回	自己と社会性 (2)	社会心理学
第 14 回	期末レポート	第 9 回～第 13 回授業の振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で扱うテーマについて、授業を離れても日常的に意識して過ごしてみることをお勧めします。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準としますが、各自でペース調整をしてください。

【テキスト（教科書）】

『ポジティブ心理学入門：「よい生き方」を科学的に考える方法』（クリストファー・ピーターソン著、宇野カオリ訳、春秋社、2012 年）
<https://www.shunjusha.co.jp/book/9784393365205.html>

【参考書】

特に指定しませんが、テーマに応じて有益と思われる書籍は授業内で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

中間レポート 25%、期末レポート 25%、授業に関係するアクティビティ 50%

中間・期末レポート共に、暗記による知識ではなく、理解度を確認するものとなります。

授業に関係するアクティビティの具体的な内容を含め、成績評価に関する詳細についてはガイダンスで説明します。

【学生の意見等からの気づき】

< 授業内容について >

・授業に関する意見のなかで、最も励みとなったのは、「これからの人生を生きていく上でとても為になる」という言葉でした。

・「授業がおもしろい」というコメントも多くいただきます。皆さんの学生生活に即役に立つようなテーマを取り上げますが、楽しんで学習することによる学習効率についても念頭に置いています。

・かなり多くの方が、「自分はネガティブだと自覚しているが、ポジティブに振る舞っている」という悩みを抱えていることが、リアクションペーパー（オンラインで提出）を通して分かりました。ポジティブ心理学では、人間は生来、ネガティブになる傾向があることが指摘されています。「授業を通して、自分がなぜネガティブなのか分かって救われた」との声が非常に多く寄せられました。

・総じて、毎回の授業内容について、リアクションペーパーでしっかりと自分の考えを述べたり、自己内省をして授業から学び取ったことを書いてくれたりした方がほとんどでした。

< 授業形式について >

・本授業は加点方式か、それとも減点方式か、という質問が、学期を通して寄せられましたが、本授業は基本的に加点方式です。

・諸事情により、動画配信を逃してしまった、課題が期日までに提出できなかった、という方も少なくありません。動画の再視聴期間や、課題の遅延提出期間を設けることで、支障なく学習を進められるよう、便宜を図ります。

【学生が準備すべき機器他】

スマホよりはパソコンでの受講が望ましいです。（課題は Google フォームで提出してもらいますが、スマホから提出を続けていたところ、受付となっておらず、それまでの提出が無効となった、という事例が発生しました。）

【その他の重要事項】

・心理学 I と心理学 II いずれかのみを受講でも支障ありませんが、連続して受講していただくと、心理学の基礎を一通り学習できるカリキュラムとなっています。

・日本語よりも英語を得意とする方は、リアクションペーパーやレポートを英語で書いて提出していただいても構いません。

【Outline (in English)】

【授業の概要 (Course Outline)】

The mission of this course is to provide a basic overall understanding of theoretical and empirical progress in contemporary psychology. On a broader perspective, the underlying aim of this course is to enhance your appreciation of how psychological inquiry as a scientific discipline can advance exploration and understanding of the human condition. Throughout the year, various key concepts, findings, and perspectives in each traditional psychological discipline will be introduced. The cross-disciplinary approach which characterizes positive psychology, the most well-known umbrella term for the scientific study of well-being, will be introduced as well.

【到達目標 (Learning Objectives)】

By the end of this course, students are expected to understand psychology from the perspective of social scientific inquiry and that in the context of liberal arts knowledge (see https://www.obirin.ac.jp/academics/arts_sciences/what_is_liberal_arts.html *in Japanese* for what liberal arts means). As knowledge aids the acquisition of more knowledge, students should be able to make use of the knowledge gained from this course as a foundation of further interdisciplinary pursuit. Students who have not enrolled in the spring semester is still welcome to take the course from the fall semester.

【授業時間外の学習 (Learning Activities Outside of Classroom)】

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be around two hours before and after each class meeting.

【成績評価の方法と基準 (Grading Criteria/Policy)】

Final grade will be calculated according to the following process: Mid-term report (25%), final report (25%), and class-related activities (50%). More details will be explained in the first lecture of each semester.

PSY100LA

心理学Ⅱ

2017年度以降入学者

宇野 カオリ

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

人間の条件について、心理学という学問が、その歴史において何を探究し解明してきたのか、そして、その探究を未来に向けてどのように推し進めようとしているのか、心理学の基礎的な内容を段階的に学習していきます。「心理学Ⅰ/Ⅱ」を通して、分野横断的な取り組みを特徴とする「ポジティブ心理学（positive psychology）（注）」のアプローチに基づき、従来の心理学の各分野における重要な概念や発見、ものの見方（観点）を概観しながら、「心理学のおもしろさ」に触れることを目指します。

（注：「ポジティブ心理学」とは、ウェルビーイングに関する科学的な研究の総称です。いわゆる「ポジティブになる」ことを奨励するような学問ではありません。）

【到達目標】

心理学は、社会科学の一領域であり、リベラルアーツ（liberal arts: 原義は、「人間を良い意味で束縛から解放するための知識や、生きるための力を身につけるための手法」）に深く根差してこそ、よりよく理解できる分野です。心理学Ⅰ・Ⅱが到達目標とするのは、科学的な探究という視点から心理学を捉えることができるようになること、また、リベラルアーツとして、本授業を通して得た心理学の知識が、学際的な思考力や想像力の素地となってくれることです。なお、「心理学Ⅰ」を履修しておらず、本授業から受講する学生も歓迎します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

学期を通して、「曜日時限なし」のオンライン（オンデマンド型）授業となります。ただし、前年度までの同授業形態の履修者の多くが、学習ペースの自己管理に困難を来したことから、授業動画の視聴および課題提出については定期的な期日を設けながら進めます。オンデマンド型学習のために、学習支援システム（掲示板は使用しません）と Google クラスルームを併用します。学期中の連絡手段は主にメールと Google クラスルームになりますので、必ず確認するようにしてください。その他の詳細については第1回授業のガイダンスでお伝えします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業概要 授業の進め方と方法
第2回	人間欲求としての戦争（「自己と社会性」再考）（1）	社会心理学 平和心理学
第3回	人間欲求としての戦争（「自己と社会性」再考）（2）	社会心理学 平和心理学
第4回	精神疾患か、それとも悪か？	臨床心理学 （異常心理学）
第5回	いじめと排他性のメカニズム	臨床心理学 道徳心理学

第6回	「いいひと」の起源	発達心理学 道徳心理学
第7回	人間性を（再）定義する	発達心理学 道徳心理学
第8回	中間レポート	第3回～第7回授業の振り返り
第9回	自己を「肯定」する・「否定」するとは？	感情的観点 認知的観点
第10回	愛こそはすべて	関係性の観点
第11回	私を殺さないものは、私を一層強くする	臨床的観点
第12回	大量消費社会における心の健康	個人差の観点
第13回	3つの「生きる」	生物学的観点
第14回	期末レポート	第9回～第13回授業の振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で扱うテーマについて、授業を離れても日常的に意識して過ごしてみることをお勧めします。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準としますが、各自でペース調整をしてください。

【テキスト（教科書）】

心理学Ⅰの授業への理解度に基づき、ガイダンスで指定します。（心理学Ⅱから受講する方は、心理学Ⅰのテキストの入手は任意とします。）

【参考書】

特に指定しませんが、テーマに応じて有益と思われる書籍は授業内で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

中間レポート 25%、期末レポート 25%、授業に関係するアクティビティ 50%

中間・期末レポート共に、暗記による知識ではなく、理解度を確保するものとなります。

授業に関係するアクティビティの具体的な内容を含め、成績評価に関する詳細についてはガイダンスで説明します。

【学生の意見等からの気づき】

< 授業内容について >

- ・授業に関する意見のなかで、最も励みとなったのは、「これからの人生を生きていく上でとても為になる」という言葉でした。
- ・「授業がおもしろい」というコメントも多くいただきます。皆さんの学生生活に即役に立つようなテーマを取り上げますが、楽しんで学習することによる学習効率についても念頭に置いています。
- ・かなり多くの方が、「自分はネガティブだと自覚しているが、ポジティブに振る舞っている」という悩みを抱えていることが、リアクションペーパー（オンラインで提出）を通して分かりました。ポジティブ心理学では、人間は生来、ネガティブになる傾向があることが指摘されています。「授業を通して、自分がなぜネガティブなのか分かって救われた」との声が非常に多く寄せられました。
- ・総じて、毎回の授業内容について、リアクションペーパーでしっかりと自分の考えを述べたり、自己内省をして授業から学び取ったことを書いてくれたりした方がほとんどでした。

< 授業形式について >

- ・本授業は加点方式か、それとも減点方式か、という質問が、学期を通して寄せられましたが、本授業は基本的に加点方式です。
- ・諸事情により、動画配信を逃してしまった、課題が期日までに提出できなかった、という方も少なくありません。動画の再視聴期間や、課題の遅延提出期間を設けることで、支障なく学習を進められるよう、便宜を図ります。

【学生が準備すべき機器他】

スマホよりはパソコンでの受講が望ましいです。（課題は Google フォームで提出してもらいますが、スマホから提出を続けていたところ、受付となっておらず、それまでの提出が無効となった、という事例が発生しました。）

【その他の重要事項】

- ・心理学Ⅰと心理学Ⅱいずれかのみを受講でも支障ありませんが、連続して受講していただけると、心理学の基礎を一通り学習できるカリキュラムとなっています。
- ・日本語よりも英語を得意とする方は、リアクションペーパーやレポートを英語で書いて提出していただいても構いません。

【Outline (in English)】

【授業の概要 (Course Outline)】

The mission of this course is to provide a basic overall understanding of theoretical and empirical progress in contemporary psychology. On a broader perspective, the underlying aim of this course is to enhance your appreciation of how psychological inquiry as a scientific discipline can advance exploration and understanding of the human condition. Throughout the year, various key concepts, findings, and perspectives in each traditional psychological discipline will be introduced. The cross-disciplinary approach which characterizes positive psychology, the most well-known umbrella term for the scientific study of well-being, will be introduced as well.

【到達目標 (Learning Objectives)】

By the end of this course, students are expected to understand psychology from the perspective of social scientific inquiry and that in the context of liberal arts knowledge (see https://www.obirin.ac.jp/academics/arts_sciences/what_is_liberal_arts.html *in Japanese* for what liberal arts means). As knowledge aids the acquisition of more knowledge, students should be able to make use of the knowledge gained from this course as a foundation of further interdisciplinary pursuit. Students who have not enrolled in the spring semester is still welcome to take the course from the fall semester.

【授業時間外の学習 (Learning Activities Outside of Classroom)】

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be around two hours before and after each class meeting.

【成績評価の方法と基準 (Grading Criteria/Policy)】

Final grade will be calculated according to the following process: Mid-term report (25%), final report (25%), and class-related activities (50%). More details will be explained in the first lecture of each semester.

PSY100LA

心理学 I

2017 年度以降入学者

浅川 希洋志

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 4/Thu.4

単位数：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

心理学におけるさまざまな理論が人間の心理や行動をどのように捉えているのかを理解するとともに、私たちの日常の経験をそういった心理学の理論に照らして考えていく。

【到達目標】

本講義では、フロイト、ユング、エリクソンの理論をとりあげ、それぞれがこころの働きや発達をどのように捉えているかを解説していく。また、「心理学 II」を連続履修することにより、さまざまな理論がどのような立場でお互いを批判し、展開してきたかを心理学の大きな流れとして捉えてもらえればと考えている。したがって、「心理学 I」「心理学 II」を連続履修することを期待する。このような授業を通して、最終的には日常の経験を心理学の理論に照らして考えてみる習慣を身につけてもらいたいと考えている。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

本授業は「対面形式」で実施する予定であるが、状況に応じて Zoom 等によるリアルタイム・オンライン授業を実施する可能性もある。

授業は講義を中心に行う。また、時折ビデオ、DVD 教材を用いて日常生活の中に見られるこころの問題を映像として捉えてみたいと考えている。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	講義の概要を説明する。
第 2 回	「心の理論」は人間をどう捉えているか	心理学におけるさまざまな理論が人間をどのように捉えているのかを解説していく。
第 3 回	心の働きはその人の生きる文化にどう影響されているのか	文化心理学的視点から、文化と心の働きの関連について考えていく。
第 4 回	描画テストにみる心の健康と健康障害 (TOPIC1)	心の健康と健康障がい描画テストにどのように現れるのかを、事例を見ながら確認していく。
第 5 回	統合失調症について (TOPIC2)	統合失調症に関するビデオを観る。併せて他の資料を参照し、統合失調症に対する認識を深める。
第 6 回	無意識の心理学（フロイト①）— 精神分析におけるパーソナリティ論について	フロイトが創始した精神分析におけるパーソナリティ理論をさまざまな側面から解説する。
第 7 回	無意識の心理学（フロイト②）— 心理・性的発達理論について	フロイトの精神分析における心理・性的発達理論について解説する。
第 8 回	無意識の心理学（フロイト③）— 精神分析治療のメカニズムについて	フロイトが考案した精神分析治療の根底にあるメカニズムを解説する。

第 9 回	無意識の心理学（ユング①）— 無意識の捉え方とその目的について	ユングの無意識の捉え方とその目的について解説する。
第 10 回	無意識の心理学（ユング②）— 無意識の層構造と元型について	ユングの考える無意識の層構造と元型について解説する。
第 11 回	アイデンティティの心理学（エリクソン①）— その人生と基本的な考え方について	エリクソンがなぜアイデンティティの心理学を作り上げるに至ったのかを解説する。
第 12 回	アイデンティティの心理学（エリクソン②）— 心理・社会的発達論について	エリクソンの心理・社会的発達論を解説する。
第 13 回	夜回り先生・水谷修の DVD 「いいもん だよ、生きるって」 (TOPIC3)	夜回り先生・水谷修の DVD 「いいもん だよ、生きるって」を観る。
第 14 回	授業の総括	授業のまとめ、期末試験の解説を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で扱うテーマを常に頭の片隅におきながら日常生活を送ること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

テキストは特に指定しない。適宜プリントを配付する。授業で配布するプリントはすべて学習支援システムにアップする。

【参考書】

平木典子・巖秀章編著『カウンセリングの基礎』（北樹出版、1997 年）。

【成績評価の方法と基準】

期末試験により評価する。したがって、成績評価の「配分 (%)」は期末試験 100 % となる。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60 % 以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

できるだけ身近で、具体的な例を用いて授業を展開していく。

【学生が準備すべき機器他】

授業で使うプリントは授業中に配布するが、授業支援システムにもアップする。配布するプリントに沿って授業を進めるので、欠席などによりプリントが手元にない場合は、必ず学習支援システムからダウンロードして授業に臨むこと。

【Outline (in English)】

(1) Course Outline

This is an introductory course in psychology, where students will learn how different psychological theories conceptualized human beings, comparing with other theories. This spring term course will mainly focus on Freud, Jung, and Erikson's theories, which deal with the unconscious. In order to understand a big picture of movement in psychology, students will be recommended to take Psychology II continuously in the autumn semester.

(2) Learning Objectives

By the end of the course, students are expected to understand (a) how Freud, Jung, and Erikson conceptualized human beings and their development, and (b) how students' daily experiences can be explained by the psychological theories introduced in this course.

(3) Learning Activities Outside of Classroom

Students will be expected to spend 4 hours to understand the course content (2 hours each for before/after class meeting). Besides, students will be expected to spend their daily lives having course topics in the back of their mind.

(4) Grading Criteria/Policy

Final grade will be decided based on the term-end examination (100%).

PSY100LA

心理学Ⅱ

2017年度以降入学者

浅川 希洋志

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 4/Thu.4

単位数：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

心理学におけるさまざまな理論が人間の心理や行動をどのように捉えているのかを理解するとともに、私たちの日常の経験をそういつた心理学の理論に照らして考えていく。

【到達目標】

本講義では、担当者が「心理学Ⅰ」で取りあげるこころの理論（精神分析学を代表とする無意識の心理学）とは大きく立場の異なる行動主義心理学、ゲシュタルト心理学、人間性の心理学を取りあげ、それぞれの理論がこころをどのように捉えているかを解説していく。また、人間発達モデルとしてのフロー理論を紹介し、日常生活における充実感についても考えていく。このような授業を通して、最終的には日常の経験を心理学の理論に照らして考える習慣を身につけることを本講義の目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

本授業は「対面形式」で実施する予定であるが、状況に応じて Zoom 等によるリアルタイム・オンライン授業を実施する可能性もある。

授業は講義を中心に行う。また、時折ビデオ、DVD 教材を用いて日常生活の中に見られるこころの問題を映像として捉えてみたいと考えている。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	講義の概要を説明する。
第 2 回	心理学における人間観について	心理学の三大勢力、精神分析学、行動主義心理学、人間性の心理学が人間をどのように捉えているかを解説する。
第 3 回	行動主義心理学と行動療法①—さまざまな学習理論について	行動主義心理学にもとづくさまざまな学習理論を解説する。
第 4 回	行動主義心理学と行動療法②—行動療法どのような学習理論にもとづくか	行動療法がどのような学習理論にもとづき、実際、どのように行なわれているのかを解説する。
第 5 回	ゲシュタルト心理学とゲシュタルト療法①—基本的な考え方について	ゲシュタルト心理学の基本的な考え方について解説する。
第 6 回	ゲシュタルト心理学とゲシュタルト療法②—ゲシュタルト療法の技法について	「気づき」を重視するゲシュタルト療法の技法について解説する。
第 7 回	夜回り先生・水谷修のメッセージ②「生きていてくれてありがとう」(TOPIC1)	夜回り先生・水谷修の DVD「生きていてくれてありがとう」を観る。

第 8 回	人間性心理学と心理療法①—来談者中心療法の基本的考え方について	ロジャースの来談者中心療法の基本的考え方を解説する。
第 9 回	人間性心理学と心理療法②—来談者中心療法におけるカウンセラーの態度条件について	ロジャースの来談者中心療法におけるカウンセラーの態度条件について解説する。
第 10 回	精神科医・神谷美枝子について (TOPIC2)	精神科医・神谷美枝子に関するビデオを観る。
第 11 回	フロー理論と日常生活の充実感について①—楽しさにもとづく人間発達のモデル	楽しさにもとづく人間発達のモデルとしてのフロー理論を解説する。
第 12 回	フロー理論と日常生活の充実感について②—現代の子どもたち	フロー理論の観点から、現代の子どもたちの生き方や行動を考える。
第 13 回	フロー理論と日常生活の充実感について③—精神的健康を促進するフロー経験	実証研究を紹介しながら、楽しさと充実感を伴うフロー経験の有用性を解説する。
第 14 回	授業の総括	授業のまとめ、期末試験の解説を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で扱うテーマを常に頭の片隅におきながら日常生活を送ること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

テキストは特に指定しない。適宜プリントを配付する。授業で配布するプリントはすべて学習支援システムにアップする。

【参考書】

平木典子・巽岩秀章編著『カウンセリングの基礎』（北樹出版、1997 年）。会沢勲・石川悦子・浅川希洋志著『子どもたちは本当に変わってしまったのか』（学文社、1999 年）。浅川希洋志・静岡大学教育学部附属浜松中学校著『フロー理論に基づく「学びひたる」授業の創造』（学文社、2011 年）。今村浩明・浅川希洋志編著『フロー理論の展開』（世界思想社、2003 年）。チクセントミハイ著（浅川希洋志監訳）『クリエイティヴィティ』（世界思想社、2016 年）。

【成績評価の方法と基準】

期末試験により評価する。したがって、成績評価の「配分 (%)」は期末試験 100 % となる。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60 % 以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

できるだけ身近で、具体的な例を用いて授業を展開していく。

【学生が準備すべき機器他】

授業で使うプリントは授業中に配布するが、授業支援システムにもアップする。配布するプリントに沿って授業を進めるので、欠席などによりプリントが手元にない場合は、必ず学習支援システムからダウンロードして授業に臨むこと。

【Outline (in English)】

(1) Course Outline

This is an introductory course in psychology, where students will learn how different psychological theories conceptualized human beings, comparing with other theories. This autumn term course will mainly focus on psychological theories of behaviorist and humanistic psychologies. Moreover, one of the most important theories of positive psychology, namely flow theory, will be introduced and discussed how we can attain psychological well-being.

(2) Learning Objectives

By the end of the course, students are expected to understand (a) how the theories of behaviorist psychology, gestalt psychology, humanistic psychology, and positive psychology conceptualized human beings and their development, and (b) how students' daily experiences can be explained by the psychological theories introduced in this course.

(3) Learning Activities Outside of Classroom

Students will be expected to spend 4 hours to understand the course content (2 hours each for before/after class meeting). Besides, students will be expected to spend their daily lives having course topics in the back of their mind.

(4) Grading Criteria/Policy

Final grade will be decided based on the term-end examination (100%).

PSY100LA

心理学 I

2017 年度以降入学者

浅川 希洋志

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 5/Thu.5

単位数：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

心理学におけるさまざまな理論が人間の心理や行動をどのように捉えているのかを理解するとともに、私たちの日常の経験をそういった心理学の理論に照らして考えていく。

【到達目標】

本講義では、フロイト、ユング、エリクソンの理論をとりあげ、それぞれがこころの働きや発達をどのように捉えているかを解説していく。また、「心理学 II」を連続履修することにより、さまざまな理論がどのような立場でお互いを批判し、展開してきたかを心理学の大きな流れとして捉えてもらえればと考えている。したがって、「心理学 I」「心理学 II」を連続履修することを期待する。このような授業を通して、最終的には日常の経験を心理学の理論に照らして考えてみる習慣を身につけてもらいたいと考えている。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

本授業は「対面形式」で実施する予定であるが、状況に応じて Zoom 等によるリアルタイム・オンライン授業を実施する可能性もある。

授業は講義を中心に行う。また、時折ビデオ、DVD 教材を用いて日常生活の中に見られるこころの問題を映像として捉えてみたいと考えている。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	講義の概要を説明する。
第 2 回	「心の理論」は人間をどう捉えているか	心理学におけるさまざまな理論が人間をどのように捉えているのかを解説していく。
第 3 回	心の働きはその人の生きる文化にどう影響されているのか	文化心理学的視点から、文化と心の働きの関連について考えていく。
第 4 回	描画テストにみる心の健康と健康障害 (TOPIC1)	心の健康と健康障がい描画テストにどのように現れるのかを、事例を見ながら確認していく。
第 5 回	統合失調症について (TOPIC2)	統合失調症に関するビデオを観る。併せて他の資料を参照し、統合失調症に対する認識を深める。
第 6 回	無意識の心理学（フロイト①）— 精神分析におけるパーソナリティ論について	フロイトが創始した精神分析におけるパーソナリティ理論をさまざまな側面から解説する。
第 7 回	無意識の心理学（フロイト②）— 心理・性的発達理論について	フロイトの精神分析における心理・性的発達理論について解説する。
第 8 回	無意識の心理学（フロイト③）— 精神分析治療のメカニズムについて	フロイトが考案した精神分析治療の根底にあるメカニズムを解説する。

第 9 回	無意識の心理学（ユング①）— 無意識の捉え方とその目的について	ユングの無意識の捉え方とその目的について解説する。
第 10 回	無意識の心理学（ユング②）— 無意識の層構造と元型について	ユングの考える無意識の層構造と元型について解説する。
第 11 回	アイデンティティの心理学（エリクソン①）— その人生と基本的な考え方について	エリクソンがなぜアイデンティティの心理学を作り上げるに至ったのかを解説する。
第 12 回	アイデンティティの心理学（エリクソン②）— 心理・社会的発達論について	エリクソンの心理・社会的発達論を解説する。
第 13 回	夜回り先生・水谷修の DVD 「いいもん だよ、生きるって」 (TOPIC3)	夜回り先生・水谷修の DVD 「いいもん だよ、生きるって」を観る。
第 14 回	授業の総括	授業のまとめ、期末試験の解説を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で扱うテーマを常に頭の片隅におきながら日常生活を送ること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

テキストは特に指定しない。適宜プリントを配付する。授業で配布するプリントはすべて学習支援システムにアップする。

【参考書】

平木典子・巖秀章編著『カウンセリングの基礎』（北樹出版、1997 年）。

【成績評価の方法と基準】

期末試験により評価する。したがって、成績評価の「配分 (%)」は期末試験 100 % となる。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60 % 以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

できるだけ身近で、具体的な例を用いて授業を展開していく。

【学生が準備すべき機器他】

授業で使うプリントは授業中に配布するが、授業支援システムにもアップする。配布するプリントに沿って授業を進めるので、欠席などによりプリントが手元にない場合は、必ず学習支援システムからダウンロードして授業に臨むこと。

【Outline (in English)】

(1) Course Outline

This is an introductory course in psychology, where students will learn how different psychological theories conceptualized human beings, comparing with other theories. This spring term course will mainly focus on Freud, Jung, and Erikson's theories, which deal with the unconscious. In order to understand a big picture of movement in psychology, students will be recommended to take Psychology II continuously in the autumn semester.

(2) Learning Objectives

By the end of the course, students are expected to understand (a) how Freud, Jung, and Erikson conceptualized human beings and their development, and (b) how students' daily experiences can be explained by the psychological theories introduced in this course.

(3) Learning Activities Outside of Classroom

Students will be expected to spend 4 hours to understand the course content (2 hours each for before/after class meeting). Besides, students will be expected to spend their daily lives having course topics in the back of their mind.

(4) Grading Criteria/Policy

Final grade will be decided based on the term-end examination (100%).

PSY100LA

心理学Ⅱ

2017年度以降入学者

浅川 希洋志

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 5/Thu.5

単位数：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

心理学におけるさまざまな理論が人間の心理や行動をどのように捉えているのかを理解するとともに、私たちの日常の経験をそういった心理学の理論に照らして考えていく。

【到達目標】

本講義では、担当者が「心理学Ⅰ」で取りあげるこころの理論（精神分析学を代表とする無意識の心理学）とは大きく立場の異なる行動主義心理学、ゲシュタルト心理学、人間性の心理学を取りあげ、それぞれの理論がこころをどのように捉えているかを解説していく。また、人間発達モデルとしてのフロー理論を紹介し、日常生活における充実感についても考えていく。このような授業を通して、最終的には日常の経験を心理学の理論に照らして考える習慣を身につけることを本講義の目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

本授業は「対面形式」で実施する予定であるが、状況に応じて Zoom 等によるリアルタイム・オンライン授業を実施する可能性もある。

授業は講義を中心に行う。また、時折ビデオ、DVD 教材を用いて日常生活の中に見られるこころの問題を映像として捉えてみたいと考えている。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	講義の概要を説明する。
第 2 回	心理学における人間観について	心理学の三大勢力、精神分析学、行動主義心理学、人間性の心理学が人間をどのように捉えているかを解説する。
第 3 回	行動主義心理学と行動療法①—さまざまな学習理論について	行動主義心理学にもとづくさまざまな学習理論を解説する。
第 4 回	行動主義心理学と行動療法②—行動療法どのような学習理論にもとづくか	行動療法がどのような学習理論にもとづき、実際、どのように行なわれているのかを解説する。
第 5 回	ゲシュタルト心理学とゲシュタルト療法①—基本的な考え方について	ゲシュタルト心理学の基本的な考え方について解説する。
第 6 回	ゲシュタルト心理学とゲシュタルト療法②—ゲシュタルト療法の技法について	「気づき」を重視するゲシュタルト療法の技法について解説する。
第 7 回	夜回り先生・水谷修のメッセージ②「生きていてくれてありがとう」(TOPIC1)	夜回り先生・水谷修の DVD「生きていてくれてありがとう」を観る。

第 8 回	人間性心理学と心理療法①—来談者中心療法の基本的考え方について	ロジャースの来談者中心療法の基本的考え方を解説する。
第 9 回	人間性心理学と心理療法②—来談者中心療法におけるカウンセラーの態度条件について	ロジャースの来談者中心療法におけるカウンセラーの態度条件について解説する。
第 10 回	精神科医・神谷美枝子について (TOPIC2)	精神科医・神谷美枝子に関するビデオを観る。
第 11 回	フロー理論と日常生活の充実感について①—楽しさにもとづく人間発達のモデル	楽しさにもとづく人間発達のモデルとしてのフロー理論を解説する。
第 12 回	フロー理論と日常生活の充実感について②—現代の子どもたち	フロー理論の観点から、現代の子どもたちの生き方や行動を考える。
第 13 回	フロー理論と日常生活の充実感について③—精神的健康を促進するフロー経験	実証研究を紹介しながら、楽しさと充実感を伴うフロー経験の有用性を解説する。
第 14 回	授業の総括	授業のまとめ、期末試験の解説を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で扱うテーマを常に頭の片隅におきながら日常生活を送ること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

テキストは特に指定しない。適宜プリントを配付する。授業で配布するプリントはすべて学習支援システムにアップする。

【参考書】

平木典子・巽秀章編著『カウンセリングの基礎』（北樹出版、1997 年）。会沢勲・石川悦子・浅川希洋志著『子どもたちは本当に変わってしまったのか』（学文社、1999 年）。浅川希洋志・静岡大学教育学部附属浜松中学校著『フロー理論に基づく「学びひたる」授業の創造』（学文社、2011 年）。今村浩明・浅川希洋志編著『フロー理論の展開』（世界思想社、2003 年）。チクセントミハイ著（浅川希洋志監訳）『クリエイティヴィティ』（世界思想社、2016 年）。

【成績評価の方法と基準】

期末試験により評価する。したがって、成績評価の「配分 (%)」は期末試験 100 % となる。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60 % 以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

できるだけ身近で、具体的な例を用いて授業を展開していく。

【学生が準備すべき機器他】

授業で使うプリントは授業中に配布するが、授業支援システムにもアップする。配布するプリントに沿って授業を進めるので、欠席などによりプリントが手元にない場合は、必ず学習支援システムからダウンロードして授業に臨むこと。

【Outline (in English)】

(1) Course Outline

This is an introductory course in psychology, where students will learn how different psychological theories conceptualized human beings, comparing with other theories. This autumn term course will mainly focus on psychological theories of behaviorist and humanistic psychologies. Moreover, one of the most important theories of positive psychology, namely flow theory, will be introduced and discussed how we can attain psychological well-being.

(2) Learning Objectives

By the end of the course, students are expected to understand (a) how the theories of behaviorist psychology, gestalt psychology, humanistic psychology, and positive psychology conceptualized human beings and their development, and (b) how students' daily experiences can be explained by the psychological theories introduced in this course.

(3) Learning Activities Outside of Classroom

Students will be expected to spend 4 hours to understand the course content (2 hours each for before/after class meeting). Besides, students will be expected to spend their daily lives having course topics in the back of their mind.

(4) Grading Criteria/Policy

Final grade will be decided based on the term-end examination (100%).

PSY100LA

心理学 I

2017 年度以降入学者

宇野 カオリ

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses

単位数：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

人間の条件について、心理学という学問が、その歴史において何を探究し解明してきたのか、そして、その探究を未来に向けてどのように推し進めようとしているのか、心理学の基礎的な内容を段階的に学習していきます。「心理学 I/II」を通して、分野横断的な取り組みを特徴とする「ポジティブ心理学 (positive psychology) (注)」のアプローチに基づき、従来の心理学の各分野における重要な概念や発見、ものの見方（観点）を概観しながら、「心理学のおもしろさ」に触れることを目指します。

(注：「ポジティブ心理学」とは、ウェルビーイングに関する科学的な研究の総称です。いわゆる「ポジティブになる」ことを奨励するような学問ではありません。)

【到達目標】

心理学は、社会科学の一領域であり、リベラルアーツ (liberal arts: 原義は、「人間を良い意味で束縛から解放するための知識や、生きるための力を身につけるための手法」) に深く根差してこそ、よりよく理解できる分野です。心理学 I・II が到達目標とするのは、科学的な探究という視点から心理学を捉えることができるようになること、また、リベラルアーツとして、本授業を通して得た心理学の知識が、学際的な思考力や想像力の素地となってくれることです。なお、「心理学 I」を履修しておらず、本授業から受講する学生も歓迎します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

学期を通して、「曜日時限なし」のオンライン（オンデマンド型）授業となります。ただし、前年度までの同授業形態の履修者の多くが、学習ペースの自己管理に困難を来したことから、授業動画の視聴および課題提出については定期的な期日を設けながら進めます。オンデマンド型学習のために、学習支援システム（掲示板は使用しません）と Google クラスルームを併用します。学期中の連絡手段は主にメールと Google クラスルームになりますので、必ず確認するようにしてください。その他の詳細については第 1 回授業のガイダンスでお伝えします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業概要 授業の進め方と方法
第 2 回	科学的心理学の歩み	心理学における科学的人間観 計量心理学
第 3 回	主観的経験とは何か (1)	知覚心理学
第 4 回	主観的経験とは何か (2)	感情心理学
第 5 回	主観的経験とは何か (3)	認知心理学
第 6 回	思考と個人差 (1)	学習心理学

第 7 回	思考と個人差 (2)	認知心理学 進化心理学
第 8 回	中間レポート	第 3 回～第 7 回授業の振り返り
第 9 回	意識の階層 (1)	臨床心理学
第 10 回	意識の階層 (2)	神経心理学
第 11 回	意識の階層 (3)	パーソナリティ心理学

第 12 回 自己と社会性 (1) パーソナリティ心理学

第 13 回 自己と社会性 (2) 社会心理学

第 14 回 期末レポート 第 9 回～第 13 回授業の振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で扱うテーマについて、授業を離れても日常的に意識して過ごしてみることをお勧めします。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準としますが、各自でペース調整をしてください。

【テキスト（教科書）】

『ポジティブ心理学入門：「よい生き方」を科学的に考える方法』（クリストファー・ピーターソン著、宇野カオリ訳、春秋社、2012 年）
<https://www.shunjusha.co.jp/book/9784393365205.html>

【参考書】

特に指定しませんが、テーマに応じて有益と思われる書籍は授業内で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

中間レポート 25%、期末レポート 25%、授業に関係するアクティビティ 50%

中間・期末レポート共に、暗記による知識ではなく、理解度を確保するものとなります。

授業に関係するアクティビティの具体的な内容を含め、成績評価に関する詳細についてはガイダンスで説明します。

【学生の意見等からの気づき】

< 授業内容について >

- ・授業に関する意見のなかで、最も励みとなったのは、「これからの人生を生きていく上でとても為になる」という言葉でした。
- ・「授業がおもしろい」というコメントも多くいただきます。皆さんの学生生活に即役に立つようなテーマを取り上げますが、楽しんで学習することによる学習効率についても念頭に置いています。
- ・かなり多くの方が、「自分はネガティブだと自覚しているが、ポジティブに振る舞っている」という悩みを抱えていることが、リアクションペーパー（オンラインで提出）を通して分かりました。ポジティブ心理学では、人間は生来、ネガティブになる傾向があることが指摘されています。「授業を通して、自分がなぜネガティブなのかが分かって救われた」との声が非常に多く寄せられました。

・総じて、毎回の授業内容について、リアクションペーパーでしっかりと自分の考えを述べたり、自己内省をして授業から学び取ったことを書いてくれたりした方がほとんどでした。

< 授業形式について >

- ・本授業は加点方式か、それとも減点方式か、という質問が、学期を通して寄せられましたが、本授業は基本的に加点方式です。
- ・諸事情により、動画配信を逃してしまった、課題が期日までに提出できなかった、という方も少なくありません。動画の再視聴期間や、課題の遅延提出期間を設けることで、支障なく学習を進められるよう、便宜を図ります。

【学生が準備すべき機器他】

スマホよりはパソコンでの受講が望ましいです。（課題は Google フォームで提出してもらいますが、スマホから提出を続けていたところ、受付となっておらず、それまでの提出が無効となった、という事例が発生しました。）

【その他の重要事項】

- ・心理学 I と心理学 II いずれかのみを受講でも支障ありませんが、連続して受講していただくと、心理学の基礎を一通り学習できるカリキュラムとなっています。
- ・日本語よりも英語を得意とする方は、リアクションペーパーやレポートを英語で書いて提出していただいても構いません。

【Outline (in English)】

【授業の概要 (Course Outline)】

The mission of this course is to provide a basic overall understanding of theoretical and empirical progress in contemporary psychology. On a broader perspective, the underlying aim of this course is to enhance your appreciation of how psychological inquiry as a scientific discipline can advance exploration and understanding of the human condition. Throughout the year, various key concepts, findings, and perspectives in each traditional psychological discipline will be introduced. The cross-disciplinary approach which characterizes positive psychology, the most well-known umbrella term for the scientific study of well-being, will be introduced as well.

【到達目標 (Learning Objectives)】

By the end of this course, students are expected to understand psychology from the perspective of social scientific inquiry and that in the context of liberal arts knowledge (see www.obirin.ac.jp/academics/arts_sciences/what_is_liberal_arts.html *in Japanese* for what liberal arts means). As knowledge aids the acquisition of more knowledge, students should be able to make use of the knowledge gained from this course as a foundation of further interdisciplinary pursuit. Students who have not enrolled in the spring semester is still welcome to take the course from the fall semester.

【授業時間外の学習 (Learning Activities Outside of Classroom)】

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be around two hours before and after each class meeting.

【成績評価の方法と基準 (Grading Criteria/Policy)】

Final grade will be calculated according to the following process: Mid-term report (25%), final report (25%), and class-related activities (50%). More details will be explained in the first lecture of each semester.

PSY100LA

心理学Ⅱ

2017年度以降入学者

宇野 カオリ

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

人間の条件について、心理学という学問が、その歴史において何を探究し解明してきたのか、そして、その探究を未来に向けてどのように推し進めようとしているのか、心理学の基礎的な内容を段階的に学習していきます。「心理学Ⅰ/Ⅱ」を通して、分野横断的な取り組みを特徴とする「ポジティブ心理学（positive psychology）（注）」のアプローチに基づき、従来の心理学の各分野における重要な概念や発見、ものの見方（観点）を概観しながら、「心理学のおもしろさ」に触れることを目指します。

（注：「ポジティブ心理学」とは、ウェルビーイングに関する科学的な研究の総称です。いわゆる「ポジティブになる」ことを奨励するような学問ではありません。）

【到達目標】

心理学は、社会科学の一領域であり、リベラルアーツ（liberal arts: 原義は、「人間を良い意味で束縛から解放するための知識や、生きるための力を身につけるための手法」）に深く根差してこそ、よりよく理解できる分野です。心理学Ⅰ・Ⅱが到達目標とするのは、科学的な探究という視点から心理学を捉えることができるようになること、また、リベラルアーツとして、本授業を通して得た心理学の知識が、学際的な思考力や想像力の素地となってくれることです。なお、「心理学Ⅰ」を履修しておらず、本授業から受講する学生も歓迎します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

学期を通して、「曜日時限なし」のオンライン（オンデマンド型）授業となります。ただし、前年度までの同授業形態の履修者の多くが、学習ペースの自己管理に困難を来したことから、授業動画の視聴および課題提出については定期的な期日を設けながら進めます。オンデマンド型学習のために、学習支援システム（掲示板は使用しません）と Google クラスルームを併用します。学期中の連絡手段は主にメールと Google クラスルームになりますので、必ず確認するようにしてください。その他の詳細については第1回授業のガイダンスでお伝えします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業概要 授業の進め方と方法
第2回	人間欲求としての戦争（「自己と社会性」再考）（1）	社会心理学 平和心理学
第3回	人間欲求としての戦争（「自己と社会性」再考）（2）	社会心理学 平和心理学
第4回	精神疾患か、それとも悪か？	臨床心理学 （異常心理学）
第5回	いじめと排他性のメカニズム	臨床心理学 道徳心理学

第6回	「いいひと」の起源	発達心理学 道徳心理学
第7回	人間性を（再）定義する	発達心理学 道徳心理学
第8回	中間レポート	第3回～第7回授業の振り返り
第9回	自己を「肯定」する・「否定」するとは？	感情的観点 認知的観点

第10回	愛こそはすべて	関係性の観点
第11回	私を殺さないものは、私を一層強くする	臨床的観点
第12回	大量消費社会における心の健康	個人差の観点
第13回	3つの「生きる」	生物学的観点
第14回	期末レポート	第9回～第13回授業の振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で扱うテーマについて、授業を離れても日常的に意識して過ごしてみることをお勧めします。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準としますが、各自でペース調整をしてください。

【テキスト（教科書）】

心理学Ⅰの授業への理解度に基づき、ガイダンスで指定します。（心理学Ⅱから受講する方は、心理学Ⅰのテキストの入手は任意とします。）

【参考書】

特に指定しませんが、テーマに応じて有益と思われる書籍は授業内で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

中間レポート 25%、期末レポート 25%、授業に関係するアクティビティ 50%

中間・期末レポート共に、暗記による知識ではなく、理解度を確保するものとなります。

授業に関係するアクティビティの具体的な内容を含め、成績評価に関する詳細についてはガイダンスで説明します。

【学生の意見等からの気づき】

< 授業内容について >

- ・授業に関する意見のなかで、最も励みとなったのは、「これからの人生を生きていく上でとても為になる」という言葉でした。
- ・「授業がおもしろい」というコメントも多くいただきます。皆さんの学生生活に即役に立つようなテーマを取り上げますが、楽しんで学習することによる学習効率についても念頭に置いています。
- ・かなり多くの方が、「自分はネガティブだと自覚しているが、ポジティブに振る舞っている」という悩みを抱えていることが、リアクションペーパー（オンラインで提出）を通して分かりました。ポジティブ心理学では、人間は生来、ネガティブになる傾向があることが指摘されています。「授業を通して、自分がなぜネガティブなのか分かって救われた」との声が非常に多く寄せられました。
- ・総じて、毎回の授業内容について、リアクションペーパーでしっかりと自分の考えを述べたり、自己内省をして授業から学び取ったことを書いてくれたりした方がほとんどでした。

< 授業形式について >

- ・本授業は加点方式か、それとも減点方式か、という質問が、学期を通して寄せられましたが、本授業は基本的に加点方式です。
- ・諸事情により、動画配信を逃してしまった、課題が期日までに提出できなかった、という方も少なくありません。動画の再視聴期間や、課題の遅延提出期間を設けることで、支障なく学習を進められるよう、便宜を図ります。

【学生が準備すべき機器他】

スマホよりはパソコンでの受講が望ましいです。（課題は Google フォームで提出してもらいますが、スマホから提出を続けていたところ、受付となっておらず、それまでの提出が無効となった、という事例が発生しました。）

【その他の重要事項】

- ・心理学Ⅰと心理学Ⅱいずれかのみを受講でも支障ありませんが、連続して受講していただくと、心理学の基礎を一通り学習できるカリキュラムとなっています。
- ・日本語よりも英語を得意とする方は、リアクションペーパーやレポートを英語で書いて提出していただいても構いません。

【Outline (in English)】

【授業の概要 (Course Outline)】

The mission of this course is to provide a basic overall understanding of theoretical and empirical progress in contemporary psychology. On a broader perspective, the underlying aim of this course is to enhance your appreciation of how psychological inquiry as a scientific discipline can advance exploration and understanding of the human condition. Throughout the year, various key concepts, findings, and perspectives in each traditional psychological discipline will be introduced. The cross-disciplinary approach which characterizes positive psychology, the most well-known umbrella term for the scientific study of well-being, will be introduced as well.

【到達目標 (Learning Objectives)】

By the end of this course, students are expected to understand psychology from the perspective of social scientific inquiry and that in the context of liberal arts knowledge (see www.obirin.ac.jp/academics/arts_sciences/what_is_liberal_arts.html *in Japanese* for what liberal arts means). As knowledge aids the acquisition of more knowledge, students should be able to make use of the knowledge gained from this course as a foundation of further interdisciplinary pursuit. Students who have not enrolled in the spring semester is still welcome to take the course from the fall semester.

【授業時間外の学習 (Learning Activities Outside of Classroom)】

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be around two hours before and after each class meeting.

【成績評価の方法と基準 (Grading Criteria/Policy)】

Final grade will be calculated according to the following process: Mid-term report (25%), final report (25%), and class-related activities (50%). More details will be explained in the first lecture of each semester.

PSY100LA

心理学 I

2017 年度以降入学者

宇野 カオリ

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses

単位数：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

人間の条件について、心理学という学問が、その歴史において何を探究し解明してきたのか、そして、その探究を未来に向けてどのように推し進めようとしているのか、心理学の基礎的な内容を段階的に学習していきます。「心理学 I/II」を通して、分野横断的な取り組みを特徴とする「ポジティブ心理学 (positive psychology) (注)」のアプローチに基づき、従来の心理学の各分野における重要な概念や発見、ものの見方（観点）を概観しながら、「心理学のおもしろさ」に触れることを目指します。

(注：「ポジティブ心理学」とは、ウェルビーイングに関する科学的な研究の総称です。いわゆる「ポジティブになる」ことを奨励するような学問ではありません。)

【到達目標】

心理学は、社会科学の一領域であり、リベラルアーツ (liberal arts: 原義は、「人間を良い意味で束縛から解放するための知識や、生きるための力を身につけるための手法」) に深く根差してこそ、よりよく理解できる分野です。心理学 I・II が到達目標とするのは、科学的な探究という視点から心理学を捉えることができるようになること、また、リベラルアーツとして、本授業を通して得た心理学の知識が、学際的な思考力や想像力の素地となってくれることです。なお、「心理学 I」を履修しておらず、本授業から受講する学生も歓迎します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

学期を通して、「曜日時限なし」のオンライン（オンデマンド型）授業となります。ただし、前年度までの同授業形態の履修者の多くが、学習ペースの自己管理に困難を来したことから、授業動画の視聴および課題提出については定期的な期日を設けながら進めます。オンデマンド型学習のために、学習支援システム（掲示板は使用しません）と Google クラスルームを併用します。学期中の連絡手段は主にメールと Google クラスルームになりますので、必ず確認するようにしてください。その他の詳細については第 1 回授業のガイダンスでお伝えします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業概要 授業の進め方と方法
第 2 回	科学的心理学の歩み	心理学における科学的人間観 計量心理学
第 3 回	主観的経験とは何か (1)	知覚心理学
第 4 回	主観的経験とは何か (2)	感情心理学
第 5 回	主観的経験とは何か (3)	認知心理学
第 6 回	思考と個人差 (1)	学習心理学

第 7 回	思考と個人差 (2)	認知心理学 進化心理学
第 8 回	中間レポート	第 3 回～第 7 回授業の振り返り
第 9 回	意識の階層 (1)	臨床心理学
第 10 回	意識の階層 (2)	神経心理学

第 11 回	意識の階層 (3)	パーソナリティ心理学
第 12 回	自己と社会性 (1)	パーソナリティ心理学
第 13 回	自己と社会性 (2)	社会心理学
第 14 回	期末レポート	第 9 回～第 13 回授業の振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で扱うテーマについて、授業を離れても日常的に意識して過ごしてみることをお勧めします。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準としますが、各自でペース調整をしてください。

【テキスト（教科書）】

『ポジティブ心理学入門：「よい生き方」を科学的に考える方法』（クリストファー・ピーターソン著、宇野カオリ訳、春秋社、2012 年）
<https://www.shunjusha.co.jp/book/9784393365205.html>

【参考書】

特に指定しませんが、テーマに応じて有益と思われる書籍は授業内で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

中間レポート 25%、期末レポート 25%、授業に関係するアクティビティ 50%

中間・期末レポート共に、暗記による知識ではなく、理解度を確認するものとなります。

授業に関係するアクティビティの具体的な内容を含め、成績評価に関する詳細についてはガイダンスで説明します。

【学生の意見等からの気づき】

< 授業内容について >

・授業に関する意見のなかで、最も励みとなったのは、「これからの人生を生きていく上でとても為になる」という言葉でした。

・「授業がおもしろい」というコメントも多くいただきます。皆さんの学生生活に即役に立つようなテーマを取り上げますが、楽しんで学習することによる学習効率についても念頭に置いています。

・かなり多くの方が、「自分はネガティブだと自覚しているが、ポジティブに振る舞っている」という悩みを抱えていることが、リアクションペーパー（オンラインで提出）を通して分かりました。ポジティブ心理学では、人間は生来、ネガティブになる傾向があることが指摘されています。「授業を通して、自分がなぜネガティブなのか分かって救われた」との声が非常に多く寄せられました。

・総じて、毎回の授業内容について、リアクションペーパーでしっかりと自分の考えを述べたり、自己内省をして授業から学び取ったことを書いてくれたりした方がほとんどでした。

< 授業形式について >

・本授業は加点方式か、それとも減点方式か、という質問が、学期を通して寄せられましたが、本授業は基本的に加点方式です。

・諸事情により、動画配信を逃してしまった、課題が期日までに提出できなかった、という方も少なくありません。動画の再視聴期間や、課題の遅延提出期間を設けることで、支障なく学習を進められるよう、便宜を図ります。

【学生が準備すべき機器他】

スマホよりはパソコンでの受講が望ましいです。（課題は Google フォームで提出してもらいますが、スマホから提出を続けていたところ、受付となっておらず、それまでの提出が無効となった、という事例が発生しました。）

【その他の重要事項】

・心理学 I と心理学 II いずれかのみを受講でも支障ありませんが、連続して受講していただくと、心理学の基礎を一通り学習できるカリキュラムとなっています。

・日本語よりも英語を得意とする方は、リアクションペーパーやレポートを英語で書いて提出していただいても構いません。

【Outline (in English)】

【授業の概要（Course Outline）】

The mission of this course is to provide a basic overall understanding of theoretical and empirical progress in contemporary psychology. On a broader perspective, the underlying aim of this course is to enhance your appreciation of how psychological inquiry as a scientific discipline can advance exploration and understanding of the human condition. Throughout the year, various key concepts, findings, and perspectives in each traditional psychological discipline will be introduced. The cross-disciplinary approach which characterizes positive psychology, the most well-known umbrella term for the scientific study of well-being, will be introduced as well.

【到達目標 (Learning Objectives)】

By the end of this course, students are expected to understand psychology from the perspective of social scientific inquiry and that in the context of liberal arts knowledge (see www.obirin.ac.jp/academics/arts_sciences/what_is_liberal_arts.html *in Japanese* for what liberal arts means). As knowledge aids the acquisition of more knowledge, students should be able to make use of the knowledge gained from this course as a foundation of further interdisciplinary pursuit. Students who have not enrolled in the spring semester is still welcome to take the course from the fall semester.

【授業時間外の学習 (Learning Activities Outside of Classroom)】

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be around two hours before and after each class meeting.

【成績評価の方法と基準 (Grading Criteria/Policy)】

Final grade will be calculated according to the following process: Mid-term report (25%), final report (25%), and class-related activities (50%). More details will be explained in the first lecture of each semester.

PSY100LA

心理学Ⅱ

2017年度以降入学者

宇野 カオリ

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

人間の条件について、心理学という学問が、その歴史において何を探究し解明してきたのか、そして、その探究を未来に向けてどのように推し進めようとしているのか、心理学の基礎的な内容を段階的に学習していきます。「心理学Ⅰ/Ⅱ」を通して、分野横断的な取り組みを特徴とする「ポジティブ心理学（positive psychology）（注）」のアプローチに基づき、従来の心理学の各分野における重要な概念や発見、ものの見方（観点）を概観しながら、「心理学のおもしろさ」に触れることを目指します。

（注：「ポジティブ心理学」とは、ウェルビーイングに関する科学的な研究の総称です。いわゆる「ポジティブになる」ことを奨励するような学問ではありません。）

【到達目標】

心理学は、社会科学の一領域であり、リベラルアーツ（liberal arts: 原義は、「人間を良い意味で束縛から解放するための知識や、生きるための力を身につけるための手法」）に深く根差してこそ、よりよく理解できる分野です。心理学Ⅰ・Ⅱが到達目標とするのは、科学的な探究という視点から心理学を捉えることができるようになること、また、リベラルアーツとして、本授業を通して得た心理学の知識が、学際的な思考力や想像力の素地となってくれることです。なお、「心理学Ⅰ」を履修しておらず、本授業から受講する学生も歓迎します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

学期を通して、「曜日時限なし」のオンライン（オンデマンド型）授業となります。ただし、前年度までの同授業形態の履修者の多くが、学習ペースの自己管理に困難を来したことから、授業動画の視聴および課題提出については定期的な期日を設けながら進めます。オンデマンド型学習のために、学習支援システム（掲示板は使用しません）と Google クラスルームを併用します。学期中の連絡手段は主にメールと Google クラスルームになりますので、必ず確認するようにしてください。その他の詳細については第1回授業のガイダンスでお伝えします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業概要 授業の進め方と方法
第2回	人間欲求としての戦争（「自己と社会性」再考）（1）	社会心理学 平和心理学
第3回	人間欲求としての戦争（「自己と社会性」再考）（2）	社会心理学 平和心理学
第4回	精神疾患か、それとも悪か？	臨床心理学 （異常心理学）
第5回	いじめと排他性のメカニズム	臨床心理学 道徳心理学

第6回	「いいひと」の起源	発達心理学 道徳心理学
第7回	人間性を（再）定義する	発達心理学 道徳心理学
第8回	中間レポート	第3回～第7回授業の振り返り
第9回	自己を「肯定」する・「否定」するとは？	感情的観点 認知的観点
第10回	愛こそはすべて	関係性の観点
第11回	私を殺さないものは、私を一層強くする	臨床的観点
第12回	大量消費社会における心の健康	個人差の観点
第13回	3つの「生きる」	生物学的観点
第14回	期末レポート	第9回～第13回授業の振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で扱うテーマについて、授業を離れても日常的に意識して過ごしてみることをお勧めします。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準としますが、各自でペース調整をしてください。

【テキスト（教科書）】

心理学Ⅰの授業への理解度に基づき、ガイダンスで指定します。（心理学Ⅱから受講する方は、心理学Ⅰのテキストの入手は任意とします。）

【参考書】

特に指定しませんが、テーマに応じて有益と思われる書籍は授業内で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

中間レポート 25%、期末レポート 25%、授業に関係するアクティビティ 50%

中間・期末レポート共に、暗記による知識ではなく、理解度を確認するものとなります。

授業に関係するアクティビティの具体的な内容を含め、成績評価に関する詳細についてはガイダンスで説明します。

【学生の意見等からの気づき】

< 授業内容について >

- ・授業に関する意見のなかで、最も励みとなったのは、「これからの人生を生きていく上でとても為になる」という言葉でした。
- ・「授業がおもしろい」というコメントも多くいただきます。皆さんの学生生活に即役に立つようなテーマを取り上げますが、楽しんで学習することによる学習効率についても念頭に置いています。
- ・かなり多くの方が、「自分はネガティブだと自覚しているが、ポジティブに振る舞っている」という悩みを抱えていることが、リアクションペーパー（オンラインで提出）を通して分かりました。ポジティブ心理学では、人間は生来、ネガティブになる傾向があることが指摘されています。「授業を通して、自分がなぜネガティブなのか分かって救われた」との声が非常に多く寄せられました。
- ・総じて、毎回の授業内容について、リアクションペーパーでしっかりと自分の考えを述べたり、自己内省をして授業から学び取ったことを書いてくれたりした方がほとんどでした。

< 授業形式について >

- ・本授業は加点方式か、それとも減点方式か、という質問が、学期を通して寄せられましたが、本授業は基本的に加点方式です。
- ・諸事情により、動画配信を逃してしまった、課題が期日までに提出できなかった、という方も少なくありません。動画の再視聴期間や、課題の遅延提出期間を設けることで、支障なく学習を進められるよう、便宜を図ります。

【学生が準備すべき機器他】

スマホよりはパソコンでの受講が望ましいです。（課題は Google フォームで提出してもらいますが、スマホから提出を続けていたところ、受付となっておらず、それまでの提出が無効となった、という事例が発生しました。）

【その他の重要事項】

- ・心理学Ⅰと心理学Ⅱいずれかのみを受講でも支障ありませんが、連続して受講していただくと、心理学の基礎を一通り学習できるカリキュラムとなっています。
- ・日本語よりも英語を得意とする方は、リアクションペーパーやレポートを英語で書いて提出していただいても構いません。

【Outline (in English)】

【授業の概要 (Course Outline)】

The mission of this course is to provide a basic overall understanding of theoretical and empirical progress in contemporary psychology. On a broader perspective, the underlying aim of this course is to enhance your appreciation of how psychological inquiry as a scientific discipline can advance exploration and understanding of the human condition. Throughout the year, various key concepts, findings, and perspectives in each traditional psychological discipline will be introduced. The cross-disciplinary approach which characterizes positive psychology, the most well-known umbrella term for the scientific study of well-being, will be introduced as well.

【到達目標 (Learning Objectives)】

By the end of this course, students are expected to understand psychology from the perspective of social scientific inquiry and that in the context of liberal arts knowledge (see www.obirin.ac.jp/academics/arts_sciences/what_is_liberal_arts.html *in Japanese* for what liberal arts means). As knowledge aids the acquisition of more knowledge, students should be able to make use of the knowledge gained from this course as a foundation of further interdisciplinary pursuit. Students who have not enrolled in the spring semester is still welcome to take the course from the fall semester.

【授業時間外の学習 (Learning Activities Outside of Classroom)】

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be around two hours before and after each class meeting.

【成績評価の方法と基準 (Grading Criteria/Policy)】

Final grade will be calculated according to the following process: Mid-term report (25%), final report (25%), and class-related activities (50%). More details will be explained in the first lecture of each semester.

PSY100LA

心理学 I

2017 年度以降入学者

櫻井 登世子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 4/Tue.4

単位数：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

心理学のなかでも児童（子ども）の心理、とくにことば・知性・思考・動機づけの発達に焦点をあて、教科書や関連する文献についてショートレポートを提出してもらう。

【到達目標】

1. 現代に生きる子どもたちを取り巻く環境について理解を深める。
2. ことば・認知と思考の発達を理解できる。
3. 動機づけのメカニズムを説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

対面授業を実施する。ただし、行動方針レベルが 1 から 2 になった場合は原則としてオンラインにより授業を進める。詳細は学習支援システムに掲載する。

前半は DVD の視聴を行ったり、パワーポイントを用いたりしながら、講義形式によって授業を進め、後半は授業内容に関連する資料に基いて考察し、リアクションペーパーの提出を求める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の内容・進め方などについて説明する。
第 2 回	子どもをどうとらえるのか	小学生に対するイメージを自由記述する。人間の子どもの特徴を概説する。
第 3 回	児童期とは	児童期の定義 児童期の様相
第 4 回	現代に生きる子どもたち	家庭のなかの子ども 現代の子どもの生活
第 5 回	子どもと学校生活 子どもと情報通信メディア	学校は楽しいか 子どもと仲間たち 情報通信メディアの普及
第 6 回	からだと運動 ストレス	からだと健康 ストレスのとらえ方
第 7 回	ことば	言語発達の概要
第 8 回	知性	知能 思考
第 9 回	創造性と学力	創造性とは 学力とは
第 10 回	認知と思考	記憶
第 11 回	問題解決	問題解決とは何か 算数文章題に見る問題解決
第 12 回	動機づけ 内発的動機づけと外的報酬	動機づけのメカニズム、学習への報酬、人間的報酬と物質的報酬、人間関係の影響
第 13 回	無気力	学習性無力感 達成目標と無気力
第 14 回	まとめ	児童のこころの発達について、認知・思考、動機づけの観点から総まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1. 日頃から、子どもを取り巻く環境に関心を持つ。
2. 新聞記事など、子どもに関連する情報を取り込むようにする。
3. 授業内容を日常場面にあてはめてみる。

【テキスト（教科書）】

『新版 子どもとこころー児童心理学入門』

櫻井茂男・濱口佳和・向井隆代（著）

有斐閣アルマ, 2014 年

2,100 円＋税

【参考書】

『学習意欲の心理学』 櫻井茂男著 誠信書房, 2010 年

『はじめて学ぶ乳幼児の心理』 櫻井茂男編著 有斐閣アルマ, 2010 年

【成績評価の方法と基準】

授業内のリアクションペーパー 70%, 学期末レポート課題 30%

【学生の意見等からの気づき】

2022 年度は履修者数が 70 名程度で 3 年ぶりの対面授業がスムーズに行えました。対面授業ならではの体験型授業を実施することができて、学生からも好評でした。

【Outline (in English)】

This course focuses on children's psychology, particularly development of language, intelligence, thinking, motivation, as it relates to psychology, through short reports on related literature and texts.

Learning Objectives: By the end of the course, students should be able to do the followings: Understand the development of language, cognition and thinking.

Explain the mechanism of motivation.

Learning activities outside of classroom: Students will be expected to interest in environment of children.

Your study time will be more than two hours for class.

Grading Criteria: Term end test(70%), short report(30%)

PSY100LA

心理学Ⅱ

2017年度以降入学者

櫻井 登世子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 4/Tue.4

単位数：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

心理学分野のなかでも子ども（児童）の心理、とくにパーソナリティ、子どもの人間関係、社会性の発達、子どもの心理治療に焦点をあてます。児童を取り巻く環境や発達状況の変化について理解できるようにします。

【到達目標】

- ①児童（子ども）のイメージを豊かにつくる。
- ②児童（子ども）の心理を理解する。
- ③児童（子ども）のこころの問題に対処できる知識を修得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

対面授業を実施します。ただし、行動方針レベルが1から2になった場合、この授業は原則としてオンラインで進めます。詳細は学習支援システムに掲載します。

講義形式で授業を進めていきます。pptを提示して説明しますが、DVD鑑賞を数回予定しています。各章ごとに復習問題に取り組み、理解度を確認していきます。

ショートレポート課題を数回提示します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の進め方等について説明する。
第2回	自分をよく知りたい	自己概念
第3回	パーソナリティ	パーソナリティの理論 パーソナリティの測定方法
第4回	人間関係	親・家族との関係
第5回	友達・仲間との関係	仲間関係の発達 生徒と教師の関係
第6回	社会性	向社会的行動とは何か 向社会的行動の発達
第7回	向社会的行動を支える 内的要因	共感と向社会的行動
第8回	攻撃行動	攻撃行動に及ぼす観察学習の影響
第9回	性	性同一性と性役割 性役割の発達
第10回	子どもの心理臨床	子どもの心理臨床とは
第11回	ソーシャル・スキル・ トレーニング	ソーシャル・スキル・トレーニングの具体例
第12回	子どもの心理臨床の流 れ	場面緘黙の事例
第13回	遊戯療法	遊戯療法とは カウンセリング
第14回	まとめ	子どもの人間関係・社会性・心理 臨床についての総まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・自分の小学生時代といまどきの小学生を比べてみましょう。
- ・日頃から児童（子ども）を取り巻く環境に関心を持つようにしましょう。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『新版 子どもとこころ—児童心理学入門』櫻井茂男・濱口佳和・向井隆代、有斐閣アルマ、2014年新版、2100円＋税

【参考書】

授業内で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

授業内のショートレポート70%、学期末のレポート課題30%

【学生の意見等からの気づき】

2022年度は履修者数が50名程度で、3年ぶりの対面授業をスムーズに進められました。授業内に実施した質問紙や復習問題で、授業に対する理解度が深まりました。

【その他の重要事項】

心理学Iを履修していることが望ましい。

【Outline (in English)】

This course focuses on children's psychology, particularly personality, children's relationship, development of social skill and children's therapy, as it relates to psychology.

Learning Objectives: By the end of the course, students should be able to do the followings:

Make image of child.

Understand children's mind.

Have the intelligence to solve the problem of children's mind.

Learning activities outside of classroom: Students will be expected to interest in environment of children.

Grading Criteria: Term end test(70%) short report(30%)

GEO100LA

地理学 I

2017 年度以降入学者

前畑 明美

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 5/Thu.5

単位数：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

高校の地理では、世界・日本各地の様々な事象を「暗記する」ことが中心だったのではないのでしょうか。しかし、大学の地理学では、空間・地域・景観・場所などの地理学的キーワードから、現代世界の様々な事象を深く理解し、学生自らが論理的に考えることの大切さを学びます。本科目では足もとに広がる陸域、「島」に注目することとし、地図、海図、統計、映像、写真をはじめ諸資料をもとに、私たちが生きる島嶼（とうしょ）生活空間について理解を深めていくことを目的とします。

【到達目標】

現代世界の様々な事象、とくに「島」に関わる事象を理解することを通して、地理学の考え方を学ぶことを目標とします。近年「島」をめぐる様々なニュースに接するようになり、国際問題化している事案に目が行きがちですが、じつは人口減少や少子高齢化の問題をはじめ「島嶼国日本の縮図」としての先進的現象が国内の多くの島々で生起しています。全 14 回の授業を通して、「島嶼性」という普遍的でダイナミックな島の性質を捉えていくとともに、国内外の島々にみられる興味深い実態、諸現象について、その全体的状況がどうなっているのか、いかなる仕組み・構造のもとで発現しているのか、どのような意味を有しているのかなど、「島嶼性」を踏まえて論理的に説明できるようになることを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

・オンライン授業とし、毎週 Zoom にてリアルタイム配信型の授業を行います。学習支援システムの「お知らせ」に Zoom の URL を掲載しますので、開始時間が近づきましたら Zoom のミーティングルームにお入りください。

・ご質問や連絡事項は授業の前後、もしくはメールでよろしくお問い合わせいたします。

・期末にまとめのレポートをご提出いただき、後日フィードバックいたします。初回時に詳しく説明することといたします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	地理から地理学へ	高校地理から大学の地理学へ
第 2 回	地理学が扱う諸問題	授業で取り上げる事象の説明
第 3 回	身近な事象を通して地理学を考える（1）	わたしたちの周りにおける地理学的考え方
第 4 回	身近な事象を通して地理学を考える（2）	メディアにおける地理学的考え方
第 5 回	現代世界における生態・環境（1）	世界における生態・環境
第 6 回	現代世界における生態・環境（2）	日本における生態・環境
第 7 回	現代社会の経済・社会・政治	「島嶼性」と日本・世界の島々
第 8 回	現代社会の情報・通信・観光	島々の歴史（豊島産廃問題と瀬戸内国際芸術祭）

第 9 回 現代のんびとの生活・鳥々の文化（戦後の図書館運動と文化 島）

第 10 回 日本社会における諸問題 地理学的な考え方を学ぶには？ 題（1）

第 11 回 日本社会における諸問題 日本の諸地域を事例として 題（2）

第 12 回 グローバル社会における諸問題 地理学的な考え方を学ぶには？ 題（1）

第 13 回 グローバル社会における諸問題 世界の諸地域を事例として 題（2）

第 14 回 まとめ 試験 授業の総括と試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

島・海について、日頃からキーワードとして留意し、情報収集に努めてください。その際、できるだけ複数の資料にあたってくださいと思います。また授業後には、気づいた点・疑問点をそのままにせず、積極的に図書館などを活用して探究してください。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし。毎回プリント教材を用いたいと思います。学習支援システムの「教材」からダウンロードいただく形となります。

【参考書】

高等学校用地図帳があると、位置確認が容易となり役立ちます。その他は適宜授業内で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

毎回のコメント（50%）・レポート（50%）

質問やコメントなど、日頃の積極的な姿勢を評価いたします。

【学生の意見等からの気づき】

どこが重要なポイントであるのか、毎回意識するようにしてください。

【学生が準備すべき機器他】

オンライン授業にて Zoom を使用しますので、パソコンやタブレットなどをご準備の上、通信状況も予めご確認ください。

【その他の重要事項】

授業開始までに、ご準備いただきたいことなど要点をまとめ、授業支援システムに上げておきたいと思っております。第 1 回の授業までに必ずご確認くださいませよう。

【Outline (in English)】

High school geography classes focus on "memorizing" various phenomena in the world and Japan. In university geography, however, we learn the importance of understanding deeply and thinking logically about various phenomena in the modern world based on geographical keywords such as space, region, landscape and location. This course focuses on "islands" in particular, and aims to deepen the understanding of island life space using maps, charts, statistics, videos and photographs.

In each session, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading will be decided based on the following :
reaction papers : 50%, term-end reports : 50%

GEO100LA

地理学Ⅱ

2017年度以降入学者

前畑 明美

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 5/Thu.5

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

世界の諸地域や日本の諸地域について、諸資料をもとに比較考察し、現代社会には多様な地域・人びとが存在することを学びます。そのうえで、グローバル化のすすむ社会のなかで、多様な人びとが共生していくことの重要性を、受講生自らが考える力を養います。本科目では足元に広がる「島」に注目することとし、地図、統計、新聞、映像、写真など様々な資料をもとに島の一般的な性質、および島々の多様な姿について捉え、最終的には私たちが生きている島嶼（とうしょ）生活空間への理解を深めていくことを目的としています。

【到達目標】

現代世界の諸地域、とくに「島」を地誌的に考察することを目標とします。全14回の授業を通して、普遍的でダイナミックな「島嶼性」という島の一般的な性質を捉えていくとともに、国内外の島々にみられる興味深い実態、諸現象について、その全体的状況がどうなっているのか、いかなる仕組み・構造のもとで発現しているのか、どのような意味を有しているのかなど、「島嶼性」を踏まえて論理的に説明できるようになることを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

・オンライン授業とし、毎週Zoomにてリアルタイム配信型の授業を行います。学習支援システムの「お知らせ」にZoomのURLを掲載しますので、開始時間が近づきましたらZoomのミーティングルームにお入りください。

・ご質問や連絡事項は授業の前後、もしくはメールでよろしく願いいたします。

・期末にまとめたレポートをご提出いただき、後日フィードバックいたします。初回時に詳しく説明することといたします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	大学で学ぶ地誌	アカデミズムにおける地誌学とは？
第2回	世界や日本の諸地域について学ぶとは？	授業で取り上げる国や地域の説明
第3回	地図をもとに世界・日本について考える	島の定義、「島嶼性」と島嶼ネットワーク
第4回	新聞記事やニュースなどから世界・日本について考える	島々の産業の盛衰にみる「島嶼性」の表出
第5回	統計資料をもとに世界・日本について考える	戦後日本の島嶼政策とそこにみられる諸問題
第6回	映像資料から世界・日本について考える	島々のコミュニティとネットワーク
第7回	現代世界の諸地域	地域区分と国家
第8回	現代世界の諸地域	資源・産業
第9回	現代世界の諸地域	人口
第10回	現代世界の諸地域	都市・村落
第11回	現代世界の諸地域	生活文化

第12回 現代世界の諸地域 民族・宗教・領土問題など

第13回 現代の私たちが描く世 未来の社会のために
界像・日本像

第14回 まとめ 試験 授業の総括と試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

島・海について、日頃からキーワードとして留意し、情報収集に努めてください。その際、できるだけ複数の資料にあたってくださいと思います。また授業後には、気づいた点・疑問点をそのままにせず、積極的に図書館などを活用して探究してください。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし。毎回プリント教材を用いたいと思います。学習支援システムの「教材」からダウンロードいただく形となります。

【参考書】

高等学校用地図帳がありますと、位置確認が容易となり役立ちます。その他は適宜授業内で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

毎回のコメント（50%）・レポート（50%）
質問やコメントなど、日頃の積極的な姿勢を評価いたします。

【学生の意見等からの気づき】

どこが重要なポイントであるのか、毎回意識するようにしてください。

【学生が準備すべき機器他】

オンライン授業にてZoomを使用しますので、パソコンやタブレットなどをご準備の上、通信状況も予めご確認ください。

【その他の重要事項】

授業開始までに、ご準備いただきたいことなど要点をまとめ、授業支援システムに上げておきたいと思います。第1回の授業までに必ずご確認くださいませよう。

【Outline (in English)】

We compare and consider many regions of the world and Japan based on many kinds of materials, and learn that there are various regions and people in modern society. From there, we foster the ability to think for ourselves the importance of the coexistence of diverse people in a globalized society. The purpose of this course is to deepen our understanding of the island life space by considering the general nature of islands and the diversity of islands based on materials such as maps, statistics, newspapers, videos and photographs.

In each session, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading will be decided based on the following :
reaction papers : 50%, term-end reports : 50%

GEO100LA

地理学 I

2017 年度以降入学者

前川 明彦

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 4/Wed.4

単位数：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

高校の地理では、世界・日本各地の様々な事象を「暗記する」ことが中心だったのではないのでしょうか。しかし、大学の地理学では、空間・地域・景観・場所などの地理学的キーワードから、現代世界の様々な事象を深く理解し、学生自らが論理的に考えることの大切さを学びます。具体的には約 50 億年以上前に地球が生まれ、大気が生じ、数億年前に生物が生まれ進化と絶滅を繰り返します。その後 20 万年前に人類が生まれ、厳しい自然条件を乗り越えながら、現在に至ります。こうしてできた人間社会を自然地理学と人文地理学をとおして考える重要性を学ぶわけです。

【到達目標】

現代世界の様々な事象を理解することを通して、地理学の考え方や自分で考えるという力を学ぶことを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

本講義では、各テーマにかかわる身近なトピックを紹介しながら、すすめていきます。対面授業の利点を活かし「考える」ことを重視するために、一方的な講義を少しは変えたいと思います。基本的に、教材等は授業支援システムを使う予定です。感染予防対策のため、授業資料の紙での配布はいたしません（すべて学習支援システムにアップします）。なお、授業時に AL として GD/GW を毎回ではありませんが試みます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	地理から地理学へ	高校地理から大学の地理学へ 地理学って何だろう
第 2 回	地理学が扱う諸問題	世界から見える課題と地理学の課題
第 3 回	身近な事象を通して地理学を考える（1）	地理学的な考え方を学ぶには？ 渋谷の街から見えてくるものは何だろう 新宿・池袋
第 4 回	身近な事象を通して地理学を考える（2）	メディアにおける地理学的考え方 —プラタモリの世界—
第 5 回	現代世界における生態・環境（1）	世界における生態・環境 なぜ、北海道の米がうまくなった
第 6 回	現代世界における生態・環境（2）	世界の環境 産業・経済と環境のジレンマ
第 7 回	現代の人びとの生活・文化	餃子で考える、食文化と環境決定論、可能論の世界
第 8 回	現代社会の経済・社会・政治	遅れた日本 失われた 30 年 DX, AI 社会ほか
第 9 回	現代社会の情報・通信・観光	GIS で観光の実態を可視化しよう
第 10 回	日本社会における諸問題（1）	地理学的な考え方を学ぶには？ 新たな産業とって 30 年
第 11 回	日本社会における諸問題（2）	災害を GoogleMap やハザードマップから考える

第 12 回 グローバル社会におけるグローバル社会の分断と混乱 地理学上の諸問題（1） 地理学的な考え方で考える？

第 13 回 グローバル社会における格差・貧困とグローバル社会の諸問題（2）

第 14 回 試験 まとめと解説 最終レポートの解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

世界や日本の最新動向を知るために、ニュースや新聞を読むようにしてください。コロナやウクライナ問題などの世界での出来事や失われた日本社会の様々な出来事にも興味を持ってください。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

適宜指示する

【成績評価の方法と基準】

対面授業予定ですので、中間・期末のレポート 80 %：持ち込み可）授業での平常点（20 %）としますが、感染の拡大等から変わる可能性もあります。

【学生の意見等からの気づき】

コロナ下の世界で学生は孤独感や孤立感、ストレス等からコミュニケーションの重要性が問われた気がします。対面中心を予定していますから、授業を居場所としてコミュニティの重要性をフルに発揮していきたいと思います。むしろ、授業でたくさんの知り合いを、違う学年や他学部から増やし、ネットワークを広げてみてください。今期も前向きに考えてやってみましょう。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムでの資料配信などを行います。それを見ることができるよう PC などの機器類を準備してください。

【その他の重要事項】

高校で地理を学んでいない人は大歓迎です。春学期の I では地理学の基礎、秋学期の II はグローバルな地誌的な見方での応用が中心です。大学デビューのつもりで新たな柔軟な思考を持ちたいなどの人も歓迎します。

授業開始日までに、内容の詳細や要点をまとめて授業支援システムに上げておきたいと思います。必ずご確認ください。（仮登録すれば見れるようにします）状況次第ですが、対面授業形式の利点に AL や今後の将来でも生かせる GD・GW などとも試みたいと思います。あまり一方的な授業は避けたいのでみんなで知り合いを創るためにも楽しみましょう。授業アシスタントの人を予定していますので、1 年生などはさまざまな相談をしてみてください。

【Outline (in English)】

Course outline: Regional or geographical issues in the modern world.

Learning Objective: Students will gain a deep understanding of various events in the modern world and learn the importance of thinking logically on their own.

Learning activities outside of classroom: Total of 4 hours

Grading Criteria: Examination 80% Contribution to class 20%

GEO100LA

地理学Ⅱ

2017 年度以降入学者

前川 明彦

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 4/Wed.4

単位数：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

世界の諸地域や日本の諸地域について、諸資料をもとに比較考察し、現代社会には多様な地域・人びとが存在することを学びます。そのうえで、グローバル化のすすむ社会のなかで、多様な人びとが共生していくことの重要性を、受講生自らが考える力を養います。

【到達目標】

現代世界の諸地域を地誌的に考察すること、アフターコロナ後の世界各地や日本などについて、自ら考えていけるようになることを目標にします。さらに、高校までの地理の復習や延長ではなく、日本や世界の身近な課題等を地理学とおして多様な持続可能な考え方として尊重することも考えます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

基本的には、対面授業中心となります。基本は「世界を知ろう」です。身近なことから地理学・地誌学的に世界を知ろうということです。本講義では、各テーマにかかわる身近なトピックを紹介しながら、すすめていきます。対面授業の利点を活かし、考える授業のためにGD・GWを多少行い、一方的な講義を少しは変えたいと思います。基本的に、教材等は授業支援システムを使う予定ですので、予復習のためにも習熟してください。また、授業アシスタントの人も予定していますので、いろいろ相談してみてください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	大学で学ぶ地誌	アカデミズムにおける地誌学とは？ アジアの成長から考えよう
第 2 回	世界や日本の諸地域について学ぶとは？	授業で取り上げる国や地域の説明 東アジアから考えよう
第 3 回	地図をもとに世界・日本について考える	東アジアと日本 中国などを事例に地域社会を考える
第 4 回	統計資料をもとに世界・日本について考える	ビッグデータなど統計資料の紹介と分析、GISなどを学ぶ ASEAN
第 5 回	新聞記事やニュースなどから世界・日本について考える	アフターコロナ後のグローバル社会について考えてみよう ASEAN タイなど、
第 6 回	映像資料から世界・日本について考える	映画やネット動画から分析してみよう ASEAN ベトナム・カンボジアなど
第 7 回	現代世界の諸地域	インドネシアを事例に地域区分と国家・宗教・民族 多様性
第 8 回	現代世界の諸地域	南アジアを事例に資源・産業 世界一の人口インド
第 9 回	現代世界の諸地域	アメリカを事例に都市・移民
第 10 回	現代世界の諸地域	アメリカを事例に分断と格差

第 11 回	現代世界の諸地域	ヨーロッパを事例に移民・分断社会 生活文化
第 12 回	現代世界の諸地域	ヨーロッパを事例に民族・宗教・領土問題、都市など
第 13 回	現代の私たちが描く世界像・日本像	未来の社会のために日本を考える
第 14 回	試験 まとめと解説	授業の総括と最終レポートの説明

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

インターネットや様々なドキュメンタリー番組などを見て、世界や日本の動向に興味をもつようになしてください。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

基本的になし

【参考書】

適宜、指示します

【成績評価の方法と基準】

体面授業が中心となります。中間・期末のレポート（80%）、授業時での平常点（20%）として総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

2 年間、学生は孤独感や孤立感、ストレス等からコミュニケーションの重要性が問われた気がします。今年度は、対面中心を予定していますから、授業を居場所としてコミュニティの重要性をフルに発揮していきたいと思います。むしろ、授業でたくさんの知り合いを、違う学年や他学部から増やし、ネットワークを広げてみてください。今期も前向きに考えてやってみましょう。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムを教材や課題等で使用するので、慣れてほしい。対面授業形式ですが、先進国の中でパソコンが苦手な人が多いといわれる日本ですので、タブレット以上に慣れてください

【その他の重要事項】

授業開始日までに、内容の詳細や要点をまとめて授業支援システムに上げておきたいと思います。必ずご確認ください。（仮登録すれば見れるようになります）状況次第ですが、あまり一方的な授業は避けたいのでみんなでALも楽しみましょう。また、授業アシスタントの人を予定していますので、1 年生などはさまざまな相談をしてみてください。添付ファイル参考に

【Outline (in English)】

Course outline: Regional or geographical issues in the modern world.

Learning Objective: Students will develop the ability to think for themselves about the importance of coexistence among diverse people in an increasingly globalized society.

Learning activities outside of classroom: Total of 4 hours

Grading Criteria: Examination 80% Contribution to class 20%

GEO100LA

地理学 I

2017 年度以降入学者

米家 志乃布

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 1/Thu.1

単位数：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

高校の地理では、世界・日本各地の様々な事象を「暗記する」ことが中心だったのではないのでしょうか。しかし、大学の地理学では、空間・地域・景観・場所などの地理学的キーワードから、現代世界の様々な事象を深く理解し、学生自らが論理的に考えることの大切さを学びます。

【到達目標】

現代世界の様々な事象を理解することを通して、地理学の考え方を学ぶことを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

本講義では、人文地理学的なテーマにかかわるトピックを紹介しながら、すすめていきます。高校時代に地理を学習していない受講生にも、大学での地理学的な考え方をわかりやすく説明していきます。高校教科書や地図帳を利用したり、様々な画像・映像も見ていきたいと考えています。大学の方針に従って、本年は対面授業を基本とします。しかし、授業支援システムを主に活用し、資料配信やコメント提出もしていただきます。リアクションペーパーには授業支援システムを使って教員からコメントをします。授業資料の紙での配布はいたしません（すべて学習支援システムにアップします）。授業開始時間にも配慮します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	地理から地理学へ	高校地理から大学の地理学へ
第 2 回	地理学が扱う諸問題	さまざまな地理学的課題
第 3 回	身近な事象を通して地理学を考える（1）	法政大学周辺の地理
第 4 回	身近な事象を通して地理学を考える（2）	メディアのなかの地理
第 5 回	現代世界における生態・環境（1）	自然と人々の生活
第 6 回	現代世界における生態・環境（2）	環境問題
第 7 回	現代の人びとの生活・文化	都市と地方 東京一極集中
第 8 回	現代社会の経済・社会・政治	軍事・防衛
第 9 回	現代社会の情報・通信・観光	アートと観光・地域振興
第 10 回	日本社会における諸問題（1）	自然災害と防災
第 11 回	日本社会における諸問題（2）	少子化・高齢化 空き家問題
第 12 回	グローバル社会における諸問題（1）	ロシアによるウクライナ戦争
第 13 回	グローバル社会における諸問題（2）	感染症と世界
第 14 回	まとめ	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

世界や日本の最新動向を知るために、ニュースや新聞を読むようにしてください。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特にありません。必要な資料は適宜、学習支援システムにアップします。

【参考書】

『高等学校用地図帳』その他は適宜授業内で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

レポート課題 50 %、コメント提出 25 %、平常点 25 %

【学生の意見等からの気づき】

映像資料（写真や DVD、映画など）は好評でしたので、対面授業内で積極的に鑑賞する機会をもうけます。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムでの資料配信を行います（紙での配布はしません）。それを見ることができるよう PC などの機器類を準備してください。

【その他の重要事項】

高校時代に地理を学んでいない人も大歓迎です。

【Outline (in English)】

【Course outline】 This lecture examines various issues in contemporary world through academic key words of human geography.

【Learning Objectives】 The goals of this course is to understand human geographies of Japan and Russia.

【Learning activities outside of classroom】 Your study time will be more than 4 hours for a class.

【Grading Criteria】 Term-end report:50%, short report:25% and class contribution:25%

GEO100LA

地理学Ⅱ

2017年度以降入学者

米家 志乃布

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 1/Thu.1

単位数：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

世界の諸地域や日本の諸地域について、諸資料をもとに比較考察し、現代社会には多様な地域・人びとが存在することを学びます。そのうえで、グローバル化のすすむ社会のなかで、多様な人びとが共生していくことの重要性を、受講生自らが考える力を養います。

【到達目標】

現代世界の諸地域を地誌的に考察することを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

本講義では、世界や日本の地誌を扱います。大学の方針に従って、本年は対面授業を基本とします。授業支援システムでの資料配信やリアクションペーパーの提出・返送も行います。必要な事項は全員向けに授業支援システム内の掲示板を利用します。感染予防対策のため、授業資料の紙での配布はいたしません（すべて学習支援システムにアップします）。授業開始時間にも配慮します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	大学で学ぶ地誌	地誌とは？
第2回	世界や日本の諸地域について学ぶとは？	世界や日本の地誌
第3回	地図をもとに世界・日本について考える	地図から見る世界と日本
第4回	統計資料をもとに世界・日本について考える	統計から見る世界と日本
第5回	新聞記事やニュースなどから世界・日本について考える	最近の新聞・ニュースから見る世界と日本
第6回	映像資料から世界・日本について考える	映画からみる世界と日本
第7回	現代世界の諸地域	ロシア
第8回	現代世界の諸地域	ヨーロッパ（1）西欧
第9回	現代世界の諸地域	ヨーロッパ（2）中欧
第10回	現代世界の諸地域	ヨーロッパ（3）東欧
第11回	現代世界の諸地域	バルト三国
第12回	現代世界の諸地域	中央アジア
第13回	現代の私たちが描く世界像・日本像	近未来の日本像
第14回	まとめ	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

インターネットや様々なドキュメンタリー番組などを見て、世界や日本の動向に興味をもつようにしてください。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特にありません。

【参考書】

高等学校用地図帳 その他は適宜授業内で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

レポート 50 %、コメント提出 25 %、平常点 25 %

【学生の意見等からの気づき】

各地の状況を理解するために、様々な映像資料を使います。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムでの資料配信を行います（紙での配布はしません）。それを見ることができるよう、PC やスマートフォンなどの機器類は準備してください。

【その他の重要事項】

高校時代に地理を学んでいない人も大歓迎です。

【Outline (in English)】

【Course outline】 This lecture examines culture and people of various regions in the world through academic key words of topography.

【Learning Objectives】 The goals of this course is to understand topography of Japan and Russia.

【Learning activities outside of classroom】 Your study time will be more than 4 hours for a class.

【Grading Criteria】 Term-end report:50%, short report:25% and class contribution:25%

GEO100LA

地理学 I

2017 年度以降入学者

前畑 明美

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 3/Wed.3

単位数：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

高校の地理では、世界・日本各地の様々な事象を「暗記する」ことが中心だったのではないのでしょうか。しかし、大学の地理学では、空間・地域・景観・場所などの地理学的キーワードから、現代世界の様々な事象を深く理解し、学生自らが論理的に考えることの大切さを学びます。本科目では、とくに「海」に関わる事象を取り上げます。

【到達目標】

現代世界の様々な事象、とくに「海」に関する事象を理解することを通して、地理学の考え方を学ぶことを目標とします。マイクロプラスチックによる海洋汚染の問題、領海をめぐる問題など、海をめぐる様々な問題は、陸域の人間社会のあり様が反映されて生起している現象です。全 14 回により、「海」および「海に囲まれた島嶼生活空間」についての認識を深め、そうした諸現象について、その全体的状況はどうなっているのか、いかなる仕組み・構造のもとで発現しているのか、現代社会にとってどのような意味を有しているのかなど、論理的に考えて説明できるようになることを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

・オンライン授業とし、毎週 Zoom にてリアルタイム配信型の授業を行います。学習支援システムの「お知らせ」に Zoom の URL を掲載しますので、開始時間が近づきましたら Zoom のミーティングルームにお入りください。

・ご質問や連絡事項は授業の前後、もしくはメールでよろしく願いいたします。

・期末にまとめのレポートをご提出いただき、後日フィードバックいたします。初回時に詳しく説明することといたします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	地理から地理学へ	高校地理から大学の地理学へ
第 2 回	地理学が扱う諸問題	授業で取り上げる事象の説明
第 3 回	身近な事象を通して地理学を考える（1）	わたしたちの周りにおける地理学的考え方
第 4 回	身近な事象を通して地理学を考える（2）	メディアにおける地理学的考え方
第 5 回	現代世界における生態・環境（1）	世界における生態・環境
第 6 回	現代世界における生態・環境（2）	日本における生態・環境
第 7 回	現代の人の生活・文化	海洋をめぐる諸問題
第 8 回	現代社会の経済・社会・政治	国連海洋法条約と世界・日本の海洋政策
第 9 回	現代社会の情報・通信・観光	世界・日本の海洋教育
第 10 回	日本社会における諸問題（1）	地理学的な考え方を学ぶには？

第 11 回 日本社会における諸問題 日本の諸地域を事例として題（2）

第 12 回 グローバル社会における地理学的な考え方を学ぶには？ 諸問題（1）

第 13 回 グローバル社会における世界の諸地域を事例として 諸問題（2）

第 14 回 まとめ 試験 授業の総括と試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

海・島について、日頃からキーワードとして留意し、情報収集に努めてください。その際、できるだけ複数の資料にあたってください。また授業後には、気づいた点・疑問点をそのままにせず、積極的に図書館などを活用して探究してください。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし。毎回プリント教材を用いたいと思います。学習支援システムの「教材」からダウンロードいただく形となります。

【参考書】

高等学校用地図帳がありますと、位置確認が容易となり役立ちます。その他は適宜授業内で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

毎回のコメント（50%）・レポート（50%）

質問やコメントなど、日頃の積極的な姿勢を評価いたします。

【学生の意見等からの気づき】

どこが重要なポイントであるのか、毎回意識するようにしてください。

【学生が準備すべき機器他】

オンライン授業にて Zoom を使用しますので、パソコンやタブレットなどをご準備の上、通信状況も予めご確認ください。

【その他の重要事項】

授業開始までに、ご準備いただきたいことなど要点をまとめ、授業支援システムに上げておきたいと思います。第 1 回の授業までに必ずご確認くださいませよう。

【Outline (in English)】

High school geography classes focus on "memorizing" various phenomena in the world and Japan. In university geography, however, we learn the importance of understanding deeply and thinking logically about various phenomena in the modern world based on geographical keywords such as space, region, landscape and location. In this course, we will focus on various phenomena related to the sea.

In each session, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading will be decided based on the following :
reaction papers : 50%, term-end reports : 50%

GEO100LA

地理学Ⅱ

2017年度以降入学者

前畑 明美

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 3/Wed.3

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

世界の諸地域や日本の諸地域について、諸資料をもとに比較考察し、現代社会には多様な地域・人びとが存在することを学びます。そのうえで、グローバル化のすすむ社会のなかで、多様な人びとが共生していくことの重要性を、受講生自らが考える力を養います。本科目ではとくに「海」を取り上げ、地図、統計、新聞、映像、写真など様々な資料をもとに「人間社会と海の関係性」を多角的に考察し、最終的には私たちが生きる島嶼（とうしょ）生活空間について理解を深めていくことを目的とします。

【到達目標】

現代世界の諸地域を地誌的に考察することを目標とします。今日私たちが直面する海をめぐる様々な問題は、その多くが陸域の人間社会のあり様が反映されて生起している現象です。したがって陸域の社会経済活動を見据えながら諸問題を考えていくことが重要であり、秋学期では陸＝島が内包する島嶼社会システムを捉えつつ「人間社会と海の関係性」を考察し、問題解決への道を考えていきます。また海に関する諸現象について、その全体的状況がどうなっているのか、いかなる仕組み・構造のもとで発現しているのか、現代社会にとってどのような意味を有しているのかなど、論理的に考えて説明できるようになることを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

- ・オンライン授業とし、毎週 Zoom にてリアルタイム配信型の授業を行います。学習支援システムの「お知らせ」に Zoom の URL を掲載しますので、開始時間が近づきましたら Zoom のミーティングルームにお入りください。
- ・ご質問や連絡事項は授業の前後、もしくはメールでよろしくお願ひいたします。
- ・期末にまとめのレポートをご提出いただき、後日フィードバックいたします。初回時に詳しく説明することといたします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	大学で学ぶ地誌	アカデミズムにおける地誌学とは？
第 2 回	世界や日本の諸地域について学ぶとは？	授業で取り上げる国や地域の説明
第 3 回	地図をもとに世界・日本について考える	戦後日本における沿岸開発とその諸問題
第 4 回	映像資料から世界・日本について考える	日本の里海再生の取り組みとその現状
第 5 回	新聞記事やニュースなどから世界・日本について考える	日本の海の食文化と島嶼ネットワーク
第 6 回	統計資料をもとに世界・日本について考える	日本の海洋産業の現状とその課題
第 7 回	現代世界の諸地域	地域区分と国家
第 8 回	現代世界の諸地域	資源・産業

第 9 回	現代世界の諸地域	人口
第 10 回	現代世界の諸地域	都市・村落
第 11 回	現代世界の諸地域	生活文化
第 12 回	現代世界の諸地域	民族・宗教・領土問題など
第 13 回	現代の私たちが描く世界像・日本像	未来の社会のために
第 14 回	まとめ 試験	授業の総括と試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

海・島について、日頃からキーワードとして留意し、情報収集に努めてください。その際、できるだけ複数の資料にあたってください。また授業後には、気づいた点・疑問点をそのままにせず、積極的に図書館などを活用して探究してください。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし。毎回プリント教材を用いたいと思います。学習支援システムの「教材」からダウンロードいただく形となります。

【参考書】

高等学校用地図帳がありますと、位置確認が容易となり役立ちます。その他は適宜授業内で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

毎回のコメント（50%）・レポート（50%）
質問やコメントなど、日頃の積極的な姿勢を評価いたします。

【学生の意見等からの気づき】

どこが重要なポイントであるのか、毎回意識するようにしてください。

【学生が準備すべき機器他】

オンライン授業にて Zoom を使用しますので、パソコンやタブレットなどをご準備の上、通信状況も予めご確認ください。

【その他の重要事項】

授業開始までに、ご準備いただきたいことなど要点をまとめ、授業支援システムに上げておきたいと思います。第 1 回の授業までに必ずご確認くださいませよう。

【Outline (in English)】

We compare and consider many regions of the world and Japan based on many kinds of materials, and learn that there are various regions and people in modern society. From there, we foster the ability to think for ourselves the importance of the coexistence of diverse people in a globalized society. The objective of this course is to deepen our understanding of the island life space by examining from various angles the "relationship between human society and the sea" based on materials such as maps, statistics, newspapers, videos and photographs.

In each session, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading will be decided based on the following :
reaction papers : 50%, term-end reports : 50%

GEO100LA

地理学 I

2017 年度以降入学者

前畑 明美

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 4/Wed.4

単位数：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

高校の地理では、世界・日本各地の様々な事象を「暗記する」ことが中心だったのではないのでしょうか。しかし、大学の地理学では、空間・地域・景観・場所などの地理学的キーワードから、現代世界の様々な事象を深く理解し、学生自らが論理的に考えることの大切さを学びます。本科目では、とくに「海」に関わる事象を取り上げます。

【到達目標】

現代世界の様々な事象、とくに「海」に関する事象を理解することを通して、地理学の考え方を学ぶことを目標とします。マイクロプラスチックによる海洋汚染の問題、領海をめぐる問題など、海をめぐる様々な問題は、陸域の人間社会のあり様が反映されて生起している現象です。全 14 回により、「海」および「海に囲まれた島嶼生活空間」についての認識を深め、そうした諸現象について、その全体的状況がどうなっているのか、いかなる仕組み・構造のもとで発現しているのか、現代社会にとってどのような意味を有しているのかなど、論理的に考えて説明できるようになることを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

・オンライン授業とし、毎週 Zoom にてリアルタイム配信型の授業を行います。学習支援システムの「お知らせ」に Zoom の URL を掲載しますので、開始時間が近づきましたら Zoom のミーティングルームにお入りください。

・ご質問や連絡事項は授業の前後、もしくはメールでよろしくお問い合わせいたします。

・期末にまとめのレポートをご提出いただき、後日フィードバックいたします。初回時に詳しく説明することといたします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	地理から地理学へ	高校地理から大学の地理学へ
第 2 回	地理学が扱う諸問題	授業で取り上げる事象の説明
第 3 回	身近な事象を通して地理学を考える（1）	わたしたちの周りにある地理学的考え方
第 4 回	身近な事象を通して地理学を考える（2）	メディアにおける地理学的考え方
第 5 回	現代世界における生態・環境（1）	世界における生態・環境
第 6 回	現代世界における生態・環境（2）	日本における生態・環境
第 7 回	現代の人びとの生活・文化	海洋をめぐる諸問題
第 8 回	現代社会の経済・社会・政治	国連海洋法条約と世界・日本の海洋政策
第 9 回	現代社会の情報・通信・観光	世界・日本の海洋教育
第 10 回	日本社会における諸問題（1）	地理学的な考え方を学ぶには？

第 11 回 日本社会における諸問題 日本の諸地域を事例として題（2）

第 12 回 グローバル社会における地理学的な考え方を学ぶには？ 諸問題（1）

第 13 回 グローバル社会における世界の諸地域を事例として 諸問題（2）

第 14 回 まとめ 試験 授業の総括と試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

海・島について、日頃からキーワードとして留意し、情報収集に努めてください。その際、できるだけ複数の資料にあたってくださいと思います。また授業後には、気づいた点・疑問点をそのままにせず、積極的に図書館などを活用して探究してください。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし。毎回プリント教材を用いたいと思います。学習支援システムの「教材」からダウンロードいただく形となります。

【参考書】

高等学校用地図帳がありますと、位置確認が容易となり役立ちます。その他は適宜授業内で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

毎回のコメント（50％）・レポート（50％）

質問やコメントなど、日頃の積極的な姿勢を評価いたします。

【学生の意見等からの気づき】

どこが重要なポイントであるのか、毎回意識するようにしてください。

【学生が準備すべき機器他】

オンライン授業にて Zoom を使用しますので、パソコンやタブレットなどをご準備の上、通信状況も予めご確認ください。

【その他の重要事項】

授業開始までに、ご準備いただきたいことなど要点をまとめ、授業支援システムに上げておきたいと思います。第 1 回の授業までに必ずご確認くださいませよう。

【Outline (in English)】

High school geography classes focus on "memorizing" various phenomena in the world and Japan. In university geography, however, we learn the importance of understanding deeply and thinking logically about various phenomena in the modern world based on geographical keywords such as space, region, landscape and location. In this course, we will focus on various phenomena related to the sea.

In each session, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading will be decided based on the following :
reaction papers : 50%, term-end reports : 50%

GEO100LA

地理学Ⅱ

2017年度以降入学者

前畑 明美

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 4/Wed.4

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

世界の諸地域や日本の諸地域について、諸資料をもとに比較考察し、現代社会には多様な地域・人びとが存在することを学びます。そのうえで、グローバル化のすすむ社会のなかで、多様な人びとが共生していくことの重要性を、受講生自らが考える力を養います。本科目ではとくに「海」を取り上げ、地図、統計、新聞、映像、写真など様々な資料をもとに「人間社会と海の関係性」を多角的に考察し、最終的には私たちが生きる島嶼（とうしょ）生活空間について理解を深めていくことを目的とします。

【到達目標】

現代世界の諸地域を地誌的に考察することを目標とします。今日私たちが直面する海をめぐる様々な問題は、その多くが陸域の人間社会のあり様が反映されて生起している現象です。したがって陸域の社会経済活動を見据えながら諸問題を考えていくことが重要であり、秋学期では陸＝島が内包する島嶼社会システムを捉えつつ「人間社会と海の関係性」を考察し、問題解決への道を考えていきます。また海に関する諸現象について、その全体的状況がどうなっているのか、いかなる仕組み・構造のもとで発現しているのか、現代社会にとってどのような意味を有しているのかなど、論理的に考えて説明できるようになることを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

・オンライン授業とし、毎週 Zoom にてリアルタイム配信型の授業を行います。学習支援システムの「お知らせ」に Zoom の URL を掲載しますので、開始時間が近づきましたら Zoom のミーティングルームにお入りください。
・ご質問や連絡事項は授業の前後、もしくはメールでよろしくお願いたします。
・期末にまとめのレポートをご提出いただき、後日フィードバックいたします。初回時に詳しく説明することといたします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	大学で学ぶ地誌	アカデミズムにおける地誌学とは？
第 2 回	世界や日本の諸地域について学ぶとは？	授業で取り上げる国や地域の説明
第 3 回	地図をもとに世界・日本について考える	戦後日本における沿岸開発とその諸問題
第 4 回	映像資料から世界・日本について考える	日本の里海再生の取り組みとその現状
第 5 回	新聞記事やニュースなどから世界・日本について考える	日本の海の食文化と島嶼ネットワーク
第 6 回	統計資料をもとに世界・日本について考える	日本の海洋産業の現状とその課題
第 7 回	現代世界の諸地域	地域区分と国家
第 8 回	現代世界の諸地域	資源・産業

第 9 回	現代世界の諸地域	人口
第 10 回	現代世界の諸地域	都市・村落
第 11 回	現代世界の諸地域	生活文化
第 12 回	現代世界の諸地域	民族・宗教・領土問題など
第 13 回	現代の私たちが描く世界像・日本像	未来の社会のために
第 14 回	まとめ 試験	授業の総括と試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

海・島について、日頃からキーワードとして留意し、情報収集に努めてください。その際、できるだけ複数の資料にあたってください。また授業後には、気づいた点・疑問点をそのままにせず、積極的に図書館などを活用して探究してください。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし。毎回プリント教材を用いたいと思います。学習支援システムの「教材」からダウンロードいただく形となります。

【参考書】

高等学校用地図帳がありますと、位置確認が容易となり役立ちます。その他は適宜授業内で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

毎回のコメント（50%）・レポート（50%）
質問やコメントなど、日頃の積極的な姿勢を評価いたします。

【学生の意見等からの気づき】

どこが重要なポイントであるのか、毎回意識するようにしてください。

【学生が準備すべき機器他】

オンライン授業にて Zoom を使用しますので、パソコンやタブレットなどをご準備の上、通信状況も予めご確認ください。

【その他の重要事項】

授業開始までに、ご準備いただきたいことなど要点をまとめ、授業支援システムに上げておきたいと思います。第 1 回の授業までに必ずご確認くださいませよう。

【Outline (in English)】

We compare and consider many regions of the world and Japan based on many kinds of materials, and learn that there are various regions and people in modern society. From there, we foster the ability to think for ourselves the importance of the coexistence of diverse people in a globalized society. The objective of this course is to deepen our understanding of the island life space by examining from various angles the "relationship between human society and the sea" based on materials such as maps, statistics, newspapers, videos and photographs.

In each session, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading will be decided based on the following :
reaction papers : 50%, term-end reports : 50%

SOC100LA

社会学 I

2017 年度以降入学者

服部 あさこ

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 4/Mon.4

単位数：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

担当教員の作成した教材を含む文献や映像資料を用いて、実際の社会現象を取り上げつつ講義形式を中心に学習を進める。また、学習内容の定着と応用を目的として、授業内で演習やコメント作成に取り組むことがある。受講生の提出物は、個人情報に留意したうえで適宜授業にフィードバックする。

【到達目標】

この授業では、社会学の基本的な概念や理論を学習するとともに、社会現象を構造と運動、ミクロとマクロの両面から考察する視点を学ぶ。さらに、「社会」の複層性に対する理解を深めつつ、社会的事柄の成り立ちを多角的に考察する視点の習得をめざす。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

基本的には対面とし、状況によっては、リアルタイムでのオンライン授業を行う。現在の社会現象に対して、バズセッションの実施や短時間で取り組めるリアクションペーパーの提出を求めることがある。リアクションペーパーに関しては、次回以降の授業内で、全体の傾向の報告や、他の学生の学習のヒントになるものを取りあげて解説する等のフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション、社会学への導入	社会学とはどのような学問か？
2	社会変動 1	近代という「謎」の発見
3	社会問題 1	集団へのアプローチ
4	社会問題 2	規範と価値
5	理論的整理	行為と合理性
6	社会変動 2	個へのアプローチ
7	歴史社会学の視点	合理性と社会変動
8	社会集団 1	地位と役割
9	社会集団 2	社会化理論
10	「自己」の社会学 1	近代的個人
11	「自己」の社会学 2	社会性の発達
12	政治社会学の視点 1	闘争、疎外
13	政治社会学の視点 2	国家、国民、民族
14	総括、社会分析の精緻化	社会のとらえ方の変遷

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。復習として、配布資料を読み、それまでに学習した社会学上の概念を用いて現象をどのように説明できるかを考え、簡潔なメモを作成します。予習として、次回の資料を読み、大まかな話の流れを把握します。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しません

【参考書】

長谷川公一ほか編著、2007『社会学』有斐閣

友枝 敏雄ほか編著、2017『社会学の力－最重要概念・命題集』有斐閣

【成績評価の方法と基準】

リアクションペーパー等による平常点 30 %、期末試験 70 %

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません

【学生が準備すべき機器他】

資料配布、課題提出等のために学習支援システムを利用します。

【Outline (in English)】

【Outline (in English)】

(Course outline)

The aim of this course is to help students acquire an ability of comprehend from various perspective about social phenomenon.

(Learning Objectives)

By the end of the course, students should be able to do the followings:

To be able to understand the basic concepts and theories of sociology.

To be able to examine social phenomena from both micro and macro perspectives.

To be able to deep their understanding of the multilayered nature of society and be able to understand the origins of social issues from multiple perspectives.

(Grading Criteria /Policy)

Your overall grade in the class will be decided based on the following :30% score for regular assignments (e.g. reaction paper), 70% score for test

SOC100LA

社会学Ⅱ

2017年度以降入学者

服部 あさこ

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 4/Mon.4

単位数：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

担当教員の作成した教材を含む文献や映像資料を用いて、実際の社会現象を取り上げつつ講義形式を中心に学習を進める。また、学習内容の定着と応用を目的として、授業内で演習やコメント作成に取り組むことがある。受講生の提出物は、個人情報に留意したうえで適宜授業にフィードバックする。

【到達目標】

この授業では、社会学の基本的な概念や理論を学習するとともに、社会現象を構造と運動、ミクロとマクロの両面から考察する視点を学ぶ。さらに、「社会」の複層性に対する理解を深めつつ、社会的な事柄について、多様な背景をもつ人々の視角を想像しながら考察する視点の習得をめざす。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

基本的には対面とし、状況によっては、リアルタイムでのオンライン授業を行う。現在の社会現象に関して、バズセッションの実施や短時間で取り組めるリアクションペーパーの提出を求めていることがある。リアクションペーパーに関しては、次回以降の授業内で、全体の傾向の報告や、他の学生の学習のヒントになるものを取り上げて解説する等のフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション、基礎概念の確認	社会学の類出概念の確認
2	社会秩序と権力 1	社会秩序をめぐる問題提起と国家
3	社会秩序と権力 2	社会秩序を維持するもの
4	日常生活の社会学 1	行為と演技
5	日常生活の社会学 2	やりとり秩序
6	現象学的社会学の視点	対象の認識と文化
7	国際社会学の視点	文化相対主義
8	構築主義	予言の自己成就
9	逸脱	ラベリング理論
10	法社会学の視点	犯罪と刑罰
11	格差社会論	社会階層と文化
12	貧困と社会的排除	人々を分断する制度の存在
13	教育と社会	学力と社会階層
14	総括、「近代社会」の変容	個人の主観の評価

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。復習として、配布資料を読み、それまでに学習した社会学上の概念を用いて現象をどのように説明できるかを考え、簡潔なメモを作成します。予習として、次回の資料を読み、大まかな話の流れを把握します。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しません。

【参考書】

金菱清、2014『新 体感する社会学: Oh! My Sociology』新曜社

盛山和夫ほか編著、2017『社会学入門』ミネルヴァ書房

【成績評価の方法と基準】

リアクションペーパー等による平常点 30 %、期末試験 70 %

【学生の意見等からの気づき】

アンケートを実施していないためフィードバックできません

【学生が準備すべき機器他】

資料配布・課題提出等のために学習支援システムまたは google classroom を利用します。

【Outline (in English)】

(Course outline)

The aim of this course is to help students acquire an ability of comprehend from various perspective about social phenomenon. sometime students should submit short opinion essays. Good opinions will be feedbacked in next time.

(Learning Objectives)

At the end of the course, students are expected to think multidimensionally about social issues. Based on that way of thinking, you will be able to respect others, especially those who are weak, and have an opinion that you think is good for yourself.

(Grading Criteria /Policy)

Your overall grade in the class will be decided based on the following :30% score for regular assignments (e.g. reaction paper), 70% score for tests

SOC100LA

社会学 I

2017 年度以降入学者

山本 卓

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 4/Fri.4

単位数：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

1970 年代以降の日本社会の変容を考察することを通して、社会学の基本的な見方を、社会学的考察の前提となる概念や視点と合わせて学習する。また、現代社会の成り立ちを理解することによって、日本社会の現在について考えていく。

【到達目標】

- ① 社会変動を、構造と運動の概念を使って説明できる。
- ② 社会運動の原理を歴史的事例にあてはめて考察できる。
- ③ 「情報化・消費化社会」について、具体例を挙げて説明できる。
- ④ メディア論の視点から、実際の都市空間を考察できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

下記【テキスト（教科書）】で挙げる『ポスト戦後社会』をテキストとする社会学 I では、社会変動、社会運動、情報化・消費化社会といったテーマを扱う同書の第 1、2 章を、それらの考察の基礎をなしている社会学的な見方に注目して丁寧に読み解いていく。また、ドキュメンタリー映像などの他の教材を使った課題に取り組み、学習した視点を応用した考察をおこなう。

授業は基本的に、講義・問答部分と考察部分からなる。講義・問答部分では、その回に学習する概念等について、それらが則る考え方や視点と併せて説明する。その際、受講生は教員とのやり取りの中で発言を促される。教材は電子ブック形式にしたものを毎回、配信する予定である。また、考察部分では、その回の学習を踏まえて、提示される課題に取り組み。授業形態については対面式（大学の認める事情によりオンラインで参加する受講生がいればハイブリッド）であるが、数回、内容に合わせてオンラインのみの授業を実施する。なお、オンラインのみでの回も教室で受講することはできる。

課題へのフィードバックは、教材内で取組例を紹介するとともに、それらに教員がコメントするかたちでおこなわれる。質問等に対しては、授業時間内は教室で、それ以外はメール連絡やオフィスアワーに応じる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業のテーマや進め方などについて説明を受けたのち、社会学的思考について導入的な考察をおこなう。
第 2 回	社会変動	社会変動について、「スペクタクル社会」の概念と合わせて学習する。
第 3 回	社会運動の定義と原理	社会運動の定義、原理について学習し、それらを歴史的事例にあてはめて考察する。
第 4 回	対抗文化	対抗文化（カウンターカルチャー）の概念について学習する。

第 5 回	「市民」運動	「市民」による歴史的に「新しい」タイプの社会運動の事例として、ベ平連の反戦運動を取り上げて考察する。
第 6 回	ウーマンリブ	ウーマンリブの運動を取り上げ、ジェンダー概念と合わせて学習する。
第 7 回	沖縄から見た「沖縄返還」	沖縄社会における「沖縄返還」の受けとめを、ポリフォニーの視点から見る。
第 8 回	「情報化社会」	メディア、マス・メディア、メディア・イベントの概念を学習する。
第 9 回	社会階層	階層と階層意識について学習した上で、社会調査データを使った考察を行う。
第 10 回	流通革命を経て「情報化・消費化社会」へ	消費社会化を軸に、「流通革命」、買物スタイルの歴史的変化、「都市のメディア化・ステージ化」を学習。
第 11 回	ミニ・フィールドワーク：「都市のメディア化」の視点で街を読む	普段往来している市街環境を、前回学習した「都市のメディア化」の視点から各自で分析する。
第 12 回	「社会のテーマパーク化」と自己意識	自己意識の概念を学習した上で、テーマパークにおける自己意識について考察する。
第 13 回	経済・政治構造の変化と政治社会学（前半）	高度成長期の政治構造を、太平洋ベルト地帯・国土開発・田中角栄を軸に考える。
第 14 回	経済・政治構造の変化と政治社会学（後半）	高度成長後に起こった政治構造の変化について学習する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【準備】 次回授業で取り上げるテキストの部分を読む。

【発展的復習】 課題が出た回には、それに取り組む。

※この授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

吉見俊哉『ポスト戦後社会』（岩波新書 2009 年）

【参考書】

・吉見俊哉『平成時代』（岩波新書 2019 年）

・ニッポン戦後サブカルチャー史

(<http://www.nhk.or.jp/subculture/01/history/index.html>)

その他、授業内・教材内で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

課題の提出状況とその内容（85%）、授業や課題内での視点の提起などによる授業への貢献（15%）、で評価する。

※大学の定める「試験等における不正行為」の基準に則り、課題においても不正行為には厳格に対処する。

【学生の意見等からの気づき】

主体的、発展的な学習をうながす教材等の開発に、引き続き努める。

【学生が準備すべき機器他】

・インターネットに接続できる PC ないしタブレット。

・学習支援システムへの登録（授業に関する連絡・教材の配信・課題の提出は、学習支援システムでおこなうため）。

【Outline (in English)】

You will consider how sociology views and analyzes society with key concepts and social theories through looking at social changes in Japan since the 1970s. The course will introduce you to the methods and areas of inquiry in sociology.

By the end of the course, students should be able to explain or analyse social change, social movement, and other social phenomena from sociological point of view.

Students will be expected to have completed assignment after each class. Your study time will be more than four hours for a class.

Grading will be decided based assignment reports (85%), in-class contribution (15%).

SOC100LA

社会学Ⅱ

2017年度以降入学者

山本 卓

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 4/Fri.4

単位数：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

1970年代以降の日本社会の変容を考察することを通して、社会学の基本的な見方を、社会学的考察の前提となる概念や視点と合わせて学習する。また、現代社会の成り立ちを理解することによって、社会の現在について考えていく。

【到達目標】

- ① 現代日本社会のジェンダー構造と其の変化について、統計データも参照しつつ説明できる。
- ② 「リアリティ」の概念を使って、パーソナル情報端末の家族、社会に対する影響について考察できる。
- ③ 「環境問題」が提起した視点を具体的事例に当てはめて考察できる。
- ④ 地域開発計画の中で示された構想を、図やイラストで表現できる。
- ⑤ 地域開発の戦後史を、構造と運動という視点から考察できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

下記【テキスト（教科書）】で挙げる『ポスト戦後社会』をテキストとする社会学Ⅱでは、家族にかかわる意識の変化・ジェンダー構造・住まいや地域開発などをテーマとする同書の第3、4章を、それらの考察の基礎をなしている社会学的な見方に注目して丁寧に読み解いていく。また、ドキュメンタリー映像などの他の教材を使った課題に取り組み、学習した視点を応用した考察をおこなう。

授業は基本的に、講義・問答部分と考察部分からなる。講義・問答部分では、その回に学習する概念等について、それらが則る考え方や視点と併せて説明する。その際、受講生は教員とのやり取りの中で発言を促される。教材は電子ブック形式にしたものを毎回、配信する予定である。また、考察部分では、その回の学習を踏まえて、提示される課題に取り組む。授業形態については対面式（大学の認める事情によりオンラインで参加する受講生がいればハイブリッド）であるが、数回、内容に合わせてオンラインのみの授業を実施する。なお、オンラインのみでの回も教室で受講することはできる。

課題へのフィードバックは、教材内で取組例を紹介するとともに、それらに教員がコメントするかたちでおこなわれる。質問等に対しては、授業時間内は教室で、それ以外はメール連絡やオフィスアワーに応じる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	この授業の概要、進め方などの説明を受けたのち、社会学的な見方について導入的な考察をおこなう。
第2回	家族の変容：意識と構造	「近代家族」や「ライフ・サイクル」の概念を学習しつつ、現代日本社会のジェンダー構造について考察する。
第3回	友愛家族と社会構造	「友愛家族と社会構造」をテーマに、家族をミクロとマクロの両面から考察する視点を学ぶ。

第4回	郊外化	郊外(化)と郊外的生活様式について学習する。また、国土地理院の空中写真閲覧サービスを使って、自分の知っている地域の歴史の変容を調査する。
第5回	個室化・「リアリティ」の反転	家族の住まいにおける「個室化」、およびパーソナル情報端末の普及に伴って偏在化した「リアリティの反転」について考察する。
第6回	犯罪社会学	見田宗介『まなごしの地獄』と大塚英志『Mの世代』を参照しつつ、二つの青少年犯罪を対比的に考察することを通して、犯罪社会学の視点を学習する。
第7回	ひきこもり	ひきこもり現象の構造的分析を試みた研究を参照しつつ、ひきこもりとそれへの対応法について学習する。
第8回	「公害から環境へ」	水俣病の重層的構造について考察したのち、石牟礼道子氏の提起した視点を参照して「環境」問題について考える。
第9回	地域開発と産業・自然・地域の人びと	1960年代～70年代前半の地域開発（第一・二次全国総合開発計画）が地域にもたらした影響について、映像資料も交えて考察する。
第10回	三全総の「定住圏」構想	1977年に国が策定した第三次全国総合開発計画（三全総）が目指した「定住圏」構想を、イラストを使って把握、表現する。
第11回	「自然」とは	NHKの証言史ドキュメンタリーを視聴し、「自然」に対する多角的・相対的な視点を培う。
第12回	都市再開発とリゾート開発	都市の再開発・高層化に関して学習したのち、80年代の地域リゾート開発の教訓を考察する。
第13回	「限界集落」	中山間地域の現状について、マクロとミクロの両面から考える。
第14回	地域自治	「地域自治」について考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【準備】 次回授業で取り上げるテキストの部分を読む。

【発展的復習】 課題が出た回には、それに取り組む。

※この授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

吉見俊哉『ポスト戦後社会』（岩波新書、2009年）

【参考書】

・NHK 戦後史証言アーカイブス (<https://www2.nhk.or.jp/archives/shogenarchives/bangumi/list.cgi?cat=postwar>)

・NHK 地域づくりアーカイブス (<https://www.nhk.or.jp/chiiki/>)

・国土地理院 地図・空中写真閲覧サービス (<https://mapapps.gsi.go.jp/>)

・吉見俊哉『平成時代』（岩波新書 2019年）

その他、授業内・教材内で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

課題の提出状況とその内容（85%）、授業や課題内での視点の提起などによる授業への貢献（15%）、で評価する。

※大学の定める「試験等における不正行為」の基準に則り、課題においても不正行為には厳格に対処する。

【学生の意見等からの気づき】

主体的、発展的な学習を促す教材等の開発に、引き続き努めます。

【学生が準備すべき機器他】

・インターネットに接続できるPCないしタブレット。

・学習支援システムへの登録（授業に関する連絡・教材の配信・課題の提出は、学習支援システムでおこなうため）。

【Outline (in English)】

You will consider how sociology views and analyzes society with key concepts and social theories through looking at social changes in Japan since the 1970s. The course will introduce you to the methods and areas of inquiry in sociology.

By the end of the course, students should be able to explain or analyse social change, social movement, and other social phenomena from sociological point of view.

Students will be expected to have completed assignment after each class. Your study time will be more than four hours for a class.

Grading will be decided based assignment reports (85%), in-class contribution (15%).

SOC100LA

社会学 I

2017 年度以降入学者

高橋 徹

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 4/Thu.4

単位数：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

履修する学生は、現代の社会について考えるための「考え方」、社会学の考え方の基礎となる概念や社会学に特有な視点を学びます。そのうえで、履修する学生が、現代の社会について、何か問題があると気づき、その問題について、自分なりに考えていくことを目的とします。

【到達目標】

履修する学生は、まず社会学の基礎的な概念を学びます。次に、社会学の重要な概念のひとつである「コミュニケーション」について考えることを通して、現代の社会を感じ、考える方法を学びます。最後に、自分自身の独自の「題材」を使って、現代の社会について、コミュニケーションという側面から考え、レポートとしてまとめるという課題に取り組みます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は、リアルタイム配信型オンライン授業の形態で実施の予定です。前年と事情が変わらなければ、Hoppii で資料配付 + ZOOM での講義 + メールで各課題の提出という形になります。提出された課題については、後日、授業内でフィードバックする予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	社会について考えるための準備をします。
第 2 回	社会を感じる	社会の中の「現実」というものについて考えます。
第 3 回	社会を感じる その 2	社会の中の「私」というものについて考えます。
第 4 回	コミュニケーション論 1	社会学の基礎概念であるコミュニケーションという概念について考えます。
第 5 回	コミュニケーション論 2	人間のコミュニケーションの特徴について考えます。
第 6 回	コミュニケーション論 3	ことばというメディアの特徴について考えます。
第 7 回	メディアの歴史 その 1	文字というメディアが、社会にどのような影響を与えたのかを考えます。
第 8 回	メディアの歴史 その 2	文字というメディアが、社会にどのような影響を与えたのかを、さらに深く考えます。
第 9 回	メディアの歴史 その 3	活字というメディアが、社会にどのような影響を与えたのかを考えます。
第 10 回	メディアの歴史 その 4	活字というメディアが、社会にどのような影響を与えたのかを、さらに深く考えます。

第 11 回	メディアの歴史 その 5	映像というメディアが、社会にどのような影響を与えたのかを考えます。
第 12 回	メディアの歴史 その 6	電子メディアが、社会にどのような影響を与えたのかを考えます。
第 13 回	現代の社会について考える 1	スポーツを題材として、現代の社会について考えてみます
第 14 回	現代の社会について考える 2	ここまでの授業をふりかえり、今後の課題を確認します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業は、準備時間は不要ですが、復習時間は各回につき 4 時間を標準とします。復習時には下記のような課題に取り組みます。課題の詳細は、授業内に説明します。

- 1-3 学生は「社会的なもの」について考えます
- 4 自分が社会について考えるための題材を決めます
- 5-6 自分が題材とするものを、コミュニケーションとして考えます
- 7-12 自分が題材とするものとメディアとの関係を考えます
- 13. 学生は自分にとって、スポーツはどういうものなのかを考えます
- 14. 学生はここまで自分が考えたてきたことをまとめます

【テキスト（教科書）】

使用しません

【参考書】

野村一夫『社会学の作法・初級編』1995 年
https://socius.jp/?page_id=1089

【成績評価の方法と基準】

各回に出題される課題の提出状況と内容（50 %）、および期末レポート（50 %）で評価します。期末レポートは、社会学という考え方の理解度、題材と考察のオリジナリティを評価します。

【学生の意見等からの気づき】

期末レポートについて、相談できる時間をたくさん取るようにします。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布等のために学習支援システムを利用しますので、事前に登録を済ませておいて下さい。また、PC/ネット環境の整備、ZOOM とマイクロソフト・オフィスを使える環境の準備を済ませておいてください。

【Outline (in English)】

Course outline : The aim of this course is to help students will learn 'way of thinking' to think about contemporary society. Students are aware of the problems of modern society and think about themselves on their own.

Learning Objectives : The goals of this course are to think about modern society from the aspect of communication and summarize it in a report.

Learning activities outside of classroom : Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

Grading Criteria / Policies : Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination (reports) : 50%, in class contribution: 50%

SOC100LA

社会学Ⅱ

2017年度以降入学者

高橋 徹

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 4/Thu.4

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

履修する学生は、現在の社会について社会学の方法を使って考えます。履修する学生が、自分が生きている社会の問題について、じっくりと考えて、解決方法を考えることを目的とします。

【到達目標】

履修する学生は、まず現代の社会と密接な関係を持っている資本主義のシステムとメディアの働きについて学びます。次に、以上の学びを活用して、自分自身の独自の「題材」を使って、現在の社会について考え、レポートとしてまとめるという課題に取り組みます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は、リアルタイム配信型オンライン授業の形態で実施の予定です。前年と事情が変わらなければ、Hoppii で資料配付+ ZOOMでの講義+メールで各課題の提出という形になります。提出された課題については、後日、授業内でフィードバックする予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	現代社会と資本主義のシステム (1)	現在の社会について考えるための準備をします。
2	現代社会と資本主義のシステム (2)	現在の社会が、いつごろ、どのように始まったのかを考えます。
3	現代社会と資本主義のシステム (3)	現在の社会が、日本では、どのように始まったのかを考えます。
4	現代社会と資本主義のシステム (4)	現代の社会を生きる人の特徴について考えます。
5	現代社会と資本主義のシステム (5)	現代の社会における限界問題について考えます。
6	現代社会とメディアの働き (1)	現代社会におけるメディアの働きについて学びます。
7	現代社会とメディアの働き (2)	現代社会におけるメディアの働きを分析する手法について学びます。
8	現代社会とメディアの働き (3)	メディアの働きを分析するために映像と音響の効果について学びます。
9	現代社会とメディアの働き (4)	メディアの働きを分析するために、物語論を学びます。
10	現代社会とメディアの働き (5)	物語論を使ったメディアの分析を学びます。
11	現代社会の課題 (1)	ナショナリズムとメディアの関係について考えます。
12	現代社会の課題 (2)	身体の問題とメディアの関係について考えます。
13	現代社会の課題 (3)	地域の問題とメディアの関係について考えます。
14	まとめ	ここまでの授業をふりかえり、今後の課題を確認します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業は、準備時間は不要ですが、復習時間は4時間を標準とします。復習時間には下記のような課題に取り組みます。課題の詳細は、授業内に説明します。

- 1 学生は、自分が「現在の社会」を感じるための題材を探し、決定します
- 2-5 自分が「現在の社会」を感じる題材について調べ、文章にまとめます
- 6 自分が題材としたものに関連する、メディア・テキストを探します
- 7-10 自分が題材としたものに関連する、メディア・テキストを分析します
- 11 自分が題材としたものと、ナショナリズムとの関係を考えます
- 12 自分にとって、身体はどういうものなのかを考えます
- 13 自分にとって、地域社会はどういうものなのかを考えます
- 14 学生は、あらためて現在の社会とは何なのか考えます

【テキスト（教科書）】

使用しません

【参考書】

見田宗介『現代社会の理論』岩波新書（1996年）

【成績評価の方法と基準】

各回に出題される課題の提出状況と内容（30%）、および中間レポート（30%）、期末レポート（40%）を総合して評価します。中間レポート/期末レポートは、題材と考察のオリジナリティを評価します。

【学生の意見等からの気づき】

期末レポートについて、たくさん相談できるようにします。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布等のために学習支援システムを利用しますので、登録を済ませておいて下さい。また、PC/ネット環境の準備、ZOOMとマイクロソフト・オフィスを使える環境の準備をなるべく早めに済ませておいてください。

【Outline (in English)】

Course outline : The aim of this course is to help students think about the current society using sociological methods.

Students discover problems and think about solution about the society in which they live

Learning Objectives : The goals of this course are to think about modern society from the aspect of the media works and summarize it in a report.

Learning activities outside of classroom : Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

Grading Criteria /Policies : Final grade will be calculated according to the following process Mid-term report (30%), term-end examination (40%), and in-class contribution (30%).

SOC100LA

社会学 I

2017 年度以降入学者

山本 卓

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 3/Wed.3

単位数：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

1970 年代以降の日本社会の変容を考察することを通して、社会学の基本的な見方を、社会学的考察の前提となる概念や視点と合わせて学習する。また、現代社会の成り立ちを理解することによって、日本社会の現在について考えていく。

【到達目標】

- ① 社会変動を、構造と運動の概念を使って説明できる。
- ② 社会運動の原理を歴史的事例にあてはめて考察できる。
- ③ 「情報化・消費化社会」について、具体例を挙げて説明できる。
- ④ メディア論の視点から、実際の都市空間を考察できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

下記【テキスト（教科書）】で挙げる『ポスト戦後社会』をテキストとする社会学 I では、社会変動、社会運動、情報化・消費化社会といったテーマを扱う同書の第 1、2 章を、それらの考察の基礎をなしている社会学的な見方に注目して丁寧に読み解いていく。また、ドキュメンタリー映像などの他の教材を使った課題に取り組み、学習した視点を応用した考察をおこなう。

授業は基本的に、講義・問答部分と考察部分からなる。講義・問答部分では、その回に学習する概念等について、それらが則る考え方や視点と併せて説明する。その際、受講生は教員とのやり取りの中で発言を促される。教材は電子ブック形式にしたものを毎回、配信する予定である。また、考察部分では、その回の学習を踏まえて、提示される課題に取り組み。授業形態については対面式（大学の認める事情によりオンラインで参加する受講生がいればハイブリッド）であるが、数回、内容に合わせてオンラインのみの授業を実施する。なお、オンラインのみでの回も教室で受講することはできる。

課題へのフィードバックは、教材内で取組例を紹介するとともに、それらに教員がコメントするかたちでおこなわれる。質問等に対しては、授業時間内は教室で、それ以外はメール連絡やオフィスアワーに応じる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業のテーマや進め方などについて説明を受けたのち、社会学的思考について導入的な考察をおこなう。
第 2 回	社会変動	社会変動について、「スペクタクル社会」の概念と合わせて学習する。
第 3 回	社会運動の定義と原理	社会運動の定義、原理について学習し、それらを歴史的事例にあてはめて考察する。
第 4 回	対抗文化	対抗文化（カウンターカルチャー）の概念について学習する。

第 5 回	「市民」運動	「市民」による歴史的に「新しい」タイプの社会運動の事例として、ベ平連の反戦運動を取り上げて考察する。
第 6 回	ウーマンリブ	ウーマンリブの運動を取り上げ、ジェンダー概念と合わせて学習する。
第 7 回	沖縄から見た「沖縄返還」	沖縄社会における「沖縄返還」の受けとめを、ポリフォニーの視点から見る。
第 8 回	「情報化社会」	メディア、マス・メディア、メディア・イベントの概念を学習する。
第 9 回	社会階層	階層と階層意識について学習した上で、社会調査データを使った考察を行う。
第 10 回	流通革命を経て「情報化・消費化社会」へ	消費社会化を軸に、「流通革命」、買物スタイルの歴史的変化、「都市のメディア化・ステージ化」を学習。
第 11 回	ミニ・フィールドワーク：「都市のメディア化」の視点で街を読む	普段往来している市街環境を、前回学習した「都市のメディア化」の視点から各自で分析する。
第 12 回	「社会のテーマパーク化」と自己意識	自己意識の概念を学習した上で、テーマパークにおける自己意識について考察する。
第 13 回	経済・政治構造の変化と政治社会学（前半）	高度成長期の政治構造を、太平洋ベルト地帯・国土開発・田中角栄を軸に考える。
第 14 回	経済・政治構造の変化と政治社会学（後半）	高度成長後に起こった政治構造の変化について学習する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【準備】 次回授業で取り上げるテキストの部分を読む。

【発展的復習】 課題が出た回には、それに取り組む。

※この授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

吉見俊哉『ポスト戦後社会』（岩波新書 2009 年）

【参考書】

・吉見俊哉『平成時代』（岩波新書 2019 年）

・ニッポン戦後サブカルチャー史

(<http://www.nhk.or.jp/subculture/01/history/index.html>)

その他、授業内・教材内で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

課題の提出状況とその内容（85%）、授業や課題内での視点の提起などによる授業への貢献（15%）、で評価する。

※大学の定める「試験等における不正行為」の基準に則り、課題においても不正行為には厳格に対処する。

【学生の意見等からの気づき】

主体的、発展的な学習をうながす教材等の開発に、引き続き努める。

【学生が準備すべき機器他】

・インターネットに接続できる PC ないしタブレット。

・学習支援システムへの登録（授業に関する連絡・教材の配信・課題の提出は、学習支援システムでおこなうため）。

【Outline (in English)】

You will consider how sociology views and analyzes society with key concepts and social theories through looking at social changes in Japan since the 1970s. The course will introduce you to the methods and areas of inquiry in sociology.

By the end of the course, students should be able to explain or analyse social change, social movement, and other social phenomena from sociological point of view.

Students will be expected to have completed assignment after each class. Your study time will be more than four hours for a class.

Grading will be decided based assignment reports (85%), in-class contribution (15%).

SOC100LA

社会学Ⅱ

2017年度以降入学者

山本 卓

開講時期: 秋学期授業/Fall | 曜日・時限: 水 3/Wed.3

単位数: 2 単位

その他属性: 〈優〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

1970年代以降の日本社会の変容を考察することを通して、社会学の基本的な見方を、社会学的考察の前提となる概念や視点と合わせて学習する。また、現代社会の成り立ちを理解することによって、社会の現在について考えていく。

【到達目標】

- ① 現代日本社会のジェンダー構造と其の変化について、統計データも参照しつつ説明できる。
- ② 「リアリティ」の概念を使って、パーソナル情報端末の家族、社会に対する影響について考察できる。
- ③ 「環境問題」が提起した視点を具体的事例に当てはめて考察できる。
- ④ 地域開発計画の中で示された構想を、図やイラストで表現できる。
- ⑤ 地域開発の戦後史を、構造と運動という視点から考察できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科: DP3・DP4、法学部・政治学科: DP1、法学部・国際政治学科: DP1、文学部: DP1、経営学部: DP3、国際文化学部: DP3、人間環境学部: DP2、キャリアデザイン学部: DP1

【授業の進め方と方法】

下記【テキスト(教科書)】で挙げる『ポスト戦後社会』をテキストとする社会学Ⅱでは、家族にかかわる意識の変化・ジェンダー構造・住まいや地域開発などをテーマとする同書の第3、4章を、それらの考察の基礎をなしている社会学的な見方に注目して丁寧に読み解いていく。また、ドキュメンタリー映像などの他の教材を使った課題に取り組み、学習した視点を応用した考察をおこなう。

授業は基本的に、講義・問答部分と考察部分からなる。講義・問答部分では、その回に学習する概念等について、それらが則る考え方や視点と併せて説明する。その際、受講生は教員とのやり取りの中で発言を促される。教材は電子ブック形式にしたものを毎回、配信する予定である。また、考察部分では、その回の学習を踏まえて、提示される課題に取り組み。授業形態については対面式(大学の認める事情によりオンラインで参加する受講生がいればハイブリッド)であるが、数回、内容に合わせてオンラインのみの授業を実施する。なお、オンラインのみでの回も教室で受講することはできる。

課題へのフィードバックは、教材内で取組例を紹介するとともに、それらに教員がコメントするかたちでおこなわれる。質問等に対しては、授業時間内は教室で、それ以外はメール連絡やオフィスアワーに応じる。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】あり/Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】なし/No

【授業計画】授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	この授業の概要、進め方などの説明を受けたのち、社会学的な見方について導入的な考察をおこなう。
第2回	家族の変容: 意識と構造	「近代家族」や「ライフ・サイクル」の概念を学習しつつ、現代日本社会のジェンダー構造について考察する。
第3回	友愛家族と社会構造	「友愛家族と社会構造」をテーマに、家族をミクロとマクロの両面から考察する視点を学ぶ。

第4回	郊外化	郊外(化)と郊外的生活様式について学習する。また、国土地理院の空中写真閲覧サービスを使って、自分の知っている地域の歴史の変容を調査する。
第5回	個室化・「リアリティ」の反転	家族の住まいにおける「個室化」、およびパーソナル情報端末の普及に伴って偏在化した「リアリティの反転」について考察する。
第6回	犯罪社会学	見田宗介『まなごしの地獄』と大塚英志『Mの世代』を参照しつつ、二つの青少年犯罪を対比的に考察することを通して、犯罪社会学の視点を学習する。
第7回	ひきこもり	ひきこもり現象の構造的分析を試みた研究を参照しつつ、ひきこもりとそれへの対応法について学習する。
第8回	「公害から環境へ」	水俣病の重層的構造について考察したのち、石牟礼道子氏の提起した視点を参照して「環境」問題について考える。
第9回	地域開発と産業・自然・地域の人びと	1960年代~70年代前半の地域開発(第一・二次全国総合開発計画)が地域にもたらした影響について、映像資料も交えて考察する。
第10回	三全総の「定住圏」構想	1977年に国が策定した第三次全国総合開発計画(三全総)が目指した「定住圏」構想を、イラストを使って把握、表現する。
第11回	「自然」とは	NHKの証言史ドキュメンタリーを視聴し、「自然」に対する多角的・相対的な視点を培う。
第12回	都市再開発とリゾート開発	都市の再開発・高層化に関して学習したのち、80年代の地域リゾート開発の教訓を考察する。
第13回	「限界集落」	中山間地域の現状について、マクロとミクロの両面から考える。
第14回	地域自治	「地域自治」について考える。

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

[準備] 次回授業で取り上げるテキストの部分を読む。

[発展的復習] 課題が出た回には、それに取り組む。

※この授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト(教科書)】

吉見俊哉『ポスト戦後社会』(岩波新書、2009年)

【参考書】

・NHK 戦後史証言アーカイブス (<https://www2.nhk.or.jp/archives/shogenarchives/bangumi/list.cgi?cat=postwar>)

・NHK 地域づくりアーカイブス (<https://www.nhk.or.jp/chiiki/>)

・国土地理院 地図・空中写真閲覧サービス (<https://mapapps.gsi.go.jp/>)

・吉見俊哉『平成時代』(岩波新書 2019年)

その他、授業内・教材内で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

課題の提出状況とその内容(85%)、授業や課題内での視点の提起などによる授業への貢献(15%)、で評価する。

※大学の定める「試験等における不正行為」の基準に則り、課題においても不正行為には厳格に対処する。

【学生の意見等からの気づき】

主体的、発展的な学習を促す教材等の開発に、引き続き努めます。

【学生が準備すべき機器他】

・インターネットに接続できるPCないしタブレット。

・学習支援システムへの登録(授業に関する連絡・教材の配信・課題の提出は、学習支援システムでおこなうため)。

【Outline (in English)】

You will consider how sociology views and analyzes society with key concepts and social theories through looking at social changes in Japan since the 1970s. The course will introduce you to the methods and areas of inquiry in sociology.

By the end of the course, students should be able to explain or analyse social change, social movement, and other social phenomena from sociological point of view.

Students will be expected to have completed assignment after each class. Your study time will be more than four hours for a class.

Grading will be decided based assignment reports (85%), in-class contribution (15%).

SOC100LA

社会学 I

2017 年度以降入学者

高橋 徹

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 5/Thu.5

単位数：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

履修する学生は、現代の社会について考えるための「考え方」、社会学の考え方の基礎となる概念や社会学に特有な視点を学びます。そのうえで、履修する学生が、現代の社会について、何か問題があると気づき、その問題について、自分なりに考えていくことを目的とします。

【到達目標】

履修する学生は、まず社会学の基礎的な概念を学びます。次に、社会学の重要な概念のひとつである「コミュニケーション」について考えることを通して、現代の社会を感じ、考える方法を学びます。最後に、自分自身の独自の「題材」を使って、現代の社会について、コミュニケーションという側面から考え、レポートとしてまとめるという課題に取り組みます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は、リアルタイム配信型オンライン授業の形態で実施の予定です。前年と事情が変わらなければ、Hoppii で資料配付 + ZOOM での講義 + メールで各課題の提出という形になります。提出された課題については、後日、授業内でフィードバックする予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	社会について考えるための準備をします。
第 2 回	社会を感じる	社会の中の「現実」というものについて考えます。
第 3 回	社会を感じる その 2	社会の中の「私」というものについて考えます。
第 4 回	コミュニケーション論 1	社会学の基礎概念であるコミュニケーションという概念について考えます。
第 5 回	コミュニケーション論 2	人間のコミュニケーションの特徴について考えます。
第 6 回	コミュニケーション論 3	ことばというメディアの特徴について考えます。
第 7 回	メディアの歴史 その 1	文字というメディアが、社会にどのような影響を与えたのかを考えます。
第 8 回	メディアの歴史 その 2	文字というメディアが、社会にどのような影響を与えたのかを、さらに深く考えます。
第 9 回	メディアの歴史 その 3	活字というメディアが、社会にどのような影響を与えたのかを考えます。
第 10 回	メディアの歴史 その 4	活字というメディアが、社会にどのような影響を与えたのかを、さらに深く考えます。

第 11 回	メディアの歴史 その 5	映像というメディアが、社会にどのような影響を与えたのかを考えます。
第 12 回	メディアの歴史 その 6	電子メディアが、社会にどのような影響を与えたのかを考えます。
第 13 回	現代の社会について考える 1	スポーツを題材として、現代の社会について考えてみます
第 14 回	現代の社会について考える 2	ここまでの授業をふりかえり、今後の課題を確認します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業は、準備時間は不要ですが、復習時間は各回につき 4 時間を標準とします。復習時には下記のような課題に取り組みます。課題の詳細は、授業内に説明します。

- 1-3 学生は「社会的なもの」について考えます
- 4 自分が社会について考えるための題材を決めます
- 5-6 自分が題材とするものを、コミュニケーションとして考えます
- 7-12 自分が題材とするものとメディアとの関係を考えます
- 13. 学生は自分にとって、スポーツはどういうものなのかを考えます
- 14. 学生はここまで自分が考えたてきたことをまとめます

【テキスト（教科書）】

使用しません

【参考書】

野村一夫『社会学の作法・初級編』1995 年
https://socius.jp/?page_id=1089

【成績評価の方法と基準】

各回に出題される課題の提出状況と内容（50 %）、および期末レポート（50 %）で評価します。期末レポートは、社会学という考え方の理解度、題材と考察のオリジナリティを評価します。

【学生の意見等からの気づき】

期末レポートについて、相談できる時間をたくさん取るようにします。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布等のために学習支援システムを利用しますので、事前に登録を済ませておいて下さい。また、PC/ネット環境の整備、ZOOM とマイクロソフト・オフィスを使える環境の準備を済ませておいてください。

【Outline (in English)】

Course outline : The aim of this course is to help students will learn 'way of thinking' to think about contemporary society. Students are aware of the problems of modern society and think about themselves on their own.

Learning Objectives : The goals of this course are to think about modern society from the aspect of communication and summarize it in a report.

Learning activities outside of classroom : Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

Grading Criteria / Policies : Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination (reports) : 50%, in class contribution: 50%

SOC100LA

社会学Ⅱ

2017年度以降入学者

高橋 徹

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 5/Thu.5

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

履修する学生は、現在の社会について社会学の方法を使って考えます。履修する学生が、自分が生きている社会の問題について、じっくりと考えて、解決方法を考えることを目的とします。

【到達目標】

履修する学生は、まず現代の社会と密接な関係を持っている資本主義のシステムとメディアの働きについて学びます。次に、以上の学びを活用して、自分自身の独自の「題材」を使って、現在の社会について考え、レポートとしてまとめるという課題に取り組みます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は、リアルタイム配信型オンライン授業の形態で実施の予定です。前年と事情が変わらなければ、Hoppii で資料配付+ ZOOMでの講義+メールで各課題の提出という形になります。提出された課題については、後日、授業内でフィードバックする予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	現代社会と資本主義のシステム (1)	現在の社会について考えるための準備をします。
2	現代社会と資本主義のシステム (2)	現在の社会が、いつごろ、どのように始まったのかを考えます。
3	現代社会と資本主義のシステム (3)	現在の社会が、日本では、どのように始まったのかを考えます。
4	現代社会と資本主義のシステム (4)	現代の社会を生きる人の特徴について考えます。
5	現代社会と資本主義のシステム (5)	現代の社会における限界問題について考えます。
6	現代社会とメディアの働き (1)	現代社会におけるメディアの働きについて学びます。
7	現代社会とメディアの働き (2)	現代社会におけるメディアの働きを分析する手法について学びます。
8	現代社会とメディアの働き (3)	メディアの働きを分析するために映像と音響の効果について学びます。
9	現代社会とメディアの働き (4)	メディアの働きを分析するために、物語論を学びます。
10	現代社会とメディアの働き (5)	物語論を使ったメディアの分析を学びます。
11	現代社会の課題 (1)	ナショナリズムとメディアの関係について考えます。
12	現代社会の課題 (2)	身体の問題とメディアの関係について考えます。
13	現代社会の課題 (3)	地域の問題とメディアの関係について考えます。
14	まとめ	ここまでの授業をふりかえり、今後の課題を確認します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業は、準備時間は不要ですが、復習時間は4時間を標準とします。復習時間には下記のような課題に取り組みます。課題の詳細は、授業内に説明します。

- 1 学生は、自分が「現在の社会」を感じるための題材を探し、決定します
- 2-5 自分が「現在の社会」を感じる題材について調べ、文章にまとめます
- 6 自分が題材としたものに関連する、メディア・テキストを探します
- 7-10 自分が題材としたものに関連する、メディア・テキストを分析します
- 11 自分が題材としたものと、ナショナリズムとの関係を考えます
- 12 自分にとって、身体はどういうものなのかを考えます
- 13 自分にとって、地域社会はどういうものなのかを考えます
- 14 学生は、あらためて現在の社会とは何なのか考えます

【テキスト（教科書）】

使用しません

【参考書】

見田宗介『現代社会の理論』岩波新書（1996年）

【成績評価の方法と基準】

各回に出題される課題の提出状況と内容（30%）、および中間レポート（30%）、期末レポート（40%）を総合して評価します。中間レポート/期末レポートは、題材と考察のオリジナリティを評価します。

【学生の意見等からの気づき】

期末レポートについて、たくさん相談できるようにします。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布等のために学習支援システムを利用しますので、登録を済ませておいて下さい。また、PC/ネット環境の準備、ZOOMとマイクロソフト・オフィスを使える環境の準備をなるべく早めに済ませておいてください。

【Outline (in English)】

Course outline : The aim of this course is to help students think about the current society using sociological methods.

Students discover problems and think about solution about the society in which they live

Learning Objectives : The goals of this course are to think about modern society from the aspect of the media works and summarize it in a report.

Learning activities outside of classroom : Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

Grading Criteria /Policies : Final grade will be calculated according to the following process Mid-term report (30%), term-end examination (40%), and in-class contribution (30%).

SOC100LA

社会学 I

2017 年度以降入学者

橋本 みゆき

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 1/Fri.1

単位数：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

教科書を含む文献や映像資料を用いて、実際の社会現象を取り上げつつ講義形式を中心に学習を進める。また、学習内容の定着と応用を目的として、授業内で演習やコメント作成に取り組むことがある。提出物は、個人情報に留意したうえで授業に適宜フィードバックする。

【到達目標】

この授業では、社会学の基本的な概念や理論を学習するとともに、社会現象を構造と運動、ミクロとマクロの両面から考察する視点を学ぶ。さらに、「社会」の複層性に対する理解を深めつつ、社会的事柄の成り立ちを多角的に考察する視点の習得をめざす。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

オンライン授業（オンデマンド型）と対面授業を交互に行う。各テーマにつき2回ワンセットとし、半期で7セット繰り返す。オンライン授業の回には、授業開始時までに講義動画とパワーポイント配布資料を教材としてアップロードするので、各自ダウンロードして受講する。対面授業の回は応用編とし、参加者で情報・意見交換するなど理解を深める。各テーマにおいてコメントまたは課題提出を課し、その場でまたは翌週授業でフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション、社会と社会学	授業の進め方、テキスト第1章概説
2	社会学は社会のどこで生まれるか	第1章発展編
3	相互作用と自己	テキスト第2章概説
4	〈自分らしく生きる〉とはどういうことか	第2章発展編
5	家族と親密な関係	テキスト第3章概説
6	「フツウの家族」は普通なのか	第3章発展編
7	ジェンダーとセクシュアリティ	テキスト第4章概説
8	男社会の構造は変わるか	第4章発展編
9	労働と企業組織	テキスト第5章概説
10	働くことは喜びか、苦しみか	第5章発展編
11	環境と科学技術	テキスト第6章概説
12	環境は成長と開発の呪縛を解くことができるか	第6章発展編
13	医療・保健・福祉	テキスト第7章概説
14	病いや障害は「不幸」なことなのか	第7章発展編

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

・テキストおよび参考文献、そのほか社会学者の書いた論文や本を各自で読む。

・社会学者の書いた文章や日々のニュースに日頃から目を通し、日常生活の中で遭遇する社会現象を注意深く観察する。

【テキスト（教科書）】

『はじまりの社会学——問いつづけるためのレッスン』奥村隆編、ミネルヴァ書房、2018年刊、3200円＋税。

またテーマごとにレジュメ、資料を配付する。

【参考書】

『二世に聴く在日コリアンの生活文化』橋本みゆき編著、猿橋順子・高正子・柳蓮淑著、社会評論社、2021年刊、2800円＋税。

他は授業時に紹介する。

【成績評価の方法と基準】

期末レポート 50%＋平常点 50%。

【学生の意見等からの気づき】

さまざまなテーマを「広く浅く」取り上げることで、受講生はそれぞれ関心ある題材に出会えるだろう。とはいえ、社会学のアプローチは常識的な見方と同じではない。物事の新しい見え方との出会いもあるかもしれない。

【Outline (in English)】

This course introduces some viewpoints, basic concepts, and literature on sociology on various societal themes. The teaching method will include the use of textbooks, news articles on actual topics, and audio-visual materials. Participants will be expected to contribute to discussions in the class.

The goals of this courses are to understand terms and ways of thinking of sociology and to grow the sociological imagination.

After each class meeting, students will be expected to read the relevant chapter from the textbook, and other books, articles. Your required study time is at least four hours for a class.

Final grade will be decided based on term-end report(50%), and in-class contribution(50%).

SOC100LA

社会学Ⅱ

2017年度以降入学者

橋本 みゆき

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 1/Fri.1

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

教科書を含む文献や映像資料を用いて、実際の社会現象を取り上げつつ講義形式を中心に学習を進める。また、学習内容の定着と応用を目的として、授業内で演習やコメント作成に取り組むことがある。受講生の提出物は、個人情報に留意したうえで授業に適宜フィードバックする。

【到達目標】

この授業では、社会学の基本的な概念や理論を学習するとともに、社会現象を構造と運動、ミクロとマクロの両面から考察する視点を学ぶ。さらに、「社会」の複層性に対する理解を深めつつ、社会的事柄の成り立ちを多角的に考察する視点の習得をめざす。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

オンライン授業（オンデマンド型）と対面授業を交互に行う。各テーマにつき2回ワンセットとし、半期で7セット繰り返す。オンライン授業の回には、授業開始時までに講義動画とパワーポイント配布資料をオンデマンド教材としてアップロードするので、各自ダウンロードして受講する。対面授業の回は応用編とし、参加者で情報・意見交換するなど理解を深める。各テーマにおいてコメントあるいは課題提出を求め、その場でまたは翌週授業でフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の進め方
2	逸脱と社会病理	テキスト第8章概説 第8章発展編
3	私たちはなぜ「よくないこと」をしないのか	第8章発展編
4	階層・階級・不平等	テキスト第9章概説
5	親から子どもへ格差が受け継がれやすいのはなぜか	第9章発展編
6	都市とコミュニティ	テキスト第10章概説
7	都市研究には社会学のどんな姿が映しだされているか	第10章発展編
8	グローバリゼーションとエスニシティ	テキスト第11章概説
9	グローバリゼーションは社会や社会学理論にどのような変化をもたらしたか	第11章発展編
10	メディアとコミュニケーション	テキスト第13章概説
11	「民意を問う」とはどのようなことか	第13章発展編
12	社会運動とNPO/NGO	テキスト第14章概説
13	市民は社会を変革できるか	第14章発展編

13 国家・権力・公共性 テキスト第15章概説

14 バラリンピックはなにを夢見るのか 第15章発展編

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

・テキストおよび参考文献、そのほか社会学者の書いた論文や本を各自で読んでみよう。

・社会学者の書いた文章や日々のニュースに日頃から目を通し、日常生活の中で遭遇する社会現象を注意深く観察する。

【テキスト（教科書）】

『はじまりの社会学——問いつづけるためのレッスン』奥村隆編、ミネルヴァ書房、2018年刊、3200円＋税。

またテーマごとに資料を用意する。

【参考書】

『二世に聴く在日コリアンの生活文化』橋本みゆき編著、猿橋順子・高正子・柳蓮淑著、社会評論社、2021年刊、2800円＋税。

他は授業時に紹介する。

【成績評価の方法と基準】

期末レポート 50%＋平常点 50%。

【学生の意見等からの気づき】

さまざまなテーマを「広く浅く」取り上げることで、受講生は関心ある題材に出会えるかもしれない。とはいえ、社会学のアプローチは常識的な見方と同じではない。物事の新しい見え方との出会いもおもしろいだろう。

【その他の重要事項】

授業内容は春学期の続き（テキスト第8章以降）であるが、扱うテーマは独立したものであるため、秋学期のみの受講でも差し支えない。ただし開講前に、社会学の基本的視座を示したテキスト第1章を読んでおくこと。

【Outline (in English)】

This course introduces some viewpoints, basic concepts, and literature on sociology on various societal themes. The teaching method will include the use of textbooks, news articles on actual topics, and audio-visual materials. Participants will be expected to contribute to discussions in the class.

The goals of this courses are to understand terms and ways of thinking of sociology and to grow the sociological imagination.

After each class meeting, students will be expected to read the relevant chapter from the textbook, and other books, articles.

Your required study time is at least four hours for a class.

Final grade will be decided based on term-end report(50%), and in-class contribution(50%).

SOC100LA

社会学 I

2017 年度以降入学者

徐 玄九

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 3/Mon.3

単位数：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

担当教員の作成した教材を含む文献や映像資料を用いて、実際の社会現象を取り上げつつ講義形式を中心に学習を進める。また、学習内容の定着と応用を目的として、授業内で演習やコメント作成に取り組むことがある。受講生の提出物は、個人情報に留意したうえで適宜授業にフィードバックする。

【到達目標】

この授業では、社会学の基本的な概念や理論を学習するとともに、社会現象を構造と運動、ミクロとマクロの両面から考察する視点を学ぶ。さらに、「社会」の複層性に対する理解を深めつつ、社会的事柄の成り立ちを多角的に考察する視点の習得をめざす。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

- ・対面授業で実施する。可能なかぎり双方向的な授業を心がける。とくに、テーマごとの関連性を重視しながら、具体的に身近なものから抽象的なものへと話題を進める。理解を深めるために、絵画や詩、映像資料などの教材も取り入れて視覚的な理解も図る。
- ・授業資料（PDF ファイル）は Hoppii で配布する。
- ・リアクションペーパー課題の提出を求める予定であり、課題等のフィードバックは Hoppii を通じて行う予定である。
- ・講義のはじめと終わりに意見交換や質疑応答の時間を設ける。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	社会学とはどのような学問か？	授業概要、成績評価基準の説明
2	社会変動	所与としての秩序から作為としての秩序への変化をフランス革命を例に学ぶ
3	消費社会	J・ボードリヤール『消費社会の神話と構造』の一部講読
4	情報社会	D・ライアン『監視社会』を参照しながら情報社会の二面性を理解する
5	メディア論の視点	吉見俊哉『メディア文化論』の一部講読
6	都市社会学	空間の社会学
7	社会運動	1968 年の学生運動を事例に社会的意義を学ぶ
8	社会問題	現象の分節化・「問題」化
9	対抗文化	1960 年代のサブカルチャーを取り上げる
10	対抗文化	1980 年代のサブカルチャーを取り上げる
11	「歴史社会学」の視点	M・ヴェーバー『宗教社会学論集』の一部講読
12	階層	格差社会の構造
13	ネーション（民族、国民）	ナショナリズムのパラドックス

14 政治社会学の視点 M・ウェーバー『職業としての政治』の一部講読

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用せず、配布資料（レジュメ、参考文献の抜粋）を使用する。

【参考書】

大澤真幸（2019）『社会学史』講談社現代新書。
ジグムント・バウマン（2016）奥井智之訳『社会学の考え方〔第 2 版〕』ちくま学芸文庫。

【成績評価の方法と基準】

期末テスト（50%）、リアクションペーパー課題（30%）、平常点（質疑応答やグループディスカッションへの参加：20%）
詳細な評価基準は以下の通りである。

〈期末テスト〉

40-50 点：以下の条件を満たしたうえで到達目標を達成できたと思われる場合

30-39 点：以下の条件を満たしたうえで、明確な論点の提示、論理的な論述がなされている場合

10-29 点：授業内容の理解、概念の正しい使用が認められている場合

1-9 点：不十分ながら最低限の理解と論点が提示されている場合

〈リアクションペーパー課題〉

12-15 点：授業内容の十分な理解が認められ、自分の意見が自分の言葉で論理的に述べられている場合

5-11 点：不十分ながら授業内容を理解していると認められる場合

1-4 点：最低限の理解は認められる場合

【学生の意見等からの気づき】

- ・質疑応答の時間を増やす。
- ・アクティブラーニングの時間を増やす。

【Outline (in English)】

(Course outline)

What is modern society? How can we understand it? How does society affect individual lives? The aim of this course is to help students acquire the basic sociological concepts and terms, and to develop a beginning critical perspective on the structure of our modern society.

(Learning Objectives)

The goals of this course are to understand the basic issues, principles, and approaches of sociology.

(Learning activities outside of classroom)

Since materials such as resumes and reference materials are distributed in advance, grasp the content of the lesson as a preparatory lesson and review it after the lesson.

・Two hours of advanced study: study concepts and read textbooks and references in advance.

・2 hours of post-course learning: Organize notes, look up textbooks, and read related literature.

(Grading Criteria /Policy)

Final exams (50%), preparation and review tasks (30%) and participation in biweekly group discussions (20%).

SOC100LA

社会学Ⅱ

2017年度以降入学者

徐 玄九

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 3/Mon.3

単位数：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

担当教員の作成した教材を含む文献や映像資料を用いて、実際の社会現象を取り上げつつ講義形式を中心に学習を進める。また、学習内容の定着と応用を目的として、授業内で演習やコメント作成に取り組むことがある。受講生の提出物は、個人情報に留意したうえで適宜授業にフィードバックする。

【到達目標】

この授業では、社会学の基本的な概念や理論を学習するとともに、社会現象を構造と運動、ミクロとマクロの両面から考察する視点を学ぶ。さらに、「社会」の複層性に対する理解を深めつつ、社会的事柄の成り立ちを多角的に考察する視点の習得をめざす。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

- ・対面授業で実施する。可能なかぎり双方向的な授業を心がける。とくに、テーマごとの関連性を重視しながら、具体的に身近なものから抽象的なものへと話題を進める。理解を深めるために、絵画や詩、映像資料などの教材も取り入れて視覚的な理解も図る。
- ・授業資料（PDF ファイル）は Hoppii で配布する。
- ・リアクションペーパー課題の提出を求める予定であり、課題等のフィードバックは Hoppii を通じて行う予定である。
- ・講義のはじめと終わりに意見交換や質疑応答の時間を設ける。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	家族の変容	Z・バウマン『リキッド・モダニティ』の一部講読
2	現代女性のライフコース	岩上真珠『ライフコースとジェンダーで読む家族』一部講読
3	個人化	Z・バウマン『個人化社会』一部講読
4	郊外（化）	東京近郊のベッドタウンの歴史と現状
5	自己の社会学	現代社会学におけるアイデンティティ論
6	現象学的社会学の視点	リアリティの変容
7	逸脱	犯罪社会学の視点
8	環境社会学の視点	公害
9	開発と自然	持続可能なエネルギー
10	少子高齢化と地域	「限界集落」の概念と実態
11	「福祉社会」	福祉社会論の歴史と現状
12	格差社会論	「ワーキングプア」の観点から
13	国際社会学の視点	国境を超える「日本社会」
14	「近代社会」の変容	Z・バウマン『リキッド・モダニティ』の一部講読

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用せず、配布資料（レジュメ、文献資料、いずれも PDF 形式）に基づき授業を進める。

【参考書】

- 大澤真幸（2019）『社会学史』講談社現代新書。
- 三上剛史（2010）『社会の思考—リスクと監視と個人化』学文社。
- ジークムントバウマン（2001）森田典正訳『リキッド・モダニティ—』大月書店。

【成績評価の方法と基準】

期末テスト（50%）、リアクションペーパー課題（30%）、平常点（質疑応答やグループディスカッションへの参加：20%）
詳細な評価基準は以下の通りである。

〈期末テスト〉

40-50 点：以下の条件を満たしたうえで到達目標を達成できたと認められる場合

30-39 点：以下の条件を満たしたうえで、明確な論点の提示、論理的な論述がなされている場合

10-29 点：授業内容の理解、概念の正しい使用が認められている場合

1-9 点：不十分ながら最低限の理解と論点が提示されている場合

〈リアクションペーパー課題〉

12-15 点：授業内容の十分な理解が認められ、自分の意見が自分の言葉で論理的に述べられている場合

5-11 点：不十分ながら授業内容を理解していると認められる場合

1-4 点：最低限の理解は認められる場合

【学生の意見等からの気づき】

- ・質疑応答の時間を増やす。
- ・アクティブラーニングの時間を増やす。

【Outline (in English)】

(Course outline)

What is modern society? How can we understand it? How does society affect individual lives? The aim of this course is to help students acquire the basic sociological concepts and terms, and to develop a beginning critical perspective on the structure of our modern society.

(Learning Objectives)

The goals of this course are to understand the basic issues, principles, and approaches of sociology.

(Learning activities outside of classroom)

Since materials such as resumes and reference materials are distributed in advance, grasp the content of the lesson as a preparatory lesson and review it after the lesson.

・Two hours of advanced study: study concepts and read textbooks and references in advance.

・2 hours of post-course learning: Organize notes, look up textbooks, and read related literature.

(Grading Criteria /Policy)

Final exams (50%), preparation and review tasks (30%) and participation in biweekly group discussions (20%).

SOC100LA

社会学 I

2017 年度以降入学者

徐 玄九

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 4/Tue.4

単位数：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

担当教員の作成した教材を含む文献や映像資料を用いて、実際の社会現象を取り上げつつ講義形式を中心に学習を進める。また、学習内容の定着と応用を目的として、授業内で演習やコメント作成に取り組むことがある。受講生の提出物は、個人情報に留意したうえで適宜授業にフィードバックする。

【到達目標】

この授業では、社会学の基本的な概念や理論を学習するとともに、社会現象を構造と運動、ミクロとマクロの両面から考察する視点を学ぶ。さらに、「社会」の複層性に対する理解を深めつつ、社会的事柄の成り立ちを多角的に考察する視点の習得をめざす。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

- ・対面授業で実施する。可能なかぎり双方向的な授業を心がける。とくに、テーマごとの関連性を重視しながら、具体的に身近なものから抽象的なものへと話題を進める。理解を深めるために、絵画や詩、映像資料などの教材も取り入れて視覚的な理解も図る。
- ・授業資料（PDF ファイル）は Hoppii で配布する。
- ・リアクションペーパー課題の提出を求める予定であり、課題等のフィードバックは Hoppii を通じて行う予定である。
- ・講義のはじめと終わりに意見交換や質疑応答の時間を設ける。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	社会学とはどのような学問か？	授業概要、成績評価基準の説明
2	社会変動	所与としての秩序から作為としての秩序への変化をフランス革命を例に学ぶ
3	消費社会	J・ボードリヤール『消費社会の神話と構造』の一部講読
4	情報社会	D・ライアン『監視社会』を参照しながら情報社会の二面性を理解する
5	メディア論の視点	吉見俊哉『メディア文化論』の一部講読
6	都市社会学	空間の社会学
7	社会運動	1968 年の学生運動を事例に社会的意義を学ぶ
8	社会問題	現象の分節化・「問題」化
9	対抗文化	1960 年代のサブカルチャーを取り上げる
10	対抗文化	1980 年代のサブカルチャーを取り上げる
11	「歴史社会学」の視点	M・ヴェーバー『宗教社会学論集』の一部講読
12	階層	格差社会の構造
13	ネーション（民族、国民）	ナショナリズムのパラドックス

14 政治社会学の視点 M・ウェーバー『職業としての政治』の一部講読

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用せず、配布資料（レジュメ、参考文献の抜粋）を使用する。

【参考書】

大澤真幸（2019）『社会学史』講談社現代新書。
ジグムント・バウマン（2016）奥井智之訳『社会学の考え方〔第 2 版〕』ちくま学芸文庫。

【成績評価の方法と基準】

期末テスト（50%）、リアクションペーパー課題（30%）、平常点（質疑応答やグループディスカッションへの参加：20%）
詳細な評価基準は以下の通りである。

〈期末テスト〉

40-50 点：以下の条件を満たしたうえで到達目標を達成できたと思われる場合

30-39 点：以下の条件を満たしたうえで、明確な論点の提示、論理的な論述がなされている場合

10-29 点：授業内容の理解、概念の正しい使用が認められている場合

1-9 点：不十分ながら最低限の理解と論点が提示されている場合

〈リアクションペーパー課題〉

12-15 点：授業内容の十分な理解が認められ、自分の意見が自分の言葉で論理的に述べられている場合

5-11 点：不十分ながら授業内容を理解していると認められる場合

1-4 点：最低限の理解は認められる場合

【学生の意見等からの気づき】

・ 質疑応答の時間を増やす。

・ アクティブラーニングの時間を増やす。

【Outline (in English)】

(Course outline)

What is modern society? How can we understand it? How does society affect individual lives? The aim of this course is to help students acquire the basic sociological concepts and terms, and to develop a beginning critical perspective on the structure of our modern society.

(Learning Objectives)

The goals of this course are to understand the basic issues, principles, and approaches of sociology.

(Learning activities outside of classroom)

Since materials such as resumes and reference materials are distributed in advance, grasp the content of the lesson as a preparatory lesson and review it after the lesson.

・ Two hours of advanced study: study concepts and read textbooks and references in advance.

・ 2 hours of post-course learning: Organize notes, look up textbooks, and read related literature.

(Grading Criteria /Policy)

Final exams (50%), preparation and review tasks (30%) and participation in biweekly group discussions (20%).

SOC100LA

社会学Ⅱ

2017年度以降入学者

徐 玄九

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 4/Tue.4

単位数：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

担当教員の作成した教材を含む文献や映像資料を用いて、実際の社会現象を取り上げつつ講義形式を中心に学習を進める。また、学習内容の定着と応用を目的として、授業内で演習やコメント作成に取り組むことがある。受講生の提出物は、個人情報に留意したうえで適宜授業にフィードバックする。

【到達目標】

この授業では、社会学の基本的な概念や理論を学習するとともに、社会現象を構造と運動、ミクロとマクロの両面から考察する視点を学ぶ。さらに、「社会」の複層性に対する理解を深めつつ、社会的事柄の成り立ちを多角的に考察する視点の習得をめざす。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

- ・対面授業で実施する。可能なかぎり双方向的な授業を心がける。とくに、テーマごとの関連性を重視しながら、具体的に身近なものから抽象的なものへと話題を進める。理解を深めるために、絵画や詩、映像資料などの教材も取り入れて視覚的な理解も図る。
- ・授業資料（PDF ファイル）は Hoppii で配布する。
- ・リアクションペーパー課題の提出を求める予定であり、課題等のフィードバックは Hoppii を通じて行う予定である。
- ・講義のはじめと終わりに意見交換や質疑応答の時間を設ける。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	家族の変容	Z・バウマン『リキッド・モダニティ』の一部講読
2	現代女性のライフコース	岩上真珠『ライフコースとジェンダーで読む家族』一部講読
3	個人化	Z・バウマン『個人化社会』一部講読
4	郊外（化）	東京近郊のベッドタウンの歴史と現状
5	自己の社会学	現代社会学におけるアイデンティティ論
6	現象学的社会学の視点	リアリティの変容
7	逸脱	犯罪社会学の視点
8	環境社会学の視点	公害
9	開発と自然	持続可能なエネルギー
10	少子高齢化と地域	「限界集落」の概念と実態
11	「福祉社会」	福祉社会論の歴史と現状
12	格差社会論	「ワーキングプア」の観点から
13	国際社会学の視点	国境を超える「日本社会」
14	「近代社会」の変容	Z・バウマン『リキッド・モダニティ』の一部講読

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用せず、配布資料（レジュメ、文献資料、いずれも PDF 形式）に基づき授業を進める。

【参考書】

大澤真幸（2019）『社会学史』講談社現代新書。
三上剛史（2010）『社会の思考—リスクと監視と個人化』学文社。
ジークムントバウマン（2001）森田典正訳『リキッド・モダニティ—』大月書店。

【成績評価の方法と基準】

期末テスト（50%）、リアクションペーパー課題（30%）、平常点（質疑応答やグループディスカッションへの参加：20%）
詳細な評価基準は以下の通りである。

〈期末テスト〉

40-50 点：以下の条件を満たしたうえで到達目標を達成できたと認められる場合

30-39 点：以下の条件を満たしたうえで、明確な論点の提示、論理的な論述がなされている場合

10-29 点：授業内容の理解、概念の正しい使用が認められている場合

1-9 点：不十分ながら最低限の理解と論点が提示されている場合

〈リアクションペーパー課題〉

12-15 点：授業内容の十分な理解が認められ、自分の意見が自分の言葉で論理的に述べられている場合

5-11 点：不十分ながら授業内容を理解していると認められる場合

1-4 点：最低限の理解は認められる場合

【学生の意見等からの気づき】

- ・質疑応答の時間を増やす。
- ・アクティブラーニングの時間を増やす。

【Outline (in English)】

(Course outline)

What is modern society? How can we understand it? How does society affect individual lives? The aim of this course is to help students acquire the basic sociological concepts and terms, and to develop a beginning critical perspective on the structure of our modern society.

(Learning Objectives)

The goals of this course are to understand the basic issues, principles, and approaches of sociology.

(Learning activities outside of classroom)

Since materials such as resumes and reference materials are distributed in advance, grasp the content of the lesson as a preparatory lesson and review it after the lesson.

・Two hours of advanced study: study concepts and read textbooks and references in advance.

・2 hours of post-course learning: Organize notes, look up textbooks, and read related literature.

(Grading Criteria /Policy)

Final exams (50%), preparation and review tasks (30%) and participation in biweekly group discussions (20%).

POL100LA

政治学 I

2017 年度以降入学者

及川 智洋

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 5/Tue.5

単位数：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

政治学の基本的概念と政治制度を習得するための講義を行う。

【到達目標】

政治学の基本概念と政治制度に関する基本的知識を習得することと、政治について考え・判断できる能力の獲得を目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

通常の教室での対面授業を実施する場合はレクチャーとディスカッションを併用する。オンライン授業の場合は学習支援システムを使用してレジュメを中心に、リモートによるディスカッションを交えて行う。課題や小レポート等の提出、及びその講評・解説等のフィードバックも、教室での対面と学習支援システムの双方を通じて行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	講義の概要について説明する
2	政治学の対象としての政治	政治学の対象・概念・分析方法の多様性についての講義
3	政治的思考法	政治的リアリズムの特徴についての講義
4	権力	権力に関するさまざまな見方についての講義
5	権力と統治	ミシェル・フーコーの政治論についての講義
6	国家	近代国家から現代国家への変容についての講義
7	近代立憲主義	国家の権力を縛る意味についての講義
8	政治体制	民主主義体制と非民主主義体制についての講義
9	選挙	政治的リーダーの選出とさまざまな選挙制度についての講義
10	議会	立法過程についての講義
11	官僚機構と中央政府	政策実施についての講義
12	裁判所	司法と政治の関係についての講義
13	政治と経済	経済と政治の相互作用についての講義
14	総括	授業内容を振り返り、到達点と今後の課題の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。課題と予習復習については授業ごとに指示する。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。

【参考書】

『政治のしくみがわかる本』（山口二郎）岩波ジュニア新書、2009 年、780 円+税

『戦後政治史 第四版』（石川真澄、山口二郎）岩波新書、2021 年、1040 円+税

『政治学』（新川敏光、大西裕。大矢根聡、田村哲樹）有斐閣、2017 年、2200 円（税込）

『政治的思考』杉田敦 岩波新書、2013 年、836 円（税込）

『民主主義とは何か』宇野重規 講談社現代新書、2020 年、1034 円（税込）

【成績評価の方法と基準】

期末試験および学期途中で行う 2 回前後の小課題によって評価を決める。試験が 75%、小課題および平常点が 25%とする。期末試験は課題レポート提出で代替する場合がある。評価基準としては、政治学の基本概念と政治制度を中心にした授業の理解度、思考力、論述力を重視する。

【学生の意見等からの気づき】

政治学への理解を深めるために、受講生の持つ政治上の関心事項について聞いたうえで、できるだけ時事的な政治問題との関連も例示するようにする。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムおよびオンライン授業に対応できる情報端末。

【Outline (in English)】

【Course outline】

In this course, we will learn the basic concepts in political science and the political institutions.

【Learning Objectives】

At the end of the course, students are expected to learn basic concepts of political science and basic knowledge of political systems, and to acquire the ability to think and judge politics.

【Learning activities outside of classroom】

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

【Grading Criteria /Policy】

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination: 75%、Short reports : 25%.

POL100LA

政治学Ⅱ

2017年度以降入学者

及川 智洋

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 5/Tue.5

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

政治学の概念を用いた日本政治の分析を、他の先進国と比較しながら講義形式で行う。

【到達目標】

政治学の概念を用いて日本の政治の分析を行い、日本の政治に関する基本知識を習得し、政治学の概念に関する理解を深めることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

通常の教室授業で実施する場合はレクチャーとディスカッションを併用する。オンライン授業の場合は学習支援システムを使用してレジュメを中心に、リモートによるディスカッションを交えて行う。課題や小レポート等の提出、及びその講評・解説等のフィードバックは対面と学習支援システムの双方を使って行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	講義の概要について説明する
2	敗戦と占領	敗戦による体制移行論についての講義
3	戦後憲法の制定	ドイツ・イタリアと比較した憲法制定の政治についての講義
4	冷戦	国際的環境としての冷戦の特徴についての講義
5	安保闘争	街頭の政治の意義についての講義
6	自民党政治	日本における「生産性に政治」と「抑制による政治」についての講義
7	アジアの冷戦と沖縄	沖縄を巡る政治についての講義
8	多党化	高度成長による社会の変化と多党化についての講義
9	新冷戦と日米同盟	「安保」から「日米同盟」への移行についての講義
10	冷戦の終結	冷戦終結後の国際政治の世界についての講義
11	政治改革と新自由主義	政治改革と新自由主義による脱民主化についての講義
12	福祉政治	社会保障を巡る政治についての講義
13	東アジアの国際政治と国内政治	国際環境の変化・領土問題と国内政治の相互作用についての講義
14	総括	授業内容を振り返り、到達点と今後の課題の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。課題と予習復習については授業ごとに指示する。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。

【参考書】

『政治のしくみがわかる本』（山口二郎）岩波ジュニア新書、2009年、定価780円+税
 『戦後政治史 第4版』（石川真澄、山口二郎）岩波新書、2021年、定価1040円+税
 『政治学』（新川敏光、大西裕、大矢根聡、田村哲樹）有斐閣、2017年、定価2200円（税込）
 『政治的思考』杉田敦 岩波新書、2013年 836円（税込）
 『民主主義とは何か』宇野重規 講談社現代新書、2020年 1034円（税込）

【成績評価の方法と基準】

期末試験および学期途中で行う2回前後の小課題によって評価を決める。試験が75%、小課題が25%とする。期末試験は状況によってオンラインでのレポート提出で代替する可能性がある。評価基準としては、政治学の基本概念と政治制度を中心にした授業の理解度、思考力、論述力を重視する。

【学生の意見等からの気づき】

政治学への理解を深めるために、受講生の持つ政治上の関心事項について聞いたうえで、できるだけ時事的な政治問題との関連も例示するようにする。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムおよびオンライン授業に対応できる情報端末。

【Outline (in English)】**【Course outline】**

In this course, we will analyze Japanese politics by applying the concepts in political science.

【Learning Objectives】

At the end of the course, students are expected to analyze Japanese politics using political science concepts, acquire basic knowledge of Japanese politics, and deepen understanding of political science concepts.

【Learning activities outside of classroom】

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

【Grading Criteria/Policy】

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination: 75%、Short reports : 25%.

POL100LA

政治学 I

2017 年度以降入学者

崔 先鎬

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 5/Wed.5

単位数：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

政治学の基本的概念と政治制度に関する講義を行う。

【到達目標】

政治学の基本概念と政治制度に関する基本的知識を習得すること、政治について考え・判断できる能力の獲得を目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

授業内・教科書内で紹介した様々な政治学用語を丁寧に読むこと。（授業中はパワーポイント画面だけに頼らず、必要ところは筆記しましょう。課題等の提出・フィードバックは学習支援システムを通じて行う予定です。なお、提出された課題等における良い内容は、次回の授業の更なる議論に活かす予定です。）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第一回	イントロダクション	講義の概要について説明する
第二回	政治学の対象としての政治	政治学の対象・概念・分析方法の多様性についての講義
第三回	政治的思考法	政治的リアリズムの特徴についての講義
第四回	権力	権力に関するさまざまな見方についての講義
第五回	権力と統治	ミシェル・フーコーの政治論についての講義
第六回	国家	近代国家から現代国家への変容についての講義
第七回	近代立憲主義	国家の権力を縛る意味についての講義
第八回	政治体制	民主主義体制と非民主主義体制についての講義
第九回	選挙	政治的リーダーの選出とさまざまな選挙制度についての講義
第十回	議会	立法過程についての講義
第十一回	官僚機構と中央政府	政策実施についての講義
第十二回	裁判所	司法と政治の関係についての講義
第十三回	政治と経済	経済と政治の相互作用についての講義
第十四回	総括	授業内容を振り返り、到達点と今後の課題の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

川崎修・杉田敦 編 『現代政治理論』、東京、有斐閣、2013 年
杉田敦 著 『政治的思考』、東京、岩波書店（岩波新書 1402）、2014 年

【参考書】

R.A. ダール、高島通敏訳 『現代政治分析』、東京、岩波書店、1999 年

佐々木毅 『政治学講義』、東京、東京大学出版会、1999 年

南原繁 『政治哲学序説』、東京、岩波書店、1988 年

【成績評価の方法と基準】

受講態度（＝手書きのレポートなどの提出物、40%）＋試験（60%）
（感染症の拡散による事態が解消するまでは上記の何も学習支援システムで対応する可能性がある。）

【学生の意見等からの気づき】

この分野に関わる内容を扱いながら蓄えた論理的思考をもとに、今後自分の専門分野に応用し実践していくことができると思います。

【学生が準備すべき機器他】

教科書・ノート

【その他の重要事項】

授業内容の録画・録音・写真撮影は絶対に行わないこと。
（授業中の電子機器の使用禁止。スマホはカバンの中に仕舞うこと。）
試験時に黒の油性ボールペンを必ず用意すること。

【Outline (in English)】

【Course outline】

In this course, we will learn the basic concepts in political science and the political institutions.

【Learning Objectives】

At the end of the course, students are expected to learn basic concepts of political science and basic knowledge of political systems, and to acquire the ability to think and judge politics.

【Learning activities outside of classroom】

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

【Grading Criteria /Policy】

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination: 60%、in class contribution: 40%

POL100LA

政治学Ⅱ

2017年度以降入学者

崔 先鎬

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 5/Wed.5

単位数：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

政治学の概念を用いた日本政治の分析を、他の先進国との比較しながら講義形式で行います。

【到達目標】

政治学の概念を用いて日本の政治の分析を行い、日本の政治に関する基本知識を習得し、政治学の概念に関する理解を深めることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

授業内・教科書内で紹介した様々な政治学用語を丁寧に読むこと。（授業中はパワーポイント画面だけに頼らず、必要なところは筆記しましょう。課題等の提出・フィードバックは学習支援システムを通じて行う予定です。なお、提出された課題等における良い内容は、次回の授業の更なる議論に活かす予定です。）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第一回	イントロダクション	講義の概要について説明する
第二回	敗戦と占領	敗戦による体制移行論についての講義
第三回	戦後憲法の制定	ドイツ・イタリアと比較した憲法制定の政治についての講義
第四回	冷戦	国際的環境としての冷戦の特徴についての講義
第五回	安保闘争	街頭の政治の意義についての講義
第六回	自民党政治	日本における「生産性に政治」と「抑制による政治」についての講義
第七回	アジアの冷戦と沖縄	沖縄を巡る政治についての講義
第八回	多党化	高度成長による社会の変化と多党化についての講義
第九回	新冷戦と日米同盟	「安保」から「日米同盟」への移行についての講義
第十回	冷戦の終結	冷戦終結後の国際政治の世界についての講義
第十一回	政治改革と新自由主義	政治改革と新自由主義による脱民主化についての講義
第十二回	福祉政治	社会保障を巡る政治についての講義
第十三回	東アジアの国際政治と国内政治	国際環境の変化・領土問題と国内政治の相互作用についての講義
第十四回	総括	授業内容を振り返り、到達点と今後の課題の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

川崎修・杉田敦 編 『現代政治理論』、東京、有斐閣、2013 年
杉田敦 著『政治的思考』、東京、岩波書店（岩波新書 1402）、2014 年

【参考書】

R.A. ダール、高島通敏訳 『現代政治分析』、東京、岩波書店、1999 年
佐々木毅 『政治学講義』、東京、東京大学出版会、1999 年
南原繁 『政治哲学序説』、東京、岩波書店、1988 年

【成績評価の方法と基準】

受講態度（=手書きのレポートなどの提出物、40%）+試験（60%）
（感染症の拡散による事態が解消するまでは上記の何も学習支援システムで対応する場合がある。）

【学生の意見等からの気づき】

この分野に関わる内容を扱いながら蓄えた論理的思考をもとに、今後自分の専門分野に応用し実践していくことができると思います。

【学生が準備すべき機器他】

教科書・ノート

【その他の重要事項】

授業内容の録画・録音・写真撮影は絶対に行わないこと。
（授業中の電子機器の使用禁止。スマホはカバンの中に仕舞うこと。）
試験時に黒の油性ボールペンを必ず用意すること。

【Outline (in English)】

【Course outline】

In this course, we will analyze Japanese politics by applying the concepts in political science.

【Learning Objectives】

At the end of the course, students are expected to analyze Japanese politics using political science concepts, acquire basic knowledge of Japanese politics, and deepen understanding of political science concepts.

【Learning activities outside of classroom】

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

【Grading Criteria /Policy】

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination: 60%、in class contribution: 40%

POL100LA

政治学 I

2017 年度以降入学者

崔 先鎬

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 4/Wed.4

単位数：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

政治学の基本的概念と政治制度に関する講義を行います。

【到達目標】

政治学の基本概念と政治制度に関する基本的知識を習得すること、政治について考え・判断できる能力の獲得を目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

授業内・教科書内で紹介した様々な政治学用語を丁寧に読むこと。（授業中はパワーポイント画面だけに頼らず、必要ところは筆記しましょう。課題等の提出・フィードバックは学習支援システムを通じて行う予定です。なお、提出された課題等における良い内容は、次の授業の更なる議論に活かす予定です。）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第一回	イントロダクション	講義の概要について説明する
第二回	政治学の対象としての政治	政治学の対象・概念・分析方法の多様性についての講義
第三回	政治的思考法	政治的リアリズムの特徴についての講義
第四回	権力	権力に関するさまざまな見方についての講義
第五回	権力と統治	ミシェル・フーコーの政治論についての講義
第六回	国家	近代国家から現代国家への変容についての講義
第七回	近代立憲主義	国家の権力を縛る意味についての講義
第八回	政治体制	民主主義体制と非民主主義体制についての講義
第九回	選挙	政治的リーダーの選出とさまざまな選挙制度についての講義
第十回	議会	立法過程についての講義
第十一回	官僚機構と中央政府	政策実施についての講義
第十二回	裁判所	司法と政治の関係についての講義
第十三回	政治と経済	経済と政治の相互作用についての講義
第十四回	総括	授業内容を振り返り、到達点と今後の課題の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

川崎修・杉田敦 編 『現代政治理論』、東京、有斐閣、2013 年
杉田敦 著 『政治的思考』、東京、岩波書店（岩波新書 1402）、2014 年

【参考書】

R.A. ダール、高島通敏訳 『現代政治分析』、東京、岩波書店、1999 年

佐々木毅 『政治学講義』、東京、東京大学出版会、1999 年

南原繁 『政治哲学序説』、東京、岩波書店、1988 年

【成績評価の方法と基準】

受講態度（＝手書きのレポートなどの提出物、40%）＋試験（60%）（感染症の拡散による事態が解消するまでは上記の何も学習支援システムで対応する可能性がある。）

【学生の意見等からの気づき】

この分野に関わる内容を扱いながら蓄えた論理的思考をもとに、今後自分の専門分野に応用し実践していくことができると思います。

【学生が準備すべき機器他】

ノート・教科書

【その他の重要事項】

授業内容の録画・録音・写真撮影は絶対に行わないこと。（授業中の電子機器の使用禁止。スマホはカバンの中に仕舞うこと。）試験時に黒の油性ボールペンを必ず用意すること。

【Outline (in English)】

【Course outline】

In this course, we will learn the basic concepts in political science and the political institutions.

【Learning Objectives】

At the end of the course, students are expected to learn basic concepts of political science and basic knowledge of political systems, and to acquire the ability to think and judge politics.

【Learning activities outside of classroom】

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

【Grading Criteria /Policy】

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination: 60%、in class contribution: 40%

POL100LA

政治学Ⅱ

2017年度以降入学者

崔 先鎬

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 4/Wed.4

単位数：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

政治学の概念を用いた日本政治の分析を、他の先進国との比較しながら講義形式で行います。

【到達目標】

政治学の概念を用いて日本の政治の分析を行い、日本の政治に関する基本知識を習得し、政治学の概念に関する理解を深めることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

授業内・教科書内で紹介した様々な政治学用語を丁寧に読むこと。（授業中はパワーポイント画面だけに頼らず、必要なところは筆記しましょう。課題等の提出・フィードバックは学習支援システムを通じて行う予定です。なお、提出された課題等における良い内容は、次回の授業の更なる議論に活かす予定です。）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第一回	イントロダクション	講義の概要について説明する
第二回	敗戦と占領	敗戦による体制移行論についての講義
第三回	戦後憲法の制定	ドイツ・イタリアと比較した憲法制定の政治についての講義
第四回	冷戦	国際的環境としての冷戦の特徴についての講義
第五回	安保闘争	街頭の政治の意義についての講義
第六回	自民党政治	日本における「生産性に政治」と「抑制による政治」についての講義
第七回	アジアの冷戦と沖縄	沖縄を巡る政治についての講義
第八回	多党化	高度成長による社会の変化と多党化についての講義
第九回	新冷戦と日米同盟	「安保」から「日米同盟」への移行についての講義
第十回	冷戦の終結	冷戦終結後の国際政治の世界についての講義
第十一回	政治改革と新自由主義	政治改革と新自由主義による脱民主化についての講義
第十二回	福祉政治	社会保障を巡る政治についての講義
第十三回	東アジアの国際政治と国内政治	国際環境の変化・領土問題と国内政治の相互作用についての講義
第十四回	総括	授業内容を振り返り、到達点と今後の課題の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

川崎修・杉田敦 編 『現代政治理論』、東京、有斐閣、2013 年
杉田敦 著『政治的思考』、東京、岩波書店（岩波新書 1402）、2014 年

【参考書】

R.A. ダール、高島通敏訳 『現代政治分析』、東京、岩波書店、1999 年
佐々木毅 『政治学講義』、東京、東京大学出版会、1999 年
南原繁 『政治哲学序説』、東京、岩波書店、1988 年

【成績評価の方法と基準】

受講態度（=手書きのレポートなどの提出物、40%）+試験（60%）
（感染症の拡散による事態が解消するまでは上記の何も学習支援システムで対応する場合がある。）

【学生の意見等からの気づき】

この分野に関わる内容を扱いながら蓄えた論理的思考をもとに、今後自分の専門分野に応用し実践していくことができると思います。

【学生が準備すべき機器他】

教科書・ノート

【その他の重要事項】

授業内容の録画・録音・写真撮影は絶対に行わないこと。
（授業中の電子機器の使用禁止。スマホはカバンの中に仕舞うこと。）
試験時に黒の油性ボールペンを必ず用意すること。

【Outline (in English)】

【Course outline】

In this course, we will analyze Japanese politics by applying the concepts in political science.

【Learning Objectives】

At the end of the course, students are expected to analyze Japanese politics using political science concepts, acquire basic knowledge of Japanese politics, and deepen understanding of political science concepts.

【Learning activities outside of classroom】

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

【Grading Criteria /Policy】

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination: 60%、in class contribution: 40%

POL100LA

政治学 I

2017 年度以降入学者

高橋 和則

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 3/Mon.3

単位数：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

政治学の基本的概念と政治制度に関する講義を行う。

【到達目標】

政治学の基本概念と政治制度に関する基本的知識を習得すること、政治について考え・判断できる能力の獲得を目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

- ・テキストとレジュメに基づく講義形式
- ・課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定
- ・大学の行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	講義の概要について説明する
2	政治学の対象としての政治	政治学の対象・概念・分析方法の多様性についての講義
3	政治的思考法	政治的リアリズムの特徴についての講義
4	権力	権力に関するさまざまな見方についての講義
5	権力と統治	ミシェル・フーコーの政治論についての講義
6	国家	近代国家から現代国家への変容についての講義
7	近代立憲主義	国家の権力を縛る意味についての講義
8	政治体制	民主主義体制と非民主主義体制についての講義
9	選挙	政治的リーダーの選出とさまざまな選挙制度についての講義
10	議会	立法過程についての講義
11	官僚機構と中央政府	政策実施についての講義
12	裁判所	司法と政治の関係についての講義
13	政治と経済	経済と政治の相互作用についての講義
14	総括	授業内容を振り返り、到達点と今後の課題の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。
 準備学習：資料やレジュメの配布は「授業支援システム」によって行う。「テキスト」欄参照。講義前に、新しいものがアップロードされていないか確認する。
 復習・講義の際に出てきた概念などを「参考書」欄に挙げた事典類で調べ、知識を確実にする。図書館を活用せよ

【テキスト（教科書）】

①川出良枝・谷口将紀編『政治学 第二版』東京大学出版会

②「授業支援システム」で適宜配布する資料やレジュメ

【参考書】

- ・『政治学事典』弘文堂
- ・『哲学思想事典』岩波書店
- ・『社会思想事典』岩波書店

【成績評価の方法と基準】

期末に行う選択肢型筆記試験による（100%）

【学生の意見等からの気づき】

資料などの配布は授業支援システムではなく教室で行ってほしいという要望があったが、前者での配布を取る理由については第一回の講義中に説明した通りであり、その点は了解してほしい。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムを利用できるようになっておくこと。

【その他の重要事項】

- ①事前に必要な知識はない。復習に力を注ぐこと。
- ②政治学Ⅱの併習を推奨する（政治学Ⅱを履修しなくとも理解できるよう、独立した内容ではある）。

【Outline (in English)】

【Course outline】

In this course, we will learn the basic concepts in political science and the political institutions.

【Learning Objectives】

At the end of the course, students are expected to learn basic concepts of political science and basic knowledge of political systems, and to acquire the ability to think and judge politics.

【Learning activities outside of classroom】

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

【Grading Criteria /Policy】

Final grade will be calculated according to term-end examination.

POL100LA

政治学Ⅱ

2017年度以降入学者

高橋 和則

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 3/Mon.3

単位数：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

政治学の概念を用いた日本政治の分析を、他の先進国との比較をしながら講義形式で行う。

【到達目標】

政治学の概念を用いて日本の政治の分析を行い、日本の政治に関する基本知識を習得し、政治学の概念に関する理解を深めることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

・テキストとレジュメに基づいた講義形式
・課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定
・大学の行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	講義の概要について説明する
2	敗戦と占領	敗戦による体制移行論についての講義
3	戦後憲法の制定	ドイツ・イタリアと比較した憲法制定の政治についての講義
4	冷戦	国際的環境としての冷戦の特徴についての講義
5	安保闘争	街頭の政治の意義についての講義
6	自民党政治	日本における「生産性に政治」と「抑制による政治」についての講義
7	アジアの冷戦と沖縄	沖縄を巡る政治についての講義
8	多党化	高度成長による社会の変化と多党化についての講義
9	新冷戦と日米同盟	「安保」から「日米同盟」への移行についての講義
10	冷戦の終結	冷戦終結後の国際政治の世界についての講義
11	政治改革と新自由主義	政治改革と新自由主義による脱民主化についての講義
12	福祉政治	社会保障を巡る政治についての講義
13	東アジアの国際政治と国内政治	国際環境の変化・領土問題と国内政治の相互作用についての講義
14	総括	授業内容を振り返り、到達点と今後の課題の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。
準備学習・講義で使用される資料やレジュメは「授業支援システム」によって配布する。「テキスト」欄参照。講義前に新しいアップロードがないか確認すること。

復習・講義で出てきた概念などを事典で調べ、知識を確かなものにする。「参考書」欄を参照。図書館を活用せよ。

【テキスト（教科書）】

- ①川出良枝・谷口将紀編『政治学 第二版』東京大学出版会
- ②「授業支援システム」で適宜配布する資料とレジュメ

【参考書】

- ①『政治学事典』弘文堂
- ②『社会思想事典』岩波書店

【成績評価の方法と基準】

・期末に行う選択肢型筆記試験

【学生の意見等からの気づき】

資料などの配布は授業支援システムではなく教室で行ってほしいという要望があったが、前者での配布を取る理由については第一回の講義中に説明した通りであり、その点は了解してほしい。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムを利用できるようになっておくこと

【その他の重要事項】

- ①事前に必要とする知識はない。復習に力を注ぐこと。
- ②政治学Ⅰの併習を推奨する（政治学Ⅰを履修していなくても理解できるよう、独立した内容ではある）。

【Outline (in English)】

【Course outline】

In this course, we will analyze Japanese politics by applying the concepts in political science.

【Learning Objectives】

At the end of the course, students are expected to analyze Japanese politics using political science concepts, acquire basic knowledge of Japanese politics, and deepen understanding of political science concepts.

【Learning activities outside of classroom】

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

【Grading Criteria /Policy】

Final grade will be calculated according to term-end examination.

POL100LA

政治学 I

2017 年度以降入学者

及川 智洋

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 5/Mon.5

単位数：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

政治学の基本的概念と政治制度を習得するための講義を行う。

【到達目標】

政治学の基本概念と政治制度に関する基本的知識を習得することと、政治について考え・判断できる能力の獲得を目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

通常の教室での対面授業を実施する場合はレクチャーとディスカッションを併用する。オンライン授業の場合は学習支援システムを使用してレジュメを中心に、リモートによるディスカッションを交えて行う。課題や小レポート等の提出、及びその講評・解説等のフィードバックも、教室での対面と学習支援システムの双方を通じて行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	講義の概要について説明する
2	政治学の対象としての政治	政治学の対象・概念・分析方法の多様性についての講義
3	政治的思考法	政治的リアリズムの特徴についての講義
4	権力	権力に関するさまざまな見方についての講義
5	権力と統治	ミシェル・フーコーの政治論についての講義
6	国家	近代国家から現代国家への変容についての講義
7	近代立憲主義	国家の権力を縛る意味についての講義
8	政治体制	民主主義体制と非民主主義体制についての講義
9	選挙	政治的リーダーの選出とさまざまな選挙制度についての講義
10	議会	立法過程についての講義
11	官僚機構と中央政府	政策実施についての講義
12	裁判所	司法と政治の関係についての講義
13	政治と経済	経済と政治の相互作用についての講義
14	総括	授業内容を振り返り、到達点と今後の課題の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。課題と予習復習については授業ごとに指示する。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。

【参考書】

『政治のしくみがわかる本』（山口二郎）岩波ジュニア新書、2009 年、780 円+税

『戦後政治史 第四版』（石川真澄、山口二郎）岩波新書、2021 年、1040 円+税

『政治学』（新川敏光、大西裕。大矢根聡、田村哲樹）有斐閣、2017 年、2200 円（税込）

『政治的思考』杉田敦 岩波新書、2013 年、836 円（税込）

『民主主義とは何か』宇野重規 講談社現代新書、2020 年、1034 円（税込）

【成績評価の方法と基準】

期末試験および学期途中で行う 2 回前後の小課題によって評価を決める。試験が 75%、小課題および平常点が 25%とする。期末試験は課題レポート提出で代替する場合がある。評価基準としては、政治学の基本概念と政治制度を中心にした授業の理解度、思考力、論述力を重視する。

【学生の意見等からの気づき】

政治学への理解を深めるために、受講生の持つ政治上の関心事項について聞いたうえで、できるだけ時事的な政治問題との関連も例示するようにする。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムおよびオンライン授業に対応できる情報端末。

【Outline (in English)】

【Course outline】

In this course, we will learn the basic concepts in political science and the political institutions.

【Learning Objectives】

At the end of the course, students are expected to learn basic concepts of political science and basic knowledge of political systems, and to acquire the ability to think and judge politics.

【Learning activities outside of classroom】

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

【Grading Criteria /Policy】

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination: 75%、Short reports : 25%

POL100LA

政治学Ⅱ

2017年度以降入学者

及川 智洋

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 5/Mon.5

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

政治学の概念を用いた日本政治の分析を、他の先進国と比較しながら講義形式で行う。

【到達目標】

政治学の概念を用いて日本の政治の分析を行い、日本の政治に関する基本知識を習得し、政治学の概念に関する理解を深めることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

通常の教室授業で実施する場合はレクチャーとディスカッションを併用する。オンライン授業の場合は学習支援システムを使用してレジュメを中心に、リモートによるディスカッションを交えて行う。課題や小レポート等の提出、及びその講評・解説等のフィードバックは対面と学習支援システムの双方を使って行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	講義の概要について説明する
2	敗戦と占領	敗戦による体制移行論についての講義
3	戦後憲法の制定	ドイツ・イタリアと比較した憲法制定の政治についての講義
4	冷戦	国際的環境としての冷戦の特徴についての講義
5	安保闘争	街頭の政治の意義についての講義
6	自民党政治	日本における「生産性に政治」と「抑制による政治」についての講義
7	アジアの冷戦と沖縄	沖縄を巡る政治についての講義
8	多党化	高度成長による社会の変化と多党化についての講義
9	新冷戦と日米同盟	「安保」から「日米同盟」への移行についての講義
10	冷戦の終結	冷戦終結後の国際政治の世界についての講義
11	政治改革と新自由主義	政治改革と新自由主義による脱民主化についての講義
12	福祉政治	社会保障を巡る政治についての講義
13	東アジアの国際政治と国内政治	国際環境の変化・領土問題と国内政治の相互作用についての講義
14	総括	授業内容を振り返り、到達点と今後の課題の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。課題と予習復習については授業ごとに指示する。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。

【参考書】

『政治のしくみがわかる本』（山口二郎）岩波ジュニア新書、2009年、定価780円+税

『戦後政治史 第4版』（石川真澄、山口二郎）岩波新書、2021年、定価1040円+税

『政治学』（新川敏光、大西裕、大矢根聡、田村哲樹）有斐閣、2017年、定価2200円（税込）

『政治的思考』杉田敦 岩波新書、2013年 836円（税込）

『民主主義とは何か』宇野重規 講談社現代新書、2020年 1034円（税込）

【成績評価の方法と基準】

期末試験および学期途中でを行う2回前後の小課題によって評価を決める。試験が75%、小課題が25%とする。期末試験は状況によってオンラインでのレポート提出で代替する可能性がある。評価基準としては、政治学の基本概念と政治制度を中心にした授業の理解度、思考力、論述力を重視する。

【学生の意見等からの気づき】

政治学への理解を深めるために、受講生の持つ政治上の関心事項について聞いたうえで、できるだけ時事的な政治問題との関連も例示するようにする。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムおよびオンライン授業に対応できる情報端末。

【Outline (in English)】**【Course outline】**

In this course, we will analyze Japanese politics by applying the concepts in political science.

【Learning Objectives】

At the end of the course, students are expected to analyze Japanese politics using political science concepts, acquire basic knowledge of Japanese politics, and deepen understanding of political science concepts.

【Learning activities outside of classroom】

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

【Grading Criteria/Policy】

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination: 75%、Short reports : 25%

POL100LA

政治学 I

2017 年度以降入学者

面 一也

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 2/Mon.2

単位数：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

政治学の基本的概念と政治制度に関する講義を行う。

【到達目標】

政治学の基本概念と政治制度に関する基本的知識を習得すること、政治について考え・判断できる能力の獲得を目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式で行なう。リアクションペーパーの提出（2～3回）を予定している。リアクションペーパー実施後の授業時に、提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	講義の概要について説明する
第 2 回	政治学の対象としての政治	政治学の対象・概念・分析方法の多様性についての講義
第 3 回	政治的思考法	政治的リアリズムの特徴についての講義
第 4 回	権力	権力に関するさまざまな見方についての講義
第 5 回	権力と統治	ミシェル・フーコーの政治論についての講義
第 6 回	国家	近代国家から現代国家への変容についての講義
第 7 回	近代立憲主義	国家の権力を縛る意味についての講義
第 8 回	政治体制	民主主義体制と非民主主義体制についての講義
第 9 回	選挙	政治的リーダーの選出とさまざまな選挙制度についての講義
第 10 回	議会	立法過程についての講義
第 11 回	官僚機構と中央政府	政策実施についての講義
第 12 回	裁判所	司法と政治の関係についての講義
第 13 回	政治と経済	経済と政治の相互作用についての講義
第 14 回	総括	授業内容を振り返り、到達点と今後の課題の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

川出良枝、谷口将紀編著『政治学 第 2 版』東京大学出版会、2022 年、2,420 円。

【参考書】

授業内で適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

期末筆記試験（70%）、リアクションペーパー（30%）。

【学生の意見等からの気づき】

授業外の発展学習をいっそう促す授業内容を心がけたい。

【Outline (in English)】

【Course outline】

In this course, we will learn the basic concepts in political science and the political institutions.

【Learning Objectives】

At the end of the course, students are expected to learn basic concepts of political science and basic knowledge of political systems, and to acquire the ability to think and judge politics.

【Learning activities outside of classroom】

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

【Grading Criteria /Policy】

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination: 70%、Short reports : 30%

POL100LA

政治学Ⅱ

2017年度以降入学者

面 一也

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 2/Mon.2

単位数：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

政治学の概念を用いた日本政治の分析を、他の先進国との比較しながら講義形式で行う。

【到達目標】

政治学の概念を用いて日本の政治の分析を行い、日本の政治に関する基本知識を習得し、政治学の概念に関する理解を深めることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式で行なう。リアクションペーパーの提出（2～3回）を予定している。リアクションペーパー実施後の授業時に、提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	講義の概要について説明する
第2回	敗戦と占領	敗戦による体制移行論についての講義
第3回	戦後憲法の制定	ドイツ・イタリアと比較した憲法制定の政治についての講義
第4回	冷戦	国際的環境としての冷戦の特徴についての講義
第5回	安保闘争	街頭の政治の意義についての講義
第6回	自民党政治	日本における「生産性に政治」と「抑制による政治」についての講義
第7回	アジアの冷戦と沖縄	沖縄を巡る政治についての講義
第8回	多党化	高度成長による社会の変化と多党化についての講義
第9回	新冷戦と日米同盟	「安保」から「日米同盟」への移行についての講義
第10回	冷戦の終結	冷戦終結後の国際政治の世界についての講義
第11回	政治改革と新自由主義	政治改革と新自由主義による脱民主化についての講義
第12回	福祉政治	社会保障を巡る政治についての講義
第13回	東アジアの国際政治と国内政治	国際環境の変化・領土問題と国内政治の相互作用についての講義
第14回	総括	授業内容を振り返り、到達点と今後の課題の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

上神貴佳、三浦まり編『日本政治の第一歩』有斐閣ストゥディア、2018年、2,090円。

【参考書】

授業内で適宜指示する。

【成績評価の方法と基準】

期末筆記試験（70%）、リアクションペーパー（30%）。

【学生の意見等からの気づき】

授業外の発展学習をいっそう促す授業内容を心がけたい。

【Outline (in English)】

【Course outline】

In this course, we will analyze Japanese politics by applying the concepts in political science.

【Learning Objectives】

At the end of the course, students are expected to analyze Japanese politics using political science concepts, acquire basic knowledge of Japanese politics, and deepen understanding of political science concepts.

【Learning activities outside of classroom】

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

【Grading Criteria /Policy】

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination: 70%、Short reports : 30%

POL100LA

政治学 I

2017 年度以降入学者

岡崎 加奈子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 2/Thu.2

単位数：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

政治学の基本的概念と政治制度に関する講義を行う。

【到達目標】

政治学の基本概念と政治制度に関する基本的知識を習得することと、政治について考え・判断できる能力の獲得を目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

本講義は、テキストとレジメに基づき講義形式によりおこなう。毎回の授業では、学生は意見や質問を提出し、次回授業時にそれに対する回答や解説をおこない全体で共有する。また、複数回のレポート課題を予定している。講義期間中に新型コロナウイルス等の影響により、授業形態に変更が生じた場合は、学習支援システムで周知する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	講義の概要について説明する
第 2 回	政治学の対象としての政治	政治学の対象・概念・分析方法の多様性についての講義
第 3 回	政治的思考法	政治的リアリズムの特徴についての講義
第 4 回	権力	権力に関するさまざまな見方についての講義
第 5 回	権力と統治	ミシェル・フーコーの政治論についての講義
第 6 回	国家	近代国家から現代国家への変容についての講義
第 7 回	近代立憲主義	国家の権力を縛る意味についての講義
第 8 回	政治体制	民主主義体制と非民主主義体制についての講義
第 9 回	選挙	政治的リーダーの選出とさまざまな選挙制度についての講義
第 10 回	議会	立法過程についての講義
第 11 回	官僚機構と中央政府	政策実施についての講義
第 12 回	裁判所	司法と政治の関係についての講義
第 13 回	政治と経済	経済と政治の相互作用についての講義
第 14 回	総括	授業内容を振り返り、到達点と今後の課題の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

川出良枝、谷口将紀編著『政治学 第 2 版』（東京大学出版会、2022 年）

【参考書】

授業の中で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

期末試験（60%）と平常点（40%）により総合的に評価する。平常点は、授業への取り組みやレポートを含む課題の提出により構成される。

【学生の意見等からの気づき】

時事的な事象と講義の内容とを関連付けて考える機会をより充実させていきたい。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムおよびオンライン授業に対応できる情報端末を準備すること。

【Outline (in English)】

【Course outline】

In this course, we will learn the basic concepts in political science and the political institutions.

【Learning Objectives】

At the end of the course, students are expected to learn basic concepts of political science and basic knowledge of political systems, and to acquire the ability to think and judge politics.

【Learning activities outside of classroom】

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

【Grading Criteria /Policy】

Final grade will be calculated according to the following process term-end examination: 60 %, in class contribution: 40%.

POL100LA

政治学Ⅱ

2017年度以降入学者

岡崎 加奈子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 2/Thu.2

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

政治学の概念を用いた日本政治の分析を、他の先進国との比較しながら講義形式で行う。

【到達目標】

政治学の概念を用いて日本の政治の分析を行い、日本の政治に関する基本知識を習得し、政治学の概念に関する理解を深めることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

本講義は、テキストとレジュメに基づき講義形式によりおこなう。毎回の授業では、学生は意見や質問を提出し、次回授業時にそれに対する回答や解説をおこない共有する。また複数回のレポート課題を予定している。

講義期間中に新型コロナウイルス等の影響により、授業形態を変更する場合は学習支援システムにより周知する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	講義の概要について説明する
第2回	敗戦と占領	敗戦による体制移行論についての講義
第3回	戦後憲法の制定	ドイツ・イタリアと比較した憲法制定の政治についての講義
第4回	冷戦	国際的環境としての冷戦の特徴についての講義
第5回	安保闘争	街頭の政治の意義についての講義
第6回	自民党政治	日本における「生産性に政治」と「抑制による政治」についての講義
第7回	アジアの冷戦と沖縄	沖縄を巡る政治についての講義
第8回	多党化	高度成長による社会の変化と多党化についての講義
第9回	新冷戦と日米同盟	「安保」から「日米同盟」への移行についての講義
第10回	冷戦の終結	冷戦終結後の国際政治の世界についての講義
第11回	政治改革と新自由主義	政治改革と新自由主義による脱民主化についての講義
第12回	福祉政治	社会保障を巡る政治についての講義
第13回	東アジアの国際政治と国内政治	国際環境の変化・領土問題と国内政治の相互作用についての講義
第14回	総括	授業内容を振り返り、到達点と今後の課題の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

川出良枝・谷口将紀編著『政治学 第2版』（東京大学出版会 2022年）

【参考書】

授業の中で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

期末試験（60%）と平常点（40%）により総合的に評価する。平常点は、授業への取り組みやレポートを含む課題の提出により構成される。

【学生の意見等からの気づき】

現代社会における課題と講義の内容を関連付け考察する機会を設けていきたい。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムおよびオンライン授業に対応できる情報端末を準備すること。

【Outline (in English)】

【Course outline】

In this course, we will analyze Japanese politics by applying the concepts in political science.

【Learning Objectives】

At the end of the course, students are expected to analyze Japanese politics using political science concepts, acquire basic knowledge of Japanese politics, and deepen understanding of political science concepts.

【Learning activities outside of classroom】

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

【Grading Criteria /Policy】

Final grade will be calculated according to the following process term-end examination: 60 %, in class contribution: 40%.

POL100LA

政治学 I

2017 年度以降入学者

高橋 和則

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 4/Mon.4

単位数：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

政治学の基本的概念と政治制度に関する講義を行う。

【到達目標】

政治学の基本概念と政治制度に関する基本的知識を習得すること、政治について考え・判断できる能力の獲得を目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

- ・テキストとレジュメに基づいた講義形式
- ・課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定
- ・大学の行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	講義の概要について説明する
2	政治学の対象としての政治	政治学の対象・概念・分析方法の多様性についての講義
3	政治的思考法	政治的リアリズムの特徴についての講義
4	権力	権力に関するさまざまな見方についての講義
5	権力と統治	ミシェル・フーコーの政治論についての講義
6	国家	近代国家から現代国家への変容についての講義
7	近代立憲主義	国家の権力を縛る意味についての講義
8	政治体制	民主主義体制と非民主主義体制についての講義
9	選挙	政治的リーダーの選出とさまざまな選挙制度についての講義
10	議会	立法過程についての講義
11	官僚機構と中央政府	政策実施についての講義
12	裁判所	司法と政治の関係についての講義
13	政治と経済	経済と政治の相互作用についての講義
14	総括	授業内容を振り返り、到達点と今後の課題の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。
 準備学習：資料やレジュメの配布は「授業支援システム」によって行う。「テキスト」欄参照。講義前に、新しいものがアップロードされていないか確認する。
 復習・講義の際に出てきた概念などを「参考書」欄に挙げた事典類で調べ、知識を確実にする。図書館を活用せよ

【テキスト（教科書）】

①川出良枝・谷口将紀編『政治学 第二版』東京大学出版会

②「授業支援システム」で適宜配布する資料やレジュメ

【参考書】

- ・『政治学事典』弘文堂
- ・『哲学思想事典』岩波書店
- ・『社会思想事典』岩波書店

【成績評価の方法と基準】

期末に行う選択肢型筆記試験による（100%）

【学生の意見等からの気づき】

資料などの配布は授業支援システムではなく教室で行ってほしいという要望があったが、前者での配布を取る理由については第一回の講義中に説明した通りであり、その点は了解してほしい。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムを利用できるようになっておくこと。

【その他の重要事項】

- ①事前に必要な知識はない。復習に力を注ぐこと。
- ②政治学Ⅱの併習を推奨する（政治学Ⅱを履修しなくとも理解できるよう、独立した内容ではある）。

【Outline (in English)】

【Course outline】

In this course, we will learn the basic concepts in political science and the political institutions.

【Learning Objectives】

At the end of the course, students are expected to learn basic concepts of political science and basic knowledge of political systems, and to acquire the ability to think and judge politics.

【Learning activities outside of classroom】

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

【Grading Criteria /Policy】

Final grade will be calculated according to term-end examination.

POL100LA

政治学Ⅱ

2017年度以降入学者

高橋 和則

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 4/Mon.4

単位数：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

政治学の概念を用いた日本政治の分析を、他の先進国との比較をしながら講義形式で行う。

【到達目標】

政治学の概念を用いて日本の政治の分析を行い、日本の政治に関する基本知識を習得し、政治学の概念に関する理解を深めることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

・テキストとレジュメに基づいた講義形式
・課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定
・大学の行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行う。詳細は学習支援システムで伝達する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	講義の概要について説明する
2	敗戦と占領	敗戦による体制移行論についての講義
3	戦後憲法の制定	ドイツ・イタリアと比較した憲法制定の政治についての講義
4	冷戦	国際的環境としての冷戦の特徴についての講義
5	安保闘争	街頭の政治の意義についての講義
6	自民党政治	日本における「生産性に政治」と「抑制による政治」についての講義
7	アジアの冷戦と沖縄	沖縄を巡る政治についての講義
8	多党化	高度成長による社会の変化と多党化についての講義
9	新冷戦と日米同盟	「安保」から「日米同盟」への移行についての講義
10	冷戦の終結	冷戦終結後の国際政治の世界についての講義
11	政治改革と新自由主義	政治改革と新自由主義による脱民主化についての講義
12	福祉政治	社会保障を巡る政治についての講義
13	東アジアの国際政治と国内政治	国際環境の変化・領土問題と国内政治の相互作用についての講義
14	総括	授業内容を振り返り、到達点と今後の課題の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。
準備学習・講義で使用される資料やレジュメは「授業支援システム」によって配布する。「テキスト」欄参照。講義前に新しいアップロードがないか確認すること。

復習・講義で出てきた概念などを事典で調べ、知識を確かなものにする。「参考書」欄を参照。図書館を活用せよ。

【テキスト（教科書）】

- ①川出良枝・谷口将紀編『政治学 第二版』東京大学出版会
- ②「授業支援システム」で適宜配布する資料とレジュメ

【参考書】

- ①『政治学事典』弘文堂
- ②『社会思想事典』岩波書店

【成績評価の方法と基準】

期末に行う選択肢型筆記試験（100 %）

【学生の意見等からの気づき】

資料などの配布は授業支援システムではなく教室で行ってほしいという要望があったが、前者での配布を取る理由については第一回の講義中に説明した通りであり、その点は了解してほしい。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムを利用できるようになっておくこと

【その他の重要事項】

- ①事前に必要とする知識はない。復習に力を注ぐこと。
- ②政治学Ⅰの併習を推奨する（政治学Ⅰを履修していなくても理解できるよう、独立した内容ではある）。

【Outline (in English)】

【Course outline】

In this course, we will analyze Japanese politics by applying the concepts in political science.

【Learning Objectives】

At the end of the course, students are expected to analyze Japanese politics using political science concepts, acquire basic knowledge of Japanese politics, and deepen understanding of political science concepts.

【Learning activities outside of classroom】

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

【Grading Criteria /Policy】

Final grade will be calculated according to term-end examination.

CUA100LA

文化人類学

2017年度以降入学者

ベル 裕紀

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 5/Wed.5

単位数：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

学生は、マリノフスキー以降の文化人類学の諸概念および理論を毎回トピック別に学習し、文化人類学の基礎的かつ体系的な理解を目指す。それを通じて、文化人類学的な社会の見方を身に付け、「異文化」「他者」の理解とは何なのか、考える。

【到達目標】

学生は、文化人類学の基本的な考え方や概念を理解し、様々な事象について、人類学的な考え方や概念を用いて説明することができるようになることがこの授業の目標である。それを通じて、「異文化」や「他者」に対する際の姿勢を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義を基本とするが、受講者の積極的な参加を期待する。授業後に毎回リアクションペーパーの提出を課し、次の回の冒頭で可能な限り紹介し、授業内容に反映させる。

また授業に臨むにあたり、比較的短い文章を読んでくるなどの予習課題を課す。受講者には積極的な発言を期待する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第一回	文化人類学の考え方	文化人類学が成立した時代的背景および学問的な特徴を概説する。
第二回	機能構造主義と文化相対主義	機能構造主義と文化相対主義が主張された理論的・時代的背景を踏まえた上で理解し、それに対する1960年代以降の批判を理解する。
第三回	親族研究	贈与・交換に並んで、人類学にとって重要な親族論の展開を歴史的に把握する。
第四回	贈与と交換	文化人類学の理論の中核を成す、贈与と交換に関する研究の展開を学習する。
第五回	構造と主体	リーチとレヴィ＝ストロースの婚姻と社会構造に関する議論を例に、構造主義人類学について学習する。
第六回	言語と記号	ソシュールの構造主義言語学、記号論について学習する。
第七回	記号の戯れ	レヴィ＝ストロースの『野生の思考』及び、二項対立について学習する。
第八回	宗教・呪術・儀礼	儀礼論・宗教人類学の議論を、とりわけ呪術研究や通過儀礼を中心に理解する。
第九回	政治人類学	政治体系や権力関係に着目してきた政治人類学の諸理論を特に動態的アプローチの出現以降の議論に焦点を当てて紹介する。

第十回 人種と民族 人類学のみならず、社会科学全般にとって重要な概念である、「人種」と「民族」という概念の歴史的な変遷について学習する。

第十一 国民国家とナショナリズム A. ゲルナーや B. アンダーソンなど、国民国家をめぐる代表的な議論を学習する。

第十二 ジェンダー論 ジェンダーという考え方、人類学におけるフェミニズムからの批判的な諸研究を概観し、構築主義的な考え方を理解する。

第十三 ポストコロニアル人類学 80年代以降、人類学は、コロニアル状況ないし、ポストコロニアル状況の中で発展してきたという歴史的な経緯により自覚的になった。この授業では、そうした視点からの過去の研究への批判や新しい文化観へとつながる研究を紹介していく。

第十四 「異文化」「他者」の理解 人類学の目的である「異文化」「他者」の理解という問題を、これまでの講義の要点を踏まえて改めて確認する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

課題を通じた復習と、翌週の授業の準備に概ね2時間程度の時間をかけるものとする。また、それに加えて授業内で紹介する参考文献を、各自の関心に応じて読みこみ、理解と思考を深めることが望ましい。

【テキスト（教科書）】

なし。毎回の授業で、事前に学習支援システムを通じて講義レジュメを配布する。

【参考書】

授業時間内に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

期末レポート 50%、毎回のリアクションペーパー 42%、授業への参加度 8%で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

毎回の授業の内容に関する課題を出す。毎回の授業の冒頭に前回の学生回答の紹介および応答を行うことで、学生の理解を深めていく。

【学生が準備すべき機器他】

提出物は学習支援システムを通じて提出してもらつつもりである。また、学習支援システムを通じ、授業のレジュメや参考となる文書を事前に学生に配布する（レジュメに関しては授業当日にプリントしたものを配布する）。

【Outline (in English)】

【Outline and Goal】

This course introduces students to some of major social theories and anthropological discussion. Over this course, we will investigate the term of "other cultures" critically, and discuss how cultural differences or boundaries are built, recognized and reproduced. Students should understand anthropological theories and terms and learn to discuss evens at hand as well as social issues from an anthropological perspective.

【Requirements】

Students are expected to study about 2 hours for a week for preparation and review of classes. Each students will submit written comments on contents of each lectures(45%) and be expected to oral comments on class(5%), as well. The final writing assignment is also required for confirm students achieve the goal of this course(50%).

CUA100LA

文化人類学

2017年度以降入学者

渡辺 浩平

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 5/Wed.5

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

世界には多様な生き方がある。この授業では、文化人類学の研究史を概観してから、各回のテーマに沿った講義を行う。世界各地の様々な事例に触れ、人類学の基本的な考えと概念を学び、自身が当たり前だと感じている社会や文化についての概念や思考を相対化する。

【到達目標】

文化人類学の基本的な視座を習得する。
世界各地の事例を知り、生き方の多様性を理解しようとすることで、別の生き方の可能性を想像する力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式。学習支援システムを利用して資料を配布する。
毎回の授業でリアクションペーパーの提出を課す。毎回の授業のはじめに、リアクションペーパーのコメントや質問等に応答する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の進め方と評価方法について説明
第2回	文化人類学とは	文化人類学の基礎と方法論
第3回	文化人類学史	人類学的な思考の歴史について
第4回	日常と儀礼	日常における儀礼的行動
第5回	身体と文化	身体的実践の文化的多様性
第6回	環境と生業	人と自然の関係について
第7回	家族と親族	家族・親族・結婚の多様性について
第8回	セクシュアリティとジェンダー	多様な性について
第9回	経済と政治	贈与、権力、コミュニケーション
第10回	国家とエスニシティ	集団意識について
第11回	医療	病いと癒やし
第12回	芸術	歌う、描く、作る
第13回	境界論	冗談、ユーモア、笑い
第14回	総括	授業のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で取り上げられる事例の詳細を調べることで理解を深める。
人類学の概念を用いて身の回りの出来事を解釈する。
本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に定めなし。資料を配布する。

【参考書】

毎回の授業で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業内課題（40%）と期末レポート（60%）をもとに評価する。60点以上を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

授業時間外の学習の情報源となるような参考書・文献・資料情報を充実させる。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布・課題提出等のために学習支援システムを利用する。

【その他の重要事項】

各回で取り上げる具体的なテーマは、受講生の関心に応じて変更される可能性がある。

【Outline (in English)】

There are many ways of life in the world. This course introduces case studies from around the world and anthropology's basic ideas and concepts. This course aims to help students relativize the concepts and thoughts about society and culture. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours reading reference materials. At the end of the course, students are expected to acquire a fundamental perspective of cultural anthropology. Grading will be decided based on the term-end report (60%) and in-class contribution (short reports) (40%).

CUA100LA

文化人類学

2017年度以降入学者

北原 卓也

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 4/Mon.4

単位数：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

文化人類学の基本概念、研究方法を学び、身の回りの「あたりまえ」や「異文化」に注目し考察するための多角的な視点を身につける。授業では、まず「文化」とは何かについて確認し、続いて文化人類学の基本的な考え方や研究方法について学ぶ。それを踏まえて、文化人類学がこれまで扱ってきたトピックについてみていく。

【到達目標】

本講義の到達目標は下記の通り。

- (1) 文化人類学の基本概念や研究方法を理解する。
- (2) 他者の文化との比較から自身の「あたりまえ」を認識し言語化する。
- (3) 自身の「あたりまえ」にとらわれない新たな視点を獲得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は、以下の授業計画に基づき対面で行います。配布するレジュメに沿って講義を行い、扱うトピックによって発言を求めることがあります。また、映像を視聴することで理解を深める場合もあります。毎回授業後にはコメントシートの提出していただきます。提出されたコメントシートは次回授業の冒頭でいくつか紹介します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション：講義の目的と概要	授業の進め方や目的について確認した後、担当教員の研究フィールドの紹介や文化人類学という学問分野について説明する
2	文化の定義	漠然とした概念である「文化」とは何かについて理解する
3	文化相対主義	文化人類学の基本的な考え方である文化相対主義を通じて、文化を学ぶ姿勢について理解する
4	フィールドワークと民族誌	文化人類学の研究手法について理解する
5	民族とエスニシティ	国民、民族といった人々の集団について理解する
6	コミュニケーションと言語	文化と言語の関係性について理解する
7	中間のまとめ	これまでの講義の理解度を確認するため課題に取り組む
8	家族・親族	文化人類学の古典的なテーマである家族・親族の研究について理解する
9	結婚	様々な文化における結婚の形態や規則を理解する
10	ジェンダーとセクシュアリティ（1）	社会や文化の中で形成される性差について理解する

11	ジェンダーとセクシュアリティ（2）	異性愛と同性愛という分け方だけでは捉えられない多様なセクシュアリティについて理解する
12	生業	人間が生きていくために必要な食料採取や生産活動について理解する
13	宗教	世界の宗教の事例を概観し、人類との関わりについて理解する
14	まとめと確認（試験）	今期のまとめとして教場試験を行います

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の準備として、指定する文献や配布するプリントまたは映像作品に目を通しておくこと。授業後は配布するレジュメを復習し、内容をきちんと理解しておくこと。1回の授業につき、準備・復習は各3時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しません。必要に応じてレジュメや資料を配布します。

【参考書】

『よくわかる文化人類学』、綾部恒雄・桑山敬己（編）、ミネルヴァ書房、2010年。
『詳論 文化人類学』、桑山敬己・綾部真雄（編）、ミネルヴァ書房、2018年。
『文化人類学キーワード [改訂版]』、山下晋司・船曳建夫（編）、有斐閣、2008年。

【成績評価の方法と基準】

中間のまとめ：30%、期末試験（またはレポート）：40%、平常点（コメントシート）：30%
2/3以上の出席で評価対象となります。

【学生の意見等からの気づき】

他の履修生のコメントシートが気になるという声があったので、復習を兼ねて毎回授業の冒頭に前回のコメントシートの内容を振り返る時間を設ける。

【Outline (in English)】

This course introduces the concept of Cultural Anthropology and its research method as tools to understand different cultures. The goal of this course are:

- (1) to understand the concept of Cultural Anthropology and research method
- (2) to compare cultures and explain differences between your culture and other culture.
- (3) to gain the new point of view

Before/after each class meeting, students will be expected to spend three hours to understand the course content.

Final grade will be calculated according to the following process: Mid-term exam (30%), term-end examination or report (40%), and in-class contribution through comment sheets you should submit after each class (30%).

CUA100LA

文化人類学

2017年度以降入学者

長沢 利明

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 5/Mon.5

単位数：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

異文化理解の学問である文化人類学の基本的な考え方や概念を、言語や文化、社会構造、環境問題といったさまざまなトピックを通して学ぶ。

【到達目標】

文化の多様性と普遍性について知る。異文化と自文化を理解する力を身に付ける。全体を通して、文化人類学的な物の見方を学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

授業では、毎回異なった話題とテーマを取り上げ、文化人類学の方法論や概念を解説する。文化の概念、言語の多様性と構造的な特色、社会構造、日本の民俗、通過儀礼、宗教問題などを取り上げ、文化人類学の学問的意義、基本的発想、概念等について体系的かつ平易に解説する。なお、毎回の授業ではプリントを配り、それに沿って講義を行う。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	文化人類学とはなにか	文化人類学の概要を解説し、それを学ぶことの意義を説明する。
2	人間と文化	文化人類学の基本となる人間と文化について解説する。
3	言語と方言	言語人類学の基礎理論および日本の方言について解説する。
4	民族植物学	言語人類学の応用分野として、民族植物学について解説する。
5	世界の言語	世界の言語と文化との関係について解説する。
6	日本の民俗社会	日本の民俗社会の特色について考解説する。
7	社会と親族	社会構造についての基礎理論を解説し、世界の親族システムについて概観する。
8	世界の通過儀礼	世界の伝統社会における通過儀の実態について解説する。
9	日本の通過儀礼	日本の通過儀礼の特色について解説する。
10	農耕と文化	農耕と生産経済、文化との関係について解説する。
11	環境と文化	自然環境と人類の文化との関係、環境人類学の基礎について解説する。
12	環境問題の将来	これからの環境問題について、文化人類学的な観点からの開設をおこなう。
13	調査とレポート	文化人類学の調査方法と論文のまとめ方について解説する。

14 まとめ・試験 全体的なまとめをおこない、試験を実施する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

新聞やテレビ、インターネット等を通して、授業テーマに関する情報に接するよう心がけること。また、授業では、しばしば過去の授業の内容に触れるので、復習をして授業内容に対する理解を深めておくこと。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

講義中に適宜、紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業時間内に実施する試験の結果（100 %）によって成績評価をおこなう。

【学生の意見等からの気づき】

学生の理解度に応じて適宜、授業の進度を変える。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

特になし

【Outline (in English)】

Course outline: This course introduces basic theories of cultural anthropology.

Learning objectives: The goal of this course are to understand of basic theories on cultural anthropology.

Learning activities outside of classroom: The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Grading criteria/policies: Your overall grade in the class will be decided based on the following. Term-end examination: 100%.

CUA100LA

文化人類学

2017 年度以降入学者

ベル 裕紀

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 4/Wed.4

単位数：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

学生は、マリノフスキー以降の文化人類学の諸概念および理論を毎回トピック別に学習し、文化人類学の基礎的かつ体系的な理解を目指す。それを通じて、文化人類学的な社会の見方を身に付け、「異文化」「他者」の理解とは何なのか、考える。

【到達目標】

学生は、文化人類学の基本的な考え方や概念を理解し、様々な事象について、人類学的な考え方や概念を用いて説明することができるようになることがこの授業の目標である。それを通じて、「異文化」や「他者」に対する際の姿勢を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義を基本とするが、受講者の積極的な参加を期待する。授業後に毎回リアクションペーパーの提出を課し、次の回の冒頭で可能な限り紹介し、授業内容に反映させる。

また授業に臨むにあたり、比較的短い文章を読んでくるなどの予習課題を課す。受講者には積極的な発言を期待する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第一回	文化人類学の考え方	文化人類学が成立した時代的背景および学問的な特徴を概説する。
第二回	機能構造主義と文化相対主義	機能構造主義と文化相対主義が主張された理論的・時代的背景を踏まえた上で理解し、それに対する1960年代以降の批判を理解する。
第三回	親族研究	贈与・交換に並んで、人類学にとって重要な親族論の展開を歴史的に把握する。
第四回	贈与と交換	文化人類学の理論の中核を成す、贈与と交換に関する研究の展開を学習する。
第五回	構造と主体	リーチとレヴィ＝ストロースの婚姻と社会構造に関する議論を例に、構造主義人類学について学習する。
第六回	言語と記号	ソシュールの構造主義言語学、記号論について学習する。
第七回	記号の戯れ	レヴィ＝ストロースの『野生の思考』及び、二項対立について学習する。
第八回	宗教・呪術・儀礼	儀礼論・宗教人類学の議論を、とりわけ呪術研究や通過儀礼を中心に理解する。
第九回	政治人類学	政治体系や権力関係に着目してきた政治人類学の諸理論を特に動態的アプローチの出現以降の議論に焦点を当てて紹介する。

第十回 人種と民族 人類学のみならず、社会科学全般にとって重要な概念である、「人種」と「民族」という概念の歴史的な変遷について学習する。

第十一 国民国家とナショナリズム A. ゲルナーや B. アンダーソンなど、国民国家をめぐる代表的な議論を学習する。

第十二 ジェンダー論 ジェンダーという考え方、人類学におけるフェミニズムからの批判的な諸研究を概観し、構築主義的な考え方を理解する。

第十三 ポストコロニアル人類学 80年代以降、人類学は、コロニアル状況ないし、ポストコロニアル状況の中で発展してきたという歴史的な経緯により自覚的になった。この授業では、そうした視点からの過去の研究への批判や新しい文化観へとつながる研究を紹介していく。

第十四 「異文化」「他者」の理解 人類学の目的である「異文化」「他者」の理解という問題を、これまでの講義の要点を踏まえて改めて確認する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

課題を通じた復習と、翌週の授業の準備に概ね2時間程度の時間をかけるものとする。また、それに加えて授業内で紹介する参考文献を、各自の関心に応じて読みこみ、理解と思考を深めることが望ましい。

【テキスト（教科書）】

なし。毎回の授業で、事前に学習支援システムを通じて講義レジュメを配布する。

【参考書】

授業時間内に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

期末レポート 50%、毎回のリアクションペーパー 42%、授業への参加度 8%で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

毎回の授業の内容に関する課題を出す。毎回の授業の冒頭に前回の学生回答の紹介および応答を行うことで、学生の理解を深めていく。

【学生が準備すべき機器他】

提出物は学習支援システムを通じて提出してもらうつもりである。また、学習支援システムを通じ、授業のレジュメや参考となる文書を事前に学生に配布する（レジュメに関しては授業当日にプリントしたものを配布する）。

【Outline (in English)】

【Outline and Goal】

This course introduces students to some of major social theories and anthropological discussion. Over this course, we will investigate the term of "other cultures" critically, and discuss how cultural differences or boundaries are built, recognized and reproduced. Students should understand anthropological theories and terms and learn to discuss evens at hand as well as social issues from an anthropological perspective.

【Requirements】

Students are expected to study about 2 hours for a week for preparation and review of classes. Each students will submit written comments on contents of each lectures(45%) and be expected to oral comments on class(5%), as well. The final writing assignment is also required for confirm students achieve the goal of this course(50%).

CUA100LA

文化人類学

2017 年度以降入学者

橋爪 太作

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 3/Tue.3

単位数：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

文化人類学は、さまざまな他者との出会いを通じて私たちの「当たり前」を揺さぶり、新たな視点や価値を発明する学問です。その性質から、わずか 1 世紀ほどの歴史しかない文化人類学は、現在までに何度も激しい変貌を経てきました。本講義ではこうした人類学の歴史とそこから生まれてきた概念を学ぶとともに、これまで世界各地のフィールドから人類学者が積み上げてきた知見を通じて、社会の流動化や気候変動といった私たち自身が直面する課題への向き合い方を考えます。

【到達目標】

1. 文化人類学の基礎的な概念を理解する
2. 文化人類学的思考が生まれた歴史を理解する
3. 世界各地の事例を通じて、私たち自身の思考を相対化する
4. 現代の私たちが直面する課題に対し、これまでの人類学の蓄積から向き合う

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義は写真・映像などのヴィジュアルな資料を随時活用します。さらに途中いくつかの講義では、これらの資料に対しこちらからいくつかの「問い」を投げかけ、グループディスカッションを行います。ディスカッションへの参加とその後のリアクションペーパー提出は平常点の一部として評価に含まれます。また授業中にリアクションペーパーへのフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業の進め方と課題について理解します
第 2 回	人類学者の現場を見に行く	文化人類学がどのようなものなのか、講師自身のフィールドワークから体験します。
第 3 回	大理石とギンバイカ	16 世紀南米における宣教師と食人種の出会いか、 「いかにして他者と向き合うか」という人類学の根本問題を考えます。
第 4 回	人類学の始まり	文化人類学の始まりである 19 世紀の進化論人類学について学びます。
第 5 回	マリノフスキーの革命	1910 年代にフィールドワークに基づく近代人類学を始めたマリノフスキーについて学びます。
第 6 回	「文化」という考え方	近代人類学のもう 1 人の中心人物であるマーガレット・ミードから、文化という概念の始まりを辿ります。
第 7 回	機能から構造へ	近代人類学の前提を深く掘り下げ、今もお多大な影響力を持つレヴィ=ストロースの構造主義について学びます。

第 8 回 象徴の時代

構造主義に大きな影響を受け「象徴」をキーワードとした第二次世界大戦後の人類学の流れを学びます。

第 9 回 民族誌批判が残したものの

1980 年代に提起され、マリノフスキー以来の人類学のあり方に反省をもたらした民族誌批判について学びます。

第 10 回 ポストモダンの人類学

グローバル化する 20 世紀後半の世界における、新たな人類学のあり方の模索について学びます。

第 11 回 科学技術の人類学

現代の人類学において重要な主題の一つとなっている、科学技術への人類学的アプローチについて学びます。

第 12 回 自然の人類学

社会・文化とその基盤としての「自然」をめぐる、現代人類学の最先端でどのような思考が生み出されつつあるのかを学びます。

第 13 回 人新世の人類学

人間の活動が地球システムを大きく変容させつつある人新世における、「人間」の新たなあり方について学びます。

第 14 回 おわりに

これまでの授業を振り返りつつ、現代世界における人類学の可能性をみなさんと一緒に考えます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。授業で使用する資料はあくまで概略的なものです。授業中に説明されたことを自身の頭で理解するためにも、毎回ノートを取りましょう。また回によっては事前資料を配付しますので、次回までに必ず読んでおくようにしてください。

【テキスト（教科書）】

授業内で適宜紹介します。

【参考書】

授業内で適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（50%）
期末レポート（50%）

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

本授業では、資料配布、お知らせ配信、定期試験、リアクションペーパー提出は全て Hoppii と Google クラスルームを通して行うため、各学生はネット環境およびパソコン等の端末の準備をお願いします。

【Outline (in English)】

Cultural anthropology is a discipline that shakes up our "norm" and invents new perspectives and values through encounters with various others. Because of its nature, cultural anthropology, which has a history of only about one century, has undergone many drastic transformations up to the present. In this lecture, we will learn about the history of anthropology and the concepts that have emerged from it, as well as consider how we should face the challenges we face, such as social mobility and climate change, through the knowledge that anthropologists have accumulated in the field around the world.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Grading will be decided based on the term-end report (50%) and in class participation (50%).

CUA100LA

文化人類学

2017年度以降入学者

橋爪 太作

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 4/Tue.4

単位数：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

文化人類学は、さまざまな他者との出会いを通じて私たちの「当たり前」を揺さぶり、新たな視点や価値を発明する学問です。その性質から、わずか1世紀ほどの歴史しかない文化人類学は、現在までに何度も激しい変貌を経験してきました。本講義ではこうした人類学の歴史とそこから生まれてきた概念を学ぶとともに、これまで世界各地のフィールドから人類学者が積み上げてきた知見を通じて、社会の流動化や気候変動といった私たち自身が直面する課題への向き合い方を考えます。

【到達目標】

1. 文化人類学の基礎的な概念を理解する
2. 文化人類学的思考が生まれた歴史を理解する
3. 世界各地の事例を通じて、私たち自身の思考を相対化する
4. 現代の私たちが直面する課題に対し、これまでの人類学の蓄積から向き合う

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義は写真・映像などのヴィジュアルな資料を随時活用します。さらに途中いくつかの講義では、これらの資料に対しこちらからいくつかの「問い」を投げかけ、グループディスカッションを行います。ディスカッションへの参加とその後のリアクションペーパー提出は平常点の一部として評価に含まれます。また授業中にリアクションペーパーへのフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業の進め方と課題について理解します
第2回	人類学者の現場を見に行く	文化人類学がどのようなものなのか、講師自身のフィールドワークから体験します。
第3回	大理石とギンバイカ	16世紀南米における宣教師と食人種の出会から、「いかにして他者と向き合うか」という人類学の根本問題を考えます。
第4回	人類学の始まり	文化人類学の始まりである19世紀の進化論人類学について学びます。
第5回	マリノフスキーの革命	1910年代にフィールドワークに基づく近代人類学を始めたマリノフスキーについて学びます。
第6回	「文化」という考え方	近代人類学のもう1人の中心人物であるマーガレット・ミードから、文化という概念の始まりを辿ります。
第7回	機能から構造へ	近代人類学の前提を深く掘り下げ、今なお多大な影響力を持つレヴィ=ストロースの構造主義について学びます。

第8回	象徴の時代	構造主義に大きな影響を受け「象徴」をキーワードとした第二次世界大戦後の人類学の流れを学びます。
第9回	民族誌批判が残したものの	1980年代に提起され、マリノフスキー以来の人類学のあり方に反省をもたらした民族誌批判について学びます。
第10回	ポストモダンの人類学	グローバル化する20世紀後半の世界における、新たな人類学のあり方の模索について学びます。
第11回	科学技術の人類学	現代の人類学において重要な主題の一つとなっている、科学技術への人類学的アプローチについて学びます。
第12回	自然の人類学	社会・文化とその基盤としての「自然」をめぐる、現代人類学の最先端でどのような思考が生み出されつつあるのかを学びます。
第13回	人新世の人類学	人間の活動が地球システムを大きく変容させつつある人新世における、「人間」の新たなあり方について学びます。
第14回	おわりに	これまでの授業を振り返りつつ、現代世界における人類学の可能性をみなさんと一緒に考えます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。授業で使用する資料はあくまで概略的なものです。授業中に説明されたことを自身の頭で理解するためにも、毎回ノートを取りましょう。また回によっては事前資料を配付しますので、次回までに必ず読んでおくようにしてください。

【テキスト（教科書）】

授業内で適宜紹介します。

【参考書】

授業内で適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（50%）

期末レポート（50%）

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

本授業では、資料配布、お知らせ配信、定期試験、リアクションペーパー提出は全て Hoppii と Google クラウドルームを通して行うため、各学生はネット環境およびパソコン等の端末の準備をお願いします。

【Outline (in English)】

Cultural anthropology is a discipline that shakes up our "norm" and invents new perspectives and values through encounters with various others. Because of its nature, cultural anthropology, which has a history of only about one century, has undergone many drastic transformations up to the present. In this lecture, we will learn about the history of anthropology and the concepts that have emerged from it, as well as consider how we should face the challenges we face, such as social mobility and climate change, through the knowledge that anthropologists have accumulated in the field around the world.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Grading will be decided based on the term-end report (50%) and in class participation (50%).

CUA100LA

文化人類学

2017年度以降入学者

廣田 龍平

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 5/Tue.5

単位数：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

文化人類学とは、世界中のさまざまな環境に生きる人々が、どのように社会生活をいとなみ、自分たちや自分たち以外の人々やもの（生き物や死者、神霊など）と交流しているのかを、多様な側面から明らかにすることを目的とする学問です。私たちは世界のどこでも同じように生きているわけではありません。グローバル化が進む現在、自分たちと「他人」とのあいだにある「差異」や「違和感」とどう向き合いながら共生していくのかが急速に模索されています。そのひとつの糸口となりうるのが、他者・他文化について学ぶことを通じて自己・自文化さえをも問い直そうとする文化人類学的な思考です。

【到達目標】

テーマごとに文化人類学の基礎的な考え方を知り、併せてフィールドワークにもとづく良質な民族誌に触れることで、異文化を深く理解するための方法を学ぶ。また、身の回りで生じる出来事やメディアを通じて知る世界各地の出来事について、その背景へと一歩踏み込んで理解するための粘り強い思考を身に付けることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

毎回の授業は、パワーポイントのスライド資料にもとづく講義形式で実施する。各回授業ごとにテーマを設定し、必要に応じて映像資料なども交えながら関連する方法論と事例を解説していく。

毎回、授業終了後に短いコメントを Hoppii に提出してもらおう。コメントは、次回授業の冒頭でいくつかを取り上げてフィードバックをおこなう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	文化人類学の基本的な考え方である「文化相対主義」と、文化人類学の基本的な方法であるフィールドワークについて概要を説明する。
2	言語と民俗分類	言葉によって世界を認識する方法が大きく異なってくることを、主に民俗分類の観点から理解する。
3	親族集団	文化人類学の基本である、集団の作り方についての理論や概念を、親族関係を中心に学ぶ。
4	狩猟採集	生業や環境との関係の複雑さを、狩猟採集民の事例を通して学ぶ。
5	経済	金銭による取引以外にもさまざまな経済的行為があることを、贈与交換を中心として理解する。
6	宗教と儀礼	宗教が、単に何かを信じるのではなく、世界観を形づくり、日常に区切りを入れるものでもあることを、儀礼的行為を通して理解する。

7	呪術と占い	人間が世界を操作したり予測したりするために作りだしてきた方法としての呪術や占いの多様性を説明する。
8	構造主義の基礎	文化人類学の理論としてもっとも影響があったレヴィ＝ストロースの構造主義について基礎を説明する。
9	神話	人間は物語を語る動物であると言われる。世界の成り立ちや現状を説明する神話が存在することの意義を探る。
10	政治と戦争	どのような社会にも政治は存在し、争いごともある。国家の成立も視野に入れ、社会がどのように維持され破壊されるのかを理解する。
11	芸術とテクノロジー	いわゆる「未開芸術」に対する見方の変遷を、問題は「美しさ」ではないとするアルフレッド・ジェルの議論を中心にしていって見よう。
12	医療と身体	動物としての人間と、文化をもつ人間という2つの側面をまたがる領域を学ぶ。
13	LGBTQ	セクシュアリティやジェンダーの多様性や社会的な位置づけの問題について学ぶ。
14	科学技術	現代の文化人類学がどのように科学技術を理解するのかを、アクターネットワーク理論を中心に説明する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。授業では見えない考え方が多く登場するので、授業外でも、まずは自分がどのように世界を認識していたのかを考え、授業中に紹介した事例に加えて、ニュース報道やSNSで流れてくる海外の映像などと比べることをとおして、これまで知らなかった世界の認識方法や生き方を理解すること。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しません。毎回の授業に関連する文献を紹介するので、各自の関心に合わせて読み進めてください。

【参考書】

以下の2冊が参考になります。
桑山敬己、綾部真雄（編）2018年『詳論 文化人類学』ミネルヴァ書房
波平恵美子（編）2021年『文化人類学 カレッジ版 第4版』医学書院

【成績評価の方法と基準】

毎回提出するレポート（60%）

期末レポート（40%）

【学生の意見等からの気づき】

説明するのが理論や概念に偏って抽象度がやや高かったため、取り扱う内容の幅を狭め、一つ一つの事例を具体的に詳しく説明することにする。

【Outline (in English)】

This course introduces the basic themes of cultural anthropology to students taking this course.

By the end of the course, students should be able to understand and explain other cultures and your own culture through the viewpoints of cultural anthropology.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end paper: 40%, Short reports : 60%

CUA100LA

文化人類学

2017年度以降入学者

渡辺 浩平

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 5/Thu.5

単位数：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

世界には多様な生き方がある。この授業では、文化人類学の研究史を概観してから、各回のテーマに沿った講義を行う。世界各地の様々な事例に触れ、人類学の基本的な考えと概念を学び、自身が当たり前だと感じている社会や文化についての概念や思考を相対化する。

【到達目標】

文化人類学の基本的な視座を習得する。
世界各地の事例を知り、生き方の多様性を理解しようとすることで、別の生き方の可能性を想像する力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式。学習支援システムを利用して資料を配布する。
毎回の授業でリアクションペーパーの提出を課す。毎回の授業のはじめに、リアクションペーパーのコメントや質問等に応答する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の進め方と評価方法について説明
第 2 回	文化人類学とは	文化人類学の基礎と方法論
第 3 回	文化人類学史	人類学的な思考の歴史について
第 4 回	日常と儀礼	日常における儀礼的行動
第 5 回	身体と文化	身体的実践の文化的多様性
第 6 回	環境と生業	人と自然の関係について
第 7 回	家族と親族	家族・親族・結婚の多様性について
第 8 回	セクシュアリティとジェンダー	多様な性について
第 9 回	経済と政治	贈与、権力、コミュニケーション
第 10 回	国家とエスニシティ	集団意識について
第 11 回	医療	病いと癒やし
第 12 回	芸術	歌う、描く、作る
第 13 回	境界論	冗談、ユーモア、笑い
第 14 回	総括	授業のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で取り上げられる事例の詳細を調べることで理解を深める。
人類学の概念を用いて身の回りの出来事を解釈する。
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に定めない。資料を配布する。

【参考書】

毎回の授業で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業内課題（40%）と期末レポート（60%）をもとに評価する。60点以上を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

授業時間外の学習のための参考書・文献・資料情報を充実させる。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布・課題提出等のために学習支援システムを利用する。

【その他の重要事項】

各回で取り上げる具体的なテーマは、受講生の関心に応じて変更される可能性がある。

【Outline (in English)】

There are many ways of life in the world. This course introduces case studies from around the world and anthropology's basic ideas and concepts. This course aims to help students relativize the concepts and thoughts about society and culture. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours reading reference materials. At the end of the course, students are expected to acquire a fundamental perspective of cultural anthropology. Grading will be decided based on the term-end report (60%) and in-class contribution (short reports) (40%).

CUA100LA

文化人類学

2017年度以降入学者

石森 大知

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 1/Wed.1

単位数：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

グローバル化や国際化の加速度的な進展とともに、地球上のすべての社会を取り巻く文化的環境は大きく変化している。それに伴い、文化人類学では、新しい知の体系を再構築するべく現代的課題を積極的に扱うようになった。本授業では、異文化理解のための基本的な視座を養うとともに、国際協力、地球温暖化、科学技術、芸術と物質文化、観光開発などの現代的諸テーマを把握し、また自らもかわるグローバルな問題として理解することを目指す。

【到達目標】

- ・異文化の比較考察を行うためのものの見方や基本概念を習得する。
- ・ものごとを相対的に捉えることによって得られる他者理解の洞察力を身に付ける。
- ・文化的多様性を理解するとともに、グローバル化の渦中の諸問題について広い視野から考察を行い、自分なりの意見や見解をもつ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

- ・授業の理解度や平常の取り組みを評価するため、基本的に毎回、授業コメントや質問・疑問を求めるリアクションペーパーを課します。
- ・リアクションペーパー等における興味深いコメントや質問等を授業内で取り上げ、全体に対してフィードバックを行うとともに、さらなる議論に活かします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の概要、成績評価方法の説明
第2回	フィールドワークの論理	質的調査の方法論とその考え
第3回	親族の組織化	キンドレッド・出自・母系社会
第4回	宗教と精神世界	日本人は「無宗教」なのか
第5回	境界性とタブー	「汚さ」の正体
第6回	人生と儀礼	儀礼の構造と論理
第7回	贈物と交換	贈物を社会関係から考える
第8回	芸術とモノ	「美しさ」の正体
第9回	科学技術と人類学	ネットワークとしての科学
第10回	開発現象と人類学	社会開発への転換
第11回	地球温暖化と海面上昇	ツバルの事例から
第12回	観光と文化創造	「楽園」ハワイの事例から
第13回	オリエンタリズム批判	他者表象の政治性と人類学批判
第14回	総括	授業のまとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・授業内で紹介する文化人類学の関連文献を読み、授業の理解を深める。
- ・図書館などで関連文献を調べ、自らの興味関心を広げる。
- ・本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教科書はとくに指定せず、必要に応じて関連資料を配布する。

【参考書】

授業中に適宜紹介するが、以下のものを挙げておく。

松村圭一郎ほか編『文化人類学の思考法』世界思想社、2019年。
岸上伸啓編著『はじめて学ぶ文化人類学—人物・古典・名著からの誘い』ミネルヴァ書房、2018年。
梅屋潔・シンジルト編『新版 文化人類学のレッスン—フィールドからの出発』学陽書房、2017年。
波平恵美子編『文化人類学—カレッジ版（第3版）』医学書院、2011年。

【成績評価の方法と基準】

学期末レポート:40%、平常点（リアクションペーパー、出席状況等）:60%として総合的に評価する。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする（ただし、平常点だけでは合格とはなりません。学期末レポートを提出しなかった場合、E評価になります）。

【学生の意見等からの気づき】

文字や音声などの情報だけではなく、できるだけ多くの写真や映像資料を用いることで授業内容の理解を促すようにする。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布・課題提出等のために学習支援システムを利用します。

【その他の重要事項】

- ・学期末レポートを提出しなかった場合、原則 E 評価となります。
- ・対面をオンラインで同時配信するハイフレックス型授業は実施しません。
- ・シラバス内容や授業計画に変更が生じた場合は授業内もしくは学習支援システムで周知します。

【Outline (in English)】

This course introduces the fundamentals of cultural anthropology, which seeks to understand the cultural and social diversity of the world. The course aims to provide students with the basic concepts and perspectives needed to make cross-cultural comparisons. By the end of the course, students should be able to understand global issues such as international development, environmental issues, tourism and ethnic conflict from an anthropological perspective. Students are expected to spend four hours before/after each class meeting to understand the course content. Grading will be based on the end of term report (40%) and class participation (60%).

SOS100LA

社会思想 I

2017年度以降入学者

阿部 崇史

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 2/Wed.2

単位数：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、現代の規範的な政治理論を学びます。言い換えれば、自由や平等のような、政治あるいは政策に関わる価値を扱います。貧困やパンデミックといった現代の社会的課題に対応するためには、様々な政策を実施して適切な制度および実践を構築する必要があります。その際には、政策がもたらす経済的効果に加えて、自由や平等や公正さのような、様々な価値ないし理念をどのように実現するのが問われてきます。このような価値ないし理念を考察し、社会の望ましいあり方を考えることが、規範的な政治理論の目標です。春学期は、現代の規範的な政治理論において提示されてきた、社会の望ましいあり方を論じる様々な立場を検討します。それを通じて、現代社会の望ましいあり方を自ら考えたり、様々な政策や制度を批判的に評価したりできるようにすることが、この授業の目的になります。

【到達目標】

本授業における具体的な到達目標は、以下の3つになります。(1) 功利主義、リベタリアニズム、リベラルな平等主義、といった代表的な社会構想について理解すること。(2) それらの社会構想に対して提示されてきた批判を踏まえて、様々な社会構想を比較検討できるようにすること。(3) 社会の望ましいあり方について自らの意見を提示できるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

基本的には講義形式で行いますが、できる限り双方向的な授業になるように、以下のようなコメントペーパーの提出とフィードバックを導入します。(1) 毎回の授業の最後 15 分間で、授業で扱った議論に対する意見（コメント）を考えていただきます。(2) 授業終了後、締切までに、学習支援システムを通じてコメントペーパーを提出していただきます。(3) 次の授業の冒頭で、提示していただいた意見や質問に対して、20 分ほどで応答します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業全体の概要の説明
第 2 回	功利主義 (1)	人々の幸福を最大化する社会の構想
第 3 回	功利主義 (2)	功利主義への批判
第 4 回	リベタリアニズム (1)	自由権を絶対的に尊重する社会の構想
第 5 回	リベタリアニズム (2)	リベタリアニズムへの批判
第 6 回	リベラルな平等主義 (1)	自由を平等に尊重する社会の構想
第 7 回	リベラルな平等主義 (2)	人々が公正に協働する社会の構想
第 8 回	平等主義の展開 (1)	「何の平等か？」をめぐる論争
第 9 回	平等主義の展開 (2)	平等主義/優先主義/充分主義の差異
第 10 回	運の平等主義 (1)	選択責任と平等を両立する社会の構想
第 11 回	運の平等主義 (2)	運の平等主義への批判
第 12 回	関係論的平等主義 (1)	人々が平等に関わり合う社会の構想
第 13 回	関係論的平等主義 (2)	関係論的平等主義への批判
第 14 回	レポート課題の説明	レポートの書き方と採点ポイント

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の授業後に、先述の課題（コメントペーパー）を提出していただきます。加えて、参考書や授業中に挙げた文献を各自の興味関心に合わせて読むことや、授業で扱ったテーマや議論について自分で考えてみることを、推奨します。※大学設置基準に鑑みた場合、本授業の準備・復習時間は、各 2 時間が標準となります。

【テキスト（教科書）】

特定の教科書を使用することではなく、学習支援システムに毎回の講義資料をアップロードします。

【参考書】

※参考書として、規範的な政治理論の教科書を 4 冊挙げておきます。どれか 1 冊が手元にあると、予習・復習をしやすいと思います。

※授業内容との関連という点では、(1) → (4) の順番で関わりが深いです。しかし逆に、簡単に読めるという観点では、(4) → (1) という順番で読みやすいと思います。

(1) W. キムリッカ、千葉真・岡崎晴輝（訳）『現代政治理論』日本経済評論社、2005年

(2) 宇佐美誠・児玉聡・井上彰・松元雅和『正義論：ベーシックスからフロンティアまで』法律文化社、2019年

(3) 川崎修・杉田敦（編）『現代政治理論』有斐閣、2012年

(4) 田村哲樹・松元雅和・乙部延剛・山崎望『ここから始める政治理論』有斐閣、2017年

※その他、各回の授業のテーマに関連する文献を、授業中に挙げます。

【成績評価の方法と基準】

満点である 100 点のうち、平常点が 30%、期末レポートが 70% になります。期末レポートは、現代の社会的課題に関する仮想的な事例に対して、規範的な問題点を分析した上で、自らの主張を根拠づけて論じるものになります。具体的なレポート課題や採点ポイントは、第 14 回の授業で詳しく説明します。平常点は、毎回の授業に対するコメントペーパーと普段の聴講態度とを考慮して判断します。

【学生の意見等からの気づき】

(1) 授業中にコメントペーパーを書く時間を取ってほしいという意見があったため、授業の最後の 15 分間をコメントを考える時間にあてます。

(2) 内容が難しかったという意見があった一方で、具体例に即した説明が分かりやすかったという意見もあったため、具体例を多用して分かりやすく説明するように心がけます。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムに授業のための資料をアップロードします。また、毎回の課題提示と提出は学習支援システムを介して行います。そのため、学習支援システムを利用するための情報通信環境が必要となります。

【その他の重要事項】

秋学期の社会思想 II では、春学期の社会思想 I（本授業）の内容を踏まえて、現代の様々な社会的課題について考察します。社会思想 I のみの履修でも意義があるような講義を行います。春学期・秋学期を合わせた履修を推奨します。また、社会思想 I で学ぶことのイメージがつかみにくい場合は、実践編である社会思想 II のシラバスを参照してください。

※月曜日 4 時限目および火曜日 4 時限目の社会思想 I（授業コード：Q2217、Q2215）と基本的に同内容になります。ただし、冒頭の 20 分で行うコメントへの応答は異なる内容になります。

※社会思想 LA（春学期：Q2401、秋学期：Q2403）では、規範的な政治理論の観点から能力主義を検討する発展的な授業を行います。合わせて履修してもらえると嬉しいですよ。

【Outline (in English)】

《Course outline》

Students study modern political philosophy (normative political theory) in this course. It aims to construct a conception of a just society by examining values or ideals related to policies, institutions, and practices. These values or ideals include liberty, equality, fairness, etc. In the Spring semester, we discuss various conceptions of a just society, such as utilitarianism, libertarianism, and liberal egalitarianism. After learning and examining them, students can construct their conception of a just society, thereby critically evaluating our society's policies, institutions, and practices.

《Learning objectives》

The goals of this course are the followings:

-1. To understand and evaluate various conceptions of a just society.
-2. To evaluate our society's policies, institutions, and practices critically.

-3. To construct your own conception of a just society.

《Learning activities outside of classroom》

Students will be expected to complete the required assignments after each class meeting. You are recommended to study more than four hours for a class by the standard set by the Japanese government.

《Grading Criteria/Policies》

Your overall grade in the class will be decided based on the following standards:

-1. Required assignments after each class: 30%
-2. Term-end report: 70%

SOS100LA

社会思想Ⅱ

2017年度以降入学者

阿部 崇史

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 2/Wed.2

単位数：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、現代の規範的な政治理論を学びます。言い換えれば、自由や平等のような、政治あるいは政策に関わる価値を扱います。貧困やパンデミックといった現代の社会的課題に対応するためには、様々な政策を実施して適切な制度および実践を構築する必要があります。その際には、政策がもたらす経済的効果に加えて、自由や平等や公正さのような、様々な価値ないし理念をどのように実現するのかが問われてきます。このような価値ないし理念を考察し、社会の望ましいあり方を考えることが、規範的な政治理論の目標です。秋学期は、貧困や差別といった現代の様々な社会的課題に対して、価値ないし理念の観点から考察を行います。それを通じて、現代の社会的課題における規範的な論争点を理解するとともに、様々な社会的課題に対する解決策を自ら考えられるようになることが、この授業の目的になります。

【到達目標】

本講義では、貧困、健康、差別といった、現代社会における様々な課題・問題を取り上げ、価値や理念に着目する規範的な観点から、考察を行います。具体的には、以下の3つを到達目標とします。(1) 様々な社会的課題について、どのような規範的な論争点が存在するのかを理解すること。(2) それらの論争点についてどのような立場が提示されてきて、どのような批判的検討がなされてきたかを理解すること。(3) 現代の社会的課題に対して、自らの意見を提示できるようにすること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式を中心に進めつつ、グループディスカッションを3回行います。講義形式の授業の際も、できる限り双方向的な授業になるように、以下のようなコメントペーパーの提出とフィードバックを導入します。(1) 毎回の授業の最後 15 分間で、授業で扱った議論に対する意見（コメント）を考えていただきます。(2) 授業終了後、締切までに、学習支援システムを通じてコメントペーパーを提出していただきます。(3) 次の授業の冒頭で、提示していただいた意見や質問に対して、20 分ほどで応答します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業全体の概要
第2回	貧困・格差・社会保障 (1)	2種類の貧困と貧困の自己責任論
第3回	貧困・格差・社会保障 (2)	経済的格差が許容されるための条件
第4回	貧困・格差・社会保障 (3)	課税と社会保障の正当性
第5回	貧困・格差・社会保障 (4)	グループディスカッション
第6回	健康と医療 (1)	健康の価値と健康の社会的決定要因
第7回	健康と医療 (2)	医療資源の公正な分配
第8回	健康と医療 (3)	グループディスカッション
第9回	教育	教育の意義と公正な教育機会
第10回	差別 (1)	差別の定義と様々な形態
第11回	差別 (2)	差別を不正にする要因
第12回	教育と差別	グループディスカッション
第13回	障害	障害と社会的包摂
第14回	レポート課題の説明	レポートの書き方と採点ポイント

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の授業後に、先述の課題（コメントペーパー）を提出していただきます。加えて、参考書や授業中に挙げた文献を各自の興味関心に合わせて読むことや、授業で扱ったテーマや議論について自分で考えてみることを、推奨します。*大学設置基準に鑑みた場合、本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特定の教科書を使用することはなく、学習支援システムに毎回の講義資料をアップロードします。

【参考書】

* (1) の本と (2) の第 2 部は、現代の社会的課題を取り上げ、規範的政治理論の観点から検討を行う教科書です。(3) は、具体的なトピックの一例として、新型コロナウイルスを題材にした医療資源の分配などを扱う本です。(1) J. ウルフ、大澤津・原田健二朗訳「正しい政策」がないならどうすべきか：政策のための哲学」勁草書房、2016年

(2) 宇佐美誠・児玉聡・井上彰・松元雅和『正義論：ベーシックスからフロンティアまで』法律文化社、2019年
(3) 広瀬巖『パンデミックの倫理学：緊急時対応の倫理原則と新型コロナウイルス感染症』勁草書房、2021年
※その他、各授業で取り上げるテーマ・トピックに関して、授業中に参考文献を提示します。

【成績評価の方法と基準】

満点である100点のうち、平常点が30%、期末レポートが70%になります。期末レポートは、現代の社会的課題に関する仮想的な事例に対して、規範的な問題点を分析した上で、自らの主張を根拠づけて論じるものになります。具体的なレポート課題や採点ポイントは、第14回の授業で詳しく説明します。平常点は、毎回の授業に対するコメントペーパーと普段の聴講態度とを考慮して判断します。

【学生の意見等からの気づき】

(1) コメントペーパーを書く時間を授業内にとっしてほしいという意見があったため、授業の最後 15 分間をコメントを考える時間にあてます。(2) 内容が難しかったという意見があった一方で、具体例に即した説明が分かりやすかったという意見もあったため、具体例を多用して分かりやすく説明するように心がけます。(3) グループディスカッションの進め方についても、前年度までにいただいた意見を反映します。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムに授業のための資料をアップロードします。そのため、学習支援システムを利用するための情報通信環境が必要となります。

【その他の重要事項】

秋学期の社会思想Ⅱ（本授業）は、春学期の社会思想Ⅰの応用編としての性質を持ちます。社会思想Ⅰを履修していなくても理解できるような講義を行います。合わせて履修していただくことで理解が深まります。そのため、本授業に興味を持っていただいた場合、春学期・秋学期合わせて履修を推奨いたします。

※火曜日 4 時限目の社会思想Ⅱ（授業コード：Q2216）と基本的に同内容になります。ただし、冒頭の 20 分で行うコメントへの応答は異なる内容になります。

※社会思想 LA（春学期：Q2401、秋学期：Q2403）では、規範的な政治理論の観点から能力主義を検討する発展的な授業を行います。合わせて履修してもらえると嬉しいので。

【Outline (in English)】

《Course outline》

Students study modern political philosophy (normative political theory) in this course. It aims to construct a conception of a just society by examining values or ideals related to policies, institutions, and practices. These values or ideals include liberty, equality, fairness, etc. In the Fall semester, we discuss actual social problems such as poverty, health, and discrimination, focusing on normative issues. After completing the course, students can present their views on social problems.

《Learning objectives》

The goals of this course are the following:

- 1. To understand the normative point of various social problems.
- 2. To understand and evaluate various normative views on social problems.
- 3. To construct your own view on various social problems.

《Learning activities outside of classroom》

Students will be expected to complete the required assignments after each class meeting. You are recommended to study more than four hours for a class by the standard set by the Japanese government.

《Grading Criteria/Policies》

Your overall grade in the class will be decided based on the following standards:

- 1. In-class contribution and required assignments after each class: 30%
- 2. Term-end report: 70%

SOS100LA

社会思想 I

2017 年度以降入学者

村田 玲

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 5/Thu.5

単位数：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は、政治に関する哲学的思惟の発生から、近代的思惟への転換に至る過程を概観する。古典古代、ポリス社会において発生した思惟の伝統は、これ以降の西洋社会思想を根本的に規定するものであったと同時に、ポリス社会の基本性格を濃厚に反映するものであったことは疑いない。それゆえに、ポリス社会の崩壊と世界帝国の形成とともに一定の変容を被らざるにはいかなかったのである。ローマ人の征服事業により出現した地中海帝国は、これに先立つ古典古代の伝統を総合するのみならず、諸々の重要な点で、帝国崩壊後の中世キリスト教共同体の到来を予示するものであった。しかしながら政治に関する哲学的・理性的思惟は、やがては聖書宗教に拠る信仰共同体と深刻な緊張関係に陥るはずである。事実、中世キリスト教共同体の成熟に伴い、次第に「復興」する古典的諸学芸は、理論のみならず実践の領域においても、教会権力との熾烈な抗争を惹起するのである。当初、古典古代の「復興」として発火した巨大な精神運動が、いかにして前例なき新しさを帯びる近代的思惟を生み出すこととなったのか、それはおそらく世界歴史における最も興味深く、そして深刻な問題のひとつを提起することになるであろう。かかる社会思想の歴史の展開を概観することは、現代政治を論ずるにあたって留意すべき根本的諸論題、すなわち「善と正義」、「政治と宗教」、そして「政治権力」等々について、学生諸子が考察する機会となるはずである。

【到達目標】

本講義で概説される社会思想の歴史とは、本来の意味における「政治学」の歴史である。かつて「政治学」とは人間の事柄の秩序に関する学、すなわち社会科学そのものであった。また本講義で概説される社会思想の歴史とは、ソクラテス的な意味における「政治哲学」の歴史である。かかる「政治哲学」とは、あるべき秩序形成をめぐる哲学的諸問題の集成である。したがって本講義の目標は、履修者が①およそ社会科学の一般教養に該当する知識を習得したうえで、②「善とは何か」、「正義とは何か」等々の哲学的諸問題について思考できるようにすることで達せられる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

本授業は対面授業を基本とする。詳細については、逐次「学習支援システム」をつうじて伝達する。なお、質問に対するフィードバックは、授業の中で適宜行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	講義序論	社会思想の歴史と現代について若干の所見、および講義概説
2	政治哲学の起源①	ソクラテス問題、あるいは政治に関する哲学的思惟について
3	政治哲学の起源②	プラトンの対話篇、とくに『国家』および『法律』について
4	政治哲学の起源③	アリストテレスの『政治学』、そのプラトン批判について

5	世界帝国と思想①	ヘレニズム時代の哲学諸派、ならびに自然法思想について
6	世界帝国と思想②	キケロとセネカ、あるいは古典古代の衰亡について
7	世界帝国と思想③	アウグスティヌスの『神の国』と聖書宗教の勝利について
8	中世の政治思想①	イスラム世界とギリシア思想、信仰と哲学の関係について
9	中世の政治思想②	中世盛期、トマス・アクィナスとスコラ学について
10	中世の政治思想③	ダンテとマルシリウス、イタリア諸都市の興亡について
11	文芸復興期の精神①	マキアヴェッリの『君主論』と近代政治哲学について
12	文芸復興期の精神②	トマス・モアと 16 世紀のユートピア思想について
13	文芸復興期の精神③	近代科学の始動と世界像の刷新、社会思想の変容について
14	講義総括	社会思想の歴史的研究の意義について若干の所見

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

すくなくとも指定した教科書の次回授業範囲を熟読しておくこと。なお、社会思想の歴史を学習する最善にして、おそらく唯一の真なる方法は、履修者みずからが偉大な古典文献をひも解くほかにないことを付言しておく。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

宇野重規『西洋政治思想史』（有斐閣、2013 年）本体 1700 円。なお、毎回授業時にはレジュメを配布する。

【参考書】

川出良枝・山岡龍一『西洋政治思想史』（岩波書店、2012 年）本体 2900 円。その他、有益な参考文献については、随時、授業時に紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業への参加：20 %
複数回の小レポート：30 %
期末レポート：50 %

【学生の意見等からの気づき】

可能な限り、学生との積極的なコミュニケーションをはかる。

【学生が準備すべき機器他】

なし

【その他の重要事項】

なし

【Outline (in English)】

This course is designed to help students understand some aspects of the history of political philosophy from the ancient Greece to the Renaissance Italy. The origin of philosophical meditation on “the order of the human things” is the life of Socrates. The classical political philosophy formed by his successors seemed to be subverted through the collapse of the ancient world and the triumph of the Biblical religion. However, with the opening of Renaissance age, the heritages of the classical antiquity, which were preserved in the Islamic world, revived the great tradition of political philosophy in the Western world. It was the revival of ancient civilization that marked the beginning of the modern West. The philosophical tradition, that hugely changed its orientation as a result of mediation of Biblical religion, organized the axioms of modern politics (liberal democracy). The historical process of the reformation and mutation could raise one of the most urgent and crucial problems which must be reflected by the students of social science in our time. Students are required to prepare for the assigned part of the designated textbook for each class. Students are evaluated on their class participation(20%), submitted assignments(30%) and the final report(50%).

SOS100LA

社会思想Ⅱ

2017年度以降入学者

村田 玲

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 5/Thu.5

単位数：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は、宗教改革によるキリスト教共同体の分裂から、主権国家体制の成立、市民革命を経て、現代政治に至る西洋社会思想の過程を概観する。その過程を理解することは、現代世界の成立史の一側面を理解することを意味している。宗教改革によるヨーロッパ世界の動乱は、諸々の世俗権力の自立、ならびに資本主義の精神の発生を促したことがしばしば指摘される。宗派対立を収拾する要請から構想された主権の観念は、官僚制と常備軍に支えられた絶対王権によって具体化された。世襲王権のもとに集中した権力が、次第に台頭する市民階級によって奪取されるが市民革命であるが、ここにおいて銘記すべきであるのは、絶対王政から現代政治に至るまでの主権の観念の連続性である。主権国家体制にかわる世界政治の枠組みが構想される現在、まずもって主権国家体制の生成過程に関する理解が深められなくてはならない。また現代のリベラル・デモクラシーの基本性格のみならず、その諸々の問題点は、近代国家の発達史に関する理解もって把握されなければならないのである。ついで二〇世紀末年の規範理論の復権が、社会思想の歴史において帯びている意義について付言して本講義を結ぶ。かかる政治思想史の展開を概観することは、現代政治を論ずるにあたって留意すべき根本的諸論題、すなわち「寛容」、「権力批判」、そして「公共性」等々について、学生諸子が考察を深める機会となるであろう。

【到達目標】

本講義で概説される社会思想の歴史とは、本来の意味における「政治学」の歴史である。かつて「政治学」とは人間の事柄の秩序に関する学、すなわち社会科学そのものであった。また本講義で概説される社会思想の歴史とは、ソクラテス的な意味における「政治哲学」の歴史である。かかる「政治哲学」とは、あるべき秩序形成をめぐる哲学的諸問題の集成である。したがって本講義の目標は、履修者が①およそ社会科学の一般教養に該当する知識を習得したうえで、②「権力とは何か」、「公共性とは何か」等々の哲学的諸問題について思考できるようになることで達せられる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

本授業は対面授業を基本とする。詳細については、逐次「学習支援システム」をつうじて伝達する。なお、質問に対するフィードバックは、授業の中で適宜行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	講義序論	社会思想の歴史と現代について若干の所見、および講義概説
2	宗教改革の思想①	ルターとカルヴァン、カトリック教会分裂の思想的契機について
3	宗教改革の思想②	宗教改革の政治的帰結、ならびに王権神授説について
4	近代国家の形成①	宗教戦争の時代、ボダンの『国家論』と主権の概念
5	近代国家の形成②	ピューリタン革命とホッブズの『リヴァイアサン』について

6	市民革命の理論①	ロックの『統治二論』とイギリス名誉革命体制について
7	市民革命の理論②	ルソーの『社会契約論』、ならびに人民主権論について
8	市民革命の理論③	バークの『フランス革命の省察』、保守主義の近代について
9	自由主義と社会主義①	スミスの『国富論』から功利主義へ、自由概念の変容について
10	自由主義と社会主義②	マルクスの『共産党宣言』、ならびに社会主義の展開について
11	自由主義と社会主義③	ケインズ経済学と現代福祉国家、社会民主主義について
12	現代政治①	20世紀のアメリカ政治学、科学的政治学の思想的基礎
13	現代政治②	ロールズの『正義論』ほか瞥見、政治哲学の復権について
14	講義総括	社会思想の歴史的研究の意義について若干の所見

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

すくなくとも指定した教科書の次回授業範囲を熟読しておくこと。なお、社会思想の歴史を学習する最善にして、おそらく唯一の真なる方法は、履修者みずからが偉大な古典文献をひも解くほかにないことを付言しておく。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

宇野重規『西洋政治思想史』（有斐閣、2013年）本体1700円。なお、毎回授業時にはレジメを配布する。

【参考書】

川出良枝・山岡龍一『西洋政治思想史』（岩波書店、2012年）本体2900円。その他、有益な参考文献については、随時、授業時に紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業への参加：20%
複数回の小レポート：30%
期末レポート：50%

【学生の意見等からの気づき】

可能な限り、学生との積極的なコミュニケーションをはかる。

【学生が準備すべき機器他】

なし

【その他の重要事項】

なし

【Outline (in English)】

This course is designed to help students understand some aspects of the history of political philosophy from the Renaissance to the 20th century. The origin of philosophical meditation on “the order of the human things” is the life of Socrates. The classical political philosophy formed by his successors seemed to be subverted through the collapse of the ancient world and the triumph of the Biblical religion. However, with the opening of Renaissance age, the heritages of the classical antiquity, which were preserved in the Islamic world, revived the great tradition of political philosophy in the Western world. It was the revival of ancient civilization that marked the beginning of the modern West. The philosophical tradition, that hugely changed its orientation as a result of mediation of Biblical religion, organized the axioms of modern politics (liberal democracy). The historical process of the reformation and mutation could raise one of the most urgent and crucial problems which must be reflected by the students of social science in our time. Students are required to prepare for the assigned part of the designated textbook for each class. Students are evaluated on their class participation(20%), submitted assignments(30%) and the final report(50%).

SOS100LA

社会思想 I

2017年度以降入学者

阿部 崇史

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 4/Tue.4

単位数：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、現代の規範的な政治理論を学びます。言い換えれば、自由や平等のような、政治あるいは政策に関わる価値を扱います。貧困やパンデミックといった現代の社会的課題に対応するためには、様々な政策を実施して適切な制度および実践を構築する必要があります。その際には、政策がもたらす経済的効果に加えて、自由や平等や公正さのような、様々な価値ないし理念をどのように実現するのかが問われてきます。このような価値ないし理念を考察し、社会の望ましいあり方を考えることが、規範的な政治理論の目標です。春学期は、現代の規範的な政治理論において提示されてきた、社会の望ましいあり方を論じる様々な立場を検討します。それを通じて、現代社会の望ましいあり方を自ら考えたり、様々な政策や制度を批判的に評価したりできるようにすることが、この授業の目的になります。

【到達目標】

本授業における具体的な到達目標は、以下の3つになります。(1) 功利主義、リベタリアニズム、リベラルな平等主義、といった代表的な社会構想について理解すること。(2) それらの社会構想に対して提示されてきた批判を踏まえて、様々な社会構想を比較検討できるようにすること。(3) 社会の望ましいあり方について自らの意見を提示できるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

基本的には講義形式で行いますが、できる限り双方向的な授業になるように、以下のようなコメントペーパーの提出とフィードバックを導入します。(1) 毎回の授業の最後 15 分間で、授業で扱った議論に対する意見（コメント）を考えていただきます。(2) 授業終了後、締切までに、学習支援システムを通じてコメントペーパーを提出していただきます。(3) 次の授業の冒頭で、提示していただいた意見や質問に対して、20 分ほどで応答します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業全体の概要の説明
第 2 回	功利主義 (1)	人々の幸福を最大化する社会の構想
第 3 回	功利主義 (2)	功利主義への批判
第 4 回	リベタリアニズム (1)	自由権を絶対的に尊重する社会の構想
第 5 回	リベタリアニズム (2)	リベタリアニズムへの批判
第 6 回	リベラルな平等主義 (1)	自由を平等に尊重する社会の構想
第 7 回	リベラルな平等主義 (2)	人々が公正に協働する社会の構想
第 8 回	平等主義の展開 (1)	「何の平等か？」をめぐる論争
第 9 回	平等主義の展開 (2)	平等主義/優先主義/充分主義の差異
第 10 回	運の平等主義 (1)	選択責任と平等を両立する社会の構想
第 11 回	運の平等主義 (2)	運の平等主義への批判
第 12 回	関係論的平等主義 (1)	人々が平等に関わり合う社会の構想
第 13 回	関係論的平等主義 (2)	関係論的平等主義への批判
第 14 回	レポート課題の説明	レポートの書き方と採点ポイント

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の授業後に、先述の課題（コメントペーパー）を提出していただきます。加えて、参考書や授業中に挙げた文献を各自の興味関心に合わせて読むことや、授業で扱ったテーマや議論について自分で考えてみることを、推奨します。※大学設置基準に鑑みた場合、本授業の準備・復習時間は、各 2 時間が標準となります。

【テキスト（教科書）】

特定の教科書を使用することではなく、学習支援システムに毎回の講義資料をアップロードします。

【参考書】

※参考書として、規範的な政治理論の教科書を 4 冊挙げておきます。どれか 1 冊が手元にあると、予習・復習をしやすいと思います。

※授業内容との関連という点では、(1) → (4) の順番で関わりが深いです。しかし逆に、簡単に読めるという観点では、(4) → (1) という順番で読みやすいと思います。

(1) W. キムリッカ、千葉真・岡崎晴輝（訳）『現代政治理論』日本経済評論社、2005年

(2) 宇佐美誠・児玉聡・井上彰・松元雅和『正義論：ベーシックスからフロンティアまで』法律文化社、2019年

(3) 川崎修・杉田敦（編）『現代政治理論』有斐閣、2012年

(4) 田村哲樹・松元雅和・乙部延剛・山崎望『ここから始める政治理論』有斐閣、2017年

※その他、各回の授業のテーマに関連する文献を、授業中に挙げます。

【成績評価の方法と基準】

満点である 100 点のうち、平常点が 30%、期末レポートが 70% になります。期末レポートは、現代の社会的課題に関する仮想的な事例に対して、規範的な問題点を分析した上で、自らの主張を根拠づけて論じるものになります。具体的なレポート課題や採点ポイントは、第 14 回の授業で詳しく説明します。平常点は、毎回の授業に対するコメントペーパーと普段の聴講態度とを考慮して判断します。

【学生の意見等からの気づき】

(1) 授業中にコメントペーパーを書く時間を取ってほしいという意見があったため、授業の最後の 15 分間をコメントを考える時間にあてます。

(2) 内容が難しかったという意見があった一方で、具体例に即した説明が分かりやすかったという意見もあったため、具体例を多用して分かりやすく説明するように心がけます。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムに授業のための資料をアップロードします。また、毎回の課題提示と提出は学習支援システムを介して行います。そのため、学習支援システムを利用するための情報通信環境が必要となります。

【その他の重要事項】

秋学期の社会思想 II では、春学期の社会思想 I（本授業）の内容を踏まえて、現代の様々な社会的課題について考察します。社会思想 I のみの履修でも意義があるような講義を行います。春学期・秋学期を合わせた履修を推奨します。また、社会思想 I で学ぶことのイメージがつかみにくい場合は、実践編である社会思想 II のシラバスを参照してください。

※月曜日 5 時限目および水曜日 2 時限目の社会思想 I（授業コード：Q2217、Q2211）と基本的に同内容になります。ただし、冒頭の 20 分で行うコメントへの応答は異なる内容になります。

※社会思想 LA（春学期：Q2401、秋学期：Q2403）では、規範的な政治理論の観点から能力主義を検討する発展的な授業を行います。合わせて履修してもらえると嬉しいですよ。

【Outline (in English)】

《Course outline》

Students study modern political philosophy (normative political theory) in this course. It aims to construct a conception of a just society by examining values or ideals related to policies, institutions, and practices. These values or ideals include liberty, equality, fairness, etc. In the Spring semester, we discuss various conceptions of a just society, such as utilitarianism, libertarianism, and liberal egalitarianism. After learning and examining them, students can construct their conception of a just society, thereby critically evaluating our society's policies, institutions, and practices.

《Learning objectives》

The goals of this course are the followings:

-1. To understand and evaluate various conceptions of a just society.
-2. To evaluate our society's policies, institutions, and practices critically.

-3. To construct your own conception of a just society.

《Learning activities outside of classroom》

Students will be expected to complete the required assignments after each class meeting. You are recommended to study more than four hours for a class by the standard set by the Japanese government.

《Grading Criteria/Policies》

Your overall grade in the class will be decided based on the following standards:

-1. Required assignments after each class: 30%
-2. Term-end report: 70%

SOS100LA

社会思想Ⅱ

2017年度以降入学者

阿部 崇史

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 4/Tue.4

単位数：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、現代の規範的な政治理論を学びます。言い換えれば、自由や平等のような、政治あるいは政策に関わる価値を扱います。貧困やパンデミックといった現代の社会的課題に対応するためには、様々な政策を実施して適切な制度および実践を構築する必要があります。その際には、政策がもたらす経済的効果に加えて、自由や平等や公正さのような、様々な価値ないし理念をどのように実現するのかが問われてきます。このような価値ないし理念を考察し、社会の望ましいあり方を考えることが、規範的な政治理論の目標です。秋学期は、貧困や差別といった現代の様々な社会的課題に対して、価値ないし理念の観点から考察を行います。それを通じて、現代の社会的課題における規範的な論争点を理解するとともに、様々な社会的課題に対する解決策を自ら考えられるようになることが、この授業の目的になります。

【到達目標】

本講義では、貧困、健康、差別といった、現代社会における様々な課題・問題を取り上げ、価値や理念に着目する規範的な観点から、考察を行います。具体的には、以下の3つを到達目標とします。(1) 様々な社会的課題について、どのような規範的な論争点が存在するのかを理解すること。(2) それらの論争点についてどのような立場が提示されてきて、どのような批判的検討がなされてきたかを理解すること。(3) 現代の社会的課題に対して、自らの意見を提示できるようにすること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式を中心に進めつつ、グループディスカッションを3回行います。講義形式の授業の際も、できる限り双方向的な授業になるように、以下のようなコメントペーパーの提出とフィードバックを導入します。(1) 毎回の授業の最後 15 分間で、授業で扱った議論に対する意見（コメント）を考えていただきます。(2) 授業終了後、締切までに、学習支援システムを通じてコメントペーパーを提出していただきます。(3) 次の授業の冒頭で、提示していただいた意見や質問に対して、20 分ほどで応答します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業全体の概要
第 2 回	貧困・格差・社会保障 (1)	2 種類の貧困と貧困の自己責任論
第 3 回	貧困・格差・社会保障 (2)	経済的格差が許容されるための条件
第 4 回	貧困・格差・社会保障 (3)	課税と社会保障の正当性
第 5 回	貧困・格差・社会保障 (4)	グループディスカッション
第 6 回	健康と医療 (1)	健康の価値と健康の社会的決定要因
第 7 回	健康と医療 (2)	医療資源の公正な分配
第 8 回	健康と医療 (3)	グループディスカッション
第 9 回	教育	教育の意義と公正な教育機会
第 10 回	差別 (1)	差別の定義と様々な形態
第 11 回	差別 (2)	差別を不正にする要因
第 12 回	教育と差別	グループディスカッション
第 13 回	障害	障害と社会的包摂
第 14 回	レポート課題の説明	レポートの書き方と採点ポイント

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の授業後に、先述の課題（コメントペーパー）を提出していただきます。加えて、参考書や授業中に挙げた文献を各自の興味関心に合わせて読むことや、授業で扱ったテーマや議論について自分で考えてみることを、推奨します。
※大学設置基準に鑑みた場合、本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特定の教科書を使用することなく、学習支援システムに毎回の講義資料をアップロードします。

【参考書】

※ (1) の本と (2) の第 2 部は、現代の社会的課題を取り上げ、規範的政治理論の観点から検討を行う教科書です。(3) は、具体的なトピックの一例として、新型コロナウイルスを題材にした医療資源の分配などを扱う本です。
(1) J. ウルフ、大澤津・原田健二朗訳「正しい政策」がないならどうすべきか：政策のための哲学」勁草書房、2016 年

(2) 宇佐美誠・児玉聡・井上彰・松元雅和『正義論：ベーシックスからフロンティアまで』法律文化社、2019 年
(3) 広瀬巖『パンデミックの倫理学：緊急時対応の倫理原則と新型コロナウイルス感染症』勁草書房、2021 年
※その他、各授業で取り上げるテーマ・トピックに関して、授業中に参考文献を提示します。

【成績評価の方法と基準】

満点である 100 点のうち、平常点が 30%、期末レポートが 70% になります。期末レポートは、現代の社会的課題に関する仮想的な事例に対して、規範的な問題点を分析した上で、自らの主張を根拠づけて論じるものになります。具体的なレポート課題や採点ポイントは、第 14 回の授業で詳しく説明します。平常点は、毎回の授業に対するコメントペーパーと普段の聴講態度とを考慮して判断します。

【学生の意見等からの気づき】

(1) コメントペーパーを書く時間を授業内にとっしてほしいという意見があったため、授業の最後 15 分間をコメントを考える時間にあてます。(2) 内容が難しかったという意見があった一方で、具体例に即した説明が分かりやすかったという意見もあったため、具体例を多用して分かりやすく説明するように心がけます。(3) グループディスカッションの進め方についても、前年度までにいただいた意見を反映します。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムに授業のための資料をアップロードします。そのため、学習支援システムを利用するための情報通信環境が必要となります。

【その他の重要事項】

秋学期の社会思想Ⅱ（本授業）は、春学期の社会思想Ⅰの応用編としての性質を持ちます。社会思想Ⅰを履修していなくても理解できるような講義を行います。合わせて履修していただくことで理解が深まります。そのため、本授業に興味を持っていただいた場合、春学期・秋学期合わせての履修を推奨いたします。

※水曜日 2 時限目の社会思想Ⅱ（授業コード：Q2212）と基本的に同内容になります。ただし、冒頭の 20 分で行うコメントへの応答は異なる内容になります。

※社会思想 LA（春学期：Q2401、秋学期：Q2403）では、規範的な政治理論の観点から能力主義を検討する発展的な授業を行います。合わせて履修してもらえると嬉しいので。

【Outline (in English)】

《Course outline》

Students study modern political philosophy (normative political theory) in this course. It aims to construct a conception of a just society by examining values or ideals related to policies, institutions, and practices. These values or ideals include liberty, equality, fairness, etc. In the Fall semester, we discuss actual social problems such as poverty, health, and discrimination, focusing on normative issues. After completing the course, students can present their views on social problems.

《Learning objectives》

The goals of this course are the following:

- 1. To understand the normative point of various social problems.
- 2. To understand and evaluate various normative views on social problems.
- 3. To construct your own view on various social problems.

《Learning activities outside of classroom》

Students will be expected to complete the required assignments after each class meeting. You are recommended to study more than four hours for a class by the standard set by the Japanese government.

《Grading Criteria/Policies》

Your overall grade in the class will be decided based on the following standards:

- 1. In-class contribution and required assignments after each class: 30%
- 2. Term-end report: 70%

SOS100LA

社会思想 I

2017年度以降入学者

阿部 崇史

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 4/Mon.4

単位数：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、現代の規範的な政治理論を学びます。言い換えれば、自由や平等のような、政治あるいは政策に関わる価値を扱います。貧困やパンデミックといった現代の社会的課題に対応するためには、様々な政策を実施して適切な制度および実践を構築する必要があります。その際には、政策がもたらす経済的効果に加えて、自由や平等や公正さのような、様々な価値ないし理念をどのように実現するのかが問われてきます。このような価値ないし理念を考察し、社会の望ましいあり方を考えることが、規範的な政治理論の目標です。春学期は、現代の規範的な政治理論において提示されてきた、社会の望ましいあり方を論じる様々な立場を検討します。それを通じて、現代社会の望ましいあり方を自ら考えたり、様々な政策や制度を批判的に評価したりできるようにすることが、この授業の目的になります。

【到達目標】

本授業における具体的な到達目標は、以下の3つになります。(1) 功利主義、リベタリアニズム、リベラルな平等主義、といった代表的な社会構想について理解すること。(2) それらの社会構想に対して提示されてきた批判を踏まえて、様々な社会構想を比較検討できるようにすること。(3) 社会の望ましいあり方について自らの意見を提示できるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

基本的には講義形式で行いますが、できる限り双方向的な授業になるように、以下のようなコメントペーパーの提出とフィードバックを導入します。(1) 毎回の授業の最後 15 分間で、授業で扱った議論に対する意見（コメント）を考えていただきます。(2) 授業終了後、締切までに、学習支援システムを通じてコメントペーパーを提出していただきます。(3) 次の授業の冒頭で、提示していただいた意見や質問に対して、20 分ほどで応答します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業全体の概要の説明
第 2 回	功利主義 (1)	人々の幸福を最大化する社会の構想
第 3 回	功利主義 (2)	功利主義への批判
第 4 回	リベタリアニズム (1)	自由権を絶対的に尊重する社会の構想
第 5 回	リベタリアニズム (2)	リベタリアニズムへの批判
第 6 回	リベラルな平等主義 (1)	自由を平等に尊重する社会の構想
第 7 回	リベラルな平等主義 (2)	人々が公正に協働する社会の構想
第 8 回	平等主義の展開 (1)	「何の平等か？」をめぐる論争
第 9 回	平等主義の展開 (2)	平等主義/優先主義/充分主義の差異
第 10 回	運の平等主義 (1)	選択責任と平等を両立する社会の構想
第 11 回	運の平等主義 (2)	運の平等主義への批判
第 12 回	関係論的平等主義 (1)	人々が平等に関わり合う社会の構想
第 13 回	関係論的平等主義 (2)	関係論的平等主義への批判
第 14 回	レポート課題の説明	レポートの書き方と採点ポイント

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の授業後に、先述の課題（コメントペーパー）を提出していただきます。加えて、参考書や授業中に挙げた文献を各自の興味関心に合わせて読むことや、授業で扱ったテーマや議論について自分で考えてみることを、推奨します。※大学設置基準に鑑みた場合、本授業の準備・復習時間は、各 2 時間が標準となります。

【テキスト（教科書）】

特定の教科書を使用することなく、学習支援システムに毎回の講義資料をアップロードします。

【参考書】

※参考書として、規範的な政治理論の教科書を 4 冊挙げておきます。どれか 1 冊が手元にあると、予習・復習をしやすいと思います。

※授業内容との関連という点では、(1) → (4) の順番で関わりが深いです。しかし逆に、簡単に読めるという観点では、(4) → (1) という順番で読みやすいと思います。

(1) W. キムリッカ、千葉真・岡崎晴輝（訳）『現代政治理論』日本経済評論社、2005年

(2) 宇佐美誠・児玉聡・井上彰・松元雅和『正義論：ベーシックスからフロンティアまで』法律文化社、2019年

(3) 川崎修・杉田敦（編）『現代政治理論』有斐閣、2012年

(4) 田村哲樹・松元雅和・乙部延剛・山崎望『ここから始める政治理論』有斐閣、2017年

※その他、各回の授業のテーマに関連する文献を、授業中に挙げます。

【成績評価の方法と基準】

満点である 100 点のうち、平常点が 30%、期末レポートが 70% になります。期末レポートは、現代の社会的課題に関する仮想的な事例に対して、規範的な問題点を分析した上で、自らの主張を根拠づけて論じるものになります。具体的なレポート課題や採点ポイントは、第 14 回の授業で詳しく説明します。平常点は、毎回の授業に対するコメントペーパーと普段の聴講態度とを考慮して判断します。

【学生の意見等からの気づき】

(1) 授業中にコメントペーパーを書く時間を取ってほしいという意見があったため、授業の最後の 15 分間をコメントを考える時間にあてます。

(2) 内容が難しかったという意見があった一方で、具体例に即した説明が分かりやすかったという意見もあったため、具体例を多用して分かりやすく説明するように心がけます。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムに授業のための資料をアップロードします。また、毎回の課題提示と提出は学習支援システムを介して行います。そのため、学習支援システムを利用するための情報通信環境が必要となります。

【その他の重要事項】

秋学期の社会思想 II では、春学期の社会思想 I（本授業）の内容を踏まえて、現代の様々な社会的課題について考察します。社会思想 I のみの履修でも意義があるような講義を行います。春学期・秋学期を合わせた履修を推奨します。また、社会思想 I で学ぶことのイメージがつかみにくい場合は、実践編である社会思想 II のシラバスを参照してください。

※火曜日 4 時限目および水曜日 2 時限目の社会思想 I（授業コード：Q2215、Q2211）と基本的に同内容になります。ただし、冒頭の 20 分で行うコメントへの応答は異なる内容になります。

※社会思想 LA（春学期：Q2401、秋学期：Q2403）では、規範的な政治理論の観点から能力主義を検討する発展的な授業を行います。合わせて履修してもらえると嬉しいですよ。

【Outline (in English)】

《Course outline》

Students study modern political philosophy (normative political theory) in this course. It aims to construct a conception of a just society by examining values or ideals related to policies, institutions, and practices. These values or ideals include liberty, equality, fairness, etc. In the Spring semester, we discuss various conceptions of a just society, such as utilitarianism, libertarianism, and liberal egalitarianism. After learning and examining them, students can construct their conception of a just society, thereby critically evaluating our society's policies, institutions, and practices.

《Learning objectives》

The goals of this course are the followings:

-1. To understand and evaluate various conceptions of a just society.
-2. To evaluate our society's policies, institutions, and practices critically.

-3. To construct your own conception of a just society.

《Learning activities outside of classroom》

Students will be expected to complete the required assignments after each class meeting. You are recommended to study more than four hours for a class by the standard set by the Japanese government.

《Grading Criteria/Policies》

Your overall grade in the class will be decided based on the following standards:

-1. Required assignments after each class: 30%
-2. Term-end report: 70%

SOS100LA

社会思想Ⅱ

2017年度以降入学者

洪 貴義

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 4/Mon.4

単位数：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業ではイギリスの作家であるジョージ・オーウェルの思想を学ぶ。1903年から1950年まで生きたオーウェルは植民地経験、スペイン内戦、第二次世界戦争、その後の東西対立という20世紀の主要な思想課題を経験し、その中から多くのエッセイを書き残している。この授業ではオーウェルのエッセイを読解しながら、その主題である植民地経験、従軍経験、政治におけるフェイク、大衆文化について考え、現代に生きるオーウェルについて学ぶことを目的としている。

【到達目標】

20世紀の世界史の概要を理解することができる。戦争や植民地経験の意味を理解することができる。エッセイを読解しながら、経験、政治、文化についてのオーウェルの思想を読みとることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

授業は講義形式で行う。各回の授業を進めるごとに毎週コメントを提出してもらい、それに対して授業の中でフィードバックしていく。（基本的には対面授業だが、特別な事情が生じた場合のみオンライン授業を行うこともある。）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の概要と目的、進め方、受講の仕方、成績評価の方法などについて説明
第2回	導入（1）	20世紀という時代の経験
第3回	導入（2）	オーウェルの生涯
第4回	エッセイ（1）	絞首刑・象を撃つ
第5回	エッセイ（2）	スペイン戦争回顧
第6回	エッセイ（3）	右であれ左であれ、わが祖国
第7回	エッセイ（4）	ナショナリズム
第8回	エッセイ（5）	政治と英語
第9回	エッセイ（6）	作家とリヴァイアサン
第10回	エッセイ（7）	探偵小説と現代文化
第11回	エッセイ（8）	英国におけるユダヤ人差別
第12回	エッセイ（9）	P・G・ウドハウス弁護
第13回	エッセイ（10）	イギリス料理・お茶
第14回	エッセイ（11）	生活文化

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。具体的には準備学習としてテキストの指定した箇所を事前に読んでおくこと、また復習としては講義内容を振り返り、参考文献を読み進めるなどのことができる。

【テキスト（教科書）】

第1回のガイダンス時に説明する。

【参考書】

その他の参考資料については授業中に説明、配布する。

【成績評価の方法と基準】

各授業後に提出するコメント10回分（50%）と期末レポート1回分（50%）によって成績評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【Outline (in English)】

The purpose of this class is to read Orwell's essays while thinking about the subjects of colonial experience, military experience, fakes in politics, and popular culture, and to learn about Orwell living in the present age.

The standard time for preparation and review for taking classes is two hours each. Specifically, it is possible to read the specified parts of the text in advance as preparation study, and to review the lecture contents and read the reference materials as review.

Grades will be evaluated based on 10 comments (50%) submitted after each class, plus one final report (50%).

SOS100LA

社会思想 I

2017 年度以降入学者

熊沢 敏之

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 3/Mon.3

単位数：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

レトリックの戦後批評史——レトリックはたんなる文飾ではなかった。人はレトリックによって、思考の枠組みを形づくるのではない。とりわけ言論の自由が奪われていた戦中期、多くの文学者や批評家がレトリックを駆使して作品を書いた。秘匿しながら開陳するその文体は、戦後世界で大きく開花し、すぐれた作品を数多く生み出すことになる。高等学校のテキストから選り抜いた、もう一つの「文章講読」講義。

【到達目標】

いまや古典となりつつある基本的な戦後批評の文献を概観しながら、社会と思想とメディアの機能について「批評的」「根源的」に考える力を培う。また、批評の興亡を通時的に見極めることで、現代の思想状況に対しても主体的に、根拠を示しながら判断・評価することができるようになる。こうした読書と研究の実践によって、批評意識をもった社会人へと成長する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

配布テキストの精読と、パワーポイントによる解説を中心に講義する。講義のレジュメとパワーポイントの内容は、授業の前に《Hoppii》（学習支援システム）の「教材」に掲げる。各回の授業で出された「課題」のなかから優秀なもの、視点の面白いもの、鋭い質問等を次回以降の授業で発表し、フィードバックとする。受講学生数が一定以下ならば、こうした双方向性をもつ授業を各回ごとに行うことができる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション：授業の概観	授業の進め方を提示しながら、批評的文章を読むことの意義を再確認する。
2	はじめに：レトリックに何ができるのか？	レトリックがたんなる技術ではなく、思想の枠組みの形成にかかわることを確認する。
3	「墮落」のすすめ：坂口安吾（1906-55 年）	戦後世界にとどろいた無頼派の逆説的な宣言は、多くの人々の喝采を受けた（「墮落論」1946 年）。
4	演じられる「弱さ」：太宰治（1909-48 年）	自意識との葛藤を作品化した作家が、パロディに託したものは何だったのか？（「癩取り」1945 年）。
5	「饒舌」体の反骨：石川淳（1899-1987 年）	膨大な知識と教養に裏打ちされた作家の創作の秘密を、独自の文章で読み解く（「文章の形式と内容」1940 年）。
6	「警句（アフォリズム）」の快楽：小林秀雄（1902-84 年）	短く言い切ることで数々の名言を残した批評家の文章を堪能する（「無常という事」1942 年）。

7	プロレタリア文学の「側面」：中野重治（1902-79 年）	言い切らない表現の奥に見える人間性と、強靱な精神の在り処を探る（「ささやかな記憶」1957 年）。
8	「反語（イロニー）」を生きる思想：林達夫（1896-1984 年）	戦時下に反語的順応主義を貫いた編集者の真の意図とは何だったのか？（「反語的精神」1946 年）。
9	「仮託」という目くらまし：花田清輝（1909-79 年）	目くるめくような知識と韜晦の後ろに隠されていた真理を見極める！（「極大・極小——スウィフト」1942 年）。
10	「たとえ話」で問う真の文学：福田恆存（1912-94 年）	左翼的な論調が幅を利かすなか、孤高の保守を貫いた思想家の寓意と文学観（「一匹と九十九匹と」）。
11	「比喩」の政治学：丸山眞男（1914-96 年）	卓抜な比喩を用いて戦後世界に風雲を巻き起こした政治学のスターの一面（「肉体文学から肉体政治まで」1949 年）。
12	「転向」したのか、しないのか？：清水幾太郎（1907-88 年）	急進的なマルクス主義からの転向は、社会学書のなかで秘かに行われていた（「レジャー」1966 年）。
13	「美」に殉じる生：三島由紀夫（1925-70 年）	耽美的な作品から軍事的組織の結成まで、理念を肉体化した文学者の独白に迫る（「重症者の兇器」1948 年）。
14	まとめ：授業全体の総まとめ	レトリックが生み出した「真実」とは何か？ レトリカルな文章が潰えてしまったのはなぜか？

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業のレジュメを熟読し、各回の「課題」に答える。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

取り扱う思想家および文献が多岐にわたるため、テキスト（教科書）は指定しない。必要なものは適宜抜粋してコピーを配布する。

【参考書】

坂口安吾『墮落論・日本文化私観 他二十二篇』（岩波文庫、2008 年）
 太宰治『お伽草紙・新釈諸国断』（岩波文庫、2004 年）
 『石川淳評論選』（ちくま文庫、2007 年）
 小林秀雄『モオツァルト・無常という事』（新潮文庫、1961 年）
 『中野重治評論集』（平凡社ライブラリー、1996 年）
 『林達夫評論集』（岩波文庫、1982 年）
 花田清輝『復興期の精神』（講談社文芸文庫、2008 年）
 福田恆存『保守とは何か』（文芸学芸ライブラリー、2013 年）
 『丸山眞男セレクション』（平凡社ライブラリー、2010 年）
 清水幾太郎『現代思想』上・下（岩波全書、1966 年）絶版
 三島由紀夫『小説家の休暇』（新潮文庫、1982 年）

【成績評価の方法と基準】

成績評価は各回の授業の「課題」へのレスポンス（30 点）および期末レポート試験（70 点）で行う。講義内容の把握の度合いと思考力の深度、および文章表現の的確さについて判定する。

【学生の意見等からの気づき】

戦後すぐ（70 年以上前）の文章を読むことから始めるので、最初の数回は文体に慣れるのに少し苦勞するかもしれない。

【学生が準備すべき機器他】

《Hoppii》（学習支援システム）に教材・課題掲げるので、アクセスダウンロードできるような準備をしてほしい。

【Outline (in English)】

Course outline: The History of Rhetorical Criticism in the Postwar Period—Rhetoric is not just a technique for decorating a text, but a means of shaping the framework of thought. Especially during the war years, when freedom of speech was deprived, many writers and critics used rhetoric to write their works. This style of writing, which is secretive and open, flourished in the postwar world and produced many outstanding works. This lecture will be a fresh and interesting "reading of texts" selected from high school textbooks.

Learning Objectives: By reading basic postwar criticisms, which are now becoming classics, you will be able to think critically and fundamentally about society, thought and media under capitalism. In addition, by learning the history of capitalism, it will be possible to judge and evaluate the current ideological situation on grounds. By doing these critical readings, you will be a critically conscious member of society.

Learning activities outside of classroom: Read the class resume carefully and answer the assignments for each session. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Grading Criteria /Policy: Grading will be based on responses to the assignments in each class (30 points) and the final report exam (70 points). Students will be judged on their understanding of the lecture content, depth of thinking ability, and accuracy of written expression.

SOS100LA

社会思想Ⅱ

2017年度以降入学者

熊沢 敏之

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 3/Mon.3

単位数：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

資本主義のバリ解読——19世紀のパリでは、成熟を始めた資本主義のもとで、ヨーロッパ随一の大都市文化が花開こうとしていた。20世紀最高の思想家ヴァルター・ベンヤミンは、変貌するパリの根源的意味を問おうと、「パリ——十九世紀の首都」を書いた。この優れたエッセーを精読しながら、19世紀パリに展開したさまざまなイメージを復元し、芸術・思想の世界と技術・商品の世界がせめぎ合う、この変化の時代を思想史的に読み解いていく。

【到達目標】

20世紀最高のテキストを読み、社会と思想とメディアの機能、および文化と歴史の関連について、「批判的」「批評的」な思考を培うこと。とりわけ、論理とイメージが交錯する「エッセーの思想」の精髓に触れられるよう、パワーポイントの資料を見ながら忍耐強くテキストと向き合うこと。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

配布テキストの精読と、パワーポイントによる解説を中心に講義する。講義のレジュメとパワーポイントの内容は、授業の前に《Hoppii》(学習支援システム)の「教材」に掲げる。各回の授業で出された「課題」のなかから優秀なもの、視点の面白いもの、鋭い質問等を次回以降に発表し、フィードバックとする。受講学生の数が一定以下ならば、こうした双方向性をもつ授業を各回ごとに行うことができる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション／20世紀思想とユダヤ人	授業の進め方を提示しながら、あわせて概論として20世紀思想におけるユダヤ人問題を取り上げる
2	ベンヤミンのパリ	19世紀という変貌する時代における大都市パリの姿を提示し、加えてベンヤミンの伝記とその思想を概説する。
3	パリのパサージュ	パサージュのなかで絢爛たる消費文化が開花し、そこで芸術は商品に奉仕する（I「フーリエあるいはパサージュ」①）。
4	鉄の構成	鉄とガラスを用いた建築がパサージュや駅、博覧会場として史上初めて登場する（I「フーリエあるいはパサージュ」②）。
5	ユートピアのかたち	社会主義者フーリエはパサージュに触発され、具体的ユートピア像を構想する（I「フーリエあるいはパサージュ」③）。
6	パノラマから写真へ	パノラマ画の大流行の後を受けて写真が発明され、芸術観を一変させる（II「ダゲールあるいはパノラマ」）。

7	商品という幻像	商品の幻像を展示する万国博覧会と、商品を描くグランヴィルのイメージ世界（III「グランヴィルあるいは万国博覧会」）。
8	室内の痕跡	商品に抗うようにブルジョワジーの室内に蒐集品があふれ、そこから探偵小説が誕生する（IV「ルイ＝フィリップあるいは室内」）。
9	アレゴリカーの描くパリ①	遊歩者はパサージュを創作の場所に変える。詩人ボードレールもその一人だった（V「ボードレールあるいはパリの街路」①）。
10	アレゴリカーの描くパリ②	ボードレールはアレゴリーを用いて、パリという都市を初めて作品化する（V「ボードレールあるいはパリの街路」②）。
11	アレゴリカーの描くパリ③	新しさの永遠回帰が近代の本質となる。ボードレール『悪の華』の画期性（V「ボードレールあるいはパリの街路」③）。
12	パリ大改造	県知事オスマンのパリ改造計画が都市の姿を一新し、資本主義の世界が貫徹する（VI「オスマンあるいはパリケード」①）。
13	オスマン対コミュニケーション	広い街路にパリケードが造られ、パリ・コミュニケーションの夢が一瞬だけ実現するが……（VI「オスマンあるいはパリケード」②）。
14	夢と覚醒の精神史／まとめ	芸術・思想の世界と技術・商品の世界がせめぎ合う変化の時代は、私たちに何を語りかけているか？

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業のレジュメを熟読し、各回の「課題」に答える。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

ヴァルター・ベンヤミン「パリ——十九世紀の首都」（浅井健二郎編訳『ベンヤミン・コレクション1』ちくま学芸文庫、1995年、所収）を主に使用する。

【参考書】

引用文献は多岐にわたるため、適宜、コピーを配布する。

【成績評価の方法と基準】

成績評価は各回の授業の「課題」へのレスポンス（30点）および期末レポート試験（70点）で行う。講義内容の把握の度合いと思考力の深度、および文章表現の的確さについて判定する。

【学生の意見等からの気づき】

講読するテキストは短いものだが、多彩な内容が取り上げられているので、難易度は低くない。

【学生が準備すべき機器他】

《Hoppii》(学習支援システム)に教材・課題を掲げるので、アクセスダウンロードできるような準備をしてほしい。

【Outline (in English)】

Course outline: In 19th century Paris where capitalism was beginning to mature, the best metropolitan culture in Europe was about to blossom. Walter Benjamin, one of the greatest thinkers of the 20th century, wrote "Paris: Capital of the Nineteenth Century" to find the true meaning of Paris which continued to change. Carefully reading this excellent essay, we restore various images developed in Paris at the time to understand the era of changes in which the world of art and thought competed with that of technology and commodities as a history of thought.

Learning Objectives: By reading the work of Walter Benjamin, which are now becoming classics, you will be able to think critically and fundamentally about society, thought and media under capitalism. In addition, by learning the history of capitalism, it will be possible to judge and evaluate the current ideological situation on grounds. By doing these critical readings, you will be a critically conscious member of society.

Learning activities outside of classroom: Read the class resume carefully and answer the assignments for each session. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Grading Criteria /Policy: Grading will be based on responses to the assignments in each class (30 points) and the final report exam (70 points). Students will be judged on their understanding of the lecture content, depth of thinking ability, and accuracy of written expression.

SOS100LA

社会思想 I

2017 年度以降入学者

村田 玲

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 4/Thu.4

単位数：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は、政治に関する哲学的思惟の発生から、近代的思惟への転換に至る過程を概観する。古典古代、ポリス社会において発生した思惟の伝統は、これ以降の西洋社会思想を根本的に規定するものであったと同時に、ポリス社会の基本性格を濃厚に反映するものであったことは疑いない。それゆえに、ポリス社会の崩壊と世界帝国の形成とともに一定の変容を被らざるにはいかなかったのである。ローマ人の征服事業により出現した地中海帝国は、これに先立つ古典古代の伝統を総合するのみならず、諸々の重要な点で、帝国崩壊後の中世キリスト教共同体の到来を予示するものであった。しかしながら政治に関する哲学的・理性的思惟は、やがては聖書宗教に拠る信仰共同体と深刻な緊張関係に陥るはずである。事実、中世キリスト教共同体の成熟に伴い、次第に「復興」する古典的諸学芸は、理論のみならず実践の領域においても、教会権力との熾烈な抗争を惹起するのである。当初、古典古代の「復興」として発火した巨大な精神運動が、いかにして前例なき新しさを帯びる近代的思惟を生み出すこととなったのか、それはおそらく世界歴史における最も興味深く、そして深刻な問題のひとつを提起することになるであろう。かかる社会思想の歴史の展開を概観することは、現代政治を論ずるにあたって留意すべき根本的諸論題、すなわち「善と正義」、「政治と宗教」、そして「政治権力」等々について、学生諸子が考察する機会となるはずである。

【到達目標】

本講義で概説される社会思想の歴史とは、本来の意味における「政治学」の歴史である。かつて「政治学」とは人間の事柄の秩序に関する学、すなわち社会科学そのものであった。また本講義で概説される社会思想の歴史とは、ソクラテス的な意味における「政治哲学」の歴史である。かかる「政治哲学」とは、あるべき秩序形成をめぐる哲学的諸問題の集成である。したがって本講義の目標は、履修者が①およそ社会科学の一般教養に該当する知識を習得したうえで、②「善とは何か」、「正義とは何か」等々の哲学的諸問題について思考できるようにすることで達せられる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

本授業は対面授業を基本とする。詳細については、逐次「学習支援システム」をつうじて伝達する。なお、質問に対するフィードバックは、授業の中で適宜行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	講義序論	社会思想の歴史と現代について若干の所見、および講義概説
2	政治哲学の起源①	ソクラテス問題、あるいは政治に関する哲学的思惟について
3	政治哲学の起源②	プラトンの対話篇、とくに『国家』および『法律』について
4	政治哲学の起源③	アリストテレスの『政治学』、そのプラトン批判について

5	世界帝国と思想①	ヘレニズム時代の哲学諸派、ならびに自然法思想について
6	世界帝国と思想②	キケロとセネカ、あるいは古典古代の衰亡について
7	世界帝国と思想③	アウグスティヌスの『神の国』と聖書宗教の勝利について
8	中世の政治思想①	イスラム世界とギリシア思想、信仰と哲学の関係について
9	中世の政治思想②	中世盛期、トマス・アキナスとスコラ学について
10	中世の政治思想③	ダンテとマルシリウス、イタリア諸都市の興亡について
11	文芸復興期の精神①	マキアヴェッリの『君主論』と近代政治哲学について
12	文芸復興期の精神②	トマス・モアと 16 世紀のユートピア思想について
13	文芸復興期の精神③	近代科学の始動と世界像の刷新、社会思想の変容について
14	講義総括	社会思想の歴史的研究の意義について若干の所見

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

すくなくとも指定した教科書の次回授業範囲を熟読しておくこと。なお、社会思想の歴史を学習する最善にして、おそらく唯一の真なる方法は、履修者みずからが偉大な古典文献をひも解くほかにないことを付言しておく。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

宇野重規『西洋政治思想史』（有斐閣、2013 年）本体 1700 円。なお、毎回授業時にはレジュメを配布する。

【参考書】

川出良枝・山岡龍一『西洋政治思想史』（岩波書店、2012 年）本体 2900 円。その他、有益な参考文献については、随時、授業時に紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業への参加：20 %
複数回の小レポート：30 %
期末レポート：50 %

【学生の意見等からの気づき】

可能な限り、学生との積極的なコミュニケーションをはかる。

【学生が準備すべき機器他】

なし

【その他の重要事項】

なし

【Outline (in English)】

This course is designed to help students understand some aspects of the history of political philosophy from the ancient Greece to the Renaissance Italy. The origin of philosophical meditation on “the order of the human things” is the life of Socrates. The classical political philosophy formed by his successors seemed to be subverted through the collapse of the ancient world and the triumph of the Biblical religion. However, with the opening of Renaissance age, the heritages of the classical antiquity, which were preserved in the Islamic world, revived the great tradition of political philosophy in the Western world. It was the revival of ancient civilization that marked the beginning of the modern West. The philosophical tradition, that hugely changed its orientation as a result of mediation of Biblical religion, organized the axioms of modern politics (liberal democracy). The historical process of the reformation and mutation could raise one of the most urgent and crucial problems which must be reflected by the students of social science in our time. Students are required to prepare for the assigned part of the designated textbook for each class. Students are evaluated on their class participation(20%), submitted assignments(30%) and the final report(50%).

SOS100LA

社会思想Ⅱ

2017年度以降入学者

村田 玲

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 4/Thu.4

単位数：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は、宗教改革によるキリスト教共同体の分裂から、主権国家体制の成立、市民革命を経て、現代政治に至る西洋社会思想の過程を概観する。その過程を理解することは、現代世界の成立史の一側面を理解することを意味している。宗教改革によるヨーロッパ世界の動乱は、諸々の世俗権力の自立、ならびに資本主義の精神の発生を促したことがしばしば指摘される。宗派対立を収拾する要請から構想された主権の観念は、官僚制と常備軍に支えられた絶対王権によって具体化された。世襲王権のもとに集中した権力が、次第に台頭する市民階級によって奪取されるが市民革命であるが、ここにおいて銘記すべきであるのは、絶対王政から現代政治に至るまでの主権の観念の連続性である。主権国家体制にかわる世界政治の枠組みが構想される現在、まずもって主権国家体制の生成過程に関する理解が深められなくてはならない。また現代のリベラル・デモクラシーの基本性格のみならず、その諸々の問題点は、近代国家の発達史に関する理解もって把握されなければならないのである。ついで二〇世紀末年の規範理論の復権が、社会思想の歴史において帯びている意義について付言して本講義を結ぶ。かかる政治思想史の展開を概観することは、現代政治を論ずるにあたって留意すべき根本的諸論題、すなわち「寛容」、「権力批判」、そして「公共性」等々について、学生諸子が考察を深める機会となるであろう。

【到達目標】

本講義で概説される社会思想の歴史とは、本来の意味における「政治学」の歴史である。かつて「政治学」とは人間の事柄の秩序に関する学、すなわち社会科学そのものであった。また本講義で概説される社会思想の歴史とは、ソクラテス的な意味における「政治哲学」の歴史である。かかる「政治哲学」とは、あるべき秩序形成をめぐる哲学的諸問題の集成である。したがって本講義の目標は、履修者が①およそ社会科学の一般教養に該当する知識を習得したうえで、②「権力とは何か」、「公共性とは何か」等々の哲学的諸問題について思考できるようにすることで達せられる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

本授業は対面授業を基本とする。詳細については、逐次「学習支援システム」をつうじて伝達する。なお、質問に対するフィードバックは、授業の中で適宜行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	講義序論	社会思想の歴史と現代について若干の所見、および講義概説
2	宗教改革の思想①	ルターとカルヴァン、カトリック教会分裂の思想的契機について
3	宗教改革の思想②	宗教改革の政治的帰結、ならびに王権神授説について
4	近代国家の形成①	宗教戦争の時代、ボダンの『国家論』と主権の概念
5	近代国家の形成②	ピューリタン革命とホッブズの『リヴァイアサン』について

6	市民革命の理論①	ロックの『統治二論』とイギリス名誉革命体制について
7	市民革命の理論②	ルソーの『社会契約論』、ならびに人民主権論について
8	市民革命の理論③	バークの『フランス革命の省察』、保守主義の近代について
9	自由主義と社会主義①	スミスの『国富論』から功利主義へ、自由概念の変容について
10	自由主義と社会主義②	マルクスの『共産党宣言』、ならびに社会主義の展開について
11	自由主義と社会主義③	ケインズ経済学と現代福祉国家、社会民主主義について
12	現代政治①	20世紀のアメリカ政治学、科学的政治学の思想的基礎
13	現代政治②	ロールズの『正義論』ほか瞥見、政治哲学の復権について
14	講義総括	社会思想の歴史的研究の意義について若干の所見

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

すくなくとも指定した教科書の次回授業範囲を熟読しておくこと。なお、社会思想の歴史を学習する最善にして、おそらく唯一の真なる方法は、履修者みずからが偉大な古典文献をひも解くほかにないことを付言しておく。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

宇野重規『西洋政治思想史』（有斐閣、2013年）本体1700円。なお、毎回授業時にはレジメを配布する。

【参考書】

川出良枝・山岡龍一『西洋政治思想史』（岩波書店、2012年）本体2900円。その他、有益な参考文献については、随時、授業時に紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業への参加：20%
複数回の小レポート：30%
期末レポート：50%

【学生の意見等からの気づき】

可能な限り、学生との積極的なコミュニケーションをはかる。

【学生が準備すべき機器他】

なし

【その他の重要事項】

なし

【Outline (in English)】

This course is designed to help students understand some aspects of the history of political philosophy from the Renaissance to the 20th century. The origin of philosophical meditation on “the order of the human things” is the life of Socrates. The classical political philosophy formed by his successors seemed to be subverted through the collapse of the ancient world and the triumph of the Biblical religion. However, with the opening of Renaissance age, the heritages of the classical antiquity, which were preserved in the Islamic world, revived the great tradition of political philosophy in the Western world. It was the revival of ancient civilization that marked the beginning of the modern West. The philosophical tradition, that hugely changed its orientation as a result of mediation of Biblical religion, organized the axioms of modern politics (liberal democracy). The historical process of the reformation and mutation could raise one of the most urgent and crucial problems which must be reflected by the students of social science in our time. Students are required to prepare for the assigned part of the designated textbook for each class. Students are evaluated on their class participation(20%), submitted assignments(30%) and the final report(50%).

ECN200LA

経済学 L A

2017 年度以降入学者

サブタイトル：ミクロ (マイクロ) 経済学とマクロ経済学の基礎
理論を速習する

中平 千彦

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 3/Fri.3

単位数：2 単位

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

*第 1 回講義の形態は学習支援システム (Hoppii) にログインして『経済学 LA』(担当:中平)内にある「お知らせ」で確認してください。第 2 回からは、通常の教室講義になります。

この講義は、春学期開講『経済学 LA』(担当:中平)です。この講義で学んだ内容は、秋学期開講『経済学 LB』(担当:中平)に接続されます。

受講生の皆さんは、「経済学」に対してどのような印象を持っているでしょうか？ 経済学は、我々の形成する社会で観察される、経済主体の活動や相互依存関係によって導かれた多様な経済問題を分析し、その中に存在する経済法則を究明することによって、望ましい社会的経済厚生を研究する学問です。あるいは、希少性を有する財・サービスの最適な選択と配分を、相互に競合する目的を考慮しながら決定し、また、その決定を行うための方法を研究する学問です。

春学期開講『経済学 LA』では、「ミクロ (マイクロ) 経済学」と「マクロ経済学」の基礎をコンパクトに解説し、受講生にそれらを速習してもらうことを目指します。

【到達目標】

・ミクロ (マイクロ) 経済学とマクロ経済学の理論的基礎を説明できるようになる。

・ミクロ (マイクロ) 経済学とマクロ経済学に関する基本的問題を、社会科学的に思考・表現することができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

経済理論を大別すると、「ミクロ (マイクロ) 経済学」と「マクロ経済学」に分類できます。「ミクロ (マイクロ) 経済学」は、個々の経済主体における最適化された行動を前提に、市場における経済主体間の相互関係、資源配分と所得分配の決定における市場機構の役割などを分析する、あるいは、いくつかの代表的な公理に依拠した最適化行動に基づき、個から市場、そして経済全体へとアプローチする研究分野です。一方、「マクロ経済学」は、消費者部門における消費、企業部門における投資と生産物供給、政府部門における財政支出と貨幣供給、貿易バランス、そして、それらの相互連関によって決定される国民所得、インフレーションと失業、景気変動などに着目し、経済全体についての集計変数における均衡水準と決定経路を分析する研究分野です。これらの 2 分野は相互補完的な関係にあります。例えば、「ミクロ (マイクロ) 経済学」において、個々の経済主体の最適な行動がマクロ経済にいかなる影響を与えるかを分析するには、「マクロ経済学」の理論が必要となります。また、「現代マクロ経済学」にとって「マクロ経済学のミクロ (マイクロ) 的基礎」は不可欠な要素となっています。

この講義では「ミクロ (マイクロ) 経済学」と「マクロ経済学」の基礎理論を学びますが、講義時間に余裕があれば、「ミクロ (マイクロ) 経済学」の理論と現実との関係、また、マクロ経済学や公共政策学のミクロ (マイクロ) 的基礎などのトピックも採り入れるよう努力します。

我々には、講義回数 14 回という厳しい時間制約が課されていますが、担当教員は、受講生諸氏が要領よくミクロ (マイクロ) 経済学とマクロ経済学の基礎項目を学ぶことができるよう努力し、また、この講義が、受講生各位における将来の発展的学習・研究に役立つものとなることを願っています。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

なし/No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 01 回	経済学の基本問題と経済システム	経済学の基本問題と市場の仕組み、経済システム
第 02 回	消費者と生産者の行動 (I)	選好と効用関数、需要関数
第 03 回	消費者と生産者の行動 (II)	生産技術と費用関数 (1)
第 04 回	消費者と生産者の行動 (III)	生産技術と費用関数 (2)、供給関数
第 05 回	市場均衡 (I)	完全競争市場と調整過程、余剰と比較静学
第 06 回	市場均衡 (II)	部分均衡と一般均衡、独占市場と独占的競争市場

第 07 回	経済厚生	市場の失敗、パレート効率性、厚生経済学の基本定理
第 08 回	国民所得分析の基礎	SNA、マクロ経済指標
第 09 回	消費関数	消費と消費関数
第 10 回	投資関数	投資と投資関数
第 11 回	有効需要と乗数理論	有効需要の原理、乗数効果
第 12 回	IS・LM 曲線と総需要曲線・総供給曲線	IS 曲線・LM 曲線および総需要曲線・総供給曲線による経済分析
第 13 回	インフレ需要曲線	インフレ需要曲線による経済分析
第 14 回	インフレ供給曲線	インフレ供給曲線による経済分析

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

・本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

・受講後にテキストやノートによって講義内容を復習してください。また、必要に応じて予習を行ってください。

【テキスト (教科書)】

・塩澤修平 (著)『基礎コース 経済学 (第 2 版)』新世社、2011 年。

【参考書】

- ・浅田統一郎 (著)『マクロ経済学基礎講義 (第 4 版)』中央経済社、2022 年。
- ・浅田統一郎 (著)『ミクロ経済学の基礎 (第 2 版)』中央経済社、2017 年。
- ・井原哲夫/桜本光/辻村和佑/牧厚志 (著)『経済学入門 - 現実の経済を理解するために (第 2 版)』日本評論社、2008 年。
- ・井堀利宏 (著)『入門経済学 (第 4 版)』新世社、2021 年。
- ・スティグリッツ、ジョセフ・E. /ウォルシュ、カール・E. (著)、藪下史郎/秋山太郎/齋川靖浩/大久博/木立力/宮田亮/清野一治 (訳)『スティグリッツ入門経済学 (第 4 版)』東洋経済新報社、2012 年。
- ・福岡正夫 (著)『ゼミナール経済学入門 (第 4 版)』日本経済新聞出版社、2008 年。
- ・マンキュー、N. グレゴリー (著)、足立英之/石川城太/小川英治/地主敏樹/中馬宏之/柳川隆 (訳)『マンキュー入門経済学 (第 3 版)』東洋経済新報社、2019 年。
- ・Bade, Robin and Michael Parkin, *Foundation of Economics* (9th ed.)(global edition, pap.), Pearson, 2022.
- ・Hirshleifer, Jack, Amihai Glazer and David Hirshleifer, *Price Theory and Applications: Decisions, Markets, and Information* (7th ed.)(pap.), Cambridge Univ. Press, 2005.
- ・Hubbard, R. Glenn and Anthony Patrick O'Brien, *Essentials of Economics* (6th ed.), Pearson, 2018.
- ・Hubbard, R. Glenn and Anthony Patrick O'Brien, *Economics* (8th ed.), Pearson, 2021.
- ・Krugman, Paul and Robin Wells, *Essentials of Economics* (6th ed.), Macmillan Learning, 2023.

【成績評価の方法と基準】

- ・[定期試験点 (90 %) + 平常点 (10 %) = 総合点 (100 %)] の評点配分で成績が決定されます。
- ・単位認定には規定数以上の出席が必要です。
- ・公式行事の参加や疾病などによるやむを得ない欠席は、原則として出席扱いとします。

【学生の意見等からの気づき】

- ・受講生による講義アンケートの結果は、講義内容を改善するための参考資料とします。

【学生が準備すべき機器他】

- ・特別な指定はありません。

【その他の重要事項】

- ・出席確認を行いますので注意してください。
- ・テキストは購入し、参考文献の購入は、必要性に応じて判断してください。
- ・本講義の趣旨は、アカデミックな経済学の基礎理論を平易に解説することですが、公務員、国税専門官、公認会計士、不動産鑑定士、中小企業診断士、ファイナンシャル・プランナーなどの、各種資格・就職試験で経済学を受験科目として選択する受講生にも配慮した解説を行います。

【オフィス・アワー】

- ・講義終了後、または、相談により個別の日程を設定。

【関連科目】

・秋学期のリベラルアーツ科目『経済学 LB』(担当:中平)、また、リベラルアーツ科目、あるいは各学部で開講されている科目で、経済学、統計学に関わるもの。

【Outline (in English)】

【Course outline】

* This course is designed to provide the student with an opportunity to understand the basic theory of microeconomics and macroeconomics. Generally, economic theory broadly divided into two parts - microeconomics and macroeconomics. Microeconomics focuses on decision making at the individual level, while macroeconomics studies the economy as a whole.

* This course is a comprehensive guide on how to get started with microeconomics and macroeconomics.

【Learning Objectives】

* Through this course, the students will be able to:

- explain the basic theories of microeconomics and macroeconomics;
- think and express basic issues of economics from the aspect of social science.

【Learning activities outside of classroom】

* Students will have normally 2 hours of preparation and review for each class.

* Students are expected to prepare for a class and to review what was learned in each class by the textbook or the lecture note as necessary.

【Grading Criteria/Policy】

*Final examination(90%) + Active Participation(10%) = Evaluation Score(100 %).

*Students must meet the minimum attendance requirements to get course credits.

*Absence due to unavoidable circumstances is regarded as equivalent to attendance in general.

ECN200LA

経済学 L B

2017 年度以降入学者

サブタイトル：応用経済学としての観光経済学を学ぶ

中平 千彦

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 3/Fri.3

単位数：2 単位

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、応用経済学の一分野としての「観光経済学」を学びます。観光経済学のトピックの中で、特に基本的フレームワークを形成する主要な項目を、ミクロ（マイクロ）経済学とマクロ経済学の理論に立脚して理解することを目指します。

【到達目標】

- ・観光経済学の基礎的事項を説明できるようになる。
- ・観光経済学に関する基本的問題をミクロ（マイクロ）・マクロ経済学理論に基づいて思考・表現することができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

観光経済学は、経済学理論に基づき、また、経済学の関連領域に属する学問を包含し、広義の観光活動を分析する、応用経済学の一種と位置付けられるものです。さらに、現代における広義の観光経済学は、観光客の支出決定、観光市場の構造、観光行動における意思決定、観光企業間の連携、観光による外貨発生効果と範囲、観光資源の貢献可能性、観光政策などを包括的に研究する分野となっています。

本講義では、観光の現状と課題、観光統計、投資理論、消費理論、消費者行動と観光、観光需要、観光サービス供給、観光市場の機能、観光市場の失敗、経済成長と観光、世界遺産と観光、我が国の観光と課題などの項目を学びます。なお、必要に応じて、公共経済学などの知識を補充し、学習内容の拡充を試みます。

我々には、講義回数 14 回という厳しい時間制約が課されていますが、担当教員は、受講生諸氏が要領よく観光経済学の基礎項目を学ぶことができるよう努力し、また、この講義が、受講生各位における将来の発展的学習・研究に役立つものとなることを願っています。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 01 回	観光の現状と課題、SNA と観光統計 (1)	観光のもたらす課題、SNA の概念と観光統計
第 02 回	SNA と観光統計 (2)	SNA の基本構造、サテライト勘定の意義と分類
第 03 回	観光市場の機能	市場需要曲線と市場供給曲線、市場均衡と市場調整、観光財・サービスの価格決定メカニズム
第 04 回	消費理論と観光 (1)	消費と消費関数、消費関数における短期と長期
第 05 回	消費理論と観光 (2)	消費決定の仮説、観光消費の性質
第 06 回	投資理論と観光 (1)	投資と投資の決定要因、限界効率と投資判断
第 07 回	投資理論と観光 (2)	投資の限界効率表と投資量の決定
第 08 回	消費者行動と観光 (1)	消費者行動と需要曲線、観光サービスの対象と選択
第 09 回	消費者行動と観光 (2)、観光需要	観光需要と弾力性、観光需要の実際
第 10 回	観光サービス供給	観光サービス供給、観光市場の構造
第 11 回	観光市場の失敗	市場の失敗と観光分析
第 12 回	公共財とコモンプール財	公共財、コモンプール財と資源の過剰利用
第 13 回	観光成長と観光	インバウンド市場とアウトバウンド市場、観光発展の将来
第 14 回	世界遺産とエコツーリズム、観光の課題と将来	世界遺産の基礎知識、エコツーリズムの事例と課題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。
- ・受講後にテキストやノートによって講義内容を復習してください。また、必要に応じて予習を行ってください。

【テキスト（教科書）】

・中平千彦/藪田雅弘（編著）『観光経済学の基礎講義』九州大学出版会、2017 年。

【参考書】

- ・M.T. シンクレア/M. スタブラー（著）、小沢健市（監訳）『観光の経済学』学文社、2001 年。
- ・ジェームズ・マック（著）、瀧口/藤井（監訳）『観光経済学入門』日本評論社、2005 年。
- ・スティーブン・J. ページ（著）、木谷/松下/図師（訳）『交通と観光の経済学』日本経済評論社、2001 年。
- ・A. ブル（著）、諸江/吉岡/菊池/小沢/原田/池田/和久井（訳）『旅行・観光の経済学』文化書房博文社、1998 年。
- ・山内/山本/山崎/川口（編）『観光経済学：理論とデータで学ぶ』有斐閣、2022 年。
- ・Bull, Adrian(1995), *The Economics of Travel and Tourism* (2nd revised ed.), Longman.
- ・Dwyer, Larry, Forsyth, Peter, and Wayne Dwyer(2020), *Tourism Economics and Policy* (2nd ed.), Channel View Books.
- ・Hall, C. Michael and Allan M. Williams(2019), *Tourism and Innovation* (2nd ed.), Routledge.
- ・Sharpley, Richard(2006), *Travel and Tourism*, SAGE Publications.
- ・Stabler, Mike J., Papatheodorou, Andreas., and M. Thea Sinclair(2009), *The Economics of Tourism* (2nd ed.), Routledge.
- ・Sullivan, Charlotte(ed.)(2016), *Leisure and Tourism Economics*, Willford Press.
- ・Tribe, John(2020), *The Economics of Recreation, Leisure and Tourism* (6th ed.), Routledge.
- ・Vanhove, Norbert(2022), *The Economics of Tourism Destinations* (4th ed.), Routledge.

【成績評価の方法と基準】

- ・[定期試験点 (90 %) + 平常点 (10 %) = 総合点 (100 %)] の評点配分で成績が決定されます。
- ・単位認定には規定数以上の出席が必要です。
- ・公式行事の参加や疾病などによるやむを得ない欠席は、原則として出席扱いとします。

【学生の意見等からの気づき】

- ・受講生による講義アンケートの結果は、講義内容を改善するための参考資料とします。

【学生が準備すべき機器他】

- ・特別な指定はありません。

【その他の重要事項】

- ・出席確認を行いますので注意してください。
- ・テキストは購入し、参考文献の購入は、必要性に応じて判断してください。

【オフィス・アワー】

- ・講義終了後、または、相談により個別の日程を設定。

【関連科目】

- ・春学期のリベラルアーツ科目『経済学 LA』（担当：中平）、また、リベラルアーツ科目、あるいは各学部で開講されている科目で、経済学、統計学に関わるもの。

【Outline (in English)】

【Course outline】

*The aim of the course is to provide students with an opportunity to gain and enhance the knowledge of tourism economics. Namely, this course is designed to provide a basic understanding of the scientific approaches to economics of tourism, particularly in the field of economic theory.

*In this course, you will learn how the microeconomics and macroeconomics are applied to the analysis of tourism.

【Learning Objectives】

- * Through this course, the students will be able to:
 - explain the fundamental problems of tourism economics;
 - think and express basic issues of tourism economics from the aspect of microeconomics and macroeconomics.

【Learning activities outside of classroom】

* Students will have normally 2 hours of preparation and review for each class.

* Students are expected to prepare for a class and to review what was learned in each class by the textbook or the lecture note as necessary.

【Grading Criteria/Policy】

*Final examination(90%) + Active Participation(10%) = Evaluation Score(100 %).

*Students must meet the minimum attendance requirements to get course credits.

*Absence due to unavoidable circumstances is regarded as equivalent to attendance in general.

ECN200LA

経済学 L A

2017 年度以降入学者

サブタイトル：

鈴木 誠

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 1/Tue.1

単位数：2 単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は金融をこれまで学んだことのない学生向けに、経済学における金融に焦点を当てた授業を行う。大学生として、卒業後の社会人として、金融に触れずに過ごすことは困難である。春学期の授業では、経済学における金融の意味と金融で利用される言葉やその意味、さらに計算方法などを身に付け、生活の上で、金融のリテラシーを身に付けることを目指す。

【到達目標】

この授業では、金融リテラシーを身に付けるために、1、歴史的な金融の発展、2、身近な金融活動の発見、3、金融の意義と意味、4、自ら金融取引を確認する、ことを学ぶ。金融の知識は不要と考える人もいだろう、しかし、卒業後、家を購入する、保険に入る、ローンを組む、年金資産運用するなど、金融知識がすぐにも必要となってくる。必要な時に備えて、今、これらの知識を準備する。春学期の目標は、一般の新聞に書かれている経済面の金融に関する記事を読んで、理解できる水準への到達である。

ただし、金融は奥が深く、春学期の授業はその入り口に立ったに過ぎない、さらに、一歩踏み出した議論は、秋学期に行いたいと考えているので、履修する学生には春と秋の履修を勧めたい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

感染がおちついてきたので対面による授業として実施する。ただし、履修生の皆さんには資料を配信し、各自で理解を深めてもらうように配慮する。なお、配布する資料は教科書と合致しない部分がある。理解する目的は同じであっても、履修する皆さんにとって理解のしやすい方法で、あるいは、理解できる段階から説明することを心掛けて作成しているためである。また、皆さんには出席に代えた「クイズ」を出して、重要な点の理解を図るようにしたいと考えている。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	授業内容の紹介、歴史的な経済活動の発展	本授業の進め方、評価についての解説、人類の経済活動の発展と経済行動における工夫や発明
2	身近にみる金融商品や金融活動	日ごろの生活で利用される金融商品や金融活動について詳しく学ぶ
3	金融取引と必要な知識	銀行における取引について考える、また、その際に必要とされる知識について学ぶ
4	評価する、価値を測る（第 1 章、第 2 章）	金融活動において、将来の価値や現在の価値を測ることが重要となる。その方法を学ぶ
5	企業における金融取引、債券と株式の発行と投資	企業が発行する債券と株式について学ぶ。特にその違いについて理解を深める。
6	債券の評価（第 3 章）	債券の価格をどのように求めるか、その方法を学ぶ

7	債券投資の理論（第 10 章）	債券を運用する際の基礎となるデュレーションについて意味と計算方法を学ぶ。
8	債券投資の理論（第 10 章）続き	債券ポートフォリオのデュレーションとイミュニゼーションについて学ぶ
9	中間テスト	第 1 講から第 8 講までの内容の理解を確認する。
10	確率変数の基礎知識（第 11 章）とポートフォリオ理論（第 12 章）	期待値や標準偏差など統計値の計算方法を確認する。ポートフォリオ理論の導入を図る。
11	投資理論（第 12 章と第 13 章）	2 資産からなる危険資産によるポートフォリオを構築する。ポートフォリオ理論を発展させ CAPM について学習する
12	コーポレートファイナンス①（第 7 章）	企業の資金調達について検討する。
13	コーポレートファイナンス②（第 7 章）	企業の資金調達におけるモジリアニニミラーの定理（MM 理論）を学習する。
14	期末試験	Hoppi 上でこれまで学習した範囲の試験を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。特に力を入れてほしいのは、復習と日ごろの生活での習慣である。復習はしっかりと自分の頭で考えたり、計算をしてほしい。目で見ただけでは利用することはできない。日々の生活では、ニュースを見る、新聞を読む、30 分でも日々の生活で経済事象を知ることが、授業を受ける上で大きなきっかけとなる。

【テキスト（教科書）】

手嶋宜之著「基本から本格的に学ぶ人のためのファイナンス入門」ダイヤモンド社
ISBN:978-4-478-01630-5

【参考書】

必要に応じて授業内で紹介する。

【成績評価の方法と基準】

成績評価は次の 3 つの項目に基づいて行う。1、各回の授業に付随するクイズ（20 %）、2、第 8 回に実施する中間テスト（40 %）、3、第 15 回に実施する期末テスト（40 %）である。中間試験と期末試験は授業期間内で行う。また、各回のクイズは Hoppi 上で提示される。なお、クイズは毎回実施するとは限らない。成績評価は以下の通りである。S:特に優れた成績である者、概ね 90 % 以上、A:優れた成績であるもの、概ね 80 % 以上、B:秀でた成績である者、概ね 70 % 以上、C:平均的な水準である者、概ね 60 % 以上、D:基準に満たない者。

【学生の意見等からの気づき】

資料配布だけでは関心が希薄となりがちであるので、必要に応じてオンデマンド映像を作成して、要点を理解できるようにしたい。

【学生が準備すべき機器他】

関数電卓があるとよい。ない場合にはスマートフォンに付帯されている計算機能（関数電卓）を利用するとよい。ただし、中間と期末試験の際にはスマホの計算機能は利用できないので注意。

【その他の重要事項】

新聞やニュースを通して、日々、経済や金融の情報に触れることが望ましい。なお、本授業の講師はファイナンスの実務経験を通算 20 余年有している。うち、10 年は米国ニューヨークで勤務し、ノーベル経済学受賞者との共同研究、米国著名大学大学院修了（MBA）している。実務経験を授業に反映させる予定である。

【Outline (in English)】

This class focuses on finance in economics for students who have never studied finance before. As a university student and a member of society after graduation, it is difficult to spend time without touching finance. In the spring semester class, students will learn the meaning of finance in economics, the words used in finance, their meanings, and calculation methods, and aim to acquire financial literacy in their daily lives.

A "Finance" is indispensable in daily transactions. In the class, we study theories and systems related to financial transactions, but it is also very important to learn about the relationship between finance and the economy through daily news and newspaper reports. I hope that students will pay attention to financial information outside of class hours.

Grading for students will consist of two parts: 80% will be based on mid-term and final exams. 80% will be based on mid-term and final exams, and 20% will be based on class participation and quizzes/assignments. A grade of "S" is given to students who have achieved 90% or more in all grades, "A" is given to students who have achieved 80% or more, "B" is given to students who have achieved 70% or more, and "C" is given to students who have exceeded the minimum passing grade. Students who fail the course will receive a grade of "D". This evaluation method is in accordance with the Hosei University evaluation standards.

ECN200LA

経済学 L B

2017 年度以降入学者

サブタイトル：

鈴木 誠

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 1/Tue.1

単位数：2 単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は主として金融の「入門レベル（経済学 LA）」を学んだ学生向けに、広く、深く金融を学習することを目的としている。したがって、金融システム、金融制度など幅広く経済学における金融に焦点を当てた授業を行う。大学生として、卒業後の社会人として、金融に触れずに過ごすことは困難である。しっかりと金融知識を身に付けてほしい。

【到達目標】

この授業では、金融リテラシーを身に着けるために、1、歴史的な金融の発展、2、身近な金融活動の発見、3、金融の意義と意味、4、自ら金融取引を確認する、ことを学ぶ。金融の知識は不要と考える人もいだろう、しかし、卒業後、家を購入する、保険に入る、ローンを組む、年金資産運用するなど、金融知識がすぐにでも必要となってくる。必要な時に備えて、今、これらの知識を準備する。秋学期の目標は、経済専門の新聞に書かれている経済面の金融に関する記事が読んで、記事の内容が概ね理解できることを目標としたい。経済専門紙の記事を完璧に理解できる水準は金融業界に身を置かない限り、困難である。本講座は、入門レベル（経済学 LA）を経て、金融基礎知識を固める初級レベルの水準に達することを目標に掲げたい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

原則として対面で授業を実施する。ただし、感染状況によりオンライン（オンデマンド）で実施する場合もある。対面授業ではあるが、履修生の皆さんには資料を Hoppii 経由で配信し授業で教科書とともに使用する予定である。ファイナンスは自分で理解する上で問題を解くことが重要である。そこで、授業内容により学習後にクイズ（試験ではない）を行い、理解を深めるようにしたい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	利率率、将来価値、現在価値（第 1 章）	単利と複利、現在価値・将来価値を計算する、複利利回りの種類を知る。今学期から参加した学生にも理解しやすいように経済学 LA の内容を一部復習する。
2	債券入門（第 2 章）、債券分析の基礎（第 3 章）①	最終利回り、債券投資のリスクについて学ぶ。（経済学 LA の復習、一部あり）
3	債券分析の基礎（第 3 章）②	デュレーション分析、イールドカーブ分析、債券の投資方法について学習する。
4	ポートフォリオ理論入門①（第 8 章）	経済学 LA においてファイナンスで利用する基礎統計学は学習しているので、その前提で 2 つの危険資産によるポートフォリオを作成する。

5	ポートフォリオ理論入門②（第 8 章）	安全資産を組み入れた場合のドミナントな組み合わせを考える。CAPM の導出を行う。（一部経済学 LA の復習あり）
6	株式入門（第 4 章）①	株式とは、株式発行市場、流通市場、配当割引モデルの紹介
7	株式入門（第 4 章）②	配当割引モデル応用、株価評価の指標、
8	中間試験	これまでに学習した内容をテストする。60 分間。
9	デリバティブズ	先渡し取引、先物取引の市場、取引の仕組み、価格の計算方法と利用について学習する
10	先物入門（第 5 章）	先物取引の仕組みと裁定取引を学習する。
11	オプション入門①（第 6 章）	オプションの基本的な仕組みと性質の紹介、オプション市場、オプション取引の仕組みを学習する。
12	オプション入門②（第 6 章）	オプションを用いた投資戦略、バイノミアル（二項価格評価）モデルによるオプション価値の推定する。
13	効率的市場仮説（第 11 章）	市場モデルと CAPM の類似点と相違点を整理する。市場の効率性について学習する。
14	期末試験	学習した範囲（第 1 回から第 13 回まで）の試験を行う。授業内で実施する。60 分間

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。春学期より少しだけレベルが上がった内容となるので、授業の資料を読む前に関連する該当箇所を読んでおくと、理解の助けとなる。さらに、授業後に、もう一度同じ箇所を読み直すとう理解が深まる。また、必要な計算は必ず手を動かしてやってほしい。資料やテキストを読んでいても、自分の力にはならない。また、日常的に新聞やニュースに触れて、金融に関する言葉を利用する場面を知ってほしい。

【テキスト（教科書）】

岸本直樹、池田正幸「入門・証券投資論」有斐閣ブックス、ISBN:978-4-641-18447-3

【参考書】

手嶋宣之「ファイナンス入門」ダイヤモンド社、ISBN:978-4-478-01630-5

大村敬一・俊野雅司「証券論」有斐閣、ISBN:978-4-461-16427-7

【成績評価の方法と基準】

成績評価は次の 3 つの項目に基づいて行う。

- 1、授業における貢献などの平常点と授業に関連したクイズ（試験ではない）（20 %）、
 - 2、第 8 回に実施する中間テスト（40 %）、
 - 3、第 15 回に実施する期末テスト（40 %）である。
- 中間試験と期末試験は原則教室で実施する予定であるが、感染状況により Hoppii 上で行う場合もある。実施予告の指示に従って受験してほしい。

成績評価は法政大学の基準に従って行う。概ね、以下の通りである。S:特に優れた成績である者、概ね 90 % 以上、A:優れた成績であるもの、概ね 80 % 以上、B:秀でた成績である者、概ね 70 % 以上、C:平均的な水準である者、概ね 60 % 以上、D:基準に満たない者。

【学生の意見等からの気づき】

経済学 LB(秋学期)は経済学 LA 同様、対面授業の予定となっている。対面授業ではあるが、スライドで利用する資料等は Hoppii 上に掲示（授業開始から 1 週間のみダウンロード可）する予定である。昨年度は、経済学 LA の未履修者対応として復習の部分にウエイトを掛け過ぎたため、今年度は振り返り部分のウエイトを軽減することとし、経済学 LA の未修者は自学自習により対応を促すこととしたい。

【学生が準備すべき機器他】

関数電卓があるとよい。ない場合にはスマートフォンに付帯されている計算機能（関数電卓）を利用するとよい。ただし、中間・期末試験においてスマホの計算機能を利用することはできないので、留意してほしい。

【その他の重要事項】

配布する資料は指定した教科書を理解しやすくするために作成したものである。資料だけでは、教科書の内容を理解することは不可能であるので、必ず、指定した教科書を用意してほしい。ただし、参考図書はその限りではない。また、新聞やニュースを通して、日々、経済や金融の情報に触れることがファイナンスの理解の早道でもある。なお、本授業の講師はファイナンスの実務経験を通算 20 余年有している。うち、10 年は米国ニューヨークで勤務し、ノーベル経済学受賞者との共同研究、米国著名大学大学院修了 (MBA) している。実務経験を授業に反映させる予定である。

【Outline (in English)】

The purpose of this course is to provide a broad and deep study of finance for students who have studied finance at an introductory level (Economics LA). Therefore, the class will focus on finance in economics, including financial systems and financial institutions. As a undergraduate student and a member of society after graduation, it is difficult to spend time to finance. I would recommend you to acquire a financial literacy for your life.

A "Finance" is indispensable in daily transactions. In the class, we study theories and systems related to financial transactions, but it is also very important to learn about the relationship between finance and the economy through daily news and newspaper reports. I hope that students will pay attention to financial information outside of class hours.

Grading for students will consist of two parts: 80% will be based on mid-term and final exams. 80% will be based on mid-term and final exams, and 20% will be based on class participation and quizzes/assignments. A grade of "S" is given to students who have achieved 90% or more in all grades, "A" is given to students who have achieved 80% or more, "B" is given to students who have achieved 70% or more, and "C" is given to students who have exceeded the minimum passing grade. Students who fail the course will receive a grade of "D". This evaluation method is in accordance with the Hosei University evaluation standards.

ECN200LA

経済学 L A

2017 年度以降入学者

サブタイトル：東アジア経済学入門

陳 文学

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 3/Wed.3

単位数：2 単位

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

21 世紀はアジアの時代であり、中国やアジア新興国の台頭によって東アジア地域の存在感は増している。東アジア経済の動向は世界政治経済、安全保障、資源エネルギー等に大きな影響を与えている。本講義は東アジア経済の発展に焦点を合わせ、経済発展の歴史、過程、経験と教訓等について経済学の基礎原理やリベラルアーツの視点から研究する。また、新型コロナウイルス感染症の拡大によって東アジア地域経済、そして世界経済が一変しており、東アジア経済を分析することを通じて学生諸君の地域的突発問題や危機管理に対する分析力を向上させる。

【到達目標】

現在、国際関係における一国主義やアンチグローバル的な考え方が強まる中、東アジア地域の多様性、複雑性、可能性について立体的な視点から考察する力が必要になる。当該授業を聴講して、学生諸君の考察力、思考力、分析力を高めることができる。また、中国武漢で発生した新型コロナウイルスによる東アジア地域の経済社会の混乱に対してどう対応すればよいかを考える機会も提供し、危機対応型思考力を鍛えることもできる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

1. 大学の授業計画に従って対面式で開講する。ただし、新型コロナウイルスの感染状況により一時的にオンライン（Zoom 方式）開講の可能性もあるが、その場合、事前に学習支援システム（Hoppii）内で知らせる。
2. 一回の講義で基本的に1つの話題を中心に議論、展開、検証、まとめる。
3. 情報時代のニーズに応えるために図表や統計資料、事例分析を多く用いる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	授業紹介	東アジア経済入門基礎、講義概要、成績評価等説明
2	現代経済社会の仕組み	家計、企業、政府；資本、労働、技術進歩；市場の原理；経済成長と経済発展の原動力分析
3	東アジア経済近代化の始まり	商業とシルクロード、産業革命、国際貿易と植民地の歴史、アヘン戦争
4	日中近代工業化の歴史比較研究	清王朝近代化の失敗と日本明治維新ならびに日本近代化成功の比較分析
5	国際貿易とグローバルゼーションの形成	アダム・スミスの絶対優位性仮説とリカードの比較優位性仮説の検証
6	農業の発展と人口問題	「マルサスの罠」と人口問題の本質を検証する

- | | | |
|----|--------------------|-------------------------------------|
| 7 | 中間進捗状況確認 | 前半復習、「機会費用」と人口問題の両面性 |
| 8 | 農業の発展と様々な制約 | 「豊作貧乏」現象と需要の価格弾力性 |
| 9 | 東アジア地域の工業化と労働移動 | 都市化とインフォーマル部門、スラム街の形成 |
| 10 | 東アジア地域の工業化と国際化 | 「輸入代替」政策の失敗から「輸出振興」政策の成功まで |
| 11 | 東アジア地域の産業移転 | ベティ・クラークの法則と「雁行形態」、「世界の工場」の形成と産業空洞化 |
| 12 | 経済成長と所得格差 | クズネッツの「逆 U 字仮説」から「エレファントカーブ」まで |
| 13 | さまざまな格差と計測 | ジニ係数の計算を通じて地域間経済格差を考える |
| 14 | まとめ：東アジア地域経済統合の行方は | 半期の復習、まとめ、期末レポート作成要領説明 |

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

指定参考書、配布資料等を参考し、予習復習を行う。講義内容に応じて宿題として課題レポートを完成する。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

なし。

【参考書】

『アジア経済とは何か—躍進のダイナミズムと日本の活路』、後藤健太（著）、中公新書。
『アジア経済論』、小林尚朗、山本博史、矢野修一、春日尚雄（著、編集）、文眞堂。
『東アジアの論理—日中韓の歴史から読み解く』、岡本隆司（著）、中公新書。

【成績評価の方法と基準】

1. 授業参加状況
 2. リアクションペーパーや課題の提出状況
 3. 期末レポートの完成状況
- 等によって総合的に評価する。詳しくは、初回の授業時に確認、説明する。

【学生の意見等からの気づき】

1. 学生皆さんの関心事、質問等についてよく聞く、確認する。
2. 課題や質問に対してできるだけ早く対応する。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。
ただし、オンライン（Zoom 方式）授業の場合は Zoom 視聴、Hoppii 上の課題、レポート、メール等のやり取りに必要な通信機器（パソコンなど）の用意が必要。

【その他の重要事項】

秋期『経済学 LB：中国経済入門』の継続履修を勧める。

【Outline (in English)】

The 21st century is said to be the age of Asia. The rapid growth of China and some other developing countries of Asia has increased the presence of the East-Asia in the world. The economy of East-Asia has been greatly affecting the world's politics and economy, security, and resources energy for these years.

This lecture focuses on the development of East-Asia economy, aims at studying the history, process, experiences and teachings of the economic development in this region from the viewpoints of basic theory of economics and Liberal Arts.

【Learning Objectives】

This lecture will help to improve students' ability of analyzing regional economy about its variability and complexity in east-Asia from various viewpoints.

【Learning activities outside of classroom】

Before/after each class meeting, you should be expected to spend four hours in preparing/ reviewing to understand the course content.

【Grading Criteria /Policy】

You overall grade in the class will be decided based on the following:

- 1, in-class contribution (30%)
- 2, Reaction paper or homework (40%)
- 3, Term-end report (30%)

ECN200LA

経済学 L B

2017 年度以降入学者

サブタイトル：中国経済入門

陳 文挙

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 3/Wed.3

単位数：2 単位

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中国の経済規模は 2010 年に日本に追い付き、追い越し、アメリカに次ぐ世界第 2 位に上り詰めた。2022 年に中国の GDP は日本の約 4 倍に拡大し、アメリカの 5 分の 4 までに迫っていた。本講義では前期授業で学習した東アジア経済発展の基礎を元に、計画経済期から市場経済移行期まで中国経済の発展を研究し、失敗の教訓と成功の要因を明らかにする。その上、「新常态」（ニューノーマル）にある現在の中国経済について事例研究等を通じて考察し、中国経済発展の未来像について考える。

【到達目標】

現在、国際関係における一国主義やアンチグローバル的な考え方が強まる中、東アジア地域の多様性、複雑性、可能性について、特に世界第 2 位の経済規模を持つ中国の経済動向について立体的な視点から考察することによって学生諸君の考察力、思考力、分析力を高めることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

1. 大学の授業計画に従って対面式で開講する。ただし、新型コロナウイルスの感染状況によって一時的にオンライン（Zoom 方式）開講の可能性もある。その場合は学習支援システム（Hoppii）内で事前に知らせる。
2. 一回の講義で基本的に 1 つの話題を中心に議論、検証、まとめる。
3. 情報時代のニーズに応えるため、事例や図表、統計を多く用いる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	授業紹介	中国経済の基礎、講義概要、中国最新経済情報、成績評価等
2	近代中国革命運動①	アヘン戦争から太平天国、日清戦争、辛亥革命、日中戦争、国共内戦
3	近代中国革命運動②	中国共産党の誕生、武力闘争から政権の奪取、中国人民共和国の樹立
4	朝鮮戦争と社会主義国家建設	戦後処理と冷戦、朝鮮戦争と日中両国に与える影響：ソ連の対中援助と「朝鮮特需」
5	計画経済期の中国経済と政治	大躍進、人民公社と文化大革命：経済建設から政治闘争へ
6	計画経済の行き詰まりと改革開放の始まり	農村地域の「下剋上」と郷鎮企業の発展：「世界工場」礎の形成
7	中国の経済発展戦略研究	鄧小平氏の「先富論」と成長と格差：先発地域と後発地域との格差拡大問題
8	中間進捗状況確認	前半の復習：「効率」か「平等」か = 「共同富裕」ができるのか

9	企業改革と工業の発展	世界最大白物家電メーカーハイアール（Haier）社の事例研究
10	対外開放：国際貿易と外資導入	日本企業の中国進出と日中貿易
11	情報技術革新とネットビジネスの興隆	ネット通販巨人アリババの事例、BATH（百度、アリババ、テンセント、華為）研究
12	中国の「新経済」とニュービジネス：S 級 B 級論	経済のサービス化、デジタル化、スマホ決済、シェア経済、EV、自動運転など
13	これからの中国、東アジア、そして世界	「新冷戦」、米中貿易戦争、デカウプリング、世界経済の先行き
14	復習とまとめ	中国経済再考、期末レポート作成要領

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

指定参考書、配布資料等を参考し、予習復習を行う。講義内容に応じて課題、宿題もあり、期末にはレポートの提出がある。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

指定なし

【参考書】

『現代中国経済』（新版）、丸川知雄、有斐閣アルマ。
『幸福な監視国家・中国』、梶谷懐・高口康太、NHK 出版新書。
『中国 S 級 B 級論—発展途上と最先端が混在する国』、高口康太・伊藤亜聖他著、さくら舎。

【成績評価の方法と基準】

1. 授業参加状況；
 2. リアクションペーパーや課題の提出状況；
 3. 期末レポートの完成状況
- 等によって総合的に評価する。詳しくは、初回の授業時に確認、説明する。

【学生の意見等からの気づき】

1. 学生皆さんの関心事、意見などをよく聞く、確認する。
2. 課題や質問等に対してできるだけ早く対応する。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。
ただし、オンライン（Zoom 方式）授業の場合は Zoom 視聴、Hoppii 上の課題、レポート、メール等のやり取りに必要な通信機器（パソコンなど）の用意が必要。

【その他の重要事項】

1. 前期の『経済学 LA：東アジア経済入門』とのセットにして履修してほしいが、特に必要事項ではない。
2. 中国経済の話題が中心だが、政治、社会、歴史、文化、企業経営等の話もあり、興味があればぜひ取ってほしい。

【Outline (in English)】

This lecture aims at clearing up the success factors and lessons of failure by studying the development of China economy of the period transforming from the planned economy to the market economy, based on the basic knowledge about the development of the East-Asia economy, which students learned in the first semester. Furthermore, this lecture will examine the current China economy, so-called new-normal economy through case-study and consider the future image of China economy.

【Learning Objectives】

This lecture will help to improve students' ability of analyzing China economy about its variability and complexity from various viewpoints.

【Learning activities outside of classroom】

Before/after each class meeting, you should be expected to spend four hours in preparing/ reviewing to understand the course content.

【Grading Criteria /Policy】

You overall grade in the class will be decided based on the following:

- 1, in-class contribution (30%)
- 2, Reaction paper or homework (40%)
- 3, Term-end report (30%)

ECN200LA

経済学 L A

2017 年度以降入学者

サブタイトル：利子と資本 I

水野 和夫

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 3/Thu.3
単位数：2 単位

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

経済学がどのような考え方に基づいて理論を構築しているかを身に着けることで、現在起きている様々な経済現象のどこに問題があるかを理解することができる。21 世紀が抱える課題、具体的には春学期の経済学 LA ではゼロ金利となった背景とそれに伴って起きた金融経済の肥大化現象、秋学期では利子と資本の関係について学び、近代経済学の知見から現実の課題にどのように対処したらよいかを学ぶことができる。

ところが、現実には近代経済学はこれらの問題に対してこれまでのところ有効な処方箋を提示できないでいる。「近代経済学」を再検討することで、経済学にとって何が求められているのかを理解できるようにする。

春学期と秋学期を通じて履修することで、資本の本質を理解することができる。

【到達目標】

18 世紀後半に誕生した経済学の基本的概念は、そのときどきの時代環境とともに変化してきたことを学ぶことで、ゼロ金利やグローバリゼーションが経済・社会に及ぼす影響、米中新冷戦や日本やドイツのゼロ金利の背景を考えることができる。

なぜ、20 年にわたる長期停滞が続いているのか、ゼロ金利は何を意味しているのか、また労働生産性が緩やかではあるが上昇しているにもかかわらず実質賃金が下落しているのかといった現象をどう変革したらいいのか、自ら考える能力を身に着けることができる。

秋学期の「経済学 LB」と合わせて受講することで、春学期の到達目標がさらに高まる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義中心の対面授業で行う（ただし大学の方針に従う）。授業支援システムやリアクションペーパーを通じて、質問をうけ、回答をすることで双方向のコミュニケーションを図る。

『次なる 100 年 歴史の危機から学ぶこと』（東洋経済新報社、水野和夫、2022 年）の「序章」と第 1 章「ゼロ金利と『蒐集』」を中心に授業を進める。必ずしもこの本を購入する必要はない。授業は購入していないことを前提に行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	春学期と秋学期を通じて、講義全体の流れを説明	経済学の考え方とはなにかについて、概略の説明、社会の下部構造としての経済
第 2 回	ゼロ金利と「蒐集」（コレクション）① 「蒐集」の概念はいつ誕生したのか、その目的と対象は何か	西欧史はコレクションの歴史であり、コレクションの歴史は金銭の歴史である。目的は社会秩序の維持、対象は土地、霊魂、資本。 『次なる 100 年』の「はじめに」を参照

第 3 回	ゼロ金利と「蒐集」（コレクション）② 例外と常態	ゼロ金利は常態か例外か—近代では例外、ポスト近代では常態。 『次なる 100 年』の「序章」を参照
第 4 回	ゼロ金利と「蒐集」（コレクション）③ 「蒐集」できなると何が起きるか	歴史の危機（ブルクハルト）—過去 3 回の危機と第 4 回目の 21 世紀。 『次なる 100 年』の第 1 章第 1 節を参照
第 5 回	ゼロ金利と「蒐集」（コレクション）④ ゼロ金利と「異次元金融緩和」	金融自由化と電子・金融空間の誕生、金融経済の肥大化現象。 『次なる 100 年』の第 2 章第 2 節を参照
第 6 回	21 世紀の「歴史の危機」① 「中心」と「周辺」の関係	ニクソンショック（1971）とコペルニクスの宇宙論（1543）。 『次なる 100 年』の第 1 章第 2 節を参照
第 7 回	21 世紀の「歴史の危機」② 米中新冷戦について	欧米の支配基準は何か—キリスト教と非キリスト教徒、文明国と非文明国、債権国と債務国。 『次なる 100 年』の第 2 章第 3 節を参照
第 8 回	21 世紀の「歴史の危機」③ 国際収支発展段階	対外純債権と所得収支の関係。債権国の定義とは。債権国が債務国を支配する。 『次なる 100 年』の第 2 章第 3 節を参照
第 9 回	21 世紀の「歴史の危機」④ GAF A と米国の絶望死とサハラ砂漠以南での児童労働	アダム・スミスの「共感」は 21 世紀も通用しているか。 『次なる 100 年』の第 2 章第 3 節を参照
第 10 回	米中新冷戦の背景	帝国と覇権国の違い。 『次なる 100 年』の第 2 章第 3 節を参照
第 11 回	国民国家と帝国	インターナショナルリゼーションとグローバリゼーション。 『次なる 100 年』も第 1 章第 2 節と第 2 章第 1 節
第 12 回	債権国と債務国—所得収支と対外純資産の関係	米国と中国のねじれ現象。2030 年代に米中で所得収支が逆転する可能性はありなのか。 『次なる 100 年』の第 2 章第 3 節を参照
第 13 回	公式の帝国と非公式の帝国	「帝国主義に免疫性のある社会経済構成体などは皆無」（リヒトハイム）。 『次なる 100 年』の第 1 章第 2 節を参照
第 14 回	まとめ	春学期全体のまとめ、リアクションペーパーへの回答

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間が理想であるが、講義で使用したレジメ（授業支援システムに掲載）を教科書と照らし合わせながら、復習をしっかりとすること。

【テキスト（教科書）】

事前に Hoppii に、授業で使用するパワーポイント資料をアップ。授業は下記の本を購入していることを前提とはしないが、春学期の授業は下記の本の序章と 1 章を中心に進める。

『次なる 100 年 歴史の危機から学ぶこと』水野和夫、東洋経済新報社、2022

<https://str.toyokeizai.net/books/9784492444658/>

【参考書】

『経済学の考え方』宇沢弘文、岩波新書、1989

<https://www.iwanami.co.jp/book/b267872.html>

『経済学とは何だろうか』佐和隆光、岩波新書、1982

<https://www.iwanami.co.jp/book/b267615.html>

【成績評価の方法と基準】

受講態度 40 % + 期末試験（感染状況次第では期末レポート）60 %
受講態度は 3 回程度提出したリアクションペーパーの内容で評価（リアクションペーパーの提出時期は 14 回の授業のうち各自任意に選択）

【学生の意見等からの気づき】

授業支援システムや質問票の配布を通じて学生からの意見を取り入れ、授業内容の改善を図る。

【学生が準備すべき機器他】

事前に PC など授業支援システムにアクセスして、レジメをダウンロードできる環境を整えることが望ましい。

【その他の重要事項】

必ずしも経済学Ⅰ、経済学Ⅱを履修している必要はない。

内閣府（内閣府大臣官房審議官）および内閣官房（内閣審議官）での実務経験がある教員が、政府月例経済報告、経済財政白書などで養った経済分析、および政策立案のプロセスなどを授業で解説する

【Outline (in English)】

(Course outline and Learning Objectives) Why should you, as a student in the 21st century, embark on the study of economics?

There are three reasons. The first reason to study economics is that it will help you understand the world in which you live. The second reason to study economics is that it will make you a more astute participant in the economy. The third reason to study economics is that it will give you a better understanding of both the potential and limits of economic policy.

(Learning activities outside of classroom) Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

(Grading Criteria /Policy) Students are graded by attendance (40%) and the Term-end examination (60%).

ECN200LA

経済学 L B

2017 年度以降入学者

サブタイトル: 利子と資本 II

水野 和夫

開講時期: 秋学期授業/Fall | 曜日・時限: 木 3/Thu.3

単位数: 2 単位

その他属性: 〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

経済学がどのような考え方に基いて理論を構築しているかを身に着けることで、現在起きている様々な経済現象のどこに問題があるかを理解することができる。21 世紀が抱える課題、具体的には秋学期の経済学 LB ではグローバリゼーションの功罪について学び、近代経済学の知見から現実の課題にどのように対処したらよいかを学ぶことができる。

ところが、現実には近代経済学はこれらの問題に対してこれまでのところ有効な処方箋を提示できない。「近代経済学」を再検討することで、経済学にとって何が求められているのかを理解できるようになる。

なお、春学期ではゼロ金利となった背景とそれに伴って起きた金融経済の肥大化現象などについて学ぶことができる。

春学期と秋学期を通じて履修することで、ゼロ金利とグローバリゼーションがいかに密接に絡み合っていることが理解できる。

【到達目標】

18 世紀後半に誕生した経済学の基本的概念は、そのときどきの時代環境とともに変化してきたことを学ぶことで、ゼロ金利やグローバリゼーションが経済・社会に及ぼす影響、米中新冷戦や日本やドイツのゼロ金利の背景を考えることができる。

なぜ、20 年にわたる長期停滞が続いているのか、ゼロ金利は何を意味しているのか、2016 年にトランプ大統領が誕生し、その後バイデン大統領がトランプに勝利したことでグローバリゼーションは曲がり角を迎えているのか否かを、自ら考える能力を身に着けることができる。

春学期の「経済学 LA」と合わせて受講することで、秋学期の到達目標がさらに高まる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科: DP3・DP4、法学部・政治学科: DP1、法学部・国際政治学科: DP1、文学部: DP1、経営学部: DP3、国際文化学部: DP3、人間環境学部: DP2、キャリアデザイン学部: DP1

【授業の進め方と方法】

講義中心の対面授業を行う (ただし大学の方針に従う)。授業支援システムやリアクションペーパーを通じて、質問をうけ、回答することで双方向のコミュニケーションを図る。

『次なる 100 年 歴史の危機から学ぶこと』(東洋経済新報社、水野和夫、2022 年) の第 2 章「グローバリゼーションと帝国」、第 3 章「利子と資本」を中心に授業を進める。必ずしもこの本を購入する必要はない。授業は購入していないことを前提に行う。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】なし/No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	秋学期授業の全体の流れを説明	利子、貨幣、資本、グローバリゼーションの概念を考える

第 2 回	貨幣と資本の関係	元手 (貨幣 G) が商品 (W) に投資され、増加した貨幣 (G') となる。このプロセスを永続的に繰り返すことで貨幣は資本となる。W~W' の過程、W の増加が経済成長であり、G~G' における G の増加が利潤、従来パラレルに動いていた W の増加と G の増加がグローバリゼーションによって崩壊
第 3 回	アイコンとコインの関係	アイコン (硬貨) とは、政治的ないし美的意味を備えた刻印と、経済的に価値のある材料との結合、資本という概念を最初に作り出したのは利潤を美的に表す抽象概念、近代社会になると貨幣が容易に神の座へ、聖書に代わって「私的な利益こそ、すべての人間を導く主」へ唯物論者の資本 vs. 資金主義者の資本、生産能力としての資本 vs. 内部留保金
第 4 回	資本の二つの機能	資本移動、為替レート、金融というシンボリックエコノミーが、財・サービスの流れというリアルエコノミーにかわって、しかもこの実物経済からほとんど独立して、世界経済のペースメーカーへ、シンボリックエコノミーがリアルエコノミーを圧倒するようになったのは、財政赤字や雇用などの国内問題の是正に取り組むことを放棄した結果
第 5 回	リアルエコノミー vs. シンボリックエコノミー	不平等が原因で少なくとも 4 秒に一人が亡くなっている。その一方で、ビリオネア (2660 人) はコロナ禍で純資産を増やした、民主主義の危機と国家主義の台頭社会の経済的進歩 (資本の増大、人口増、生産技術の進歩) の先の社会を考える、
第 6 回	不平等が殺人を犯している (OXFAM レポート)	13 世紀の数量革命と都市化、インターナショナルイゼーションよりも起源は古いグローバリゼーション「住まいはせまくとも、思いは広し」(『次なる 100 年』の第 2 章第 1 節)、
第 7 回	ミルの定常状態	東方貿易、胡椒、金持ちの誕生 (『次なる 100 年』の第 2 章第 1 節)
第 8 回	グローバリゼーションの起源 - 中世が呼び寄せた資本主義、	近代は持続性を欠き、かつ矛盾に満ちたシステム (『次なる 100 年』の第 2 章第 2 節)、
第 9 回	21 世紀のグローバリゼーションと近代システム - 近代と機械化 - 進歩とは	あらゆるものを機械 (マシン、メカニズム) に見立てる近代社会 (『次なる 100 年』の第 2 章第 2 節)
第 10 回	グローバリゼーションの定義とイデオロギー - 性 - GAFA はマモンか	「グローバリゼーションは 21 世紀の妖怪である」(『次なる 100 年』の第 2 章第 2 節)、海賊ドレイク (イギリスの資本家第 1 号) vs. GAFA (『次なる 100 年』の第 2 章第 2 節)

第 11 回	帝国とは一支配と被支配の関係、所有権と国際収支発展段階説	国民国家における私的所有権と国際関係における「全世界の債権者」(『次なる 100 年』の第 2 章第 3 節) ラ・フォンテーヌ「財産を失った守銭奴」、ジョン・ロック『統治二論』、トルストイ「ホルストメー」(『次なる 100 年』の「終章」)
第 12 回	グローバリゼーションの暴力性	「ショック・ドクトリン」(惨事便乗型資本主義)、パンデミック、「絶望死」、エレファントカーブ、(Oxfam レポート) (『次なる 100 年』の第 2 章第 3 節)
第 13 回	日米の IS バランスー投資の日本と消費の米国	1985 年のプラザ合意と 1995 年の「強いドル」政策、弾けさせるためにつくられるバブル (『次なる 100 年』の第 2 章第 3 節)
第 14 回	まとめ	春学期・秋学期のまとめ、リアクションペーパーへの回答

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

事前に Hoppii に、授業で使用するパワーポイント資料をアップ。授業は下記の本を購入していることを前提とはしないが、秋学期の授業は下記の本の 2 章を中心に進める。
『次なる 100 年 歴史の危機から学ぶこと』水野和夫、東洋経済新報社、2022

<https://str.toyokeizai.net/books/9784492444658/>

【参考書】

『経済学の考え方』宇沢弘文、岩波新書、1989

<https://www.iwanami.co.jp/book/b267872.html>

『経済学とは何だろうか』佐和隆光、岩波新書、1982

<https://www.iwanami.co.jp/book/b267615.html>

【成績評価の方法と基準】

受講態度 40 % + 期末レポート (感染状況次第では期末レポート) 60 %
受講態度は 3 回程度提出したリアクションペーパーの内容で評価 (リアクションペーパーの提出時期は 14 回の授業のうち各自任意に選択)

【学生の意見等からの気づき】

授業支援システムや質問票の配布を通じて学生からの意見を取り入れ、授業内容の改善を図る。

【学生が準備すべき機器他】

事前に PC などで授業支援システムにアクセスして、レジメをダウンロードできる環境を整えることが望ましい。

【その他の重要事項】

必ずしも経済学 I、経済学 II を履修している必要はない。

内閣府 (内閣府大臣官房審議官) および内閣官房 (内閣審議官) での実務経験がある教員が、政府月例経済報告、経済財政白書などで養った経済分析、および政策立案のプロセスなどを授業で解説する

【Outline (in English)】

(Course outline and Learning Objectives) Why should you, as a student in the 21st century, embark on the study of economics?

There are three reasons. The first reason to study economics is that it will help you understand the world in which you live. The second reason to study economics is that it will make you a more astute participant in the economy. The third reason to study economics is that it will give you a better understanding of both the potential and limits of economic policy.

(Learning activities outside of classroom) Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

(Grading Criteria /Policy) Students are graded by attendance attitude (40%) and the Term-end examination (60%).

PSY200LA

心理学 L A

2017 年度以降入学者

サブタイトル：

宇野 カオリ

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses

単位数：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

心理学の科学的手法に基づく知見や方法論を、現代の成熟社会に生きる私たちが抱える諸問題の解決に向けてどのように活用できるのか。この課題を念頭に置き、自らの体験や実践を通して、心理学の各理論や発見を押さえられるような授業を展開します。「心理学 I / II」などを通して、基礎心理学の諸領域（知覚心理学、認知心理学、感情心理学、パーソナリティ心理学など）を履修していることが望ましいですが、本授業から初めて心理学を学ぶという学生も歓迎します（基礎心理学の知識は、本授業の受講条件としては必須ではありません）。

【到達目標】

「心」は目には見えないものでありながら、「心が壊れる」「心が折れる」というような言い方をします。果たして「心」とは何か？そして、「心」を扱う心理学とはどのような学問なのか？これらの問いに答えるための具体的な手掛かりを得るとともに、人間の健全な心の働きや発達を様々な切り口から捉えることのできる能力を身につけること、また、心理学的な視点で、自分のこと、周りの人々のことを考えられるようになることを本授業の到達目標とします。具体的には、心理学 LA では「自分のレジリエンスを高める」、心理学 LB では「自分のウェルビーイングを高める」という具体目標を掲げます。通年で受講することで、両目標に対して統合的な効果が得られることが期待されます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

学期を通して、「曜日時限なし」のオンライン（オンデマンド型）授業となります。ただし、前年度までの同授業形態の履修者の多くが、学習ペースの自己管理に困難を来したことから、授業動画の視聴および課題提出については定期的な期日を設けながら進めます。オンデマンド型学習のために、学習支援システム（掲示板は使用しません）と Google クラスルームを併用します。学期中の連絡手段は主にメールと Google クラスルームになりますので、必ず確認するようにしてください。その他の詳細については第 1 回授業のガイダンスでお伝えします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業概要 授業の進め方と方法
第 2 回	レジリエンスとは何か	レジリエンス研究の歴史 認知心理学、発達心理学ほか
第 3 回	ABC で世界をとらえる私たち（「ABC 分析」で自分を知る 第 1 回）	認知行動療法ほか 〔テキスト レジリエンスワーク①〕

第 4 回	解釈と世界観の関係（「ABC 分析」で自分を知る 第 2 回）	認知行動療法ほか 〔テキスト レジリエンスワーク①〕
第 5 回	自分の「反応パターン」を見つける（「ABC 分析」で自分を知る 第 3 回）	認知行動療法ほか 〔テキスト レジリエンスワーク①〕
第 6 回	「思考のワナ」から抜け出す	学習心理学ほか 〔テキスト レジリエンスワーク②〕
第 7 回	「氷山思考」を探り当てる	深層心理学ほか 〔テキスト レジリエンスワーク③〕
第 8 回	中間レポート講評	第 2 回～第 7 回授業の振り返り
第 9 回	思考の柔軟性を奪う「思い込み」（自分の「思い込み」に挑む 第 1 回）	認知行動療法ほか 〔テキスト レジリエンスワーク④〕
第 10 回	思考の正確性を獲得する（自分の「思い込み」に挑む 第 2 回）	認知行動療法ほか 〔テキスト レジリエンスワーク④〕
第 11 回	未来の「シナリオ」を書き直す	臨床心理学ほか 〔テキスト レジリエンスワーク⑤〕
第 12 回	一瞬で心を静める	マインドフルネス 〔テキスト レジリエンスワーク⑥〕
第 13 回	窮地で自分の思考に反論する	総合 〔テキスト レジリエンスワーク⑦〕
第 14 回	期末レポート説明	第 9 回～第 13 回授業の振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で扱うテーマについて、授業を離れても日常的に意識して過ごしてみることをお勧めします。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準としますが、各自でペース調整をしてください。

【テキスト（教科書）】

『折れない心のつくりかた：はじめてのレジリエンスワークブック』（日本ポジティブ心理学協会著、すばる舎、2016 年）
<https://www.subarusya.jp/book/b251379.html>

【参考書】

特に指定しませんが、テーマに応じて有益と思われる書籍は授業内で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

中間レポート 25%、期末レポート 25%、授業に関係するアクティビティ 50%

中間レポート・期末レポート共に、暗記による知識ではなく、理解度を確認するものとなります。授業に関係するアクティビティの具体的な内容を含め、成績評価に関する詳細についてはガイダンスで説明します。

【学生の意見等からの気づき】

< 授業内容について >

・授業に関する意見のなかで、最も励みとなったのは、「これからの人生を生きていく上でとても為になる」という言葉でした。
・「授業がおもしろい」というコメントも多くいただきます。皆さんの学生生活に即役に立つようなテーマを取り上げますが、楽しんで学習することによる学習効率についても念頭に置いています。
・かなり多くの方が、「自分はネガティブだと自覚しているが、ポジティブに振る舞っている」という悩みを抱えていることが、リアクションペーパー（オンラインで提出）を通して分かりました。ポジティブ心理学では、人間は生来、ネガティブになる傾向があることが指摘されています。「授業を通して、自分がなぜネガティブなのか分かって救われた」との声が多量に寄せられました。
・総じて、毎回の授業内容について、リアクションペーパーでしっかりと自分の考えを述べたり、自己内省をして授業から学び取ったことを書いてくれたりした方がほとんどでした。

< 授業形式について >

- ・本授業は加点方式か、それとも減点方式か、という質問が、学期を通して寄せられましたが、本授業は基本的に加点方式です。
- ・諸事情により、動画配信を逃してしまった、課題が期日までに提出できなかった、という方も少なくありません。動画の再視聴期間や、課題の遅延提出期間を設けることで、支障なく学習を進められるよう、便宜を図ります。

【学生が準備すべき機器他】

スマホよりはパソコンでの受講が望ましいです。(課題は Google フォームで提出してもらいますが、スマホから提出を続けていたところ、受付となっておらず、それまでの提出が無効となった、という事例が発生しました。)

【その他の重要事項】

- ・抽選や単位数の都合で、心理学 LA か心理学 LB いずれかのみを受講となる場合もあると思います。履修上は問題ありませんが、連続して受講していただけると、一年間を通して本授業から得られると期待される実践的な効果をより体得できるかもしれません。
- ・日本語よりも英語を得意とする方は、リアクションペーパーやレポートを英語で書いて提出していただいても構いません。

【Outline (in English)】

【授業の概要 (Course Outline)】

Is there any way to apply the findings and methodologies in psychological science when working towards solving various issues in our society? With such a question in mind, students are expected to understand and articulate key concepts and findings in psychology through your own experiences and practices. A certain basic knowledge of psychology (e.g., perception, cognition, emotion, personality, etc.) is desirable but not a prerequisite for this course. Any student is welcome to this course to get to know psychology for the first time.

【到達目標 (Learning Objectives)】

What is the "mind"? Psychology is the scientific study of the mind and behavior, according to APA (American Psychological Association). The general goals of this course are to provide certain clues to respond to these questions, to acquire the ability to understand from various perspectives how a healthy human mind functions and develops, and to be able to give compassion to yourself and to others from a psychological perspective. In the spring semester, the classes are specifically designed to "build your resilience" and the fall semester to "promote your well-being," respectively. The year-long endeavor should have an integrated effect on both specific goals.

【授業時間外の学習 (Learning Activities Outside of Classroom)】

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be around two hours before and after each class meeting.

【成績評価の方法と基準 (Grading Criteria/Policy)】

Final grade will be calculated according to the following process: Mid-term report (25%), term-end report (25%), and class-related activities (50%). More details will be explained in the first lecture of each semester.

PSY200LA

心理学 L B

2017 年度以降入学者

サブタイトル：

宇野 カオリ

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses

単位数：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

心理学の科学的手法に基づく知見や方法論を、現代の成熟社会に生きる私たちが抱える諸問題の解決に向けてどのように活用できるのか。この課題を念頭に置き、自らの体験や実践を通して、心理学の各理論や発見を押さえられるような授業を展開します。「心理学 I/II」などを通して、基礎心理学の諸領域（知覚心理学、認知心理学、感情心理学、パーソナリティ心理学など）を履修していることが望ましいですが、本授業から初めて心理学を学ぶという学生も歓迎します（基礎心理学の知識は、本授業の受講条件としては必須ではありません）。

【到達目標】

「心」は目には見えないものでありながら、「心が壊れる」「心が折れる」というような言い方をします。果たして「心」とは何か？そして、「心」を扱う心理学とはどのような学問なのか？これらの問いに答えるための具体的な手掛かりを得るとともに、人間の健全な心の働きや発達を様々な切り口から捉えることのできる能力を身につけること、また、心理学的な視点で、自分のこと、周りの人々のことを考えられるようになることを本授業の到達目標とします。具体的には、心理学 LA では「自分のレジリエンスを高める」、心理学 LB では「自分のウェルビーイングを高める」という具体目標を掲げます。通年で受講することで、両目標に対して統合的な効果が得られることが期待されます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

学期を通して、「曜日時限なし」のオンライン（オンデマンド型）授業となります。ただし、前年度までの同授業形態の履修者の多くが、学習ペースの自己管理に困難を来したことから、授業動画の視聴および課題提出については定期的な期日を設けながら進めます。オンデマンド型学習のために、学習支援システム（掲示板は使用しません）と Google クラスルームを併用します。学期中の連絡手段は主にメールと Google クラスルームになりますので、必ず確認するようにしてください。その他の詳細については第 1 回授業のガイダンスでお伝えします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業概要、授業の進め方と方法
第 2 回	ウェルビーイング（Well-Being）とは何か	ポジティブ心理学/ウェルビーイング研究の歴史（臨床心理学、社会心理学、文化心理学ほか）
第 3 回	ポジティブ心理学/ウェルビーイング研究で明らかになったこと	「こころの健康」を理解しよう [テキスト 第 1 章]

第 4 回	（ネガティブな感情も大切にしながら）ポジティブな感情を増やそう	「こころの健康」を高めよう 第 1 回 [テキスト 第 2 章 Part 1]
第 5 回	エンゲージメントを高めよう	「こころの健康」を高めよう 第 2 回 [テキスト 第 2 章 Part 2]
第 6 回	良好な人間関係を築こう	「こころの健康」を高めよう 第 3 回 [テキスト 第 2 章 Part 3]
第 7 回	人生の意味を創造しよう	「こころの健康」を高めよう 第 4 回 [テキスト 第 2 章 Part 4]
第 8 回	達成感を味わおう	「こころの健康」を高めよう 第 5 回 [テキスト 第 2 章 Part 5]
第 9 回	中間レポート講評	第 3 回～第 8 回授業の振り返り
第 10 回	活力を高めよう	「こころの健康」を高めよう 第 6 回 [テキスト 第 2 章 プラス a]
第 11 回	幸福感を高めよう（ポジティブ心理学介入）	「こころの健康」を支援しよう 第 1 回 [テキスト 第 3 章]
第 12 回	「心理資本」を豊かにしよう（ポジティブ心理学介入）	「こころの健康」を支援しよう 第 2 回 [テキスト 第 3 章]
第 13 回	「徳性の強み」で自分も世の中もよくしよう（ポジティブ心理学介入）	「こころの健康」を支援しよう 第 3 回 [テキスト 第 3 章]
第 14 回	期末レポート	第 10 回～第 13 回授業の振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で扱うテーマについて、授業を離れても日常的に意識して過ごしていただくことをお勧めします。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準としますが、各自でペース調整をしてください。

【テキスト（教科書）】

『人生を豊かにするウェルビーイングノート：ポジティブサイコロジー × 解決志向アプローチでこころの健康を育てる』（松隈信一郎著、金剛出版、2022 年）

<https://www.kongoshuppan.co.jp/book/b596381.html>

【参考書】

特に指定しませんが、テーマに応じて有益と思われる書籍は授業内で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

中間レポート 25%、期末レポート 25%、授業に関係するアクティビティ 50%

中間レポート・期末レポート共に、暗記による知識ではなく、理解度を確認するものとなります。授業に関係するアクティビティの具体的な内容を含め、成績評価に関する詳細についてはガイダンスで説明します。

【学生の意見等からの気づき】

< 授業内容について >

- ・授業に関する意見のなかで、最も励みとなったのは、「これからの人生を生きていく上でとても為になる」という言葉でした。
- ・「授業がおもしろい」というコメントも多くいただきます。皆さんの学生生活に即役に立つようなテーマを取り上げますが、楽しんで学習することによる学習効率についても念頭に置いています。
- ・かなり多くの方が、「自分はネガティブだと自覚しているが、ポジティブに振る舞っている」という悩みを抱えていることが、リアクションペーパー（オンラインで提出）を通して分かりました。ポジティブ心理学では、人間は生来、ネガティブになる傾向があることが指摘されています。「授業を通して、自分がなぜネガティブなのか分かって救われた」との声が非常に多く寄せられました。
- ・総じて、毎回の授業内容について、リアクションペーパーでしっかりと自分の考えを述べたり、自己内省をして授業から学び取ったことを書いてくれたりした方がほとんどでした。

< 授業形式について >

- ・本授業は加点方式か、それとも減点方式か、という質問が、学期を通して寄せられましたが、本授業は基本的に加点方式です。
- ・諸事情により、動画配信を逃してしまった、課題が期日までに提出できなかった、という方も少なくありません。動画の再視聴期間や、課題の遅延提出期間を設けることで、支障なく学習を進められるよう、便宜を図ります。

【学生が準備すべき機器他】

スマホよりはパソコンでの受講が望ましいです。(課題は Google フォームで提出してもらいますが、スマホから提出を続けていたところ、受付となっておらず、それまでの提出が無効となった、という事例が発生しました。)

【その他の重要事項】

- ・抽選や単位数の都合で、心理学 LA か心理学 LB いずれかのみを受講となる場合もあると思います。履修上は問題ありませんが、連続して受講していただけると、一年間を通して本授業から得られると期待される実践的な効果をより体得できるかもしれません。
- ・日本語よりも英語を得意とする方は、リアクションペーパーやレポートを英語で書いて提出していただいても構いません。

【Outline (in English)】

【授業の概要 (Course Outline)】

Is there any way to apply the findings and methodologies in psychological science when working towards solving various issues in our society? With such a question in mind, students are expected to understand and articulate key concepts and findings in psychology through your own experiences and practices. A certain basic knowledge of psychology (e.g., perception, cognition, emotion, personality, etc.) is desirable but not a prerequisite for this course. Any student is welcome to this course to get to know psychology for the first time.

【到達目標 (Learning Objectives)】

What is the "mind"? Psychology is the scientific study of the mind and behavior, according to APA (American Psychological Association). The general goals of this course are to provide certain clues to respond to these questions, to acquire the ability to understand from various perspectives how a healthy human mind functions and develops, and to be able to give compassion to yourself and to others from a psychological perspective. In the spring semester, the classes are specifically designed to "build your resilience" and the fall semester to "promote your well-being," respectively. The year-long endeavor should have an integrated effect on both specific goals.

【授業時間外の学習 (Learning Activities Outside of Classroom)】

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be around two hours before and after each class meeting.

【成績評価の方法と基準 (Grading Criteria/Policy)】

Final grade will be calculated according to the following process: Mid-term report (25%), term-end report (25%), and class-related activities (50%). More details will be explained in the first lecture of each semester.

PSY200LA

心理学 L A

2017 年度以降入学者

サブタイトル：

宇野 カオリ

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses

単位数：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

心理学の科学的手法に基づく知見や方法論を、現代の成熟社会に生きる私たちが抱える諸問題の解決に向けてどのように活用できるのか。この課題を念頭に置き、自らの体験や実践を通して、心理学の各理論や発見を押さえられるような授業を展開します。「心理学 I/II」などを通して、基礎心理学の諸領域（知覚心理学、認知心理学、感情心理学、パーソナリティ心理学など）を履修していることが望ましいですが、本授業から初めて心理学を学ぶという学生も歓迎します（基礎心理学の知識は、本授業の受講条件としては必須ではありません）。

【到達目標】

「心」は目には見えないものでありながら、「心が壊れる」「心が折れる」というような言い方をします。果たして「心」とは何か？そして、「心」を扱う心理学とはどのような学問なのか？これらの問いに答えるための具体的な手掛かりを得るとともに、人間の健全な心の働きや発達を様々な切り口から捉えることのできる能力を身につけること、また、心理学的な視点で、自分のこと、周りの人々のことを考えられるようになることを本授業の到達目標とします。具体的には、心理学 LA では「自分のレジリエンスを高める」、心理学 LB では「自分のウェルビーイングを高める」という具体目標を掲げます。通年で受講することで、両目標に対して統合的な効果が得られることが期待されます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

学期を通して、「曜日時限なし」のオンライン（オンデマンド型）授業となります。ただし、前年度までの同授業形態の履修者の多くが、学習ペースの自己管理に困難を来したことから、授業動画の視聴および課題提出については定期的な期日を設けながら進めます。オンデマンド型学習のために、学習支援システム（掲示板は使用しません）と Google クラスルームを併用します。学期中の連絡手段は主にメールと Google クラスルームになりますので、必ず確認するようにしてください。その他の詳細については第 1 回授業のガイダンスでお伝えします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業概要 授業の進め方と方法
第 2 回	レジリエンスとは何か	レジリエンス研究の歴史 認知心理学、発達心理学ほか
第 3 回	ABC で世界をとらえる私たち（「ABC 分析」で自分を知る 第 1 回）	認知行動療法ほか 〔テキスト レジリエンスワーク①〕

第 4 回	解釈と世界観の関係（「ABC 分析」で自分を知る 第 2 回）	認知行動療法ほか 〔テキスト レジリエンスワーク①〕
第 5 回	自分の「反応パターン」を見つける（「ABC 分析」で自分を知る 第 3 回）	認知行動療法ほか 〔テキスト レジリエンスワーク①〕
第 6 回	「思考のワナ」から抜け出す	学習心理学ほか 〔テキスト レジリエンスワーク②〕
第 7 回	「氷山思考」を探り当てる	深層心理学ほか 〔テキスト レジリエンスワーク③〕
第 8 回	中間レポート講評	第 2 回～第 7 回授業の振り返り
第 9 回	思考の柔軟性を奪う「思い込み」（自分の「思い込み」に挑む 第 1 回）	認知行動療法ほか 〔テキスト レジリエンスワーク④〕
第 10 回	思考の正確性を獲得する（自分の「思い込み」に挑む 第 2 回）	認知行動療法ほか 〔テキスト レジリエンスワーク④〕
第 11 回	未来の「シナリオ」を書き直す	臨床心理学ほか 〔テキスト レジリエンスワーク⑤〕
第 12 回	一瞬で心を静める	マインドフルネス 〔テキスト レジリエンスワーク⑥〕
第 13 回	窮地で自分の思考に反論する	総合 〔テキスト レジリエンスワーク⑦〕
第 14 回	期末レポート説明	第 9 回～第 13 回授業の振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で扱うテーマについて、授業を離れても日常的に意識して過ごしてみることをお勧めします。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準としますが、各自でペース調整をしてください。

【テキスト（教科書）】

『折れない心のつくりかた：はじめてのレジリエンスワークブック』（日本ポジティブ心理学協会著、すばる舎、2016 年）
<https://www.subarusya.jp/book/b251379.html>

【参考書】

特に指定しませんが、テーマに応じて有益と思われる書籍は授業内で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

中間レポート 25%、期末レポート 25%、授業に関係するアクティビティ 50%
中間レポート・期末レポート共に、暗記による知識ではなく、理解度を確認するものとなります。授業に関係するアクティビティの具体的な内容を含め、成績評価に関する詳細についてはガイダンスで説明します。

【学生の意見等からの気づき】

< 授業内容について >

- ・授業に関する意見のなかで、最も励みとなったのは、「これからの人生を生きていく上でとても為になる」という言葉でした。
- ・「授業が面白い」というコメントも多くいただきます。皆さんの学生生活に即役に立つようなテーマを取り上げますが、楽しんで学習することによる学習効率についても念頭に置いています。
- ・かなり多くの方が、「自分はネガティブだと自覚しているが、ポジティブに振る舞っている」という悩みを抱えていることが、リアクションペーパー（オンラインで提出）を通して分かりました。ポジティブ心理学では、人間は生来、ネガティブになる傾向があることが指摘されています。「授業を通して、自分がなぜネガティブなのか分かって救われた」との声が非常に多く寄せられました。
- ・総じて、毎回の授業内容について、リアクションペーパーでしっかりと自分の考えを述べたり、自己内省をして授業から学び取ったことを書いてくれたりした方がほとんどでした。

< 授業形式について >

・本授業は加点方式か、それとも減点方式か、という質問が、学期を通して寄せられましたが、本授業は基本的に加点方式です。

・諸事情により、動画配信を逃してしまった、課題が期日までに提出できなかった、という方も少なくありません。動画の再視聴期間や、課題の遅延提出期間を設けることで、支障なく学習を進められるよう、便宜を図ります。

【学生が準備すべき機器他】

スマホよりはパソコンでの受講が望ましいです。(課題は Google フォームで提出してもらいますが、スマホから提出を続けていたところ、受付となっておらず、それまでの提出が無効となった、という事例が発生しました。)

【その他の重要事項】

・抽選や単位数の都合で、心理学 LA か心理学 LB いずれかのみを受講となる場合もあると思います。履修上は問題ありませんが、連続して受講していただくと、一年間を通して本授業から得られると期待される実践的な効果をより体得できるかもしれません。
・日本語よりも英語を得意とする方は、リアクションペーパーやレポートを英語で書いて提出していただいても構いません。

【Outline (in English)】

【授業の概要 (Course Outline)】

Is there any way to apply the findings and methodologies in psychological science when working towards solving various issues in our society? With such a question in mind, students are expected to understand and articulate key concepts and findings in psychology through your own experiences and practices. A certain basic knowledge of psychology (e.g., perception, cognition, emotion, personality, etc.) is desirable but not a prerequisite for this course. Any student is welcome to this course to get to know psychology for the first time.

【到達目標 (Learning Objectives)】

What is the "mind"? Psychology is the scientific study of the mind and behavior, according to APA (American Psychological Association). The general goals of this course are to provide certain clues to respond to these questions, to acquire the ability to understand from various perspectives how a healthy human mind functions and develops, and to be able to give compassion to yourself and to others from a psychological perspective. In the spring semester, the classes are specifically designed to "build your resilience" and the fall semester to "promote your well-being," respectively. The year-long endeavor should have an integrated effect on both specific goals.

【授業時間外の学習 (Learning Activities Outside of Classroom)】

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be around two hours before and after each class meeting.

【成績評価の方法と基準 (Grading Criteria/Policy)】

Final grade will be calculated according to the following process: Mid-term report (25%), term-end report (25%), and class-related activities (50%). More details will be explained in the first lecture of each semester.

PSY200LA

心理学 L B

2017 年度以降入学者

サブタイトル：

宇野 カオリ

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses

単位数：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

心理学の科学的手法に基づく知見や方法論を、現代の成熟社会に生きる私たちが抱える諸問題の解決に向けてどのように活用できるのか。この課題を念頭に置き、自らの体験や実践を通して、心理学の各理論や発見を押さえられるような授業を展開します。「心理学 I/II」などを通して、基礎心理学の諸領域（知覚心理学、認知心理学、感情心理学、パーソナリティ心理学など）を履修していることが望ましいですが、本授業から初めて心理学を学ぶという学生も歓迎します（基礎心理学の知識は、本授業の受講条件としては必須ではありません）。

【到達目標】

「心」は目には見えないものでありながら、「心が壊れる」「心が折れる」というような言い方をします。果たして「心」とは何か？そして、「心」を扱う心理学とはどのような学問なのか？これらの問いに答えるための具体的な手掛かりを得るとともに、人間の健全な心の働きや発達を様々な切り口から捉えることのできる能力を身につけること、また、心理学的な視点で、自分のこと、周りの人々のことを考えられるようになることを本授業の到達目標とします。具体的には、心理学 LA では「自分のレジリエンスを高める」、心理学 LB では「自分のウェルビーイングを高める」という具体目標を掲げます。通年で受講することで、両目標に対して統合的な効果が得られることが期待されます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

学期を通して、「曜日時限なし」のオンライン（オンデマンド型）授業となります。ただし、前年度までの同授業形態の履修者の多くが、学習ペースの自己管理に困難を来したことから、授業動画の視聴および課題提出については定期的な期日を設けながら進めます。オンデマンド型学習のために、学習支援システム（掲示板は使用しません）と Google クラスルームを併用します。学期中の連絡手段は主にメールと Google クラスルームになりますので、必ず確認するようにしてください。その他の詳細については第 1 回授業のガイダンスでお伝えします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業概要、授業の進め方と方法
第 2 回	ウェルビーイング（Well-Being）とは何か	ポジティブ心理学/ウェルビーイング研究の歴史（臨床心理学、社会心理学、文化心理学ほか）
第 3 回	ポジティブ心理学/ウェルビーイング研究	「こころの健康」を理解しよう [テキスト 第 1 章] で解明されたこと

第 4 回	（ネガティブな感情も大切にしながら）ポジティブな感情を増やそう	「こころの健康」を高めよう 第 1 回 [テキスト 第 2 章 Part 1]
第 5 回	エンゲージメントを高めよう	「こころの健康」を高めよう 第 2 回 [テキスト 第 2 章 Part 2]
第 6 回	良好な人間関係を築こう	「こころの健康」を高めよう 第 3 回 [テキスト 第 2 章 Part 3]
第 7 回	人生の意味を創造しよう	「こころの健康」を高めよう 第 4 回 [テキスト 第 2 章 Part 4]
第 8 回	達成感を味わおう	「こころの健康」を高めよう 第 5 回 [テキスト 第 2 章 Part 5]
第 9 回	中間レポート講評	第 3 回～第 8 回授業の振り返り
第 10 回	活力を高めよう	「こころの健康」を高めよう 第 6 回 [テキスト 第 2 章 プラス a]
第 11 回	幸福感を高めよう（ポジティブ心理学介入）	「こころの健康」を支援しよう 第 1 回 [テキスト 第 3 章]
第 12 回	「心理資本」を豊かにしよう（ポジティブ心理学介入）	「こころの健康」を支援しよう 第 2 回 [テキスト 第 3 章]
第 13 回	「徳性の強み」で自分も世の中もよくしよう（ポジティブ心理学介入）	「こころの健康」を支援しよう 第 3 回 [テキスト 第 3 章]
第 14 回	期末レポート	第 10 回～第 13 回授業の振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で扱うテーマについて、授業を離れても日常的に意識して過ごしてみることをお勧めします。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準としますが、各自でペース調整をしてください。

【テキスト（教科書）】

『人生を豊かにするウェルビーイングノート：ポジティブサイコロジー × 解決志向アプローチでこころの健康を育てる』（松隈信一郎著、金剛出版、2022 年）

<https://www.kongoshuppan.co.jp/book/b596381.html>

【参考書】

特に指定しませんが、テーマに応じて有益と思われる書籍は授業内で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

中間レポート 25%、期末レポート 25%、授業に関係するアクティビティ 50%

中間レポート・期末レポート共に、暗記による知識ではなく、理解度を確認するものとなります。授業に関係するアクティビティの具体的な内容を含め、成績評価に関する詳細についてはガイダンスで説明します。

【学生の意見等からの気づき】

< 授業内容について >

- ・授業に関する意見のなかで、最も励みとなったのは、「これからの人生を生きていく上でとても為になる」という言葉でした。
- ・「授業がおもしろい」というコメントも多くいただきます。皆さんの学生生活に即役に立つようなテーマを取り上げますが、楽しんで学習することによる学習効率についても念頭に置いています。
- ・かなり多くの方が、「自分はネガティブだと自覚しているが、ポジティブに振る舞っている」という悩みを抱えていることが、リアクションペーパー（オンラインで提出）を通して分かりました。ポジティブ心理学では、人間は生来、ネガティブになる傾向があることが指摘されています。「授業を通して、自分がなぜネガティブなのか分かって救われた」との声が非常に多く寄せられました。
- ・総じて、毎回の授業内容について、リアクションペーパーでしっかりと自分の考えを述べたり、自己内省をして授業から学び取ったことを書いてくれたりした方がほとんどでした。

< 授業形式について >

- ・本授業は加点方式か、それとも減点方式か、という質問が、学期を通して寄せられましたが、本授業は基本的に加点方式です。
- ・諸事情により、動画配信を逃してしまった、課題が期日までに提出できなかった、という方も少なくありません。動画の再視聴期間や、課題の遅延提出期間を設けることで、支障なく学習を進められるよう、便宜を図ります。

【学生が準備すべき機器他】

スマホよりはパソコンでの受講が望ましいです。(課題は Google フォームで提出してもらいますが、スマホから提出を続けていたところ、受付となっておらず、それまでの提出が無効となった、という事例が発生しました。)

【その他の重要事項】

- ・抽選や単位数の都合で、心理学 LA か心理学 LB いずれかのみを受講となる場合もあると思います。履修上は問題ありませんが、連続して受講していただけると、一年間を通して本授業から得られると期待される実践的な効果をより体得できるかもしれません。
- ・日本語よりも英語を得意とする方は、リアクションペーパーやレポートを英語で書いて提出していただいても構いません。

【Outline (in English)】

【授業の概要 (Course Outline)】

Is there any way to apply the findings and methodologies in psychological science when working towards solving various issues in our society? With such a question in mind, students are expected to understand and articulate key concepts and findings in psychology through your own experiences and practices. A certain basic knowledge of psychology (e.g., perception, cognition, emotion, personality, etc.) is desirable but not a prerequisite for this course. Any student is welcome to this course to get to know psychology for the first time.

【到達目標 (Learning Objectives)】

What is the "mind"? Psychology is the scientific study of the mind and behavior, according to APA (American Psychological Association). The general goals of this course are to provide certain clues to respond to these questions, to acquire the ability to understand from various perspectives how a healthy human mind functions and develops, and to be able to give compassion to yourself and to others from a psychological perspective. In the spring semester, the classes are specifically designed to "build your resilience" and the fall semester to "promote your well-being," respectively. The year-long endeavor should have an integrated effect on both specific goals.

【授業時間外の学習 (Learning Activities Outside of Classroom)】

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be around two hours before and after each class meeting.

【成績評価の方法と基準 (Grading Criteria/Policy)】

Final grade will be calculated according to the following process: Mid-term report (25%), term-end report (25%), and class-related activities (50%). More details will be explained in the first lecture of each semester.

GEO200LA

地理学 L A

2017 年度以降入学者

サブタイトル：

長沢 利明

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 3/Tue.3

単位数：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

地理学の基本的な研究方法、考え方、方法論などについて学ぶ。さまざまなテーマを取り上げてそれを考えていく。特に環境問題に重点を置いて、授業を進めていく。

【到達目標】

さまざまなテーマと話題を取り上げながら、地理学の方法論や考え方を学び、身につけることを到達目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

本授業では、毎回プリントを配布して講義をおこなう。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	プロローグ	授業内容の説明、成績評価の方法などを解説する。
2	文化・生態・環境	地理学と生態・環境問題との関係について解説する。
3	都市の生態環境①	都市の生態環境の特色について解説する。
4	都市の生態環境②	都市の生態環境の特色について解説する。
5	都市の生態環境③	都市の生態環境の特色について解説する。
6	日本の野生動物相①	日本の野生動物相の特色について解説する。
7	日本の野生動物相②	日本の野生動物相の特色について解説する。
8	日本の植生①	日本の植生の特色について解説する。
9	日本の植生②	日本の植生の特色について解説する。
10	生業条件と生態環境	生業経済と生態環境との関係について解説する。
11	森林問題①	都市の森林問題、里山林の問題などについて解説する。
12	森林問題②	都市の森林問題について解説する。
13	調査とレポート	フィールドワークの方法について解説する。
14	全体的な補足	全体的な補足をおこなう。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習および復習を自宅でおこなうことががましい。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特にありません。授業内で必要に応じてプリントを配布します。

【参考書】

随時、授業内で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

授業内試験(100%)で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

アンケート調査結果などを参照し、授業内容の改善につとめる。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【Outline (in English)】

(Outline) This course introduces general theories of cultural geography to students talking this course.

(Goal) The goal of this course is to understand of general theories on cultural geography.

(Learning activities outside of classroom) Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.

(Grading criteria/policy) Your overall grade in the class will be decided based on the following.

Term-end examination:100%.

GEO200LA

地理学 L B

2017 年度以降入学者

サブタイトル：

長沢 利明

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 3/Tue.3

単位数：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

地理学の基本的な考え方、研究方法などを学ぶために、さまざまな話題を取り上げ、解説をおこなう。特に環境問題に重点を置いて講義をおこなう。

【到達目標】

地理学的な物の見方とは、どういうことをいっているのか、あるいはその視点・立脚点とはどのようなものか、などを身につけることが到達目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

毎回異なったテーマを取り上げる。プリントを配布し、それをテキストとして用いながら授業を進めていく。

課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	プロローグ	授業の進め方や注意事項などについて解説する。
2	文化・生態・環境	授業を構成する文化・生態・環境の三つのキーワードについて解説する。
3	焼畑農業	焼畑農業の持つ諸課題について解説する。
4	農業の起源と赤米①	日本における農業の起源と赤米の問題について解説する。
5	農業の起源と赤米②	日本における農業の起源と赤米の問題について解説する。
6	海辺の環境①	海辺の環境の特色について解説する。
7	海辺の環境②	海辺の環境の特色について解説する。
8	海辺の環境③	海辺の環境の特色について解説する。
9	海辺の環境④	海辺の環境の特色について解説する。
10	海辺の環境⑤	海辺の環境と漁業問題について解説する。
11	森林問題	森林問題、里山林の環境的特性などについて解説する。
12	調査とレポート	フィールドワークの方法などについて解説する。
13	まとめ	全体的なまとめをおこない、総括する。
14	補足	補足的なテーマを適宜選んで取り上げる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

自宅での予習・復習をおこなうことが望ましい。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定はありません。必要に応じて、授業内でプリントを配布します。

【参考書】

授業内で適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

授業内試験 (100%) で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

地理学の基本から学びますので、高校時代に地理を選択していなかった学生も遠慮なく履修してください。

【Outline (in English)】

(Outline) This course introduces general theories of cultural geography to students talking this course.

(Goal) The goal of this course is to understand of general theories on cultural geography.

(Learning activities outside of classroom) Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.

(Grading criteria/policy) Your overall grade in the class will be decided based on the following.

Term-end examination:100%.

GEO200LA

地理学 L C

2017 年度以降入学者

サブタイトル：

片岡 義晴

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 4/Thu.4

単位数：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代世界、とりわけ低開発諸国、地域の地域問題について学んでいきます。

【到達目標】

食料、人口、貧困問題などを手がかりにして、現代世界の地域・社会問題を学んでいきます。低開発諸国、地域のそれら問題は先進諸国との関係性の中で生じており、授業を通して先進諸国と低開発諸国、諸地域の関係を理解できるようになります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

【授業の進め方】

「発展」から取り残されている地域・国を事例にして、現代世界の地域・社会問題を考えていきます。主としてアジア諸地域を例に挙げて、「発展」の仕組みを、その「裏側」から考えていくつもりです。取り扱うテーマは世界の食料、人口、貧困にかかわる諸問題です。それらの出来事は個別に存在するわけではなく、相互に関連し、問題を複雑化させています。したがって結論や解決策を単純に見いだすことはできません。現実の「構造」を知ることができるようにしていきたいと思えます。

【課題等に対するフィードバック方法】

授業の初めに、前回までの授業で提出されたりアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。

【授業の方法】

講義形式で授業していきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	世界の食糧問題 (1)	先進国と途上国の食料自給率
第 2 回	世界の食糧問題 (2)	食糧輸出国と輸入国
第 3 回	世界の食糧問題 (3)	農業生産性の向上 - 「緑の革命」 -
第 4 回	世界の人口 (1) - 人口の趨勢 -	人口爆発とその後 - 70 億人突破 -
第 5 回	世界の人口 (2) - 二つの人口論 -	マルサスとマルクス
第 6 回	世界の人口 (3) - 死亡率・出生率変化の検討 -	死亡率の急減と出生率低下の緩慢さ
第 7 回	世界の人口 (4)	人口問題と人権
第 8 回	貧困と援助・協力 (1)	世界の貧困 - 先進国、途上国それぞれに貧困 -
第 9 回	貧困と援助・協力 (2)	衛生問題 - 乳児死亡率の地域差と女性の権利 -
第 10 回	貧困と援助協力 (3)	教育の不平等 - 教育と識字率 -
第 11 回	貧困と援助協力 (4)	難民問題の拡大と日本
第 12 回	貧困と援助協力 (5)	ODA と日本、世界の児童労働
第 13 回	貧困と飢饉	飢饉発生 of 構造的要因

第 14 回 まとめ

まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

「食料」「人口」「貧困」に関わる報道に目を向けて下さい。それら問題は「なぜ」生じているか、さらにそれら問題が私たちと如何に関連しているのか、それを考えようとして下さい。時間をとって机に向かうことも重要ですが、それら問題を普段から意識することがより重要です。

なお、本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません。資料プリントを配布します。場合によっては PowerPoint を使用します。

【参考書】

西川 潤 (2008) 『データブック 食料』、同『データブック 人口』、同『データブック 貧困』いずれも岩波ブックレット。その他は授業時に適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】

学期末試験 100 % で成績評価します。

【学生の意見等からの気づき】

2022 年度、慣れない PowerPoint を使って授業したためか、教材提示の順番が前後してわかりにくいという意見がありました。また PowerPoint に誤字脱字が散見されるとの意見も頂戴しました。これらは改善しなければならぬと痛感しています。

【学生が準備すべき機器他】

特にありません。

【その他の重要事項】

特にありません。

【Outline (in English)】

【Course Outline】 This course is aimed at broadening students' basic knowledge of the current factors of underdeveloped countries and regions. It has three focuses: 1) food problems, 2) population problems, 3) poverty problems in underdeveloped countries and regions.

【Learning Objectives】 The goal of this course is to help students understand the structural relationships (political and economic relationships) between developed countries and underdeveloped countries and regions.

【Learning activities outside of classroom】

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

【Grading Criteria / Policies】

Your overall grade in the class will be decided based on Term-end examination (100 %).

GEO200LA

地理学 L D

2017 年度以降入学者

サブタイトル：

片岡 義晴

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 4/Thu.4

単位数：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本の地域問題に関して、様々な問題群、その構造的要因について学んでいきます。具体的には第一次～第五次全国総合開発計画に代表される地域開発政策、同時期に生じた公害問題、地域格差等を指標として検討していきます。

【到達目標】

日本の高度経済成長期における全国総合開発計画に代表される地域開発政策、公害問題、地域格差等を手がかりにして、日本の地域問題の構造的要因に迫っていきます。多くの場合、それら問題は地域開発政策に代表される政治、経済に関わる要因に規定されています。授業を通して、日本の地域問題は構造的であることが理解できるようにします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

【授業の進め方】

国籍の如何に関わらず、日本居住者は日本のことを「知っている」と思い込んでいます。しかし現代日本の地域・社会問題を「知っている」「理解している」人がどれくらい居るでしょうか。地域居住者の「権利」を侵害するような問題は、いつの時代も、どの地域でも発生していますし、発生するように「仕組まれ」ているといわなければなりません。具体例を挙げ、日本の「裏側」から日本の地域・社会問題に迫っていきましょう。

【課題等に対するフィードバック方法】

授業の初めに、前回までの授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。

【授業の方法】

講義形式で授業していきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	日本の地域性 (1)	「裏日本」の形成
第 2 回	日本の地域性 (2)	「裏日本」の役割
第 3 回	戦後日本の経済と地域	経済成長の内実
第 4 回	地域格差とその指標 (1)	格差の指標
第 5 回	地域格差とその指標 (2)	経済格差と指標
第 6 回	様々な地域格差	様々な地域格差－女性、高齢者、若者、外国人等－
第 7 回	日本の地域開発 (1)	地域開発前史
第 8 回	日本の地域開発 (2)	全国総合開発計画（全総、新全総、三全総、四全総、グランドデザイン）
第 9 回	地域経済の実態	経済の地域間相互依存
第 10 回	公害と地域 (1)	イタイイタイ病と神岡鉱山
第 11 回	公害と地域 (2)	イタイイタイ病訴訟
第 12 回	公害と地域 (3)	水俣病の「発見」とチッソ

第 13 回 公害と地域 (4)

水俣病訴訟

第 14 回 まとめ

まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日本の「地域問題」「社会問題」に関わる報道に目を向けて下さい。それら問題は「なぜ」生じているか、それら問題が私たちと如何に関連しているのか、それを考えて下さい。それら問題は「身近」に存在しています。それら問題について普段から関心を持って下さい。なお、本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません。授業時に資料プリントを配布します。

【参考書】

政野淳子（2013）『四大公害病』中公新書

その他は授業時に適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】

学期末試験 100 % で成績評価します。

【学生の意見等からの気づき】

2022 年度、慣れない PowerPoint を使って授業したためか、教材提示の順番が前後してわかりにくいという意見がありました。また PowerPoint に誤字脱字が散見されるとの意見も頂戴しました。これらは改善しなければならないと痛感しています。

【学生が準備すべき機器他】

特にありません。

【その他の重要事項】

特にありません。

【Outline (in English)】

【Course outline】

The aim of this course is to help students acquire the regional problems in Japan. It has two main focuses; 1) regional development policies in Japan's highest economic growth, 2) as a result environmental pollution problems and regional disparities in Japan.

【Learning Objectives】

The goal of this course is to help students understand the structural factors (political and economic factors) of regional problems during the period of Japan's high economic growth.

【Learning activities outside of classroom】

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

【Grading Criteria /Policies】

Your overall grade in the class will be decided based on Term-end examination (100 %).

GEO200LA

地理学 L A

2017 年度以降入学者

サブタイトル：

長沢 利明

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 3/Mon.3

単位数：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

さまざまなテーマを毎回ひとつずつ取り上げ、解説していく。全体を通して地理学的な物の見方や考え方を学ぶ。

【到達目標】

授業を通し、地理学的な物の見方と考え方をつかんでいくことがのぞましい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

毎回、プリントを配布して授業を進めていくことにする。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	プロローグ	授業の進め方、おおまかな計画について解説する。
2	文化・生態・環境	授業の基本的なテーマである三つのキーワードについて解説する。
3	都市の生態環境（1）	都市の生態環境の特色をとらえるため、タンポポの生態について注目してみる。
4	都市の生態環境（2）	都市の生態環境の特色をとらえるため、河川環境について考えてみる。
5	都市の生態環境（3）	都市の生態環境の特色をとらえるため、河川環境について考えてみる。
6	日本の野生動物相（1）	日本の野生動物の特色について解説する。
7	日本の野生動物（2）	日本の野生動物、とくにオオカミについて注目してみる。
8	日本の植生（1）	日本の植生のうち、特に落葉広葉樹林帯について解説する。
9	日本の植生（2）	日本の植生のうち、特に照葉樹林帯について解説する。
10	補足（1）	全体的な補足をおこなう。
11	補足（2）	全体的な補足をおこなう。
12	調査とレポート	地理学的な調査方法と成果のまとめ方について解説する。
13	まとめ（1）	全体のまとめと総括をおこなう。
14	まとめ（2）	全体のまとめと総括をおこなう。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

自宅での予習と復習をおこなうことがのぞましい。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

授業時間内に適宜、紹介する。

【成績評価の方法と基準】

試験の成績（100%）によって評価をおこなう。

【学生の意見等からの気づき】

学生からの要望を極力取り入れて授業内容の改善につとめる。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

特になし。

【Outline (in English)】

(Outline) This course introduces general theories of cultural geography to students talking this course.

(Goal) The goal of this course is to understand of general theories on cultural geography.

(Learning activities outside of classroom) Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.

(Grading criteria/policy) Your overall grade in the class will be decided based on the following.

Term-end examination :100%.

GEO200LA

地理学 L B

2017 年度以降入学者

サブタイトル：

長沢 利明

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 3/Mon.3

単位数：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

授業では毎回ひとつずつ異なったテーマを取り上げて解説する。

【到達目標】

全体を通して地理学的な物の見方と考え方を学んでいく。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

授業では、毎回、プリントを配布して解説をおこなう。

課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	プロローグ	授業の進め方や注意事項などを解説する。
2	文化・生態・環境	授業の基本テーマであるこの三つのキーワードについて解説する。
3	日本の焼畑農業	日本の農業問題、特に焼畑農業について解説する。
4	稲作農業と赤米（1）	日本の稲作農業、特に赤米をめぐる諸問題を解説する。
5	稲作農業と赤米（2）	日本の稲作農業、特に赤米をめぐる諸問題解説する。
6	生業条件と資源	生業条件と資源環境の問題について注目する。
7	海岸の環境（1）	海をめぐる環境問題について解説する。
8	海岸の環境（2）	海をめぐる環境問題について解説する。
9	海岸の環境（3）	海をめぐる環境問題について解説する。
10	海岸の環境（4）	海をめぐる環境問題について解説する。
11	里山の環境	里山環境と人間生活の歴史について解説する。
12	補足	全体の補足をおこなう。
13	調査とレポート	地理学的な調査方法とそのまとめ方について解説する。
14	まとめ・試験	全体的なまとめと試験をおこなう。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

自宅での予習と復習をおこなうことががぞましい。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

授業時間内に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

試験のみによって成績評価をおこなう。

【学生の意見等からの気づき】

学生からの要望は極力取り入れ、授業内容の改善につとめる。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

特になし。

【Outline (in English)】

(Outline) This course introduces general theories of cultural geography to students talking this course.

(Goal) The goal of this course is to understand of general theories on cultural geography.

(Learning activities outside of classroom) Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.

(Grading criteria/Policy) Your overall grade in the class will be decided based on the following.

Term-end examination:100%.

GEO200LA

地理学 L C

2017 年度以降入学者

サブタイトル：身近なグローバル社会を地理学で考える

前川 明彦

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 3/Wed.3

単位数：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講義は世界や日本の身近な課題を地理学をとおして発見や問題意識の醸成などを旨とするを目的にしている。そして、秋学期の LD でそうした課題の解決方法の一端を共に考えるという方向を考えている。具体的にはコロナで顕在化した世界や日本の格差や DX、AI など社会的課題を身近なところから一緒に地理学で考えます。これは、学生自身が課題や問題意識を考え、多様なものの考え方ができることを目的としています。

【到達目標】

皆さんが、身近なことから論理的に課題を見つけ、その背景や要因などを自ら多様性の中で考え、解決の方向性に活用できることを目標としたい。グローバル化やコロナの影響等から社会が格差・分断、また不寛容になりつつあります。また、日本が世界から様々な視点で遅れたり、異なっていたこともあらためて理解されたかもしれません。今後のアフターコロナ下の AI 時代において皆さんはどうすべきでしょうか。問題の解決には知識だけでなく自分の目でみつけ、考えるという必要性が突きつけられている気がします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

本講義は対面授業の予定である。コロナ下で日本は様々な課題が顕在化、表面化した。こうしたマクロ的な課題や問題を概観しながら、高校までの授業とは違った視点、学際的に広がった地理学的視点から考えていく。この授業が自分のプラスになるかは自分次第かもしれませんが、一方的な授業ではない、知識からの応用である AL の GD/GW を可能な段階などで試みたい。なお、教材等は授業支援システムなどで指示しますので、注意してください。場合により、支援システム以外で Googleclassroom を併用する可能性があります

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	地域とは、グローバルとは何かを身近なことから考える
2	グローバル化と産業	コロナで大きく変化した世界と 21 世紀
3	21 世紀のボーダレス化と地域社会	大量生産社会からの変貌と 21 世紀型産業 サプライチェーン
4	世界から遅れた日本	GAF A・国際分業・市場
5	世界の課題を日本から見る 1	先進国か 様々な分野で遅れていることが・・・日本
6	世界の課題を日本から見る 2	若者の格差・貧困と地域社会 ブラックバイト
7		子ども・女性の貧困格差と連鎖 社会的弱者

8	世界の課題を日本から見る 3	少子高齢化の課題と格差貧困
9	グローバル化と産業の課題 1	AI/第 4 次産業革命と格差社会・・・立地や仕事が変わる
10	グローバル化と産業の課題 2	AI/IoT/Big Data 社会とこれまで
11	グローバル化と産業の課題 3	世界の分断と今後の社会
12	グローバル化と産業の課題 4	環境か経済か カーボンニュートラルで産業が生まれるか
13	グローバル化と産業の課題 5	分断と共生 世界各国の分断やウクライナ問題などから考えてみよう
14	試験 まとめと解説	授業内試験(持ち込み可)

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

アフターコロナ以降は世界は大きく変わる可能性があります。普段から何事にも興味・関心を持ち、最初の一步を踏み出してください。内外のことを新聞、TV、ネットなどで調べ知識化し、自ら問題を考え応用できるようにしてください。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

基本的になし

【参考書】

授業時や支援システム等に指示

【成績評価の方法と基準】

原則的には、中間・期末レポート（70%）授業での平常点（コメント、GD 等）30%を考えています。

【学生の意見等からの気づき】

コロナ下で、学生は孤独感や孤立感、ストレス等からコミュニケーションの重要性が問われた気がします。対面中心を予定していますから、授業を居場所としてコミュニティの重要性をフルに発揮するためにも GD・GWなどを試みたいと思います。そして、授業でたくさんの知り合いを、違う学年や他学部から増やし、ネットワークを広げてみてください。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システム等や映像を多用するため、これらや事前、事後に関連性のある情報、資料等を各自調べるなど活用してもらいたい。ほかの科目でも予想されるが、WEB 授業等に係るものは用意されたほうが・・・

【その他の重要事項】

秋学期の地理学 LD と合わせて受講することを勧める。通年でなくとも構わないが、先に春学期の LC での問題意識や問題の発見を基礎や理論を理解し、秋学期の LD で知識の応用を目指し、課題解決型講義の方向をともに目指したい。学生の授業アシスタントも予定していますので相談してみてください。

あまり一方的な授業は避けたいのでみんなで楽しみましょう。支援システムの掲示板などをみんなで使いましょ。人数次第で Googleclassroom を開設する場合もあります。添付ファイル参考

【Outline (in English)】

Course outline: This course is to discover familiar issues in the world and Japan through geography, and to foster an awareness of these issues.

Learning objectives: The goal is to be able to find issues logically from familiar things, to think about the background and factors of the issues in a diverse context, and to apply this to the direction of solutions.

Learning activities outside of classroom: Total is 4 hours

Grading Criteria: Term-end exam: 70% Contribution to class: 30%

GEO200LA

地理学 L D

2017 年度以降入学者

サブタイトル：都市・地域再生を地理学で考える

前川 明彦

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 3/Wed.3

単位数：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

講義では、地域の課題解決の方向性を考えます。具体的には、グローバル化などで衰退する日本を地域再生論やコミュニティデザインなど地理学の視点を中心に考えます。解決策モデル等を紹介しながら、その糸口や方法論を地理学ロジックで学びます。そこから学生自身が多様性のある社会の実現を模索、検討できることを目的としています。対面形式中心ですのでインプット型の学ぶではなく、むしろ地理学を材料に、アクティブに一緒に考えることを目指します。

【到達目標】

秋学期には春学期の問題意識や地域的課題を解決方向へと踏み出したい。このため、街づくり、地域再生を主なテーマとし、学生が、地域社会に関連するコミュニティデザインやソーシャルビジネスなどから多様性のある様々な問題解決の方向性を示せることを到達目標とした。そして、学生が自らの考えをもち行動し、将来的には世界の地域社会を解決する一員になることを到達目標にしている。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

対面授業の利点を如何にいかすかが問われます。地域再生を軸とした解決方法の事例紹介も含めて、一部講義形式となる可能性があります。ただそれならオンデマンドで十分かもしれません。多様な意見や価値観の認識、コミュニケーションスキル等のために皆さんと考えていきたいと思っています。初めての受講でも心配ありません。教材等は授業支援システムを使う予定です。感染予防対策のため、授業資料の紙での配布はいたしません（すべて学習支援システムにアップします）。また、授業アシスタントの人も予定していますので、不安な場合は相談してみてください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	AI の判断する 2050 の日本・TOKYO か地方
2	日本の課題再考	極点社会という少子高齢化社会
3	課題再考 2 ITS は DX は	TOKYO からの脱出 移住とリモートワーク・ワーケーション
4	解決の方向 1 問題の可視化	ビックデータ・オープンデータ RESAS・GIS でマーケティング
5	解決の方向 2 具体化	工夫をする地域社会 ソーシャルと人
6	都市再生 1	AKIBA というコミュニティと場の重要性
7	都市再生 2	タワーマンションとコミュニティ論
8	都市再生 3	失敗から学ぶ コンパクト・スパーシティの試み

9	地域再生 1	ハロウィンなどイベントとコミュニティ
10	地域再生 2	情報発信と人を呼ぶ
11	地域再生 3	関係人口と地域へのかかわりかた コミュニティ再考
12	地域再生 4	新たな試み 仮想空間の地域再生
13	地域再生 5	震災から 復興ができたのか
14	試験 まとめと解説	今後の日本

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

ネットやニュースなどから多様な考え方を学んでください。問題をどう解決するかは、さまざまな方法があり、必ずしも 1 つの方法が正解ではありません。日本はどんどん世界から遅れ始めていることに気が付いていますか。将来の自分が想像できますか、自ら考え、行動する意欲を常に持ち、失敗を恐れずむしろ失敗から学び、前向きになる自分を想像してください。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

基本的にはないが使用する場合は、授業時に指示

【参考書】

授業時に指示

【成績評価の方法と基準】

中間・期末のレポート試験（80 %）、授業での平常点（20 %）で総合的に評価する予定でいる。状況により変更の場合などもあり得るかもしれません。

【学生の意見等からの気づき】

コロナ下で、学生は孤独感や孤立感、ストレス等からコミュニケーションの重要性が問われた気がします。今年度は、対面中心を予定していますから、授業を居場所としてコミュニティの重要性をフルに発揮していきたいと思えます。むしろ、授業でたくさんの知り合いを、違う学年や他学部から増やし、ネットワークを広げてみてください。今期も前向きに考えてやってみましょう。

【学生が準備すべき機器他】

通信環境と、スマホよりはパソコン使用を。このため、この授業以外のためにも大学からの貸し出しなどは積極的に申し込んでください。授業支援システム等をかなり利用するので仕様の仕方等に習熟してほしい。

【その他の重要事項】

授業開始日までに、内容の詳細や要点をまとめて授業支援システムに上げておきたいと思えます。必ずご確認ください。（仮登録すれば見れるようになります）状況次第ですが、あまり一方的な授業は避けたいのでみんなで楽しみましょう。また、できれば地理学 LC と合わせて受講することを勧める。通年でなくとも構わない。楽かどうかは皆さん次第ですが、アフターコロナで生き残るためには、知識だけではなく自ら考え行動することが必要な気がします。なお、学生アシスタント等の協力で大学の情報なども充実させていきたい。添付ファイル参考に

【Outline (in English)】

Course outline: The lecture will consider the direction of solutions to local issues.

Learning objectives: We would like to make it an attainable goal for students to be able to indicate the direction of various problem solving with diversity from community design and social business related to the local community.

Learning activities outside of classroom: Total is 4 hours

Grading Criteria: Term-end exam: 70% Contribution to class: 30%

SOC200LA

社会学 L A

2017 年度以降入学者

サブタイトル：文化の社会学

松下 優一

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 1/Tue.1

単位数：2 単位

その他属性：〈優〉

- understand key concepts in cultural theory and fundamental approaches of the sociology of culture.

- analyze artworks(artists, cultural production/distribution/reception, and so on) in its social context.

[Learning activities outside of classroom] Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

[Grading Criteria/Policy] Grading will be decided based on Term-end report(50%) and Short reports(50%).

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、文化社会学、特に表象文化を対象とする社会学について学ぶ。文化を研究するためには、それを対象として捉え、記述するための概念・視角（＝文化理論）についての理解が不可欠となる。国内外の文化社会学や文化研究の古典とされる重要文献を取り上げながら、文化を社会学するための視座・着眼点の獲得を目指す。

【到達目標】

・文化を社会的に考察するのに役立つ理論（基本的な着眼点や問題設定など）について理解できる。
・文化的作品（または作家の営み、生産・流通・受容など）の具体的な特徴を捉え、その社会的文脈性を考察することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

基本的に配布資料（レジュメ）を用いて講義形式で進める。毎回のテーマに関するリアクションペーパーや課題の提出を課す。提出物へのフィードバックは、次回授業の冒頭やまとめの回でいくつかピックアップする形で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	文化社会学へのイントロダクション
第 2 回	遊戯	井上俊『遊戯の社会学』を中心に
第 3 回	欲望	作田啓一『個人主義の運命』を中心に
第 4 回	記号	R・バルト『神話作用』を中心に
第 5 回	表象とイデオロギー	マルクス主義的アプローチの系譜
第 6 回	文化テキストの分析（1）	『君の名は。』の構造分析
第 7 回	文化テキストの分析（2）	『ゴジラ』と『シン・ゴジラ』の比較分析
第 8 回	文化テキストの分析（3）	『この世界の片隅に』が描く戦争
第 9 回	文化テキストの分析（4）	『スワロウテイル』と 1990 年代
第 10 回	メディア文化	ベンヤミン「複製技術時代の芸術作品」を中心に
第 11 回	文化と卓越化	ブルデュー『ディスタクシオン』および『芸術の規則』について
第 12 回	受容と流用	カルチュラルスタディーズの展開
第 13 回	コンヴァージェンス・カルチャー	参加型文化の時代
第 14 回	まとめ	授業の振り返りと補足、および課題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。課題に取り組むとともに、授業で紹介するテキストや作品を熟読・鑑賞し、自分なりに理解を深めてください。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。

【参考書】

・井上俊／長谷正人編『文化社会学入門』（ミネルヴァ書房、2010 年）
・栗谷佳司／太田健二編『表現文化の社会学入門』（ミネルヴァ書房、2019 年）

【成績評価の方法と基準】

授業内課題（50％）＋期末レポート（50％）
記述の具体性・独自性・妥当性などにより評価する。

【学生の意見等からの気づき】

受講生の反応を見る限り概ね好評であった。今後も研鑽を重ねたい。

【Outline (in English)】

[Course outline] This course introduces students to the key concepts in sociology of culture and to the ways of thinking about culture in the contemporary world.

[Learning Objectives] By the end of the course, students should be able to do the followings:

SOC200LA

社会学 L B

2017 年度以降入学者

サブタイトル：現代社会論

松下 優一

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 1/Tue.1

単位数：2 単位

その他属性：〈優〉

- think about social issues (cultural phenomena and so on) in contemporary context.

[Learning activities outside of classroom]

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

[Grading Criteria/Policy]

Grading will be decided based on Term-end report(50%) and Short reports(50%).

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、様々な現代社会論を学ぶ。現代日本社会に生起する諸々の現象・問題について、歴史的・構造的な視点をもって、分析・記述・考察するための社会学的視野の獲得を目指す。

【到達目標】

・基本的な現代社会の理論について理解し、具体的な事象に応用し、考察できる。
・現代社会において生起する具体的な事象を取り上げ、その背景・帰結を含めて分析・考察できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

基本的に配布資料（レジュメ）を用いた講義形式で進める。毎回アクションペーパー記入ないし提出課題（小レポート）を課す。フィードバックは、次回授業冒頭やまとめの回にて、いくつかの答案をピックアップする形で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の概要説明、初回アンケートほか
第 2 回	リスク社会論	ベックのリスク社会論の要点と応用
第 3 回	消費社会論	ボードリヤールの記号消費論の要点と応用
第 4 回	格差社会論	〈格差〉から考える現代社会
第 5 回	監視社会論	管理／監視の技術から考える現代社会
第 6 回	情報社会論	インターネットが切り拓いた社会的地平
第 7 回	再帰的近代化論	ギデンズのモダニティ論を中心に
第 8 回	昭和ノスタルジア	『ALWAYS 三丁目の夕日』から考える現代社会
第 9 回	ポスト・トゥルース	陰謀論の時代
第 10 回	排除型社会	J・ヤングの著作を中心に
第 11 回	コンプライアンス社会	フラット化する文化と社会
第 12 回	平成史	平成とはいかなる時代だったのか
第 13 回	アフター・コロナ	コロナ禍から考える現代日本社会
第 14 回	まとめ	授業の振り返りと補足

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。各回のテーマに沿った具体的事例の収集、考察、まとめに取り組んでください。

【テキスト（教科書）】

特に使用しない。

【参考書】

・長谷川公一ほか『社会学 [新版]』（有斐閣、2019 年）
・本田由紀編『現代社会論—社会学で探る私たちの生き方』（有斐閣、2015 年）

【成績評価の方法と基準】

授業内課題（50%）+期末レポート（50%）。
記述の具体性・妥当性・独自性を基準に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

「社会情勢や思想に触れて面白かった」「知っておくべき知識が多く勉強になった」（受講生のコメントより）。随時取り上げる現代社会論や事象を広げていきたい。

【Outline (in English)】

[Course outline]

This course introduces students to the key concepts of contemporary social theories and to the ways of thinking about current social changes. [Learning Objectives]

By the end of the course, students should be able to do the followings:

- understand fundamental approaches and theoretical arguments of contemporary social theories.

SOC200LA

社会学 LC

2017年度以降入学者

サブタイトル：政治と社会における「問題の発見」

徐 玄九

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 1/Mon.1
単位数：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

授業では政治と社会に関わる様々な事例を取り上げながら、政治と社会を動かしている原理を理解するとともに隠れている問題の発見に努める。できるだけ具体的な事例を取り上げながら基本的な概念や理論を学び、これらをもとに社会や政治、広くは時代の問題に気づき、その意味を理解し、その解決に向けて考える力を付けることを目指す。問題解決能力は問題を発見する能力とそれを解決する能力に区分できる。問題解決能力の中心は「問題の発見」にある。診断ができなければ治療することもできない医師のように、多くの領域において「問題解決」の主題は「問題の発見」である。この「問題の発見」こそが創造的な問題解決の出発点である。

【到達目標】

- ・基本的な概念や理論を論理的に発表、論述することができる。
- ・具体的な社会現象を複数の概念や理論を駆使して論理的に説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

- ・対面授業で実施する。可能な限り双方向的な授業を心がける。とくに、テーマごとの関連性を重視しながら、具体的で身近なものから抽象的なものへと話題を進める。理解を深めるために、絵画や詩、映像資料などの教材も取り入れて視覚的な理解も図る。
- ・授業資料（PDF ファイル）は Hoppii で配布する。
- ・リアクションペーパー課題の提出を求める予定であり、課題等のフィードバックは Hoppii を通じて行う予定である。
- ・講義のはじめと終わりに意見交換や質疑応答の時間を設ける。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の概要および受講時の注意点、成績評価の方法
2	「社会学的想像力」	ライト・ミルズ『社会学的想像力』を手がかりに「社会学的想像力」の意義について学ぶ
3	批判と統治	フーコー「批判と何か」の一部講読
4	社会的暴力と個人の身体	市村弘正「『社会的失明の時代』の一部講読、ドキュメンタリー映画『薬に病む—クロロキン網膜症』（小池征人監督、1980）の視聴
5	何が私たちの行動を規制するのか	道徳的圧力と同調圧力、山本七平『空気の研究』の一部講読
6	差別と解放について	市村弘正「人間の場所」の一部講読、ドキュメンタリー映画『人間の街—大阪・被差別部落』（小池征人監督、1986年）の視聴

7	感情と規範	マーサ・ヌスバウム『感情と法—現代アメリカ社会の政治的リベラリズム』の一部講読
8	政治と正義	正義論の系譜と争点を学ぶ
9	権力と自由	市村弘正「選択と選別の間」の一部講読、ドキュメンタリー映画『日本鉄道員物語 1987』（小池征人監督、1987）の視聴
10	公共性とメディア	ハーバーマス『公共性の構造転換』の一部講読
11	システムによる生活世界の植民地化	ハーバーマス『公共性の構造転換』の一部講読
12	メディアとナショナリズム	ベネディクト・アンダーソン『想像の共同体』の一部講読
13	メディアと世論	山腰修三『ニュースの政治社会学』の一部講読
14	期末テストおよび総括	期末テスト（60分）、講評・まとめ（40分）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

レジュメや参考文献などの資料を事前に配布するので、予習として授業内容を把握し、授業後は復習をすること。
 ・事前学修 2 時間：概念の調べ、教科書や参考文献を事前に読んでおく。
 ・事後学修 2 時間：ノートの整理、教科書の他、関連する文献を調べて読む。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用せず、配布資料（レジュメ、参考文献の抜粋）を用いる。

【参考書】

市村弘正・杉田敦（2005）『社会の喪失』中公新書。
 杉田敦（2009）『政治への想像力』岩波書店。
 ミシェル・フーコー（2004=2008）『私は花火師です』ちくま学芸文庫。
 ベネディクト・アンダーソン（1991=1997）『増補版 想像の共同体』NTT 出版。
 山本七平（2018）『「空気」の研究』文春文庫。

【成績評価の方法と基準】

期末テスト（50%）、リアクションペーパー課題（30%）、平常点（質疑応答やグループディスカッションへの参加：20%）
 詳細な評価基準は以下の通りである。
 〈期末テスト〉
 40-50 点：以下の条件を満たしたうえで到達目標を達成できたと認められる場合
 30-39 点：以下の条件を満たしたうえで、明確な論点の提示、論理的な論述がなされている場合
 10-29 点：授業内容の理解、概念の正しい使用が認められている場合
 1-9 点：不十分ながら最低限の理解と論点が提示されている場合
 〈リアクションペーパー課題〉
 12~15 点：授業内容の十分な理解が認められ、自分の意見が自分の言葉で論理的に述べられている場合
 5~11 点：不十分ながら授業内容を理解していると認められる場合
 1~4 点：最低限の理解は認められる場合

【学生の意見等からの気づき】

- ・質疑応答の時間を増やす。
- ・アクティブラーニングの時間を増やす。

【Outline (in English)】
(Course outline)

In the class, students take up various cases related to politics and society and try to understand the principles that drive politics and society and discover hidden problems. Through these efforts, we aim to become more aware of social, political and, more broadly, contemporary issues, understand their meaning, and develop the ability to think about solutions. Problem solving ability can be divided into the ability to discover a problem and the ability to solve it. The center of problem-solving ability lies in "finding a problem.". In many areas, the subject of "problem solving" is "finding a problem," as in a doctor who cannot be treated without being diagnosed. This "discovery of problems" is the starting point for creative problem solving.

(Learning Objectives)

- ・ You can discover the principles and problems that drive politics and society.
- ・ You can logically present and describe problems you find in your own words.

(Learning activities outside of classroom)

Since materials such as resumes and reference materials are distributed in advance, grasp the content of the lesson as a preparatory lesson and review it after the lesson.

- ・ Two hours of advanced study: study concepts and read textbooks and references in advance.
- ・ 2 hours of post-course learning: Organize notes, look up textbooks, and read related literature.

(Grading Criteria /Policy)

Final exams (50%), preparation and review tasks (30%) and participation in biweekly group discussions (20%).

SOC200LA

社会学 L D

2017 年度以降入学者

サブタイトル：国家と市民の役割

徐 玄九

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 1/Mon.1

単位数：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国家の本質、機能、市民の役割などについて学ぶ。具体的には、マックス・ウェーバーによって定義された支配と服従、国家などの概念を手掛かりに、歴史上登場した国家論の変遷と共に「市民」や政治制度の「民主主義」に関する理論を取り上げる。これらを通して受講者自らの「国家」と「市民」、「民主主義」に関する見解と比較してみることで、自らの考え方を少しでも明瞭にすることが目的である。

【到達目標】

- ・政治社会学の基本的な概念を自分の言葉に置き換えて論理的に発表、論述することができる。
- ・国家論の変遷を歴史的な文脈で説明できる。
- ・市民の自由と権利の意義と限界を受講生の経験を踏まえて具体的に説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

- ・対面授業で実施する。可能なかぎり双方向的な授業を心がける。とくに、テーマごとの関連性を重視しながら、具体的に身近なものから抽象的なものへと話題を進める。理解を深めるために、絵画や詩、映像資料などの教材も取り入れて視覚的な理解も図る。
- ・授業資料（PDF ファイル）は Hoppii で配布する。
- ・リアクションペーパー課題の提出を求める予定であり、課題等のフィードバックは Hoppii を通じて行う予定である。
- ・講義のはじめと終わりに意見交換や質疑応答の時間を設ける。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の概要および受講時の注意点、成績評価の方法
2	基礎概念の理解	マックス・ウェーバー『職業としての政治』を手がかりに基礎概念を学ぶ
3	統治術の変化	「誰が統治すべきか」から「如何に統治すべきか」へ
4	国家主義国家論	トマス・ホブズ『リヴァイアサン』の一部講読
5	自由主義国家論①	ジョン・ロック『統治二論』の一部講読
6	自由主義国家論②	アダム・スミス『国富論』の一部講読
7	自由と平等	ジャン＝ジャック・ルソー『人間不平等起源論』、『社会契約論』の一部講読
8	階級国家論、国家消滅論	カール・マルクス『共産党宣言』の一部講読、アニメーション映画『動物農場』の一部視聴

9	重荷としての自由	オルテガ・イガセット『大衆の反逆』、エリック・フロム『自由からの逃走』の一部講読、映画『1984』の一部視聴
10	自由と権利について	ジョン・スチュアート・ミル『自由論』、イェーリング『権利のための闘争』の一部講読
11	市民的不服従について	市民的不服従について—ソポクレス『アンティゴネ』、ヘンリー・デイヴィッド・ソロー『市民的不服従』の一部講読
12	民主主義について①	杉田敦『デモクラシーの論じ方』、同『境界線の政治学』の一部講読
13	民主主義について②	宇野重規『〈私〉時代のデモクラシー』の一部講読
14	期末テストおよび総括	期末テスト（60分）、講評・まとめ（40分）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- レジュメや参考文献などの資料を事前に配布するので、予習として授業内容を把握し、授業後は復習をすること。
- ・事前学修 2 時間：概念の調べ、参考文献を事前に読んでおく。
- ・事後学修 2 時間：ノートの整理、関連する文献を調べて読む。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用せず、配布資料（レジュメ、参考文献の抜粋）を用いる。

【参考書】

- マックス・ウェーバー（1919 = 2018）野口雅弘訳「仕事としての政治」『仕事としての学問・仕事としての政治』講談社。
- ・加藤秀治郎・岩渕美克（2013）『政治社会学 第5版』一藝社。
- ジグムント・バウマン（2016）奥井智之訳『社会学の考え方（第2版）』ちくま学芸文庫。

【成績評価の方法と基準】

期末テスト（50%）、リアクションペーパー課題（30%）、平常点（質疑応答やグループディスカッションへの参加：20%）
詳細な評価基準は以下の通りである。

〈期末テスト〉

- 40-50 点：以下の条件を満たしたうえで到達目標を達成できたと認められる場合
- 30-39 点：以下の条件を満たしたうえで、明確な論点の提示、論理的な論述がなされている場合
- 10-29 点：授業内容の理解、概念の正しい使用が認められている場合
- 1-9 点：不十分ながら最低限の理解と論点が提示されている場合
〈リアクションペーパー課題〉
- 12-15 点：授業内容の十分な理解が認められ、自分の意見が自分の言葉で論理的に述べられている場合
- 5-11 点：不十分ながら授業内容を理解していると認められる場合
- 1-4 点：最低限の理解は認められる場合

【学生の意見等からの気づき】

- ・質疑応答の時間を増やす。
- ・アクティブラーニングの時間を増やす。

【Outline (in English)】
(Course outline)

Learn about the nature, function, and role of the nation. Specifically, this paper takes up the theory on "democracy" of "citizen" and political system as well as the transition of state theory which has appeared in history, taking into consideration the concepts of rule, obedience and nation defined by Max Weber. The purpose of this study is to clarify the students' views by comparing them with their own views on "nation," "citizen," and "democracy".

(Learning Objectives)

- ・The basic concepts of political sociology can be logically presented and discussed in one's own words.
- ・The transition of the theory of nation in modern times can be understood in the historical context.
- ・To enhance sociological understanding of political conflicts.

(Learning activities outside of classroom)

Since materials such as resumes and reference materials are distributed in advance, grasp the content of the lesson as a preparatory lesson and review it after the lesson.

・ Two hours of advanced study: study concepts and read textbooks and references in advance.

・ 2 hours of post-course learning: Organize notes, look up textbooks, and read related literature.

(Grading Criteria /Policy)

Final exams (50%), preparation and review tasks (30%) and participation in biweekly group discussions (20%).

POL200LA

政治学 L A

2017 年度以降入学者

サブタイトル：国際政治の理論

木村 正俊

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 4/Wed.4

単位数：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国際政治学／国際関係論の諸理論を紹介して、国際政治／国際関係についての様々な見方を学ぶ。

【到達目標】

学生は以下のことが可能になります。

－国際政治の歴史と国際政治学の基本的な知識の習得。

－現在の世界的問題について自ら考察できる能力の習得。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式で行う。

授業の初めに、前回授業時の個別質問に対する回答や、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
#1	Intro.	講義の概要と学習の仕方の説明と、参考文献の紹介
#2	国際政治の歴史（1）	国際政治の世界の登場と展開
#3	国際政治の歴史（2）	20 世紀の二つの世界大戦
#4	国際政治の歴史（3）	冷戦とその後
#5	リアリズム（1）	古典的リアリズムについて
#6	リアリズム（2）	構造的リアリズムについて
#7	リベラリズム	リベラリズムの思想と国際政治について
#8	コンストラクティヴィズム	コンストラクティヴィズムの特徴と国際政治学への適用について
#9	ディスコース分析と国際政治	安全保障に関するディスコース分析について
#10	フーコーの理論と国際政治（1）	フーコーの権力論について
#11	フーコーの理論と国際政治（2）	フーコーの権力論による国際政治の分析について
#12	資本主義と国際政治（1）	帝国主義論と世界システム論について
#13	資本主義と国際政治（2）	資本主義と戦争の関係について
#14	Outro.	講義のまとめと最終課題について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回配布するプリントを授業の前に目を通し、授業後に復習する。

紹介された参考文献を読む。

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

プリントを配布する。

【参考書】

John Baylis, Steve Smith and Patricia Owens, The Globalization of World Politics, Eighth Edition (Oxford University Press, 2020).

中西寛・石田淳・田所昌幸『国際政治学』（有斐閣、2013 年）

吉川直人・野口和彦 編 第 2 版『国際関係理論』（勁草書房、2015 年）

藤原帰一『国際政治』（放送大学教育振興会、2007 年）

ジョセフ・S. ナイ ジュニア 他『国際紛争－理論と歴史 原書第 10 版』（有斐閣、2017 年）

小川浩之、板橋 拓己、青野 利彦『国際政治史－主権国家体系のあゆみ』（有斐閣、2018 年）

【成績評価の方法と基準】

授業の内容に関するレポートのみで評価。

小レポート 20 %、期末レポート 80 %

【学生の意見等からの気づき】

授業時間外の質問はメールで対応します。

必要であれば個別に ZOOM によるミーティングを行います。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムにアクセスできること

【Outline (in English)】

【Course outline】

This course deals with theories of international relations.

【Learning Objectives】

By the end of the course, students should be able to do the followings:

To acquire basic knowledge of international history and international relations.

To get a lens through which present world affairs can be viewed on their own.

【Learning activities outside of classroom】

Read the prints distributed each time before class and review after class.

Read references.

Your study time will be more than four hours for a class.

【Grading Criteria /Policy】

Final grade will be calculated according to short reports(20%) and term-end report(80%).

POL200LA

政治学 L B

2017 年度以降入学者

サブタイトル：音楽と政治

木村 正俊

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 4/Wed.4

単位数：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テーマ：ボブ・ディランと政治

ボブ・ディランと US 政治の関係について考察する。

ボブ・ディランと US 政治の関係について考察することによって現代政治に関する見方を養うことを目指します。

【到達目標】

WW II 以降の US の政治と社会についての基本的知識を得ること。音楽を通して政治について考えるようになること。

ボブ・ディランの信仰を考察することによって、ユダヤ教とキリスト教についての基本的な知識を得ることと、宗教と政治の関係について理解すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式で行う。

対面授業は最低 7 回以上行う。

授業の初めに、前回授業時の個別質問に対する回答や、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
# 1	Intro.	講義の概要とやり方について
# 2	戦間期のフォークミュージック	フォークミュージックと政治の交錯
# 3	本当のフォークミュージックの追求	ローマックス親子とレッド・ベリ
# 4	プロテスト・フォークミュージックの登場	ウディ・ガスリーを中心に
# 5	マッカーシズムとフォーク・リヴァイバル	ピート・シガーを中心に
# 6	古くて奇妙なアメリカ	ハリー・スミスとコラージュの政治学
#7	ボブ・ディランの登場	プロテスト・フォークミュージックの政治学
# 8	1965 年	US のニュー・レフトとボブ・ディラン
# 9	ピート・ジュネレーション	文学による政治の変容
#10	カウンターカルチャー	カウンターカルチャーの時代とその後
#11	The Basement Tapes	Bob Dylan の「古くて奇妙なアメリカ」あるいは「見えない共和国」
# 12	Slow Train Coming	Bob Dylan の改宗と US の政治と社会

13 Things Have Changed. 終末論と US の政治と社会

#14 Outro. 秋学期の講義のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回配布するプリントを授業の前に目を通し、授業後に復習する。紹介された参考文献を読む。

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

プリントを配布する。

【参考書】

湯浅学『ボブ・ディラン ロックの精霊』（岩波新書、2013 年）

北中正和『ボブ・ディラン』（新潮新書、2023 年）

他の文献・音源・映像は、必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業の内容に関するレポートのみで評価。

小レポート 20 %、期末レポート 80 %

出席は当然であるが、欠席に由来する不利益に関しては何の対応もしません。

【学生の意見等からの気づき】

ポピュラー・ミュージックやロックについての授業ではないことに注意してください。

洋楽についての知識がなくてもかまいませんが、興味・関心を持っていることは必要です。

授業時間外の質問はメールで対応します。

必要であれば個別に ZOOM によるミーティングを行います。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムにアクセスできる機器。

映像・音楽を視聴できる機器。

【その他の重要事項】

ボブ・ディランや「洋楽」についての知識がなくても受講可能です。政治や音楽に関する基本的知識は学生によって差があるので、すべてを授業で提供できません。そこでわからないことや知らないことは教員に尋ねる、あるいは、自分で文献やネットで調べるようにしてください。

大学における講義、シラバスの内容、予習・復習に 2 時間を要することなどに関して興味のある人は、佐藤郁哉『大学改革の迷走』（ちくま新書、2019 年）を参照してください。

【Outline (in English)】

Theme: Bob Dylan and Politics

【Course outline】

This course deals with the political world of Bob Dylan.

【Learning Objectives】

The fundamental aim of this course is to acquire lens through which contemporary politics can be viewed by considering the political world of Bob Dylan.

By the end of the course, students should be able to do the followings:

To acquire basic knowledge of politics and society of the United States since the Second World War

To acquire basic knowledge of Judaism and Christianity and to understand relationships between politics and religion by considering the religious belief of Bob Dylan.

【Learning activities outside of classroom】

Read the prints distributed each time before class and review after class.

Read references.

Your study time will be more than four hours for a class.

【Grading Criteria /Policy】

Final grade will be calculated according to short reports(20%) and term-end report(80%).

CUA200LA

文化人類学 L

2017 年度以降入学者

サブタイトル：

ベル 裕紀

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 5/Wed.5

単位数：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

我々が生きる社会を特徴づける、近代という時代が生み出した政治システムとしての国民国家や人権イデオロギー、労働集約型の産業、統治技法としての人口の管理、あるいはケアと教育のための全制的施設といったテーマについて、様々な対象を取り上げて、人類学的な研究を参照しながら考えていく。それを通じて現代社会についてのみならず、人類学的な社会の見方についてより深い理解に到達することを目的とする。

【到達目標】

学生は、授業で取り上げた人類学的な考え方や理論を理解するのみならず、様々な事象について、人類学的な考え方や概念を用いて説明することができるようになる。また、そうした学習を通じて、現代社会に対する理解も今まで以上に深めることになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義を基本とするが、受講者の積極的な参加を期待する。授業後に毎回リアクションペーパーの提出を課し、次の回の冒頭で可能な限り紹介し、授業内容に反映させる。

また授業に臨むにあたり、比較的短い文章を読んでくるなどの予習課題を課す。受講者には積極的な発言を期待する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第一回	人類学の射程	人類学は「未開社会」と呼ばれた国家を持たない社会を含む、非西欧社会を対象として発展してきた。しかし、これら古典期的研究は、近代国家や西欧との接触の事実を捨象した形で「伝統」や「文化」を抽出し、それらを本質化してきたと 80 年代以降、鋭く批判されてきた。現在の人類学は、こうした批判の上に存在する。こうした人類学の歴史を踏まえつつ、同時代を眼差す視点を提示する。
第二回	「負い目」の政治学	D. グレーバーや小田亮の議論を手掛かりに、シェアリングや贈与、市場交換、再分配というモノやサービスの流通を「負い目」という観点から捉えなおす。
第三回	法と政治と人類学と	法人類学における法の捉え方、諸研究を概観し、とりわけ規範と制裁をめぐる議論に焦点を当てる。
第四回	暴力の人類学	暴力や戦争を扱った人類学的な研究を取りあげ、集団の境界や関係について、考察を深めていく。

第五回 ことばと政治 言語および発話行為と政治に着目した人類学的な研究の展開を概観し、理解を深める。

第六回 病とケアと身体 P. ファーマーの「構造的暴力」と病の関係性の指摘や田辺繁治のタイのエイズ患者の自助組織を対象とした研究などを例にしながら、病とケアのあり方について理解を深める。

第七回 機械と産業の人類学 工場は労働力と機械とモノの流通の結節点として捉えることができる。工場で作られる製品はそうした流通と生産のネットワークの中で捉えることができる。この授業では、人類学における科学技術論などを参照しながら、製品のオーナーシップやあるいは機械そのものに対する理解を深める。

第八回 都市人類学 都市人類学において発展したネットワーク論や都市における集団形成の意味とその形式について学習する。

第九回 グローバル化の人類学 人類学のみならず、社会科学におけるグローバル化の理論を概観した上で、グローバル化という現象を政治人類学の文脈に沿って理解する。

第十回 社会運動論と人類学 人類学における社会運動研究を概観し、集合的アイデンティティの形成、生活と運動との乖離、「歴史性」といったトピックを学習する。

第十一 人権と人類学 1945 年以降の人類学における人権の捉え方を通時的に把握した上で、近年の人権に関する議論について学習する。

第十二 難民の人類学 難民という存在を H. アーレントを手がかりに、国民国家を基本とした国際秩序の枠組みの中で捉えた上で、人類学的な難民研究を紹介する。

第十三 移住労働の人類学 第十回に引き続き、移住をテーマに学習する。東アジアでは、移民がホスト社会に定着し、永住につながるような受け入れ方ではなく、在留期間と活動に制限を加え、定着しないような形での労働力移入政策を取ることが一般的である。この講義ではその特徴と、その下での移住労働者たちの活動について紹介する。

第十四 文化と権利 文化と権利という視点から、グローバル化、多文化主義、アイデンティティ、人権といった、これまで授業で取り扱ってきた問題を捉え直す。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

課題を通じた復習と、翌週の授業の準備に概ね 2 時間程度の時間をかけるものとする。また、それに加えて授業内で紹介する参考文献を、各自の関心に応じて読みこみ、理解と思考を深めることが望ましい。

【テキスト（教科書）】

なし。毎回の授業で、事前に学習支援システムを通じて講義レジュメを配布する。

【参考書】

授業時間内に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

期末レポート 50 %、毎回のリアクションペーパー 42 %、授業への参加度 8 % で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

毎回の授業の内容に関する課題を出す。毎回の授業の冒頭に前回の学生回答の紹介および応答を行うことで、学生の理解を深めていく。

【学生が準備すべき機器他】

提出物は学習支援システムを通じて提出してもらおうつもりである。また、学習支援システムを通じ、授業のレジюмеや参考となる文書を事前に学生に配布する（レジюмеに関しては授業当日にプリントしたものを配布する）。

【Outline (in English)】

【Outline and Goal】

This course introduce students several anthropological perspectives on modern society, such as Nation-states as a political system, human rights as a modern ideology, population control as technology of governance, and total institutions for educations and health care. Students should understand modern societies as well as anthropological perspectives on societies in general, through this course.

【Requirements】

Students are expected to study about 2 hours for a week for preparation and review of classes. Each students will submit written comments on contents of each lectures(45%) and be expected to oral comments on class(5%), as well. The final writing assignment is also required for confirm students achieve the goal of this course(50%).

CUA200LA

文化人類学 L

2017 年度以降入学者

サブタイトル：宗教人類学

渡辺 浩平

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 5/Wed.5

単位数：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

世界には私たちにはいっけん不思議に思える多様な宗教実践がある。この授業では、世界各地の多様な宗教実践の事例や、宗教実践を理解するための概念を紹介しながら、「宗教的なもの」について人類学的に考察する。また、私たちの日常生活の様々な側面から宗教を考える。それらを通じて、多様な宗教実践と自身の日常的な体験の間の連続性をとらえる。

【到達目標】

宗教人類学の基本的な視座を習得し、宗教実践の多様性と類似性をとらえる方法を身につける。
世界各地の事例を知り、別の生き方の可能性を想像する力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式。学習支援システムを利用して資料を配布する。毎回の授業でリアクションペーパーの提出を課す。毎回の授業のはじめに、リアクションペーパーのコメントや質問等に応答する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の進め方と評価方法について説明
第 2 回	宗教人類学	宗教的なものについて
第 3 回	呪術	日常生活と呪術の密接なつながり
第 4 回	アニミズム	アニミズムと自然
第 5 回	シャーマニズム	自と他
第 6 回	身体①	儀礼とインタラクション
第 7 回	身体②	儀礼と認識の変容
第 8 回	生と死	境界づける
第 9 回	呪物	モノから宗教を考える
第 10 回	科学と宗教	現実とはなにか
第 11 回	経済	資本主義と宗教
第 12 回	政治	国家と宗教
第 13 回	偶然性	現代世界の宗教的なもの
第 14 回	総括	授業のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で取り上げられる事例の詳細を調べることで理解を深める。人類学の概念を用いて身の回りの出来事を解釈する。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に定めない。授業内で資料を配布する。

【参考書】

毎回の授業で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業内課題（40%）と期末レポート（60%）をもとに評価する。60 点以上を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

授業時間外の学習のための参考書・文献・資料情報を充実させる。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布・課題提出等のために学習支援システムを利用する。

【その他の重要事項】

授業計画は、受講生の関心に応じて変更される可能性がある。

【Outline (in English)】

There is a wide variety of religious practices that seem strange to us at first glance. This course aims to help students understand the continuity between various religious practices and daily experiences. This course discusses "the religious" from an anthropological perspective, introducing examples of diverse religious practices and concepts for understanding religious practices. At the end of the course, students are expected to acquire a fundamental perspective of anthropology of religion. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours reading reference materials. Grading will be decided based on the term-end report (60%) and in-class contribution (short reports) (40%).

CUA200LA

文化人類学 L

2017 年度以降入学者

サブタイトル：

北原 卓也

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 3/Thu.3

単位数：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は、文化人類学で扱われる現在の我々の生活に密接な医療、スポーツ、観光といったトピックについて考える。また、オセアニアという地域に焦点をあて、地域から文化的な事象をみていく。普段、何気なく接している事柄を新たな視点から捉えられるようになることを目指す。

【到達目標】

本講義の到達目標は下記の通り。

- (1) 文化人類学で扱われるトピックについて理解する。
- (2) 他者の文化との比較から自身の「あたりまえ」を認識し言語化する。
- (3) 自身の「あたりまえ」にとらわれない新たな視点を獲得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は、以下の授業計画に基づき対面とオンライン組み合わせで行います。

配布するレジュメに沿って講義を行い、扱うトピックによってディスカッションを行うことがあります。

また、映像を視聴することで理解を深める場合もあります。

毎回授業後にはコメントシートの提出していただきます。

提出されたコメントシートは次回授業の冒頭でいくつか紹介します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の進め方や目的について確認した後、担当教員の研究フィールドの紹介や文化人類学という学問分野について説明する
2	医療	医療を文化の視点から捉えられるようになる
3	スポーツ	スポーツを文化の視点から捉えられるようになる
4	観光	文化現象としての観光を理解する
5	贈与	贈与という行為について身近な事例と世界の事例を比較しながら理解する
6	開発	開発と文化をめぐる諸問題について考察する視点を獲得
7	中間のまとめ	これまでの講義の理解度を確認するため課題に取り組む
8	オセアニアの人類学 1: オセアニアとはどこか	オセアニアの地理と歴史について概観し、各地域の文化の背景を理解する
9	オセアニアの人類学 2: タトゥーを入れる人々	身体変工についてポリネシア地域で見られるタトゥー文化の事例から理解する

- 10 オセアニアの人類学 3 オセアニアからの移民について理解する人々
- 11 オセアニアの人類学 4 ニュージーランドの映画の事例から、文化の表象について理解する映画
- 12 オセアニアの人類学 5 祝祭についてトンガ王国の戴冠式の事例から理解する
- 13 オセアニアの人類学 6 これまでの授業を踏まえてオセアニア出身のゲストスピーカーから話を聞く
- 14 まとめと確認（試験） 今期のまとめとして教場試験を行います

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の準備として、指定する文献や配布するプリントまたは映像作品に目を通しておくこと。授業後は配布するレジュメを復習し、内容をきちんと理解しておくこと。1 回の授業につき、準備・復習は各 3 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しません。必要に応じてレジュメや資料を配布します。

【参考書】

『よくわかる文化人類学』、綾部恒雄・桑山敬己（編）、ミネルヴァ書房、2010 年。

『オセアニア史』山本真鳥（編）、山川出版会、2000 年。

『オセアニアの人類学-海外移住・民主化・伝統の政治』須藤健一、風響社、2008 年。

『太平洋諸島の歴史を知るための 60 章-日本とのかかわり』石森大地・丹羽典生（編）、明石書店、2019 年。

【成績評価の方法と基準】

中間のまとめ：30%、期末試験（またはレポート）：40%、平常点（コメントシート）：30%

2/3 以上の出席で評価対象となります。

【学生の意見等からの気づき】

他の履修生のコメントシートが気になるという声があったので、復習を兼ねて毎回授業の冒頭に前回のコメントシートの内容を振り返る時間を設ける。

【Outline (in English)】

This course introduce the concept of Cultural Anthropology and its research method as tools to understand different cultures.

The goal of this course are:

- (1) to understand the topics of Cultural Anthropology
- (2) to compare cultures and explain differences between your culture and other culture
- (3) to gain the new point of view

Before/after each class meeting, students will be expected to spend three hours to understand the course content.

Final grade will be calculated according to the following process
Mid-term exam (30%), term-end examination or report (40%), and in-class contribution through comment sheets you should submit after each class(30%).

CUA200LA

文化人類学 L

2017 年度以降入学者

サブタイトル：

長沢 利明

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 5/Mon.5

単位数：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

文化人類学の基礎について学ぶ。人間と文化との関係の構造的な理解をめざし、さまざまなテーマからそれを見ていく。

【到達目標】

文化人類学のもっとも基本的な研究課題としての「人間と文化との関係」を、さまざまな具体的テーマを提示しながら、考えていく。特に、文化の変容面・動態的側面に注目しつつ、生態環境・生活空間・儀礼構造・民間信仰・民族問題などの諸側面から、この問題を検討していき、試みることにする。この作業を通じて、文化人類学的な物の考え方や研究方法、分析視角などを学んでいくことにし、極力わかりやすい形で、それを講義していき、試みたい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

毎回ひとつずつ基本テーマを取り上げ、それに関する詳細情報やデータ類を提示しつつ、解説と検討をおこなう。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
①	プロローグ	受講にあたっての注意事項、授業の全体計画などについて解説。
②	焼畑と植生 I	日本の焼畑農業の実態を長野県秋山郷を例に解説する。
③	焼畑と植生 II	日本の焼畑農業の実態を山梨県奈良田を例に解説する。
④	住居と生活空間	住居と居住空間の多様性、その文化的背景などについて学ぶ。
⑤	年中行事の構造	日本の年中行事の特色を、その構造分析の側面から開設する。
⑥	民間信仰と文化変容	宗教人類学および日本の民間信仰の特性について学ぶ。
⑦	台湾の社会と民族問題	台湾における多民族社会の実情と問題点について学ぶ。
⑧	アミ族の社会変化	母系制社会の変容の実態をアミ族を例に解説する。
⑨	ブヌン族の社会変化	父系制社会の変容の実態をブヌン族を例に解説する。
⑩	東京のイスラム	日本におけるイスラム教徒の実情を、タタール人社会を例に解説する。
⑪	沖縄文化の特色	沖縄の固有文化の特色とその国際性について学ぶ。
⑫	冬季フィールドワーク解説	冬休みのフィールドワークとレポート作成について解説。

- ⑬ 文化人類学の将来 全体の補足解説として、これからの文化人類学研究の課題・方向性を述べる。
- ⑭ 秋学期授業のまとめ 秋学期授業の全体的な総括をおこなう。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

自宅での復習をおこない、配布されたプリント資料などを通読し、整理しておくこと。教員への質問事項なども用意しておくことがのぞましい。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は特に使用せず、そのかわりに毎回、教室でプリント資料を配布する。それが、いわばテキストがわりとなる。

【参考書】

必要な文献資料や読んでおくべき参考書類は、授業時間内に適宜紹介していく。

【成績評価の方法と基準】

学期末授業時間内試験によって成績評価をおこなう（100%）。

【学生の意見等からの気づき】

授業改善アンケート結果を尊重し、極力受講者からの要望を取り入れ、つねに授業内容の改善につとめていく。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

特になし。

【Outline (in English)】

Course outline: about general theory of cultural anthropology, basic problems on cross cultural and environmental facts.

Learning objectives: We will consider the "relationship between humans and culture" as the most fundamental research question of cultural anthropology, presenting a variety of specific themes.

Learning activities outside of classroom: The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Grading criteria/policies: Your overall grade in the class will be decided based on the following. Term-end examination: 100%.

CUA200LA

文化人類学 L

2017 年度以降入学者

サブタイトル：

ベル 裕紀

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 4/Wed.4

単位数：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

我々が生きる社会を特徴づける、近代という時代が生み出した政治システムとしての国民国家や人権イデオロギー、労働集約型の産業、統治技法としての人口の管理、あるいはケアと教育のための全制的施設といったテーマについて、様々な対象を取り上げて、人類学的な研究を参照しながら考えていく。それを通じて現代社会についてのみならず、人類学的な社会の見方についてより深い理解に到達することを目的とする。

【到達目標】

学生は、授業で取り上げた人類学的な考え方や理論を理解するのみならず、様々な事象について、人類学的な考え方や概念を用いて説明することができるようになる。また、そうした学習を通じて、現代社会に対する理解も今まで以上に深めることになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義を基本とするが、受講者の積極的な参加を期待する。授業後に毎回リアクションペーパーの提出を課し、次の回の冒頭で可能な限り紹介し、授業内容に反映させる。

また授業に臨むにあたり、比較的短い文章を読んでくるなどの予習課題を課す。受講者には積極的な発言を期待する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第一回	人類学の射程	人類学は「未開社会」と呼ばれた国家を持たない社会を含む、非西欧社会を対象として発展してきた。しかし、これら古典期的研究は、近代国家や西欧との接触の事実を捨象した形で「伝統」や「文化」を抽出し、それらを本質化してきたと 80 年代以降、鋭く批判されてきた。現在の人類学は、こうした批判の上に存在する。こうした人類学の歴史を踏まえつつ、同時代を眼差す視点を提示する。
第二回	「負い目」の政治学	D. グレーバーや小田亮の議論を手掛かりに、シェアリングや贈与、市場交換、再分配というモノやサービスの流通を「負い目」という観点から捉えなおす。
第三回	法と政治と人類学と	法人類学における法の捉え方、諸研究を概観し、とりわけ規範と制裁をめぐる議論に焦点を当てる。
第四回	暴力の人類学	暴力や戦争を扱った人類学的な研究を取りあげ、集団の境界や関係について、考察を深めていく。

第五回 ことばと政治 言語および発話行為と政治に着目した人類学的な研究の展開を概観し、理解を深める。

第六回 病とケアと身体 P. ファーマーの「構造的暴力」と病の関係性の指摘や田辺繁治のタイのエイズ患者の自助組織を対象とした研究などを例にしながら、病とケアのあり方について理解を深める。

第七回 機械と産業の人類学 工場は労働力と機械とモノの流通の結節点として捉えることができる。工場で作られる製品はそうした流通と生産のネットワークの中で捉えることができる。この授業では、人類学における科学技術論などを参照しながら、製品のオーナーシップやあるいは機械そのものに対する理解を深める。

第八回 都市人類学 都市人類学において発展したネットワーク論や都市における集団形成の意味とその形式について学習する。

第九回 グローバル化の人類学 人類学のみならず、社会科学におけるグローバル化の理論を概観した上で、グローバル化という現象を政治人類学の文脈に沿って理解する。

第十回 社会運動論と人類学 人類学における社会運動研究を概観し、集合的アイデンティティの形成、生活と運動との乖離、「歴史性」といったトピックを学習する。

第十一 人権と人類学 1945 年以降の人類学における人権の捉え方を通時的に把握した上で、近年の人権に関する議論について学習する。

第十二 難民の人類学 難民という存在を H. アーレントを手がかりに、国民国家を基本とした国際秩序の枠組みの中で捉えた上で、人類学的な難民研究を紹介する。

第十三 移住労働の人類学 第十回に引き続き、移住をテーマに学習する。東アジアでは、移民がホスト社会に定着し、永住につながるような受け入れ方ではなく、在留期間と活動に制限を加え、定着しないような形での労働力移入政策を取ることが一般的である。この講義ではその特徴と、その下での移住労働者たちの活動について紹介する。

第十四 文化と権利 文化と権利という視点から、グローバル化、多文化主義、アイデンティティ、人権といった、これまで授業で取り扱ってきた問題を捉え直す。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

課題を通じた復習と、翌週の授業の準備に概ね 2 時間程度の時間をかけるものとする。また、それに加えて授業内で紹介する参考文献を、各自の関心に応じて読みこみ、理解と思考を深めることが望ましい。

【テキスト（教科書）】

なし。毎回の授業で、事前に学習支援システムを通じて講義レジュメを配布する。

【参考書】

授業時間内に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

期末レポート 50 %、毎回のリアクションペーパー 42 %、授業への参加度 8 % で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

毎回の授業の内容に関する課題を出す。毎回の授業の冒頭に前回の学生回答の紹介および応答を行うことで、学生の理解を深めていく。

【学生が準備すべき機器他】

提出物は学習支援システムを通じて提出してもらおうつもりである。また、学習支援システムを通じ、授業のレジюмеや参考となる文書を事前に学生に配布する（レジюмеに関しては授業当日にプリントしたものを配布する）。

【Outline (in English)】

【Outline and Goal】

This course introduce students several anthropological perspectives on modern society, such as Nation-states as a political system, human rights as a modern ideology, population control as technology of governance, and total institutions for educations and health care. Students should understand modern societies as well as anthropological perspectives on societies in general, through this course.

【Requirements】

Students are expected to study about 2 hours for a week for preparation and review of classes. Each students will submit written comments on contents of each lectures(45%) and be expected to oral comments on class(5%), as well. The final writing assignment is also required for confirm students achieve the goal of this course(50%).

CUA200LA

文化人類学 L

2017 年度以降入学者

サブタイトル：人新世における人間と自然

橋爪 太作

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 3/Tue.3

単位数：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

2000 年に化学者パウル・クルツェンが提唱した「人新世」という新たな地質学的年代は、産業革命以降の人間活動によって地球規模の気候変動が引き起こされ、人間と自然が至るところで識別不能になりつつある現代世界を表現する概念として、自然科学のみならず人文社会科学においても最大のトピックとなりつつあります。人為的に放出された二酸化炭素が巨大な嵐となって都市を襲い、放射性物質とプラスチックが新しい地層となると、これまで自然とは区分される文化的存在として「人間」を定義してきた文化人類学にも、根本的な自己変容が要求されています。この授業では人類学のみならず哲学、科学、SF、アニメ、現代アートなどさまざまな領域を横断して、人新世を生き延びるためのヒントを考えたいと思います。

【到達目標】

- ・SDGs、脱炭素など現代の我々が直面する環境問題に対し、数万～数億年単位の人類史・自然史を視野に入れた広く深い理解を育てる。
- ・不安定で不確実な現代世界を生き抜くヒントを、人類学が明らかにしてきた人々と自然の多様な関係から学ぶ。
- ・文理の区分がゆらぐ 21 世紀における、人文学的思考の新たな可能性に触れる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義は写真・映像などのヴィジュアルな資料を随時活用します。さらに途中いくつかの講義では、これらの資料に対しこちらからいくつかの「問い」を投げかけ、グループディスカッションを行います。ディスカッションへの参加とその後のリアクションペーパー提出は平常点の一部として評価に含まれます。また授業中にリアクションペーパーへのフィードバックを行います

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	講義の概要説明と成績評価の説明。
第 2 回	ロジスティクス曲線の彼方	地球温暖化をはじめとする現在の環境危機を招いた産業革命以降の近代化のプロセスを、生物としての人類とその生息環境という自然史的な視点から考えます。
第 3 回	人新世と向き合う人文社会科学	気候変動は科学や政治にとっての問題というだけではなく、「人間とは何か？」を問うてきた人文社会科学に対しても新たな課題を突きつけています。主に今世紀以降の欧米圏を中心とした研究の動向をレビューします。
第 4 回	自然と人間の中動態	人間は自然とは本質的に違う特別な存在なのか、それとも自然の一部なのか。パプアニューギニア・セピック川流域の人々と環境の間で営まれている驚くべき関係から、こうした自然と人間についての私たちの想像力を拡張します。
第 5 回	講義+ディスカッション 1：自然と人間のキワを考える	前回の授業を受けつつ、私たち自身（近代社会）における自然との関わりを、両者の「キワ」に着目して考えます。
第 6 回	映像視聴：『もののけ姫』	中世日本を舞台に自然と人間の対立と破局、再生を描いた宮崎駿監督のアニメ『もののけ姫』（1997）を観ます。
第 7 回	講義+ディスカッション 2：『もののけ姫』のメッセージを解説する	『もののけ姫』に秘められた現代社会に対する宮崎駿監督のメッセージを解説し、その意義を考えます。

第 8 回 森を切り開く人々

南太平洋ソロモン諸島マライタ島では、現地の人々が祖先伝来の熱帯雨林を切り開き、原木を中国・東南アジアに輸出しています。なぜ彼ら・彼女らはこのような破壊へと突き動かされるのか？ マライタ島の人々の幾重にもねじれた歴史とアイデンティティを紐解き、この問いを考察します。技術とは人間が自然を征服する手段であるという技術観は、現在でも私たちの中に根強くあります。他方、それとはまったく異なる技術の捉え方が、哲学や人類学では提出されてきました。人新世を生きていく上で不可欠な技術についての新たな想像力を養います。自然の上に築き上げられた人間の世界は、ひとたび破局が起これば脆くも崩れ去る一方、廃墟の上に新たな世界が始まります。この「破局」という事態が持つ両義性を、日本人におなじみの「マツタケ」から考察した人類学者アナ・ツインの議論を学びます。

第 9 回 技術とは何か？

第 10 回 破局の後で

第 11 回 講義+ディスカッション 3：自分の「マツタケ」を探せ！

第 12 回 再野生化する地球

第 13 回 星の時間

第 14 回 おわりに

マツタケを通じて不安定な現代世界とそこでの希望を見出すアナ・ツインに学びながら、私たちの日常における「マツタケ」的なものを発見します。欧米を中心に新たな環境再生の取り組みとして注目を集めている「再野生化」から、人間のコントロールを離れつつある現在の自然との向き合い方を考えます。最新の自然科学が明らかにしつつある過去数万年～数億年の地球の気候は、自然についての私たちの常識を大きく覆す可能性を秘めています。過去実際に起きた途方もない規模の気候変動に学びつつ、現在進行中の人新世を非人間中心的に捉え直します。私たち自身を遠くから見るという人類学の伝統的な営みは、「人間が地球の地層となる」人新世のヴィジョンとどのように響き合い、新しい視点を生成するのでしょうか。これまでの授業内容を振り返りつつ考えます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。授業で使用する資料はあくまで概略的なものです。授業中に説明されたことを自身の頭で理解するためにも、毎回ノートを取りましょう。また回によっては事前資料を配布しますので、次回までに必ず読んでおくようにしてください。

【テキスト（教科書）】

授業内で適宜紹介します。

【参考書】

授業内で適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

出席点+小レポート：50%

最終レポート：50%

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

本授業では、資料配布、お知らせ配信、定期試験、リアクションペーパー提出は全て Hoppin と Google クラスルームを通して行うため、各学生はネット環境およびパソコン等の端末の準備をお願いします。

【Outline (in English)】

The new geological age of the "Anthropocene," proposed by chemist Paul Crutzen in 2000, is becoming one of the biggest topics not only in the natural sciences but also in the humanities and social sciences, as a concept that embodies the modern world in which human activities since the Industrial Revolution have caused global climate change and humans and nature have become indistinguishable in many areas. It is becoming one of the biggest topics not only in the natural sciences, but also in the humanities and social sciences. When a huge storm hits cities and plastic becomes the new stratum, cultural anthropology, which has defined "human" as a cultural being that is separate from nature, is required to undergo a fundamental self-transformation. In this class, we would like to think together with you about what a new anthropology facing the Anthropocene might be like.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Grading will be decided based on the term-end report (50%) and in class participation (50%).

CUA200LA

文化人類学 L

2017 年度以降入学者

サブタイトル：宗教人類学

渡辺 浩平

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 5/Fri.5

単位数：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

世界には私たちにはいっけん不思議に思える多様な宗教実践がある。この授業では、世界各地の多様な宗教実践の事例や、宗教実践を理解するための概念を紹介しながら、「宗教的なもの」について人類学的に考察する。また、私たちの日常生活の様々な側面から宗教を考える。それらを通じて、多様な宗教実践と自身の日常的な体験の間の連続性をとらえる。

【到達目標】

宗教人類学の基本的な視座を習得し、宗教実践の多様性と類似性をとらえる方法を身につける。
世界各地の事例を知り、別の生き方の可能性を想像する力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式。学習支援システムを利用して資料を配布する。毎回の授業でリアクションペーパーの提出を課す。毎回の授業のはじめに、リアクションペーパーのコメントや質問等に応答する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の進め方と評価方法について説明
第 2 回	宗教人類学	宗教的なものについて
第 3 回	呪術	日常生活と呪術の密接なつながり
第 4 回	アニミズム	アニミズムと自然
第 5 回	シャーマニズム	自と他
第 6 回	身体①	儀礼とインタラクション
第 7 回	身体②	儀礼と認識の変容
第 8 回	生と死	境界づける
第 9 回	呪物	モノから宗教を考える
第 10 回	科学と宗教	現実とはなにか
第 11 回	経済	資本主義と宗教
第 12 回	政治	国家と宗教
第 13 回	偶然性	現代世界の宗教的なもの
第 14 回	総括	授業のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で取り上げられる事例の詳細を調べることで理解を深める。人類学の概念を用いて身の回りの出来事を解釈する。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に定めない。授業内で資料を配布する。

【参考書】

毎回の授業で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業内課題（40%）と期末レポート（60%）をもとに評価する。60 点以上を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

授業時間外の学習のための参考書・文献・資料情報を充実させる。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布・課題提出等のために学習支援システムを利用する。

【その他の重要事項】

授業計画は、受講生の関心に応じて変更される可能性がある。

【Outline (in English)】

There is a wide variety of religious practices that seem strange to us at first glance. This course aims to help students understand the continuity between various religious practices and daily experiences. This course discusses "the religious" from an anthropological perspective, introducing examples of diverse religious practices and concepts for understanding religious practices. At the end of the course, students are expected to acquire a fundamental perspective of anthropology of religion. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours reading reference materials. Grading will be decided based on the term-end report (60%) and in-class contribution (short reports) (40%).

CUA200LA

文化人類学 L

2017 年度以降入学者

サブタイトル：妖怪・怪異と存在論的転回

廣田 龍平

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 5/Tue.5

単位数：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、現代の文化人類学において重要な潮流の一つである、いわゆる「存在論的転回」について、妖怪・怪異や幽霊などの非日常的な存在と人間との関係性をとおして学んでいきます。私たちが生きる現代社会は、自然と文化、知識と信念、合理性と非合理性など、物事にさまざまな区分をすることによって成り立っていますが、世界には、そのような区分とは大きく違ったかたちで自分たちの環境を生きている人々の社会もあります（アニミズムなど）。この授業では、日本に限らず、妖怪や幽霊など現代社会では実在しないとされるものの事例をとおして、世界のさまざまな生き方を学んでいきます。

【到達目標】

現代の文化人類学で展開しているさまざまな理論や概念を学ぶことにより、異文化のみならず自文化についても基礎的なレベルから理解する方法を身につける。さらに、妖怪や幽霊など、実在しないとされる対象がどのように扱われているのかを学ぶことにより、大衆文化の表象や身近な経験について、文化人類学的な側面から表現できるようにすることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

毎回の授業は、パワーポイントのスライド資料にもとづく講義形式で実施する。各回授業ごとにテーマを設定し、必要に応じて映像資料なども交えながら関連する方法論と事例を解説していく。

毎回、授業終了後に短いコメントを Hoppii に提出してもらう。コメントは、次回授業の冒頭でいくつかを取り上げてフィードバックをおこなう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	日本の妖怪研究史①	1970 年代までの妖怪研究について学ぶ。
2	日本の妖怪研究史②	1980 年代から 2020 年代までの妖怪研究について学ぶ。
3	アニミズムと化ける動物たち	異類婚姻譚や妖狐譚など、生き物が人間に変身する話を、アニミズム理論を用い、世界的な視野から理解する。
4	トーテミズムと動物の祖先	オーストラリア先住民にとっての、人間と人間以外の存在との関係のあり方を学ぶ。
5	アナロジズムと万物照応の世界	古代・中世のヨーロッパや日本などの社会で、権力が古いや怪異と結びついていた実態を説明する。
6	自然と文化からハイブリッドへ	文化人類学の基礎にある「自然と文化」という二分法の成り立ちや、それに対する批判を解説する。

7	アクターネットワーク理論	存在論的転回にとって重要な理論を学ぶ。
8	科学と俗信と民俗学	アクターネットワーク理論などを用い、科学と俗信の関係や、俗信を研究してきた民俗学的実践を理解する。
9	都市伝説と学校の怪談	20 世紀後半の日本やアメリカの都市社会における妖怪や怪異の展開を学ぶ。
10	ネットロアとクリーピーパスタ	21 世紀、インターネットの時代におけるグローバルな妖怪や怪異のあり方を学ぶ。
11	比較妖怪学	これまでの授業を踏まえ、日本の妖怪を中心として、国外の怪物や妖精と比較する人類学的視点を説明する。
12	心霊主義と超常現象	近現代の妖怪・怪異を支えてきた思想が非近代的なものとのように違うのかを理解する。
13	合理性と非合理性、文明と未開、自己と他者	妖怪を語るとき使われる合理性と非合理性という二分法を考え直していく。
14	全体のまとめ	存在論的転回と妖怪の関係についてまとめる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。授業では見られない考え方が多く登場するので、授業外でも、まずは自分がどのように世界を認識していたのかを考え、授業中に紹介した事例に加えて、聞いたことのある神話伝説や妖怪・怪異などと比べることをとおして、これまで知らなかった世界の認識方法や生き方を理解すること。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しません。毎回の授業で関連する文献を紹介するので、各自の関心に合わせて読み進めてください。

【参考書】

フィリップ・デスコラ 2020 年『自然と文化を越えて』水声社
 ブリュノ・ラトゥール 2019 年『社会的なものを組み直す』法政大学出版局
 マイケル・ディラン・フォスター 2017 年『日本妖怪考』森話社
 香川雅信 2022 年『日本妖怪史』河出書房新社
 廣田龍平 2022 年『妖怪の誕生』青弓社

【成績評価の方法と基準】

毎回提出するレポート（60%）
 期末レポート（40%）

【学生の意見等からの気づき】

概念や理論を中心とした、抽象的な解説が多くなり、難易度が高くなっていったため、もう少し具体的事例を増やした講義内容にする。映像資料を増やす。

【Outline (in English)】

This course introduces the ontological turn in cultural anthropology to students taking this course. In doing so, this course takes cases primarily from relationships of human with nonhuman beings around the world, especially with ghosts and mysterious beings in Japan (so-called *yōkai*).

By the end of the course, students should be able to do the followings:

-A. Understanding other cultures by applying concepts and theories of contemporary anthropology.

-B. Explaining various representations of nonhuman beings in popular culture as well as your personal experiences through anthropological concepts.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Term-end paper: 40%、Short reports : 60%

CUA200LA

文化人類学 L

2017 年度以降入学者

サブタイトル：

橋爪 太作

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 4/Tue.4

単位数：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

2000 年に化学者パウル・クルツェンが提唱した「人新世」という新たな地質学的年代は、産業革命以降の人間活動によって地球規模の気候変動が引き起こされ、人間と自然が至るところで識別不能になりつつある現代世界を体現する概念として、自然科学のみならず人文社会科学においても最大のトピックとなりつつあります。人為的に放出された二酸化炭素が巨大な嵐となって都市を襲い、放射性物質とプラスチックが新しい地層となると、これまで自然とは区分される文化的存在として「人間」を定義してきた文化人類学にも、根本的な自己変容が要求されています。この授業では人類学のみならず哲学、科学、SF、アニメ、現代アートなどさまざまな領域を横断して、人新世を生き延びるためのヒントを考えたいと思います。

【到達目標】

- ・SDGs、脱炭素など現代の我々が直面する環境問題に対し、数万年～数億年単位の人類史・自然史を視野に入れた広く深い理解を育てる。
- ・不安定で不確実な現代世界を生き抜くヒントを、人類学が明らかにしてきた人々と自然の多様な関係から学ぶ。
- ・文理の区分がゆらぐ 21 世紀における、人文学的思考の新たな可能性に触れる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義は写真・映像などのヴィジュアルな資料を随時活用します。さらに途中いくつかの講義では、これらの資料に対しこちらからいくつかの「問い」を投げかけ、グループディスカッションを行います。ディスカッションへの参加とその後のリアクションペーパー提出は平常点の一部として評価に含まれます。また授業中にリアクションペーパーへのフィードバックを行います

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	講義の概要説明と成績評価の説明。
第 2 回	ロジスティクス曲線の彼方	地球温暖化をはじめとする現在の環境危機を招いた産業革命以降の近代化のプロセスを、生物としての人類とその生息環境という自然史的な視点から考えます。
第 3 回	人新世と向き合う人文社会科学	気候変動は科学や政治にとっての問題というだけでなく、「人間とは何か？」を問うてきた人文社会科学に対しても新たな課題を突きつけています。主に今世紀以降の欧米圏を中心とした研究の動向をレビューします。

第 4 回	自然と人間の中動態	人間は自然とは本質的に違う特別な存在なのか、それとも自然の一部なのか。バブアニューギニア・セビック川流域の人々と環境の間で営まれている驚くべき関係から、こうした自然と人間についての私たちの想像力を拡張します。
第 5 回	講義+ディスカッション 1：自然と人間のキワを考える	前回の授業を受けつつ、私たち自身（近代社会）における自然との関わりを、両者の「キワ」に着目して考えます。
第 6 回	映像視聴：『もののけ姫』	中世日本を舞台に自然と人間の対立と破局、再生を描いた宮崎駿監督のアニメ『もののけ姫』（1997）を観ます。
第 7 回	講義+ディスカッション 2：『もののけ姫』のメッセージを解説する	『もののけ姫』に秘められた現代社会に対する宮崎駿監督のメッセージを解説し、その意義を考えます。
第 8 回	森を切り開く人々	南太平洋ソロモン諸島マライタ島では、現地の人々が祖先伝来の熱帯雨林を切り開き、原木を中国・東南アジアに輸出しています。なぜ彼ら・彼女らはこのような破壊へと突き動かされるのか？ マライタ島の人々の幾重にもねじれた歴史とアイデンティティを紐解き、この問いを考察します。
第 9 回	技術とは何か？	技術とは人間が自然を征服する手段であるという技術観は、現在でも私たちの中に根強くあります。他方、それとはまったく異なる技術の捉え方が、哲学や人類学では提出されてきました。人新世を生きていく上で不可欠な技術についての新たな想像力を養います。
第 10 回	破局の後で	自然の上に築き上げられた人間の世界は、ひとたび破局が起これば脆くも崩れ去る一方、廃墟の上に新たな世界が始まります。この「破局」という事態が持つ両義性を、日本人におなじみの「マツタケ」から考察した人類学者アナ・ツインの議論を学びます。
第 11 回	講義+ディスカッション 3：自分の「マツタケ」を探せ！	マツタケを通じて不安定な現代世界とそこでの希望を見出すアナ・ツインに学びながら、私たちの日常における「マツタケ」的なものを発見します。
第 12 回	再野生化する地球	欧米を中心に新たな環境再生の取り組みとして注目を集めている「再野生化」から、人間のコントロールを離れつつある現在の自然との向き合い方を考えます。
第 13 回	星の時間	最新の自然科学が明らかにしつつある過去数万年～数億年の地球の気候は、自然についての私たちの常識を大きく覆す可能性を秘めています。過去実際に起きた途方もない規模の気候変動に学びつつ、現在進行中の人新世を非人間中心的に捉え直します。
第 14 回	おわりに	私たち自身を遠くから見るという人類学の伝統的な営みは、「人間が地球の地層となる」人新世のヴィジョンとどのように響き合い、新しい視点を生成するのでしょうか。これまでの授業内容を振り返りつつ考えます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。授業で使用する資料はあくまで概略的なものです。授業中に説明されたことを自身の頭で理解するためにも、毎回ノートを取りましょう。また回によっては事前資料を配付しますので、次回までに必ず読んでおくようにしてください。

【テキスト（教科書）】

授業内で適宜紹介します。

【参考書】

授業内で適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

出席点+小レポート：50%

最終レポート：50%

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

本授業では、資料配布、お知らせ配信、定期試験、リアクションペーパー提出は全て Hoppii と Google クラスルームを通して行うため、各学生はネット環境およびパソコン等の端末の準備をお願いします。

【Outline (in English)】

The new geological age of the "Anthropocene," proposed by chemist Paul Crutzen in 2000, is becoming one of the biggest topics not only in the natural sciences but also in the humanities and social sciences, as a concept that embodies the modern world in which human activities since the Industrial Revolution have caused global climate change and humans and nature have become indistinguishable in many areas. It is becoming one of the biggest topics not only in the natural sciences, but also in the humanities and social sciences. When a huge storm hits cities and plastic becomes the new stratum, cultural anthropology, which has defined "human" as a cultural being that is separate from nature, is required to undergo a fundamental self-transformation. In this class, we would like to think together with you about what a new anthropology facing the Anthropocene might be like.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Grading will be decided based on the term-end report (50%) and in class participation (50%).

CUA200LA

文化人類学 L

2017 年度以降入学者

サブタイトル：開発と文化の人類学

石森 大知

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 1/Wed.1

単位数：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、開発人類学、すなわち開発援助および国際協力のテーマを文化人類学の視点から取り上げる。現在、世界の各地で、2015年に国連で定められた「持続可能な開発目標（SDGs）」の達成に向けたさまざまな取り組みが実施され、その成果や有効性に関する調査・研究も進んでいる。21世紀において人類に課せられた課題は数多くあるが、貧困撲滅、健康向上（国際保健）、環境問題などへの対処は重要である。本授業では、これらの同時代的なグローバル・イシューを通して、開発とローカルな社会・文化・環境の持続的共存関係について考察する。

【到達目標】

- ・文化人類学、とくに開発人類学の専門的な概念や理論を習得する。
- ・ものごとを相対的に捉えることによって得られる他者理解の洞察を身に付ける。
- ・同時代的なグローバル・イシューを理解するとともに、開発とローカルな社会・文化・環境の持続的共存関係について自らの視点から考察・検討を行う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

- ・授業の理解度や平常の取り組みを評価するため、基本的に毎回、授業コメントや質問・疑問を求めるリアクションペーパーを課します。
- ・リアクションペーパー等における興味深いコメントや質問等を授業内で取り上げ、全体に対してフィードバックを行うとともに、さらなる議論に活かします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の概要、成績評価方法の説明
第2回	開発概念と関連理論①	開発の誕生
第3回	開発概念と関連理論②	社会開発への転換
第4回	開発援助と ODA, その他	開発援助とのかかわり方として人類学者
第5回	貧困撲滅の取り組み①	貧しい／豊かとは何か
第6回	貧困撲滅の取り組み②	マイクロファイナンス
第7回	健康な生活①	プライマリヘルスケア
第8回	健康な生活②	感染症対策と DOTS
第9回	森林開発と環境問題①	近代化と環境破壊
第10回	森林開発と環境問題②	ソロモン諸島の植林事業
第11回	温暖化と環境言説①	ツバルの「海面上昇」
第12回	温暖化と環境言説②	ツバルの浸水被害と海岸浸食
第13回	観光開発と自然環境	エコツーリズムを考える
第14回	総括	授業のまとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・授業内で紹介する文化人類学や開発人類学の関連文献を読み、授業の理解を深める。
- ・図書館などで関連文献を調べ、自らの興味関心を広げる。
- ・本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教科書はとくに指定せず、必要に応じて関連資料を配布する。

【参考書】

授業中に適宜紹介するが、以下のものを挙げておく。
 信田敏宏ほか編『グローバル支援の人類学—変貌する NGO・市民活動の現場から』昭和堂、2017年。
 佐藤寛・藤掛洋子編『開発援助と人類学—冷戦・蜜月・パートナーシップ』明石書店、2011年。
 佐藤寛『開発援助の社会学』世界思想社、2005年。
 青柳まちこ編『開発の文化人類学』古今書院、2000年。

【成績評価の方法と基準】

学期末レポート:40%、平常点（リアクションペーパー、出席状況等）:60%として総合的に評価する。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする（ただし、平常点だけでは合格とはなりません。学期末レポートを提出しなかった場合、E評価とします）。

【学生の意見等からの気づき】

文字や音声などの情報だけではなく、できるだけ多くの写真や映像資料を用いることで授業内容の理解を促すようにする。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布・課題提出等のために学習支援システムを利用します。

【その他の重要事項】

- ・学期末レポートを提出しなかった場合、原則 E 評価となります。
- ・対面をオンラインで同時配信するハイフレックス型授業は実施しません。
- ・シラバス内容や授業計画に変更が生じた場合は授業内もしくは学習支援システムで周知します。

【Outline (in English)】

This course introduces the fundamentals of development anthropology, which seeks to apply anthropological perspectives to the multidisciplinary field of development studies. The aims of the course are to provide a basic knowledge of development anthropology and to understand the impact of development on local culture, environment and society. By the end of the course, students will have an understanding of global issues and their own opinions on the sustainable coexistence of development and local societies, cultures and environments. Students are expected to spend four hours before/after each class meeting to understand the course content. Grading will be based on the end of term report (40%) and class participation (60%).

SOS200LA

社会思想 L A

2017 年度以降入学者

サブタイトル：能力主義を問う

阿部 崇史

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 5/Mon.5

単位数：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、M. サンドル著『実力も運のうち：能力主義は正義か？』を手がかりに、能力主義（メリトクラシー）について検討します。能力主義——地位や報酬は能力の発揮に応じて与えられるべきだ——は、現代社会において魅力的な考え方だとされています。それは、能力の獲得と発揮を通じて自らの人生を切り開く自由を、人々に与えるからです。他方で、能力主義は、経済的格差の拡大と貧困、「負け組」とされた人たちの承認の欠如、「勝ち組」と「負け組」との社会的分断、といった現代社会の問題を生む原因だとも考えられています。本授業では、現代の規範的な政治理論——自由、平等、公正さといった、政治や政策に関わる価値ないし理念を扱う学問——の観点から、このような能力主義を検討します。それを通じて、能力主義や関連する社会的課題について、みなさん自身の意見を提示できるようになることが、この授業の目的になります。

【到達目標】

本授業における具体的な到達目標は、以下の3つになります。(1) テキストの読解と講義を通じて、能力主義の魅力と問題点について理解する。(2) グループディスカッションや期末レポートを通じて、能力主義や関連する社会的課題への意見を提示できるようになる。(3) グループディスカッションを通じて、社会的課題について他者と議論できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

本授業は、グループディスカッションを中心にした、講義と演習の中間的な形態で行います。具体的には、以下のように進めます。(1) 前回のコメントペーパーへの応答：20 分程度、(2) テキストの該当範囲への解説：15 分程度、(3) グループディスカッション：40 分程度、(4) テキストの議論の背景に関する説明：15 分程度、(5) コメントペーパーの作成：10 分程度。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業全体の概要や能力主義というテーマについて説明します。
第 2 回	プロローグ、序論：入学すること	能力主義の魅力と問題点を概観します。
第 3 回	第 1 章：勝者と敗者	能力主義がもたらす社会問題について検討します。
第 4 回	第 3 章 出世のレトリック	能力主義について、その基本的な特徴を検討します。
第 5 回	第 4 章：学歴偏重主義（前半）	能力主義において学歴がい果たしている役割を検討します。
第 6 回	第 4 章：学歴偏重主義（後半）	能力主義的な統治のあり方（テクノクラシー）について検討します。
第 7 回	第 5 章：成功の倫理学（前半）	能力主義の規範的な主張について検討します。
第 8 回	第 5 章：成功の倫理学（後半）	能力主義的な市場経済の捉え方について検討します。
第 9 回	第 6 章：選別装置（前半）	能力主義に基づく現在の教育システムについて、その問題点を検討します。
第 10 回	第 6 章：選別装置（後半）	教育システムの適切なあり方について検討します。
第 11 回	第 7 章：労働を承認するか、検討します。	人々の労働をどのように承認すべきか、検討します。
第 12 回	結論：能力と共通善およびレポート課題の説明	テキストの結論部分を扱います。その後、期末レポートの書き方や採点ポイントを説明します。
第 13 回	期末レポートの検討（1）	期末レポートで扱う問いや、問いに答えるための論点整理について、グループディスカッションを通じた検討を行います。
第 14 回	期末レポートの検討（2）	期末レポートで提示する各自の主張について、グループディスカッションを通じた検討を行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- 毎回の授業前に、テキストの該当範囲を読んだ上で、事前に提示するディスカッション課題に対する意見を考えてきてください（1 時間～2 時間程度が目安になります）。
- 負担が重くならないように、毎回の授業で扱うテキストの分量は短くしてあります（30 ページ程度）。
- 毎回の授業後に、コメントペーパーを提出していただきます。
※大学設置基準に鑑みた場合、本授業の準備・復習時間は、各 2 時間が標準となります。

【テキスト（教科書）】

M. サンドル、鬼澤忍（訳）『実力も運のうち：能力主義は正義か？』早川書房、2021 年、2420 円。

【参考書】

- ※参考書として、規範的な政治理論の教科書を 4 冊挙げておきます。
- ※内容の詳しさは (1) → (4) の順、読みやすさは (4) → (1) の順になります。
- (1) W. キムリッカ、千葉真・岡崎晴輝（訳）『現代政治理論』日本経済評論社、2005 年
- (2) 宇佐美誠・児玉聡・井上彰・松元雅和『正義論：ベーシックスからフロンティアまで』法律文化社、2019 年
- (3) 川崎修・杉田敦（編）『現代政治理論』有斐閣、2012 年
- (4) 田村哲樹・松元雅和・乙部延剛・山崎望『ここから始める政治理論』有斐閣、2017 年
- ※その他、各回の授業のテーマに関連する文献を、授業中に挙げます。

【成績評価の方法と基準】

満点である 100 点のうち、平常点が 50 %、期末レポートが 50 % になります。平常点は、グループディスカッションへの参加とコメントペーパーに基づいて判断します。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムに授業のための資料をアップロードします。そのため、学習支援システムを利用するための情報通信環境が必要となります。

【その他の重要事項】

- 一学期で一冊の本を読み切るため、ハードルが高く感じるかもしれません。
 - ですが、各回で読む分量（30 ページ程度）は多くないため、大きな負担にはならないはず。
 - また、グループディスカッションについても、学生のみなさん同士の議論になりますので、身構える必要はありません。
 - 積極的に履修していただければ嬉しいです。
 - ※担当者は、社会思想 I（春学期）および社会思想 II（秋学期）も開講しています。
- これらの授業も現代の規範的な政治理論の議論を扱っているため、併せて履修していただくと、理解がより深まると思います。

【Outline (in English)】

《Course outline》

In this course, we examine meritocracy through the critical reading of *The Tyranny of Merit* by Michael Sandel. On the one hand, meritocracy is appealing because it gives us the freedom to realize our life plans as long as we foster our talents and contribute to our society. On the other hand, meritocracy has brought about many social problems, such as great inequality and poverty, the misrecognition of "losers," and the social division between "winners" and "losers." We examine appeals and problems of meritocracy from the perspective of modern political philosophy (normative political philosophy). After the course, students can construct their own views on meritocracy and related social issues.

《Learning objectives》

The goals of this course are the followings:

- 1. To understand appeals and problems of meritocracy.
- 2. To construct your own (normative) view on meritocracy and related social problems.
- 3. To become able to discuss social issues with others.

《Learning activities outside the classroom》

Students will be expected to read the text and construct their own views on discussion questions before each class. Completing the required assignments after each class meeting is also expected. You are recommended to study more than four hours for each class by the standard set by the Japanese government.

《Grading Criteria/Policies》

Your overall grade in the class will be decided based on the following standards:

- 1. Group discussions and Required assignments: 50%
- 2. Term-end report: 50%

SOS200LA

社会思想 L B

2017 年度以降入学者

サブタイトル：

洪 貴義

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 3/Mon.3

単位数：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では在日朝鮮人の歴史と文化を学ぶことを目的とする。日本と朝鮮半島（南北）の近現代史の諸関係から生み出され、この3ヶ国のはざまにあって日本で存在しているコリアンが在日朝鮮人という存在である。この授業では3ヶ国の近現代史をふまえながら、在日朝鮮人のアイデンティティーのありかた、その詩や文学、映画や音楽、芸能などの作品世界を学ぶことを目的としている。

【到達目標】

テキストや講義を通して日本や朝鮮半島の近現代史を理解することができる。

テキストや講義を通して在日朝鮮人に対する正確な理解を持つことができる。

テキストや講義を通して考えたことをコメントやレポートに表現することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

授業は講義形式で行う。各回の授業を進めるごとに毎週コメントを提出してもらい、それに対して授業の中でフィードバックしていく。（基本的には対面授業だが、特別な事情が生じた場合のみオンライン授業を行うこともある。）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の概要と目的、進め方、受講の仕方、成績評価の方法などについて説明
2	導入（1）	在日朝鮮人という存在
3	導入（2）	歴史的背景
4	1960年代（1）	民族の問題
5	1960年代（2）	民族責任
6	日本のジュネ（1）	李珍宇の犯罪
7	日本のジュネ（2）	李珍宇の手紙
8	在日三世のカフカ（1）	カフカという存在
9	在日三世のカフカ（2）	弱さに向き合う
10	詩と文学（1）	金時鐘と金石範
11	詩と文学（2）	鷺沢萌・柳美里・崔実
12	映画（1）	崔洋一と大島渚
13	映画（2）	浦山桐郎と井筒和幸
14	音楽	在日音楽の百年

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。具体的には準備学習としてテキストの指定した箇所を事前に読んでおくこと、また復習としては講義内容を振り返り、参考文献を読み進めるなどのことができる。

【テキスト（教科書）】

第1回のガイダンス時に説明する。

【参考書】

その他の参考資料については授業中に指定、配布する。

【成績評価の方法と基準】

各授業後に提出するコメント10回分（50%）と
期末レポート1回分（50%）によって成績評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline (in English)】

This class aims to learn about the history and culture of Koreans in Japan. In this class, students will learn about the identity of Koreans in Japan and the world of works such as poetry, literature, movies, music, and performing arts, based on the modern history of Korea and Japan relation.

The standard time for preparation and review for taking classes is two hours each. Specifically, it is possible to read the specified parts of the text in advance as preparation study, and to review the lecture contents and read the reference materials as review.

Grades will be evaluated based on 10 comments (50%) submitted after each class, plus one final report (50%).

SOS200LA

社会思想 L A

2017 年度以降入学者

サブタイトル：能力主義を問う

阿部 崇史

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 5/Mon.5

単位数：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、M. サンデル著『実力も運のうち：能力主義は正義か？』を手がかりに、能力主義（メリトクラシー）について検討します。能力主義——地位や報酬は能力の発揮に応じて与えられるべきだ——は、現代社会において魅力的な考え方だとされています。それは、能力の獲得と発揮を通じて自らの人生を切り開く自由を、人々に与えるからです。他方で、能力主義は、経済的格差の拡大と貧困、「負け組」とされた人たちの承認の欠如、「勝ち組」と「負け組」との社会的分断、といった現代社会の問題を生む原因だとも考えられています。本授業では、現代の規範的な政治理論——自由、平等、公正さといった、政治や政策に関わる価値ないし理念を扱う学問——の観点から、このような能力主義を検討します。それを通じて、能力主義や関連する社会的課題について、みなさん自身の意見を提示できるようになることが、この授業の目的になります。

【到達目標】

本授業における具体的な到達目標は、以下の3つになります。(1) テキストの読解と講義を通じて、能力主義の魅力と問題点について理解する。(2) グループディスカッションや期末レポートを通じて、能力主義や関連する社会的課題への意見を提示できるようになる。(3) グループディスカッションを通じて、社会的課題について他者と議論できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

本授業は、グループディスカッションを中心にした、講義と演習の中間的な形態で行います。具体的には、以下のように進めます。(1) 前回のコメントペーパーへの応答：20 分程度、(2) テキストの該当範囲への解説：15 分程度、(3) グループディスカッション：40 分程度、(4) テキストの議論の背景に関する説明：15 分程度、(5) コメントペーパーの作成：10 分程度。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業全体の概要や能力主義というテーマについて説明します。
第 2 回	プロローグ、序論：入学すること	能力主義の魅力と問題点を概観します。
第 3 回	第 1 章：勝者と敗者	能力主義がもたらす社会問題について検討します。
第 4 回	第 3 章 出世のレトリック	能力主義について、その基本的な特徴を検討します。
第 5 回	第 4 章：学歴偏重主義（前半）	能力主義において学歴がい果たしている役割を検討します。
第 6 回	第 4 章：学歴偏重主義（後半）	能力主義的な統治のあり方（テクノクラシー）について検討します。
第 7 回	第 5 章：成功の倫理学（前半）	能力主義の規範的な主張について検討します。
第 8 回	第 5 章：成功の倫理学（後半）	能力主義的な市場経済の捉え方について検討します。
第 9 回	第 6 章：選別装置（前半）	能力主義に基づく現在の教育システムについて、その問題点を検討します。
第 10 回	第 6 章：選別装置（後半）	教育システムの適切なあり方について検討します。
第 11 回	第 7 章：労働を承認する	人々の労働をどのように承認すべきか、検討します。
第 12 回	結論：能力と共通善およびレポート課題の説明	テキストの結論部分を扱います。その後、期末レポートの書き方や採点ポイントを説明します。
第 13 回	期末レポートの検討（1）	期末レポートで扱う問いや、問いに答えるための論点整理について、グループディスカッションを通じた検討を行います。
第 14 回	期末レポートの検討（2）	期末レポートで提示する各自の主張について、グループディスカッションを通じた検討を行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- 毎回の授業前に、テキストの該当範囲を読んだ上で、事前に提示するディスカッション課題に対する意見を考えてきてください（1 時間～2 時間程度が目安になります）。
- 負担が重くならないように、毎回の授業で扱うテキストの分量は短くしてあります（30 ページ程度）。
- 毎回の授業後に、コメントペーパーを提出していただきます。
※大学設置基準に鑑みた場合、本授業の準備・復習時間は、各 2 時間が標準となります。

【テキスト（教科書）】

M. サンデル、鬼澤忍（訳）『実力も運のうち：能力主義は正義か？』早川書房、2021 年、2420 円。

【参考書】

- ※参考書として、規範的な政治理論の教科書を 4 冊挙げておきます。
- ※内容の詳しさは（1）→（4）の順、読みやすさは（4）→（1）の順になります。
- （1）W. キムリッカ、千葉真・岡崎晴輝（訳）『現代政治理論』日本経済評論社、2005 年
- （2）宇佐美誠・児玉聡・井上彰・松元雅和『正義論：ベーシックスからフロンティアまで』法律文化社、2019 年
- （3）川崎修・杉田敦（編）『現代政治理論』有斐閣、2012 年
- （4）田村哲樹・松元雅和・乙部延剛・山崎望『ここから始める政治理論』有斐閣、2017 年
- ※その他、各回の授業のテーマに関連する文献を、授業中に挙げます。

【成績評価の方法と基準】

満点である 100 点のうち、平常点が 50 %、期末レポートが 50 %になります。平常点は、グループディスカッションへの参加とコメントペーパーに基づいて判断します。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムに授業のための資料をアップロードします。そのため、学習支援システムを利用するための情報通信環境が必要となります。

【その他の重要事項】

- 一学期で一冊の本を読み切るため、ハードルが高く感じるかもしれません。
 - ですが、各回で読む分量（30 ページ程度）は多くないため、大きな負担にはならないはず。
 - また、グループディスカッションについても、学生のみなさん同士の議論になりますので、身構える必要はありません。
 - 積極的に履修していただければ嬉しいです。
 - ※担当者は、社会思想 I（春学期）および社会思想 II（秋学期）も開講しています。
- これらの授業も現代の規範的な政治理論の議論を扱っているため、併せて履修していただくと、理解がより深まると思います。

【Outline (in English)】

《Course outline》

In this course, we examine meritocracy through the critical reading of *The Tyranny of Merit* by Michael Sandel. On the one hand, meritocracy is appealing because it gives us the freedom to realize our life plans as long as we foster our talents and contribute to our society. On the other hand, meritocracy has brought about many social problems, such as great inequality and poverty, the misrecognition of "losers," and the social division between "winners" and "losers." We examine appeals and problems of meritocracy from the perspective of modern political philosophy (normative political philosophy). After the course, students can construct their own views on meritocracy and related social issues.

《Learning objectives》

The goals of this course are the followings:

- 1. To understand appeals and problems of meritocracy.
- 2. To construct your own (normative) view on meritocracy and related social problems.
- 3. To become able to discuss social issues with others.

《Learning activities outside the classroom》

Students will be expected to read the text and construct their own views on discussion questions before each class. Completing the required assignments after each class meeting is also expected. You are recommended to study more than four hours for each class by the standard set by the Japanese government.

《Grading Criteria/Policies》

Your overall grade in the class will be decided based on the following standards:

- 1. Group discussions and Required assignments: 50%
- 2. Term-end report: 50%

SOS200LA

社会思想 L B

2017 年度以降入学者

サブタイトル：

洪 貴義

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 3/Wed.3

単位数：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では在日朝鮮人の歴史と文化を学ぶことを目的とする。日本と朝鮮半島（南北）の近現代史の諸関係から生み出され、この 3ヶ国のはざまにあって日本で存在しているコリアンが在日朝鮮人という存在である。この授業では 3ヶ国の近現代史をふまえながら、在日朝鮮人のアイデンティティーのありかた、その詩や文学、映画や音楽、芸能などの作品世界を学ぶことを目的としている。

【到達目標】

テキストや講義を通して日本や朝鮮半島の近現代史を理解することができる。

テキストや講義を通して在日朝鮮人に対する正確な理解を持つことができる。

テキストや講義を通して考えたことをコメントやレポートに表現することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

授業は講義形式で行う。各回の授業を進めるごとに毎週コメントを提出してもらい、それに対して授業の中でフィードバックしていく。（基本的には対面授業だが、特別な事情が生じた場合のみオンライン授業を行うこともある。）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の概要と目的、進め方、受講の仕方、成績評価の方法などについて説明
2	導入（1）	在日朝鮮人という存在
3	導入（2）	歴史的背景
4	1960 年代（1）	民族の問題
5	1960 年代（2）	民族責任
6	日本のジュネ（1）	李珍宇の犯罪
7	日本のジュネ（2）	李珍宇の手紙
8	在日三世のカフカ（1）	カフカという存在
9	在日三世のカフカ（2）	弱さに向き合う
10	詩と文学（1）	金時鐘と金石範
11	詩と文学（2）	鷺沢萌・柳美里・崔実
12	映画（1）	崔洋一と大島渚
13	映画（2）	浦山桐郎と井筒和幸
14	音楽	在日音楽の百年

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。具体的には準備学習としてテキストの指定した箇所を事前に読んでおくこと、また復習としては講義内容を振り返り、参考文献を読み進めるなどのことができる。

【テキスト（教科書）】

第 1 回のガイダンス時に説明する。

【参考書】

その他の参考資料については授業中に指定、配布する。

【成績評価の方法と基準】

各授業後に提出するコメント 10 回分（50%）と
期末レポート 1 回分（50%）によって成績評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline (in English)】

This class aims to learn about the history and culture of Koreans in Japan. In this class, students will learn about the identity of Koreans in Japan and the world of works such as poetry, literature, movies, music, and performing arts, based on the modern history of Korea and Japan relation.

The standard time for preparation and review for taking classes is two hours each. Specifically, it is possible to read the specified parts of the text in advance as preparation study, and to review the lecture contents and read the reference materials as review.

Grades will be evaluated based on 10 comments (50%) submitted after each class, plus one final report (50%).

GEO200LA

地理学 L E

2017 年度以降入学者

呉羽 正昭

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 5/Mon.5

単位数：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

観光・ツーリズムに関する地理学の一般的概念を学びます。観光地理学を理解するために必要な諸概念（観光・ツーリズムの概念や構造など）、さまざまな地域的スケールでツーリズムに関する特徴について詳説します。加えて、ツーリズムの時間的・地域的展開みられる諸特徴と問題点、将来の課題について、日本における具体的な地域事例を示しながら解説します。

【到達目標】

この授業は、観光の概念および観光地理学の方法論を習得すること、環境と観光・ツーリズムとの関係について、日本におけるツーリズムの地域的特徴について理解することを目標とします。ツーリズムやさらにそれを取り巻く生活・文化に関する地域的特色の理解を通じて、広い視野で現代社会を主体的に考察する視点を獲得することを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

授業は講義形式です。理解を深めてもらうために、リアクションペーパーを活用します。準備学習のまとめに使用するとともに、意見・質問の記入も含めて講義内容に関する課題をまとめてもらい、不明点を次回以降の講義で説明することを通じて理解度を確認していきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	講義テーマの概説
第 2 回	観光の概念 — 観光やツーリズムとは何か？	観光やツーリズムとは何かを解説します
第 3 回	観光・ツーリズムの構造 — 観光・ツーリズムの要素と構造	観光・ツーリズムの要素や構造を解説します
第 4 回	観光地理学の概念 — 観光地理学の概念および方法論	観光地理学の概念および方法論を解説します
第 5 回	観光地域の変容プロセス — モデルの解説	モデルに基づいて観光地域の変容プロセスを解説します
第 6 回	観光・ツーリズムの変遷 — 古代～マストゥーリズム時代～新しいツーリズムの出現	ツーリズムの変遷について解説します
第 7 回	エコツーリズムの発展プロセス	エコツーリズムの発展プロセスを解説します
第 8 回	エコツーリズムの特徴と展望 — 西表島や屋久島などにおけるエコツーリズム	西表島や屋久島などの事例をもとにエコツーリズムの特徴や課題を解説します
第 9 回	日本の避暑ツーリズムの地域的展開	避暑の地域的展開に関して解説します
第 10 回	日本の湯治・温泉ツーリズムの地域的展開	湯治・温泉ツーリズムの地域的展開に関して解説します

第 11 回	日本のルーラル・ツーリズムの地域的展開	ルーラル・ツーリズムの地域的展開に関して解説します
第 12 回	日本のスキー・ツーリズムの地域的展開	明治期から高度経済成長期までのスキー・ツーリズムの地域的展開に関して解説します
第 13 回	日本のスキー・ツーリズムの地域的展開	バブル期以降のスキー・ツーリズムの地域的展開に関して解説します
第 14 回	まとめ	全体のまとめと総括をします

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義中に教員から示された参考文献等で講義内容の理解を深めます。また、次回講義のトピックについて、既存文献やインターネットなどで自ら予習して準備します。回によっては次回講義内容に関する課題に対応します。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しません。授業中の説明で使用する図表が印刷された資料を配布します。参考文献は講義の中でトピックに応じて随時紹介します。

【参考書】

岡本伸之編 2001『観光学入門』有斐閣。
溝尾良隆編 2009『観光学の基礎』原書房。
(財)日本交通公社編 2004『観光読本第 2 版』東洋経済新報社。
真板昭夫・石森秀三・海津ゆりえ編 2011『エコツーリズムを学ぶ人のために』世界思想社。
ピアス, D. 著, 内藤嘉昭訳 2001『現代観光地理学』明石書店。
江口信清・藤巻正己編 2011『観光研究レファレンスデータベース』ナカニシヤ出版。
呉羽正昭 2017『スキーリゾートの発展プロセス：日本とオーストラリアの比較研究』二宮書店。
矢ヶ崎典隆・山下清海・加賀美雅弘編 2018『グローバリゼーション縮小する世界』朝倉書店。

【成績評価の方法と基準】

この講義の目標に達したかどうかを期末試験と平常点で評価します。期末試験の評価割合は全体の 60 % で、毎時間の講義内容の理解度を問うミニレポートや次回の講義内容に関する課題等の記載内容を合わせて平常点（全体の 40 %）とします。

【学生の意見等からの気づき】

パワーポイントのスライド進行の速さについて注意します。

【Outline (in English)】

Students can study basic concept of geography related to tourism. Instructor will explain various concepts necessary for understanding geography of tourism (concepts and structures of tourism and sightseeing, etc.) and features related to tourism on various regional scales. In addition, the instructor will explain various features, problems and future challenges of tourism that encompasses it, while showing specific regional examples in Japan.

At the end of the course, students are expected to understand the methodology of tourism geography and the regional characteristics of tourism in Japan.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend one hours to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end examination: 60% and Short reports: 40%.

GEO200LA

地理学 L F

2017 年度以降入学者

加賀美 雅弘

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 4/Thu.4

単位数：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この講義は、東ヨーロッパにおける国境の変化と民族集団の動向を明らかにし、これをもとにヨーロッパ地誌を考える。具体的には、東ヨーロッパにおける近代以降の国家形成とそれに連動して生じてきた少数民族問題を背景にして、「民族の景観」と「経済の地域間格差」に着目しつつ現代ヨーロッパの民族問題に関する考察を行う。

【到達目標】

近代以降のヨーロッパにおける国家と民族集団の動向に着目し、地域統合を進める EU における地域的課題について考察することによって、ヨーロッパを動的に理解することを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

授業は講義形式で行われる。基本的にはパワーポイントを使用し、配布プリントとあわせて講義内容の理解をはかる。また、毎時間に課すリアクションペーパーで学習内容の理解度を確認し、その総括を次回の授業で解説する。また、出された質問に対する回答も行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業の全体像および進め方を説明する。また、地理学の基本的な視点を解説する。
第 2 回	EU の国境 (1)	EU の拡大とそれに伴う国境の変化について解説する。
第 3 回	EU の国境 (2)	フランスとドイツの国境が変更を繰り返してきた歴史とその影響について解説する。
第 4 回	EU の国境 (3)	フランスとドイツの国境が EU 域内で開放された影響について解説する。
第 5 回	東西分断の旧国境	現在のドイツにおける旧東西ドイツ国境の影響について解説する。
第 6 回	東ヨーロッパの国境 (1)	東ヨーロッパにおける国家と民族の関係について解説する。
第 7 回	東ヨーロッパの国境 (2)	ドイツとチェコの国境の過去と現在について解説する。
第 8 回	東ヨーロッパの国境 (3)	旧ユーゴスラヴィアの解体とボスニア・ヘルツェゴヴィナの変化について解説する。
第 9 回	東ヨーロッパの国境 (4)	東ヨーロッパにおける民族の移動と景観について解説する。
第 10 回	ヨーロッパの経済格差と民族問題 (1)	ヨーロッパの民族集団ロマについて解説する。
第 11 回	ヨーロッパの経済格差と民族問題 (2)	東ヨーロッパに住むロマの社会的状況について解説する。
第 12 回	ヨーロッパの経済格差と民族問題 (3)	経済格差とロマ問題について解説する。
第 13 回	ヨーロッパの地域構造	国境に着目したヨーロッパの地域構造について解説する。

第 14 回 まとめ（試験を含む） 授業内容を整理し、ヨーロッパの地域的特性についての理解を確認する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習として、テキストを読んで内容を整理しておく。復習として、授業で学んだ内容をテキストを読み直してまとめる作業を行う。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

『国境で読み解くヨーロッパー境界の地理紀行』 加賀美雅弘著、朝倉書店、3000 円

【参考書】

授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

最終時限に実施する試験：40%，授業中に課すリアクションペーパーの内容：60%

【学生の意見等からの気づき】

授業内で行うリアクションペーパーに授業に関する質問や意見を記載することによって、その内容をできるだけ次回の授業に反映させる。

【Outline (in English)】

For the study on regional geography of Europe we will grasp change of borders and trend of the ethnic groups in Eastern Europe. Specifically, with attention to the nation formation since modern Europe and the ethnic minority problems that have arisen on borders, we will consider the actual situation of Eastern Europe, focusing on "ethnic landscape" and "regional disparity of economy". The goal of this lecture is systematical understanding of Europe with geographical contexts. Your overall grade in the class will be decided based on the following, examination taken in the last class (40%), reaction paper in every class (60%)

MAT100LA

教養数学 A

2017 年度以降入学者

平田 康史

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 4/Tue.4
 単位数：2 単位
 2015 年度までに「数学、情報を読むために I」の単位を修得済み
 の場合、履修不可
 その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

～ 情報を読むために ～

数学は言語であると言われており、実際、様々なところで利用される道具となっている。この授業では、代数学における題材により、数やそれらの関係について学ぶ。

【到達目標】

①整数の理論、②代数系で用いられる基本的な考え方を理解し、演習問題を実際に解くことができる。ここでは問題の一例を、情報を読み解くという観点からあげてみよう。

問題（帽子と眼鏡と付け髭） 市谷くんは帽子 H_1, H_2, \dots, H_{15} と眼鏡 G_1, G_2, \dots, G_{10} と付け髭 M_1, M_2, \dots, M_{25} をもっていて、それぞれこの順番で毎日、日替わりで身に着けている。今年の 4 月 1 日は H_1, G_1, M_1 の組み合わせであった。市谷くんのお気に入りには H_{13}, G_8, M_{18} の組み合わせである。最初にお気に入りの組み合わせになるのは何月何日であるか。

組み合わせをひたすら並べて書いてゆけば、求める答えがいずれは得られるが、大変な労力が必要かもしれない。組み合わせは全部で 3750 通りもあるのだから。しかし、こんな問題もこの授業で扱う「連立合同式」の解法を用いれば、ちょっとした計算で答えることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

様々な例で具体的なイメージを作りながら重要事項を理解する、という方法で授業を進めていく。そのために講義の中で演習の時間を多くとるつもりである。疑問点があったら授業中でも積極的に質問してもらいたい。課題等に関するフィードバックは学習支援システムを通じて行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	整数の除算と法演算	整数の除算について確認し、割られる数が負の数の場合の除算も考える。
第 2 回	整数の除算と法演算	整数の合同の定義と基本性質を確認し、ベキ乗の法演算の計算をする。
第 3 回	公倍数と公約数	倍数と約数の性質を調べる。
第 4 回	公倍数と公約数	ユークリッドの互除法を使って最大公約数を計算する。
第 5 回	倍数の和	複数の整数の倍数の和で表される数について学ぶ。
第 6 回	倍数の和	互いに素な整数の性質を調べる。

第 7 回	代数系	法演算における整数の積の可逆性について考える。
第 8 回	代数系	群構造について学ぶ。
第 9 回	群の理論の応用	オイラーの定理について学ぶ。
第 10 回	連立合同式	異なる周期をもつ 2 つの事柄について考える。
第 11 回	連立合同式	異なる周期をもつ 3 つ以上の事柄について考える。
第 12 回	整数の理論の応用	2 つの素数の積について調べる。
第 13 回	整数の理論の応用	RSA 暗号の暗号化と復号の仕組みを学ぶ。
第 14 回	整数の理論の応用	計算の効率性について考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

演習問題を十分に解くこと。その際、失敗しても良いので、紙に書きながら考えること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

指定しない。学習支援システム上で教材を配布する。

【参考書】

特に指定しないが、さらに学習する際は、初等整数論、代数学を主題とした専門書であればそれぞれ参考となる。

【成績評価の方法と基準】

到達目標に関する問題の解決能力を期末試験によって評価 (100%) する予定である。ただし、コロナウィルスの流行状況等によっては代替レポートを提出してもらっての評価に変更する場合もあるかもしれない。その際には、授業内、あるいは、学習支援システムで通知する。

【学生の意見等からの気づき】

受講者の理解度に応じて授業の進み速さを調節したい。

【Outline (in English)】

【Outline (in English)】

[Course outline] This course deals with basic concepts and tools of mathematics especially from a viewpoint of algebra.

[Learning objectives] At the end of this course, students should be able to obtain basic knowledge concerning number theory and algebraic systems, such as modular arithmetic and permutation groups, with respect to their applications to answer various problems appearing in our lives.

[Learning activities outside of classroom] Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for each class meeting.

[Grading criteria/policy] Your overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end examination 100%.

MAT100LA

教養数学B

2017年度以降入学者

平田 康史

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 4/Tue.4

単位数：2単位

2015年度までに「数学、情報を読むためにⅡ」の単位を修得済み
の場合、履修不可

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

～ 情報を読むために ～

数学は言語であると言われており、実際、様々なところで利用される道具となっている。この授業では、離散数学における題材により、いろいろな計算方法について学ぶ。

【到達目標】

①グラフ理論、②組合せ数学で用いられる基本的な考え方を理解し、演習問題を実際に解くことができる。ここでは問題の一例を、情報を読み解くという観点からあげてみよう。

問題（郵便配達） 各々の道に距離が表示してある地図がある。郵便局を出発した郵便配達人が、すべての道を最低1回は通って郵便物の配達を終え、郵便局に戻ってくるときの最短距離は？

この問題は、「根気と体力」があれば、しらみつぶしに調べていくことで答えは求められるかもしれない。そのような計算法はコンピュータが得意である。しかし我々は人間であるので、できるかぎり楽をして答えを求めたい。この授業で扱う「グラフ理論」を用いれば、そのような人間らしい方法で解答を求めることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

様々な例で具体的なイメージを作りながら重要事項を理解する、という方法で授業を進めていく。そのために講義の中で演習の時間を多くとるつもりである。疑問点があったら授業中でも積極的に質問してもらいたい。課題等に関するフィードバックは学習支援システムを通じて行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	グラフ理論とは	グラフ理論におけるグラフの定義を述べる。
第2回	頂点の次数列	グラフの頂点の次数列について考える。
第3回	頂点の次数列	単純グラフにおける次数を変えない辺のつなぎかえについて考える。
第4回	一筆書き	一筆書き可能性によってグラフを分類する。
第5回	一筆書き	一筆書きの可否と頂点の次数の関係について調べ、考察する。
第6回	一筆書き	一筆書きの道順を選ぶアルゴリズムについて考える。
第7回	一筆書き	アルゴリズムの実行可能性とグラフの連結性について学ぶ。
第8回	郵便配達問題	郵便配達をするのに効率のよい道順を探す。

第9回	郵便配達問題	最短経路の見つけ方について学ぶ。
第10回	郵便配達問題	それが最短である理由を考える。
第11回	組み合わせの計算	いくつかのものを、定数の決まった枠組みに振り分けるパターン数について考える。
第12回	組み合わせの計算	$n=2,3$ の場合の包除原理を使って組み合わせの計算をする。
第13回	組み合わせの計算	一般の n についての包除原理について学ぶ。
第14回	組み合わせの計算	包除原理を使って、プレゼント交換について考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

演習問題を十分に解くこと。その際、失敗しても良いので、紙に書きながら考えること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

指定しない。学習支援システム上で教材を配布する。

【参考書】

特に指定しないが、さらに学習する際は、グラフ理論、組合せ論を主題とした専門書であればそれぞれ参考となる。

【成績評価の方法と基準】

到達目標に関する問題の解決能力を期末試験によって評価（100%）する予定である。ただし、コロナウィルスの流行状況等によっては代替レポートを提出してもらっての評価に変更する場合もあるかもしれない。その際には、授業内、あるいは、学習支援システムで通知する。

【学生の意見等からの気づき】

受講者の理解度に応じて授業の進む速さを調節したい。

【Outline (in English)】

【Outline (in English)】

[Course outline] This course deals with basic concepts and tools of mathematics especially from a viewpoint of discrete mathematics.

[Learning objectives] At the end of this course, students should be able to obtain basic knowledge concerning graph theory and combinatorics, such as Eulerian path and inclusion-exclusion principle, with respect to their applications to answer various problems appearing in our lives.

[Learning activities outside of classroom] Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for each class meeting.

[Grading criteria/policy] Your overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end examination 100%.

MAT100LA

教養数学 A

2017 年度以降入学者

平田 康史

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 3/Tue.3
 単位数：2 単位
 2015 年度までに「数学、情報を読むために I」の単位を修得済み
 の場合、履修不可
 その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

～ 情報を読むために ～

数学は言語であると言われており、実際、様々なところで利用される道具となっている。この授業では、代数学における題材により、数やそれらの関係について学ぶ。

【到達目標】

①整数の理論、②代数系で用いられる基本的な考え方を理解し、演習問題を実際に解くことができる。ここでは問題の一例を、情報を読み解くという観点からあげてみよう。

問題（帽子と眼鏡と付け髭） 市谷くんは帽子 H_1, H_2, \dots, H_{15} と眼鏡 G_1, G_2, \dots, G_{10} と付け髭 M_1, M_2, \dots, M_{25} をもっていて、それぞれこの順番で毎日、日替わりで身に着けている。今年の 4 月 1 日は H_1, G_1, M_1 の組み合わせであった。市谷くんのお気に入りには H_{13}, G_8, M_{18} の組み合わせである。最初にお気に入りの組み合わせになるのは何月何日であるか。

組み合わせをひたすら並べて書いてゆけば、求める答えがいずれは得られるが、大変な労力が必要かもしれない。組み合わせは全部で 3750 通りもあるのだから。しかし、こんな問題もこの授業で扱う「連立合同式」の解法を用いれば、ちょっとした計算で答えることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

様々な例で具体的なイメージを作りながら重要事項を理解する、という方法で授業を進めていく。そのために講義の中で演習の時間を多くとるつもりである。疑問点があったら授業中でも積極的に質問してもらいたい。課題等に関するフィードバックは学習支援システムを通じて行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	整数の除算と法演算	整数の除算について確認し、割られる数が負の数の場合の除算も考える。
第 2 回	整数の除算と法演算	整数の合同の定義と基本性質を確認し、ベキ乗の法演算の計算をする。
第 3 回	公倍数と公約数	倍数と約数の性質を調べる。
第 4 回	公倍数と公約数	ユークリッドの互除法を使って最大公約数を計算する。
第 5 回	倍数の和	複数の整数の倍数の和で表される数について学ぶ。
第 6 回	倍数の和	互いに素な整数の性質を調べる。

第 7 回	代数系	法演算における整数の積の可逆性について考える。
第 8 回	代数系	群構造について学ぶ。
第 9 回	群の理論の応用	オイラーの定理について学ぶ。
第 10 回	連立合同式	異なる周期をもつ 2 つの事柄について考える。
第 11 回	連立合同式	異なる周期をもつ 3 つ以上の事柄について考える。
第 12 回	整数の理論の応用	2 つの素数の積について調べる。
第 13 回	整数の理論の応用	RSA 暗号の暗号化と復号の仕組みを学ぶ。
第 14 回	整数の理論の応用	計算の効率性について考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

演習問題を十分に解くこと。その際、失敗しても良いので、紙に書きながら考えること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

指定しない。学習支援システム上で教材を配布する。

【参考書】

特に指定しないが、さらに学習する際は、初等整数論、代数学を主題とした専門書であればそれぞれ参考となる。

【成績評価の方法と基準】

到達目標に関する問題の解決能力を期末試験によって評価 (100%) する予定である。ただし、コロナウィルスの流行状況等によっては代替レポートを提出してもらっての評価に変更する場合もあるかもしれない。その際には、授業内、あるいは、学習支援システムで通知する。

【学生の意見等からの気づき】

受講者の理解度に応じて授業の進む速さを調節したい。

【Outline (in English)】

【Outline (in English)】

[Course outline] This course deals with basic concepts and tools of mathematics especially from a viewpoint of algebra.

[Learning objectives] At the end of this course, students should be able to obtain basic knowledge concerning number theory and algebraic systems, such as modular arithmetic and permutation groups, with respect to their applications to answer various problems appearing in our lives.

[Learning activities outside of classroom] Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for each class meeting.

[Grading criteria/policy] Your overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end examination 100%.

MAT100LA

教養数学B

2017年度以降入学者

平田 康史

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 3/Tue.3

単位数：2 単位

2015年度までに「数学、情報を読むためにⅡ」の単位を修得済み
の場合、履修不可

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

～ 情報を読むために ～

数学は言語であると言われており、実際、様々なところで利用される道具となっている。この授業では、離散数学における題材により、いろいろな計算方法について学ぶ。

【到達目標】

①グラフ理論、②組合せ数学で用いられる基本的な考え方を理解し、演習問題を実際に解くことができる。ここでは問題の一例を、情報を読み解くという観点からあげてみよう。

問題（郵便配達） 各々の道に距離が表示してある地図がある。郵便局を出発した郵便配達人が、すべての道を最低1回は通って郵便物の配達を終え、郵便局に戻ってくる際の最短距離は？

この問題は、「根気と体力」があれば、しらみつぶしに調べていくことで答えは求められるかもしれない。そのような計算法はコンピュータが得意である。しかし我々は人間であるので、できるかぎり楽をして答えを求めたい。この授業で扱う「グラフ理論」を用いれば、そのような人間らしい方法で解答を求めることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

様々な例で具体的なイメージを作りながら重要事項を理解する、という方法で授業を進めていく。そのために講義の中で演習の時間を多くとるつもりである。疑問点があったら授業中でも積極的に質問してもらいたい。課題等に関するフィードバックは学習支援システムを通じて行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	グラフ理論とは	グラフ理論におけるグラフの定義を述べる。
第2回	頂点の次数列	グラフの頂点の次数列について考える。
第3回	頂点の次数列	単純グラフにおける次数を変えない辺のつなぎかえについて考える。
第4回	一筆書き	一筆書き可能性によってグラフを分類する。
第5回	一筆書き	一筆書きの可否と頂点の次数の関係について調べ、考察する。
第6回	一筆書き	一筆書きの道順を選ぶアルゴリズムについて考える。
第7回	一筆書き	アルゴリズムの実行可能性とグラフの連結性について学ぶ。
第8回	郵便配達問題	郵便配達をするのに効率のよい道順を探す。

第9回	郵便配達問題	最短経路の見つけ方について学ぶ。
第10回	郵便配達問題	それが最短である理由を考える。
第11回	組み合わせの計算	いくつかのものを、定数の決まった枠組みに振り分けるパターン数について考える。
第12回	組み合わせの計算	$n=2,3$ の場合の包除原理を使って組み合わせの計算をする。
第13回	組み合わせの計算	一般の n についての包除原理について学ぶ。
第14回	組み合わせの計算	包除原理を使って、プレゼント交換について考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

演習問題を十分に解くこと。その際、失敗しても良いので、紙に書きながら考えること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

指定しない。学習支援システム上で教材を配布する。

【参考書】

特に指定しないが、さらに学習する際は、グラフ理論、組合せ論を主題とした専門書であればそれぞれ参考となる。

【成績評価の方法と基準】

到達目標に関する問題の解決能力を期末試験によって評価（100%）する予定である。ただし、コロナウィルスの流行状況等によっては代替レポートを提出してもらっての評価に変更する場合もあるかもしれない。その際には、授業内、あるいは、学習支援システムで通知する。

【学生の意見等からの気づき】

受講者の理解度に応じて授業の進む速さを調節したい。

【Outline (in English)】

【Outline (in English)】

[Course outline] This course deals with basic concepts and tools of mathematics especially from a viewpoint of discrete mathematics.

[Learning objectives] At the end of this course, students should be able to obtain basic knowledge concerning graph theory and combinatorics, such as Eulerian path and inclusion-exclusion principle, with respect to their applications to answer various problems appearing in our lives.

[Learning activities outside of classroom] Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for each class meeting.

[Grading criteria/policy] Your overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end examination 100%.

MAT100LA

教養数学A

2017年度以降入学者

小木曾 岳義

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 3/Thu.3

単位数：2単位

2015年度までに「数学、情報を読むためにI」の単位を修得済み
の場合、履修不可

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

数学は言語であると言われており、実際、様々なところで利用される道具となっている。この授業では、代数学における題材により、数やそれらの関係について学ぶ。

【到達目標】

①整数の理論、②代数系で用いられる基本的な考え方を理解し、演習問題を実際に解くことができる。ここでは問題の一例を、情報を読み解くという観点からあげてみよう。

問題（帽子と眼鏡と付け髭） 市谷くんは帽子 H_1, H_2, \dots, H_{15} と眼鏡 G_1, G_2, \dots, G_{10} と付け髭 M_1, M_2, \dots, M_{25} をもっていて、それぞれこの順番で毎日、日替わりで身に着けている。今年の4月1日は H_1, G_1, M_1 の組み合わせであった。市谷くんのお気に入りには H_{13}, G_8, M_{18} の組み合わせである。最初にお気に入り
の組み合わせになるのは何月何日であるか。

組み合わせをひたすら並べて書いてゆけば、求める答えがいずれは得られるが、大変な労力が必要かもしれない。組み合わせは全部で 3750通りもあるのだから。しかし、こんな問題もこの授業で扱う「連立合同式」の解法を用いれば、ちょっとした計算で答えることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示された
どの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針
に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

様々な例で具体的なイメージを作りながら重要事項を理解する、という方法で授業を進めていく。そのために講義の中で演習の時間を多くとるつもりである。疑問点があったら授業中でも積極的に質問してもらいたい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	はじめに	授業の概要を説明する。
第2回	数学のことば	論理的な文章を練習する。
第3回	整数の性質	整数について確認する。
第4回	合同式とは	合同式の計算を練習する。
第5回	合同式の性質	合同式特有の性質を確認する。
第6回	さまざまな応用	暗号の作成と解読を行う。
第7回	連立合同式	連立合同式の解法を学ぶ。
第8回	さまざまな応用	ゲームへの応用など
第9回	写像と置換	置換の定義と記法を学ぶ。
第10回	恒等置換と逆置換	置換の演算について学ぶ。
第11回	巡回置換と互換	単純な置換について学ぶ。
第12回	置換の性質	置換を単純なものに分解する。
第13回	さまざまな応用	置換でアマダクジを作る。
第14回	さまざまな応用	結婚可能かどうかを計算する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

演習問題を十分に解くこと。その際、失敗しても良いので、紙に書きながら考えること。

【テキスト（教科書）】

指定しない。例題などは印刷したものを授業中に配布する。

【参考書】

特に指定しないが、さらに学習する際は、初等整数論、代数学を主題とした専門書であればそれぞれ参考となる。

【成績評価の方法と基準】

期末試験（100%）

【学生の意見等からの気づき】

私語がなくなるよう改善したい。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【Outline (in English)】

This course deals with basic concepts and tools of mathematics especially from a viewpoint of algebra.

[Learning objectives] At the end of this course, students should be able to obtain basic knowledge concerning number theory and algebraic systems, such as modular arithmetic and permutation groups, with respect to their applications to answer various problems appearing in our lives.

[Learning activities outside of classroom] Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for each class meeting.

[Grading criteria/policy] Your overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end examination 100%.

MAT100LA

教養数学B

2017年度以降入学者

小木曾 岳義

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 3/Thu.3

単位数：2 単位

2015年度までに「数学、情報を読むためにⅡ」の単位を修得済み
の場合、履修不可

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

数学は言語であると言われており、実際、様々なところで利用される道具となっている。この授業では、離散数学における題材により、いろいろな計算方法について学ぶ。

【到達目標】

①グラフ理論、②組合せ数学で用いられる基本的な考え方を理解し、演習問題を実際に解くことができる。ここでは問題の一例を、情報を読み解くという観点からあげてみよう。

問題（郵便配達） 各々の道に距離が表示してある地図がある。郵便局を出発した郵便配達人が、すべての道を最低 1 回は通って郵便物の配達を終え、郵便局に戻ってくる時の最短距離は？

この問題は、「根気と体力」があれば、しらみつぶしに調べていくことで答えは求められるかもしれない。そのような計算法はコンピュータが得意である。しかし我々は人間であるので、できるかぎり楽をして答えを求めたい。この授業で扱う「グラフ理論」を用いれば、そのような人間らしい方法で解答を求めることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示された
どの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針
に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

様々な例で具体的なイメージを作りながら重要事項を理解する、という方法で授業を進めていく。そのために講義の中で演習の時間を多くとるつもりである。疑問点があったら授業中でも積極的に質問してもらいたい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	はじめに	授業の概要を説明する。
第 2 回	数学のことは	文章の記号化を練習する。
第 3 回	グラフとは	グラフの定義と記法を確認する。
第 4 回	ハミルトングラフ	ハミルトングラフについて学ぶ。
第 5 回	さまざまな応用	円卓に仲良く座る方法を調べる。
第 6 回	距離と次数	グラフに距離と次数を定義する。
第 7 回	クラスター係数	グラフの固まり具合を調べる。
第 8 回	さまざまな応用	世界の狭さを数学で表現する。
第 9 回	数列とは	数列の定義と記法を確認する。
第 10 回	フィボナッチ数列	フィボナッチ数列について学ぶ。
第 11 回	さまざまな応用	タイルの敷き詰め方を数える。
第 12 回	さまざまな応用	黄金比との関係
第 13 回	マルコフ 3 数	マルコフ 3 数の定義と例
第 14 回	グラフのマッチングとの関係	マルコフ数とある種の 2 部グラフのパーフェクトマッチングとの関係

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

演習問題を十分に解くこと。その際、失敗しても良いので、紙に書きながら考えること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

指定しない。例題などは印刷したものを授業中に配布する。

【参考書】

特に指定しないが、さらに学習する際は、グラフ理論、組合せ論を主題とした専門書であればそれぞれ参考となる。

【成績評価の方法と基準】

期末試験 (100%)

【学生の意見等からの気づき】

私語がなくなるよう改善したい。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【Outline (in English)】

[Course outline] This course deals with basic concepts and tools of mathematics especially from a viewpoint of discrete mathematics.

[Learning objectives] At the end of this course, students should be able to obtain basic knowledge concerning graph theory and combinatorics, such as Eulerian path and inclusion-exclusion principle, with respect to their applications to answer various problems appearing in our lives.

[Learning activities outside of classroom] Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for each class meeting.

[Grading criteria/policy] Your overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end examination 100%.

MAT100LA

教養数学A

2017年度以降入学者

小木曾 岳義

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 4/Thu.4

単位数：2単位

2015年度までに「数学、情報を読むためにI」の単位を修得済み
の場合、履修不可

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

数学は言語であると言われており、実際、様々なところで利用される道具となっている。この授業では、代数学における題材により、数やそれらの関係について学ぶ。

【到達目標】

①整数の理論、②代数系で用いられる基本的な考え方を理解し、演習問題を実際に解くことができる。ここでは問題の一例を、情報を読み解くという観点からあげてみよう。

問題（帽子と眼鏡と付け髭） 市谷くんは帽子 H_1, H_2, \dots, H_{15} と眼鏡 G_1, G_2, \dots, G_{10} と付け髭 M_1, M_2, \dots, M_{25} をもっていて、それぞれこの順番で毎日、日替わりで身につけている。今年の4月1日は H_1, G_1, M_1 の組み合わせであった。市谷くんのお気に入りには H_{13}, G_8, M_{18} の組み合わせである。最初にお気に入り
の組み合わせになるのは何月何日であるか。

組み合わせをひたすら並べて書いてゆけば、求める答えがいずれは得られるが、大変な労力が必要かもしれない。組み合わせは全部で 3750通りもあるのだから。しかし、こんな問題もこの授業で扱う「連立合同式」の解法を用いれば、ちょっとした計算で答えることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示された
どの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針
に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

様々な例で具体的なイメージを作りながら重要事項を理解する、という方法で授業を進めていく。そのために講義の中で演習の時間を多くとるつもりである。疑問点があったら授業中でも積極的に質問してもらいたい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	はじめに	授業の概要を説明する。
第2回	数学のことば	論理的な文章を練習する。
第3回	整数の性質	整数について確認する。
第4回	合同式とは	合同式の計算を練習する。
第5回	合同式の性質	合同式特有の性質を確認する。
第6回	さまざまな応用	暗号の作成と解読を行う。
第7回	連立合同式	連立合同式の解法を学ぶ。
第8回	さまざまな応用	ゲームへの応用など
第9回	写像と置換	置換の定義と記法を学ぶ。
第10回	恒等置換と逆置換	置換の演算について学ぶ。
第11回	巡回置換と互換	単純な置換について学ぶ。
第12回	置換の性質	置換を単純なものに分解する。
第13回	さまざまな応用	置換でアマダクジを作る。
第14回	さまざまな応用	社会数理への応用

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

演習問題を十分に解くこと。その際、失敗しても良いので、紙に書きながら考えること。

【テキスト（教科書）】

指定しない。例題などは印刷したものを授業中に配布する。

【参考書】

特に指定しないが、さらに学習する際は、初等整数論、代数学を主題とした専門書であればそれぞれ参考となる。

【成績評価の方法と基準】

期末試験（100%）

【学生の意見等からの気づき】

私語がなくなるよう改善したい。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【Outline (in English)】

[Course outline] This course deals with basic concepts and tools of mathematics especially from a viewpoint of algebra.

[Learning objectives] At the end of this course, students should be able to obtain basic knowledge concerning number theory and algebraic systems, such as modular arithmetic and permutation groups, with respect to their applications to answer various problems appearing in our lives.

[Learning activities outside of classroom] Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for each class meeting.

[Grading criteria/policy] Your overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end examination 100%.

MAT100LA

教養数学B

2017年度以降入学者

小木曾 岳義

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 4/Thu.4

単位数：2単位

2015年度までに「数学、情報を読むためにⅡ」の単位を修得済み
の場合、履修不可

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

数学は言語であると言われており、実際、様々なところで利用される道具となっている。この授業では、離散数学における題材により、いろいろな計算方法について学ぶ。

【到達目標】

①グラフ理論、②組合せ数学で用いられる基本的な考え方を理解し、演習問題を実際に解くことができる。ここでは問題の一例を、情報を読み解くという観点からあげてみよう。

問題（郵便配達） 各々の道に距離が表示してある地図がある。郵便局を出発した郵便配達人が、すべての道を最低1回は通って郵便物の配達を終え、郵便局に戻ってくる時の最短距離は？

この問題は、「根気と体力」があれば、しらみつぶしに調べていくことで答えは求められるかもしれない。そのような計算法はコンピュータが得意である。しかし我々は人間であるので、できるかぎり楽をして答えを求めたい。この授業で扱う「グラフ理論」を用いれば、そのような人間らしい方法で解答を求めることができる。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示された
どの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針
に明示された学習成果との関連）】**

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

様々な例で具体的なイメージを作りながら重要事項を理解する、という方法で授業を進めていく。そのために講義の中で演習の時間を多くとるつもりである。疑問点があったら授業中でも積極的に質問してもらいたい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	はじめに	授業の概要を説明する。
第2回	数学のことは	文章の記号化を練習する。
第3回	グラフとは	グラフの定義と記法を確認する。
第4回	ハミルトングラフ	ハミルトングラフについて学ぶ。
第5回	さまざまな応用	円卓に仲良く座る方法を調べる。
第6回	距離と次数	グラフに距離と次数を定義する。
第7回	クラスター係数	グラフの固まり具合を調べる。
第8回	さまざまな応用	世界の狭さを数学で表現する。
第9回	数列とは	数列の定義と記法を確認する。
第10回	フィボナッチ数列	フィボナッチ数列について学ぶ。
第11回	さまざまな応用	タイルの敷き詰め方を数える。
第12回	さまざまな応用	黄金比との関係
第13回	マルコフ3数	マルコフ3数の定義と例
第14回	グラフのマッチングとの関係	マルコフ数とある種の2部グラフのパーフェクトマッチングとの関係

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

演習問題を十分に解くこと。その際、失敗しても良いので、紙に書きながら考えること。

【テキスト（教科書）】

指定しない。例題などは印刷したものを授業中に配布する。

【参考書】

特に指定しないが、さらに学習する際は、グラフ理論、組合せ論を主題とした専門書であればそれぞれ参考となる。

【成績評価の方法と基準】

期末試験（100%）

【学生の意見等からの気づき】

私語がなくなるよう改善したい。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【Outline (in English)】

[Course outline] This course deals with basic concepts and tools of mathematics especially from a viewpoint of discrete mathematics.

[Learning objectives] At the end of this course, students should be able to obtain basic knowledge concerning graph theory and combinatorics, such as Eulerian path and inclusion-exclusion principle, with respect to their applications to answer various problems appearing in our lives.

[Learning activities outside of classroom] Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for each class meeting.

[Grading criteria/policy] Your overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end examination 100%.

MAT100LA

教養数学 A

2017 年度以降入学者

池田 宏一郎

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 4/Mon.4
 単位数：2 単位
 2015 年度までに「数学、情報を読むために I」の単位を修得済み
 の場合、履修不可
 その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

～ 情報を読むために ～

数学は言語であると言われており、実際、様々なところで利用される道具となっている。この授業では、代数学における題材により、数やそれらの関係について学ぶ。

【到達目標】

①整数の理論、②代数系で用いられる基本的な考え方を理解し、演習問題を実際に解くことができる。ここでは問題の一例を、情報を読み解くという観点からあげてみよう。

問題（帽子と眼鏡と付け髭） 市谷くんは帽子 H_1, H_2, \dots, H_{15} と眼鏡 G_1, G_2, \dots, G_{10} と付け髭 M_1, M_2, \dots, M_{25} をもっていて、それぞれこの順番で毎日、日替わりで身に着けている。今年の 4 月 1 日は H_1, G_1, M_1 の組み合わせであった。市谷くんのお気に入りには H_{13}, G_8, M_{18} の組み合わせである。最初にお気に入りの組み合わせになるのは何月何日であるか。

組み合わせをひたすら並べて書いてゆけば、求める答えがいずれは得られるが、大変な労力が必要かもしれない。組み合わせは全部で 3750 通りもあるのだから。しかし、こんな問題もこの授業で扱う「連立合同式」の解法を用いれば、ちょっとした計算で答えることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

様々な例で具体的なイメージを作りながら重要事項を理解する、という方法で授業を進めていく。そのために講義の中で演習の時間を多くとるつもりである。疑問点があったら授業中でも積極的に質問してもらいたい。課題等に関するフィードバックは学習支援システムを通じて行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	はじめに	授業の概要を説明する。
第 2 回	数学のことば	論理的な文章を練習する。
第 3 回	整数の性質	整数について確認する。
第 4 回	合同式とは	合同式の計算を練習する。
第 5 回	合同式の性質	合同式特有の性質を確認する。
第 6 回	さまざまな応用	暗号の作成と解読を行う。
第 7 回	連立合同式	連立合同式の解法を学ぶ。
第 8 回	さまざまな応用	効率的な着回し法を学ぶ。
第 9 回	写像と置換	置換の定義と記法を学ぶ。
第 10 回	恒等置換と逆置換	置換の演算について学ぶ。
第 11 回	巡回置換と互換	単純な置換について学ぶ。
第 12 回	置換の性質	置換を単純なものに分解する。
第 13 回	さまざまな応用	置換でアミダクジを作る。

第 14 回 さまざまな応用 結婚可能かどうかを計算する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

演習問題を十分に解くこと。その際、失敗しても良いので、紙に書きながら考えること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

指定しない。例題などは印刷したものを授業中に配布する。

【参考書】

特に指定しないが、さらに学習する際は、初等整数論、代数学を主題とした専門書であればそれぞれ参考となる。

【成績評価の方法と基準】

到達目標に関する問題の解決能力を期末試験（80%）において、また、演習問題への取り組み具合を課題提出（20%）において評価する。

【学生の意見等からの気づき】

双方向の授業になるよう心がける。

【Outline (in English)】

[Course outline] This course deals with basic concepts and tools of mathematics especially from a viewpoint of algebra.

[Learning objectives] At the end of this course, students should be able to obtain basic knowledge concerning number theory and algebraic systems, such as modular arithmetic and permutation groups, with respect to their applications to answer various problems appearing in our lives.

[Learning activities outside of classroom] Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for each class meeting.

[Grading criteria/policy] Your overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end examination 80%, Short reports 20%.

MAT100LA

教養数学B

2017年度以降入学者

池田 宏一郎

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 4/Mon.4

単位数：2 単位

2015年度までに「数学、情報を読むためにⅡ」の単位を修得済み
の場合、履修不可

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

～ 情報を読むために ～

数学は言語であると言われており、実際、様々なところで利用される道具となっている。この授業では、離散数学における題材により、いろいろな計算方法について学ぶ。

【到達目標】

①グラフ理論、②組合せ数学で用いられる基本的な考え方を理解し、演習問題を実際に解くことができる。ここでは問題の一例を、情報を読み解くという観点からあげてみよう。

問題（郵便配達） 各々の道に距離が表示してある地図がある。郵便局を出発した郵便配達人が、すべての道を最低1回は通って郵便物の配達を終え、郵便局に戻ってくる際の最短距離は？

この問題は、「根気と体力」があれば、しらみつぶしに調べていくことで答えは求められるかもしれない。そのような計算法はコンピュータが得意である。しかし我々は人間であるので、できるかぎり楽をして答えを求めたい。この授業で扱う「グラフ理論」を用いれば、そのような人間らしい方法で解答を求めることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

様々な例で具体的なイメージを作りながら重要事項を理解する、という方法で授業を進めていく。そのために講義の中で演習の時間を多くとるつもりである。疑問点があったら授業中でも積極的に質問してもらいたい。課題等に関するフィードバックは学習支援システムを通じて行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	はじめに	授業の概要を説明する。
第2回	数学のことは	文章の記号化を練習する。
第3回	グラフとは	グラフの定義と記法を確認する。
第4回	ハミルトングラフ	ハミルトングラフについて学ぶ。
第5回	さまざまな応用	円卓に仲良く座る方法を調べる。
第6回	距離と次数	グラフに距離と次数を定義する。
第7回	クラスター係数	グラフの固まり具合を調べる。
第8回	さまざまな応用	世界の狭さを数学で表現する。
第9回	数列とは	数列の定義と記法を確認する。
第10回	フィボナッチ数列	フィボナッチ数列について学ぶ。
第11回	さまざまな応用	タイルの敷き詰め方を数える。
第12回	包除原理	重なり合った集合の大きさ。
第13回	ネイピア数	有限のものを無限で近似する。
第14回	さまざまな応用	プレゼント交換で成功する回数。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

演習問題を十分に解くこと。その際、失敗しても良いので、紙に書きながら考えること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

指定しない。例題などは印刷したものを学習支援システムで配布する。

【参考書】

特に指定しないが、さらに学習する際は、グラフ理論、組合せ論を主題とした専門書であればそれぞれ参考となる。

【成績評価の方法と基準】

到達目標に関する問題の解決能力を期末試験（80%）において、また、演習問題への取り組み具合を課題提出（20%）において評価する。

【学生の意見等からの気づき】

双方向の授業になるよう心がける。

【Outline (in English)】

[Course outline] This course deals with basic concepts and tools of mathematics especially from a viewpoint of discrete mathematics.

[Learning objectives] At the end of this course, students should be able to obtain basic knowledge concerning graph theory and combinatorics, such as Eulerian path and inclusion-exclusion principle, with respect to their applications to answer various problems appearing in our lives.

[Learning activities outside of classroom] Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for each class meeting.

[Grading criteria/policy] Your overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end examination 80%, Short reports 20%.

MAT100LA

教養数学 A

2017 年度以降入学者

倉田 俊彦

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 4/Tue.4
 単位数：2 単位
 2015 年度までに「数学、情報を読むために I」の単位を修得済み
 の場合、履修不可
 その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

～ 情報を読むために ～

数学は言語であると言われており、実際、様々なところで利用される道具となっている。この授業では、代数学における題材により、数やそれらの関係について学ぶ。

【到達目標】

①整数の理論、②代数系で用いられる基本的な考え方を理解し、演習問題を実際に解くことができる。ここでは問題の一例を、情報を読み解くという観点からあげてみよう。

問題（帽子と眼鏡と付け髭）市谷くんは帽子 H_1, H_2, \dots, H_{15} と眼鏡 G_1, G_2, \dots, G_{10} と付け髭 M_1, M_2, \dots, M_{25} をもっていて、それぞれこの順番で毎日、日替わりで身に着けている。今年の 4 月 1 日は H_1, G_1, M_1 の組み合わせであった。市谷くんのお気に入りには H_{13}, G_8, M_{18} の組み合わせである。最初にお気に入りの組み合わせになるのは何月何日であるか。

組み合わせをひたすら並べて書いてゆけば、求める答えがいずれは得られるが、大変な労力が必要かもしれない。組み合わせは全部で 3750 通りもあるのだから。しかし、こんな問題もこの授業で扱う「連立合同式」の解法を用いれば、ちょっとした計算で答えることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

様々な例で具体的なイメージを作りながら重要事項を理解する、という方法で授業を進めていく。そのために講義の中で演習の時間を多くとるつもりである。疑問点があったら授業中でも積極的に質問してもらいたい。課題等に関するフィードバックは学習支援システムを通じて行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 01 回	導入	講義内容の概要と重要性を説明する。
第 02 回	整数論の基礎	整数論の基本的な定義や用語を確認する。
第 03 回	ユークリッドの互除法	21 分と 50 分の砂時計を使って 1 分を計る方法を考える。
第 04 回	合同式	合同式の基本的な性質と計算方法を学ぶ。
第 05 回	整数論の応用	公開鍵暗号と呼ばれる暗号通信の仕組みを紹介する。
第 06 回	素数表の作成	篩の計算方法に従って、200 までの素数表を作成してみる。

第 07 回	表と計算	行列計算を利用して、日本の人口予測を行う。
第 08 回	論理と計算	真・偽に関する命題演算に関する計算方法を紹介する。
第 09 回	帰納法と計算	数学的帰納法の考え方と計算の仕組みを確認する。
第 10 回	計画と計算	上手な計画を立てるための一般的な計算方法を紹介する。
第 11 回	ナップサック問題	ナップサックに最も効率よく財宝を詰込む方法を求める。
第 12 回	予習時間計画問題	試験に対する最適な予習時間配分の求め方を紹介する。
第 13 回	編集距離	2 つの文字列の類似度の測定方法を紹介する。
第 14 回	まとめと解説	講義内容のまとめ、課題に関する総括を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

演習問題を十分に解くこと。その際、失敗しても良いので、紙に書きながら考えること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

指定しない。印刷した資料を授業で配布する。（配布資料は授業支援システム経由でも入手できるようにします。）

【参考書】

特に指定しない。

【成績評価の方法と基準】

到達目標に関する問題の解決能力を期末試験（60%）において、また、演習問題への取り組み具合を課題提出（40%）において評価する。

【学生の意見等からの気づき】

授業の内容が難しいと解答する学生の割合は徐々に減少しているように思います。今後も、普段のコミュニケーションを通して、参考にできる意見は柔軟に取り入れていきたいとします。

【学生が準備すべき機器他】

【Outline (in English)】

[Course outline] This course deals with basic concepts and tools of mathematics especially from a viewpoint of algebra.

[Learning objectives] At the end of this course, students should be able to obtain basic knowledge concerning number theory and algebraic systems, such as modular arithmetic and permutation groups, with respect to their applications to answer various problems appearing in our lives.

[Learning activities outside of classroom] Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for each class meeting.

[Grading criteria/policy] Your overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end examination 60%, Short reports 40%.

MAT100LA

教養数学B

2017年度以降入学者

倉田 俊彦

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 4/Tue.4

単位数：2 単位

2015年度までに「数学、情報を読むためにⅡ」の単位を修得済み
の場合、履修不可

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

～ 情報を読むために ～

数学は言語であると言われており、実際、様々なところで利用される道具となっている。この授業では、離散数学における題材により、いろいろな計算方法について学ぶ。

【到達目標】

①グラフ理論、②組合せ数学で用いられる基本的な考え方を理解し、演習問題を実際に解くことができる。ここでは問題の一例を、情報を読み解くという観点からあげてみよう。

問題（郵便配達） 各々の道に距離が表示してある地図がある。郵便局を出発した郵便配達人が、すべての道を最低1回は通って郵便物の配達を終え、郵便局に戻ってくる際の最短距離は？

この問題は、「根気と体力」があれば、しらみつぶしに調べていくことで答えは求められるかもしれない。そのような計算法はコンピュータが得意である。しかし我々は人間であるので、できるかぎり楽をして答えを求めたい。この授業で扱う「グラフ理論」を用いれば、そのような人間らしい方法で解答を求めることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

様々な例で具体的なイメージを作りながら重要事項を理解する、という方法で授業を進めていく。そのために講義の中で演習の時間を多くとるつもりである。疑問点があったら授業中でも積極的に質問してもらいたい。課題等に関するフィードバックは学習支援システムを通じて行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第01回	導入	講義内容の概要と重要性を説明する。
第02回	グラフ理論	グラフ理論の基礎となる定義と用語を理解する。
第03回	グラフの応用 1	リーグ戦の対戦スケジュールを作成する方法を紹介する。
第04回	グラフの応用 2	3つの容器を使って水を分けるパズルを解く方法を紹介する。
第05回	ブリム法	東京23区役所の効率的なネットワーク配線法を求める。
第06回	集合場所の問題	最小コストで全員が集合できる駅を求める方法を学ぶ。
第07回	オイラーの定理	一筆書きが可能か判定するための定理を紹介する。
第08回	一筆書きの構成	公務員試験などにみられる一筆書き問題を確認する。

第09回	ダイキストラ法	町田駅から羽田空港への鉄道最短経路を求める。
第10回	組合せ論 1	個々を区別できるモノの順列と組合せを数え上げる。
第11回	組合せ論 2	個々を区別できるモノの分け方を数え上げる。
第12回	組合せ論 3	個々を区別できないモノの順列や分け方を数え上げる。
第13回	組合せ論 4	公務員試験やSPI試験における数え上げ問題を確認する。
第14回	まとめと解説	講義内容のまとめ、課題に関する総括を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

演習問題を十分に解くこと。その際、失敗しても良いので、紙に書きながら考えること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

指定しない。印刷した資料を授業で配布する。（配付資料は授業支援システム経由でも入手できるようにします。）

【参考書】

特に指定しない。

【成績評価の方法と基準】

到達目標に関する問題の解決能力を期末試験（60%）において、また、演習問題への取り組み具合を課題提出（40%）において評価する。

【学生の意見等からの気づき】

授業の内容が難しいと解答する学生の割合は徐々に減少しているように思います。今後も、普段のコミュニケーションを通して、参考にできる意見は柔軟に取り入れていきたいと思っています。

【学生が準備すべき機器他】

【Outline (in English)】

[Course outline] This course deals with basic concepts and tools of mathematics especially from a viewpoint of discrete mathematics.

[Learning objectives] At the end of this course, students should be able to obtain basic knowledge concerning graph theory and combinatorics, such as Eulerian path and inclusion-exclusion principle, with respect to their applications to answer various problems appearing in our lives.

[Learning activities outside of classroom] Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for each class meeting.

[Grading criteria/policy] Your overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end examination 60%, Short reports 40%.

MAT100LA

教養数学 A

2017 年度以降入学者

佐藤 洋祐

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 2/Tue.2

単位数：2 単位

2015 年度までに「数学、情報を読むために I」の単位を修得済み
の場合、履修不可

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

数学は言語であると言われており、実際、様々なところで利用される道具となっている。この授業では、代数学における題材により、数やそれらの関係について学ぶ。

【到達目標】

1. 整数の理論を中心に代数系で用いられる基本的な考え方を理解する。
2. 整数の演算を中心に効率的な算法とは何かを演習問題を実際に解くことで理解する。
3. 実社会における応用として、公開鍵暗号 RSA の仕組みについて理解する。公開鍵暗号 RSA の仕組みについて理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

様々な例で具体的なイメージを作りながら重要事項を理解する、という方法で授業を進めていく。そのために講義の中で演習の時間を多くとるつもりである。疑問点があったら授業中でも積極的に質問してもらいたい。課題等に関するフィードバックは学習支援システムを通じて行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	はじめに	授業の概要を説明する。
第 2 回	整数の計算と計算量	小学校時代に学んだ様々な整数の計算についてその計算量を考察する。
第 3 回	ユークリッドの互除法 1	ユークリッドの互除法とその計算量について学ぶ。
第 4 回	ユークリッドの互除法 2	拡張ユークリッドの互除法について学ぶ。
第 5 回	最大公約数	ユークリッドの拡張互除法の背景にある数学理論を理解し、その応用として自然数の素因数分解の一意性を証明する。
第 6 回	整数の表現	2進数について学ぶ。
第 7 回	整数の演算	高速指数演算算法について学ぶ。
第 8 回	有限体	体の概念と有限体について学ぶ。
第 9 回	有限群	群の考え方とラグランジェの定理について学ぶ。
第 10 回	フェルマーの小定理	ラグランジェの定理を用いてフェルマーの小定理を証明する。
第 11 回	インターネットと暗号	インターネットの仕組みと暗号の必要性について学ぶ。
第 12 回	RSA 公開鍵暗号 1	RSA 公開鍵暗号の仕組みについて学ぶ。
第 13 回	RSA 公開鍵暗号 2	RSA 公開鍵暗号の安全性について学ぶ。
第 14 回	まとめ	授業全体を再確認してまとめる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

演習問題を十分に解くこと。その際、失敗しても良いので、紙に書きながら考えること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

学習支援システムで配布する。

【参考書】

特に指定しないが、さらに学習する際は、初等整数論、代数学を主題とした専門書であればそれぞれ参考となる。

【成績評価の方法と基準】

小テスト、レポート、で総合的に評価 (100%) する。
具体的な方法と基準は、授業開始日に提示する。

【学生の意見等からの気づき】

双方向の授業になるよう心がける。

【Outline (in English)】

[Course outline] This course deals with basic concepts and tools of mathematics especially from a viewpoint of algebra.

[Learning objectives] At the end of this course, students should be able to obtain basic knowledge concerning number theory and algebraic systems, such as modular arithmetic and permutation groups, with respect to their applications to answer various problems appearing in our lives.

[Learning activities outside of classroom] Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for each class meeting.

[Grading criteria/policy] Your overall grade in the class will be decided based on the following: Short tests and reports 100%.

MAT100LA

教養数学B

2017年度以降入学者

佐藤 洋祐

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 2/Tue.2

単位数：2 単位

2015年度までに「数学、情報を読むためにⅡ」の単位を修得済み
の場合、履修不可

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

～ 情報を読むために ～

数学は言語であると言われており、実際、様々なところで利用される道具となっている。この授業では、離散数学における題材により、いろいろな計算方法について学ぶ。

【到達目標】

①グラフ理論、②組合せ数学で用いられる基本的な考え方を理解し、演習問題を実際に解くことができる。ここでは問題の一例を、情報を読み解くという観点からあげてみよう。

問題（郵便配達） 各々の道に距離が表示してある地図がある。郵便局を出発した郵便配達人が、すべての道を最低1回は通って郵便物の配達を終え、郵便局に戻ってくる際の最短距離は？

この問題は、「根気と体力」があれば、しらみつぶしに調べていくことで答えは求められるかもしれない。そのような計算法はコンピュータが得意である。しかし我々は人間であるので、できるかぎり楽をして答えを求めたい。この授業で扱う「グラフ理論」を用いれば、そのような人間らしい方法で解答を求めることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

様々な例で具体的なイメージを作りながら重要事項を理解する、という方法で授業を進めていく。そのために講義の中で演習の時間を多くとるつもりである。疑問点があったら授業中でも積極的に質問してもらいたい。課題等に関するフィードバックは学習支援システムを通じて行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	はじめに	授業の概要を説明する。
第2回	安定結婚問題	「安定結婚問題」とは何かについて説明する。
第3回	安定マッチング 1	「安定マッチング」の数学的定義を与える。
第4回	安定マッチング 2	簡単な安定マッチング問題の解を素朴な方法によって計算することで、安定マッチング問題を理解する。
第5回	課題提出 1	最初の課題を与える。
第6回	Gale-Shapley アルゴリズムの概要	安定マッチングを効率的に計算する Gale-Shapley アルゴリズムについて、具体例で説明する。
第7回	Gale-Shapley アルゴリズムの正確な定義。	Gale-Shapley アルゴリズムの正確な定義を与える。

第8回	定理の証明に必要な知識	定理の証明に必要な知識「数学的帰納法」と「背理法」について概説する。
第9回	Gale-Shapley アルゴリズムの正当性。	Gale-Shapley アルゴリズムの正当性の証明。
第10回	Gale-Shapley アルゴリズムの諸性質の紹介。	Gale-Shapley アルゴリズムの諸性質を紹介する。
第11回	Gale-Shapley アルゴリズムの諸性質の証明。	Gale-Shapley アルゴリズムの諸性質を証明する。
第12回	練習問題	GS アルゴリズムの少し複雑な例の練習問題を与える。
第13回	2番目の課題	2番目の課題を与える。
第14回	まとめ	授業全体を再確認してまとめる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

演習問題を十分に解くこと。その際、失敗しても良いので、紙に書きながら考えること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

学習支援システムで配布する。

【参考書】

特に指定しないが、さらに学習する際は、グラフ理論、組合せ論を主題とした専門書であればそれぞれ参考となる。

【成績評価の方法と基準】

小テスト、レポート、で総合的に評価(100%)する。具体的な方法と基準は、授業開始日に提示する。

【学生の意見等からの気づき】

双方向の授業になるよう心がける。

【Outline (in English)】

[Course outline] This course deals with basic concepts and tools of mathematics especially from a viewpoint of discrete mathematics.

[Learning objectives] At the end of this course, students should be able to obtain basic knowledge concerning graph theory and combinatorics, such as Eulerian path and inclusion-exclusion principle, with respect to their applications to answer various problems appearing in our lives.

[Learning activities outside of classroom] Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for each class meeting.

[Grading criteria/policy] Your overall grade in the class will be decided based on the following: Short tests and reports 100%.

MAT100LA

教養数学 A

2017 年度以降入学者

佐藤 洋祐

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 2/Fri.2

単位数：2 単位

2015 年度までに「数学、情報を読むために I」の単位を修得済み
の場合、履修不可

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

数学は言語であると言われており、実際、様々なところで利用される道具となっている。この授業では、代数学における題材により、数やそれらの関係について学ぶ。

【到達目標】

1. 整数の理論を中心に代数系で用いられる基本的な考え方を理解する。
2. 整数の演算を中心に効率的な算法とは何かを演習問題を実際に行うことで理解する。
3. 実社会における応用として、公開鍵暗号 RSA の仕組みについて理解する。公開鍵暗号 RSA の仕組みについて理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

様々な例で具体的なイメージを作りながら重要事項を理解する、という方法で授業を進めていく。そのために講義の中で演習の時間を多くとるつもりである。疑問点があったら授業中でも積極的に質問してもらいたい。課題等に関するフィードバックは学習支援システムを通じて行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	はじめに	授業の概要を説明する。
第 2 回	整数の計算と計算量	小学校時代に学んだ様々な整数の計算についてその計算量を考察する。
第 3 回	ユークリッドの互除法 1	ユークリッドの互除法とその計算量について学ぶ。
第 4 回	ユークリッドの互除法 2	拡張ユークリッドの互除法について学ぶ。
第 5 回	最大公約数	ユークリッドの拡張互除法の背景にある数学理論を理解し、その応用として自然数の素因数分解の一意性を証明する。
第 6 回	整数の表現	2進数について学ぶ。
第 7 回	整数の演算	高速指数演算算法について学ぶ。
第 8 回	有限体	体の概念と有限体について学ぶ。
第 9 回	有限群	群の考え方とラグランジェの定理について学ぶ。
第 10 回	フェルマーの小定理	ラグランジェの定理を用いてフェルマーの小定理を証明する。
第 11 回	インターネットと暗号	インターネットの仕組みと暗号の必要性について学ぶ。
第 12 回	RSA 公開鍵暗号 1	RSA 公開鍵暗号の仕組みについて学ぶ。
第 13 回	RSA 公開鍵暗号 2	RSA 公開鍵暗号の安全性について学ぶ。
第 14 回	まとめ	授業全体を再確認してまとめる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

演習問題を十分に解くこと。その際、失敗しても良いので、紙に書きながら考えること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

学習支援システムで配布する。

【参考書】

特に指定しないが、さらに学習する際は、初等整数論、代数学を主題とした専門書であればそれぞれ参考となる。

【成績評価の方法と基準】

小テスト、レポート、で総合的に評価 (100%) する。

具体的な方法と基準は、授業開始日に提示する。

【学生の意見等からの気づき】

双方向の授業になるよう心がける。

【Outline (in English)】

[Course outline] This course deals with basic concepts and tools of mathematics especially from a viewpoint of algebra.

[Learning objectives] At the end of this course, students should be able to obtain basic knowledge concerning number theory and algebraic systems, such as modular arithmetic and permutation groups, with respect to their applications to answer various problems appearing in our lives.

[Learning activities outside of classroom] Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for each class meeting.

[Grading criteria/policy] Your overall grade in the class will be decided based on the following: Short tests and reports 100%.

MAT100LA

教養数学B

2017年度以降入学者

佐藤 洋祐

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 2/Fri.2

単位数：2 単位

2015年度までに「数学、情報を読むためにⅡ」の単位を修得済み
の場合、履修不可

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

～ 情報を読むために ～

数学は言語であると言われており、実際、様々なところで利用される道具となっている。この授業では、離散数学における題材により、いろいろな計算方法について学ぶ。

【到達目標】

①グラフ理論、②組合せ数学で用いられる基本的な考え方を理解し、演習問題を実際に解くことができる。ここでは問題の一例を、情報を読み解くという観点からあげてみよう。

問題（郵便配達） 各々の道に距離が表示してある地図がある。郵便局を出発した郵便配達人が、すべての道を最低1回は通って郵便物の配達を終え、郵便局に戻ってくるときの最短距離は？

この問題は、「根気と体力」があれば、しらみつぶしに調べていくことで答えは求められるかもしれない。そのような計算法はコンピュータが得意である。しかし我々は人間であるので、できるかぎり楽をして答えを求めたい。この授業で扱う「グラフ理論」を用いれば、そのような人間らしい方法で解答を求めることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

様々な例で具体的なイメージを作りながら重要事項を理解する、という方法で授業を進めていく。そのために講義の中で演習の時間を多くとるつもりである。疑問点があったら授業中でも積極的に質問してもらいたい。課題等に関するフィードバックは学習支援システムを通じて行う予定である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	はじめに	授業の概要を説明する。
第2回	安定結婚問題	「安定結婚問題」とは何かについて説明する。
第3回	安定マッチング 1	「安定マッチング」の数学的定義を与える。
第4回	安定マッチング 2	簡単な安定マッチング問題の解を素朴な方法によって計算することで、安定マッチング問題を理解する。
第5回	課題提出 1	最初の課題を与える。
第6回	Gale-Shapley アルゴリズムの概要	安定マッチングを効率的に計算する Gale-Shapley アルゴリズムについて、具体例で説明する。
第7回	Gale-Shapley アルゴリズムの正確な定義。	Gale-Shapley アルゴリズムの正確な定義を与える。

第8回	定理の証明に必要な知識	定理の証明に必要な知識「数学的帰納法」と「背理法」について概説する。
第9回	Gale-Shapley アルゴリズムの正当性。	Gale-Shapley アルゴリズムの正当性の証明。
第10回	Gale-Shapley アルゴリズムの諸性質の紹介。	Gale-Shapley アルゴリズムの諸性質を紹介する。
第11回	Gale-Shapley アルゴリズムの諸性質の証明。	Gale-Shapley アルゴリズムの諸性質を証明する。
第12回	練習問題	GS アルゴリズムの少し複雑な例の練習問題を与える。
第13回	2番目の課題	2番目の課題を与える。
第14回	まとめ	授業全体を再確認してまとめる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

演習問題を十分に解くこと。その際、失敗しても良いので、紙に書きながら考えること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

学習支援システムで配布する。

【参考書】

特に指定しないが、さらに学習する際は、グラフ理論、組合せ論を主題とした専門書であればそれぞれ参考となる。

【成績評価の方法と基準】

小テスト、レポート、で総合的に評価(100%)する。具体的な方法と基準は、授業開始日に提示する。

【学生の意見等からの気づき】

双方向の授業になるよう心がける。

【Outline (in English)】

[Course outline] This course deals with basic concepts and tools of mathematics especially from a viewpoint of discrete mathematics.

[Learning objectives] At the end of this course, students should be able to obtain basic knowledge concerning graph theory and combinatorics, such as Eulerian path and inclusion-exclusion principle, with respect to their applications to answer various problems appearing in our lives.

[Learning activities outside of classroom] Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for each class meeting.

[Grading criteria/policy] Your overall grade in the class will be decided based on the following: Short tests and reports 100%.

MAT100LA

基礎数学 I

2017 年度以降入学者

若井 健太郎

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 1/Tue.1

単位数：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

～ 社会科学を学ぶための数学（準備編）～

変化する量が、式やグラフでどのように表されるのかを学ぶ。この、変化する量をあらわす式やグラフは、社会現象の記述を含めてさまざまな分野で利用されるものである。

【到達目標】

数列の基本性質を理解し、それらを用いて簡単な計算ができる。指数と対数の基本的な計算ができ、これらの知識をもとに、簡単な関数のグラフがかけられる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

例題を解くことを交えながら内容の説明を進める。授業中も説明を聞いたり板書を写したりするだけでなく、自ら問題を解いてみるものが求められる。フィードバックは、学習支援システム等を通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	導入	授業概要の説明
第 2 回	数列 1	数列とは
第 3 回	数列 2	等差数列
第 4 回	数列 3	等比数列
第 5 回	数列 4	Σ記号
第 6 回	数列 5	階差数列
第 7 回	指数と対数 1	指数とは
第 8 回	指数と対数 2	指数の計算
第 9 回	指数と対数 3	対数とは
第 10 回	指数と対数 4	対数の計算
第 11 回	簡単なグラフ 1	指数関数のグラフ
第 12 回	簡単なグラフ 2	対数関数のグラフ
第 13 回	簡単なグラフ 3	$y=x^n$ ($n=1,2,\dots$) のグラフ
第 14 回	簡単なグラフ 4	$y=x^n$ ($n=-1,-2,\dots$) のグラフ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

演習問題を十分に解くこと。その際、失敗しても良いので、紙に書きながら考えること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

藤田岳彦ほか『Primary 大学ノート よくわかる微積分』実教出版 (2011)

【参考書】

特に指定しないが、さらに学習する際は、微積分学の初歩あるいはそのための準備を主題とした書物であればそれぞれ参考となる。

【成績評価の方法と基準】

到達目標に関する問題の解決能力を期末試験（60 %）において、また、演習問題への取り組み具合を課題提出（40 %）において評価する。

【学生の意見等からの気づき】

問題の難易度の調整に気を配りたい。

【その他の重要事項】

この科目で取り扱う内容についておおよそ理解していることが、秋学期科目「基礎数学Ⅱ」を履修するために必要となる。

【Outline (in English)】

【Course outline】This course deals with basic concepts and tools of mathematics, especially sequences and functions.

【Learning Objectives】 At the end of this course, students should be able to demonstrate the ability to perform different operations involving algebraic expressions, to graph linear and quadratic functions, and to graph polynomial, rational, algebraic, exponential and logarithmic functions.

【Learning activities outside of classroom】 Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

【Grading Criteria /Policy】 Your overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end examination 60%, Short reports 40%.

MAT100LA

基礎数学Ⅱ

2017年度以降入学者

若井 健太郎

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 1/Tue.1

単位数：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

～ 社会科学を学ぶための数学（微分編）～

変化する量を知るための手段である、微分とは何かを学ぶ。微分は数理的な議論をする際に必要となる、最も基本的な道具のひとつであり、応用範囲は極めて広い。

【到達目標】

基本的な関数を微分でき、与えられた関数の性質を調べることができる。具体的には、関数のグラフを微分を用いて正確にかくことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

例題を解くことを交えながら内容の説明を進める。授業中も説明を聞いたり板書を写したりするだけでなく、自ら問題を解いてみるものが求められる。フィードバックは、学習支援システム等を通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	導入	授業概要の説明
第2回	微分の基礎 1	微分とは
第3回	微分の基礎 2	導関数の計算
第4回	微分の基礎 3	$y=x^a$ の微分
第5回	微分の基礎 4	微分の線形性
第6回	微分の基礎 5	積の微分と商の微分
第7回	微分の基礎 6	合成関数の微分
第8回	関数のグラフ 1	指数関数の微分
第9回	関数のグラフ 2	対数関数の微分
第10回	関数のグラフ 3	関数の極限
第11回	関数のグラフ 4	関数の増減と極値
第12回	関数のグラフ 5	さまざまな関数
第13回	応用 1	マクローリン展開
第14回	応用 2	積分とは

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

演習問題を十分に解くこと。その際、失敗しても良いので、紙に書きながら考えること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

藤田岳彦ほか『Primary 大学ノート よくわかる微分積分』実教出版 (2011)

【参考書】

特に指定しないが、さらに学習する際は、微積分学の初歩あるいはそのための準備を主題とした書物であればそれぞれ参考となる。

【成績評価の方法と基準】

到達目標に関する問題の解決能力を期末試験（60%）において、また、演習問題への取り組み具合を課題提出（40%）において評価する。

【学生の意見等からの気づき】

問題の難易度の調整に気を配りたい。

【その他の重要事項】

この科目を履修するためには、春学期科目「基礎数学Ⅰ」で取り扱う内容について、おおよそ理解していることが必要となる。

【Outline (in English)】

【Course outline】This course deals with basic concepts and tools of mathematics, especially differentiation for functions of one variable.

【Learning Objectives】 At the end of this course, students will become proficient in techniques of differentiation, understand the concept of rate of change and how to use it to solve real world problems.

【Learning activities outside of classroom】 Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

【Grading Criteria /Policy】 Your overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end examination 60%, Short reports 40%.

MAT100LA

基礎数学 I

2017 年度以降入学者

板井 昌典

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 2/Thu.2

単位数：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

～ 社会科学を学ぶための数学（準備編）～

変化する量が、式やグラフでどのように表されるのかを学ぶ。この、変化する量をあらわす式やグラフは、社会現象の記述を含めてさまざまな分野で利用されるものである。

【到達目標】

数列の基本性質を理解し、それらを用いて簡単な計算ができる。指数と対数の基本的な計算ができ、これらの知識をもとに、簡単な関数のグラフがかけられる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

例題を解くことを交えながら内容の説明を進める。授業中も説明を聞いたり板書を写したりするだけでなく、自ら問題を解いてみるものが求められる。フィードバックは、学習支援システム等を通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	導入	授業概要の説明
第 2 回	数列 1	数列とは
第 3 回	数列 2	等差数列
第 4 回	数列 3	等比数列
第 5 回	数列 4	Σ記号
第 6 回	数列 5	階差数列
第 7 回	指数と対数 1	指数とは
第 8 回	指数と対数 2	指数の計算
第 9 回	指数と対数 3	対数とは
第 10 回	指数と対数 4	対数の計算
第 11 回	簡単なグラフ 1	指数関数のグラフ
第 12 回	簡単なグラフ 2	対数関数のグラフ
第 13 回	簡単なグラフ 3	$y=x^n$ ($n=1,2,\dots$) のグラフ
第 14 回	簡単なグラフ 4	$y=x^n$ ($n=-1,-2,\dots$) のグラフ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

演習問題を十分に解くこと。その際、失敗しても良いので、紙に書きながら考えること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

藤田岳彦ほか『Primary 大学ノート よくわかる微積分』実教出版 (2011)

【参考書】

特に指定しないが、さらに学習する際は、微積分学の初歩あるいはそのための準備を主題とした書物であればそれぞれ参考となる。

【成績評価の方法と基準】

到達目標に関する問題の解決能力を期末試験（60 %）において、また、演習問題への取り組み具合を課題提出（40 %）において評価する。

【学生の意見等からの気づき】

問題の難易度の調整に気を配りたい。

【その他の重要事項】

この科目で取り扱う内容についておおよそ理解していることが、秋学期科目「基礎数学Ⅱ」を履修するために必要となる。

【Outline (in English)】

【Course outline】This course deals with basic concepts and tools of mathematics, especially sequences and functions.

【Learning Objectives】At the end of this course, students should be able to demonstrate the ability to perform different operations involving algebraic expressions, to graph linear and quadratic functions, and to graph polynomial, rational, algebraic, exponential and logarithmic functions.

【Learning activities outside of classroom】Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

【Grading Criteria /Policy】Your overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end examination 60%, Short reports 40%.

MAT100LA

基礎数学Ⅱ

2017 年度以降入学者

板井 昌典

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 2/Thu.2

単位数：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

～ 社会科学を学ぶための数学（微分編）～

変化する量を知るための手段である、微分とは何かを学ぶ。微分は数理的な議論をする際に必要となる、最も基本的な道具のひとつであり、応用範囲は極めて広い。

【到達目標】

基本的な関数を微分でき、与えられた関数の性質を調べることができる。具体的には、関数のグラフを微分を用いて正確にかくことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

例題を解くことを交えながら内容の説明を進める。授業中も説明を聞いたり板書を写したりするだけでなく、自ら問題を解いてみるものが求められる。フィードバックは、学習支援システム等を通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	導入	授業概要の説明
第 2 回	微分の基礎 1	微分とは
第 3 回	微分の基礎 2	導関数の計算
第 4 回	微分の基礎 3	$y=x^a$ の微分
第 5 回	微分の基礎 4	微分の線形性
第 6 回	微分の基礎 5	積の微分と商の微分
第 7 回	微分の基礎 6	合成関数の微分
第 8 回	関数のグラフ 1	指数関数の微分
第 9 回	関数のグラフ 2	対数関数の微分
第 10 回	関数のグラフ 3	関数の極限
第 11 回	関数のグラフ 4	関数の増減と極値
第 12 回	関数のグラフ 5	さまざまな関数
第 13 回	応用 1	マクローリン展開
第 14 回	応用 2	積分とは

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

演習問題を十分に解くこと。その際、失敗しても良いので、紙に書きながら考えること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

藤田岳彦ほか『Primary 大学ノート よくわかる微分積分』実教出版 (2011)

【参考書】

特に指定しないが、さらに学習する際は、微積分学の初歩あるいはそのための準備を主題とした書物であればそれぞれ参考となる。

【成績評価の方法と基準】

到達目標に関する問題の解決能力を期末試験（60 %）において、また、演習問題への取り組み具合を課題提出（40 %）において評価する。

【学生の意見等からの気づき】

問題の難易度の調整に気を配りたい。

【その他の重要事項】

この科目を履修するためには、春学期科目「基礎数学Ⅰ」で取り扱う内容について、おおよそ理解していることが必要となる。

【Outline (in English)】

【Course outline】This course deals with basic concepts and tools of mathematics, especially differentiation for functions of one variable.

【Learning Objectives】 At the end of this course, students will become proficient in techniques of differentiation, understand the concept of rate of change and how to use it to solve real world problems.

【Learning activities outside of classroom】 Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

【Grading Criteria /Policy】 Your overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end examination 60%, Short reports 40%.

MAT100LA

基礎数学 I

2017 年度以降入学者

池田 宏一郎

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 2/Tue.2

単位数：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

～ 社会科学を学ぶための数学（準備編）～

変化する量が、式やグラフでどのように表されるのかを学ぶ。この、変化する量をあらわす式やグラフは、社会現象の記述を含めてさまざまな分野で利用されるものである。

【到達目標】

数列の基本性質を理解し、それらを用いて簡単な計算ができる。指数と対数の基本的な計算ができ、これらの知識をもとに、簡単な関数のグラフがかけられる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

例題を解くことを交えながら内容の説明を進める。授業中も説明を聞いたり板書を写したりするだけでなく、自ら問題を解いてみるものが求められる。フィードバックは、学習支援システム等を通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	導入	授業概要の説明
第 2 回	数列 1	数列とは
第 3 回	数列 2	等差数列
第 4 回	数列 3	等比数列
第 5 回	数列 4	Σ記号
第 6 回	数列 5	階差数列
第 7 回	指数と対数 1	指数とは
第 8 回	指数と対数 2	指数の計算
第 9 回	指数と対数 3	対数とは
第 10 回	指数と対数 4	対数の計算
第 11 回	簡単なグラフ 1	指数関数のグラフ
第 12 回	簡単なグラフ 2	対数関数のグラフ
第 13 回	簡単なグラフ 3	$y=x^n$ ($n=1,2,\dots$) のグラフ
第 14 回	簡単なグラフ 4	$y=x^n$ ($n=-1,-2,\dots$) のグラフ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

演習問題を十分に解くこと。その際、失敗しても良いので、紙に書きながら考えること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

藤田岳彦ほか『Primary 大学ノート よくわかる微積分』実教出版 (2011)

【参考書】

特に指定しないが、さらに学習する際は、微積分学の初歩あるいはそのための準備を主題とした書物であればそれぞれ参考となる。

【成績評価の方法と基準】

到達目標に関する問題の解決能力を期末試験（60 %）において、また、演習問題への取り組み具合を課題提出（40 %）において評価する。

【学生の意見等からの気づき】

問題の難易度の調整に気を配りたい。

【その他の重要事項】

この科目で取り扱う内容についておおよそ理解していることが、秋学期科目「基礎数学Ⅱ」を履修するために必要となる。

【Outline (in English)】

【Course outline】This course deals with basic concepts and tools of mathematics, especially sequences and functions.

【Learning Objectives】 At the end of this course, students should be able to demonstrate the ability to perform different operations involving algebraic expressions, to graph linear and quadratic functions, and to graph polynomial, rational, algebraic, exponential and logarithmic functions.

【Learning activities outside of classroom】 Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

【Grading Criteria /Policy】 Your overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end examination 60%, Short reports 40%.

MAT100LA

基礎数学Ⅱ

2017年度以降入学者

池田 宏一郎

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 2/Tue.2

単位数：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

～ 社会科学を学ぶための数学（微分編）～

変化する量を知るための手段である、微分とは何かを学ぶ。微分は数理的な議論をする際に必要となる、最も基本的な道具のひとつであり、応用範囲は極めて広い。

【到達目標】

基本的な関数を微分でき、与えられた関数の性質を調べることができる。具体的には、関数のグラフを微分を用いて正確にかくことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

例題を解くことを交えながら内容の説明を進める。授業中も説明を聞いたり板書を写したりするだけでなく、自ら問題を解いてみるものが求められる。フィードバックは、学習支援システム等を通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	導入	授業概要の説明
第2回	微分の基礎 1	微分とは
第3回	微分の基礎 2	導関数の計算
第4回	微分の基礎 3	$y=x^a$ の微分
第5回	微分の基礎 4	微分の線形性
第6回	微分の基礎 5	積の微分と商の微分
第7回	微分の基礎 6	合成関数の微分
第8回	関数のグラフ 1	指数関数の微分
第9回	関数のグラフ 2	対数関数の微分
第10回	関数のグラフ 3	関数の極限
第11回	関数のグラフ 4	関数の増減と極値
第12回	関数のグラフ 5	さまざまな関数
第13回	応用 1	マクローリン展開
第14回	応用 2	積分とは

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

演習問題を十分に解くこと。その際、失敗しても良いので、紙に書きながら考えること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

藤田岳彦ほか『Primary 大学ノート よくわかる微分積分』実教出版 (2011)

【参考書】

特に指定しないが、さらに学習する際は、微積分学の初歩あるいはそのための準備を主題とした書物であればそれぞれ参考となる。

【成績評価の方法と基準】

到達目標に関する問題の解決能力を期末試験（60%）において、また、演習問題への取り組み具合を課題提出（40%）において評価する。

【学生の意見等からの気づき】

問題の難易度の調整に気を配りたい。

【その他の重要事項】

この科目を履修するためには、春学期科目「基礎数学Ⅰ」で取り扱う内容について、おおよそ理解していることが必要となる。

【Outline (in English)】

【Course outline】This course deals with basic concepts and tools of mathematics, especially differentiation for functions of one variable.

【Learning Objectives】 At the end of this course, students will become proficient in techniques of differentiation, understand the concept of rate of change and how to use it to solve real world problems.

【Learning activities outside of classroom】 Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

【Grading Criteria /Policy】 Your overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end examination 60%, Short reports 40%.

MAT100LA

基礎数学 I

2017 年度以降入学者

若井 健太郎

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 2/Tue.2

単位数：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

～ 社会科学を学ぶための数学（準備編）～

変化する量が、式やグラフでどのように表されるのかを学ぶ。この、変化する量をあらわす式やグラフは、社会現象の記述を含めてさまざまな分野で利用されるものである。

【到達目標】

数列の基本性質を理解し、それらを用いて簡単な計算ができる。指数と対数の基本的な計算ができ、これらの知識をもとに、簡単な関数のグラフがかけられる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

例題を解くことを交えながら内容の説明を進める。授業中も説明を聞いたり板書を写したりするだけでなく、自ら問題を解いてみるものが求められる。フィードバックは、学習支援システム等を通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	導入	授業概要の説明
第 2 回	数列 1	数列とは
第 3 回	数列 2	等差数列
第 4 回	数列 3	等比数列
第 5 回	数列 4	Σ記号
第 6 回	数列 5	階差数列
第 7 回	指数と対数 1	指数とは
第 8 回	指数と対数 2	指数の計算
第 9 回	指数と対数 3	対数とは
第 10 回	指数と対数 4	対数の計算
第 11 回	簡単なグラフ 1	指数関数のグラフ
第 12 回	簡単なグラフ 2	対数関数のグラフ
第 13 回	簡単なグラフ 3	$y=x^n$ ($n=1,2,\dots$) のグラフ
第 14 回	簡単なグラフ 4	$y=x^n$ ($n=-1,-2,\dots$) のグラフ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

演習問題を十分に解くこと。その際、失敗しても良いので、紙に書きながら考えること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

藤田岳彦ほか『Primary 大学ノート よくわかる微積分』実教出版 (2011)

【参考書】

特に指定しないが、さらに学習する際は、微積分学の初歩あるいはそのための準備を主題とした書物であればそれぞれ参考となる。

【成績評価の方法と基準】

到達目標に関する問題の解決能力を期末試験（60 %）において、また、演習問題への取り組み具合を課題提出（40 %）において評価する。

【学生の意見等からの気づき】

問題の難易度の調整に気を配りたい。

【その他の重要事項】

この科目で取り扱う内容についておおよそ理解していることが、秋学期科目「基礎数学Ⅱ」を履修するために必要となる。

【Outline (in English)】

【Course outline】This course deals with basic concepts and tools of mathematics, especially sequences and functions.

【Learning Objectives】At the end of this course, students should be able to demonstrate the ability to perform different operations involving algebraic expressions, to graph linear and quadratic functions, and to graph polynomial, rational, algebraic, exponential and logarithmic functions.

【Learning activities outside of classroom】Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

【Grading Criteria /Policy】Your overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end examination 60%, Short reports 40%.

MAT100LA

基礎数学Ⅱ

2017年度以降入学者

若井 健太郎

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 2/Tue.2

単位数：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

～ 社会科学を学ぶための数学（微分編）～

変化する量を知るための手段である、微分とは何かを学ぶ。微分は数理的な議論をする際に必要となる、最も基本的な道具のひとつであり、応用範囲は極めて広い。

【到達目標】

基本的な関数を微分でき、与えられた関数の性質を調べることができる。具体的には、関数のグラフを微分を用いて正確にかくことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

例題を解くことを交えながら内容の説明を進める。授業中も説明を聞いたり板書を写したりするだけでなく、自ら問題を解いてみるものが求められる。フィードバックは、学習支援システム等を通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	導入	授業概要の説明
第2回	微分の基礎 1	微分とは
第3回	微分の基礎 2	導関数の計算
第4回	微分の基礎 3	$y=x^a$ の微分
第5回	微分の基礎 4	微分の線形性
第6回	微分の基礎 5	積の微分と商の微分
第7回	微分の基礎 6	合成関数の微分
第8回	関数のグラフ 1	指数関数の微分
第9回	関数のグラフ 2	対数関数の微分
第10回	関数のグラフ 3	関数の極限
第11回	関数のグラフ 4	関数の増減と極値
第12回	関数のグラフ 5	さまざまな関数
第13回	応用 1	マクローリン展開
第14回	応用 2	積分とは

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

演習問題を十分に解くこと。その際、失敗しても良いので、紙に書きながら考えること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

藤田岳彦ほか『Primary 大学ノート よくわかる微分積分』実教出版 (2011)

【参考書】

特に指定しないが、さらに学習する際は、微積分学の初歩あるいはそのための準備を主題とした書物であればそれぞれ参考となる。

【成績評価の方法と基準】

到達目標に関する問題の解決能力を期末試験（60%）において、また、演習問題への取り組み具合を課題提出（40%）において評価する。

【学生の意見等からの気づき】

問題の難易度の調整に気を配りたい。

【その他の重要事項】

この科目を履修するためには、春学期科目「基礎数学Ⅰ」で取り扱う内容について、おおよそ理解していることが必要となる。

【Outline (in English)】

【Course outline】This course deals with basic concepts and tools of mathematics, especially differentiation for functions of one variable.

【Learning Objectives】 At the end of this course, students will become proficient in techniques of differentiation, understand the concept of rate of change and how to use it to solve real world problems.

【Learning activities outside of classroom】 Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

【Grading Criteria /Policy】 Your overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end examination 60%, Short reports 40%.

MAT100LA

基礎数学 I

2017 年度以降入学者

板井 昌典

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 1/Thu.1

単位数：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

～ 社会科学を学ぶための数学（準備編）～

変化する量が、式やグラフでどのように表されるのかを学ぶ。この、変化する量をあらわす式やグラフは、社会現象の記述を含めてさまざまな分野で利用されるものである。

【到達目標】

数列の基本性質を理解し、それらを用いて簡単な計算ができる。指数と対数の基本的な計算ができ、これらの知識をもとに、簡単な関数のグラフがかけられる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

例題を解くことを交えながら内容の説明を進める。授業中も説明を聞いたり板書を写したりするだけでなく、自ら問題を解いてみるものが求められる。フィードバックは、学習支援システム等を通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	導入	授業概要の説明
第 2 回	数列 1	数列とは
第 3 回	数列 2	等差数列
第 4 回	数列 3	等比数列
第 5 回	数列 4	Σ記号
第 6 回	数列 5	階差数列
第 7 回	指数と対数 1	指数とは
第 8 回	指数と対数 2	指数の計算
第 9 回	指数と対数 3	対数とは
第 10 回	指数と対数 4	対数の計算
第 11 回	簡単なグラフ 1	指数関数のグラフ
第 12 回	簡単なグラフ 2	対数関数のグラフ
第 13 回	簡単なグラフ 3	$y=x^n$ ($n=1,2,\dots$) のグラフ
第 14 回	簡単なグラフ 4	$y=x^n$ ($n=-1,-2,\dots$) のグラフ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

演習問題を十分に解くこと。その際、失敗しても良いので、紙に書きながら考えること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

藤田岳彦ほか『Primary 大学ノート よくわかる微積分』実教出版 (2011)

【参考書】

特に指定しないが、さらに学習する際は、微積分学の初歩あるいはそのための準備を主題とした書物であればそれぞれ参考となる。

【成績評価の方法と基準】

到達目標に関する問題の解決能力を期末試験（60 %）において、また、演習問題への取り組み具合を課題提出（40 %）において評価する。

【学生の意見等からの気づき】

問題の難易度の調整に気を配りたい。

【その他の重要事項】

この科目で取り扱う内容についておおよそ理解していることが、秋学期科目「基礎数学Ⅱ」を履修するために必要となる。

【Outline (in English)】

【Course outline】This course deals with basic concepts and tools of mathematics, especially sequences and functions.

【Learning Objectives】 At the end of this course, students should be able to demonstrate the ability to perform different operations involving algebraic expressions, to graph linear and quadratic functions, and to graph polynomial, rational, algebraic, exponential and logarithmic functions.

【Learning activities outside of classroom】 Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

【Grading Criteria /Policy】 Your overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end examination 60%, Short reports 40%.

MAT100LA

基礎数学Ⅱ

2017 年度以降入学者

板井 昌典

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 1/Thu.1

単位数：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

～ 社会科学を学ぶための数学（微分編）～

変化する量を知るための手段である、微分とは何かを学ぶ。微分は数理的な議論をする際に必要となる、最も基本的な道具のひとつであり、応用範囲は極めて広い。

【到達目標】

基本的な関数を微分でき、与えられた関数の性質を調べることができる。具体的には、関数のグラフを微分を用いて正確にかくことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

例題を解くことを交えながら内容の説明を進める。授業中も説明を聞いたり板書を写したりするだけでなく、自ら問題を解いてみるものが求められる。フィードバックは、学習支援システム等を通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	導入	授業概要の説明
第 2 回	微分の基礎 1	微分とは
第 3 回	微分の基礎 2	導関数の計算
第 4 回	微分の基礎 3	$y=x^a$ の微分
第 5 回	微分の基礎 4	微分の線形性
第 6 回	微分の基礎 5	積の微分と商の微分
第 7 回	微分の基礎 6	合成関数の微分
第 8 回	関数のグラフ 1	指数関数の微分
第 9 回	関数のグラフ 2	対数関数の微分
第 10 回	関数のグラフ 3	関数の極限
第 11 回	関数のグラフ 4	関数の増減と極値
第 12 回	関数のグラフ 5	さまざまな関数
第 13 回	応用 1	マクローリン展開
第 14 回	応用 2	積分とは

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

演習問題を十分に解くこと。その際、失敗しても良いので、紙に書きながら考えること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

藤田岳彦ほか『Primary 大学ノート よくわかる微分積分』実教出版 (2011)

【参考書】

特に指定しないが、さらに学習する際は、微積分学の初歩あるいはそのための準備を主題とした書物であればそれぞれ参考となる。

【成績評価の方法と基準】

到達目標に関する問題の解決能力を期末試験（60 %）において、また、演習問題への取り組み具合を課題提出（40 %）において評価する。

【学生の意見等からの気づき】

問題の難易度の調整に気を配りたい。

【その他の重要事項】

この科目を履修するためには、春学期科目「基礎数学Ⅰ」で取り扱う内容について、おおよそ理解していることが必要となる。

【Outline (in English)】

【Course outline】This course deals with basic concepts and tools of mathematics, especially differentiation for functions of one variable.

【Learning Objectives】 At the end of this course, students will become proficient in techniques of differentiation, understand the concept of rate of change and how to use it to solve real world problems.

【Learning activities outside of classroom】 Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

【Grading Criteria /Policy】 Your overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end examination 60%, Short reports 40%.

MAT100LA

基礎数学 I

2017 年度以降入学者

倉田 俊彦

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 2/Thu.2

単位数：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

～ 社会科学を学ぶための数学（準備編）～

変化する量が、式やグラフでどのように表されるのかを学ぶ。この、変化する量をあらわす式やグラフは、社会現象の記述を含めてさまざまな分野で利用されるものである。

【到達目標】

数列の基本性質を理解し、それらを用いて簡単な計算ができる。指数と対数の基本的な計算ができ、これらの知識をもとに、簡単な関数のグラフがかけられる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

例題を解くことを交えながら内容の理解を進める。授業中も説明を聞いたり板書を写したりするだけでなく、自ら問題を解いてみるものが求められる。フィードバックは、学習支援システムを通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	導入	授業概要の説明
第 2 回	数列 1	数列とは
第 3 回	数列 2	等差数列
第 4 回	数列 3	等比数列
第 5 回	数列 4	Σ 記号
第 6 回	数列 5	階差数列
第 7 回	指数と対数 1	指数とは
第 8 回	指数と対数 2	指数の計算
第 9 回	指数と対数 3	対数とは
第 10 回	指数と対数 4	対数の計算
第 11 回	簡単なグラフ 1	指数関数のグラフ
第 12 回	簡単なグラフ 2	対数関数のグラフ
第 13 回	簡単なグラフ 3	$y=x^n$ ($n=1,2,\dots$) のグラフ
第 14 回	簡単なグラフ 4	$y=x^n$ ($n=-1,-2,\dots$) のグラフ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

演習問題を十分に解くこと。その際、失敗しても良いので、紙に書きながら考えること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

藤田岳彦ほか『Primary 大学ノート よくわかる微分積分』実教出版 (2011)

【参考書】

特に指定しないが、さらに学習する際は、微積分学の初歩あるいはそのための準備を主題とした書物であればそれぞれ参考となる。

【成績評価の方法と基準】

到達目標に関する問題の解決能力を期末試験（60 %）において、また、演習問題への取り組み具合を課題提出（40 %）において評価する。

【学生の意見等からの気づき】

問題の難易度の調整に気を配りたい。

【その他の重要事項】

この科目で取り扱う内容についておおよそ理解していることが、秋学期科目「基礎数学Ⅱ」を履修するために必要となる。

【Outline (in English)】

【Course outline】This course deals with basic concepts and tools of mathematics, especially sequences and functions.

【Learning Objectives】 At the end of this course, students should be able to demonstrate the ability to perform different operations involving algebraic expressions, to graph linear and quadratic functions, and to graph polynomial, rational, algebraic, exponential and logarithmic functions.

【Learning activities outside of classroom】 Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

【Grading Criteria / Policy】 Your overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end examination 60%, Short reports 40%.

MAT100LA

基礎数学Ⅱ

2017年度以降入学者

倉田 俊彦

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 2/Thu.2

単位数：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

～ 社会科学を学ぶための数学（微分編）～

変化する量を知るための手段である、微分とは何かを学ぶ。微分は数理的な議論をする際に必要となる、最も基本的な道具のひとつであり、応用範囲は極めて広い。

【到達目標】

基本的な関数を微分でき、与えられた関数の性質を調べることができる。具体的には、関数のグラフを微分を用いて正確にかくことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

例題を解くことを交えながら内容の理解を進める。授業中も説明を聞いたり板書を写したりするだけでなく、自ら問題を解いてみるものが求められる。フィードバックは、学習支援システムを通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	導入	授業概要の説明
第2回	微分の基礎 1	微分とは
第3回	微分の基礎 2	導関数の計算
第4回	微分の基礎 3	$y=x^a$ の微分
第5回	微分の基礎 4	微分の線形性
第6回	微分の基礎 5	積の微分と商の微分
第7回	微分の基礎 6	合成関数の微分
第8回	関数のグラフ 1	指数関数の微分
第9回	関数のグラフ 2	対数関数の微分
第10回	関数のグラフ 3	関数の極限
第11回	関数のグラフ 4	関数の増減と極値
第12回	関数のグラフ 5	さまざまな関数
第13回	応用 1	マクローリン展開
第14回	応用 2	積分とは

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

演習問題を十分に解くこと。その際、失敗しても良いので、紙に書きながら考えること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

藤田岳彦ほか『Primary 大学ノート よくわかる微分積分』実教出版 (2011)

【参考書】

特に指定しないが、さらに学習する際は、微積分学の初歩あるいはそのための準備を主題とした書物であればそれぞれ参考となる。

【成績評価の方法と基準】

到達目標に関する問題の解決能力を期末試験（60%）において、また、演習問題への取り組み具合を課題提出（40%）において評価する。

【学生の意見等からの気づき】

問題の難易度の調整に気を配りたい。

【その他の重要事項】

この科目を履修するためには、春学期科目「基礎数学Ⅰ」で取り扱う内容について、おおよそ理解していることが必要となる。

【Outline (in English)】

【Course outline】This course deals with basic concepts and tools of mathematics, especially differentiation for functions of one variable.

【Learning Objectives】 At the end of this course, students will become proficient in techniques of differentiation, understand the concept of rate of change and how to use it to solve real world problems.

【Learning activities outside of classroom】 Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

【Grading Criteria /Policy】 Your overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end examination 60%, Short reports 40%.

MAT100LA

基礎数学 I

2017 年度以降入学者

江口 直日

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 1/Tue.1

単位数：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

～ 社会科学を学ぶための数学（準備編）～

変化する量が、式やグラフでどのように表されるのかを学ぶ。この、変化する量をあらわす式やグラフは、社会現象の記述を含めてさまざまな分野で利用されるものである。

【到達目標】

数列の基本性質を理解し、それらを用いて簡単な計算ができる。指数と対数の基本的な計算ができ、これらの知識をもとに、簡単な関数のグラフがかけられる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

例題を解くことを交えながら内容の説明を進める。授業中も説明を聞いたり板書を写したりするだけでなく、自ら問題を解いてみるものが求められる。フィードバックは、学習支援システムを通じて行う。リアクションペーパーや演習問題用紙を併用することもある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	導入	授業概要の説明
第 2 回	数列 1	数列とは
第 3 回	数列 2	等差数列
第 4 回	数列 3	等比数列
第 5 回	数列 4	Σ記号
第 6 回	数列 5	階差数列
第 7 回	指数と対数 1	指数とは
第 8 回	指数と対数 2	指数の計算
第 9 回	指数と対数 3	対数とは
第 10 回	指数と対数 4	対数の計算
第 11 回	簡単なグラフ 1	指数関数のグラフ
第 12 回	簡単なグラフ 2	対数関数のグラフ
第 13 回	簡単なグラフ 3	$y=x^n$ ($n=1,2,\dots$) のグラフ
第 14 回	簡単なグラフ 4	$y=x^n$ ($n=-1,-2,\dots$) のグラフ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

演習問題を十分に解くこと。その際、失敗しても良いので、紙に書きながら考えること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

藤田岳彦ほか『Primary 大学ノート よくわかる微分積分』実教出版 (2011)

【参考書】

特に指定しないが、さらに学習する際は、微積分学の初歩あるいはそのための準備を主題とした書物であればそれぞれ参考となる。

【成績評価の方法と基準】

到達目標に関する問題の解決能力を期末試験（60 %）において、また、演習問題への取り組み具合を課題提出（40 %）において評価する。

【学生の意見等からの気づき】

コロナ禍以降は課題の提出を学習支援システムを利用してオンラインで受け付けたが、提出期限の誤認や提出の失念が散見されるようになったため、本年度は課題の提出は原則的に紙媒体で受け付けたい。

【その他の重要事項】

この科目で取り扱う内容についておおよそ理解していることが、秋学期科目「基礎数学Ⅱ」を履修するために必要となる。

【Outline (in English)】

【Course outline】This course deals with basic concepts and tools of mathematics, especially sequences and functions.

【Learning Objectives】 At the end of this course, students should be able to demonstrate the ability to perform different operations involving algebraic expressions, to graph linear and quadratic functions, and to graph polynomial, rational, algebraic, exponential and logarithmic functions.

【Learning activities outside of classroom】 Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

【Grading Criteria /Policy】 Your overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end examination 60%, Short reports 40%.

MAT100LA

基礎数学Ⅱ

2017年度以降入学者

江口 直日

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 1/Tue.1

単位数：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

～ 社会科学を学ぶための数学（微分編）～

変化する量を知るための手段である、微分とは何かを学ぶ。微分は数理的な議論をする際に必要となる、最も基本的な道具のひとつであり、応用範囲は極めて広い。

【到達目標】

基本的な関数を微分でき、与えられた関数の性質を調べることができる。具体的には、関数のグラフを微分を用いて正確にかくことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

例題を解くことを交えながら内容の説明を進める。授業中も説明を聞いたり板書を写したりするだけでなく、自ら問題を解いてみるものが求められる。フィードバックは、学習支援システム等を通じて行う。リアクションペーパーや演習問題用紙を併用することもある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	導入	授業概要の説明
第2回	微分の基礎 1	微分とは
第3回	微分の基礎 2	導関数の計算
第4回	微分の基礎 3	$y=x^a$ の微分
第5回	微分の基礎 4	微分の線形性
第6回	微分の基礎 5	積の微分と商の微分
第7回	微分の基礎 6	合成関数の微分
第8回	関数のグラフ 1	指数関数の微分
第9回	関数のグラフ 2	対数関数の微分
第10回	関数のグラフ 3	関数の極限
第11回	関数のグラフ 4	関数の増減と極値
第12回	関数のグラフ 5	さまざまな関数
第13回	応用 1	マクローリン展開
第14回	応用 2	積分とは

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

演習問題を十分に解くこと。その際、失敗しても良いので、紙に書きながら考えること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

藤田岳彦ほか『Primary 大学ノート よくわかる微分積分』実教出版 (2011)

【参考書】

特に指定しないが、さらに学習する際は、微積分学の初歩あるいはそのための準備を主題とした書物であればそれぞれ参考となる。

【成績評価の方法と基準】

到達目標に関する問題の解決能力を期末試験（60%）において、また、演習問題への取り組み具合を課題提出（40%）において評価する。

【学生の意見等からの気づき】

コロナ禍以降は課題の提出を学習支援システムを利用してオンラインで受け付けたが、提出期限の誤認や提出の失念が散見されるようになったため、春学期の基礎数学Ⅰと同様に、本年度は課題の提出は原則的に紙媒体で受け付けたい。

【その他の重要事項】

この科目を履修するためには、春学期科目「基礎数学Ⅰ」で取り扱う内容について、おおよそ理解していることが必要となる。

【Outline (in English)】

【Course outline】This course deals with basic concepts and tools of mathematics, especially differentiation for functions of one variable.

【Learning Objectives】 At the end of this course, students will become proficient in techniques of differentiation, understand the concept of rate of change and how to use it to solve real world problems.

【Learning activities outside of classroom】 Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

【Grading Criteria /Policy】 Your overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end examination 60%, Short reports 40%.

MAT100LA

基礎数学 I

2017 年度以降入学者

江口 直日

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 2/Tue.2

単位数：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

～ 社会科学を学ぶための数学（準備編）～

変化する量が、式やグラフでどのように表されるのかを学ぶ。この、変化する量をあらわす式やグラフは、社会現象の記述を含めてさまざまな分野で利用されるものである。

【到達目標】

数列の基本性質を理解し、それらを用いて簡単な計算ができる。指数と対数の基本的な計算ができ、これらの知識をもとに、簡単な関数のグラフがかけられる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

例題を解くことを交えながら内容の説明を進める。授業中も説明を聞いたり板書を写したりするだけでなく、自ら問題を解いてみるものが求められる。フィードバックは、学習支援システムを通じて行う。リアクションペーパーや演習問題用紙を併用することもある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	導入	授業概要の説明
第 2 回	数列 1	数列とは
第 3 回	数列 2	等差数列
第 4 回	数列 3	等比数列
第 5 回	数列 4	Σ記号
第 6 回	数列 5	階差数列
第 7 回	指数と対数 1	指数とは
第 8 回	指数と対数 2	指数の計算
第 9 回	指数と対数 3	対数とは
第 10 回	指数と対数 4	対数の計算
第 11 回	簡単なグラフ 1	指数関数のグラフ
第 12 回	簡単なグラフ 2	対数関数のグラフ
第 13 回	簡単なグラフ 3	$y=x^n$ ($n=1,2,\dots$) のグラフ
第 14 回	簡単なグラフ 4	$y=x^n$ ($n=-1,-2,\dots$) のグラフ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

演習問題を十分に解くこと。その際、失敗しても良いので、紙に書きながら考えること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

藤田岳彦ほか『Primary 大学ノート よくわかる微積分』実教出版 (2011)

【参考書】

特に指定しないが、さらに学習する際は、微積分学の初歩あるいはそのための準備を主題とした書物であればそれぞれ参考となる。

【成績評価の方法と基準】

到達目標に関する問題の解決能力を期末試験（60 %）において、また、演習問題への取り組み具合を課題提出（40 %）において評価する。

【学生の意見等からの気づき】

コロナ禍以降は課題の提出を学習支援システムを利用してオンラインで受け付けたが、提出期限の誤認や提出の失念が散見されるようになったため、本年度は課題の提出は原則的に紙媒体で受け付けた。また、昨年度は「課題においては解答の正誤よりも授業参加や学習プロセスを重視する」としたものを、問題に正解するためのスキルも重視したい。

【その他の重要事項】

この科目で取り扱う内容についておおよそ理解していることが、秋学期科目「基礎数学Ⅱ」を履修するために必要となる。

【Outline (in English)】

【Course outline】This course deals with basic concepts and tools of mathematics, especially sequences and functions.

【Learning Objectives】 At the end of this course, students should be able to demonstrate the ability to perform different operations involving algebraic expressions, to graph linear and quadratic functions, and to graph polynomial, rational, algebraic, exponential and logarithmic functions.

【Learning activities outside of classroom】 Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

【Grading Criteria /Policy】 Your overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end examination 60%, Short reports 40%.

MAT100LA

基礎数学Ⅱ

2017年度以降入学者

江口 直日

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 2/Tue.2

単位数：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

～ 社会科学を学ぶための数学（微分編）～

変化する量を知るための手段である、微分とは何かを学ぶ。微分は数理的な議論をする際に必要となる、最も基本的な道具のひとつであり、応用範囲は極めて広い。

【到達目標】

基本的な関数を微分でき、与えられた関数の性質を調べることができる。具体的には、関数のグラフを微分を用いて正確にかくことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

例題を解くことを交えながら内容の説明を進める。授業中も説明を聞いたり板書を写したりするだけでなく、自ら問題を解いてみるのが求められる。フィードバックは、学習支援システム等を通じて行う。リアクションペーパーや演習問題用紙を併用することもある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	導入	授業概要の説明
第2回	微分の基礎 1	微分とは
第3回	微分の基礎 2	導関数の計算
第4回	微分の基礎 3	$y=x^a$ の微分
第5回	微分の基礎 4	微分の線形性
第6回	微分の基礎 5	積の微分と商の微分
第7回	微分の基礎 6	合成関数の微分
第8回	関数のグラフ 1	指数関数の微分
第9回	関数のグラフ 2	対数関数の微分
第10回	関数のグラフ 3	関数の極限
第11回	関数のグラフ 4	関数の増減と極値
第12回	関数のグラフ 5	さまざまな関数
第13回	応用 1	マクローリン展開
第14回	応用 2	積分とは

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

演習問題を十分に解くこと。その際、失敗しても良いので、紙に書きながら考えること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

藤田岳彦ほか『Primary 大学ノート よくわかる微分積分』実教出版 (2011)

【参考書】

特に指定しないが、さらに学習する際は、微積分学の初歩あるいはそのための準備を主題とした書物であればそれぞれ参考となる。

【成績評価の方法と基準】

到達目標に関する問題の解決能力を期末試験（60%）において、また、演習問題への取り組み具合を課題提出（40%）において評価する。

【学生の意見等からの気づき】

期末試験の実施直前から実施直後にかけて、配信教材・試験実施形態・合格基準について E メールで執拗に交渉する履修生の対応に苦慮した。度が過ぎる場合には学部事務局と連携して対応したい。コロナ禍以降は課題の提出を学習支援システムを利用してオンラインで受け付けたが、提出期限の誤認や提出の失念が散見されるようになったため、春学期の基礎数学Ⅰと同様に、本年度は課題の提出は原則的に紙媒体で受け付けたい。また、昨年度は「課題においては解答の正誤よりも授業参加や学習プロセスを重視する」としたものを、問題に正解するためのスキルも重視したい。

【その他の重要事項】

この科目を履修するためには、春学期科目「基礎数学Ⅰ」で取り扱う内容について、おおよそ理解していることが必要となる。

【Outline (in English)】

【Course outline】This course deals with basic concepts and tools of mathematics, especially differentiation for functions of one variable.

【Learning Objectives】At the end of this course, students will become proficient in techniques of differentiation, understand the concept of rate of change and how to use it to solve real world problems.

【Learning activities outside of classroom】Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

【Grading Criteria /Policy】Your overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end examination 60%, Short reports 40%.

PHY100LA

入門物理学 A

2017 年度以降入学者

サブタイトル：原子から宇宙まで I

吉田 智

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 3/Thu.3

単位数：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

19 世紀末から 20 世紀にかけての物理学の発展には目覚ましいものがある。その発展が可能だったのは、長い年月をかけて身近な自然現象についての実験や観測が行われ、また法則や理論が示されることによって、古典物理学と呼ばれる物理学全体の基礎がなされていたからである。この講義では最初に、私たちの身の周りで起こる物体の運動や、惑星の運動を通じて万有引力について解説し、次に、物体の運動に関係し、ミクロの領域への入り口となる熱やエネルギー等について解説する。

【到達目標】

この授業では、身の周りにある現象を通じて、物理に関する知識を深めることができると共に、物理的な物の見方を習得することを目標にしている。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

スライドと共に、資料を配付する講義形式で行います。難しい数式はできるだけ避け、時にはビデオ・実験装置を使用する予定です。随時最新の話題を取り入れながら、物理の基礎知識がなくても理解してもらえるように進めていきます。適宜、授業内での課題や質問に対する解説も行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	序章〈原子から宇宙まで〉	講義の全体について紹介する。
第 2 回	惑星の運動（ケプラー）	ケプラーの法則について解説する。
第 3 回	地上での物体の運動（ガリレオ）	ガリレオによる、地上における物体の運動の法則について解説する。
第 4 回	速度と加速度	物体の運動を理解するために必要となる、速度と加速度について解説する。
第 5 回	空中での物体の運動	空中での物体の運動や、重力加速度について解説する。
第 6 回	力のつりあい	力のつりあいによる円運動について解説する。
第 7 回	万有引力の法則	ニュートンの万有引力について解説する。
第 8 回	惑星の運動	万有引力の成功例として、ハレー彗星や惑星の運動について解説する。
第 9 回	スペースシャトル、人工衛星の運動	人工衛星等、地球の周りを周回する物体の運動について解説する。
第 10 回	エネルギー	エネルギーの定義とエネルギー保存則について解説する。

第 11 回 熱の法則と熱効率 熱に関係する法則と熱効率について解説する。

第 12 回 気体の法則、絶対零度 気体の法則について解説する。

第 13 回 気体分子の運動と温度 気体分子の運動と温度の関係について解説する。

第 14 回 まとめ 全体のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

次回以降の講義内容の理解を助けるためにも、内容を復習しておくことが必要です。本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用せず、資料を配布します。

【参考書】

授業内で適宜紹介する予定です。

【成績評価の方法と基準】

学習支援システムを利用した、各回の課題 (70%) と期末レポート (30%) で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

改善アンケートの記載は特にありませんでしたが、授業内容の質問には授業内や「学習支援システム」を使用して対応したいと思います。

【Outline (in English)】

This course teaches general physics, such as motion of a body on the earth, the law of universal gravitation through the motion of planets in the solar system, and thermodynamics and energy involved in atom. In this course, goals are to deepen the knowledge about physics through physical phenomena around us, and to acquire the physical perspective. After each class, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Grading will be decided based on term-end examination (30%), and short examinations in every class (70%).

PHY100LA

入門物理学 B

2017 年度以降入学者

サブタイトル：原子から宇宙まで II

吉田 智

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 3/Thu.3

単位数：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

20 世紀に発展した現代物理学の成果を応用することによって、現在の私たちの生活は、100 年前と比べて大きく変化しました。現代物理学の特徴の 1 つは、その対象が非常に小さい原子核・素粒子や非常に大きい銀河・宇宙へと広がっていったことである。現在も物理学は発展し続けており、例えば 21 世紀の今、新たな宇宙観が示されようとしている。この講義では、最初に身近な光（電磁波）について解説し、次に、原子や原子核といったミクロの領域や、宇宙の始まりから星の進化や宇宙の大規模構造といったマクロの領域の現象について解説する。

【到達目標】

この授業では、理論と実験・観測の両立によって自然科学が発展してきたことを理解し、科学的な事柄に対して自ら判断ができるように、物理的な物の見方を修得することを目標としている。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

スライドと共に、資料を配付する講義形式で行います。難しい数式はできるだけ避け、時にはビデオ・実験装置を使用する予定です。随時最新の話題を取り入れながら、物理の基礎知識がなくても理解してもらえるように進めていきます。適宜、授業内での課題や質問に対する解説も行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	序章 < 20 世紀以後の物理学 >	講義の全体について紹介する。
第 2 回	光の性質（波動性と粒子性）	光（電磁波）の、波動性や太陽電池にも関係する粒子性について解説する。
第 3 回	光の性質（二重性）	光の二重性や、ミクロの世界の不思議について紹介する。
第 4 回	原子の構造（電子の発見）	ランプから発せられる光の波長に関する法則や、電子の発見に至る研究について解説する。
第 5 回	原子の構造（原子核の発見）	原子の構造について解説する。
第 6 回	原子核の構造と核エネルギー	原子核構造と原子核エネルギーについて解説する。
第 7 回	核分裂と核融合	核分裂反応と核融合反応の応用について解説する。
第 8 回	太陽における核融合反応	太陽中心部で起こっている核融合反応について解説する。
第 9 回	星の進化、超新星爆発	星の進化と、星の終焉の 1 つの超新星爆発について解説する。
第 10 回	宇宙での元素合成	宇宙の中で、元素がどのようにして合成されたのか解説する。

第 11 回	クォークとレプトン	万物の基となる素粒子、クォークとレプトンについて解説する。
第 12 回	宇宙の進化	これまで宇宙はどのようにして進化してきたのか、解説する。
第 13 回	銀河系、宇宙の大規模構造	我々の銀河系を含めた、宇宙の大規模構造について、紹介する。
第 14 回	まとめ	全体のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

次回以降の講義内容の理解を助けるためにも、内容を復習しておくことが必要です。本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用せず、資料を配布します。

【参考書】

授業内で適宜紹介する予定です。

【成績評価の方法と基準】

学習支援システムを利用した、各回の課題（70%）と期末レポート（30%）で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

改善アンケートの記載は特にありませんでしたが、授業内容の質問には授業内や「学習支援システム」を使用して対応したいと思います。

【Outline (in English)】

This course teaches general physics such as the universe and elementary particles that research has developed since the 20th century. In this course, goals are to deepen the knowledge about physics through the phenomena around us, and to acquire the physical perspective. After each class, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Grading will be decided based on term-end examination (30%), and short examinations in every class (70%).

PHY100LA

入門物理学 A

2017 年度以降入学者

サブタイトル：原子から宇宙まで

井坂 政裕

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 2/Wed.2

単位数：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

物理学は、原子から宇宙まで、広く自然現象やそのしくみを理解することが大きな目的であり、世界中で日々研究が進められている。そうした研究によって物理学は現在でも大いに進展しているが、物理学の基礎となるのが本授業で扱う「力学（ニュートン力学）」である。力学は、ガリレオ・ガリレイやアイザック・ニュートンが発見した法則や、彼らが示した科学的な見方・考え方が出発点となっている。この授業では、身近な具体例をできるだけ取り上げながら、力学の法則やその意味、法則を通してどのようなことが理解できるのかを解説し、現代科学を理解するうえでも重要な科学的な見方や考え方がどのようなものかを紹介する。本授業を通して、学生は、天体の運動を含め、身の回りの様々な力学現象が物理学に基づいてどのように理解できるかを学び、科学的な見方や考え方の基礎を身に付ける。

【到達目標】

- ・ニュートンの運動の法則とはどのようなものかを説明することができる
- ・身の回りの物体の運動や惑星の運動などを、ニュートン力学に基づき理解することができる
- ・ニュートン力学の学習を通して、法則や理論に基づき論理的に物事を思考する基盤を獲得する

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

スライドを使用した講義形式で行い、授業内容に応じて、ビデオや簡単な実験装置を使用する場合がある。この授業は原則として対面授業として実施するが、初回授業はリアルタイムオンライン授業として実施する。

各回の授業内容に関する選択式問題による小テストを、学習支援システム上で実施する。

最終授業で、13回までの講義内容のまとめと復習だけでなく、授業内で実施した小テストに対する講評や解説も行う。

講義では、高校で物理を履修していなくても理解できるよう平易に説明する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	序章	授業全体の内容を紹介する。
第 2 回	惑星の運動	ケプラーの法則を中心に惑星の運動を解説するとともに、星座をつくる星（恒星）と惑星との夜空での見え方の違いを説明する。
第 3 回	ガリレオが発見した法則	ガリレオ・ガリレイが発見した落体の法則と慣性の法則について解説する。
第 4 回	速度と加速度	運動を表すために必要な速度と加速度について解説する。

第 5 回	ニュートンの運動の法則	最も基本的で重要な法則であるニュートンの運動の法則について解説する。
第 6 回	力のつりあいと浮力	力がつりあった状態がどのようなものか説明する。また、浮力について紹介する。
第 7 回	万有引力の法則と重力による運動	ニュートンによる万有引力の発見について解説する。さらに、自由落下や放物運動などについて解説する。
第 8 回	摩擦力と空気抵抗	摩擦力や空気抵抗がある場合、物体の運動がどのようになるか解説する。
第 9 回	回転運動とコリオリ力	台風の渦を具体例に、回転運動やコリオリ力について紹介する。
第 10 回	運動の勢いを表すには？	運動量保存則について解説する
第 11 回	「エネルギー」を定義する	自然科学・物理学における仕事やエネルギーの定義とエネルギーの原理について解説する。
第 12 回	エネルギー保存則	エネルギー保存則について解説する。
第 13 回	ロケットと人工衛星	ロケットや人工衛星を例として、宇宙速度や天体の運動についても解説する。
第 14 回	まとめ	春学期のまとめを行う。また、第 13 回までに実施した小テストの講評と解説を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・身の回りの自然現象や科学ニュースに関心を持つこと。
- ・授業内容と関連する自然現象や科学技術などの具体例が何か考えること。
- ・配布資料などをもとに、各回の学習内容の復習を行うこと。
- ・本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しない。

【参考書】

必要に応じて授業中に紹介する。

【成績評価の方法と基準】

期末レポート(約 50%)と小テスト(約 50%)により評価する。毎回の授業内容に関する小テストを学習支援システム上で実施する。期末レポートは、授業内容に関する課題を出題する。期末試験は実施しない。

【学生の意見等からの気づき】

わかりやすい説明を心がけます。

【Outline (in English)】

Course outline: This course introduces the basic knowledge of the Newtonian mechanics to students taking this course. It also helps students acquire way of thinking from a scientific perspective.

Learning Objectives: By the end of the course, students should be able to do the following:

- ・ Understand the Newton's laws of motion and universal gravitation
- ・ Explain the motion of falling objects and the similarity to the revolution of the moon
- ・ Describe the scientific definition of the work and energy
- ・ Discuss the basic mechanism of a rocket escaping the gravity area of the Earth
- ・ Explain the Coriolis force and its effects on meteorological phenomena

Learning activities outside of classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading Criteria/Policy: Grading will be decided based on mini-exam in each class meeting (50%) and term-end report (50%).

PHY100LA

入門物理学 B

2017 年度以降入学者

サブタイトル：原子から宇宙まで

井坂 政裕

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 2/Wed.2

単位数：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、光の現象や性質から始まり、ミクロな世界や非常に広大な宇宙に至るまで、幅広く物理現象やその背後にある物理法則を解説する。こうした知見は、20世紀以降の現代物理学の発展により得られたものである。

本授業を通して、学生は、現代物理学の世界やその広がりを知ると共に、現代物理学の知見に基づく科学的な見方・考え方を身に付ける。

【到達目標】

- ・光について、波としての性質と粒子としての性質が何かを理解し、それらを併せ持つことを理解できる
- ・ミクロな世界の物理に関し、量子論の始まりや原子の構造などについて概要を理解できる
- ・宇宙の始まりから現在までの進化を理解することができる
- ・物理学がこれまで、理論と実験の両方を基にして発展してきたことを理解することができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

スライドを使用した講義形式で行い、授業内容に応じて、ビデオや簡単な実験装置を使用する場合がある。この授業は原則として対面授業として実施するが、初回授業はリアルタイムオンライン授業として実施する。

各回の授業内容に関する選択式問題による小テストを、学習支援システム上で実施する。

最終授業で、13回までの講義内容のまとめや復習だけでなく、授業内で実施した小テストに対する講評や解説も行う。

講義では、高校で物理を履修していなくても理解できるよう平易に説明する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	序章	講義で扱うテーマについて概観する
第 2 回	光に関する現象	虹や曇気楼などの自然現象やレンズなどを例に挙げ、その原理を解説する
第 3 回	光の波動性	光が持つ性質を波として捉えて解説する
第 4 回	光の粒子性	光の粒子としての振る舞いについて解説する
第 5 回	物質の二重性	光やミクロな物質が持つ波の性質と粒子の性質の二重性について解説する
第 6 回	ミクロな世界の物理学	現在の量子力学の基礎としての量子論の起こりについて解説する
第 7 回	原子模型	原子模型について、その研究の歴史と共に解説する

第 8 回	原子の構造	電子や原子核の発見と原子の構造について解説する
第 9 回	原子核	原子核の性質や核エネルギーについての基礎知識を解説する
第 10 回	放射線	放射線についての基本的な知識を解説する
第 11 回	さらにミクロな世界へ	素粒子であるクォークやレプトンについて解説する
第 12 回	宇宙の始まりと進化	ビッグバンや宇宙の膨張について解説する
第 13 回	元素合成	宇宙や恒星における元素合成について解説する
第 14 回	まとめ	秋学期のまとめを行う。また、第 13 回までに実施した小テストの講評と解説を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・身の回りの自然現象や科学ニュースに関心を持つこと。
- ・授業内容と関連する自然現象や科学技術などの具体例が何か考えること。
- ・配布資料などをもとに、各回の学習内容の復習を行うこと。
- ・本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しない。

【参考書】

必要に応じて授業中に紹介する。

【成績評価の方法と基準】

期末レポート（約 50 %）と小テスト（約 50 %）により評価する。毎回の授業内容に関して、小テストを学習支援システム上で実施する。期末レポートは、授業内容に関する課題を出題する。期末試験は実施しない。

【学生の意見等からの気づき】

わかりやすい説明を心がけます。

【Outline (in English)】

Course outline: This course introduces basic knowledge of the modern physics. It also helps students acquire way of thinking from a scientific perspective.

Learning Objectives: By the end of the course, students should be able to do the following:

- ・ Explain the photoelectric effect and its application technologies
- ・ Explain the wave-particle duality of light and matters
- ・ Describe and explain typical models of atoms and the structure of atoms in terms of the electron orbits
- ・ Explain how to confirm the existence of the atomic nucleus by experiments
- ・ Explain the properties of the alpha, beta and gamma-ray as typical radiations

Learning activities outside of classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading Criteria/Policy: Grading will be decided based on mini-exam in each class meeting (50%) and term-end report (50%).

PHY100LA

入門物理学 A

2017 年度以降入学者

サブタイトル：身近な物理学

石川 壮一

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 3/Tue.3

単位数：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

・本講義では、高校で物理を履修していなくても理解できるようにわかりやすく、我々の身の回りの力や運動に関係する現象と、それらを支配している法則（ニュートンの法則）について、歴史的側面を概観しながら解説する。
 ・学生は、身の回りの運動や、宇宙でのロケットや星の運動が、ニュートンの法則から説明できる事を学ぶ。

【到達目標】

・自然現象や我々の生活を支えている科学技術を理解するための基礎知識を身につける。
 ・我々の身の回りで起こっている力や運動に関係した現象を支配している法則（ニュートンの法則）について理解し、その簡単な応用ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

・学習支援システムで配布する資料を用いて講義を行う。
 ・適時、理解度を確認するための課題を出題する。
 ・課題等の提出・フィードバックは学習支援システムを通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	序章 (1)	自然科学全般の研究対象と、本講義で学ぶ対象との関係について学ぶ。
2	序章 (2)	ミクロな世界（原子）からマクロな世界（宇宙）まで、自然界の階層性について理解する。
3	天界の法則と地上の法則 (1)	天体のみかけの運動を天動説、地動説それぞれの立場で説明し、その長所・短所を理解する。
4	天界の法則と地上の法則 (2)	地球から見た太陽と惑星の位置関係を利用して、惑星運動の法則が得られることを理解する。
5	天界の法則と地上の法則 (3)	落体の運動にみられる法則性を理解する。
6	運動法則 (1)	力学の基本法則（原理）としてのニュートンの法則の内容を理解する。
7	運動法則 (2)	万有引力の法則について理解する。
8	運動法則 (3)	運動量やエネルギーの意味とそれらが保存されていることを理解する。
9	色々な運動 (1)	等速度運動、等加速度運動など、運動の基本的な記述の仕方を学ぶ。

10	色々な運動 (2)	空気抵抗がある場合などのより現実的な落下運動について考える。
11	色々な運動 (3)	バネの運動や、スポーツにおける色々な運動について考える。
12	色々な運動 (4)	乗り物に乗っているときや自転している地球上での運動について考える。
13	色々な運動 (5)	宇宙における天体の運動や地球外の天体に向かうための力学的条件について考える。
14	まとめ	物体運動の予言性（決定論・非決定論）について考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・配付資料、演習問題、参考文献を用いて講義内容の復習を行うこと。
 ・新聞等の科学ニュースに気を配り、講義で学んだこととの関連性について考えてみること。
 ・本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

テキストは特に設けないが、学習支援システムを用いて資料を配布する。

【参考書】

・「グラフィック講義 物理学の基礎」 和田純夫著（サイエンス社、2013）
 ・シップマン・自然科学入門「新物理学」（増補改訂版）J. T. Shipman 著、勝守寛監訳（学術図書出版社、2002）
 ・「物理学入門」大西直毅著（東京大学出版会、1996）
 ・「世界のため-真理を追いもとめる科学の物語」アイリック・ニュート著、猪苗代英徳訳（日本放送出版協会、1999）
 （その他、必要に応じて授業中に紹介する。）

【成績評価の方法と基準】

平常点（小テストを含む）と期末試験の点数を総合して評価する。配分は、平常点を 30%、期末試験の結果を 70%とする。

【学生の意見等からの気づき】

授業時間外学習をほとんど行っていない人が多いようなので、予習・復習のための参考資料や課題をもう少し充実させたい。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布のために学習支援システムを利用する。

【Outline (in English)】

This course introduces basics of Newtonian mechanics, which are very fundamental filed of physics.
 At the end of the course, students are expected to understand how motions around themselves, in the universe, etc. are explained from the fundamental laws.
 Before and after each class meeting, students will be expected to spend totally four hours to understand the course content.
 Your overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end examination (70%) and in class contribution including short reports (30%).

PHY100LA

入門物理学 B

2017 年度以降入学者

サブタイトル：熱と光

石川 壮一

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 3/Tue.3

単位数：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

・本講義では、高校で物理を履修していなくても理解できるようにわかりやすく、熱（熱伝導、熱機関、...）、光（蜃気楼、虹、光通信、光電池、...）といった身の回りに日常的に起こっている現象を、巨視的（マクロ）、微視的（ミクロ）それぞれの立場から解説し、その背後にある基本的法則を説明する。

・学生は、身の回りに起こっている熱や光の現象の本質と、それらの微視的な立場からの理解を学ぶ。

【到達目標】

・自然現象や我々の生活を支えている科学技術を理解するための基礎知識を身につける。

・熱、光といった身の回りに日常的に起こっている現象を、巨視的（マクロ）、微視的（ミクロ）それぞれの立場から理解し、その背後にある基本的法則を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

・学習支援システムで配布する資料を用いて講義を行う。

・適時、理解度を確認するための課題を出題する。

・課題等の提出・フィードバックは学習支援システムを通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	序章	講義の概要を理解する。
2	熱現象 (1)	熱の諸現象の基礎的概念について学ぶ。
3	熱現象 (2)	熱の移動や伝達、熱とエネルギーとの関係について学ぶ。
4	熱現象 (3)	生命活動のエネルギー源、および熱を用いて仕事をする熱機関について学ぶ。
5	熱現象 (4)	熱現象を微視的に理解することを考える。
6	波	波動一般についてその基礎的事項を学ぶ。
7	波としての光 (1)	光の屈折や分散という性質について学ぶ。
8	波としての光 (2)	光の回折や干渉という性質について学ぶ。
9	粒子としての光 (1)	物の色と温度との関係について学ぶ。
10	粒子としての光 (2)	光電効果、原子スペクトルの意味とその特徴について学ぶ。
11	原子のモデル	原子が光を放出したり吸収したりする性質を説明するための、原子モデルについて考える。

12	物の色と光 (1)	光による現象・風景や物の色の例として、空の色、照明などについて学ぶ。
13	物の色と光 (2)	天体の色やオーロラの発光について学ぶ。
14	太陽エネルギー	太陽から発生しているエネルギーと地球との関係を考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・配布資料、演習問題、参考文献を用いて講義内容の復習を行うこと。

・新聞等の科学ニュースに気を配り、講義で学んだこととの関連性について考えてみる。

・本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

テキストは特に設けないが、学習支援システムを用いて資料を配布する。

【参考書】

・「グラフィック講義 物理学の基礎」 和田純夫著（サイエンス社、2013）

・シップマン・自然科学入門「新物理学」（増補改訂版）J. T. Shipman 著、勝守寛監訳（学術図書出版社、2002）

・「物理学入門」 大西直毅著（東京大学出版会、1996）

（その他、必要に応じて授業中に紹介する。）

【成績評価の方法と基準】

平常点（小テストを含む）と期末試験の点数を総合して評価する。配分は、平常点を 30%、期末試験の結果を 70%とする。

【学生の意見等からの気づき】

授業時間外学習をほとんど行っていない人が多いようなので、予習・復習のための参考資料や課題をもう少し充実させたい。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布のために学習支援システムを利用する。

【Outline (in English)】

This course introduces basics of physics related to thermal phenomena, light, atoms, etc.

At the end of the course, students are expected to understand how various phenomena around us, such as heat, mirage, rainbow, aurora, etc., are explained from the fundamental laws. Before and after each class meeting, students will be expected to spend totally four hours to understand the course content. Your overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end examination (70%) and in class contribution including short reports (30%).

PHY100LA

入門物理学 A

2017 年度以降入学者

サブタイトル：やさしく学べる自然の仕組み

鈴木 裕武

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 5/Mon.5

単位数：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

自然や物の理（ことわり）の探求は、物の運動の法則を探求することから始まった。我々もそこから始めよう。本授業では自然を理解するための基礎である力と運動の法則とアインシュタインの特殊相対性理論を学ぶ。力と運動の法則を学べば身近な物体の運動から人工衛星の運動までを理解でき、相対性理論を知れば宇宙の真理に迫ることが出来る。ビジュアルや日常感覚で自然の仕組みを理解できるように工夫をして話を進める。自然の法則や仕組みの素晴らしさを楽しんでもらいたい。楽しんでいるうちに、法則や理論に基づき論理的に物事を考えることも出来るようになるはずだ。物理が苦手な人にも、物理に興味を持って学びたいと思っている人にも満足してもらえる授業を目指す。

【到達目標】

身近な物体や人工衛星の運動が力と運動の法則（力学）によってシンプルに説明できることを理解する。また、理論に基づき物体の運動が予想出来ることを理解する。特殊相対性理論に関しては、時間の流れ方や物体の長さが状況により異なることなど、一般的な常識を越えた時空の性質を理解する。物理学を学ぶことを通して、法則や理論に基づき論理的に物事を思考する基盤を獲得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

物理に苦手意識を持っている人も多いと思う。この授業では、そのような学生諸君が楽しんで理解できるように話を進める。理解できたときの満足感を味わってほしい。初心者が自然の仕組みを楽しんで学べるように、なるべく身近な話題を取り上げてわかりやすい解説をする。

講義形式の対面授業を行うが、受講人数がわからない初回授業のみハイフレックスを用いた対面授業とする。入国ができない外国人留学生や基礎疾患等における配慮を必要とする学生に対してはオンラインによる受講を保障する。やむを得ない理由（体調不良や濃厚接触者になってしまった等）により受講できなかった者のために、ハイフレックス形式の授業を行う場合もある。受講に必要な授業情報は学習支援システムで公開する。授業前後に必ず学習支援システムを確認しよう。

授業では物理学の基礎知識がなくても理解できるように解説をする。難しい数式はできるだけ避け、図と説明を工夫してイメージを把握できるようにする。基本事項の解説に続いて具体例を示し、クイズのような問題を通して理解を深める。プロジェクター（パワーポイント）と黒板・ペンタブレット（板書）を併用して分かりやすく解説する。授業の初めに、前回の授業で行った小テストなどの課題の解説と講評を行う。

授業自体が面白い動画（目標は YouTube の動画）であるような授業を心がける。よりよい授業にするために、授業内容や進め方に関する学生諸君からの質問・提案・意見を歓迎する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	宇宙を楽しむ方法	授業の概要を説明する。また、物理学の方法論や楽しみ方を解説する。
第 2 回	山手線が等速度で走ることは可能か	速度と加速についての基本を学ぶ。
第 3 回	自然は重ね合わせを好む	自然界ではいろいろなことが足し算できることを学ぶ。
第 4 回	投げたボールの未来を予言する	地球上で投げたボールの運動について理解する。
第 5 回	勢いがつくと止まらない理由	ニュートンの運動の法則を学ぶ。
第 6 回	無重力になる方法	電車が発車したときや停止するときに感じる慣性力を理解する。
第 7 回	ジェットコースターが滑り始めた高さを越えられないのはなぜか	エネルギーとエネルギーの保存について学ぶ。
第 8 回	光子帆船イカロス	運動の勢いの表し方と運動の勢いの保存について学ぶ。
第 9 回	二人が引き合う理由	万有引力を学び地球の質量を求める。
第 10 回	地面に落ちないで落下を続ける方法	地球表面すれすれを周る人工衛星の速さを求める。
第 11 回	タイムマシンはすでにある	動いている乗り物の中の時間は、ゆっくり進むように観察されることを理解する。
第 12 回	相対論的ダイエット法	動いている物体の長さが縮んでいるように観察されることを学ぶ。
第 13 回	ダイエットしても重くなる	動く物体の質量が増加することを学ぶ。
第 14 回	試験・まとめと解説	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

車や電車が動き出すときや止まるときにどのような力が自分にはたらくか観察しよう。思いっきりジャンプするとほんの少し無重力を実感できるかもしれない。日常生活で経験するすべての運動はニュートン力学で説明できる。なぜだろうと思い、観察し考察する姿勢をもって欲しい。
本授業の準備学習は 1 時間、復習は 3 時間を標準とする。授業で扱った問などの復習を中心に組み込んで欲しい。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。教材（授業で使用するパワーポイントスライド）の pdf ファイルを学習支援システムで公開する。教材の写真以外のページを印刷したものを配布する予定である。

【参考書】

- ・高校の物理基礎・物理の教科書
- ・新しい高校物理の教科書 山本明利、左巻健男（編著）講談社ブルーバックス
- ・もういちど読む数研の高校物理 第 1 巻、第 2 巻 数研出版
- ・ビジュアル物理 ニュートン別冊 ニュートンプレス
- ・新装版 相対論の ABC 福島肇（著）講談社ブルーバックス

【成績評価の方法と基準】

定期試験は実施せず、小テスト（70%）と授業への参加（30%）で評価する。授業への参加は授業の終わりに提出するコメントシートで評価する。やむを得ない理由で欠席した場合は小テストなどの代替措置としてレポートなどの課題を与える。小テストでは、自筆ノートと授業で使用したスライド（学習支援システムに掲載した pdf ファイルを印刷したもの）の参照を認める。平常評価の実施方法の詳細は受講生の意見も取り入れて授業時にお知らせする。小テストなどの課題は授業で扱った内容に関する知識と簡単な応用力をみるもので、授業に出席していれば簡単に思えるはずである。難しい数式を計算するような問題は出題しない。

【学生の意見等からの気づき】

授業満足度を決めるポイントは、授業の難易度や速度・時間配分や教え方ではなく、学生諸君が授業内容に対して興味や関心を持てるかどうかという点にあったのではないかと考える。物理学は一見難解そうな分野ではあるが、どのような分野であっても興味を喚起する方法はあるだろう。物理学を楽しんでもらえるように努力するつもりである。

【学生が準備すべき機器他】

自宅でインターネットに接続できる機器（スマホやタブレット、PCなど）が必要である。

【Outline (in English)】

In this subject, we learn the basics of classical mechanics and relativity theory. We can understand the movement of familiar objects by learning classical mechanics. We can approach the truth of the universe by learning relativity theory. By learning physics fun, we aim to become able to enjoy science. I intend to give a lecture devised so that students can understand physics visually and intuitively. Through knowledge and experience learned in this lecture, you should be able to learn how to think things logically using rules and theory.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Final grade will be calculated according to the following process Short reports (60%), term-end examination (40%).

PHY100LA

入門物理学 B

2017 年度以降入学者

サブタイトル：やさしく学べる宇宙の仕組み

鈴木 裕武

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 5/Mon.5

単位数：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

原子から宇宙まで、物理学の守備範囲は広い。本授業では、原子や素粒子の極微のスケールから地球、オーロラ、さらには太陽、銀河系、ブラックホールなどの宇宙スケールのお話を扱う。また、日常生活の中で目にすることが多い光にかかわる現象と現代の生活になくはない電気や磁気の話も解説する。さらに、宇宙空間で起きている現象が我々の生活と無縁ではないことも解説する。

【到達目標】

原子から宇宙までの基礎知識を習得する。光に関する身近な現象と光のスペクトルの基礎を理解する。電気エネルギーと発電の仕組みを理解する。地球周辺の宇宙空間で起きている現象を学び、それらの現象が我々の実生活にも関連があることを理解する。恒星の一生や宇宙論を学び宇宙の姿を理解する。以上の内容を通じて物理的な自然現象と我々とのかかわりを理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

原子から宇宙までの広範囲にわたる物理的自然現象をわかりやすく解説する。知識の習得だけでなく、理解できて楽しくなるような講義を行うつもりである。原子から宇宙まで、我々の住む宇宙全体を理解することを楽しんでもらいたい。

授業形態は講義形式の対面授業とする。入国ができない外国人留学生や基礎疾患等における配慮を必要とする学生に対してはオンラインによる受講を保障する。やむを得ない理由（体調不良や濃厚接触者になってしまった等）により受講できなかった者のために、ハイフレックス形式の授業を行う場合もある。受講に必要な授業情報は学習支援システムで公開する。授業前後に必ず学習支援システムを確認しよう。

授業では物理学の基礎知識がなくても理解できるように解説をする。難しい数式はできるだけ避け、図と説明を工夫してイメージを把握できるようにする。基本事項の解説に続いて具体例を示し、クイズのような問題を通して理解を深める。プロジェクター（パワーポイント）と黒板・ペンタブレット（板書）を併用して分かりやすく解説する。授業の初めに、前回の授業で行った小テストなどの課題の解説と講評を行う。

授業自体が面白い動画（目標は YouTube の動画）であるような授業を心がける。よりよい授業にするために、授業内容や進め方に関する学生諸君からの質問・提案・意見を歓迎する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	マイクロからナノそしてフェムト	授業の概要を説明する。また、物質の基本要素である原子や素粒子について学ぶ。
第 2 回	α と β と γ と	放射線の正体と性質を学ぶ。
第 3 回	昼間の空は青いのに夕焼けが赤いのはなぜか	光の性質と光のスペクトルを理解する。

第 4 回	粒子は波である	極微の世界の不思議な性質を学ぶ。
第 5 回	力の正体を暴く	電気と磁気の基本を学ぶ。
第 6 回	スマホが熱くなる理由	電気エネルギーと発電・送電を学ぶ。
第 7 回	紫外線から守れ	オゾン層と電離層について学ぶ。
第 8 回	宇宙の風に乗る	地球磁気圏・惑星間空間・太陽圏について学ぶ。
第 9 回	オーロラ	オーロラの正体に迫る。
第 10 回	太陽がくしゃみをする	宇宙が地球環境に与える影響を学ぶ。
第 11 回	天の川と星の世界	銀河系の宇宙空間と恒星について学ぶ。
第 12 回	我々は宇宙の子だ	恒星の一生と超新星爆発やブラックホールについて学ぶ。
第 13 回	宇宙の現在・過去・未来	宇宙の誕生と膨張宇宙について学ぶ。
第 14 回	最新の宇宙	宇宙研究の最前線を学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

原子や宇宙に関する新聞記事やニュースに関心を持つ。科学の発展は日進月歩で、次々と新しいことが発見されている。授業に関連する新発見があるかもしれない。本授業の準備学習は 1 時間、復習は 3 時間を標準とする。授業で扱った問などの復習を中心に組み込んで欲しい。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。教材（授業で使用するパワーポイント）の pdf ファイルを学習支援システムで公開する。教材の写真以外のページを印刷したものを配布する予定である。

【参考書】

- ・高校の物理基礎・物理の教科書
- ・新しい高校物理の教科書 山本明利, 左巻健男(編著) 講談社ブルーバックス
- ・もういちど読む数研の高校物理 第 1 巻、第 2 巻 数研出版
- ・ビジュアル物理 ニュートン別冊 ニュートンプレス
- ・物理学のコンセプト 4 電気・磁気と光 小出昭一郎(監修) 共立出版
- ・物理学のコンセプト 9 星と宇宙 小出昭一郎(監修) 共立出版
- ・やっかいな放射線と向き合って暮らしていくための基礎知識 田崎晴明 朝日出版社

pdf ファイル：

<https://www.gakushuin.ac.jp/~881791/radbookbasic/>

【成績評価の方法と基準】

定期試験は実施せずに、小テスト（70%）と授業への参加（30%）で評価する。授業への参加は授業の終わりに提出するコメントシートで評価する。やむを得ない理由で欠席した場合は小テストなどの代替措置としてレポートなどの課題を与える。小テストでは、自筆ノートと授業で使用したスライド（学習支援システムに掲載した pdf ファイルを印刷したもの）の参照を認める。平常評価の実施方法の詳細は受講生の意見も取り入れて授業時にお知らせする。小テストなどの課題は授業で扱った内容に関する知識と簡単な応用力をみるもので、授業に出席していれば簡単に思えるはずである。難しい数式を計算するような問題は出題しない。

【学生の意見等からの気づき】

授業満足度を決めるポイントは、授業の難易度や速度・時間配分や教え方ではなく、学生諸君が授業内容に対して興味や関心を持てるかどうかという点にあったのではないかと考える。物理学は一見難解そうな分野ではあるが、どのような分野であっても興味を喚起する方法はあるだろう。物理学を楽しんでもらえるように努力するつもりである。

【学生が準備すべき機器他】

自宅でインターネットに接続できる機器（スマホやタブレット、PC など）が必要である。

【Outline (in English)】

In this subject we will learn about atoms, radiation, optics, electromagnetism, aurora, interplanetary space, interstellar space, life of the sun and cosmology. A small atom is a component of the great universe and knowledge about atoms is essential to learning the universe. We will learn how small atoms are connected to the big universe.

It is wonderful that an invisible atom is connected to the stars shining on our head. Optics and electromagnetism are important fields of physics. In this lecture, I will explain some phenomena occurring in outer space based on knowledge of optics and electromagnetism. Knowledge of physics can also be applied to far away space. We also learn that the phenomena occurring in the universe have an impact on us living on Earth. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Final grade will be calculated according to the following process Short reports (60%), term-end examination (40%).

PHY100LA

入門物理学 A

2017 年度以降入学者

サブタイトル：原子から宇宙まで

井坂 政裕

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 3/Wed.3

単位数：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

物理学は、原子から宇宙まで、広く自然現象やそのしくみを理解することが大きな目的であり、世界中で日々研究が進められている。そうした研究によって物理学は現在でも大いに進展しているが、物理学の基礎となるのが本授業で扱う「力学（ニュートン力学）」である。力学は、ガリレオ・ガリレイやアイザック・ニュートンが発見した法則や、彼らが示した科学的な見方・考え方が出発点となっている。この授業では、身近な具体例をできるだけ取り上げながら、力学の法則やその意味、法則を通してどのようなことが理解できるのかを解説し、現代科学を理解するうえでも重要な科学的な見方や考え方がどのようなものかを紹介する。本授業を通して、学生は、天体の運動を含め、身の回りの様々な力学現象が物理学に基づいてどのように理解できるかを学び、科学的な見方や考え方の基礎を身に付ける。

【到達目標】

- ・ニュートンの運動の法則とはどのようなものかを説明することができる
- ・身の回りの物体の運動や惑星の運動などを、ニュートン力学に基づき理解することができる
- ・ニュートン力学の学習を通して、法則や理論に基づき論理的に物事を思考する基盤を獲得する

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

スライドを使用した講義形式で行い、授業内容に応じて、ビデオや簡単な実験装置を使用する場合がある。この授業は原則として対面授業として実施するが、初回授業はリアルタイムオンライン授業として実施する。

各回の授業内容に関する選択式問題による小テストを、学習支援システム上で実施する。

最終授業で、13回までの講義内容のまとめと復習だけでなく、授業内で実施した小テストに対する講評や解説も行う。

講義では、高校で物理を履修していなくても理解できるよう平易に説明する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	序章	授業全体の内容を紹介する。
第 2 回	惑星の運動	ケプラーの法則を中心に惑星の運動を解説するとともに、星座をつくる星（恒星）と惑星との夜空での見え方の違いを説明する。
第 3 回	ガリレオが発見した法則	ガリレオ・ガリレイが発見した落体の法則と慣性の法則について解説する。
第 4 回	速度と加速度	運動を表すために必要な速度と加速度について解説する。

第 5 回	ニュートンの運動の法則	最も基本的で重要な法則であるニュートンの運動の法則について解説する。
第 6 回	力のつりあいと浮力	力がつりあった状態がどのようなものか説明する。また、浮力について紹介する。
第 7 回	万有引力の法則と重力による運動	ニュートンによる万有引力の発見について解説する。さらに、自由落下や放物運動などについて解説する。
第 8 回	摩擦力と空気抵抗	摩擦力や空気抵抗がある場合、物体の運動がどのようになるか解説する。
第 9 回	回転運動とコリオリ力	台風の渦を具体例に、回転運動やコリオリ力について紹介する。
第 10 回	運動の勢いを表すには？	運動量保存則について解説する
第 11 回	「エネルギー」を定義する	自然科学・物理学における仕事やエネルギーの定義とエネルギーの原理について解説する。
第 12 回	エネルギー保存則	エネルギー保存則について解説する。
第 13 回	ロケットと人工衛星	ロケットや人工衛星を例として、宇宙速度や天体の運動についても解説する。
第 14 回	まとめ	春学期のまとめを行う。また、第 13 回までに実施した小テストの講評と解説を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・身の回りの自然現象や科学ニュースに関心を持つこと。
- ・授業内容と関連する自然現象や科学技術などの具体例が何か考えること。
- ・配布資料などをもとに、各回の学習内容の復習を行うこと。
- ・本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しない。

【参考書】

必要に応じて授業中に紹介する。

【成績評価の方法と基準】

期末レポート(約 50%)と小テスト(約 50%)により評価する。毎回の授業内容に関する小テストを学習支援システム上で実施する。期末レポートは、授業内容に関する課題を出題する。期末試験は実施しない。

【学生の意見等からの気づき】

わかりやすい説明を心がけます。

【Outline (in English)】

Course outline: This course introduces the basic knowledge of the Newtonian mechanics to students taking this course. It also helps students acquire way of thinking from a scientific perspective.

Learning Objectives: By the end of the course, students should be able to do the following:

- ・ Understand the Newton's laws of motion and universal gravitation
- ・ Explain the motion of falling objects and the similarity to the revolution of the moon
- ・ Describe the scientific definition of the work and energy
- ・ Discuss the basic mechanism of a rocket escaping the gravity area of the Earth
- ・ Explain the Coriolis force and its effects on meteorological phenomena

Learning activities outside of classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading Criteria/Policy: Grading will be decided based on mini-exam in each class meeting (50%) and term-end report (50%).

PHY100LA

入門物理学 B

2017 年度以降入学者

サブタイトル：原子から宇宙まで

井坂 政裕

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 3/Wed.3

単位数：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、光の現象や性質から始まり、ミクロな世界や非常に広大な宇宙に至るまで、幅広く物理現象やその背後にある物理法則を解説する。こうした知見は、20世紀以降の現代物理学の発展により得られたものである。

本授業を通して、学生は、現代物理学の世界やその広がりを知ると共に、現代物理学の知見に基づく科学的な見方・考え方を身に付ける。

【到達目標】

- ・光について、波としての性質と粒子としての性質が何かを理解し、それらを併せ持つことを理解できる
- ・ミクロな世界の物理に関し、量子論の始まりや原子の構造などについて概要を理解できる
- ・宇宙の始まりから現在までの進化を理解することができる
- ・物理学がこれまで、理論と実験の両方を基にして発展してきたことを理解することができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

スライドを使用した講義形式で行い、授業内容に応じて、ビデオや簡単な実験装置を使用する場合がある。この授業は原則として対面授業として実施するが、初回授業はリアルタイムオンライン授業として実施する。

各回の授業内容に関する選択式問題による小テストを、学習支援システム上で実施する。

最終授業で、13回までの講義内容のまとめや復習だけでなく、授業内で実施した小テストに対する講評や解説も行う。

講義では、高校で物理を履修していなくても理解できるよう平易に説明する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	序章	講義で扱うテーマについて概観する
第 2 回	光に関する現象	虹や曇気楼などの自然現象やレンズなどを例に挙げ、その原理を解説する
第 3 回	光の波動性	光が持つ性質を波として捉えて解説する
第 4 回	光の粒子性	光の粒子としての振る舞いについて解説する
第 5 回	物質の二重性	光やミクロな物質が持つ波の性質と粒子の性質の二重性について解説する
第 6 回	ミクロな世界の物理学	現在の量子力学の基礎としての量子論の起こりについて解説する
第 7 回	原子模型	原子模型について、その研究の歴史と共に解説する

第 8 回	原子の構造	電子や原子核の発見と原子の構造について解説する
第 9 回	原子核	原子核の性質や核エネルギーについての基礎知識を解説する
第 10 回	放射線	放射線についての基本的な知識を解説する
第 11 回	さらにミクロな世界へ	素粒子であるクォークやレプトンについて解説する
第 12 回	宇宙の始まりと進化	ビッグバンや宇宙の膨張について解説する
第 13 回	元素合成	宇宙や恒星における元素合成について解説する
第 14 回	まとめ	秋学期のまとめを行う。また、第 13 回までに実施した小テストの講評と解説を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・身の回りの自然現象や科学ニュースに関心を持つこと。
- ・授業内容と関連する自然現象や科学技術などの具体例が何か考えること。
- ・配布資料などをもとに、各回の学習内容の復習を行うこと。
- ・本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しない。

【参考書】

必要に応じて授業中に紹介する。

【成績評価の方法と基準】

期末レポート（約 50 %）と小テスト（約 50 %）により評価する。毎回の授業内容に関して、小テストを学習支援システム上で実施する。期末レポートは、授業内容に関する課題を出題する。期末試験は実施しない。

【学生の意見等からの気づき】

わかりやすい説明を心がけます。

【Outline (in English)】

Course outline: This course introduces basic knowledge of the modern physics. It also helps students acquire way of thinking from a scientific perspective.

Learning Objectives: By the end of the course, students should be able to do the following:

- ・ Explain the photoelectric effect and its application technologies
- ・ Explain the wave-particle duality of light and matters
- ・ Describe and explain typical models of atoms and the structure of atoms in terms of the electron orbits
- ・ Explain how to confirm the existence of the atomic nucleus by experiments
- ・ Explain the properties of the alpha, beta and gamma-ray as typical radiations

Learning activities outside of classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading Criteria/Policy: Grading will be decided based on mini-exam in each class meeting (50%) and term-end report (50%).

PHY100LA

入門物理学 A

2017 年度以降入学者

サブタイトル：原子から宇宙まで I

吉田 智

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 2/Thu.2

単位数：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

19 世紀末から 20 世紀にかけての物理学の発展には目覚ましいものがある。その発展が可能だったのは、長い年月をかけて身近な自然現象についての実験や観測が行われ、また法則や理論が示されることによって、古典物理学と呼ばれる物理学全体の基礎がなされていたからである。この講義では最初に、私たちの身の周りで見られる物体の運動や、惑星の運動を通じて万有引力について解説し、次に、物体の運動に関係し、ミクロの領域への入り口となる熱やエネルギー等について解説する。

【到達目標】

この授業では、身の周りにある現象を通じて、物理に関する知識を深めることができると共に、物理的な物の見方を習得することを目標にしている。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

スライドと共に、資料を配付する講義形式で行います。難しい数式はできるだけ避け、時にはビデオ・実験装置を使用する予定です。随時最新の話題を取り入れながら、物理の基礎知識がなくても理解してもらえようように進めていきます。適宜、授業内での課題や質問に対する解説も行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	序章〈原子から宇宙まで〉	講義の全体について紹介する。
第 2 回	惑星の運動（ケプラー）	ケプラーの法則について解説する。
第 3 回	地上での物体の運動（ガリレオ）	ガリレオによる、地上における物体の運動の法則について解説する。
第 4 回	速度と加速度	物体の運動を理解するために必要となる、速度と加速度について解説する。
第 5 回	空中での物体の運動	空中での物体の運動や、重力加速度について解説する。
第 6 回	力のつりあい	力のつりあいによる円運動について解説する。
第 7 回	万有引力の法則	ニュートンの万有引力について解説する。
第 8 回	惑星の運動	万有引力の成功例として、ハレー彗星や惑星の運動について解説する。
第 9 回	スペースシャトル、人工衛星の運動	人工衛星等、地球の周りを周回する物体の運動について解説する。
第 10 回	エネルギー	エネルギーの定義とエネルギー保存則について解説する。

第 11 回 熱の法則と熱効率 熱に関係する法則と熱効率について解説する。

第 12 回 気体の法則、絶対零度 気体の法則について解説する。

第 13 回 気体分子の運動と温度 気体分子の運動と温度の関係について解説する。

第 14 回 まとめ 全体のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

次回以降の講義内容の理解を助けるためにも、内容を復習しておくことが必要です。本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用せず、資料を配布します。

【参考書】

授業内で適宜紹介する予定です。

【成績評価の方法と基準】

学習支援システムを利用した、各回の課題 (70%) と期末レポート (30%) で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

改善アンケートの記載は特にありませんでしたが、授業内容の質問には授業内や「学習支援システム」を使用して対応したいと思います。

【Outline (in English)】

This course teaches general physics, such as motion of a body on the earth, the law of universal gravitation through the motion of planets in the solar system, and thermodynamics and energy involved in atom. In this course, goals are to deepen the knowledge about physics through physical phenomena around us, and to acquire the physical perspective. After each class, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Grading will be decided based on term-end examination (30%), and short examinations in every class (70%).

PHY100LA

入門物理学 B

2017 年度以降入学者

サブタイトル：原子から宇宙まで II

吉田 智

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 2/Thu.2

単位数：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

20 世紀に発展した現代物理学の成果を応用することによって、現在の私たちの生活は、100 年前と比べて大きく変化しました。現代物理学の特徴の 1 つは、その対象が非常に小さい原子核・素粒子や非常に大きい銀河・宇宙へと広がっていったことである。現在も物理学は発展し続けており、例えば 21 世紀の今、新たな宇宙観が示されようとしている。この講義では、最初に身近な光（電磁波）について解説し、次に、原子や原子核といったミクロの領域や、宇宙の始まりから星の進化や宇宙の大規模構造といったマクロの領域の現象について解説する。

【到達目標】

この授業では、理論と実験・観測の両立によって自然科学が発展してきたことを理解し、科学的な事柄に対して自ら判断ができるように、物理的な物の見方を修得することを目標としている。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

スライドと共に、資料を配付する講義形式で行います。難しい数式はできるだけ避け、時にはビデオ・実験装置を使用する予定です。随時最新の話題を取り入れながら、物理の基礎知識がなくても理解してもらえようように進めていきます。適宜、授業内での課題や質問に対する解説も行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	序章 < 20 世紀以後の物理学 >	講義の全体について紹介する。
第 2 回	光の性質（波動性と粒子性）	光（電磁波）の、波動性や太陽電池にも関係する粒子性について解説する。
第 3 回	光の性質（二重性）	光の二重性や、ミクロの世界の不思議について紹介する。
第 4 回	原子の構造（電子の発見）	ランプから発せられる光の波長に関する法則や、電子の発見に至る研究について解説する。
第 5 回	原子の構造（原子核の発見）	原子の構造について解説する。
第 6 回	原子核の構造と核エネルギー	原子核構造と原子核エネルギーについて解説する。
第 7 回	核分裂と核融合	核分裂反応と核融合反応の応用について解説する。
第 8 回	太陽における核融合反応	太陽中心部で起こっている核融合反応について解説する。
第 9 回	星の進化、超新星爆発	星の進化と、星の終焉の 1 つの超新星爆発について解説する。
第 10 回	宇宙での元素合成	宇宙の中で、元素がどのようにして合成されたのか解説する。

第 11 回	クォークとレプトン	万物の基となる素粒子、クォークとレプトンについて解説する。
第 12 回	宇宙の進化	これまで宇宙はどのようにして進化してきたのか、解説する。
第 13 回	銀河系、宇宙の大規模構造	我々の銀河系を含めた、宇宙の大規模構造について、紹介する。
第 14 回	まとめ	全体のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

次回以降の講義内容の理解を助けるためにも、内容を復習しておくことが必要です。本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用せず、資料を配布します。

【参考書】

授業内で適宜紹介する予定です。

【成績評価の方法と基準】

学習支援システムを利用した、各回の課題（70%）と期末レポート（30%）で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

改善アンケートの記載は特にありませんでしたが、授業内容の質問には授業内や「学習支援システム」を使用して対応したいと思います。

【Outline (in English)】

This course teaches general physics such as the universe and elementary particles that research has developed since the 20th century. In this course, goals are to deepen the knowledge about physics through the phenomena around us, and to acquire the physical perspective. After each class, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Grading will be decided based on term-end examination (30%), and short examinations in every class (70%).

PHY100LA

入門物理学 A

2017 年度以降入学者

サブタイトル：やさしく学べる自然の仕組み

鈴木 裕武

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 4/Mon.4

単位数：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

自然や物の理（ことわり）の探求は、物の運動の法則を探求することから始まった。我々もそこから始めよう。本授業では自然を理解するための基礎である力と運動の法則とアインシュタインの特殊相対性理論を学ぶ。力と運動の法則を学べば身近な物体の運動から人工衛星の運動までを理解でき、相対性理論を知れば宇宙の真理に迫ることが出来る。ビジュアルや日常感覚で自然の仕組みを理解できるように工夫をして話を進める。自然の法則や仕組みの素晴らしさを楽しんでもらいたい。楽しんでいるうちに、法則や理論に基づき論理的に物事を考えることも出来るようになるはずだ。物理が苦手な人にも、物理に興味を持って学びたいと思っている人にも満足してもらえる授業を目指す。

【到達目標】

身近な物体や人工衛星の運動が力と運動の法則（力学）によってシンプルに説明できることを理解する。また、理論に基づき物体の運動が予想出来ることを理解する。特殊相対性理論に関しては、時間の流れ方や物体の長さが状況により異なることなど、一般的な常識を越えた時空の性質を理解する。物理学を学ぶことを通して、法則や理論に基づき論理的に物事を思考する基盤を獲得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

物理に苦手意識を持っている人も多いと思う。この授業では、そのような学生諸君が楽しんで理解できるように話を進める。理解できたときの満足感を味わってほしい。初心者が自然の仕組みを楽しんで学べるように、なるべく身近な話題を取り上げてわかりやすい解説をする。

講義形式の対面授業を行うが、受講人数がわからない初回授業のみハイフレックスを用いた対面授業とする。入国ができない外国人留学生や基礎疾患等における配慮を必要とする学生に対してはオンラインによる受講を保障する。やむを得ない理由（体調不良や濃厚接触者になってしまった等）により受講できなかった者のために、ハイフレックス形式の授業を行う場合もある。受講に必要な授業情報は学習支援システムで公開する。授業前後に必ず学習支援システムを確認しよう。

授業では物理学の基礎知識がなくても理解できるように解説をする。難しい数式はできるだけ避け、図と説明を工夫してイメージを把握できるようにする。基本事項の解説に続いて具体例を示し、クイズのような問題を通して理解を深める。プロジェクター（パワーポイント）と黒板・ペンタブレット（板書）を併用して分かりやすく解説する。授業の初めに、前回の授業で行った小テストなどの課題の解説と講評を行う。

授業自体が面白い動画（目標は YouTube の動画）であるような授業を心がける。よりよい授業にするために、授業内容や進め方に関する学生諸君からの質問・提案・意見を歓迎する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	宇宙を楽しむ方法	授業の概要を説明する。また、物理学の方法論や楽しみ方を解説する。
第 2 回	山手線が等速度で走ることは可能か	速度と加速についての基本を学ぶ。
第 3 回	自然は重ね合わせを好む	自然界ではいろいろなことが足し算できることを学ぶ。
第 4 回	投げたボールの未来を予言する	地球上で投げたボールの運動について理解する。
第 5 回	勢いがつくと止まらない理由	ニュートンの運動の法則を学ぶ。
第 6 回	無重力になる方法	電車が発車したときや停止するときに感じる慣性力を理解する。
第 7 回	ジェットコースターが滑り始めた高さを越えられないのはなぜか	エネルギーとエネルギーの保存について学ぶ。
第 8 回	光子帆船イカロス	運動の勢いの表し方と運動の勢いの保存について学ぶ。
第 9 回	二人が引き合う理由	万有引力を学び地球の質量を求める。
第 10 回	地面に落ちないで落下を続ける方法	地球表面すれすれを周る人工衛星の速さを求める。
第 11 回	タイムマシンはすでにある	動いている乗り物の中の時間は、ゆっくり進むように観察されることを理解する。
第 12 回	相対論的ダイエット法	動いている物体の長さが縮んでいるように観察されることを学ぶ。
第 13 回	ダイエットしても重くなる	動く物体の質量が増加することを学ぶ。
第 14 回	試験・まとめと解説	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

車や電車が動き出すときや止まるときにどのような力が自分にはたらくか観察しよう。思いっきりジャンプするとほんの少し無重力を実感できるかもしれない。日常生活で経験するすべての運動はニュートン力学で説明できる。なぜだろうと思い、観察し考察する姿勢をもって欲しい。
本授業の準備学習は 1 時間、復習は 3 時間を標準とする。授業で扱った問などの復習を中心に組み込んで欲しい。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。教材（授業で使用するパワーポイントスライド）の pdf ファイルを学習支援システムで公開する。教材の写真以外のページを印刷したものを配布する予定である。

【参考書】

- ・高校の物理基礎・物理の教科書
- ・新しい高校物理の教科書 山本明利、左巻健男（編著）講談社ブルーバックス
- ・もういちど読む数研の高校物理 第 1 巻、第 2 巻 数研出版
- ・ビジュアル物理 ニュートン別冊 ニュートンプレス
- ・新装版 相対論の ABC 福島肇（著）講談社ブルーバックス

【成績評価の方法と基準】

定期試験は実施せずに、小テスト（70%）と授業への参加（30%）で評価する。授業への参加は授業の終わりに提出するコメントシートで評価する。やむを得ない理由で欠席した場合は小テストなどの代替措置としてレポートなどの課題を与える。小テストでは、自筆ノートと授業で使用したスライド（学習支援システムに掲載した pdf ファイルを印刷したもの）の参照を認める。平常評価の実施方法の詳細は受講生の意見も取り入れて授業時にお知らせする。小テストなどの課題は授業で扱った内容に関する知識と簡単な応用力をみるもので、授業に出席していれば簡単に思えるはずである。難しい数式を計算するような問題は出題しない。

【学生の意見等からの気づき】

授業満足度を決めるポイントは、授業の難易度や速度・時間配分や教え方ではなく、学生諸君が授業内容に対して興味や関心を持てるかどうかという点にあったのではないかと考える。物理学は一見難解そうな分野ではあるが、どのような分野であっても興味を喚起する方法はあるだろう。物理学を楽しんでもらえるように努力するつもりである。

【学生が準備すべき機器他】

自宅でインターネットに接続できる機器（スマホやタブレット、PCなど）が必要である。

【Outline (in English)】

In this subject, we learn the basics of classical mechanics and relativity theory. We can understand the movement of familiar objects by learning classical mechanics. We can approach the truth of the universe by learning relativity theory. By learning physics fun, we aim to become able to enjoy science. I intend to give a lecture devised so that students can understand physics visually and intuitively. Through knowledge and experience learned in this lecture, you should be able to learn how to think things logically using rules and theory.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Final grade will be calculated according to the following process Short reports (60%), term-end examination (40%).

PHY100LA

入門物理学 B

2017 年度以降入学者

サブタイトル：やさしく学べる宇宙の仕組み

鈴木 裕武

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 4/Mon.4

単位数：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

原子から宇宙まで、物理学の守備範囲は広い。本授業では、原子や素粒子の極微のスケールから地球、オーロラ、さらには太陽、銀河系、ブラックホールなどの宇宙スケールのお話を扱う。また、日常生活の中で目にすることが多い光にかかわる現象と現代の生活になくはない電気や磁気の話も解説する。さらに、宇宙空間で起きている現象が我々の生活と無縁ではないことも解説する。

【到達目標】

原子から宇宙までの基礎知識を習得する。光に関する身近な現象と光のスペクトルの基礎を理解する。電気エネルギーと発電の仕組みを理解する。地球周辺の宇宙空間で起きている現象を学び、それらの現象が我々の実生活にも関連があることを理解する。恒星の一生や宇宙論を学び宇宙の姿を理解する。以上の内容を通じて物理的な自然現象と我々とのかかわりを理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

原子から宇宙までの広範囲にわたる物理的自然現象をわかりやすく解説する。知識の習得だけでなく、理解できて楽しくなるような講義を行うつもりである。原子から宇宙まで、我々の住む宇宙全体を理解することを楽しんでもらいたい。

授業形態は講義形式の対面授業とする。入国ができない外国人留学生や基礎疾患等における配慮を必要とする学生に対してはオンラインによる受講を保障する。やむを得ない理由（体調不良や濃厚接触者になってしまった等）により受講できなかった者のために、ハイフレックス形式の授業を行う場合もある。受講に必要な授業情報は学習支援システムで公開する。授業前後に必ず学習支援システムを確認しよう。

授業では物理学の基礎知識がなくても理解できるように解説をする。難しい数式はできるだけ避け、図と説明を工夫してイメージを把握できるようにする。基本事項の解説に続いて具体例を示し、クイズのような問題を通して理解を深める。プロジェクター（パワーポイント）と黒板・ペンタブレット（板書）を併用して分かりやすく解説する。授業の初めに、前回の授業で行った小テストなどの課題の解説と講評を行う。

授業自体が面白い動画（目標は YouTube の動画）であるような授業を心がける。よりよい授業にするために、授業内容や進め方に関する学生諸君からの質問・提案・意見を歓迎する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	マイクロからナノそしてフェムト	授業の概要を説明する。また、物質の基本要素である原子や素粒子について学ぶ。
第 2 回	α と β と γ と	放射線の正体と性質を学ぶ。
第 3 回	昼間の空は青いの夕焼けが赤いのはなぜか	光の性質と光のスペクトルを理解する。

第 4 回	粒子は波である	極微の世界の不思議な性質を学ぶ。
第 5 回	力の正体を暴く	電気と磁気の基本を学ぶ。
第 6 回	スマホが熱くなる理由	電気エネルギーと発電・送電を学ぶ。
第 7 回	紫外線から守れ	オゾン層と電離層について学ぶ。
第 8 回	宇宙の風に乗る	地球磁気圏・惑星間空間・太陽圏について学ぶ。
第 9 回	オーロラ	オーロラの正体に迫る。
第 10 回	太陽がくしゃみをする	宇宙が地球環境に与える影響を学ぶ。
第 11 回	天の川と星の世界	銀河系の宇宙空間と恒星について学ぶ。
第 12 回	我々は宇宙の子だ	恒星の一生と超新星爆発やブラックホールについて学ぶ。
第 13 回	宇宙の現在・過去・未来	宇宙の誕生と膨張宇宙について学ぶ。
第 14 回	最新の宇宙	宇宙研究の最前線を学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

原子や宇宙に関する新聞記事やニュースに関心を持つ。科学の発展は日進月歩で、次々と新しいことが発見されている。授業に関連する新発見があるかもしれない。本授業の準備学習は 1 時間、復習は 3 時間を標準とする。授業で扱った問などの復習を中心に組み込んで欲しい。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。教材（授業で使用するパワーポイントスライド）の pdf ファイルを学習支援システムで公開する。教材の写真以外のページを印刷したものを配布する予定である。

【参考書】

- ・高校の物理基礎・物理の教科書
- ・新しい高校物理の教科書 山本明利、左巻健男（編著）講談社ブルーバックス
- ・もういちど読む数研の高校物理 第 1 巻、第 2 巻 数研出版
- ・ビジュアル物理 ニュートン別冊 ニュートンプレス
- ・物理学のコンセプト 4 電気・磁気と光 小出昭一郎（監修）共立出版
- ・物理学のコンセプト 9 星と宇宙 小出昭一郎（監修）共立出版
- ・やっかいな放射線と向き合って暮らしていくための基礎知識 田崎晴明 朝日出版社

pdf ファイル：

<https://www.gakushuin.ac.jp/~881791/radbookbasic/>

【成績評価の方法と基準】

定期試験は実施せずに、小テスト（70%）と授業への参加（30%）で評価する。授業への参加は授業の終わりに提出するコメントシートで評価する。やむを得ない理由で欠席した場合は小テストなどの代替措置としてレポートなどの課題を与える。小テストでは、自筆ノートと授業で使用したスライド（学習支援システムに掲載した pdf ファイルを印刷したもの）の参照を認める。平常評価の実施方法の詳細は受講生の意見も取り入れて授業時にお知らせする。小テストなどの課題は授業で扱った内容に関する知識と簡単な応用力をみるもので、授業に出席していれば簡単に思えるはずである。難しい数式を計算するような問題は出題しない。

【学生の意見等からの気づき】

授業満足度を決めるポイントは、授業の難易度や速度・時間配分や教え方ではなく、学生諸君が授業内容に対して興味や関心を持てるかどうかという点にあったのではないかと考える。物理学は一見難解そうな分野ではあるが、どのような分野であっても興味を喚起する方法はあるだろう。物理学を楽しんでもらえるように努力するつもりである。

【学生が準備すべき機器他】

自宅でインターネットに接続できる機器（スマホやタブレット、PC など）が必要である。

【Outline (in English)】

In this subject we will learn about atoms, radiation, optics, electromagnetism, aurora, interplanetary space, interstellar space, life of the sun and cosmology. A small atom is a component of the great universe and knowledge about atoms is essential to learning the universe. We will learn how small atoms are connected to the big universe.

It is wonderful that an invisible atom is connected to the stars shining on our head. Optics and electromagnetism are important fields of physics. In this lecture, I will explain some phenomena occurring in outer space based on knowledge of optics and electromagnetism. Knowledge of physics can also be applied to far away space. We also learn that the phenomena occurring in the universe have an impact on us living on Earth. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Final grade will be calculated according to the following process Short reports (60%), term-end examination (40%).

BIO100LA

入門生物学 A

2017 年度以降入学者

木原 章

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 4/Tue.4

単位数：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「入門生物学」は、生物学を初めて学ぶか、もう一度基礎から学び直したい文化系学生を対象とした講座です。「入門生物学 A」では、主としてミクロレベルの生命現象を対象に、DNA から細胞・個体が作り上げられるしくみを学びます。現代の生物学が私達の生活や社会に対してどのような影響をもたらしたか、私達の「生命観」にどのような影響を与えてきたのか考えていきます。

【到達目標】

本授業の到達目標は 2 つあります。第一に、「生物学」の基礎知識を身につけることです。第二に、論理的思考力と文章力を身につけてもらいます。授業計画に従って、課題をこなしているうちに、論理的思考と文章力が身につくように授業計画は組み立てられています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

基本的に対面方式で行う予定です。第 1 回目の授業も、対面で行う予定ですが教室に入りきれない可能性もありますので、オンラインでの参加も可能とします。2 回目以降は、オンライン受講が認められた学生がいる場合は、オンライン中継も行う予定です。本授業では、生物学を大きく変えた発見・技術革新を毎回一つとりあげ、①歴史的背景、②基礎知識、③それが社会にもたらした影響、の 3 項目をたどって解説します。

授業は講義形式で、要点は板書で示しますが、必ずノートを取るようにして下さい。毎回、授業中に 10～15 分程度の映像教材を呈示します。

リアクションペーパー等へのフィードバックは、授業内で、または学習支援システム Hoppii を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ダーウィン進化論	「進化論」は、現在でも生物学の基本的な考え方「パラダイム」として大きな影響力を持っています。
第 2 回	メンデル遺伝学	遺伝子の発見が何をもたらしたのか学びます。
第 3 回	生体内の化学反応	体の中で起きる化学反応の役割について学びます。
第 4 回	微生物工場	微生物を利用した発酵食品などについて学びます。
第 5 回	遺伝子の正体 DNA	メンデルが提唱した遺伝子が DNA であることが解明された経緯を学びます。
第 6 回	遺伝子組み換えとゲノム編集	人工的に遺伝子を変えて新たな生きものを生み出す技術を学びます。
第 7 回	遺伝子改変生物の是非	人間が新たに作り出した生物の是非を考えます。
第 8 回	ゲノム解読と遺伝子診断	DNA の塩基配列が人の運命にどのような影響を与えるのか、考えます。

第 9 回	遺伝子治療とエンハンスメント	人間の遺伝子を改変して病気を治療したり、新しい能力を付与する事の問題点を整理します。
第 10 回	移植医療と再生医療	臓器移植から臓器再生への流れを学びます。
第 11 回	細胞の運命	受精卵から始める細胞の一生を考えます。
第 12 回	初期化細胞の衝撃	成人の細胞を初期化して、新たな生命を作り出す技術について学びます。
第 13 回	生命操作の是非	人間が行う生命操作の是非について考えます。
第 14 回	まとめ	13 回の授業のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

受講生の皆さんは、日常的に新聞記事の科学欄を読むように心がけて下さい。(週 1 時間以上) 予習として、授業テーマについて過去の新聞記事を検索し読むようにして下さい。(週 1 時間以上) 復習として、授業での指示に従って授業の要約を作成し提出して下さい。(週 1 時間以上) 以上合計して週 4 時間以上の自習をして下さい。

【テキスト（教科書）】

教科書は無し。

【参考書】

参考書は必要に応じて HOPPII を通じて提示します。

【成績評価の方法と基準】

授業要約 200 字 80 %

最終レポート 20 %

授業要約(200 字要約) のまとめ方は第 1 回目の授業で説明します。それによって毎回(13 回まで) 授業を要約して HOPPII のテスト欄に提出して頂きます。

最終レポートでは、13 回の授業の中のいずれか一つのテーマを取り上げて、自分の意見を 200 字程度で発表してもらいます。

【学生の意見等からの気づき】

私語の厳罰化については、多くの学生の指示を得ておりますので、今後も継続いたします。板書が見にくいというご意見が寄せられています。大教室での板書は、大きな字で書くように心がけていますが、読みにくい場合は、その場で挙手をして指摘して下さい。また、後ろの方に座って見にくい場合は、前の方に座って下さい。

【学生が準備すべき機器他】

単位取得には、HOPPII へのアクセスできる環境が必須です。ご自分の機器が無い場合は、大学内で利用可能なコンピュータを確認してください。

【その他の重要事項】

メールでのレポート提出は受け付けません。そのような行為は行わないようにして下さい。

【Outline (in English)】

(Course outline)

In this class, students will learn the most basic biological concepts which are relating to our life. Major topics for the semester include: evolution, genetics, molecular biology and cell biology.

(Learning Objectives)

The goal of this class is to understand the importance and the impact of the modern biology on your own life.

(Learning activities outside of classroom)

Students will complete the 200 characters summary of the previous class. Also students will be expected to read the scientific news articles at least for 2 hours. The total required study time is 4 hours for each class.

(Grading Criteria /Policies)

Your overall grade in the class will be decided based on the following 13 times class summary 80% the final report 20%

BIO100LA

入門生物学 B

2017 年度以降入学者

木原 章

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 4/Tue.4

単位数：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「入門生物学」は、生物学をはじめて学ぶか、基礎から学び直したい文化系学生を対象とした講座です。秋学期の「入門生物学 B」では、主としてマクロレベルの生命現象を対象として扱います。細胞が集まることで、個体ができあがるしくみ。生物が集まることでできあがる生態系。これらの「群れ」のしくみは、「自己組織化」と呼ばれたり、「社会現象」と呼ばれたりしています。最近では「群知能」と言って、群れ自体に潜む知的な振る舞いについて研究も進みつつあります。1 + 1 が 2 にならない、生命現象の世界について考えてみましょう。

【到達目標】

本授業の到達目標は 2 つ有ります。第一に、「生物学」の基礎知識を身につけることです。第二に、論理的思考力と文章力を身につけてもらいます。授業計画に従って、課題をこなしているうちに、論理的思考と文章力が身につくように授業計画は組み立てられています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

基本的に対面方式で行う予定です。第 1 回目の授業も、対面で行う予定ですが教室に入りきれない可能性もありますので、オンラインでの参加も可能とします。2 回目以降は、オンライン受講が認められた学生が居る場合は、オンライン中継も行う予定です。授業は講義形式で、要点は板書で示しますが、必ずノートを取るようして下さい。

毎回、生物学のマクロレベルの現象を一つとりあげて、その背後に潜む生物特有の仕組みを見つけ出していきます。毎回、10～15 分程度の映像教材を呈示します。

リアクションペーパー等へのフィードバックは、授業内で、または学習支援システム Hoppii を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	マクロレベルの生命現象とは	生物をパーツに分解して、その仕組みを明らかにするのが「ミクロレベル」の生物学ならば、「マクロレベル」とは、生物を集めていくと何が起きるのかと言う問題を扱う学問になります。
第 2 回	自己複製・変異・淘汰のサイクル	進化は、環境や他の生物との相互作用で起こります。進化が起きる仕組みを、生物以外のケースと比べて考えてみます。
第 3 回	共進化	進化における相互関係が 2 種に限定されると、共に進化を加速させて、その結果特殊な種間関係ができあがる場合が有ります。特定の花と、特定の虫と言った共進化について考えてみます。

第 4 回 神経回路の可塑性

記憶・学習とは、複数の神経回路がつながることです。このつながりを作り出しているのが、シナプスという神経の接続部です。生物が、神経回路を変化させて学習するメカニズムについて考えます。動物は生まれながらにして身につけている行動があります。これを「本能行動」と言いますが、この本能行動を可能にしている仕組みはどうなっているのでしょうか？神経回路と遺伝子との関係について考えてみましょう。

第 5 回 本能行動

ここでは「心」と「脳」の問題について考えます。神経回路が複雑化する中で、「意識」が生まれたと言われています。「意識」を作り出す背景について考えてみます。神経回路として形成された「文明」や「文化」が次の世代の神経回路として伝わるメカニズムについて考えます。

第 6 回 意識と神経

第 7 回 ミームの進化

第 8 回 群れ

生き物の群れは、信じられないような同調行動を取ります。この群れの行動から生まれた「群知能」について考えます。

第 9 回 社会

人間以外の生物にも、高度な社会を構築する生き物がいます。本授業では、アリを取りあげ、その社会構造や、個々のアリの働き方について学びます。多細胞生物では、それぞれの細胞が独自の役割分担を持つことで、高度な生き物が作り上げられます。受精卵が細胞分裂して、一つの個体を作り上げるしくみについて考えます。

第 10 回 発生・分化

iPS 細胞のように、細胞の運命をコントロールすることで、人工的に体の再生を可能とする技術が登場しています。医療まで含めて、現在の再生技術について考えます。

第 11 回 再生

生態学では、それぞれのパーツが集まって作り出す新たな属性「創発的属性」を調べることで生命現象を理解しています。逆の意味で言うと、「創発的属性」は、パーツに分解することで消えてしまう特徴でも有ります。本授業では、この「創発的属性」について学びます。

第 12 回 生生態学生命観

現在、人間が引き起こした環境変動によって多くの種が消滅していると言われていて、種の絶滅によって、生態系の多様性が失われ、環境問題が起きるとも言われています。本授業では、多様性の指標とされている「種」について、基礎から考えてみたいと思います。

第 13 回 種と多様性

13 回のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

受講生の皆さんは、日常的に新聞記事の科学欄を読むように心がけて下さい。（週 1 時間以上） 予習として、授業テーマについて過去の新聞記事を検索し読むようにして下さい。（週 1 時間以上） 復習として、授業での指示に従って授業の要約を作成し提出して下さい。（週 1 時間以上） 以上合計して週 4 時間以上の自習をして下さい。

【テキスト（教科書）】

教科書は無し。

【参考書】

参考書は必要に応じて授業支援システムを通じて提示します。

【成績評価の方法と基準】

授業要約 200 字 80 %

最終レポート 20 %

授業要約（200字要約）のまとめ方は第1回目の授業で説明します。それに従って毎回（13回まで）授業を要約してHOPPIIのテスト欄に提出して頂きます。

最終レポートでは、13回の授業の中のいずれか一つのテーマを取り上げて、自分の意見を200字程度で発表してもらいます。

単位取得に関わる授業要約は、必ずご自分で作成して下さい。

同一の要約文が複数の学生から提出された場合は、全員不正行為に荷担したと見なし、処分の対象とします。

【学生の意見等からの気づき】

私語の厳罰化については、多くの学生の指示を得ておりますので、今後も継続いたします。板書が見にくいというご意見が寄せられています。大教室での板書は、大きな字で書くように心がけていますが、読みにくい場合は、その場で挙手をして指摘して下さい。また、後ろの方に座って見にくい場合は、前の方に座って下さい。

【学生が準備すべき機器他】

単位取得には、HOPPIIへのアクセスが必須です。

【その他の重要事項】

メールでのレポート提出は受け付けません。そのような行為は行わないようにして下さい。

【Outline (in English)】

(Course outline)

In this class, we will learn the most basic biological concepts which are relating to our life. Major topics for the semester include: developmental biology, neuroscience, behavior science, ecology and biodiversity.

(Learning Objectives)

The goal of this class is to understand the macro-mechanism of living organisms.

(Learning activities outside of classroom)

Students will complete the 200 characters summary of the previous class. Also students will be expected to read the scientific news articles at least for 2 hours. The total required study time is 4 hours for each class.

(Grading Criteria /Policies)

Your overall grade in the class will be decided based on the following

13 times class summary 80%

the final report 20%

BIO100LA

入門生物学 A

2017 年度以降入学者

木原 章

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 5/Tue.5

単位数：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「入門生物学」は、生物学を初めて学ぶか、もう一度基礎から学び直したい文化系学生を対象とした講座です。「入門生物学 A」では、主としてミクロレベルの生命現象を対象に、DNA から細胞・個体が作り上げられるしくみを学びます。現代の生物学が私達の生活や社会に対してどのような影響をもたらしたか、私達の「生命観」にどのような影響を与えてきたのか考えていきます。

【到達目標】

本授業の到達目標は2つあります。第一に、「生物学」の基礎知識を身につけることです。第二に、論理的思考力と文章力を身につけてもらいます。授業計画に従って、課題をこなしているうちに、論理的思考と文章力が身につくように授業計画は組み立てられています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

基本的に対面方式で行う予定です。第1回目の授業も、対面で行う予定ですが教室に入りきれない可能性もありますので、オンラインでの参加も可能とします。2回目以降は、オンライン受講が認められた学生がいる場合は、オンライン中継も行う予定です。本授業では、生物学を大きく変えた発見・技術革新を毎回一つとりあげ、①歴史的背景、②基礎知識、③それが社会にもたらした影響、の3項目をたどって解説します。

授業は講義形式で、要点は板書で示しますが、必ずノートを取るようにして下さい。毎回、授業中に10～15分程度の映像教材を呈示します。

リアクションペーパー等へのフィードバックは、授業内で、または学習支援システム Hoppii を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ダーウィン進化論	「進化論」は、現在でも生物学の基本的な考え方「パラダイム」として大きな影響力を持っています。
第2回	メンデル遺伝学	遺伝子の発見が何をもたらしたのか学びます。
第3回	生体内の化学反応	体の中で起きる化学反応の役割について学びます。
第4回	微生物工場	微生物を利用した発酵食品などについて学びます。
第5回	遺伝子の正体DNA	メンデルが提唱した遺伝子がDNAであることが解明された経緯を学びます。
第6回	遺伝子組み換えとゲノム編集	人工的に遺伝子を変えて新たな生きものを生み出す技術を学びます。
第7回	遺伝子改変生物の是非	人間が新たに作り出した生物の是非を考えます。
第8回	ゲノム解読と遺伝子診断	DNAの塩基配列が人の運命にどのような影響を与えるのか、考えます。

第9回	遺伝子治療とエンハンスメント	人間の遺伝子を改変して病気を治療したり、新しい能力を付与する事の問題点を整理します。
第10回	移植医療と再生医療	臓器移植から臓器再生への流れを学びます。
第11回	細胞の運命	受精卵から始める細胞の一生を考えます。
第12回	初期化細胞の衝撃	成人の細胞を初期化して、新たな生命を作り出す技術について学びます。
第13回	生命操作の是非	人間が行う生命操作の是非について考えます。
第14回	まとめ	13回の授業のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

受講生の皆さんは、日常的に新聞記事の科学欄を読むように心がけて下さい。(週1時間以上) 予習として、授業テーマについて過去の新聞記事を検索し読むようにして下さい。(週1時間以上) 復習として、授業での指示に従って授業の要約を作成し提出して下さい。(週1時間以上) 以上合計して週4時間以上の自習をして下さい。

【テキスト（教科書）】

教科書は無し。

【参考書】

参考書は必要に応じて HOPPII を通じて提示します。

【成績評価の方法と基準】

授業要約 200 字 80 %

最終レポート 20 %

授業要約(200字要約)のまとめ方は第1回目の授業で説明します。それによって毎回(13回まで)授業を要約してHOPPIIのテスト欄に提出して頂きます。

最終レポートでは、13回の授業の中のいずれか一つのテーマを取り上げて、自分の意見を200字程度で発表してもらいます。

【学生の意見等からの気づき】

私語の厳罰化については、多くの学生の指示を得ておりますので、今後も継続いたします。板書が見にくいというご意見が寄せられています。大教室での板書は、大きな字で書くように心がけていますが、読みにくい場合は、その場で挙手をして指摘して下さい。また、後ろの方に座って見にくい場合は、前の方に座って下さい。

【学生が準備すべき機器他】

単位取得には、HOPPIIへのアクセスできる環境が必須です。ご自分の機器が無い場合は、大学内で利用可能なコンピュータを確認してください。

【その他の重要事項】

メールでのレポート提出は受け付けません。そのような行為は行わないようにして下さい。

【Outline (in English)】

(Course outline)

In this class, students will learn the most basic biological concepts which are relating to our life. Major topics for the semester include: evolution, genetics, molecular biology and cell biology.

(Learning Objectives)

The goal of this class is to understand the importance and the impact of the modern biology on your own life.

(Learning activities outside of classroom)

Students will complete the 200 characters summary of the previous class. Also students will be expected to read the scientific news articles at least for 2 hours. The total required study time is 4 hours for each class.

(Grading Criteria /Policies)

Your overall grade in the class will be decided based on the following 13 times class summary 80% the final report 20%

BIO100LA

入門生物学 B

2017 年度以降入学者

木原 章

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 5/Tue.5

単位数：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「入門生物学」は、生物学をはじめて学ぶか、基礎から学び直したい文化系学生を対象とした講座です。秋学期の「入門生物学 B」では、主としてマクロレベルの生命現象を対象として扱います。細胞が集まることで、個体ができあがるしくみ。生物が集まることでできあがる生態系。これらの「群れ」のしくみは、「自己組織化」と呼ばれたり、「社会現象」と呼ばれたりしています。最近では「群知能」と言って、群れ自体に潜む知的な振る舞いについて研究も進みつつあります。1 + 1 が 2 にならない、生命現象の世界について考えてみましょう。

【到達目標】

本授業の到達目標は 2 つ有ります。第一に、「生物学」の基礎知識を身につけることです。第二に、論理的思考力と文章力を身につけてもらいます。授業計画に従って、課題をこなしているうちに、論理的思考と文章力が身につくように授業計画は組み立てられています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

基本的に対面方式で行う予定です。第 1 回目の授業も、対面で行う予定ですが教室に入りきれない可能性もありますので、オンラインでの参加も可能とします。2 回目以降は、オンライン受講が認められた学生が居る場合は、オンライン中継も行う予定です。授業は講義形式で、要点は板書で示しますが、必ずノートを取るようして下さい。

毎回、生物学のマクロレベルの現象を一つとりあげて、その背後に潜む生物特有の仕組みを見つけ出していきます。毎回、10～15 分程度の映像教材を呈示します。

リアクションペーパー等へのフィードバックは、授業内で、または学習支援システム Hoppii を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	マクロレベルの生命現象とは	生物をパーツに分解して、その仕組みを明らかにするのが「ミクロレベル」の生物学ならば、「マクロレベル」とは、生物を集めていくと何が起きるのかと言う問題を扱う学問になります。
第 2 回	自己複製・変異・淘汰のサイクル	進化は、環境や他の生物との相互作用で起こります。進化が起きる仕組みを、生物以外のケースと比べて考えてみます。
第 3 回	共進化	進化における相互関係が 2 種に限定されると、共に進化を加速させて、その結果特殊な種間関係ができあがる場合が有ります。特定の花と、特定の虫と言った共進化について考えてみます。

第 4 回 神経回路の可塑性

記憶・学習とは、複数の神経回路がつながることです。このつながりを作り出しているのが、シナプスという神経の接続部です。生物が、神経回路を変化させて学習するメカニズムについて考えます。動物は生まれながらにして身につけている行動があります。これを「本能行動」と言いますが、この本能行動を可能にしている仕組みはどうなっているのでしょうか？ 神経回路と遺伝子との関係について考えてみましょう。

第 5 回 本能行動

第 6 回 意識と神経

ここでは「心」と「脳」の問題について考えます。神経回路が複雑化する中で、「意識」が生まれたと言われています。「意識」を作り出す背景について考えてみます。神経回路として形成された「文明」や「文化」が次の世代の神経回路として伝わるメカニズムについて考えます。

第 7 回 ミームの進化

第 8 回 群れ

生き物の群れは、信じられないような同調行動を取ります。この群れの行動から生まれた「群知能」について考えます。

第 9 回 社会

人間以外の生物にも、高度な社会を構築する生き物がいます。本授業では、アリを取りあげ、その社会構造や、個々のアリの働き方について学びます。

第 10 回 発生・分化

多細胞生物では、それぞれの細胞が独自の役割分担を持つことで、高度な生き物が作り上げられます。受精卵が細胞分裂して、一つの個体を作り上げるしくみについて考えます。

第 11 回 再生

iPS 細胞のように、細胞の運命をコントロールすることで、人工的に体の再生を可能とする技術が登場しています。医療まで含めて、現在の再生技術について考えます。

第 12 回 生態学的生命観

生態学では、それぞれのパーツが集まって作り出す新たな属性「創発的属性」を調べることで生命現象を理解しています。逆の意味で言うと、「創発的属性」は、パーツに分解することで消えてしまう特徴でも有ります。本授業では、この「創発的属性」について学びます。

第 13 回 種と多様性

現在、人間が引き起こした環境変動によって多くの種が消滅していると言われていています。種の絶滅によって、生態系の多様性が失われ、環境問題が起きるとも言われています。本授業では、多様性の指標とされている「種」について、基礎から考えてみたいと思います。

第 14 回 まとめ

13 回のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

受講生の皆さんは、日常的に新聞記事の科学欄を読むように心がけて下さい。（週 1 時間以上） 予習として、授業テーマについて過去の新聞記事を検索し読むようにして下さい。（週 1 時間以上） 復習として、授業での指示に従って授業の要約を作成し提出して下さい。（週 1 時間以上） 以上合計して週 4 時間以上の自習をして下さい。

【テキスト（教科書）】

教科書は無し。

【参考書】

参考書は必要に応じて授業支援システムを通じて提示します。

【成績評価の方法と基準】

授業要約 200 字 80 %

最終レポート 20 %

授業要約（200字要約）のまとめ方は第1回目の授業で説明します。それによって毎回（13回まで）授業を要約してHOPPIIのテスト欄に提出して頂きます。

最終レポートでは、13回の授業の中のいずれか一つのテーマを取り上げて、自分の意見を200字程度で発表してもらいます。

単位取得に関わる授業要約は、必ずご自分で作成して下さい。

同一の要約文が複数の学生から提出された場合は、全員不正行為に荷担したと見なし、処分の対象とします。

【学生の意見等からの気づき】

私語の厳罰化については、多くの学生の指示を得ておりますので、今後も継続いたします。板書が見にくいというご意見が寄せられています。大教室での板書は、大きな字で書くように心がけていますが、読みにくい場合は、その場で挙手をして指摘して下さい。また、後ろの方に座って見にくい場合は、前の方に座って下さい。

【学生が準備すべき機器他】

単位取得には、HOPPIIへのアクセスが必須です。

【その他の重要事項】

メールでのレポート提出は受け付けません。そのような行為は行わないようにして下さい。

【Outline (in English)】

(Course outline)

In this class, we will learn the most basic biological concepts which are relating to our life. Major topics for the semester include: developmental biology, neuroscience, behavior science, ecology and biodiversity.

(Learning Objectives)

The goal of this class is to understand the macro-mechanism of living organisms.

(Learning activities outside of classroom)

Students will complete the 200 characters summary of the previous class. Also students will be expected to read the scientific news articles at least for 2 hours. The total required study time is 4 hours for each class.

(Grading Criteria /Policies)

Your overall grade in the class will be decided based on the following

13 times class summary 80%

the final report 20%

BIO100LA

入門生物学 A

2017 年度以降入学者

大槻 涼

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 5/Wed.5

単位数：2 単位

この授業は「Web 履修抽選対象授業」です。抽選エントリー期間は 2023 年 4 月 3 日(月) 10:00~5 日(水) 17:00、結果発表は 4 月 6 日(木) 22:00(予定)です。履修ガイド(<https://hosei-keiji.jp/ilac/rishuguide2023/>)を確認のうえ、情報システムから期間内にエントリーしてください。

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的(何を学ぶか)】

「入門生物学」は、生物学を始めて学ぶか、もう一度基礎から学び直したい文化系学生を対象とした講座です。

生物学を「おぼえる」だけではなく、「つなげる」ことで理解を深めることを目指します。生物学を 2 つの軸、「普遍性」と「多様性」ととらえ、春学期「入門生物学 A」では普遍性に着目します。おもに全生物にみられる特徴や多様性を生み出す仕組みについて基礎的な内容から解説します。

【到達目標】

生物学に関する最新のニュースについて、背景となる事柄を自分で探すことができる。

講義で理解した事柄を文章で説明することができる。

生命現象の基本的な事柄を理解し、説明することができる。

大学初級向けの生物学の教科書を自力で理解することができる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義は PowerPoint を使ったプレゼンテーションを主体とする予定です。

毎回の講義でリアクションペーパーを出し、翌日に解説と復習によるフィードバックを実施します。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】なし/No

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	生物学とはどのような学問か？ 生物学の 2 つの「軸」	・イントロダクション ・なぜ、生物学を学ぶのか？ ・生物学と、ほかの自然科学は何が違うのか？ ・ティンバーゲンの 4 つのなぜ
第 2 回	生命の階層性	・分子-細胞-集団-生態系でかわる生物観 ・生物学研究の方法と特徴
第 3 回	生命誕生前夜	・地球誕生から生命まで ・小惑星探査とわれわれのつながり ・宇宙生物学のいま
第 4 回	細胞誕生と地球の歴史	・「地球型生命体」の特徴とは？ ・細胞の 2 つのカタチ ・「全球凍結」がもたらした変化
第 5 回	われわれの生命をささえる物質たち	・水：異質な物質としての水 ・タンパク質：多様性と機能 ・核酸：しなやかで変化する特性 ・脂肪：ユニークで大事なごこと
第 6 回	細胞の構造	・細胞膜の構造 ・細胞小器官と役割分担

第 7 回	タンパク質ができるまで	・遺伝子発現のしくみ ・適材適所と“臨機応変” 遺伝子発現と制御のしなやかな仕組み
第 8 回	細胞内でのいとなみ	・「生きる」を支える化学反応 ・「ごはん」が「エネルギー」になるまで
第 9 回	細胞がふえる	・細胞分裂のしくみと研究の歴史
第 10 回	かたちかわる、かたちができる	・発生学とはなにか？ ・かたちをつくるしなやかな仕組み
第 11 回	世代をこえたつながり	・遺伝の仕組み ・なぜ、メンデルは気づけたのか？
第 12 回	「普遍性」と「多様性」の架け橋	・進化とは何か
第 13 回	ゲノム解説とバイオインフォマティクス	・「情報」としての生物のありかた ・生物学研究と情報科学
第 14 回	バイオテクノロジーと生物学研究	・生物学研究の方法と他分野とのつながり ・生物学のこれから

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

講義内容をノートにまとめ、自分の言葉で説明できるように、基本事項を自分から調べる必要があります。

【テキスト(教科書)】

指定はしないが、適宜必要な資料は提示します。

【参考書】

岩波 生物学辞典、巖佐庸 ら(編)、岩波書店、2013、第 5 版、ISBN-13: 978-4000803144

キャンベル生物学 原書 11 版、池内昌彦 ら(監修、翻訳)、丸善出版、2018 ISBN-13: 978-4621302767

【成績評価の方法と基準】

2 回のレポート課題(40% × 2) およびリアクションペーパーによる評価(20%)

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【その他の重要事項】

積極的に最新の科学に関する話題も講義で取り上げる予定です。社会情勢などにより講義の順番を変更する場合もある。

【Outline (in English)】

【Course outline】

"Introductory Biology" is a course designed for cultural students who are either new to biology or wish to relearn the basics.

The course aims to deepen students' understanding of biology not only by learning it, but also by connecting it. The spring semester "Introductory Biology A" focuses on universality. The course will focus on universality, and will explain the characteristics of all living organisms and the mechanisms that give rise to diversity, starting from the basics.

【Learning Objectives】

Can find background information on the latest news in biology on his/her own.

To be able to explain in writing what they have understood in the lectures.

Understand and explain the basic principles of biological phenomena.

Understand biology textbooks for beginners on their own.

【Learning activities outside of classroom】

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

You will need to research basic matters on your own so that you can summarize the lecture content in your notes and explain it in your own words.

【Grading Criteria /Policy】

Grades will be based on two report assignments (40% each) and a reaction paper (20%).

BIO100LA

入門生物学 B

2017 年度以降入学者

大槻 涼

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 5/Wed.5

単位数：2 単位

この授業は「Web 履修抽選対象授業」です。抽選エントリー期間は 2023 年 4 月 3 日（月）10：00～5 日（水）17：00、結果発表は 4 月 6 日（木）22：00（予定）です。履修ガイド (<https://hosei-keiji.jp/ilac/rishuguide2023/>) を確認のうえ、情報システムから期間内にエントリーしてください。

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「入門生物学」は、生物学を始めて学ぶか、もう一度基礎から学び直したい文化系学生を対象とした講座です。

生物学を「おぼえる」ではなく、「つなげる」ことで理解を深めることを目指します。生物学を 2 つの軸、「普遍性」と「多様性」ととらえ、秋学期では多様性に着目する。

【到達目標】

生物学に関する最新のニュースについて、背景となる事柄を自分で探することができる。

講義で理解した事柄を文章で説明することができる。

生命現象の基本的な事柄を理解し、説明することができる。

大学初級向けの生物学の教科書を自力で理解することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義は PowerPoint をつかったプレゼンテーションを主体とする予定です。

毎回の講義でリアクションペーパーを出し、翌日に解説と復習によるフィードバックを実施します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	生物学とはどのような学問か？ 生物学の 2 つの「軸」	・イントロダクション ・なぜ、生物学を学ぶのか？ ・生物学と、ほかの自然科学は何が違うのか？ ・ティンバーゲンの 4 つのなぜ
第 2 回	多様性を生み出す「普遍性」：進化とはなにか？	・進化とはどのような現象か ・種分化の仕組み
第 3 回	「超高速進化現象」としての適応放散	・シクリッドとダーウィンフィンチ ・共進化がもたらす劇的な変化 ・生物間相互作用のふしぎ
第 4 回	すべての生物の歴史	・全生物の系統と「3 ドメイン」 ・系統学とは何か？ ・分子系統学によって明らかになったこと
第 5 回	生物多様性とは？	・生物多様性を理解するには？ ・生物多様性条約とは？ ・「生態系サービス」はなぜ重要か？
第 6 回	生物多様性の 3 つのスケール（1） 遺伝的多様性	・DNA レベルで多様性を考えるには？ ・「分子マーカー」をつかった研究

第 7 回 生物多様性の 3 つのスケール（2） 種多様性

・「いまいちど「種」とは何か？」
・多様性を「はかる」には？

第 8 回 生物多様性の 3 つのスケール（3） 生態的多様性

・生物同士の「つながり」を通してみた多様性
・世界の生態系の現状と課題
・多様性研究を始めるには？

第 9 回 絶滅：生物多様性の危機

・多様性と絶滅の関係は？
・5 大絶滅とは？
・絶滅の渦
・人間が生態系とかわかるとき
・ヒアリ問題

第 10 回 分類学基礎 分類するとは？

・多様性を知るには？
・ 図鑑を使って「名前」を調べるには？
・博物館と標本館の役割 未来に伝える生物情報

第 11 回 新天地を求めての挑戦

生物の上陸作戦と空への挑戦（1）
・動物の上陸作戦と環境
・相同器官と相似器官：古くて新しい問題
・適応放散の実際

第 12 回 新天地を求めての挑戦

生物の上陸作戦と空への挑戦（2）
・植物の上陸作戦
・性の進化と多様性

第 13 回 「ヒト」にいたる道

・2022 ノーベル賞をひもとく
・人類史研究の現在
・デニソワ人

第 14 回 多様性からみた生物学

・地球環境問題と生物多様性のこれから
・保全生物学と現在の課題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

講義内容をノートにまとめ、自分の言葉で説明できるように、基本事項を自分から調べる必要があります。

【テキスト（教科書）】

指定はしないが、適宜必要な資料は提示します。

【参考書】

進化生物学 -ゲノミクスが解き明かす進化-、赤坂甲治、2021、裳華房、ISBN 978-4-7853-5872-3

岩波生物学辞典、巖佐庸 ら（編）、岩波書店、2013、第 5 版、ISBN-13:978-4000803144

キャンベル生物学原書 11 版、池内昌彦 ら（監修、翻訳）、丸善出版、2018 ISBN-13:978-4621302767

【成績評価の方法と基準】

2 回のレポート課題（40 % × 2）およびリアクションペーパーによる評価（20 %）

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【その他の重要事項】

積極的に最新の科学に関する話題も講義で取り上げる予定です。社会情勢などにより講義の順番を変更する場合もある。

【Outline (in English)】

【Course outline】

"Introductory Biology" is a course designed for cultural students who are either new to biology or wish to relearn the basics.

The course aims to deepen students' understanding of biology not only by learning it, but also by connecting it. The spring semester "Introductory Biology A" focuses on universality. The course will focus on universality, and will explain the characteristics of all living organisms and the mechanisms that give rise to diversity, starting from the basics.

【Learning Objectives】

Can find background information on the latest news in biology on his/her own.

To be able to explain in writing what they have understood in the lectures.

Understand and explain the basic principles of biological phenomena.

Understand biology textbooks for beginners on their own.

[Learning activities outside of classroom]

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

You will need to research basic matters on your own so that you can summarize the lecture content in your notes and explain it in your own words.

[Grading Criteria /Policy]

Grades will be based on two report assignments (40% each) and a reaction paper (20%).

BIO100LA

入門生物学 A

2017 年度以降入学者

宇野 真介

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 2/Fri.2

単位数：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講座では、進化や遺伝といった生物学的に重要な概念を取り上げると共に、主に細胞やそれを構成する生体分子のはたらきなどのミクロレベルの生物的事象に注目します。また、医療や食などの身近な応用分野を取り上げ、関連する科学技術をより良く理解し、生物学的根拠のある見解をもつための生物学的基礎知識を提供します。

【到達目標】

本授業の到達目標は、以下の3点です。1) ミクロレベルの生物的事象の基礎知識を取得すること。2) 取得した生物学的基礎知識の歴史・社会的な背景・意義を理解・把握すること。3) 医療や食などの身近な分野に関わる科学技術について自分の考え・意見を形成すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

対面方式によるパワーポイントを使った講義形式で授業を実施します。毎回、簡単な演習や理解度チェックを実施し、次回の授業で補足・フィードバックを行いつつ授業を進める予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ミクロな生物学を学ぶ	生命活動を「個体」以下のミクロなレベルで捉えるとはどういうことか。生物学的な階層構造を確認しながら、生命の基本的な特徴についても考えます。
第 2 回	ダーウィン進化論	現在でも生物学の重要概念となっているダーウィンの進化論について解説すると共に、進化論の社会的影響についても考えます。
第 3 回	メンデル遺伝学	現代の遺伝学の基礎となったメンデルの研究について解説すると共に、遺伝学の社会的影響についても考えます。
第 4 回	細胞の増殖と遺伝	「生命の最小単位」であると認識されている細胞は、どのように増殖（自己複製）し、かつ遺伝情報を受け渡しているのかを学びます。
第 5 回	細胞呼吸	生物は呼吸を通して生命活動に必要なエネルギーを引き出しています。細胞レベルの事象としての呼吸の仕組みを学びます。
第 6 回	DNA の構造と複製	「生命の設計図」と言われる DNA はどのような物質なのか。その基本的構造・機能について学びます。

第 7 回	DNA からタンパク質へ	DNA の保持する情報を基にして作られるのはタンパク質です。DNA から RNA を介してタンパク質が合成される仕組みについて学びます。
第 8 回	タンパク質の構造と機能	タンパク質は生命活動を実現する上で必要不可欠な生体分子です。その構造について学ぶと共に、特に酵素に注目してその機能を学びます。
第 9 回	ゲノムからわかること	ある生物の持つ全遺伝情報（ゲノム）を分析することで、その生物の全てを知ることができるでしょうか。ゲノムからヒトをはじめとする生物についてわかることについて考えます。
第 10 回	遺伝子組み換え・ゲノム編集	分子生物学の急速な発展は、DNA という分子レベルで生物を改変する技術を生み出しました。遺伝子組み換え技術やゲノム編集の原理を学びます。
第 11 回	クローン技術・iPS 細胞	再生医療などで注目される「クローニング技術」とは、iPS 細胞などの新技術を含めて基本原理から解説します。
第 12 回	移植医療・再生医療	生命を操作する技術はどのように活用されるのか、医療分野の例から考えます。
第 13 回	生命操作の是非	急速に発展するバイオテクノロジーの社会的課題や市民社会の関わり方について考えます。
第 14 回	学習のまとめ	春学期の学習内容を確認し、総合的な理解度チェックを行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配布資料の通読、授業内容の復習と他の回の学習内容との関連性の確認など、本授業の準備・復習時間は各 2 時間を標準とします。欠席時には Hoppii 上の掲載物の取得、学習内容の確認など各自の責任で行うこと。

【テキスト（教科書）】

教科書はなし。各講義で資料を配布します。

【参考書】

適宜提示します。

【成績評価の方法と基準】

成績は、各回の演習・理解度チェックに基づく平常点（50%）と一学期間の学習内容全体の理解度チェックとなる期末試験（50%）の総合点で評価とします。

【学生の意見等からの気づき】

図表や動画の活用により、わかりやすい解説を心がけています。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システム（Hoppii）へのアクセスの確保（授業内でも必要になります）。

【Outline (in English)】

[Course outline] In this course, students will learn about basic aspects of micro-scale biological phenomena, and as such, the course will focus on molecular and cellular biology. The course materials also includes the historical development of the relevant biological concepts/knowledge, as well as related technologies. As a whole, the course will provide an opportunity to learn about basic biology as well as biotechnology in light of its impact on our lives and the view on life.

[Learning objectives] The course objectives are: to acquire basic understanding of micro-scale biological phenomena; to understand historical/social background and significance of the course materials; and to develop personal opinions about biological applications relevant to one's life.

[Learning activities outside of classroom] In addition to attending classes, students are expected to review contents of individual lectures, thoroughly read distributed reading materials, and utilize the online learning support system, as needed. Standard amounts of time to be spent for this purpose are two hours each for preparation and review.

[Grading criteria/policy] Final grade will be determined based on a final exam (50%), and participation/in-class performance (50%).

BIO100LA

入門生物学 B

2017 年度以降入学者

宇野 真介

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 2/Fri.2

単位数：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講座では、生物同士や生物と環境の関係、生態系や生物多様性などのマクロレベルの生物学的事象についての基礎事項を学習します。また、環境問題や環境保全についても取り上げ、学習内容との関連性について明らかにしていきます。これにより、日常生活で接する機会のある自然環境に関する課題についてより良く理解し、生物学的根拠のある見解を持つための基礎知識を提供します。

【到達目標】

本授業の到達目標は、以下の3点です。1) マクロレベルの生物学的事象の基礎知識を取得すること。2) 学習内容と種々の環境問題の関係性を理解・把握すること。3) 取得した基礎知識を問題解決に応用・適用できること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

対面方式によるパワーポイントを使った講義形式で授業を実施します。毎回、簡単な演習や理解度チェックを実施し、次回の授業で補足・フィードバックを行いつつ授業を進める予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	マクロな生物学を学ぶ	生命活動を「個体」を超えたマクロなレベルで捉えるとはどういうことか。マクロレベルの階層構造を確認しながら、時間や空間スケールなどの重要な視点について考えます。
第 2 回	変異・遺伝・淘汰のサイクル	生態系や生物多様性を構成する生物は、環境や他の生物との相互作用の中で進化していきます。「進化する」とはどういうことか、その仕組みから考えます。
第 3 回	生態系の成り立ち	多種多様な生態系が存在するにもかかわらず、それらが全て生態系と認識できるのはなぜでしょうか。生態系の多様性と共通性について考えます。
第 4 回	生態系機能：物質循環とエネルギーの流れ	生態系の基本的な機能として物質やエネルギーが供給される仕組みを学ぶと共に、気候変動や富栄養化などの関連する問題についても考えます。
第 5 回	生態系の時間・空間的変動	生態系の不安定化が問題視されていますが、「安定した生態系」とはどのようなもののでしょうか？生態学的な安定性について考えます。
第 6 回	個体群の動態	生物の個体数はどのように増減するのか、その基本的要素を学びます。

第 7 回 種間関係と共進化 二種の生物の相互関係について進化の観点から考えます。

第 8 回 生物の生存戦略と共存 生物の関係性は「弱肉強食」と表現されがちですが、生物はどのような戦略によって生き残り、かつ共存しているかを考えます。

第 9 回 生物の作るコミュニティ ティ 複数の生物種によって形成されるコミュニティにおける生物の関係性について、間接的効果の重要性に注目して解説します。

第 10 回 動物の社会性 動物には社会性を示すものがあり、中には非常に高度な社会を構築するものも存在します。ここでは、動物の示す社会性や社会構造について考えます。

第 11 回 生物多様性とは 生物多様性とは何か。その成り立ちや生態系機能との関係性について考えます。

第 12 回 保全生物学 生物多様性保全に関連する生物学的理論を解説すると共に、実践的なアプローチや課題について考えます。

第 13 回 土中環境 普段目を向けない地中の環境について生物学的視点から解説すると共に、関連する社会的課題について考えます。

第 14 回 学習のまとめ 秋学期の学習内容を確認し、総合的な理解度チェックを行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配布資料の通読、授業内容の復習と他の回の学習内容との関連性の確認など、本授業の準備・復習時間は各2時間を標準とします。欠席時には Hoppii 上の掲載物の取得、学習内容の確認など各自の責任で行うこと。

【テキスト（教科書）】

教科書はなし。各講義で資料を配布します。

【参考書】

適宜提示します。

【成績評価の方法と基準】

成績は、各回の演習・理解度チェックに基づく平常点（50%）と一学期間の学習内容全体の理解度チェックとなる期末試験（50%）の総合点で評価とします。

【学生の意見等からの気づき】

図表や動画の活用により、わかりやすい解説を心がけています。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムへのアクセスの確保（授業中にも必要になります）。

【Outline (in English)】

[Course outline] In this course, students will learn about macro-scale biological phenomena, and, as such, the course materials focus on interactions among organisms, ecosystem, and biodiversity. In addition, the course will discuss how the course materials relate to various issues that the human society faces today, such as problems associated with environmental degradation and resource management. As a whole, this course provide an opportunity to learn the biological basis of news, etc. that students may be exposed in their daily life.

[Learning objectives] The course objectives are: to acquire basic understanding of macro-scale biological phenomena; to understand how the class materials relate to various environmental problems; and to be able to apply the acquired understanding to problem solving.

[Learning activities outside of classroom] In addition to attending classes, students are expected to review contents of individual lectures, thoroughly read distributed reading materials, and utilize the online learning support system, as needed. Standard amounts of time to be spent for this purpose are two hours each for preparation and review.

[Grading criteria/policy] Final grade will be determined based on a final exam (50%) and participation/in-class performance (50%).

BIO100LA

入門生物学 A

2017 年度以降入学者

宇野 真介

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 1/Fri.1

単位数：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講座では、進化や遺伝といった生物学的に重要な概念を取り上げると共に、主に細胞やそれを構成する生体分子のはたらきなどのミクロレベルの生物的事象に注目します。また、医療や食などの身近な応用分野を取り上げ、関連する科学技術をより良く理解し、生物学的根拠のある見解をもつための生物学的基礎知識を提供します。

【到達目標】

本授業の到達目標は、以下の3点です。1) ミクロレベルの生物的事象の基礎知識を取得すること。2) 取得した生物学的基礎知識の歴史・社会的な背景・意義を理解・把握すること。3) 医療や食などの身近な分野に関わる科学技術について自分の考え・意見を形成すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

対面方式によるパワーポイントを使った講義形式で授業を実施します。毎回、簡単な演習や理解度チェックを実施し、次回の授業で補足・フィードバックを行いつつ授業を進める予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ミクロな生物学を学ぶ	生命活動を「個体」以下のミクロなレベルで捉えるとはどういうことか。生物学的な階層構造を確認しながら、生命の基本的な特徴についても考えます。
第 2 回	ダーウィン進化論	現在でも生物学の重要概念となっているダーウィンの進化論について解説すると共に、進化論の社会的影響についても考えます。
第 3 回	メンデル遺伝学	現代の遺伝学の基礎となったメンデルの研究について解説すると共に、遺伝学の社会的影響についても考えます。
第 4 回	細胞の増殖と遺伝	「生命の最小単位」であると認識されている細胞は、どのように増殖（自己複製）し、かつ遺伝情報を受け渡しているのかを学びます。
第 5 回	細胞呼吸	生物は呼吸を通して生命活動に必要なエネルギーを引き出しています。細胞レベルの事象としての呼吸の仕組みを学びます。
第 6 回	DNA の構造と複製	「生命の設計図」と言われる DNA はどのような物質なのか。その基本的構造・機能について学びます。

第 7 回	DNA からタンパク質へ	DNA の保持する情報を基にして作られるのはタンパク質です。DNA から RNA を介してタンパク質が合成される仕組みについて学びます。
第 8 回	タンパク質の構造と機能	タンパク質は生命活動を実現する上で必要不可欠な生体分子です。その構造について学ぶと共に、特に酵素に注目してその機能を学びます。
第 9 回	ゲノムからわかること	ある生物の持つ全遺伝情報（ゲノム）を分析することで、その生物の全てを知ることができるでしょうか。ゲノムからヒトをはじめとする生物についてわかることについて考えます。
第 10 回	遺伝子組み換え・ゲノム編集	分子生物学の急速な発展は、DNA という分子レベルで生物を改変する技術を生み出しました。遺伝子組み換え技術やゲノム編集の原理を学びます。
第 11 回	クローン技術・iPS 細胞	再生医療などで注目される「クローニング技術」とは、iPS 細胞などの新技術を含めて基本原理から解説します。
第 12 回	移植医療・再生医療	生命を操作する技術はどのように活用されるのか、医療分野の例から考えます。
第 13 回	生命操作の是非	急速に発展するバイオテクノロジーの社会的課題や市民社会の関わり方について考えます。
第 14 回	学習のまとめ	春学期の学習内容を確認し、総合的な理解度チェックを行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配布資料の通読、授業内容の復習と他の回の学習内容との関連性の確認など、本授業の準備・復習時間は各 2 時間を標準とします。欠席時には Hoppii 上の掲載物の取得、学習内容の確認など各自の責任で行うこと。

【テキスト（教科書）】

教科書はなし。各講義で資料を配布します。

【参考書】

適宜提示します。

【成績評価の方法と基準】

成績は、各回の演習・理解度チェックに基づく平常点（50%）と一学期間の学習内容全体の理解度チェックとなる期末試験（50%）の総合点で評価とします。

【学生の意見等からの気づき】

図表や動画の活用により、わかりやすい解説を心がけています。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システム（Hoppii）へのアクセスの確保（授業内でも必要になります）。

【Outline (in English)】

[Course outline] In this course, students will learn about basic aspects of micro-scale biological phenomena, and as such, the course will focus on molecular and cellular biology. The course materials also includes the historical development of the relevant biological concepts/knowledge, as well as related technologies. As a whole, the course will provide an opportunity to learn about basic biology as well as biotechnology in light of its impact on our lives and the view on life.

[Learning objectives] The course objectives are: to acquire basic understanding of micro-scale biological phenomena; to understand historical/social background and significance of the course materials; and to develop personal opinions about biological applications relevant to one's life.

[Learning activities outside of classroom] In addition to attending classes, students are expected to review contents of individual lectures, thoroughly read distributed reading materials, and utilize the online learning support system, as needed. Standard amounts of time to be spent for this purpose are two hours each for preparation and review.

[Grading criteria/policy] Final grade will be determined based on a final exam (50%), and participation/in-class performance (50%).

BIO100LA

入門生物学 B

2017 年度以降入学者

宇野 真介

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 1/Fri.1

単位数：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講座では、生物同士や生物と環境の関係、生態系や生物多様性などのマクロレベルの生物学的事象についての基礎事項を学習します。また、環境問題や環境保全についても取り上げ、学習内容との関連性について明らかにしていきます。これにより、日常生活で接する機会のある自然環境に関する課題についてより良く理解し、生物学的根拠のある見解を持つための基礎知識を提供します。

【到達目標】

本授業の到達目標は、以下の3点です。1) マクロレベルの生物学的事象の基礎知識を取得すること。2) 学習内容と種々の環境問題の関係性を理解・把握すること。3) 取得した基礎知識を問題解決に応用・適用できること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

対面方式によるパワーポイントを使った講義形式で授業を実施します。毎回、簡単な演習や理解度チェックを実施し、次回の授業で補足・フィードバックを行いつつ授業を進める予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	マクロな生物学を学ぶ	生命活動を「個体」を超えたマクロなレベルで捉えるとはどういうことか。マクロレベルの階層構造を確認しながら、時間や空間スケールなどの重要な視点について考えます。
第 2 回	変異・遺伝・淘汰のサイクル	生態系や生物多様性を構成する生物は、環境や他の生物との相互作用の中で進化していきます。「進化する」とはどういうことか、その仕組みから考えます。
第 3 回	生態系の成り立ち	多種多様な生態系が存在するにもかかわらず、それらが全て生態系と認識できるのはなぜでしょうか。生態系の多様性と共通性について考えます。
第 4 回	生態系機能：物質循環とエネルギーの流れ	生態系の基本的な機能として物質やエネルギーが供給される仕組みを学ぶと共に、気候変動や富栄養化などの関連する問題についても考えます。
第 5 回	生態系の時間・空間的変動	生態系の不安定化が問題視されていますが、「安定した生態系」とはどのようなもののでしょうか？生態学的な安定性について考えます。
第 6 回	個体群の動態	生物の個体数はどのように増減するのか、その基本的要素を学びます。

第 7 回 種間関係と共進化 二種の生物の相互関係について進化の観点から考えます。

第 8 回 生物の生存戦略と共存 生物の関係性は「弱肉強食」と表現されがちですが、生物はどのような戦略によって生き残り、かつ共存しているかを考えます。

第 9 回 生物の作るコミュニティ ティ 複数の生物種によって形成されるコミュニティにおける生物の関係性について、間接的効果の重要性に注目して解説します。

第 10 回 動物の社会性 動物には社会性を示すものがあり、中には非常に高度な社会を構築するものも存在します。ここでは、動物の示す社会性や社会構造について考えます。

第 11 回 生物多様性とは 生物多様性とは何か。その成り立ちや生態系機能との関係性について考えます。

第 12 回 保全生物学 生物多様性保全に関連する生物学的理論を解説すると共に、実践的なアプローチや課題について考えます。

第 13 回 土中環境 普段目を向けない地中の環境について生物学的視点から解説すると共に、関連する社会的課題について考えます。

第 14 回 学習のまとめ 秋学期の学習内容を確認し、総合的な理解度チェックを行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配布資料の通読、授業内容の復習と他の回の学習内容との関連性の確認など、本授業の準備・復習時間は各2時間を標準とします。欠席時には Hoppii 上の掲載物の取得、学習内容の確認など各自の責任で行うこと。

【テキスト（教科書）】

教科書はなし。各講義で資料を配布します。

【参考書】

適宜提示します。

【成績評価の方法と基準】

成績は、各回の演習・理解度チェックに基づく平常点（50%）と一学期間の学習内容全体の理解度チェックとなる期末試験（50%）の総合点で評価とします。

【学生の意見等からの気づき】

図表や動画の活用により、わかりやすい解説を心がけています。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムへのアクセスの確保（授業中にも必要になります）。

【Outline (in English)】

[Course outline] In this course, students will learn about macro-scale biological phenomena, and, as such, the course materials focus on interactions among organisms, ecosystem, and biodiversity. In addition, the course will discuss how the course materials relate to various issues that the human society faces today, such as problems associated with environmental degradation and resource management. As a whole, this course provide an opportunity to learn the biological basis of news, etc. that students may be exposed in their daily life.

[Learning objectives] The course objectives are: to acquire basic understanding of macro-scale biological phenomena; to understand how the class materials relate to various environmental problems; and to be able to apply the acquired understanding to problem solving.

[Learning activities outside of classroom] In addition to attending classes, students are expected to review contents of individual lectures, thoroughly read distributed reading materials, and utilize the online learning support system, as needed. Standard amounts of time to be spent for this purpose are two hours each for preparation and review.

[Grading criteria/policy] Final grade will be determined based on a final exam (50%) and participation/in-class performance (50%).

BIO100LA

入門生物学 A

2017 年度以降入学者

大槻 涼

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 4/Wed.4

単位数：2 単位

この授業は「Web 履修抽選対象授業」です。抽選エントリー期間は 2023 年 4 月 3 日（月）10：00～5 日（水）17：00、結果発表は 4 月 6 日（木）22：00（予定）です。履修ガイド (<https://hosei-keiji.jp/ilac/rishuguide2023/>) を確認のうえ、情報システムから期間内にエントリーしてください。

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「入門生物学」は、生物学を始めて学ぶか、もう一度基礎から学び直したい文化系学生を対象とした講座です。生物学を「おぼえる」だけではなく、「つなげる」ことで理解を深めることを目指します。生物学を 2 つの軸、「普遍性」と「多様性」にとらえ、春学期「入門生物学 A」では普遍性に着目します。おもに全生物にみられる特徴や多様性を生み出す仕組みについて基礎的な内容から解説します。

【到達目標】

生物学に関する最新のニュースについて、背景となる事柄を自分で探ることができる。

講義で理解した事柄を文章で説明することができる。

生命現象の基本的な事柄を理解し、説明することができる。

大学初級向けの生物学の教科書を自力で理解することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義は PowerPoint をつかったプレゼンテーションを主体とする予定です。

毎回の講義でリアクションペーパーを出し、翌日に解説と復習によるフィードバックを実施します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	生物学とはどのような学問か？ 生物学の 2 つの「軸」	・イントロダクション ・なぜ、生物学を学ぶのか？ ・生物学と、ほかの自然科学は何が違うのか？ ・ティンバーゲンの 4 つのなぜ
第 2 回	生命の階層性	・分子-細胞-個体-集団-生態系でかわる生物観 ・生物学研究の方法と特徴
第 3 回	生命誕生前夜	・地球誕生から生命まで ・小惑星探査とわれわれのつながり ・宇宙生物学のいま
第 4 回	細胞誕生と地球の歴史	・「地球型生命体」の特徴とは？ ・細胞の 2 つの「カタチ」 ・「全球凍結」がもたらした変化
第 5 回	われわれの生命を支える物質たち	・水：異質な物質としての水 ・タンパク質：多様性と機能 ・核酸：しなやかで変化する特性 ・脂肪：ユニークで大事なごこと
第 6 回	細胞の構造	・細胞膜の特徴 ・細胞小器官と役割分担

第 7 回	タンパク質ができるまで	・遺伝子発現のしくみ ・適材適所と“臨機応変” 遺伝子発現と制御のしなやかな仕組み
第 8 回	細胞内でのいとなみ	・「生きる」を支える化学反応 ・「ごはん」が「エネルギー」になるまで
第 9 回	細胞がふえる	・細胞分裂の仕組みと研究の歴史
第 10 回	かたちかわる、かたちができる	・発生学とはなにか？ ・かたちをつくるしなやかな仕組み
第 11 回	世代をこえたつながり	・遺伝の仕組み ・なぜ、メンデルは気づけたのか？
第 12 回	「普遍性」と「多様性」の架け橋	・進化とは何か？
第 13 回	ゲノム解説とバイオインフォマティクス	・「情報」としての生物のありかた ・生物学研究と情報科学
第 14 回	バイオテクノロジーと生物学研究	・生物学研究と他分野とのつながり ・生物学のこれから

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

講義内容をノートにまとめ、自分の言葉で説明できるように、基本事項を自分から調べる必要があります。

【テキスト（教科書）】

指定はしないが、適宜必要な資料は提示します。

【参考書】

岩波生物学辞典、巖佐庸 ら（編）、岩波書店、2013、第 5 版、ISBN-13:978-4000803144 キャンベル生物学原書 11 版、池内昌彦 ら（監修、翻訳）、丸善出版、2018 ISBN-13:978-4621302767

【成績評価の方法と基準】

2 回のレポート課題（40 % × 2）およびリアクションペーパーによる評価（20 %）

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【その他の重要事項】

積極的に最新の科学に関する話題も講義で取り上げる予定です。社会情勢などにより講義の順番を変更する場合もある。

【Outline (in English)】

【Course outline】

"Introductory Biology" is a course designed for cultural students who are either new to biology or wish to relearn the basics.

The course aims to deepen students' understanding of biology not only by learning it, but also by connecting it. The spring semester "Introductory Biology A" focuses on universality. The course will focus on universality, and will explain the characteristics of all living organisms and the mechanisms that give rise to diversity, starting from the basics.

【Learning Objectives】

Can find background information on the latest news in biology on his/her own.

To be able to explain in writing what they have understood in the lectures.

Understand and explain the basic principles of biological phenomena.

Understand biology textbooks for beginners on their own.

【Learning activities outside of classroom】

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

You will need to research basic matters on your own so that you can summarize the lecture content in your notes and explain it in your own words.

【Grading Criteria / Policy】

Grades will be based on two report assignments (40% each) and a reaction paper (20%).

BIO100LA

入門生物学 B

2017 年度以降入学者

大槻 涼

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 4/Wed.4

単位数：2 単位

この授業は「Web 履修抽選対象授業」です。抽選エントリー期間は 2023 年 4 月 3 日（月）10：00～5 日（水）17：00、結果発表は 4 月 6 日（木）22：00（予定）です。履修ガイド (<https://hosei-keiji.jp/ilac/rishuguide2023/>) を確認のうえ、情報システムから期間内にエントリーしてください。

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「入門生物学」は、生物学を始めて学ぶか、もう一度基礎から学び直したい文化系学生を対象とした講座です。

生物学を「おぼえる」ではなく、「つなげる」ことで理解を深めることを目指します。生物学を 2 つの軸、「普遍性」と「多様性」ととらえ、秋学期では多様性に着目する。

【到達目標】

生物学に関する最新のニュースについて、背景となる事柄を自分で探すことができる。

講義で理解した事柄を文章で説明することができる。

生命現象の基本的な事柄を理解し、説明することができる。

大学初級向けの生物学の教科書を自力で理解することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義は PowerPoint をつかったプレゼンテーションを主体とする予定です。

毎回の講義でリアクションペーパーを出し、翌日に解説と復習によるフィードバックを実施します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	生物学とはどのような学問か？ 生物学の 2 つの「軸」	・イントロダクション ・なぜ、生物学を学ぶのか？ ・生物学と、ほかの自然科学は何が違うのか？
第 2 回	多様性を生み出す「普遍性」：進化とはなにか？	・ティンバーゲンの 4 つのなぜ ・進化とはどのような現象か ・種分化の仕組み
第 3 回	「超高速進化現象」としての適応放散	・シクリッドとダーウィンフィンチ ・共進化がもたらす劇的な変化 ・生物間相互作用のふしぎ
第 4 回	すべての生物の歴史	・全生物の系統と「3 ドメイン」 ・系統学とは何か？ ・分子系統学によって明らかになったこと
第 5 回	生物多様性とは？	・生物多様性を理解するには？ ・生物多様性条約とは？ ・「生態系サービス」はなぜ重要か？
第 6 回	生物多様性の 3 つのスケール（1） 遺伝的多様性	・DNA レベルで多様性を考えるには？ ・「分子マーカー」をつかった研究

第 7 回	生物多様性の 3 つのスケール（2） 種多様性	・いまいちど「種」とは何か？ ・多様性を「はかる」には？
第 8 回	生物多様性の 3 つのスケール（3） 生態的多様性	・生物同士の「つながり」を通して見た多様性 ・世界の生態系の現状と課題 ・多様性研究を始めるには？
第 9 回	絶滅：生物多様性の危機	・多様性と絶滅の関係は？ ・5 大絶滅とは？ ・絶滅の渦 ・人間が生態系とかわかるとき ・ヒアリ問題
第 10 回	分類学基礎 分類するとは？	・多様性を知るには？ ・ 図鑑を使って「名前」を調べるには？ ・博物館と標本館の役割 未来に伝える生物情報
第 11 回	新天地を求めての挑戦 生物の上陸作戦と空への挑戦（1）	・動物の上陸作戦と環境 ・相同器官と相似器官：古くて新しい問題 ・適応放散の実際
第 12 回	新天地を求めての挑戦 生物の上陸作戦と空への挑戦（2）	・植物の上陸作戦 ・性の進化と多様性
第 13 回	「ヒト」にいたる道	・2022 年ノーベル賞をひもとく ・人類史研究の現在 ・デニソワ人
第 14 回	多様性からみた生物学	・地球環境問題と生物多様性のこれから ・保全生物学と現在の課題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。講義内容をノートにまとめ、自分の言葉で説明できるように、基本事項を自分から調べる必要があります。

【テキスト（教科書）】

指定はしないが、適宜必要な資料は提示します。

【参考書】

進化生物学 -ゲノミクスが解き明かす進化-、赤坂甲治、2021、裳華房、ISBN 978-4-7853-5872-3

岩波生物学辞典、巖佐庸 ら（編）、岩波書店、2013、第 5 版、ISBN-13:978-4000803144

キャンベル生物学原書 11 版、池内昌彦 ら（監修、翻訳）、丸善出版、2018 ISBN-13:978-4621302767

【成績評価の方法と基準】

2 回のレポート課題（40 % × 2）およびリアクションペーパーによる評価（20 %）

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【その他の重要事項】

積極的に最新の科学に関する話題も講義で取り上げる予定です。社会情勢などにより講義の順番を変更する場合もある。

【Outline (in English)】

【Course outline】

"Introductory Biology" is a course designed for cultural students who are either new to biology or wish to relearn the basics.

The course aims to deepen students' understanding of biology not only by learning it, but also by connecting it. The spring semester "Introductory Biology A" focuses on universality. The course will focus on universality, and will explain the characteristics of all living organisms and the mechanisms that give rise to diversity, starting from the basics.

【Learning Objectives】

Can find background information on the latest news in biology on his/her own.

To be able to explain in writing what they have understood in the lectures.

Understand and explain the basic principles of biological phenomena.

Understand biology textbooks for beginners on their own.

【Learning activities outside of classroom】

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

You will need to research basic matters on your own so that you can summarize the lecture content in your notes and explain it in your own words.

【Grading Criteria /Policy】

Grades will be based on two report assignments (40% each) and a reaction paper (20%).

BIO100LA

入門生物学 A

2017 年度以降入学者

宇野 真介

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 3/Thu.3

単位数：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講座では、進化や遺伝といった生物学的に重要な概念を取り上げると共に、主に細胞やそれを構成する生体分子のはたらきなどのミクロレベルの生物的事象に注目します。また、医療や食などの身近な応用分野を取り上げ、関連する科学技術をより良く理解し、生物学的根拠のある見解をもつための生物学的基礎知識を提供します。

【到達目標】

本授業の到達目標は、以下の3点です。1) ミクロレベルの生物的事象の基礎知識を取得すること。2) 取得した生物学的基礎知識の歴史・社会的な背景・意義を理解・把握すること。3) 医療や食などの身近な分野に関わる科学技術について自分の考え・意見を形成すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

対面方式によるパワーポイントを使った講義形式で授業を実施します。毎回、簡単な演習や理解度チェックを実施し、次回の授業で補足・フィードバックを行いつつ授業を進める予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ミクロな生物学を学ぶ	生命活動を「個体」以下のミクロなレベルで捉えるとはどういうことか。生物学的な階層構造を確認しながら、生命の基本的な特徴についても考えます。
第 2 回	ダーウィン進化論	現在でも生物学の重要概念となっているダーウィンの進化論について解説すると共に、進化論の社会的影響についても考えます。
第 3 回	メンデル遺伝学	現代の遺伝学の基礎となったメンデルの研究について解説すると共に、遺伝学の社会的影響についても考えます。
第 4 回	細胞の増殖と遺伝	「生命の最小単位」であると認識されている細胞は、どのように増殖（自己複製）し、かつ遺伝情報を受け渡しているのかを学びます。
第 5 回	細胞呼吸	生物は呼吸を通して生命活動に必要なエネルギーを引き出しています。細胞レベルの事象としての呼吸の仕組みを学びます。
第 6 回	DNA の構造と複製	「生命の設計図」と言われる DNA はどのような物質なのか。その基本的構造・機能について学びます。

第 7 回	DNA からタンパク質へ	DNA の保持する情報を基にして作られるのはタンパク質です。DNA から RNA を介してタンパク質が合成される仕組みについて学びます。
第 8 回	タンパク質の構造と機能	タンパク質は生命活動を実現する上で必要不可欠な生体分子です。その構造について学ぶと共に、特に酵素に注目してその機能を学びます。
第 9 回	ゲノムからわかること	ある生物の持つ全遺伝情報（ゲノム）を分析することで、その生物の全てを知ることができるでしょうか。ゲノムからヒトをはじめとする生物についてわかることについて考えます。
第 10 回	遺伝子組み換え・ゲノム編集	分子生物学の急速な発展は、DNA という分子レベルで生物を改変する技術を生み出しました。遺伝子組み換え技術やゲノム編集の原理を学びます。
第 11 回	クローン技術・iPS 細胞	再生医療などで注目される「クローニング技術」とは、iPS 細胞などの新技術を含めて基本原理から解説します。
第 12 回	移植医療・再生医療	生命を操作する技術はどのように活用されるのか、医療分野の例から考えます。
第 13 回	生命操作の是非	急速に発展するバイオテクノロジーの社会的課題や市民社会の関わり方について考えます。
第 14 回	学習のまとめ	春学期の学習内容を確認し、総合的な理解度チェックを行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配布資料の通読、授業内容の復習と他の回の学習内容との関連性の確認など、本授業の準備・復習時間は各 2 時間を標準とします。欠席時には Hoppii 上の掲載物の取得、学習内容の確認など各自の責任で行うこと。

【テキスト（教科書）】

教科書はなし。各講義で資料を配布します。

【参考書】

適宜提示します。

【成績評価の方法と基準】

成績は、各回の演習・理解度チェックに基づく平常点（50%）と一学期間の学習内容全体の理解度チェックとなる期末試験（50%）の総合点で評価とします。

【学生の意見等からの気づき】

図表や動画の活用により、わかりやすい解説を心がけています。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システム（Hoppii）へのアクセスの確保（授業内でも必要になります）。

【Outline (in English)】

[Course outline] In this course, students will learn about basic aspects of micro-scale biological phenomena, and as such, the course will focus on molecular and cellular biology. The course materials also includes the historical development of the relevant biological concepts/knowledge, as well as related technologies. As a whole, the course will provide an opportunity to learn about basic biology as well as biotechnology in light of its impact on our lives and the view on life.

[Learning objectives] The course objectives are: to acquire basic understanding of micro-scale biological phenomena; to understand historical/social background and significance of the course materials; and to develop personal opinions about biological applications relevant to one's life.

[Learning activities outside of classroom] In addition to attending classes, students are expected to review contents of individual lectures, thoroughly read distributed reading materials, and utilize the online learning support system, as needed. Standard amounts of time to be spent for this purpose are two hours each for preparation and review.

[Grading criteria/policy] Final grade will be determined based on a final exam (50%), and participation/in-class performance (50%).

BIO100LA

入門生物学 B

2017 年度以降入学者

宇野 真介

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 3/Thu.3

単位数：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講座では、生物同士や生物と環境の関係、生態系や生物多様性などのマクロレベルの生物学的事象についての基礎事項を学習します。また、環境問題や環境保全についても取り上げ、学習内容との関連性について明らかにしていきます。これにより、日常生活で接する機会のある自然環境に関する課題についてより良く理解し、生物学的根拠のある見解を持つための基礎知識を提供します。

【到達目標】

本授業の到達目標は、以下の3点です。1) マクロレベルの生物学的事象の基礎知識を取得すること。2) 学習内容と種々の環境問題の関係性を理解・把握すること。3) 取得した基礎知識を問題解決に応用・適用できること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

対面方式によるパワーポイントを使った講義形式で授業を実施します。毎回、簡単な演習や理解度チェックを実施し、次回の授業で補足・フィードバックを行いつつ授業を進める予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	マクロな生物学を学ぶ	生命活動を「個体」を超えたマクロなレベルで捉えるとはどういうことか。マクロレベルの階層構造を確認しながら、時間や空間スケールなどの重要な視点について考えます。
第 2 回	変異・遺伝・淘汰のサイクル	生態系や生物多様性を構成する生物は、環境や他の生物との相互作用の中で進化していきます。「進化する」とはどういうことか、その仕組みから考えます。
第 3 回	生態系の成り立ち	多種多様な生態系が存在するにもかかわらず、それらが全て生態系と認識できるのはなぜでしょうか。生態系の多様性と共通性について考えます。
第 4 回	生態系機能：物質循環とエネルギーの流れ	生態系の基本的な機能として物質やエネルギーが供給される仕組みを学ぶと共に、気候変動や富栄養化などの関連する問題についても考えます。
第 5 回	生態系の時間・空間的変動	生態系の不安定化が問題視されていますが、「安定した生態系」とはどのようなもののでしょうか？生態学的な安定性について考えます。
第 6 回	個体群の動態	生物の個体数はどのように増減するのか、その基本的要素を学びます。

第 7 回	種間関係と共進化	二種の生物の相互関係について進化の観点から考えます。
第 8 回	生物の生存戦略と共存	生物の関係性は「弱肉強食」と表現されがちですが、生物はどのような戦略によって生き残り、かつ共存しているかを考えます。
第 9 回	生物の作るコミュニティ	複数の生物種によって形成されるコミュニティにおける生物の関係性について、間接的効果の重要性に注目して解説します。
第 10 回	動物の社会性	動物には社会性を示すものがあり、中には非常に高度な社会を構築するものも存在します。ここでは、動物の示す社会性や社会構造について考えます。
第 11 回	生物多様性とは	生物多様性とは何か。その成り立ちや生態系機能との関係性について考えます。
第 12 回	保全生物学	生物多様性保全に関連する生物学的理論を解説すると共に、実践的なアプローチや課題について考えます。
第 13 回	土中環境	普段目を向けない地中の環境について生物学的視点から解説すると共に、関連する社会的課題について考えます。
第 14 回	学習のまとめ	秋学期の学習内容を確認し、総合的な理解度チェックを行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配布資料の通読、授業内容の復習と他の回の学習内容との関連性の確認など、本授業の準備・復習時間は各2時間を標準とします。欠席時には Hoppii 上の掲載物の取得、学習内容の確認など各自の責任で行うこと。

【テキスト（教科書）】

教科書はなし。各講義で資料を配布します。

【参考書】

適宜提示します。

【成績評価の方法と基準】

成績は、各回の演習・理解度チェックに基づく平常点（50%）と一学期間の学習内容全体の理解度チェックとなる期末試験（50%）の総合点で評価とします。

【学生の意見等からの気づき】

図表や動画の活用により、わかりやすい解説を心がけています。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムへのアクセスの確保（授業中にも必要になります）。

【Outline (in English)】

[Course outline] In this course, students will learn about macro-scale biological phenomena, and, as such, the course materials focus on interactions among organisms, ecosystem, and biodiversity. In addition, the course will discuss how the course materials relate to various issues that the human society faces today, such as problems associated with environmental degradation and resource management. As a whole, this course provide an opportunity to learn the biological basis of news, etc. that students may be exposed in their daily life.

[Learning objectives] The course objectives are: to acquire basic understanding of macro-scale biological phenomena; to understand how the class materials relate to various environmental problems; and to be able to apply the acquired understanding to problem solving.

[Learning activities outside of classroom] In addition to attending classes, students are expected to review contents of individual lectures, thoroughly read distributed reading materials, and utilize the online learning support system, as needed. Standard amounts of time to be spent for this purpose are two hours each for preparation and review.

[Grading criteria/policy] Final grade will be determined based on a final exam (50%) and participation/in-class performance (50%).

CHM100LA

入門化学A

2017年度以降入学者

向井 知大

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 3/Wed.3

単位数：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

原子や分子の構造や特徴、物質からエネルギーが得られるしくみについて、主に化学の観点から学んでいきます。

【到達目標】

自然現象や環境問題について原子や分子のレベルで理解し、科学的な思考で物事を説明する能力を高めることを目標とします。また、自然科学そのものに対する興味関心を高めることも目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

資料をプロジェクトで投影して解説していきます。投影する資料と簡単な解説文を授業支援システムにアップロードする予定です。高校などにおける自然科学系科目（理系科目）の履修の有無にかかわらず理解できるように進めます。

授業毎に出題する正誤問題や質問について、次回授業冒頭で解説をします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	講義計画と概要についての説明
第2回	物質の進化	元素の生い立ちについて
第3回	電子の発見	電気を運んだり、二つの原子を結びつける粒子について
第4回	電子と電磁波	電子の軌道と電磁波のエネルギーについて
第5回	同位体と原子の壊変	放射性同位体の壊変と半減期について
第6回	放射線	放射線を遮断する物質の特徴について
第7回	放射線と生体	放射線の活用や生体に及ぼす影響について
第8回	化学結合	原子が結びついて分子を形成する仕組みについて
第9回	有機化合物とその表記	カフェインやカプサイシンなど身近な化学物質の化学構造について
第10回	炭素材料	カーボンナノチューブやグラフェンの特徴について
第11回	燃焼と消火	燃焼に必要な要素や火薬の成分について
第12回	水と物質	水やメタンハイドレートの構造について
第13回	電池	化学電池、特にリチウムイオン二次電池の構造と特徴
第14回	まとめ	これまでの内容の復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義の内容に関連すると考えられる現象や用語について、各自が興味を持って書籍やweb検索などで調査してみてください。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

使用しません。授業で使用する資料を授業支援システムで公開します。

【参考書】

使用しません。

【成績評価の方法と基準】

学習支援システムに毎回5問程度の正誤問題を出題します。この成績を平常点とします（配分40%）。期末試験の結果（配分60%）と平常点をあわせて成績評価します。

【学生の意見等からの気づき】

化学の学習に不安を持つ学生のために、高校の学習範囲を予備知識として必要としない内容を心掛けています。また、高校で理系科目を多く履修した人も気づきが得られるように、なるべく身の回りの現象を題材にしています。今年度は、学生自身の手を動かす機会を増やすように考えています。

【Outline (in English)】

This course introduces molecular structure and properties.

The goal of the course is to improve students' science literacy.

Your required study time is at least two hours for each class meeting.

Your overall grade in the class will be decided based on the usual performance score (40%) and term-end examination (60%).

CHM100LA

入門化学B

2017年度以降入学者

向井 知大

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 3/Wed.3

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

暮らしの中の物質と環境問題の原因について、化学の観点から学んでいきます。

【到達目標】

現象や物質について原子や分子のレベルで理解し、科学的な思考で物事を説明する能力を高めることを目標とします。また、複雑な記号に見える有機物質の化学構造式から、その性質をある程度読み取ることができるようになることを目標に設定しています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

資料をプロジェクトで投影して解説していきます。投影する資料と簡単な解説文を授業支援システムにアップロードする予定です。高校などにおける自然科学系科目（理系科目）の履修の有無にかかわらず理解できるように進めます。

授業毎に出題する正誤問題や質問について、次回授業冒頭で解説をします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	講義計画と概要についての説明
第2回	光の三原色	光の性質と発光物質について
第3回	色の三原色	色素分子の特徴とクロミック現象について
第4回	自然の色素	天然の色素分子と視物質の挙動について
第5回	ヨウ素の科学	ヨウ素分子とヨウ化物イオン、有機ヨウ素分子の違いとそれぞれの利用について
第6回	光の散乱	分子の振動と光を用いた物質の分析について
第7回	赤外線吸収	二酸化炭素の振動のしかたと赤外線吸収の関係について
第8回	キラリティー	分子の右手と左手の関係について
第9回	液晶の発見と構造色	物質の状態変化にともなう分子の配向、運動状態の変化について
第10回	液晶ディスプレイ	電気を流さない物質が電場から受ける影響について
第11回	高分子	天然高分子と化学繊維やプラスチックの違いについて
第12回	触媒	化学反応を促進する原理について
第13回	排煙の浄化	排気ガスの浄化や化学物質の合成における触媒の役割について
第14回	まとめ	これまでの内容の復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義の内容に関連すると考えられる現象や用語について、各自が興味を持って書籍やweb検索などで調査してみてください。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

使用しません。

【参考書】

使用しません。

【成績評価の方法と基準】

学習支援システムに毎回5問程度の正誤問題を出題します。この成績を平常点とします（配分40%）。期末試験の結果（配分60%）と平常点をあわせて成績評価します。

【学生の意見等からの気づき】

化学の学習に不安を持つ学生のために、高校の学習範囲を予備知識として必要としない内容を心掛けています。また、高校で理系科目を多く履修した人も気づきが得られるように、なるべく身の回りの現象を題材にしています。今年度は、学生自身の手を動かす機会を増やすように考えています。

【Outline (in English)】

This course introduces molecular structure and properties.

The goal of the course is to understand about causes of environmental problems and to improve your science literacy. Your required study time is at least two hours for each class meeting.

Your overall grade in the class will be decided based on the usual performance score (40%) and term-end examination (60%).

CHM100LA

入門化学A

2017年度以降入学者

小林 令子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

これからの社会の持続的な発展を考えていくためには、基礎的な化学の知識は欠かせません。この授業では、無機化学と物理化学の領域を中心に、化学の基礎知識を修得し、自然科学的視点と思考を身につけることを目的とします。

【到達目標】

授業の前半では、原子や分子の構造、化学反応の基礎的な知識を修得します。これらの知識をもとに、後半の授業では、私たちの生活を脅かす環境問題を、化学的知見から理解し、自らの言葉で説明できるようになることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

本授業は、曜日時限を設定しないオンデマンド授業（資料・教材配布型）の形態によって行われます。授業教材と課題は、毎週火曜日から朝に学習支援システムに提示されます。履修者は、授業終了後に課題を実施することで、授業の内容を復習し、理解できているか確認します。課題は成績評価の対象となるとともに、履修者の理解度を授業に反映させる手立てでもありますので、必ず提出してください。課題の解答や解説は、事後の授業中に行います。質問は積極的にしてください。特に学習支援システムの掲示板を介した質問は、履修者全員で共有できるので歓迎します。質問へは、掲示板や授業の中でフィードバックします。高校等で化学を履修していなくても理解できるよう配慮します。状況によって下記の授業計画が変更になる場合は、随時学習支援システムにてお知らせします。第1回授業の資料は、2023年4月11日（火）朝に、学習支援システムにアップする予定です。第1回授業から課題はあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	1. ガイダンス 2. 測定値の単位	講義概要の説明 科学で使われる測定値の単位について解説
第2回	3. 物質を作るもの	原子、分子、イオンとは 原子の構造
第3回	4. 元素の周期性	原子の電子配置と化学的性質、周期表
第4回	5. 化学結合	イオン結合、共有結合、金属結合の仕組みと性質
第5回	6. 化学反応の基礎	化学量論 化学反応式の書き方 化学平衡
第6回	7. 酸塩基反応	酸・塩基とは、身近な中和反応
第7回	8. 酸化還元反応	酸化・還元とは、身近な酸化還元反応
第8回	9. 化学反応と熱	発熱反応と吸熱反応、化学エネルギーの利用
第9回	10. 物質の状態①	気体・液体・固体間の変化と熱収支、気体の性質

第10回	10. 物質の状態②	溶液の性質
第11回	11. 放射性物質	放射壊変とは、放射線の影響、トリチウムとは
第12回	12. 地球温暖化①	地球温暖化の現状、地球温暖化の仕組みと原因物質
第13回	12. 地球温暖化②	温暖化の影響
第14回	12. 地球温暖化③ 13. 大気・水質・土壌汚染	温暖化の将来予測、エネルギー 大気圏・水圏・陸圏の概要と汚染

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の授業のあと、課題の提出が必要です。復習をし、疑問に思うところ、理解できないところは積極的に質問してください。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

使用しません。学習支援システムに教材をアップします。

【参考書】

化学の世界への招待（第2版）、小林憲司ほか（編著）、三共出版
一般化学（四訂版）、長島弘三（著）、富田功（著）、裳華房

【成績評価の方法と基準】

成績は、提出課題の内容で100%評価します。各課題の詳細については、授業内で連絡します。

【学生の意見等からの気づき】

授業内容については概ね好評だったので、今年度も前年度の内容をもとに、関連する時事問題についてさらにアップデートして授業を行います。課題提出のスケジュールがきつかった、という意見を踏まえ、考慮します。

【学生が準備すべき機器他】

オンライン授業に必要なPCやタブレット端末等、および通信環境を準備する必要があります。

【Outline (in English)】

This course deals with the basis of inorganic and physical chemistry for non-science majors. Topics included are periodic table, atomic and molecular structure, chemical bonding, and chemical reactions. The goals of this course are to acquire basic knowledge of general chemistry and to understand global environmental problems by applying the knowledge. Before/after each class, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Grading will be decided based on required assignments that are given after each class (100%).

CHM100LA

入門化学B

2017年度以降入学者

小林 令子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses

単位数：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

これからの社会の持続的な発展を考えていくためには、基礎的な化学の知識は欠かせません。この授業では、有機化学と生化学の領域を中心に、化学の基礎知識を修得し、自然科学的視点と思考を身に着けることを目的とします。

【到達目標】

授業の前半では、有機化合物の構造と特性についての基礎的な知識を修得します。これらの知識をもとに、後半の授業では、生体を構成する有機化合物、および人体や環境に有害な化学物質について学習し、有害有機化学物質や有機化合物がかかわる身近な環境問題について、基礎的な知見を得ることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

本授業は、曜日時限を設定しないオンデマンド授業（資料・教材配布型）の形態によって行われます。授業教材と課題は、毎週火曜日朝に学習支援システムに提示されます。履修者は、授業終了後に課題を実施することで、授業の内容を復習し、理解できているか確認します。課題は成績評価の対象となるとともに、履修者の理解度を授業に反映させる手立てでもありますので、必ず提出してください。課題の解答や解説は、事後の授業中に行います。質問は積極的にしてください。特に学習支援システムの掲示板を介した質問は、履修者全員で共有できるので歓迎します。質問へは、掲示板や授業の中でフィードバックします。高校等で化学を履修していなくても理解できるよう配慮します。状況によって下記の授業計画が変更になる場合は、随時学習支援システムにてお知らせします。第1回授業の資料は、2023年9月26日（火）朝に、学習支援システムにアップする予定です。第1回授業から課題はあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	1. ガイダンス 2. 物質を構成するもの	講義概要の説明 物質の構成単位である原子・分子について解説
第2回	3. 有機化合物の特徴	有機化合物の主な構成元素、電子式、結合、構造式について
第3回	4. 官能基	有機化合物の特性を決める主な官能基について
第4回	5. 親水性・疎水性 酸性・塩基性	水への溶けやすさを決める官能基や、酸性・塩基性官能基について
第5回	6. 炭化水素	炭化水素の構造と性質、化石燃料について
第6回	7. 酸素を含む有機化合物	身近な酸素含有化合物の構造と性質について
第7回	8. 窒素を含む有機化合物 9. 芳香族化合物	身近な窒素含有化合物の構造と性質について 身近な芳香族化合物の構造と性質について

第8回	10. 有機化合物の酸化反応	有機化合物の酸化反応について、 燃焼反応、反応熱について
第9回	11. 有機化合物の重合反応	重合反応とは、プラスチックの特性、海洋プラスチック問題について
第10回	12. 生体を作る有機化合物①	糖質について
第11回	12. 生体を作る有機化合物②	タンパク質・脂質について
第12回	12. 生体を作る有機化合物③ 13. 生体内の化学反応①	核酸について 代謝について
第13回	13. 生体内の化学反応②	主要栄養素の代謝・酵素について
第14回	14. 有害化学物質	人体や生態系に有害な化学物質について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の授業のあと、課題の提出が必要です。復習をし、疑問に思うところ、理解できないところは積極的に質問してください。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

使用しません。学習支援システムに教材をアップします。

【参考書】

一般化学（四訂版）、長島 弘三（著）、富田 功（著）、裳華房
マクマリー生物有機化学 [有機化学編] 原書 8 版、菅原二三男（監訳）、丸善出版

【成績評価の方法と基準】

成績は、提出課題の内容で 100 % 評価します。各課題の詳細については、授業内で連絡します。

【学生の意見等からの気づき】

授業内容については概ね好評だったので、今年度も前年度の内容をもとに、関連する時事問題についてさらにアップデートして授業を行います。課題提出のスケジュールがきつかった、という意見を踏まえ、考慮します。

【学生が準備すべき機器他】

オンライン授業に必要な PC やタブレット端末等、および通信環境を準備する必要があります。

【Outline (in English)】

This course deals with the basis of organic chemistry and biochemistry for non-science majors. Topics included are chemical bonding, functional groups, acid-base, oxidation-reduction, polymerization, and major compounds and reactions in living organisms. The goals of this course are to acquire basic knowledge of organic chemistry and biochemistry, and to understand environmental problems associated with organic compounds by applying the knowledge. Before/after each class, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Grading will be decided based on required assignments that are given after each class (100%).

CHM100LA

入門化学 A

2017 年度以降入学者

中田 和秀

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 3/Mon.3

単位数：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

近年、現代文明の成長や持続性への関心から、エネルギーや環境に関する諸問題が注目を集めるようになってきました。これらの問題の解決には、科学的な考察が必要不可欠です。本授業では核エネルギーの利用に関連する環境問題やエネルギー消費過程について化学的な視点から解説します。関連する諸問題を化学的に理解することが本授業の目的です。

【到達目標】

現代文明は膨大なエネルギー消費のうえに成立しています。しかしながら、一人当たりのエネルギー消費量の増加および世界人口の増加によって、現在の主要エネルギー資源である化石燃料は枯渇の危機に瀕しており、新しいエネルギー資源の開発が必要不可欠となっています。春学期の本授業では核エネルギーを取り上げます。原子核の構造から原子力発電の仕組みに至るまで、関連分野を化学的に理解することを到達目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

本授業は、板書や資料のプロジェクターによるスクリーンへの投影を行いながら、講義形式で進めます。漫然と板書をノートに写すのではなく、自分で調べたことなどを書き加え、わかりやすくまとめてください。ノートは、ルーズリーフではなく、綴じたノートを購入して使用してください。また、化学の知識が無くても授業を理解できるように配慮いたします。時々、練習問題や宿題を課しますので、それらを通してより理解が深まることでしょう。課題内容については、次回の講義にて解説などのフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	講義計画と学習の仕方について解説する。
第 2 回	原子の構造	原子を構成する素粒子や原子が結合して生成する分子について解説し、原子に関する理解を深める。
第 3 回	同位体	同位体について解説する。安定同位体・放射性同位体の種類や性質を学習する。
第 4 回	放射性壊変 (1)	α 壊変および β 壊変について学習する。
第 5 回	放射性壊変 (2)	その他の放射性壊変について学習する。
第 6 回	天然放射性核種	自然界に存在する放射性核種について学習する。
第 7 回	人工放射性核種	人工的に核反応を起こさせて得られる放射性核種について学習する。
第 8 回	^{235}U の誘導核分裂	^{235}U に中性子を衝突させたときに起きる核反応について学習し、原子炉で起きている核反応について理解する。
第 9 回	^{239}Pu の誘導核分裂	^{239}Pu に中性子を衝突させたときに起きる核反応について学習し、原子炉で起きている核反応について理解する。
第 10 回	核エネルギー	核反応にともなって反応系に出入りするエネルギーについて考察する。

第 11 回	原子力発電所の構造	原子力発電所の内部構造を概観し、どのように電気エネルギーが生産されるかを学習する。
第 12 回	原子力発電所の種類 (1)	最も一般的な軽水炉について学習する。
第 13 回	原子力発電所の種類 (2)	高速増殖炉、プルサーマル等、その他の形式の原子力発電所について学習する。
第 14 回	まとめ	本授業のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。できるだけ早い段階で、教科書を通読して学習に臨んでください。各回終了後は、各自の興味関心に基づいた発展的な読書を行うと共に、指示にしたがって課題作成を行ってください。

【テキスト（教科書）】

下記書籍を教科書として使用しますので、各自購入してください。教科書は、法政大学生協にて購入することができます。

書名：新版 エネルギーの科学（第 2 版）

著者名：安井伸郎

出版者名：三共出版

【参考書】

参考書として下記書籍を推薦します。他の参考書については授業中に適宜紹介します。

書名：放射化学・放射線化学

著者名：前田米藏, 百島則幸

出版者名：南山堂

【成績評価の方法と基準】

成績は、期末試験（教科書、プリント、およびノート持ち込み可）により評価します。(100%)

【学生の意見等からの気づき】

昨年度の授業内容について概ね好評であったので今年度も同様に授業を進めます。

【学生が準備すべき機器他】

状況に応じてオンライン授業を行う場合がありますので、PC やタブレット端末等、オンライン授業に必要な機器を準備しておく必要があります。

【その他の重要事項】

秋学期に開講される「入門化学 B」を合わせて受講することをお勧めします。

第 1 回授業は、Zoom を利用したオンライン授業となります。Zoom のアクセス情報は、授業開始までに学習支援システム（HOPPII）の「お知らせ」欄に掲載します。

【Outline (in English)】

In recent years, energy and environment-related issues are attracting attention in connection with the interest in the growth and sustainability of modern civilization. To find solutions for such issues, natural sciences play crucial roles. In this lecture, environmental problems and energy-consumption process related to the utilization of nuclear energies will be discussed through the viewpoint of chemistry. Understanding chemistry fundamental to such topics is the aim of this lecture. Students should read the textbook as early as possible before a class and are encouraged advanced reading on the basis of their own interest after a class. The study time will be more than two hours. The overall grade in the class will be decided based on the term-end examination (100%).

CHM100LA

入門化学B

2017年度以降入学者

中田 和秀

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 3/Mon.3

単位数：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

近年、現代文明の成長や持続性への関心から、エネルギーや環境に関する諸問題が注目を集めるようになってきました。これらの問題の解決には、科学的な考察が必要不可欠です。本授業では化石燃料の燃焼によって引き起こされる環境問題やエネルギー消費について化学的な視点から解説します。関連する諸問題を化学的に理解することが本授業の目的です。

【到達目標】

現代文明は、主に石炭、石油、天然ガスなどの化石燃料の消費に支えられています。この化石燃料の消費が多くの環境問題の原因となっている一方で、化石燃料は我々の生活に不可欠なほとんどの化学物質の原料としての役割を持っています。本授業では、文明の鍵である化石燃料について、成分分子の構造や性質に加え、燃焼反応に伴う生成物や反応熱に関して定量的に理解することを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

本授業は、板書や資料のプロジェクターによるスクリーンへの投影を行いながら、講義形式で進めます。漫然と板書をノートに写すのではなく、自分で調べたことなどを書き加え、わかりやすくまとめてください。ノートは、ルーズリーフではなく、綴じたノートを購入して使用してください。また、化学の知識が無くても授業を理解できるように配慮いたします。時々、練習問題や宿題を課しますので、それらを通してより理解が深まることでしょう。課題内容については、次回の講義にて解説などのフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	講義計画と学習の仕方について講義する。
第2回	分子	物質の基本単位である分子の構造や種類を学習する。
第3回	化学反応	物質の変化である化学反応に関して基本的な法則や表記法を演習を交えて学習する。
第4回	炭化水素の燃焼	化石燃料からエネルギーを取り出す際に本質的な炭化水素の燃焼反応について詳細に検討する。
第5回	化学量論	原子量・分子量の概念を学習し、反応物と生成物の量的関係を学習する。
第6回	熱化学方程式	化学反応に伴って出入りするエネルギーに関して、種類や関連する法則を学習する。
第7回	炭化水素の H/C 比	炭化水素の H/C 比と燃焼熱の関係について詳細に議論し、化石燃料に関する理解を深める。
第8回	CO ₂ の排出量	CO ₂ の排出量と燃焼熱の関係について詳細に議論し、化石燃料に関する理解を深める。
第9回	石炭	石炭に関して、成り立ち、特徴、利用法、関連する環境問題などを学習する。

第10回	石油	石油に関して、成り立ち、特徴、利用法、関連する環境問題などを学習する。
第11回	天然ガス	天然ガスに関して、成り立ち、特徴、利用法、関連する環境問題等を学習する。
第12回	その他の化石燃料	オイルサンド、オイルシェール等に関して、成り立ち、特徴、利用法などを学習する。
第13回	温暖化・酸性雨	化石燃料の燃焼に伴って発生した地球温暖化や酸性雨について学習する。
第14回	まとめ	本授業のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。できるだけ早い段階で、教科書を通読して学習に臨んでください。各回終了後は、各自の興味関心に基づいた発展的な読書を行うと共に、指示にしたがって課題作成を行ってください。

【テキスト（教科書）】

下記書籍を教科書として使用しますので、各自購入してください。教科書は、法政大学生協にて購入することができます。

書名：新版 エネルギーの科学（第2版）

著者名：安井伸郎

出版者名：三共出版

【参考書】

参考書として下記書籍を推薦します。他の参考書については授業中に適宜紹介します。

書名：教養としての化学入門（第2版）

著者名：Kimberley Waldron

訳者名：竹内敬人

出版者名：化学同人

【成績評価の方法と基準】

成績は、期末試験（教科書、プリント、およびノート持ち込み可）により評価します。（100%）

【学生の意見等からの気づき】

昨年度の授業の進め方について概ね好評であったので今年度も同様に授業を進めます。

【学生が準備すべき機器他】

状況に応じてオンライン授業を行うことがありますので、PC やタブレット端末等、オンライン授業に必要な機器を準備しておく必要があります。

【その他の重要事項】

春学期に開講される「入門化学A」を合わせて受講することをお勧めします。

第1回授業は、Zoom を利用したオンライン授業となります。Zoom のアクセス情報は、授業開始までに学習支援システム（HOPPII）の「お知らせ」欄に掲載します。

【Outline (in English)】

In recent years, energy and environment-related issues are attracting attention in connection with the interest in the growth and sustainability of modern civilization. To find solutions for such issues, natural sciences play crucial roles. In this lecture, environmental problems and energy-consumption process related to the utilization of fossil fuels will be discussed through the viewpoint of chemistry. Understanding chemistry fundamental to such topics is the aim of this lecture. Students should read the textbook as early as possible before a class and are encouraged advanced reading on the basis of their own interest after a class. The study time will be more than two hours. The overall grade in the class will be decided based on the term-end examination (100%).

CHM100LA

入門化学A

2017年度以降入学者

石塚 芽具美

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 2/Tue.2

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

私たちが生きる地球において、その生活環境について考えていくことは、とても大切です。本講義では、地球上における環境について思考するための手助けとなる、目に見えない原子や分子についての化学事象を捉えていきます。

【到達目標】

私たちの身の回りにある物がどのような現象を起こしているのかを、目に見えないレベルで原子や元素といった化学的な考え方で習得します。

以前よりも化学現象にさらに興味を持ち、考える力を養います。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

こちらで準備した資料を見てもらいながら、説明をします。学習支援システムを使用して、事前に資料をアップロードしたり、追加資料をアップロードし、授業のフィードバックも行う予定です。これまでに化学を履修していなくても理解できるようにします。提出された課題について質問があった場合などは、次回以降の授業で反映して説明をします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	講義の概要の説明と受講方法について
第2回	物質について	物質の考え方として、原子を理解する
第3回	元素	物質の考え方として、原子を理解する
第4回	電子軌道と電子配置	電子軌道や電子配置について理解し、分子の形について考える
第5回	イオン	イオンのでき方を理解する
第6回	イオン結合	イオン結合の仕組みを理解する
第7回	共有結合	電子配置の安定化とは何か
第8回	配位結合と金属結合	配位結合や金属結合を理解し、金属の特徴を知る
第9回	分子の極性	電気陰性度と分子の極性について理解する
第10回	分子間力	分子間力や分子の集合について考える
第11回	物質質量	地球上における環境を考えるための、物質質量の概念を理解する
第12回	化学反応式を使った環境の思考	化学反応式を使って、地球上の環境について考える
第13回	分子の環境との関わり	分子が、私たちの環境にどのように関わっているかを考える
第14回	まとめ	これまでの内容の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学習支援システムにおいて、講義内容に関する簡単な課題を提出してもらいます。

あらかじめ講義テーマに関することを本やインターネットで調べてみることをおすすめします。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特にありません。

学習支援システムに、資料を掲載します。

【参考書】

特にありません。

授業内で紹介することがあります。

【成績評価の方法と基準】

学習支援システムに、毎回簡単な課題を出題します。

期末試験の結果を50%、平常点（毎回出題する課題）を50%の配分として成績を評価します。

【学生の意見等からの気づき】

化学を科目として受講したことがなくても、問題ありません。

日々の生活の中でのここが化学であるを知ってもらえるような授業として、行っていきたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムに接続するためのPCなどの機器

【Outline (in English)】

This course introduces chemical events of invisible atoms or molecules to students taking this course.

By the end of the course, students should be able to do the followings:

– To learn what phenomena are occurring in our surroundings at an invisible level, such as atoms and elements, using chemical ideas.

– To be more interested in chemical phenomena than before and develop the ability to think.

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination: 50%, in class contribution: 50%

CHM100LA

入門化学B

2017年度以降入学者

石塚 芽具美

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 2/Tue.2

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

私たちが生活する上で、目に見えない化学的事象について考えることは、より生活を豊かにすることにもつながっていきます。本講義では、より生活を豊かにしていくために知っておくと便利な化学的知識を習得します。

【到達目標】

私たちの身の回りにある物がどのような現象を起こしているのかを、目に見えないレベルで原子や元素といった化学的な考え方で習得します。このようにして、化学現象を生活に生かしていくための能力を養います。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

こちらで準備した資料を見もらいながら、説明をします。学習支援システムを使用して、事前に資料をアップロードしたり、追加資料をアップロードし、授業のフィードバックも行う予定です。これまでに化学を履修していなくても理解できるようにします。提出された課題について質問があった場合などは、次回以降の授業で反映して説明をします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	講義の概要の説明と受講方法について
第2回	周期表と電子配置	周期表と電子配置について考え、理解する
第3回	酸化と還元	酸化と還元について、現象を理解する
第4回	モル濃度	モル濃度について考え、生活との関連について学ぶ
第5回	化学平衡	化学平衡の概念を理解する
第6回	酸と塩基	酸と塩基について、理解する
第7回	混成軌道	混成軌道とは何かを考える
第8回	異性体	異性体の仕組みを理解し、どんなものがあるかを知る
第9回	共鳴と芳香族性	共鳴と芳香族性について捉え、生活と結び付け考える
第10回	有機物の酸と塩基	有機物の酸と塩基について、考える
第11回	界面活性剤について	洗浄作用のある界面活性剤の仕組みについて、考える
第12回	金属表面に関する分子の構造を知る手法	金属表面に吸着する分子の構造を知るには、どうすればよいかを考える
第13回	金属に吸着する分子の話	金属に吸着させると離れない分子について、紹介する
第14回	まとめ	これまでの内容の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学習支援システムにおいて、講義内容に関する簡単な課題を提出してもらいます。

あらかじめ、講義テーマに関することを、本やインターネットで調べてみることをおすすめします。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特にありません。

学習支援システムに、資料を掲載します。

【参考書】

特にありません。

授業内で紹介することがあります。

【成績評価の方法と基準】

学習支援システムに、毎回簡単な課題を出題します。

期末試験の結果を50%、平常点（毎回出題する課題）を50%の配分として成績を評価します。

【学生の意見等からの気づき】

化学を科目として受講したことがなくても、問題ありません。

日々の生活の中でのこが化学であるを知ってもらえるような授業として、行っていききたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムに接続するための、PCなどの機器

【Outline (in English)】

This course introduces chemical knowledge that is useful to enrich your life to students taking this course.

By the end of the course, students should be able to do the followings:

– To learn what phenomena are occurring in our surroundings at an invisible level, such as atoms and elements, using chemical ideas.

– To develop the ability to make use of chemical phenomena in their lives.

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination: 50%, in class contribution: 50%

CHM100LA

入門化学A

2017年度以降入学者

小林 令子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses

単位数：2単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

これからの社会の持続的な発展を考えていくためには、基礎的な化学の知識は欠かせません。この授業では、無機化学と物理化学の領域を中心に、化学の基礎知識を修得し、自然科学的視点と思考を身につけることを目的とします。

【到達目標】

授業の前半では、原子や分子の構造、化学反応の基礎的な知識を修得します。これらの知識をもとに、後半の授業では、私たちの生活を脅かす環境問題を、化学的知見から理解し、自らの言葉で説明できるようになることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

本授業は、曜日時限を設定しないオンデマンド授業（資料・教材配布型）の形態によって行われます。授業教材と課題は、毎週火曜日から朝に学習支援システムに提示されます。履修者は、授業終了後に課題を実施することで、授業の内容を復習し、理解できているか確認します。課題は成績評価の対象となるとともに、履修者の理解度を授業に反映させる手立てでもありますので、必ず提出してください。課題の解答や解説は、事後の授業中に行います。質問は積極的にしてください。特に学習支援システムの掲示板を介した質問は、履修者全員で共有できるので歓迎します。質問へは、掲示板や授業の中でフィードバックします。高校等で化学を履修していなくても理解できるよう配慮します。状況によって下記の授業計画が変更になる場合は、随時学習支援システムにてお知らせします。第1回授業の資料は、2023年4月11日（火）朝に、学習支援システムにアップする予定です。第1回授業から課題はあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	1. ガイダンス 2. 測定値の単位	講義概要の説明 科学で使われる測定値の単位について解説
第2回	3. 物質を作るもの	原子、分子、イオンとは 原子の構造
第3回	4. 元素の周期性	原子の電子配置と化学的性質、周期表
第4回	5. 化学結合	イオン結合、共有結合、金属結合の仕組みと性質
第5回	6. 化学反応の基礎	化学量論 化学反応式の書き方 化学平衡
第6回	7. 酸塩基反応	酸・塩基とは、身近な中和反応
第7回	8. 酸化還元反応	酸化・還元とは、身近な酸化還元反応
第8回	9. 化学反応と熱	発熱反応と吸熱反応、化学エネルギーの利用
第9回	10. 物質の状態①	気体・液体・固体間の変化と熱収支、気体の性質

第10回	10. 物質の状態②	溶液の性質
第11回	11. 放射性物質	放射壊変とは、放射線の影響、トリチウムとは
第12回	12. 地球温暖化①	地球温暖化の現状、地球温暖化の仕組みと原因物質
第13回	12. 地球温暖化②	温暖化の影響
第14回	12. 地球温暖化③ 13. 大気・水質・土壌汚染	温暖化の将来予測、エネルギー 大気圏・水圏・陸圏の概要と汚染

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の授業のあと、課題の提出が必要です。復習をし、疑問に思うところ、理解できないところは積極的に質問してください。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

使用しません。学習支援システムに教材をアップします。

【参考書】

化学の世界への招待（第2版）、小林憲司ほか（編著）、三共出版
一般化学（四訂版）、長島弘三（著）、富田功（著）、裳華房

【成績評価の方法と基準】

成績は、提出課題の内容で100%評価します。各課題の詳細については、授業内で連絡します。

【学生の意見等からの気づき】

授業内容については概ね好評だったので、今年度も前年度の内容をもとに、関連する時事問題についてさらにアップデートして授業を行います。課題提出のスケジュールがきつかった、という意見を踏まえ、考慮します。

【学生が準備すべき機器他】

オンライン授業に必要なPCやタブレット端末等、および通信環境を準備する必要があります。

【Outline (in English)】

This course deals with the basis of inorganic and physical chemistry for non-science majors. Topics included are periodic table, atomic and molecular structure, chemical bonding, and chemical reactions. The goals of this course are to acquire basic knowledge of general chemistry and to understand global environmental problems by applying the knowledge. Before/after each class, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Grading will be decided based on required assignments that are given after each class (100%).

CHM100LA

入門化学B

2017年度以降入学者

小林 令子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses

単位数：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

これからの社会の持続的な発展を考えていくためには、基礎的な化学の知識は欠かせません。この授業では、有機化学と生化学の領域を中心に、化学の基礎知識を修得し、自然科学的視点と思考を身に着けることを目的とします。

【到達目標】

授業の前半では、有機化合物の構造と特性についての基礎的な知識を修得します。これらの知識をもとに、後半の授業では、生体を構成する有機化合物、および人体や環境に有害な化学物質について学習し、有害有機化学物質や有機化合物がかかわる身近な環境問題について、基礎的な知見を得ることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

本授業は、曜日時限を設定しないオンデマンド授業（資料・教材配布型）の形態によって行われます。授業教材と課題は、毎週火曜日朝に学習支援システムに提示されます。履修者は、授業終了後に課題を実施することで、授業の内容を復習し、理解できているか確認します。課題は成績評価の対象となるとともに、履修者の理解度を授業に反映させる手立てでもありますので、必ず提出してください。課題の解答や解説は、事後の授業中に行います。質問は積極的にしてください。特に学習支援システムの掲示板を介した質問は、履修者全員で共有できるので歓迎します。質問へは、掲示板や授業の中でフィードバックします。高校等で化学を履修していなくても理解できるよう配慮します。状況によって下記の授業計画が変更になる場合は、随時学習支援システムにてお知らせします。第1回授業の資料は、2023年9月26日（火）朝に、学習支援システムにアップする予定です。第1回授業から課題はあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	1. ガイダンス 2. 物質を構成するもの	講義概要の説明 物質の構成単位である原子・分子について解説
第2回	3. 有機化合物の特徴	有機化合物の主な構成元素、電子式、結合、構造式について
第3回	4. 官能基	有機化合物の特性を決める主な官能基について
第4回	5. 親水性・疎水性 酸性・塩基性	水への溶けやすさを決める官能基や、酸性・塩基性官能基について
第5回	6. 炭化水素	炭化水素の構造と性質、化石燃料について
第6回	7. 酸素を含む有機化合物	身近な酸素含有化合物の構造と性質について
第7回	8. 窒素を含む有機化合物 9. 芳香族化合物	身近な窒素含有化合物の構造と性質について 身近な芳香族化合物の構造と性質について

第8回	10. 有機化合物の酸化反応	有機化合物の酸化反応について、 燃焼反応、反応熱について
第9回	11. 有機化合物の重合反応	重合反応とは、プラスチックの特性、海洋プラスチック問題について
第10回	12. 生体を作る有機化合物①	糖質について
第11回	12. 生体を作る有機化合物②	タンパク質・脂質について
第12回	12. 生体を作る有機化合物③ 13. 生体内の化学反応①	核酸について 代謝について
第13回	13. 生体内の化学反応②	主要栄養素の代謝・酵素について
第14回	14. 有害化学物質	人体や生態系に有害な化学物質について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の授業のあと、課題の提出が必要です。復習をし、疑問に思うところ、理解できないところは積極的に質問してください。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

使用しません。学習支援システムに教材をアップします。

【参考書】

一般化学（四訂版）、長島 弘三（著）、富田 功（著）、裳華房
マクマリー生体有機化学 [有機化学編] 原書 8 版、菅原二三男（監訳）、丸善出版

【成績評価の方法と基準】

成績は、提出課題の内容で 100 % 評価します。各課題の詳細については、授業内で連絡します。

【学生の意見等からの気づき】

授業内容については概ね好評だったので、今年度も前年度の内容をもとに、関連する時事問題についてさらにアップデートして授業を行います。課題提出のスケジュールがきつかった、という意見を踏まえ、考慮します。

【学生が準備すべき機器他】

オンライン授業に必要な PC やタブレット端末等、および通信環境を準備する必要があります。

【Outline (in English)】

This course deals with the basis of organic chemistry and biochemistry for non-science majors. Topics included are chemical bonding, functional groups, acid-base, oxidation-reduction, polymerization, and major compounds and reactions in living organisms. The goals of this course are to acquire basic knowledge of organic chemistry and biochemistry, and to understand environmental problems associated with organic compounds by applying the knowledge. Before/after each class, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Grading will be decided based on required assignments that are given after each class (100%).

CHM100LA

入門化学 A

2017 年度以降入学者

中田 和秀

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 4/Mon.4

単位数：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

近年、現代文明の成長や持続性への関心から、エネルギーや環境に関する諸問題が注目を集めるようになってきました。これらの問題の解決には、科学的な考察が必要不可欠です。本授業では核エネルギーの利用に関連する環境問題やエネルギー消費過程について化学的な視点から解説します。関連する諸問題を化学的に理解することが本授業の目的です。

【到達目標】

現代文明は膨大なエネルギー消費のうえに成立しています。しかしながら、一人当たりのエネルギー消費量の増加および世界人口の増加によって、現在の主要エネルギー資源である化石燃料は枯渇の危機に瀕しており、新しいエネルギー資源の開発が必要不可欠となっています。春学期の本授業では核エネルギーを取り上げます。原子核の構造から原子力発電の仕組みに至るまで、関連分野を化学的に理解することを到達目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

本授業は、板書や資料のプロジェクターによるスクリーンへの投影を行いながら、講義形式で進めます。漫然と板書をノートに写すのではなく、自分で調べたことなどを書き加え、わかりやすくまとめてください。ノートは、ルーズリーフではなく、綴じたノートを購入して使用してください。また、化学の知識が無くても授業を理解できるように配慮いたします。時々、練習問題や宿題を課しますので、それらを通してより理解が深まることでしょう。課題内容については、次回の講義にて解説などのフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	講義計画と学習の仕方について解説する。
第 2 回	原子の構造	原子を構成する素粒子や原子が結合して生成する分子について解説し、原子に関する理解を深める。
第 3 回	同位体	同位体について解説する。安定同位体・放射性同位体の種類や性質を学習する。
第 4 回	放射性壊変 (1)	α 壊変および β 壊変について学習する。
第 5 回	放射性壊変 (2)	その他の放射性壊変について学習する。
第 6 回	天然放射性核種	自然界に存在する放射性核種について学習する。
第 7 回	人工放射性核種	人工的に核反応を起こさせて得られる放射性核種について学習する。
第 8 回	^{235}U の誘導核分裂	^{235}U に中性子を衝突させたときに起きる核反応について学習し、原子炉で起きている核反応について理解する。
第 9 回	^{239}Pu の誘導核分裂	^{239}Pu に中性子を衝突させたときに起きる核反応について学習し、原子炉で起きている核反応について理解する。
第 10 回	核エネルギー	核反応にともなって反応系に出入りするエネルギーについて考察する。

第 11 回	原子力発電所の構造	原子力発電所の内部構造を概観し、どのように電気エネルギーが生産されるかを学習する。
第 12 回	原子力発電所の種類 (1)	最も一般的な軽水炉について学習する。
第 13 回	原子力発電所の種類 (2)	高速増殖炉、プルサーマル等、その他の形式の原子力発電所について学習する。
第 14 回	まとめ	本授業のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。できるだけ早い段階で、教科書を通読して学習に臨んでください。各回終了後は、各自の興味関心に基づいた発展的な読書を行うと共に、指示にしたがって課題作成を行ってください。

【テキスト（教科書）】

下記書籍を教科書として使用しますので、各自購入してください。教科書は、法政大学生協にて購入することができます。

書名：新版 エネルギーの科学（第 2 版）

著者名：安井伸郎

出版者名：三共出版

【参考書】

参考書として下記書籍を推薦します。他の参考書については授業中に適宜紹介します。

書名：放射化学・放射線化学

著者名：前田米藏, 百島則幸

出版者名：南山堂

【成績評価の方法と基準】

成績は、期末試験（教科書、プリント、およびノート持ち込み可）により評価します。(100%)

【学生の意見等からの気づき】

昨年度の授業内容について概ね好評であったので今年度も同様に授業を進めます。

【学生が準備すべき機器他】

状況に応じてオンライン授業を行う場合がありますので、PC やタブレット端末等、オンライン授業に必要な機器を準備しておく必要があります。

【その他の重要事項】

秋学期に開講される「入門化学 B」を合わせて受講することをお勧めします。

第 1 回授業は、Zoom を利用したオンライン授業となります。Zoom のアクセス情報は、授業開始までに学習支援システム（HOPPII）の「お知らせ」欄に掲載します。

【Outline (in English)】

In recent years, energy and environment-related issues are attracting attention in connection with the interest in the growth and sustainability of modern civilization. To find solutions for such issues, natural sciences play crucial roles. In this lecture, environmental problems and energy-consumption process related to the utilization of nuclear energies will be discussed through the viewpoint of chemistry. Understanding chemistry fundamental to such topics is the aim of this lecture. Students should read the textbook as early as possible before a class and are encouraged advanced reading on the basis of their own interest after a class. The study time will be more than two hours. The overall grade in the class will be decided based on the term-end examination (100%).

CHM100LA

入門化学B

2017年度以降入学者

中田 和秀

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 4/Mon.4

単位数：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

近年、現代文明の成長や持続性への関心から、エネルギーや環境に関する諸問題が注目を集めるようになってきました。これらの問題の解決には、科学的な考察が必要不可欠です。本授業では化石燃料の燃焼によって引き起こされる環境問題やエネルギー消費について化学的な視点から解説します。関連する諸問題を化学的に理解することが本授業の目的です。

【到達目標】

現代文明は、主に石炭、石油、天然ガスなどの化石燃料の消費に支えられています。この化石燃料の消費が多くの環境問題の原因となっている一方で、化石燃料は我々の生活に不可欠なほとんどの化学物質の原料としての役割を持っています。本授業では、文明の鍵である化石燃料について、成分分子の構造や性質に加え、燃焼反応に伴う生成物や反応熱に関して定量的に理解することを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

本授業は、板書や資料のプロジェクターによるスクリーンへの投影を行いながら、講義形式で進めます。漫然と板書をノートに写すのではなく、自分で調べたことなどを書き加え、わかりやすくまとめてください。ノートは、ルーズリーフではなく、綴じたノートを購入して使用してください。また、化学の知識が無くても授業を理解できるように配慮いたします。時々、練習問題や宿題を課しますので、それらを通してより理解が深まることでしょう。課題内容については、次回の講義にて解説などのフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	講義計画と学習の仕方について講義する。
第2回	分子	物質の基本単位である分子の構造や種類を学習する。
第3回	化学反応	物質の変化である化学反応に関して基本的な法則や表記法を演習を交えて学習する。
第4回	炭化水素の燃焼	化石燃料からエネルギーを取り出す際に本質的な炭化水素の燃焼反応について詳細に検討する。
第5回	化学量論	原子量・分子量の概念を学習し、反応物と生成物の量的関係を学習する。
第6回	熱化学方程式	化学反応に伴って出入りするエネルギーに関して、種類や関連する法則を学習する。
第7回	炭化水素の H/C 比	炭化水素の H/C 比と燃焼熱の関係について詳細に議論し、化石燃料に関する理解を深める。
第8回	CO ₂ の排出量	CO ₂ の排出量と燃焼熱の関係について詳細に議論し、化石燃料に関する理解を深める。
第9回	石炭	石炭に関して、成り立ち、特徴、利用法、関連する環境問題などを学習する。

第10回	石油	石油に関して、成り立ち、特徴、利用法、関連する環境問題などを学習する。
第11回	天然ガス	天然ガスに関して、成り立ち、特徴、利用法、関連する環境問題等を学習する。
第12回	その他の化石燃料	オイルサンド、オイルシェール等に関して、成り立ち、特徴、利用法などを学習する。
第13回	温暖化・酸性雨	化石燃料の燃焼に伴って発生した地球温暖化や酸性雨について学習する。
第14回	まとめ	本授業のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。できるだけ早い段階で、教科書を通読して学習に臨んでください。各回終了後は、各自の興味関心に基づいた発展的な読書を行うと共に、指示にしたがって課題作成を行ってください。

【テキスト（教科書）】

下記書籍を教科書として使用しますので、各自購入してください。教科書は、法政大学生協にて購入することができます。

書名：新版 エネルギーの科学（第2版）

著者名：安井伸郎

出版者名：三共出版

【参考書】

参考書として下記書籍を推薦します。他の参考書については授業中に適宜紹介します。

書名：教養としての化学入門（第2版）

著者名：Kimberley Waldron

訳者名：竹内敬人

出版者名：化学同人

【成績評価の方法と基準】

成績は、期末試験（教科書、プリント、およびノート持ち込み可）により評価します。（100%）

【学生の意見等からの気づき】

昨年度の授業の進め方について概ね好評であったので今年度も同様に授業を進めます。

【学生が準備すべき機器他】

状況に応じてオンライン授業を行うことがありますので、PC やタブレット端末等、オンライン授業に必要な機器を準備しておく必要があります。

【その他の重要事項】

春学期に開講される「入門化学 A」を合わせて受講することをお勧めします。

第1回授業は、Zoom を利用したオンライン授業となります。Zoom のアクセス情報は、授業開始までに学習支援システム（HOPPII）の「お知らせ」欄に掲載します。

【Outline (in English)】

In recent years, energy and environment-related issues are attracting attention in connection with the interest in the growth and sustainability of modern civilization. To find solutions for such issues, natural sciences play crucial roles. In this lecture, environmental problems and energy-consumption process related to the utilization of fossil fuels will be discussed through the viewpoint of chemistry. Understanding chemistry fundamental to such topics is the aim of this lecture. Students should read the textbook as early as possible before a class and are encouraged advanced reading on the basis of their own interest after a class. The study time will be more than two hours. The overall grade in the class will be decided based on the term-end examination (100%).

ASR100LA

天文学 A

2017 年度以降入学者

福島 登志夫

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 3/Mon.3

単位数：2 単位

この授業は「Web 履修抽選対象授業」です。抽選エントリー期間は 2023 年 4 月 3 日（月）10：00～5 日（水）17：00、結果発表は 4 月 6 日（木）22：00（予定）です。履修ガイド (<https://hosei-keiji.jp/ilac/rishuguide2023/>) を確認のうえ、情報システムから期間内にエントリーしてください。

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

宇宙の不思議について学ぶ。具体的には、太陽系・星・銀河などを例に、天文学に関する最新知識を習得する。

【到達目標】

宇宙の構成を理解し、太陽系、星、銀河、宇宙全体に関する基礎知識を、他者に教えられる程度に理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

事前配布したスライド資料およびビデオ教材を用いて講義する。授業内容に関しては、学習支援システム内の掲示板を用いて質疑応答を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	天文学とは	宇宙と天文の字義から全体像を説き起こす。
2	宇宙の姿	すばる望遠鏡などによる宇宙の鮮明な画像や映像を紹介する。
3	身近な天体	太陽、月および地球について学習する。
4	近くの惑星	水星、金星および火星について学習する。
5	遠くの惑星	木星、土星、天王星および海王星について学習する。
6	太陽系の果て	冥王星、彗星および小惑星について学習する。
7	望遠鏡	光学望遠鏡と電波望遠鏡について学ぶ。
8	見える宇宙	光と電波では何が見えて何が見えないかを学ぶ。
9	恒星	恒星の誕生から死までの一生について学ぶ。
10	銀河	星およびガスの集まりである銀河等について学ぶ。
11	宇宙構造	宇宙全体の構造について学ぶ。
12	宇宙史	ビッグバンと宇宙膨張を中心に宇宙の歴史について学ぶ。
13	ダークマター	銀河の回転曲線の謎をはじめ、宇宙の多くを占める見えない物質ダークマターについて学ぶ。
14	ブラックホール	超新星の爆発と巨大ブラックホールなど宇宙におけるブラックホールの役割を学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。配布資料等を用いて行うべき学習内容の詳細は以下のサイトから無料でダウンロード可能である。

[授業スケジュールの PDF ファイル]

https://www.researchgate.net/publication/359438227_Lecture_Schedule_of_Introduction_to_Astronomy_in_Japanese

【テキスト（教科書）】

市販の教科書は使用しない。講義資料（スライドおよび質疑応答集）は以下のサイトから無料でダウンロード可能である。

[スライド集の PDF ファイル]

https://www.researchgate.net/publication/327306485_Introduction_to_Astronomy_2018_in_Japanese

[質疑応答集の PDF ファイル]

https://www.researchgate.net/publication/346583069_FAQ_on_Introduction_to_Astronomy_Part_1_in_Japanese

【参考書】

参考書は講義資料に明記してあるが、必ずしも購入する必要はない。講義に関連する無料アクセス可能なビデオ教材等の情報は、上記の「授業スケジュール」資料に記載している。

【成績評価の方法と基準】

レポート課題（100%）による。

【学生の意見等からの気づき】

レポート課題は電子提出とする。

【学生が準備すべき機器他】

ネットに接続可能な PC を利用することを勧める。

【Outline (in English)】

(Course Outline) Study the wonder of the universe.

(Learning Objectives) Obtain the latest knowledge on astronomy such as the solar system, stars, and galaxies.

(Learning Activities outside Classroom) Inquire further information from the WEB and/or books after learning.

(Grading Criteria/Policy) Subject to reports submitted.

ASR100LA

天文学B

2017年度以降入学者

福島 登志夫

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 3/Mon.3

単位数：2 単位

この授業は「Web 履修抽選対象授業」です。抽選エントリー期間は 2023 年 4 月 3 日 (月) 10 : 00~5 日 (水) 17 : 00、結果発表は 4 月 6 日 (木) 22 : 00 (予定) です。履修ガイド (<https://hosei-keiji.jp/ilac/rishuguide2023/>) を確認のうえ、情報システムから期間内にエントリーしてください。

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

宇宙を支配する重力に関するケプラーからアインシュタインまでの科学者の努力について学ぶ。

【到達目標】

天動説・地動説の論争に見るように、科学の歴史は直線的でないことを習得し、いくつかのエピソードとその結果の学説について、他者に解説できるように理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

事前配布したスライド資料およびビデオ教材を用いて講義する。授業内容に関しては、学習支援システム内の掲示板を用いて質疑応答を行う。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	重力の特徴	電磁力など他の力にない重力の特徴を学ぶ
2	惑星の運動	水星、金星と火星、木星、土星の二大グループ化の理屈
3	天動説と地動説	プトレマイオスの周転円理論、コペルニクスの単純地動説、ガリレオの望遠鏡
4	ケプラーの法則	大いなる現象論と物理三法則の初め
5	万有引力	ニュートンの重力理論。遠隔力、現実をよく説明。
6	彗星の運動	ハレーの彗星表作成による周期彗星の発見
7	地球の形状	英仏間の大論争。フランス大探検隊の実測による決着
8	三体問題	現実問題の不可解性
9	天王星の発見	計算から発見の時代へ
10	惑星を探せ	小惑星の発見とティティウス・ボーデの法則の台頭
11	海王星の予言	理論的予言の勝利とティティウス・ボーデの法則の滅亡
12	水星の運動の謎	未知惑星バルカンの探索
13	エーテルの否定	特殊相対論の誕生
14	一般相対論の誕生	重力に関する新概念

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。配布資料等を用いて行うべき学習内容の詳細は以下のサイトから無料でダウンロード可能である。

【授業スケジュールの PDF ファイル】

https://www.researchgate.net/publication/359438095_Lecture_Schedule_of_Introduction_to_Astronomy_Part_2

【テキスト (教科書)】

市販の教科書は使用しない。講義資料 (スライドおよび質疑応答集) は以下のサイトから無料でダウンロード可能である。

[スライド集の PDF ファイル]

https://www.researchgate.net/publication/299732606_Introduction_to_Astronomy_Part_2_-_Enigma_of_Gravitaton_-_in_Japanese

[質疑応答集の PDF ファイル]

https://www.researchgate.net/publication/348327529_FAQ_on_Introduction_to_Astronomy_Part_2_-_Enigma_of_Gravitaton_in_Japanese

【参考書】

参考書は講義資料に明記してあるが、必ずしも購入する必要はない。講義に関連する無料アクセス可能なビデオ教材等の情報は、上記の「授業スケジュール」資料に記載している。

【成績評価の方法と基準】

レポート課題 (100%) による。

【学生の意見等からの気づき】

レポートは電子提出とする。

【学生が準備すべき機器他】

ネットに接続可能な PC を利用することを勧める。

【Outline (in English)】

(Course Outline) Study the enigma of gravitation.

(Learning Objectives) Obtain historical knowledge on astronomy such as the heliocentric/geocentric theory, Newton's mechanics, and relativity theories.

(Learning Activities outside Classroom) Inquire further information from the WEB and/or books after learning.

(Grading Criteria/Policy) Subject to reports submitted.

ASR100LA

天文学 A

2017 年度以降入学者

梅本 智文

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 1/Thu.1

単位数：2 単位

この授業は「Web 履修抽選対象授業」です。抽選エントリー期間は 2023 年 4 月 3 日（月）10：00～5 日（水）17：00、結果発表は 4 月 6 日（木）22：00（予定）です。履修ガイド (<https://hosei-keiji.jp/ilac/rishuguide2023/>) を確認のうえ、情報システムから期間内にエントリーしてください。

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

生命の誕生と維持に必要な事項が宇宙 138 億年の歴史のなかでどのようにして生じ、そして現在に至ったかを学ぶ。春学期では、太陽のような恒星、恒星の集団である銀河、銀河の集団、さらに宇宙全体を対象とする。

【到達目標】

宇宙や銀河の誕生から太陽や地球の誕生をへて、生命の発生・生存に適した地球環境にいたるまでの過程とその条件を学ぶことで、宇宙・地球と生命との関係を時間的・空間的スケールにおいてとらえられるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は対面で行う。毎週、資料を Hoppii を通じて配布し、復習できるようにする。毎回 Hoppii でミニテストを行って理解度を確認する。随時、授業内容の質問を受け付け、質問に答えることでフィードバックをかける。

最新の観測や理論を紹介するだけでなく、関連する身近な話題や動画などを利用し、わかりやすい講義にする予定である。この授業を受講するにあたって、特別な予備知識を必要としない。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業計画のロードマップを示す。受講の方法を示す。
第 2 回	近代天文学の成立	古代から近代天文学の成立に至るまでの歴史を学ぶ。
第 3 回	現代の宇宙を観る目	様々な波長での天文学／望遠鏡について紹介する。
第 4 回	膨張宇宙の発見	ハッブル・ルメートルの法則について学び、宇宙膨張の概念を知る。
第 5 回	ビッグバン宇宙	ビッグバンとその残光である宇宙背景放射の発見について学ぶ。
第 6 回	宇宙の進化	宇宙の進化と未来について議論する。
第 7 回	宇宙の階層構造	宇宙全体の階層構造について学ぶ。赤方偏移探査について学ぶ。
第 8 回	様々な銀河	銀河をいくつかの種類（渦巻銀河・棒渦巻銀河・楕円銀河など）に分類する。
第 9 回	天の川銀河（銀河系）	天の川銀河（銀河系）の構造について学ぶ。
第 10 回	太陽と恒星	太陽に代表される恒星について学ぶ。

第 11 回 恒星のエネルギー源と寿命
どんなエネルギーによって恒星が光っているのか、また恒星の寿命について学ぶ。

第 12 回 恒星の進化と最期
質量の違いによる恒星の進化について学ぶ。元素合成について学ぶ。

第 13 回 ブラックホール
ブラックホールとその観測について学ぶ。

第 14 回 期末試験
対面で期末試験を実施する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の中で指示をする。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストを使用しない。資料を Hoppii を用いて配布する。

【参考書】

適宜授業の中で紹介する。

【成績評価の方法と基準】

期末試験を行う。毎回ミニテストを行う。評価の割合は、期末試験が 70%、ミニテストが 30%である。

【学生の意見等からの気づき】

本年度新規担当科目につきアンケートを実施していません。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire how the necessary elements for the birth and maintenance of life arose in the 13.8 billion year history of the universe.

The goals of this course is to enable students to understand the relationship between the universe, the earth, and life on both time and spatial scales.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end examination: 70%, Short reports : 30%.

ASR100LA

天文学 B

2017 年度以降入学者

梅本 智文

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 1/Thu.1

単位数：2 単位

この授業は「Web 履修抽選対象授業」です。抽選エントリー期間は 2023 年 4 月 3 日（月）10：00～5 日（水）17：00、結果発表は 4 月 6 日（木）22：00（予定）です。履修ガイド (<https://hosei-keiji.jp/ilac/rishuguide2023/>) を確認のうえ、情報システムから期間内にエントリーしてください。

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

生命の誕生と維持に必要な事項が宇宙 138 億年の歴史のなかでどのようにして生じ、そして現在に至ったかを学ぶ。秋学期では、太陽系・地球を対象とする。特に系外惑星（第二の地球）と地球外生命の可能性についても焦点を当てる。天文学 B は天文学 A からの続きである。必ずしも天文学 A を事前に受講する必要はないが、天文学 A と B を両方受講するとより理解が深まるであろう。

【到達目標】

宇宙や銀河の誕生から太陽や地球の誕生をへて、生命の発生・生存に適した地球環境にいたるまでの過程とその条件を学ぶことで、宇宙・地球と生命との関係を時間的・空間的スケールにおいてとらえられるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は対面で行う。毎週、資料を Hoppii を通じて配布し、復習できるようにする。毎回 Hoppii でミニテストを行って理解度を確認する。随時、授業内容の質問を受け付け、質問に答えることでフィードバックをかける。

最新の観測や理論を紹介するだけでなく、関連する身近な話題や動画などを利用し、わかりやすい講義にする予定である。この授業を受講するにあたって、特別な予備知識を必要としない。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業計画のロードマップを示す。受講の方法を示す。
第 2 回	星や宇宙を楽しむ	星空や星座、宇宙の楽しみ方を紹介する。
第 3 回	星間物質と星形成	恒星はどんな所でどのように生まれるかを学ぶ。
第 4 回	現代の太陽系像（1）	太陽系全体を概観し、地球型惑星について学ぶ。
第 5 回	現代の太陽系像（2）	木星型/天王星型惑星、準惑星、太陽系小天体（小惑星、彗星など）について学ぶ。
第 6 回	太陽系の起源	太陽系の惑星はどのようにしてできたかを学ぶ。月の起源についても学ぶ。
第 7 回	地球と海の起源	原始地球の形成から、地球の大気や海がどのように形成されたかを学ぶ。
第 8 回	水惑星「地球」	なぜ地球は水の惑星となることができたのかを学ぶ。ハビタブルゾーン概念を学ぶ。

第 9 回	気候変動	地球温暖化だけでなく、地球の 46 億年の歴史における様々な大変動について学ぶ。
第 10 回	生命材料の起源	生命の材料はどこからきたのか、生命はどこで生まれたのかを学ぶ。
第 11 回	系外惑星の発見	太陽系以外にも惑星が発見された。その観測方法と系外惑星の特徴について学ぶ。
第 12 回	地球外生命探査（太陽系内）	太陽系内の天体（火星、木星・土星の衛星）に生命が存在するか議論する。
第 13 回	地球外生命探査（太陽系外）	どんな系外惑星に生命が存在できるか議論。地球外知的生命探査についても紹介する。
第 14 回	期末試験	対面で期末試験を実施する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の中で指示をする。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テキストを使用しない。資料を Hoppii を用いて配布する。

【参考書】

適宜授業の中で紹介する。

【成績評価の方法と基準】

期末試験を行う。毎回ミニテストを行う。評価の割合は、期末試験が 70%、ミニテストが 30%である。

【学生の意見等からの気づき】

本年度新規科目につきアンケートを実施していません

【Outline (in English)】

The aim of this course is to help students acquire how the necessary elements for the birth and maintenance of life arose in the 13.8 billion year history of the universe.

The goals of this course is to enable students to understand the relationship between the universe, the earth, and life on both time and spatial scales.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end examination: 70%, Short reports : 30%.

ASR100LA

天文学 A

2017 年度以降入学者

福島 登志夫

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 4/Mon.4

単位数：2 単位

この授業は「Web 履修抽選対象授業」です。抽選エントリー期間は 2023 年 4 月 3 日（月）10：00～5 日（水）17：00、結果発表は 4 月 6 日（木）22：00（予定）です。履修ガイド (<https://hosei-keiji.jp/ilac/rishuguide2023/>) を確認のうえ、情報システムから期間内にエントリーしてください。

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

宇宙の不思議について学ぶ。具体的には、太陽系・星・銀河などを例に、天文学に関する最新知識を習得する。

【到達目標】

宇宙の構成を理解し、太陽系、星、銀河、宇宙全体に関する基礎知識を、他者に教えられる程度に理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

事前配布したスライド資料およびビデオ教材を用いて講義する。授業内容に関しては、学習支援システム内の掲示板を用いて質疑応答を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	天文学とは	宇宙と天文の字義から全体像を説き起こす。
2	宇宙の姿	すばる望遠鏡などによる宇宙の鮮明な画像や映像を紹介する。
3	身近な天体	太陽、月および地球について学習する。
4	近くの惑星	水星、金星および火星について学習する。
5	遠くの惑星	木星、土星、天王星および海王星について学習する。
6	太陽系の果て	冥王星、彗星および小惑星について学習する。
7	望遠鏡	光学望遠鏡と電波望遠鏡について学ぶ。
8	見える宇宙	光と電波では何が見えて何が見えないかを学ぶ。
9	恒星	恒星の誕生から死までの一生について学ぶ。
10	銀河	星およびガスの集まりである銀河等について学ぶ。
11	宇宙構造	宇宙全体の構造について学ぶ。
12	宇宙史	ビッグバンと宇宙膨張を中心に宇宙の歴史について学ぶ。
13	ダークマター	銀河の回転曲線の謎をはじめ、宇宙の多くを占める見えない物質ダークマターについて学ぶ。
14	ブラックホール	超新星の爆発と巨大ブラックホールなど宇宙におけるブラックホールの役割を学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。配布資料等を用いて行うべき学習内容の詳細は以下のサイトから無料でダウンロード可能である。

[授業スケジュールの PDF ファイル]

https://www.researchgate.net/publication/359438227_Lecture_Schedule_of_Introduction_to_Astronomy_in_Japanese

【テキスト（教科書）】

市販の教科書は使用しない。講義資料（スライドおよび質疑応答集）は以下のサイトから無料でダウンロード可能である。

[スライド集の PDF ファイル]

https://www.researchgate.net/publication/327306485_Introduction_to_Astronomy_2018_in_Japanese

[質疑応答集の PDF ファイル]

https://www.researchgate.net/publication/346583069_FAQ_on_Introduction_to_Astronomy_Part_1_in_Japanese

【参考書】

参考書は講義資料に明記してあるが、必ずしも購入する必要はない。講義に関連する無料アクセス可能なビデオ教材等の情報は、上記の「授業スケジュール」資料に記載している。

【成績評価の方法と基準】

レポート課題（100%）による。

【学生の意見等からの気づき】

レポート課題は電子提出とする。

【学生が準備すべき機器他】

ネットに接続可能な PC を利用することを勧める。

【Outline (in English)】

(Course Outline) Study the wonder of the universe.

(Learning Objectives) Obtain the latest knowledge on astronomy such as the solar system, stars, and galaxies.

(Learning Activities outside Classroom) Inquire further information from the WEB and/or books after learning.

(Grading Criteria/Policy) Subject to reports submitted.

ASR100LA

天文学B

2017年度以降入学者

福島 登志夫

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 4/Mon.4

単位数：2単位

この授業は「Web履修抽選対象授業」です。抽選エントリー期間は2023年4月3日(月)10:00~5日(水)17:00、結果発表は4月6日(木)22:00(予定)です。履修ガイド(<https://hosei-keiji.jp/ilac/rishuguide2023/>)を確認のうえ、情報システムから期間内にエントリーしてください。

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的(何を学ぶか)】

宇宙を支配する重力に関するケプラーからアインシュタインまでの科学者の努力について学ぶ。

【到達目標】

天動説・地動説の論争に見るように、科学の歴史は直線的でないことを習得し、いくつかのエピソードとその結果の学説について、他者に解説できるように理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

事前配布したスライド資料およびビデオ教材を用いて講義する。授業内容に関しては、学習支援システム内の掲示板を用いて質疑応答を行う。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】

なし/No

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	重力の特徴	電磁力など他の力にない重力の特徴を学ぶ
2	惑星の運動	水星、金星と火星、木星、土星の二大グループ化の理屈
3	天動説と地動説	プトレマイオスの周転円理論、コペルニクスの単純地動説、ガリレオの望遠鏡
4	ケプラーの法則	大いなる現象論と物理三法則の初め
5	万有引力	ニュートンの重力理論。遠隔力、現実をよく説明。
6	彗星の運動	ハレーの彗星表作成による周期彗星の発見
7	地球の形状	英仏間の大論争。フランス大探検隊の実測による決着
8	三体問題	現実問題の不可解性
9	天王星の発見	計算から発見の時代へ
10	惑星を探せ	小惑星の発見とティティウス・ボーデの法則の台頭
11	海王星の予言	理論的予言の勝利とティティウス・ボーデの法則の滅亡
12	水星の運動の謎	未知惑星バルカンの探索
13	エーテルの否定	特殊相対論の誕生
14	一般相対論の誕生	重力に関する新概念

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。配布資料等を用いて行うべき学習内容の詳細は以下のサイトから無料でダウンロード可能である。

【授業スケジュールのPDFファイル】

https://www.researchgate.net/publication/359438095_Lecture_Schedule_of_Introduction_to_Astronomy_Part_2

【テキスト(教科書)】

市販の教科書は使用しない。講義資料(スライドおよび質疑応答集)は以下のサイトから無料でダウンロード可能である。

[スライド集のPDFファイル]

https://www.researchgate.net/publication/299732606_Introduction_to_Astronomy_Part_2_-_Enigma_of_Gravitaton_-_in_Japanese

[質疑応答集のPDFファイル]

https://www.researchgate.net/publication/348327529_FAQ_on_Introduction_to_Astronomy_Part_2_-_Enigma_of_Gravitaton_in_Japanese

【参考書】

参考書は講義資料に明記してあるが、必ずしも購入する必要はない。講義に関連する無料アクセス可能なビデオ教材等の情報は、上記の「授業スケジュール」資料に記載している。

【成績評価の方法と基準】

レポート課題(100%)による。

【学生の意見等からの気づき】

レポートは電子提出とする。

【学生が準備すべき機器他】

ネットに接続可能なPCを利用することを勧める。

【Outline (in English)】

(Course Outline) Study the enigma of gravitation.

(Learning Objectives) Obtain historical knowledge on astronomy such as the heliocentric/geocentric theory, Newton's mechanics, and relativity theories.

(Learning Activities outside Classroom) Inquire further information from the WEB and/or books after learning.

(Grading Criteria/Policy) Subject to reports submitted.

SHS100LA

科学史 A

2017 年度以降入学者

木島 泰三

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 3/Wed.3

単位数：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

西洋における科学のはじまりから「17 世紀科学革命」と呼ばれる近代科学の成立までの歴史を、天文学・宇宙論・物理学（自然学）の歴史を中心に学ぶ（秋学期の同一講師による「科学史 B」の受講は必須ではないが、より深い理解のためには受講するのが望ましい）。

【到達目標】

到達目標は次の 2 点である：

- (1) 講義で取り上げた科学的事項について、概略的にはあれ正確な説明ができる程度の知識を習得すること。
- (2) その知識をベースに、古代から近代への科学史に関して自分なりの論述を作成できるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

授業は毎回資料を配布し、それをベースに講義形式で進めていく。また、毎回の講義の受講確認課題の提出を、受講後 Hoppii の課題提出機能を用いて求め、能動的、双方向的な学びの機会を設ける。なお、提出課題に問題がある場合、コメントを付けて返信するので再提出すること。問題なしと認められ、チェックマークがついて始めてその回が「受講済み」扱いとなる。

学期末にはレポート提出を求める。但し、「調べて考えて書く」ことを目指す本格的なレポートではなく、講義内容の整理とまとめを各自なりに行うことを主眼とするレポートとする。レポートは最終の授業の後、Hoppii の課題提出機能から受け付ける（最終の授業の内容も反映できるよう、締切は少し後に設定する）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	はじめに	講師の自己紹介、授業の進め方や成績評価の説明、授業の概要、など
第 2 回	古代ギリシャにおける哲学と科学的思考のはじまり	近代科学の母体となった古代ギリシャの自然哲学の歴史を見ていく
第 3 回	プラトンの思想／古代の天文学とその発展	古代ギリシャ思想の大きな転換点であったプラトンの思想を見た後、前回とは別の視点から、古代における天文学の歴史を見ていく
第 4 回	アリストテレスの形而上学と自然学	中世において大きな影響力をもったアリストテレスの自然学を見ていく
第 5 回	古代後期と中世における科学と技術の発展	古代後期の自然思想、イスラム世界における諸学の発展、中世ヨーロッパにおける技術の発展などを見ていく
第 6 回	プトレマイオス天文学からコペルニクス天文学へ	中世におけるコペルニクス天文学の発展と、コペルニクス天文学の「古さ」と「新しさ」の所在を学ぶ

第 7 回	コペルニクス天文学の受容と発展	コペルニクスが提起した体系がどのように受容され、見直されていったかを、ティコ、ガリレオ、ケプラー、ブルーノたちの研究を中心に見ていく
第 8 回	17 世紀科学革命におけるアリストテレス自然学の批判 (1)	天文学の革新と呼応して進んだ「17 世紀科学革命」と言われる、力学や物質論などの革新を含む大きな知の転換を見ていく
第 9 回	17 世紀科学革命におけるアリストテレス自然学の批判 (1) / デカルトによる近代科学の基礎づけの試み (1)	引き続き 17 世紀科学革命について学び、続いてこの革命の哲学的基礎づけを試みたデカルトの思想を見ていく
第 10 回	デカルトによる近代科学の基礎づけの試み (2)	引き続き、デカルトの思想について学ぶ
第 11 回	実験的方法の確立とそれをめぐる論争 (1)	近代自然科学の重要な方法としての「実験的方法」の成立をホッブズとボイルの論争を通じて見ていく
第 12 回	実験的方法の確立とそれをめぐる論争 (2) / ニュートンによる科学革命の完成	ホッブズとボイルの論争の続きを見た後、ニュートンによる科学革命の完成を見ていく
第 13 回	ニュートンとライプニッツの論争 (1)	初期近世の科学史／哲学史のビッグネームであるニュートン vs. ライプニッツの論争を宇宙論や物理学の観点から考察するために、まずは両者の立場と論争の主要な争点を見ていく
第 14 回	ニュートンとライプニッツの論争 (2) / ニュートン力学の発展とその後	引き続きニュートンとライプニッツの論争を見てから、18 世紀を通じてのニュートン力学の完成とその影響力を概観し、さらに、20 世紀におけるその見直しをごく簡単に見ておく

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Hoppii の課題提出機能を用いた受講後の受講確認課題（ごく簡単な回答で済むものにする予定）によるポイントの理解の確認が必須の時間外の学習となる。

講義資料や講義内容を見返し、不明瞭な点があれば質問し理解を補うこと（質問等は受講者に告知するメールアドレスから受け付ける。受講確認課題提出と同時に進めてもよい）。

講義資料に付した重要文献の抜粋などは読んでおくこと。また、講義中紹介した文献なども、関心にに応じて読むのが望ましい。（質問等は授業後および配付資料に記載するメールアドレスにて常時受け付ける。）

なお、本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特に定めず、適宜資料を配付する。

【参考書】

個々の主題に沿った参考書は授業内で適宜紹介するが、全般的な参考書として、ウィリアム・F・バイナム『若い読者のための科学史（すばる舎）、ハーバート・バターフィールド『近代科学の誕生（上・下）』（講談社学術文庫）、トマス・クーン『コペルニクス革命』（講談社学術文庫）、ジョン・ヘンリー『一七世紀科学革命』（岩波書店）、S・ワインバーグ『科学の発見』（紀伊國屋書店）、S・シェイピン&S・シャッフナー『リヴァイアサンと空気ポンプ』（名古屋大学出版会）、木島泰三『自由意志の向こう側』（講談社選書メチエ）を挙げておく（なお、以上の中には新刊が品切れ中のものも含まれる）。

【成績評価の方法と基準】

各回の受講確認課題の提出を含む平常点 50 %、期末レポート 50 % とする。

【学生の意見等からの気づき】

板書は講義を理解するための補助としてのみ使用しているため、ノート作成においては前後の文脈なしに板書を書き写すのではなく、講義を聞き取って書き取ることを心がけて欲しい。無論こちらも見やすく分かりやすい板書、聞き取りやすい講義を心がける。

[Outline (in English)]

Course outline: Our primary objective is to learn about the history of natural science from ancient to the "scientific revolution" in the seventeenth century. In this lecture, you shall learn this by focusing on topics of astronomy, cosmology, and physics.

Learning Objectives: The goals of this course are the followings:

(1) to learn about the topics on history of science treated in the class so that you will be able to explain them at least in outline, and,

(2) to produce your term-end report reflecting your knowledge which you will get in the class.

Learning activities outside of classroom: You will be expected to submit your task issued after each class through Hoppii and to understand the course content if you would feel uncompleted. Your required study time is at least one hour for each class meeting.

Grading Criteria /Policies: Final grade will be calculated based on term-end report (50%) and in-class contribution (including your attitude to after-class tasks)(50%) .

SHS100LA

科学史 B

2017 年度以降入学者

木島 泰三

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 3/Wed.3

単位数：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

秋学期は春学期で扱ったのは別の分野である生物学ないし生命科学の歴史を古代ギリシャから 17 世紀科学革命を経て現代の進化生物学に至るまで追っていく。受講者は、古代ギリシャのアリストテレス自然学において「目的因」の概念の下に統一的に理解された生命現象が、近代の科学革命とともに謎めいた現象に変わり、最終的に「進化」の概念の下に改めて統一的に把握される過程を、時代ごとの研究や理論とともに学んでいくことになる（春学期の同一講師による「科学史 A」の受講は必須ではないが、より適切な理解のためには受講しておくのが望ましい）。

【到達目標】

到達目標は次の 2 点である：

- (1) 講義で取り上げた科学的事項について、概略的にはあれ正確な説明ができる程度の知識を習得すること。
- (2) その知識をベースに、生物学史を中心とした科学史を主題として、自分なりの論述を作成できるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

授業は毎回資料を配布し、それをベースに講義形式で進めていく。また、毎回の講義の受講確認課題の提出を、受講後 Hoppii の課題提出機能を用いて求め、能動的、双方向的な学びの機会を設ける。なお、提出課題に問題がある場合、コメントを付けて返信するので再提出すること。問題なしと認められ、チェックマークがついて始めてその回が「受講済み」扱いとなる。

学期末にはレポート提出を求める。但し、「調べて考えて書く」ことを目指す本格的なレポートではなく、講義内容の整理とまとめを各自なりに行うことを主眼とするレポートとする。レポートは最終の授業の後、Hoppii の課題提出機能から受け付ける（最終の授業の内容も反映できるよう、締切は少し後に設定する）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	はじめに	自己紹介、授業の進め方や成績評価の説明、授業の概要、など
第 2 回	古代ギリシャ哲学における哲学と科学的思考の始まりと生命観の問題	古代ギリシャにおける哲学＝科学のはじまりの時代から、哲学者たちの自然観を生命論を中心に見ていく
第 3 回	アリストテレスの目的論的自然観から機械論的自然観へ／デカルトの機械論的自然観	中世ヨーロッパにおいて支配的となるアリストテレスの「目的論的自然観」から、17 世紀科学革命において成立する「機械論的自然観」への『パラダイム・シフト』の過程を学び、さらにその典型としてのデカルトの自然観について学ぶ

第 4 回	デカルト・ライブニッツ・ニュートンにおける「いのち」と「ころ」	科学革命の担い手であるデカルト・ライブニッツ・ニュートンにおいてアリストテレス主義の「魂」の概念がどのように変容していったかを学ぶ
第 5 回	近代科学における生命現象の問題と、古代から近代までの生物学史の主要なトピック	17 世紀科学革命以降、生命現象の特異性が問題になると共に、後に「生物学」と呼ばれる分野の研究も各方面で進んだ。この回では当時どのような研究がなされたどのような問題が議論されたのかを見ていく
第 6 回	進化論前史から『種の起原』公刊まで (1)	19 世紀まで盛んだった「自然神学」と 19 世紀に発展した地質学・古生物学その他の諸研究を、後のダーウィン進化論を準備した学問分野として取り上げ、検討する
第 7 回	進化論前史から『種の起原』公刊まで (2)	ダーウィン以前の進化論やその先駆思想について学び、引き続きダーウィン『種の起原』公刊までの歩みを見ていく
第 8 回	ダーウィンの自然選択説 (1)	ダーウィンが進化のメカニズムとして提起した自然選択（自然淘汰）は、現在、進化の主要なメカニズムとして改めて認められているが、このメカニズムを「目的論の否定／目的論の自然化」を可能にするものとして位置づけ、詳しく見ていく
第 9 回	ダーウィンの自然選択説 (2) / 「偽ダーウィニズム」について	引き続き、ダーウィンの自然選択説について学び、次に、ダーウィンの支持者の中にも見いだされる「偽ダーウィン主義」を見ていく
第 10 回	「ダーウィニズムの失墜」と非ダーウィンの進化論の時代	19 世紀後期から 20 世紀初頭にかけて興隆した「非ダーウィンの進化論」の内容と、そこに共通する生命や進化についての見方の特徴を考察する
第 11 回	「メンデル革命」と進化の総合説 (1)	20 世紀前半、反ダーウィン主義の急先鋒であったメンデル主義の成立と、それに結びついた「メンデル革命」（ボウラー）を見ていく
第 12 回	「メンデル革命」と進化の総合説 (2) / 19 世紀後半以降の進化論の社会的影響	発展するメンデル遺伝学が、自然選択説を取り入れ、集団遺伝学、次いで「進化の総合説」を生み出すまでを見た後、いったん 19 世紀に戻り、進化論の社会的影響を見ていく
第 13 回	20 世紀後半以降のダーウィニズムの洗練と浸透 (1)	第二次大戦後の人間研究の状況と、1960 年代の進化論研究の発展、そして 1 その後の「社会生物学論争」について学ぶ
第 14 回	20 世紀後半以降のダーウィニズムの洗練と浸透 (2) / 現代における進化生物学の影響	前回に引き続き社会生物学論争の経過を追った後、生物学の領域を超えた範囲で浸透し影響力を増している進化生物学の現代的影响を見ていく

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Hoppii の課題提出機能を用いた受講後の受講確認課題（ごく簡単な回答で済むものにする予定）によるポイントの理解の確認が必須の時間外の学習となる。
講義資料や講義内容を見返し、不明瞭な点があれば質問し理解を補うこと（質問等は受講者に告知するメールアドレスから受け付ける。受講確認課題提出と同時に持ってよい）。
講義資料に付した重要文献の抜粋などは読んでおくこと。また、講義中紹介した文献なども、関心に応じて読むのが望ましい。
（質問等は授業後および配付資料に記載するメールアドレスにて常時受け付ける。）
なお、本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特に定めず、適宜資料を配付する。

【参考書】

個々の主題に沿った参考書は授業内で適宜紹介するが、全般的な参考書として、ウィリアム・F・バイナム『若い読者のための科学史』（すばる舎）、C・U・M・スミス『生命観の歴史（上・下）』（岩波書店）、ピーター・J・ボウラー『進化思想の歴史（上・下）』（朝日選書）、ピーター・J・ボウラー『ダーウィン革命の神話』（朝日新聞出版）、垂水雄二『進化論物語』（バジリコ株式会社）、木島泰三『自由意志の向こう側』（講談社選書メチエ）など（なお、挙げた本の中には新刊が品切れのものもある）。

【成績評価の方法と基準】

各回の受講確認課題の提出を含む平常点 50 %、期末レポート 50 % とする。

【学生の意見等からの気づき】

板書は講義を理解するための補助としてのみ使用しているので、ノート作成においては前後の文脈なしに板書を書き写すのではなく、講義を聴き取って書き取ることを心がけて欲しい。無論こちらも見やすく分かりやすい板書、聴き取りやすい講義を心がける。

【Outline (in English)】

Course outline: Our primary objective is to learn about the history of biology or life-science, from ancient, through the age of the "scientific revolution" to the modern evolutionary science. You shall learn the process of the dissolution of Aristotelian integral view of life and its re-synthesis centered in the idea of evolution.

Learning Objectives: The goals of this course are the followings:

(1) to learn about the topics on history of science treated in the class so that you will be able to explain them at least in outline, and,

(2) to produce your term-end report reflecting your knowledge which you will get in the class.

Learning activities outside of classroom: You will be expected to submit your task issued after each class through Hoppii and to understand the course content if you would feel uncompleted. Your required study time is at least one hour for each class meeting.

Grading Criteria /Policies: Final grade will be calculated based on term-end report (50%) and in-class contribution (including your attitude to after-class tasks)(50%) .

SHS100LA

科学史 A

2017 年度以降入学者

金光 秀和

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 5/Tue.5

単位数：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

科学・技術の歴史を学ぶことは科学・技術の将来を考察することにつながります。本授業では、環境問題を中心に現代の科学・技術がもたらした社会問題の歴史を学び、そうした問題について自らの社会観・価値観と関連づけながら考察することを目指します。それを通して、科学・技術が将来もたらしうる問題を自らの社会観・価値観と関連づけながら考察するための基礎づくりを行います。

【到達目標】

授業を通して目指す到達目標は以下のとおりです。
 ・科学・技術がもたらした社会問題について、歴史的観点を踏まえて具体的に説明できる。
 ・科学・技術がもたらした社会問題について、自らの社会観・価値観と関連づけながら考察できる。
 ・科学・技術と社会の相互作用の中で生じる問題について、批判的に思考できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

本授業では、一方的な講義だけでなく、事例を用いたディスカッションを行うなど、対話を意識した運営を行います。そのため、知識を扱うオンデマンド回とディスカッションをメインとする対面回のハイブリッド型で反転授業を実施します。また、リアクションペーパーの作成を含めて、自らの考えを表現する機会を設けます。リアクションペーパー等におけるコメントは授業内で紹介し、全体に対してフィードバックを行います。なお、大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	本授業の問題意識、内容、評価方法について説明します。
第 2 回	環境問題の歴史	科学・技術がもたらした環境問題について歴史的に概観します。
第 3 回	事例研究「水俣病」	水俣病を事例として研究します。
第 4 回	環境思想の歴史	環境思想について歴史的に概観します。
第 5 回	事例研究「アマミノクロウサギ訴訟」	アマミノクロウサギ訴訟を事例として研究します。
第 6 回	環境問題と市民	環境問題における当事者性について考察します。
第 7 回	事例研究「地球温暖化」	地球温暖化を事例として研究します。
第 8 回	科学による可視化と不可視化	科学の不確実性の問題を考察します。
第 9 回	事例研究「緑の革命」	緑の革命を事例として研究します。
第 10 回	巨大大事故の時代	具体例を用いながら巨大大事故について考察します。
第 11 回	事例研究「チャレンジャー号事故」	チャレンジャー号事故を事例として研究します。

第 12 回	巨大大事故システムの構造的問題	具体例を用いながら巨大大事故システムの構造的問題を考察します。
第 13 回	事例研究「阪神・淡路大震災」	阪神・淡路大震災を事例として研究します。
第 14 回	試験・まとめと解説	授業内容全体を振り返ると同時に、授業内試験を実施します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業期間全体を通して、新聞、映画、SF 小説などをもとに、科学・技術がもたらす問題に関心を払い、それを自らに関わる問題として考察する機会をもってください。また、授業で扱う事例については、授業前および授業後にじっくりと考察をして、自らの考えを練り上げてください。本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

使用しません。

【参考書】

塚原東吾 [ほか] 編著『よくわかる現代科学技術史・STS』ミネルヴァ書房、2022 年
 野家啓一『科学哲学への招待』（ちくま学芸文庫）筑摩書房、2015 年
 中島秀人『社会の中の科学』放送大学教育振興会、2008 年
 伊勢田哲治 [ほか] 編『科学技術をよく考える：クリティカルシンキング練習帳』名古屋大学出版会、2013 年

【成績評価の方法と基準】

本授業は積極的に講義・対話に参加することを期待します。このような観点から、リアクションペーパーやミニ・リサーチペーパーの提出によって平常点を評価します（50%）。また、第 14 回に授業内試験を実施し、本授業の到達目標を総合的に評価します（50%）。

【学生の意見等からの気づき】

昨年度に引き続き、対話と双方性を意識した授業運営を行います。

【Outline (in English)】

Course Outline

Studying the history of science and technology will lead us to consider the future of science and technology. In this course, we will study the history of social problems brought about by modern science and technology, with a focus on environmental issues, and will aim to examine such problems in relation to our own social views and values. Through this, students will build a foundation for examining the problems that science and technology may bring in the future while relating them to their own social views and values.

Learning Objectives

By the end of the course, students should be able to do the followings:

- Explain the social problems brought about by science and technology in concrete terms from a historical perspective.
- Consider the social problems brought about by science and technology while relating them to your own social views and values.
- Think critically about issues that arise in the interaction between science, technology, and society.

Learning activities outside of classroom

Throughout the course period, please pay attention to the problems brought about by technology based on newspapers, movies, science fiction novels, etc., and consider them as problems that concern you. In addition, please take the time to think about the cases we will discuss in class before and after it and formulate your own ideas. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading Criteria /Policy

Grading will be decided based on in class exam (50%) and in class contribution (50%).

SHS100LA

科学史 B

2017 年度以降入学者

金光 秀和

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 5/Tue.5

単位数：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

科学・技術の歴史を学ぶことは科学・技術の将来を考察することにつながります。本授業では、科学者の社会的責任という観点から現代の科学・技術がもたらした社会問題の歴史を学び、そうした問題について自らの社会観・価値観と関連づけながら考察することを目指します。それを通して、科学・技術が将来もたらしうる問題を自らの社会観・価値観と関連づけながら考察するための基礎づくりを行います。

【到達目標】

授業を通して目指す到達目標は以下のとおりです。
 ・科学・技術がもたらした社会問題について、歴史的観点を踏まえて具体的に説明できる。
 ・科学・技術がもたらした社会問題について、自らの社会観・価値観と関連づけながら考察できる。
 ・科学・技術と社会の相互作用の中で生じる問題について、批判的に思考できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

本授業では、一方向的な講義だけでなく、事例を用いたディスカッションを行うなど、対話を意識した運営を行います。そのため、知識を扱うオンデマンド回とディスカッションをメインとする対面回のハイブリッド型で反転授業を実施します。また、リアクションペーパーの作成を含めて、自らの考えを表現する機会を設けます。リアクションペーパー等におけるコメントは授業内で紹介し、全体に対してフィードバックを行います。なお、大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	本授業の問題意識、内容、評価方法について説明します。
第 2 回	科学者の社会的責任の歴史的概観	科学者の社会的責任について歴史的に概観します。
第 3 回	事例研究「マンハッタン計画」	マンハッタン計画を事例として研究します。
第 4 回	科学・技術と国家	科学・技術と国家の関係について、軍事技術を取り上げながら検討します。
第 5 回	事例研究「朝鮮戦争・ベトナム戦争と科学技術」	朝鮮戦争・ベトナム戦争を例に科学技術のあり方を考察します。
第 6 回	責任ある研究	具体例を用いながら責任ある研究と研究不正について解説します。
第 7 回	事例研究「東大 RNA 論文捏造事件」	東大 RNA 論文捏造事を事例として研究します。
第 8 回	研究不正の防止①	研究不正を防止するにはどうすればよいのかについて検討します。
第 9 回	事例研究「ベル研シェーン事件」	ベル研シェーン事件を事例として研究します。

第 10 回	研究不正の防止②	具体例を用いながら研究不正を防止について検討します。
第 11 回	事例研究「The Lab」	仮想事例 The Lab を通して問題を検討します。
第 12 回	科学者の社会的責任の 3 つの相	科学者の社会的責任の 3 つの相について考察します。
第 13 回	事例研究「BSE 問題」	BSE を事例として研究します。
第 14 回	試験・まとめと解説	授業内容全体を振り返ると同時に、授業内試験を実施します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業期間全体を通して、新聞、映画、SF 小説などをもとに、科学・技術がもたらす問題に関心を払い、それを自らに関わる問題として考察する機会をもってください。また、授業で扱う事例については、授業前および授業後にじっくりと考察をして、自らの考えを練り上げてください。本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

使用しません。

【参考書】

藤垣裕子『科学者の社会的責任』岩波書店、2018 年
 黒川清 [ほか]『科学のミスコンダクト：科学者コミュニティの自律をめざして』日本学術協力財団、2006 年
 唐木順三『「科学者の社会的責任」についての覚え書』筑摩書房、2012 年
 金森修『科学の危機』集英社、2015 年

【成績評価の方法と基準】

本授業は積極的に講義・対話に参加することを期待します。このような観点から、リアクションペーパーやミニ・リサーチペーパーの提出によって平常点を評価します（50%）。また、第 14 回に授業内試験を実施し、本授業の到達目標を総合的に評価します（50%）。

【学生の意見等からの気づき】

昨年度に引き続き、対話と双方性を意識した授業運営を行います。

【Outline (in English)】

Course Outline

Studying the history of science and technology will lead us to consider the future of science and technology. In this course, we will study the history of social problems brought about by modern science and technology, with a focus on social responsibility of scientists, and will aim to examine such problems in relation to our own social views and values. Through this, students will build a foundation for examining the problems that science and technology may bring in the future while relating them to their own social views and values.

Learning Objectives

By the end of the course, students should be able to do the followings:

- Explain the social problems brought about by science and technology in concrete terms from a historical perspective.
- Consider the social problems brought about by science and technology while relating them to your own social views and values.
- Think critically about issues that arise in the interaction between science, technology, and society.

Learning activities outside of classroom

Throughout the course period, please pay attention to the problems brought about by technology based on newspapers, movies, science fiction novels, etc., and consider them as problems that concern you. In addition, please take the time to think about the cases we will discuss in class before and after it and formulate your own ideas. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading Criteria /Policy

Grading will be decided based on in class exam (50%) and in class contribution (50%).

SHS100LA

科学史 A

2017 年度以降入学者

木島 泰三

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 3/Mon.3

単位数：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

西洋における科学のはじまりから「17 世紀科学革命」と呼ばれる近代科学の成立までの歴史を、天文学・宇宙論・物理学（自然学）の歴史を中心に学ぶ（秋学期の同一講師による「科学史 B」の受講は必須ではないが、より深い理解のためには受講するのが望ましい）。

【到達目標】

到達目標は次の 2 点である：

- (1) 講義で取り上げた科学的事項について、概略的にはあれ正確な説明ができる程度の知識を習得すること。
- (2) その知識をベースに、古代から近代への科学史に関して自分なりの論述を作成できるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

授業は毎回資料を配布し、それをベースに講義形式で進めていく。また、毎回の講義の受講確認課題の提出を、受講後 Hoppii の課題提出機能を用いて求め、能動的、双方向的な学びの機会を設ける。なお、提出課題に問題がある場合、コメントを付けて返信するので再提出すること。問題なしと認められ、チェックマークがついて始めてその回が「受講済み」扱いとなる。

学期末にはレポート提出を求める。但し、「調べて考えて書く」ことを目指す本格的なレポートではなく、講義内容の整理とまとめを各自なりに行うことを主眼とするレポートとする。レポートは最終の授業の後、Hoppii の課題提出機能から受け付ける（最終の授業の内容も反映できるよう、締切は少し後に設定する）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	はじめに	講師の自己紹介、授業の進め方や成績評価の説明、授業の概要、など
第 2 回	古代ギリシャにおける哲学と科学的思考のはじまり	近代科学の母体となった古代ギリシャの自然哲学の歴史を見ていく
第 3 回	プラトンの思想／古代の天文学とその発展	古代ギリシャ思想の大きな転換点であったプラトンの思想を見た後、前回とは別の視点から、古代における天文学の歴史を見ていく
第 4 回	アリストテレスの形而上学と自然学	中世において大きな影響力をもったアリストテレスの自然学を見ていく
第 5 回	古代後期と中世における科学と技術の発展	古代後期の自然思想、イスラム世界における諸学の発展、中世ヨーロッパにおける技術の発展などを見ていく
第 6 回	プトレマイオス天文学からコペルニクス天文学へ	中世におけるコペルニクス天文学の発展と、コペルニクス天文学の「古さ」と「新しさ」の所在を学ぶ

第 7 回	コペルニクス天文学の受容と発展	コペルニクスが提起した体系がどのように受容され、見直されていったかを、ティコ、ガリレオ、ケプラー、ブルーノたちの研究を中心に見ていく
第 8 回	17 世紀科学革命におけるアリストテレス自然学の批判 (1)	天文学の革新と呼応して進んだ「17 世紀科学革命」と言われる、力学や物質論などの革新を含む大きな知の転換を見ていく
第 9 回	17 世紀科学革命におけるアリストテレス自然学の批判 (1) / デカルトによる近代科学の基礎づけの試み (1)	引き続き 17 世紀科学革命について学び、続いてこの革命の哲学的基礎づけを試みたデカルトの思想を見ていく
第 10 回	デカルトによる近代科学の基礎づけの試み (2)	引き続き、デカルトの思想について学ぶ
第 11 回	実験的方法の確立とそれをめぐる論争 (1)	近代自然科学の重要な方法としての「実験的方法」の成立をホッブズとボイルの論争を通じて見ていく
第 12 回	実験的方法の確立とそれをめぐる論争 (2) / ニュートンによる科学革命の完成	ホッブズとボイルの論争の続きを見た後、ニュートンによる科学革命の完成を見ていく
第 13 回	ニュートンとライプニッツの論争 (1)	初期近世の科学史／哲学史のビッグネームであるニュートン vs. ライプニッツの論争を宇宙論や物理学の観点から考察するために、まずは両者の立場と論争の主要な争点を見ていく
第 14 回	ニュートンとライプニッツの論争 (2) / ニュートン力学の発展とその後	引き続きニュートンとライプニッツの論争を見てから、18 世紀を通じてのニュートン力学の完成とその影響力を概観し、さらに、20 世紀におけるその見直しをごく簡単に見ておく

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Hoppii の課題提出機能を用いた受講後の受講確認課題（ごく簡単な回答で済むものにする予定）によるポイントの理解の確認が必須の時間外の学習となる。

講義資料や講義内容を見返し、不明瞭な点があれば質問し理解を補うこと（質問等は受講者に告知するメールアドレスから受け付ける。受講確認課題提出と同時に進めてもよい）。

講義資料に付した重要文献の抜粋などは読んでおくこと。また、講義中紹介した文献なども、関心にに応じて読むのが望ましい。（質問等は授業後および配付資料に記載するメールアドレスにて常時受け付ける。）

なお、本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特に定めず、適宜資料を配付する。

【参考書】

個々の主題に沿った参考書は授業内で適宜紹介するが、全般的な参考書として、ウィリアム・F・バイナム『若い読者のための科学史（すばる舎）、ハーバート・バターフィールド『近代科学の誕生（上・下）』（講談社学術文庫）、トマス・クーン『コペルニクス革命』（講談社学術文庫）、ジョン・ヘンリー『一七世紀科学革命』（岩波書店）、S・ワインバーグ『科学の発見』（紀伊國屋書店）、S・シェイピン&S・シャッフナー『リヴァイアサンと空気ポンプ』（名古屋大学出版会）、木島泰三『自由意志の向こう側』（講談社選書メチエ）を挙げておく（なお、以上の中には新刊が品切れ中のものも含まれる）。

【成績評価の方法と基準】

各回の受講確認課題の提出を含む平常点 50 %、期末レポート 50 % とする。

【学生の意見等からの気づき】

板書は講義を理解するための補助としてのみ使用しているため、ノート作成においては前後の文脈なしに板書を書き写すのではなく、講義を聞き取って書き取ることを心がけて欲しい。無論こちらも見やすく分かりやすい板書、聞き取りやすい講義を心がける。

[Outline (in English)]

Course outline: Our primary objective is to learn about the history of natural science from ancient to the "scientific revolution" in the seventeenth century. In this lecture, you shall learn this by focusing on topics of astronomy, cosmology, and physics.

Learning Objectives: The goals of this course are the followings:

(1) to learn about the topics on history of science treated in the class so that you will be able to explain them at least in outline, and,

(2) to produce your term-end report reflecting your knowledge which you will get in the class.

Learning activities outside of classroom: You will be expected to submit your task issued after each class through Hoppii and to understand the course content if you would feel uncompleted. Your required study time is at least one hour for each class meeting.

Grading Criteria /Policies: Final grade will be calculated based on term-end report (50%) and in-class contribution (including your attitude to after-class tasks)(50%) .

SHS100LA

科学史 B

2017 年度以降入学者

木島 泰三

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 3/Mon.3

単位数：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

秋学期は春学期で扱ったのは別の分野である生物学ないし生命科学の歴史を古代ギリシャから 17 世紀科学革命を経て現代の進化生物学に至るまで追っていく。受講者は、古代ギリシャのアリストテレス自然学において「目的因」の概念の下に統一的に理解された生命現象が、近代の科学革命とともに謎めいた現象に変わり、最終的に「進化」の概念の下に改めて統一的に把握される過程を、時代ごとの研究や理論とともに学んでいくことになる（春学期の同一講師による「科学史 A」の受講は必須ではないが、より適切な理解のためには受講しておくのが望ましい）。

【到達目標】

到達目標は次の 2 点である：

- (1) 講義で取り上げた科学的事項について、概略的にはあれ正確な説明ができる程度の知識を習得すること。
- (2) その知識をベースに、生物学史を中心とした科学史を主題として、自分なりの論述を作成できるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

授業は毎回資料を配布し、それをベースに講義形式で進めていく。また、毎回の講義の受講確認課題の提出を、受講後 Hoppii の課題提出機能を用いて求め、能動的、双方向的な学びの機会を設ける。なお、提出課題に問題がある場合、コメントを付けて返信するので再提出すること。問題なしと認められ、チェックマークがついて始めてその回が「受講済み」扱いとなる。

学期末にはレポート提出を求める。但し、「調べて考えて書く」ことを目指す本格的なレポートではなく、講義内容の整理とまとめを各自なりに行うことを主眼とするレポートとする。レポートは最終の授業の後、Hoppii の課題提出機能から受け付ける（最終の授業の内容も反映できるよう、締切は少し後に設定する）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	はじめに	自己紹介、授業の進め方や成績評価の説明、授業の概要、など
第 2 回	古代ギリシャ哲学における哲学と科学的思考の始まりと生命観の問題	古代ギリシャにおける哲学＝科学のはじまりの時代から、哲学者たちの自然観を生命論を中心に見ていく
第 3 回	アリストテレスの目的論的自然観から機械論的自然観へ／デカルトの機械論的自然観	中世ヨーロッパにおいて支配的となるアリストテレスの「目的論的自然観」から、17 世紀科学革命において成立する「機械論的自然観」への『パラダイム・シフト』の過程を学び、さらにその典型としてのデカルトの自然観について学ぶ

第 4 回	デカルト・ライブニッツ・ニュートンにおける「いのち」と「ころ」	科学革命の担い手であるデカルト・ライブニッツ・ニュートンにおいてアリストテレス主義の「魂」の概念がどのように変容していったかを学ぶ
第 5 回	近代科学における生命現象の問題と、古代から近代までの生物学史の主要なトピック	17 世紀科学革命以降、生命現象の特異性が問題になると共に、後に「生物学」と呼ばれる分野の研究も各方面で進んだ。この回では当時どのような研究がなされたどのような問題が議論されたのかを見ていく
第 6 回	進化論前史から『種の起原』公刊まで (1)	19 世紀まで盛んだった「自然神学」と 19 世紀に発展した地質学・古生物学その他の諸研究を、後のダーウィン進化論を準備した学問分野として取り上げ、検討する
第 7 回	進化論前史から『種の起原』公刊まで (2)	ダーウィン以前の進化論やその先駆思想について学び、引き続きダーウィン『種の起原』公刊までの歩みを見ていく
第 8 回	ダーウィンの自然選択説 (1)	ダーウィンが進化のメカニズムとして提起した自然選択（自然淘汰）は、現在、進化の主要なメカニズムとして改めて認められているが、このメカニズムを「目的論の否定／目的論の自然化」を可能にするものとして位置づけ、詳しく見ていく
第 9 回	ダーウィンの自然選択説 (2) / 「偽ダーウィニズム」について	引き続き、ダーウィンの自然選択説について学び、次に、ダーウィンの支持者の中にも見いだされる「偽ダーウィン主義」を見ていく
第 10 回	「ダーウィニズムの失墜」と非ダーウィニズムの進化論の時代	19 世紀後期から 20 世紀初頭にかけて興隆した「非ダーウィニズムの進化論」の内容と、そこに共通する生命や進化についての見方の特徴を考察する
第 11 回	「メンデル革命」と進化の総合説 (1)	20 世紀前半、反ダーウィン主義の急先鋒であったメンデル主義の成立と、それに結びついた「メンデル革命」（ボウラー）を見ていく
第 12 回	「メンデル革命」と進化の総合説 (2) / 19 世紀後半以降の進化論の社会的影響	発展するメンデル遺伝学が、自然選択説を取り入れ、集団遺伝学、次いで「進化の総合説」を生み出すまでを見た後、いったん 19 世紀に戻り、進化論の社会的影響を見ていく
第 13 回	20 世紀後半以降のダーウィニズムの洗練と浸透 (1)	第二次大戦後の人間研究の状況と、1960 年代の進化論研究の発展、そして 1 その後の「社会生物学論争」について学ぶ
第 14 回	20 世紀後半以降のダーウィニズムの洗練と浸透 (2) / 現代における進化生物学の影響	前回に引き続き社会生物学論争の経過を追った後、生物学の領域を超えた範囲で浸透し影響力を増している進化生物学の現代的影響を見ていく

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Hoppii の課題提出機能を用いた受講後の受講確認課題（ごく簡単な回答で済むものにする予定）によるポイントの理解の確認が必須の時間外の学習となる。

講義資料や講義内容を見返し、不明瞭な点があれば質問し理解を補うこと（質問等は受講者に告知するメールアドレスから受け付ける。受講確認課題提出と同時に持ってよい）。

講義資料に付した重要文献の抜粋などは読んでおくこと。また、講義中紹介した文献なども、関心に応じて読むのが望ましい。

（質問等は授業後および配付資料に記載するメールアドレスにて常時受け付ける。）

なお、本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特に定めず、適宜資料を配付する。

【参考書】

個々の主題に沿った参考書は授業内で適宜紹介するが、全般的な参考書として、ウィリアム・F・バイナム『若い読者のための科学史』（すばる舎）、C・U・M・スミス『生命観の歴史（上・下）』（岩波書店）、ピーター・J・ボウラー『進化思想の歴史（上・下）』（朝日選書）、ピーター・J・ボウラー『ダーウィン革命の神話』（朝日新聞出版）、垂水雄二『進化論物語』（バジリコ株式会社）、木島泰三『自由意志の向こう側』（講談社選書メチエ）など（なお、挙げた本の中には新刊が品切れのものもある）。

【成績評価の方法と基準】

各回の受講確認課題の提出を含む平常点 50 %、期末レポート 50 % とする。

【学生の意見等からの気づき】

板書は講義を理解するための補助としてのみ使用しているので、ノート作成においては前後の文脈なしに板書を書き写すのではなく、講義を聴き取って書き取ることを心がけて欲しい。無論こちらも見やすく分かりやすい板書、聴き取りやすい講義を心がける。

【Outline (in English)】

Course outline: Our primary objective is to learn about the history of biology or life-science, from ancient, through the age of the "scientific revolution" to the modern evolutionary science. You shall learn the process of the dissolution of Aristotelian integral view of life and its re-synthesis centered in the idea of evolution.

Learning Objectives: The goals of this course are the followings:

(1) to learn about the topics on history of science treated in the class so that you will be able to explain them at least in outline, and,

(2) to produce your term-end report reflecting your knowledge which you will get in the class.

Learning activities outside of classroom: You will be expected to submit your task issued after each class through Hoppii and to understand the course content if you would feel uncompleted. Your required study time is at least one hour for each class meeting.

Grading Criteria /Policies: Final grade will be calculated based on term-end report (50%) and in-class contribution (including your attitude to after-class tasks)(50%) .

SHS100LA

科学史 A

2017 年度以降入学者

木島 泰三

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 2/Wed.2

単位数：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

西洋における科学のはじまりから「17 世紀科学革命」と呼ばれる近代科学の成立までの歴史を、天文学・宇宙論・物理学（自然学）の歴史を中心に学ぶ（秋学期の同一講師による「科学史 B」の受講は必須ではないが、より深い理解のためには受講するのが望ましい）。

【到達目標】

到達目標は次の 2 点である：

- (1) 講義で取り上げた科学的事項について、概略的にはあれ正確な説明ができる程度の知識を習得すること。
- (2) その知識をベースに、古代から近代への科学史に関して自分なりの論述を作成できるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

授業は毎回資料を配布し、それをベースに講義形式で進めていく。また、毎回の講義の受講確認課題の提出を、受講後 Hoppii の課題提出機能を用いて求め、能動的、双方向的な学びの機会を設ける。なお、提出課題に問題がある場合、コメントを付けて返信するので再提出すること。問題なしと認められ、チェックマークがついて始めてその回が「受講済み」扱いとなる。

学期末にはレポート提出を求める。但し、「調べて考えて書く」ことを目指す本格的なレポートではなく、講義内容の整理とまとめを各自なりに行うことを主眼とするレポートとする。レポートは最終の授業の後、Hoppii の課題提出機能から受け付ける（最終の授業の内容も反映できるよう、締切は少し後に設定する）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	はじめに	講師の自己紹介、授業の進め方や成績評価の説明、授業の概要、など
第 2 回	古代ギリシャにおける哲学と科学的思考のはじまり	近代科学の母体となった古代ギリシャの自然哲学の歴史を見ていく
第 3 回	プラトンの思想／古代の天文学とその発展	古代ギリシャ思想の大きな転換点であったプラトンの思想を見た後、前回とは別の視点から、古代における天文学の歴史を見ていく
第 4 回	アリストテレスの形而上学と自然学	中世において大きな影響力をもったアリストテレスの自然学を見ていく
第 5 回	古代後期と中世における科学と技術の発展	古代後期の自然思想、イスラム世界における諸学の発展、中世ヨーロッパにおける技術の発展などを見ていく
第 6 回	プトレマイオス天文学からコペルニクス天文学へ	中世におけるコペルニクス天文学の発展と、コペルニクス天文学の「古さ」と「新しさ」の所在を学ぶ

第 7 回	コペルニクス天文学の受容と発展	コペルニクスが提起した体系がどのように受容され、見直されていったかを、ティコ、ガリレオ、ケプラー、ブルーノたちの研究を中心に見ていく
第 8 回	17 世紀科学革命におけるアリストテレス自然学の批判 (1)	天文学の革新と呼応して進んだ「17 世紀科学革命」と言われる、力学や物質論などの革新を含む大きな知の転換を見ていく
第 9 回	17 世紀科学革命におけるアリストテレス自然学の批判 (1) / デカルトによる近代科学の基礎づけの試み (1)	引き続き 17 世紀科学革命について学び、続いてこの革命の哲学的基礎づけを試みたデカルトの思想を見ていく
第 10 回	デカルトによる近代科学の基礎づけの試み (2)	引き続き、デカルトの思想について学ぶ
第 11 回	実験的方法の確立とそれをめぐる論争 (1)	近代自然科学の重要な方法としての「実験的方法」の成立をホッブズとボイルの論争を通じて見ていく
第 12 回	実験的方法の確立とそれをめぐる論争 (2) / ニュートンによる科学革命の完成	ホッブズとボイルの論争の続きを見た後、ニュートンによる科学革命の完成を見ていく
第 13 回	ニュートンとライプニッツの論争 (1)	初期近世の科学史／哲学史のビッグネームであるニュートン vs. ライプニッツの論争を宇宙論や物理学の観点から考察するために、まずは両者の立場と論争の主要な争点を見ていく
第 14 回	ニュートンとライプニッツの論争 (2) / ニュートン力学の発展とその後	引き続きニュートンとライプニッツの論争を見てから、18 世紀を通じてのニュートン力学の完成とその影響力を概観し、さらに、20 世紀におけるその見直しをごく簡単に見ておく

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Hoppii の課題提出機能を用いた受講後の受講確認課題（ごく簡単な回答で済むものにする予定）によるポイントの理解の確認が必須の時間外の学習となる。

講義資料や講義内容を見返し、不明瞭な点があれば質問し理解を補うこと（質問等は受講者に告知するメールアドレスから受け付ける。受講確認課題提出と同時に進めてもよい）。

講義資料に付した重要文献の抜粋などは読んでおくこと。また、講義中紹介した文献なども、関心にに応じて読むのが望ましい。（質問等は授業後および配付資料に記載するメールアドレスにて常時受け付ける。）

なお、本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特に定めず、適宜資料を配付する。

【参考書】

個々の主題に沿った参考書は授業内で適宜紹介するが、全般的な参考書として、ウィリアム・F・バイナム『若い読者のための科学史（すばる舎）、ハーバート・バターフィールド『近代科学の誕生（上・下）』（講談社学術文庫）、トマス・クーン『コペルニクス革命』（講談社学術文庫）、ジョン・ヘンリー『一七世紀科学革命』（岩波書店）、S・ワインバーグ『科学の発見』（紀伊國屋書店）、S・シェイピン&S・シャッフナー『リヴァイアサンと空気ポンプ』（名古屋大学出版会）、木島泰三『自由意志の向こう側』（講談社選書メチエ）を挙げておく（なお、以上の中には新刊が品切れ中のものも含まれる）。

【成績評価の方法と基準】

各回の受講確認課題の提出を含む平常点 50 %、期末レポート 50 % とする。

【学生の意見等からの気づき】

板書は講義を理解するための補助としてのみ使用しているため、ノート作成においては前後の文脈なしに板書を書き写すのではなく、講義を聞き取って書き取ることを心がけて欲しい。無論こちらも見やすく分かりやすい板書、聞き取りやすい講義を心がける。

[Outline (in English)]

Course outline: Our primary objective is to learn about the history of natural science from ancient to the "scientific revolution" in the seventeenth century. In this lecture, you shall learn this by focusing on topics of astronomy, cosmology, and physics.

Learning Objectives: The goals of this course are the followings:

(1) to learn about the topics on history of science treated in the class so that you will be able to explain them at least in outline, and,

(2) to produce your term-end report reflecting your knowledge which you will get in the class.

Learning activities outside of classroom: You will be expected to submit your task issued after each class through Hoppii and to understand the course content if you would feel uncompleted. Your required study time is at least one hour for each class meeting.

Grading Criteria /Policies: Final grade will be calculated based on term-end report (50%) and in-class contribution (including your attitude to after-class tasks)(50%) .

SHS100LA

科学史 B

2017 年度以降入学者

木島 泰三

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 2/Wed.2

単位数：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

秋学期は春学期で扱ったのは別の分野である生物学ないし生命科学の歴史を古代ギリシャから 17 世紀科学革命を経て現代の進化生物学に至るまで追っていく。受講者は、古代ギリシャのアリストテレス自然学において「目的因」の概念の下に統一的に理解された生命現象が、近代の科学革命とともに謎めいた現象に変わり、最終的に「進化」の概念の下に改めて統一的に把握される過程を、時代ごとの研究や理論とともに学んでいくことになる（春学期の同一講師による「科学史 A」の受講は必須ではないが、より適切な理解のためには受講しておくのが望ましい）。

【到達目標】

到達目標は次の 2 点である：

- (1) 講義で取り上げた科学的事項について、概略的にはあれ正確な説明ができる程度の知識を習得すること。
- (2) その知識をベースに、生物学史を中心とした科学史を主題として、自分なりの論述を作成できるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

授業は毎回資料を配布し、それをベースに講義形式で進めていく。また、毎回の講義の受講確認課題の提出を、受講後 Hoppii の課題提出機能を用いて求め、能動的、双方向的な学びの機会を設ける。なお、提出課題に問題がある場合、コメントを付けて返信するので再提出すること。問題なしと認められ、チェックマークがついて始めてその回が「受講済み」扱いとなる。

学期末にはレポート提出を求める。但し、「調べて考えて書く」ことを目指す本格的なレポートではなく、講義内容の整理とまとめを各自なりに行うことを主眼とするレポートとする。レポートは最終の授業の後、Hoppii の課題提出機能から受け付ける（最終の授業の内容も反映できるよう、締切は少し後に設定する）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	はじめに	自己紹介、授業の進め方や成績評価の説明、授業の概要、など
第 2 回	古代ギリシャ哲学における哲学と科学的思考の始まりと生命観の問題	古代ギリシャにおける哲学＝科学のはじまりの時代から、哲学者たちの自然観を生命論を中心に見ていく
第 3 回	アリストテレスの目的論的自然観から機械論的自然観へ／デカルトの機械論的自然観	中世ヨーロッパにおいて支配的となるアリストテレスの「目的論的自然観」から、17 世紀科学革命において成立する「機械論的自然観」への『パラダイム・シフト』の過程を学び、さらにその典型としてのデカルトの自然観について学ぶ

第 4 回	デカルト・ライブニッツ・ニュートンにおける「いのち」と「ころ」	科学革命の担い手であるデカルト・ライブニッツ・ニュートンにおいてアリストテレス主義の「魂」の概念がどのように変容していったかを学ぶ
第 5 回	近代科学における生命現象の問題と、古代から近代までの生物学史の主要なトピック	17 世紀科学革命以降、生命現象の特異性が問題になると共に、後に「生物学」と呼ばれる分野の研究も各方面で進んだ。この回では当時どのような研究がなされたどのような問題が議論されたのかを見ていく
第 6 回	進化論前史から『種の起原』公刊まで (1)	19 世紀まで盛んだった「自然神学」と 19 世紀に発展した地質学・古生物学その他の諸研究を、後のダーウィン進化論を準備した学問分野として取り上げ、検討する
第 7 回	進化論前史から『種の起原』公刊まで (2)	ダーウィン以前の進化論やその先駆思想について学び、引き続きダーウィン『種の起原』公刊までの歩みを見ていく
第 8 回	ダーウィンの自然選択説 (1)	ダーウィンが進化のメカニズムとして提起した自然選択（自然淘汰）は、現在、進化の主要なメカニズムとして改めて認められているが、このメカニズムを「目的論の否定／目的論の自然化」を可能にするものとして位置づけ、詳しく見ていく
第 9 回	ダーウィンの自然選択説 (2) / 「偽ダーウィニズム」について	引き続き、ダーウィンの自然選択説について学び、次に、ダーウィンの支持者の中にも見いだされる「偽ダーウィン主義」を見ていく
第 10 回	「ダーウィニズムの失墜」と非ダーウィニズムの進化論の時代	19 世紀後期から 20 世紀初頭にかけて興隆した「非ダーウィニズムの進化論」の内容と、そこに共通する生命や進化についての見方の特徴を考察する
第 11 回	「メンデル革命」と進化の総合説 (1)	20 世紀前半、反ダーウィン主義の急先鋒であったメンデル主義の成立と、それに結びついた「メンデル革命」（ボウラー）を見ていく
第 12 回	「メンデル革命」と進化の総合説 (2) / 19 世紀後半以降の進化論の社会的影響	発展するメンデル遺伝学が、自然選択説を取り入れ、集団遺伝学、次いで「進化の総合説」を生み出すまでを見た後、いったん 19 世紀に戻り、進化論の社会的影響を見ていく
第 13 回	20 世紀後半以降のダーウィニズムの洗練と浸透 (1)	第二次大戦後の人間研究の状況と、1960 年代の進化論研究の発展、そして 1 その後の「社会生物学論争」について学ぶ
第 14 回	20 世紀後半以降のダーウィニズムの洗練と浸透 (2) / 現代における進化生物学の影響	前回に引き続き社会生物学論争の経過を追った後、生物学の領域を超えた範囲で浸透し影響力を増している進化生物学の現代的影響を見ていく

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Hoppii の課題提出機能を用いた受講後の受講確認課題（ごく簡単な回答で済むものにする予定）によるポイントの理解の確認が必須の時間外の学習となる。

講義資料や講義内容を見返し、不明瞭な点があれば質問し理解を補うこと（質問等は受講者に告知するメールアドレスから受け付ける。受講確認課題提出と同時に持ってよい）。

講義資料に付した重要文献の抜粋などは読んでおくこと。また、講義中紹介した文献なども、関心に応じて読むのが望ましい。

（質問等は授業後および配付資料に記載するメールアドレスにて常時受け付ける。）

なお、本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特に定めず、適宜資料を配付する。

【参考書】

個々の主題に沿った参考書は授業内で適宜紹介するが、全般的な参考書として、ウィリアム・F・バイナム『若い読者のための科学史』（すばる舎）、C・U・M・スミス『生命観の歴史（上・下）』（岩波書店）、ピーター・J・ボウラー『進化思想の歴史（上・下）』（朝日選書）、ピーター・J・ボウラー『ダーウィン革命の神話』（朝日新聞出版）、垂水雄二『進化論物語』（バジリコ株式会社）、木島泰三『自由意志の向こう側』（講談社選書メチエ）など（なお、挙げた本の中には新刊が品切れのものもある）。

【成績評価の方法と基準】

各回の受講確認課題の提出を含む平常点 50 %、期末レポート 50 % とする。

【学生の意見等からの気づき】

板書は講義を理解するための補助としてのみ使用しているので、ノート作成においては前後の文脈なしに板書を書き写すのではなく、講義を聴き取って書き取ることを心がけて欲しい。無論こちらも見やすく分かりやすい板書、聴き取りやすい講義を心がける。

【Outline (in English)】

Course outline: Our primary objective is to learn about the history of biology or life-science, from ancient, through the age of the "scientific revolution" to the modern evolutionary science. You shall learn the process of the dissolution of Aristotelian integral view of life and its re-synthesis centered in the idea of evolution.

Learning Objectives: The goals of this course are the followings:

(1) to learn about the topics on history of science treated in the class so that you will be able to explain them at least in outline, and,

(2) to produce your term-end report reflecting your knowledge which you will get in the class.

Learning activities outside of classroom: You will be expected to submit your task issued after each class through Hoppii and to understand the course content if you would feel uncompleted. Your required study time is at least one hour for each class meeting.

Grading Criteria /Policies: Final grade will be calculated based on term-end report (50%) and in-class contribution (including your attitude to after-class tasks)(50%) .

MAT200LA

数学特講 L A

2017 年度以降入学者

安東 祐希

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 1/Mon.1

単位数：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

線型代数学－大人のための鶴亀算その 1

線型（形）代数学の基礎を学ぶ。線型代数学は、微分積分学と並び、数学の基礎を成し、社会科学などを含めて様々な分野で応用されている。データサイエンスにおいても重要な役割を持つ。

線型代数学を標語的にはツルカメ算の一般化と表現できる。鶴と亀あわせて 10 匹いて足は全部で 26 本、それぞれ何匹いるのか、というあの鶴亀算である。全部亀だったら足が 40 本のはずで…などと考えれば小学生でもできる。

次に、頭が二つで足は五本、翼が二つの竜 A がいたとして、鶴と亀と竜 A をあわせて頭は 9、足は 25、翼は 8 だったらどうか。これも中学生なら連立一次方程式を解いてそれぞれ何匹いるかわかる。では、竜 B は頭三つ、足八本、翼四つとして、鶴と亀と竜 B をあわせて頭は 17、足は 48、翼は 20 の場合は。さっきと同じことだ、と思うかもしれないが、違うのである。さっきより少々難しい。何がどう違うのか、どのように解くことができるのか、線型代数学を学ぶと、図形的な把握のもとに理解することができる。

この春期授業では、線型代数の基本的な道具である行列と行列式に関し、計算方法を学んでゆく。

【到達目標】

- ・行列の定義を理解し、行列演算に関する計算ができる。
- ・行列式の定義を理解し、行列式に関する計算ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

毎回、授業中にいくつかの例題を解く。例題を考える際、わからない点などは積極的に質問してほしい。なお、内容を理解するためには、自ら問題練習に取り組むことが重要である。また、授業のはじめには前回の復習問題を解く時間があり、その解答は解説に従って自己添削のうえ、授業内レポートとして提出をする。（「課題」である授業内レポートは、次の授業時間に個別返却することで「フィードバック」する。）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	線型代数の第一歩	鶴亀算
第 2 回	ベクトルとは	数ベクトル
第 3 回	ベクトルと図形	幾何ベクトル
第 4 回	行列とは	行列の定義
第 5 回	行列演算	行列の積
第 6 回	行列演算の性質	結合律、非可換性
第 7 回	行列を用いた表現	連立一次方程式
第 8 回	行列の逆演算	正則性と逆行列
第 9 回	簡単な行列式	低次の行列式

第 10 回	行列式の性質	多重線型、交代性
第 11 回	一般の行列式	行列式の定義
第 12 回	行列式の計算	行展開、列展開
第 13 回	行列式と逆行列	余因子行列
第 14 回	半期のまとめ	総復習の問題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

演習問題を十分に解くこと。その際、失敗しても良いので、紙に書きながら考えること。なお、予復習時間の標準は 4 時間である。

【テキスト（教科書）】

指定しない。例題などは印刷したものを授業中に配布する。

【参考書】

線型代数（線形代数）に関する書籍は実に沢山あり、おそらくそのいずれもが本授業の参考となるものと思う。次の三つはそれらの中の例である。

・松坂和夫『線型代数入門』（岩波書店）1980 年、新装版 2018 年
 ・川久保勝夫『線形代数学』（日本評論社）1999 年、新装版 2010 年
 ・H. アントン [山下純一 訳]『アントンのやさしい線型代数』（現代数学社）1980 年、新装版 2020 年

【成績評価の方法と基準】

到達目標に関する問題の解決能力を期末試験（60%）において、また、演習問題への取り組み具合を授業内レポート（40%）において評価する。

【学生の意見等からの気づき】

質問に答える時間をより多くとれるようにしたい。

【その他の重要事項】

秋期科目「数学特講 L B」の予備知識となる内容を含む。

【Outline (in English)】

【Course outline】

This course deals with basic concepts and tools of linear algebra, especially matrices and determinants.

【Learning Objectives】

By the end of the course, students should be able to do calculations on matrices and determinants.

【Learning activities outside of classroom】

Students will be expected to do exercises with many sheets of paper. Your study time will be more than four hours for a class.

【Grading Criteria/Policies】

Final grade will be calculated according to the following process:

Term-end examination (60%) and quizzes in class (40%).

MAT200LA

数学特講 L B

2017 年度以降入学者

安東 祐希

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 1/Mon.1

単位数：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

線型代数学－大人のための鶴亀算その2

線型（形）代数学の基礎を学ぶ。線型代数学は、微分積分学と並び、数学の基礎を成し、社会科学などを含めて様々な分野で応用されている。データサイエンスにおいても重要な役割を持つ。

線型代数学を標語的にはツルカメ算の一般化と表現できる。鶴と亀あわせて 10 匹いて足は全部で 26 本、それぞれ何匹いるのか、というあの鶴亀算である。全部亀だったら足が 40 本のはずで…などと考えれば小学生でもできる。

次に、頭が二つで足は五本、翼が二つの竜 A がいたとして、鶴と亀と竜 A をあわせて頭は 9、足は 25、翼は 8 だつたらどうか。これも中学生なら連立一次方程式を解いてそれぞれ何匹いるかわかる。では、竜 B は頭三つ、足八本、翼四つとして、鶴と亀と竜 B をあわせて頭は 17、足は 48、翼は 20 の場合は。さっきと同じことだ、と思うかもしれないが、違うのである。さっきより少々難しい。何がどう違うのか、どのように解くことができるのか、線型代数学を学ぶと、図形的な把握のもとに理解することができる。

この秋期授業では、連立一次方程式の線型代数による一般の解法や、線型空間の理論を学んでゆく。

【到達目標】

- ・階数の定義を理解し、連立一次方程式を一般に解くことができる。
- ・線型写像の定義を理解し、固有値・固有ベクトルを求めることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

毎回、授業中にいくつかの例題を解く。例題を考える際、わからない点などは積極的に質問してほしい。なお、内容を理解するためには、自ら問題練習に取り組むことが重要である。また、授業のはじめには前回の復習問題を解く時間があり、その解答は解説に従って自己添削のうえ、授業内レポートとして提出をする。（「課題」である授業内レポートは、次の授業時間に個別返却することで「フィードバック」する。）

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	線型代数の応用	鶴亀算再考
第 2 回	基本変形とは	行と列の基本変形
第 3 回	基本変形の行列表現	基本行列
第 4 回	基本変形と方程式	連立一次方程式の解法
第 5 回	基本変形と逆行列	逆行列の計算
第 6 回	階数とは	階数と基本変形
第 7 回	階数の別定義	階数と行列式
第 8 回	階数再考の準備	一次独立、一次従属

第 9 回	階数再考	階数と一次独立性
第 10 回	線型空間とは	線型空間とその基底
第 11 回	線型写像とは	線型写像と表現行列
第 12 回	線型写像を見やすく	固有値・固有ベクトル
第 13 回	線型写像の繰り返し	行列の冪
第 14 回	半期のまとめ	総復習の問題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

演習問題を十分に解くこと。その際、失敗しても良いので、紙に書きながら考えること。なお、予復習時間の標準は 4 時間である。

【テキスト（教科書）】

指定しない。例題などは印刷したものを授業中に配布する。

【参考書】

線型代数（線形代数）に関する書籍は実に沢山あり、おそらくそのいずれもが本授業の参考となるものと思う。次の三つはそれらの中の例である。

- ・松坂和夫『線型代数入門』（岩波書店）1980 年、新装版 2018 年
- ・川久保勝夫『線形代数学』（日本評論社）1999 年、新装版 2010 年
- ・H. アントン [山下純一 訳]『アントンのやさしい線型代数』（現代数学社）1980 年、新装版 2020 年

【成績評価の方法と基準】

到達目標に関する問題の解決能力を期末試験（60%）において、また、演習問題への取り組み具合を授業内レポート（40%）において評価する。

【学生の意見等からの気づき】

質問に答える時間をより多くとれるようにしたい。

【その他の重要事項】

春期科目「数学特講 L A」で扱う内容を既知として授業を進める。

【Outline (in English)】

【Course outline】

This course deals with basic concepts and tools of linear algebra, especially linear equations and linear mappings.

【Learning Objectives】

By the end of the course, students should be able to solve linear equations and eigenvalue problems.

【Learning activities outside of classroom】

Students will be expected to do exercises with many sheets of paper. Your study time will be more than four hours for a class.

【Grading Criteria/Policies】

Final grade will be calculated according to the following process:

Term-end examination (60%) and quizzes in class (40%).

MAT200LA

発展数学ⅠⅡ

2017年度以降入学者

サブタイトル：

池田 宏一郎

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 4/Thu.4

単位数：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

～ 社会科学に必要な不可欠な数学（1変数関数の微積分）～

さまざまな社会現象が1変数関数で表現され、それらをより深く分析する手段が微分と積分である。微積分は、数理解析を行うための基本的かつ重要な道具であり、応用も極めて広い。

【到達目標】

いろいろな微分法を用いて、導関数を求めることができる。さらに微分を用いて、関数のさまざまな性質（グラフの形など）を調べることができる。積分の定義を理解し、不定積分や定積分の計算ができる。さらに積分を用いて、面積・体積・長さを求めることができる。また、2変数関数の微分を扱う秋学期科目「発展数学Ⅱ」を履修する際に必要となる手法を身につけることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

例題を解くことを交えながら内容の説明を進める。授業中も説明を聞いたり板書を写したりするだけでなく、自ら問題を解いてみるものが求められる。フィードバックは、学習支援システム等を通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	導入	授業概要の説明
第2回	微分1	微分の定義と基本性質
第3回	微分2	積の微分、商の微分、合成関数の微分
第4回	微分3	陰関数の微分
第5回	微分4	曲線の傾きと極値
第6回	微分の応用1	曲線の凹凸と変曲点
第7回	微分の応用2	テイラー展開
第8回	微分の応用3	マクローリン展開
第9回	微分の応用4	近似計算
第10回	積分1	定積分と不定積分
第11回	積分2	リーマン積分
第12回	積分3	微分積分法の基本定理
第13回	積分の応用1	図形の面積
第14回	積分の応用2	立体の体積

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

演習問題を十分に解くこと。その際、失敗しても良いので、紙に書きながら考えること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。例題などは印刷したものを授業中に配布する。

【参考書】

「基礎数学Ⅰ・Ⅱ」の教科書である、藤田岳彦ほか『Primary 大学ノート よくわかる微分積分』実教出版(2011)は参考になる。さらに学習する際は、微積分学を主題とした書物であれば参考となる。

【成績評価の方法と基準】

到達目標に関する問題の解決能力を期末試験（80%）において、また、演習問題への取り組み具合を課題提出（20%）において評価する。

【学生の意見等からの気づき】

双方向の授業になるよう心がける。

【その他の重要事項】

この科目を履修するためには、「基礎数学Ⅰ・Ⅱ」で取り扱う内容について、おおよそ理解していることが必要である。

【Outline (in English)】

[Course outline] This course deals with basic concepts and tools of mathematics especially from a viewpoint of single variable functions.

[Learning objectives] At the end of this course, students should be able to obtain basic knowledge concerning differentiation and integration of single variable functions with respect to their applications to answer various problems appearing in our lives.

[Learning activities outside of classroom] Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for each class meeting.

[Grading criteria/policy] Your overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end examination 80%, Short reports 20%.

MAT200LA

発展数学ⅠⅡ

2017年度以降入学者

サブタイトル：

池田 宏一郎

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 4/Thu.4

単位数：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

～ 社会科学に必要不可欠な数学（2変数関数の微分）～

社会現象を解析するために、複数の量の変化を調べる必要がでてくる。その際の基本的な道具が多変数関数であり、多変数関数の性質をより深く知るための手段が偏微分である。ここでは特に2変数関数を扱うが、この授業で学んだ内容は、多くの社会現象を網羅するはすである。

【到達目標】

与えられた2変数関数に対して、そのグラフの概形を理解できる。偏導関数の基本的な計算ができる。さらに、偏微分を用いて、グラフの正確な形を把握し、極値を求めることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

例題を解くことを交えながら内容の説明を進める。授業中も説明を聞いたり板書を写したりするだけでなく、自ら問題を解いてみるのが求められる。フィードバックは、学習支援システム等を通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	導入	授業概要の説明
第2回	2変数関数1	多変数関数とは
第3回	2変数関数2	平面のグラフ
第4回	2変数関数3	曲面のグラフ
第5回	偏微分1	偏微分とは
第6回	偏微分2	極限値
第7回	偏微分3	偏導関数の計算
第8回	偏微分4	合成関数の微分
第9回	偏微分5	全微分と接平面
第10回	偏微分の応用1	極値問題
第11回	偏微分の応用2	陰関数の微分法
第12回	偏微分の応用3	条件付極値問題
第13回	重積分1	重積分とは
第14回	重積分2	体積

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

演習問題を十分に解くこと。その際、失敗しても良いので、紙に書きながら考えること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。例題などは印刷したものを学習支援システムで配布する。

【参考書】

「基礎数学Ⅰ・Ⅱ」の教科書である、藤田岳彦ほか『Primary 大学ノート よくわかる微分積分』実教出版(2011)は参考になる。さらに学習する際は、微積分学を主題とした書物であれば参考となる。

【成績評価の方法と基準】

到達目標に関する問題の解決能力を期末試験（80%）において、また、演習問題への取り組み具合を課題提出（20%）において評価する。

【学生の意見等からの気づき】

双方向の授業になるよう心がける。

【その他の重要事項】

この科目を履修するためには、「発展数学ⅠⅡ」で取り扱う内容について、おおそ理解していることが必要である。

【Outline (in English)】

[Course outline] This course deals with basic concepts and tools of mathematics especially from a viewpoint of multivariable functions.

[Learning objectives] At the end of this course, students should be able to obtain basic knowledge concerning differentiation and integration of multivariable functions with respect to their applications to answer various problems appearing in our lives. [Learning activities outside of classroom] Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for each class meeting.

[Grading criteria/policy] Your overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end examination 80%, Short reports 20%.

MAT200LA

発展数学ⅠⅡ

2017年度以降入学者

サブタイトル：

倉田 俊彦

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 4/Mon.4

単位数：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

～ 社会科学に必要不可欠な数学（1変数関数の微積分）～

さまざまな社会現象が1変数関数で表現され、それらをより深く分析する手段が微分と積分である。微積分は、数理解析を行うための基本的かつ重要な道具であり、応用も極めて広い。

【到達目標】

いろいろな微分法を用いて、導関数を求めることができる。さらに微分を用いて、関数のさまざまな性質（グラフの形など）を調べることができる。積分の定義を理解し、不定積分や定積分の計算ができる。さらに積分を用いて、面積・体積・長さを求めることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

例題を解くことを交えながら内容の説明を進める。授業中も説明を聞くだけでなく、自ら問題を解いてみるのが求められる。課題等の提出・フィードバックは学習支援システムを通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第01回	導入	授業概要の説明
第02回	微分の導入1	導関数と曲線の傾き
第03回	微分の導入2	直線によるグラフの近似
第04回	微分の導入3	ニュートン法
第05回	関数の形式と微分1	合成関数の微分
第06回	関数の形式と微分2	陰関数と微分
第07回	関数の形式と微分3	媒介変数表示と微分
第08回	高階導関数1	2階導関数と曲線のしなり
第09回	高階導関数2	放物線によるグラフの近似
第10回	高階導関数3	マクローリン展開
第11回	高階導関数4	社会科学への応用例
第12回	積分1	積分と微分の関係
第13回	積分2	積分と面積の関係
第14回	試験・まとめと解説	課題等に関する総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

練習問題を十分に解くこと。その際、失敗しても良いので、紙に書きながら考えること。（計算ミスなどは誰でもよくある話ですので、気にする必要は全くありません。分からない時は、むしろ、自分の弱点を一步改善する良い機会だと思って、気軽に相談頂けたらと思います。）本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

指定しない。印刷した資料を授業で配布する。（資料配付等は授業支援システムからも入手できるようにします。）

【参考書】

微積分学を主題とした数多くの書籍が出版されているので、説明が自分に合っていると思うものを利用するとよい。

【成績評価の方法と基準】

到達目標に関する問題の解決能力を期末試験（30%）において、また、平常点（10%）と共に演習問題への取り組み具合を課題提出（60%）において評価する。

【学生の意見等からの気づき】

紹介した応用例は専門科目の中でも扱われる機会がある様子です。履修者にとって、その後の学習で得ができるような内容を充実させていきたいと思います。

【その他の重要事項】

「基礎数学Ⅰ・Ⅱ」で取り扱う内容について、おおよその理解があると履修に有益である。

【Outline (in English)】

[Course outline] This course deals with basic concepts and tools of mathematics especially from a viewpoint of single variable functions.

[Learning objectives] At the end of this course, students should be able to obtain basic knowledge concerning differentiation and integration of single variable functions with respect to their applications to answer various problems appearing in our lives.

[Learning activities outside of classroom] Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for each class meeting.

[Grading criteria/policy] Your overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end examination 30%, Class contribution 10%, Short reports 60%.

MAT200LA

発展数学ⅠⅡ

2017年度以降入学者

サブタイトル：

倉田 俊彦

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 4/Mon.4

単位数：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

～ 社会科学に必要不可欠な数学（2変数関数の微分）～

社会現象を解析するために、複数の量の変化を調べる必要がでてくる。その際の基本的な道具が多変数関数であり、多変数関数の性質をより深く知るための手段が偏微分である。ここでは特に2変数関数を扱うが、この授業で学んだ内容は、多くの社会現象を網羅するはずである。

【到達目標】

与えられた2変数関数に対して、そのグラフの概形を理解できる。偏導関数の基本的な計算ができる。さらに、偏微分を用いて、グラフの正確な形を把握し、極値を求めることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

例題を解くことを交えながら内容の説明を進める。授業中も説明を聞くだけでなく、自ら問題を解いてみるのが求められる。課題等の提出・フィードバックは学習支援システムを通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第01回	導入	授業概要の説明
第02回	空間の数学1	空間ベクトルの基礎
第03回	空間の数学2	2変数の1次式と平面
第04回	偏微分1	偏微分とその意味
第05回	偏微分2	偏導関数の計算
第06回	偏微分3	全微分と接平面
第07回	偏微分4	社会科学での活用事例
第08回	極値の計算1	2階偏導関数
第09回	極値の計算2	2変数関数の極値計算
第10回	極値の計算3	公務員試験の問題例
第11回	極値の計算4	制約条件付きの極値問題
第12回	データサイエンスへの応用例1	データの傾向を学習して予想する
第13回	データサイエンスへの応用例2	4次元データを見える化する
第14回	試験・まとめと解説	課題等に関する総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

練習問題を十分に解くこと。その際、失敗しても良いので、紙を書きながら考えること。（計算ミスなどは誰でもよくある話ですので、気にする必要は全くありません。分からない時は、むしろ、自分の弱点を一步改善する良い機会だと思って、気軽に相談頂けたらと思います。）本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

指定しない。印刷した資料を授業で配布する。（資料配付等は授業支援システムからも入手できるようにします。）

【参考書】

微積分学を主題とした数多くの書籍が出版されているので、説明が自分に合っていると思うものを利用するとよい。

【成績評価の方法と基準】

到達目標に関する問題の解決能力を期末試験（30%）において、また、平常点（10%）と共に演習問題への取り組み具合を課題提出（60%）において評価する。

【学生の意見等からの気づき】

紹介した応用例は専門科目の中でも扱われる機会がある様子です。履修者にとって、その後の学習で得ができるような内容を充実させていきたいと思います。

【その他の重要事項】

「基礎数学Ⅰ・Ⅱ」で取り扱う内容について、おおよその理解があると履修に有益である。

【Outline (in English)】

[Course outline] This course deals with basic concepts and tools of mathematics especially from a viewpoint of multivariable functions.

[Learning objectives] At the end of this course, students should be able to obtain basic knowledge concerning differentiation and integration of multivariable functions with respect to their applications to answer various problems appearing in our lives.

[Learning activities outside of classroom] Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for each class meeting.

[Grading criteria/policy] Your overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end examination 30%, Class contribution 10%, Short reports 60%.

PHY200LA

教養物理学 L A

2017 年度以降入学者

サブタイトル：宇宙と地球

石川 壮一

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 5/Wed.5

単位数：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

サブタイトルを「宇宙と地球」とする。

我々が住んでいる地球という惑星がどのような存在であるのか、地球を含む宇宙に関する理解がどのように進んでいるのか、地球と宇宙との関りがどのようになっているのか、というようなテーマについて、物理学の視点から理解を深める。

【到達目標】

- ・最近の観測により得られた宇宙や地球に関する知見への理解を深める。
- ・自然現象を基本法則から理解する態度を身につけ、基礎法則の応用力を養う。
- ・宇宙の中における地球の位置付けについて理解を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

- ・学習支援システムで配布する資料を用いて講義を行う。
- ・適時、理解度を確認するための課題を出題する。
- ・課題等の提出・フィードバックは学習支援システムを通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	はじめに	各回の講義概要
第 2 回	世界観の変遷	我々の住む世界（宇宙）に関する理解の歴史
第 3 回	我々の住む地球 (1)	地球の形と大きさ、表面（大気圏、海）の概要
第 4 回	我々の住む地球 (2)	地球の内部構造を調べる方法とその結果わかったこと
第 5 回	我々の住む地球 (3)	大気圏外、オーロラ、地球に対する太陽の影響
第 6 回	色々な天体	地上から観測できる天体の種類とその階層性について
第 7 回	天体の光	天体の光の観測から何がわかるか
第 8 回	宇宙観の広がり	宇宙はどこまで広がっているか
第 9 回	星の一生と元素合成 (1)	恒星の誕生、星の中で行われている元素合成
第 10 回	星の一生と元素合成 (2)	恒星の死、超新星爆発、中性子星、パルサー、ブラックホール
第 11 回	太陽系 (1)	太陽系のあらまし
第 12 回	太陽系 (2)	太陽系の誕生（太陽、地球の誕生）、太陽系外惑星の探査
第 13 回	太陽系 (3)	誕生後の地球で起こったこと
第 14 回	宇宙の謎	現代の宇宙の謎である暗黒物質、暗黒エネルギー

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・毎回、学習支援システムで提示する講義資料を用いて講義内容の予習と復習をしておくこと。また、別途提示する小テスト問題を解いておくこと。

・本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

テキストは特に設けないが、講義資料は学習支援システムを用いて提示する。

【参考書】

- ・「物理学入門」大西直毅著（東京大学出版会、1996）
- ・「物理学への招待」大槻義彦著（培風館、1989）
- ・シップマン・自然科学入門「新物理学」（増補改訂版）J. T. Shipman 著、勝守寛監訳（学術図書出版社、2002）
- （その他、必要に応じて授業中に紹介する。）

【成績評価の方法と基準】

期末試験、平常点（演習問題を含む）を総合して評価する。配分は、平常点を 30%、期末試験の結果を 70%とする

【学生の意見等からの気づき】

予習・復習のための参考資料や課題をもう少し充実させたい。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布・課題提出等のために学習支援システムを利用する。

【Outline (in English)】

This class introduces physics point of view to understand various phenomena about the earth and the universe.

The goals of this course are to have a deeper understanding of the universe and the earth as well as relations between them, and to have an attitude to understand natural phenomena from the fundamental laws.

Before and after each class meeting, students will be expected to spend totally four hours to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end examination (70%) and in class contribution including short reports (30%).

PHY200LA

教養物理学 L A

2017 年度以降入学者

サブタイトル：宇宙と地球

石川 壮一

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 2/Fri.2

単位数：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

サブタイトルを「宇宙と地球」とする。

我々が住んでいる地球という惑星がどのような存在であるのか、地球を含む宇宙に関する理解がどのように進んでいるのか、地球と宇宙との関りがどのようになっているのか、というようなテーマについて、物理学の視点から理解を深める。

【到達目標】

- ・最近の観測により得られた宇宙や地球に関する知見への理解を深める。
- ・自然現象を基本法則から理解する態度を身につけ、基礎法則の応用力を養う。
- ・宇宙の中における地球の位置付けについて理解を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

- ・学習支援システムで配布する資料を用いて講義を行う。
- ・適時、理解度を確認するための課題を出題する。
- ・課題等の提出・フィードバックは学習支援システムを通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	はじめに	各回の講義概要
第 2 回	世界観の変遷	我々の住む世界（宇宙）に関する理解の歴史
第 3 回	我々の住む地球 (1)	地球の形と大きさ、表面（大気圏、海）の概要
第 4 回	我々の住む地球 (2)	地球の内部構造を調べる方法とその結果わかったこと
第 5 回	我々の住む地球 (3)	大気圏外、オーロラ、地球に対する太陽の影響
第 6 回	色々な天体	地上から観測できる天体の種類とその階層性について
第 7 回	天体の光	天体の光の観測から何がわかるか
第 8 回	宇宙観の広がり	宇宙はどこまで広がっているか
第 9 回	星の一生と元素合成 (1)	恒星の誕生、星の中で行われている元素合成
第 10 回	星の一生と元素合成 (2)	恒星の死、超新星爆発、中性子星、パルサー、ブラックホール
第 11 回	太陽系 (1)	太陽系のあらまし
第 12 回	太陽系 (2)	太陽系の誕生（太陽、地球の誕生）、太陽系外惑星の探査
第 13 回	太陽系 (3)	誕生後の地球で起こったこと
第 14 回	宇宙の謎	現代の宇宙の謎である暗黒物質、暗黒エネルギー

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・毎回、学習支援システムで提示する講義資料を用いて講義内容の予習と復習をしておくこと。また、別途提示する小テスト問題を解いておくこと。

・本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

テキストは特に設けないが、講義資料は学習支援システムを用いて提示する。

【参考書】

- ・「物理学入門」大西直毅著（東京大学出版会、1996）
- ・「物理学への招待」大槻義彦著（培風館、1989）
- ・シップマン・自然科学入門「新物理学」（増補改訂版）J. T. Shipman 著、勝守寛監訳（学術図書出版社、2002）
- （その他、必要に応じて授業中に紹介する。）

【成績評価の方法と基準】

期末試験、平常点（演習問題を含む）を総合して評価する。配分は、平常点を 30%、期末試験の結果を 70%とする

【学生の意見等からの気づき】

予習・復習のための参考資料や課題をもう少し充実させたい。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布・課題提出等のために学習支援システムを利用する。

【Outline (in English)】

This class introduces physics point of view to understand various phenomena about the earth and the universe.

The goals of this course are to have a deeper understanding of the universe and the earth as well as relations between them, and to have an attitude to understand natural phenomena from the fundamental laws.

Before and after each class meeting, students will be expected to spend totally four hours to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end examination (70%) and in class contribution including short reports (30%).

PHY200LA

教養物理学 L B

2017 年度以降入学者

サブタイトル：

吉田 智

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 2/Tue.2

単位数：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

様々な物理学的な発見はどのようにしてなされてきたのか。物理学上の幾つかの事柄について、歴史的な経緯を踏まえつつ紹介する。また、内容の理解を深めると共に、他の分野に与えた影響についても紹介したい。最新の研究も合わせて紹介する予定である。

【到達目標】

単に結果のみでなく、そこに至るプロセスや社会への影響等を学ぶことによって、様々な現象に対して自分自身で判断する能力を身に付けることができるようにすることを目標としている。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

スライドと共に、資料を配付する講義形式で行います。難しい数式はできるだけ避け、時にはビデオ・実験装置を使用する予定です。随時最新的话题を取り入れながら、物理の基礎知識がなくても理解してもらえるように進めていきます。適宜、授業内での課題や質問に対する解説も行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	はじめに	講義全体について紹介する。
第 2 回	万有引力：ガリレオ研究	ガリレオ・ガリレイの研究について紹介する。
第 3 回	万有引力：ケプラーの研究	ヨハネス・ケプラーの研究について紹介する。
第 4 回	万有引力：万有引力の法則	万有引力の法則、それに付随してキャベンディッシュの研究についても紹介する。
第 5 回	万有引力：万有引力の証明	ハレー彗星や惑星の運動について紹介する。
第 6 回	宇宙：太陽系	第 5 回に関連して、地球を含めた太陽系の天体について紹介する。
第 7 回	宇宙：アポロ計画	アポロ計画を中心に、当時の宇宙開発について紹介する。
第 8 回	宇宙：スペースシャトルと国際宇宙ステーション	スペースシャトル、更には国際宇宙ステーションを含めた現在の宇宙開発について紹介する。
第 9 回	宇宙：冥王星探査	冥王星・エッジワースカイパーベルト天体探査について紹介する。
第 10 回	宇宙：彗星・小惑星探査	地球上の生命はどこから来たのか。小惑星・彗星探査等について紹介する。
第 11 回	ラジウム：原子核	原子核について簡単に紹介する。
第 12 回	ラジウム：マリ・キュリーの研究	マリ・キュリーたちの研究について紹介する。
第 13 回	ラジウム：ラジウム狂詩曲	ラジウム発見による当時の騒動について紹介する。

第 14 回 ラジウム：原子核の応用について
マリ・キュリーが目指した応用等について紹介する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

次回以降の講義内容の理解を助けるためにも、内容を復習しておく必要があります。本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用せず、資料を配布します。

【参考書】

授業内で適宜紹介する予定です。

【成績評価の方法と基準】

学習支援システムを利用した、各回の課題 (70%) と期末レポート (30%) で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

改善アンケートの記載は特にありませんでしたが、授業内容の質問には授業内や「学習支援システム」を使用して対応したいと思います。

【Outline (in English)】

This course introduces the gravitation, the universe, and the radium with historical episodes. In this course, goals are not only to deepen the knowledge about physics but also to acquire the ability to judge various scientific phenomena by yourself. After each class, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Grading will be decided based on term-end examination (30%), and short examinations in every class (70%).

PHY200LA

教養物理学 L B

2017 年度以降入学者

サブタイトル：

吉田 智

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 5/Tue.5

単位数：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

様々な物理学的な発見はどのようにしてなされてきたのか。物理学上の幾つかの事柄について、歴史的な経緯を踏まえつつ紹介する。また、内容の理解を深めると共に、他の分野に与えた影響についても紹介したい。最新の研究も合わせて紹介する予定である。

【到達目標】

単に結果のみでなく、そこに至るプロセスや社会への影響等を学ぶことによって、様々な現象に対して自分自身で判断する能力を身に付けることができるようにすることを目標としている。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

スライドと共に、資料を配付する講義形式で行います。難しい数式はできるだけ避け、時にはビデオ・実験装置を使用する予定です。随時最新の話題を取り入れながら、物理の基礎知識がなくても理解してもらえるように進めていきます。適宜、授業内での課題や質問に対する解説も行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	はじめに	講義全体について紹介する。
第 2 回	万有引力：ガリレオ研究	ガリレオ・ガリレイの研究について紹介する。
第 3 回	万有引力：ケプラーの研究	ヨハネス・ケプラーの研究について紹介する。
第 4 回	万有引力：万有引力の法則	万有引力の法則、それに付随してキャベンディッシュの研究についても紹介する。
第 5 回	万有引力：万有引力の証明	ハレー彗星や惑星の運動について紹介する。
第 6 回	宇宙：太陽系	第 5 回に関連して、地球を含めた太陽系の天体について紹介する。
第 7 回	宇宙：アポロ計画	アポロ計画を中心に、当時の宇宙開発について紹介する。
第 8 回	宇宙：スペースシャトルと国際宇宙ステーション	スペースシャトル、更には国際宇宙ステーションを含めた現在の宇宙開発について紹介する。
第 9 回	宇宙：冥王星探査	冥王星・エッジワースカイパーベルト天体探査について紹介する。
第 10 回	宇宙：彗星・小惑星探査	地球上の生命はどこから来たのか。小惑星・彗星探査等について紹介する。
第 11 回	ラジウム：原子核	原子核について簡単に紹介する。
第 12 回	ラジウム：マリ・キュリーの研究	マリ・キュリーたちの研究について紹介する。
第 13 回	ラジウム：ラジウム狂詩曲	ラジウム発見による当時の騒動について紹介する。

第 14 回 ラジウム：原子核の応用について
マリ・キュリーが目指した応用等について紹介する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

次回以降の講義内容の理解を助けるためにも、内容を復習しておくことが必要です。本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用せず、資料を配布します。

【参考書】

授業内で適宜紹介する予定です。

【成績評価の方法と基準】

学習支援システムを利用した、各回の課題 (70%) と期末レポート (30%) で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

改善アンケートの記載は特にありませんでしたが、授業内容の質問には授業内や「学習支援システム」を使用して対応したいと思います。

【Outline (in English)】

This course introduces the gravitation, the universe, and the radium with historical episodes. In this course, goals are not only to deepen the knowledge about physics but also to acquire the ability to judge various scientific phenomena by yourself. After each class, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Grading will be decided based on term-end examination (30%), and short examinations in every class (70%).

PHY200LA

教養物理学 L A

2017 年度以降入学者

サブタイトル：宇宙と地球

石川 壮一

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 2/Tue.2

単位数：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

サブタイトルを「宇宙と地球」とする。

我々が住んでいる地球という惑星がどのような存在であるのか、地球を含む宇宙に関する理解がどのように進んでいるのか、地球と宇宙との関りがどのようになっているのか、というようなテーマについて、物理学の視点から理解を深める。

【到達目標】

- ・最近の観測により得られた宇宙や地球に関する知見への理解を深める。
- ・自然現象を基本法則から理解する態度を身につけ、基礎法則の応用力を養う。
- ・宇宙の中における地球の位置付けについて理解を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

- ・学習支援システムで配布する資料を用いて講義を行う。
- ・適時、理解度を確認するための課題を出題する。
- ・課題等の提出・フィードバックは学習支援システムを通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	はじめに	各回の講義概要
第 2 回	世界観の変遷	我々の住む世界（宇宙）に関する理解の歴史
第 3 回	我々の住む地球 (1)	地球の形と大きさ、表面（大気圏、海）の概要
第 4 回	我々の住む地球 (2)	地球の内部構造を調べる方法とその結果わかったこと
第 5 回	我々の住む地球 (3)	大気圏外、オーロラ、地球に対する太陽の影響
第 6 回	色々な天体	地上から観測できる天体の種類とその階層性について
第 7 回	天体の光	天体の光の観測から何がわかるか
第 8 回	宇宙観の広がり	宇宙はどこまで広がっているか
第 9 回	星の一生と元素合成 (1)	恒星の誕生、星の中で行われている元素合成
第 10 回	星の一生と元素合成 (2)	恒星の死、超新星爆発、中性子星、パルサー、ブラックホール
第 11 回	太陽系 (1)	太陽系のあらまし
第 12 回	太陽系 (2)	太陽系の誕生（太陽、地球の誕生）、太陽系外惑星の探査
第 13 回	太陽系 (3)	誕生後の地球で起こったこと
第 14 回	宇宙の謎	現代の宇宙の謎である暗黒物質、暗黒エネルギー

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・毎回、学習支援システムで提示する講義資料を用いて講義内容の予習と復習をしておくこと。また、別途提示する小テスト問題を解いておくこと。

・本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

テキストは特に設けないが、講義資料は学習支援システムを用いて提示する。

【参考書】

- ・「物理学入門」大西直毅著（東京大学出版会、1996）
- ・「物理学への招待」大槻義彦著（培風館、1989）
- ・シップマン・自然科学入門「新物理学」（増補改訂版）J. T. Shipman 著、勝守寛監訳（学術図書出版社、2002）
- （その他、必要に応じて授業中に紹介する。）

【成績評価の方法と基準】

期末試験、平常点（演習問題を含む）を総合して評価する。配分は、平常点を 30%、期末試験の結果を 70%とする

【学生の意見等からの気づき】

予習・復習のための参考資料や課題をもう少し充実させたい。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布・課題提出等のために学習支援システムを利用する。

【Outline (in English)】

This class introduces physics point of view to understand various phenomena about the earth and the universe.

The goals of this course are to have a deeper understanding of the universe and the earth as well as relations between them, and to have an attitude to understand natural phenomena from the fundamental laws.

Before and after each class meeting, students will be expected to spend totally four hours to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end examination (70%) and in class contribution including short reports (30%).

PHY200LA

教養物理学 L C

2017 年度以降入学者

サブタイトル：放射線の性質と利用

井坂 政裕

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 5/Thu.5

単位数：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

放射線は我々の身近に存在している。自然界では、放射線は宇宙から降り注いでいるだけでなく、地殻や大気、さらには食品中にも放射線を出す物質がごく微量ながら含まれている。また、放射線は、社会において広く利用されている。例えば医学では、放射線の性質を利用したがんの治療などが代表例である。他にも様々なところで放射線は利用されており、放射線を理解することは、現代の科学技術を理解する上でも非常に重要である。一方、放射線と聞くと、人体への影響を心配するかも知れない。人体にどのような影響があり、どのようにコントロールすれば良いのか。それを理解するためにも、放射線の性質を科学的に理解することが重要である。本授業を通して、学生は、現代物理学の知見に基づいて放射線を理解するとともに、社会での利用例について、放射線の性質と関連付けて理解する。

【到達目標】

- ・放射線がどのような性質を持つのか、その発生原理とともに理解できる。
- ・原子炉や加速器の原理を理解することができる。
- ・放射線の利用例について、放射線の性質と関連付けて理解できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

スライドを使用した講義形式で行う。この授業は原則として対面授業として実施するが、初回授業はリアルタイムオンライン授業として実施する。

各回の授業内容に関して、学習支援システム上で選択式問題による小テストを実施する。

最終授業で、13回までの講義内容のまとめや復習だけでなく、授業内で実施した小テストに対する講評や解説も行う。

講義では、高校で物理を履修していなくても理解できるよう平易に説明する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	序章	放射線とは何かを説明するとともに、授業内容の概観を示す。
第 2 回	物理学の基礎知識 (1) ~力学~	放射線を学ぶ上で必要な物理学の基礎知識として、力学の基礎について解説する。
第 3 回	物理学の基礎知識 (2) ~光~	放射線を学ぶ上で必要な物理学の基礎知識として、光の性質について解説する。
第 4 回	原子の構造	原子がどのような構造を持つのか解説する。
第 5 回	原子核	原子核の性質や構造について解説する。
第 6 回	放射性崩壊	原子核の崩壊について解説する。

第 7 回	特殊相対論と質量エネルギー	放射線を学ぶ上で必要な知識として特殊相対論の概略を紹介するとともに、質量エネルギーについて解説する。
第 8 回	X 線の発生	これまでの内容を踏まえ、X 線の発生原理を解説する。
第 9 回	放射線と物質に当たると何が起る？ (1) ~荷電粒子線~	主に荷電粒子線と物質の相互作用について説明する。
第 10 回	放射線と物質に当たると何が起る？ (2) ~X 線~	主に X 線と物質の相互作用について説明する。
第 11 回	放射線と物質に当たると何が起る？ (3) ~中性子線~	主に中性子と物質の相互作用について解説する。
第 12 回	原子炉	原子炉の原理や原子炉内で起こる核反応について説明する。
第 13 回	加速器	加速器について紹介するとともに、その原理や利用例を説明する。
第 14 回	社会における放射線	放射線の人体への影響や放射線の検出方法などを説明するとともに、放射線の社会における利用についても紹介する。また、全体のまとめや、これまでの実施した小テストの講評と解説を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・身の回りの自然現象や科学・技術に関連するニュースに関心を持つこと。
- ・授業内容と関連する自然現象や科学技術などの具体例が何か考えること。
- ・配布資料などをもとに、各回の学習内容の復習を行うこと。
- ・本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しない。

【参考書】

必要に応じて授業中に紹介する。

【成績評価の方法と基準】

期末レポート(約 50%)と小テスト(約 50%)により評価する。毎回の授業内容に関して、小テストを学習支援システム上で実施する。期末レポートは、授業内容に関する課題を出題する。期末試験は実施しない。

【学生の意見等からの気づき】

わかりやすい説明を心がけます。

【Outline (in English)】

Course outline: This course introduces basic knowledge of the radiation physics. It also helps students acquire understand how to use the radiation and the related techniques in the modern society.

Learning Objectives: By the end of the course, students should be able to do the following:

- ・ Explain properties of radiation and radiation sources
- ・ Explain the principle and utilization of nuclear reactor and accelerator

Learning activities outside of classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading Criteria/Policy: Grading will be decided based on mini-exam in each class meeting (50%) and term-end report (50%).

BIO200LA

教養生物学 L A

2017 年度以降入学者

サブタイトル：異なる細胞が合体して真核細胞が誕生・進化する

野崎 久義

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 4/Mon.4

単位数：2 単位

この授業は「Web 履修抽選対象授業」です。抽選エントリー期間は 2023 年 4 月 3 日 (月) 10 : 00~5 日 (水) 17 : 00、結果発表は 4 月 6 日 (木) 22 : 00 (予定) です。履修ガイド (<https://hosei-keiji.jp/ilac/rishuguide2023/>) を確認のうえ、情報システムから期間内にエントリーしてください。

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

バクテリアからヒトまで「生物」とよく言うが、両者の細胞構造は基本的に異なり、バクテリアではミトコンドリアが細胞中にない。更に植物はヒトのような動物とは異なり、細胞の中に光合成を行う葉緑体をもつ。この授業では、このような「真核細胞」内のオルガネラが「細胞内共生」という異なる生物の合体で誕生し、多様化していることへの理解を目的とする。このためには現在地球上に存在する生物の多様性と細胞内部の構造と遺伝物質 DNA の存在状態を理解する必要がある。また、オルガネラ (ミトコンドリアと葉緑体) が持つ独自の DNA とその遺伝様式を理解する。自分の体を構成する細胞に 10-20 億年前のバクテリアの「細胞内共生」という歴史がある。さらにそのバクテリアの末裔が現在でも細胞内のオルガネラとして生きていて、顕微鏡で観察することができ、オルガネラの DNA を系統解析することでその生い立ちを辿ることができることを理解してもらいたい。随時、関連する野崎の研究内容も紹介する。

【到達目標】

地球上に存在する多様な生物が細胞内のオルガネラのどのような基本的特徴でどのように分類されるか、オルガネラのミトコンドリアと葉緑体が「細胞内共生」で誕生したことがどのようにして分かるか、ミトコンドリアと葉緑体はどのような様式で遺伝するか、オルガネラの DNA をどのように系統解析してそれらの起源が探れるかを理解する。ミトコンドリアと葉緑体の細胞内共生による誕生は 10-20 億年前と言われているが、それから現在に至るまでに更なる細胞内共生が起きて細胞が大きく進化・多様化していること、現在でも新しい細胞内共生が起きていて生物の細胞が刻々と進化していることも理解する。生命の最小単位である細胞について、その多様性と進化史的について、理解を深める。また、現在地球上の生物の DNA・ゲノム情報はインターネットを通じて無償で入手することができ、これらの情報を取得し、系統解析する手法についても学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

基本的に講義室でオンサイト (対面) の授業を進める。随時、質疑応答を行い、学生諸君が積極的に授業に参加できるようにする。授業の最後に課題を出し、授業内容理解の向上を目指す。課題と同時に授業に関する質問やコメントの提出を求める。

課題、質問、コメント等に対するフィードバックは次回の授業で行う。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	生物学における基本的な 3 学説の紹介	細胞説、遺伝学説、進化学説についてそれらの基本と歴史を解説する。

2	細胞の基本的な特徴と多様性および進化	生物の多様性と進化を細胞の基本的な特徴から解説する。
3	生物全体の多様性と分類	生物と呼ばれているものの多様性と大まかな分類の概要と歴史を解説する。
4	細胞内共生説: 異なる起源の細胞が合体して新たな細胞が誕生する	異なる起源の細胞が合体して我々ヒトのような生物の細胞 (真核細胞) が誕生したという「細胞内共生説」について解説する。
5	細胞内共生による動物や植物の細胞の起源	動物や植物の細胞内に存在するミトコンドリアと葉緑体は太古 (10-20 億年前) に起きた細胞内共生に起源すると考えられている。これらを解説する。
6	細胞内に残存する太古の細胞内共生の構造的痕跡	細胞内共生を細胞内の構造から理解する。
7	細胞内共生の証拠としてのオルガネラ (ミトコンドリアと葉緑体) の DNA	オルガネラ (ミトコンドリアと葉緑体) の DNA について解説する。
8	ミトコンドリアと葉緑体の DNA の遺伝	メンデルの法則とは異なるミトコンドリアと葉緑体の DNA の遺伝様式について解説する。
9	オルガネラ DNA の系統解析でわかるオルガネラの起源	系統解析とこれを用いたオルガネラの起源の推定について説明する。
10	細胞内共生したオルガネラの起源の生物の DNA は宿主細胞 (ホスト) に奪われてゆく	細胞内共生の結果誕生したオルガネラの DNA はホストの核に移動してゆく「細胞内共生遺伝子水平伝達」という現象があり、これを説明し、系統解析から理解してもらおう。
11	くり返して起きた細胞内共生	植物細胞で見られる葉緑体の 2 回目の細胞内共生は「二次共生」といい、その結果誕生した「二次植物」について解説する。
12	ミドリムシは昔紅かった	単細胞生物のミドリムシが昔は紅かったという仮説を細胞内共生から解説します。
13	現在でも進行する細胞内共生 1 : 他人の細胞内で生きる細菌	オルガネラではないが、動植物 (真核生物) の細胞内に住み着いているバクテリア「細胞内共生細菌」について紹介する。
14	現在でも進行する細胞内共生 2 : ホスト側からの捕獲	光合成する植物細胞を食べることで自分の体に入れて光合成させる単細胞生物や海産動物を紹介します。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。授業で使う資料を学習支援システムの教材欄に事前に提示するので、十分予習すること。授業内で示した課題は、授業内容を十分復習して間違えの無いように解答すること。予習復習には 1 回の授業につき 4 時間以上かけて下さい。

【テキスト (教科書)】

特定の教科書は使用しない。

【参考書】

参考書は必要に応じて学習支援システムを通じて提示します。

【成績評価の方法と基準】

授業の後に課題を出す。14 回の課題の評価点で成績評価を行う。1 回の課題は 10 点満点とし、14 回分合計して 140 点満点で成績評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】

本年度から始める授業になります。

【学生が準備すべき機器他】

特にないが、インターネットが可能な PC があると系統解析が実際に自分で行える。

【その他の重要事項】

授業中における質問は大歓迎であるが、授業中の私語は厳禁である。

【Outline (in English)】**【Course outline】**

Although we often speak of "organisms" from bacteria to humans, their cellular structures are fundamentally different: bacteria do not have mitochondria in their cells. Furthermore, unlike animals such as humans, plants have chloroplasts in their cells. The purpose of this lecture is to understand that these intracellular organelles originate from "ancient endosymbiosis", which was established by the union of different organisms from 1 to 2 billion years ago. For this purpose, it is necessary to understand the diversity of organisms that currently exist on the earth, as well as the morphology inside the cell and the state and distribution of the genetic material DNA. We will also understand the unique DNA and mode of inheritance of the organelles. The cells that make up our own bodies have a history of "intracellular symbiosis" with bacteria from 1 to 2 billion years ago. Furthermore, the students should understand that the descendants of those bacteria still live as organelles in our cells, which can be observed under a microscope, and that the origin of the organelles can be traced by phylogenetic analysis of their DNA. From time to time, we will also introduce results of Nozaki's original research.

【Learning Objectives】

To understand how the diversity of organisms on earth can be classified by the basic characteristics of their intracellular organelles, how the mitochondria and chloroplasts of organelles came into being in "intracellular symbiosis," what mode of inheritance mitochondria and chloroplasts have, and how the DNA of organelles can be phylogenetically analyzed to find their origin. The students will also understand that further intracellular symbiosis has occurred since then and that cells have evolved and diversified greatly, and that new intracellular symbiosis is still occurring and the cells of living organisms are evolving moment by moment. Students will deepen their understanding of the cell, the smallest unit of life, and its diversity and evolutionary history. In addition, DNA and genome information on living organisms on the earth is currently available free of charge via the Internet, and students will learn about methods for obtaining this information and conducting phylogenetic analysis.

【Learning activities outside of classroom】 The standard preparation and review time for this class is 2 hours each. Materials to be used in class will be presented in the "Teaching Materials" section of the Learning Support System in advance, so students are expected to prepare well in advance. Students are expected to review the contents of the class and answer the assignments given in the class without making mistakes. Please spend at least 4 hours per class on preparation and review.

【Grading Criteria /Policy】

An assignment/inquiry will be given after each class, and grading will be based on the evaluation score of 14 assignments, each assignment is worth 10 points, and the total score for 14 assignments is 140 points.

BIO200LA

教養生物学 L B

2017 年度以降入学者

サブタイトル：メス・オスと老死の起源を緑藻ボルボックスの仲間から探る

野崎 久義

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 4/Mon.4

単位数：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

我々ヒトの一生は両親にあたる「メスとオス」の出会いに始まり、成長の後また両親と同じようなことを繰り返すが、成長した個体はやがて「老死」という運命を迎える。しかし、生物全体を見渡せば単純な体制をした単細胞生物等では分裂で増殖するので「老死」もなければ「メスとオスの差異」も存在しない。従って、生命が誕生した初期では「老死」もなければ「メスとオス」の差異も存在しない単細胞の段階があり、多細胞生物に進化する段階で両者が出現したと考えられる。これらの進化を探るのには真核生物が誕生した 10-20 億年前の状況を調査する必要があるとも考えられるが、これは不可能である。しかし、緑藻類のボルボックスの仲間（ボルボックス系列）は単細胞性のものから「老死」と「メスとオス」を持つ複雑な体制をしたものまで様々な進化段階の生物が現存しているため、現存の生物の比較でこれらの進化が研究できる。そのために、これらの生物を採集して培養株を確立し、最先端の生物学的手法を用いた研究が進展している。この授業では、このような「老死」と「メスとオス」に関連する多様性と進化を緑藻類のボルボックス系列に着目して理解することを目的とする。このためには自然界に生育するボルボックスの仲間をどのように採集して培養株とするか、ボルボックス系列の生物がどのようなものかを理解する必要がある。また、老死とメス・オスの進化は「多細胞化」に関連しており、ボルボックス系列を用いた多細胞化に関連する研究も紹介する。ヒトの様な多細胞の動物が進化した 10 億年以上も昔の我々の祖先が「老死」も「メスとオス」もないものであったかという歴史があるが、直接的に探れない。しかし、ボルボックスの仲間を用いた研究からこの歴史が推測できることを理解してもらいたい。随時、関連する野崎の緑藻ボルボックスの仲間の研究内容も紹介する。

【到達目標】

ヒトの一生で避けることのできない重大な 2 個の過程、「メスとオスの出会い」と「老死」が太古の祖先の多細胞生物に進化する段階で獲得されたものであり、これらを持たない単細胞生物が現存することを理解する。さらに、性（sex）進化と多細胞化の研究のモデル生物群である緑藻ボルボックスの仲間（ボルボックス系列）に焦点をあててこれらの 2 個の進化に関連する研究内容を紹介するが、基本的にボルボックス系列がどのような生物であるか、さらにこれらの生物のフィールドでの採集と実験室における培養株の確立の方法も理解する。また、ボルボックス系列の代表的な種の全ゲノム情報は公開されているので、ゲノム情報はインターネットを通じて無償で調査することができる。従って、着目する生物に目的の遺伝子があるかどうか検索する基本的な手法についても学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

基本的に講義室でオンサイト（対面）の授業を進める。随時、質疑応答を行い、学生諸君が積極的に授業に参加できるようにする。授業の最後に課題を出し、授業内容理解の向上を目指す。課題と同時に授業に関する質問やコメントの提出を求める。

課題、質問、コメント等に対するフィードバックは次回の授業で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	メスとオスの出会いと老死	メスとオスの出会いと老死、それらの存在意義を解説する。
2	メスとオスの差も老死もない単細胞生物	メスとオスの差も老死もない単細胞生物であるクラミドモナスを解説する。
3	メスとオスの差と老死が認められる多細胞生物ボルボックス	ボルボックスにおけるメスとオスの差と老死を解説する。ここで性（sex）と雌雄は異なるものであることも理解してもらいます。
4	性進化と多細胞化研究のモデル生物群ボルボックス系列、世界最小の多細胞生物”シアワセモ”	ボルボックス系列の生物がどのようなものについて解説する。また、世界最小の多細胞生物シアワセモも紹介します。
5	多細胞化と老死の不一致、“永遠の命”を得た多細胞生物ボルボックス	ボルボックス系列を用いて多細胞化と老死の進化は一致しないことを解説する。また、老死細胞を決定する遺伝子を失ったボルボックスの突然変異体を紹介します。
6	性（sex）と雌雄性	性（sex）と雌雄性（メスとオスに分化すること）は異なる概念であることをボルボックス系列を用いて説明する。
7	メスとオスの未分化な生物からメスとオスの明瞭な生物への進化の鍵遺伝子“OTOKOGI”	ボルボックスの仲間における雌雄性の進化の鍵遺伝子”OTOKOGI”の発見の経緯について解説する。ボルボックス系列におけるフィールド調査と培養株の確立についても紹介します。
8	琵琶湖のフィールド調査から始まったボルボックスの性の多様性進化	琵琶湖のフィールド調査から始まったボルボックスの性の多様性と性進化の研究を解説する。
9	熱帯に未知なるボルボックス系列を求めて	熱帯、特にタイとアフリカにおけるボルボックス系列のフィールド調査とその研究成果を解説します。
10	再び相模湖・津久井湖に戻る	3種類の性表現型をもつ生物種（トリオシー）について、神奈川県相模湖・津久井湖における藻類のトリオシー種の発見の経緯について解説する。
11	全ゲノム解読による多細胞化の研究	緑藻ボルボックス系列を用いた全ゲノム解読の実際と関連する多細胞化の研究成果について解説する。
12	全ゲノム解読による性進化の研究	緑藻ボルボックス系列を用いた全ゲノム解読による性進化の研究成果について解説する。
13	赤の女王仮説と性が知られていなかった原生生物における性の発見	性に関する有名な仮説「赤の女王仮説」とこれまで「性」がないと思われていた原生生物のエリ鞭毛虫（2013年）と単細胞紅藻（2022年）で「性」の存在が明らかになった研究とその進化的重要性を解説します。
14	20 億年前から存在する性とメスとオスの原型	真核生物の起源から性とメスとオスの原型が存在していた可能性について紹介する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で使う資料を学習支援システムの教材欄に事前に提示するので、十分予習すること。授業内で示した課題は、授業内容を十分復習して間違えの無いように解答すること。予習復習には 1 回の授業につき 4 時間以上かけて下さい。

【テキスト（教科書）】

特定の教科書は使用しない。

【参考書】

参考書は必要に応じて学習支援システムを通じて提示しますが、以下をダウンロードして参考にしてください。」

[http://sourui.org/publications/sorui/list/Sourui_PDF/Sourui70\(1\)_1.pdf](http://sourui.org/publications/sorui/list/Sourui_PDF/Sourui70(1)_1.pdf)

https://www.jstage.jst.go.jp/article/plmorphol1989/19and20/1/19and20_1_55/pdf-char/ja

【成績評価の方法と基準】

授業の後に課題を出す。14回の課題の評価点で成績評価を行う。1回の課題は10点満点とし、14回分合計して140点満点で成績評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】

本年度から始める授業になります。

【学生が準備すべき機器他】

特にないが、インターネットが可能なPCがあるとゲノム情報の探索が実際に自分で行える。

【その他の重要事項】

授業中における質問は大歓迎であるが、授業中の私語は厳禁である。

【Outline (in English)】**【Course outline】**

The life of a human being begins with the encounter between the "male" and "female," which are the parents, and after growing up, the human being repeats the same process as the parents, but the grown individual eventually meets the fate of "aging death." However, if we look at all living organisms, we find that single-celled organisms, which have a simple structure, multiply by division, so there is no "aging death" and no "male and female differentiation". Therefore, it is thought that in the early stages of life, there was a unicellular stage in which there was neither aging death or male and female differentiation, and that both appeared during the evolution of multicellular organisms. One could argue that exploring these evolutionary processes would require investigating conditions 1 to 2 billion years ago, when eukaryotes emerged, but this is not possible. However, since there are extant organisms of various evolutionary stages in the green algal group "volvocine lineage" (Volvox and its related species), ranging from unicellular ones to complex multicellular bodies with "aging death" and "male and female genders," these evolutions can be studied by comparing the extant organisms. To this end, research is progressing by collecting these organisms from natural fields, establishing culture strains, and using cutting-age biological techniques. The aim of this class is to understand such diversity and evolution related to "aging death" and "sex" by focusing on members of the volvocine lineage. For this purpose, it is necessary to understand how to collect naturally growing members of volvocine species and what kind of organisms the volvocine species are. In addition, the evolution of "aging death" and "male and female genders" is related to "multicellularity," and studies related to multicellularity using the volvocine species will also be presented. The history of our ancestors more than a billion years ago, when multicellular organisms evolved, is that they had neither "aging death" nor "male and female differentiation," but this cannot be directly explored. However, we hope you will understand that this history can be inferred from studies using organisms belonging to the volvocine lineage. From time to time, we will also introduce related studies by Nozaki's group.

【Learning Objectives】

We will understand that two critical processes that cannot be avoided in the human life span, "female-male encounter" and "old age and death," were acquired during the evolution of our ancient ancestors into multicellular organisms, and that unicellular organisms without these processes exist today. In addition, we will focus on the green algal group "volvocine lineage" (Volvox and its related species), which is a model organism group for the study of sex evolution and multicellularity, and introduce research related to these two evolutionary events, but we will also explain what the volvocine lineage is basically like, and how to collect these organisms in the field and establish laboratory cultures. The course will also provide an understanding of the field collection of these organisms and how to establish culture strains in the laboratory. In addition, the genome information of representative species of the volvocine lineage is publicly available, and genome information can be researched free of charge via the Internet. Therefore, students will also learn basic methods to search for the presence of target genes in the organisms of interest.

【Learning activities outside of classroom】

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each. Materials to be used in class will be presented in the "Teaching Materials" section of the Learning Support System in advance, so students are expected to prepare well in advance. Students are expected to review the contents of the class and answer the assignments given in the class without making mistakes. Please spend at least 4 hours per class on preparation and review.

【Grading Criteria /Policy】

An assignment/inquiry will be given after each class, and grading will be based on the evaluation score of 14 assignments, each assignment is worth 10 points, and the total score for 14 assignments is 140 points.

BIO200LA

教養生物学 L A

2017 年度以降入学者

サブタイトル：異なる細胞が合体して真核細胞が誕生・進化する

野崎 久義

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 5/Mon.5

単位数：2 単位

この授業は「Web 履修抽選対象授業」です。抽選エントリー期間は 2023 年 4 月 3 日（月）10：00～5 日（水）17：00、結果発表は 4 月 6 日（木）22：00（予定）です。履修ガイド (<https://hosei-keiji.jp/ilac/rihuguide2023/>) を確認のうえ、情報システムから期間内にエントリーしてください。

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

バクテリアからヒトまで「生物」とよく言うが、両者の細胞構造は基本的に異なり、バクテリアではミトコンドリアが細胞中になく、更に植物はヒトのような動物とは異なり、細胞の中に光合成を行う葉緑体をもつ。この授業では、このような「真核細胞」内のオルガネラが「細胞内共生」という異なる生物の合体で誕生し、多様化していることへの理解を目的とする。このためには現在地球上に存在する生物の多様性と細胞内部の構造と遺伝物質 DNA の存在状態を理解する必要がある。また、オルガネラ（ミトコンドリアと葉緑体）が持つ独自の DNA とその遺伝様式を理解する。自分の体を構成する細胞に 10-20 億年前のバクテリアの「細胞内共生」という歴史がある。さらにそのバクテリアの末裔が現在でも細胞内のオルガネラとして生きていて、顕微鏡で観察することができ、オルガネラの DNA を系統解析することでその生い立ちを辿ることができることを理解してもらいたい。随時、関連する野崎の研究内容も紹介する。

【到達目標】

地球上に存在する多様な生物が細胞内のオルガネラのどのような基本的特徴でどのように分類されるか、オルガネラのミトコンドリアと葉緑体が「細胞内共生」で誕生したことがどのようにして分かるか、ミトコンドリアと葉緑体はどのような様式で遺伝するか、オルガネラの DNA をどのように系統解析してそれらの起源が探れるかを理解する。ミトコンドリアと葉緑体の細胞内共生による誕生は 10-20 億年前と言われているが、それから現在に至るまでに更なる細胞内共生が起きて細胞が大きく進化・多様化していること、現在でも新しい細胞内共生が起きていて生物の細胞が刻々と進化していることも理解する。生命の最小単位である細胞について、その多様性と進化史的について、理解を深める。また、現在地球上の生物の DNA・ゲノム情報はインターネットを通じて無償で入手することができ、これらの情報を取得し、系統解析する手法についても学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

基本的に講義室でオンサイト（対面）の授業を進める。随時、質疑応答を行い、学生諸君が積極的に授業に参加できるようにする。授業の最後に課題を出し、授業内容理解の向上を目指す。課題と同時に授業に関する質問やコメントの提出を求める。

課題、質問、コメント等に対するフィードバックは次回の授業で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	生物学における基本的な 3 学説の紹介	細胞説、遺伝学説、進化学説についてそれらの基本と歴史を解説する。

2	細胞の基本的な特徴と多様性および進化	生物の多様性と進化を細胞の基本的な特徴から解説する。
3	生物全体の多様性と分類	生物と呼ばれているものの多様性と大まかな分類の概要と歴史を解説する。
4	細胞内共生説：異なる起源の細胞が合体して新たな細胞が誕生する	異なる起源の細胞が合体して我々ヒトのような生物の細胞（真核細胞）が誕生したという「細胞内共生説」について解説する。
5	細胞内共生による動物や植物の細胞の起源	動物や植物の細胞内に存在するミトコンドリアと葉緑体は太古（10-20 億年前）に起きた細胞内共生に起源すると考えられている。これらを解説する。
6	細胞内に残存する太古の細胞内共生の構造的痕跡	細胞内共生を細胞内の構造から理解する。
7	細胞内共生の証拠としてのオルガネラ（ミトコンドリアと葉緑体）の DNA	オルガネラ（ミトコンドリアと葉緑体）の DNA について解説する。
8	ミトコンドリアと葉緑体の DNA の遺伝	メンデルの法則とは異なるミトコンドリアと葉緑体の DNA の遺伝様式について解説する。
9	オルガネラ DNA の系統解析でわかるオルガネラの起源	系統解析とこれを用いたオルガネラの起源の推定について説明する。
10	細胞内共生したオルガネラの起源の生物の DNA は宿主細胞（宿主）に奪われてゆく	細胞内共生の結果誕生したオルガネラの DNA はホストの核に移動してゆく「細胞内共生遺伝子水平伝達」という現象があり、これを説明し、系統解析から理解してもらおう。
11	くり返して起きた細胞内共生	植物細胞で見られる葉緑体の 2 回目の細胞内共生は「二次共生」といい、その結果誕生した「二次植物」について解説する。
12	ミドリムシは昔紅かった	単細胞生物のミドリムシが昔は紅かったという仮説を細胞内共生から解説します。
13	現在でも進行する細胞内共生 1：他人の細胞内で生きる細菌	オルガネラではないが、動植物（真核生物）の細胞内に住み着いているバクテリア「細胞内共生細菌」について紹介する。
14	現在でも進行する細胞内共生 2：宿主側からの捕獲	光合成する植物細胞を食べることで自分の体に入れて光合成させる単細胞生物や海産動物を紹介します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。授業で使う資料を学習支援システムの教材欄に事前に提示するので、十分予習すること。授業内で示した課題は、授業内容を十分復習して間違えの無いように解答すること。予習復習には 1 回の授業につき 4 時間以上かけて下さい。

【テキスト（教科書）】

特定の教科書は使用しない。

【参考書】

参考書は必要に応じて学習支援システムを通じて提示します。

【成績評価の方法と基準】

授業の後に課題を出す。14 回の課題の評価点で成績評価を行う。1 回の課題は 10 点満点とし、14 回分合計して 140 点満点で成績評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】

本年度から始める授業になります。

【学生が準備すべき機器他】

特にないが、インターネットが可能な PC があると系統解析が実際に自分で行える。

【その他の重要事項】

授業中における質問は大歓迎であるが、授業中の私語は厳禁である。

【Outline (in English)】**【Course outline】**

Although we often speak of "organisms" from bacteria to humans, their cellular structures are fundamentally different: bacteria do not have mitochondria in their cells. Furthermore, unlike animals such as humans, plants have chloroplasts in their cells. The purpose of this lecture is to understand that these intracellular organelles originate from "ancient endosymbiosis", which was established by the union of different organisms from 1 to 2 billion years ago. For this purpose, it is necessary to understand the diversity of organisms that currently exist on the earth, as well as the morphology inside the cell and the state and distribution of the genetic material DNA. We will also understand the unique DNA and mode of inheritance of the organelles. The cells that make up our own bodies have a history of "intracellular symbiosis" with bacteria from 1 to 2 billion years ago. Furthermore, the students should understand that the descendants of those bacteria still live as organelles in our cells, which can be observed under a microscope, and that the origin of the organelles can be traced by phylogenetic analysis of their DNA. From time to time, we will also introduce results of Nozaki's original research.

【Learning Objectives】

To understand how the diversity of organisms on earth can be classified by the basic characteristics of their intracellular organelles, how the mitochondria and chloroplasts of organelles came into being in "intracellular symbiosis," what mode of inheritance mitochondria and chloroplasts have, and how the DNA of organelles can be phylogenetically analyzed to find their origin. The students will also understand that further intracellular symbiosis has occurred since then and that cells have evolved and diversified greatly, and that new intracellular symbiosis is still occurring and the cells of living organisms are evolving moment by moment. Students will deepen their understanding of the cell, the smallest unit of life, and its diversity and evolutionary history. In addition, DNA and genome information on living organisms on the earth is currently available free of charge via the Internet, and students will learn about methods for obtaining this information and conducting phylogenetic analysis.

【Learning activities outside of classroom】 The standard preparation and review time for this class is 2 hours each. Materials to be used in class will be presented in the "Teaching Materials" section of the Learning Support System in advance, so students are expected to prepare well in advance. Students are expected to review the contents of the class and answer the assignments given in the class without making mistakes. Please spend at least 4 hours per class on preparation and review.

【Grading Criteria /Policy】

An assignment/inquiry will be given after each class, and grading will be based on the evaluation score of 14 assignments, each assignment is worth 10 points, and the total score for 14 assignments is 140 points.

BIO200LA

教養生物学 L B

2017 年度以降入学者

サブタイトル：メス・オスと老死の起源を緑藻ボルボックスの仲間から探る

野崎 久義

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 5/Mon.5
単位数：2 単位

この授業は「Web 履修抽選対象授業」です。抽選エントリー期間は 2023 年 4 月 3 日（月）10：00～5 日（水）17：00、結果発表は 4 月 6 日（木）22：00（予定）です。履修ガイド (<https://hosei-keiji.jp/ilac/rihuguide2023/>) を確認のうえ、情報システムから期間内にエントリーしてください。

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

我々ヒトの一生は両親にあたる「メスとオス」の出会いに始まり、成長の後また両親と同じようなことを繰り返すが、成長した個体はやがて「老死」という運命を迎える。しかし、生物全体を見渡せば単純な体制をした単細胞生物等では分裂で増殖するので「老死」もなければ「メスとオスの差異」も存在しない。従って、生命が誕生した初期では「老死」もなければ「メスとオス」の差異も存在しない単細胞の段階があり、多細胞生物に進化する段階で両者が出現したと考えられる。これらの進化を探るのには真核生物が誕生した 10-20 億年前の状況を調査する必要があるとも考えられるが、これは不可能である。しかし、緑藻類のボルボックスの仲間（ボルボックス系列）は単細胞性のもから「老死」と「メスとオス」を持つ複雑な体制をしたものまで様々な進化段階の生物が現存しているため、現在の生物の比較でこれらの進化が研究できる。そのために、これらの生物を採集して培養株を確立し、最先端の生物学的手法を用いた研究が進展している。この授業では、このような「老死」と「メスとオス」に関連する多様性と進化を緑藻類のボルボックス系列に着目して理解することを目的とする。このためには自然界に生育するボルボックスの仲間をどのように採集して培養株とするか、ボルボックス系列の生物がどのようなものかを理解する必要がある。また、老死とメス・オスの進化は「多細胞化」に関連しており、ボルボックス系列を用いた多細胞化に関連する研究も紹介する。ヒトの様な多細胞の動物が進化した 10 億年以上も昔の我々の祖先が「老死」も「メスとオス」もないものであったというという歴史があるが、直接的に探れない。しかし、ボルボックスの仲間を用いた研究からこの歴史が推測できることを理解してもらいたい。随時、関連する野崎の緑藻ボルボックスの仲間の研究内容も紹介する。

【到達目標】

ヒトの一生で避けることのできない重大な 2 個の過程、「メスとオスの出会い」と「老死」が太古の祖先の多細胞生物に進化する段階で獲得されたものであり、これらを持たない単細胞生物が現存することを理解する。さらに、性（sex）進化と多細胞化の研究のモデル生物群である緑藻ボルボックスの仲間（ボルボックス系列）に焦点をあててこれらの 2 個の進化に関連する研究内容を紹介するが、基本的にボルボックス系列がどのような生物であるか、さらにこれらの生物のフィールドでの採集と実験室における培養株の確立の方法も理解する。また、ボルボックス系列の代表的な種の全ゲノム情報は公開されているので、ゲノム情報はインターネットを通じて無償で調査することができる。従って、着目する生物に目的の遺伝子があるかどうかを検索する基本的な手法についても学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

基本的に講義室でオンサイト（対面）の授業を進める。随時、質疑応答を行い、学生諸君が積極的に授業に参加できるようにする。授業の最後に課題を出し、授業内容理解の向上を目指す。課題と同時に授業に関する質問やコメントの提出を求める。

課題、質問、コメント等に対するフィードバックは次の授業で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	メスとオスの出会いと老死	メスとオスの出会いと老死、それらの存在意義を解説する。
2	メスとオスの差も老死もない単細胞生物	メスとオスの差も老死もない単細胞生物であるクラミドモナスを解説する。
3	メスとオスの差と老死が認められる多細胞生物ボルボックス	ボルボックスにおけるメスとオスの差と老死を解説する。ここで性（sex）と雌雄は異なるものであることも理解してもらいます。
4	性進化と多細胞化研究のモデル生物群ボルボックス系列、世界最小の多細胞生物”シアワセモ”	ボルボックス系列の生物がどのようなものかについて解説する。また、世界最小の多細胞生物シアワセモも紹介します。
5	多細胞化と老死の不一致、“永遠の命”を得た多細胞生物ボルボックス	ボルボックス系列を用いて多細胞化と老死の進化は一致しないことを解説する。また、老死細胞を決定する遺伝子を失ったボルボックスの突然変異体を紹介します。
6	性（sex）と雌雄性	性（sex）と雌雄性（メスとオスに分化すること）は異なる概念であることをボルボックス系列を用いて説明する。
7	メスとオスの未分化な生物からメスとオスの明瞭な生物への進化の鍵遺伝子 “OTOKOGI”	ボルボックスの仲間における雌雄性の進化の鍵遺伝子”OTOKOGI”の発見の経緯について解説する。ボルボックス系列におけるフィールド調査と培養株の確立についても紹介します。
8	琵琶湖のフィールド調査から始まったボルボックスの性の多様性進化	琵琶湖のフィールド調査から始まったボルボックスの性の多様性進化の研究を解説する。
9	熱帯に未知なるボルボックス系列を求めて	熱帯、特にタイとアフリカにおけるボルボックス系列のフィールド調査とその研究成果を解説します。
10	再び相模湖・津久井湖に戻る	3 種類の性表現型をもつ生物種（トリオシー）について、神奈川県相模湖・津久井湖における藻類のトリオシー種の発見の経緯について解説する。
11	全ゲノム解読による多細胞化の研究	緑藻ボルボックス系列を用いた全ゲノム解読の実際と関連する多細胞化の研究成果について解説する。
12	全ゲノム解読による性進化の研究	緑藻ボルボックス系列を用いた全ゲノム解読による性進化の研究成果について解説する。
13	赤の女王仮説と性が知られていなかった原生生物における性の発見	性に関する有名な仮説「赤の女王仮説」とこれまで「性」がなかったと思われていた原生生物のエリ鞭毛虫（2013 年）と単細胞紅藻（2022 年）で「性」の存在が明らかになった研究とその進化的重要性を解説します。
14	20 億年前から存在する性とメスとオスの原型	真核生物の起源から性とメスとオスの原型が存在していた可能性について紹介する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で使う資料を学習支援システムの教材欄に事前に提示するので、十分予習すること。授業内で示した課題は、授業内容を十分復習して間違えの無いように解答すること。予習復習には1回の授業につき4時間以上かけて下さい。

【テキスト（教科書）】

特定の教科書は使用しない。

【参考書】

参考書は必要に応じて学習支援システムを通じて提示しますが、以下をダウンロードして参考にして下さい。]

[http://sourui.org/publications/sorui/list/Sourui_PDF/Sourui70\(1\)_1.pdf](http://sourui.org/publications/sorui/list/Sourui_PDF/Sourui70(1)_1.pdf)

https://www.jstage.jst.go.jp/article/plmorphol1989/19and20/1/19and20_1_55/pdf-char/ja

【成績評価の方法と基準】

授業の後に課題を出す。14回の課題の評価点で成績評価を行う。1回の課題は10点満点とし、14回分合計して140点満点で成績評価を行う。

【学生の意見等からの気づき】

本年度から始める授業になります。

【学生が準備すべき機器他】

特にないが、インターネットが可能なPCがあるとゲノム情報の探索が実際に自分で行える。

【その他の重要事項】

授業中における質問は大歓迎であるが、授業中の私語は厳禁である。

【Outline (in English)】**【Course outline】**

The life of a human being begins with the encounter between the "male" and "female," which are the parents, and after growing up, the human being repeats the same process as the parents, but the grown individual eventually meets the fate of "aging death." However, if we look at all living organisms, we find that single-celled organisms, which have a simple structure, multiply by division, so there is no "aging death" and no "male and female differentiation". Therefore, it is thought that in the early stages of life, there was a unicellular stage in which there was neither aging death or male and female differentiation, and that both appeared during the evolution of multicellular organisms. One could argue that exploring these evolutionary processes would require investigating conditions 1 to 2 billion years ago, when eukaryotes emerged, but this is not possible. However, since there are extant organisms of various evolutionary stages in the green algal group "volvocine lineage" (Volvox and its related species), ranging from unicellular ones to complex multicellular bodies with "aging death" and "male and female genders," these evolutions can be studied by comparing the extant organisms. To this end, research is progressing by collecting these organisms from natural fields, establishing culture strains, and using cutting-age biological techniques. The aim of this class is to understand such diversity and evolution related to "aging death" and "sex" by focusing on members of the volvocine lineage. For this purpose, it is necessary to understand how to collect naturally growing members of volvocine species and what kind of organisms the volvocine species are. In addition, the evolution of "aging death" and "male and female genders" is related to "multicellularity," and studies related to multicellularity using the volvocine species will also be presented. The history of our ancestors more than a billion years ago, when multicellular organisms evolved, is that they had neither "aging death" nor "male and female differentiation," but this cannot be directly explored. However, we hope you will understand that this history can be inferred from studies using organisms belonging to the volvocine lineage. From time to time, we will also introduce related studies by Nozaki's group.

【Learning Objectives】

We will understand that two critical processes that cannot be avoided in the human life span, "female-male encounter" and "old age and death," were acquired during the evolution of our ancient ancestors into multicellular organisms, and that unicellular organisms without these processes exist today. In addition, we will focus on the green algal group "volvocine lineage" (Volvox and its related species), which is a model organism group for the study of sex evolution and multicellularity, and introduce research related to these two evolutionary events, but we will also explain what the volvocine lineage is basically like, and how to collect these organisms in the field and establish laboratory cultures. The course will also provide an understanding of the field collection of these organisms and how to establish culture strains in the laboratory. In addition, the genome information of representative species of the volvocine lineage is publicly available, and genome information can be researched free of charge via the Internet. Therefore, students will also learn basic methods to search for the presence of target genes in the organisms of interest.

【Learning activities outside of classroom】

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each. Materials to be used in class will be presented in the "Teaching Materials" section of the Learning Support System in advance, so students are expected to prepare well in advance. Students are expected to review the contents of the class and answer the assignments given in the class without making mistakes. Please spend at least 4 hours per class on preparation and review.

【Grading Criteria /Policy】

An assignment/inquiry will be given after each class, and grading will be based on the evaluation score of 14 assignments, each assignment is worth 10 points, and the total score for 14 assignments is 140 points.

BIO200LA

教養生物学 L C

2017 年度以降入学者

サブタイトル：

町田 郁子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 4/Wed.4

単位数：2 単位

この授業は「Web 履修抽選対象授業」です。抽選エントリー期間は 2023 年 4 月 3 日（月）10：00～5 日（水）17：00、結果発表は 4 月 6 日（木）22：00（予定）です。履修ガイド (<https://hosei-keiji.jp/ilac/rishuguide2023/>) を確認のうえ、情報システムから期間内にエントリーしてください。

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は、『命とはなにか?』という問いをテーマに掲げて、生物学の立場から生物に共通する生命機能に対する理解を深め、命について考えることを目的として展開します。地球上に存在する多種多様な生物は、すべて細胞から構成されており、生物の遺伝形質は細胞内に収納されている遺伝子によって決定されています。この、細胞・遺伝子について学ぶことによって、「生命はなにからできているのか?」、「命はどのようにしてこの世に誕生するのか?」、「なぜ病気になるのか?」などの問いに対する答えを見つけていきます。また、この非常に複雑で精巧な生命のしくみに手を加える技術が近年急速に発展していますが、再生医療等の分野へどのように応用されているのか、またどのような倫理的課題をもたらしているのかについても考えます。

【到達目標】

生命現象を理解する上で必要とされる知識を会得し、命のしくみについて理解を深めるとともに、命というものの存在意義について自分なりの考えを持てるようになることを目標とします。また、頭の中で理解した事柄や自身の考えを、自分の言葉として発信して人に伝える力を高めることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

授業形態は、対面です。ただし、初回を含めて一部オンライン授業となります。

授業は、パワーポイント資料やビデオ映像等を用いた講義形式で行います。

授業は、生物学初学者でも理解できるように展開します。

課題等の提出・フィードバックは、授業時間内もしくは「学習支援システム」にて行う予定です。

授業に関する種々の連絡事項は「学習支援システム」の『お知らせ』に掲載しますので、随時ご確認ください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の進め方についてのガイダンスおよび授業のテーマに関する導入。
第 2 回	命ある生物とは？	命ある生物とはどんな特徴をもつのか、そしてその生物を対象とする生物学とはどんな学問なのかについて概説します。

第 3 回	命の材料とは？	生物体はどんな物質からできているのか、そして生命の最小単位である細胞とはなにかについて概説します。
第 4 回	命の設計図とは？	生命活動を営むための情報をもつ DNA とはどのような働きをしているのかについて、その構造および複製のしくみ、また遺伝情報に基づいてタンパク質が作られるしくみを概説します。
第 5 回	命をつくる細胞の一生とは？	細胞の分裂や分化のしくみ、また細胞死やがん化について概説します。
第 6 回	命の誕生とは？	命はどのようにして誕生するのかについて、ひとつの受精卵から個体が形成されるまでの過程を、細胞の分裂・分化に着目しながら概説します。
第 7 回	命の要、タンパク質とは？	生体内において様々な役割を担うタンパク質の構造や機能について概説します。
第 8 回	命を支える細胞膜の機能とは？	生命活動に欠かせない細胞の機能について、細胞膜に発現している種々のタンパク質の働きに着目して概説します。
第 9 回	命を守るしくみとは？	体内に侵入した異物に対する防御のシステムについて概説します。
第 10 回	命のしくみを利用した新しい医療とは？	細胞・遺伝子を扱う技術を用いた新たな治療法である再生医療について概説します。
第 11 回	命に手を加えるとは？	生命科学分野の技術発展がもたらす倫理的課題について、歴史的背景とともに、実験動物の扱いや、遺伝子・幹細胞に関する技術などを例にあげながら概説します。
第 12 回	命を操作する技術とは？	細胞・遺伝子を利用した研究の実情について概説します。
第 13 回	命とはなにか？	授業で扱った各回の内容を振り返り、個々の事柄の結びつきを考えながら整理し直すことによって、本授業のテーマに対する考察を深めます。
第 14 回	授業のまとめ・試験	最終回に授業のまとめをして、試験を実施します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。授業は、基礎的な事項からスタートして土台を作り上げてゆくことにより、徐々に複雑な内容の理解が可能となるように構成されています。そのため、毎回の授業内容をしっかり復習して、不明点をなくした状態で翌週の授業に臨むようにしてください。また、新聞等で日々とりあげられる生物学に関する事柄をチェックすることにより、授業で学ぶ内容をより深く理解するように心がけてください。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません。

【参考書】

必要に応じてお知らせします。

【成績評価の方法と基準】

授業時に提出する課題（50%）および期末試験（50%）。

【学生の意見等からの気づき】

生物学に関する事柄を、できるだけ身近に感じられるように、理解しやすく整理して教えるように努めます。

【Outline (in English)】

(Course outline)

This course introduces the basis of biological science, focusing on the principle of life. The aim of this course is to help students acquire an understanding of the mechanism of life phenomenon. Lectures will also discuss current technologies related to cells and genes.

(Learning Objectives)

The goals of this course are to acquire the knowledge necessary to understand life phenomena, to have your own ideas about the significance of life, and to improve your ability to communicate what you have learned and your own ideas to others.

(Learning activities outside of classroom)

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

(Grading Criteria /Policy)

The final grade will be determined as follows: Short tests to be submitted in class (50%) and term-end exam (50%).

BIO200LA

教養生物学 L D

2017 年度以降入学者

サブタイトル：

町田 郁子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 4/Wed.4

単位数：2 単位

この授業は「Web 履修抽選対象授業」です。抽選エントリー期間は 2023 年 4 月 3 日（月）10：00～5 日（水）17：00、結果発表は 4 月 6 日（木）22：00（予定）です。履修ガイド (<https://hosei-keiji.jp/ilac/rishuguide2023/>) を確認のうえ、情報システムから期間内にエントリーしてください。

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は、『人間とはなにか?』という問いをテーマに掲げて、地球上に存在する多種多様な生物の関係性について理解を深め、その中でヒトの特徴について生物学の立場から考えることを目的として展開します。地球上に生息するすべての生物は、自らを取り巻く環境と相互作用することにより生命活動を営んでおり、私たちヒトも例外ではありません。自分自身を知るためにも、まずは自分がどのような環境でどのようなものに囲まれて生きているのかを知る必要があるでしょう。「どうして地球上にはたくさんの種類の生物がいるのか?」、「ヒトと他の動物にはどんな共通点・相違点があるのか?」などの問いに対する答えを探りながら、ヒト（皆さん自身）が地球環境の中で他の生物と共生していくとはどのようなことなのかについて様々な側面から考えます。

【到達目標】

ヒトを含めた地球上の多種多様な生物に関する知識を会得し、生物と周囲の環境との関係性について理解を深めるとともに、ヒト（自分自身）のあり方について自分なりの考えを持てるようになることを目標とします。

また、頭の中で理解した事柄や自身の考えを、自分の言葉として発信して人に伝える力を高めることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

授業形態は、対面です。ただし、初回を含めて一部オンライン授業となります。

授業は、パワーポイント資料やビデオ映像等を用いた講義形式で行います。

授業は、生物学初学者でも理解できるように展開します。

課題等の提出・フィードバックは、授業時間内もしくは「学習支援システム」にて行う予定です。

授業に関する種々の連絡事項は「学習支援システム」の『お知らせ』に掲載しますので、随時ご確認ください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の進め方についてのガイダンスおよび授業のテーマに関する導入。
第 2 回	多種多様な生物とは？	地球上にはどれほどの種の生物が存在し、どのような特徴をもつのかについて、動物の分類方法を学びながら概説します。

第 3 回	生態系の中のヒトとは？	地球上の多くの生物がどのような関係性の上に存在しているのかについて、ヒトの関わりについて概説します。
第 4 回	生物と地球環境のつながりとは？	ヒトを含めた全ての生物を構成している物質とは何なのか、またそれらの物質と地球環境とはどのような関わりをもつのかについて概説します。
第 5 回	生物、そしてヒトの起源とは？	地球上に生命が誕生した背景、そして生物の進化とヒトの誕生について概説します。
第 6 回	進化学とは？	ヒトはどのようにして生物の進化の謎をひも解いてきたのかについて、進化学分野の研究手法等を概説します。
第 7 回	行動の進化とは？	生物の行動と進化の関係について、また進化論がヒトの社会にどのような影響を及ぼしてきたかについて概説します。
第 8 回	生物の行動にみられる特徴とは？	ヒトを含めた生物の様々な行動が引き起こされるしくみや意味について概説します。
第 9 回	種の存続とは？	生物のオスとメスの特性、また種の存続に際しヒトを含む様々な生物の配偶者選びにはどのような特徴があるのかについて概説します。
第 10 回	ヒトによる動物の家畜化とは？	地球上に存在する動物の中で、ヒトの管理下で生きる家畜化された動物に着目し、ヒトと動物の関わりについて概説します。
第 11 回	ヒトの動物観とは？	ヒトは他の動物をどのように見てきたのか、そしてヒトと他の動物の共生とはどのようなことなのかについて概説します。
第 12 回	ヒトの食とは？	自然界にある「食う・食われる」という関係の中で、現代のヒトは他の生物をどのように食しているのか、命を食べるとはどのようなことなのかについて概説します。
第 13 回	人間とはなにか？	授業で扱った各回の内容を振り返り、個々の事柄の結びつきを考えながら整理し直すことによって、本授業のテーマに対する考察を深めます。
第 14 回	授業のまとめ・試験	最終回に授業のまとめをして、試験を実施します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。授業は、基礎的な事項からスタートして土台を作り上げてゆくことにより、徐々に複雑な内容の理解が可能となるように構成されています。そのため、毎回の授業内容をしっかり復習して、不明点をなくした状態で翌週の授業に臨むようにしてください。また、新聞等で日々とりあげられる生物学に関する事柄をチェックすることにより、授業で学ぶ内容をより深く理解するように心がけてください。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません。

【参考書】

必要に応じてお知らせします。

【成績評価の方法と基準】

授業時に提出する課題（50%）および期末試験（50%）。

【学生の意見等からの気づき】

生物学に関する事柄を、できるだけ身近に感じられるように、理解しやすく整理して教えるように努めます。

【Outline (in English)】

(Course outline)

This course introduces the basis of biological science, focusing on biodiversity. The aim of this course is to help students acquire an understanding of the characteristics of human beings compared to other living things. Lectures will also discuss harmonious symbiosis of nature and humans from many points of view.

(Learning Objectives)

The goals of this course are to acquire knowledge about biodiversity, to develop your own ideas about how humans should live, and to improve your ability to communicate what you have learned and your own ideas to others.

(Learning activities outside of classroom)

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

(Grading Criteria /Policy)

The final grade will be determined as follows: Short tests to be submitted in class (50%) and term-end exam (50%).

BIO200LA

教養生物学 L C

2017 年度以降入学者

サブタイトル：

町田 郁子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 5/Wed.5

単位数：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は、『命とはなにか?』という問いをテーマに掲げて、生物学の立場から生物に共通する生命機能に対する理解を深め、命について考えることを目的として展開します。地球上に存在する多種多様な生物は、すべて細胞から構成されており、生物の遺伝形質は細胞内に収納されている遺伝子によって決定されています。この、細胞・遺伝子について学ぶことによって、「生命はなにかからできているのか?」、「命はどのようにしてこの世に誕生するのか?」、「なぜ病気になるのか?」などの問いに対する答えを見つけていきます。また、この非常に複雑で精巧な生命のしくみに手を加える技術が近年急速に発展していますが、再生医療等の分野へどのように応用されているのか、またどのような倫理的課題をもたらししているのかについても考えます。

【到達目標】

生命現象を理解する上で必要とされる知識を会得し、命のしくみについて理解を深めるとともに、命というものの存在意義について自分なりの考えを持てるようになることを目標とします。

また、頭の中で理解した事柄や自身の考えを、自分の言葉として発信して人に伝える力を高めることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

授業形態は、対面です。ただし、初回を含めて一部オンライン授業となります。

授業は、パワーポイント資料やビデオ映像等を用いた講義形式で行います。

授業は、生物学初学者でも理解できるように展開します。

課題等の提出・フィードバックは、授業時間内もしくは「学習支援システム」にて行う予定です。

授業に関する種々の連絡事項は「学習支援システム」の『お知らせ』に掲載しますので、随時ご確認ください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の進め方についてのガイダンスおよび授業のテーマに関する導入。
第 2 回	命ある生物とは？	命ある生物とはどんな特徴をもつのか、そしてその生物を対象とする生物学とはどんな学問なのかについて概説します。
第 3 回	命の材料とは？	生物体はどんな物質からできているのか、そして生命の最小単位である細胞とはなにかについて概説します。

第 4 回	命の設計図とは？	生命活動を営むための情報をもつ DNA とはどのような働きをしているのかについて、その構造および複製のしくみ、また遺伝情報に基づいてタンパク質が作られるしくみを概説します。
第 5 回	命をつくる細胞の一生とは？	細胞の分裂や分化のしくみ、また細胞死やがん化について概説します。
第 6 回	命の誕生とは？	命はどのようにして誕生するのかについて、ひとつの受精卵から個体が形成されるまでの過程を、細胞の分裂・分化に着目しながら概説します。
第 7 回	命の要、タンパク質とは？	生体内において様々な役割を担うタンパク質の構造や機能について概説します。
第 8 回	命を支える細胞膜の機能とは？	生命活動に欠かせない細胞の機能について、細胞膜に発現している種々のタンパク質の働きに着目して概説します。
第 9 回	命を守るしくみとは？	体内に侵入した異物に対する防御のシステムについて概説します。
第 10 回	命のしくみを利用した新しい医療とは？	細胞・遺伝子を扱う技術を用いた新たな治療法である再生医療について概説します。
第 11 回	命に手を加えるとは？	生命科学分野の技術発展がもたらす倫理的課題について、歴史的背景とともに、実験動物の扱いや、遺伝子・幹細胞に関する技術などを例にあげながら概説します。
第 12 回	命を操作する技術とは？	細胞・遺伝子を利用した研究の実際について概説します。
第 13 回	命とはなにか？	授業で扱った各回の内容を振り返り、個々の事柄の結びつきを考えながら整理し直すことによって、本授業のテーマに対する考察を深めます。
第 14 回	授業のまとめ・試験	最終回に授業のまとめをして、試験を実施します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

授業は、基礎的な事項からスタートして土台を作り上げてゆくことにより、徐々に複雑な内容の理解が可能となるように構成されています。そのため、毎回の授業内容をしっかり復習して、不明点をなくした状態で翌週の授業に臨むようにしてください。また、新聞等で日々とりあげられる生物学に関する事柄をチェックすることにより、授業で学ぶ内容をより深く理解するように心がけてください。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません。

【参考書】

必要に応じてお知らせします。

【成績評価の方法と基準】

授業時に提出する課題（50%）および期末試験（50%）。

【学生の意見等からの気づき】

生物学に関する事柄を、できるだけ身近に感じられるように、理解しやすく整理して教えるように努めます。

【Outline (in English)】

(Course outline)

This course introduces the basis of biological science, focusing on the principle of life. The aim of this course is to help students acquire an understanding of the mechanism of life phenomenon. Lectures will also discuss current technologies related to cells and genes.

(Learning Objectives)

The goals of this course are to acquire the knowledge necessary to understand life phenomena, to have your own ideas about the significance of life, and to improve your ability to communicate what you have learned and your own ideas to others.

(Learning activities outside of classroom)

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

(Grading Criteria /Policy)

The final grade will be determined as follows: Short tests to be submitted in class (50%) and term-end exam (50%).

BIO200LA

教養生物学 L D

2017 年度以降入学者

サブタイトル：

町田 郁子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 5/Wed.5

単位数：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は、『人間とはなにか?』という問いをテーマに掲げて、地球上に存在する多種多様な生物の関係性について理解を深め、その中でヒトの特徴について生物学の立場から考えることを目的として展開します。地球上に生息するすべての生物は、自らを取り巻く環境と相互作用することにより生命活動を営んでおり、私たちヒトも例外ではありません。自分自身を知るためにも、まずは自分がどのような環境でどのようなものに囲まれて生きているのかを知る必要があるでしょう。「どうして地球上にはたくさんの種類の生物がいるのか?」、「ヒトと他の動物にはどんな共通点・相違点があるのか?」などの問いに対する答えを探りながら、ヒト（皆さん自身）が地球環境の中で他の生物と共生していくとはどのようなことなのかについて様々な側面から考えます。

【到達目標】

ヒトを含めた地球上の多種多様な生物に関する知識を会得し、生物と周囲の環境との関係性について理解を深めるとともに、ヒト（自分自身）のあり方について自分なりの考えを持てるようになることを目標とします。

また、頭の中で理解した事柄や自身の考えを、自分の言葉として発信して人に伝える力を高めることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

授業形態は、対面です。ただし、初回を含めて一部オンライン授業となります。

授業は、パワーポイント資料やビデオ映像等を用いた講義形式で行います。

授業は、生物学初学者でも理解できるように展開します。

課題等の提出・フィードバックは、授業時間内もしくは「学習支援システム」にて行う予定です。

授業に関する種々の連絡事項は「学習支援システム」の『お知らせ』に掲載しますので、随時ご確認ください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の進め方についてのガイダンスおよび授業のテーマに関する導入。
第 2 回	多種多様な生物とは?	地球上にはどれほどの種の生物が存在し、どのような特徴をもつのかについて、動物の分類方法を学びながら概説します。
第 3 回	生態系の中のヒトとは?	地球上の多くの生物がどのような関係性の上に存在しているのかについて、ヒトの関わりについて概説します。

第 4 回	生物と地球環境のつながりとは?	ヒトを含めた全ての生物を構成している物質とは何なのか、またそれらの物質と地球環境とはどのような関わりをもつのかについて概説します。
第 5 回	生物、そしてヒトの起源とは?	地球上に生命が誕生した背景、そして生物の進化とヒトの誕生について概説します。
第 6 回	進化学とは?	ヒトはどのようにして生物の進化の謎をひも解いてきたのかについて、進化学分野の研究手法等を概説します。
第 7 回	行動の進化とは?	生物の行動と進化の関係について、また進化論がヒトの社会にどのような影響を及ぼしてきたかについて概説します。
第 8 回	生物の行動にみられる特徴とは?	ヒトを含めた生物の様々な行動が引き起こされるしくみや意味について概説します。
第 9 回	種の存続とは?	生物のオスとメスの特性、また種の存続に際しヒトを含む様々な生物の配偶者選びにはどのような特徴があるのかについて概説します。
第 10 回	ヒトによる動物の家畜化とは?	地球上に存在する動物の中で、ヒトの管理下で生きる家畜化された動物に着目し、ヒトと動物の関わりについて概説します。
第 11 回	ヒトの動物観とは?	ヒトは他の動物をどのように見てきたのか、そしてヒトと他の動物の共生とはどのようなことなのかについて概説します。
第 12 回	ヒトの食とは?	自然界にある「食う・食われる」という関係の中で、現代のヒトは他の生物をどのように食しているのか、命を食べるとはどのようなことなのかについて概説します。
第 13 回	人間とはなにか?	授業で扱った各回の内容を振り返り、個々の事柄の結びつきを考えながら整理し直すことによって、本授業のテーマに対する考察を深めます。
第 14 回	授業のまとめ・試験	最終回に授業のまとめをして、試験を実施します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。授業は、基礎的な事項からスタートして土台を作り上げてゆくことにより、徐々に複雑な内容の理解が可能となるように構成されています。そのため、毎回の授業内容をしっかり復習して、不明点をなくした状態で翌週の授業に臨むようにしてください。また、新聞等で日々とりあげられる生物学に関する事柄をチェックすることにより、授業で学ぶ内容をより深く理解するように心がけてください。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません。

【参考書】

必要に応じてお知らせします。

【成績評価の方法と基準】

授業時に提出する課題（50%）および期末試験（50%）。

【学生の意見等からの気づき】

生物学に関する事柄を、できるだけ身近に感じられるように、理解しやすく整理して教えるように努めます。

【Outline (in English)】

(Course outline)

This course introduces the basis of biological science, focusing on biodiversity. The aim of this course is to help students acquire an understanding of the characteristics of human beings compared to other living things. Lectures will also discuss harmonious symbiosis of nature and humans from many points of view.

(Learning Objectives)

The goals of this course are to acquire knowledge about biodiversity, to develop your own ideas about how humans should live, and to improve your ability to communicate what you have learned and your own ideas to others.

(Learning activities outside of classroom)

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

(Grading Criteria /Policy)

The final grade will be determined as follows: Short tests to be submitted in class (50%) and term-end exam (50%).

CHM200LA

教養化学 L A

2017 年度以降入学者

サブタイトル：エネルギーの科学

向井 知大

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 4/Wed.4

単位数：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

物質の変化には、エネルギーの出入りが伴います。社会や生命はこれらを上手に利用することで活動しています。エネルギーを題材にして身の回りの現象や物質について理解を深め、現在の我々の生活を支えている技術に対する興味を持って下さい。

【到達目標】

エネルギーについて原子核や電子の振る舞いをもとに理解し、科学的な思考で物事を説明する能力を高めることを目標とします。エネルギー問題に関する近年の話題について、自分なりの考察ができるようになることを目標にして下さい。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

資料をプロジェクトで投影して解説していきます。投影する資料と簡単な解説文の pdf ファイルを授業支援システムにアップロードする予定です。

高校などにおける理系科目の履修の有無にかかわらず理解できるように進めます。

授業毎に出題する正誤問題や質問について、次回授業冒頭で解説をします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	講義計画と概要についての説明
第 2 回	エネルギーの基礎	エネルギーの定義やエネルギー変換についての概説
第 3 回	電子の発見	ふたつの原子を結びつける電子の働きについて
第 4 回	電子と電気	電磁誘導と発電機の仕組みについて
第 5 回	同位体と原子の壊変	原子核の壊変と放射線について
第 6 回	原子力発電	核分裂連鎖反応について
第 7 回	原子爆弾と核融合	ウラン濃縮や臨界について
第 8 回	光と電子のエネルギー	電磁波の性質と光子仮説について
第 9 回	化学結合のエネルギー	化学結合が形成されるしくみと、物質の持つエネルギーについて
第 10 回	有機化合物	炭素原子を含む化学物質の構造
第 11 回	エネルギー物質	燃焼によって発生するエネルギーと、爆薬の化学構造、爆発事故について
第 12 回	燃料電池	水素分子と酸素分子から得られるエネルギーについて
第 13 回	元素の循環	物質変化に伴うエネルギーの吸収と放出について
第 14 回	まとめ	これまでの内容の復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義の内容に関連すると考えられる現象や用語について、各自が興味を持って書籍や Web 検索などで調査してみてください。本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

使用しません。授業毎に資料を配布します。

【参考書】

使用しません。

【成績評価の方法と基準】

学習支援システムに毎回 5 問程度の正誤問題を出题します。この成績を平常点とします（配分 40%）。期末試験の結果（配分 60%）と平常点をあわせて成績評価します。

【学生の意見等からの気づき】

化学の学習に不安を持つ学生のために、高校の学習範囲を予備知識として必要としない内容を心掛けています。また、高校で理系科目を多く履修した人も気づきが得られるように、なるべく身の回りの現象を題材にしています。今年度は、学生自身の手を動かす機会を増やすように考えています。

【Outline (in English)】

This course introduces fundamental principles of familiar natural phenomena. The goals of this course are to understand about energy and to improve your scientific literacy.

Your required study time is at least two hours for each class meeting.

Your overall grade in the class will be decided based on the usual performance score (40%) and term-end examination (60%).

CHM200LA

教養化学 L A

2017 年度以降入学者

サブタイトル：エネルギーと化学

中島 弘一

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 2/Mon.2

単位数：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業ではエネルギーと環境をテーマに、エネルギーを作り出す仕組みとそれに伴う環境問題について取り上げます。

原子の構造から放射能や原子力を学び、化学結合からなぜ燃えると熱が発生するのか、太陽電池や燃料電池も原子や分子の中の電子の動きで理解することができます。

原子力は事故があったときの放射能漏れだけが問題なのではありません。温室効果ガスと地球温暖化の関係も理解しておく必要があります。太陽電池や燃料電池もそのメリット、デメリットを知っておく必要があります。社会の一員として今後のエネルギー利用を、問題点を理解したうえで、自らが適切に判断できる理解力を養います。

【到達目標】

原子力エネルギーとは何か、利用に際してどういう問題があるのかという知識が身につく。石油や石炭を燃やしてどのように電気に変換されるのか？温暖化とどうリンクしているのかを理解できる。自然エネルギーが抱える問題点とは何か？水素を利用した燃料電池の特徴に関する知識が得られる。また、個々のエネルギー源が現状抱えている課題を知識として得ることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

エネルギーに関して化学の基礎から講義形式で解説し、あわせて社会的な問題も考察したいと考えています。原則として教室での対面授業とし、必要に応じてリアルタイムでの Zoom 配信も行う予定です。なお、毎回、理解度を確認する目的で簡単な課題を出します。課題の解説は翌週の講義の中で行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	化学の基礎（1）	原子の構造と電子配置について振り返ります。
第 2 回	化学の基礎（2）	原子量と質量数、モルの考え方を理解します。
第 3 回	原子力エネルギーとその源は何か	質量がエネルギーに変換されること、どういう核変化がエネルギーを生み出すのかを学びます。
第 4 回	放射能とは何か	どういう物質が放射能を持つのか、放射能の特質と核分裂反応との関係を学びます。
第 5 回	放射能の人体に与える影響について	過去に日本や海外で起こった原子力関連の事故を振り返り、人体への影響を学びます。
第 6 回	原子力発電の構造と種類	原子力発電の構造を理解し、その特徴を学びます。
第 7 回	原子力の問題点	プルトニウムやその他の放射性廃棄物の処理について考察します。
第 8 回	化石燃料の種類と分子構造の違い	石油、石炭、天然ガスの特徴を学びます。

第 9 回	燃焼による発熱の仕組み	共有結合の考え方、酸素との反応によるエネルギーの発生の仕組みを学びます。
第 10 回	化石燃料の問題点	化石燃料の利用に伴う問題点（二酸化炭素による温暖化を含む）を考察します。
第 11 回	既存のエネルギーシステムの問題点	原子力、火力、水力発電のエネルギー変換効率の低さや電力の貯蔵が難しいなどその問題点を整理します。
第 12 回	自然エネルギーの利用と問題点	太陽光、風力、地熱発電などの自然エネルギーの特徴を学びます。
第 13 回	水素エネルギーと燃料電池	エネルギー源として水素の利用に伴う問題点を学びます。
第 14 回	まとめ	授業全体の振り返りを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。テーマや内容に記載のある項目について、中学校や高校の教科書の関連のあるところを復習してくるとともに、インターネットでの検索によって事前に学習する。

【テキスト（教科書）】

授業内で適宜プリントを配布します。

【参考書】

この分野は日々新しい技術が生まれていて、適当な書籍は見当たりません。授業内で配布する資料で不明なことは授業内での質問やメール等を通じていつでも問い合わせてください。

【成績評価の方法と基準】

課題の提出内容（30%）と期末試験の成績（70%）をもとに評価する。

【学生の意見等からの気づき】

2011 年 3 月の大震災のため特に興味を持って授業に臨む学生さんが多く、原子力に関しては今年もできるだけ詳しく解説したいと考えています。

【学生が準備すべき機器他】

使いません。

【その他の重要事項】

専門用語がいろいろ出てきます。もちろん、始めに説明をしますが、同じ説明は二度も行いません。従って、欠席や遅刻があれば、それ以降の内容が理解できなくなることが予想されます。

【Outline (in English)】

This course introduces the mechanism of producing energy from atomic energy and fossil fuels and also environmental issues related with them to students taking this course. It also deals with performance of new energy sources such as solar, wind, geothermal energies, and especially hydrogen energy. Study time of students will be more than two hours for a class. A grade point will be evaluated from a score of term-end examination (70%), and in-class contribution (30%).

CHM200LA

教養化学 L B

2017 年度以降入学者

サブタイトル：環境と化学

中島 弘一

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 2/Mon.2

単位数：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

科学技術の発達によって、人類は着実に生命のなぞを解き明かしつつあります。そして不完全ながらもその知識をもとに、多種多様な薬品、食品添加物、日用品などの製品化、あるいは技術が生み出され応用されて来ています。ホルモンの仕組みから筋肉増強剤や避妊薬の開発、遺伝子操作による害虫や農薬に強い作物への改良、倫理的な問題が不透明なまま利用されているものも少なくありません。この授業では、はじめに過去の公害事例についてその原因等を概説した後、日用品や食品など、身の回りの化学物質を取り上げながら、生命を構成する物質（糖質、脂質、たんぱく質、核酸）の働きなどとの関連を解説します。

【到達目標】

過去の公害問題の概要を理解する。

生命に関係する物質がどういう分子構造をもち、どのような働きを持って機能しているかを理解することができる。例えば、食事を取って、それがエネルギーに変換される、あるいは、身体そのものに変化する仕組みを理解できる。

体の中での物質の認識の仕組みを理解できる。例えば、免疫反応の仕組みや、でんぷんを消化できて、セルロースを消化できない理由を理解できる。

合成品が生命に与える影響を理解できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

原則として教室での対面による講義形式での授業とします。

なお、毎回、理解度を確認する目的で簡単な課題を出します。課題の解説は翌週の講義の中で行います。質問等は適宜授業内で受け付けますが、メールでの対応も可能です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	講義概要、授業の進め方など	この講義の概要と、これからの授業の進め方、注意点等について説明します。
第 2 回	日本の過去の公害事例（1）	明治に始まる鉱山、精錬からの環境問題について解説します。
第 3 回	日本の過去の公害事例（2）	昭和の高度成長期にあった工場廃液、排ガスによる環境問題について解説します。
第 4 回	有機化合物の基礎	有機化合物の結合と構造、反応性について解説します。
第 5 回	日本の過去の公害事例（3）	有機塩素系化合物による環境汚染について学びます。
第 6 回	糖質（1）	エネルギー源としての利用だけではない糖質の多様性を学びます。
第 7 回	糖質（2）	砂糖の歴史や合成甘味料などの食品添加物の紹介と味覚についての話題を紹介いたします。

第 8 回	脂質（1）	脂質の特徴と洗剤のしくみについて学びます。
第 9 回	脂質（2）	コレステロールや、ステロイドなどのドーピングの話題を紹介いたします。
第 10 回	窒素化合物の働きと代謝（1）	生命にとって重要な働きのあるアミノ酸とタンパク質の働きを学び、老化との関係について解説します。
第 11 回	窒素化合物の働きと代謝（2）	核酸と核酸塩基の多様な働き、呼吸によるエネルギーの獲得について学びます。
第 12 回	体内での物質認識	アレルギー、免疫反応の仕組みを学びます。
第 13 回	薬物汚染	大麻、覚せい剤、麻薬など、その危険性について学びます。
第 14 回	まとめ	全般的な振り返りを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。テーマや内容に関係する項目について、中学校や高校の教科書の関連のあるところを復習するとともに、インターネットでの検索によって事前に学習する。

【テキスト（教科書）】

特に使いません、適宜プリントを配布します。

【参考書】

取り上げる項目が多岐にわたるため、適当な参考書が見当たりません。気になるキーワードを使用して図書館で検索してみてください。必要に応じて授業内で紹介することも可能です。

【成績評価の方法と基準】

基本的には期末試験の成績（70 %）をもとにしますが、毎回科す課題の取り組み（30 %）も勘案します。

【学生の意見等からの気づき】

できるだけ身近な物質を例に挙げて説明をしていますが、網羅的になりすぎて、その関係の理解が難しいと感じる人が多いようです。ポイントをもっと明確にする必要があると考えています。

【Outline (in English)】

This course introduces the functions of chemical compounds related with life and also the risk of synthetic chemicals applied to foods, cosmetics or drugs to students taking this course. It also enhances the mechanism of material recognition in our body. Study time of students will be more than two hours for a class. A grade point will be evaluated from a score of term-end examination (70%), and in-class contribution (30%).

CHM200LA

教養化学 L B

2017 年度以降入学者

サブタイトル：環境問題を考えるための化学

西村 直美

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 3/Tue.3

単位数：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

地球が直面している環境問題はとても深刻だと報道されています。これらの環境問題について皆さんはどのくらい知識がありますか？例えば地球温暖化問題に関して「二酸化炭素の排出を削減しましょう」ということはほとんどの人が知っていることだと思います。では、温暖化を引き起こしているとされる温室効果ガスには二酸化炭素以外にどのようなガスがあるか知っている人はどのくらいいるでしょうか？空気中には約 78 %窒素ガスが存在しますが、なぜ窒素ガスは温室効果ガスではないのでしょうか？この授業では環境問題を題材として化学を使って深く掘り下げていくことを試みます。一緒に楽しく学んでいきましょう。

【到達目標】

最終的には現在地球が直面している問題点を理解してもらい、その解決策を探るために必要な知識としての化学を理解してもらうことが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

昨年度はオンデマンド授業でしたが、今年度は対面で行います。授業は丁寧に進めていきます。毎回の授業中に出席確認を兼ねた課題を課します。この内容が成績に一番影響しますので、真剣に取り組んでください。

理解が及ばないことは課題の中に質問として記入してください。いただいた質問を受講生全員と授業中に共有して、皆で理解を深めていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
No.1	イントロダクション	授業全体の説明をします。その後で個人がどれだけの知識があるかのミニテストを行います。このテストは成績には入りません。
No.2	化学基礎 1	これからの講義で必要な化学の基礎を集中学習
No.3	化学基礎 2	これからの講義で必要な化学の基礎を集中学習
No.4	化学基礎 3	これからの講義で必要な化学の基礎を集中学習
No.5	小テスト	これまでの学習を振り返る。試験範囲は化学基礎 1,2,3。
No.6	世界の環境問題	昨年度までにいただいた質問の中で次週からの授業中に話す予定が無いけれども、皆さんにとって有益であろうと思ったトピックを取り上げます。
No.7	オゾン層破壊	オゾン層とは何か。オゾン層破壊のメカニズムについて学びます。

No.8	大気汚染の健康への影響	大気汚染全般と酸性雨について。さらにその汚染物質の人体への影響についても学びます。
No.9	温室効果ガス	温室効果ガスとは何かについて学習した後、温室効果ガスの気候変動に及ぼす影響について
No.10	小テスト	これまでの学習を振り返る。試験範囲は世界の環境問題から温室効果ガスまで。
No.11	ゴミ問題から土壌汚染まで	なぜゴミの分別が必要なのか。環境を破壊するゴミ問題に関して。
No.12	水質汚染と水質浄化	汚染水に含まれる化学物質の種類と水質浄化法について。
No.13	エネルギー	現行の発電をメインに説明し、新エネルギー等も学習する。さらに、私たちの未来について。
No.14	テスト	最終テスト 試験範囲は化学基礎を含む全授業範囲です。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習する必要はありません。授業後に興味を持った内容を自分で調べて学習した内容の理解を深めてもらいたいと思っています。この復習に 2 時間程度充てることが望ましいです。

【テキスト（教科書）】

ありません。必要に応じて資料となる PDF ファイルを Hoppii に UP します。

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

毎週の課題 (50 %)、テスト (30 %)、授業態度 (20 %) を総合的に評価します。テストには紙類の持ち込みは可とします。

【学生の意見等からの気づき】

「私たち文系なので、わかりやすく教えてください」とコメントいただくので、わかりやすく、急がずに授業を進めていきます。

【Outline (in English)】

One of the most pressing issues the Earth is facing is environmental problems. Such environmental problems are universal issues, so all the people on the earth should cooperate to solve these problems. At the beginning of this course, each environmental problem will be focused from the chemical viewpoint. Then, the students with different backgrounds will delve into the matters. The ultimate goal of this course is that we think about these problems deeply by sharing possible solutions with each other.

You don't need to prepare for the class, but I hope students deepen their understanding of what they have learned by doing their own research on topics of interest to them after class. It is advisable to devote about 2 hours to this review.

Weekly assignments (50%), tests (30%), and class attitude (20%) will be evaluated comprehensively.

CHM200LA

教養化学 L A

2017 年度以降入学者

サブタイトル：エネルギーの科学

中田 和秀

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 3/Tue.3

単位数：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

近年、現代文明の成長や持続性への関心から、各種エネルギー資源について注目が集まっています。それらの話題を理解するためには、科学的な考察が必要不可欠です。本授業では、現代文明が大きく依存している化石燃料について利用の実態を学習し、それらが枯渇の危機に瀕していることを理解します。また、新たなエネルギー社会構築の可能性について議論します。これらの話題を化学の視点から理解することが本授業の目的です。

【到達目標】

本授業では、化石燃料である石炭、石油、天然ガスについて、その構造、性質、燃焼反応、燃焼熱等について学習します。また、新しいエネルギー社会として提唱されている水素経済社会やメタノール経済社会について学習します。これらの話題を的確に理解するために必要な化学理論（化学結合論、熱力学、結合エネルギー等）を合わせて習得することが到達目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

本授業は、板書や資料のプロジェクトによるスクリーンへの投影を行いながら、講義形式で進めます。漫然と板書をノートに写すのではなく、自分で調べたことなどを書き加え、わかりやすくまとめてください。ノートは、ルーズリーフではなく、綴じたノートを購入して使用してください。また、化学の知識が無くても授業を理解できるように配慮いたします。時々、練習問題や宿題を課しますので、それらを通してより理解が深まることでしょう。課題内容については、次回の講義にて解説などのフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業計画と学習の仕方について講義する。
第 2 回	物質とは？	物質の基本単位である分子について学習する。
第 3 回	化学反応	物質の変化、すなわち、化学反応について学習する。
第 4 回	反応熱・エネルギー	化学反応にともなって反応系から出入りする反応熱について学習する。また、その他のエネルギー形態についても解説する。
第 5 回	石炭	現代文明で大きな役割を演じている石炭の性質や用途について学習する。
第 6 回	石油（1）	現代文明で大きな役割を演じている石油の性質や精製について学習する。
第 7 回	石油（2）	現代文明で大きな役割を演じている石油の用途について学習する。
第 8 回	天然ガス	現代文明で大きな役割を演じている天然ガスの性質や用途について学習する。

第 9 回	その他の化石燃料	オイルサンドやオイルシェール等、その他の化石燃料について性質や用途を学習する。
第 10 回	水素経済社会（1）	将来のエネルギー資源の候補である水素について、性質や用途を学習する。
第 11 回	水素経済社会（2）	水素を利用する社会システム（水素経済社会）について、その長所と短所を学習する。
第 12 回	メタノール経済社会（1）	将来のエネルギー資源の候補であるメタノールおよびジメチルエーテルについて、性質や用途を学習する。
第 13 回	メタノール経済社会（2）	メタノールを利用する社会システム（メタノール経済社会）について学習する。
第 14 回	まとめ	本授業のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。できるだけ早い段階で、教科書を通読して学習に臨んでください。各回終了後は、発展的な読書を行うと共に、指示にしたがって課題作成を行ってください。

【テキスト（教科書）】

下記書籍を教科書として使用しますので、各自購入してください。教科書は、法政大学生協 Web サイトにて購入することができます。

書名：新版 エネルギーの科学（第 2 版）

著者名：安井伸郎

出版社：三共出版

【参考書】

参考書として下記書籍を推薦します。他の参考書については授業中に適宜紹介します。

書名：メタノールエコノミー：CO₂ をエネルギーに変える逆転の発想

著者名：G.A. オラー, A. ゲッペールト, G.K.S. プラカーシュ

訳者名：小林四郎, 齋藤彰久, 西村晃尚

出版者名：化学同人

【成績評価の方法と基準】

成績は、期末試験（教科書、プリント、およびノート持ち込み可）により評価します。（100%）

【学生の意見等からの気づき】

昨年度の授業内容について概ね好評であったので今年度も同様に授業を進めます。

【学生が準備すべき機器他】

状況に応じてオンライン授業を行うことがありますので、PC やタブレット端末等、オンデマンド授業に必要な機器を準備しておく必要があります。

【その他の重要事項】

基盤科目（100 番台）の「入門化学 A・B」（1 年生はクラス指定有り）、および、リベラルアーツ科目（200 番台）の「教養化学 LC・LD」も担当しております。合わせての履修をご検討いただければ幸いです。

第 1 回授業は、Zoom を利用したオンライン授業となります。Zoom のアクセス情報は、授業開始までに学習支援システム（HOPPII）の「お知らせ」欄に掲載します。

【Outline (in English)】

In recent years, various kinds of energy resources are attracting attention in connection with the interest in the growth and sustainability of modern civilization. To understand such topics, natural sciences play crucial roles. In this lecture, the actual state of use of fossil fuels on which modern civilization largely depend will be discussed to understand that such the fuels are on the crisis of exhaustion. In addition, some ideas that may bring sustainable civilization will be presented. Understanding chemistry fundamental to such topics is the aim of this lecture. Students should read the textbook as early as possible before a class and are encouraged advanced reading on the basis of their own interest after a class. The study time will be more than two hours. The overall grade in the class will be decided based on the term-end examination (100 %).

CHM200LA

教養化学 L C

2017 年度以降入学者

サブタイトル：細菌の化学

中田 和秀

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 5/Mon.5

単位数：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中国で発生した新型コロナウイルス（SARS-CoV-2）は、2020 年に入って急速に世界中に拡散し、世界各国で感染者数を増加させています。このウイルスの感染によって引き起こされる症状は深刻である一方、新規に発生したウイルスであるため有効な治療法は確立されていません。そのため、我々の生活様式から企業の経済活動にいたるまで、現代社会は COVID-19 から大きな影響を受けています。したがって、今、ウイルスや関連する事項について学習することは、将来の社会を担う学生にとって最も重要なテーマであるといえます。本授業では、まず、生体を構成する種々の有機化合物についてご紹介します。それらが集合して構成される生体の最小単位である細胞について学習し、細菌や細菌によって引き起こされる疾病について学びます。ウイルスが増殖する舞台である細胞について化学的に理解することが本授業の目的です。

【到達目標】

我々の生命活動の舞台である細胞、我々に病気をもたらす細菌やウイルスについて、種類、構造、性質、および、活動について化学的に理解することを目標とします。なお、これまで化学を学習したことが無い学生でも授業を理解することができるように配慮します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

本授業は、板書や資料のプロジェクターによるスクリーンへの投影を行いながら、講義形式で進めます。漫然と板書をノートに写すのではなく、自分で調べたことなどを書き加え、わかりやすくまとめてください。ノートは、ルーズリーフではなく、綴じたノートを購入して使用してください。また、化学の知識が無くても授業を理解できるように配慮いたします。時々、練習問題や宿題を課しますので、それらを通してより理解が深まることでしょう。課題内容については、次回の講義にて解説などのフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	講義計画と学習の仕方について解説する。
第 2 回	原子	原子を構成する素粒子や原子が結合して生成する分子について解説し、原子に関する理解を深める。
第 3 回	化学結合論	原子がどのようなルールによって結合し分子を形成するかを学習する。
第 4 回	多重結合	化学結合論に基づいて形成される様々な化学結合の種類について学習する。
第 5 回	生体を構成する有機化合物	生体を構成するタンパク質、脂質、糖質、および、核酸について学習する。
第 6 回	分子の立体構造	種々の化学結合がなす角度と結合距離について学習し、分子の立体構造について理解を深める。
第 7 回	分子の立体構造と物質の性質（1）	物質の性質が分子の立体構造によって決まることを、いくつかの例を通して学習する。

第 8 回	分子の立体構造と物質の性質（2）	物質の性質が分子の立体構造によって決まることを、いくつかの例を通して学習する。
第 9 回	生体分子の立体構造（1）	タンパク質の立体構造について学習する。
第 10 回	生体分子の立体構造（2）	脂質や糖質の立体構造について学習する。
第 11 回	生体分子の立体構造（3）	核酸の立体構造について学習する。
第 12 回	細胞	生物とウイルスの違いや生体の基本単位である細胞について学習する。
第 13 回	細菌	細菌の種類や細菌によって引き起こされる疾病について学習する。
第 14 回	まとめ	本授業のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。授業終了後、各自の興味関心に基づいた発展的な読書や調査を行うと共に、指示にしたがって課題作成を行ってください。

【テキスト（教科書）】

使用しません。

【参考書】

参考書として下記書籍を推薦します。他の参考書については授業中に適宜紹介します。

書名：ヴォート生化学

著者名：Donald Voet, Judith G.Voet

訳者名：田宮信雄 ほか

出版者名：東京化学同人

【成績評価の方法と基準】

成績は、期末試験（教科書、プリント、およびノート持ち込み可）により評価します。（100%）

【学生の意見等からの気づき】

昨年度の授業内容について概ね好評であったので今年度も同様に授業を進めます。

【学生が準備すべき機器他】

状況に応じてオンライン授業を行うことがありますので、PC やタブレット端末等、オンライン授業に必要な機器を準備しておく必要があります。

【その他の重要事項】

秋学期に開講される「教養化学 L D」を合わせて受講することをお勧めします。

第 1 回授業は、Zoom を利用したオンライン授業となります。Zoom のアクセス情報は、授業開始までに学習支援システム（HOPPII）の「お知らせ」欄に掲載します。

【Outline (in English)】

The new-type coronavirus (SARS-CoV-2) originated in China had rapidly spread worldwide last year to increase the number of infected patients in every country. While the symptoms generated from this virus are serious, an effective treatment has not yet been established. This situation brings severe influence to many things such as our lifestyles and economic activities of industries. Therefore, learning about virus and its related things is one of the most important subjects for university students who will lead the next generation. In this lecture, various organic compounds that comprise living organisms will be presented. Then, students will learn about the cell that is the minimum unit of the living organisms, and bacteria and its related diseases. The purpose of this lecture is to understand the properties and activities of cell that is the place of multiplication of virus from the viewpoint of chemistry. Students are encouraged advanced learning after a class using relevant books and the internet on the basis of their own interest. The study time will be more than two hours. The overall grade in the class will be decided based on the term-end examination (100 %).

CHM200LA

教養化学LD

2017年度以降入学者

サブタイトル：ウイルスの化学

中田 和秀

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 5/Mon.5

単位数：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中国で発生した新型コロナウイルス（SARS-CoV-2）は、2020年に入って急速に世界中に拡散し、世界各国で感染者数を増加させています。このウイルスの感染によって引き起こされる症状は深刻である一方、新規に発生したウイルスであるため有効な治療法は確立されていません。そのため、我々の生活様式から企業の経済活動にいたるまで、現代社会はCOVID-19から大きな影響を受けています。したがって、今、ウイルスや関連する事項について学習することは、将来の社会を担う学生にとって最も重要なテーマであるといえます。本授業では、まず、生体を構成する最小単位である細胞がどのような活動をおこなっているかを学習します。次に、ウイルスがその細胞に侵入して増殖するメカニズムなどを学習します。ウイルスの性質や活動について化学的に理解することが本授業の目的です。

【到達目標】

我々の生命活動の舞台である細胞、我々に病気をもたらす細菌やウイルスについて、種類、構造、性質、および、活動について化学的に理解することを目標とします。なお、これまで化学を学習したことが無い学生でも授業を理解することができるように配慮します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

本授業は、板書や資料のプロジェクターによるスクリーンへの投影を行いながら、講義形式で進めます。漫然と板書をノートに写すのではなく、自分で調べたことなどを書き加え、わかりやすくまとめてください。ノートは、ルーズリーフではなく、綴じたノートを購入して使用してください。また、化学の知識が無くても授業を理解できるように配慮いたします。時々、練習問題や宿題を課しますので、それらを通してより理解が深まることでしょう。課題内容については、次回の講義にて解説などのフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	講義計画と学習の仕方について解説する。
第2回	化学結合論と分子の立体構造	化学結合論によって原子同士がつながって分子が生成すること、および、分子の立体構造によって物質の性質が決まることを学習する。
第3回	生体を構成する有機化合物	生体を構成する種々の有機化合物について学習し、それらの分子構造について理解を深める。
第4回	遺伝情報の発現（1）	生物の遺伝子 DNA を RNA に転写する過程について学習する。
第5回	遺伝情報の発現（2）	mRNA が持つ遺伝情報をタンパク質に翻訳する過程について学習する。
第6回	遺伝情報の発現（3）	細胞分裂の際に行われる遺伝子 DNA の複製について学習する。
第7回	生化学の研究手法	生化学を学習する際の研究手法について学習する。

第8回	ウイルスの構造	種々のウイルスについて基本的な構造を理解する。
第9回	λファージ	λファージの生活環について学習する。
第10回	HIV	ヒト免疫不全ウイルス（HIV）の生活環について学習する。
第11回	インフルエンザウイルス	インフルエンザウイルスの構造や増殖過程について学習する。
第12回	新型コロナウイルス	新型コロナウイルスについて最新の研究成果を学習する。
第13回	ウイルス治療薬	ウイルス治療薬開発の概要について学習する。
第14回	まとめ	本授業のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。授業終了後、各自の興味関心に基づいた発展的な読書や調査を行うと共に、指示にしたがって課題作成を行ってください。

【テキスト（教科書）】

使用しません。

【参考書】

参考書として下記書籍を推薦します。他の参考書については授業中に適宜紹介します。

書名：ヴォート生化学

著者名：Donald Voet, Judith G. Voet

訳者名：田宮信雄ほか

出版者名：東京化学同人

【成績評価の方法と基準】

成績は、期末試験（教科書、プリント、およびノート持ち込み可）により評価します。（100%）

【学生の意見等からの気づき】

昨年度の授業内容について概ね好評であったので今年度も同様に授業を進めます。

【学生が準備すべき機器他】

状況に応じてオンライン授業を行うことがありますので、PC やタブレット端末等、オンライン授業に必要な機器を準備しておく必要があります。

【その他の重要事項】

春学期に開講される「教養化学LC」を合わせて受講することをお勧めします。

第1回授業は、Zoom を利用したオンライン授業となります。Zoom のアクセス情報は、授業開始までに学習支援システム（HOPPII）の「お知らせ」欄に掲載します。

【Outline (in English)】

The new-type coronavirus (SARS-CoV-2) originated in China had rapidly spread worldwide last year to increase the number of infected patients in every country. While the symptoms generated from this virus are serious, an effective treatment has not yet been established. This situation brings severe influence to many things such as our lifestyles and economic activities of industries. Therefore, learning about virus and its related things is one of the most important subjects for university students who will lead the next generation. In this lecture, students will learn the processes of expression and transmission of genetic information that is fundamental for living organisms, and then that of multiplication of viruses utilizing such the processes of the host cell. The purpose of this lecture is to understand the properties and activities of viruses from the viewpoint of chemistry. Students are encouraged advanced learning after a class using relevant books and the internet on the basis of their own interest. The study time will be more than two hours. The overall grade in the class will be decided based on the term-end examination (100 %).

CHM200LA

教養化学 L E

2017 年度以降入学者

サブタイトル：薬の科学

向井 知大

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 4/Wed.4

単位数：2 単位

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

薬の開発は人類の寿命を大きく伸ばし、医学の発展に大きく寄与してきました。この授業では、薬とはどのようなものか、人体にどのような働きをするのか、薬はどのように開発されるか、など、薬の原理について有機化学を用いて紹介していきます。

【到達目標】

薬の働きについての学習を通して、タンパク質や低分子有機化合物の構造式を身近なものにし、有機化合物の性質を左右する構造的特徴について理解することを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

資料をプロジェクタで投影して解説していきます。投影する資料と簡単な解説文を授業支援システムにアップロードする予定です。高校などにおける自然科学系科目（理系科目）の履修の有無にかかわらず理解できるように進めます。

授業毎に出題する正誤問題や質問について、次回授業冒頭で解説をします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	講義計画と概要について説明
第 2 回	薬の歴史	古代から現代までの薬、薬の働き方の簡単な概説
第 3 回	化学の基礎	原子と分子、化学結合について
第 4 回	有機化合物	有機化合物の構造と表記方法について
第 5 回	DNA とタンパク質	アミノ酸の化学構造と、タンパク質や DNA の立体構造について
第 6 回	酵素と代謝	タンパク質や炭水化物などを分解する酵素について
第 7 回	生活習慣病の薬	糖尿病や高脂血症の薬について
第 8 回	抗炎症薬①	非ステロイド薬とステロイド薬の作用機序について
第 9 回	抗炎症剤②	花粉症などアレルギーの薬、抗ヒスタミン薬の分子設計と、副作用改善について
第 10 回	化学療法薬と抗生物質	病原細菌に強く作用する薬と、その作用機序について
第 11 回	抗ウイルス薬	インフルエンザやエイズ、新型コロナウイルスの特徴と、その薬について
第 12 回	がんの薬	様々な抗がん薬の働きと副作用、標的物質について。
第 13 回	うつの薬と危険ドラッグ	脳で働く分子について。
第 14 回	まとめ	これまでの内容の復習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義の内容に関連すると考えられる現象や用語について、各自が興味を持って書籍や web 検索などで調査してみてください。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

使用しません。授業で使用する資料を授業支援システムで配布します。

【参考書】

使用しません。

【成績評価の方法と基準】

学習支援システムに毎回 5 問程度の正誤問題を出題します。この成績を平常点とします（配分 40%）。期末試験の結果（配分 60%）と平常点をあわせて成績評価します。

【学生の意見等からの気づき】

理解度を確かめながら進めていく予定です。

【Outline (in English)】

Pharmaceutics has extended the human lifespan and has greatly contributed to the development of medical science. This course introduces the basic principles of medical supplies using organic chemistry.

The goals of this course are to understand about organic compounds and to improve your scientific literacy.

Your required study time is at least two hours for each class meeting.

Your overall grade in the class will be decided based on the usual performance score (40%) and term-end examination (60%).

NAS100LA

サイエンス・ラボ A

2017 年度以降入学者

西村 直美、長谷川 真紀子、井坂 政裕

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 1/Tue.1

単位数：2 単位

定員制（48 名）/2015 年度までに「自然総合講座 A」の単位を修得済みの場合、履修不可

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な 3 分野の実験を 3 人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボ A は身の回りの科学、とりわけ光を共通のテーマに据えて、生物学、物理学、化学それぞれの分野で下記の内容の講義と実験から構成されています。3 つの分野を同時に学ぶことで、それぞれの分野の違いにも触れ、科学的なものの見方を学びます。

<生物学>前半は、植物が行う光合成のしくみや、光によって制御される発芽のしくみなどを実験やビデオを通じて学びます。後半は、動物と光の様々な関係（光走性、概日リズムなど）を学んだ上で、人間の視覚のしくみを実験を通じて理解します。

<物理学>太陽電池を用いた実験、光の波長を測定する仕組みの学習、原子の発する光の波長の測定、光を用いたナノワールドの観察などによって、光の性質や光を用いた技術について学びます。

<化学>光を吸収することで色を作り出す色素に関連した講義と実験（色素の構造的特徴、色素の合成やそれを使った太陽電池の作成など）によって、光と色の関係、光と物質の関係を学びます。

【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3 つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボ A では、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスを行い、2 回目以降は 3 つのグループに分かれて、ボアソナードタワーにある 3 つの実験室（サイエンスルーム）を 4 週あるいは 5 週単位で順次移動し、受講します。各分野の終了後に課題に対して講評します。

このクラスは初めに「生物学」から学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 週	講義概要	講義の概要説明を行う。
第 2 週	光合成のしくみ（生物学）	光合成のしくみを学び、葉の微細構造を観察する。
第 3 週	植物と光（生物学）	発芽、光周性、光屈性など、光合成以外の植物と光の関係を実験やビデオを介して理解する。
第 4 週	視覚のしくみ -1-（生物学）	眼でものが見えるしくみを学び、盲斑の位置と形を測定する。
第 5 週	視覚のしくみ -2-（生物学）	盲斑の位置と形を測定し（続き）、その結果をレポートにまとめる。
第 6 週	光の性質（物理学）	光の性質や、それらを調べる方法、色との関係について学ぶ。

第 7 週	太陽電池の実験（物理学）	太陽電池の発電能力について調べ、光のエネルギーが電気エネルギーに変換する仕組みを学ぶ。
第 8 週	光スペクトルの観察（物理学）	簡易分光器を用いて白熱灯、LED、蛍光灯、水素ランプなどが放つ光の波長を測定し、発光のメカニズムについて学ぶ。
第 9 週	ナノワールドの観察（物理学）	CD や DVD 表面の構造をレーザー光を用いて調べ、目に見えない微細な構造を知る仕組みについて学ぶ。
第 10 週	光の技術（物理学）	光の最先端技術、光を用いたマイクロ世界や宇宙の観察・観測の最近の成果、オーロラなど光の現象について学ぶ。
第 11 週	物質と光の相互作用（化学）	色素がなぜ色を持つのか、光と物質の関係について学ぶ。
第 12 週	分子模型を使った分子組み立て（化学）	色のある分子と色のない分子を模型を使って組み立てることで構造上の違いを理解する。
第 13 週	色素の抽出と合成（化学）	天然色素からの色素の抽出と色素の合成を実験で行う。
第 14 週	色素増感太陽電池の評価（化学）	実際に数種の色素を使って太陽電池を作成し、色素の違いによる効率の評価を実験で確かめる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、授業内で出される課題の対応や実験の後のレポートの作成など、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】

各分野とも、授業中に必要に応じて紹介します。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で 1/3 とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

実験を自ら行うことに不安を感じる人もいますが、心配は必要ありません。ティーチングアシスタント（大学院生）のサポートもあり、実験手順の通りに進めれば、実験に不慣れな学生でも容易にできる実験内容になっています。

【Outline (in English)】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces familiar natural phenomena especially light as a common theme in each field. By learning the three fields in one semester, the students will understand the differences between each field and will learn the scientific viewpoint. The submission of a report is required after each experiment, and a grade point is evaluated from scores of those reports. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

NAS100LA

サイエンス・ラボ B

2017 年度以降入学者

西村 直美、長谷川 真紀子、井坂 政裕

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 1/Tue.1

単位数：2 単位

定員制（48 名）/2015 年度までに「自然総合講座 B」の単位を修得済みの場合、履修不可

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な 3 分野の実験を 3 人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボ B は科学史から題材をもとめ、生物学、物理学、化学それぞれの分野で転機となったテーマに関連した内容で講義と実験が構成されています。高校までに習った定説がどのようにして成立してきたのか、歴史的な背景とともに学ぶことで、3 つの分野それぞれの科学的なものの見方を学びます。

<生物学>メンデルによる遺伝子の発見、遺伝子の本体が DNA であることの証明、それ以後の DNA 学発展の歴史を学びます。これらを理解する上で必須となる染色体の観察や DNA の抽出実験を行います。

<物理学>電気、熱、光などいろいろな形態で存在し、現代社会の重要な課題の一つであるエネルギーについて、科学史上の重要な実験を通じて体験的に学びます。

<化学>古代からの物質観の変遷を振り返りながら、燃焼反応の正しい理解がどのようになされたのか、その後の酸化還元反応の理解と電池との関連を学びます。

【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3 つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボ B では、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスを行い、2 回目以降は 3 つのグループに分かれて、ポアソナードタワーにある 3 つの実験室（サイエンスルーム）を 4 週あるいは 5 週単位で順次移動し、受講します。各分野の終了後に課題に対して講評します。

このクラスは初めに「生物学」から学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 週	講義概要	講義の概要説明を行う。
第 2 週	細胞と染色体（生物学）	細胞の構造と機能を学び、遺伝子の基礎となる染色体を観察する。
第 3 週	メンデル遺伝学から分子遺伝学へ（生物学）	遺伝子の本体が DNA であると証明されるまでの歴史を学ぶ。
第 4 週	DNA の抽出（生物学）	DNA の構造と機能を学んだ上で、DNA の抽出実験を行う。
第 5 週	現代の DNA 学（生物学）	親子鑑定、犯罪捜査、遺伝子診断など応用も含めた DNA 研究の現状を知る。

第 6 週	エネルギーとは（物理学）	エネルギーとは何か、エネルギーの変換と保存に関する基礎事項を学ぶ。
第 7 週	電気エネルギーと熱エネルギー（物理学）	電気を用いて熱エネルギーを発生させ、その変換と保存を調べる。
第 8 週	落体実験（物理学）	物体が重力により落下するときの様子を調べ、そこで起こっているエネルギーの変換と保存について調べる。
第 9 週	LED の実験（物理学）	LED を用いて、LED を発光させるための電気エネルギーとその色との関係について調べる。光の粒子性という、現代物理学の一端に触れる。
第 10 週	燃焼から見る反応理解の変遷（化学）	物質観、燃焼理論、電気の歴史と関係性を学ぶ
第 11 週	銅の反応実験（化学）	銅の各種反応を観察し、化学反応で元素変換ができないことを理解する。
第 12 週	マグネシウム金属の燃焼実験（化学）	燃焼によって消費された酸素量と金属灰の重量増の定量的な関係を学ぶ。
第 13 週	酸化還元反応と電池の仕組み（化学）	電気の歴史を振り返りながら、化学電池の仕組みを学ぶ。
第 14 週	燃料電池の発電効率の測定（化学）	燃料電池を使って酸化に伴う電子の移動を実験で学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、授業内で出される課題の対応や実験の後のレポートの作成など、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】

各分野とも、授業中に必要に応じて紹介します。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で 1/3 とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

実験を自ら行うことに不安を感じる人もいますが、心配は必要ありません。ティーチングアシスタント（大学院生）のサポートもあり、実験手順の通りに進めれば、実験に不慣れな学生でも容易にできる実験内容になっています。

【Outline (in English)】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces history of science containing turning point for each field. By learning established theory and historical background, the students will learn the scientific viewpoint of the three fields. The submission of a report is required after each experiment, and a grade point is evaluated from scores of those reports. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

NAS100LA

サイエンス・ラボ A

2017 年度以降入学者

西村 直美、長谷川 真紀子、井坂 政裕

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 2/Tue.2

単位数：2 単位

定員制（48 名）/2015 年度までに「自然総合講座 A」の単位を修得済みの場合、履修不可

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な 3 分野の実験を 3 人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボ A は身の回りの科学、とりわけ光を共通のテーマに据えて、生物学、物理学、化学それぞれの分野で下記の内容の講義と実験から構成されています。3 つの分野を同時に学ぶことで、それぞれの分野の違いにも触れ、科学的なものの見方を学びます。

<生物学>前半は、植物が行う光合成のしくみや、光によって制御される発芽のしくみなどを実験やビデオを通じて学びます。後半は、動物と光の様々な関係（光走性、概日リズムなど）を学んだ上で、人間の視覚のしくみを実験を通じて理解します。

<物理学>太陽電池を用いた実験、光の波長を測定する仕組みの学習、原子の発する光の波長の測定、光を用いたナノワールドの観察などによって、光の性質や光を用いた技術について学びます。

<化学>光を吸収することで色を作り出す色素に関連した講義と実験（色素の構造的特徴、色素の合成やそれを使った太陽電池の作成など）によって、光と色の関係、光と物質の関係を学びます。

【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3 つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボ A では、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスを行い、2 回目以降は 3 つのグループに分かれて、ボアソナードタワーにある 3 つの実験室（サイエンスルーム）を 4 週あるいは 5 週単位で順次移動し、受講します。各分野の終了後に課題に対して講評します。

このクラスは初めに「生物学」から学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 週	講義概要	講義の概要説明を行う。
第 2 週	光合成のしくみ（生物学）	光合成のしくみを学び、葉の微細構造を観察する。
第 3 週	植物と光（生物学）	発芽、光周性、光屈性など、光合成以外の植物と光の関係を実験やビデオを介して理解する。
第 4 週	視覚のしくみ -1-（生物学）	眼でものが見えるしくみを学び、盲斑の位置と形を測定する。
第 5 週	視覚のしくみ -2-（生物学）	盲斑の位置と形を測定し（続き）、その結果をレポートにまとめる。
第 6 週	光の性質（物理学）	光の性質や、それらを調べる方法、色との関係について学ぶ。

第 7 週	太陽電池の実験（物理学）	太陽電池の発電能力について調べ、光のエネルギーが電気エネルギーに変換する仕組みを学ぶ。
第 8 週	光スペクトルの観察（物理学）	簡易分光器を用いて白熱灯、LED、蛍光灯、水素ランプなどが放つ光の波長を測定し、発光のメカニズムについて学ぶ。
第 9 週	ナノワールドの観察（物理学）	CD や DVD 表面の構造をレーザー光を用いて調べ、目に見えない微細な構造を知る仕組みについて学ぶ。
第 10 週	光の技術（物理学）	光の最先端技術、光を用いたマイクロ世界や宇宙の観察・観測の最近の成果、オーロラなど光の現象について学ぶ。
第 11 週	物質と光の相互作用（化学）	色素がなぜ色を持つのか、光と物質の関係について学ぶ。
第 12 週	分子模型を使った分子組み立て（化学）	色のある分子と色のない分子を模型を使って組み立てることで構造上の違いを理解する。
第 13 週	色素の抽出と合成（化学）	天然色素からの色素の抽出と色素の合成を実験で行う。
第 14 週	色素増感太陽電池の評価（化学）	実際に数種の色素を使って太陽電池を作成し、色素の違いによる効率の評価を実験で確かめる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、授業内で出される課題の対応や実験の後のレポートの作成など、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】

各分野とも、授業中に必要に応じて紹介します。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で 1/3 とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

実験を自ら行うことに不安を感じる人もいますが、心配は必要ありません。ティーチングアシスタント（大学院生）のサポートもあり、実験手順の通りに進めれば、実験に不慣れな学生でも容易にできる実験内容になっています。

【Outline (in English)】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces familiar natural phenomena especially light as a common theme in each field. By learning the three fields in one semester, the students will understand the differences between each field and will learn the scientific viewpoint. The submission of a report is required after each experiment, and a grade point is evaluated from scores of those reports. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

NAS100LA

サイエンス・ラボ B

2017 年度以降入学者

西村 直美、長谷川 真紀子、井坂 政裕

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 2/Tue.2

単位数：2 単位

定員制（48 名）/2015 年度までに「自然総合講座 B」の単位を修得済みの場合、履修不可

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な 3 分野の実験を 3 人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボ B は科学史から題材をもとめ、生物学、物理学、化学それぞれの分野で転機となったテーマに関連した内容で講義と実験が構成されています。高校までに習った定説がどのようにして成立してきたのか、歴史的な背景とともに学ぶことで、3 つの分野それぞれの科学的なものの見方を学びます。

<生物学>メンデルによる遺伝子の発見、遺伝子の本体が DNA であることの証明、それ以後の DNA 学発展の歴史を学びます。これらを理解する上で必須となる染色体の観察や DNA の抽出実験を行います。

<物理学>電気、熱、光などいろいろな形態で存在し、現代社会の重要な課題の一つであるエネルギーについて、科学史上の重要な実験を通じて体験的に学びます。

<化学>古代からの物質観の変遷を振り返りながら、燃焼反応の正しい理解がどのようになされたのか、その後の酸化還元反応の理解と電池との関連を学びます。

【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3 つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボ B では、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスを行い、2 回目以降は 3 つのグループに分かれて、ポアソナードタワーにある 3 つの実験室（サイエンスルーム）を 4 週あるいは 5 週単位で順次移動し、受講します。各分野の終了後に課題に対して講評します。

このクラスは初めに「生物学」から学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 週	講義概要	講義の概要説明を行う。
第 2 週	細胞と染色体（生物学）	細胞の構造と機能を学び、遺伝の基礎となる染色体を観察する。
第 3 週	メンデル遺伝学から分子遺伝学へ（生物学）	遺伝子の本体が DNA であると証明されるまでの歴史を学ぶ。
第 4 週	DNA の抽出（生物学）	DNA の構造と機能を学んだ上で、DNA の抽出実験を行う。
第 5 週	現代の DNA 学（生物学）	親子鑑定、犯罪捜査、遺伝子診断など応用も含めた DNA 研究の現状を知る。

第 6 週 エネルギーとは（物理学） エネルギーとは何か、エネルギーの変換と保存に関する基礎事項を学ぶ。

第 7 週 電気エネルギーと熱エネルギー（物理学） 電気を用いて熱エネルギーを発生させ、その変換と保存を調べる。

第 8 週 落体実験（物理学） 物体が重力により落下するときの様子を調べ、そこで起こっているエネルギーの変換と保存について調べる。

第 9 週 LED の実験（物理学） LED を用いて、LED を発光させるための電気エネルギーとその色との関係について調べる。光の粒子性という、現代物理学の一端に触れる。

第 10 週 燃焼から見る反応理解の変遷（化学） 物質観、燃焼理論、電気の歴史と関係性を学ぶ

第 11 週 銅の反応実験（化学） 銅の各種反応を観察し、化学反応で元素変換ができないことを理解する。

第 12 週 マグネシウム金属の燃焼実験（化学） 燃焼によって消費された酸素量と金属灰の重量増の定量的な関係を学ぶ。

第 13 週 酸化還元反応と電池の仕組み（化学） 電気の歴史を振り返りながら、化学電池の仕組みを学ぶ。

第 14 週 燃料電池の発電効率の測定（化学） 燃料電池を使って酸化に伴う電子の移動を実験で学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、授業内で出される課題の対応や実験の後のレポートの作成など、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】

各分野とも、授業中に必要に応じて紹介します。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で 1/3 とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

実験を自ら行うことに不安を感じる人もいますが、心配は必要ありません。ティーチングアシスタント（大学院生）のサポートもあり、実験手順の通りに進めれば、実験に不慣れな学生でも容易にできる実験内容になっています。

【Outline (in English)】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces history of science containing turning point for each field. By learning established theory and historical background, the students will learn the scientific viewpoint of the three fields. The submission of a report is required after each experiment, and a grade point is evaluated from scores of those reports. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

NAS100LA

サイエンス・ラボ A

2017 年度以降入学者

石塚 芽具美、田中 浩輔、吉田 智

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 3/Tue.3

単位数：2 単位

定員制（48 名）/2015 年度までに「自然総合講座 A」の単位を修得済みの場合、履修不可

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な 3 分野の実験を 3 人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボ A は身の回りの科学、とりわけ光を共通のテーマに据えて、生物学、物理学、化学それぞれの分野で下記の内容の講義と実験から構成されています。3 つの分野を同時に学ぶことで、それぞれの分野の違いにも触れ、科学的なものの見方を学びます。

<生物学>前半は、植物が行う光合成のしくみや、光によって制御される発芽のしくみなどを実験やビデオを通じて学びます。後半は、動物と光の様々な関係（光走性、概日リズムなど）を学んだ上で、人間の視覚のしくみを実験を通じて理解します。

<物理学>太陽電池を用いた実験、光の波長を測定する仕組みの学習、原子の発する光の波長の測定、光を用いたナノワールドの観察などによって、光の性質や光を用いた技術について学びます。

<化学>光を吸収することで色を作り出す色素に関連した講義と実験（色素の構造的特徴、色素の合成やそれを使った太陽電池の作成など）によって、光と色の関係、光と物質の関係を学びます。

【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3 つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボ A では、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスを行い、2 回目以降は 3 つのグループに分かれて、ボアソナードタワーにある 3 つの実験室（サイエンスルーム）を 4 週あるいは 5 週単位で順次移動し、受講します。各分野の終了後に課題に対して講評します。

このクラスは初めに「生物学」から学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 週	講義概要	講義の概要説明を行う。
第 2 週	光合成のしくみ（生物学）	光合成のしくみを学び、葉の微細構造を観察する。
第 3 週	植物と光（生物学）	発芽、光周性、光屈性など、光合成以外の植物と光の関係を実験やビデオを介して理解する。
第 4 週	視覚のしくみ -1-（生物学）	眼でものが見えるしくみを学び、盲斑の位置と形を測定する。
第 5 週	視覚のしくみ -2-（生物学）	盲斑の位置と形を測定し（続き）、その結果をレポートにまとめる。
第 6 週	光の性質（物理学）	光の性質や、それらを調べる方法、色との関係について学ぶ。

第 7 週	太陽電池の実験（物理学）	太陽電池の発電能力について調べ、光のエネルギーが電気エネルギーに変換する仕組みを学ぶ。
第 8 週	光スペクトルの観察（物理学）	簡易分光器を用いて白熱灯、LED、蛍光灯、水素ランプなどが放つ光の波長を測定し、発光のメカニズムについて学ぶ。
第 9 週	ナノワールドの観察（物理学）	CD や DVD 表面の構造をレーザー光を用いて調べ、目に見えない微細な構造を知る仕組みについて学ぶ。
第 10 週	光の技術（物理学）	光の最先端技術、光を用いたマイクロ世界や宇宙の観察・観測の最近の成果、オーロラなど光の現象について学ぶ。
第 11 週	物質と光の相互作用（化学）	色素がなぜ色を持つのか、光と物質の関係について学ぶ。
第 12 週	分子模型を使った分子組み立て（化学）	色のある分子と色のない分子を模型を使って組み立てることで構造上の違いを理解する。
第 13 週	色素の抽出と合成（化学）	天然色素からの色素の抽出と色素の合成を実験で行う。
第 14 週	色素増感太陽電池の評価（化学）	実際に数種の色素を使って太陽電池を作成し、色素の違いによる効率の評価を実験で確かめる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、授業内で出される課題の対応や実験の後のレポートの作成など、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】

適宜提示します。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で 1/3 とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

実験を自ら行うことに不安を感じる人もいますが、心配は必要ありません。ティーチングアシスタント（大学院生）のサポートもあり、実験手順の通りに進めれば、実験に不慣れな学生でも容易にできる実験内容になっています。

【Outline (in English)】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces familiar natural phenomena especially light as a common theme in each field. By learning the three fields in one semester, the students will understand the differences between each field and will learn the scientific viewpoint. The submission of a report is required after each experiment, and a grade point is evaluated from scores of those reports. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

NAS100LA

サイエンス・ラボ B

2017 年度以降入学者

石塚 芽具美、田中 浩輔、鈴木 裕武

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 3/Tue.3

単位数：2 単位

定員制（48 名）/2015 年度までに「自然総合講座 B」の単位を修得済みの場合、履修不可

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な 3 分野の実験を 3 人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボ B は科学史から題材をもとめ、生物学、物理学、化学それぞれの分野で転機となったテーマに関連した内容で講義と実験が構成されています。高校までに習った定説がどのようにして成立してきたのか、歴史的な背景とともに学ぶことで、3 つの分野それぞれの科学的なものの見方を学びます。

<生物学>メンデルによる遺伝子の発見、遺伝子の本体が DNA であることの証明、それ以後の DNA 学発展の歴史を学びます。これらを理解する上で必須となる染色体の観察や DNA の抽出実験を行います。

<物理学>電気、熱、光などいろいろな形態で存在し、現代社会の重要な課題の一つであるエネルギーについて、科学史上の重要な実験を通じて体験的に学びます。

<化学>古代からの物質観の変遷を振り返りながら、燃焼反応の正しい理解がどのようになされたのか、その後の酸化還元反応の理解と電池との関連を学びます。

【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3 つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボ B では、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスを行い、2 回目以降は 3 つのグループに分かれて、ポアソナードタワーにある 3 つの実験室（サイエンスルーム）を 4 週あるいは 5 週単位で順次移動し、受講します。各分野の終了後に課題に対して講評します。

このクラスは初めに「生物学」から学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 週	講義概要	講義の概要説明を行う。
第 2 週	細胞と染色体（生物学）	細胞の構造と機能を学び、遺伝の基礎となる染色体を観察する。
第 3 週	メンデル遺伝学から分子遺伝学へ（生物学）	遺伝子の本体が DNA であると証明されるまでの歴史を学ぶ。
第 4 週	DNA の抽出（生物学）	DNA の構造と機能を学んだ上で、DNA の抽出実験を行う。
第 5 週	現代の DNA 学（生物学）	親子鑑定、犯罪捜査、遺伝子診断など応用も含めた DNA 研究の現状を知る。

第 6 週	エネルギーとは（物理学）	エネルギーとは何か、エネルギーの変換と保存に関する基礎事項を学ぶ。
第 7 週	電気エネルギーと熱エネルギー（物理学）	電気を用いて熱エネルギーを発生させ、その変換と保存を調べる。
第 8 週	落体実験（物理学）	物体が重力により落下するときの様子を調べ、そこで起こっているエネルギーの変換と保存について調べる。
第 9 週	LED の実験（物理学）	LED を用いて、LED を発光させるための電気エネルギーとその色との関係について調べる。光の粒子性という、現代物理学の一端に触れる。
第 10 週	燃焼から見る反応理解の変遷（化学）	物質観、燃焼理論、電気の歴史と関係性を学ぶ
第 11 週	銅の反応実験（化学）	銅の各種反応を観察し、化学反応で元素変換ができないことを理解する。
第 12 週	マグネシウム金属の燃焼実験（化学）	燃焼によって消費された酸素量と金属灰の重量増の定量的な関係を学ぶ。
第 13 週	酸化還元反応と電池の仕組み（化学）	電気の歴史を振り返りながら、化学電池の仕組みを学ぶ。
第 14 週	燃料電池の発電効率の測定（化学）	燃料電池を使って酸化に伴う電子の移動を実験で学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、授業内で出される課題の対応や実験の後のレポートの作成など、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】

参考書は指定していません。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で 1/3 とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

実験を自ら行うことに不安を感じる人もいますが、心配は必要ありません。ティーチングアシスタント（大学院生）のサポートもあり、実験手順の通りに進めれば、実験に不慣れな学生でも容易にできる実験内容になっています。

高校で未履修の人が多い物理のレポート作成も難しはありません。物理では授業で使うワークシートがそのままレポートになるので、授業に参加すれば誰でも容易にレポートを完成させることができます。

【Outline (in English)】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces history of science containing turning point for each field. By learning established theory and historical background, the students will learn the scientific viewpoint of the three fields. The submission of a report is required after each experiment, and a grade point is evaluated from scores of those reports. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

NAS100LA

サイエンス・ラボ A

2017 年度以降入学者

石塚 芽具美、田中 浩輔、石川 壮一

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 4/Tue.4

単位数：2 単位

定員制（48 名）/2015 年度までに「自然総合講座 A」の単位を修得済みの場合、履修不可

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な 3 分野の実験を 3 人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボ A は身の回りの科学、とりわけ光を共通のテーマに据えて、生物学、物理学、化学それぞれの分野で下記の内容の講義と実験から構成されています。3 つの分野を同時に学ぶことで、それぞれの分野の違いにも触れ、科学的なものの見方を学びます。

<生物学>前半は、植物が行う光合成のしくみや、光によって制御される発芽のしくみなどを実験やビデオを通じて学びます。後半は、動物と光の様々な関係（光走性、概日リズムなど）を学んだ上で、人間の視覚のしくみを実験を通じて理解します。

<物理学>太陽電池を用いた実験、光の波長を測定する仕組みの学習、原子の発する光の波長の測定、光を用いたナノワールドの観察などによって、光の性質や光を用いた技術について学びます。

<化学>光を吸収することで色を作り出す色素に関連した講義と実験（色素の構造的特徴、色素の合成やそれを使った太陽電池の作成など）によって、光と色の関係、光と物質の関係を学びます。

【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3 つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボ A では、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスを行い、2 回目以降は 3 つのグループに分かれて、ボアソナードタワーにある 3 つの実験室（サイエンスルーム）を 4 週あるいは 5 週単位で順次移動し、受講します。各分野の終了後に課題に対して講評します。

このクラスは初めに「生物学」から学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 週	講義概要	講義の概要説明を行う。
第 2 週	光合成のしくみ（生物学）	光合成のしくみを学び、葉の微細構造を観察する。
第 3 週	植物と光（生物学）	発芽、光周性、光屈性など、光合成以外の植物と光の関係を実験やビデオを介して理解する。
第 4 週	視覚のしくみ -1-（生物学）	眼でものが見えるしくみを学び、盲斑の位置と形を測定する。
第 5 週	視覚のしくみ -2-（生物学）	盲斑の位置と形を測定し（続き）、その結果をレポートにまとめる。
第 6 週	光の性質（物理学）	光の性質や、それらを調べる方法、色との関係について学ぶ。

第 7 週	太陽電池の実験（物理学）	太陽電池の発電能力について調べ、光のエネルギーが電気エネルギーに変換する仕組みを学ぶ。
第 8 週	光スペクトルの観察（物理学）	簡易分光器を用いて白熱灯、LED、蛍光灯、水素ランプなどが放つ光の波長を測定し、発光のメカニズムについて学ぶ。
第 9 週	ナノワールドの観察（物理学）	CD や DVD 表面の構造をレーザー光を用いて調べ、目に見えない微細な構造を知る仕組みについて学ぶ。
第 10 週	光の技術（物理学）	光の最先端技術、光を用いたマイクロ世界や宇宙の観察・観測の最近の成果、オーロラなど光の現象について学ぶ。
第 11 週	物質と光の相互作用（化学）	色素がなぜ色を持つのか、光と物質の関係について学ぶ。
第 12 週	分子模型を使った分子組み立て（化学）	色のある分子と色のない分子を模型を使って組み立てることで構造上の違いを理解する。
第 13 週	色素の抽出と合成（化学）	天然色素からの色素の抽出と色素の合成を実験で行う。
第 14 週	色素増感太陽電池の評価（化学）	実際に数種の色素を使って太陽電池を作成し、色素の違いによる効率の評価を実験で確かめる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、授業内で出される課題の対応や実験の後のレポートの作成など、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】

適宜提示します。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で 1/3 とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

実験を自ら行うことに不安を感じる人もいますが、心配は必要ありません。ティーチングアシスタント（大学院生）のサポートもあり、実験手順の通りに進めれば、実験に不慣れな学生でも容易にできる実験内容になっています。

【Outline (in English)】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces familiar natural phenomena especially light as a common theme in each field. By learning the three fields in one semester, the students will understand the differences between each field and will learn the scientific viewpoint. The submission of a report is required after each experiment, and a grade point is evaluated from scores of those reports. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

NAS100LA

サイエンス・ラボ B

2017 年度以降入学者

石塚 芽具美、田中 浩輔、鈴木 裕武

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 4/Tue.4

単位数：2 単位

定員制（48 名）/2015 年度までに「自然総合講座 B」の単位を修得済みの場合、履修不可

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な 3 分野の実験を 3 人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボ B は科学史から題材をもとめ、生物学、物理学、化学それぞれの分野で転機となったテーマに関連した内容で講義と実験が構成されています。高校までに習った定説がどのようにして成立してきたのか、歴史的な背景とともに学ぶことで、3 つの分野それぞれの科学的なものの見方を学びます。

<生物学>メンデルによる遺伝子の発見、遺伝子の本体が DNA であることの証明、それ以後の DNA 学発展の歴史を学びます。これらを理解する上で必須となる染色体の観察や DNA の抽出実験を行います。

<物理学>電気、熱、光などいろいろな形態で存在し、現代社会の重要な課題の一つであるエネルギーについて、科学史上の重要な実験を通じて体験的に学びます。

<化学>古代からの物質観の変遷を振り返りながら、燃焼反応の正しい理解がどのようになされたのか、その後の酸化還元反応の理解と電池との関連を学びます。

【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3 つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボ B では、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスを行い、2 回目以降は 3 つのグループに分かれて、ポアソナードタワーにある 3 つの実験室（サイエンスルーム）を 4 週あるいは 5 週単位で順次移動し、受講します。各分野の終了後に課題に対して講評します。

このクラスは初めに「生物学」から学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 週	講義概要	講義の概要説明を行う。
第 2 週	細胞と染色体（生物学）	細胞の構造と機能を学び、遺伝の基礎となる染色体を観察する。
第 3 週	メンデル遺伝学から分子遺伝学へ（生物学）	遺伝子の本体が DNA であると証明されるまでの歴史を学ぶ。
第 4 週	DNA の抽出（生物学）	DNA の構造と機能を学んだ上で、DNA の抽出実験を行う。
第 5 週	現代の DNA 学（生物学）	親子鑑定、犯罪捜査、遺伝子診断など応用も含めた DNA 研究の現状を知る。

第 6 週	エネルギーとは（物理学）	エネルギーとは何か、エネルギーの変換と保存に関する基礎事項を学ぶ。
第 7 週	電気エネルギーと熱エネルギー（物理学）	電気を用いて熱エネルギーを発生させ、その変換と保存を調べる。
第 8 週	落体実験（物理学）	物体が重力により落下するときの様子を調べ、そこで起こっているエネルギーの変換と保存について調べる。
第 9 週	LED の実験（物理学）	LED を用いて、LED を発光させるための電気エネルギーとその色との関係について調べる。光の粒子性という、現代物理学の一端に触れる。
第 10 週	燃焼から見る反応理解の変遷（化学）	物質観、燃焼理論、電気の歴史と関係性を学ぶ
第 11 週	銅の反応実験（化学）	銅の各種反応を観察し、化学反応で元素変換ができないことを理解する。
第 12 週	マグネシウム金属の燃焼実験（化学）	燃焼によって消費された酸素量と金属灰の重量増の定量的な関係を学ぶ。
第 13 週	酸化還元反応と電池の仕組み（化学）	電気の歴史を振り返りながら、化学電池の仕組みを学ぶ。
第 14 週	燃料電池の発電効率の測定（化学）	燃料電池を使って酸化に伴う電子の移動を実験で学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、授業内で出される課題の対応や実験の後のレポートの作成など、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】

参考書は指定していません。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で 1/3 とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

実験を自ら行うことに不安を感じる人もいますが、心配は必要ありません。ティーチングアシスタント（大学院生）のサポートもあり、実験手順の通りに進めれば、実験に不慣れな学生でも容易にできる実験内容になっています。

高校で未履修の人が多い物理のレポート作成も難しはありません。物理では授業で使うワークシートがそのままレポートになるので、授業に参加すれば誰でも容易にレポートを完成させることができます。

【Outline (in English)】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces history of science containing turning point for each field. By learning established theory and historical background, the students will learn the scientific viewpoint of the three fields. The submission of a report is required after each experiment, and a grade point is evaluated from scores of those reports. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

NAS100LA

サイエンス・ラボ A

2017 年度以降入学者

向井 知大、川上 裕司、鈴木 裕武

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 1/Thu.1

単位数：2 単位

定員制（48 名）/2015 年度までに「自然総合講座 A」の単位を修得済みの場合、履修不可

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な 3 分野の実験を 3 人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボ A は身の回りの科学、とりわけ光を共通のテーマに据えて、生物学、物理学、化学それぞれの分野で下記の内容の講義と実験から構成されています。3 つの分野を同時に学ぶことで、それぞれの分野の違いにも触れ、科学的なものの見方を学びます。

<生物学>前半は、植物が行う光合成のしくみや、光によって制御される発芽のしくみなどを実験やビデオを通じて学びます。後半は、動物と光の様々な関係（光走性、概日リズムなど）を学んだ上で、人間の視覚のしくみを実験を通じて理解します。

<物理学>太陽電池を用いた実験、光の波長を測定する仕組みの学習、原子の発する光の波長の測定、光を用いたナノワールドの観察などによって、光の性質や光を用いた技術について学びます。

<化学>光を吸収することで色を作り出す色素に関連した講義と実験（色素の構造的特徴、色素の合成やそれを使った太陽電池の作成など）によって、光と色の関係、光と物質の関係を学びます。

【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3 つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボ A では、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスを行い、2 回目以降は 3 つのグループに分かれて、ボアソナードタワーにある 3 つの実験室（サイエンスルーム）を 4 週あるいは 5 週単位で順次移動し、受講します。各分野の終了後に課題に対して講評します。

このクラスは初めに「生物学」から学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 週	講義概要	講義の概要説明を行う。
第 2 週	光合成のしくみ（生物学）	光合成のしくみを学び、葉の微細構造を観察する。
第 3 週	植物と光（生物学）	発芽、光周性、光屈性など、光合成以外の植物と光の関係を実験やビデオを介して理解する。
第 4 週	視覚のしくみ -1-（生物学）	眼でものが見えるしくみを学び、盲斑の位置と形を測定する。
第 5 週	視覚のしくみ -2-（生物学）	盲斑の位置と形を測定し（続き）、その結果をレポートにまとめる。
第 6 週	光の性質（物理学）	光の性質や、それらを調べる方法、色との関係について学ぶ。

第 7 週	太陽電池の実験（物理学）	太陽電池の発電能力について調べ、光のエネルギーが電気エネルギーに変換する仕組みを学ぶ。
第 8 週	光スペクトルの観察（物理学）	簡易分光器を用いて白熱灯、LED、蛍光灯、水素ランプなどが放つ光の波長を測定し、発光のメカニズムについて学ぶ。
第 9 週	ナノワールドの観察（物理学）	CD や DVD 表面の構造をレーザー光を用いて調べ、目に見えない微細な構造を知る仕組みについて学ぶ。
第 10 週	光の技術（物理学）	光の最先端技術、光を用いたマイクロ世界や宇宙の観察・観測の最近の成果、オーロラなど光の現象について学ぶ。
第 11 週	物質と光の相互作用（化学）	色素がなぜ色を持つのか、光と物質の関係について学ぶ。
第 12 週	分子模型を使った分子組み立て（化学）	色のある分子と色のない分子を模型を使って組み立てることで構造上の違いを理解する。
第 13 週	色素の抽出と合成（化学）	天然色素からの色素の抽出と色素の合成を実験で行う。
第 14 週	色素増感太陽電池の評価（化学）	実際に数種の色素を使って太陽電池を作成し、色素の違いによる効率の評価を実験で確かめる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、授業内で出される課題の対応や実験の後のレポートの作成など、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】

参考書は指定していません。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で 1/3 とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

実験を自ら行うことに不安を感じる人もいますが、心配は必要ありません。ティーチングアシスタント（大学院生）のサポートもあり、実験手順の通りに進めれば、実験に不慣れな学生でも容易にできる実験内容になっています。

高校で未履修の人が多い物理のレポート作成も難しくはありません。物理では授業で使うワークシートがそのままレポートになるので、授業に参加すれば誰でも容易にレポートを完成させることができます。

【Outline (in English)】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces familiar natural phenomena especially light as a common theme in each field. By learning the three fields in one semester, the students will understand the differences between each field and will learn the scientific viewpoint. The submission of a report is required after each experiment, and a grade point is evaluated from scores of those reports. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

NAS100LA

サイエンス・ラボ B

2017 年度以降入学者

向井 知大、川上 裕司、鈴木 裕武

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 1/Thu.1

単位数：2 単位

定員制（48 名）/2015 年度までに「自然総合講座 B」の単位を修得済みの場合、履修不可

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な 3 分野の実験を 3 人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボ B は科学史から題材をもとめ、生物学、物理学、化学それぞれの分野で転機となったテーマに関連した内容で講義と実験が構成されています。高校までに習った定説がどのようにして成立してきたのか、歴史的な背景とともに学ぶことで、3 つの分野それぞれの科学的なものの見方を学びます。

<生物学>メンデルによる遺伝子の発見、遺伝子の本体が DNA であることの証明、それ以後の DNA 学発展の歴史を学びます。これらを理解する上で必須となる染色体の観察や DNA の抽出実験を行います。

<物理学>電気、熱、光などいろいろな形態で存在し、現代社会の重要な課題の一つであるエネルギーについて、科学史上の重要な実験を通じて体験的に学びます。

<化学>古代からの物質観の変遷を振り返りながら、燃焼反応の正しい理解がどのようになされたのか、その後の酸化還元反応の理解と電池との関連を学びます。

【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3 つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボ B では、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスを行い、2 回目以降は 3 つのグループに分かれて、ポアソナードタワーにある 3 つの実験室（サイエンスルーム）を 4 週あるいは 5 週単位で順次移動し、受講します。各分野の終了後に課題に対して講評します。

このクラスは初めに「生物学」から学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 週	講義概要	講義の概要説明を行う。
第 2 週	細胞と染色体（生物学）	細胞の構造と機能を学び、遺伝子の基礎となる染色体を観察する。
第 3 週	メンデル遺伝学から分子遺伝学へ（生物学）	遺伝子の本体が DNA であると証明されるまでの歴史を学ぶ。
第 4 週	DNA の抽出（生物学）	DNA の構造と機能を学んだ上で、DNA の抽出実験を行う。
第 5 週	現代の DNA 学（生物学）	親子鑑定、犯罪捜査、遺伝子診断など応用も含めた DNA 研究の現状を知る。

第 6 週	エネルギーとは（物理学）	エネルギーとは何か、エネルギーの変換と保存に関する基礎事項を学ぶ。
第 7 週	電気エネルギーと熱エネルギー（物理学）	電気を用いて熱エネルギーを発生させ、その変換と保存を調べる。
第 8 週	落体実験（物理学）	物体が重力により落下するときの様子を調べ、そこで起こっているエネルギーの変換と保存について調べる。
第 9 週	LED の実験（物理学）	LED を用いて、LED を発光させるための電気エネルギーとその色との関係について調べる。光の粒子性という、現代物理学の一端に触れる。
第 10 週	燃焼から見る反応理解の変遷（化学）	物質観、燃焼理論、電気の歴史と関係性を学ぶ
第 11 週	銅の反応実験（化学）	銅の各種反応を観察し、化学反応で元素変換ができないことを理解する。
第 12 週	マグネシウム金属の燃焼実験（化学）	燃焼によって消費された酸素量と金属灰の重量増の定量的な関係を学ぶ。
第 13 週	酸化還元反応と電池の仕組み（化学）	電気の歴史を振り返りながら、化学電池の仕組みを学ぶ。
第 14 週	燃料電池の発電効率の測定（化学）	燃料電池を使って酸化に伴う電子の移動を実験で学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、授業内で出される課題の対応や実験の後のレポートの作成など、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】

参考書は指定していません。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で 1/3 とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

実験を自ら行うことに不安を感じる人もいますが、心配は必要ありません。ティーチングアシスタント（大学院生）のサポートもあり、実験手順の通りに進めれば、実験に不慣れな学生でも容易にできる実験内容になっています。

高校で未履修の人が多い物理のレポート作成も難しくはありません。物理では授業で使うワークシートがそのままレポートになるので、授業に参加すれば誰でも容易にレポートを完成させることができます。

【Outline (in English)】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces history of science containing turning point for each field. By learning established theory and historical background, the students will learn the scientific viewpoint of the three fields. The submission of a report is required after each experiment, and a grade point is evaluated from scores of those reports. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

NAS100LA

サイエンス・ラボ A

2017 年度以降入学者

向井 知大、川上 裕司、鈴木 裕武

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 2/Thu.2

単位数：2 単位

定員制（48 名）/2015 年度までに「自然総合講座 A」の単位を修得済みの場合、履修不可

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な 3 分野の実験を 3 人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボ A は身の回りの科学、とりわけ光を共通のテーマに据えて、生物学、物理学、化学それぞれの分野で下記の内容の講義と実験から構成されています。3 つの分野を同時に学ぶことで、それぞれの分野の違いにも触れ、科学的なものの見方を学びます。

<生物学>前半は、植物が行う光合成のしくみや、光によって制御される発芽のしくみなどを実験やビデオを通じて学びます。後半は、動物と光の様々な関係（光走性、概日リズムなど）を学んだ上で、人間の視覚のしくみを実験を通じて理解します。

<物理学>太陽電池を用いた実験、光の波長を測定する仕組みの学習、原子の発する光の波長の測定、光を用いたナノワールドの観察などによって、光の性質や光を用いた技術について学びます。

<化学>光を吸収することで色を作り出す色素に関連した講義と実験（色素の構造的特徴、色素の合成やそれを使った太陽電池の作成など）によって、光と色の関係、光と物質の関係を学びます。

【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3 つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボ A では、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスを行い、2 回目以降は 3 つのグループに分かれて、ボアソナードタワーにある 3 つの実験室（サイエンスルーム）を 4 週あるいは 5 週単位で順次移動し、受講します。各分野の終了後に課題に対して講評します。

このクラスは初めに「生物学」から学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 週	講義概要	講義の概要説明を行う。
第 2 週	光合成のしくみ（生物学）	光合成のしくみを学び、葉の微細構造を観察する。
第 3 週	植物と光（生物学）	発芽、光周性、光屈性など、光合成以外の植物と光の関係を実験やビデオを介して理解する。
第 4 週	視覚のしくみ -1-（生物学）	眼でものが見えるしくみを学び、盲斑の位置と形を測定する。
第 5 週	視覚のしくみ -2-（生物学）	盲斑の位置と形を測定し（続き）、その結果をレポートにまとめる。
第 6 週	光の性質（物理学）	光の性質や、それらを調べる方法、色との関係について学ぶ。

第 7 週	太陽電池の実験（物理学）	太陽電池の発電能力について調べ、光のエネルギーが電気エネルギーに変換する仕組みを学ぶ。
第 8 週	光スペクトルの観察（物理学）	簡易分光器を用いて白熱灯、LED、蛍光灯、水素ランプなどが放つ光の波長を測定し、発光のメカニズムについて学ぶ。
第 9 週	ナノワールドの観察（物理学）	CD や DVD 表面の構造をレーザー光を用いて調べ、目に見えない微細な構造を知る仕組みについて学ぶ。
第 10 週	光の技術（物理学）	光の最先端技術、光を用いたマイクロ世界や宇宙の観察・観測の最近の成果、オーロラなど光の現象について学ぶ。
第 11 週	物質と光の相互作用（化学）	色素がなぜ色を持つのか、光と物質の関係について学ぶ。
第 12 週	分子模型を使った分子組み立て（化学）	色のある分子と色のない分子を模型を使って組み立てることで構造上の違いを理解する。
第 13 週	色素の抽出と合成（化学）	天然色素からの色素の抽出と色素の合成を実験で行う。
第 14 週	色素増感太陽電池の評価（化学）	実際に数種の色素を使って太陽電池を作成し、色素の違いによる効率の評価を実験で確かめる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、授業内で出される課題の対応や実験の後のレポートの作成など、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】

参考書は指定していません。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で 1/3 とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

実験を自ら行うことに不安を感じる人もいますが、心配は必要ありません。ティーチングアシスタント（大学院生）のサポートもあり、実験手順の通りに進めれば、実験に不慣れな学生でも容易にできる実験内容になっています。

高校で未履修の人が多い物理のレポート作成も難しくはありません。物理では授業で使うワークシートがそのままレポートになるので、授業に参加すれば誰でも容易にレポートを完成させることができます。

【Outline (in English)】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces familiar natural phenomena especially light as a common theme in each field. By learning the three fields in one semester, the students will understand the differences between each field and will learn the scientific viewpoint. The submission of a report is required after each experiment, and a grade point is evaluated from scores of those reports. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

NAS100LA

サイエンス・ラボ B

2017 年度以降入学者

向井 知大、川上 裕司、鈴木 裕武

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 2/Thu.2

単位数：2 単位

定員制（48 名）/2015 年度までに「自然総合講座 B」の単位を修得済みの場合、履修不可

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な 3 分野の実験を 3 人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボ B は科学史から題材をもとめ、生物学、物理学、化学それぞれの分野で転機となったテーマに関連した内容で講義と実験が構成されています。高校までに習った定説がどのようにして成立してきたのか、歴史的な背景とともに学ぶことで、3 つの分野それぞれの科学的なものの見方を学びます。

<生物学>メンデルによる遺伝子の発見、遺伝子の本体が DNA であることの証明、それ以後の DNA 学発展の歴史を学びます。これらを理解する上で必須となる染色体の観察や DNA の抽出実験を行います。

<物理学>電気、熱、光などいろいろな形態で存在し、現代社会の重要な課題の一つであるエネルギーについて、科学史上の重要な実験を通じて体験的に学びます。

<化学>古代からの物質観の変遷を振り返りながら、燃焼反応の正しい理解がどのようになされたのか、その後の酸化還元反応の理解と電池との関連を学びます。

【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3 つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボ B では、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスを行い、2 回目以降は 3 つのグループに分かれて、ポアソナードタワーにある 3 つの実験室（サイエンスルーム）を 4 週あるいは 5 週単位で順次移動し、受講します。各分野の終了後に課題に対して講評します。

このクラスは初めに「生物学」から学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 週	講義概要	講義の概要説明を行う。
第 2 週	細胞と染色体（生物学）	細胞の構造と機能を学び、遺伝の基礎となる染色体を観察する。
第 3 週	メンデル遺伝学から分子遺伝学へ（生物学）	遺伝子の本体が DNA であると証明されるまでの歴史を学ぶ。
第 4 週	DNA の抽出（生物学）	DNA の構造と機能を学んだ上で、DNA の抽出実験を行う。
第 5 週	現代の DNA 学（生物学）	親子鑑定、犯罪捜査、遺伝子診断など応用も含めた DNA 研究の現状を知る。

第 6 週	エネルギーとは（物理学）	エネルギーとは何か、エネルギーの変換と保存に関する基礎事項を学ぶ。
第 7 週	電気エネルギーと熱エネルギー（物理学）	電気を用いて熱エネルギーを発生させ、その変換と保存を調べる。
第 8 週	落体実験（物理学）	物体が重力により落下するときの様子を調べ、そこで起こっているエネルギーの変換と保存について調べる。
第 9 週	LED の実験（物理学）	LED を用いて、LED を発光させるための電気エネルギーとその色との関係について調べる。光の粒子性という、現代物理学の一端に触れる。
第 10 週	燃焼から見る反応理解の変遷（化学）	物質観、燃焼理論、電気の歴史と関係性を学ぶ
第 11 週	銅の反応実験（化学）	銅の各種反応を観察し、化学反応で元素変換ができないことを理解する。
第 12 週	マグネシウム金属の燃焼実験（化学）	燃焼によって消費された酸素量と金属灰の重量増の定量的な関係を学ぶ。
第 13 週	酸化還元反応と電池の仕組み（化学）	電気の歴史を振り返りながら、化学電池の仕組みを学ぶ。
第 14 週	燃料電池の発電効率の測定（化学）	燃料電池を使って酸化に伴う電子の移動を実験で学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、授業内で出される課題の対応や実験の後のレポートの作成など、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】

参考書は指定していません。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で 1/3 とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

実験を自ら行うことに不安を感じる人もいますが、心配は必要ありません。ティーチングアシスタント（大学院生）のサポートもあり、実験手順の通りに進めれば、実験に不慣れな学生でも容易にできる実験内容になっています。

高校で未履修の人が多い物理のレポート作成も難しくはありません。物理では授業で使うワークシートがそのままレポートになるので、授業に参加すれば誰でも容易にレポートを完成させることができます。

【Outline (in English)】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces history of science containing turning point for each field. By learning established theory and historical background, the students will learn the scientific viewpoint of the three fields. The submission of a report is required after each experiment, and a grade point is evaluated from scores of those reports. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

NAS100LA

サイエンス・ラボ A

2017 年度以降入学者

黒木 菜保子、島野 智之、柳瀬 宏太

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 3/Thu.3

単位数：2 単位

定員制（48 名）/2015 年度までに「自然総合講座 A」の単位を修得済みの場合、履修不可

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な 3 分野の実験を 3 人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボ A は身の回りの科学、とりわけ光を共通のテーマに据えて、生物学、物理学、化学それぞれの分野で下記の内容の講義と実験から構成されています。3 つの分野を同時に学ぶことで、それぞれの分野の違いにも触れ、科学的なものの見方を学びます。

<生物学>前半は、植物が行う光合成のしくみや、光によって制御される発芽のしくみなどを実験やビデオを通じて学びます。後半は、動物と光の様々な関係（光走性、概日リズムなど）を学んだ上で、人間の視覚のしくみを実験を通じて理解します。

<物理学>太陽電池を用いた実験、光の波長を測定する仕組みの学習、原子の発する光の波長の測定、光を用いたナノワールドの観察などによって、光の性質や光を用いた技術について学びます。

<化学>光を吸収することで色を作り出す色素に関連した講義と実験（色素の構造的特徴、色素の合成やそれを使った太陽電池の作成など）によって、光と色の関係、光と物質の関係を学びます。

【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3 つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボ A では、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスを行い、2 回目以降は 3 つのグループに分かれて、ボアソナードタワーにある 3 つの実験室（サイエンスルーム）を 4 週あるいは 5 週単位で順次移動し、受講します。各分野の終了後に課題に対して講評します。

このクラスは初めに「生物学」から学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 週	講義概要	講義の概要説明を行う。
第 2 週	光合成のしくみ（生物学）	光合成のしくみを学び、葉の微細構造を観察する。
第 3 週	植物と光（生物学）	発芽、光周性、光屈性など、光合成以外の植物と光の関係を実験やビデオを介して理解する。
第 4 週	視覚のしくみ -1-（生物学）	眼でものが見えるしくみを学び、盲斑の位置と形を測定する。
第 5 週	視覚のしくみ -2-（生物学）	盲斑の位置と形を測定し（続き）、その結果をレポートにまとめる。
第 6 週	光の性質（物理学）	光の性質や、それらを調べる方法、色との関係について学ぶ。

第 7 週	太陽電池の実験（物理学）	太陽電池の発電能力について調べ、光のエネルギーが電気エネルギーに変換する仕組みを学ぶ。
第 8 週	光スペクトルの観察（物理学）	簡易分光器を用いて白熱灯、LED、蛍光灯、水素ランプなどが放つ光の波長を測定し、発光のメカニズムについて学ぶ。
第 9 週	ナノワールドの観察（物理学）	CD や DVD 表面の構造をレーザー光を用いて調べ、目に見えない微細な構造を知る仕組みについて学ぶ。
第 10 週	光の技術（物理学）	光の最先端技術、光を用いたマイクロ世界や宇宙の観察・観測の最近の成果、オーロラなど光の現象について学ぶ。
第 11 週	物質と光の相互作用（化学）	色素がなぜ色を持つのか、光と物質の関係について学ぶ。
第 12 週	分子模型を使った分子組み立て（化学）	色のある分子と色のない分子を模型を使って組み立てることで構造上の違いを理解する。
第 13 週	色素の抽出と合成（化学）	天然色素からの色素の抽出と色素の合成を実験で行う。
第 14 週	色素増感太陽電池の評価（化学）	実際に数種の色素を使って太陽電池を作成し、色素の違いによる効率の評価を実験で確かめる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、授業内で出される課題の対応や実験の後のレポートの作成など、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】

指定はありません。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で 1/3 とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

実験を自ら行うことに不安を感じる人もいますが、心配は必要ありません。ティーチングアシスタント（大学院生）のサポートもあり、実験手順の通りに進めれば、実験に不慣れな学生でも容易にできる実験内容になっています。

【Outline (in English)】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces familiar natural phenomena especially light as a common theme in each field. By learning the three fields in one semester, the students will understand the differences between each field and will learn the scientific viewpoint. The submission of a report is required after each experiment, and a grade point is evaluated from scores of those reports. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

NAS100LA

サイエンス・ラボ B

2017 年度以降入学者

黒木 菜保子、島野 智之、柳瀬 宏太

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 3/Thu.3

単位数：2 単位

定員制（48 名）/2015 年度までに「自然総合講座 B」の単位を修得済みの場合、履修不可

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な 3 分野の実験を 3 人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボ B は科学史から題材をもとめ、生物学、物理学、化学それぞれの分野で転機となったテーマに関連した内容で講義と実験が構成されています。高校までに習った定説がどのようにして成立してきたのか、歴史的な背景とともに学ぶことで、3 つの分野それぞれの科学的なものの見方を学びます。

<生物学>メンデルによる遺伝子の発見、遺伝子の本体が DNA であることの証明、それ以後の DNA 学発展の歴史を学びます。これらを理解する上で必須となる染色体の観察や DNA の抽出実験を行います。

<物理学>電気、熱、光などいろいろな形態で存在し、現代社会の重要な課題の一つであるエネルギーについて、科学史上の重要な実験を通じて体験的に学びます。

<化学>古代からの物質観の変遷を振り返りながら、燃焼反応の正しい理解がどのようになされたのか、その後の酸化還元反応の理解と電池との関連を学びます。

【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3 つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボ B では、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスを行い、2 回目以降は 3 つのグループに分かれて、ポアソナードタワーにある 3 つの実験室（サイエンスルーム）を 4 週あるいは 5 週単位で順次移動し、受講します。各分野の終了後に課題に対して講評します。

このクラスは初めに「生物学」から学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 週	講義概要	講義の概要説明を行う。
第 2 週	細胞と染色体（生物学）	細胞の構造と機能を学び、遺伝子の基礎となる染色体を観察する。
第 3 週	メンデル遺伝学から分子遺伝学へ（生物学）	遺伝子の本体が DNA であると証明されるまでの歴史を学ぶ。
第 4 週	DNA の抽出（生物学）	DNA の構造と機能を学んだ上で、DNA の抽出実験を行う。
第 5 週	現代の DNA 学（生物学）	親子鑑定、犯罪捜査、遺伝子診断など応用も含めた DNA 研究の現状を知る。

第 6 週	エネルギーとは（物理学）	エネルギーとは何か、エネルギーの変換と保存に関する基礎事項を学ぶ。
第 7 週	電気エネルギーと熱エネルギー（物理学）	電気を用いて熱エネルギーを発生させ、その変換と保存を調べる。
第 8 週	落体実験（物理学）	物体が重力により落下するときの様子を調べ、そこで起こっているエネルギーの変換と保存について調べる。
第 9 週	LED の実験（物理学）	LED を用いて、LED を発光させるための電気エネルギーとその色との関係について調べる。光の粒子性という、現代物理学の一端に触れる。
第 10 週	燃焼から見る反応理解の変遷（化学）	物質観、燃焼理論、電気の歴史と関係性を学ぶ
第 11 週	銅の反応実験（化学）	銅の各種反応を観察し、化学反応で元素変換ができないことを理解する。
第 12 週	マグネシウム金属の燃焼実験（化学）	燃焼によって消費された酸素量と金属灰の重量増の定量的な関係を学ぶ。
第 13 週	酸化還元反応と電池の仕組み（化学）	電気の歴史を振り返りながら、化学電池の仕組みを学ぶ。
第 14 週	燃料電池の発電効率の測定（化学）	燃料電池を使って酸化に伴う電子の移動を実験で学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、授業内で出される課題の対応や実験の後のレポートの作成など、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】

指定はありません。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で 1/3 とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

実験を自ら行うことに不安を感じる人もいますが、心配は必要ありません。ティーチングアシスタント（大学院生）のサポートもあり、実験手順の通りに進めれば、実験に不慣れな学生でも容易にできる実験内容になっています。

【Outline (in English)】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces history of science containing turning point for each field. By learning established theory and historical background, the students will learn the scientific viewpoint of the three fields. The submission of a report is required after each experiment, and a grade point is evaluated from scores of those reports. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

NAS100LA

サイエンス・ラボ A

2017 年度以降入学者

黒木 菜保子、島野 智之、柳瀬 宏太

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 4/Thu.4

単位数：2 単位

定員制（48 名）/2015 年度までに「自然総合講座 A」の単位を修得済みの場合、履修不可

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な 3 分野の実験を 3 人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボ A は身の回りの科学、とりわけ光を共通のテーマに据えて、生物学、物理学、化学それぞれの分野で下記の内容の講義と実験から構成されています。3 つの分野を同時に学ぶことで、それぞれの分野の違いにも触れ、科学的なものの見方を学びます。

<生物学>前半は、植物が行う光合成のしくみや、光によって制御される発芽のしくみなどを実験やビデオを通じて学びます。後半は、動物と光の様々な関係（光走性、概日リズムなど）を学んだ上で、人間の視覚のしくみを実験を通じて理解します。

<物理学>太陽電池を用いた実験、光の波長を測定する仕組みの学習、原子の発する光の波長の測定、光を用いたナノワールドの観察などによって、光の性質や光を用いた技術について学びます。

<化学>光を吸収することで色を作り出す色素に関連した講義と実験（色素の構造的特徴、色素の合成やそれを使った太陽電池の作成など）によって、光と色の関係、光と物質の関係を学びます。

【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3 つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボ A では、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスを行い、2 回目以降は 3 つのグループに分かれて、ボアソナードタワーにある 3 つの実験室（サイエンスルーム）を 4 週あるいは 5 週単位で順次移動し、受講します。各分野の終了後に課題に対して講評します。

このクラスは初めに「生物学」から学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 週	講義概要	講義の概要説明を行う。
第 2 週	光合成のしくみ（生物学）	光合成のしくみを学び、葉の微細構造を観察する。
第 3 週	植物と光（生物学）	発芽、光周性、光屈性など、光合成以外の植物と光の関係を実験やビデオを介して理解する。
第 4 週	視覚のしくみ -1-（生物学）	眼でものが見えるしくみを学び、盲斑の位置と形を測定する。
第 5 週	視覚のしくみ -2-（生物学）	盲斑の位置と形を測定し（続き）、その結果をレポートにまとめる。
第 6 週	光の性質（物理学）	光の性質や、それらを調べる方法、色との関係について学ぶ。

第 7 週	太陽電池の実験（物理学）	太陽電池の発電能力について調べ、光のエネルギーが電気エネルギーに変換する仕組みを学ぶ。
第 8 週	光スペクトルの観察（物理学）	簡易分光器を用いて白熱灯、LED、蛍光灯、水素ランプなどが放つ光の波長を測定し、発光のメカニズムについて学ぶ。
第 9 週	ナノワールドの観察（物理学）	CD や DVD 表面の構造をレーザー光を用いて調べ、目に見えない微細な構造を知る仕組みについて学ぶ。
第 10 週	光の技術（物理学）	光の最先端技術、光を用いたマイクロ世界や宇宙の観察・観測の最近の成果、オーロラなど光の現象について学ぶ。
第 11 週	物質と光の相互作用（化学）	色素がなぜ色を持つのか、光と物質の関係について学ぶ。
第 12 週	分子模型を使った分子組み立て（化学）	色のある分子と色のない分子を模型を使って組み立てることで構造上の違いを理解する。
第 13 週	色素の抽出と合成（化学）	天然色素からの色素の抽出と色素の合成を実験で行う。
第 14 週	色素増感太陽電池の評価（化学）	実際に数種の色素を使って太陽電池を作成し、色素の違いによる効率の評価を実験で確かめる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、授業内で出される課題の対応や実験の後のレポートの作成など、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】

指定はありません。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で 1/3 とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

実験を自ら行うことに不安を感じる人もいますが、心配は必要ありません。ティーチングアシスタント（大学院生）のサポートもあり、実験手順の通りに進めれば、実験に不慣れな学生でも容易にできる実験内容になっています。

【Outline (in English)】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces familiar natural phenomena especially light as a common theme in each field. By learning the three fields in one semester, the students will understand the differences between each field and will learn the scientific viewpoint. The submission of a report is required after each experiment, and a grade point is evaluated from scores of those reports. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

NAS100LA

サイエンス・ラボ B

2017 年度以降入学者

黒木 菜保子、島野 智之、柳瀬 宏太

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 4/Thu.4

単位数：2 単位

定員制（48 名）/2015 年度までに「自然総合講座 B」の単位を修得済みの場合、履修不可

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な 3 分野の実験を 3 人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボ B は科学史から題材をもとめ、生物学、物理学、化学それぞれの分野で転機となったテーマに関連した内容で講義と実験が構成されています。高校までに習った定説がどのようにして成立してきたのか、歴史的な背景とともに学ぶことで、3 つの分野それぞれの科学的なものの見方を学びます。

<生物学>メンデルによる遺伝子の発見、遺伝子の本体が DNA であることの証明、それ以後の DNA 学発展の歴史を学びます。これらを理解する上で必須となる染色体の観察や DNA の抽出実験を行います。

<物理学>電気、熱、光などいろいろな形態で存在し、現代社会の重要な課題の一つであるエネルギーについて、科学史上の重要な実験を通じて体験的に学びます。

<化学>古代からの物質観の変遷を振り返りながら、燃焼反応の正しい理解がどのようになされたのか、その後の酸化還元反応の理解と電池との関連を学びます。

【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3 つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボ B では、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスを行い、2 回目以降は 3 つのグループに分かれて、ポアソナードタワーにある 3 つの実験室（サイエンスルーム）を 4 週あるいは 5 週単位で順次移動し、受講します。各分野の終了後に課題に対して講評します。

このクラスは初めに「生物学」から学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 週	講義概要	講義の概要説明を行う。
第 2 週	細胞と染色体（生物学）	細胞の構造と機能を学び、遺伝の基礎となる染色体を観察する。
第 3 週	メンデル遺伝学から分子遺伝学へ（生物学）	遺伝子の本体が DNA であると証明されるまでの歴史を学ぶ。
第 4 週	DNA の抽出（生物学）	DNA の構造と機能を学んだ上で、DNA の抽出実験を行う。
第 5 週	現代の DNA 学（生物学）	親子鑑定、犯罪捜査、遺伝子診断など応用も含めた DNA 研究の現状を知る。

第 6 週	エネルギーとは（物理学）	エネルギーとは何か、エネルギーの変換と保存に関する基礎事項を学ぶ。
第 7 週	電気エネルギーと熱エネルギー（物理学）	電気を用いて熱エネルギーを発生させ、その変換と保存を調べる。
第 8 週	落体実験（物理学）	物体が重力により落下するときの様子を調べ、そこで起こっているエネルギーの変換と保存について調べる。
第 9 週	LED の実験（物理学）	LED を用いて、LED を発光させるための電気エネルギーとその色との関係について調べる。光の粒子性という、現代物理学の一端に触れる。
第 10 週	燃焼から見る反応理解の変遷（化学）	物質観、燃焼理論、電気の歴史と関係性を学ぶ
第 11 週	銅の反応実験（化学）	銅の各種反応を観察し、化学反応で元素変換ができないことを理解する。
第 12 週	マグネシウム金属の燃焼実験（化学）	燃焼によって消費された酸素量と金属灰の重量増の定量的な関係を学ぶ。
第 13 週	酸化還元反応と電池の仕組み（化学）	電気の歴史を振り返りながら、化学電池の仕組みを学ぶ。
第 14 週	燃料電池の発電効率の測定（化学）	燃料電池を使って酸化に伴う電子の移動を実験で学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、授業内で出される課題の対応や実験の後のレポートの作成など、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】

指定はありません。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で 1/3 とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

実験を自ら行うことに不安を感じる人もいますが、心配は必要ありません。ティーチングアシスタント（大学院生）のサポートもあり、実験手順の通りに進めれば、実験に不慣れな学生でも容易にできる実験内容になっています。

【Outline (in English)】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces history of science containing turning point for each field. By learning established theory and historical background, the students will learn the scientific viewpoint of the three fields. The submission of a report is required after each experiment, and a grade point is evaluated from scores of those reports. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

NAS100LA

サイエンス・ラボ A

2017 年度以降入学者

中島 弘一、鈴木 忠、土手 昭伸

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 3/Fri.3

単位数：2 単位

定員制（48 名）/2015 年度までに「自然総合講座 A」の単位を修得済みの場合、履修不可

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な 3 分野の実験を 3 人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボ A は身の回りの科学、とりわけ光を共通のテーマに据えて、生物学、物理学、化学それぞれの分野で下記の内容の講義と実験から構成されています。3 つの分野を同時に学ぶことで、それぞれの分野の違いにも触れ、科学的なものの見方を学びます。

<生物学>前半は、植物が行う光合成のしくみや、光によって制御される発芽のしくみなどを実験やビデオを通じて学びます。後半は、動物と光の様々な関係（光走性、概日リズムなど）を学んだ上で、人間の視覚のしくみを実験を通じて理解します。

<物理学>太陽電池を用いた実験、光の波長を測定する仕組みの学習、原子の発する光の波長の測定、光を用いたナノワールドの観察などによって、光の性質や光を用いた技術について学びます。

<化学>光を吸収することで色を作り出す色素に関連した講義と実験（色素の構造的特徴、色素の合成やそれを使った太陽電池の作成など）によって、光と色の関係、光と物質の関係を学びます。

【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3 つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボ A では、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスを行い、2 回目以降は 3 つのグループに分かれて、ボアソナードタワーにある 3 つの実験室（サイエンスルーム）を 4 週あるいは 5 週単位で順次移動し、受講します。各分野の終了後に課題に対して講評します。

このクラスは初めに「生物学」から学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 週	講義概要	講義の概要説明を行う。
第 2 週	光合成のしくみ（生物学）	光合成のしくみを学び、葉の微細構造を観察する。
第 3 週	植物と光（生物学）	発芽、光周性、光屈性など、光合成以外の植物と光の実験やビデオを介して理解する。
第 4 週	視覚のしくみ -1-（生物学）	眼でものが見えるしくみを学び、盲斑の位置と形を測定する。
第 5 週	視覚のしくみ -2-（生物学）	盲斑の位置と形を測定し（続き）、その結果をレポートにまとめる。
第 6 週	光の性質（物理学）	光の性質や、それらを調べる方法、色との関係について学ぶ。

第 7 週	太陽電池の実験（物理学）	太陽電池の発電能力について調べ、光のエネルギーが電気エネルギーに変換する仕組みを学ぶ。
第 8 週	光スペクトルの観察（物理学）	簡易分光器を用いて白熱灯、LED、蛍光灯、水素ランプなどが放つ光の波長を測定し、発光のメカニズムについて学ぶ。
第 9 週	ナノワールドの観察（物理学）	CD や DVD 表面の構造をレーザー光を用いて調べ、目に見えない微細な構造を知る仕組みについて学ぶ。
第 10 週	光の技術（物理学）	光の最先端技術、光を用いたマイクロ世界や宇宙の観察・観測の最近の成果、オーロラなど光の現象について学ぶ。
第 11 週	物質と光の相互作用（化学）	色素がなぜ色を持つのか、光と物質の関係について学ぶ。
第 12 週	分子模型を使った分子組み立て（化学）	色のある分子と色のない分子を模型を使って組み立てることで構造上の違いを理解する。
第 13 週	色素の抽出と合成（化学）	天然色素からの色素の抽出と色素の合成を実験で行う。
第 14 週	色素増感太陽電池の評価（化学）	実際に数種の色素を使って太陽電池を作成し、色素の違いによる効率の評価を実験で確かめる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、授業内で出される課題の対応や実験の後のレポートの作成など、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】

物理学分野では、必要に応じて授業中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で 1/3 とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

実験を自ら行うことに不安を感じる人もいますが、心配は必要ありません。ティーチングアシスタント（大学院生）のサポートもあり、実験手順の通りに進めれば、実験に不慣れな学生でも容易にできる実験内容になっています。

【Outline (in English)】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces familiar natural phenomena especially light as a common theme in each field. By learning the three fields in one semester, the students will understand the differences between each field and will learn the scientific viewpoint. The submission of a report is required after each experiment, and a grade point is evaluated from scores of those reports. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

NAS100LA

サイエンス・ラボ B

2017 年度以降入学者

中島 弘一、鈴木 忠、土手 昭伸

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 3/Fri.3

単位数：2 単位

定員制（48 名）/2015 年度までに「自然総合講座 B」の単位を修得済みの場合、履修不可

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な 3 分野の実験を 3 人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボ B は科学史から題材をもとめ、生物学、物理学、化学それぞれの分野で転機となったテーマに関連した内容で講義と実験が構成されています。高校までに習った定説がどのようにして成立してきたのか、歴史的な背景とともに学ぶことで、3 つの分野それぞれの科学的なものの見方を学びます。

<生物学>メンデルによる遺伝子の発見、遺伝子の本体が DNA であることの証明、それ以後の DNA 学発展の歴史を学びます。これらを理解する上で必須となる染色体の観察や DNA の抽出実験を行います。

<物理学>電気、熱、光などいろいろな形態で存在し、現代社会の重要な課題の一つであるエネルギーについて、科学史上の重要な実験を通じて体験的に学びます。

<化学>古代からの物質観の変遷を振り返りながら、燃焼反応の正しい理解がどのようになされたのかを学びます。また、燃焼によって得られるガスと灰の性質から酸とアルカリについても学びます。

【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3 つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボ B では、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスを行い、2 回目以降は 3 つのグループに分かれて、ポアソナードタワーにある 3 つの実験室（サイエンスルーム）を 4 週あるいは 5 週単位で順次移動し、受講します。各分野の終了後に課題に対して講評します。

このクラスは初めに「生物学」から学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 週	講義概要	講義の概要説明を行う。
第 2 週	細胞と染色体（生物学）	細胞の構造と機能を学び、遺伝の基礎となる染色体を観察する。
第 3 週	メンデル遺伝学から分子遺伝学へ（生物学）	遺伝子の本体が DNA であると証明されるまでの歴史を学ぶ。
第 4 週	DNA の抽出（生物学）	DNA の構造と機能を学んだ上で、DNA の抽出実験を行う。
第 5 週	現代の DNA 学（生物学）	親子鑑定、犯罪捜査、遺伝子診断など応用も含めた DNA 研究の現状を知る。

第 6 週	エネルギーとは（物理学）	エネルギーとは何か、エネルギーの変換と保存に関する基礎事項を学ぶ。
第 7 週	電気エネルギーと熱エネルギー（物理学）	電気を用いて熱エネルギーを発生させ、その変換と保存を調べる。
第 8 週	落体実験（物理学）	物体が重力により落下するときの様子を調べ、そこで起こっているエネルギーの変換と保存について調べる。
第 9 週	LED の実験（物理学）	LED を用いて、LED を発光させるための電気エネルギーとその色との関係について調べる。光の粒子性という、現代物理学の一端に触れる。
第 10 週	燃焼から見る反応理解の変遷（化学）	物質観、燃焼理論、電気の歴史と関係性を学ぶ
第 11 週	銅の反応実験（化学）	銅の各種反応を観察し、化学反応で元素変換ができないことを理解する。
第 12 週	マグネシウム金属の燃焼実験（化学）	燃焼によって消費された酸素量と金属灰の重量増の定量的な関係を学ぶ。
第 13 週	酸とアルカリ（化学）	燃焼によって得られるガスは酸性、灰はアルカリ性を示します。酸とアルカリの性質について学びます。
第 14 週	灰の文化史（化学）	木を燃やして得られる灰は江戸時代、多様な分野で利用されてきました。貴重だった灰の利用方法について学びます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、授業内で出される課題の対応や実験の後のレポートの作成など、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】

物理学分野では、必要に応じて授業中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で 1/3 とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

実験を自ら行うことに不安を感じる人もいますが、心配は必要ありません。ティーチングアシスタント（大学院生）のサポートもあり、実験手順の通りに進めれば、実験に不慣れな学生でも容易にできる実験内容になっています。

【Outline (in English)】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces history of science containing turning point for each field. By learning established theory and historical background, the students will learn the scientific viewpoint of the three fields. The submission of a report is required after each experiment, and a grade point is evaluated from scores of those reports. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

NAS100LA

サイエンス・ラボ A

2017 年度以降入学者

中島 弘一、鈴木 忠、土手 昭伸

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 4/Fri.4

単位数：2 単位

定員制（48 名）/2015 年度までに「自然総合講座 A」の単位を修得済みの場合、履修不可

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な 3 分野の実験を 3 人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボ A は身の回りの科学、とりわけ光を共通のテーマに据えて、生物学、物理学、化学それぞれの分野で下記の内容の講義と実験から構成されています。3 つの分野を同時に学ぶことで、それぞれの分野の違いにも触れ、科学的なものの見方を学びます。

<生物学>前半は、植物が行う光合成のしくみや、光によって制御される発芽のしくみなどを実験やビデオを通じて学びます。後半は、動物と光の様々な関係（光走性、概日リズムなど）を学んだ上で、人間の視覚のしくみを実験を通じて理解します。

<物理学>太陽電池を用いた実験、光の波長を測定する仕組みの学習、原子の発する光の波長の測定、光を用いたナノワールドの観察などによって、光の性質や光を用いた技術について学びます。

<化学>光を吸収することで色を作り出す色素に関連した講義と実験（色素の構造的特徴、色素の合成やそれを使った太陽電池の作成など）によって、光と色の関係、光と物質の関係を学びます。

【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3 つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボ A では、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスを行い、2 回目以降は 3 つのグループに分かれて、ボアソナードタワーにある 3 つの実験室（サイエンスルーム）を 4 週あるいは 5 週単位で順次移動し、受講します。各分野の終了後に課題に対して講評します。

このクラスは初めに「生物学」から学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 週	講義概要	講義の概要説明を行う。
第 2 週	光合成のしくみ（生物学）	光合成のしくみを学び、葉の微細構造を観察する。
第 3 週	植物と光（生物学）	発芽、光周性、光屈性など、光合成以外の植物と光の関係を実験やビデオを介して理解する。
第 4 週	視覚のしくみ -1-（生物学）	眼でものが見えるしくみを学び、盲斑の位置と形を測定する。
第 5 週	視覚のしくみ -2-（生物学）	盲斑の位置と形を測定し（続き）、その結果をレポートにまとめる。
第 6 週	光の性質（物理学）	光の性質や、それらを調べる方法、色との関係について学ぶ。

第 7 週	太陽電池の実験（物理学）	太陽電池の発電能力について調べ、光のエネルギーが電気エネルギーに変換する仕組みを学ぶ。
第 8 週	光スペクトルの観察（物理学）	簡易分光器を用いて白熱灯、LED、蛍光灯、水素ランプなどが放つ光の波長を測定し、発光のメカニズムについて学ぶ。
第 9 週	ナノワールドの観察（物理学）	CD や DVD 表面の構造をレーザー光を用いて調べ、目に見えない微細な構造を知る仕組みについて学ぶ。
第 10 週	光の技術（物理学）	光の最先端技術、光を用いたマイクロ世界や宇宙の観察・観測の最近の成果、オーロラなど光の現象について学ぶ。
第 11 週	物質と光の相互作用（化学）	色素がなぜ色を持つのか、光と物質の関係について学ぶ。
第 12 週	分子模型を使った分子組み立て（化学）	色のある分子と色のない分子を模型を使って組み立てることで構造上の違いを理解する。
第 13 週	色素の抽出と合成（化学）	天然色素からの色素の抽出と色素の合成を実験で行う。
第 14 週	色素増感太陽電池の評価（化学）	実際に数種の色素を使って太陽電池を作成し、色素の違いによる効率の評価を実験で確かめる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、授業内で出される課題の対応や実験の後のレポートの作成など、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】

物理学分野では、必要に応じて授業中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で 1/3 とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

実験を自ら行うことに不安を感じる人もいますが、心配は必要ありません。ティーチングアシスタント（大学院生）のサポートもあり、実験手順の通りに進めれば、実験に不慣れな学生でも容易にできる実験内容になっています。

【Outline (in English)】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces familiar natural phenomena especially light as a common theme in each field. By learning the three fields in one semester, the students will understand the differences between each field and will learn the scientific viewpoint. The submission of a report is required after each experiment, and a grade point is evaluated from scores of those reports. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

NAS100LA

サイエンス・ラボ B

2017 年度以降入学者

中島 弘一、鈴木 忠、土手 昭伸

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 4/Fri.4

単位数：2 単位

定員制（48 名）/2015 年度までに「自然総合講座 B」の単位を修得済みの場合、履修不可

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な 3 分野の実験を 3 人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボ B は科学史から題材をもとめ、生物学、物理学、化学それぞれの分野で転機となったテーマに関連した内容で講義と実験が構成されています。高校までに習った定説がどのようにして成立してきたのか、歴史的な背景とともに学ぶことで、3 つの分野それぞれの科学的なものの見方を学びます。

<生物学>メンデルによる遺伝子の発見、遺伝子の本体が DNA であることの証明、それ以後の DNA 学発展の歴史を学びます。これらを理解する上で必須となる染色体の観察や DNA の抽出実験を行います。

<物理学>電気、熱、光などいろいろな形態で存在し、現代社会の重要な課題の一つであるエネルギーについて、科学史上の重要な実験を通じて体験的に学びます。

<化学>古代からの物質観の変遷を振り返りながら、燃焼反応の正しい理解がどのようになされたのかを学びます。また、燃焼によって得られるガスと灰の性質から酸とアルカリについても学びます。

【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3 つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボ B では、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスを行い、2 回目以降は 3 つのグループに分かれて、ポアソナードタワーにある 3 つの実験室（サイエンスルーム）を 4 週あるいは 5 週単位で順次移動し、受講します。各分野の終了後に課題に対して講評します。

このクラスは初めに「生物学」から学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 週	講義概要	講義の概要説明を行う。
第 2 週	細胞と染色体（生物学）	細胞の構造と機能を学び、遺伝子の基礎となる染色体を観察する。
第 3 週	メンデル遺伝学から分子遺伝学へ（生物学）	遺伝子の本体が DNA であると証明されるまでの歴史を学ぶ。
第 4 週	DNA の抽出（生物学）	DNA の構造と機能を学んだ上で、DNA の抽出実験を行う。
第 5 週	現代の DNA 学（生物学）	親子鑑定、犯罪捜査、遺伝子診断など応用も含めた DNA 研究の現状を知る。

第 6 週	エネルギーとは（物理学）	エネルギーとは何か、エネルギーの変換と保存に関する基礎事項を学ぶ。
第 7 週	電気エネルギーと熱エネルギー（物理学）	電気を用いて熱エネルギーを発生させ、その変換と保存を調べる。
第 8 週	落体実験（物理学）	物体が重力により落下するときの様子を調べ、そこで起こっているエネルギーの変換と保存について調べる。
第 9 週	LED の実験（物理学）	LED を用いて、LED を発光させるための電気エネルギーとその色との関係について調べる。光の粒子性という、現代物理学の一端に触れる。
第 10 週	燃焼から見る反応理解の変遷（化学）	物質観、燃焼理論、電気の歴史と関係性を学ぶ
第 11 週	銅の反応実験（化学）	銅の各種反応を観察し、化学反応で元素変換ができないことを理解する。
第 12 週	マグネシウム金属の燃焼実験（化学）	燃焼によって消費された酸素量と金属灰の重量増の定量的な関係を学ぶ。
第 13 週	酸とアルカリ（化学）	燃焼によって得られるガスは酸性、灰はアルカリ性を示します。酸とアルカリの性質について学びます。
第 14 週	灰の文化史（化学）	木を燃やして得られる灰は江戸時代、多様な分野で利用されてきました。貴重だった灰の利用方法について学びます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、授業内で出される課題の対応や実験の後のレポートの作成など、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】

物理学分野では、必要に応じて授業中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で 1/3 とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

実験を自ら行うことに不安を感じる人もいますが、心配は必要ありません。ティーチングアシスタント（大学院生）のサポートもあり、実験手順の通りに進めれば、実験に不慣れな学生でも容易にできる実験内容になっています。

【Outline (in English)】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces history of science containing turning point for each field. By learning established theory and historical background, the students will learn the scientific viewpoint of the three fields. The submission of a report is required after each experiment, and a grade point is evaluated from scores of those reports. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

NAS100LA

サイエンス・ラボ A

2017年度以降入学者

西村 直美、長谷川 真紀子、井坂 政裕

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 1/Tue.1

単位数：2 単位

定員制（48名）/2015年度までに「自然総合講座A」の単位を修得済みの場合、履修不可

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な3分野の実験を3人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボ A は身の回りの科学、とりわけ光を共通のテーマに据えて、生物学、物理学、化学それぞれの分野で下記の内容の講義と実験から構成されています。3つの分野を同時に学ぶことで、それぞれの分野の違いにも触れ、科学的なものの見方を学びます。

<生物学>前半は、植物が行う光合成のしくみや、光によって制御される発芽のしくみなどを実験やビデオを通じて学びます。後半は、動物と光の様々な関係（光走性、概日リズムなど）を学んだ上で、人間の視覚のしくみを実験を通じて理解します。

<物理学>太陽電池を用いた実験、光の波長を測定する仕組みの学習、原子の発する光の波長の測定、光を用いたナノワールドの観察などによって、光の性質や光を用いた技術について学びます。

<化学>光を吸収することで色を作り出す色素に関連した講義と実験（色素の構造的特徴、色素の合成やそれを使った太陽電池の作成など）によって、光と色の関係、光と物質の関係を学びます。

【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボ A では、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスを行い、2回目以降は3つのグループに分かれて、ボアソナードタワーにある3つの実験室（サイエンスルーム）を4週あるいは5週単位で順次移動し、受講します。各分野の終了後に課題に対して講評します。

このクラスは初めに「物理学」から学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1週	講義概要	講義の概要説明を行う。
第2週	光の性質（物理学）	光の性質や、それらを調べる方法、色との関係について学ぶ。
第3週	太陽電池の実験（物理学）	太陽電池の発電能力について調べ、光のエネルギーが電気エネルギーに変換する仕組みを学ぶ。
第4週	光スペクトルの観察（物理学）	簡易分光器を用いて白熱灯、LED、蛍光灯、水素ランプなどが放つ光の波長を測定し、発光のメカニズムについて学ぶ。

第5週	ナノワールドの観察（物理学）	CDやDVD表面の構造をレーザー光を用いて調べ、目に見えない微細な構造を知る仕組みや、光の最先端技術について学ぶ。
第6週	物質と光の相互作用（化学）	色素がなぜ色を持つのか、光と物質の関係について学ぶ。
第7週	分子模型を使った分子組み立て（化学）	色のある分子と色のない分子を模型を使って組み立てることで構造上の違いを理解する。
第8週	色素増感太陽電池の構造と仕組み（化学）	色素を使った太陽電池の仕組みを理解し、通常の太陽電池（シリコン型）との違いを学ぶ
第9週	色素の抽出と合成（化学）	天然色素からの色素の抽出と色素の合成を実験で行う。
第10週	色素増感太陽電池の評価（化学）	実際に数種の色素を使って太陽電池を作成し、色素の違いによる効率の評価を実験で確かめる。
第11週	光合成のしくみ（生物学）	光合成のしくみを学び、葉の微細構造を観察する。
第12週	植物と光（生物学）	発芽、光周性、光屈性など、光合成以外の植物と光の関係を実験やビデオを介して理解する。
第13週	視覚のしくみ -1-（生物学）	眼でものが見えるしくみを学び、盲斑の位置と形を測定する。
第14週	視覚のしくみ -2-（生物学）	盲斑の位置と形を測定し（続き）、その結果をレポートにまとめる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、授業内で出される課題の対応や実験の後のレポートの作成など、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】

各分野とも、授業中に必要に応じて紹介します。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で1/3とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

実験を自ら行うことに不安を感じる人もいますが、心配は必要ありません。ティーチングアシスタント（大学院生）のサポートもあり、実験手順の通りに進めれば、実験に不慣れな学生でも容易にできる実験内容になっています。

【Outline (in English)】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces familiar natural phenomena especially light as a common theme in each field. By learning the three fields in one semester, the students will understand the differences between each field and will learn the scientific viewpoint. The submission of a report is required after each experiment, and a grade point is evaluated from scores of those reports. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

NAS100LA

サイエンス・ラボ B

2017 年度以降入学者

西村 直美、長谷川 真紀子、井坂 政裕

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 1/Tue.1

単位数：2 単位

定員制（48 名）/2015 年度までに「自然総合講座 B」の単位を修得済みの場合、履修不可

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な 3 分野の実験を 3 人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボ B は科学史から題材をもとめ、生物学、物理学、化学それぞれの分野で転機となったテーマに関連した内容で講義と実験が構成されています。高校までに習った定説がどのようにして成立してきたのか、歴史的な背景とともに学ぶことで、3 つの分野それぞれの科学的なものの見方を学びます。

<生物学>メンデルによる遺伝子の発見、遺伝子の本体が DNA であることの証明、それ以後の DNA 学発展の歴史を学びます。これらを理解する上で必須となる染色体の観察や DNA の抽出実験を行います。

<物理学>電気、熱、光などいろいろな形態で存在し、現代社会の重要な課題の一つであるエネルギーについて、科学史上の重要な実験を通じて体験的に学びます。

<化学>古代からの物質観の変遷を振り返りながら、燃焼反応の正しい理解がどのようになされたのか、その後の酸化還元反応の理解と電池との関連を学びます。

【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3 つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボ B では、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスを行い、2 回目以降は 3 つのグループに分かれて、ポアソナードタワーにある 3 つの実験室（サイエンスルーム）を 4 週あるいは 5 週単位で順次移動し、受講します。各分野の終了後に課題に対して講評します。

このクラスは初めに「物理学」から学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 週	講義概要	講義の概要説明を行う。
第 2 週	エネルギーとは（物理学）	エネルギーとは何か、エネルギーの変換と保存に関する基礎事項を学ぶ。
第 3 週	電気エネルギーと熱エネルギー（物理学）	電気を用いて熱エネルギーを発生させ、その変換と保存を調べる。
第 4 週	落体実験（物理学）	物体が重力により落下するときの様子を調べ、そこで起こっているエネルギーの変換と保存について調べる。

第 5 週	LED の実験（物理学）	LED を用いて、LED を発光させるための電気エネルギーとその色との関係について調べる。光の粒子性という、現代物理学の一端に触れる。
第 6 週	燃焼から見る反応理解の変遷（化学）	物質観、燃焼理論、電気の歴史と関係性を学ぶ
第 7 週	銅の反応実験（化学）	銅の各種反応を観察し、化学反応で元素変換ができないことを理解する。
第 8 週	マグネシウム金属の燃焼実験（化学）	燃焼によって消費された酸素量と金属灰の重量増の定量的な関係を学ぶ。
第 9 週	燃料電池の発電効率の測定（化学）	燃料電池を使って酸化に伴う電子の移動を実験で学ぶ。
第 10 週	遺伝子とは何か？（生物学）	メンデルはどうやって遺伝子を発見したかについて学ぶ。
第 11 週	細胞と染色体（生物学）	細胞の構造と機能を学び、遺伝の基礎となる染色体を観察する。
第 12 週	メンデル遺伝学から分子遺伝学へ（生物学）	遺伝子の本体が DNA であると証明されるまでの歴史を学ぶ。
第 13 週	DNA の抽出（生物学）	DNA の構造と機能を学んだ上で、DNA の抽出実験を行う。
第 14 週	現代の DNA 学（生物学）	親子鑑定、犯罪捜査、遺伝子診断など応用も含めた DNA 研究の現状を知る。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、授業内で出される課題の対応や実験の後のレポートの作成など、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】

各分野とも、授業中に必要に応じて紹介します。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で 1/3 とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

実験を自ら行うことに不安を感じる人もいますが、心配は必要ありません。ティーチングアシスタント（大学院生）のサポートもあり、実験手順の通りに進めれば、実験に不慣れな学生でも容易にできる実験内容になっています。

【Outline (in English)】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces history of science containing turning point for each field. By learning established theory and historical background, the students will learn the scientific viewpoint of the three fields. The submission of a report is required after each experiment, and a grade point is evaluated from scores of those reports. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

NAS100LA

サイエンス・ラボ A

2017 年度以降入学者

西村 直美、長谷川 真紀子、井坂 政裕

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 2/Tue.2

単位数：2 単位

定員制（48 名）/2015 年度までに「自然総合講座 A」の単位を修得済みの場合、履修不可

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な 3 分野の実験を 3 人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボ A は身の回りの科学、とりわけ光を共通のテーマに据えて、生物学、物理学、化学それぞれの分野で下記の内容の講義と実験から構成されています。3 つの分野を同時に学ぶことで、それぞれの分野の違いにも触れ、科学的なものの見方を学びます。

<生物学>前半は、植物が行う光合成のしくみや、光によって制御される発芽のしくみなどを実験やビデオを通じて学びます。後半は、動物と光の様々な関係（光走性、概日リズムなど）を学んだ上で、人間の視覚のしくみを実験を通じて理解します。

<物理学>太陽電池を用いた実験、光の波長を測定する仕組みの学習、原子の発する光の波長の測定、光を用いたナノワールドの観察などによって、光の性質や光を用いた技術について学びます。

<化学>光を吸収することで色を作り出す色素に関連した講義と実験（色素の構造的特徴、色素の合成やそれを使った太陽電池の作成など）によって、光と色の関係、光と物質の関係を学びます。

【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3 つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボ A では、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスを行い、2 回目以降は 3 つのグループに分かれて、ボアソナードタワーにある 3 つの実験室（サイエンスルーム）を 4 週あるいは 5 週単位で順次移動し、受講します。各分野の終了後に課題に対して講評します。

このクラスは初めに「物理学」から学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 週	講義概要	講義の概要説明を行う。
第 2 週	光の性質（物理学）	光の性質や、それらを調べる方法、色との関係について学ぶ。
第 3 週	太陽電池の実験（物理学）	太陽電池の発電能力について調べ、光のエネルギーが電気エネルギーに変換する仕組みを学ぶ。
第 4 週	光スペクトルの観察（物理学）	簡易分光器を用いて白熱灯、LED、蛍光灯、水素ランプなどが放つ光の波長を測定し、発光のメカニズムについて学ぶ。

第 5 週	ナノワールドの観察（物理学）	CD や DVD 表面の構造をレーザー光を用いて調べ、目に見えない微細な構造を知る仕組みや、光の最先端技術について学ぶ。
第 6 週	物質と光の相互作用（化学）	色素がなぜ色を持つのか、光と物質の関係について学ぶ。
第 7 週	分子模型を使った分子組み立て（化学）	色のある分子と色のない分子を模型を使って組み立てることで構造上の違いを理解する。
第 8 週	色素増感太陽電池の構造と仕組み（化学）	色素を使った太陽電池の仕組みを理解し、通常の太陽電池（シリコン型）との違いを学ぶ
第 9 週	色素の抽出と合成（化学）	天然色素からの色素の抽出と色素の合成を実験で行う。
第 10 週	色素増感太陽電池の評価（化学）	実際に数種の色素を使って太陽電池を作成し、色素の違いによる効率の評価を実験で確かめる。
第 11 週	光合成のしくみ（生物学）	光合成のしくみを学び、葉の微細構造を観察する。
第 12 週	植物と光（生物学）	発芽、光周性、光屈性など、光合成以外の植物と光の関係を実験やビデオを介して理解する。
第 13 週	視覚のしくみ -1-（生物学）	眼でものが見えるしくみを学び、盲斑の位置と形を測定する。
第 14 週	視覚のしくみ -2-（生物学）	盲斑の位置と形を測定し（続き）、その結果をレポートにまとめる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、授業内で出される課題の対応や実験の後のレポートの作成など、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】

各分野とも、授業中に必要に応じて紹介します。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で 1/3 とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

実験を自ら行うことに不安を感じる人もいますが、心配は必要ありません。ティーチングアシスタント（大学院生）のサポートもあり、実験手順の通りに進めれば、実験に不慣れな学生でも容易にできる実験内容になっています。

【Outline (in English)】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces familiar natural phenomena especially light as a common theme in each field. By learning the three fields in one semester, the students will understand the differences between each field and will learn the scientific viewpoint. The submission of a report is required after each experiment, and a grade point is evaluated from scores of those reports. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

NAS100LA

サイエンス・ラボ B

2017 年度以降入学者

西村 直美、長谷川 真紀子、井坂 政裕

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 2/Tue.2

単位数：2 単位

定員制（48 名）/2015 年度までに「自然総合講座 B」の単位を修得済みの場合、履修不可

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な 3 分野の実験を 3 人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボ B は科学史から題材をもとめ、生物学、物理学、化学それぞれの分野で転機となったテーマに関連した内容で講義と実験が構成されています。高校までに習った定説がどのようにして成立してきたのか、歴史的な背景とともに学ぶことで、3 つの分野それぞれの科学的なものの見方を学びます。

<生物学>メンデルによる遺伝子の発見、遺伝子の本体が DNA であることの証明、それ以後の DNA 学発展の歴史を学びます。これらを理解する上で必須となる染色体の観察や DNA の抽出実験を行います。

<物理学>電気、熱、光などいろいろな形態で存在し、現代社会の重要な課題の一つであるエネルギーについて、科学史上の重要な実験を通じて体験的に学びます。

<化学>古代からの物質観の変遷を振り返りながら、燃焼反応の正しい理解がどのようになされたのか、その後の酸化還元反応の理解と電池との関連を学びます。

【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3 つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボ B では、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスを行い、2 回目以降は 3 つのグループに分かれて、ポアソナードタワーにある 3 つの実験室（サイエンスルーム）を 4 週あるいは 5 週単位で順次移動し、受講します。各分野の終了後に課題に対して講評します。

このクラスは初めに「物理学」から学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 週	講義概要	講義の概要説明を行う。
第 2 週	エネルギーとは（物理学）	エネルギーとは何か、エネルギーの変換と保存に関する基礎事項を学ぶ。
第 3 週	電気エネルギーと熱エネルギー（物理学）	電気を用いて熱エネルギーを発生させ、その変換と保存を調べる。
第 4 週	落体実験（物理学）	物体が重力により落下するときの様子を調べ、そこで起こっているエネルギーの変換と保存について調べる。

第 5 週	LED の実験（物理学）	LED を用いて、LED を発光させるための電気エネルギーとその色との関係について調べる。光の粒子性という、現代物理学の一端に触れる。
第 6 週	燃焼から見る反応理解の変遷（化学）	物質観、燃焼理論、電気の歴史と関係性を学ぶ
第 7 週	銅の反応実験（化学）	銅の各種反応を観察し、化学反応で元素変換ができないことを理解する。
第 8 週	マグネシウム金属の燃焼実験（化学）	燃焼によって消費された酸素量と金属灰の重量増の定量的な関係を学ぶ。
第 9 週	燃料電池の発電効率の測定（化学）	燃料電池を使って酸化に伴う電子の移動を実験で学ぶ。
第 10 週	遺伝子とは何か？（生物学）	メンデルはどうやって遺伝子を発見したかについて学ぶ。
第 11 週	細胞と染色体（生物学）	細胞の構造と機能を学び、遺伝の基礎となる染色体を観察する。
第 12 週	メンデル遺伝学から分子遺伝学へ（生物学）	遺伝子の本体が DNA であると証明されるまでの歴史を学ぶ。
第 13 週	DNA の抽出（生物学）	DNA の構造と機能を学んだ上で、DNA の抽出実験を行う。
第 14 週	現代の DNA 学（生物学）	親子鑑定、犯罪捜査、遺伝子診断など応用も含めた DNA 研究の現状を知る。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、授業内で出される課題の対応や実験の後のレポートの作成など、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】

各分野とも、授業中に必要に応じて紹介します。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で 1/3 とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

実験を自ら行うことに不安を感じる人もいますが、心配は必要ありません。ティーチングアシスタント（大学院生）のサポートもあり、実験手順の通りに進めれば、実験に不慣れな学生でも容易にできる実験内容になっています。

【Outline (in English)】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces history of science containing turning point for each field. By learning established theory and historical background, the students will learn the scientific viewpoint of the three fields. The submission of a report is required after each experiment, and a grade point is evaluated from scores of those reports. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

NAS100LA

サイエンス・ラボ A

2017 年度以降入学者

石塚 芽具美、田中 浩輔、吉田 智

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 3/Tue.3

単位数：2 単位

定員制（48 名）/2015 年度までに「自然総合講座 A」の単位を修得済みの場合、履修不可

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な 3 分野の実験を 3 人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボ A は身の回りの科学、とりわけ光を共通のテーマに据えて、生物学、物理学、化学それぞれの分野で下記の内容の講義と実験から構成されています。3 つの分野を同時に学ぶことで、それぞれの分野の違いにも触れ、科学的なものの見方を学びます。

<生物学>前半は、植物が行う光合成のしくみや、光によって制御される発芽のしくみなどを実験やビデオを通じて学びます。後半は、動物と光の様々な関係（光走性、概日リズムなど）を学んだ上で、人間の視覚のしくみを実験を通じて理解します。

<物理学>太陽電池を用いた実験、光の波長を測定する仕組みの学習、原子の発する光の波長の測定、光を用いたナノワールドの観察などによって、光の性質や光を用いた技術について学びます。

<化学>光を吸収することで色を作り出す色素に関連した講義と実験（色素の構造的特徴、色素の合成やそれを使った太陽電池の作成など）によって、光と色の関係、光と物質の関係を学びます。

【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3 つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボ A では、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスを行い、2 回目以降は 3 つのグループに分かれて、ボアソナードタワーにある 3 つの実験室（サイエンスルーム）を 4 週あるいは 5 週単位で順次移動し、受講します。各分野の終了後に課題に対して講評します。

このクラスは初めに「物理学」から学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 週	講義概要	講義の概要説明を行う。
第 2 週	光の性質（物理学）	光の性質や、それらを調べる方法、色との関係について学ぶ。
第 3 週	太陽電池の実験（物理学）	太陽電池の発電能力について調べ、光のエネルギーが電気エネルギーに変換する仕組みを学ぶ。
第 4 週	光スペクトルの観察（物理学）	簡易分光器を用いて白熱灯、LED、蛍光灯、水素ランプなどが放つ光の波長を測定し、発光のメカニズムについて学ぶ。

第 5 週	ナノワールドの観察（物理学）	CD や DVD 表面の構造をレーザー光を用いて調べ、目に見えない微細な構造を知る仕組みや、光の最先端技術について学ぶ。
第 6 週	物質と光の相互作用（化学）	色素がなぜ色を持つのか、光と物質の関係について学ぶ。
第 7 週	分子模型を使った分子組み立て（化学）	色のある分子と色のない分子を模型を使って組み立てることで構造上の違いを理解する。
第 8 週	色素増感太陽電池の構造と仕組み（化学）	色素を使った太陽電池の仕組みを理解し、通常の太陽電池（シリコン型）との違いを学ぶ
第 9 週	色素の抽出と合成（化学）	天然色素からの色素の抽出と色素の合成を実験で行う。
第 10 週	色素増感太陽電池の評価（化学）	実際に数種の色素を使って太陽電池を作成し、色素の違いによる効率の評価を実験で確かめる。
第 11 週	光合成のしくみ（生物学）	光合成のしくみを学び、葉の微細構造を観察する。
第 12 週	植物と光（生物学）	発芽、光周性、光屈性など、光合成以外の植物と光の関係を実験やビデオを介して理解する。
第 13 週	視覚のしくみ -1-（生物学）	眼でものが見えるしくみを学び、盲斑の位置と形を測定する。
第 14 週	視覚のしくみ -2-（生物学）	盲斑の位置と形を測定し（続き）、その結果をレポートにまとめる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、授業内で出される課題の対応や実験の後のレポートの作成など、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】

適宜提示します。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で 1/3 とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

実験を自ら行うことに不安を感じる人もいますが、心配は必要ありません。ティーチングアシスタント（大学院生）のサポートもあり、実験手順の通りに進めれば、実験に不慣れな学生でも容易にできる実験内容になっています。

【Outline (in English)】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces familiar natural phenomena especially light as a common theme in each field. By learning the three fields in one semester, the students will understand the differences between each field and will learn the scientific viewpoint. The submission of a report is required after each experiment, and a grade point is evaluated from scores of those reports. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

NAS100LA

サイエンス・ラボ B

2017 年度以降入学者

石塚 芽具美、田中 浩輔、鈴木 裕武

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 3/Tue.3

単位数：2 単位

定員制（48 名）/2015 年度までに「自然総合講座 B」の単位を修得済みの場合、履修不可

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な 3 分野の実験を 3 人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボ B は科学史から題材をもとめ、生物学、物理学、化学それぞれの分野で転機となったテーマに関連した内容で講義と実験が構成されています。高校までに習った定説がどのようにして成立してきたのか、歴史的な背景とともに学ぶことで、3 つの分野それぞれの科学的なものの見方を学びます。

<生物学>メンデルによる遺伝子の発見、遺伝子の本体が DNA であることの証明、それ以後の DNA 学発展の歴史を学びます。これらを理解する上で必須となる染色体の観察や DNA の抽出実験を行います。

<物理学>電気、熱、光などいろいろな形態で存在し、現代社会の重要な課題の一つであるエネルギーについて、科学史上の重要な実験を通じて体験的に学びます。

<化学>古代からの物質観の変遷を振り返りながら、燃焼反応の正しい理解がどのようになされたのか、その後の酸化還元反応の理解と電池との関連を学びます。

【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3 つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボ B では、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスを行い、2 回目以降は 3 つのグループに分かれて、ポアソナードタワーにある 3 つの実験室（サイエンスルーム）を 4 週あるいは 5 週単位で順次移動し、受講します。各分野の終了後に課題に対して講評します。

このクラスは初めに「物理学」から学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 週	講義概要	講義の概要説明を行う。
第 2 週	エネルギーとは（物理学）	エネルギーとは何か、エネルギーの変換と保存に関する基礎事項を学ぶ。
第 3 週	電気エネルギーと熱エネルギー（物理学）	電気を用いて熱エネルギーを発生させ、その変換と保存を調べる。
第 4 週	落体実験（物理学）	物体が重力により落下するときの様子を調べ、そこで起こっているエネルギーの変換と保存について調べる。

第 5 週	LED の実験（物理学）	LED を用いて、LED を発光させるための電気エネルギーとその色との関係について調べる。光の粒子性という、現代物理学の一端に触れる。
第 6 週	燃焼から見る反応理解の変遷（化学）	物質観、燃焼理論、電気の歴史と関係性を学ぶ
第 7 週	銅の反応実験（化学）	銅の各種反応を観察し、化学反応で元素変換ができないことを理解する。
第 8 週	マグネシウム金属の燃焼実験（化学）	燃焼によって消費された酸素量と金属灰の重量増の定量的な関係を学ぶ。
第 9 週	燃料電池の発電効率の測定（化学）	燃料電池を使って酸化に伴う電子の移動を実験で学ぶ。
第 10 週	遺伝子とは何か？（生物学）	メンデルはどうやって遺伝子を発見したかについて学ぶ。
第 11 週	細胞と染色体（生物学）	細胞の構造と機能を学び、遺伝の基礎となる染色体を観察する。
第 12 週	メンデル遺伝学から分子遺伝学へ（生物学）	遺伝子の本体が DNA であると証明されるまでの歴史を学ぶ。
第 13 週	DNA の抽出（生物学）	DNA の構造と機能を学んだ上で、DNA の抽出実験を行う。
第 14 週	現代の DNA 学（生物学）	親子鑑定、犯罪捜査、遺伝子診断など応用も含めた DNA 研究の現状を知る。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、授業内で出される課題の対応や実験の後のレポートの作成など、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】

適宜提示します。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で 1/3 とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

実験を自ら行うことに不安を感じる人もいますが、心配は必要ありません。ティーチングアシスタント（大学院生）のサポートもあり、実験手順の通りに進めれば、実験に不慣れな学生でも容易にできる実験内容になっています。

高校で未履修の人が多い物理のレポート作成も難しはありません。物理では授業で使うワークシートがそのままレポートになるので、授業に参加すれば誰でも容易にレポートを完成させることができます。

【Outline (in English)】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces history of science containing turning point for each field. By learning established theory and historical background, the students will learn the scientific viewpoint of the three fields. The submission of a report is required after each experiment, and a grade point is evaluated from scores of those reports. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

NAS100LA

サイエンス・ラボ A

2017 年度以降入学者

石塚 芽具美、田中 浩輔、石川 壮一

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 4/Tue.4

単位数：2 単位

定員制（48 名）/2015 年度までに「自然総合講座 A」の単位を修得済みの場合、履修不可

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な 3 分野の実験を 3 人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボ A は身の回りの科学、とりわけ光を共通のテーマに据えて、生物学、物理学、化学それぞれの分野で下記の内容の講義と実験から構成されています。3 つの分野を同時に学ぶことで、それぞれの分野の違いにも触れ、科学的なものの見方を学びます。

<生物学>前半は、植物が行う光合成のしくみや、光によって制御される発芽のしくみなどを実験やビデオを通じて学びます。後半は、動物と光の様々な関係（光走性、概日リズムなど）を学んだ上で、人間の視覚のしくみを実験を通じて理解します。

<物理学>太陽電池を用いた実験、光の波長を測定する仕組みの学習、原子の発する光の波長の測定、光を用いたナノワールドの観察などによって、光の性質や光を用いた技術について学びます。

<化学>光を吸収することで色を作り出す色素に関連した講義と実験（色素の構造的特徴、色素の合成やそれを使った太陽電池の作成など）によって、光と色の関係、光と物質の関係を学びます。

【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3 つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボ A では、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスを行い、2 回目以降は 3 つのグループに分かれて、ボアソナードタワーにある 3 つの実験室（サイエンスルーム）を 4 週あるいは 5 週単位で順次移動し、受講します。各分野の終了後に課題に対して講評します。

このクラスは初めに「物理学」から学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 週	講義概要	講義の概要説明を行う。
第 2 週	光の性質（物理学）	光の性質や、それらを調べる方法、色との関係について学ぶ。
第 3 週	太陽電池の実験（物理学）	太陽電池の発電能力について調べ、光のエネルギーが電気エネルギーに変換する仕組みを学ぶ。
第 4 週	光スペクトルの観察（物理学）	簡易分光器を用いて白熱灯、LED、蛍光灯、水素ランプなどが放つ光の波長を測定し、発光のメカニズムについて学ぶ。

第 5 週	ナノワールドの観察（物理学）	CD や DVD 表面の構造をレーザー光を用いて調べ、目に見えない微細な構造を知る仕組みや、光の最先端技術について学ぶ。
第 6 週	物質と光の相互作用（化学）	色素がなぜ色を持つのか、光と物質の関係について学ぶ。
第 7 週	分子模型を使った分子組み立て（化学）	色のある分子と色のない分子を模型を使って組み立てることで構造上の違いを理解する。
第 8 週	色素増感太陽電池の構造と仕組み（化学）	色素を使った太陽電池の仕組みを理解し、通常の太陽電池（シリコン型）との違いを学ぶ
第 9 週	色素の抽出と合成（化学）	天然色素からの色素の抽出と色素の合成を実験で行う。
第 10 週	色素増感太陽電池の評価（化学）	実際に数種の色素を使って太陽電池を作成し、色素の違いによる効率の評価を実験で確かめる。
第 11 週	光合成のしくみ（生物学）	光合成のしくみを学び、葉の微細構造を観察する。
第 12 週	植物と光（生物学）	発芽、光周性、光屈性など、光合成以外の植物と光の関係を実験やビデオを介して理解する。
第 13 週	視覚のしくみ -1-（生物学）	眼でものが見えるしくみを学び、盲斑の位置と形を測定する。
第 14 週	視覚のしくみ -2-（生物学）	盲斑の位置と形を測定し（続き）、その結果をレポートにまとめる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、授業内で出される課題の対応や実験の後のレポートの作成など、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】

適宜提示します。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で 1/3 とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

実験を自ら行うことに不安を感じる人もいますが、心配は必要ありません。ティーチングアシスタント（大学院生）のサポートもあり、実験手順の通りに進めれば、実験に不慣れな学生でも容易にできる実験内容になっています。

【Outline (in English)】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces familiar natural phenomena especially light as a common theme in each field. By learning the three fields in one semester, the students will understand the differences between each field and will learn the scientific viewpoint. The submission of a report is required after each experiment, and a grade point is evaluated from scores of those reports. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

NAS100LA

サイエンス・ラボ B

2017 年度以降入学者

石塚 芽具美、田中 浩輔、鈴木 裕武

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 4/Tue.4

単位数：2 単位

定員制（48 名）/2015 年度までに「自然総合講座 B」の単位を修得済みの場合、履修不可

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な 3 分野の実験を 3 人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボ B は科学史から題材をもとめ、生物学、物理学、化学それぞれの分野で転機となったテーマに関連した内容で講義と実験が構成されています。高校までに習った定説がどのようにして成立してきたのか、歴史的な背景とともに学ぶことで、3 つの分野それぞれの科学的なものの見方を学びます。

<生物学>メンデルによる遺伝子の発見、遺伝子の本体が DNA であることの証明、それ以後の DNA 学発展の歴史を学びます。これらを理解する上で必須となる染色体の観察や DNA の抽出実験を行います。

<物理学>電気、熱、光などいろいろな形態で存在し、現代社会の重要な課題の一つであるエネルギーについて、科学史上の重要な実験を通じて体験的に学びます。

<化学>古代からの物質観の変遷を振り返りながら、燃焼反応の正しい理解がどのようになされたのか、その後の酸化還元反応の理解と電池との関連を学びます。

【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3 つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボ B では、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスを行い、2 回目以降は 3 つのグループに分かれて、ポアソナードタワーにある 3 つの実験室（サイエンスルーム）を 4 週あるいは 5 週単位で順次移動し、受講します。各分野の終了後に課題に対して講評します。

このクラスは初めに「物理学」から学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 週	講義概要	講義の概要説明を行う。
第 2 週	エネルギーとは（物理学）	エネルギーとは何か、エネルギーの変換と保存に関する基礎事項を学ぶ。
第 3 週	電気エネルギーと熱エネルギー（物理学）	電気を用いて熱エネルギーを発生させ、その変換と保存を調べる。
第 4 週	落体実験（物理学）	物体が重力により落下するときの様子を調べ、そこで起こっているエネルギーの変換と保存について調べる。

第 5 週	LED の実験（物理学）	LED を用いて、LED を発光させるための電気エネルギーとその色との関係について調べる。光の粒子性という、現代物理学の一端に触れる。
第 6 週	燃焼から見る反応理解の変遷（化学）	物質観、燃焼理論、電気の歴史と関係性を学ぶ
第 7 週	銅の反応実験（化学）	銅の各種反応を観察し、化学反応で元素変換ができないことを理解する。
第 8 週	マグネシウム金属の燃焼実験（化学）	燃焼によって消費された酸素量と金属灰の重量増の定量的な関係を学ぶ。
第 9 週	燃料電池の発電効率の測定（化学）	燃料電池を使って酸化に伴う電子の移動を実験で学ぶ。
第 10 週	遺伝子とは何か？（生物学）	メンデルはどうやって遺伝子を発見したかについて学ぶ。
第 11 週	細胞と染色体（生物学）	細胞の構造と機能を学び、遺伝の基礎となる染色体を観察する。
第 12 週	メンデル遺伝学から分子遺伝学へ（生物学）	遺伝子の本体が DNA であると証明されるまでの歴史を学ぶ。
第 13 週	DNA の抽出（生物学）	DNA の構造と機能を学んだ上で、DNA の抽出実験を行う。
第 14 週	現代の DNA 学（生物学）	親子鑑定、犯罪捜査、遺伝子診断など応用も含めた DNA 研究の現状を知る。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、授業内で出される課題の対応や実験の後のレポートの作成など、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】

適宜提示します。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で 1/3 とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

実験を自ら行うことに不安を感じる人もいますが、心配は必要ありません。ティーチングアシスタント（大学院生）のサポートもあり、実験手順の通りに進めれば、実験に不慣れな学生でも容易にできる実験内容になっています。

高校で未履修の人が多い物理のレポート作成も難しはありません。物理では授業で使うワークシートがそのままレポートになるので、授業に参加すれば誰でも容易にレポートを完成させることができます。

【Outline (in English)】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces history of science containing turning point for each field. By learning established theory and historical background, the students will learn the scientific viewpoint of the three fields. The submission of a report is required after each experiment, and a grade point is evaluated from scores of those reports. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

NAS100LA

サイエンス・ラボ A

2017年度以降入学者

向井 知大、川上 裕司、鈴木 裕武

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 1/Thu.1

単位数：2 単位

定員制（48名）/2015年度までに「自然総合講座 A」の単位を修得済みの場合、履修不可

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な3分野の実験を3人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボ A は身の回りの科学、とりわけ光を共通のテーマに据えて、生物学、物理学、化学それぞれの分野で下記の内容の講義と実験から構成されています。3つの分野を同時に学ぶことで、それぞれの分野の違いにも触れ、科学的なものの見方を学びます。

<生物学>前半は、植物が行う光合成のしくみや、光によって制御される発芽のしくみなどを実験やビデオを通じて学びます。後半は、動物と光の様々な関係（光走性、概日リズムなど）を学んだ上で、人間の視覚のしくみを実験を通じて理解します。

<物理学>太陽電池を用いた実験、光の波長を測定する仕組みの学習、原子の発する光の波長の測定、光を用いたナノワールドの観察などによって、光の性質や光を用いた技術について学びます。

<化学>光を吸収することで色を作り出す色素に関連した講義と実験（色素の構造的特徴、色素の合成やそれを使った太陽電池の作成など）によって、光と色の関係、光と物質の関係を学びます。

【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボ A では、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスを行い、2回目以降は3つのグループに分かれて、ボアソナードタワーにある3つの実験室（サイエンスルーム）を4週あるいは5週単位で順次移動し、受講します。各分野の終了後に課題に対して講評します。

このクラスは初めに「物理学」から学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1週	講義概要	講義の概要説明を行う。
第2週	光の性質（物理学）	光の性質や、それらを調べる方法、色との関係について学ぶ。
第3週	太陽電池の実験（物理学）	太陽電池の発電能力について調べ、光のエネルギーが電気エネルギーに変換する仕組みを学ぶ。
第4週	光スペクトルの観察（物理学）	簡易分光器を用いて白熱灯、LED、蛍光灯、水素ランプなどが放つ光の波長を測定し、発光のメカニズムについて学ぶ。

第5週	ナノワールドの観察（物理学）	CD や DVD 表面の構造をレーザー光を用いて調べ、目に見えない微細な構造を知る仕組みや、光の最先端技術について学ぶ。
第6週	物質と光の相互作用（化学）	色素がなぜ色を持つのか、光と物質の関係について学ぶ。
第7週	分子模型を使った分子組み立て（化学）	色のある分子と色のない分子を模型を使って組み立てることで構造上の違いを理解する。
第8週	色素増感太陽電池の構造と仕組み（化学）	色素を使った太陽電池の仕組みを理解し、通常の太陽電池（シリコン型）との違いを学ぶ
第9週	色素の抽出と合成（化学）	天然色素からの色素の抽出と色素の合成を実験で行う。
第10週	色素増感太陽電池の評価（化学）	実際に数種の色素を使って太陽電池を作成し、色素の違いによる効率の評価を実験で確かめる。
第11週	光合成のしくみ（生物学）	光合成のしくみを学び、葉の微細構造を観察する。
第12週	植物と光（生物学）	発芽、光周性、光屈性など、光合成以外の植物と光の関係を実験やビデオを介して理解する。
第13週	視覚のしくみ -1-（生物学）	眼でものが見えるしくみを学び、盲斑の位置と形を測定する。
第14週	視覚のしくみ -2-（生物学）	盲斑の位置と形を測定し（続き）、その結果をレポートにまとめる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、授業内で出される課題の対応や実験の後のレポートの作成など、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】

参考書は指定していません。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で1/3とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

実験を自ら行うことに不安を感じる人もいますが、心配は必要ありません。ティーチングアシスタント（大学院生）のサポートもあり、実験手順の通りに進めれば、実験に不慣れな学生でも容易にできる実験内容になっています。

高校で未履修の人が多い物理のレポート作成も難しくはありません。物理では授業で使うワークシートがそのままレポートになるので、授業に参加すれば誰でも容易にレポートを完成させることができます。

【Outline (in English)】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces familiar natural phenomena especially light as a common theme in each field. By learning the three fields in one semester, the students will understand the differences between each field and will learn the scientific viewpoint. The submission of a report is required after each experiment, and a grade point is evaluated from scores of those reports. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

NAS100LA

サイエンス・ラボ B

2017 年度以降入学者

向井 知大、川上 裕司、鈴木 裕武

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 1/Thu.1

単位数：2 単位

定員制（48 名）/2015 年度までに「自然総合講座 B」の単位を修得済みの場合、履修不可

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な3分野の実験を3人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボ B は科学史から題材をもとめ、生物学、物理学、化学それぞれの分野で転機となったテーマに関連した内容で講義と実験が構成されています。高校までに習った定説がどのようにして成立してきたのか、歴史的な背景とともに学ぶことで、3つの分野それぞれの科学的なものの見方を学びます。

<生物学>メンデルによる遺伝子の発見、遺伝子の本体が DNA であることの証明、それ以後の DNA 学発展の歴史を学びます。これらを理解する上で必須となる染色体の観察や DNA の抽出実験を行います。

<物理学>電気、熱、光などいろいろな形態で存在し、現代社会の重要な課題の一つであるエネルギーについて、科学史上の重要な実験を通じて体験的に学びます。

<化学>古代からの物質観の変遷を振り返りながら、燃焼反応の正しい理解がどのようになされたのか、その後の酸化還元反応の理解と電池との関連を学びます。

【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボ B では、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスを行い、2回目以降は3つのグループに分かれて、ポアソナードタワーにある3つの実験室（サイエンスルーム）を4週あるいは5週単位で順次移動し、受講します。各分野の終了後に課題に対して講評します。

このクラスは初めに「物理学」から学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1週	講義概要	講義の概要説明を行う。
第2週	エネルギーとは（物理学）	エネルギーとは何か、エネルギーの変換と保存に関する基礎事項を学ぶ。
第3週	電気エネルギーと熱エネルギー（物理学）	電気を用いて熱エネルギーを発生させ、その変換と保存を調べる。
第4週	落体実験（物理学）	物体が重力により落下するときの様子を調べ、そこで起こっているエネルギーの変換と保存について調べる。

第5週	LEDの実験（物理学）	LEDを用いて、LEDを発光させるための電気エネルギーとその色との関係について調べる。光の粒子性という、現代物理学の一端に触れる。
第6週	燃焼から見る反応理解の変遷（化学）	物質観、燃焼理論、電気の歴史と関係性を学ぶ
第7週	銅の反応実験（化学）	銅の各種反応を観察し、化学反応で元素変換ができないことを理解する。
第8週	マグネシウム金属の燃焼実験（化学）	燃焼によって消費された酸素量と金属灰の重量増の定量的な関係を学ぶ。
第9週	燃料電池の発電効率の測定（化学）	燃料電池を使って酸化に伴う電子の移動を実験で学ぶ。
第10週	遺伝子とは何か？（生物学）	メンデルはどうやって遺伝子を発見したかについて学ぶ。
第11週	細胞と染色体（生物学）	細胞の構造と機能を学び、遺伝の基礎となる染色体を観察する。
第12週	メンデル遺伝学から分子遺伝学へ（生物学）	遺伝子の本体がDNAであると証明されるまでの歴史を学ぶ。
第13週	DNAの抽出（生物学）	DNAの構造と機能を学んだ上で、DNAの抽出実験を行う。
第14週	現代のDNA学（生物学）	親子鑑定、犯罪捜査、遺伝子診断など応用も含めたDNA研究の現状を知る。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、授業内で出される課題の対応や実験の後のレポートの作成など、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】

参考書は指定していません。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で1/3とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

実験を自ら行うことに不安を感じる人もいますが、心配は必要ありません。ティーチングアシスタント（大学院生）のサポートもあり、実験手順の通りに進めれば、実験に慣れない学生でも容易にできる実験内容になっています。

高校で未履修の人が多い物理のレポート作成も難しくはありません。物理では授業で使うワークシートがそのままレポートになるので、授業に参加すれば誰でも容易にレポートを完成させることができます。

【Outline (in English)】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces history of science containing turning point for each field. By learning established theory and historical background, the students will learn the scientific viewpoint of the three fields. The submission of a report is required after each experiment, and a grade point is evaluated from scores of those reports. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

NAS100LA

サイエンス・ラボ A

2017 年度以降入学者

向井 知大、川上 裕司、鈴木 裕武

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 2/Thu.2

単位数：2 単位

定員制（48 名）/2015 年度までに「自然総合講座 A」の単位を修得済みの場合、履修不可

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な 3 分野の実験を 3 人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボ A は身の回りの科学、とりわけ光を共通のテーマに据えて、生物学、物理学、化学それぞれの分野で下記の内容の講義と実験から構成されています。3 つの分野を同時に学ぶことで、それぞれの分野の違いにも触れ、科学的なものの見方を学びます。

<生物学>前半は、植物が行う光合成のしくみや、光によって制御される発芽のしくみなどを実験やビデオを通じて学びます。後半は、動物と光の様々な関係（光走性、概日リズムなど）を学んだ上で、人間の視覚のしくみを実験を通じて理解します。

<物理学>太陽電池を用いた実験、光の波長を測定する仕組みの学習、原子の発する光の波長の測定、光を用いたナノワールドの観察などによって、光の性質や光を用いた技術について学びます。

<化学>光を吸収することで色を作り出す色素に関連した講義と実験（色素の構造的特徴、色素の合成やそれを使った太陽電池の作成など）によって、光と色の関係、光と物質の関係を学びます。

【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3 つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボ A では、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスを行い、2 回目以降は 3 つのグループに分かれて、ボアソナードタワーにある 3 つの実験室（サイエンスルーム）を 4 週あるいは 5 週単位で順次移動し、受講します。各分野の終了後に課題に対して講評します。

このクラスは初めに「物理学」から学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 週	講義概要	講義の概要説明を行う。
第 2 週	光の性質（物理学）	光の性質や、それらを調べる方法、色との関係について学ぶ。
第 3 週	太陽電池の実験（物理学）	太陽電池の発電能力について調べ、光のエネルギーが電気エネルギーに変換する仕組みを学ぶ。
第 4 週	光スペクトルの観察（物理学）	簡易分光器を用いて白熱灯、LED、蛍光灯、水素ランプなどが放つ光の波長を測定し、発光のメカニズムについて学ぶ。

第 5 週	ナノワールドの観察（物理学）	CD や DVD 表面の構造をレーザー光を用いて調べ、目に見えない微細な構造を知る仕組みや、光の最先端技術について学ぶ。
第 6 週	物質と光の相互作用（化学）	色素がなぜ色を持つのか、光と物質の関係について学ぶ。
第 7 週	分子模型を使った分子組み立て（化学）	色のある分子と色のない分子を模型を使って組み立てることで構造上の違いを理解する。
第 8 週	色素増感太陽電池の構造と仕組み（化学）	色素を使った太陽電池の仕組みを理解し、通常の太陽電池（シリコン型）との違いを学ぶ
第 9 週	色素の抽出と合成（化学）	天然色素からの色素の抽出と色素の合成を実験で行う。
第 10 週	色素増感太陽電池の評価（化学）	実際に数種の色素を使って太陽電池を作成し、色素の違いによる効率の評価を実験で確かめる。
第 11 週	光合成のしくみ（生物学）	光合成のしくみを学び、葉の微細構造を観察する。
第 12 週	植物と光（生物学）	発芽、光周性、光屈性など、光合成以外の植物と光の関係を実験やビデオを介して理解する。
第 13 週	視覚のしくみ -1-（生物学）	眼でものが見えるしくみを学び、盲斑の位置と形を測定する。
第 14 週	視覚のしくみ -2-（生物学）	盲斑の位置と形を測定し（続き）、その結果をレポートにまとめる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、授業内で出される課題の対応や実験の後のレポートの作成など、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】

参考書は指定していません。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で 1/3 とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

実験を自ら行うことに不安を感じる人もいますが、心配は必要ありません。ティーチングアシスタント（大学院生）のサポートもあり、実験手順の通りに進めれば、実験に不慣れな学生でも容易にできる実験内容になっています。

高校で未履修の人が多い物理のレポート作成も難しくはありません。物理では授業で使うワークシートがそのままレポートになるので、授業に参加すれば誰でも容易にレポートを完成させることができます。

【Outline (in English)】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces familiar natural phenomena especially light as a common theme in each field. By learning the three fields in one semester, the students will understand the differences between each field and will learn the scientific viewpoint. The submission of a report is required after each experiment, and a grade point is evaluated from scores of those reports. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

NAS100LA

サイエンス・ラボ B

2017 年度以降入学者

向井 知大、川上 裕司、鈴木 裕武

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 2/Thu.2

単位数：2 単位

定員制（48 名）/2015 年度までに「自然総合講座 B」の単位を修得済みの場合、履修不可

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な 3 分野の実験を 3 人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボ B は科学史から題材をもとめ、生物学、物理学、化学それぞれの分野で転機となったテーマに関連した内容で講義と実験が構成されています。高校までに習った定説がどのようにして成立してきたのか、歴史的な背景とともに学ぶことで、3 つの分野それぞれの科学的なものの見方を学びます。

<生物学>メンデルによる遺伝子の発見、遺伝子の本体が DNA であることの証明、それ以後の DNA 学発展の歴史を学びます。これらを理解する上で必須となる染色体の観察や DNA の抽出実験を行います。

<物理学>電気、熱、光などいろいろな形態で存在し、現代社会の重要な課題の一つであるエネルギーについて、科学史上の重要な実験を通じて体験的に学びます。

<化学>古代からの物質観の変遷を振り返りながら、燃焼反応の正しい理解がどのようになされたのか、その後の酸化還元反応の理解と電池との関連を学びます。

【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3 つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボ B では、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスを行い、2 回目以降は 3 つのグループに分かれて、ポアソナードタワーにある 3 つの実験室（サイエンスルーム）を 4 週あるいは 5 週単位で順次移動し、受講します。各分野の終了後に課題に対して講評します。

このクラスは初めに「物理学」から学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 週	講義概要	講義の概要説明を行う。
第 2 週	エネルギーとは（物理学）	エネルギーとは何か、エネルギーの変換と保存に関する基礎事項を学ぶ。
第 3 週	電気エネルギーと熱エネルギー（物理学）	電気を用いて熱エネルギーを発生させ、その変換と保存を調べる。
第 4 週	落体実験（物理学）	物体が重力により落下するときの様子を調べ、そこで起こっているエネルギーの変換と保存について調べる。

第 5 週	LED の実験（物理学）	LED を用いて、LED を発光させるための電気エネルギーとその色との関係について調べる。光の粒子性という、現代物理学の一端に触れる。
第 6 週	燃焼から見る反応理解の変遷（化学）	物質観、燃焼理論、電気の歴史と関係性を学ぶ
第 7 週	銅の反応実験（化学）	銅の各種反応を観察し、化学反応で元素変換ができないことを理解する。
第 8 週	マグネシウム金属の燃焼実験（化学）	燃焼によって消費された酸素量と金属灰の重量増の定量的な関係を学ぶ。
第 9 週	燃料電池の発電効率の測定（化学）	燃料電池を使って酸化に伴う電子の移動を実験で学ぶ。
第 10 週	遺伝子とは何か？（生物学）	メンデルはどうやって遺伝子を発見したかについて学ぶ。
第 11 週	細胞と染色体（生物学）	細胞の構造と機能を学び、遺伝の基礎となる染色体を観察する。
第 12 週	メンデル遺伝学から分子遺伝学へ（生物学）	遺伝子の本体が DNA であると証明されるまでの歴史を学ぶ。
第 13 週	DNA の抽出（生物学）	DNA の構造と機能を学んだ上で、DNA の抽出実験を行う。
第 14 週	現代の DNA 学（生物学）	親子鑑定、犯罪捜査、遺伝子診断など応用も含めた DNA 研究の現状を知る。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、授業内で出される課題の対応や実験の後のレポートの作成など、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】

参考書は指定していません。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で 1/3 とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

実験を自ら行うことに不安を感じる人もいますが、心配は必要ありません。ティーチングアシスタント（大学院生）のサポートもあり、実験手順の通りに進めれば、実験に不慣れな学生でも容易にできる実験内容になっています。

高校で未履修の人が多い物理のレポート作成も難しくはありません。物理では授業で使うワークシートがそのままレポートになるので、授業に参加すれば誰でも容易にレポートを完成させることができます。

【Outline (in English)】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces history of science containing turning point for each field. By learning established theory and historical background, the students will learn the scientific viewpoint of the three fields. The submission of a report is required after each experiment, and a grade point is evaluated from scores of those reports. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

NAS100LA

サイエンス・ラボ A

2017年度以降入学者

黒木 菜保子、島野 智之、柳瀬 宏太

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 3/Thu.3

単位数：2 単位

定員制（48名）/2015年度までに「自然総合講座 A」の単位を修得済みの場合、履修不可

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な3分野の実験を3人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボ A は身の回りの科学、とりわけ光を共通のテーマに据えて、生物学、物理学、化学それぞれの分野で下記の内容の講義と実験から構成されています。3つの分野を同時に学ぶことで、それぞれの分野の違いにも触れ、科学的なものの見方を学びます。

<生物学>前半は、植物が行う光合成のしくみや、光によって制御される発芽のしくみなどを実験やビデオを通じて学びます。後半は、動物と光の様々な関係（光走性、概日リズムなど）を学んだ上で、人間の視覚のしくみを実験を通じて理解します。

<物理学>太陽電池を用いた実験、光の波長を測定する仕組みの学習、原子の発する光の波長の測定、光を用いたナノワールドの観察などによって、光の性質や光を用いた技術について学びます。

<化学>光を吸収することで色を作り出す色素に関連した講義と実験（色素の構造的特徴、色素の合成やそれを使った太陽電池の作成など）によって、光と色の関係、光と物質の関係を学びます。

【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボ A では、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスを行い、2回目以降は3つのグループに分かれて、ボアソナードタワーにある3つの実験室（サイエンスルーム）を4週あるいは5週単位で順次移動し、受講します。各分野の終了後に課題に対して講評します。

このクラスは初めに「物理学」から学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1週	講義概要	講義の概要説明を行う。
第2週	光の性質（物理学）	光の性質や、それらを調べる方法、色との関係について学ぶ。
第3週	太陽電池の実験（物理学）	太陽電池の発電能力について調べ、光のエネルギーが電気エネルギーに変換する仕組みを学ぶ。
第4週	光スペクトルの観察（物理学）	簡易分光器を用いて白熱灯、LED、蛍光灯、水素ランプなどが放つ光の波長を測定し、発光のメカニズムについて学ぶ。

第5週	ナノワールドの観察（物理学）	CDやDVD表面の構造をレーザー光を用いて調べ、目に見えない微細な構造を知る仕組みや、光の最先端技術について学ぶ。
第6週	物質と光の相互作用（化学）	色素がなぜ色を持つのか、光と物質の関係について学ぶ。
第7週	分子模型を使った分子組み立て（化学）	色のある分子と色のない分子を模型を使って組み立てることで構造上の違いを理解する。
第8週	色素増感太陽電池の構造と仕組み（化学）	色素を使った太陽電池の仕組みを理解し、通常の太陽電池（シリコン型）との違いを学ぶ
第9週	色素の抽出と合成（化学）	天然色素からの色素の抽出と色素の合成を実験で行う。
第10週	色素増感太陽電池の評価（化学）	実際に数種の色素を使って太陽電池を作成し、色素の違いによる効率の評価を実験で確かめる。
第11週	光合成のしくみ（生物学）	光合成のしくみを学び、葉の微細構造を観察する。
第12週	植物と光（生物学）	発芽、光周性、光屈性など、光合成以外の植物と光の関係を実験やビデオを介して理解する。
第13週	視覚のしくみ -1-（生物学）	眼でものが見えるしくみを学び、盲斑の位置と形を測定する。
第14週	視覚のしくみ -2-（生物学）	盲斑の位置と形を測定し（続き）、その結果をレポートにまとめる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、授業内で出される課題の対応や実験の後のレポートの作成など、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】

指定はありません。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で1/3とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

実験を自ら行うことに不安を感じる人もいますが、心配は必要ありません。ティーチングアシスタント（大学院生）のサポートもあり、実験手順の通りに進めれば、実験に不慣れな学生でも容易にできる実験内容になっています。

【Outline (in English)】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces familiar natural phenomena especially light as a common theme in each field. By learning the three fields in one semester, the students will understand the differences between each field and will learn the scientific viewpoint. The submission of a report is required after each experiment, and a grade point is evaluated from scores of those reports. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

NAS100LA

サイエンス・ラボ B

2017年度以降入学者

黒木 菜保子、島野 智之、柳瀬 宏太

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 3/Thu.3

単位数：2 単位

定員制（48名）/2015年度までに「自然総合講座 B」の単位を修得済みの場合、履修不可

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な3分野の実験を3人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボ B は科学史から題材をもとめ、生物学、物理学、化学それぞれの分野で転機となったテーマに関連した内容で講義と実験が構成されています。高校までに習った定説がどのようにして成立してきたのか、歴史的な背景とともに学ぶことで、3つの分野それぞれの科学的なものの見方を学びます。

<生物学>メンデルによる遺伝子の発見、遺伝子の本体が DNA であることの証明、それ以後の DNA 学発展の歴史を学びます。これらを理解する上で必須となる染色体の観察や DNA の抽出実験を行います。

<物理学>電気、熱、光などいろいろな形態で存在し、現代社会の重要な課題の一つであるエネルギーについて、科学史上の重要な実験を通じて体験的に学びます。

<化学>古代からの物質観の変遷を振り返りながら、燃焼反応の正しい理解がどのようになされたのか、その後の酸化還元反応の理解と電池との関連を学びます。

【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボ B では、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスを行い、2回目以降は3つのグループに分かれて、ボアソナードタワーにある3つの実験室（サイエンスルーム）を4週あるいは5週単位で順次移動し、受講します。各分野の終了後に課題に対して講評します。

このクラスは初めに「物理学」から学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1週	講義概要	講義の概要説明を行う。
第2週	エネルギーとは（物理学）	エネルギーとは何か、エネルギーの変換と保存に関する基礎事項を学ぶ。
第3週	電気エネルギーと熱エネルギー（物理学）	電気を用いて熱エネルギーを発生させ、その変換と保存を調べる。
第4週	落体実験（物理学）	物体が重力により落下するときの様子を調べ、そこで起こっているエネルギーの変換と保存について調べる。

第5週	LEDの実験（物理学）	LEDを用いて、LEDを発光させるための電気エネルギーとその色との関係について調べる。光の粒子性という、現代物理学の一端に触れる。
第6週	燃焼から見る反応理解の変遷（化学）	物質観、燃焼理論、電気の歴史と関係性を学ぶ
第7週	銅の反応実験（化学）	銅の各種反応を観察し、化学反応で元素変換ができないことを理解する。
第8週	マグネシウム金属の燃焼実験（化学）	燃焼によって消費された酸素量と金属灰の重量増の定量的な関係を学ぶ。
第9週	燃料電池の発電効率の測定（化学）	燃料電池を使って酸化に伴う電子の移動を実験で学ぶ。
第10週	遺伝子とは何か？（生物学）	メンデルはどうやって遺伝子を発見したかについて学ぶ。
第11週	細胞と染色体（生物学）	細胞の構造と機能を学び、遺伝の基礎となる染色体を観察する。
第12週	メンデル遺伝学から分子遺伝学へ（生物学）	遺伝子の本体が DNA であると証明されるまでの歴史を学ぶ。
第13週	DNA の抽出（生物学）	DNA の構造と機能を学んだ上で、DNA の抽出実験を行う。
第14週	現代の DNA 学（生物学）	親子鑑定、犯罪捜査、遺伝子診断など応用も含めた DNA 研究の現状を知る。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、授業内で出される課題の対応や実験の後のレポートの作成など、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】

指定はありません。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で1/3とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

実験を自ら行うことに不安を感じる人もいますが、心配は必要ありません。ティーチングアシスタント（大学院生）のサポートもあり、実験手順の通りに進めれば、実験に不慣れな学生でも容易にできる実験内容になっています。

【Outline (in English)】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces history of science containing turning point for each field. By learning established theory and historical background, the students will learn the scientific viewpoint of the three fields. The submission of a report is required after each experiment, and a grade point is evaluated from scores of those reports. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

NAS100LA

サイエンス・ラボ A

2017 年度以降入学者

黒木 菜保子、島野 智之、柳瀬 宏太

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 4/Thu.4

単位数：2 単位

定員制（48 名）/2015 年度までに「自然総合講座 A」の単位を修得済みの場合、履修不可

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な 3 分野の実験を 3 人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボ A は身の回りの科学、とりわけ光を共通のテーマに据えて、生物学、物理学、化学それぞれの分野で下記の内容の講義と実験から構成されています。3 つの分野を同時に学ぶことで、それぞれの分野の違いにも触れ、科学的なものの見方を学びます。

<生物学>前半は、植物が行う光合成のしくみや、光によって制御される発芽のしくみなどを実験やビデオを通じて学びます。後半は、動物と光の様々な関係（光走性、概日リズムなど）を学んだ上で、人間の視覚のしくみを実験を通じて理解します。

<物理学>太陽電池を用いた実験、光の波長を測定する仕組みの学習、原子の発する光の波長の測定、光を用いたナノワールドの観察などによって、光の性質や光を用いた技術について学びます。

<化学>光を吸収することで色を作り出す色素に関連した講義と実験（色素の構造的特徴、色素の合成やそれを使った太陽電池の作成など）によって、光と色の関係、光と物質の関係を学びます。

【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3 つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボ A では、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスを行い、2 回目以降は 3 つのグループに分かれて、ボアソナードタワーにある 3 つの実験室（サイエンスルーム）を 4 週あるいは 5 週単位で順次移動し、受講します。各分野の終了後に課題に対して講評します。

このクラスは初めに「物理学」から学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 週	講義概要	講義の概要説明を行う。
第 2 週	光の性質（物理学）	光の性質や、それらを調べる方法、色との関係について学ぶ。
第 3 週	太陽電池の実験（物理学）	太陽電池の発電能力について調べ、光のエネルギーが電気エネルギーに変換する仕組みを学ぶ。
第 4 週	光スペクトルの観察（物理学）	簡易分光器を用いて白熱灯、LED、蛍光灯、水素ランプなどが放つ光の波長を測定し、発光のメカニズムについて学ぶ。

第 5 週	ナノワールドの観察（物理学）	CD や DVD 表面の構造をレーザー光を用いて調べ、目に見えない微細な構造を知る仕組みや、光の最先端技術について学ぶ。
第 6 週	物質と光の相互作用（化学）	色素がなぜ色を持つのか、光と物質の関係について学ぶ。
第 7 週	分子模型を使った分子組み立て（化学）	色のある分子と色のない分子を模型を使って組み立てることで構造上の違いを理解する。
第 8 週	色素増感太陽電池の構造と仕組み（化学）	色素を使った太陽電池の仕組みを理解し、通常の太陽電池（シリコン型）との違いを学ぶ
第 9 週	色素の抽出と合成（化学）	天然色素からの色素の抽出と色素の合成を実験で行う。
第 10 週	色素増感太陽電池の評価（化学）	実際に数種の色素を使って太陽電池を作成し、色素の違いによる効率の評価を実験で確かめる。
第 11 週	光合成のしくみ（生物学）	光合成のしくみを学び、葉の微細構造を観察する。
第 12 週	植物と光（生物学）	発芽、光周性、光屈性など、光合成以外の植物と光の関係を実験やビデオを介して理解する。
第 13 週	視覚のしくみ -1-（生物学）	眼でものが見えるしくみを学び、盲斑の位置と形を測定する。
第 14 週	視覚のしくみ -2-（生物学）	盲斑の位置と形を測定し（続き）、その結果をレポートにまとめる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、授業内で出される課題の対応や実験の後のレポートの作成など、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】

指定はありません。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で 1/3 とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

実験を自ら行うことに不安を感じる人もいますが、心配は必要ありません。ティーチングアシスタント（大学院生）のサポートもあり、実験手順の通りに進めれば、実験に不慣れな学生でも容易にできる実験内容になっています。

【Outline (in English)】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces familiar natural phenomena especially light as a common theme in each field. By learning the three fields in one semester, the students will understand the differences between each field and will learn the scientific viewpoint. The submission of a report is required after each experiment, and a grade point is evaluated from scores of those reports. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

NAS100LA

サイエンス・ラボ B

2017 年度以降入学者

黒木 菜保子、島野 智之、柳瀬 宏太

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 4/Thu.4

単位数：2 単位

定員制（48 名）/2015 年度までに「自然総合講座 B」の単位を修得済みの場合、履修不可

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な 3 分野の実験を 3 人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボ B は科学史から題材をもとめ、生物学、物理学、化学それぞれの分野で転機となったテーマに関連した内容で講義と実験が構成されています。高校までに習った定説がどのようにして成立してきたのか、歴史的な背景とともに学ぶことで、3 つの分野それぞれの科学的なものの見方を学びます。

<生物学>メンデルによる遺伝子の発見、遺伝子の本体が DNA であることの証明、それ以後の DNA 学発展の歴史を学びます。これらを理解する上で必須となる染色体の観察や DNA の抽出実験を行います。

<物理学>電気、熱、光などいろいろな形態で存在し、現代社会の重要な課題の一つであるエネルギーについて、科学史上の重要な実験を通じて体験的に学びます。

<化学>古代からの物質観の変遷を振り返りながら、燃焼反応の正しい理解がどのようになされたのか、その後の酸化還元反応の理解と電池との関連を学びます。

【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3 つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボ B では、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスを行い、2 回目以降は 3 つのグループに分かれて、ポアソナードタワーにある 3 つの実験室（サイエンスルーム）を 4 週あるいは 5 週単位で順次移動し、受講します。各分野の終了後に課題に対して講評します。

このクラスは初めに「物理学」から学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 週	講義概要	講義の概要説明を行う。
第 2 週	エネルギーとは（物理学）	エネルギーとは何か、エネルギーの変換と保存に関する基礎事項を学ぶ。
第 3 週	電気エネルギーと熱エネルギー（物理学）	電気を用いて熱エネルギーを発生させ、その変換と保存を調べる。
第 4 週	落体実験（物理学）	物体が重力により落下するときの様子を調べ、そこで起こっているエネルギーの変換と保存について調べる。

第 5 週	LED の実験（物理学）	LED を用いて、LED を発光させるための電気エネルギーとその色との関係について調べる。光の粒子性という、現代物理学の一端に触れる。
第 6 週	燃焼から見る反応理解の変遷（化学）	物質観、燃焼理論、電気の歴史と関係性を学ぶ
第 7 週	銅の反応実験（化学）	銅の各種反応を観察し、化学反応で元素変換ができないことを理解する。
第 8 週	マグネシウム金属の燃焼実験（化学）	燃焼によって消費された酸素量と金属灰の重量増の定量的な関係を学ぶ。
第 9 週	燃料電池の発電効率の測定（化学）	燃料電池を使って酸化に伴う電子の移動を実験で学ぶ。
第 10 週	遺伝子とは何か？（生物学）	メンデルはどうやって遺伝子を発見したかについて学ぶ。
第 11 週	細胞と染色体（生物学）	細胞の構造と機能を学び、遺伝の基礎となる染色体を観察する。
第 12 週	メンデル遺伝学から分子遺伝学へ（生物学）	遺伝子の本体が DNA であると証明されるまでの歴史を学ぶ。
第 13 週	DNA の抽出（生物学）	DNA の構造と機能を学んだ上で、DNA の抽出実験を行う。
第 14 週	現代の DNA 学（生物学）	親子鑑定、犯罪捜査、遺伝子診断など応用も含めた DNA 研究の現状を知る。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、授業内で出される課題の対応や実験の後のレポートの作成など、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】

指定はありません。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で 1/3 とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

実験を自ら行うことに不安を感じる人もいますが、心配は必要ありません。ティーチングアシスタント（大学院生）のサポートもあり、実験手順の通りに進めれば、実験に不慣れな学生でも容易にできる実験内容になっています。

【Outline (in English)】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces history of science containing turning point for each field. By learning established theory and historical background, the students will learn the scientific viewpoint of the three fields. The submission of a report is required after each experiment, and a grade point is evaluated from scores of those reports. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

NAS100LA

サイエンス・ラボ A

2017年度以降入学者

中島 弘一、鈴木 忠、土手 昭伸

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 3/Fri.3

単位数：2 単位

定員制（48名）/2015年度までに「自然総合講座A」の単位を修得済みの場合、履修不可

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な3分野の実験を3人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボ A は身の回りの科学、とりわけ光を共通のテーマに据えて、生物学、物理学、化学それぞれの分野で下記の内容の講義と実験から構成されています。3つの分野を同時に学ぶことで、それぞれの分野の違いにも触れ、科学的なものの見方を学びます。

<生物学>前半は、植物が行う光合成のしくみや、光によって制御される発芽のしくみなどを実験やビデオを通じて学びます。後半は、動物と光の様々な関係（光走性、概日リズムなど）を学んだ上で、人間の視覚のしくみを実験を通じて理解します。

<物理学>太陽電池を用いた実験、光の波長を測定する仕組みの学習、原子の発する光の波長の測定、光を用いたナノワールドの観察などによって、光の性質や光を用いた技術について学びます。

<化学>光を吸収することで色を作り出す色素に関連した講義と実験（色素の構造的特徴、色素の合成やそれを使った太陽電池の作成など）によって、光と色の関係、光と物質の関係を学びます。

【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボ A では、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスを行い、2回目以降は3つのグループに分かれて、ボアソナードタワーにある3つの実験室（サイエンスルーム）を4週あるいは5週単位で順次移動し、受講します。各分野の終了後に課題に対して講評します。

このクラスは初めに「物理学」から学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1週	講義概要	講義の概要説明を行う。
第2週	光の性質（物理学）	光の性質や、それらを調べる方法、色との関係について学ぶ。
第3週	太陽電池の実験（物理学）	太陽電池の発電能力について調べ、光のエネルギーが電気エネルギーに変換する仕組みを学ぶ。
第4週	光スペクトルの観察（物理学）	簡易分光器を用いて白熱灯、LED、蛍光灯、水素ランプなどが放つ光の波長を測定し、発光のメカニズムについて学ぶ。

第5週	ナノワールドの観察（物理学）	CDやDVD表面の構造をレーザー光を用いて調べ、目に見えない微細な構造を知る仕組みや、光の最先端技術について学ぶ。
第6週	物質と光の相互作用（化学）	色素がなぜ色を持つのか、光と物質の関係について学ぶ。
第7週	分子模型を使った分子組み立て（化学）	色のある分子と色のない分子を模型を使って組み立てることで構造上の違いを理解する。
第8週	色素増感太陽電池の構造と仕組み（化学）	色素を使った太陽電池の仕組みを理解し、通常の太陽電池（シリコン型）との違いを学ぶ
第9週	色素の抽出と合成（化学）	天然色素からの色素の抽出と色素の合成を実験で行う。
第10週	色素増感太陽電池の評価（化学）	実際に数種の色素を使って太陽電池を作成し、色素の違いによる効率の評価を実験で確かめる。
第11週	光合成のしくみ（生物学）	光合成のしくみを学び、葉の微細構造を観察する。
第12週	植物と光（生物学）	発芽、光周性、光屈性など、光合成以外の植物と光の関係を実験やビデオを介して理解する。
第13週	視覚のしくみ -1-（生物学）	眼でものが見えるしくみを学び、盲斑の位置と形を測定する。
第14週	視覚のしくみ -2-（生物学）	盲斑の位置と形を測定し（続き）、その結果をレポートにまとめる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、授業内で出される課題の対応や実験の後のレポートの作成など、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】

物理学分野では、必要に応じて授業中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で1/3とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

実験を自ら行うことに不安を感じる人もいますが、心配は必要ありません。ティーチングアシスタント（大学院生）のサポートもあり、実験手順の通りに進めれば、実験に不慣れな学生でも容易にできる実験内容になっています。

【Outline (in English)】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces familiar natural phenomena especially light as a common theme in each field. By learning the three fields in one semester, the students will understand the differences between each field and will learn the scientific viewpoint. The submission of a report is required after each experiment, and a grade point is evaluated from scores of those reports. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

NAS100LA

サイエンス・ラボ B

2017 年度以降入学者

中島 弘一、鈴木 忠、土手 昭伸

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 3/Fri.3

単位数：2 単位

定員制（48 名）/2015 年度までに「自然総合講座 B」の単位を修得済みの場合、履修不可

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な 3 分野の実験を 3 人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボ B は科学史から題材をもとめ、生物学、物理学、化学それぞれの分野で転機となったテーマに関連した内容で講義と実験が構成されています。高校までに習った定説がどのようにして成立してきたのか、歴史的な背景とともに学ぶことで、3 つの分野それぞれの科学的なものの見方を学びます。

<生物学>メンデルによる遺伝子の発見、遺伝子の本体が DNA であることの証明、それ以後の DNA 学発展の歴史を学びます。これらを理解する上で必須となる染色体の観察や DNA の抽出実験を行います。

<物理学>電気、熱、光などいろいろな形態で存在し、現代社会の重要な課題の一つであるエネルギーについて、科学史上の重要な実験を通じて体験的に学びます。

<化学>古代からの物質観の変遷を振り返りながら、燃焼反応の正しい理解がどのようになされたのかを学びます。また、燃焼によって得られるガスと灰の性質から酸とアルカリについても学びます。

【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3 つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボ B では、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスを行い、2 回目以降は 3 つのグループに分かれて、ポアソナードタワーにある 3 つの実験室（サイエンスルーム）を 4 週あるいは 5 週単位で順次移動し、受講します。各分野の終了後に課題に対して講評します。

このクラスは初めに「物理学」から学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 週	講義概要	講義の概要説明を行う。
第 2 週	エネルギーとは（物理学）	エネルギーとは何か、エネルギーの変換と保存に関する基礎事項を学ぶ。
第 3 週	電気エネルギーと熱エネルギー（物理学）	電気を用いて熱エネルギーを発生させ、その変換と保存を調べる。
第 4 週	落体実験（物理学）	物体が重力により落下するときの様子を調べ、そこで起こっているエネルギーの変換と保存について調べる。

第 5 週	LED の実験（物理学）	LED を用いて、LED を発光させるための電気エネルギーとその色との関係について調べる。光の粒子性という、現代物理学の一端に触れる。
第 6 週	燃焼から見る反応理解の変遷（化学）	物質観、燃焼理論、電気の歴史と関係性を学ぶ
第 7 週	銅の反応実験（化学）	銅の各種反応を観察し、化学反応で元素変換ができないことを理解する。
第 8 週	マグネシウム金属の燃焼実験（化学）	燃焼によって消費された酸素量と金属灰の重量増の定量的な関係を学ぶ。
第 9 週	酸とアルカリ（化学）	燃焼によって得られるガスは酸性、灰はアルカリ性を示します。酸とアルカリの性質について学びます。
第 10 週	遺伝子とは何か？（生物学）	メンデルはどうやって遺伝子を発見したかについて学ぶ。
第 11 週	細胞と染色体（生物学）	細胞の構造と機能を学び、遺伝の基礎となる染色体を観察する。
第 12 週	メンデル遺伝学から分子遺伝学へ（生物学）	遺伝子の本体が DNA であると証明されるまでの歴史を学ぶ。
第 13 週	DNA の抽出（生物学）	DNA の構造と機能を学んだ上で、DNA の抽出実験を行う。
第 14 週	現代の DNA 学（生物学）	親子鑑定、犯罪捜査、遺伝子診断など応用も含めた DNA 研究の現状を知る。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、授業内で出される課題の対応や実験の後のレポートの作成など、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】

物理学分野では、必要に応じて授業中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で 1/3 とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

実験を自ら行うことに不安を感じる人もいますが、心配は必要ありません。ティーチングアシスタント（大学院生）のサポートもあり、実験手順の通りに進めれば、実験に不慣れな学生でも容易にできる実験内容になっています。

【Outline (in English)】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces history of science containing turning point for each field. By learning established theory and historical background, the students will learn the scientific viewpoint of the three fields. The submission of a report is required after each experiment, and a grade point is evaluated from scores of those reports. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

NAS100LA

サイエンス・ラボ A

2017 年度以降入学者

中島 弘一、鈴木 忠、土手 昭伸

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 4/Fri.4

単位数：2 単位

定員制（48 名）/2015 年度までに「自然総合講座 A」の単位を修得済みの場合、履修不可

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な 3 分野の実験を 3 人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボ A は身の回りの科学、とりわけ光を共通のテーマに据えて、生物学、物理学、化学それぞれの分野で下記の内容の講義と実験から構成されています。3 つの分野を同時に学ぶことで、それぞれの分野の違いにも触れ、科学的なものの見方を学びます。

<生物学>前半は、植物が行う光合成のしくみや、光によって制御される発芽のしくみなどを実験やビデオを通じて学びます。後半は、動物と光の様々な関係（光走性、概日リズムなど）を学んだ上で、人間の視覚のしくみを実験を通じて理解します。

<物理学>太陽電池を用いた実験、光の波長を測定する仕組みの学習、原子の発する光の波長の測定、光を用いたナノワールドの観察などによって、光の性質や光を用いた技術について学びます。

<化学>光を吸収することで色を作り出す色素に関連した講義と実験（色素の構造的特徴、色素の合成やそれを使った太陽電池の作成など）によって、光と色の関係、光と物質の関係を学びます。

【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3 つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボ A では、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスを行い、2 回目以降は 3 つのグループに分かれて、ボアソナードタワーにある 3 つの実験室（サイエンスルーム）を 4 週あるいは 5 週単位で順次移動し、受講します。各分野の終了後に課題に対して講評します。

このクラスは初めに「物理学」から学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 週	講義概要	講義の概要説明を行う。
第 2 週	光の性質（物理学）	光の性質や、それらを調べる方法、色との関係について学ぶ。
第 3 週	太陽電池の実験（物理学）	太陽電池の発電能力について調べ、光のエネルギーが電気エネルギーに変換する仕組みを学ぶ。
第 4 週	光スペクトルの観察（物理学）	簡易分光器を用いて白熱灯、LED、蛍光灯、水素ランプなどが放つ光の波長を測定し、発光のメカニズムについて学ぶ。

第 5 週	ナノワールドの観察（物理学）	CD や DVD 表面の構造をレーザー光を用いて調べ、目に見えない微細な構造を知る仕組みや、光の最先端技術について学ぶ。
第 6 週	物質と光の相互作用（化学）	色素がなぜ色を持つのか、光と物質の関係について学ぶ。
第 7 週	分子模型を使った分子組み立て（化学）	色のある分子と色のない分子を模型を使って組み立てることで構造上の違いを理解する。
第 8 週	色素増感太陽電池の構造と仕組み（化学）	色素を使った太陽電池の仕組みを理解し、通常の太陽電池（シリコン型）との違いを学ぶ
第 9 週	色素の抽出と合成（化学）	天然色素からの色素の抽出と色素の合成を実験で行う。
第 10 週	色素増感太陽電池の評価（化学）	実際に数種の色素を使って太陽電池を作成し、色素の違いによる効率の評価を実験で確かめる。
第 11 週	光合成のしくみ（生物学）	光合成のしくみを学び、葉の微細構造を観察する。
第 12 週	植物と光（生物学）	発芽、光周性、光屈性など、光合成以外の植物と光の関係を実験やビデオを介して理解する。
第 13 週	視覚のしくみ -1-（生物学）	眼でものが見えるしくみを学び、盲斑の位置と形を測定する。
第 14 週	視覚のしくみ -2-（生物学）	盲斑の位置と形を測定し（続き）、その結果をレポートにまとめる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、授業内で出される課題の対応や実験の後のレポートの作成など、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】

物理学分野では、必要に応じて授業中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で 1/3 とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

実験を自ら行うことに不安を感じる人もいますが、心配は必要ありません。ティーチングアシスタント（大学院生）のサポートもあり、実験手順の通りに進めれば、実験に不慣れな学生でも容易にできる実験内容になっています。

【Outline (in English)】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces familiar natural phenomena especially light as a common theme in each field. By learning the three fields in one semester, the students will understand the differences between each field and will learn the scientific viewpoint. The submission of a report is required after each experiment, and a grade point is evaluated from scores of those reports. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

NAS100LA

サイエンス・ラボ B

2017 年度以降入学者

中島 弘一、鈴木 忠、土手 昭伸

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 4/Fri.4

単位数：2 単位

定員制（48 名）/2015 年度までに「自然総合講座 B」の単位を修得済みの場合、履修不可

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な 3 分野の実験を 3 人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボ B は科学史から題材をもとめ、生物学、物理学、化学それぞれの分野で転機となったテーマに関連した内容で講義と実験が構成されています。高校までに習った定説がどのようにして成立してきたのか、歴史的な背景とともに学ぶことで、3 つの分野それぞれの科学的なものの見方を学びます。

<生物学>メンデルによる遺伝子の発見、遺伝子の本体が DNA であることの証明、それ以後の DNA 学発展の歴史を学びます。これらを理解する上で必須となる染色体の観察や DNA の抽出実験を行います。

<物理学>電気、熱、光などいろいろな形態で存在し、現代社会の重要な課題の一つであるエネルギーについて、科学史上の重要な実験を通じて体験的に学びます。

<化学>古代からの物質観の変遷を振り返りながら、燃焼反応の正しい理解がどのようになされたのかを学びます。また、燃焼によって得られるガスと灰の性質から酸とアルカリについても学びます。

【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3 つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボ B では、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスを行い、2 回目以降は 3 つのグループに分かれて、ポアソナードタワーにある 3 つの実験室（サイエンスルーム）を 4 週あるいは 5 週単位で順次移動し、受講します。各分野の終了後に課題に対して講評します。

このクラスは初めに「物理学」から学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 週	講義概要	講義の概要説明を行う。
第 2 週	エネルギーとは（物理学）	エネルギーとは何か、エネルギーの変換と保存に関する基礎事項を学ぶ。
第 3 週	電気エネルギーと熱エネルギー（物理学）	電気を用いて熱エネルギーを発生させ、その変換と保存を調べる。
第 4 週	落体実験（物理学）	物体が重力により落下するときの様子を調べ、そこで起こっているエネルギーの変換と保存について調べる。

第 5 週	LED の実験（物理学）	LED を用いて、LED を発光させるための電気エネルギーとその色との関係について調べる。光の粒子性という、現代物理学の一端に触れる。
第 6 週	燃焼から見る反応理解の変遷（化学）	物質観、燃焼理論、電気の歴史と関係性を学ぶ
第 7 週	銅の反応実験（化学）	銅の各種反応を観察し、化学反応で元素変換ができないことを理解する。
第 8 週	マグネシウム金属の燃焼実験（化学）	燃焼によって消費された酸素量と金属灰の重量増の定量的な関係を学ぶ。
第 9 週	酸とアルカリ（化学）	燃焼によって得られるガスは酸性、灰はアルカリ性を示します。酸とアルカリの性質について学びます。
第 10 週	遺伝子とは何か？（生物学）	メンデルはどうやって遺伝子を発見したかについて学ぶ。
第 11 週	細胞と染色体（生物学）	細胞の構造と機能を学び、遺伝の基礎となる染色体を観察する。
第 12 週	メンデル遺伝学から分子遺伝学へ（生物学）	遺伝子の本体が DNA であると証明されるまでの歴史を学ぶ。
第 13 週	DNA の抽出（生物学）	DNA の構造と機能を学んだ上で、DNA の抽出実験を行う。
第 14 週	現代の DNA 学（生物学）	親子鑑定、犯罪捜査、遺伝子診断など応用も含めた DNA 研究の現状を知る。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、授業内で出される課題の対応や実験の後のレポートの作成など、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】

物理学分野では、必要に応じて授業中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で 1/3 とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

実験を自ら行うことに不安を感じる人もいますが、心配は必要ありません。ティーチングアシスタント（大学院生）のサポートもあり、実験手順の通りに進めれば、実験に不慣れな学生でも容易にできる実験内容になっています。

【Outline (in English)】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces history of science containing turning point for each field. By learning established theory and historical background, the students will learn the scientific viewpoint of the three fields. The submission of a report is required after each experiment, and a grade point is evaluated from scores of those reports. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

NAS100LA

サイエンス・ラボ A

2017 年度以降入学者

西村 直美、長谷川 真紀子、井坂 政裕

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 1/Tue.1

単位数：2 単位

定員制（48 名）/2015 年度までに「自然総合講座 A」の単位を修得済みの場合、履修不可

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な 3 分野の実験を 3 人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボ A は身の回りの科学、とりわけ光を共通のテーマに据えて、生物学、物理学、化学それぞれの分野で下記の内容の講義と実験から構成されています。3 つの分野を同時に学ぶことで、それぞれの分野の違いにも触れ、科学的なものの見方を学びます。

<生物学>前半は、植物が行う光合成のしくみや、光によって制御される発芽のしくみなどを実験やビデオを通じて学びます。後半は、動物と光の様々な関係（光走性、概日リズムなど）を学んだ上で、人間の視覚のしくみを実験を通じて理解します。

<物理学>太陽電池を用いた実験、光の波長を測定する仕組みの学習、原子の発する光の波長の測定、光を用いたナノワールドの観察などによって、光の性質や光を用いた技術について学びます。

<化学>光を吸収することで色を作り出す色素に関連した講義と実験（色素の構造的特徴、色素の合成やそれを使った太陽電池の作成など）によって、光と色の関係、光と物質の関係を学びます。

【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3 つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボ A では、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスを行い、2 回目以降は 3 つのグループに分かれて、ボアソナードタワーにある 3 つの実験室（サイエンスルーム）を 4 週あるいは 5 週単位で順次移動し、受講します。各分野の終了後に課題に対して講評します。

このクラスは初めに「化学」から学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 週	講義概要	講義の概要説明を行う。
第 2 週	物質と光の相互作用（化学）	色素がなぜ色を持つのか、光と物質の関係について学ぶ。
第 3 週	分子模型を使った分子組み立て（化学）	色のある分子と色のない分子を模型を使って組み立てることで構造上の違いを理解する。
第 4 週	色素の抽出と合成（化学）	天然色素からの色素の抽出と色素の合成を実験で行う。
第 5 週	色素増感太陽電池の評価（化学）	実際に数種の色素を使って太陽電池を作成し、色素の違いによる効率の評価を実験で確かめる。
第 6 週	光合成のしくみ（生物学）	光合成のしくみを学び、葉の微細構造を観察する。

第 7 週	植物と光（生物学）	発芽、光周性、光屈性など、光合成以外の植物と光の関係を実験やビデオを介して理解する。
第 8 週	動物と光（生物学）	光走性、概日リズムなど動物と光の関係を学ぶ。
第 9 週	視覚のしくみ -1-（生物学）	眼でものが見えるしくみを学び、盲斑の位置と形を測定する。
第 10 週	視覚のしくみ -2-（生物学）	盲斑の位置と形を測定し（続き）、その結果をレポートにまとめる。
第 11 週	光の性質（物理学）	光の性質や、それらを調べる方法、色との関係について学ぶ。
第 12 週	太陽電池の実験（物理学）	太陽電池の発電能力について調べ、光のエネルギーが電気エネルギーに変換する仕組みを学ぶ。
第 13 週	光スペクトルの観察（物理学）	簡易分光器を用いて白熱灯、LED、蛍光灯、水素ランプなどが放つ光の波長を測定し、発光のメカニズムについて学ぶ。
第 14 週	ナノワールドの観察（物理学）	CD や DVD 表面の構造をレーザー光を用いて調べ、目に見えない微細な構造を知る仕組みについて学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、授業内で出される課題の対応や実験の後のレポートの作成など、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】

各分野とも、授業中に必要に応じて紹介します。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で 1/3 とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

実験を自ら行うことに不安を感じる人もいますが、心配は必要ありません。ティーチングアシスタント（大学院生）のサポートもあり、実験手順の通りに進めれば、実験に不慣れな学生でも容易にできる実験内容になっています。

【Outline (in English)】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces familiar natural phenomena especially light as a common theme in each field. By learning the three fields in one semester, the students will understand the differences between each field and will learn the scientific viewpoint. The submission of a report is required after each experiment, and a grade point is evaluated from scores of those reports. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

NAS100LA

サイエンス・ラボ B

2017 年度以降入学者

西村 直美、長谷川 真紀子、井坂 政裕

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 1/Tue.1

単位数：2 単位

定員制（48 名）/2015 年度までに「自然総合講座 B」の単位を修得済みの場合、履修不可

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な 3 分野の実験を 3 人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボ B は科学史から題材をもとめ、生物学、物理学、化学それぞれの分野で転機となったテーマに関連した内容で講義と実験が構成されています。高校までに習った定説がどのようにして成立してきたのか、歴史的な背景とともに学ぶことで、3 つの分野それぞれの科学的なものの見方を学びます。

<生物学>メンデルによる遺伝子の発見、遺伝子の本体が DNA であることの証明、それ以後の DNA 学発展の歴史を学びます。これらを理解する上で必須となる染色体の観察や DNA の抽出実験を行います。

<物理学>電気、熱、光などいろいろな形態で存在し、現代社会の重要な課題の一つであるエネルギーについて、科学史上の重要な実験を通じて体験的に学びます。

<化学>古代からの物質観の変遷を振り返りながら、燃焼反応の正しい理解がどのようになされたのか、その後の酸化還元反応の理解と電池との関連を学びます。

【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3 つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボ B では、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスを行い、2 回目以降は 3 つのグループに分かれて、ポアソナードタワーにある 3 つの実験室（サイエンスルーム）を 4 週あるいは 5 週単位で順次移動し、受講します。各分野の終了後に課題に対して講評します。

このクラスは初めに「化学」から学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 週	講義概要	講義の概要説明を行う。
第 2 週	燃焼から見る反応理解の変遷（化学）	物質観、燃焼理論、電気の歴史と関係性を学ぶ
第 3 週	銅の反応実験（化学）	銅の各種反応を観察し、化学反応で元素変換ができないことを理解する。
第 4 週	マグネシウム金属の燃焼実験（化学）	燃焼によって消費された酸素量と金属灰の重量増の定量的な関係を学ぶ。
第 5 週	燃料電池の発電効率の測定（化学）	燃料電池を使って酸化に伴う電子の移動を実験で学ぶ。

第 6 週	細胞と染色体（生物学）	細胞の構造と機能を学び、遺伝の基礎となる染色体を観察する。
第 7 週	メンデル遺伝学から分子遺伝学へ（生物学）	遺伝子の本体が DNA であると証明されるまでの歴史を学ぶ。
第 8 週	DNA の抽出（生物学）	DNA の構造と機能を学んだ上で、DNA の抽出実験を行う。
第 9 週	現代の DNA 学（生物学）	親子鑑定、犯罪捜査、遺伝子診断など応用も含めた DNA 研究の現状を知る。
第 10 週	エネルギーとは（物理学）	エネルギーとは何か、エネルギーの変換と保存に関する基礎事項を学ぶ。
第 11 週	電気エネルギーと熱エネルギー（物理学）	電気をういて熱エネルギーを発生させ、その変換と保存を調べる。
第 12 週	落体実験（物理学）	物体が重力により落下するときの様子を調べ、そこで起こっているエネルギーの変換と保存について調べる。
第 13 週	LED の実験（物理学）	LED を用いて、LED を発光させるための電気エネルギーとその色との関係について調べる。光の粒子性という、現代物理学の一端に触れる。
第 14 週	エネルギーに関する技術（物理学）	熱電発電、超伝導技術、放射線測定、など、エネルギーに関する技術について学ぶ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、授業内で出される課題の対応や実験の後のレポートの作成など、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】

各分野とも、授業中に必要に応じて紹介します。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で 1/3 とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

実験を自ら行うことに不安を感じる人もいますが、心配は必要ありません。ティーチングアシスタント（大学院生）のサポートもあり、実験手順の通りに進めれば、実験に不慣れな学生でも容易にできる実験内容になっています。

【Outline (in English)】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces history of science containing turning point for each field. By learning established theory and historical background, the students will learn the scientific viewpoint of the three fields. The submission of a report is required after each experiment, and a grade point is evaluated from scores of those reports. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

NAS100LA

サイエンス・ラボ A

2017 年度以降入学者

西村 直美、長谷川 真紀子、井坂 政裕

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 2/Tue.2

単位数：2 単位

定員制（48 名）/2015 年度までに「自然総合講座 A」の単位を修得済みの場合、履修不可

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な 3 分野の実験を 3 人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボ A は身の回りの科学、とりわけ光を共通のテーマに据えて、生物学、物理学、化学それぞれの分野で下記の内容の講義と実験から構成されています。3 つの分野を同時に学ぶことで、それぞれの分野の違いにも触れ、科学的なものの見方を学びます。

<生物学>前半は、植物が行う光合成のしくみや、光によって制御される発芽のしくみなどを実験やビデオを通じて学びます。後半は、動物と光の様々な関係（光走性、概日リズムなど）を学んだ上で、人間の視覚のしくみを実験を通じて理解します。

<物理学>太陽電池を用いた実験、光の波長を測定する仕組みの学習、原子の発する光の波長の測定、光を用いたナノワールドの観察などによって、光の性質や光を用いた技術について学びます。

<化学>光を吸収することで色を作り出す色素に関連した講義と実験（色素の構造的特徴、色素の合成やそれを使った太陽電池の作成など）によって、光と色の関係、光と物質の関係を学びます。

【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3 つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボ A では、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスを行い、2 回目以降は 3 つのグループに分かれて、ボアソナードタワーにある 3 つの実験室（サイエンスルーム）を 4 週あるいは 5 週単位で順次移動し、受講します。各分野の終了後に課題に対して講評します。

このクラスは初めに「化学」から学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 週	講義概要	講義の概要説明を行う。
第 2 週	物質と光の相互作用（化学）	色素がなぜ色を持つのか、光と物質の関係について学ぶ。
第 3 週	分子模型を使った分子組み立て（化学）	色のある分子と色のない分子を模型を使って組み立てることで構造上の違いを理解する。
第 4 週	色素の抽出と合成（化学）	天然色素からの色素の抽出と色素の合成を実験で行う。
第 5 週	色素増感太陽電池の評価（化学）	実際に数種の色素を使って太陽電池を作成し、色素の違いによる効率の評価を実験で確かめる。
第 6 週	光合成のしくみ（生物学）	光合成のしくみを学び、葉の微細構造を観察する。

第 7 週	植物と光（生物学）	発芽、光周性、光屈性など、光合成以外の植物と光の関係を実験やビデオを介して理解する。
第 8 週	動物と光（生物学）	光走性、概日リズムなど動物と光の関係を学ぶ。
第 9 週	視覚のしくみ -1-（生物学）	眼でものが見えるしくみを学び、盲斑の位置と形を測定する。
第 10 週	視覚のしくみ -2-（生物学）	盲斑の位置と形を測定し（続き）、その結果をレポートにまとめる。
第 11 週	光の性質（物理学）	光の性質や、それらを調べる方法、色との関係について学ぶ。
第 12 週	太陽電池の実験（物理学）	太陽電池の発電能力について調べ、光のエネルギーが電気エネルギーに変換する仕組みを学ぶ。
第 13 週	光スペクトルの観察（物理学）	簡易分光器を用いて白熱灯、LED、蛍光灯、水素ランプなどが放つ光の波長を測定し、発光のメカニズムについて学ぶ。
第 14 週	ナノワールドの観察（物理学）	CD や DVD 表面の構造をレーザー光を用いて調べ、目に見えない微細な構造を知る仕組みについて学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、授業内で出される課題の対応や実験の後のレポートの作成など、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】

各分野とも、授業中に必要に応じて紹介します。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で 1/3 とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

実験を自ら行うことに不安を感じる人もいますが、心配は必要ありません。ティーチングアシスタント（大学院生）のサポートもあり、実験手順の通りに進めれば、実験に不慣れな学生でも容易にできる実験内容になっています。

【Outline (in English)】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces familiar natural phenomena especially light as a common theme in each field. By learning the three fields in one semester, the students will understand the differences between each field and will learn the scientific viewpoint. The submission of a report is required after each experiment, and a grade point is evaluated from scores of those reports. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

NAS100LA

サイエンス・ラボ B

2017 年度以降入学者

西村 直美、長谷川 真紀子、井坂 政裕

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 2/Tue.2

単位数：2 単位

定員制（48 名）/2015 年度までに「自然総合講座 B」の単位を修得済みの場合、履修不可

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な 3 分野の実験を 3 人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボ B は科学史から題材をもとめ、生物学、物理学、化学それぞれの分野で転機となったテーマに関連した内容で講義と実験が構成されています。高校までに習った定説がどのようにして成立してきたのか、歴史的な背景とともに学ぶことで、3 つの分野それぞれの科学的なものの見方を学びます。

<生物学>メンデルによる遺伝子の発見、遺伝子の本体が DNA であることの証明、それ以後の DNA 学発展の歴史を学びます。これらを理解する上で必須となる染色体の観察や DNA の抽出実験を行います。

<物理学>電気、熱、光などいろいろな形態で存在し、現代社会の重要な課題の一つであるエネルギーについて、科学史上の重要な実験を通じて体験的に学びます。

<化学>古代からの物質観の変遷を振り返りながら、燃焼反応の正しい理解がどのようになされたのか、その後の酸化還元反応の理解と電池との関連を学びます。

【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3 つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボ B では、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスを行い、2 回目以降は 3 つのグループに分かれて、ボアソナードタワーにある 3 つの実験室（サイエンスルーム）を 4 週あるいは 5 週単位で順次移動し、受講します。各分野の終了後に課題に対して講評します。

このクラスは初めに「化学」から学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 週	講義概要	講義の概要説明を行う。
第 2 週	燃焼から見る反応理解の変遷（化学）	物質観、燃焼理論、電気の歴史と関係性を学ぶ
第 3 週	銅の反応実験（化学）	銅の各種反応を観察し、化学反応で元素変換ができないことを理解する。
第 4 週	マグネシウム金属の燃焼実験（化学）	燃焼によって消費された酸素量と金属灰の重量増の定量的な関係を学ぶ。
第 5 週	燃料電池の発電効率の測定（化学）	燃料電池を使って酸化に伴う電子の移動を実験で学ぶ。

第 6 週	細胞と染色体（生物学）	細胞の構造と機能を学び、遺伝の基礎となる染色体を観察する。
第 7 週	メンデル遺伝学から分子遺伝学へ（生物学）	遺伝子の本体が DNA であると証明されるまでの歴史を学ぶ。
第 8 週	DNA の抽出（生物学）	DNA の構造と機能を学んだ上で、DNA の抽出実験を行う。
第 9 週	現代の DNA 学（生物学）	親子鑑定、犯罪捜査、遺伝子診断など応用も含めた DNA 研究の現状を知る。
第 10 週	エネルギーとは（物理学）	エネルギーとは何か、エネルギーの変換と保存に関する基礎事項を学ぶ。
第 11 週	電気エネルギーと熱エネルギー（物理学）	電気をういて熱エネルギーを発生させ、その変換と保存を調べる。
第 12 週	落体実験（物理学）	物体が重力により落下するときの様子を調べ、そこで起こっているエネルギーの変換と保存について調べる。
第 13 週	LED の実験（物理学）	LED を用いて、LED を発光させるための電気エネルギーとその色との関係について調べる。光の粒子性という、現代物理学の一端に触れる。
第 14 週	エネルギーに関する技術（物理学）	熱電発電、超伝導技術、放射線測定、など、エネルギーに関する技術について学ぶ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、授業内で出される課題の対応や実験の後のレポートの作成など、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】

各分野とも、授業中に必要に応じて紹介します。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で 1/3 とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

実験を自ら行うことに不安を感じる人もいますが、心配は必要ありません。ティーチングアシスタント（大学院生）のサポートもあり、実験手順の通りに進めれば、実験に不慣れな学生でも容易にできる実験内容になっています。

【Outline (in English)】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces history of science containing turning point for each field. By learning established theory and historical background, the students will learn the scientific viewpoint of the three fields. The submission of a report is required after each experiment, and a grade point is evaluated from scores of those reports. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

NAS100LA

サイエンス・ラボ A

2017 年度以降入学者

石塚 芽具美、田中 浩輔、吉田 智

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 3/Tue.3

単位数：2 単位

定員制（48 名）/2015 年度までに「自然総合講座 A」の単位を修得済みの場合、履修不可

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な 3 分野の実験を 3 人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボ A は身の回りの科学、とりわけ光を共通のテーマに据えて、生物学、物理学、化学それぞれの分野で下記の内容の講義と実験から構成されています。3 つの分野を同時に学ぶことで、それぞれの分野の違いにも触れ、科学的なものの見方を学びます。

<生物学>前半は、植物が行う光合成のしくみや、光によって制御される発芽のしくみなどを実験やビデオを通じて学びます。後半は、動物と光の様々な関係（光走性、概日リズムなど）を学んだ上で、人間の視覚のしくみを実験を通じて理解します。

<物理学>太陽電池を用いた実験、光の波長を測定する仕組みの学習、原子の発する光の波長の測定、光を用いたナノワールドの観察などによって、光の性質や光を用いた技術について学びます。

<化学>光を吸収することで色を作り出す色素に関連した講義と実験（色素の構造的特徴、色素の合成やそれを使った太陽電池の作成など）によって、光と色の関係、光と物質の関係を学びます。

【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3 つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボ A では、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスを行い、2 回目以降は 3 つのグループに分かれて、ポアソナードタワーにある 3 つの実験室（サイエンスルーム）を 4 週あるいは 5 週単位で順次移動し、受講します。各分野の終了後に課題に対して講評します。このクラスは初めに「化学」から学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 週	講義概要	講義の概要説明を行う。
第 2 週	物質と光の相互作用（化学）	色素がなぜ色を持つのか、光と物質の関係について学ぶ。
第 3 週	分子模型を使った分子組み立て（化学）	色のある分子と色のない分子を模型を使って組み立てることで構造上の違いを理解する。
第 4 週	色素の抽出と合成（化学）	天然色素からの色素の抽出と色素の合成を実験で行う。
第 5 週	色素増感太陽電池の評価（化学）	実際に数種の色素を使って太陽電池を作成し、色素の違いによる効率の評価を実験で確かめる。
第 6 週	光合成のしくみ（生物学）	光合成のしくみを学び、葉の微細構造を観察する。

第 7 週	植物と光（生物学）	発芽、光周性、光屈性など、光合成以外の植物と光の関係を実験やビデオを介して理解する。
第 8 週	動物と光（生物学）	光走性、概日リズムなど動物と光の関係を学ぶ。
第 9 週	視覚のしくみ -1-（生物学）	眼でものが見えるしくみを学び、盲斑の位置と形を測定する。
第 10 週	視覚のしくみ -2-（生物学）	盲斑の位置と形を測定し（続き）、その結果をレポートにまとめる。
第 11 週	光の性質（物理学）	光の性質や、それらを調べる方法、色との関係について学ぶ。
第 12 週	太陽電池の実験（物理学）	太陽電池の発電能力について調べ、光のエネルギーが電気エネルギーに変換する仕組みを学ぶ。
第 13 週	光スペクトルの観察（物理学）	簡易分光器を用いて白熱灯、LED、蛍光灯、水素ランプなどが放つ光の波長を測定し、発光のメカニズムについて学ぶ。
第 14 週	ナノワールドの観察（物理学）	CD や DVD 表面の構造をレーザー光を用いて調べ、目に見えない微細な構造を知る仕組みについて学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、授業内で出される課題の対応や実験の後のレポートの作成など、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】

適宜提示します。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で 1/3 とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

実験を自ら行うことに不安を感じる人もいるようですが、心配は必要ありません。ティーチングアシスタント（大学院生）のサポートもあり、実験手順の通りに進めれば、実験に不慣れな学生でも容易にできる実験内容になっています。

【Outline (in English)】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces familiar natural phenomena especially light as a common theme in each field. By learning the three fields in one semester, the students will understand the differences between each field and will learn the scientific viewpoint. The submission of a report is required after each experiment, and a grade point is evaluated from scores of those reports. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

NAS100LA

サイエンス・ラボ B

2017 年度以降入学者

石塚 芽具美、田中 浩輔、鈴木 裕武

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 3/Tue.3

単位数：2 単位

定員制（48 名）/2015 年度までに「自然総合講座 B」の単位を修得済みの場合、履修不可

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な 3 分野の実験を 3 人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボ B は科学史から題材をもとめ、生物学、物理学、化学それぞれの分野で転機となったテーマに関連した内容で講義と実験が構成されています。高校までに習った定説がどのようにして成立してきたのか、歴史的な背景とともに学ぶことで、3 つの分野それぞれの科学的なものの見方を学びます。

<生物学>メンデルによる遺伝子の発見、遺伝子の本体が DNA であることの証明、それ以後の DNA 学発展の歴史を学びます。これらを理解する上で必須となる染色体の観察や DNA の抽出実験を行います。

<物理学>電気、熱、光などいろいろな形態で存在し、現代社会の重要な課題の一つであるエネルギーについて、科学史上の重要な実験を通じて体験的に学びます。

<化学>古代からの物質観の変遷を振り返りながら、燃焼反応の正しい理解がどのようになされたのか、その後の酸化還元反応の理解と電池との関連を学びます。

【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3 つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボ B では、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスを行い、2 回目以降は 3 つのグループに分かれて、ポアソナードタワーにある 3 つの実験室（サイエンスルーム）を 4 週あるいは 5 週単位で順次移動し、受講します。各分野の終了後に課題に対して講評します。

このクラスは初めに「化学」から学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 週	講義概要	講義の概要説明を行う。
第 2 週	燃焼から見る反応理解の変遷（化学）	物質観、燃焼理論、電気の歴史と関係性を学ぶ
第 3 週	銅の反応実験（化学）	銅の各種反応を観察し、化学反応で元素変換ができないことを理解する。
第 4 週	マグネシウム金属の燃焼実験（化学）	燃焼によって消費された酸素量と金属灰の重量増の定量的な関係を学ぶ。
第 5 週	燃料電池の発電効率の測定（化学）	燃料電池を使って酸化に伴う電子の移動を実験で学ぶ。

第 6 週	細胞と染色体（生物学）	細胞の構造と機能を学び、遺伝の基礎となる染色体を観察する。
第 7 週	メンデル遺伝学から分子遺伝学へ（生物学）	遺伝子の本体が DNA であると証明されるまでの歴史を学ぶ。
第 8 週	DNA の抽出（生物学）	DNA の構造と機能を学んだ上で、DNA の抽出実験を行う。
第 9 週	現代の DNA 学（生物学）	親子鑑定、犯罪捜査、遺伝子診断など応用も含めた DNA 研究の現状を知る。
第 10 週	エネルギーとは（物理学）	エネルギーとは何か、エネルギーの変換と保存に関する基礎事項を学ぶ。
第 11 週	電気エネルギーと熱エネルギー（物理学）	電気をういて熱エネルギーを発生させ、その変換と保存を調べる。
第 12 週	落体実験（物理学）	物体が重力により落下するときの様子を調べ、そこで起こっているエネルギーの変換と保存について調べる。
第 13 週	LED の実験（物理学）	LED を用いて、LED を発光させるための電気エネルギーとその色との関係について調べる。光の粒子性という、現代物理学の一端に触れる。
第 14 週	エネルギーに関する技術（物理学）	熱電発電、超伝導技術、放射線測定、など、エネルギーに関する技術について学ぶ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、授業内で出される課題の対応や実験の後のレポートの作成など、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】

参考書は指定していません。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で 1/3 とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

実験を自ら行うことに不安を感じる人もいますが、心配は必要ありません。ティーチングアシスタント（大学院生）のサポートもあり、実験手順の通りに進めれば、実験に不慣れな学生でも容易にできる実験内容になっています。

高校で未履修の人が多い物理のレポート作成も難しはありません。物理では授業で使うワークシートがそのままレポートになるので、授業に参加すれば誰でも容易にレポートを完成させることができます。

【Outline (in English)】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces history of science containing turning point for each field. By learning established theory and historical background, the students will learn the scientific viewpoint of the three fields. The submission of a report is required after each experiment, and a grade point is evaluated from scores of those reports. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

NAS100LA

サイエンス・ラボ A

2017 年度以降入学者

石塚 芽具美、田中 浩輔、石川 壮一

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 4/Tue.4

単位数：2 単位

定員制（48 名）/2015 年度までに「自然総合講座 A」の単位を修得済みの場合、履修不可

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な 3 分野の実験を 3 人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボ A は身の回りの科学、とりわけ光を共通のテーマに据えて、生物学、物理学、化学それぞれの分野で下記の内容の講義と実験から構成されています。3 つの分野を同時に学ぶことで、それぞれの分野の違いにも触れ、科学的なものの見方を学びます。

<生物学>前半は、植物が行う光合成のしくみや、光によって制御される発芽のしくみなどを実験やビデオを通じて学びます。後半は、動物と光の様々な関係（光走性、概日リズムなど）を学んだ上で、人間の視覚のしくみを実験を通じて理解します。

<物理学>太陽電池を用いた実験、光の波長を測定する仕組みの学習、原子の発する光の波長の測定、光を用いたナノワールドの観察などによって、光の性質や光を用いた技術について学びます。

<化学>光を吸収することで色を作り出す色素に関連した講義と実験（色素の構造的特徴、色素の合成やそれを使った太陽電池の作成など）によって、光と色の関係、光と物質の関係を学びます。

【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3 つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボ A では、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスを行い、2 回目以降は 3 つのグループに分かれて、ポアソナードタワーにある 3 つの実験室（サイエンスルーム）を 4 週あるいは 5 週単位で順次移動し、受講します。各分野の終了後に課題に対して講評します。

このクラスは初めに「化学」から学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 週	講義概要	講義の概要説明を行う。
第 2 週	物質と光の相互作用（化学）	色素がなぜ色を持つのか、光と物質の関係について学ぶ。
第 3 週	分子模型を使った分子組み立て（化学）	色のある分子と色のない分子を模型を使って組み立てることで構造上の違いを理解する。
第 4 週	色素の抽出と合成（化学）	天然色素からの色素の抽出と色素の合成を実験で行う。
第 5 週	色素増感太陽電池の評価（化学）	実際に数種の色素を使って太陽電池を作成し、色素の違いによる効率の評価を実験で確かめる。
第 6 週	光合成のしくみ（生物学）	光合成のしくみを学び、葉の微細構造を観察する。

第 7 週	植物と光（生物学）	発芽、光周性、光屈性など、光合成以外の植物と光の関係を実験やビデオを介して理解する。
第 8 週	動物と光（生物学）	光走性、概日リズムなど動物と光の関係を学ぶ。
第 9 週	視覚のしくみ -1-（生物学）	眼でものが見えるしくみを学び、盲斑の位置と形を測定する。
第 10 週	視覚のしくみ -2-（生物学）	盲斑の位置と形を測定し（続き）、その結果をレポートにまとめる。
第 11 週	光の性質（物理学）	光の性質や、それらを調べる方法、色との関係について学ぶ。
第 12 週	太陽電池の実験（物理学）	太陽電池の発電能力について調べ、光のエネルギーが電気エネルギーに変換する仕組みを学ぶ。
第 13 週	光スペクトルの観察（物理学）	簡易分光器を用いて白熱灯、LED、蛍光灯、水素ランプなどが放つ光の波長を測定し、発光のメカニズムについて学ぶ。
第 14 週	ナノワールドの観察（物理学）	CD や DVD 表面の構造をレーザー光を用いて調べ、目に見えない微細な構造を知る仕組みについて学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、授業内で出される課題の対応や実験の後のレポートの作成など、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】

適宜提示します。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で 1/3 とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

実験を自ら行うことに不安を感じる人もいますが、心配は必要ありません。ティーチングアシスタント（大学院生）のサポートもあり、実験手順の通りに進めれば、実験に不慣れな学生でも容易にできる実験内容になっています。

【Outline (in English)】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces familiar natural phenomena especially light as a common theme in each field. By learning the three fields in one semester, the students will understand the differences between each field and will learn the scientific viewpoint. The submission of a report is required after each experiment, and a grade point is evaluated from scores of those reports. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

NAS100LA

サイエンス・ラボ B

2017 年度以降入学者

石塚 芽具美、田中 浩輔、鈴木 裕武

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 4/Tue.4

単位数：2 単位

定員制（48 名）/2015 年度までに「自然総合講座 B」の単位を修得済みの場合、履修不可

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な 3 分野の実験を 3 人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボ B は科学史から題材をもとめ、生物学、物理学、化学それぞれの分野で転機となったテーマに関連した内容で講義と実験が構成されています。高校までに習った定説がどのようにして成立してきたのか、歴史的な背景とともに学ぶことで、3 つの分野それぞれの科学的なものの見方を学びます。

<生物学>メンデルによる遺伝子の発見、遺伝子の本体が DNA であることの証明、それ以後の DNA 学発展の歴史を学びます。これらを理解する上で必須となる染色体の観察や DNA の抽出実験を行います。

<物理学>電気、熱、光などいろいろな形態で存在し、現代社会の重要な課題の一つであるエネルギーについて、科学史上の重要な実験を通じて体験的に学びます。

<化学>古代からの物質観の変遷を振り返りながら、燃焼反応の正しい理解がどのようになされたのか、その後の酸化還元反応の理解と電池との関連を学びます。

【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3 つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボ B では、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスを行い、2 回目以降は 3 つのグループに分かれて、ポアソナードタワーにある 3 つの実験室（サイエンスルーム）を 4 週あるいは 5 週単位で順次移動し、受講します。各分野の終了後に課題に対して講評します。

このクラスは初めに「化学」から学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 週	講義概要	講義の概要説明を行う。
第 2 週	燃焼から見る反応理解の変遷（化学）	物質観、燃焼理論、電気の歴史と関係性を学ぶ
第 3 週	銅の反応実験（化学）	銅の各種反応を観察し、化学反応で元素変換ができないことを理解する。
第 4 週	マグネシウム金属の燃焼実験（化学）	燃焼によって消費された酸素量と金属灰の重量増の定量的な関係を学ぶ。
第 5 週	燃料電池の発電効率の測定（化学）	燃料電池を使って酸化に伴う電子の移動を実験で学ぶ。

第 6 週	細胞と染色体（生物学）	細胞の構造と機能を学び、遺伝の基礎となる染色体を観察する。
第 7 週	メンデル遺伝学から分子遺伝学へ（生物学）	遺伝子の本体が DNA であると証明されるまでの歴史を学ぶ。
第 8 週	DNA の抽出（生物学）	DNA の構造と機能を学んだ上で、DNA の抽出実験を行う。
第 9 週	現代の DNA 学（生物学）	親子鑑定、犯罪捜査、遺伝子診断など応用も含めた DNA 研究の現状を知る。
第 10 週	エネルギーとは（物理学）	エネルギーとは何か、エネルギーの変換と保存に関する基礎事項を学ぶ。
第 11 週	電気エネルギーと熱エネルギー（物理学）	電気をういて熱エネルギーを発生させ、その変換と保存を調べる。
第 12 週	落体実験（物理学）	物体が重力により落下するときの様子を調べ、そこで起こっているエネルギーの変換と保存について調べる。
第 13 週	LED の実験（物理学）	LED を用いて、LED を発光させるための電気エネルギーとその色との関係について調べる。光の粒子性という、現代物理学の一端に触れる。
第 14 週	エネルギーに関する技術（物理学）	熱電発電、超伝導技術、放射線測定、など、エネルギーに関する技術について学ぶ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、授業内で出される課題の対応や実験の後のレポートの作成など、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】

参考書は指定していません。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で 1/3 とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

実験を自ら行うことに不安を感じる人もいますが、心配は必要ありません。ティーチングアシスタント（大学院生）のサポートもあり、実験手順の通りに進めれば、実験に不慣れな学生でも容易にできる実験内容になっています。

高校で未履修の人が多い物理のレポート作成も難しはありません。物理では授業で使うワークシートがそのままレポートになるので、授業に参加すれば誰でも容易にレポートを完成させることができます。

【Outline (in English)】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces history of science containing turning point for each field. By learning established theory and historical background, the students will learn the scientific viewpoint of the three fields. The submission of a report is required after each experiment, and a grade point is evaluated from scores of those reports. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

NAS100LA

サイエンス・ラボ A

2017 年度以降入学者

向井 知大、川上 裕司、鈴木 裕武

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 1/Thu.1

単位数：2 単位

定員制（48 名）/2015 年度までに「自然総合講座 A」の単位を修得済みの場合、履修不可

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な 3 分野の実験を 3 人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボ A は身の回りの科学、とりわけ光を共通のテーマに据えて、生物学、物理学、化学それぞれの分野で下記の内容の講義と実験から構成されています。3 つの分野を同時に学ぶことで、それぞれの分野の違いにも触れ、科学的なものの見方を学びます。

<生物学>前半は、植物が行う光合成のしくみや、光によって制御される発芽のしくみなどを実験やビデオを通じて学びます。後半は、動物と光の様々な関係（光走性、概日リズムなど）を学んだ上で、人間の視覚のしくみを実験を通じて理解します。

<物理学>太陽電池を用いた実験、光の波長を測定する仕組みの学習、原子の発する光の波長の測定、光を用いたナノワールドの観察などによって、光の性質や光を用いた技術について学びます。

<化学>光を吸収することで色を作り出す色素に関連した講義と実験（色素の構造的特徴、色素の合成やそれを使った太陽電池の作成など）によって、光と色の関係、光と物質の関係を学びます。

【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3 つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボ A では、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスを行い、2 回目以降は 3 つのグループに分かれて、ボアソナードタワーにある 3 つの実験室（サイエンスルーム）を 4 週あるいは 5 週単位で順次移動し、受講します。各分野の終了後に課題に対して講評します。

このクラスは初めに「化学」から学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 週	講義概要	講義の概要説明を行う。
第 2 週	物質と光の相互作用（化学）	色素がなぜ色を持つのか、光と物質の関係について学ぶ。
第 3 週	分子模型を使った分子組み立て（化学）	色のある分子と色のない分子を模型を使って組み立てることで構造上の違いを理解する。
第 4 週	色素の抽出と合成（化学）	天然色素からの色素の抽出と色素の合成を実験で行う。
第 5 週	色素増感太陽電池の評価（化学）	実際に数種の色素を使って太陽電池を作成し、色素の違いによる効率の評価を実験で確かめる。
第 6 週	光合成のしくみ（生物学）	光合成のしくみを学び、葉の微細構造を観察する。

第 7 週	植物と光（生物学）	発芽、光周性、光屈性など、光合成以外の植物と光の関係を実験やビデオを介して理解する。
第 8 週	動物と光（生物学）	光走性、概日リズムなど動物と光の関係を学ぶ。
第 9 週	視覚のしくみ -1-（生物学）	眼でものが見えるしくみを学び、盲斑の位置と形を測定する。
第 10 週	視覚のしくみ -2-（生物学）	盲斑の位置と形を測定し（続き）、その結果をレポートにまとめる。
第 11 週	光の性質（物理学）	光の性質や、それらを調べる方法、色との関係について学ぶ。
第 12 週	太陽電池の実験（物理学）	太陽電池の発電能力について調べ、光のエネルギーが電気エネルギーに変換する仕組みを学ぶ。
第 13 週	光スペクトルの観察（物理学）	簡易分光器を用いて白熱灯、LED、蛍光灯、水素ランプなどが放つ光の波長を測定し、発光のメカニズムについて学ぶ。
第 14 週	ナノワールドの観察（物理学）	CD や DVD 表面の構造をレーザー光を用いて調べ、目に見えない微細な構造を知る仕組みについて学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、授業内で出される課題の対応や実験の後のレポートの作成など、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】

参考書は指定していません。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で 1/3 とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

実験を自ら行うことに不安を感じる人もいますが、心配は必要ありません。ティーチングアシスタント（大学院生）のサポートもあり、実験手順の通りに進めれば、実験に不慣れな学生でも容易にできる実験内容になっています。

高校で未履修の人が多い物理のレポート作成も難しくはありません。物理では授業で使うワークシートがそのままレポートになるので、授業に参加すれば誰でも容易にレポートを完成させることができます。

【Outline (in English)】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces familiar natural phenomena especially light as a common theme in each field. By learning the three fields in one semester, the students will understand the differences between each field and will learn the scientific viewpoint. The submission of a report is required after each experiment, and a grade point is evaluated from scores of those reports. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

NAS100LA

サイエンス・ラボ B

2017 年度以降入学者

向井 知大、川上 裕司、鈴木 裕武

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 1/Thu.1

単位数：2 単位

定員制（48 名）/2015 年度までに「自然総合講座 B」の単位を修得済みの場合、履修不可

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な 3 分野の実験を 3 人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボ B は科学史から題材をもとめ、生物学、物理学、化学それぞれの分野で転機となったテーマに関連した内容で講義と実験が構成されています。高校までに習った定説がどのようにして成立してきたのか、歴史的な背景とともに学ぶことで、3 つの分野それぞれの科学的なものの見方を学びます。

<生物学>メンデルによる遺伝子の発見、遺伝子の本体が DNA であることの証明、それ以後の DNA 学発展の歴史を学びます。これらを理解する上で必須となる染色体の観察や DNA の抽出実験を行います。

<物理学>電気、熱、光などいろいろな形態で存在し、現代社会の重要な課題の一つであるエネルギーについて、科学史上の重要な実験を通じて体験的に学びます。

<化学>古代からの物質観の変遷を振り返りながら、燃焼反応の正しい理解がどのようになされたのか、その後の酸化還元反応の理解と電池との関連を学びます。

【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3 つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボ B では、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスを行い、2 回目以降は 3 つのグループに分かれて、ポアソナードタワーにある 3 つの実験室（サイエンスルーム）を 4 週あるいは 5 週単位で順次移動し、受講します。各分野の終了後に課題に対して講評します。

このクラスは初めに「化学」から学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 週	講義概要	講義の概要説明を行う。
第 2 週	燃焼から見る反応理解の変遷（化学）	物質観、燃焼理論、電気の歴史と関係性を学ぶ
第 3 週	銅の反応実験（化学）	銅の各種反応を観察し、化学反応で元素変換ができないことを理解する。
第 4 週	マグネシウム金属の燃焼実験（化学）	燃焼によって消費された酸素量と金属灰の重量増の定量的な関係を学ぶ。
第 5 週	燃料電池の発電効率の測定（化学）	燃料電池を使って酸化に伴う電子の移動を実験で学ぶ。

第 6 週	細胞と染色体（生物学）	細胞の構造と機能を学び、遺伝の基礎となる染色体を観察する。
第 7 週	メンデル遺伝学から分子遺伝学へ（生物学）	遺伝子の本体が DNA であると証明されるまでの歴史を学ぶ。
第 8 週	DNA の抽出（生物学）	DNA の構造と機能を学んだ上で、DNA の抽出実験を行う。
第 9 週	現代の DNA 学（生物学）	親子鑑定、犯罪捜査、遺伝子診断など応用も含めた DNA 研究の現状を知る。
第 10 週	エネルギーとは（物理学）	エネルギーとは何か、エネルギーの変換と保存に関する基礎事項を学ぶ。
第 11 週	電気エネルギーと熱エネルギー（物理学）	電気をういて熱エネルギーを発生させ、その変換と保存を調べる。
第 12 週	落体実験（物理学）	物体が重力により落下するときの様子を調べ、そこで起こっているエネルギーの変換と保存について調べる。
第 13 週	LED の実験（物理学）	LED を用いて、LED を発光させるための電気エネルギーとその色との関係について調べる。光の粒子性という、現代物理学の一端に触れる。
第 14 週	エネルギーに関する技術（物理学）	熱電発電、超伝導技術、放射線測定、など、エネルギーに関する技術について学ぶ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、授業内で出される課題の対応や実験の後のレポートの作成など、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】

参考書は指定していません。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で 1/3 とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

実験を自ら行うことに不安を感じる人もいますが、心配は必要ありません。ティーチングアシスタント（大学院生）のサポートもあり、実験手順の通りに進めれば、実験に不慣れな学生でも容易にできる実験内容になっています。

高校で未履修の人が多い物理のレポート作成も難しくはありません。物理では授業で使うワークシートがそのままレポートになるので、授業に参加すれば誰でも容易にレポートを完成させることができます。

【Outline (in English)】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces history of science containing turning point for each field. By learning established theory and historical background, the students will learn the scientific viewpoint of the three fields. The submission of a report is required after each experiment, and a grade point is evaluated from scores of those reports. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

NAS100LA

サイエンス・ラボ A

2017 年度以降入学者

向井 知大、川上 裕司、鈴木 裕武

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 2/Thu.2

単位数：2 単位

定員制（48 名）/2015 年度までに「自然総合講座 A」の単位を修得済みの場合、履修不可

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な 3 分野の実験を 3 人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボ A は身の回りの科学、とりわけ光を共通のテーマに据えて、生物学、物理学、化学それぞれの分野で下記の内容の講義と実験から構成されています。3 つの分野を同時に学ぶことで、それぞれの分野の違いにも触れ、科学的なものの見方を学びます。

<生物学>前半は、植物が行う光合成のしくみや、光によって制御される発芽のしくみなどを実験やビデオを通じて学びます。後半は、動物と光の様々な関係（光走性、概日リズムなど）を学んだ上で、人間の視覚のしくみを実験を通じて理解します。

<物理学>太陽電池を用いた実験、光の波長を測定する仕組みの学習、原子の発する光の波長の測定、光を用いたナノワールドの観察などによって、光の性質や光を用いた技術について学びます。

<化学>光を吸収することで色を作り出す色素に関連した講義と実験（色素の構造的特徴、色素の合成やそれを使った太陽電池の作成など）によって、光と色の関係、光と物質の関係を学びます。

【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3 つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボ A では、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスを行い、2 回目以降は 3 つのグループに分かれて、ボアソナードタワーにある 3 つの実験室（サイエンスルーム）を 4 週あるいは 5 週単位で順次移動し、受講します。各分野の終了後に課題に対して講評します。

このクラスは初めに「化学」から学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 週	講義概要	講義の概要説明を行う。
第 2 週	物質と光の相互作用（化学）	色素がなぜ色を持つのか、光と物質の関係について学ぶ。
第 3 週	分子模型を使った分子組み立て（化学）	色のある分子と色のない分子を模型を使って組み立てることで構造上の違いを理解する。
第 4 週	色素の抽出と合成（化学）	天然色素からの色素の抽出と色素の合成を実験で行う。
第 5 週	色素増感太陽電池の評価（化学）	実際に数種の色素を使って太陽電池を作成し、色素の違いによる効率の評価を実験で確かめる。
第 6 週	光合成のしくみ（生物学）	光合成のしくみを学び、葉の微細構造を観察する。

第 7 週	植物と光（生物学）	発芽、光周性、光屈性など、光合成以外の植物と光の関係を実験やビデオを介して理解する。
第 8 週	動物と光（生物学）	光走性、概日リズムなど動物と光の関係を学ぶ。
第 9 週	視覚のしくみ -1-（生物学）	眼でものが見えるしくみを学び、盲斑の位置と形を測定する。
第 10 週	視覚のしくみ -2-（生物学）	盲斑の位置と形を測定し（続き）、その結果をレポートにまとめる。
第 11 週	光の性質（物理学）	光の性質や、それらを調べる方法、色との関係について学ぶ。
第 12 週	太陽電池の実験（物理学）	太陽電池の発電能力について調べ、光のエネルギーが電気エネルギーに変換する仕組みを学ぶ。
第 13 週	光スペクトルの観察（物理学）	簡易分光器を用いて白熱灯、LED、蛍光灯、水素ランプなどが放つ光の波長を測定し、発光のメカニズムについて学ぶ。
第 14 週	ナノワールドの観察（物理学）	CD や DVD 表面の構造をレーザー光を用いて調べ、目に見えない微細な構造を知る仕組みについて学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、授業内で出される課題の対応や実験の後のレポートの作成など、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】

参考書は指定していません。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で 1/3 とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

実験を自ら行うことに不安を感じる人もいますが、心配は必要ありません。ティーチングアシスタント（大学院生）のサポートもあり、実験手順の通りに進めれば、実験に不慣れな学生でも容易にできる実験内容になっています。

高校で未履修の人が多い物理のレポート作成も難しくはありません。物理では授業で使うワークシートがそのままレポートになるので、授業に参加すれば誰でも容易にレポートを完成させることができます。

【Outline (in English)】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces familiar natural phenomena especially light as a common theme in each field. By learning the three fields in one semester, the students will understand the differences between each field and will learn the scientific viewpoint. The submission of a report is required after each experiment, and a grade point is evaluated from scores of those reports. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

NAS100LA

サイエンス・ラボ B

2017 年度以降入学者

向井 知大、川上 裕司、鈴木 裕武

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 2/Thu.2

単位数：2 単位

定員制（48 名）/2015 年度までに「自然総合講座 B」の単位を修得済みの場合、履修不可

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な 3 分野の実験を 3 人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボ B は科学史から題材をもとめ、生物学、物理学、化学それぞれの分野で転機となったテーマに関連した内容で講義と実験が構成されています。高校までに習った定説がどのようにして成立してきたのか、歴史的な背景とともに学ぶことで、3 つの分野それぞれの科学的なものの見方を学びます。

<生物学>メンデルによる遺伝子の発見、遺伝子の本体が DNA であることの証明、それ以後の DNA 学発展の歴史を学びます。これらを理解する上で必須となる染色体の観察や DNA の抽出実験を行います。

<物理学>電気、熱、光などいろいろな形態で存在し、現代社会の重要な課題の一つであるエネルギーについて、科学史上の重要な実験を通じて体験的に学びます。

<化学>古代からの物質観の変遷を振り返りながら、燃焼反応の正しい理解がどのようになされたのか、その後の酸化還元反応の理解と電池との関連を学びます。

【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3 つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボ B では、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスを行い、2 回目以降は 3 つのグループに分かれて、ポアソナードタワーにある 3 つの実験室（サイエンスルーム）を 4 週あるいは 5 週単位で順次移動し、受講します。各分野の終了後に課題に対して講評します。

このクラスは初めに「化学」から学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 週	講義概要	講義の概要説明を行う。
第 2 週	燃焼から見る反応理解の変遷（化学）	物質観、燃焼理論、電気の歴史と関係性を学ぶ
第 3 週	銅の反応実験（化学）	銅の各種反応を観察し、化学反応で元素変換ができないことを理解する。
第 4 週	マグネシウム金属の燃焼実験（化学）	燃焼によって消費された酸素量と金属灰の重量増の定量的な関係を学ぶ。
第 5 週	燃料電池の発電効率の測定（化学）	燃料電池を使って酸化に伴う電子の移動を実験で学ぶ。

第 6 週	細胞と染色体（生物学）	細胞の構造と機能を学び、遺伝の基礎となる染色体を観察する。
第 7 週	メンデル遺伝学から分子遺伝学へ（生物学）	遺伝子の本体が DNA であると証明されるまでの歴史を学ぶ。
第 8 週	DNA の抽出（生物学）	DNA の構造と機能を学んだ上で、DNA の抽出実験を行う。
第 9 週	現代の DNA 学（生物学）	親子鑑定、犯罪捜査、遺伝子診断など応用も含めた DNA 研究の現状を知る。
第 10 週	エネルギーとは（物理学）	エネルギーとは何か、エネルギーの変換と保存に関する基礎事項を学ぶ。
第 11 週	電気エネルギーと熱エネルギー（物理学）	電気をういて熱エネルギーを発生させ、その変換と保存を調べる。
第 12 週	落体実験（物理学）	物体が重力により落下するときの様子を調べ、そこで起こっているエネルギーの変換と保存について調べる。
第 13 週	LED の実験（物理学）	LED を用いて、LED を発光させるための電気エネルギーとその色との関係について調べる。光の粒子性という、現代物理学の一端に触れる。
第 14 週	エネルギーに関する技術（物理学）	熱電発電、超伝導技術、放射線測定、など、エネルギーに関する技術について学ぶ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、授業内で出される課題の対応や実験の後のレポートの作成など、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】

参考書は指定していません。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で 1/3 とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

実験を自ら行うことに不安を感じる人もいますが、心配は必要ありません。ティーチングアシスタント（大学院生）のサポートもあり、実験手順の通りに進めれば、実験に不慣れな学生でも容易にできる実験内容になっています。

高校で未履修の人が多い物理のレポート作成も難しくはありません。物理では授業で使うワークシートがそのままレポートになるので、授業に参加すれば誰でも容易にレポートを完成させることができます。

【Outline (in English)】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces history of science containing turning point for each field. By learning established theory and historical background, the students will learn the scientific viewpoint of the three fields. The submission of a report is required after each experiment, and a grade point is evaluated from scores of those reports. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

NAS100LA

サイエンス・ラボ A

2017 年度以降入学者

黒木 菜保子、島野 智之、柳瀬 宏太

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 3/Thu.3

単位数：2 単位

定員制（48 名）/2015 年度までに「自然総合講座 A」の単位を修得済みの場合、履修不可

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な 3 分野の実験を 3 人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボ A は身の回りの科学、とりわけ光を共通のテーマに据えて、生物学、物理学、化学それぞれの分野で下記の内容の講義と実験から構成されています。3 つの分野を同時に学ぶことで、それぞれの分野の違いにも触れ、科学的なものの見方を学びます。

<生物学>前半は、植物が行う光合成のしくみや、光によって制御される発芽のしくみなどを実験やビデオを通じて学びます。後半は、動物と光の様々な関係（光走性、概日リズムなど）を学んだ上で、人間の視覚のしくみを実験を通じて理解します。

<物理学>太陽電池を用いた実験、光の波長を測定する仕組みの学習、原子の発する光の波長の測定、光を用いたナノワールドの観察などによって、光の性質や光を用いた技術について学びます。

<化学>光を吸収することで色を作り出す色素に関連した講義と実験（色素の構造的特徴、色素の合成やそれを使った太陽電池の作成など）によって、光と色の関係、光と物質の関係を学びます。

【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3 つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボ A では、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスを行い、2 回目以降は 3 つのグループに分かれて、ポアソナードタワーにある 3 つの実験室（サイエンスルーム）を 4 週あるいは 5 週単位で順次移動し、受講します。各分野の終了後に課題に対して講評します。

このクラスは初めに「化学」から学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 週	講義概要	講義の概要説明を行う。
第 2 週	物質と光の相互作用（化学）	色素がなぜ色を持つのか、光と物質の関係について学ぶ。
第 3 週	分子模型を使った分子組み立て（化学）	色のある分子と色のない分子を模型を使って組み立てることで構造上の違いを理解する。
第 4 週	色素の抽出と合成（化学）	天然色素からの色素の抽出と色素の合成を実験で行う。
第 5 週	色素増感太陽電池の評価（化学）	実際に数種の色素を使って太陽電池を作成し、色素の違いによる効率の評価を実験で確かめる。
第 6 週	光合成のしくみ（生物学）	光合成のしくみを学び、葉の微細構造を観察する。

第 7 週	植物と光（生物学）	発芽、光周性、光屈性など、光合成以外の植物と光の関係を実験やビデオを介して理解する。
第 8 週	動物と光（生物学）	光走性、概日リズムなど動物と光の関係を学ぶ。
第 9 週	視覚のしくみ -1-（生物学）	眼でものが見えるしくみを学び、盲斑の位置と形を測定する。
第 10 週	視覚のしくみ -2-（生物学）	盲斑の位置と形を測定し（続き）、その結果をレポートにまとめる。
第 11 週	光の性質（物理学）	光の性質や、それらを調べる方法、色との関係について学ぶ。
第 12 週	太陽電池の実験（物理学）	太陽電池の発電能力について調べ、光のエネルギーが電気エネルギーに変換する仕組みを学ぶ。
第 13 週	光スペクトルの観察（物理学）	簡易分光器を用いて白熱灯、LED、蛍光灯、水素ランプなどが放つ光の波長を測定し、発光のメカニズムについて学ぶ。
第 14 週	ナノワールドの観察（物理学）	CD や DVD 表面の構造をレーザー光を用いて調べ、目に見えない微細な構造を知る仕組みについて学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、授業内で出される課題の対応や実験の後のレポートの作成など、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】

指定はありません。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で 1/3 とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

実験を自ら行うことに不安を感じる人もいますが、心配は必要ありません。ティーチングアシスタント（大学院生）のサポートもあり、実験手順の通りに進めれば、実験に不慣れな学生でも容易にできる実験内容になっています。

【Outline (in English)】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces familiar natural phenomena especially light as a common theme in each field. By learning the three fields in one semester, the students will understand the differences between each field and will learn the scientific viewpoint. The submission of a report is required after each experiment, and a grade point is evaluated from scores of those reports. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

NAS100LA

サイエンス・ラボ B

2017 年度以降入学者

黒木 菜保子、島野 智之、柳瀬 宏太

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 3/Thu.3

単位数：2 単位

定員制（48 名）/2015 年度までに「自然総合講座 B」の単位を修得済みの場合、履修不可

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な 3 分野の実験を 3 人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボ B は科学史から題材をもとめ、生物学、物理学、化学それぞれの分野で転機となったテーマに関連した内容で講義と実験が構成されています。高校までに習った定説がどのようにして成立してきたのか、歴史的な背景とともに学ぶことで、3 つの分野それぞれの科学的なものの見方を学びます。

<生物学>メンデルによる遺伝子の発見、遺伝子の本体が DNA であることの証明、それ以後の DNA 学発展の歴史を学びます。これらを理解する上で必須となる染色体の観察や DNA の抽出実験を行います。

<物理学>電気、熱、光などいろいろな形態で存在し、現代社会の重要な課題の一つであるエネルギーについて、科学史上の重要な実験を通じて体験的に学びます。

<化学>古代からの物質観の変遷を振り返りながら、燃焼反応の正しい理解がどのようになされたのか、その後の酸化還元反応の理解と電池との関連を学びます。

【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3 つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボ B では、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスを行い、2 回目以降は 3 つのグループに分かれて、ポアソナードタワーにある 3 つの実験室（サイエンスルーム）を 4 週あるいは 5 週単位で順次移動し、受講します。各分野の終了後に課題に対して講評します。

このクラスは初めに「化学」から学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 週	講義概要	講義の概要説明を行う。
第 2 週	燃焼から見る反応理解の変遷（化学）	物質観、燃焼理論、電気の歴史と関係性を学ぶ
第 3 週	銅の反応実験（化学）	銅の各種反応を観察し、化学反応で元素変換ができないことを理解する。
第 4 週	マグネシウム金属の燃焼実験（化学）	燃焼によって消費された酸素量と金属灰の重量増の定量的な関係を学ぶ。
第 5 週	燃料電池の発電効率の測定（化学）	燃料電池を使って酸化に伴う電子の移動を実験で学ぶ。

第 6 週	細胞と染色体（生物学）	細胞の構造と機能を学び、遺伝の基礎となる染色体を観察する。
第 7 週	メンデル遺伝学から分子遺伝学へ（生物学）	遺伝子の本体が DNA であると証明されるまでの歴史を学ぶ。
第 8 週	DNA の抽出（生物学）	DNA の構造と機能を学んだ上で、DNA の抽出実験を行う。
第 9 週	現代の DNA 学（生物学）	親子鑑定、犯罪捜査、遺伝子診断など応用も含めた DNA 研究の現状を知る。
第 10 週	エネルギーとは（物理学）	エネルギーとは何か、エネルギーの変換と保存に関する基礎事項を学ぶ。
第 11 週	電気エネルギーと熱エネルギー（物理学）	電気をういて熱エネルギーを発生させ、その変換と保存を調べる。
第 12 週	落体実験（物理学）	物体が重力により落下するときの様子を調べ、そこで起こっているエネルギーの変換と保存について調べる。
第 13 週	LED の実験（物理学）	LED を用いて、LED を発光させるための電気エネルギーとその色との関係について調べる。光の粒子性という、現代物理学の一端に触れる。
第 14 週	エネルギーに関する技術（物理学）	熱電発電、超伝導技術、放射線測定、など、エネルギーに関する技術について学ぶ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、授業内で出される課題の対応や実験の後のレポートの作成など、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】

指定はありません。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で 1/3 とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

実験を自ら行うことに不安を感じる人もいますが、心配は必要ありません。ティーチングアシスタント（大学院生）のサポートもあり、実験手順の通りに進めれば、実験に不慣れな学生でも容易にできる実験内容になっています。

【Outline (in English)】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces history of science containing turning point for each field. By learning established theory and historical background, the students will learn the scientific viewpoint of the three fields. The submission of a report is required after each experiment, and a grade point is evaluated from scores of those reports. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

NAS100LA

サイエンス・ラボ A

2017 年度以降入学者

黒木 菜保子、島野 智之、柳瀬 宏太

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 4/Thu.4

単位数：2 単位

定員制（48 名）/2015 年度までに「自然総合講座 A」の単位を修得済みの場合、履修不可

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な 3 分野の実験を 3 人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボ A は身の回りの科学、とりわけ光を共通のテーマに据えて、生物学、物理学、化学それぞれの分野で下記の内容の講義と実験から構成されています。3 つの分野を同時に学ぶことで、それぞれの分野の違いにも触れ、科学的なものの見方を学びます。

<生物学>前半は、植物が行う光合成のしくみや、光によって制御される発芽のしくみなどを実験やビデオを通じて学びます。後半は、動物と光の様々な関係（光走性、概日リズムなど）を学んだ上で、人間の視覚のしくみを実験を通じて理解します。

<物理学>太陽電池を用いた実験、光の波長を測定する仕組みの学習、原子の発する光の波長の測定、光を用いたナノワールドの観察などによって、光の性質や光を用いた技術について学びます。

<化学>光を吸収することで色を作り出す色素に関連した講義と実験（色素の構造的特徴、色素の合成やそれを使った太陽電池の作成など）によって、光と色の関係、光と物質の関係を学びます。

【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3 つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボ A では、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスを行い、2 回目以降は 3 つのグループに分かれて、ポアソナードタワーにある 3 つの実験室（サイエンスルーム）を 4 週あるいは 5 週単位で順次移動し、受講します。各分野の終了後に課題に対して講評します。

このクラスは初めに「化学」から学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 週	講義概要	講義の概要説明を行う。
第 2 週	物質と光の相互作用（化学）	色素がなぜ色を持つのか、光と物質の関係について学ぶ。
第 3 週	分子模型を使った分子組み立て（化学）	色のある分子と色のない分子を模型を使って組み立てることで構造上の違いを理解する。
第 4 週	色素の抽出と合成（化学）	天然色素からの色素の抽出と色素の合成を実験で行う。
第 5 週	色素増感太陽電池の評価（化学）	実際に数種の色素を使って太陽電池を作成し、色素の違いによる効率の評価を実験で確かめる。
第 6 週	光合成のしくみ（生物学）	光合成のしくみを学び、葉の微細構造を観察する。

第 7 週	植物と光（生物学）	発芽、光周性、光屈性など、光合成以外の植物と光の関係を実験やビデオを介して理解する。
第 8 週	動物と光（生物学）	光走性、概日リズムなど動物と光の関係を学ぶ。
第 9 週	視覚のしくみ -1-（生物学）	眼でものが見えるしくみを学び、盲斑の位置と形を測定する。
第 10 週	視覚のしくみ -2-（生物学）	盲斑の位置と形を測定し（続き）、その結果をレポートにまとめる。
第 11 週	光の性質（物理学）	光の性質や、それらを調べる方法、色との関係について学ぶ。
第 12 週	太陽電池の実験（物理学）	太陽電池の発電能力について調べ、光のエネルギーが電気エネルギーに変換する仕組みを学ぶ。
第 13 週	光スペクトルの観察（物理学）	簡易分光器を用いて白熱灯、LED、蛍光灯、水素ランプなどが放つ光の波長を測定し、発光のメカニズムについて学ぶ。
第 14 週	ナノワールドの観察（物理学）	CD や DVD 表面の構造をレーザー光を用いて調べ、目に見えない微細な構造を知る仕組みについて学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、授業内で出される課題の対応や実験の後のレポートの作成など、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】

指定はありません。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で 1/3 とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

実験を自ら行うことに不安を感じる人もいますが、心配は必要ありません。ティーチングアシスタント（大学院生）のサポートもあり、実験手順の通りに進めれば、実験に不慣れな学生でも容易にできる実験内容になっています。

【Outline (in English)】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces familiar natural phenomena especially light as a common theme in each field. By learning the three fields in one semester, the students will understand the differences between each field and will learn the scientific viewpoint. The submission of a report is required after each experiment, and a grade point is evaluated from scores of those reports. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

NAS100LA

サイエンス・ラボ B

2017 年度以降入学者

黒木 菜保子、島野 智之、柳瀬 宏太

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 4/Thu.4

単位数：2 単位

定員制（48 名）/2015 年度までに「自然総合講座 B」の単位を修得済みの場合、履修不可

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な 3 分野の実験を 3 人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボ B は科学史から題材をもとめ、生物学、物理学、化学それぞれの分野で転機となったテーマに関連した内容で講義と実験が構成されています。高校までに習った定説がどのようにして成立してきたのか、歴史的な背景とともに学ぶことで、3 つの分野それぞれの科学的なものの見方を学びます。

<生物学>メンデルによる遺伝子の発見、遺伝子の本体が DNA であることの証明、それ以後の DNA 学発展の歴史を学びます。これらを理解する上で必須となる染色体の観察や DNA の抽出実験を行います。

<物理学>電気、熱、光などいろいろな形態で存在し、現代社会の重要な課題の一つであるエネルギーについて、科学史上の重要な実験を通じて体験的に学びます。

<化学>古代からの物質観の変遷を振り返りながら、燃焼反応の正しい理解がどのようになされたのか、その後の酸化還元反応の理解と電池との関連を学びます。

【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3 つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボ B では、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスを行い、2 回目以降は 3 つのグループに分かれて、ボアソナードタワーにある 3 つの実験室（サイエンスルーム）を 4 週あるいは 5 週単位で順次移動し、受講します。各分野の終了後に課題に対して講評します。

このクラスは初めに「化学」から学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 週	講義概要	講義の概要説明を行う。
第 2 週	燃焼から見る反応理解の変遷（化学）	物質観、燃焼理論、電気の歴史と関係性を学ぶ
第 3 週	銅の反応実験（化学）	銅の各種反応を観察し、化学反応で元素変換ができないことを理解する。
第 4 週	マグネシウム金属の燃焼実験（化学）	燃焼によって消費された酸素量と金属灰の重量増の定量的な関係を学ぶ。
第 5 週	燃料電池の発電効率の測定（化学）	燃料電池を使って酸化に伴う電子の移動を実験で学ぶ。

第 6 週	細胞と染色体（生物学）	細胞の構造と機能を学び、遺伝の基礎となる染色体を観察する。
第 7 週	メンデル遺伝学から分子遺伝学へ（生物学）	遺伝子の本体が DNA であると証明されるまでの歴史を学ぶ。
第 8 週	DNA の抽出（生物学）	DNA の構造と機能を学んだ上で、DNA の抽出実験を行う。
第 9 週	現代の DNA 学（生物学）	親子鑑定、犯罪捜査、遺伝子診断など応用も含めた DNA 研究の現状を知る。
第 10 週	エネルギーとは（物理学）	エネルギーとは何か、エネルギーの変換と保存に関する基礎事項を学ぶ。
第 11 週	電気エネルギーと熱エネルギー（物理学）	電気をういて熱エネルギーを発生させ、その変換と保存を調べる。
第 12 週	落体実験（物理学）	物体が重力により落下するときの様子を調べ、そこで起こっているエネルギーの変換と保存について調べる。
第 13 週	LED の実験（物理学）	LED を用いて、LED を発光させるための電気エネルギーとその色との関係について調べる。光の粒子性という、現代物理学の一端に触れる。
第 14 週	エネルギーに関する技術（物理学）	熱電発電、超伝導技術、放射線測定、など、エネルギーに関する技術について学ぶ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、授業内で出される課題の対応や実験の後のレポートの作成など、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】

指定はありません。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で 1/3 とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

実験を自ら行うことに不安を感じる人もいますが、心配は必要ありません。ティーチングアシスタント（大学院生）のサポートもあり、実験手順の通りに進めれば、実験に不慣れな学生でも容易にできる実験内容になっています。

【Outline (in English)】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces history of science containing turning point for each field. By learning established theory and historical background, the students will learn the scientific viewpoint of the three fields. The submission of a report is required after each experiment, and a grade point is evaluated from scores of those reports. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

NAS100LA

サイエンス・ラボ A

2017 年度以降入学者

中島 弘一、鈴木 忠、土手 昭伸

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 3/Fri.3

単位数：2 単位

定員制（48 名）/2015 年度までに「自然総合講座 A」の単位を修得済みの場合、履修不可

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な 3 分野の実験を 3 人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボ A は身の回りの科学、とりわけ光を共通のテーマに据えて、生物学、物理学、化学それぞれの分野で下記の内容の講義と実験から構成されています。3 つの分野を同時に学ぶことで、それぞれの分野の違いにも触れ、科学的なものの見方を学びます。

<生物学>前半は、植物が行う光合成のしくみや、光によって制御される発芽のしくみなどを実験やビデオを通じて学びます。後半は、動物と光の様々な関係（光走性、概日リズムなど）を学んだ上で、人間の視覚のしくみを実験を通じて理解します。

<物理学>太陽電池を用いた実験、光の波長を測定する仕組みの学習、原子の発する光の波長の測定、光を用いたナノワールドの観察などによって、光の性質や光を用いた技術について学びます。

<化学>光を吸収することで色を作り出す色素に関連した講義と実験（色素の構造的特徴、色素の合成やそれを使った太陽電池の作成など）によって、光と色の関係、光と物質の関係を学びます。

【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3 つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボ A では、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスを行い、2 回目以降は 3 つのグループに分かれて、ボアソナードタワーにある 3 つの実験室（サイエンスルーム）を 4 週あるいは 5 週単位で順次移動し、受講します。各分野の終了後に課題に対して講評します。

このクラスは初めに「化学」から学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 週	講義概要	講義の概要説明を行う。
第 2 週	物質と光の相互作用（化学）	色素がなぜ色を持つのか、光と物質の関係について学ぶ。
第 3 週	分子模型を使った分子組み立て（化学）	色のある分子と色のない分子を模型を使って組み立てることで構造上の違いを理解する。
第 4 週	色素の抽出と合成（化学）	天然色素からの色素の抽出と色素の合成を実験で行う。
第 5 週	色素増感太陽電池の評価（化学）	実際に数種の色素を使って太陽電池を作成し、色素の違いによる効率の評価を実験で確かめる。
第 6 週	光合成のしくみ（生物学）	光合成のしくみを学び、葉の微細構造を観察する。

第 7 週	植物と光（生物学）	発芽、光周性、光屈性など、光合成以外の植物と光の関係を実験やビデオを介して理解する。
第 8 週	動物と光（生物学）	光走性、概日リズムなど動物と光の関係を学ぶ。
第 9 週	視覚のしくみ -1-（生物学）	眼でものが見えるしくみを学び、盲斑の位置と形を測定する。
第 10 週	視覚のしくみ -2-（生物学）	盲斑の位置と形を測定し（続き）、その結果をレポートにまとめる。
第 11 週	光の性質（物理学）	光の性質や、それらを調べる方法、色との関係について学ぶ。
第 12 週	太陽電池の実験（物理学）	太陽電池の発電能力について調べ、光のエネルギーが電気エネルギーに変換する仕組みを学ぶ。
第 13 週	光スペクトルの観察（物理学）	簡易分光器を用いて白熱灯、LED、蛍光灯、水素ランプなどが放つ光の波長を測定し、発光のメカニズムについて学ぶ。
第 14 週	ナノワールドの観察（物理学）	CD や DVD 表面の構造をレーザー光を用いて調べ、目に見えない微細な構造を知る仕組みについて学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、授業内で出される課題の対応や実験の後のレポートの作成など、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】

物理学分野では、必要に応じて授業中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で 1/3 とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

実験を自ら行うことに不安を感じる人もいるようですが、心配は必要ありません。ティーチングアシスタント（大学院生）のサポートもあり、実験手順の通りに進めれば、実験に不慣れな学生でも容易にできる実験内容になっています。

【Outline (in English)】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces familiar natural phenomena especially light as a common theme in each field. By learning the three fields in one semester, the students will understand the differences between each field and will learn the scientific viewpoint. The submission of a report is required after each experiment, and a grade point is evaluated from scores of those reports. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

NAS100LA

サイエンス・ラボ B

2017年度以降入学者

中島 弘一、鈴木 忠、土手 昭伸

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 3/Fri.3

単位数：2 単位

定員制（48名）/2015年度までに「自然総合講座 B」の単位を修得済みの場合、履修不可

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な3分野の実験を3人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボ B は科学史から題材をもとめ、生物学、物理学、化学それぞれの分野で転機となったテーマに関連した内容で講義と実験が構成されています。高校までに習った定説がどのようにして成立してきたのか、歴史的な背景とともに学ぶことで、3つの分野それぞれの科学的なものの見方を学びます。

<生物学>メンデルによる遺伝子の発見、遺伝子の本体が DNA であることの証明、それ以後の DNA 学発展の歴史を学びます。これらを理解する上で必須となる染色体の観察や DNA の抽出実験を行います。

<物理学>電気、熱、光などいろいろな形態で存在し、現代社会の重要な課題の一つであるエネルギーについて、科学史上の重要な実験を通じて体験的に学びます。

<化学>古代からの物質観の変遷を振り返りながら、燃焼反応の正しい理解がどのようになされたのかを学びます。また、燃焼によって得られるガスと灰の性質から酸とアルカリについても学びます。

【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボ B では、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスを行い、2回目以降は3つのグループに分かれて、ポアソナードタワーにある3つの実験室（サイエンスルーム）を4週あるいは5週単位で順次移動し、受講します。各分野の終了後に課題に対して講評します。

このクラスは初めに「化学」から学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1週	講義概要	講義の概要説明を行う。
第2週	燃焼から見る反応理解の変遷（化学）	物質観、燃焼理論、電気の歴史と関係性を学ぶ
第3週	銅の反応実験（化学）	銅の各種反応を観察し、化学反応で元素変換ができないことを理解する。
第4週	マグネシウム金属の燃焼実験（化学）	燃焼によって消費された酸素量と金属灰の重量増の定量的な関係学ぶ。

第5週	酸とアルカリ（化学）	燃焼によって得られるガスは酸性、灰はアルカリ性を示します。酸とアルカリの性質について学びます。
第6週	細胞と染色体（生物学）	細胞の構造と機能を学び、遺伝の基礎となる染色体を観察する。
第7週	メンデル遺伝学から分子遺伝学へ（生物学）	遺伝子の本体が DNA であると証明されるまでの歴史を学ぶ。
第8週	DNA の抽出（生物学）	DNA の構造と機能を学んだ上で、DNA の抽出実験を行う。
第9週	現代の DNA 学（生物学）	親子鑑定、犯罪捜査、遺伝子診断など応用も含めた DNA 研究の現状を知る。
第10週	エネルギーとは（物理学）	エネルギーとは何か、エネルギーの変換と保存に関する基礎事項を学ぶ。
第11週	電気エネルギーと熱エネルギー（物理学）	電気を用いて熱エネルギーを発生させ、その変換と保存を調べる。
第12週	落体実験（物理学）	物体が重力により落下するときの様子を調べ、そこで起こっているエネルギーの変換と保存について調べる。
第13週	LED の実験（物理学）	LED を用いて、LED を発光させるための電気エネルギーとその色との関係について調べる。光の粒子性という、現代物理学の一端に触れる。
第14週	エネルギーに関する技術（物理学）	熱電発電、超伝導技術、放射線測定、など、エネルギーに関する技術について学ぶ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、授業内で出される課題の対応や実験の後のレポートの作成など、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】

物理学分野では、必要に応じて授業中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で1/3とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

実験を自ら行うことに不安を感じる人もいますが、心配は必要ありません。ティーチングアシスタント（大学院生）のサポートもあり、実験手順の通りに進めれば、実験に不慣れな学生でも容易にできる実験内容になっています。

【Outline (in English)】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces history of science containing turning point for each field. By learning established theory and historical background, the students will learn the scientific viewpoint of the three fields. The submission of a report is required after each experiment, and a grade point is evaluated from scores of those reports. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

NAS100LA

サイエンス・ラボ A

2017 年度以降入学者

中島 弘一、鈴木 忠、土手 昭伸

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 4/Fri.4

単位数：2 単位

定員制（48 名）/2015 年度までに「自然総合講座 A」の単位を修得済みの場合、履修不可

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な 3 分野の実験を 3 人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボ A は身の回りの科学、とりわけ光を共通のテーマに据えて、生物学、物理学、化学それぞれの分野で下記の内容の講義と実験から構成されています。3 つの分野を同時に学ぶことで、それぞれの分野の違いにも触れ、科学的なものの見方を学びます。

<生物学>前半は、植物が行う光合成のしくみや、光によって制御される発芽のしくみなどを実験やビデオを通じて学びます。後半は、動物と光の様々な関係（光走性、概日リズムなど）を学んだ上で、人間の視覚のしくみを実験を通じて理解します。

<物理学>太陽電池を用いた実験、光の波長を測定する仕組みの学習、原子の発する光の波長の測定、光を用いたナノワールドの観察などによって、光の性質や光を用いた技術について学びます。

<化学>光を吸収することで色を作り出す色素に関連した講義と実験（色素の構造的特徴、色素の合成やそれを使った太陽電池の作成など）によって、光と色の関係、光と物質の関係を学びます。

【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3 つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボ A では、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスを行い、2 回目以降は 3 つのグループに分かれて、ボアソナードタワーにある 3 つの実験室（サイエンスルーム）を 4 週あるいは 5 週単位で順次移動し、受講します。各分野の終了後に課題に対して講評します。

このクラスは初めに「化学」から学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 週	講義概要	講義の概要説明を行う。
第 2 週	物質と光の相互作用（化学）	色素がなぜ色を持つのか、光と物質の関係について学ぶ。
第 3 週	分子模型を使った分子組み立て（化学）	色のある分子と色のない分子を模型を使って組み立てることで構造上の違いを理解する。
第 4 週	色素の抽出と合成（化学）	天然色素からの色素の抽出と色素の合成を実験で行う。
第 5 週	色素増感太陽電池の評価（化学）	実際に数種の色素を使って太陽電池を作成し、色素の違いによる効率の評価を実験で確かめる。
第 6 週	光合成のしくみ（生物学）	光合成のしくみを学び、葉の微細構造を観察する。

第 7 週	植物と光（生物学）	発芽、光周性、光屈性など、光合成以外の植物と光の関係を実験やビデオを介して理解する。
第 8 週	動物と光（生物学）	光走性、概日リズムなど動物と光の関係を学ぶ。
第 9 週	視覚のしくみ -1-（生物学）	眼でものが見えるしくみを学び、盲斑の位置と形を測定する。
第 10 週	視覚のしくみ -2-（生物学）	盲斑の位置と形を測定し（続き）、その結果をレポートにまとめる。
第 11 週	光の性質（物理学）	光の性質や、それらを調べる方法、色との関係について学ぶ。
第 12 週	太陽電池の実験（物理学）	太陽電池の発電能力について調べ、光のエネルギーが電気エネルギーに変換する仕組みを学ぶ。
第 13 週	光スペクトルの観察（物理学）	簡易分光器を用いて白熱灯、LED、蛍光灯、水素ランプなどが放つ光の波長を測定し、発光のメカニズムについて学ぶ。
第 14 週	ナノワールドの観察（物理学）	CD や DVD 表面の構造をレーザー光を用いて調べ、目に見えない微細な構造を知る仕組みについて学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、授業内で出される課題の対応や実験の後のレポートの作成など、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】

物理学分野では、必要に応じて授業中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で 1/3 とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

実験を自ら行うことに不安を感じる人もいますが、心配は必要ありません。ティーチングアシスタント（大学院生）のサポートもあり、実験手順の通りに進めれば、実験に不慣れな学生でも容易にできる実験内容になっています。

【Outline (in English)】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces familiar natural phenomena especially light as a common theme in each field. By learning the three fields in one semester, the students will understand the differences between each field and will learn the scientific viewpoint. The submission of a report is required after each experiment, and a grade point is evaluated from scores of those reports. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

NAS100LA

サイエンス・ラボ B

2017 年度以降入学者

中島 弘一、鈴木 忠、土手 昭伸

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 4/Fri.4

単位数：2 単位

定員制（48 名）/2015 年度までに「自然総合講座 B」の単位を修得済みの場合、履修不可

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

サイエンス・ラボは生物学、物理学、化学という自然科学の基本的な3分野の実験を3人の教員が協同、分担して解説、指導する実験授業です。それぞれの分野の実験を通じて、理科が苦手だったあなたも、サイエンスの楽しさを味わい、サイエンスに興味を持てるようになることを目指しています。サイエンス・ラボ B は科学史から題材をもとめ、生物学、物理学、化学それぞれの分野で転機となったテーマに関連した内容で講義と実験が構成されています。高校までに習った定説がどのようにして成立してきたのか、歴史的な背景とともに学ぶことで、3つの分野それぞれの科学的なものの見方を学びます。

<生物学>メンデルによる遺伝子の発見、遺伝子の本体が DNA であることの証明、それ以後の DNA 学発展の歴史を学びます。これらを理解する上で必須となる染色体の観察や DNA の抽出実験を行います。

<物理学>電気、熱、光などいろいろな形態で存在し、現代社会の重要な課題の一つであるエネルギーについて、科学史上の重要な実験を通じて体験的に学びます。

<化学>古代からの物質観の変遷を振り返りながら、燃焼反応の正しい理解がどのようになされたのかを学びます。また、燃焼によって得られるガスと灰の性質から酸とアルカリについても学びます。

【到達目標】

自然科学への苦手意識が払拭される。3つの分野の視点の違いを理解する。科学的なものの見方を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

サイエンス・ラボ B では、半期で生物学、物理学、化学の実験を行います。初回はガイダンスを行い、2回目以降は3つのグループに分かれて、ポアソナードタワーにある3つの実験室（サイエンスルーム）を4週あるいは5週単位で順次移動し、受講します。各分野の終了後に課題に対して講評します。

このクラスは初めに「化学」から学習します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1週	講義概要	講義の概要説明を行う。
第2週	燃焼から見る反応理解の変遷（化学）	物質観、燃焼理論、電気の歴史と関係性を学ぶ
第3週	銅の反応実験（化学）	銅の各種反応を観察し、化学反応で元素変換ができないことを理解する。
第4週	マグネシウム金属の燃焼実験（化学）	燃焼によって消費された酸素量と金属灰の重量増の定量的な関係学ぶ。

第5週	酸とアルカリ（化学）	燃焼によって得られるガスは酸性、灰はアルカリ性を示します。酸とアルカリの性質について学びます。
第6週	細胞と染色体（生物学）	細胞の構造と機能を学び、遺伝の基礎となる染色体を観察する。
第7週	メンデル遺伝学から分子遺伝学へ（生物学）	遺伝子の本体が DNA であると証明されるまでの歴史を学ぶ。
第8週	DNA の抽出（生物学）	DNA の構造と機能を学んだ上で、DNA の抽出実験を行う。
第9週	現代の DNA 学（生物学）	親子鑑定、犯罪捜査、遺伝子診断など応用も含めた DNA 研究の現状を知る。
第10週	エネルギーとは（物理学）	エネルギーとは何か、エネルギーの変換と保存に関する基礎事項を学ぶ。
第11週	電気エネルギーと熱エネルギー（物理学）	電気を用いて熱エネルギーを発生させ、その変換と保存を調べる。
第12週	落体実験（物理学）	物体が重力により落下するときの様子を調べ、そこで起こっているエネルギーの変換と保存について調べる。
第13週	LED の実験（物理学）	LED を用いて、LED を発光させるための電気エネルギーとその色との関係について調べる。光の粒子性という、現代物理学の一端に触れる。
第14週	エネルギーに関する技術（物理学）	熱電発電、超伝導技術、放射線測定、など、エネルギーに関する技術について学ぶ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、授業内で出される課題の対応や実験の後のレポートの作成など、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特にありません。プリントを配布して授業を進めます。

【参考書】

物理学分野では、必要に応じて授業中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

試験は行いません。授業への参加度とレポートによる素点をそれぞれの分野で1/3とし、合算して評価します。

【学生の意見等からの気づき】

実験を自ら行うことに不安を感じる人もいますが、心配は必要ありません。ティーチングアシスタント（大学院生）のサポートもあり、実験手順の通りに進めれば、実験に不慣れな学生でも容易にできる実験内容になっています。

【Outline (in English)】

This course incorporates lecture and experiments in three basic areas of natural science such as biology, physics and chemistry. The aim of the course is to provide students with scientific interest and pleasure of science. This course introduces history of science containing turning point for each field. By learning established theory and historical background, the students will learn the scientific viewpoint of the three fields. The submission of a report is required after each experiment, and a grade point is evaluated from scores of those reports. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

HSS200LA

健康の科学 L A

2017 年度以降入学者

サブタイトル：

阿部 巧

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 4/Mon.4

単位数：2 単位

定員制

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「高齢期の健康づくり」を主要テーマとして学習する。現在の日本は世界でも類を見ない超高齢社会を迎えている。本授業を通して、日本が直面している少子・高齢化問題に対して、どのように貢献できるかについて考える。また、健康問題に関する考え方について理解する。

【到達目標】

1. 高齢期に生じる健康問題とその基本的な予防・対処法について多角的な視点から考えることができる。
2. 健康関連情報を適切に解釈できる。
3. 学習したことを自身や家族の健康づくりに役立てる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義を中心に各テーマの学習を進める。2-3 回に 1 回程度の頻度で全 5 回、授業終了時にテーマに関する自身の考えや意見を問うミニレポート課題を出す。課題の提出締め切り後の授業にて、各学生が提出したレポートにどのような考えや意見が書かれていたかを集約し、紹介・解説する形で全体にフィードバックをおこなう。また、テーマに沿って自身の考えを他者と共有する機会を授業内で作る。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の概要説明
第 2 回	本邦の高齢化の現状	高齢化の実態と課題
第 3 回	高齢期の健康 1	高齢期の生活機能と体力
第 4 回	高齢期の健康 2	老年期の転倒、外出・閉じこもり、自動車運転
第 5 回	高齢期の健康 3	低栄養の現状と予防
第 6 回	高齢期の健康 4	認知症の現状と予防
第 7 回	高齢期の健康 5	フレイルの現状と予防
第 8 回	高齢期の健康 6	サルコペニアとロコモティブシンドロームの現状と予防
第 9 回	健康づくりの三本柱：運動、栄養、社会参加 1	高齢期の運動
第 10 回	健康づくりの三本柱：運動、栄養、社会参加 2	高齢期の食習慣と社会参加
第 11 回	地域・職域での健康づくり	地域に介護予防の取り組みを広げる方法と事例の紹介
第 12 回	高齢期の健康行動	高齢者の行動特性
第 13 回	高齢期の課題への対応	実社会で高齢期の課題にどう取り組むかの立案
第 14 回	まとめ	今後の健康づくり・介護予防の方向性

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

次の授業に向けての準備や授業後におこなうべき課題や復習等は、教員からの指示に従って実践するものとし、各 2 時間を標準とする。また、日ごろから高齢者および日本と世界の健康に関連する話題に目を向けることも準備学習となりうる。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。授業テーマに合わせた資料を配布する。

【参考書】

適宜、関連する書籍などを授業内で紹介する。

【成績評価の方法と基準】

ミニレポート課題（50%：10%×5）、最終レポート課題（50%）

【学生の意見等からの気づき】

講義だけではなく、健康づくりの課題について考える機会を設ける。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

授業の進捗状況および授業実施方法（対面・オンライン）について若干の変更をおこなう可能性がある。その場合、適宜、授業内およびシステム上で通知する。

【Outline (in English)】

【Outline】

The Health Science LA aims to learn about health promotion among older adults. Japan has been a super-aged society.

This class provides the opportunity to understand public issues related to a declining birth rate and an aging population in Japan. This will help students comprehend how to think about health-related ones.

【Goals】

1. Students come to think about age-related health issues and strategies to prevent and address them from multiple perspectives.
2. Students come to interpret health-related information appropriately.
3. Students use what they learn from this class for themselves and their family's health promotion.

【Work to be done outside of class】

Students will know what they need to prepare for the next class and the tasks they need to do at the end of each class. This class requires students to take 2 hours to do them. It is good to pay attention to health-related news in preparation for this class.

【Grading criteria】

This class evaluates students' performance based in the following ways: 5 mini-reports (1 report = 10 points) and the final report (50 points).

HSS200LA

健康の科学 L B

2017 年度以降入学者

サブタイトル：

藤平 杏子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 4/Mon.4

単位数：2 単位

定員制

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「健康の科学 LB」では、「生涯にわたる健康づくり」を主要テーマとして学習する。本授業を通して、健康長寿に必要な食事・運動・休養・社会参加に関する基礎的な事項を理解できるようにする。

【到達目標】

1. 健康の維持・増進に興味を持ち、健康づくりに関する基礎的な知識を習得する。
2. 本授業で学習したことを自身や家族の健康づくりに役立てる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

スライドを用いた講義を中心に各テーマの学習を進める。毎回の授業終了時に、テーマに関する自身の考えや意見・質問などをまとめた小レポートの提出を求める。授業の初めに、前回の授業で提出された小レポートからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。適宜、グループディスカッションを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	本授業の内容や進め方についてのオリエンテーション
2	日本の健康問題	日本の医療や健康に関わる背景、生活習慣病
3	生活習慣病の概要	生活習慣病の予防、日本で行われているヘルスプロモーション
4	肥満とメタボリックシンドローム	肥満の定義とメタボリックシンドロームの概論
5	高血圧	高血圧の診断、要因と予防法
6	糖尿病と脂質異常症	糖尿病、脂質異常症の診断、要因と予防法
7	骨や歯の疾患	骨粗鬆症や歯周病などの要因と予防法
8	メンタルヘルス	ストレスの捉え方、鬱と対処法
9	健康づくりのための食事	エネルギー収支、健康づくりに必要な食事方法
10	健康づくりのための運動	健康づくりに必要な運動方法、身体活動基準
11	健康づくりのための休養	健康づくりに必要な休養方法、睡眠、ストレスへの対処
12	健康づくりのための社会参加	健康づくりに必要な人との関わり
13	生涯にわたる健康づくり	年代別の健康問題、予防法
14	まとめ	ディスカッション、授業全体の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

本授業では教科書を使用しない。授業に必要なスライドは適宜、配布もしくは配信する。

【参考書】

授業の中で参考になる図書等は紹介するが、購入が必須ではない。

【成績評価の方法と基準】

毎回の授業終了時に小レポートの提出を求める。小レポートの内容と提出状況で成績評価の 5 割、最終レポートの内容と提出状況が残りの 5 割とする。小レポートおよび最終レポートの内容は、知識の習得状況と日常生活への応用について考えられているかを鑑みて評価する。

【学生の意見等からの気づき】

授業やディスカッションを通して自身や家族の健康について見直すきっかけとなった、という授業改善アンケート結果から、学生の生活に関わるトピックを授業時間内に取り上げ、課題学習に使用する予定である。

【Outline (in English)】

【Course Outlin】 The main theme of this course is "lifelong health promotion". By taking this course, students will be able to understand the basic issues related to diet, exercise, rest, and social participation necessary for healthy longevity.

【Learning Objectives】 By the end of this course, students should be able to: 1. Develop an interest in the maintenance and promotion of health and acquire basic knowledge about health promotion. 2. To be able to use what they have learned in this class to improve the health of themselves and their families.

【Learning activities outside of classroom】 Students are expected to follow the lecturer's instructions regarding assignments to be done after class and preparation for the next class. The standard time for preparation and review for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria/Policy】 In this course, students will be asked to submit a short report at the end of each class. The content and submission status of the small report will account for 50% of the grade, and the content and submission status of the final report will account for the remaining 50%. The content of the short report and the final report will be evaluated in view of knowledge acquisition and consideration of its application to daily life.

HSS200LA

健康の科学 L A

2017 年度以降入学者

サブタイトル：

谷本 都栄

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 5/Fri.5

単位数：2 単位

定員制

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

人生 100 年時代を迎え人々の生き方が多様化する中で、身体的な健康だけでなく、生きがいや人間の尊厳をも含めたホリスティック・ヘルス（包括的健康）の視点が重要になってきている。本講義では、バイオ・サイコ・ソーシャル・ヘルスに関わる様々なトピックスから個人の健康や社会の健康について考え、ウェルネスの確立に向けて自ら実践に結びつけていくことを目指す。

【到達目標】

- ・健康の概念や健康観の変遷から、健康とは何かについて理解を深める。
- ・包括的健康の視点から、自己の生活の質や地域の課題について考える。
- ・個人及び社会におけるウェルネスの確立に向けて主体的に行動できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

- ・オリジナルテキストや各種資料を用いて、身近な題材を交え分かり易く解説する。
- ・セルフチェックや時事的な問題を取り上げ、具体的に考えられるようにする。
- ・毎回のワークシートやリアクションペーパーにより、随時フィードバックしていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の概要、授業の進め方
第 2 回	健康観・健康概念の多様化	世界における健康観・健康概念がどのように多様化してきたかについて理解を深める。
第 3 回	日本における健康観の変遷	日本における健康観・健康概念の変遷について、時代背景を踏まえて理解を深める。
第 4 回	ホリスティック・ヘルスとは	ホリスティック・ヘルスの視点から現代人の心身の健康について考える。
第 5 回	心身の健康とストレス特性	自己の身体的・精神的・社会的ストレス度を測り、ストレス特性を知る。
第 6 回	ストレスマネジメント	自己のストレス特性に応じたストレス対処、セルフマネジメントについて学ぶ。
第 7 回	ストレスマネジメント実践編	日常生活で実践しやすいストレスマネジメントの方法を学ぶ。
第 8 回	日本人の生活と健康	我が国の健康政策から日本人の生活と健康課題について理解を深める。

第 9 回	0 次予防とは	0 次予防、健康のための環境づくりの考え方について学ぶ。
第 10 回	健康のための環境づくり	健康のための環境づくりの先進事例から地域の課題について考える。
第 11 回	ライフサイクルと健康	ライフサイクル、各ライフステージにおける健康課題について理解を深める。
第 12 回	ライフスタイルと健康	ライフコース、ライフスタイルの多様化とワークライフバランスについて考える。
第 13 回	人生 100 年時代をどう生きるか	超高齢社会におけるウェルビーイングについて考える。
第 14 回	まとめ	全体の振り返りと総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・本授業の準備・復習時間は、関連する記事や文献を読む、学んだことを実践する等、各 2 時間を標準とする。
- ・レポート課題は、複数の文献を読み込み、授業で学んだ知識も含めて総合的に論じるための準備が必要である。

【テキスト（教科書）】

- ・毎回オリジナルプリントを使用する。

【参考書】

- ・適宜テーマに関連する文献等を紹介する。

【成績評価の方法と基準】

- ・平常点（ワークシート、リアクションペーパー）70 %
- ・期末レポート 30 %

【学生の意見等からの気づき】

- ・各種資料を用いるなどして具体的に把握できるようにする。
- ・ワークシートにより各自が考えながら取り組めるようにする。
- ・リアクションペーパーを活用し、インタラクティブな授業になるよう工夫する。

【Outline (in English)】

【Course outline】

With the 100-Year Life, a life-course has become increasingly dynamic and diversified. Regarding the quality of individual lives, not only physical health but also perspective of holistic health including “ikigai” and human dignity is becoming an important concept. Health Sciences for ways of living is based on the biopsychosocial model, which posits that biological, psychological and social well-being are interactively.

【Learning Objectives】

The program has the following objectives.

- 1.Introduce students to the field of Health Sciences of body, mind, and spirit
- 2.Provide a basic understanding of the theory and specific issues of biopsychosocial health
- 3.Encourage students to practice for health promotion in their life and community

【Learning activities outside of classroom】

- 1.Get information on current health issues from newspapers and news
- 2.Read books related to what you learned in class

【Grading Criteria /Policy】

- ・ Normal points (worksheets, reaction paper) 70%
- ・ Year-end report 30%

HSS200LA

健康の科学 L B

2017 年度以降入学者

サブタイトル：

谷本 都栄

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 5/Fri.5

単位数：2 単位

定員制

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

健康はいきいきと生きていくための資源であり、自ら健康をコントロールし、改善していくことは重要なライフスキルである。本講義では、ヘルスプロモーションの視点から、栄養・運動・休養に関わる基礎的知識、健康的な生活習慣や環境づくりについて学び、各自の生活における意識の向上、具体的な実践に結びつけていくことを目指す。

【到達目標】

- ・栄養・運動・休養に関わる基礎的知識を身に付け、自己の生活習慣を見直す。
- ・健康的なライフスタイルを意識して、学んだことを日々の生活に活かす。
- ・個人や社会のウェルビーイングについて考え、行動する機会をつくる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

- ・オリジナルテキストや各種資料を用いて、身近な題材を交え分かり易く解説する。
- ・セルフチェックや時事的な問題を取り上げ、具体的に考えられるようにする。
- ・毎回のワークシートやリアクションペーパーにより、随時フィードバックしていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の概要、授業の進め方
第 2 回	生活習慣・健康度 チェック	チェックシートにより自己の生活習慣や健康度を確認する。
第 3 回	健康的なウエイトコントロール	適正体重やボディイメージを知り、健康的なウエイトコントロールについて学ぶ。
第 4 回	エネルギー必要量と摂取量	エネルギー必要量と摂取量を算出してエネルギー収支を確認する。
第 5 回	食生活のセルフチェック	食事バランスガイドにより食生活を振り返り、改善点を意識する。
第 6 回	生活習慣病の予防	メタボリックシンドローム、生活習慣病とその予防について学ぶ。
第 7 回	食と健康	スポーツ栄養、食の安全やサプリメント等のトピックから、食と健康について考える。
第 8 回	運動・スポーツの意義と役割	現代社会における運動・スポーツの重要性について理解を深める。
第 9 回	運動・スポーツによるトレーニング効果	人間の身体の特徴、運動・スポーツによるトレーニング効果について学ぶ。

第 10 回	適切な運動量と運動内容	適切な運動量と運動内容を知り、運動習慣の改善点を意識する。
第 11 回	生体リズムと健康	生体リズムと健康の関係について理解を深める。
第 12 回	日本人の生活と健康	経済格差と健康、企業の健康経営など時事的なトピックから、日本人の生活と健康について考える。
第 13 回	ウェルエイジング	加齢による心身の変化を知り、老いをどう生きるかについて考える。
第 14 回	まとめ	全体の振り返りと総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・本授業の準備・復習時間は、関連する記事や文献を読む、学んだことを実践する等、各 2 時間を標準とする。
- ・レポート課題は、複数の文献を読み込み、授業で学んだ知識も含めて総合的に論じるための準備が必要である。

【テキスト（教科書）】

- ・毎回オリジナルプリントを使用する。

【参考書】

- ・適宜テーマに関連する文献等を紹介する。

【成績評価の方法と基準】

- ・平常点（ワークシート、リアクションペーパー）70 %
- ・期末レポート 30 %

【学生の意見等からの気づき】

- ・各種資料を用いるなどして具体的に把握できるようにする。
- ・ワークシートにより各自が考えながら取り組めるようにする。
- ・リアクションペーパーを活用し、インタラクティブな授業になるよう工夫する。

【Outline (in English)】

【Course outline】

Health promotion is the process of enabling people to increase control over, and to improve, their health. It moves beyond a focus on individual behaviour towards a wide range of social and environmental interventions. (WHO) To maintain a healthy body and mind is an essential life skill improving a quality of life. Developing healthy habits are needed not only to keep your life long but enhance your happiness and vitality.

【Learning Objectives】

The program has the following objectives.

1. Provide students the foundational knowledge and skills required for healthy lifestyle
2. Encourage students to practice for health promotion in their life

【Learning activities outside of classroom】

1. Get information on current health issues from newspapers and news
2. Read books related to what you learned in class

【Grading Criteria /Policy】

- ・ Normal points (worksheets, reaction paper) 70%
- ・ Year-end report 30

LANk300LA

第三外国語としての朝鮮語 A 2017 年度以降入学者

神谷 丹路

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 2/Tue.2

単位数：2 単位

定員制 (30 名)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

隣国の言語である朝鮮語・韓国語を初めて学ぶ方のための講座です。ハングルの文字と発音の基礎を学び、文法の初歩を学びます。ごく簡単な会話ができるようになります。

【到達目標】

- ・正確に発音できるようになる。
- ・「～は～です、ます」「～があります、います」などを理解し、簡単な読み書きができるようになる。
- ・簡単なあいさつや簡単な会話が話せるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたなどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

- ・定員制授業です。第 1 回授業（対面授業）に必ず参加すること。その中から抽選します。連絡は Hoppii にて行います。
- ・授業のはじめに前回の復習をおこないます。
- ・簡単な会話や音読練習などにペアワークを取り入れて練習します。
- ・毎回、確認の小テストをおこないます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の進め方の説明。朝鮮語・韓国語の呼称の説明など。
2	第 1 課：文字と発音 (1)	単母音、初声その 1。
3	第 1 課：文字と発音 (1)	半母音 Y、終声その 1。
4	第 2 課：文字と発音 (2)	初声その 2、有声音化
5	第 2 課：文字と発音 (2)	半母音 W、二重母音、連音化
6	第 3 課：文字と発音 (3)	初声その 3、初声その 4
7	第 3 課：文字と発音 (3)	終声その 2、濃音化
8	第 4 課：～は韓国人です	助詞「は」。指定詞「です」。鼻音化。
9	第 4 課：～は～と申します	「ですか?」「と申します」
10	第 5 課：専攻は韓国語ですか?	もう一つの「です」「ですか?」
11	第 5 課：専攻は韓国語ではありません	「～ではありません」否定形。激音化。
12	第 6 課：教室は階段の横にあります	存在詞「あります」「います」「ありません」「いません」
13	第 6 課：教室は 204 号室です。	助詞「に」、2 字母パッチム、漢数詞。
14	期末試験	春学期のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・授業の復習を必ずしてください。

- ・疑問点が生じたら、すぐに質問してください。
 - ・わからないことを放置しないようにしてください。
 - ・歌や音楽、ドラマ、映画など、授業外でも、できるだけ韓国語に接するように努力しましょう。
- 本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『三訂版・韓国語の世界へ入門編～コッコツツび、カジュアルに話そう～』李潤玉、酒匂康裕、須賀井義教、陸宗均、山田恭子、朝日出版社、2017 年、2300 円＋税

【参考書】

小学館『朝鮮語辞典／日韓辞典』など。

【成績評価の方法と基準】

小テスト・課題の提出及び授業への参画度 30 %、期末試験 70 %。欠席 5 回以上の場合、評価の対象としません。

【学生の意見等からの気づき】

韓国語の動画サイトの活用など。

【学生が準備すべき機器他】

教材動画・音声視聴のための Wifi 環境の整備。

【その他の重要事項】

定員制 (30 名) です。受講希望者は、第 1 回授業時 (2023 年 4 月 11 日) までに必ず Hoppii で「仮登録」をして教室に出席して下さい。定員を超えた場合、初回授業出席者 (「仮登録」者) の中から抽選します。「本登録」許可者 (受講許可者) は、第 2 回授業までに Hoppii にて発表します。第 1 回め出席後、仮登録を辞退する (取り消し) する方は、速やかに、申し出てください。なお「第 3 外国語としての朝鮮語 B」(秋学期) も合わせて受講希望の方も、4 月 11 日までに仮登録を行ってください。定員を超えた場合、こちらも抽選します。本登録は、受講許可者のみ可能となります。また、Q6001 (2 限) と Q6005 (3 限) と同内容の講座ですので、重複仮登録は禁止です。両方仮登録した方は、抽選の対象からはずします。秋学期も 2 限 3 限の重複仮登録は禁止です。韓国で小、中、高校課程を修了している学生の受講は認めません。

【Outline (in English)】

< Course outline >

This course is an elementary Korean course.

< Learning Objectives >

In this course, students will learn how to read and write Korean characters Hangul, and acquire easy grammar, and easy conversation skills.

< Learning activities outside of classroom >

Before/after each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content.

< Grading Criteria/Policy >

Term-end examination : 70 %, little exams and in class contribution: 30%.

LANk300LA

第三外国語としての朝鮮語 B 2017 年度以降入学者**神谷 丹路**

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 2/Tue.2

単位数：2 単位

定員制 (30 名)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「第三外国語としての朝鮮語 A」を修了したレベルの人対象の講座です。具体的には、ハンゲルの読み書きの基礎を理解し、「～は～です」「～は～ではありません」、「あります」「います」、漢数詞の学修を終えている必要があります。テキストの 6 課までの内容を習得していることが必要です。

【到達目標】

- ・正確に発音できるようになる。
- ・ヘヨ体で、現在形、過去形が使えるようになる。
- ・身の回りのこと、ごく簡単な会話ができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

- ・授業のはじめに前回の復習をおこないます。
- ・簡単な会話や音読練習などにペアワークを取り入れて練習します。
- ・毎回、確認の小テストをおこないます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	春学期の復習	第 4 課～第 6 課の総復習。
2	第 7 課：何の本を読んでいますか？	ヘヨ体の作り方（1）
3	第 7 課：午後、時間大丈夫ですか？	助詞「を」「も」
4	第 8 課：テコンドーを教えてください。	ヘヨ体の作り方（2）
5	第 8 課：スクールで試験を受けます	助詞「で」「に」、指示詞「こそあど」、
6	第 9 課：電車で学校に通っています。	ヘヨ体の作り方（3）
7	第 9 課：何時におきますか？	助詞「～から～まで」（場所）、固有数詞。
8	第 10 課：野球が好きです	ヘヨ体の作り方（4）
9	第 10 課：野球を見に行きます。	～しに行きます。助詞「～から～まで」（時間）、曜日
10	第 11 課：時間がありませんでした。	過去形の作り方
11	第 11 課：どこか具合悪いですか？	語幹の用言、+用言（否定形）
12	第 12 課：両親が来られます	尊敬形
13	第 12 課：何をしますつもりですか？ 温泉に行きたいです。	～するつもりです。～したいです。
14	期末試験	秋学期のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・授業の復習を必ずしてください。
- ・疑問点が生じたらすぐに質問してください。

- ・わからないことを放置しないようにしてください。
 - ・歌や音楽、ドラマ、映画など、授業外でも、できるだけ韓国語に接するように努力しましょう。
- 本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『三訂版・韓国語の世界へ入門編～コソコソ学び、カジュアルに話そう～』李潤玉、酒匂康裕、須賀井義教、睦宗均、山田恭子著、朝日出版社、2017 年、2300 円＋税

【参考書】

小学館『朝鮮語辞典／日韓辞典』など。

【成績評価の方法と基準】

- ・小テスト・課題の提出および授業への参画度 30 %、期末試験 70 %。
- 欠席 5 回以上の場合、評価の対象としません。

【学生の意見等からの気づき】

韓国語の動画サイトの活用。

【その他の重要事項】

定員制 (30 人) です。受講希望者は、春学期のはじめ (2023 年 4 月 11 日) までに仮登録を行ってください。定員を超えた場合は、抽選を行います。Q6002 (2 限) と Q6006 (3 限) は同内容の講座です。重複仮登録は禁止。受講許可者 (本登録許可者) は、4 月 17 日までに Hoppii に掲示します。お試して、仮登録を行った方は、速やかに別途、ご連絡下さい。定員に余裕がある場合にのみ、秋学期の登録を認めます。追加登録の可否については、Hoppii に掲示します。韓国で小、中、高校課程を修了している学生の受講は認めません。

【Outline (in English)】

< Course outline >

This course is for the students who finished "the Korean for the third foreign language A" and also needed to understand until Lesson 6 of the text book.

< Learning Objectives >

In this course, students will acquire easy grammar, and easy conversation skills.

< Learning activities outside of classroom >

Before/after each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content.

< Grading Criteria/Policy >

Term-end examination : 70 %, little exams and in class contribution: 30%.

LANK300LA

第三外国語としての朝鮮語中級 2017年度以降入学者

梁 禮先

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 3/Wed.3

単位数：2 単位

定員制 (30 名)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

朝鮮語初級で学んだ知識を利用し、実践的に書く・読む練習を繰り返すことで朝鮮語の基礎を確実に身に付けることを目標とします。基礎的朝鮮語の会話にも挑戦していきます

【到達目標】

基本会話ができることを到達目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

発音練習、作文練習、会話練習、読む練習などを毎回繰り返しながら授業を進めていきます。

フィードバックなどは、学習支援システムなどを利用します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第一回	授業の進め方などについて	授業の進め方について説明しますと簡単な復習
第二回	今日も友達に会いますか 1	読む練習と否定形について
第三回	今日も友達に会いますか 2	発音について
第四回	今、何時ですか 1	会話の練習
第五回	今、何時ですか 2	数詞について
第六回	ここはデパートですか 1	発音練習と読む練習について
第七回	ここはデパートですか 2	連体形について
第八回	私の家族です 1	推量について
第九回	私の家族です 2	文章と会話
第十回	景福宮はどこですか 1	変則用言
第十一回	景福宮はどこですか 2	発音と会話
第十二回	日記を読む	発音と読解
第十三回	日記を書く	会話の文章
第十四回	まとめと期末テスト	まとめと期末テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

レポート、課題を調べてくること。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教室用テキスト『朝鮮語中級』（梁禮先）

【参考書】

「朝鮮語辞書」－朝鮮語の辞書ならどちらのものでもよし。

【成績評価の方法と基準】

総合評価の成績によります (100%)。60 点以上が合格です。(詳細は、平常点・小テスト・課題など 30%、期末試験 70%。) また、三分の一以上の欠席時は、成績評価基準にかかわらず、不合格になることがあります。

【学生の意見等からの気づき】

発音をもっとやりたい。

【学生が準備すべき機器他】

特にありません。

【その他の重要事項】

諸事情によって、授業進行形式と内容が少々変わることもあります。

【Outline (in English)】

< Course outline > Our goal is to make sure to establish a strong foundation in Korean skills by harnessing the skills previously acquired in the introductory course and practicing writing and reading repeatedly. We will also try to have conversations in Korean.

< Learning Objectives >

The goal is to be able to read naturally and have simple daily conversations with correct pronunciation.

< Learning activities outside of classroom >

I will give you an assignment every time. Repeat reading practice and so on. The students will be expected to spend one hour to understand the course content.

< Grading Criteria /Policy >

Term-end examination (100%)

LANk300LA

第三外国語としての朝鮮語 A 2017 年度以降入学者

神谷 丹路

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 3/Tue.3

単位数：2 単位

定員制 (30 名)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

隣国の言語である朝鮮語・韓国語を初めて学ぶ方のための講座です。ハングルの文字と発音の基礎を学び、文法の初歩を学びます。ごく簡単な会話ができるようになります。

【到達目標】

- ・正確に発音できるようになる。
- ・「～は～です、ます」「～があります、います」などを理解し、簡単な読み書きができるようになる。
- ・簡単なあいさつや簡単な会話が話せるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたなどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

- ・定員制授業です。第 1 回授業（対面授業）に必ず参加すること。その中から抽選します。連絡は Hoppii にて行います。
- ・授業のはじめに前回の復習をおこないます。
- ・簡単な会話や音読練習などにペアワークを取り入れて練習します。
- ・毎回、確認の小テストをおこないます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の進め方の説明。朝鮮語・韓国語の呼称の説明など。
2	第 1 課：文字と発音 (1)	単母音、初声その 1。
3	第 1 課：文字と発音 (1)	半母音 Y、終声その 1。
4	第 2 課：文字と発音 (2)	初声その 2、有声音化
5	第 2 課：文字と発音 (2)	半母音 W、二重母音、連音化
6	第 3 課：文字と発音 (3)	初声その 3、初声その 4
7	第 3 課：文字と発音 (3)	終声その 2、濃音化
8	第 4 課：～は韓国人です	助詞「は」。指定詞「です」。鼻音化。
9	第 4 課：～は～と申します	「ですか?」「と申します」
10	第 5 課：専攻は韓国語ですか?	もう一つの「です」「ですか?」
11	第 5 課：専攻は韓国語ではありません	「～ではありません」否定形。激音化。
12	第 6 課：教室は階段の横にあります	存在詞「あります」「います」「ありません」「いません」
13	第 6 課：教室は 204 号室です。	助詞「に」、2 字母パッチム、漢数詞。
14	期末試験	春学期のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・授業の復習を必ずしてください。

- ・疑問点が生じたら、すぐに質問してください。
 - ・わからないことを放置しないようにしてください。
 - ・歌や音楽、ドラマ、映画など、授業外でも、できるだけ韓国語に接するように努力しましょう。
- 本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『三訂版・韓国語の世界へ入門編～コッコツツび、カジュアルに話そう～』李潤玉、酒匂康裕、須賀井義教、陸宗均、山田恭子、朝日出版社、2017 年、2300 円＋税

【参考書】

小学館『朝鮮語辞典／日韓辞典』など。

【成績評価の方法と基準】

小テスト・課題の提出及び授業への参画度 30 %、期末試験 70 %。欠席 5 回以上の場合、評価の対象としません。

【学生の意見等からの気づき】

韓国語の動画サイトの活用など。

【学生が準備すべき機器他】

教材動画・音声視聴のための Wifi 環境の整備。

【その他の重要事項】

定員制 (30 名) です。受講希望者は、第 1 回授業時 (2023 年 4 月 11 日) までに必ず Hoppii で「仮登録」をして教室に出席して下さい。定員を超えた場合、初回授業出席者 (「仮登録」者) の中から抽選します。「本登録」許可者 (受講許可者) は、第 2 回授業までに Hoppii にて発表します。第 1 回め出席後、仮登録を辞退する (取り消し) する方は、速やかに、申し出てください。なお「第 3 外国語としての朝鮮語 B」(秋学期) も合わせて受講希望の方も、4 月 11 日までに仮登録を行ってください。定員を超えた場合、こちらも抽選します。本登録は、受講許可者のみ可能となります。また、Q6001 (2 限) と Q6005 (3 限) と同内容の講座ですので、重複仮登録は禁止です。両方仮登録した方は、抽選の対象からはずします。秋学期も 2 限 3 限の重複仮登録は禁止です。韓国で小、中、高校課程を修了している学生の受講は認めません。

【Outline (in English)】

< Course outline >

This course is an elementary Korean course.

< Learning Objectives >

In this course, students will learn how to read and write Korean characters Hangul, and acquire easy grammar, and easy conversation skills.

< Learning activities outside of classroom >

Before/after each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content.

< Grading Criteria/Policy >

Term-end examination : 70 %, little exams: and in class contribution: 30 %.

LANk300LA

第三外国語としての朝鮮語 B 2017 年度以降入学者

神谷 丹路

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 3/Tue.3

単位数：2 単位

定員制 (30 名)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「第三外国語としての朝鮮語 A」を修了したレベルの人対象の講座です。具体的には、ハンゲルの読み書きの基礎を理解し、「～は～です」「～は～ではありません」、「あります」「います」、漢数詞の学修を終えていることが必要です。テキストの 6 課までの内容を習得していることが必要です。

【到達目標】

- ・正確に発音できるようになる。
- ・ヘヨ体で、現在形、過去形が使えるようになる。
- ・身の回りのこと、ごく簡単な会話ができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

- ・授業のはじめに前回の復習をおこないます。
- ・簡単な会話や音読練習などにペアワークを取り入れて練習します。
- ・毎回、確認の小テストをおこないます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	春学期の復習	第 4 課～第 6 課の総復習。
2	第 7 課：何の本を読んでいますか？	ヘヨ体の作り方（1）
3	第 7 課：午後、時間大丈夫ですか？	助詞「を」「も」
4	第 8 課：テコンドーを教えてください。	ヘヨ体の作り方（2）
5	第 8 課：スクールで試験を受けます	助詞「で」「に」、指示詞「こそあど」、
6	第 9 課：電車で学校に通っています。	ヘヨ体の作り方（3）
7	第 9 課：何時におきますか？	助詞「～から～まで」（場所）、固有数詞。
8	第 10 課：野球が好きです	ヘヨ体の作り方（4）
9	第 10 課：野球を見に行きます。	～しに行きます。助詞「～から～まで」（時間）、曜日
10	第 11 課：時間がありませんでした。	過去形の作り方
11	第 11 課：どこか具合悪いですか？	語幹の用言、+用言（否定形）
12	第 12 課：両親が来られます	尊敬形
13	第 12 課：何をしますつもりですか？ 温泉に行きたいです。	～するつもりです。～したいです。
14	期末試験	秋学期のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・授業の復習を必ずしてください。
- ・疑問点が生じたらすぐに質問してください。

- ・わからないことを放置しないようにしてください。
 - ・歌や音楽、ドラマ、映画など、授業外でも、できるだけ韓国語に接するように努力しましょう。
- 本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『三訂版・韓国語の世界へ入門編～コソコソ学び、カジュアルに話そう～』李潤玉、酒匂康裕、須賀井義教、睦宗均、山田恭子著、朝日出版社、2017 年、2300 円＋税

【参考書】

小学館『朝鮮語辞典／日韓辞典』など。

【成績評価の方法と基準】

- ・小テスト・課題の提出および授業への参画度 30 %、期末試験 70 %。
- 欠席 5 回以上の場合、評価の対象としません。

【学生の意見等からの気づき】

韓国語の動画サイトの活用。

【その他の重要事項】

定員制 (30 人) です。受講希望者は、春学期のはじめ (2023 年 4 月 11 日) までに仮登録を行ってください。定員を超えた場合は、抽選を行います。Q6002 (2 限) と Q6006 (3 限) は同内容の講座です。重複仮登録は禁止。受講許可者 (本登録許可者) は、4 月 17 日までに Hoppii に掲示します。お試して、仮登録を行った方は、速やかに別途、ご連絡下さい。定員に余裕がある場合にのみ、秋学期の登録を認めます。追加登録の可否については、Hoppii に掲示します。韓国で小、中、高校課程を修了している学生の受講は認めません。

【Outline (in English)】

< Course outline >

This course is for the students who finished "the Korean for the third foreign language A" and also needed to understand until Lesson 6 of the text book.

< Learning Objectives >

In this course, students will acquire easy grammar, and easy conversation skills.

< Learning activities outside of classroom >

Before/after each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content.

< Grading Criteria/Policy >

Term-end examination : 70 %, little exams and in class contribution: 30 %.

LANj300LA

日本語コミュニケーション A 2017年度以降入学者

副島 健作

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 2/Wed.2

単位数：2 単位

定員制 (30 名)

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

一般の日本人母語話者（日本人）は「日本語」が話せるので、ある程度日本語をマスターした外国人留学生とはスムーズにコミュニケーションができると考えている人が多い。しかし、「言語」がある一定以上できるからといってその知識はコミュニケーションを保証してはくれない。なぜなら、コミュニケーションは相互行為であり、そこには「言語」以外の要素が複雑に絡み合っているからだ。コミュニケーションが成り立たなかったとしても、一方だけに責任があるというわけではない。無意識にした発話行為が相手の期待に反する表現や行動と捉えられた場合、コミュニケーションはとたんにブレイクしてしまう。

日本語コミュニケーションをスムーズに行うため、身近な日本語がどのように成り立っているかを分析し、無意識に使っている日本語の奥にひそむ法則性を見つけ出す。日本語に関する知識の形成、日本語学習者の母語など他の言語との相違、コミュニケーションのための文法・語彙について考えを深める。

【到達目標】

1. 言語資料から言語的事象を取り出す方法を身につける。
2. 広く相対的な観点から日本語を捉える方法を身につける。
3. 相手の感情を害する誤用とはどのようなものか、発話スタイルなど、誤用以外にも相手の感情に影響するものがあるか、考える。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

おもに、身近な日本語、不思議に思えるような現象をテーマにして講義します。

必要に応じて、フィードバックします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の基本的な姿勢、自分で考え、自分の考えをほかの人に積極的に伝え、ほかの人に意見を聞いてさらに考えを深めようという姿勢について概観します
2	「ことばの意味」について	分析の材料として「ことばの意味」を取り上げます
3	「和語・漢語・外来語」について	分析の材料として「和語・漢語・外来語」を取り上げます
4	「会話の失敗」について	分析の材料として「会話の失敗」を取り上げます
5	「ことば遊び」について	分析の材料として「ことば遊び」を取り上げます
6	「話しことばと書きことば」について	分析の材料として「話しことばと書きことば」を取り上げます
7	「あいまい文」について	分析の材料として「あいまい文」を取り上げます
8	「カタカナ」について	分析の材料として「カタカナ」を取り上げます

9	「マンガのことば」について	分析の材料として「マンガのことば」を取り上げます
10	「方言」について	分析の材料として「方言」を取り上げます
11	「丁寧体と普通体」について	分析の材料として「丁寧体と普通体」を取り上げます
12	「漫才とことば」について	分析の材料として「漫才とことば」を取り上げます
13	「外国の人の日本語」について	分析の材料として「外国の人の日本語」について取り上げます
14	授業内試験	以上 13 回分の内容について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各トピックについての日本語の現象について、身近な例をたくさん集め、意識的に観察し、自分なりに真剣に考えてみてください。

本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

野田尚史・野田晴美（2017）『日本語を分析するレッスン』大修館書店

【参考書】

必要に応じて授業中に紹介しますが、まずは平凡社『コミュニケーション事典』をあげておきます。

【成績評価の方法と基準】

平常点 40 点、試験の得点 60 点、合計 100 点で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

なし

【その他の重要事項】

日本語コミュニケーションの体現者として、また討論への参加者として、留学生と日本人学生両方の履修を期待します。

【Outline (in English)】

【Course outline】

Many people think that because ordinary Japanese native speakers can speak "Japanese," they can communicate smoothly with foreign students who have mastered Japanese to some extent. However, just because one can speak a certain level of "language" does not mean that this knowledge guarantees communication. This is because communication is a reciprocal act, in which factors other than "language" are intricately intertwined. If communication fails, it does not mean that only one party is responsible. If an unconscious act of speech goes against the expectation of the other person, the communication will break down.

In order to make Japanese communication smooth, we will analyze how familiar Japanese language is formed and find out the laws behind the Japanese we use unconsciously. Students will deepen their thinking about the formation of knowledge about the Japanese language, its differences from other languages such as the native language of Japanese learners, and grammar and vocabulary for communication.

【Learning Objectives】

By the end of the course, students should be able to do the followings:

1. To learn how to extract linguistic events from linguistic materials.
2. To learn how to understand the Japanese language from a broad and relative perspective.
3. To think about what kinds of misuse of Japanese language are harmful to others' feelings, and whether there are other things that affect others' feelings besides misuse, such as speech style.

【Learning activities outside of classroom】

Students will be expected to collect many familiar examples of Japanese phenomena on each topic, observe them consciously, and think seriously about them in your own way. Your study time will be more than four hours for a class.

【Grading Criteria/Policy】

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Term-end examination: 60%, in class contribution: 40%

LANj300LA

日本語コミュニケーション B 2017 年度以降入学者

副島 健作

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 2/Wed.2

単位数：2 単位

定員制 (30 名)

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

一般の日本人母語話者 (日本人) は「日本語」が話せるので、ある程度日本語をマスターした外国人留学生とはスムーズにコミュニケーションができるかと考えている人が多い。しかし、「言語」がある一定以上できるからといってその知識はコミュニケーションを保証してはくれない。なぜなら、コミュニケーションは相互行為であり、そこには「言語」以外の要素が複雑に絡み合っているからだ。現実のことは「非流ちょう」であるが、母語話者のことばと非母語話者のことばには「規則性」において大きな違いがある。無意識にした発話行為が相手の期待に反する表現や行動と捉えられた場合、コミュニケーションはとたんにブレイクしてしまう。

日本語コミュニケーションをスムーズに行うため、母語話者の非流ちょうな日本語、とくに文節単位のコマ切れ発話を分析し、どのような規則性があるかを見つけて出す。日本語に関する知識の形成、日本語学習者の母語など他の言語との相違、コミュニケーションのための文法・語彙について考えを深める。

【到達目標】

1. 現実の発話の姿について理解し、コミュニケーションを成立させる能力を培うこと。
2. コミュニケーションが成立しないときには、相手との協力のもと、関係を修復できる知識と能力を身に着けること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

おもに、身近な日本語、不思議に思えるような現象をテーマにして講義します。

また、必要に応じてフィードバックします。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	試験解説・春学期のまとめ・「ことば」について	春学期の内容と試験について解説し、一般に「ことば」について解説します
2	「きもちの文法」について	「きもちの文法」について解説します
3	「きもちの文法」と「組み合わせの文法」の関係	「きもちの文法」と「組み合わせの文法」の関係について概観します
4	「きもちの文法」の先行研究	「きもちの文法」の先行研究について概観します
5	「きもち」「権力」「会話」を取り入れた文法について i	きもち・権力・会話を取り入れることで新たにとらえられる発話を取り扱います ・付属語だけの発話 ・従属節の発話

6	「きもち」「権力」「会話」を取り入れた文法について ii	きもち・権力・会話を取り入れることで新たにとらえられる発話を取り扱います ・文節の発話 ・語の発話
7	「非流ちょう性」について i	非流ちょうな発話のパターンを取り上げます ・ことばの量の不具合 ・ことばの質の不具合
8	「非流ちょう性」について ii	非流ちょうな発話のパターンを取り上げます ・ことばの処理サイズの縮小 ・ことばが出てこず発話が停滞
9	「こま切れの文法」の定義	「文節単位のこま切れ発話」とはなにかについて解説します
10	「文節単位のこま切れ発話」について i	「文節単位のこま切れ発話」の特徴について解説します ・語順 ・イントネーション ・判定詞の表れ
11	「文節単位のこま切れ発話」について i i	「文節単位のこま切れ発話」の特徴について解説します ・終助詞の表れ ・【跳躍の上昇】の現れ
12	受講生による「不思議な日本語の現象」の発表 1	これまで学んできた内容をふまえて、受講生が気になる日本語の現象について議論します
13	受講生による「不思議な日本語の現象」の発表 2	これまで学んできた内容をふまえて、受講生が気になる日本語の現象について議論します
14	最終試験	講義の内容に関して試験を行います

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

「コミュニケーション」における日本語という言語について、日本の言語生活を反省して、誤解した、誤解された等の具体例を意識的に観察し、その原因・理由について自分なりに真剣に考えてみてください。

本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

特にテキストは指定しません。

【参考書】

定延利之 (2019) 『文節の文法』大修館書店

『コミュニケーション事典』平凡社

その他、必要に応じて授業中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点 20 点、課題 30 点 (含発表のパフォーマンス)、試験の得点 50 点、合計 100 点で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【その他の重要事項】

日本語コミュニケーションの体現者として、また討論への参加者として、留学生と日本人学生両方の履修を期待します。

【Outline (in English)】

【Course outline】

Many people think that because ordinary Japanese native speakers can speak "Japanese," they can communicate smoothly with foreign students who have mastered Japanese to some extent. However, just because one can speak a certain level of "language" does not mean that this knowledge guarantees communication. This is because communication is a reciprocal act, in which factors other than "language" are intricately intertwined. If communication fails, it does not mean that only one party is responsible. If an unconscious act of speech goes against the expectation of the other person, the communication will break down.

In order to make Japanese communication smooth, we will analyze how familiar Japanese language is formed and find out the laws behind the Japanese we use unconsciously. Students will deepen their thinking about the formation of knowledge about the Japanese language, its differences from other languages such as the native language of Japanese learners, and grammar and vocabulary for communication.

【Learning Objectives】

By the end of the course, students should be able to do the followings:

1. to understand what speech looks like in real life, and to develop the ability to establish communication.
2. to acquire the knowledge and ability to reflect on speech when communication is not successful, and to revise expressions to avoid misunderstanding.

【Learning activities outside of classroom】

Students will be expected to reflect on your linguistic life in Japan, and consciously observe specific examples of misunderstandings and misinterpretations, and think seriously about the causes and reasons for these misunderstandings. Your study time will be more than four hours for a class.

【Grading Criteria /Policy】

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Term-end examination: 30%, Short reports : 40%, in class contribution: 30%

LIT300LA

漢字・漢文学A

2017年度以降入学者

加納 留美子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 4/Mon.4

単位数：2 単位

定員制 (30 名)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「漢字と中国文学」をテーマに、関連する作品を先秦時代から清代まで縦断的に取り上げ、中国文学について多角的な視座から考察する。

中国で用いられる漢字は、古来特別な存在として扱われていた。他人への情報伝達という機能のほかに、吉凶の予言・運命の転換・文字占いなどの神秘的なエピソード、文字を利用した論争などの知的なエピソードに事欠かない。私たちが日常生活で使い慣れている漢字の新たな一面を紹介する。

学生は授業を通して、多種多様な中国の文学作品を学ぶことになる。単に作品内容を理解するだけではなく、その表現・作品にどのような意味を見出せるか、類似する作品と比較しどのような指摘ができるか、より深い考察ができるようになることを求めたい。

【到達目標】

1. 作品を通じて、中国文学の知識と理解を深める。
2. 作品を通じて、中国史の流れを大略的に捉える。
3. 特定テーマを基に、中国の伝統的な思想の知識を深める。
4. 作品を通じて、日本をはじめとする他国の文化・文学との比較考察をする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式。配布資料をもとに進行する。

授業内容に関連した意見を、授業中に小レポートの形で課すことがある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	・ 授業内容の説明 ・ 中国史の概要紹介
第 2 回	漢字のなりたち	・ 「六書」の紹介 ・ 漢字の起源と歴史 ・ 「字謎」の紹介
第 3 回	権力者と文字による予言	・ 予言の種類 ・ 歴史書に見える予言 ・ 「拆字」の紹介
第 4 回	文字が左右した運命①	・ 「志怪」と「伝奇」 ・ 文字が動かした寿命 ・ 読めない文字
第 5 回	文字が左右した運命②	・ 三つの予言 ・ 詩を用いた予言
第 6 回	日本・西洋・中国の「こっくりさん」	・ 近代諸国での流行 ・ 中国の「扶鸞」信仰
第 7 回	中国「扶鸞」信仰と知識人①	・ 「扶鸞」の方法と来歴 ・ 「扶鸞」の流行と評価
第 8 回	中国「扶鸞」信仰と知識人②	・ 宋代知識人の体験 ・ 明代のオカルト趣味 ・ 近代中国と「扶鸞」信仰

第 9 回	恋愛作品と文字	・ 『詩経』と「楽府」 ・ 恋のうたと言葉遊び
第 10 回	知識人の頓智と奇想	・ 外交における機知 ・ 知識人の応酬
第 11 回	伝統的「姓名」観	・ 避諱の制 ・ 姓名が左右した運命
第 12 回	創作活動と文字①	・ 「推敲」 ・ 現実と表現の衝突
第 13 回	創作活動と文字②	・ 詩が招いた幸運と悲運 ・ 「詩讖」の説
第 14 回	まとめ	全体の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業中に小レポートが課される。学生は能動的に授業へ参加し、それまでに学んだ内容を確認しておくこと。授業で習得した知識や明らかになった問題点は、よく復習して着実に理解しておくこと。

【テキスト（教科書）】

教科書は不使用。随時プリントを配布する。

【参考書】

参考書は、授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

<成績評価>

平常点（授業中の意見、小レポート等の提出物）40%、期末の試験またはレポート60%。

<基準>

- ・ 授業における取り組み（態度・意見）
- ・ 指示された課題に対応する能力
- ・ 授業内容をどの程度把握できたか

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【Outline (in English)】

【Course outline】

This class focuses on Chinese characters and Chinese literature. We read literary works from the pre-Qin to the Qing Dynasty, and then analyze them to understand their characteristics.

From ancient times, Chinese people think of Chinese characters as a very noble existence. The basic function of conveying information to others, in addition, there are mysterious abilities. For example, Chinese characters can predict good or bad luck ; they also can transform the fate of individuals. In addition, we can easily find the intelligent topics which the ancient scholars seriously argued about how to use of Chinese characters.

Through various stories, introduce the true face of the Chinese characters we think are familiar with.

【Learning Objectives】

1. Acquire knowledge about Chinese literature.
2. Understand the development of Chinese history.
3. Understand traditional Chinese ideas.
4. Compare and consider with the culture and literature of other countries including Japan.

【Learning activities outside of classroom】

Students should take recovery lessons every time and take the next lesson with a thorough understanding.

【Grading Criteria /Policy】

Normal score (opinions during class, submissions such as small reports) 40%, final exam or report 60%.

LIT300LA

漢字・漢文学B

2017年度以降入学者

加納 留美子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 4/Mon.4

単位数：2 単位

定員制 (30 名)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「夢と中国文学」をテーマとする。中国人がどのような夢を見たか、様々な作品を通して紹介する。古来、中国では夢には特別な力があると信じられ、時に政治運営にも影響を与えた。時代を下るに伴い、夢を見る主体は特権階級から知識人・庶民・女性・下僕など拡大していき、夢の内容や意味も多様化していく。あわせて日本人が見た夢についても言及する。

学生は授業を通して、多種多様な中国の文学作品を学ぶことになる。単に作品内容を理解するだけではなく、その表現・作品にどのような意味を見出せるか、類似する作品と比較しどのような指摘ができるか、より深い考察ができるようになることを求めたい。

【到達目標】

1. 作品を通じて、中国文学の知識と理解を深める。
2. 作品を通じて、中国史の流れを大略的に捉える。
3. 特定テーマを基に、中国の伝統的な思想の知識を深める。
4. 作品を通じて、日本をはじめとする他国の文化・文学との比較考察をする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式。配布資料をもとに進行する。

授業内容に関連した意見を、授業中に小レポートの形で課すことがある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	・授業内容の説明 ・「ゆめ」の多義性 ・中国の夢分類
第 2 回	古代中国の吉夢	・誕生の予言 ・優れた人材を教示 ・栄達の予言
第 3 回	古代中国の凶夢①	・死期を悟る ・病魔の会話
第 4 回	古代中国の凶夢②	・国家滅亡の暗示 ・不明瞭な悪夢
第 5 回	知識人たちが得たお告げ	・文学的才能の獲得と喪失 ・創作のヒント
第 6 回	夢主に働きかける夢①	・夢と夢主 ・夢と現実の関連性 ・宗教的神秘体験
第 7 回	夢主に働きかける夢②	・死者の訴え ・前世の自分の訴え
第 8 回	復讐する死者	・生者に託した復讐 ・死者による復讐 ・復讐の為の転生
第 9 回	人外との交流	・助命嘆願 ・報恩と復讐 ・逆恨み

第 10 回 夢と恋愛文学

- ・夢での逢瀬
- ・恋愛成就の神
- ・夫婦の別離と再会

第 11 回 夢の世界の冒険

- ・怪異との接触
- ・儂い栄達
- ・動物への変身

第 12 回 他人と共有された夢

- ・「二人同夢」
- ・危機の通達
- ・夢での邂逅

第 13 回 日本における夢

- ・他人が見る夢
- ・日本文学における夢

第 14 回 まとめ

全体の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業中に小レポートが課される。学生は能動的に授業へ参加し、それまでに学んだ内容を確認しておくこと。授業で習得した知識や明らかになった問題点は、よく復習して着実に理解しておくこと。

【テキスト（教科書）】

教科書は不使用。随時プリントを配布する。

【参考書】

参考書は、授業中に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

<成績評価>

平常点（授業中の意見、小レポート等の提出物）40%、期末の試験またはレポート60%。

<基準>

- ・授業における取り組み（態度・意見）
- ・指示された課題に対応する能力
- ・授業内容をどの程度把握できたか

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【Outline (in English)】

The theme of this class is "Dreams and Chinese Literature". Through the various works from Pre-Qin dao Qing dynasty, introduce what dreams Chinese people have made and how to understand them.

Since ancient times, Chinese people have a great belief that dreams have special power. Sometimes, some dreams can affect the political operation. With the change of the times, the subject of dreams has expanded from royalty class to intellectuals, commonalty, women, servants and so on. This expansion seems to diversify the content of dreams.

In addition, this class will intend to talk about the stories of Japanese dreams.

【Learning Objectives】

1. Acquire knowledge about Chinese literature.
2. Understand the development of Chinese history.
3. Understand traditional Chinese ideas.
4. Compare and consider with the culture and literature of other countries including Japan.

【Learning activities outside of classroom】

Students should take recovery lessons every time and take the next lesson with a thorough understanding.

【Grading Criteria /Policy】

Normal score (opinions during class, submissions such as small reports) 40%, final exam or report 60%.

LIT300LA

教養ゼミ I

2017 年度以降入学者

藤村 耕治

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 3/Fri.3

単位数：2 単位

定員制 (30 名)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

小説や詩歌などの文芸作品の創作・執筆を通して、自分の世界観や想像を形にする力を身につけます。

特に重視するのは他の受講者の作品を読み、相互に批評しあうことで、「書く力」と同時に「読む力」をも鍛えることです。安直な技法論に頼ることなく、自ら書き、それを他者に批評してもらい、同時に同世代の作品を読むという経験を通して、おのれの個性を生かしつつ、独りよがりではない表現、人に伝わる表現とはどのようなものかを、実感を通して理解し、よりよい作品に練り上げていくことが目的です。

【到達目標】

小説や詩歌の創作を通して、自分の中の書きたいという欲求や衝動をどのように形にするか、さまざまな認識や思いを表現し、定着させて読み手に伝えるにはどのような技術や工夫が必要かという、創作的文章表現（クリエイティブ・ライティング）における基礎的な要諦を学び、作品として完成させること。

他者の作品をさまざまな角度から読解し、分析し、批評する客観的な力を獲得するとともに、それを自身にフィードバックさせることで、より高度な文章表現力を身につけること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

受講者の創作した作品をテキストとして、①設定・世界観、②人物造形、③プロット・構成、④細部（デテール）表現、⑤主題などの面から分析を加えていきます。一コマにつき一人ないし二人の作品を取り上げ、検討する予定です。

講義形式ではなく、相互討議の形式で行いますので、受講者は事前に作品を読み込んで、自分なりの解釈や評価を持って授業に臨んでもらいます。

受講人数によっては、班を作り、まず班内で討議し、そのうち全体で討議するという形をとることもあります。討議や教員からの講評を通して、自分の作品を客観的に見直し、書く力を高めていってほしい。

今semesterで書いた作品は、秋semesterで冊子化するので、春学期・秋学期ともに履修することを強く推奨します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第一回	文芸創作のために①	文芸創作とはどのようなものか、どのような心構えで臨めばよいかなどについて講義する。
第二回	文芸創作のために②	受講者各自の読書歴・関心・モチーフなどについての発表してもらい、創作意識を高めあう。
第三回	過去の学生創作作品の読解と分析①	過去の受講者の作品をテキストに、読解や分析の方法論を学ぶ。

第四回	過去の学生創作作品の読解と分析②	引き続き、過去の受講者の作品を読みながら、その優れた点や問題点などについて考える。
第五回	受講者の作品の読解と分析①	受講者が提出した作品について、班別または全体で討議する。
第六回	受講者の作品の読解と分析②	引き続き、受講生による作品について班別または全体で討議する。
第七回	受講者の作品の読解と分析③	引き続き、受講生による作品についての討議を行う。
第八回	受講者の作品の読解と分析④	引き続き、受講生による作品についての討議を行う。
第九回	受講者の作品（第二作目）の読解と分析①	第二作目として受講生が提出した作品について、班別または全体で討議する。
第十回	受講者の作品（第二作目）の読解と分析②	引き続き、受講生の作品について班別または全体で討議する。
第十一回	受講者の作品（第二作目）の読解と分析③	引き続き、受講生の作品についての討議を行う。
第十二回	受講者の作品（第二作目）の読解と分析④	引き続き、受講生の作品についての討議を行う。
第十三回	総括①	今semesterにおける自身の創作作品について振り返り、より完成度の高い作品にするための方法を考える。
第十四回	総括②	今semesterにおける他者の創作作品を振り返り、評価される作品とはどのような作品かを考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

作品は授業時間外に制作してもらいます。

創作は、自身の感受性や経験、思想、認識等の全てを駆使して行うものですから、日常生活においてなされる読書や映画・演劇鑑賞、スポーツ観戦・サークル活動・アルバイト等、すべての体験が種子となり糧となります。体験から多くのものを得て創作に生かしてください。

また、授業に向けて他の多くの受講生の書いた作品を毎回 2 作ほど熟読し、検討して討議に参加してもらいますが、創作も分析も何時間で出来るという枠に当てはめることは出来ませんので、授業時間外の学習時間は、各自の力に応じて、1 週間にもなれば 2 時間にもなります。

【テキスト（教科書）】

過去および現在の受講生の作品。場合によっては、職業小説家の作品をテキストとして使用しますが、その際にはこちらからその都度指定します。

【参考書】

過去に書かれたすべての小説・詩歌。

【成績評価の方法と基準】

作品の提出 50 %、授業内討議への積極的な参加 30 %、期末に課す課題（自分の作品のブラッシュアップ）20 %。

【学生の意見等からの気づき】

高い満足度を得られているようなので、引き続き丁寧な指導を心がけたい。

【Outline (in English)】

Course outline

Through practical writing of poetry, essays and novels, student acquire the ability to express their own world view and imagination.

By reading and commenting each other's works, it is important to train "writing skills" and "reading skills".

Through mutual criticism, please understand what expressions are transmitted to people.

Learning activities outside of classroom

All the time to plan write the work is preparatory learning. You also need to read other student's works carefully in advance. Therefore, overtime learning can be 2 hours or a week depending on the person.

Grading Criteria/Policy

50% submission of the work, 30 % active participation in the discussion, 20% of the semester-end assignment.

LIT300LA

教養ゼミⅡ

2017年度以降入学者

藤村 耕治

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 3/Fri.3

単位数：2 単位

定員制 (30 名)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

小説や詩歌などの文芸作品の創作・執筆を通して、自分の世界観や想像を形にする力を身につけます。

特に重視するのは他の受講者の作品を読み、相互に批評しあうことで、「書く力」と同時に「読む力」をも鍛えることです。

また、作品を一冊の冊子にまとめますが、それに必要な推敲・校正の方法のほか、編集に関する基礎的な方法論を身につけます。

【到達目標】

小説や詩歌の創作を通して、自分の中の書きたいという欲求や衝動をどのようにして形にするか、さまざまな思いや認識を表現し、定着させて他者に伝えるにはどのような工夫や技術が必要かという、創作における基礎的な要諦を学び、作品として完成させること。

他者の作品をさまざまな角度から読解し、分析し、批評し、評価する客観的な力を獲得するとともに、それを自身にフィードバックさせることで、より高度な文章表現力を身につけること。

受講者の作品を一冊の作品集にまとめる過程で、校正・編集などにかかわる基礎的な方法を学ぶこと。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

受講生の創作した作品をテキストとして、①設定・世界観、②人物造形、③プロット・構成、④細部（デテール）表現、⑤主題などの面から分析を加えていきます。一回につき一人ないし二人の作品を取り上げ、検討する予定です。

講義形式ではなく、相互討議の形式で行いますので、受講者は事前に作品を読み込んで、自分なりの解釈や評価を持って授業に臨んでもらいます。

受講人数によっては、班を作り、まず班内で討議し、そののち全体で討議するという形をとることもあります。討議や教員からの講評を通して、自分の作品を客観的に見直し、書く力を高めていってほしい。

今 semester では、受講者の書いた作品を冊子化します。その過程で、校正や編集の基本的な方法についても適宜講義します。そのため、春学期・秋学期ともに履修することを強く推奨します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第一回	文芸創作のために	文芸創作とはどのようなものか、どのような心構えで臨めばよいかなどについて講義する。
第二回	作品読解・分析の方法①	学生創作作品をテキストに、作品の読解と分析の方法を学ぶ。
第三回	作品読解・分析の方法②	引き続き、学生創作作品をテキストに、作品の読解と分析の方法を学ぶ。
第四回	受講者の作品の読解と分析①	受講者が提出した作品について、班別または全体で討議する。
第五回	受講者の作品の読解と分析②	引き続き受講者の作品についての班別または全体で討議を行う。

第六回	受講者の作品の読解と分析③	引き続き受講者の作品についての討議を行う。
第七回	受講者の作品の読解と分析④	引き続き受講者の作品についての討議を行う。
第八回	受講者の作品の読解と分析⑤	受講者の作品についての討議を行い、作品集に掲載する作品を決定する。
第九回	校正の方法①	作品の推敲や構成についての基本的な知識と方法を学ぶ。
第十回	校正の方法②	作品集に掲載する作品について、自身で校正する。
第十一回	作品集の編集①	本文レイアウト、誌名、表紙などを決定する。
第十二回	作品集の編集②	自分の作品および他の受講者の作品を校正する。
第十三回	作品集の編集③	念校し、校了とする。
第十四回	作品集の編集④	納品された作品集を確認し、すぐれた作品についての批評文を書く。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

作品は授業時間外に制作してもらいます。

創作は、自身の感受性や経験、思想、認識等の全てを駆使して行うものですから、日常生活においてなされる読書や映画・演劇鑑賞、スポーツ観戦・サークル活動・アルバイト等、すべての体験が種子となり糧となります。

また、授業に向けて他の多くの受講生の書いた作品を毎回 2 作ほど熟読し、検討して討議に参加してもらいますが、創作も分析も何時間で出来るという枠に当てはめることは出来ませんので、授業時間外の学習時間は各自の力に応じて、1 週間にもなれば 2 時間にもなります。

編集委員長および編集委員になる受講者には、時間外に編集作業に従事してもらうこともあります。

【テキスト（教科書）】

過去および現在の受講生の作品。場合によっては、職業小説家の作品をテキストとして使用しますが、その際にはこちらからその都度指定します。

【参考書】

過去に書かれたすべての小説・詩歌。

【成績評価の方法と基準】

作品の提出 35 %、授業内討議および編集作業への積極的な参加 35 %、期末に課すレポート（自分以外の受講者の作品 [三作以上] への批評文）30 %。

【学生の意見等からの気づき】

高い満足度を得られているようなので、引き続き丁寧な指導を心がけたい。

【Outline (in English)】

Couse outline

Through practical writing of poetry, essays and novels, student acquire the ability to express there own world view and imagination.

By reading and commenting each other's works, it is important to train "writing skills" and "reading skills".

Through mutual criticism, please understand what expressions are transmitted to people.

Students also learn to edit their work books.

Learning activities outside of classroom

All the time to plan write the work is preparatory learning. You also need to read Other student's works carefully in advance. Therefore, overtime learning can be 2hours or a week depending on the person.

Grading Criteria/Policy

35% submission of the work, 35% cooperation in participation in discussions and editing work, 30% of semester-end assignment.

LIT300LA

文芸創作講座 A

2017 年度以降入学者

サブタイトル：

LETIZIA GUARINI

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 2/Fri.2

単位数：2 単位

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

全ての人間の中に物語が潜んでいます。その物語を引き出すために、この授業では小説を書くための基礎について学びながら、自分自身を語る力を身につけます。

【到達目標】

- 1) 小説を読む/書くための基礎について学ぶ。
- 2) 自分の書きたい世界を明確にし、言語化することができる。
- 3) 小説を読んで講評することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

前半では、小説の書き方について学ぶ。様々な文芸作品を比較しながらグループでディスカッションを行う。
後半では、クラスのメンバーからアドバイスをもらいながら小説を書く。
フィードバックは、寄せられた課題やコメントに対して授業内で回答します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	受講者の自己紹介。授業計画について説明を行う。 小説家を目指すには何が必要なのかについて考える。
第 2 回	テーマの決め方	ブレインストーミングを行いながら作品のテーマを決める。
第 3 回	ジャンル	フィクション、ノンフィクション、オートフィクションについて学ぶ。
第 4 回	小説の始まり	書き出しについて考える。
第 5 回	小説の設定	時間と場所の設定について考える。
第 6 回	語り手と読者	語り手と視点、また読者について考える。
第 7 回	小説を書く (1)	これまでの授業を踏まえ、自分の小説についての構想を考える。
第 8 回	小説を書く (2)	小説を書きはじめる (2,000 字程度)。グループ間でのアドバイスなどを行う。
第 9 回	小説を書く (3)	小説を書き続ける (前回に加えて 2,000 字程度)。グループ間でのアドバイスなどを行う。
第 10 回	小説を書く (4)	小説を書き続ける (それまで書いたものと合わせて 6,000 字程度)。グループ間でのアドバイスなどを行う。

第 11 回 ブラッシュアップ 最終原稿（それまで書いたものと合わせて 8,000 字程度）の提出に向けて小説をブラッシュアップする。

第 12 回 講評 1 作品をみんなで読み、講評する。
第 13 回 講評 2 作品をみんなで読み、講評する。
第 14 回 まとめ 授業全体のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

授業外にも、小説を書いたり、グループやクラスのメンバーの小説を読むことが必要です。

【テキスト（教科書）】

必要に応じてプリントを配布します。

【参考書】

根本昌夫『実践 小説教室一伝える、揺さぶる基本メソッド』（河出書房新社、2018 年）

ステイーヴン・キング『書くことについて』（小学館、2013 年）

デイヴィッド・ロッジ『小説の技巧』（白水社、1997 年）

Mendelsund, Peter. What We See When We Read. Vintage, 2014

【成績評価の方法と基準】

毎回の課題 (20%)、グループワークと合評への参加度 (30 %)、学期末までに完成させた小説 (50 %) で総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

グループディスカッションの時間を増やす必要があることに気づきました。

原稿提出の締め切りや提出方法についてもっと詳しく説明する必要があることに気づきました。

【学生が準備すべき機器他】

小説を書くためのパソコンなど。

【Outline (in English)】

There is a story hidden in each of us. Students will learn to bring out their own stories by learning the basics of writing a novel.

By the end of the course, students should be able to do the followings:

- 1) Understand the basics of writing fiction.
- 2) Identify the story they want to write about and give voice to the character(s).
- 3) Read literature critically.

Learning activities outside of the classroom:

Students are required to work on their own projects. They will also read other students' stories (one to three hours for every session).

Grading criteria/Policy:

The final grade will be decided based on the following:

Weekly assignments: 20%

Group work: 30%

Final project: 50%

LIT300LA

文芸創作講座 B

2017 年度以降入学者

サブタイトル：

LETIZIA GUARINI

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 2/Fri.2

単位数：2 単位

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、文学と音楽と芸術との関係を考えながら小説を書くための基礎について学びます。受講者が好きな歌あるいは芸術作品を選び、それをテーマにした物語を書くという実習授業です。

【到達目標】

- 1) 文芸作品を分析することができる。
- 2) 小説を書くための基礎について学ぶ。
- 3) 多角的な視点を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

グループでディスカッションを行いながら、受講者がそれぞれのテーマを決めます。そして小説の書き方の基礎について学びながら、小説を書きます。

フィードバックは、寄せられた課題やコメントに対して授業内で回答します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	受講者の自己紹介。授業計画について説明を行う。 文学と音楽と芸術との関係について考える。
第 2 回	テーマの決め方	ブレインストーミングを行いながら、作品のテーマを決める。
第 3 回	小説の始まり	様々な文芸作品を読みながら、小説の書き出しについて考える。
第 4 回	時間と場所の移動	物語における時間と場所の設定について考える。
第 5 回	語り手と視点	語り手や視点の設定について考える。
第 6 回	小説の技巧	意識の流れや内的独白について学ぶ。
第 7 回	天気、名前、リスト	物語の詳細について考える。自分の小説についての構想を考える。
第 8 回	小説を書く (1)	小説を書きはじめる (2,000 字程度)。グループ間でのアドバイスなどを行う。
第 9 回	小説を書く (2)	小説を書き続ける (前回に加えて 2,000 字程度)。グループ間でのアドバイスなどを行う。
第 10 回	小説を書く (3)	小説を書き続ける (それまで書いたものと合わせて 6,000 字程度)。グループ間でのアドバイスなどを行う。
第 11 回	ブラッシュアップ	最終原稿 (8,000 程度) の提出に向けて小説をブラッシュアップする。

- | | | |
|--------|--------|-----------------|
| 第 12 回 | 講評 (1) | 作品をみんなで読み、講評する。 |
| 第 13 回 | 講評 (2) | 作品をみんなで読み、講評する。 |
| 第 14 回 | まとめ | 授業全体のまとめを行う。 |

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。授業外にも、小説を書いたり、グループやクラスのメンバーの小説を読むことが必要です。

【テキスト（教科書）】

必要に応じてプリントを配布します。

【参考書】

根本昌夫『実践 小説教室一伝える、揺さぶる基本メソッド』（河出書房新社、2018 年）
ステイーヴン・キング『書くことについて』（小学館、2013 年）
デイヴィッド・ロッジ『小説の技巧』（白水社、1997 年）
Mendelsund, Peter. What We See When We Read. Vintage, 2014

【成績評価の方法と基準】

毎回の課題 (20%)、グループワークと合評への参加度 (30%)、学期末までに完成させた小説 (50%) で総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

グループディスカッションの時間を増やす必要があることに気づきました。原稿提出の締め切りや提出方法についてもっと詳しく説明する必要があることに気づきました。

【学生が準備すべき機器他】

小説を書くためのパソコンなど。

【Outline (in English)】

In this class, students will learn the basics of writing a story while considering the relationship between literature, music, and art. Students will write a story based on the theme of a work of art or a song of their choice.

Learning objectives:

By the end of the course, students should be able to do the followings:

- a) Analyze literary works.
- b) Understand the basics of writing a novel.
- c) Develop multiple perspectives.

Learning activities outside of the classroom:

Students are required to work on their own projects. They will also read other students' stories (one to three hours for every session).

Grading criteria/Policy:

The final grade will be decided based on the following:

- Weekly assignments: 20%
Group work: 30%
Final project: 50%

ART300LA

日本芸能論 A

2017 年度以降入学者

サブタイトル：

阿部 真弓

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 3/Mon.3

単位数：2 単位

定員制 (40 名)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

古代より日本にはさまざまな芸能があり、そのいくつかは変容しながらも継承されてきました。また、近代以降は西洋文化の流入によって、さらに多彩な姿をみせています。当科目では、日本で豊かな芸能の世界について、その歴史、様相について考察します。

なお、この授業は受講生による発表・討論を中心に進めるため、定員制となっています。当科目のシラバス【その他の重要事項】をよく確認し、履修登録してください。

【到達目標】

- ①芸能に関する基礎的な知識を習得し、ポイントをつかみながら鑑賞することができる。
- ②研究の課題、調査・分析の方法等、芸能研究に必要とされる基礎的な知識・スキルを身につける。
- ③プレゼンテーション能力、ディスカッション能力を高める。
- ④論理的で説得力のあるレポートを執筆できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

前半は、ビデオ、DVD 等視聴覚教材を適宜使い、パワーポイントによる講義形式で、中世までに成立した日本伝統芸能に関する概説、研究上の課題について解説します。

その後の授業では、受講生に、一人もしくはグループで、関心を持っている芸能 (時代・ジャンルは問いません) について考察した結果を発表してもらい、さらに討論により、考察を深めることとします。

授業のはじめに、学習支援システムにアップロードされた受講生からの質問や意見を取り上げてフィードバックし、前回授業の振り返りを行います。

なお、状況によって、オンライン授業となる可能性があります。その際は、学習支援システムを通じて、連絡します。

〔参考〕 これまでに発表されたテーマの一部を紹介します。

「能面について」「香道について」「エイサーの歴史と文化」「日本における『第九』の受容と定着について」「日本の馬事芸能～流鏝馬～」 「吉本新喜劇の歴史」

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の概要、スケジュールについて
第 2 回	芸能とは何か (1)	日本の芸能に関する概説
第 3 回	芸能とは何か (2)	研究上の課題に関する解説、および発表に関する注意事項の説明
第 4 回	伝統芸能概説 (1)	雅楽について
第 5 回	伝統芸能概説 (2)	伎楽について
第 6 回	伝統芸能概説 (3)	能について
第 7 回	伝統芸能概説 (4)	狂言について

第 8 回 受講生による発表・討論 グループ A の発表

第 9 回 受講生による発表・討論 グループ B の発表

第 10 回 受講生による発表・討論 グループ C の発表

第 11 回 受講生による発表・討論 グループ D の発表

第 12 回 受講生による発表・討論 グループ E の発表

第 13 回 受講生による発表・討論 グループ F の発表

第 14 回 まとめ 春学期の内容に関する総括

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

発表担当者は発表に備えて、テーマについて十分に調査・考察をし、わかりやすく適切な発表資料を作成して下さい。また、発表前週の授業で、発表担当者には発表テーマについて簡単に説明してもらいますので、発表担当者以外の受講者はそれについて予習をした上で、授業に臨むようにして下さい。

【テキスト (教科書)】

適宜、プリントを配布します。

【参考書】

授業中に参考文献リストを配布します。

【成績評価の方法と基準】

発表内容 70 % (①②③) またはレポート 70 % (①②④)、平常点および討論への参加状況 30 % (③) という配分で総合的に評価します。なお、平常点については、毎回、学習支援システムに提出してもらう課題によって、授業の理解度を確認します。

その他、実際に鑑賞したり、体験したりした芸能について、レポートを提出すれば、それも評価の対象とします。

【学生の意見等からの気づき】

講義形式の授業にあたっては、受講生の発言や学習支援システムに提出された課題の解答を参考にし、受講生の興味対象を見極めつつ、進めます。演習形式の授業時に学習支援システムに提出されたコメントは、教員がプリントにまとめて、次週の授業で配布し、さらに考察を深めていきます。

【その他の重要事項】

当科目は定員制です。受講希望者が定員を上回る場合、選抜を行います。秋学期「日本芸能論 B」の選抜も、春学期受講者選抜と同時に進みますので、当科目受講希望者も、春学期「日本芸能論 A」の学習支援システム上の「お知らせ」を確認してください。

【Outline (in English)】

This course deals with the Japanese performing arts.

The goal of this course is to help students acquire an understanding of Japanese performing arts from Asuka period to the modern era. It also enhances the development of students' skill in making oral presentation and discussion.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Oral presentation or Term-end report : 70%, Short reports : 30%.

ART300LA

日本芸能論 B

2017 年度以降入学者

サブタイトル：

阿部 真弓

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 3/Mon.3

単位数：2 単位

定員制（40 名）

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

古代より日本にはさまざまな芸能があり、そのいくつかは変容しながらも継承されてきました。また、近代以降は西洋文化の流入によって、さらに多彩な姿をみせています。当科目では、日本が育んできた豊かな芸能の世界について、その歴史、様相について考察します。

なお、この授業は受講生による発表・討論を中心に進めるため、定員制となっています。当科目のシラバス【その他の重要事項】をよく確認し、履修登録してください。

【到達目標】

- ① 芸能に関する基礎的な知識を習得し、ポイントをつかみながら鑑賞することができる。
- ② 研究の課題、調査・分析の方法等、芸能研究に必要とされる基礎的な知識・スキルを身につける。
- ③ プレゼンテーション能力、ディスカッション能力を高める。
- ④ 論理的で説得力のあるレポートを執筆できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

前半は、ビデオ、DVD 等視聴覚教材を適宜用い、パワーポイントによる講義形式で、近世に成立した日本伝統芸能に関する概説、研究上の課題について解説します。

その後の授業では、受講生に、それぞれ関心を持っている芸能（時代・ジャンルは問いません）について考察した結果を発表してもらい、さらに討論により、考察を深めることとします。

授業のはじめに、学習支援システムにアップロードされた受講生からの質問や意見を取り上げてフィードバックし、前回授業の振り返りを行います。

なお、状況によって、オンライン授業となる可能性があります。その際は、学習支援システムを通じて、連絡します。

〔参考〕 これまでに発表されたテーマの一部を紹介します。

「面能について」「浄瑠璃・歌舞伎における『伊勢物語』享受」「香道について」「落語の演技」「和太鼓の今と昔」「YOSAKOI ソーラン」「日本における『第九』の受容と定着について」「初心者にも親しみやすい宝塚」「歌舞伎の見得とセーラームーン」

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の概要、スケジュールについて
第 2 回	芸能とは何か (1)	日本の芸能に関する概説
第 3 回	芸能とは何か (2)	研究上の課題に関する解説、および発表に関する注意事項の説明
第 4 回	伝統芸能概説 (1)	人形浄瑠璃の成立について
第 5 回	伝統芸能概説 (2)	人形浄瑠璃の様相について
第 6 回	伝統芸能概説 (3)	歌舞伎の成立について
第 7 回	伝統芸能概説 (4)	歌舞伎の様相について

第 8 回	受講生による発表・討論	受講生が日本の芸能に関する考察を発表する。その後、討論。
第 9 回	受講生による発表・討論	受講生が日本の芸能に関する考察を発表する。その後、討論。
第 10 回	受講生による発表・討論	受講生が日本の芸能に関する考察を発表する。その後、討論。
第 11 回	受講生による発表・討論	受講生が日本の芸能に関する考察を発表する。その後、討論。
第 12 回	受講生による発表・討論	受講生が日本の芸能に関する考察を発表する。その後、討論。
第 13 回	受講生による発表・討論	受講生が日本の芸能に関する考察を発表する。その後、討論。
第 14 回	まとめ	秋学期の内容に関する総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

発表担当者は発表に備えて、テーマについて十分に調査・考察をし、わかりやすく適切な発表資料を作成して下さい。また、発表前週の授業で、発表担当者には発表テーマについて簡単に説明してもらいますので、発表担当者以外の受講者はそれについて予習をした上で、授業に臨むようにして下さい。

【テキスト（教科書）】

適宜、プリントを配布します。

【参考書】

授業中に参考文献リストを配布します。

【成績評価の方法と基準】

発表内容 70 % (①②③) またはレポート 70 % (①②④)、平常点および討論への参加状況 30 % (③) という配分で総合的に評価します。なお、平常点については、毎回、学習支援システムに提出してもらう課題によって、授業の理解度を確認します。

その他、実際に鑑賞したり、体験したりした芸能について、レポートを提出すれば、それも評価の対象とします。

【学生の意見等からの気づき】

講義形式の授業にあたっては、受講生の発言や学習支援システムに提出された課題の解答を参考にし、受講生の興味対象を見極めつつ、進めます。演習形式の授業時に、学習支援システムに提出されたコメントは教員がプリントにまとめて、次週の授業で配布し、さらに考察を深めていきます。

【その他の重要事項】

当科目は定員制です。受講希望者が定員を上回る場合、選抜を行います。秋学期「日本芸能論 B」の選抜も、春学期受講者選抜と同時に進めますので、当科目の受講を希望する人は、「日本芸能論 A」の学習支援システム上の「お知らせ」を確認してください。

なお、秋学期「日本芸能論 B」のみ履修することもできますが、理解を深めるために春学期科目「日本芸能論 A」の受講を強くおすすめします。

【Outline (in English)】

This course deals with the Japanese performing arts.

The goal of this course is to help students acquire an understanding of Japanese performing arts from Asuka period to the modern era. It also enhances the development of students' skill in making oral presentation and discussion.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Oral presentation or Term-end report : 70%, Short reports : 30%.

ART300LA

身体表現論 A

2017 年度以降入学者

深谷 公宣

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 2/Tue.2

単位数：2 単位

定員制 (30 名)

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

西洋舞踊の文化史について講義する。舞踊は最も古い芸術形式であるが、それがどのように生まれ、発展してきたかについて概観する。また、時代ごとに異なる舞踊のスタイルを紹介し、それがどのように文化や社会を反映しているのかについても検討する。舞踊の技術についての講義ではないので、注意すること。

【到達目標】

- ・西洋舞踊の文化史について考察し、叙述できる。
- ・身体運動の社会的意義を考える認識枠組を身につける。
- ・舞踊作品に対する審美眼、批評眼を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

資料を元に講義する。関連する映像があれば視聴する。受講生は授業の最後にリアクション・ペーパーを執筆して提出する。提出物は点検したうえで、良いコメントがあれば授業内で紹介する形でフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス～先史時代の舞踊	授業に必要な概念・用語の説明～舞踊の発生と種類
2	古代文明の舞踊	古代エジプト、古代ギリシア、古代ローマの舞踊
3	中世～ルネサンスの舞踊	中世の社会階層、コメディア・デラルテ、宗教・祭祀と舞踊、死の舞踊、世俗の舞踊
4	ルネサンスの舞踊～宮廷舞踊（16～17世紀）	宮廷舞踊、宮廷バレエの種類（バレエ・コミック、他）、仮面劇、仮面舞踏会
5	宮廷舞踊から劇場へ（18～19世紀）	カマルゴとサレ、ノヴェールのバレエ・ダクシオン、メヌエット、オペラとバレエ
6	ロマンティック・バレエ（19世紀）	タリオーニ、グリジ、エルスラー、ワルツの登場、『ラ・シルフィード』と『ジゼル』
7	クラシック・バレエ（19世紀）	『 Coppélia 』、プティパとイワノフ、『眠れる森の美女』、『くるみ割り人形』
8	クラシック・バレエからバレエ・リュスへ（19～20世紀）	『白鳥の湖』、フォーキン、ディアギレフのバレエ・リュス
9	19世紀アメリカの舞台芸術	ミンストレル・ショー、フリーク・ショー、ヴァラエティ・ショー、ヴォードヴィル・ショー
10	アメリカのダンスの誕生	社交ダンス、ジャズ・ダンス

11	アメリカのダンスの成熟	モダン・ダンス～アメリカン・バレエ～ディスコ、ストリート・ダンス
12	ポストモダン・ダンス（1）	モーリス・ベジャール、ピナ・バウシュ
13	ポストモダン・ダンス（2）	ウィリアム・フォーサイス、ローザス
14	講義のまとめ	講義の補足とまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

積極的に舞台鑑賞するように努める。
本授業の準備・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しない。毎回、資料を配布する。

【参考書】

Gayle Kassing. History of Dance. Second Edition. Human Kinetics. Kindle.

クルト・ザックス『世界舞踊史』

邦正美『舞踊の文化史』

【成績評価の方法と基準】

平常点 50%: 講義内容を把握し、自分なりに解釈することができているかを評価。

期末レポート 50 % : 舞踊の歴史に関するトピックについて分析し、丁寧に記述することができているかを評価。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline (in English)】

・ Course Outline: An introduction to the history of western dance culture. Dance is the most ancient form of art. This course will survey the origin and development of dance as an art, and present dance styles of various ages. The class will focus on how these dance styles reflect culture and society of a specific age. Be sure that this course will not teach the technique of dance, but the culture of dance.

・ Learning Objectives: By the end of this course, students will be able to

(1) analyze and describe the history of western dance culture, (2) examine the different movements of the human body and their social impact, (3) interpret the work of dance critically and aesthetically.

・ Learning activities outside of the classroom: see as many performances as possible. Spend more than four hours per week on this activity as well as preparing and reviewing the course content.

・ Grading Criteria/Policy: Class participation 50%, Final paper 50%.

ART300LA

身体表現論 B

2017 年度以降入学者

深谷 公宣

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 2/Tue.2

単位数：2 単位

定員制 (30 名)

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

西洋演劇史を概観する。演劇は日常生活の身体の動きを解放し、新たな運動の可能性を示す。この授業では西洋演劇史を辿ることにより、人間がどのように身体運動の可能性を追究してきたかを考える。また、演劇はその時代の文化と社会を反映している。各時代の文化や社会が、身体表現にどのように影響を及ぼしているかを検討する。

【到達目標】

- ・西洋演劇の歴史について考察し、叙述できる。
- ・身体運動の社会的意義を考える認識枠組を身につける。
- ・演劇作品に対する審美眼、批評眼を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

資料を元に講義する。関連する映像があれば視聴する。受講生は授業の最後にリアクション・ペーパーを執筆して提出する。提出物は点検したうえで、良いコメントがあれば授業内で紹介する形でフィードバックする。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】
なし/No

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】
なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の概要、進め方、基本的な概念や用語、参考資料等の紹介
2	古代ギリシア演劇 (1)	原始社会から古代文明における演劇の発生、アISKYLOS、ソフォクレスについて
3	古代ギリシア演劇 (2)	劇場の構造、ソフォクレス (続)、エウリピデスについて
4	中世演劇	奇跡劇・道徳劇、キリスト教の演劇への影響について
5	エリザベス時代演劇 (1)	シェイクスピアの喜劇について
6	エリザベス時代演劇 (2)	シェイクスピアの悲劇について
7	フランス古典主義演劇	コルネイユとル・シッド論争、モリエールについて
8	風俗喜劇、オペレッタ	イギリスの風俗喜劇、オッフェンバックのオペレッタについて
9	ロマン主義演劇	ドイツ・ロマン主義演劇、特にゲーテとシラーについて
10	近代演劇 (1)	ヨーロッパ近代演劇、特にストリンドベリ、チャーホフについて
11	近代演劇 (2)	ヨーロッパ近代演劇、特に、バーナード・ショー、オスカー・ワイルドについて
12	現代演劇 (1)	19世紀の象徴主義から未来派、シュルレアリスム、不条理演劇までの流れについて
13	現代演劇 (2)	アメリカのリアリズム演劇について

14 講義のまとめ 秋学期の講義のまとめと解説

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

積極的に舞台鑑賞するように努める。
本授業の準備・復習時間は各 2 時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

教科書は使用しない。毎回、資料を配布する。

【参考書】

『ギリシア悲劇〈1〉～〈4〉』(ちくま文庫)
シェイクスピア (福田恆存訳)『ハムレット』(新潮文庫)
シェイクスピア (安西徹雄訳)『リア王』(光文社古典新訳文庫)
日本演劇学会『ベスト・ブレイズー西洋古典戯曲』(相田書房)
岩瀬孝『フランス演劇史序説』(早稲田大学出版部)

【成績評価の方法と基準】

平常点 50%: 講義内容を把握し、自分なりに解釈することができているかを評価。
期末レポート 50 % : 演劇の歴史に関するトピックについて分析し、丁寧に記述することができているかを評価。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline (in English)】

・ Course Outline: An introduction to the history of western drama. Acting frees the actor's body which is anchored in everyday life and reveals the possibility of a new movement of the body. This course will reconsider how human beings have explored the possibility of body movement. Theatre is always a reflection of culture and society. The class will focus on examining how culture and society of a particular age have influenced the movement of the human body.

・ Learning Objectives: By the end of this course, students will be able to

(1) analyze and describe the history of western drama, (2) examine the different movements of the human body and their social impact, (3) interpret the work of theatre critically and aesthetically.

・ Learning activities outside of the classroom: see as many performances as possible. Spend more than four hours per week on this activity as well as preparing and reviewing the course content.

・ Grading Criteria/Policy: Class participation 50%, Final paper 50%.

ART300LA

美術論 A

2017 年度以降入学者

稲垣 立男

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 3/Wed.3

単位数：2 単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

2023 年度の美術論 A では、古代から現代までの西洋美術の基本的な内容を俯瞰的且つ実践的に学びます。現代の美術を理解するために重要な西洋近代美術史がテーマとなります。

特に

・美術を理解するための基礎となる美術史とその理論
・各時代のアーティストの実践（アイデアや制作論）
について段階的に幅広く学んでいきます。

以下の単元で講義を進めます。（詳しくは授業計画を参照して下さい。）

・古代美術、中世美術、近世美術
・近代美術
・現代美術

また、単元毎に実施するワークショップを通じて実践的に美術を学びます。

【到達目標】

西洋美術の思想や基本的な考え方についていくつかのキーワードを取り上げ、作品などの具体的な事例や作品にまつわる言説を踏まえながら、その背景となる見方や考え方について考察します。ワークショップでは、各単元で学んだ内容を基として作品制作や展覧会企画、美術批評などの応用的な実践にチャレンジします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

基本的に対面授業を予定していますが、新型コロナウイルスの感染状況によりオンラインで行う場合もあります。対面授業とオンライン授業について、学ぶ内容については同一です。まずはシラバスで授業の内容を確認してください。

資料

授業前に Google site で資料を配布します。授業中の閲覧の他、予習復習に活用して下さい。

課題

受講後 Google Form で課題とレポートを提出してもらいます。提出期間は授業終了後数日程度です。

評価

課題とレポートの提出をもって出席とし、採点を行います。

質問・相談

一般的な質問や相談については Google Classroom のチャット機能を使ってください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
4/12	オリエンテーション	授業の概要 美術史の学び方
4/19	古代美術 原始美術/先史美術、 メソポタミア美術、エ ジプト美術、エーゲ美 術、ギリシャ美術、 ローマ美術	文字の生まれる以前=先史時代の 美術や、西洋美術史の出発点とな るメソポタミアやエジプトなどの 最古の文明から生まれた美術など 古代美術について学びます。

4/26	中世美術 初期キリスト美術、ビ ザンティン美術、初期 中世美術、ロマネスク 美術、ゴシック美術	ルネサンス以前の、多くの民族や 地域とキリスト教美術が結びつい た中世美術について学びます。
5/10	近世美術 ルネサンス美術、バ ロック美術、ロココ美 術	ギリシア美術やローマ美術を見直 し人間の尊厳が再認識されたルネ サンス美術、ポルトガル語で「歪 んだ真珠」を意味するバロック美 術、フランスで発展した装飾性の 強いロココ美術について学びま す。
5/17	ワークショップ 1	単元の復習・古代美術、中世美 術、近世美術 ワークショップ・伝える方法・絵 から文字へ
5/24	近代美術 1 新古典主義、ロマン主 義、写実主義	古典（ルネサンス）への回帰として の新古典主義、自由な感性や多 様な美の表現を尊重したロマン主 義、ありのままの日常を客観的に 描こうとする写実主義について学 びます。
5/31	近代美術 2 印象派、新印象派、 ポスト印象派	写実主義の考えを引き継ぎ、現実 をそのままに鮮やかで明るい色彩 の印象派、印象派の色彩理論を さらに化学的に追求した新印象 派、印象派を批判的に受け継ぎ、 乗り越えようとするポスト印象派 について学びます。
6/7	ワークショップ 2	単元の復習・近代美術 1、近代 美術 2 ワークショップ・デッサンの手法 印象派以降のフォービズム、表現 主義、キュビズムを中心に、第一 次世界大戦前の芸術運動の流れに ついて学びます。画家たちはより 自由な表現を求めて様々な実験を 始めます。ポスト印象派と呼ばれ た画家のゴッホ、ゴッホ、セ ザンヌは、印象派以降の 20 世紀 の前衛芸術運動に大きな影響を与 えました。
6/14	近代美術 3 野獣派、キュビズム、 表現主義、ナビ派、 世紀末芸術、象徴主 義、素朴派、アール・ ヌーヴォー	ロシア革命前後のロシア構成主義 とシュプレマティズムについて、 また第一次世界大戦前後のアバン ギャルド芸術運動（前衛芸術）で ある未来派、ダダイズム、シュル レアリズムについて学びます。こ の時代には現代アートの基となる コンセプチュアルな発想や、パ フォーマンスやインスタレーショ ンの原型となるようなアイデア が登場します。
6/21	近代美術 4 未来派、ダダイズム、 シュルレアリスム、 デ・ステイル、バウハ ウス、ロシア構成主義	単元の復習・近代美術 3、近代 美術 4 ワークショップ・シュルレアリス ムの実験
6/28	ワークショップ 3	第二次世界大戦で大きなダメージ を受けたヨーロッパに代わり、経 済力を背景にアメリカが現代芸術 の中心地となりました。抽象表現 主義、ネオダダ、ポップ アート
7/5	現代美術 1 レトリズム、抽象表現 主義、アンフォルメ ル、ネオダダ、ポップ アート	第二次世界大戦で大きなダメージ を受けたヨーロッパに代わり、経 済力を背景にアメリカが現代芸術 の中心地となりました。抽象表現 主義、ネオダダ、ポップアート、 ミニマル、コンセプチュアルア ートなど、アメリカを中心として登 場した芸術運動に加え、アンフォ ルメル、スーパー・リアリズム、 アルテポーベラなどヨーロッパの 動向についても学びます。

7/12	現代美術 2 ミニマルアート、コン セプチュアルアート、 新表現主義、YBA、 リレーショナル・ア ート、ソーシャリー・エ ンゲージド・アート	1960年代になるとアフリカ系ア メリカ人公民権運動、ベトナム反 戦運動、女性解放運動、LSDを 使った平和を訴えるフラワーパ ワージェネレーションなどの市民 運動が盛んになります。この時代 には絵画や彫刻ではない表現が多 く登場します。概念的なアート や、ハプニング、パフォーマンス アート、社会関与などの動向が多 く登場します。1980年代に、ア メリカのコマーシャル・ギャラ リーから生まれたムーブメントで ある新表現主義について学びま す。また、ミレニウム前夜にイギ リスとヨーロッパで発生した二つ のムーブメント（Young British Artist / リレーショナルアート） についての理解を深めます。21 世紀に入り、ソーシャリー・エン ゲージド・アートやソーシャル・ プラクティスという社会に関与す る芸術運動が盛んになっていま す。
7/19	ワークショップ 4	単元の復習・現代美術 1、現代 美術 2 ワークショップ「テキストとア ート」

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Google site で配信する授業コンテンツには、学習を深めるためのウェブサイトのリンクが多く紹介されていますので、興味のあるものについては閲覧することをおすすめします。また、大学の近くには美術館やギャラリーが多くあります。新型コロナウイルスの感染状況にもよりますが、可能であれば企画展、常設展などの展覧会などを多く鑑賞してください。

本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

Google site を通じて授業に必要な資料を配布します。いくつか参考書を紹介するので、それらのうち少なくとも一冊を選んで購読することを勧めます。また各分野の研究に関して必要となる資料についてはその都度紹介します。

【参考書】

参考書

山本浩貴『現代美術史-欧米、日本、トランスナショナル』中央公論新社、2019年

『改訂版 西洋・日本美術史の基本 美術検定 1・2・3 級公式テキスト』美術出版社、2014年

『続 西洋・日本美術史の基本』美術出版社、201

『新・アートの裏側を知るキーワード』美術出版社、2014年

【成績評価の方法と基準】

成績評価については、平常点（授業への取り組み）、課題とレポートの合計で行います。取り組みの実験性、積極性を重視します。採点比率は以下の通りです。

1. 平常点（50%）
2. 課題とレポート（50%）

この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60%以上を達成した者を合格とします。

【学生の意見等からの気づき】

ワークショップではスケッチによるプランや写真作品など簡単な実践に取り組みますが、受講される皆さんは例年課題について積極的に取り組まれているようです。楽しく解りやすい授業を心がけたいと思います。

【Outline (in English)】

Course outline

In this course, we will learn the basic contents of modern contemporary art from a bird's eye viewpoint and practical perspective.

* Art history and art theory which is the basis for understanding art

* Work production including more practical content · Planning of art exhibitions · Art criticism.

We will learn about these in a step-by-step manner.

Learning Objectives

Some keywords are taken up about the thoughts and basic ideas about art, and the background viewpoints and ideas are considered while considering concrete examples such as works and discourses related to the works. At the workshop, you will challenge applied practices such as work production, exhibition planning, and art criticism based on what you learned in each unit.

Learning activities outside of the classroom

The content delivered on the Google site contains many website links to deepen your learning, so we recommend browsing the ones that interest you. There are also many museums and galleries near the university. If possible, depending on the infection status of the new coronavirus, please watch exhibitions.

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Grading Criteria /Policy

Grades will be evaluated based on the total of class activities, assignments and reports. We emphasize the experimentality and positiveness of our efforts. The scoring ratio is as follows.

1. Initiatives for classes (50%)
2. Issues and reports (50%)

See rubrics for specific assessment guidelines.

Based on this grade evaluation method, those who have achieved 60% or more of the achievement target of this class will be accepted.

ART300LA

美術論 B

2017 年度以降入学者

稲垣 立男

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 3/Wed.3

単位数：2 単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

美術論 B では日本の美術史および近現代美術の基本的な内容について俯瞰的、実践的に学びます。

・美術を理解するための基礎となる美術史や美術理論
 ・より実践的な内容を含む作品制作・美術展の企画・美術批評
 これらについて段階的に幅広く学んでいきます。

以下の単元で講義を進めます。（詳しくは授業計画を参照して下さい。）

・原始・古代美術
 ・中世美術、近世美術
 ・近代美術
 ・現代美術

また、単元毎に実施するワークショップを通じて実践的に美術を学びます。

【到達目標】

日本美術の思想や基本的な考え方についていくつかのキーワードを取り上げ、作品などの具体的な事例や作品にまつわる言説を踏まえながら、その背景となる見方や考え方について考察します。ワークショップでは、各単元で学んだ内容を基として作品制作や展覧会企画、美術批評などの応用的な実践にチャレンジします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

基本的に対面授業を予定していますが、新型コロナウイルスの感染状況によりオンラインで行う場合もあります。

対面授業とオンライン授業について、学ぶ内容については同一です。まずはシラバスで授業の内容を確認してください。

資料

授業前に Google site で資料を配布します。授業中の閲覧の他、予習復習に活用して下さい。

課題

受講後、Google Form で課題と簡単なレポートを提出してもらいます。提出期間は授業終了後数日程度です。

評価

実習課題とレポートの提出をもって出席とし、採点を行います。

質問・相談

一般的な質問や相談については Google Classroom のチャット機能を使ってください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
9/20	オリエンテーション	授業の概要 美術史の学び方
9/27	原始美術 縄文・弥生・古墳時代	先史時代の縄文・弥生・古墳時代の文化・美術について学びます。
10/4	古代美術 飛鳥・白鳳時代、奈良・平安時代	仏教が伝来し飛躍的な発展を遂げた飛鳥・白鳳時代、律令制度が確立した奈良時代、日本独自の文化を形成した平安時代について学びます。

10/11	ワークショップ (1) 単元の復習・原始美術、古代美術	プレゼンテーションとディスカッション
10/18	中世美術 鎌倉・室町時代	貴族にとって代わって武士の時代が始まりました。禅宗や新興宗教が文化や芸術に影響を及ぼした鎌倉時代、禅宗美術にはじまり水墨画が発達した室町時代の美術について学びます。
10/25	近世美術 桃山・江戸時代	支配階級から次第に民衆、町人のエネルギーが結実していった桃山・江戸時代の美術について学びます。
11/8	ワークショップ (2) 単元の復習・中世美術、近世美術	プレゼンテーションとディスカッション
11/15	近代美術のはじまり 明治時代・西洋画と日本画、大正デモクラシー、戦争画	明治維新後の西欧化、近代化制作により西洋画が盛んとなった明治時代、その一方で新日本画運動も起こり大きく揺れ動きました。大正時代に入ると印象派以降のアバンギャルドなどの新傾向が紹介されました。第二次世界大戦の最中にはプロパガンダのための戦争画が描かれます。
11/22	戦後美術 アンデパンダン、ネオダダ、ハイレッドセンター、実験工房、もの派	第二次世界大戦の終戦後の 1950 年代に実験工房、具体美術協会、続いてアンデパンダン、ネオダダ、ハイレッドセンター、実験工房が 1960 年代にはもの派など新しい芸術運動が始まります。
11/29	ワークショップ (3) 単元の復習・近代美術のはじまり、戦後美術	プレゼンテーションとディスカッション
12/6	1960-1980 年代 インスタレーション・パフォーマンス	1960 年代から 1970 年代にの美術に大きな影響力を持ったもの派以後について学びます。1980 年代には若いアーティストがインスタレーション・パフォーマンスによる制作を試みました。
12/13	1990-2020 年代 1990 年代、ミレニアム以降、ゼロ年代、2010 年以降	1990 年代からミレニアム、ゼロ年代から現在に至るまでの日本の美術について学びます。
12/20	ワークショップ (4) 単元の復習・1960-1980 年代、1990-2020 年代	プレゼンテーションとディスカッション
1/10	ディスカッション	授業全体を振り返り、ディスカッションを行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Google site で配信する授業コンテンツには、学習を深めるためのウェブサイトのリンクが多く紹介されていますので、興味のあるものについては閲覧することをおすすめします。また、大学の近くには美術館やギャラリーが多くあります。新型コロナウイルスの感染状況にもよりますが、可能であれば企画展、常設展などの展覧会などを多く鑑賞してください。

本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

Google site を通じて授業に必要な資料を配布します。いくつか参考書を紹介しますので、それらのうち少なくとも一冊を選んで購読することを勧めます。また各分野の研究に関して必要となる資料についてはその都度紹介します。

【参考書】

山本浩貴『現代美術史-欧米、日本、トランスナショナル』中央公論新社、2019 年
 『改訂版 西洋・日本美術史の基本 美術検定 1・2・3 級公式テキスト』美術出版社、2014 年
 『続 西洋・日本美術史の基本』美術出版社、2016 年
 『新・アートの裏側を知るキーワード』美術出版社、2022 年

【成績評価の方法と基準】

成績評価については、平常点（授業への取り組み）、課題とレポートの合計で行います。取り組みの実験性、積極性を重視します。採点比率は以下の通りです。

1. 平常点（50%）
2. 課題とレポート（50%）

この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とします。

【学生の意見等からの気づき】

ワークショップではスケッチによるプランや写真作品など簡単な実践に取り組みますが、受講される皆さんは例年課題について積極的に取り組まれているようです。楽しく解りやすい授業を心がけたいと思います。

【Outline (in English)】

Course outline

We will learn the essential contents of Japanese art history and modern art in a bird's-eye view and practical way.

1. Art history and art theory which is the basis for understanding art
2. Work production including more practical content · Planning of art exhibitions · Art criticism

I will learn a wide range of them step by step.

Learning Objectives

We will take up some keywords about Japanese art's ideas and basic ideas and consider the viewpoints and ideas behind them, based on specific examples such as works and discourses related to the works. At the workshop, we will challenge applied practices such as work production, exhibition planning, and art criticism based on what we learned in each unit.

Learning activities outside of the classroom

The content delivered on the Google site contains many website links to deepen your learning, so we recommend browsing the ones that interest you. There are also many museums and galleries near the university. If possible, depending on the infection status of the new coronavirus, please watch exhibitions.

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Grading Criteria /Policy

Grades will be evaluated based on the total of class activities, assignments and reports. We emphasize the experimentality and positiveness of our efforts. The scoring ratio is as follows.

1. Initiatives for classes (50%)
2. Issues and reports (50%)

See rubrics for specific assessment guidelines.

Based on this grade evaluation method, those who have achieved 60% or more of the achievement target of this class will be accepted.

ART300LA

芸術と人間 A

2017 年度以降入学者

岡村 民夫

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 2/Thu.2

単位数：2 単位

定員制（50 名）

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

人間の知覚・行動・想念・記憶などは、空間のありようとのように関係しているのか。映画とは、こうした根本的な問題を長年もつとも具体的に検討してきた表現領域である。主に古典的映画の空間の諸要素を通し、乗り物や建物などの映画的表現を学ぶ。

【到達目標】

空間という角度から映画を捉えなおすことで、映画表現のツボを理解し、鑑賞力を深めることができる。あわせて、表現技法や映画史の基本知識を身につける。自分で観る映画のジャンル・年代・地域を拡げることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

毎回、映画（サイレント映画から 2000 年代の映画にわたる）の部分的上映と講義を交差させる。鑑賞力を鍛えるために、頻繁に質問したり、hoppii を通して感想を書いてもらったりすることになる。フィードバックは hoppii および講義を通じて行う。

初回に選抜テスト（上映するシーンの分析）を行うので、これに出席する必要がある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の概要の説明と選抜試験
2	地を歩く	ジョン・フォード 宮崎駿
3	地を走る	チャールズ・チャップリン バスター・キートン
4	地で踊る	フレッド・アステア ジーン・ケリー
5	階段を昇降する	S・エイゼンシュテイン アルフレッド・ヒッチコック
6	斜面を昇降する	キング・ヴィダー ニコラス・レイ
7	列車に乗る	リュミエール兄弟 アルフレッド・ヒッチコック
8	列車に乗る 2	黒沢明 ホウ・シャオシェン
9	自動車に乗る	アルフレッド・ヒッチコック 濱口竜介
10	ドアを開け閉めする	エルンスト・ルビッチ ジャン＝リュック・ゴダール
11	壁の向うを聴く	フリッツ・ラング ロベール・ブレッソン
12	窓を見る	アルフレッド・ヒッチコック 周防正行
13	鏡を見る	オーソン・ウェルズ 吉田喜重
14	まとめ	講義のまとめや補足 課題レポート提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配布したプリントの再読や、映画館や DVD での作品鑑賞等。本授業の復習時間は 1 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

随時プリントを配布する。

【参考書】

『映画史を学ぶクリティカル・ワーズ』フィルム・アート社
蓮實重彦『映画の神話学』ちくま学芸文庫

【成績評価の方法と基準】

平常点 50 % + レポート 50 %（ただしレポートを提出しなければ E 評価とする）。

平常点は単に出席したことだけでなく、毎回のコメントシートをコメントする。

【学生の意見等からの気づき】

レポートを早めに返却する。

【学生が準備すべき機器他】

とくになし。

【その他の重要事項】

初回に出席すること。50 名以上受講希望者がいる場合、初回に選抜試験を実践し、受講資格を得た学生が受講できる。

毎回上映される映画を注意深く観る必要がある実技授業なので、各期 5 回以上の無断欠席は D 評価になる。

【Outline (in English)】

【Course outline】 In this class, we study the space structure of classical films.

【Learning Objectives】 At the end of the course, students are expected to be able to analyse the sale of a film.

【Learning activities outside of classroom】 After each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content.

【Grading Criteria /Policy】 Term-end report: 50%, in class contribution: 50%

ART300LA

芸術と人間 B

2017 年度以降入学者

岡村 民夫

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 2/Thu.2

単位数：2 単位

定員制（50 名）

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

人間の知覚・行動・想念・記憶などは、空間のありようとのように関係しているのか。映画とは、こうした根本的な問題を長年もつとも具体的に検討してきた表現領域である。本講義は「芸術と人間 A」の発展形にあたる。主に古典的作品を通し、都市や自然の映画の表現を学ぶ。

【到達目標】

空間という角度から映画を捉えなおすことで、映画表現のツボを理解し、鑑賞力を深めることができる。あわせて、表現技法や映画史の基本知識を身につけ、自分の観る映画のジャンル・年代・地域を広げる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

毎回、映画（サイレント映画から 2000 年代の映画にわたる）の部分的上映と講義を交差させる。鑑賞力を鍛えるために、指定した映画断片についてのコメントを **hoppii** を通じて毎回提出してもらう。フィードバックは **hoppii** および講義を通じて行う。初回に、「芸術と人間 A」を受講していない学生に対してのみ選抜テスト（上映するシーンの分析）を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の概要の説明、「芸術と人間 A」を受講していない学生に対する選抜試験
2	高層都市	キング・ヴィダー フリッツ・ラング
3	迷宮都市	ジャック・タチ ホセ・ルイス・ゲリン
4	記憶都市	アルフレッド・ヒッチコック ヴィム・ヴェンダース
5	日本家屋	成瀬巳喜男 小津安二郎
6	廃墟	ロベルト・ロッセリーニ 黒沢清
7	水と船	F・W・ムルナウ 溝口健二
8	川	ジャン・ルノワール 佐藤真
9	雨	山中貞雄 宮崎駿
10	水の宇宙	ジャン＝リュック・ゴダール アンドレイ・タルコフスキー
11	風	ジャン・エプスタン グル・ダッド
12	動物	ロバート・フラハティ 濱口竜介

13	補足	講義で十分扱えなかったテーマや映画
14	まとめ	講義のまとめ 課題レポート提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配布したプリントの再読や、宿題、映画館や DVD での映画観賞等。本授業の復習時間は 1 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

随時プリントを配布する。

【参考書】

『映画史を学ぶクリティカル・ワーズ』フィルム・アート社
蓮實重彦『映画の神話学』ちくま学芸文庫
その他、随時提示する。

【成績評価の方法と基準】

平常点 50 % + レポート 50 %（ただしレポートを提出しなければ E 評価とする）。

【学生の意見等からの気づき】

レポートを早めに返却する。

【学生が準備すべき機器他】

とくになし。

【その他の重要事項】

「芸術と人間 A」（春学期）未受講者は選抜試験をするので必ず初回に出席すること。

毎回上映される映画を注意深く観る必要がある実技授業なので、各期 5 回以上の無断欠席は D 評価になる。

【Outline (in English)】

【Course outline】 In this class, we study the space structure of classical films.

【Learning Objectives】 At the end of the course, students are expected to be able to analyse the sale of a film.

【Learning activities outside of classroom】 After each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content.

【Grading Criteria /Policy】 Term-end report: 50%, in class contribution: 50%

PHL300LA

仏教思想論 A

2017 年度以降入学者

計良 隆世

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 4/Fri.4

単位数：2 単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

インド初期仏教思想・仏教史

釈迦（仏陀）自身の思想とその特徴。初期仏教の基本思想と西洋思想との比較。

この授業では、ある特定の信仰に基づいた、いわゆる「宗学」を扱わず、西洋の文献学的方法に基づいた、客観的な思想史研究をまず第一に扱います。そして、その思想史研究によって明らかにされてきた仏教の基本思想について、その特徴・価値を理解するために、比較思想的考察（西洋哲学思想との比較）を試みます。

（初期仏教の学習だけでは仏教思想の本質の理解として不十分です。秋学期の「仏教思想論 B」も必ず履修してください。）

【到達目標】

・釈迦（仏陀）自身の思想・哲学は本来どのようなものであったのか、仏陀が説いたとされることばから考え、理解する。

・釈迦の思想は、哲学思想史上、どのような思想・哲学と見なされるのか、その思想・哲学としての特徴を、比較思想的考察（西洋哲学思想との比較）を通して考え、理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は講義形式です。毎回、レジュメと資料を読み、解説する形で授業を進めていきます。

学期中、単元終了ごとに、授業内容確認小テストを行います（4～5回実施予定）。

課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	仏教成立の経緯（1）	この授業について 仏教研究について ウパニシャッドの哲学
第 2 回	仏教成立の経緯（2）	ヴェーダ文明 ブラフマニズム 自由思想家の登場
第 3 回	仏教の成立	仏陀の生涯
第 4 回	仏教の教育指導法（説法）	対機説法 仏教思想の多様性・段階性
第 5 回	仏教の基本思想（1）	五蘊・十二処・十八界 三つの真理（三法印） 「諸行無常」 比較思想的考察
第 6 回	仏教の基本思想（2）	「一切皆苦」 4つの真理（四諦説） 十二支縁起 八支聖道・中道 【はじめての説法】

第 7 回 仏教の基本思想（3） 仏陀のさとり得た真理とその特徴
『梵天勧請』
『縁』経、他
比較思想的考察第 8 回 仏教の基本思想（4） 「諸法無我」
人無我と法無我
ミリング王経第 9 回 仏教教団と教団運営
律蔵文献
戒・波羅提木叉第 10 回 初期仏典講読（1） 『ダンマバダ』
第 11 回 初期仏典講読（2） 『スッタニパータ』
「慈しみ」他第 12 回 初期仏典講読（3） 『スッタニパータ』
「田を耕すバーラドヴァージャ」
他第 13 回 初期仏典講読（4） 『スッタニパータ』
真理についての争い第 14 回 授業内試験・まとめ
筆記試験
まとめ・解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習と復習時間は、各 2 時間を標準とします。

授業前学習：レジュメ・資料・参考書該当箇所の精読

授業後学習：授業内容の確認、参考書の熟読、小テストへの回答

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません。レジュメ・資料はプリントで配布します。

【参考書】

佐々木閑著『ゴータマは、いかにしてブッダとなったのか』、NHK出版新書、2013年

その他の参考書は、授業毎に指示する。

【成績評価の方法と基準】

学期末の授業内筆記試験の成績（60%）と授業内容確認小テストの成績（30%）と平常点（10%）により評価します。

学期末レポート試験においては、「到達目標」で掲げた事柄の理解度を試すための問題を課す予定。

試験の評価基準は、仏教の専門用語の意味を正しく理解し説明できているか、問題とする仏教思想・学説を正しく理解し詳しく丁寧に説明できているか、その思想・学説の仏教史・宗教史・哲学史上の意義・価値を正当な根拠をもって評価できているか（恣意的で偏った見方で評価していないか）、仏教思想の展開史を正しく把握しているか、などによります。

【学生の意見等からの気づき】

殆どの学生にとって、仏陀自身の思想・本来の仏教思想を学ぶのは初めてのことと思います。先入見を持たずに、原典（和訳）資料を深く読み、仏陀・仏教の思想を正しく真直ぐに捉え理解することに努めてください。解説は丁寧に行います。

【学生が準備すべき機器他】

パソコン（学習支援システムを利用するため）

【その他の重要事項】

春学期の「仏教思想論 A」だけでは、仏教思想の本質の理解、特に仏教の人生観・世界観の理解が不十分となります。秋学期の「仏教思想論 B」も必ず履修してください。

【Outline (in English)】

This is a course to learn early Indian Buddhist philosophy.

The aim of this course is to give students both an elucidation of Gotama Buddha's own philosophy by means of historical study and an understanding of its philosophical meaning by means of the comparative study between his philosophy and Western philosophy.

By the end of the course, students should be able to understand the followings:

1. The Buddha's philosophy consisting in dependent arising, impermanence, sufferings and selflessness.
2. His own idea on nirvana.
3. His ideas exposed in the Sutta Nipata and Dhammapada.
4. Buddhist morality explained in the vinaya.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end examination (60%), Short reports (30%) and Contribution in class (10%).

PHL300LA

仏教思想論 B

2017 年度以降入学者

計良 隆世

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 4/Fri.4

単位数：2 単位

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

インド初期・部派仏教から大乘仏教への展開：世界観・人生観の変遷
 インド仏教は、初期仏教以後、どのように思想的に展開し、どのようにして大乘仏教が起こってきたのか、またその思想展開に応じてどのように世界観・人生観が変化してきたのか、これらを学びながら、インド大乘仏教が理想とした生き方・人生観とはどのようなものであったのかを考え、理解することを目指します。
 (本授業は、初期仏教思想の理解・知識を前提としています。春学期の「仏教思想論 A」からの履修を強く勧めます。)

【到達目標】

・インド仏教思想の歴史的展開を把握し、初期仏教・部派仏教・大乘仏教それぞれの思想的な特徴と違いを理解する。
 ・仏教思想はどのように多様化したのか、その理由を理解する。
 ・初期・部派仏教から大乘仏教にかけて、世界観・人生観が基本的にどのように変化したのかを理解する。
 ・大乘仏教徒の人生観、特に仏教論理学派や後期中観派が説く人生観のもつ思想的・思想史的意義について考え理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は講義形式です。毎回、レジュメと資料を読み、解説する形で授業を進めていきます。
 単元終了ごとに、授業内容確認小テストを行います(4～5 回実施予定)。
 課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	序論	この授業について なぜ仏教思想は多様化したのか？ 諸部派成立から大乘仏教へ
第 2 回	部派仏教（説一切有部）の思想（1）	有部・経量部・『俱舍論』 ダルマの体系（1）： 五位七十五法
第 3 回	部派仏教（説一切有部）の思想（2）	ダルマの体系（2）： 有為ダルマの二性質
第 4 回	部派仏教（説一切有部）の思想（3）	物質論 原子（極微）論
第 5 回	部派仏教（説一切有部）の思想（4）	仏教がとらえる内的世界（心・心作用）
第 6 回	仏教の世界観	心作用の区分け（6 心所） 『俱舍論』が説く世界観 大乘仏教の世界観
第 7 回	大乘仏教（1）	大乘仏教の教理的特徴
第 8 回	大乘仏教（2）	大乘諸経典 『般若経』の空思想
第 9 回	大乘仏教（3）	ナーガールジュナの哲学 二真理説 空・仮・中

第 10 回	大乘仏教（4）	縁起の思想（1） 外縁起・内縁起 『入楞伽経』 『稲苜経』
第 11 回	大乘仏教（5）	縁起の思想（2） 縁起二種観察法 『稲苜経』・『稲苜経註』
第 12 回	大乘仏教（6）	大乘仏教・後期中観思想の人生観 1 到達目標・理想的境地・中道
第 13 回	大乘仏教（7）	大乘仏教・後期中観思想の人生観 2 仏陀・経典の権威について
第 14 回	まとめ・授業内試験	筆記試験 まとめ・解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。
 授業前学習：レジュメ・資料・参考書該当箇所の精読
 授業後学習：授業内容の確認、参考書の熟読、小テストへの回答

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しません。レジュメ・資料はプリントで配布します。

【参考書】

佐々木閑著『仏教は宇宙をどう見たか アビダルマ仏教の科学的な世界観』、Dojin 選書、2013 年
 桜部健・上山春平著『仏教の思想 2 存在の分析<アビダルマ>』、角川ソフィア文庫、1996 年
 その他の参考書は、授業毎に指示する。

【成績評価の方法と基準】

学期末の授業内筆記試験の成績（60%）と授業内容確認小テストの成績（30%）と平常点（10%）により評価します。
 授業内筆記試験においては、「到達目標」で掲げた事柄の理解度を試すための問題を課す予定。

試験の評価基準は、仏教の専門用語の意味を正しく理解し説明できているか、問題とする仏教思想・学説を正しく理解し詳しく丁寧に説明できているか、その思想・学説の仏教史・宗教史・哲学史上の意義・価値を正当な根拠をもって評価できているか（恣意的で偏った見方で評価していないか）、仏教思想の展開史を正しく把握しているか、などによります。

【学生の意見等からの気づき】

インド本来の大乘仏教思想、特に東アジアには伝わっていない後期中観思想を初めて学び、その思想（人生観等）に新鮮な驚きを感じる学生が多いようです。初期仏教より思想内容が高度になりますが、丁寧な解説を心掛けたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

パソコン（学習支援システムを利用するため）

【その他の重要事項】

春学期の「仏教思想論 A」から履修することを強く推奨します。
 また、第 1 回授業は仏教思想展開史上とても重要な事柄を扱いますので、履修を考えている方は、第 1 回授業から参加するようにしてください。

【Outline (in English)】

This is a course to learn Indian Hinayana (ZrAvakayAna) Buddhism and Mahayana (BodhisattvayAna) Buddhism.

The aim of this course is to give students a historical elucidation of the reason of the philosophical diversification in Indian Buddhism and an understanding of the historical and philosophical development of Indian Buddhists' world view (cosmology) and view of life.

By the end of the course, students should be able to understand the followings:

1. SarvAstivAdin's interpretation of impermanence, i.e., momentariness of conditioned dharmas.
2. Madhyamaka philosophy consisting in dependent arising, emptiness, middle way and nonabiding nirvana.
3. Dharmakirti's and later MAdhyamika position on scriptural authority.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end examination (60%), Short reports (30%) and Contribution in class (10%).

PHL300LA

教養ゼミⅠ

2017年度以降入学者

森村 修

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 4/Mon.4

単位数：2 単位

定員制（15名）

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、2018年度から始まった「教養ゼミ」の一つとして新たに始まった科目である。本授業は、秋学期同一科目の「教養ゼミⅡ」と密接な関係にある。半期科目ではあるが、授業内容としては、通年でひとつのテーマを追求していく。その際に、テーマに即したテキストをゆっくり精読しながら、思想家・哲学者の思考を学び、さらにそこから自らの哲学的思考に磨きをかけていくことを目指す。

2023年度は、春・秋共通のテーマとして「フランス現代思想」について、様々な哲学者・思想家の思想を考察する。特に、春学期は「入門」として、現代の思想状況がどのような過去の遺産・資産によって成り立っているかを、思想史の文脈からアプローチする。その際の手引きとして、千葉雅也先生（立命館大学准教授）の『現代思想入門』（2015）を手引きとしながら、同書の千葉先生の問い・「今なぜ現代思想か」を皆さんと一緒に考えていく。

【到達目標】

- (1) 「今なぜ（フランス）現代思想か」という問いについて説明することができる。
- (2) 「フランス現代思想」として括られる哲学者について説明することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

「教養ゼミ」という名称に基づき、基本的に「演習（ゼミ）形式」の授業を行う。毎回、担当者を決めて、テキストの担当箇所読解とコメントをレジュメにして発表し、それに基づいて、教員ならびに受講者によって議論を行なう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	①選抜試験（受講生が30名以上ははじめに「今なぜ現代思想か？」 ②授業の概要・資料の配布 ③日程の確認 ④柄谷行人の思想解説
2	第一章 デリダ——概念の脱構築 (1)	・ポスト構造主義とポストモダン ・独特なデリダのスタイル
3	第一章 デリダ——概念の脱構築 (2)	・パロールとエクリチュール ・脱構築
4	第二章 ドゥルーズ——存在の脱構築 (1)	・ドゥルーズの時代 ・差異は同一性に先立つ
5	第二章 ドゥルーズ——存在の脱構築 (2)	・家族の物語ではなく、多様な実践へ ・管理社会批判
6	第三章 フーコー——社会の脱構築 (1)	・権力の二項対立を揺さぶる ・権力のあり方
7	第三章 フーコー——社会の脱構築 (2)	・規律訓練 ・生政治
8	現代思想の源流 (1) ——ニーチェ	・ニーチェ——ディオニソスとアポロン

- 9 現代思想の源流 (2) ——フロイト——無意識の発見
——フロイト
- 10 現代思想の源流 (3) ——マルクス——力と経済
——マルクス
- 11 精神分析と現代思想——主体化と享楽
——ラカン (1) ・去勢とは何か
- 12 精神分析と現代思想——現実界、捉えられない「本当のもの」
——ラカン (2) ・もの
- 13 現代思想の作り方 (1) ・現代思想家になるために
- 14 まとめ ・21世紀の現代思想

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・担当者以外の受講者は、授業前には必ず該当箇所を読んで、質問を三点以上準備すること。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

千葉雅也『現代思想入門』（講談社現代新書、2022年）

※各自でテキストを用意すること。

【参考書】

久米博『ワードマップ 現代フランス哲学』（新曜社、1998年）

川口茂雄『現代フランス哲学入門』（ミネルヴァ書房、2020年）

【成績評価の方法と基準】

(1) 平常点 (50%) (レジュメを作成し、発表すること)

(2) 期末レポート (50%)

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【受講上の注意】

本授業は、定員 (30名) が決められている。初回の授業で、受講予定者が多い場合、選抜試験を実施し、合格者のみが受講登録できる。初回の試験を未受験の人は、受講できないので注意してほしい。

【Outline (in English)】

【Outline and Objectives】

This class is a new course as one of the "Liberal Arts Seminars" that began in the 2018 academic year. This class is closely related to "Liberal Arts Seminar II," which is the same course in the fall semester. Although it is a semester-long course, the content of the class pursues a single theme throughout the year.

In doing so, students will read texts on the theme and study the thoughts of thinkers and philosophers in order to refine their own philosophical thinking.

【Goal】

(1) To be able to explain the question "Why (French) contemporary thought now?"

(2) To be able to explain the philosophers who are grouped as "French contemporary thought".

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

(1) Students are expected to read the relevant passages and prepare at least three questions about them before the class.

(2) The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【Grading criteria】

(1) Regular marks (50%) (Students are expected to prepare and present their resumes)

(2) Final report (50%)

PHL300LA

教養ゼミⅡ

2017年度以降入学者

森村 修

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 4/Mon.4

単位数：2 単位

定員制（15名）

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、2018年度から始まった「教養ゼミ」の一つとして新たに始まった科目である。本授業は、春学期同一科目の「教養ゼミⅠ」と密接な関係にある。半期科目ではあるが、授業内容としては、通年でひとつのテーマを追求していくため、春学期の授業に参加していることが望ましい。

秋学期では、テーマに即した思想家のオリジナルテキストも視野に入れて、テーマに関する研究書を精読することを中心とする。また、オリジナルテキストを読むことによって、思想家の思考を学び、さらに自らの哲学的思考に磨きをかけていくことを目指す。

2023年は、春・秋共通のテーマとして「フランス現代思想」について、様々な思想家の思想を考察する。特に、秋学期は「応用」として、春学期の「入門編」で基礎固めした現代思想の流れを詳細に追跡していきながら、「入門」で学んだ思想家のオリジナルテキストを読んでいく。その際に、石田英敬先生（東京大学名誉教授）の『現代思想の教科書—世界を考える知の地平 15章』（2010）を手引きとしながら、フランス現代思想を牽引してきた思想家の思考を学ぶ。

【到達目標】

- (1) 「今なぜ（フランス）現代思想か」という問いについて説明することができる。
- (2) 「フランス現代思想」として括られる哲学者について説明することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

「教養ゼミ」という名称に基づき、基本的に「演習（ゼミ）形式」の授業を行う。毎回、担当者を決めて、テキストの担当箇所の読解とコメントをレジュメにして発表し、それに基づいて、教員ならびに受講者によって議論を行なう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	①選抜試験（受講生が30名以上の場合） ②授業の概要・資料の配布
第2回	「現代思想とは何か」(1)	・「現代思想とは何か？」 ・四つの「ポスト状況」
第3回	「言語の世紀」の問い——ソシュールをめぐる	・記号とコミュニケーションの理論 ・ソシュール革命
第4回	記号とイメージの世界——パースの記号論	・記号解釈と記号分類 ・普遍記号論の思想
第5回	無意識の問い——「フロイトの発見」以後	・「無意識の発見」 ・理性と非-理性
第6回	文化の意味——レヴィ＝ストロース「構造主義革命」以後	・構造主義とは何か？ ・構造主義の文化理解

- 第7回 「欲望とは何か？」——ラカン「欲望と主体」
・欲望と意味
・欲望と他者
- 第8回 「権力と身体」——フーコー「権力と主体化」
・権力とディシプリン
・規律型社会とコントロール型社会
- 第9回 「社会とは何か」——ブルデュー「象徴闘争と社会場」
・階級と象徴支配
・「ハビトゥス」と「場」
- 第10回 情報とメディアの思想——マクルーハン「メディアはメッセージ」
・メディアとは何か
・メディアの文明圏
- 第11回 「戦争について」——戦争はなぜ終わらないか
・「戦争」とは何か
・世界戦争と現代思想
- 第12回 「宗教について」——宗教の回帰について
・回帰する宗教
・宗教とは何か？
- 第13回 ナショナリズムと国家——ナショナリズムを克服する
・国民国家の問題
・ポスト・コロニアリズムの思想
- 第14回 差異と同一性の共生原理——ジェンダー、マインオリティ、クレオール、マルチチユード
・現代思想と実践
・現代思想はいかに世界を変革したか？

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

石田英敬『現代思想の教科書——世界を考える知の地平 15章』、ちくま学芸文庫、2010年
※ 思想家のオリジナルテキストについては、こちらでそのつど用意する。

【参考書】

石田英敬『記号論講義——日常生活批判のためのレッスン』、ちくま学芸文庫、2020年
※ その他の参考書については、授業時に指示する。

【成績評価の方法と基準】

- (1) 平常点（50%）（レジュメを作成し、発表すること）
- (2) 期末レポート（50%）

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【Outline (in English)】

【Outline and Objectives】

This class is a new course as one of the "Liberal Arts Seminars" that began in the 2018 academic year. This class is closely related to "Liberal Arts Seminar II," which is the same course in the fall semester. Although it is a semester-long course, the content of the class pursues a single theme throughout the year.

In doing so, students will read texts on the theme and study the thoughts of thinkers and philosophers in order to refine their own philosophical thinking.

【Goal】

- (1) To be able to explain the question "Why (French) contemporary thought now?"
- (2) To be able to explain the philosophers who are grouped as "French contemporary thought".

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

- (1) Students are expected to read the relevant passages and prepare at least three questions about them before the class.
- (2) The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【Grading criteria】

- (1) Regular marks (50%) (Students are expected to prepare and present their resumes)
- (2) Final report (50%)

HIS300LA

中国の民族と文化A

2017年度以降入学者

齋藤 勝

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 2/Mon.2

単位数：2 単位

定員制（30名）

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

漢民族の文化を理解するための準備と実践。
漢文読解を通じ、漢民族の歴史・文化を理解する。

【到達目標】

漢文読解に必要な基礎知識を身につけること、漢文史料を実際に読むことでより明確な形で漢民族の歴史・文化への理解を構築することを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

漢民族の文化と歴史を理解するためには漢文の読解が欠かせないが、本講義ではそのための基礎の習得と実際の漢文を通じた漢民族の文化の理解を並行して進めていく。春学期には基本的な句法の説明と短い文章の読解を講義にて行っていくが、適宜、課題を課していく、そのフィードバック等は毎回の授業内において行っていく。語学の授業をイメージしてもらえればと思う。

なお、秋学期の「中国の民族と文化B」は春学期の学習を前提に授業を進めていくので、秋学期の履修を考えている方は必ず春学期も履修してください。

あわせて、下記の「学生の意見等からの気づき」の欄も確認してください。とくに留学生の方は必ず読んでください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	中国の歴史と民族・文化	授業の概要と進め方について
第2回	漢文の基礎(1)	文型・置き字・返読文字・再読文字
第3回	漢文の基礎(2)	否定・可能
第4回	漢文の基礎(3)	使役・受身
第5回	漢文の基礎(4)	疑問・反語
第6回	漢文の基礎(5)	詠嘆・抑揚・限定・願望・仮定ほか
第7回	漢文史料から見る歴史(1)	『史記』の描く春秋時代
第8回	漢文史料から見る歴史(2)	『史記』の描く戦国時代
第9回	漢文史料から見る歴史(3)	『史記』の描く前漢時代
第10回	漢文史料から見る歴史(4)	『後漢書』の描く後漢時代
第11回	漢文史料から見る歴史(5)	『三国志』の描く魏
第12回	漢文史料から見る歴史(6)	『三国志』の描く呉
第13回	漢文史料から見る歴史(7)	『三国志』の描く蜀
第14回	試験と解説	試験、解説、総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。
適宜問題に答えてもらうので、配布するプリント等の予習が必須となります。

【テキスト（教科書）】

適宜、プリントを配布します。
扱う内容は受講者や授業の進展に応じて変更します。

【参考書】

原安宏『文脈で学ぶ 漢文 句型とキーワード』（Z会、2008年）
佐藤進・濱口富士雄編『全訳漢字海』（三省堂、2000年）
天野成之『漢文基本語辞典』（大修館書店、1999年）
円満字二郎『漢和辞典に訊け!』（ちくま新書、2008年）

【成績評価の方法と基準】

試験 100%
試験は漢文の読解力のみで評価します。

【学生の意見等からの気づき】

「漢文訓読」という日本語の古典文法を用いた伝統的な読み方を習得することが大きな柱になっています。毎年、留学生の方から「中国語として読み、現代日本語に訳せば良いのではないか」と聞かれますが、それでは授業の趣旨から外れてしまいます。よって、「漢文訓読」というものに関心のある方のみ履修するようにしてください。

【Outline (in English)】

Course outline: Students will study ancient Chinese language and read ancient Chinese texts.

Learning objectives: At the end of the course, students are expected to understand the history and the culture of China.

Learning activities outside of classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading criteria/policies: Term-end examination(100%)

HIS300LA

中国の民族と文化B

2017年度以降入学者

齋藤 勝

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 2/Mon.2

単位数：2 単位

定員制 (30 名)

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

漢民族の文化を理解するための準備と実践。
漢文読解を通じ、漢民族の歴史・文化を理解する。

【到達目標】

漢文読解に必要な基礎知識を身につけること、漢文史料を実際に読むことでより明確な形で漢民族の歴史・文化への理解を構築することを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

漢民族の文化と歴史を理解するためには漢文の読解が欠かせないが、本講義ではそのための基礎の習得と実際の漢文を通じた漢民族の文化の理解を並行して進めていく。秋学期には比較的長い文章の読解を行っていくが、適宜、課題を課していき、そのフィードバック等は毎回の授業内において行っていく。語学の授業をイメージしてもらえればと思う。

なお、春学期の「中国の民族と文化A」の履修を前提として授業を進めていくので、秋学期だけの履修は避けてください。

あわせて、下記の「学生の意見等からの気づき」の欄も確認してください。とくに留学生の方は必ず読んでください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	漢民族の思想(1)	『論語』と儒家
第2回	漢民族の思想(2)	『論語』と政治
第3回	漢民族の思想(3)	『孟子』と国家
第4回	漢民族の思想(4)	『孟子』と性善説
第5回	漢民族の思想(5)	『荀子』と性悪説
第6回	漢民族の思想(6)	『荀子』と学問
第7回	漢民族の思想(7)	『韓非子』と法家
第8回	漢民族の思想(8)	『韓非子』と秦
第9回	儒家思想と政治の展開(1)	唐の太宗と『貞観政要』
第10回	儒家思想と政治の展開(2)	王安石と宋学
第11回	儒家思想と民族・学問(1)	朱子学と歴史学
第12回	儒家思想と民族・学問(2)	顧炎武の人生と明清交替
第13回	儒家思想と民族・学問(3)	顧炎武の学問と国家観
第14回	試験と解説	試験、解説、総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。
適宜問題に答えてもらうので、配布するプリント等の予習が必須となります。

【テキスト（教科書）】

適宜、プリントを配布します。

扱う内容は受講者や授業の進展に応じて変更します。

【参考書】

原安宏『文脈で学ぶ 漢文 句型とキーワード』（Z会、2008年）
佐藤進・濱口富士雄編『全訳漢字海』（三省堂、2000年）
天野成之『漢文基本語辞典』（大修館書店、1999年）
円満字二郎『漢和辞典に訊け！』（ちくま新書、2008年）

【成績評価の方法と基準】

試験 100%

試験は漢文の読解力のみで評価します。

なお、試験は白文を読んでもらう予定です。入試漢文を前提とする
と全くできないと思いますので、ご留意ください。

【学生の意見等からの気づき】

「漢文訓読」という日本語の古典文法を用いた伝統的な読み方を習得することが大きな柱になっています。毎年、留学生の方から「中国語として読み、現代日本語に訳せば良いのではないか」と聞かれますが、それでは授業の趣旨から外れてしまいます。よって、「漢文訓読」というものに関心のある方のみ履修するようにしてください。

【Outline (in English)】

Course outline: Students will study ancient Chinese language and read ancient Chinese texts.

Learning objectives: At the end of the course, students are expected to understand the history and the culture of China.

Learning activities outside of classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading criteria/policies: Term-end examination(100%)

HIS300LA

古代日本・中国の法と社会 A 2017年度以降入学者

岡野 浩二

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 3/Fri.3

単位数：2 単位

定員制 (30 名)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本古代の国家や文明は、中国を祖型として形成されたといっても過言ではない。また古代の寺院は、仏教受容のみならず、国家や貴族・豪族の権威や、技術を象徴するものである。寺院を素材として、日本・中国の古代国家や社会のありかたを比較する。

【到達目標】

日本・中国の古代寺院の実相を理解する。また、日本の寺院が政治・社会とどのように関係していたのかを、中国から継承した要素と、日本独自の要素という観点から考える。その内容を自身の文章で表現できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式を取る。配布プリントの史料読解については予習が必要である。対面授業を基本とし、必要があればオンライン授業を組み込む。その場合は、学習支援システムで提示する。2回目以降は、授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、前回の復習とコメントを行う。リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かす。課題などの提出に「学習支援システム」を利用することも、視野に入れる。課題（試験やレポート等）に対して講評する。最終授業で、講義内容全体のまとめや復習を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	仏教伝来	講義内容のガイダンス。尼・仏殿・法会の始まり
2	飛鳥寺	仏舍利・塔・仏像を備えた寺院の成立
3	法隆寺	推古朝の仏教政策、飛鳥と斑鳩の寺
4	大官大寺・薬師寺	天武・持統朝の仏教政策
5	平城京の寺院	大安寺・薬師寺・興福寺・東大寺・唐招提寺・西大寺
6	国分寺・国分尼寺	国分寺建立の詔とその前後の実情
7	奈良時代の地方寺院	地方豪族の仏教受容と寺院建立
8	平安京周辺寺院	桓武朝の仏教統制と官寺・私寺
9	北魏の寺院	永寧寺の九重塔、仏教の興隆と統制
10	隋・唐の各州の官寺	文帝の仏教政策、大雲寺・竜興寺・開元寺
11	長安の寺院	大興善寺と玄都観
12	中国の廃仏政策	三武一宗の法難、廃仏の実態と理由
13	日本と中国の寺院比較	日本の寺院、中国の寺院の共通点と相違点の考察
14	試験	受講者の理解を確認する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配布プリントの史料・解説文を読んでくること。講義内容に関連した事項を図書館で調べる。本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。プリントを配布する。

【参考書】

速水侑『日本仏教史 古代』（吉川弘文館、1986 年）
末木文美士編『新アジア仏教史 11 日本 1 日本仏教の礎』（佼成出版社、2010 年）
佐藤長門編『古代東アジアの仏教交流』（勉誠出版、2018 年）
仏教史学会『仏教史研究ハンドブック』（法蔵館、2017 年）
藤善真澄『中国仏教史研究』（法蔵館、2013 年）
礪波護『唐代政治史研究』（同朋舎、1985 年）

【成績評価の方法と基準】

期末試験（最終回に実施）50 %、毎回の出席確認の小テスト 50 % をもとに評価する。出席確認の小テストは、提出されているか、内容が合格点に達しているかの 2 段階で評価する。オンライン授業に変更された場合、具体的な方法と基準は、学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】

(1) この授業は、仏教教理や高僧の伝記を柱に据えた仏教史ではない。仏教用語が登場するが、歴史学の立場から理解しておくべきものであることを了解していただきたい。(2) 疑問があれば必ず質問すること。コメントペーパーに書いて提出する方法でも良い。

【Outline (in English)】

(Course outline)

The aim of this course is to help students acquire comparative study of ancient nation and society between Japan and China through Buddhism temples.

(Learning Objectives)

By the end of course, students should be to understand the followings: How temples in Japanese ancient was related to politics, how that was related to China.

(Learning activities outside of classroom)

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

(Grading Criteria/Policies)

Your overall grade in the class will be decided based on the following. Term-end examination :50 %, Short examination:50 %.

HIS300LA

古代日本・中国の法と社会 B 2017 年度以降入学者

岡野 浩二

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 3/Fri.3

単位数：2 単位

定員制 (30 名)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

古代の日本と唐における仏教者による社会事業について知識を修得し、比較研究する。(1) 唐の悲田養病坊、(2) 唐で学んだ日本の留学僧、唐から来日した僧、唐の影響を受けた日本の為政者、(3) 日本の悲田院とそれに類する施設について、理解を深める。

【到達目標】

古代の日本・唐において、僧尼や為政者が行った困窮者の救済事業、橋梁・宿泊施設など交通の整備などの社会事業の実情について理解する。また日本と唐でどのような継承関係や相違点があるのかを考える。そしてその内容を自身の文章で説明できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式を取る。配布プリントの史料読解については予習が必要である。対面授業を基本とし、必要があればオンライン授業を組み込む。その場合は、学習支援システムで提示する。2 回目以降は、授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、前回の復習とコメントを行う。リアクションペーパー等における良いコメントは授業内で紹介し、さらなる議論に活かす。課題などの提出に「学習支援システム」を利用することも、視野に入れる。課題（試験やレポート等）に対して講評する。最終授業で、講義内容全体のまとめや復習を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	仏教と社会福祉事業の歴史、古代の日中関係の概観
2	道昭	入唐と玄奘への師事、帰国後の架橋と港の整備
3	行基	布施屋の設置
4	光明皇后	悲田院・施薬院の設置
5	鑑真	悲田と敬田、揚州での無捨大会
6	鑑真の関係者	普照の道路への果樹栽種提言、道忠の関東での布教
7	最澄	東国での布教、美濃での宿泊施設設置
8	空海	讃岐国満濃池の修築
9	則天武后	悲田養病坊の設置
10	武宗	廢仏と悲田養病坊のゆくえ
11	平安京の悲田院	平安時代の悲田院の活動と矛盾
12	地方の医療救済施設	武蔵・相模・筑前等の社会施設
13	日本と唐の社会事業の比較	日本・唐の類似点と相違点
14	試験	受講者の理解を確認する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

配布プリントの史料・解説文を読んでくること。講義内容に関連した事項を図書館で調べる。本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。プリントを配布する。

【参考書】

新村拓『日本医療社会史の研究』（法政大学出版社、1985 年）
 林陸朗『光明皇后』（吉川弘文館、1961 年）
 石田瑞磨『鑑真』（大蔵出版、1974 年）
 速水侑編『行基』（吉川弘文館、2004 年）
 道端良秀『唐代仏教史の研究』（法蔵館、1957 年）
 追塩千尋『国分寺の中世的展開』（吉川弘文館、1996 年）
 勝浦令子「七・八世紀の仏教社会救済活動」（『史論』54 集、2003 年）

【成績評価の方法と基準】

期末試験（最終回に実施）50 %、毎回の出席確認の小テスト 50 % をもとに評価する。出席確認の小テストは、提出されているか、内容が合格点に達しているかの 2 段階で評価する。オンライン授業に変更された場合、具体的な方法と基準は、学習支援システムで提示する。

【学生の意見等からの気づき】

(1) この授業は、仏教教理や高僧の伝記を柱に据えた仏教史ではない。仏教用語が登場するが、歴史学の立場から理解しておくべきものであることを了解していただきたい。(2) 疑問があれば必ず質問すること。コメントペーパーに書いて提出する方法でも良い。

【Outline (in English)】

(Course outline)

The aim of this course is to help students acquire comparative study of social services by Buddhism in ancient Japan and the Tang Dynasty.

(Learning Objectives)

By the end of course, students should be to understand the followings: How Buddhism of the Japanese ancient was related to social welfare, how that was related to China.

(Learning activities outside of classroom)

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

(Grading Criteria/Policies)

Your overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end examination :50 %, Short examination:50 %.

HIS300LA

アジア・太平洋島嶼国際関係史 A 2017年度以降入学者

新崎 盛吾

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 4/Tue.4

単位数：2単位

定員制（30名）

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

今も多くの米軍基地を抱える沖縄の現状や歴史を通して、日本の安全保障政策や中国・朝鮮半島との国際関係、太平洋の島々との関わりや歴史、辺野古の新基地建設に反対する民意形成の過程などを学びます。沖縄は太平洋戦争で、県民の4人に1人が犠牲になる最も過酷な被害を受け、1972年に日本に復帰するまで米国の施政下に置かれました。米国のアジア戦略や米中関係が変化する一方、米軍基地は日本政府の都合で沖縄に押し付けられ、台湾有事への備えという名目で自衛隊の配備も進んでいます。沖縄について学ぶことは、日本の近代史やアジアの国々との国際関係を理解する上でも役立つはずです。

【到達目標】

- ・在日米軍基地が集中する沖縄の現状や、太平洋戦争を挟んで現在に至るまでの歴史の経緯を知る。
- ・辺野古の新基地建設に反対する沖縄の民意の形成過程を理解する。
- ・沖縄戦の実態や戦後の日米関係の中で沖縄が果たした役割、日本政府の政治的な思惑に翻弄された状況を理解する。
- ・沖縄の歴史や現状を通して、中国や朝鮮半島との国際関係、米国や日本のアジア戦略への理解を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

教室を使用し、リアルタイムで受講する授業形式を基本とします。授業では「Zoom」を併用することで、市ヶ谷キャンパス以外の学生など教室受講が出来ない受講生の履修にも配慮します。毎回の授業後に感想や質問などをまとめたリアクションペーパーを提出してもらい、次の授業に活用します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	シラバスの解説や授業全体の流れを説明。沖縄の政治、経済、基地の現状について
2	グループディスカッション	沖縄について何を知っているのか、何を学びたいのか
3	沖縄の米軍基地を巡る現状	戦後の米国施政下や本土復帰後の米軍基地をめぐる状況や経済依存の変化
4	新たな基地建設が進む辺野古の現状と歴史(1)	NHKの番組を参考に、辺野古の歴史を学ぶ
5	辺野古の現状と歴史(2)	現在の基地建設の状況。辺野古の民意の形成過程、新たに判明した問題
6	1995年の出来事	少女暴行事件を契機に、普天間返還に至る政治の流れと日米政府の思惑

7	沖縄県政の流れ、県知事の戦略と決断	太田知事の代理署名拒否、稲嶺知事の15年使用期限の軍民共用構想など。沖縄復帰後の政治と基地の関係
8	オール沖縄の台頭と自民党政権の巻き返し	元自民党の翁長知事誕生とオール沖縄の登場。現在に至る日本政府との対立構造
9	沖縄戦の実態	県民の4人に1人が命を落とした戦争被害の実態。本土決戦の捨て石とされた背景
10	戦後から日本復帰までの沖縄	米国施政下の日本と沖縄。沖縄への基地集中と日米安保、日本への復帰運動
11	米国のアジア戦略の変化	冷戦から現代に至る時代ごとの米軍の戦略変化、日本の思惑
12	朝鮮半島の戦後史	韓国や北朝鮮の国の成り立ち。日本や米国、中国との関係
13	グループディスカッション	日本の安全保障と外交関係
14	総括	全体のみとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

- ・『日本にとって沖縄とは何か』新崎盛暉著、岩波新書、2016年
- ・『観光コースでない沖縄・第5版』高文研、2023年

【参考書】

- ・「沖縄から伝えたい。米軍基地の話。Q & A Book」沖縄県発行 <http://dc-office.org/wp-content/uploads/2017/04/QA20170406.pdf>

【成績評価の方法と基準】

リアクションペーパーの提出、アクティブラーニングへの参加度（50%）
期末レポート（50%）
この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。
指示した提出期限、提出先を守らない場合は、やむを得ない事情がない限り未提出として扱う。

【学生の意見等からの気づき】

質疑応答や学生同士の議論など、受講生が自主的に参加ができる授業環境をつくるよう心掛けたい。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

共同通信の社会部系記者として約30年を過ごしたジャーナリストとしての経験を生かし、新聞記者ならではの視点から、日本の政治や国際情勢を巡る日々のニュースの見方なども示したいと考えています。

2014年から16年まで、「新聞労連」という新聞業界の労働組合の全国組織で委員長を務め、今もメディア業界に就職を希望する学生への支援活動に取り組んでいます。共同通信社に勤務する一方で、日本と韓国でジャーナリストを目指す学生が交流を深める「日韓学生フォーラム」（年に2回）や、出版社の「週刊金曜日」と連携して学生がジャーナリズムを学ぶ「金曜ジャーナリズム塾」（毎月開催）なども主宰しています。

【その他の注意事項】

- ①やむを得ない事情で欠席する場合、欠席理由の証明書を提出すれば評価に考慮する。
- ②私語、やむを得ない事情以外の遅刻・途中退席・教室への出入り、授業と関係ない目的でのスマホやPCの使用など、講義の進行、他の受講生の学習を妨げる行為については厳しく対処する。
- ③本授業は「アジア・太平洋島嶼国際関係史B」の前提授業となるため、Bを受講予定の学生には本授業の受講を強く推奨する。

【Outline (in English)】

【Course outline】

This class is focus on the current situation and history of Okinawa, which still has many U.S. military bases, Japan's security policy, international relations with China and the Korean Peninsula, historical relationship with the Pacific islands, and the public sentiment against the construction of a new base in Henoko. Students can learn the process of Okinawa suffered the most severe damage in Japan during the Pacific War, killing one in four citizens of the prefecture, and remained under US administration until it returned to Japan in 1972. While the US strategy for Asia and U.S.-China relations are changing, the US military bases are being imposed on Okinawa at the convenience of the Japan government, and the deployment of the Self-Defense Forces is progressing in the name of preparing for a Taiwan emergency. Learning about Okinawa should also help us understand the modern history of Japan and its international relations with Asian countries.

【Learning Objectives】

Students will:

- Learn about the current situation in Okinawa, where US military bases in Japan are concentrated, and history up to the present after the Pacific War.
- Understand the process of forming Okinawan people's will against the construction of a new base in Henoko.
- Understand the actual situation of the Battle of Okinawa, the role that Okinawa played in the postwar relationship between Japan and the United States, and the situation that was at the mercy of the political speculation of the Japanese government.
- Deepen understanding of international relations with China and the Korean Peninsula, and the Asian strategy of the United States and Japan through the history and current situation of Okinawa.

【Learning activities outside of classroom】

The standard preparatory study / review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria /Policy】

Submission of reaction paper, participation in active learning (50%)

Semester-end report (50%)

If the specified submission deadline and submission destination are not observed, it will be treated as unsubmitted unless there are unavoidable circumstances.

HIS300LA

アジア・太平洋島嶼国際関係史 B 2017年度以降入学者

水谷 明子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 2/Fri.2

単位数：2 単位

定員制 (30 名)

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

アジア太平洋には多くの島嶼・島嶼国家があります。この授業では、その中でも特に、沖縄に注目します。沖縄は現在日本の一県、一地域ですが、前近代には琉球王府の統治する別の政治体制に属し、「琉球処分」による日本への併合、その後の「同化」政策、沖縄戦と戦後の米軍統治、「日本復帰」（沖縄返還）、その後も続く基地強化など外からの政策決定と、それに対する沖縄人のさまざまな異議申し立ての中で、独自の歴史を辿っています。この授業では、沖縄近現代史を中心に、アジア・太平洋島嶼の国際関係から生じる現代社会の諸問題を検討し、この地域に生きる生活者としての問題意識を養います。

【到達目標】

「琉球処分」以降の沖縄近現代史を確認し、アジア・太平洋国際関係の中で、沖縄が現在直面している課題・問題について具体的にリサーチし、議論します。生活者の視点から、国際関係の中で、地域の問題を考え、受講生それぞれの関心あるテーマについて、資料を通じて調査し、議論する力を養います。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

各回の内容・テーマについて講義、授業内でのグループ・ディスカッションを中心に授業を進めます。各回のテーマについてリアクションペーパーを提出し、学期末には各自の問題関心に沿って、リサーチレポートを作成します。レポート作成に向けて、中間発表があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業の目標と課題について確認します。
第 2 回	「琉球処分」－東アジア国際関係史の視点から	「琉球処分」について内容、現在の研究状況を確認し、東アジア、世界史の視点から議論します。
第 3 回	近代沖縄の政治変動と思想・文化	近代沖縄における政治変動、特に「同化」政策について確認し、それに対するアイデンティティーの模索と思想・文化について考えます。
第 4 回	アジア・太平洋戦争と沖縄戦	第二次世界大戦からアジア・太平洋戦争に至る過程、更に沖縄戦の経緯とその特徴について、国際関係史の視点から議論します。
第 5 回	占領とサンフランシスコ平和条約	沖縄戦後の占領政策とサンフランシスコ講和条約による状況について確認します。
第 6 回	「銃剣とブルドーザー」から島ぐるみ土地闘争・復帰運動へ	沖縄の基地化とそれに抗する運動の展開について確認します。

第 7 回	施政権返還と密約	日米外交における問題を「沖縄返還交渉」のなかで生じた密約から考えます。
第 8 回	「世替わり」後の沖縄	「日本復帰」後の沖縄における政治・経済・社会の変化について確認し、現在まで続く課題について議論します。
第 9 回	沖縄の課題（1）：戦争の記憶とその継承	「日本復帰」後の沖縄の状況について、沖縄戦を記録する活動と教科書問題から考えます。
第 10 回	現代沖縄の課題（2）：アジア・太平洋島嶼の安全保障と在日米軍基地	沖縄の在日米軍基地についてアジア・太平洋島嶼における安全保障の観点より考えます。
第 11 回	現代沖縄の課題（3）：アジア・太平洋島嶼の自然と環境	アジア・太平洋島嶼の自然と環境の視点から沖縄の課題を考えます。
第 12 回	現代沖縄の課題（4）：自治・自立（自律）の思想と試み	戦後沖縄における自治・自立（自律）の思想と試みを確認し、その可能性について議論します。
第 13 回	現代沖縄の課題（5）：沖縄のネットワーク：移動の経験を考える	「移民県」と言われる沖縄の移動の経験から沖縄の課題解決のための連帯の試みと可能性を考えます。
第 14 回	リサーチレポート中間発表	リサーチレポートの内容について中間発表を行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。参考文献、レジュメ・資料について、読破し、理解した上で、リアクションペーパーを書く。リサーチレポート、およびリサーチレポート中間発表の準備をする。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しません。授業ごとにレジュメを準備します。

【参考書】

宮里政玄ほか『沖縄「自立」への道を求めて』高文研、2009年。
田仲康博『風景の裂け目―沖縄、占領の今―』せりか書房、2010年。
川瀬光義『基地維持政策と財政』日本経済評論社、2013年。
新崎盛暉『日本にとって沖縄とは何か』岩波書店、2016年。
金城正篤ほか編著『沖縄県の百年』山川出版社、2005年。
屋嘉比呷『沖縄戦、米軍占領史を学びなおす―記憶をいかに継承するか』世織書房、2009年。

【成績評価の方法と基準】

コメントシート（40%）
レポート中間発表（20%）
リサーチレポート（40%）
この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

レポートの文字数、枚数は、受講生の専門によって図表を用いるなどの場合を踏まえて検討します。

【学生が準備すべき機器他】

感染症拡大状況に応じて、ハイブリッド型で行うため、ネット接続に対応したパソコンまたはタブレットを準備してください。

【その他の重要事項】

オフィス・アワーは授業前後の休憩時間、または、Eメール：mizakiko@tsuda.ac.jp 宛にご連絡ください。

【Outline (in English)】

This course introduces the basic knowledge on the history of Okinawa after the annexation to modern Japan in 1879, and the ways to grasp and consider some problems caused in the international relations of Asia-Pacific region, to students taking this course. At the end of the course, students are expected to research and discuss some issues for their own interests. Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Study time for students taking this course will be more than two hours for a class. The overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end research report: 40%、Short presentation for the research report: 20%、comments to fill in every class: 40%

HIS300LA

教養ゼミ I

2017 年度以降入学者

神谷 丹路

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 2/Fri.2

単位数：2 単位

定員制 (20 名)

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈ダ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

在日朝鮮人の歴史を学ぶ：日本には「在日朝鮮人」「在日韓国人」「在日コリアン」と呼ばれる人々、国籍は日本だが朝鮮半島をルーツに持つ人々が多数住んでおり、日本の社会の一角を構成している。本授業ではこうした人々の歴史や現在を学び、日本における多文化共生のありかたを探る。またそれらの人々の祖国であり、日本の隣国である韓国・朝鮮についての理解も深め、グローバル時代のコリアンと日本人の相互理解、共生、境界と融合について考えていきたい。

【到達目標】

文献や映像などを手がかりに、受講生が日常生活の中で無意識に形成している「先入観」を再検証しながら、受講生同士の討論を深め、それぞれの考えや理解を発展させていくことを目指す。受身の勉強ではなく、受講生同士が見解を発表し、互いに刺激し合い、自ら調べたり、問題を発見したりして、積極的に授業内で発信していくスキルを磨くことを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

本授業の基本的な流れは、以下の通りである。

ゼミ形式で進める。春学期は、「在日コリアン」の歴史と現在について基本事項を学習することを柱とする。テキストの内容を毎回レポーターの報告と全員の討論で読み進めていく。参加型授業である。理解を深めるために、随時、映像資料なども視聴しながら進行する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	自己紹介、授業計画の説明
2	在日コリアン概説	世界のコリアン、日本のコリアン
3	第1章：地域史（大阪市鶴橋・猪飼野）日本最大のコリアンタウン	学生によるテキストの報告、映像
4	第1章：地域史（京都市東九条、神戸市長田）一緒に生きる町づくり、震災を乗り越えた町	学生によるテキストの報告、映像
5	映像視聴	映像と討論
6	第1章：地域史（下関、岸和田、広島、柳本）歴史が刻まれた風景	学生によるテキストの報告、映像
7	第2章：個人史（君が代の記憶、被爆と民族差別）	学生によるテキストの報告、映像
8	資料館見学	資料館見学
9	第2章：個人史（二つの国にまたがって生きて）	学生によるテキストの報告、映像

10	第2章：個人史（日本籍在日コリアン二世）	学生によるテキストの報告、映像
11	映像視聴	映像と討論
12	第2章：個人史（民族教育を守り続けて）	学生によるテキストの報告、映像
13	第3章：家族史（写真から学ぶファミリーヒストリー）	学生によるテキストの報告、映像
14	まとめの討論	在日コリアンの現状と共生社会への課題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回、テキストの該当箇所を必ず熟読すること。テキスト以外の関連書籍も積極的に読むこと。新聞などニュースに注意を払い、ニュースを深く読むことを普段から心がけること。在日コリアンに関する時事問題などに、とりわけアンテナを張っておくこと。それぞれの課題にしっかり取り組むこと。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

在日コリアン青年連合編著『在日コリアンの歴史を歩く』（彩流社）2100円＋税。受講生は、全員、必ず購入すること。

【参考書】

授業時に別途指示する。

【成績評価の方法と基準】

討論への積極的な参加など授業への貢献度 50%、プレゼンテーション・期末レポート 50%。理由のある場合を除き、原則的に全回出席のこと。

【学生の意見等からの気づき】

共生のあり方には無限の可能性がある。現在進行形の諸問題にも、可能な限り取り組んでいきたい。

【その他の重要事項】

秋学期に開講される教養ゼミ「在日朝鮮人の歴史B」とともに履修し、春学期秋学期通年で履修することを薦めます。春学期に学んだ基礎的事項が、秋学期の学習に活かされてきて、理解が深く広がります。

【Outline (in English)】

< Course outline >

This course deals with the History and Culture of Korean Japanese in Japan. In the history of Koreans in Japan in 20th century, Japan has been heavily involved.

< Learning Objectives >

The aim of this course is to learn the History and the Culture of Korean Japanese in Japan and understand their existences deeply.

< Learning activities outside of classroom >

Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.

< Grading Criteria/Policy >

Your overall grade in the class will be decided based on the following.

Term-end report&Presentation : 50%, in-class contribution: 50%.

HIS300LA

教養ゼミⅡ

2017年度以降入学者

神谷 丹路

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 2/Fri.2

単位数：2 単位

定員制（20名）

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈ダ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

在日朝鮮人の歴史を学ぶ：日本には「在日朝鮮人」「在日韓国人」「在日コリアン」と呼ばれる人々、国籍は日本だが朝鮮半島をルーツに持つ人々が多数住み、日本の社会の一角を構成している。本授業ではこうした人々の歴史や現在を学び、日本における多文化共生のありかたを探る。またそれらの人々の祖国であり、日本の隣国である韓国・朝鮮についての理解も深め、グローバル時代のコリアンと日本人の相互理解、共生、境界と融合について考えていきたい。

【到達目標】

文献や映像などを手がかりに、受講生が日常生活の中で無意識に形成している「先入観」を再検証しながら、受講生同士の討論を深め、それぞれの考えや理解を発展させていくことを目指す。受身の勉強ではなく、受講生同士が見解を発表し、互いに刺激し合い、自ら調べたり、問題を発見したりして、積極的に授業内で発信していくスキルを磨くことを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

ゼミ形式で進める。秋学期は、「在日コリアン」の歴史と現在について基本事項を整理しつつ学習していく。テキストの内容を毎回レポーターの報告と全員の討論で読み進めていく。参加型授業である。理解を深めるために、随時、映像資料なども視聴しながら進行する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	自己紹介、授業計画の説明
2	在日コリアン概説①	世界のコリアンと在日コリアン
3	在日コリアン概説②	在日コリアンの法的地位
4	学生によるテキストの報告	「在日コリアンの人口はどれくらいですか」
5	学生によるテキストの報告	「在日コリアンはいつ頃日本にきたのですか」
6	学生によるテキストの報告	「在日コリアンの国籍はどうなっていますか」
7	まとめ①	映像 (1)
8	学生によるテキストの報告	「在日コリアンの民族教育はどのように広がっていったのですか」
9	学生によるテキストの報告	「北朝鮮への帰国運動とはどういうものですか」
10	学生によるテキストの報告	「本名を名乗るとはどういうことですか」
11	まとめ②	映像 (2)
12	学生によるテキストの報告	「国民健康保険、国民年金には入れますか」
13	学生によるテキストの報告	「帰化をしないのはどうしてですか」
14	まとめの討論	在日コリアンの現状と共生社会への課題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回、テキストの該当箇所を必ず熟読すること。テキスト以外の関連書籍も積極的に読むこと。新聞などニュースに注意を払い、ニュースを深く読むことを普段から心がけること。在日コリアンに関する時事問題などに、とりわけアンテナを張っておくこと。それぞれの課題にしっかり取り組むこと。

【テキスト（教科書）】

梁泰昊『新・在日韓国・朝鮮人読本』（緑風出版）2000円＋税。受講生は、全員、必ず購入すること。

【参考書】

授業時に別途指示する。

【成績評価の方法と基準】

討論への積極的な参加など授業への貢献度 50%、プレゼンテーション・期末レポート 50%。理由のある場合を除き、原則的に全回出席のこと。

【学生の意見等からの気づき】

共生のあり方には無限の可能性がある。現在進行形の諸問題にも、可能な限り取り組んでいきたい。

【その他の重要事項】

春学期に開講された教養ゼミ「在日朝鮮人の歴史A」とともに履修し、春学期秋学期通年で履修することを薦めます。春学期に学んだことが、秋学期の学習に生きてきて、理解が深く広がります。

【Outline (in English)】

< Course outline >

This course deals with the History and Culture of Korean Japanese in Japan. In the history of Koreans in Japan in 20th century, Japan has been heavily involved.

< Learning Objectives >

The aim of this course is to learn the History and the Culture of Korean Japanese in Japan and understand their existences deeply.

< Learning activities outside of classroom >

Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.

< Grading Criteria/Policy >

Your overall grade in the class will be decided based on the following.

Term-end report&Presentation : 50%, in-class contribution:50%.

GDR300LA

クィア・スタディーズ A

2017 年度以降入学者

サブタイトル：

LETIZIA GUARINI

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 3/Fri.3

単位数：2 単位

定員制 (100 名)

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈ダ〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

この授業では、フェミニズムやクィア・スタディーズの基礎的な知識について学びます。

私たちは、日々の生活の中で常にジェンダー化されます。それゆえに性やジェンダーと無関係に生きることはできません。この授業では、私たちの性、身体、欲望がどのように歴史的・社会的に作られているかについて考えます。ジェンダー・セクシュアリティの概念や歴史的背景を理解し、日本や世界各国におけるフェミニズム運動と LGBTQ 運動の歴史について学びます。また、普段の生活の中で「当たり前」とされている様々な事象を批判的に分析する力を培います。

【到達目標】

- 1) クィア・スタディーズについての基礎的な知識を身につける。
- 2) ジェンダー・セクシュアリティの表象を批判的に分析する力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式で進めます。グループディスカッションも行います。フィードバックは、寄せられた課題やコメントに対して授業内で回答します。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業計画について説明を行う。ジェンダー、セクシュアリティという概念について考える。
第 2 回	クィア・スタディーズとは何か?	クィア・スタディーズの基本概念について講義する。
第 3 回	第一波フェミニズム、第二波フェミニズム	フェミニズム運動の歴史について講義する。
第 4 回	第三波フェミニズム、ポストフェミニズム、#MeToo 運動	90 年代から今日までのフェミニズム運動について考える。
第 5 回	同性愛の病理化からストーンウォールの暴動まで	LGBTQ 運動の歴史を振り返る。
第 6 回	日本における LGBTQ 運動	「府中青年の家」裁判について講義する。
第 7 回	クィア・スタディーズの誕生	クィア・スタディーズの誕生について講義する。
第 8 回	ダイバーシティについて考える	現代社会における多様性について考える。
第 9 回	インターセクショナルリティ	インターセクショナルリティとトランスジェンダー問題について考える。

第 10 回	カミングアウトとアウトティング	具体的な例を挙げながらカミングアウトとアウトティングについて考える。
第 11 回	クィア・ペダゴジー	ジェンダー・セクシュアリティの教育について考える。
第 12 回	児童文学におけるジェンダー・セクシュアリティ	絵本や児童文学におけるジェンダー・セクシュアリティの表象について考える。
第 13 回	クィアな空間	クィア映画祭について考える。映画『Queer Japan』について考える。
第 14 回	まとめ	全体のまとめを行う。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

文献を事前に読む、授業内で示される課題 (リアクション・ペーパー、レポート) 対応など、準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト (教科書)】

必要に応じてプリントを配布します。

【参考書】

岩淵功一 (編) 『多様性との対話—ダイバーシティ推進が見えなくするもの』 (青弓社年、2021 年)
 菊池夏野、堀江有里、飯野由里子 (編) 『クィア・スタディーズをひらく 1』 (晃洋書房、2019 年)
 清水晶子 『フェミニズムってなんですか?』 (文春新書、2022 年)
 新ヶ江章友 『クィア・アクティビズム はじめて学ぶ (クィア・スタディーズ) のために』 (花伝社、2022 年)
 森山至貴 『LGBT を読みとく—クィア・スタディーズ入門—』 (ちくま新書、2017 年)
 トッド・マシュー 『ヴィジュアル版 LGBTQ 運動の歴史』 (原書房、2022 年)

【成績評価の方法と基準】

毎回のリアクション・ペーパー、グループワーク、ディスカッション 20%

中間レポート 35% (800-1,200 文字程度)

学期末レポート 45 % (2,000 文字程度)

2 つの小レポートの提出が必要です。レポートでは、社会的・歴史的な要素を踏まえた上で、具体的事例を挙げてジェンダー・セクシュアリティの問題について論じる。

毎回出欠を取ります。4 回以上欠席があると失格になり、単位不認定になります。

15 分以上遅れる場合、欠席扱いとなります。

【学生の意見等からの気づき】

ディスカッションの時間を増やす必要があることに気づいた。

授業の資料をよりわかりやすくするように工夫すべきことに気づいた。

【学生が準備すべき機器他】

レポート作成を行うためのパソコンなど。

【その他の重要事項】

基本的に教授言語は日本語ですが、英語の資料を使うこともあります。

【Outline (in English)】

This course is designed to enhance students' understanding of basic concepts in queer studies.

We cannot live unaffected by sex or gender. Every day we encounter and perform a wide range of social and cultural ideas and values that constitute the concept of gender.

In this class, students will study how our sexuality, bodies, and desires are historically and socially constructed. Students will understand the concept and historical background of gender and sexuality, and learn about the history of the feminist and LGBTQ movements in Japan and around the world.

Learning objectives:

By the end of the course, students should be able to do the followings:

a) Have basic knowledge of queer studies.

b) Develop the ability to critically analyze representations of gender and sexuality.

Learning activities outside of the classroom:

Students are required to read the reference material by the next session (one to three hours for every session).

Grading criteria/Policy:

The final grade will be decided based on the following:

Involvement during discussion and comment sheet: 20%

Mid-term essay (800-1200 characters): 35%

Final essay (1000-1500 characters): 45%

GDR300LA

クィア・スタディーズ B 2017 年度以降入学者

サブタイトル：

LETIZIA GUARINI

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 3/Fri.3

単位数：2 単位

定員制 (100 名)

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

この授業では、春学期のクィア・スタディーズ A で学んだ内容を復習しながら、文学作品、映画、ドラマ、マンガなどにおけるジェンダー・セクシュアリティの表象について学びます。さまざまなジャンルや作品を取り上げ、歴史的・社会的な背景を考えながら、メディアにおけるジェンダー・セクシュアリティの表象を分析するための視座を身につけます。

【到達目標】

- 1) フェミニズム批評やクィア・スタディーズの分析方法について学ぶ。
- 2) クィア・スタディーズの視座から表象作品を批判的に読み解く力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式で進めますが、グループディスカッションも行います。フィードバックは、寄せられた課題やコメントに対して授業内で回答します。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業計画について説明を行う。クィア・スタディーズの基礎について復習する。
第 2 回	フェミニズム批評	文学とフェミニズム批評について講義する。
第 3 回	性暴力	#MeToo 運動と文学の関係について講義する。
第 4 回	性暴力と文学	カオルコ姫野『彼女は頭が悪いから』を取り上げる。
第 5 回	文学とミソジニー	松田青子『持続可能な魂の利用』を取り上げる。
第 6 回	表象分析実践 1	松田青子「物語」(『男の子になりたかった女の子になりたかった女の子』に収録)を読んで、グループでディスカッションを行う。小レポート(1)を提出する。
第 7 回	文学と身体	文学作品における妊娠、出産、授乳の表象について考える。
第 8 回	アートと身体	アート作品における妊娠、出産、授乳の表象について考える。
第 9 回	ゲイ解放運動	映画における LGBT 運動の表象について考える。
第 10 回	男性性	ヘゲモニックな男性性について考える。
第 11 回	ヘテロノーマティヴィティと家族	『ハッシュ!』を取り上げる。

第 12 回	表象分析実践 2	『きのう何食べた?』(漫画と映画)と『作りたい女と食べたい女』(漫画とドラマ)についてグループでディスカッションを行う。小レポート(2)を提出する。
第 13 回	カミングアウトとアウトティング	映像作品におけるカミングアウトとアウトティングについて講義する。
第 14 回	まとめ	まとめを行う。小レポート(3)を提出する。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

文献を事前に読む、授業内で示される課題(リアクション・ペーパー、レポート)対応など、準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト (教科書)】

必要に応じてプリントを配布します。

【参考書】

菅野優香『クィア・シネマ・スタディーズ』(晃洋書房、2021年)
黒岩裕市『ゲイの可視化を読む - 現代文学に描かれる〈性の多様性〉?』(晃洋書房、2016年)

新ヶ江章友『クィア・アクティビズム はじめて学ぶ〈クィア・スタディーズ〉のために』(花伝社、2022年)

森山至貴『LGBT を読みとく クィア・スタディーズ入門』(筑摩書房、2017年)

マシュー・トッド『[ヴィジュアル版]LGBTQ 運動の歴史』(原書房、2022年)

Mary K. Holland and Heather Hewett (Eds.), #MeToo and Literary Studies. Reading, Writing, and Teaching about Sexual Violence and Rape Culture, Bloomsbury, 2021

【成績評価の方法と基準】

毎回のリアクション・ペーパー、グループワーク、ディスカッション 10%

小レポート(1):松田青子「物語」について的小レポート(800-1,200文字程度) 25%

小レポート(2):『きのう何食べた?』や『作りたい女と食べたい女』について的小レポート(800-1,200文字程度) 25%

小レポート(3) 授業に取り上げられた具体的な作品を分析した小レポート(2,000文字程度) 40%

3つの小レポートの提出が必要です。小レポートについて授業内で詳しく説明します。

毎回出欠を取ります。4回以上欠席があると失格になり、単位不認定になります。

15分以上遅れる場合、欠席扱いとなります。

【学生の意見等からの気づき】

ディスカッションの時間を増やす必要があることに気づいた。授業の資料をよりわかりやすくするように工夫すべきことに気づいた。

【学生が準備すべき機器他】

レポート作成を行うためのパソコンなど。

【その他の重要事項】

基本的に教授言語は日本語ですが、英語の参考文献を読むこともあります。

【Outline (in English)】

In this class, we will study the representation of gender and sexuality in literary works, films, dramas, and comics, while reviewing what we learned in Queer Studies A, held during the spring semester.

Students will learn to analyze how gender and sexuality are represented in the media while considering the historical and social background of various genres and works.

Learning objectives:

By the end of the course, students should be able to do the followings:

- a) Learn about the analytical methods of feminist literary criticism and queer theory.
- b) Develop the ability to interpret the representation of gender and sexuality in the media.

Learning activities outside of the classroom:

Students are required to submit three essays and to read the reference material by the next session (one to three hours for every session).

Grading criteria/Policy:

The final grade will be decided based on the following:

Involvement during discussion and comment sheet: 10%

Short essay (1): 25%

Short essay (2): 25%

Short essay (3): 40%

PHL300LA

キリスト教思想史 A

2017 年度以降入学者

編澤 和彦

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 2/Fri.2

単位数：2 単位

定員制 (30 名)

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

キリスト教は、わたしたち人間存在とそれを取り囲む世界、そして、それらの根源としての神についての教義を形成し、人間社会及び文化の諸領域に多大な影響を与えてきました。本授業は信仰（信じること）と理性（知ること）の両側面から、このキリスト教の知的遺産を歴史的に学びます。また、受講生がこれらの学習を通して、キリスト教の理解を深めていくことを目的とします。春期授業（キリスト教思想史 A）は、初代教会と聖書の成立から中世後期の神秘主義思想までを学びます。

【到達目標】

①キリスト教の教義とその歴史的発展に関する理解を深めることができる。②キリスト教と深い関係にある哲学の諸概念をよりよく理解することができる。③政治・経済・社会ならびに文化（芸術など）に与えているキリスト教の影響を把握することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義は授業支援システム Hoppii を使用しながら、対面の形式で行います。聖書はオンラインで参照できるようにするほか、関連資料を適宜提供します。また、4 回から 5 回に 1 度、グループワークと質疑応答の時間を作り、教科書の内容理解の深化を図ります。質問と感想は、授業時に配布するリアクションペーパーに記入してください。このペーパーの提出をもって、出席と判断します。質問へのフィードバックは次回授業時に行います。課題の出題、回収、評価とフィードバックは、Hoppii を使用して行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	授業のガイダンス	シラバスの各項目を説明するほか、キリスト教思想史の意義を解説します。
第 2 回	第 1 章 ギリシア思想の特質	神話に現れた「霊」、ギリシア宗教の諸段階、哲学の誕生などを学びます。
第 3 回	第 2 章 ヘブライズムの思想的特質	旧約聖書の思想、キリスト教の成立、イエスの教えなどについて説明します。
第 4 回	グループワークと質疑応答	第 1 章と第 2 章の内容についてグループワークを行い、質疑応答を行います。
第 5 回	第 3 章 教父思想の特質	ユスティノスとプラトン主義、オリゲネス、ニカイア公会議などについて学びます。
第 6 回	第 4 章 アウグスティヌスの思想	思想と基礎経験、プラトン主義とキリスト教、「神の像」の探求などを解説します。
第 7 回	第 5 章 中世思想の構造と展開	中世思想の構造と展開、修道制の確立、中世的な霊性の形成などについて学びます。

第 8 回	第 6 章 中世初期の思想家とスコラ哲学	ボエティウス、スコトゥス、エリウゲナ、アンセルムスなどについて解説します。
第 9 回	グループワークと質疑応答	第 3 章から第 6 章までの内容についてグループワークを行い、質疑応答を行います。
第 10 回	第 7 章 トマス・アキナスの神学体系	神学大全の構成と方法、自然神学の諸問題、恩恵と自由意志などについて学びます。
第 11 回	第 8 章 後期スコラ哲学の展開	トマスとスコトゥス、オッカムの二重真理説、ルターによる後期スコラ哲学の批判を解説します。
第 12 回	第 9 章 神秘的霊性思想の展開	アウグスティヌスの伝統、ベルナルドの霊性思想、ボナヴェントゥラの神秘神学、エックハルトの神秘主義を学びます。
第 13 回	第 10 章 ダンテと中世文学の思想	中世文学の展開、宮廷的恋愛詩、ダンテの『新生』『新曲』、ペトルカなどについて学びます。
第 14 回	グループワークと質疑応答	グループワークと質疑応答を行いながら、春期授業の内容を振り返ります。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習：指定されたテキストの箇所を読み、理解できない点をまとめてください。また、それに関連する諸概念を調べてください。(2 時間)
復習：再度、テキストや授業資料を読み直し、疑問点が解決できたかどうかを確認してください。疑問があれば、Hoppii の投稿欄に質問を記入してください。また、課題の問題に答えてください。(2 時間)

【テキスト（教科書）】

金子 晴勇 (著) 『ヨーロッパ思想史 一理性と信仰のダイナミズム―』筑摩選書、ISBN-13 : 978-4480017284、1980 円、生協書籍部で購入してください。

【参考書】

若松英輔・山本芳久 (共著) 『キリスト教講義』文芸春秋、ISBN-13 : 978-4163909455、2019 年、1850 円

【成績評価の方法と基準】

①毎回の課題評価、②春学期の期末レポート（到達目標の技術の習得）。①を 50%、②を 50%として、受講生の成績を総合的に評価します。課題プリントの評価については、授業内容を的確に把握しているかどうかを基準にします。また、期末レポートに関しては、小論文の形式を満たしているかどうか、また、内容把握が的確かどうかを基準にして判定します。

【学生の意見等からの気づき】

病気などで体調が悪くなくても、すべての学習教材は、学習支援システム Hoppii にアップロードされています。病欠した授業の内容を自習して、課題を提出すれば、その課題を評価します。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システム Hoppii を利用するため、インターネット、パソコンあるいはノートブックを使用します。

【その他の重要事項】

その他の詳細は、授業支援システム Hoppii に記載しますので、そちらをご覧ください。

【Outline (in English)】

What kind of beings are we human beings? How should we understand the world around us and God as its origin? Christianity has a rich intellectual heritage in these questions of existence. This class will study this intellectual heritage from the point of view of faith (believing) and reason (knowing). This class also aims (1) to deepen understanding of Christian doctrine and its historical development, (2) to better understand the philosophical concepts closely related to Christianity, (3) to understand the influence of Christianity on politics, economics, society, and culture (art, liberal studies, etc.). Grading criteria: (1) Assignment evaluation each time, and (2) Final report at the end of the semester. Students' performance will be evaluated comprehensively, with 50% for (1) and 50% for (2). In the preparations, Students should read the relevant sections of the textbook related to the class. Students should also use reference books to understand the meaning of technical terms, etc. (2 hours). Review: Students should read and review the materials distributed in class (lecture notes and reference materials). Then, answer the assignments given after each class using the class support system. In addition, summarize your thoughts on the topic, referring to the opinions of other students in the discussion (2 hours).

PHL300LA

キリスト教思想史 B

2017 年度以降入学者

編澤 和彦

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 2/Fri.2

単位数：2 単位

定員制 (30 名)

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

キリスト教は、わたしたち人間存在とそれを取り囲む世界、そして、それらの根源としての神についての教義を形成し、人間社会及び文化の諸領域に多大な影響を与えてきました。本授業は信仰（信じること）と理性（知ること）の両側面から、このキリスト教の知的遺産を歴史的に学びます。また、受講生がこれらの学習を通して、キリスト教の理解を深めていくことを目的とします。秋期授業（キリスト教思想史 B）は、ルネサンスと宗教改革から現代の宗教的状况までを学びます。

【到達目標】

①キリスト教の教義とその歴史的発展に関する理解を深めることができる。②キリスト教と深い関係にある哲学の諸概念をよりよく理解することができる。③政治・経済・社会ならびに文化（芸術など）に与えているキリスト教の影響を把握することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義は授業支援システム Hoppii を使用しながら、対面の形式で行います。聖書はオンラインで参照できるようにするほか、関連資料を適宜提供します。また、4 回から 5 回に 1 度、グループワークと質疑応答の時間を作り、教科書の内容理解の深化を図ります。質問と感想は、授業時に配布するリアクションペーパーに記入してください。このペーパーの提出をもって、出席と判断します。質問へのフィードバックは次回授業時に行います。課題の出題、回収、評価とフィードバックは、Hoppii を使用して行います。なお、第 11 回から第 13 回講義については、教員がテキストを PDF 文書で配布します。受講生は Hoppii からダウンロードしてください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	授業のガイダンス	シラバスの各項目を説明するほか、春期授業の内容を振り返ります。
第 2 回	第 11 章 キリスト教共同体の終焉と近代への移行	ダンテの『帝政論』、マルシリウスの『平和の擁護者』、クザーヌスの『普遍的一致』などについて学びます。
第 3 回	第 12 章 ルネサンスと宗教改革の思想	ルネサンスとは何か、イタリア人文主義の思想、ルターの信仰特質およびキリスト教的霊性の定義などについて説明します。
第 4 回	グループワークと質疑応答	第 11 章と第 12 章の内容について、グループワークと質疑応答を行います。
第 5 回	第 13 章 宗教改革から近代思想へ	プロテスタンティズムの歴史的な成果と残された問題などについて学びます。

第 6 回	第 14 章 近代的自我の確立	デカルトのコギトと哲学の出発点、パスカルの問いと人間の理解などを解説します。
第 7 回	第 15 章 啓蒙思想と敬虔主義	欧州各国の啓蒙思想、敬虔主義の覚醒運動、シュライアマッハーの宗教論について解説します。
第 8 回	第 16 章 ヘーゲルの思想体系	ヘーゲルとフランス革命、歴史の弁証法とその影響などについて学びます。
第 9 回	第 17 章 ヘーゲル体系の批判と解体	フォイエルバッハ、マルクス、キルケゴールの思想などを解説します。
第 10 回	グループワークと質疑応答	第 13 章から第 17 章までの内容について、グループワークと質疑応答を行います。
第 11 回	人間学の時代	シュラー、マルセル、ティリッヒの文化神学、社会倫理学の発展を説明します。
第 12 回	現代の宗教的状况 (1)	世俗化と無神論の時代、エキュメニカル運動について学びます。
第 13 回	現代の宗教的状况 (2)	第二ヴァチカン会議、新たな目標について解説します。
第 14 回	グループワークと質疑応答	第 11 回から第 13 回講義までの内容について、グループワークと質疑応答を行うほか、秋期授業の内容を振り返ります。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習：指定されたテキストの箇所を読み、理解できない点をまとめてください。また、それに関連する諸概念を調べてください。(2 時間) 復習：再度、テキストや授業資料を読み直し、疑問点が解決できたかどうかを確認してください。疑問があれば、Hoppii の投稿欄に質問を記入してください。また、課題の問題に答えてください。(2 時間)

【テキスト（教科書）】

金子 晴勇 (著) 『ヨーロッパ思想史—理性と信仰のダイナミズム—』筑摩選書、2021 年、ISBN-13 : 978-4480017284、1980 円、生協書籍部で購入してください。

【参考書】

若松英輔・山本芳久 (共著) 『キリスト教講義』文芸春秋、2019 年、ISBN-13 : 978-4163909455、1850 円

【成績評価の方法と基準】

①毎回の課題評価、②秋学期の期末レポート（到達目標の技術の習得）。①を 50%、②を 50%として、受講生の成績を総合的に評価します。課題プリントの評価については、授業内容を的確に把握しているかどうかを基準にします。また、期末レポートに関しては、小論文の形式を満たしているかどうか、また、内容把握が的確かどうかを基準にして判定します。

【学生の意見等からの気づき】

病気などで体調が悪くなっても、すべての学習教材は、学習支援システム Hoppii にアップロードされています。病欠した授業の内容を自習して、課題を提出すれば、その課題を評価します。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システム Hoppii を利用するため、インターネット、パソコンあるいはノートブックを使用します。

【その他の重要事項】

その他の詳細は、授業支援システム Hoppii に記載しますので、そちらをご覧ください。

【Outline (in English)】

What kind of beings are we human beings? How should we understand the world around us and God as its origin? Christianity has a rich intellectual heritage in these questions of existence. This class will study this intellectual heritage from the point of view of faith (believing) and reason (knowing). This class also aims (1) to deepen understanding of Christian doctrine and its historical development, (2) to better understand the philosophical concepts closely related to Christianity, (3) to understand the influence of Christianity on politics, economics, society, and culture (art, liberal studies, etc.). Grading criteria: (1) Assignment evaluation each time, and (2) Final report at the end of the semester. Students' performance will be evaluated comprehensively, with 50% for (1) and 50% for (2). In the preparations, Students should read the relevant sections of the textbook related to the class. Students should also use reference books to understand the meaning of technical terms, etc. (2 hours). Review: Students should read and review the materials distributed in class (lecture notes and reference materials). Then, answer the assignments given after each class using the class support system. In addition, summarize your thoughts on the topic, referring to the opinions of other students in the discussion (2 hours).

LIN300LA

異文化コミュニケーション論 A 2017年度以降入学者

山本 そのこ

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 4/Mon.4

単位数：2 単位

定員制 (30 名)

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

近年、異文化接触、異文化混在の状況が加速度的に進んでおり、それに伴う文化の国際化や融合と共に、「違和感」や多文化間の摩擦も顕在化しつつある。しかし、そもそも「文化」とは何なのか。自分は、そして他者はどのような文化背景を持っているのか。また、「文化」と「言語」はどのように関係し合っているのか。

この授業では、普段あまり意識されていない日本語と日本文化の具体的な例を取り上げ、他の言語・文化と対照することで、意識化・相対化することを計る。★日本人と外国人、様々な背景文化をもつ学生の積極的参加を期待する。

【到達目標】

- ①言葉と文化の問題がいかに人の認識に関わるか理解する。
- ②自分が今まで意識していなかった文化を意識化、また相対化する。
- ③異文化コミュニケーションに重要な役割を果たす言語行動パターンと非言語的要素を理解する。
- ④実際のコミュニケーションにおいて、知識や技能をどのように応用するかを考える。
- ⑤異文化コミュニケーションに関する基本的な学問的知識（用語・概念・理論などの知識）を得る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

- ・第1～3回目は、講義形式。第14回目は期末試験を行う。
- ・第4～13回の授業内容について、授業参加者が分担して報告。その後、クラス全員で内容を検討する。
- ・毎回の授業の最後に、リアクションペーパーを提出。次の回の授業冒頭でフィードバックを行う。
- ・Google Classroom を使って授業を行う。
- 連絡や課題／試験の提示、リアクションペーパーも主に Google Classroom を使い、Hoppii は補助的な位置づけとなるので、履修が決定したら Google Classroom に登録すること。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	・授業運営に関する打ち合わせ ・アンケート
第2回	ステレオタイプ①	・日本と日本人のイメージ ・春学期プレゼンテーションの割り当て
第3回	ステレオタイプ②	・メディアとステレオタイプ ・ステレオタイプの影響
第4回	文化によって異なる色彩認識について	・虹にはいくつもの色があるのか。 太陽は世界のどこでも赤いのか。
第5回	カテゴリー分類の差異	・蛾と蝶が同じである理由
第6回	文化によって異なる羞恥心	・「恥かしさ」の基準
第7回	日本語と外国語①	・動詞のカテゴリー ・形容詞とは ・新語（ネオロジー）

第8回	日本語と外国語②	・人称 ・指示詞 ・感情の表現
第9回	言語政策	・母語に対する認識 ・各国の言語政策 ・外国語教育は必要か
第10回	日本語の表記について	・ラジオ型言語とテレビ型言語 ・文字言語としての日本語と他言語との比較。 ・音声言語としての日本語と他言語との比較
第11回	日本人の宗教観	・無神論・一神論・多神論
第12回	住居と自然	・自然との闘い／自然との共存
第13回	日本の「文化多様性」	・マイノリティ問題 ・グローバル化と固有文化の維持
第14回	期末試験	・第1～14回のまとめ試験と解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・毎回、授業前にテキストの次回授業該当箇所や、与えられた文献を読んでおくこと。
- ・「プレゼンテーション」の期間は、割り当て個所の報告、内容に関する疑問点やコメントの準備をすること。
- ・本授業の復習・予習時間は、発表担当時は5時間以上（資料集め、その他含む）、平常時は60分を標準とする。

【テキスト（教科書）】

適宜資料を配付する。

【参考書】

- 鈴木孝夫『日本語教のすすめ』新潮新書
鈴木孝夫『ことばと文化』岩波新書
鈴木孝夫『日本語と外国語』岩波新書
今井むつみ『ことばと思考』岩波新書
高野陽太郎『日本人論の危険なあやまち』ディスカバー掲書
G. ドイツチャー『言語が違えば世界も違って見えるわけ』
R.E. ニスベット『木を見る西洋人、森を見る東洋人』ダイヤモンド社
その他、必要に応じて授業時間内あるいはポータルサイトで紹介する

【成績評価の方法と基準】

授業参加度	15%
リアクションペーパー	15%
発表	30%
期末試験	40%

・4回以上授業を欠席した場合、期末試験の受験資格を失うので注意すること。

【学生の意見等からの気づき】

- ・グループ・ワークやディスカッションなど、双方向、多方向のやりとりの要望・評価が高い。今年度も履修者の積極的授業参加と授業内活動の活発化を図りたい。

【学生が準備すべき機器他】

- ・インターネット接続可能な機器：PC、タブレット端末、スマートフォン。
- ・ZOOM M 授業内の発表にはPCが好ましい。
- ★事前に、グーグルクラスルームへの登録を行うこと。クラスコード：y7u3zjb
- ★タブレット端末、スマートフォンの場合は、授業実施開始前にZOOMのアプリをダウンロードしておくこと。

【その他の重要事項】

- ★受講希望者数によっては、第1回目（4月11日）の授業時に行うアンケートで選抜を行うので、履修希望者は第1回目に必ず出席すること。
- ★授業の開始、休講、授業形態の変更などを法政大学学習支援システム Hoppii に掲示を行うので、頻りにチェックすること。

【Outline (in English)】
(Outline)

In this course, students will read various materials on Japanese language and culture, comparing with other cultures. Eventually they are expected to relativize the cultures of their own, and to deepen the understanding of other ones. The classes will consist of lectures, student presentations, and individual/group works. The interactions of participants with various cultural backgrounds are expected.

(Learning Objectives)

At the end of this course, students will be expected to realize how human recognition will be affected by languages and cultures, and to have better understanding of relativity of the cultures.

(Learning activities outside of classroom)

Students will be expected to have completed the required reading assignments before each class meeting. Your study time is at least 1 hour for each class meeting.

(Grading Criteria/Policies)

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Term-end examination 40%

Presentation 30%

Reaction Paper Writing 15%

in class contribution 15%

* Students who have missed more than 3 class meetings will not be allowed to take the term-end exam, nor acquire credit.

LIN300LA

異文化コミュニケーション論B 2017年度以降入学者

山本 そのこ

開講時期: 秋学期授業/Fall | 曜日・時限: 月 4/Mon.4

単位数: 2 単位

定員制 (30 名)

その他属性: 〈他〉〈優〉〈S〉〈ダ〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

近年「グローバル化」や「国際化」が加速度的に進み、異文化との接触は身近かつ無視できない問題となっている。その一方、異文化接触による摩擦問題が次々と表面化している。特に、外交やビジネスで異文化間の接触が予想される場面では、異文化間コミュニケーションの基本的な知識は必須となる。

この授業では、異なる文化を持つ集団や個人と接触したときに、いかにすれば互いによりスムーズなコミュニケーションが図れるのかを、具体的な例や既存の理論の検討、そして授業参加者の経験や意見の交換などを通して、理論面と実践面の双方から考える。

★日本人と外国人、様々な背景文化をもつ学生の積極的参加を期待する。

【到達目標】

- ①自分が今まで意識していなかった文化を意識化、また相対化する。
- ②異文化コミュニケーションに重要な役割を果たす言語行動パターンと非言語的要素を理解する。
- ③実際のコミュニケーションにおいて、知識や技能をどのように応用するかを考える。
- ④異文化コミュニケーションに関する基本的な学問的知識 (用語・概念・理論などの知識) を得る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科: DP3・DP4、法学部・政治学科: DP1、法学部・国際政治学科: DP1、文学部: DP1、経営学部: DP3、国際文化学部: DP2、人間環境学部: DP2、キャリアデザイン学部: DP1

【授業の進め方と方法】

- ・第1・2回目は講義と教室内活動中心。
- ・第3～13回は、指定の内容について、授業参加者が分担して報告。その後、クラス全員で内容を検討する。
- ・毎回の授業の最後に、リアクションペーパーを提出。次の回の授業冒頭でフィードバックを行う。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態: 対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション 文化と異文化間コミュニケーション	・授業運営に関する打ち合わせ ・受講者アンケート記入 ・異文化コミュニケーションの背景とその領域
第2回	自分を知る	・対立管理スタイルと異文化適応力 ・秋学期プレゼンテーションの割り当て
第3回	コミュニケーション・スタイル① コンテキスト	・無言の共通理解を前提にコミュニケーションを行う高コンテクスト文化と、言語的に明確にされた情報のみを基本とする低コンテクストコミュニケーション文化について、その世界観や認知的な差異を含めて論ずる。 (学生発表と質疑応答。以下13回まで)

第4回	コミュニケーション・スタイル② ターンテ-キングとパラ言語	・会話場面において、発話のターンを取ること (=ターンテキング) における文化差や特徴について。 ・イントネーション、リズム、ポーズ、声質など、言語情報のうちの周辺的な情報であるパラ言語 (周辺言語/準言語) について、基本的知識と文化的な特徴を扱う
第5回	言語コミュニケーション① 褒め方・叱り方・謝り方	・文化によって異なる「ほめ方・しかり方・謝り方」を例に、その根本にあるポライトネスについての知識を深める。ポライトネス理論の基本的な概念を概観し、文化によってどのような才や特徴があるかを観察する。
第6回	言語コミュニケーション② 誘い方と断り方	・第5回に引き続き、ポライトネス理論の立場から「誘い方と断り方」という言語行為を観察し、そこに現れる文化的な特徴について考える。
第7回	言語コミュニケーション③ 自己紹介と自己開示	・文化によって異なる「自己紹介」の仕方、そこで好まれる話題や態度などを取り上げる。また、自己紹介場面に限らず行われる「自己開示」の深さ、広さなどがコミュニケーションや対人関係にどのような影響力を持つかを考え、さらにそこに表れる文化的特徴についても考える。
第8回	非言語コミュニケーション① 表情・アイコンタクト	・人類共通の本能的、基本的な表情分析と、文化に依存する表情表現について扱う。また、視線によるコミュニケーション、いわゆるアイコンタクトについて、文化による差異を考える。
第9回	非言語コミュニケーション② しぐさとジェスチャー・タッチング	・異なる文化圏で見られる様々なしぐさやジェスチャーについて、危険な物、あるいはコミュニケーションを円滑にするものとしての具体例を見ながら検討する。また、タッチングについても、文化圏や性別、年齢、人間関係によってどのように変化するかを考える。
第10回	非言語コミュニケーション③ 空間と対人距離	・ソーシャル・ディスタンスやパーソナルスペースなど、空間の扱いに見られる文化差を扱う。また実際に対人距離がコミュニケーションに与える影響について考える。
第11回	非言語コミュニケーション④ 時間感覚	・地域、時代、個人によって異なる時間感覚、また同じ個人でも場面によって時間の取り扱い方について具体的な例を見つつ、E. ホールのモノクロニック・タイム、ポリクロニックタイムの概念を確認する。
第12回	価値観	・ことわざ、昔話などに見る基本的価値観 ・家族関係、道徳観など基本的価値観と異文化接触
第13回	異文化コミュニケーション・スキル	・異文化コミュニケーションのためのテクニックやメソッド
第14回	期末試験	・第1回～第13回までの内容についての筆記試験・まとめと解説

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

- ・「プレゼンテーション」の期間は、割り当て個所の報告、内容に関する疑問点やコメントの準備をすること。
- ・本授業の準備学習・復習時間は、1時間を標準とします。(ただし、発表担当の場合は例外。さらに多くの時間を要する)

【テキスト（教科書）】

八代京子ほか（2001）『異文化コミュニケーションワークブック』三修社

【参考書】

R.E. ニスベット『木を見る西洋人、森を見る東洋人』ダイヤモンド社
鍋倉健悦『異文化間コミュニケーション論』丸善ライブラリー

池田理知子 E.M. クレーマー『異文化コミュニケーション・入門』有斐閣アルマ

八代京子 他『異文化コミュニケーションワークブック』三修社
吉田暁・石井敏 他『異文化コミュニケーションキーワード』有斐閣

E. ホール『沈黙のことば－文化・行動・思考』南雲堂
その他、必要に応じて授業時間内あるいはポータルサイトで紹介する

【成績評価の方法と基準】

授業参加度 15 %
リアクションペーパー 15 %
発表 30 %
期末試験 40 %

【学生の意見等からの気づき】

・グループワークやディスカッションなど、双方向、多方向のやりとりの要望・評価が高い。今年度も履修者の積極的授業参加と授業内活動の活発化を図りたい。
・グループ活動時にメンバー構成の調整方法を改善したい。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

・受講希望者数によっては、第1回目の授業時に行うアンケートで選抜を行うので、履修希望者は必ず初回授業に出席すること。
・最新情報を Hoppii で確認すること。また、法政のメールアドレスをこまめにチェックすること。

【Outline (in English)】

(Outline)

This course will provide students with basic knowledge of multicultural communication, such as stereotypes, verbal/non-verbal communication, values, etc. The classes will consist of lectures, student presentations, and individual/group works. Interactions of participants with various cultural backgrounds are expected.

(Learning Objectives)

At the end of this course, students will be expected to have knowledge of the basic terms, concepts and to be able to apply them for their real lives in the multicultural society.

(Learning activities outside of classroom)

Students will be expected to have completed the required assignments before each class meeting. Your study time is at least 1 hour for each class meeting.

(Grading Criteria/Policies)

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Term-end examination 40%

Presentation 30%

Reaction Paper Writing 15%

in class contribution 15%

*Students who have missed more than 3 class meetings will not be allowed to take the term-end exam, nor acquire credit.

LIT300LA

教養ゼミ I

2017 年度以降入学者

矢澤 美佐紀

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 3/Fri.3

単位数：2 単位

定員制 (20 名)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

この授業の目的は、近現代の女性作家が、愛や性といった〈家族〉にまつわるジェンダーの問題や労働のあり方をどのように描いてきたのか、その女性表現の内実を考察することにあります。それは、明治から 150 年以上を経た現在において、日本の近代をあらためて問い直す作業であり、ジェンダー規範の生成を検証することでもあります。

歴史の中で、体制によって常に抑圧されてきた女性の視点から書かれた「女性文学」を視座に、日本の近代国家としての歩みを辿りつつ、現代に通じる近代文学の生成と変容、文芸と社会の関係について学びます。

受講人数によりますが、可能な限りグループワークを取り入れます。また、各自が意見を発表することで自分自身の読みを深化させ、既成の文学概念から自由に跳躍することがテーマです。

【到達目標】

ジェンダーにまつわる様々な問題を、明治 20 年代から現代に至る多様な女性表現から読み解くことで、近代から現代に至る性差のあり方や問題について考えます。作品の生まれた背景 (作家個人・社会全体) を参考にした上で、その作品のモチーフと中心的なテーマ、作品構造、文体の特徴がいかに時代と結びついているのかを学びます。

現在の豊かな「女性文学」を生み出すに至った、女性史や文学史の内側を参照しながら、女性や抑圧される側にとつての「書くこと」の意味を追求します。適宜、世界文学も参照します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

本授業は演習方式です。受講人数によりますが対象作品についてグループワークを行い、発表を通じて討議をしてもらいます。後半には、作品を選んで本格的な発表をしてもらい、まとめの講評をします。また、リアクションペーパーを使って、随時教員と学生、学生同士のコミュニケーションをはかるなどし、学生のリアクションに関してはできるだけ具体的に対応します。

*校外学習の日程に関しては、学生の予定等を配慮して前後することがあります。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
対面授業	ガイダンス	授業の目的、授業の進め方、成績のつけ方について
対面授業	清水紫琴の試み「こわれ指環」を中心に	女性の言文一致 グループワークによる意見交換
対面授業	樋口一葉①「十三夜」	「空白」を読む グループワークによる意見交換
対面授業	樋口一葉②「わかれ道」	女性の「出世」とは グループワークによる意見交換
対面授業	一葉の同時代作家・田澤稲舟の「しろばら」	明治期の性被害 グループワークによる意見交換

対面授業	『青鞥』の世界 平塚らいてう・伊藤野枝を中心に	大正期における女性の課題 グループワークによる意見交換 少々ドラマ鑑賞
対面授業	田村俊子①「生血」	新しい自我の覚醒 グループワークによる意見交換
対面授業	田村俊子②「枸杞の実の誘惑」	少女の性を考える グループワークによる意見交換
対面授業	素木しず「三十三の死」	女性の「障がい」 グループワークによる意見交換
対面授業	尾崎みどり「歩行」	「女性文学」のモダニズム グループワークによる意見交換 少々映画鑑賞
対面授業	グループ発表のための準備 グループディスカッション	作品を選んでグループワーク レジュメの作成
対面授業	グループ発表	互いの意見に耳を傾ける
対面授業	一葉記念館へ校外学習	作品の時代的背景を学習する
対面授業	授業のまとめ	質問への対応 期末レポートの準備

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。指定された作品や関連資料を事前によく読み込み、自分の意見をまとめておきましょう。授業後は、講義内容や教員のコメント、グループワークでの課題をふまえて、自分の考えを簡潔に文章化しておきましょう。

【テキスト (教科書)】

樋口一葉の対象作品は全集等で読めるので、各自図書館で借りるなどして準備してほしいと思います。ただし、その他の入手しにくいものはこちらで用意し、関連資料は随時配布します。詳しいことは授業内で指示します。

【参考書】

矢澤美佐紀『女性文学の現在一貧困・労働・格差』(2016・4、青柿堂)、[[新編]日本女性文学全集]全 12 巻 (矢澤・12 巻責任編集、2020・3、六花出版)、岩淵宏子・長谷川啓編『ジェンダーで読む 愛・性・家族』(2006・10、東京堂出版)、岩淵宏子・北田幸恵編『はじめて学ぶ日本女性文学史 現代編』(2005・5、ミネルヴァ書房)、脇田晴子他編『女性文学史』(1987・8、吉川弘文館) その他、授業内で適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】

授業参加度とグループ発表等の平常点が 50%、期末レポートが 50% とする。

【学生の意見等からの気づき】

授業資料はできるだけ早めに配布します。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムにて適宜資料を配布します。自宅でサイトが見られるようにしておいてください。

【その他の重要事項】

オフィスアワーは授業の前後とし、相談その他に応じます。

【Outline (in English)】

Course outline : Considering modern Japanese sexual issues through women's literature.

Learning Objectives : Learn about sexual problems from the Meiji era to the present day from the perspective of women.

Learning activities outside of classroom : Take two hours for review and preparation.

Grading Criteria /Policy : Normal score is 50%, term-end report is 50%.

LIT300LA

教養ゼミⅡ

2017年度以降入学者

矢澤 美佐紀

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 3/Fri.3

単位数：2単位

定員制（20名）

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業の目的は、近現代の女性作家が、愛や性といった〈家族〉にまつわるジェンダーの問題や労働のあり方をどのように描いてきたのか、その女性表現の内実を考察することにあります。それは、明治から150年以上を経た現在において、日本の近代をあらためて問い直す作業であり、ジェンダー規範の生成を検証することでもあります。

歴史の中で、体制によって常に抑圧されてきた女性の視点から書かれた「女性文学」を視座に、日本の近代国家としての歩みを辿りつつ、現代に通じる近代文学の生成と変容、文芸と社会の関係について学びます。

各自が意見を発表することで自分自身の読みを深化させ、既成の文学概念から自由に跳躍することがテーマです。

【到達目標】

ジェンダーにまつわる様々な問題を、明治20年代から現代に至る多様な女性表現から読み解くことで、近代から現代に至る性差のあり方や問題について考えます。作品の生まれた背景（作家個人・社会全体）を参考にした上で、その作品のモチーフと中心的なテーマ、作品構造、文体の特徴がいかに時代と結びついているのかを学びます。

現在の豊かな「女性文学」を生み出すに至った経緯を女性史や文学史の内側を参照しながら追求し、女性や抑圧される側にとつての「書くこと」の意味を考えます。

適宜、世界文学も参照します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

本授業は演習方式です。担当者は、あらかじめ対象作家・作品に関する考察をまとめた簡単なレジュメを作成して報告をしてください。それに基づいて、皆で討議をします。積極的に参加してください。また、適宜リアクションペーパーを使って、教員と学生、学生同士のコミュニケーションをはかるなどし、学生のリアクションに関してはできるだけ具体的に対応するよう努めます。

*校外学習の日程に関しては、学生の予定等を配慮して前後することがあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり/Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
対面授業	ガイダンス	授業方法、成績のつけ方について／春学の振り返り／発表の分担を決める
対面授業	佐多稲子『くれない』	戦時下の女性の生活や軍事協力に関する映像を見る
対面授業	吉本ばなな『キッチン』①	戦争の時代における女性の「二重労働」を考える 意見交換 新たな家族像について考える 意見交換 映像作品を見る

対面授業 吉本ばなな『キッチン』② 報告者による報告と討議

対面授業 江國香織『きらきらひかる』① 性概念の再構築について考える
映像作品を見る

対面授業 江國香織『きらきらひかる』② 報告者による報告と討議

対面授業 小山田浩子『穴』 現代の〈家〉と女性について考える

対面授業 村田沙耶香『信仰』 報告者による報告と討議
現代における「信仰」の意味を考える①

対面授業 村田沙耶香「無」（『絶縁』） 報告者による報告と討議
現代における「信仰」の意味を考える②

対面授業 宇佐見りん『推し燃ゆ』 報告者による報告と討議
「推し」の内実について考える

対面授業 川上未映子「青かける青」（『春のこわいもの』） 報告者による報告と討議
閉塞感と文学について考える

対面授業 高瀬隼子『おいしいごはんが食べられますように』 「職場」と文学について考える
報告者による報告と討議

対面授業 羽仁もと子が創立した自由学園を見学する 近代日本における「教育」を考える

対面授業 授業のまとめ 質問への対応
春秋学期を通じた振り返り
期末レポートの準備

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【予習】 報告者は、担当した作家と作品について調査と考察を行い、レジュメを作成してください。他の受講生は、対象作品をじっくり読み、資料を確認するなどして考えをまとめておきましょう。【復習】 教員のコメントや担当者の発表をふまえて、自分の考察を深化させましょう。

【テキスト（教科書）】

どれも入手しやすい作品なので、各自図書館で借りるなどして準備してほしいと思います。ただし、入手しにくいものはこちらで用意し、関連資料は随時配布します。詳しいことは授業内で指示します。

【参考書】
矢澤美佐紀『女性文学の現在－貧困・労働・格差』（2016・4、青柿堂）、『[新編] 日本女性文学全集』全12巻（矢澤・12巻責任編集、2020・3、六花出版）、岩淵宏子・長谷川啓編『ジェンダーで読む 愛・性・家族』（2006・10、東京堂出版）、岩淵宏子・北田幸恵編『はじめて学ぶ日本女性文学史 現代編』（2005・5、ミネルヴァ書房）、脇田晴子他編『女性文学史』（1987・8、吉川弘文館）その他、授業内で適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】

授業参加度とグループ発表の平常点が50%、期末レポートが50%とします。

【学生の意見等からの気づき】

授業資料は事前でできるだけ早く配布します。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムにて適宜資料を配布します。自宅でサイトが見られるようにしておいてください。

【その他の重要事項】

オフィスアワーは授業の前後とし、相談その他に応じます。

【Outline (in English)】

Course outline : Considering modern Japanese sexual issues through women's literature.

Learning Objectives : Learn about sexual problems from the Meiji era to the present day from the perspective of women.

Learning activities outside of classroom : Take two hours for review and preparation.

Grading Criteria /Policy : Normal score is 50%, term-end report is 50%.

HIS300LA

イギリスと帝国A

2017年度以降入学者

大澤 広晃

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 1/Wed.1

単位数：2 単位

定員制（30名）

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

18世紀から20世紀にかけてのイギリスは、巨大な帝国であった。イギリスの海外進出は、国内はもとより、世界各地にさまざまな影響を及ぼした。本授業では、18世紀末から20世紀初頭までのイギリス帝国の歴史を考えてみたい。

【到達目標】

- ・18世紀末から20世紀初頭までのイギリス帝国の歴史的特徴を理解する。
- ・帝国支配がイギリス国内と世界各地に与えた多様な影響を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は原則として講義形式で行うが、授業中に質問をしたり、リアクションペーパーを積極的に活用したりして、受講生と「対話」しながら進めることを心がける。また、資料に基づくディスカッションや、受講生の数に応じてプレゼンテーションをしてもらうことも考えている。課題や質問に対しては、授業の内容や目的に照らして有益なものを抽出したうえで、次の授業までにフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の概要を説明する。
第2回	近世のイギリス帝国概観：アメリカ植民地の独立まで	18世紀末までのイギリス帝国の動向を概観する。
第3回	革命の時代の帝国	フランス革命の時代のイギリスと帝国について学ぶ。
第4回	奴隷制と奴隷貿易	19世紀初頭までの帝国を支えていた奴隷制と奴隷貿易について学ぶ。
第5回	奴隷貿易・奴隷制への反対運動	奴隷貿易と奴隷制への反対運動とその同時代的意義を学ぶ。
第6回	帝国の拡大と植民地自治	19世紀前半の帝国の拡大と植民地自治の発展について学ぶ。
第7回	インド	帝国の要であったインドとその支配について学ぶ。
第8回	非公式帝国	帝国を理解するうえで重要な非公式帝国という概念とその問題点を学ぶ。
第9回	帝国の支配者たち	帝国を支配した人々とその役割について学ぶ。
第10回	帝国の経済	帝国の経済構造について学ぶ。
第11回	支配の文化、文化の支配	帝国支配を文化の観点から学ぶ。
第12回	帝国主義の時代	帝国主義の時代におけるイギリスと帝国のありようを学ぶ。
第13回	まとめ	授業の内容を総括する。
第14回	授業内試験	期末試験。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。以下に掲げる参考書などを自主的に読み、授業で扱う内容についての理解を深める。また、授業で用いる資料について宿題が課される場合もある。

【テキスト（教科書）】

使用しない。授業でプリントを配付する。

【参考書】

川北稔・木畑洋一編著『イギリスの歴史—帝国=コモンウェルスのあゆみ』有斐閣、2000年
木畑洋一ほか編著『イギリス帝国と20世紀』（全5巻）ミネルヴァ書房、2004～2009年
秋田茂『イギリス帝国の歴史』（中公新書）中央公論新社、2012年

【成績評価の方法と基準】

- ・平常点（授業参加度、課題への取り組み）：50%
- ・期末試験：50%

【学生の意見等からの気づき】

引き続き学生の知的関心を喚起するような授業を心がけていきます。

【Outline (in English)】

< Course outline >

This course explores the history of the British empire from the 18th century through to the early 20th century. It analyzes the empire's entanglement with British domestic affairs as well as its impact on other parts of the world.

< Learning objectives >

- 1) Students are able to acquire basic knowledge about early modern and modern British imperial history.
- 2) Students are able to assess varied impact that the empire had on Britain and wider world.

< Learning activities outside of classroom >

Students have to spend at least two hours on preparation for and review of each class respectively. They are expected to read relevant books, such as those listed in the reference section, and learn by themselves. They also have to work on assignments given by the instructor.

< Grading policy >

Class participation and assignments: 50% Final examination: 50%

HIS300LA

イギリスと帝国 B

2017 年度以降入学者

大澤 広晃

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 1/Wed.1

単位数：2 単位

定員制 (30 名)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

近現代のイギリス帝国は、世界史の動向を大きく規定した。20 世紀後半に帝国は崩壊したが、植民地支配の過去は現在の世界にも影響を及ぼし続けている。本授業では 20 世紀のイギリス帝国に焦点をあて、その歴史的意義を考えてみたい。

【到達目標】

- ・ 20 世紀のイギリス帝国の特徴を理解する。
- ・ 現代世界が直面するさまざまな問題をイギリス帝国史の視座から批判的に考察する力を修得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は原則として講義形式で行うが、授業中に質問をしたり、リアクションペーパーを積極的に活用したりして、受講生と「対話」しながら進めることを心がける。また、資料に基づくディスカッションや、受講生の数に応じてプレゼンテーションをしてもらうことも考えている。課題や質問に対しては、授業の内容や目的に照らして有益なものを抽出したうえで、次の授業までにフィードバックする。春学期に開講する「イギリスと帝国 A」と内容面で連続性があるので、当該授業を履修したうえで登録することを強く勧める

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の概要を説明する。
第 2 回	世紀転換期のイギリス帝国	19 ~ 20 世紀転換期のイギリスと帝国について学ぶ。
第 3 回	南アフリカ戦争の時代	南アフリカ戦争がイギリスと帝国に与えたインパクトを学ぶ。
第 4 回	第一次世界大戦とイギリス帝国①	第一次世界大戦期のイギリスについて学ぶ。
第 5 回	第一次世界大戦とイギリス帝国②	第一次世界大戦への植民地のかかわりを学ぶ。
第 6 回	中東のイギリス帝国	戦間期中の東地域におけるイギリスの支配について学ぶ。
第 7 回	イギリス帝国と日本	第二次世界大戦までのイギリス帝国と日本の関係について学ぶ。
第 8 回	第二次世界大戦とイギリス帝国	第二次世界大戦期のイギリス帝国について学ぶ。
第 9 回	コモンウェルスの形成	コモンウェルスの形成過程を学ぶ。
第 10 回	帝国=コモンウェルス体制の変容と脱植民地化	脱植民地化とコモンウェルスの変容について学ぶ。
第 11 回	帝国のほころび	20 世紀後半における帝国の崩壊について学ぶ。
第 12 回	帝国支配の過去と現在	帝国支配の過去が現在のイギリスと旧植民地にどのような影響を及ぼしているかを学ぶ。
第 13 回	まとめ	授業の内容を総括する。

第 14 回 授業内試験 期末試験。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。以下に掲げる参考書などを自主的に読み、授業で扱う内容についての理解を深める。また、授業で用いる資料について宿題が課される場合もある。

【テキスト (教科書)】

使用しない。授業でプリントを配付する。

【参考書】

川北稔・木畑洋一編著『イギリスの歴史—帝国=コモンウェルスのあゆみ』有斐閣、2000 年
木畑洋一ほか編著『イギリス帝国と 20 世紀』(全 5 巻) ミネルヴァ書房、2004 ~ 2009 年
小川浩之『英連邦—王冠への忠誠と自由な連合』中央公論新社、2012 年

【成績評価の方法と基準】

- ・ 平常点 (授業参加度、課題への取り組み) : 50 %
- ・ 期末試験 : 50 %

【学生の意見等からの気づき】

引き続き学生の知的関心を喚起するような授業を心がけていきます。

【Outline (in English)】

< Course outline >

This course explores the history of the British empire in the 20th century. It analyzes the empire's structures, decline, and continued impact on the contemporary world.

< Learning objectives >

- 1) Students are able acquire basic knowledge about modern and contemporary British imperial history.
- 2) Students are able to acquire critical views of various global issues in reference to the history of the British empire.

< Learning activities outside of classroom >

Students have to spend at least two hours on preparation for and review of each class respectively. They are expected to read relevant books, such as those listed in the reference section, and learn by themselves. They also have to work on assignments given by the instructor.

< Grading policy >

Class participation and assignments: 50% Final examination: 50%

LANj300LA

教養ゼミ I

2017年度以降入学者

副島 健作

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 1/Tue.1

単位数：2 単位

定員制

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本語教育とはどのような分野なのか、さまざまな資料や具体的な現場の様子を知り、全体を概観する。

・日本語を外国語として教える「日本語教育」について基礎的な知識を幅広く身につけ、何をどう教えるかを考える。

・自分自身が身につけている言語観、教育観、学習スタイルをふりかえり、時代のニーズにあわせて変化してきた日本語教育の現状を踏まえて、よりよい教育方法について考察する。

【到達目標】

- (1) 日本語教育とはどのような分野であるのか理解し、具体的にイメージできる。
- (2) 日本語や日本社会を日本語教育の視点で、客観的に捉えることができる。
- (3) 日本語教育の意義、社会における役割について理解し、自分のことばで説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

グループやペアでの協働的な活動が多く設定されている。活動に積極的に参加し、クラスメイトと共に主体的に学ぶことが期待される。課題等に対するフィードバックは授業内で適宜行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	日本語教育の特色	社会における日本語教育の意義・役割について考える。
第 2 回	日本語教育を取り巻く社会情勢	世界の日本語教育事情と日本の留学生政策について概観する。
第 3 回	母語の学習と外国語学習	第二言語習得と第一言語習得の違いについて理解する。
第 4 回	日本語の音の特徴とその指導	音声学と音韻論について概観し、日本語の音の特徴について理解する。
第 5 回	日本語の文字・語彙とその指導	文字・語彙論について概観し、日本語の音の特徴について理解する。
第 6 回	動詞の活用と初級文型	日本語の動詞の活用の説明について、国語文法と日本語教育でどう違うかを理解する。
第 7 回	初級の文型の導入とドリル	初級学習者に日本語を教える場合、どんな文型をどんな順序で教えるかを考える。
第 8 回	シラバスとコースデザイン	シラバスの種類を知るとともに、コースがどうやってデザインされるかを理解する。
第 9 回	教授法について	どんな教授法があるかや、歴史の変遷や理論、特色ある指導法などについて学ぶ。

第 10 回 教室活動と授業計画の立て方 現場でどのような教室活動が行われているか、また、1つ1つの授業がどのように計画されるのかを学ぶ。

第 11 回 各国の日本語教育についての発表-東アジア・東南アジア 東アジア・東南アジアの国・地域の日本語教育事情を受講生が調べて発表する。

第 12 回 各国の日本語教育についての発表-オセアニア・南米 東アジア・東南アジアの国・地域の日本語教育事情を受講生が調べて発表する。

第 13 回 各国の日本語教育についての発表-ヨーロッパ・アメリカ 東アジア・東南アジアの国・地域の日本語教育事情を受講生が調べて発表する。

第 14 回 討論・議論（授業内の期末試験実施の可能性あり） これまでの学びを踏まえて提示されてきたテーマを扱う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

設定されたテーマに関して、自分なりの意見が披歴できるように普段から情報収集等を行うこと。

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

決まったテキストを使う予定はありません。

【参考書】

田中望 (1988) 『日本語教育の方法—コース・デザインの実際—』大修館書店
 縫部義憲 (1991) 『日本語教育学入門』創拓社
 石田敏子 (1998) 『日本語教授法』大修館書店
 高見澤孟 (2004) 『新・はじめての日本語教育 2・日本語教授法入門』アスク
 川口義一・横溝紳一郎 (2005) 『成長する教師のための日本語教育ガイドブック上・下』ひつじ書房

【成績評価の方法と基準】

期末試験 (40%)

発表のパフォーマンス (25%)

受講態度（議論への積極的参加など）(20%)

課題提出 (15%)

・この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60%以上を達成した者を合格とします。

【学生の意見等からの気づき】

本年度新規科目につきアンケートを実施していません。

【その他の重要事項】

日頃から日本語教育や国際理解等に関わる機会があれば、積極的に参加することが望ましい（具体的な学習者や教育現場をイメージすることで、授業内容がより深く理解でき、更なる問題意識が醸成されます）。

【Outline (in English)】

【Course outline】

This course provides an overview of the field of Japanese language teaching, based on a variety of materials and specific situations in the field. In other words, it introduces a wide range of basic knowledge about teaching Japanese as foreign language, and what and how it is taught, to students taking course.

It also provides an opportunity for students to reflect on their own views of language, education, and learning styles, and to consider better teaching methods based on the current state of Japanese language education, which has changed in response to the needs of the times.

【Learning Objectives】

After completing this course, students will be able to:

- (1) understand what kind of field Japanese language education is and to be able to visualize it concretely.
- (2) see Japanese language and Japanese society objectively from the perspective of Japanese language education.
- (3) understand the significance of Japanese language teaching and its role in society, and explain it in one's own words.

【Learning activities outside of classroom】

Students are expected to gather information on a regular basis so that they can express their own opinions on a given theme.

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria/Policy】

Final examination (40%)

Presentation performance (25%)

Attitude (active participation in discussions, etc.) (20%)

Submission of assignments (15%)

Based on this grading system, students who have achieved at least 60% of the course objectives will be considered to have passed the course.

LANj300LA

教養ゼミⅡ

2017年度以降入学者

副島 健作

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 1/Tue.1

単位数：2 単位

定員制

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本語教育とはどのような分野なのか、さまざまな資料や具体的な現場の様子を知り、全体を概観する。

・日本語を外国語として教える「日本語教育」について基礎的な知識を幅広く身につけ、何をどう教えるかを考える。

・学習者主体の授業とはどういうものかを検討し、時代のニーズにあわせて変化してきた日本語教育の現状を踏まえて、具体的に日本語の教材作成や授業実践について考える。

【到達目標】

(1) 外国語としての日本語を教えるにはどのような教室運営がなされ、そこではどのような教材が望ましいかを理解できる。

(2) 学習者に合ったカリキュラム設定を行い、具体的な授業計画を立て、教材選定、教材作成ができる。

(3) 日本語の授業で、文法の導入・説明を適切に行い、定着を図るタスクを効果的にできる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

グループやペアでの協働的な活動が多く設定されている。活動に積極的に参加し、クラスメイトと共に主体的に学ぶことが期待される。課題等に対するフィードバックは授業内で適宜行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	日本語教育の歴史	日本語教育の歴史について概観する。
第2回	学習者中心の指導法	学習者中心の指導法とはどういうものかについて考える。
第3回	教材・教具	日本語を教える際に使用される教材や教具の特徴について理解する。
第4回	直接法による教え方	日本語を日本で直接教える方法とはどういうものか理解する。
第5回	タスク中心の指導法	実際に教える時に使われるタスクにはどのようなものがあるか概観するとともに、タスク中心の指導法について理解する。
第6回	初級と中・上級	学習者のレベルによって教え方がどう違うかを考える。
第7回	作文指導	作文、ライティング能力の向上のためにどんな指導法があるかをみて、効果的な方法を考える。
第8回	読解指導	読解力向上のためのどんな指導法があるかをみて、効果的な方法を考える。
第9回	会話やスピーチの指導	会話やスピーチ能力の向上のためのどんな指導法があるかをみて、効果的な方法を考える。

第10回 視聴覚教材の使い方 視聴覚教材の効果的な使い方について考える。

第11回 作成教材を用いた模擬授業① 受講生が自ら作成した教材を使って、実際に日本語を教えてみる。

第12回 作成教材を用いた模擬授業② 受講生が自ら作成した教材を使って、実際に日本語を教えてみる。

第13回 作成教材を用いた模擬授業③ 受講生が自ら作成した教材を使って、実際に日本語を教えてみる。

第14回 討論・議論（授業内での期末試験実施の可能性あり） これまでの学びを踏まえて提示されてきたテーマを扱う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

設定されたテーマに関して、自分なりの意見が披歴できるように普段から情報収集等を行うこと。

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

決まったテキストを使う予定はありません。

【参考書】

田中望(1988)『日本語教育の方法—コース・デザインの実際—』大修館書店

縫部義憲(1991)『日本語教育学入門』創拓社

石田敏子(1998)『日本語教授法』大修館書店

高見澤孟(2004)『新・はじめての日本語教育2・日本語教授法入門』アスク

川口義一・横溝紳一郎(2005)『成長する教師のための日本語教育ガイドブック上・下』ひつじ書房

【成績評価の方法と基準】

期末試験(40%)

発表のパフォーマンス(25%)

受講態度(議論への積極的参加など)(20%)

課題提出(15%)

・この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とします。

【学生の意見等からの気づき】

本年度新規科目につきアンケートを実施していません。

【その他の重要事項】

日頃から日本語教育や国際理解等に関わる機会があれば、積極的に参加することが望ましい（具体的な学習者や教育現場をイメージすることで、授業内容がより深く理解でき、更なる問題意識が醸成されます）。

【Outline (in English)】

【Course outline】

This course provides an overview of the field of Japanese language teaching, based on a variety of materials and specific situations in the field. In other words, it introduces a wide range of basic knowledge about teaching Japanese as foreign language, and what and how it is taught, to students taking course.

It also provides an opportunity for students to examine what learner-centered classrooms are, and to consider the creation of Japanese language teaching materials and class practices based on the current state of Japanese language education, which has been changing in accordance with the needs of the times.

【Learning Objectives】

(1) understand what kind of classroom management and what kind of teaching materials are desirable for teaching Japanese as a foreign language.

(2) set up a curriculum suited to the learners, make concrete lesson plans, select teaching materials, and create teaching materials.

(3) to introduce and explain grammar appropriately in Japanese classes and effectively perform tasks to ensure retention.

【Learning activities outside of classroom】

Students are expected to gather information on a regular basis so that they can express their own opinions on a given theme.

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria/Policy】

Final examination (40%)

Presentation performance (25%)

Attitude (active participation in discussions, etc.) (20%)

Submission of assignments (15%)

Based on this grading system, students who have achieved at least 60% of the course objectives will be considered to have passed the course.

LAW300LA

法哲学A

2017年度以降入学者

内藤 淳

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 2/Wed.2

単位数：2 単位

定員制 (25 名)

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

法哲学とは、「なぜ法を守らないといけないのか」「正しい法とはどういうものか」といった法に関する根本問題を考える分野である。法哲学のそうした議論への入門をテーマとする。

主要理論の解説や具体的な事例・問題の分析を通じて法哲学の基礎知識を学ぶと共に、法哲学的な観点に即した問題分析力・思考力を身に付けることが授業の目的である。

秋学期開講の「法哲学B」と連続した内容で授業を行うので、受講者はできる限り「法哲学B」も続けて履修すること。履修人数は25人を上限とし、初回授業にて受講者の選抜と確定を行うので、履修希望者は初回授業に必ず出席し、教員からの指示に従うこと（本シラバス「その他の重要事項」参照）。

【到達目標】

- ①法哲学の基礎理論を理解し、そこでの主要な論点や問題点を把握する。
- ②現代社会の具体的な課題・問題に対して、法哲学的な視点に立って根源的な分析検討ができるようになる。
- ③上記①②を踏まえて、社会的な問題に関して自分の考えを合理的根拠に基づいて論じたり説明したりできるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

テキストと配布資料に基づく講義を行いつつ、その中の主要論点について適宜ディスカッションを行う。その際、受講生にはコメントの提示や小論文などの提出を求める。提出コメントや小論文、その他の質問に対しては、授業の中で適宜解説をする。授業計画は以下の予定だが、受講生の理解状況や進行ペースなどに応じて内容や順序を変更することがある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業のねらいや進め方についての説明、受講者の選抜・決定
第2回	法哲学を学ぶにあたって	法哲学とはどういう学問か、その特徴は何か
第3回	法哲学の基本的視点	現代日本の格差について
第4回	法哲学理論の基礎	自由と平等の関係について
第5回	ドーピングは禁止すべきか？（1）	ドーピングをめぐる現状について
第6回	ドーピングは禁止すべきか？（2）	ドーピングと個人の自由について
第7回	ドーピングは禁止すべきか？（3）	卓越主義と中立性原理について
第8回	臓器売買は許されるべきか？（1）	臓器売買規制の現状について
第9回	臓器売買は許されるべきか？（2）	自分の身体に対する所有権について
第10回	臓器売買は許されるべきか？（3）	自己所有権の限界について

- 第11回 同性間の婚姻を法的に 同性婚に関する法制度の現状について認めるべきか？（1）
- 第12回 同性間の婚姻を法的に 婚姻制度の目的について認めるべきか？（2）
- 第13回 同性間の婚姻を法的に 「婚姻の私事化」について認めるべきか？（3）
- 第14回 同性間の婚姻を法的に 婚姻の法制度化の意義について認めるべきか？（4）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。「授業の進め方と方法」に記載したように、授業の中でディスカッションを行ったりコメント提出を求めたりするので、受講者は、あらかじめテキストの該当箇所や関連する文献を読んで授業に臨むこと。また、各回の授業後には、配布資料を踏まえて講義内容を見直し、紹介された参考文献などを適宜読んで、そこで扱った問題や課題についての自分の意見をまとめておく。

【テキスト（教科書）】

瀧川裕英編『問いかける法哲学』（法律文化社、2016年、2500円＋税）

【参考書】

深田三徳・濱真一郎編著『よくわかる法哲学・法思想』（ミネルヴァ書房、2007年）

竹下・角田・市原・桜井編『はじめて学ぶ法哲学・法思想』（ミネルヴァ書房、2010年）

瀧川裕英・宇佐美誠・大屋雄裕『法哲学』（有斐閣、2014年）

宇佐美誠・児玉聡・井上彰・松本雅和『正義論：ベーシックスからフロンティアまで』（法律文化社、2019年）

森村進『法哲学講義』（筑摩書房、2015年）

森村進編『法思想史の水脈』（法律文化社、2016年刊行予定）

マイケル・サンデル『これからの「正義」の話をしよう』（早川書房、2010年）

その他の参考書は、授業の中で随時紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業の中で課す小論文（レポート）の点数を軸に、提出コメントと授業への参加・議論状況を加味して上記「授業の到達目標」に記した3点の到達度を評価・判断する。詳細は授業の中で説明する。評価割合は、小論文：80%、コメント等：20%の予定。

【学生の意見等からの気づき】

受講生のコメントや意見を積極的に聞き、それに基づく論点の掘り下げをすることで、受講生の授業参加と内容理解を促進したい。

【その他の重要事項】

履修人数は25人を上限とし、受講希望者がそれを超える場合は選抜を行うので、初回授業には必ず出席し教員からの指示に従うこと。そうでない学生には受講資格を認めない。（選抜は原則として抽選とするが、受講機会確保の観点から年次が上の学生を優先する場合がある。）人数制限があることに鑑み、受講を認められた学生には十分な熱意と授業参加を求める。

秋学期開講の「法哲学B」と連続した内容で授業を行うので、受講者はできる限り「法哲学B」も続けて履修すること。（春学期の「法哲学A」受講者には、秋学期の「法哲学B」の履修を優先的に認める。）あわせて、授業中の私語や入退室を慎む、携帯電話の電源を切るなど、受講上のマナーを厳守すること。

【Outline (in English)】

(Course outline)

This course deals with an explanation of the basic theories and issues in the philosophy of law.

(Learning Objectives)

The goals of this course are to help students understand some basic theories and perspectives of legal philosophy. At the end of this course, students are expected to understand some basic theories of philosophy of law and to form their own opinions on social issues by the perspective of philosophy of law. (Learning activities outside of classroom)

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

(Grading Criteria /Policy)

Final grade will be decided basen on essay assignment (80%) and submitted comments in class (20%).

LAW300LA

法哲学B

2017年度以降入学者

内藤 淳

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 2/Wed.2

単位数：2 単位

定員制（25名）

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

法哲学とは、「なぜ法を守らないといけないのか」「正しい法とはどういうものか」といった法に関する根本問題を考える分野である。法哲学のそうした議論への入門をテーマとする。

主要理論の解説や具体的な事例・問題の分析を通じて法哲学の基礎知識を学ぶと共に、法哲学的な観点に即した問題分析力・思考力を身に付けることが授業の目的である。

春学期開講の「法哲学A」と連続した内容で授業を行うので、受講者はできる限り「法哲学A」とあわせて履修すること。履修人数は25人を上限とし、初回授業にて受講者の選抜と確定を行うので、履修希望者は初回授業に必ず出席し、教員からの指示に従うこと（本シラバス「その他の重要事項」参照）。

【到達目標】

- ①法哲学の基礎理論を理解し、そこでの主要な論点や問題点を把握する。
- ②現代社会の具体的な課題・問題に対して、法哲学的な視点に立って根源的な分析検討ができるようになる。
- ③上記①②を踏まえて、社会的な問題に関して自分の考えを合理的根拠に基づいて論じたり説明したりできるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

テキストと配布資料に基づく講義を行いつつ、その中の主要論点について適宜ディスカッションを行う。その際、受講生にはコメントの提示や小論文などの提出を求める。提出コメントや小論文、その他の質問に対しては、授業の中で適宜解説をする。授業計画は以下の予定だが、受講生の理解状況や進行ペースなどに応じて内容や順序を変更することがある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業のねらいや進め方についての説明、受講者の選抜・決定
第2回	裁判員制度は廃止すべきか？（1）	裁判員制度の現状について
第3回	裁判員制度は廃止すべきか？（2）	裁判員制度への批判について
第4回	裁判員制度は廃止すべきか？（3）	裁判員制度の正当化根拠について
第5回	裁判員制度は廃止すべきか？（4）	国民と司法の関係について
第6回	児童手当は独身者差別か？（1）	子育て支援の現状について
第7回	児童手当は独身者差別か？（2）	児童手当の公平性について
第8回	児童手当は独身者差別か？（3）	法制度の中立性に関する理論について
第9回	児童手当は独身者差別か？（4）	子育て支援制度の根拠について

第10回 相続制度は廃止すべきか？（1） 相続制度の現状について

第11回 相続制度は廃止すべきか？（2） 相続制度の根拠について

第12回 相続制度は廃止すべきか？（3） 相続制度廃止論について

第13回 相続制度は廃止すべきか？（4） 個人の権利と相続の関係について

第14回 理論的整理 リベラリズムとリバタリアニズムについて

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。「授業の進め方と方法」に記載したように、授業の中でディスカッションを行ったりコメント提出を求めたりするので、受講者は、あらかじめテキストの該当箇所や関連する文献を読んで授業に臨むこと。また、各回の授業後には、配布資料を踏まえて講義内容を見直し、紹介された参考文献などを適宜読んで、そこで扱った問題や課題についての自分の意見をまとめておく。

【テキスト（教科書）】

瀧川裕英編『問いかける法哲学』（法律文化社、2016年、2500円+税）

【参考書】

深田三徳・濱真一郎編著『よくわかる法哲学・法思想』（ミネルヴァ書房、2007年）

竹下・角田・市原・桜井編『はじめて学ぶ法哲学・法思想』（ミネルヴァ書房、2010年）

瀧川裕英・宇佐美誠・大屋雄裕『法哲学』（有斐閣、2014年）

宇佐美誠・児玉聡・井上彰・松本雅和『正義論：ベーシックからフロンティアまで』（法律文化社、2019年）

森村進『法哲学講義』（筑摩書房、2015年）

森村進編『法思想史の水脈』（法律文化社、2016年刊行予定）

マイケル・サンデル『これからの「正義」の話をしよう』（早川書房、2010年）

その他の参考書は、授業の中で随時紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業の中で課す小論文（レポート）の点数を軸に、提出コメントと授業への参加・議論状況を加味して上記「授業の到達目標」に記した3点の到達度を評価・判断する。詳細は授業の中で説明する。評価割合は、小論文：80%、コメント等：20%の予定。

【学生の意見等からの気づき】

受講生のコメントや意見を積極的に聞き、それに基づく論点の掘り下げをすることで、受講生の授業参加と内容理解を促進したい。

【その他の重要事項】

履修人数は25人を上限とし、受講希望者がそれを超える場合は選抜を行うので、初回授業には必ず出席し教員からの指示に従うこと。そうでない学生には受講資格を認めない。（選抜は原則として抽選とするが、受講機会確保の観点から年次が上の学生を優先する場合がある。）人数制限があることに鑑み、受講を認められた学生には十分な熱意と授業参加を求める。

春学期開講の「法哲学A」と連続した内容で授業を行うので、受講者はできる限り「法哲学A」をあわせて履修すること。（履修者の選抜・決定にあたっては、春学期の「法哲学A」を受講済みの学生を優先する。）

あわせて、授業中の私語や入退室を慎む、携帯電話の電源を切るなど、受講上のマナーを厳守すること。

【Outline (in English)】

(Course outline)

This course deals with an explanation of the basic theories and issues in the philosophy of law.

(Learning Objectives)

The goals of this course are to help students understand some basic theories and perspectives of legal philosophy. At the end of this course, students are expected to understand some basic theories of philosophy of law and to form their own opinions on social issues by the perspective of philosophy of law. (Learning activities outside of classroom)

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

(Grading Criteria /Policy)

Final grade will be decided basen on essay assignment (80%)
and submitted comments in class (20%).

POL300LA

教養ゼミ I

2017 年度以降入学者

坂根 徹

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 5/Tue.5

単位数：2 単位

定員制

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本教養ゼミ I（囲碁で培う戦略的思考）は、囲碁のルールや基本的戦略及び歴史等を学び、対局の流れを理解する。このように囲碁を学ぶことを通して、考える力、特に戦略的な思考力を身に付けることを目的とする。また、プレゼンテーション能力の養成も期待される。

【到達目標】

囲碁のルールや基本的戦略及び歴史等を理解し、初学者用の基盤での対局ができるようになることや、それらを通して、戦略的な思考力を身に付けること、及び、囲碁の歴史や現在の囲碁事情を理解することや、それらの学習成果を基に学期末に行う各自の関心に基づく発表の実施などが到達目標となる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

ガイダンスで本ゼミの説明（及び希望者多数の場合は選考又はその準備など）を実施した後、受講者を確定させる。その後囲碁の基本ルールを学び、初学者用の基盤での対局の流れと基本的戦略（初歩的技術）等を学ぶ。最後に、それらの学習成果を基に学期末に行う各自の関心に基づく発表を実施する。なお、発表に対しては授業内で検討・議論・講評等を行う。

以下の計画は、実際のゼミの進捗や履修者数及び授業実施に利用可能なリソース・ツールの有無等により修正・変更されることがある。なお、囲碁研究会からも本ゼミへの協力が想定されている。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	本ゼミの説明（及び希望者多数の場合は選考又はその準備）
第 2 回	囲碁の歴史	囲碁の歴史についての概説
第 3 回	囲碁の基本ルールと効果的な時間外学習方法の紹介	囲碁の基本ルールの説明と本ゼミの効果的な時間外学習の紹介
第 4 回	6 路盤による学習の基本	6 路盤による学習の基本についての説明
第 5 回	6 路盤による学習・実践等 1	6 路盤による学習・実践の開始
第 6 回	6 路盤による学習・実践等 2	6 路盤による学習・実践の継続
第 7 回	6 路盤による学習・実践等 3	6 路盤による学習・実践の継続とまとめ
第 8 回	9 路盤による学習の基本 1	9 路盤による学習の基本についての説明の開始
第 9 回	9 路盤による学習の基本 2	9 路盤による学習の基本についての説明の継続
第 10 回	9 路盤による学習・実践等 1	9 路盤による学習・実践の開始
第 11 回	9 路盤による学習・実践等 2	9 路盤による学習・実践の継続

第 12 回	9 路盤による学習・実践等 3	9 路盤による学習・実践の継続とまとめ
第 13 回	期末プレゼンテーション 1	期末プレゼンテーションの開始
第 14 回	期末プレゼンテーション 2	期末プレゼンテーションの継続とまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本演習の準備・復習に要する時間は 4 時間を標準とする。出された課題の準備・実施や教科書（及び参考書）などによる学習をはじめとした時間外の学習が求められる。

【テキスト（教科書）】

石倉昇, 梅沢由香里, 黒瀧正憲, 兵頭俊夫『東大教養囲碁講座—ゼロからわかりやすく』光文社, 2007 年.

【参考書】

日本棋院『実践囲碁総合演習—入門その後に完全対応』日本棋院, 2014 年.
薬科満治『囲碁文化の魅力と効用』日本評論社, 2008 年.

【成績評価の方法と基準】

授業での学習状況や参加度などの平常点（70%）と期末プレゼンテーション（30%）。

【学生の意見等からの気づき】

該当なし

【学生が準備すべき機器他】

テキスト（教科書）は各自準備する必要がある。その他、囲碁の実習・教育に伴う一部教材への若干の費用が必要になる予定であり、具体的には初回のガイダンスで説明する。

【その他の重要事項】

囲碁を学んだことがない又は学び始めて間もないなどの初学者が対象になる。履修を検討する者は、初回のガイダンスに必ず出席して説明を受け、履修希望の是非を決める。

本科目の定員は 20 名である。履修希望者多数の場合は、初回のガイダンスを含めて選考が実施され、第 2 回目までに履修者が確定される。本科目の履修登録は、履修者として確定してから実施されたい。

【Outline (in English)】

Main theme of this course is to learn the rule and basic strategies of Igo. By taking this course, students are expected to acquire strategic thinking. In addition, students are also expected to nourish presentation skills.

In average, your study time outside of each class will be about 4 hours.

Grading will be decided based on in-class performance and contribution (70%) and final presentations (30%).

HUG300LA

人文地理学セミナー A

2017 年度以降入学者

米家 志乃布

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 4/Tue.4

単位数：2 単位

定員制 (30 名)

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テーマ：東京の「街歩き」コースを提案しよう！本授業は、人文地理学的な街歩きを実践する教養ゼミです。受講生のみなさんが、案内者になったつもりで、東京の「街歩き」コースを提案していただき、それを踏まえて、人文地理学的な地域の見方、考え方について議論します。春学期は、春～夏にかけての東京の街の人文地理学的な見どころを探していただきます。

【到達目標】

本授業では、人文地理学的な「地域」の見方を自ら考えて、実践することを目的とします。履修者がお互いに興味関心をもてるように「東京」を共通フィールドとします。東京には、多様な自然・歴史・文化をもつ様々な街がたくさんあります。その「街歩き」コースを提案することから、多くの発見や気づきがあるでしょう。大学での地理学を学ぶ楽しさを経験し、教養だけでなく、今後の専門学習にも活かしていくことを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

個人あるいはグループ単位で、東京をフィールドにしてテーマを設定し、人文地理学的な「街歩き」コースを提案してもらいます。土日や平日の空き時間を利用して、実際にコースを歩き、その概要を授業時間内にパワーポイントで発表してください。それをもとに、みんなで議論いたします。教員からのコメントも授業内でフィードバックします。教科書には、東京都内各地のフィールド巡検コースが提案されています。それを参考にさせていただいても大丈夫です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	履修者決定 発表順番の調整 スケジュール確定
第 2 回	フィールドワーク①	靖国神社・皇居を巡検する（身近な東京）
第 3 回	東京の人文地理学①	江戸時代から戦前までの東京の変遷を講義する
第 4 回	東京の人文地理学②	戦後から現代までの東京の変遷を講義する
第 5 回	フィールドワーク②	市ヶ谷を巡検する（身近な東京）
第 6 回	メディアにみる外濠	プラタモリ「江戸城外濠」を鑑賞する
第 7 回	街歩きコースの提案①	東京都千代田区のコース
第 8 回	街歩きコースの提案②	東京都中央区のコース
第 9 回	街歩きコースの提案③	東京都新宿区・文京区のコース
第 10 回	街歩きコースの提案④	東京都港区・品川区のコース
第 11 回	街歩きコースの提案⑤	東京都江東区・墨田区のコース
第 12 回	街歩きコースの提案⑥	東京都台東区のコース
第 13 回	街歩きコースの提案⑦	多摩地域のコース

第 14 回 街歩きコースの提案⑧ パワーポイントで発表する
まとめ 提案したコースのなかで最もよかったものを投票で選ぶ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『東京の歴史』第 1 巻～第 10 巻、吉川弘文館

BT12 階の地理学科事務室に備えてあります。必要な箇所をコピーしてください。

【参考書】

適宜、授業内で紹介いたします。

【成績評価の方法と基準】

ゼミ形式の授業なので、平常点 50 %、プレゼンテーションやレポート内容 50 % で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

昨年度、授業内に大学近辺のフィールドワーク（巡検）を実施したところ、好評でしたので、今年度も実施します。

【学生が準備すべき機器他】

発表用の資料は Google クラウドで共有します。学習に支障がないように、PC など機器類を必ず準備してください。

【その他の重要事項】

本授業はゼミ形式のため、希望者多数の際は、履修人数を制限いたします。必ず、初回の授業開始前までに、学習支援システムで仮登録をして、授業に出席してください。履修希望人数を把握し、必要であれば選抜いたします。選抜実施以降の履修希望者はお断りすることになります。

【Outline (in English)】

This class is a liberal arts seminar in which students will practice walking around the city from a human geographical perspective. Students will be asked to propose a "city walking" course in Tokyo as if they were guides, and based on the proposed course, we will discuss human geographical views and perspectives on the region. In the spring semester, students will be asked to find human geographical highlights of the city of Tokyo from spring to summer.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course contents.

Final grade will be calculated according to the following process
Mid-term report and presentation (50%), in-class contribution (50 %).

HUG300LA

人文地理学セミナー B

2017 年度以降入学者

米家 志乃布

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 3/Thu.3

単位数：2 単位

定員制 (30 名)

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テーマ：東京の「街歩き」コースを提案しよう！本授業は、人文地理学的な街歩きを実践する教養ゼミです。受講生のみなさんが、案内者になったつもりで、東京の「街歩き」コースを提案していただき、人文地理学的な地域の見方、考え方について議論します。秋学期は、秋～冬の東京の街の見どころを探していただきます。

【到達目標】

本授業では、人文地理学的な「地域」の見方を自ら考えて、実践することを目的とします。履修者がお互いに興味関心をもてるように「東京」を共通フィールドとします。東京には、多様な自然・歴史・文化をもつ様々な街がたくさんあります。その「街歩き」コースを提案することから、多くの発見や気づきがあるでしょう。地理学を学ぶ楽しさを経験し、教養だけでなく、今後の専門学習にも活かしていくことを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

個人あるいはグループ単位で、東京をフィールドにしてテーマを設定し、人文地理学的な「街歩き」コースを提案してもらいます。土日や平日の空き時間を利用して、実際にコースを歩き、その概要を授業時間内にパワーポイントで発表してください。それをもとに、みんなで議論いたします。教員からのコメントは授業内でフィードバックします。教科書には、東京都内各地のフィールド巡検コースが提案されています。それを参考にしてくださいで大丈夫です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	履修者決定 発表順番の調整 スケジュール確定
第 2 回	フィールドワーク①	番町・四ツ谷を巡検する（身近な東京）
第 3 回	東京の人文地理学①	江戸時代から戦前までの東京の変遷を講義する
第 4 回	東京の人文地理学②	戦後から現代までの東京の変遷を講義する
第 5 回	フィールドワーク②	神楽坂を巡検する（身近な東京）
第 6 回	メディアにみる東京	NHK スペシャル「東京」の特集を鑑賞する
第 7 回	街歩きコースの提案①	東京都千代田区・中央区のコース
第 8 回	街歩きコースの提案②	東京都新宿区・中野区のコース
第 9 回	街歩きコースの提案③	東京都渋谷区のコース
第 10 回	街歩きコースの提案④	東京都世田谷区のコース
第 11 回	街歩きコースの提案⑤	東京都目黒区のコース
第 12 回	街歩きコースの提案⑥	東京都杉並区のコース
第 13 回	街歩きコースの提案⑦	多摩地域のコース
第 14 回	街歩きコースの提案⑧	パワーポイントで発表する 提案したコースのなかで最もよかったものを投票で選ぶ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『東京の歴史』第 1 巻～第 10 巻 吉川弘文館
B T 12 階の地理学教科事務室に備えてありますので、適宜必要な箇所をコピーして利用してください。

【参考書】

適宜、授業内で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

ゼミ形式の授業なので、平常点 50 %、プレゼンテーションやレポート内容 50 % で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

昨年度、授業内に大学近辺のフィールドワーク（巡検）を実施したところ、好評でしたので、今年度も実施します。

【学生が準備すべき機器他】

発表用資料などを Google クラウドで共有をします。学習に支障がないように PC など機器類を必ず準備してください。

【その他の重要事項】

本授業はゼミ形式のため、希望者多数の際は、履修人数を制限いたします。必ず、初回の授業までに、学習支援システムで仮登録をして出席してください。履修希望人数を把握し、必要あれば選抜いたします。選抜実施以降の履修希望者はお断りすることになります。

【Outline (in English)】

This class is a liberal arts seminar in which students will practice walking around the city from a human geographical perspective. Students will be asked to propose a "city walking" course in Tokyo as if they were guides, and we will discuss how to view and think about the region from a human geographical perspective.

In the fall semester, students will be asked to find out the highlights of Tokyo in the fall and winter.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course contents.

Final grade will be calculated according to the following process
Mid-term report and presentation (50%), in-class contribution (50%) .

CUA300LA

文化人類学方法論 A

2017 年度以降入学者

石森 大知

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 3/Wed.3

単位数：2 単位

定員制 (30 名)

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、開発援助や国際協力に関するテーマを文化人類学的な視点から扱います。文化人類学の基本的な理論や概念の習得を目標とするとともに、開発、貧困、紛争、災害などに関する現代的な諸テーマも取り上げながら、グローバル・イシューにアプローチするための基本的な視座を養います。

【到達目標】

- ・文化人類学、開発人類学の専門的な概念や理論を習得する。
- ・世界の諸地域に暮らす人びとの文化や社会の多様性を認識し、グローバルな問題とローカルな問題のかかわり合いを看取する能力を身に付ける。
- ・文献の内容をただ理解するだけではなく、批判的な読み方をできるようにする。その作業を通して、自らの問題関心と関連付けて考えられるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

- ・本授業では、基本的に毎回発表者を立てる（主に履修者による発表・輪読の形式で授業を進めるが、適宜講義も取り入れる）。発表者はレジュメに基づいて発表し、それを受けて履修者全員で討論を行う。よって全ての履修者は文献を熟読の上で授業に参加すること。
- ・履修者から出された興味深いコメントや質問等を授業内で取り上げ、全体に対してフィードバックを行うとともに、さらなる議論に活かします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の進め方とスケジュール、履修上の注意、発表順の決定
第 2 回	開発援助とは何か①	開発の歴史と関連概念
第 3 回	開発援助とは何か②	開発の理論と人類学者の立ち位置
第 4 回	人類学と開発問題①	（文献の発表・討論）開発人類学の展開
第 5 回	人類学と開発問題②	（文献の発表・討論）文化人類学と開発のつながり／へだたり
第 6 回	開発実践の現場から①	（文献の発表・討論）フィールドワークと現地の視点
第 7 回	開発実践の現場から②	（文献の発表・討論）開発とジェンダー
第 8 回	開発実践の現場から③	（文献の発表・討論）公衆衛生・保健医療
第 9 回	援助と互酬性①	（文献の発表・討論）変貌する NGO・市民活動の現場
第 10 回	援助と互酬性②	（文献の発表・討論）グローバルな互酬を構想する
第 11 回	アクターの多層性①	（文献の発表・討論）学生の海外ボランティア
第 12 回	アクターの多層性②	（文献の発表・討論）宗教者・宗教団体による開発

第 13 回 新たな関係性の構築 （文献の発表・討論）理念と実践の隔たりから考える

第 14 回 総括 春学期のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・輪読に使用する文献の予習・復習を行う（発表担当者かどうかに関わらず文献を熟読）。
- ・図書館などで関連文献を探し、授業の理解を深める。
- ・発表のための資料作成やプレゼンテーションの練習を行う。
- ・本授業の準備学修・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教科書はとくに指定せず、必要に応じて関連資料を配布します。

【参考書】

石森大知・丹羽典生編『宗教と開発の人類学—グローバル化するポスト世俗主義と開発言説』春風社、2019 年。
関根久雄編『実践と感情—開発人類学の新展開』春風社、2015 年。
佐藤寛・藤掛洋子編『開発援助と人類学—冷戦・蜜月・パートナーシップ』明石書店、2011 年。
小國和子ほか編『支援のフィールドワーカー—開発と福祉の現場から』世界思想社、2011 年。
（以上のほか、授業時に適宜紹介します）

【成績評価の方法と基準】

討論・発表内容、授業への参加態度など平常点（70 %）を重視するとともに、授業内で課す予定のレポートやレジュメの内容（30 %）も評価対象とする。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60 % 以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

文字や音声などの情報だけではなく、できるだけ多くの写真や映像資料を用いることで授業内容の理解を促すようにする。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布・課題提出等のために授業支援システムを利用します。

【その他の重要事項】

- ・第 1 回目授業には必ず出席してください。事前の連絡や相談もなく第 1 回目授業を欠席した場合は原則、履修を認めません。
- ・毎回の授業で履修者全員に「文献へのコメント」の提出を課します。この点を承知のうえで履修してください。
- ・対面をオンラインで同時配信するハイフレックス型授業は実施しません。
- ・履修者数の多寡やその他の事由により授業計画等に変更が生じることもあります。その場合は、授業内もしくは学習支援システムで周知します。

【Outline (in English)】

This course introduces the foundations of cultural anthropology, especially concerning on the development. The goals of this course are to obtain basic concepts and theories of the anthropology of development, and understand the impacts of development on the local culture, environment and society. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Grading will be decided based on briefing paper and report (30%) and in class contribution (70%).

CUA300LA

文化人類学方法論B

2017年度以降入学者

石森 大知

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 3/Wed.3

単位数：2単位

定員制（30名）

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、観光に関するテーマを文化人類学的な視点から扱います。観光の現場では、ローカルな文化・環境・宗教などが新たな意味や価値をもつものとして資源化され、ナショナルおよびグローバルな文脈に位置づけられる現象が起こっています。観光客を迎える人たち（＝ホスト）はいかに資源化をおこない、観光客（＝ゲスト）はそれをどのように経験するのでしょうか。また、ゲストとホストの双方にとってより良い観光とは何でしょうか。本授業では、これらの問いや疑問について考察します。

【到達目標】

- ・文化人類学、観光人類学の専門的な概念や理論を習得する。
- ・観光に関する国内外の事例を学ぶことを通して、グローバル化時代の観光現象を広い視野から理解する能力を身に付ける。
- ・文献の内容をただ理解するだけでなく、批判的な読み方をできるようにする。その作業を通して、自らの問題関心と関連付けて考えられるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

- ・本授業では、基本的に毎回発表者を立てる（主に履修者による発表・輪読の形式で授業を進めるが、適宜講義も取り入れる）。発表者はレジュメに基づいて発表し、それを受けて履修者全員で討論を行う。よって全ての履修者は文献を熟読の上で授業に参加すること。
- ・履修者から出された興味深いコメントや質問等を授業内で取り上げ、全体に対してフィードバックを行うとともに、さらなる議論に活かします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業の進め方とスケジュール、履修上の注意、発表順の決定
第2回	観光の形態	（全員発表）観光・ツーリズムの諸形態を調べ、履修者全員によるオンライン発表
第3回	観光とは何か	（講義と討論）その歴史と定義をめぐって
第4回	観光と文化	（講義と討論）観光の現場で創られる文化
第5回	環境と観光	（文献の発表と討論）マストツーリズムの歴史
第6回	ノスタルジアと観光	（文献の発表と討論）岩手県遠野のふるさと観光
第7回	世界遺産と観光	（文献の発表と討論）文化の資源化
第8回	まちづくりと観光①	（文献の発表と討論）その可能性と課題
第9回	まちづくりと観光②	（文献の発表と討論）小江戸・川越の事例

第10回	宗教と観光	（文献の発表と討論）宗教／聖地ツーリズム
第11回	そのほかの観光①	（文献の発表と討論）ダークツーリズム
第12回	そのほかの観光②	（文献の発表と討論）アニメ聖地巡礼
第13回	そのほかの観光③	（文献の発表と討論）アフターコロナと観光
第14回	総括	秋学期のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・輪読に使用する文献の予習・復習を行う（発表担当者かどうかに関わらず文献を熟読）。
- ・図書館などで関連文献を探し、授業の理解を深める。
- ・発表のための資料作成やプレゼンテーションの練習を行う。
- ・本授業の準備学修・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教科書はとくに指定せず、必要に応じて関連資料を配布します。

【参考書】

山下晋司『観光人類学の挑戦―「新しい地球」の生き方』講談社、2009年。
 山中弘編『宗教とツーリズム―聖なるものの変容と持続』世界思想社、2012年。
 橋本和也『地域文化観光論―新たな観光学への展望』ナカニシヤ出版、2016年。
 市野澤潤平ほか編『観光人類学のフィールドワーカー―ツーリズム現場の質的調査入門』ミネルヴァ書房、2021年。
 市野澤潤平編『基本概念から学ぶ観光人類学』ナカニシヤ出版、2022年。
 （以上のほか、授業時に適宜紹介します）

【成績評価の方法と基準】

討論・発表内容、授業への参加態度など平常点（70%）を重視するとともに、授業内で課す予定のレポートやレジュメの内容（30%）も評価対象とする。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

文字や音声などの情報だけではなく、できるだけ多くの写真や映像資料を用いることで授業内容の理解を促すようにする。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布・課題提出等のために授業支援システムを利用します。

【その他の重要事項】

- ・第1回目授業には必ず出席してください。事前の連絡や相談もなく第1回目授業を欠席した場合は原則、履修を認めません。
- ・毎回の授業で履修者全員に「文献へのコメント」の提出を課します。この点を承知のうえで履修してください。
- ・対面をオンラインで同時配信するハイフレックス型授業は実施しません。
- ・履修者数の多寡やその他の事由により授業計画等に変更が生じることもあります。その場合は、授業内もしくは学習支援システムで周知します。

【Outline (in English)】

This course introduces the foundations of cultural anthropology, especially concerning on the tourism. The goals of this course are to obtain basic concepts and theories of the anthropology of tourism, and understand the impacts of tourism on the local culture, environment and society. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Grading will be decided based on briefing paper and report (30%) and in class contribution (70%).

POL300LA

教養ゼミ I

2017 年度以降入学者

犬塚 元

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 2/Mon.2

単位数：2 単位

定員制

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「古典を翻訳する」という副題のとおり、英文の古典をわかりやすい日本語に翻訳する作業を一緒におこなうゼミです。担当教員が作成した日本語訳を、毎回の授業で、すこしずつ検討していきます。扱うテキストは、デイヴィッド・ヒューム『人間本性論』（David Hume, A Treatise of Human Nature）という、哲学史で有名な著作です。月曜 2 限。

【到達目標】

- ・翻訳家や編集者の仕事に興味のある人
- ・古典や哲学に興味のある人
- ・英文翻訳のスキルアップをめざす人
- ・機械翻訳（DeepL）の正確さ・精度をたしかめてみたい人など、各人の目的にあわせた能力を高めます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

担当教員が作成した日本語訳を、毎回、すこしずつ（A4 用紙で 1～2 枚の分量をめぐり）検討していきます。

受講者は各回の授業の前に、教員作成の日本語訳を読んだり、英語原文や、既存の日本語訳や、機械翻訳（DeepL）による日本語訳などと比べたりしながら、（1）日本語としてわかりにくい箇所、（2）英語の読解として疑問がある箇所、などをリストアップしておく必要があります。

学期最初は対面形式で実施しますが、慣れてきたら、隔週をめぐりオンライン形式で実施することを計画しています。課題等のフィードバックは、授業時間内におこないます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	はじめに	ゼミのすすめかた
2	翻訳の検討	『人間本性論』
3	翻訳の検討	『人間本性論』
4	翻訳の検討	『人間本性論』
5	翻訳の検討	『人間本性論』
6	翻訳の検討	『人間本性論』
7	翻訳の検討	『人間本性論』
8	翻訳の検討	『人間本性論』
9	翻訳の検討	『人間本性論』
10	翻訳の検討	『人間本性論』
11	翻訳の検討	『人間本性論』
12	翻訳の検討	『人間本性論』
13	翻訳の検討	『人間本性論』
14	翻訳の検討	『人間本性論』

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に、翻訳文を読んだり、英語原文や既存の日本語訳などと比べたりしながら、（1）日本語としてわかりにくい箇所、（2）英語の読解として疑問がある箇所、などをリストアップしておく必要があります。（大学設置基準に鑑みた場合、準備・復習時間は講義及び演習（2 単位）では 1 回につき 4 時間以上が標準となります。）

【テキスト（教科書）】

David Hume, A Treatise of Human Nature

（哲学史においてきわめて有名なテキストです。『人間本性論』や『人性論』などのタイトルで、すでに日本語訳がいくつか存在しています。）英文テキストはオンラインで参照することができますので、テキストを事前に購入する必要はありません。

【参考書】

ヒュームについての概説書・入門書を読んでおくと、よいかもかもしれません。

【成績評価の方法と基準】

平常点（理解度、ディスカッションへの貢献）100 点

欠席・遅刻・早退をせずに毎回参加することが成績評価の前提です。

【学生の意見等からの気づき】

コミュニケーションを重視します。

【学生が準備すべき機器他】

オンライン授業に対応できる機器一式。学年や学部は問いませんし、事前に特別の知識は必要ありませんが、分からないことは調べてみる積極的な姿勢があると望ましい。

【その他の重要事項】

担当教員は、法学部政治学科所属。これまで、ヒュームの著作をいくつか翻訳してきました（直近では、ヒューム『自然宗教をめぐる対話』岩波文庫、2020年）。今回、あらたに、ヒュームのもっとも有名な著作『人間本性論』を翻訳することとしました。けっして易しいテキストではありませんが、高校生・大学生が読んで理解できる翻訳をつくりたいと考えています。一緒に作業をおこなっていきましょう。

【Outline (in English)】

Hands-on Training in Translation: Translating Hume's Treatise into Japanese. This class contribute to the improvement of your English-Japanese translation skills and your understanding on the history of Western philosophy. Students are required to prepare for the class outside of class time for the time required by the national standards. Students will be graded on the basis of their regular performance.

POL300LA

教養ゼミⅡ

2017年度以降入学者

犬塚 元

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 2/Mon.2

単位数：2 単位

定員制

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「古典を翻訳する」という副題のとおり、英文の古典をわかりやすい日本語に翻訳する作業を一緒におこなうゼミです。担当教員が作成した日本語訳を、毎回の授業で、すこしずつ検討していきます。扱うテキストは、デイヴィッド・ヒューム『人間本性論』（David Hume, A Treatise of Human Nature）という、哲学史で有名な著作です。月曜2限。教養ゼミⅠの続きです。

【到達目標】

- ・翻訳家や編集者の仕事に興味のある人
- ・古典や哲学に興味のある人
- ・英文翻訳のスキルアップをめざす人
- ・機械翻訳（DeepL）の正確さ・精度をたしかめてみたい人

など、各人の目的にあわせた能力を高めます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

担当教員が作成した日本語訳を、毎回、すこしずつ（A4用紙で1～2枚の分量をめぐり）検討していきます。

受講者は各回の授業の前に、教員作成の日本語訳を読んだり、英語原文や、既存の日本語訳や、機械翻訳（DeepL）による日本語訳などと比べたりしながら、（1）日本語としてわかりにくい箇所、（2）英語の読解として疑問がある箇所、などをリストアップしておく必要があります。

学期最初は対面形式で実施しますが、慣れてきたら、隔週をめぐりオンライン形式で実施することを計画しています。課題等のフィードバックは、授業時間内におこないます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	はじめに	ゼミのすすめかた
2	翻訳の検討	『人間本性論』
3	翻訳の検討	『人間本性論』
4	翻訳の検討	『人間本性論』
5	翻訳の検討	『人間本性論』
6	翻訳の検討	『人間本性論』
7	翻訳の検討	『人間本性論』
8	翻訳の検討	『人間本性論』
9	翻訳の検討	『人間本性論』
10	翻訳の検討	『人間本性論』
11	翻訳の検討	『人間本性論』
12	翻訳の検討	『人間本性論』
13	翻訳の検討	『人間本性論』
14	翻訳の検討	『人間本性論』

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に、翻訳文を読んだり、英語原文や既存の日本語訳などと比べたりしながら、（1）日本語としてわかりにくい箇所、（2）英語の読解として疑問がある箇所、などをリストアップしておく必要があります。（大学設置基準に鑑みた場合、準備・復習時間は講義及び演習（2単位）では1回につき4時間以上が標準となります。）

【テキスト（教科書）】

David Hume, A Treatise of Human Nature

（哲学史においてきわめて有名なテキストです。『人間本性論』や『人性論』などのタイトルで、すでに日本語訳がいくつか存在しています。）英文テキストはオンラインで参照することができますので、テキストを事前に購入する必要はありません。

【参考書】

可能であれば、ヒュームについての概説書・入門書を読んでおくと、よいかもかもしれません。

【成績評価の方法と基準】

平常点（理解度、ディスカッションへの貢献）100点
欠席・遅刻・早退をせずに毎回参加することが成績評価の前提です。

【学生の意見等からの気づき】

コミュニケーションを重視します。

【学生が準備すべき機器他】

オンライン授業に対応できる機器一式。学年や学部は問いませんし、事前に特別の知識は必要ありませんが、分からないことは調べてみる積極的な姿勢があると望ましい。

【その他の重要事項】

担当教員は、法学部政治学科所属。これまで、ヒュームの著作をいくつか翻訳してきました（直近では、ヒューム『自然宗教をめぐる対話』岩波文庫、2020年）。今回、あらたに、ヒュームのもっとも有名な著作『人間本性論』を翻訳することとしました。けっして易しいテキストではありませんが、高校生・大学生が読んで理解できる翻訳をつくりたいと考えています。一緒に作業をおこなっていきましょう。

【Outline (in English)】

Hands-on Training in Translation: Translating Hume's Treatise into Japanese. This class contribute to the improvement of your English-Japanese translation skills and your understanding on the history of Western philosophy. Students are required to prepare for the class outside of class time for the time required by the national standards. Students will be graded on the basis of their regular performance.

PSY300LA

人間行動学 A

2017 年度以降入学者

久木田 敦志

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 3/Fri.3

単位数：2 単位

定員制 (30 名)

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ポジティブ心理学は「よい生き方」に係る多様な心理的働きを科学的に探究する学術分野です。人間行動学 A・B では同分野の研究から「何が人生を生きるに値するものに至らしめるか」という包括的な問いに対する心理学的知見を得、人間に内在する心理の本質とその行動的帰着について学びます。多角的視点と深い洞察を通じて日常生活をより充実したものにし得る気づきの一助となることを目指します。

【到達目標】

人間行動学 A（春学期）ではミハイ・チクセントミハイ著『フロー体験 喜びの現象学』を読み解きます。「最適経験」とも形容されるフロー現象。スポーツ等の文脈では「ゾーンに入る」と表現されることもあります。我を忘れるほどの没入感を伴って眼前の課題にのめり込む心理現象であるフロー状態を様々な角度から考察し、心理学的理論に照らしながらその心の働きと行動への影響について具体的な理解を深めつつ、実践的視点から日常の経験を振り返ります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は対面で実施予定です。主にゼミ形式で受講者による報告・討論を中心に進めるため、受講者の関心や授業の展開などによって授業計画の変更もあり得ます。その他の詳細は第 1 回時に説明します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	ゼミの概要説明 イントロダクション
第 2 回	発表・討論	第 1 章「幸福の再来」
第 3 回	発表・討論	第 2 章「意識の分析」
第 4 回	発表・討論	第 3 章「楽しさと生活の質」
第 5 回	発表・討論	第 4 章「フローの条件」
第 6 回	発表・討論	フローの計測
第 7 回	発表・討論	経験抽出法 (ESM)
第 8 回	発表・討論	第 5 章「身体フロー」
第 9 回	発表・討論	第 6 章「思考のフロー」
第 10 回	発表・討論	第 7 章「フローとしての仕事」
第 11 回	発表・討論	第 8 章「孤独と人間関係の楽しさ」
第 12 回	発表・討論	第 9 章「カオスへの対応」
第 13 回	発表・討論	第 10 章「意味の構成」
第 14 回	総括	授業のまとめを行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

ミハイ・チクセントミハイ著『フロー体験 喜びの現象学』（世界思想社、1996 年）

【参考書】

教科書以外の参考文献は授業中に別途指示します。

【成績評価の方法と基準】

平常点 (100%)：報告・発表およびディスカッション（討論）での参加姿勢・貢献度などを総合的に評価。成績評価項目の詳細は第 1 回時に説明します。試験はありません。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【Outline (in English)】

Course Outline:

Positive psychology is an academic field that is built upon scientific investigations of psychological mechanisms behind a "good life." Drawing on the findings from the field that concern the question of "what makes life worth living," Human Behavioral Science A and B will help students expand their knowledgebase of the human mind and its inherent psychological underpinnings as well as their behavioral outcomes. The multifaceted insight acquired in the course would help students navigate a path toward an enriched everyday life.

Learning Objectives:

In Human Behavioral Science A, "Flow — The Psychology of Optimal Experience" by Mihaly Csikszentmihalyi will be thoroughly covered. The phenomenon called flow, also expressed as optimal experience, or "being in the zone" in sports context, entails a state of complete absorption into a task at hand, so deep that even the sense of self is pushed out of consciousness. By acquiring a tangible understanding of the psychological workings behind flow and its behavioral consequences from multiple perspectives, students will also reflect on their daily life for its applicability.

Learning Activities Outside of Classroom:

The expected time commitment in preparation for and reviewing after a class meeting is two hours each per week.

Grading Criteria/Policy:

Students will be evaluated based on the quality of their reports and presentations as well as their commitment and contribution to class discussions. Details are provided during the first meeting. No exams are given.

PSY300LA

人間行動学 B

2017 年度以降入学者

久木田 敦志

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 3/Fri.3

単位数：2 単位

定員制 (30 名)

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ポジティブ心理学は「よい生き方」に係る多様な心理的働きを科学的に探究する学術分野です。人間行動学 A・B では同分野の研究から「何が人生を生きるに値するものに至らしめるか」という包括的な問いに対する心理学的知見を得、人間に内在する心理の本質とその行動的帰着について学びます。多角的視点と深い洞察を通じて日常生活をより充実したものにし得る気づきの一助となることを目指します。

【到達目標】

人間行動学 B (秋学期) ではクリストファー・ピーターソン著『ポジティブ心理学入門: 「よい生き方」を科学的に考える方法』を精読し、ウェルビーイングについての科学研究を多角的に学びます。「幸せ」の多面的側面に触れ、その心理学研究の展開を追うことで、よりよく生きるための方途を模索し、その過程にある人間の心理と行動への理解を深めます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は対面で開催予定です。主にゼミ形式で受講者による報告・討論を中心に進めるため、受講者の関心や授業の展開などによって授業計画の変更もあり得ます。その他の詳細は第 1 回時に説明します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	ゼミの概要説明 イントロダクション
第 2 回	発表・討論	第 1 章「ポジティブ心理学とは何か？」
第 3 回	発表・討論	第 2 章「ポジティブ心理学について学ぶとは」
第 4 回	発表・討論	第 3 章「気持ちよさとポジティブな経験」
第 5 回	発表・討論	第 4 章「幸せ」
第 6 回	発表・討論	第 5 章「ポジティブ思考」
第 7 回	発表・討論	第 6 章「強みとしての徳性」
第 8 回	発表・討論	第 7 章「価値観」
第 9 回	発表・討論	第 8 章「興味、能力、達成」
第 10 回	発表・討論	第 9 章「ウェルネス」
第 11 回	発表・討論	第 10 章「ポジティブな対人関係」
第 12 回	発表・討論	第 11 章「よい制度」
第 13 回	発表・討論	第 12 章「ポジティブ心理学の未来」
第 14 回	総括	授業のまとめを行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

クリストファー・ピーターソン著『ポジティブ心理学入門: 「よい生き方」を科学的に考える方法』（春秋社、2012 年）

【参考書】

教科書以外の参考文献は授業中に別途指示します。

【成績評価の方法と基準】

平常点 (100 %) : 報告・発表およびディスカッション (討論) での参加姿勢・貢献度などを総合的に評価。成績評価項目の詳細は第 1 回時に説明します。試験はありません。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【Outline (in English)】

Course Outline:

Positive psychology is an academic field that is built upon scientific investigations of psychological mechanisms behind a "good life." Drawing on the findings from the field that concern the question of "what makes life worth living," Human Behavioral Science A and B will help students expand their knowledgebase of the human mind and its inherent psychological underpinnings as well as their behavioral outcomes. The multifaceted insight acquired in the course would help students navigate a path toward an enriched everyday life.

Learning Objectives:

In Human Behavioral Science B, "A Primer in Positive Psychology" by Christopher Peterson will be used as the main text to examine a wide range of scientific studies on well-being. Through exposure to multidimensional definitions of "happiness" and following the course of psychological investigations on the topic, students will reflect on their personal endeavors for a good life while deepening their understanding of human psychology and behavior involved in the process.

Learning Activities Outside of Classroom:

The expected time commitment in preparation for and reviewing after a class meeting is two hours each per week.

Grading Criteria/Policy:

Students will be evaluated based on the quality of their reports and presentations as well as their commitment and contribution to class discussions. Details are provided during the first meeting. No exams are given.

ARSe300LA

沖縄を考える A

2017 年度以降入学者

サブタイトル：

明田川 融、大里 知子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 3/Fri.3

単位数：2 単位

この授業は「Web 履修抽選対象授業」です。抽選エントリー期間は 2023 年 4 月 3 日（月）10：00～5 日（水）17：00、結果発表は 4 月 6 日（木）22：00（予定）です。履修ガイド (<https://hosei-keiji.jp/ilac/rishuguide2023/>) を確認のうえ、情報システムから期間内にエントリーしてください。

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は、沖縄の歴史、文化、社会について学ぶことを目的としている。かつてひとつの独立した国であった琉球国の版図、奄美諸島から先島諸島（宮古・八重山）までの地域を対象に考察する。日本に併合されて以降、現在も続いている構造的な問題にも着目し、沖縄を知ることで、実は日本の姿が見えてくるということの気づきを得る。

【到達目標】

毎回、授業内容に対するミニレポートを書くことで、理解を形にして残し、沖縄の歴史と現在を知り、日本と沖縄の関係あるいは日本の政治・経済・文化のあり方について相対化して考える能力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

歴史、民俗、言語、政治、経済、文学、芸術等々、各分野で活躍する研究者を招聘して講義をしてもらう。現時点では講師と授業回がすべてでは確定していないが、決定したところから沖縄文化研究所 HP で公開するので、そちらを参照してほしい。

なお、本授業は複数の講師によるオムニバス形式なので、ミニレポートに関するフードバックは、受講生の要望に常に配慮しながら、学習支援システム等を用い学年末を含め随時行なう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス（担当：明田川融）	受講にあたっての諸注意、沖縄という地域についてなど
2	沖縄を知るための基礎知識①（担当：大里知子）	沖縄についての調べ方、学習の仕方
3	沖縄を知るための基礎知識②（担当：大里知子）	沖縄の歴史と現在の問題に関する概説
4	未定	未定
5	未定	未定
6	未定	未定
7	未定	未定
8	未定	未定
9	未定	未定
10	未定	未定
11	未定	未定
12	未定	未定
13	未定	未定

14 春学期のまとめ（担当 春学期の振り返りと学期末の課題：大里知子）（レポート）について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1. 図書館、沖縄文化研究所閲覧室等を利用して、沖縄という地域の位置や沖縄の歴史についての一般的な知識を得ておくことが望ましい。
2. 毎回ミニレポートを提出してもらうので、事前もしくは事後に講義テーマについて調べておくことが望ましい。
3. 本授業の準備・復習時間は、各 1 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

指定しない。毎回の講師の著作等を紹介する。

【参考書】

なし。各回の講演に関連する諸文献を参照してほしい。

【成績評価の方法と基準】

学期末レポート（70 %）と、毎回のミニレポート（15 %）、対面出席票（15 %）とで評価する。期末レポートでは、当該期に行われた講義に関連するテーマに関して、自ら文献を読み理解を深め、自分のアタマで考えて書いたものを高く評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【Outline (in English)】

This course is to know and appreciate Okinawa and Okinawan culture. It consists of some lectures by the experts and specialists who are investigating Okinawa and Okinawan culture.

Before and after each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided on the following Term-end report:(70 %), Short reports:(30%),and in-class contribution.

ARSe300LA

沖縄を考える B

2017 年度以降入学者

サブタイトル：

明田川 融、大里 知子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 3/Fri.3

単位数：2 単位

この授業は「Web 履修抽選対象授業」です。抽選エントリー期間は 2023 年 4 月 3 日（月）10：00～5 日（水）17：00、結果発表は 4 月 6 日（木）22：00（予定）です。履修ガイド (<https://hosei-keiji.jp/ilac/rishuguide2023/>) を確認のうえ、情報システムから期間内にエントリーしてください。

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は、沖縄の歴史、文化、社会について学ぶことを目的としている。かつてひとつの独立した国であった琉球国の版図、奄美諸島から先島諸島（宮古・八重山）までの地域を対象に考察する。日本に併合されて以降、現在も続いている構造的な問題にも着目し、沖縄を知ることで、実は日本の姿が見えてくるということの気づきを得る。

【到達目標】

毎回、授業内容に対するミニレポートを書くことで、理解を形にして残し、沖縄の歴史と現在を知り、日本と沖縄の関係あるいは日本の政治・経済・文化のあり方について相対化して考える能力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

歴史、民俗、言語、政治、経済、文学、芸術等々、各分野で活躍する研究者を招聘して講義をしてもらう。現時点では講師と授業回がすべては確定していないが、決定したところから沖縄文化研究所 HP で公開するので、そちらを参照してほしい。

なお、本授業は複数の講師によるオムニバス形式なので、ミニレポートに関するフィードバックは、受講生の要望に常に配慮しながら、学習支援システム等を用い学年末を含め随時行なう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス（担当：明田川融 大里知子）	受講にあたっての諸注意、沖縄という地域についてなど
2	未定	未定
3	未定	未定
4	未定	未定
5	未定	未定
6	未定	未定
7	未定	未定
8	未定	未定
9	未定	未定
10	未定	未定
11	未定	未定
12	未定	未定
13	未定	未定
14	秋学期のまとめ（担当：大里知子）	秋学期の振り返りと学期末の課題（レポート）について

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1. 図書館、沖縄文化研究所閲覧室等を利用して、沖縄という地域の位置や沖縄の歴史についての一般的な知識を得ておくことが望ましい。
2. 毎回ミニレポートを提出してもらうので、事前もしくは事後に講義テーマについて調べておくことが望ましい。
3. 本授業の準備・復習時間は、各 1 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

指定しない。毎回の講師の著作等を紹介する。

【参考書】

なし。各回の講演に関連する諸文献を参照してほしい。

【成績評価の方法と基準】

学期末レポート（70 %）と毎回のミニレポート（15 %）、対面出席票（15 %）とで評価する。期末レポートでは、当該期に行われた講義に関連するテーマに関して、自ら文献を読み理解を深め、自分のアタマで考えて書いたものを高く評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【Outline (in English)】

This course is to know and appreciate Okinawa and Okinawan culture. It consists of some lectures by the experts and specialists who are investigating Okinawa and Okinawan culture.

Before and after each class meeting, students will be expected to spend one hours to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided on the following Term-end report:(70 %), Short reports:(30%),and in-class contribution.

ECN300LA

ヨーロッパ政治経済論 A

2017 年度以降入学者

千葉 千尋

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 3/Tue.3

単位数：2 単位

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ヨーロッパ政治経済論 A では、国際政治経済学の基礎理論を学んだ上で、国際体制の基本構造とその体制の中で主軸となってきたヨーロッパの歴史的展開を、EU の経済政治統合（EU 統合）の歩みとともに学んでいきます。そしてグローバル市場化の進行による国際体制の構造的変容の中での EU の新たな立ち位置を踏まえて、世界が直面する様々な課題（ウクライナ戦争など）に対し考察出来るベースを身に付けていくことを目指します。

【到達目標】

・政治経済学的アプローチを身に付けられる。
 ・世界動向への基盤となる基礎知識を体系的に身に付けられる。
 ・米中だけでなく、もう 1 つの主軸であるヨーロッパを知ることで、国際社会の変容と直面する問題を体系的に把握し、それらを解釈、論議していける力を身につけられる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式を基本とします。
 後半にグループディスカッションが入ります。
 最終回に試験を実施します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	政治と経済 国際体制の変容の理論 学際的アプローチとしての国際政治経済学
2	国際政治経済学基礎理論 1	国際秩序と国際ガバナンス構造を巡る体制論 (理念、思想としてのリアリズム、リベラリズム、マルクス主義)
3	国際政治経済学基礎理論 2	新たな学際アプローチへの基礎理論 (重商主義、バランスオブパワーの基礎理論としての古典派経済学 (アダム・スミス、リカード、J.B セイ))
4	国際政治経済学基礎理論 3	「埋め込まれた自由主義」と国際協調への理論基礎 (ケインズ経済学の思想と理論)
5	19 世紀ガバナンス体制	19 世紀ガバナンス体制の成立と行き詰まり
6	ブレトンウッズ体制	戦後ブレトンウッズ体制の成立と展開
7	欧州統合の展開 1	ブレトンウッズ体制の姉妹軸としての欧州統合の展開
8	欧州統合の展開 2	EC から EU へ 統合深化と拡大の歩み 欧州連合の成立とユーロの誕生

9	グローバル市場化の進 行と国際ガバナンスの 分断	グローバル化の進行 グローバル化の暴走と世界金融 危機 (リーマンショックの展開と衝撃)
10	グローバル市場化と国 際ガバナンスの分断	欧州国家債務危機 EU ソブリン危機の波及と帰結
11	反グローバリズムの台 頭と EU の分断危機	世界格差の進行と反グローバリズ ムの台頭 閉じる帝国化とレジリエンス 歴史的危機の位相
12	反グローバリズムの波 及と反統合、EU 民主 主義の危機	反グローバリズムの世界的台頭と 極右反欧州主義勢力の台頭 政治分断化と EU 民主主義の危機
13	EU の東欧拡大とウク ライナ戦争	EU 統合拡大の文脈から見たウク ライナ戦争
14	期末試験およびまとめ	期末試験を実施 まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業は、各回の準備学習 1 時間、復習時間 3 時間程度を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特にありません。

【参考書】

参考書、文献、資料などは、各回必要に応じてお知らせします。

【成績評価の方法と基準】

期末試験 = 80 %

課題およびディスカッション評価：20%

【学生の意見等からの気づき】

新聞講科目のため、特にありません。

【学生が準備すべき機器他】

特にありません。

【その他の重要事項】

「ヨーロッパ政治経済論 B」では、直面する問題と EU の新たな役割、日本への示唆へと発展的に学びを進めるので、合わせて受講することをお勧めします。

【Prerequisite】

None.

【Outline (in English)】

This course provides a comprehensive overview to Political Economy mainly focused on Europe. The subject contains mainstream theoretical approaches as well as case studies to provide further understanding on world issues.

At the end of the course, students

- Should have gained a good grasp of the fundamental themes, concepts, theories and approaches of political economy.
- Should have comprehensive knowledge about the EU and its relation in the world.
- Should have acquired a firm base for pursuing further studies in political economy as well as ongoing crisis in the world.

Your required study time is at least one hour before class and three hours after each class.

Your overall grade will be decided 80% on Term-end examination and 20 % on reports as well as contribution in discussions.

ECN300LA

ヨーロッパ政治経済論 B

2017 年度以降入学者

千葉 千尋

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 3/Tue.3

単位数：2 単位

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ヨーロッパ政治経済論 B では、ヨーロッパ政治経済論 A で学んだ内容を掘り下げ、世界経済のグローバル統合の進行に伴う国際社会の構造変化、国際ガバナンス構造の変容が生じた問題、課題への学習を進めます。具体的には、グローバル市場化と国際経済構造の変容、グローバル市場化の暴走と社会の分断、EU の分断化と政治危機、市場と国家の力学構造の変質等を取り上げ、EU が地域統合の発展過程で培ってきた多様性の中での統合の知見とソフトパワーの活用を含め、変容する国際社会の中で、現在直面する様々な課題（ウクライナ戦争など）に対する EU の新たな立ち位置と役割を考察していきます。欧州の歴史上の展開と国際ガバナンス体制の変容の実態を深く理解することで、グローバルな視点から日本への示唆を考察していく知識と力も同時に身に付けていくことを目指します。

【到達目標】

- ・政治経済学的アプローチを通じて世界を理解出来るようになる。
- ・国際社会の実態と問題、課題の把握に不可欠なヨーロッパについて、専門基礎のレベルで体系的に知識を身に付け、国際的な視座から直面する問題、課題を把握し、論じていける知識基盤と力を身につけていける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義を中心とします。
後半にグループディスカッションを行います。
最終回に試験を実施します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス ヨーロッパ政治経済論 A のレビュー	政治経済学とは ヨーロッパとは
2	国際政治経済学専門基礎理論	国際ガバナンスへの学際アプローチの思想と理論 (体制思想としてのリベラリズム、リアリズム、マルキシズム、学際アプローチに向けたバランスオブパワーの理論ベースとしての古典派経済学、埋め込まれた自由主義と国際協調体制への理論、ケインズ経済学)
3	国際システムとガバナンス体制	国際システムとガバナンス体制 (市場経済と統治、史的推移 5 つのフェーズ)
4	戦後の米ドル、ブレトンウッズ体制の成立と欧州共同体 (EC) の形成	戦間期から ECSC、EC 形成への目的と意義 ブレトンウッズ体制の姉妹軸としての位置づけと限界 通貨統合計画の挫折と統合の行き詰まり

5	市場統合計画の推進と統合拡大を経て欧州連合への基盤形成	経済統合の深化、拡大と EC 機構の整備拡充 欧州の戦後体制の終焉、その実態と意義
6	市場統合の深化と通貨統合の実現、EU 連合の成立からリスボン条約へ	通貨統合の意義 条約としながら欧州憲法の中身をもつリスボン条約 政治体制としての欧州連合の位置づけ
7	グローバル市場化の進行と国際経済構造の変容	情報ネットワーク化と規制緩和が決定づけたグローバル市場化の光と影
8	グローバリゼーションの暴走と国際ガバナンスの分断 1	リーマンショック ギリシャ危機とユーロクライシス、EU 国家債務危機
9	グローバリゼーションの暴走と国際ガバナンスの分断 2	ポピュリズムと自国ファースト、極右の台頭と EU 内部分断の政治危機
10	統合への疑念と分断、英国の EU 脱退 (BREXIT)	英国と大陸欧州 参加の損益と機能的統合 (英国) vs 理念と制度的統合の根源的相違 防衛・安全保障では存在大きい英国とのねじれの関係 情報プラットフォーム革命 グローバル経済統合の進行が国家と市場の力学構造を変える 同時に国家間の分断と相互の力学関係を変え、中国の台頭に伴う覇権国家構図と国際関係の変容を含め、国際ガバナンス構造の変容を生起
11	市場と国家の力学構造の変質	ハードパワーとソフトパワー 多様性の中での統合で積み上げたノウハウと企画政治力としてのソフトパワー グリーンディール、SDG s における主導的役割 EU の立ち位置と日本への示唆
12	グローバル化の進行と地域統合、EU の果たす役割と日本への示唆	EU の対ロシア 東欧政策とウクライナ戦争 欧州新秩序への鍵握る国際エネルギー構造の変化の中での対ソ依存からのシフト
13	ウクライナ戦争 新たな欧州新秩序への模索	EU の対ロシア 東欧政策とウクライナ戦争 欧州新秩序への鍵握る国際エネルギー構造の変化の中での対ソ依存からのシフト
14	期末試験とまとめ	期末試験を実施 まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業は、各回の準備学習 1 時間、復習時間 3 時間程度を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特にありません。

【参考書】

参考書、文献、資料などは、各回必要に応じてお知らせします。

【成績評価の方法と基準】

期末試験 = 80%
課題およびディスカッションへの参加 = 20%

【学生の意見等からの気づき】

新聞講科目のため、特にありません。

【学生が準備すべき機器他】

特にありません。

【その他の重要事項】

本講義は、基礎となる「ヨーロッパ政治経済論 A」をあらかじめ受講しておくことをお勧めします。

【Prerequisite】

None.

【Outline (in English)】

This course provides a further understanding to Political Economy mainly focused on Europe. The subject contains mainstream theoretical approaches as well as analysis and case studies to provide further understanding on Europe and related world issues.

At the end of the course, students

- Should have the ability to use fundamental themes, concepts, theories and approaches of political economy.
- Should have improved her/his skills in analyzing important political events around Europe and across the globe.
- Should have acquired a firm base for pursuing further research in the European Union and elsewhere in the world.

Your required study time is at least one hour before class and three hours after each class.

Your overall grade will be decided 80% on Term-end examination and 20 % on reports as well as contribution in discussions.

LAW300LA

法の人間学 A

2017 年度以降入学者

内藤 淳

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 5/Mon.5

単位数：2 単位

定員制 (30 名)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

法は人間社会の問題や紛争を解決するためのものであり、ひとりひとりの人間の生活を大きく左右する。この授業では、法的問題の中で、特に人間の生命や生き方に関わる事例を取り上げて、そこでの立場の対立や問題点を分析・考察する。

人間のあり方や生き方に関する哲学的な洞察力を養うと共に、そうした哲学的な観点に立って社会的な課題を把握する根源的な視野や思考力を身に付けることが授業の目的である。

秋学期開講の「法の人間学 B」と連続した内容で授業を行うので、受講者はできる限り「法の人間学 B」も続けて履修することが望ましい。履修人数は 30 人を上限とし、初回授業にて受講者の選抜と確定を行うので、履修希望者は初回授業に必ず出席し、教員からの指示に従うこと (本シラバス「その他の重要事項」参照)。

【到達目標】

- ①法制度と人間の生命や生き方に関わる事例を把握し、そこでの立場や考え方の相違点・対立点を理解する。
- ②現代社会の具体的課題・問題に対して、哲学的な観点からの根源的な分析検討ができるようになる。
- ③上記①②を踏まえて、人間の生命や生き方に関わる社会的課題について、自分の考えを合理的根拠に基づいて論じたり説明したりできるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

レジュメと配布資料に基づく講義を行いつつ、その中の主要論点について適宜ディスカッションを行う。その際、受講生にはコメントの提示や小論文などの提出を求める。提出コメントや小論文、その他の質問に対しては、授業の中で適宜解説をする。授業計画は以下の予定だが、受講生の理解状況や進行ペースなどに応じて内容や順序を変更することがある。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業のねらいや進め方についての説明、受講者の選抜・決定
第 2 回	法制度と人間本性 (1)	もしも法がなかったらどうなるか?
第 3 回	法制度と人間本性 (2)	ホップズの自然状態について
第 4 回	法制度と人間本性 (3)	ロックの自然状態について
第 5 回	法制度と人間本性 (4)	ルソーの自然状態について
第 6 回	死刑制度の是非 (1)	死刑制度の歴史と現状について
第 7 回	死刑制度の是非 (2)	袴田事件について
第 8 回	死刑制度の是非 (3)	死刑制度をめぐる立場の対立について
第 9 回	裁判員制度と死刑 (1)	国民が刑罰を決める意義と問題点について

第 10 回	裁判員制度と死刑 (2)	法制度と個人の生命の関係について
第 11 回	人工妊娠中絶 (1)	人工妊娠中絶の歴史と現状について
第 12 回	人工妊娠中絶 (2)	人工妊娠中絶をめぐるアメリカでの動向について
第 13 回	人工妊娠中絶 (3)	人工妊娠中絶をめぐる理論的な立場の対立について
第 14 回	人工妊娠中絶 (4)	出生前診断に関連する論点と問題点について

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。「授業の進め方と方法」に記載したように、授業の中でディスカッションをしたりコメント提出を求めたりするので、受講者は、各回の配布資料や講義内容を見直し、その筋道を把握すると共に、参考文献なども参照しつつ、そこで扱った問題や課題について「自分の意見とその理由」を整理すること。

【テキスト (教科書)】

特定のテキストは使用しない。(レジュメや配布資料に即して授業を進める。)

【参考書】

小林直樹『法の人間学的考察』岩波書店、2003 年
 神島裕子『正義とは何か：現代政治哲学の 6 つの視点』中公新書、2018 年
 ベン・フィリップス『今すぐ格差を是正せよ!』ちくま新書、2022 年
 菅野稔人『死刑 その哲学的考察』ちくま新書、2017 年
 塚原久美『日本の中絶』ちくま新書、2022 年
 その他の参考書は、授業の中で随時紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業の中で課す小論文 (レポート) の点数を軸に、提出コメントと授業への参加・議論状況を加味して上記「授業の到達目標」に記した 3 点の到達度を評価・判断する。詳細は授業の中で説明する。評価割合は、小論文：80 %、コメント等：20 % の予定。

【学生の意見等からの気づき】

受講生のコメントや意見を積極的に聞き、それに基づく論点の掘り下げをすることで、受講生の授業参加と内容理解を促進したい。

【その他の重要事項】

履修人数は 30 人を上限とし、受講希望者がそれを超える場合は選抜を行うので、初回授業には必ず出席し教員からの指示に従うこと。そうでない学生には受講資格を認めない。(選抜は原則として抽選とするが、受講機会確保の観点から年次が上の学生を優先する場合がある。) 人数制限があることに鑑み、受講を認められた学生には十分な熱意と授業参加を求める。

秋学期開講の「法の人間学 B」と連続した内容で授業を行うので、受講者はできる限り「法の人間学 B」も続けて履修すること。(春学期の「法の人間学 A」受講者には、秋学期の「法の人間学 B」の履修を優先的に認める。)

あわせて、授業中の私語や入退室を慎む、携帯電話の電源を切るなど、受講上のマナーを厳守すること。

【Outline (in English)】

(Course outline)

In this course, we will take up cases involving human life and way of life in legal issues and examine them. The aim of this course is to help students develop a fundamental perspective and thinking ability to analyze social issues from a philosophical perspective on the human condition and way of life.

(Learning Objectives)

At the end of this course, students are expected to grasp the relationship between the legal system and human life or ways of life, and to understand the conflicting positions and ideas therein.

In addition, the goal is for students to be able to present their ideas from a philosophical perspective on a rational basis in response to specific issues in contemporary society.

(Learning activities outside of classroom)

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

(Grading Criteria /Policy)

Final grade will be decided basen on essay assignment (80%)
and submitted comments in class (20%).

LAW300LA

法の人間学 B

2017 年度以降入学者

内藤 淳

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 5/Mon.5

単位数：2 単位

定員制 (30 名)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

法は人間社会の問題や紛争を解決するためのものであり、ひとりひとりの人間の生活を大きく左右する。この授業では、法的問題の中で、特に人間の生命や生き方に関わる事例を取り上げて、そこでの立場の対立や問題点を分析・考察する。

人間のあり方や生き方に関する哲学的な洞察力を養うと共に、そうした哲学的な観点に立って社会的な課題を把握する根源的な視野や思考力を身に付けることが授業の目的である。

春学期開講の「法の人間学 A」と連続した内容で授業を行うので、受講者はできる限り「法の人間学 A」から続けて履修することが望ましい。履修人数は 30 人を上限とし、初回授業にて受講者の選抜と確定を行うので、履修希望者は初回授業に必ず出席し、教員からの指示に従うこと (本シラバス「その他の重要事項」参照)。

【到達目標】

- ①法制度と人間の生命や生き方に関わる事例を把握し、そこでの立場や考え方の相違点・対立点を理解する。
- ②現代社会の具体的課題・問題に対して、哲学的な観点からの根源的な分析検討ができるようになる。
- ③上記①②を踏まえて、人間の生命や生き方に関わる社会的課題について、自分の考えを合理的根拠に基づいて論じたり説明したりできるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

レジュメと配布資料に基づく講義を行いつつ、その中の主要論点について適宜ディスカッションを行う。その際、受講生にはコメントの提示や小論文などの提出を求める。提出コメントや小論文、その他の質問に対しては、授業の中で適宜解説をする。授業計画は以下の予定だが、受講生の理解状況や進行ペースなどに応じて内容や順序を変更することがある。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業のねらいや進め方についての説明、受講者の選抜・決定
第 2 回	法と道徳と復興増税 (1)	法と道徳の関係について
第 3 回	法と道徳と復興増税 (2)	「危害のない不道德行為」の規制について
第 4 回	法と道徳と復興増税 (3)	支援の法的義務について
第 5 回	法と道徳と復興増税 (4)	個人の自由と法的強制の関係について
第 6 回	一夫一婦制と婚姻の自由 (1)	日本の婚姻制度の歴史と現状について
第 7 回	一夫一婦制と婚姻の自由 (2)	一夫一婦制の根拠について
第 8 回	一夫一婦制と婚姻の自由 (3)	契約婚の考え方について

第 9 回	一夫一婦制と婚姻の自由 (4)	個人の生き方と婚姻制度の関係について
第 10 回	代理出産と親子関係 (1)	親子に関する法的取り扱いについて
第 11 回	代理出産と親子関係 (2)	代理出産の歴史と現状について
第 12 回	代理出産と親子関係 (3)	代理出産をめぐる最近の事例について
第 13 回	代理出産規制の是非 (1)	代理出産規制をめぐる法的論点について
第 14 回	代理出産規制の是非 (2)	個人の生き方と「子供を持つこと」の関係について

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。「授業の進め方と方法」に記載したように、授業の中でディスカッションをしたりコメント提出を求めたりするので、受講者は、各回の配布資料や講義内容を見直し、その筋道を把握すると共に、参考文献なども参照しつつ、そこで扱った問題や課題について「自分の意見とその理由」を整理すること。

【テキスト (教科書)】

特定のテキストは使用しない。(レジュメや配布資料に即して授業を進める。)

【参考書】

- 小林直樹『法の人間学的考察』岩波書店、2003 年
 - 神島裕子『正義とは何か：現代政治哲学の 6 つの視点』中公新書、2018 年
 - 蔵研也『リバタリアン宣言』朝日新書、2007 年
 - 森村進『自由はどこまで可能か』講談社現代新書、2001 年
 - ロバート・ライト『モラル・アニマル』(上)(下)講談社、1995 年
 - デヴィッド・M・バス『女と男のだましあい：ヒトの性行動の進化』草思社、2000 年
 - ヘレン・E・フィッシャー『愛はなぜ終わるのか：結婚・不倫・離婚の自然史』草思社、1993 年
- その他の参考書は、授業の中で随時紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業の中で課す小論文 (レポート) の点数を軸に、提出コメントと授業への参加・議論状況を加味して上記「授業の到達目標」に記した 3 点の到達度を評価・判断する。詳細は授業の中で説明する。評価割合は、小論文：80 %、コメント等：20 %の予定。

【学生の意見等からの気づき】

受講生のコメントや意見を積極的に聞き、それに基づく論点の掘り下げをすることで、受講生の授業参加と内容理解を促進したい。

【その他の重要事項】

履修人数は 30 人を上限とし、受講希望者がそれを超える場合は選抜を行うので、初回授業には必ず出席し教員からの指示に従うこと。そうでない学生には受講資格を認めない。(選抜は原則として抽選とするが、受講機会確保の観点から年次が上の学生を優先する場合がある。)人数制限があることに鑑み、受講を認められた学生には十分な熱意と授業参加を求める。

春学期開講の「法の人間学 A」と連続した内容で授業を行うので、受講者はできる限り「法の人間学 A」から続けて履修すること。(春学期の「法の人間学 A」受講者には、秋学期の「法の人間学 B」の履修を優先的に認める。)

あわせて、授業中の私語や入退室を慎む、携帯電話の電源を切るなど、受講上のマナーを厳守すること。

【Outline (in English)】

(Course outline)

In this course, we will take up cases involving human life and way of life in legal issues and examine them. The aim of this course is to help students develop a fundamental perspective and thinking ability to analyze social issues from a philosophical perspective on the human condition and way of life.

(Learning Objectives)

At the end of this course, students are expected to grasp the relationship between the legal system and human life or ways of life, and to understand the conflicting positions and ideas therein.

In addition, the goal is for students to be able to present their ideas from a philosophical perspective on a rational basis in response to specific issues in contemporary society.

(Learning activities outside of classroom)

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

(Grading Criteria /Policy)

Final grade will be decided basen on essay assignment (80%) and submitted comments in class (20%).

ENV300LA

自然環境のしくみとその変貌 A 2017 年度以降入学者

加藤 美雄

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 2/Mon.2

単位数：2 単位

定員制 (40 名)

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈A〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日常生活に密着している自然環境のしくみを理解し、オゾン層の破壊、ヒートアイランドなど人為による改変とその対策について検討する。その上で人間活動が与えた自然環境の変化について論ずることができる。

【到達目標】

- ・気象学、気候学の知識により自然環境を理解する。
- ・自然環境への人為のかかわりについて検討する。
- ・自然環境の変化による異常気象を把握する。
- ・自然環境変化の予測を考察する。
- ・人為によって改変した自然環境の問題点とその対策について考察し、まとめる。
- ・課題論文をまとめることにより、論文を理解する力をつける。
- ・発表することによりプレゼンテーション能力を高め、質問、意見、討論などにより議論する力をつける

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

授業の初めに前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げて説明し、また、前回のテストの解説を実施して、全体に対してフィードバックを行なう。

授業の進め方は2部構成とし、第1に、地球規模から日本列島スケール、小規模までの自然環境変化を取り上げる。第2に、加速する様々な異常気象について説明する。

授業の方法は、気象学、気候学により自然環境に関する最新の研究を中心に講義する。講義内容の理解度を把握するために受講生への質問や毎回、小テストまたは課題論文のまとめを実施する。また、講義中は、気象の実験や災害・気象現象の映像を通して自然環境の理解を深める。

なお、リアクションペーパーに記載された事項により授業内容を変更することがある。

また、第1回目の授業の際に、気象学・気候学の理解度を確認する試験を行う。この試験を受けないとその後の受講は認めないので、受講希望者は必ず第1回目の授業に出席し、試験を受けること。

なお、第1回目の授業はZoomによるオンラインで実施する。

また、オンライン授業に移行した場合は、Zoomにてリアルタイム配信型の授業を行なう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	はじめに 大気鉛直構造と運動	授業のねらい、概要、何のために学ぶかについて説明する。また、気象学・気候学の理解度を確認する。 更に今後の講義に必要となる大気鉛直構造と大規模な大気の運動について解説する。

2	オゾンホール1（成因）	成層圏の気候からオゾンの生成と役割について説明し、オゾンホール成因のメカニズムについて検討する。
3	オゾンホール2（現状と課題）	オゾンホールの現状と今後の課題について考察する。
4	紫外線	オゾン層の減少に関連して、紫外線全般について説明するとともに、人体や動植物に与える影響についても検討する。
5	越境汚染1（酸性雨）	酸性雨の成因、影響及び現状について説明する。
6	越境汚染2（黄砂）	黄砂の飛来から日本における影響を検討し、予測と対策について説明する。
7	人為による気候の改変1（ヒートアイランドI）	都市化によるヒートアイランドの成因と現状を説明する。
8	人為による気候の改変2（ヒートアイランドII）	ヒートアイランドが社会に与える影響を説明し、その対応について議論する。特に近年、増加が著しい熱中症について詳細に解説する。
9	人為による気候の改変3（観光鍾乳洞の気候変化）	鍾乳洞が入場者数の増大によって受ける影響について考察する。また、観光鍾乳洞の保護に関するグループ討議を行なう。
10	異常気象1（エルニーニョ現象の成因）	世界的な異常気象をもたらすエルニーニョ現象の成因と観測体制について説明する。
11	異常気象2（エルニーニョ・ラニーニャ現象の影響と予測）	エルニーニョ・ラニーニャ現象が及ぼす影響と予測について解説する。
12	異常気象3（副振動）	急激な気圧変化によって発生するとされる潮位の変動について解説し、その原因を考察する。
13	異常気象4（竜巻・突風・雷）	竜巻・突風・雷、それに増加している急な雨について説明し、近年の状況について解説する。
14	東日本大震災と自然環境問題 まとめ	甚大な被害をもたらした東日本大震災と自然環境問題の相互作用について考察する。また、講義の補足、全体のまとめ、質疑応答を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。全体を通じて下記の参考書を参照しておくこと。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用せずプリントを配布する。

【参考書】

- ・異常気象を知りつくす本 佐藤典人著. インデックス・コミュニケーションズ
- ・成層圏オゾンが生物を守る. 関口理郎著. 成山堂
- ・ここまでわかった「黄砂」の正体. 三上正男著. 五月書房
- ・ヒートアイランドと都市緑化. 山口隆子著. 成山堂
- ・カルスト-その環境と人々とのかかわり. 漆原和子編. 大明堂
- ・新百万人の天気教室. 白木正規著. 成山堂書店

【成績評価の方法と基準】

評価の配分は以下の通りである。

- ・平常点 : 20%
- ・小テスト : 40%
- ・レポート : 40%

【学生の意見等からの気づき】

リアクションペーパーには、多くの質問、意見があったので、今年度も実施して授業に反映する。また、過去に学生の希望により校外学習を実施して好評だったので、本年度も要望があれば行いたい。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

講義資料は事前に学習支援システムで配布するので授業前に確認しておくこと。また、オフィスアワーの実施に関しては、質問を学習支援システムの授業内掲示板かメールでも受け付ける。メールアドレスは学習支援システムで知らせる。

本講義は自然環境のしくみを理解し、その上で人間活動が与えた自然環境の変化について検討することを目的とする。そのため、春学期では自然環境変化と異常気象について説明し、秋学期では地球温暖化について考察する。人間活動による環境変化において、これらは密接に関連してため、春学期・秋学期合わせての履修を推奨する。

なお講義では、気象庁での実務経験をもとにして、様々な気象現象から自然環境のしくみを分かり易く解説する。また、地球の環境変化が最初に現れる南極の状況について、越冬体験をもとに説明する。

また、本講義は気象学を扱うため苦手意識があると思うが、日々の生活の中で身近な現象である気温や風、降水などにより分かりやすく解説するため、気象を学ぶ楽しさを知ってもらいたい。

【Outline (in English)】

Understanding the mechanism of the natural environment that is closely related to our daily life, students will consider the artificial changes in the environment like the destruction of the ozone layer and the heat island phenomenon etc... and the solutions. Then students will be able to discuss changes in the natural environment created by human activities.

The following seven goals are to be achieved.

To understand the natural environment by obtaining knowledge of meteorology and climatology.

To consider the effects of human activities on the natural environment.

To comprehend extreme weather events caused by changes in the natural environment.

To consider the predictions of change in the natural environment.

To consider and summarize problems and measures of changes in the natural environment by mankind.

To develop the ability to understand related treatises by summarizing assigned papers.

To improve presentation skills by giving presentations, and discussion skills by posing questions, expressing opinions, and debating.

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Reports : 40%, Quizzes : 40%, in Class Participation: 20%

ENV300LA

自然環境のしくみとその変貌B 2017年度以降入学者

加藤 美雄

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 2/Mon.2

単位数：2 単位

定員制（40名）

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈A〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

人類が直面している危機である地球温暖化について理解し、現状を把握する。その上で地球温暖化に対する緩和策と適応策について論ずることができる。

【到達目標】

- ・気象学、気候学の知識により地球温暖化を理解する。
- ・地球温暖化への人為のかかわりについて検討する。
- ・地球温暖化の予測を考察する。
- ・人為によって改変した地球温暖化の問題点とその対策について考察し、まとめる。
- ・地球温暖化の緩和策と適応策について把握し、検討することができる。
- ・発表することによりプレゼンテーション能力を高め、質問、意見、討論などにより議論する力をつける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

授業の初めに前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げて説明し、また前回のテストの解説を実施して、全体に対してフィードバックを行なう。

授業の進め方は、地球温暖化の実態・予測などを講義し、最後に受講生全員が地球温暖化の緩和策と適応策を発表し、集団討論を実施して各自の考えや意見により議論する。

授業の方法は、気象学、気候学により地球温暖化に関する最新の研究を中心に講義する。講義内容の理解度を把握するために受講生への質問や毎回、小テストを実施する。また、講義中は、気象の実験や災害・気象現象の映像を通して自然環境の理解を深める。

なお、受講生からの質問には必ず回答するとともに、質問事項により授業内容を変更することがある。

また、オンライン授業に移行した場合は、Zoomにてリアルタイム配信型の授業を行なう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	はじめに アラル海とイースタ島	授業のねらい、概要、何のために学ぶかについて説明する。また、講義を始めるにあたり、20世紀最大の環境破壊と言われたアラル海の状況と森林保護を行わなかったイースタ島の悲劇について紹介し、環境問題を検討する。
2	地球温暖化の概要	地球温暖化の基礎的な知識と対応について解説する。
3	長い時間スケールの気候変化	地球の誕生から現在までの気候の変化を説明する。
4	地球温暖化のしくみと気温・温室効果ガスの実態	温室効果、日傘効果から地球温暖化のしくみを説明する。また温室効果ガスとその変化について説明し、気温の長期変動を解説する。

5	高層大気への影響	高層気象観測を解説するとともに、温室効果ガスによる対流圏、成層圏への影響について説明する。
6	海洋の役割と影響	地球温暖化による海洋の役割と海面水位の上昇を説明する。また、海洋汚染についても解説する。
7	地球温暖化の実態（降水・積雪・氷河・海水）	降水・積雪の長期変動、および氷河の衰退、海水の減少について説明する。
8	北極域への影響	現在、最も温暖化が進んでいる北極域について説明し、対応を検討する。また、北極振動についても解説する。
9	南極の状況	地球温暖化により注目されている、南極の状況について説明する。
10	緩和策1（国際的な取り組み）	IPCC、COPなどによる国際的な取り組みを説明する。特に、昨年公表されたIPCC第6次評価報告書について、詳細に説明する。また、現状の課題について、検討する。
11	緩和策2（日本の取り組み）	国際情勢にかんがみ、3年前に日本政府が宣言した脱炭素社会への取り組みを説明する。特に、温室効果ガス削減の実施状況、問題点について考察する。
12	適応策1（産業分野）	地球温暖化に対する世界と日本の適応への取り組みを紹介する。特に、農業、漁業分野について検討する。
13	適応策2（災害対応）	集中豪雨、豪雪、洪水、干ばつ、熱中症などに関する適応策の現状を解説する。
14	地球温暖化への対応（地球温暖化の緩和策と適応策の発表と集団討論）とまとめ	地球温暖化の緩和策と適応策について各自で検討してまとめる。また、グループごとに発表して意見交換を行う。更に、講義の補足、全体のまとめ、質疑応答を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。
授業の全体を通じて下記の参考書を参照しておくこと。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用せずプリントを配布する。

【参考書】

- ・地球温暖化時代の異常気象 吉野正敏著 成山堂書店
- ・極端化する気候と生活－温暖化と生きる－ 吉野正敏著 古今書院
- ・地球温暖化－そのメカニズムと不確実性－ 日本気象学会 地球環境問題委員会編 朝倉書店

【成績評価の方法と基準】

評価の配分は以下の通りである。

- ・平常点：20%
- ・小テスト：40%
- ・レポート：40%

【学生の意見等からの気づき】

リアクションペーパーには、多くの質問、意見があり、大変参考になったので、今年度も実施して授業に反映する。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

講義資料は事前に学習支援システムで配布するので授業前に確認しておくこと。また、オフィスアワーの実施に関しては、質問を学習支援システムの授業内掲示板かメールでも受け付ける。メールアドレスは学習支援システムで知らせる。

本講義は地球温暖化を理解し、その対策を検討することを目的としている。春学期では自然環境の変化と異常気象について説明し、これは地球温暖化と密接に関連している。そのため、春学期・秋学期合わせての履修を推奨する。

なお講義では、気象庁での実務経験をもとに、様々な気象現象から自然環境のしくみを分かり易く解説する。また、地球の環境変化が最初に現れる南極の状況について、越冬体験をもとに説明する。

また、本講義は気象学を扱うため苦手意識があると思うが、日々の生活の中で身近な現象である気温や天気など用いて分かりやすく解説するため、気象を学ぶ楽しさを知ってもらいたい。

【Outline (in English)】

Students will understand that global warming is the crisis we are facing now, and grasp the current situation. In addition, students will be able to discuss mitigation and adaptation measures.

The following six goals are to be achieved.

To understand global warming by obtaining knowledge of meteorology and climatology.

To consider the effects of human activities on global warming.

To consider the predictions of global warming.

To consider and summarize problems and measures of global warming caused by mankind.

To comprehend and consider mitigation and adaptation measures for global warming.

Improve presentation skills by giving presentations, and discussion skills by posing questions, expressing opinions, and debating.

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Reports : 40%, Quizzes : 40%, in Class

Participation : 20%.

MAT300LA

数理論理学 A

2017 年度以降入学者

安東 祐希

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 1/Tue.1

単位数：2 単位

定員制 (30 名)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

論理とは何か ～～ まずは最小限の論理

数理論理学を学び、論理とは何かについて考える。特に、論理が複数あること(理論が複数あるという事実とは別のこと)を知るための第一歩として、どの論理にも共通する最小論理について学ぶ。それは後に論理を広げて次のような例を考えるときの準備となる。

～～～

ある国のある時点において、次の条件をみたしている人をクシャミ大王とよぶことにする。すなわち、もしクシャミ大王がくしゃみをしているならば、同時にその国の人々全員がくしゃみをしている、という条件である。すると、今年の元旦午前零時において日本にはクシャミ大王がいたことが証明できる。しかもそれは今年の元旦に日本が特別な国であったわけではなく、実はどんな国のどの時点においても、クシャミ大王がいた(あるいは、いる)ことが、**論理的に証明**できる。(クシャミ大王は国と日時に依存することに注意。)

～～～

クシャミ大王の存在証明が可能な論理をつくるためには、この授業で扱う最小論理に何らかのものを付け加える必要がある。最小論理を直観主義論(人の論理)、さらには古典論理(神の論理)まで広げるのである。その付加するものの役割を理解するため、まずは論理の共通部分とは何かについて学んでゆく。

【到達目標】

最小論理の範囲で、推論規則を用いて演繹を表現することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

毎回、授業中にいくつかの例題を解く。例題を考える際、わからない点などは積極的に質問してほしい。なお、内容を理解するためには、自ら問題練習に取り組むことが重要である。また、授業のはじめには前回の復習問題を解く時間があり、その解答は解説に従って自己添削のうえ、授業内レポートとして提出をする。「課題」である授業内レポートは、次の授業時間に個別返却することで「フィードバック」する。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】
なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	クシャミ大王	授業概要の説明
第 2 回	「かつ」を壊す	連言の除去
第 3 回	「かつ」を作る	連言の導入
第 4 回	「または」を壊す	選言の除去
第 5 回	「または」を作る	選言の導入
第 6 回	「ならば」を壊す	含意の除去
第 7 回	「ならば」を作る	含意の導入
第 8 回	「でない」を壊す	否定の除去
第 9 回	「でない」を作る	否定の導入
第 10 回	「すべて」を壊す	全称量化の除去
第 11 回	「すべて」を作る	全称量化の導入

第 12 回 「ある」を壊す	存在量化の除去
第 13 回 「ある」を作る	存在量化の導入
第 14 回 まとめ	まとめの問題

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

演習問題を十分に解くこと。その際、失敗しても良いので、紙に書きながら考えること。なお、予復習時間の標準は 4 時間である。

【テキスト(教科書)】

指定しない。例題などは印刷したものを授業中に配布する。

【参考書】

前原昭二『記号論理入門 [新装版]』(日本評論社) 2005 年(初版 1967)

【成績評価の方法と基準】

到達目標に関する問題の解決能力を期末試験(60%)において、また、演習問題への取り組み具合を授業内レポート(40%)において評価する。

【学生の意見等からの気づき】

質問に答える時間をより多くとれるようにしたい。

【その他の重要事項】

- (1) 秋期科目「数理論理学 B」の予備知識となる内容を含む。
- (2) 文学部哲学科生が履修の場合、科目名は「言語と論理 2 (数理論理学) A」。

【Outline (in English)】

【Course outline】

This course deals with basic concepts of mathematical logic, especially inference rules in minimal logic.

【Learning Objectives】

By the end of the course, students should be able to construct proof-figures in minimal logic.

【Learning activities outside of classroom】

Students will be expected to do exercises with many sheets of paper. Your study time will be more than four hours for a class.

【Grading Criteria/Policies】

Final grade will be calculated according to the following process:

Term-end examination (60%) and quizzes in class (40%).

MAT300LA

数理論理学 B

2017 年度以降入学者

安東 祐希

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 1/Tue.1

単位数：2 単位

定員制 (30 名)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

論理とは何か ～～～ 人の論理、さらには神の論理

数理論理学を学び、論理とは何かについて考える。特に、論理が複数あること(理論が複数あるという事実とは別のこと)を知り、その中でも古典論理(神の論理)と直観主義論理(人の論理)について学ぶ。次のような例を考えると、二つの論理に違いが現れてくる。～～～

ある国のある時点において、次の条件をみたしている人をクシャミ大王とよぶことにする。すなわち、もしクシャミ大王がくしゃみをしているならば、同時にその国の人々全員がくしゃみをしている、という条件である。すると、今年の元旦午前零時において日本にはクシャミ大王がいたことが証明できる。しかもそれは今年の元旦に日本が特別な国であったわけではなく、実はどんな国のどの時点においても、クシャミ大王がいた(あるいは、いる)ことが、論理的に証明できる。(クシャミ大王は国と日時に依存することに注意。)～～～

ここでいう論理的な証明は、「神の論理」における証明である。われわれは実は何の疑問もなく「神の論理」を用いることがある。一方、「神の論理」の無制限な使用を自省することにより得られた「人の論理」においては、クシャミ大王の存在を一般には示すことができない。春期授業の最小論理に何を加えるとこれらの論理ができるのかについて学んでゆく。

【到達目標】

直観主義論理および古典論理の範囲で、推論規則を用いて演繹を表現することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

毎回、授業中にいくつかの例題を解く。例題を考える際、わからない点などは積極的に質問してほしい。なお、内容を理解するためには、自ら問題練習に取り組むことが重要である。また、授業のはじめには前回の復習問題を解く時間があり、その解答は解説に従って自己添削のうえ、授業内レポートとして提出をする。「課題」である授業内レポートは、次の授業時間に個別返却することで「フィードバック」する。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】あり/Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	今できること	最小論理
第 2 回	万能薬	量子の順序
第 3 回	矛盾がどうした	否定と含意
第 4 回	矛盾が生み出す	矛盾の推論
第 5 回	人の論理	直観主義論理
第 6 回	どちらかだ	排中律
第 7 回	神の論理	古典論理
第 8 回	クシャミ大王再考	古典論理の応用
第 9 回	別の顔	背理法

第 10 回	得意分野	古典論理の表現
第 11 回	真か偽か	古典論理の意味論
第 12 回	まだわからない	可能世界
第 13 回	人の論理とは	直観主義の意味論
第 14 回	まとめ	まとめの問題

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

演習問題を十分に解くこと。その際、失敗しても良いので、紙に書きながら考えること。なお、予復習時間の標準は 4 時間である。

【テキスト(教科書)】

指定しない。例題などは印刷したものを授業中に配布する。

【参考書】

前原昭二『記号論理入門[新装版]』(日本評論社)2005年(初版1967)

【成績評価の方法と基準】

到達目標に関する問題の解決能力を期末試験(60%)において、また、演習問題への取り組み具合を授業内レポート(40%)において評価する。

【学生の意見等からの気づき】

質問に答える時間をより多くとれるようにしたい。

【その他の重要事項】

- 春期科目「数理論理学 A」で扱う内容を既知として授業を進める。
- 文学部哲学科生が履修の場合、科目名は「言語と論理 2 (数理論理学) B」。

【Outline (in English)】

【Course outline】

This course deals with basic concepts of mathematical logic, especially inference rules in intuitionistic and classical logic.

【Learning Objectives】

By the end of the course, students should be able to construct proof-figures in intuitionistic and classical logic.

【Learning activities outside of classroom】

Students will be expected to do exercises with many sheets of paper. Your study time will be more than four hours for a class.

【Grading Criteria/Policies】

Final grade will be calculated according to the following process:

Term-end examination (60%) and quizzes in class (40%).

MAT300LA

計算と言語のしくみ

2017年度以降入学者

倉田 俊彦

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 2/Mon.2

単位数：2 単位

定員制 (30 名)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スーパーコンピュータから電気製品などに組み込まれているチップに至るまで、コンピュータは現代社会の様々な場面で活用され、我々の生活に深く関わっている。その一方で、多くの利用者にとってコンピュータは一種のブラックボックスであり、その動作原理を身近に触れる機会が十分あるとは思われない。こうした背景を踏まえて、魔法のような処理を可能にする汎用コンピュータの仕組みに焦点を当て、「コンピュータの箱の中がどのようにになっているか?」「そうした機械的な仕組みの上で、形式言語の命令を処理したり、自然言語の意味を分析できるのは何故か?」など数学的な視点を通して解説・実験する。

【到達目標】

本講義では「コンピュータの仕組みの概要を理解すること」を目標としている。(例えば、電卓と PC の本質的な違いを尋ねられた時、皆さんは直ちに説明できるでしょうか?) その上で、実験を通して「コンピュータ上で言語を処理する幾つかの手法を体験して、その有用性を理解すること」をもう一つの目標としている。(例えば、コンピュータに膨大な量の文章を学習させるだけで、言葉を数値データとして捉え「東京-日本+フランス」の計算結果として「パリ」と答えるようになります。同様に「法政大学-東京+大阪」の計算結果としてコンピュータは何を答えるのでしょうか?) こうした「処理系の違いに依存しない普遍的な原理」を理解することは、実際にコンピュータを使用する上でも様々な場面で恩恵をもたらすこととなる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

進度や難易度等は受講生の人数や様子なども考慮して対応する。学習支援システムと Zoom を活用しながら対面での説明を進める予定であり、詳細は学習支援システムに提示する。課題を通して有益な指摘や間違え易い傾向などに気付いた時は、直ちに授業内で紹介して全員にフィードバックできるようにする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 01 回	導入	PC 上でプログラムが動作する様子を観察する。
第 02 回	計算機の歴史	汎用コンピュータの開発の歴史を解説する。
第 03 回	計算できる言語 (1)	正規言語と呼ばれる「言葉のパターン」について紹介する。
第 04 回	計算できる言語 (2)	正規言語を計算処理する機械的な仕組みを解説する。
第 05 回	計算できる言語 (3)	正規言語の計算処理を日常文書の編集に活用する。
第 06 回	計算機のしくみ (1)	汎用コンピュータの理論的なモデルについて解説する。
第 07 回	計算機のしくみ (2)	現代的なコンピュータの仕組みについて説明する。

第 08 回	計算機のしくみ (3)	コンピュータにおける数値の表現の基礎を確認する。
第 09 回	計算機のしくみ (4)	負整数の表現方法として、2 の補数表現を説明する。
第 10 回	自然言語と AI(1)	Google Colab 上で Python プログラムの実行方法を学ぶ。
第 11 回	自然言語と AI(2)	日本語の文章を品詞に分解する処理を学ぶ。
第 12 回	自然言語と AI(3)	「吾輩は猫である」の全文を機械学習させてみる。
第 13 回	自然言語と AI(4)	学習済み AI を用いてシラバスの文章を分析する。
第 14 回	まとめと解説	講義内容のまとめ、課題に関する総括を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

練習問題や実験の作業で終わらなかった部分については授業時間外で完成させる必要がある。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教科書は特に指定しない。

【参考書】

テーマ毎に参考となる文献を講義の中で紹介していく予定である。

【成績評価の方法と基準】

授業の内容を確認する機会として練習問題 (40%)、計算機実習 (50%) を行い、平常点 (10%) と共に取り組みを評価する。

【学生の意見等からの気づき】

普段のコミュニケーションを通して多様な要望を頂いていて、少しずつ内容・難易度の調整 (例えば、機械学習による自然言語処理の内容を多めにするなど) に反映している。

【その他の重要事項】

受講する上での「予備知識」や「コンピュータの使用経験」は必要ない。(予備知識のない学生にとって負担にならない内容の理解・体験ができれば十分と思っています。実験についても、Web が普通に使えれば十分で、基本的な操作から気軽に進める予定です。)

【Outline (in English)】

We can find a number of mathematical paradigms which provide the foundation of computer architecture. Among them, the framework of finite automata is explained in this course as a model of the special-purpose computers, and the framework of universal Turing machines as a model of the general-purpose computers. Based on the strength of these computational frameworks, we also understand a hierarchy structure of the class of formal languages.

To understand these results more precisely, we are supposed to spend four hours to review the content of each class meeting. Overall grade is determined by exercises (40%), computer experiments (50%) and class contribution (10%).

MAT300LA

コンピュータと数理の活用 2017年度以降入学者

倉田 俊彦

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 2/Mon.2

単位数：2 単位

定員制（30名）

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

数学で習得する様々な計算の原理は理にかなったものであるが、それらを実際に活用する段階になると手間がかかることが多い。（平均値を計算する方法自体は分かっているが、実際に1000人分のデータの平均値を手で計算する人はいない。）一方で、身の回りには問題がむしろ大規模になりがちであり、大きな問題こそ答を知りたいという現状がある。こうしたジレンマに対して、コンピュータによって人間の計算力不足を補い、実生活で直面するような大規模な問題の答を求める技術は重要である。そこで、講義では、様々な分野の中で「数学の原理」と「コンピュータの計算力」を同時に活用する経験を積むことを主な目的としている。

【到達目標】

講義では「プログラムの全てを自分で設計・作成すること」までは想定せず、あくまでも用意したプログラムを活用して「コンピュータと数理を組み合わせることの良さを体験し、活用の勘を養うこと」を目標としている。（各々の事例で扱う数学の内容は独立していて、1つの課題が理解できなくても、次の課題に影響を与えることが少ないこととなります。）

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

進度や難易度等は受講生の人数や様子なども考慮して対応する。学習支援システムとZoomを活用しながら対面での説明を進める予定であり、詳細は学習支援システムに提示する。課題を通して有益な指摘や間違え易い傾向などに気付いた時は、直ちに授業内で紹介して全員にフィードバックできるようにする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第01回	導入と準備	プログラムを用いた問題解決の流れを確認する。
第02回	計算機と数学(1)	Google Colab上でPythonプログラムの実行方法を学ぶ。
第03回	計算機と数学(2)	Pythonを関数電卓として活用してみる。
第04回	計算機と数学(3)	級数の公式を利用して、円周率を沢山計算してみる。
第05回	計算機と数学(4)	整数の理論を利用して、素数の分布を計算してみる。
第06回	行列の応用(1)	基礎となる数学として、様々な行列の計算を学ぶ。
第07回	行列の応用(2)	今後100年間の日本の世代人口の推移を予測する。
第08回	線形計画法(1)	線形計画問題の例と図形的な解法を学ぶ。
第09回	線形計画法(2)	線形計画法のプログラムを紹介する。
第10回	線形計画法(3)	プログラムを利用して経営計画の最適化問題を解いてみる。

第11回	暗号の数理(1)	基礎となる数学として、Euclid互除法などの計算を学ぶ。
第12回	暗号の数理(2)	公開鍵暗号を使った暗号通信の実験を行う。
第13回	機械学習の事例	Pythonで実行可能な機械学習の一例を紹介する。
第14回	まとめと解説	講義内容のまとめ、課題に関する総括を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

練習問題や実験の作業で終わらなかった部分については授業時間外で完成させる必要がある。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教科書は特に指定しない。

【参考書】

テーマ毎に参考となる文献を講義の中で紹介していく予定である。

【成績評価の方法と基準】

授業の内容を確認する機会として練習問題(40%)、計算機実習(50%)を行い、平常点(10%)と共に取り組みを評価する。

【学生の意見等からの気づき】

普段のコミュニケーションを通して多様な要望を頂いていて、少しずつ内容・難易度の調整に反映している。

【その他の重要事項】

受講する上での「予備知識」や「コンピュータの使用経験」は必要ない。（予備知識のない学生にとって負担にならない内容の理解・体験ができれば十分と思っています。実験についても、Webが普通に使えれば十分で、基本的な操作から気軽に進める予定です。）

【Outline (in English)】

We have been studying many mathematical procedures to answer various problems in our lives. However, it is generally harder to execute such procedures as the size of the problems becomes larger. To overcome this difficulty, a method to use computer programs is explained in this course. More specifically, the effectiveness of computer programs is observed with respect to (1) basic operations on matrix for Markov processes, (2) simplex method for linear optimization and (3) algorithmic number theory for RSA cryptography.

To understand these results more precisely, we are supposed to spend four hours to review the content of each class meeting. Overall grade is determined by exercises (40%), computer experiments (50%) and class contribution (10%).

MAT300LA

確率の世界 A

2017 年度以降入学者

池田 宏一郎

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 2/Mon.2

単位数：2 単位

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

高校で数学を習ったとき、その中でも特に確率が嫌いな人が多かったのではないだろうか。そんな人も友達とゲームなどでなにかを賭けたりする際には必死になって考えているはずである。つまり、数学が苦手だと思いついて入っている人も無意識に確率の計算をしていたりするのである。とはいえ、確率から統計までを学ぶには、微積分等の準備が多少必要である。が、あまり恐れなくて欲しい。車の構造をすべて知らなくても車が運転できるように、必要となる数学の概念を直観的に把握していれば統計の本質を理解できるはずである。原則として高等学校での数学の知識は仮定しない。意欲のある学生を歓迎する。

【到達目標】

春学期の授業では、我々が普段からなんとなく使っている「確率論」っぽい考え方を数学的に定式化し、代表的な確率分布である二項分布を理解することを目的とする。興味をもてるような題材を数多く用意するつもりである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

例題を解くことを交えながら内容の説明を進める。授業中も説明を聞いたり板書を写したりするだけでなく、自ら問題を解いてみるのが求められる。フィードバックは、学習支援システム等を通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	導入	授業の概要
第 2 回	確率の基礎 1	確率とは
第 3 回	確率の基礎 2	確率の性質
第 4 回	確率の基礎 3	確率空間とは
第 5 回	確率の基礎 4	事象の独立性
第 6 回	確率の基礎 5	確率変数の使い方
第 7 回	確率の基礎 6	期待値とは
第 8 回	確率の基礎 7	期待値の性質
第 9 回	確率の基礎 8	分散とは
第 10 回	確率分布 1	分散の性質
第 11 回	確率分布 2	二項分布とは
第 12 回	確率分布 3	二項分布の性質
第 13 回	確率分布 4	二項分布の期待値と分散
第 14 回	まとめ	全体の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

演習問題を十分に解くこと。その際、失敗しても良いので、とにかく手を動かして（紙に書いて）考えること。本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教科書は特に指定しない。

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

到達目標に関する問題の解決能力を期末試験（80 %）において、また、演習問題への取り組み具合を課題提出（20 %）において評価する。

【学生の意見等からの気づき】

双方向の授業になるよう心がける。

【Outline (in English)】

This course deals with basic concepts and methods in probability. Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class. Your overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end examination 60%, Short reports 40%.

MAT300LA

確率の世界 B

2017 年度以降入学者

池田 宏一郎

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 2/Mon.2

単位数：2 単位

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

高校で数学を習ったとき、その中でも特に確率が嫌いな人が多かったのではないだろうか。そんな人も友達とゲームなどでなにかを賭けたりする際には必死になって考えているはずである。つまり、数学が苦手だと思いついて入っている人も無意識に確率の計算をしていたりするのである。とはいえ、確率から統計までを学ぶには、微積分等の準備が多少必要である。が、あまり恐れないで欲しい。車の構造をすべて知らなくても車が運転できるように、必要となる数学の概念を直観的に把握していれば統計の本質を理解できるはずである。原則として高等学校での数学の知識は仮定しない。意欲のある学生を歓迎する。

【到達目標】

秋学期の授業では確率論の重要な応用分野のひとつである「統計学」を学習する。授業内で興味のもてるような題材に数多く接することで、より具体的な統計学の理解を得ることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

例題を解くことを交えながら内容の説明を進める。授業中も説明を聞いたり板書を写したりするだけでなく、自ら問題を解いてみるものが求められる。フィードバックは、学習支援システム等を通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	導入	授業の概要
第 2 回	様々な分布 1	離散分布とは
第 3 回	様々な分布 2	ポアソン分布とは
第 4 回	様々な分布 3	ポアソン分布の性質
第 5 回	様々な分布 4	ポアソン分布と二項分布
第 6 回	様々な分布 5	正規分布とは
第 7 回	様々な分布 6	正規分布の性質
第 8 回	様々な分布 7	正規分布と二項分布
第 9 回	推定と検定 1	標本の定義
第 10 回	推定と検定 2	標本平均と標本分散
第 11 回	推定と検定 3	点推定
第 12 回	推定と検定 4	区間推定
第 13 回	推定と検定 5	仮説と棄却
第 14 回	まとめ	全体の総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

演習問題を十分に解くこと。その際、失敗しても良いので、とにかく手を動かして（紙に書いて）考えること。本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

教科書は特に指定しない。

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

到達目標に関する問題の解決能力を期末試験（80 %）において、また、演習問題への取り組み具合を課題提出（20 %）において評価する。

【学生の意見等からの気づき】

双方向の授業になるよう心がける。

【その他の重要事項】

この科目を履修するためには、「確率の世界 A」で取り扱う内容について、おおよそ理解していることが望ましい。

【Outline (in English)】

This course deals with basic concepts and methods in statistics. Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class. Your overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end examination 60%, Short reports 40%.

PHY300LA

相対性理論と宇宙A

2017年度以降入学者

石川 壮一

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 4/Wed.4

単位数：2 単位

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

アインシュタインの相対性理論と聞くと、「時計が遅れる」とか「長さが縮む」とかSFの世界の話で、理解するのがむずかしいと考えている人が多いと思う。一方で、我々の住んでいる世界（宇宙）を理解する上で相対性理論は重要な役割を果たしており、現代の技術の中には相対性理論が応用されているものもある。

相対性理論には、光のスピードに近い速さで運動した時に顕著になる特殊相対性理論と、強力な重力が働くときに顕著になる一般相対性理論とがある。本講義で学生は、特殊相対性理論の基本的な考え方を学び、現実の世界で何が起きているのか科学的な理解を深める。

【到達目標】

- ・特殊相対性理論の論理的な理解の習得。
- ・特殊相対性理論の効果が顕著になるような光のスピードに近い速さで運動したりすることを想像する思考実験を行うことにより、宇宙における自然現象をより深く理解するための思考の柔軟さを会得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

- ・学習支援システムで配布する資料を用いて講義を行う。
- ・適時、理解度を確認するための課題（小テスト）を出題する。
- ・課題等の提出・フィードバックは学習支援システムを通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
[1]	はじめに	講義の概要
[2]	運動に関する考察	天動説から地動説、ニュートンの運動法則、ガリレオの意味での相対性原理について
[3]	光に関する考察	光の速さや光で情報が伝わることについて
[4]	エーテル	エーテルとは何か理解し、エーテルの検出をしようとした実験とその結果の持つ意義について
[5]	同時とは	思考実験を通じて、同時であるということの意味を考える。
[6]	時間の遅れ	光時計を用いた思考実験を通じて、時間の遅れについて考える。
[7]	長さの収縮	物の長さ、あるいは2地点の距離を測る思考実験を通じて、長さ（距離）の収縮について考える。
[8]	時空図	時空の中で起きている現象（事象とも呼ぶ）を抽象的に表現する方法である時空図について
[9]	速度の合成則と質量	動いている観測者から見た物体の速さがどうなるのか考え、速度の合成則と質量の変化について
[10]	質量とエネルギー	公式 $E=mc^2$ の意味について考える。

- [11] ミューオン ミューオンという素粒子について、その性質と相対論との関係について学ぶ。
- [12] 核融合反応 太陽の中で起こっている核融合反応について
- [13] 相対性理論の応用 GPS や核融合と相対論との関係について
- [14] まとめ 特殊相対性理論のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・毎回、学習支援システムで提示する講義資料を用いて講義内容の予習と復習をしておくこと。また、別途提示する小テスト問題を解いておくこと。
- ・本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

なし（毎回学習支援システムにより資料を配布する）

【参考書】

- 一般向けの相対性理論の解説書として：
 - ・「超」入門相対性理論：アインシュタインは何を考えたのか / 福江純著（ブルーバックス；B-2087）、（講談社、2019.2）
 - ・ゼロからわかる相対性理論：物理学を一変させたアインシュタインの時空の理論（ニュートン別冊）、（ニュートンプレス、2019.2）
- （その他、必要に応じて授業中に紹介する。）

【成績評価の方法と基準】

期末レポート（60%）と小テスト等の平常点（40%）から評価する。

【学生の意見等からの気づき】

相対論の効果は日常からはかけ離れたところに現れるので、可能な限りアナロジーを用いてわかりやすく説明したい。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布のために学習支援システムを利用する。

【Outline (in English)】

This course introduces basics of the special theory of relativity, which becomes evident when one moves as fast as the speed of light. The goals of this course are to understand fundamental idea of the special theory of relativity and to acquire flexible reasoning capacity when facing unconventional phenomena. Before and after each class meeting, students will be expected to spend totally four hours to understand the course content. Your overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end report (60%) and in class contribution including short reports (40%).

PHY300LA

相対性理論と宇宙 B

2017 年度以降入学者

石川 壮一

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 4/Wed.4

単位数：2 単位

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

アインシュタインの相対性理論と聞くと、「時計が遅れる」とか「長さが縮む」とか SF の世界の話で、理解するのがむずかしいと考えている人が多いと思う。一方で、我々の住んでいる世界（宇宙）を理解する上で相対性理論は重要な役割を果たしており、現代の技術の中には相対性理論が応用されているものもある。

相対性理論には、光のスピードに近い速さで運動した時に顕著になる特殊相対性理論と、強力な重力が働くときに顕著になる一般相対性理論とがある。本講義で学生は、一般相対性理論の基本的な考え方を学び、我々の住んでいる宇宙に関する理解を深める。

【到達目標】

- ・一般相対性理論の論理的な理解の習得。
- ・一般相対性理論の効果が顕著になるような非常に重力の強い場所に行くことなどを想像する思考実験を行うことにより、宇宙における自然現象をより深く理解するための思考の柔軟さを会得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

- ・学習支援システムで配布する資料を用いて講義を行う。
- ・適時、理解度を確認するための課題（小テスト）を出題する。
- ・課題等の提出・フィードバックは学習支援システムを通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
[1]	はじめに	講義の概要
[2]	ニュートンのリングと月	万有引力の法則はどのように導かれたのか理解する。
[3]	加速度運動と慣性力	加速度運動をしている観測系における物体の運動について
[4]	重力と時間	時間の進み方に対する重力の影響について
[5]	重力と空間	空間が歪んでいるとはどういうことか、空間の幾何学について考える。
[6]	時空間の歪み	重力が作用しているときの光の進み方について
[7]	宇宙の広がり	我々は宇宙をどのように理解してきたか
[8]	宇宙の大きさと膨張宇宙	膨張宇宙の発見とビッグバン宇宙論について
[9]	星の誕生と死・元素合成	太陽のような星の一生と、我々を形作っている元素の歴史について
[10]	アインシュタイン方程式	一般相対論の基礎であるアインシュタイン方程式が、何を意味しているのかについて学ぶ。
[11]	膨張宇宙論	我々の住んでいる宇宙はどうなっているのか、そしてどうなっていくのか考える。

- [12] ブラックホール（1） ブラックホールとは何なのか、そして、その観測方法について学ぶ。
- [13] ブラックホール（2） 銀河系の中心に存在する巨大ブラックホールについて
- [14] 重力波 重力波とは何か、重力波の観測について学ぶ。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・毎回、学習支援システムで提示する講義資料を用いて講義内容の予習と復習をしておくこと。また、別途提示する小テスト問題を解いておくこと。
- ・本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

なし（毎回授業支援システムにより資料を配布する）

【参考書】

- 一般向けの相対性理論の解説書として：
 - ・「超」入門相対性理論：アインシュタインは何を考えたのか / 福江純著

- （ブルーバックス；B-2087）、（講談社、2019.2）

- ・ゼロからわかる相対性理論：物理学を一変させたアインシュタインの時空の理論

- （ニュートン別冊）、（ニュートンプレス、2019.2）

- （その他、必要に応じて授業中に紹介する。）

【成績評価の方法と基準】

期末レポート（60%）と小テスト等の平常点（40%）から評価する。

【学生の意見等からの気づき】

相対論の効果は日常からはかけ離れたところに現れるので、可能な限りアナロジーを用いてわかりやすく説明したい。

【学生が準備すべき機器他】

資料配布・課題提出等のために学習支援システムを利用する。

【Outline (in English)】

This course introduces basics of the general theory of relativity, which becomes evident when one is close to a place of very strong gravity field.

The goals of this course are to understand fundamental idea of the general theory of relativity and to acquire flexible reasoning capacity when facing unconventional phenomena.

Before and after each class meeting, students will be expected to spend totally four hours to understand the course content.

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Term-end report (60%) and in class contribution including short reports (40%).

PHY300LA

現代の錬金術 A

2017 年度以降入学者

井坂 政裕

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 4/Thu.4

単位数：2 単位

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代でも希少価値が高く富の象徴でもある金は、古くから人類を魅了し続けてきた。錬金術は金を人工的に作り出そうとする試みであったが、金を他の物質から作り出すことはできず、失敗に終わった。しかし、そうした試みは、「物質は何からできているのか？」という根源的な問いに繋がるものであり、錬金術の発展（失敗）によって科学・技術が大いに進展したこともまた事実である。本講義では、科学の発展により、物質の究極の構成要素がどのように探究・理解されてきたのかを解説する。

本講義を通して、学生は、物理学の知識に基づき、「物質の究極の構成要素とは何なのか」という問いに対する現代的な答えや考え方を学ぶ。

【到達目標】

- ・自然現象や我々の生活を支えている科学技術を理解するための基礎知識を身につける。
- ・我々を構成している物質やその成り立ちについて科学的に理解することができる。
- ・元素について、個々の元素の化学的性質や物理的性質だけでなく、社会における利用例などを含めて多角的な観点から理解することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

スライドを使用した講義形式で行う。この授業は原則として対面授業として実施するが、初回授業はリアルタイムオンライン授業として実施する。

春学期中に数回程度学習支援システムを用いた小テストを実施し、第13回授業においてその講評や解説を行う。

講義では、高校で物理や化学を履修していなくても理解できるよう平易に説明する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	序章	特に物質の階層性に着目し、本講義の内容について概観する
第2回	原子は存在するのか？ (1) 一化学反応の基本法則	化学反応の基本法則と、それが示唆する原子の存在について
第3回	原子は存在するのか？ (2) 一気体の法則	気体の法則と分子運動論について
第4回	原子は存在するのか？ (3) 一気体の分子運動論	分子運動論から統計力学への発展について概観する
第5回	原子は構造を持つのか？ (1) 一元素の周期律	原子が構造を持つことを示すヒントとして、元素の周期律を中心に解説する
第6回	原子は構造を持つのか？ (2) 一電気分解や原子が出す光	第5回に引き続き、電気分解の法則や原子スペクトルを解説する

第7回	電子の発見と原子模型	電子の発見に関する実験や、それに基づく原子模型について
第8回	原子核の発見と原子核構造	ラザフォード実験の解説と、それに基づく原子構造の理解について
第9回	原子構造 (1) 一電子配置からわかること	電子配置と元素の周期性、化学結合のしくみについて解説する
第10回	原子構造 (2) 一量子力学の世界	磁性など、量子力学により説明可能な物質の性質について解説する
第11回	放射能の発見	放射能の発見とそれが意味することについて
第12回	原子核と放射線	放射性同位体や半減期に特に注目しながら、原子核がどのようなものかを解説する
第13回	春学期のまとめ (1) と関連する話題	春学期中に実施した小テストの解説を通して授業内容を振り返るとともに、春学期の授業内容に関連する話題を紹介する
第14回	春学期のまとめ (2) と試験	春学期の授業内容のまとめを行うとともに、試験を実施する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・身の回りの自然現象や科学ニュースに関心を持つこと。
- ・授業内容が深く関連する自然現象や科学技術などの具体例が何か考えること。
- ・配布資料などをもとに、各回の学習内容の復習を行うこと。
- ・本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しない。

【参考書】

必要に応じて授業中に紹介する。

【成績評価の方法と基準】

レポートと期末試験の成績（計80%）と平常点（20%）で評価する。レポートは、授業内容に関する課題を出題する。期末試験は選択式問題とし、試験時には、授業中に配布した資料やノート、メモなどの持ち込みを可とする。平常点については、春学期期間中に数回実施する小テストの提出状況により評価する。

【学生の意見等からの気づき】

わかりやすい説明を心がけます。

【Outline (in English)】

Course outline: This course introduces basic knowledge of the modern physics through the history of alchemy. It also helps students acquire an understanding of the hierarchy and origin of matter.

Learning Objectives: By the end of the course, students should be able to do the following:

- ・Explain attempts and difficulties of the alchemy in the ancient and middle ages
- ・Describe the hierarchy of matter from smallest to largest
- ・Discuss the evidences that indicates the existence of atoms
- ・Explain the structure of atom from the point of view of modern physics
- ・Explain the periodic table of elements in terms of the electron orbit

Learning activities outside of classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading Criteria/Policy: Grading will be decided based on report and term-end examination (80%) and usual performance score (20%).

PHY300LA

現代の錬金術 B

2017 年度以降入学者

井坂 政裕

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 4/Thu.4

単位数：2 単位

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代でも希少価値が高く富の象徴でもある金は、古くから人類を魅了し続けてきた。錬金術は金を人工的に作り出すこととする試みであったが、金を他の物質から作り出すことはできず、失敗に終わった。しかし、そうした試みは、「物質は何からできているのか？」という根源的な問いに繋がるものであり、錬金術の発展（失敗）によって科学・技術が大いに進展したこともまた事実である。本講義では、科学の発展により、物質の究極の構成要素がどのように探究・理解されてきたのかを解説する。さらに、古代・近世の錬金術の代わりに、どのような方法であれば金（元素）を人工的に作り出すことができるのか、現代物理学に基づく答えを探る。本講義を通して、学生は、物質の究極的な構成要素が何かを学ぶと同時に、それに基づき、宇宙において物質がどのように誕生し、進化してきたのかを学ぶ。

【到達目標】

- ・自然現象や我々の生活を支えている科学技術を理解するための基礎知識を身につける。
- ・我々を構成している物質やその成り立ちについて科学的に理解することができる。特に、物質の最小単位が何で、それによって身の回りの物質がどのように構成されているのか、それらは宇宙の中でどのように形成されたのかを理解することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

スライドを使用した講義形式で行う。この授業は原則として対面授業として実施するが、初回授業はリアルタイムオンライン授業として実施する。秋学期中に数回程度学習支援システムを用いた小テストを実施し、第13回授業においてその講評や解説を行う。講義では、高校で物理や化学を履修していなくても理解できるよう平易に説明する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	序章	20 世紀初頭に進展した原子論や量子論を説明し、本講義の内容について概観する
第 2 回	核力	原子核を結び付けている力（核力）とそのしくみについて
第 3 回	原子核の構造	原子核の構造について、原子や分子の構造と比較しながら解説する
第 4 回	原子核の反応	原子核の崩壊を含め核反応や質量エネルギーについて解説する
第 5 回	ニュートリノの発見	ニュートリノの予言と発見、最近の成果について
第 6 回	宇宙線がつくる粒子	宇宙線と宇宙線により生成された奇妙な粒子について
第 7 回	クォーク模型	クォーク模型とその歴史、現在の理解について説明する

第 8 回	標準模型	第 7 回までの内容を踏まえ、素粒子物理学の標準模型について解説する
第 9 回	加速器	加速器について紹介し、素粒子・原子核物理学における加速器実験を解説するとともに、加速器のそれ以外の分野での利用例を紹介する
第 10 回	宇宙における元素合成 (1) ービッグバン	元素の起源についての現代の理解について。また、宇宙の始まり（ビッグバン）と元素合成についても解説する。
第 11 回	宇宙における元素合成 (2) ー恒星内での元素合成	恒星の一生と恒星内部での元素合成について
第 12 回	宇宙における元素合成 (3) ー恒星の最期と超新星爆発	恒星の最期と超新星爆発に伴う元素合成過程について
第 13 回	現代の錬金術	これまでの授業内容を踏まえ、人工的に元素を生成・変換する方法について解説する。また、秋学期中に実施した小テストの講評や解説を行う。
第 14 回	まとめと試験	秋学期授業のまとめを行い、期末試験を実施する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

- ・身の回りの自然現象や科学ニュースに関心を持つこと。
- ・授業内容が深く関連する自然現象や科学技術などの具体例が何か考えること。
- ・配布資料などをもとに、各回の学習内容の復習を行うこと。
- ・本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

テキストは使用しない。

【参考書】

必要に応じて授業中に紹介する。

【成績評価の方法と基準】

レポートと期末試験の成績（計 80 %）と平常点（20 %）で評価する。レポートは、授業内容に関する課題を出題する。期末試験は選択式問題とし、試験時には、授業中に配布した資料やノート、メモなどの持ち込みを可とする。平常点については、秋学期期間中に数回実施する小テストの提出状況により評価する。

【学生の意見等からの気づき】

わかりやすい説明を心がけます。

【Outline (in English)】

Course outline: This course introduces basic knowledge of the modern physics through the history of alchemy. It also helps students acquire an understanding of the hierarchy and origin of matter.

Learning Objectives: By the end of the course, students should be able to do the following:

- ・ Explain the roles of the nuclear force in an atomic nucleus
- ・ Explain the similarities and differences of the structures between atoms and atomic nuclei
- ・ Explain the basic concepts of the standard model in the particle physics
- ・ Describe the importance of accelerators in the modern physics
- ・ Explain the origin of matters in the universe
- ・ Discuss the possible alternative to alchemy based on the knowledge of the modern physics

Learning activities outside of classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading Criteria/Policy: Grading will be decided based on report and term-end examination (80%) and usual performance score (20%).

PHY300LA

原子核と素粒子 A

2017 年度以降入学者

吉田 智

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 4/Tue.4

単位数：2 単位

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

紀元前 4 世紀頃の古代ギリシアの時代には、“アトム（これ以上分解できない粒子）” というものが考えられていた。その探求は 1911 年に原子核が発見されてから約 100 年の間に飛躍的に進み、現在ではクォークと呼ばれる素粒子が“アトム”に相当している。この宇宙において元素はどのようにして誕生したのか、ということを理解するために、この授業では、この宇宙には（最近命名された原子番号 113 番ニホニウムなどを含めて）どのような元素がどれくらいの割合で存在するのかということからスタートし、元素の物理学的な実体である原子についての理解を深める。

【到達目標】

この講義では、原子核や素粒子を通してミクロの世界について、応用技術も含めて理解できるようになることを目標としている。また元素の存在比や原子の構造を理解することによって、原子核・素粒子、宇宙についての理解の手助けとなる知識の習得を目標としている。新しい発見等を随時講義に取り上げながら、ミクロとマクロに対する現代物理学の最先端に接してもらおう予定である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

スライドと共に、資料を配付する講義形式で行います。高校で物理を履修していなくても理解できるように、難しい数式はできるだけ避けることにし、時にはビデオ、実験装置を使用する予定です。適宜、授業内での課題や質問に対する解説も行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	序章	講義の全体的な紹介する。
第 2 回	元素の周期律表	周期律表を眺めて、そこから見えてくる物理学的な謎に迫る。
第 3 回	元素の存在比（地球）	地球上の生物や地球を構成する元素について紹介する。
第 4 回	元素の存在比（宇宙）	地球以外の天体を構成する元素について、最新研究も含めて紹介する。
第 5 回	結晶構造	物体は 3 次元的に規則正しい立体的構造をもっている。そのいくつかの例を紹介する。
第 6 回	光の性質	ミクロの世界への扉を開くことになる、光の性質の研究について紹介する。
第 7 回	原子のスペクトル	原子からはどのような光（電磁波）が放出される仕組みについて解説する。
第 8 回	原子の構造（電子の発見）	電子はどのようにして発見されたのか、その過程について紹介する。
第 9 回	原子の構造（原子核の発見）	原子核発見に関する研究について紹介する。

第 10 回 原子の構造（前期量子論）

ボーアによる原子構造研究について紹介する。

第 11 回 原子の構造（電子配置）

第 5 回の内容に関して、物体が立体的構造をもつ仕組みについて紹介する。

第 12 回 ミクロの世界の不思議

ミクロの世界における不思議な現象について紹介する。

第 13 回 原子核の構造

原子核の構造について紹介する。

第 14 回 まとめ

まとめを行う。更に「原子核と素粒子 B」についての紹介を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

次回以降の講義内容の理解を助けるためにも、内容を復習しておくことが必要です。本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用せず、資料を配布します。

【参考書】

授業内で適宜紹介する予定です。

【成績評価の方法と基準】

学習支援システムを利用した、各回の課題 (70%) と期末レポート (30%) で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

改善アンケートの記載は特ではありませんでしたが、授業内容の質問には授業内や「学習支援システム」を使用して対応したいと思えます。高校や大学の基礎科目で物理に関係する科目を履修していない学生でも理解できる授業を目指しています。

【Outline (in English)】

This course introduces the atom and nucleus. In particular, it is introduced that the abundance ratio of elements not only on the earth but also in the universe, and the structure of atom and nucleus. In this course, goals are not only to deepen the knowledge but also to acquire the physical perspective. After each class, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Grading will be decided based on term-end examination (30%), and short examinations in every class (70%).

PHY300LA

原子核と素粒子B

2017年度以降入学者

吉田 智

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 4/Tue.4

単位数：2 単位

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

紀元前 4 世紀頃の古代ギリシアの時代には、“アトム（これ以上分解できない粒子）” というものが考えられていた。その探求は 1911 年に原子核が発見されてから約 100 年の間に飛躍的に進み、現在ではクォークと呼ばれる素粒子が“アトム”に相当している。この授業では、原子の核に相当する原子核の構造からスタートし、原子核反応、星の進化、そして素粒子・宇宙についての理解を深める。

【到達目標】

この講義では、原子核や素粒子を通してミクロの世界について、応用技術も含めて理解できるようになることを目標としている。またミクロの世界を通してマクロである宇宙の進化を学ぶことによって、この広大な宇宙の中で、私たちの体や地球を作る材料はいったいどのようにして合成されたのかということも理解できるようになることを目標としている。新しい発見等を随時講義に取り上げながら、ミクロとマクロに対する現代物理学の最先端に接してもらう予定である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

スライドと共に、資料を配付する講義形式で行います。高校で物理学を履修していなくても理解できるように、難しい数式はできるだけ避けることにし、時にはビデオ、実験装置を使用する予定です。適宜、授業内での課題や質問に対する解説も行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	序章	講義全体の説明と共に、20 世紀以前・以後の物理学について紹介する。
第 2 回	原子核の構造	原子核の構造について紹介する。
第 3 回	原子核の崩壊とエネルギー	原子核崩壊等に伴うエネルギーについて紹介する。
第 4 回	核分裂・核融合反応	原子核の核分裂・核融合反応について紹介する。
第 5 回	核分裂反応の応用	核分裂反応の応用である原子炉等について紹介する。
第 6 回	核融合反応の応用	熱核融合炉等、核融合反応の応用の可能性について紹介する。
第 7 回	天体における核融合反応	天体における核融合反応について紹介する。
第 8 回	星の進化、超新星爆発と元素合成	宇宙における元素合成のプロセスについて紹介する。
第 9 回	太陽ニュートリノ問題、ニュートリノ振動	スーパーカミオカンデ等で行われている、ニュートリノ研究について紹介する。
第 10 回	素粒子（クォークとレプトン）	現在までに判明している、素粒子の種類や分類について紹介する。
第 11 回	未発見の素粒子	現在行われている素粒子研究について紹介する。

第 12 回 宇宙の進化 ビッグバン以後、現在までの宇宙の進化について紹介する。

第 13 回 宇宙の大規模構造と宇宙論 宇宙論などの最新の研究について紹介する。

第 14 回 まとめ 全体のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

次回以降の講義内容の理解を助けるためにも、内容を復習しておく必要があります。本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用せず、資料を配布します。

【参考書】

授業内で適宜紹介する予定です。

【成績評価の方法と基準】

学習支援システムを利用した、各回の課題 (70%) と期末レポート (30%) で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

改善アンケートの記載は特にはありませんでしたが、授業内容の質問には授業内や「学習支援システム」を使用して対応したいと思えます。高校や大学の基礎科目で物理に関係する科目を履修していない学生でも理解できる授業を目指しています。

【Outline (in English)】

This course introduces the nucleus and elementary particle. In particular, it is introduced that the structure of nucleus, the reaction mechanism of nuclei, the nucleosynthesis, and the evolution of stars and the universe. In this course, goals are not only to deepen the knowledge but also to acquire the physical perspective. After each class, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Grading will be decided based on term-end examination (30%), and short examinations in every class (70%).

BIO300LA

教養ゼミ I

2017 年度以降入学者

島野 智之

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 4/Mon.4

単位数：2 単位

定員制 (20 名) ※履修登録は学部事務にて行います。

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

最終的には、自然と私達の関係を見つめ直すことが目的である。生物としての人間を知るために、地球史における自然の形成プロセス (生命史) と生物の進化を学ぶ (自然史)。

用いる教科書は内容的に難しく感じるが、これまで生物学に触れたことがなくても理解できるように平易に説明する。

生物学の観点から生命とは何か、進化とは何かを考え、地球上に見られる生物の多様性がどの様に生み出されてきたのかを考える。

また、現在、生物進化の結果、維持されている生態系と人間との関係は、水産業、農業、林業などの産業によって結びついていることについても考える。

オータムセッション (秋学期として：9 月 13 日～9 月 19 日) では、春学期に学んだ自然史の知識をもとに、自然史博物館でのフィールドワークを実際におこない、展示などの調査に基づいて、博物館の展示の意義と内容、その展示手法を学ぶ。

【到達目標】

生命 (生きていること) を考えるための基礎としての自然と人間についての価値観を考え、社会活動・社会生活の中に活かすことの出来るように説明できること。年度の最後に、種々の資料や調査を付き合わせて、各自の成果を発表にまとめる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

授業およびゼミ形式で行う。生物学の観点から、生命とは何か、進化とは何かを考え、地球上に見られる生物の多様性がどの様に生み出されてきたのかを講義し、レポートをまとめ、討議してもらう。オータムセッション (秋学期として：9 月 13 日～9 月 19 日) では、春学期に学んだ自然史の知識をもとに、自然史博物館でのフィールドワークを実際におこない、展示などの調査に基づいて、博物館の展示の意義と内容、その展示手法を学ぶ。事後には討議、ゼミ形式でレポートに年度の最後としてまとめる。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス。進化の概念の歴史	博物館フィールドワークについて；調査の進め方；自然発生説；ダーウインの自然選択説；DNA の変異
第 2 回	無機物から有機物・原始生命体への化学進化	生物とは何か；43 億年前に海が形成された証拠；熱水噴出孔での化学進化、など。
第 3 回	生命の誕生	原始独立栄養生物の誕生；高熱性アーキアと高熱性細菌；超高熱性菌の DNA2 本鎖が解離しない仕組み
第 4 回	光合成生物と好気性生物の出現	光合成細菌の光合成；好気性生物の出現；シアノバクテリアの光合成、など。

第 5 回	真核生物の出現	酸素呼吸する真核生物の出現；真核生物がアーキアに由来する証拠；真核生物の起源となった原核生物、など。
第 6 回	多細胞か和有性生殖の獲得	単細胞時代に分岐していた植物・菌類・動物；多細胞生物の出現；有性生殖のはじまり、など。
第 7 回	遺伝的多様性と新規遺伝子の獲得をもたらす有性生殖	遺伝子の多様性をもたらす有性生殖；有性生殖は新規遺伝子の獲得を促進した；遺伝子ファミリーの形成、など。
第 8 回	動物の多様化	全球凍結が多細胞生物を多様化させた；脊椎動物の出現；エディアカラ生物群の絶滅とカンブリア爆発、など。
第 9 回	陸上植物の出現と多様化	陸上植物の起源；コケ植物が先か；前維管束植物が先か、など。
第 10 回	動物の陸上進出	節足動物の陸上進出；哺乳類の出現；鳥類の出現、など。
第 11 回	進化を促進する仕組み	塩基配列の変異はランダムにおこる；ウニとヒトはほとんど同じ遺伝子を持つ；タンパク質は自律的に細胞を形成する、など。
第 12 回	エボデポ体制の進化	ダーウインフィンチの嘴の進化；節足動物の付属肢の進化；鳥エンハンサーが鳥類を進化させた、など。
第 13 回	エボデポ特異体制の進化	ヘビの特異な形態をもたらした進化機構；フゲの特異な形態をつくるしくみ、など。
第 14 回	まとめ。重要用語の振り返り。博物学について、生物の名前の付け方。	まとめと振り返り。ホモサピエンスの 7 万年前の大発明；博物学について；生物の名前の付け方、など。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

疑問などはそのままにせず、まず自分で解決するよう努力して下さい。事前につたえるので、討議に必要な事前の調査、あるいは、授業に必要な必要な知識などを予習していただきます (その方法などお知らせします)。

また、レポートは授業の内容に沿って作成するようにしてください。インターネットからの copy & paste は、容易に判明することが可能ですので行わないように。

【テキスト (教科書)】

進化生物学 -ゲノミクスが解き明かす進化-, 赤坂甲治 (著), 裳華房, 2021 年出版, 定価 3520 円 (本体 3200 円 + 税 10 %)

【参考書】

必要に応じて、その都度指示する。

【成績評価の方法と基準】

毎回行う授業内の小レポート (60%) および、授業への積極的な貢献度 (出席状況を含む) (30%) も加え、総合的に評価する。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60% 以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

積極的に疑問点などについては、自分で調べることが大切である。

【学生が準備すべき機器他】

適宜パワーポイント資料の作成をおこなってもらい、適宜パソコンを使用できるようにしておくこと。

【その他の重要事項】

1) 現地調査 (フィールドワーク) のための、交通費 (宿泊はしません) が必要で (5,000~9,000 円程度：入館料、ガイド料、交通費など、金額は前後することがあります。)、ガイダンスに必ず出席して下さい。

2) 選抜を行いますので最初の授業には必ず出席して下さい。また、受講希望者が定員 (最大 20 名程度) を超えた場合にも、再度、選抜を行います。

3) 2017 年度以降入学生：[半期科目「教養ゼミⅠ」、「教養ゼミⅡ」
として履修する学生] 半期のみの履修登録が可能となる方。教養ゼミⅠ「自然史」と教養ゼミⅡ「自然史」を両方とも履修すること。

※どちらか一方だけの授業は履修できません。

4) 2016 年度以前入学生：年間科目「自然史」または哲学科専門科目「人間学4（自然史）」として履修する方。年間科目として履修する方は、9月のオータムセッション（9月13日～9月19日）での、フィールドワークへの参加が可能であることを前提とし、履修登録を行うこと。

5) 授業の初めに、その日に必要な事項の説明を行いますので、くれぐれも遅刻しないようにご注意ください。正当な理由のある遅刻を除き、10分以上の遅刻は、イエロー・カードとなります。累積カード2枚で1回欠席となります。

6) 9月の初旬（オータムセッション：9月13日～9月19日）に、東京・神奈川でのフィールドワークを実施予定とし、台風等により実施不可となった場合は、再スケジュールとする。

【Outline (in English)】

Eventually, the objective is to reconsider our relationship with nature. To learn about the formation process of nature and the evolution of organisms in the history of the earth (natural history) in order to understand human beings as living organisms.

The textbook to be used may seem difficult in terms of content, but it will be explained in a simple manner so that students who have never been exposed to biology before can understand it.

From the viewpoint of biology, we will consider what life is and what evolution is, and how the diversity of life on the earth has been created.

We will also consider the relationship between humans and the ecosystems maintained as a result of biological evolution, which are currently linked by industries such as fisheries, agriculture, and forestry.

In the Autumn Session (as the Fall Semester: September 13 - 19). Based on the knowledge of natural history acquired in the spring semester, fieldwork will be conducted at a natural history museum to study the significance and contents of museum exhibits and their display techniques, based on surveys of exhibits and other materials.

Students are expected to complete the required assignments (class tests, assignment reports) at the end of each class. Your study time will be more than four hours for a class.

The basic grade is the report to be submitted at the end of the lecture/practice (60%). In addition to this, various documents to be submitted in the lecture (impressions of videos, etc., quizzes, etc.) (40%) will also be added, and students will be evaluated comprehensively.

Students who have achieved at least 60% of the objectives of the class will be graded on the basis of this grading system.

BIO300LA

教養ゼミ II

2017 年度以降入学者

島野 智之

開講時期：オータムセッション/Autumn Session | 曜日・時限：
集中・その他/intensive・other courses

単位数：2 単位

定員制 (20 名) ※履修登録は学部事務にて行います。

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

教養ゼミ II では、オータムセッション (秋学期として：9 月 13 日～9 月 19 日) では、春学期に学んだ自然史の知識をもとに、自然史博物館でのフィールドワークを実際におこない、現地調査に基づいて、博物館の展示の意義と内容、その展示手法を学ぶ。

最終的には、自然と私達の関係を見つめ直すことが目的である。生物としての人間を知るために、地球史における自然の形成プロセス (生命史) と生物の進化を学ぶ (自然史)。

生物学の観点から生命とは何か、進化とは何かを考え、地球上に見られる生物の多様性がどの様に生み出されてきたのかを考える。

また、現在、生物進化の結果、維持されている生態系と人間との関係は、水産業、農業、林業などの産業によって結びついていることについても考える。

【到達目標】

生命 (生きていること) を考えるための基礎としての自然と人間についての価値観を考え、社会活動・社会生活の中に活かすことの出来るように説明できること。年度の最後に、種々の資料や調査を付き合わせて、各自の成果を発表にまとめる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

オータムセッション (秋学期として：9 月 13 日～9 月 19 日) では、生物学の観点から、生命とは何か、進化とは何かを考え、地球上に見られる生物の多様性がどの様に生み出されてきたのかを討議し、社会活動・社会生活の中に活かすことの出来るように説明発表してもらう。

つぎに、春学期に学んだ自然史の知識をもとに、自然史博物館でのフィールドワークを実際におこない、展示などの調査に基づいて、博物館の展示の意義と内容、その展示手法を学ぶ。事後には討議、ゼミ形式でレポートに年度の最後としてまとめる。命を考えるための基礎としての自然と人間についての価値観を考え、できること。年度の最後に、種々の資料を付き合わせて、各自の成果を発表にまとめる。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】
あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	フィールドワーク I (1)	博物館学と博物学。博物館フィールドワークについて【講義】
第 2 回	フィールドワーク I (2)	フィールドワークについてテーマの設定と討議
第 3 回	フィールドワーク II (1)【現地フィールドワーク：国立科学博物館】	生物の進化を展示から理解しと博物館の展示形態を調査する (1)
第 4 回	フィールドワーク II (2)【現地フィールドワーク：国立科学博物館】	生物の進化を展示から理解しと博物館の展示形態を調査する (2)

第 5 回	フィールドワーク II (3)【現地フィールドワーク：国立科学博物館】	生物の進化を展示から理解しと博物館の展示形態を調査する (3)
第 6 回	フィールドワーク II (4)【現地フィールドワーク：国立科学博物館】	生物の進化を展示から理解しと博物館の展示形態を調査する (4)
第 7 回	フィールドワーク III (1)【現地フィールドワーク：神奈川県立・生命の星地球博物館】	館の特徴である「地球史 (地質) と組み合わせた生物の進化」という展示を理解し博物館の展示形態を調査する (1)
第 8 回	フィールドワーク III (2)【現地フィールドワーク：神奈川県立生命の星地球博物館】	館の特徴である「地球史 (地質) と組み合わせた生物の進化」という展示を理解し博物館の展示形態を調査する (2)
第 9 回	フィールドワーク III (3)【現地フィールドワーク：神奈川県立生命の星地球博物館】	館の特徴である「地球史 (地質) と組み合わせた生物の進化」という展示を理解し博物館の展示形態を調査する (3)
第 10 回	フィールドワーク IV (1)【現地フィールドワーク：目黒寄生虫館】	館の特徴である「寄生虫の進化と適応」という展示を理解し博物館の展示形態を調査する (1)
第 11 回	フィールドワーク IV (1)【現地フィールドワーク：目黒寄生虫館】	館の特徴である「寄生虫の進化と適応」という展示を理解し博物館の展示形態を調査する (2)
第 12 回	フィールドワーク V (1)【現地フィールドワーク：国立科学博物館、附属自然教育園】	館の特徴である「自然や生態系を理解する」という展示を理解し、園の展示の工夫を調査する (1)
第 13 回	フィールドワーク V (2)【現地フィールドワーク：国立科学博物館、附属自然教育園】	館の特徴である「自然や生態系を理解する」という展示を理解し、園の展示の工夫を調査する (2)
第 14 回	フィールドワーク VI 討議・まとめ	各自で作成したレポートについて発表と討議をおこなう。フィールドワークのまとめ。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

疑問などはそのままにせず、まず自分で解決するよう努力して下さい。事前につたえるので、討議に必要な事前の調査、あるいは、授業に必要な知識などを予習していただきます (その方法などお知らせします)。

また、レポートは授業の内容に沿って作成するようにしてください。インターネットからの copy & paste は、容易に判明することが可能ですので行わないように。

【テキスト (教科書)】

進化生物学 -ゲノミクスが解き明かす進化-, 赤坂甲治 (著), 裳華房, 2021 年出版, 定価 3520 円 (本体 3200 円 + 税 10 %)

【参考書】

必要に応じて、その都度指示する。

【成績評価の方法と基準】

毎回行うフィールドワーク後のレポート (60%) および、授業への積極的な貢献度 (出席状況を含む) (30%) も加え、総合的に評価する。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60% 以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

積極的に疑問点などについては、自分で調べることが大切である。

【学生が準備すべき機器他】

適宜パワーポイント資料の作成をおこなってもらう。適宜パソコンを使用できるようにしておくこと。

【その他の重要事項】

1) 現地調査 (フィールドワーク) のための、交通費 (宿泊はしません) が必要です (5,000~9,000 円程度：入館料、ガイド料、交通費など、金額は前後することがあります)。ガイダンスに必ず出席して下さい。

2) 選抜を行いますので最初の授業には必ず出席して下さい。また、受講希望者が定員（最大 20 名程度）を超えた場合にも、再度、選抜を行います。

3) 2017 年度以降入学生：[半期科目「教養ゼミ I」、「教養ゼミ II」]として履修する学生]半期のみの履修登録が可能となる方。教養ゼミ I「自然史」と教養ゼミ II「自然史」を両方とも履修すること。

※どちらか一方だけの授業は履修できません。

4) 2016 年度以前入学生：年間科目「自然史」または哲学科専門科目「人間学 4（自然史）」として履修する方。年間科目として履修する方は、9 月のオータムセッション（9 月 13 日～9 月 19 日）での、フィールドワークへの参加が可能であることを前提とし、履修登録を行うこと。

5) 授業の初めに、その日に必要な事項の説明を行いますので、くれぐれも遅刻しないようご注意ください。正当な理由のある遅刻を除き、10 分以上の遅刻は、イエロー・カードとなります。累積カード 2 枚で 1 回欠席となります。

6) 9 月の初旬（オータムセッション：9 月 13 日～9 月 19 日）に、東京・神奈川でのフィールドワークを実施予定とし、台風等により実施不可となった場合は、再スケジュールとする。

【Outline (in English)】

In the Autumn Session (as the Fall Semester: September 13 - 19). Based on the knowledge of natural history acquired in the spring semester, fieldwork will be conducted at a natural history museum to study the significance and contents of museum exhibits and their display techniques, based on surveys of exhibits.

Eventually, the objective is to reconsider our relationship with nature. To learn about the formation process of nature and the evolution of organisms in the history of the earth (natural history) in order to understand human beings as living organisms.

From the viewpoint of biology, we will consider what life is and what evolution is, and how the diversity of life on the earth has been created.

We will also consider the relationship between humans and the ecosystems maintained as a result of biological evolution, which are currently linked by industries such as fisheries, agriculture, and forestry.

Students are expected to complete the required assignments (class tests, assignment reports) at the end of each class. Your study time will be more than four hours for a class.

The basic grade is the report to be submitted at the end of the lecture/practice (60%). In addition to this, various documents to be submitted in the lecture (impressions of videos, etc., quizzes, etc.) (40%) will also be added, and students will be evaluated comprehensively.

Students who have achieved at least 60% of the objectives of the class will be graded on the basis of this grading system.

CHM300LA

イオンの科学 A

2017 年度以降入学者

向井 知大

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 2/Mon.2

単位数：2 単位

定員制 (30 名)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

我々の身の回りには、「マイナスイオン」や「アルカリイオン」など「イオン」という言葉が溢れています。このイオンとは本来どのようなものなのか、現代社会にイオンが貢献している点について学習します。

【到達目標】

イオンは、物質から電気エネルギーを取り出したり、美しい光沢を持った金属の製造だけでなく、有機物の状態や見た目を変化させたり、化学反応を進める上でも重要な役割を果たしています。これらの現象とイオンの性質の関係を理解することで、身の回りの物質や製品についてより深い興味を引き出すことを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

本授業では、講義だけでなく毎回実験を行います。授業ごとに実験結果をまとめ、感想や考察(小レポート)を書いてもらいます。化学実験の経験がなくても大丈夫のように、簡便な操作の実験を用意しています。また、高校等における自然科学系科目の履修の有無に関わらず理解できるように進めるように意識しています。小レポートについて、次回授業のはじめに解説します。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	講義計画と実験の概要について説明
第 2 回	原子の構造	原子の構造と性質
第 3 回	砂糖と塩	イオンと有機化合物の違いについて
第 4 回	塩の溶解	水に溶けやすい塩と溶けにくい塩について
第 5 回	電子の配置	イオンになりやすい原子について
第 6 回	炎色反応	各種元素固有の光について
第 7 回	ホウ砂球反応	色のついた小さなガラス玉の作成
第 8 回	イオンの色	水を含むことで発色するイオンについて
第 9 回	水と酸塩基	水中のイオンの構造について
第 10 回	イオンの沈殿反応	イオンと化学物質の結びつきについて
第 11 回	金属イオンの分離 1	様々なイオンが溶けた水溶液からの、特定イオンの分離
第 12 回	金属イオンの分離 2	沈殿生成によるイオンの分離
第 13 回	金属イオンの定性分析	未知試料に含まれる金属イオンの検出
第 14 回	まとめ	これまでの内容のまとめ

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

講義の内容に関連すると考えられる現象や用語について、各自が興味を持って書籍や web 検索などで調査してみてください。本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

使用しません。毎時間プリントを配布します。

【参考書】

使用しません。

【成績評価の方法と基準】

実験回に課すレポートで平常点 (配分 80%) を評価し、学期末の試験 (配分 20%) とあわせて評価します。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【その他の重要事項】

この授業は化学実験室で行われます。

受講希望者数が過剰な場合、第 1 回目のガイダンスで抽選を行う場合があります。過去 3 年間、抽選は実施していません。

【Outline (in English)】

This course introduces the fundamental principles of ions.

The goal of the course is to improve your science literacy.

Your required study time is at least two hours for each class meeting.

Your overall grade in the class will be decided based on the usual performance score (80%) and term-end examination (20%).

CHM300LA

イオンの科学 B

2017 年度以降入学者

向井 知大

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 2/Mon.2

単位数：2 単位

定員制 (30 名)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

我々の身の回りには、「マイナスイオン」や「アルカリイオン」など「イオン」という言葉が溢れています。このイオンとは本来どのようなものなのか、現代社会にイオンが貢献している点について学習します。

【到達目標】

イオンは、物質から電気エネルギーを取り出したり、美しい光沢を持った金属の製造だけでなく、有機物の状態や見た目を変化させたり、化学反応を進める上でも重要な役割を果たしています。これらの現象とイオンの性質の関係を理解することで、身の回りの物質や製品についてより深い興味を引き出すことを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

本授業では、講義だけでなく毎回実験を行います。授業ごとに実験結果をまとめ、感想や考察（小レポート）を書いてもらいます。化学実験の経験がなくても大丈夫なように、簡便な操作の実験を用意しています。また、高校等における自然科学系科目の履修の有無に関わらず理解できるように進めるように意識しています。小レポートについて、次回授業のはじめに解説します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	講義計画と実験の概要について説明
第 2 回	溶液の濃度	溶液中に含まれる分子、イオンの数について
第 3 回	中和反応と pH の変化	中和反応における pH 変化の測定
第 4 回	弱酸と解離定数	物質としての酸、塩基の強弱を表す指標について
第 5 回	静電気と動電気	静電気と電池の違いについて
第 6 回	ボルタの電池と標準電位	電池における電解質の役割について
第 7 回	銅板エッチング	鉄イオン溶液を使って金属銅を溶かす実験
第 8 回	亜鉛めっきと合金	金属銅への亜鉛めっきとその合金の作成
第 9 回	無電解めっき	めっきの歴史と電気を使わないめっきについて
第 10 回	自己触媒型無電解めっき	めっきされた金属が触媒となって進行するめっき反応について
第 11 回	フォトレジスト	光化学反応による構造変化によって溶解度が変わる仕組みについて
第 12 回	さびの生成と防食	さびが生成するメカニズムとこれを防止するための方法について
第 13 回	イオン液体	イオンのみからなる液体とその応用について
第 14 回	まとめ	これまでの内容のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

講義の内容に関連すると考えられる現象や用語について、各自が興味を持って書籍や web 検索などで調査してみてください。本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

使用しません。毎時間プリントを配布します。

【参考書】

使用しません。

【成績評価の方法と基準】

毎回の小レポートを平常点 (配分 80%) とし、学期末試験 (配分 20%) とあわせて評価します。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【その他の重要事項】

この授業は化学実験室で行われます。

受講希望者数が過剰な場合、第 1 回目のガイダンスで抽選を行う場合があります。

過去 3 年間、抽選は実施していません。

【Outline (in English)】

This course introduces the fundamental principles of ions.

The goal of the course is to improve your science literacy.

Your required study time is at least two hours for each class meeting.

Your overall grade in the class will be decided based on the usual performance score (80%) and term-end examination (20%).

CHM300LA

光と色の科学A

2017 年度以降入学者

中島 弘一

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 4/Mon.4

単位数：2 単位

定員制 (30 名)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

夕焼けは雲が赤いのであって、空は赤く染まりません。虹はよく見ると二重になっているのを知っていますか？ 宝石の色は何に由来するのでしょうか？ 赤、黄、青の三色しかないのにフルカラーで印刷されるプリンターの仕組みは？ ボールペンで書いた文字が消える仕組みを知っていますか？ …こういった不思議な現象や物が身の回りにはたくさんあります。これらを完全に理解するのは少し難しいかもしれませんが、自然科学の基本を組み合わせて、理屈は理解できるようになります。講義による解説と道具を使った観察を通じて光と色の関係を理解することを目標にしています。

【到達目標】

人間の目がどうやって色を認識するのが理解できます。ろうそくの炎、蛍光灯、LED などが光る仕組みと違いを学ぶ。オーロラや虹など自然界に見られる現象を科学的に理解する。光の性質を利用した便利グッズの仕組みを理解できるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

実験室での対面授業を基本とします。講義が主体ですが、できるだけ実際に見たり、触れたりしながら授業を進めたいので、いろいろな道具を使ったり、簡単な実験も行う予定です。講義の最後に、毎回、簡単な課題を出して、理解度を確認します。課題の解説は原則、翌週の講義の中で行います。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	講義概要	1 年間の講義の中身についてどのようなものか紹介します。
第 2 回	光と色の混色	光を混ぜ合わせた時と色素を混ぜ合わせた時の違いについて学びます。
第 3 回	視覚と色覚	目の構造と色覚についてその仕組みを学びます。
第 4 回	色覚の変遷と色覚異常	色覚異常の仕組みと視覚、色覚の進化について解説します。
第 5 回	電磁波と光	光は電磁波の一種です。大きな範囲の電磁波について学びます。
第 6 回	光の利用	身の回りにおける光や電波の利用について解説します。
第 7 回	光源の種類と発光の仕組み その 1 (放電管・蛍光灯・電球)	ネオンサインと蛍光灯、電球の発光原理の違いについて学びます。
第 8 回	光源の種類と発光の仕組み その 2 (LED)	LED の発光原理を解説します。同じ電気で発光しているのに電球や蛍光灯ともまた違った原理で光っています。
第 9 回	オーロラ	オーロラの発光原理を学びます。

第 10 回 生物発光

ホタルや夜光虫、オワンクラゲの発光原理とその応用を学びます。ルミノール発光は血痕鑑定という犯罪捜査に利用されていますが、その仕組みを実験を通じて学びます。

第 11 回 化学発光 (実験)

屈折や散乱の仕組みを学び、虹や空の色を理解する。

第 12 回 屈折と散乱

干渉や偏光の仕組みを学び関連する身の回りの現象や応用例を理解する。

第 13 回 干渉と偏光

第 14 回 まとめ

春学期の振り返りを行います。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

日ごろから身の回りの光や色について感心を持ち、気づいたことがあれば、インターネットで検索して学習するとともに、授業内で質問する。

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

授業内容に一致するテキストが見当たらないので、適宜、プリントを配布します。

【参考書】

中原勝儼著「色の科学 改訂版」, 培風館, 1999.

江森康文他著「色 その科学と文化」, 朝倉書店, 1984.

【成績評価の方法と基準】

毎回科す課題への取り組み (30%) と期末試験の結果 (70%) を元に成績をつけます。

【学生の意見等からの気づき】

授業の中身は高校の物理、化学、生物にまたがる内容となっています。人間の目が色を認識する仕組みは生物学的知識が、オーロラや虹の仕組みは物理の知識が必要ですし、物体の色は原子や分子の構造に関係するので化学が関係します。理科が不得手な人にはちょっと難しい内容かもしれませんが、基本的なところから解説します。つながりがわからないようであれば、勇気を出して授業内で声を出して質問してください。講義だけでは理解しにくいと思うので、実際に見たり、触れたり、簡単な実験をしたりしながら授業を進めますので、原則、対面での授業を想定しています。

【その他の重要事項】

いくつか講義の中で小道具を使ったり、簡単な実験を行う関係で定員 (24 名) を設けています。この授業の履修を希望する方は必ず初回の授業に出席してください。秋学期の B の内容も春の初回に説明します。

【Outline (in English)】

The aim of the course is to help students acquire an understanding of the fundamental principles of light and color. The course "A" deals with behavior of light, correlation between light and color, systems of light emitting and mechanism of visual perception. Study time of students will be more than two hours for a class. A grade point will be evaluated from a score of term-end examination (70%), and in-class contribution (30%).

CHM300LA

光と色の科学B

2017年度以降入学者

中島 弘一

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 4/Mon.4

単位数：2 単位

定員制 (30 名)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

夕焼けは雲が赤いのであって、空は赤く染まりません。虹はよく見ると二重になっているのを知っていますか？ 宝石の色は何に由来するのでしょうか？ 赤、黄、青の三色しかないのにフルカラーで印刷されるプリンターの仕組みは？ ボールペンで書いた文字が消える仕組みを知っていますか？ …こういった不思議な現象や物が身の回りにはたくさんあります。これらを完全に理解するのは少し難しいかもしれませんが、自然科学の基本を組み合わせることで、理屈は理解できるようになります。講義による解説と道具を使った観察を通じて光と色の関係を理解することを目標にしています。

【到達目標】

物質が吸収する光と物質の色の関係を理解する。
色のあるものとなしもの違いが何に起因するのか理解できる。
顔料と染料の違い、特徴を理解する。
染色する技法について学ぶ。
分子や原子の世界を頭に思い描きながら、光と物質が作り出す身の回りのいろいろな現象の仕組みを理解することを目標にしています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

実験室での対面授業を基本とします。講義が主体ですが、できるだけ実際に見たり、触れたりしながら授業を進めたいので、いろいろな道具を使ったり、簡単な実験も行う予定です。講義の最後に、毎回、簡単な課題を出して、理解度を確認します。課題の解説は原則、翌週の講義の中で行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	古代の色素（顔料編）	高松塚古墳の壁画などを挙げ、古代の人々が利用した顔料について解説します。
第 2 回	古代の色素（染料編）	古代から伝えられている染色やお歯黒をはじめとした化粧文化について解説します。
第 3 回	顔料と染料	光と色の関係を復習するとともに、顔料と染料の違いを学びます。
第 4 回	顔料の色の仕組み（遷移金属イオンの色）	電子配置と色の関係を金属イオンをもとに解説します。
第 5 回	宝石の色	宝石を題材に、顔料が光を吸収する仕組みを学びます。
第 6 回	有機化合物の構造と結合	化学結合の仕組みと多様な有機化合物の反応性を学習します。
第 7 回	染料の構造と色の仕組み	染料分子の光吸収の仕組みを解説します。
第 8 回	自然界の色（光合成色素の話）	光合成と呼吸の仕組みを学び、合わせて関連する分子の類似点を学びます。

第 9 回	自然界の色	自然界の植物や動物が利用しているいろいろな色素の種類と構造を学びます。
第 10 回	伝統色名と表色系	基本色や伝統色名の語源や、色を伝える方法を学びます。
第 11 回	染色の方法と種類	伝統的な染色の技法を学びます。
第 12 回	染色実験	草木染を実際に行います。
第 13 回	身の回りの色	温度で色が変わるグッズ、銀塩写真やポラロイドの仕組みについて学びます。
第 14 回	まとめ	授業の内容の振り返りを行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日ごろから身の回りの光や色について感心をもち、気づいたことがあれば、インターネットで検索して学習するとともに、授業内で質問する。
本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業内容に一致するテキストが見当たらないので、適宜、プリントを配布します。

【参考書】

中原勝儼著「色の科学 改訂版」, 培風館, 1999.
江森康文他著「色 その科学と文化」, 朝倉書店, 1984.

【成績評価の方法と基準】

毎回科す課題への取り組み (30%) と期末試験の結果 (70%) を元に成績をつけます。

【学生の意見等からの気づき】

授業の中身は高校の物理、化学、生物にまたがる内容となっています。理科が不得手な人にはちょっと難しい内容かもしれませんが、基本的なところから解説します。つながりがわからないようであれば、勇気を出して授業内で声を出してください。講義だけでは理解しにくいと思うので、実際に見たり、触れたり、簡単な実験をしたりしながら授業を進めますので、原則、対面での授業を想定しています。

【学生が準備すべき機器他】

特にありません。

【その他の重要事項】

秋学期のこの科目は「色」に関する話題を提供しますが、春学期の「光」と密接なつながりがあるので、A と B、両方の受講が望まれます。いくつか講義の中で小道具を使ったり、簡単な実験を行う関係でこの科目は定員 (24 名) を設けています。履修希望者が多かった場合は、春学期の履修者を優先し、春学期の段階で定員が満たされる場合もあります。秋学期の B について定員枠に余裕がある場合はシラバス、または Hoppii 等を通じてお知らせします。

【Outline (in English)】

The aim of the course is to help students acquire an understanding of the fundamental principles of light and color. The course "A" deals with behavior of light, correlation between light and color, systems of light emitting and mechanism of visual perception. Study time of students will be more than two hours for a class. A grade point will be evaluated from a score of term-end examination (70%), and in-class contribution (30%).

PRI300LA

ITリテラシー

2017年度以降入学者

児玉 靖司

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 1/Fri.4

単位数：2 単位

定員制 (30 名)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

情報通信技術（Information Communication Technology）について基本的な事柄を学ぶ。コンピュータを用いた技術であるので、コンピュータの基礎およびコンピュータ科学を中心に応用技術まで含めた形で幅広く学ぶ。

【到達目標】

講義形式で、情報技術に必要な基本的な知識を習得することを目標とする。計算をする問題だけでなく、社会科学分野での問題と情報通信技術との関わりについての話題にも関心を持ち、自分で解決する能力を養う。可能であれば、情報に関する初歩の資格試験に合格することを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

春学期は、コンピュータの基礎（ソフトウェア・ハードウェア）からネットワーク、プログラミング言語等、ITリテラシーに関する話題について学ぶ。

毎回、講義に関するチェックテストを実施して解答に関する説明をしながら、質問にも対応し、フィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	情報技術とはについて概略を学ぶ。
第 2 回	コンピュータの歴史	コンピュータの創生期から、現在のコンピュータまでについて学ぶ。
第 3 回	2 進数、8 進数、16 進数（1）	2 進数について基礎的な概念を学び、応用である 8 進数、16 進数について学ぶ。
第 4 回	2 進数、8 進数、16 進数（2）	2 進数の計算から、8 進数、16 進数の計算について学ぶ。
第 5 回	2 進数、8 進数、16 進数（3）	2 進数の応用事例など補数、小数点数の表現等について学ぶ。
第 6 回	システムについて	コンピュータシステムを中心としたシステムについて学ぶ。
第 7 回	情報システム（1）	CMS（Contents Management System）を中心とした、情報システムについて学ぶ。
第 8 回	情報システム（2）	LMS、SNS を中心とした情報システムについて学ぶ。
第 9 回	情報セキュリティ（1）	ウイルス、ワーム、トロイの木馬等について学び、後半では、共通鍵暗号方式、公開鍵暗号方式について学ぶ。
第 10 回	情報セキュリティ（2）	ウイルス、ワーム、トロイの木馬等について学び、後半では、共通鍵暗号方式、公開鍵暗号方式について学ぶ。

第 11 回	ハードウェアの基礎	ハードウェアの基礎について学ぶ。
第 12 回	ハードウェアの応用	ハードウェアの応用について学ぶ。
第 13 回	インダストリー 4.0	最近話題となっている新しい技術革新について解説する。
第 14 回	まとめ	本講義のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業について必要な予習・復習を行うこと。時々レポート課題を出すので期限を守り提出すること。本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

基本的にパワーポイントの資料（PDF）をテキストとするが、その他については開講時に指示する。

【参考書】

開講時に指示する。学習管理システム Classroom 上に公開する。

【成績評価の方法と基準】

春学期ウェブ試験が 40%、平常点が 60% で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

具体的な事例を多く説明する。概ね情報学について説明できていようであるが、毎回の復習をより丁寧に行うように工夫する。

【学生が準備すべき機器他】

基本的に PC の画面をプロジェクトに投影し解説を行う。適宜インターネットにアクセスしながら最新事例を紹介する。学習管理システム Classroom を活用し効率の良い授業を行う。

【その他の重要事項】

特になし。

【Outline (in English)】

【Course Outline】

Learning the basics about Information Communication Technology. Students are expected to learn widely from the basics of computers to the computer science of applied technologies for understanding a technology using computers. [Learning Objectives]

The goal is to acquire the basic knowledge necessary for information technology. Students will be interested in topics related to problems in the social sciences and information and communication technology. You will develop the ability to solve them on their own. If possible, the goal is to pass a rudimentary qualification exam for information. [Learning Activities Outside of Classroom]

Perform necessary preparations and reviews for the lesson. I will issue a report assignment from time to time, so submit it on time. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each. [Grading Criteria /Policy]

The spring semester web exam and normal score will be evaluated with a total of 50% and attendance score of 50%.

PRI300LA

コンピュータ科学

2017年度以降入学者

児玉 靖司

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 1/Fri.1

単位数：2単位

定員制（30名）

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

コンピュータ科学（Computer Science）について基本的な事柄を学ぶ。コンピュータに関する理論的、工学的側面について基礎および科学を中心に応用技術まで含めた形で幅広く学ぶ。

【到達目標】

講義形式で、情報技術に必要な基本的な知識を習得することを目標とする。計算をする問題だけでなく、社会科学分野での問題とコンピュータ科学との関わりについての話題にも関心を持ち、自分で解決する能力を養う。可能であれば、情報に関する初歩の資格試験に合格することを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

秋学期は情報学を中心に応用例について学ぶ。具体的には、システム開発における要求分析（ソフトウェア工学）、情報セキュリティ、論理学の基礎、モデル検査等である。その他、オペレーティングシステム、言語処理系についても学ぶ。

毎回、講義に関するチェックテストを実施して解答に関する説明をしながら、質問にも対応し、フィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	情報技術とはについて概略を学ぶ。
第2回	ネットワーク（1）	ネットワークの基礎について学ぶ。
第3回	ネットワーク（2）	ネットワークの仕組みについて学ぶ。
第4回	ネットワーク（3）	ネットワークの応用について学ぶ。
第5回	オペレーティング・システム（1）	基本ソフトウェアの一つであるオペレーティングシステムについて学ぶ。
第6回	オペレーティング・システム（2）	基本ソフトウェアの一つであるオペレーティングシステムについて学ぶ。
第7回	データベース	データベースについて学ぶ。
第8回	ソフトウェア工学（1）	ソフトウェア工学の基礎について学ぶ。
第9回	ソフトウェア工学（2）	ソフトウェア工学の応用について学ぶ。
第10回	人工知能（1）	人工知能の基礎について学ぶ。
第11回	人工知能（2）	人工知能の応用について学ぶ。
第12回	コンパイラ（1）	基本ソフトウェアの一つであるコンパイラについて学ぶ。特にフロントエンドについて学ぶ。
第13回	コンパイラ（2）	基本ソフトウェアの一つであるコンパイラについて学ぶ。特にバックエンドについて学ぶ。

第14回 まとめ

本講義のまとめを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業について必要な予習・復習を行うこと。時々レポート課題を出すので期限を守り提出すること。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

基本的にパワーポイントの資料をテキストとするが、その他については開講時に指示する。

【参考書】

開講時に指示する。学習管理システム Classroom 上に公開する。

【成績評価の方法と基準】

秋学期期末試験が40%、平常点が60%で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

具体的な事例を多く説明する。概ね情報学について説明できているようであるが、毎回の復習をより丁寧に行うように工夫する。

【学生が準備すべき機器他】

基本的にPCの画面をプロジェクタに投影し解説を行う。適宜インターネットにアクセスしながら最新事例を紹介する。学習管理システム Classroom を活用し効率の良い授業を行う。

【その他の重要事項】

特になし。

【Outline (in English)】

【Course Outline】

Learning the basics about Information Communication Technology. Students are expected to learn widely from the basics of computers to the computer science of applied technologies for understanding a technology using computers. [Learning Objectives]

The goal is to acquire the basic knowledge necessary for information technology. Students will be interested in topics related to problems in the social sciences and information and communication technology. You will develop the ability to solve them on their own. If possible, the goal is to pass a rudimentary qualification exam for information.

【Learning Activities Outside of Classroom】

Perform necessary preparations and reviews for the lesson. I will issue a report assignment from time to time, so submit it on time. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria /Policy】

The fall semester web exam and normal score will be evaluated with a total of 50% and attendance score of 50%.

BIO300LA

人間と地球環境

2017 年度以降入学者

宇野 真介

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 3/Mon.3

単位数：2 単位

定員制 (30 名)

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

現在、国連の持続可能な開発目標 (SDGs) が注目され日本も含め、世界各地で様々な取り組みがされています。これは人間社会が、多種多様な環境問題に加え飢餓や貧困の問題に直面し、自然環境、社会環境共に危機的状況にあるとの認識によるものです。本講座では、「持続可能性」をキーワードに人間と自然の関係、人間同士の関係のあり方を考察すべく、環境問題に関連する科学的な基礎に加え社会的要素を含めた広い視野から学習していきます。これにより、現代社会が直面する問題の複雑さを理解するとともにより明確な考え・意見を持つための視点を得る機会を提供します。

【到達目標】

本授業では以下の3点を最終的到達目標とします。1) 種々の環境問題を理解する上で不可欠な科学的基礎知識を取得すること。2) 環境問題の科学的側面だけでなく、関連する社会的問題を理解すること。3) 各種問題の関連性を理解し、人間社会が直面している問題について個人としての考え・意見を形成すること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

授業はパワーポイントを使った講義形式を標準としますが、参加型の学習機会として演習 (グループワーク) も行う予定です。また、Hoppii を活用し各回へのリアクションや質問の集約し、次回の授業で補足・フィードバックを行うことで学習内容の理解度をはかりつつ授業を進めます。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	環境科学と持続可能性	導入として、持続可能性の概念および生態系の基本的特徴について学びます。
第 2 回	大気の変化と生態系	地球環境における大気の組成、その変化にともなう影響を考えます。
第 3 回	水の循環と水資源利用	生態系や生命の維持に重要な物質である水の観点から物質の循環や資源の問題を考えます。
第 4 回	エネルギーの供給	生態系におけるエネルギーの供給と人間社会におけるエネルギーの供給について考えます。
第 5 回	「土」というもの	日頃目を向けない「足元の世界」に目を向け、土の成り立ちや関連する環境問題について考えます。
第 6 回	生物多様性はなぜ重要か?	生物多様性の基本的特徴、その現状と保全の重要性を学びます。
第 7 回	演習 1 : 持続可能な資源利用のための応用生態学	これまでの授業内容の振り返りと資源管理における問題解決への応用を目的としたグループワークを行います。

第 8 回	近代農業の功罪	近代農業の成果と環境負荷について解説します。
第 9 回	食糧生産と環境保全	食糧供給と環境保全の両立へ向けての取り組みについて、事例に基づいて学びます。
第 10 回	開発は持続可能か?	鉱物資源に注目しつつ、自然資源に対する需要・供給に関わる問題を解説します。
第 11 回	「望まれぬ開発」という問題	発展途上国における「開発」がもたらす環境・社会問題を、現在起きている現場の状況を見ながら考えます。
第 12 回	演習 2 : 多角的問題解決への挑戦	異なる立場の「当事者」の視点を考察しつつ、グローバル経済・開発をテーマとしたグループワークを行います。
第 13 回	持続可能な社会へ向けて	グローバル社会におけるオルタナティブな発展モデルについて、事例に基づいて考えます。
第 14 回	地球環境の現状とこれから	学習内容のまとめ。持続可能性の観点から見た現状と将来的展望を含めた全体像の把握を試みます。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

配布資料の通読、授業内容の復習と他の回の学習内容との関連性の確認など、本授業の準備・復習時間は各2時間を標準とします。欠席時には Hoppii 上の掲載物の取得、学習内容の確認など各自の責任で行うこと。

【テキスト (教科書)】

教科書はなし。配布される資料を使用。

【参考書】

適宜提示します。

【成績評価の方法と基準】

成績評価は小テスト (40%)、期末レポート (40%)、平常点 (20%) を基本とします。小テストは、学習内容の理解度 (到達目標 1、2) を定期的に評価するため 2 回実施する予定です。期末レポートは、学習内容の理解度を評価すると同時にそれに基づく個人的意見の展開 (到達目標 3) を評価するものです。平常点は、各回の学習状況やディスカッションでの参加度などを評価するものです。

【学生の意見等からの気づき】

映像資料の利用やグループワークは好評でもあり、学習内容の定着にも効果があるものと思われる。これに加え、学生からの質問への対応などに Hoppii の機能をより効果的に活用したい。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムへのアクセスの確保。

【Outline (in English)】

[Course outline] The UN 2030 Agenda for Sustainable Development, or Sustainable Development Goals (SDGs), has come to be recognized as a common challenge for the human society, which is a manifestation of the severity of various problems we as a species are faced with. In light of this current situation, this course focuses on the concept of "sustainability" so as to provide students with an opportunity to learn about basic scientific aspects of environmental problems and also to learn about relevant social issues in an attempt to provide a holistic view of human impact on the global environment.

[Learning objectives] Objectives of the course are: to acquire basic scientific understanding of various environmental problems; to understand related social problems; and to develop a personal opinion about various problems the human species face with a holistic understanding of the human impact on the global environment.

[Learning activities outside of classroom] In addition to attending classes, students are expected to review contents of individual lectures, thoroughly utilize distributed materials and the online learning support system. Standard amounts of time to be spent for this purpose are two hours each for preparation and review.

[Grading criteria/policy] Final grade will be determined based on quizzes (40 %), final assignment (40 %), and participation/in-class contribution (20%).

BIO300LA

Human Impact on the Global Environment 2017年度以降入学者

宇野 真介

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 3/Mon.3

単位数：2 単位

定員制（30名）

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

The UN 2030 Agenda for Sustainable Development, or Sustainable Development Goals (SDGs), has come to be recognized as a common challenge for the human society, which is a manifestation of the severity of various problems we as a species are faced with. In light of this current situation, this course focuses on the concept of "sustainability" so as to provide students with an opportunity to learn about basic scientific aspects of environmental problems and also to learn about relevant social issues in an attempt to provide a holistic view of human impact on the global environment.

【到達目標】

This course is designed to teach about ecological and social issues. Therefore, the course objectives are: 1) to understand basic scientific concepts required to comprehend various environmental problems; 2) to understand social problems related to the environmental problems dealt with in this course; and 3) to form personal perspective and opinion about the current state of human society by understanding the interrelated nature of the environmental and socioeconomic problems.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

The course will be taught mainly in a face-to-face lecture format, however, there will also be opportunities for students to actively participate in class through, for example, group activities and discussions. In addition to in-class interactions, students will utilize the learning assistance system (Hoppii) to express their opinions/reactions and to submit questions regarding the materials presented in each class, and the instructor will give feedback/answer questions, as needed.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
Week 1	Understanding sustainability and basic features of ecosystem	As an introduction to the course, the concept of sustainability and the basic features of ecosystem will be discussed.
Week 2	Atmospheric changes and their consequences	In light of the ongoing "climate crisis", the composition of the Earth's atmosphere and consequences of atmospheric changes will be discussed.

Week 3	Water cycle and the use of water resource	Water will be focused as an essential matter for sustaining life and ecosystem, and the water cycle and use of water resource will be discussed.
Week 4	Energy supply	Energy supply in ecosystem and energy issue in the human society will be discussed.
Week 5	What is "soil"?	The importance of soil in an ecosystem will be discussed in relation to ongoing environmental problems.
Week 6	What is biodiversity and why is it important?	Basic features and current state of biodiversity will be discussed in relation to its importance for the human society.
Week 7	Applied ecology for sustainable resource management	Group activity is used to integrate the concepts learned in the previous lectures and apply them to ecological problem solving.
Week 8	Ecological issues of modern agriculture	Positive and negative impacts of agricultural modernization will be discussed.
Week 9	Food production and environmental conservation	Approaches to achieving food security without degrading environment will be discussed with concrete examples.
Week 10	Is development sustainable?	Focusing on mineral resources, issues related to demand and supply of natural resources will be discussed.
Week 11	Consequences of "unwanted" development	Environmental and social problems caused by "development" in the developing world will be discussed.
Week 12	Understanding multi-stakeholder problem solving	Group work will be used to integrate the concepts learned in the previous lectures and apply them to socio-ecological problem solving.
Week 13	Toward a sustainable society	Alternative models that may help build a sustainable society will be discussed.
Week 14	What is happening in the global environment and where do we go from here?	The course contents will be reviewed to grasp the current state of the global environment, and future prospects will be discussed.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students are expected to review contents of individual lectures, thoroughly read distributed materials, and utilize the online learning support system, as needed. Standard amounts of time to be spent for this purpose are two hours each for preparation and review.

【テキスト（教科書）】

None. Reading materials will be distributed as needed.

【参考書】

To be announced as needed.

【成績評価の方法と基準】

Student performance will be graded based on quizzes (40 %), a final assignment (40 %), and participation/in-class contribution (20%). Quizzes will be used to evaluate understanding of course materials (Course objectives 1 and 2). The final assignment will be an opportunity for students to demonstrate their understanding of the course material by presenting their personal analysis/opinion about the current state of human society (Course objective 3). Participation will be used to evaluate student performance in each class and in-class activities.

【学生の意見等からの気づき】

Providing opportunities for students to interact with other students and exchange their opinions proved effective in enhancing their learning.

【学生が準備すべき機器他】

Students will need to have access to Hoppii.

【Outline (in English)】

[Course outline] The UN 2030 Agenda for Sustainable Development, or Sustainable Development Goals (SDGs), has come to be recognized as a common challenge for the human society, which is a manifestation of the severity of various problems we as a species are faced with. In light of this current situation, this course focuses on the concept of "sustainability" so as to provide students with an opportunity to learn about basic scientific aspects of environmental problems and also to learn about relevant social issues in an attempt to provide a holistic view of human impact on the global environment.

[Learning objectives] The course objectives are: 1) to understand basic scientific concepts required to comprehend various environmental problems; 2) to understand social problems related to the environmental problems dealt with in this course; and 3) to form personal perspective and opinion about the current state of human society by understanding the interrelated nature of the environmental and socioeconomic problems.

[Learning activities outside of classroom] In addition to attending classes, students are expected to review contents of individual lectures, thoroughly read distributed reading materials, and utilize the online learning support system, as needed. Standard amounts of time to be spent for this purpose are two hours each for preparation and review.

[Grading criteria/policy] Final grade will be determined based on quizzes (40 %), final assignment (40 %), and participation/in-class contribution (20%).

BAB300LA

バイオイメージングの世界A 2017年度以降入学者

木原 章

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 2/Wed.2

単位数：2 単位

定員制（30 名）

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

生き物は、一生を通じて刻一刻と形を変化させ、成長・老化します。その形態を、画像として記録する事で、その生き様をかいま見ることが可能です。本授業では、粘菌・アサガオ・ソバ・プラナリア・ダンゴムシ・アリ等の生き物を対象として、その生きる様子を学びます。

【到達目標】

そのために、本授業ではデジカメを使って生物が生きている様子を記録し、その記録画像を動画として編集したり、画像解析ソフトで数値解析する事で生きる謎の解明に挑戦します。その過程で、生き物について学び、新しい発見をする喜びを体験して頂く事を目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

先ず入門編として、ソバの発芽について学びます。種を植えれば芽が出てくると言う、一見当たり前の事も、その過程を映像として再現するためには様々な工夫が必要です。インターバル撮影を使うと、アサガオが花芽をつけて花を咲かせるまでの過程も映像化できるようになります。

プラナリアは、半分に切っても、また再生して2つの個体になります。この再生過程についても映像として記録します。

カイコでは、まゆ作りの過程を記録します。

アリについては、巣作りの様子や、6本脚歩行の様子の記録・解析を行います。

粘菌では、迷路のような成長過程を、画像解析で調べます。

これらの活動を通じて、生き物の映像を記録し解析するための基本的な手法を学ぶ事になります。

受講生は、毎回の授業で行ったことをノートにまとめ、最終授業でノート提出して頂きます。

なお、HOPPII等を通じて出された質問・疑問・問題解決法については、次の回の授業でフィードバックいたします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
①	バイオイメージングの基礎	授業の概略を説明します。
②	デジカメ撮影の基礎・発芽の観察	デジカメを使って粘菌の移動・成長の過程を撮影します。
③	インターバル撮影法・発芽の動画作製	1週間の撮影データのデータ処理を学びます。
④	種々の長時間記録法・プラナリアの再生	インターバル撮影の応用法について学びます。
⑤	拡大撮影法・プラナリア走性の観察	小さい生き物の撮影法を学びます。
⑥	画像解析法・粘菌の移動速度の測定	動き回る生き物をどの様に記録に残すか学びます。
⑦	画像の整理法・根の成長の観察	様々な条件で撮影した画像の整理方法を学びます。
⑧	スタジオ撮影手法・芽生えの回転運動	撮影環境の設定法について学びます。

- ⑨ ストロボ撮影手法・種子の回転運動 ストロボによって動きを止めて撮影する方法を学びます。
- ⑩ ハイスピード撮影技法・カイコの飛翔 高速撮影によって、速い動きを観察する方法を学びます。
- ⑪ ハイスピード撮影技・アリの歩行 アリの6本足歩行の様子をハイスピード記録して解析します。
- ⑫ データ整理法・芽生えの記録1 様々な種子の芽生えを記録した後、そのデータを整理して比較する方法を学びます。
- ⑬ 動画編集手法・芽生えの記録2 様々な種子の芽生えを記録した後、動画として編集する手法を学びます。
- ⑭ 春学期データ整理 春学期のデータについて、ノート上で整理します。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

先ず、自分が担当する事に成った生き物について、図書館などで資料を調べて下さい。また、生き物の飼育が必要に成った場合は、授業時間外でも大学に来て餌を与えたり、様子を撮影したりする作業が発生します。班ごとに、うまく当番制にして、生き物を殺さないようにしましょう。これらの活動を合計して週4時間以上の学習を行って頂きます。

【テキスト（教科書）】

テキストは有りません。

【参考書】

必要に応じて、授業中に指示します。

【成績評価の方法と基準】

毎回の授業で行ったことを記録した「実験ノート」を提出して頂きます。

この「実験ノート」の評価を全体の80%、授業中の活動評価を20%として、成績評価を行います。

【学生の意見等からの気づき】

「カイコをもっとやりたかった」とか「ダンゴムシをもっと見たかった」というご意見が良く寄せられます。授業日の生き物の状態や天候によっては、予定を変更する場合があります。その結果、シラバスに記載した生き物扱いが十分できない場合も有りますので、ご承知おき下さい。

【学生が準備すべき機器他】

教室内のパソコンを多用します。

【その他の重要事項】

必ず提出用のノートを一冊用意して下さい。ルーズリーフは不可とします。

【Outline (in English)】

【Course outline】

In this class, students will learn the process of scientific visualization of biological phenomena. Using several digital imaging technologies, students will record from a relatively slow movement of plant sprouting to a relatively quick movement of beetles flying motion. Finally students will find the most interesting phenomena as their own research target.

【Learning Objectives】

The goal of this class is not to learn the scientific text book matters, but to learn the scientific methods to understand the mechanism of life. For this purpose, students will be required more experimental works.

【Learning activities outside of classroom】

Students will be expected to have completed the experimental notebook after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

【Grading Criteria /Policy】

Grading will be decided based on the experimental notebook (80%), and the quality of the students' experimental performance in the lab (20%).

BAB300LA

バイオイメーキングの世界B 2017年度以降入学者

木原 章

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 2/Wed.2

単位数：2 単位

定員制 (30 名)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

生き物は、一生を通じて刻一刻と形を変化させ、成長・老化します。その形態を、画像として記録する事で、その生き様をかいま見ることが可能です。本授業では、粘菌・アサガオ・ソバ・プラナリア・ダンゴムシ・アリ等の生き物を対象として、その生きる様子を学びます。

【到達目標】

春学期の「バイオイメーキングの世界A」で学んだ技術を利用して、各班ごとに、独自のテーマ設定をして生命活動のしくみを画像記録して、その解明を行います。これらの活動を通じて、班ごとのプロジェクト遂行能力を身につけて頂くことを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP2、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

本授業では、春学期の「バイオイメーキングの世界A」で学んだ技術を利用して、特定の生き物に的を絞って、より高度な記録に挑戦します。そのために、それぞれの生き物の特徴を理解し、何を調べたら良いかを考えます。例えば、春学期に学んだソバの発芽過程で、光の方向を変えるとどうなるでしょう？ プラナリアを10等分したらどうなるでしょう？ そんな問題点を設定し、その解決法を探っていきます。

班別に決めたテーマについての活動は、班ごとのプロジェクトとして進行し、最終的にプレゼンテーションとしてまとめて頂きます。これまでのテーマには「アリの6足歩行」「様々な種子のと栄養貯蔵と発芽速度の関係」「女王アリの産卵行動」「プラナリアの再生」等でした。（B T O 9 0 0教室の前に掲示中です）

授業では、実際に自分で機材の使い方を学ぶ実習的な要素が強くなりますので、出席が単位取得の前提となります。

なお、HOPPII等を通じて出された質問・疑問・問題解決法については、次の回の授業でフィードバックいたします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
①	バイオイメーキングの基礎	授業の概略を説明します。
②	秋学期プロジェクト計画	プロジェクト計画作成法
③	秋学期プロジェクト計画	班別にプロジェクト計画を作成します
④	秋学期プロジェクト計画発表会	班ごとにプロジェクト計画を発表します。
⑤	秋学期プロジェクト開始	班別作業
⑥	秋学期プロジェクト第2回	班別作業
⑦	秋学期プロジェクト第3回	班別作業。
⑧	秋学期プロジェクト・中間発表	各班のプロジェクト進行状況を報告します。

- ⑨ 秋学期プロジェクト第 班別作業
4回
- ⑩ 秋学期プロジェクト第 班別作業
5回
- ⑪ 秋学期プロジェクト第 班別作業
6回
- ⑫ 秋学期プロジェクト・ データ整理、表・グラフ作成など
ポスター作成作業1 ポスターのコンテンツを作ります
- ⑬ 秋学期プロジェクト・ プロジェクトの活動報告ポスター
ポスター作成作業2 を作成します。
- ⑭ ポスターコンテスト 班毎に10分程度(質疑応答を含む)のポスターの発表を行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

まず、自分が担当する事に成った生き物について、図書館などで資料を調べて下さい。また、生き物の飼育が必要に成った場合は、授業時間外でも大学に来て餌を与えたり、様子を撮影したりする作業が発生します。班ごとに、うまく当番制にして、生き物を殺さないようにしましょう。これらの活動を合計して、週4時間以上の学習を行って下さい。d

【テキスト（教科書）】

テキストは有りません。

【参考書】

必要に応じて、授業中に指示します。

【成績評価の方法と基準】

班ごとのプレゼン3回（プロジェクト計画、中間発表、最終発表）を70%、授業中の活動を30%として成績評価を行います。

【学生の意見等からの気づき】

「カイコをもっとやりたかった」とか「ダンゴムシをもっと見たかった」というご意見が良く寄せられます。授業日の生き物の状態や天候によっては、予定を変更する場合があります。その結果、シラバスに記載した生き物扱いが十分できない場合も有りますので、ご承知おき下さい。

【学生が準備すべき機器他】

教室内のパソコンを多用します。

【その他の重要事項】

必ず専用のノートを一冊用意して下さい。

【Outline (in English)】

【Course outline】

In this class, students will learn the process of scientific visualization of biological phenomenas.Using several digital imaging technologies, students will record from a relatively slow movement of plant sprouting to a relatively quick movement of beetles flying motion.Finally students will find the most interesting phenomena as their own research target.

【Learning Objectives】

The goal of this class is not to learn the scientific text book matters, but to learn the scientific methods to understand the mechanism of life. For this purpose, students will be required more experimental works.

【Learning activities outside of classroom】

Students will be expected to have completed the experimental notebook after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

【Grading Criteria /Policy】

Grading will be decided based on the 3 times required presentations (70%), and the quality of the students' experimental performance in the lab (30%).

LANe300LA

教養ゼミ I

2017 年度以降入学者

LASSEGARD JAMES

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 3/Tue.3

単位数：2 単位

定員制（15 名）

その他属性：〈他〉〈グ〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This intermediate to advanced course examines various aspects of Japanese society (education, economy, foreign immigrants, etc.) using mostly materials (news items) written by non-Japanese writers. The purpose of the course is to enable students to think deeply about important societal issues that affect them and to give students the opportunity to discuss them in English.

【到達目標】

This intermediate to advanced English course (Level 4) examines various important issues in modern Japanese society. Students will learn about different societal problems facing Japan and to give their own opinion in English.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

This course is conducted entirely in English. English readings (newspaper and magazine articles) on Japan written by mostly foreign writers, as well as other media, will be assigned prior to every class. Class sessions may include lecture, comprehension check, small and large group discussions, group debates and a final presentation by students.

Feedback to students is provided on written work as well as during class.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Introduction: Defining Quality of Life and Happiness	Self-introductions, course explanation, placement test
2	Japanese university education and student ability	Reading and discussion
3	The economy, careers and the job hunting of University Students	Reading and discussion
4	Gender issues: exploring the low birthrate in Jaapn	Reading and discussion
5	Gender Part II: the role of women in Japanese society	Reading, discussion and debate
6	Multicultural Japan: accepting foreign immigrants	Reading and discussion
7	Immigration in Japan (II)	Reading and discussion, and debate

8	Mid-semester Review	Midterm Essay due.
9	School education related Issues	Review of writing assignments
10	Educational Issues: Conformity and Ijime	Readings and discussion
11	School education: the struggle for foreign language aquisition	Reading, discussion & debate
12	Various topics	Students presentations and feedback
13	Nationalism in Japan	Final papers submitted
14	Course wrap up: Pursuit of happiness and life satisfaction	Hand back final papers

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Readings must be done prior to class sessions. Students are responsible for looking up unfamiliar vocabulary and preparing answers for discussion questions.

University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course

【テキスト（教科書）】

No required textbook. Reading materials will be provided by the instructor.

【参考書】

Students should have a good English-Japanese dictionary either in paper or electronic format to use both in and outside of class.

【成績評価の方法と基準】

Students will be evaluated partly their willingness to express themselves in both spoken and written English.

Class Participation: 30%

Midterm essay and Final report: 60%

Presentation (not graded): 10%

Attendance Policy: Students can miss no more than three classes per semester without a good reason (illness, emergency, etc). Coming to late class more than twice=one absence.

【学生の意見等からの気づき】

Students should have some prior experience writing essays and/or reports in English, Students will be doing short debates in groups.

【学生が準備すべき機器他】

Students should have a good dictionary (paper or electronic) and a file folder for keeping handout materials and notes.

【その他の重要事項】

Students are allowed up to 3 unexcused absences. One more absence may be permitted if verification is provided.(job hunting, etc)

In general, auditing the course (聴講) is not allowed and students must register for course credit Students may choose to audit the course after receiving approval from the instructor. International (ESOP)Students are also welcome to enroll in this course if they have sufficient English proficiency.

【Outline (in English)】

Issues in Modern Japanese Society: This intermediate to advanced course examines various aspects of Japanese society (education, economy, immigrants, etc.) using mostly materials written by non-Japanese writers. The purpose of the course is to enable students to think deeply about important societal issues that affect them and to give students the opportunity to discuss them in English. Students will have the opportunity to choose what individual topics interest them the most.

LANe300LA

教養ゼミⅡ

2017年度以降入学者

LASSEGARD JAMES

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 3/Tue.3

単位数：2 単位

定員制（15名）

その他属性：〈他〉〈グ〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This intermediate to advanced level course examines various aspects of Japanese society (education, economy, foreign immigrants, etc.) using mostly materials written by non-Japanese writers. The purpose of the course is to enable students to think deeply about important societal issues that affect them and to give students the opportunity to discuss them in English. Students will also have the opportunity to choose which topics they wish to study and discuss in class.

【到達目標】

Students will be able to improve their academic speaking and writing skills as a result of participation in this course.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

This course is conducted entirely in English. English readings (newspaper articles, etc) from mostly foreign writers will be assigned prior to every class. Class sessions will include lecture, small and big group discussions, occasional debates and final presentations by students. Readings and topics may change somewhat based on the preference and convenience of class members.

Course feedback will be provided in class and on written assignments, as well as through Google Classroom or another system. Students may correspond with the instructor via e-mail.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Introduction: How to affect societal change with creation and revision of policy	Reading and discussion
2	How Japan is viewed overseas	Reading and discussion
3	Japan as viewed overseas (II)	Reading, video, & discussion
4	Nationalism in Japan: defining xenophobia	Reading, discussion & debate
5	Nationalism in Japan(II): the so-called "insular" student	Reading, discussion & debate
6	The declining birthrate: youth trends in Japan	Midterm reflection paper due

7	Youth trends (II): the decline of marriage	Return midterm essay; lecture on improving writing
8	Japanese belief systems: Where do values come from?	Reading and discussion
9	Belief systems (II): Spirituality and organized religion	Readings, discussion and debate
10	Death by Overwork: Made in Japan?	Lecture, readings, video & discussion
11	Overwork Suicide: A National Crisis	Reading, discussion & debate
12	Various topics	Students' individual presentations and class feedback
13	Is Japan's Economy getting worse? The Declinist Debate	Final papers(reports) due
14	Healthy life-work balance: A review	Return final reports & Semester Wrap up

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students must come prepared to class by doing the assigned readings, looking up unfamiliar vocabulary words, etc. Students are expected to already know how to write a simple essay, including paragraph writing, introduction, body and conclusion.

Approximately two hours each week will be necessary for out of class study time.

【テキスト（教科書）】

There is no textbook for this course. Instructor will provide reading materials each week.

【参考書】

Students should have a good English-Japanese dictionary, either paper or electronic and bring it to class every week.

【成績評価の方法と基準】

Students will be evaluated on their understanding of the material as well as their ability to express themselves in both spoken and written English.

Class Participation: 30%

Midterm and Final Papers: 60%

Presentation: 10% (not graded)

Attendance Policy: Students cannot be absent more than three times to earn credit for this course.

【学生の意見等からの気づき】

More opportunities for student debate will be incorporated into classroom activities, depending on the numbers of students who enroll.

【学生が準備すべき機器他】

Student should have a good dictionary and a file folder for keeping all class handouts and notes.

【その他の重要事項】

Attendance is very important. Students who have more than 3 unexcused absences may not receive credit for this course. One additional excused absence may be permitted if proper verification is provided (for job hunting, etc).

Students should have some experience in writing essays or reports in English.

Students may enroll in this course only for fall semester if they wish.

International students (ESOP) are welcome to enroll in this course.

Students wishing to audit (聴講) the course may do so with the permission of the instructor.

【Outline (in English)】

This intermediate to advanced English course (Level 4) examines various important issues in modern Japanese society. Students will learn about different societal problems facing Japan and will be able to exercise critical thinking to give and clarify their opinions in English.

LANd300LA

第三外国語としてのドイツ語 A 2017 年度以降入学者

日中 鎮朗

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 2/Fri.2

単位数：2 単位

定員制 (40 名)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

はじめてドイツ語を学ぶ学生が対象です。

ドイツ語文法の基礎を学びます。

日常的によく使われるドイツ語の簡単な表現を学びます。

【到達目標】

ドイツ語文法の基本的な規則を習得することができる。

日常的によく使われる表現、ドイツ語で簡単な日常会話を学ぶことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

教員がドイツ語文法の規則や仕組みを例文を使って説明します（講義形式）。

担当者を決めて練習問題を行います（演習形式）。

ワークブックを用いて、ドイツ語の文法の理解を定着させ、また疑問点を意識化します（リアクションペーパー）。

適宜、確認小テストを行います。

課題、また確認小テストのフィードバックを行います。

なお、オンライン授業を積極的に活用するなど、教育の多様化に応じた柔軟な運用を行うので、授業支援システム、Hoppii をよく見ることに。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	発音の仕方 発音とアクセント 綴りの基本 ドイツ語の主語について du, ihr, Sie について
第 2 回	ドイツ語の動詞について	疑問詞 動詞の現在人称変化
第 3 回	Lektion2 ドイツ語の名詞について	名詞の性と格
第 4 回	Lektion2 ドイツ語の複数形について	複数形と冠詞の使い方 所有冠詞
	Lektion3 ドイツ語の冠詞について	
第 5 回	Lektion3 ドイツ語の否定冠詞について	否定冠詞と人称代名詞の格変化
第 6 回	確認小テストで知識を確認する	第 5 回までの学習理解・文法知識 チェック
第 7 回	Lektion4 ドイツ語の前置詞について	前置詞の格支配

第 8 回 Lektion4 非人称の es を用いた表現

ドイツ語の es について

第 9 回 Lektion5 動詞の 3 基本形

過去形について

第 10 回 Lektion5 人称による過去形の動詞の形

ドイツ語の過去人称変化について
現在完了形と接続詞

Lektion6

ドイツ語の現在完了形について

第 11 回 Lektion 6 不定詞の用法

ドイツ語の zu 不定詞について

第 12 回 春学期ドイツ語学習の Plus 文法と文法の確認

振り返りと総復習

第 13 回 LMS を使って、確認 第 1 2 回までの学習理解・文法知

小テストで知識を確認 知識チェック

する

全体的な質問を受ける

第 14 回 春学期期末試験、解説 春学期期末試験、解説とまとめ

まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、1 回につき、合わせて 4 時間以上を標準とします。

授業で習った知識を確実にするためにも、復習を行います。

次回に行う章や文章のわからない単語、語句を調べ、自分で訳を試みます。

宿題・課題については自分の担当ではないところも行い、授業でポイントを確認し、正確な理解に努めます。

【テキスト（教科書）】

『ブリュッケ 初級ドイツ語文法・ふかくなりやすく』 木下直也等 朝日出版社

【参考書】

独和辞書は必要です。（電子辞書でも紙の辞書でも形態は問わない）参考書としてはあらかじめ用意するものは特にありませんが、必要があれば授業中に適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】

成績評価手法について

成績配分は期末試験 50 %、平常点（確認テストの点数の累計、課題、授業への積極的取り組みを含む）50 %

【学生の意見等からの気づき】

「ワークブック」の使用頻度を高めます。

【学生が準備すべき機器他】

オンライン授業となった場合の必要な機器として Zoom で接続可能なデバイスを準備してください。

【その他の重要事項】

春学期・秋学期合わせての履修を推奨します。

【Outline (in English)】

Course outline: German for Ichigaya Liberal Arts Center Program.

This course provides elementary German grammar for beginners.

Learning Objectives: By the end of the course, students should be able to:

- confirm German elementary grammar.
- learn expressions of daily German conversation.

Learning activities outside of classroom: Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter(s) from the text. Your required study time is at least four hours for each class meeting.

Grading criteria: : Your overall grade in the class will be decided based on the following.

Term-end examination: 50%、Short tests, an assignment and in-class contribution: 50%

LANd300LA

第三外国語としてのドイツ語 B 2017 年度以降入学者

日中 鎮朗

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 2/Fri.2

単位数：2 単位

定員制 (40 名)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

はじめてドイツ語を学ぶ学生が対象です。
春学期で得たドイツ語文法の知識を踏まえて、引き続きドイツ語文法の基礎を学びます。
日常的によく使われるドイツ語の簡単な表現を学びます。

【到達目標】

ドイツ語文法の基本的な規則を習得することができる。
日常的によく使われる表現、ドイツ語での簡単な日常会話を学ぶことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

教員がドイツ語文法の規則や仕組みを例文を使って説明します（講義形式）。

担当者を決めて練習問題を行います（演習形式）。
ワークブックを用いて、ドイツ語の文法の理解を定着させ、また疑問点を意識化できるようにします（リアクションペーパー）。

適宜、確認小テストを行います。
課題、また確認小テストのフィードバックを行います。
なお、オンライン授業を積極的に活用するなど、教育の多様化に沿った柔軟な運用を行うので、授業支援システム、Hoppii をよく見ることに。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	Lektion 7	話法の助動詞の現在人称変化と構文について
第 2 回	Lektion 7	未来形の用法と文ドイツ語の未来形について
第 3 回	Lektion 8	分離・非分離動詞ドイツ語の分離動詞について
第 4 回	Lektion 8	受動文の用法と形式ドイツ語の受動文について
第 5 回	Lektion 9	命令形とその用法ドイツ語の命令形について
第 6 回	Lektion 9	ドイツ語の不規則変化動詞について
第 7 回	Lektion 10	接続法第 2 式の用法と形式ドイツ語の接続法について

第 8 回	Lektion 10	婉曲話法と接続法第 2 式の用法ドイツ語の婉曲話法について
第 9 回	Lektion 11	再帰代名詞の人称変化ドイツ語の再帰代名詞について
第 10 回	Lektion 11	比較級・最上級の用法と形態ドイツ語の比較級・最上級について
第 11 回	Lektion 12	定関係代名詞ドイツ語の関係代名詞について
第 12 回	Lektion 12	関係副詞と不定関係代名詞 Plus 文法と別冊練習問題を使つての文法事項の確認
第 13 回	Lektion 12	Plus 文法と振り返り確認小テストと質問受付
第 14 回	Lektion 12	期末試験、まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、1 回につき合わせて 4 時間以上を標準とします。

授業で習った知識を確実にするためにも、復習を行います。
次回に行う章や文章のわからない単語、語句を調べ、自分で訳を試みます。
自分の試訳と授業での訳との違いの理由を確かめ、正確な理解に努めます。

【テキスト（教科書）】

『リュッケ 初級ドイツ語文法・ふかくわかりやすく』 木下直也等 朝日出版社

【参考書】

独和辞書は必要です。（電子辞書でも紙の辞書でも形態は問わない）
参考書としてはあらかじめ用意するものは特にありませんが、必要があれば授業中に適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】

学期末に試験を行います。
期末試験 50 %
平常点（訳読などの課題発表・確認テストの成績累計、授業への積極的取組・参加）50 %

【学生の意見等からの気づき】

「ワークブック」の使用頻度を高め、理解をより確実なものにします。

【学生が準備すべき機器他】

オンライン授業になった場合の必要な機器として Zoom で接続可能なデバイスを準備してください。

【その他の重要事項】

春学期・秋学期合わせての履修を推奨します。

【Outline (in English)】

Course outline: German for Ichigaya Liberal Arts Center Program.

This course provides elementary German grammar for beginners.

Learning Objectives: By the end of the course, students should be able to:

- confirm German elementary grammar.
- learn expressions of daily German conversation.

Learning activities outside of class: Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter(s) from the text. Your required study time is at least four hours for each class meeting.

Grading criteria: : Your overall grade in the class will be decided based on the following.

Term-end examination: 50%, Short tests, an assignment and in-class contribution: 50%

LANd300LA

ドイツ語コミュニケーション中級 A 2017年度以降入学者

Annette Gruber

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 3/Mon.3

単位数：2 単位

定員制（20名）

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This course aims to develop basic communication skills in German. The focus is on building up vocabulary, idiomatic phrases, grammar, pronunciation, writing and listening skills. At the end of the course, students will be able to master simple every day situations in a German context.

【到達目標】

当講座は、学生のドイツ語の基礎的なコミュニケーション能力の育成を目指す。ドイツ語を勉強したいという自主性を育てる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

想定された日常生活の具体的な場面の中で、実際にドイツ語を使ってみることによって、ドイツ語の基礎知識習得をはかる。コミュニケーション能力育成という理由から、授業はすべてドイツ語で行われる。授業形態は言語活動、例えばペアワーク、グループワークなどが中心となる。授業での学習が最優先であるが、学習した内容を十分理解するために復習をすることが要求される。何よりも、楽しくドイツ語を学べるよう心掛けたい。課題の提出およびフィードバックは HOPPII で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Einfuehrung	Vorstellen und Wiederholung
2	Eine andere Person vorstellen	kleine Präsentationen
3	Freizeit	(trennbare) Verben
4	Verabredung	Uhrzeit, Redemittel
5	Eine E-Mail, Postkarte aus dem Urlaub	Phrasen, Redemittel
6	Tagesablauf	Konnektoren, trennbare Verben
7	Leben auf dem Land/in der Stadt	Vorteile, Nachteile
8	Beschreiben, wo/wie ich wohne	Wortschatz wohnen
9	Einladung zur Einweihungsfeier	Phrasen, Redemittel
10	Jahreszeiten	Wortschatz Zeit
11	Durch-, Ansagen	Hörverstehen
12	Anzeigen lesen	Leseverstehen
13	Wie sagt man am besten?	Alltagssituationen
14	Zusammenfassung	Wiederholung des Gelernten

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

You are expected to prepare for every lesson as well as review it. There will be regular homework such as compositions, dialogues, etc. The standard time for preparation and review of this class is 4 hours in total.

【テキスト（教科書）】

プリント配付。

【参考書】

自分にあつた辞書。電子辞書でも可。

【成績評価の方法と基準】

After every unit, there will be a test/composition which accounts for 60%.

Attendance, classroom performance, homework and attitude account for 40%.

Make sure to always arrive on time for the lesson.

【学生の意見等からの気づき】

学生からの声に真摯に耳を傾ける。授業進度、説明の適切さなど、学生から要望があれば応える。

【Outline (in English)】

In this class you will use your knowledge of German with a focus on communication skills in terms of speaking, listening, reading and writing. Students will get regular homework such as writing compositions/dialogues based on model texts created in class. The standard time for preparation and review of this class is 4 hours in total.

Active classroom participation is essential for passing this course as well as applying the communicative skills acquired in class in various test formats at the end of each unit.

LANd300LA

ドイツ語コミュニケーション中級 B 2017年度以降入学者

Annette Gruber

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 3/Mon.3

単位数：2 単位

定員制（20名）

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

The focus of this class is building up vocabulary, idiomatic phrases, grammar, pronunciation, listening and writing skills. At the end of the course, students will be able to master simple everyday situations in a German context.

【到達目標】

当講座は、学生のドイツ語の基礎的なコミュニケーション能力の育成を目指す。学生自身がドイツ語を学んで楽しいと感じ、自らが勉強したいという意欲をかき立てることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

想定された日常生活の具体的な場面の中で、実際にドイツ語を使ってみることによって、ドイツ語の基礎知識習得をはかる。コミュニケーション能力育成という理由から、授業はすべてドイツ語で行われる。授業形態は言語活動、例えばペアワーク、グループワークなどが中心となる。授業での学習が最優先であるが、学習した内容を十分理解するために復習をすることが要求される。何よりも、楽しくドイツ語を学べるよう心掛けたい。課題の提出およびフィードバックは HOPPII で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Einfuehrung	Vorstellen und Wiederholung
2	Fragen und Bitten	W-,Ja-/Nein-Fragen
3	Wie junge Leute wohnen	Nebensätze mit weil und obwohl
4	Bumerang-Kinder	Modalverben im Präteritum
5	Aber du wolltest doch	Redemittel
6	Reisen	Perfekt
7	Postkarten	trennbare Verben im Perfekt
8	Eine Reise durch Deutschland	Einen Reisebericht schreiben
9	Gesundheit	Wortschatz Körper
10	Krankheit	Wortschatz Krankheit
11	Ernährung	Komparation der Adjektive
12	Im Restaurant	Sprechen über deutsches Essen
13	Kleidung	Wortschatz Kleidung, Adjektivendungen
14	Zusammenfassung	Wiederholung des Gelernten

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

You are expected to prepare for every lesson as well as to revise it. There will be regular homework such as compositions, dialogues, etc. The standard time for preparation and review of this class is 4 hours in total.

【テキスト（教科書）】

プリント配付。

【参考書】

自分にあった辞書。電子辞書でも可。

【成績評価の方法と基準】

There will be a test/composition at the end of each unit, which accounts for 60%.

Attendance, classroom performance, homework and attitude account for 40%.

Make sure that you arrive in time for the lesson.

【学生の意見等からの気づき】

学生からの声に真摯に耳を傾ける。授業進度、説明の適切さなど、要望があれば応える。

【Outline (in English)】

In this class you will use your knowledge of German with a focus on communication skills in terms of speaking, listening, reading and writing.

Students will get regular homework such as writing compositions/dialogues based on model texts created in class. The standard time for preparation and review of this class is 4 hours in total.

Active classroom participation is essential for passing this course as well as applying the communicative skills acquired in class in various test formats at the end of each unit.

LANd300LA

教養ゼミ I

2017 年度以降入学者

日中 鎮朗

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 3/Fri.3

単位数：2 単位

定員制

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

科学技術の追求、科学技術による人工と人造の生命の創造、理想的な人間社会の追求は人類の歴史の中の根源的なテーマである。現代においても、人々はそれを目指して考え続け、努力しているといっても過言ではない。

思想、文学、映画、芸術においてそれはどのように考えられ、受容され、扱われてきたかを、メアリー・シェリーの『フランケンシュタイン』、グスタフ・マイリンクなどの『ゴーレム』もの、カレル・チャペック『ロボット』、フランツ・カフカの種々の動物譚、カズオ・イシグロ『私を離さないで』、吉田修一『橋を渡る』、そのほかの作品、およびそれらに関する論文を講読しながら、考える。

とりわけ、〈現在〉という時点からのアクチュアルな問題提起として、近代から現代の文学・芸術を分析対象とし、さまざまな作品を読み解きながら、文学や芸術がその時代の社会に対してどう取り組んだかを考察する。

【到達目標】

人工生命、人造人間、サイエンス・フィクションの物語とその歴史的背景を理解することが目標である。

また、その際にこの講義で挙げられた小説や作品を読み、論じるので、その小説や作品をユートピアという視点から批判的に分析できるようになることも目標である。

そうした討議の際に、自分の意見を明確に表現し、伝えられるようになることも目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

メアリー・シェリーの『フランケンシュタイン』、グスタフ・マイリンクなどの『ゴーレム』もの、カレル・チャペック『ロボット』、フランツ・カフカの種々の動物譚、カズオ・イシグロ『私を離さないで』『クララとお日さま』、吉田修一『橋を渡る』などの作品を読んでゆく。

また同時に、各回の授業計画で挙げられる文学を中心に、思想、芸術などの諸分野において科学技術に対する考えがどのように扱われ、表現されているかを見る。

その際に、毎回、文献テキストの担当部分を決めて、それをまとめて、レジュメを作成し、プレゼンしてもらう。独自の観点でいいので、議論・検討を加えていきたい。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	概念の共通理解を検討する。 授業の進め方等についての説明。
第 2 回	『フランケンシュタイン』(1818/1831)	『フランケンシュタイン』の扱われ方の可能性 人工と人造の生命
第 3 回	シェリー夫妻について	文学史的、歴史的背景
第 4 回	19 世紀の科学技術とヒューマニティ	科学技術はどのように『フランケンシュタイン』に取り込まれていったか

第 5 回	機械・人間・言語	『フランケンシュタイン』の怪物性とそのさまざまな読解
第 6 回	ポストコロニアル的視点からのサーベイランス	帝国主義は『フランケンシュタイン』にどう表れるのか
第 7 回	さまざまなメディアによるアダプテーション	『フランケンシュタイン』の漫画と映画
第 8 回	『ゴーレム』読解	宗教とユダヤ性、ブラハという都市
第 9 回	カレル・チャペック『ロボット』	20 世紀社会の目論見—科学とロボット
第 10 回	フランツ・カフカの種々の動物譚	フランツ・カフカの作品に現れる語り手としての動物、あるいは、不気味なもの
第 11 回	カズオ・イシグロ『私を離さないで』など	科学・人間性への異議申し立て
第 12 回	吉田修一『橋を渡る』について	現実の引用と未来小説の試み
第 13 回	人造人間と近代社会・近代科学	レポート発表・討議
第 14 回	人工生命をめぐる問題	レポート発表・総評とまとめに関する考察—まとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、1 回につき 4 時間以上を標準とする。全体を通して基本文献である Claeys のテキストの精読をおこなってくること。

また、その都度のテーマについての文献を読んできて、内容について考えてくることが授業への関心を高め、また積極的に討議に参加できる土台となるので、それをおこなうこと。

【テキスト（教科書）】

文献については、文庫本などで手に入るものが多いので、手に入れるか、図書館を利用。そうでない場合はコピー資料にて配布する。

【参考書】

上記の各回で取り上げるさまざまな文献に関するものが参考書であるが、各回でテーマとして取り扱うものに関連したものを積極的に読んでおくこと。

【成績評価の方法と基準】

平常点（レジュメ・プレゼン・議論）70 %

レポート課題（最終回での各人の独自の発表）30 %

【学生の意見等からの気づき】

活発な議論ができる環境を作る。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>

比較文学、比較芸術、現代ドイツ文学

<研究テーマ>

①比較文学という手法を通して文学と現実=社会との関わりを軸に、文学の意味や意義を考える。②文学以外の諸芸術におけるテーマの扱われ方③ユートピアニズム、科学と文学

<主要研究業績>①『英語文化研究』（2021 年 春風社、共著）②「監視というオブセッション」（2021 年 成城大学経済学会、『木下直也名誉教授退任記念論文集』）③「文学・科学・知の相互浸透—イシグロ、ダウドナ、ソーカルと学問分野の越境」（2020 年 法政大学 言語・文化センター編『言語と文化』第 17 号）④「知の獲得と語りのあて先—Kazuo Ishiguro の Never Let Me Go におけるその手続き—」（2019 年 日本英語文化学会編『異文化の諸相』第 39 号）

⑤翻訳 W. イーザー『虚構と想像力』2007 年、法政大学出版局

【Outline (in English)】

【Course outline】 The main aims of this course are to deepen knowledge and understanding of the concept of artificial human, science.

and technology, and to review the history of science fiction by reading "Frankenstein", "Robot", "Golem", "Never Let Me Go" and some novels of Franz Kafka.

We will focus on the theoretical foundations and the conceptual framework of artificial human through the different types of works including modern literature and art to provide students with opportunities to treat American, English, German, and Japanese literature/artworks from the perspective of comparative literature and culture.

Students are required to do a close reading of the textbooks.

[Learning Objectives] : By the end of the course, students should be able to:

- understand the history of science fiction.
- conduct a critical analysis of the works mentioned in the class.
- express your own point of view clearly in discussion.

[Learning activities outside of class] : Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant articles related to the texts. Students are required to study at least 4 hours outside of classroom.

[Grading criteria] : Your overall grade in the class will be decided based on the following.

Term-end presentation: 30%、 an assignment and in-class contribution: 70%

LANd300LA

教養ゼミⅡ

2017年度以降入学者

日中 鎮朗

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 3/Fri.3

単位数：2 単位

定員制

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

秋学期のこの授業では、春学期のテキストである比較文学/世界文学の考え方、問題意識、意義、手法、適用などをテキストを読みながら、学びます。

フランコ・モレッティの『遠読—＜世界文学システム＞への挑戦』（Franco Moretti, 『Distant Reading』《を中心にモレッティのデジタル・ヒューマニティの考え方を学びます。

ほかにはテキストとしてデヴィッド・ダムロッシュ『世界文学とは何か？』（David Damrosch の『What is World Literature』）やデジタル社会の理論について学びます。

これらのテキストには様々な国の様々な文学作品が現れるが、それらがどういう視点で、またどういう意味において結びつき、反映しあうのかを知ることによって、文学そのものについて考える思考を形成します。

また、テキストに現れる文学作品のこうした視点からの分析も学びます。

最期に、現実社会と文学作品のかかわり方についても意識形成することを目的とします。

【到達目標】

Franco Moretti および David Damrosch のテキストに沿って、西欧文学・比較文学・世界文学に関する歴史的俯瞰と意味付けを理解することが目標です。

比較文学、世界文学の全体としての意味や定義、またそうした視点に立っての文学作品への研究・分析また取り組む手法を学ぶことができます。

またその際に、これらのテキストで挙げられた作品を論じることになるので、そうした作品を理解し、批判的に分析できます。

討議の際に自分の意見をわかりやすく表現し、伝え、また他者の意見を理解し、議論できます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

Franco Moretti の『Distant Reading』、David Damrosch の『What is World Literature?』《を比較文学、世界文学の視点に立って、読みすすめていきます。

また、関連する作品についても考察していきます。

各回の授業では、毎回、担当者が内容についてレジュメを作成し、レポートし、それについて討議していきます。

独自の観点でいいので、議論・検討に積極的に加わってください。従って、自由にまた関連に討論できるような場を形成したいと思えます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	比較文学の共通理解を検討する。授業の進め方等についての説明。
第2回	モレッティ『遠読』第1章	「近代ヨーロッパ文学——その地理的素描」をめぐる問題について

第3回	モレッティ『遠読』第2章	「世界文学への試論」
第4回	モレッティ『遠読』第3章	「文学の屠場」
第5回	モレッティ『遠読』第4章	「プラネット・ハリウッド」
第6回	モレッティ『遠読』第5章	More Conjectures
第7回	モレッティ『遠読』第6章	進化・世界システム・世界文学
第8回	モレッティ『遠読』第7章	「始まりの終わり」
第9回	モレッティ『遠読』第8章	「小説——理論と歴史」
第10回	モレッティ『遠読』第9章	「スタイル株式会社——18世紀から19世紀の英国小説」
第11回	モレッティ『遠読』第10章	ネットワーク理論、プロット分析
第12回	ダムロッシュ『世界文学とは何か？』序章と第3章について	比較文学について（まとめ）
第13回	世界文学と現代社会	レポート発表と討議・考察
第14回	世界文学とデジタル・ヒューマニティーズ（まとめ）	レポート発表・総評とまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、1回につき4時間以上を標準とする。全体を通して基本文献であるモレッティのテキストの精読をおこなってこよう。

また、その都度のテーマについての文献を読んできて、内容について考えてくるのが授業への関心を高め、また積極的に討議に参加できる土台となるので、それをおこなうこと。

【テキスト（教科書）】

テキストは基本的にコピーにて配布する。
フランコ・モレッティ『遠読』みすず書房

Franco Moretti, 『Distant Reading』, Verso, 2013

ダムロッシュ『世界文学とは何か？』（国書刊行会）

David Damrosch, 『What is World Literature』, Princeton University Press, Princeton and Oxford, 2003.

が全体を通しての基本文献である。

言及されるその他の文献については、図書館を利用するなどする。

【参考書】

上記の各回で取り上げるさまざまな文献が参考書であるが、各回でテーマとして取り扱うものに関連したものを積極的に読んでおくこと。

【成績評価の方法と基準】

平常点（レジュメ・プレゼンテーション・議論）70%

最終回での各人のレポート発表 30%

【学生の意見等からの気づき】

議論の時間を十分に確保し、活発な議論を促す。

【担当教員の専門分野等】

<専門領域>

比較文学、比較芸術、現代ドイツ文学

<研究テーマ>

①比較文学という手法を通して文学と現実＝社会との関わりを軸に、文学の意味や意義を考える。②文学以外の諸芸術におけるテーマの扱われ方③ユートピアニズム、科学と文学

<主要研究業績>①『英語文化研究』（2021年 春風社、共著）②「監視というオブセッション」（2021年 成城大学経済学会、『木下直也名誉教授退任記念論文集』）③「文学・科学・知の相互浸透—イシグロ、ダウドナ、ソーカルと学問分野の越境」（2020年 法政大学 言語・文化センター編『言語と文化』第17号）④「知の獲得と語りのあて先—Kazuo Ishiguro の Never Let Me Go におけるその手続き—」（2019年 日本英語文化学会編『異文化の諸相』第39号）

⑤翻訳 W. イーザー『虚構と想像力』2007年、法政大学出版局

【Outline (in English)】

【Course outline】 The main aims of this course are to deepen knowledge and understanding of the concept of modern literature theory and to review the modern society in the world based on Franco Moretti's »Distant Reading«, David Damrosch' » What is World Literature « and other works related to this theme.

We will focus on the theoretical foundations and the conceptual framework of world-literature through the different types of works to provide students with opportunities to treat various types of literature/artworks from the perspective of comparative literature and culture.

Students are required to do a close reading of the textbooks.

【Learning Objectives】

By the end of the course, students should be able to:

- understand the concept of distant reading and the method and concept of world-literature studies and digital humanities.
- conduct a critical analysis of the works mentioned in the textbooks.
- express your own point of view clearly in discussion.

【 Learning activities outside of class】 : Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter(s) from the text. Students are required to study at least 4 hours outside of classroom.

【Grading criteria】 : Your overall grade in the class will be decided based on the following.

Term-end presentation: 30%、 an assignment and in-class contribution: 70%

PHL300LA

ドイツの思想A

2017年度以降入学者

吉田 敬介

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 3/Tue.3

単位数：2 単位

定員制 (30 名)

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、20 世紀前半という「危機」時代のドイツ語圏の哲学を、とりわけ実存哲学と批判理論に着目しながら、概観します。

20 世紀前半のドイツ語圏では、観念論（理想主義）への幻滅とともに、文明や学問が「危機」に陥っているという意識が強まりました。その危機意識に対応するように、一方ではヤスパースやハイデッガーらの「実存哲学」、また他方ではホルクハイマーやアドルノらの「批判理論」（あるいは「フランクフルト学派」）といった思想潮流が展開されました。授業においては、歴史的・社会的な文脈を踏まえつつ、様々な哲学者たちの言説を検討し、その思想内容を理解することが目指されます。

【到達目標】

- (A) 20 世紀前半のドイツ語圏の哲学・思想の要点を理解できる。
 (B) 扱われた哲学・思想を、歴史的・社会的視座から考察できる。
 (C) 扱われた哲学・思想について理解・考察したことを、自らの言葉で叙述できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式で、毎回のテーマごとに進めていきます。授業用の資料は、その都度提示（必要に応じて配布）します。

適宜リアクションペーパーの提出を求める他、学期末には授業の内容を踏まえた課題もしくは試験を課す予定です。リアクションペーパーについては、できる限り授業時にフィードバックを行います。学期末課題もしくは試験の内容・評価基準は授業で提示します。

なお、重要なお知らせをすることもありうるので、適宜、授業支援システム Hoppii を確認するようお願いいたします。

授業の定員は 30 名の予定です。この定員を超えた場合は選抜を行いますので、受講希望者は必ず初回の授業に出席してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション・選抜	授業の進め方の確認 定員を超える場合は選抜
第 2 回	そもそも「ドイツ哲学」とは？	「ドイツ哲学」の定義づけの困難と可能性
第 3 回	19 世紀のドイツ哲学 (1)	ドイツ観念論とその挫折
第 4 回	19 世紀のドイツ哲学 (2)	キルケゴールとニーチェ、マルクスの思想とその影響
第 5 回	20 世紀前半の思想的状況 (1)	時代の「危機」意識 学問の分化と専門化
第 6 回	20 世紀前半の思想的状況 (2)	現象学の成立と展開 西洋マルクス主義の系譜
第 7 回	実存哲学の生成と展開 (1)	ハイデッガー『存在と時間』(1927 年) の存在論
第 8 回	実存哲学の生成と展開 (2)	ヤスパース『時代の精神的状況』(1931 年) と「実存哲学」

第 9 回	実存哲学の生成と展開 (3)	ナチス政権下の哲学者たち 政治的決断主義
第 10 回	批判理論の生成と展開 (1)	社会研究所の設立と亡命 ホルクハイマー「伝統的理論と批判的理論」(1937 年)
第 11 回	批判理論の生成と展開 (2)	ベンヤミン『歴史哲学テーゼ』(1940 年) と「進歩」への問い
第 12 回	批判理論の生成と展開 (3)	ホルクハイマー、アドルノ『啓蒙の弁証法』(1947 年) と近代的理性の自己省察
第 13 回	実存哲学と批判理論	アドルノ『本来性の隠語』(1963 年) におけるハイデッガーとの対決
第 14 回	まとめ、課題もしくは試験	春学期の学習事項のまとめ 学期末課題の提示もしくは試験の実施

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。授業で扱われる各トピックについて、参考文献の対応する箇所を読んで予習することが望まれます。また授業後には、配布物やノートに目を通し、参考文献を参照しつつ内容をまとめ直すことが望まれます。

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。授業は用意した資料に沿って進めます。

【参考書】

・『哲学の歴史 第 9 巻 反哲学と世紀末【19-20 世紀】』中央公論新社
 ・『哲学の歴史 第 10 巻 危機の時代の哲学【20 世紀 I】』中央公論新社
 ・フッサール／ハイデッガー／ホルクハイマー『30 年代の危機と哲学』清水多吉／手川誠士郎（訳）、平凡社〔平凡社ライブラリー〕
 その他の参考文献は、授業中に指示します。

【成績評価の方法と基準】

成績配分は、平常点（リアクションペーパーへの記入、その他の授業への取り組みなどの総合評価）40%、学期末課題もしくは試験の評価 60%です。

【学生の意見等からの気づき】

・リアクションペーパーを参照し、わかりにくい概念や思想内容、歴史的背景について丁寧に説明するよう努めます。
 ・必要に応じて、授業内容に関連した参考文献等を紹介いたします。

【学生が準備すべき機器他】

オンライン授業の場合に必要なため、Zoom に接続可能な機器を準備してください。

【その他の重要事項】

春学期・秋学期合わせての履修を推奨します。

【Outline (in English)】

Course outline: This course deals with German philosophy in the first half of the 20th century (especially existential philosophy and Critical Theory).

Learning Objectives: The goals of this course are to (A) understand German philosophy in the first half of the 20th century, (B) examine it from historical and social perspectives, and (C) explain it properly.

Learning activities outside of classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading Criteria/Policies: Grading will be decided based on in-class contribution (40%), and term-end report or examination (60%).

PHL300LA

ドイツの思想B

2017年度以降入学者

吉田 敬介

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 3/Tue.3

単位数：2 単位

定員制 (30 名)

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、20 世紀後半のドイツ語圏の哲学を、歴史的・社会的諸問題との関連から概観します。

20 世紀中盤から後半にかけてのドイツ語圏の哲学は、幾つかの重要な実際的问题と対峙しなければなりません。ホロコーストを含む第三帝国の過去の「克服」、東西ドイツの分裂とその再統一、ヨーロッパへの統合と国際社会との関わり、そしてそれらに通底する「ドイツ」のアイデンティティをめぐる問い、といった諸問題です。授業においては、これらの歴史的・社会的諸問題に関する文脈を踏まえながら、哲学者たちの言説を検討し、その思想内容を理解することが目指されます。

【到達目標】

- (A) 20 世紀後半のドイツ語圏の哲学・思想の要点を理解できる。
- (B) 扱われた哲学・思想を、歴史的・社会的視座から考察できる。
- (C) 扱われた哲学・思想について理解・考察したことを、自らの言葉で叙述できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式で、毎回のテーマごとに進めていきます。授業用の資料は、その都度提示（必要に応じて配布）します。

適宜リアクションペーパーの提出を求める他、学期末には授業の内容を踏まえた課題もしくは試験を課す予定です。リアクションペーパーについては、できる限り授業時にフィードバックを行います。学期末課題もしくは試験の内容・評価基準は授業で提示します。

なお、重要なお知らせをすることもありうるので、適宜、授業支援システム Hoppii を確認するようお願いします。

授業の定員は 30 名の予定です。この定員を超えた場合は選抜を行いますので、受講希望者は必ず初回の授業に出席してください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション・選抜	授業の進め方の確認 定員を超える場合は選抜
第 2 回	戦後ドイツの知的状況	破局と復興 過去の忘却
第 3 回	哲学者たちと「過去の克服」(1)	ニュルンベルク裁判とヤスパースの戦争責任論
第 4 回	哲学者たちと「過去の克服」(2)	亡命知識人たちの帰還 権威主義的パーソナリティの分析
第 5 回	「アウシュヴィッツ以後」の哲学 (1)	アウシュヴィッツ裁判 アーレント『エルサレムのアイヒマン』(1963 年)
第 6 回	「アウシュヴィッツ以後」の哲学 (2)	アドルノと「アウシュヴィッツ以後」の文化への問い 批判理論と 1968 年運動
第 7 回	歴史家論争とアイデンティティへの問い (1)	1980 年代の歴史修正主義と「歴史家論争」

第 8 回	歴史家論争とアイデンティティへの問い (2)	ハーバーマスと憲法パトリオティズム 「ドイツ」のアイデンティティへの問い
第 9 回	東西ドイツの再統一をめぐる (1)	東西ドイツの「壁」の崩壊 再統一プロセスの問題
第 10 回	東西ドイツの再統一をめぐる (2)	「ドイツ・マルク・ナショナリズム」をめぐる
第 11 回	ヨーロッパの中のドイツ (1)	ヨーロッパの中の「ドイツ」のアイデンティティへの問い
第 12 回	ヨーロッパの中のドイツ (2)	EU 統合と、ハーバーマスとデリダのヨーロッパ論
第 13 回	21 世紀のドイツ哲学の諸問題	「ポスト世俗の時代」における諸問題をめぐって
第 14 回	まとめ、課題もしくは試験	秋学期の学習事項のまとめ 学期末課題の提示もしくは試験の実施

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とします。授業で扱われる各トピックについて、参考文献の対応する箇所を読んで予習することが望めます。また授業後には、配布物やノートに目を通し、参考文献を参照しつつ内容をまとめ直すことが望めます。

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。授業は用意した資料に沿って進めます。

【参考書】

- ・三島憲一『戦後ドイツ その知的歴史』『現代ドイツ 統一後の知的軌跡』、岩波書店〔岩波新書〕
 - ・アーレント『エルサレムのアイヒマン 悪の陳腐さについての報告』大久保和郎（訳）、みすず書房
 - ・ハーバーマス『近代 未完のプロジェクト』三島憲一（訳）、岩波書店〔岩波現代文庫〕
- その他の参考文献は、授業中に指示します。

【成績評価の方法と基準】

成績配分は、平常点（リアクションペーパーへの記入、その他の授業への取り組みなどの総合評価）40 %、学期末課題もしくは試験の評価 60 %です。

【学生の意見等からの気づき】

- ・リアクションペーパーを参照し、わかりにくい概念や思想内容、歴史的背景について丁寧に説明するよう努めます。
- ・必要に応じて、授業内容に関連した参考文献等を紹介します。

【学生が準備すべき機器他】

オンライン授業の場合に必要なため、Zoom に接続可能な機器を準備してください。

【その他の重要事項】

春学期・秋学期合わせての履修を推奨します。

【Outline (in English)】

Course outline: This course deals with German philosophy in the second half of the 20th century.

Learning Objectives: The goals of this course are to (A) understand German philosophy in the second half of the 20th century, (B) examine it from historical and social perspectives, and (C) explain it properly.

Learning activities outside of classroom: Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Grading Criteria/Policies: Grading will be decided based on in-class contribution (40%), and term-end report or examination (60%).

LIT300LA

カルチュラル・スタディーズで見 2017年度以降入学するドイツ語圏A

柳橋 大輔

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 5/Fri.5

単位数：2 単位

定員制 (30 名)

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**【グリム／ディズニーから読み解くドイツ文化とその越境】**

ディズニーがこれまでに製作してきた 60 本以上の長編アニメ映画のうち、グリム童話などドイツにルーツをもつ物語を原作もしくは原案とする作品は少なくありません。これらの作品を観たことのあるみなさんは、ディズニー映画というフィルターを通して、間接的にドイツ文化と触れ合ってきたといってもよいでしょう。

この授業では、ドイツ語圏の児童文学を、それを原作とする映画と比較・対照します。テキストと映像を読み／観ながら、両者の差異を生み出す要因になったドイツ（とアメリカ）の社会や文化、歴史的な文脈についても学んでいきましょう。

【到達目標】

ドイツ語圏の児童文学作品を手掛かりに、テキストとその文化的文脈を的確に理解し、その内容を相手にわかるように表現することができる。

文学と映画のメディアの差異を把握し、この違いによってどのような効果が生まれているのかを具体的に説明することができる。

ドイツ語圏の文化史・現代史に対する関心や理解を深める。

文化的なコンテンツを対象としたリサーチとプレゼンテーションのスキルを実地に学ぶことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

まず、論及の対象となる文学作品や映画作品を紹介したあと、教員がその作品が置かれた文化的文脈についてお話しします（講義形式）。

次に、文学作品と映画作品の表現の違いについて受講生のみなさんにグループ発表を行なってもらい、その他の参加者のみなさんと質疑応答の時間を設けます。（演習形式）。

文学作品ないし映画作品について、また発表についての感想や意見についてリアクションペーパーを書いてもらいます。重要な論点を含むものについてはその次の回の授業で取り上げます（フィードバック）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業の概要について紹介（「ドイツ語圏」とは？「カルチュラル・スタディーズ」とは？ など）
第 2 回	『グリム童話集』の歴史	成立過程／ドイツ・アメリカ・日本における受容史／グループ分け (1)
第 3 回	プリンセスの変容と社会の変化	ディズニーによる『グリム童話集』映画化の歴史を概観する／グループ分け (2)
第 4 回	『雪白姫』と『白雪姫』(1)	テキスト読解／成立過程とその文化的・社会的文脈
第 5 回	『雪白姫』と『白雪姫』(2)	【グループ発表1】テキストと映画の比較

第 6 回	『灰かぶり』と『シンデレラ』(1)	テキスト読解／成立過程とその文化的・社会的文脈
第 7 回	『灰かぶり』と『シンデレラ』(2)	【グループ発表2】テキストと映画の比較
第 8 回	『いばら姫』と『眠れる森の美女』(1)	テキスト読解／成立過程とその文化的・社会的文脈
第 9 回	『いばら姫』と『眠れる森の美女』(2)	【グループ発表3】テキストと映画の比較
第 10 回	『蛙の王さま』と『プリンセスと魔法のキス』(1)	テキスト読解／成立過程とその文化的・社会的文脈
第 11 回	『蛙の王さま』と『プリンセスと魔法のキス』(2)	【グループ発表4】テキストと映画の比較
第 12 回	『野ぢしゃ』と『塔の上のラプンツェル』(1)	テキスト読解／成立過程とその文化的・社会的文脈
第 13 回	『野ぢしゃ』と『塔の上のラプンツェル』(2)	【グループ発表5】テキストと映画の比較
第 14 回	ディズニーとドイツ（まとめにかえて）	メディア間翻訳が映し出す文化的・社会的文脈

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

授業であつかう文学作品については該当する箇所の日本語訳を配布する場合がありますので、事前に目を通しておいてください。

授業中に映画作品の抜粋を視聴する機会があるかもしれませんが、作品全体を観ることは難しいので、ぜひ DVD レンタルや配信サービスなどを利用して、できるだけ自分で作品全体を観るようにしてください。

なお、リアクションペーパーは授業後にオンラインで提出してもらう可能性があります（詳細については授業で説明します）。授業ノートを読み返ししながら自分の意見をまとめてください。

【テキスト（教科書）】

必要なテキスト等は授業前後にそのつど配布します。

【参考書】

授業中、もしくは授業前後に適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（グループ発表やディスカッションなど授業への積極的な参加、リアクションペーパーなど）：60%

学期末レポート：40%（提出しない場合は単位の認定ができません）

——なお、授業回数の3分の2以上の出席が単位認定の前提条件となります（ただし、病気などやむを得ない事由により授業を欠席する場合には考慮しますので、医療機関発行の診断書等を提出してください）。

【学生の意見等からの気づき】

グループ発表やディスカッションの時間を設け、学生のみなさんの授業への能動的な参加を促します。

【学生が準備すべき機器他】

オンライン授業を行なう場合に備え、Zoom が使用できるよう、PC とネット環境を準備しておいてください。

【その他の重要事項】

ドイツ語の知識は必要ありません。

春学期・秋学期をとおした履修を推奨します。

授業の進度等により、授業内容が変更される可能性があります。

オフィスアワーについては個別に対応しますので、事前にメールで連絡をしてください。メールアドレスは授業開始後に学習支援システムでお知らせします。

【Outline (in English)】

German Culture and its Crossing Borders as Read from Grimm/Disney

In this class, we will compare/contrast children's literature from German-speaking countries with the films based on them. While reading/watching the texts and films, we will also learn about the social, cultural, and historical contexts in Germany (and the U.S.) that contributed to the differences between the two.

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Term-end report: 40%, in class contribution: 60%

LIT300LA

**カルチュラル・スタディーズで見
るドイツ語圏 B** 2017年度以降入学者

柳橋 大輔

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 5/Fri.5

単位数：2 単位

定員制 (30 名)

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】**【転生する〈人造人間〉——ホムンクルス、オリンピア、ゴレム、プロテゼ】**

映画をはじめとするポップカルチャーのなかにはしばしば〈人造人間〉が登場しますが、その際、これらのモチーフには直接的・間接的にドイツ文化において過去に生み出されたイメージが大きく影を落としています。

この授業では、〈人造人間〉をいくつかのタイプに分類し、そのドイツ語圏文化における出現を跡づけたのち、それぞれのモチーフが現代の文化のなかになどどのようなかたちで〈転生〉を遂げているのかを考えていきます。〈転生〉後のイメージを変容させる要因になったドイツ（と日本やアメリカなど）の社会や文化、歴史的な文脈についても学んでいきましょう。

【到達目標】

ドイツ語圏の文学作品や映画の内容と文化的文脈を的確に理解し、その認識を相手にわかるように表現することができる。

文学と映画のメディアの差異を把握し、この違いによってどのような効果が生まれているのかを具体的に説明することができる。

ドイツ語圏の文化史・現代史に対する関心や理解を深める。

文化的なコンテンツを対象としたリサーチとプレゼンテーションのスキルを実地に学ぶことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

第9回までの授業で、教員が論及の対象となる文学作品や映画作品を紹介し、その作品が置かれた文化的文脈についてお話しします（講義形式）。

第10回以降は、それぞれのモチーフをあつかった作品（映画、アニメ、漫画などポップカルチャーを含む）をめぐって、受講生のみなさんにグループ発表を行なってもらい、その他の参加者のみなさんと質疑応答の時間を設けます。（演習形式）。

文学作品や映画作品について、また発表についての感想や意見についてリアクションペーパーを書いてもらいます。重要な論点を含むものについてはその次の回の授業で取り上げます（フィードバック）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	授業の概要について紹介（「ドイツ語圏」とは？「カルチュラル・スタディーズ」とは？など）
第2回	導入：〈人造人間〉とは何か	〈人造人間〉を分類する
第3回	〈ホムンクルス〉：生命の創造という禁忌(1)	ゲーテ『ファウスト』、プロメーテウス
第4回	〈ホムンクルス〉：生命の創造という禁忌(2)	ソクーロフと手塚治虫の『ファウスト』

第5回 〈オリンピア〉：恋愛対象はアンドロイド(1)

ホフマン『砂男』、ピュグマリオン
映画『メトロポリス』、『アイム・ユア・マン』

第6回 〈オリンピア〉：恋愛対象はアンドロイド(2)

第7回 〈ゴレム〉：〈人造人間〉の両義性(1)

映画『巨人ゴレム』、マイリンク

第8回 〈ゴレム〉：〈人造人間〉の両義性(2)

フランケンシュタイン、『大魔神』

第9回 〈プロテゼ〉：補綴からサイボーグへ？

ゲーテ『ゲッツ』、映画『芸術と手術』『M』

第10回 〈ホムンクルス〉の転生

【グループ発表1】現代の〈ホムンクルス〉：差異とその社会的・文化的要因

第11回 〈オリンピア〉の転生

【グループ発表2】現代の〈オリンピア〉：差異とその社会的・文化的要因

第12回 〈ゴレム〉の転生

【グループ発表3】現代の〈ゴレム〉：差異とその社会的・文化的要因

第13回 〈プロテゼ〉の転生

【グループ発表4】現代の〈プロテゼ〉：差異とその社会的・文化的要因

第14回 〈人造人間〉の系譜（まとめにかえて）

文化・メディアを超えた〈転生〉を〈読む〉こと

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。授業であつかう文学作品については該当する箇所の日本語訳を配布する場合がありますので、事前に目を通してください。

授業中に映画作品の抜粋を視聴する機会があるかもしれませんが、作品全体を観ることは難しいので、ぜひDVDレンタルや配信サービスなどを利用し、できるだけ自分で作品全体を観るようにしてください。

なお、リアクションペーパーは授業後にオンラインで提出してもらう可能性がありますが（詳細については授業で説明します）。授業ノートを読み返ししながら自分の意見をまとめてください。

【テキスト（教科書）】
必要なテキスト等は授業前後にそのつど配布します。

【参考書】
授業中、もしくは授業前後に適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】
平常点（グループ発表やディスカッションなど授業への積極的な参加、リアクションペーパーなど）：60%

学期末レポート：40%（提出しない場合は単位の認定ができません）
——なお、授業回数の3分の2以上の出席が単位認定の前提条件となります（ただし、病気などやむを得ない事由により授業を欠席する場合には考慮しますので、医療機関発行の診断書等を提出してください）。

【学生の意見等からの気づき】
グループ発表やディスカッションの時間を設け、学生のみなさんの授業への能動的な参加を促します。

【学生が準備すべき機器他】
オンライン授業を行なう場合に備え、Zoomが使用できるよう、PCとネット環境を準備しておいてください。

【その他の重要事項】
ドイツ語の知識は必要ありません。

春学期・秋学期をとおした履修を推奨します。

授業の進度等により、授業内容が変更される可能性があります。

オフィスアワーについては個別に対応しますので、事前にメールで連絡をしてください。メールアドレスは授業開始後に学習支援システムでお知らせします。

【Outline (in English)】
Reincarnations of the "Artificial Human": Homunculus, Olympia, Golem, and the Prosthesis

In this class, we will trace the emergence of the "artificial man" in German-speaking cultures, and then consider how this motif has been "reincarnated" in contemporary culture. We will also learn about the social, cultural, and historical contexts in Germany (and Japan, the U.S., etc.) that have contributed to the transformation of the post-incarnation image.

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Term-end report: 40%, in class contribution: 60%

ARSk300LA

比較文化A

2017年度以降入学者

D. ハイデンライヒ

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 4/Tue.4

単位数：2 単位

定員制 (30 名)

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈ダ〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

食、メディアと現代文化

「食」は異文化を知るための最初の手がかりです。食を通して、私たちは個人または文化的アイデンティティ、社会的団結、価値観、感情などを伝えることができます。このクラスではさまざまなプリントメディアや映像資料を通して、主に日本とヨーロッパの共通点と相違点を浮き彫りにし異文化・自文化理解力を高めます。

【到達目標】

- 異文化・自文化理解力を深めること。
- 固定化されたイメージ（ステレオタイプ）を見直し、明晰な思考を身につけること。
- 海外のメディアを効果的に活用する力（メディア・リテラシー）を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

さまざまな形で教材化したテキストやメディアを用いて、数回の課題とリアクションペーパーの提出とフィードバックによって授業を構成する。提出用課題を出す場合は、次の授業にて解説を実施します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
①	授業の説明・選抜	シラバスを読み、授業内容を確認する。 ※ 定員を超える場合は選抜
②	比較文化の方法と概念（1）	「ハイカルチャー」に対して「生活世界 Lebenswelt」としての文化とは？
③	比較文化の方法と概念（2）	ステレオタイプに対して集団主義 vs 個人主義など有意義な「文化的次元 Cultural Dimensions」とは？
④	テレビの料理番組の比較（1）	テレビの料理番組の比較から偏見を見直す。
⑤	テレビの料理番組の比較（2）	テレビの料理番組の比較から偏見を見直す。
⑥	テレビの料理番組の比較（3）	テレビの料理番組の比較から偏見を見直す。
⑦	映画の比較（1）	（フードフィルムを含む）映画の分析を学ぶ。
⑧	映画の比較（2）	（フードフィルムを含む）映画の分析を学ぶ。
⑨	映画の比較（3）	（フードフィルムを含む）映画の分析を学ぶ。
⑩	映画の比較（4）	（フードフィルムを含む）映画の分析を学ぶ。
⑪	Web の料理チャンネルの比較（1）	Youtube の料理チャンネルの比較から現代ヨーロッパの食の状況を理解する。

- ⑫ Web の料理チャンネルの比較（2） Youtube の料理チャンネルの比較から現代ヨーロッパの食の状況を理解する。
- ⑬ Web の料理チャンネルの比較（3） Youtube の料理チャンネルの比較から現代ヨーロッパの食の状況を理解する。
- ⑭ まとめ、課題もしくは 春学期に学んだ内容を確認する。試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業中に映画作品などの抜粋を視聴してもらいます。課題作成のために Hoppii 学習支援システムに UP された作品全体を観て比較する必要があります。

【本授業の準備学習・復習時間は、合わせて4時間を標準とします。】

【テキスト（教科書）】

テキストは使わず、学習支援システムに事前に授業資料をアップします。各自プリントアウトして授業に持参してください。

【参考書】

教室で指定する。

【成績評価の方法と基準】

リアクションペーパーと課題提出を含む平常点：60 %

学期末試験（課題）：40 %

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

Hoppii 学習支援システムを利用するので、情報機器（パソコン、プリンター）などを準備して下さい。これらの環境を整えることが難しい場合は、大学の PC やプリンター、wifi を利用して下さい。

【その他の重要事項】

定員は 30 人名程度です。受講希望者多数の場合には、第 1 回目の授業参加者の中から選抜を行います。受講希望者は必ず第 1 回目の授業に出席して下さい。

【Outline (in English)】

Food, Media and Contemporary Culture

Food is a powerful medium through which to enter another culture. Through food we can communicate cultural and personal identity, values and emotions. In this class we will compare mainly Japanese and European representations of food in various visual and printed media.

- To deepen understanding of different cultures and own culture.
- Review fixed images (stereotype) and acquire clear thinking.
- Acquire the ability to effectively utilize overseas media (media literacy).

Preparation and review.

The standard for preparatory study and review time for this class is 4 hours in total.

Ordinary score including reaction paper and assignment submission: 60%

Final exam: 40%

ARSk300LA

比較文化B

2017年度以降入学者

D. ハイデンライヒ

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 4/Tue.4

単位数：2 単位

定員制（30名）

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「神話とメルヘンにおけるシンボル動物」をテーマに、この授業では諸文化間の動物観とそれらのシンボリックの意味を比べ、主に日本とヨーロッパの共通点と相違点を浮き彫りにし異文化・自文化理解力を高める。

【到達目標】

- 人間と動物の関係についての異文化理解を深めること。
- 固定化されたイメージ（ステレオタイプ）を見直し、明晰な思考を身につけること。
- 海外のメディアを効果的に活用する力（メディア・リテラシー）を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

さまざまな形で教材化したテキストやメディアを用いて、数回の課題とリアクションペーパーの提出とフィードバックによって授業を構成する。提出用課題を出す場合は、次の授業にて解説を実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
①	シンボル動物とは？	授業の内容と進め方の説明
②	アザラシ（1）	セルキーの神話などを調べてみる。
③	アザラシ（2）	課題、ディスカッション
④	豹（1）	詩における豹の比喩的な意味を探る。
⑤	豹（2）	課題、ディスカッション
⑥	狐（1）	童話におけるキツネの性格を比較する。
⑦	狐（2）	課題、ディスカッション
⑧	ロバと馬（1）	映画の中のロバと馬を比較する。
⑨	ロバと馬（2）	課題、ディスカッション
⑩	白鳥（1）	オペラとバレエを比較する。
⑪	白鳥（2）	課題、ディスカッション
⑫	虎（1）	白鳥と詩人について考える。
⑬	虎（2）	課題、ディスカッション
⑭	まとめ、課題しくは試験	秋学期に学んだ内容を確認する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業中に映画作品などの抜粋を視聴してもらいます。課題作成のために Hoppii 学習支援システムに UP された作品全体を観て比較する必要があります。

【本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 4 時間を標準とします。】

【テキスト（教科書）】

テキストは使わず、学習支援システムに事前に授業資料をアップします。各自プリントアウトして授業に持参してください。

【参考書】

教室で指定する。

【成績評価の方法と基準】

リアクションペーパーと課題提出を含む平常点：60%

学期末試験（課題）：40%

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

Hoppii 学習支援システムを利用するので、情報機器（パソコン、プリンター）などを準備して下さい。これらの環境を整えることが難しい場合は、大学の PC やプリンター、wifi を利用して下さい。

【その他の重要事項】

定員は 30 人名程度です。受講希望者多数の場合には、春学期の第 1 回目の授業参加者の中から選抜を行います。受講希望者は必ず春学期の第 1 回目の授業に出席してください。

【Outline (in English)】

What similarities and differences exist in the concept of animals and their symbols among cultures? This course is designed to allow students to explore the relationship between humans and animals with an emphasis on mythology, religious tradition and literature.

◦ To deepen understanding of different cultures and own culture.

◦ Review fixed images (stereotype) and acquire clear thinking.

◦ Acquire the ability to effectively utilize overseas media

Preparation and review.

The standard for preparatory study and review time for this class is 4 hours in total.

Ordinary score including reaction paper and assignment submission: 60%

Final exam: 40%

ART300LA

ドイツ語圏の芸術A

2017年度以降入学者

辻 英史

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 4/Mon.4

単位数：2 単位

定員制 (30 名)

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

今さら人にきけないドイツ芸術（再）入門

【到達目標】

ドイツの芸術を理解するために必要な基礎知識を整理し、時代背景とともに有名な作品を紹介します。どこかで聞いたことがあるけど、今さら人に訊けないような芸術家やその作品について学ぶことで、ドイツとその文化に対する理解を深めることを目標にします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

絵画、音楽、建築の3分野を中心として、ドイツ芸術における巨匠や有名な作品を紹介し、鑑賞のポイントになる基本的な知識や、作品の作られた時代背景を解説します。

参加者はドイツ語の知識がある方が望ましいですが、ドイツ語のテキストを用いる場合でも、日本語または英語の翻訳を用意します。授業では積極的な参加を要求します。

毎回の授業冒頭にリアクションペーパーのフィードバックをします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	導入	ドイツ芸術の特徴とは？
第2回	絵画編1 中世の美術	ルネサンスって何だろう？ 取り上げる芸術家：デューラー
第3回	絵画編2 風景画の世界	絵画に表現された自然と人間の関係について。取り上げる芸術家：C・D・フリードリヒほか
第4回	絵画編3 風俗画の世界	絵画に浮かび上がる人々の日常の暮らしと変わりゆく世界。取り上げる芸術家：F・G・ヴァルトミュラーほか
第5回	絵画編4 表現主義って何だろう？	絵画の革命はどのようにして始まったのか。取り上げる芸術家：「青い騎士」など
第6回	音楽編1 キリスト教と音楽	切っても切れない関係にある宗教と音楽の関係について。取り上げる芸術家：バッハ
第7回	音楽編2 音楽と宮廷社会	華やかな宮廷を盛り上げる音楽の数々。取り上げる芸術家：モーツァルト
第8回	音楽編3 職業作曲家の誕生	音楽が儀式的伴奏や社交のためのものから鑑賞の対象になるまで。取り上げる芸術家：ベートーヴェン
第9回	音楽編4 ドイツ・ロマン派の栄光	19世紀のドイツ市民社会の発展と音楽の関係。取り上げる芸術家：シューマン、ブラームス

第10回 音楽編5 後期ロマン主義、無調から十二音音楽へ 19世紀末から20世紀初めの新しい音楽の世界。取り上げる芸術家：マーラー、シェーンベルク

第11回 建築編1 教会建築にみる様式の発展 ロマネスク、ゴシック様式からバロック・ロココ様式まで

第12回 建築編2 プランデンブルク門と新古典主義 ドイツ芸術におけるギリシア・ローマへの憧れについて。

第13回 建築編3 ノイシュヴァンシュタイン城と歴史主義 「メルヘン王」ルートヴィヒ2世の道楽が観光資源になるまで。

第14回 建築編4 ユーゲン・トシュティルから表現主義建築へ 19世紀末から20世紀初めに出現した新しい建築の潮流

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業中は積極的な参加が要求される。また、毎回リアクションペーパーを提出すること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

プリントを配布する。

【参考書】

必要に応じて指示する。

【成績評価の方法と基準】

授業への参加(10%)、リアクションペーパー(30%)、レポート(60%)

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

プロジェクターにより画像・映像を見せるほか、音楽・朗読などの録音素材を使用する。

【Outline (in English)】

Introductory course for the history of Art in Germany from the middle age to the 20th century. This course deals with distinguished art works in various fields such as painting, music and architecture.

Active participation is required during the class. Students are also required to submit a reaction paper each time. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Class participation (10%), reaction papers (30%), reports (60%)

ART300LA

ドイツ語圏の芸術B

2017年度以降入学者

辻 英史

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 4/Mon.4

単位数：2 単位

定員制 (30 名)

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「芸術と政治」—近代ドイツにおける芸術と政治の関係

【到達目標】

芸術は政治と関係ない？ —とんでもない！ ドイツの歴史のなかで政治と芸術は深く関わってきた。歴史的事件や人物を題材にした作品は多く存在するし、芸術作品の誕生には、その時の政治体制や支配勢力が少なからず影響している。この授業では、近現代のドイツ芸術を題材として、政治的な状況や事件がどのような芸術作品を生み出してきたのか、また芸術作品のなかで歴史的な事件や人物はどのように扱われてきたのかを、とりわけ政治と芸術が密接に関わったナチ時代（1933-45年）を中心に、さまざまな事例から検証する。

中心となるのは、演説や選挙戦、党大会といった政治行為が芸術作品として演出される「政治の美学化」と、芸術家自身が政治に深く関わらざるを得なくなっていく「美学の政治化」という二つの現象である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

19世紀から20世紀のドイツの歴史のなかから重要な局面を選び、それぞれについて関連する芸術家および芸術作品を紹介し、その両者の関係を分析する。

参加者はドイツ語の知識がある方が望ましいが、ドイツ語のテキストを用いる場合でも、日本語または英語の翻訳を用意する。授業中は積極的な参加が要求される。

毎回の授業冒頭にリアクションペーパーのフィードバックをおこなう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	導入	ドイツの歴史の大まかな流れを概観する。
第2回	ナショナリズムと芸術	ドイツ国民意識の覚醒に対して芸術の果たした役割について。
第3回	階級対立と芸術	工業化と都市化の結果、貧富の差が広がり、階級対立が強まった。このことを題材とする芸術作品を扱う。
第4回	第一次世界大戦と芸術	戦争を題材とする芸術作品を紹介し、戦争が芸術家にもたらした影響について論じる。
第5回	ユダヤ人と芸術	中東欧に居住するユダヤ人は、差別や迫害と共存の交錯する長い年月のなかで、みずから芸術を作り出したり、その題材になったりした。ユダヤ人と芸術の関係を考える。

第6回	大衆文化と芸術	第一次世界大戦後には、新しく出現した大衆に支持された新しい芸術運動の方向性が出現した。そのヴァイマル文化と呼ばれる運動を紹介する。
第7回	ナチズムと芸術	ナチ体制の確立と、芸術に対する干渉と支配の実態を明らかにする。
第8回	ナチズムのもとでの芸術家たち	沈黙、迎合、抵抗、亡命から利用まで、芸術家たちのナチ体制に対する態度を分析する。
第9回	第二次世界大戦と芸術	国民の戦意高揚と戦争への動員に芸術が果たした役割を分析する。
第10回	ホロコーストと芸術	ユダヤ人の大虐殺はどのようにおこなわれたのか。芸術家はそれに対しどのような態度を取ったのか。
第11回	復興・経済成長と芸術	悲惨な敗戦、そしてそれに続く戦後の復興と高度経済成長から生まれた芸術作品について。
第12回	「過去の克服」と芸術	ナチ時代の犯罪的行為への反省がドイツ社会に広まるにあたって、芸術はどのように貢献したのか。
第13回	「ベルリンの壁」の建設と芸術	冷戦期の東西ドイツの分断は、どのような芸術作品を生み出したのか。
第14回	ドイツ再統一と芸術	東欧の民主化とドイツ再統一に、芸術はどのように関与したのか。そして現代ドイツにおける芸術と政治の関係とは。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業中は積極的な参加が要求される。また、毎回リアクションペーパーを提出すること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

プリントを配布する。

【参考書】

石田勇治編著『図説ドイツの歴史』河出書房新社、2007年。

【成績評価の方法と基準】

授業への参加(10%)、リアクションペーパー(30%)、レポート(60%)

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

プロジェクターにより画像・映像を見せるほか、音楽・朗読などの録音素材を使用する。

【Outline (in English)】

This course deals with the relationship between politics and art in Germany from the beginning of the modern nation state to the post cold war period.

Active participation is required during the class. Students are also required to submit a reaction paper each time. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Your overall grade in the class will be decided based on the following:

Class participation (10%), reaction papers (30%), reports (60%)

LANd300LA

留学ドイツ語A

2017年度以降入学者

林 志津江

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 5/Fri.5

単位数：2 単位

定員制 (30 名)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「ドイツ語圏で学びたい・生活してみたい」と考えている方の準備と、滞在経験者のドイツ語の復習とブラッシュアップを目指すクラスです。夏期ウィーン大学短期語学研修（グローバル教育センター主催）や、法政大学派遣留学（協定校への派遣留学）や SA ドイツ（国際文化学部専門科目）、ドイツへのワーキングホリデー等、ドイツ語圏での留学や滞在を念頭に、ドイツ語とドイツ語圏の多様性に触れながら、ドイツ語圏での快適な滞在に最低限必要なドイツ語運用能力の獲得とコミュニケーションの心がまえを学びます。

【到達目標】

第一の目標は、ドイツ語文法の初歩（週 2 回/2 セメスター程度学修済）の理解を徹底し、簡単なドイツ語でアウトプット（作文）ができるようになることです。

第二の目標は、ドイツ語が「言語」だということ、そして「言語」が構築物だということを理解できる学習者になることです。文法はただのお飾りやテストのための決まりごとなどではなく、何かを表現するために備わった機能的なしくみです。「言いたいこと」のさまざまな場面を想定しながら、ドイツ語のしくみとそのリアリティを実感してください。

第三の目標は、「ドイツ語（外国語）の学び方」を反省できる学習者になることです。「ドイツ（語圏）へ行ってみたい!」と思っているあなたに、外国語学習を通じて得た思考・感情の言語化能力、他者対応能力が身につけているなら、怖いものは何もありません。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

・法政大学の 2023 年度授業方針に従い、感染症流行の状況が「レベル 1」の場合は対面授業で、「レベル 2」以上の場合はリアルタイム型オンライン授業（Zoom）で行います。

・授業の履修者以外にも、「ドイツ語カフェ」参加者ほか、ざっくばらんにドイツ語を話す時間が欲しい方の参加を歓迎します。

・授業内容・方法変更は全て Hoppii 上ないし履修者の法政 G メール宛周知します。5 月以降、Google Classroom をツールとして使用します。

毎授業、導入で、公共の場にあるドイツ語の掲示文を読み解く作業をします（グループワーク）。次に例文とモデル会話の発音練習・会話練習を行った後、各種 Web サイトの入力や SNS での発信を想定したドイツ語での作文、短いテキストの読解を行います。

SNS アプリや各種ウェブサイトを使ったグループワーク、マルチメディア教材・資料を多用しつつ、活気ある授業と参加者のより良い理解にも配慮します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	ドイツ語で自己紹介にチャレンジ
2	乗り物に乗って：その 1	（話法の助動詞を使った表現・前置詞）まずは大学/学校へ行かないと！

3	乗り物に乗って：その 2	（möchte を活用する表現・前置詞）DB (Deutsche Bahn) アプリで切符を買ってみよう
4	時々は観光もしたくない：その 1	（公共空間で使える・必要な表現）自分の住む街を、訪ねてきてくれた親や友だちに案内してあげたい！
5	時々は観光もしたくない：その 2	（イベントの予約やコンサートチケットの手配）ベルリンを朝も昼も夜も堪能するよ！
6	来たら食べて寝なくちゃね：その 1	（食べ物注文する時の表現）食べ物の語彙・レストランやカフェでの注文と支払いの表現
7	来たら食べて寝なくちゃね：その 2	（予約やキャンセル、ホテルの中での表現）宿泊先を予約してみよう、ホテルで使う表現
8	道に迷うかもしれないよね：その 1	（道先案内の表現）道に迷ったら？！ 市内交通をフル活用するために
9	道に迷うかもしれないよね：その 2	（今の状況と要望を伝える）タクシーに乗るには？ 電車を乗り間違えちゃったら？ 急遽お金/両替が必要になったら？
10	とりあえずお天気次第？：その 1	（天候の表現・屋内の活動に関する表現）天気を説明する・屋内でできること？
11	とりあえずお天気次第？：その 2	（従属接続詞と副文）「天気が悪いから」を言い訳にするために…？！
12	なんか調子悪いかも…でも大丈夫！：その 1	（身体の部位・体調の表現・再帰表現）「具合が悪い」のいろいろ・街の薬局で買えるものは何？
13	なんか調子悪いかも…でも大丈夫！：その 2	（身体の部位・体調の表現・再帰表現）・病院にかかる・既往症を説明する
14	まとめ	学期末最終試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

・授業ごと予習・復習の課題を出します。

・ドイツ語の文・テキストはどれも必ず音読をし、授業外でも積極的にドイツ語に触れられるようチャレンジして下さい。SNS のニュースフィードなどを使うのもいいと思います。

【テキスト（教科書）】

佐藤修子ほか著『スツェーネン 2 場面で学ぶドイツ語 (Szenen2 integriert)』（三修社、2007 年）

【参考書】

・中島悠爾ほか著『必携ドイツ文法総まとめ』（白水社、2003 年）
 ・清野智昭『ドイツ語のしくみ<新版>』（白水社、2014 年）
 ・新野守弘・飯田道子・梅田紅子（編著）『知ってほしい国ドイツ』（高文研、2017 年）

・宮田眞治ほか編著『ドイツ文化 55 のキーワード』（ミネルヴァ書房、2015 年）

その他、授業中に指示します。

【成績評価の方法と基準】

授業の積極的な参加（70 %）、授業ごとの課題（30 %）を合わせ、総合的に判断します。

【学生の意見等からの気づき】

学生からは逐次ヒアリングを行い、相互の意志の疎通に努めます。

【学生が準備すべき機器他】

・独和辞典は必携です。スマートフォン用の辞書アプリ（有料のもの）でも構いません。

・スマートフォンないしタブレット・PC 類を準備してください。

【その他の重要事項】

・履修者に限らず、適宜ざっくばらんにドイツ語を話す時間が欲しい方の参加・聴講を歓迎します。希望者は担当者法政 G メール shizuhaya@hosei.ac.jp

までご連絡ください。

- ・授業の順序や内容の一部は変更されることがあります。
- ・履修者には、その他 ILAC（市ヶ谷リベラルアーツ）開講の「ドイツ語コミュニケーション A/B」「ドイツ語コミュニケーション中級 A/B」「SDGs で学ぶドイツ語 A/B」や、国際文化学部専門科目「ドイツ語アプリケーション」等の履修を推奨します。
- ・受講者には「ドイツ語カフェ」への参加を推奨します。積極的に参加できる方や、運営に積極的に参加できる方については別途その点を評価します（全て「授業への積極的な参加」に含まれる）。
- ・法政大学の行動方針レベル（感染症の流行による）が「レベル1」以下の場合、GW 中ないし夏休み前の期間に都内でフィールドワークを実施します。詳細は初回授業時に説明します。

【Outline (in English)】

This course is suitable for students with basic knowledge of the German language who wish to improve their ability to communicate in German over 3 Semester: Target groups are student who want to participate in short language course in Vienna (by Hosei University-Global Education Center), exchange program of Hosei University as well as Working Holiday experiences in any German speaking society. In the course, students try to get ability for basic, minimal skills for communication in German and combine German as a foreign language with cultural, historical and sociological issues, thus opening up interesting new perspectives.

【Learning Objectives】

- ・To develop an understanding of a wide range of topics relating to life, culture and society in German-speaking countries and to express and explain these in German.
- ・Able to express their own opinions and take part in discussions on abstract topics in German.
- ・Able to write texts of a certain length in German.

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

- ・The standard preparation and revision time for this course is at least two hours each.
- ・There are prescribed preparation and review tasks.
- ・Assignments outside of class time will be given on a case-by-case basis.
- ・In addition to the above, please read the newspaper (daily) or listen to the news as much as possible. It is advisable to make effective use of the internet and social networking sites for German-speaking media.

【Grading criteria】

The course will be judged on the basis of a combination of 70% of ordinary marks (active participation and contribution to the class, presentations, submitted assignments) and 30% of every class assignments.

On the basis of this grading system, students who have achieved at least 60% of the objectives of this course will be considered to have passed the course.

LANd300LA

留学ドイツ語B

2017年度以降入学者

林 志津江

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 5/Fri.5

単位数：2 単位

定員制 (30 名)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「ドイツ語圏で学びたい・生活してみたい」と考えている方の準備と、滞在経験者のドイツ語の復習とブラッシュアップを目指すクラスです。夏期ウィーン大学短期語学研修（グローバル教育センター主催）や、法政大学派遣留学（協定校への派遣留学）や SA ドイツ（国際文化学部専門科目）、ドイツへのワーキングホリデー等、ドイツ語圏での留学や滞在を念頭に、ドイツ語とドイツ語圏の多様性に触れながら、ドイツ語圏での快適な滞在に最低限必要なドイツ語運用能力の獲得とコミュニケーションの心がまえを学びます。

【到達目標】

第一の目標は、ドイツ語文法の初歩（週 2 回/3 セメスター程度学修済）の理解を徹底し、簡単なドイツ語でアウトプット（作文）ができるようになることです。

第二の目標は、ドイツ語が「言語」だということ、そして「言語」が構築物だということを理解できる学習者になることです。文法はただのお飾りやテストのための決まりごとなどではなく、何かを表現するために備わった機能的なしくみです。「言いたいこと」のさまざまな場面を想定しながら、ドイツ語のしくみとそのリアリティを実感してください。

第三の目標は、「ドイツ語（外国語）の学び方」を反省できる学習者になることです。「ドイツ（語圏）へ行ってみよう！」と持っているあなたに、外国語学習を通じて得た思考・感情の言語化能力、他者対応能力が身についているなら、怖いものは何もありません。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

・法政大学の 2023 年度授業方針に従い、感染症流行の状況が「レベル 1」の場合は対面授業で、「レベル 2」以上の場合はリアルタイムオンライン授業（Zoom）で行います。

・授業の履修者以外にも、「ドイツ語カフェ」参加者ほか、ざっくばらんにドイツ語を話す時間が欲しい方の参加を歓迎します。

・授業内容・方法変更は全て Hoppii 上ないし履修者の法政 G メール宛周知します。5 月以降、Google Classroom をツールとして使用します。

毎授業、導入で、公共の場にあるドイツ語の掲示文を読み解く作業をします（グループワーク）。次に例文とモデル会話の発音練習・会話練習を行った後、各種 Web サイトの入力や SNS での発信を想定したドイツ語での作文、短いテキストの読解を行います。

SNS アプリや各種ウェブサイトを使ったグループワーク、マルチメディア教材・資料を多用しつつ、活気ある授業と参加者のより良い理解にも配慮します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	ドイツ語で自己紹介にチャレンジ
2	「友だちのお家に泊めてもらえる」ってなったら？	（身体表現）朝と夜寝る前にすること ：その 1

3	「友だちのお家に泊めてもらえる」ってなったら？	（身体表現・再帰表現）朝と夜寝る前にすること・「清潔」の概念 ：その 2
4	誕生日が大事！	（過去の表現・趣味の表現）「家が社交の場」ということの意味 ：その 1
5	誕生日が大事！	（過去の表現・趣味の表現）あなたが好きなもの、興味のあることは？ 私ならではの贈り物ってなんだろう？ ：その 2
6	見た目って大事？！	（形容詞の語彙・形容詞の付加語的用法）今日は何を着ていこうか？ ：その 1
7	見た目って大事？！	（形容詞の語彙・形容詞の付加語的用法）ショッピングあるある ：その 2
8	「噂話」「世間話」？！	（振る舞いの表現、形容詞の語彙）「～さんってどんな人？ 誰だっけ？」と聞かれた時にどう説明する？ ：その 1
9	「噂話」「世間話」？！	（振る舞いの表現、形容詞の語彙、過去の表現）あの時…さんと～へ行ったよ／～したよ」と言うために ：その 2
10	「環境に配慮」は当たり前？！	（命令法、前置詞）「ゴミの分別」と「ゴミの出し方」 ：その 1
11	「環境に配慮」は当たり前？！	（命令法、前置詞、um ~ zu... の練習）日常生活の中の家事と掃除 ：その 2
12	「ペットは家族」のリアル	（禁止の表現・ペットに関する語彙）犬や猫と一緒にできることって何？ ：その 1
13	「ペットは家族」のリアル	（禁止の表現・マナーに関する語彙）公共施設でのマナーについて説明する ：その 2
14	まとめ	学期末最終評価試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

・本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。
・授業ごと予習・復習の課題を出します。
・ドイツ語の文・テキストはどれも必ず音読をし、授業外でも積極的にドイツ語に触れられるようチャレンジして下さい。SNS のニューズフィードなどを使うのもいいと思います。

【テキスト（教科書）】

佐藤修子ほか著『スツェーネン 2 (Szenen 2 integriert)』（三修社、2007 年）

【参考書】

・中島悠爾ほか著『必携ドイツ文法総まとめ』（白水社、2003 年）
・清野智昭『ドイツ語のしくみ<新版>』（白水社、2014 年）
・新野守弘・飯田道子・梅田紅子（編著）『知ってほしい国ドイツ』（高文研、2017 年）
・宮田眞治ほか編著『ドイツ文化 55 のキーワード』（ミネルヴァ書房、2015 年）
その他、授業中に指示します。

【成績評価の方法と基準】

授業の積極的な参加（70 %）と、授業内のグループワークや授業後の課題（30 %）を合わせ、総合的に判断します。

【学生の意見等からの気づき】

学生からは逐次ヒアリングを行い、相互の意志の疎通に努めます。

【学生が準備すべき機器他】

・独和辞典は必携です。スマートフォン用の辞書アプリ（有料のもの）でも構いません。
・スマートフォンないしタブレット・PC 類を準備してください。

【その他の重要事項】

・履修者に限らず、適宜ざっくばらんにドイツ語を話す時間が欲しい方の参加・聴講を歓迎します。希望者は担当者メール

shizuhaya@hosei.ac.jp

までご連絡ください。

・授業の順序や内容の一部は変更されることがあります。

・履修者には、その他 ILAC（市ヶ谷リベラルアーツ）開講の「ドイツ語コミュニケーション A/B」「ドイツ語コミュニケーション中級 A/B」「SDGs で学ぶドイツ語 A/B」や、国際文化学部専門科目「ドイツ語アプリケーション」等の履修を推奨します。

・受講者には「ドイツ語カフェ」への参加を推奨します。積極的に参加できる方や、運営に積極的に参加できる方については別途その点を評価します（全て「授業への積極的な参加」に含められる）。

・法政大学の行動方針レベル（感染症の流行による）が「レベル1」以下の場合、フィールドワークとして、12月に都内で実施される「クリスマスマーケット」（ドイツ観光局）を訪問する予定です。

【Outline (in English)】

This course is suitable for students with basic knowledge of the German language who wish to improve their ability to communicate in German over 3 Semester: Target groups are student who want to participate in short language course in Vienna (by Hosei University-Global Education Center) and its previous participants, who try to participate in exchange program of Hosei University as well as Working Holiday experiences in any German speaking society. In the course, students try to get ability for basic, minimal skills for communication in German and combine German as a foreign language with cultural, historical and sociological issues, thus opening up interesting new perspectives.

【Learning Objectives】

・To develop an understanding of a wide range of topics relating to life, culture and society in German-speaking countries and to express and explain these in German.

・Able to express their own opinions and take part in discussions on abstract topics in German.

・Able to write texts of a certain length in German.

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

・The standard preparation and revision time for this course is at least two hours each.

・There are prescribed preparation and review tasks.

・Assignments outside of class time will be given on a case-by-case basis.

・In addition to the above, please read the newspaper (daily) or listen to the news as much as possible. It is advisable to make effective use of the internet and social networking sites for German-speaking media.

【Grading criteria】

The course will be judged on the basis of a combination of 70% of ordinary marks (active participation and contribution to the class, presentations, submitted assignments) and 30% of every class assignments.

On the basis of this grading system, students who have achieved at least 60% of the objectives of this course will be considered to have passed the course.

HSS300LA

スポーツ科学 A

2017 年度以降入学者

サブタイトル：スポーツレクリエーション

西村 一帆

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 2/Mon.2

単位数：2 単位

定員制 (20～30 名)

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈未〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】

1. 身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
2. 豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
3. 自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
4. 卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
5. 就業力 (信頼関係構築力や共同行動力など) の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

本授業は、感染対策を十分に実施したうえで、対面による実技を中心に授業を展開する。感染の状況によっては実技が講義やオンライン授業に変更がある可能性もある。また、状況により動画配信オンデマンド型も組み合わせて実施する。

初回授業では、履修希望者多数の場合、密接した環境を回避するため体育施設使用人数制限に合わせ抽選を行う予定。

全授業は、基本的に、対面形式での授業実施予定のため、大学の感染予防対策を守って対面で参加できる学生が受講することが望ましい。授業に関わる連絡事項については、授業前日までに授業支援システム (Hoppii) を通して告知する。

体育施設を利用する場合は、室内用靴が必要となるので用意すること。

毎回の授業の初めに、前回の授業で提出された意見や課題をいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業概要についての説明
2	体力測定	・自分の健康状態の把握 ・生活状況を考える
3	体作り運動	・体を使った動き ・徒手 ・バランスポール ・大縄跳び
4	筋力アップ運動	・筋力トレーニングの理論と実践
5	ニューススポーツ ・インディアカ ・ソフトバレー ・バレーボール	・ニューススポーツ理論と実践
6	ネットラケット種目 ・バドミントン	・シングルス/ダブルス理論と実践
7	ボールゴール型種目 ・バスケットボール	・バスケットボール理論と実践

8	バランスポーツ ・ポッチャ	・ポッチャの理論と実習
9	ニューススポーツ (室内 競技) ・ユニホック	・ユニホック理論と実践
10	ネット種目 ・バレーボール	・バレーボール理論と実践
11	ネット種目 ・バレーボール	・バレーボールの戦術と実行
12	ネットラケット種目 ・卓球シングルス	・シングルスゲーム理論と実践
13	ネットラケット種目 ・卓球ダブルス	・ダブルスゲーム理論と実践
14	ボールゴール型種目 ・フットサル	・フットサル理論と実践

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

授業での身体活動時に心身の不備が無いよう、各自が体調を整えた上で授業に臨むこと。

また授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、教員の指示に従って実践すること。

本授業の準備学習、復習時間は合わせて 4 時間を標準とする。授業中に自分の動作を撮影して改善点を検討したり、授業で出てきた課題や疑問点を調べることで、次授業に向けてテーマについて調査し自分の興味のあることを明らかにしておくこと。

【テキスト (教科書)】

特になし。

適宜配布する予定。

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

- 1) 授業中の活動に対する参画状況・授業態度 60%、
 - 2) 課題レポート 40%の配分として総合評価する。
- この成績評価方法は原則的なものであり、病弱者、見学者、特別な身体的理由により通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価する。

【学生の意見等からの気づき】

中学・高等学校における体育の授業で行われる男女別習型の授業と異なり、本授業では男女共習型の体育を展開した。

男女共習型には、異性についての理解や、生涯スポーツへの架け橋としての役割等のメリットがある。

一方で、危険性や、それに伴う積極性の欠如などのデメリットが存在する。新たなルールの設定等の工夫により、これらのデメリットの排除に心がけたい。

【学生が準備すべき機器他】

オンライン・オンデマンド型の授業にも対応できるよう準備をすること。

【その他の重要事項】

社会情勢や使用教場の状況により、授業計画を変更して授業を展開することもあるので、柔軟に対応すること。

【Outline (in English)】

【Learning Objectives】 1. To develop an understanding of the significance and role of physical activity from a variety of perspectives.

2. to acquire the ability to use sporting activities as a means of establishing a rich and healthy student and social life.

3. To develop the basic knowledge and attitudes that contribute to self-management.

4. to acquire the ability to demonstrate leadership and problem solving through communication with others, which is considered to be extremely important in order to be active in the real world after graduation.

5. To acquire a range of skills that will lead to the development of working skills (such as the ability to build relationships of trust and the ability to work together).

【Learning activities outside of classroom】 Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

【Grading Criteria /Policy】 Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination: 40%、

in class contribution: 60%

HSS300LA

スポーツ科学 B

2017 年度以降入学者

サブタイトル：スポーツレクリエーション

西村 一帆

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 2/Mon.2

単位数：2 単位

定員制 (20～30 名)

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈未〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】

1. 身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
2. 豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
3. 自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
4. 卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
5. 就業力 (信頼関係構築力や共同行動力など) の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

本授業は、感染対策を十分に実施したうえで、対面による実技を中心に授業を展開する。感染の状況によっては実技が講義やオンライン授業に変更がある可能性もある。また、状況により動画配信オンデマンド型も組み合わせて実施する。

初回授業では、履修希望者多数の場合、密接した環境を回避するため体育施設使用人数制限に合わせ抽選を行う予定。

全授業は、基本的に、対面形式での授業実施予定のため、大学の感染予防対策を守って対面で参加できる学生が受講することが望ましい。授業に関わる連絡事項については、授業前日までに授業支援システム (Hoppii) を通して告知する。

体育施設を利用する場合は、室内用靴が必要となるので用意すること。

毎回の授業の初めに、前回の授業で提出された意見や課題をいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う予定。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業概要についての説明
2	体力測定	・自分の健康状態の把握 ・生活状況を考える
3	体作り運動	・体を使った動き ・徒手 ・バランスポール ・大縄跳び
4	筋力アップ運動	・筋力トレーニングの理論と実践
5	ニューススポーツ ・インディアカ ・ソフトバレー ・バレーボール	・ニューススポーツ理論と実践

6	ネットラケット種目 ・バドミントン	・シングルス/ダブルス理論と実践
7	ボールゴール型種目 ・バスケボール	・バスケボール理論と実践
8	パラスポーツ ・ポッチャ	・パラスポーツの理解を深める ・ポッチャの理論と実習
9	ニューススポーツ (室内競技) ・ユニホック	・ユニホック理論と実践
10	ネット種目 ・バレーボール	・バレーボール理論と実践
11	ネット種目 ・バレーボール	・バレーボール戦術と実行
12	ネットラケット種目 ・卓球シングルス	・シングルスゲーム理論と実践
13	ネットラケット種目 ・卓球ダブルス	・ダブルスゲーム理論と実践
14	ボールゴール型種目 ・フットサル	・フットサル理論と実践

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

授業での身体活動時に心身の不備が無いよう、各自が体調を整えた上で授業に臨むこと。

また授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、教員の指示に従って実践すること。

本授業の準備学習、復習時間は合わせて 4 時間を標準とする。授業中に自分の動作を撮影して改善点を検討したり、授業で出てきた課題や疑問点を調べることで、次授業に向けてテーマについて調査し自分の興味のあることを明らかにしておくこと。

【テキスト (教科書)】

特になし。
適宜配布する予定。

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

- 1) 授業中の活動に対する参画状況・授業態度 60%、
- 2) 課題レポート 40%の配分として総合評価する。

この成績評価方法は原則的なものであり、病弱者、見学者、特別な身体的理由により通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価する。

【学生の意見等からの気づき】

中学・高等学校における体育の授業で行われる男女別習型の授業と異なり、本授業では男女共習型の体育を展開した。

男女共習型には、異性についての理解や、生涯スポーツへの架け橋としての役割等のメリットがある。

一方で、危険性や、それに伴う積極性の欠如などのデメリットが存在する。

新たなルールの設定等の工夫により、これらのデメリットの排除に心がけたい。

【学生が準備すべき機器他】

オンデマンド型の授業にも対応できるよう準備をすること。

【その他の重要事項】

社会情勢や使用教場の状況により、授業計画を変更して授業を展開することもあるので、柔軟に対応すること。

【Outline (in English)】

【Learning Objectives】 1. To develop an understanding of the significance and role of physical activity from a variety of perspectives.

2. to acquire the ability to use sporting activities as a means of establishing a rich and healthy student and social life.

3. To develop the basic knowledge and attitudes that contribute to self-management.

4. to acquire the ability to demonstrate leadership and problem solving through communication with others, which is considered to be extremely important in order to be active in the real world after graduation.

5. To acquire a range of skills that will lead to the development of working skills (such as the ability to build relationships of trust and the ability to work together).

【Learning activities outside of classroom】 Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

【Grading Criteria /Policy】 Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination: 40%、
in class contribution: 60%

HSS300LA

スポーツ科学 A

2017 年度以降入学者

サブタイトル：生涯スポーツの理解と実践

佐藤 優希

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 2/Thu.2

単位数：2 単位

定員制 (20～30 名)

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈未〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】

1. 身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
2. 豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
3. 自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
4. 卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
5. 就業力 (信頼関係構築力や共同行動力など) の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は大学が定める感染対策ガイドラインに沿い、感染対策を十分に行った上で対面授業を中心に授業を展開する。授業は実技および講義等から構成され、様々な実技種目を通じて、スポーツ科学 (スポーツ心理、栄養、トレーニング等) および生涯スポーツについて学ぶ。

評価は授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え、試験及びレポート等の課題の評価を総合的に判定して単位を授与する。授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業内容を理解するとともにスポーツ活動への取り組みに対する動機づけを図る。また、授業で取り組む「生涯スポーツ」とは何かについて学ぶ (講義)
2	運動の心理的効果	運動の心理的な効果について、心理的な尺度を用いて検証する。実技種目はバドミントンをを用いる (講義および実習)
3	運動の身体的効果	運動の身体的な効果について、運動生理学の観点から学ぶ。実技種目はバドミントンをを用いる (講義及び実習)
4	ニュースポーツの実践 (インディアカ)	生涯スポーツとしてインディアカが注目されている。インディアカのルールおよび歴史の理解と実践 (講義及び実習)

5	ニュースポーツの実践 (ユニホック)	生涯スポーツとしてユニホックが注目されている。ユニホックのルールおよび歴史の理解と実践 (講義及び実習)
6	ニュースポーツと地域活性	ニュースポーツがどのように地域活性に役立っているか、また地域の取り組みについて具体的事例を挙げながら紹介し、生涯スポーツに対する理解を深める (講義)
7	運動学習の基礎理論	ヒトがどのように運動・スポーツ動作を習得するのか、運動学習の基礎理論を学ぶ。実技種目はバスケットボールを用いる (講義および実習)
8	運動学習の方略 (注意の焦点)	効率的に運動・スポーツ動作を習得するための方略として注意の焦点を学ぶ。実技種目はバスケットボールを用いる (講義及び実習)
9	運動学習の方略 (フィードバック法)	効率的に運動・スポーツ動作を習得するための方略としてフィードバック法を学ぶ。実技種目は卓球を用いる (講義及び実習)
10	食とメンタルヘルス	日々の食生活とメンタルヘルスの関係性を学ぶ (講義)
11	プレッシャーとスポーツ (実践)	スポーツの場面ではしばしば緊張する場面 (プレッシャーのかかる場面) でのプレーが求められる。フットサルを通じて、プレッシャーが心身に及ぼす影響について検証する (講義及び実習)
12	プレッシャーとスポーツ (基礎理論)	「プレッシャーとスポーツ (実践)」での結果を踏まえて、プレッシャーが心身に及ぼす影響について学ぶ (講義及び実習)
13	健康とトレーニング	健康管理のためのトレーニングの原則や栄養摂取の仕方を学ぶ (講義)
14	総括、レポート	授業の総括およびレポートに取り組む (講義)

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本演習の準備・復習時間の目安は 1 回の授業につき 2 時間を標準とします。本授業は講義および実習を通じてスポーツ活動が心身の健康および対人関係の促進に資することについて理解することを目的としています。そのため、日々の身体活動に費やした時間、食事、睡眠時間などを記録し、その内容を振り返り、その効果と今後の課題を記録してください。また、テレビ、新聞、Web 等から発信される種々のスポーツ関連の情報に目を向ける習慣をつけてください。その作業により、本講義内容の理解が深まります。

【テキスト (教科書)】

特定のテキストは使用しません。必要に応じて資料等を配布します。

【参考書】

特定の参考書は使用しません。必要に応じて資料等を配布します。

【成績評価の方法と基準】

授業中の活動に対する参画状況 60 %、技術の習得、課題・レポート 40 % の配分として総合評価します。なお、この成績評価方法は原則的なものであり、通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価します。

1. レポート課題では、授業のテーマや内容を踏まえた上で適切な記述がされているかについて評価します。
2. リアクションペーパー、レポート等の提出物は、必ず本人が提出してください。
3. 授業への参画状況とは、単に出席していることを意味するのではなく、各種授業運営に主体的に関わることを評価の対象とするという意味です。
4. 原則として欠席 3 回までを評価対象とします。また、授業開始から 20 分以内までの入室を遅刻とし、それ以降の入室は欠席とします。
5. やむを得ない理由がない限り全ての授業に出席してください。やむを得ない理由とは、病気、ケガ等による欠席となります。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

スポーツに適した服装と室内用シューズを準備してください。スポーツウェアや室内用シューズ等の貸出はありません。忘れた場合は見学になります。

【その他の重要事項】

1. 原則として対面授業を実施する予定です。ただし、感染症の影響などにより、Zoom などによるオンライン授業などに変更される場合があります。そのため、都度、学習支援システムなどをチェックするようにしてください。基本的に学習支援システムから授業に関する情報を配信します。
2. 授業内容に関する説明を実施するため、必ず初回授業に出席してください。
3. 授業とは関係のない行為（携帯使用、居眠り、会話等）は厳禁とし、その行為をした受講生は単位認定の評価外とします。
4. 上記の授業計画は、受講者の人数や要望に応じて変更する場合があります。初回のガイダンスに出席してください。

【Outline (in English)】

【Course outline】 This course will make students deeply understand the significance and the effect of physical activity. Therefore, students who take this course can improve properly learning and attitude about physical, mental, and social health necessary throughout the students' future of life.

【Learning Objectives】 By the end of the course, students should be able to:

1. Understand more about the meaning and role of physical activity from various perspectives.
2. Use sports and physical activities to establish a prosperous and healthy student life and social life.
3. Develop essential knowledge and attitudes that contribute to self-management.
4. Develop the ability to demonstrate leadership and solve problems through communication with others.
5. Acquire various skills related to the development of employability.

【Learning activities outside of classroom】 Students are expected to follow the lecture's instructions in charge of the class regarding the assignments to be done after class and preparations for the next class. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria/Policy】 Grading will be decided based on the contents of experiments, investigations, and presentations (60%) and the class participation (not attendance) (40%).

HSS300LA

スポーツ科学 B

2017 年度以降入学者

サブタイトル：生涯スポーツの理解と実践

佐藤 優希

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 2/Thu.2

単位数：2 単位

定員制（20～30 名）

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】

1. 身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
2. 豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
3. 自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
4. 卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
5. 就業力（信頼関係構築力や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は大学が定める感染対策ガイドラインに沿い、感染対策を十分に行った上で対面授業を中心に授業を展開する。授業は実技および講義等から構成され、様々な実技種目を通じて、スポーツ科学（スポーツ心理、栄養、トレーニング等）および生涯スポーツについて学ぶ。

評価は授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え、試験及びレポート等の課題の評価を総合的に判定して単位を授与する。授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業内容を理解するとともにスポーツ活動への取り組みに対する動機づけを図る。また、授業で取り組む「生涯スポーツ」とは何かについて学ぶ（講義）
2	運動の心理的効果	運動の心理的な効果について、心理的な尺度を用いて検証する。実技種目はバドミントンをを用いる（講義および実習）
3	運動の身体的効果	運動の身体的な効果について、運動生理学の観点から学ぶ。実技種目はバドミントンをを用いる（講義及び実習）
4	ニュースポーツの実践（インディアカ）	生涯スポーツとしてインディアカが注目されている。インディアカのルールおよび歴史の理解と実践（講義及び実習）

5	ニュースポーツの実践（ユニホック）	生涯スポーツとしてユニホックが注目されている。ユニホックのルールおよび歴史の理解と実践（講義及び実習）
6	ニュースポーツと地域活性	ニュースポーツがどのように地域活性に役立っているか、また地域の取り組みについて具体的事例を挙げながら紹介し、生涯スポーツに対する理解を深める（講義）
7	運動学習の基礎理論	ヒトがどのように運動・スポーツ動作を習得するのか、運動学習の基礎理論を学ぶ。実技種目はバスケットボールを用いる（講義および実習）
8	運動学習の方略（注意の焦点）	効率的に運動・スポーツ動作を習得するための方略として注意の焦点を学ぶ。実技種目はバスケットボールを用いる（講義及び実習）
9	運動学習の方略（フィードバック法）	効率的に運動・スポーツ動作を習得するための方略としてフィードバック法を学ぶ。実技種目は卓球を用いる（講義及び実習）
10	食とメンタルヘルス	日々の食生活とメンタルヘルスの関係性を学ぶ（講義）
11	プレッシャーとスポーツ（実践）	スポーツの場面ではしばしば緊張する場面（プレッシャーのかかる場面）でのプレーが求められる。フットサルを通じて、プレッシャーが心身に及ぼす影響について検証する（講義及び実習）
12	プレッシャーとスポーツ（基礎理論）	「プレッシャーとスポーツ（実践）」での結果を踏まえて、プレッシャーが心身に及ぼす影響について学ぶ（講義及び実習）
13	健康とトレーニング	健康管理のためのトレーニングの原則や栄養摂取の仕方を学ぶ（講義）
14	総括、レポート	授業の総括およびレポートに取り組む（講義）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本演習の準備・復習時間の目安は 1 回の授業につき 2 時間を標準とします。本授業は講義および実習を通じてスポーツ活動が心身の健康および対人関係の促進に資することについて理解することを目的としています。そのため、日々の身体活動に費やした時間、食事、睡眠時間などを記録し、その内容を振り返り、その効果と今後の課題を記録してください。また、テレビ、新聞、Web 等から発信される種々のスポーツ関連の情報に目を向ける習慣をつけてください。その作業により、本講義内容の理解が深まります。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しません。必要に応じて資料等を配布します。

【参考書】

特定の参考書は使用しません。必要に応じて資料等を配布します。

【成績評価の方法と基準】

授業中の活動に対する参画状況 60 %、技術の習得、課題・レポート 40 % の配分として総合評価します。なお、この成績評価方法は原則的なものであり、通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価します。

1. レポート課題では、授業のテーマや内容を踏まえた上で適切な記述がされているかについて評価します。
2. リアクションペーパー、レポート等の提出物は、必ず本人が提出してください。
3. 授業への参画状況とは、単に出席していることを意味するのではなく、各種授業運営に主体的に関わることを評価の対象とするという意味です。
4. 原則として欠席 3 回までを評価対象とします。また、授業開始から 20 分以内までの入室を遅刻とし、それ以降の入室は欠席とします。
5. やむを得ない理由がない限り全ての授業に出席してください。やむを得ない理由とは、病気、ケガ等による欠席となります。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

スポーツに適した服装と室内用シューズを準備してください。スポーツウェアや室内用シューズ等の貸出はありません。忘れた場合は見学になります。

【その他の重要事項】

1. 原則として対面授業を実施する予定です。ただし、感染症の影響などにより、Zoom などによるオンライン授業などに変更される場合があります。そのため、都度、学習支援システムなどをチェックするようにしてください。基本的に学習支援システムから授業に関する情報を配信します。
2. 授業内容に関する説明を実施するため、必ず初回授業に出席してください。
3. 授業とは関係のない行為（携帯使用、居眠り、会話等）は厳禁とし、その行為をした受講生は単位認定の評価外とします。
4. 上記の授業計画は、受講者の人数や要望に応じて変更する場合があります。初回のガイダンスに出席してください。

【Outline (in English)】

【Course outline】 This course will make students deeply understand the significance and the effect of physical activity. Therefore, students who take this course can improve properly learning and attitude about physical, mental, and social health necessary throughout the students' future of life.

【Learning Objectives】 By the end of the course, students should be able to:

1. Understand more about the meaning and role of physical activity from various perspectives.
2. Use sports and physical activities to establish a prosperous and healthy student life and social life.
3. Develop essential knowledge and attitudes that contribute to self-management.
4. Develop the ability to demonstrate leadership and solve problems through communication with others.
5. Acquire various skills related to the development of employability.

【Learning activities outside of classroom】 Students are expected to follow the lecture's instructions in charge of the class regarding the assignments to be done after class and preparations for the next class. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria/Policy】 Grading will be decided based on the contents of experiments, investigations, and presentations (60%) and the class participation (not attendance) (40%).

HSS300LA

スポーツ科学 A

2017 年度以降入学者

サブタイトル：スポーツレクリエーション

白井 隆長

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 3/Wed.3

単位数：2 単位

定員制 (20～30 名)

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈未〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

近年のテクノロジーの発達に伴い、スポーツサイエンスも多くの進化を遂げ、スポーツを効果的、効率的、かつ安全に実施する方法が数多く提起されてきている。この講義では、ゴール型、ネット型、対人型など様々な競技特性を持つスポーツを題材として最新のスポーツ科学について理解を深めるとともに、各競技の技術習得及び向上を目標とする。身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】

- ① 身体活動の意義や役割について スポーツ科学の視点から理解を深める。
- ② 豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
- ③ 人体のしくみを理解することで自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
- ④ 健康に関する情報の取捨選択ができるようになるために、科学的根拠を踏まえた健康リテラシーを醸成する。
- ⑤ 卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
- ⑥ 就業力 (信頼関係構築力や共同行動力など) の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

この科目は、履修に際して学部等の制限はないが、履修希望者が履修可能定員を超えた科目については、事前のガイダンスにおいて抽選で履修可能者とする。

授業は数種目のスポーツ・身体活動を教材とした演習や講義等で構成され、授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え、試験やレポート等の評価を総合的に判定して単位を授与する。

授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	本授業の概略、オンデマンド授業に関する情報と注意点、担当教員の紹介等
2	実技 ：バドミントン①	ストレッチ・体操 (フィットネス) バドミントンの基本的技術とルール
3	実技 ：バドミントン②	ストレッチ・体操 (フィットネス) ダブルスの基本的技術とルール

4	実技 ：バスケットボール①	ストレッチ・体操 (フィットネス) バスケットボールの基本的技術とルール
5	スポーツ科学とは？	スポーツ科学とは トップアスリートの特徴 サイエンスの活用
6	運動と代謝	代謝とそのメカニズム
7	実技 ：卓球①	ストレッチ・体操 (フィットネス) 卓球の基本的技術とルール
8	実技 ：卓球②	ストレッチ・体操 (フィットネス) ダブルスの基本的技術とルール
9	実技 ：バスケットボール②	ストレッチ・体操 (フィットネス) バスケットボールの応用的技術と戦術理解
10	実技 ：バレーボール①	ストレッチ・体操 (フィットネス) バレーボールの基本的技術とルール
11	実技 ：バレーボール②	ストレッチ・体操 (フィットネス) バレーボールの応用的技術とルール
12	実技：その他の種目	ストレッチ・体操 (フィットネス) ドッジボール、フリスビー、ユニホッケーの基本技術とルール
13	サクセスフルエイジングの達成	エイジング 老化と加齢 エクササイズの効果
14	授業の総括	これまでの授業の振り返り 自身の生活習慣の振り返り

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

本授業は講義および実習を通じてスポーツ活動が心身の健康および対人関係の促進に資することについて理解することを目的としている。そのため、日々の身体活動に費やした時間、食事、睡眠時間などを記録し、その内容を振り返り、その効果と今後の課題を記録すること。また、テレビ、新聞、Web 等から発信される種々のスポーツ関連の情報に目を向ける習慣をつけること。その作業により、本講義内容の理解が深まることがある。

【テキスト (教科書)】

特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて担当教員が配付する。

【参考書】

授業担当教員が必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業中の活動に対する参画状況・リアクションペーパー 60 %、課題・レポート 40 % の配分として総合評価する。なお、この成績評価方法は原則的なものであり、通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価する。

1. レポート課題では、授業のテーマや内容を踏まえた上で適切な記述がされているかについて評価する。
2. リアクションペーパーでは、授業で習得した内容が適切に記述できているかについて評価する。
3. リアクションペーパー、レポート等の提出物は、必ず本人が提出すること。
4. 授業への参画状況とは、単に出席していることを意味するのではなく、ディスカッションや各種授業運営に主体的に関わることを評価の対象とする。
5. 原則として欠席 3 回までを評価対象とします。また、授業開始から 20 分以内までの入室を遅刻とし、それ以降の入室は欠席とする。
6. やむを得ない理由がない限り全ての授業に出席すること。やむを得ない理由とは、病気、ケガ等による欠席となる。
7. 前述の理由により欠席する場合、事前にその旨について担当教員に報告すること。また病気や怪我といった急性疾患等により欠席する場合、出席可能となった授業時にその旨について担当教員に報告すること。なお、病気や怪我による通院などによる欠席の場合、そのことを証明できる資料を担当教員に提出すること。

【学生の意見等からの気づき】

本授業では、スポーツ競技の優れた技術をマスターすることを目的としていないため、初心者でもスポーツに親しめるよう授業の難易度を低く設定しています。

【学生が準備すべき機器他】

実技授業ではスポーツに適した服装と室内用シューズを必ず準備すること。スポーツウェアや室内用シューズ等の貸出はありません。

オンライン授業では各自パソコンやタブレット端末等を用意し、通信環境を整えること。

【その他の重要事項】

1. 原則として実技は対面授業を実施する予定です。ただし、感染症の影響などにより、Zoom などによるオンライン授業などに変更される場合があります。そのため、都度、学習支援システムなどをチェックすること。
2. 授業内容に関する説明および身体活動に関する調査を実施するため、必ず初回授業に出席すること
3. 授業とは関係のない行為（携帯使用、居眠り、会話等）は厳禁とし、その行為をした受講生は単位認定の評価外とする
4. 本授業では、社会的スキルの一つとみなされる「ホウ・レン・ソウ（報告、連絡、相談）」の実施を求める。そのため、やむを得ない理由により欠席する場合は必ず事前に連絡すること。
5. 上記の授業計画は、受講者の人数や要望に応じて変更する場合もある

【Outline (in English)】

【Course outline】 With the development of technology in recent years, sports science has evolved in various ways, and many methods have been proposed to make sports more effective, efficient, and safe. In this lecture, we will deepen our understanding of the latest sports science using sports with various characteristics such as goal-based, net-based, and opponent-based, and aim to acquire and improve skills in each sport. This course will make students deeply understand the significance and the effect of physical activity. Therefore, students who take this course can improve properly learning and attitude about physical, mental, and social health necessary throughout the students' future of life.

【Learning Objectives】 By the end of the course, students should be able to:

1. Understand more about the meaning and role of physical activity from sports science perspectives.
2. Use sports and physical activities to establish a prosperous and healthy student life and social life.
3. To develop basic knowledge and attitudes that contribute to self-management through an understanding of how the human body works..
4. To foster health literacy based on scientific evidence in order to be able to discern information about health.
5. Develop the ability to demonstrate leadership and solve problems through communication with others.
6. Acquire various skills related to the development of employability.

【Learning activities outside of classroom】 Students are expected to follow the lecture's instructions in charge of the class regarding the assignments to be done after class and preparations for the next class. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria/Policy】 Grading will be decided based on the contents of experiments, investigations, and presentations (60%) and the class participation (not attendance) (40%).

HSS300LA

スポーツ科学 B

2017 年度以降入学者

サブタイトル：スポーツレクリエーション

白井 隆長

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 3/Wed.3

単位数：2 単位

定員制 (20～30 名)

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈未〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

本講義では、「運動・栄養・休養」の 3 つの観点から自身や集団の健康について、現代の日本が直面する諸問題 (少子高齢社会、ライフスタイルの変革、生活習慣病など) や疾病原因を多角的に学ぶとともに、スポーツ科学に関する講義を通して得られた知識をもとに、自身の健康を維持するセルフコントロール法のために、エクササイズやメンタルトレーニングの実践を踏まえ健康の維持・増進方法を会得することを目標とする。

【到達目標】

- ① スポーツの三要素「運動、栄養、休養」について様々な視点から理解を深める。
- ② 豊かで健康的な学生生活や社会生活を送るために、スポーツ実習を通して自身に合ったコンディショニング法を身につける。
- ③ 自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
- ④ 卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケートを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
- ⑤ 就業力 (信頼関係構築力や共同行動力など) の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

この科目は、履修に際して学部等の制限はないが、履修希望者が履修可能定員を超えた科目については、事前のガイダンスにおいて抽選で履修可能者とする。

授業は数種類のスポーツ・身体活動を教材とした演習や講義等で構成され、授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え、試験やレポート等の評価を総合的に判定して単位を授与する。

授業は対面による実技と講義で実施する。

授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	本授業の概略、オンデマンド授業に関する情報と注意点、担当教員の紹介等
2	実技 ：バドミントン①	ストレッチ・体操 (フィットネス) バドミントンの基本的技術とルール
3	実技 ：バドミントン②	ストレッチ・体操 (フィットネス) ダブルスの基本的技術とルール
4	実技 ：フットサル①	実践的 W-up ストレッチ・体操 (フィットネス) フットサルの基本的技術とルール

5	健康とは?	WHO の健康の概念 JAMA 身体の健康を維持するしくみ
6	生活習慣病とスポーツ 医学	生活習慣病とは スポーツ医学とその応用
7	実技 ：卓球①	ストレッチ・体操 (フィットネス) 卓球の基本的技術とルール
8	実技 ：卓球②	ストレッチ・体操 (フィットネス) ダブルスの基本的技術とルール
9	実技 ：バスケットボール①	ストレッチ・体操 (フィットネス) バスケットボールの基本的技術と戦術
10	実技 ：バスケットボール②	ストレッチ・体操 (フィットネス) バスケットボールの応用的技術と戦術
11	実技 ：フットサル②	3vs3 実践的 W-up ストレッチ・体操 (フィットネス) フットサルの基本的技術とルール
12	実技 ：ニュースポーツ	ストレッチ・体操 (フィットネス) ユニホック・インディアカの基本的技術とルール
13	骨格筋の構造と特性を活かしたコンディショニング	骨格筋の量・質の変化 トレーニング適応 コンディショニング
14	授業の総括	これまでの授業の振り返り 自身の生活習慣の振り返り

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。本授業は講義および実習を通じてスポーツ活動が心身の健康および対人関係の促進に資することについて理解することを目的としている。そのため、日々の身体活動に費やした時間、睡眠時間などを記録し、その内容を振り返り、その効果と今後の課題を記録すること。また、テレビ、新聞、Web 等から発信される種々のスポーツ関連の情報に目を向ける習慣をつけること。その作業により、本講義内容の理解が深まる。

【テキスト (教科書)】

特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて担当教員が配付する。

【参考書】

授業担当教員が必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業中の活動に対する参画状況・リアクションペーパー 60 %、課題・レポート 40 % の配分として総合評価する。なお、この成績評価方法は原則的なものであり、通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価する。

1. レポート課題では、授業のテーマや内容を踏まえた上で適切な記述がされているかについて評価する。
2. リアクションペーパーでは、授業で習得した内容が適切に記述できているかについて評価する。
3. リアクションペーパー、レポート等の提出物は、必ず本人が提出すること。
4. 授業への参画状況とは、単に出席していることを意味するのではなく、ディスカッションや各種授業運営に主体的に関わることを評価の対象とする。
5. 原則として欠席 3 回までを評価対象とします。また、授業開始から 20 分以内までの入室を遅刻とし、それ以降の入室は欠席とする。
6. やむを得ない理由がない限り全ての授業に出席すること。やむを得ない理由とは、病気、ケガ等による欠席となる。
7. 前述の理由により欠席する場合、事前にその旨について担当教員に報告すること。また病気や怪我といった急性疾患等により欠席する場合、出席可能となった授業時にその旨について担当教員に報告すること。なお、病気や怪我による通院などによる欠席の場合、そのことを証明できる資料を担当教員に提出すること。

【学生の意見等からの気づき】

スポーツ科学に関するエビデンスをもとにした講義や実習を通してスポーツの楽しさを学びます。運動によって身体が変化していくメカニズムを理解し、自身のライフスタイルに適切な運動・栄養・休養のコンディショニング法を紹介します。

【学生が準備すべき機器他】

実技授業ではスポーツに適した服装と室内用シューズを必ず準備すること。スポーツウェアや室内用シューズ等の貸出はありません。

オンライン授業では各自パソコンやタブレット端末等を用意し、通信環境を整えること。

【その他の重要事項】

1. 原則として実技は対面授業を実施する予定です。ただし、感染症の影響などにより、Zoom などによるオンライン授業などに変更される場合があります。そのため、都度、学習支援システムなどをチェックすること。
2. 授業内容に関する説明および身体活動に関する調査を実施するため、必ず初回授業に出席すること。
3. 授業とは関係のない行為（携帯使用、居眠り、会話等）は厳禁とし、その行為をした受講生は単位認定の評価外とする。
4. 本授業では、社会的スキルの一つとみなされる「ホウ・レン・ソウ（報告、連絡、相談）」の実施を求める。そのため、やむを得ない理由により欠席する場合は必ず事前に連絡すること
5. 上記の授業計画は、受講者の人数や要望に応じて変更する場合もある。

【Outline (in English)】

【Course outline】 This course will make students deeply understood health from the three perspectives of exercise, nutrition, and rest, as well as a multifaceted understanding of the various problems facing Japan (declining birthrate and aging population, changing lifestyles, lifestyle-related diseases, etc.) and the causes of disease. The goal of this course is to learn how to maintain and improve health by practicing exercises and mental training for self-control methods to maintain one's own health.

【Learning Objectives】 By the end of the course, students should be able to:

1. Deepen understanding of the three elements of sports: exercise, nutrition, and rest, from various perspectives.
2. Acquire conditioning methods suited to themselves through sports and physical activity, to establish a prosperous and healthy student life and social life.
3. Develop essential knowledge and attitudes that contribute to self-management.
4. Develop the ability to demonstrate leadership and solve problems through communication with others.
5. Acquire various skills related to the development of employability.

【Learning activities outside of classroom】 Students are expected to follow the lecture's instructions in charge of the class regarding the assignments to be done after class and preparations for the next class. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria/Policy】 Grading will be decided based on the contents of experiments, investigations, and presentations (60%) and the class participation (not attendance) (40%).

HSS300LA

スポーツ科学 A

2017 年度以降入学者

サブタイトル：スポーツウォーキング、ヨガストレッチング

朝比奈 茂

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 2/Mon.2

単位数：2 単位

定員制 (20~30 名)

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈未〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

近年の健康ブームにより、身体活動と病気との関連性が明らかになってきている。しかし、運動の種類やその強度などに関して、一般の人々の解釈は様々である。また運動の功罪についても詳しくは認知されていない。ジョギング、ウォーキング、ヨーガなどは多くの人々が手軽に行える運動である。本講義では、ウォーキングとヨーガに焦点をあて、身体に及ぼす影響について実践を交えて解説して行く。

【到達目標】

1. 人間の運動の基本である「歩く」ことの意義について理解できる。
2. スポーツウォーキングについて説明できる。
3. スポーツウォーキングの身体への影響を説明できる。
4. スポーツウォーキング基本技術 (姿勢、基本ストライドなど) を実践できる。
5. ヨーガについて概説し、その歴史や哲学 (考え方) を理解できる。
6. ヨーガのポーズとその解剖学を習得し、注意点を述べることができる。
7. 呼吸法の意義を理解し、実践することができる。
8. Meditation (瞑想) について概説し、実践することができる。
9. スポーツ傷害について説明できる。
10. ウォーキングおよびヨーガが自律神経におよぼす影響について説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

本講義は感染対策を十分に行い、対面授業を基本に実施する。感染状況に応じて、オンライン授業に変更する可能性もありえる。それによって内容が変更になる場合は、学習支援システムを通じて周知する。

授業のはじめに、前回の授業の振り返りを、意見や質問を通じて用いて行なう。

質問への回答やリアクションペーパーに対する講評等は、オフィス・アワーを利用して行う。

大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムで周知する。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス (対面)	講義の概要、ねらい、進め方、到達目標などを説明する。体格・身体組成の測定を行う。
2	体力測定 (講義および実習)	文部科学省新体力テストに沿って実施する。

3	身体運動と健康 (講義)	体力測定のフィードバックおよびレポート作成を行う。運動が健康におよぼす影響およびその効果について説明し、体力と健康との関わりについて理解する。
4	ヨーガの哲学とアーサナー (講義および実習)	ヨーガの哲学について説明し、アーサナー (基本のポーズ) の意味を理解し実践する。
5	ヨーガの起源とアーサナー (講義および実習)	ヨーガの起源について概説し、アーサナー (基本のポーズ) と関係する筋肉の解剖を説明する。単なるストレッチとの違いを理解し実践する。
6	ヨーガと呼吸 (講義および実習)	ヨーガの呼吸法を身に付ける。呼吸のメカニズムと関係する筋肉の働きについて説明する。
7	スポーツウォーキングの概要 (講義および実習)	スポーツウォーキングについて概説し、一般的なウォーキングとの違いを確認する。
8	スポーツウォーキングと基本技術 (講義および実習)	歩行姿勢、膝伸ばし、適正ストライドを意識しながら、バランスをとる技術、惰性を落とさず推進力を増す技術、重心の上下左右に動かさないための技術を理解し実践する。
9	スポーツウォーキングの基本姿勢 (講義および実習)	基本姿勢を理解し、歩行運動のバイオメカニクスの特徴と正確な歩行を実践する。
10	スポーツウォーキングの身体に及ぼす効果 (講義および実習)	スポーツウォーキングのトレーニング効果を説明し、特に全身持久力向上を意識して実践する。走り型にならないように注意する。
11	スポーツウォーキングと健康 (講義および実習)	スポーツウォーキングが生活習慣病改善に及ぼす役割や効果を説明する。
12	ヨーガと Meditation (瞑想) (講義および実習)	Meditation について概説し、ヨーガを通じて Meditation の状態に到達する感覚をつかむ。
13	ヨーガと健康 (講義および実習)	ヨーガが生活習慣病改善に及ぼす役割や効果を説明する。基本ポーズを組み合わせ、連続した一連のヨーガとして実践する。
14	まとめ	スポーツウォーキングおよびヨーガについて、総合的に振り返りを行う。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

実習するにあたっては、授業での身体活動時に心身の不備が無いよう、各自が体調を整えた上で授業に臨むこと。

毎回の講義で使用するレジュメ及び資料などについて必ず予習・復習をすること。

レジュメ及び資料などは、講義日の前日 22 時をまでに、学習支援システム上に掲載する。受講者は各自ダウンロードし、資料に基づき事前学習を行う。

授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、必要に応じて指示をする。なお本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト (教科書)】

特に使用しない。必要に応じて資料を配布する。

【参考書】

佐保田鶴治．ヨガ根本経典．平河出版社，1986

佐保田鶴治．ヨガ根本経典 (続)．平河出版社，1986

【成績評価の方法と基準】

以下の内容で総合的に評価する。

- 1) 毎回の授業時に取り組む課題 (リアクションペーパー、小テスト、レポートなど) 60 %
- 2) 期末レポート 20 %

3) 授業への参画状況 20 %

- ・欠席および課題の提出が期限をすぎた場合は評価に影響する。
 - ・出席が授業実施回数の 2/3 に満たない場合は、単位取得のための履修時間を下回ると判断されるため **D** もしくは **E** 評価とする。
- またこの成績評価方法は原則的なものであり、通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価する。

【学生の意見等からの気づき】

- 1) 毎回の講義はじめに、その日のスケジュールおよびポイントを示すことで、明確な目標をもって、講義に臨めるように工夫を行う。
- 2) 常に受講生の反応を確認しながら、講義内容を工夫することで、集中力を持続させる様心がける。
- 3) 授業の最後に次週の内容を伝えることで、予習および準備を速やかにできるよう配慮する。

【学生が準備すべき機器他】

必要に応じてオンライン授業をおこなう場合がある。オンライン授業をより効果的に行うために、通信環境を整えておく。また通信機器としてパソコンを準備することがのぞましい。

配布資料、課題の提出は全て学習支援システムを通じて行う。

【その他の重要事項】

授業に関する質問やそれに関連する質問などは授業中および授業の前後に受け付ける。

それ以外については、随時メールを通じて、対応する。

また、オフィスアワーとして毎週月曜日 16時50分～18時30分の 100 分を設ける。

形式は対面とオンライン (zoom) を併用する。

オフィスアワーを利用する場合は、事前にメールを通じて連絡をとること。

【Outline (in English)】**【Course outline】**

Recently, it has been found that there is more interweaving relationship between physical activity and disease. However, the interpretation of this relationship among the general population varies widely in terms of the type of exercise and its intensity and volume. Moreover, details on the advantage and benefit of exercise as comparing to risk are not recognized or determined very well. Among different types of exercises, walking and yoga are easy to conduce expecting some health benefit. In this lecture, students learn the influence on the body with modes of walking and yoga practice.

【Learning Objectives】

1. To be able to understand the significance of "walking" as the basis of human exercise.
2. To be able to explain about Sports Walking.
3. To be able to explain the effects of Sports Walking.
4. To be able to practice the basic techniques of Sports Walking.
5. To be able to give an overview of Yoga and understand its history and philosophy
6. Understand yoga asanas and anatomy, and be able to give notes on them.
7. Understand the significance of breathing exercises and be able to practice them.
8. To be able to explain and practice meditation
9. To be able to explain about sports injuries.
10. To be able to explain the effects of walking and yoga on the autonomic nervous system.

【Learning activities outside of classroom】

Each student is expected to be in good physical condition before attending the class so that there will be no physical or mental deficiencies during the physical activities in the class. You will be instructed on assignments to be done after class and preparations for the next class as necessary. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria/Policy】

The overall evaluation will be based on the following distribution.

- 1) Assignments to be done in each class (reaction papers, short quizzes, reports, etc.): 60%.
- 2) Final report: 20%.

3) Participation in class activities (not attendance): 20%.

If you are absent or submit assignments after the due date, your evaluation will be affected.

If attendance is less than 2/3 of the class, the grade will be "D" or "E".

This grading method is a general rule, and students who have difficulty with regular activities will be dealt with and evaluated on an individual basis.

HSS300LA

スポーツ科学 B

2017 年度以降入学者

サブタイトル：スポーツウォーキング、ヨガストレッチング

朝比奈 茂

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 2/Mon.2

単位数：2 単位

定員制 (20~30 名)

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈未〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

近年の健康ブームにより、身体活動と病気との関連性が明らかになってきている。しかし、運動の種類やその強度などに関して、一般の人々の解釈は様々である。また運動の功罪についても詳しくは認知されていない。ジョギング、ウォーキング、ヨーガなどは多くの人が手軽に行える運動である。本講義では、ウォーキングとヨーガに焦点をあて、身体に及ぼす影響について実践を交えて解説して行く。

【到達目標】

1. 人間の運動の基本である「歩く」ことの意義について理解できる。
2. スポーツウォーキングについて説明できる。
3. スポーツウォーキングの身体への影響を説明できる。
4. スポーツウォーキング基本技術 (姿勢、基本ストライドなど) を実践できる。
5. ヨーガについて概説し、その歴史や哲学 (考え方) を理解できる。
6. ヨーガのポーズとその解剖学を習得し、注意点を述べることができる。
7. 呼吸法の意義を理解し、実践することができる。
8. Meditation (瞑想) について概説し、実践することができる。
9. スポーツ傷害について説明できる。
10. ウォーキングおよびヨーガが自律神経におよぼす影響について説明できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

本講義は感染対策を十分に行い、対面授業を基本に実施する。感染状況に応じて、オンライン授業に変更する可能性もありえる。それによって内容が変更になる場合は、学習支援システムを通じて周知する。

授業のはじめに、前回の授業の振り返りを、意見や質問を通じて行なう。

質問への回答やリアクションペーパーに対する講評等は、オフィス・アワーを利用して行う。

大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムで周知する。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	講義の概要、ねらい、進め方、到達目標などを説明する。 体格・身体組成の測定を行う。
2	体力と健康 (講義および実習)	文部科学省新体力テストの意義や方法を説明する。 体力の概要について、行動体力、防衛体力について説明する。また健康に関わる要素について説明する。

3	身体運動と健康 (講義)	厚生労働省による資料を用いて、生活習慣病と身体活動との関係を明らかにし、運動が健康におよぼす影響およびその効果について説明し、体力と健康との関わりを理解する。
4	ヨーガの哲学とアーサナー (講義および実習)	ヨーガの哲学について説明し、アーサナー (基本のポーズ) の意味を理解し実践する。
5	ヨーガの起源とアーサナー (講義および実習)	ヨーガの起源について概説し、アーサナー (基本のポーズ) と関係する筋肉の解剖を説明する。単なるストレッチとの違いを理解し実践する。
6	ヨーガと呼吸 (講義および実習)	ヨーガの呼吸法を身に付ける。呼吸のメカニズムと関係する筋肉の働きについて説明する。
7	スポーツウォーキングの概要 (講義および実習)	スポーツウォーキングについて概説し、一般的なウォーキングとの違いを確認する。
8	スポーツウォーキングと基本技術 (講義および実習)	歩行姿勢、膝伸ばし、適正ストライドを意識しながら、バランスをとる技術、惰性を落とさず推進力を増す技術、重心の上下左右に動かさないための技術を理解し実践する。
9	スポーツウォーキングの基本姿勢 (講義および実習)	基本姿勢を理解し、歩行運動のバイオメカニクスの特徴と正確な歩行を実践する。
10	スポーツウォーキングの身体に及ぼす効果 (講義および実習)	スポーツウォーキングのトレーニング効果を説明し、特に全身持久力向上を意識して実践する。走り型にならないように注意する。
11	スポーツウォーキングと健康 (講義および実習)	スポーツウォーキングが生活習慣病改善に及ぼす役割や効果を説明する。
12	ヨーガと Meditation (瞑想) (講義および実習)	Meditation について概説し、ヨーガを通じて Meditation の状態に到達する感覚をつかむ。
13	ヨーガと健康 (講義および実習)	ヨーガが生活習慣病改善に及ぼす役割や効果を説明する。基本ポーズを組み合わせ、連続した一連のヨーガとして実践する。
14	まとめ	スポーツウォーキングおよびヨーガについて、総合的に振り返りを行う。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

実習するにあたっては、授業での身体活動時に心身の不備が無いよう、各自が体調を整えた上で授業に臨むこと。

授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、毎回授業のあとに伝達する。

心身の健康への気づきを高めるため食事、休養、睡眠などの生活習慣について日々記録することが望ましい。

なお本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。実習するにあたっては、授業での身体活動時に心身の不備が無いよう、各自が体調を整えた上で授業に臨むこと。

毎回の講義で使用するレジュメ及び資料などについて必ず予習・復習をすること。

レジュメ及び資料などは、講義日の前日 22 時をまでに、学習支援システム上に掲載する。受講者は各自ダウンロードし、資料に基づき事前学習を行う。

授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、必要に応じて指示をする。なお本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト (教科書)】

特に使用しない。必要に応じて資料を配布する。

【参考書】

佐保田鶴治、ヨーガ根本経典、平河出版社、1986

佐保田鶴治. ヨーガ根本経典（続）. 平河出版社, 1986

【成績評価の方法と基準】

以下の内容で総合的に評価する。

- 1) 毎回の授業時に取り組む課題（リアクションペーパー、小テスト、レポートなど）60 %
- 2) 期末レポート 20 %
- 3) 授業への参画状況 20 %

・欠席および課題の提出が期限をすぎた場合は評価に影響する。
 ・出席が授業実施回数の 2/3 に満たない場合は、単位取得のための履修時間を下回ると判断されるため D もしくは E 評価とする。
 またこの成績評価方法は原則的なものであり、通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価する。

【学生の意見等からの気づき】

毎回の講義はじめに、その日のスケジュールおよびポイントを示すことで、明確な目標をもって、講義に臨めるように工夫を行う。常に受講生の反応を確認しながら、講義内容を柔軟に変化させることにより、集中力を持続させる工夫を行う。
 授業の最後に次回の内容を伝達し、自宅での予習や資料収集に役立つよう工夫する。

【学生が準備すべき機器他】

必要に応じてオンライン授業をおこなう場合がある。オンライン授業をより効果的に行うために、通信環境を整えておく。また通信機器としてパソコンを準備することがのぞましい。
 配布資料、課題の提出は全て学習支援システムを通じて行う。

【その他の重要事項】

授業に関する質問やそれに関連する質問などは授業中および授業の前後に受け付ける。
 それ以外については、随時メールを通じて、対応する。
 また、オフィスアワーとして毎週月曜日 16 時 50 分～1 8 時 30 分の 100 分を設ける。
 形式は対面とオンライン（zoom）を併用する。
 オフィスアワーを利用する場合は、事前にメールを通じて連絡をとること。

【Outline (in English)】

【Course outline】

Recently, it has been found that there is more interweaving relationship between physical activity and disease. However, the interpretation of this relationship among the general population varies widely in terms of the type of exercise and its intensity and volume. Moreover, details on the advantage and benefit of exercise as comparing to risk are not recognized or determined very well. Among different types of exercises, walking and yoga are easy to conduce expecting some health benefit. In this lecture, students learn the influence on the body with modes of walking and yoga practice.

【Learning Objectives】

1. To be able to understand the significance of "walking" as the basis of human exercise.
2. To be able to explain about Sports Walking.
3. To be able to explain the effects of Sports Walking.
4. To be able to practice the basic techniques of Sports Walking.
5. To be able to give an overview of Yoga and understand its history and philosophy
6. Understand yoga asanas and anatomy, and be able to give notes on them.
7. Understand the significance of breathing exercises and be able to practice them.
8. To be able to explain and practice meditation
9. To be able to explain about sports injuries.
10. To be able to explain the effects of walking and yoga on the autonomic nervous system.

【Learning activities outside of classroom】

Each student is expected to be in good physical condition before attending the class so that there will be no physical or mental deficiencies during the physical activities in the class. You will be instructed on assignments to be done after class and preparations for the next class as necessary. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria/Policy】

The overall evaluation will be based on the following distribution.

- 1) Assignments to be done in each class (reaction papers, short quizzes, reports, etc.): 60%.
- 2) Final report: 20%.
- 3) Participation in class activities (not attendance): 20%.

If you are absent or submit assignments after the due date, your evaluation will be affected.

If attendance is less than 2/3 of the class, the grade will be "D" or "E".

This grading method is a general rule, and students who have difficulty with regular activities will be dealt with and evaluated on an individual basis.

HSS300LA

スポーツ科学 A

2017 年度以降入学者

サブタイトル：バドミントン

佐藤 優希

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 1/Thu.1

単位数：2 単位

定員制 (20~30 名)

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈未〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】

1. 身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
2. 豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
3. 自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
4. 卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
5. 就業力 (信頼関係構築力や共同行動力など) の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は大学が定める感染対策ガイドラインに沿い、感染対策を十分に行った上で対面授業を中心に授業を展開する。授業は実技および講義等から構成され、バドミントンに関する内容だけでなく、スポーツ全般に共通するスポーツ科学的な内容 (スポーツ心理、栄養、トレーニング等) も含めて授業を進める。

評価は授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え、試験及びレポート等の課題の評価を総合的に判定して単位を授与する。授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業内容を理解するとともにスポーツ活動への取り組みに対する動機づけを図る。
2	アイスブレイク	ラケットとシャトルを使った遊び、シャトルコンタクトについて学ぶ (講義及び実習)
3	ラケットの操作	基本的なストロークを学ぶための下準備としてラケットの握り方を学ぶ (講義及び実習)
4	コート内での身体操作	バドミントンコート内での移動法やステップ、脚の入れ替えを学ぶ (講義及び実習)
5	基本ストロークの学習	ドライブ、ハイクリア&ヘアピン、ドロップ&ロビング、ブッシュ&レシーブ、スマッシュ&レシーブについて学ぶ (講義及び実習)

6	バドミントンを知る	バドミントンの歴史やルールの変遷について学ぶ (講義)
7	バドミントンの科学的な理解	バイオメカニクスおよび運動生理学の視点からバドミントンを科学的に学ぶ (講義および実習)
8	応用技術	オールショート・オールロングを通じて基本ストロークおよびコート内での移動法を実践する (講義および実習)
9	コンディショニングを学ぶ	心身の調子を整える (コンディショニング) ための方法をスポーツ心理、栄養、トレーニングの観点から学ぶ (講義)
10	シングルス	シングルスのルールと動き方を学ぶ (講義及び実習)
11	ダブルス	ダブルスのルールとフォーメーションを学ぶ (講義および実習)
12	ダブルスの戦術	トップアンドバック、サイドバイサイド、ダイアゴナルを学ぶ (講義および実習)
13	トリプルス	トリプルのルールとフォーメーションを学ぶ (講義及び実習)
14	総括・試験	総括および授業内容に関する理解度テストを行う (講義および実習)

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本演習の準備・復習時間の目安は 1 回の授業につき 2 時間以上です。実習を行うにあたり、各自が体調を整えた上で授業に臨んでください。また、テレビ、新聞、Web 等から発信される種々のバドミントン関連の情報に目を向ける習慣をつけてください。その作業により、本講義内容の理解が深まります。

【テキスト (教科書)】

特定のテキストは使用しません。必要に応じて資料等を配布します。

【参考書】

特定の参考書は使用しません。必要に応じて資料等を配布します。

【成績評価の方法と基準】

授業中の活動に対する参画状況 60 %、技術の習得、課題・レポート 40 % の配分として総合評価します。なお、この成績評価方法は原則的なものであり、通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価します。

1. レポート課題では、授業のテーマや内容を踏まえた上で適切な記述がされているかについて評価します。
2. リアクションペーパー、レポート等の提出物は、必ず本人が提出してください。
3. 授業への参画状況とは、単に出席していることを意味するのではなく、各種授業運営に主体的に関わることを評価の対象とするという意味です。
4. 原則として欠席 3 回までを評価対象とします。また、授業開始から 20 分以内までの入室を遅刻とし、それ以降の入室は欠席とします。
5. やむを得ない理由がない限り全ての授業に出席してください。やむを得ない理由とは、病気、ケガ等による欠席となります。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

スポーツに適した服装と室内用シューズを準備してください。スポーツウェアや室内用シューズ等の貸出はありません。忘れた場合は見学になります。

【その他の重要事項】

1. 原則として対面授業を実施する予定です。ただし、感染症の影響などにより、Zoom などによるオンライン授業などに変更される場合があります。そのため、都度、学習支援システムなどをチェックするようにしてください。基本的に学習支援システムから授業に関する情報を配信します。
2. 授業内容に関する説明を実施するため、必ず初回授業に出席してください。
3. 授業とは関係のない行為 (携帯使用、居眠り、会話等) は厳禁とし、その行為をした受講生は単位認定の評価外とします。

4. 上記の授業計画は、受講者の人数や要望に応じて変更する場合があります。初回のガイダンスに出席してください。

【Outline (in English)】

【Course outline】 This course will make students deeply understand the significance and the effect of physical activity. Therefore, students who take this course can improve properly learning and attitude about physical, mental, and social health necessary throughout the students' future of life.

【Learning Objectives】 By the end of the course, students should be able to:

1. Understand more about the meaning and role of physical activity from various perspectives.
2. Use sports and physical activities to establish a prosperous and healthy student life and social life.
3. Develop essential knowledge and attitudes that contribute to self-management.
4. Develop the ability to demonstrate leadership and solve problems through communication with others.
5. Acquire various skills related to the development of employability.

【Learning activities outside of classroom】 Students are expected to follow the lecture's instructions in charge of the class regarding the assignments to be done after class and preparations for the next class. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria/Policy】 Grading will be decided based on the contents of experiments, investigations, and presentations (60%) and the class participation (not attendance) (40%).

HSS300LA

スポーツ科学 B

2017 年度以降入学者

サブタイトル：バドミントン

佐藤 優希

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 1/Thu.1

単位数：2 単位

定員制 (20~30 名)

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈未〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】

1. 身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
2. 豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
3. 自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
4. 卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
5. 就業力 (信頼関係構築力や共同行動力など) の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は大学が定める感染対策ガイドラインに沿い、感染対策を十分に行った上で対面授業を中心に授業を展開する。授業は実技および講義等から構成され、バドミントンに関する内容だけでなく、スポーツ全般に共通するスポーツ科学的な内容 (スポーツ心理、栄養、トレーニング等) も含めて授業を進める。

評価は授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え、試験及びレポート等の課題の評価を総合的に判定して単位を授与する。授業の初めに、前回の授業で提出されたリアクションペーパーからいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業内容を理解するとともにスポーツ活動への取り組みに対する動機づけを図る。
2	アイスブレイク	ラケットとシャトルを使った遊び、シャトルコンタクトについて学ぶ (講義及び実習)
3	ラケットの操作	基本的なストロークを学ぶための下準備としてラケットの握り方を学ぶ (講義及び実習)
4	コート内での身体操作	バドミントンコート内での移動法やステップ、脚の入れ替えを学ぶ (講義及び実習)
5	基本ストロークの学習	ドライブ、ハイクリア&ヘアピン、ドロップ&ロビング、ブッシュ&レシーブ、スマッシュ&レシーブについて学ぶ (講義及び実習)

6	バドミントンを知る	バドミントンの歴史やルールの変遷について学ぶ (講義)
7	バドミントンの科学的な理解	バイオメカニクスおよび運動生理学の視点からバドミントンを科学的に学ぶ (講義および実習)
8	応用技術	オールショート・オールロングを通じて基本ストロークおよびコート内での移動法を実践する (講義および実習)
9	コンディショニングを学ぶ	心身の調子を整える (コンディショニング) ための方法をスポーツ心理、栄養、トレーニングの観点から学ぶ (講義)
10	シングルス	シングルのルールと動き方を学ぶ (講義及び実習)
11	ダブルス	ダブルスのルールとフォーメーションを学ぶ (講義および実習)
12	ダブルスの戦術	トップアンドバック、サイドバイサイド、ダイアゴナルを学ぶ (講義および実習)
13	トリプルス	トリプルのルールとフォーメーションを学ぶ (講義及び実習)
14	総括・試験	総括および授業内容に関する理解度テストを行う (講義および実習)

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本演習の準備・復習時間の目安は 1 回の授業につき 2 時間以上です。実習を行うにあたり、各自が体調を整えた上で授業に臨んでください。また、テレビ、新聞、Web 等から発信される種々のバドミントン関連の情報に目を向ける習慣をつけてください。その作業により、本講義内容の理解が深まります。

【テキスト (教科書)】

特定のテキストは使用しません。必要に応じて資料等を配布します。

【参考書】

特定の参考書は使用しません。必要に応じて資料等を配布します。

【成績評価の方法と基準】

授業中の活動に対する参画状況 60 %、技術の習得、課題・レポート 40 % の配分として総合評価します。なお、この成績評価方法は原則的なものであり、通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価します。

1. レポート課題では、授業のテーマや内容を踏まえた上で適切な記述がされているかについて評価します。
2. リアクションペーパー、レポート等の提出物は、必ず本人が提出してください。
3. 授業への参画状況とは、単に出席していることを意味するのではなく、各種授業運営に主体的に関わることを評価の対象とするという意味です。
4. 原則として欠席 3 回までを評価対象とします。また、授業開始から 20 分以内までの入室を遅刻とし、それ以降の入室は欠席とします。
5. やむを得ない理由がない限り全ての授業に出席してください。やむを得ない理由とは、病気、ケガ等による欠席となります。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

スポーツに適した服装と室内用シューズを準備してください。スポーツウェアや室内用シューズ等の貸出はありません。忘れた場合は見学になります。

【その他の重要事項】

1. 原則として対面授業を実施する予定です。ただし、感染症の影響などにより、Zoom などによるオンライン授業などに変更される場合があります。そのため、都度、学習支援システムなどをチェックするようにしてください。基本的に学習支援システムから授業に関する情報を配信します。
2. 授業内容に関する説明を実施するため、必ず初回授業に出席してください。
3. 授業とは関係のない行為 (携帯使用、居眠り、会話等) は厳禁とし、その行為をした受講生は単位認定の評価外とします。

4. 上記の授業計画は、受講者の人数や要望に応じて変更する場合があります。初回のガイダンスに出席してください。

【Outline (in English)】

【Course outline】 This course will make students deeply understand the significance and the effect of physical activity. Therefore, students who take this course can improve properly learning and attitude about physical, mental, and social health necessary throughout the students' future of life.

【Learning Objectives】 By the end of the course, students should be able to:

1. Understand more about the meaning and role of physical activity from various perspectives.
2. Use sports and physical activities to establish a prosperous and healthy student life and social life.
3. Develop essential knowledge and attitudes that contribute to self-management.
4. Develop the ability to demonstrate leadership and solve problems through communication with others.
5. Acquire various skills related to the development of employability.

【Learning activities outside of classroom】 Students are expected to follow the lecture's instructions in charge of the class regarding the assignments to be done after class and preparations for the next class. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria/Policy】 Grading will be decided based on the contents of experiments, investigations, and presentations (60%) and the class participation (not attendance) (40%).

HSS300LA

スポーツ科学 A

2017 年度以降入学者

サブタイトル：バレーボール演習

吉田 康伸

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 3/Thu.3

単位数：2 単位

定員制 (20～30 名)

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈未〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

2 年生以上の学生を対象として、バレーボールに取り組み、チームスポーツの特性を活かしながら他者とのコミュニケーションを図る。また、バレーボールに関する動向 (歴史) やルール、各技術の正しいやり方などの知識について、実習および講義を通して理解を深めていく。

【到達目標】

- ①ルールや技術など、バレーボールに関する基礎的な知識を知る。
- ②チームスポーツの特性を活かし、他者とコミュニケーションを図ることで、協調性を育む。
- ③基本技術を習得し、三段攻撃 (レシーブ・トス・スパイク) を用いた試合ができるようになる。
- ④豊かで健康的な学生生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科： DP3・DP4、法学部・政治学科： DP1、法学部・国際政治学科： DP1、文学部： DP1、経営学部： DP3、国際文化学部： DP3、人間環境学部： DP2、キャリアデザイン学部： DP1

【授業の進め方と方法】

バレーボールは跳ぶ、打つといったダイナミックさ、ボールを的確にコントロールする巧みさに加え、身体のリズムが求められるスポーツである。したがって身体を自在にコントロールする能力を身につけ、関連技術を高めていくことで、運動の喜びや楽しさを知ることを目的とする。

実習では、三段攻撃 (レシーブ・トス・スパイク) を用いた試合が展開できるように、基本となるパスやスパイクなど個人技術の習得を進めながら、チームを編成して試合を行っていく。併せてルールや各技術の正しい方法、試合の組み立て方などについても理解を深めていく。

なお、本授業は 2 年生以上を対象としており、A・B 連続の受講が望ましい。また未経験の場合でも、積極的に受講してくれる学生の参加を期待する。

授業でのフィードバックについては、毎授業後のオフィスアワーで、課題等に対して講評する。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス、受講希望者志望理由記入	授業のガイダンスを行い、受講希望者に志望理由を記入してもらう。
第 2 回	受講者決定、バレーボールのルールについて (講義)	バレーボールのルールについて資料を配布し説明する。
第 3 回	基本技術・パスの技術習得 (実習&講義)	パスの技術的要点を理解し、技術習得をする。
第 4 回	基本技術・サーブの技術習得 (実習&講義)	サーブの技術的要点を理解し、技術習得をする。
第 5 回	基本技術・スパイクの技術習得 (実習&講義)	スパイクの技術的要点を理解し、技術習得をする。
第 6 回	ゲームの組み立て方 (実習&講義)	基本技術を習得した上で、ゲームの組み立てについて理解する。
第 7 回	フォーメーションについて (実習&講義)	コート上の位置取りや実際の動き方など、フォーメーションについて理解する。
第 8 回	集団的技術・各ポジションの役割 (実習&講義)	各ポジションの役割を理解した上で、ゲーム形式の実習を行う。
第 9 回	集団的技術 (三段攻撃使用)・ゲーム (実習&講義)	チームごとに戦略 (三段攻撃を用いる) を立ててゲームを行う。
第 10 回	集団的技術 (レシーブのフォーメーション重視)・ゲーム (実習&講義)	チームごとに戦略 (レシーブのフォーメーション) を立ててゲームを行う。
第 11 回	集団的技術 (サーブ戦略重視)・ゲーム (実習&講義)	チームごとに戦略 (サーブ) を立ててゲームを行う。
第 12 回	集団的技術 (チームコミュニケーション重視)・ゲーム (実習&講義)	チームごとに戦略 (チームコミュニケーション) を立ててゲームを行う。

第 13 回 集団的技術 (総合)・ゲーム (実習&講義)

第 14 回 授業総括と筆記試験

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、必要に応じて指示をする。また、基本的なルールや技術に必要な要点等、各自で行った内容を理解しておくこと。

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト (教科書)】

特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて配布する。

【参考書】

必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業への参画状況 (60%) を主な基準として、筆記試験 (40%) を加味し評価する。

【学生の意見等からの気づき】

多くの学生が実践による楽しさを実感できているようなので、さらに種目 (バレーボール) の特性を理解してもらえよう努める。

【その他の重要事項】

・対象者は 2 年生から 4 年生 (法・文・営・国) ならびに公開科目を受講可能な学生とする。

・バレーボール現 V リーグでの選手経験及び国際バレーボールコーチと日本スポーツ協会公認バレーボールコーチの資格を有し、大学バレーボールチームのコーチ及び監督経験を活かしてバレーボールの授業を行う。

【Outline (in English)】

【Course outline】

Work on volleyball for students of second and higher grades, try to communicate with others while taking advantage of the characteristics of team sports. In addition, we will deepen our understanding of practical knowledge and lectures on knowledge of volleyball history, rules, correct methods of each technology and so on.

【Learning Objectives】

1. Learn basic knowledge about volleyball, such as rules and techniques.
2. Foster cooperation by taking advantage of the characteristics of team sports and communicating with others.
3. You will be able to master the basic skills and play games using three-stage attacks.

4. Acquire the ability to use sports activities as a means of establishing a prosperous and healthy student life.

【Learning activities outside of classroom】

Understand what you have done, such as the basic rules and the main points required for the technique. The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria/policy】

The participation status in the class is evaluated as 60%, and the written test is evaluated as 40%.

HSS300LA

スポーツ科学 B

2017 年度以降入学者

サブタイトル：バレーボール演習

吉田 康伸

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 3/Thu.3

単位数：2 単位

定員制 (20～30 名)

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈未〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

2 年生以上の学生を対象として、バレーボールに取り組み、チームスポーツの特性を活かしながら他者とのコミュニケーションを図る。また、インドアバレーとビーチ (アウトドア) バレーとの違いなど、バレーボール全般についての理解を深める。

【到達目標】

- ①インドアバレーとビーチバレーとの特性の違いを理解する。
- ②チームスポーツの特性を活かし、他者とコミュニケーションを図ることで、協調性を育む。
- ③基本技術を習得し、三段攻撃 (レシーブ・トス・スパイク) を用いた試合ができるようになる。
- ④豊かで健康的な学生生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

バレーボールは跳ぶ、打つといったダイナミックさ、ボールを的確にコントロールする巧みさに加え、身体のリズムが求められるスポーツである。したがって身体を自在にコントロールする能力を身につけ、関連技術を高めていくことで、運動の喜びや楽しさを知ることを目的とする。

実習では、春学期 A で習得した技術や知識を基に、チーム編成を行って試合を中心に授業を進める。またビーチバレーやバレーボールに必要なトレーニングなども紹介し、より一層の知識習得と理解の深化を目指す。

なお、本授業 (スポーツ科学 B) は 2 年生以上を対象としており、スポーツ科学 A を受講した学生の連続受講が望ましい。

また授業でのフィードバックについては、毎授業後のオフィスアワーで、課題等に対して講評する。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス、新規受講希望者志望理由記入	授業のガイダンスを行い、新規の受講希望者には志望理由を記入してもらう。
第 2 回	ビーチバレーのルールについて (講義)	ビーチバレーの歴史やルールについて資料を配布し説明する。
第 3 回	基本技術の復習 (実習 & 講義)	スポーツ科学 A で行った基本技術を復習する。
第 4 回	基本技術、集団技術の復習 (実習 & 講義)	スポーツ科学 A で行った基本的技術や集団技術を復習する。
第 5 回	各技術の応用 (実習 & 講義)	各技術の基本を元に応用技術を理解、習得する。
第 6 回	集団的技術・基礎 (実習 & 講義)	スポーツ科学 A とは違うチーム分けをし、チームごとにポジション決定させてゲームを行う。
第 7 回	集団的技術 (サーブ戦略重視)・ゲーム (実習 & 講義)	チームごとに戦略 (サーブ) を立ててゲームを行う。ゲームでの反省点も理解する。
第 8 回	集団的技術 (レセプション戦略重視)・ゲーム (実習 & 講義)	チームごとに戦略 (レセプション) を立ててゲームを行う。ゲームでの反省点も理解する。
第 9 回	集団的技術 (トスアップ戦略重視)・ゲーム (実習 & 講義)	チームごとに戦略 (トスアップ) を立ててゲームを行う。ゲームでの反省点も理解する。
第 10 回	集団的技術 (ディグ戦略重視)・ゲーム (実習 & 講義)	チームごとに戦略 (ディグ) を立ててゲームを行う。ゲームでの反省点も理解する。
第 11 回	集団的技術 (スパイク戦略重視)・ゲーム (実習 & 講義)	チームごとに戦略 (スパイク) を立ててゲームを行う。ゲームでの反省点も理解する。
第 12 回	集団的技術 (ブロック戦略重視)・ゲーム (実習 & 講義)	チームごとに戦略 (ブロック) を立ててゲームを行う。ゲームでの反省点も理解する。

第 13 回	集団的技術 (総合的)・ゲーム (実習 & 講義)	チームごとに戦略 (総合的に) を立ててゲームを行う。ゲームでの反省点も理解する。
第 14 回	授業総括とレポート作成、提出	授業の総括を行った後、レポートを作成し、提出する。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、必要に応じて指示をする。また、インドアバレーとビーチバレーとの違い、競技に必要な体力要素などを調べる、試合観戦やテレビ放送を通してバレーボール全般についての理解を深める努力を求める。

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト (教科書)】

特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて配布する。

【参考書】

必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業への参画状況 (70%) を主な基準として、レポート (30%) を加味し評価する。

【学生の意見等からの気づき】

多くの学生が実践による楽しさを実感できているようなので、さらに種目 (バレーボール) の特性を理解してもらえよう努める。

【その他の重要事項】

・対象者は 2 年生から 4 年生 (法・文・営・国) ならびに公開科目を受講可能な学生とする。

・バレーボール現 V リーグでの選手経験及び国際バレーボールコーチと日本スポーツ協会公認バレーボールコーチの資格を有し、大学バレーボールチームのコーチ及び監督経験を活かしてバレーボールの授業を行う。

【Outline (in English)】

【Course outline】

Work on volleyball for students of second and higher grades, try to communicate with others while taking advantage of the characteristics of team sports. Also, deepen the understanding of the entire volleyball, such difference between indoor volleyball and beach volleyball.

【Learning Objectives】

1. Understand the differences between the characteristics of indoor volleyball and beach volleyball.
2. Foster cooperation by taking advantage of the characteristics of team sports and communicating with others.
3. You will be able to master the basic skills and play games using three-stage attacks.
4. Acquire the ability to use sports activities as a means of establishing a prosperous and healthy student life.

【Learning activities outside of classroom】

Investigate the difference between indoor volleyball and beach volleyball and the physical fitness factors required for competition. The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria/policy】

The participation status in the class is evaluated as 70%, and the report is evaluated as 30%.

HSS300LA

スポーツ科学 A

2017 年度以降入学者

サブタイトル：トレーニングの理論と実践 I

中澤 史

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 3/Fri.3

単位数：2 単位

定員制（20～30 名）

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

パフォーマンス向上、ボディメイク、ダイエット、健康の維持増進といった各自の目標達成に資するフィジカルトレーニングの基礎的な理論と方法を習得し、独自のトレーニングプログラムを考案する。また、主として身体的健康に資するトレーニングへの取り組みが、心理的健康ならびに社会的健康にも寄与することを理解する。

【到達目標】

1. トレーニングの基礎的な理論と方法を習得する。
2. 各自の目標達成に資する独自のトレーニングプログラムを考案し、実践できる。
3. トレーニングが身体的健康だけでなく心理的・社会的健康にも寄与する一手段となることを理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義および体験的学習を通じてトレーニングに関する基礎的な理論と実践方法について理解を深める。また、適宜行うグループワークやディスカッションを通じて、各自が習得した知識や情報を共有することによりトレーニングに関する知識の幅を広げる。各授業では、各自が測定・収集したトレーニング記録等を主な分析資料とし、トレーニングの進捗状況および成果をまとめたリアクションペーパーに取り組む。最終授業時には、各自が考案した基礎的なトレーニングプログラムについてまとめたレポートを提出する。なお、最終授業で、13 回までの講義内容のまとめや復習だけでなく、授業内で行ったリアクションペーパーや小レポート等、課題に対する講評や解説も行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業内容の説明、受講者の決定（講義）
2	アイスブレイク	アイスブレイクを用いたグループワーク（講義）
3	スポーツとコミュニケーション	グループワークを通して「他者からみた私」を知る（講義）
4	トレーニングの理論	トレーニングの理論と実践方法（講義）
5	安全講習と機器の使用法	安全講習及び各種機器の使用法について学ぶ（講義及び実習）
6	トレーニングと体組成	トレーニングと体組成の関係（講義及び実習）
7	トレーニングと栄養	食事とサプリメント（講義及び実習）
8	無酸素運動	基礎的な無酸素運動の実践方法と効果について学ぶ（講義及び実習）

9	有酸素運動	基礎的な有酸素運動の実践方法と効果について学ぶ（講義及び実習）
10	体幹のトレーニング 1	腹部のトレーニングについて学ぶ（講義及び実習）
11	体幹のトレーニング 2	背部のトレーニングについて学ぶ（講義及び実習）
12	上肢のトレーニング 1	基礎的な上肢のトレーニングについて学ぶ（講義及び実習）
13	下肢のトレーニング	基礎的な下肢のトレーニングについて学ぶ（講義及び実習）
14	総括	授業のまとめ、課題レポートの作成（講義及び実習）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。本授業では、授業時間外に次への取り組みを推奨します。

1. 本授業は講義およびトレーニングの実践を通じて設定した目標の達成を目指すため、計画的にトレーニングを実践し、その内容を振り返り、その効果と今後の課題を記録してください。
2. 日頃からトレーニングに関する資料を講読してください。
3. テレビ、新聞、Web 等から発信される種々のスポーツ関連の情報に目を向ける習慣をつけてください。その作業により、本授業内容の理解が深まります。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しません。必要に応じて資料等を配布します。

【参考書】

特定の参考書は使用しません。必要に応じて資料等を配布します。

【成績評価の方法と基準】

授業中の活動に対する参画状況、リアクションペーパー、レポート等による総合評価。

・授業への参画状況および各授業で取り組むリアクションペーパー等の提出物：90 %

・最終授業時に課すレポート課題：10 %

※原則として出席回数が授業実施回数の 2/3（10 回出席）以上に満たない場合は E 評価となります。

※レポート課題では、授業の内容を踏まえた上で適切なトレーニングが実践できたか、その効果は得られたか、また今後の課題およびその改善方法が記述されているかについて評価します。

※リアクションペーパーでは、授業で習得した内容が適切に記述できているかを評価します。

※授業への参画状況とは、単に出席していることを意味するのではなく、ディスカッションや各種授業運営に主体的に関わることを評価の対象とするという意味です。

【学生の意見等からの気づき】

新規の人間関係の構築を目的とした体験型実習やグループワークを取り入れ、より実践的な授業を展開します。

【学生が準備すべき機器他】

1. スポーツに適した服装と室内用シューズを準備してください。スポーツウェアや室内用シューズ等の貸出はありません。
2. 課題を作成・提出するためのノートパソコンやモバイル機器等を準備してください。

【その他の重要事項】

1. 初回授業時に 30 名程度の受講者を決定するため、受講希望者は必ず初回授業に参加してください。
2. 初回授業の集合場所は市ヶ谷総合体育館 3 階柔道場の予定です。
3. 継続的なトレーニングの実施が目標達成には不可欠となるため、スポーツ科学 A・B の通年履修が望ましい。
4. 原則として対面授業を実施する予定です。ただし、感染症の影響によりオンライン授業等に変更される場合があります。そのため、都度、学習支援システムやメールをチェックするようにしてください。
5. 授業計画は受講者の人数や要望に応じて変更する場合があります。

【Outline (in English)】

【Course outline】

The aim of this course is to help students acquire an understanding of the fundamental principles and methods of physical training. Students understand that training initiatives that primarily contribute to physical health also contribute to psychological and social health.

【Learning Objectives】

By the end of the course, students should be able to do the followings:

1. Learn the basic theory and method of training.
2. You can devise and practice your own training program that will help you achieve your goals.
3. Understand that training is a way to contribute not only to physical health but also to psychological and social health.

【Learning activities outside of classroom】

The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each. In this class, we recommend the following efforts outside of class hours.

1. In this class, in order to achieve the goals set through the practice of lectures and training, please practice the training systematically, review the contents, and record the effects and future tasks.
2. Please subscribe to the training materials on a regular basis.
3. Get in the habit of looking at various sports-related information sent from TV, newspapers, the Web, etc. This work will deepen your understanding of the content of this lesson.

【Grading Criteria /Policy】

Your overall grade in the class will be decided based on the following.

1. Status of participation in classes, reaction papers to be tackled in each class: 90%
2. Report assignments imposed during the final class: 10%.

HSS300LA

スポーツ科学 B

2017 年度以降入学者

サブタイトル：トレーニングの理論と実践 II

中澤 史

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 3/Fri.3

単位数：2 単位

定員制 (20～30 名)

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈未〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

スポーツ科学 A での学びの発展を目的とし、パフォーマンス向上、ボディメイク、ダイエット、健康の維持増進といった各自の目標達成に資するフィジカルトレーニングの実践的な理論と方法を習得し、独自のトレーニングプログラムを考案する。また、主として身体的健康に資するトレーニングへの取り組みが、心理的健康ならびに社会的健康にも寄与することを理解する。

【到達目標】

1. 実践的なトレーニングの理論と方法を習得する。
2. 各自の目標達成に資する効果的且つ実践的なトレーニングプログラムを考案し、実践できる。
3. トレーニングが身体的健康だけでなく心理的・社会的健康にも寄与する一手段となることを理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義および体験的学習を通じてトレーニングに関する実践的且つ効果的な理論と方法について理解を深める。また、適宜行うグループワークやディスカッションを通じて、各自が習得した知識や情報を共有することによりトレーニングに関する理解を深め、スポーツ科学 A において考案したトレーニングプログラムを発展させる。各授業では、各自が測定・収集したトレーニング記録等を主な分析資料とし、トレーニングの進捗状況および成果をまとめたリアクションペーパーに取り組む。最終授業時には、各自が考案した実践的なトレーニングプログラムについてまとめたレポートを提出する。なお、最終授業で、13 回までの講義内容のまとめや復習だけでなく、授業内で行ったリアクションペーパーや小レポート等、課題に対する講評や解説も行う。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業内容の説明、受講者の決定 (講義)
2	アイスブレイク	アイスブレイクを用いた自己理解の促進 (講義)
3	スポーツとパーソナリティ	スポーツとパーソナリティの関係について学ぶ (講義)
4	ソーシャルサポート	ソーシャルサポートについて学ぶ (講義)
5	安全講習と機器の使用法	安全講習及び各種機器の使用法について学ぶ (講義及び実習)
6	トレーニングプログラムの設定	トレーニングプログラムの再設定 (講義及び実習)
7	胸部のトレーニング	胸部のトレーニングについて学ぶ (講義及び実習)
8	背部のトレーニング	背部のトレーニングについて学ぶ (講義及び実習)

9	肩部のトレーニング	肩部のトレーニングについて学ぶ (講義及び実習)
10	体幹のトレーニング	体幹のトレーニングについて学ぶ (講義及び実習)
11	腕部のトレーニング	腕部のトレーニングについて学ぶ (講義及び実習)
12	大腿のトレーニング	大腿のトレーニングについて学ぶ (講義及び実習)
13	下腿のトレーニング	下腿のトレーニングについて学ぶ (講義及び実習)
14	総括	授業のまとめ、課題レポートの作成 (講義及び実習)

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とします。本授業では、授業時間外に次への取り組みを推奨します。

1. 本授業は講義およびトレーニングの実践を通じて設定した目標の達成を目指すため、計画的にトレーニングを実践し、その内容を振り返り、その効果と今後の課題を記録してください。
2. 日頃からトレーニングに関する資料を講読してください。
3. テレビ、新聞、Web 等から発信される種々のスポーツ関連の情報に目を向ける習慣をつけてください。その作業により、本授業内容の理解が深まります。

【テキスト (教科書)】

特定のテキストは使用しません。必要に応じて資料等を配布します。

【参考書】

特定の参考書は使用しません。必要に応じて資料等を配布します。

【成績評価の方法と基準】

・授業への参画状況および各授業で取り組むリアクションペーパー等の提出物 90 %

・最終授業時に課すレポート課題 10 %

※原則として出席回数が授業実施回数の 2/3 (10 回出席) 以上を満たない場合は E 評価となります。

※レポート課題では、授業の内容を踏まえた上で適切なトレーニングが実践できたか、その効果は得られたか、また今後の課題およびその改善方法が記述されているかについて評価します。

※リアクションペーパーでは、授業で習得した内容が適切に記述できているかを評価します。

※授業への参画状況とは、単に出席していることを意味するのではなく、ディスカッションや各種授業運営に主体的に関わることを評価の対象とするという意味です。

【学生の意見等からの気づき】

1. 新規的人間関係の構築を目的とした体験型実習やグループワークを取り入れ、より実践的な授業を展開します。
2. 継続的なトレーニングの実施が目標達成には不可欠となるため、スポーツ科学 A・B の通年履修が望ましいです。

【学生が準備すべき機器他】

1. スポーツに適した服装と室内用シューズを準備してください。スポーツウェアや室内用シューズ等の貸出はありません。
2. 課題を作成・提出するためのノートパソコンやモバイル機器等を準備してください。

【その他の重要事項】

1. 初回授業時に 30 名程度の受講者を決定するため、受講希望者は必ず初回授業に参加してください。なお、授業目標の達成には継続的なトレーニングの実施が不可欠となるため、スポーツ科学 A・B の通年履修が望ましい。そのためスポーツ科学 B の履修者は、春学期からの継続履修の学生を優先的に採用し、秋学期については春学期からの欠員分のみを採用します。
2. 初回授業の集合場所は市ヶ谷総合体育館地下にあるトレーニングセンターの予定です。
3. 原則として対面授業を実施する予定です。ただし、感染症の影響によりオンライン授業等に変更される場合があります。そのため、都度、学習支援システムやメールをチェックするようにしてください。
4. 上記の授業計画は、受講者の人数や要望に応じて変更する場合があります。

【Outline (in English)】

【Course outline】

With the aim of developing learning in sports science A, students will learn practical theories and methods of physical training that will help them achieve their goals, such as performance improvement, body makeup, dieting, and maintaining and improving their health, and develop their own training programs. In addition, students understand that training initiatives that primarily contribute to physical health also contribute to psychological and social health.

【Learning Objectives】

By the end of the course, students should be able to do the followings:

1. Learn practical training theories and methods.
2. Can devise and practice effective and practical training programs that contribute to the achievement of each individual's goals.
3. Understand that training is a way to contribute not only to physical health but also to psychological and social health.

【Learning activities outside of classroom】

The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each. In this class, we recommend the following efforts outside of class hours.

1. In this class, in order to achieve the goals set through the practice of lectures and training, please practice the training systematically, review the contents, and record the effects and future tasks.
2. Please subscribe to the training materials on a regular basis.
3. Get in the habit of looking at various sports-related information sent from TV, newspapers, the Web, etc. This work will deepen your understanding of the content of this lesson.

【Grading Criteria /Policy】

Your overall grade in the class will be decided based on the following.

1. Status of participation in classes, reaction papers to be tackled in each class: 90%
2. Report assignments imposed during the final class: 10%.

HSS300LA

スポーツ科学 A

2017 年度以降入学者

サブタイトル：スポーツレクリエーション

笠井 淳

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 3/Tue.3

単位数：2 単位

定員制 (20～30 名)

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈未〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】

- ①身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
- ②豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
- ③卒業後の実社会において活躍する上で、重要であると考えられる他者とのコミュニケートを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身に付ける。
- ④就業力 (信頼関係構築や共同行動力など) の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は選択科目で、週 1 回、半期にわたって開講される。学部を問わず 2 年生以上が履修可能であるが、受講者数に制限があるため、第 1 回目のガイダンスにおいて履修可能者が決定される。春学期スポーツ科学 A は基本的な内容を学習する。授業は数種目のスポーツ実践や講義等から構成され、毎回の授業においてリアクションペーパーを提出する。次回の授業初めにいくつか取り上げ、全体にフィードバックを行う。授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え、レポート等の課題の評価を総合的に判定して単位を授与する。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業についてのガイダンス及び履修者確定
2	講義及び体力測定	体力測定の重要性についての講義及び体力測定の実施
3	講義及び実技 (ソフトバレーボール)	ウォーミングアップの重要性についての講義及びソフトバレーボールの実践
4	講義及び実技 (バスケットボール)	チームワークについての講義及びバスケットボールの実践
5	講義及び実技 (卓球)	体力についての講義及びソフトバレーボールの実践
6	講義及び実技 (筋力トレーニング)	筋力トレーニングの基本についての講義及び筋力トレーニングの実践
7	講義及び実技 (バドミントン)	コミュニケーションの重要性についての講義及びバドミントンの実践
8	講義及び実技 (フライングディスク)	リーダーシップについての講義及びフライングディスクの実践

9	講義「トレーニング理論」	トレーニングの原理・原則についての講義
10	講義「健康のための運動」	健康のための運動 (特に有酸素運動) についての講義
11	講義及び実技 (フットサル)	エネルギー (栄養・水分) の補給の重要性についての講義及びフットサルの実践
12	講義及び実技 (バスケットボール)	健康と休養 (睡眠) の重要性についての講義及びバスケットボールの実践 レポート課題の提示
13	講義及び実技 (ストレッチング及びバランス運動)	ストレッチングの重要性についての講義及びバランス運動の実践
14	授業の総括及	講義及び実技授業の総括熱中症対策について レポート提出

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習、復習時間は各 2 時間を標準とします。実習するにあたっては、授業での身体活動時に心身の不備が無いように、各自が体調を整えた上で授業に臨むこと。授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、その都度指示をする。

【テキスト (教科書)】

特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて配布する。

【参考書】

必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

- ①授業の活動に対する参画状況 60%
 - ②課題・レポート 40% の配分として総合評価する。
- この成績評価は原則的なものであり、特別な理由がある場合、個別に対応・評価する。

【学生の意見等からの気づき】

受講者の主体性を考慮した授業を展開したい。

【その他の重要事項】

教場等、場合により変更の可能性もあります。

【Outline (in English)】

【Course outline】 This course will make students deeply understand the significance and the effect of physical activity. Therefore, students who take this course can improve properly learning and attitude about physical, mental, and social health necessary throughout the students' future of life.

【Learning Objectives】 By the end of the course, students should be able to:

1. Understand more about the meaning and role of physical activity from various perspectives.
2. Use sports and physical activities to establish a prosperous and healthy student life and social life.
3. Develop the ability to demonstrate leadership and solve problems through communication with others.
4. Acquire various skills related to the development of employability.

【Learning activities outside of classroom】 Students are expected to follow the lecture's instructions in charge of the class regarding the assignments to be done after class and preparations for the next class. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria/Policy】 Grading will be decided based on the contents of experiments, investigations, and presentations (60%) and the class participation (not attendance) (40%).

HSS300LA

スポーツ科学 B

2017 年度以降入学者

サブタイトル：スポーツレクリエーション

笠井 淳

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 3/Tue.3

単位数：2 単位

定員制（20～30 名）

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈未〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・精神的・社会的な健康の維持増進を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】

1. 身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
2. 豊かで健康的な学生生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
3. 卒業後の実社会において、活躍する上で重要であると考えられる、他者とのコミュニケーションを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
4. 就業力（信頼関係や共同行動力など）の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

この授業は選択科目で、週 1 回、半期にわたって開講される。学部を問わず履修可能であるが、履修者多数の場合、授業 1 回目のガイダンス時に決定する。

秋学期のスポーツ科学 B は春学期のスポーツ科学 A と比べ、レベルアップさせた内容となります。

授業は数種目のスポーツ実践や講義等から構成される。

毎回の授業においてリアクションペーパーを提出し、次回の授業の初めにいくつか取り上げ、全体にフィードバックを行う。

授業中の活動に対する参画状況や授業態度等に加え、試験及びレポート等の評価を総合的に判定して単位を授与する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業内容等についてのガイダンス 受講者確定
2	講義及び体力測定	体力測定の重要性についての講義 及び体力測定の実施
3	講義及び実技（ソフトバレーボール）	ウォーミングアップの重要性についての講義及びソフトバレーボールの実践
4	講義及び実技（バスケットボール）	チームワークの重要性についての講義及びバスケットボールの実践
5	講義及び実技（卓球）	体力についての講義及び卓球の実践
6	講義及び実技（筋力トレーニング）	筋力トレーニングの基本理論についての講義及び筋力トレーニングの実践
7	講義及び実技（バドミントン）	コミュニケーションの重要性についての講義及びバドミントンの実践
8	講義及び実技（フライングディスク）	リーダーシップについての講義及びフライングディスクの実践

9	講義「トレーニング理論」	トレーニングの原理・原則についての講義
10	講義「健康のための運動」	健康のための運動（特に有酸素運動）についての講義
11	講義及び実技（フットサル）	エネルギー（栄養・水分）補給の重要性についての講義及びフットサルの実践
12	講義及び実技（バスケットボール）	健康と休養（睡眠）の重要性についての講義及びバスケットボールの実践
13	講義及び実技（ストレッチング及びバランス運動）	ストレッチングの重要性についての講義及びバランス運動の実践
14	授業の総括	講義及び実技授業の総括レポート提出

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習、復習時間は各 2 時間を標準とします。授業での身体活動時に心身の不備が無いよう、各自が体調を整えた上で授業に臨むこと。また授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、教員の指示に従って実践すること。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。資料は必要に応じて配布する。

【参考書】

必要に応じて紹介する。

【成績評価の方法と基準】

1) 授業中の活動に対する参画状況 60%、2) 課題・レポート 40% の配分として総合評価する。この成績評価方法は原則的なものであり、特別な理由がある受講生に対しては、個別に対応・評価する。

【学生の意見等からの気づき】

受講学生のニーズに沿った内容の提供に心がける。

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

自分の健康管理を十分に行い、常に良好な状態で履修することが望ましい。

教場等、計画通りに進行できないこともある。

【Outline (in English)】

【Course outline】 This course will make students deeply understand the significance and the effect of physical activity. Therefore, students who take this course can improve properly learning and attitude about physical, mental, and social health necessary throughout the students' future of life.

【Learning Objectives】 By the end of the course, students should be able to:

1. Understand more about the meaning and role of physical activity from various perspectives.
2. Use sports and physical activities to establish a prosperous and healthy student life and social life.
3. Develop the ability to demonstrate leadership and solve problems through communication with others.
4. Acquire various skills related to the development of employability.

【Learning activities outside of classroom】 Students are expected to follow the lecture's instructions in charge of the class regarding the assignments to be done after class and preparations for the next class. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria/Policy】 Grading will be decided based on the contents of experiments, investigations, and presentations (60%) and the class participation (not attendance) (40%).

HSS300LA

教養ゼミⅠ

2017年度以降入学者

藤岡 成美

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 4/Wed.4

単位数：2 単位

定員制

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、現在、わが国で立案・実行されているスポーツ政策およびその背景にある法・計画、組織、財源を学びます。こうしたスポーツ政策全体に対する理解を深めた上で、学生自身がわが国のスポーツに関する課題を設定できる能力の獲得を目指します。また、秋学期の教養ゼミⅡ（データ分析を通じたスポーツ政策提言）では、教養ゼミⅠでの学修を踏まえ、実際に政策提言ロールプレイを行う予定です。政策提言に向けて必要な知識・能力（例、社会調査法の理解・実践など）を身につけていきます。

【到達目標】

- (1) 現在わが国で進められているスポーツ政策全体を理解している
- (2) スポーツ政策の立案・実行に関わる法や計画、組織、財源を理解している
- (3) 上記理解のもと、スポーツ政策やわが国のスポーツに関わる問題意識・課題を学生自身が設定できる
- (4) 政策提言に必要な社会調査法の基礎を理解し、実践できる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

対面で授業を実施しますが、感染症流行状況に応じて変更される場合は事前にアナウンスします。

各回の授業は、原則として以下の流れで進めていきます。※(1)(2)は授業回によって入れ替わることがあります。

- (1) 前回授業の復習・解説、各個人・グループでのワークによる成果物の発表とそのフィードバックなど
 - (2) 講義（リアクションペーパーの記述）
 - (3) 個人またはグループでのワーク
- 各回のリアクションペーパーの内容（各学生のコメント・疑問点等）は次回授業の冒頭にて紹介・解説します。同様に、各回の授業時間内のワークを通じて提出された成果物についても次回授業にて全体に共有し、次のワークに向けて解説・アドバイスをを行います。
- 各回に設定されているワークの時間は、教員が具体的な作業を指示する場合がありますが、授業回が進むにつれて学生自身で自由に使えるようにします。ワークの時間を、①予習を通じて調べてきた内容の報告やディスカッションに使うのか、②情報検索等の作業時間に充てるのかは個人またはグループの自由とします。ただし、ワークの時間では②（個人で行える作業の時間）をなるべく少なくして、①のような建設的な時間に充てた方が無駄がありません。よって、学生は予習をしっかりと行った上で授業に臨むようにしてください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンスおよびスポーツ政策に関わる法・計画	①ガイダンス ②講義（スポーツに関わる法・計画） ③ワーク（今後のワークで扱うテーマに関するアンケート）

第 2 回	スポーツ政策に関わる財源	①前回の講義・ワークの解説 ②講義（スポーツに関わる財源） ③グループメンバー発表、ワーク（テーマの決定）
第 3 回	スポーツ政策に関わる組織	①前回の講義・ワークの解説 ②講義（スポーツ政策に関わる組織） ③ワーク（扱うテーマに関連したスポーツ政策の歴史、組織、財源等のまとめ）
第 4 回	子どものスポーツ政策	①前回の講義・ワークの解説 ②講義（子どものスポーツ政策） ③ワーク（グループ内での自由ワーク、扱うテーマに関する現状のまとめ）
第 5 回	成人のスポーツ政策・健康政策	①前回の講義・ワークの解説 ②講義（成人のスポーツ政策・健康政策） ③ワーク（グループ内での自由ワーク）
第 6 回	エリートスポーツ政策	①前回の講義・ワークの解説 ②講義（エリートスポーツ政策） ③ワーク（グループ内での自由ワーク、扱うテーマに関する課題のまとめ）
第 7 回	スポーツを通じた地域・経済活性化	①前回の講義・ワークの解説 ②講義（スポーツを通じた地域・経済活性化） ③ワーク（過去のワークのまとめ、発表資料の作成とブラッシュアップ）
第 8 回	発表	各グループが過去のワークをもとにまとめた「スポーツ政策に関する現状と課題」について発表
第 9 回	定量調査を体験しよう (1) データの準備	①前回の発表の解説 ②講義（社会調査の概要、定量・定性調査のプロセス、定量データの準備） ③ワーク（データ入力とクリーニング、加工）
第 10 回	定量調査を体験しよう (2) 仮説検定	①前回の講義・ワークの解説 ②講義（仮説検定の流れ、統計解析の種類） ③ワーク（基礎的な統計解析を体験する）
第 11 回	定量調査を体験しよう (3) 結果の記述	①前回の講義・ワークの解説 ②講義（結果の書き方） ③ワーク（仮説に基づいた統計解析、結果の記述）
第 12 回	定性調査を体験しよう (1) インタビュー	①前回の講義・ワークの解説 ②講義（定性調査・インタビューの種類、インタビューの注意点） ③ワーク（質問項目の検討、インタビューの実践、文字起こし）
第 13 回	定性調査を体験しよう (2) コーディング	①前回の講義・ワークの解説 ②講義（分析プロセス、コーディング方法） ③ワーク（コーディング）
第 14 回	定性調査を体験しよう (3) 概念の作成	①前回の講義・ワークの解説 ②講義（概念の作成方法とストーリー化） ③ワーク（概念の作成とストーリー化）

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の予習・復習に必要な時間はおおよそ 4 時間です。<予習>
(1) 次回講義内容に関連したテーマについて、参考書等を事前に読んでおく
(2) 個人またはグループワークを通じて設定された、次回授業に向けた作業（情報収集など）を進めておく

<復習>

(1) 各回の講義やワークに関する復習を通じ、疑問点等をまとめておく（次回授業にて確認・解説）

その他、予習・復習以外にもスポーツに関わる時事ニュースに普段から触れるようにしてください。その際、疑問点や自身の意見を考えながらニュースを見聞きするように意識してください。

【テキスト（教科書）】

なし（必要な場合は適宜指示します）

【参考書】

菊幸一, 齋藤健司, 真山達志, & 横山勝彦. (2011). スポーツ政策論. 成文堂, 3500 円+税, ISBN : 978-4792380670

笹川スポーツ財団 (編). (2020). スポーツ白書 2020~2030 年のスポーツのすがた～. 日経印刷, 3800 円+税, ISBN : 978-4915944741

【成績評価の方法と基準】

到達目標にて示した 4 項目について、以下の基準をもとに評価します。

(1) 各回のワーク… 70%

各回のワーク（個人・グループ）を通じた成果物について、毎回 100 点満点で採点します。

(2) 各回のワークを取りまとめた成果発表… 30%

第 8 回にて行われる発表について、100 点満点で採点します。

(1) の合計点を 70%, (2) を 30% の比率に直し、その合計点で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

本年度より着任したためフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

調べ物やワークを行う上で PC を毎回必ず持参してください。

また、社会調査の一部プロセスを体験するため、二次分析や模擬インタビューを行います。二次分析の際はマウスがあると操作しやすいですが、必須ではありません。模擬インタビューでは録音機材が必要となります（スマホ・PC 等の利用可）。準備が必要な物に関しては、授業前にアナウンスします。

【その他の重要事項】

本授業では「学生自身が主体となってスポーツ政策を学ぶこと」「学生間で質問・アドバイス・ディスカッションをしながら学びを深めていくこと」を主眼としています。よって教員による講義は必要最低限の内容となり、学生自身のワークがメインとなります。自らの興味関心に基づき学びを深めようとする積極性だけでなく、他学生の学びに対しても協力的な姿勢を求めます。

【Outline (in English)】**■ Course outline**

This course introduces the sports policies that are currently made and implemented in Japan, as well as the laws, plans, organizations, and finances behind these policies. The aim of this course is to deepen students' understanding of sports policy as a whole and to help them acquire the ability to set issue themselves. The course also enhances the development of students' knowledge and abilities required for policy proposal (e.g., understanding and practice of social research methods, etc.).

■ Learning Objectives

(1) At the end of the course, students are expected to understand the overall sports policies currently being implemented in Japan.

(2) Students are also expected to understand the laws, plans, organizations, and finances behind the policies.

(3) Based on the above understanding, students are expected to set problems and issues by themselves related to sport and the policies in Japan.

■ Learning activities outside of classroom

Your study time will be more than four hours for a class.

Before each class meeting, students will be expected to have read reference books on topics related to the next lecture. Students will be also expected to have proceeded with individual or group work (e.g. information gathering) for the next class.

After each class meeting, students will be expected to have reviewed each lecture and work, and summarize questions, etc. In addition to preparation and review, students are encouraged to be in contact with current news related to sports.

■ Grading Criteria /Policies

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Work in each session: 70%, Mid-term presentation: 30%

HSS300LA

教養ゼミⅡ

2017年度以降入学者

藤岡 成美

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 4/Wed.4

単位数：2 単位

定員制

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、原則として教養ゼミⅠ（わが国のスポーツ政策の現在地と課題）の単位取得者のみが履修することができます。

教養ゼミⅠ（わが国のスポーツ政策の現在地と課題）を通じて理解したわが国のスポーツ政策の全体像、および学生自身の興味関心に応じたテーマに関する現状と課題を踏まえ、実際に政策提言ロールプレイを行います。政策提言を通じ、社会的に必要かつエビデンスに基づく政策立案・実行の重要性を理解するとともに、論理的思考力の獲得を目指します。

【到達目標】

- (1) わが国のスポーツ政策の全体像および特定テーマのスポーツ政策に関する現状と課題を理解した上で、社会的重要度の高い問題意識・課題を設定することができる
- (2) 上記の課題解決に向けた仮説を設定し、仮説検証に向けた社会調査とその解析を学生自身でデザインできる
- (3) 上記のプロセスを通じて明らかとなった結果・考察を踏まえ、スポーツ政策やスポーツに関連する課題の解決に向けて提言できる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

対面で授業を実施しますが、感染症流行状況に応じて変更される場合は事前にアナウンスします。

各回の授業は、原則として以下の流れで進めていきます。※(1)(2)は授業回によって入れ替わることがあります。

- (1) 前回授業の復習・解説、各個人・グループでのワークによる成果物の発表とそのフィードバックなど
- (2) 講義（リアクションペーパーの記述）
- (3) 個人またはグループでのワーク

各回のリアクションペーパーの内容（各学生のコメント・疑問点等）は次回授業の冒頭にて紹介・解説します。同様に、各回の授業時間内のワークを通じて提出された成果物についても次回授業にて全体に共有し、次のワークに向けて解説・アドバイスをを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	問題意識・課題・仮説の設定 (1) 課題	①ガイダンス ②講義（政策提言とは、問題と課題の違い、先行研究の調べ方とまとめ方） ③ワーク（課題挙げと先行研究調べ）
第2回	問題意識・課題・仮説の設定 (2) リサーチクエスト	①前回の講義・ワークの解説 ②講義（課題選定のポイント、リサーチクエストとは） ③ワーク（課題の選定、リサーチクエスト挙げ）

第3回	問題意識・課題・仮説の設定 (3) 仮説	①前回の講義・ワークの解説 ②講義（仮説とは、仮説の立て方やポイント） ③ワーク（リサーチクエストに基づく仮説挙げ）
第4回	調査・分析 (1) 調査方法の決定	①前回の講義・ワークの解説 ②講義（調査フィールドや二次データの検索方法） ③ワーク（調査方法・対象の決定、調査フィールド・二次データの検索） ※以降の調査・分析(1)-(4)の内容は、各グループの進捗により異なる可能性あり
第5回	調査・分析 (2) 調査に向けた準備	①前回の講義・ワークの解説 ②講義（調査依頼、調査実施に向けた準備） ③ワーク（調査実施に向けた準備） ④調査実施に向けた事前チェックとフィードバック
第6回	調査・分析 (3) 調査	①前回の講義・ワークの解説 ②ワーク（調査実施など）
第7回	調査・分析 (4) データ整理	①前回の講義・ワークの解説 ②ワーク（調査の続き、データ整理）
第8回	結果の作成 (1) データ分析	①前回の講義・ワークの解説 ②講義（結果と考察の違い、結果の書き方） ③ワーク（データ分析）
第9回	結果の作成 (2) 図表の作成	①前回の講義・ワークの解説 ②ワーク（図表作成による分析結果の確定）
第10回	考察・提言 (1) 考察	①前回の講義・ワークの解説 ②講義（考察の書き方） ③ワーク（考察の執筆）
第11回	考察・提言 (2) 提言	①前回の講義・ワークの解説 ②講義（提言作成のポイント） ③ワーク（結果と考察を踏まえた提言の作成）
第12回	考察・提言 (3) まとめ	①前回の講義・ワークの解説 ②講義（政策提言の評価基準、わかりやすい資料作成のポイント） ③ワーク（過去のワークのまとめ、発表資料作成）
第13回	発表	①ルール説明 ②政策提言の発表・質疑応答・評価
第14回	総評・まとめ	①政策提言の結果発表 ②総評 ③学生間における政策提言を通じた学びの共有

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の予習・復習に必要な時間はおおよそ4時間です。

<予習>

(1) 次回講義内容に関連したテーマについて、参考書等を事前に読んでおく

(2) 個人またはグループワークを通じて設定された、次回授業に向けた作業（情報収集など）を進めておく

<復習>

(1) 各回の講義やワークに関する復習を通じ、疑問点等をまとめておいてください（次回授業にて確認・解説）

その他、予習・復習以外にもスポーツに関わる時事ニュースに普段から触れるようにしてください。その際、疑問点や自身の意見を考えながらニュースを見聞きするように意識してください。

【テキスト（教科書）】

なし（必要な場合は適宜指示します）

【参考書】

菊幸一, 齋藤健司, 真山達志, & 横山勝彦. (2011). スポーツ政策論. 成文堂, 3500円+税. ISBN : 978-4792380670

笹川スポーツ財団（編）. (2020). スポーツ白書 2020～2030年のスポーツのすがた～. 日経印刷, 3800 円 + 税, ISBN : 978-4915944741

【成績評価の方法と基準】

到達目標にて示した 3 項目について、以下の基準をもとに評価します。

(1) 各回のワーク… 70%

各回のワーク（個人・グループ）を通じた成果物について、毎回 100 点満点で採点します。

(2) 各回のワークを取りまとめた成果発表… 30%

第 13 回にて行われる発表について、100 点満点で採点します。

(1) の合計点を 70%、(2) を 30%の比率に直し、その合計点で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

本年度より着任したためフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

調べ物やワークを行う上で PC を毎回必ず持参してください。政策提言に向けた調査・分析の過程で、準備が必要な物が出てきた場合は授業前にアナウンスします。

【その他の重要事項】

本授業では「学生自身が主体となってスポーツ政策を学ぶこと」「学生間で質問・アドバイス・ディスカッションをしながら学びを深めていくこと」を主眼としています。よって教員による講義は必要最低限の内容となり、学生自身のワークがメインとなります。自らの興味関心に基づき学びを深めようとする積極性だけでなく、他学生の学びに対しても協力的な姿勢を求めます。

【Outline (in English)】

■ Course outline

Based on the overall sport policies in Japan, the current situation and issues related to themes of your interest, students will engage in sport policy proposals. Through policy proposals, the course helps students understand the importance of socially needed and evidence-based policy making and implementation, as well as acquire the ability of logical thinking.

■ Learning Objectives

By the end of the course, students should be able to do the followings:

(1) To be able to set up socially important problems and issues based on an understanding of the overall sport policy in Japan and the current status and issues related to sport policy on specific themes.

(2) To be able to formulate hypotheses for solving the above issues, and to design social research and their analyses by yourself in order to test the hypotheses.

(3) Based on the results and discussions revealed through the above process, be able to make proposals for the solution of sport policy and related issues.

■ Learning activities outside of classroom

Your study time will be more than four hours for a class.

Before each class meeting, students will be expected to have read reference books on topics related to the next lecture. Students will be also expected to have proceeded with individual or group work (e.g. information gathering) for the next class.

After each class meeting, students will be expected to have reviewed each lecture and work, and summarize questions, etc. In addition to preparation and review, students are encouraged to be in contact with current news related to sport.

■ Grading Criteria /Policies

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Work in each session: 70%, Term-end presentation: 30%

HSS300LA

スポーツ科学 A

2017 年度以降入学者

サブタイトル：スポーツレクリエーション

西村 一帆

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 3/Mon.3

単位数：2 単位

定員制 (20~30 名)

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈未〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】

1. 身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
2. 豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
3. 自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
4. 卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
5. 就業力 (信頼関係構築力や共同行動力など) の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

本授業は、感染対策を十分に実施したうえで、対面による実技を中心に授業を展開する。感染の状況によっては実技が講義やオンライン授業に変更がある可能性もある。また、状況により動画配信オンデマンド型も組み合わせ実施する。

初回授業では、履修希望者多数の場合、密接した環境を回避するため体育施設使用人数制限に合わせ抽選を行う予定。

全授業は、基本的に、対面形式での授業実施予定のため、大学の感染予防対策を守って対面で参加できる学生が受講することが望ましい。授業に関わる連絡事項については、授業前日までに授業支援システム (Hoppii) を通して告知する。

体育施設を利用する場合は、室内用靴が必要となるので用意すること。

毎回の授業の初めに、前回の授業で提出された意見や課題をいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業概要についての説明
2	体力測定	・自分の健康状態の把握 ・生活状況を考える
3	レクリエーション	・大縄とび ・ドッジボール
4	筋力アップ運動	・筋力トレーニングの理論と実践
5	ニュースポーツ	・ニュースポーツ理論と実践
	・インディアカ	
	・ソフトバレー	
	・バレーボール	
6	ネットラケット種目	・シングルス/ダブルス理論と実践
	・バドミントン	

7	ボールゴール型種目	・バスケットボール理論と実践
	・バスケットボール	
8	バラスポーツ	・ボッチャの理論と実習
	・ボッチャ	
9	ニュースポーツ (室内競技)	・ユニホック理論と実践
	・ユニホック	
10	ネット種目	・バレーボール理論と実践
	・バレーボール	
11	ボールゴール型種目	・フットサル理論と実践
	・フットサル	
12	ネットラケット種目	・シングルスゲーム理論と実践
	・卓球シングルス	
13	ネットラケット種目	・ダブルスゲーム理論と実践
	・卓球ダブルス	
14	ボールゴール型種目	・フットサル/バスケットボール理論と実践
	・フットサル	
	・バスケットボール	

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

授業での身体活動時に心身の不備が無いよう、各自が体調を整えた上で授業に臨むこと。

また授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、教員の指示に従って実践すること。

本授業の準備学習、復習時間は合わせて 4 時間を標準とする。授業中に自分の動作を撮影して改善点を検討したり、授業で出てきた課題や疑問点を調べることで、次授業に向けてテーマについて調査し自分の興味のあることを明らかにしておくこと。

【テキスト (教科書)】

特になし。

適宜配布する予定。

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

- 1) 授業中の活動に対する参画状況・授業態度 60%、
- 2) 課題レポート 40%の配分として総合評価する。

この成績評価方法は原則的なものであり、病弱者、見学者、特別な身体的理由により通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価する。

【学生の意見等からの気づき】

日本の中学・高等学校における体育授業で行われる男女別習型の授業と異なり、本授業では男女共習型の体育を展開した。

男女共習型には、異性についての理解や、生涯スポーツへの架け橋としての役割等のメリットがある。

一方で、危険性や、それに伴う積極性の欠如などのデメリットが存在する。

新たなルールの設定等の工夫により、これらのデメリットの排除に心がけたい。

【学生が準備すべき機器他】

オンライン・オンデマンド型の授業にも対応できるよう準備をすること。

【その他の重要事項】

社会情勢や使用教場の状況により、授業計画を変更して授業を展開することもあるので、柔軟に対応すること。

【Outline (in English)】

- 【Learning Objectives】**
1. To develop an understanding of the significance and role of physical activity from a variety of perspectives.
 2. to acquire the ability to use sporting activities as a means of establishing a rich and healthy student and social life.
 3. To develop the basic knowledge and attitudes that contribute to self-management.
 4. to acquire the ability to demonstrate leadership and problem solving through communication with others, which is considered to be extremely important in order to be active in the real world after graduation.
 5. To acquire a range of skills that will lead to the development of working skills (such as the ability to build relationships of trust and the ability to work together).

【Learning activities outside of classroom】 Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

【Grading Criteria /Policy】 Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination: 40%、
in class contribution: 60%

HSS300LA

スポーツ科学 B

2017 年度以降入学者

サブタイトル：スポーツレクリエーション

西村 一帆

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 3/Mon.3

単位数：2 単位

定員制 (20~30 名)

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉〈未〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

身体活動の意義や役割について理解を深め、生涯を通じて身体的・社会的な健康の維持増進や自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度を講義及び実習を通じて育成する。

【到達目標】

1. 身体活動の意義や役割について様々な視点から理解を深める。
2. 豊かで健康的な学生生活や社会生活を確立する手段としてスポーツ活動を利用する能力を獲得する。
3. 自己管理に資する基礎的な知識の習得や態度の育成を図る。
4. 卒業後の実社会において活躍する上で、極めて重要であると考えられる他者とのコミュニケーションを通して、リーダーシップの発揮、問題解決等の能力を身につける。
5. 就業力 (信頼関係構築力や共同行動力など) の育成につながる種々のスキルの獲得を図る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

本授業は、感染対策を十分に実施したうえで、対面による実技を中心に授業を展開する。感染の状況によっては実技が講義やオンライン授業に変更がある可能性もある。また、状況により動画配信オンデマンド型も組み合わせて実施する。

初回授業では、履修希望者多数の場合、密接した環境を回避するため体育施設使用人数制限に合わせ抽選を行う予定。

全授業は、基本的に、対面形式での授業実施予定のため、大学の感染予防対策を守って対面で参加できる学生が受講することが望ましい。授業に関わる連絡事項については、授業前日までに授業支援システム (Hoppii) を通して告知する。

体育施設を利用する場合は、室内用靴が必要となるので用意すること。

毎回の授業の初めに、前回の授業で提出された意見や課題をいくつか取り上げ、全体に対してフィードバックを行う。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業概要についての説明
2	体力測定	・自分の健康状態の把握 ・生活状況を考える
3	レクリエーション	・大縄とび ・ドッジボール
4	筋力アップ運動	・筋力トレーニングの理論と実践
5	ニューススポーツ ・インディアカ ・ソフトバレー ・バレーボール	・ニューススポーツ理論と実践
6	ネットラケット種目 ・バドミントン	・シングルス/ダブルス理論と実践

7	ボールゴール型種目 ・バスケットボール	・バスケットボール理論と実践
8	バラスポーツ ・ポッチャ	・ポッチャの理論と実習
9	ニューススポーツ (室内競技) ・ユニホック	・ユニホック理論と実践
10	ネット種目 ・バレーボール	・バレーボール理論と実践
11	ボールゴール型種目 ・フットサル	・フットサル理論と実践
12	ネットラケット種目 ・卓球シングルス	・シングルスゲーム理論と実践
13	ネットラケット種目 ・卓球ダブルス	・ダブルスゲーム理論と実践
14	ボールゴール型種目 ・フットサル ・バスケットボール	・フットサル/バスケットボール理論と実践

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

授業での身体活動時に心身の不備が無いよう、各自が体調を整えた上で授業に臨むこと。

また授業後に行うべき課題や次の授業に向けての準備等は、教員の指示に従って実践すること。

本授業の準備学習、復習時間は合わせて 4 時間を標準とする。授業中に自分の動作を撮影して改善点を検討したり、授業で出てきた課題や疑問点を調べることで、次授業に向けてテーマについて調査し自分の興味のあることを明らかにしておくこと。

【テキスト (教科書)】

特になし。
適宜配布する予定。

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

- 1) 授業中の活動に対する参画状況・授業態度 60%、
- 2) 課題レポート 40%の配分として総合評価する。

この成績評価方法は原則的なものであり、病弱者、見学者、特別な身体的理由により通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価する。

【学生の意見等からの気づき】

中学・高等学校における体育の授業で行われる男女別習型の授業と異なり、本授業では男女共習型の体育を展開した。

男女共習型には、異性についての理解や、生涯スポーツへの架け橋としての役割等のメリットがある。

一方で、危険性や、それに伴う積極性の欠如などのデメリットが存在する。

新たなルールの設定等の工夫により、これらのデメリットの排除に心がけたい。

【学生が準備すべき機器他】

オンライン・オンデマンド型の授業にも対応できるよう準備をすること。

【その他の重要事項】

社会情勢や使用教場の状況により、授業計画を変更して授業を展開することもあるので、柔軟に対応すること。

本授業は、「スポーツ科学 A」と同じような授業内容・授業展開であるが、参加人数により実施種目、内容は適宜変更対応し授業運営するので、連続履修該当者には、積極的な参加により円滑な授業運営に協力していただきたい。

【Outline (in English)】

【Learning Objectives】 1. To develop an understanding of the significance and role of physical activity from a variety of perspectives.

2. To acquire the ability to use sporting activities as a means of establishing a rich and healthy student and social life.

3. To develop the basic knowledge and attitudes that contribute to self-management.

4. to acquire the ability to demonstrate leadership and problem solving through communication with others, which is considered to be extremely important in order to be active in the real world after graduation.

5. To acquire a range of skills that will lead to the development of working skills (such as the ability to build relationships of trust and the ability to work together).

[Learning activities outside of classroom] Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

[Grading Criteria /Policy] Your overall grade in the class will be decided based on the following

Term-end examination: 40%、

in class contribution: 60%

HSS300LA

教養ゼミ I

2017 年度以降入学者

林 容市

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 2/Tue.2

単位数：2 単位

定員制 (20 名)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

この授業では「生理学的変化 (特に体脂肪・体組成を対象) に貢献する諸要因の理解」, 「健康関連指標 (特に体脂肪・体組成) の測定と評価」, 「高い効果が期待できる身体活動や食事の理解と実践」をテーマに学習を進めていきます。

【到達目標】

- ・身体活動による生理的および心理的効果についてエビデンスに基づく知識・情報を学ぶ
- ・様々な健康関連情報から自らに必要なものを適切に取捨選択できる能力を育成する。
- ・現在の自らの身体状態や運動を含む生活習慣を適切に把握・評価できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

本授業の目的の達成には、いかにその課題を解決するかを「考え、実践すること」が重要となります。最新のトピックスを踏まえた講義を通じ、身体活動や健康に関連した知識・情報を学ぶことが授業目的の一つとなります。

その知識を自らが生涯にわたって健康な生活を営む上でどのように活かしていくのかを考えることを最も重視し、授業のディスカッションやリアクションペーパーの内容を次回以降の授業に反映させます。また、授業中の演習や測定にも積極的に取り組むことを求めます。なお、身体活動の実践に向けた計画や、個人の考え・意見をまとめたプレゼンテーションを求め、評価の一部とします。

また、前回の授業で実施した内容や提出された課題に対しては、授業内で全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンスおよび講義の目的についての解説	授業の目標と課題の確認、身体活動によって得られる効果のエビデンスを学ぶ
第 2 回	身体活動によって変化する生理的要因 1	身体活動によって生じる体脂肪の変化や生理的意義について学ぶ
第 3 回	身体活動によって変化する生理的要因 2	身体組成 (体脂肪量・骨格筋) について様々な測定方法とその原理を学ぶ
第 4 回	身体活動によって変化する生理的要因の測定と評価 1	身体組成のうち、特に体脂肪について実際に複数の方法で測定し結果を比較・検討する (演習)
第 5 回	身体活動によって変化する生理的要因 3	身体活動時の運動強度・種目に依存したエネルギー消費について学ぶ
第 6 回	身体活動に影響するエネルギー摂取の影響	身体の変化に影響を及ぼす栄養学的要因 (食事) について学ぶ

第 7 回	身体組成の改善に向けた身体活動の提案 1	学んだ知識や情報に基づき、グループで脂肪量減少に向けた身体活動や食事案を提案する (プレゼンテーション)
第 8 回	身体組成の改善に向けた身体活動の提案 2	前回の内容に基づいて実際に身体活動や食事内容の改善を行った結果を踏まえて、グループで改善・修正案を検討する (演習)
第 9 回	身体組成の改善に向けた身体活動の提案 3	身体活動や食事内容の実践結果を踏まえて、仮定対象者に向けた脂肪量減少のための身体活動および食事の改善案を提案する (演習)
第 10 回	身体活動によって変化する生理的要因 4	骨格筋の役割とトレーニングによる変化について学ぶ
第 11 回	身体活動によって変化する生理的要因の測定と評価 2	骨格筋の増大に向けたトレーニング法の実践について学ぶ (演習)
第 12 回	身体活動によって変化する生理的要因 5	有酸素性運動時の生理的状態と効果について学ぶ
第 13 回	身体活動によって変化する生理的要因の測定と評価 3	有酸素性運動時の循環器系機能の実際および自覚的運動強度について学ぶ (演習)
第 14 回	身体組成の改善に向けた身体活動の提案	学んだ知識や情報に基づき、グループで脂肪量減少や身体組成 (骨格筋の増減など) に向けた身体活動案を提案する (プレゼンテーション)

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

原則として、シラバスに記載されている授業内容に関し、事前に図書館等で情報を収集してから授業に参加してください。これを踏まえた上で、毎回の活動の実践やリアクションペーパーの作成に取り組んでください。また、授業ごとに内容を復習し、個人の考え・意見をまとめてから次回の授業に出席することを求めます。なお、これらの予習・復習のために要する時間は、それぞれ 2 時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

特に指定しません。必要に応じて授業支援システムを通じて、または授業中に資料を配付します。

【参考書】

健康運動の支援と実践 (田中喜代次・大蔵倫博 編 / 金芳堂 / 2006)

【成績評価の方法と基準】

1) 授業参画の状況と理解度 (授業時のリアクションペーパーや活動状況等で評価) : 80%, 2) 各回のプレゼンテーションの内容 : 20%, の配分で総合評価する。

※欠席・遅刻をした場合は単位取得のための学習時間を減じることになるため、「授業参画の状況」の評価が大きく低下します。

【学生の意見等からの気づき】

2022 年度は、多くの授業を対面で実施できましたが、履修者が少なく、当初計画していた種々の演習の実施が困難な状況でした。測定等は時間をかけて実施できた一方、履修学生の皆さんには、予定していたディスカッションの機会を十分に提供できませんでした。次年度の授業も、履修者次第とはなりますが、自らの身体に関する様々な指標を厳密に測定・評価し、自らの身体や健康に関連する情報を適切に取捨選択できる能力を身につけてもらえるよう授業を展開する予定です。

【学生が準備すべき機器他】

種々の測定・評価等を行う場合には身体活動を伴いますので、必要に応じて運動に適した服装およびシューズ等の準備が必要になります。必要となる場合には、事前に周知しますので忘れずに準備をしてください。

【その他の重要事項】

本授業は、授業目的を達成する活動に際して教場等の制限があるため、履修者を最大 20 名とします。第 1 回目の授業時において履修希望者が 20 名を超えた場合には、履修人数の制限を行います。そのため、第 1 回目の授業には必ず出席してください。体調不良等どうしても出席できない場合には、事前に市ヶ谷保健体育センターに履修希望を届け出た学生のみ履修の可能性を有することとします。

なお、本授業は単に自身が目的に応じた身体活動を実践できるに留まらず、他者への助言も可能になる知識や情報、さらにはその解釈について学習することを目的としています。そのため、履修に際しては、運動やトレーニングの実践のみを行う授業ではないことに留意してください。

【Outline (in English)】

【Course outline】 The purpose of this class is to understand the factors that contribute to physiological changes (especially in body fat and body composition), Measurement and assessment of health-related indicators (especially body fat and composition), and Understanding and implement effective physical activity and diet.

【Learning Objectives】 By the end of the course, students should be able to:

1. Learn evidence-based knowledge and information about physical activity's physiological and psychological effects.
2. Develop the ability to select necessary for oneself from various health-related information appropriately.
3. Understand and evaluate one's current physical condition and lifestyle, including exercise.

【Learning activities outside of the classroom】 Students are expected to gather information about the class content at the library before attending the class and practice each activity and write a reaction paper based on the class content. In addition, students are expected to review each class and summarize their thoughts and opinions before attending the next class. The standard time required for these preparations and reviews is two hours each.

【Grading Criteria/Policy】 Grading will be decided based on Class participation and understanding assessed by reaction papers and activities in class (80%) and Content of each presentation(20%). If a student is absent or late for a class, the evaluation of "Class participation" will be significantly reduced because the student will lose study time to obtain credits.

HSS300LA

教養ゼミⅡ

2017年度以降入学者

林 容市

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 2/Tue.2

単位数：2 単位

定員制（20名）

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業は、目的や対象に合わせた身体活動が実践できるようになることを目的に内容を構成しています。単に体重の減量・体脂肪の減少、骨格筋の増大のための方法を学ぶだけでなく、健康や QoL の本質を理解した上で受講者自身が身体活動を実践でき、他者へも適切な助言ができるための知識や情報を学び、それらを取捨選択できる能力の獲得を目指します。また、文章の執筆、図表の作成、量的・質的分析について発展的な手法を学び、最終的に授業内で調べた内容についてレポートとしてまとめます。

【到達目標】

- ・目的に応じて身体活動の内容を適切に構築することができる。
- ・対象者に合わせた身体活動実践の助言ができる。
- ・適切な分析方法や表現を用いて身体活動に関するエビデンスをレポート・論文として報告できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP3、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

本授業は、講義、受講者間のディスカッション、探求テーマに対しての情報の集約や量的な取りまとめと考察等から構成されます。授業目的の達成には、いかにその課題を解決するかを「考え、実践すること」が重要となります。そのため、授業後半においては、受講者自身が定めた探求テーマに基づいて情報を取りまとめて検討し、最終的な結果を文章として提出を求めます。

なお、前回の授業で実施した内容や提出された課題に対しては、授業内で全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンスおよび講義の目的についての解説	授業の目標と課題の確認、情報選択の基礎的な考え方や健康づくりに向けたエビデンスを学ぶ
第 2 回	様々な対象における健康の考え方 1	肥満や痩せに関連する生理的・心理的要因について学ぶ
第 3 回	様々な対象における健康の考え方 2	痩身志向の要因と過度な痩身による生理的状态を学ぶ
第 4 回	様々な対象における健康の考え方 3	健康行動（運動実践・食事改善）を発生・継続させるための心理的要因を各自で調べ、グループで討論する（演習）
第 5 回	健康づくりに関する探求テーマの検討	探求するテーマを検討し、個人またはグループ単位でその詳細を検討する（演習）
第 6 回	健康づくりの効果を測定・評価するための手法 1	関連分野におけるエビデンスとして必要となる情報の「表現・表記方法」を学ぶ
第 7 回	健康づくりの効果を測定・評価するための手法 2	身体活動や食事などの健康づくりについて、その効果を「測定」する手法を学ぶ

第 8 回	健康づくりの効果を測定・評価するための手法 3	身体活動や食事などの健康づくりについて、その効果を量的に「分析・評価」する手法を学ぶ
第 9 回	健康づくりの効果を測定・評価するための手法 4	身体活動や食事などの健康づくりについて、その効果に関する種々の情報を集約して分析する手法を学ぶ
第 10 回	探求テーマに対する情報の集約と論議 1	探求するテーマについて収集した論文やデータをまとめ、個人またはグループでその解釈について論議する（演習）
第 11 回	探求テーマに対する情報の集約と論議 2	前回の論議に基づいて、探求するテーマについて収集した論文やデータをまとめ、個人またはグループでその解釈について論議する（演習）
第 12 回	探求テーマに対する情報の集約と論議 3	探求テーマについて、関連する情報をまとめ、一定の結論を導くために論議する（演習）
第 13 回	探求テーマに関する情報の集約 1	探求テーマについて調べた情報を、適切な方法を用いて分析し、レポートを作成する。
第 14 回	探求テーマに関する情報の集約 2	探求テーマについて調べた情報を、適切な方法を用いて分析し、結果を報告する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

原則として、シラバスに記載されている授業内容に関し、事前に図書館等で情報を収集してから授業に参加してください。これを踏まえた上で、毎回の活動の実践やリアクションペーパーの作成に取り組んでください。また、第 11～13 回においては、各自の探求テーマに沿って文献等の検索や取りまとめた結果を用いた論議を行いますので、これらの回では求められた情報やデータをまとめる作業を行ってください。なお、これらの予習・復習のために要する時間は、それぞれ 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特に指定しません。必要に応じて授業支援システムを通じて、または授業中に資料を配付します。

【参考書】

健康運動の支援と実践（田中喜代次・大蔵倫博 編 / 金芳堂 / 2006）

【成績評価の方法と基準】

各授業で課した授業内学習としての課題それぞれを 100 点満点で評価した上で合計し、それをすべての課題によって獲得可能な最大得点を母数とした相対値に変換する以下の式で評価を行います。
評価得点 = 【すべての課題の「得点」の総和】 / 【すべての課題で「獲得可能な最高得点」（課題数 × 100）】 × 100

【学生の意見等からの気づき】

2022 年度は履修者が非常に少なく、予定していた演習の活動、履修者間でのディスカッションがほほできない状況でした。そのため、シラバスとは内容を変更して授業を行いました。履修者の皆さんの期待に沿えなかった部分が多々あったと感じています。このような状況を踏まえて、次年度は内容を少し変更していますが、受講生の皆さんの様々な能力の発達に寄与できるような授業をしていきたいと考えています。

【学生が準備すべき機器他】

種々の測定・評価等を行う場合には身体活動を伴いますので、必要に応じて運動に適した服装およびシューズ等の準備が必要になります。必要となる場合には、事前に周知しますので忘れずに準備してください。

【その他の重要事項】

本授業は、担当教員が同じ教養ゼミⅠの単位を取得していることを履修の条件とします。ただし、第 1 回目の授業において、履修希望者が定員（20 名）を下回っている場合には、担当教員との面談により教養ゼミⅠの単位取得者と同等の知識・情報を有していると判断された場合には履修を認めます。

なお、本授業は単に自身が目的に応じた身体活動を実践できるに留まらず、他者への助言も可能になる知識や情報、さらにはその解釈について学習することを目的にしています。そのため、履修に際しては、運動やトレーニングの実践のみを行う授業ではないことに留意してください。

【Outline (in English)】

【Course outline】 The purpose of this class is to make it become able to practice physical activities tailored to targets for achievements and physical and mental individuality of the subjects. Besides, students aim at learning knowledge and information about the nature of health and QoL and acquire the ability to be able to provide appropriate advice to others about exercise, not simply learning the methods of how to weight and body-fat loss and skeletal muscle reinforcing.

【Learning Objectives】 By the end of the course, students should be able to:

1. Construct the content of physical activity appropriately according to the purpose.
2. Provide advice on physical activity practices tailored to the target population.
3. Report evidence on physical activity using appropriate analytical methods and expressions.

【Learning activities outside of the classroom】 Students are expected to gather information about the class content at the library before attending the class and practice each activity and write a reaction paper based on the class content. In sessions 11 to 13, we will search for literature according to the theme of each student's inquiry and discuss the results of these searches. The standard time required for these preparations and reviews is two hours each.

【Grading Criteria/Policy】 The evaluation uses the following formula to evaluate in each session learning subjects, with a maximum of 100 points.

Evaluation score = [Sum of all scores for all subjects] / [Highest score possible for all subjects (number of tasks x 100)] x 100

HSS300LA

教養ゼミ I

2017 年度以降入学者

朝比奈 茂

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 3/Mon.3

単位数：2 単位

定員制

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義において「コンディショニング」および「コンディショニング」を理解することが目標である。コンディショニングの目的・要素・評価方法を学習する。競技力向上、傷害予防のためのコンディショニングにおけるアプローチ方法を理解し、現場に即したコンディショニングプログラムの立案ができる能力を習得することを目標とする。

【到達目標】

「コンディショニング」という用語のもつ多様な内容を理解できる。コンディショニングの要素となる身体的因子、環境的因子、心理的因子について、説明できる。

コンディショニングの評価の必要性及び評価の方法について説明できる。トレーニング計画とコンディショニングについて理解し、ピリオダイゼーションの理論や背景について、説明でき、自身のトレーニング計画を立案できる。

競技力向上のためのコンディショニングの具体的な方法について理解し、実践できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP3、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

本講義は感染対策を十分に行い、対面授業を基本に実施する。感染状況に応じて、オンライン授業に変更する可能性もありえる。それによって内容が変更になる場合は、学習支援システムを通じて周知する。

授業のはじめに、前回の授業の振り返りを、意見や質問を通じて行なう。

質問への回答やリアクションペーパーに対する講評等は、オフィス・アワーを利用して行う。

大学の行動方針レベルの変更に応じた授業形態の詳細は学習支援システムで周知する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	講義の概要を説明する。 コンディショニングとコンディショニングについて説明する。 コンディショニングの必要性について説明する。 体格・体組成計の測定を行う。
2	コンディショニングの要素	コンディショニングの要素である、身体的因子、環境的因子、心理的因子に関する講義を行う。
3	ホメオスタシス（恒常性）	人間に備わっているホメオスタシスについて説明する。
4	外傷・傷害とその対策	スポーツにおける怪我（外傷および障害）について、説明し、その原因を対策について説明する。
5	スポーツ傷害の治癒過程	炎症の役割について説明し、損傷細胞の修復メカニズムについて説明する。

6	スポーツ外傷の応急処置	現場における応急処置（RICE 処置）について説明する。特に冷却療法（アイシング）の効果を説明し、実際にアイシングを試してみる。
7	パフォーマンス向上を目的としたコンディショニングの実際	コーディネーショントレーニング、スタビリティトレーニングについて、その方法を学び実践する。
8	ストレッチングとコンディショニング	ストレッチングの種類や方法について説明し、実習を行う。
9	スポーツマッサージとコンディショニング	マッサージの歴史や生理学的効果を学習するとともに、学生同士実践する。 セルフマッサージの手法を説明し学生自身で実践する。
10	鍼・灸療法とコンディショニング	スポーツ選手が比較的多く利用する、鍼灸について、治効理論を説明し、実際の場面を実演する。
11	ヨガとコンディショニング	ヨガの歴史や哲学について説明し、アスリートのコンディショニングにおける役割（効果）について講義を行う。
12	睡眠とコンディショニング	睡眠が果たすコンディショニングの役割について、その効果やメカニズムについて講義を行う。
13	休養とリラクゼーション	心身の休養やリラクゼーションがコンディショニング調整に果たす役割を説明する。
14	総括	これまでの内容を振り返るとともに、全授業に関する質問を受ける。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義で使用するレジュメ及び資料などについて必ず予習・復習をすること。

レジュメ及び資料などは、講義日の前日 22 時をまでに、学習支援システム上に掲載する。受講者は各自ダウンロードし、資料に基づき事前学習を行う。

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特に使用しない。

講義資料は授業支援システムから各自がダウンロードし持参する。

【参考書】

1. 日本スポーツ協会編, 公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト 6 (予防とコンディショニング)
2. 人体の不思議, 日経サイエンス社
3. 佐保田鶴治, ヨーガ根本経典, 平河出版社
4. リチャード・ミラー, iRest Yoga Nidra

【成績評価の方法と基準】

以下の内容で総合的に評価する。

- 1) 毎回の授業時に取り組み課題（リアクションペーパー、小テスト、レポートなど）60 %
- 2) 期末レポート 20 %
- 3) 授業への参画状況 20 %

・欠席および課題の提出が期限をすぎた場合は評価に影響する。

・出席が授業実施回数の 3/4 に満たない場合は、単位取得のための履修時間を下回ると判断されるため D もしくは E 評価とする。
またこの成績評価方法は原則的なものであり、通常の活動が困難な受講者に対しては、個別に対応・評価する。

【学生の意見等からの気づき】

できるだけ多くの具体的な例を挙げ、理論と実技を交えながら講義を行う。

それにより、理解がより深まると考えられる。

また実技のポイントは繰り返し言葉にできるように心がける。

提出された課題の内容について、授業の最初にフィードバックを行う。

【学生が準備すべき機器他】

必要に応じてオンライン授業をおこなう場合がある。オンライン授業をより効果的に行うために、通信環境を整えておく。また通信機器としてパソコンを準備することがのぞましい。

配布資料、課題の提出は全て学習支援システムを通じて行う。

【その他の重要事項】

授業に関する質問やそれに関連する質問などは授業中および授業の前後に受け付ける。

それ以外については、随時メールを通じて、対応する。

また、オフィスアワーとして毎週月曜日 16 時 50 分～18 時 30 分の 100 分を設ける。

形式は対面とオンライン（zoom）を併用する。

オフィスアワーを利用する場合は、事前にメールを通じて連絡をとること。

【Outline (in English)】**【Course outline】**

In this lecture, students are expected to understand states of “condition” and learn the purposes, elements, evaluation methods of conditioning. Being in the good condition leads athletes to the better performance, resulting in the better competitive outcomes. This lecture guides student athletes to learn the basic conditioning program and competition preparation program and helps them acquire the ability to practice such programs.

【Learning Objectives】

Understand the many different types of conditioning.

To be able to explain the physical, environmental, and psychological factors that constitute conditioning.

To be able to explain the necessity of condition assessment and methods of assessment.

Understand training plans and conditioning, and be able to explain the theory and background of periodization, and formulate their own training plans.

Understand and be able to practice specific methods of conditioning to improve athletic performance.

【Learning activities outside of classroom】

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

Resume for the lecture will be uploaded through the learning support system. Students are expected to prepare according to the resume.

【Grading Criteria/Policy】

The overall evaluation will be based on the following distribution.

1) Assignments to be done in each class (reaction papers, short quizzes, reports, etc.): 60%.

2) Final report: 20%.

3) Participation in class activities (not attendance): 20%.

If you are absent or submit assignments after the due date, your evaluation will be affected.

If attendance is less than 3/4 of the class, the grade will be “D” or “E”.

This grading method is a general rule, and students who have difficulty with regular activities will be dealt with and evaluated on an individual basis.

LANF300LA

第三外国語としてのフランス語A 2017年度以降入学者

廣松 勲

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 3/Wed.3

単位数：2 単位

定員制（40名）

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

フランス語初級者向けの授業である。フランス語の基礎的な文法事項を着実に習得することで、中級以降に向かうための基礎固めを行う。

【到達目標】

実用フランス語技能検定試験（仏検）4級～5級レベル到達を目指す。基礎的なフランス語文法を用いて発話・筆記できるようになると同時に、簡単にでも（フランス共和国を含めた）現代のフランス語圏社会の状況を説明することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

日本語で授業を行う。フランス語の初級文法および日常会話を中心にして、説明・練習・解説という手順で進める。また、時間の許す限り、フランス共和国を含めたフランス語圏の文化や社会に関して紹介する。

コメントシートやミニ課題などについては、できるだけ次回以降の授業で反映・返却します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション Leçon 0	・授業の進め方や評価方法などの確認 ・アルファベットの読み方 ・挨拶表現 ・数字 1～10
2	Leçon 0 Leçon 1	職業や国籍を言う ・綴り字の読み方 ・名詞の性と数 ・主語人称代名詞 ・動詞 être
3	Leçon 1	職業や国籍を言う ・否定形 ・綴り字の読み方
4	Leçon 2	言語や好みを言う ・ER 動詞の活用 ・定冠詞と不定冠詞
5	Leçon 2	言語や好みを言う ・形容詞 ・綴り字の読み方
6	Leçon 3	所持品や年齢を言う ・動詞 avoir ・否定の de ・疑問文 ・数字 11～20
7	Leçon 3	所持品や年齢を言う ・代名詞の強勢形 ・疑問形容詞 ・綴り方の読み方

8	中間まとめ	・これまでの学習事項の総復習 ・進度の調整
9	Leçon 4	家族の話をする、したいことを言う ・所有形容詞 ・不規則動詞（aller, venir, vouloir）
10	Leçon 4	家族の話をする、したいことを言う ・国名に付く前置詞 ・綴り字の読み方
11	Leçon 5	できることを言う、近い過去・未来の話をする ・部分冠詞 ・近接過去と近接未来 ・動詞 pouvoir
12	Leçon 5	できることを言う、近い過去・未来の話をする ・指示形容詞 ・疑問代名詞 ・動詞 prendre, attendre
13	Leçon 6	たずねる（いつ、どこ、どのように、なぜ、いくつ）、命令する ・疑問副詞 ・前置詞と定冠詞の縮約 ・動詞 devoir
14	期末試験	筆記試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

課題提出以外にも、教科書に出てくる例文などの意味を調べるなど「予習・復習」を確りとして欲しい。その際には、辞書で単語の意味も確りと調べ、ノートに記述しておくこと。

音声教材をよく聞き、繰り返し発音をすること。

フランス語圏の文化や社会に関する資料を配布した際には、確りと読むこと。

本授業の準備学習・復習時間は、合計 4 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

田辺保子、西部由里子著、『ヴァズィ！（改訂二版）』、駿河台出版社、2023年。

（*自分で入手する場合、2023年刊行の「改訂二版」であることに注意してほしい。）

【参考書】

教科書には簡単な語彙録しか付いていないため、小さいサイズでも「仏和辞書」を購入して欲しい。お薦めの辞書は、以下の通り。宮原信他著、『ディコ仏和辞典』、白水社、2003年。

西村牧夫他編訳、『ロベール・クレ 仏和辞典』、駿河台出版社、2011年。

また、文法練習問題、仏検対策問題集等については、希望者に提示する。

【成績評価の方法と基準】

・平常点と期末テストに基づき、総合的に評価する。

①平常点（ミニ課題など）：30%

②期末テスト：70%

【学生の意見等からの気づき】

学生がフランス語で表現する機会（特に会話と筆記）を増やすとともに、進度にも気を付けながら授業を進める。

【Outline (in English)】

This course introduces the foundations of french langage to students learning it as the third langage. They can learn also the situation of contemporary french society to some extent.

The goals of this course are to understanding and writing/speaking the elementary French language.

Before and after each class meeting,students will be expected to spend four hours to read the relevant chapter(s) and documents.

Your overall grade in the class will be decided based on the followings:

in class contributions (mini-exercice, etc): 30%, term-end test: 70%.

LANF300LA

第三外国語としてのフランス語 B 2017 年度以降入学者

廣松 勲

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 3/Wed.3

単位数：2 単位

定員制（40 名）

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

フランス語初級者向けの授業である。フランス語の基礎的な文法事項を着実に習得することで、中級以降の基礎固めを行う。春学期から継続して授業を進める。

【到達目標】

実用フランス語技能検定試験（仏検）4 級～5 級レベル到達を目指す。基礎的なフランス語文法を用いて発話・筆記ができるようになると同時に、簡単にでも（フランス共和国を含めた）現代のフランス語圏社会の状況を説明することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

日本語で授業を行う。フランス語の初級文法および日常会話を中心にして、説明・練習・解説という手順で進める。時間の許す限り、フランス共和国を含めたフランス語圏の文化や社会に関して紹介する。コメントシートやミニ課題などについては、できるだけ次回以降の授業で反映・返却します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	復習 Leçon 6 つづき Leçon 7	たずねる（いつ、どこ、どのように、なぜ、いくつ）、命令する ・ 命令形 ・ 時の表現 人・ものを描写する ・ IR 動詞（つづき） ・ 形容詞 ・ 動詞 savoir, voir
2	Leçon 7	人・ものを描写する ・ 数量表現 ・ 名詞 + à + 不定詞 ・ 動詞 mettre
3	Leçon 8	時刻・天気と言う ・ 目的補語人称代名詞 ・ 非人称構文 ・ 動詞 connaître
4	Leçon 8	時刻・天気と言う ・ 数字 21～69 ・ 動詞 faire, écrire
5	Leçon 9	日常の活動と言う ・ 代名動詞 ・ 日常の活動を表す表現
6	Leçon 9	日常の活動と言う ・ 代名動詞の否定文、疑問文、命令文 ・ 日常の活動を表す表現（つづき）
7	Leçon 10	未来のことを言う、比較する ・ 直説法単純未来 ・ 形容詞・副詞の比較級

8	Leçon 10	未来のことを言う、比較する ・ 形容詞・副詞の最上級 ・ 特殊な優等比較級・優等最上級 ・ 指示代名詞
9	中間まとめ	・ これまでの学習事項を総復習 ・ 進度の調整
10	Leçon 11	過去のことを言う（1） ・ 数字 70～100 ・ 直説法複合過去 ・ 目的補語人称代名詞を含む複合過去
11	Leçon 11	過去のことを言う（1） ・ 代名動詞を含む複合過去 ・ 中性代名詞 en
12	Leçon 12	過去のことを言う（2）、否定する ・ 直説法半過去 ・ 直説法複合過去と直説法半過去の違い
13	Leçon 12	過去のことを言う（2）、否定する ・ 直接法大過去 ・ 中性代名詞 y と le ・ 様々な否定表現
14	期末試験	筆記試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

課題を含めて、教科書の例文の意味を調べるなど「予習・復習」を確りとしてほしい。その際には、辞書で単語の意味も確りと調べ、ノートに記述しておくこと。

音声教材をよく聞き、繰り返し発音をすること。

フランス語圏の文化や社会に関する資料を配布した際には、確りと読むこと。
本授業の準備学習・復習時間は、合計 4 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

田辺保子、西部由里子著、『ヴァズィ！（改訂二版）』、駿河台出版社、2023 年。

（*自分で入手する場合、2023 年刊行の「改訂二版」であることに注意してほしい。）

【参考書】

教科書には簡単な語彙録しか付いていないため、小さいサイズでも仏和辞書を持っていて欲しい。お薦めの辞書は以下の通り。

宮原信他著、『ディコ仏和辞典』、白水社、2003 年

西村牧夫他編訳、『ロベール・クレ 仏和辞典』、駿河台出版社、2011 年

また、文法練習問題、仏検対策問題集等については、希望者に提示する。

【成績評価の方法と基準】

・ 平常点と期末テストに基づき、総合的に評価する。

①平常点（ミニ課題など）：30%

②期末テスト：70%

【学生の意見等からの気づき】

学生がフランス語で表現する機会（特に会話・筆記）を増やすとともに、進捗にも気を付けながら授業を進める。

【Outline (in English)】

This course introduces the foundations of french language to students learning it as the third language. They can learn also the situation of contemporary french society to some extent.

The goals of this course are to understanding and writing/speaking the elementary French language.

Before and after each class meeting, students will be expected to spend four hours to read the relevant chapter(s) and documents.

Your overall grade in the class will be decided based on the followings:

in class contributions (mini-exercice, etc): 30%, term-end test: 70%.

ARSA300LA

教養ゼミ I

2017 年度以降入学者

大中 一彌

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 4/Thu.4

単位数：2 単位

定員制 (30 名)

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

グローバル化への反発をそのなりたちにおいて含むポピュリズムが、世界各国の政治・経済・文化を揺り動かしています。この教養ゼミ I 「人物と映像からみる『ポピュリズム』」は、学生の皆さんの参加を中心に組み立てられており、海外の文化や政治・経済に詳しくない人も、大学卒業後いわゆる社会人となるにあたり、必要な学びを体験することができます。この授業のテーマを紹介する動画 (約 4 秒) をご覧ください https://youtube.com/shorts/fB_oZQbM84c

【到達目標】

コースの終わりまでに、学生の皆さんは次のことができるようになるでしょう：

- 1) 21 世紀の私たちの社会にどのような民主主義文化がふさわしいかという考え (シティズンシップ) を身につけるための第一歩を踏み出している。
- 2) ポピュリズムという言葉の意味合いは、国や歴史時代により異なるが、こうした異なる意味合いに関する基本的な洞察を持っている。
- 3) 学生の皆さんが非常に興味を持っている今の文化的トピックを、現代の社会問題に関連づける方法を理解している。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

(ア) この教養ゼミ I 「人物と映像からみる『ポピュリズム』」は基本的に「対面」です。ただし、学生の皆さんの個別の事情や状況により、Zoom を使った参加を積極的に認めています。

(イ) 毎回、教員から授業内容の説明があり、これに対し、学生から質問や意見を出す時間帯があります。

(ウ) 【希望者のみ】ひとりひとりの参加者が今関心をもっていることについて、話題提供した場合、加点をいたします。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	初顔合わせ	授業計画の説明
2	教員からの話題提供 (マイケル・ヤング『メリトクラシー』をめぐって)	学生はとくに事前準備の必要なし → 授業内で学生が発言
3	ポピュリズムとは何か①	教員による説明 (ドーナツ型の中心がからっぽなイデオロギーとしてのポピュリズム) → 授業内で学生が発言
4	ポピュリズムとは何か②	教員による説明 (反エスタブリッシュメントの主張と「ハートランド」) → 授業内で学生が発言
5	世界のポピュリズム①	教員による説明 (ロシアと南北アメリカにおけるポピュリスト政治家たち) → 授業内で学生が発言

6	世界のポピュリズム②	教員による説明 (ヨーロッパ、オセアニア、東南アジア、アフリカ、中東におけるポピュリスト政治家たち) → 授業内で学生が発言
7	ポピュリズムと動員①	教員による説明 (ペルーの A・フジモリ、合衆国のティーバーティー運動) → 授業内で学生が発言
8	ポピュリズムと動員②	教員による説明 (シャットシュナイダー『半主権人民』における政党の役割の強調と、一部のポピュリズム政治家が好む「即席政党」) → 授業内で学生が発言
9	ポピュリズムの指導者①	教員による説明 (マッチョさを強調しがちな男性ポピュリスト政治家に対し、女性らしさを庶民性と結びつけようとする女性ポピュリスト政治家) → 授業内で学生が発言
10	ポピュリズムの指導者②	教員による説明 (ボリビアの E・モラレスにおける先住民と庶民性の結びつけ) → 授業内で学生が発言
11	ポピュリズムとデモクラシー①	教員による説明 (どのような局面で、ポピュリズムは民主化を促すか) → 授業内で学生が発言
12	ポピュリズムとデモクラシー②	教員による説明 (どのような局面で、ポピュリズムは民主制の崩壊をもたらすか) → 授業内で学生が発言
13	原因と対応	教員による説明 (有権者は何を求めてポピュリスト政治家に投票するのか) → 授業内で学生が発言
14	まとめ	映像作品をめぐって ※詳細は【その他の重要事項】に記載されているリンク先をご覧ください。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

(ア) 【授業計画 / Schedule】のなかで毎回触れる内容、とくに提供された文字資料を落ち着いて読んだり、リストに掲載された映像素材を視聴したりするなどして、ふりかえりを行う。

(イ) 【希望者のみ】指定する LMS (Google Classroom か学習支援システム) に、関心のある事柄にかんする投稿を行う。

(ウ) この授業の準備や復習に必要な時間は、上記 (ア) (イ) などの作業に必要な時間とします。日本語やその他の言語の習熟度が異なる多様な学生が、このセミナーに参加します。そのため、一律の時間の長さは定めません。しかし、大学設置基準によれば、2 単位の講義及び演習の準備・復習時間は 1 回につき 4 時間以上とされています。

【テキスト (教科書)】

ほぼ毎回資料を配布しますので、教科書を購入する必要はありません。

【参考書】

ゼミでお話をするさいの基本図書として、次の本を挙げておきます。カス・ミュデ&クリストバル・ロビラ・カルトワッセル『ポピュリズム デモクラシーの友と敵』永井大輔 & 高山裕二訳、白水社、2018 年。Cf. <https://www.hakusuisha.co.jp/book/b352020.html>

【成績評価の方法と基準】

1. 授業への参加 (平常点) 30%
2. 授業中における発言や質問 30%
3. 【希望者のみ】授業外の準備を伴う話題提供 40%
4. 授業運営への貢献 (教員が間違っていた場合の学生による指摘など) ※ 1 から 3 の評価項目の枠外の形で、全体の 100% のなかで 10% 程度の得点を、貢献があった都度ごとに加算していきます。

【学生の意見等からの気づき】

・海外の文化や政治・経済についての学びは、必要そうではあるけれど、わかりづらそう敬遠したくなるという方もいるようです。・この教養ゼミ I は、人物や映像を軸とした組み立てとすることにより、参加のハードルを下げ、そうした方が、必要な学びにアクセスできる場となることを目指しています。

【学生が準備すべき機器他】

資料の共有などに、Google Classroom や Hoppii を使いますので、必要な機器や情報環境はお持ちであったほうが良いでしょう。なお、市販されている映像作品の公衆送信は行いません。

【その他の重要事項】

- ・わからないことは、気兼ねなく、お問合せください。
- ・留学や大学院進学、就職などの相談も OK です。
- ・問い合わせ先や、取り上げる予定の映像作品については、次のリンク先をご覧ください【学内生のみ、要統合認証】 <https://docs.google.com/document/d/13Iw8ChJ11-Y8vLf5zieegSwS0-1aBOua3c33BHgYQzY/edit?usp=sharing>

【Outline (in English)】

Populism, which includes opposition to globalization as one of its main components, is shaking the political foundations of countries around the world. In this spring semester course, Liberal Arts Seminar I, "Populism and the World: For Those Who Are Tired of Go Global," we will focus on xenophobia, the backlash against so-called identity politics, and the support for populism by the cultural "majority" voters. The class will be built around the students' opinions and questions concerning a central issue : "What kind of culture do we want in our society of the 21st century?"

[Learning Objectives]

It is not a goal of this seminar to acquire proficiency in English, Japanese, or any other language.

By the end of the course, students should be able to do the followings :

- 1) taking the first step to acquire a notion of what kind of democratic culture is suitable for our society of the 21st century.
- 2) possessing a basic insight on the various ways in which the concept of populism has been used in different countries and at different periods.
- 3) understanding how to relate contemporary social issues to current cultural topics in which students are highly interested.
- 4) expressing thoughts and feelings appropriately through presentations using Google Slides, Google Docs, and Zoom screen sharing.

[Learning activities outside of classroom]

- (a) Read the pages of the textbook listed in the "Schedule" in advance.
- (b) Post the material for the topic (including links, etc.) in the designated LMS (Google Classroom) location in time before the course begins.
- (c) The time required for preparation and revision for this seminar will be the time required to do (a) and (b) above. A diverse group of students with varying levels of proficiency in Japanese and other languages will participate in this seminar. Therefore, a uniform length of time is not specified. However, according to the Standards for the Establishment of Universities, the preparation and review time for each two-credit lecture and seminar should be at least four hours.

[Grading Criteria]

Your final grade in this seminar will be decided on the following:

1. Class participation 30%
2. In-class comments and questions 30%
3. [If you wish] Presentation of a topic involving preparation outside of class 40%
4. Contribution to class management (e.g., pointing out mistakes made by the instructor) *About 10% of the total points will be added for each contribution outside the framework of the evaluation items 1 to 3, out of 100% of the total.

ARSA300LA

教養ゼミⅡ

2017年度以降入学者

大中 一彌

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 4/Thu.4

単位数：2 単位

定員制 (30 名)

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

現代の社会では、モノやお金だけでなく、人も多く移動しており、国境を越えるこうした動きが、世界各国の政治・経済・文化を揺り動かしています。この教養ゼミⅡ「人物と映像からみる『移民社会』」は、学生の皆さんの参加を中心に組み立てられており、海外の文化や政治・経済に詳しくない人も、大学卒業後いわゆる社会人となるにあたり、必要な学びを体験することができます。この授業のテーマを紹介する動画（約5秒）をご覧ください <https://youtube.com/shorts/Pxcuapv0j4>

【到達目標】

コースの終わりまでに、学生の皆さんは次のことができるようになるでしょう：

- 1) 人口 1700 万人強のオランダが、なぜ、非ヨーロッパ系の移民に対し、英語というよりは、オランダ語や市民的な自由について、基本的な知識をもつよう求めているのかという問いについて、過度な単純化を避けながら、ひとつの答えを思い描くことができる。
- 2) 欧州各国における「移民社会」化が、人びとのアイデンティティにもたらした光と影について考えるさいに、さまざまな宗派をめぐる公的な位置づけのあり方（政教分離）や、経済、とくに雇用面におけるジョブ型社会の流動化（福祉国家の変容）といった要素を、考慮に入れることができる。
- 3) 学生の皆さんが非常に興味を持っている今の文化的トピックを、現代の社会問題に関連づける方法を理解している。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

(ア) この教養ゼミⅡ「人物と映像からみる『移民社会』」は基本的に「対面」です。ただし、学生の皆さんの個別の事情や状況により、Zoom を使った参加を積極的に認めています。

(イ) 毎回、教員から授業内容の説明があり、これに対し、学生から質問や意見を出す時間帯があります。

(ウ) 【希望者のみ】ひとりひとりの参加者が今関心をもっていることについて、話題提供した場合、加点をいたします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	初顔合わせ	授業計画の説明
2	教員からの話題提供	学生はとくに事前準備の必要なし (ル・ボン『群衆心理』 → 授業内で学生が発言をめぐって)
3	オランダにおける「保守主義型福祉国家」と、複数の宗派が並びたつ「列柱社会」	教員による説明（移民社会の議論に入る前に、近現代のオランダの成り立ちにかんする基本情報をお示しする） → 授業内で学生が発言
4	宗派ごとに組織された団体の大きな役割と、「保守主義型福祉国家」の行き詰まり	教員による説明（第二次世界大戦後に成立した、政府・経営者団体・労働組合の協調体制であるネオ・コーポラティズムが話の軸となる） → 授業内で学生が発言

5	福祉国家改革の始まり。パートタイム社会化するオランダ	教員による説明（就業不能者に対する施策が充実していたがゆえに就業率が低かった「非就労の罫」から話がスタート） → 授業内で学生が発言
6	ポスト近代社会の到来とオランダモデル	教員による説明（就労のパートタイム化と性別の役割分担をめぐるオランダの論争） → 授業内で学生が発言
7	移民批判も辞さない「リベラルなポピュリスト」フォルタインの登場	教員による説明（パートタイム労働の正規化と並んで進んだオランダの移民社会化） → 授業内で学生が発言
8	フォルタイン党の躍進とフォルタイン殺害	教員による説明（既成の政治家・政党の批判により躍進した「政治家企業家」フォルタインと、その暗殺にたいするオランダの人びとの驚きや怒り） → 授業内で学生が発言
9	中間ふりかえり	映像作品をめぐって ※詳細は【その他の重要事項】に記載されているリンク先をご覧ください。
10	ファン・ゴッホ殺害事件	教員による説明（ソマリア生まれでオランダに難民として受け入れられ議員となった女性の事績を併せて紹介） → 授業内で学生が発言
11	ウィルデルス自由党の躍進	教員による説明（2005 年、ヨーロッパ憲法条約の批准反対がオランダの国民投票で大差で勝利） → 授業内で学生が発言
12	福祉国家改革と移民	教員による説明（就労しなければならぬ社会における、移民の「義務」の強調） → 授業内で学生が発言
13	脱工業社会における言語・文化とシティズンシップ	教員による説明（もっぱら肉体労働を移民に求めていたかつての産業社会なら、言語や文化の上での同化は、労働の副次的な要素とみなされえたが、サービス産業を中心とする現代の先進国では、当該地域における多数派の言語や文化、習慣、価値観を理解しない労働者は「コミュニケーション能力」を欠くとみなされる？ → 授業内で学生が発言
14	まとめ	シラバス第 13 回までの内容がこなせなかった場合には予備日

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

(ア) 【授業計画 / Schedule】のなかで毎回触れる内容、とくに提供された文字資料を落ち着いて読んだり、リストに掲載された映像素材を視聴したりするなどして、ふりかえりを行う。

(イ) 【希望者のみ】指定する LMS (Google Classroom) か学習支援システム) に、関心のある事柄にかんする投稿を行う。

(ウ) この授業の準備や復習に必要な時間は、上記 (ア) (イ) などの作業に必要な時間とします。日本語やその他の言語の習熟度が異なる多様な学生が、このセミナーに参加します。そのため、一律の時間の長さは定めません。しかし、大学設置基準によれば、2 単位の講義及び演習の準備・復習時間は 1 回につき 4 時間以上とされています。

【テキスト（教科書）】

ほぼ毎回資料を配布しますので、教科書を購入する必要はありません。

【参考書】

ゼミでお話をするさいの基本図書として、次の本を挙げておきます。水島治郎『反転する福祉国家 オランダモデルの光と影』岩波現代文庫、2019 年。Cf. <https://www.iwanami.co.jp/book/b431806.html>

【成績評価の方法と基準】

1. 授業への参加（平常点） 30%
2. 授業中における発言や質問 30%
3. 【希望者のみ】 授業外の準備を伴う話題提供 40%

4. 授業運営への貢献（教員が間違っていた場合の学生による指摘など）※ 1 から 3 の評価項目の枠外の形で、全体の 100%のなかで 10%程度の得点を、貢献があった都度ごとに加算していきます。

【学生の意見等からの気づき】

・海外の文化や政治・経済についての学びは、必要そうではあるけれど、わかりづらそうで敬遠したくなるという方もいるようです。
 ・この教養ゼミⅡは、人物や映像を軸とした組み立てとすることにより、参加のハードルを下げ、そうした方が、必要な学びにアクセスできる場となることを目指しています。

【学生が準備すべき機器他】

資料の共有などに、Google Classroom や Hoppii を使いますので、必要な機器や情報環境はお持ちであったほうが良いでしょう。なお、市販されている映像作品の公衆送信は行いません。

【その他の重要事項】

・わからないことは、気兼ねなく、お問合せください。
 ・留学や大学院進学、就職などの相談も OK です。
 ・問い合わせ先や、取り上げる予定の映像作品については、次のリンク先をご覧ください【学内生のみ、要統合認証】

https://docs.google.com/document/d/1ANH7d-6TYnhuiaehI3bji1OxTK7AOLdg7H_VEDsdlQE/edit?usp=sharing

【Outline (in English)】

What does it mean to accept "cultural and religious differences" in today's society where there is a lot of migration of people across borders? Does it mean that the majority must accept all cultures and religions of the minorities without exception? On the other hand, does it mean that a minority group must completely assimilate into the culture and religion of the host country? In this Liberal Arts Seminar II, which is scheduled for the fall semester, we will discuss the ideals and realities concerning such "cultural and religious differences", using as a case study the policy shift in the Netherlands, which has traditionally been known as a liberal and tolerant society. This course is a seminar designed around the topics, questions, and exchanges of opinions suggested by the students.

【Learning Objectives】

The goal of this seminar is not to become proficient in English, Japanese, or any other language.

By the end of the course, students should be able to do the following:

- 1) Conceptualizing, without oversimplification, an answer to the question of why the Netherlands, with a population of just over 17 million, requires non-European immigrants to have a basic knowledge of the Dutch language (rather than English) and civil liberties.
- 2) Having a basic insight into the different implications of "culture" and "religion" in different countries and historical periods.
- 3) Understanding how to relate contemporary social issues to current cultural topics in which students are highly interested.
- 4) Expressing thoughts and feelings appropriately through presentations using Google Slides, Google Docs, and Zoom screen sharing.

【Learning activities outside of classroom】

(a) Read the pages of the textbook listed in the "Schedule" in advance.

(b) Post the material for the topic (including links, etc.) in the designated LMS (Google Classroom) location in time before the course begins.

(c) The time required for preparation and revision for this seminar will be the time required to do (a) and (b) above. A diverse group of students with varying levels of proficiency in Japanese and other languages will participate in this seminar. Therefore, a uniform length of time is not specified. However, according to the Standards for the Establishment of Universities, the preparation and review time for each two-credit lecture and seminar should be at least four hours.

【Grading Criteria】

Your final grade in this seminar will be decided on the following:

【Grading Criteria】

Your final grade in this seminar will be decided on the following:

1. Class participation 30%
2. In-class comments and questions 30%
3. [If you wish] Presentation of a topic involving preparation outside of class 40%
4. Contribution to class management (e.g., pointing out mistakes made by the instructor) *About 10% of the total points will be added for each contribution outside the framework of the evaluation items 1 to 3, out of 100% of the total.

ARSA300LA

教養ゼミ I

2017年度以降入学者

ル・ルー清野 ブレンダン

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 4/Fri.4

単位数：2 単位

定員制

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業の主な目的は、「日・欧米交流の歴史」に関するいくつかの側面に沿って、グローバル化の歴史の中で「日本（文化）はどう伝わったのか？」というテーマについて学生とともに知識を共有し、考察することです。

もう一つの目的は、日本語（と英語や他の言語）で歴史文書を読み、分析する方法について学び、使用することです。

【到達目標】

この授業では、学生達はグローバル化の歴史という背景における日本の歴史、とりわけ「日・欧米交流の歴史」の多様な側面を探求したり、論じたりします。授業終了時には、それらのトピックに関する様々な概念や問題点を深く理解し、以下のことができるようになるでしょう。

1. 主要な概念や考え方を理解し、説明することができる。
2. グローバル化の歴史という文脈の中で、「日・欧米交流の歴史」についてニュアンスと情報に基づいた理解を示すことができる。
3. 「日・欧米交流の歴史」に関する自分の考えを他者と議論することができる。
4. 様々な歴史的資料を批判的に検討するために、適切な分析手段を用いることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

この授業では、学生達は様々な歴史的文章を読み解き、語彙を調べたり、それについて議論したり、質問に答えたりします。教員は重要な事実や概念を説明するためにスライドを使用し、できるだけ双方向的かつ参加型にする予定です。学生達はグループワーク等を通じて生徒同士で協力して史料を理解し、質問に答えることで、グローバル化の歴史の中で「日・欧米交流の歴史」そして「日本（文化）はどう伝わったのか？」というテーマに関する共通の知識を築いていくことを目指します。

履修者は史料を見つけ出し、それについて発表を行うことも授業の重要な側面です。履修者の個人的背景によって、日本語や英語の他に、様々な言語の史料の紹介も期待できます。

この授業では、生徒同士そして生徒と教員とのやりとりは基本的に日本語で行われます。従って、履修者は大学レベルの日本語の基礎知識を持っていることが期待されます。しかしこの授業を受講するのに完璧な日本語力が必要ではありません。必要に応じて、難しい用語などを英語で補足説明をします。日本語を練習したいという意欲と、歴史や史料、特に「日・欧米交流の歴史」に興味があることはこの授業を履修する大きな同期付けと言えます。

この授業で成功する鍵は、毎週の予習と復習、そしてクラスでのディスカッションに積極的に参加することです。

宿題や質問事項等に関するフィードバックは基本的に授業時間内に行いますが、hoppiiを通じて行う場合もあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	授業紹介	シラバスの確認 授業運営の紹介 アイスブレイカー
2	西洋への日本文化最初の紹介	西洋における、日本に関する最初の史料

3	第1次グローバル化における日本（1）	世界の分割と日本
4	第1次グローバル化における日本（2）	日本の「発見」
5	十字架、マスケット銃と「カステラ」(1)	マスケット伝来
6	十字架、マスケット銃と「カステラ」(2)	日本におけるキリスト教
7	十字架、マスケット銃と「カステラ」(3)	ラテン語、ポルトガル語、日本語
8	学生による発表①	史料の紹介と分析
9	学生による発表②	史料の紹介と分析
10	学生による発表③	史料の紹介と分析
11	学生による発表④	史料の紹介と分析
12	学生による発表⑤	史料の紹介と分析
13	学生による発表⑥	史料の紹介と分析
14	まとめ	前期に対する振り返りと話し合い・議論・総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習、復習、課題や発表の準備が毎回求められます。

大学設置基準によれば、2単位の講義及び演習の準備・復習時間は1回につき4時間以上とされています。

【テキスト（教科書）】

ほぼ毎回授業中に配布しますので、教科書を購入する必要はありません。

【参考書】

必要に応じて授業中に指摘します。

【成績評価の方法と基準】

・グループワーク、小テスト等（授業内）:25%

・宿題、「予習シート」（自宅）:20%

・発表（史料の紹介と説明）：35%

・出席点:20%

※欠席1回につき、「出席点」が10%下がる。3回以上欠席した場合は不合格となり、単位はもらえない。何らかの理由で欠席した場合は、直ちに教員にメール等で連絡して説明すること。正当な理由なく20分以上遅刻した場合は、欠席とみなす。

【学生の意見等からの気づき】

（初めての授業なので、該当しない。）

【学生が準備すべき機器他】

資料の共有などに、Google Classroom や Hoppii を使いますので、必要な機器や情報環境は備えておいた方が良いでしょう。

【その他の重要事項】

履修者の人数、個人背景（言語レベル等）、希望等に応じて上記の【授業計画】が変更されることも考えられます。

【Outline (in English)】

The main purpose of this course is for students to acquire knowledge and think about "How Japan/Japanese culture was introduced to the West", mainly focusing on some aspects of the "history of Japan - European / American relations", setting them back in the context of the history of globalisation.

One other purpose is for the students to learn about and use methods to read and analyse historical documents, both in English and in Japanese.

It is not a goal of this seminar to acquire proficiency in English, Japanese, or any other language, therefore students are welcome whatever their language proficiency is.

Students will deal with reading various historical texts, study the vocabulary, and will discuss these and try to answer questions about them.

The format of the course will be as interactive and participatory as possible, with the help of screened slides in order to explain important facts and/or concepts. Classes will focus on group work, cooperation between students to understand the texts and answer questions, in order to build a common knowledge about the "history of Japan - European / American relations" in the context of the history of globalisation.

The key to success in this course is weekly preparation and review of the class content, and active participation during class discussion.

ARSA300LA

教養ゼミⅡ

2017年度以降入学者

ル・ルー清野 ブレンダン

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 4/Fri.4

単位数：2単位

定員制

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業の主な目的は、「日・欧米交流の歴史」に関するいくつかの側面に沿って、グローバル化の歴史の中で「日本（文化）はどう変わったのか？」というテーマについて学生とともに知識を共有し、考察することです。

もう一つの目的は、日本語（と英語や他の言語）で歴史文書を読み、分析する方法について学び、使用することです。

【到達目標】

この授業では、学生達はグローバル化の歴史という背景における日本の歴史、とりわけ「日・欧米交流の歴史」の多様な側面を探求したり、論じたりします。授業終了時には、それらのトピックに関する様々な概念や問題点を深く理解し、以下のことができるようになるでしょう。

1. 主要な概念や考え方を理解し、説明することができる。
2. グローバル化の歴史という文脈の中で、「日・欧米交流の歴史」についてニュアンスと情報に基づいた理解を示すことができる。
3. 「日・欧米交流の歴史」に関する自分の考えを他者と議論することができる。
4. 様々な歴史的資料を批判的に検討するために、適切な分析手段を用いることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

この授業では、学生達は様々な歴史的文章を読解し、語彙を調べたり、それについて議論したり、質問に答えたりします。教員は重要な事実や概念を説明するためにスライドを使用し、できるだけ双方向的かつ参加型にする予定です。学生達はグループワーク等を通じて生徒同士で協力して史料を理解し、質問に答えることで、グローバル化の歴史の中で「日・欧米交流の歴史」そして「日本（文化）はどう変わったのか？」というテーマに関する共通の知識を築いていくことを目指します。

履修者は史料を見つけ出し、それについて発表を行うことも授業の重要な側面です。履修者の個人的背景によって、日本語や英語の他に、様々な言語の史料の紹介も期待できます。

この授業では、生徒同士そして生徒と教員とのやりとりは基本的に日本語で行われます。従って、履修者は大学レベルの日本語の基礎知識を持っていることが期待されます。しかしこの授業を受講するのに完璧な日本語力が必要ではありません。必要に応じて、難しい用語などを英語で補足説明をします。日本語を練習したいという意欲と、歴史や史料、特に「日・欧米交流の歴史」に興味があることはこの授業を履修する大きな同期付けと言えます。

この授業で成功する鍵は、毎週の予習と復習、そしてクラスでのディスカッションに積極的に参加することです。

宿題や質問事項等に関するフィードバックは基本的に授業時間内に行いますが、hoppiiを通じて行う場合もあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	授業紹介	シラバスの確認 授業運営の紹介 アイスブレイカー
2	「鎖国」とグローバル化(1)	日本の「閉鎖」
3	「鎖国」とグローバル化(2)	使節団
4	「鎖国」とグローバル化(3)	「蘭学」と西洋の科学と技術の伝来
5	「鎖国」とグローバル化(4)	漂流人と放浪者
6	「鎖国」とグローバル化(5)	「十字架、鯨と大砲」
7	第2次グローバル化における日本(1)	日本帝国主義の曙
8	第2次グローバル化における日本(2)	大規模な移民
9	学生による発表①	史料の紹介と分析
10	学生による発表②	史料の紹介と分析
11	学生による発表③	史料の紹介と分析
12	学生による発表④	史料の紹介と分析
13	学生による発表⑤	史料の紹介と分析
14	まとめ	後期に対する振り返りと話し合い・議論・総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

予習、復習、課題や発表の準備が毎回求められます。大学設置基準によれば、2単位の講義及び演習の準備・復習時間は1回につき4時間以上とされています。

【テキスト（教科書）】

ほぼ毎回授業中に配布しますので、教科書を購入する必要はありません。

【参考書】

必要に応じて授業中に指摘します。

【成績評価の方法と基準】

- ・グループワーク、小テスト等(授業内):25%
- ・宿題、「予習シート」(自宅):20%
- ・発表(史料の紹介と説明)：35%
- ・出席点:20%

※欠席1回につき、「出席点」が10%下がる。3回以上欠席した場合は不合格となり、単位はもらえない。何らかの理由で欠席した場合は、直ちに教員にメール等で連絡して説明すること。正当な理由なく20分以上遅刻した場合は、欠席とみなす。

【学生の意見等からの気づき】

(初めての授業なので、該当しない。)

【学生が準備すべき機器他】

資料の共有などに、Google ClassroomやHoppiiを使いますので、必要な機器や情報環境は備えておいた方が良いでしょう。

【その他の重要事項】

履修者の人数、個人背景(言語レベル等)、希望等に応じて上記の【授業計画】が変更されることも考えられます。

【Outline (in English)】

The main purpose of this course is for students to acquire knowledge and think about "How Japan/Japanese culture was introduced to the West", mainly focusing on some aspects of the "history of Japan - European / American relations", setting them back in the context of the history of globalisation.

One other purpose is for the students to learn about and use methods to read and analyse historical documents, both in English and in Japanese.

It is not a goal of this seminar to acquire proficiency in English, Japanese, or any other language, therefore students are welcome whatever their language proficiency is.

Students will deal with reading various historical texts, study the vocabulary, and will discuss these and try to answer questions about them.

The format of the course will be as interactive and participatory as possible, with the help of screened slides in order to explain important facts and/or concepts. Classes will focus on group work, cooperation between students to understand the texts and answer questions, in order to build a common knowledge about the "history of Japan - European / American relations" in the context of the history of globalisation.

The key to success in this course is weekly preparation and review of the class content, and active participation during class discussion.

LANF300LA

フランス語コミュニケーション(中・上級) A 2017年度以降入学者

ル・ルー清野 ブレンダン

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 1/Wed.1

単位数：2 単位

定員制 (20 名)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

この授業は A1 レベルに達している学生 (つまり 2, 3 セメスターの学習経験) を対象としています。学生達は、日常会話でネイティブがよく使うフレーズを中心に、自然な発音及び独特な表現を勉強し、フランス語でのコミュニケーションの基本能力を習得します。フランス語圏の文化に触れる機会も、勿論多く設けてあります。

尚、この授業はできるだけフランス語で進めていきます。初心者の方から、特にフランス語の環境に置かれていない学生の場合は、最初からフランス語に慣れるのにいわゆる「没入法 ("immersion")」が最も効果的な方法の一つなのです。

【到達目標】

この授業では、日常会話の基礎的な語彙と言い回しを身につけることを目標とします。つまり、正確なフランス語の発音を身に付けたり、日常会話で使える言葉を覚えたりして、積極的に会話ができるようになることを目指します。

この授業を通じて、A1 レベルの学生達が完全な A2 レベルに向けて系統的に進歩することができます。DELF A2 (仏検準 2 級・2 級) や Study Abroad 留学プログラムなどのフランス滞在のための直接の準備にもなります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

ODYSSÉE A2 は、ライティングと文法の体系的な復習を含め、オーラルコミュニケーションに重点を置いています。どんな学生でも自信を持って上達できるプログレッシブな教科書です。また、付属の課題や練習問題等により、授業外の自習も可能となっています。

尚、内容は非常にバラエティに富んでおり、世界中を旅しながらフランス語圏の多くの文化的側面を発見することができます。

この授業では、作文やリーディングマラソン (フランス語多読) のような課題も課せられますので、そのつもりで下さい。宿題や質問事項等に関するフィードバックは基本的に授業時間内に行いますが、hoppii を通じて行う場合もあります。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Orientation Unité 1 L1	Faire connaissance
2	Unité 1 L2	Mes meilleurs amis
3	Unité 1 L3	Sorties entre amis
4	Unité 1 L4	Une situation imprévue
5	Unité 2 L1	1,2,3; prêts?
6	Unité 2 L2	Partez!
7	Unité 2 L3	D'autres quotidiens
8	Unité 2 L4	Respectez les règles
9	Unités 1 et 2	Bilan et évaluation
10	Unité 3 L1	Que s'est-il passé?
11	Unité 3 L2	Tout change avec le temps
12	Unité 3 L3	C'est leur histoire
13	Unité 3 L4	C'était terrible!

14 Unité 3

Bilan et évaluation

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

言語というものは、他の科目と違い、教科書や他人のメモを見るだけで覚えられるものではないので、欠席すると大変なことになってしまいます。フランス語は自分で聞いて理解し、自分で口にし、はじめて身に付くものなので、毎回授業に積極的に参加することは最も重要なことで成功への鍵です。

また、予習・復習は必須。本授業の準備学習・復習時間は 2 時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

ODYSSÉE, Niveau A2 ; A. Bredelet, B. Mègre, W. M. Rodrigues ; CLE International

ISBN : 978-2-09-035572-7

【参考書】

仏和・和仏辞書 (本でも、電子辞書でも、アプリでも) を持参することが望ましい。

【成績評価の方法と基準】

・宿題、(小) テスト、ミニ発表等: 約 40 %

・"リーディングマラソン" (フランス語多読): 約 20 %

・作文: 約 20 %

・出席点: 約 20%。尚、出席点に関しては減点方式をとり、4 回目の欠席で不合格となります。遅刻は 2 回で欠席扱いとなり、遅延証明は 2 回まで認めます。

【学生の意見等からの気づき】

(初めての授業なので、該当しない。)

【その他の重要事項】

授業中、頻繁に質問に答えたり発言したりすることがありますので、そのつもりで積極的に授業に参加しましょう!

【Prerequisite】

履修の条件として、フランス語 A1 レベルが必須。

【Outline (in English)】

This course is for intermediate students with A1 level in French. Students will methodically improve their overall communication skills up to the A2 level. Students general knowledge about "francophonie" will also be strengthened.

Active participation in class is essential. Exercises or tasks will be given for the next class almost every week (thorough revision of vocabulary and/or grammar points, theme-related papers or presentations, readings, etc.).

Depending on the tasks involved, homework preparation will range from one to three hours.

Grading criteria are as follows:

・Homework, (short) tests and presentations: app.40 %

・"Reading marathon" (Extensive reading): app.20 %

・Essays: app.20 %

・Attendance: app.20%。

LANF300LA

フランス語コミュニケーション(中・上級) B 2017年度以降入学者

ル・ルー清野 ブレンダン

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 1/Wed.1

単位数：2 単位

定員制 (20 名)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

この授業は A1 レベルに達している学生 (つまり 2, 3 セメスターの学習経験) を対象としています。学生達は、日常会話でネイティブがよく使うフレーズを中心に、自然な発音及び独特な表現を勉強し、フランス語でのコミュニケーションの基本能力を習得します。フランス語圏の文化に触れる機会も、勿論多く設けてあります。

尚、この授業はできるだけフランス語で進めていきます。初心者の方から、特にフランス語の環境に置かれていない学生の場合は、最初からフランス語に慣れるのにいわゆる「没入法 ("immersion")」が最も効果的な方法の一つなのです。

【到達目標】

この授業では、日常会話の基礎的な語彙と言い回しを身につけることを目標とします。つまり、正確なフランス語の発音を身に付けたり、日常会話で使える言葉を覚えたりして、積極的に会話ができるようになることを目指します。

この授業を通じて、A1 レベルの学生達が完全な A2 レベルに向けて系統的に進歩することができます。DELF A2 (仏検準 2 級・2 級) や Study Abroad 留学プログラムなどのフランス滞在のための直接の準備にもなります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

ODYSSÉE A2 は、ライティングと文法の体系的な復習を含め、オーラルコミュニケーションに重点を置いています。どんな学生でも自信を持って上達できるプログレッシブな教科書です。また、付属の課題や練習問題等により、授業外の自習も可能となっています。

尚、内容は非常にバラエティに富んでおり、世界中を旅しながらフランス語圏の多くの文化的側面を発見することができます。

この授業では、作文やリーディングマラソン (フランス語多読) のような課題も課せられますので、そのつもりでいて下さい。宿題や質問事項等に関するフィードバックは基本的に授業時間内に行いますが、hoppii を通じて行う場合もあります。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Orientation Unité 4 L1	Quel caractère!
2	Unité 4 L2	Qui suis-je?
3	Unité 4 L3	C'est ma vie!
4	Unité 4 L4	Réussir un entretien
5	Unité 5 L1	Tendance wax
6	Unité 5 L2	Des vêtements bien chauds
7	Unité 5 L3	Tout s'achète en un clic!
8	Unité 5 L4	Dépenser sans compter?
9	Unités 4 et 5	Bilan et évaluation
10	Unité 6 L1	Des projets?
11	Unité 6 L2	On ira voir le match?
12	Unité 6 L3	On part en week-end!
13	Unité 6 L4	Tout va bien?

14 Unité 6

Bilan et évaluation

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

言語というものは、他の科目と違い、教科書や他人のメモを見るだけで覚えられるものではないので、欠席すると大変なことになってしまいます。フランス語は自分で聞いて理解し、自分で口にし、はじめて身に付くものなので、毎回授業に積極的に参加することは最も重要なことで成功への鍵です。

また、予習・復習は必須。本授業の準備学習・復習時間は 2 時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

ODYSSÉE, Niveau A2 ; A. Bredelet, B. Mègre, W. M. Rodrigues ; CLE International

ISBN : 978-2-09-035572-7

【参考書】

仏和・和仏辞書 (本でも、電子辞書でも、アプリでも) を持参することが望ましい。

【成績評価の方法と基準】

・宿題、(小) テスト、ミニ発表等: 約 40 %

・"リーディングマラソン" (フランス語多読): 約 20 %

・作文: 約 20 %

・出席点: 約 20%。尚、出席点に関しては減点方式をとり、4 回目の欠席で不合格となります。遅刻は 2 回で欠席扱いとなり、遅延証明は 2 回まで認めます。

【学生の意見等からの気づき】

(初めての授業なので、該当しない。)

【その他の重要事項】

授業中、頻繁に質問に答えたり発言したりすることがありますので、そのつもりで積極的に授業に参加しましょう!

【Prerequisite】

履修の条件として、フランス語 A1 レベルが必須。

【Outline (in English)】

This course is for intermediate students with A1 level in French. Students will methodically improve their overall communication skills up to the A2 level. Students general knowledge about "francophonie" will also be strengthened.

Active participation in class is essential. Exercises or tasks will be given for the next class almost every week (thorough revision of vocabulary and/or grammar points, theme-related papers or presentations, readings, etc.).

Depending on the tasks involved, homework preparation will range from one to three hours.

Grading criteria are as follows:

・Homework, (short) tests and presentations: app.40 %

・"Reading marathon" (Extensive reading): app.20 %

・Essays: app.20 %

・Attendance: app.20%。

LANr300LA

第三外国語としてのロシア語 A 2017 年度以降入学者**木部 敬**

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 2/Wed.2

単位数：2 単位

定員制 (30 名)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ロシア語初級文法。ロシア文字とその発音、最も基礎的な文法を 3 か月で学ぶ。ロシア語の学習は、文法の後、会話や文章に向かうのが効率的であるため、まずはロシア語文法の大きな枠組みを素早くつかむことを目指す。

【到達目標】

簡単なロシア語の文章を読んだり書いたりすることができる。簡単なロシア語の会話ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

初めてロシア語を学ぶ人を対象とします。

ポイントは以下の 4 点です。1) 文字と発音、2) 名詞の性・数・格、3) 動詞の現在形・過去形・未来形、4) 動詞の不完了体と完了体。これらのポイントを、全部で 12 課のみのコンパクトな教科書を用いて順次学んでいきます。

文法の学習が中心ですので、文法事項の解説の後、練習問題で理解を定着させる実習型の授業になります。

例年 3・4 年生の履修者が多いことに配慮し、学習支援システムを活用することで、授業時間外での学習を行いやすいように工夫します。学習支援システムで課題を提示し、授業時間内に小テストを行います。また、これらの答案を採点の上返却したり、解説を加えながら正解を示したりすることによって、各自で自身の理解の程度を確認できるようにします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	文字と発音 1	アルファベットとその発音
第 2 回	文字と発音 2	単語の発音
第 3 回	名詞、形容詞	名詞の性、名詞の複数形、形容詞の性・数変化
第 4 回	動詞の現在形	人称代名詞、動詞の現在形（人称変化）
第 5 回	「これは（誰々）の（何々）です」	所有代名詞、基本的な文、イントネーション
第 6 回	「（何々）を」、動詞の過去形	名詞の対格、動詞の過去形（性・数変化）
第 7 回	動詞の未来形、「（どこどこ）で」	動詞の未来形（人称変化）、名詞の前置格
第 8 回	「（どこどこ）へ行く」	移動の動詞（定動詞／不定動詞）
第 9 回	「（何々）の」、「（何々）を持っている／持っていない」	名詞の生格
第 10 回	「（何々）に・へ」、「今日は寒い」	名詞の与格、形容詞の短語尾形、無人称文
第 11 回	「（何々）で・によつて」、「（何々）に取り組む」	名詞の造格、ся 動詞、人称代名詞・疑問詞の格変化
第 12 回	「している／しおえる」	動詞の体（不完了体／完了体）

第 13 回 形容詞、関係代名詞 形容詞の格変化、関係代名詞の性・数・格変化

第 14 回 期末試験、まとめと解説 文法問題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習・復習・宿題は 1 回につき 2 時間を標準とします。単語や例文の暗記に努めましょう。

【テキスト（教科書）】

朝妻恵里子、クセーニヤ・ゴロウイナ『ミニマムロシア語』朝日出版社、2021 年、2000 円＋税。

辞書は必要ありません。

【参考書】

黒田龍之助『ロシア語のしくみ』白水社、2009 年。

東一夫・東多喜子『標準ロシア語入門（改訂版）』白水社、1994 年。

【成績評価の方法と基準】

平常点（課題、小テスト）20 %、期末試験 80 %。

ロシア語は、学習の積み上げが特に大事な言語です（例えば、名詞の性が分らないと、名詞の複数形が分らない。名詞の性と数が分らないと、名詞と形容詞の結合が分らない、また動詞の過去形も分らない、さらには名詞の格も分らない、等々）。一步一步確実にマスターしながら前進することが高い評価につながります。

【学生の意見等からの気づき】

難しいと言われるロシア語初級文法を、より一層整理した上で提示し、良い意味で「気軽に」学習できるものにするようにする。

【Outline (in English)】

Elementary Russian. The aim of this course is to learn the Russian Cyrillic alphabet and pronunciation, and also the most introductory grammar only for three months.

At the end of this course, students should be able to do the followings: 1) to read and write simple Russian, 2) to hold simple Russian conversations.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend 2 hours to understand and master the course content.

Final grade will be decided based on the following: short tests 20%, term-end examination 80%.

LANr300LA

第三外国語としてのロシア語 B 2017 年度以降入学者**木部 敬**

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 2/Wed.2

単位数：2 単位

定員制（30 名）

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ロシア語初級文法。ロシア文字とその発音、最も基礎的な文法を 3 か月で学ぶ。ロシア語の学習は、文法の後、会話や文章に向かうのが効率的な言語であるため、まずはロシア語文法の大きな枠組みを素早くつかむことを目指す。

【到達目標】

簡単なロシア語の文章を読んだり書いたりすることができる。簡単なロシア語の会話ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

初めてロシア語を学ぶ人を対象とします。

ポイントは以下の 4 点です。1) 文字と発音、2) 名詞の性・数・格、3) 動詞の現在形・過去形・未来形、4) 動詞の完了体と完了体。これらのポイントをコンパクトな教材を用いて順次学んでいきます。文法の学習が中心ですので、文法事項の解説の後、練習問題で理解を定着させる実習型の授業になります。

例年 3・4 年生の履修者が多いことに配慮し、学習支援システムを活用することで、授業時間外での学習を行いやすいように工夫します。学習支援システムで課題を提示し、授業時間内に小テストを行います。また、これらの答案を採点の上返却したり、解説を加えながら正解を示したりすることによって、各自で自身の理解の程度を確認できるようにします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	文字と発音 1	アルファベットとその発音
第 2 回	文字と発音 2、名詞、形容詞	単語の発音、名詞の性、形容詞の性変化
第 3 回	所有代名詞	名詞の複数形、所有代名詞の性・数変化、形容詞の性・数変化
第 4 回	「～する」	人称代名詞、動詞の現在形（人称変化）
第 5 回	「(何々) を」	名詞の対格
第 6 回	「～しろ」	動詞の命令形
第 7 回	「(どこどこ) へ行く」	移動の動詞（定動詞／不定動詞）
第 8 回	「(何々、誰々) の」、 「(何々) を持っている」	名詞の生格、所有の表現
第 9 回	「～するだろう」	動詞の未来形（人称変化）
第 10 回	「(どこどこ) で」	名詞の前置格
第 11 回	「～した」、「(誰々) を」	動詞の過去形（性・数変化）、活用体を表す名詞の対格
第 12 回	「(何々、誰々) へ」、 「(何々、誰々) と」	名詞の与格、名詞の造格
第 13 回	「～する／～しおえる」	動詞の体（完了体／完了体）
第 14 回	期末試験、まとめと解説	文法問題

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習・復習・宿題は 1 回につき 2 時間を標準とします。単語や例文の暗記に努めましょう。

【テキスト（教科書）】

中島由美・黒田龍之助・柳町裕子『ロシア語へのパスポート（改訂版）』白水社、2005 年。
辞書は必要ありません。

【参考書】

黒田龍之助『ロシア語のしくみ』白水社、2009 年。
東一夫・東多喜子『標準ロシア語入門（改訂版）』白水社、1994 年。

【成績評価の方法と基準】

宿題 20 %、期末試験 80 %。

ロシア語は、学習の積み上げが特に大事な言語です（例えば、名詞の性が分らないと、名詞の複数形が分らない。名詞の性と数が分らないと、名詞と形容詞の結合が分らない、また動詞の過去形も分らない、さらには名詞の格も分らない、等々）。一步一步確実にマスターしながら前進することが高い評価につながります。

【学生の意見等からの気づき】

難しいと言われるロシア語初級文法を、より一層整理した上で提示し、良い意味で「気軽に」学習できるものにするようにする。

【Outline (in English)】

Elementary Russian. The aim of this course is to learn the Russian Cyrillic alphabet and pronunciation, and also the most introductory grammar only for three months.

At the end of this course, students should be able to do the followings: 1) to read and write simple Russian, 2) to hold simple Russian conversations.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend 2 hours to understand and master the course content.

Final grade will be decided based on the following: short tests 20%, term-end examination 80%.

LANr300LA

第三外国語としてのロシア語中級 2017年度以降入学者
A

エレナ 三神

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 3/Mon.3

単位数：2 単位

定員制 (30 名)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ロシア語初級文法を終えた学生を対象とする読解・文法中心の授業です。ロシアの社会・文化に関するテキストを読み、初級文法を復習しながら中級文法をしっかりと学びます。ネイティブ講師との会話によって、聞き取り能力・会話能力も伸ばします。

この授業はロシア語能力検定試験 3 級、ロシア語能力試験 A2（基本レベル）の受験勉強に役に立ちます。

【到達目標】

社会・文化に関する文書の朗読・理解ができること。さらに同じレベルの文書の翻訳（露和・和露）ができること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

ロシアの日常生活や文化についてのテキストや現代文学のテキストの読解し、単語・文法練習、文章作成の練習、聴解と会話練習を行います。

課題などに対する教員のフィードバックは、課題内容によって授業時や提出した課題につけたコメントの送信などの方法で行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	「ロシア語の学習」	テキストの読解、質疑応答、聴解練習、文法復習
2	「学校と大学」	テキストの読解、質疑応答、聴解練習、文法復習
3	「大学と大学生」	テキストの読解、質疑応答、聴解練習、文法復習
4	「留学生たち」	テキストの読解、質疑応答、聴解練習、文法復習
5	「寮の住まい」	テキストの読解、質疑応答、聴解練習、文法復習
6	「部屋」	テキストの読解、質疑応答、聴解練習、文法復習
7	「一日の流れ」	テキストの読解、質疑応答、聴解練習、文法復習
8	「週のスケジュール」	テキストの読解、質疑応答、聴解練習、文法復習
9	「休暇の過ごし方」	テキストの読解、質疑応答、聴解練習、文法復習
10	「好きなこと」	テキストの読解、質疑応答、聴解練習、文法復習
11	移動の表現	テキストの読解、質疑応答、聴解練習、文法復習
12	「図書館に行く」	テキストの読解、質疑応答、聴解練習、文法復習
13	復習	聴解、文法練習
14	期末試験	筆記試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

新出単語の暗記をできる限り行って授業に臨んでください。本授業の準備学習・復習時間は合わせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業時及び学習支援システムでプリントを配布します。

【参考書】

『初級ロシア語』法政大学

【成績評価の方法と基準】

期末試験 50%、出席および宿題・授業への取り組み 50%

【学生の意見等からの気づき】

成績評価の基準を明確にします。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムにアクセスできる端末(PC やタブレットなど)が必要になります。

【その他の重要事項】

履修者のニーズや能力に応じて授業内容は多少変更することができます。

【Outline (in English)】**(Course outline)**

The main objective of the course is to enable students to develop the basic ability to read and understand Russian texts about Russian everyday life and culture. The students will develop an understanding of Russian grammar and widely improve their writing skills in Russian language. This course also enhances the development of students' skill in listening and comprehension as well as Russian conversation skills. This course will help you to prepare for the Russian Language Proficiency Test Level 3 or the TRKI A2 (Basic Level).

(Learning Objectives)

At the end of the course, students are expected to be able to read and understand texts read in class in Russian. Students should be able to translate texts of the same level.

(Learning activities outside of classroom)

Students are expected to memorize the new vocabulary before coming to class. There is a homework after each class. The standard preparation and revision time for this class is one hour.

(Grading Criteria /Policy)

Term-end examination: 50%、in class contribution (including homework and words test): 50%

LANr300LA

第三外国語としてのロシア語中級 B 2017年度以降入学者

エレナ 三神

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 3/Mon.3

単位数：2 単位

定員制 (30 名)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

春学期に引き続きロシア語の解説と文法中心の授業です。ロシアの社会・文化に関する文章を読み、文法基礎を復習しながら中級文法をしっかりと学びます。ネイティブ講師との会話によって、聞き取り能力・会話能力も伸ばします。

この授業はロシア語能力検定試験 3 級、ロシア語能力試験 (T P K I) A2 レベルの受験勉強にも役立ちます。

【到達目標】

授業で読んだ文書などをロシア語で朗読・理解できること。さらに同じレベルの文書の翻訳（露和・和露）ができること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

ロシアの日常生活や文化についてのテキストや現代文学のテキストを解説し、単語・文法練習、文章作成の練習、聴解と会話練習を行います。

課題などに対する教員のフィードバックは、課題内容によって授業時や提出した課題につけたコメントの送信などの方法で行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	お食事	テキストの読解、会話練習
2	カフェやレストランにて	テキストの読解、会話練習
3	手紙を書く	テキストの読解、会話練習
4	郵便局にて	テキストの読解、会話練習
5	プレゼントの文化	テキストの読解、会話練習
6	お買い物	テキストの読解、会話練習
7	招待する	テキストの読解、会話練習
8	病気と健康	テキストの読解、会話練習
9	病院にて	テキストの読解、会話練習
10	街の見学に行く	テキストの読解、会話練習
11	旅行に行く	テキストの読解、会話練習
12	空港にて	テキストの読解、会話練習
13	復習	テキストの読解、会話練習
14	期末試験	筆記試験と解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

新出単語の学習はオンラインでできるサイトを紹介します。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業時及び学習支援システムにて授業のプリントを配布します。

【参考書】

『初級ロシア語』法政大学

【成績評価の方法と基準】

学期末試験 50 %、出席、宿題、授業への取り組み 50 %

【学生の意見等からの気づき】

学期末試験の範囲を明確にします。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムにアクセスできる端末 (PC やタブレットなど) が必要になります。

【その他の重要事項】

履修者のニーズや能力に応じて授業内容は多少変えることができます。

【Outline (in English)】

(Course outline)

The main objective of the course is to enable students to develop the basic ability to read and understand Russian texts about Russian everyday life and culture. The students will develop an understanding of Russian grammar and widely improve their writing skills in Russian language. This course also enhances the development of students' skill in listening and comprehension as well as Russian conversation skills. This course will help you to prepare for the Russian Language Proficiency Test Level 3 or the TRKI A2 (Basic Level).

(Learning Objectives)

At the end of the course, students are expected to be able to read and understand texts read in class in Russian. Students should be able to translate texts of the same level.

(Learning activities outside of classroom)

Students are expected to memorize the new vocabulary before coming to class. There is a homework after each class. The standard preparation and revision time for this class is one hour.

(Grading Criteria /Policy)

Term-end examination: 50%、in class contribution (including homework and words test): 50%

LANr300LA

実用ロシア語A

2017年度以降入学者

エレナ 三神

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 4/Mon.4

単位数：2単位

定員制（20名）

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ロシア留学、旅行に必要な会話表現を学習します。テキストを使った学習、ネイティブ講師との会話、リスニング練習により、ロシア語のコミュニケーション力がつきます。

ロシア留学またはロシア語能力検定試験3級、ロシア語能力試験1(TPKII-1、B1)を目指す方にも、語学力を維持するためにすでに合格した方にもおすすめの授業です。

【到達目標】

授業で学んだテーマについてロシア語で会話、読解、聴解ができること。ロシア語能力検定試験3級またはロシア語能力試験 TPKII A2-B1の受験に向けて準備できること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

授業ではテキストのもとで会話表現を学び、それらの使用例を動画や音声資料を使ってヒアリングして、その表現を実際の会話で使う練習を行います。語学力アップのために通訳練習も行います。動画や音声データは授業支援システム経由でダウンロードができます。課題などに対する教員のフィードバックは、課題内容によって授業時や学習支援システム経由や提出した課題につけたコメントなどの方法で行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	自己紹介、名前、挨拶	関係代名詞の用法。 会話練習、リスニング
2	初回場面のトーク	意見を述べる。会話練習・リスニング
3	友好について	性格、家族メンバー、比較表現。会話練習、リスニング
4	人の外見	比較表現、形容詞の与格、慣用句。会話練習、リスニング
5	何を着る	衣類、最上級、形容詞の格変化復習。会話練習、リスニング
6	人の体	年齢や外見の話、比較、чем-те м構文。会話練習、リスニング
7	結婚パーティ	単語復習、関節発話、慣用句。会話練習、リスニング
8	薬局にて	症状の話、診察の表現、薬の購入。会話練習、リスニング
9	健康の維持	再帰動詞、慣用句。会話練習、リスニング
10	スポーツ	会話練習、リスニング
11	身近な人々について	人のことについて言える表現の復習、会話練習、リスニング
12	友人へのメール	メールの書き方、構成。会話練習、作文
13	総合復習	1~12の復習
14	期末試験	期末試験と解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回音声データを使った宿題があります。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業時及び学習支援システムにて毎回授業プリントを配布します。

【参考書】

「大学のロシア語 I・基礎力養成テキスト」沼野恭子他（著）東京外国語大学出版社

【成績評価の方法と基準】

筆記試験 50%、出席率・宿題・授業への取り組み 50%

【学生の意見等からの気づき】

いつでも学生からのメールに対応できるようにします。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムからダウンロードした PDF プリントを印刷できるプリンターがあれば便利です。Hoppii 学習支援システムにアクセスできる端末が必要です。

【その他の重要事項】

学生の実際ロシア語能力や学習目的に合わせて授業内容とその難易度は変更できます。

【Outline (in English)】

(Course outline)

The main objective of the course is to enable students to develop their Russian language communication ability as a preparing to abroad learning and/or tourism. The students will develop an understanding of practical Russian grammar, will widely improve their Russian listening and conversation skills.

This course is recommended for students who want to study abroad or to pass the Russian Language Proficiency Test Level 3 or TPKII B1, as well as for those who have already passed the test to maintain their language skills.

(Learning Objectives)

At the end of the course, students are expected to be able to speak, read and listen in Russian on the topics studied in class. The students will be prepared to take the Russian Language Proficiency Test Level 3 or the Russian Language Proficiency Test TPKII A2-B1.

(Learning activities outside of classroom)

As a learning activity outside of classroom there will be a homework assignment for each lesson to review the vocabulary covered in class and to listen. Your required study time is at least one hour for each class meeting.

(Grading Criteria /Policy)

Term-end examination: 50%, in class contribution (including homework and words test): 50%

LANr300LA

実用ロシア語 B

2017 年度以降入学者

エレナ 三神

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 4/Mon.4

単位数：2 単位

定員制 (20 名)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

ロシア留学、旅行に必要な会話表現を学習します。テキストを使った学習、ネイティブ講師との会話、動画鑑賞やリスニング練習により、ロシア語のコミュニケーション力がつきます。

ロシア留学またはロシア語能力検定試験 3 級、ロシア語能力試験 (T P K И) B1 の合格を目指す方にも、語学力を維持するためにすでに合格した方にもおすすめの授業です。

【到達目標】

授業で学んだテーマについてロシア語で会話、読解、聴解ができること。ロシア語能力検定試験 3 級またはロシア語能力試験 T P K И A2-B1 の受験に向けて準備できること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

授業ではテキストのもとで会話表現を学び、それらの使用例を動画や音声資料を使ってヒアリングして、その表現を実際の会話で使う練習を行います。語学力アップのために通訳練習も行います。動画や音声データは授業支援システム経由でダウンロードができます。課題などに対する教員のフィードバックは、課題内容によって授業時や学習支援システム経由や提出した課題につけたコメントなどの方法で行います。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】
なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	旅行先のホテル	ホテルの種類や特徴について話す。リスニング練習、会話練習
2	ホテルの受付	予約する、ホテルスタッフと話す。リスニング練習、会話練習
3	有名なホテル	接頭辞の移動動詞。リスニング練習、会話練習
4	住まいについて	住まいの種類や特徴。リスニング練習、会話練習
5	部屋について	場所の前置詞、与格の復習。リスニング練習、会話練習
6	引越しパーティ	慣用句。リスニング練習、会話練習
7	食べ物	料理、食べ物。リスニング練習、会話練習
8	食生活	生格、造格の復習。リスニング練習、会話練習
9	スーパーの買い物	数字と複数生格。リスニング練習、会話練習
10	ファストフード店	不定代名詞。リスニング練習、会話練習
11	料理を作る	レシピ、程度表現。リスニング練習、会話練習
12	レストラン	お食事エチケット、慣用句。リスニング練習、会話練習
13	総合復習	1～12 の復習

14 期末試験

筆記試験と解説

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

毎回音声データを使った宿題があります。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

授業時及び学習支援システムにて毎回授業プリントを配布します。

【参考書】

「大学のロシア語 I・基礎力養成テキスト」沼野恭子他 (著) 東京外国語大学出版社

【成績評価の方法と基準】

筆記試験 50 %、出席率・宿題・授業への取り組み 50 %

【学生の意見等からの気づき】

いつでも学生からのメールに対応できるようにします。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムからダウンロードした PDF プリントを印刷できるプリンターがあれば便利です。Hoppii 学習支援システムのアクセスできる端末が必要です。

【その他の重要事項】

学生の実際ロシア語能力や学習目的に合わせて授業内容とその難易度は変更できます。

【Outline (in English)】

(Course outline)

The main objective of the course is to enable students to develop their Russian language communication ability as a preparing to abroad learning and/or tourism. The students will develop an understanding of practical Russian grammar, will widely improve their Russian listening and conversation skills.

This course is recommended for students who want to study abroad or to pass the Russian Language Proficiency Test Level 3 or T P K И B1, as well as for those who have already passed the test to maintain their language skills.

(Learning Objectives)

At the end of the course, students are expected to be able to speak, read and listen in Russian on the topics studied in class. The students will be prepared to take the Russian Language Proficiency Test Level 3 or the Russian Language Proficiency Test T P K И A2-B1.

(Learning activities outside of classroom)

As a learning activity outside of classroom there will be a homework assignment for each lesson to review the vocabulary covered in class and to listen. Your required study time is at least one hour for each class meeting.

(Grading Criteria / Policy)

Term-end examination: 50%, in class contribution (including homework and words test): 50%

LANr300LA

ロシア語講読 A

2017 年度以降入学者

木部 敬

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 2/Mon.2

単位数：2 単位

定員制 (30 名)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

初級文法を修了した学生が対象の授業です。様々な文章を読んでいくことを通じて、より高度な読解力を培うことを目的とします。

基本的にはロシア語から日本語への訳出を行います。複雑な構造のロシア語を理解するのに必要な文法の学習も行います。

【到達目標】

辞書を用いて、自分自身の力で、書籍・新聞や雑誌・ネット上のテキストなど、生きた現実のロシア語の文章を正確に理解し、的確な日本語に訳すことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

事前に各自でテキストを読解し、日本語に訳出して、それらに対して教師がコメントや解説を加えるという演習形式の授業となります。文法の学習に際しては、練習問題を解く場合もあります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	基礎練習（その 1）能動形容動詞	能動形容動詞現在と能動形容動詞過去の作り方と用法
2	基礎練習（その 2）受動形容動詞	受動形容動詞現在と受動形容動詞過去の作り方と用法
3	基礎練習（その 3）副動詞	不完了体副動詞と完了体副動詞の作り方と用法
4	テキスト講読（その 1）回想、科学	短文「ある音楽家の体験」、「チンパンジーと会話能力」
5	テキスト講読（その 2）ユーモア、ルポルタージュ	短文「少年の買物」、「ネヴァ川への旅客機の不時着」
6	テキスト講読（その 3）ルポルタージュ、科学	短文「嵐の海の救出劇」、「自殺に関する 19 世紀科学」
7	テキスト講読（その 4）おとぎばなし	短文「春夏秋冬」
8	テキスト講読（その 5）文学、芸術	短文「美（『カラマーゾフの兄弟』より）」、「映画芸術」
9	テキスト講読（その 6）文化、ユーモア	短文「祖国の外で外国語によって作品を執筆すること」、「親切心」
10	テキスト講読（その 7）歴史	短文「アレクサンドル 1 世」、「ニコライ 2 世」
11	テキスト講読（その 8）文学	短文「プーシキン」、「ドストエフスキー」
12	テキスト講読（その 9）文学	短文「トルストイ」
13	テキスト講読（その 10）文学	短文「パステルナーク『ドクトル・ジバゴ』」
14	期末試験	ロシア語テキストの日本語訳とその解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に各自で辞書を使ってテキストを日本語に訳し、訳文を提出する。授業中に小さなテキストが配られ、その場で訳する場合もある。本授業の準備・復習時間は 4 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

プリントを配布する。

辞書は持参すること。

【参考書】

和久利誓一『入門ロシア語文法』改訂版、白水社。

【成績評価の方法と基準】

平常点（訳文提出など）40 %、期末試験 60 %。

【学生の意見等からの気づき】

テキストの意味が理解できる段階にとどまらず、整った日本語訳（翻訳）を作成するよう促す。

【Outline (in English)】

Russian reading A.

This is an intermediate course for students who want to improve their Russian reading skills. Students will be reading Russian texts on a variety of topics. Basically they will translate them into Japanese, but also will have to learn the intermediate grammar to be required to understand complicated sentences.

At the end of this course, students should be able to understand and translate into Japanese, using a dictionary, real-life Russian texts such as books, newspapers, magazines and texts on the internet.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend 4 hours to understand the course content.

Final grade will be decided based on the following: short reports 40%, term-end examination 60%.

LANr300LA

ロシア語講読 B

2017 年度以降入学者

木部 敬

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 2/Mon.2

単位数：2 単位

定員制 (30 名)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

初級文法を修了した学生が対象の授業です。様々な文章を読んでいくことを通じて、より高度な読解力を培うことを目的とします。基本的にはロシア語から日本語への訳出を行います。複雑な構造のロシア語を理解するのに必要な文法の学習も行います。

【到達目標】

辞書を用いて、自分自身の力で、書籍・新聞や雑誌・ネット上のテキストなど、生きた現実のロシア語の文章を正確に理解し、的確な日本語に訳すことができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

事前に各自でテキストを読解し、日本語に訳出して、それらに対して教師がコメントや解説を加えるという演習形式の授業となります。文法の学習に際しては、練習問題を解く場合もあります。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】
なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	テキスト講読 (その1) 歴史	ロシアと日本に関する長文「ロシアにおける最初の日本人 (第 1 節)」
2	テキスト講読 (その2) 歴史	ロシアと日本に関する長文「ロシアにおける最初の日本人 (第 2 節)」
3	テキスト講読 (その3) 歴史	ロシアと日本に関する長文「ロシアにおける最初の日本人 (第 3 節)」
4	テキスト講読 (その4) 歴史	ロシアと日本に関する長文「ロシアにおける最初の日本人学生 (第 1 節)」
5	テキスト講読 (その5) 歴史	ロシアと日本に関する長文「ロシアにおける最初の日本人学生 (第 2 節)」
6	テキスト講読 (その6) 歴史	ロシアと日本に関する長文「ロシアにおける最初の日本人学生 (第 3 節)」
7	テキスト講読 (その7) 歴史	ロシアと日本に関する長文「ロシアにおける最初の日本人学生 (第 4 節)」
8	テキスト講読 (その8) 歴史	ロシアと日本に関する長文「日本における最初のロシア人聖職者 (第 1 節)」
9	テキスト講読 (その9) 歴史	ロシアと日本に関する長文「日本における最初のロシア人聖職者 (第 2 節)」
10	テキスト講読 (その10) 歴史	ロシアと日本に関する長文「日本における最初のロシア人聖職者 (第 3 節)」

11	テキスト講読 (その11) 文化	ロシアと日本に関する長文「ロシアにおける『源氏物語』 (第 1 節)」
12	テキスト講読 (その12) 文化	ロシアと日本に関する長文「ロシアにおける『源氏物語』 (第 2 節)」
13	テキスト講読 (その13) 文化	ロシアと日本に関する長文「ロシアにおける『源氏物語』 (第 3 節)」
14	期末試験	ロシア語テキストの日本語訳とその解説

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

事前に各自で辞書を使ってテキストを日本語に訳し、訳文を提出する。本授業の準備・復習時間は 4 時間を標準とする。

【テキスト (教科書)】

プリントを配布する。
辞書は持参すること。

【参考書】

和久利誓一『入門ロシア語文法』改訂版、白水社。

【成績評価の方法と基準】

平常点 (訳文提出など) 40 %、期末試験 60 %。

【学生の意見等からの気づき】

テキストの意味が理解できる段階にとどまらず、整った日本語訳 (翻訳) を作成するよう促す。

【Outline (in English)】

Russian reading B.

This is an intermediate course for students who want to improve their Russian reading skills. Students will be reading Russian texts on a variety of topics. Basically they will translate them into Japanese, but also will have to learn the intermediate grammar to be required to understand complicated sentences.

At the end of this course, students should be able to understand and translate into Japanese, using a dictionary, real-life Russian texts such as books, newspapers, magazines and texts on the internet.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend 4 hours to understand the course content.

Final grade will be decided based on the following: short reports 40%, term-end examination 60%.

LANr300LA

時事ロシア語A

2017年度以降入学者

油本 真理

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 3/Tue.3

単位数：2 単位

定員制 (30 名)

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ウクライナ侵攻を受け、ロシア社会にも注目が集まっている。ロシアではなぜプーチン大統領が支持されてきたのか。ウクライナや西側についてどのような認識を持っているのか。そして、今般の侵攻はどのように受け止められているのか。これらの問いに答えるためのほぼ唯一のアプローチといってもよいのが世論調査である。本授業では、ロシアの各種世論調査を題材とし、ロシア社会の実態について考える。なお、世論調査理解の核となる質問文と回答の読解は比較的容易なので、長文や複雑な文章の読解に慣れている必要はない。場合によっては日本語や英語の文献も併用する。ロシア語を読む練習をしたい学生だけでなく、ロシア社会について考えてみたい学生の受講を歓迎する。

【到達目標】

- (1) ロシア語の時事的な文章を辞書を用いながら読むことができる。
- (2) 現在のロシアの政治・社会・文化等について自分なりの分析をすることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

本授業は毎回対面形式で行う。まずは政治、国際関係、社会・経済、文化に関わる世論調査についてのロシア語文章を全員で講読する予定である。その後、自分が興味を持つテーマに関わる世論調査のデータを発掘し、簡単な内容紹介と考察を発表してもらう。少人数の授業となることが予想されるため、フィードバックはその場で行う。また、要望に応じて訳文や報告資料の添削も実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	ロシアにおける世論調査についてのレクチャー
第 2 回	政権の支持率	世論調査結果の講読
第 3 回	ウクライナ侵攻	世論調査結果の講読
第 4 回	世界各国の好感度	世論調査結果の講読
第 5 回	抗議運動	世論調査結果の講読
第 6 回	家族・ジェンダー	世論調査結果の講読
第 7 回	歴史観	世論調査結果の講読
第 8 回	報道の受け止め	世論調査結果の講読
第 9 回	景気・経済	世論調査結果の講読
第 10 回	生活習慣	世論調査結果の講読
第 11 回	考察①	受講者による世論調査結果の紹介・考察と討論
第 12 回	考察②	受講者による世論調査結果の紹介・考察と討論
第 13 回	考察③	受講者による世論調査結果の紹介・考察と討論
第 14 回	学期のまとめ	半期の振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

受講者は事前に文章を読み、わからない単語の意味や文法事項を確認してから授業に参加することが求められる。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特になし。講読する文章は配布する。

【参考書】

特になし。テーマに応じて指定する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業への参加度、課題の取り組み）（100 %）

【学生の意見等からの気づき】

関連語彙や文法事項を幅広く紹介することを心がける。

【その他の重要事項】

各回のテーマや授業内容は受講者の人数や関心に合わせて変更する可能性がある。

【Outline (in English)】

【Course outline】

This class will examine the actual state of Russian society through a reading of the results of various public opinion polls. In this class, students are expected to read mainly Russian texts, but Japanese and English literature will also be included depending on the students' Russian language ability.

【Learning Objectives】

The objectives of this course are twofold. First, it will provide training opportunities through which students will be able practice the knowledge acquired on Russian grammar and vocabulary. Second, it will enable students to acquire knowledge on various topics related to politics, economy, diplomacy, society and culture in present Russia.

【Learning activities outside of classroom】

Students are expected to read the relevant part of the textbook before class. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria /Policy】

Grading will be based on class contribution and the quality of assignments.

LANr300LA

時事ロシア語B

2017年度以降入学者

油本 真理

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 3/Tue.3

単位数：2 単位

定員制 (30 名)

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ウクライナ侵攻という事態を受け、ロシアの政治・社会に改めて注目が集まっている。プーチン大統領の下で作られた政治体制は果たしてどのような特徴を持っているのか。そこにはどのような問題があり、なぜ侵攻という事態に至ったのか。そして、ロシアはこれからどこへ向かうのだろうか。本授業では、こうした問題を考えるための手がかりとして、ロシアの各種政治・社会評論を読み、考察する。なお、本授業ではロシア語で書かれた文章の講読を主とするが、受講者の理解度に応じて日本語や英語の文献も併用する。ロシア語を読む練習をしたい学生だけでなく、ロシア社会について考えてみたい学生の受講を歓迎する。

【到達目標】

- (1) ロシア語の時事的な文章を辞書を用いながら読むことができる。
- (2) 現在のロシアの政治・社会・文化等について自分なりの分析をすることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

本授業は毎回対面形式で行う。近年のロシアの政治や社会に関する各種の評論を、その場で意味を取りながら読解する。少人数の授業となることが予想されるため、フィードバックはその場で行う。また、要望に応じて訳文や報告資料の添削も実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の進め方についての説明
第 2 回	プーチン体制①	文章の講読および討論
第 3 回	プーチン体制②	文章の講読および討論
第 4 回	ロシアの歴史と政治①	文章の講読および討論
第 5 回	ロシアの歴史と政治②	文章の講読および討論
第 6 回	ロシア社会の特徴①	文章の講読および討論
第 7 回	ロシア社会の特徴②	文章の講読および討論
第 8 回	ロシアのナショナリズム①	文章の講読および討論
第 9 回	ロシアのナショナリズム②	文章の講読および討論
第 10 回	ウクライナ侵攻①	文章の講読および討論
第 11 回	ウクライナ侵攻②	文章の講読および討論
第 12 回	ロシアの今後①	文章の講読および討論
第 13 回	ロシアの今後②	文章の講読および討論
第 14 回	学期のまとめ	半期の振り返り

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

受講者は事前に文章を読み、わからない単語の意味や文法事項を確認してから授業に参加することが求められる。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特になし。講読する文章は配布する。

【参考書】

特になし。テーマに応じて指定する。

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業への参加度、課題の取り組み）（100 %）

【学生の意見等からの気づき】

受講者のロシア語レベルに応じた文献を選定する。

【Outline (in English)】

【Course outline】

In this class, students will read various essays on Russian politics and society. In this class, students are expected to read mainly Russian texts, but depending on the students' Russian language ability, Japanese and English texts will also be included.

【Learning Objectives】

The objectives of this course are twofold. First, it will provide training opportunities through which students will be able practice the knowledge acquired on Russian grammar and vocabulary. Second, it will enable students to acquire knowledge on various topics related to politics, economy, diplomacy, society and culture in present Russia.

【Learning activities outside of classroom】

Students are expected to read the relevant part of the textbook before class, and prepare Japanese translations by checking the meanings of words and grammatical matters. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria /Policy】

Grading will be based on class contribution and the quality of assignments.

LANe300LA

第三外国語としての中国語 A 2017 年度以降入学者

岩田 和子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 2/Fri.2

単位数：2 単位

定員制（40 名）

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、1 年間（春学期・秋学期）で、中国語の発音と四文型をはじめとする文法の基礎を学びます。秋学期「第三外国語としての中国語 B」とあわせて履修することを推奨します。

【到達目標】

読む、書く、聞く、話す力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

テキストに沿って会話文・文法・練習問題の解説、会話文を日本語から中国語訳、中国語から日本語訳にする練習を行います。そのほか、予習・復習教材として教科書準拠のイーラーニング教材（e 宿題）を使用します。本授業を通して、基本的な語彙力を身につけ、文法の基礎を身につけ、初歩的な会話ができるようになることを目指します。質問等へのフィードバックは授業内に適宜行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	「はじめに」「発音 1」	「中国及び中国語に関する概説」 「発音の基本」ピンインの読み方
2	「発音 2」「発音 3」	「発音の基本」ピンインの「発音 3」
3	「発音 3」「第 4 課」	「ピンインの読み方」
4	ピンインの読み方 と発音の復習	「発音 1 から 4」の復習をします。
5	「第 5 課」「第 6 課」	「自己紹介のしかた、あいさつことば」「動詞述語文」
6	「第 7 課」「第 8 課」	「形容詞述語文」「名詞述語文」
7	「第 9 課」「第 10 課」	「主述述語文」「連体修飾語、連用修飾語」
8	「第 11 課」「第 12 課」	「補語」「動詞述語文 1」
9	「第 13 課」「第 14 課」	「動詞述語文 2」「動詞述語文 3」
10	「第 15 課」「第 16 課」	「動詞述語文 4」「動詞述語文 5」
11	「第 17 課」「第 18 課」	「動詞述語文 6」「動詞述語文 7」
12	「第 19 課」「第 20 課」	「完了態」「変化態」
13	「第 1 課から第 20 課」	「第 1 課から第 20 課」までの復習
14	まとめ	「第 1 課から第 20 課」までのまとめと試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 4 時間を標準とします。e 宿題や補助問題などを利用して、各回に学習する内容をしっかりと身につけるようにしましょう。

【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】

千葉謙悟・熊進監修、三省堂編修所編『ベーシッククラウン中日・日中辞典』三省堂
そのほか教場で適宜示します。

【成績評価の方法と基準】

①平常点：50 %

②期末試験：50 %

※ e 宿題への取り組みは別途評価対象とします。

【学生の意見等からの気づき】

引きつづき分かりやすい授業を心がけます。

【学生が準備すべき機器他】

教科書準拠の e ラーニング教材（e 宿題）を使用しますので、各自でスマートフォンあるいは PC ができる環境を整えておいてください。

【Outline (in English)】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Your final grade will be calculated according to the following process:

Usual performance score 50%, Term-end examination: 50%.

LANc300LA

第三外国語としての中国語 B 2017 年度以降入学者

岩田 和子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 2/Fri.2

単位数：2 単位

定員制（40 名）

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

テキストに沿って、1 年間（春学期・秋学期）で、中国語の発音と四文型をはじめとする文法の基礎を学びます。春学期「第三外国語としての中国語 A」とあわせて履修することを推奨します。

【到達目標】

読む、聞く、話す、書く力をバランスよくつけるのが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

テキストに沿って会話文・文法・練習問題の解説、会話文を日本語から中国語訳、中国語から日本語訳にする練習を行います。そのほか、予習・復習教材として教科書準拠の e ラーニング教材（e 宿題）を使用します。本授業を通して、基本的な語彙力を身につけ、文法の基礎を理解し、初歩的な会話ができるようになることを目指します。質問等へのフィードバックは授業内に適宜行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	春学期の復習	「第 1 課から第 20 課」までの復習
2	「第 21 課」「第 22 課」	「経験態」「進行態」「持続態」
3	「第 23 課」「第 24 課」	「形容詞述語文」
4	「第 25 課」「第 26 課」	「形容詞述語文」「名詞述語文」1
5	「第 27 課」「第 28 課」	「名詞述語文」2
6	「第 29 課」「第 30 課」	「連体修飾語」「連用修飾語」
7	「第 31 課」「第 32 課」	「程度補語」「数量補語」
8	「第 33 課」「第 34 課」	「結果補語」「方向補語」
9	「第 35 課」「第 36 課」	「可能補語」「助動詞」
10	「第 37 課」「第 38 課」	「兼語文」「受け身表現」
11	「第 39 課」「第 40 課」	「把構文」「存現文」
12	「第 21 課から第 30 課」	「第 21 課から第 30 課」までの復習
13	「第 31 課から第 40 課」	「第 31 課から第 40 課」までの復習
14	まとめ	「第 21 課から第 40 課」までの試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 4 時間を標準とします。e 宿題や補助問題などを利用して、各回に学習する内容をしっかり身につけるようにしましょう。

【テキスト（教科書）】

『ポイント学習中国語初級改訂版』東方書店

【参考書】

千葉謙悟・熊進監修、三省堂編修所編『ベーシッククラウン中日・日中辞典』三省堂
そのほか教場で適宜示します。

【成績評価の方法と基準】

①平常点：50 %

②期末試験：50 %

※ e 宿題への取り組みは別途評価対象とします。

【学生の意見等からの気づき】

引きつづき分かりやすい授業を心がけます。

【学生が準備すべき機器他】

教科書準拠の e ラーニング教材（e 宿題）を使用します。各自でスマートフォンあるいは PC ができる環境を整えておいてください。

【Outline (in English)】

This is the Chinese course for beginners. The aim of this course is to acquire the basic communication skills of Chinese. We will improve the skills of listening, speaking, reading and writing through studying pronunciation, grammar, conversation and composition.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Your final grade will be calculated according to the following process:

Usual performance score 50%, Term-end examination: 50%.

LANc300LA

中国語コミュニケーション中級A 2017年度以降入学者

周 重雷

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 3/Tue.3

単位数：2 単位

定員制（30名）

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

文法の復習をしつつ、中国語でのさまざまな会話パターンを作り、練習していく。

中国語のコミュニケーション能力のさらなる向上を図る。

【到達目標】

- 1、文法をきちんと把握する。
- 2、発音を綺麗にする。
- 3、日常会話ができるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

毎回配布されている教材に沿って文法を確認する。またさまざまな会話パターンを作り、授業内発表を行う。

また毎回発表した内容の訂正版の音声を LINE などを受け取ることができる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	シラバスの配布 受講生のレベルのチェック
第2回	発音練習	ピンインの復習 発音をチェックする
第3回	人称代名詞と指示代名詞 日常会話	文法を確認したのち、あいさつなどの日常会話を復習する
第4回	述語 会話（1）	文法の確認と自己紹介
第5回	受け答え 授業内発表（1）	文法を確認したのち、自己紹介を各自に発表する
第6回	在と有	方位や場所を意味する表現を学ぶ
第7回	数量詞と連体修飾語	数量詞と連体修飾語の練習をする
第8回	疑問文 会話（2）	ものの尋ね方を学ぶ レストランでの会話を作る
第9回	連用修飾語（1） 授業内発表（2）	副詞と時間詞について勉強する レストランでの会話を発表する
第10回	完了と変化	「了」の様々を学ぶ
第11回	連用修飾語（2）	前置詞構造と副詞を学ぶ
第12回	三量補語 会話（3）	文法を確認したのち、買い物する時の会話パターンを作る
第13回	復習と質疑応答 授業内発表（3）	買い物のシミュレーションをする
第14回	まとめ	口頭テストを行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

オリジナルの会話パターンを作る。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教員によるプリント配布

【参考書】

必要であればその都度に指定する。

【成績評価の方法と基準】

期末試験の成績（60%）と発表（40%）で評価される。

term-end test:60%

presentation:40%

【学生の意見等からの気づき】

自由会話の時間を増やす。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

HSK や中国語検定の受験も推奨される。

【Outline (in English)】

This is the Chinese conversation course for upper intermediate learners. The aim of this course is to master upper intermediate level conversation skill. We will study intermediate vocabulary and grammar, and improve Chinese speaking skill. We should talk by accurate pronunciation.

We should talk daily conversation well.

We should prepare and review about two hours a week.

Term-end test:60%

Presentation:40%

LANc300LA

中国語コミュニケーション中級B 2017年度以降入学者

周 重雷

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 3/Tue.3

単位数：2 単位

定員制（30名）

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

文法を確認しつつ、中国語のさまざまな会話パターンを作り、練習していく。

中国語コミュニケーション能力のさらなる向上を図る。

【到達目標】

- 1、文法をきちんと把握する。
- 2、作文能力を高める。
- 3、日常会話をできるようにする。
- 4、面接やスピーチなど、より高度なコミュニケーション能力を身に付ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

文法と作文の練習を踏まえた上で、さまざまな会話パターンを作り、授業内発表をする。

また発表した内容の訂正版の音声をLINEなどで受け取ることができる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	持続態と進行形 作文	文法を確認したのち、「私の夏休み」を作る
第2回	程度補語 作文のチェック	程度補語について勉強する 作文の添削をする
第3回	比較文と連動文 会話（1）	文法を確認する ホテルでの会話パターンを作る
第4回	構文分析 授業内発表（1）	構文を分析する ホテルでの会話を発表する
第5回	強調と重複	強調構文と重複表現について勉強する
第6回	方向補語	方向補語の用法を学ぶ
第7回	複合方向補語の派生的 用法 会話（2）	文法を確認したのち、乗り物を使う場合の会話を作る
第8回	結果補語 授業内発表（2）	文法を確認したのち、会話を発表する
第9回	可能補語 会話（3）	可能補語を学ぶ スピーチ/ものを語る
第10回	使役と受身 授業内発表（3）	文法を確認したのち、スピーチを発表する
第11回	処置と倒置 ヒアリング（1）	処置文と倒置文について勉強する 映像教材を使って聞き取りをする
第12回	複文一 ヒアリング（2）	複文について勉強する 映像教材の聞き取り
第13回	複文二	接続詞を確認する 復習と質疑応答
第14回	まとめ	口頭テストと総括

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

オリジナルの会話パターンを作る。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教員によるプリント配布

【参考書】

必要であればその都度指定する。

【成績評価の方法と基準】

期末テストの成績（60%）と発表（40%）で評価される。

term-end test:60%

presentation:40%

【学生の意見等からの気づき】

自由会話の時間を増やす。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

HSK や中国語検定の受験も推奨される。

【Outline (in English)】

This is the Chinese conversation course for upper intermediate learners. The aim of this course is to master upper intermediate level conversation skill. We will study intermediate vocabulary and grammar, and improve Chinese speaking skill. We should do some writing and talk by accurate pronunciation. Achieve the high-level that we can use the language for study-abroad or working.

We should prepare and review about two hours a week.

Term-end test:60%

Presentation:40%

LANc300LA

中国語翻訳・通訳 A

2017 年度以降入学者

高田 裕子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 4/Wed.4

単位数：2 単位

定員制 (30 名)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

翻訳学習では、講義・読解・翻訳演習を通じ、翻訳理論ならびに翻訳技法の習得を目指し、日中両語の運用能力を向上させるものである。翻訳実践の過程においては、日中の歴史や文化・社会状況等の知識及び比較言語に関連する検証も併せて行う。

通訳学習においては、通訳技法を異文化コミュニケーション成立の手段と位置づけ、通訳理論に基づく講義と、実践的通訳訓練及び演習を併行して行う。また通訳をするための聞き方・理解・分析・記憶保持・訳出などのプロセスについて、実践を通じて考察する。

【到達目標】

中国語翻訳技法と通訳技法の習得及び中国語と日本語の総合的な運用能力・コミュニケーション能力の向上を目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

翻訳は、授業中に配布するプリント教材に基づく講義と翻訳実践を行い、隔週で翻訳課題の提出を求める。

通訳は、指定教科書に基づく授業進行を行う。予習として、キーワードとキーフレーズのインプット及び音声教材のリプロダクション（復唱）を求め、授業内では、逐次通訳演習を行う。

課題等へのフィードバックは授業時間またはメールを通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	翻訳・通訳概論 通訳訓練法	本科目の学び方等に関する説明 翻訳・通訳概論の講義 通訳訓練法の紹介と実践
2	通訳 1 慣用句・略語・背景知識の重要性を学ぶ	L 1 北京案内 リプロダクション サイトトランスレーション 音読確認
3	翻訳 1 同形語 難訳単語・四字成語・慣用句	テーマの要素を含む短文の翻訳
4	通訳 2 中訳スキル リプロセシングとパラフレーズ 1	L 1 の逐次通訳演習 L 2 東京案内 リプロダクション サイトトランスレーション
5	翻訳 2 省略するスキル	テーマの要素を含む短文の翻訳 応用翻訳
6	通訳 3 役職名、敬称、ビジネスシーンの通訳心得	L 2 の逐次通訳演習 L 3 企業内通訳 リプロダクション サイトトランスレーション
7	翻訳 3 文章記号と表記ルール	テーマの要素を含む短文の翻訳 応用翻訳

8	通訳 3 数字、固有名称、リサーチ	L 3 の逐次通訳演習 L 5 中国事情 リプロダクション サイトトランスレーション
9	翻訳 3 通訳の選択 補って訳すスキル	テーマの要素を含む短文の翻訳 応用翻訳
10	通訳 4 通訳 短期記憶強化 リプロセシングとパラフレーズ 2	L 5 の逐次通訳演習 L 6 日本事情 リプロダクション サイトトランスレーション
11	翻訳 4 時事翻訳 1	最新時事関連の応用翻訳（社会一般テーマ）
12	通訳 5 既習単元の逐次通訳演習	L 6 の逐次通訳演習 L 1～6 の復習
13	翻訳 5 時事翻訳 2	最新時事関連の応用翻訳（経済関連テーマ）
14	翻訳・通訳 総復習	既習内容に関する総まとめと確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

翻訳は講師が指定した課題があれば、期限内に提出する。

通訳は、キーワードとキーフレーズのインプットと教科書付属音声教材のリプロダクション（復唱）と復習が必須。

【テキスト（教科書）】

翻訳：プリント教材

通訳：『日中・中日通訳トレーニングブック』大修館書店

【参考書】

特に指定しないが、授業時間内に参考となる web サイト等は指定することがある。

【成績評価の方法と基準】

授業時間内の回答状況 10 %

課題提出状況 20 %

期末テスト 70 %

【学生の意見等からの気づき】

翻訳課題の難易度は高いが、事前に解説があったので、なんとか取り組むことができた。

中国語の読解力がついた。

【Outline (in English)】

【Course outline】

Through lectures, reading comprehensions and translation exercises, students will learn translation theory and techniques, and improve their ability to use both Japanese and Chinese. In the process of translation practice, knowledge of the history, culture and social situation of Japan and China, as well as comparative language studies, will also be examined.

Interpreting is a means of cross-cultural communication, and lectures based on interpreting theory are combined with practical interpreting training and exercises. In addition, the processes of listening, understanding, analysing, remembering and translating are examined through practice.

【Learning Objectives】

The aim of this course is to help students acquire Chinese translation and interpretation skills, and to improve their overall ability to use and communicate in Chinese and Japanese.

【Learning activities outside of classroom】

The standard preparation and revision time for this subject is two hours each.

For translation, assignments specified by the teacher are to be submitted on time.

Interpreting requires input of key words and phrases, and review and revision of audio material.

【Grading Criteria /Policy】

Responses during class time 10%

Submission of assignments 20%

Final examination 70%

LANc300LA

中国語翻訳・通訳 B

2017 年度以降入学者

高田 裕子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 4/Wed.4

単位数：2 単位

定員制 (30 名)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

翻訳学習では、講義・読解・翻訳演習を通じ、翻訳理論ならびに翻訳技法の習得を目指し、日中両語の運用能力を向上させるものである。翻訳実践の過程においては、日中の歴史や文化・社会状況等の知識及び比較言語に関連する検証も併せて行う。

通訳学習においては、通訳技法を異文化コミュニケーション成立の手段と位置づけ、通訳理論に基づく講義と、実践的通訳訓練及び演習を併行して行う。また通訳をするための聞き方・理解・分析・記憶保持・訳出などのプロセスについて、実践を通じて考察する。

【到達目標】

中国語翻訳技法と通訳技法の習得及び中国語と日本語の総合的な運用能力・コミュニケーション能力の向上を目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

翻訳は、授業中に配布するプリント教材に基づく講義と翻訳実践を行い、隔週で翻訳課題の提出を求める。

通訳は、指定教科書に基づく授業進行を行う。予習として、キーワードとキーフレーズのインプット及び音声教材のリプロダクション(復唱)を求め、授業内では、逐次通訳演習を行う。

課題等へのフィードバックは授業時間またはメールを通じて行う。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】あり/Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	翻訳・通訳概論 通訳訓練法	本科目の学び方等に関する説明 翻訳・通訳概論の講義 通訳訓練法の紹介と実践
2	通訳 1 日中の制度等の違いを 踏まえて通訳する 他	L 8 教育
3	翻訳 1	時事翻訳 1
4	通訳 2 分訳 パブリック・スピーキング	L 8 の逐次通訳演習 L 9 友好都市交流
5	翻訳 2	時事翻訳 2
6	通訳 3 外来語	L 9 の逐次通訳演習 L 10 ファッション
7	翻訳 3	時事翻訳 3
8	通訳 4 固有名詞・作品タイトル 接続詞処理	L 10 の逐次通訳演習 L 11 日本のポップカルチャー
9	翻訳 4	時事翻訳 4
10	通訳 5 IT 関連用語 数字	L 11 の逐次通訳演習 L 12 中国の IT 市場
11	翻訳 5	時事翻訳 5

12	通訳 6 既習単元の逐次通訳演習	L 12 の逐次通訳演習 L 8~12 逐次通訳演習
13	翻訳 6	時事翻訳 6
14	通訳 翻訳 総復習 到達度チェック	既習内容の総まとめと確認

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

翻訳は講師が指定した課題があれば、期限内に提出する。

通訳は、キーワードとキーフレーズのインプットと教科書付属音声教材のリプロダクション(復唱)と復習が必須。

【テキスト(教科書)】

翻訳：プリント教材

通訳：『日中・中日通訳トレーニングブック』大修館書店

【参考書】

特に指定しないが、授業時間内に、参考となる web サイト等を指定することはある。

【成績評価の方法と基準】

授業時間内の回答 10 %

課題提出状況 20 %

期末テスト 70 %

【学生の意見等からの気づき】

翻訳課題の難易度は高いが、事前に解説があったので、なんとか取り組むことができた。

通訳スキルの習得が非常に参考になった。

【Outline (in English)】

【Course outline】

Through lectures, reading comprehensions and translation exercises, students will learn translation theory and techniques, and improve their ability to use both Japanese and Chinese. In the process of translation practice, knowledge of the history, culture and social situation of Japan and China, as well as comparative language studies, will also be examined.

Interpreting is a means of cross-cultural communication, and lectures based on interpreting theory are combined with practical interpreting training and exercises. In addition, the processes of listening, understanding, analysing, remembering and translating are examined through practice.

【Learning Objectives】

The aim of this course is to help students acquire Chinese translation and interpretation skills, and to improve their overall ability to use and communicate in Chinese and Japanese.

【Learning activities outside of classroom】

The standard preparation and revision time for this subject is two hours each.

For translation, assignments specified by the teacher are to be submitted on time.

Interpreting requires input of key words and phrases, and review and revision of audio material.

【Grading Criteria /Policy】

Responses during class time 10%

Submission of assignments 20%

Final examination 70%

LANc300LA

中国語翻訳・通訳C

2017年度以降入学者

王安

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 3/Thu.3

単位数：2単位

定員制（30名）

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中国語入門～初級を修了した学習者を対象に、**HSK3級～5級**（中国語中級～準上級）のレベルの習得を目標とするクラスです。前期は**HSK3級～4級**レベル（中国語検定試験3級）における重要文法項目を確実に把握することによって、中国語文章力、読解力、そして理解力を向上させます。また、大量の作文練習を通して、中級中国語学習者にとって学習の難点となる文法事項を着実に身に着け、中国語の実力や翻訳力を高めていきます。

【到達目標】

- 1、高度な中国語文章力、読解力、理解力を身に着ける。
- 2、中国語中級レベルの重要文法事項を把握する。
- 3、大量の作文練習を通して、中国語の翻訳力、総合力を向上させる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

授業では、毎回3、4個の重要文法項目を中心に、それぞれについて詳細に説明し、HSK試験や中検試験における受験ポイントを解説する。そのうえ、大量の作文練習を行い、文章力と翻訳力を鍛える。最後に、練習問題の解説を通して、学習成果を定着させる。課題に対するフィードバックは授業内で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	授業ガイダンス	授業のやり方、内容、成績評価に関する説明。HSKに関する説明
第2回	中国語重要文型の復習（その1）	名詞述語文、形容詞述語文、動詞述語文、二つの否定副詞
第3回	中国語重要文型の復習（その2）	各種の疑問文、主述述語文
第4回	動作の状態の表し方（その1）	将来の動作、動作の進行と持続、動作の経験の表し方
第5回	動作の状態の表し方（その2）	アスペクト助詞の”了”と語気助詞”了”
第6回	中国語の離合詞と動詞の重ね型について	離合詞の特徴と文型、重ね型の文型と機能
第7回	重要な前置詞（介詞、その1）	“在”“从”“到”“離”
第8回	これまでの復習	総合復習（1）、中間テスト
第9回	重要な前置詞（介詞、その2）	“往”“朝”“向”“对于”“对”“通過”“按照”“关于”など
第10回	様々な形容詞について	性質形容詞と状態形容詞の特徴と使い方
第11回	連体修飾と連用修飾	連体修飾の作り方、連用修飾の作り方
第12回	特殊構文（その1）	存在を表す構文、連動文
第13回	特殊構文（その2）	存現文、比較構文、
第14回	期末まとめ	これまでの復習と期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業で資料を配布する。

【参考書】

『WHY? にこたえるはじめての中国語の文法書』相原茂・石田知子・戸沼市子著 2,500円（同学社）

【成績評価の方法と基準】

平常点（課題）40%＋中間テスト（30%）＋期末テスト（30%）で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

本年度から担当するため、特にありません。

【学生が準備すべき機器他】

- 1 日中中日辞書を用意してください。
- 2 授業で配布する資料を必ずファイリングしてください。テキストを使用しないため、配布資料は期末試験の復習資料となります。
- 3、授業中メモをたくさん取るので、ノートを用意してください。

【Outline (in English)】

Outline:

This class is aimed at students who have completed beginner Chinese and are seeking to acquire the level of HSK level 3 to 5 (intermediate to advanced level). In the first semester, you will improve your writing, reading, and understanding of Chinese by grasping the essential grammar items of HSK level 3 to 4. In addition, through a lot of writing practice, we will steadily acquire grammar points that are difficult for intermediate Chinese learners, improving Chinese proficiency and translation ability.

Objectives

1. To develop advanced ability in Chinese writing, reading and understanding.
2. to master the important grammar items of intermediate Chinese.
3. to improve Chinese translation and comprehensive ability through a lot of writing practice.

Grading method:

assignment (40%) + mid-term test (30%) + final test (30%)

Work to be done outside of class (preparation:

The standard time for preparation and review is 2 hours each.

LANc300LA

中国語翻訳・通訳 D

2017 年度以降入学者

王 安

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 3/Thu.3

単位数：2 単位

定員制 (30 名)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中国語初級を修了した学習者を対象に、**HSK3 級～5 級**（中国語中級～準上級）のレベルの習得を目標とするクラスです。前期に引き続き、後期では**HSK 4 級～5 級**レベル（中国語検定試験 3～2 級）における重要文法項目を確実に把握することによって、中国語文章力、読解力、そして理解力を向上させます。また、大量の作文練習を通して、中級中国語学習者にとって学習の難点となる文法事項を着実に身に付け、中国語の実力や翻訳力を高めていきます。

【到達目標】

- 1、高度な中国語文章力、読解力、理解力を身に付ける。
- 2、中国語中級～上級レベルの重要文法事項を把握する。
- 3、大量の作文練習を通して、中国語の翻訳力、総合力を向上させる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

授業では、毎回 3、4 個の重要文法項目を中心に、それぞれについて詳細に説明し、**HSK 試験**や中検試験における受験ポイントを解説する。そのうえ、大量の作文練習を行い、文章力と翻訳力を鍛える。最後に、練習問題の解説を通して、学習成果を定着させる。課題に対するフィードバックは授業内で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	授業ガイダンス	授業のやり方、内容、成績評価に関する説明。前期の復習
第 2 回	中国語の助動詞	各種の助動詞の使い方
第 3 回	引用、伝聞を表す構文	引用を表す構文、伝聞を表す構文
第 4 回	特殊構文（その 1）	使役文と受け身文
第 5 回	特殊構文（その 2）	“是……的”構文
第 6 回	特殊構文（その 3）	“把”構文
第 7 回	特殊構文（その 4）	その他の特殊構文“有”を伴う構文、“一点儿…都”など
第 8 回	これまでの復習	総合復習（1）、中間テスト
第 9 回	中国語の補語（その 1）	結果補語と方向補語
第 10 回	中国語の補語（その 2）	可能補語、数量補語
第 11 回	中国語の補語（その 3）	数量補語、様態補語
第 12 回	中国語の複文（その 1）	並列関係、累加関係、選択関係
第 13 回	中国語の複文（その 2）	因果関係、逆接関係、仮定関係、条件表現など
第 14 回	期末まとめ	これまでの復習と期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業で資料を配布する。

【参考書】

『WHY? にこたえるはじめての中国語の文法書』相原茂・石田知子・戸沼市子著 2,500 円（同学社）

【成績評価の方法と基準】

平常点（課題）40% + 中間テスト（30%）+ 期末テスト（30%）で評価する。

【学生の意見等からの気づき】

本年度から担当するため、特にありません。

【学生が準備すべき機器他】

1 日中中日辞書を用意してください。

2 授業で配布する資料を必ずファイリングしてください。テキストを使用しないため、配布資料は期末試験の復習資料となります。

3、授業中メモをたくさん取るので、ノートを用意してください。

【Outline (in English)】

Outline:

This class is aimed at students who have completed beginner Chinese and are seeking to acquire the level of HSK level 3 to 5 (intermediate to advanced level). In the second semester, you will improve your writing, reading, and understanding of Chinese by grasping the essential grammar items of HSK level 4 to 5. In addition, through a lot of writing practice, we will steadily acquire grammar points that are difficult for intermediate~advanced Chinese learners, improving Chinese proficiency and translation ability.

Objectives

1. To develop advanced ability in Chinese writing, reading and understanding.
2. to master the important grammar items of intermediate~advanced Chinese.
3. to improve Chinese translation and comprehensive ability through a lot of writing practice.

Grading method:

assignment (40%) + mid-term test (30%) + final test (30%)

Work to be done outside of class (preparation:

The standard time for preparation and review is 2 hours each.

LANc300LA

中国語講読 A

2017 年度以降入学者

岩田 和子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 3/Wed.3

単位数：2 単位

定員制 (30 名)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中国政府公認の中国語検定試験「HSK（漢語水平考試）」の読解問題（閲読）に慣れるための授業です。春学期は HSK 3、4 級レベルの読解問題を中心に扱います。語彙と文法を理解することを第一に、短文からゆっくり読み進めていきます。中国語文を読むのに苦手意識のある方はぜひ受講してください。

【到達目標】

中国語文の精読を通して、HSK 3、4 級レベルの読解力を養うことが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

課題文を配布するので、各自で単語を調べ、日本語に訳して授業に臨んでください。授業では文法解説や語彙説明をしながら、各自の日本語訳を確認していきます。また、文字情報だけではイメージできない事柄については、映像や写真を見て理解を深めます。適宜、単語の確認テスト（日本語訳の確認）も行う予定です。受講者と話し合いながら進めていきます。質問や確認テスト等へのフィードバックは授業内におこないます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の進め方の説明・確認。
2	HSK 3、4 級閲読対策：練習問題①	HSK 3、4 級レベルの閲読練習①の翻訳と解説
3	HSK 3、4 級閲読対策：練習問題②	HSK 3、4 級レベルの閲読練習②の翻訳と解説
4	HSK 3、4 級閲読対策：練習問題③	HSK 3、4 級レベルの閲読練習③の翻訳と解説
5	HSK 3、4 級閲読対策：練習問題④	HSK 3、4 級レベルの閲読練習④の翻訳と解説
6	HSK 3、4 級閲読対策：練習問題⑤	HSK 3、4 級レベルの閲読練習⑤の翻訳と解説
7	HSK 3、4 級閲読対策：練習問題⑥	HSK 3、4 級レベルの閲読練習⑥の翻訳と解説
8	HSK 3、4 級閲読対策：練習問題⑦	HSK 3、4 級レベルの閲読練習⑦の翻訳と解説
9	HSK 3、4 級閲読対策：練習問題⑧	HSK 3、4 級レベルの閲読練習⑧の翻訳と解説
10	HSK 3、4 級閲読対策：練習問題⑨	HSK 3、4 級レベルの閲読練習⑨の翻訳と解説
11	HSK 3、4 級閲読対策：練習問題⑩	HSK 3、4 級レベルの閲読練習⑩の翻訳と解説
12	HSK 3、4 級閲読対策：練習問題⑪	HSK 3、4 級レベルの閲読練習⑪の翻訳と解説
13	練習問題①～⑪の復習	HSK 3、4 級レベルの閲読練習①～⑪の復習
14	まとめ	①～⑪のまとめと確認テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

適宜プリントを配布します。

【参考書】

『ベーシッククラウン 中日・日中辞典』（三省堂）

『WHY? にこたえるはじめての中国語の文法書』（同人社）

そのほか、適宜教場で示します。

【成績評価の方法と基準】

①平常点 50%

②期末試験（授業で扱った内容を翻訳する確認テスト）50 %

【学生の意見等からの気づき】

引きつづき分かりやすい授業をこころがけます。

【学生が準備すべき機器他】

初回と最終回はオンラインで実施しますので、PC で受講できる環境を整えておいてください。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to pass 4th grade of HSK (Hanyu Shuiping Kaoshi) test. To achieve this aim, it is especially important to improve the reading skill, therefore we use past HSK questions and do a lot of reading exercises in class.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Your final grade will be calculated according to the following process:

Usual performance score 50%, Term-end examination: 50%.

LANc300LA

中国語講読 B

2017 年度以降入学者

岩田 和子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 3/Wed.3

単位数：2 単位

定員制 (30 名)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中国政府公認の中国語検定試験「HSK（漢語水平考試）」の読解問題（閲読）に慣れるための授業です。秋学期は HSK 4、5 級レベルの読解問題を中心に扱います。語彙と文法を理解することを第一に、短文からゆっくり読み進めていきます。中国語文を読むのに苦手意識のある方はぜひ受講してください。

【到達目標】

中国語文の精読を通して、HSK 4、5 級レベルの読解力を養うことが目標です。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

課題文を配布するので、各自で単語を調べ、日本語に訳して授業に臨んでください。授業では文法解説や語彙説明をしながら、各自の日本語訳を確認していきます。また、文字情報だけではイメージできない事柄については、映像や写真を見て理解を深めます。適宜、単語の確認テスト（日本語訳の確認）も行う予定です。受講者と話し合いながら進めていきます。質問や確認テスト等へのフィードバックは授業内におこないます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の進め方の説明・確認。
2	HSK 4、5 級閲読対策：練習問題①	HSK 4、5 級レベルの閲読練習①の翻訳と解説
3	HSK 4、5 級閲読対策：練習問題②	HSK 4、5 級レベルの閲読練習②の翻訳と解説
4	HSK 4、5 級閲読対策：練習問題③	HSK 4、5 級レベルの閲読練習③の翻訳と解説
5	HSK 4、5 級閲読対策：練習問題④	HSK 4、5 級レベルの閲読練習④の翻訳と解説
6	HSK 4、5 級閲読対策：練習問題⑤	HSK 4、5 級レベルの閲読練習⑤の翻訳と解説
7	HSK 4、5 級閲読対策：練習問題⑥	HSK 4、5 級レベルの閲読練習⑥の翻訳と解説
8	HSK 4、5 級閲読対策：練習問題⑦	HSK 4、5 級レベルの閲読練習⑦の翻訳と解説
9	HSK 4、5 級閲読対策：練習問題⑧	HSK 4、5 級レベルの閲読練習⑧の翻訳と解説
10	HSK 4、5 級級閲読対策：練習問題⑨	HSK 4、5 級レベルの閲読練習⑨の翻訳と解説
11	HSK 4、5 級級閲読対策：練習問題⑩	HSK 4、5 級レベルの閲読練習⑩の翻訳と解説
12	HSK 4、5 級級閲読対策：練習問題⑪	HSK 4、5 級レベルの閲読練習⑪の翻訳と解説
13	練習問題①～⑪の復習	HSK 4、5 級レベルの閲読練習①～⑪の復習
14	まとめ	①～⑪のまとめと確認テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

適宜配布します。

【参考書】

『ベーシッククラウン 中日・日中辞典』（三省堂）
『WHY? にこたえるはじめての中国語の文法書』（同学社）など
そのほか、適宜教場で指示します。

【成績評価の方法と基準】

- ①平常点 50%
- ②期末試験（授業で扱った内容を翻訳する確認テスト）50 %

【学生の意見等からの気づき】

引きつづき分かりやすい授業をこころがけます。

【学生が準備すべき機器他】

初回と最終回はオンラインで実施しますので、PC で受講できる環境を整えておいてください。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to pass 5th grade of HSK (Hanyu Shuiping Kaoshi) test. To achieve this aim, it is especially important to improve the reading skill, therefore we use past HSK questions and do a lot of reading exercises in class.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Your final grade will be calculated according to the following process:

Usual performance score 50%, Term-end examination: 50%.

LANc300LA

資格中国語中級A

2017年度以降入学者

渡辺 昭太

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 3/Mon.3

単位数：2 単位

定員制 (30 名)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、HSK（漢語水平考試）の3級に合格できるレベルの中国語力の育成を目的とした授業である。HSK（漢語水平考試）とは、中国政府公認の中国語検定で、留学や就職など様々なシーンで活用できる資格である。中級レベルである3級に合格するためには、基礎文法及び基本的語彙を修得していることを前提に、リスニング力を特に強化する必要がある。そのため本授業では、HSK3級の過去問題を使用し、リスニング力を重点的に向上させる。尚、受講に当たっては、オンラインシラバス末尾に記載の【その他の重要事項】も必ず確認しておくこと。

【到達目標】

この授業の到達目標は以下の通りである。

- (1) 過去問題のディクテーションを通じて、HSK3級合格に必要なリスニング力を身につける。
- (2) 過去問題を解き、HSK3級合格に必要な文法力と語彙力、作文力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

【授業の進め方・方法】

授業は、自宅でのeラーニングによる予習と教室での授業を組み合わせたブレンド型学習によって行う。具体的な進め方は以下の通りである。

■授業前の事前学習

・授業前にパソコンまたはスマートフォンを使い、HSK3級リスニング問題のディクテーション（全文の聞き取り）を行う。

■授業の進め方と方法

- ①小テスト（前回の学習内容の復習テスト）[約 20 分]
- ②リスニング問題の解説 [約 50 分]
- ③各種練習問題を通じたトレーニング [約 30 分]

【各種フィードバック方法】

教員は小テストの添削や練習問題及び質問への回答を準備し、授業時に返却・回答することで随時フィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業概要の説明
2	HSK3 級リスニング対策①	HSK3 級リスニング問題の第一部分 (1-5) の解説と作文練習、スキットの会話・ロールプレイ練習
3	HSK3 級リスニング対策②	HSK3 級リスニング問題の第一部分 (6-10) の解説と作文練習、スキットの会話・ロールプレイ練習
4	HSK3 級リスニング対策③	HSK3 級リスニング問題の第二部分 (11-15) の解説と作文練習、スキットの会話・ロールプレイ練習

5	HSK3 級リスニング対策④	HSK3 級リスニング問題の第二部分 (16-20) の解説と作文練習、スキットの会話・ロールプレイ練習
6	HSK3 級リスニング対策⑤	HSK3 級リスニング問題の第三部分 (21-25) の解説と作文練習、スキットの会話・ロールプレイ練習
7	HSK3 級リスニング対策⑥	HSK3 級リスニング問題の第三部分 (26-30) の解説と作文練習、スキットの会話・ロールプレイ練習
8	HSK3 級リスニング対策⑦	HSK3 級リスニング問題の第四部分 (31-35) の解説と作文練習、スキットの会話・ロールプレイ練習
9	HSK3 級リスニング対策⑧	HSK3 級リスニング問題の第四部分 (36-40) の解説と作文練習、スキットの会話・ロールプレイ練習
10	HSK3 級読解対策①	HSK3 級読解問題の第一部分 (41-50) 及び第二部分 (51-55) の解説
11	HSK3 級読解対策②	HSK3 級読解問題の第二部分 (56-60) 及び第三部分 (61-70) の解説
12	HSK3 級作文対策	HSK3 級作文問題 (71-80) の解説
13	HSK3 級模擬試験と解説	HSK3 級の模擬試験と解説を行う
14	まとめ	春学期の学習内容のまとめと質疑応答

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業前に以下の事前学習を行うこと。

- ・パソコンまたはスマートフォンを使い、HSK リスニング問題のディクテーション（全文聞き取り）を行う。毎回のディクテーション範囲は予め教員が指示する。
- ・前回の場面の中の指定された範囲を暗記し、小テストに備える。
- ・本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。

【参考書】

有用な文法書として以下のものをあけておく。

- ・劉月華（他）2019『実用現代漢語語法（第三版）』北京：商務印書館
- ・相原茂（他）2016『Why?にこたえるはじめての中国語の文法書新訂版』東京：同学社
- ・守屋宏則（他）2019『やさしくくわしい中国語文法の基礎 [改訂新版]』東京：東方書店

【成績評価の方法と基準】

毎回授業の初めに行う小テストの平均点で 100 % 評価し、期末試験は実施しない。小テストは 100 点満点で行い、そのうちの 40 点は eラーニングによる自宅学習の達成度とする。小テストの平均点が 60 点以上の者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

受講生の中国語習熟度を適宜確認しつつ、授業を進めていきたい。

【学生が準備すべき機器他】

PC またはスマートフォンとインターネット環境

【その他の重要事項】

- ・大学の方針によりオンライン授業が実施される場合は、授業計画や成績評価が変更になる可能性がある。そのため、学習支援システムを随時確認すること。
- ・毎回、ディクテーションの予習を課す。ディクテーションとは、「読み上げられる文を聞き、全て書き取ること」であり、いわゆるリスニングとは異なり、一定の時間を必要とする。
- ・予習は必須である。予習していることを前提に授業を進める。
- ・HSK 合格を目指す意識の高い学生の履修を歓迎する。

・本授業は、全回の出席が評価の前提である。即ち、欠席は原則的に認めない。教育実習等のやむを得ない事情がある場合は、各種証明書を提出するなど、各自で然るべき対応を取ること。

【Outline (in English)】

【Outline】

The aim of this course is to pass HSK(Hanyu Shuiping Kaoshi) Level 3. To achieve this aim, it is especially important to improve the listening skill, therefore we use past HSK questions and do a lot of listening exercises in class.

【Goal】

The goals of this course are as follows:

- (1) To acquire listening skills necessary for passing HSK Level 3.
- (2) To acquire grammatical, vocabulary, and writing skills necessary for passing HSK Level 3.

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

- ・ Students are required to dictate HSK listening questions using a computer or smartphone.
- ・ Students are required to review what you have learned and prepare for the mini test.
- ・ Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

【Grading criteria】

The average score of mini tests(100%). No final exam will be held in this course.

LANc300LA

資格中国語中級B

2017年度以降入学者

渡辺 昭太

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 3/Mon.3

単位数：2単位

定員制（30名）

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業は、HSK（漢語水平考試）の4級に合格できるレベルの中国語力の育成を目的とした授業である。HSK（漢語水平考試）とは、中国政府公認の中国語検定で、留学や就職など様々なシーンで活用できる資格である。中級レベルである4級に合格するためには、基礎文法及び基本的語彙を修得していることを前提に、リスニング力を特に強化する必要がある。そのため本授業では、HSK4級の過去問題を使用し、リスニング力を重点的に向上させる。尚、受講に当たっては、オンラインシラバス末尾に記載の【その他の重要事項】も必ず確認しておくこと。

【到達目標】

この授業の到達目標は以下の通りである。

- (1) 過去問題のディクテーションを通じて、HSK4級合格に必要なリスニング力を身につける。
- (2) 過去問題を解き、HSK4級合格に必要な文法力と語彙力、作文力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

【授業の進め方・方法】

※ [2021.03.17 追記] 大学の行動方針レベルが2となった場合、この授業は原則としてオンラインで行います。詳細は学習支援システムで伝達するので、必ず確認してください。

授業は、自宅でのeラーニングによる予習と教室での授業を組み合わせたブレンド型学習によって行う。具体的な進め方は以下の通りである。

■授業前の事前学習

・授業前にパソコンまたはスマートフォンを使い、HSK3級リスニング問題のディクテーション（全文の聞き取り）を行う。

■授業の進め方と方法

- ①小テスト（前回の学習内容の復習テスト）[約 20分]
- ②リスニング問題の解説 [約 50分]
- ③各種練習問題を通じたトレーニング [約 30分]

【各種フィードバック方法】

教員は小テストの添削や練習問題及び質問への回答を準備し、授業時に返却・回答することで随時フィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業概要の説明
2	HSK4級リスニング対策①	HSK4級リスニング問題の第一部分（1-5）の解説と作文練習、スキットの会話・ロールプレイ練習
3	HSK4級リスニング対策②	HSK4級リスニング問題の第一部分（6-10）の解説と作文練習、スキットの会話・ロールプレイ練習

4	HSK4級リスニング対策③	HSK4級リスニング問題の第二部分（11-15）の解説と作文練習、スキットの会話・ロールプレイ練習
5	HSK4級リスニング対策④	HSK4級リスニング問題の第二部分（16-20）の解説と作文練習、スキットの会話・ロールプレイ練習
6	HSK4級リスニング対策⑤	HSK4級リスニング問題の第二部分（21-25）の解説と作文練習、スキットの会話・ロールプレイ練習
7	HSK4級リスニング対策⑥	HSK4級リスニング問題の第三部分（26-30）の解説と作文練習、スキットの会話・ロールプレイ練習
8	HSK4級リスニング対策⑦	HSK4級リスニング問題の第三部分（31-35）の解説と作文練習、スキットの会話・ロールプレイ練習
9	HSK4級リスニング対策⑧	HSK4級リスニング問題の第三部分（36-40）の解説と作文練習、スキットの会話・ロールプレイ練習
10	HSK4級リスニング対策⑨	HSK4級リスニング問題の第三部分（41-45）の解説と作文練習、スキットの会話・ロールプレイ練習
11	HSK4級読解対策	HSK4級読解問題（46-85）の解説
12	HSK4級作文対策	HSK4級作文問題（86-100）の解説
13	HSK4級模擬試験と解説	HSK4級の模擬試験と解説を行う
14	まとめ	秋学期の学習内容のまとめと質疑応答

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業前に以下の事前学習を行うこと。

- ・パソコンまたはスマートフォンを使い、HSKリスニング問題のディクテーション（全文聞き取り）を行う。毎回のディクテーション範囲は予め教員が指示する。
- ・前回の場面の中の指定された範囲を暗記し、小テストに備える。
- ・本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用しない。

【参考書】

有用な文法書として以下のものをあけておく。

- ・劉月華（他）2019『実用現代漢語語法（第三版）』北京：商務印書館
- ・相原茂（他）2016『Why?にこたえるはじめての中国語の文法書新訂版』東京：同学社
- ・守屋宏則（他）2019『やさしくくわしい中国語文法の基礎 [改訂新版]』東京：東方書店

【成績評価の方法と基準】

毎回授業の初めに行う小テストの平均点で100%評価し、期末試験は実施しない。小テストは100点満点で行い、そのうちの40点はeラーニングによる自宅学習の達成度とする。小テストの平均点が60点以上の者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

受講生の中国語習熟度を適宜確認しつつ、授業を進めていきたい。

【学生が準備すべき機器他】

PC またはスマートフォンとインターネット環境

【その他の重要事項】

- ・大学の方針によりオンライン授業が実施される場合は、授業計画や成績評価が変更になる可能性がある。そのため、学習支援システムを随時確認すること。
- ・毎回、ディクテーションの予習を課す。ディクテーションとは、「読み上げられる文を聞き、全て書き取ること」であり、いわゆるリスニングとは異なり、一定の時間を必要とする。

- ・予習は必須である。予習していることを前提に授業を進める。
- ・HSK 合格を目指す意識の高い学生の履修を歓迎する。
- ・本授業は、全回の出席が評価の前提である。即ち、欠席は原則的に認めない。教育実習等のやむを得ない事情がある場合は、各種証明書を提出するなど、各自で然るべき対応を取ること。

【Outline (in English)】

【Outline】

The aim of this course is to pass HSK(Hanyu Shuiping Kaoshi) Level 4. To achieve this aim, it is especially important to improve the listening skill, therefore we use past HSK questions and do a lot of listening exercises in class.

【Goal】

The goals of this course are as follows:

(1) To acquire listening skills necessary for passing HSK Level 4.

(2) To acquire grammatical, vocabulary, and writing skills necessary for passing HSK Level 4.

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

- ・Students are required to dictate HSK listening questions using a computer or smartphone.
- ・Students are required to review what you have learned and prepare for the mini test.
- ・Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

【Grading criteria】

The average score of mini tests(100%). No final exam will be held in this course.

LANc300LA

資格中国語上級A

2017年度以降入学者

康 鴻音

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 3/Fri.3

単位数：2 単位

定員制（30名）

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義はいままで習得した中国語の基礎を生かして、読解力と作文力の向上を図ります。そして言葉の使い分け、日本語と中国語の違いを理解してもらいます。

【到達目標】

学校生活や日常生活に必要なことなどを中国語で書いて表現する能力、言葉の使い分け、翻訳する力を高めることを目指します。それと同時に作った文を正しい声調と自然なリズムで話せるようにも指導します。HSK5、6級が取れるよう目標にします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

プリントを配布し、事前に用意してもらい、授業中みなさんが用意した課題をチェックしながら、説明する方法で進んでいきます。そして作文の書き方も指導します。皆さんの出来具合を確認しながら進み具合を調整する場合があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	オリエンテーション	レベルチェック HSK合格の基準 HSK 5・6級に到達する概要
第2回	HSK5級の練習	「的」の使い方のまとめ
第3回	HSK5級の練習	文章記号と原稿用紙の使い方 方向補語など
第4回	作文の基礎	作文の練習（400字） 練習問題など
第5回	HSK5級の練習 翻訳	作文の問題点など 結果補語など
第6回	HSK5級の練習 翻訳	比較の表現 逆接の表現など
第7回	HSK5級の練習 翻訳	二重目的語 動詞述語文のまとめ
第8回	HSK5級の練習	目的語になる動詞句と主述句など 作文の練習（400字）
第9回	HSK5級の練習 翻訳	作文の問題点など 練習問題
第10回	HSK5級の練習 翻訳	連用修飾語 前置詞など
第11回	HSK5級の練習 翻訳	主語になる動詞句 慣用形など
第12回	HSK5級の練習	絵を見て作文練習（400字）
第13回	HSK5級の練習 翻訳	作文の問題点 翻訳の練習
第14回	総復習	補足説明・期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

次回のプリントをちゃんと準備すること。本授業の準備・復習時間は合わせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

プリント配布

【参考書】

辞書を用意すること。

【成績評価の方法と基準】

授業への参加度、授業時の出来具合、宿題の完成度など（60点）、試験（40点）により総合評価します。

【学生の意見等からの気づき】

読解力、翻訳力、作文力を高めると同時に発音指導も継続します。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to pass 5th~6th grade of HSK (Hanyu Shuiping Kaoshi) test. To achieve this aim, it is especially important to improve the writing skill, therefore we use past HSK questions and do a lot of writing exercises in class.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content. The method and criteria for grade evaluation will be decided by each instructor. See "Grading criteria" by instructor's syllabus.

LANc300LA

資格中国語上級B

2017年度以降入学者

康 鴻音

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 3/Fri.3

単位数：2 単位

定員制（30名）

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義はいままで習得した中国語の基礎を生かして、読解力、翻訳力と作文力の向上を図ります。

【到達目標】

学校生活や日常生活に必要なことなどを中国語で書いて表現する能力、作文能力、翻訳能力を高めて、HSK5、6級が取れるよう目標にします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

翻訳と作文の練習。訳す力を高めると同時に、作文の書き方を指導します。提出された課題をチェックして返却します。問題点を個人個人に説明する他に、次の授業の時に全員にも説明する方法で進んでいきます。皆さんの出来具合を確認しながら進み具合を調整する場合があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回	資格関連の問題 翻訳	形容詞など 練習指導
2回	資格関連の問題 翻訳	助動詞など
3回	資格関連の問題 翻訳	伝聞、条件、選択など
4回	作文など	作文練習（400字）
5回	作文など	作文指導など
6回	資格関連の練習 翻訳	予定・計画、願望・意志など
7回	資格関連の練習 翻訳	推測、仮定、因果関係など
8回	作文など	作文練習（400字）
9回	作文、翻訳など	作文指導、問題チェック
10回	資格関連の練習 翻訳	問題チェック
11回	HSK 6級	HSK 6級の練習
12回	HSK 6級	HSK 6級の練習
13回	資格関連の練習 翻訳	問題指導
14回	総復習	総まとめ・期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回に文法を学習する資料や課題などを出します。その用意された課題を授業中確認しながら説明します。

本授業の準備・復習時間は合わせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

プリント添付。

【参考書】

辞書を用意すること。

【成績評価の方法と基準】

授業への参加度、授業時の出来具合、宿題の完成度など（60点）、試験（40点）により総合評価します。

【学生の意見等からの気づき】

読解力と翻訳力を高めると共に発音も指導する方法を続けてやります。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to pass 5th~6th grade of HSK (Hanyu Shuiping Kaoshi) test. To achieve this aim, it is especially important to improve the writing skill, therefore we use past HSK questions and do a lot of writing exercises in class.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content. The method and criteria for grade evaluation will be decided by each instructor. See "Grading criteria" by instructor's syllabus.

ARSe300LA

教養ゼミ I

2017 年度以降入学者

岩田 和子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 2/Wed.2

単位数：2 単位

定員制

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「担仔麵に小籠包、臭豆腐、茶葉蛋、豆花…。台湾を代表する現代詩人が民間に根づいた食べものを題目に冠し、その味わいを綴る六十篇」（みすず書房 HP より抜粋）を収める焦桐『味の台湾』（川浩二訳、みすず書房、2021 年。原書『味道福爾摩莎』）をテキストとし、内容を味わいながら台湾の食文化への理解を深めます。適宜、原文も確認しながら中国語の世界にも慣れ親しむ予定です。

※中国語の学習経験がなくても構いません。

【到達目標】

・映像資料の鑑賞・中国語文献の確認作業を通して、中国語の世界に慣れ親しむ。

・地理、地域の特色、食材、調理、生活、習慣等に対する調査を通して、中国語圏の食文化への理解を深める。

・各自でレストランを訪れ、地域の特色のあるメニューを食し、授業で得た知見を経験として身につける。

・プレゼンテーションに慣れる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

・焦桐『味の台湾』（川浩二訳、みすず書房、2021 年）をテキストとし、項目ごとに担当者を決める。担当者は内容の整理、調査結果をまとめてプレゼンし、それをもとに参加者はディスカッションを行います。なお、進度によってはシラバス記載のすべての項目を完了できない場合もあります。

調査結果や質問等へのフィードバックは授業内に行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の進め方について—「台湾珈琲（台湾コーヒー）」篇を例に
2	『味の台湾』から読み解く食文化①	「担仔麵（エビと肉とそばろ入り汁麵）」篇に関する調査と発表
3	『味の台湾』から読み解く食文化②	「肉臊飯（豚角切り肉の煮込みぶっかけ飯）」篇に関する調査と発表
4	『味の台湾』から読み解く食文化③	「米粉湯（米めん入りスープ）」篇に関する調査と発表
5	『味の台湾』から読み解く食文化④	「芒果牛奶冰（マンゴーミルクかき氷）」篇に関する調査と発表
6	『味の台湾』から読み解く食文化⑤	「蚵仔煎（カキのオムレット）」篇に関する調査と発表
7	『味の台湾』から読み解く食文化⑥	「小籠包（スープ入り小肉饅頭）」篇に関する調査と発表
8	『味の台湾』から読み解く食文化⑦	「川味紅焼牛肉麵（四川風牛肉煮込み汁麵）」篇に関する調査と発表
9	『味の台湾』から読み解く食文化⑧	「永和豆浆（永和豆乳）」篇に関する調査と発表

10	『味の台湾』から読み解く食文化⑨	「仏跳牆（さまざまな乾物と肉類の蒸しスープ）」篇に関する調査と発表
11	『味の台湾』から読み解く食文化⑩	「刈包（豚肉の醤油煮こみをはさんだ蒸しパン）」篇に関する調査と発表
12	『味の台湾』から読み解く食文化⑪	「豆花（おぼろ豆腐）」篇に関する調査と発表
13	春学期のまとめ①	『味の台湾』から読み解く食文化①～⑤のふりかえり
14	春学期のまとめ②	『味の台湾』から読み解く食文化⑥～⑩のふりかえり

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

焦桐『味の台湾』（川浩二訳、みすず書房、2021 年）

【参考書】

焦桐『味道福爾摩莎』（二魚文化事業有限公司、2015 年）など

【成績評価の方法と基準】

・平常点：50%

・プレゼンテーション：50%

【学生の意見等からの気づき】

とくになし。

【学生が準備すべき機器他】

オンラインの回は PC 等から参加できる環境を整えてください。

【Outline (in English)】

The aim of this seminar is to develop students' understanding of Chinese society and culture.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Your final grade will be calculated according to the following process:

Usual performance score 50%, Presentation 50%.

ARSe300LA

教養ゼミⅡ

2017年度以降入学者

岩田 和子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 2/Wed.2

単位数：2単位

定員制

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

映画『恋する惑星』（王家衛監督、1994年製作）、『変臉 この權に手をそえて』（呉天明監督、1996年製作）、『黄色い大地』（陳凱歌監督、1984年製作）、『芙蓉鎮』（謝晋監督、1987年製作）、『四川のうた』（賈樟柯監督、2008年製作）、『在りし日の歌』（王小帥監督、2019年製作）、をとりあげ、女性、恋愛、芸能、風土、都市、農村、家族、労働、政治社会といった多角的な視点から、中国語圏の文化を捉えなおします。

※中国語の学習経験がなくても構いません。

【到達目標】

- ・中国語圏の映画を実際に観て、関連する知識を得る。
- ・多角的な視点から女性、恋愛、芸能、風土、都市、農村、家族、労働、政治社会について理解を深める。
- ・基本的な歴史の知識を得る。
- ・プレゼンテーションに慣れる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

2回に一度映画を鑑賞し、教員による講義を行います。それをもとに参加者はそれぞれの視点からその映画について考えたこと、感じたことをまとめてプレゼンし、ディスカッションをおこないます。進度によってはすべての作品を扱うことができない場合もあります。フィードバックは授業内に適宜おこないます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業のすすめ方について
2	若者たちの群像劇—返還前の香港から①	『恋する惑星』（原題『重慶森林』）に関する講義・映画鑑賞
3	若者たちの群像劇—返還前の香港から②	『恋する惑星』（原題『重慶森林』）について参加者によるプレゼンテーション・ディスカッション
4	川劇（四川を代表する地方劇）の変面の老芸人と少女の物語—1920年代の中国を舞台に①	『変臉 この權に手をそえて』（原題『変臉』）に関する講義・映画鑑賞
5	川劇（四川を代表する地方劇）の変面の老芸人と少女の物語—1920年代の中国を舞台に②	『変臉 この權に手をそえて』（原題『変臉』）について参加者によるプレゼンテーション・ディスカッション
6	民謡収集にきた八路军の文芸工作員と農村の少女の物語—1939年の中国を舞台に①	『黄色い大地』（原題『黄土地』）に関する講義・映画鑑賞

7	民謡収集にきた八路军の文芸工作員と農村の少女の物語—1939年の中国を舞台に②	『黄色い大地』（原題『黄土地』）について参加者によるプレゼンテーション・ディスカッション
8	文化大革命の時代を生き抜いた女性の物語①	『芙蓉鎮』（原題『芙蓉鎮』）に関する講義・映画鑑賞
9	文化大革命の時代を生き抜いた女性の物語②	『芙蓉鎮』（原題『芙蓉鎮』）について参加者によるプレゼンテーション・ディスカッション
10	閉鎖される巨大国营工場を舞台に労働者たちの歴史と人生の物語①	『四川のうた』（原題『二十四城記』）に関する講義・映画鑑賞
11	閉鎖される巨大国营工場を舞台に労働者たちの歴史と人生の物語②	『四川のうた』（原題『二十四城記』）について参加者によるプレゼンテーション・ディスカッション
12	一人っ子政策を背景とした夫婦の物語—1980年代から2000年代の中国を舞台に①	『在りし日の歌』（原題『地久天长』）に関する講義・映画鑑賞
13	一人っ子政策を背景とした夫婦の物語—1980年代から2000年代の中国を舞台に②	『在りし日の歌』（原題『地久天长』）について参加者によるプレゼンテーション・ディスカッション
14	まとめ	秋学期のふりかえり

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しません。

【参考書】

藤井省三『中国映画 百年を描く、百年を読む』（岩波書店、2002年）
西澤治彦『中国映画の文化人類学』（風響社、1999年）
応雄『中国映画のみかた』（大修館書店、2010年）など

【成績評価の方法と基準】

- ・平常点：50%
- ・プレゼンテーション：50%

【学生の意見等からの気づき】

本年度新規テーマにつきアンケートを実施していません。

【Outline (in English)】

The aim of this seminar is to develop students' understanding of Chinese society and culture.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Your final grade will be calculated according to the following process:

Usual performance score 50%, Presentation 50%.

LANs300LA

第三外国語としてのスペイン語A 2017年度以降入学者

杉下 由紀子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 2/Thu.2

単位数：2 単位

定員制（40名）

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

第三外国語として初めてスペイン語を学ぶ学生を対象に、スペイン語の初歩を学ぶ。

【到達目標】

スペイン語の特徴を把握し、正しく発音する。
自分の身の回りのことについて、スペイン語で表現できるようにする。
スペイン語が話されている国の概要を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

すべて対面で行う。対面が不可になった場合は Zoom によるリアルタイム双方向式で行う。教員が文法事項を説明し、履修生は音声を聴いて発音練習、テキスト記載の練習問題、会話練習、グループワークを行う。時々スペイン語圏の文化に関する映像資料を鑑賞する。グループアクティビティや試験返却時に講評・解説する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション 第0課 イントロダクション	授業の進め方、学習方法、スペイン語の特徴、スペイン語圏諸国
2	第1課 スペイン語で友だちになろう	アルファベット、発音、アクセント、数詞 0～10、スペイン語圏の名前
3	第2課 慣用句を便利に使おう	名詞の性数、職業、冠詞、指示詞
4	第3課 感動を伝えよう	主格人称代名詞、動詞 ser、国籍、数詞 11～20
5	第3課 感動を伝えよう	疑問文と否定文、形容詞、感嘆文
6	小テスト 第4課 いろいろな動詞を使おう	規則動詞、疑問詞 1、数詞 21～30
7	第4課 いろいろな動詞を使おう	所有詞、親族名称、アメリカ合衆国とメキシコ
8	第5課 お願いしたり、指示を理解しよう	動詞 estar、直接目的語と間接目的語、数詞 31～100、
9	第5課 お願いしたり、指示を理解しよう	tú と usted への肯定命令、グアテマラ
10	第6課 どこにいるか、何があるか確認しよう	動詞 estar, hay、位置関係を表す語句
11	第6課 どこにいるか、何があるか確認しよう	疑問詞 2、コスタリカ
12	第7課 しなければいけない、するつもり	1人称単数不規則動詞、天候表現
13	第7課 しなければいけない、するつもり	動詞 tener, ir、キューバ

14 期末試験、ふりかえり 春学期の学習事項に関する試験とふりかえり

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストに出てくる不明な単語や熟語は必ずあらかじめ辞書で調べ、スペイン語文の和訳と練習問題も自分で解いて授業に臨むこと。舞台となっている地域の場所は地図で確認し、その歴史や特徴なども調べて積極的な姿勢で取り組んでください。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

柳田玲奈／吉野達也『ラテアメ！ スペイン語—ラテンアメリカ縦断』朝日出版社、2023年

【参考書】

岡本信照『スペイン語のしくみ』白水社
高橋寛二『テーブル式スペイン語便覧』評論社
西川喬『わかるスペイン語文法』同学社
小川雅美『スペイン語ワークブック』同学社
高橋寛二、伊藤ゆかり、古川亜矢『とことんドリル！ スペイン語文法目別』同学社
その他、授業中に適宜紹介。

【成績評価の方法と基準】

平常点（50%）、小テスト（10%）、期末試験（40%）から総合的に評価。

【学生の意見等からの気づき】

いろいろな学部・学年・バックグラウンドをもった学生が受講しているため、できるだけグループアクティビティを取り入れ、双方向・多方向のコミュニケーションができるようにしたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

対面授業ができなくなった場合、パソコンと安定したインターネット環境が必要。

【その他の重要事項】

授業には辞書を必ず持参してください。
家で勉強する時は、スマートフォンのアプリや電子辞書ではなく紙媒体の辞書をお勧めします。長期的にスペイン語を勉強するのなら、和辞典は白水社、三省堂、小学館、研究社など、和英辞典は白水社、三省堂などから出版されている中規模以上のものがよいと思います。

【Outline (in English)】

This course introduces the basic of Spanish to beginners. The goals are to pronounce Spanish correctly, express your daily life in Spanish and apprehend Spanish-speaking world. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Final grade will be calculated according to the following process;
in class contribution 50%, short exam 10%, term-end examination 40%.

LANs300LA

第三外国語としてのスペイン語 B 2017 年度以降入学者

杉下 由紀子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 2/Thu.2

単位数：2 単位

定員制 (40 名)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

第三外国語として初めてスペイン語を学ぶ学生を対象に、スペイン語の初歩を学ぶ。

【到達目標】

現在と過去の動詞の時制の活用と用法を覚える。
簡単な日常会話・文章読解・作文ができるようにする。
スペイン語圏の社会や文化に関する理解を深める。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示された
どの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針
に明示された学習成果との関連）】**

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

すべて対面で行う。対面が不可になった場合は Zoom によるリアルタイム双方向式で行う。教員が文法事項を説明し、履修生は音声を聴いて発音練習、テキスト記載の練習問題、会話練習、グループワークを行う。時々スペイン語圏の文化に関する映像資料を鑑賞する。グループアクティビティや試験返却時に講評・解説する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	第8課 許可を求めたり、相手の希望を尋ねたりしよう	語幹母音変化動詞
2	第8課 許可を求めたり、相手の希望を尋ねたりしよう	不規則動詞、頻度の表現
3	第9課 好きなものを伝えよう	目的格人称代名詞
4	第9課 好きなものを伝えよう	前置詞格人尿代名詞、動詞 gustar
5	第10課 日常生活について話そう	再帰動詞
6	第10課 日常生活について話そう	時刻、曜日、コロンビア
7	小テスト 第11課 今していることや、これまでの経験を話そう	現在分詞、過去分詞
8	第11課 今していることや、これまでの経験を話そう	現在完了、不定語・否定語
9	第12課 過去の出来事を伝えよう	点過去規則動詞
10	第12課 過去の出来事を伝えよう	比較、ペルー
11	第13課 過去の出来事を伝えよう	点過去不規則動詞
12	第13課 主語のない文を使おう	無人称表現、muy と mucho
13	第14課 昔のことを	線過去、アルゼンチン語等

14 期末試験、ふりかえり 秋学期の学習事項に関する試験とふりかえり

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストに出てくる不明な単語や熟語は必ずあらかじめ辞書で調べ、スペイン語文の和訳と練習問題も自分で解いて授業に臨むこと。舞台となっている地域の場所は地図で確認し、その歴史や特徴なども調べて積極的な姿勢で取り組んでください。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

柳田玲奈／吉野達也『ラテアメ！スペイン語—ラテンアメリカ縦断』朝日出版社、2023年

【参考書】

岡本信照『スペイン語のしくみ』白水社
高橋寛二『テーブル式スペイン語便覧』評論社
西川喬『わかるスペイン語文法』同学社
小川雅美『スペイン語ワークブック』同学社
高橋寛二、伊藤ゆかり、古川亜矢『とことんドリル！スペイン語文法項目別』同学社
その他、授業中に適宜紹介。

【成績評価の方法と基準】

平常点 (50%)、小テスト (10%)、期末試験 (40%) から総合的に評価。

【学生の意見等からの気づき】

いろいろな学部・学年・バックグラウンドをもった学生が受講しているので、できるだけグループアクティビティを取り入れ、双方向・多方向のコミュニケーションができるようにしたいと思います。

【学生が準備すべき機器他】

対面授業ができなくなった場合、パソコンと安定したインターネット環境が必要。

【その他の重要事項】

授業には辞書を必ず持参してください。
家で勉強する時は、スマートフォンのアプリや電子辞書ではなく紙媒体の辞書をお勧めします。長期的にスペイン語を勉強するのなら、和辞典は白水社、三省堂、小学館、研究社など、和英辞典は白水社、三省堂などから出版されている中規模以上のものがよいと思います。

【Outline (in English)】

This course introduces the basic of Spanish to beginners. The goals are to master basic daily Spanish conversation, reading and composition and apprehend Spanish-speaking world. Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content. Final grade will be calculated according to the following process; in class contribution 50%, short exam 10%, term-end examination 40%.

LANs300LA

スペイン語上級A

2017年度以降入学者

大西 亮

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 1/Tue.1

単位数：2単位

定員制（40名）

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

SAスペイン修了程度のスペイン語力を持った学生を対象に、スペイン語による読解力のさらなる向上を目指す。また、スペイン語で書かれた多様な読み物を通して、スペイン語圏の時事問題や文化の理解につなげる。あわせて、スペイン語による会話や西作文の練習を行なう。

【到達目標】

DELE(B2)程度のレベルを目指す。具体的な目標は以下のとおり。

- ①新聞や小説などの文章を理解できるようになる。
- ②日常会話だけでなく、複雑な内容の議論ができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

基本的に「対面」での授業となる。課題等に対するフィードバックは、授業内に口頭にて行なう。教員と学生との双方向的なコミュニケーションを軸に授業を進める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	授業方法についての説明。	学生の希望の聴取。受講者の数と学生の希望に応じて、今後の授業の形態を決定する。教員によるモデル授業。
2	講読 1 ディスカッション (時事問題)	教員によるモデル授業。
3	講読 2 ディスカッション (スポーツ)	直説法現在形を中心とした文章の読解。
4	講読 3 ディスカッション (映画)	直説法現在進行形を用いた文章の読解。
5	講読 4 ディスカッション (音楽)	関係代名詞を用いた文章の読解。
6	講読 5 ディスカッション (食文化)	再帰代名詞を用いた文章の読解。
7	講読 6 ディスカッション (時事問題)	過去完了形を用いた文章の読解。
8	講読 7 ディスカッション (ファッション)	直説法点過去形を用いた文章の読解。
9	講読 8 ディスカッション (習慣)	直説法線過去形を用いた文章の読解。

10	講読 9 ディスカッション (文学)	現在分詞を用いた文章の読解。
11	講読 10 ディスカッション (テクノロジー)	時の経過を表す表現を用いた文章の読解。
12	講読 11 ディスカッション (移民)	感嘆文を用いた文章の読解。
13	講読 12 ディスカッション (世界遺産)	直説法未来形を用いた文章の読解。
14	講読 13 ディスカッション (自由テーマ)	春学期授業のふりかえり。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

当番学生は、授業で扱う読み物を用意し、事前に受講生に配っておく。当日までに教材を徹底的に読みこみ、注釈を作っておく。自分が当たっていないときでも、十分な予習をすること。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

なし

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

発表内容 50%、ディスカッションへの参加姿勢 25%、他の学生の発表の際の参加姿勢 25%を目安として総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

受講生の積極的な発言を促しながらの授業を展開します。

【Outline (in English)】

This class is for the students who have finished SA Barcelona Program or who have advanced spanish level.

The principal goal of this class is to provide you with the opportunity to improve your reading and oral communication skills in the language.

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

Your overall grade in the class will be decided based on the following;

Quality of the students' presentation in the class: 50% and in class contribution:50%

LANs300LA

スペイン語上級B

2017年度以降入学者

大西 亮

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 1/Tue.1

単位数：2単位

定員制（40名）

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スペインS A修了程度のスペイン語力を持った学生を対象に、スペイン語による読解力のさらなる向上を目指す。また、スペイン語による多様な読み物を通して、スペイン語圏の時事問題や文化理解につなげる。あわせて、スペイン語による会話や西作文の練習を行なう。

【到達目標】

DELE(B2)程度のレベルを目指す。具体的な目標は以下のとおり。

- ①新聞や小説などの文章を理解できるようになる。
- ②日常会話だけでなく、複雑な内容の議論ができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

当番学生は記事あるいは読み物を選び、それについて主体的に授業を進行する。つまり、解説をし、ほかの学生を指名して解答を要求する。教師はそれについてアドバイスやコメントを行なう。また、テーマに応じたスペイン語による発表を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	授業方法についての説明。	学生の希望の聴取。受講者の数と学生の希望に応じて、今後の授業の形態を決定する。教員によるモデル授業。
2	講読 1 ディスカッション (時事問題)	教員による授業。テーマに関するディスカッション。
3	講読 2 ディスカッション (スポーツ)	直説法未来完了形を用いた文章の読解。
4	講読 3 ディスカッション (映画)	直説法過去未来形を用いた文章の読解。
5	講読 4 ディスカッション (音楽)	直説法未来完了形を用いた文章の読解。
6	講読 5 ディスカッション (食文化)	分詞構文を用いた文章の読解。
7	講読 6 ディスカッション (時事問題)	直説法過去未来完了形を用いた文章の読解。
8	講読 7 ディスカッション (ファッション)	感覚・使役の動詞を用いた文章の読解。
9	講読 8 ディスカッション (習慣)	接続法現在形を用いた文章の読解。

10	講読 9 ディスカッション (文学)	接続法現在完了形を用いた文章の読解。
11	講読 10 ディスカッション (自由テーマ)	接続法過去形を用いた文章の読解。
12	講読 11 ディスカッション (時事問題)	接続法過去完了形を用いた文章の読解。
13	講読 12 ディスカッション (世界遺産)	願望文を用いた文章の読解。
14	講読 13 ディスカッション (自由テーマ)	秋学期のふりかえり。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

当番学生は、読み物を用意し、事前に受講生に配っておく。当日までに読み物を徹底的に読み、注釈を作っておく。自分が当たっていないときでも、十分な予習をする。本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

なし

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

発表内容 50 %、ディスカッションへの参加姿勢 25 %、他の学生の発表の際の参加姿勢 25 %を目安として総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

なし

【Outline (in English)】

This class is for the students who have finished SA Barcelona Program or who have advanced spanish level.

The principal goal of this class is to provide you with the opportunity to improve your reading and oral communication skills in the language.

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

Your overall grade in the class will be decided based on the following;

Quality of the students' presentation in the class: 50% and in class contribution:50%

LANs300LA

スペイン語コミュニケーション中級A 2017年度以降入学者

瓜谷 アウロラ

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 3/Wed.3

単位数：2 単位

定員制 (30 名)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

春学期はオンラインでの開講となる。授業開始日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。

この講座ではスペインの文化や習慣を学びながら同時に語彙表現を豊かにするための練習を行う。毎回、モデル文章のリスニング、語彙解説、ディクテーション、発音練習、日本語からスペイン語への翻訳トレーニングなどを行う。

【到達目標】

スペインの文化習慣を学ぶと同時にスペイン語の語彙力を強化して、豊かな表現力を身につけることが目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

毎回最初に仲間同士で10個のスペイン語の質問の練習から始まる。その後前回の復習をしてから、新しいモデル文章のリスニング、語彙解説、ディクテーション、発音練習、日本語からスペイン語への翻訳トレーニングなどを行う。

本授業には課題がない。期末には「日本の結婚式」についてスペイン語でレポートを書く必要がある。期末のレポートを添削してからフィードバックはHoppiiを通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	スペインの結婚式の開催時刻の習慣	リスニング練習、読解練習、発音練習、語彙練習、発話練習、再構築練習
2	スペインの結婚式会場	リスニング練習、読解練習、発音練習、語彙練習、発話練習、再構築練習
3	スペインの結婚式の披露宴の招待客	リスニング練習、読解練習、発音練習、語彙練習、発話練習、再構築練習
4	スペインの結婚式の披露宴の席順	リスニング練習、読解練習、発音練習、語彙練習、発話練習、再構築練習
5	スペインの結婚式の披露宴のダンス（前半）	リスニング練習、読解練習、発音練習、語彙練習、発話練習、再構築練習
6	スペインの結婚式の披露宴のダンス（後半）	リスニング練習、読解練習、発音練習、語彙練習、発話練習、再構築練習
7	スペインの結婚式の二次会のはじまり	リスニング練習、読解練習、発音練習、語彙練習、発話練習、再構築練習
8	スペインの結婚式の二次会の終わり	リスニング練習、読解練習、発音練習、語彙練習、発話練習、再構築練習

9	スペインの結婚式のお祝儀の渡し方	リスニング練習、読解練習、発音練習、語彙練習、発話練習、再構築練習
10	スペインの結婚式のお祝いプレゼントの渡し方	リスニング練習、読解練習、発音練習、語彙練習、発話練習、再構築練習
11	スペインの結婚式のカトリック儀式	リスニング練習、読解練習、発音練習、語彙練習、発話練習、再構築練習
12	スペインの結婚式の非宗教儀式	リスニング練習、読解練習、発音練習、語彙練習、発話練習、再構築練習
13	スペインの恋人たち	リスニング練習、読解練習、発音練習、語彙練習、発話練習、再構築練習
14	春学期の総復習	リスニング練習、読解練習、発音練習、語彙練習、発話練習、再構築練習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

この授業の予習はあらかじめ毎週お送りするPDFの新しい語彙を覚えることとBreak Out Roomで使う10個の質問の答えを言えるように練習しておくこと。授業で学んだモデル文章を毎回復習するので、授業に臨む前に今一度目を通していただくことが必要である。本授業の予習と復習時間は合わせて4時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

なし

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

1. 授業内で指された時の返事に基づく点数。又、授業での態度や積極的な参加度など。出席点ではありません → 60 %
2. 期末のレポートに基づく点数 → 40 %

【学生の意見等からの気づき】

オンラインの授業が良かったので、今年も同じテーマのPPを使う。

【学生が準備すべき機器他】

ZOOMに滞りなく参加ができるように機器環境を整えること。

【Outline (in English)】

The spring semester will be offered online. By the first day of classes, specific instructions on how to teach online will be presented in the learning support system.

In this course you will learn about Spanish culture and customs, while at the same time practising and enriching your vocabulary. Each lesson will include listening to a model text, vocabulary explanation, dictation, pronunciation practice and translation training from Japanese to Spanish.

The aim is to learn about Spanish cultural practices and at the same time to strengthen the Spanish vocabulary and develop a rich expressive capacity.

Grading Criteria:

1. Marks based on responses to pointers in class and marks based on the student's attitude and active participation in the class. This is not a mark for attendance → 60%.
2. Mark based on the final report of the term → 40%.

To prepare for this lesson, you will need to memorise the new vocabulary in the PDF sent to you each week and practise answering the 10 questions in the Break Out Room. We will review the model texts from each lesson, so you will need to read through them before coming to class. The standard preparation and revision time for this class is four hours.

LANs300LA

スペイン語コミュニケーション中級B 2017年度以降入学者

瓜谷 アウロラ

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 3/Wed.3

単位数：2 単位

定員制 (30 名)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

秋学期はオンラインでの開講となる。授業開始日までに具体的なオンライン授業の方法などを、学習支援システムで提示する。この講座ではスペインの文化や習慣を学びながら同時に語彙表現を豊かにするための練習を行う。毎回、モデル文章のリスニング、語彙解説、ディクテーション、発音練習、日本語からスペイン語への翻訳トレーニングなどを行う。

【到達目標】

スペインの文化習慣を学ぶと同時にスペイン語の語彙力を強化して、豊かな表現力を身につけることが目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

ZOOM でリアルタイムで行う。

Break Out Room を使って、決まった質問の練習から始める。その後復習をしてから、リスニング、語彙解説、ディクテーション、発音練習で新しい文章の理解を深めていく。最後に日本語からスペイン語への翻訳トレーニングもやる。

本授業には課題がない。期末には「日本のクリスマスと新年の祝賀」についてスペイン語でレポートを書く必要がある。期末のレポートを添削してからフィードバックは Hoppii を通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	スペインのクリスマス 宝くじの習慣	リスニング練習、読解練習、発音練習、語彙練習、発話練習、再構築練習
2	スペインのクリスマス シーズンの始まり	リスニング練習、読解練習、発音練習、語彙練習、発話練習、再構築練習
3	スペインのクリスマス イブの過ごし方	リスニング練習、読解練習、発音練習、語彙練習、発話練習、再構築練習
4	スペインのクリスマス の飾り付け	リスニング練習、読解練習、発音練習、語彙練習、発話練習、再構築練習
5	スペインのクリスマス プレゼント	リスニング練習、読解練習、発音練習、語彙練習、発話練習、再構築練習
6	スペインの大晦日の過 ごし方	リスニング練習、読解練習、発音練習、語彙練習、発話練習、再構築練習
7	スペインの大晦日の年 越しぶどうの起源	リスニング練習、読解練習、発音練習、語彙練習、発話練習、再構築練習
8	スペインの大晦日の年 越しぶどうの食べ方	リスニング練習、読解練習、発音練習、語彙練習、発話練習、再構築練習

9	スペインの元旦について	リスニング練習、読解練習、発音練習、語彙練習、発話練習、再構築練習
10	スペインの元旦の習慣 の起源	リスニング練習、読解練習、発音練習、語彙練習、発話練習、再構築練習
11	スペインの東方の三賢 人のパレード	リスニング練習、読解練習、発音練習、語彙練習、発話練習、再構築練習
12	スペインの1月6日 の祝日	リスニング練習、読解練習、発音練習、語彙練習、発話練習、再構築練習
13	スペインのクリスマス 休暇	リスニング練習、読解練習、発音練習、語彙練習、発話練習、再構築練習
14	秋学期の総合復習	リスニング練習、読解練習、発音練習、語彙練習、発話練習、再構築練習

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

この授業の予習があらかじめ毎週お送りする PDF の新しい語彙を覚えることと Break Out Room で使う 10 個の質問の答えを言えるように練習しておくことです。授業で学んだモデル文章を毎回復習するので授業に臨む前に今一度目を通していただくことが必要である。本授業の予習と復習時間は合わせて 4 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

なし

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

1. 授業内で指された時の返事に基づく点数。又、授業での態度や積極的な参加度など。

出席点ではありません → 60 %

2. 期末のレポートに基づく点数 → 40 %

【学生の意見等からの気づき】

オンラインの授業が良かったので、今年も同じテーマの PP を使う。

【学生が準備すべき機器他】

ZOOM に滞りなく参加ができるように機器環境を整えること。

【Outline (in English)】

The fall semester will be offered online. By the first day of classes, specific instructions on how to teach online will be presented in the learning support system.

In this course you will learn about Spanish culture and customs, while at the same time practising and enriching your vocabulary. Each lesson will include listening to a model text, vocabulary explanation, dictation, pronunciation practice and translation training from Japanese to Spanish.

The aim is to learn about Spanish cultural practices and at the same time to strengthen the Spanish vocabulary and develop a rich expressive capacity.

Grading Criteria:

1. Marks based on responses to pointers in class and marks based on the student's attitude and active participation in the class. This is not a mark for attendance → 60%.

2. Mark based on the final report of the term → 40%.

To prepare for this lesson, you will need to memorise the new vocabulary in the PDF sent to you each week and practise answering the 10 questions in the Break Out Room. We will review the model texts from each lesson, so you will need to read through them before coming to class. The standard preparation and revision time for this class is four hours.

ARSa300LA

教養ゼミ I

2017 年度以降入学者

久木 正雄

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 2/Fri.2

単位数：2 単位

定員制 (30 名)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、ゼミ形式でスペイン語圏の文化と社会について学ぶ。今年度はスペイン（およびスペイン国家形成以前のイベリア半島）の歴史をテーマとし、春学期は前近代（古代～近世）の通史を軸に据え、歴史の大きな流れを追いながら、文化史や宗教史といった個別のトピックを織り交ぜていく。

【到達目標】

- (1) スペイン前近代史に関する基本的な理解を得る。
- (2) 歴史的視座から、現在のスペインの魅力と諸問題に対する理解と関心を深める。
- (3) 上述の (1)、(2) に関する各自の考えを、ディスカッションと学期末レポートにおいて正確に言語化することができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

各回の授業の最後に、次の回で扱うテキストの範囲と、調べたりコメントを準備したりしてきてほしいテーマについて指示する。次の回の授業では、調べた内容やコメントを受講生に発表してもらい、それらに応じる形で教員が講義を行うとともに、受講生とのディスカッションを行う。課題等に対するフィードバックは授業内で行い、必要に応じて「学習支援システム」も活用する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の進め方を確認した上で、受講生と教員との間で問題関心を共有する。
2	先史時代のイベリア半島	先史時代のスペイン（イベリア）史について学ぶ。
3	ローマ属州ヒスパニア	ローマ属州の時代のスペイン（イベリア）史について学ぶ。
4	西ゴート王国	ローマ支配後のスペイン（イベリア）古代史について学ぶ。
5	スペイン史と三宗教	スペイン史とキリスト教、イスラーム、ユダヤ教との関係について学ぶ。
6	アル・アンダルス	イスラーム治下のスペイン（イベリア）中世史について学ぶ。
7	カスティーリャ王国	カスティーリャ中世史について学ぶ。
8	アラゴン連合王国	アラゴン中世史について学ぶ。
9	地中海世界と大西洋世界	二つの大洋にわたるスペイン史の広がりについて学ぶ。
10	カトリック両王の時代	近世初期のスペイン史について学ぶ。
11	スペイン帝国の「繁栄」と「衰退」	16、17 世紀のスペイン史について学ぶ。
12	絶対王政と啓蒙	18 世紀のスペイン史について学ぶ。

- 13 スペインの世界遺産 世界遺産を題材として、スペイン史への理解を深める。
- 14 春学期のまとめ スペイン（イベリア）前近代史を総括する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習として、テキストの指定範囲と関連資料を読み、指示された課題に取り組んでおくこと。復習として、各回の内容を各自の問題関心に照らしながら咀嚼し直し、学期末レポートに備えること。なお、本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

立石博高、内村俊太編著『スペインの歴史を知るための 50 章』明石書店、2016 年、ISBN9784750344157、本体価格 2,000 円。

【参考書】

図版が豊富に掲載されている資料集として、以下の書籍を挙げておく。その他の参考書は教場にて適宜紹介する。前掲のテキストの巻末の「ブックガイド」も積極的に活用してほしい。

J・アロステギ・サンチェス著、立石博高監訳『スペインの歴史—スペイン高校歴史教科書』明石書店、2014 年、ISBN 9784750340326、本体価格 5,800 円。

【成績評価の方法と基準】

各回の課題への取り組みとディスカッションへの参加の度合い：60 %、学期末レポート：40 %。

【学生の意見等からの気づき】

各受講生の問題関心を尊重し、柔軟な議論が展開されるように努める。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

・履修予定者は、初回授業の前々日までに「学習支援システム」で仮登録を行っておくこと。仮登録者数が教室定員を超過した場合は、初回授業はオンラインで実施して選抜を行うこととし、その旨を前日のうちに同システムで通知する。

・スペイン語などの外国語の運用能力の有無は問わない。

【Outline (in English)】

《Course outline》

This course is designed to provide students with a basic understanding of the history of Spain, through text reading and discussion.

《Learning Objectives》

Students will gain the basic knowledge of the history of Spain, and the ability of express your ideas accurately in discussion and term-end report.

《Learning activities outside of classroom》

Students will be expected to have completed the required assignments before and after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

《Grading Criteria / Policy》

Your overall grade in the class will be decided based on the following: In-class contribution (60%), and term-end report (40%).

ARSa300LA

教養ゼミⅡ

2017年度以降入学者

久木 正雄

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 2/Fri.2

単位数：2 単位

定員制（30名）

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、ゼミ形式でスペイン語圏の文化と社会について学ぶ。今年度はスペインの歴史をテーマとし、秋学期は近現代の通史を主軸に据え、歴史の大きな流れを追いながら、思想史や法制史といった個別のトピックを織り交ぜていく。

【到達目標】

- (1) スペイン近現代史に関する基本的な理解を得る。
- (2) 歴史的視座から、現在のスペインの魅力と諸問題に対する理解と関心を深める。
- (3) 上述の(1)、(2)に関する各自の考えを、ディスカッションと学期末レポートにおいて正確に言語化することができるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

各回の授業の最後に、次の回で扱うテキストの範囲と、調べたりコメントを準備したりしてきてほしいテーマについて指示する。次の回の授業では、調べた内容やコメントを受講生に発表してもらい、それらに応じる形で教員が講義を行うとともに、受講生とのディスカッションを行う。課題等に対するフィードバックは授業内で行い、必要に応じて「学習支援システム」も活用する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	春学期の復習	春学期の学習事項を復習し、新たな学習事項に取り組むための足固めを行う。
2	旧体制の揺動	18世紀末から19世紀初頭にかけてのスペイン史について学ぶ。
3	自由主義の芽生え	19世紀前半のスペイン史について学ぶ。
4	第一共和政と王政復古体制	19世紀後半のスペイン史について学ぶ。
5	近現代の政治思想と社会運動	政治と社会をめぐる思潮のスペインでの展開について学ぶ。
6	プリモ・デ・リベラ独裁	20世紀初頭のスペイン史について学ぶ。
7	第二共和政	スペイン第二共和政について学ぶ。
8	内戦	スペイン内戦について学ぶ。
9	二つの世界大戦と国際政治	20世紀スペインの国際関係史について学ぶ。
10	フランコ体制	フランコ体制の確立と展開について学ぶ。
11	民主化への道	フランコ体制の崩壊と民主化への過程について学ぶ。
12	自治州国家体制	現行制度でもあるスペインの自治州国家体制について学ぶ。
13	スペインの憲法	歴史的諸憲法を題材として、スペイン近現代史を総括する。

14 秋学期のまとめ

歴史的理解をもとに、現在のスペインにおける諸問題を検討する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習として、テキストの指定範囲と関連資料を読み、指示された課題に取り組んでおくこと。復習として、各回の内容を各自の問題関心に照らしながら咀嚼し直し、学期末レポートに備えること。なお、本授業の準備学習・復習時間は、各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

立石博高、内村俊太編著『スペインの歴史を知るための50章』明石書店、2016年、ISBN9784750344157、本体価格2,000円。

【参考書】

図版が豊富に掲載されている資料集として、以下の書籍を挙げておく。その他の参考書は授業内で適宜紹介する。前掲のテキストの巻末の「ブックガイド」も積極的に活用してほしい。

J・アロステギ・サンチェス著、立石博高監訳『スペインの歴史—スペイン高校歴史教科書』明石書店、2014年、ISBN 9784750340326、本体価格5,800円。

【成績評価の方法と基準】

各回の課題への取り組みとディスカッションへの参加の度合い：60%、学期末レポート：40%。

【学生の意見等からの気づき】

各受講生の問題関心を尊重し、柔軟な議論が展開されるように努める。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

・履修予定者は、初回授業の前々日までに「学習支援システム」で仮登録を行っておくこと。仮登録者数が教室定員を超過した場合は、初回授業はオンラインで実施して選抜を行うこととし、その旨を前日のうちに同システムで通知する。

・スペイン語などの外国語の運用能力の有無は問わない。

【Outline (in English)】

《Course outline》

This course is designed to provide students with a basic understanding of the history of Spain, through text reading and discussion.

《Learning Objectives》

Students will gain the basic knowledge of the history of Spain, and the ability of express your ideas accurately in discussion and term-end report.

《Learning activities outside of classroom》

Students will be expected to have completed the required assignments before and after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

《Grading Criteria /Policy》

Your overall grade in the class will be decided based on the following: In-class contribution (60%), and term-end report (40%).

LANs300LA

スペイン語講読 A

2017 年度以降入学者

若林 大我

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 1/Fri.4

単位数：2 単位

定員制 (30 名)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スペイン語の文法を一通り学習済みの学生を対象とし、文法を丁寧に復習しながらテキストの講読を進めることにより、スペイン語力の定着を促す。

【到達目標】

初級・中級文法の理解を深めながら、さまざまな時代や場所を舞台とするいくつかの物語を読み進められるようになる。またこれにより、スペイン語圏の文化や歴史に対する興味を高める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

教員による補足説明を踏まえながら、スペイン語で書かれたいくつかの物語を、語彙、文法、表現等の観点から読み解いていく。

課題が出題された場合は、学習支援システムを通じて提出するものとする。課題に対するフィードバックも、学習支援システムを通じて行う。

本授業は基本的に教室内での対面形式で実施するが、キャンパスの混雑を避けるため、初回授業に限り Zoom を通じたリアルタイムでのオンライン形式とする。Zoom の URL は学期開始前に学習支援システム上で公開するので、必ず確認すること。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の形態、進め方、評価方法等の説明
2	「父と息子とロバ」(El padre, el hijo y el burro) : 語彙	教科書第 1 課の語彙確認
3	「父と息子とロバ」(El padre, el hijo y el burro) : 表現	教科書第 1 課の表現確認
4	「父と息子とロバ」(El padre, el hijo y el burro) : 文法	教科書第 1 課の文法復習
5	「私のビスケット」(Mis galletas) : 語彙	教科書第 2 課の語彙確認
6	「私のビスケット」(Mis galletas) : 表現	教科書第 2 課の表現確認
7	「私のビスケット」(Mis galletas) : 文法	教科書第 2 課の文法復習
8	中間テスト 「50 ドル紙幣」(El billete de 50 dólares) : 語彙	今学期の中間テストを実施 教科書第 3 課の語彙確認
9	「50 ドル紙幣」(El billete de 50 dólares) : 表現	教科書第 3 課の表現確認

10 「50 ドル紙幣」(El billete de 50 dólares) : 文法

11 「最後の仕事」(El último trabajo) : 語彙

12 「最後の仕事」(El último trabajo) : 表現

13 「最後の仕事」(El último trabajo) : 文法

14 試験・まとめと解説 今学期の期末テストを実施
まとめと振り返りを行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書各課の予習（未知の単語を辞書で調べることなど）や宿題（教科書の練習問題）に取り組むこと。本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

サンティアゴ・フェラン、青木利夫『クエンタメ：スペイン語を学びながら楽しむ 8 つの物語-中級-』朝日出版社、2017 年、ISBN: 978-255-55087-9

【参考書】

必要に応じ、授業内で指示する。

【成績評価の方法と基準】

平常点 30 %、中間テスト 30 %、期末テスト 40 %として総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

履修生の理解度に合わせた授業進行を心がける。

【Outline (in English)】

In this course, the students who already have learned the Spanish grammar develop their understanding and knowledge, through reading short stories written in Spanish.

By the end of the course, students should be able to do the followings:

- Read short stories in Spanish

- Have interest in Hispanic cultures and history

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours in total to understand the course content.

Final grade will be calculated according to the following process:

- In-class contribution (30%)

- Mid-term exam (30%)

- Term-end exam (40%)

LANs300LA

スペイン語講読 B

2017 年度以降入学者

若林 大我

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 1/Fri.1

単位数：2 単位

定員制 (30 名)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スペイン語の文法を一通り学習済みの学生を対象とし、文法を丁寧に復習しながらテキストの講読を進めることにより、スペイン語力の定着を促す。

【到達目標】

初級・中級文法の理解を深めながら、さまざまな時代や場所を舞台とするいくつかの物語を読み進められるようになる。またこれにより、スペイン語圏の文化や歴史に対する興味を高める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

教員による補足説明を踏まえながら、スペイン語で書かれたいくつかの物語を、語彙、文法、表現等の観点から読み解いていく。

課題が出題された場合は、学習支援システムを通じて提出するものとする。課題に対するフィードバックも、学習支援システムを通じて行う。

本授業は基本的に教室内での対面形式で実施するが、キャンパスの混雑を避けるため、初回授業に限り Zoom を通じたリアルタイムでのオンライン形式とする。Zoom の URL は学期開始前に学習支援システム上で公開するので、必ず確認すること。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の形態、進め方、評価方法等の説明
2	「見事な収穫」(Una magnífica cosecha) : 語彙	教科書第 5 課の語彙確認
3	「見事な収穫」(Una magnífica cosecha) : 表現	教科書第 5 課の表現確認
4	「見事な収穫」(Una magnífica cosecha) : 文法	教科書第 5 課の文法復習
5	「腸詰め」(La morcilla) : 語彙	教科書第 6 課の語彙確認
6	「腸詰め」(La morcilla) : 表現	教科書第 6 課の表現確認
7	「腸詰め」(La morcilla) : 文法	教科書第 6 課の文法復習
8	中間テスト 「絵描きのノチャ」(El pintor Nocha) : 語彙	今学期の中間テストを実施 教科書第 7 課の語彙確認
9	「絵描きのノチャ」(El pintor Nocha) : 表現	教科書第 7 課の表現確認
10	「絵描きのノチャ」(El pintor Nocha) : 文法	教科書第 7 課の文法復習
11	「ラビ」(El rabino) : 語彙	教科書第 8 課の語彙確認

12 「ラビ」(El rabino) : 教科書第 8 課の表現確認

13 「ラビ」(El rabino) : 教科書第 8 課の文法復習

14 試験・まとめと解説 今学期の期末テストを実施
まとめと振り返りを行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

教科書各課の予習（未知の単語を辞書で調べることなど）や宿題（教科書の練習問題）に取り組むこと。本授業の準備・復習時間は、各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

サンティアゴ・フェラン、青木利夫『クエンタメ: スペイン語を学びながら楽しむ 8 つの物語-中級-』朝日出版社、2017 年、ISBN: 978-255-55087-9

【参考書】

必要に応じ、授業内で指示する。

【成績評価の方法と基準】

平常点 30 %、中間テスト 30 %、期末テスト 40 %として総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

履修生の理解度に合わせた授業進行を心がける。

【Outline (in English)】

In this course, the students who already have learned the Spanish grammar develop their understanding and knowledge, through reading short stories written in Spanish.

By the end of the course, students should be able to do the followings:

- Read short stories in Spanish

- Have interest in Hispanic cultures and history

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours in total to understand the course content.

Final grade will be calculated according to the following process:

- In-class contribution (30%)

- Mid-term exam (30%)

- Term-end exam (40%)

LANe200LA

英語オーラル・コミュニケーション I 2017年度以降入学者

ALAN M NICHOLLS

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 3/Mon.3

単位数：1 単位

レベル 2,3 / 定員制 (24 名)

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This is an elective course that will provide students with the opportunity to develop their oral communication skills from a pre-intermediate level.

Students will be encouraged to discuss contemporary issues related to current world events and future changes in technology and society. Additional activities will include pronunciation and use of rhythm and intonation to assist oral communication.

【到達目標】

Students will practice skills needed to make effective use of their voices to achieve more natural communication. Students will also practice speaking in "ideas" rather than words. The course will use TED Talks, BBC videos and current news articles to enable students become more effective and proficient in English.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1

【授業の進め方と方法】

Students will be able to practice and develop their speaking skills using A++, BOOST and Yes/No/Key/Or techniques. Students will practice listening using Shadowing. We will also practice speaking through making on-line presentations. All assignments will be distributed, submitted and returned to students digitally via Google Classroom. Written assignments will be returned with detailed comments on how students can improve their writing skills.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	Course Introduction	Outline of course, grading criteria and class policies. Access Google Classroom
2	Unit 1: Technology	Introduction of technology Generative applications; Practice A++ to encourage longer speaking.
3	Technology	Discussions of Technology: Building on Original statements (BOOST)
4	Technology: Reading	BBC Articles - Transport systems. Practice different questions Yes/No/Key/Or
5	Technology: Presentation skills	TED Talk: Presentation Analysis and Discussion; Presentation Skills
6	Unit 3: Culture	Introduction of Culture related Vocabulary; Oral Practice A++. Introduce Ballad

7	Culture	Theme Discussions. Build on Original Statement. Continue Ballad
8	Culture: Research a country	Theme-related topic study. Negative Questions and TAG questions. Prepare a short presentation on main elements of culture
9	Culture:	Presentation Skills: Present about another culture using presentation aids.
10	Unit 5: Beliefs	Introduce key vocabulary for Belief systems. Discuss beliefs and culture. Clancy ... cont.
11	Beliefs	Listening and Shadowing. Prepare a short presentation. Continue Ballad
12	Beliefs	Make a short presentation about beliefs
13	Presentation	Make small Group Ballad presentation.
14	Review and Recap	Watch a TED Presentation and evaluate for Academic or Social Style.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

University guidelines suggest preparation and review are around 2 hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course.

Class preparation; There will be some short worksheet assignments designed to test the students understanding of the ideas presented in the major themes of the course.

【テキスト（教科書）】

The English Course "Discussion Book Two" Gary Ireland and Max Woolerton. Available from < store.theenglishcompany.jp > . Look in the カタログ and search for DB2. A CD is not required but you might like to practice. If you purchase a book second-hand, you will need to pay The English Company 890 yen to access The Study Centre.

【参考書】

To be issued during semester.

【成績評価の方法と基準】

Reading: 10%

In-Class Worksheets 20%

Presentation: 10%

Group/Pair/Class Participation 20%

On-line Unit Tests: 18%

On-Line Tasks/Exercises:12%

Word Puzzle: 10%

In principle, no more than 3 absences will be permitted per semester for the student to receive academic credit in the course.

【学生の意見等からの気づき】

2022: Change of textbook from previous years.

2023: Use of generative AI applications in development of a presentation outline.

【学生が準備すべき機器他】

A device (Laptop or Tablet) that supports word processor software. (Smartphones are OK but are more difficult for students to use.) Students will be required to know their Hosi Gmail account details. Students may use voice recognition and generative AI software. Google Docs is the preferred format for submitting assignments.

【その他の重要事項】

We will use Google "Classroom" to send, submit and record all assignments. Students can download "Classroom" from the Google Web site. Students will be required to join the subject using "Classroom".

The Classroom Code for this subject will be advised via the university Hoppii system.

【Outline (in English)】

This is an elective course that will provide students with the opportunity to develop their oral communication skills from a pre-intermediate level.

Students will be encouraged to discuss contemporary issues related to current world events and future changes in technology and society. Additional activities will include pronunciation and use of rhythm and intonation to assist oral communication.

LANe200LA

英語オーラル・コミュニケーション 2017年度以降入学者
Ⅱ

ALAN M NICHOLLS

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 3/Mon.3

単位数：1 単位

レベル 2,3 / 定員制 (24 名)

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This is an elective course that will provide students with the opportunity to develop their oral communication skills. The course will develop students ability for person to person communication and presentation skills.

The course will use TED Talks and Academic presentations to compare and contrast the different styles of presentations. Students will be required to make short presentations on a variety of topics including: alternative meat products, transport technology and climate change.

【到達目標】

The goal of this course is to further enhance students' oral communication skills. Students will practice making both formal and informal presentations. Students will practice using punctuation to join and separate ideas and using gesture to emphasize ideas. Students will practice techniques to increase eye contact during on-line presentations.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1

【授業の進め方と方法】

The level of the material should suit students at a pre-intermediate level.

Students will be able to practice and develop their speaking skills using A++, BOOST and Yes/No/Key/Or techniques. Students will practice listening using Shadowing. Students will gain critical thinking skills through comparison of different articles on the same topic. Students will also practice presentation skills including gesture, voice control, eye contact, using notes and timing of presentation.

All assignments will be distributed, submitted and returned to students digitally via Google Classroom. Written assignments will be returned with detailed comments on how students can improve their writing skills.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	Introduction & Review	Welcome New Students. Review Semester 1, Ground rules, Study Centre.
2	Unit 7: The News	Introduction of Theme-Vocabulary; Oral Practice A++, Boost.
3	The News	Shadowing. Generate presentation on Topic Unit 7,9 or 11
4	TED Talk - Julian Treasure	How to make people WANT to listen. Worksheet. Analysis and Discussion of Presentation Skills.

5	The News	Presentation of text generated in week 3.
6	Unit 9: Ecotourism	Introduction of Theme-related Vocabulary; Oral Practice A++ and Boost.
7	Ecotourism	Shadowing with Text Famous speech preparation.
8	Ecotourism	Presentation or Debate about Eco-Tourism. Famous speech Preparation
9	TED Talk - TMWM	Video Presentation TMWM. Analysis and Discussion; Presentation Skills
10	Unit 11: Environment	Introduction of Theme-related Vocabulary; Oral Practice A++, Boost
11	Environment	Environmental issues Discussions and Shadowing
12	Environment	BBC Articles - Soil and Water. Analyze video. Worksheet.
13	Famous speech Presentation	Presentation: Famous speech.
14	TED Talk - How not to be ignorant.	Video Presentation Analysis and Discussion; Presentation Skills

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

University guidelines suggest preparation and review are around 2 hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course.

There will be a short written homework assignment designed to test the students understanding of the ideas presented in one of the major themes of the course.

【テキスト（教科書）】

The English Course "Discussion Book Two" Gary Ireland and Max Woolerton. Available from < store.theenglishcompany.jp > . Look in the カタログ and search for DB2. A CD is not required but you might like it to practice. If you purchase a book second-hand, you will need to pay The English Company 890 yen to access The Study Centre.

【参考書】

To be advised during course.

【成績評価の方法と基準】

Reading: 10%

In-Class Worksheets: 20%

Presentations: 20%

Pair/Group Participation: 20%

On-Line Tests: 18%

On-Line Tasks/Exercises: 12%

In principle, no more than 3 absences are allowed in order to gain a Credit grade.

【学生の意見等からの気づき】

Introduced generative AI to create a presentation outline.

【学生が準備すべき機器他】

A device (Laptop or Tablet) that supports word processor software. (Smartphones are OK but are more difficult for students to use because multiple windows are sometimes required). Students will be required to know their Hosei Gmail account details. Students may use voice recognition software. Google Docs is the required format for submitting written assignments.

【その他の重要事項】

We will use Google "Classroom" to send, submit and record all assignments. Students can download "Classroom" from the Google Web site. The Classroom Code for this subject will be advised via the university Hoppii system.

【Outline (in English)】

This is an elective course that will provide students with the opportunity to develop their oral communication skills. The course will develop students ability for person to person communication and presentation skills.

The course will use TED Talks and Academic presentations to compare and contrast the different styles of presentations. Students will be required to make short presentations on a variety of topics including: alternative meat products, transport technology and climate change.

LANe200LA

英語オーラル・コミュニケーション 2017年度以降入学者 I

ELIKO M KOSAKA

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 4/Fri.4

単位数：1 単位

レベル 2,3 / 定員制 (24 名)

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

教科書の各ユニットで紹介される会話内容を用いて、リスニング力、語彙力、読解力を向上させることを目的とする。更に英語発音を上達させ、会話に役立てる語彙やフレーズを理解し、使いこなすためのアクティビティを通して、練習する。

【到達目標】

①役に立つような英語運用能力を習得することが出来る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1

【授業の進め方と方法】

- ①各 Unit で使用される語彙の用法などを確認し、その語彙を用いた例文などを口頭・文章で表現する。
- ②英語の会話内容を効果的に聞き取り、内容を把握する。
- ③ダイアログ内容の要約・あるいは自分の意見をまとめ、口頭発表等を行う。
- ④授業内で指示された課題のフィードバックは、課題提出後におこなう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	①オリエンテーション, ② Unit 1(dialogue and drills)
第 2 回	Unit 1, continued.	① Vocabulary & grammar exercises ② Recitation exercise ③ Conversation/discussion/debate exercise
第 3 回	Unit 2	① Vocab quiz(単語テスト) and recitation (音読) ② Unit 2 (dialogue and drills)
第 4 回	Unit 2, continued.	① Vocabulary & grammar exercises ② Recitation exercise ③ Conversation/discussion/debate exercise
第 5 回	Unit 3	① Vocab quiz(単語テスト) and recitation (音読) ② Unit 3 (dialogue and drills)
第 6 回	Unit 3, continued	① Vocabulary & grammar exercises ② Recitation exercise ③ Conversation/discussion/debate exercise
第 7 回	Unit 4	① Vocab quiz(単語テスト) and recitation (音読) ② Unit 4 (dialogue and drills)

第 8 回 Mid-term exam 1). mid-term exam
2). summary and feedback
第 9 回 Unit 4, continued. ① Vocabulary & grammar exercises
② Recitation exercise
③ Conversation/discussion/debate exercise

第 10 回 Unit 5 ① Vocab quiz(単語テスト) and recitation (音読)
② Unit 5 (dialogue and drills)

第 11 回 Unit 5, continued. ① Vocabulary & grammar exercises
② Recitation exercise
③ Conversation/discussion/debate exercise

第 12 回 Unit 6 ① Vocab quiz(単語テスト) and recitation (音読)
② Unit 6 (dialogue and drills)

第 13 回 Unit 6, continued. ① Vocabulary & grammar exercises
② Recitation exercise
③ Conversation/discussion/debate exercise

第 14 回 Final Exam 1). Final exam
2). summary and feedback

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。
/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】

著書：CitiPals in New York: New Edition of Survival English
著者：Mary Tadokoro
出版社：朝日出版社
出版年：2018 年 第 5 刷発行
ISBN：978-4-255-15492-3

【参考書】

授業時に伝える。

【成績評価の方法と基準】

【評価方法】 積極的な参加 20%、中間試験・期末試験 20%、提出課題 20%、小テスト 20%、音読・グループライティング 20%
Active participation 20%, midterm and Finals 20%, homework 20%, quizzes 20%, recitations and group work 20%
In principle, no more than 3 absences per term are allowed.

【学生の意見等からの気づき】

学生と教員がお互いに協調して、有意義な授業時間を実現するために積極的かつ生産的にコミュニケーションを取ることが肝心である。

【Outline (in English)】

Using the "CitiPals in New York" textbook as a base point, the aim of the course is to improve the learner's pronunciation through various in-class exercises, establish a stronger command of vocabulary necessary to engage in effective conversation and foster the learner's ability to become more flexible and adaptable to various social settings. This will enable the learner to flexibly and comfortably converse in a diverse range of social settings and situations.
University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.
Active participation 20%, midterm and Finals 20%, homework 20%, quizzes 20%, recitations and group work 20%

LANe200LA

英語オーラル・コミュニケーション 2017年度以降入学者
II

ELIKO M KOSAKA

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 4/Fri.4

単位数：1 単位

レベル 2,3 / 定員制 (24 名)

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

教科書の各ユニットで紹介される会話内容を用いて、リスニング力、語彙力、読解力を向上させることを目的とする。更に英語発音を上達させ、会話に役立てる語彙やフレーズを理解し、使いこなすためのアクティビティを通して、練習する。

【到達目標】

①役に立つような英語運用能力を習得することが出来る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1

【授業の進め方と方法】

授業の進め方と方法

- ①各 Unit で使用される語彙の用法などを確認し、その語彙を用いた例文などを口頭・文章で表現する。
- ②英語の会話内容を効果的に聞き取り、内容を把握する。
- ③ダイアログ内容の要約・あるいは自分の意見をまとめ、口頭発表等を行う。
- ④授業内で指示された課題のフィードバックは、課題提出後におこなう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	Unit 8 目	①ガイダンス ② Unit 8 Airport (dialogue and drills)
第 2 回	Unit 8, continued. 目	① Vocabulary & grammar exercises ② Recitation exercise ③ Conversation/discussion/debate exercise
第 3 回	Unit 9 目	① Vocab quiz(単語テスト) and recitation (音読) ② Unit 9 (dialogue and drills)
第 4 回	Unit 9, continued 目	① Vocabulary & grammar exercises ② Recitation exercise ③ Conversation/discussion/debate exercise
第 5 回	Unit 10 目	① Vocab quiz(単語テスト) and recitation (音読) ② Unit 10 (dialogue and drills)
第 6 回	Unit 10, continued. 目	① Vocabulary & grammar exercises ② Recitation exercise ③ Conversation/discussion/debate exercise

第 7 回	Unit 11 目	① Vocab quiz(単語テスト) and recitation (音読) ② Unit 11 (dialogue and drills)
第 8 回	Mid-term exam 目	① 中間試験 ② まとめと解説
第 9 回	Unit 11, continued. 目	① Vocabulary & grammar exercises ② Recitation exercise ③ Conversation/discussion/debate exercise
第 10 回	Unit 12 目	① Vocab quiz(単語テスト) and recitation (音読) ② Unit 12 (dialogue and drills)
第 11 回	Unit 12, continued. 目	① Vocabulary & grammar exercises ② Recitation exercise ③ Conversation/discussion/debate exercise
第 12 回	Unit 13 目	① Vocab quiz(単語テスト) and recitation (音読) ② Unit 13 (dialogue and drills)
第 13 回	Unit 13, continued. 目	① Vocabulary & grammar exercises ② Recitation exercise ③ Conversation/discussion/debate exercise
第 14 回	Final Exam 目	① 期末試験 ② まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。
/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】

著書：CitiPals in New York: New Edition of Survival English
著者：Mary Tadokoro
出版者：朝日出版社
出版年：2018 年 第 5 刷発行
I S B N : 978-4-255-15492-3

【参考書】

授業時に提示する

【成績評価の方法と基準】

【評価方法】 積極的な参加 20% , 中間試験・期末試験 20%、提出課題 20%、小テスト 20%、音読・グループライティング 20%
Active participation 20%, midterm and finals 20%, homework 20%, quizzes 20%, recitations and group work 20%
In principle, no more than 3 absences per term are allowed.

【学生の意見等からの気づき】

学生と教員がお互いに協調して、有意義な授業時間を実現するために積極的かつ生産的にコミュニケーションを取ることが肝心である。

【Outline (in English)】

Using the "CitiPals in New York" textbook as a base point, the aim of the course is to improve the learner's pronunciation through various in-class exercises, establish a stronger command of vocabulary necessary to engage in effective conversation and foster the learner's ability to become more flexible and adaptable to various social settings. This will enable the learner to flexibly and comfortably converse in a diverse range of social settings and situations. University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course. Active participation 20%, midterm and finals 20%, homework 20%, quizzes 20%, recitations and group work 20%

LANe200LA

英語オーラル・コミュニケーション 2017年度以降入学者
I

LASSEGARD JAMES

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 2/Tue.2

単位数：1 単位

レベル 2,3 / 定員制 (24 名)

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Learning practical English for communicating in a global society.

【到達目標】

Although emphasis is on oral communication, students will practice and improve proficiency in all four language skills. Students will be able to comfortably express themselves clearly in discussions and during presentations.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1

【授業の進め方と方法】

This course will be given entirely in English and in principal all class sessions will be face to face. Students will participate in a variety of activities that encourage listening and speaking English. These activities include dialogues, pair and group discussions, and presentations given by students on various topics of interest.

Feedback on students' performance will be given in class, as well as through written assignments in class and online. Students may also correspond with the instructor using e-mail.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Course orientation	Getting to know each other; student introductions & class guidelines.
2	Unit 1: People and Events	Dialogue & textbook activities: grammar explanation. Pair & group work. Instructions on writing a short paragraph.
3	Unit 1 Video: Role models	Video Worksheet activities. Discussion and pair work. Reading homework.
4	Unit 2: Holidays and Festivals	Grammar review. Discussion. Review writing tips.
5	Unit 2: Celebrations	Video. Instructions on preparing for and giving presentations.
6	Unit 3: Trends and entertainment	Grammar review. Reading and discussion in small groups.
7	Unit 3: Trends pt. 2	Video content and worksheet: A hotel manager. Discussion. Quiz on Units 1-3.
8	Unit 4: Identity & Personality	Lecture: Describing people and their characteristics. Grammar review. Writing assignment.

9	Unit 4: Identity & Personality Pt. 2	Writing review. Video & worksheet Discussion
10	Student Presentations	Students will give short presentations in pairs/groups on topics from the previous 4 chapters.
11	Unit 5: Future Plans	Reading comprehension and vocabulary practice. Dialogue practice and writing.
12	Unit 5: Future Plans Pt.2	Students perform dialogues in class. Discussion about future goals and plans. Presentation preparations.
13	Unit 6: Changes & Life experiences	Reading and vocabulary review. Student give mini-presentations on topics TBA.
14	Unit 6 Changes & Life Experiences pt 2	Final quiz on Units 4-6. Course wrap up.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students are expected to complete homework assignments prior to the next class session.

Approximately 1-2 hours of homework is required of students every week.

【テキスト（教科書）】

Speak Your Mind Level 2 (MacMillan publishing)

Other handouts and materials related to course content will be distributed in class. Students should have a notebook and/or loose sheets of paper to take notes and to hand in homework.

【参考書】

References: Always bring a dictionary to class (paper or electronic OK).

【成績評価の方法と基準】

Student Presentations: 60%

Quizzes, and other speaking and written assignments: 20%

Class Participation: 20%

【学生の意見等からの気づき】

Instructor will provide more online feedback when necessary for students.

【その他の重要事項】

Students are allowed up to 3 unexcused absences per semester. Students who are absent for a presentation day must provide documentation for their absence, such as a COVID certificate. Arriving late to class twice = one absence (except for a good reason, such as illness or late trains)

【Outline (in English)】

This course is designed to develop language skills necessary for students to express themselves in English. The emphasis is on oral communication, and we will practice listening and speaking skills. Students will make several presentations throughout the semester. Students may also be required to write paragraphs and short essays.

LANe200LA

英語オーラル・コミュニケーション 2017年度以降入学者
II

LASSEGARD JAMES

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 2/Tue.2

単位数：1 単位

レベル 2,3 / 定員制 (24 名)

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This course is designed to develop practical oral communication skills for students to express themselves in English.

【到達目標】

Students will improve their ability to express themselves in English in order to participate effectively in discussion and will learn how to give presentations and are engaging and informative.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1

【授業の進め方と方法】

This course will be given entirely in English and face to face. Students will participate in a variety of activities, but emphasis will be on listening and speaking. These activities include dialogues, pair and group discussions, and presentations based on short reading or audio-visual materials. Students are expected to come to class prepared by doing the assigned reading and other homework.

Feedback on students' performance will be given in class, as well as through written assignments in class and online the University LMS. Students may also correspond with the instructor using e-mail or visit during office hours.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Unit 7: Work and Careers	Course introduction; Review of grammar using summer vacation reports. Reading and discussion on working lives.
2	Unit 7: Work & Careers Pt.2	Instructions and Practice in writing a resume or CV.
3	Unit 8: Hobbies and Pastimes	Video & Worksheet activities and discussion. Research assignment.
4	Unit 8 Pt. 2	Students report on research on holidays and celebrations in various countries.
5	Unit 9: Housing and Living arrangements	Reading assignment and discussion on types of housing. Next Presentation instruction.
6	Unit 9: Housing Pt. 2	Students give presentations on a city or country.
7	Unit 10: Health & Wellbeing	Feedback on presentations. Reading and discussion on study habits and work-life balance. Writing assignment

8	Unit 10: Wellbeing Pt. 2	Writing assignment due. Video content & worksheet. Discussion.
9	Unit 11: Recycling and the Environment	Lecture and discussion. Vocabulary practice. Pairwork: writing dialogues.
10	Unit 11: Environment Pt. 2	Students perform dialogue in class. Review tips on giving effective presentations.
11	Unit 12: Social Groups	Textbook Reading activities. Reading, Discussion in pair and groups
12	Unit 12 Social groups and Networking.	Video worksheet and supplemental activities; final essay assignment due and vocabulary review.
13	Student Presentations	Quiz on Units 9-12. Student presentations
14	Class wrap up—End of year celebration	Return all presentation feedback. Discussion

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students are expected to prepare by reading ahead in the textbook, looking up unfamiliar vocabulary, and completing other activities assigned in class.

Approximately 1-2 hours of weekly homework are required of students in this class.

【テキスト（教科書）】

Speak Your Mind level 2 (MacMillan)

Other handouts and materials related to course content will be distributed in class. Students must have a notebook/binder and/or loose sheets of paper.

【参考書】

Always bring a dictionary to class (paper or electronic dictionaries are acceptable).

【成績評価の方法と基準】

Student Presentations: 60%

Quizzes and other speaking activities: 20%

Class participation: 20%

In principle, students are allowed no more than 3 unexcused absences during the semester. Two late notices are treated as one absence (unless for a good reason—such as train delays, etc. Students who are absent on a presentation day must provide documentation, such as a COVID19 certificate.

【学生の意見等からの気づき】

Instructor will provide students with more detailed online feedback when necessary.

【学生が準備すべき機器他】

Students should have access to a computer to prepare their Power Point slides for presentations. Students may use the instructor's computer to give their presentation if they wish.

【Outline (in English)】

While some attention will be given to all four skills, the emphasis is on oral communication, and we spend considerable classroom time practicing listening and speaking skills. Students will engage in classroom discussions, dialogue practice, and give short presentations on topics of interest.

LANe200LA

ビジネス・イングリッシュ I 2017 年度以降入学者

JOHN REILLY

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 4/Tue.4

単位数：1 単位

レベル 3,4 / 定員制 (24 名)

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

The business skills learned, along with more general English language instruction received, will help students to communicate clearly and effectively in both global business environments and within Japanese companies that conduct international business.

【到達目標】

Student will gain confidence to share information in English while conducting business.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1

【授業の進め方と方法】

Class activities will include pair work, group work and discussions. Some written homework will be assigned. Students will compare class assignment answers in pairs or small groups after which the instructor will provide the correct answers.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Course Introduction	Review syllabus and textbook
2	Unit 1: Pleased to meet you (1-6)	Introducing people Pages 7-10
3	Unit 1: Pleased to meet you (7-12)	Introducing people Pages 10-13
4	Unit 2: Who do you work for? (1-6)	Describing companies Pages 15-18
5	Unit 2: Who do you work for? (7-12)	Describing companies Pages 18-21
6	Unit 3: What do you do? (1-6)	Describing occupations Pages 23-25
7	Unit 3: What do you do? (7-12)	Describing occupations Pages 26-29
8	Unit 4: Can I leave a message (1-6)	Phone conversations Pages 31-34
9	Unit 4: Unit 4: Can I leave a message (7-12)	Phone conversations Pages 34-36
10	Unit 5: It's tough managing my time (1-6)	Describing time and schedules Pages 39-42
11	Unit 5: It's tough managing my time (7-12)	Describing time and schedules Pages 42-46
12	Unit 6 What do you call that thing? (1-6)	Talking about difficult words Pages 49-51
13	Unit 6 What do you call that thing?	Talking about difficult words Pages 52-55

14 Student Pair Speaking Examination Final Exam

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students will be expected to prepare for classes by reviewing the next pages in the textbook and completing some assignments.

University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】

Communication Spotlight: Business 2 (Alastair Graham-Marr / ABAX ELT Publishers)

【参考書】

Students will be given supplemental material from time to time to increase their knowledge.

【成績評価の方法と基準】

Students will be evaluated on a pair-speaking exam (75%) and class participation (25%). In principle, no more than 3 absences per term are allowed.

【学生の意見等からの気づき】

Student feedback on class activities is encouraged.

【学生が準備すべき機器他】

None

【その他の重要事項】

None

【Outline (in English)】

The business skills learned, along with more general English language instruction received, will help students to communicate

clearly and effectively in both global business environments and within Japanese companies that conduct international business.

LANe200LA

ビジネス・イングリッシュⅡ 2017年度以降入学者

JOHN REILLY

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 4/Tue.4

単位数：1 単位

レベル 3,4 / 定員制 (24 名)

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

The business skills learned, along with more general English language instruction received, will help students to communicate clearly and effectively in both global business environments and within Japanese companies that conduct international business.

【到達目標】

Student will gain confidence to share information in English while conducting business.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1

【授業の進め方と方法】

Class activities will include pair work, group work and discussions. Some written homework will be assigned. Students will compare class assignment answers in pairs or small groups after which the instructor will provide the correct answers.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Course Introduction	Review syllabus and textbook
2	Unit 7: How much is that in Korean Won? (1-6)	Talking about money Pages 57-59
3	Unit 7: How much is that in Korean Won? (7-12)	Talking about money Pages 59-62
4	Unit 8: You need to download a form (1-6)	Giving instructions Pages 65-67
5	Unit 8: You need to download a form (7-12)	Giving instructions Pages 68-72
6	Unit 9: Do you like Indonesian food? (1-6)	Describing food Pages 75-77
7	Unit 9: Do you like Indonesian food? (7-12)	Describing food Pages 77-81
8	Unit 10: Do you have the sales figures? (1-6)	Working with large numbers Pages 83-86
9	Unit 10: Do you have the sales figures? (7-12)	Working with large numbers Pages 86-91
10	Unit 11: Make sure you keep all receipts (1-6)	Giving advice / Business trips Pages 93-95

11	Unit 11: Make sure you keep all receipts (7-12)	Giving advice / Business trips Pages 96-99
12	Unit 12 When's the trade fair? (1-6)	Describing future plans Pages 101-103
13	Unit 12 When's the trade fair? (7-12)	Describing future plans Pages 103-108
14	Student Pair Speaking Examination	Final Exam

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students will be expected to prepare for classes by reviewing the next pages in the textbook and completing some assignments.

University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】

Communication Spotlight: Business 2 (Alastair Graham-Marr / ABAX ELT Publishers)

【参考書】

Students will be given supplemental material from time to time to increase their knowledge of business topics.

【成績評価の方法と基準】

Students will be evaluated on a pair-speaking exam (75%) and class participation (25%). In principle, no more than 3 absences per term are allowed.

【学生の意見等からの気づき】

Student feedback on class activities is encouraged.

【学生が準備すべき機器他】

None

【その他の重要事項】

None

【Outline (in English)】

The business skills learned, along with more general English language instruction received, will help students to communicate clearly and effectively in both global business environments and within Japanese companies that conduct international business.

LANe200LA

English Reading and Vocabulary 2017年度以降入学者 I

ウォルター・カズマー

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 3/Tue.3

単位数：1 単位

レベル 4 / 定員制 (36 名)

その他属性：〈グ〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Students will learn English using 4 skill areas (speaking, listening, reading, and writing). Discussion and short essay writing skills will be focused on.

【到達目標】

Students will read and learn 5-10 new vocabulary items per class.

Students will also acquire ability to handle discussions about some text topics related to economic, political, and current events related issues

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1

【授業の進め方と方法】

Skimming, scanning, reading for detail, reading for deep comprehension, taking dictations with cloze exercises, and role-plays based on new vocabulary.

Feedback will be given in Google classroom comments, via email or in feedback sessions in Zoom classes.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
Introduction	Present basic goals of course with examples.	Cover syllabus and basic ground rules for regular classes and tests.
Sustainable communities I	Keeping the social peace	Examining social goals for societies. Exploring cultural bonds.
Sustainable communities II	Social peace	Deepening understanding of social boundaries and possible conflicts.
Dilemma for responsible tourist I	Tourists and value they bring to societies	How tourism affects our lives in both positive and negative ways.
Dilemma for responsible tourist II	New trends of a tourism	Ponder tourism negatives and positive outcomes

Protecting our world heritage I
Protecting our cultural artifacts
How buildings are preserved and design shows our history

Looking at historical buildings and the events they show
Why are these buildings important for remembering history?

Engineered food and possible consequences
Quiz 1
Researching food sources and why variety is important

Scientists develop more strains and their goals
Science and its end goals and how they might ruin our health

Blowing Whistle Corruption and its problems
Looking at corporate problems and how difficult they are to solve

Blowing Whistle Witness to government waste
Trying to eliminate waste

Breaking Bad laws the law
Examining when do you have an obligation to protest

Breaking Well meaning laws the law
Quiz 2
Researching laws that don't cover all circumstances

Summary Taking a look at useful words learned
Reviewing useful vocabulary and its parameters

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Some reading and vocabulary review. University guidelines suggest preparation and review are around 4 hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】

Issues that matter - Kinseido
ISBN 9784764740617 or 1921082018006

【参考書】

N/A

【成績評価の方法と基準】

Class participation 33%
Homework 34%
Review quizzes 33%
For all English courses on Ichigaya campus, the guideline is as follows: "In principle, no more than 3 absences per term are allowed."

【学生の意見等からの気づき】

N/A

【学生が準備すべき機器他】

English to English dictionary or web dictionary, paper, smartphone or PC

【その他の重要事項】

Contact email
kasmersensei@gmail.com
or
walter.kasmer.y4@hosei.ac.jp

【Outline (in English)】

Students will learn English using 4 skill areas (speaking, listening, reading, and writing). Discussion and short essay writing skills will be focused on.

LANe200LA
English Reading and Vocabulary 2017年度以降入学者
 II
 ウォルター・カズマー
 開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 3/Tue.3
 単位数：1 単位
 レベル 4 / 定員制 (36 名)
 その他属性：〈グ〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
 Students will learn English using four skill areas (listening, speaking, writing, and reading). Students will focus on improving discussion and short essay writing.

【到達目標】
 Students will read and learn 5-10 new vocabulary items per class.
 Students will acquire discussion skills to handle discussions about economic, political, and current events topics.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】
 各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1

【授業の進め方と方法】
 Skimming, scanning, reading for detail, reading for deep comprehension, taking dictations with cloze exercises, and role-plays based on new vocabulary.
 Feedback will be given in Google classroom comments, via email or feedback sessions in Zoom classes.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
 あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
 なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
Introduction	Present basic goals of course with examples.	Cover syllabus and basic ground rules for regular classes and tests.
Food politics	Food politics	How do we get our food?
Food politics II	Sourcing our food	Positives and negatives of climate change on food sourcing
Food in-equality I	Food and its effects on society	Look at how inequalities affect our food
Recycling	recycling and government regulation	Show and discuss government regulations that try to reduce waste
Recycling II	Covering aspects of structure and use of waste	Looking at waste usage
Blowing whistles	Whistle blowing vs leaking	How whistle blowing affects us
Blowing whistles II	Consequences of leaking	Government actions vs leaking
Protesting	Protesting	Reasons why people protest

Protesting II	Handling protests	Why people protest and how governments handle it
Fake news	Where does fake news come from?	Talking about fake vs real news
Fake news II	Social media and fake news	Why social media is full of it
review of unit questions I	Review course of unit themes	Discussions of unit themes
review of unit issues and Summary	Review course of unit themes	Discuss course related themes.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
 Prepare presentation material and review vocabulary lists. University guidelines suggest preparation and review are around 4 hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】
 Issues that matter- Kinseido
 ISBN 978-4-7647-4061-7

【参考書】
 N/A

【成績評価の方法と基準】
 Class participation 33%
 Homework 34%
 Quizzes 33%
 For all English courses on Ichigaya campus, the guideline is as follows: "In principle, no more than 3 absences per term are allowed."

【学生の意見等からの気づき】
 Require more use of English by students

【学生が準備すべき機器他】
 English to English dictionary or web dictionary, paper, writing instrument

【その他の重要事項】
 Contact email
 kasmersensei@gmail.com
 or
 walter.kasmer.y4@hosei.ac.jp

【Outline (in English)】
 Students will learn English using four skill areas (listening, speaking, writing, and reading). Students will focus on improving discussion and short essay writing.

LANe200LA
English Reading and Vocabulary 2017年度以降入学者
I
ERIC J RITTER
開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 3/Wed.3
単位数：1 単位
レベル 4 / 定員制 (36 名)
その他属性：〈グ〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Students will improve their reading skills and vocabulary knowledge. Each lesson will be divided into learning new vocabulary and then practicing it via pair and group work. The vocabulary will be used in the readings that follow.

【到達目標】

1. Students will understand and utilize the writing process of planning, writing, and re-writing.
2. They will learn to understand the gist, details of short articles they read and summarize a magazine article.
3. Students will improve their reading speed and increase their vocabulary knowledge.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1

【授業の進め方と方法】

This will be an online class so students should be prepared to use Zoom. Students will learn new vocabulary from textbook and reinforce it via discussion and readings. Feedback will be given in class and via Google classroom.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Unit 1	Learn new vocabulary. Reading story. Answer Reading Comprehension. Group Discussion
2	Unit 2	Learn new vocabulary. Reading story. Answer Reading Comprehension. Group Discussion
3	Unit 3	Learn new vocabulary. Reading story. Answer Reading Comprehension. Group Discussion
4	Unit 4	Learn new vocabulary. Reading story. Answer Reading Comprehension.
5	Unit 5	Learn new vocabulary. Reading story. Answer Reading Comprehension.

6	Unit 6	Learn new vocabulary. Reading story. Answer Reading Comprehension. Group Discussion
7	Midterm	Feedback
8	Unit 7	Learn new vocabulary. Reading story. Answer Reading Comprehension. Group Discussion
9	Unit 8	Learn new vocabulary. Reading story. Answer Reading Comprehension. Group Discussion
10	Unit 9	Learn new vocabulary. Reading story. Answer Reading Comprehension. Group Discussion
11	Unit 10	Learn new vocabulary. Reading story. Answer Reading Comprehension. Group Discussion
12	Unit 11	Learn new vocabulary. Reading story. Answer Reading Comprehension. Group Discussion
13	Unit 12	Learn new vocabulary. Reading story. Homework: prepare for final exam.
14	Final exam	feedback

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

University guidelines suggest preparation and review are around 4 hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course. Students will study vocabulary on Quizlet and read articles.

【テキスト（教科書）】

Paul Nation: 4000 Essentials Words Book 4 (2nd edition). Perfect Paperback

【参考書】

Book and Quizlet should be studied.

【成績評価の方法と基準】

50% quizzes and exams
25% writing exercises using new words
25% effort and participation
No more than 3 absences or missed assignments are allowed.

【学生の意見等からの気づき】

No feedback

【学生が準備すべき機器他】

Internet enabled device to participate in class with Zoom. Students should also be familiar with Google classroom and Hoppii.

【Outline (in English)】

Students will improve their reading skills and vocabulary knowledge. Each lesson will be divided into learning new vocabulary and then practicing it via pair and group work. The vocabulary will be used in the readings that follow.

LANe200LA
English Reading and Vocabulary 2017年度以降入学者
 II
 ERIC J RITTER
 開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 3/Wed.3
 単位数：1 単位
 レベル 4 / 定員制 (36 名)
 その他属性：〈グ〉〈優〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

Students will improve their reading skills and vocabulary knowledge. Each lesson will be divided into learning new vocabulary and then practicing it via pair and group work. The vocabulary will be used in the readings that follow.

【到達目標】

1. They will learn to understand the gist, details of short articles they read and summarize a magazine article.
2. Students will improve their reading speed and increase their vocabulary knowledge.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1

【授業の進め方と方法】

Students will learn new vocabulary from textbook and reinforce it via discussion and readings. Feedback will be given in class and via Google classroom.

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】
 あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】
 なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Unit 13	Learn new vocabulary. Reading story. Answer Reading Comprehension. Group Discussion
2	Unit 14	Learn new vocabulary. Reading story. Answer Reading Comprehension. Group Discussion
3	Unit 15	Learn new vocabulary. Reading story. Answer Reading Comprehension. Group Discussion
4	Unit 16	Learn new vocabulary. Reading story. Answer Reading Comprehension. Group Discussion
5	Unit 17	Learn new vocabulary. Reading story. Answer Reading Comprehension. Group Discussion
6	Unit 18	Learn new vocabulary. Reading story. Answer Reading Comprehension. Group Discussion

7	Unit 19	Learn new vocabulary. Reading story. Answer Reading Comprehension. Group Discussion
8	Midterm Exam	Feedback
9	Unit 20	Learn new vocabulary. Reading story. Answer Reading Comprehension. Group Discussion
10	Unit 21	Learn new vocabulary. Reading story. Answer Reading Comprehension. Group Discussion
11	Unit 22	Learn new vocabulary. Reading story. Answer Reading Comprehension. Group Discussion
12	Unit 23	Learn new vocabulary. Reading story. Answer Reading Comprehension. Group Discussion
13	Unit 24	Learn new vocabulary. Reading story. Answer Reading Comprehension. Group Discussion
14	Final Exam	Review

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

University guidelines suggest preparation and review are around 4 hour a week for a two-credit class for a 2 hour class and 1 hour a week for a 1 hour class. Students will study vocabulary on Quizlet and read articles for homework before class.

【テキスト (教科書)】

Paul Nation: 4000 Essentials Words Book 4 (2nd edition). Perfect Paperback

【参考書】

None

【成績評価の方法と基準】

50% quizzes and exams
 25% writing exercises using new words
 25% effort and participation
 In principle, no more than 3 absences are allowed.
 Feedback will be given in class and via Google classroom.

【学生の意見等からの気づき】

None

【Outline (in English)】

Students will improve their reading skills and vocabulary knowledge. Each lesson will be divided into learning new vocabulary and then practicing it via pair and group work. The vocabulary will be used in the readings that follow.

LANe200LA

English Academic Writing I 2017年度以降入学者

PAUL K KALLENDER

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 2/Tue.2

単位数：1 単位

レベル 4 / 定員制 (24 名)

その他属性：〈グ〉〈優〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

This is a pre-intermediate course focused on writing skills but also containing reading, aimed at using a CLIL approach toward building key basic writing skills, including the ability to write paragraphs and articles on topics using correct grammar and logical narrative structure. There will also be some chance to discuss the topics written about in the class.

【到達目標】

Students are expected to advance both their writing skills and also their reading skills, particularly however extra emphasis will be placed on writing skills.

Students are expected to

1. Improve their basic grammar
2. Develop the ability to write increasingly complex sentences
3. Understand and improve their ability to write paragraphs
4. Understand how to combine paragraphs to form coherent narratives
5. Improve not only their vocabulary but also cultural knowledge

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1

【授業の進め方と方法】

Each week students will read a topic, answer vocabulary questions on it, write sentences on the topic, study several grammar points, practice those grammar points, and write short paragraphs on the topic. There will also be chances to talk about each week's topic.

The instructor will check the completion of student work, especially writing, in class. The instructor will give verbal feedback and make corrections to student work during each class. If the students have any difficulties, they may contact the instructor via the email address provided.

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
Class 1	Introduction and general outline of the course: Special days	Skills: The sentence, capitalization; writing about holidays.
Class 2	Birthdays around the world:	Skills: The paragraph; writing about your birthday.
Class 3	Places 1	Skills: Adjectives; writing about a city.
Class 4	Places 2	Skills: Comparative & superlative adjectives; writing about Japan.
Class 5	Health 1	Skills: Using when; writing about sleep habits.

Class 6	Health 2	Skills: Adverbs; writing about laughing.
Class 7	Customs 1	Skills: Countable & uncountable nouns; writing about a special day.
Class 8	Customs 2 Mid-Term Writing Test	Prepositions and prepositional phrases; writing about a meal. Mid-Term Writing Test
Class 9	Food 1	Skills: Instructions; writing about favorite food.
Class 10	Food 2	Skills: The pronouns it and then; writing about a favorite drink.
Class 11	Inventors & their Inventions 1	Skills: Using as ... as ...; writing about technology.
Class 12	Inventors & their Inventions 2	Skills: Using too and very
Class 13	Amazing People 1	Skills: Questions and Prepositions; writing about a classmate.
Class 14	Amazing People 2 End-of-Term Writing Test	Skills: Writing about someone's life, different ways of expressing time. End-of-Term Writing Test

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

Students are expected to review and learn any unfamiliar vocabulary or grammar covered in the class and to preview vocabulary and grammar for the upcoming lesson. In particular, students are to review their paragraph writing assignments and prepare for the mid-term and end-of-term formal writing tasks so that their grammar, syntax, and narrative structure are at the appropriate level.

【テキスト (教科書)】

Required Textbook:

Milada Broukal, Weaving It Together 1 (Fourth Edition), Cengage Learning. ISBN 978-1-305-25164-9

【参考書】

Supplied by the Instructor

【成績評価の方法と基準】

Mid-Semester Exam: 25%

This will be a timed writing exercise submitted to Hoppi

Final Exam: 25%

This will be a timed writing exercise submitted to Hoppi

In-Class Performance: 50%

This will be a textbook completion check and review

***Students please note: No more than 3 absences per term are allowed.

【学生の意見等からの気づき】

None

【学生が準備すべき機器他】

1. Each student should bring a B5 notebook, sharp pencil, and eraser, and have an electronic dictionary ready.
2. The instructor will explain vocabulary upon request if another student does not know the answer.
3. The use of smartphones for social media, etc. not related to the academic work in the class is strictly prohibited.

【その他の重要事項】

1. Please address me as Mr. Kallender
2. Please always state your first name, family name, class name, and period name.

For Example:

Dear Mr. Kallender,

My name is Taro Suzuki.

I am a student in (Writing)(7)A

I could not attend today / cannot attend tomorrow (etc.)
because of a fever.

I will bring a medical certificate next week.

【Outline (in English)】

Building on the English language skills acquired in prior required courses, students will work on developing the type of language skills they will need to begin to write steadily more advanced, grammatically correct sentences and small (5 paragraph, 700-word) articles.

LANe200LA

English Academic Writing II 2017年度以降入学者

PAUL K KALLENDER

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 2/Tue.2

単位数：1 単位

レベル 4 / 定員制 (24 名)

その他属性：〈グ〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Moving on from the first semester this course continues to use the same CLIL approach toward building key basic writing skills, including the ability to write paragraphs and articles on topics using correct grammar and logical narrative structure. There will also be some chance to discuss the topics written about in the class.

【到達目標】

Building on the English language skills acquired in prior required courses, students will work on developing the type of language skills they will need to begin to write steadily more advanced, grammatically correct sentences and small (5 paragraph, 700-word) articles.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1

【授業の進め方と方法】

Each week students will read a topic, answer vocabulary questions on it, write sentences on the topic, study several grammar points, practice those grammar points, and write short paragraphs on the topic. There will also be chances to talk about each week's topic.

The instructor will check the completion of student work, especially writing, in class. The instructor will give verbal feedback and make corrections to student work during each class. If the students have any difficulties, they may contact the instructor via the email address provided.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
Class 1	Course Introduction and Topic: Your Personality	READING 1 Right Brain, Left Brain SKILLS The Paragraph Capitalization Rules The Title
Class 2	Your Personality 2	READING 1 Right Brain, Left Brain SKILLS The Paragraph Capitalization Rules The Title
Class 3	Food 1	READING 1 Live a Little: Eat Potatoes! WRITING 1 SKILLS The Topic Sentence PRACTICE Writing about food or drink

Class 4	Food 2	READING 2 Bugs, Rats, and Other Tasty Dishes WRITING 2 SKILLS Supporting Sentences Concluding Sentences PRACTICE Writing about a special food
Class 5	Celebrations and Special Days 1	SKILLS Supporting Sentences Concluding Sentences PRACTICE Writing about a special food
Class 6	Celebrations and Special Days 2	READING 2 Celebrating a Fifteenth Birthday WRITING 2 SKILLS Main and Dependent Clauses Writing a Dependent Clause with before or after PRACTICE Writing about a celebration
Class 7	Amazing People 1	READING 1 Barrington Irving's Dream to Fly WRITING 1 SKILLS Unity Irrelevant Sentences PRACTICE Writing about the qualities of a person or a pet
Class 8	Amazing People 2	Writing Test 1 READING 2 The Fearless Fiennes WRITING 2 SKILLS Introducing Examples PRACTICE Writing about a person
Class 9	Nature Attacks! 1	Lightning WRITING 1 SKILLS Writing a Narrative Paragraph with Time Words The Comma (,) with Time and Place Expressions PRACTICE Writing about a frightening experience
Class 10	Nature Attacks! 2	READING 2 Chasing Storms WRITING 2 SKILLS Introducing Reasons with because PRACTICE Writing about dangerous weather
Class 11	Inventions 1	READING 1 The GoPro Camera WRITING 1 SKILLS Introducing Effects with so and therefore PRACTICE Writing about an invention

Class 12	Inventions 2	READING 2 What's in a Name? WRITING 2 SKILLS Writing Business Letters PRACTICE Writing a business letter
Class 13	Customs and Traditions 1	READING 1 Flowers, Dishes, and Dresses WRITING 1 SKILLS Comparing and Contrasting Showing Contrast with however Showing Similarity with similarly and likewise PRACTICE Writing about wedding customs Writing Test 2
Class 14	Customs and Traditions 2	READING 2 What's in a Name? WRITING 2 SKILLS Writing Business Letters PRACTICE Writing a business letter

【学生が準備すべき機器他】

1. Each student should bring a B5 notebook, sharp pencil, and eraser, and have an electronic dictionary ready.
2. The instructor will explain vocabulary upon request if another student does not know the answer.
3. The use of smartphones for social media, etc. not related to the academic work in the class is strictly prohibited.

【その他の重要事項】

1. Please address me as Mr. Kallender
2. Please always state your first name, family name, class name, and period name.

For Example:

Dear Mr. Kallender,

My name is Taro Suzuki.

I am a student in (Writing)(7) B

I could not attend today / cannot attend tomorrow (etc.) because of a fever.

I will bring a medical certificate next week.

【Outline (in English)】

Building on the English language skills acquired in prior required courses, students will work on developing the type of language skills they will need to begin to write steadily more advanced, grammatically correct sentences and small (5 paragraph, 700-word) articles.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。
/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course. This is a one-credit course. Each class has a pre-reading assignment for homework and students are expected to discuss their answers in the following class. Students should make a note of unknown words or expressions in a B-5 notebook.

【テキスト（教科書）】

Milada Broukal, Weaving It Together 2, 4th Edition,

センテージ ラーニング株式会社

ISBN: 978-1-305-25165-6

【参考書】

Will be supplied by the instructor

【成績評価の方法と基準】

Mid-Semester Exam 20%

This is a practical writing class. Students are expected to complete, in class, an initial timed writing test comprising of a composition of one or several paragraphs, in which they are expected to demonstrate their understanding of the grammar and syntax taught. This will be a timed writing exercise submitted to Hoppi

Final Exam 20%

Students are expected to complete, in class, an initial timed writing test comprising a composition of at least three paragraphs, in which they are expected to demonstrate their understanding of the grammar and syntax taught.

In-Class Performance 50%

This class consists of the filling in of many sentences of writing, offering sustained writing practice. Students are expected to complete all assigned tasks demonstrating an understanding of the grammar and syntax being practiced while writing complete sentences. There are two textbook inspections, one during the mid-term, and one during the end-of-term test.

Other criteria 10%

***Students please note: No more than 3 absences per term are allowed.

【学生の意見等からの気づき】

No changes

LANe200LA

English Academic Writing I 2017年度以降入学者

MARK D BURNS

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 3/Thu.3

単位数：1 単位

レベル 4 / 定員制 (24 名)

その他属性：〈グ〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

The primary objective of this class is to develop basic paragraph writing skills. The course provides practice in writing, structuring and ordering paragraphs in clear communicative English. Students will compose short 2-paragraph to 5-paragraph papers on a wide range of subjects and purposes.

【到達目標】

This subject aims to equip learners with the basics of written communication in English. It will help learners become familiar with clear paragraph structure. Starting from writing short 2-paragraph papers, students will finally be able to write longer well-structured 5-paragraph pieces.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1

【授業の進め方と方法】

In this subject, classes will be conducted in English and will cover each unit of the textbook. Supplementary activities will be provided to increase familiarity with frequently used, but non-specific, academic language. Students will read and critique each others' essays and learn from the strengths of the best papers selected by the class. This will be done anonymously to prevent any embarrassment. Individual feedback will be provided.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
Orientation	Overview of the course and warm up	Overview of Academic Writing I subject and explaining rules for assignment submissions and how the best assignments will be selected.
Unit 1a	Writing a paragraph about me	Prewriting preparation, brainstorming main ideas, how to write expository paragraphs and topic sentences
Unit 1b	Analysis of written assignment 1	Reading and selecting best paper. Focusing on paragraph format
Unit 2a	Writing a paragraph about another students possible career	Prewriting preparation, brainstorming main ideas, how to write logical conclusions
Unit 2b	Analysis of written assignment 2	Reading and selecting best paper. Focusing on the use of conjunctions
Unit 3a	Writing a paragraph about your partner's future success	Prewriting preparation, brainstorming main ideas, how to support topic sentences with facts and examples

Unit 3b	Analysis of written assignment 3	Reading and selecting best paper. Focusing on direct and indirect speech
Unit 4a	Writing a paragraph about an invention	preparation, brainstorming main ideas, how to write definition paragraphs and attention getters
Unit 4b	Analysis of written assignment 4	Reading and selecting best paper. Focusing on avoiding repetition
Unit 5a	Writing a paragraph about an important event in your life	Prewriting preparation, brainstorming main ideas, how to write cause-and-effect and introductory paragraphs
Unit 5b	Analysis of written assignment 5	Reading and selecting best paper. Focusing on cause-and-effect words
Unit 6a	Writing a paragraph about an exciting destination	Prewriting preparation, brainstorming main ideas, how to write process paragraphs and make suggestions
Unit 6b	Analysis of written assignment 6	Reading and selecting best paper. Focusing on using modifiers
End-term assignment	Final assignment feedback	Final assignment feedback

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students are expected to edit, type up and print out a written assignment once every 2 weeks.

University guidelines suggest preparation and review are around 4 hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】

Writing from Within 2 (2nd Edition) Curtis Kelly and Arlen Gargagliano Cambridge University Press ISBN 978-0-521-18834-0

【参考書】

A good Japanese-English dictionary

【成績評価の方法と基準】

Assessment will consist of in-class participation (40%), 7 written assignments (60%)

【学生の意見等からの気づき】

Supplementary activities have been added to increase familiarity with frequently used, but non-specific, academic language. Students can participate via Zoom in emergencies.

【その他の重要事項】

In principle, no more than 3 absences per term are allowed.

【Outline (in English)】

The primary objective of this class is to develop basic paragraph writing skills. The course provides practice in writing, structuring and ordering paragraphs in clear communicative English. Students will compose short 2-paragraph to 5-paragraph papers on a wide range of subjects and purposes.

LANe200LA

English Academic Writing II 2017年度以降入学者

MARK D BURNS

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 3/Thu.3

単位数：1 単位

レベル 4 / 定員制 (24 名)

その他属性：〈グ〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

The primary objective of this class is to further develop basic paragraph writing skills. The course provides practice in writing, structuring and ordering paragraphs in clear communicative English. Students will compose short 2-paragraph to 5-paragraph papers on a wide range of subjects and purposes.

【到達目標】

This subject aims to equip learners with the basics of written communication in English. It will help learners become familiar with clear paragraph structure. Starting from writing short 2-paragraph papers, students will finally be able to write longer well-structured 5-paragraph pieces.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1

【授業の進め方と方法】

In this subject, classes will be conducted in English and will cover each unit of the textbook. Supplementary activities will be provided to increase familiarity with frequently used, but non-specific, academic language. Students will read and critique each others' essays and learn from the strengths of the best papers selected by the class. This will be done anonymously to prevent any embarrassment. Individual feedback will be provided.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
Orientation	Overview of the course and warm up	Overview of Academic Writing II subject and explaining rules for assignment submissions and how the best assignments will be selected.
Unit 7a	Writing a research report about your classmates	Prewriting preparation, brainstorming main ideas, how to write classification and concluding paragraphs
Unit 7b	Analysis of written assignment 7	Reading and selecting best paper. Focusing on punctuation
Unit 8a	Writing an article about good and bad interview techniques	Prewriting preparation, brainstorming main ideas, how to write comparison and contrast paragraphs
Unit 8b	Analysis of written assignment 8	Reading and selecting best paper. Focusing on giving advice
Unit 9a	Writing a letter to your future self about your goals	Prewriting preparation, brainstorming main ideas, how to write persuasive paragraphs

Unit 9b	Analysis of written assignment 9	Reading and selecting best paper. Focusing on parallel construction
Unit 10a	Writing a composition about your own dorm design	Prewriting preparation, brainstorming main ideas, how to write division paragraphs
Unit 10b	Analysis of written assignment 10	Reading and selecting best paper. Focusing on articles
Unit 11a	Writing a composition about an important person in your life	Prewriting preparation, brainstorming main ideas, how to link paragraphs
Unit 11b	Analysis of written assignment 11	Reading and selecting best paper. Focusing on subject-verb agreement
Unit 12a	Writing a newspaper article	Prewriting preparation, brainstorming main ideas, how to write in objective, persuasive or entertaining styles
Unit 12b	Analysis of written assignment 12	Reading and selecting best paper. Focusing on verb variety
End-term assignment	Final assignment	Analysis of end-term assignments

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students are expected to edit, type up and print out a written assignment once every 2 weeks.

University guidelines suggest preparation and review are around 4 hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】

Writing from Within 2 (2nd Edition) Curtis Kelly and Arlen Gargagliano Cambridge University Press ISBN 978-0-521-18834-0

【参考書】

A good Japanese-English dictionary

【成績評価の方法と基準】

Assessment will consist of in-class participation (40%), 7 written assignments (60%)

【学生の意見等からの気づき】

Supplementary activities have been added to increase familiarity with frequently used, but non-specific, academic language. Students can participate via Zoom in emergencies.

【その他の重要事項】

In principle, no more than 3 absences per term are allowed.

【Outline (in English)】

The primary objective of this class is to further develop basic paragraph writing skills. The course provides practice in writing, structuring and ordering paragraphs in clear communicative English. Students will compose short 2-paragraph to 5-paragraph papers on a wide range of subjects and purposes.

LANe200LA

English Academic Writing I 2017年度以降入学者

ALAN M NICHOLLS

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 4/Mon.4

単位数：1 単位

レベル 4 / 定員制 (24 名)

その他属性：〈グ〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This course will enable the student to acquire and develop academic writing skills. Among the methods used will be sharing & discussing your own work with class members, in pairs or small groups. This course will emphasize "Academic Writing as a Process." Students will learn the structure of Academic paragraphs, different paragraph styles (Opinion, comparison, description) and appropriate formatting techniques and correct use of punctuation.

【到達目標】

The student will be able to prepare a paragraph with the basic structure of: Topic sentence (with Main Idea), supporting ideas and detail sentences.

Students will be able to communicate his/her thoughts, in written format, to an Academic audience. The course will cover: paragraph development, grammar structures for different paragraph styles and paragraph organization.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1

【授業の進め方と方法】

Students will work in pairs or groups to develop paragraphs. In-class worksheets and homework assignments will check the students understanding of the different paragraph styles. Videos of Academic presentations will be used to compare the similarities between written and oral presentations.

All assignments will be distributed, submitted and returned to students digitally via Google Classroom. Written assignments will be returned with detailed comments on how students can improve their writing skills.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1.	Introduction	Introductions Course overview Assessment Classroom Management
2.	Process Writing. Generative A.I.	Six Steps of Academic Writing. Using outlines. Using Generative A.I.
3.	Getting ready. TOEIC Test 1.	Choosing a Topic Brainstorming Editing Describing a photograph
4.	Paragraph structure	Topic Sentence Supporting sentences Concluding sentence

5.	Paragraph Development. Peer editing	Styles of support Detail, Explanation, Example. Give constructive feedback using on-line sharing.
6.	Descriptive Writing	Using Adjectives: describing people and places.
7.	Descriptive Paragraphs	Describing a process using connectors. Keeping ideas connected and in order
8.	TOEIC Test 2 Opinion Paragraphs.	Introduce opinion v.s. fact. Modal Auxiliary Verbs.
9.	Opinion Paragraphs	Convincing the reader. Causal Adverbs. Checking Punctuation.
10.	Compare and Contrast Paragraphs.	Comparative Structures.
11.	Advantages/Disadvantages	Block vs. Point by Point organization. Trend Verbs.
12.	Problem/Solution Paragraphs.	Using Conditional Structures.
13.	Present a paragraph.	Identify the key features of a paragraph.
14.	Presentation Worksheet 2	Summarize paragraphs, Review Worksheet units 1 to 7. Wrap up.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

University guidelines suggest preparation and review are around 2 hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course.

Homework assignments writing different styles of paragraph. Pre-reading of Text.

Worksheets related to Text.

All assignments written in digital format and submitted via Google Classroom.

To assist in providing feedback, Google Docs format is preferred.

【テキスト（教科書）】

"Writing Essays: From Paragraph to Essay" by Dorothy E Zemach and Lisa A Ghulldu MACMILLAN Writing Series.

【参考書】

To be advised

【成績評価の方法と基準】

Homework Assignments:30%

Worksheet Assignments: 20%

Pair and Group Participation: 10%

Presentation: 10%

Mini-tests: 20%

Word Puzzles:10%

In principle, no more than 3 absences will be permitted per semester for the student to receive academic credit in the course.

【学生の意見等からの気づき】

None

【学生が準備すべき機器他】

A device (Laptop or Tablet) that supports word processor software. Smartphones are OK but are more difficult for students to use. Students will be required to know their Hoseni Gmail account details. Students may use voice recognition software and will use Generative Artificial Intelligence applications. Google Docs is the required format for submitting written assignments.

【その他の重要事項】

We will use Google "Classroom" to send, submit and record all assignments. Please download Google Classroom to your device before our first class. The "Course Code is: quedeqp

【Outline (in English)】

This course will enable the student to acquire and develop academic writing skills. Among the methods used will be sharing & discussing your own work with class members, in pairs or small groups. This course will emphasize "Academic Writing as a Process." Students will learn the structure of Academic paragraphs, different paragraph styles (Opinion, comparison, description) and appropriate formatting techniques and correct use of punctuation.

LANe200LA

English Academic Writing II 2017年度以降入学者

ALAN M NICHOLLS

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 4/Mon.4

単位数：1 単位

レベル 4 / 定員制 (24 名)

その他属性：〈グ〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This course will enable the student to acquire and develop ACADEMIC ESSAY writing skills. This course will emphasize "writing as a process".

Students will learn the structure of Academic ESSAYS using different paragraph styles and appropriate formatting techniques. Students will learn cohesion and unity in an essay and the use of essay outlines. Finally, students will prepare and present an academic style Essay.

【到達目標】

This course will enable the student to acquire and develop academic writing skills for interview situations and written English tests (TOEIC/IELTS/TOFEL) where candidates have a limited time to prepare an essay. A final assignment will be a document suitable for submission as an academic essay. Students will use Generative Artificial Intelligence to generate an essay and then decompose the essay to its component parts.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1

【授業の進め方と方法】

Among the methods used will be sharing & discussing one's work with class members in pair work and small groups. Students will also practice using peer editing with online documents. In a final presentation, the student will demonstrate their understanding of the features of an academic essay.

All assignments will be distributed, submitted and returned to students digitally via Google Classroom. Written assignments will be returned with detailed comments on how students can improve their writing skills.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1.	Introduction	Introduction Course Overview Assessment Classroom Management
2.	Applications for Essay writing	Greet New students. Voice recognition and Generative AI software.
3.	Writing to communicate opinions or new ideas.	Aim to make reading easy so the audience will accept ideas.
4.	The structure of a short Essay	Introduction, body paragraphs, conclusion. The Waffle Puzzle

5.	Introduction Paragraphs	The goal of the Introduction and Thesis statement. Homework 1.
6.	Prepare an Outline	Use the Thesis to develop body paragraphs. Using numbered lists.
7.	Introduce the TOEIC test 3.	What is the TOEIC Test 3?
8.	TOEIC Test 3 - In-class	Practice completing the TOEIC test 3 in-class. Review and discuss for weak points.
9.	Unity in Essays	Linking the paragraphs to achieve Unity.
10.	Introduce The TOEFL tests.	What is in the TOEFL Test? What do examiners want to see? Worksheet.
11.	TOEFL Test - In-class practice.	Take the TOEFL Test in-class. Review and discuss weak points.
12.	Cohesion in Writing.	Devices to increase Cohesion in Essays. Worksheet Units 10 and 11.
13.	The IELTS Test.	What is the IELTS test? How to achieve a good score. Worksheet.
14.	The IELTS Test.	Complete the IELTS test in-class. Review and discuss in-class.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

University guidelines suggest preparation and review are around 2 hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course.

Homework assignments will be set. There will also be short Worksheets based upon material presented during lessons and the Text.

【テキスト（教科書）】

"Writing Essays from Paragraph to Essay" by D.E. Zemach and Lisa A Ghulldu, MACMILLIAN Writing Series.

【参考書】

To be advised

【成績評価の方法と基準】

Homework assignments: 20%

Classroom Worksheets: 20%

Pair and Group Participation:20%

Writing Tests: 30%

Waffle Puzzle: 10%

In principle, no more than 3 absences will be permitted per semester for the student to receive academic credit in the course.

【学生の意見等からの気づき】

None

【学生が準備すべき機器他】

A device (Laptop or Tablet) that supports word processor software. Smartphones are OK but are more difficult for students to use when writing essays. Students will be required to know their Hosei Gmail account details. Students may use voice recognition software and will use Generative A.I. software. Google Docs is the preferred format for submitting assignments.

【その他の重要事項】

We will use Google "Classroom" to send, submit and record all assignments. Please download "Google Classroom" to your laptop or tablet at the start of semester. The Course Code is: dwd36fk

【Outline (in English)】

This course will enable the student to acquire and develop academic writing skills. This course will emphasize "writing as a process.

Students will learn the structure of academic ESSAYS using different paragraph styles and appropriate formatting techniques. Students will learn cohesion and unity in an essay and the use of essay outlines. Finally, students will prepare and present an academic style Essay.

LANe200LA

英語で学ぶ社会と文化 I

2017 年度以降入学者

サブタイトル：マスメディアで読む世界情勢

田中 邦佳

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 3/Tue.3

単位数：1 単位

レベル 2,3 / 定員制 (36 名)

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

ニューヨークタイムズ紙の記事の読解をします。授業のテーマの 1 つ目は、難解な英文になると把握が難しくなる文の主部・述部など英語のセンテンスの文法的構造を理解することです。2 つ目のテーマは、パラグラフ全体の内容を日本語にまとめて説明することです。1 文ずつの内容の把握だけではなく、より長い単位で記事の内容を把握し、他の人に説明できるようになることが授業の目標となります。

【到達目標】

- 一文が長い英文や複雑な構造の英文を読解する
- ある程度まとまった量の英文の内容を人に伝わるような日本語で説明する
- 様々な分野で用いられる英語の語彙を増やす

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1

【授業の進め方と方法】

テキストは目安として 2～3 回の授業で 1 章分というペースで進めることを目標とします。1 章毎に内容確認の小テストを実施する予定です。特に難解な文については解説を行います。一字一句全て訳していくようなことはしません。各適宜、グループワークを行い、参加者が自ら語彙・フレーズ・文法について確認し、パラグラフの要旨のまとめ方、提示された課題について考察します。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。授業計画は授業の展開によって若干、変更する可能性があります。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	Introduction	授業の進め方、評価についての説明します。
第 2 回	A Life Without Plastic プラなし生活を始めよう (前半)	記事を講読します。
第 3 回	A Life Without Plastic プラなし生活を始めよう (後半)	記事を講読します。
第 4 回	Rwanda Is Winning War on Plastic Bags ルワンダ発：ビニール袋は使えません (前半)	記事を講読します。
第 5 回	Rwanda Is Winning War on Plastic Bags ルワンダ発：ビニール袋は使えません (後半)	記事を講読します。

第 6 回	An Epidemic of Overweight Africans ケニア発：食糧難の国で肥満率が急上昇 (前半)	記事を講読します。
第 7 回	An Epidemic of Overweight Africans ケニア発：食糧難の国で肥満率が急上昇 (後半)	記事を講読します。
第 8 回	課題の振り返り	これまでの課題から見られる困難点についてフィードバックを行う。
第 9 回	West's Toxic E-Waste Despoils Thai Countryside タイ発：危険なりサイクル (前半)	記事を講読します。
第 10 回	West's Toxic E-Waste Despoils Thai Countryside タイ発：危険なりサイクル (後半)	記事を講読します。
第 11 回	College Cheating, A Global Business 宿題はゴーストライターにお任せ (前半)	記事を講読します。
第 12 回	College Cheating, A Global Business 宿題はゴーストライターにお任せ (後半)	記事を講読します。
第 13 回	まとめ方を考察する	記事の内容をシンプルにまとめる方法を考察する。
第 14 回	試験・まとめと解説	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。具体的には、授業の前に予習として記事を読んでおく必要があります。わからない単語や表現があれば辞書などで調べることが必要です。また、記事で扱われている内容について馴染みがなければその分野について調べる必要があります。記事の内容について把握し、他の授業参加者と議論できる程度の予習が必要です。

【テキスト (教科書)】

・ニューヨークタイムズ世界見聞、喜多留女 / Keith Wesley ADAMS 編注、英宝社。(2,100 円 + 税)

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

以下の配分で評価する。
平常点および課題 (60%)
期末テスト (40%)

欠席回数が通算 4 回に達した者は原則として単位取得の資格を失う。授業開始のチャイムから 30 分以降の遅刻は欠席と見なす。遅刻の回数が 3 回に達するごとに 1 回の欠席とする。未予習で出席した場合、私語など授業に積極的に参加する姿勢がみられない場合、その日を欠席と同等の扱いとする。

【学生の意見等からの気づき】

単純な英文の読解からは達成感が得られにくいことがわかりました。英文の意味の把握を課題にするだけでなく、特に重点的に考えるべき項目を明示的に提示しようと考えています。

【その他の重要事項】

受講希望者が多数の場合、初回の授業時に選抜を行う可能性があります。

【Outline (in English)】

Course outline: The aim of this course is to help students improve skills for English reading comprehension and for summarizing the contents of paragraphs.

Learning Objectives: At the end of the course, students are expected to understand the contents and intentions of English articles and briefly explain contents of articles.

Learning activities outside of classroom: University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

Grading Criteria /Policy: Class Assignments 60%, Final Assignment (exam) 40%

LANe200LA

英語で学ぶ社会と文化Ⅱ

2017年度以降入学者

サブタイトル：マスメディアで読む世界情勢

田中 邦佳

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 3/Tue.3

単位数：1 単位

レベル 2,3 / 定員制 (36 名)

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ニューヨークタイムズ紙の記事の読解をします。授業のテーマの1つ目は、難解な英文になると把握が難しくなる文の主部・述部など英語のセンテンスの文法的構造を理解することです。2つ目のテーマは、パラグラフ全体の内容を日本語にまとめて説明することです。1文ずつの内容の把握だけではなく、より長い単位で記事の内容を把握し、他の人に説明できるようになることが授業の目標となります。

【到達目標】

- ・一文が長い英文や複雑な構造の英文を読解する
- ・ある程度まとまった量の英文の内容を人に伝わるような日本語で説明する
- ・様々な分野で用いられる英語の語彙を増やす

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1

【授業の進め方と方法】

テキストは目安として2～3回の授業で1章分というペースで進めることを目標とします。1章毎に内容確認の小テストを実施する予定です。特に難解な文については解説を行います。一字一句全て訳していくようなことはしません。可能であればグループワークを行い、参加者が自ら語彙・フレーズ・文法について確認し、パラグラフの要旨のまとめ方、提示された課題について考察します。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。授業計画は授業の展開によって若干、変更する可能性があります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	Introduction	授業の進め方、評価についての説明します。
第2回	In China, Daydreaming Students Are Caught on Camera 中国発：教室の映像、全国に生配信中（前半）	記事を講読します。
第3回	In China, Daydreaming Students Are Caught on Camera 中国発：教室の映像、全国に生配信中（後半）	記事を講読します。

第4回 Last Chance Travel' 記事を講読します。

As the World Changes

失われゆく土地を目指す旅（前半）

第5回 Last Chance Travel' 記事を講読します。

As the World Changes

失われゆく土地を目指す旅（後半）

第6回 Chinese Babies, 記事を講読します。

Born Into Canadian Citizenship

カナダ発：出生地主義の土地に妊婦殺到（前半）

第7回 Chinese Babies, 記事を講読します。

Born Into Canadian Citizenship

カナダ発：出生地主義の土地に妊婦殺到（後半）

第8回 課題の振り返り これまでの課題から見られる困難点についてフィードバックを行う。

第9回 Human Contact Is 記事を講読します。

Now a Luxury Good
タブレットの中で猫を飼う（前半）

第10回 Human Contact Is 記事を講読します。

Now a Luxury Good
タブレットの中で猫を飼う（後半）

第11回 With Cloning, Pet 記事を講読します。

Owners in China
Need Never Say
Goodbye

中国発：あなたのペット、クローンで蘇ります（前半）

第12回 With Cloning, Pet 記事を講読します。

Owners in China
Need Never Say
Goodbye

中国発：あなたのペット、クローンで蘇ります（後半）

第13回 まとめ方を考察する 記事の内容をシンプルにまとめる方法を考察する。

第14回 試験・まとめと解説 試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。具体的には、授業の前に予習として記事を読んでくる必要があります。わからない単語や表現があれば辞書などで調べることが必要です。また、記事で扱われている内容について馴染みがなければその分野について調べる必要があります。記事の内容について把握し、他の授業参加者と議論できる程度の予習が必要です。

【テキスト（教科書）】

・ニューヨークタイムズ世界見聞、喜多留女／Keith Wesley ADAMS 編注、英宝社。（2,100円＋税）

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

以下の配分で評価する。
平常点および課題（60%）
期末テスト（40%）

欠席回数が通算4回に達した者は原則として単位取得の資格を失う。

授業開始のチャイムから 30 分以降の遅刻は欠席と見なす。遅刻の回数が 3 回に達するごとに 1 回の欠席とする。未予習で出席した場合、私語など授業に積極的に参加する姿勢がみられない場合、その日を欠席と同等の扱いとする。

【学生の意見等からの気づき】

単純な英文の読解からは達成感が得られにくいことがわかりました。英文の意味の把握を課題にするだけでなく、特に重点的に考えるべき項目を明示的に提示しようと考えています。

【Outline (in English)】

Course outline: The aim of this course is to help students improve skills for English reading comprehension and for summarizing the contents of paragraphs.

Learning Objectives: At the end of the course, students are expected to understand the contents and intentions of English articles and briefly explain contents of articles.

Learning activities outside of classroom: University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

Grading Criteria /Policy: Class Assignments 60%, Final Assignment (exam) 40%

LANe200LA

英語で学ぶ社会と文化 I

2017 年度以降入学者

サブタイトル：社会と文化の諸相を知る

根本 怜奈

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 3/Thu.3

単位数：1 単位

レベル 3,4 / 定員制 (36 名)

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

現代社会の日常生活に関わる、「ネット文化」・「メディア」・「自然環境」・「テクノロジー」などをトピックとした英文を読み、英語の読解力を身につける。テキストで扱われているトピックについて、自分の意見や考えをまとめ、基本的な英語で表現する。

【到達目標】

1. テキストの英文を読解し、関連する練習問題を解くことにより、英文の読解力、語彙力を高めることを目指す。
2. テキストの練習問題を通して、文法力を高めることを目指す。
3. テキストのリスニング問題を通して、リスニング力を高めることを目指す。
4. テキストの英文について自身の考えや意見をまとめ、基本的な英語で表現する力を身につけることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1

【授業の進め方と方法】

テキストに沿って進める。英文を読んだ後に、テキストの練習問題を通して全体の内容を確認し、英文についての理解を深める。適宜小テストを実施するので、予習と復習をしっかりとすることが望まれる。Chapter が 3 つか 4 つ終わるごとに、ライティング演習を行う。自分が興味を持ったトピックについて基本的な英語でライティングし、提出する。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である。適宜授業内でもフィードバックを行う。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の概要と方法の説明 必要であれば、受講者の選抜をする
第 2 回	Chapter 1	Going Viral
第 3 回	Chapter 2	Tourist Traps
第 4 回	Chapter 3	Deal Me In
第 5 回	Chapter 1 ~ Chapter 3 のまとめ	Chapter 1 ~ Chapter 3 の中のいずれかについて、ライティング
第 6 回	Chapter 4	Full Contact
第 7 回	Chapter 5	Fake News
第 8 回	Chapter 6	Dead as a Dodo
第 9 回	Chapter 7	It's a Dry Heat
第 10 回	Chapter 4 ~ Chapter 7 のまとめ	Chapter 4 ~ Chapter 7 の中のいずれかについて、ライティングと授業内発表
第 11 回	Chapter 8	Man's Best Friend
第 12 回	Chapter 9	The Wild West
第 13 回	Chapter 10	Man versus Beast
第 14 回	学期末課題	期末課題の提出と期末のまとめ

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

各 Chapter の英文について、必ず予習をすること。適宜小テストを実施するので、復習もしっかりすること。語彙ノートを作成し、単語・熟語の定着を目指す。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とする。

【テキスト (教科書)】

Getting Ready to Change the World (『グローバル時代を生き抜く変革への視点』) (François de Soete 他著、成美堂、2,000 円 (税別)) 配布プリントで授業を行うことがある。英和・和英辞書を持参すること。

【参考書】

英和・和英辞書 (電子辞書でも紙媒体でも可)

【成績評価の方法と基準】

期末課題 (50 %)、授業態度・授業内に課した課題 (ライティング課題の提出を重視) や小テストと各回のコメントを含む平常点 (50 %) によって総合的に評価する。

4 回以上欠席した場合は、成績評価の対象にならない。

授業開始から 30 分以上の遅刻は欠席となる。遅刻 2 回は欠席 1 回分としてカウントする。

スマートフォンの不適切な使用や居眠りなど、授業中の不適切な態度によっては、減点もしくは程度により、出席していても出席と認めない場合がある。

【学生の意見等からの気づき】

英作文のクラス内発表を通して、クラスメイトの意見や発表の仕方を参考にしよう促す。英作文などの課題において、テキスト内で出てきた語彙や表現の使用を促す。授業内でのスマートフォンの使用は原則教員が使用を許可した場合のみとする。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システム

【その他の重要事項】

授業形態のオンラインか対面かは、状況に応じて変わる可能性があります。その際は、予め「学習支援システム」の「お知らせ」に掲載します。また、授業の初回にて、授業日用の課題や宿題についての詳細な「授業計画」を「学習支援システム」の「お知らせ」に掲載するので、必ず初回の授業時に確認をしてください。オンライン授業を取り入れている分、自分で計画的に予習や復習、課題を行う必要があります。各 Chapter の本文は 900words 程で、それを基本的に自力で読み解きます。課題の締め切りや提出条件を守ること、自主的な学習への姿勢が求められます。その点を考慮した上で受講を決めてください。受講者数に応じて選抜を行う可能性があります。受講を希望する場合は、必ず初回の授業の指示に従い、「学習支援システム」の「課題」ページから必要な課題を提出してください。初回の授業時に所定の課題が提出されない場合は、原則受講できません。

【Outline (in English)】

This course is held based on the textbook. The flow of the class is reading the sentence, explaining the sentence, answering some questions and making comments about the sentence. Mini test is held to review every lesson.

Some of the objectives of the course are:

1. Increase vocabulary
2. Improve grammatical skill
3. Improve listening skill
4. Learn to express your own opinions.

Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter from the textbook and completed the required assignment. Your required study time is at least one hour for each class meeting.

Final grading will be decided based on the following:

Term-end examination (50%),

Class participation including in-class attitude, assignment, and mini test (50%).

LANe200LA

英語で学ぶ社会と文化Ⅱ

2017 年度以降入学者

サブタイトル：社会と文化の諸相を知る

根本 怜奈

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 3/Thu.3

単位数：1 単位

レベル 3,4 / 定員制 (36 名)

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

現代社会の日常生活に関わる、「ネット文化」・「メディア」・「自然環境」・「テクノロジー」などをトピックとした英文を読み、英語の読解力を身につける。テキストで扱われているトピックについて、自分の意見や考えをまとめ、基本的な英語で表現する。

【到達目標】

1. テキストの英文を読解し、関連する練習問題を解くことにより、英文の読解力、語彙力を高めることを目指す。
2. テキストの練習問題を通して、文法力を高めることを目指す。
3. テキストのリスニング問題を通して、リスニング力を高めることを目指す。
4. テキストの英文について自身の考えや意見をまとめ、基本的な英語で表現する力を身につけることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1

【授業の進め方と方法】

テキストに沿って進める。英文を読んだ後に、テキストの練習問題を通して全体の内容を確認し、英文についての理解を深める。適宜小テストを実施するので、予習と復習をしっかりとすることが望まれる。Chapter が 3 つか 4 つ終わるごとに、ライティング演習を行う。自分が興味を持ったトピックについて基本的な英語でライティングし、提出する。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定である。適宜授業内でもフィードバックを行う。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の概要と方法の説明 必要であれば、受講者の選抜をする
第 2 回	Chapter 11	A Perfect World
第 3 回	Chapter 12	Modern Frankenstein
第 4 回	Chapter 13	Tinted Lenses
第 5 回	Chapter 11 ~ Chapter 13 のまとめ	Chapter 11 ~ Chapter 13 の中のいずれかについて、ライティング
第 6 回	Chapter 14	Get Well Soon
第 7 回	Chapter 15	The Need for Speed
第 8 回	Chapter 16	Time Travel
第 9 回	Chapter 17	The Great Unknown
第 10 回	Chapter 14 ~ Chapter 17 のまとめ	Chapter 14 ~ Chapter 17 の中のいずれかについて、ライティングと授業内発表
第 11 回	Chapter 18	The Endgame
第 12 回	Chapter 19	Heads Up
第 13 回	Chapter 20	Destination Mars
第 14 回	学期末課題	期末課題の提出と期末のまとめ

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

各 Chapter の英文について、必ず予習をすること。適宜小テストを実施するので、復習もしっかりすること。語彙ノートを作成し、単語・熟語の定着を目指す。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とする。

【テキスト (教科書)】

Getting Ready to Change the World (『グローバル時代を生き抜く変革への視点』) (François de Soete 他著、成美堂、2,000 円 (税別)) 配布プリントで授業を行うことがある。英和・和英辞書を持参すること。

【参考書】

英和・和英辞書 (電子辞書でも紙媒体でも可)

【成績評価の方法と基準】

期末課題 (50 %)、授業態度・授業内に課した課題 (ライティング課題の提出を重視) や小テストと各回のコメントを含む平常点 (50 %) によって総合的に評価する。

4 回以上欠席した場合は、成績評価の対象にならない。授業開始から 30 分以上の遅刻は欠席となる。遅刻 2 回は欠席 1 回分としてカウントする。

スマートフォンの不適切な使用や居眠りなど、授業中の不適切な態度によっては、減点もしくは程度により、出席していても出席と認めない場合がある。

【学生の意見等からの気づき】

英作文のクラス内発表を通して、クラスメイトの意見や発表の仕方を参考にしよう促す。英作文などの課題において、テキスト内に出てきた語彙や表現の使用を促す。授業内でのスマートフォンの使用は原則教員が使用を許可した場合のみとする。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システム

【その他の重要事項】

授業形態のオンラインか対面かは、状況に応じて変わる可能性があります。その際は、予め「学習支援システム」の「お知らせ」に掲示します。また、授業の初回にて、授業日用の課題や宿題についての詳細な「授業計画」を「学習支援システム」の「お知らせ」に掲示するので、必ず初回の授業時に確認をしてください。オンライン授業を取り入れている分、自分で計画的に予習や復習、課題を行う必要があります。各 Chapter の本文は 900words 程で、それを基本的に自力で読み解きます。課題の締め切りや提出条件を守ること、自主的な学習への姿勢が求められます。その点を考慮した上で受講を決めてください。受講者数に応じて選抜を行う可能性があります。受講を希望する場合は、必ず初回の授業の指示に従い、「学習支援システム」の「課題」ページから必要な課題を提出してください。春学期の初回の授業時に所定の課題が提出されない場合は、原則受講できません。

【Outline (in English)】

This course is held based on the textbook. The flow of the class is reading the sentence, explaining the sentence, answering some questions and making comments about the sentence. Mini test is held to review every lesson.

Some of the objectives of the course are:

1. Increase vocabulary
2. Improve grammatical skill
3. Improve listening skill
4. Learn to express your own opinions.

Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter from the textbook and completed the required assignment. Your required study time is at least one hour for each class meeting.

Final grading will be decided based on the following:

Term-end examination (50%),

Class participation including in-class attitude, assignment, and mini test (50%).

LANe200LA

英語で学ぶ社会と文化 I

2017 年度以降入学者

サブタイトル：社会と文化の諸相を知る

萩原 眞一

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 3/Wed.3

単位数：1 単位

レベル 3,4 / 定員制 (36 名)

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

大学生として必要とされる標準的な英語力を堅固なものにしながら、さらに向上させることを目標とします。

授業は 4 技能（リーディング、ライティング、リスニング、スピーキング）の学習を中心に行います。春学期と秋学期のリーディング、リスニングおよびスピーキングの教科書としては、3 分程度の BBC（英国放送協会）の映像ニュースから 15 本精選され、それぞれに Understanding Check や Making a Summary などの設問が付けられた形式のものを使用します。毎回授業中に DVD を視聴してもらい、母語話者が自然に話す英語に数多く触れてもらうことによって、リーディングとリスニングの能力の向上を図ります。適宜、Follow Up の設問を活用してスピーキングの能力を養成します。

また、春学期・秋学期を通じて、人文科学系の論文を書く上で役立つ表現法を習得してもらい、ライティングの能力の涵養も目指します。

【到達目標】

学生が教科書の英文記事および付属問題を容易に聴解できること。学生が教科書の英文記事を、パラグラフと文の構造に留意しながら、正確に読解できること。最終的には学生が 100 点満点に換算した成績評価の基準点において 60 点以上を獲得できること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1

【授業の進め方と方法】

毎授業、講義と演習を繰り返します。適宜、課題を出して遂行度を点検し、必要に応じて指導します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	Unit 1 "The Windows of Canterbury Cathedral"[歴史を彩るステンドグラス] ①	DVD を活用して News Story の聴解と読解を確実なものとしす。語彙変化とアクセントを確認し単語力の増強を図ります。
第 2 回	Unit 1 "The Windows of Canterbury Cathedral"②	内容理解と文法力をチェックする演習問題を解きます。英語で書き話す練習を行います。
第 3 回	Unit 2 "West London's Community Garden"②	DVD を活用して News Story の聴解と読解を確実なものとしす。語彙変化とアクセントを確認し単語力の増強を図ります。
第 4 回	Unit 2 "West London's Community Garden"②	内容理解と文法力をチェックする演習問題を解きます。英語で書き話す練習を行います。

第 5 回	Unit 3 "Two Generations Sharing a House"[若者と高齢者をつなぐ異世代ホームシェア] ①	DVD を活用して News Story の聴解と読解を確実なものとしす。語彙変化とアクセントを確認し単語力の増強を図ります。
第 6 回	Unit 3 "Two Generations Sharing a House"②	内容理解と文法力をチェックする演習問題を解きます。英語で書き話す練習を行います。
第 7 回	中間的な総括・試験	主に教科書に準拠した試験を実施し、聴解力・読解力・文法力・語彙力・作文力の到達度を測定します。
第 8 回	Unit 4 "Cornwall's Lithium Mines"[地下に眠る国産の金属を探せ！] ①	DVD を活用して News Story の聴解と読解を確実なものとしす。語彙変化とアクセントを確認し単語力の増強を図ります。
第 9 回	Unit 4 "Cornwall's Lithium Mines"②	内容理解と文法力をチェックする演習問題を解きます。英語で書き話す練習を行います。
第 10 回	Unit 5 "How to Be Happy on Blue Monday"[ブルーな気分を吹き飛ばす方法] ①	DVD を活用して News Story の聴解と読解を確実なものとしす。語彙変化とアクセントを確認し単語力の増強を図ります。
第 11 回	Unit 5 "How to Be Happy on Blue Monday"②	内容理解と文法力をチェックする演習問題を解きます。英語で書き話す練習を行います。
第 12 回	Unit 6 "The New Brixham Banking Hub"[銀行の無い町を救うバンキング・ハブ] ①	DVD を活用して News Story の聴解と読解を確実なものとしす。語彙変化とアクセントを確認し単語力の増強を図ります。
第 13 回	Unit 6 "The New Brixham Banking Hub"②	内容理解と文法力をチェックする演習問題を解きます。英語で書き話す練習を行います。
第 14 回	全体的な総括・試験	主に教科書に準拠した試験を実施し、聴解力・読解力・文法力・語彙力・作文力の到達度を測定します。まとめと解説を行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

次回に行われる授業範囲を予習してください。授業中に強調した重要事項は必ず復習してください。適宜、課題を出します。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

Timothy Knowles 他編著『British News Update 5—映像で学ぶイギリス公共放送の最新ニュース 5』（金星堂、2023 年）2800 円（税別）

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

中間試験（45 点）と期末試験（45 点）を実施し、学期末に課す英語小エッセー（10 点）を勘案した上で、100 点満点に換算した基準点を割り出し、60 点以上を獲得した場合、合格とします。小エッセーに関しては初回授業などで説明します。各学期欠席が 4 回以上の場合は、原則として単位修得を認めません。

【学生の意見等からの気づき】

直近の授業アンケートを踏まえながら、分かりやすい授業を行なうよう心がけます。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを利用するための機器（パソコン、スマホ、iPad 等）

【Outline (in English)】

The purpose of this course is to encourage participants to develop their reading, listening, and speaking abilities by use of the interesting news given by the British Broadcasting Corporation. Participants can view the videos accessible online, gain an insight into the life and culture of Britain, and speak on various subject matters. This course also aims to improve participants' academic writing skill they will be asked to acquire as undergraduates.

By the end of the course, participants are expected to view the videos easily, comprehend the text accurately, and write in English their short essays in clear paragraphs.

University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

Grading will be decided based on mid-term examination (45%), term-end examination (45%), and short essay (10%).

LANe200LA

英語で学ぶ社会と文化Ⅱ

2017年度以降入学者

サブタイトル：社会と文化の諸相を知る

萩原 眞一

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 3/Wed.3

単位数：1 単位

レベル 3,4 / 定員制 (36 名)

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

大学生として必要とされる標準的な英語力を堅固なものにしながら、さらに向上させることを目標とします。

授業は4技能（リーディング、ライティング、リスニング、スピーキング）の学習を中心に行います。春学期と秋学期のリーディング、リスニングおよびスピーキングの教科書としては、3分程度のBBC（英国放送協会）の映像ニュースから15本精選され、それぞれにUnderstanding CheckやMaking a Summaryなどの設問が付けられた形式のものを使用します。毎回授業中にDVDを視聴してもらい、母語話者が自然に話す英語に数多く触れてもらうことによって、リーディングとリスニングの能力の向上を図ります。適宜、Follow Upの設問を活用してスピーキングの能力を養成します。

また、春学期・秋学期を通じて、人文科学系の論文を書く上で役立つ表現法を習得してもらい、ライティングの能力の涵養も目指します。

【到達目標】

学生が教科書の英文記事および付属問題を容易に聴解できること。学生が教科書の英文記事を、パラグラフと文の構造に留意しながら、正確に読解できること。最終的には学生が100点満点に換算した成績評価の基準点において60点以上を獲得できること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1

【授業の進め方と方法】

毎授業、講義と演習を繰り返します。適宜、課題を出して遂行度を点検し、必要に応じて指導します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	Unit 7 "Call to Clean Up London's Diesel Trains"	DVDを活用してNews Storyの聴解と読解を確実なものとしす。語彙変化とアクセントを確認し単語力の増強を図ります。
第2回	Unit 7 "Call to Clean Up London's Diesel Trains"②	内容理解と文法力をチェックする演習問題を解きます。英語で書き話す練習を行います。
第3回	Unit 8 "The Impact of Covid on the Brain"[新型コロナウィルスで脳が縮む?]①	DVDを活用してNews Storyの聴解と読解を確実なものとしす。語彙変化とアクセントを確認し単語力の増強を図ります。
第4回	Unit 8 "The Impact of Covid on the Brain"②	内容理解と文法力をチェックする演習問題を解きます。英語で書き話す練習を行います。

第5回	Unit 9 "Women Learning Skills for Life after Prison"[再犯を防ぐ女性刑務所の取り組み]①	DVDを活用してNews Storyの聴解と読解を確実なものとしす。語彙変化とアクセントを確認し単語力の増強を図ります。
第6回	Unit 9 "Women Learning Skills for Life after Prison"②	内容理解と文法力をチェックする演習問題を解きます。英語で書き話す練習を行います。
第7回	中間的な総括・試験	主に教科書に準拠した試験を実施し、聴解力・読解力・文法力・語彙力・作文力の到達度を測定します。
第8回	Unit 10 "A Space for Green Businesses"[環境保護を目指す起業家たちの集い]①	DVDを活用してNews Storyの聴解と読解を確実なものとしす。語彙変化とアクセントを確認し単語力の増強を図ります。
第9回	Unit 10 "A Space for Green Businesses"②	内容理解と文法力をチェックする演習問題を解きます。英語で書き話す練習を行います。
第10回	Unit 11 "Diversity in the Workplace"[階級の壁に挑む大手企業の取り組み]①	DVDを活用してNews Storyの聴解と読解を確実なものとしす。語彙変化とアクセントを確認し単語力の増強を図ります。
第11回	Unit 11 "Diversity in the Workplace"②	内容理解と文法力をチェックする演習問題を解きます。英語で書き話す練習を行います。
第12回	Unit 12 "Bringing Back Scottish Wetlands"[海面上昇の意外な活用法]①	DVDを活用してNews Storyの聴解と読解を確実なものとしす。語彙変化とアクセントを確認し単語力の増強を図ります。
第13回	Unit 12 "Bringing Back Scottish Wetlands"②	内容理解と文法力をチェックする演習問題を解きます。英語で書き話す練習を行います。
第14回	全体的な総括・試験	主に教科書に準拠した試験を実施し、聴解力・読解力・文法力・語彙力・作文力の到達度を測定します。まとめと解説を行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

次回に行われる授業範囲を予習してください。授業中に強調した重要事項は必ず復習してください。適宜、課題を出します。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

Timothy Knowles 他編著『British News Update 5—映像で学ぶイギリス公共放送の最新ニュース5』（金星堂、2023年）2800円（税別）

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

中間試験（45点）と期末試験（45点）を実施し、学期末に課す英語小エッセー（10点）を勘案した上で、100点満点に換算した基準点を割り出し、60点以上を獲得した場合、合格とします。小エッセーに関しては初回授業などで説明します。各学期欠席が4回以上の場合は、原則として単位修得を認めません。

【学生の意見等からの気づき】

直近の授業アンケートを踏まえながら、分かりやすい授業を行なうよう心がけます。

【学生が準備すべき機器他】

学習支援システムを利用するための機器（パソコン、スマホ、iPad等）

【Outline (in English)】

The purpose of this course is to encourage participants to develop their reading, listening, and speaking abilities by use of the interesting news given by the British Broadcasting Corporation. Participants can view the videos accessible online, gain an insight into the life and culture of Britain, and speak on various subject matters. This course also aims to improve participants' academic writing skill they will be asked to acquire as undergraduates.

By the end of the course, participants are expected to view the videos easily, comprehend the text accurately, and write in English their short essays in clear paragraphs.

University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

Grading will be decided based on mid-term examination (45%), term-end examination (45%), and short essay (10%).

LANe200LA

英語で学ぶ社会と文化 I

2017 年度以降入学者

サブタイトル：マスメディアで読む世界情勢

余田 剛

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 2/Fri.2

単位数：1 単位

レベル 3,4 / 定員制 (36 名)

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

英米の新聞、雑誌、テレビのニュースなどのメディアの英語に触れながら、英語の語学の学習をすることをテーマとする。法学部国際政治学科生への推奨科目であるため、政治問題を中心的に扱うが、趣旨に賛同できる場合は他学部・他学科の学生も歓迎する。

【到達目標】

この授業では、政治情勢をはじめとし、その他、世界各国における現代社会の様々な問題についての基礎知識を獲得し、より多くの一般的な語彙・語法とさらに高校レベルまでではなかなか出てこないような英語圏でよく使われる口語などの表現方法を覚え、使っているようで意外と有効に使えていない辞書の引き方やその他資料の集め方に関する基本的技能を身につけ、ニュースの概要をつかめる程の基本的なリスニング力を獲得し、そして今後につなげることを考えると最も大事な点であるが、辞書やその他必要な情報源を粘り強くそして適切に参照しながら、文字と音声によるより複雑な情報も自力で丁寧に理解しようとする、あらゆる分野の専門的研究を行う際に重要であると思われる態度を身につけることができることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1

【授業の進め方と方法】

The Japan News, Newsweek, The Guardian を扱う予定であるが、最新の記事をその都度選ぶため、授業計画に記した、メディアの種類、順番、記事の内容については変わる可能性がある。精読を重視するため進み方は遅い。授業では、1 パラグラフ程のまとまりで区切り、担当者に訳読、あるいは、要約してもらい、その後、確認が必要な場合は語彙、語法、フレーズなどについてこちらから質問をする。そのため受講者は十分予習をしておく必要がある。また、授業内の一定時間を用いて、ニュースなどの音声教材を使ったリスニングの演習を行う。

予習を課題とし、問題や訳し方の解答や解説をフィードバックとして口頭で示す。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業内容の概要を説明（選抜試験を行う場合もある。選抜を行う場合は選抜必修科目として履修する国際政治学科生を優先します。）
2	リスニング演習 + 記事 1 の講読	CNN などメディアのニュースを題材としたリスニング問題演習 + The Japan News のアジアあるいは中東に関する記事の序論部講読

3	リスニング演習 + 記事 1 の講読	CNN などメディアのニュースを題材としたリスニング問題演習 + The Japan News のアジアあるいは中東に関する記事の本論前半部講読
4	リスニング演習 + 記事 1 の講読	CNN などメディアのニュースを題材としたリスニング問題演習 + The Japan News のアジアあるいは中東に関する記事の本論後半部講読
5	リスニング演習 + 記事 1 の講読	CNN などメディアのニュースを題材としたリスニング問題演習 + The Japan News のアジアあるいは中東に関する記事の結論部講読
6	リスニング演習 + 記事 2 の講読	CNN などメディアのニュースを題材としたリスニング問題演習 + Newsweek のアメリカに関する記事の序論部講読
7	リスニング演習 + 記事 2 の講読	CNN などメディアのニュースを題材としたリスニング問題演習 + Newsweek のアメリカに関する記事の本論前半部講読
8	リスニング演習 + 記事 2 の講読	CNN などメディアのニュースを題材としたリスニング問題演習 + Newsweek のアメリカに関する記事の本論後半部講読
9	リスニング演習 + 記事 2 の講読	CNN などメディアのニュースを題材としたリスニング問題演習 + Newsweek のアメリカに関する記事の結論部講読
10	リスニング演習 + 記事 3 の講読	CNN などメディアのニュースを題材としたリスニング問題演習 + The Guardian のイギリスに関する記事の序論部講読
11	リスニング演習 + 記事 3 の講読	CNN などメディアのニュースを題材としたリスニング問題演習 + The Guardian のイギリスに関する記事の本論前半部講読
12	リスニング演習 + 記事 3 の講読	CNN などメディアのニュースを題材としたリスニング問題演習 + The Guardian のイギリスに関する記事の本論後半部講読
13	リスニング演習 + 記事 3 の講読	CNN などメディアのニュースを題材としたリスニング問題演習 + The Guardian のイギリスに関する記事の結論部講読
14	試験	授業で扱った内容を範囲とした授業内試験あるいはレポート、まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。辞書を使って記事をしっかりと読んでくること。

【テキスト（教科書）】

資料を配布する。

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

試験の成績（60%）と平常点（40%）とから総合的に評価する。欠席が 4 回に達した者は単位取得の資格を失う。遅刻は 3 回に達するごとに 1 回の欠席とカウントする。また、授業開始のチャイムから 30 分以降の遅刻は欠席と見なす。午前中の授業でもあることから、交通機関の遅れに注意し、時間には余裕を持って来ること。

【学生の意見等からの気づき】

授業時間外の学習時間において、週 30 分未満の割合が平均に比べ高く、予習のどこがどのように不十分であるかを授業中であてた際一人一人に具体的に指示したり、リスニングが自習できるような教材やインターネットのサイトを紹介することで、自習時間を増やす働きかけを心掛けたいと思います。

【Outline (in English)】

· This course teaches English using newspaper articles, magazine stories, and television programs, etc. The main thematic focus is on political issues, because this is a recommended course for the Law Faculty's Department of Global Politics. However, other students who are interested in these issues are also welcomed. The aim of this course is to help students improve English reading and listening skills, deepen the knowledge about political and other aspects of modern society in various countries, and acquire the habit of showing a diligent attitude toward more complex written or spoken information while trying to deal with what seems difficult for them to understand by referring to dictionaries or other necessary sources.

· Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant paragraphs from the designated articles. Required study time is at least one hour for each class meeting.

· Final grade will be decided based on term-end examination (60%) and in-class contribution (40%). In principle, four and more absences will not be permitted per semester to receive academic credit for the course. Students 30 minutes or more late will be considered absent. If they will come late three times, they will be considered absent one time.

LANe200LA

英語で学ぶ社会と文化Ⅱ

2017年度以降入学者

サブタイトル：マスメディアで読む世界情勢

余田 剛

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 2/Fri.2

単位数：1 単位

レベル 3,4 / 定員制 (36 名)

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

英米の新聞、雑誌、テレビのニュースなどのメディアの英語に触れながら、英語の語学の学習をすることをテーマとする。法学部国際政治学科生への推奨科目であるため、政治問題を中心的に扱うが、趣旨に賛同できる場合は他学部・他学科の学生も歓迎する。

【到達目標】

この授業では、政治情勢をはじめとし、その他、世界各国における現代社会の様々な問題についての基礎知識を獲得し、より多くの一般的な語彙・語法とさらに高校レベルまでではなかなか出てこないような英語圏でよく使われる口語などの表現方法を覚え、使っているようで意外と有効に使えていない辞書の引き方やその他資料の集め方に関する基本的技能を身につけ、ニュースの概要をつかめる程の基本的なリスニング力を獲得し、そして今後につなげることを考えると最も大事な点であるが、辞書やその他必要な情報源を粘り強くそして適切に参照しながら、文字と音声によるより複雑な情報も自力で丁寧に理解しようとする、あらゆる分野の専門的研究を行う際に重要であると思われる態度を身につけることができることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1

【授業の進め方と方法】

Newsweek, The Guardian, The New York Times を扱う予定であるが、最新の記事をその都度選ぶため、授業計画に記した、メディアの種類、順番、記事の内容については変わる可能性がある。精読を重視するため進み方は遅い。授業では、1パラグラフ程のまとまりで区切り、担当者に訳読、あるいは、要約をしてもらい、その後、確認が必要な場合は語彙、語法、フレーズなどについてこちらから質問をする。そのため受講者は十分予習をしておく必要がある。また、授業内の一定時間を用いて、ニュースなどの音声教材を使ったリスニングの演習を行う。

予習を課題とし、問題や訳し方の解答や解説をフィードバックとして口頭で示す。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業内容の概要を説明（選抜試験を行う場合もある。選抜を行う場合は選必修科目として履修する国際政治学科生を優先します。）
2	リスニング演習＋記事 1の講読	CNN などメディアのニュースを題材としたリスニング問題演習＋Newsweek のアジアあるいは中東に関する記事の序論部講読
3	リスニング演習＋記事 1の講読	CNN などメディアのニュースを題材としたリスニング問題演習＋Newsweek のアジアあるいは中東に関する記事の本論前半部講読

4	リスニング演習＋記事 1の講読	CNN などメディアのニュースを題材としたリスニング問題演習＋Newsweek のアジアあるいは中東に関する記事の本論後半部講読
5	リスニング演習＋記事 1の講読	CNN などメディアのニュースを題材としたリスニング問題演習＋Newsweek のアジアあるいは中東に関する記事の結論部講読
6	リスニング演習＋記事 2の講読	CNN などメディアのニュースを題材としたリスニング問題演習＋The Guardian のイギリスに関する記事の序論部講読
7	リスニング演習＋記事 2の講読	CNN などメディアのニュースを題材としたリスニング問題演習＋The Guardian のイギリスに関する記事の本論前半部講読
8	リスニング演習＋記事 2の講読	CNN などメディアのニュースを題材としたリスニング問題演習＋The Guardian のイギリスに関する記事の本論後半部講読
9	リスニング演習＋記事 2の講読	CNN などメディアのニュースを題材としたリスニング問題演習＋The Guardian のイギリスに関する記事の結論部講読
10	リスニング演習＋記事 3の講読	CNN などメディアのニュースを題材としたリスニング問題演習＋The New York Times のアメリカに関する記事の序論部講読
11	リスニング演習＋記事 3の講読	CNN などメディアのニュースを題材としたリスニング問題演習＋The New York Times のアメリカに関する記事の本論前半部講読
12	リスニング演習＋記事 3の講読	CNN などメディアのニュースを題材としたリスニング問題演習＋The New York Times のアメリカに関する記事の本論後半部講読
13	リスニング演習＋記事 3の講読	CNN などメディアのニュースを題材としたリスニング問題演習＋The New York Times のアメリカに関する記事の結論部講読
14	試験	授業で扱った内容を範囲とした授業内試験あるいはレポート、まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。辞書を使って記事をしっかりと読んでくること。

【テキスト（教科書）】

資料を配布する。

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

試験の成績（60％）と平常点（40％）とから総合的に評価する。欠席が4回に達した者は単位取得の資格を失う。遅刻は3回に達するごとに1回の欠席とカウントする。また、授業開始のチャイムから30分以降の遅刻は欠席と見なす。午前中の授業でもあることから、交通機関の遅れに注意し、時間には余裕を持って来ること。

【学生の意見等からの気づき】

授業時間外の学習時間において、週30分未満の割合が平均に比べ高く、予習のどこがどのように不十分であるかを授業中であてた際一人一人に具体的に指示したり、リスニングが自習できるような教材やインターネットのサイトを紹介することで、自習時間を増やす働きかけを心掛けたいと思います。

【Outline (in English)】

· This course teaches English using newspaper articles, magazine stories, and television programs, etc. The main thematic focus is on political issues, because this is a recommended course for the Law Faculty's Department of Global Politics. However, other students who are interested in these issues are also welcomed. The aim of this course is to help students improve English reading and listening skills, deepen the knowledge about political and other aspects of modern society in various countries, and acquire the habit of showing a diligent attitude toward more complex written or spoken information while trying to deal with what seems difficult for them to understand by referring to dictionaries or other necessary sources.

· Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant paragraphs from the designated articles. Required study time is at least one hour for each class meeting.

· Final grade will be decided based on term-end examination (60%) and in-class contribution (40%). In principle, four and more absences will not be permitted per semester to receive academic credit for the course. Students 30 minutes or more late will be considered absent. If they will come late three times, they will be considered absent one time.

LANe200LA

英語で学ぶ社会と文化 I

2017 年度以降入学者

サブタイトル：マスメディアで読む世界情勢

金谷 優子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 3/Fri.3

単位数：1 単位

レベル 3,4 / 定員制 (36 名)

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

本授業では、TED TALKS のプレゼンテーションで練り広げられた種々の独創的なアイデアに触れつつ、英語の 4 技能：読み、聴き、話し、書くを総合的に身につけることを目標とします。グローバル化によって、ヒトやモノがますます流動的になっていくなか、世界中で様々な人々が独自の視点で現代社会を捉えて、自らの置かれた社会、そして文化、また人生と取り組んでいることを知ることは非常に重要です。本授業では、TED TALKS の英語のプレゼンテーションを聞き、理解を試みることによって英語コミュニケーションについての基本的な事柄の習得を目指す一方で、それぞれのプレゼンテーションの論理の組み立て方、独創性、着眼点について確認しつつ、受講者自らが現代社会、そして文化について自分なりの考察を進めてゆくことを促します。

【到達目標】

- ・まとまった長さの英文の論理展開を正確に把握すること
- ・複雑な構文や語句を理解すること
- ・英文パラグラフの構造を読解を通じて学び、その知識を生かして、みずから論理的な文章が書けるようになること
- ・英語の音声聴いて、必要な情報を得ること
- ・さまざまな意見を英語で理解し、それに対する自分の考えを英語で表現すること
- ・沢山の人の独自の考えを聞いて、世界のありようについて自分なりの見解を持つようになること

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1

【授業の進め方と方法】

【授業は Zoom にて行われます。また、毎回の授業についての詳細は Hoppii に掲示しますので、必ず確認して Zoom 授業に参加して下さい。】

各トピックについてそれぞれを 3 部構成とします。第 1 部: Lesson A では、扱われたトピックについての基礎知識、読解についての重要な技術 (Reading Skills) について学びます。第 2 部: Lesson B では、実際に TED TALK の発表を聴き、またその script を読んで、プレゼンテーションの概要や詳しい内容についての理解がなされたかを確認します。また、第 3 部として、第 1 部、第 2 部で学習した事柄をまとめ、更にリサーチを進め、TED talk に関する自分の考えを英語で表現する場を設けます。

受講者は第 1 部から第 3 部を通しての学習事項をチェックシートに書き、トピック毎に提出し、フィードバックを受けます。

【第 1 部】

第 2 週 Topic: Interdisciplinary

第 5 週 Topic: Business/ Leadership

第 8 週 Topic: Life Science

第 11 週 Topic: Sociology/ Fashion

【第 2 部】

第 3 週 : TED TALK by Matt Cutts : Try Something New for 30 days

https://www.ted.com/talks/matt_cutts_try_something_new_for_30_days?language=ja

第 6 週 : TED TALK by Tom Wujec : Build a Tower

[https://www.ted.com/talks/tom_wujec_build_a_tower?](https://www.ted.com/talks/tom_wujec_build_a_tower?language=ja)

language=ja

第 9 週 : TED TALK by David Gallo: Underwater Astonishments

https://www.ted.com/talks/david_gallo_shows_underwater_astonishments/transcript

第 12 週 : TED TALK by Jessi Arrington : Wearing Nothing New

https://www.ted.com/talks/jessi_arrington_wearing_nothing_new?language=ja

【第 3 部】

第 4 週 : TED TALK by Matt Cutts : Try Something New for 30 days

https://www.ted.com/talks/matt_cutts_try_something_new_for_30_days?language=ja

第 7 週 : TED TALK by Tom Wujec : Build a Tower

[https://www.ted.com/talks/tom_wujec_build_a_tower?](https://www.ted.com/talks/tom_wujec_build_a_tower?language=ja)

language=ja

第 10 週 : TED TALK by David Gallo: Underwater Astonishments

https://www.ted.com/talks/david_gallo_shows_underwater_astonishments/transcript

第 13 週 : TED TALK by Jessi Arrington : Wearing Nothing New

https://www.ted.com/talks/jessi_arrington_wearing_nothing_new?language=ja

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 週	Introduction	What is TED?
第 2 週	Unit 1: Life Changes	Lesson A Topic: Interdisciplinary Reading Skills: Understanding sequence words,... etc.
第 3 週	Unit 1: Life Changes	TED TALK by Matt Cutts Lesson B Academic Skills: Understanding main ideas,...etc.
第 4 週	Unit 1: Life Changes	Check sheet summarizing and stating opinions
第 5 週	Unit 2: Team Power	Lesson A Topic: Business Leadership Reading Skills: Identifying main ideas in paragraphs,...etc.
第 6 週	Unit 2: Team Power	TED TALK by Tom Wujec Lesson B Academic Skills: Understanding stages in a process, ...etc.
第 7 週	Unit 2: Team Power	Check sheet summarizing and stating opinions
第 8 週	Unit 3: Ocean Wonders	Lesson A Topic: Life Science Reading Skills: Identifying purpose/ referents
第 9 週	Unit 3: Ocean Wonders	TED TALK by David Gallo Lesson B Academic Skills: Understanding main ideas and key details,... etc.

第10週	Unit 3: Ocean Wonders	Check sheet summarizing and stating opinions
第11週	Unit 4: What We Wear	Lesson A Topic:Sociology/ Fashion Reading Skills: Making connections/ Understanding a process
第12週	Unit 4: What We Wear	TED TALK by Jessi Arrington Lesson B Academic Skills: Recognizing point of view
第13週	Unit 4: What We Wear	Check sheet summarizing and stating opinions
第14週	final test	final test

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習：学生は、各 Unit で扱う TED talk についての予備知識を得るためにテキストを予習し、知らなかった語彙、表現、難しい文章などを特定し、checksheet に記入しておく。

復習：扱った TED talk の要約をし、checksheet に記入した事項を習得することができたか、確認する。

宿題：授業で扱った TED talk 関連で、適宜、授業時に示される課題を提出する。

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。以下が授業で扱う TED talk です。予習復習する際に聴いて下さい。

TED TALK by Matt Cutts : Try Something New for 30 days

https://www.ted.com/talks/matt_cutts_try_something_new_for_30_days?language=ja

TED TALK by Tom Wujec : Build a Tower

https://www.ted.com/talks/tom_wujec_build_a_tower?language=ja

TED TALK by David Gallo: Underwater Astonishments

https://www.ted.com/talks/david_gallo_shows_underwater_astonishments/transcript

TED TALK by Jessi Arrington : Wearing Nothing New

https://www.ted.com/talks/jessi_arrington_wearing_nothing_new?language=ja

【テキスト（教科書）】

TED TALKS 21st Century Reading 1 (Cengage Learning), ISBN 978-1-305-26459-5

その他、配布資料

【参考書】

<https://www.ted.com>

その他、授業中に適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】

評価基準：授業参加度（授業内での発言および check sheet）40 %、小テスト 30 %、期末テスト 30 %

4 回以上の欠席で単位取得資格は失われます。3 回遅刻すると 1 回欠席としてカウントされます。30 分以上の遅刻は欠席とみなされます。また、Zoom の授業に参加せずに課題のみの提出は出席と認められません。

【学生の意見等からの気づき】

英語を用いる場をなるべく多く設けます。

【学生が準備すべき機器他】

この授業は Zoom で行われますので、大学の教室で受講の際には、パソコン等の端末及びマイク付きのヘッドセットが必要です。

【Outline (in English)】

This Online English course is designed to increase the students' ability to develop their overall English Language skills while learning about specific topics of TED Talks. Students are expected to improve their reading/listening skills as well as to broaden their understanding of current issues.

* This course will be conducted using Zoom and Hoppii.

[Overall Objectives]

To help students

- ・ increase vocabulary
- ・ improve their reading/listening comprehension skills

・ understand English sentences without translating into Japanese

・ identify main ideas

・ clarify the structure of a paragraph

・ develop global and cross-cultural awareness

・ develop creative and critical thinking skills

・ effectively express their opinions on current issues

[Learning activities outside of classroom]

Students are expected to participate in the class fully prepared, having completed the vocabulary preview, listening, reading or writing tasks assigned the previous week.

University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

[Grading Criteria /Policy]

Grading criteria for this course will be based on the following:

Class participation: 40% (Zoom meeting activities + Unit quizzes) / assignment : 30 % / Final test: 30%

Every week students are required to attend the zoom session and submit an assignment to Hoppii. Just submitting the assignment (without participating in the Zoom session) will be counted as absence.

In principle, no more than 3 absences will be permitted per semester for the student to receive academic credit in the course.

LANe200LA

英語で学ぶ社会と文化Ⅱ

2017 年度以降入学者

サブタイトル：マスメディアで読む世界情勢

金谷 優子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 3/Fri.3

単位数：1 単位

レベル 3,4 / 定員制 (36 名)

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

春学期同様本授業では、TED TALKS のプレゼンテーションで繰り広げられた種々の独創的なアイデアに触れつつ、英語の 4 技能：読み、聴き、話し、書く—を総合的に身につけることを目標とします。グローバル化によって、ヒトやモノがますます流動的になっていくなか、世界中で様々な人々が独自の視点で現代社会を捉えて、自らの置かれた社会、そして人生と取り組んでいることを知ることは非常に重要です。本授業では、TED TALKS の英語のプレゼンテーションを聞き、理解を試みることによって英語コミュニケーションについての基本的な事柄の習得を目指す一方で、それぞれのプレゼンテーションの論理の組み立て方、独創性、着眼点について確認しつつ、受講者自らが現代社会について自分なりの考察を進めてゆくことを促します。

【到達目標】

- ・まとまった長さの英文の論理展開を正確に把握すること
- ・複雑な構文や語句を理解すること
- ・英文パラグラフの構造を読解を通じて学び、その知識を生かして、みずから論理的な文章が書けるようになること
- ・英語の音声聴いて、必要な情報を得ること
- ・さまざまな意見を英語で理解し、それに対する自分の考えを英語で表現すること
- ・沢山の人の独自の考えを聞いて、世界のありようについて自分なりの見解を持つようになること

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1

【授業の進め方と方法】

【授業は Zoom にて行われます。また、毎回の授業についての詳細は Hoppii に掲示しますので、必ず確認して Zoom 授業に参加して下さい。】

各トピックについてそれぞれを 3 部構成とします。第 1 部では、扱われたトピックについての基礎知識、読解についての重要な技術 (Reading Skills) について学びます。第 2 部では、実際に TED TALK の発表を聴き、またその script を読んで、プレゼンテーションの概要や詳しい内容についての理解がなされたかを確認します。また、 Semester 終盤には、第 3 部として、学習したトピックをひとつ選び、更によりサーチを進め、TED での発表に関する自分の考えを英語で表現する場を設けます。

受講者は第 1 部から第 3 部を通しての学習事項をチェックシートに書き、トピック毎に提出し、フィードバックを受けます。

【第 1 部】

第 2 週 Topic: Architecture and Design

第 5 週 Topic: Communication/ Sociology

第 8 週 Topic: Visual Arts/ Sociology

【第 2 部】

第 3 週 : TED TALK by Iwan Baan : Ingenious Homes in Unexpected Places

https://www.ted.com/talks/iwan_baan_ingenious_homes_in_unexpected_places?language=ja

第 6 週 : TED TALK by Kevin Allocca: Why Videos Go Viral
https://www.ted.com/talks/kevin_allocca_why_videos_go_viral?language=ja

第 9 週 : TED TALK by Candy Chang: Before I die, I want to ...

https://www.ted.com/talks/candy_chang_before_i_die_i_want_to?language=ja

【第 3 部】

第 4 週 : TED TALK by Iwan Baan : Ingenious Homes in Unexpected Places

https://www.ted.com/talks/iwan_baan_ingenious_homes_in_unexpected_places?language=ja

第 7 週 : TED TALK by Kevin Allocca: Why Videos Go Viral
https://www.ted.com/talks/kevin_allocca_why_videos_go_viral?language=ja

第 10 週 : TED TALK by Cindy Chang: Before I die, I want to ...

https://www.ted.com/talks/candy_chang_before_i_die_i_want_to?language=ja

第 11 週~13 週 : Your favorite TED Talk

<https://www.ted.com/>

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第 1 週	Introduction	授業の進め方についての説明 目標の確認
第 2 週	Unit6: Building Solutions	TED Talk by Iwan Baan Topic:Architecture and Design Lesson A Reading Skills: Organizing supporting details,... etc.
第 3 週	Unit6: Building Solutions	TED Talk by Iwan Baan Lesson B: Academic Skills: Understanding main ideas,summarizing ideas using a concept map,...etc.
第 4 週	Unit6: Building Solutions	TED Talk by Iwan Baan Expressing ideas on the topic
第 5 週	Unit 7: Roads to Fame	TED Talk by Kevin Allocca Topic:Communication/ Sociology Lesson A Reading Skills: Scanning for numbers,...etc.
第 6 週	Unit 7: Roads to Fame	TED Talk by Kevin Allocca Lesson B Academic Skills: Understanding main ideas,summarizing ideas using a concept map,...etc.
第 7 週	Unit 7: Roads to Fame	TED Talk by Kevin Allocca Expressing ideas on the topic
第 8 週	Unit 9: Community Voices	TED TALK by Candy Chang Lesson A Topic:Visual Arts / Sociology Reading Skills: Understanding a paragraph's purpose
第 9 週	Unit 9: Community Voices	TED TALK by Candy Chang Lesson B Topic:Visual Arts / Sociology Reading Skills: Understanding a paragraph's purpose
第 10 週	Unit 9: Community Voices	TED TALK by Candy Chang Expressing ideas on the topic
第 11 週	Your favorite TED talk	Finding your favorite TED talk.

- 第 12 週 Your favorite TED The Summary of the talk
talk
第 13 週 Your favorite TED Your own idea on the talk
talk
第 14 週 期末テスト final test

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

準備学習：学生は、各 Unit で扱う TED talk についての予備知識（テキストに記載）を得るためにテキストを予習し、知らなかった語彙、表現、難しい文章などを特定し、checksheet に記入しておく。
復習：扱った TED talk の要約をし、checksheet に記入した事項を習得することができたか、確認する。

宿題：授業で扱った TED talk 関連で、適宜、授業時に示される課題を提出する。

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。以下が授業で扱う TED talk です。予習復習する際に聴いて下さい。
TED TALK by Iwan Baan : Ingenious Homes in Unexpected Places

https://www.ted.com/talks/iwan_baan_ingenious_homes_in_unexpected_places?language=ja

TED TALK by Kevin Allocca: Why Videos Go Viral

https://www.ted.com/talks/kevin_allocca_why_videos_go_viral?language=ja

TED TALK by Cindy Chang: Before I die, I want to ...

https://www.ted.com/talks/candy_chang_before_i_die_i_want_to?language=ja

【テキスト（教科書）】

TED TALKS 21st Century Reading 1 (Cengage Learning), ISBN 978-1-305-26459-5

その他、資料配布

【参考書】

<https://www.ted.com>

その他、授業中に適宜指示します。

【成績評価の方法と基準】

評価基準：授業参加度（授業内での発言および Hoppii quiz）40 %、チェックシート 30 %、期末テスト 30 %

4 回以上の欠席で単位取得資格は失われます。3 回遅刻すると 1 回欠席としてカウントされます。30 分以上の遅刻は欠席とみなされます。また、Zoom の授業に参加せずに課題のみの提出は出席と認められません。

【学生の意見等からの気づき】

なるべく多く英語を使う場を設けます。

【学生が準備すべき機器他】

この授業は Zoom で行われますので、大学の教室で受講の際には、パソコン等の端末及びマイク付きのヘッドセットが必要です。

【Outline (in English)】

This Online English course is designed to increase the students' ability to develop their overall English Language skills while learning about specific topics of TED Talks. Students are expected to improve their reading/listening skills as well as to broaden their understanding of current issues.

* This course will be conducted using Zoom and Hoppii.

[Overall Objectives]

To help students

- increase vocabulary
- improve their reading/listening comprehension skills
- understand English sentences without translating into Japanese
- identify main ideas
- clarify the structure of a paragraph
- develop global and cross-cultural awareness
- develop creative and critical thinking skills
- effectively express their opinions on current issues

[Learning activities outside of classroom]

Students are expected to participate in the class fully prepared, having completed the vocabulary preview, listening, reading or writing tasks assigned the previous week.

University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

[Grading Criteria /Policy]

Grading criteria for this course will be based on the following:
Class participation: 40% (Zoom meeting activities + Unit quizzes) / assignment : 30 % / Final test: 30%

Every week students are required to attend the zoom session and submit an assignment to Hoppii. Just submitting the assignment (without participating in the Zoom session) will be counted as absence.

In principle, no more than 3 absences will be permitted per semester for the student to receive academic credit in the course.

LANe200LA

英語で学ぶ社会と文化 I

2017 年度以降入学者

サブタイトル：社会と文化の諸相を知る

大曲 陽子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 3/Mon.3

単位数：1 単位

レベル 2,3 / 定員制 (36 名)

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

複数のパラグラフから成る記事を題材として、パラグラフの構造や、構文や文法などの知識を強化することを目的とする。それと同時に、今社会を取り巻くメディアと娯楽、環境保護問題や文化、などの多岐にわたるトピックを通して世界情勢への理解を深めることを目的とする。

6 回のオンライン授業は授業動画を配信するオンデマンド型とする。

【到達目標】

タイムリーなトピックを取り上げ、速読、精読などを通して、必要とする情報を効果的に読み取るスキルを学習する。リスニング、リーディング、ライティング学習を通して、英語資格試験などのためだけでなく、変化する社会情勢を的確に把握し、異なる意見を持つ人たちと対等に渡り合える英語力を身に付けていく。高い英語力だけでなく、批判的な視点の持ち方、自分の意見の持ち方及び歴史や教養などを身に付けることも目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1

【授業の進め方と方法】

本授業は全 14 回中 8 回を対面型授業、6 回をオンライン授業 (授業動画を配信するオンデマンド型) とする。

ほぼ 2 回の授業で 1 つの Chapter を学習する。1 回目の授業 (授業動画配信オンデマンド型) では先ず宿題として授業当該日前までに各自記事を読んで TF 内容問題に取り組み準備する。その後、授業動画を配信するオンデマンド授業を視聴して、指定の締め切り日までに Hoppii を通して課題を提出する。2 回目の授業 (対面) では、全員が内容に目を通していることを前提に問題演習を行い、教員が配布する記事を読んで自分の考えをまとめる。

Unit 一つ終了ごとに語彙の小テストを行う。

授業で取り上げる Chapter は以下の 6 つとする

Chapter 1,4,5,7,8,10

前半は速読を中心に大意をつかむためのリーディングスキルを学び、後半の授業では exercise を解きながら精読する。

適時グループワークを行い意見をまとめる課題がある。

課題等に対するフィードバック方法

毎週課題の提出があるので、授業動画配信オンデマンド型の時は Hoppii を通して指定の締め切り日までに提出し、それは Hoppii を通して返却される。対面授業の課題はその都度提出し、次回授業時に返却される。

小テストは採点返却される。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	ここで履修者を決定するので、履修希望者は必ず初回アンケートに回答して LMS を通して提出すること。
4/10	履修者の決定	

2	Chapter 1	授業動画配信オンデマンド型
4/17	The Art of Persuasion: What is the key to making a good argument?	Vocabulary ,Comprehension Question
3	Chapter 1	本文内容の確認
4/24	The Art of Persuasion: What is the key to making a good argument?	テキスト後半 Putting it All Together, Point of Interest 主にグループワークで行う。
4	5/8 Chapter 4	授業動画配信オンデマンド型
	NintendoPower: How did Video games become so poplar?	Vocabulary ,Comprehension Question
5	Chapter 4	本文内容の確認
5/15	NintendoPower: How did Video games become so poplar?	テキスト後半 Putting it All Together, Point of Interest 主にグループワークで行う。
6	5/22 Chapter 5	授業動画配信オンデマンド型
	Striving for Greatness :what makes someone the greatest of all time?	Vocabulary ,Comprehension Question
7	5/29 Chapter 5	本文内容の確認
	Striving for Greatness :what makes someone the greatest of all time?	テキスト後半 Putting it All Together, Point of Interest 主にグループワークで行う。
8	6/5 Chapter 7	授業動画配信オンデマンド型
	Rise of the Machines: Are human Beings becoming obsolete?	Vocabulary ,Comprehension Question
9	6/12 Chapter 7	本文内容の確認
	Rise of the Machines: Are human Beings becoming obsolete?	テキスト後半 Putting it All Together, Point of Interest 主にグループワークで行う。
10	6/19 Chapter 8	授業動画配信オンデマンド型
	The Call of Tha Wild: Why do Humans and Dogs have such a special bond?	Vocabulary ,Comprehension Question
11	6/26 Chapter 8	本文内容の確認
	The Call of Tha Wild: Why do Humans and Dogs have such a special bond?	テキスト後半 Putting it All Together, Point of Interest 主にグループワークで行う。
12	7/3 Chapter 10	授業動画配信オンデマンド型
	The Mind's Eye: Is the World around us what it actually appears to be?	Vocabulary ,Comprehension Question
13	7/10 Chapter 10	本文内容の確認
	The Mind's Eye: Is the World around us what it actually appears to be?	テキスト後半 Putting it All Together, Point of Interest 主にグループワークで行う。

14 7/17 これまでのまとめ期 これまでのまとめ
末試験 期末試験

class contribution 10%
classroom quiz 30%
term-end examination 50%

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。
/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

授業動画配信オンデマンド授業時には各自本文テキストを十分に読み込む。各 Unit の Key Vocabulary を必ず学習し、語彙の確認を徹底する。本文内容に沿った TF 問題に真剣に取り組む。(Key Vocabulary, TF は採点する。)本文を読み込む際、未知の語彙があれば調べておく。対面授業時では、内容を大まかにわかっていることを前提として授業を行い、内容理解についての課題をこなすので、オンライン授業の学習時間をきちんと確保した上で対面授業に臨むこと。

【テキスト（教科書）】

Rethinking The World -Dare To Know - 激動の現代社会を読み解く視点

Francois de Soete 著

成美堂 2200 円（税込み）

【参考書】

特になし。

辞書必携

【成績評価の方法と基準】

授業課題の提出

●授業動画配信オンデマンド授業時 課題提出 10%・・・Key Vocabulary 及び True or False は採点する。1 点×10 問 = 10 点 (Answer Sheet の空欄が全て解答されていることを条件とする)

●対面時 授業内課題提出 10%

●対面時小テスト 10 点×5 回分 50 点 30%

●期末試験 50%

*欠席 4 回以上で、単位の修得は認められない。

*オンライン授業の出欠規定・・・毎回 Answer Sheet の回答欄が全て記載されている（空欄の内容全て解答している）、及び毎回指定された課題提出締め切り日までに必ず提出されていて、その回を「出席」とする。

【学生の意見等からの気づき】

トピックに関連したプリントを配布する。

【学生が準備すべき機器他】

パソコン、スマートフォン使用。

課題にリスニングが含まれるので、教科書の QR コードから音声スマートフォンにダウンロードして聞くことになる。

【その他の重要事項】

欠席は 3 回までとする。

オンライン授業は授業動画を配信するオンデマンド型とする。

担当教員に質問などの連絡がある場合は、LMS の質問を利用するか、または以下のアドレスにメールで連絡をください。

yohko.ohmagari.3n@hosei.ac.jp

【Outline (in English)】

【Course outline】

The aim of this course is help students acquire an understanding the international situation, an environmental problem, natural disasters, culture and so on through the essays.

【Learning Objectives】

The goals of this course are to acquire high English proficiency, critical thinking and social skills through listening, reading, writing and speaking.

【Learning activities and outside of classroom】

University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

Before each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content and have read the relevant chapter and completed the assignments.

【 Grading Criteria】

Your overall grade in the class will be decided based on the following

submission assignments 10%

LANe200LA

英語で学ぶ社会と文化Ⅱ

2017 年度以降入学者

サブタイトル：社会と文化の諸相を知る

大曲 陽子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 3/Mon.3

単位数：1 単位

レベル 2,3 / 定員制 (36 名)

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

複数のパラグラフから成る記事を題材として、パラグラフの構造や、構文や文法などの知識を強化することを目的とする。それと同時に、今社会を取り巻くメディアと娯楽、環境保護問題や文化、などの多岐にわたるトピックを通して世界情勢への理解を深めることを目的とする。

6 回のオンライン授業は授業動画を配信するオンデマンド型とする。

【到達目標】

タイムリーなトピックを取り上げ、速読、精読などを通して、必要とする情報を効果的に読み取るスキルを学習する。リスニング、リーディング、ライティング学習を通して、英語資格試験などのためだけでなく、変化する社会情勢を的確に把握し、異なる意見を持つ人たちと対等に渡り合える英語力を身に付けていく。高い英語力だけでなく、批判的な視点の持ち方、自分の意見の持ち方及び歴史や教養などを身に付けることも目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1

【授業の進め方と方法】

本授業は全 14 回中 8 回を対面型授業、6 回をオンライン授業 (授業動画を配信するオンデマンド型) とする。

ほぼ 2 回の授業で 1 つの Chapter を学習する。1 回目の授業 (授業動画配信オンデマンド型) では先ず宿題として授業当該日前までに各自記事を読んで TF 内容問題に取り組み準備する。その後、授業動画を配信するオンデマンド授業を視聴して、指定の締め切り日までに Hoppii を通して課題を提出する。2 回目の授業 (対面) では、全員が内容に目を通していることを前提に問題演習を行い、教員が配布する記事を読んで自分の考えをまとめる。

Unit 一つ終了ごとに語彙の小テストを行う。

授業で取り上げる Chapter は以下の 6 つとする

Chapter 1,4,5,7,8,10

前半は速読を中心に大意をつかむためのリーディングスキルを学び、後半の授業では exercise を解きながら精読する。

適時グループワークを行い意見をまとめる課題がある。

課題等に対するフィードバック方法

毎週課題の提出があるので、授業動画配信オンデマンド型の時は Hoppii を通して指定の締め切り日までに提出し、それは Hoppii を通して返却される。対面授業の課題はその都度提出し、次回授業時に返却される。

小テスは採点返却される。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Warming Up	ここで履修者を決定する時事問題
9/25		プリント教材

2	Chapter 12	授業動画配信オンデマンド型
10/2	By the Sword: how did The Roman Republic turn into an empire?	Vocabulary ,Comprehension Question
3	10/9 Chapter 12	本文内容の確認
	By the Sword: how did The Roman Republic turn into an empire?	テキスト後半 Putting it All Together, Point of Iterest 主にグループワークで行う。
4	Chapter 13	授業動画配信オンデマンド型
10/16	Democratic Ideals: What is democracy?	Vocabulary ,Comprehension Question
5	Chapter 13	本文内容の確認
10/23	Democratic Ideals: What is democracy?	テキスト後半 Putting it All Together, Point of Iterest 主にグループワークで行う。
6	Chapter 15	授業動画配信オンデマンド型
10/30	Luck of the Draw: How Important is luck for success in life?	Vocabulary ,Comprehension Question
7	Chapter 15	本文内容の確認
11/6	Luck of the Draw: How Important is luck for success in life?	テキスト後半 Putting it All Together, Point of Iterest 主にグループワークで行う。
8	Chapter 16	授業動画配信オンデマンド型
11/13	In the Bigning:What is the link between religion and cosmology?	Vocabulary ,Comprehension Question
9	Chapter 16	本文内容の確認
11/20	In the Bigning:What is the link between religion and cosmology?	テキスト後半 Putting it All Together, Point of Iterest 主にグループワークで行う。
10	Chapter 18	授業動画配信オンデマンド型
11/27	Condemned to be free: Is free will just an illusion?	Vocabulary ,Comprehension Question
11	Chapter 18	本文内容の確認
12/4	Condemned to be free: Is free will just an illusion?	テキスト後半 Putting it All Together, Point of Iterest 主にグループワークで行う。
12	Chapter 20	授業動画配信オンデマンド型
12/11	In the Grand Scheme of Things: What is the meaning of life?	Vocabulary ,Comprehension Question
13	Chapter 20	本文内容の確認
12/18	In the Grand Scheme of Things: What is the meaning of life?	テキスト後半 Putting it All Together, Point of Iterest 主にグループワークで行う。
14	これまでのまとめと期	Unit 20 語彙小テスト
1/15	末試験	これまでのまとめ 期末試験

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

授業動画配信オンデマンド授業時には各自本文テキストを十分に読み込む。各 Unit の **Key Vocabulary** を必ず学習し、語彙の確認を徹底する。本文内容に沿った **TF** 問題に真剣に取り組む。(Key Vocabulary, TF は採点する。) 本文を読み込む際、未知の語彙があれば調べておく。対面授業時では、内容を大まかにわかっていることを前提として授業を行い、内容理解についての課題をこなすので、オンライン授業の学習時間をきちんと確保した上で対面授業に臨むこと。

【テキスト (教科書)】

Rethinking The World -Dare To Know - 激動の現代社会を読み解く視点

Francois de Soete 著
成美堂 2200 円 (税込み)

【参考書】

特になし。
辞書必携

【成績評価の方法と基準】

授業課題の提出

- 授業動画配信オンデマンド授業時 課題提出 10%・・・Key Vocabulary 及び True or False は採点する。1 点×10 問= 10 点 (Answer Sheet の空欄が全て解答されていることを条件とする)
- 対面時 授業内課題提出 10%

- 対面時小テスト 10 点×5 回分 50 点 30%
- 期末試験 50%

*欠席 4 回以上で、単位の修得は認められない。
*オンライン授業の出欠規定・・・毎回 Answer Sheet の回答欄が全て記載されている (空欄の内容全て解答している)、及び毎回指定された課題提出締め切り日までに必ず提出されていて、その回を「出席」とする。

【学生の意見等からの気づき】

トピックに関連したプリントを配布する。

【学生が準備すべき機器他】

パソコン、スマートフォン使用。
課題にリスニングが含まれるので、教科書の QR コードから音声スマートフォンにダウンロードして聞くことになる。

【その他の重要事項】

欠席は 3 回までとする。
オンライン授業は授業動画を配信するオンデマンド型とする。
担当教員に質問などの連絡がある場合は、LMS の質問を利用するか、または以下のアドレスにメールで連絡をください。
yohko.ohmagari.3n@hosei.ac.jp

【Outline (in English)】

【Course outline】

The aim of this course is help students acquire an understanding the international situation, an environmental problem, natural disasters, culture and so on through the essays.

【Learning Objectives】

The goals of this course are to acquire high English proficiency, critical thinking and social skills through listening, reading, writing and speaking.

【Learning activities and outside of classroom】

University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.
Before each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content and have read the relevant chapter and completed the assignments.

【 Grading Criteria】

Your overall grade in the class will be decided based on the following
submission assignments 10%
class contribution 10%
classroom quiz 30%
term-end examination 50%

LANe200LA

English Presentation I

2017年度以降入学者

NADER Jamelea

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 3/Wed.3

単位数：1 単位

レベル 4 / 定員制 (24 名)

その他属性：〈グ〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This course will help students to improve their ability to make presentations in English. Students will increase their confidence in English communication through researching, talking, reading, writing and presenting about a variety of personal, academic, business and cultural topics. Students will choose their presentation topics according to their own interests. Students will focus in particular on developing and explaining their topics in a clear and engaging manner. Students will make three presentations of about 5-10 minutes.

【到達目標】

You will become a better presenter. You will improve your ability to communicate in front of a group, including topic selection, generating ideas, organising, collecting supporting information, visual communication, consideration of your voice, and movement. You will have many opportunities to express your thoughts in a concise and logical manner. You will try various ways to make your opinions more persuasive.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1

【授業の進め方と方法】

In this class, you will work in pairs, small groups and individually. You will research and collect information for your topics outside of class. You will organize and arrange your ideas, and prepare visual materials (using PowerPoint or poster paper) to accompany your presentation. Preparation is vital to participate fully and get the most from class time. In class, you will explain your research and ideas. This will enable you to become familiar with your topic and less reliant on a script. Additionally, you will have chances to find the points of interest that need more development, and the places in your work that need further re-thinking and reorganisation. You will also practise a number of important academic skills through listening and note-taking of your own and classmates' topics. These include identifying the key points, re-organising ideas, summarising and reconstructing partner's talks from your notes as well as giving critical feedback. You may be asked to prepare discussion questions related to your topic, and of course, must be ready to answer questions from the audience about your own work. Please come to class ready to participate actively and positively. You may sometimes record your presentations using easy editing software on your phone or PC to share with the class. Teacher feedback will be given in the class and online as necessary.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Orientation	An explanation of the class requirements. We will get to know each other.
2	First presentation: "How to..."	Teach us how to do something better. Look at examples. Generate ideas and select topics.

3	Developing your work	Show your ideas and make an outline. Basic presentation structure.
4	Developing your work	Revise and practise. Body language and gestures -examples and practise.
5	Final practise	Combine all the elements and review your speech. Make changes after feedback from classmates and teacher.
6	Presentation	Perform your presentation. Watch and review classmates. Self evaluation.
7	Second presentation: SWOT analysis	A SWOT analysis. What is it? Look at examples. Generate ideas and select topics
8	Developing your work:	A SWOT analysis. Show your first research and organise. Voicework - how to vary your voice to make your words have more impact.
9	Developing your work:	Show us your presentation draft and practise. Turn your draft into notecards. Asking and answering questions during a presentation.
10	Presentation	Perform your presentation. Watch and review classmates.
11	Third Presentation: Pechakucha	What is a pechakucha presentation? Explanation and examples. Topic planning.
12	Developing your work:	Practise. Speaking to time limits and on the spot transitions.
13	Final practise	Review and practise.
14	Presentation & Semester review	Perform your presentation. Watch and review classmates.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students will be expected to find their own research materials, write presentations and prepare visual materials including Keynote or PowerPoint slides. Students will be asked to watch some speeches and share their impressions in class.

University guidelines suggest preparation and review are around 4 hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course

【テキスト（教科書）】

The above may change. Activities may change according to class size, students' interests and abilities. There is no textbook.

【参考書】

Recommended places to watch presentation examples are; the Pechakucha, TED and Jack Petchey Foundation websites.

【成績評価の方法と基準】

In-class performance* and participation 25%

Presentations 45%

Self evaluation 10%

Outside class preparation 20%

*Please remember university policy permits a maximum of 3 absences per semester.

【学生の意見等からの気づき】

Students wanted more time to prepare presentations.

【学生が準備すべき機器他】

The classes will be conducted face-to-face. If, however, there is a need to conduct one or more classes online, students will require access to zoom.

We will use Google Classroom for all class information, assignments and so on. You will need to use colour pens, large poster paper, slide making software such as PowerPoint or Keynote. You will need to access your smartphone, tablet, or PC to watch presentation examples and do quick research in class. You will need an English dictionary.

【その他の重要事項】

Please come to class ready to participate actively and positively.

【Outline (in English)】

Make your speeches and presentations better.

LANe200LA

English Presentation II

2017年度以降入学者

NADER Jamelea

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 3/Wed.3

単位数：1 単位

レベル 4 / 定員制 (24 名)

その他属性：〈グ〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This course will help students to improve their ability to make presentations in English. Students will increase their confidence in English communication through researching, talking, reading, writing and presenting about a variety of personal, academic, business and cultural topics. Students will choose their presentation topics according to their own interests. Students will focus in particular on developing and explaining their topics in a clear and engaging manner. Students will make three presentations of about 5-10 minutes.

【到達目標】

You will become a better presenter. You will improve your ability to communicate in front of a group, including topic selection, generating ideas, organising, collecting supporting information, visual communication, consideration of your voice, and movement.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1

【授業の進め方と方法】

In this class, you will work in pairs, small groups and individually. You will research and collect information for your topics outside of class. You will organize and arrange your ideas, and prepare visual materials (using PowerPoint or poster paper) to accompany your presentation. Preparation is vital to participate fully and get the most from class time. In class, you will explain your research and ideas. This will enable you to become familiar with your topic and less reliant on a script. Additionally, you will have chances to find the points of interest that need more development, and the places in your work that need further re-thinking and reorganisation. You will also practise a number of important academic skills through listening and note-taking of your own and classmates' topics. These include identifying the key points, re-organising ideas, summarising and reconstructing partner's talks from your notes as well as giving critical feedback. You may be asked to prepare discussion questions related to your topic, and of course, must be ready to answer questions from the audience about your own work. Teacher feedback will be given in the class and online as necessary. Please come to class ready to participate actively and positively. You may sometimes record your presentation using easy editing software on your phone or PC to share with the class.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Orientation and a review of the Spring Semester. First presentation: "Inspired by a movie"	A cultural or social theme picked from a movie For example. "The Lego Movie" - a comparison of the education systems of Denmark and Japan. The role of propaganda in Vietnam War movies "The Devil wears Prada" - Karoshi - is work /life balance really possible? Discussing ideas and topic selection.

2	Developing your work	Sharing research. Making outlines and considering some rhetorical techniques such as the rule of 3 and repetition.
3	Developing your work	Sharing research. Using rhetorical techniques. Review of voice techniques.
4	Final practise	Making discussion questions. Practise and make changes after feedback from classmates and teacher.
5	Presentation	Perform your presentation. Watch and review classmates. Self evaluation.
6	Second presentation: Something I've learned that you should know	What knowledge have you gained in your university life that you think other people would benefit from knowing? generating ideas
7	Developing your work	Considering different narratives styles. Sharing ideas.
8	Developing your work	Sharing your ideas and using props in a speech.
9	Final practise	Practise your speech using a prop.
10	Presentation	Perform your presentation. Watch and review classmates. Self evaluation.
11	Third Presentation: A persuasive speech	A speech about something you feel strongly about. Make us believe how correct and important your opinion is.
12	Developing your work:	Adding passion and emotion to your words. Speaking with your whole body - examples and practise.
13	Final practise	Looking again at body language and voice.
14	Presentation & Semester review	Perform your presentation. Watch and review classmates. Self evaluation.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students will be expected to find their own research materials, write presentations and prepare visual materials including Keynote or PowerPoint slides. Students will be asked to watch some speeches and share their impressions in class. University guidelines suggest preparation and review are around 4 hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course

【テキスト（教科書）】

The above may change. Activities may change according to class size, students' interests and abilities. There is no textbook.

【参考書】

Recommended places to watch presentation examples are; the peckakucha, TED and Jack Petchey Foundation websites.

【成績評価の方法と基準】

In-class performance* and participation 25%

Presentations 45%

Self evaluation 10%

Outside class preparation 20%

*Please remember university policy permits a maximum of 3 absences per semester.

【学生の意見等からの気づき】

Students requested more computer presentations.

【学生が準備すべき機器他】

The classes will be conducted face-to-face. If, however, there is a need to conduct one or more classes online, students will require access to zoom.

We will use Google Classroom for all class information, assignments and so on. You will need to use colour pens, large poster paper, slide making software such as PowerPoint or Keynote. You will need to access your smartphone, tablet, or PC to watch presentation examples and do quick research in class. You will need an English dictionary.

【その他の重要事項】

Please come to class ready to participate actively and positively.

【Outline (in English)】

Make your speeches and presentations better.

LANe200LA

English Presentation I

2017 年度以降入学者

JOHN REILLY

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 3/Tue.3

単位数：1 単位

レベル 4 / 定員制 (24 名)

その他属性：〈グ〉〈優〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

This course teaches presentation skills through watching presentations, learning presentation techniques and making presentations on different topics.

【到達目標】

Students will be able to prepare and make presentations.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1

【授業の進め方と方法】

Class activities will include individual work, group work and discussions. Students will be required to prepare presentation material outside of classes. Students will compare class assignment answers in pairs or small groups after which the instructor will provide the correct answers.

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Course Introduction	Review syllabus and textbook
2	Getting ready (Pages 2-7)	Give Self introduction
3	A good friend (Pages 8-11)	- Exploring the topic - Focusing on language
4	Unit 1 A good friend (Pages 12-15)	- Organizing ideas - Adding impact techniques
5	Unit 1 A good friend (Pages 16-17)	- Developing presentation techniques
6	Unit 1 A good friend (Pages 18-19)	Presentation "My friend"
7	Unit 2 A favorite place (Pages 20-23)	- Exploring the topic - Focusing on language
8	Unit 2 A favorite place (Pages 24-27)	- Organizing ideas - Adding impact
9	Unit 2 A favorite place (Pages 28-29)	- Developing presentation techniques
10	Unit 2 A favorite place (Pages 30-31)	Presentation - "My Favorite Place"
11	Unit 3 A prized possession (Pages 32-35)	- Exploring the topic - Focusing on language - Organizing ideas
12	Unit 3 A prized possession (Pages 36-41)	- Adding impact - Developing presentation techniques
13	Unit 3 (Pages 42-43)	Presentation - "My Prized Possession"

14 Make-up Presentations / Course Review Finalize spring semester course

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

Students will be expected to prepare for classes by reviewing the next pages in the textbook and completing some assignments.

University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト (教科書)】

Present Yourself 1 Experiences, Second Edition (Steven Gershon, Cambridge University

【参考書】

None

【成績評価の方法と基準】

Students will be evaluated on two components:

- Presentations - 75% (Unit 1, 2 and 3 presentations are required.)
- Class participation - 25%

In principle, no more than 3 absences per term are allowed.

【学生の意見等からの気づき】

Student input and feedback is encouraged.

【学生が準備すべき機器他】

None

【Outline (in English)】

This course teaches presentation skills through watching presentations, learning presentation techniques and making presentations on different topics.

LANe200LA

English Presentation II

2017 年度以降入学者

JOHN REILLY

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 3/Tue.3

単位数：1 単位

レベル 4 / 定員制 (24 名)

その他属性：〈グ〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This course teaches presentation skills through watching presentations, learning presentation techniques and making presentations on different topics.

【到達目標】

Students will be able to prepare and make presentations.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1

【授業の進め方と方法】

Class activities will include individual work, group work and discussions. Students will be required to prepare presentation material outside of classes. Students will compare class assignment

answers in pairs or small groups after which the instructor will provide the correct answers.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Course Introduction	Review syllabus and textbook
2	Getting ready (Pages 2-7) Give Self introduction presentation	Give self introduction
3	Unit 4 A memorable experience (Pages 44-47)	- Exploring the topic - Focusing on language
4	Unit 4 A memorable experience (Pages 48-51)	- Organizing ideas - Adding impact
5	Unit 4 A memorable experience (Pages 52-53)	- Developing presentation techniques
6	Unit 4 A memorable experience (Pages 54-55)	Presentation: "My Memorable Experience"
7	Unit 5 I'll show you how (Pages 56-59)	- Exploring the topic - Focusing on language
8	Unit 5 I'll show you how (Pages 61-63)	- Organizing ideas - Adding impact
9	Unit 5 I'll show you how (Pages 64-65)	- Developing presentation techniques
10	Unit 5 I'll show you how (Pages 66-67)	Presentation: "How to..."
11	Unit 6 Screen magic (Pages 68-73)	- Exploring the topic - Focusing on language - Organizing ideas

12	Unit 6 Screen magic (Pages 73-77)	- Adding impact - Developing presentation techniques
13	Unit 6 Screen magic (Pages 78-79)	Presentation: Movie or TV Show Review
14	Make-up Presentations / Course Review	Finalize fall semester course

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

Students will be expected to prepare for classes by reviewing the next pages in the textbook and completing some assignments.

University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course. one-credit course.

【テキスト（教科書）】

Present Yourself 1 Experiences, Second Edition (Steven Gershon, Cambridge University Press)

【参考書】

None

【成績評価の方法と基準】

Students will be evaluated on two components:

- Presentations - 75% (Unit 4, 5 and 6 presentations are required.)
- Class participation - 25%

In principle, no more than 3 absences per term are allowed.

【学生の意見等からの気づき】

Student input and feedback is encouraged

【学生が準備すべき機器他】

None

【その他の重要事項】

None

【Outline (in English)】

This course teaches presentation skills through watching presentations, learning presentation techniques and making presentations on different topics.

LANe200LA

English Presentation I

2017 年度以降入学者

コートランド・デイビッド・スミス

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 3/Mon.3

単位数：1 単位

レベル 4 / 定員制 (24 名)

その他属性：〈グ〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This course is designed primarily to improve students' presentation skills and thereby to develop their integrative English language proficiency. In spring the goal is to acquire basic presentations skills, including how to organize a presentation, supporting arguments with evidence, effective use of visual aids, and aspects of delivery such as eye contact or gesture. In the fall semester, students will focus on persuasive/argumentative presentations on topics of contemporary concern. Students base their presentations on the basic patterns taught and learn to speak from notes. The class is conducted in English.

【到達目標】

This course is designed primarily to improve students' presentation skills and thereby to develop their integrative English language proficiency. In spring the goal is to acquire basic presentations skills, including how to organize a presentation, supporting arguments with evidence, effective use of visual aids, and aspects of delivery such as eye contact or gesture. In the fall semester, students will focus on persuasive/argumentative presentations on topics of contemporary concern. Students base their presentations on the basic patterns taught and learn to speak from notes. The class is conducted in English.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1

【授業の進め方と方法】

Online class. All classes will be taught using zoom.

The content of the class will consist of practicing presentation techniques and delivering presentations. If time permits, there will be some discussion of the presentation topics. Student assignments will be reviewed during class time or submitted to instructor for evaluation by email.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	1. Introductions HW/text pgs. 4-12	Talk about spring break. Getting started.
2	2. Text pgs. 13-14, 15-17, 18-22 HW/informative speech (pg. 17) with visuals, posture, eye contact, gestures	Watch sample presentation DVD.
3	3. Performance of informative speech HW/text pgs. 23-24, 28-29	Speech performance and feedback.

4	4. Text pgs. 30-38 HW/demonstration speech (pg. 38) with visuals, posture, eye contact, gestures, voice inflection	Demonstration speech.
5	5. Performance of demonstration speech HW/text pgs. 39-46	Student speech performances.
6	6. Text pgs. 47-48, pgs. 51-55 HW/country comparison (pgs. 49 & 56)	Prepare for country comparison speech.
7	7. Performance of country comparison HW/pgs. 57-59	Student speeches.
8	8. Text pgs. 60-67 HW/speech introduction (pg. 67)	Focus on speech introduction.
9	9. Performance of speech introduction HW/text pgs. 68-72	Speech introduction performances.
10	10. Text pgs. 73-85 HW/speech body (pg. 86)	Focus on speech body.
11	11. Performance of speech body HW/text pgs. 87-94 conclusion (pg. 95)	Student performances of speech body.
12	12. Presentation of conclusion HW/final presentation (pg. 99 steps 1,2,3)	Focus on speech conclusion.
13	Final presentations HW/None	Prepare and perform final presentations
14	Final presentations	End of term evaluation

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

University guidelines suggest preparation and review are around 4 hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course. Students will research and prepare their presentations before scheduled classes.

【テキスト（教科書）】

Speaking of Speech Level 2 Charles LeBeau MacMillan Education ISBN978-4-7773-6515-9 C3082

【参考書】

Students will use online resources to research and prepare their presentations.

【成績評価の方法と基準】

Presentations (50%)

Class participation (40%)

Final presentation (10%)

*Students will be expected to attend a minimum of 80% of all classes in order to get credit for this course. This means that you can be absent no more than three times.

Three late arrivals are counted as one absence (up to 29 min.). More than 45 minutes late without a good reason will be counted as absent. Students who are absent or late for a good reason — serious train delays, injury, illness, etc. should provide some evidence to instructor.

【学生の意見等からの気づき】

None.

【学生が準備すべき機器他】

If classes are held online, Zoom and headset. Students may use assigned classroom for online classes.

【その他の重要事項】

Contact Email: smith.courtland.sc@hosei.ac.jp

【Outline (in English)】

Students will prepare and deliver presentations during class time.

LANe200LA

English Presentation II

2017年度以降入学者

コートランド・デイビッド・スミス

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 3/Mon.3

単位数：1 単位

レベル 4 / 定員制 (24 名)

その他属性：〈グ〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

This course is designed primarily to improve students' presentation skills and thereby to develop their integrative English language proficiency. In spring the goal is to acquire basic presentations skills, including how to organize a presentation, supporting arguments with evidence, effective use of visual aids, and aspects of delivery such as eye contact or gesture. In the fall semester, students will focus on persuasive/argumentative presentations on topics of contemporary concern. Students base their presentations on the basic patterns taught and learn to speak from notes. The class is conducted in English.

【到達目標】

The goal of this course is to enable students to make effective presentations on a variety of topics. Students will learn to confidently deliver multimedia informative/descriptive speeches, as well as comparative, demonstrative and argumentative/persuasive presentations. Students will also learn to evaluate the quality and content of others' presentations, to take notes on presentation content, and to provide detailed feedback to help presenters to improve their presentation technique.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1

【授業の進め方と方法】

The content of the class will consist of practicing presentation techniques and delivering presentations. If time permits, there will be some discussion of the presentation topics. The fall semester of this course will concentrate on the preparation and delivery of persuasive, argumentative and rhetorical speeches. Student assignments will be reviewed during class time or submitted to instructor for evaluation by email.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	1. Summer vacation HW/prepare speech on summer vacation	Warm up presentation.
2	2. Presentations on summer vacation HW/read handout parts 1&2	Students deliver their summer vacation presentations.
3	3. Complete handout reading HW/prepare presentation on topic 1	Read background information and answer questions.

4	4. Presentations on topic 1 and discussion HW/read handout parts 1&2	Delivery of speeches.
5	5. Complete handout reading HW/prepare presentation on topic 2	Read background information and answer questions.
6	6. Presentations on topic 2 HW/read handout parts 1&2	Delivery of student speeches.
7	7. Complete handout reading HW/prepare presentation on topic 3	Read background information and answer questions.
8	8. Presentations on topic 3 HW/read handout parts 1&2	Delivery of student speeches.
9	9. Complete handout reading HW/prepare presentation on topic 4	Read background information and answer questions.
10	10. Presentations on topic 4 HW/read handout parts 1&2	Delivery of student speeches.
11	11. Complete handout reading HW/prepare presentation on topic 5	Read background information and answer questions.
12	12. Presentations on topic 5 HW/read handout parts 1&2	Delivery of student speeches.
13	13. Complete handout reading HW/prepare final presentations	Prepare for final presentations.
14	14. Final presentation	Final performance, summary and evaluation.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

University guidelines suggest preparation and review are around 4 hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course. Students will research and prepare their presentations before scheduled classes.

【テキスト（教科書）】

Speaking of Speech Level 2 Charles LeBeau MacMillan Education ISBN978-4-7773-6515-9 C3082

【参考書】

Students will make use of a variety of online resources in the research and preparation of their speeches.

【成績評価の方法と基準】

Presentations (50%)

Class participation (40%)

Final presentation (10%)

*Students will be expected to attend a minimum of 80% of all classes in order to get credit for this course. This means that you can be absent no more than three times.

Three late arrivals are counted as one absence (up to 29 min.). More than 45 minutes late without a good reason will be counted as absent. Students who are absent or late for a good reason — serious train delays, injury, illness, etc. should provide some evidence to instructor.

【学生の意見等からの気づき】

None.

【学生が準備すべき機器他】

If classes are held online, Zoom and a headset.

【その他の重要事項】

Contact Email: smith.courtland.sc@hosei.ac.jp

【Outline (in English)】

Students will prepare and deliver presentations during class time.

LANe200LA

English Presentation I

2017 年度以降入学者

MARK D BURNS

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 4/Thu.4

単位数：1 単位

レベル 4 / 定員制 (24 名)

その他属性：〈グ〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

The primary objective of this class is to develop basic presentation skills. The course provides practice in structuring, and organizing presentations, designing effective visuals, and delivering presentations in clear communicative English. Students will prepare and deliver 7 presentations on a wide range of subjects and purposes.

【到達目標】

This subject aims to equip learners with the confidence and basic ability to deliver effective presentations in English. It will help learners become familiar with a number of presentation types and build confidence speaking in front of others. By the end of this course, students will be able to deliver an individual presentation followed by a question and answer session, while engaging the audiences in their topic. Furthermore, students will sharpen their listening skills by learning how to ask good questions and become active listeners.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1

【授業の進め方と方法】

In this subject, classes will be conducted in English and will cover each unit of the textbook. In presentation weeks students are required to actively listen to other learners' presentations in order to ask relevant questions in the Question & Answer Sessions, and also to complete specific Feedback Forms. Students will be able get direct feedback on their presentations from these forms.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
	Orientation	Overview of the course and warm up Overview of English Presentation I subject and explaining rules for assignment submissions and feedback
Unit 1	Posture	Learners prepare and present a presentation about a city they like
Unit 2	Gesture	Learners prepare and present a presentation describing the layout of an interesting place
Unit 3	Use of voice	Learners prepare and present a presentation about a recipe
Section review	Review of the physical message	Review of the physical message
Unit 4	Effective visuals	Learners prepare a presentation comparing two countries

Unit 5	Explaining visuals	Learners prepare clear explanations for slides and charts
Section review	Review of the visual message	Learners deliver a presentation comparing two countries
Unit 6	Introduction	Learners prepare and present the introduction to a product comparison presentation
Unit 7	Body	Learners prepare and present the the body a product comparison presentation
Unit 8	Conclusion	Learners prepare and present the conclusion to a product comparison presentation
Section review	Review of presentation structure	Review of presentation structure
Final performance preparation	Final performance preparation	Final performance preparation
Final performance	Final performance	Final performance

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

University guidelines suggest preparation and review are around 4 hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course. Students are required to prepare visuals and rehearse 7 presentations over the course.

【テキスト（教科書）】

Speaking of Speech New Edition, David Harrington and Charles LeBeau, ISBN 978-4-7773-6271-4

【参考書】

A good Japanese-English dictionary

【成績評価の方法と基準】

Assessment will consist of in-class participation (40%), 7 presentation assignments (60%)

【学生の意見等からの気づき】

Personalised individual feedback will be provided. Students can participate via Zoom in emergencies.

【その他の重要事項】

In principle, no more than 3 absences per term are allowed. Lesson schedule may change depending on student number.

【Outline (in English)】

The primary objective of this class is to develop basic presentation skills. The course provides practice in structuring, and organizing presentations, designing effective visuals, and delivering presentations in clear communicative English. Students will prepare and deliver 7 presentations on a wide range of subjects and purposes.

LANe200LA

English Presentation II 2017 年度以降入学者

MARK D BURNS

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 4/Thu.4

単位数：1 単位

レベル 4 / 定員制 (24 名)

その他属性：〈グ〉〈優〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

The primary objective of this class is to further develop basic presentation skills. The course provides practice in structuring, and organizing presentations, designing effective visuals, and delivering presentations in clear communicative English. Students will prepare and deliver 7 presentations on a wide range of subjects and purposes.

【到達目標】

This subject aims to equip learners with the basics of written communication in English. It will help learners become familiar with a number of presentation types and build confidence speaking in front of others. By the end of this course, students will be able to deliver an individual presentation followed by a question and answer session, while engaging the audiences in their topic. Furthermore, students will sharpen their listening skills by learning how to ask good questions and become active listeners.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1

【授業の進め方と方法】

In this subject, classes will be conducted in English and will cover each unit of the textbook. In presentation weeks students are required to actively listen to other learners' presentations in order to ask relevant questions in the Question & Answer Sessions, and also to complete specific Feedback Forms. Students will be able get direct feedback on their presentations from these forms.

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】
なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
Orientation	Overview of the course and warm up	Overview of English Presentation I subject and explaining rules for assignment submissions and feedback
Unit 1	What are the options?	Learners prepare option presentations
Unit 2	Performance 1	Option presentations and peer feedback.
Unit 3	Job hunting	Learners prepare a proposal presentation
Unit 4	Performance 2	Proposal presentations and peer feedback.
Unit 5	Have I got your attention?	Learners prepare sales presentations
Unit 6	Performance 3	Sales presentations and peer feedback.
Unit 7	Technical problems and solutions	Learners prepare technical presentations

Unit 8	Performance 4	Technical presentations and peer feedback.
Unit 9	Cite your sources	Learners prepare academic presentations
Unit 10	Performance 5	Academic presentations and peer feedback.
Unit 11	Creative innovations	Learners prepare team presentations
Unit 12	Performance 6	Team presentations and peer feedback.
End-term review	Final presentations	Final presentations

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

University guidelines suggest preparation and review are around 4 hours a week for a two-credit course and around an hour a week for a one-credit course. Students are required to prepare visuals and rehearse 7 presentations over the course.

【テキスト (教科書)】

Speaking of Speech Level 2, Charles LeBeau, ISBN 978-4-7773-6515-9

【参考書】

A good Japanese-English dictionary

【成績評価の方法と基準】

Assessment will consist of in-class participation (40%), 7 presentation assignments (60%)

【学生の意見等からの気づき】

Personalised individual feedback will be provided. Students can participate via Zoom in emergencies.

【その他の重要事項】

In principle, no more than 3 absences per term are allowed. Lesson schedule may change depending on student numbers.

【Outline (in English)】

The primary objective of this class is to further develop basic presentation skills. The course provides practice in structuring, and organizing presentations, designing effective visuals, and delivering presentations in clear communicative English. Students will prepare and deliver 7 presentations on a wide range of subjects and purposes.

LANe200LA
英語アカデミック・リーディング 2017年度以降入学者
 I
岩崎 博
 開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 4/Fri.4
 単位数：1 単位
 レベル 2,3 / 定員制 (36 名)
 その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】
 パラグラフの論理的な構造に目を向け、その趣旨を的確につかむこと
 によって、英文を正確に読みこなす能力を養います。授業では、ト
 ピックセンテンスを中心に、パラグラフの内容を理解する読みを実
 践します。美術、科学、文化、言語、環境、歴史など様々な分野を
 扱う興味深いエッセイを読み解くことによって、新しい視点、刺激
 的な世界観に触れてください。

【到達目標】
 パラグラフリーディングの技術を習得する。
 パラグラフの内容を正確に理解し、それを口頭で表現できるようにな
 る。
 パラグラフのトピックとそれを詳述する細部との関係を理解する。
 コンテキストを正しく捉える力を養う。
 抽象的な表現を具体的に理解する読み方を身につける。
 辞書が活用できるようになる。
 英語の論文を効率的に読み解くことができるようになる。
 クリティカル・リーディングの重要性を理解する。

**【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示された
 どの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針
 に明示された学習成果との関連）】**
 各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学
 部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国
 際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学
 部：DP1

【授業の進め方と方法】
 演習を中心に授業を行います。各パラグラフの内容を詳細に考察し
 ますので、授業はかなりゆっくりと進んでいきます。一回の授業で
 扱うのはテキスト1ページほどです。授業では、学生がパラグラフ
 の和訳、要約、または内容の説明を行い、それについてみんなで話
 し合います。不明な点や問題点があれば、全員で話し合い、できる
 だけ自分たちの力で解決していきます。また、各論文を読み終わっ
 た後、それに関する意見を発表しクラス全体で議論します。
 フィードバックに関しては、学生が発表するたびに教師がコメント
 を出し、さらにそのコメントについてクラスで話し合います。学期
 末試験の答案に解説・コメントをつけて返却します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
 あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
 なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	授業の説明	授業に関する説明の後、パラグラ フの構造について理解します。
2	Session 1 What a Painting Can Tell Us 本エッセイの展望	筆者は絵画に隠された物語を読み 解いていきます。筆者は絵の中に どんな物語を読み込むのでしょ うか？ このセッションでは、学生は各パ ラグラフの内容を自分の言葉で説 明していきます。
3	Session 1 What a Painting Can Tell Us	パラグラフが主題文、指示文、結 論文から成ることを理解し、実際 の英文の中でその構造を確認しま す。これを理解した上で、トピッ クセンテンスを見つけ、それが何 故トピックセンテンスなのか、自 分の言葉で説明します。

4	Session 1 What a Painting Can Tell Us パラグラフリーディング の実践	トピックセンテンスと支持文の関 連性を考え、それを自分の言葉で 表現します。 What a Painting Can Tell Us に関して自分の意見を発表し、ク ラスで話し合います。
5	Session 2 Split-Brain Research 本エッセイの展望	右脳・左脳の機能の違いを世に知 らしめた、有名な事例を紹介する 論文を読みます。右脳と左脳の機 能の違いに、言語がどのように関 わっているのでしょうか？ このエッセイでは、学生はパラグ ラフのトピックに留意しつつ英文 和訳を行います。
6	Session 2 Split-Brain Research イラストを頼りに実験 の記述を読む	実験の様態を図解するイラストを 参照しながら、実験の手順を記述 する文章を正確に読む練習をし ます。
7	Session 2 Split-Brain Research イラストと記述を照応 させる	図と英語の記述を対応させること によって、視覚情報が左右の脳に どのように伝わるのかを理解しま す。
8	Session 2 Split-Brain Research 記述内容を具体的に読 む	実験の結果に関する記述が、具体 的に実験の何を指し示すのかを理 解します。抽象的な記述を具体的 に理解し説明する読みを実践しま す。
9	Session 2 Split-Brain Research 文脈をたどる	ある文が意味をなすということ は、文脈を理解することに他なら ないことを学習します。 また、言語が左右の脳の機能の違 いにどんな影響を及ぼしているの か理解します。
10	Session 9 On Speaking on Speaking 本エッセイの展望	Split-Brain Research に関する 意見を発表し、クラスで話し合 います。 Session 9 では、言語の変化生成 に関する仮説を扱う論文を読みます 。言語は原初の形を痕跡として 残しつつ絶えず変化し続けるこ と、人間には言語を生み出す普遍 的能力があることを学びます。子 供は言語の生成・変化にどんな形 で関わってきたのでしょうか？ このセッションでは、学生は各パ ラグラフの内容を自分の言葉で説 明していきます。
11	Session 9 On Speaking on Speaking 言語の生成変化	言語が絶えず変化していることを 学びます。 パラグラフにおける旧情報と新情 報を識別し、パラグラフ間のつな がりを考察します。
12	Session 9 On Speaking on Speaking 言語の生成変化(様 態・担い手)	言語はどのように変化するのか、 また誰がそれを担うのかを学び ます。 トピックセンテンスの言い換えの 文から、パラグラフ全体の主張を より具体的に理解できることを学 びます。 it の指示内容を識別する方法を学 習します。
13	Session 9 On Speaking on Speaking のまとめ 春学期学習内容の総括	On Speaking on Speaking につ いて各自の意見を発表します。 春学期に学習した内容で重要な箇 所を振り返り、教師が学生からの 質問に答えます。
14	学期末試験・解	学期末試験を行います。試験後、 解答・解説を行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。
予習は、テキストの指定箇所（1 ページほど）を読み、パラグラフごとに簡単なメモを作成し、それを見ながら内容の要約・説明ができるようにします。特にトピックセンテンスと論証部分の関係性を自分の言葉で説明できるように準備します。
復習は、授業で扱った内容を確認し理解した上で、最低 5 回は読み返します。各エッセイを読み終えた後、自分の意見を発表できるように準備します。

【テキスト（教科書）】

『The Universe of English』東京大学英語教室編（東京大学出版会）

【参考書】

なし。

【成績評価の方法と基準】

授業参加 40 パーセント、試験 60 パーセントの比率で評価します。
授業参加点は事前に指示された課題の発表の回数によって決まります。

一度休むごとに平常点から 2 点ずつ引いていきます。

4 回以上欠席の場合は、原則として単位修得を認めません。

オンライン授業では、課題の提出を持って出席とします。

【学生の意見等からの気づき】

できるだけ学生の発表を中心にして、授業を進行していきたいと思っています。

【学生が準備すべき機器他】

電子辞書を持っている人は電子辞書を持参してください。

【その他の重要事項】

教師と学生の対話を通して、適度に楽しくて為になる双方向の授業を目指したいと思っています。みなさんの積極的な参加、質問、発言を期待しています。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to improve reading skills by understanding the basic logical structure of a paragraph in academic essays. Students will learn what kinds of connection a topic sentence and its supporting details make in each paragraph and describe what they have understood about it.

The goal of this course is for students to be able to read and understand academic articles correctly, and also to be able to express their critical views on them.

Students are expected to spend one hour reading assigned paragraphs of an article before the class and reviewing what they have learned after the class.

The final grade will be decided based on class-participation 40 % and term-end examination 60 %.

LANe200LA

英語アカデミック・リーディング 2017年度以降入学者
Ⅱ

岩崎 博

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 4/Fri.4

単位数：1 単位

レベル 2,3 / 定員制 (36名)

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

パラグラフの論理的な構造に目を向け、その趣旨を的確につかむことによって、英文を正確に読みこなす能力を養います。授業では、トピックセンテンスを中心に、パラグラフの内容を理解する読みを実践します。美術、科学、文化、言語、環境、歴史など様々な分野を扱う興味深いエッセイを読み解くことによって、新しい視点、刺激的な世界観に触れてください。

【到達目標】

パラグラフリーディングの技術を習得する。
パラグラフの内容を正確に理解し、それを口頭で表現できるようになる。
パラグラフのトピックとそれを詳述する細部との関係を理解する。コンテキストを正しく捉える力を養う。
抽象的な表現を具体的に理解する読み方を身につける。
辞書が活用できるようになる。
英語の論文を効率的に読み解くことができるようになる。
クリティカル・リーディングの重要性を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1

【授業の進め方と方法】

演習を中心に授業を行います。各パラグラフの内容を詳細に考察します。授業はかなりゆっくりと進んでいきます。一回の授業で扱うのはテキスト1ページほどです。授業では、学生がパラグラフの和訳、要約、または内容の説明を行い、それについてみんなで話し合います。不明な点や問題点があれば、全員で話し合い、できるだけ自分たちの力で解決していきます。また、各論文を読み終わった後、それに関する意見を発表しクラス全体で議論します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	授業の説明	パラグラフの構造を理解します。
2	Session 17 Ecology 本エッセイの展望	エコロジーの入門書のエッセイを読みます。コンパクトながら、エコロジーの定義から始まり、生物圏の区分、食物連鎖、生物濃縮、生態遷移などに言及し、エコロジーの最も重要な分野をわかりやすく解説しています。また、生態学的知識を吸収することによって、現在我々を取り巻く環境問題を考えたいと思っています。
3	Session 17 Ecology 概念を定義するタイプの パラグラフ	エコロジーという概念の定義を行うパラグラフを読み、エコロジーとは何なのかを考察します。
4	Session 17 Ecology 抽象と具体	エコロジーという概念（抽象）とそれが示す具体像の間を行き来しつつ、エコロジーに対する理解を深めます。

5	Session 17 Ecology エコロジーが扱う領域 の外観	生態系・食物連鎖・生物濃縮・生態遷移とは何か、具体例を通して学びます。
6	Session 11 Disneyland: America's Sacred Land 本エッセイの展望	ディズニーランドの人気の理由を論じるエッセイを読みます。混沌とするアメリカ社会においてディズニーランドがどんな価値観を体現し、どんな役割を果たしているのか考察します。 このエッセイでは、学生は各パラグラフの内容を要約します。
7	Session 11 Disneyland: America's Sacred Land ディズニーランド人気の理由	ディズニーランドの人気を支える倫理観、歴史観、哲学を考察します。
8	Session 11 Disneyland: America's Sacred Land ディズニーランドの神話的意義	ディズニーランドが単なるテーマパークにとどまらず、旧約聖書に登場する「約束の土地」であるという筆者の主張を考察します。
9	Session 18 Columbus: From Hero to Fall Guy 本エッセイの展望	コロンブスが歴史上の偉人から、アメリカを侵略し破壊した悪人に評価が変わった理由を考察する論文を読みます。どうしてコロンブスは英雄から世紀の大悪人になってしまったのか、果たしてコロンブスを糾弾する者たちの真の意図とは何か？歴史とは何かを考えさせる実にスリリングなエッセイです。 このセッションでは、学生は各パラグラフの内容を自分の言葉で説明していきます。
10	Session 18 Columbus: From Hero to Fall Guy 視点的 視角	歴史的記述における視点の重要性を考えます。 主格関係と目的格関係を表す前置詞 of の用法を学び、名詞句の中に主語+述部動詞、あるいは主語+述部動詞+目的語と似た構造が存在することを学習します。
11	Session 18 Columbus: From Hero to Fall Guy 歴史とは何か	コロンブスの評価が英雄から人類最悪の男に凋落した理由として筆者が援用する歴史観について考察します。筆者が提示した理論を「アメリカ発見」の歴史に当てはめると何が読みとれるのか考えます。
12	Session 18 Columbus: From Hero to Fall Guy 反コロンブス神話とは	コロンブス以前のアメリカが理想郷として描き出されている現状の背後に隠された意図を考えます。
13	Session 18 Columbus: From Hero to Fall Guy コロンブスとは何なのか	コロンブスが「歴史的コマ」として、現代の政治ゲームの中でどのように利用されているか、具体的記述の中で理解します。「発見」された側がコロンブスを世紀の大悪人だと糾弾する本当の理由が明らかされます。 クラス全体でエッセイの問題点を指摘し、その内容を批判的に論じます。
14	試験日	秋学期試験を行う。まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

予習は、テキストの指定箇所（1 ページほど）を読み、パラグラフごとに簡単なメモを作成し、それを見ながら内容の要約・説明ができるようにします。特にトピックセンテンスと論証部分の関係を自分の言葉で説明できるように準備します。

復習は、授業で扱った内容を確認し理解した上で、最低5回は読み返します。各エッセイを読み終えた後、自分の意見を発表できるように準備します。

【テキスト（教科書）】

東京大学英語教室編『The Universe of English』（東京大学出版会）

【参考書】

なし。

【成績評価の方法と基準】

授業参加 40 パーセント、試験 60 パーセントの比率で評価します。授業参加点は事前に指示された課題の発表の回数によって決まります。

一度休むごとに平常点から 2 点ずつ引いていきます。

4 回以上欠席の場合は、原則として単位修得を認めません。

オンライン授業では、課題の提出を持って出席とします。

【学生の意見等からの気づき】

学生が話し合って問題を解決する機会を増やします。

【学生が準備すべき機器他】

電子辞書を持っている人は電子辞書を持参してください。

【その他の重要事項】

できるだけ教師と学生の対話を通して、知的に楽しくて為になる、双方向の授業を目指したいと思っています。みなさんの積極的な参加、質問、発言を期待しています。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to improve reading skills by understanding the basic logical structure of a paragraph in academic essays. Students will learn what kinds of connection a topic sentence and its supporting details make in each paragraph and describe what they have understood about it.

The goal of this course is for students to be able to read and understand academic articles correctly, and also to be able to express their critical views on them.

Students are expected to spend one hour reading assigned paragraphs of an article before the class and reviewing what they have learned after the class.

The final grade will be decided based on class-participation 40 % and term-end examination 60 %.

LANe200LA

英語検定試験対策 I

2017 年度以降入学者

久慈 美貴

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 2/Wed.2

単位数：1 単位

レベル 3,4 / 定員制 (36 名)

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

TOEIC Test listening part の速度に慣れ、重要点（設問部分）をチェックできるよう練習したい。

自習用オーディオファイルを何度も聞いて、音と速さ、設問形式になじんでほしい。

授業外の学習時間 2 時間が必要。成績は授業時の提出物 20%、Final Report (TOEIC 形式の問題を提示)20%として最終評価する。

【到達目標】

TOEIC Test の listening part の速度に慣れ、単語ではなくフレーズの塊を聞き取れるようになる。

既習の文法事項を復習し再確認する。

ビジネス関連の語彙を増やす。

・ Get accustomed to the natural speed English conversations and announcement.

・ Listen to phrases, not each word, following the flow of announcements.

・ Review basic grammar.

・ Build up vocabulary related to business.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1

【授業の進め方と方法】

対面授業を行います。

初回授業に出席（または初回授業までに事前登録）して登録を許可された方は、指定のテキストを購入して授業準備を始めてください。定員を超えた場合は、授業掲示板で連絡いたします。授業日にその回のテキスト問題及び単語テストを毎回提出してもらい、授業内で問題の解説をします。提出物が平常点となりますので、しっかり予習してください。提出物は次回授業で返却します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	preparation test	プリントを配布し TOEIC テストの形式を確認する
2	U.1 人称代名詞 Pronouns	ボキャブラリークイズとテキスト問題のチェック。自動詞と他動詞の使い方を復習する。
3	U.2 不定代名詞 Pronouns	ボキャブラリークイズとテキスト問題のチェック。動詞の時制に注意する。
4	U.3 現在・過去時制 Present/Past tense	ボキャブラリークイズとテキスト問題のチェック。完了形の復習。idiom review のプリントを配布。
5	U.4 現在完了 Present Perfect tense	ボキャブラリークイズとテキスト問題のチェック。形容詞と副詞の使い方に注意。review プリントを提出する。

6	U.5 前置詞 Prepositions	ボキャブラリークイズとテキスト問題のチェック。準動詞の意味と使い方に注意する。
7	U.6 前置詞 2 Prepositions 2	ボキャブラリークイズとテキスト問題のチェック。準動詞の名使用法を復習する。idiom review プリントを配布する。
8	U.7 形容詞 Adjectives	ボキャブラリークイズとテキスト問題のチェック。pp 形と ing 形の意味と使い方に注意する。review プリントを提出する。
9	U.8 自動詞と他動詞 Two kinds of verbs	ボキャブラリークイズとテキスト問題のチェック。分詞構文の使い方を復習する。
10	U.9 接尾辞 Suffix to make adverb	ボキャブラリークイズとテキスト問題のチェック。語形変化と強調語の使い方に注意。idiom review プリントを配布。
11	U.10 接尾辞 suffix to make adjective	ボキャブラリークイズとテキスト問題のチェック。不定代名詞の使い方に注意。review プリントを提出する。
12	U.11 & 12 分詞構文 と比較級 Participial construction / Comparative degree	ボキャブラリークイズとテキスト問題のチェック。基本の関係詞を復習する。
13	U.13 & 14 受動態と 関係代名詞 Passive voice / Relative pronouns	ボキャブラリークイズとテキスト問題のチェック。関係詞の特殊用法に注意する。idiom review プリントを配布。
14	Review for Spring Term	春期のまとめ review プリントを提出する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は併せて 1 時間を標準とします。かならず事前の語彙チェックをしましょう。毎回、ユニットの vocabulary build-up から vocabulary quiz を行います。

また、listening 練習用に音声ファイルがダウンロードできますので、繰り返し聞いて問題をチェックしてください。授業時には何度も音声チェックをする時間的な余裕がありませんので、事前にしっかり音を聞いてください。3 ユニット終了するごとに熟語のまとめプリントを配布し、宿題として提出していただきます。そのほか、必要に応じて文法プリントを配布します。

【テキスト（教科書）】

Best Practice for the TOEIC L&R Test (成美堂) 2500 円

【参考書】

特に指定しない。随時、リスニングスクリプトと文法プリントを配布する。

【成績評価の方法と基準】

毎回テキスト問題およびボキャブラリークイズの解答を提出し、この点数が平常点 (80%) となる。Review Test(20% TOEIC 形式の問題を予定)と併せて、最終評価する。ただし 4 回分以上課題を提出しない、あるいは 4 回以上欠席した場合、評価の対象としない。提出物の点が評価の大きな割合を占めるので、しっかり予習して点数を積み上げてほしい。テキストのリスニング問題は音声ストリーミング配信で聞くことができるので、何度も聞き、問題を解いてみよう。

ボキャブラリークイズは各ユニットの Vocabulary Build-up から問題を出すので、しっかり確認し、語義と発音をチェックしておくこと。

You will be assessed with Assignment paper (vocabulary quiz, answers for text questions and idiom review) you submit at the beginning of each class(80%) and the Review Test(20%).

If you don't attend the class 4 or more times or you don't submit 4 or more Assignment paper, you cannot get credit.

【学生の意見等からの気づき】

予習用にリスニングパートのスクリプトを配布していますが、何段階かに分けて使用していただければと思います。

まず音声ファイルのリスニングのみで問題を解いてみる、聞き取りにくい箇所をスクリプトを見ながら再度聞いてみる、スクリプトを見ながら音声ファイルと同時に声を出して読んでみる、というようにです。

じぶんで発音できれば、耳で聞いて意味をとりやすくなります。プリントは採点して返却しますので、疑問点があれば授業時に質問して下さい。歓迎します。

【学生が準備すべき機器他】

特に指定しない。ただし、辞書は必ず携帯してください（通信機器は使用しないでください）。

【その他の重要事項】

授業時は必ず辞書を携帯すること。

提出物の累計が平常点となるので、欠席しないよう注意してください。

【Outline (in English)】

Try to accustomed to each part of TOEIC questions and to the speed of announcement. You can download listening file on the publisher's website. Please get well-prepared for the class.

You are require to prepare for/review class activities at least one hour before each class.

You will be assessed with assignments (vocabulary quiz and answers for each Unit of the textbook) and Final Report (TOEIC-type test).

LANe200LA

英語検定試験対策Ⅱ

2017年度以降入学者

久慈 美貴

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 2/Wed.2

単位数：1 単位

レベル 3,4 / 定員制 (36 名)

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

音の脱落・連結音など聞き取りにくい音になじみ、より正確に設問の意図をつかむよう練習したい。
必要に応じて文法プリントや追加の reading 問題を配布し、リーディングの基礎を固めていきたい。

【到達目標】

とくに Part III のように会話の流れと設問が前後するような問題でも、聞きながら情報を整理して、回答できるようにする。

Reading part では、設問から記事のポイントを押さえて、重要点を探せるようにする。

・ To get information necessary to make right answers while listening the announcements.

・ To make out the important parts in given articles from the questions.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1

【授業の進め方と方法】

予習としてテキスト各ユニットの重要単語を使ったボキャブラリークイズ、テキストのリスニングおよびリーディングパートの解答および Mini Test の解答を毎回提出してもらい、平常点とします。そのほかに Idiom の復習プリントまたは Extra Questions のプリントを配布します。授業ではテキストの解説を行い、その際に質問等のフィードバックをします。対面授業を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	U.1 Travel	ボキャブラリークイズとテキスト問題のチェック。WH-question と名詞の使い方に注意する。
2	U.2 Dining Out	ボキャブラリークイズとテキスト問題のチェック。形容詞の使い方に注意。
3	U.3 Daily Life	ボキャブラリークイズとテキスト問題のチェック。副詞に注意する。idiom review プリントを配布。
4	U.4 Entertainment	ボキャブラリークイズとテキスト問題のチェック。代名詞の使い方に注意。
5	U.5 Purchasing	ボキャブラリークイズとテキスト問題のチェック。動詞の時制を復習する。
6	U.6 Offices	ボキャブラリークイズとテキスト問題のチェック。代名詞に注意する。Idiomu Review プリントを配布する。

7	U.7 Clients	ボキャブラリークイズとテキスト問題のチェック。態の選択に注意する。
8	U.8 Recruiting	ボキャブラリークイズとテキスト問題のチェック。動名詞と不定詞の用法に注意する。
9	U.9 Personnel	ボキャブラリークイズとテキスト問題のチェック。比較級の使い方。idiom review プリントを配布。
10	U.10 Advertising	ボキャブラリークイズとテキスト問題のチェック。前置詞の使い方に注意する。
11	U.11 Media	ボキャブラリークイズとテキスト問題のチェック。接続詞に注意する。
12	U.12 Finance	ボキャブラリークイズとテキスト問題のチェック。接続詞と前置詞に注意する。idiom review プリントを配布。
13	U.13 Meetings	ボキャブラリークイズとテキスト問題のチェック。関係代名詞に注意する。
14	U.14 Sales & Marketing / U.15 seminar & Workshop	学期のまとめ Mini Test を提出する。併せて Idiomu Review プリントを提出する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

【本授業の準備・復習時間は併せて 1 時間を標準とする。】毎回ボキャブラリークイズを行い、テキストの解答も提出してもらいます。事前にテキストの問題にしっかり目を通し、難解な語彙・語法をチェックしておいて下さい。また listening part のスクリプトを配布しますので、出版社のホームページから音声ファイルをダウンロードして、予習に役立ててください。また、テキストの問題に使われている熟語を復習する idiom review のプリントを宿題として配布し、提出してもらいます。（これらも評価点に含まれます。）

【テキスト（教科書）】

Giga Booster for the TOEIC L&R Test (金星堂) 2300 円

【参考書】

特に指定しない。随時、文法復習用のプリントを配布する。

【成績評価の方法と基準】

授業時の提出物 80 %、Mini Test(最終回提出物)20 %として評価する。

授業時の提出物には各ユニットのボキャブラリークイズ、テキスト問題の解答、宿題として idiom review のプリントが含まれる。平常の提出物の評価割合が大きいため、欠席しないよう気をつけましょう。4 回以上欠席した場合、評価の対象としません。

You will be assessed: Assignments (vocabulary quiz, answers to Mini Test of each Unit in the textbook and Idiom Review paper) 80%

Mini Tests at the last class (Unit 14&15) 20%

If you don't attend 4 or more classes, you will not get the credit. When you come late for the class 3times, it will be counted as one absence.

【学生の意見等からの気づき】

授業内でできるだけ多くの問題をこなしてもらいたいと考えていますが、もうすこし基本的な文法の復習と説明が必要かと考えています。Listening part の予習の際、何度も繰り返して聞く、スクリプトを参考にして音読する、という練習が必要だと思います。（聞き取るためには発音練習が必要です。）

また、Reading part、特に part VII では速読と重要語句のピックアップが必要になりますが、予習の際にはきちんと文を読み込む、できれば音読する、という準備が必要ではないかと思っています。

【学生が準備すべき機器他】

とくに使用しない。ただし、リスニングパートの音声は各自ダウンロードまたはストリーミング配信を利用して、予習に使用してください。授業時には CD で音声を流します。

【その他の重要事項】

授業時は辞書を携行してください。

授業開始時に、ボキャブラリークイズとテキスト問題の解答を提出していただきます。提出物の点数が平常点となりますので、提出漏れのないように、注意してください。

遅刻した場合、回数に応じて欠席にカウントされます。

Please carry dictionary in the class.

Take care not to fail to submit Assignments, for the scores of assignments take the most part of final estimation.

When you come late for the class 3 times, it will be counted as one absence.

【Outline (in English)】

We will try to get accustomed to reduction of sounds and to check out WHAT kind of answer we are supposed to make. In questions of Part III, the questions do not necessarily come to the order of the topic in the conversation. You have to get the information while listening and check up the choices on the page. Please listen to the listening file repeatedly and get accustomed to the reduction of pronunciation. You will be given additional Reading Parts questions in the class and practice quick reading. You are required to prepare for/review class activities for 1 hour. You will be assessed by the assignments (vocabulary quiz and answers for each units:80%) and final Test(20%).

LANe200LA

英語検定試験対策 I

2017 年度以降入学者

青山 恵子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 3/Wed.3

単位数：1 単位

レベル 3,4 / 定員制 (36 名)

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

このクラスでは英検準 1 級と TOEFL の演習を行いながら「スピーキング・リスニング・リーディング・ライティング」の 4 つの能力の強化を目指します。英語検定試験受験予定者に加えて、英語の継続学習希望者の受講も歓迎します。

【到達目標】

- 1 Be able to read texts on a variety of topics with accuracy
- 2 Be able to understand main points of interview and lectures
- 3 Be able to talk about basic topics
- 4 Be able to write a multi-paragraphs essay with a basic structure

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1

【授業の進め方と方法】

Students participate in practical activities including the four skills of reading, listening, speaking and writing.(この授業の形態は演習です)

1. Clarifying objectives and goals (学習動機の明確化とゴール設定)
2. Explaining basic formats of two certificate tests and practicing (英検と TOEFL のテスト形式の紹介と演習)
3. News mini-presentation (視聴してきた News in Levels についてのプレゼンテーション)
4. Feedback for assignments and reaction papers (課題やリアクションペーパーに対するフィードバック)

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1 回	Course Orientation	1 Explanation of the course 2 Clarifying objectives and goals
2 回	Introduction to Eiken	1 Explanation of the basic format of Eiken (英検について) 2 Reading & Listening practice to identify strength and weaknesses (弱点の特定化)
3 回	Eiken: Reading and Listening Practice	1 Reading practice 2 Listening practice
4 回	Eiken: Paragraph Reading Trainig	1 Learning Paragraph Structure 2 Paragraph reading practice 2 Listening practice
5 回	Eiken: Intensive Listening Training	1 Overlapping and shadowing 2 Listening practice 3 Paragraph reading practice
6 回	Eiken: Reading and Listening Practice	1 Overlapping and shadowing 2 Listening practice 3 Paragraph reading practice

7 回	Eiken: Essay Writing	1 Learning basic writing structures and analyzing model essays 2 Writing an essay
8 回	Eiken: Essay Writing (peer editing)	1 Peer Editing 2 Listening practice 3 Mini-presentation on News in Levels
9 回	Introduction to TOEFL Test	1 Explanation of the basic format of TOEFL (TOEFL について) 2 Reading practice 3 Listening practice
10 回	TOEFL: Intensive Reading Training	1 Close reading practice 2 Summarizing passages
11 回	TOEFL: Paragraph Reading Training	1 Reviewing paragraph structure 2 Paragraph reading practice
12 回	TOEFL: Intensive Listening Training	1 Overlapping and shadowing practice 2 Listening exercises 3 Mini-presentation on News in Levels
13 回	TOEFL: Listening and speaking Training	1 Overlapping and shadowing practice 2 Mini-presentation on News in Levels
14 回	Review and Test	Review and test

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

University guidelines suggest preparation and review are around an hour a week for a one-credit course (本授業の準備学習・復習時間は合わせて授業 1 回あたり 1 時間を標準とします)

- 1 Weekly speaking home assignments (Online News in Levels listening or TED watching for mini-presentation)
- 2 Weekly reading or writing home assignments

【テキスト（教科書）】

Materials will be provided. (プリントを配布します)

【参考書】

You will be provided a list of references. (授業中に指示します)

【成績評価の方法と基準】

Final test (50%)

Home assignment (20%)

In-class contribution, including mini-presentation (30%)

In principle, no more than 3 absences per semester are allowed. (各学期欠席が 4 回以上の場合は、原則として単位修得を認めない)

【学生の意見等からの気づき】

I'm going to increase the opportunities for communication in the classroom.

【学生が準備すべき機器他】

Hoppii (学習支援システム)

Electric dictionary (English-English dictionary is necessary)

【Outline (in English)】

The course is for students who would like to improve their English skills through preparation for STEP Eiken and TOEFL tests. Students will practice paragraph reading, effective listening and speaking and well-organized writing skills. Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than one hour for a class. The overall grade of the course will be determined by the final examination (50%), the home assignment (20%) and the contribution made in class (30%). In principle, no more than 3 absences per semester are allowed.

LANe200LA

英語検定試験対策Ⅱ

2017年度以降入学者

青山 恵子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 3/Wed.3

単位数：1 単位

レベル 3,4 / 定員制 (36名)

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

このクラスでは英検, TOEFL, IELTS の演習を行いながら「スピーキング・リスニング・リーディング・ライティング」の4つの能力の強化を目指します。英語検定試験受験予定者に加えて、英語学習の習慣化を希望する学生の受講も歓迎します。

【到達目標】

- 1 Be able to read texts on a variety of topics with accuracy
- 2 Be able to understand main points of interview and lectures
- 3 Be able to make a mini presentation
- 4 Be able to write a multi-paragraphs essay with a basic structure

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1

【授業の進め方と方法】

Students participate in practical activities including the four skills of reading, listening, speaking and writing.(この授業の形態は演習です)

1. Clarifying objectives and goals (学習動機の明確化とゴール設定)
2. Explaining basic formats of three certificate tests and practicing (英検, TOEFL, IELTS 各テスト形式の紹介と演習)
3. TED mini-presentation (視聴してきた TED の内容等についてのプレゼンテーション)
4. Feedback for assignments and reaction papers (課題やリアクションペーパーに対するフィードバック)

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1 回	Course Orientation	1 Explanation of the course 2 Clarifying objectives and goals
2 回	Introduction to Eiken	1 Explanation of the basic format of Eiken (英検について) 2 Reading & Listening practice to identify strength and weaknesses (弱点の特定化)
3 回	Eiken: Paragraph Reading Training	1 Paragraph reading practice 2 Listening practice
4 回	Eiken: Intensive Listening Training	1 Overlapping and shadowing 2 Listening practice 3 Paragraph reading practice
5 回	Eiken: Reading and Listening Practice	1 Overlapping and shadowing 2 Listening practice 3 Paragraph reading practice
6 回	Eiken: Essay Writing	1 Learning basic writing structures and analyzing model essays 2 Writing an essay

7 回	Eiken: Essay Writing (peer editing)	1 Peer Editing 2 Listening practice
8 回	Introduction to TOEFL Test	1 Explanation of the basic format of TOEFL (TOEFL テストについて) 2 Reading practice 3 Listening practice
9 回	TOEFL: Intensive Listening Training	1 Overlapping and shadowing 2 Listening practice
10 回	TOEFL: Learning presentation skills	1 Learning an effective presentation 2 Making a presentation
11 回	Introduction to IELTS	1 Explanation of the basic format of IELTS (IELTS について) 2 Reading practice 3 Listening practice
12 回	IELTS: Reading and Listening Practice	1 Reading practice 2 Listening practice 3 TED mini-presentation
13 回	IELTS: Intensive Listening Training	1 Overlapping and shadowing 2 Listening practice 3 TED mini-presentation
14 回	Review and Test	Review and test

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

University guidelines suggest preparation and review are around an hour a week for a one-credit course (本授業の準備学習・復習時間は合わせて授業 1 回あたり 1 時間を標準とします)

- 1 Weekly speaking home assignments (Online News in Levels listening or TED watching for mini-presentation)
- 2 Weekly reading or writing home assignments

【テキスト（教科書）】

Materials will be provided. (プリントを配布します)

【参考書】

You will be provided a list of references. (授業中に指示します)

【成績評価の方法と基準】

Final test (50%)

Home assignment (20%)

In-class contribution, including mini-presentation (30%)

In principle, no more than 3 absences per semester are allowed. (各学期欠席が4回以上の場合は、原則として単位修得を認めない)

【学生の意見等からの気づき】

I'm going to increase the opportunities for communication in the classroom.

【学生が準備すべき機器他】

Hoppii (学習支援システム)

Electric dictionary (English-English dictionary is necessary)

【Outline (in English)】

The course is for students who would like to improve their English skills through preparation for STEP Eiken, TOEFL and IELTS tests. Students will practice paragraph reading, effective listening and speaking and well-organized writing skills. Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than one hour for a class. The overall grade of the course will be determined by the final examination (50%), the home assignment (20%) and the contribution made in class (30%). In principle, no more than 3 absences per semester are allowed.

LANe200LA

英語検定試験対策 I

2017 年度以降入学者

宮崎 早季

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 2/Fri.2

単位数：1 単位

レベル 2,3 / 定員制 (36 名)

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、TOEIC Listening & Reading Test600 点以上を目指し、主にリーディングとリスニングの解答テクニックの習得を目標とします。また、600 点の取得に必要な語彙力と文法の基礎知識を学び、実践力を養うことを目標とします。この授業では予習よりも復習が大切です。反復学習を行う中で自分のミス进行分析し、解決のアプローチを探す訓練をします。

【到達目標】

- ・ TOEIC Listening & Reading Test を受験し、600 点以上をとる。
- ・ TOEIC 受験に向けた学習の中で自分の苦手进行分析することができる。
- ・ 苦手に対して、解決のアプローチを考え実行することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1

【授業の進め方と方法】

毎回単語テストを行います。テキストに沿って、リスニング問題や長文読解問題などを授業中に解き、解説を行います。授業終了後、解説・フィードバックを受けて適宜自分のミスを復習し、単語の暗記を行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Introduction/Goal Setting	授業の進め方の紹介を行う。また、受講者の自己紹介を行い、各自この授業での目標を立てる。
2	Unit 1	Vocabulary quiz < Listening part > Restaurant
3	Unit 1 cont.	Vocabulary quiz < Reading part > Restaurant
4	Unit 2	Vocabulary quiz < Listening part > Department Store
5	Unit 2 cont.	Vocabulary quiz < Reading part > Department Store Unit 1 & 2 Test
6	Unit 3	Vocabulary quiz < Listening part > Train Station
7	Unit 3 cont.	Vocabulary quiz < Reading part > Train Station
8	Unit 4	Vocabulary quiz < Listening part > Transportation

9	Unit 4 cont.	Vocabulary quiz < Reading part > Transportation Unit 3 & 4 Test
10	Unit 5	Vocabulary quiz < Listening part > Post Office
11	Unit 5 cont.	Vocabulary quiz < Reading part > Post Office
12	Unit 6	< Listening part > Bank
13	Unit 6 cont.	< Reading part > Bank Unit 5 & 6 Test
14	Final	期末試験を実施する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

第 2 回から第 11 回までは毎回授業で単語クイズを行います。単語練習をして授業に参加すること。授業で間違った箇所を分析し、復習をすること。

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。
/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】

教科書：『ALL-ROUND TRAINING FOR THE TOEIC L&R Test』（石井隆之他著）成美堂

単語帳：『TOEIC L & R TEST 出る単特急 金のフレーズ』（TEX 加藤）朝日新聞出版

【参考書】

辞書を使用する。辞書は紙でも電子でもウェブでもアプリでもいいが、品詞や意味のほかにも用法、類語などが調べられるものを用意すること。

また必須テキストとして指定する『TOEIC L & R TEST 出る単特急 金のフレーズ』が難しい者は、『TOEIC L&R TEST 出る単特急 銀のフレーズ』、物足りない者は『TOEIC L&R TEST 超上級単語特急 暗黒のフレーズ』を用意することもすすめる。

【成績評価の方法と基準】

平常点 (25%), Weekly Vocabulary Quiz (25%), 期末試験 (50%)
原則として、学期期間中に 4 回以上欠席した場合は単位習得を認めない。

遅刻は授業開始時刻から 30 分までとし、30 分以上の遅刻は欠席とする。

遅刻 2 回で欠席 1 回とみなす。

【学生の意見等からの気づき】

毎週の単語テストと授業への参加を成績評価のそれぞれ 25 % を占めるように変更し、全体の評価における毎回の授業への貢献をより重視するよう改善しました。

【Outline (in English)】

【授業の概要 (Course outline)】 This course is for students who aim to achieve 600+ points on TOEIC Listening & Reading Test. The course provides students the vocabulary and grammatical lessons. Students are expected to review their mistakes and improve their weaknesses.

【到達目標 (Learning Objectives)】 There are three goals for this course. 1) Achieve 600+ points at TOEIC Listening & Reading Test. 2) Analyze your own mistakes and weaknesses. 3) Come up with a solution to improve your weaknesses.

【授業時間外の学習 (Learning activities outside of the classroom)】 University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

【成績評価の方法と基準 (Grading Criteria /Policy)】

Class Participation (25%), Weekly Vocabulary Quiz (25%), Final Exam (50%)

In principle, no more than four absences per semester are allowed.

Late arrivals are considered up to 30 minutes after the class starts, and late arrivals of 30 minutes or more are considered absent.

Two late arrivals will be counted as one absence.

LANe200LA

英語検定試験対策Ⅱ

2017 年度以降入学者

宮崎 早季

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 2/Fri.2

単位数：1 単位

レベル 2,3 / 定員制 (36 名)

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、TOEIC Listening & Reading Test600 点以上を目指し、主にリーディングとリスニングの解答テクニックの習得を目標とします。また、600 点の取得に必要な語彙力と文法の基礎知識を学び、実践力を養うことを目標とします。この授業では予習よりも復習が大切です。反復学習を行う中で自分のミス进行分析し、解決のアプローチを探す訓練をします。春学期の「英語検定試験対策Ⅰ」受講による自身の到達度を確認し、より効果的な学習プランを立てましょう。

【到達目標】

- ・TOEIC Listening & Reading Test を受験し、600 点以上をとる。
- ・TOEIC 受験に向けた学習の中で自分の苦手进行分析することができる。
- ・苦手に対して、解決のアプローチを考え実行することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1

【授業の進め方と方法】

毎回単語テストを行います。テキストに沿って、リスニング問題や長文読解問題などを授業中に解き、解説を行います。授業終了後、解説・フィードバックを受けて適宜自分のミスを復習し、自宅学習用教材を使ってトレーニングを進めてください。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Introduction/Goal Setting	授業の進め方の紹介を行う。受講者は自分の前期到達度を確認し、後期の自己目標を立てる。
2	Unit 7	Vocabulary quiz < Listening part > Airport
3	Unit 7 cont.	Vocabulary quiz < Reading part > Airport
4	Unit 8	Vocabulary quiz < Listening part > Hotel
5	Unit 8 cont.	Vocabulary quiz < Reading part > Hotel Unit 7 & 8 Test
6	Unit 9	Vocabulary quiz < Listening part > Hospital
7	Unit 9 cont.	Vocabulary quiz < Reading part > Hospital
8	Unit 10	Vocabulary quiz < Listening part > Events and Performances
9	Unit 10 cont.	Vocabulary quiz < Reading part > Events and Performances Unit 9 & 10 Test

10	Unit 11	Vocabulary quiz < Listening part > College
11	Unit 11 cont.	Vocabulary quiz < Reading part > College
12	Unit 12	< Listening part > Office
13	Unit 12 cont.	< Reading part > Office Unit 11 & 12 Test
14	Final	期末テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

第 2 回から第 11 回までは毎回授業で単語クイズを行います。単語練習をして授業に参加すること。授業で間違った箇所を分析し、復習をすること。

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。
/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】

教科書：『ALL-ROUND TRAINING FOR THE TOEIC L&R Test』（石井隆之他著）成美堂

単語帳：『TOEIC L & R TEST 出る単特急 金のフレーズ』（TEX 加藤）朝日新聞出版

【参考書】

辞書を使用する。辞書は紙でも電子でもウェブでもアプリでもいいが、品詞や意味のほかにも用法、類語などが調べられるものを用意すること。

また必須テキストとして指定する『TOEIC L & R TEST 出る単特急 金のフレーズ』が難しい者は、『TOEIC L&R TEST 出る単特急 銀のフレーズ』、物足りない者は『TOEIC L&R TEST 超上級単語特急 暗黒のフレーズ』を用意することもすすめる。

【成績評価の方法と基準】

平常点 (25%), Weekly Vocabulary Quiz (25%), 期末試験 (50%)
原則として、学期期間中に 4 回以上欠席した場合は単位習得を認めない。

遅刻は授業開始時刻から 30 分までとし、30 分以上の遅刻は欠席とする。

遅刻 2 回で欠席 1 回とみなす。

【学生の意見等からの気づき】

毎週の単語テストと授業への参加を成績評価のそれぞれ 25 % を占めるように変更し、全体の評価における毎回の授業への貢献をより重視するよう改善しました。

【Outline (in English)】

【授業の概要 (Course outline)】 This course is for students who aim to achieve 600+ points on TOEIC Listening & Reading Test. The course provides students the vocabulary and grammatical lessons. Students are expected to review their mistakes and improve their weaknesses.

【到達目標 (Learning Objectives)】 There are three goals for this course. 1) Archive 600+ points at TOEIC Listening & Reading Test. 2)Analyze your own mistakes and weaknesses. 3) Come up with a solution to improve your weaknesses.

【授業時間外の学習 (Learning activities outside of the classroom)】 University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

【成績評価の方法と基準 (Grading Criteria /Policy)】 Class Participation (25%), Weekly Vocabulary Quiz (25%), Final Exam (50%)

In principle, no more than four absences per semester are allowed.

Late arrivals are considered up to 30 minutes after the class starts, and late arrivals of 30 minutes or more are considered absent.

Two late arrivals will be counted as one absence.

LANe200LA

英語検定試験対策 I

2017 年度以降入学者

高橋 佳江

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 3/Thu.3

単位数：1 単位

レベル 2,3 / 定員制 (36 名)

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

TOEIC(R)650 点を目標として、文法事項、リスニングを中心として学んでいく。従って、予習することが前提となるが、復習に重点を置いてもらいたい。特に、リスニングは毎日自宅学習すること。自分で勉強計画を立て、成果がわかるよう、最低 1 回は受験して、勉強計画を修正する。また、その結果をレポートにまとめる。そのためには、できれば通年受講が望ましい。

この授業を受講する学生は、必ず第一回目の授業に出席すること。

【到達目標】

英語の文法力・読解力・聴解力を鍛え、TOEIC650 点を目標にしていく。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1

【授業の進め方と方法】

毎回自発的に発言してもらい、また、こちらからも、適宜、発表を求める。従って、毎回必ず予習することを前提として、復習に重点をおいてもらいたい。教科書のほかに辞書（電子辞書可）、授業用ノートを必ず持ってくる。また、授業用ノートのほかに、自宅学習用の単語帳、練習帳を用意すること。

対面授業の際はその都度フィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業の進み方を詳しく説明している 初回は受講者数が不確定であるため(オンライン授業です)
2	文法説明 第 1 課 Travel-1	TOEIC(R) で必要とする基礎的文法の説明
3	第 1 課 Travel-2	リスニング Part 1 人物の動作①。 1 人のパターン Part2 WH 疑問文① Who で始まる疑問文 Part 3 会話の話題を聞き取る Part 4 トークの話題を聞き取る
4	第 1 課 Travel-3	リーディング Part 5 品詞①名詞 Part 6 語彙問題① やさしめの語彙 Part 7 概要に関する問題①目的 や概要は冒頭で述べられる

5	第 2 課 Dining Out-1	第 1 課小テスト リスニング Part 1 人物の動作② 2 人のパターン Part 2 WH 疑問文② Where で始まる疑問文 Part 3 会話が行われている場所を特定する Part 4 トークが行われている場所を特定する
6	第 2 課 Dining Out -2	リーディング Part 5 品詞②形容詞 Part 6 語彙問題② 難しめの語彙 Part 7 詳細情報に関する問題① 設問のキーワードを参考にする
7	第 3 課 Daily Life-1	第 2 課小テスト リスニング Part 1 人物の動作③ 3 人以上のパターン Part 2 WH 疑問文③ When で始まる疑問文 Part 3 会話から話し手の働いている場所や部門を推測する Part 4 トークから話し手の働いている場所や部門を推測する
8	第 3 課 Daily Life-2	リーディング Part 5 品詞③副詞 Part 6 語彙問題③まとめ Part 7 推測させる問題①キーワードを参考に情報を読み取る
9	第 4 課 Entertainment-1	第 3 課小テスト リスニング Part 1 光景①受動態が使われるパターン Part 2 WH 疑問文④ Why で始まる疑問文 Part 3 会話内の質問・依頼を聞き取る Part 4 トーク内の質問・依頼を聞き取る
10	第 4 課 Entertainment-2	リーディング Part 5 代名詞 Part 6 代名詞①主格 Part 7 NOT 問題①情報が並列されている場合
11	第 5 課 Purchasing-1	第 4 課小テスト リスニング Part 1 人物の位置・場所① 1 人のパターン Part 2 WH 疑問文⑤ How で始まる疑問文 Part 3 会話内の提案・申し出を聞き取る
12	第 5 課 Purchasing-2	リーディング Part 5 時制(現在・過去・未来) Part 6 代名詞②所有格 Part 7 意図問題①話の展開を意識する
13	第 6 課 Offices-1	第 5 課小テスト リスニング Part 1 人物の位置・場所② 2 人のパターン Part 2 WH 疑問文⑥ How+ a で始まる疑問文 Part 3 会話の流れから話し手の発言の意図をくみ取る Part 4 直前のトークの展開から話し手の発言の意図をくみ取る
14	授業時試験	授業で学んだことを試験する。まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。
リスニング（教科書付属のCD その他）
NHK 語学講座・単語帳作成・単語・熟語のチェックなど行ってください。

【テキスト（教科書）】

Giga Booster for the TOEIC L&R Test 金星堂 2300 円
ISBN 978-4-7647-4183-6

【参考書】

学校語彙で学ぶ TOEIC テスト [単語集]
成美堂（1700 円）

【成績評価の方法と基準】

期末試験 60 %
小テスト 10 %
レポート課題・発言点 20 %
平常点 10 %
欠席する場合は、必ず諸届けを提出すること。
遅刻は3回で欠席1回に換算される。
各学期欠席が4回以上の場合は、原則として単位修得を認めない。
平常授業が行われる場合は、シラバスに記入されている方法にて評価を行う予定です。

【学生の意見等からの気づき】

オンライン時でも連絡を密に取りたいです。

【Outline (in English)】

Course outline

The aim of this course is to acquire the reading and listening skills for the TOEIC L&R Test. Students will learn the basic knowledge of vocabulary and grammar which is necessary for the TOEIC TEST.

Learning Objectives

This course will focus on grammar and listening skills with the goal of achieving a TOEIC(R) score of 650. Therefore, students are expected to prepare for the course, but are also expected to place emphasis on reviewing. In particular, students are expected to study listening at home every day. Students are expected to make their own study plans and take at least one exam to see the results and revise their study plans. Also, write a report on the results. For this purpose, it is desirable to take this class throughout the year if possible.

Students who take this class must attend the first class.

Learning activities outside of classroom

The standard preparation and review time for this class is one hour.

Please use the NHK language course, make a vocabulary book, check words and phrases, etc.

Grading Criteria/Policy

Final exam 60%

Quiz: 10%.

Report assignment and remarks: 20%.

Ordinary points 10%.

If you are going to be absent, you must submit a report of your absence.

Three tardies will count as one absence.

In principle, students who are absent more than 4 times per semester will not be allowed to earn credits.

LANe200LA

英語検定試験対策Ⅱ

2017年度以降入学者

高橋 佳江

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 3/Thu.3

単位数：1 単位

レベル 2,3 / 定員制 (36名)

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

TOEIC(R)650 点を目標として、文法事項、リスニングを中心として学んでいく。従って、予習することが前提となるが、復習に重点を置いてもらいたい。特に、リスニングは毎日自宅学習すること。自分で勉強計画を立て、成果がわかるよう、最低 1 回は受験して、勉強計画を修正する。また、その結果をレポートにまとめる。そのためには、できれば通年受講が望ましい。

この授業を受講する学生は、必ず第一回目の授業に出席すること。

【到達目標】

英語の文法力・読解力・聴解力を鍛え、TOEIC650 点台の英単語を目標にしていく。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1

【授業の進め方と方法】

毎回自発的に発言してもらい、また、こちらからも、適宜、発表を求める。従って、毎回必ず予習することを前提として、復習に重点をおいてもらいたい。教科書のほかに辞書（電子辞書可）、授業用ノート必ず持ってくる。また、授業用ノートのほかに、自宅学習用の単語帳、練習帳を用意すること。

対面授業の際はその都度フィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	春学期に引き続き授業を進めていく 初回は受講者数が不確定であるため（オンライン授業です）
2	第6課 Offices-2	リーディング Part 5 主語と動詞の一致 Part 6 代名詞③まとめ Part 7 文挿入問題①キーワードや文全体の意味を手がかりにする
3	第7課 Clients-1	第6課小テスト リスニング Part 1 人物の位置・場所③ 3人以上のパターン Part 2 Yes/No 疑問文① Yes/No で答えるパターン Part 3 図表問題①会話の内容と図表の情報を関連させる Part 4 図表問題①選択肢に並んでいない情報を特定する
4	第7課 Clients-2	リーディング Part 5 能動態・受動態 Part 6 時制①前後の文の内容から判断する Part 7 複数の文書に関する問題 ① 2つの情報を組み合わせる

5	第8課 Recruiting-1	第7課小テスト リスニング Part 1 光景②現在進行形が使われるパターン Part 2 Yes/No 疑問文② Yes/No で答えないパターン Part 3 会話から話し手・聞き手の職業を判断する Part 4 トークから話し手・聞き手の職業を判断する
6	第8課 Recruiting-2	リーディング Part 5、動名詞・不定詞 Part 6 時制②適切な時制を選ぶ Part 7 概要に関する問題②文書全体に共通して述べられていることを見つけ出す 第8課単語テスト リスニング Part 1 人物の動作④身につけているものに関するパターン Part 2 Yes/No 疑問文③関係疑問文 Part 3 会話から話し手たちの間で起きている問題を把握する Part 4 トークから話し手が報告している問題を把握する
7	第9課 Personnel-1	リーディング Part 5 比較 Part 6 時制③まとめ Part 7 詳細情報に関する問題②問われている箇所を文書から探し出す 第9課単語テスト リスニング Part 1 光景③位置関係の表現パターン Part 2 付加疑問文 Part 3 3人の会話の中で2人の共通点を見つける Part 4 トークの目的を理解する
8	第9課 Personnel-2	リーディング Part 5 前置詞 Part 6 接続表現①前後の文の内容を理解する Part 7 推測させる問題②言い換えを意識する 第10課小テスト リスニング Part 1 人物の動作⑥抽象的な言い換えパターン Part 2 否定疑問文 Part 3 会話内の特定の情報をキャッチする Part 4 推測させる問題②言い換えを意識する
9	第10課 Advertising-1	リーディング Part 5 前置詞 Part 6 接続表現②話の流れに合う表現を選ぶ Part 7 同義語問題 本文で使われている意味を理解する 第11課小テスト リスニング Part 1 光景④抽象的な言い換えパターン Part 2 依頼・許可 Part 3 会話の内容の理由・原因を理解する Part 4 トークの内容の理由・原因を理解する
10	第10課 Advertising-2	リーディング Part 5 前置詞 Part 6 接続表現①前後の文の内容を理解する Part 7 推測させる問題②言い換えを意識する 第10課小テスト リスニング Part 1 人物の動作⑥抽象的な言い換えパターン Part 2 否定疑問文 Part 3 会話内の特定の情報をキャッチする Part 4 推測させる問題②言い換えを意識する
11	第11課 Media-1	リーディング Part 5 前置詞 Part 6 接続表現①前後の文の内容を理解する Part 7 推測させる問題②言い換えを意識する 第10課小テスト リスニング Part 1 人物の動作⑥抽象的な言い換えパターン Part 2 否定疑問文 Part 3 会話内の特定の情報をキャッチする Part 4 推測させる問題②言い換えを意識する
12	第11課 Media-2	リーディング Part 5 前置詞 Part 6 接続表現①前後の文の内容を理解する Part 7 推測させる問題②言い換えを意識する 第10課小テスト リスニング Part 1 人物の動作⑥抽象的な言い換えパターン Part 2 否定疑問文 Part 3 会話内の特定の情報をキャッチする Part 4 推測させる問題②言い換えを意識する
13	第12課 Finance-1	リーディング Part 5 前置詞 Part 6 接続表現①前後の文の内容を理解する Part 7 推測させる問題②言い換えを意識する 第10課小テスト リスニング Part 1 光景④抽象的な言い換えパターン Part 2 依頼・許可 Part 3 会話の内容の理由・原因を理解する Part 4 トークの内容の理由・原因を理解する

14 授業時試験 授業で学んだことを試験する。まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。
リスニング（教科書付属のCD その他）
NHK 語学講座・単語帳作成・単語・熟語のチェック等など行ってください。

【テキスト（教科書）】

Giga Booster for the TOEIC L&R Test 金星堂 2300 円
ISBN 978-4-7647-4183-6

【参考書】

学校語彙で学ぶ TOEIC テスト [単語集]
成美堂（1700 円）

【成績評価の方法と基準】

期末試験 60 %
小テスト 10 %
レポート課題・発言点 20 %
平常点 10 %

欠席する場合は、必ず諸届けを提出すること。
遅刻は3回で欠席1回に換算される。
各学期欠席が4回以上の場合は、原則として単位修得を認めない。

【学生の意見等からの気づき】

オンライン時でも連絡を密に取りたいです。

【その他の重要事項】

秋学期のみ登録予定の学生も、教科書は春学期に購入すること

【Outline (in English)】

Course outline

The aim of this course is to acquire the reading and listening skills for the TOEIC L&R Test. Students will learn the basic knowledge of vocabulary and grammar which is necessary for the TOEIC TEST.

Learning Objectives

This course will focus on grammar and listening skills with the goal of achieving a TOEIC(R) score of 650. Therefore, students are expected to prepare for the course, but are also expected to place emphasis on reviewing. In particular, students are expected to study listening at home every day. Students are expected to make their own study plans and take at least one exam to see the results and revise their study plans. Also, write a report on the results. For this purpose, it is desirable to take this class throughout the year if possible.

Students who take this class must attend the first class.

Learning activities outside of classroom

The standard preparation and review time for this class is one hour.

Please use the NHK language course, make a vocabulary book, check words and phrases, etc.

Grading Criteria/Policy

Final exam 60%

Quiz: 10%.

Report assignment and remarks: 20%.

Ordinary points 10%.

If you are going to be absent, you must submit a report of your absence.

Three tardies will count as one absence.

In principle, students who are absent more than 4 times per semester will not be allowed to earn credits.

LANe200LA

Oral Communication I

2017 年度以降入学者

板橋 美也

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 2/Fri.2

単位数：1 単位

Intermediate / 定員制 (20 名)

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この科目では、「ソーシャルメディア」「ビジネス」「ストーリー」にまつわるトピックについて、楽しみながら英語で聞き、読み、話す練習をし、それぞれの授業の終わりには、その日のトピックについて自信を持って英語で話せるようになることを目指します。（ソーシャルメディアやビジネスについての知識は必要ありません。）

【到達目標】

日常生活やビジネスで役立つ英語の表現をおぼえ、スピーキング力を向上させることを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部：DP2

【授業の進め方と方法】

毎回、その日のトピックについて、まずはリスニングとリーディングを通して主要な語彙や言い回しに慣れ親しみます（＝インプット）。その後、音読やリテリング（自分の言葉で説明する）などのアクティビティを通してインプットした表現を定着させ、最終的に自分が考えた内容を英語で自信を持って話せるようにします（＝アウトプット）。これらを、随時ペアワークによって行います。

課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の進め方についての説明。
第 2 回	Unit 1 What is important to you?	SNS で自分の大切なものを紹介する、という設定で英語を話す練習をします。
第 3 回	Unit 2 My morning routine	動画サイトでモーニングルーティンを紹介する、という設定で英語を話す練習をします。
第 4 回	Unit 3 Your recommended restaurant	グルメサイトでおすすめのレストランを紹介する、という設定で英語を話す練習をします。
第 5 回	Unit 4 The best film ever	映画レビューサイトでお気に入りの映画を紹介する、という設定で英語を話す練習をします。
第 6 回	Unit 5 What is a true friend?	Q&A サイトで悩み相談に答える、という設定で英語を話す練習をします。
第 7 回	Unit 6 The best pizza in town	新メニュー開発に向けてユニークなピザを紹介する、という設定で英語を話す練習をします。
第 8 回	Unit 7 An ideal private tour plan	ニーズに合わせたツアープランを企画する、という設定で英語を話す練習をします。
第 9 回	Unit 8 Useful apps for your smartphone	あったらいいなと思うアプリの機能をプレゼンする、という設定で英語を話す練習をします。

第 10 回	Unit 9 A proposal for new flavors	データをもとにヒット商品の新しい味を提案する、という設定で英語を話す練習をします。
第 11 回	Unit 10 A great figure in the business world	ビジネス界の偉人を紹介する、という設定で英語を話す練習をします。
第 12 回	Unit 11 Cheese for Uncle David	クスッと笑える小噺を英語で話す練習をします。
第 13 回	Unit 12 The baby sitter	英語でストーリーの展開を予測して伝える練習をします。
第 14 回	期末試験とまとめ	授業でおぼえた表現を用いた試験を行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の Unit で解説したポイントをよく復習して、期末試験でどの Unit のテーマでも自信をもって話せるように声に出して練習してください。予習や宿題は、それぞれの Unit の内容に応じて適宜指示します。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】

Speaking Steps『スピーキング・ステップ～英語を話すための 3 ステップ～』（金星堂）

【参考書】

必要に応じて指示します。

【成績評価の方法と基準】

授業への取り組みの積極度 (50%) と期末試験 (50%) から総合的に評価します。欠席 4 回で単位取得資格を失いますが、その回数に至らなくても、欠席回数が多くなればその分授業への取り組みの評価に影響します。期末試験を受けない場合も、単位取得資格を失います。

【学生の意見等からの気づき】

英語を楽しんでいただけて、うれしいです。

【Outline (in English)】

In this course, students listen to, read and speak English on various enjoyable topics regarding 'social media', 'business' and 'stories' so that they can speak confidently about a specific topic in English by the end of each class. The goal of this course is learning useful expressions for daily life and business and improving speaking skills in English. Before/after each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content. Grades will be decided based on participation (50%) and the final exam (50%).

LANe200LA

Oral Communication II

2017 年度以降入学者

板橋 美也

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 2/Fri.2

単位数：1 単位

Intermediate / 定員制 (20 名)

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この科目では、様々な架空の設定やトピックで英語を楽しく話すアクティビティを行うことで、日常会話で役立つ英語表現に慣れ親しみ、様々なトピックについて英語で自信をもって話せるようになることを目指します。

【到達目標】

日常生活や旅行で役立つ英語の表現をおぼえ、スピーキング力を向上させることを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部：DP2

【授業の進め方と方法】

それぞれの回のテーマに沿った架空の設定で英会話を行えるような、様々なアクティビティをペアワークやグループワークを取り入れながら行います。その際、随所で簡単なライティングを取り入れながら日常会話や旅行で使える便利な表現をおぼえることで、様々なトピックについて自信をもって英語で話せるようにします。課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の進め方についての説明。
第 2 回	Unit 1 You and your classmates	自己紹介・他己紹介に関連した英会話の練習をします。
第 3 回	Unit 2 You, going out to eat	外食に関連した英会話の練習をします。
第 4 回	Unit 3 You, shopping	買い物に関連した英会話の練習をします。
第 5 回	Unit 4 You, out on the town	街での外出に関連した英会話の練習をします。
第 6 回	Unit 5 You, planning a trip	旅行の計画に関連した英会話の練習をします。
第 7 回	Unit 6 You, hotel guest	ホテル滞在に関連した英会話の練習をします。
第 8 回	Unit 7 You, world traveler	海外旅行に関連した英会話の練習をします。
第 9 回	Unit 8 You, living with others	ホームステイやシェアハウスに関連した英会話の練習をします。
第 10 回	Unit 9 You, job hunting	就職活動に関連した英会話の練習をします。
第 11 回	Unit 10 You, giving good advice	誰かに助言をする際の英会話の練習をします。
第 12 回	Unit 11 You, solving world problems	世界の諸問題に関連した英会話の練習をします。
第 13 回	Unit 12 You, inventor for the future	画期的な発明に関連した英会話の練習をします。
第 14 回	期末試験とまとめ	授業でおぼえた表現を用いた試験を行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の Unit で解説したポイントをよく復習して、期末試験でどの Unit のテーマでも自信をもって話せるように声に出して練習してください。予習や宿題は、それぞれの Unit の内容に応じて適宜指示します。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

【テキスト（教科書）】

Starting off with role play and discussion『これからの英語コミュニケーション講座』（南雲堂）

【参考書】

必要に応じて指示します。

【成績評価の方法と基準】

授業への取り組みの積極度 (50%) と期末試験 (50%) から総合的に評価します。欠席 4 回で単位取得資格を失いますが、その回数に至らなくても、欠席回数が多くなればその分授業への取り組みの評価に影響します。期末試験を受けない場合も、単位取得資格を失います。

【学生の意見等からの気づき】

英語を楽しんでいただけて、うれしいです。

【その他の重要事項】

前学期の Oral Communication I を取っていないくても受講可能です。

【Outline (in English)】

In this course, students speak English in various role-plays in imaginary situations and discussions on enjoyable topics so that they can familiarize themselves with useful daily life expressions in English and speak confidently about various topics in English. Before/after each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content. Grades will be decided based on participation (50%) and the final exam (50%).

LANe200LA

English through Movies and Drama I 2017年度以降入学者

井上 紗央里

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 3/Tue.3

単位数：1 単位

定員制（20名）

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

映画教材を使用し、リーディング、リスニング、スピーキング、ライティングの演習を行います。特にスピーキングやライティングを通して自分の意見を英語でアウトプットできるようになることを重視します。

【到達目標】

1. 映画の視聴を通して英語の音声に慣れリスニング力を強化する。
2. 映画スクリプトの読解を通して英語の文法、語彙力を強化する。
3. 映画で使用される会話表現を身に着けることで自分の意見を英語で述べられるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部：DP2

【授業の進め方と方法】

授業形態は講義と演習形式。授業では、英語の発音練習、語彙、演習問題の答え合わせ、リスニング練習、映画のスクリプトの読解、会話練習を行います。演習の答え、ニュースの内容などについて適宜受講生に質問をしますので、その質問に答えられるように事前に予習が必要です。適宜学習支援システム（Hoppii）から課題を出題します。フィードバックには Hoppii と E-mail を使用します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の進め方の説明と評価について、テキストの紹介
2	Unit 1 Forming the Band, Queen ①	映画視聴, P9-10 Vocabulary, Plot Synopsis, Reading
3	Unit 1 Forming the Band, Queen ②	P11-12 Reading Comprehension, Expressions, Dictation
4	Unit 1 Forming the Band, Queen ③ Unit 2 Bohemian Rhapsody ①	P13-15 Listening Comprehension, Discussion, Writing Unit 2 映画視聴, Movie Review, Vocabulary
5	Unit 2 Bohemian Rhapsody ②	P16-17 Reading, Reading Comprehension, Expressions
6	Unit 2 Bohemian Rhapsody ③	P18-20 Dictation, Listening Comprehension, Discussion, Writing
7	Unit 3 Drifting Apart Queen ①	P21-22 Unit 3 映画視聴, Movie Review, Vocabulary
8	Unit 3 Drifting Apart Queen ②	P22-24 Reading, Reading Comprehension, Expressions, Dictation
9	Unit 3 Drifting Apart Queen ③ Unit 4 The Truth Comes Out ①	P24-26 Listening Comprehension, Discussion, Writing, Unit 4 映画視聴

10	Unit 4 The Truth Comes Out ②	P27-29 Background Information, Vocabulary, Reading, Reading Comprehension
11	Unit 4 The Truth Comes Out ③	P30-32 Listening Comprehension, Discussion, Writing
12	Unit 5 Performing in Live Aid ①	P33-35 Unit 5 映画視聴, Background Information, Vocabulary, Reading, Reading Comprehension, Expressions
13	Unit 5 Performing in Live Aid ②	P36-38 Listening Comprehension, Subtitling, Discussion, Writing
14	期末試験とまとめ	第1回から13回までの授業内容を試験範囲とします。春学期全体のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストの演習問題や Reading Script を事前に予習してきてください。受講者が予習をしていることを前提にスクリプトのディクテーション、内容理解、演習問題の答え合わせなどを進めていきます。各ユニットの演習問題の一部を宿題として Hoppii から出題します。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

Active English through Movies アクティブ・ラーニング型映画で学ぶ英語 4 技能 塩見佳代子 / Matthew Coomber / 宮林賀奈子 著 (金星堂 2021) 2000 円 (税別) ISBN 978-4-7647-4125-6

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

試験 50 %、平常点（予習、授業内での発言等の貢献度、授業支援システムの課題提出）50 % で評価します。欠席が 4 回以上になった受講生は原則として単位取得の資格を失います。遅刻、早退も減点対象となります。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

授業連絡、課題の出題、フィードバック等はすべて学習支援システムを通じて行います。課題提出の際に PC、タブレット PC、スマートフォン等インターネットに接続できるデバイスが必要です。

【その他の重要事項】

学習支援システムの授業ページに教員のメールアドレスを掲載するので連絡や質問がある場合はメールで連絡をお願いします。メールを送る際は法政のアドレスから送り「授業曜日、時限、学籍番号、氏名」を件名に明記してください。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to improve students' reading, speaking, writing, and listening skills through watching movies in English. At the end of the course, participants are expected to acquire basic English skills for outputting their opinions in English. Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter from the text. Your required study time is at least one hour for each class meeting. Your overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end examination (50%), In-class contribution and assignment submissions (50%).

LANe200LA
English through Movies and Drama II 2017年度以降入学者

井上 紗央里

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 3/Tue.3
単位数：1 単位
定員制（20名）
その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

映画教材を使用し、リーディング、リスニング、スピーキング、ライティングの演習を行います。特にスピーキングやライティングを通して自分の意見を英語でアウトプットできるようになることを重視します。

【到達目標】

1. 映画の視聴を通して英語の音声に慣れリスニング力を強化する。
2. 映画スクリプトの読解を通して英語の文法、語彙力を強化する。
3. 映画で使用される会話表現を身に着けることで自分の意見を英語で述べられるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部：DP2

【授業の進め方と方法】

授業形態は講義と演習形式。授業では、英語の発音練習、語彙、演習問題の答え合わせ、リスニング練習、映画のスクリプトの読解、会話練習を行います。演習の答え、ニュースの内容などについて適宜受講生に質問をしますので、その質問に答えられるように事前に学習が必要です。学習支援システム（Hoppii）から課題を出題します。フィードバックには Hoppii と E-mail を使用します。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の進め方の説明と評価について、テキストと後期の映画の紹介
2	Unit 6 Applying for a Senior Internship ①	Unit 6 映画視聴, P41-42 Vocabulary. Plot Synopsis, Reading
3	Unit 6 Applying for a Senior Internship ②	P43-44 Reading Comprehension, Expressions, Note Taking
4	Unit 6 Applying for a Senior Internship ③ Unit 7 The Working Environment at ATF ①	P45-47 Note Taking, Listening Comprehension, Discussion, Writing Unit 7 映画視聴 Movie Review, Vocabulary
5	Unit 7 The Working Environment at ATF ②	P48-49 Reading, Reading Comprehension, Expressions
6	Unit 7 The Working Environment at ATF ③	P50-52 Note Taking, Listening Comprehension, Discussion, Writing
7	Unit 8 The Problems ATF Faces ①	P53-54 Unit 8 映画視聴, Movie Review, Vocabulary, Reading
8	Unit 8 The Problems ATF Faces ②	P55-56 Reading Comprehension, Expressions, Note Taking

9	Unit 8 The Problems ATF Faces ③ Unit 9 Working Women & Work Life Balance ①	57-59 Listening Comprehension, Discussion, Writing, Unit 4 映画視聴
10	Unit 9 Working Women & Work Life Balance ②	P59-61 Background Information, Vocabulary, Reading, Reading Comprehension, Expressions
11	Unit 9 Working Women & Work Life Balance ③	P62-64 Listening Comprehension, Note Taking, Discussion, Writing
12	Unit 10 The Possibility of Hiring a New CEO ①	P65-67 Unit 10 映画視聴, Background Information, Vocabulary, Reading, Reading Comprehension, Expressions
13	Unit 10 The Possibility of Hiring a New CEO ②	P68-70 Note Taking, Listening Comprehension, Subtitling, Discussion, Writing
14	期末試験とまとめ	第1回から13回までの授業内容を試験範囲とします。秋学期全体のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストの演習問題や Reading Script を事前に予習してきてください。受講者が予習をしていることを前提にスクリプトのディクテーション、内容理解、演習問題の答え合わせなどを進めていきます。各ユニットの演習問題の一部を宿題として Hoppii から出題します。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

Active English through Movies アクティブ・ラーニング型映画で学ぶ英語 4 技能 塩見佳代子 / Matthew Coomber / 宮林賀奈子 著 (金星堂 2021) 2000 円 (税別) ISBN 978-4-7647-4125-6

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

試験 50%、平常点（予習、授業内での発言等の貢献度、授業支援システムの課題提出）50%で評価します。欠席が4回以上になった受講生は原則として単位取得の資格を失います。遅刻、早退も減点対象となります。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

授業連絡、課題の出題、フィードバック等はすべて学習支援システムを通じて行います。課題提出の際に PC、タブレット PC、スマートフォン等インターネットに接続できるデバイスが必要です。

【その他の重要事項】

学習支援システムの授業ページに教員のメールアドレスを掲載するので連絡や質問がある場合はメールで連絡をお願いします。メールを送る際は法政のアドレスから送り「授業曜日、時限、学籍番号、氏名」を件名に明記してください。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to improve students' reading, speaking, writing, and listening skills through watching movies in English. At the end of the course, participants are expected to acquire basic English skills for outputting their opinions in English. Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter from the text. Your required study time is at least one hour for each class meeting. Your overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end examination (50%), In-class contribution and assignment submissions (50%).

LANe200LA
English through Movies and Drama I 2017年度以降入学者

舟橋 美香

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 4/Mon.4

単位数：1 単位

定員制（20名）

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ヒュー・グラント主演のイギリスのコメディ映画『アバウト・ア・ボーイ』を見て、そのスクリプトと問題の載ったテキストを使い、映画を見てから、CD でスクリプトを聞き、テキストでスクリプトを読み、問題を解くことで、英語の表現を学び、語彙能力をアップし、リスニング能力の向上を目指す。

【到達目標】

映画を見て、英語特有の表現を学び、スクリプトの音源の CD を聞き、リスニング能力を向上させ、内容については、テキストで問題を解き、スクリプトを読むことで、理解を深めることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部：DP2

【授業の進め方と方法】

教科書の英文を読み、各エクササイズに答えてもらいます。予習を前提にした授業を行う。教科書の問題を解き、スクリプトを読むことで、理解を深める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	学習支援システム（ホッピー）にアップされている Youtube の予告編を見る。	予告編を何度も見て、どんな映画か想像する。テキストを買っておく。
2	Unit 1 A Boy and a Man 以降、教科書があるという前提で授業する。	ふたりの男子。テキストの予習復習をする。
3	Unit 2 Will joins SPAT	ウィル SPAT に入会。テキストの予習復習をする。
4	Unit 3 You Need a Backup	支えが要るんだ。テキストの予習復習をする。
5	Unit 4 Will and Marcus Become Mates	ウィルとマーカスの奇妙な友情。テキストの予習復習をする。
6	Unit 5 Marcus's Fashion Makeover	マーカスを変身させよう。テキストの予習復習をする。
7	Unit 6 Will's First Real Christmas	初めての本物のクリスマス。テキストの予習復習をする。
8	Unit 7 The Boys Get Crushes	ふたりが同時に恋をした。テキストの予習復習をする。
9	Unit 8 Lies, Half-truths & Honesty	「ウソ」と「半端なホント」と「ホントのホント」。テキストの予習復習をする。
10	Unit 9 Marcus's Gift to Mum	お母さんへの贈り物。テキストの予習復習をする。
11	Unit 10 No Man Is an Island	人は孤島ではない。テキストの予習復習をする。
12	Unit 1-5 復習	英語字幕で、映画の前半を復習する。

13	Unit 6-10 & Unit 1 冒頭	英語字幕で、映画の後半を、復習する。その後、日本語字幕で、映画の最初の場面を復習する。
14	Unit 1 途中から Unit 10	日本語字幕で、Unit 1 の先週の続きから、最後まで、一気に見て復習する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。テキストの予習復習をする。予習として、テキストの問題を解き、辞書を引きながらスクリプトに目を通して、注を読んでおく。

【テキスト（教科書）】

Peter Hedges/ Chris Weitz & Paul Weitz, 神谷久美子、Kim R.Kanel 『About a Boy』 松柏社

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

各時間の発表、授業への貢献度を含めた平常点を 50%、学期末のレポートを 50% で採点する。

課題未提出、欠席が 4 回以上の場合、原則として単位修得を認めない。

【学生の意見等からの気づき】

学生は楽しんでいましたようです。

【学生が準備すべき機器他】

辞書

【Outline (in English)】

Develop English skills through watching a film called About a Boy, and learn English expressions and what's going on in the film using its textbook.

Study textbook, through reading each script and solving questions for each week, using a dictionary before and after each class. University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course. The grade is given from the total of class activity 50% and the final paper 50%.

LANe200LA
English through Movies and Drama II 2017年度以降入学者

舟橋 美香

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 4/Mon.4
単位数：1 単位
定員制（20名）
その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

マイク・ニューウェル監督、ヒュー・グラント、アンディ・マクドール主演のイギリスのラブコメディ映画『Four Weddings and a Funeral』を見て、そのスクリプトと問題の載ったテキストを使い、映画を見てから、テキストでスクリプトを読み、問題を解くことで、英語の表現を学び、語彙能力をアップし、リスニング能力の向上を目指す。

【到達目標】

映画を見て、英語特有の表現を学び、リスニング能力を向上させ、内容については、スクリプトを読み、テキストで問題を解くことで、理解を深めることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部：DP2

【授業の進め方と方法】

予習を前提にした授業を行う。各章のスクリプトと問題をあらかじめ予習している状態で、映画の一部を見て、テキストのスクリプトを読み、問題を解いて理解を深める。なお、最初の課題レポートと、最後のレポート課題は、Hoppii に提出していただきます。フィードバックは、Hoppii から行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	Hoppii にアップされている映画のトレーラー (Youtube) を見て、それについて意見を交換する。テキストを買っておく。
2	Week 1 Prologue	Wedding 1 へ。テキストの予習復習をする。
3	Week 2 Reception	披露宴。テキストの予習復習をする。
4	Week 3 After the reception	披露宴後。テキストの予習復習をする。
5	Week 4 Wedding 2	2つ目の結婚式。テキストの予習復習をする。
6	Week 5 Reception	2つ目の結婚式の披露宴。テキストの予習復習をする。
7	Week 6 A Day Off	休日。テキストの予習復習をする。
8	Week 7 Wedding 3	3つ目の結婚式。テキストの予習復習をする。
9	Week 8 Funeral	葬式。テキストの予習復習をする。
10	Week 9 Wedding 4 (1)	4つ目の結婚式の前半。テキストの予習復習をする。
11	Week 10 Wedding 4 (2)	4つ目の結婚式の後半 & Epilogue。テキストの予習復習をする。
12	映画の前半を通して見る。	英語字幕付きで、映画の前半を通して見て復習する。テキストの予習復習をする。

- 13 映画の後半を通して見る。&日本語字幕で、映画の冒頭のシーンを復習する。英語字幕付きで、映画の後半を通して見て復習する。テキストの予習復習をする。日本語字幕で、映画の最初の部分を復習する。
- 14 日本語字幕で、映画を最後まで復習する。テキストの最初から最後まで復習しておく。授業の後、まとめのレポートを書いてもらい、ホッピーで提出してもらいます。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。テキストの予習復習をする。予習として、辞書を引きながら、テキストのスクリプトに目を通して、各課の問題を解いておく。

【テキスト（教科書）】

Richard Curtis ed. & notes by Tomoko Otani, 『Four Wedding and a Funeral』 松柏社

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

各時間の発表、授業への貢献度を含めた平常点を50%、学期末のレポートを50%で採点する。各課題未提出、欠席が4回以上の場合は、原則として単位修得を認めない。

【学生の意見等からの気づき】

学生は楽しんでいました。

【学生が準備すべき機器他】

辞書

【Outline (in English)】

Develop English skills through watching a film called *Four Weddings and a Funeral*, and learn English expressions and what's going on in the film using its textbook. Study textbook, through reading each script and solving questions for each week, using a dictionary before and after each class. University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course. The grade is given from the total of class activity 50% and the final paper 50%.

LANe200LA

TOEIC(R) I

2017 年度以降入学者

井上 紗央里

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 4/Tue.4

単位数：1 単位

Intermediate / 定員制 (20 名)

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では TOEIC(R) でのスコア取得に必要な語彙、文法、リスニング、リーディング等の演習を通して英語力を身につけることを目的とします。

【到達目標】

1. テキストの演習問題を通して TOEIC (R) の出題形式に慣れる。
2. TOEIC (R) の試験や日常生活に必要な英語のリスニング力を強化する。
3. 演習問題を通して英語の語彙、文法を習得する。
4. TOEIC (R) で多く出題される分野の英文を読み、英語の読解力を高める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部：DP2

【授業の進め方と方法】

授業時間内にテキストの演習問題を解き、受講生全員で答え合わせをしながら解説を行います。理解度を確保するため適宜内容理解の課題を提出してもらいます。テキスト以外の英文記事や音声なども使用します。フィードバックは授業内での解説や学習支援システム (Hoppii)、E-mail を使用して行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Introduction	授業の説明、模擬授業、TOEIC(R) について
2	Unit 1 ①	Daily Life ① Listening (photographs, question-response, conversation, talks)
3	Unit 1 ②	Daily Life ② Reading (grammar, text completion, single and multiple passages)
4	Unit 2 ①	Shopping ① Listening (photographs, question-response, conversation, talks)
5	Unit 2 ②	Shopping ② Reading (grammar, text completion, single and multiple passages)
6	Unit 3 ①	Parties & Events ① Listening (photographs, question-response, conversation, talks)
7	Unit 3 ②	Parties & Events ② Reading (grammar, text completion, single and multiple passages)
8	Unit 4 ①	Traffic & Travel ① Listening (photographs, question-response, conversation, talks)

9	Unit 4 ②	Traffic & Travel ② Reading (grammar, text completion, single and multiple passages)
10	Unit 5 ①	Office Work ① Listening (photographs, question-response, conversation, talks)
11	Unit 5 ②	Office Work ② Reading (grammar, text completion, single and multiple passages)
12	Unit 6 ①	Marketing & ICT ① Listening (photographs, question-response, conversation, talks)
13	Unit 6 ②	Marketing & ICT ② Reading (grammar, text completion, single and multiple passages)
14	Review Test	Review Test と春学期のまとめ

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

受講者は授業時に指示された箇所を復習し、Hoppii から指定の課題を提出する必要があります。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

『SEIZE THE KEYS OF THE TOEIC (R) L&R TEST TOEIC (R) L&R テスト攻略の鍵』（金星堂 2020）安丸雅子 / 渡邊晶子 / 砂川典子 / 高森暁子 / 十時康 / Andrew Zitzmann 著 価格 1900 円 (税別) ISBN 978-4-7647-4110-2

【参考書】

とくになし

【成績評価の方法と基準】

平常点（予習、発言等授業への貢献度、学習支援システムの課題提出）70%，Review Test 30%。欠席回数が 4 回を超えた場合は単位認定の資格を失います。遅刻、早退も減点対象となります。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

授業連絡、課題の出題、フィードバック等はすべて学習支援システムを通じて行います。課題提出の際に PC、タブレット PC、スマートフォン等インターネットに接続できるデバイスが必要です。

【その他の重要事項】

学習支援システム (Hoppii) のクラスページに教員のメールアドレスを記載するので、連絡がある場合はメールでお願いします。メールは必ず大学のアドレスを使用し、本文に受講曜日と時限、学籍番号、フルネームを明記してください。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to acquire the skills necessary to achieve a high score on the TOEIC (R). At the end of the course, participants are expected to acquire basic English skills for getting their target score. Before each class meeting, students will be expected to have studied the relevant chapter from the text. Your required study time is at least one hour for each class meeting. Your overall grade in the class will be decided based on the following: Review test (30%), In-class contribution and assignment submissions (70%).

LANe200LA
TOEIC(R) II 2017 年度以降入学者
井上 紗央里
 開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 4/Tue.4
 単位数：1 単位
 Intermediate / 定員制 (20 名)
 その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

この授業では TOEIC(R) でのスコア取得に必要な語彙、文法、リスニング、リーディング等の演習を通して英語力を身につけることを目的とします。

【到達目標】

1. テキストの演習問題を通して TOEIC (R) の出題形式に慣れる。
2. TOEIC (R) の試験や日常生活に必要な英語のリスニング力を強化する。
3. 演習問題を通して英語の語彙、文法を習得する。
4. TOEIC (R) で多く出題される分野の英文を読み、英語の読解力を高める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部：DP2

【授業の進め方と方法】

授業時間内にテキストの演習問題を解き、受講生全員で答え合わせをしながら解説を行います。理解度を確認するため適宜内容理解の課題を提出してもらいます。テキスト以外の英文記事や音声なども使用します。フィードバックは授業内での解説や学習支援システム (Hoppii)、E-mail を使用して行います。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】
 なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】
 なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Introduction	授業の説明、TOEIC(R) について
2	Unit 7 ①	Production & Logistics ① Listening (photographs, question-response, conversation, talks)
3	Unit 7 ②	Production & Logistics ② Reading (grammar, text completion, single and multiple passages)
4	Unit 8 ①	Employment ① Listening (photographs, question-response, conversation, talks)
5	Unit 8 ②	Employment ② Reading (grammar, text completion, single and multiple passages)
6	Unit 9 ①	Personnel ① Listening (photographs, question-response, conversation, talks)
7	Unit 9 ②	Personnel ② Reading (grammar, text completion, single and multiple passages)
8	Unit 10 ①	Business ① Listening (photographs, question-response, conversation, talks)

9	Unit 10 ②	Business ② Reading (grammar, text completion, single and multiple passages)
10	Unit 11 ①	Health & Environment ① Listening (photographs, question-response, conversation, talks)
11	Unit 11 ②	Health & Environment ② Reading (grammar, text completion, single and multiple passages)
12	Unit 12 ①	Finance ① Listening (photographs, question-response, conversation, talks)
13	Unit 12 ②	Finance ② Reading (grammar, text completion, single and multiple passages)
14	Review Test	Review Test と秋学期のまとめ

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

受講者は授業時に指示された箇所を復習し、Hoppii から指定の課題を提出する必要があります。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

『SEIZE THE KEYS OF THE TOEIC (R) L&R TEST TOEIC (R) L&R テスト攻略の鍵』(金星堂 2020) 安丸雅子 / 渡邊晶子 / 砂川典子 / 高森暁子 / 十時康 / Andrew Zitzmann 著 価格 1900 円 (税別) ISBN 978-4-7647-4110-2

【参考書】

とくになし

【成績評価の方法と基準】

平常点 (予習、発言等授業への貢献度、学習支援システムの課題提出) 70 %, Review Test 30%. 欠席回数が 4 回を超えた場合は単位認定の資格を失います。遅刻、早退も減点対象となります。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【学生が準備すべき機器他】

授業連絡、課題の出題、フィードバック等はすべて学習支援システムを通じて行います。課題提出の際に PC、タブレット PC、スマートフォン等インターネットに接続できるデバイスが必要です。

【その他の重要事項】

学習支援システム (Hoppii) のクラスページに教員のメールアドレスを記載するので、連絡がある場合はメールでお願いします。メールは必ず大学のアドレスを使用し、本文に受講曜日と時限、学籍番号、フルネームを明記してください。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to acquire the skills necessary to achieve a high score on the TOEIC (R). At the end of the course, participants are expected to acquire basic English skills for getting their target score. Before each class meeting, students will be expected to have studied the relevant chapter from the text. Your required study time is at least one hour for each class meeting. Your overall grade in the class will be decided based on the following: Review test (30%), In-class contribution and assignment submissions (70%).

LANe200LA

TOEIC(R) I

2017年度以降入学者

板橋 美也

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 5/Fri.5

単位数：1 単位

Intermediate / 定員制 (20 名)

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本人が苦手とするリスニングのポイントや読解に必要な文法事項の確認をしながら TOEIC®形式の問題演習を行うことで、リスニング力・読解力の向上を目指します。

【到達目標】

TOEIC®の出題形式に慣れながら英語のリスニング力と読解力を磨き、TOEIC®スコア向上を目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部：DP2

【授業の進め方と方法】

1 週ごとにリスニングとリーディングのレッスンを交互に行います。教科書の問題演習と解説を行いながら、日本人が苦手とするリスニングのポイントや、読解に必要な文法事項の確認をします。同時に、TOEIC®の傾向と対策をおさえていきます。課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の内容、進め方、TOEIC®の概要
第 2 回	教科書 Lesson 1 Headhunting	「音の消失」を含む英語のリスニング練習（破裂音同士）
第 3 回	教科書 Lesson 2 The Internet	動詞にまつわる文法事項を確認しながら読解練習
第 4 回	教科書 Lesson 3 Weddings	「音の消失」を含む英語のリスニング練習（破裂音と鼻音、s, th 等）
第 5 回	教科書 Lesson 4 Corporate Culture	時制にまつわる文法事項を確認しながら読解練習
第 6 回	教科書 Lesson 5 Music	応答の予測をしながらのリスニング練習
第 7 回	教科書 Lesson 6 Movies	形容詞にまつわる文法事項を確認しながら読解練習
第 8 回	教科書 Lesson 7 Sightseeing	「音の同化」を含む英語のリスニング練習
第 9 回	教科書 Lesson 8 Recruiting	名詞にまつわる文法事項を確認しながら読解練習
第 10 回	教科書 Lesson 9 Shopping	「音の短縮」を含む英語のリスニング練習
第 11 回	教科書 Lesson 10 Forecasts	分詞構文にまつわる文法事項を確認しながら読解練習
第 12 回	教科書 Lesson 11 Customs	「音の連結」を含む英語のリスニング練習
第 13 回	教科書 Lesson 12 Crime	不定詞にまつわる文法事項を確認しながら読解練習
第 14 回	期末試験とまとめ	授業で勉強した内容に基づいた試験を行います。試験結果に応じてフィードバックを行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎週、授業で学んだ内容をよく復習してください。

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

Navigator for the TOEIC® Test（南雲堂）

【参考書】

必要に応じて指示します。

【成績評価の方法と基準】

授業への取り組み（50%）と期末試験（50%）から総合的に評価します。欠席 4 回で単位取得資格を失いますが、その回数に至らなくても、欠席回数が多くなればその分授業への取り組みの評価に影響します。期末試験を受けない場合も、単位取得資格を失います。

【学生の意見等からの気づき】

時間配分に気を付けます。

【Outline (in English)】

In this course, students will improve their listening and reading skills in English through preparing for TOEIC®. Before/after each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content. Grades will be decided based on participation (50%) and the final exam (50%).

LANe200LA

TOEIC(R) II

2017 年度以降入学者

板橋 美也

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 5/Fri.5

単位数：1 単位

Intermediate / 定員制 (20 名)

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

日本人が苦手とするリスニングのポイントや読解に必要な文法事項の確認をしながら TOEIC®形式の問題演習を行うことで、リスニング力・読解力の向上を目指します。

【到達目標】

TOEIC®の出題形式に慣れながら英語のリスニング力と読解力を磨き、TOEIC®スコア向上を目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部：DP2

【授業の進め方と方法】

1 週ごとにリスニングとリーディングのレッスンを交互に行います。教科書の問題演習と解説を行いながら、日本人が苦手とするリスニングのポイントや、読解に必要な文法事項の確認をします。同時に、TOEIC®の傾向と対策をおさえていきます。課題提出後の授業、または学習支援システムにおいて、提出された課題からいくつかポイントを取り上げ、全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス	授業の内容、進め方、TOEIC®の概要
第 2 回	教科書 Lesson 13 New Products	「音の連結」を含む英語のリスニング練習
第 3 回	教科書 Lesson 14 Global Matters	動名詞にまつわる文法事項を確認しながら読解練習
第 4 回	教科書 Lesson 15 Health	「無声化する音」を含む英語のリスニング練習
第 5 回	教科書 Lesson 16 Parties	時制の一致や主語・動詞の一致にまつわる文法事項を確認しながら読解練習
第 6 回	教科書 Lesson 17 Skiing	「有声化する音」を含む英語のリスニング練習
第 7 回	教科書 Lesson 18 Travel	関係詞にまつわる文法事項を確認しながら読解練習
第 8 回	教科書 Lesson 19 Dating	「音の弱化」を含む英語のリスニング練習
第 9 回	教科書 Lesson 20 Hospitals	接続詞にまつわる文法事項を確認しながら読解練習
第 10 回	教科書 Lesson 21 Advertising	音の弱形と強形に注意しながらのリスニング練習
第 11 回	教科書 Lesson 22 Opportunities	仮定法にまつわる文法事項を確認しながら読解練習
第 12 回	教科書 Lesson 23 Employment	類音語に注意しながらのリスニング練習
第 13 回	教科書 Lesson 24 Banking / Finance	否定にまつわる文法事項を確認しながら読解練習
第 14 回	期末試験とまとめ	授業で勉強した内容に基づいた試験を行います。試験結果に応じてフィードバックを行います。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎週、授業で学んだ内容をよく復習してください。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

Navigator for the TOEIC® Test（南雲堂）

【参考書】

必要に応じて指示します。

【成績評価の方法と基準】

授業への取り組み（50%）と期末試験（50%）から総合的に評価します。欠席 4 回で単位取得資格を失いますが、その回数に至らなくても、欠席回数が多くなればその分授業への取り組みの評価に影響します。期末試験を受けない場合も、単位取得資格を失います。

【学生の意見等からの気づき】

時間配分に気を付けます。

【その他の重要事項】

前学期の「TOEIC I」を取っていなくても受講可能です。

【Outline (in English)】

In this course, students will improve their listening and reading skills in English through preparing for TOEIC®. Before/after each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content. Grades will be decided based on participation (50%) and the final exam (50%).

LANe200LA

英語検定試験対策 I

2017 年度以降入学者

青山 恵子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 3/Mon.3

単位数：1 単位

定員制（20 名）/2018 年度までに「英検準備 I」の単位を修得済みの場合、履修不可

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

このクラスでは英検準 1 級と TOEFL の演習を行いながら「スピーキング・リスニング・リーディング・ライティング」の 4 つの能力の強化を目指します。英語検定試験受験予定者に加えて、英語の継続学習希望者の受講も歓迎します。

【到達目標】

- 1 Be able to read texts on a variety of topics with accuracy
- 2 Be able to understand main points of interviews and lectures
- 3 Be able to talk about basic topics
- 4 Be able to write a multi-paragraph essay with a basic structure

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部：DP2

【授業の進め方と方法】

Students participate in practical activities including the four skills of reading, listening, speaking and writing. Feedback for assignments and reaction papers will be given in each class. (この授業の形態は演習です。授業毎に課題やリアクションペーパーに対するフィードバックを行います)

1. Clarifying objectives and goals (学習動機の明確化とゴール設定)
2. Explaining basic formats of two certificate tests and practicing (英検と TOEFL のテスト形式の紹介と演習)
3. News mini-presentation (視聴してきた News in Levels についてのプレゼンテーション)
4. Feedback for assignments and reaction papers (課題やリアクションペーパーに対するフィードバック)

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1 回	Course Orientation	1 Explanation of the course 2 Clarifying objectives and goals
2 回	Introduction to Eiken	1 Explanation of the basic format of Eiken (英検について) 2 Reading & Listening practice to identify strength and weaknesses (弱点の特定化)
3 回	Eiken: Reading and Listening Practice	1 Reading practice 2 Listening practice
4 回	Eiken: Paragraph Reading Trainig	1 Learning Paragraph Structure 2 Paragraph reading practice 2 Listening practice
5 回	Eiken: Intensive Listening Training	1 Overlapping 2 Prosodic shadowing 3 Contents shadowing
6 回	Eiken: Reading and Listening Practice	1 Overlapping and shadowing 2 Listening practice 3 Paragraph reading practice

7 回	Eiken: Essay Writing	1 Learning basic writing structures and analyzing model essays 2 Writing an essay
8 回	Eiken: Essay Writing (peer editing)	1 Peer Editing 2 Listening practice 3 Mini-presentation on News in Levels
9 回	Introduction to TOEFL Test	1 Explanation of the basic format of TOEFL (TOEFL について) 2 Reading practice 3 Listening practice
10 回	TOEFL: Intensive Reading Training	1 Close reading practice 2 Summarizing passages
11 回	TOEFL: Paragraph Reading Training	1 Reviewing paragraph structure 2 Paragraph reading practice
12 回	TOEFL: Intensive Listening Training	1 Overlapping and shadowing practice 2 Listening exercises 3 Mini-presentation on News in Levels
13 回	TOEFL: Listening and speaking Training	1 Overlapping and shadowing practice 2 Mini-presentation on News in Levels
14 回	Review and Test	Review and test

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

University guidelines suggest preparation and review are around an hour a week for a one-credit course (本授業の準備学習・復習時間は合わせて授業 1 回あたり 1 時間を標準とします)

- 1 Weekly speaking home assignments (Online News in Levels listening or TED watching for mini-presentation)
- 2 Weekly reading or writing home assignments

【テキスト（教科書）】

Materials will be provided. (プリントを配布します)

【参考書】

You will be provided a list of references. (授業中に指示します)

【成績評価の方法と基準】

Final test (50%)

Home assignment (20%)

In-class contribution, including mini-presentation (30%)

In principle, no more than 3 absences per semester are allowed. (各学期欠席が 4 回以上の場合、原則として単位修得を認めない)

【学生の意見等からの気づき】

I'm going to increase the opportunities for communication in the classroom.

【学生が準備すべき機器他】

Hoppii (学習支援システム)

Electric dictionary (English-English dictionary is necessary)

【Outline (in English)】

The course is for students who would like to improve their English skills through preparation for STEP Eiken and TOEFL tests. The goal of this course is to develop skills in paragraph reading, effective listening and speaking, and well-structured writing. Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than one hour for a class. The overall grade of the course will be determined by the final examination (50%), the home assignment (20%) and the contribution made in class (30%). In principle, no more than 3 absences per semester are allowed.

LANe200LA

英語検定試験対策Ⅱ

2017年度以降入学者

青山 恵子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 3/Mon.3
 単位数：1 単位
 定員制（20名）/2018年度までに「英検準備Ⅱ」の単位を修得済みの場合、履修不可
 その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

このクラスでは英検, TOEFL, IELTS の演習を行いながら「スピーキング・リスニング・リーディング・ライティング」の4つの能力の強化を目指します。英語検定試験受験予定者に加えて、英語学習の習慣化を希望する学生の受講も歓迎します。

【到達目標】

- 1 Be able to read texts on a variety of topics with accuracy
- 2 Be able to understand main points of interviews and lectures
- 3 Be able to make a mini presentation
- 4 Be able to write a multi-paragraph essay with a basic structure

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部：DP2

【授業の進め方と方法】

Students participate in practical activities including the four skills of reading, listening, speaking and writing. Feedback for assignments and reaction papers will be given in each class. (この授業の形態は演習です。授業毎に課題やリアクションペーパーに対するフィードバックを行います)

1. Clarifying objectives and goals (学習動機の明確化とゴール設定)
2. Explaining basic formats of three certificate tests and practicing (英検, TOEFL, IELTS 各テスト形式の紹介と演習)
3. TED mini-presentation (視聴してきた TED の内容等についてのプレゼンテーション)
4. Feedback for assignments and reaction papers (課題やリアクションペーパーに対するフィードバック)

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1 回	Course Orientation	1 Explanation of the course 2 Clarifying objectives and goals
2 回	Introduction to Eiken	1 Explanation of the basic format of Eiken (英検について) 2 Reading & Listening practice to identify strength and weaknesses (弱点の特定化)
3 回	Eiken: Paragraph Reading Training	1 Paragraph reading practice 2 Listening practice
4 回	Eiken: Intensive Listening Training	1 Overlapping 2 Prosodic shadowing 3 Contents shadowing
5 回	Eiken: Reading and Listening Practice	1 Overlapping and shadowing 2 Listening practice 3 Paragraph reading practice
6 回	Eiken: Essay Writing	1 Learning basic writing structures and analyzing model essays 2 Writing an essay

7 回	Eiken: Essay Writing (peer editing)	1 Peer Editing 2 Listening practice
8 回	Introduction to TOEFL Test	1 Explanation of the basic format of TOEFL (TOEFL テストについて) 2 Reading practice 3 Listening practice
9 回	TOEFL: Intensive Listening Training	1 Overlapping and shadowing 2 Listening practice
10 回	TOEFL: Learning presentation skills	1 Learning an effective presentation 2 Making a presentation
11 回	Introduction to IELTS	1 Explanation of the basic format of IELTS (IELTS について) 2 Reading practice 3 Listening practice
12 回	IELTS: Reading and Listening Practice	1 Reading practice 2 Listening practice 3 TED mini-presentation
13 回	IELTS: Intensive Listening Training	1 Overlapping and shadowing 2 Listening practice 3 TED mini-presentation
14 回	Review and Test	Review and test

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

University guidelines suggest preparation and review are around an hour a week for a one-credit course (本授業の準備学習・復習時間は合わせて授業 1 回あたり 1 時間を標準とします)
 1 Weekly speaking home assignments (Online News in Levels listening or TED watching for mini-presentation)
 2 Weekly reading or writing home assignments

【テキスト（教科書）】

Materials will be provided. (プリントを配布します)

【参考書】

You will be provided a list of references. (授業中に指示します)

【成績評価の方法と基準】

Final test (50%)
 Home assignment (20%)
 In-class contribution, including mini-presentation (30%)
 In principle, no more than 3 absences per semester are allowed. (各学期欠席が4回以上の場合は、原則として単位修得を認めない)

【学生の意見等からの気づき】

I'm going to increase the opportunities for communication in the classroom.

【学生が準備すべき機器他】

Hoppii (学習支援システム)
 Electric dictionary (English-English dictionary is necessary)

【Outline (in English)】

The course is for students who would like to improve their English skills through preparation for STEP Eiken, TOEFL and IELTS tests. The goal of this course is to develop skills in paragraph reading, effective listening and speaking, and well-structured writing. Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than one hour for a class. The overall grade of the course will be determined by the final examination (50%), the home assignment (20%) and the contribution made in class (30%). In principle, no more than 3 absences per semester are allowed.

LANe200LA

Business Communication I 2017 年度以降入学者

今井 澄子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 3/Thu.3

単位数：1 単位

定員制（20 名）

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国際ビジネスで使われる英語を学ぶことで、人間関係、および、取引関係を築く上で必要とされるコミュニケーションの取り方を音声、文書の両面で習得する。

【到達目標】

英語で行われる国際ビジネス場面の話題について大まかな理解をもち、口頭および文書でコミュニケーションできるようにする。また、企業内の書類、商業通信文について英和ともに知識を習得し、英語でビジネスをする力を身に着ける。具体的には、基本的なビジネス英語の聴解や読解ができ、英語による口頭表現や E メール、英文レターなど自ら発信する文章を書くことができるようになる。これにより、TOEIC® Listening/Reading のみならず、TOEIC® Speaking/Writing にも対応できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部：DP2

【授業の進め方と方法】

授業始めに Listening 小テストを毎回行う。メイン教材としては、まず TOEIC® 実問題によりビジネス英語に慣れ、その後にビジネス DVD 視聴、英文書類、E メール作成と添削指導を行う。このほか小テスト、課題はすべて授業内での解答解説などの方法でフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	Academic English と Business English	Business Communication に必要な英語について概説する
第 2 回	TOEIC® Listening Test	TOEIC® の Listening 問題を一回分 (100 問) 解き、答え合わせを行う
第 3 回	Listening 1 TOEIC® Grammar 問題 1	英語音声聴解 文法問題を解きながらビジネス英語に慣れる 1 (文法)
第 4 回	Listening 2 TOEIC® Grammar 問題 2	英語音声聴解 文法問題を解きながらビジネス英語に慣れる 2 (語彙)
第 5 回	Listening 3 TOEIC® Reading 問題 1	英語音声聴解 読解問題を和訳・解答しながら英語文書に慣れる 1 (単一文書単語補充)
第 6 回	Listening 4 TOEIC® Reading 問題 2	英語音声聴解 読解問題を和訳・解答しながら英語文書に慣れる 2 (単一文書読解)
第 7 回	Listening 5 TOEIC® Reading 問題 3	英語音声聴解 読解問題を和訳・解答しながら英語文書に慣れる 3 (複数文書の関連付け)
第 8 回	Listening 6 TOEIC® Reading 問題 4	英語音声聴解 読解問題を和訳・解答しながら英語文書に慣れる 4 (図表・伝票を含む複数文書)

第 9 回	Listening 7 英文帳票作成	英語音声聴解 Leave Request Domestic/Oversea Travel Form
第 10 回	Listening 8 社内文書作成	英語音声聴解 Interoffice Memo Notice
第 11 回	Listening 9 社交文書作成 1	英語音声聴解 会合連絡への返信英文メール作成
第 12 回	Listening 10 社交文書作成 2	英語音声聴解 礼状、梅やみ状などの英文レター作成
第 13 回	就職活動文書作成	履歴書作成 応募カバーレター 紹介状・推薦状
第 14 回	期末試験	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。
/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

和訳担当を割り当てられたときは、必ず自宅で辞書で単語を引きながら読み、問題の答えを考えてくることが必要。授業では PC を使ってメールやレターのやりとりをするので、問題や添付ファイル等を受け取り、作業ができるメールアドレスが必要。

【テキスト（教科書）】

TOEIC® 問題、Listening 問題、英文レター・メール等の Writing 問題はプリントを使用する。英文伝票・貿易書類作成問題は実際の書式をもとに作成したオリジナル問題である。

【参考書】

授業で Writing 例文集、貿易書類サンプル、各種英語文書解説など、必要なプリントを配布するため、特に参考書は指定しない。

【成績評価の方法と基準】

期末試験 60%、平常点 40%。平常点は授業参加度 10%、リスニング小テスト平均点 10%、課題等 20% を原則とする。よって、評価点は試験 60 点、平常点 40 点の合計 100 点とし、60% 以上の得点で合格。授業始めのリスニング小テスト終了後は遅刻と認めず欠席とし、小テストも 0 点となる。割り当てられた課題を遂行しない、担当のある日に無断欠席などは課題点がマイナスになり、たいへん不利になる。欠席が 4 回以上になった者は原則として単位修得の資格を失う。

【学生の意見等からの気づき】

昨年度は「英字新聞の政治・経済記事を読んでディスカッションに備えたい」という学生の希望があり、従来実施している内容に追加して取り入れた。また、実際の場면을収録したビジネス DVD を視聴し、英語の使われる実際の場面についても学習した。これらを導入しても TOEIC 問題一回分が十分に終わり、充実した内容となった。今年度も基本的内容は変わらないが、ご要望にはできる限りこたえたい。

【学生が準備すべき機器他】

英和辞書。英文メール&レター Writing を行う際、備付 PC のない教室が割り当てられた場合は各自のモバイル PC を持ち込むことになる。PC の都合がつかない学生には PC 貸与を受けるなど方策をとるので、PC の有無で受講を控える必要はない。なお、授業で扱う TOEIC 実問題が難しいと不安な場合は、Hoppii に解説パワーポイントスライドをアップするので予習に活用していただきたい。

【その他の重要事項】

受講希望者は初回授業に出席し、ガイダンスを受けること。

【Outline (in English)】

This class develops communication skills in both spoken and written English needed to succeed in international business and enlarge knowledge of the international business world. At the beginning of every class, students take a short exam of dictation of English sentences frequently used in a business correspondence. There are twenty chapters and the chapter themes follow the real trading process such as Inquiry, Quotations, Offers, Discounts, Orders, Contracts, Opening L/C, Insurance, Shipment, Customs Clearance, Drafts, and so on, and students can have a knowledge of international business flow. Additionally, the main part of class has two phases: listening and reading of business related materials in TOEIC[®], and writing business letters and e-mails. The former activity enables students to imagine a business scene and know the basic format of various documents and English expression used in a business world, and based on these knowledge, they try the latter activity — business correspondence. Beginning from writing formats such as “Leave Request,” “Cash-advanced Request,” “Expense Report,” and documents used in import/export, the final step is writing a business letter with a company letterhead and sending/receiving a business e-mail. All these writings are proofread and returned to students. Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant part from the text. However, they need not to prepare for the listening-mini test and all the writing tasks are performed only in class. Every student's overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end examination 60%, mini-listening test average score 10%, and in class contribution 30%.

LANe200LA

Business Communication II 2017年度以降入学者

今井 澄子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 3/Thu.3

単位数：1 単位

定員制（20名）

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

国際ビジネスで使われる英語を学ぶことで、人間関係、および、取引関係を築く上で必要とされるコミュニケーションの取り方を音声、文書の両面で習得する。

【到達目標】

英語で行われる国際ビジネス場面の話題について大まかな理解をもち、口頭および文書でコミュニケーションできるようにする。また、企業内の書類、商業通信文について英和ともに知識を習得し、英語でビジネスをする力を身に付ける。具体的には、基本的なビジネス英語の聴解や読解ができ、英語による口頭表現や E メール、英文レターなど自ら発信する文章を書くことができるようになる。これにより、TOEIC® Listening/Reading のみならず TOEIC® Speaking/Writing にも対応できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部：DP2

【授業の進め方と方法】

授業始めに Listening 小テストを毎回行う。メイン教材としては、まず TOEIC® 実問題によりビジネス英語に慣れ、その後にビジネス DVD 視聴、英文書類、E メール作成と添削指導を行う。このほか小テスト、課題はすべて授業内での解答解説などの方法でフィードバックする。なお、春学期とは別の問題を使って授業を進めるため、秋学期からの履修も可能で不利は一切ない。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	Business English と TOEIC® 等各種資格試験	Business Communication に必要な英語と TOEIC®, ビジネス英語検定試験等について解説する
第 2 回	TOEIC® Listening Test	TOEIC® の Listening 問題を一回分 (100 問) 解き、答え合わせを行う
第 3 回	Listening 1 TOEIC® Grammar 問題 1	英語音声聴解 文法問題を解きながらビジネス英語に慣れる 1(文法)
第 4 回	Listening 2 TOEIC® Grammar 問題 2	英語音声聴解 文法問題を解きながらビジネス英語に慣れる 2(語彙)
第 5 回	Listening 3 TOEIC® Reading 問題 1	英語音声聴解 読解問題を和訳・解答しながら英語文書に慣れる 1(単一文書単語補充)
第 6 回	Listening 4 TOEIC® Reading 問題 2	英語音声聴解 読解問題を和訳・解答しながら英語文書に慣れる 2(単一文書読解)
第 7 回	Listening 5 TOEIC® Reading 問題 3	英語音声聴解 読解問題を和訳・解答しながら英語文書に慣れる 3(複数文書の関連付け)

第 8 回	Listening 6 TOEIC® Reading 問題 4	英語音声聴解 読解問題を和訳・解答しながら英語文書に慣れる 4(図表・伝票を含む複数文書)
第 9 回	Listening 7 英文帳票作成 1	英語音声聴解 Cash Advanced Payment, Expense Report, Cash Payment Request
第 10 回	Listening 8 英文帳票作成 2	英語音声聴解 Receipt を使った経費申告
第 11 回	Listening 9 貿易書類作成	英語音声聴解 Packing List, Invoice
第 12 回	Listening 10 英語電話メモ作成	英語音声聴解 英語電話の聴解と英語による伝言メモ作成 1
第 13 回	国際ビジネス文書	ビジネス取引に関する英文レター作成
第 14 回	期末試験	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。
/University guidelines suggest preparation and review should be around an hour a week for a one-credit course.

和訳担当を割り当てられたときは、必ず自宅で辞書で単語を調べながら読み、問題の答えを考えてくる必要がある。授業では PC を使ってメールやレターのやりとりをするので、問題や添付ファイル等を受け取り、作業ができるメールアドレスが必要。

【テキスト（教科書）】

TOEIC® 問題、Listening 問題、英文レター・メール等の Writing 問題はプリントを使用。英文伝票・貿易書類作成問題は実際の書式をもとに作成したオリジナル問題。

【参考書】

授業で Writing 例文集、貿易書類サンプル、各種英語文書解説など、必要なプリントを配布するため、特に参考書は指定しない。

【成績評価の方法と基準】

期末試験 60%、平常点 40%。平常点は授業参加度 10%、リスニング小テスト平均点 10%、課題等 20% を原則とする。よって、評価点は試験 60点、平常点 40点の合計 100点とし、60%以上の得点で合格。授業始めのリスニング小テスト終了後は遅刻と認めず欠席とし、小テストも 0点となる。割り当てられた課題を遂行しない、担当のある日に無断欠席などは課題点がマイナスになり、たいへん不利になる。欠席が 4 回以上になった者は原則として単位修得の資格を失う。

【学生の意見等からの気づき】

昨年度は「英字新聞の政治・経済記事を読んでディスカッションに備えたい」という学生の希望があり、従来実施している内容に追加して取り入れた。また、実際の場面を収録したビジネス DVD を視聴し、英語の使われる実際の場面についても学習した。これらを導入しても TOEIC 問題一回分が十分に終わり、充実した内容となった。今年度も基本的内容は変わらないが、ご要望にはできる限りこたえたい。

【学生が準備すべき機器他】

英和辞書。英文メール&レター Writing を行う際、備付 PC のない教室が割り当てられた場合は各自のモバイル PC を持ち込むことになる。PC の都合がつかない学生には PC 貸与を受けるなどの方策をとるので、PC の有無で受講を控える必要はない。なお、授業で扱う TOEIC 実問題が難しいと不安な場合は、Hoppii に解説パワーポイントスライドをアップするので予習に活用していただきたい。

【その他の重要事項】

受講希望者は初回授業に出席し、ガイダンスを受けること。

【Outline (in English)】

This class develops communication skills in both spoken and written English needed to succeed in international business and enlarge knowledge of the international business world. At the beginning of every class, students take a short exam of dictation of English sentences frequently used in a business correspondence. There are twenty chapters and the chapter themes follow the real trading process such as Inquiry, Quotations, Offers, Discounts, Orders, Contracts, Opening L/C, Insurance, Shipment, Customs Clearance, Drafts, and so on, and students can have a knowledge of international business flow. Additionally, the main part of class has two phases: listening and reading of business related materials in TOEIC[®], and writing business letters and e-mails. The former activity enables students to imagine a business scene and know the basic format of various documents and English expression used in a business world, and based on these knowledge, they try the latter activity — business correspondence. Beginning from writing formats such as “Leave Request,” “Cash-advanced Request,” “Expense Report,” and documents used in import/export, the final step is writing a business letter with a company letterhead and sending/receiving a business e-mail. All these writings are proofread and returned to students. Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant part from the text. However, they need not to prepare for the listening-mini test and all the writing tasks are performed only in class. Every student's overall grade in the class will be decided based on the following: Term-end examination 60%, mini-listening test average score 10%, and in class contribution 30%.

LANe200LA

ニュース英語 I

2017 年度以降入学者

塩谷 幸子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 3/Mon.3

単位数：1 単位

定員制（20 名）

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

世界を取り巻く様々な状況を英語で正確に理解して、それを批判的に読み解き、その上で自国の社会や文化についても客観的、多面的な視点で捉えることのできる教養豊かな国際人を養成する。

【到達目標】

ニュース英語を正確に読み取る力、聴き取る力を養う。特に、シャドーイングの訓練とライティング（機械翻訳）を中心にリーディング・リスニング・スピーキング・ライティングの技能を高めていく。シャドーイングのトレーニングを通して 1) 音声知覚力の向上 2) 発音・発話の流暢さ 3) 読解力の速さ・正確さが獲得できる。教科書のニュース記事を読みながら、批判的・論理的思考力を鍛えて、自分の意見を発信する力を向上させる。ライティングは今注目を浴びている機械翻訳を利用する。Google や DeepL などのニューラル機械翻訳の登場により、翻訳精度は格段に向上したが、それでも正しい翻訳結果を導き出すにはコツや論理的思考力、そして英語力が必要である。翻訳リテラシーを身につけて、さらにそれをスピーキングへと繋げていく。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部：DP2

【授業の進め方と方法】

授業は教科書を中心に進める。ペア/グループワークを多用し、主体的に、対話的に、そしてより深く学び合う参加型（＝協働学習）の授業を行う。シャドーイングのパフォーマンスチェックや英作文のドラフトチェックなどもグループやペアで行う。使用する CALL（コンピュータ支援の語学学習）教室の特性を活かして、様々な学習ツール（グループワーク機能、音声&文字チャット、音声録音など）を利用しながらクラスメートと共に効率よく学習する。提出課題に対しては、個別またはクラス全体のフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業方針の解説とプレテスト
第 2 回	Unit 1: Before You Read	Vocabulary / Reading
第 3 回	Unit 1: Comprehension	Pros and Cons / Listening
第 4 回	Unit 2: Before You Read	Vocabulary / Reading
第 5 回	Unit 2: Comprehension	Pros and Cons / Listening
第 6 回	Unit 3: Before You Read	Vocabulary / Reading
第 7 回	Unit 3: Comprehension	Pros and Cons / Listening
第 8 回	Unit 4: Before You Read	Vocabulary / Reading
第 9 回	Unit 4: Comprehension	Pros and Cons / Listening
第 10 回	Unit 5: Before You Read	Vocabulary / Reading

第 11 回	Unit 5: Comprehension	Pros and Cons / Listening
第 12 回	Unit 6: Before You Read	Vocabulary / Reading
第 13 回	Unit 6: Comprehension	Pros and Cons / Listening
第 14 回	プレゼンテーション & 期末試験（筆記）	まとめ & ポストテスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 60 分程度を標準とする。
・教科書の予習や英文のチャンク分け、シャドーイング練習を続けることによって、自立的な学習習慣を身につけて欲しい。

【テキスト（教科書）】

< I > Let's Work with AI! < I >（三修社, 2022）

【参考書】

Grammar in Use Intermediate, 3rd Edition (Cambridge U. P., 2010)

Practical English Usage (Oxford U. P., 2005)

その他の参考書や参考サイトについては授業時に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

期末試験（筆記）50% + プレゼンテーション 20% + 提出課題 20% + 平常点 10% によって評価する。成績評価は 100 点満点とし、60 点以上を合格点とする。

欠席が 4 回以上になった場合は単位修得の資格を失う（ただし、忌引きや登校停止を必要とする流行性疾患は除く）。遅刻・早退 3 回で欠席 1 回の扱いとする。授業開始後 30 分以上の遅刻、および授業終了 30 分以前の退出は欠席とみなす。

【学生の意見等からの気づき】

引き続きペア・グループワークを取り入れる。

【学生が準備すべき機器他】

初回授業から学内ネットワークを利用するので、受講生は ID とパスワードを確認しておくこと。

【その他の重要事項】

コンピュータを利用して授業を行うが、機器類の使い方については授業時に詳しく説明するので、パソコン操作が苦手な学生でも問題なく受講できる。

【Outline (in English)】

This course is designed to nurture well-educated global citizens who can accurately understand various situations surrounding the world today and also grasp the society and culture of their own countries from an objective and multifaceted viewpoint.

The main focus of this class is to improve students' reading speed and accuracy through phrase reading and oral reading / shadowing practice. Shadowing is a language learning technique in which you listen to a model and repeat what you hear with as little delay as possible. The main benefits of this training are 1) improved speech perception, 2) fluency in pronunciation and speech, and 3) enhanced speed and accuracy in reading comprehension.

This course will cover a wide range of significant issues confronting the world today. It expects students to gain an increased critical understanding of them in order to become responsible global citizens.

- ・ Students will learn to read and listen efficiently.
- ・ Students will develop critical reading and thinking skills.
- ・ Students will acquire knowledge and skills to become autonomous learners of English.

Students are required to practice phrase reading and shadowing at least for 60 minutes a week outside of class.

Grading Criteria: Final Exam (50%) + Presentation (20%) + Assignments (20%) + Participation (10%)

LANe200LA

ニュース英語Ⅱ

2017年度以降入学者

塩谷 幸子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 3/Mon.3

単位数：1 単位

定員制（20名）

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

世界を取り巻く様々な状況を英語で正確に理解して、それを批判的に読み解き、その上で自国の社会や文化についても客観的かつ多面的な視点で捉えることのできる教養豊かな国際人を養成する。

【到達目標】

ニュース英語を正確に読み取る力、聴き取る力を養う。特に、シャドーイングの訓練とライティング（機械翻訳）を中心にリーディング・リスニング・スピーキング・ライティング4技能を高めていく。シャドーイングのトレーニングを通して1) 音声知覚力の向上 2) 発音・発話の流暢さ 3) 読解力の速さ・正確さが獲得できる。教科書のニュース記事を読みながら、批判的・論理的思考力を鍛えて、自分の意見を発信する力を向上させる。ライティングは今注目を浴びている機械翻訳を利用する。Google や DeepL などのニューラル機械翻訳の登場により、翻訳精度は格段に向上したが、それでも正しい翻訳結果を導き出すにはコツや論理的思考力、そして英語力が必要である。翻訳リテラシーを身につけて、さらにそれをスピーキングへと繋げていく。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。人間環境学部：DP2

【授業の進め方と方法】

授業は教科書を中心に進める。ペア/グループワークを多用し、主体的に、対話的に、そしてより深く学び合う参加型（=協働学習）の授業を行う。シャドーイングのパフォーマンスチェックや英作文のドラフトチェックなどもグループやペアで行う。使用する CALL（コンピュータ支援の語学学習）教室の特性を活かして、様々な学習ツール（グループワーク機能、音声&文字チャット、音声録音など）を利用しながらクラスメートと共に効率よく学習する。提出課題に対しては、個別またはクラス全体のフィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	イントロダクション	授業方針の解説とプレテスト
第2回	Unit 7: Before You Read	Vocabulary / Reading
第3回	Unit 7: Comprehension	Pros and Cons / Listening
第4回	Unit 8: Before You Read	Vocabulary / Reading
第5回	Unit 8: Comprehension	Pros and Cons / Listening
第6回	Unit 9: Before You Read	Vocabulary / Reading
第7回	Unit 9: Comprehension	Pros and Cons / Listening
第8回	Unit 10: Before You Read	Vocabulary / Reading
第9回	Unit 10: Comprehension	Pros and Cons / Listening
第10回	Unit 11: Before You Read	Vocabulary / Reading

第11回	Unit 11: Comprehension	Pros and Cons / Listening
第12回	Unit 12: Before You Read	Vocabulary / Reading
第13回	Unit 12: Comprehension	Pros and Cons / Listening
第14回	プレゼンテーション & 期末試験（筆記）	まとめ & ポストテスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて60分程度を標準とする。教科書の予習や英文のチャンク分け、シャドーイング練習を続けることによって、自律的な学習習慣を身につけて欲しい。

【テキスト（教科書）】

< I > Let's Work with AI! < I >（三修社, 2022）

【参考書】

Grammar in Use Intermediate, 3rd Edition (Cambridge U. P., 2010)

Practical English Usage (Oxford U. P., 2005)

その他の参考書や参考サイトについては授業時に適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

期末試験（筆記）50% + プレゼンテーション 20% + 提出課題 20% + 平常点 10% によって評価する。成績評価は100点満点とし、60点以上を合格点とする。

欠席が4回以上になった場合は単位修得の資格を失う（ただし、急引きや登校停止を必要とする流行性疾患は除く）。授業開始後30分以上の遅刻、および授業終了30分以前の早退は欠席とみなし、遅刻・早退3回で欠席1回の扱いとする。

【学生の意見等からの気づき】

引き続きペア・グループワークを取り入れる。

【学生が準備すべき機器他】

初回授業から学内ネットワークを利用するので、受講生はIDとパスワードを確認しておくこと。

【その他の重要事項】

コンピュータを利用して授業を行うが、機器類の使い方については授業時に詳しく説明するので、パソコン操作が苦手な学生でも問題なく受講できる。

【Outline (in English)】

This course is designed to nurture well-educated global citizens who can accurately understand various situations surrounding the world today and also grasp the society and culture of their own countries from an objective and multifaceted viewpoint.

The main focus of this class is to improve students' reading speed and accuracy through phrase reading and oral reading / shadowing practice. Shadowing is a language learning technique in which you listen to a model and repeat what you hear with as little delay as possible. The main benefits of this training are 1) improved speech perception, 2) fluency in pronunciation and speech, and 3) enhanced speed and accuracy in reading comprehension.

This course will cover a wide range of significant issues confronting the world today. It expects students to gain an increased critical understanding of them in order to become responsible global citizens.

- ・ Students will learn to read and listen efficiently.
- ・ Students will develop critical reading and thinking skills.
- ・ Students will acquire knowledge and skills to become autonomous learners of English.

Students are required to practice phrase reading and shadowing at least for 60 minutes a week outside of class.

Grading Criteria: Final Exam (50%) + Presentation (20%) + Assignments (20%) + Participation (10%)

ARSe200LA

日本語の世界 L A

2017 年度以降入学者

サブタイトル：

尾形 太郎

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 3/Wed.3

単位数：2 単位

定員制 (30 名)

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

日本語、特に日本語の文法について考え、学ぶ授業です。普段とは違う観点から日本語を見つめなおし、私たちの日常的な日本語運用の中に隠れているメカニズムに迫ります。その際、日本語学、認知言語学、語用論などの知見を参照しますので、これら学問の基本的な考え方 (のいくつか) についても学ぶことができます。ただし、受講に当たって言語学の知識は全く必要ありません。日本の大学で日本語で学ぶに十分な日本語能力さえあれば、どんな人でも受講可能です。

【到達目標】

1. 日本語文法への理解を深める。
2. 日本語学におけるいくつかの基本的概念や理論を学ぶ。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

資料を用いた学習・議論⇒課題

各回の課題へのフィードバックは、授業中に口頭で行うか、Hoppiを用いて行う。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
①	授業ガイダンス	授業ガイダンス
②	日本語における格 「♪私だけ愛してた」 ～誰が誰を愛してた?	日本語における格を考える
③	「大学へ行った」は○、「へ」「に」「で」から場所に関連 「風呂へ入った」は△、 「電車へ乗った」は ×	する助詞の機能の違いを考える
④	「新しい i ●●、また 売り切れだっ」「え、 昨日、ヨドバシ }に/ で あったよ。」～こ ういう場合、デでも O K なんですかね?	場所を表す助詞二とデの違いを考 える
⑤	「(i ●●) ヨドバシで あったよ」とは言えて も、「(i ●●)、ノート PC コナーの隣であっ たよ」とは言えないの はなぜ?	場所を表す助詞二とデの違いを考 える
⑥	「あ、お湯がわいて (い)る」vs「あ、お 湯がわいた」は同じ出 来事を表している?	「てい(る)」と「た」の違いから 日本語における出来事の様相の捉 え方を考える

- ⑦ 「あ、レポート、今日 「た」から日本語の時間認識を考
までだった!」～今日 える
のことなのに何でタッ
て言うの?
- ⑧ 「犯人はルパンだ」vs 「は」と「が」の機能の違いを考
「犯人がルパンだ」、 える
「ルパンが犯人だ」vs
「ルパンは犯人だ」
- ⑨ で、「は」と「が」っ 日本語学習者に「は」と「が」の
てどうやって使いわけ 違いを教えるにはどうすればいい
ればいいのか? か考える
- ⑩ 「あ～何だか体がだる 「はずだ」の意味と機能を考える
い。風邪を引いたはず
だ。」とは言えないの
はなぜ?
- ⑪ 学生「先生、「あー」「あー」と「えーと」の機能を
の意味ってなんで 考える
すか?」
先生「えーと、「あ
ー」の意味はです
ね、あー…」
- ⑫ 「あ、0 点」vs 「え、0 感動詞が表す「心の働き」を考え
点」vs 「お、0 点」 る
- ⑬ A「この授業、退屈 「でも」と「ところが」の違いを
だね」 考える
B「うん。|でも/??と
ころが、試験は簡単
らしいよ。」
- ⑭ 学期のまとめ まとめと期末課題の説明

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

日本語の文法を観察・内省し、自分なりの問いを立てること。本授業の準備学習・復習時間は、1 時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

授業中にハンドアウトを配布します。

【参考書】

授業中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

授業への参加 (毎回の課題、事前課題) 50%、期末課題 50%で、評価を決める。期末課題は選択制 (複数の課題の中から 2 つ選び、授業内容を踏まえ解答する)。

【学生の意見等からの気づき】

「普段は意識せずに使っている日本語について、深く知ることができた」「過去を表すタなど、ひとつの文法が色々な機能を持っていることがわかり興味深かった」「文法が、私たちが出来事を体験する仕方や認識する仕方と関連していることがわかり、面白かった」「授業で学んだことを生かして、外国人の友達に日本語を教えたい」と言った肯定的なコメントを踏まえ、更に授業の内容を充実させていきたいと思っています。また、異なる国籍、文化の人たちと話し合えることが好評なので、毎回ディスカッションを実施していく予定です。

【その他の重要事項】

普段とは違う観点から日本語を見つめなおし、日本語の中に隠れているメカニズムに好奇心を持って迫ってみてください。言語学や日本語学についての特別な知識は必要ありません。日本語をさらに深く習得したい留学生、自分の母語について少し詳しく知りたい日本語母語話者、日本語教育に携わりたい人などにとって興味深い授業となるよう努めます。言語学を学んだことがある人ももちろん歓迎します。なお、授業計画は、一部変更することがあります。

【Outline (in English)】

This class is an introduction of the Japanese linguistics, which especially treats some grammatical topics. Students are required to approach mechanisms hidden in our ordinary use of Japanese.

Because some ideas of Japanese linguistics, cognitive linguistics and pragmatism are introduced through the task, students can learn some basic ideas in these fields.

Goal : (1) Deepen understanding of Japanese grammar
(2) Learn some basic concepts and theories in the field of the Japanese linguistics

Work to be done outside of class (preparation, etc. : one hour

Grading criteria : Participation (50%), Final report (50%)

ARSe200LA

日本語の世界 L B

2017 年度以降入学者

サブタイトル：

尾形 太郎

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 3/Wed.3

単位数：2 単位

定員制 (30 名)

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

日本語、特に日本語の文法について考え、学ぶ授業です。普段とは違う観点から日本語を見つめなおし、私たちの日常的な日本語運用の中に隠れているメカニズムに迫ります。その際、日本語学、認知言語学、語用論、日本語教育学などの知見を参照しますので、これら学問の基本的な考え方 (のいくつか) についても学ぶことができます。ただし、受講に当たって言語学の知識は全く必要ありません。日本の大学で日本語で学ぶに十分な日本語能力さえあれば、どんな人でも受講可能です。

【到達目標】

- 1) 日本語文法への理解を深める
- 2) 日本語学におけるいくつかの基礎的な概念や理論について学ぶ

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

課題 → 教材を用いた学習・議論 → 課題

各回の課題へのフィードバックは、授業中に口頭で行うか、Hoppiを用いて行う。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
①	授業ガイダンス 世界の言語の中の日本語①	授業の進め方の説明 今までに学んだ言語と日本語を比べる / 先学期と今学期の授業内容の紹介
②	「彼女にふられた (涙)」 vs 「彼女は私をふった」 ～日本人は受身がち?	ヴォイス (態) について「視点」概念から考える
③	～「あ、黒猫が黒猫を追いかけてる」 vs 「あ、黒猫が黒猫に追いかけてる」 ～能動/受動はどのように使い分けられているのか	ヴォイス (態) について「人称階層」概念から考える
④	A「ここ、涼しいね」 B「うん、ここ、涼しい」 / A「ここ、涼しいね」 B「え、そこ、涼しいの? ここは暑いよ」～	「こそあ」の「対立型」「融合型」について考える

- ⑤ (壁に飾られた絵を見ている B に A が話しかける)
A「|その/あの| 絵、私が描いたんです。」
～「その」と「あの」のあいまいな (?) 境界
- ⑥ 「昨日、キャンパスで A の人、リクルートスーツを着てるのに、頭はモヒカン刈りなんだよ。」の「あの人」に違和感を感じませんか?
- ⑦ 孫「おじいちゃんが学生の時ってどんなだった?」祖父「学生の頃か…、|あの/?? その| 頃はな…」～なぜ A は自然、ソは不自然なのか～
- ⑧ 「あ、(私の猫がみかんを) 食べてる」が、
My cat is eating an orange. を意味しないのはどんな時?
- ⑨ (科学者が実験室の明かりを消して)「さあ、これで何も |見えません/見えていません|～「ている」が使えるのはどんな時?
- ⑩ 車内放送で「この電車は終点東京まで各駅に止まるつもりです。」と言われたら、ちょっと心配になってしまうのはなぜ?
- ⑪ 先生「A さん、予習しましたか?」
学生 A「はい、しました。」
先生「ふーん、それでしたつもりですか。」
～「～つもりですか」と言われると責められている気がするのはなぜ?
- ⑫ 学生「先生、すみません、これ、先週締め切りのレポートです。」
vs 「先生、すみません、これは、先週締め切りのレポートです。」
～「は」がないほうがいように感じませんか?
- ⑬ 「そうですね」 vs 「そうですねよ」 vs 「そうですね」
- ⑭ ヨとネには色々な説があります |よ/ね| ～ 諸説を検討する

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

日本語の文法を観察・内省し、自分なりの問いを立てること。本授業の準備学習・復習時間は、各 1 時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

授業中にハンドアウトを配布します。

【参考書】

授業中に紹介します。

【成績評価の方法と基準】

授業への参加（討論での発言、リアクション・ペーパーなど）60%、
期末レポート 40%で、評価を決める。

出席率が 70%以上であることを単位取得の条件とする。

【学生の意見等からの気づき】

「普段は意識せずに使っている日本語について、深く知ることができた」「過去を表すタなど、ひとつの文法が色々な機能を持っていることがわかり興味深かった」「文法が、私たちが出来事を体験する仕方
や認識する仕方と関連していることがわかり、面白かった」「授業で
学んだことを生かして、外国人の友達に日本語を教えたい」と言っ
た肯定的なコメントを踏まえ、更に授業の内容を充実させていきな
いと思っています。

また、異なる国籍、文化の人たちと話し合えることが好評なので、毎
回ディスカッションを実施していく予定です。

【その他の重要事項】

普段とは違う観点から日本語を見つめなおし、日本語の中に隠れて
いるメカニズムに好奇心を持って追ってみてください。

言語学や日本語学についての特別な知識は必要ありません。

日本語をさらに深く習得したい留学生、自分の母語について少し詳し
く知りたい日本語母語話者、日本語教育に携わりたい人などにとっ
て興味深い授業となるよう努めます。

言語学を学んだことがある人ももちろん歓迎します。

なお、授業計画は、一部変更することがあります。

【Outline (in English)】

This class is an introduction of the Japanese linguistics, which especially treats some grammatical topics. Students are required to approach mechanisms hidden in our ordinary use of Japanese.

Because some ideas of Japanese linguistics, cognitive linguistics and pragmatism are introduced through the task, students can learn some basic ideas in these fields.

Goal : (1) Deepen understanding of Japanese grammar
(2) Learn some basic concepts and theories in the field of the Japanese linguistics

Work to be done outside of class (preparation, etc. : one hour

Grading criteria : Participation (50%), Final report (50%)

ARSe200LA

日本の文化と社会 L A

2017 年度以降入学者

サブタイトル：

尾形 太郎

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 2/Wed.2

単位数：2 単位

定員制 (30 名)

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

今学期は、「生 (生命・生活)」をテーマに、安楽死、障害者差別、を取り上げます。授業では、例えば、「(積極的) 安楽死の是非」「障害」は「障害者」の能力 (の不足・欠如) の問題なのか」といった問いについて議論し、文献を読み (ドキュメンタリーを視聴することも考えています)、更に議論を含めることで、現代日本社会が直面する具体的な問題への認識を深めます。

授業で扱う問題に関する知識がなくとも授業に参加することは可能です。授業を通して基本的な知識を身に付けること、また、問題への関心を深めることが授業の目的の一つです。(扱う問題は、参加者の関心に応じて変更する場合があります。)

また、ディスカッションを通して様々な意見に触れ、視野を広げること、複眼的に問題を考える姿勢を身に付けることもこの授業の目的です。

【到達目標】

1. 問題について基本的な知識を身に付けること、問題への関心を深め探求すること。
2. 異なる意見に触れ、自らとは異なる視点から問題を考える態度を身に付けること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

- ①トピックに関する議論を行う。(グループ・ディスカッション)
 - ②トピックに関連する文献紹介を行う/聞く
 - ③②を踏まえ、再度議論を行う。
- 学期末の授業回では、②を学生が担当します。
各回の課題へのフィードバックは、授業中に口頭で行うか、Hoppiを用いて行います。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】
あり/Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】
なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
①	オリエンテーション	授業の進め方を説明する。安楽死・尊厳死について現段階にどう考えるか意見を共有する
②	安楽死の分類、歴史的背景、安楽死と尊厳死との違い	安楽死・尊厳死についての基本的な知識を学ぶ
③	「安楽死=よい死」「延命治療 → 悪い死」というイメージについて	「よい死」「悪い死」とは？「延命治療」は悪いもの？
④	死の自己決定について	死の「自己決定」にもとづく安楽死肯定論について考える
⑤	「日本社会」「日本の医療文化」と安楽死・尊厳死	日本の医療文化や社会の特徴から「死ぬ権利」を考える

- ⑥ 安楽死がもたらすリスクについて 安楽死は社会にどのようなリスクをもたらすか考える
- ⑦ 社会的弱者にとつての安楽死 社会的弱者へのリスクという観点から安楽死の法制化に反対する議論への反論を考える
- ⑧ ここまでの授業内容の振り返り/障害者差別について事例から考える 障害者に対する「乗車拒否？」の事例について考える
- ⑨ 障害の個人モデルと社会モデル 「障害」とは？ 「個人モデル」と「社会モデル」について考える
- ⑩ 障害者差別解消法と合理的配慮 障害者差別解消法と合理的配慮の基本理念について理解を深める
- ⑪ みえない特権とは何か 「健全者」は「特権」を持っている？ 「みえない特権」論を考える
- ⑫ 自由発表 (文献紹介) 安楽死または障害者差別に関する文献を受講生が紹介する
- ⑬ 自由発表 (文献紹介) 安楽死または障害者差別に関する文献を受講生が紹介する
- ⑭ 自由発表 (文献紹介) 安楽死または障害者差別に関する文献を受講生が紹介する

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は、2 時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

各回資料を配布する。

【参考書】

(以下の資料を通読する、ということではなく、その一部を授業内で紹介するということなのでご安心ください。)

有馬 齊 (2019) 『死ぬ権利はあるか—安楽死、尊厳死、自殺補助の是非と命の価値』 春風社
安藤泰至 (2019) 『安楽死・尊厳死を語る前に知っておきたいこと』 岩波書店
荒井祐樹 (2020) 『障害者差別を問いなおす』 筑摩書房
川島聡他 (2016) 『合理的配慮』 有斐閣
竹内章郎 (2020) 『いのちと平等をめぐる 13 章 優生思想の克服のために』 生活思想社
立岩真也 (2008) 『よい死』 筑摩書房
立岩真也 (2001) 『弱くある自由へ 自己決定・介護・生死の技術』 青土社
西原和久他 (2021) 『マイノリティ問題から考える社会学・入門』 有斐閣
松田純 (2018) 『安楽死・尊厳死の現在-最終段階の医療と自己決定』 中央公論社
宮下洋一 (2017) 『安楽死を遂げるまで』 小学館
その他、雑誌や新聞の記事

【成績評価の方法と基準】

各回の課題：30%
発表 (文献紹介)：20%
期末レポート：50%

【学生の意見等からの気づき】

「今まで考えたこともなかった問題について考えるきっかけを得ることができた」「議論の中で、自分の考えを言語化することで、今までぼんやりと考えていたことが整理できた」といったコメントを読み、とてもうれしく思います。
今後も、この授業から少しでも多くの学生の皆さんが「気づき」「興味」「問題意識」を得る、あるいは深めることができるよう努力したいと思っています。
また、グループ討論で異文化交流ができるという点が好評なので、多国籍のグループ構成ができるように努めます。

【その他の重要事項】

この授業は、留学生と日本人学生が議論し、交流を深める貴重な機会となっています。
日本人学生と意見を交換したい留学生のみなさん、普段あまり留学生と話す機会がない日本人学生のみなさん、どちらもぜひこの機会を利用してもらえたらと思います。

【Outline (in English)】

The class will treat some actual problems we are confronting in Japanese society. We will discuss them from different viewpoints; international students' and Japanese students' ones. The class will provide students with opportunities to approach the problems through reading papers, presentations, and discussions with those who have different cultural and social backgrounds.

Goal:(1) Learn basic knowledge about the topics and inquire the issues with deep interest (2)Acquire an attitude to think about issues from different viewpoints by being exposed to different opinions.

Work to be done outside of class (preparation, etc.): Two hours

Grading criteria : Assignments(30%), Presentation(20%), Final report(50%)

ARSe200LA

日本の文化と社会 L B

2017 年度以降入学者

サブタイトル：

尾形 太郎

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 2/Wed.2

単位数：2 単位

定員制（30 名）

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

今学期は、ジェンダー格差、性的マイノリティ差別の問題を様々な観点から取り上げます。本授業は、学生間の議論や文献読解、また発表を通し、これらの問題への認識を深める機会を提供します。授業で扱う問題に関する知識がなくとも授業に参加することは可能です。授業を通して基本的な知識を身に付け、また、問題への関心を深めることが授業の目的の一つです。（扱う問題は、参加者の関心に応じて変更する場合があります。）

また、ディスカッションを通して様々な意見に触れ、視野を広げること、複眼的に問題を考える姿勢を身に付けることもこの授業の目的です。

【到達目標】

1. 問題について基本的な知識を身に付けること、問題への関心を深めること。
2. 異なる意見に触れ、自らとは異なる視点から問題を考える態度を身に付けること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

- ①トピックに関する議論を行う。（グループ・ディスカッション）
 - ②トピックに関連する文献紹介を行う／聞く
 - ③②を踏まえ、再度議論を行う。
- 各回の課題へのフィードバックは、授業中に口頭で行うか、Hoppiを用いて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
①	オリエンテーション	授業の進め方を説明する。それぞれの興味関心を共有する。
②	ジェンダー格差／差別について、身近な言葉から考える	「〇〇男子/女子」という言い方は問題か？
③	ジェンダーステレオタイプとは何か	「男らしい」「女らしい」といった言葉を出発点にジェンダーステレオタイプ、ジェンダー規範について考える
④	ジェンダーステレオタイプについて、S. ポーヴォワールと I.M ヤングの議論から考える	「女らしさ／男らしさ」～「女の子みたいにボールを投げて」と言われたらどうする？
⑤	日本の労働領域におけるジェンダー格差の現状をデータから探る	日本社会におけるジェンダー格差の実際を統計資料から探る（グループ課題）
⑥	日本の雇用慣行から労働におけるジェンダー格差に迫る	日本型雇用慣行はジェンダー格差とどのように相関するのか探る

- | | | |
|---|----------------------------------|---|
| ⑦ | 女性の管理職昇進を妨げる要因とは何か | 女性は管理職に就くことを望んでいないことを示すデータの背景を考える |
| ⑧ | 「性的マイノリティ」について、SOGI から考える | SOGI 概念を理解し、性的マイノリティを考える上で必要な基本的な考え方を理解する |
| ⑨ | 「同性愛」概念の歴史を学ぶ | 「同性愛は大昔から存在した」は正しい？ 「同性愛」概念の変遷をたどる |
| ⑩ | 「クローゼットから出る」とは？ 「カミングアウト」について考える | 「カミングアウト」とはどのような行為なのか、なぜ「カミングアウト」するのか |
| ⑪ | 「アウトティング」とは何か、なぜそれは「暴力」なのか | 「アウトティング」の暴力性について事例を通して考える |
| ⑫ | 学生による発表① | 履修生が、学期中に扱ったテーマに関する文献紹介または自由発表・質疑応答を行う |
| ⑬ | 学生による発表② | 履修生が、学期中に扱ったテーマに関する文献紹介または自由発表・質疑応答を行う |
| ⑭ | 学生による発表③ | 履修生が、学期中に扱ったテーマに関する文献紹介または自由発表・質疑応答を行う |

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

各回資料を配布する。

【参考書】

（以下の資料を全て読む、ということではなく、その一部を授業内で紹介するということなのでご安心ください。）

佐藤文香監修（2019）『ジェンダーについて大学生が真剣に考えてみた』明石書店

加藤秀一（2017）『はじめてのジェンダー論』有斐閣

大沢真知子編著（2017）『なぜ女性管理職は少ないのか 女性の昇進を妨げる要因を考える』青弓社

稲原美苗他（2020）『フェミニスト現象学入門』ナカニシヤ出版

森山至貴（2017）『LGBT を読みとくークィア・スタディーズ入門』筑摩書房

砂川秀樹（2018）『カミングアウト』朝日出版社

堀江有里（2015）『レズビアン・アイデンティティーズ』洛北出版

杉山麻里子（2016）『ルポ同性カップルの子どもたち アメリカ「ゲイブーム」を追う』岩波書店

その他、雑誌や新聞の記事

【成績評価の方法と基準】

各回の課題（50%）、期末レポート（50%）
出席率が 70 % 以上であることを単位取得の条件とする。

【学生の意見等からの気づき】

「今まで考えたこともなかった問題について考えるきっかけを得ることができた」「議論の中で、自分の考えを言語化することで、今までぼんやりと考えていたことが整理できた」といったコメントを読み、とてもうれしく思います。

今後も、この授業から少しでも多くの学生の皆さんが「気づき」「興味」「問題意識」を得る、あるいは深めることができるよう努力したいと思っています。

また、グループ討論で異文化交流ができるという点が好評なので、多国籍のグループ構成ができるように努めます。

【その他の重要事項】

この授業は、留学生と日本人学生が議論し、交流を深める貴重な機会となっています。

日本人学生と意見を交換したい留学生のみならず、普段あまり留学生と話す機会がない日本人学生のみならず、どちらもぜひこの機会を利用してもらえたらと思います。

【Outline (in English)】

The class will treat Gender disparity and sexual minority discrimination issues in Japanese society. We will discuss them from different viewpoints. The class will provide students with opportunities to approach the problems through reading papers, presentations, and discussions with those who have different cultural and social backgrounds.

Goal:(1) Learn basic knowledge about the topics and inquire the issues with deep interest (2)Acquire an attitude to think about issues from different viewpoints by being exposed to different opinions.

Work to be done outside of class (preparation, etc.): Two hours

Grading criteria : Assignments(30%), Presentation(20%), Final report(50%)

LANd200LA

ドイツ語コミュニケーション I 2017年度以降入学者

JENS OSTWALD

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 3/Wed.3

単位数：1 単位

定員制（20名）

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、日常生活に必要なドイツ語のコミュニケーション能力（聞く、話す、読む、書く）を総合的に養成する。まず、日常生活で遭遇する個々のシチュエーションに即した表現を学び、練習を繰り返すことで、それぞれを確実に身に付け、さらに語彙を拡大する。単語や文法の説明は基本的に日本語で行います。

【到達目標】

ドイツ語の基礎的知識を習得することを目的とする。同時に、既存のイメージに対し新しい視点からドイツ事情を学び、異文化理解力と実用的なドイツ語を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

さまざまなシチュエーションを想定した対話やテキストを題材に、基礎的な語彙・文法をわかりやすく説明する。課題等の提出・フィードバックは授業内あるいは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
①	オリエンテーション 自己紹介 (簡単な表現・会話)	Einführung Zur Person (einfache Redemittel, Übungen)
②	自己紹介 (ほかの表現・練習)	Zur Person (weitere Redemittel, Übungen)
③	趣味 (簡単な表現・会話)	Hobbys (einfache Redemittel, Übungen)
④	趣味 (ほかの表現・練習)	Hobbys (weitere Redemittel, Übungen)
⑤	家族	Familie
⑥	食べ物・飲み物 (簡単な表現・会話)	Essen & Trinken (einfache Redemittel, Übungen)
⑦	食べ物・飲み物 (ほかの表現・練習)	Essen & Trinken (weitere Redemittel, Übungen)
⑧	総復習	Wiederholung (Wortschatz, Grammatik, Redemittel)
⑨	住居	Wohnung
⑩	時刻と日付 (簡単な表現・会話)	Uhrzeit und Datum (einfache Redemittel, Übungen)
⑪	時刻と日付 (ほかの表現・練習)	Uhrzeit und Datum (weitere Redemittel, Übungen)
⑫	文法のまとめ・補足	Grammatik: Zusammenfassung und Ergänzungen
⑬	練習	Übungen zur Wiederholung

⑭ 全体のまとめとテスト Zusammenfassung
Test

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

文法・語彙などの復習 & 課題（ワークブック・プリント・インターネット上の練習問題）

本授業の準備・復習時間は、計1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

配布資料

【参考書】

独和辞典（詳細は一回目の授業時に話します）

【成績評価の方法と基準】

テスト/レポート 50%

平常点 50%

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

オンライン授業に転換になる場合には Zoom で接続可能な機器が必要です。

【Outline (in English)】

Course outline:

German language course (basic grammar and syntax, speech patterns and expressions for daily life; introduction to German culture and society)

Learning Objectives:

The purpose of this course is to acquire practical German language skills and cross-cultural understanding.

Learning activities outside of classroom:

Students will be expected to do homework and review the lessons. The study time will be more than one hour per week.

Grading Criteria /Policy: Term-end examination/report: 50%, in-class contribution 50%

LANd200LA

ドイツ語コミュニケーションⅡ 2017年度以降入学者

JENS OSTWALD

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 3/Wed.3

単位数：1 単位

定員制（20名）

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

春学期に引き続き、この授業では、日常生活に必要なドイツ語のコミュニケーション能力（聞く、話す、読む、書く）を総合的に養成する。まず、日常生活で遭遇する個々のシチュエーションに即した表現を学び、練習を繰り返すことで、それぞれを確実に身に付け、さらに語彙を拡大する。

単語や文法の説明は基本的に日本語で行います。

【到達目標】

ドイツ語の基礎的知識を習得することを目的とする。同時に、既存のイメージに対し新しい視点からドイツ事情を学び、異文化理解力と実用的なドイツ語を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

さまざまなシチュエーションを想定した対話やテキストを題材に、基礎的な語彙・文法をわかりやすく説明する。課題等の提出・フィードバックは授業内あるいは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
①	オリエンテーション	Einführung
②	春学期の復習	Wiederholung
③	旅行のためのドイツ語 1 道を尋ねる (簡単な表現)	Reisedeutsch (Wegbeschreibung - einfache Redemittel)
④	旅行のためのドイツ語 2 道を尋ねる (ほかの表現・会話の練習)	Reisedeutsch (Wegbeschreibung - weitere Redemittel, Übungen)
⑤	旅行のためのドイツ語 3 ホテルで (簡単な表現)	Reisedeutsch (Im Hotel - einfache Redemittel)
⑥	旅行のためのドイツ語 4 ホテルで (ほかの表現・会話の練習)	Reisedeutsch (Im Hotel - weitere Redemittel, Übungen)
⑦	旅行のためのドイツ語 5 レストランで (簡単な表現)	Reisedeutsch (Im Restaurant - einfache Redemittel)

- ⑧ 旅行のためのドイツ語 6
レストランで
(ほかの表現・会話の練習)
 - ⑨ 旅行のためのドイツ語 7
駅にて
(簡単な表現)
 - ⑩ 旅行のためのドイツ語 8
駅にて
(ほかの表現・会話の練習)
 - ⑪ 旅行のためのドイツ語 9
 - ⑫ 文法のまとめ・補足
 - ⑬ 復習
 - ⑭ 全体のまとめとテスト
- Reisedeutsch (Im Restaurant - weitere Redemittel, Übungen)
- Reisedeutsch (Verkehr - einfache Redemittel)
- Reisedeutsch (Verkehr - weitere Redemittel, Übungen)
- Reisedeutsch (Reiseziele)
- Grammatik:
Zusammenfassung und Ergänzungen
Übungen zur Wiederholung
- Zusammenfassung
Test

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

文法・語彙などの復習 & 課題（ワークブック・プリント・インターネット上の練習問題）
本授業の準備・復習時間は、計1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

配布資料

【参考書】

独和辞典（詳細は一回目の授業時に話します）

【成績評価の方法と基準】

テスト/レポート 50%

平常点 50%

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

オンライン授業に転換になる場合には Zoom で接続可能な機器が必要です。

【Outline (in English)】

Course outline:

German language course (basic grammar and syntax, speech patterns and expressions for daily life; introduction to German culture and society)

Learning Objectives:

The purpose of this course is to acquire practical German language skills and cross-cultural understanding.

Learning activities outside of classroom:

Students will be expected to do homework and review the lessons. The study time will be more than one hour per week.

Grading Criteria /Policy: Term-end examination/report: 50%, in-class contribution 50%

LANd200LA

ドイツ語表現法 I

2017 年度以降入学者

Schmidt Ute

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 2/Tue.2

単位数：1 単位

定員制（20 名）

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ドイツ語を書いてみましょう：一言の文からまとまったテキストまで。

基礎文法を含むテキストを用い、授業を通じて「読む」「書く」「聞く」「話す」の四技能を総合的に体得することが目標ですが、書くことを重点的に練習します。身近なテーマや興味のある領域について、簡単な表現でまとまった内容を伝えることを習います。会話は苦手でも、ドイツ語で表現してみたいと思うなら是非トライしてみてください。ドイツ語圏の日常生活や文化に触れる機会も数多く設けたと思います。

【到達目標】

受講者は以下のことができるようになります。

- 1) 発音のルールを知って、初見の単語や文章も発音できる。
- 2) 基本的な文法事項を習得する。
- 3) 辞書を使い、初級のテキストが理解できる。
- 4) 自分の経験や出来事を説明し、夢や希望、目標について述べるができる。
- 5) 自己紹介をはじめ、実用的な手紙、メール、コメントなどを書ける。
- 6) 想定された場面における基本的な口語表現が聞き取れる。
- 7) 想定された場面における基本的な口語表現を用いて簡単な会話ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

授業ではドイツ語圏の日常と文化について、テキストを読み、書くために必要な単語を学び、自分のことを説明したり、コメントしたり、または日本の事情を紹介します。一人で書くこともあります、パートナーと又はグループで力を合わせてテキストや物語を作成することもあります。

作文は必ず添削して返却されます。課題等の提出・フィードバックは授業時間または「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1.	Erste Schritte: Persönliche Angaben machen Sich selbst vorstellen	自己紹介を書く I 辞書の使い方 I
2.	Länder, Städte, Zahlen	自分の出身を紹介する 人を紹介する
3.	Meine Stadt beschreiben	方位と場所
4.	Mein Alltag	日常 時間を表す
5.	Tagesablauf	助動詞
6.	Hobby und Freizeit	分離動詞

7.	Freizeitangebote in der Stadt	場所と時間を表す
8.	Liebblingsdinge beschreiben	好きな「もの」を紹介する 冠詞と代名詞
9.	作文作成 2	発表
10.	Essen und Trinken	食生活についてと好み
11.	Im Restaurant	レストランのメニューと注文
12.	Süßigkeiten in Deutschland und Japan	日本のお菓子について書く
13.	Vor den Ferien I	不規則動詞 話法の助動詞
14.	Vor den Ferien II	休暇中の予定

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は 1 時間を標準とします。予習は特に必要ありませんが、授業で学習した内容の復習は必須です。特に単語は必ず覚えてください。宿題としては家で作文を書く、完成させる、修正することがあります。

【テキスト（教科書）】

初回授業で案内します。

【参考書】

『ドイツ語を書いてみよう！』清野智明

白水社

ISBN : 9784560064177

【成績評価の方法と基準】

授業中の課題に取り組む態度（50%）
提出してもらったドイツ語の作文（50%）
を総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

和独辞典が必要です。電子辞書可。

【その他の重要事項】

「授業計画」は、授業の進度により変更する可能性があります。

【Outline (in English)】

In this course students will focus on writing short texts, beginning with a self-introduction, e-mails or essays on every-day life topics. We will use a beginner textbook including all four areas of language skills, so that students can review and practice basic grammar and vocabulary. They will also have a chance to learn about cultural life in German speaking countries.

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be about one hour for a class.

Grading will be decided based on class participation (50%) and written homework (50%).

LANd200LA

ドイツ語表現法Ⅱ

2017 年度以降入学者

Schmidt Ute

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 2/Tue.2

単位数：1 単位

定員制（20 名）

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ドイツ語を書いてみましょう：一言の文からまとまったテキストまで基礎文法を含むテキストを用い、授業を通じて「読む」「書く」「聞く」「話す」の四技能を総合的に体得することが目標ですが、書くことを重点的に練習します。身近なテーマや興味のある領域について、簡単な表現でまとまった内容を伝えることを習います。会話は苦手でも、ドイツ語で表現してみたいと思うならば是非トライしてみてください。ドイツ語圏の日常生活や文化に触れる機会も数多く設けたと思います。

【到達目標】

受講者は以下のことができるようになります。

- 1) 発音のルールを知って、初見の単語や文章も発音できる。
- 2) 基本的な文法事項を習得する。
- 3) 辞書を使い、初級のテキストが理解できる。
- 4) 自分の経験や出来事を説明し、夢や希望、目標について述べるができる。
- 5) 自己紹介をはじめ、実用的な手紙、メール、コメントなどを書ける。
- 6) 想定された場面における基本的な口語表現が聞き取れる。
- 7) 想定された場面における基本的な口語表現を用いて簡単な会話ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

授業ではドイツ語圏の日常と文化について、テキストを読み、書くために必要な単語を学び、自分のことを説明したり、コメントしたり、または日本の事情を紹介します。一人で書くこともありますが、パートナーと又はグループで力を合わせてテキストや物語を作成することもあります。

作文は必ず添削して返却されます。課題等の提出・フィードバックは授業内または「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1.	Nach den Ferien	現在完了形
2.	Postkarte	Postkarte schreiben 手紙を書く
3.	Wohnen	前置詞
4.	Mein Traumhaus	住まいについて書く
5.	Wohnen in der Stadt oder auf dem Land ?	理由を表す
6.	Jahreskalender Datum und Monate Feiertage	年間行事 招待状を書く
7.	Feste feiern	複文
8.	An der Universität	大学について書く
9.	Meine Universität	グループワーク： 1 大学紹介を書く

10.	Meine Universität	グループワーク発表 2
11.	Eine Reise planen	旅行計画
12.	Sehenswürdigkeiten vorstellen	観光名所の紹介文を書く
13.	Erlebnisse und Erfahrungen	過去形 1 私の人生
14.	Erlebnisse und Erfahrungen	プレゼンテーション発表 2

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備・復習時間は1時間を標準とします。予習は特に必要ありませんが、授業で学習した内容の復習は必須です。特に単語は必ず覚えてください。宿題としては家で作文を書く、完成させる、修正することがあります。

【テキスト（教科書）】

初回授業で案内します。

【参考書】

『ドイツ語を書いてみよう！』清野智明
白水社
ISBN：9784560064177

【成績評価の方法と基準】

授業中の課題に取り組む態度（50%）
提出してもらったドイツ語の作文（50%）
を総合的に評価します。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

和独辞典が必要。電子辞書可。

【その他の重要事項】

「授業計画」は、授業の進捗により変更する可能性があります。

【Outline (in English)】

In this class we will focus on writing short texts, beginning with a self-introduction, e-mails or essays on every-day life topics. We will use a beginner textbook including all four areas of language skills, so that students can review and practice basic grammar and vocabulary. They also have a chance to learn about cultural life in German speaking countries. Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be about one hour for a class. Grading will be decided based on class participation (50 %) and written homework (50 %)

LANd200LA

ドイツ語視聴覚 I

2017 年度以降入学者

D. ハイデンライヒ

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 5/Fri.5

単位数：1 単位

定員制 (30 名)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ショートアニメと映画の台詞から学ぶドイツ語
スイスにある、ドイツ語学校が作成している無料の Youtube 学習
チャンネルの教材（レベル A2 ~ B1）を用いて、コミカルなイラスト
を楽しみ、語彙を増やし、日常のシーンで使えるドイツ語を学び
ます。
ドイツ語の基礎文法を一通り学び終えた方を対象に、中級への橋渡
しを目的とする授業です。

【到達目標】

- アニメと映画で楽しくドイツ語の読解力やリスニング力などを向
上させる。
- メディア・リテラシー（海外のメディアを効果的に活用する力な
ど）を向上させる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示された
どの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針
に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学
部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国
際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学
部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

毎回違うテーマで5分～15分程度のショートアニメと映画の台詞
を読み、新しい言葉の説明、内容を正確に翻訳する。様々な応用練
習を行い、課題を出す。次の授業にて解説を実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	シラバスを読み、 授業内容を確認する。
2	「アニメ (Grammatik)」(1)	ショートアニメの台詞から文法 (レベル A2 ~ B1) への理解を深 める。
3	「アニメ (Grammatik)」(2)	ショートアニメの台詞から文法 (レベル A2 ~ B1) への理解を深 める。
4	「アニメ (Grammatik)」(3)	ショートアニメの台詞から文法 (レベル A2 ~ B1) への理解を深 める。
5	「アニメ (Grammatik)」(4)	ショートアニメの台詞から文法 (レベル A2 ~ B1) への理解を深 める。
6	「アニメ (Geschichten)」(1)	ショートアニメの台詞から日常の シーンで使えるドイツ語を学ぶ。
7	「アニメ (Geschichten)」(2)	ショートアニメの台詞から日常の シーンで使えるドイツ語を学ぶ。
8	「アニメ (Geschichten)」(3)	ショートアニメの台詞から日常の シーンで使えるドイツ語を学ぶ。
9	「アニメ (Geschichten)」(4)	ショートアニメの台詞から日常の シーンで使えるドイツ語を学ぶ。
10	「映画 (Kultfilm)」 (1)	映画の台詞を読み、本物のドイツ 語対話を覚える。
11	「映画 (Kultfilm)」 (2)	映画の台詞を読み、本物のドイツ 語対話を覚える。

12	「映画 (Kultfilm)」 (3)	映画の台詞を読み、本物のドイツ 語対話を覚える。
13	「映画 (Kultfilm)」 (4)	映画の台詞を読み、本物のドイツ 語対話を覚える。
14	まとめ	春学期に学んだ内容を確認する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で扱われたムービーなどを用いて個人で自己学習を進めることが
望まれます。
「本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。」

【テキスト（教科書）】

テキストは使わず、学習支援システムに事前に授業資料をアップし
ます。各自プリントアウトして授業に持参してください。

【参考書】

教室で指定する。

【成績評価の方法と基準】

数回の課題提出を含む平常点：100%

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

Hoppii 学習支援システムを利用するので、情報機器（パソコン、プ
リンター）などを準備して下さい。これらの環境を整えることが難
しい場合は、大学の PC やプリンター、wifi を利用して下さい。

【Outline (in English)】

Enjoy comical illustrations, increase your vocabulary, and
learn German that can be used in everyday situations using
the free Youtube learning channel materials (levels A2 to B1)
created by a German language school in Switzerland.

This class is aimed at those who have finished learning basic
German grammar, and aims to serve as a bridge to the
intermediate level.

- Improve your German reading and listening skills in a fun
way with anime and movies.
- Improving media literacy (the ability to effectively use
foreign media, etc.).

Preparation and review.

The standard for preparatory study and review time for this
class is 1hour in total.

Ordinary score including assignment submission: 100%

LANd200LA

ドイツ語視聴覚Ⅱ

2017年度以降入学者

D. ハイデンライヒ

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 5/Fri.5

単位数：1 単位

定員制（30 名）

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ショートアニメと映画の台詞から学ぶドイツ語
スイスにある、ドイツ語学校が作成している無料の Youtube 学習
チャンネルの教材（レベル B1～B2）を用いて、コミカルなイラスト
を楽しむ、語彙を増やし、日常のシーンで使えるドイツ語を学び
ます。
春学期の授業に引き続き、中級への橋渡しを目的とする授業です。

【到達目標】

- アニメと映画で楽しくドイツ語の読解力やリスニング力などを向上させる。
- メディア・リテラシー（海外のメディアを効果的に活用する力など）を向上させる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示された
どの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針
に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学
部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国
際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学
部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

毎回違うテーマで5分～15分程度のショートアニメと映画の台詞
を読み、新しい言葉の説明、内容を正確に翻訳する。様々な応用練
習を行い、課題を出す。次の授業にて解説を実施する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	シラバスを読み、 授業内容を確認する。
2	「アニメ (Grammatik)」(1)	ショートアニメの台詞から文法 (レベル B1～B2) への理解を深 める。
3	「アニメ (Grammatik)」(2)	ショートアニメの台詞から文法 (レベル B1～B2) への理解を深 める。
4	「アニメ (Grammatik)」(3)	ショートアニメの台詞から文法 (レベル B1～B2) への理解を深 める。
5	「アニメ (Grammatik)」(4)	ショートアニメの台詞から文法 (レベル B1～B2) への理解を深 める。
6	「アニメ (Geschichten)」(1)	ショートアニメの台詞から日常の シーンで使えるドイツ語を学ぶ。
7	「アニメ (Geschichten)」(2)	ショートアニメの台詞から日常の シーンで使えるドイツ語を学ぶ。
8	「アニメ (Geschichten)」(3)	ショートアニメの台詞から日常の シーンで使えるドイツ語を学ぶ。
9	「アニメ (Geschichten)」(4)	ショートアニメの台詞から日常の シーンで使えるドイツ語を学ぶ。
10	「映画 (Kultfilm)」 (1)	映画の台詞を読み、本物のドイツ 語対話を覚える。
11	「映画 (Kultfilm)」 (2)	映画の台詞を読み、本物のドイツ 語対話を覚える。
12	「映画 (Kultfilm)」 (3)	映画の台詞を読み、本物のドイツ 語対話を覚える。

- 13 「映画 (Kultfilm)」 映画の台詞を読み、本物のドイツ
(4) 語対話を覚える。
14 まとめ 秋学期に学んだ内容を確認する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で扱われたムービーなどを用いて個人で自己学習を進めることが
望まれます。
「本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。」

【テキスト（教科書）】

テキストは使わず、学習支援システムに事前に授業資料をアップし
ます。各自プリントアウトして授業に持参してください。

【参考書】

教室で指定する。

【成績評価の方法と基準】

数回の課題提出を含む平常点：100%

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

Hoppiii 学習支援システムを利用するので、情報機器（パソコン、プ
リンター）などを準備して下さい。これらの環境を整えることが難
しい場合は、大学の PC やプリンター、wifi を利用して下さい。

【Outline (in English)】

Enjoy comical illustrations, increase your vocabulary, and
learn German that can be used in everyday situations using
the free Youtube learning channel materials (levels B1 to B2)
created by a German language school in Switzerland.
This class is aimed at those who have finished learning basic
German grammar, and aims to serve as a bridge to the
intermediate level.

- Improve your German reading and listening skills in a fun way with anime and movies.
- Improving media literacy (the ability to effectively use foreign media, etc.).

Preparation and review.

The standard for preparatory study and review time for this
class is 1hour in total.

Normal score including several assignment submissions: 100%

LANd200LA

SDGs で学ぶドイツ語 I

2017 年度以降入学者

熊田 泰章

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 3/Thu.3

単位数：1 単位

定員制（30 名）/2021 年度までに「時事ドイツ語 I」の単位を修得済みの場合、履修不可

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

世界共通のアジェンダである〈SDGs〉を取り上げ、ドイツ語を学びながら、〈SDGs〉に関するドイツ語圏の現況を把握します。すでに学んだ初歩的なドイツ語を用いて、〈SDGs〉についてドイツ語で書かれた文章を読み、ドイツ語の文法的な知識を再確認するとともに、文章としてまとまったものを読む力と自分から発言する力を育てます。

現在の世界の出来事を、ドイツ語圏ではどのようにとらえ、どのように対処しているかについて、知識と理解を深めます。

【到達目標】

〈SDGs〉を取り扱う教材と資料を用いて、様々なドイツ語の文章の構成や書き方に慣れ、辞書を用いながら文章を読む力を養成することができます。

文法的には初級文法の知識を確実なものとすると同時に、さらに少し踏み込んだ文法内容も理解することができます。

それを通して、ドイツ語圏の現在について知ることができます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

〈SDGs〉を取り扱う教材と資料を用いて、初級文法を確認しながら、「ドイツ語を学ぶ・ドイツ語で学ぶ」授業です。

教員が用意した〈SDGs〉を取り扱う教材と資料を、各回授業で少しずつ解きほぐしていきます。教材と資料に即して、基本的な文法事項を確認し、語彙や構文の復習を行いながら、受講者の理解度を高めていきます。毎回、あらかじめ教材と資料の範囲を決め、教員の説明と受講者の作業を行います。

理解の確認のためのワークシート、アクションペーパーを各回授業で適宜使います。必要に応じて小テストを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション SDGs とは	授業のねらいと進め方、学習の仕方についてのガイダンス SDGs 概観
2	SDGs-Ziel 1: Armut in jeder Form und überall beenden 目標 1 貧困をなくそう	内容確認 文法の説明
3	SDGs-Ziel 2: Ernährung weltweit sichern 目標 2 飢餓をゼロに	内容確認 文法の説明
4	SDGs-Ziel 3: Gesundheit und Wohlergehen 目標 3 すべての人に健康と福祉を	内容確認 文法の説明

5	Ziel 4: Hochwertige Bildung weltweit 目標 4 質の高い教育をみんなに	内容確認 文法の説明
6	Ziel 5: Gleichstellung von Frauen und Männern 目標 5 ジェンダー平等を実現しよう	内容確認 文法の説明
7	Ziel 6: Ausreichend Wasser in bester Qualität 目標 6 安全な水とトイレを世界中に	内容確認 文法の説明
8	Ziel 7: Bezahlbare und saubere Energie 目標 7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに	内容確認 文法の説明
9	Ziel 8: Nachhaltig wirtschaften als Chance für alle 目標 8 働きがいも経済成長も	内容確認 文法の説明
10	Ziel 9: Industrie, Innovation und Infrastruktur 目標 9 産業と技術革新の基盤をつくろう	内容確認 文法の説明
11	Ziel 10: Weniger Ungleichheiten 目標 10 人や国の不平等をなくそう	内容確認 文法の説明
12	Ziel 11: Nachhaltige Städte und Gemeinden 目標 11 住み続けられるまちづくりを	内容確認 文法の説明
13	Ziel 12: Nachhaltig produzieren und konsumieren 目標 12 つくる責任つかう責任	内容確認 文法の説明
14	まとめ	これまでのまとめと振り返り 最終試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回の教材と資料を、各人が事前に読み、予習を行って授業に参加する。

SDGs に関するニュース解説などを読む。

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教材と資料を学習支援システムで配布します。

【参考書】

Jens Martens und Bodo Ellmers : Agenda 2030: Wo steht die Welt? 5 Jahre SDGs – eine Zwischenbilanz. Global Policy Forum(Bonn), 2020

<https://www.2030agenda.de/sites/default/files/2030/>

zwischenbilanz/Agenda_2030_Zwischenbilanz_online-2.pdf

Hauff, Michael : Nachhaltige Entwicklung. Grundlagen und Umsetzung. De Gruyter(Oldenburg), 3. Aufl. 2021

【成績評価の方法と基準】

授業の積極的な参加と貢献 30 %、小テスト 30 %、学期末試験 40 %。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

学生の要望に応じて、文法事項をわかりやすく説明する。

【学生が準備すべき機器他】

独和辞書を必ず持参してください。

【その他の重要事項】

学習支援システムを活用します。

秋学期の「SDGs で学ぶドイツ語Ⅱ」と合わせて履修してください。

【Outline (in English)】

【Course outline】

German for Ichigaya Liberal Arts Center(ILAC) Program.

This course provides advanced German sentences and expressions of its current news and topics including politics, economy, arts and so on through reading of the articles and is open to the students who completed German 1 and German 2 in the ILAC Program.

【Learning Objectives】

At the end of the course, students are expected to master elementary grammar, phonetic/pronunciation training and vocabulary with communication routines of German language and to understand current problems in society.

【Learning activities outside of classroom】

Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter(s) from the text. Your required study time is at least one hour for each class meeting.

【Grading Criteria /Policy】

Final grade will be calculated according to contribution in each class meeting(30%), short tests(30%) and term-end examination (40%)

LANd200LA

SDGs で学ぶドイツ語Ⅱ

2017 年度以降入学者

熊田 泰章

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 3/Thu.3

単位数：1 単位

定員制（30 名）/2021 年度までに「時事ドイツ語Ⅱ」の単位を修得済みの場合、履修不可

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

世界共通のアジェンダである〈SDGs〉を取り上げ、ドイツ語を学びながら、〈SDGs〉に関するドイツ語圏の現況を把握します。すでに学んだ初歩的なドイツ語を用いて、〈SDGs〉についてドイツ語で書かれた文章を読み、ドイツ語の文法的な知識を再確認するとともに、文章としてまとまったものを読む力と自分から発言する力を育てます。

現在の世界の出来事を、ドイツ語圏ではどのようにとらえ、どのように対処しているのかについて、知識と理解を深めます。

【到達目標】

〈SDGs〉を取り扱う教材と資料を用いて、様々なドイツ語の文章の構成や書き方に慣れ、辞書を用いながら文章を読む力を養成することができます。

文法的には初級文法の知識を確実なものとすると同時に、さらに少し踏み込んだ文法内容も理解することができます。

それを通して、ドイツ語圏の現在について知ることができます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

〈SDGs〉を取り扱う教材と資料を用いて、初級文法を確認しながら、「ドイツ語を学ぶ・ドイツ語で学ぶ」授業です。

教員が用意した〈SDGs〉を取り扱う教材と資料を、各回授業で少しずつ解きほぐしていきます。教材と資料に即して、基本的な文法事項を確認し、語彙や構文の復習を行いながら、受講者の理解度を高めていきます。毎回、あらかじめ教材と資料の範囲を決め、教員の説明と受講者の作業を行います。

理解の確認のためのワークシート、アクションペーパーを各回授業で適宜使います。必要に応じて小テストを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション SDGs とは	授業のねらいと進め方、学習の仕方についてのガイダンス SDGs 概観 目標 1～12 の振り返り
2	SDGs-Ziel 13: Weltweit Klimaschutz umsetzen	内容確認 文法の説明 目標 13 気候変動に具体的な対策を
3	SDGs-Ziel14: Leben unter Wasser schützen	内容確認 文法の説明 目標 14 海の豊かさを 守ろう

4	SDGs-Ziel 15: Leben an Land	内容確認 文法の説明 目標 15 陸の豊かさを 守ろう
5	Ziel 16: Starke und transparente Institutionen fördern	内容確認 文法の説明 目標 16 平和と公正を すべての人に
6	Ziel 17: Globale Partnerschaft	内容確認 文法の説明 目標 17 パートナー シップで目標を達成し よう
7	オーストリアの SDGs ①	内容確認 文法の説明
8	オーストリアの SDGs ②	内容確認 文法の説明
9	オーストリアの SDGs ③	内容確認 文法の説明
10	スイスの SDGs ①	内容確認 文法の説明
11	スイスの SDGs ②	内容確認 文法の説明
12	スイスの SDGs ③	内容確認 文法の説明
13	大学の SDGs	内容確認 文法の説明
14	まとめ	これまでのまとめと振り返り 最終試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各回の教材と資料を、各人が事前に読み、予習を行って授業に参加する。

SDGs に関するニュース解説などを読む。

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

教材と資料を学習支援システムで配布します。

【参考書】

Jens Martens und Bodo Ellmers : Agenda 2030: Wo steht die Welt? 5 Jahre SDGs – eine Zwischenbilanz. Global Policy Forum(Bonn), 2020

https://www.2030agenda.de/sites/default/files/2030/zwischenbilanz/Agenda_2030_Zwischenbilanz_online-2.pdf

Hauff, Michael : Nachhaltige Entwicklung. Grundlagen und Umsetzung. De Gruyter(Oldenburg), 3. Aufl. 2021

【成績評価の方法と基準】

授業の積極的な参加と貢献 30 %、小テスト 30 %、学期末試験 40 %。この成績評価の方法をもとに、本授業の到達目標の 60%以上を達成した者を合格とする。

【学生の意見等からの気づき】

学生の要望に応じて、文法事項をわかりやすく説明する。

【学生が準備すべき機器他】

独和辞書を必ず持参してください。

【その他の重要事項】

学習支援システムを活用します。

春学期の「SDGs で学ぶドイツ語Ⅰ」と合わせて履修してください。

【Outline (in English)】

【Course outline】

German for Ichigaya Liberal Arts Center(ILAC) Program.

This course provides advanced German sentences and expressions of its current news and topics including politics, economy, arts and so on through reading of the articles and is open to the students who completed German 1 and German 2 in the ILAC Program.

【Learning Objectives】

At the end of the course, students are expected to master elementary grammar, phonetic/pronunciation training and vocabulary with communication routines of German language and to understand current problems in society.

【Learning activities outside of classroom】

Before each class meeting, students will be expected to have read the relevant chapter(s) from the text. Your required study time is at least one hour for each class meeting.

【Grading Criteria /Policy】

Final grade will be calculated according to contribution in each class meeting(30%), short tests(30%) and term-end examination (40%)

ARSa200LA

ドイツ語の世界 L A

2017 年度以降入学者

サブタイトル：

Schmidt Ute

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 4/Tue.4

単位数：2 単位

定員制 (60 名)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

この授業では、映画や文献を用いてドイツ語圏の歴史、社会、文化を探っていきます。各授業は講義で始まり、映画鑑賞、プレゼンテーション、ディスカッションという流れで行います。プレゼンテーションは映画の背景となった歴史や文化に関する発表をしてもらいます。(履修者の人数によってはグループでのプレゼンテーションになります。)

【到達目標】

- ・ドイツ語圏の生活、文化、社会、歴史など多様なテーマに関する理解を深める。
- ・各時代の思想的・文化的背景を理解する。
- ・映画の解釈方法を身につける。
- ・異文化理解能力を高める。
- ・テーマに応じた資料を収集し、読解する方法を身につける。
- ・プレゼンテーション技術をアップする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

授業はテーマへの導入、情報収集で始まり、映画鑑賞、プレゼンテーション、ディスカッションという流れで行う。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1.	オリエンテーション	授業の概説 発表の内容の取り決め
2.	ドイツ語圏の世界 1	地理, 言語, その他
3.	ドイツ語圏の世界 2	プレゼンテーション
4.	文学	ドイツ文学と言えばゲーテ? 映画: ゲーテの恋 ~君に捧ぐ 「若きウェルテルの悩み」 Goethe! (2010) ディスカッション
5.	音楽	クラシック音楽の世界 Amadeus からクララ・シューマンまで
6.	オーストリアと日本	Sissi とミュージカル「エリザベート」
7.	スイスと日本	映画: ハイジ アルプスの物語 Heidi (2015) ハイジ in Japan
8.	世界を驚かせた話	カスパー・ハウザーの謎 (1974)
9.	戦争映画 I 第一次世界大戦	西部戦線異状なし (1930) 戦場のアリア (2005) ディスカッション

10.	ドイツと日本	ベートーヴェンの「第九」 プレゼンテーション 映画: バルトの楽園 (2006)
11.	映画の中のヒトラー I	ヒトラーと女性 ドキュメンタリー映画 レニ Die Macht der Bilder: Leni Riefenstahl 1993
12.	映画の中のヒトラー II	ヒトラー ~最期の 12 日間~ (2004)
13.	映画鑑賞	作品未定
14.	まとめ	ディスカッション

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

・文献を事前に読む。(資料の言語は主に日本語、履修者のレベルに応じて英語、ドイツ語)

・映画鑑賞

・自分担当のプレゼンテーションの準備とレジュメ作成

本授業の準備学習・復習時間は、計 4 時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

テキストを配布

【参考書】

・森井 裕一 (著, 編) 『ドイツの歴史を知るための 50 章』 (エリア・スタディーズ 151)

・宮田真治・島山寛・濱中春 (編著) 『ドイツ文化 55 のキーワード』

・新野守広・飯田道子・梅田紅子 (編) 『知ってほしい国 ドイツ』

・スイス文学研究会 (編) 『スイスを知るための 60 章』 (エリア・スタディーズ 128)

・広瀬 佳一編著, 今井 顕編著他 ウィーン・オーストリアを知るための 57 章【第 2 版】 (エリア・スタディーズ 19)

【成績評価の方法と基準】

プレゼンテーションとレジュメ：50%

授業中のディスカッション参加とリアクションペーパー：50%

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【その他の重要事項】

ドイツ語の知識やドイツ語学習歴の有無は問いません

「授業計画」は、授業の進度により変更する可能性があります。

質問・相談などは授業の前後、または以下の連絡先をお願いします。

ute.schmidt.yw@hosei.ac.jp

【Outline (in English)】

The core material used in this course will be recent German-language films. The content of the film will be used as the starting point to look into German history and society.

The goals of the course are getting a deeper understanding of daily life, culture, society, and history in German-speaking countries. Besides students will learn how to interpret movies, how to collect and read materials and improve presentation skills.

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting (watching movies, research and read reference material etc.). Your study time will be about four hours for a class.

The Students' final grades will be based on presentation (50%) and active participation in class (50%)

ARSA200LA

ドイツ語の世界 L B

2017 年度以降入学者

サブタイトル：

Schmidt Ute

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 4/Tue.4

単位数：2 単位

定員制 (60 名)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

この授業では、映画や文献を用いてドイツ語圏の歴史、社会、文化を探っていきます。各授業は講義で始まり、映画鑑賞、プレゼンテーション、ディスカッションという流れで行います。プレゼンテーションは映画の背景となった歴史や文化に関する発表をしてもらいます。(履修者の人数によってはグループでのプレゼンテーションになります。)

【到達目標】

- ・ドイツ語圏の生活、文化、社会、歴史など多様なテーマに関する理解を深める。
- ・各時代の思想的・文化的背景を理解する。
- ・映画の解釈方法を身につける。
- ・異文化理解能力を高める。
- ・テーマに応じた資料を収集し、読解する方法を身につける。
- ・プレゼンテーション技術をアップする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

授業はテーマへの導入、情報収集で始まり、映画鑑賞、プレゼンテーション、ディスカッションという流れで行う。課題等の提出・フィードバックは「学習支援システム」を通じて行う予定です。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1.	戦後ドイツ	サッカーを通してみる戦後ドイツ : ベルンの奇跡 (2003)
2.	60 年代の東西ドイツ	ベルリンの壁ができるまで 映画：トンネル Der Tunnel (2001)
3.	70 年代の西ドイツ	極左のテロリズム バーダー・マインホフ/理想の果てに Der Baader Meinhof Komplex (2008)
4.	東ドイツ	東ドイツの秘密警察 (Stasi) 映画: 善き人のためのソナタ Das Leben der Anderen (2006) グンダーマン 優しき裏切り者の歌 Gundermann (2018)
5.	ドイツ統一	ベルリンの壁崩壊 映画：グッバイ、レーニン! Good Bye Lenin (2003) プレゼンテーション ディスカッション

6.	青春	児童文学の映画化
7.	青春	映画：50 年後のボクたちは Tschick (2016) プレゼンテーション ディスカッション
8.	ヒトラーについて笑っていいのか？	ヒトラーについて笑っていいのか？ 映画：帰ってきたヒトラー Er ist wieder da! (2015) プレゼンテーション ディスカッション
9.	ドイツ極右組織	ドイツ極右組織 NSU 映画：女は二度決断する Aus dem Nichts (2017) プレゼンテーション ディスカッション 映画鑑賞
10.	ドイツ極右組織	スイス映画・オーストリア映画と映画祭 難民問題
11.	ドイツ以外のドイツ語圏の映画	映画：初めてのおもてなし Willkommen bei Hartmanns (2016) プレゼンテーション ディスカッション
12.	移民国ドイツ	プレゼンテーション ディスカッション
13.	移民国ドイツ	映画鑑賞
14.	まとめ	

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

・文献を事前に読む (資料の言語は主に日本語、履修者のレベルに応じて英語、ドイツ語)
・映画鑑賞
本授業の準備学習・復習時間は、計 4 時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

テキストを配布

【参考書】

・森井裕一 (著, 編集) 『ドイツの歴史を知るための 50 章』 (エリア・スタディーズ 151)
・宮田眞治・島山寛・濱中春 (編著) 『ドイツ文化 55 のキーワード』
・新野守広・飯田道子・梅田紅子 (編) 『知ってほしい国 ドイツ』
・スイス文学研究会 (編) 『スイスを知るための 60 章』 (エリア・スタディーズ 128)
・広瀬 佳一編著, 今井 顕編著他 ウィーン・オーストリアを知るための 57 章【第 2 版】 (エリア・スタディーズ 19)

【成績評価の方法と基準】

プレゼンテーションとレジュメ：50%
授業中のディスカッション参加とリアクションペーパー：50%

【学生の意見等からの気づき】

特にありません

【その他の重要事項】

ドイツ語の知識やドイツ語学習歴の有無は問いません。「授業計画」は、授業の進度により変更する可能性があります。質問・相談などは授業の前後、または以下の連絡先をお願いします。
ute.schmidt.yw@hosei.ac.jp

【Outline (in English)】

The core material used in this course will be recent German-language films. The content of the film will be used as the starting point to look into German history and society. The goals of the course are getting a deeper understanding of daily life, culture, society, and history in German-speaking countries. Besides students will learn how to interpret movies, how to collect and read materials and improve presentation skills. Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting (watching movies, research and read material etc.). Your study time will be about four hours for a class.

The Students' final grades will be based on presentation (50%)
and active participation in class (50%)

ARSa200LA

ドイツの文化と社会 L A

2017 年度以降入学者

サブタイトル：

上田 知夫

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 2/Thu.2

単位数：2 単位

定員制 (30 名)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

「ドイツ」と聞いて思い浮かべるイメージはなんですか。ドイツについて全く知らない人でもいくつかのキーワードが思いつくのではないのでしょうか。

この授業ではそのようなすぐ気がつくキーワードから、ちょっと通なキーワードを集めて、それらがドイツ語圏の社会や文化で果たす役割について少しだけ深く考えて見ることにしたいと思います。ドイツ語の学習は前提しませんし、ドイツ語の文献を扱うこともありません。

【到達目標】

この授業では、ドイツ語圏の様々な文化を構成している制度を探求します。そのことを通じて、社会や歴史の要素について理解することを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式で授業を行います。しかし毎回のテーマについて皆さんが知っていることを積極的に伺いますので、対話に参加して下さることを期待します。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	導入	ドイツとドイツ語圏について。
第 2 回	ドイツ語の歴史	ドイツ語の歴史について。
第 3 回	ドイツ語の地域性	さまざまな地域のドイツ語について。
第 4 回	ビールの現状	ドイツのビール産業の現状について。
第 5 回	ビールの歴史	ドイツ語圏のビールの歴史 (特にビール純粋令) について。
第 6 回	サッカー	ローカルパトリオリズムおよびナショナリズムについて。
第 7 回	ハイジのおんじ	スイスの歴史と傭兵輸出について。
第 8 回	ハイジの旅	スイスの鉄道網の発展と観光について。
第 9 回	アウトバーン	ドイツの自動車交通について。
第 10 回	ドイツの自動車産業	ドイツの工業化と自動車産業の展開について。
第 11 回	ドイツの教育制度	マイスターを生むドイツの教育制度について。
第 12 回	ドネルケバブ	ドイツの都市とそこにやってきた移民 (およびその子孫) たちについて。
第 13 回	休暇	ドイツの戦後復興と休暇について。

第 14 回 まとめ

これまでの話題について振り返り、期末レポートの書き方について確認します。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

予習：次回のキーワードについて思いつくことをいくつか考えてから教室に来てください。

復習：レジュメを読み返してください。特に、レポートを書こうと思うテーマの回については、オフィスアワーを積極的に利用して教員と相談の上、参考文献を図書館で探してみてください。

【テキスト (教科書)】

教科書は指定しません。ハンドアウトを配布し、スライドを用いて授業します。

【参考書】

毎回異なる参考文献を参照するので、授業ごとに指示します。

【成績評価の方法と基準】

毎回の授業のリアクションペーパー：40%

授業への積極的参加：10%

期末レポート：50%

【学生の意見等からの気づき】

個々のキーワードをなるべく有機的につなげるように努力します。

【学生が準備すべき機器他】

資料は Hoppii を通じて配布しますので、ノートパソコン、スマートフォン、タブレットなど、インターネット通信環境のある機器があれば持参のこと (なおオンライン授業になる可能性がありますので、Zoom のインストールをお願いします)。

【その他の重要事項】

春学期と秋学期は独立して履修できるようにしてあります。

毎回参加者の皆さんに色々質問をしたいので、積極的に参加してください。

【Outline (in English)】

【Learning Objectives】

This lecture aims to get some basic understanding of German-speaking countries.

【Course outline】

This lecture is organized according to keywords that tend to be associated with these countries.

This lecture does not presuppose any knowledge of the German language.

【Learning activities outside of classroom】

This course presupposes 2hours of learning activities outside of the classroom.

Before the course: think about images you associate with the keyword of the next session.

After the course: review the handouts and answer the assignments.

【Grading Criteria /Policy】

Reaction papers : 40%

Active participation : 10%

Term paper : 50%

ARSA200LA

ドイツの文化と社会 L B

2017 年度以降入学者

サブタイトル：

上田 知夫

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 2/Thu.2

単位数：2 単位

定員制 (30 名)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

この授業ではドイツ語圏の文化と社会の関係を、フランクフルトやウィーンの大学をめぐる社会制度や政治制度を手がかりに捉えることを目的にします。

その際に、20 世紀ドイツ語圏の大学における文化的営みや、

1. さまざまな歴史的社会的事情との関連で展開してきたこと、および、
2. 実際には 1 つの言語圏を超えて広がっていくということを理解したいと思います。

なお、この授業は日本語で行います。ドイツ語力は一切前提しません。また哲学に関わる人々が出てきますが、哲学的な議論は一切しません。哲学以外の分野の人々もなるべく取り入れたいと思います。

【到達目標】

- この授業を通じて、
- ・ 20 世紀から 21 世紀のドイツの社会問題とそれが大学 (およびそこで働く人々) にもたらした影響についての概観を得ることができ
 - ます
 - ・ ドイツの社会思想について概観を得ることができ

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

この授業の中心部分は講義形式ですが、最後の 10 分程度全体でディスカッションしたいと思います。また毎回リアクションペーパーの提出を求めます。

また適宜、参加者に発言を求めることがあります。積極的な発言が、平常点の加算要因です。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	導入：ドイツ語圏の 20 世紀の歴史の概観	ドイツ語圏の 20 世紀について、高校世界史の復習をします。
第 2 回	ワイマール共和国とフランクフルト学派	フランクフルト学派の第 1 世代の研究の背景を大戦間期のドイツの政治状況と関連付けます。
第 3 回	ナチスの台頭とドイツの大学	1933 年以降のドイツの政治状況を概観し、それがドイツの大学に与えた影響を考察します。
第 4 回	19 世紀から 20 世紀にかけてのウィーン文化	ウィーン学団を生んだオーストリアおよびウィーンを概観します。
第 5 回	ウィーン学団	ウィーンを文化の側面から見たときのウィーン学団の位置について概観します。
第 6 回	亡命知識人の哲学 1: アメリカのフランクフルト学派	ナチスの台頭に伴い、多くの哲学者が亡命しました。アメリカ東部の亡命知識人の状況とその思想的展開を追います。

- 第 7 回 亡命知識人の哲学 1: アメリカのフランクフルト学派
フランクフルト学派が西部に移動したことを概観し、カルフォルニア地域の亡命知識人の状況について概観します。
- 第 8 回 亡命知識人の哲学 2: 英語圏の科学哲学
ウィーン学団の哲学者たちの亡命とその後の英語圏の哲学に与えた影響について概観します。
- 第 9 回 亡命知識人の哲学 2: 英語圏の科学哲学
ウィーンから渡米した哲学者たちが、アメリカに定住していく様子を概観します。
- 第 10 回 戦後のフランクフルト学派
第 2 次世界大戦後のドイツの学問状況を哲学者たちを事例に概観します。
- 第 11 回 68 年世代の学生運動とドイツ社会
ドイツの学生運動が隆盛を迎えた 1968 年代当時の哲学的状況を概観します。
- 第 12 回 歴史家論争
第 2 次世界大戦後のドイツが、第 2 次世界大戦をどのように振り返ってきたかについて歴史家論争を手がかりに概観します。
- 第 13 回 ナチス期にドイツの大学に残った人たち
亡命した研究者の残した空席を埋めた研究者について概観し、彼らの第 2 次世界大戦後を確認します。
- 第 14 回 まとめ
これまでの議論をまとめ、レポートの書き方について確認します。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。この授業では復習を中心に学習してください。とりわけ興味を持った主題についてのレポートの準備を入念に行うことを求めたいと思います。そのためのオフィスアワーの積極的利用も推奨します。

【テキスト (教科書)】

教科書は指定しません。適宜、レジユメを配布します。

【参考書】

毎回異なる参考書を利用しますので、スライドでそれらを指示します。レポートを執筆しようと思う回については、それらを一読することをお勧めします。

【成績評価の方法と基準】

授業の際に提出するリアクションペーパー：50%
レポート：50%

【学生の意見等からの気づき】

昨年度の学生の要望により、ウィーンやフランクフルトの都市の歴史を少し多めに授業しようと思います。

【学生が準備すべき機器他】

資料は Hoppii で配信しますので、ノートパソコン、スマートフォン、タブレットなど、インターネット通信環境のある機器があれば持参のこと (なおオンライン授業になる可能性がありますので、Zoom のインストールをお願いします)。

【その他の重要事項】

春学期と秋学期は独立して履修できるようにしてあります。ただし、春学期で学んだことは絶対に無駄になりませんので、春学期に履修した方の積極的な参加を期待します。

【Outline (in English)】

【Learning Objectives】

The theme of this lecture is the relationship between philosophical thoughts and their roles in society, especially, in German society.

【Learning activities outside of classroom】

This course presupposes 2hours of learning activities outside of the classroom.

After the course: review the handouts and answer the assignments.

【Grading Criteria /Policy】

Reaction papers : 50%

Term paper : 50%

ARSa200LA

フランス語の世界 L A

2017 年度以降入学者

サブタイトル：

廣松 勲

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 4/Wed.4

単位数：2 単位

定員制 (40 名)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

本授業は、世界に広がる「フランス語圏 (フランコフォニー)」を知ることを主たる目的とします。そのような (フランス共和国を含めた) 広い地域をも対象としつつ、各地域にどのような地理・歴史的背景、社会状況、各種の文化 (言語、芸術、習慣、食生活など) が存在するのかについて検討する。

「フランス的なもの」がどのような要素で成り立っているのかを広く紹介しながら、新たな視点から「フランス語の世界」を把握できるようにすることを目指す。

なお、春学期は主にフランス共和国本土にある「地域圏」を中心として、それぞれの地域の特性について紹介・解説する。

【到達目標】

- 1) フランス共和国の各地域の紹介を介して、その差異と共通性の大枠を理解できる。
- 2) フランコフォニー (フランス語圏) の紹介を介して、フランス語の世界的拡がりについて理解できる。
- 3) 「フランス的なもの」が現在どのような要素によって成り立っているのかについて、簡単に説明ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

授業については、主に講義形式で進める。各回において一つの地域または国の歴史・地理・文化を概説しながら、フランス語の世界の多様性・複雑性を解説する。また、講義形式に加えて、映像資料や音楽の視聴も取り入れることで、少しでも具体的に各地域・国を想像できるように授業を進める。

授業ではコメントシートを提出してもらうことで、予習・復習のきっかけとしてももらう。期末レポートでは一つの地域または国について、選択したテーマから調査結果をまとめてもらうが、そのためにできるだけ参考資料の提示に努める。

提出されたコメントシートについて、できるだけ次回以降の授業に反映させる。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】
なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	・本授業の流れについて説明 ・フランス共和国及びフランコフォニーの地理・歴史について簡単に紹介
2	① Île-de-France	・イル＝ド＝フランス地域圏に関する解説：地理・歴史・言語・諸文化など
3	② Bretagne	・ブルターニュ地域圏に関する解説：地理・歴史・言語・諸文化など

4	③ Normandie	・ノルマンディー地域圏に関する解説：地理・歴史・言語・諸文化など
5	④ Hauts-de-France	・オー＝ド＝フランス地域圏に関する解説：地理・歴史・言語・諸文化など
6	⑤ Grand-Est	・グラン＝テスト地域圏に関する解説：地理・歴史・言語・諸文化など
7	⑥ Pays de la Loire	・ペイ＝ド＝ラ＝ロワール地域圏に関する解説：地理・歴史・言語・諸文化など
8	⑦ Centre-Val de Loire	・サントル＝ヴァル＝ド＝ロワール地域圏に関する解説：地理・歴史・言語・諸文化など
9	⑧ Bourgogne-Franche-Comté	・ブルゴーニュ＝フランシュ＝コンテ地域圏に関する解説：地理・歴史・言語・諸文化など
10	⑨ Nouvelle-Aquitaine	・ヌーヴェル＝アキテーヌ地域圏に関する解説：地理・歴史・言語・諸文化など
11	⑩ Auvergne-Rhône-Alpes	・オーヴェルニュ＝ローヌ＝アルプ地域圏に関する解説：地理・歴史・言語・諸文化など
12	⑪ Occitanie	・オクシタニー地域圏に関する解説：地理・歴史・言語・諸文化など
13	⑫ Provence-Alpes-Côte d'Azur (PACA)	・プロヴァンス＝アルプ＝コート＝ダジュール地域圏 (PACA) に関する解説：地理・歴史・言語・諸文化など
14	⑬ Corse まとめ	・コルス地方公共団体に関する解説：地理・歴史・言語・諸文化など ・春学期授業のまとめ ・秋学期授業の予告：世界のフランコフォニー

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

- 1) 各地域圏に関する情報を、主に学術書や論文 (場合によっては各地域圏サイト) を参照しつつ、予習・復習を行って欲しい。
 - 2) 映像資料については、多くの場合、授業内で全てを見ることができないわけではないため、できるだけ個人的に視聴して欲しい。
 - 3) 期末レポートの執筆に向けて、各地域圏を調べる際の「きっかけ」となる「テーマや関心領域」を早めに決定して欲しい (或る程度、自分の「テーマや関心領域」を特定しないと、レポート執筆だけでなく、その準備も難しいと思われるため)。
 - 4) 期末レポートの執筆に向けて、レポート執筆の方法・手続き・注意点 (特に引用の仕方、参考文献の書き方) について確りと学習しておいて欲しい。
- ・本授業の準備学習・復習時間は、合計 4 時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

- ・教科書は、特になし
- ・原則、各回において資料を配布する予定

【参考書】

- I. 以下の 4 冊の参考書は、フランス共和国やフランコフォニーについて基礎知識が得られるため、簡単にでも参照するようにしてほしい。
 - 1) 剣持久木編著『よくわかるフランス近現代史』ミネルヴァ書房、2018 年。本体 2600 円＋税
 - 2) ジャック・レヴィ編 (土居佳代子訳)『地図で見るフランスハンドブック』原書房、2018 年。本体 2800 円＋税
 - 3) ジャン＝ブノワ・ナドー、ジュリー・パロウ著 (立花英裕監修・中尾ゆかり訳)『フランス語のはなし：もうひとつの国際共通語』大修館書店、2008 年。本体 2400 円＋税
 - 4) 鳥羽美鈴著『多様性の中のフランス語：フランコフォニーについて考える』関西学院大学出版会、2012 年。本体 3400 円＋税
- II. 以下の 2 冊の参考書はフランス語教科書であるが、比較的情報が充実しているため、フランス語学習者は参照してみたい。
 - 5) Fabienne Guillemin 著『Tour de France (フランス、地方を巡る旅)』駿河台出版社、2017 年。本体 1900 円＋税

6) 小松祐子, Gilles Delmaire 著『Destination francophoneie: nouvelle édition (フランコフォニーへの旅：改訂版)』駿河台出版社, 2019年. 本体 2300円+税

【成績評価の方法と基準】

・平常点と期末レポートに基づき、総合的に評価する。

①平常点 (コメントシートなど) : 30 %

②期末レポート : 70 %

【学生の意見等からの気づき】

・歴史的要素の説明が多くなりがちであるため、もう少し他の社会文化的要素の説明にも時間をさけるように心がけたい。

【その他の重要事項】

・受講に当たって、フランス語に関する予備知識は必要ない。

【Outline (in English)】

This course introduces the foundations of the french speaking world (la francophonie) including the French republic. Students taking this course become able to understand in summary the situations of geography, history, (regional) langages and various cultures in each region or country.

The goals of this course are to unerstanding and explaining the socio-cultural situation of each French regions.

Before and after each class meeting,students will be expected to spend four hours to read the relevant documents.

Your overall grade in the class will be decided based on the followings:

in class contributions (discussion, reaction paper, etc): 30%,
term-end report: 70%.

ARSa200LA

フランス語の世界 L B

2017 年度以降入学者

サブタイトル：

廣松 勲

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 4/Wed.4

単位数：2 単位

定員制 (40 名)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

本授業は、世界に広がる「フランス語圏 (フランコフォニー)」を知ることを主たる目的とします。そのような (フランス共和国を含めた) 広い地域をも対象としつつ、各地域にどのような地理・歴史的背景、社会状況、各種の文化 (言語、芸術、習慣、食生活など) が存在するのかについて検討する。

「フランス的なもの」がどのような要素で成り立っているのかを広く紹介しながら、新たな視点から「フランス語の世界」を把握できるようにすることを目指す。

なお、秋学期はフランス共和国本土以外の「地域圏」、そしてフランス共和国以外の「フランコフォニー」について扱い、それぞれの地域の特性について紹介・解説する。

【到達目標】

- 1) フランス共和国の各地域の紹介を介して、その差異と共通性の大枠を理解できる。
- 2) フランコフォニー (フランス語圏) の紹介を介して、フランス語の世界的拡がりについて理解できる。
- 3) 「フランス的なもの」が現在どのような要素によって成り立っているのかについて、簡単に説明ができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

授業については、主に講義形式で進める。各回において一つの地域または国の歴史・地理・文化を概説しながら、フランス語の世界の多様性・複雑性を解説する。また、講義形式に加えて、映像資料や音楽の視聴も取り入れることで、少しでも具体的に各地域・国を想像できるように授業を進める。

毎回の授業において学生にはコメントシートを提出してもらうことで、予習・復習のきっかけとしてもらう。期末レポートでは一つの地域または国について、選択したテーマから調査結果をまとめてもらうが、そのためにできるだけ参考資料の提示に努める。

毎回の授業においてコメントシートを執筆・提出してもらい、できるだけ次回以降の授業に反映させる。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション：フランス共和国外にある地域圏、フランコフォニーの成立経緯	・本授業の流れについて説明 ・フランス共和国外にある県・地域圏について簡単に紹介 ・フランコフォニーの地理・歴史について簡単に紹介
2	カリブ地域の地域圏 Martinique et Guadeloupe	・カリブ地域の地域圏に関する解説：地理・歴史・言語・諸文化など
3	南米大陸の地域圏 Guyane française	・南米大陸の地域圏に関する解説：地理・歴史・言語・諸文化など

4	インド洋の地域圏 Réunion et Mayotte	・インド洋の地域研に関する解説：地理・歴史・言語・諸文化など
5	太平洋の海外領土 Nouvelle-Calédonie	・太平洋の海外領土に関する解説：地理・歴史・言語・諸文化など
6	北米大陸のフランス語圏① Québec (Canada)	・北米大陸カナダにおけるフランコフォニーに関する解説：地理・歴史・言語・諸文化など
7	北米大陸のフランス語圏② Louisiane	・北米大陸アメリカ合衆国におけるフランコフォニーに関する解説：地理・歴史・言語・諸文化など
8	北アフリカのフランス語圏① Algérie	・マグレブ中央部のフランコフォニーに関する解説：地理・歴史・言語・諸文化など
9	北アフリカのフランス語圏② Maroc et Tunisie	・マグレブ西部および東部のフランコフォニーに関する解説：地理・歴史・言語・諸文化など
10	サハラ以南のフランス語圏① Sénégal	・サハラ以南アフリカのフランコフォニー (旧仏領) に関する解説：地理・歴史・言語・諸文化など
11	サハラ以南のフランス語圏② Congo-Kinshasa et Congo-Brazzaville	・サハラ以南アフリカのフランコフォニー (旧仏領およびベルギー領) に関する解説：地理・歴史・言語・諸文化など
12	サハラ以南のフランス語圏③ Rwanda	・サハラ以南アフリカのフランコフォニー (旧ベルギー領) に関する解説：地理・歴史・言語・諸文化など
13	ヨーロッパのフランス語圏① Belgique	・西ヨーロッパのフランコフォニーに関する解説：地理・歴史・言語・諸文化など
14	ヨーロッパのフランス語圏② Suisse	・西ヨーロッパのフランコフォニーに関する解説：地理・歴史・言語・諸文化など

まとめ
・秋学期授業のまとめ

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

- 1) 各地域圏に関する情報を、主に学術書や論文 (場合によっては各地域圏サイト) を参照しつつ、予習・復習を行って欲しい。
 - 2) 映像資料については、多くの場合、授業内で全てを見ることができないわけではないため、できるだけ個人的に視聴して欲しい。
 - 3) 期末レポートの執筆に向けて、各地域圏を調べる際の「きっかけ」となる「テーマや関心領域」を早めに決定して欲しい (或る程度、自分の「テーマや関心領域」を特定しないと、レポート執筆だけでなく、その準備も難しいと思われるため)。
 - 4) 期末レポートの執筆に向けて、レポート執筆の方法・手続き・注意点 (特に引用の仕方、参考文献の書き方) について確りと学習しておいて欲しい。
- 本授業の準備学習・復習時間は、合計 4 時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

- ・教科書は、特になし
- ・原則、各回において資料を配布する予定

【参考書】

- I. 以下の 4 冊の参考書は、フランス共和国やフランコフォニーについて基礎知識が得られるため、簡単にでも参照するようにしてほしい。
- 1) 剣持久木編著『よくわかるフランス近現代史』ミネルヴァ書房、2018 年、本体 2600 円 + 税
- 2) ジャック・レヴィ編 (土居佳代子訳) 『地図で見るフランスハンドブック』原書房、2018 年、本体 2800 円 + 税
- 3) ジャン＝ブノワ・ナドー、ジュリー・バーロウ著 (立花英裕監修・中尾ゆかり訳) 『フランス語のはなし：もうひとつの国際共通語』大修館書店、2008 年、本体 2400 円 + 税
- 4) 鳥羽美鈴著『多様性の中のフランス語：フランコフォニーについて考える』関西学院大学出版会、2012 年、本体 3400 円 + 税
- II. 以下の 2 冊の参考書はフランス語教科書であるが、比較的情報が充実しているため、フランス語学習者は参照してみたい。
- 5) Fabienne Guillemin 著『Tour de France (フランス、地方を巡る旅)』駿河台出版社、2017 年、本体 1900 円 + 税
- 6) 小松祐子、Gilles Delmaire 著『Destination francophoneie: nouvelle édition (フランコフォニーへの旅：改訂版)』駿河台出版社、2019 年、本体 2300 円 + 税

【成績評価の方法と基準】

・平常点と期末レポートに基づき、総合的に評価する。

- ①平常点（コメントシート等）：30 %
- ②期末レポート：70 %

【学生の意見等からの気づき】

・歴史的要素の説明が多くなりがちであるため、もう少し他の社会文化的要素の説明にも時間をさけるように心がけたい。

【その他の重要事項】

・受講に当たって、フランス語に関する予備知識は必要ない。

【Outline (in English)】

This course introduces the foundations of the french speaking world (la francophonie) including the French republicque. Students taking this course become able to understand in summary the situations of geography, history, (regional) langages and various cultures in each region or country.

The goals of this course are to unerstanding and explaining the socio-cultural situation of each French regions.

Before and after each class meeting,students will be expected to spend four hours to read the relevant documents.

Your overall grade in the class will be decided based on the followings:

in class contributions (discussion, reaction paper, etc): 30%,
term-end report: 70%.

LANF200LA

フランス語コミュニケーション(初級) I 2017年度以降入学者

ニコラ ガイヤール

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 3/Thu.3

単位数：1 単位

定員制 (30 名)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

初心者向けの会話の授業です。フランス人の日常生活に触れながら、フランス語のコミュニケーションの基礎を学ぶことができます。原則として、教室における対面授業を予定しています。ただし、大学から対面授業方針の変更が伝えられた場合はこの限りではありません。また、東京および日本全国における感染拡大状況を考慮に入れつつ、教室で行う対面授業の回数とオンラインで行う遠隔授業の回数は学期開始後に調整します。

【到達目標】

この授業の目的はフランス語でのベーシックコミュニケーション能力とフランスに対する好奇心や興味を高めることです。日常生活に必要な表現を取得することができます。その上、フランス語圏の文化や社会の面白いテーマを取り上げます。聞く、読む、話す、書くの4つの能力も鍛えます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

音声で聞き取りをし、文法の練習問題を行います。その後、ペアになり会話のロールプレーをします。また、フランス文化に関するテーマについてディスカッションをし、フランス語で文章をまとめます。基本的に授業時間内にフィードバックを行うが、LMSなどを活用する場合もある

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Demander des articles	パンを買う
2	Demander des articles	郵便局の会話
3	Parler des quantités	朝市での会話
4	Parler des quantités	スーパーで
5	Demander le prix	文房具を買う
6	Passer une commande	カフェで注文する
7	Faire une réservation	ホテルの予約
8	Faire une réservation	電車のチケットを買う
9	Faire des achats	服を買う
10	Faire des achats	靴を買う
11	Hésiter	何の花を買うのか躊躇う
12	Prendre rendez-vous	歯医者さんの予約を取る
13	Prendre rendez-vous	医者さんの予約を取る
14	Demander des renseignements	地下鉄の窓口の会話

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

前の授業の勉強したことを生かし会話を書いて提出します。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

Communication progressive du français - Niveau débutant 出版社：CLE International 作者：Claire Miquel ISBN：978-2-09-038445-1

【参考書】

仏和・和仏の辞書があると便利です。

【成績評価の方法と基準】

平常点 100% (授業中の発言 50%及び宿題の提出 50%)。この授業は5回以上欠席する者は評価の対象外になりますので注意すること。

【学生の意見等からの気づき】

フランス人の生活の話をもっとします。

【学生が準備すべき機器他】

CD プレイヤー

【その他の重要事項】

感染症拡大状況により、授業開始後に授業形態に変更が生じる可能性もある。その場合は学習支援システム上に通知する。

【Outline (in English)】

This course introduces French conversation and culture to students taking this course at a beginner level. Students will improve their speaking, listening and writing skills. The goals of this course is to practice French conversation at beginner level and help students have a better knowledge of everyday life in France. Before/after each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content. Your overall grade in the class will be decided based on the following :

- In class contribution and participation : 50%

- Homework : 50%

LANF200LA

フランス語コミュニケーション(初級)Ⅱ 2017年度以降入学者

ニコラ ガイヤール

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 3/Thu.3

単位数：1 単位

定員制（30名）

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

初心者向けの会話の授業です。フランス人の日常生活に触れながら、フランス語のコミュニケーションの基礎を学ぶことができます。

【到達目標】

この授業の目的はフランス語でのベーシックコミュニケーション能力とフランスに対する好奇心や興味を高めることです。日常生活に必要な表現を取得することができます。その上、フランス語圏の文化や社会の面白いテーマを取り上げます。聞く、読む、話す、書くの4つの能力も鍛えます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

音声で聞き取りをし、文法の練習問題を行います。その後、ペアになり会話のロールプレーをします。また、フランス文化に関するテーマについてディスカッションをし、フランス語で文章をまとめます。基本的に授業時間内にフィードバックを行うが、LMSなどを活用する場合もある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	Exprimer une obligation	区役所の会話
2	Autoriser et interdire	スキーリゾートの会話
3	Vérifier	プールの会話
4	Protester	クレームを言う
5	Exprimer des intentions et des projets	自転車レンタルの会話
6	Exprimer des intentions et des projets	銀行の会話
7	Localiser	デパートの会話
8	Localiser	道案内の会話
9	Localiser	紛失した物の会話
10	S'informer par téléphone	不動産屋の会話
11	Comparer	バカンスの場所を決める会話
12	Caractériser	パーティの準備
13	Exprimer une condition	天気によって計画を立てる
14	Parler d'un besoin	仕事に必要な物の話をする

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

前の授業の勉強したことを生かし会話を書いて、提出します。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

Communication progressive du français - Débutant 出版社：CLE International 作者：Claire Miquel ISBN：978-2-09-038445-1

【参考書】

仏和・和仏の辞書があると便利です。

【成績評価の方法と基準】

平常点(授業中の発言 50%や宿題の提出 50%)。この授業は5回以上欠席する者は評価の対象外になりますので注意すること。

【学生の意見等からの気づき】

フランス人の生活をもっと話します。

【学生が準備すべき機器他】

CD プレーヤー

【その他の重要事項】

感染症拡大状況により、授業開始後に授業形態に変更が生じる可能性もある。その場合は学習支援システム上に通知する。

【Outline (in English)】

This course introduces French conversation and culture to students taking this course at a beginner level. Students will improve their speaking, listening and writing skills. The goals of this course is to practice French conversation at beginner level and help students have a better of French grammar. Before/after each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content. Your overall grade in the class will be decided based on the following :

- In class contribution and participation : 50%

- Homework : 50%

LANf200LA

時事フランス語 I

2017 年度以降入学者

大中 一彌

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 2/Wed.2

単位数：1 単位

定員制 (30 名)

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

Ce cours a pour but d'aider les étudiants à améliorer la compréhension sur les sociétés, la politique et les médias francophones. L'accent est mis sur la communication orale et l'utilisation du vocabulaire spécialisé. En participant aux activités proposées, ils se familiariseront avec les sites Web francophones d'actualités.

【到達目標】

Les objectifs à atteindre diffèrent selon le niveau de départ de l'étudiant.e.

* Objectif d'apprentissage pour les faux-débutants et les apprenants au niveau intermédiaire : l'étudiante ou l'étudiant sera en mesure d'acquérir, à l'issue des deux semestres de « Jiji-Furansugo », une aptitude linguistique équivalente au niveau A2 du cadre européen de référence pour les langues ou au Futsuken jun 2 kyû.

** Objectif pédagogique pour ceux qui maîtrisent déjà plus ou moins bien la langue française (les apprenants au niveau supérieur ainsi que les étudiants internationaux francophones) : l'étudiante ou l'étudiant sera capable de formuler des commentaires pertinents qui témoignent d'une compréhension solide des enjeux locaux et mondiaux.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

À chaque séance de cours, l'enseignant propose des ressources disponibles sur internet. Les apprenants seront invités à répondre à des questions posées et à en dégager les informations essentiels. Pour ce faire, ils ont le droit de consulter les ouvrages et les dictionnaires rédigés dans leur première langue (langue dite "maternelle") respective. Tous les participants doivent néanmoins tâcher de s'exprimer en langue française, et de contribuer à analyser ce qui se dit dans le matériel.

La langue d'enseignement en classe est en principe le français, tandis que les informations administratives seront fournies en japonais via LMS et par e-mail.

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
Séance 1	Pourquoi vous inscrire au cours de « Jiji-Furansugo » ?	Exposer l'intérêt de cours ; engager une conversation dans un français simple; Devinettes sonores - les transports; Nos langues et le français
Séance 2	Présenter le planning du semestre	Devinettes sonores - des sons étranges; Nadine se présente.

Séance 3	Réfléchir sur la parité Femmes/Hommes en politique ; Les symboles de la République française	« Une nouvelle cheffe de gouvernement en France » ; « Ici, en République »
Séance 4	Décrire un phénomène naturel ; Mondialisation et produits « made in France »	« Le volcan Mauna Loa se réveille » ; « Nous allons vivre à la française »
Séance 5	Parler d'un événement sportif ; S'imprégner dans un environnement interculturel	« Jeux olympiques d'hiver 2022 » ; « Guadeloupe, couleurs Caraïbes »
Séance 6	Culture Hip-hop et le français; S'informer sur les mouvements sociaux	« Manifestations en France » ; « Youtubeurs et engagés »
Séance 7	L'Europe de l'ouest suffoque. ; Namur, c'est où ?	« Canicule en Europe » ; « La maison »
Séance 8	Familiariser avec le vocabulaire du milieu journalistique; le cinéma en France	« Ouverture du festival de Cannes » ; « Les professions »
Séance 9	Assimiler des expressions typiques dans une émission d'information; Découvrir l'ancienne région Rhône-Alpes	« La reine d'Angleterre, Elizabeth II, est décédée » ; « Grammaire : le présent de l'indicatif »
Séance 10	Préciser les différents types d'inégalité	« États-Unis: les salaires des grands patrons explosent » ; « Droits des femmes : à quand l'égalité ? »
Séance 11	Raconter un récit sportif; Égalité des genres	« Tour de France 2022 » ; « Où en sont les droits des LGBT dans le monde ? »
Séance 12	Analyser l'opinion sur l'écologie; Canada et coronavirus	« Football: scandale climatique pour le PSG » ; « Canada : la pandémie aggrave la crise sociale »
Séance 13	S'intéresser à la diplomatie linguistique	« Le 18e sommet de la Francophonie » ; « Destination Japon »
Séance 14	La République démocratique du Congo et le Royaume du Maroc	« Les gorilles du parc des Virunga en danger » ; « Des bénévoles mobilisés au Maroc »

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

1) Essayez d'exploiter vous-même le matériel pédagogique dont les adresses URL sont d'ores et déjà indiquées dans le Tableau de bord pour Jiji-Furansugo. https://docs.google.com/spreadsheets/d/1oLZg_4YenDImlRj7Ftbb2Lj6BQ40OWN8v0hq3umN1q0/edit?usp=sharing (accessible uniquement aux étudiant.e.s Hôsei)

2) Selon les Normes pour la création d'universités, le temps minimum de préparation et de révision requis pour obtenir deux crédits pour un cours ou un séminaire est de quatre heures par session.

【テキスト (教科書)】

1. Radio France Internationale - RFI Savoirs <https://savoirs.rfi.fr/fr>

2. TV5Monde - Apprendre le français <https://apprendre.tv5monde.com/fr>

【参考書】

1. Nexis Unis (Hosei University Library - E Database : Overseas Newspapers)
2. PressReader (Hosei University Library - E Database : Overseas Newspapers)
3. Cairn.info (Hosei University Library - E Database : Overseas articles)
4. Encyclopædia Universalis (Hosei University Library - E Database : Dictionaries/Encyclopedias)
5. Shogakukan Robert Grand Dictionnaire Français-Japonais (Hosei University Library - E Database : Dictionaries/Encyclopedias - « JapanKnowledge »)

Nota Bene : L'accès hors campus à ces bases de données requiert le VPN universitaire. Consultez le site Web du service informatique de Hôsei pour en savoir plus. URL <https://netsys.hosei.ac.jp/>

【成績評価の方法と基準】

L'évaluation se fait en contrôle continu. À chaque séance, elle sera effectuée sur deux éléments : assiduité (45%) et participation active en cours (45%). Les remarques sur les fautes commises par l'enseignant seront toujours les bienvenues et prises en compte en notation (10%).

【学生の意見等からの気づき】

Comment progresser en français ? Je répondrais que la question de la motivation est cruciale.

La plupart des compétences, et pas seulement celle des langues, nécessitent une certaine période de formation pour être acquises. En d'autres termes, vous devez rester motivé.e pendant un certain temps.

Pour rester motivé.e, vous devez avoir un objectif clair.

Afin d'aider à clarifier votre objectif, je vous invite à consulter le document ci-dessous. https://docs.google.com/document/d/1ShEdsEhsbWQCchpimlVgmrF1p0exsJZeJVH0Caz3_mk/edit?usp=sharing (accessible uniquement aux étudiant.e.s Hôsei)

【学生が準備すべき機器他】

La connexion internet stable et illimité ainsi qu'un support informatique personnalisé comme ordinateur, tablette ou smartphone sont nécessaires. On utilise deux plateformes (« LMS » en anglais) dont (1) Google Classroom sert à partager les documents et que (2) les apprenants peuvent connaître une partie de notes en consultant son relevé des points sur le site Hoppii. En cas de cours en distanciel, on se servira de systèmes de visioconférence comme Zoom.

【その他の重要事項】

1) Si vous n'êtes pas sûr de votre niveau linguistique, essayez de passer un « test de placement » au niveau A1 sur le site Web de la RFI URL <https://savoirs.rfi.fr/fr/apprendre-enseigner/langue-francaise/test-de-placement-a1/1> Inscrivez-vous à ce cours si vous pouvez répondre correctement à plus de la moitié des questions.

2) Le planning communiqué ci-dessus est encore sujet à évolution.

【Outline (in English)】

【Outline and objectives】

This course aims to promote students' understanding of French society, politics, and news media. An emphasis is placed on oral communication and using specialized vocabulary. By participating in proposed activities, students will become familiar with French-speaking news websites.

【Goal】

The goals to be achieved differ according to the starting level of the student.

* Learning objective for false beginners and intermediate learners: the student will be able to acquire, at the end of the two semesters of "Jiji-Furansugo", a linguistic ability equivalent to level A2 of the European Framework of Reference for Languages or to Futsuken jun 2 kyū.

** Pedagogical goal for those who already have a more or less good command of the French language (learners at the higher level as well as French-speaking international students): the student will be able to formulate relevant comments that demonstrate a solid understanding of local and global issues covered by the French-speaking media.

【Method(s)】

In each class session, the teacher will suggest materials available on the Internet. Learners will be asked to identify the essential elements. To do so, they are allowed to consult books and dictionaries written in their respective first language (the "mother tongue"). However, all participants are expected to express themselves in French, and to contribute to the discussion on what is said in the material.

The language of instruction in the classroom is primarily French, while administrative informations will be provided in Japanese via LMS and e-mail.

[Work to be done outside of class (preparation, etc.)]

1) Try to make use of the learning materials yourself. The URLs for these materials are already listed in the Dashboard for Jiji-Furansugo.

2) According to the Standards for the Establishment of Universities, the minimum time of preparation and review required to earn two credits for a lecture or seminar is four hours per session.

【References】

1. Nexis Unis (Hosei University Library - E Database : Overseas Newspapers)
2. PressReader (Hosei University Library - E Database : Overseas Newspapers)
3. Cairn.info (Hosei University Library - E Database : Overseas articles)
4. Encyclopædia Universalis (Hosei University Library - E Database : Dictionaries/Encyclopedias)
5. Shogakukan Robert Grand Dictionnaire Français-Japonais (Hosei University Library - E Database : Dictionaries/Encyclopedias - « JapanKnowledge »)

Note: Off-campus access to these databases requires a connection through a Virtual Private Network ("VPN"). See the Hosei Network System Service website for information on how to connect to the university VPN. URL <https://netsys.hosei.ac.jp/>

【Grading criteria】

Evaluation is done on a continuous basis. At each session, it will be carried out on two elements: attendance (45%) and active participation in class (45%). The student's investment during the semester as well as remarks on mistakes made by the teacher will always be welcome and taken into account in the grading (10%).

【Equipment student needs to prepare】

A stable and unlimited internet connection as well as a personalized IT device such as a computer, tablet or smartphone are required. Two LMS platforms are used, of which (1) Google Classroom is mainly used to share documents and (2) learners can consult some notes on the Hoppii website. In case of remote courses, video conferencing systems such as Zoom or Google Meet will be used to ensure the educational continuity.

【Others】

1) If you are uncertain of your language level, try taking a "placement test" at the A1 level on the RFI website <https://savoirs.rfi.fr/en/apprendre-enseigner/langue-fran% C3%A7aise/test-de-placement-a1/1> Enroll in this course if you can answer more than half of the questions correctly.

2) The above schedule is still subject to change.

LANf200LA

時事フランス語Ⅱ

2017年度以降入学者

大中 一彌

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 2/Wed.2

単位数：1 単位

定員制（30名）

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

Ce cours a pour but d'aider les étudiants à améliorer la compréhension sur les sociétés, la politique et les médias francophones. L'accent est mis sur la communication orale et l'utilisation du vocabulaire spécialisé. En participant aux activités proposées, ils se familiariseront avec les sites Web francophones d'actualités.

【到達目標】

Les objectifs à atteindre diffèrent selon le niveau de départ de l'étudiant.e.

* Objectif d'apprentissage pour les faux-débutants et les apprenants au niveau intermédiaire : l'étudiante ou l'étudiant sera en mesure d'acquérir, à l'issue des deux semestres de « Jiji-Furansugo », une aptitude linguistique équivalente au niveau A2 du cadre européen de référence pour les langues ou au Futsuken jun 2 kyû.

** Objectif pédagogique pour ceux qui maîtrisent déjà plus ou moins bien la langue française (les apprenants au niveau supérieur ainsi que les étudiants internationaux francophones) : l'étudiante ou l'étudiant sera capable de formuler des commentaires pertinents qui témoignent d'une compréhension solide des enjeux locaux et mondiaux.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

À chaque séance de cours, l'enseignant propose des ressources disponibles sur internet. Les apprenants seront invités à répondre à des questions posées et à en dégager les informations essentiels. Pour ce faire, ils ont le droit de consulter les ouvrages et les dictionnaires rédigés dans leur première langue (langue dite "maternelle") respective. Tous les participants doivent néanmoins tâcher de s'exprimer en langue française, et de contribuer à analyser ce qui se dit dans le matériel.

Le retour d'information aux étudiants se fait en salle de classe, sur le LMS (Hoppii et Google Classroom) et par e-mail.

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
Séance 1	Pourquoi vous inscrire au cours de « Jiji-Furansugo » ?	Exposer l'intérêt de cours ; engager une conversation dans un français simple; « Devinettes sonores - les animaux » ; « Les langues de la classe (atelier 2 - français langue maternelle) »
Séance 2	Présenter le planning du semestre	« Devinettes sonores - les lieux » ; « Sous le ciel de Paris - Zaz »

Séance 3	Engager une conversation en français ; jouer au journaliste en classe	« Les voisins du 12 bis - épisode 1: Une arrivée mouvementée (partie1) » ; « Flash infos (12/16) »
Séance 4	Accompagner pour un accouchement; s'interroger sur les stéréotypes	« Les voisins du 12 bis - épisode 1: Une arrivée mouvementée (partie2) » ; « Un travail d'homme et de femme »
Séance 5	Comprendre le système de santé français; La vie scolaire - Cantine	« Les voisins du 12 bis épisode 6: Au Décibel (partie1) » ; « À table (10/16) »
Séance 6	Se familiariser avec le milieu associatif; L'art de vivre	« Les voisins du 12 bis épisode 7: La chambre de bonne (partie2) » ; « Les Français à table »
Séance 7	Raisonner par analogie; Découvrir des exercices au niveau A2	« Faire un portrait chinois de la Joconde » ; « Nous nous informons en français. »
Séance 8	Profiter d'une visite guidée dans un monument architectural; essayer de comprendre les gros titre d'une émission d'information	« Les titres du journal (2 janvier 2023) » ; « Le Paris des grands magasins »
Séance 9	Cultiver des légumes dans un jardin; Charm el-Cheikh capitale de la réflexion mondiale sur le climat	« Les titres du journal (7 novembre 2022) » ; « Un potager de champion »
Séance 10	Vocabulaires de base pour le journalisme politique (référendum, etc.); Le numérique à Abidjan	« Les titres du journal (6 juillet 2022) » ; « La presse et les médias : la Côte d'Ivoire - Mon horizon rêvé »
Séance 11	Vaccination contre le Covid-19; Construire des maisons en Afrique	« Les titres du journal (1er juin 2022) » ; « Burkina Faso : des toits en terre »
Séance 12	Populisme au Brésil; prendre l'habitude d'écouter les actualités en français	« Les titres du journal (3 mai 2022) » ; « Manifestations anti-confinement à Rio »
Séance 13	« Slava Ukraini. »	« Les titres du journal (7 décembre 2022) » ; « Destination Kiev (Ukraine) »
Séance 14	Politique de puissance ou démocratie entre les peuples ?; développement durable et identité festive	« Allemagne: un sapin de Noël controversé » ; « La procédure de nomination du secrétaire général de l'ONU »

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

1) Essayez d'exploiter vous-même le matériel pédagogique dont les adresses URL sont d'ores et déjà indiquées dans le Tableau de bord pour Jiji-Furansugo. https://docs.google.com/spreadsheets/d/1oLZg_4YenDImlRj7Ftbb2Ij6BQ40OWN8v0hq3umN1q0/edit?usp=sharing (accessible uniquement aux étudiant.e.s Hôsei)

2) Selon les Normes pour la création d'universités, le temps minimum de préparation et de révision requis pour obtenir deux crédits pour un cours ou un séminaire est de quatre heures par session.

【テキスト (教科書)】

1. Radio France Internationale - RFI Savoirs <https://savoirs.rfi.fr/fr>
2. TV5Monde - Apprendre le français <https://apprendre.tv5monde.com/fr>

【参考書】

1. Nexis Unis (Hosei University Library - E Database : Overseas Newspapers)
2. PressReader (Hosei University Library - E Database : Overseas Newspapers)
3. Cairn.info (Hosei University Library - E Database : Overseas articles)
4. Encyclopædia Universalis (Hosei University Library - E Database : Dictionaries/Encyclopedias)
5. Shogakukan Robert Grand Dictionnaire Français-Japonais (Hosei University Library - E Database : Dictionaries/Encyclopedias - « JapanKnowledge »)

Nota Bene : L'accès hors campus à ces bases de données requiert le VPN universitaire. Consultez le site Web du service informatique de Hôsei pour en savoir plus. URL <https://netsys.hosei.ac.jp/>

【成績評価の方法と基準】

L'évaluation se fait en contrôle continu. À chaque séance, elle sera effectuée sur deux éléments : assiduité (45%) et participation active en cours (45%). Les remarques sur les fautes commises par l'enseignant seront toujours les bienvenues et prises en compte en notation (10%).

【学生の意見等からの気づき】

Comment progresser en français ? Je répondrais que la question de la motivation est cruciale.

La plupart des compétences, et pas seulement celle des langues, nécessitent une certaine période de formation pour être acquises. En d'autres termes, vous devez rester motivé.e pendant un certain temps.

Pour rester motivé.e, vous devez avoir un objectif clair.

Afin d'aider à clarifier votre objectif, je vous invite à consulter le document ci-dessous. https://docs.google.com/document/d/18FejuX_zKcrCqUimUfTyvKe6eS3eMtAzYQ7xr-tY3M/edit?usp=sharing (accessible uniquement aux étudiant.e.s Hôsei)

【学生が準備すべき機器他】

La connexion internet stable et illimitée ainsi qu'un support informatique personnalisé comme ordinateur, tablette ou smartphone sont nécessaires. On utilise deux plateformes (« LMS » en anglais) dont (1) Google Classroom sert à partager les documents et que (2) les apprenants peuvent connaître une partie de notes en consultant son relevé des points sur le site Hoppii. En cas de cours en distanciel, on se servira de systèmes de visioconférence comme Zoom.

【その他の重要事項】

1) Si vous n'êtes pas sûr de votre niveau linguistique, essayez de passer un « test de placement » au niveau A1 sur le site Web de la RFI URL <https://savoirs.rfi.fr/fr/apprendre-enseigner/langue-francaise/test-de-placement-a1/1> Inscrivez-vous à ce cours si vous pouvez répondre correctement à plus de la moitié des questions.

2) Le planning communiqué ci-dessus est encore sujet à évolution.

【Outline (in English)】

【Outline and objectives】

This course aims to promote students' understanding of French society, politics, and news media. An emphasis is placed on oral communication and using specialized vocabulary. By participating in proposed activities, students will become familiar with French-speaking news websites.

【Goal】

The goals to be achieved differ according to the starting level of the student.

* Learning objective for false beginners and intermediate learners: the student will be able to acquire, at the end of the two semesters of "Jiji-Furansugo", a linguistic ability equivalent to level A2 of the European Framework of Reference for Languages or to Futsuken jun 2 kyū.

** Pedagogical goal for those who already have a more or less good command of the French language (learners at the higher level as well as French-speaking international students): the student will be able to formulate relevant comments that demonstrate a solid understanding of local and global issues covered by the French-speaking media.

【Method(s)】

In each class session, the teacher will suggest materials available on the Internet. Learners will be asked to identify the essential elements. To do so, they are allowed to consult books and dictionaries written in their respective first language (the "mother tongue"). However, all participants are expected to express themselves in French, and to contribute to the discussion on what is said in the material.

The language of instruction in the classroom is primarily French, while administrative informations will be provided in Japanese via LMS and e-mail.

【Work to be done outside of class (preparation, etc.)】

1) Try to make use of the learning materials yourself. The URLs for these materials are already listed in the Dashboard for Jiji-Furansugo.

2) According to the Standards for the Establishment of Universities, the minimum time of preparation and review required to earn two credits for a lecture or seminar is four hours per session.

【References】

1. Nexis Unis (Hosei University Library - E Database : Overseas Newspapers)
2. PressReader (Hosei University Library - E Database : Overseas Newspapers)
3. Cairn.info (Hosei University Library - E Database : Overseas articles)
4. Encyclopædia Universalis (Hosei University Library - E Database : Dictionaries/Encyclopedias)
5. Shogakukan Robert Grand Dictionnaire Français-Japonais (Hosei University Library - E Database : Dictionaries/Encyclopedias - « JapanKnowledge »)

Note: Off-campus access to these databases requires a connection through a Virtual Private Network ("VPN"). See the Hosei Network System Service website for information on how to connect to the university VPN. URL <https://netsys.hosei.ac.jp/>

【Grading criteria】

Evaluation is done on a continuous basis. At each session, it will be carried out on two elements: attendance (45%) and active participation in class (45%). The student's investment during the semester as well as remarks on mistakes made by the teacher will always be welcome and taken into account in the grading (10%).

【Equipment student needs to prepare】

A stable and unlimited internet connection as well as a personalized IT device such as a computer, tablet or smartphone are required. Two LMS platforms are used, of which (1) Google Classroom is mainly used to share documents and (2) learners can consult some notes on the Hoppii website. In case of remote courses, video conferencing systems such as Zoom or Google Meet will be used to ensure the educational continuity.

[Others]

- 1) If you are uncertain of your language level, try taking a "placement test" at the A1 level on the RFI website <https://savoirs.rfi.fr/en/apprendre-enseigner/langue-fran%C3%A7aise/test-de-placement-a1/1> Enroll in this course if you can answer more than half of the questions correctly.
- 2) The above schedule is still subject to change.

ARSA200LA

フランスの文化と社会 L A

2017 年度以降入学者

サブタイトル：フランスの映画

鈴木 正道

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 4/Wed.4

単位数：2 単位

定員制 (30 名)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

この授業では、映画を通して、フランスの社会の様々な面について考えます。フランスは世界有数の映画大国です。特に国家は映画製作に多額の補助を出しています。こうした映画を通して、フランスの人々の生活の様々な面、問題、喜びや悲しみ、苦しみが見えてきます。この授業では、フランス映画の特徴や歴史とともに、これらフランス社会の様々な面について考えます。フランスに関心のある学生を対象としています。フランス語を履修している必要はありません。

【到達目標】

フランスの映画に関する知識を増やし、アメリカや日本の映画、他のヨーロッパ映画やほかの地域の映画との違いに関して考えることを目標とします。さらに映画作品から見て取れる、フランスで暮らす人々 (フランス国籍を持つとは限りません) の生活、諸問題に関して考えることを目指します。そこから、日本さらには他の国との違いや共通点について考え、なぜそのような違いがあるのか、なぜ同じようなことになるのかを考えます。

「文化論」のようなものは「実用性がない」ように言われがちですが、「衣食足りて」、「モノ」から「コト」へと消費が移ってきた現在において、「文化大国」であるフランスに関する知識を身に着けることで、今後の職業生活に必要な「ネタ」を蓄え、さらには自ら探り当てる習慣を身に着けます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

誰でも知っている大ヒット作、今では古典となったフランス映画の代表的作品、映画の歴史を創った作品、知る人ぞ知る映画などを扱います。テーマとなっている作品を鑑賞し、監督や製作者がそこに込めた意図、もしくは意識していないが見て取れる問題について考えます。また自分が製作者になった立場で場面の演出を考えてみましょう。

皆さんは学習支援システムを通して課題を数回出すことになります。私はやはり学習支援システムを通してお返しします。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	『アメリカ』1 2001年の大ヒット作 パリという空間： モンマルトルからあちこちへ	空想に駆られる主人公： 他人の幸せのために
2	『アメリカ』2 なぜヒットしたか	空想から現実へ モンマルトルは理想郷？
3	『アメリカ』3 トットとカンヴィツ	刑事とシャネル／監督と俳優

4	『太陽がいっぱい』1 名優アラン・ドロンの主演のフランス・イタリ ア合作映画	このタイトルはどういう意味か。 誤訳かわざとか。邦題タイトルに ついて。
5	『太陽がいっぱい』2	金持ちの傲慢青年と貧しき悪の天才青年。
6	『太陽がいっぱい』3 犯罪は「太陽のせい」？ 映画音楽	地中海の熱い太陽と哀愁の音楽。 映画を知らずとも音楽は聴いたことがある。
7	映画の始まり	世界初の映画上映：リュミエール兄弟。 初期の映画：『月世界探検旅行』『ファントマス』
8	ヌーヴェル・ヴァーグ 『勝手にしやがれ』1	映画の「新しい波」 「邦題タイトルについて」その2 ゴダールの代表作：原題は「息切れ」
9	『勝手にしやがれ』2 おかしなカップル： ジャン＝ポール・ベルモンドとジーン・セバーグ	これは犯罪映画か？
10	『勝手にしやがれ』3 モンパルナス	右岸のモンマルトルと左岸のモンパルナス シャンソンとジャズ
11	ヌーヴェル・ヴァーグ その2： トリュフォー	アントワヌ・ドゥワネルのシリーズ
12	『女優マルキーズ』1	ソフィー・マルソー演じる女優は旅役者
13	『女優マルキーズ』2 ルイ 14 世の時代	太陽王の古典主義時代： モリエールとジャン・ラシーヌ
14	『女優マルキーズ』3 舞台上に死す	謎多き女優の生涯 ソフィー・マルソーとバルナール・ジロドー

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

取り上げる映画作品は授業内ではさわりの部分しか紹介できないので、興味のある人は AV ライブラリなどで借りて全体を観ておくといいかと思えます。

- 1：モンマルトルについて調べる。
 - 2：アメリカの行く様々な地域について調べる。
 - 3：出演者の他の作品について調べる。
 - 4：フランス人にとっての地中海はどのようなものかを考える。
 - 5：「完全犯罪」は可能かを考える。
 - 6：フランス人および他の国の人々にとってアラン・ドロンはどのような俳優かを考える。
 - 7：創世期の映画について調べる。
 - 8：外国映画の邦題について考える。
 - 9：『勝手にしやがれ』のどこが新しいのか考える。
 - 10：モンパルナスとモンマルトルの共通点と違いについて調べる。
 - 11：トリュフォーやその他のヌーヴェル・ヴァーグの監督について調べる。
 - 12：17 世紀の俳優について調べる。
 - 13：17 世紀の古典主義作家について調べる。
 - 14：出演者たちの他の作品について調べる。
- 本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

指定した教科書はありません。学習支援システムに資料を載せます。

【参考書】

『フランス映画史の誘惑』中条省平、集英社新書 0179
『大学生のためのレポート・論文術』小笠原喜康、講談社現代新書 1603。
『論文レポートの文章作法』古郡廷治、有斐閣新書 C164
『著作権とは何か』、福井建築、集英社新書 0924A
その他随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】

テーマごとの作品の鑑賞と分析が一区切りついた時点で、400字ほどの書き物を学習支援システムの「課題」を通して出していただき、その評価の合計で成績を出します（100%）。

【学生の意見等からの気づき】

広い教室でまばらに座るために、「議論」が成り立ちにくいので、学習支援システムをもう少し有効に使う工夫をしようと考えています。

【Outline (in English)】

This course deals with various aspects of lives in France with the aide of movies. France is one of the most movie-loving countries. The French government gives a large sum of subsidies to movie-makers. Through films we see different aspects of lives in France, problems, people's joys, sorrows, and pains. In this course, the students not only learn characteristics and history of French movies but reflect on these subjects, which we can find in films.

The goals of this course are to get knowledge about French films and to analyze differences between them and films of other countries, as well as to reflect on various problems in the French society.

The students are expected to see a whole film, which we can see only partially during the class, and to make some researches on subjects concerning social or historical backgrounds of the film. After each film, the students must submit an assignment. This work will require two hours for each class.

Final grade will be calculated according to the total score of assignments (100%).

This course is designed for all students who are interested in France; the knowledge of the French language is not indispensable.

ARSa200LA

フランスの文化と社会 L B 2017 年度以降入学者

サブタイトル：フランスの映画

鈴木 正道

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 4/Wed.4

単位数：2 単位

定員制 (30 名)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

春学期に続いて、この授業では、映画を通して、フランスの社会の様々な面について考えます。フランスは世界有数の映画大国です。特に国家は映画製作に多額の補助を出しています。こうした映画を通して、フランスの人々の生活の様々な面、問題、喜びや悲しみ、苦しみが見えてきます。この授業では、フランス映画の特徴や歴史とともに、これら社会の様々な面について考えます。フランスに関心のある学生を対象としています。フランス語を履修している必要はありません。

【到達目標】

フランスの映画に関する知識を増やし、アメリカや日本の映画、他のヨーロッパ映画やほかの地域の映画との違いに関して考えることを目標とします。さらに映画作品から見て取れる、フランスで暮らす人々（フランス国籍を持つとは限りません）の生活、諸問題に関して考えることを目指します。そこから、日本さらには他の国との違いや共通点について考え、なぜそのような違いがあるのか、なぜ同じようなことになるのかを考えます。

「文化論」のようなものは「実用性がない」ように言われがちですが、「衣食足りて」「モノ」から「コト」へと消費が移ってきた現在において、「文化大国」であるフランスに関する知識を身に着けることで、今後の職業生活に必要な「ネタ」を蓄え、さらには自ら探り当てる習慣を身に着けます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

21 世紀に入って大ヒットしたいかにもフランスらしい？映画、アメリカのミュージカルのアンチテーゼのようなミュージカル映画、そして戦時中に創られた不朽の名作、さらに演劇の人気ナンバーワンのヒーローの映画化作品などを扱います。テーマとなっている作品を鑑賞し、監督や製作者がそこに込めた意図、もしくは意識していないが見取れる問題について考えます。また自分が製作者になった立場で場面の演出を考えてみましょう。

皆さんは学習支援システムを通して課題を数回出すことになります。私はやはり学習支援システムを通してお返しします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	授業の説明、 『最強のふたり』1： 2011 年のヒット作	「ふたり」とはどんなひとたち？
2	『最強のふたり』2： 格差社会と移民	パリの郊外とは？ 富裕層の多い区域は？
3	『最強のふたり』3： 北の海岸での出会い	「介護者」と「パートナー」：助けける人とお膳立てする人

4	『シェルブールの雨傘』1 フランスのミュージカル； 原題そのままの邦題は何を意味しているのか	誰もが聞いたことのあるミシェル・ルグランの音楽； 1960 年代のフランスの地方都市：やはり北の港町
5	『シェルブールの雨傘』2 フランスにとっての 1960 年代はじめ	アルジェリア戦争：様々な分断
6	『シェルブールの雨傘』3 Westside Story の向こうを張った？	「曖昧な」結末：雪のクリスマスでの再会と別れ
7	『天井桟敷の人々』1 1945 年の大作 19 世紀のパリの下町という空間	伝説的名優勢ぞろい 「犯罪大通り」
8	『天井桟敷の人々』2 庶民にとっての劇場	「言葉」の俳優とパントマイム役者
9	『天井桟敷の人々』3 カーニバルという空間	またしても「曖昧な」結末：追いかけても追いつけない悪夢
10	『おかしなおかしな訪問者』1 中世からのタイムスリップ。 ジャン・レノとクリスチャン・クラヴィエ共演	フランスのお笑い映画：フランス北部の中世と現代。名優たちの一人二役が見所
11	『おかしなおかしな訪問者』2 めでたしめでたしの結末？	お笑い映画の定番的な演出と筋書。終わったようで終わらない？
12	『シラノ』1： 17 世紀の実在の人物をモデルにした 19 世紀末の芝居	フランスのヒーロー人気ナンバーワン：剣にすぐれて弁もたつが、コンプレックスが恋を妨げる
13	『シラノ』2： 17 世紀の宮廷と社会状況	préciosité とアラスの包囲
14	『シラノ』3： 普遍的な価値	「型破り」と自己犠牲、「身を引く」美学

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

取り上げる映画作品は授業内ではさわりの部分しか紹介できないので、興味のある人は AV ライブラリなどで借りて全体を観ておくといいかと思います。

- 1：フランス映画に関する一般的なイメージについてまとめる。
 - 2：フランスの社会階層について調べる。
 - 3：なぜ『最強のふたり』がヒットしたのか考える。
 - 4：「ミュージカル」とは何であるかまとめる。
 - 5：アルジェリア戦争について調べる。
 - 6：『シェルブールの雨傘』の結末を他の作品の結末と比べて、その意味合いについて考える。
 - 7：『天井桟敷の人々』が公開された 1945 年ごろのフランスの状況について調べる。
 - 8-9：19 世紀前半のパリについて調べる。
 - 10：『おかしな訪問者』で紹介されるフランスの中世と現代の生活について調べる。
 - 11：主人公を演じた俳優たちの経歴について調べる。
 - 12：『シラノ・ド・ベルジュラック』の主人公のモデルとなった 17 世紀の人物について調べる。
 - 13：17 世紀当時のフランスの宮廷や社会の状況について調べる。
 - 14：なぜシラノという人物が時代と国を超えて人々を惹き付けるのかを考える。
- 本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

指定した教科書はありません。学習支援システムに資料を載せます。

【参考書】

『フランス映画史の誘惑』中条省平、集英社新書 0179

『大学生のためのレポート・論文術』小笠原喜康、講談社現代新書 1603.

『論文レポートの文章作法』古郡延治、有斐閣新書 C164

『著作権とは何か』、福井建策、集英社新書 0924A

その他随時紹介します。

【成績評価の方法と基準】

テーマごとの作品の鑑賞と分析が一区切りついた時点で、400字ほどの書き物を学習支援システムの「課題」を通して出していただき、その評価の合計で成績を出します（100％）。

【学生の意見等からの気づき】

広い教室でまばらに座るために、「議論」が成り立ちにくいので、学習支援システムをもう少し有効に使う工夫をしようと考えています。

【Outline (in English)】

This course deals with a variety of aspects of lives in France with the aide of the movies. France is one of the most movie-loving countries. The French government gives a large sum of subsidies to movie-makers. Through films we see different aspects of lives in France, problems, people's joys, sorrows, and pains. In this course, the students not only learn characteristics and history of French movies but reflect on these subjects which we can find in films.

The goals of this course are to get knowledge about French films and to analyze differences between them and films of other countries, and to reflect on various problems in French society.

The students are expected to see a whole film, which we can see only partially during the class, and to make some researches on subjects concerning social or historical backgrounds of the film. After each film, the students must submit an assignment. This work will require two hours for each class.

Final grade will be calculated according to the total score of assignments (100%).

This course is designed for all students who are interested in France; the knowledge of the French language is not indispensable.

ARSA200LA

フランス生活文化論 L A 2017 年度以降入学者

サブタイトル：

河村 英和

開講時期：サマーセッション/Summer Session | 曜日・時限：
集中・その他/intensive・other courses

単位数：2 単位

定員制 (40 名)

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

この授業では、フランス語圏 (フランスだけでなく、スイス、ベルギーも) の観光資源の歴史を学ぶ。山、海、森、川、湖、温泉といった自然風景のジャンル・地域別の観光リゾート地の派生、その発展期である 19 世紀から 20 世紀初頭 (ベル・エボック期：1880-1914) にかけて好まれた建築様式や、愛国的なナショナリズムの高揚とともに増加する偉人像・モニュメントの数々、最後に余暇の発想源でもあるロクス・アモエヌス (心地良い場所) や幸福な島々、そして表裏一体としてのカタストロフ (破壊的事象) 的风景についても考える。

【到達目標】

フランスの観光リゾート地の派生・発展からみた文化史を、当時の社会思想を踏まえつつ、関連する芸術作品 (絵画、文学、音楽、建築) の事例から理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式。図像資料を紹介するためパワーポイントを使う。学期期間中、都内の美術館で開催されているフランス風景画展の見学を推奨する。意見や質問、提出物 (リアクションペーパー) に対するフィードバックは、基本的に次の授業時間内に行うが、LMS などを活用することもある。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】
なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】
あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	フランス観光旅行のイメージと歴史的背景	イントロダクションとして、本講義のテーマであるフランス観光旅行の現状イメージを確認しつつ、その史的背景と全体像を概観する。
第 2 回	山へ	パルナッソス、ヴァントゥー山、プロヴァンスの山々
第 3 回	アルプスへ	シャモニーとモンブラン、グリオン、コー、レザン、モンタナ
第 4 回	学外授業、展覧会見学	上野の国立西洋美術館収蔵のフランス風景画の見学を予定
第 5 回	レマン湖	著名人たちゆかりのレマン湖畔の町 (ジュネーヴ、ローザンヌ、モントルー、ヴヴェ、ヴィルヌーヴ)
第 6 回	田園・田舎・牧歌的风景	フェット・シャンペートル、ミルク小屋、スイス風シャレー、アルカション
第 7 回	森と岩	ファンテーヌブローの森とバルビゾン派、芸術家たちを惹きつけた岩場の風景

第 8 回	海へ：ノルマンディーとコート・ダジュール	芸術家たちの題材となった海の風景と海浜リゾート・ノルマンディーと冬の避寒・結核転地療養地から夏の海水浴リゾートへの転身するコート・ダジュール
第 9 回	学外授業、展覧会見学	フランス 20 世紀絵画に関する展覧会 (於：アーティゾン美術館) の見学を予定
第 10 回	水辺と温泉	画家の題材となった川辺の風景、温泉リゾート (スバ、ヴィシー、エヴィアン)
第 11 回	中世復興、歴史主義と折衷主義のパリ	文化財保護の誕生、中世趣味の流行 (トゥルバドゥール様式絵画、ネオ・ロマネスク建築、ゴシック大聖堂の再評価)、古代ローマ風、ネオ・ルネサンス、ネオ・バロック建築で溢れる 19 世紀パリ大改造とグランド・ホテル
第 12 回	マリアンヌ、ジャンヌ、ヴィエルジュ	ナショナリズムが台頭する 19 世紀に、愛国のシンボルとして急増したマリアンヌ、ジャンヌ・ダルク、聖母 (ヴィエルジュ) 像について
第 13 回	国家の記念碑	ナポレオン像、偉人たちの墓、エッフェル塔など国家の威信をかけたモニュメント
第 14 回	楽園とカタストロフ	ロクス・アモエヌスとしての島々と破壊的事象 (カタストロフ) 的风景への関心

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

気になる (なった) ことを調べたり、授業で出てきた場所を、グーグルストリートビューで歩いてみる。
本授業の準備・復習時間は、各 1 時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

毎講義ごとに資料を配布する。Hoppi のお知らせ欄を毎週更新しながら pdf 版を配信。

【参考書】

河村英和『観光大国スイスの誕生 - 「辺境」から「崇高なる美の国」へ』平凡社新書、2013 年
河村英和『タワーの文化史』丸善出版、2013 年

【成績評価の方法と基準】

授業参加で 30 点、レポート 70 点による総合評価。

【学生の意見等からの気づき】

フランス語またはヨーロッパ言語を第 2 外国語としていない学生、フランスあるいはヨーロッパに行ったことのない学生も多く受講しており、随時ヨーロッパ文化の基礎知識から丁寧に説明する必要があります。

【その他の重要事項】

講義期間中に行う美術館見学は 2 種の展覧会 (各講義 1 回分相当、合計 2 回分相当で、現地集合現地解散) があり、一部観覧料 (1,000 円程度) の実費がかかる場合もあります。事情により展覧会見学に参加できない方には、代替レポート課題を授業中に指示します。

※定員は目安です。本授業は選抜は行いません。

履修を希望する学生は、履修登録期間中に学生自身で履修登録してください。

※日程は以下のとおりです。

8 月 1 日 (火) 3~5 限：第 1~3 回 (対面)

8 月 2 日 (水) 3 限：第 4 回 (対面：美術館見学) 5・6 限：第 5・6 回 (オンライン)

8 月 3 日 (木) 3・4 限：第 7・8 回 (対面)

8 月 4 日 (金) 3 限：第 9 回 (対面：美術館見学) 5・6 限：第 10・11 回 (オンライン)

8 月 5 日 (土) 3~5 限：第 12~14 回 (オンライン)

【Outline (in English)】

【Course outline】 In this course, we will study the history of tourism in French-speaking countries (not only in France, but also in Switzerland, and Belgium), including the tourist spot in the different genres of the natural landscape: mountains, seas, forests, rivers, lakes, and hot springs. Finally, we will consider the origin of the leisure idea, as locus amoenus: the Fortunate Isles, until its antithesis: the catastrophic landscapes.

【Learning Objectives】 Understand the cultural history from the perspective of the derivation and development of tourist resorts in France with examples of related works of art (paintings, literature, music, architecture) based on the social ideas at that time.

【Learning activities outside of classroom】 Find out what you're curious about, or walk around the places you came up with in class on Google Street View. The standard preparation and review time for this class is 1 hour each.

【Grading Criteria / Policy】 Evaluation based on 30 percent for class participation and 70 percent for reports.

ARs200LA

フランス生活文化論 L B

2017 年度以降入学者

サブタイトル：

河村 英和

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 4/Thu.4

単位数：2 単位

定員制 (40 名)

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

「芸術の都パリ」という言い回しが普及する以前、ヨーロッパ人にとっての芸術の都はローマであり、ローマ留学を支援するフランス政府の権威ある奨学制度の「ローマ賞」は芸術家の登竜門だった。イタリア各地を旅したフランス人たちはその体験を数々の芸術作品(絵画、彫刻、文学、音楽、建築)に反映させてきた。この授業では、おもに 18～19 世紀のフランス人たちがいかにイタリアの風景や芸術・文化に魅せられ、影響を受けていたかを、絵画、彫刻、建築、音楽、文学といった複数のジャンルから学んでゆく。

【到達目標】

フランス文化に多大なる影響を与えたイタリアの風景・芸術・建築を、フランス人芸術家(文人、画家、彫刻家、建築家、作曲家)たちのイタリア滞在体験と関連作品を知ることによってその理解を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか(該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式。画像資料を紹介するためパワーポイントを使う。意見や質問、提出物(リアクションペーパー)に対するフィードバックは、基本的に次の授業時間内に行うが、LMS などを活用することもある。

【アクティブラーニング(グループディスカッション、ディベート等)の実施】あり/Yes

【フィールドワーク(学外での実習等)の実施】なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	18～19 世紀のフランス人がイメージする旅行先としてのイタリアとは？
第 2 回	理想郷(アルカディア)	ローマ平原をモデルに理想風景を描く在ローマのフランス人画家たちとその作品
第 3 回	ローマの廃墟	ローマの廃墟に魅せられたフランス人芸術家たちとその作品
第 4 回	サド侯爵のイタリア	小説『ジュリエット、あるいは悪徳の栄え』で知られるサド侯爵が、イタリア旅行中に訪れたところと作品に生かされたスポット
第 5 回	ローマ平原とチョチャリア地方	ローマ平原とチョチャリア地方の風景と美しい民族衣装を描く 19 世紀のフランス人画家たちとその作品、この地を舞台にしたフランスオペラやバレエ
第 6 回	スタール夫人とスタンダールのイタリア	当時はイタリア観光ガイドブックのように読まれたスタール夫人の小説『コリンヌ』に描かれるローマとナポリ、『バルムの僧院』で知られるスタンダールのイタリア滞在中のオペラ通いやローマ散歩について

第 7 回 ヴェスヴィオ噴火とナポリの漁師 ヴェスヴィオ火山の噴火シーンを専門とするフランス人画家、オペールのオペラ『ボルティチの囁娘』、若きナポリの漁師を描くフランス人画家や彫刻家

第 8 回 デュマのナポリ ナポリに滞在していたアレクサンドル・デュマの旅行記『コリッコロ』、歴史小説『寵愛された女性の思い出』など、数々の著作に描かれる当時のナポリとは

第 9 回 幸あるカンパーニア イスキア、プロチダ、カプリ、ソレント、アマルフィの海浜風景と民族衣装の娘に魅せられたフランス人芸術家たちとその作品

第 10 回 ヴェネツィア ジョルジュ・サンド、アルフレード・ミュセ、ブルースト、レニエ、モネなど、水都ヴェネツィアに魅せられた文人・芸術家とその作品、オッフェンバックのオペラ『ホフマン物語』など

第 11 回 中世・ルネサンスの再発見ーローマ・フィレンツェ ダンテやルネサンス時代のイタリア美術をテーマにしたフランス人による芸術作品、ペルリオーズのオペラ『ペンバヌート・チュッリーニ』など

第 12 回 ローマ賞とフランスのイタリア風建築 ローマ留学あるいはイタリア旅行経験のあるフランス人建築家がフランスに残したイタリア風建築について

第 13 回 ゴッラ、ロマン・ロラン、ジイドのイタリア エミール・ゴッラ『ローマ』、ロマン・ロラン『ローマの春』、アンドレ・ジイド『背徳者』『法王庁の抜け穴』に描かれるイタリア(とくにローマ)とは

第 14 回 総括 過去の講義のテーマに沿った類似・追加事例を各自で紹介

【授業時間外の学習(準備学習・復習・宿題等)】

復習として 30 分程度、気になる(なった)こと(人名、建物名、地名、固有名詞)を調べたり、授業で出てきた場所を、グーグルストリートビューで歩いてみる。

【テキスト(教科書)】

毎講義ごとにプリント資料を配布する。オンライン授業のさいは、Hoppi のお知らせ欄を毎週更新しながら pdf 版を配信。

【参考書】

河村英和『イタリア旅行ー「美しい国」の旅人たち』中公新書、2011 年
河村英和『カプリ島ー地中海観光の文化史』白水社、2008 年
佐藤直樹編『ローマ(西洋近代の都市と芸術 1)』竹林舎、2013 年

【成績評価の方法と基準】

平常点 30 点、レポートあるいは試験 70 点による総合評価

【学生の意見等からの気づき】

フランス語またはヨーロッパ言語を第 2 外国語としていない学生、フランスあるいはヨーロッパに行ったことのない学生も多く受講しており、随時ヨーロッパ文化の基礎知識から丁寧に説明する必要がある。

【その他の重要事項】

諸事情により、オンライン回と対面回の入替え変更(対面 7 回の規程は保持)がありえます。

【Outline (in English)】

【Course outline】 Before the Paris reputation as the "City of Art" became widespread, the city of art for Europeans was Rome, and the "Prix de Rome", the prestigious scholarship system of the French government to support studying in Rome, was the gateway to become a great artist. French artists who have traveled through Italy have reflected their Italian experiences in their masterpieces (paintings, sculptures, literature, music, architecture). In this course, we will learn how French people of the 18th and 19th centuries were fascinated by and influenced by the Italian landscape, art and culture.

【Learning Objectives】 Understand the Italian landscape, art, and architecture, which had a significant influence on French culture, by learning about the experiences of French artists staying in Italy, with their related works of literature, painters, sculptors, architects, composers.

【Learning activities outside of classroom】 Find out what you're curious about, or walk around the places you came up with in class on Google Street View.

【Grading Criteria /Policy】 Evaluation based on 30 percent for class participation and 70 percent for reports.

ARSa200LA

フランス生活文化論 L A

2017 年度以降入学者

サブタイトル：

梶谷 彩子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 4/Tue.4

単位数：2 単位

定員制 (40 名)

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

この授業では、19 世紀～20 世紀フランスの食文化を中心に、そのあり方を学びます。「フランスの食文化」という表現から、どのようなことをイメージするでしょうか。「華やか・おしゃれ」、あるいは「特別な日の料理」など様々な印象があると思いますが、実は、現代の私たちがフランス料理に対して持つイメージのルーツの多くは、近代のフランスにあります。空腹を満たす以上の価値を自国の食に見出していったフランス。なぜそうなったのか？ その背景を知って、フランス文化への理解を深めていきましょう。

【到達目標】

フランスの食文化について、歴史の流れとともに理解できるようになること。また、意見の記述やディスカッションを通して資料を自分なりに考察し、知見をまとめることができるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式。イメージを描きやすいようできるだけ図像を用意して進めていきます。映像資料も見ると予定です。

原著の資料を見ることもありますが、解説をしますのでフランス語の知識はなくても大丈夫です。

毎回授業後にコメントカードを提出していただき、そこで出た質問には次回の授業でできる限りフィードバックします。授業中に皆さんの意見を聞くこともありますので、小さなことだと思っても、気づきはぜひ言葉にして表現してみましょう。

最終課題は、期末レポートの作成です。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の進め方、参考資料の紹介。日本においてフランスの食文化はどのように紹介されているかについても解説。
第 2 回	テーブルに「映える」料理	テーブルに「映える」料理はなぜ必要だったか？ / 宮廷料理について
第 3 回	「華やかな食卓」の特徴の変遷	「映える」料理から「味で魅せる」料理へ / 18 世紀までの価値観と、19 世紀からの価値観
第 4 回	美食を支える背景	パリの美食を支えた市場 / 給仕の変化
第 5 回	「美食」は誰のものか：レストラン	「おいしい」が皆のものになる時代：レストラン興隆史
第 6 回	「美食」は誰のものか：「おいしい」の基礎の誕生	「おいしい」を評価するということ：ガストロノミー (前編)

第 7 回 「美食」は誰のものか 「おいしい」の評価の変遷：ガス：情報が生み出す「美トロノミー (後編) 食」

第 8 回 資料で見るフランスの美食 フランスの美食についての映像資料を視聴し、その後感想等の意見をまとめてもらいます。

第 9 回 ディスカッション 第 8 回授業の映像資料についての感想や意見を全員に発表してもらいます。疑問に感じたことも互いに交換しましょう。

第 10 回 高級料理の変遷 ヌーヴェル・キュイジーヌの誕生と、その後

第 11 回 文化としての「郷土料理」 フランスにおける郷土料理の位置 / 郷土料理 = 文化的遺産という視点の原点

第 12 回 郷土料理でめぐるフランス フランスの代表的な地方の位置の確認・その土地に根差した郷土料理

第 13 回 映像資料で見るフランスの美食その 2 映像資料の視聴 (第 2 回) その後感想や意見を書く時間を設けます。

資料の尺によっては前半と後半に分け、第 14 回にまたぐことがあります。

第 14 回 まとめ・レポート作成の手引き 現代から見た、近代フランスの食文化の重要性 / レポートの書き方案内

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。下記参考書のうち、①を読み切ること。

【テキスト (教科書)】

教科書は使用せず、資料配布を行いません。資料はすべて Hoppii を通じての配信となります。授業中に使いますので、各自手元に用意の上出席してください。

【参考書】

- ①池上俊一『お菓子でたどるフランス史』、岩波書店、岩波ジュニア新書、2013 年。
- ②ジャン・ピエール＝プーラン、エドモン・ネランク『フランス料理の歴史』、山内秀文訳・解説、角川ソフィア文庫、2017 年。
- ③北山晴一『世界の食文化⑩ フランス』、農村漁村文化協会、2008 年。

【成績評価の方法と基準】

平常点 50%、期末レポート 50%による総合評価

【学生の意見等からの気づき】

講義形式であるため、授業中はどうしても教員から伝えることが多くなってしまっていますが、可能な限り皆さんからのご質問にお答えすることを心掛けてきました。今年度も継続していきたいと思いますので、コメントカードは、ぜひ存分に活用してください。

【学生が準備すべき機器他】

資料は配信による事前配布が主となりますので、授業開始までに各自対応してください。印刷した資料か、資料をダウンロードした PC、タブレット端末等を持参すること。原則として教室内での紙媒体配布はいたしません。

【その他の重要事項】

履修申請者が 41 人を超過してしまった場合、定員が 40 人の授業であるため、履修者を抽選とします。

【Outline (in English)】

The purpose of this course is to study the gastronomic culture of modern France. The goals of this course are to understand this culture and have own view through studying and discussion.

Students will be expected to read the references as below. Your study time will be more than 2 hours for a class.

Final grade will be calculated according to the following process:

in-class contribution(50%) and term-end report(50%).

ARSA200LA

フランス生活文化論 L B 2017 年度以降入学者

サブタイトル：

梶谷 彩子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 4/Tue.4

単位数：2 単位

定員制 (40 名)

その他属性：〈他〉〈優〉〈S〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

この授業では、フランスの食文化史を学びます。「美食の国」として名高いフランスはどのようにその食生活を営んできたのでしょうか。古代からの料理術の変遷を中心に、歴史の動きと連動させながら学びます。後半には、日本がフランスの食に与えた影響についても触れてゆきます。

【到達目標】

フランスの食文化について理解を深めること。また、意見の記述やディスカッションを通して資料を自分なりに考察し、知見をまとめることができるようになること。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式。イメージを描きやすいようできるだけ図像を用意して進めていきます。

原著の資料を見ることもありますが、解説をしますのでフランス語の知識はなくても大丈夫です。

毎回最後にコメントカードを提出していただき、そこで出た質問には次回の授業でできる限りフィードバックします。授業中に皆さんの意見を聞くこともありますので、小さなことだと思っても、気づきはぜひ言葉にして表現してみましょう。

月 1 回程度、皆さんの興味関心を共有する「ミニ発表会」を予定しています。

最終課題は、期末レポートの作成です。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	イントロダクション	授業の進め方、参考資料の紹介／現在のフランス食文化の最前線についての解説
第 2 回	古代から中世まで	何をどのように食べてきたのか／香辛料について
第 3 回	ルネサンス	マナーの確立／イタリアとの関わり
第 4 回	17 世紀	グランド・キュイジーヌの誕生／「過剰」からの脱却と洗練
第 5 回	18 世紀	宮廷料理の最盛期／「豪華な料理」とは？
第 6 回	フランス革命～19 世紀初頭	「レストラン」とは何か／「ガストロノミー」の誕生／「スターシェフ」の出現
第 7 回	19 世紀後半～19 世紀末	19 世紀後半～世紀末のレストラン／現代フランス料理の基礎の時代
第 8 回	20 世紀初頭	第一次世界大戦とフランスの食文化／新しい「ガストロノミー」

第 9 回	20 世紀半ば	全国的美食を求めて一ガストロノミーとツーリズム／「美食ガイドブック」の誕生
第 10 回	20 世紀半ば～20 世紀末	ヌーヴェル・キュイジーヌー健康と美食
第 11 回	日本食文化のフランス食文化への影響	美しさを求めるということ／日本的味覚の広がり
第 12 回	フランス食文化の日本食文化への影響	「洋食」誕生物語
第 13 回	まとも・ミニデイスカッション	「美食の国 フランス」のイメージはいかにして形成されたか／これまでの授業を受けて、各自一言ずつのまともを発表。
第 14 回	レポート作成の手引き	レポート作成の手引きを行ないません。残った時間で、フランスの食文化に関わる映像資料を視聴します。

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。参考書のうち②を授業期間中に読み切ること。授業中にも、おすすめの図書を紹介いたします。

【テキスト (教科書)】

教科書は使用しませんが、適宜、資料を主に Hoppii を通じて配信します。授業開始までに、各自手元に用意してきてください。

【参考書】

- ①池上俊一『お菓子でたどるフランス史』、岩波書店、岩波ジュニア新書、2013 年。
- ②ジャン・ピエール＝プーラン、エドモン・ネランク『フランス料理の歴史』、山内秀文訳・解説、角川ソフィア文庫、2017 年。
- ③北山晴一『世界の食文化⑩ フランス』、農村漁村文化協会、2008 年。

【成績評価の方法と基準】

平常点 50%、期末レポート 50%による総合評価

【学生の意見等からの気づき】

講義形式であるため、どうしても教員から伝えることが多くなってしましますが、可能な限り皆さんからのご質問にお答えすることを心掛けてきました。今年度も継続していきますので、ぜひ、コメントカードを存分に活用してください。

【学生が準備すべき機器他】

資料は配信による事前配布が主となりますので、授業開始までに各自対応してください。印刷した資料か、資料をダウンロードした PC、タブレット等を持参すること。原則として教室での紙媒体配布はいたしません。

【その他の重要事項】

履修申請者が 41 名を超えてしまった場合、定員が 40 人の授業であるため、履修者を抽選とします。

【Outline (in English)】

The purpose of this course is to learn the historical background of the gastronomic culture of France. The goals of this course are to understand this culture and have own view through studying and discussion.

Students will be expected to read the references as below. Your study time will be more than 2 hours for a class.

Final grade will be calculated according to the following process:

in-class contribution(50%) and term-end report(50%).

ARSa200LA

ロシア語の世界 L A

2017 年度以降入学者

木部 敬

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 3/Mon.3

単位数：2 単位

定員制 (60 名)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ロシアの歴史および文化（言語、民族、宗教、文学、思想など）を概観し、ロシアという国がどのような国なのか、その特質を理解する。それによって、ロシア語の背景をなす「レアリア」の基本を獲得する。

ロシア語を履修していなくても受講可能。

【到達目標】

一般の日本人にとっては理解しにくいロシアという国について、明確なイメージを持つことができる。

また、そうしたロシアの歴史や文化に関する理解を背景知識として利用することで、ロシア語の学習をより効果的に進めることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義型の授業となる。

毎回授業に関する感想や質問を提出してもらい、それらに対しては学習支援システムを通じて回答したり、授業中にテーマとして取り上げたりする。

学期末に、授業で取り上げたテーマに関するレポートを作成する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	9 世紀半ばから 13 世紀の歴史	建国伝説、「キエフ・ルーシ」
第 2 回	13 世紀から 16 世紀の歴史	「タタールの軛」、モスクワ大公国から「ロシア」へ（イヴァン 3 世とイヴァン 4 世）
第 3 回	17 世紀の歴史	「動乱」、ロマノフ朝の成立
第 4 回	18 世紀前半の歴史	ピョートル 1 世、「ロシア帝国」
第 5 回	18 世紀後半の歴史	エカチェリーナ 2 世、ポーランド分割、「新ロシア」とクリミア半島、ウクライナ
第 6 回	19 世紀初めの歴史	アレクサンドル 1 世、ナポレオン戦争、デカブリストの乱
第 7 回	19 世紀半ばの歴史	ニコライ 1 世、クリミア戦争、アレクサンドル 2 世、農奴解放
第 8 回	19 世紀終わりの歴史	アレクサンドル 3 世、産業革命
第 9 回	20 世紀初めの歴史 (0 年代～20 年代)	ニコライ 2 世、第 1 革命、第 1 次世界大戦、ロシア革命、「ソ連」、レーニン
第 10 回	20 世紀半ばの歴史 (30 年代～40 年代)	スターリン、第 2 次世界大戦
第 11 回	20 世紀半ばの歴史 (50 年代～60 年代)	冷戦、フルシチョフ
第 12 回	20 世紀終わりの歴史 (70 年代～80 年代)	停滞からベレストロイカへ、ゴルバチョフ
第 13 回	20 世紀末の歴史 (90 年代)	ソ連崩壊、「ロシア連邦」、エリツィン
第 14 回	21 世紀初めの歴史	プーチン、ウクライナ戦争

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。参考文献を事前に読む。授業後数日以内に感想や質問を書く。学期末には、授業で取り上げたテーマに関するレポートを準備する。

【テキスト（教科書）】

プリントを配布する。

【参考書】

『新版世界各国史 22 ロシア史』山川出版社、2002 年。

『新版ロシアを知る事典』平凡社、2004 年。

『ロシア文化事典』丸善出版、2019 年。

【成績評価の方法と基準】

平常点（感想や質問の提出）40 %、期末レポート 60 %。

【学生の意見等からの気づき】

学生の発言や発表の機会をより増やす。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to survey history and culture (languages, nations religions, literature, thought etc.) of Russia, as the background of Russian language. We will understand what kind of country Russia is and its special characteristics

Students will be expected to have written a short report after every class work. Your study time will be more than two hours for a class.

Your final grade will be decided based on the following. Term-end report(40%), Short reports(40%), and in-class contribution(20%).

ARs200LA

ロシア語の世界 L B

2017 年度以降入学者

木部 敬

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 3/Mon.3

単位数：2 単位

定員制 (60 名)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

中・東欧、ロシア、およびそれらの周辺国 (旧ソ連圏の国々など) の歴史および文化 (言語、民族、宗教など) を概観することによって、ロシア語の背景をなす「レアリア」を獲得する。より広い視野においてロシアという国を理解する。ロシア語を履修していなくても受講可能。

【到達目標】

一般の日本人にとってなじみのない中・東欧、ロシア、およびそれらの周辺地域について明確なイメージを持ち、これらの国や地域の持つ世界史的な意義を理解できる。また、そうした国や地域の歴史や文化に関する理解を背景知識として利用することで、ロシア語の学習をより効果的に進めることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義型の授業となる。

毎回授業に関する感想や質問を提出してもらい、それらに対しては学習支援システムを通じて回答したり、授業中にテーマとして取り上げたりする。

学期末に、授業で取り上げたテーマに関するレポートを作成する。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

なし/No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	中・東欧、ロシア、それらの周辺地域の個別史 (その 1)	ロシアの歴史
第 2 回	中・東欧、ロシア、それらの周辺地域の個別史 (その 2)	北欧の歴史
第 3 回	中・東欧、ロシア、それらの周辺地域の個別史 (その 3)	バルト三国とポーランドの歴史
第 4 回	中・東欧、ロシア、それらの周辺地域の個別史 (その 4)	ウクライナの歴史
第 5 回	中・東欧、ロシア、それらの周辺地域の個別史 (その 5)	中央アジア五国とコーカサス三国の歴史
第 6 回	中・東欧、ロシア、それらの周辺地域の個別史 (その 6)	トルコの歴史
第 7 回	スラヴ人の起源、スラヴ人国家の形成	スラヴ人の故地、分化と移住、ブルガリアの形成、西スラヴと東スラヴにおける国家の形成
第 8 回	スラヴ民族によるキリスト教の受容	東西両教会の対立とスラヴ民族教化、モラヴィア、ブルガリア、セルビア、ボヘミア、ポーランド、ロシア

第 9 回	東ローマ帝国 (ビザンツ帝国) とスラヴ民族	東ローマ帝国と南スラヴ族、東ローマ帝国の継承者としてのロシア
第 10 回	ゲルマン民族とスラヴ民族	ゲルマン民族と西スラヴ族、ボヘミア、ポーランドとリトアニア、ロシア、スロヴェニア、クロアチア
第 11 回	スラヴ民族と周辺諸民族	バルト民族、ウラル系諸民族、ユーラシアの遊牧民、中央アジア、コーカサス、ルーマニア、アルバニア、ユダヤ人、ジプシー
第 12 回	オスマン帝国とスラヴ民族	バルカン半島のトルコ化・イスラム化、トルコ・イスラム文明、バルカン民族の覚醒
第 13 回	民族の独立と汎スラヴ主義	スラヴ・メシアニズムと汎スラヴ主義、ロシア、ポーランド、チェコ・スロヴァキア、クロアチア、セルビア、ブルガリア、マケドニア
第 14 回	ソ連とスラヴ民族	スターリンの民族抑圧、反ソ動乱、ソ連崩壊以後

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。参考文献を事前に読む。授業後数日以内に感想や質問を書く。学期末には、授業で取り上げたテーマに関するレポートを準備する。

【テキスト (教科書)】

プリントを配布する。

【参考書】

『民族の世界史 10 スラヴ民族と東欧ロシア』山川出版社。森安達也『ビザンツとロシア・東欧』講談社。

【成績評価の方法と基準】

平常点 (感想や質問の提出) 40 %、期末レポート 60 %。

【学生の意見等からの気づき】

学生の発言や発表の機会をより増やす。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to survey history and culture (languages, nations, religions) of Central and Eastern Europe, Russia and their surrounding areas (countries of the former Soviet Union area etc.), as the background of Russian language. We will understand the specifics of Russia from a broader perspective.

Students will be expected to have written a short report after every class work. Your study time will be more than two hours for a class.

Your final grade will be decided based on the following. Term-end report(40%), Short reports(40%), and in-class contribution(20%).

ARSA200LA

ロシアの文化と社会 L A

2017 年度以降入学者

サブタイトル：

佐藤 千登勢

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 4/Fri.4

単位数：2 単位

定員制

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ロシアに興味をもつ学生であれば、ロシア語を学習していなくても履修できます。なお、SA ロシアの事前学習も兼ねるので、SA ロシアの2年生は必ず履修してください。ロシアは、峻厳で美しい自然、深く豊かな芸術（文学、音楽、美術、映画、アニメ、演劇、バレエ、建築など）に満ちた国、また、繊細で優美、神秘的でありながら素朴でパワフルという両極端な感覚に引き裂かれた、なんとも魅力溢れる国です。また、アジアとヨーロッパの文化的融合、社会主義から資本主義へのイデオロギー的・体制的移行、多民族の共生など、複雑で多面的な様相も興味深いものです。こうしたロシアのさまざまな側面を映像・レジュメ資料・概説を通して紹介していくのがこの授業ですが、これら多様な側面を統合して、ロシアの像を結んでいく作業を行うのはみなさん一人ひとりです。

【到達目標】

この授業は、受動的に講義を聴いたり映像を鑑賞するのではなく、多数の情報から自身の感想や見解を導くこと、そして教員が提起した問題に対して意見を短時間のうちに適切な文章でまとめる力をコメントシートを通して養うことも目的としています。つねに問題意識や批判的観点を抱きながら、授業に臨んでほしいと思います。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

教場で資料を配付し、随時、映像資料を共有しながら講義を行います。コメントシートについては、興味深い視点を示したものを選択して次週の授業でみなさんと共有し、教員からコメントを加えるかたちでフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス：ロシアについて	ガイダンス。今日のロシア社会、地理的環境、歴史的キーワード、ソ連・ロシアの国歌を通してロシアの概略を示す。
第 2 回	モスクワ観光スポット（美術館、博物館、教会、劇場、世界遺産）	ロシアの首都モスクワ。歴史、地理を概観するとともに、世界遺産や街並み、地下鉄、美術館、建築、観光スポットを紹介。
第 3 回	サンクト・ペテルブルクの名所（美術館、劇場、博物館、教会）	ロシア第2の都市サンクト・ペテルブルグ。歴史、地理を概観するとともに、世界遺産や街並み、美術館、観光スポットを紹介。

第 4 回 民俗文化とロシア正教、国民の祝日

ロシア正教を国教とするロシア。その影響力は政治と結びついて大きなものとなっているが、キリスト教受容以前の異教との習合現象としての二重信仰の伝統もロシアに独特の文化を育ててきた。異教、正教、社会主義というイデオロギーなど常に信仰の対象を抱き続ける信心深いロシア人の民俗文化やこれに基づく祝祭、宗教的行事、祝日について紹介。

第 5 回 ロシア・バレエの世界

バレエ・リュスからソ連時代のバレエ史に名を残すダンサー、そして現代の国際的ダンサーまで、ロシア・バレエの粋を紹介すると同時に、政治的に抑圧を受けたバレエ界の事象、亡命したダンサーについて概観。

第 6 回 ロシア・バレエの世界

前回の授業を踏まえて、政治とバレエの問題を考える。

第 7 回 ロシアの音楽：グリニカ、チャイコフスキー、ムソルグスキー

ロシア・クラシック音楽の歴史を概観。グリニカからムソルグスキーまでの音楽を、指揮者ゲルギエフ、現代ロシアのソリストのパフォーマンスを通して紹介。

第 8 回 ロシアの音楽：政治と音楽（ショスタコーヴィチ、ラフマニノフ）

19世紀末からロシア革命時の音楽を概観。また、ショスタコーヴィチ、ストラヴィンスキー、ラフマニノフらを通して音楽と政治の問題を考える。

第 9 回 ロシアの音楽：政治と音楽（テルミン、肋骨レコード）

反体制派と呼ばれたソリスト、抑圧された音楽について。

第 10 回 ロシア文学：イーゴリ軍記から 19 世紀前半

『イーゴリ軍記』における異教性、カラムジンの感傷主義、プーシキンのロマン主義とリアリズムの融合について。《余計者》の確立。

第 11 回 ロシア文学：19 世紀後半～（ゴーゴリ、ドストエフスキー）

ゴーゴリのグロテスクな手法、《小さな人間》について、ドストエフスキーの超人思想、神人について。

第 12 回 ロシア文学：19 世紀後半～ 20 世紀（トルストイ、チャーホフ、アヴァンギャルド、フォルマリズム）

トルストイの「性愛・肉欲の否定」と聖愚者の賞揚。チャーホフの創作方法について。《異化》の概念について。政治と文学について。

第 13 回 ロシア文学：亡命作家から現代（ソルジェニーツィン、プロツキー、ペレーヴィン）／日本文学との影響関係

亡命作家を通してみる政治と文学の問題。検閲から自由になった現代作家の営みを概観。ロシア文学と日本文学との影響関係について。

第 14 回 民族問題とナショナリズムの歴史と現代の民族問題

ロシアの領土拡大とオリエンタリズムについて。ソ連時代の民族統合が現代に残した問題。チェチェン紛争、グルジア紛争、現代ロシアで高まるナショナリズム。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業でとりあげたテーマについて、ネットや文献、映像資料、映画などを通して調べましょう。ソ連・ロシア映画の鑑賞に際しては、AVライブラリーの活用を勧めます。期末レポートの作成には1週間程度の時間が必要となります。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しません。教場で教員が作成する資料を配付します。

【参考書】

参考文献については教場もしくは学習支援システムで、随時、紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（25%）、コメントシート（25%）、期末レポート（50%）として総合的に判断します。本授業の到達目標の60%以上を達成した学生は合格となります。

【学生の意見等からの気づき】

みなさんとロシアの多様な魅力を新たに発見するような気持ちで、時事的な話題も含めながら講義を進めたいと思います。

【Outline (in English)】

● Course outline

In this course, students will know about the culture and arts of Russia through the lecture and visual materials. Themes of this lecture: Tourist spots Moscow and Saint Peter's burg, Russian ballet, music and literature.

● Learning Objectives

While watching videos about Russia and Eastern Europe, students will be expected to develop the ability to put together appropriate sentences in a short time on the problems raised by the teacher. Students should to attend classes with an awareness of problems and a critical perspective.

● Learning activities outside of classroom

Find out about the themes covered in class through the internet, literature, video materials, and movies. When watching Soviet / Russian movies, we recommend using the AV library. Students should spend a week preparing the term-end report.

● Grading Criteria /Policy

Final grade will be calculated according to the following process: Usual performance score(25 %),Short reports(25 %) and term-end reports(50 %). To pass, students must earn at least 60 points out of 100.

ARs200LA

ロシアの文化と社会 L B

2017 年度以降入学者

サブタイトル：

佐藤 千登勢

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 4/Fri.4

単位数：2 単位

定員制

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ロシアの歴史、映画、アニメ、美術の領域からロシアの文化の多様性を見ていきます。本講義では映像資料を多用して概説を行います。多くの情報を統合してロシアの像をまとめていく作業は学生のみなさん一人ひとりが行うことになります。

【到達目標】

この授業は、受動的に講義を受けたり映像を鑑賞するのではなく、多数の情報から自身の感想や見解を導き、教員が提起した問題に対して能動的に意見や主張をまとめる力を養うことを目標としています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

教場で資料を配付し、随時、映像資料を共有しながら講義を行います。コメントシートについては、興味深い視点を示したものを選択して次週の授業でみなさんと共有し、教員からコメントを加えるかたちでフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	ガイダンス／ロシアの歴史 1：キエフルーシ、タタールの軛、イワン雷帝	ロシアの歴史：キエフルーシ、タールの軛、イワン雷帝について。
第 2 回	ロシアの歴史 2	ピョートル大帝、エカテリーナ女帝、大黒屋光太夫、祖国戦争について映像資料を交えて概観。
第 3 回	ロシアの歴史 3	農奴解放、近代化、テロリズム、日露戦争について映像資料を交えて概観。
第 4 回	ロシアの歴史 4	ロマノフ王朝の崩壊、ロシア革命、スターリニズムについて映像資料を交えて概観。
第 5 回	ロシアの歴史 5	雪解けから停滞へ、ベレストロイカ、チェルノブイリ原発事故、ソ連邦崩壊、新生ロシアまでを映像資料を交えて概観。
第 6 回	ソ連映画 1	映画黎明期からモンタージュ派（エイゼンシュテイン、ヴェルトフ）、文芸映画を鑑賞しつつ、とりわけ政治的背景と映画の手法について着目する。
第 7 回	ソ連映画 2	雪解け期から停滞の時代までに制作された文芸映画を、社会的背景、政治的体制、手法の観点から見ていく。

第 8 回 ソ連映画 3

反体制の烙印を押された監督の作家性、手法、映像美を堪能する。また、SF 映画を概観するとともに、ベレストロイカ期に多く制作された不条理作品、諷刺コメディを通して、政治と映画の問題を確認する。

第 9 回 ロシア映画 4

検閲から自由になった映画として、芸術性と映像実験を重ねるソクラロフの作品、また、大国ロシアを再び謳い上げる戦争映画、エンターテインメント、社会派ドラマと多様化する映画界の現状を概観する。

第 10 回 ロシア映画 5

前回に引き続き、戦争映画、エンターテインメント、社会派ドラマと多様化する映画界の現状と傾向を概観する。

第 11 回 ロシア・アニメ 1

黎明期からプロバガンダ・アニメ、児童アニメ（タレーヴィチ、アタマノフ、ヒトルーク、カチャーノフ）の概説と作品の鑑賞。

第 12 回 ロシア・アニメ 2

アート・アニメ（ノルシュテイン、ペトロフらの作品）の概説と作品鑑賞。

第 13 回 ロシア美術 1

イコン（聖像画）の機能について、移動派の活動、パトロンの役割について。

第 14 回 ロシア美術 2

マレーヴィチ、カンディンスキー、シャガールの絵画について。ロシア・アヴァンギャルド期の建築について紹介。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業でとりあげたテーマについて、ネットや文献、映像資料、映画などを通して調べましょう。ソ連・ロシア映画の視聴には、AV ライブラリーの利用を勧めます。期末レポートの作成には 1 週間程度の時間を要することになります。

【テキスト（教科書）】

教科書は使用しません。教員が作成した資料を教場で配付するか、もしくは学習支援システムにアップします。

【参考書】

教場や学習支援システムで適宜、紹介します。

【成績評価の方法と基準】

平常点（25%）、コメントシート（25%）、期末レポート（50%）として、総合的に判断します。本授業の到達目標の 60% 以上を達成した学生が合格となります。

【学生の意見等からの気づき】

今学期はロシアの歴史、映画が中心となりますが、時事的な話題もとりこみながら講義をおこないます。

【Outline (in English)】

● Course outline

In this course, students will know about the culture and arts of Russia through the lecture and visual materials. Themes of this lecture: Russian history, and films, pictures and animations.

● Learning Objectives

While watching videos about Russia and Eastern Europe, students will be expected to develop the ability to put together appropriate sentences in a short time on the problems raised by the teacher. Students should to attend classes with an awareness of problems and a critical perspective.

● Learning activities outside of classroom

Find out about the themes covered in class through the internet, literature, video materials, and movies. When watching Soviet / Russian movies, we recommend using the AV library. Students should spend a week preparing the term-end report.

● Grading Criteria /Policy

Final grade will be calculated according to the following process: Usual performance score(25 %),Short reports(25 %) and term-end reports(50 %). To pass, students must earn at least 60 points out of 100.

LANe200LA

中国語コミュニケーション初級 I 2017年度以降入学者

周 重雷

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 2/Tue.2

単位数：1 単位

定員制（30名）

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中国語の発音及び基礎的な文法事項を固めつつ、中国語のコミュニケーションに必要な知識を養成する。

【到達目標】

構文をしっかり覚える。

発音を正確にする。

日常会話ができるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

教材を使って文法の勉強をする。また履修者のレベルを確認した上、様々な会話パターンを作って練習していく。

課題などのフィードバックは授業時間に、もしくはメールにて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	シラバスの配布と説明
第2回	発音	ピンインの復習
第3回	あいさつ	あいさつなどの日常用語の練習をする
第4回	人称代名詞と指示代名詞 会話（1）	文法を確認したのち、自己紹介の練習をする
第5回	述語 授業内発表（1）	文法を確認したのち、自己紹介を発表する
第6回	受け答え	「是」その他
第7回	場所と方位	在と有
第8回	数量詞と連体修飾語	数量詞と連体修飾語を学ぶ
第9回	疑問文 会話（2）	ものの尋ね方 レストランでの会話を作成する
第10回	連用修飾語 授業内発表（2）	副詞と時間詞を学ぶ 講師と一対一またはグループでレストランでの会話をする
第11回	完了と変化 会話（3）	「了」の様々を知る 買い物する時の会話パターンを作成する
第12回	助動詞と前置詞構造 授業内発表（3）	文法を確認したのち、講師と一対一またはグループで買い物のシミュレーションをする
第13回	三量補語	三量補語と離合詞
第14回	まとめ	口頭テストを行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

宿題や発表の準備など、毎回1時間ほどの予習・復習をする。

また、HSK や中国語検定の受験も推奨される。

【テキスト（教科書）】

教員による教材配布

【参考書】

日中・中日辞書（電子機器も可）

【成績評価の方法と基準】

期末テスト：60%

発表：40%

term-end test:60%

presentation:40%

【学生の意見等からの気づき】

基本は対面授業ですが、基礎疾患や遠隔地などの理由で参加できない人には講義をオンデマンド配信した上、SNS等を使って個別指導を行います。

またそれぞれのレベルの差に配慮をする。

【学生が準備すべき機器他】

スマートフォンは必須

【その他の重要事項】

特になし。

【Outline (in English)】

This is the Chinese conversation course for intermediate learners. The aim of this course is to master intermediate level conversation skill. We will study basic vocabulary and grammar, and improve Chinese speaking skill.

We should talk the Chinese language by accurate pronunciation,

and talk the Chinese daily conversation well.

We should prepare and review about one hour a week.

It is better to take the test of HSK.

Term-end test:60%

Presentation:40%

LANe200LA

中国語コミュニケーション初級Ⅱ 2017年度以降入学者

周 重雷

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 2/Tue.2

単位数：1 単位

定員制（30名）

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中国語の基礎的な文法事項の基礎を固めつつ、中国語のコミュニケーションに必要な知識を養成する。

【到達目標】

「読む、書く、聞く、話す」を全体的にスキルアップを図る。
日常の中国語のコミュニケーションが取れるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示された
どの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針
に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

履修者のレベルに合わせ、文法を復習しつつ、会話の練習を強化していく。

課題などのフィードバックは授業時間に、もしくはメールにて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	持続態と進行形 作文	持続態と進行形を確認したのち、 「私の夏休み」を作成する
第2回	程度補語 作文の添削	程度補語を確認したのち、作文の 添削をする
第3回	比較と連動	比較文と連動文
第4回	構文分析	構文分析と助動詞の補説
第5回	強調と重複 会話（1）	強調文と重複表現 待ち合わせの会話を作る
第6回	方向補語 授業内発表（1）	方向補語の用法 待ち合わせの会話の発表
第7回	複合方向補語の用法	複合方向補語の派生的用法
第8回	結果補語	結果補語の説明
第9回	可能補語 会話（2）	可能補語の説明 道を尋ねる・教える会話の作成
第10回	使役と受身 授業内発表（2）	使役と受身の確認と比較 道を尋ねる・教える会話の発表
第11回	処置と倒置	処置文と倒置文
第12回	複文一	複文の様々な知る
第13回	複文二	複文の後半
第14回	まとめ	口頭による試験を行う まとめと 解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎週1時間を日途に予習・復習する。
単語を調べて、オリジナルの長文及び会話文を作る。
また、HSK や中国語検定の受験も推奨される。

【テキスト（教科書）】

教員による教材配布

【参考書】

日中・中日辞書（電子機器も可）

【成績評価の方法と基準】

期末テスト：60 %

発表：40 %

term-end test:60%

presentation:40%

【学生の意見等からの気づき】

基本は対面授業ですが、基礎疾患や遠隔地などの理由で参加できない人には講義をオンデマンド配信した上、SNS等を使って個別指導を行います。

【学生が準備すべき機器他】

スマートフォンは必須

【その他の重要事項】

特になし。

【Outline (in English)】

This is the Chinese conversation course for intermediate learners. The aim of this course is to master intermediate level conversation skill. We will study basic vocabulary and grammar, and improve Chinese speaking skill.

We should do the exercise of reading, writing, listening and talking.

We should talk the chinese daily conversation well.

We should prepare and review about one hour a week.

It is better to take the test of HSK.

Term-end test:60%

presentation:40%

LANe200LA

中国語作文初級 I

2017 年度以降入学者

康 鴻音

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 4/Fri.4

単位数：1 単位

定員制（15 名）

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は初級で学んだ中国語の基礎を固め、読解力や翻訳力の向上を図ります。そして正しい声調で、自然なリズムで発音できるようにも指導します。

【到達目標】

中国語の基礎文法を一通り学ぶことによって一応の文章も読解でき、翻訳ができる段階まで力を付けることを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

プリントを事前に配り、予習してもらいます。授業中にチェックします。必要に応じて授業後の指導もできます。

社会情勢に合わせてオンライン授業（リアルタイム）を実施する場合もあります。その時、「学習支援システム」でお知らせします。課題等へのフィードバックは授業時間またはメールを通じて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1 回	オリエンテーション	レベルチェック
2 回	数字の使い方（一）	例文解説
3 回	数詞の使い方（二）	翻訳の練習
4 回	「是」の使い方（一）	例文解説
5 回	「是」の使い方（二）、 一日の行動	翻訳の練習
6 回	連体修飾語+的+被修飾語	例文解説、翻訳の練習
7 回	「有」構文、「在」構文	例文解説、翻訳の練習
8 回	疑問詞の使い方	例文解説、翻訳の練習
9 回	介詞の使い方	例文解説、翻訳の練習
10 回	「比較」の表現	例文解説、翻訳の練習
11 回	程度補語の使い方	例文解説、翻訳の練習
12 回	アスペクト（一）	例文解説
13 回	アスペクト（二）	翻訳の練習
14 回	総復習	補足説明・期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

必ず予習すること。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

授業にてプリント配布

【参考書】

辞書を必ず用意すること。

【成績評価の方法と基準】

授業への参加度、授業時の出来具合、宿題の完成度など（60 点）、試験（40 点）により総合評価します。

【学生の意見等からの気づき】

読解力と翻訳力を高めると共に発音も指導する方法を続けてやります。

【学生が準備すべき機器他】

オンライン授業を受講する場合、通信環境・PC の準備をしてください。

【その他の重要事項】

学生の様子によって、内容を調整する場合があります。

【Outline (in English)】

In this course, we will improve the writing skill of Chinese through reviewing the basic grammar.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content.

Final grade will be calculated according to the following Term-end examination(40%), in-class contribution(60%).

LANe200LA

中国語作文初級Ⅱ

2017 年度以降入学者

康 鴻音

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 4/Fri.4

単位数：1 単位

定員制（15 名）

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は初級で学んだ中国語の基礎を固め、読解力や翻訳力の向上を図ります。

【到達目標】

中国語の基礎文法を一通り学ぶことによって一応の文章も読解でき、翻訳できる段階まで力を付けることを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

まず中国語作文の基礎を理解してもらい、基本的な文法事項や重要な文型について詳しく説明します。それを基に、単文を中心とした練習問題を解くことによって基礎的な作文能力を高めていきます。必要に応じて授業後の指導もできます。

社会情勢に合わせてオンライン授業（リアルタイム）を実施する場合があります。その時、「学習支援システム」でお知らせします。課題等へのフィードバックは授業時間またはメールを通じて行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1 回	能願動詞の使い方	例文解説、翻訳の練習
2 回	方向補語	例文解説、翻訳の練習
3 回	結果補語	例文解説、翻訳の練習
4 回	可能補語	例文解説、翻訳の練習
5 回	兼語文	例文解説、翻訳の練習
6 回	受身文	例文解説、翻訳の練習
7 回	「是……的」構文	例文解説、翻訳の練習
8 回	存現文	例文解説、翻訳の練習
9 回	介詞の使い方	例文解説、翻訳の練習
10 回	「比較」の表現	例文解説、翻訳の練習
11 回	「把」構文	例文解説、翻訳の練習
12 回	動量補語・時量補語	例文解説、翻訳の練習
13 回	複文・「了」の使い方	例文解説、翻訳の練習
14 回	総復習	補足説明・期末試験

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

必ず予習すること。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

プリント添付

【参考書】

辞書を必ず用意すること。

【成績評価の方法と基準】

対面授業の場合には期末試験を実施し、40 %にし、ふだんの成績は 60 %にします。オンラインの場合には、毎回の課題の出来具合によって評価します。

【学生の意見等からの気づき】

読解力と翻訳力を高めると共に発音も指導する方法を続けてやります。

【学生が準備すべき機器他】

オンライン授業を受講する場合、通信環境・PC の準備をしてください。

【その他の重要事項】

学生の様子によって内容を調整することがあります。

【Outline (in English)】

In this course, we will improve the writing skill of Chinese through reviewing the basic grammar.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content.

Final grade will be calculated according to the following Term-end examination(40%), in-class contribution(60%).

LANe200LA

中国語視聴覚初級 I

2017 年度以降入学者

劉 湯水

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 2/Thu.2

単位数：1 単位

定員制（35 名）

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中国の様子を紹介する映像を見ながら、会話文や読解文を学習します。聞き取り・書き取り練習を通して、リスニング力を鍛えることを目的とします。同時に、中国文化への理解も深めます。

【到達目標】

1 年生で学んだ基礎的な中国語運用能力を伸ばし、とくに中国語の「音」に慣れ、リスニング力を向上させることが目標です。中検3級を目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

単語を習得し、文法を理解する。

DVD 教材を観ながら、聞き取り・書き取り練習を行う。

簡単な中国語作文・会話練習を行う。

課題等へのフィードバックは授業時間またはメールを通じて行う。本授業はハイブリッド（オンラインと対面を併用）で行います。授業についての詳細は学習支援システムでお知らせします。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	授業内容に関するガイダンス
2	第1課	文法理解と応用
3	第1課	会話と応用
4	第1課	読解文の理解と応用
5	第2課	文法理解と応用
6	第2課	会話と応用
7	第2課	読解文の理解と応用
8	第3課	文法理解と応用
9	第3課	会話と応用
10	第3課	読解文の理解と応用
11	第4課	文法理解と応用
12	第4課	会話と応用
13	第4課	読解文の理解と応用
14	授業の総まとめと試験	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業前に単語の意味を調べる。教材の予習復習をする。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

洪潔清著『チャイニーズアドベンチャー～DVD で学ぶ中国文化～』金星堂

【参考書】

授業中に指示。

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業態度、小テスト）30%、試験 70%。

【学生の意見等からの気づき】

特に無し。

【学生が準備すべき機器他】

オンライン授業を受講するための通信環境、PC 等を準備して下さい。

【その他の重要事項】

授業形態は大学の方針に従い変更する場合があります。

【Outline (in English)】

In this course, we will use the basic audio-visual materials and improve the listening skill of Chinese.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content.

Final grade will be calculated according to the following

Term-end examination(70%), in-class contribution(30%).

LANe200LA

中国語視聴覚初級Ⅱ

2017 年度以降入学者

劉 湯水

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 2/Thu.2

単位数：1 単位

定員制（35 名）

その他属性：〈優〉

【Outline (in English)】

In this course, we will use the basic audio-visual materials and improve the listening skill of Chinese.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content.

Final grade will be calculated according to the following Term-end examination(70%), in-class contribution(30%).

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

中国の様子を紹介する映像を見ながら、会話文や読解文を学習します。聞き取り・書き取り練習を通して、リスニング力を鍛えることを目的とします。同時に、中国文化への理解も深めます。

【到達目標】

1 年生で学んだ基礎的な中国語運用能力を伸ばし、とくに中国語の「音」に慣れ、リスニング力を向上させることが目標です。中検3級を目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

単語を習得し、文法を理解する。

DVD 教材を観ながら、聞き取り・書き取り練習を行う。

簡単な中国語作文・会話練習を行う。

課題等へのフィードバックは授業時間またはメールを通じて行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス復習	授業内容に関するガイダンスと復習
2	第5課	文法理解と応用
3	第5課	会話と応用
4	第5課	読解文の理解と応用
5	第6課	文法理解と応用
6	第6課	会話と応用
7	第6課	読解文の理解と応用
8	第7課	文法理解と応用
9	第7課	会話と応用
10	第7課	読解文の理解と応用
11	第8課	文法理解と応用
12	第8課	会話と応用
13	第8課	読解文の理解と応用
14	授業の総まとめと試験	試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業前に単語の意味を調べる。教材の予習復習をする。

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

洪潔清著『チャイニーズアドベンチャー～DVD で学ぶ中国文化～』金星堂

【参考書】

授業中に指示。

【成績評価の方法と基準】

平常点（授業態度、小テスト）30%、試験 70%。

【学生の意見等からの気づき】

特に無し。

【その他の重要事項】

授業形態は大学の方針に従い変更する場合があります。

LANe200LA

資格中国語初級 I

2017 年度以降入学者

青木 正子

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 4/Wed.4

単位数：1 単位

定員制 (40 名)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

HSK (☑☑水平考☑) 1 級～3 級合格レベルの中国語を身につけることが、この授業の目的です。春学期中に 2 級、秋学期中に 3 級に合格できるよう指導します。

ただ、HSK のリスニングは難しいので、中国検定準 4 級程度からトレーニングを始めていきます。

向上心のある学生の参加を歓迎します。単位のためだけの履修は向きません。

中国語を 1 年以上履修していることが望ましいです。

中国語が好きな人が集まりますので、情報交換もできて、いつも楽しいクラスです。

【到達目標】

春学期は HSK 2 級に合格できるリスニング力と読解力を身につけてもらいます。

秋学期は HSK3 - 4 級合格を目指します。

毎年多くの学生が合格しており、不合格者は今まで 1 人もいません。

この授業には中国語が好きな学生が集まってきます。中華圏のアイドルの話で盛り上がることもあります。

リラックスした雰囲気の中、マイペースで学習してもらえるように工夫していきます。

ただストレスのない雰囲気なので、非常にストイックな人は向かないかもしれません。初回の授業に出てから履修を決めてください。

そのほか、1 年生のとき使用した教科書ポイント学習を復習しながら、初級中国語の基礎文法のしくみを解説します。みなさんの中国語が変わってくると思います。楽しみにしてください。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

HSK の過去問プリントを使って学習します。必要な単語と文法を学び、実際の過去問を解いて実践力を養います。

単語帳のテキストを使って、単語テストを行い、語彙力を高めてもらいます。

また、ポイント学習の教科書を使って初級中国語の文法の構造を把握し理解してもらいます。

フィードバックは授業内に行います。

緊急時はメールで対応します。

qingm@live.jp

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	レベルチェックテスト	メンバーのレベルをチェックします。
2	HSK 1 級単語	HSK 1 級単語を学びます。リスニング練習をします。
3	HSK 1 級単語復習	HSK 1 級単語リスニングテスト
4	HSK 1 級単語	HSK 1 級単語を学びます。リスニング練習をします。
5	HSK 1 級単語復習	HSK 1 級単語リスニングテスト
6	HSK 1 級過去問	HSK 1 級過去問を解きます。

7	HSK 1 級過去問	HSK 1 級過去問を解きます。
8	HSK 2 級単語	HSK 2 級単語を学びます。
9	HSK 2 級単語	HSK 2 級単語リスニングテスト。
10	HSK 2 級	HSK 2 級単語を学びます。
11	HSK 2 級単語	HSK 2 級単語リスニングテスト
12	HSK 2 級単語	HSK2 級単語を学びます
13	HSK 2 級単語	HSK 2 級単語リスニングテスト
14	春学期復習	復習テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

良く復習すること。覚えた単語は忘れないようにすること。

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

過去問はプリントを配布します。

また以下のテキストを使用します。大学生協を通じて購入すると割引価格で購入できます。かなり安くなるので、生協からの購入をおすすめします。

初回授業では使用しません。履修を決めてから購入してください。

HSK/中検対応

『中国語基本単語帳』 早稲田大学商学部中国語教室（編著）朝日出版社

そのほか、ポイント学習中国語を毎回持参してください。

【参考書】

HSK 過去問、HSK 公式アプリ単語

【成績評価の方法と基準】

授業内テストの合計点で評価します。

積極的な学生には大いに加点します。

【学生の意見等からの気づき】

単語帳テキストを使って、単語テストを実施し、語彙力を高めます。

同時にリスニングのトレーニングを多く行います。

文法がもっとわかるようになりたいという要望が多いので、ポイント学習中国語を使って解説します。文法の基礎や構造を理解していただけるように工夫します。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to pass 1st~2nd grade of HSK (Hanyu Shuiping Kaoshi) test. To achieve this aim, we will review the basic Chinese grammar and vocabulary, and do past HSK questions.

One hour is required for each lesson for preparation and review of this class.

The method and criteria for grade evaluation will be decided by each instructor. See "Grading criteria" by instructor's syllabus.

LANe200LA

資格中国語初級Ⅱ

2017 年度以降入学者

青木 正子

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 4/Wed.4

単位数：1 単位

定員制（40 名）

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

HSK 3 級合格レベルの中国語を身につけることが目的です。この授業は春学期から継続しています。秋学期からの参加も歓迎しますが、春学期のシラバスを読んで、初回の授業に出てから履修を決めてください。

中国語が好きな、意欲的な学生の参加を歓迎します。

いつも楽しいクラスです。

全員が 3 級合格レベルに達しました。昨年度は 4 級に 3 名も合格しました。

【到達目標】

HSK 3 - 4 級合格以上を目指します。

毎年多くの方が合格しています。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

プリント教材を使って、HSK 3 級の単語と文法を学びます。リスニング練習を重視します。そのほか単語帳とポイント学習中国語の教科書で初級文法の構造を解説します。

フィードバックは授業内に行います。

緊急時はメールで対応します。

qingm@live.jp

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	HSK 3 級過去問	HSK 3 級過去問を中心に
2	HSK 3 級過去問	HSK 3 級過去問
3	HSK 3 級過去問	HSK 3 級過去問
4	HSK 3 級過去問	HSK 3 級過去問
5	HSK 3 級過去問	HSK 3 級過去問
6	HSK 3 級過去問	HSK 3 級過去問
7	HSK 3 級過去問	HSK 3 級過去問
8	HSK 3 級過去問	HSK 3 級過去問
9	HSK 3 級過去問	HSK 3 級過去問
10	HSK 3 級過去問	HSK 3 級過去問
11	HSK 3 級過去問	HSK 3 級過去問
12	HSK 3 級過去問	HSK 3 級過去問
13	HSK 3 級過去問	HSK 3 級過去問
14	授業の総まとめと期末テスト	期末テスト

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で学んだことを忘れないように、よく復習すること。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

プリント教材を配布します。

プリント以外に、以下の単語帳テキストを使用します。

大学生協から購入すると大きな割引があるので、大学生協からの購入をおすすめします。

『中国語基本単語帳』 早稲田大学商学部中国語教室（編著）朝日出版社

そのほか毎回ポイント学習中国語を持参してください。

【参考書】

HSK3 級過去問、単語集

【成績評価の方法と基準】

期末テストで評価します。

HSK 3 級以上合格者は S ランクで評価します。

【学生の意見等からの気づき】

今年度から単語帳テキストを使用します。

またリスニング教材をより一層充実させ、総合的な力がつくように工夫します。

【Outline (in English)】

The aim of this course is to pass 1st~2nd grade of HSK (Hanyu Shuiping Kaoshi) test. To achieve this aim, we will review the basic Chinese grammar and vocabulary, and do past HSK questions.

One hour is required for each lesson for preparation and review of this class.

The method and criteria for grade evaluation will be decided by each instructor. See "Grading criteria" by instructor's syllabus.

ARSe200LA

中国の文化と社会 L A

2017 年度以降入学者

サブタイトル：

山本 律

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 2/Thu.2

単位数：2 単位

定員制 (60 名)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

近年、台湾は日本人の旅行先として人気となっています。
日本と台湾は長い歴史の中で深いかわりを持っています。
本授業では映像資料を用いて日本と台湾の文化的関係についてみていきます。

【到達目標】

日本と台湾との文化的関係についての理解を深めます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示された
どの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針
に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

講義形式で授業を行います。

毎回コメントペーパーを出してもらいます。

最終回には教場レポートを提出してもらいます。

課題等のフィードバックは授業時間またはメールで行います。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業の進め方について
第 2 回	映画で学ぶ中国の文化 と社会 1	映画『あの頃、君を追いかけた』 (第 1 回)
第 3 回	映画で学ぶ中国の文化 と社会 1	映画『あの頃、君を追いかけた』 (第 2 回)
第 4 回	映画で学ぶ中国の文化 と社会 1	映画『あの頃、君を追いかけた』 (第 3 回)
第 5 回	映画で学ぶ中国の文化 と社会 2	映画『私の少女時代』(第 1 回)
第 6 回	映画で学ぶ中国の文化 と社会 2	映画『私の少女時代』(第 2 回)
第 7 回	映画で学ぶ中国の文化 と社会 2	映画『私の少女時代』(第 3 回)
第 8 回	映画で学ぶ中国の文化 と社会 3	映画『海角七号』(第 1 回)
第 9 回	映画で学ぶ中国の文化 と社会 3	映画『海角七号』(第 2 回)
第 10 回	映画で学ぶ中国の文化 と社会 3	映画『海角七号』(第 3 回)
第 11 回	映画で学ぶ中国の文化 と社会 4	映画『KANO』(第 1 回)
第 12 回	映画で学ぶ中国の文化 と社会 4	映画『KANO』(第 2 回)
第 13 回	映画で学ぶ中国の文化 と社会 4	映画『KANO』(第 3 回)
第 14 回	授業の総まとめとレ ポート	授業の総まとめと試験 ポート

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

特になし。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 4 時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

使用しない。

必要に応じて資料を配布する。

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

平常点 (出席、授業態度、コメントペーパー) 60 %、レポート 40 %

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline (in English)】

In this course, we will learn about Chinese culture and society by using various materials such as movies.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Final grade will be calculated according to the following Report(40%), in-class contribution(60%).

ARSe200LA

中国の文化と社会 L B

2017 年度以降入学者

サブタイトル：

山本 律

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 2/Thu.2

単位数：2 単位

定員制 (60 名)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

中国の文化と社会について、中国映画や中国の映像資料を用い学んでいきます。

映画は、その国の文化と社会を映し出します。

今期では、2008 年に公開されて以降、人気を博しシリーズ化されたカンフーアクション映画を軸として中国文化についてみていきます。

【到達目標】

中国の文化と社会についての理解を深めます。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

毎回講義形式で行います。

毎回課題としてコメントペーパーを出してもらいます。

最終回にはレポートを提出してもらいます。

課題等のフィードバックは授業時間またはメールで行います。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第 1 回	オリエンテーション	授業の進め方について
第 2 回	映画で学ぶ中国の文化と社会 2	映画『イップマン 序章』(第 1 回)
第 3 回	映画で学ぶ中国の文化と社会 2	映画『イップマン 序章』(第 2 回)
第 4 回	映画で学ぶ中国の文化と社会 2	映画『イップマン 序章』(第 3 回)
第 5 回	映画で学ぶ中国の文化と社会 2	映画『イップマン 葉問』(第 1 回)
第 6 回	レポート映画で学ぶ中国の文化と社会 2	映画『イップマン 葉問』(第 2 回)
第 7 回	映画で学ぶ中国の文化と社会 2	映画『イップマン 葉問』(第 3 回)
第 8 回	映画で学ぶ中国の文化と社会 3	映画『イップマン 継承』(第 1 回)
第 9 回	映画で学ぶ中国の文化と社会 3	映画『イップマン 継承』(第 2 回)
第 10 回	映画で学ぶ中国の文化と社会 3	映画『イップマン 継承』(第 3 回)
第 11 回	映画で学ぶ中国の文化と社会 4	映画『イップマン 外伝』(第 1 回)
第 12 回	映画で学ぶ中国の文化と社会 4	映画『イップマン 外伝』(第 2 回)
第 13 回	映画で学ぶ中国の文化と社会 4	映画『イップマン 外伝』(第 3 回)
第 14 回	授業の総まとめと試験	授業の総まとめと試験

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

特になし。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 4 時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

使用しない。

必要に応じて資料を配布する。

【参考書】

特になし。

【成績評価の方法と基準】

平常点 (課題提出) 60 %、レポート 40 %

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【Outline (in English)】

In this course, we will learn about Chinese society and culture by using various materials such as movies.

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

Final grade will be calculated according to the following Report(40%), in-class contribution(60%).

LANs200LA

スペイン語コミュニケーション I 2017年度以降入学者

瓜谷 アウロラ

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：水 2/Wed.2

単位数：1 単位

定員制 (30 名)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

春学期はオンラインでの開講となる。ZOOM を使ってリアルタイムで行う。

身近な話題を相手に伝える練習をする。モデル文章を作って重要な表現解説と置き換え練習も行う。モデル文章を元に表現を置き換えて、自分の文章を書けるようになるのが目標である。

【到達目標】

身近な話題について文章で書き表し、それをベースに簡単なプレゼンテーションができるようになることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

この講座では身近な話題を相手に伝える練習を行う。モデル文章を作って重要な表現解説と置き換え練習も行う。その後、学んだ表現を暗記し、Break Out Room で仲間と練習する。次に暗記した表現を利用してモデル文章を書き換えて Break Out Room で発表する。学習した内容は次週の講義の最初に何人かに聞いて確認を行う。毎回暗記しなければいけない短文の数は 6 個程度である。

2 回で一つのテーマが終わると課題として自分について書いた文章を Hoppii で提出する。受け取った Feedback をよく読み、文書を暗記して、仲間に発表する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	Mi nombre 1	リスニング練習、発音練習、語彙練習、再構築練習、発話練習
2	Mi nombre 2	リスニング練習、発音練習、語彙練習、再構築練習、発話練習
3	Mi familia 1	リスニング練習、発音練習、語彙練習、再構築練習、発話練習
4	Mi familia 2	リスニング練習、発音練習、語彙練習、再構築練習、発話練習
5	Mi ciudad 1	リスニング練習、発音練習、語彙練習、再構築練習、発話練習
6	Mi ciudad 2	リスニング練習、発音練習、語彙練習、再構築練習、発話練習
7	Mi universidad 1	リスニング練習、発音練習、語彙練習、再構築練習、発話練習
8	Mi universidad 2	リスニング練習、発音練習、語彙練習、再構築練習、発話練習
9	Un día normal 1	リスニング練習、発音練習、語彙練習、再構築練習、発話練習
10	Un día normal 2	リスニング練習、発音練習、語彙練習、再構築練習、発話練習
11	Descripciones 1	リスニング練習、発音練習、語彙練習、再構築練習、発話練習
12	Descripciones 2	リスニング練習、発音練習、語彙練習、再構築練習、発話練習
13	春学期の総復習	春学期の総復習

14 春学期の理解度の確認 春学期の理解度の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

前の週の復習から始まる。履修者は Break Out Room を使ってペアで練習を行うので、予習をしっかり行い、積極的に授業に参加することが求められる。事前学習として毎回送られてくるモデル文章とその日本語訳をよく理解しておくこと。事後学習は講義で暗記した 6 個程度の短文を次回の講義までに確認し、完璧に暗記すること。次回の授業で確認を行う。学習の目安は毎回 60 分程度である。

【テキスト（教科書）】

なし

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

平常点及び課題と期末試験から判断する。

平常点評価:30 %

授業内で指された時の返事に基づく点数。又、授業での態度や積極的な参加度など。平常点は積み重ねていくので、欠席があればその日の平常点はゼロになる。

課題:30 %

期末試験:40 %

【学生の意見等からの気づき】

今年度は「量が多すぎ」という学生たちの声があったので、量を少し減らしました。

【学生が準備すべき機器他】

ZOOM に滞りなく参加ができるように機器環境を整えること。

【その他の重要事項】

なし

【Outline (in English)】

In the spring term the course will be held online, in real time using ZOOM.

In this course students will practice communicating familiar topics to others. Model sentences will be created to explain important expressions and practice replacing them. The goal is to be able to write your own sentences by replacing expressions based on the model sentences.

Grading criteria

Students will be judged on the basis of regular scores, assignments and final examinations.

Regular point evaluation: 30%.

A score based on the student's response when pointed out in class. Also, your attitude and active participation in class. Regular points will be accumulated, so if a student is absent, the regular points for that day will be zero.

Assignments: 30%.

Final exam: 40%.

In this course, students will practice communicating familiar topics to others. After replacing model sentences and memorize the expressions you have learned, you will practice them with your pairs in the Break Out Room. Next, rewrite the model sentences using the memorized expressions and present them in the Break Out Room. I will confirm what you have learned by asking some of you at the beginning of the next week's lecture. The number of short sentences to be memorized each time is about 6.

After two sessions on a single topic, the students will submit a piece of writing about themselves in Hoppii as an assignment. Read the Feedback you receive carefully, memorize the document, and present it to your peers.

Every week begins with a review of the previous week. Students will practice in pairs using the Break Out Room, so they are expected to prepare well and actively participate in class. Students are required to understand the model sentences and their Japanese translations well in advance of each class. For post-lesson study, students are expected to check about 6 short sentences memorized in the lecture and memorize them perfectly by the next lecture. Confirmation will be done in the next class. The estimated study time is about 60 minutes for each class.

LANs200LA

スペイン語コミュニケーションⅡ 2017年度以降入学者

瓜谷 アウロラ

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：水 2/Wed.2

単位数：1 単位

定員制（30名）

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

秋学期はオンラインでの開講となる。ZOOM を使ってリアルタイムで行う。

身近な話題を相手に伝える練習をする。モデル文章を作って重要な表現解説と置き換え練習も行う。モデル文章を元に表現を置き換えて、自分の文章を書けるようになるのが目標である。

【到達目標】

身近な話題について文章で書き表し、それをベースに簡単なプレゼンテーションができるようになることを目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

この講座では身近な話題を相手に伝える練習を行う。モデル文章を作って重要な表現解説と置き換え練習も行う。その後、学んだ表現を暗記し、Break Out Room で仲間と練習する。次に暗記した表現を利用してモデル文章を書き換えて Break Out Room で発表する。学習した内容は次週の講義の最初に何人かに聞いて確認を行う。毎回暗記しなければいけない短文の数は6個程度である。

2回で一つのテーマが終わると課題として自分について書いた文章をHoppiiで提出する。受け取ったFeedbackをよく読み、文書を暗記して、仲間に発表する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし/No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
1	Mi mejor viaje 1	リスニング練習、発音練習、語彙練習、再構築練習、発話練習
2	Mi mejor viaje 2	内容 リスニング練習、発音練習、語彙練習、再構築練習、発話練習
3	Mis gustos 1	内容 リスニング練習、発音練習、語彙練習、再構築練習、発話練習
4	Mis gustos 2	内容 リスニング練習、発音練習、語彙練習、再構築練習、発話練習
5	Mi mejor regalo 1	内容 リスニング練習、発音練習、語彙練習、再構築練習、発話練習
6	Mi mejor regalo 2	内容 リスニング練習、発音練習、語彙練習、再構築練習、発話練習
7	Mi personaje preferido 1	内容 リスニング練習、発音練習、語彙練習、再構築練習、発話練習
8	Mi personaje preferido 2	内容 リスニング練習、発音練習、語彙練習、再構築練習、発話練習
9	Después de mi graduación 1	内容 リスニング練習、発音練習、語彙練習、再構築練習、発話練習
10	Después de mi graduación 2	内容 リスニング練習、発音練習、語彙練習、再構築練習、発話練習
11	Navidad 1	内容 リスニング練習、発音練習、語彙練習、再構築練習、発話練習
12	Navidad 2	内容 リスニング練習、発音練習、語彙練習、再構築練習、発話練習

13 秋学期の総合復習 秋学期の総合復習

14 秋学期の理解度の確認 秋学期の理解度の確認

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

前の週の復習から始まる。履修者は Break Out Room を使ってペアで練習を行うので、予習をしっかり行い、積極的に授業に参加することが求められる。事前学習として毎回送られてくるモデル文章とその日本語訳をよく理解しておくこと。事後学習は講義で暗記した6個程度の短文を次回の講義までに確認し、完璧に暗記すること。次回の授業で確認を行う。学習の目安は毎回60分程度である。

【テキスト（教科書）】

なし

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

平常点及び課題と期末試験から判断する。

平常点評価:30%

授業内で指された時の返事に基づく点数。又、授業での態度や積極的な参加度など。平常点は積み重ねていくので、欠席があればその日の平常点はゼロになる。

課題:30%

期末試験:40%

【学生の意見等からの気づき】

今年度は「量が多すぎ」という学生たちの声があったので、量を少し減らしました。

【学生が準備すべき機器他】

ZOOM に滞りなく参加できるように機器環境を整えること。

【その他の重要事項】

なし

【Outline (in English)】

In the fall term the course will be held online, in real time using ZOOM.

We will practice communicating familiar topics to others. Model sentences will be created to explain important expressions and practice replacing them. The goal is to be able to write your own sentences by replacing expressions based on the model sentences.

Grading criteria

Students will be judged on the basis of regular scores, assignments and final examinations.

Regular point evaluation: 30%.

A score based on the student's response when pointed out in class. Also, your attitude and active participation in class. Regular points will be accumulated, so if a student is absent, the regular points for that day will be zero.

Assignments: 30%.

Final exam: 40%.

In this course, students will practice communicating familiar topics to others. After replacing model sentences and memorize the expressions you have learned, you will practice them with your pairs in the Break Out Room. Next, rewrite the model sentences using the memorized expressions and present them in the Break Out Room. I will confirm what you have learned by asking some of you at the beginning of the next week's lecture. The number of short sentences to be memorized each time is about 6.

After two sessions on a single topic, the students will submit a piece of writing about themselves in Hoppii as an assignment. Read the Feedback you receive carefully, memorize the document, and present it to your pears.

Every week begins with a review of the previous week. Students will practice in pairs using the Break Out Room, so they are expected to prepare well and actively participate in class. Students are required to understand the model sentences and their Japanese translations well in advance of each class. For post-lesson study, students are expected to check about 6 short sentences memorized in the lecture and memorize them perfectly by the next lecture. Confirmation will be done in the next class. The estimated study time is about 60 minutes for each class.

LANs200LA

現代のスペイン語 I

2017 年度以降入学者

大西 亮

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 2/Mon.2
 単位数：1 単位
 定員制（30 名）/2021 年度までに「時事スペイン語 I」の単位を
 修得済みの場合、履修不可
 その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

初級の授業で習ったスペイン語文法の知識を生かしながら、まとまった長さの文章が読める程度の読解力を身につけることを目的とする。随時、初級文法の復習をおりませっていく。また、この授業では、スペイン語圏の文化や社会にも光をあてつつ、その歴史と現状について学んでゆく。スペイン語初級をすでに受講したことのある学生が対象となる。

【到達目標】

スペイン語圏の文化や社会に関する文章を、辞書を引きながら読解することのできるレベルをめざす。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示された
 どの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針
 に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

教科書の内容に沿って、文法事項の復習を中心に見ていく。随時小テストを行なうことによって、学生の理解度の把握に努める。採点済みの答案用紙は返却し、答え合わせをしながら基本的な文法事項のふりかえりに努める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
 あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】
 なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	春学期の授業の進め方に関する説明を行う。
2	初級文法の復習	過年度までにスペイン語初級の各クラスで学んだ文法事項の復習を行う。
3	直説法現在	直説法現在を使った文章を読解する。
4	再帰動詞	再帰動詞を使った文章を読解する。
5	現在分詞および進行形	現在分詞と進行形を使った文章を読解する。
6	過去分詞および点過去	過去分詞と点過去を使った文章を読解する。
7	線過去	線過去を使った文章を読解する。
8	直説法現在完了および過去完了	直説法現在完了と直説法過去完了を使ったペレーの古代遺跡マチュ・ピチュに関する文章を読解する。
9	指示詞と所有詞の復習	指示詞と所有詞を使った文章を読解する。
10	受動表現の復習	受動表現を使った文章を読解する。
11	比較表現の復習	比較表現を使った文章を読解する。
12	無人称表現の復習	無人称表現を使った文章を読解する。
13	春学期のまとめ	春学期に学んだ文法事項の復習を行う。

14 期末試験 試験・まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で用いるテキストの予習と復習は必須である。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

初回授業時に指示する。

【参考書】

初回授業時に指示する。

【成績評価の方法と基準】

平常点 30 %、期末試験 50 %、随時行う小テスト 20 %

【学生の意見等からの気づき】

学生参加型の授業を心がける。

【Outline (in English)】

A further goal is for students to improve their reading-ability, by enjoying rather long books through the use of their grammatical knowledge. This course is, therefore, designed for students who have completed elementary Spanish class.

LANs200LA

現代のスペイン語Ⅱ

2017年度以降入学者

久木 正雄

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 2/Mon.2

単位数：1 単位

定員制（30名）/2021年度までに「時事スペイン語Ⅱ」の単位を修得済みの場合、履修不可

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スペイン語の初級クラスを履修済みの学生を対象として、すでに身につけている文法知識を活かしながら、まとまった長さの文章が読める程度の読解力を養うことを目的とする。特に、この授業では、現代のスペイン語圏の文化や社会といった諸相について、その歴史も踏まえながら学んでいく。

【到達目標】

スペイン語圏の文化や社会に関する文章を、辞書を引きながら読解することのできるレベルをめざす。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

教員が各回のテーマに関する概説と文法事項に関する解説を行いながら、順番に指名された受講生が訳読を行う。課題等に対するフィードバックは授業内で行い、必要に応じて「学習支援システム」も活用する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	ガイダンス	秋学期の授業の進め方に関する説明を行う。
2	春学期の文法の復習	春学期で学んだ文法事項の復習を行う。
3	直説法未来	直説法未来を使った文章を読解する。
4	直接法過去未来	直接法過去未来を使った文章を読解する。
5	直説法未来完了と直説法過去未来完了	直説法未来完了と直説法過去未来完了を使った文章を読解する。
6	接続法現在（名詞節）	接続法現在（名詞節）を使った文章を読解する。
7	接続法現在（形容詞節・副詞節）	接続法現在（形容詞節・副詞節）を使った文章を読解する。
8	命令法	命令法を使った文章を読解する。
9	接続法過去	接続法過去を使った文章を読解する。
10	間接話法	間接話法を使った文章を読解する。
11	知覚・使役の表現	知覚・使役の表現を使った文章を読解する。
12	時制の復習	さまざまな時制を網羅的に使った文章を読解する。
13	法の復習	直説法と接続法を対比的に使った文章を読解する。
14	試験・まとめと解説	学期末試験を実施し、今学期の学習事項のまとめと解説を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

テキストの指定範囲の準備学習と復習とともに、提出・非提出の別を問わず宿題に取り組むこと。なお、本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

秋学期が始まるまでに「学習支援システム」で指示する。

【参考書】

授業内で適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

平常点：50%、学期末試験：50%。

【学生の意見等からの気づき】

学習事項の着実な修得のために、受講者一人ひとりの理解度をこまめに確認する。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

・履修希望者は春学期の「現代のスペイン語Ⅰ」で選抜を受けること。秋学期の本授業のみの履修を希望する場合も同様である。
・辞書の活用を怠らないこと。

【Outline (in English)】

《Course outline》

This course will focus on various current topics in Spanish-speaking countries, by enjoying rather long Spanish texts through the use of your grammatical knowledge. This course is, therefore, designed for students who have completed elementary Spanish class.

《Learning Objectives》

Students will improve the reading ability in Spanish.

《Learning activities outside of classroom》

Students will be expected to have completed the required assignments before and after each class meeting. Your study time will be more than one hour for a class.

《Grading Criteria /Policy》

Your overall grade in the class will be decided based on the following: Usual performance score (50%), and term-end examination (50%).

ARSa200LA

スペイン語の世界 L A

2017 年度以降入学者

サブタイトル：

塩崎 公靖

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 3/Thu.3

単位数：2 単位

定員制 (40 名)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

学生の興味関心を聞きながら、スペイン語圏の社会や文化について学ぶことで、それまでの角度とは異なる新たな視野を養える場としたい。

【到達目標】

本講義では、スペインおよびスペイン語圏の文化と社会について、講義や自らのプレゼンを通じて理解を深めることを目的とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

初回～第 3 回講義までは教員によるオリエンテーションと講義。また、初回講義において、学生から関心のあるテーマを聞き、担当者を決定、その後は各回の担当者がそのテーマを調べ、プレゼンテーションする形式を採る。

※本講義は基本的には、大学の方針に倣って対面形式で実施する予定です。

ただし、感染状況の推移により、オンラインに切り替えるなども検討します。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション (プレゼン担当決定)	スペイン語圏についての概説。各回の担当者を決定。
2	講義：スペイン概説①	地域から考える
3	講義：スペイン概説②	言語から考える
4	担当者によるプレゼンテーション (例：スペインの絵画)	具体的なテーマは学生と協議の上決定する
5	担当者によるプレゼンテーション (例：スペインのスポーツ)	具体的なテーマは学生と協議の上決定する
6	担当者によるプレゼンテーション (例：スペインの言語)	具体的なテーマは学生と協議の上決定する
7	担当者によるプレゼンテーション (例：食事に見られる地域性)	具体的なテーマは学生と協議の上決定する
8	担当者によるプレゼンテーション (例：スペインの観光業)	具体的なテーマは学生と協議の上決定する
9	担当者によるプレゼンテーション (例：EU とスペイン)	具体的なテーマは学生と協議の上決定する

10	担当者によるプレゼンテーション (例：Brexit のスペインへの余波)	具体的なテーマは学生と協議の上決定する
11	担当者によるプレゼンテーション (例：スペイン語とポルトガル語の違い)	担当者によるプレゼンテーション (例：スペイン語とポルトガル語の違い)
12	担当者によるプレゼンテーション (例：カタルーニャ州について)	具体的なテーマは学生と協議の上決定する
13	担当者によるプレゼンテーション (例：フラメンコの歴史)	具体的なテーマは学生と協議の上決定する
14	総括	ディスカッション

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

事前に資料が指定された場合には、授業内での議論参加のため必ず目を通しておくこと。

また、映画や展覧会など課外活動に出かけることを指示することもある。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

開講時に受講生各自の関心に従って決定。

【参考書】

テーマにそって授業内で指示する。

【成績評価の方法と基準】

授業内プレゼンは必須。その上で、プレゼンの内容 (70%) と平常点 (30%) で総合評価する。

【学生の意見等からの気づき】

本講義は、こちらから何かを教えるというよりも、皆さんの興味関心を十分に聞き取り、その関心に沿ったテーマについて学べるように、よりよい授業づくりをしていきたいと考えています。

【Outline (in English)】

【Course Outline】

This class aims at improving ability to understand how the world is, through learning hispanophone countries.

Wish the students in this course to have ambition to achieve new field of view.

【Learning Objectives】

To have more perspective to view not only in Spanish culture but all over the world.

【Learning activities outside of classroom】

Nothing required but hope to be interested in various issues regarding with Spanish and Latin American culture. Your required study time is at least four hours for each class meeting.

【Grading Criteria/Policy】

Presentation at class: 70%, class contribution: 30%

ARSa200LA

スペイン語の世界 L B

2017 年度以降入学者

サブタイトル：

塩崎 公靖

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 3/Thu.3

単位数：2 単位

定員制 (40 名)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

学生の興味関心を聞きながら、スペイン語圏の社会や文化について学ぶことで、それまでの角度とは異なる新たな視野を養える場としたい。

【到達目標】

本講義では、スペインおよびスペイン語圏の文化と社会について、講義や自らのプレゼンを通じて理解を深めることを目的とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

初回～第 3 回講義までは教員によるオリエンテーションと講義。また、初回講義において、学生から関心のあるテーマを聞き、担当者を決定、その後は各回の担当者がそのテーマを調べ、プレゼンテーションする形式を採る。

※本講義は基本的には、大学の方針に倣って対面形式で実施する予定です。

ただし、感染状況の推移により、オンラインに切り替えるなども検討します。

※各回に例としてあげたプレゼン内容はあくまで一例。自身が調べたいと思えるテーマを探してもらおう。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】
なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	スペイン語圏についての概説。各 (プレゼン担当決定) 回の担当者を決定。
2	講義：スペイン概説①	国際関係の中のスペイン
3	講義：スペイン概説②	スペインと日本
4	担当者によるプレゼンテーション	具体的なテーマは学生と協議の上決定する (例：メキシコの映画産業)
5	担当者によるプレゼンテーション	具体的なテーマは学生と協議の上決定する (例：アルゼンチンのスポーツ事情)
6	担当者によるプレゼンテーション	具体的なテーマは学生と協議の上決定する (例：キューバの現在)
7	担当者によるプレゼンテーション	具体的なテーマは学生と協議の上決定する (例：ラテンアメリカの文学)
8	担当者によるプレゼンテーション	具体的なテーマは学生と協議の上決定する (例：フィリピンに残るスペイン語)

9	担当者によるプレゼンテーション	具体的なテーマは学生と協議の上決定する (例：日本のスペイン語話者)
10	担当者によるプレゼンテーション	具体的なテーマは学生と協議の上決定する (例：スペインのスタートアップ企業)
11	担当者によるプレゼンテーション	具体的なテーマは学生と協議の上決定する (例：スペイン語圏の中の日本企業)
12	担当者によるプレゼンテーション	具体的なテーマは学生と協議の上決定する (例：コスタリカについて)
13	担当者によるプレゼンテーション	具体的なテーマは学生と協議の上決定する (例：スペイン語圏での日本発サブカルチャーの受容)
14	総括	ディスカッション

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

事前に資料が指定された場合には、授業内での議論参加のため必ず目を通しておくこと。

また、映画や展覧会など課外活動に出かけることを指示することもある。本授業の準備学習・復習時間は、各 2 時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

開講時に受講生各自の関心に従って決定。

【参考書】

テーマにそって授業内で指示する。

【成績評価の方法と基準】

授業内プレゼンは必須。その上で、プレゼンの内容 (70%) と平常点 (30%) で総合評価する。

【学生の意見等からの気づき】

本講義は、こちらから何かを教えるというよりも、皆さんの興味関心を十分に聞き取り、その関心に沿ったテーマについて学べるように、よりよい授業づくりをしていきたいと考えています。

【Outline (in English)】

【Course Outline】

This class aims at improving ability to understand how the world is, through learning hispanophone countries.

Wish the students in this course to have ambition to achieve new field of view.

【Learning Objectives】

To have more perspective to view not only in Spanish culture but all over the world.

【Learning activities outside of classroom】

Nothing required but hope to be interested in various issues regarding with Spanish and Latin American culture. Your required study time is at least four hours for each class meeting.

【Grading Criteria/Policy】

Presentation at class: 70%, class contribution: 30%

LANK200LA

朝鮮語4 B I (視聴覚)

2017年度以降入学者

新谷 あゆり

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：木 2/Thu.2

単位数：1 単位

定員制 (30 名)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

さまざまな映像・音声を通じ、聞く能力を向上させる。スクリプトの翻訳を通して読解力を向上させ語彙を増強する。韓国人留学生との会話も行う予定。

【到達目標】

- 1 韓国の小説・ドラマ・歌・アナウンスなどの聞き取りを通じ、音から朝鮮語を理解することに慣れる。
- 2 スクリプトの翻訳を通じ、語彙・文型・表現の知識を増強する。
- 3 発音練習・暗唱を行うことで自然で美しい発音をめざす。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

- 1 小説・ドラマの一場面を聞き、日本語訳する。
- 2 スクリプトを読み、日本語訳する。
- 3 語彙、文型を学び、発音練習をする。
- 4 翻訳・暗唱等の課題をする。
- 5 単語と暗唱の小テストをする。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	サランバンのお客さん とオモニ ①② シークレットガーデン	聞き取り スクリプト読解 文型・表現・発音練習
2	サランバンのお客さん とオモニ ③④ シークレットガーデン	聞き取り スクリプト読解 文型・表現・発音練習
3	サランバンのお客さん とオモニ ⑤⑥ シークレットガーデン	聞き取り スクリプト読解 文型・表現・発音練習
4	サランバンのお客さん とオモニ ⑦⑧ アナウンス	聞き取り スクリプト読解 文型・表現・発音練習
5	サランバンのお客さん とオモニ ⑨⑩ シークレットガーデン	聞き取り スクリプト読解 文型・表現・発音練習
6	歌など 小テスト	聞き取り スクリプト読解 文型・表現・発音練習
7	サランバンのお客さん とオモニ ⑪⑫ シークレットガーデン	聞き取り スクリプト読解 文型・表現・発音練習

8	サランバンのお客さん とオモニ ⑬⑭ テスト	聞き取り スクリプト読解 文型・表現・発音練習
9	サランバンのお客さん とオモニ ⑮⑯ シークレットガーデン	聞き取り スクリプト読解 文型・表現・発音練習
10	サランバンのお客さん とオモニ ⑰⑱ 会話練習	聞き取り スクリプト読解 文型・表現・発音練習
11	留学生との会話	韓国人留学生と会話
12	サランバンのお客さん とオモニ ⑲⑳ シークレットガーデン	聞き取り スクリプト読解 文型・表現・発音練習
13	サランバンのお客さん とオモニ 最終回 シークレットガーデン	スクリプト聞き取り スクリプト読解 文型・表現・発音練習
14	期末試験	期末試験

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

毎週、聞き取り・読解・暗記等の課題を行うこと。本授業の準備・復習時間は各 2 時間を要する。

【テキスト (教科書)】

プリント配布

【参考書】

川口義一監修『耳から入る韓国語 1』学研
シークレットガーデン DVD

【成績評価の方法と基準】

平常点 (参加度、積極性、課題) 40 %、テスト 60 %
4 回以上の欠席で単位は出ない

【学生の意見等からの気づき】

韓国人留学生との会話が大変有意義だったという意見が多かったため今学期も留学生との会話の時間を設けます。

【その他の重要事項】

課題が多いのでやる気のある学生の受講を希望します。
2 年生～4 年生が履修可能なクラスのため、朝鮮語 3 より受講生のレベルが高くなる傾向があります。
定員制のため履修希望者が多い場合は初回に抽選をします。初回の授業には必ず出席してください。

【Outline (in English)】

[Course outline and learning objectives]

This class is designed for intermediate Korean learners. Students watch videos, listen to CDs, and translate scripts. The purpose of this class is to improve listening comprehension skills and increase vocabulary.

[Learning activities outside of classroom]

Students are expected to study 2hours at home for assignments and quizzes.

[Grading criteria /policy]

Participation20%, Assignments20%, Exam60%

※ Students who miss 4 or more times each class will not be eligible for the credit on this course.

LANk200LA

朝鮮語 4 B II (視聴覚)

2017 年度以降入学者

新谷 あゆり

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：木 2/Thu.2

単位数：1 単位

定員制 (30 名)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

さまざまな映像・音声を通じ、聞く能力を向上させる。
 スクリプトの翻訳を通して読解力を向上させ語彙を増強する。
 韓国人留学生との会話も行う予定。

【到達目標】

- 1 韓国のドラマ・歌・アナウンス・スピーチなどの聞き取りを通じ、音から理解することに慣れる。
- 2 スクリプトの翻訳を通じ、語彙・文型・表現の知識を増強する。
- 3 発音練習・音読を行うことで自然で美しい発音をめざす。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示された
 どの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針
 に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

- 1 ドラマ・ニュースなどを聞き、日本語訳する。
- 2 スクリプトを読み、日本語訳する。
- 3 文型・表現を学び、発音練習をする。
- 4 翻訳・暗唱等の課題をする。
- 5 単語と暗唱の小テストをする。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】
 あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】
 なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	会話 自己紹介 華麗なる遺産 1	聞き取り スクリプト読解 文型・表現・発音練習
2	華麗なる遺産 2 歌	聞き取り スクリプト読解 文型・表現・発音練習
3	アナウンスなど	聞き取り スクリプト読解 文型・表現・発音練習
4	華麗なる遺産 3	聞き取り スクリプト読解 文型・表現・発音練習
5	華麗なる遺産 4 小テスト	聞き取り スクリプト読解 文型・表現・発音練習
6	アナウンスなど	聞き取り スクリプト読解 文型・表現・発音練習
7	華麗なる遺産 5 テスト	聞き取り スクリプト読解 文型・表現・発音練習
8	華麗なる遺産 6	聞き取り スクリプト読解 文型・表現・発音練習
9	アナウンスなど	聞き取り スクリプト読解 文型・表現・発音練習

10	華麗なる遺産 7 会話練習	聞き取り スクリプト読解 文型・表現・発音練習
11	留学生との会話	韓国人留学生と会話
12	華麗なる遺産 8 小テスト	聞き取り スクリプト読解 文型・表現・発音練習
13	華麗なる遺産 9	聞き取り スクリプト読解 文型・表現・発音練習
14	期末試験	期末試験

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

毎週、スクリプト読解・音読・暗唱等の課題を行うこと。
 本授業の準備・復習時間は 2 時間を要する。

【テキスト (教科書)】

プリント配布

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

平常点 (参加度、積極性、課題) 40 %、テスト 60 %
 単語テストが 50 点以下の場合は、単位が出ない。
 4 回欠席の場合、単位が出ない。

【学生の意見等からの気づき】

留学生との会話が有意義だったという意見が多かったので今学期も
 会話の時間を設ける予定です。

【学生が準備すべき機器他】

☑か tablet

【その他の重要事項】

2 年生～4 年生が履修可能なクラスのため、朝鮮語 3 より受講生の
 レベルが高くなる傾向があります。課題も多いのでやる気のある学
 生の受講を希望します。
 定員制のため履修希望者が多い場合は初回に抽選をします。初回
 の授業には必ず出席してください。

【Outline (in English)】

[Course outline and learning objectives]

This class is designed for intermediate Korean learners. Students watch videos, listen to CDs, and translate scripts. The purpose of this class is to improve listening comprehension skills and increase vocabulary.

[Learning activities outside of classroom]

Students are expected to study 2 hours at home for assignments and quizzes.

[Grading criteria /policy]

Participation, Assignments 40%, Exam 60%

※ Students who miss 4 or more times each class will not be eligible for the credit on this course.

LANk200LA

朝鮮語 5 A I (講読)

2017 年度以降入学者

吉良 佳奈江

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 2/Mon.2

単位数：1 単位

定員制 (30 名)

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

この授業では、朝鮮語の基礎を身につけた学習者が現代の韓国文学に触れ、辞書を使って一人で読めるようになることを目的とする。短いエッセイから、短編までさまざまな作家の文章を幅広く読むとともに、作品の背景となっている現代の韓国社会や韓国の文化についても考察する。

日本で翻訳されている韓国文学と合わせ授業中に自ら原書のテキストを読むことで、各学習者が好きな韓国文学に出会えることを目標とする。

【到達目標】

1. 書き言葉と間接話法が用いられた朝鮮語の文章を正確に理解することができる
2. エッセイや小説などの様々なジャンルの朝鮮語の文章を、辞書を引きながら読解できる能力を身につける
3. 授業で扱うテキストの内容について議論しながら、韓国の社会問題や韓国文化についての理解を深める

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

指定したエッセイや短編小説を、文法内容や関連語彙を確認しながら読み解いていきます。原則として、各自日本語訳した文章を授業内で確認する予習型です。

初回の授業では、韓国文学の文献リストを配布するとともに、韓国文学に関する互いの関心を共有します。

第 2・3 回の授業ではハムニダ体の文章を題材として、ストーリーのある文章を読みます。

第 4 回以降、エッセイや短編作品を中心に韓国語の文章を読みます。授業で取り上げた教材については、原書および同じ作家の日本語で読める作品も紹介し、韓国文学についての知識を深めます。

第 14 回 (最終授業) では、アクティブラーニングとして各履修者が印象に残った文章を音読、翻訳して発表します。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	授業の進め方、韓国文学の文献リストの配布
2	ハムニダ体の講読 (1)	ストーリーのある文章を読んで、読解に慣れる。
3	ハムニダ体の講読・ディスカッション (2)	ストーリーのある文章を読んで、読解に慣れる。
4	エッセイの講読・ディスカッション (1)	エッセイを読んで、内容について議論する
5	エッセイの講読・ディスカッション (2)	エッセイを読んで、内容について議論する
6	エッセイの講読・ディスカッション (3)	エッセイを読んで、内容について議論する
7	小説の講読・ディスカッション (1)	小説を読んで、内容について議論する

8	小説の講読・ディスカッション (2)	小説を読んで、内容について議論する
9	小説の講読・ディスカッション (3)	小説を読んで、内容について議論する
10	小説の講読・ディスカッション (4)	小説を読んで、内容について議論する
11	小説の講読・ディスカッション (5)	小説を読んで、内容について議論する
12	小説の講読・ディスカッション (6)	小説を読んで、内容について議論する
13	小説の講読・ディスカッション (7)	小説を読んで、内容について議論する
14	アクティブ・ラーニング 発表	課題・関心の共有

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。指定されたテキストの予習と復習を必ず行うこと。

【テキスト (教科書)】

チョン・イヒョン、イ・ギホ、キム・ジュンヒョク、チャン・リュジン、チェ・ウニョン、パク・サンヨン、チャン・ガンミョン、チョン・ソント、イ・ランなど日本でも翻訳されている作家を中心に、エッセイ、短編を扱う。

講読テキスト・参考資料はプリントで配布する。

【参考書】

『完全版 韓国・フェミニズム・日本』斎藤真理子編集 (2019、河出書房新社)

『シソンから』チョン・セラン著、斎藤真理子訳 (2021、亜紀書房)

『どきどき僕の人生』キム・エラン著、きむふな訳 (2013、クオン)

『マイスイートソウル』チョン・イヒョン著、清水由希子訳 (2007、講談社)

『韓国が嫌いで』チャン・ガンミョン著、吉良佳奈江訳 (2020、ころから)

『ショウコの微笑』チェ・ウニョン著、吉川 風監修、

牧野 美加、横本 麻矢、小林 由紀 翻訳 (2018、クオン)

『まだまだという言葉』クォン・ヨソン著、斎藤真理子訳 (2020、河出書房)

【成績評価の方法と基準】

授業の出席・参加度 40%、課題 40%発表、アクティブラーニング 20%として評価します。

【学生の意見等からの気づき】

テキストだけでなく、映画やドラマの原作なども取り上げる予定です。

【学生が準備すべき機器他】

辞書、あるいは単語を調べられる端末を持参してください。

【その他の重要事項】

長い文章の講読は少しハードルが高いかもしれませんが、韓国で話題になっている本やエッセイを読むことは、韓国社会や韓国文化に対するより深い理解へとつながります。

初級・中級レベルの朝鮮語の学習を終えてエッセイや小説の読解に挑戦してみたいという学生の他に、韓国に留学したことがあって読解力をもっと高めたいという学生や、文学作品の翻訳に関心がある韓国の留学生の履修も歓迎します。

【Outline (in English)】

In the class, intermediate learners of Korean use dictionaries to read modern Korean literature.

The ultimate goal is to find out what Korean literature each learner likes by reading various Korean textbooks.

Goal :

You will be able to read and send actual e-mails, SNS, etc. using what you have learned in the text messages.

The goal is to read the written language and write a simple sentence by yourself.

Work to be done outside of class :

The task is to practice the text section or to write a short essay.

The preparatory study and review time for this class will be one hour in total.

Grading criteria :

Students with more than four unauthorized absences are excluded from the evaluation.

Based on 60% of the confirmation test, 40% of the class attendance and participation, and 40% of the assignment submission, we will evaluate it comprehensively.

LANk200LA

朝鮮語 5 A II (講読)

2017 年度以降入学者

吉良 佳奈江

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 2/Mon.2

単位数：1 単位

定員制 (30 名)

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

この授業では、朝鮮語の基礎を身につけた学習者が現代の韓国文学に触れ、辞書を使って一人で読めるようになることを目的とする。ドラマの原作や映画のシナリオなども扱い、さまざまな作家の文章を幅広く読むとともに、作品の背景となっている現代の韓国社会や韓国の文化についても考察する。

【到達目標】

1. 書き言葉と間接話法が用いられた朝鮮語の文章を正確に理解することができる。
2. エッセイや小説などの様々なジャンルの朝鮮語の文章を、辞書を引きながら読解できる能力を身につける。
3. 授業で扱うテキストの内容について議論しながら、韓国の社会問題や韓国文化についての理解を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

指定したエッセイや短編小説、長編小説の一部を、文法内容や関連語彙を確認しながら読み解いていきます。原則として、各自日本語訳した文章を授業内で確認する予習型です。初回の授業では、春学期に読んだテキストを踏まえて、韓国文学に関する互いの関心を共有します。第2回以降、短編作品を中心に韓国語の文章読解を進めますが、授業で取り上げた教材については、原書および同じ作家の日本語で読める作品も紹介し、韓国文学についての知識を深めます。第14回(最終授業)では、アクティブラーニングとして各履修者が印象に残った文章を音読、翻訳して発表します。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】
なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション エッセイの講読	関心の共有 エッセイを読んで、内容について議論する
2	小説の講読・ディスカッション (1)	小説を読んで、内容について議論する
3	小説の講読・ディスカッション (2)	小説を読んで、内容について議論する
4	小説の講読・ディスカッション (3)	小説を読んで、内容について議論する
5	小説の講読・ディスカッション (4)	小説を読んで、内容について議論する
6	小説の講読・ディスカッション (5)	小説を読んで、内容について議論する
7	小説の講読・ディスカッション (6)	小説を読んで、内容について議論する
8	小説の講読・ディスカッション (7)	小説を読んで、内容について議論する
9	小説の講読・ディスカッション (8)	小説を読んで、内容について議論する

10	小説の講読・ディスカッション (9)	小説を読んで、内容について議論する
11	小説の講読・ディスカッション (10)	小説を読んで、内容について議論する
12	小説の講読・ディスカッション (11)	小説を読んで、内容について議論する
13	小説の講読・ディスカッション (12)	小説を読んで、内容について議論する
14	アクティブ・ラーニング 発表	課題・関心の共有

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

本授業の準備学習・復習時間は、合わせて1時間を標準とします。指定されたテキストの予習と復習を必ず行うこと。

【テキスト (教科書)】

チョン・イヒョン、イ・ギホ、キム・ジュンヒョク、チャン・リュジョン、チェ・ウニョン、パク・サンヨン、チャン・ガンミョン、チョン・ソンテなど日本でも翻訳されている作家を中心に、エッセイ、短編を扱う。

講読テキスト・参考資料はプリントで配布する。

【参考書】

『完全版 韓国・フェミニズム・日本』斎藤真理子編集 (2019、河出書房新社)

『シソンから』チョン・セラン著、斎藤真理子訳 (2021、亜紀書房)

『どきどき僕の人生』キム・エラン著、きむふな訳 (2013、クオン)

『マイルスイートソウル』チョン・イヒョン著、清水由希子訳 (2007、講談社)

『韓国が嫌いで』チャン・ガンミョン著、吉良佳奈江訳 (2020、ころから)

『ショウコの微笑』チェ・ウニョン著、吉川 風監修、

牧野 美加、横本 麻矢、小林 由紀 翻訳 (2018、クオン)

『まだまだという言葉』クワン・ヨソン著、斎藤真理子訳 (2020、河出書房)

『大都會の愛し方』パク・サンヨン著、オ・ヨンア訳 (2020、亜紀書房)

【成績評価の方法と基準】

・授業の出席・参加度 40 %、課題 40 %、アクティブラーニング 20 %として評価します。

【学生の意見等からの気づき】

テキストだけでなく、映画やドラマの原作なども取り上げる予定です。

【学生が準備すべき機器他】

辞書、あるいは単語を調べられる端末を持参してください。

【その他の重要事項】

大学で朝鮮語を学んでいない学生も履修は可能です。レベルについては事前に教員に相談してください。

文学作品に関心のある留学生の履修も歓迎します。

【Outline (in English)】

In the class, intermediate learners of Korean use dictionaries to read modern Korean literature.

The ultimate goal is to find out what Korean literature each learner likes by reading various Korean textbooks.

Goal :

You will be able to read and send actual e-mails, SNS, etc. using what you have learned in the text messages.

The goal is to read the written language and write a simple sentence by yourself.

Work to be done outside of class :

The task is to practice the text section or to write a short essay. The preparatory study and review time for this class will be one hour in total.

Grading criteria :

Students with more than four unauthorized absences are excluded from the evaluation.

Based on 60% of the confirmation test, 40% of the class attendance and participation, and 40% of the assignment submission, we will evaluate it comprehensively.

LANk200LA

朝鮮語 5 B I (表現法)

2017 年度以降入学者

神谷 丹路

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：金 3/Fri.3

単位数：1 単位

定員制 (30 名)

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

朝鮮語で「聞く力」「話す力」「読む力」「書く力」の伸長を目指す。これまで学習してきた文法や語彙の定着を図り、簡単な日常会話がスムーズにできるように練習をする。

韓国の時事ニュースに触れ、時事単語、リスニング力、漢字語の力をつける。中級レベルの新しい語彙、表現を増やし、会話の幅を広げる。学生のレベルに合わせ、導入用に朝鮮韓国の昔話など簡単な読み物を読み、伝統文化への理解も深めたりする。中級向けの授業である。

【到達目標】

実際にコミュニケーションの手段として使える朝鮮語の「聞く力」「話す力」を獲得し、また身のまわりの出来事を書いたりできるようにする。自らの体験や考えを朝鮮語で発表できるようにする。言語の背景に広がる文化的社会的な理解も深めていく。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

本授業の基本的な流れは、以下の通りである。毎回、ウォーミングアップとして、授業のはじめに、身の回りの出来事について、簡単な日常会話を交わす練習をすることで、話すことに慣れていく。慣れてきたら、PPT を作成してプレゼンテーションの練習も随時していきたい。後半は昔話や時事ニュースのテキストに沿って、聞く力の伸長、読む力、語彙力のアップを図り、隣国への幅広い理解へとつなげていく。質問は授業内、掲示板で対応し、発表については授業内で講評する。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	・授業の進め方の説明 ・レベルチェック ・自己紹介
2	「おひさまおつきさま」	会話、リスニング、リーディング、内容理解
3	「トラと干し柿」	会話、リスニング、リーディング、内容理解
4	『時事韓国語』 BTS、KPOP 再燃なるか。	会話、リスニング、リーディング、内容理解
5	『時事韓国語』 韓国映画 1000 万人、	会話、リスニング、リーディング、内容理解
6	『時事韓国語』 正月番組特集	会話、リスニング、リーディング、内容理解
7	『時事韓国語』 南北合同チーム初登場	会話、リスニング、リーディング、内容理解
8	『時事韓国語』 「シェアハウス人気」	会話、リスニング、リーディング、内容理解
9	『時事韓国語』 「無人化加速」	会話、リスニング、リーディング、内容理解
10	『時事韓国語』 「小 1 保護者 10 時出勤」	会話、リスニング、リーディング、内容理解

11	『時事韓国語』 「二つの母国語」	会話、リスニング、リーディング、内容理解
12	『時事韓国語』 「高齢者 10 人に 1 人認知症」	会話、リスニング、リーディング、内容理解
13	『時事韓国語』 「変わる採用試験場」	会話、リスニング、リーディング、内容理解
14	学習のまとめ	プレゼンテーション

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

毎回、読み物課題を予習・復習すること。知らない単語を確認しておく。毎回、身近な話題について韓国語で話しますので、話題を準備すること。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

授業時にプリントを配布。

【参考書】

小学館『朝鮮語辞典・日韓辞典』など。

【成績評価の方法と基準】

平常点 80 %、プレゼンテーション 20 %。

【学生の意見等からの気づき】

話すことに抵抗感がなくなるように、簡単な単語を駆使して伝える技術を身に付けられるようにします。

【その他の重要事項】

学生のレベルに合わせ、順序や内容に若干の変更のある場合があります。

【Outline (in English)】

< Course outline >

This course deals with Korean intermediate level.

< Learning Objectives >

At the end of the course, students are expected to enhance the development of the skill in reading, writing, listening and talking.

< Learning activities outside of classroom >

Before/after each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content.

< Grading Criteria/Policy >

Your overall grade in the class will be decided based on the following.

Presentation : 20%, in class contribution: 80 %.

LANk200LA

朝鮮語 5 B II (表現法)

2017 年度以降入学者

神谷 丹路

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：金 3/Fri.3

単位数：1 単位

定員制 (30 名)

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

朝鮮語で「聞く力」「話す力」「読む力」「書く力」の伸長を目指す。これまで学習してきた文法や語彙の定着を図り、簡単な日常会話スムーズにできるように練習をする。朝鮮韓国の昔話など簡単な読み物を読みながら、伝統文化についての理解を深めたり、時事ニュースに触れ、リスニング力、漢字語の力をつける。中級レベルの新しい語彙、表現を増やし、会話の幅を広げる。中級レベル向けの授業である。

【到達目標】

実際にコミュニケーションの手段として使える朝鮮語の「聞く力」「話す力」を獲得し、また身のまわりの出来事を書いたりできるようにする。自らの体験や考えを朝鮮語で発表できるようにする。言語の背景に広がる文化的社会的な理解も深めていく。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

毎回、ウォーミングアップとして、授業のはじめに、身の回りの出来事について、簡単な日常会話を交わす練習をする。言葉がすぐ出てくるよう、とにかく話すことに慣れること。その後は、時事ニュースのテキストに沿って、聞く力の伸長、読む力、語彙力のアップを図り、隣国への幅広い理解へとつなげていく。質問は授業内、掲示板で対応し、発表については授業内で講評する。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	・授業の進め方の説明 『時事韓国語』 ・レベルチェック
	11「政府、原発新設白紙化問題」	・自己紹介
2	『時事韓国語』	会話、リスニング、リーディング、内容理解
	12「はじめて呼ぶお父さん、お母さん」、 13「国政の安定化、協力と統合」	
3	『時事韓国語』	会話、リスニング、リーディング、内容理解
	14「南北 65 年ぶり終戦宣言」 15「気候変動とウミガメ」	
4	『時事韓国語』	会話、リスニング、リーディング、内容理解
	16「日本の公衆トイレ」 17「米朝 70 年の対立に終止符」	
5	18「監視カメラ」	会話、リスニング、リーディング、内容理解
	19「5 G 先取り競争」	
6	20「気象ニュース」	会話、リスニング、リーディング、内容理解
	21「ヨイドの桜」	

7	22「珍道犬」	会話、リスニング、リーディング、内容理解
	23「仮想通貨」	
8	『時事韓国語』	会話、リスニング、リーディング、内容理解
	24「変わる採用試験現場」 25「不動産事情、ソウル、地方」	
9	『時事韓国語』	会話、リスニング、リーディング、内容理解
	26「経済成長と就業者の増加」	
10	『時事韓国語』	会話、リスニング、リーディング、内容理解
	31「ワールドカップ韓国サッカー旋風」	
11	『時事韓国語』	会話、リスニング、リーディング、内容理解
	32「野球ニュースロッテ 5 連勝中」	
12	『時事韓国語』	会話、リスニング、リーディング、内容理解
	33「ニュース解説、巨大な壁を打ち破った英雄」	
13	『時事韓国語』	会話、リスニング、リーディング、内容理解
	34「ドラマの名所ソウル桂洞」 35「蚊を追い払う方法、ご存知？」	
14	36「そば粉パスタ、干しだらのカルグクス」	内容理解、プレゼンテーション
	●学習のまとめ	

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

毎回、身近な話題について、簡単な会話をしますので、話題を準備しておくこと。毎回、課題の復習を十分すること。本授業の準備学習・復習時間は、合わせて 1 時間を標準とします。

【テキスト (教科書)】

授業時にプリントを配布。

【参考書】

小学館『朝鮮語辞典・日韓辞典』など。

【成績評価の方法と基準】

平常点 80 %、プレゼンテーション 20 %。

【学生の意見等からの気づき】

話すことに抵抗感がなくなるように、簡単な単語を駆使して伝える技術を身に付けられるようにします。

【その他の重要事項】

学生のレベルに合わせて、順序や内容に若干の変更のある場合があります。

【Outline (in English)】

< Course outline >

This course deals with Korean intermediate level.

< Learning Objectives >

At the end of the course, students are expected to enhance the development of the skill in reading, writing, listening and talking.

< Learning activities outside of classroom >

Before/after each class meeting, students will be expected to spend one hour to understand the course content.

< Grading Criteria/Policy >

Your overall grade in the class will be decided based on the following.

Presentation : 20%, in class contribution: 80 %.

ARSe200LA

朝鮮の文化と社会 L A

2017 年度以降入学者

サブタイトル：

李 英美

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：火 3/Tue.3

単位数：2 単位

定員制 (30 名)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

この授業では韓国の映画をとおして朝鮮・韓国の文化と社会について学ぶ。

韓国の映画に描かれている韓国社会の特徴や変化を通じて、韓国の文化と社会に対する理解を深めることが授業の目的である。

【到達目標】

様々なテーマを取り扱う韓国映画から韓国・朝鮮の文化と社会について何を読み取るか、その力を養うことが本授業の目標となる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

基本的には「授業計画」の順に沿った形で進める。ひとつのテーマについて2週連続で講義と映像の鑑賞といった形で進める。毎回のリアクションペーパーと2週に一度の感想文を提出する。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】
なし/No

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】
なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	授業の目標と進め方の説明	授業の目的と進め方について説明し、テキストや参考書の使い方について説明する。
第2回	解説と映画鑑賞①-朝鮮半島の南北分断について	南北対立から理解へ-南北分断のリアル DMZ
第3回	解説と映画鑑賞②-朝鮮半島の南北分断について	新しい観点から南北分断を想像する-南北兵士の心理描写
第4回	韓国映画史-時代区分と特徴	韓国映画史について、全体的な流れと時代別の特徴を概観する。
第5回	解説と映画鑑賞③-激動の韓国現代史を生きる	激動の韓国現代史を生きる-「最も平凡な父の最も偉大な話」
第6回	解説と映画鑑賞④-激動の韓国現代史を生きる	「産業化世代」-朝鮮戦争後の韓国再建の主役であった家族愛の父親
第7回	韓国近現代史と映画-日本統治下の韓国・朝鮮	韓国近現代史における日本統治時代を抜きにして韓国映画史を語ることはできない。韓国映画の創成期に当たる当時について解説する。
第8回	解説と映画鑑賞⑤-日本統治下の韓国・朝鮮	上海、京城 (現ソウル) を舞台にした朝鮮人の朝鮮人暗殺を描写-親日派暗殺作戦
第9回	解説と映画鑑賞⑥-日本統治下の韓国・朝鮮	当時の街並み、ファッション、経済活動、居住空間、社交場など「モダン」の再現

第10回 最近の韓国の若者の恋愛観・結婚観と映画 時代の変化を反映する若者の恋愛観・結婚観を垣間見て、日本の若者との間の比較をとおして、韓国社会と日本社会の比較を試みる。

第11回 解説と映画鑑賞⑦-青春の思い出 初恋のロマンス、青春の思い出

第12回 解説と映画鑑賞⑧-青春の思い出 青春の多様な感情の描写、現代韓国社会の中で大人に成長していく過程を描写

第13回 映画と講義について 映画は学習手段のひとつとして有効か-韓国の文化、社会、歴史上の事象、特に抽象的な事柄を、より明確に理解可能なものにしてくれる。

第14回 春学期のまとめと期末レポートの提示 期末レポートの提示

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

指定されたテキストと参考書を事前に読んでおくこと。

【テキスト (教科書)】

韓国映画100年史-その誕生からグローバル展開まで、鄭ゾンフア著、野崎彦彦・加藤知恵訳、明石書店、2017年、3520円

【参考書】

韓国映画で学ぶ韓国の社会と歴史、秋月望、キネマ旬報ムック、2015年、3680円

【成績評価の方法と基準】

平常点 (出席率、リアクションペーパー、感想文など) 50%、期末レポート50%をもって総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

授業の進む順番が前後する場合がある。

【学生が準備すべき機器他】

なし

【その他の重要事項】

・第1回目の授業はオンラインで実施します。ZOOM 情報は授業開始の前週までに HOPPI でお会知らせします。

・第2回目以降の授業の実施形態については第1回目の授業の際にお知らせします。

【Outline (in English)】

【授業概要 (Course outline)】

This course introduces Korean culture, Korean society and Korean films to students taking this course.

【到達目標 (Learning Objectives)】

At the end of the course, students are expected to develop insight and understanding of the characteristics and process of changes of Korean society and culture.

【授業時間外の学習 (Learning activities outside of classroom)】

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

【成績評価の方法と基準 (Grading Criteria /Policies)】

Final grade will be calculated according to the following process: Mid-term report (50%), term-end report (50%), and in-class contribution.

ARSe200LA

朝鮮の文化と社会 L B

2017 年度以降入学者

サブタイトル：

李 英美

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：火 3/Tue.3

単位数：2 単位

定員制 (30 名)

その他属性：〈他〉〈優〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

この授業では韓国の映画をとおりて朝鮮・韓国の文化と社会全般について学ぶ。

韓国の映画に描かれている韓国社会の特徴や変化を通じて、韓国の文化と社会に対する理解を深めることが授業の目的である。

【到達目標】

様々なテーマを取り扱う韓国映画から韓国・朝鮮の文化と社会について何を読み取るか、その力を養うことが本授業の目標となる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

基本的には「授業計画」の順に沿った形で進める。ひとつのテーマについて2週連続で講義と映像の鑑賞といった形で進める。毎回のリアクションペーパーと2週に一度の感想文を提出する。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

なし/No

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	授業の進め方に関する説明、テキストや参考書の使い方に関する説明。	授業の目的と進め方に関する説明、テキストや参考書の使い方について説明。
第2回	解説と映画鑑賞①-外国原作の小説・漫画の韓国映画化	映画の中の人物を韓国人から人類へ一究極な状態に置かれた人々の動き
第3回	解説と映画鑑賞②-外国原作の小説・漫画の韓国映画化	映画の中の人類における各差と不平等、階級化をとおりて韓国社会をみる
第4回	現代韓国社会と映画-高齢化	現代韓国社会の特徴のひとつである高齢化社会をどのように描くか
第5回	解説と映画鑑賞③-老いに対する考え方	現代韓国社会の諸特徴-老いをどのように受け入れるか、どのように生きるか
第6回	解説と映画鑑賞④-老いに対する考え方	現代韓国社会の諸特徴-家族の愛情と世代間の価値観のギャップ
第7回	現代韓国社会と映画-犯罪被害者を描く	神に罪を告白し、許しを得た殺人犯について-被害者の家族は救われない。宗教、法、人間の関係を映画に投影する。
第8回	解説と映画鑑賞⑤-最高の価値は人間愛	人間愛は最高の価値-人間は人間を救うことができる。子供殺人被害者の母親。
第9回	解説と映画鑑賞⑥-宗教とは	宗教とは何か、人間とは何か-人間を救えない残酷な神の姿。神の許しとは。
第10回	映画に移る国家像	国家の危機管理能力について-2010年代韓国政府を実例に

- 第11回 解説と映画鑑賞⑦-ドキュメンタリー映画 国家とは何か。国家の存在理由-国民の生命・財産の保護。
- 第12回 解説と映画鑑賞⑧-ドキュメンタリー映画 真実究明と記者・言論の役割と力
- 第13回 韓国映画史を振り返る-100年史 創成期〜ルネサンス期まで
- 第14回 秋学期のまとめとレポートの提示 レポートの提示

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

指定されたテキストと参考書を事前に読んでおくこと。

【テキスト (教科書)】

韓国映画100年史-その誕生からグローバル展開まで、鄭ソフ著、野崎充彦・加藤知恵訳、明石書店、2017年、3520円

【参考書】

韓国映画で学ぶ韓国の社会と歴史、秋月望、キネマ旬報ムック、2015年、3680円

【成績評価の方法と基準】

平常点 (出席率、リアクションペーパー、感想文など) 50%、期末レポート50%をもって総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

授業の進む順番が前後する場合がある。

【学生が準備すべき機器他】

なし

【その他の重要事項】

- ・第1回目の授業はオンラインで実施します。ZOOM情報は授業開始の前週までにHOPPIでお知らせします。
- ・第2回目以降の授業の実施形態については第1回目の授業の際にお知らせします。

【Outline (in English)】

【授業概要 (Course outline)】

This course introduces Korean culture, Korean society and Korean films to students taking this course.

【到達目標 (Learning Objectives)】

At the end of the course, students are expected to develop insight and understanding of the characteristics and process of changes of Korean society and culture.

【授業時間外の学習 (Learning activities outside of classroom)】

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

【成績評価の方法と基準 (Grading Criteria/Policies)】

Final grade will be calculated according to the following process: Mid-term report (50%), term-end report (50%), and in-class contribution.

LANk200LA

朝鮮語 4 C I (コミュニケーション) 2017年度以降入学者

富所 明秀

開講時期：春学期授業/Spring | 曜日・時限：月 2/Mon.2

単位数：1 単位

定員制 (30 名) /2022 年度までに「朝鮮語 3 C I」の単位を修得済みの場合、履修不可

その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

朝鮮語 1・2 で学んだ文法の知識を生かして、自分の言いたいことを朝鮮語で口頭発表できるようにすることがこの授業の目的です。そのために語彙を増やし、教科書にある会話文を正確な発音で言えるようにします。

【到達目標】

まず教科書にある会話文を文法的に理解したうえで、これを正確な発音で話すことができ、また自分の言いたいことに置き換えることができるようにすることが目標となります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

授業開始時に筆記と口述の小テストを実施します。それから教科書の文法事項と語句を学び、次回的小テストに備えて会話文の発音の練習を行います。

オンライン授業は録画をしますので、繰り返し視聴することが可能です。

またオンライン授業終了後に個別に質問する時間を設けますので、わからないところがあれば遠慮なく質問してください。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】

なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	第 1 課	理由を表す語尾①
2	第 2 課	形容詞・指定詞の連体形
3	第 3 課	動詞・存在詞の連体形
4	第 4 課	逆接を表す語尾
5	第 5 課	未来連体形
6	第 1 課～第 5 課の復習	第 1 課～第 5 課の復習
7	第 6 課	「～したことがある」 「～することにする」
8	第 7 課	理由を表す語尾②
9	第 8 課	婉曲を表す語尾
10	第 9 課	「～し始める」 「～するなり」
11	第 10 課	「～しましょうか」
12	第 6 課～第 10 課の復習	第 6 課～第 10 課の復習
13	期末試験	筆記試験
14	期末試験	口述試験

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

授業では毎回筆記と口述の小テストを実施しますので、必ず復習してください。

授業の復習に要する時間は 40 分を標準としていますが、期末試験の口述試験のための原稿作成、筆記試験の準備には別途時間を要します。

【テキスト (教科書)】

『基礎から学ぶ韓国語講座中級改訂版』木内明著、国書刊行会、2015 年

【参考書】

『しくみで学ぶ初級朝鮮語改訂版』、内山政春著、白水社

【成績評価の方法と基準】

小テスト 30%

期末試験 70%

※小テスト、期末試験共に口述試験だけでは緊張してしまう人もいることを考慮し、それぞれ筆記試験も実施します。

【学生の意見等からの気づき】

音声教材の活用

【その他の重要事項】

・第 1 回の授業までに Hoppii に登録してください。お知らせやプリントを配布しますので、Hoppii はこまめにチェックしてください。
・感染症や忌引きで小テストを受けられない場合は欠席した翌週に追試を受けられます。登校時 (欠席した翌週) の授業開始前に証明書を提出のうえ追試を申し出てください。

・5 回の欠席で評価対象外とします。3 回の遅刻で 1 回欠席としてカウントします。

・感染症などの欠欠はこれに該当しません。

・シラバスは進捗状況によって変更される場合があります。

【Outline (in English)】

The purpose of this class is to make use of the knowledge of grammar learned in Korean 1 and 2 to be able to verbally present what you want to say in Korean. For that purpose, we will increase our vocabulary so that we can say the conversational sentences in the textbook with accurate pronunciation.

【Learning Objectives】

The goal is to first understand the grammar of the conversations in the textbook, then to be able to speak them with correct pronunciation and to be able to replace them with what you want to say.

【Learning activities outside of classroom】

There will be written and oral quizzes every class, so be sure to review them.

The standard time required for reviewing classes is 40 minutes, but extra time is required to prepare manuscripts for the oral examination of the final exam and to prepare for the written examination.

【Grading Criteria /Policy】

Quiz 30%

Final exam 70%

* Considering that some students may get nervous just by taking the oral exam for both the quiz and the final exam, we will also conduct a written exam for each.

LANK200LA

朝鮮語 4 C II (コミュニケーション) 2017年度以降入学者

富所 明秀

開講時期：秋学期授業/Fall | 曜日・時限：月 2/Mon.2
 単位数：1 単位
 定員制 (30 名) /2022 年度までに「朝鮮語 3 C II」の単位を修得済みの場合、履修不可
 その他属性：〈優〉

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

春学期に引き続き、朝鮮語 1・2 で学んだ文法の知識を生かして、自分の言いたいことを朝鮮語で口頭発表できるようにすることがこの授業の目的です。そのために語彙を増やし、教科書にある会話を正確な発音で言えるようにします。

【到達目標】

まず教科書にある会話を文法的に理解したうえで、これを正確な発音で話すことができ、また自分の言いたいことに置き換えることができるようにすることが目標となります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

各学部のディプロマ・ポリシーのうち、以下に関連している。法学部・法律学科：DP3・DP4、法学部・政治学科：DP1、法学部・国際政治学科：DP1、文学部：DP1、経営学部：DP1、国際文化学部：DP1、人間環境学部：DP2、キャリアデザイン学部：DP1

【授業の進め方と方法】

授業開始時に筆記と口述の小テストを実施します。それから教科書の文法事項と語句を学び、次回的小テストに備えて会話文の発音の練習を行います。

オンライン授業は録画をしますので、繰り返し視聴することが可能です。

またオンライン授業終了後に個別に質問する時間を設けますので、わからないところがあれば遠慮なく質問してください。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等)の実施】

なし / No

【フィールドワーク (学外での実習等)の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	第 11 課	「～したらいいんだけど」 「～のために」
2	第 12 課	「～するとき」 「～したとき」
3	第 13 課	「～したと」 「～するように」
4	第 14 課	「～くなる」 「～すれば～するほど」
5	第 15 課	「～して以来」 「～なんですよ」
6	第 11 課～第 15 課の復習	復習
7	第 16 課	「～ように見える」「～するようだ」
8	第 17 課	「～なのか」 「～そうです」
9	第 18 課	「～してから」 「～しておく」
10	第 19 課	「～しろと言う」 「～すると言う」
11	第 20 課	「～するなりすぐ」 「～するつもりだから」
12	第 16 課～第 20 課の復習	復習
13	期末試験 筆記	期末試験 筆記
14	期末試験 口述	期末試験 口述

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

授業では毎回筆記と口述の小テストを実施しますので、必ず復習してください。

授業の復習に要する時間は 40 分を標準としていますが、期末試験の口述試験のための原稿作成、筆記試験の準備には別途時間を要します。

【テキスト (教科書)】

『基礎から学ぶ韓国語講座中級改訂版』木内明著, 国書刊行会, 2015 年

【参考書】

『しくみで学ぶ初級朝鮮語改訂版』, 内山政春著, 白水社

【成績評価の方法と基準】

小テスト 30%

期末試験 70%

※小テスト, 期末試験共に口述試験だけでは緊張してしまう人もいることを考慮し, それぞれ筆記試験も実施します。

【学生の意見等からの気づき】

音声教材の活用

【その他の重要事項】

・第 1 回の授業までに Hoppii に登録してください。お知らせやプリントを配布しますので、Hoppii はこまめにチェックしてください。

・感染症や忌引きで小テストを受けられない場合は欠席した翌週に追試を受けられます。登校時 (欠席した翌週) の授業開始前に証明書を提出のうえ追試を申し出てください。

・5 回の欠席で評価対象外とします。3 回の遅刻で 1 回欠席としてカウントします。

感染症などの公欠はこれに該当しません。

・シラバスは進捗状況によって変更される場合があります。

【Outline (in English)】

Continuing from the spring semester, the purpose of this class is to make use of the knowledge of grammar learned in Korean 1 and 2 to be able to verbally present what you want to say in Korean. For that purpose, we will increase our vocabulary so that we can say the conversational sentences in the textbook with accurate pronunciation.

【Learning Objectives】

The goal is to first understand the grammar of the conversations in the textbook, then to be able to speak them with correct pronunciation and to be able to replace them with what you want to say.

【Learning activities outside of classroom】

There will be written and oral quizzes every class, so be sure to review them.

The standard time required for reviewing classes is 40 minutes, but extra time is required to prepare manuscripts for the oral examination of the final exam and to prepare for the written examination.

【Grading Criteria /Policy】

Quiz 30%

Final exam 70%

* Considering that some students may get nervous just by taking the oral exam for both the quiz and the final exam, we will also conduct a written exam for each.

